

VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針

目 次

1. 概要	1
2. 設計用床応答スペクトル及び設計用震度作成に係る基本方針及び作成方法	1
2.1 基本方針	1
2.1.1 設計用床応答スペクトル	1
2.1.2 設計用震度	1
2.2 作成方法	4
2.2.1 応答スペクトルの作成方法	4
2.2.2 設計用床応答スペクトル及び設計用震度の作成方法	5
2.2.3 設計用床応答スペクトル及び設計用震度の作成位置	7
2.2.4 設計用床応答スペクトル及び設計用震度の適用方法	7
3. 地震応答解析モデル	9
4. 設計用床応答スペクトル及び設計用震度	26
4.1 弾性設計用地震動 S_d	26
4.2 基準地震動 S_s	28
4.3 余震荷重を算定するための地震動	30

1. 概要

本資料は、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」のうち「4. 設計用地震力」に基づき、機器・配管系の動的解析に用いる設計用床応答スペクトルの作成方針及びその方針に基づき作成した設計用床応答スペクトルに関して説明するものである。

また、機器・配管系の静的解析に用いる設計用震度及び静的震度についても併せて説明する。

2. 設計用床応答スペクトル及び設計用震度作成に係る基本方針及び作成方法

2.1 基本方針

2.1.1 設計用床応答スペクトル

- (1) VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」のうち「2. 地震応答解析の方針」に基づき策定した各原子炉施設の解析モデルに対して、入力地震動を用いた時刻歴応答解析を行い、各質点位置における加速度応答時刻歴を求める。入力地震動は、VI-2-1-2「基準地震動 S_s 及び弾性設計用地震動 S_d の策定概要」に基づくものとして、表2-1及び表2-2に示す。
- (2) (1)で求めた各質点の加速度応答時刻歴を入力として、減衰付1自由度系の応答スペクトルを必要な減衰定数の値に対して求め、床応答スペクトルを作成する。
- (3) (2)で求めた床応答スペクトルに対し、各施設の固有周期のシフトを考慮し、周期方向に±10%の拡幅を行う。
- (4) (3)で求めた床応答スペクトルに対し、材料物性の不確かさを考慮した条件を設計用床応答スペクトルⅠとする。
- (5) (3)で求めた床応答スペクトルに対し、震度に1.5以上の係数を乗じて設定した設計用床応答スペクトルⅠに対して余裕のある条件を設計用床応答スペクトルⅡとする。
- (6) (4)及び(5)以外の条件を適用する場合、全ての固有周期における震度が設計用床応答スペクトルⅠ以上となる床応答スペクトルを適用する。
- (7) (4)～(6)の床応答スペクトルを総称して、設計用床応答スペクトルという。

2.1.2 設計用震度

- (1) 2.1.1(1)で求めた各質点の加速度応答時刻歴の最大値（最大応答加速度）に対し、材料物性の不確かさを考慮して設定した条件を設計用震度Ⅰとする。
- (2) 2.1.1(1)で求めた最大応答加速度に1.5以上の係数を乗じて設定した設計用震度Ⅰに対して余裕のある条件を設計用震度Ⅱとする。
- (3) (1)及び(2)以外の条件を適用する場合、設計用震度Ⅰ以上となる震度を適用する。
- (4) (1)～(3)の震度を総称して、設計用震度という。

表 2-1 入力地震動（基準地震動 S s）

基準地震動 S s			最大加速度 (cm/s ²)		
			水平方向	鉛直方向	
Ss-D		応答スペクトル手法による基準地震動		820	547
Ss-F1	敷地ごとに震源を特定して策定する地震動による基準地震動	断層モデル手法による基準地震動	宍道断層による地震の中越沖地震の短周期レベルの不確かさ 破壊開始点 5	549 (NS) 560 (EW)	337
Ss-F2			宍道断層による地震の中越沖地震の短周期レベルの不確かさ 破壊開始点 6	522 (NS) 777 (EW)	
Ss-N1	震源を特定せず策定する地震動による基準地震動	2004年北海道留萌支庁南部地震 (K-NET 港町) の検討結果に保守性を考慮した地震動		620	320
Ss-N2	震源を特定せず策定する地震動による基準地震動	2000年鳥取県西部地震の賀祥ダム (監査廊) の観測記録		528 (NS) 531 (EW)	485

表 2-2 入力地震動（弾性設計用地震動 S d）

弾性設計用地震動 S d	最大加速度 (cm/s ²)	
	水平方向	鉛直方向
Sd-D	410	274
Sd-F1	274 (NS) 280 (EW)	169
Sd-F2	261 (NS) 389 (EW)	213
Sd-N1	310	160
Sd-N2	264 (NS) 266 (EW)	243
Sd-1	320	214

2.2 作成方法

2.2.1 応答スペクトルの作成方法

(1) 解析方法

2.1.1(1)で述べた方針で時刻歴応答解析を行い、各モデルの各質点における加速度応答時刻歴を求める。この加速度応答時刻歴を入力波として応答スペクトルを作成する。すなわち、入力波の絶対加速度を \ddot{Y}_i とおけば、質点系の振動方程式は、

$$\ddot{Z}_i + 2 \cdot h \cdot \omega \cdot \dot{Z}_i + \omega^2 \cdot Z_i = -\ddot{Y}_i \quad \dots\dots\dots (2.1)$$

ただし、

ω : 質点系の固有円振動数

Z_i : i 質点上の質点の相対変位

h : 減衰定数

地震の間の $\ddot{Y}_i + \ddot{Z}_i$ の最大値を ω 及び h をパラメータとして求め、応答スペクトルを作成する。応答スペクトルの作成には、「S e i s m i c A n a l y s i s S y s t e m (S A S)」を使用し、解析コードの検証及び妥当性確認等の概要については、VI-5「計算機プログラム(解析コード)の概要」に示す。

(2) 減衰定数

応答スペクトルは、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」の機器・配管系の減衰定数を用いて作成する。

(3) 数値計算用諸元

固有周期作成幅 0.05～1.0s

固有周期計算間隔

0.05 ～ 0.1 s $\Delta \omega = 4.0$ (rad/s)

0.1 ～ 0.15s $\Delta \omega = 1.5$ (rad/s)

0.15 ～ 0.3 s $\Delta \omega = 0.8$ (rad/s)

0.3 ～ 0.6 s $\Delta \omega = 0.6$ (rad/s)

0.6 ～ 1.0 s $\Delta \omega = 0.5$ (rad/s)

2.2.2 設計用床応答スペクトル及び設計用震度の作成方法

(1) 設計用床応答スペクトル

設計用床応答スペクトルⅠは、基準地震動 S_s 又は弾性設計用地震動 S_d による各原子炉施設の時刻歴応答解析から得られる応答波を用いて作成した応答スペクトルを固有周期の多少のずれにより、応答に大幅な変化が生じないように周期軸方向に±10%の拡幅を行うとともに材料物性の不確かさを考慮して作成した床応答スペクトルである。

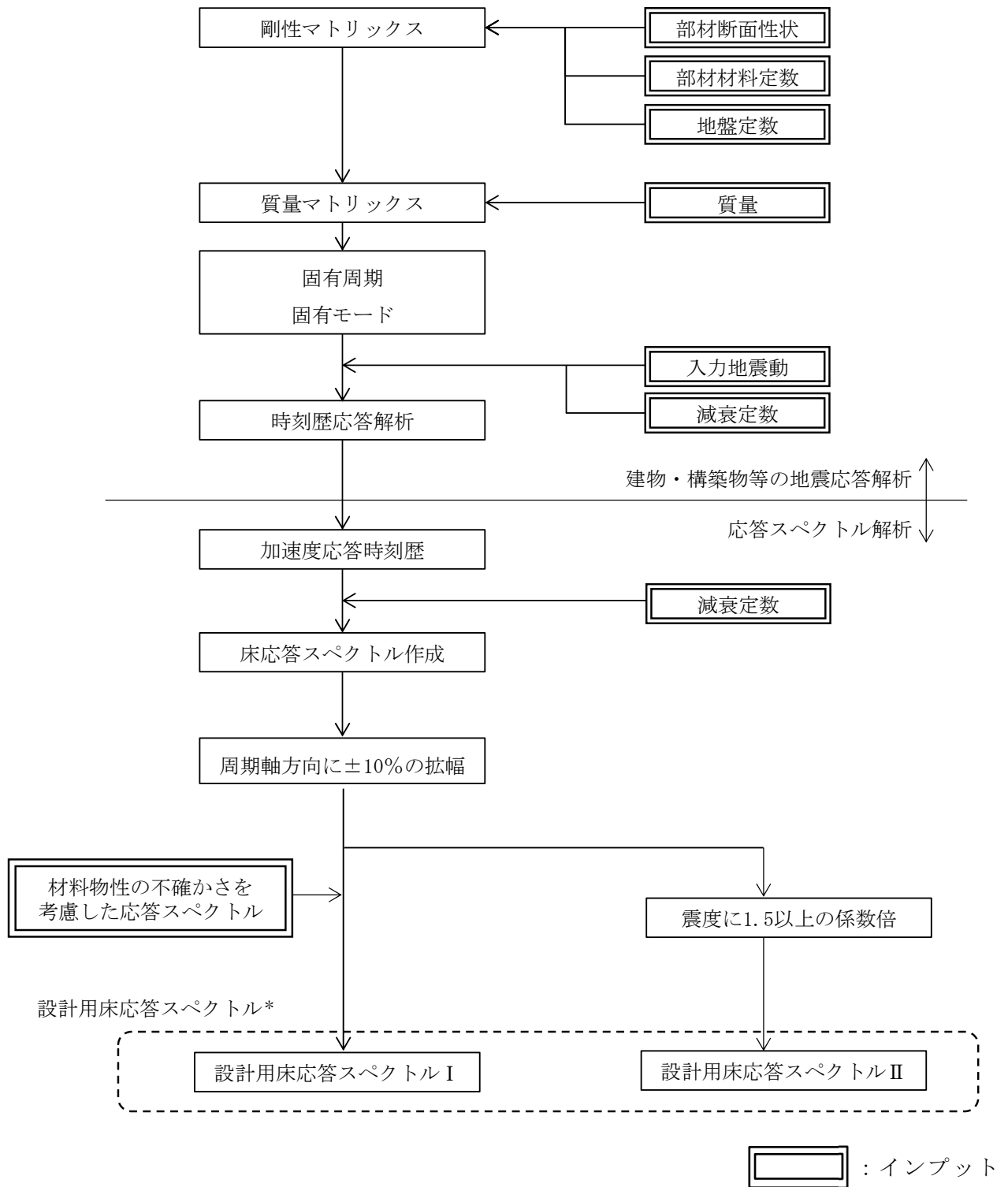
設計用床応答スペクトルⅡは、設計用床応答スペクトルⅠに対して余裕のある条件により機器・配管系の耐震設計を行うことを目的として作成した床応答スペクトルであり、2.1.1(3)の床応答スペクトルの震度に1.5以上の係数を乗じて作成したものである。

設計用床応答スペクトルの作成方法を図2-1に示す。

(2) 設計用震度

設計用震度Ⅰは、基準地震動 S_s 又は弾性設計用地震動 S_d による各原子炉施設の時刻歴応答解析から得られる応答波の最大値（最大応答加速度）に材料物性の不確かさを考慮して設定した震度である。

設計用震度Ⅱは、設計用震度Ⅰに対して余裕のある条件により機器・配管系の耐震設計を行うことを目的として作成した震度であり、2.1.1(1)の最大応答加速度に1.5以上の係数を乗じて作成したものである。



注記* : 設計用床応答スペクトル I 以上となる床応答スペクトルを含む。

図 2-1 設計用床応答スペクトルの作成方法

2.2.3 設計用床応答スペクトル及び設計用震度の作成位置

図3-1～図3-7の解析モデルについて設計用床応答スペクトル及び設計用震度を作成する。

2.2.4 設計用床応答スペクトル及び設計用震度の適用方法

(1) 概要

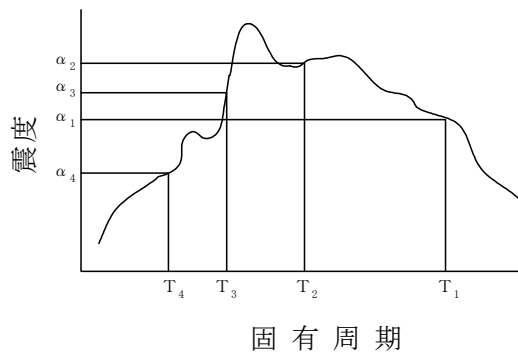
機器・配管系の動的地震力を求める場合は、それぞれの据付位置における設計用床応答スペクトル又は設計用震度を使用して適用震度を定める。この場合、以下の運用方法に従う。

(2) 運用方法

a. 設計用床応答スペクトル

- (a) 設計用床応答スペクトルⅠ，設計用床応答スペクトルⅡ又は設計用床応答スペクトルⅠ以上となる床応答スペクトルを用いる。
- (b) 振動方向に合わせ水平方向及び鉛直方向の各方向の設計用床応答スペクトルを使用する。
- (c) 建物床より自立する機器・配管系については、設置階の設計用床応答スペクトルを用い、建物壁より支持される機器・配管系及び建物中間階に設置される機器・配管系については、上下階の設計用床応答スペクトルのうち安全側のものを用いるものとする。また、建物上下階を貫通する配管系及び異なる建物・構築物等を渡る配管系については、それぞれの据付位置の設計用床応答スペクトルのうち安全側のものを用いるものとする。ただし、設計用床応答スペクトルの運用において合理性が示される場合には、その方法を採用できるものとする。

- (d) 設計用床応答スペクトルを用いて動的解析を行う場合には、以下に示す方法によりモード合成を行うものとする。



T_s : S 次の固有周期

α_s : T_s に対応する震度

ϕ_{si} : S 次の i 質点の固有モード

β_s : S 次の刺激係数

A_i : i 質点の設計震度

$$A_i = \sqrt{\sum_{S=1}^n (\beta_s \cdot \phi_{si} \cdot \alpha_s)^2}$$

b. 設計用震度

- (a) 設計用震度Ⅰ，設計用震度Ⅱ又は設計用震度Ⅰ以上となる震度を用いる。
 (b) 振動方向に合わせ水平方向及び鉛直方向の各方向の設計用震度を使用する。
 (c) 建物床より自立する機器・配管系については、設置階の設計用震度を用い、建物壁より支持される機器・配管系及び建物中間階に設置される機器・配管系については、上下階の設計用震度のうち安全側のものを用いるものとする。

また、建物上下階を貫通する配管系及び異なる建物・構築物等を渡る配管系については、それぞれの据付位置の設計用震度のうち安全側のものを用いるものとする。ただし、設計用震度の運用において合理性が示される場合には、その方法を採用できるものとする。

3. 地震応答解析モデル

(1) 原子炉建物

原子炉建物の地震応答解析モデルにはVI-2-2-2「原子炉建物の地震応答計算書」に示す解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-1(1)及び図3-1(2)に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-1(3)に示す。

(2) 炉心，原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体基礎

炉心，原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体基礎の地震応答解析モデルにはVI-2-2-1「炉心，原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書」に示す解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-2(1)及び図3-2(2)に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-2(3)に示す。

(3) 制御室建物

制御室建物の地震応答解析モデルにはVI-2-2-5「制御室建物の地震応答計算書」に示す解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-3(1)及び図3-3(2)に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-3(3)に示す。

(4) タービン建物

タービン建物の地震応答解析モデルにはVI-2-2-7「タービン建物の地震応答計算書」に示す解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-4(1)及び図3-4(2)に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-4(3)に示す。

(5) 廃棄物処理建物

廃棄物処理建物の地震応答解析モデルにはVI-2-2-9「廃棄物処理建物の地震応答計算書」に示す解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-5(1)に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-5(2)に示す。

(6) 緊急時対策所

緊急時対策所の地震応答解析モデルにはVI-2-2-11「緊急時対策所の地震応答計算書」に示す解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-6(1)に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-6(2)に示す。

(7) ガスタービン発電機建物

ガスタービン発電機建物の地震応答解析モデルにはVI-2-2-16「ガスタービン発電機建物の地震応答計算書」に示す解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-7(1)に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-7(2)に示す。

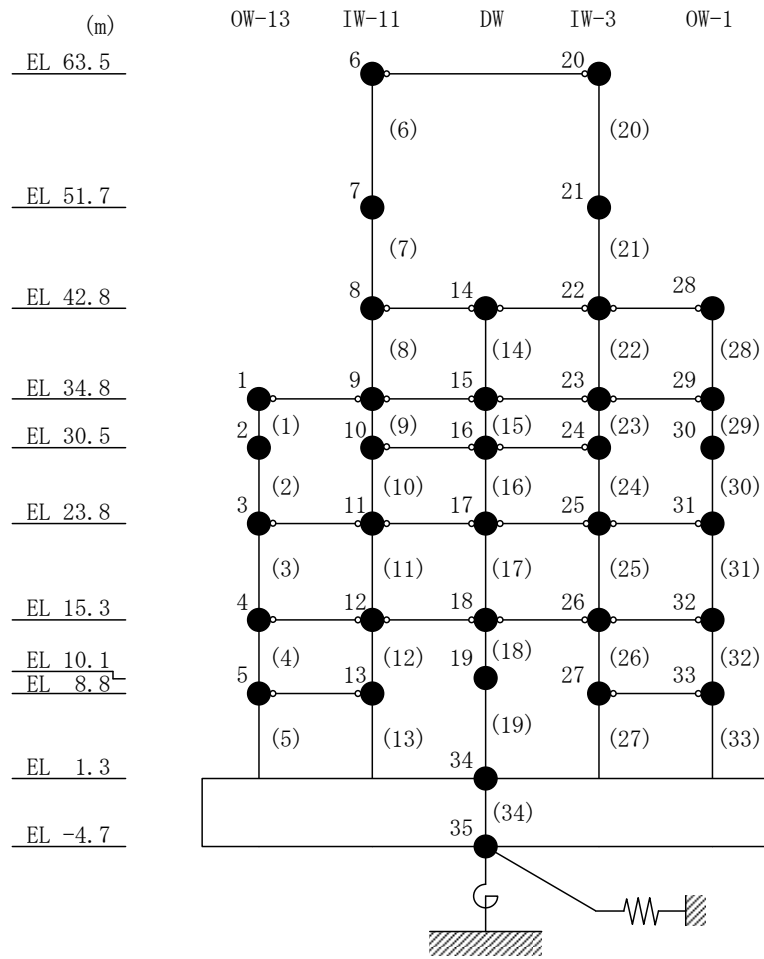


図 3-1(1) 原子炉建物地震応答解析モデル (水平方向 (NS 方向))

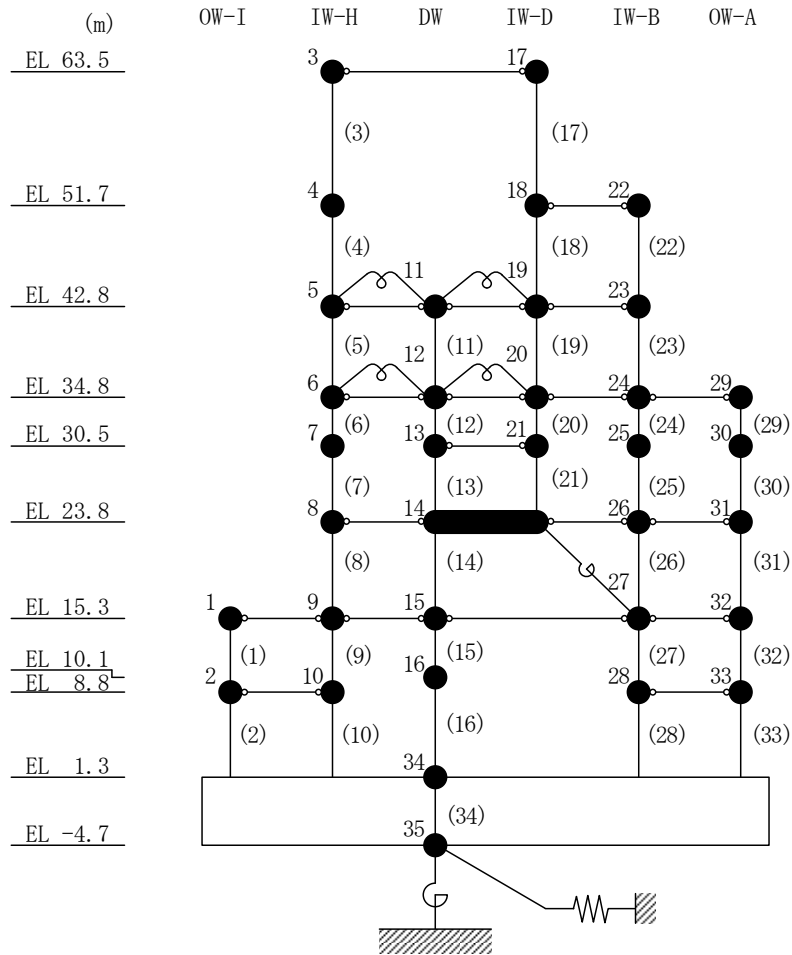


図 3-1(2) 原子炉建物地震応答解析モデル (水平方向 (EW 方向))

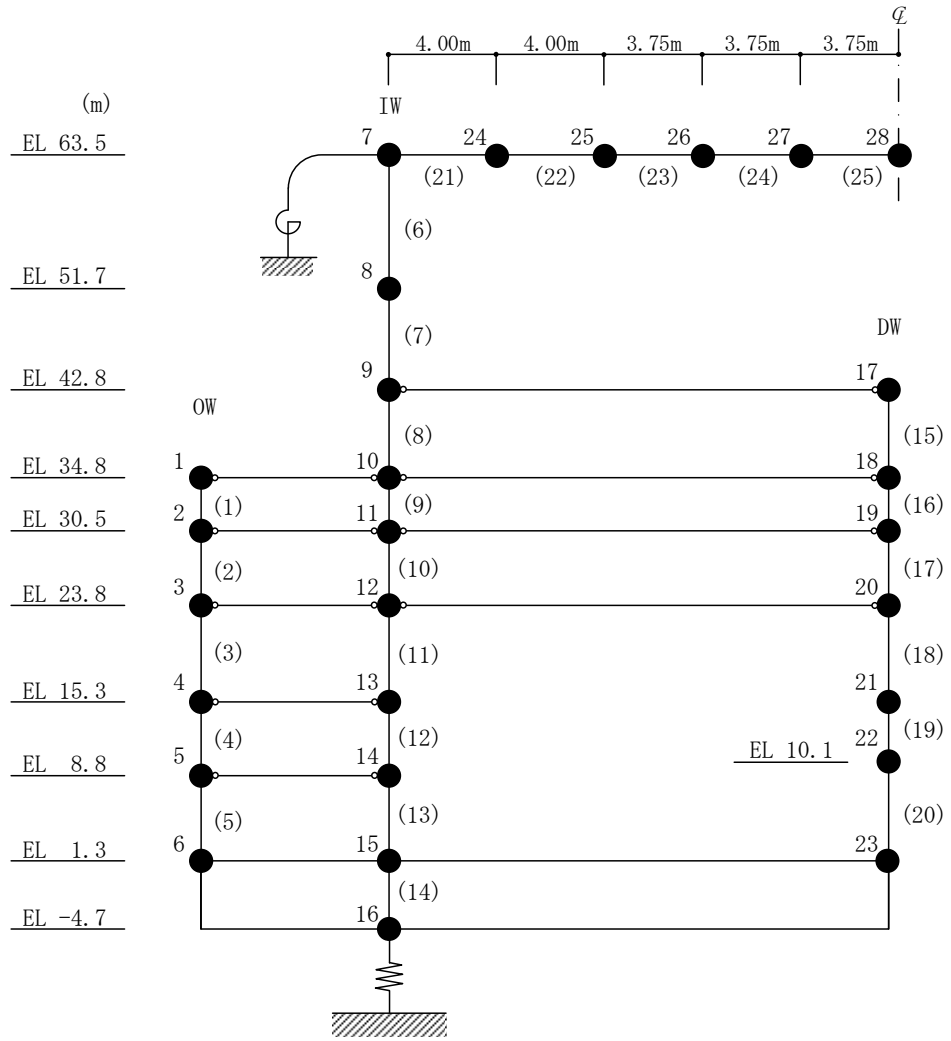


図 3-1(3) 原子炉建物地震応答解析モデル (鉛直方向)

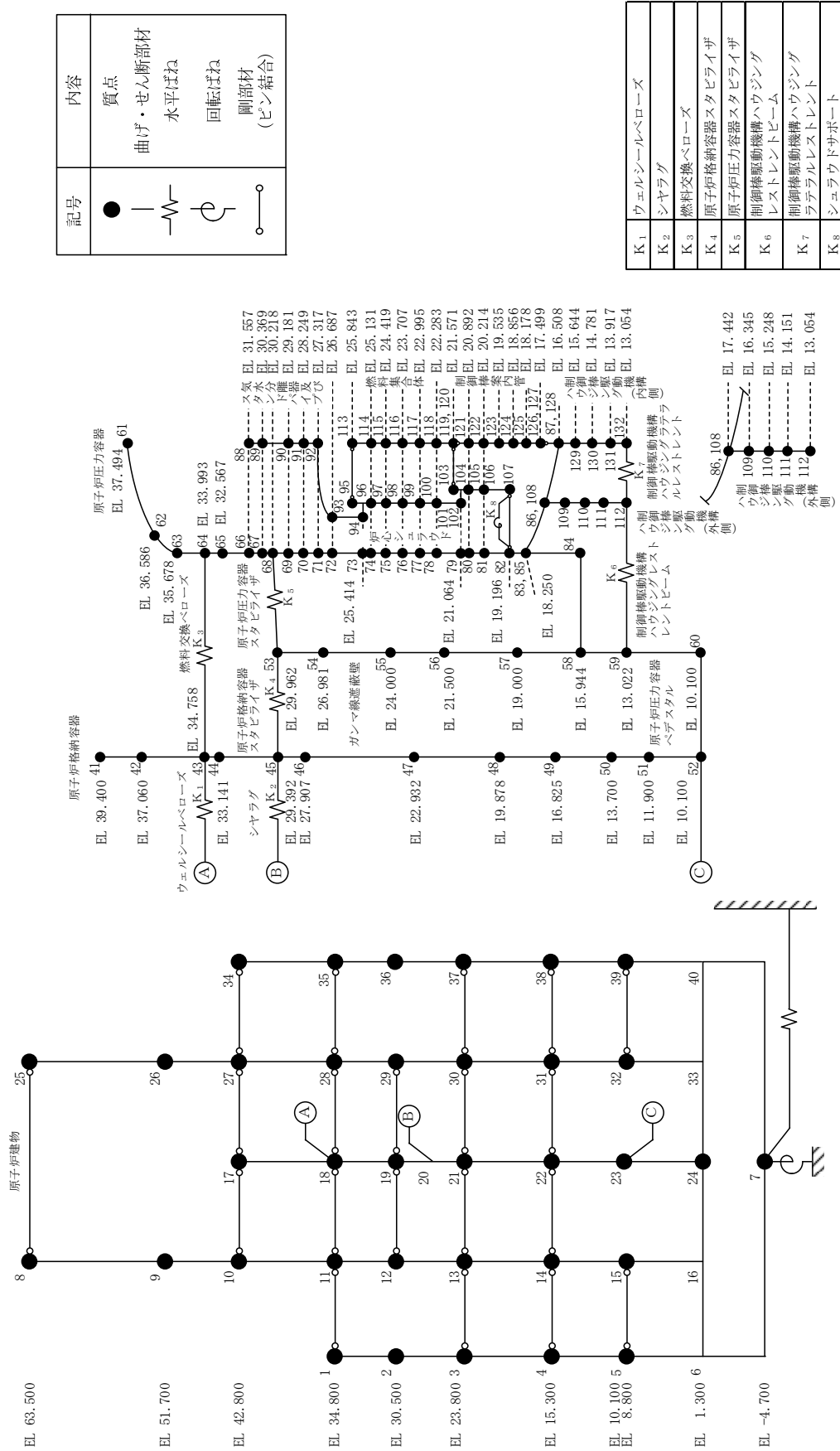


図 3-2(1) 原子炉本体地震応答解析モデル (水平方向 (NS 方向)) (単位: m)

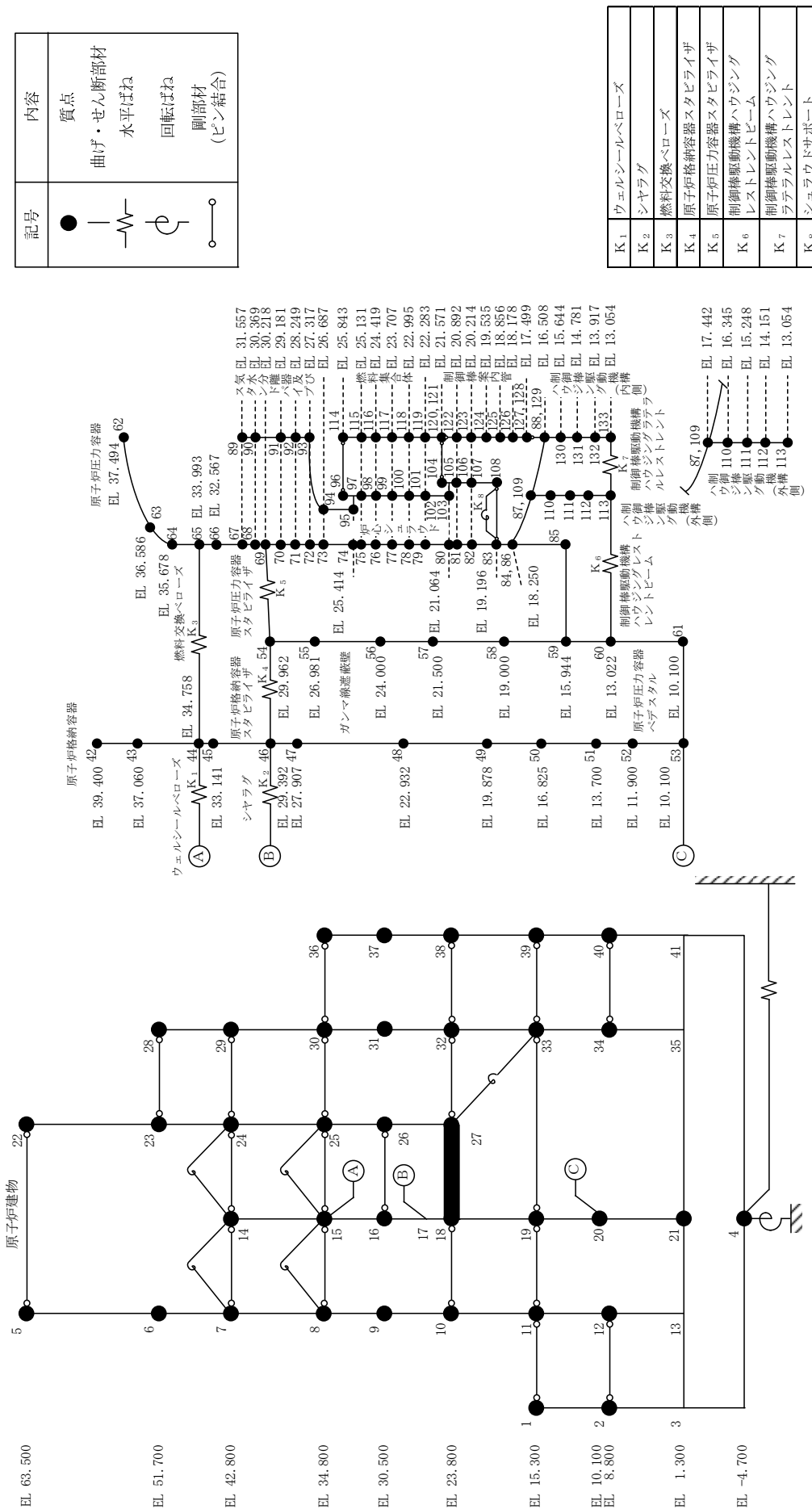


図 3-2(2) 原子炉本体地震応答解析モデル (水平方向 (EW 方向)) (単位 : m)

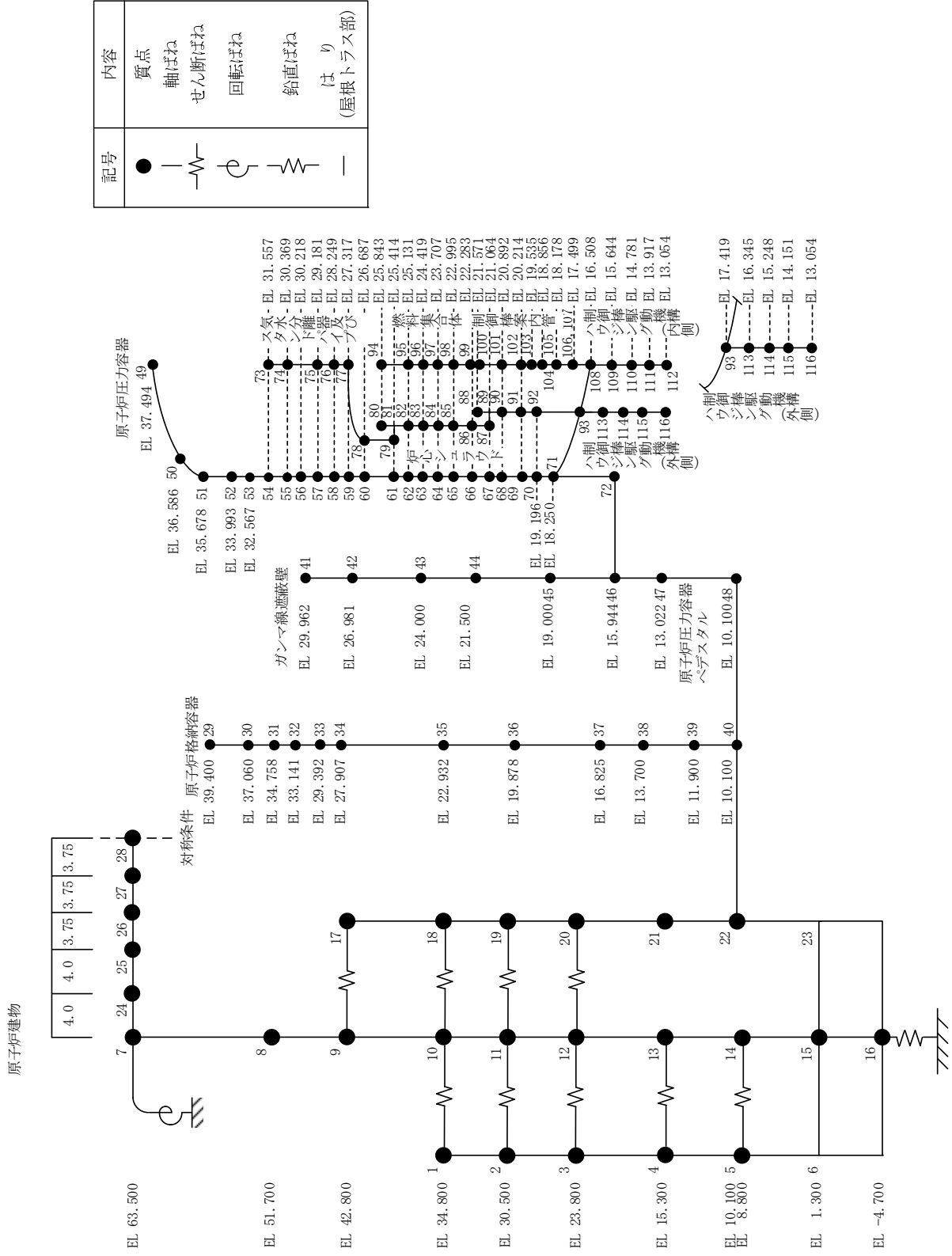


図 3-2(3) 原子炉本体地震応答解析モデル (鉛直方向) (単位: m)

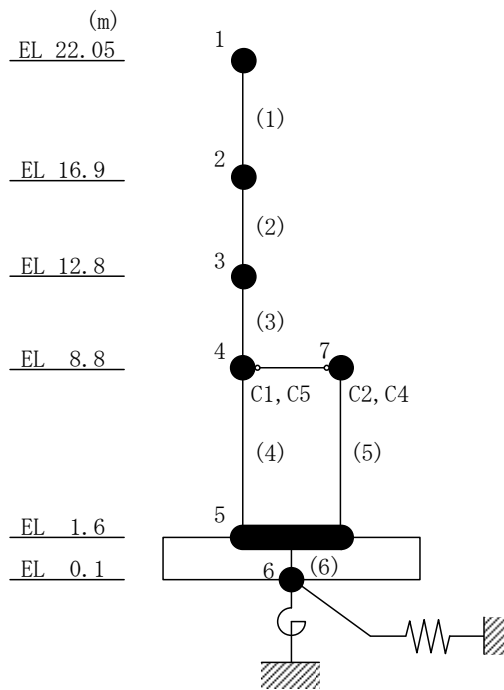


図 3-3(1) 制御室建物地震応答解析モデル (水平方向 (NS 方向))

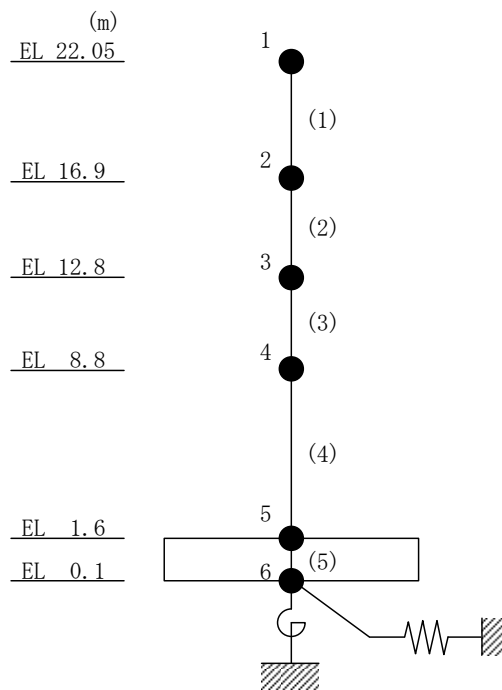


図 3-3(2) 制御室建物地震応答解析モデル (水平方向 (EW 方向))

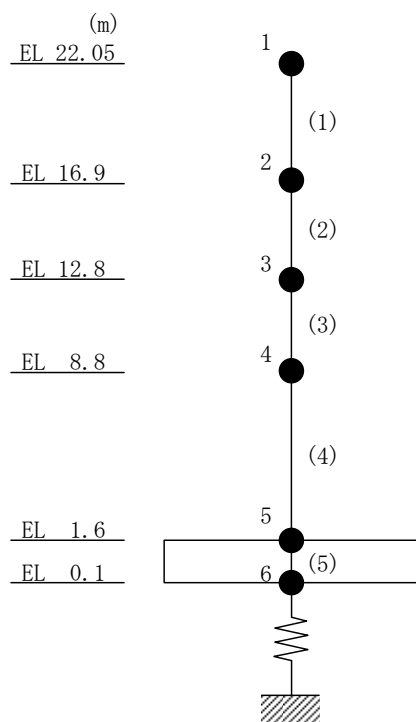


図 3-3(3) 制御室建物地震応答解析モデル (鉛直方向)

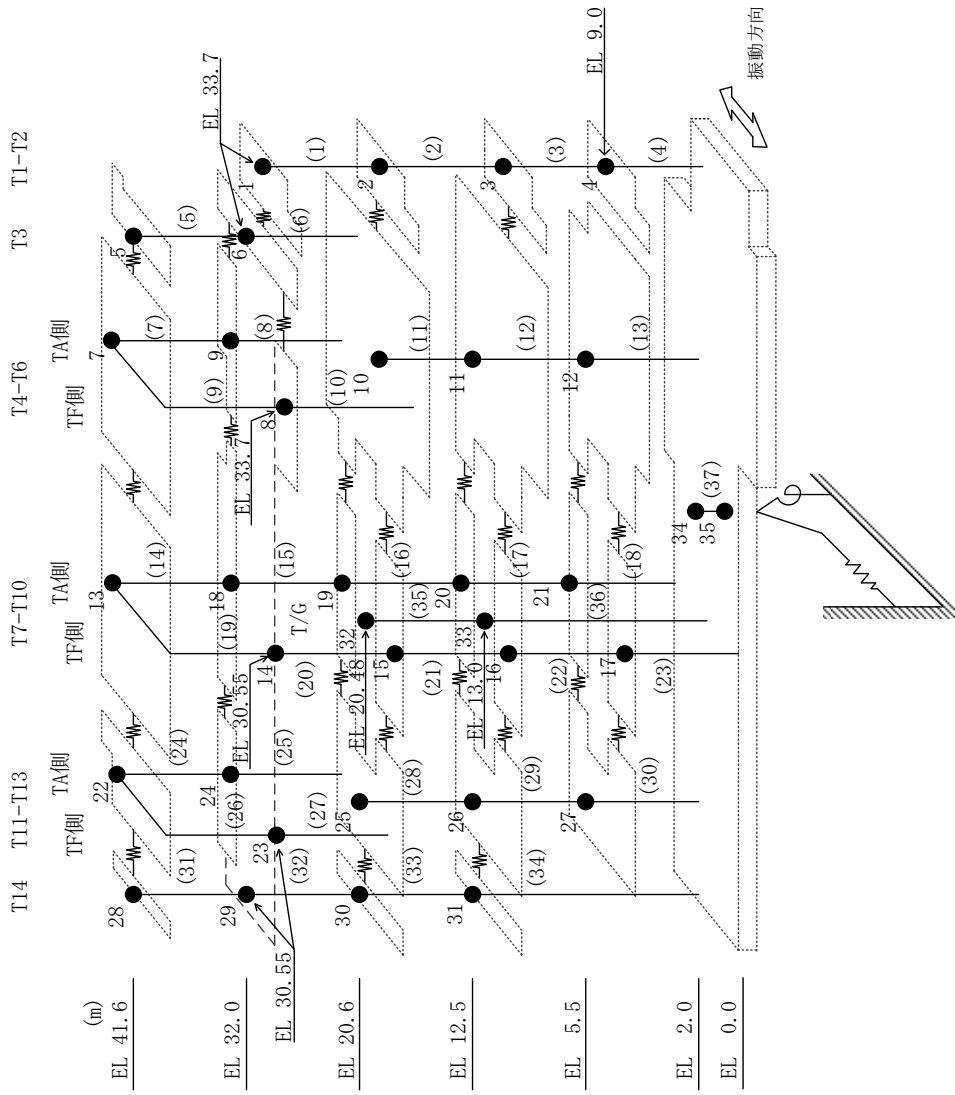


図 3-4(1) タービン建物地震応答解析モデル (水平方向 (NS 方向))

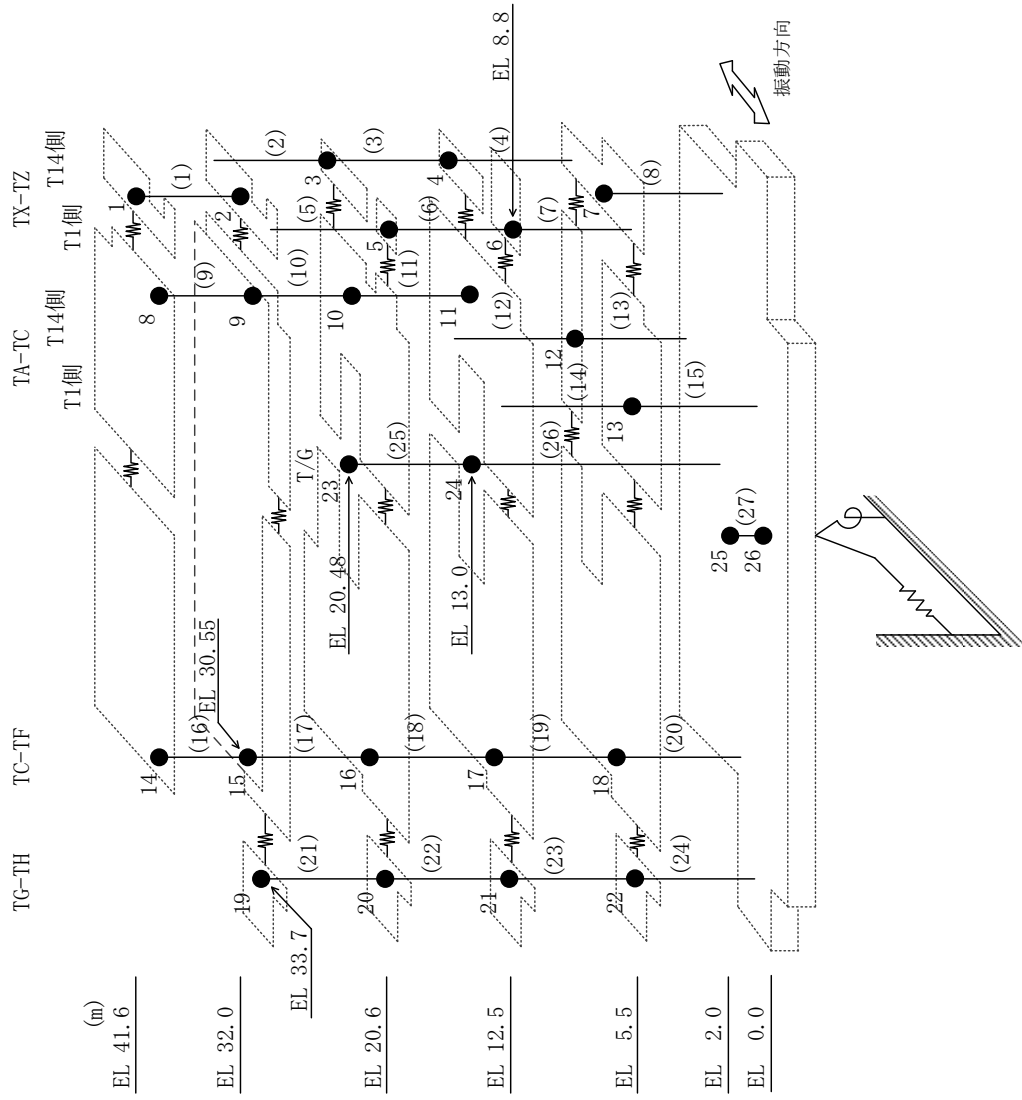


図 3-4(2) タービン建物地震応答解析モデル (水平方向 (EW 方向))

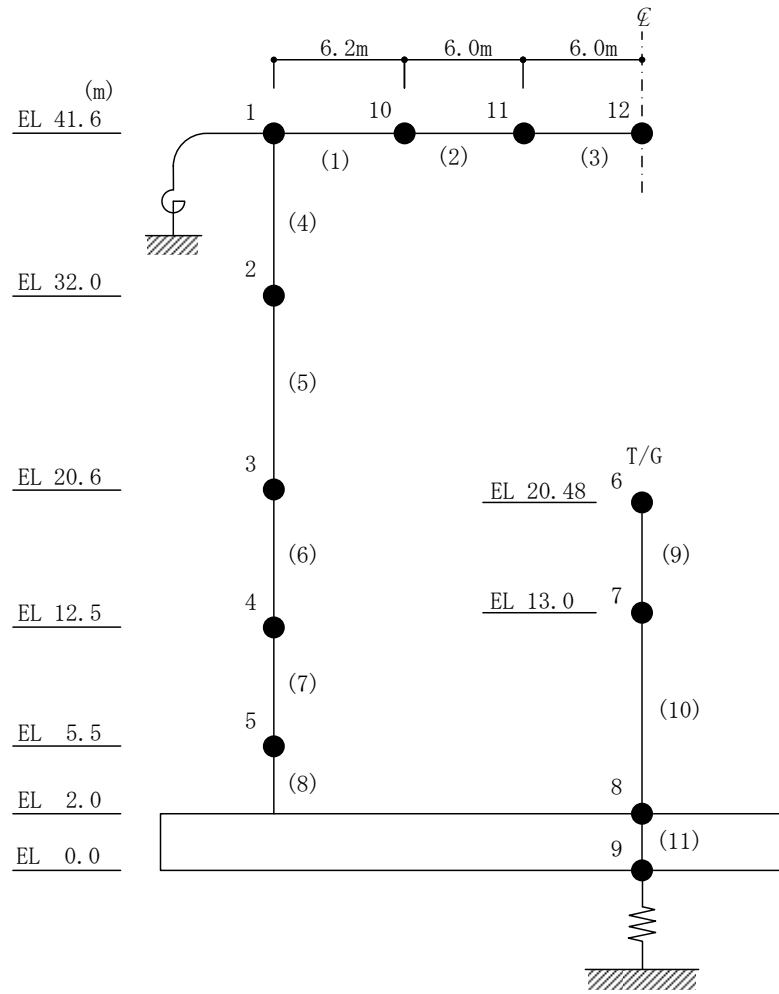


図 3-4(3) タービン建物地震応答解析モデル (鉛直方向)

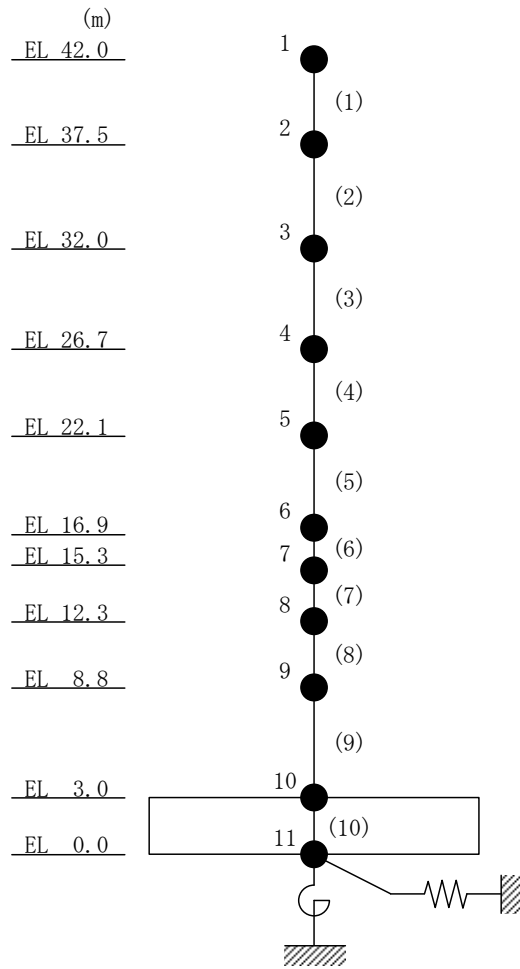


図 3-5(1) 廃棄物処理建物地震応答解析モデル（水平方向（NS 方向，EW 方向））

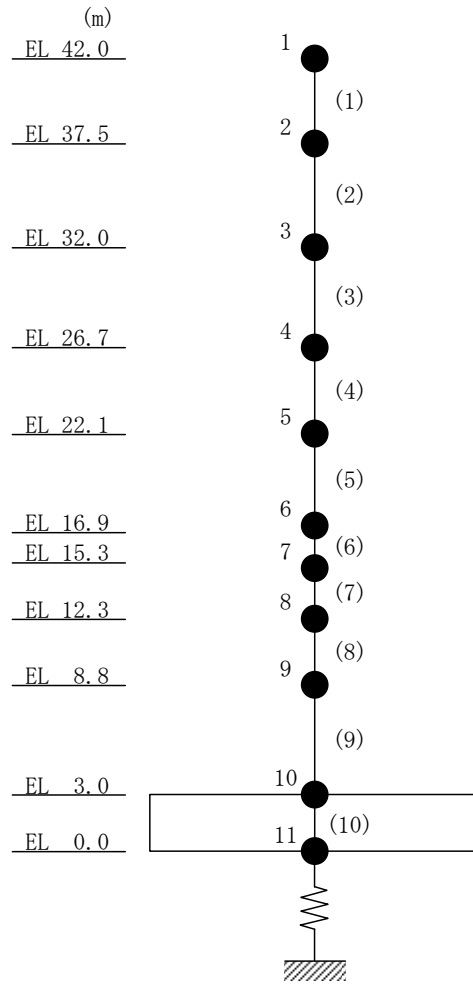


図 3-5(2) 廃棄物処理建物地震応答解析モデル (鉛直方向)

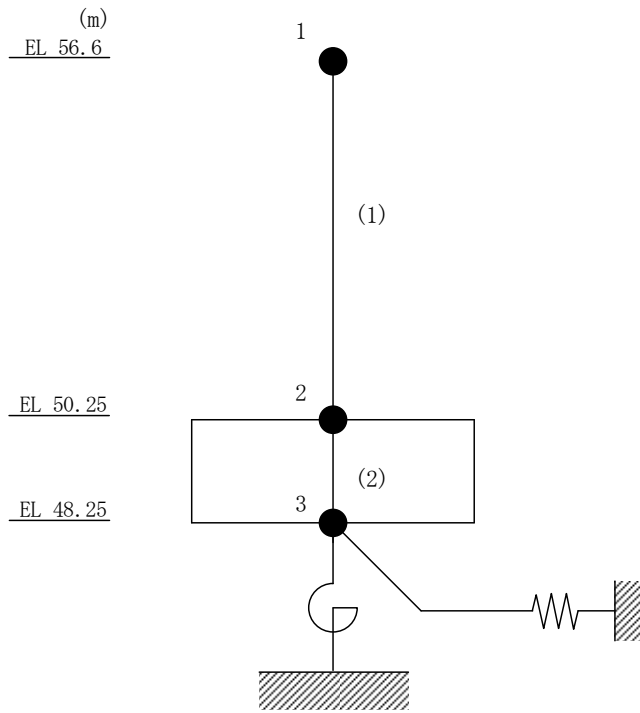


図 3-6(1) 緊急時対策所地震応答解析モデル（水平方向（NS 方向，EW 方向））

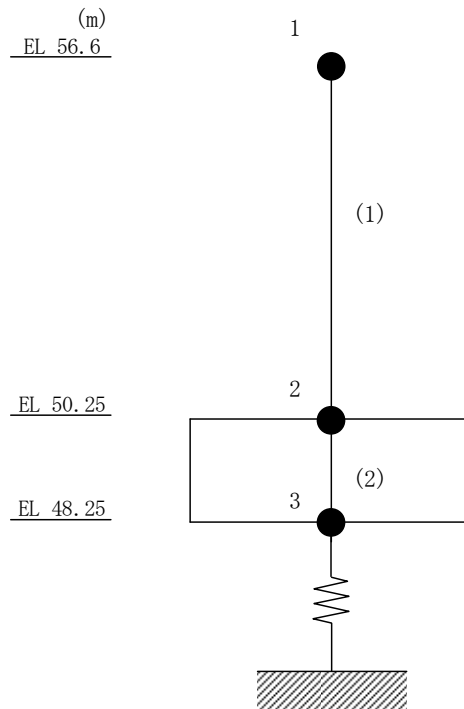


図 3-6(2) 緊急時対策所地震応答解析モデル（鉛直方向）

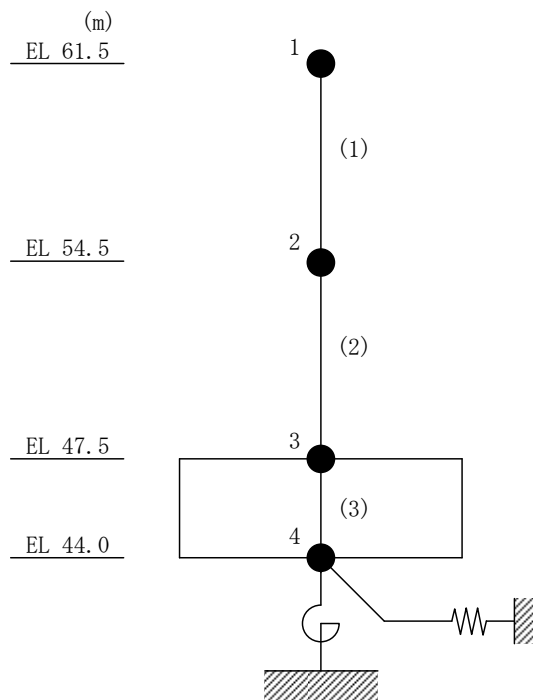


図 3-7(1) ガスタービン発電機建物地震応答解析モデル(水平方向(NS 方向, EW 方向))

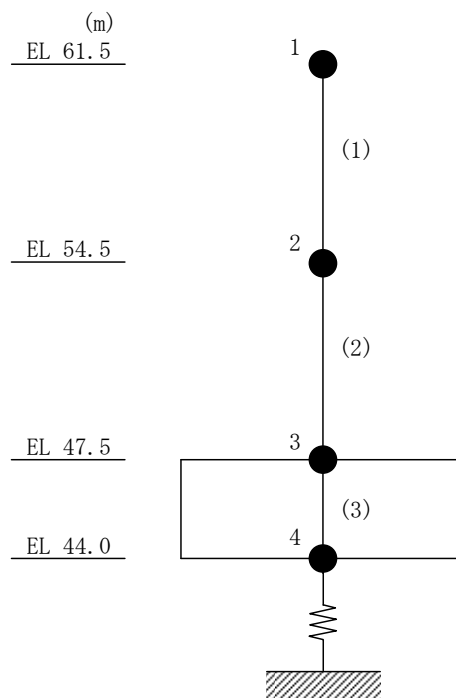


図 3-7(2) ガスタービン発電機建物地震応答解析モデル (鉛直方向)

4. 設計用床応答スペクトル及び設計用震度

本章では、施設ごとの各床面の設計用震度及び静的震度並びに設計用床応答スペクトルを示す。なお、静的震度はVI-2-1-1「耐震設計の基本方針」の「4. 設計用地震力」に従って算出した値以上となるように作成したものである。

4.1 弾性設計用地震動 S d

設計用震度及び静的震度並びに設計用床応答スペクトル（S d）を示す。

(1) 設計用震度一覧表

建物・構築物等の各床面の設計用震度及び静的震度を表 4.1-1～表 4.1-5 に示す。また、建物・構築物等と表番号との関連を表 4.1 に示す。

表 4.1 建物・構築物等と表番号との関連（弾性設計用地震動 S d）

No.	建物・構築物等	設計用震度及び静的震度
1	原子炉建物	表 4.1-1
2	炉心，原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体基礎	表 4.1-2
3	制御室建物	表 4.1-3
4	タービン建物	表 4.1-4
5	廃棄物処理建物	表 4.1-5

(2) 設計用床応答スペクトルの図番

各床面の減衰定数に応じた設計用床応答スペクトルの図番を表 4.2-1～表 4.2-5 に示す。また、建物・構築物等と表番号との関連を表 4.2 に示す。

表 4.2 建物・構築物等と表番号との関連（弾性設計用地震動 S d）

No.	建物・構築物等	設計用床応答スペクトル
1	原子炉建物	表 4.2-1
2	炉心，原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体基礎	表 4.2-2
3	制御室建物	表 4.2-3
4	タービン建物	表 4.2-4
5	廃棄物処理建物	表 4.2-5

4.2 基準地震動 S_s

設計用震度及び設計用床応答スペクトル (S_s) を示す。

(1) 設計用震度一覧表

建物・構築物等の各床面の設計用震度を表 4.3-1～表 4.3-7 に示す。また、建物・構築物等と表番号との関連を表 4.3 に示す。

表 4.3 建物・構築物等と表番号との関連 (基準地震動 S_s)

No.	建物・構築物等	設計用震度
1	原子炉建物	表 4.3-1
2	炉心, 原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体基礎	表 4.3-2
3	制御室建物	表 4.3-3
4	タービン建物	表 4.3-4
5	廃棄物処理建物	表 4.3-5
6	緊急時対策所	表 4.3-6
7	ガスタービン発電機建物	表 4.3-7

(2) 設計用床応答スペクトルの図番

各床面の減衰定数に応じた設計用床応答スペクトルの図番を表 4.4-1～表 4.4-7 に示す。また、建物・構築物等と表番号との関連を表 4.4 に示す。

表 4.4 建物・構築物等と表番号との関連（基準地震動 S_s）

No.	建物・構築物等	設計用床応答スペクトル
1	原子炉建物	表 4.4-1
2	炉心，原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体基礎	表 4.4-2
3	制御室建物	表 4.4-3
4	タービン建物	表 4.4-4
5	廃棄物処理建物	表 4.4-5
6	緊急時対策所	表 4.4-6
7	ガスタービン発電機建物	表 4.4-7

4.3 余震荷重を算定するための地震動

津波荷重と重畳させる余震荷重を算定するための地震動及び震度は、VI-3「強度に関する説明書」のうち、別添 3-2「津波への配慮が必要な施設の強度計算書」に示す。

表 4.1-1 設計用震度 (S d) 及 α 靜的震度 (原子炉建物) (1/3)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665 \text{m/s}^2$) $\times 1.0$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
					S d			S d		
NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向		
原子炉建物	6, 20	3, 17	7	63.500	1.69	1.98	0.81	2.51	2.94	1.16
	7, 21	4, 18, 22	8	51.700	1.33	1.55	0.74	2.00	2.33	1.07
	8, 14, 22, 28	5, 11, 19, 23	9, 17	42.800	1.09	1.14	0.82	1.61	1.71	1.13
	1, 9, 15, 23, 29	6, 12, 20, 24, 29	1, 10, 18	34.800	0.89	0.85	0.80	1.31	1.26	1.10
	2, 10, 16, 24, 30	7, 13, 21, 25, 30	2, 11, 19	30.500	1.06	0.93	0.78	1.59	1.40	1.05
	10, 16, 24	13, 21	11, 19	30.500 (燃料プール)	0.82	0.78	0.78	1.19	1.17	1.05
	3, 11, 17, 25, 31	8, 14, 26, 31	3, 12, 20	23.800	0.64	0.66	0.70	0.92	0.99	0.92
	4, 12, 18, 26, 32	1, 9, 15, 27, 32	4, 13, 21	15.300	0.50	0.50	0.53	0.69	0.75	0.68
	19	16	22	10.100	0.44	0.48	0.39	0.65	0.72	0.50
	5, 13, 27, 33	2, 10, 28, 33	5, 14	8.800	0.43	0.43	0.32	0.65	0.65	0.45
	34	34	6, 15, 23	1.300	0.37	0.39	0.28	0.56	0.59	0.41
	35	35	16	-4.700	0.36	0.39	0.27	0.54	0.59	0.38

表 4.1-1 設計用震度 (S d) 及び静的震度 (原子炉建物) (2/3)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665 \text{m/s}^2$) $\times 1.2$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
					NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
原子炉建物	6, 20	3, 17	7	63.500	2.03	2.38	0.97	3.00	3.53	1.38
	7, 21	4, 18, 22	8	51.700	1.60	1.86	0.88	2.40	2.79	1.28
	8, 14, 22, 28	5, 11, 19, 23	9, 17	42.800	1.31	1.36	0.98	1.94	2.04	1.34
	1, 9, 15, 23, 29	6, 12, 20, 24, 29	1, 10, 18	34.800	1.06	1.02	0.96	1.56	1.52	1.31
	2, 10, 16, 24, 30	7, 13, 21, 25, 30	2, 11, 19	30.500	1.28	1.12	0.93	1.92	1.68	1.25
	10, 16, 24	13, 21	11, 19	30.500 (燃料プール)	0.99	0.93	0.93	1.43	1.40	1.25
	3, 11, 17, 25, 31	8, 14, 26, 31	3, 12, 20	23.800	0.76	0.79	0.84	1.10	1.19	1.10
	4, 12, 18, 26, 32	1, 9, 15, 27, 32	4, 13, 21	15.300	0.60	0.59	0.64	0.84	0.89	0.81
	19	16	22	10.100	0.52	0.58	0.46	0.78	0.87	0.60
	5, 13, 27, 33	2, 10, 28, 33	5, 14	8.800	0.51	0.52	0.38	0.77	0.78	0.54
	34	34	6, 15, 23	1.300	0.44	0.47	0.34	0.66	0.71	0.48
	35	35	16	-4.700	0.44	0.47	0.32	0.65	0.71	0.45

表 4.1-1 設計用震度 (S d) 及び静的震度 (原子炉建物) (3/3)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	静的震度							
					3.0・C _i		3.6・C _i		1.0・C _v	1.2・C _v		
	NS方向	EW方向	鉛直方向		NS方向	EW方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	鉛直方向		
原子炉建物	6, 20	3, 17	7	63.500	1.88	1.80		2.25	2.16			
	7, 21	4, 18, 22	8	51.700	1.32	1.30		1.58	1.56			
	8, 14, 22, 28	5, 11, 19, 23	9, 17	42.800	0.96	0.92		1.15	1.10			
	1, 9, 15, 23, 29	6, 12, 20, 24, 29	1, 10, 18	34.800	0.78	0.77		0.94	0.92			
	2, 10, 16, 24, 30	7, 13, 21, 25, 30	2, 11, 19	30.500	0.72	0.71		0.86	0.85			
	3, 11, 17, 25, 31	8, 14, 26, 31	3, 12, 20	23.800	0.63	0.63		0.75	0.76	0.24		0.29
	4, 12, 18, 26, 32	1, 9, 15, 27, 32	4, 13, 21	15.300	0.55	0.55		0.66	0.66			
	19	16	22	10.100	0.55	0.55		0.66	0.66			
	5, 13, 27, 33	2, 10, 28, 33	5, 14	8.800	0.48	0.48		0.58	0.58			
	34	34	6, 15, 23	1.300	0.48	0.48		0.58	0.58			
	35	35	16	-4.700	0.48	0.48		0.58	0.58			

表 4.1-2 設計用震度 (S d) 及び静的震度 (原子炉格納容器内) (1/17)

構造物名	質点番号			標高 EL.(m)	震度 ($\times 9.80665 \text{m/s}^2$) $\times 1.0$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
					NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
原子炉格納容器	41	42	29	39.400	1.03	0.90	0.47	1.55	1.31	0.65
	42	43	30	37.060	0.96	0.86	0.47	1.41	1.25	0.65
	43	44	31	34.758	0.92	0.82	0.47	1.34	1.17	0.63
	44	45	32	33.141	0.89	0.79	0.46	1.29	1.14	0.63
	45	46	33	29.392	0.82	0.72	0.45	1.20	1.07	0.60
	46	47	34	27.907	0.79	0.69	0.45	1.14	1.04	0.60
	47	48	35	22.932	0.65	0.63	0.43	0.89	0.95	0.57
	48	49	36	19.878	0.57	0.58	0.41	0.78	0.87	0.56
	49	50	37	16.825	0.53	0.53	0.41	0.74	0.80	0.54
	50	51	38	13.700	0.48	0.47	0.40	0.68	0.69	0.54
	51	52	39	11.900	0.45	0.44	0.40	0.65	0.63	0.53

表 4.1-2 設計用震度(S d)及び静的震度(原子炉格納容器内) (2/17)

構造物名	質点番号			標高 EL(m)	震度($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.2$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
	NS方向	EW方向	鉛直方向		S d			S d		
					NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
原子炉格納容器	41	42	29	39.400	1.23	1.08	0.57	1.85	1.56	0.77
	42	43	30	37.060	1.15	1.03	0.56	1.70	1.49	0.77
	43	44	31	34.758	1.10	0.99	0.56	1.61	1.41	0.77
	44	45	32	33.141	1.06	0.95	0.56	1.55	1.37	0.75
	45	46	33	29.392	0.99	0.87	0.54	1.43	1.28	0.72
	46	47	34	27.907	0.95	0.83	0.54	1.37	1.25	0.72
	47	48	35	22.932	0.78	0.75	0.51	1.07	1.13	0.69
	48	49	36	19.878	0.68	0.69	0.50	0.93	1.04	0.68
	49	50	37	16.825	0.63	0.63	0.49	0.87	0.95	0.65
	50	51	38	13.700	0.57	0.57	0.48	0.80	0.83	0.65
	51	52	39	11.900	0.54	0.52	0.47	0.77	0.75	0.63

表 4.1-2 設計用震度(S d)及 Γ 靜的震度(原子炉格納容器内) (3/17)

構造物名	質点番号			標高 EL(m)	靜的震度													
	3.0・C _i		3.6・C _i		1.0・C _v		1.2・C _v											
	NS方向	EW方向	鉛直方向		NS方向	EW方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	鉛直方向								
原子炉格納容器	41	42	29	39.400	0.96	0.92	1.15	1.10	0.96	0.92	1.15	1.10	0.92	0.92	1.10	0.92	0.92	1.10
	42	43	30	37.060	0.96	0.92	1.15	1.10	0.96	0.92	1.15	1.10	0.92	0.92	1.10	0.92	0.92	1.10
	43	44	31	34.758	0.78	0.77	0.94	0.92	0.78	0.77	0.94	0.92	0.78	0.77	0.94	0.92	0.78	0.77
	44	45	32	33.141	0.78	0.77	0.94	0.92	0.78	0.77	0.94	0.92	0.78	0.77	0.94	0.92	0.78	0.77
	45	46	33	29.392	0.72	0.71	0.86	0.85	0.72	0.71	0.86	0.85	0.72	0.71	0.86	0.85	0.72	0.71
	46	47	34	27.907	0.72	0.71	0.86	0.85	0.72	0.71	0.86	0.85	0.72	0.71	0.86	0.85	0.72	0.71
	47	48	35	22.932	0.63	0.63	0.75	0.76	0.63	0.63	0.75	0.76	0.63	0.63	0.75	0.76	0.63	0.63
	48	49	36	19.878	0.63	0.63	0.75	0.76	0.63	0.63	0.75	0.76	0.63	0.63	0.75	0.76	0.63	0.63
	49	50	37	16.825	0.63	0.63	0.75	0.76	0.63	0.63	0.75	0.76	0.63	0.63	0.75	0.76	0.63	0.63
	50	51	38	13.700	0.55	0.55	0.66	0.66	0.55	0.55	0.66	0.66	0.55	0.55	0.66	0.66	0.55	0.55
	51	52	39	11.900	0.55	0.55	0.66	0.66	0.55	0.55	0.66	0.66	0.55	0.55	0.66	0.66	0.55	0.55

表 4.1-2 設計用震度 (S d) 及び静的震度 (原子炉格納容器内) (4/17)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665 \text{m/s}^2$) $\times 1.0$					
	設計用震度 I				設計用震度 II					
	NS方向	EW方向	鉛直方向		NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
ガンマ線遮蔽壁	53	54	41	29.962	1.42	1.12	0.65	1.82	1.68	0.95
	54	55	42	26.981	1.21	1.11	0.62	1.70	1.65	0.93
	55	56	43	24.000	1.05	1.08	0.58	1.52	1.52	0.87
	56	57	44	21.500	0.90	1.00	0.54	1.31	1.40	0.81
	57	58	45	19.000	0.67	0.81	0.48	1.01	1.11	0.68
	58	59	46	15.944	0.51	0.60	0.44	0.75	0.84	0.56
原子炉圧力容器 ペグスタル	59	60	47	13.022	0.47	0.51	0.42	0.71	0.77	0.54

表 4.1-2 設計用震度 (S d) 及び静的震度 (原子炉格納容器内) (5/17)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.2$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
	NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	
ガンマ線遮蔽壁	53	54	41	29.962	1.71	1.35	0.78	2.18	2.03	1.14
	54	55	42	26.981	1.45	1.33	0.75	2.04	1.98	1.11
	55	56	43	24.000	1.26	1.29	0.70	1.82	1.82	1.05
	56	57	44	21.500	1.07	1.20	0.64	1.56	1.67	0.96
	57	58	45	19.000	0.80	0.97	0.58	1.20	1.34	0.81
	58	59	46	15.944	0.61	0.72	0.53	0.90	1.02	0.66
原子炉圧力容器 ペデスタル	59	60	47	13.022	0.56	0.61	0.50	0.84	0.92	0.65

表 4.1-2 設計用震度(S d)及び静的震度(原子炉格納容器内) (6/17)

構造物名	質点番号			標高 EL(m)	静的震度					
	3.0・C _i		3.6・C _i		1.0・C _v		1.2・C _v			
	NS方向	EW方向	鉛直方向		NS方向	EW方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	鉛直方向
ガンマ線遮蔽壁	53	54	41	29.962	0.72	0.71	0.86	0.85	0.24	0.29
	54	55	42	26.981	0.72	0.71	0.86	0.85		
	55	56	43	24.000	0.72	0.71	0.86	0.85		
	56	57	44	21.500	0.63	0.63	0.75	0.76		
	57	58	45	19.000	0.63	0.63	0.75	0.76		
原子炉圧力容器 ペグスタル	58	59	46	15.944	0.63	0.63	0.75	0.76	0.66	
	59	60	47	13.022	0.55	0.55	0.66	0.66		

表 4.1-2 設計用震度(S d)及び静的震度(原子炉格納容器内)(7/17)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.0$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
	NS方向	EW方向	鉛直方向		NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
原子炉压力容器	61	62	49	37.494	2.87	2.66	0.55	3.71	3.75	0.80
	62	63	50	36.586	2.75	2.52	0.55	3.56	3.56	0.80
	63	64	51	35.678	2.64	2.38	0.55	3.41	3.36	0.80
	64	65	52	33.993	2.42	2.12	0.55	3.12	2.99	0.80
	65	66	53	32.567	2.23	1.88	0.54	2.88	2.69	0.80
	66	67	54	31.557	2.08	1.71	0.54	2.69	2.48	0.78
	67	68	55	30.369	1.91	1.51	0.53	2.48	2.24	0.78
	68	69	56	30.218	1.89	1.49	0.53	2.45	2.21	0.78
	69	70	57	29.181	1.78	1.39	0.52	2.30	2.04	0.77
	70	71	58	28.249	1.68	1.30	0.52	2.18	1.91	0.77
	71	72	59	27.317	1.57	1.22	0.51	2.04	1.77	0.75
	72	73	60	26.687	1.50	1.16	0.51	1.95	1.68	0.75
	73	74	61	25.414	1.36	1.05	0.50	1.77	1.50	0.74
	74	75	62	25.131	1.33	1.03	0.50	1.73	1.47	0.72
	75	76	63	24.419	1.25	0.97	0.50	1.62	1.37	0.72
	76	77	64	23.707	1.17	0.91	0.50	1.53	1.28	0.71
	77	78	65	22.995	1.09	0.85	0.49	1.43	1.20	0.71
	78	79	66	22.283	1.01	0.79	0.49	1.32	1.14	0.69
	79	80	67	21.064	0.87	0.70	0.49	1.16	1.05	0.68
	80	81	68	20.892	0.85	0.70	0.49	1.13	1.04	0.68
	81	82	69	20.214	0.78	0.68	0.48	1.04	1.01	0.66
	82	83	70	19.196	0.68	0.67	0.48	0.93	0.96	0.65
	83	84	71	18.250	0.62	0.66	0.48	0.89	0.93	0.63

表 4.1-2 設計用震度 (S d) 及ひ静的震度 (原子炉格納容器内) (8/17)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665 \text{m/s}^2$) $\times 1.2$					
	設計用震度 I				設計用震度 II					
	NS方向	EW方向	鉛直方向		NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
原子炉圧力容器	61	62	49	37.494	3.44	3.19	0.66	4.44	4.50	0.96
	62	63	50	36.586	3.30	3.02	0.66	4.26	4.26	0.96
	63	64	51	35.678	3.16	2.85	0.66	4.08	4.02	0.96
	64	65	52	33.993	2.90	2.54	0.65	3.75	3.59	0.96
	65	66	53	32.567	2.67	2.26	0.65	3.45	3.23	0.95
	66	67	54	31.557	2.50	2.05	0.64	3.23	2.97	0.95
	67	68	55	30.369	2.30	1.81	0.64	2.97	2.69	0.93
	68	69	56	30.218	2.27	1.78	0.64	2.94	2.64	0.93
	69	70	57	29.181	2.13	1.66	0.63	2.76	2.45	0.92
	70	71	58	28.249	2.01	1.56	0.62	2.60	2.28	0.92
	71	72	59	27.317	1.89	1.46	0.61	2.45	2.13	0.90
	72	73	60	26.687	1.80	1.39	0.61	2.34	2.01	0.89
	73	74	61	25.414	1.63	1.26	0.60	2.12	1.80	0.87
	74	75	62	25.131	1.59	1.23	0.60	2.07	1.76	0.87
	75	76	63	24.419	1.50	1.16	0.60	1.95	1.64	0.86
	76	77	64	23.707	1.40	1.09	0.59	1.83	1.53	0.86
	77	78	65	22.995	1.30	1.02	0.59	1.71	1.44	0.84
	78	79	66	22.283	1.21	0.95	0.59	1.59	1.37	0.83
	79	80	67	21.064	1.04	0.84	0.58	1.38	1.26	0.81
	80	81	68	20.892	1.02	0.84	0.58	1.35	1.25	0.81
	81	82	69	20.214	0.94	0.82	0.58	1.25	1.22	0.80
	82	83	70	19.196	0.81	0.80	0.58	1.11	1.16	0.78
	83	84	71	18.250	0.74	0.79	0.57	1.05	1.11	0.77

表 4.1-2 設計用震度 (S d) 及 \hat{C} 靜的震度 (原子炉格納容器内) (9/17)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	靜的震度		
	3.6・C _i		鉛直方向		1.2・C _v		
	NS方向	EW方向			NS方向	EW方向	
原子炉压力容器	61	62	49	37.494	1.15	1.10	0.29
	62	63	50	36.586	1.15	1.10	
	63	64	51	35.678	1.15	1.10	
	64	65	52	33.993	0.94	0.92	
	65	66	53	32.567	0.94	0.92	
	66	67	54	31.557	0.94	0.92	
	67	68	55	30.369	0.86	0.85	
	68	69	56	30.218	0.86	0.85	
	69	70	57	29.181	0.86	0.85	
	70	71	58	28.249	0.86	0.85	
	71	72	59	27.317	0.86	0.85	
	72	73	60	26.687	0.86	0.85	
	73	74	61	25.414	0.86	0.85	
	74	75	62	25.131	0.86	0.85	
75	76	63	24.419	0.86	0.85		
76	77	64	23.707	0.75	0.76		
77	78	65	22.995	0.75	0.76		
78	79	66	22.283	0.75	0.76		
79	80	67	21.064	0.75	0.76		
80	81	68	20.892	0.75	0.76		
81	82	69	20.214	0.75	0.76		
82	83	70	19.196	0.75	0.76		
83	84	71	18.250	0.75	0.76		

表 4.1-2 設計用震度 (S d) 及び静的震度 (原子炉格納容器内) (10/17)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665 \text{m/s}^2$) $\times 1.2$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
					S d			S d		
					NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
炉心シユラウド	88	89	73	31.557	2.18	2.36	0.75	2.91	2.75	0.98
	89	90	74	30.369	1.93	2.05	0.75	2.61	2.45	0.98
	90	91	75	29.181	1.73	1.83	0.75	2.39	2.21	0.96
	91	92	76	28.249	1.61	1.71	0.74	2.24	2.09	0.96
	92	93	77	27.317	1.52	1.61	0.73	2.10	1.95	0.95
	93	94	78	26.687	1.45	1.54	0.73	2.01	1.88	0.95
	94	95	79	25.414	1.33	1.40	0.72	1.85	1.73	0.93
	95	96	80	25.843	1.38	1.45	0.72	1.91	1.79	0.93
	96	97	81	25.414	1.33	1.40	0.72	1.85	1.73	0.93
	97	98	82	25.131	1.30	1.37	0.72	1.80	1.68	0.93
	98	99	83	24.419	1.23	1.28	0.71	1.70	1.59	0.92
	99	100	84	23.707	1.15	1.19	0.70	1.61	1.49	0.89
	100	101	85	22.995	1.08	1.11	0.68	1.50	1.41	0.87
	101	102	86	22.283	1.01	1.04	0.67	1.41	1.32	0.86
	102	103	87	21.064	0.93	0.92	0.65	1.26	1.23	0.83
	103	104	88	21.571	0.98	0.97	0.65	1.34	1.25	0.83
	104	105	89	21.064	0.93	0.92	0.65	1.26	1.23	0.83
	105	106	90	20.892	0.92	0.90	0.65	1.25	1.22	0.83
106	107	91	20.214	0.88	0.83	0.63	1.19	1.19	0.81	
107	108	92	19.196	0.81	0.80	0.61	1.11	1.16	0.80	

表 4.1-2 設計用震度(S d)及び静的震度(原子炉格納容器内)(11/17)

構造物名	質点番号			標高 EL(m)	静的震度			
	NS方向	EW方向	鉛直方向		3.6・C _i			1.2・C _v 鉛直方向
					NS方向	EW方向	鉛直方向	
炉心シュラウド	88	89	73	31.557	0.94	0.92	0.92	0.29
	89	90	74	30.369	0.86	0.85	0.85	
	90	91	75	29.181	0.86	0.85	0.85	
	91	92	76	28.249	0.86	0.85	0.85	
	92	93	77	27.317	0.86	0.85	0.85	
	93	94	78	26.687	0.86	0.85	0.85	
	94	95	79	25.414	0.86	0.85	0.85	
	95	96	80	25.843	0.86	0.85	0.85	
	96	97	81	25.414	0.86	0.85	0.85	
	97	98	82	25.131	0.86	0.85	0.85	
	98	99	83	24.419	0.86	0.85	0.85	
	99	100	84	23.707	0.75	0.76	0.76	
	100	101	85	22.995	0.75	0.76	0.76	
	101	102	86	22.283	0.75	0.76	0.76	
	102	103	87	21.064	0.75	0.76	0.76	
	103	104	88	21.571	0.75	0.76	0.76	
	104	105	89	21.064	0.75	0.76	0.76	
105	106	90	20.892	0.75	0.76	0.76		
106	107	91	20.214	0.75	0.76	0.76		
107	108	92	19.196	0.75	0.76	0.76		

表 4.1-2 設計用震度 (S d) 及び静的震度 (原子炉格納容器内) (12/17)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)		震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.0$					
						設計用震度 I			設計用震度 II		
						S d			S d		
NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向			
燃料集合体	113	114	94	25.843	1.15	1.21	0.66	1.59	1.49	0.98	
	114	115	95	25.131	2.09	2.51	0.66	2.75	2.85	0.96	
	115	116	96	24.419	2.69	3.63	0.65	3.54	3.93	0.96	
	116	117	97	23.707	2.83	3.97	0.65	3.75	4.43	0.95	
	117	118	98	22.995	2.52	3.42	0.63	3.33	3.93	0.95	
	118	119	99	22.283	1.80	2.20	0.62	2.37	2.58	0.93	
	119	120	100	21.571	0.82	0.81	0.61	1.11	1.04	0.92	

表 4.1-2 設計用震度 (S d) 及び静的震度 (原子炉格納容器内) (13/17)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	静的震度		
					3.6 · C _i		1.2 · C _v
					NS方向	EW方向	鉛直方向
燃料集合体	113	114	94	25.843	0.86	0.85	0.29
	114	115	95	25.131	0.86	0.85	
	115	116	96	24.419	0.86	0.85	
	116	117	97	23.707	0.75	0.76	
	117	118	98	22.995	0.75	0.76	
	118	119	99	22.283	0.75	0.76	
	119	120	100	21.571	0.75	0.76	

表 4.1-2 設計用震度 (S d) 及び静的震度 (原子炉格納容器内) (14/17)

構造物名	質点番号			標高 BL (m)	震度 ($\times 9.80665 \text{m/s}^2$) $\times 1.2$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
					NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
制御棒駆動機構 ハウジング (内側)	127	128	107	17.499	0.86	0.94	0.58	1.19	1.22	0.80
	128	129	108	16.508	0.69	0.79	0.58	1.01	1.10	0.78
	129	130	109	15.644	0.73	0.87	0.58	1.08	1.17	0.78
	130	131	110	14.781	0.82	1.18	0.58	1.19	1.55	0.78
	131	132	111	13.917	0.85	1.34	0.58	1.22	1.83	0.78
	132	133	112	13.054	0.85	1.38	0.58	1.25	2.03	0.78
	108	109	93	17.442 (水平) 17.419 (鉛直)	0.72	0.79	0.58	1.04	1.11	0.77
制御棒駆動機構 ハウジング (外側)	109	110	113	16.345	0.94	1.47	0.58	1.35	2.01	0.78
	110	111	114	15.248	1.61	2.92	0.58	2.22	4.04	0.78
	111	112	115	14.151	1.54	2.81	0.58	2.09	3.90	0.78
	112	113	116	13.054	0.85	1.36	0.58	1.23	2.00	0.78

表 4.1-2 設計用震度(S d)及v靜的震度(原子炉格納容器内)(15/17)

構造物名	震点番号			標高 EL(m)	靜的震度		
	NS方向	EW方向	鉛直方向		3.6・C _i		1.2・C _v
					NS方向	EW方向	鉛直方向
制御棒駆動機構 ハウジング (内側)	127	128	107	17.499	0.75	0.76	0.29
	128	129	108	16.508	0.75	0.76	
	129	130	109	15.644	0.75	0.76	
	130	131	110	14.781	0.66	0.66	
	131	132	111	13.917	0.66	0.66	
	132	133	112	13.054	0.66	0.66	
	108	109	93	17.442(水平) 17.419(鉛直)	0.75	0.76	
制御棒駆動機構 ハウジング (外側)	109	110	113	16.345	0.75	0.76	
	110	111	114	15.248	0.66	0.66	
	111	112	115	14.151	0.66	0.66	
	112	113	116	13.054	0.66	0.66	

表 4.1-2 設計用震度 (S d) 及び静的震度 (原子炉格納容器内) (16/17)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.2$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
					S d			S d		
NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向		
原子炉压力容器 下鏡	85	86	71	18.250	0.74	0.79	0.57	1.05	1.11	0.77
	86	87	93	17.442(水平) 17.419(鉛直)	0.72	0.79	0.58	1.04	1.11	0.77
	87	88	108	16.508	0.69	0.79	0.58	1.01	1.10	0.78

表 4.1-2 設計用震度 (S d) 及び静的震度 (原子炉格納容器内) (17/17)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	静的震度		
					$3.6 \cdot C_i$		
					NS方向	EW方向	鉛直方向
原子炉压力容器 下鏡	85	86	71	18.250	0.75	0.76	0.29
	86	87	93	17.442(水平) 17.419(鉛直)	0.75	0.76	
	87	88	108	16.508	0.75	0.76	

表 4.1-3 設計用震度 (S d) 及 U 静的震度 (制御室建物) (1/3)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.0$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
					NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
制御室建物	1	1	1	22.050	1.10	1.21	0.51	1.64	1.71	0.74
	2	2	2	16.900	0.81	1.02	0.45	1.22	1.43	0.65
	3	3	3	12.800	0.71	0.81	0.39	1.05	1.11	0.57
	4, 7	4	4	8.800	0.50	0.59	0.34	0.75	0.83	0.48
	5	5	5	1.600	0.36	0.40	0.27	0.54	0.60	0.41
	6	6	6	0.100	0.36	0.40	0.27	0.54	0.60	0.41

表 4.1-3 設計用震度 (S d) 及 \hat{v} 靜的震度 (制御室建物) (2/3)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.2$								
					設計用震度 I			設計用震度 II					
					NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	S d		
											EW方向	NS方向	鉛直方向
制御室建物	1	1	1	22.050	1.31	1.45	0.61	1.97	2.04	0.89			
	2	2	2	16.900	0.97	1.22	0.54	1.46	1.71	0.77			
	3	3	3	12.800	0.85	0.97	0.47	1.26	1.34	0.68			
	4,7	4	4	8.800	0.60	0.71	0.41	0.90	0.98	0.59			
	5	5	5	1.600	0.43	0.48	0.33	0.65	0.72	0.48			
	6	6	6	0.100	0.43	0.48	0.33	0.65	0.72	0.48			

表 4.1-3 設計用震度 (S d) 及 α 靜的震度 (制御室建物) (3/3)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	靜的震度		
	NS方向	EW方向	鉛直方向		3.6・C _i		1.2・C _v
					NS方向	EW方向	鉛直方向
制御室建物	1	1	1	22.050	0.95	0.86	0.29
	2	2	2	16.900	0.80	0.76	
	3	3	3	12.800	0.70	0.68	
	4,7	4	4	8.800	0.58	0.58	
	5	5	5	1.600	0.58	0.58	
	6	6	6	0.100	0.58	0.58	

表 4.1-4 設計用震度(S d)及び静的震度(タービン建物) (1/3)

構造物名	質点番号			標高 EL(m)	震度($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.0$					
	設計用震度 I				設計用震度 II					
	NS方向	EW方向	鉛直方向		NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
タービン建物	5, 7, 13, 22, 28	1, 8, 14	1	41.600	2.33	2.13	0.72	3.26	3.12	0.99
	1, 6, 8	19	—	33.700	1.38	1.39	0.72	1.91	2.09	0.99
	9, 18, 24	2, 9	2	32.000	1.47	1.34	0.62	2.04	2.01	0.86
	14, 23, 29	15	—	30.550	2.36	1.35	0.62	3.54	1.97	0.86
	2, 10, 15, 19, 25, 30	3, 5, 10, 16, 20	3	20.600	1.30	1.26	0.46	1.85	1.89	0.62
	3, 11, 16, 20, 26, 31	4, 11, 17, 21	4	12.500	0.92	0.80	0.36	1.38	1.19	0.54
	4	6	—	9.000(NS) 8.800(EW)	0.58	0.52	0.36	0.87	0.77	0.54
	12, 17, 21, 27	7, 12, 13, 18, 22	5	5.500	0.56	0.60	0.32	0.77	0.89	0.45
	34	25	8	2.000	0.49	0.49	0.30	0.68	0.68	0.44
	35	26	9	0.000	0.49	0.48	0.30	0.68	0.68	0.44
蒸気タービンの基礎	32	23	6	20.480	1.17	1.23	0.63	1.53	1.79	0.83
	33	24	7	13.000	0.73	0.80	0.43	1.05	1.20	0.59

表 4.1-4 設計用震度(S d)及び静的震度(タービン建物) (2/3)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度($\times 9.80665m/s^2$) $\times 1.2$					
	設計用震度 I				設計用震度 II					
	NS方向	EW方向	鉛直方向		NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
タービン建物	5, 7, 13, 22, 28	1, 8, 14	1	41.600	2.80	2.55	0.87	3.92	3.75	1.19
	1, 6, 8	19	—	33.700	1.65	1.66	0.87	2.28	2.49	1.19
	9, 18, 24	2, 9	2	32.000	1.77	1.61	0.75	2.45	2.42	1.04
	14, 23, 29	15	—	30.550	2.83	1.61	0.75	4.25	2.37	1.04
	2, 10, 15, 19, 25, 30	3, 5, 10, 16, 20	3	20.600	1.56	1.52	0.55	2.21	2.28	0.75
	3, 11, 16, 20, 26, 31	4, 11, 17, 21	4	12.500	1.10	0.95	0.43	1.65	1.43	0.65
	4	6	—	9,000(NS) 8,800(EW)	0.69	0.62	0.43	1.04	0.93	0.65
	12, 17, 21, 27	7, 12, 13, 18, 22	5	5.500	0.67	0.72	0.38	0.92	1.07	0.54
	34	25	8	2.000	0.59	0.58	0.36	0.81	0.81	0.51
	35	26	9	0.000	0.59	0.58	0.35	0.81	0.81	0.51
蒸気タービンの基礎	32	23	6	20.480	1.41	1.48	0.75	1.83	2.15	0.99
	33	24	7	13.000	0.88	0.96	0.52	1.26	1.44	0.71

表 4.1-4 設計用震度(S d)及び静的震度(タービン建物) (3/3)

構造物名	質点番号			標高 EL(m)	静的震度		
	NS方向	EW方向	鉛直方向		3.6・C _i		1.2・C _v
					NS方向	EW方向	鉛直方向
タービン建物	5, 7, 13, 22, 28	1, 8, 14	1	41.600	1.94	1.28	0.29
	1, 6, 8	19	-	33.700	1.94	1.28	
	9, 18, 24	2, 9	2	32.000	1.29	1.03	
	14, 23, 29	15	-	30.550	1.29	1.03	
	2, 10, 15, 19, 25, 30	3, 5, 10, 16, 20	3	20.600	0.86	0.80	
	3, 11, 16, 20, 26, 31	4, 11, 17, 21	4	12.500	0.67	0.66	
	4	6	-	9.000 (NS) 8.800 (EW)	0.67	0.66	
	12, 17, 21, 27	7, 12, 13, 18, 22	5	5.500	0.58	0.58	
	34	25	8	2.000	0.58	0.58	
	35	26	9	0.000	0.58	0.58	
蒸気タービンの基礎	32	23	6	20.480	0.86	0.80	
	33	24	7	13.000	0.86	0.80	

表 4.1-5 設計用震度 (S d) 及ひ静的震度 (廃棄物処理建物) (1/3)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665 \text{m/s}^2$) $\times 1.0$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
	NS方向	EW方向	鉛直方向	S d			S d			
				NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	
廃棄物処理建物	1	1	1	42.000	1.43	1.47	0.52	2.15	2.03	0.75
	2	2	2	37.500	1.24	1.26	0.51	1.80	1.79	0.74
	3	3	3	32.000	1.04	1.10	0.49	1.53	1.56	0.71
	4	4	4	26.700	0.88	0.97	0.47	1.29	1.38	0.69
	5	5	5	22.100	0.77	0.82	0.44	1.11	1.23	0.65
	6	6	6	16.900	0.69	0.72	0.39	1.02	1.05	0.56
	7	7	7	15.300	0.58	0.68	0.37	0.87	0.98	0.53
	8	8	8	12.300	0.52	0.56	0.33	0.77	0.84	0.48
	9	9	9	8.800	0.47	0.52	0.30	0.69	0.77	0.45
	10	10	10	3.000	0.39	0.40	0.26	0.57	0.60	0.39
	11	11	11	0.000	0.39	0.40	0.25	0.57	0.59	0.38

表 4.1-5 設計用震度 (S d) 及ひ靜的震度 (廢棄物处理建物) (2/3)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.2$								
					設計用震度 I			設計用震度 II					
	NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	
廢棄物处理建物	1	1	1	42.000	1.72	1.77	0.62	1.77	1.77	0.62	2.58	2.43	0.90
	2	2	2	37.500	1.48	1.51	0.61	1.51	1.51	0.61	2.16	2.13	0.87
	3	3	3	32.000	1.25	1.31	0.59	1.31	1.31	0.59	1.83	1.88	0.86
	4	4	4	26.700	1.06	1.16	0.56	1.16	1.16	0.56	1.56	1.65	0.83
	5	5	5	22.100	0.93	0.99	0.53	0.99	0.99	0.53	1.34	1.49	0.78
	6	6	6	16.900	0.83	0.87	0.46	0.87	0.87	0.46	1.23	1.25	0.68
	7	7	7	15.300	0.69	0.82	0.44	0.82	0.82	0.44	1.04	1.17	0.63
	8	8	8	12.300	0.62	0.67	0.40	0.67	0.67	0.40	0.92	1.01	0.57
	9	9	9	8.800	0.57	0.62	0.36	0.62	0.62	0.36	0.83	0.92	0.54
	10	10	10	3.000	0.47	0.48	0.31	0.48	0.48	0.31	0.69	0.72	0.47
	11	11	11	0.000	0.46	0.48	0.31	0.48	0.48	0.31	0.69	0.71	0.45

表 4.1-5 設計用震度(S d)及び静的震度(廃棄物処理建物) (3/3)

構造物名	質点番号			標高 EL(m)	静的震度		
	NS方向		鉛直方向		3.6・C _i		1.2・C _v
	EW方向	鉛直方向			NS方向	EW方向	
廃棄物処理建物	1	1	1	42.000	1.42	1.36	鉛直方向 0.29
	2	2	2	37.500	1.19	1.19	
	3	3	3	32.000	1.00	1.00	
	4	4	4	26.700	0.87	0.87	
	5	5	5	22.100	0.77	0.77	
	6	6	6	16.900	0.72	0.72	
	7	7	7	15.300	0.69	0.69	
	8	8	8	12.300	0.65	0.64	
	9	9	9	8.800	0.58	0.58	
	10	10	10	3.000	0.58	0.58	
	11	11	11	0.000	0.58	0.58	

表 4.2-1 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉建物) (1/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数 (%)	図番
S d	原子炉建物	NS 方向	6, 20	63.500	0.5	NS2 - RB - SdNS - RB 1
					1.0	NS2 - RB - SdNS - RB 2
					1.5	NS2 - RB - SdNS - RB 3
					2.0	NS2 - RB - SdNS - RB 4
					2.5	NS2 - RB - SdNS - RB 5
					3.0	NS2 - RB - SdNS - RB 6
					4.0	NS2 - RB - SdNS - RB 7
			5.0	NS2 - RB - SdNS - RB 8		
			7, 21	51.700	0.5	NS2 - RB - SdNS - RB 9
					1.0	NS2 - RB - SdNS - RB 10
					1.5	NS2 - RB - SdNS - RB 11
					2.0	NS2 - RB - SdNS - RB 12
					2.5	NS2 - RB - SdNS - RB 13
					3.0	NS2 - RB - SdNS - RB 14
					4.0	NS2 - RB - SdNS - RB 15
			5.0	NS2 - RB - SdNS - RB 16		
			8, 14, 22, 28	42.800	0.5	NS2 - RB - SdNS - RB 17
					1.0	NS2 - RB - SdNS - RB 18
					1.5	NS2 - RB - SdNS - RB 19
					2.0	NS2 - RB - SdNS - RB 20
					2.5	NS2 - RB - SdNS - RB 21
					3.0	NS2 - RB - SdNS - RB 22
					4.0	NS2 - RB - SdNS - RB 23
			5.0	NS2 - RB - SdNS - RB 24		
			1, 9, 15, 23, 29	34.800	0.5	NS2 - RB - SdNS - RB 25
					1.0	NS2 - RB - SdNS - RB 26
					1.5	NS2 - RB - SdNS - RB 27
					2.0	NS2 - RB - SdNS - RB 28
					2.5	NS2 - RB - SdNS - RB 29
					3.0	NS2 - RB - SdNS - RB 30
					4.0	NS2 - RB - SdNS - RB 31
			5.0	NS2 - RB - SdNS - RB 32		
			2, 10, 16, 24, 30	30.500	0.5	NS2 - RB - SdNS - RB 33
					1.0	NS2 - RB - SdNS - RB 34
					1.5	NS2 - RB - SdNS - RB 35
					2.0	NS2 - RB - SdNS - RB 36
					2.5	NS2 - RB - SdNS - RB 37
					3.0	NS2 - RB - SdNS - RB 38
					4.0	NS2 - RB - SdNS - RB 39
			5.0	NS2 - RB - SdNS - RB 40		
			10, 16, 24	30.500 (燃料プール)	0.5	NS2 - RB - SdNS - RB 41
					1.0	NS2 - RB - SdNS - RB 42
					1.5	NS2 - RB - SdNS - RB 43
					2.0	NS2 - RB - SdNS - RB 44
					2.5	NS2 - RB - SdNS - RB 45
					3.0	NS2 - RB - SdNS - RB 46
					4.0	NS2 - RB - SdNS - RB 47
			5.0	NS2 - RB - SdNS - RB 48		

表 4.2-1 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉建物) (2/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	原子炉建物	NS 方向	3, 11, 17, 25, 31	23. 800	0. 5	NS2 - RB - SdNS - RB 49
					1. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 50
					1. 5	NS2 - RB - SdNS - RB 51
					2. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 52
					2. 5	NS2 - RB - SdNS - RB 53
					3. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 54
					4. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 55
			4, 12, 18, 26, 32	15. 300	5. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 56
					0. 5	NS2 - RB - SdNS - RB 57
					1. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 58
					1. 5	NS2 - RB - SdNS - RB 59
					2. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 60
					2. 5	NS2 - RB - SdNS - RB 61
					3. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 62
			19	10. 100	4. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 63
					5. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 64
					0. 5	NS2 - RB - SdNS - RB 65
					1. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 66
					1. 5	NS2 - RB - SdNS - RB 67
					2. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 68
					2. 5	NS2 - RB - SdNS - RB 69
			5, 13, 27, 33	8. 800	3. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 70
					4. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 71
					5. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 72
					0. 5	NS2 - RB - SdNS - RB 73
					1. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 74
					1. 5	NS2 - RB - SdNS - RB 75
					2. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 76
			34	1. 300	2. 5	NS2 - RB - SdNS - RB 77
					3. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 78
					4. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 79
					5. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 80
					0. 5	NS2 - RB - SdNS - RB 81
					1. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 82
					1. 5	NS2 - RB - SdNS - RB 83
			35	-4. 700	2. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 84
					2. 5	NS2 - RB - SdNS - RB 85
					3. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 86
					4. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 87
					5. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 88
					0. 5	NS2 - RB - SdNS - RB 89
					1. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 90
					1. 5	NS2 - RB - SdNS - RB 91
					2. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 92
					2. 5	NS2 - RB - SdNS - RB 93
					3. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 94
					4. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 95
					5. 0	NS2 - RB - SdNS - RB 96

表 4.2-1 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉建物) (3/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	原子炉建物	EW 方向	3, 17	63.500	0.5	NS2 - RB - SdEW - RB 1
					1.0	NS2 - RB - SdEW - RB 2
					1.5	NS2 - RB - SdEW - RB 3
					2.0	NS2 - RB - SdEW - RB 4
					2.5	NS2 - RB - SdEW - RB 5
					3.0	NS2 - RB - SdEW - RB 6
					4.0	NS2 - RB - SdEW - RB 7
					5.0	NS2 - RB - SdEW - RB 8
			4, 18, 22	51.700	0.5	NS2 - RB - SdEW - RB 9
					1.0	NS2 - RB - SdEW - RB 10
					1.5	NS2 - RB - SdEW - RB 11
					2.0	NS2 - RB - SdEW - RB 12
					2.5	NS2 - RB - SdEW - RB 13
					3.0	NS2 - RB - SdEW - RB 14
					4.0	NS2 - RB - SdEW - RB 15
					5.0	NS2 - RB - SdEW - RB 16
			5, 11, 19, 23	42.800	0.5	NS2 - RB - SdEW - RB 17
					1.0	NS2 - RB - SdEW - RB 18
					1.5	NS2 - RB - SdEW - RB 19
					2.0	NS2 - RB - SdEW - RB 20
					2.5	NS2 - RB - SdEW - RB 21
					3.0	NS2 - RB - SdEW - RB 22
					4.0	NS2 - RB - SdEW - RB 23
					5.0	NS2 - RB - SdEW - RB 24
			6, 12, 20, 24, 29	34.800	0.5	NS2 - RB - SdEW - RB 25
					1.0	NS2 - RB - SdEW - RB 26
					1.5	NS2 - RB - SdEW - RB 27
					2.0	NS2 - RB - SdEW - RB 28
					2.5	NS2 - RB - SdEW - RB 29
					3.0	NS2 - RB - SdEW - RB 30
					4.0	NS2 - RB - SdEW - RB 31
					5.0	NS2 - RB - SdEW - RB 32
			7, 13, 21, 25, 30	30.500	0.5	NS2 - RB - SdEW - RB 33
					1.0	NS2 - RB - SdEW - RB 34
					1.5	NS2 - RB - SdEW - RB 35
					2.0	NS2 - RB - SdEW - RB 36
					2.5	NS2 - RB - SdEW - RB 37
					3.0	NS2 - RB - SdEW - RB 38
					4.0	NS2 - RB - SdEW - RB 39
					5.0	NS2 - RB - SdEW - RB 40
			13, 21	30.500 (燃料プール)	0.5	NS2 - RB - SdEW - RB 41
					1.0	NS2 - RB - SdEW - RB 42
					1.5	NS2 - RB - SdEW - RB 43
					2.0	NS2 - RB - SdEW - RB 44
					2.5	NS2 - RB - SdEW - RB 45
					3.0	NS2 - RB - SdEW - RB 46
					4.0	NS2 - RB - SdEW - RB 47
					5.0	NS2 - RB - SdEW - RB 48

表 4.2-1 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉建物) (4/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	原子炉建物	EW 方向	8, 14, 26, 31	23.800	0.5	NS2 - RB - SdEW - RB 49
					1.0	NS2 - RB - SdEW - RB 50
					1.5	NS2 - RB - SdEW - RB 51
					2.0	NS2 - RB - SdEW - RB 52
					2.5	NS2 - RB - SdEW - RB 53
					3.0	NS2 - RB - SdEW - RB 54
					4.0	NS2 - RB - SdEW - RB 55
			5.0	NS2 - RB - SdEW - RB 56		
			1, 9, 15, 27, 32	15.300	0.5	NS2 - RB - SdEW - RB 57
					1.0	NS2 - RB - SdEW - RB 58
					1.5	NS2 - RB - SdEW - RB 59
					2.0	NS2 - RB - SdEW - RB 60
					2.5	NS2 - RB - SdEW - RB 61
					3.0	NS2 - RB - SdEW - RB 62
					4.0	NS2 - RB - SdEW - RB 63
			5.0	NS2 - RB - SdEW - RB 64		
			16	10.100	0.5	NS2 - RB - SdEW - RB 65
					1.0	NS2 - RB - SdEW - RB 66
					1.5	NS2 - RB - SdEW - RB 67
					2.0	NS2 - RB - SdEW - RB 68
					2.5	NS2 - RB - SdEW - RB 69
					3.0	NS2 - RB - SdEW - RB 70
					4.0	NS2 - RB - SdEW - RB 71
			5.0	NS2 - RB - SdEW - RB 72		
			2, 10, 28, 33	8.800	0.5	NS2 - RB - SdEW - RB 73
					1.0	NS2 - RB - SdEW - RB 74
					1.5	NS2 - RB - SdEW - RB 75
					2.0	NS2 - RB - SdEW - RB 76
					2.5	NS2 - RB - SdEW - RB 77
					3.0	NS2 - RB - SdEW - RB 78
					4.0	NS2 - RB - SdEW - RB 79
			5.0	NS2 - RB - SdEW - RB 80		
			34	1.300	0.5	NS2 - RB - SdEW - RB 81
					1.0	NS2 - RB - SdEW - RB 82
					1.5	NS2 - RB - SdEW - RB 83
					2.0	NS2 - RB - SdEW - RB 84
					2.5	NS2 - RB - SdEW - RB 85
					3.0	NS2 - RB - SdEW - RB 86
					4.0	NS2 - RB - SdEW - RB 87
			5.0	NS2 - RB - SdEW - RB 88		
			35	-4.700	0.5	NS2 - RB - SdEW - RB 89
					1.0	NS2 - RB - SdEW - RB 90
					1.5	NS2 - RB - SdEW - RB 91
					2.0	NS2 - RB - SdEW - RB 92
					2.5	NS2 - RB - SdEW - RB 93
3.0	NS2 - RB - SdEW - RB 94					
4.0	NS2 - RB - SdEW - RB 95					
5.0	NS2 - RB - SdEW - RB 96					

表 4.2-1 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉建物) (5/6)

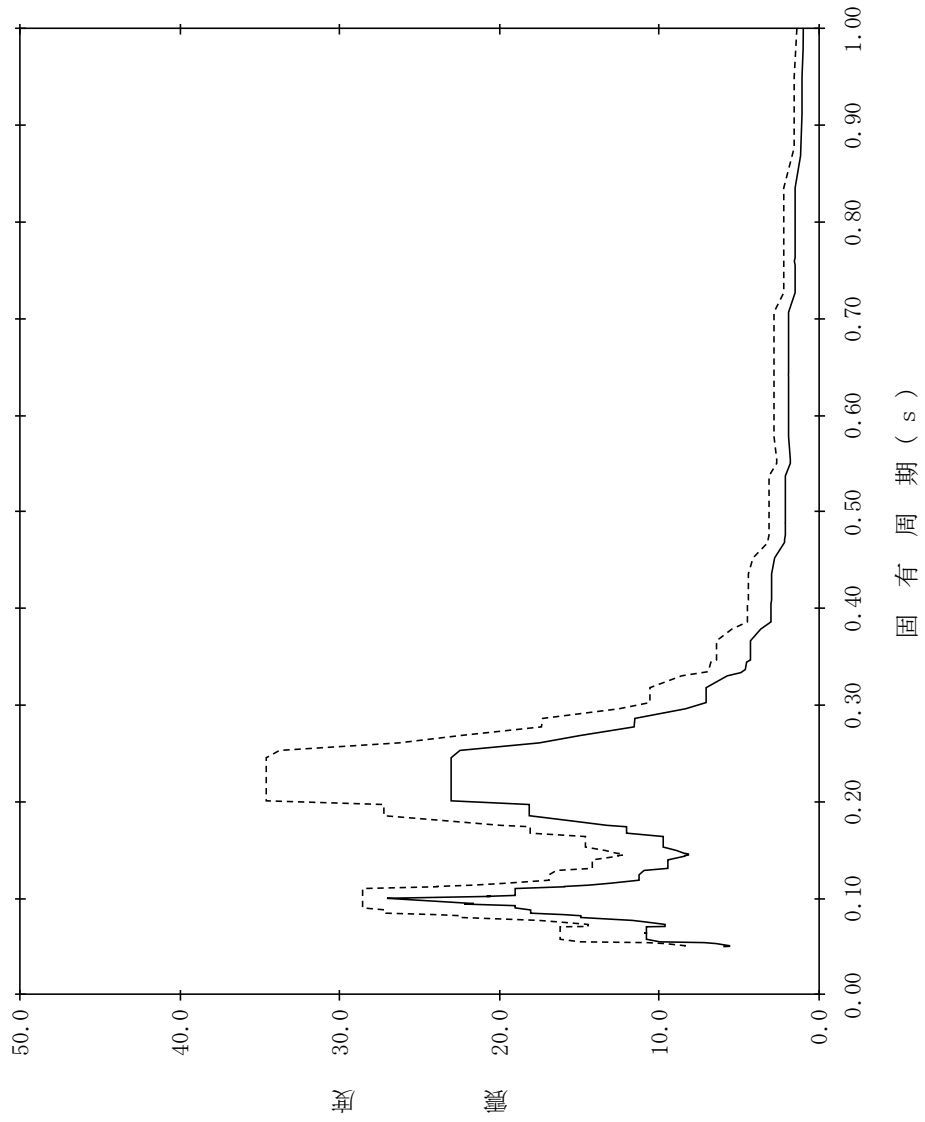
地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	原子炉建物	鉛直 方向	7	63.500	0.5	NS2 - RB - SdV - RB 1
					1.0	NS2 - RB - SdV - RB 2
					1.5	NS2 - RB - SdV - RB 3
					2.0	NS2 - RB - SdV - RB 4
					2.5	NS2 - RB - SdV - RB 5
					3.0	NS2 - RB - SdV - RB 6
					4.0	NS2 - RB - SdV - RB 7
					5.0	NS2 - RB - SdV - RB 8
			8	51.700	0.5	NS2 - RB - SdV - RB 9
					1.0	NS2 - RB - SdV - RB 10
					1.5	NS2 - RB - SdV - RB 11
					2.0	NS2 - RB - SdV - RB 12
					2.5	NS2 - RB - SdV - RB 13
					3.0	NS2 - RB - SdV - RB 14
					4.0	NS2 - RB - SdV - RB 15
					5.0	NS2 - RB - SdV - RB 16
			9, 17	42.800	0.5	NS2 - RB - SdV - RB 17
					1.0	NS2 - RB - SdV - RB 18
					1.5	NS2 - RB - SdV - RB 19
					2.0	NS2 - RB - SdV - RB 20
					2.5	NS2 - RB - SdV - RB 21
					3.0	NS2 - RB - SdV - RB 22
					4.0	NS2 - RB - SdV - RB 23
					5.0	NS2 - RB - SdV - RB 24
			1, 10, 18	34.800	0.5	NS2 - RB - SdV - RB 25
					1.0	NS2 - RB - SdV - RB 26
					1.5	NS2 - RB - SdV - RB 27
					2.0	NS2 - RB - SdV - RB 28
					2.5	NS2 - RB - SdV - RB 29
					3.0	NS2 - RB - SdV - RB 30
					4.0	NS2 - RB - SdV - RB 31
					5.0	NS2 - RB - SdV - RB 32
			2, 11, 19	30.500	0.5	NS2 - RB - SdV - RB 33
					1.0	NS2 - RB - SdV - RB 34
					1.5	NS2 - RB - SdV - RB 35
					2.0	NS2 - RB - SdV - RB 36
					2.5	NS2 - RB - SdV - RB 37
					3.0	NS2 - RB - SdV - RB 38
					4.0	NS2 - RB - SdV - RB 39
					5.0	NS2 - RB - SdV - RB 40
			11, 19	30.500 (燃料プール)	0.5	NS2 - RB - SdV - RB 41
					1.0	NS2 - RB - SdV - RB 42
					1.5	NS2 - RB - SdV - RB 43
					2.0	NS2 - RB - SdV - RB 44
					2.5	NS2 - RB - SdV - RB 45
					3.0	NS2 - RB - SdV - RB 46
					4.0	NS2 - RB - SdV - RB 47
					5.0	NS2 - RB - SdV - RB 48

表 4.2-1 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉建物) (6/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	原子炉建物	鉛直 方向	3, 12, 20	23. 800	0. 5	NS2 - RB - SdV - RB 49
					1. 0	NS2 - RB - SdV - RB 50
					1. 5	NS2 - RB - SdV - RB 51
					2. 0	NS2 - RB - SdV - RB 52
					2. 5	NS2 - RB - SdV - RB 53
					3. 0	NS2 - RB - SdV - RB 54
					4. 0	NS2 - RB - SdV - RB 55
					5. 0	NS2 - RB - SdV - RB 56
			4, 13, 21	15. 300	0. 5	NS2 - RB - SdV - RB 57
					1. 0	NS2 - RB - SdV - RB 58
					1. 5	NS2 - RB - SdV - RB 59
					2. 0	NS2 - RB - SdV - RB 60
					2. 5	NS2 - RB - SdV - RB 61
					3. 0	NS2 - RB - SdV - RB 62
					4. 0	NS2 - RB - SdV - RB 63
					5. 0	NS2 - RB - SdV - RB 64
			22	10. 100	0. 5	NS2 - RB - SdV - RB 65
					1. 0	NS2 - RB - SdV - RB 66
					1. 5	NS2 - RB - SdV - RB 67
					2. 0	NS2 - RB - SdV - RB 68
					2. 5	NS2 - RB - SdV - RB 69
					3. 0	NS2 - RB - SdV - RB 70
					4. 0	NS2 - RB - SdV - RB 71
					5. 0	NS2 - RB - SdV - RB 72
			5, 14	8. 800	0. 5	NS2 - RB - SdV - RB 73
					1. 0	NS2 - RB - SdV - RB 74
					1. 5	NS2 - RB - SdV - RB 75
					2. 0	NS2 - RB - SdV - RB 76
					2. 5	NS2 - RB - SdV - RB 77
					3. 0	NS2 - RB - SdV - RB 78
4. 0	NS2 - RB - SdV - RB 79					
5. 0	NS2 - RB - SdV - RB 80					
6, 15, 23	1. 300	0. 5	NS2 - RB - SdV - RB 81			
		1. 0	NS2 - RB - SdV - RB 82			
		1. 5	NS2 - RB - SdV - RB 83			
		2. 0	NS2 - RB - SdV - RB 84			
		2. 5	NS2 - RB - SdV - RB 85			
		3. 0	NS2 - RB - SdV - RB 86			
		4. 0	NS2 - RB - SdV - RB 87			
		5. 0	NS2 - RB - SdV - RB 88			
16	-4. 700	0. 5	NS2 - RB - SdV - RB 89			
		1. 0	NS2 - RB - SdV - RB 90			
		1. 5	NS2 - RB - SdV - RB 91			
		2. 0	NS2 - RB - SdV - RB 92			
		2. 5	NS2 - RB - SdV - RB 93			
		3. 0	NS2 - RB - SdV - RB 94			
		4. 0	NS2 - RB - SdV - RB 95			
		5. 0	NS2 - RB - SdV - RB 96			

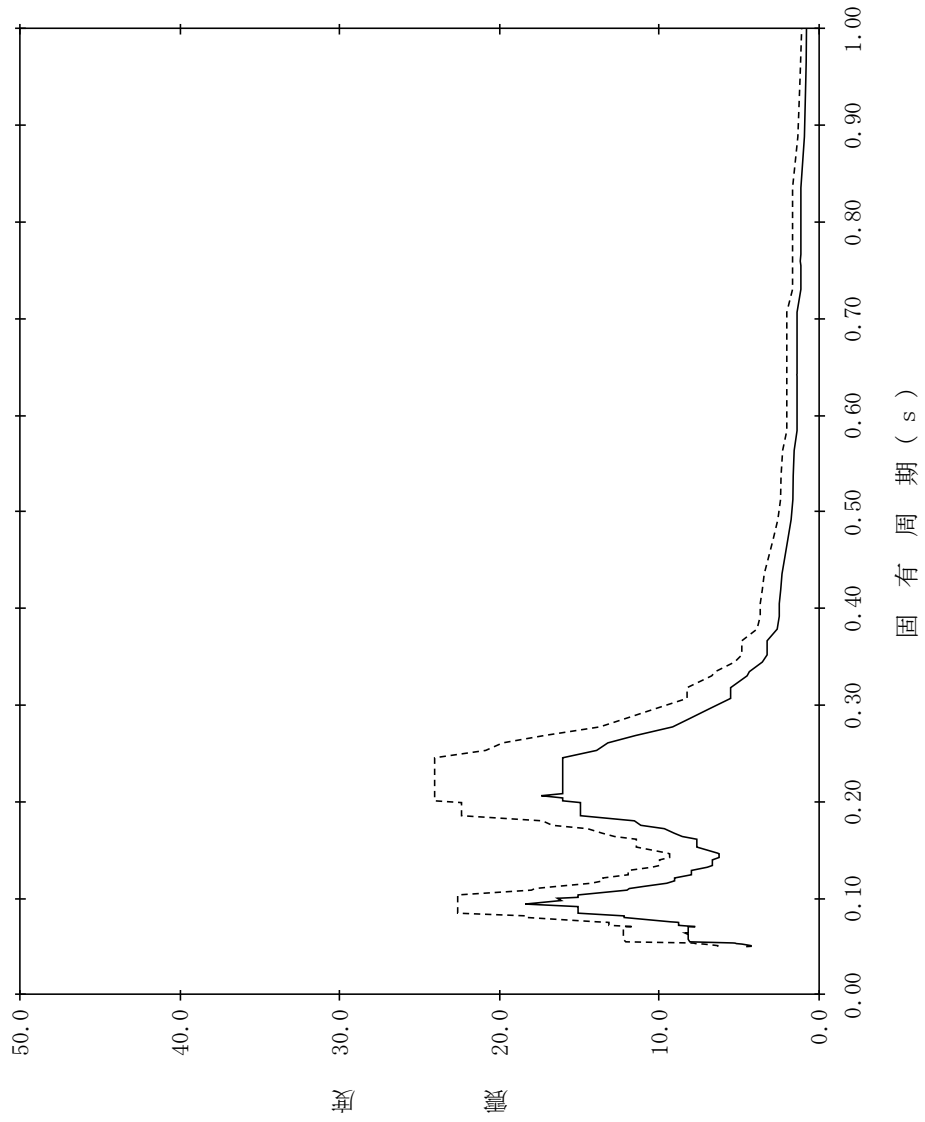
【NS2-RB-SdNS-RB1】

構造物名：原子炉建物
標高：EL63.500m
減衰定数：0.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



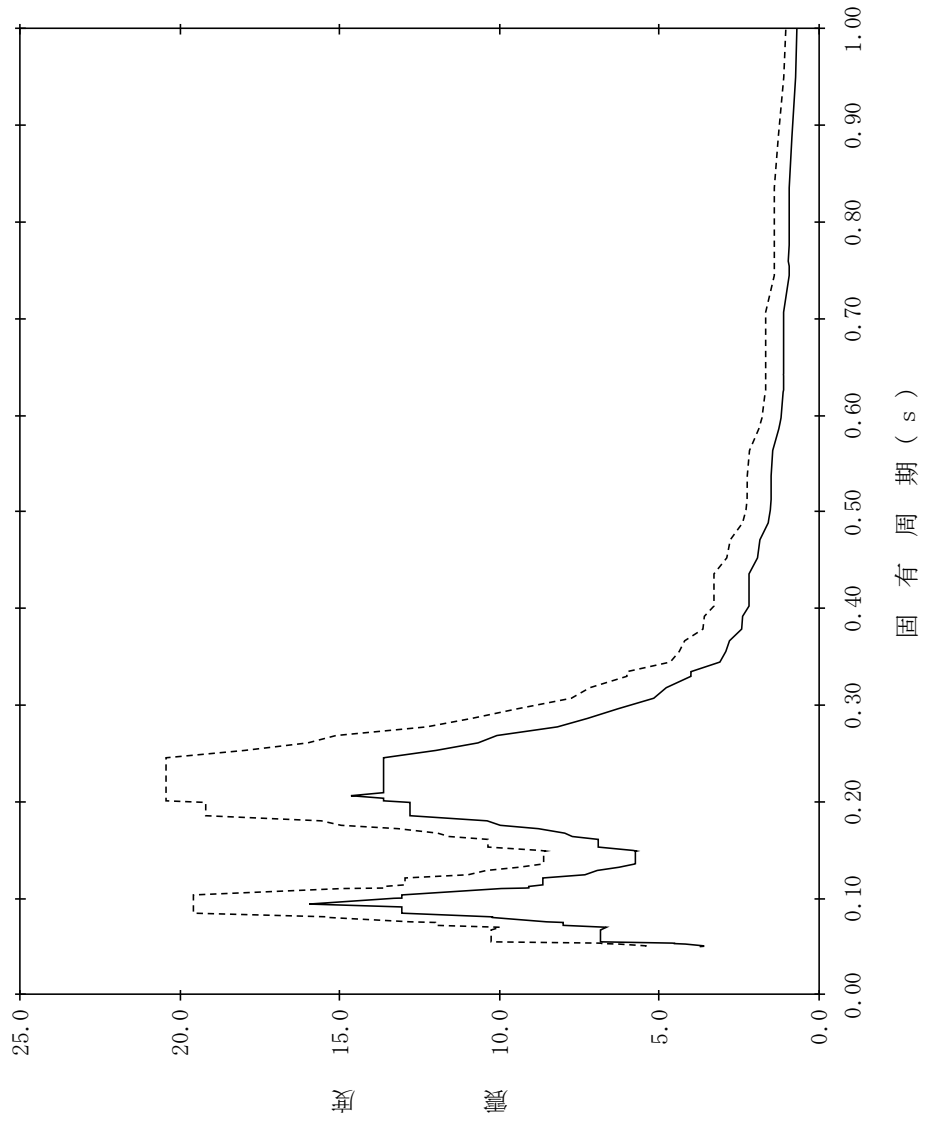
【NS2-RB-SdNS-RB2】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



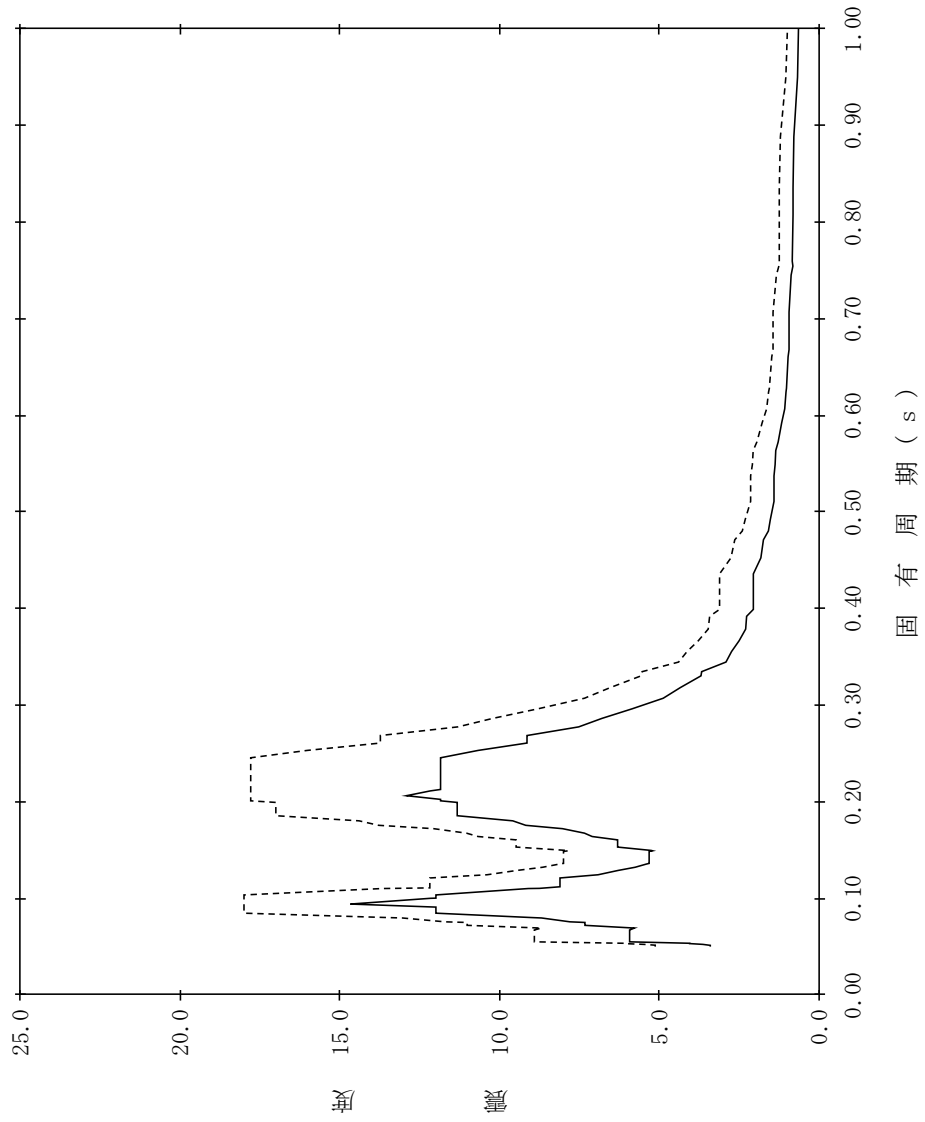
【NS2-RB-SdNS-RB3】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：1.5%
 波形式：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



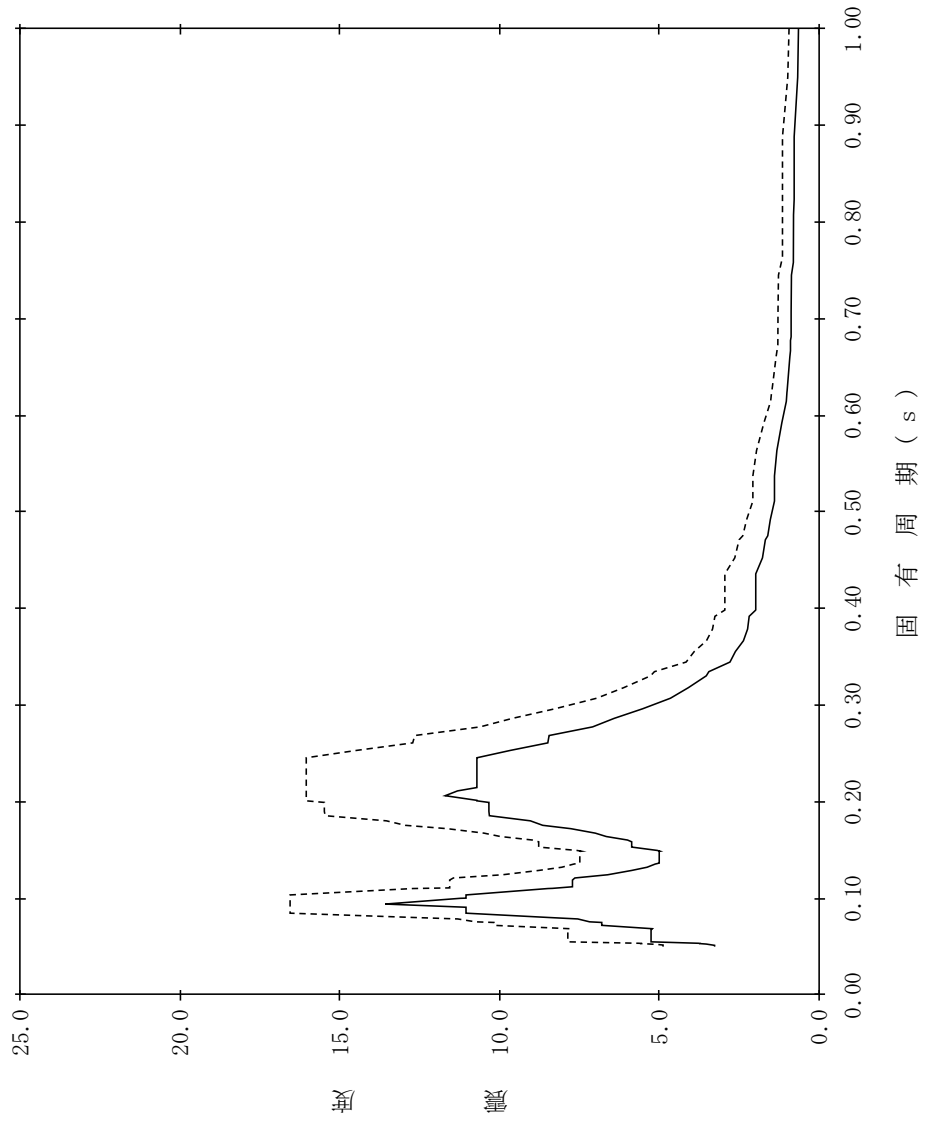
【NS2-RB-SdNS-RB4】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



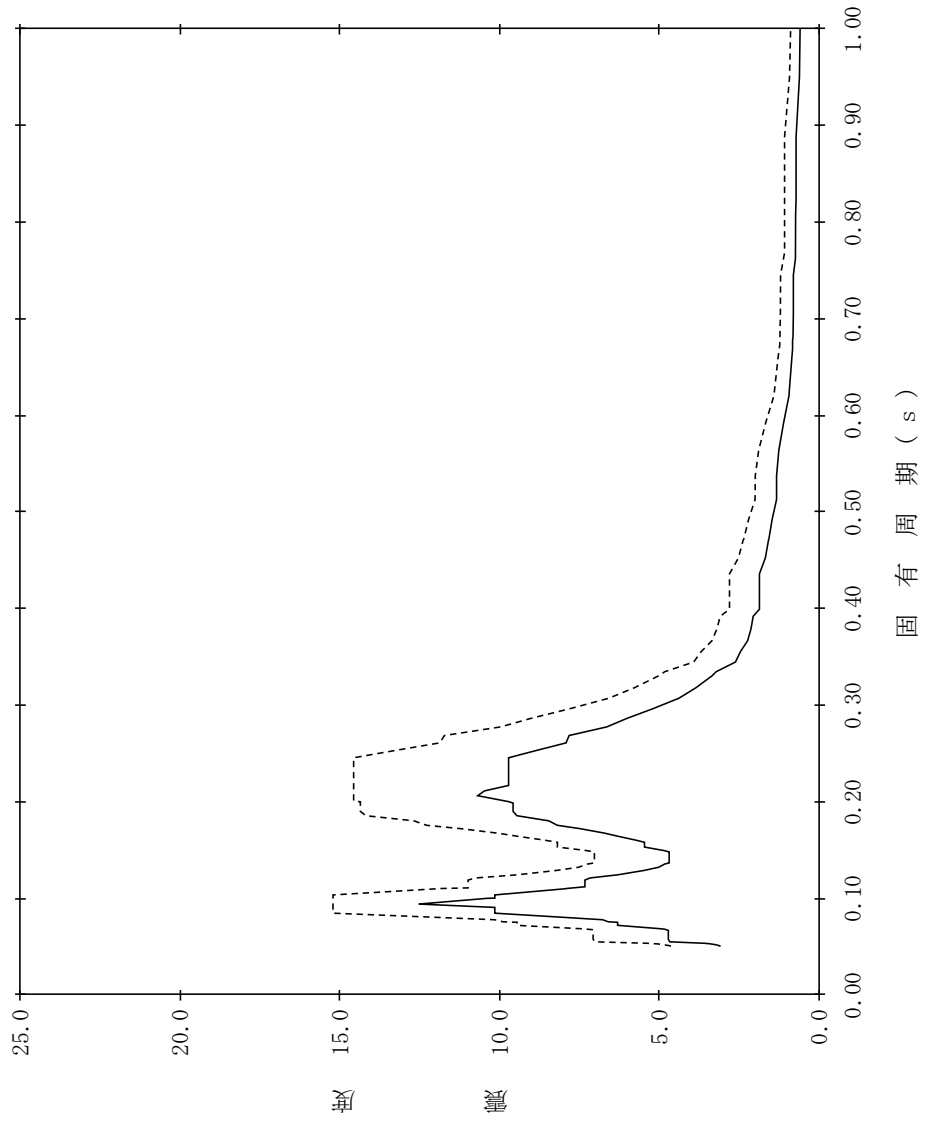
【NS2-RB-SdNS-RB5】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



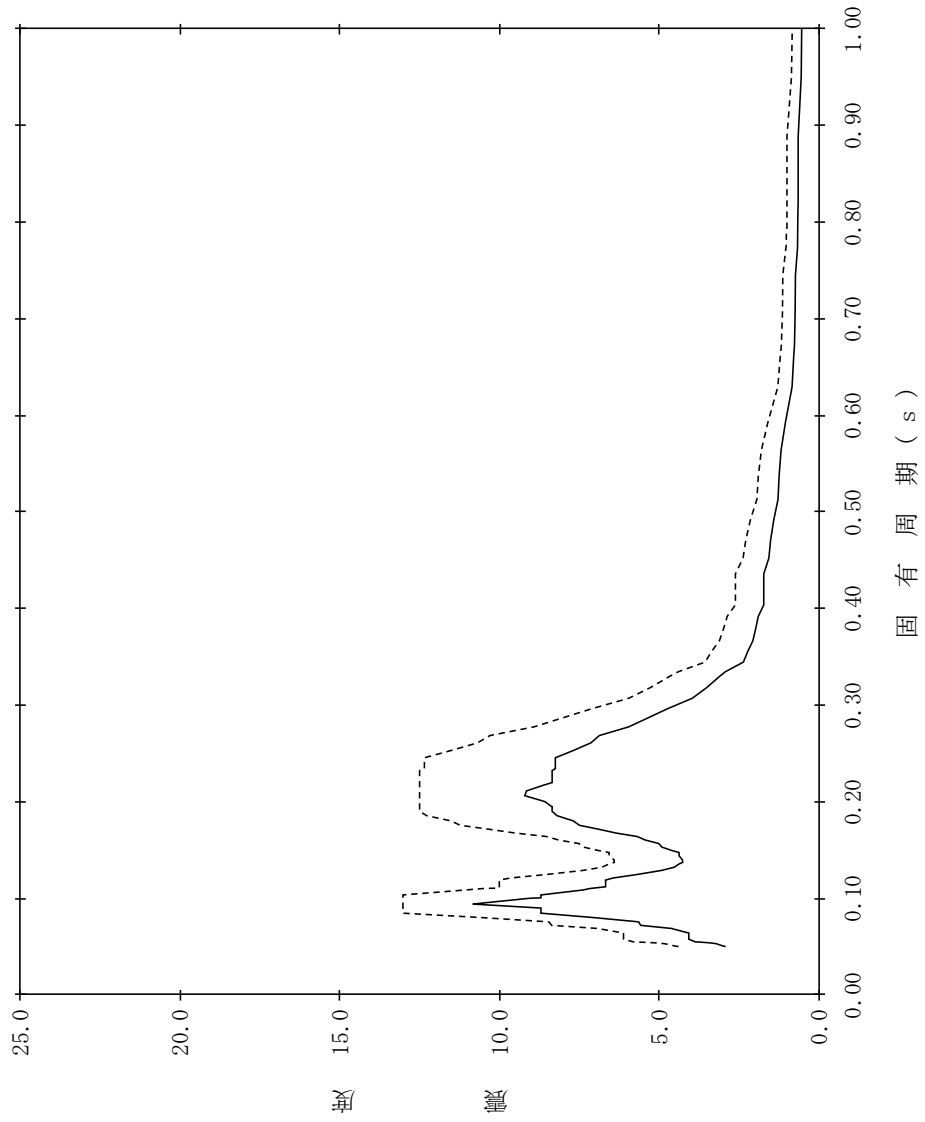
【NS2-RB-SdNS-RB6】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



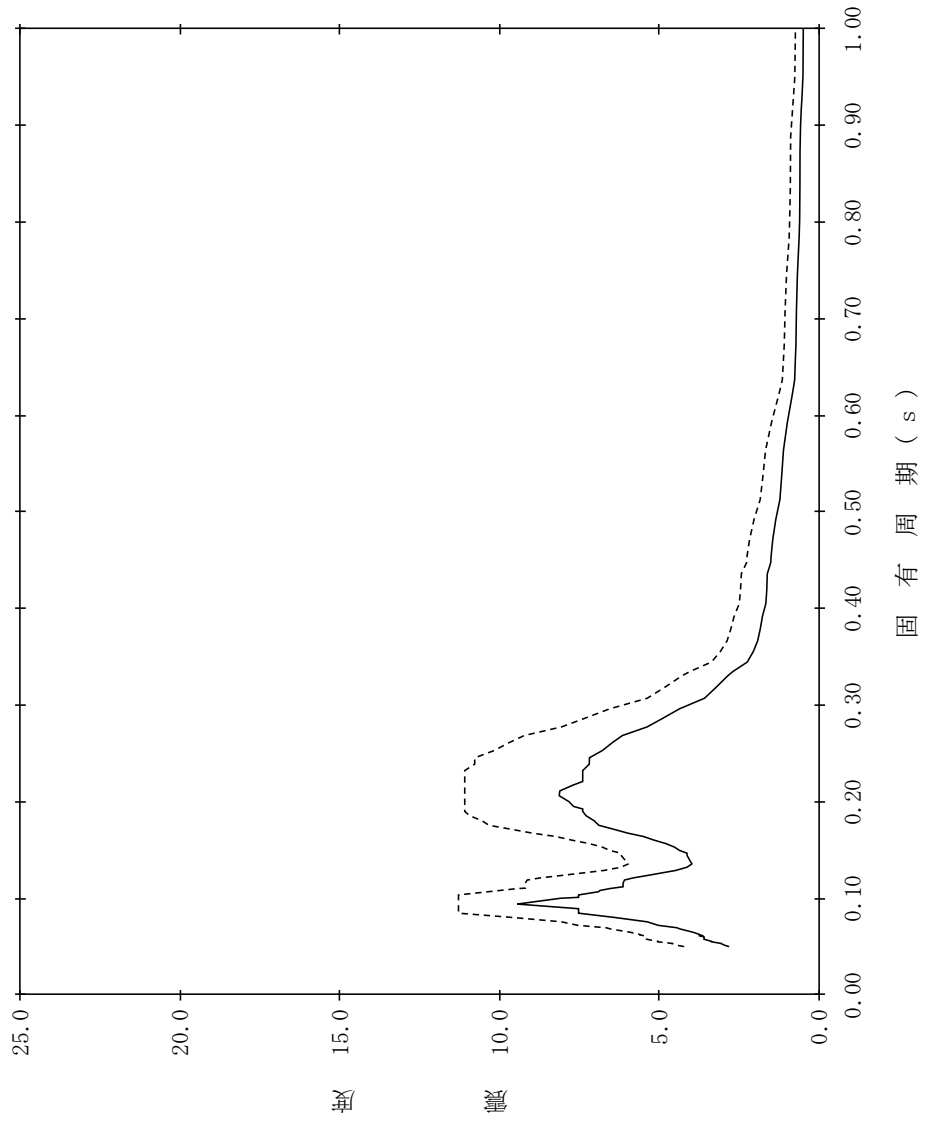
【NS2-RB-SdNS-RB7】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



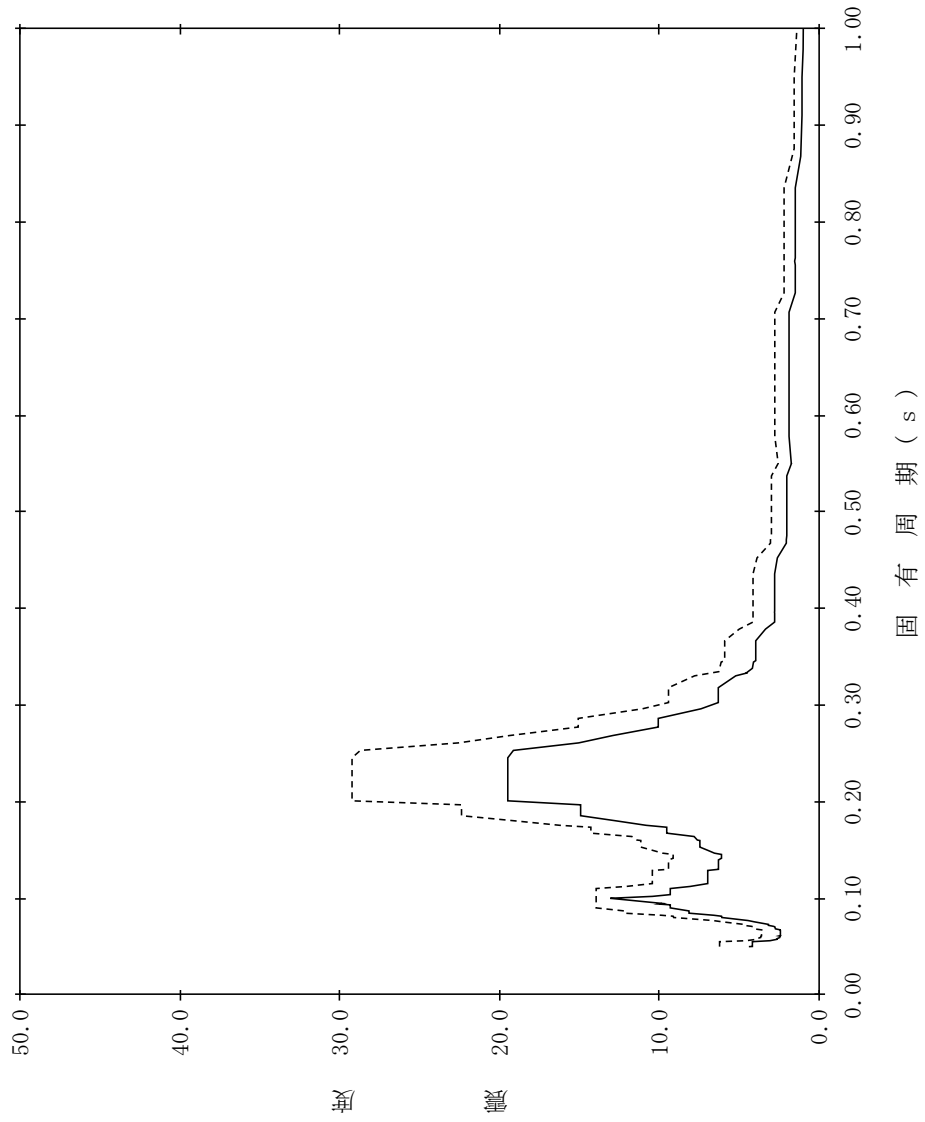
【NS2-RB-SdNS-RB8】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



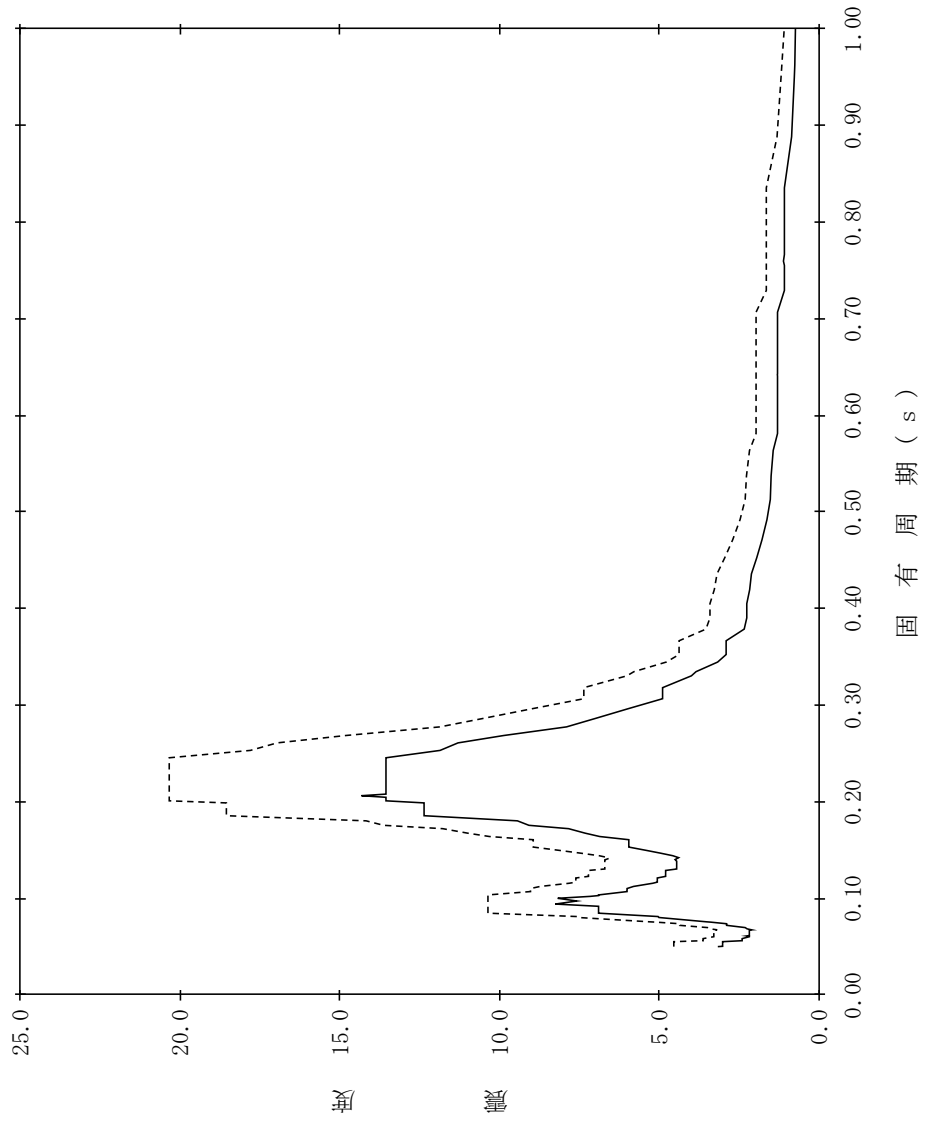
【NS2-RB-SdNS-RB9】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



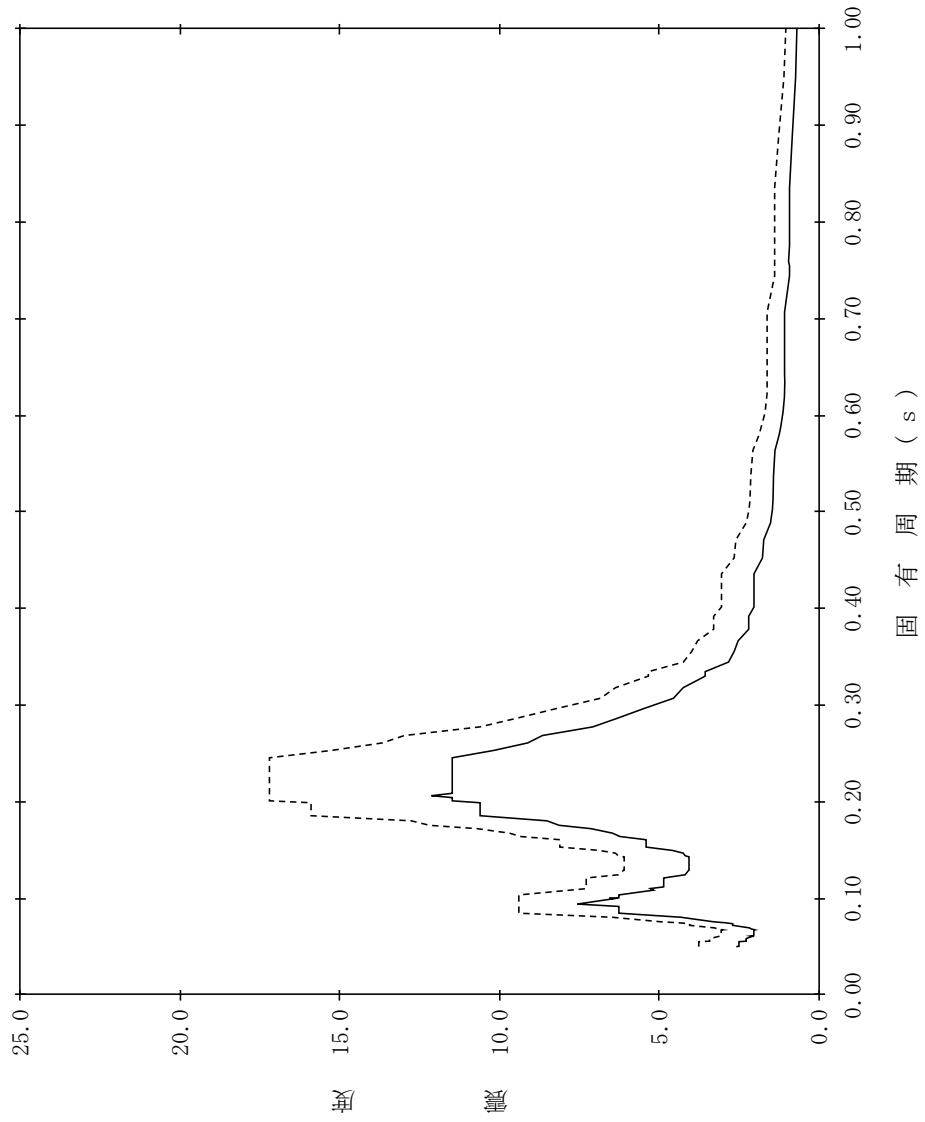
【NS2-RB-SdNS-RB10】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



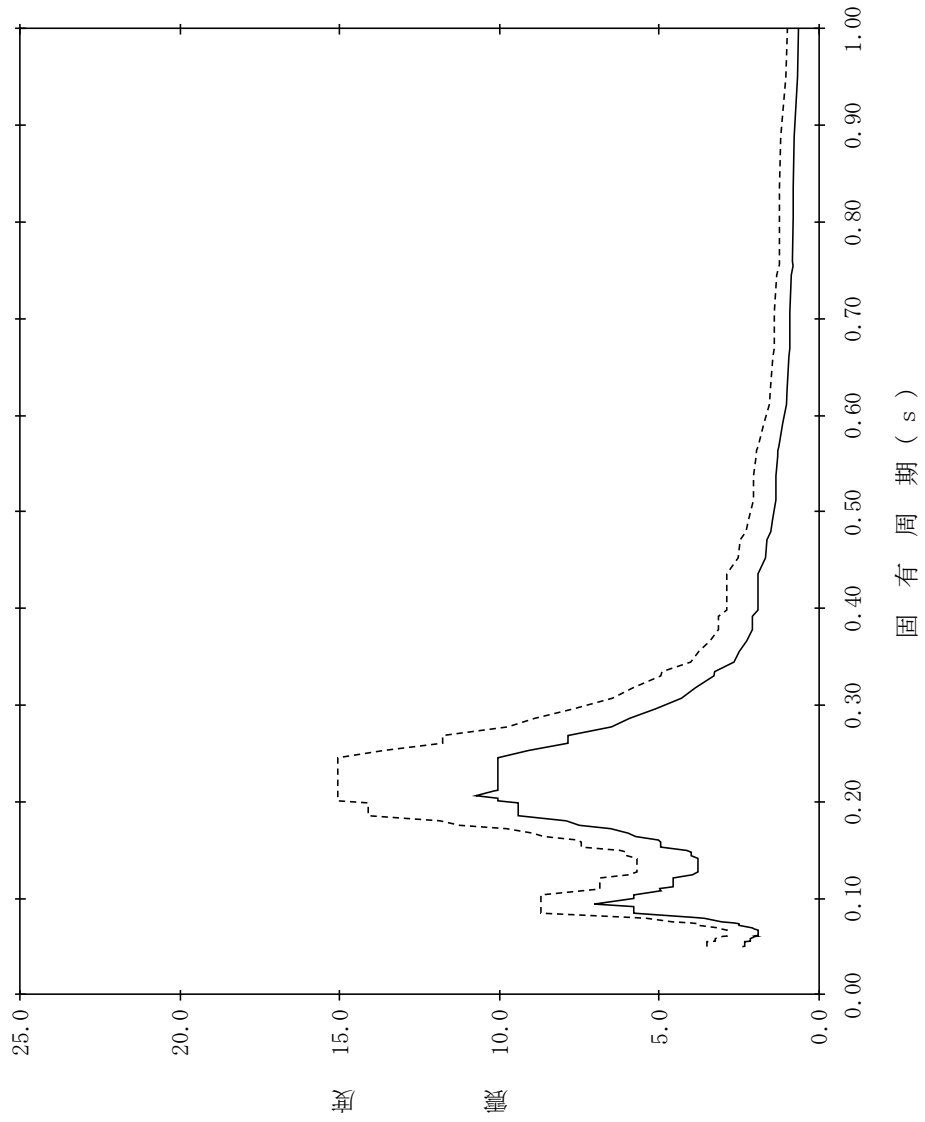
【NS2-RB-SdNS-RB11】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



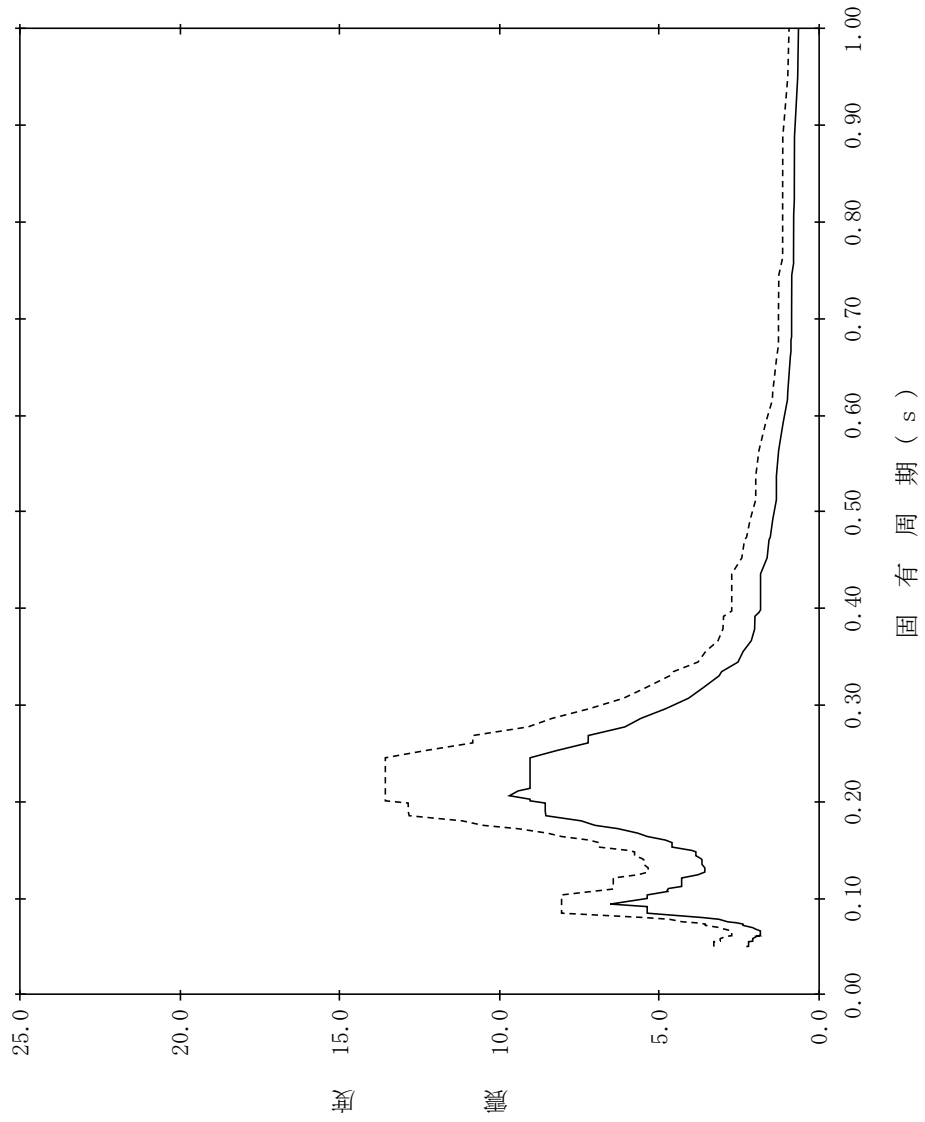
【NS2-RB-SdNS-RB12】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



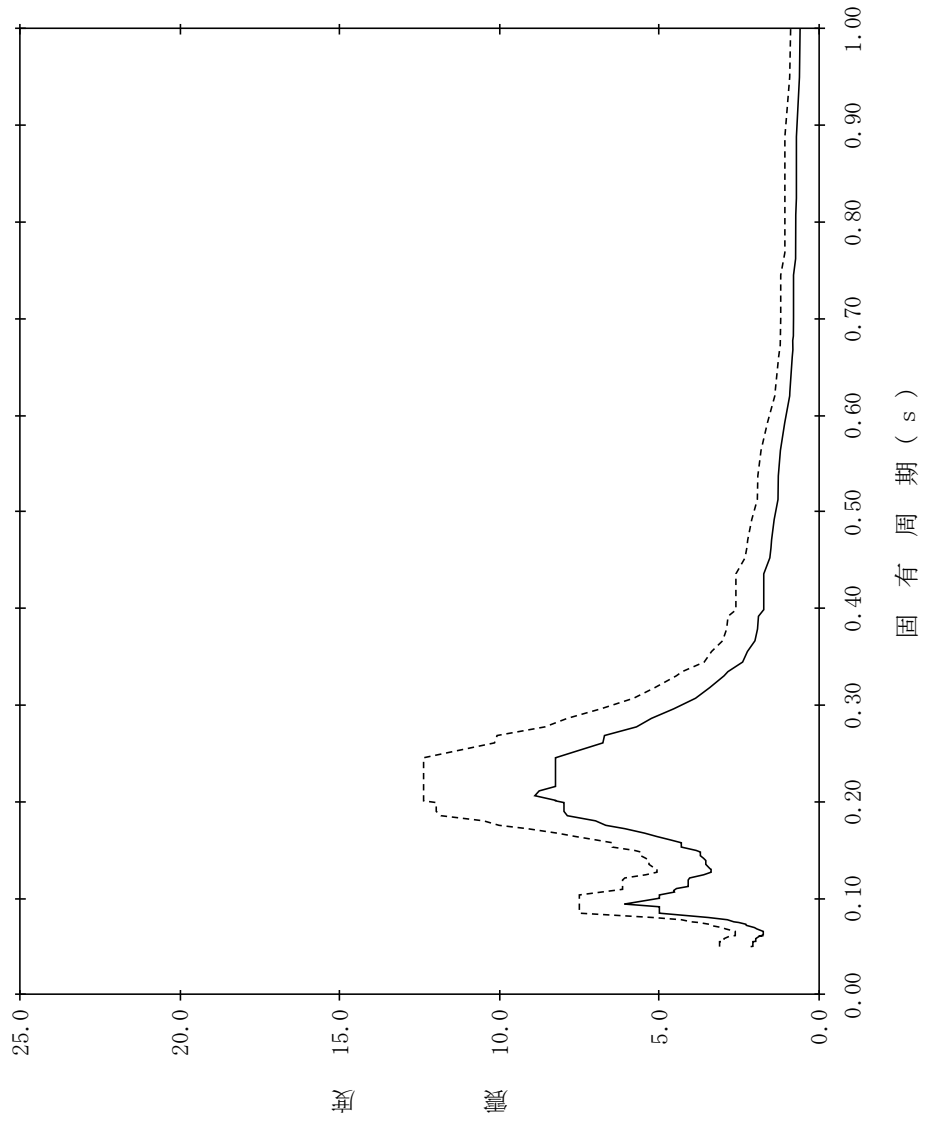
【NS2-RB-SdNS-RB13】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



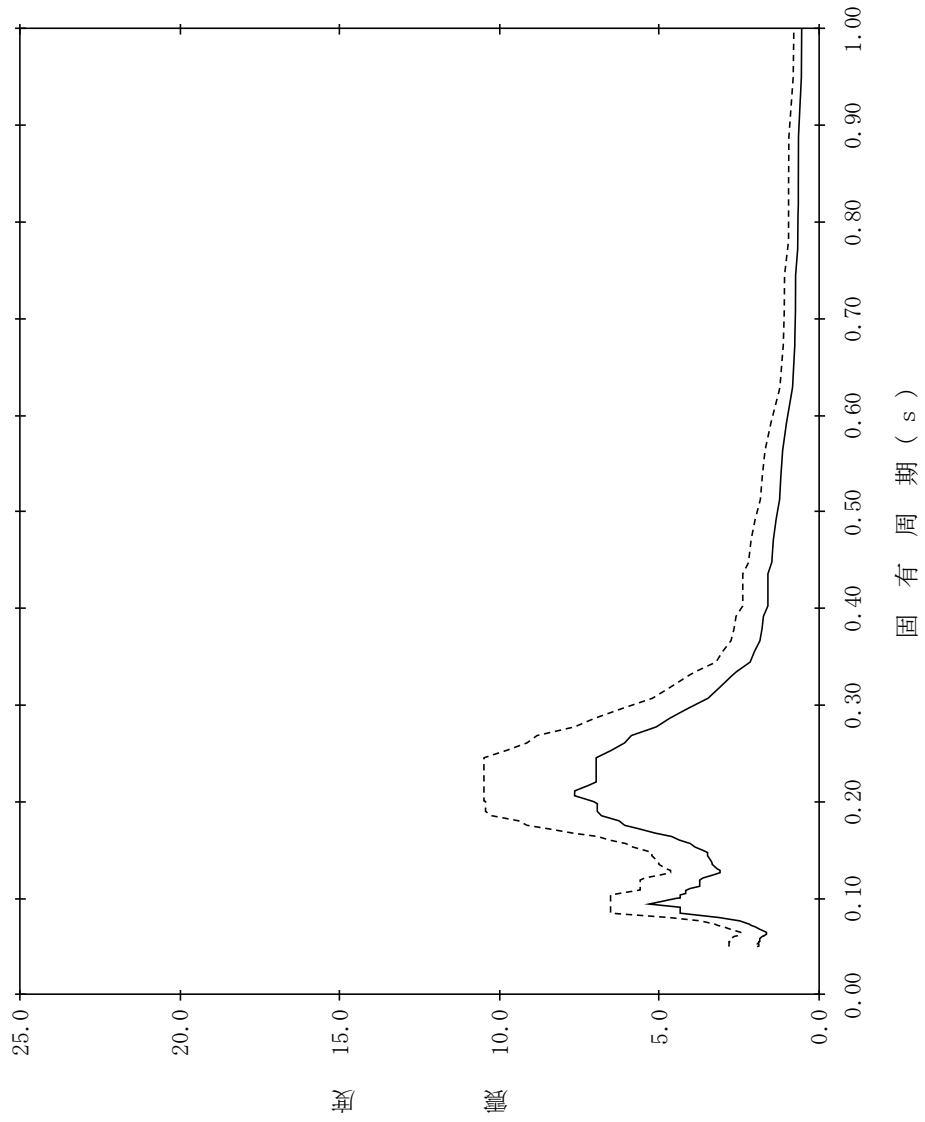
【NS2-RB-SdNS-RB14】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



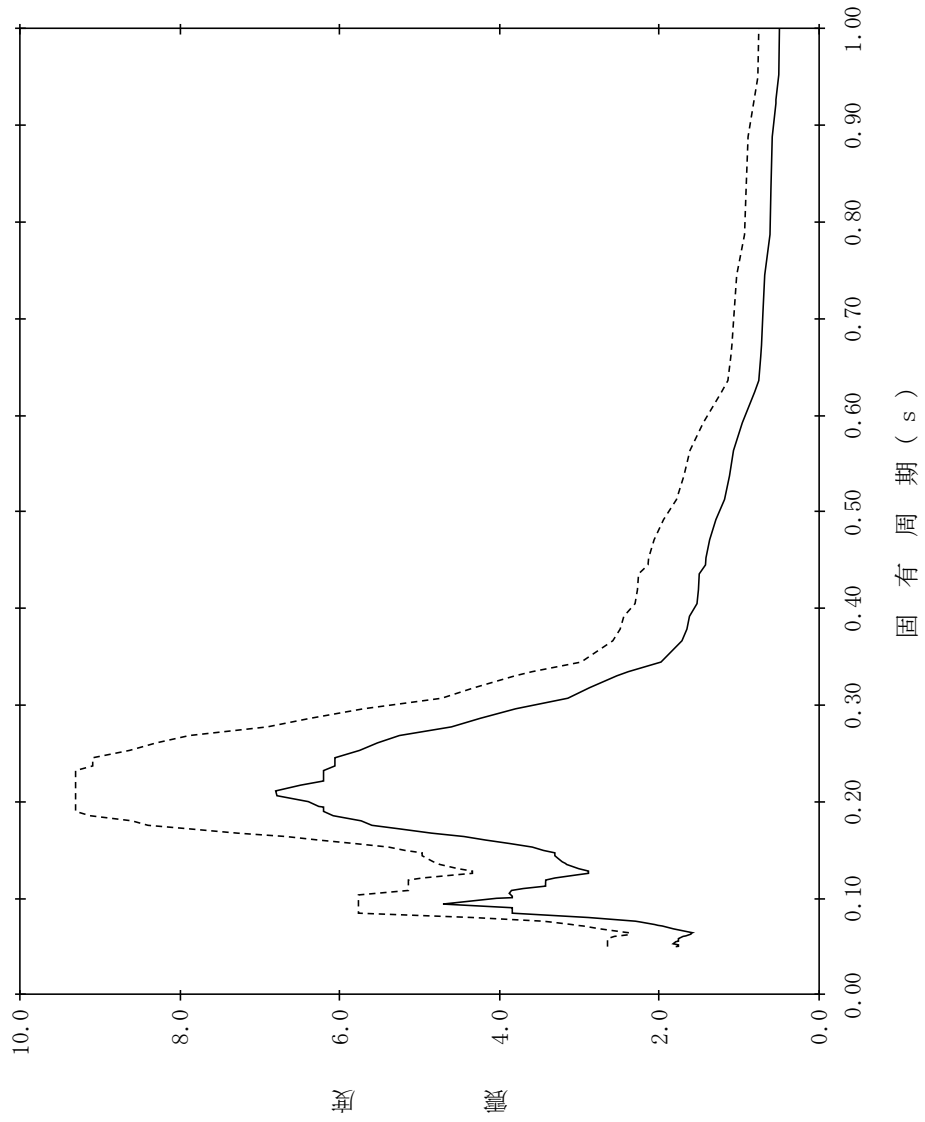
【NS2-RB-SdNS-RB15】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



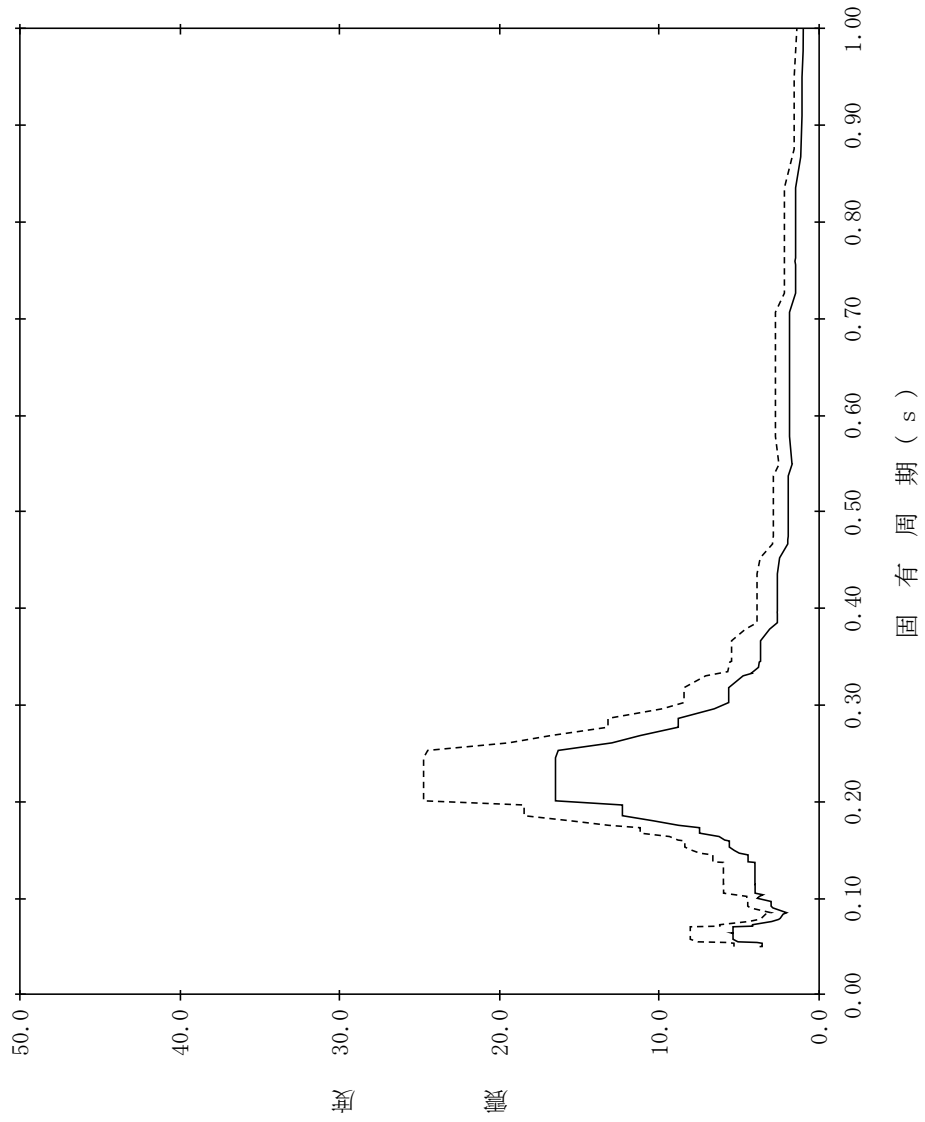
【NS2-RB-SdNS-RB16】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



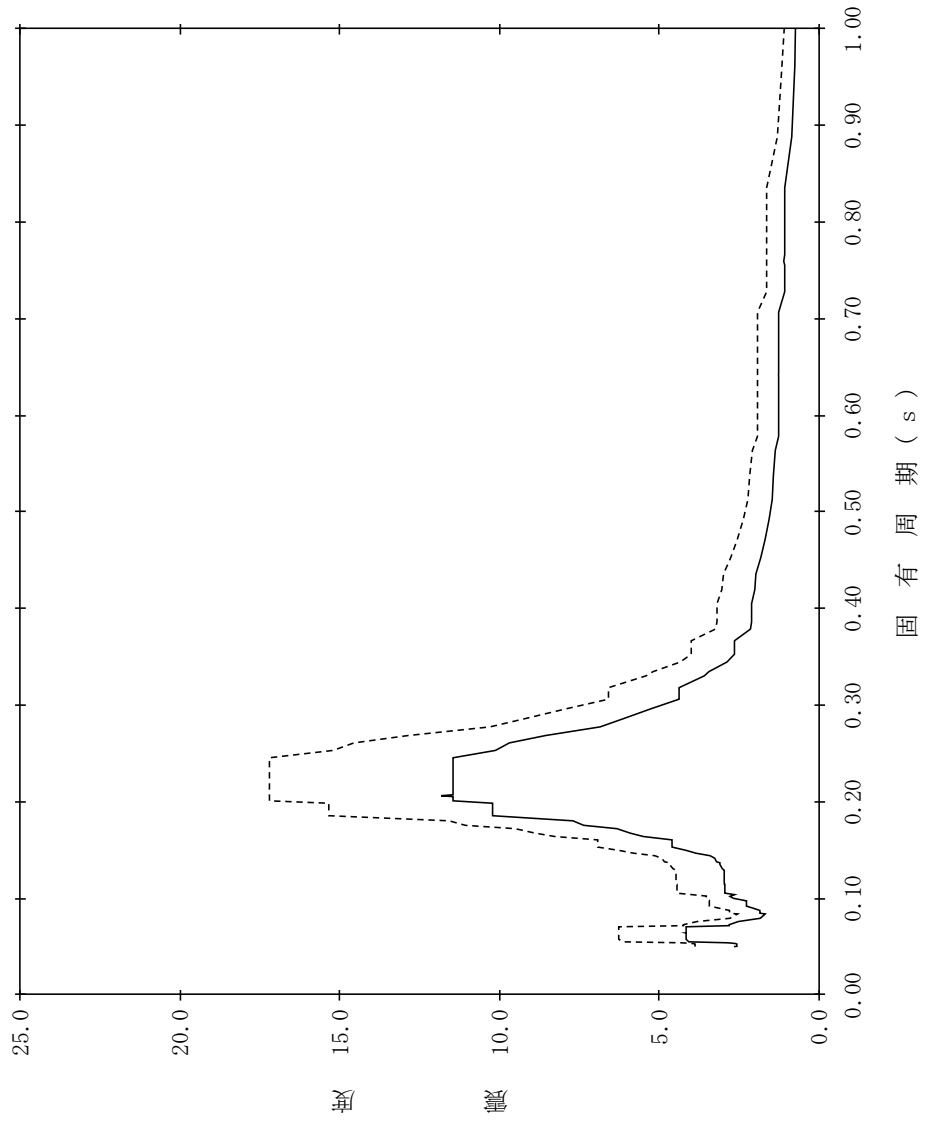
【NS2-RB-SdNS-RB17】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



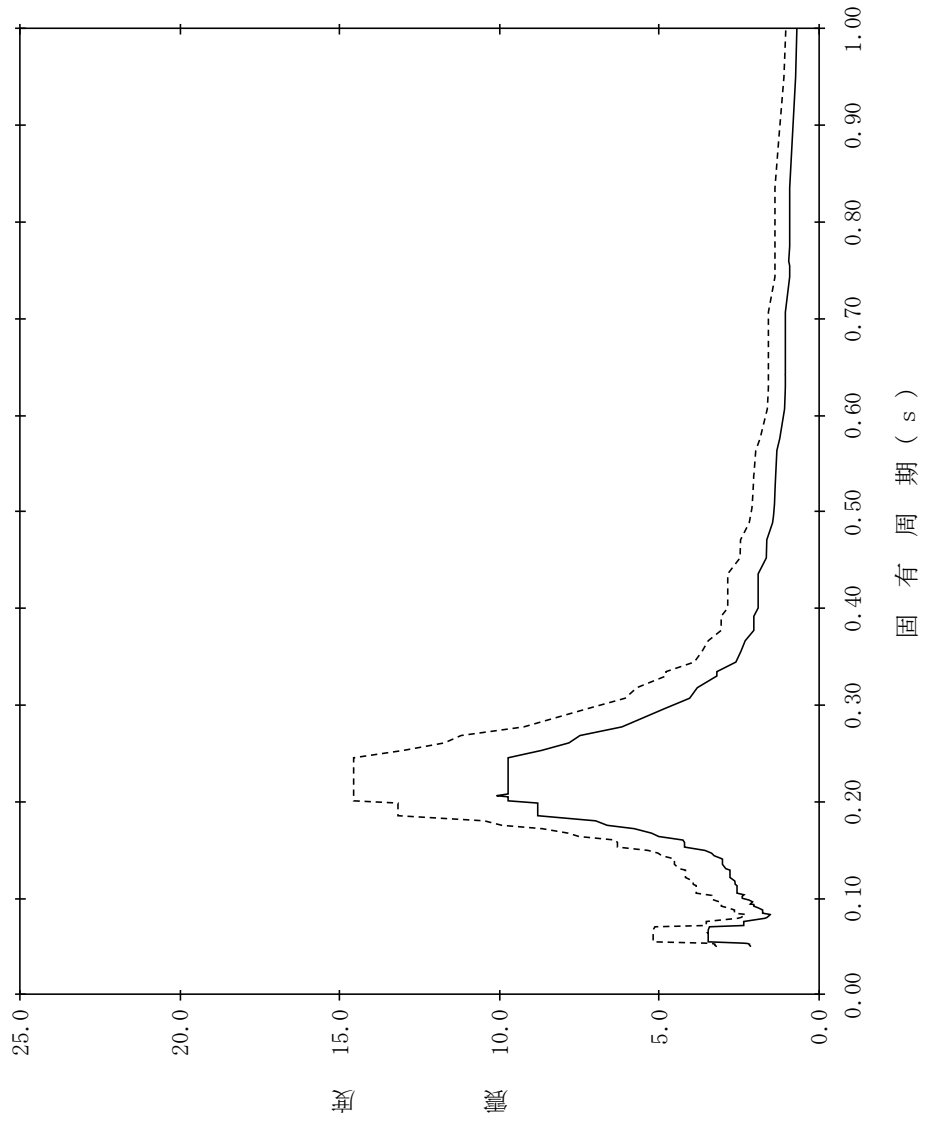
【NS2-RB-SdNS-RB18】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



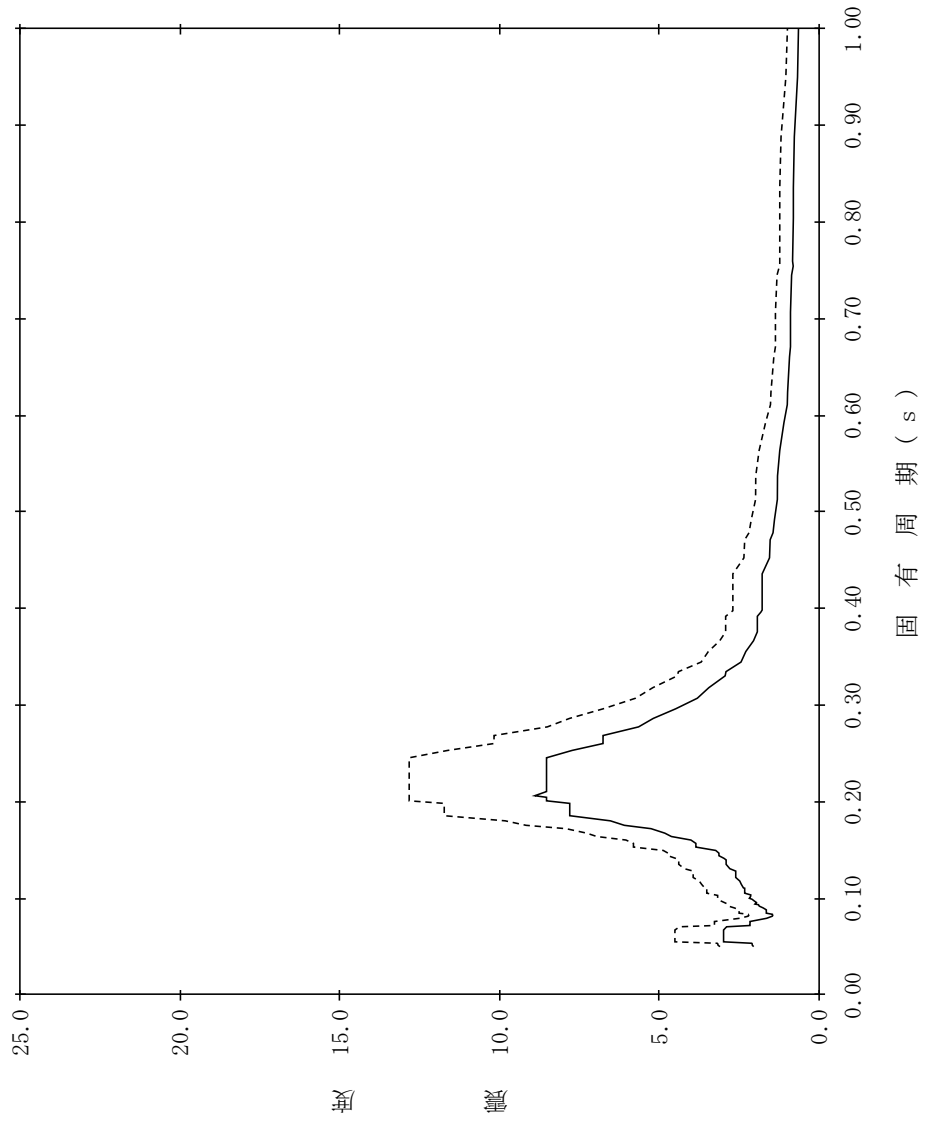
【NS2-RB-SdNS-RB19】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



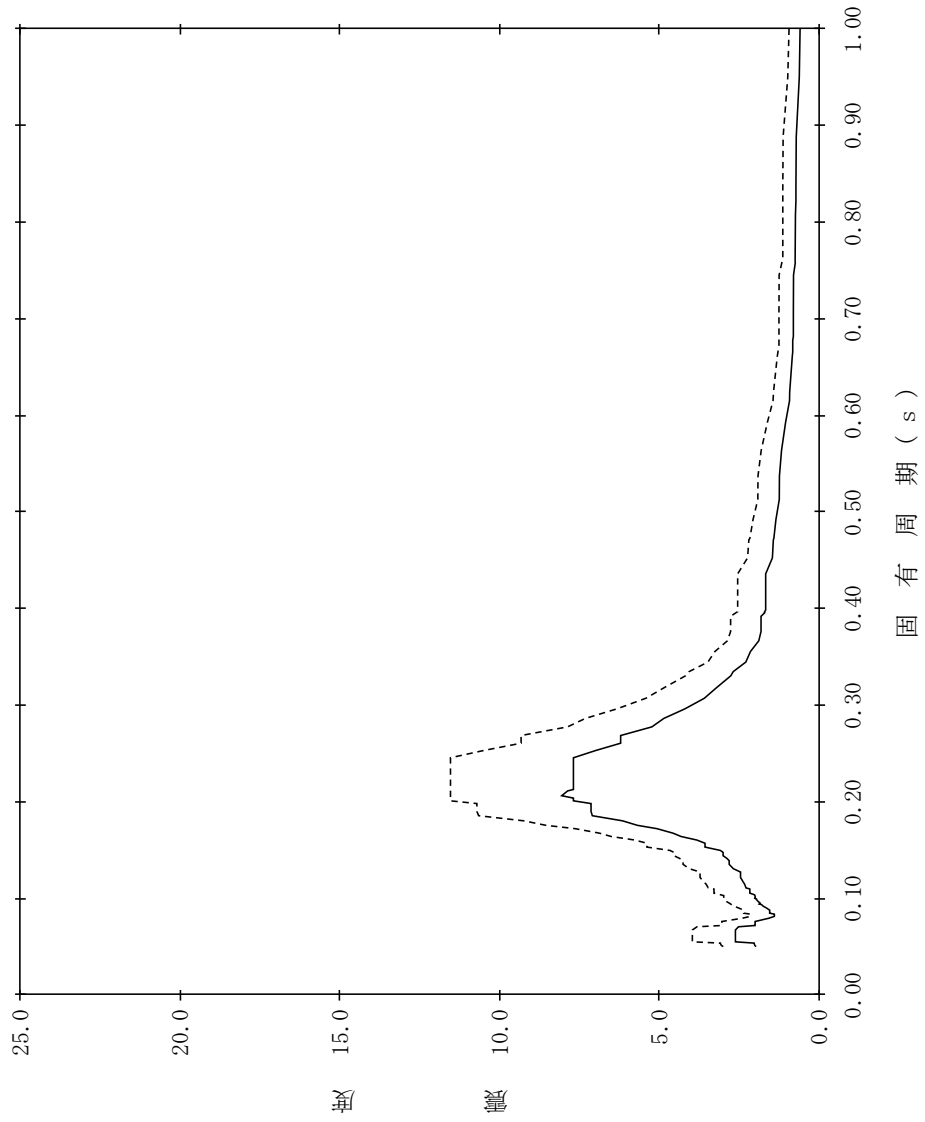
【NS2-RB-SdNS-RB20】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



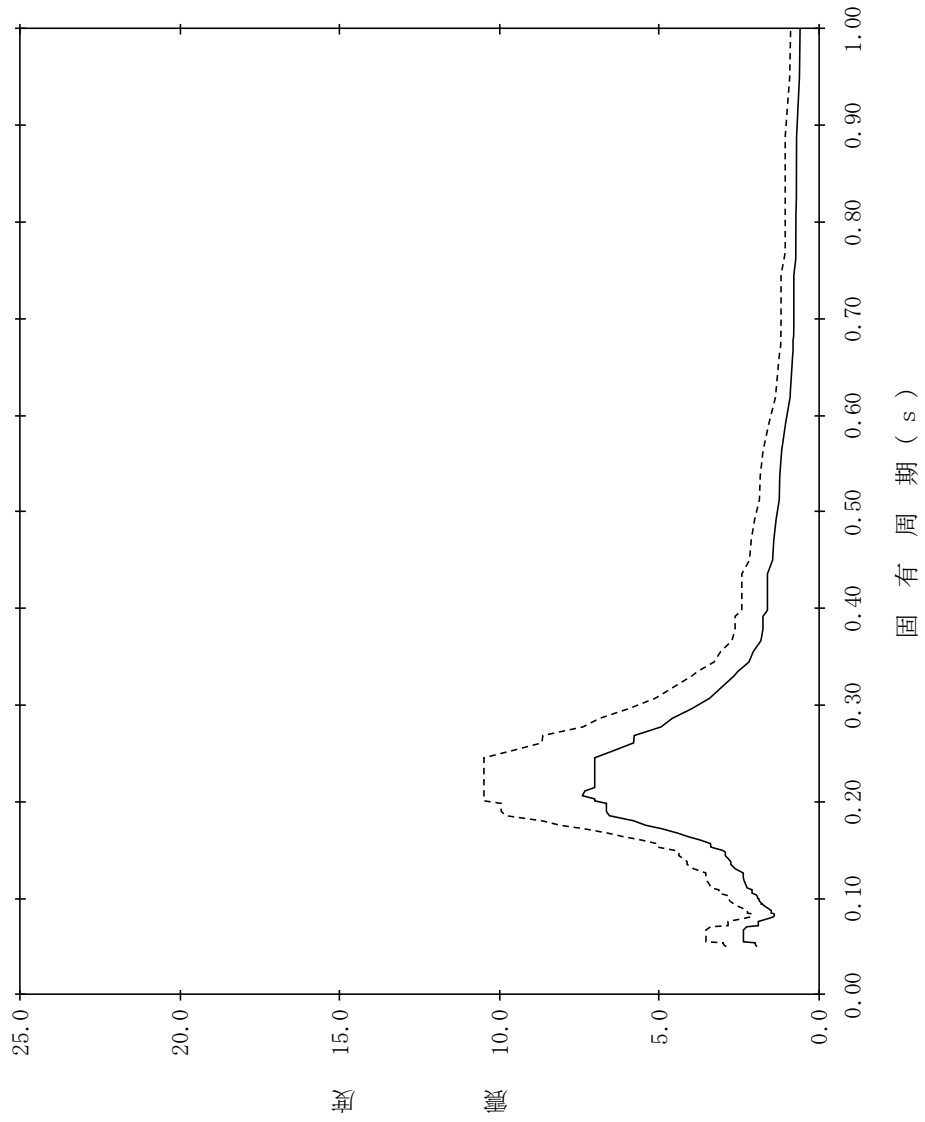
【NS2-RB-SdNS-RB21】

構造物名：原子炉建物
標高：EL42.800m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



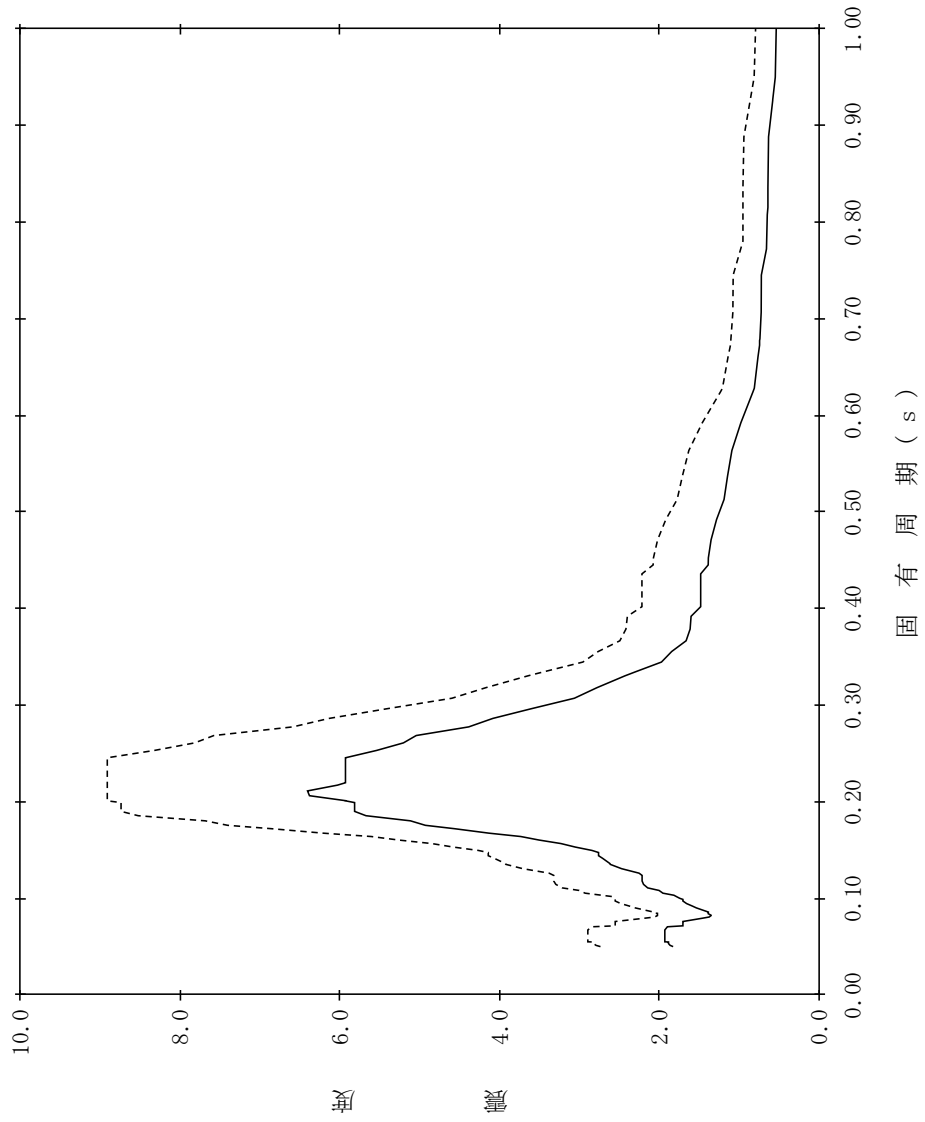
【NS2-RB-SdNS-RB22】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



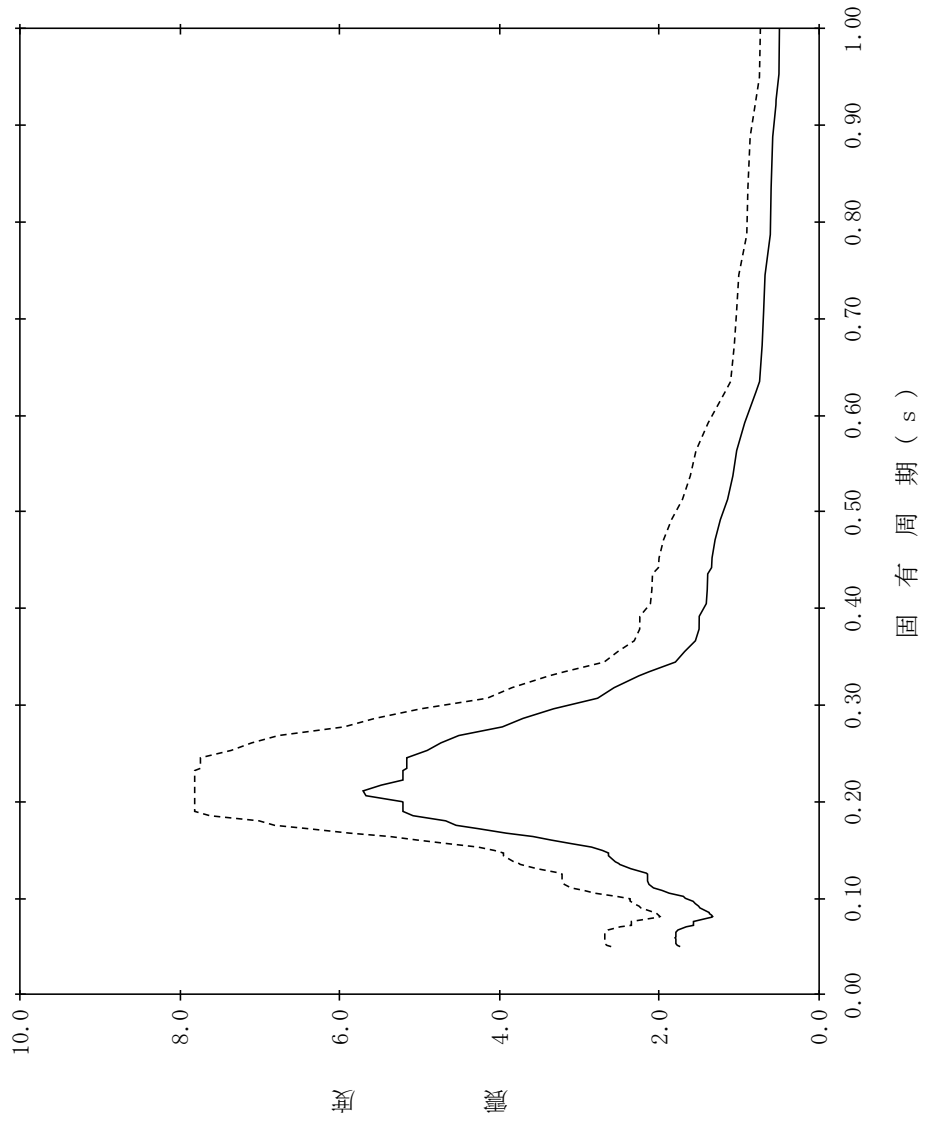
【NS2-RB-SdNS-RB23】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



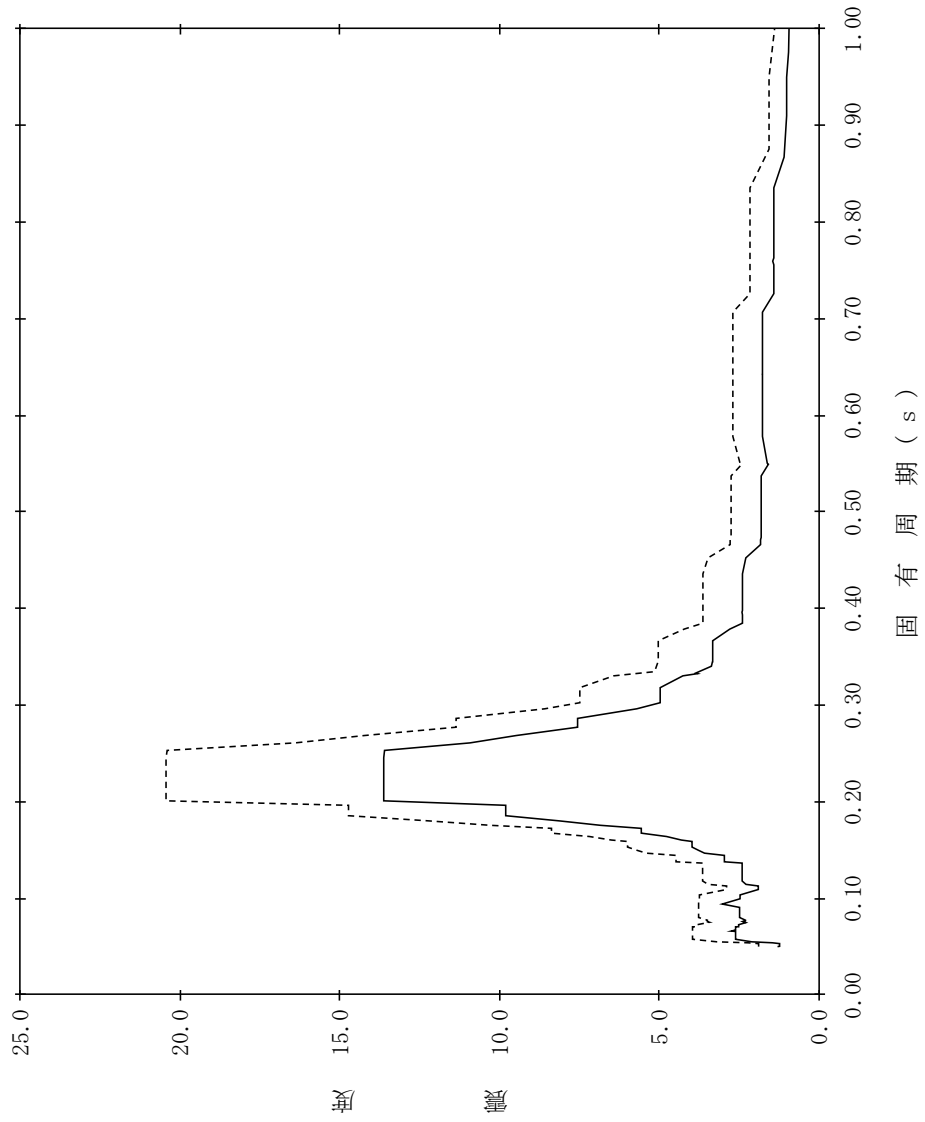
【NS2-RB-SdNS-RB24】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



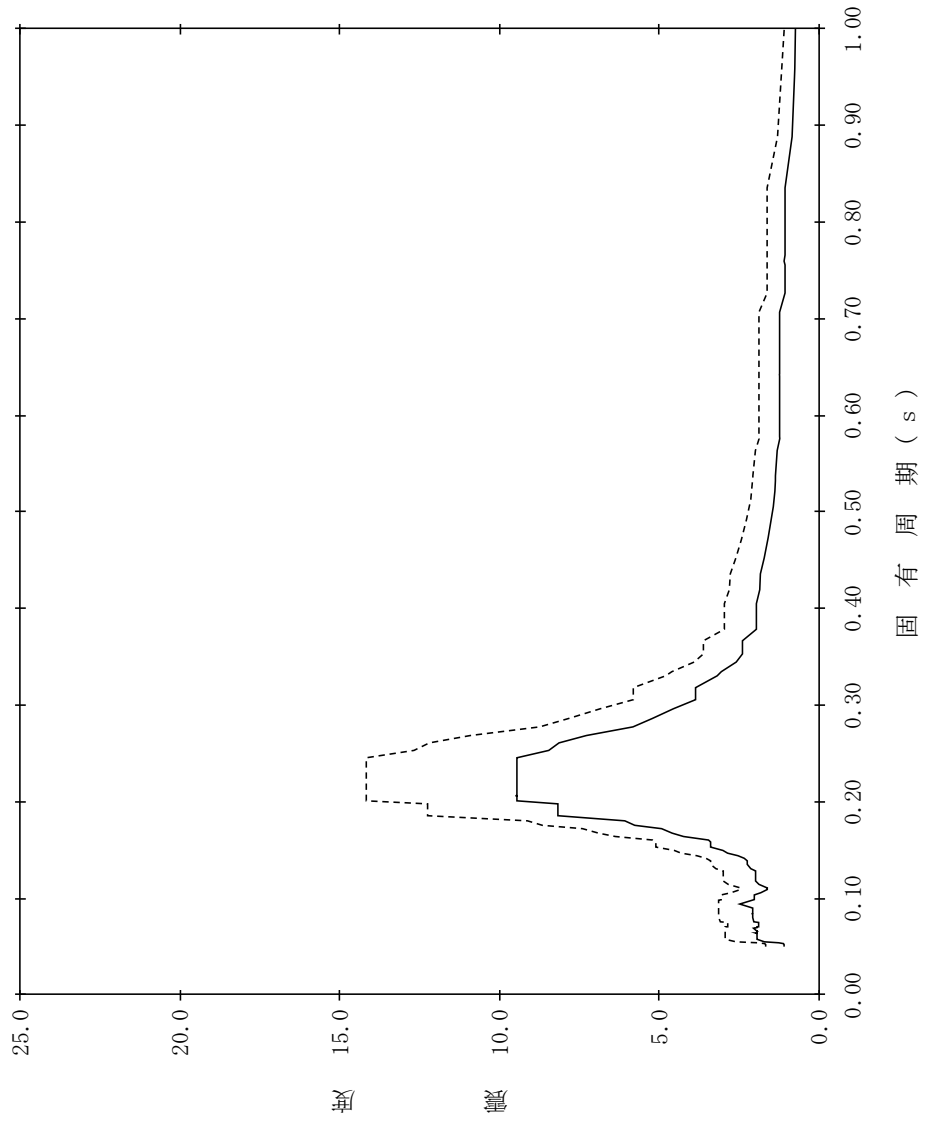
【NS2-RB-SdNS-RB25】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



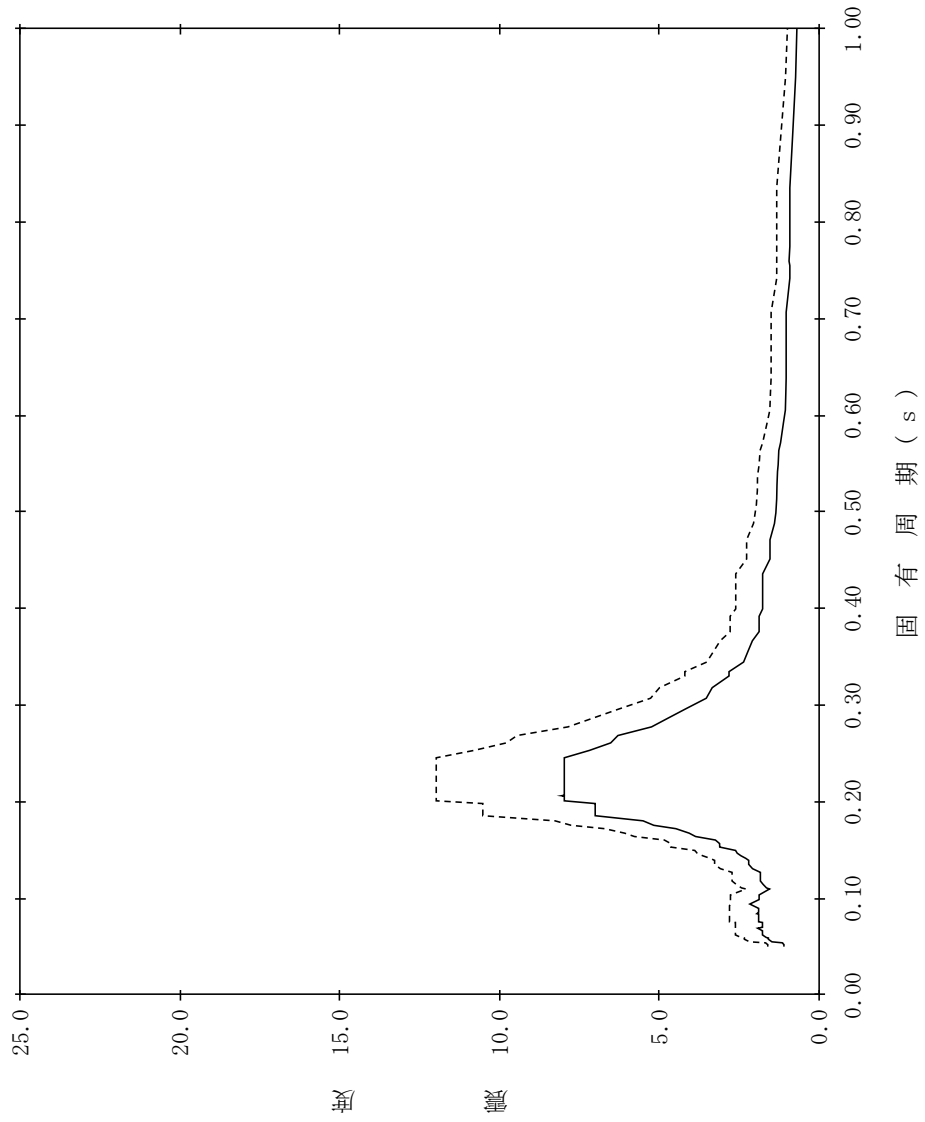
【NS2-RB-SdNS-RB26】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



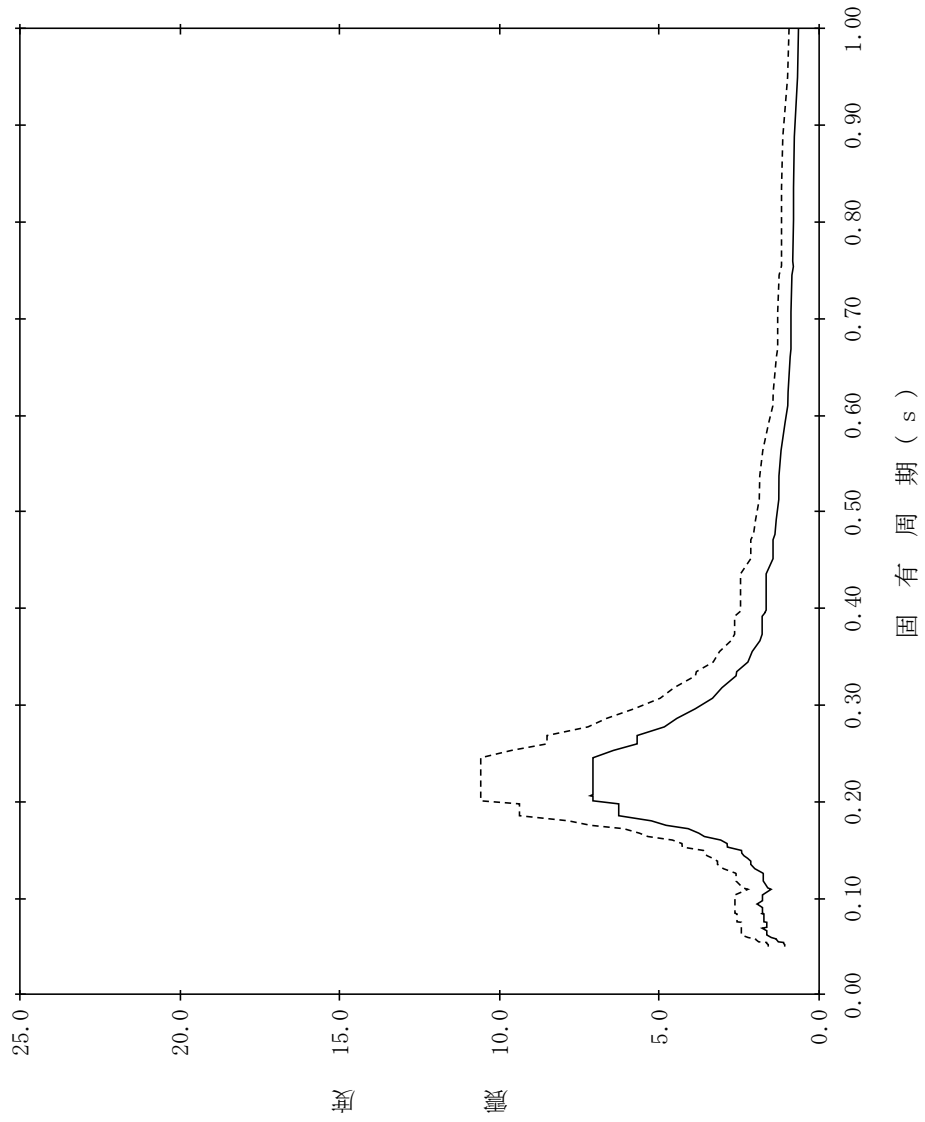
【NS2-RB-SdNS-RB27】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



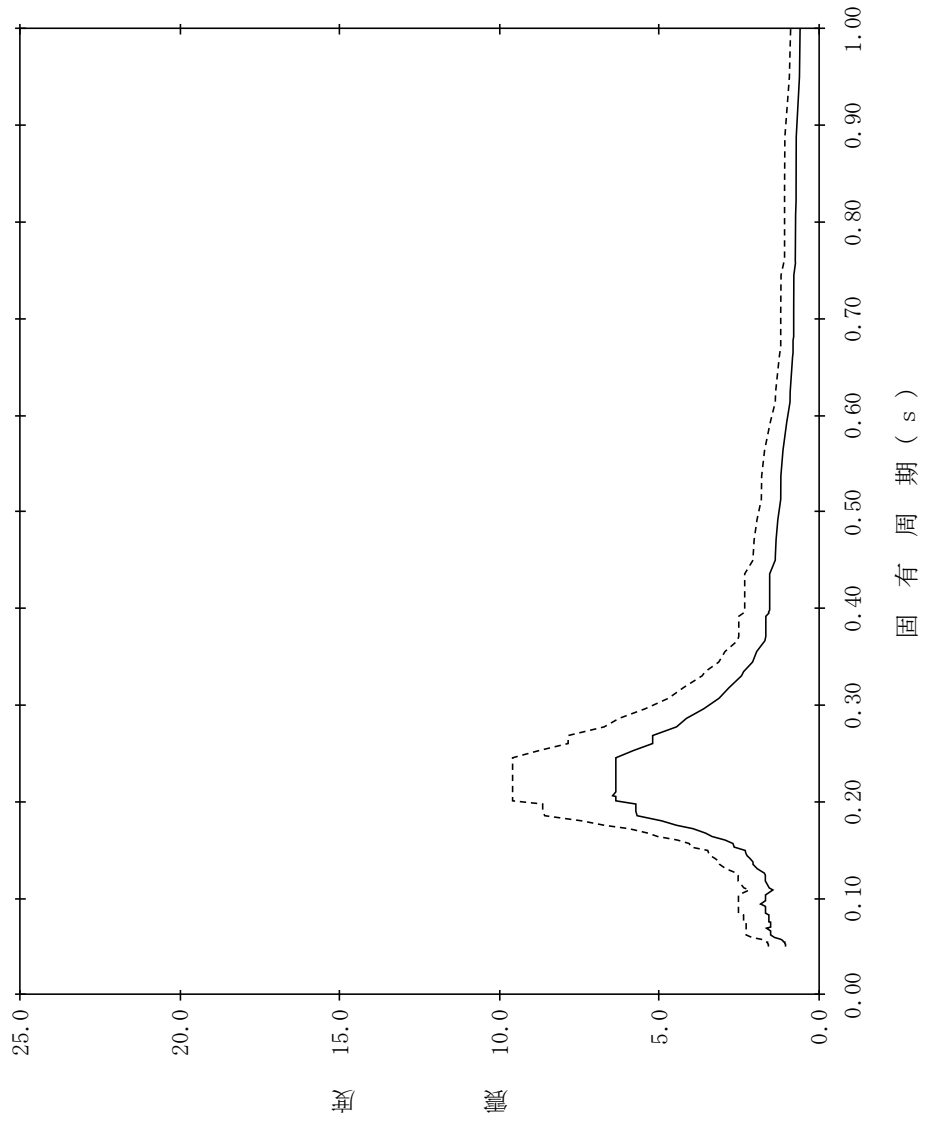
【NS2-RB-SdNS-RB28】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



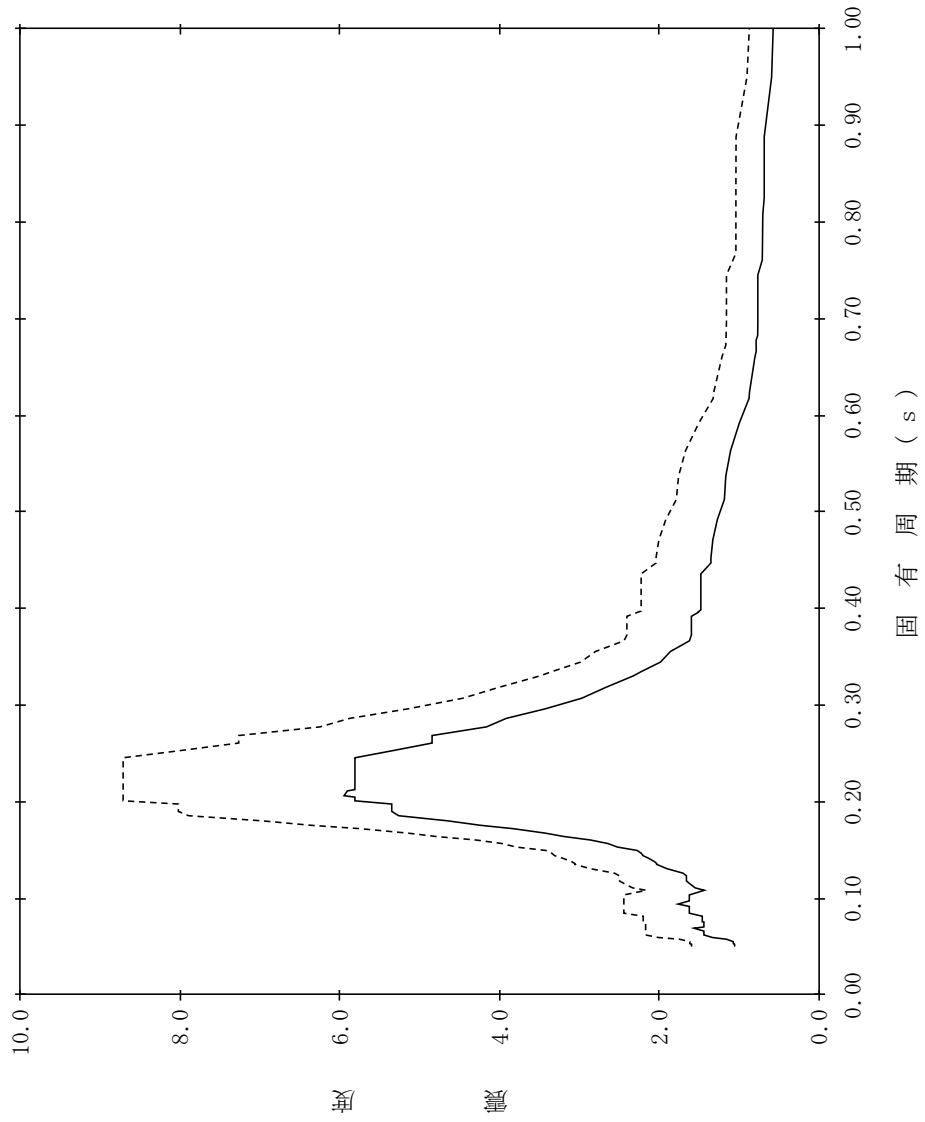
【NS2-RB-SdNS-RB29】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



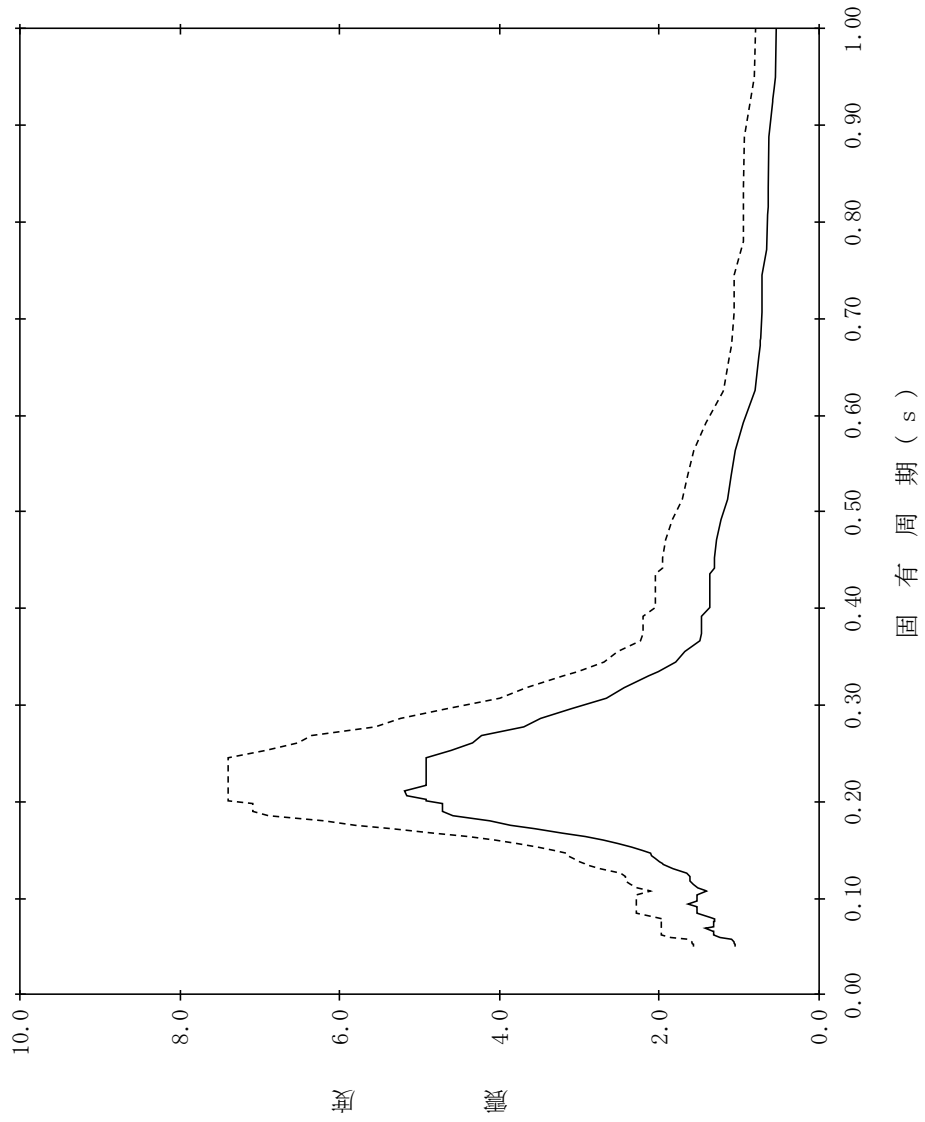
【NS2-RB-SdNS-RB30】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



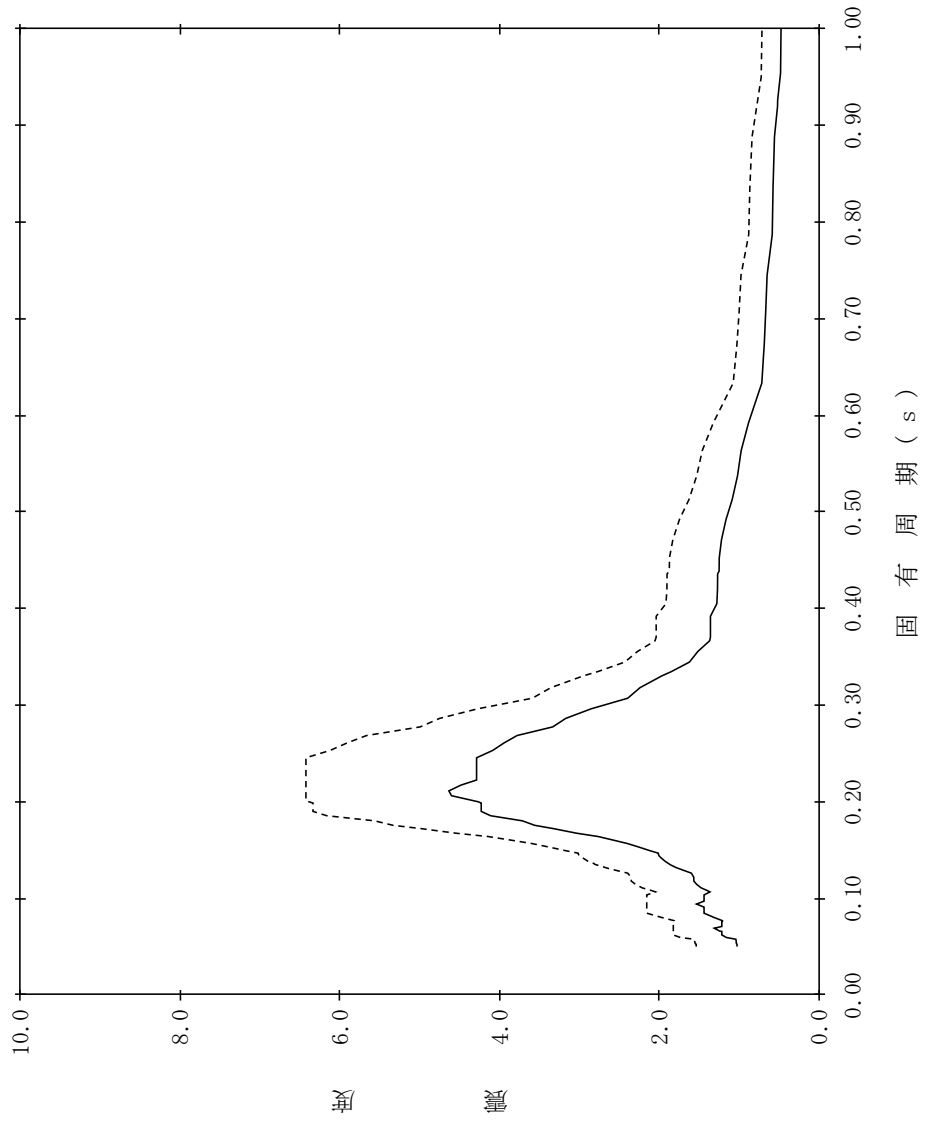
【NS2-RB-SdNS-RB31】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



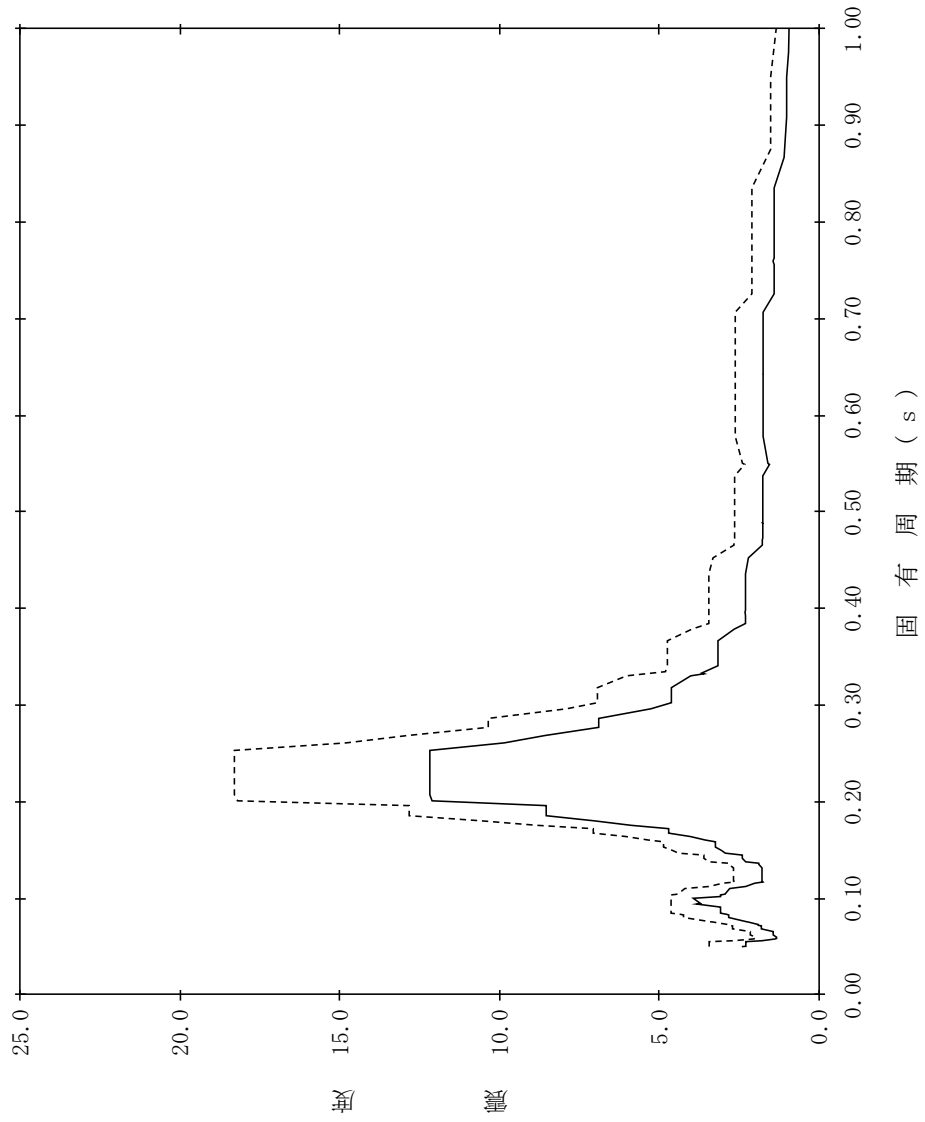
【NS2-RB-SdNS-RB32】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



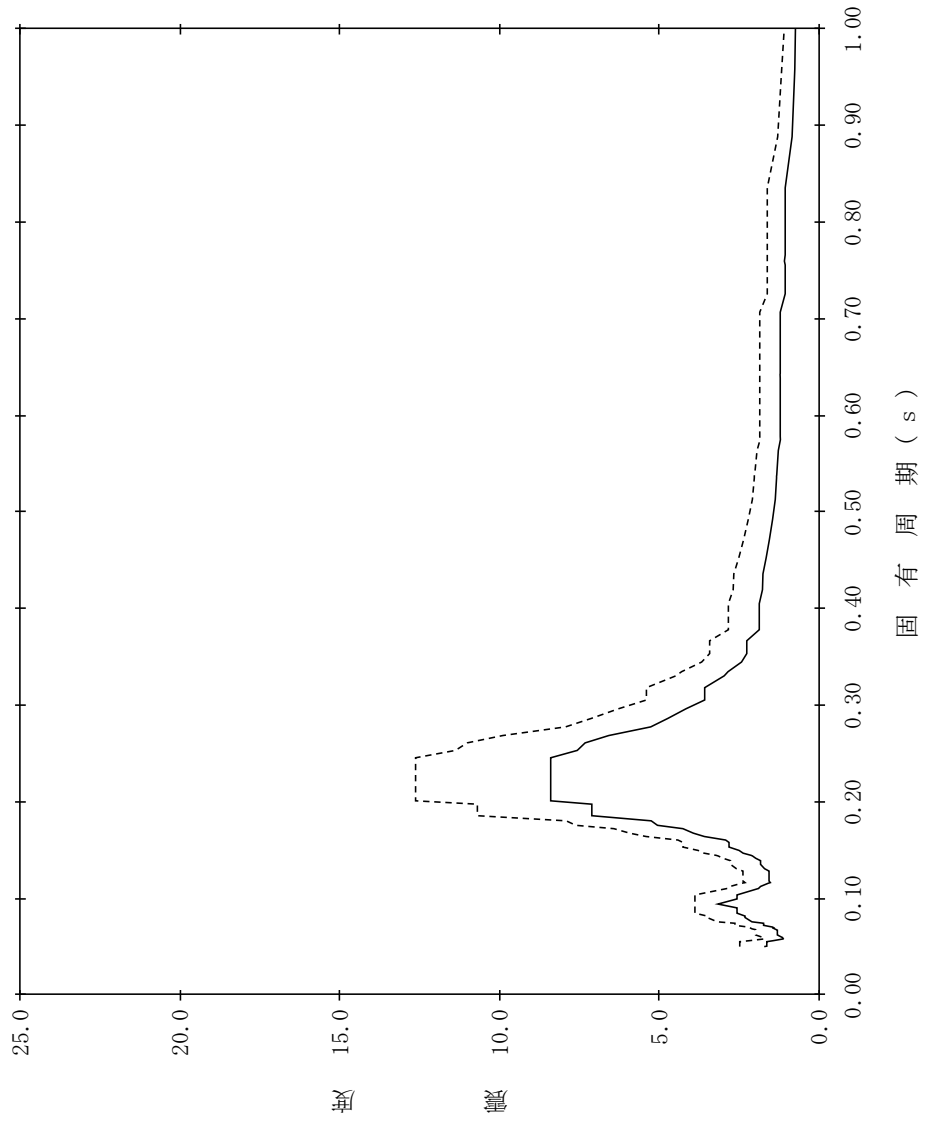
【NS2-RB-SdNS-RB33】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



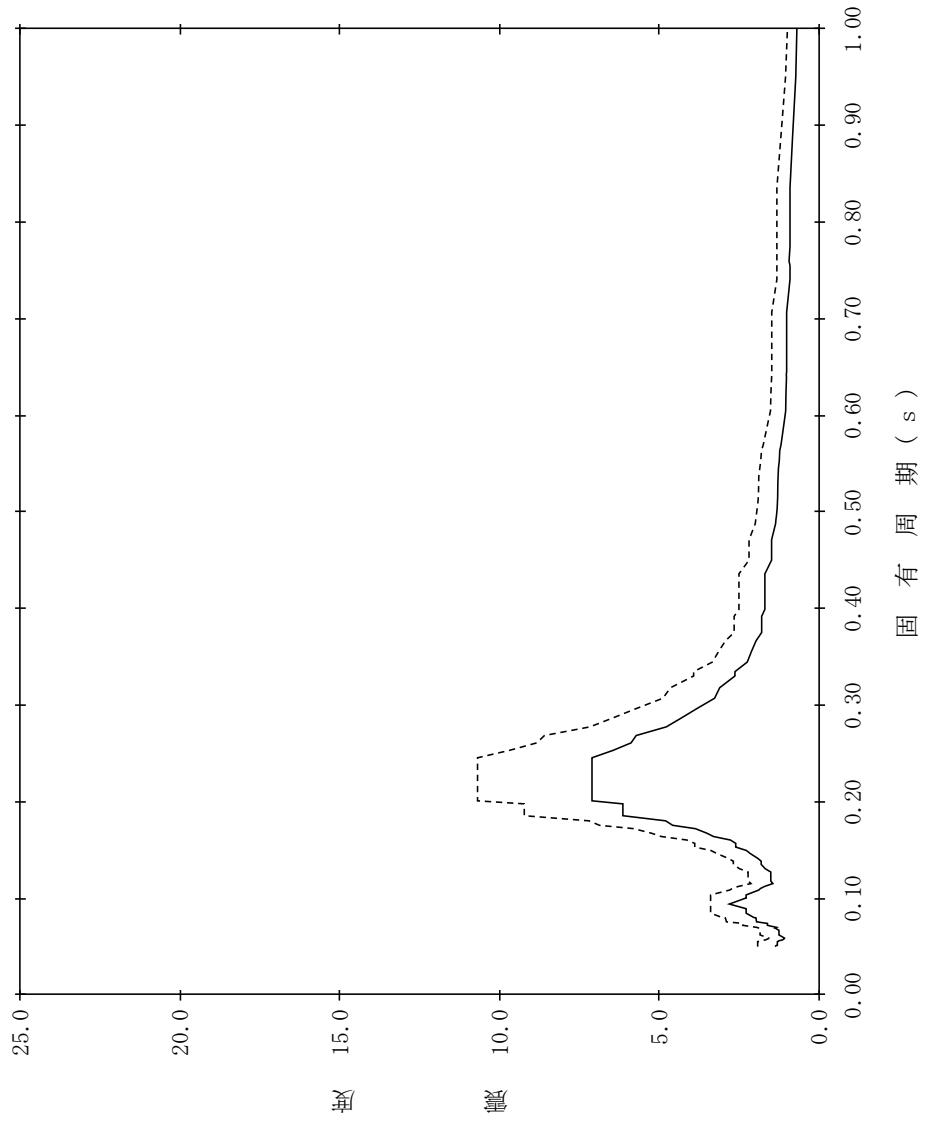
【NS2-RB-SdNS-RB34】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



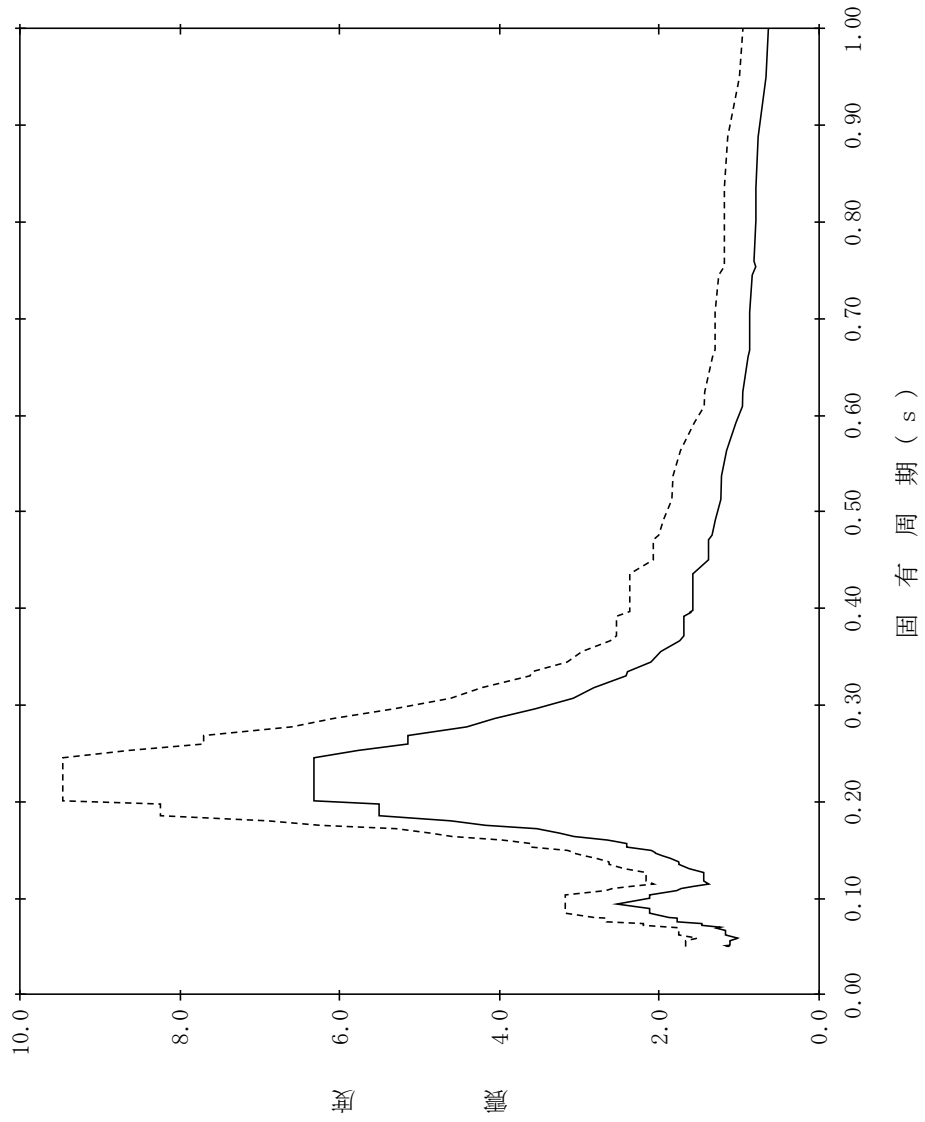
【NS2-RB-SdNS-RB35】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

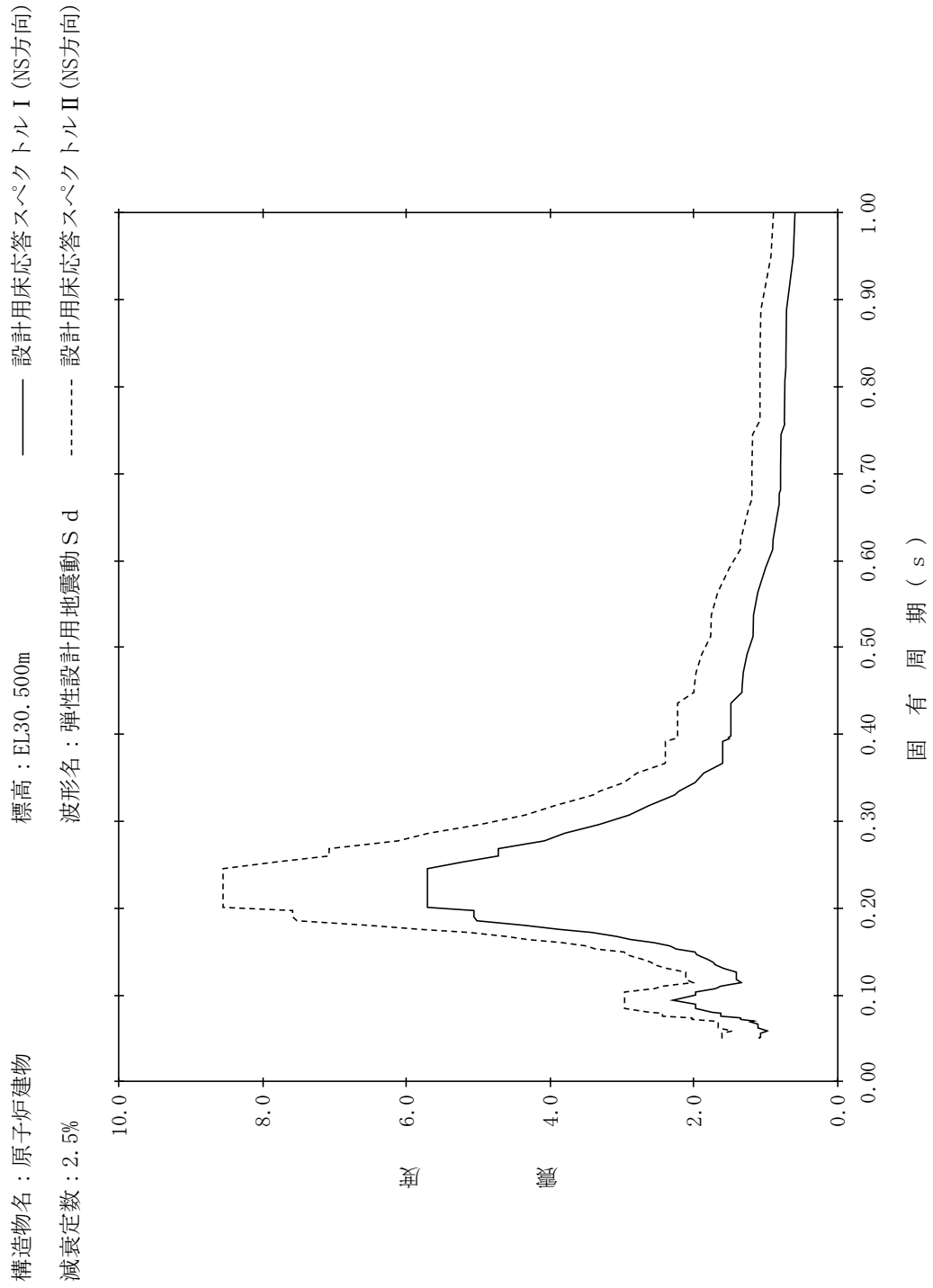


【NS2-RB-SdNS-RB36】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

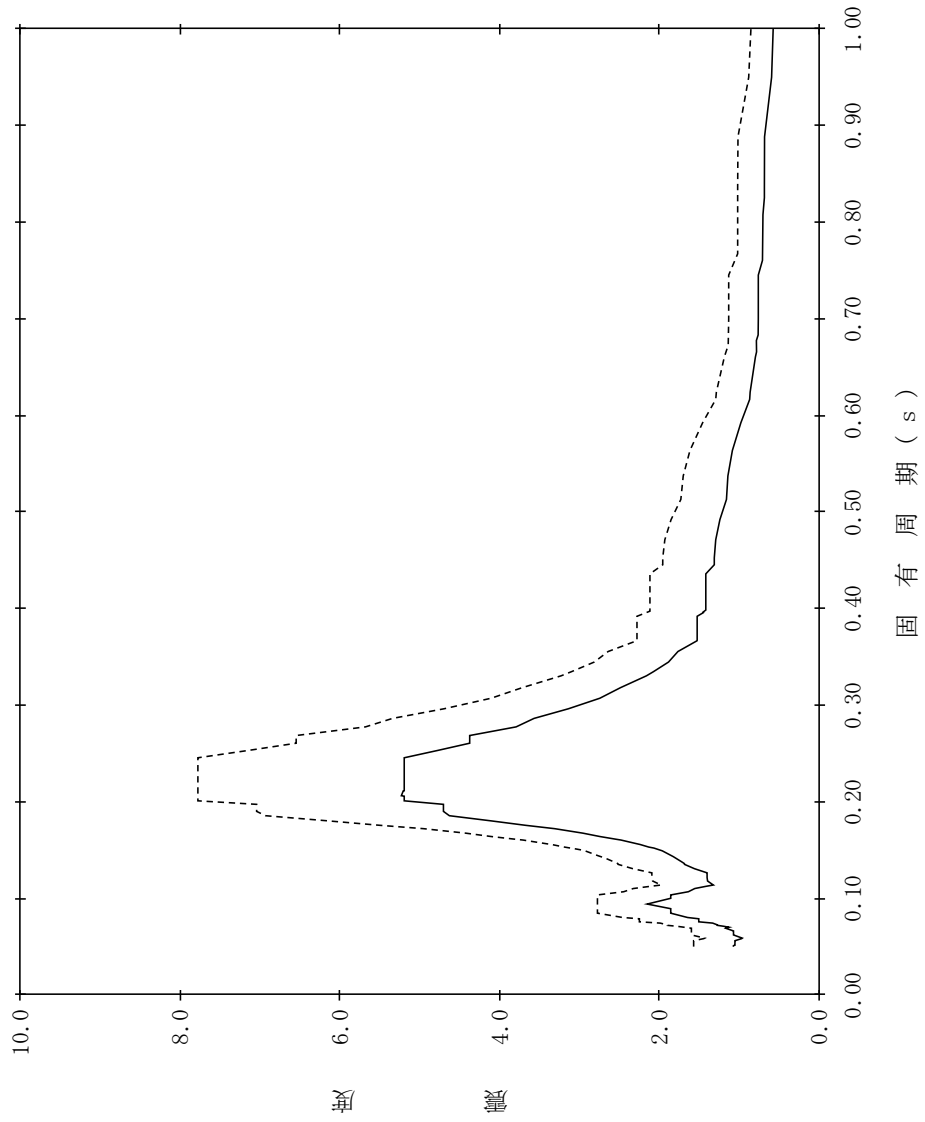


【NS2-RB-SdNS-RB37】



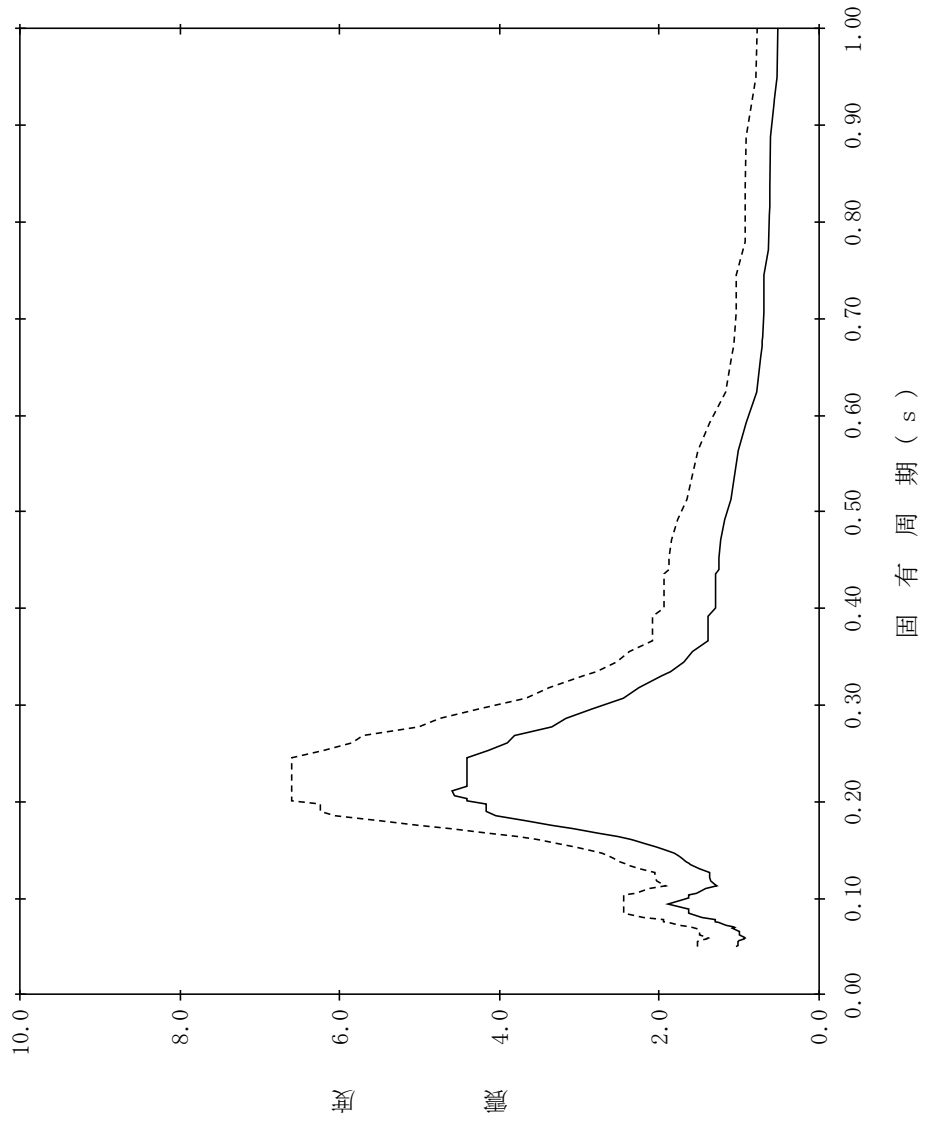
【NS2-RB-SdNS-RB38】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



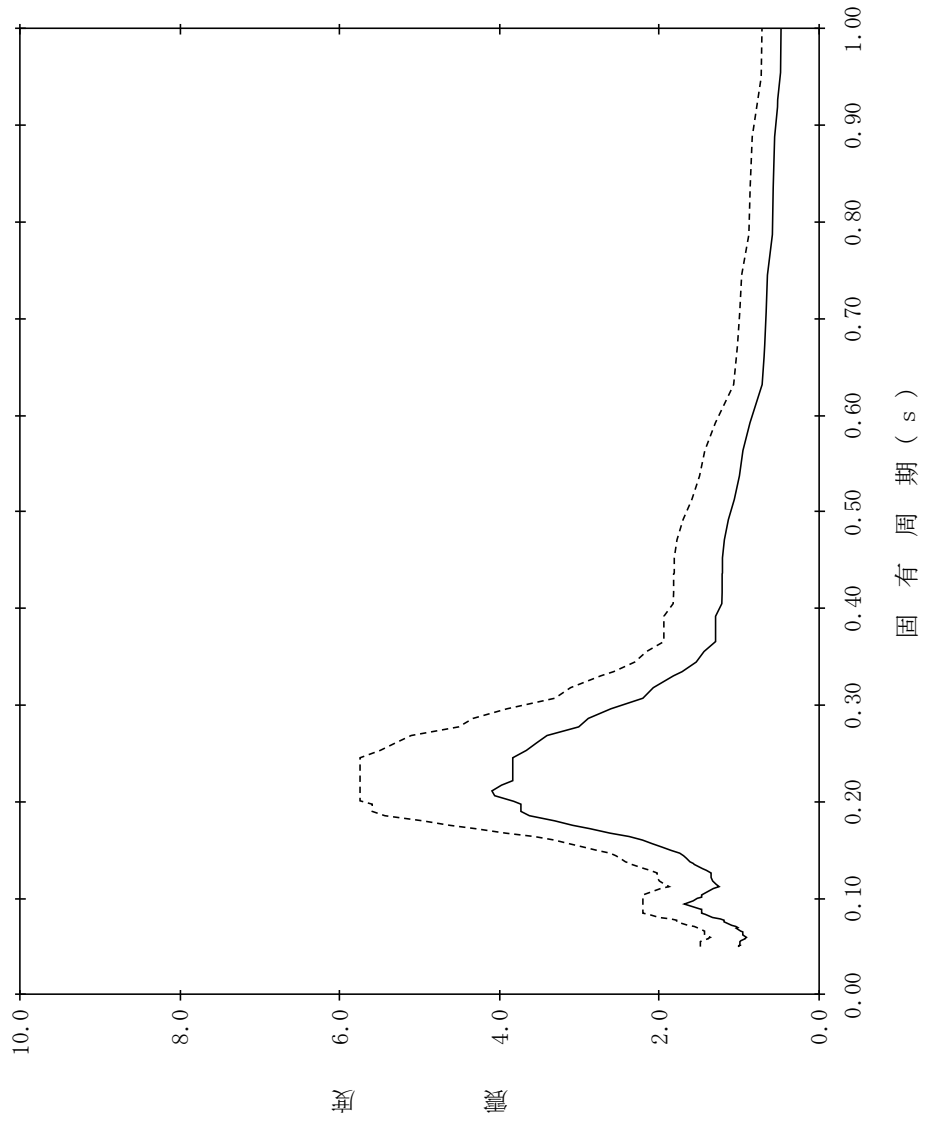
【NS2-RB-SdNS-RB39】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



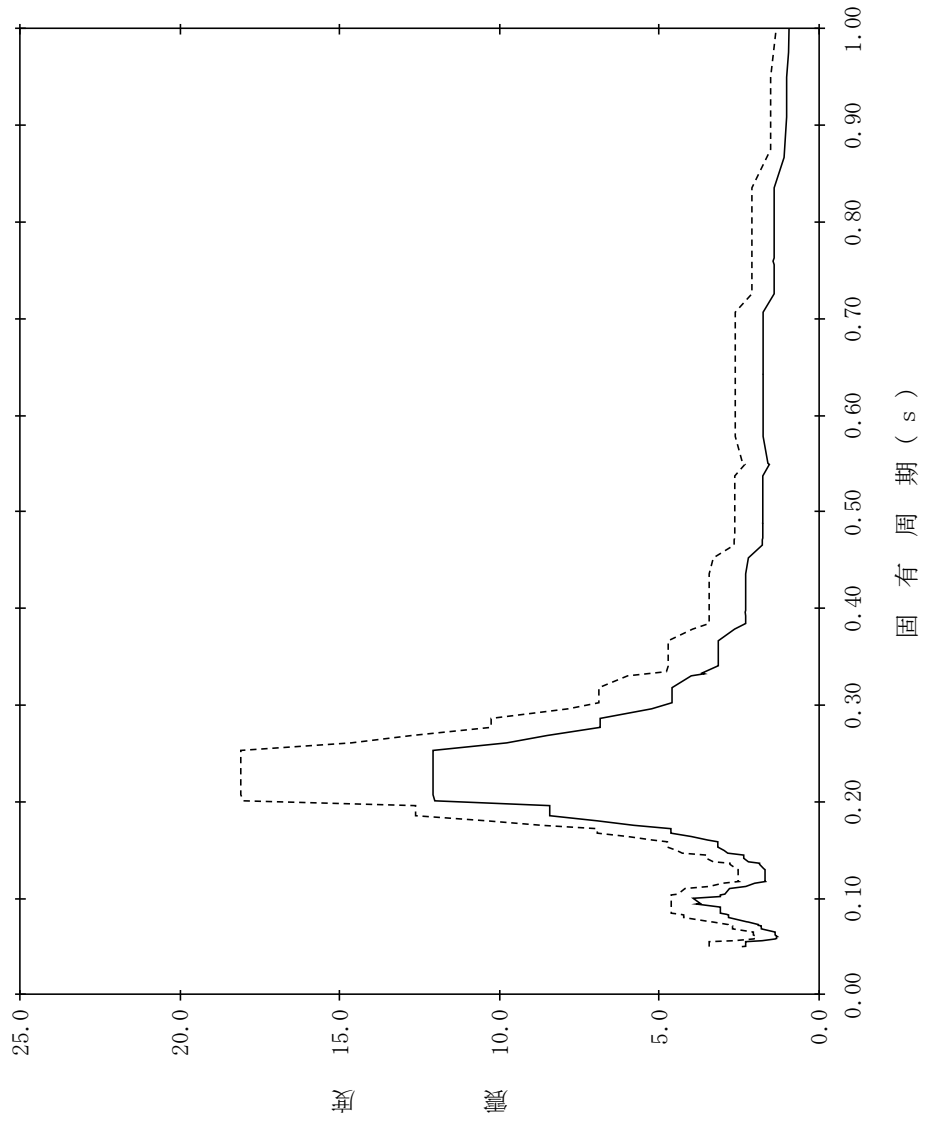
【NS2-RB-SdNS-RB40】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



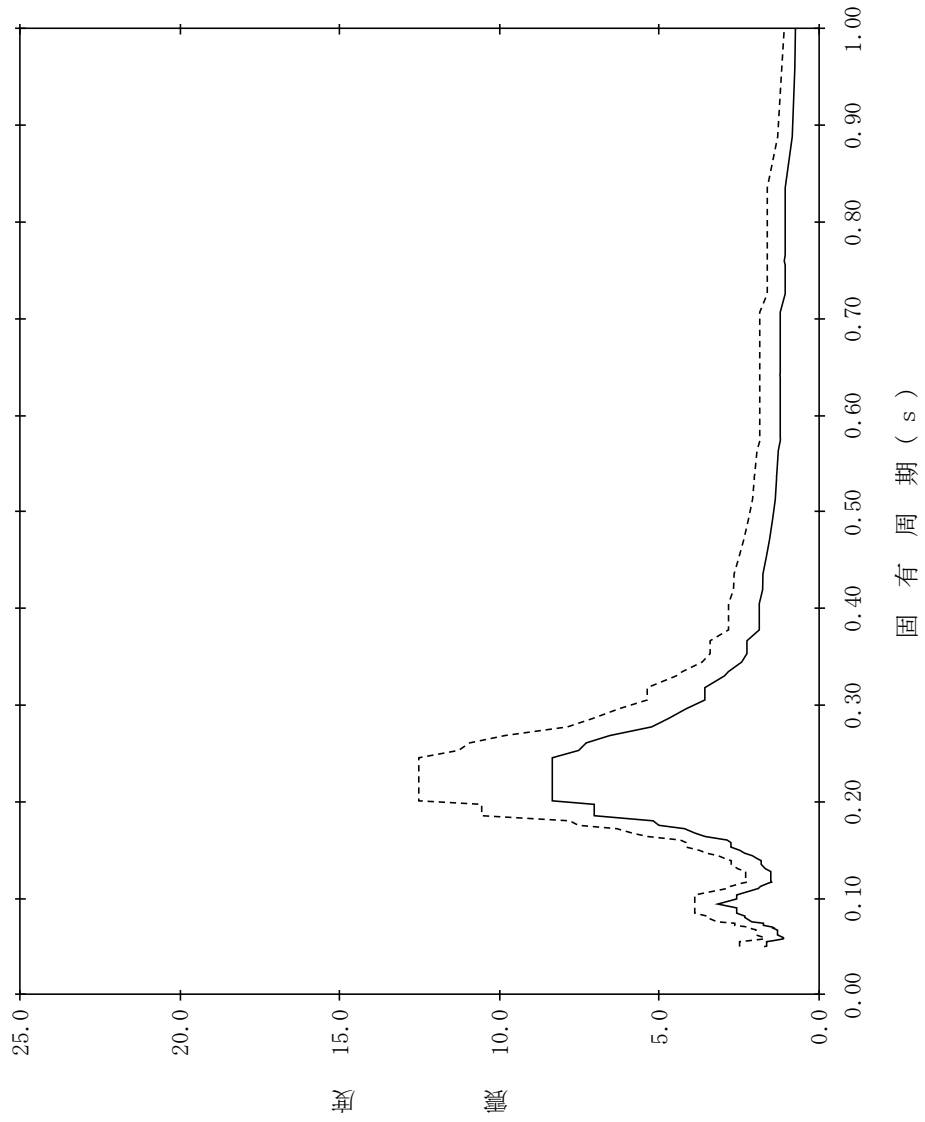
【NS2-RB-SdNS-RB41】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：0.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



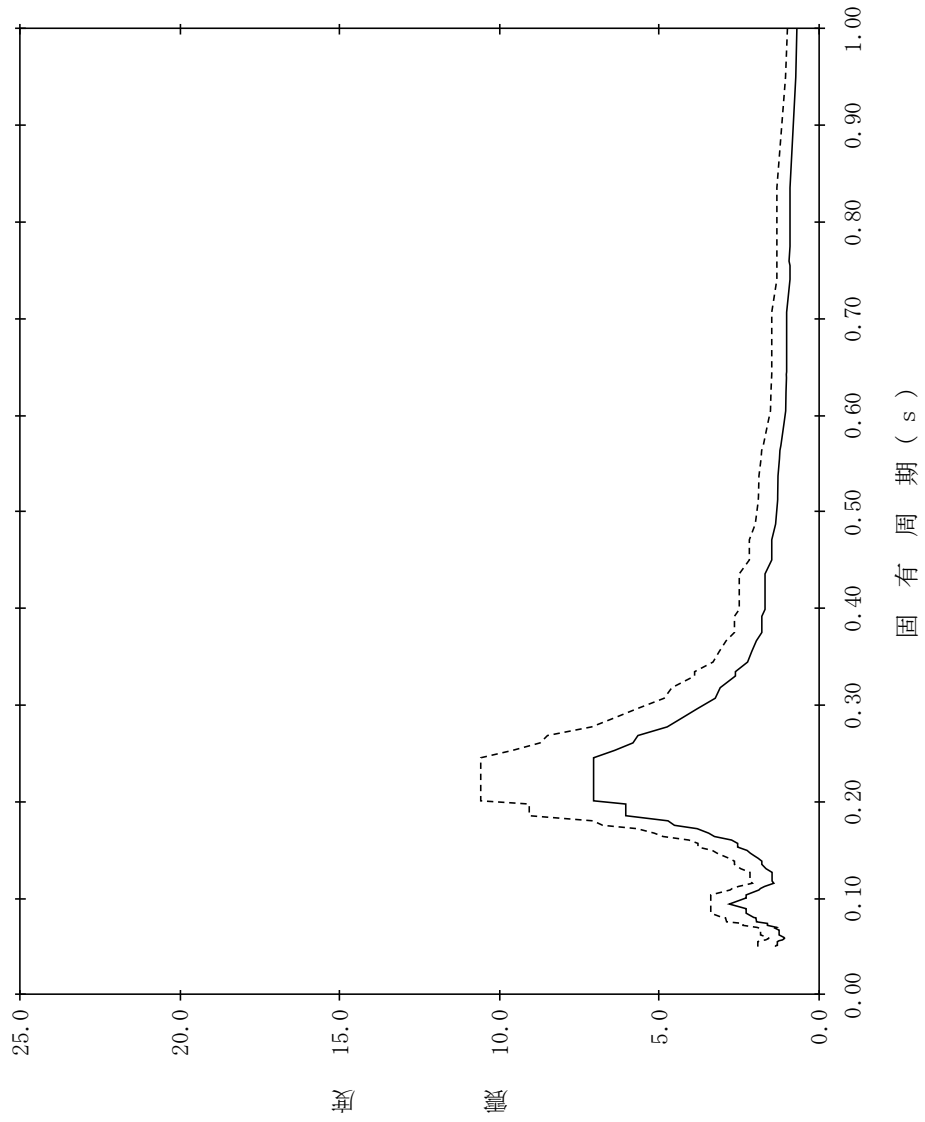
【NS2-RB-SdNS-RB42】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトルⅠ (NS方向)
 減衰定数：1.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトルⅡ (NS方向)



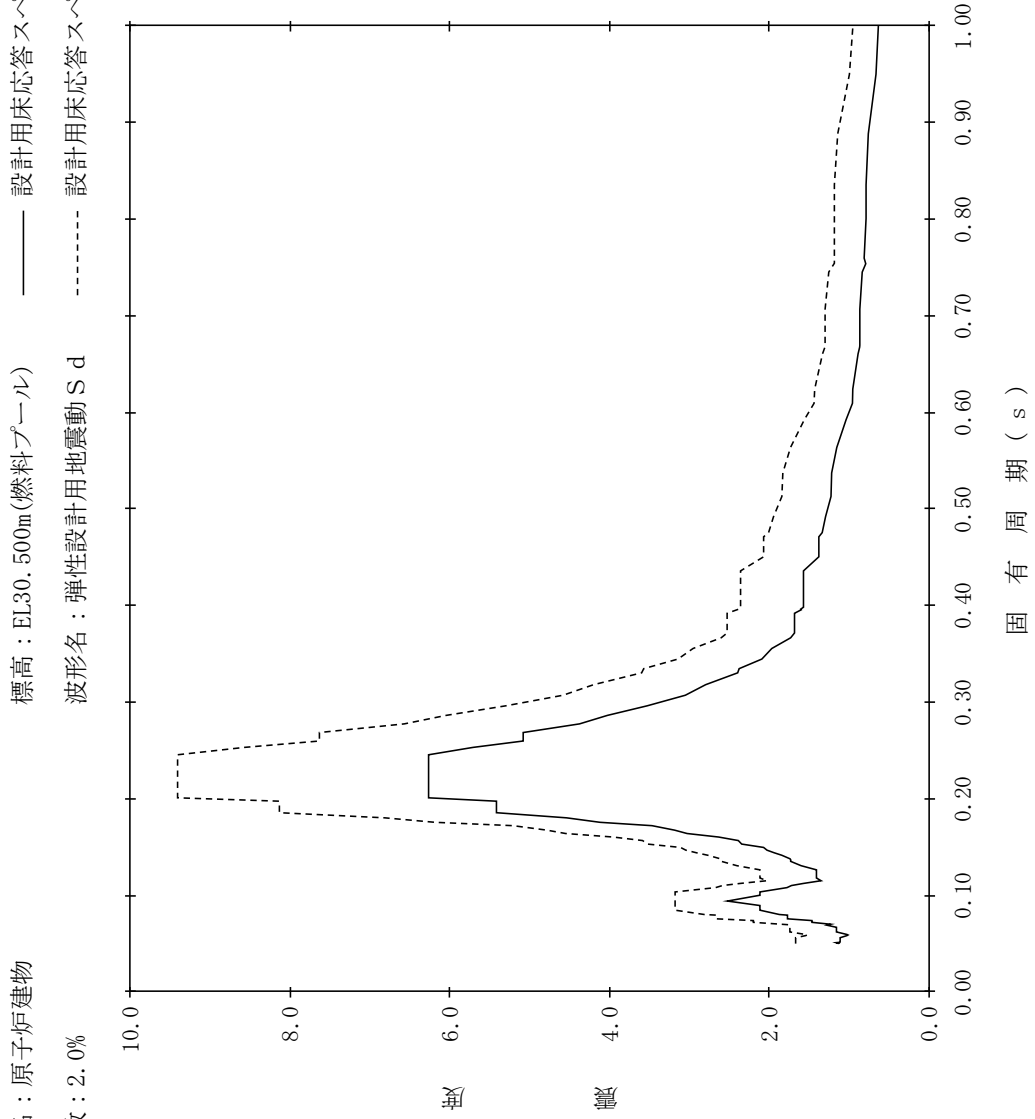
【NS2-RB-SdNS-RB43】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：1.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



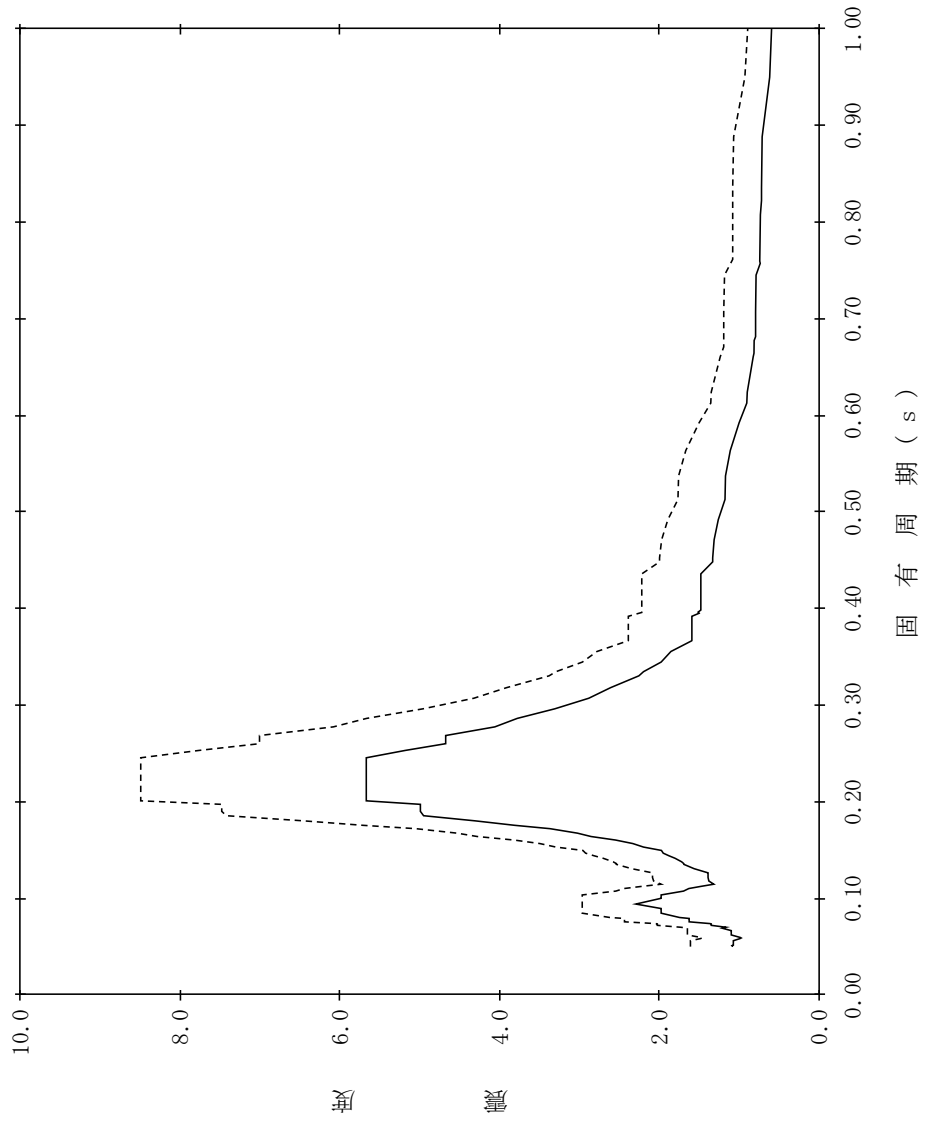
【NS2-RB-SdNS-RB44】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：2.0%



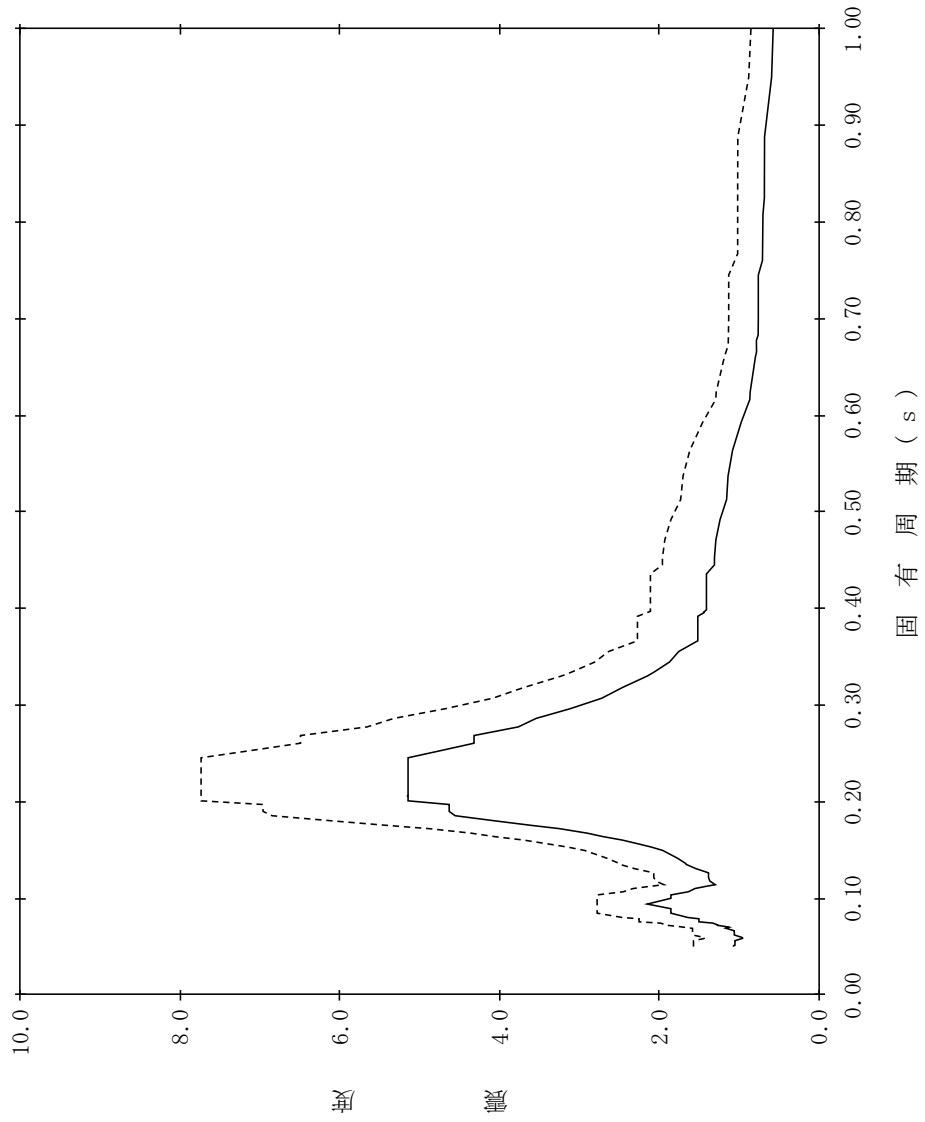
【NS2-RB-SdNS-RB45】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：2.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



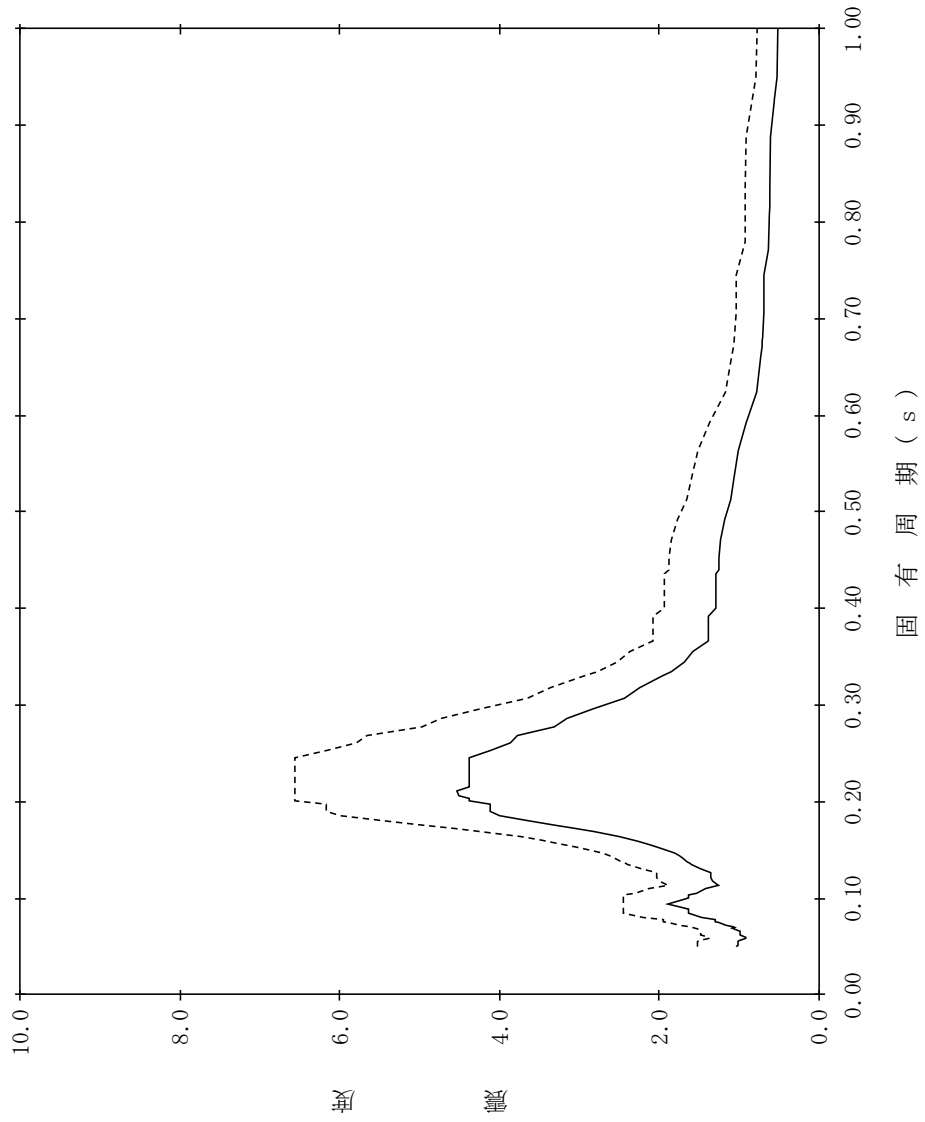
【NS2-RB-SdNS-RB46】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトルⅠ (NS方向)
 減衰定数：3.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトルⅡ (NS方向)



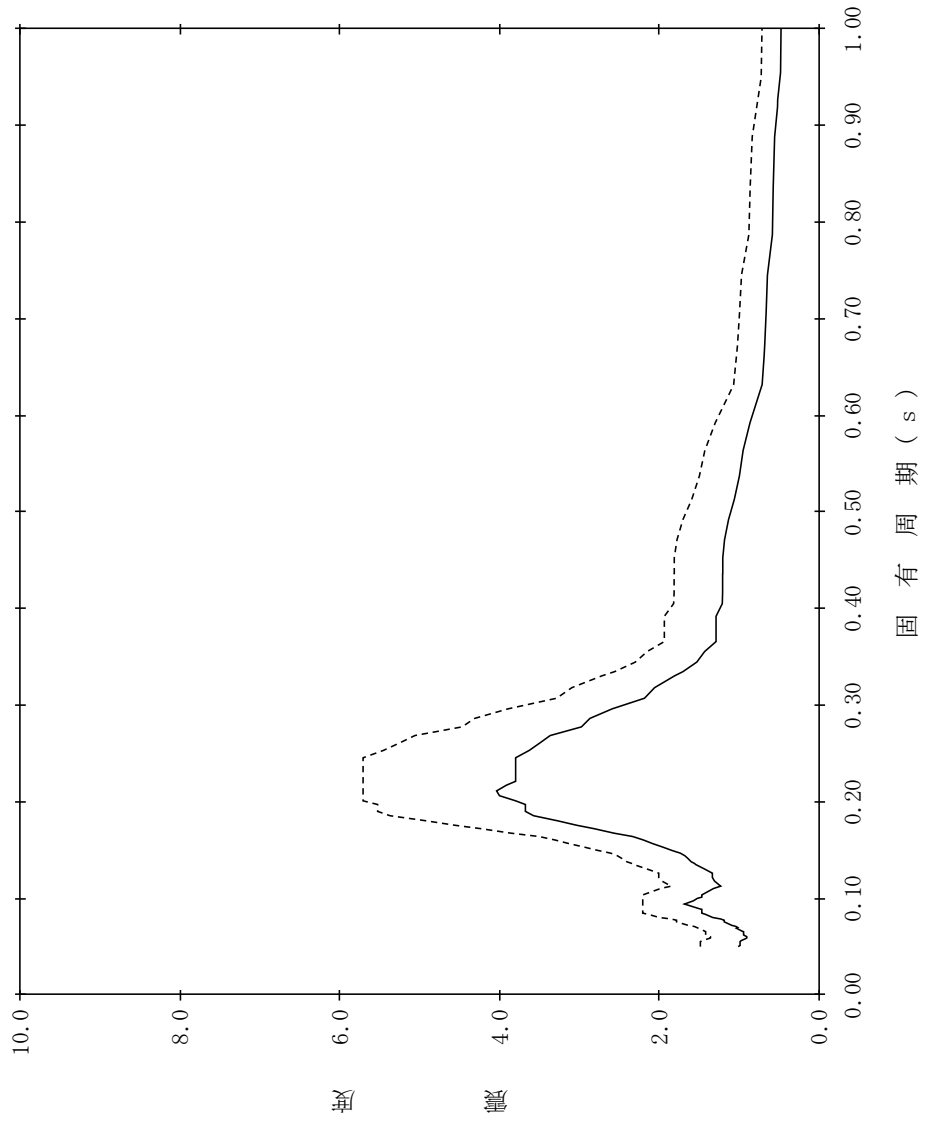
【NS2-RB-SdNS-RB47】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：4.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



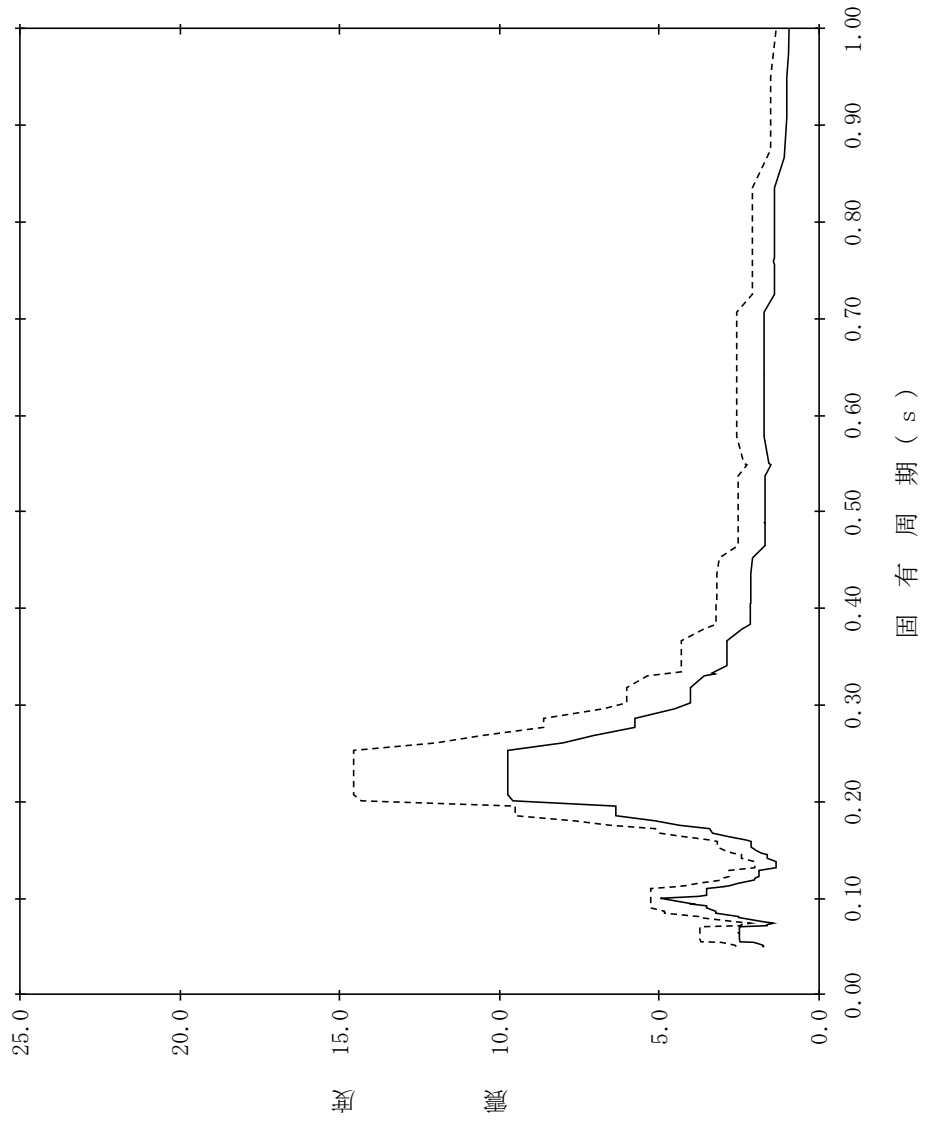
【NS2-RB-SdNS-RB48】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：5.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



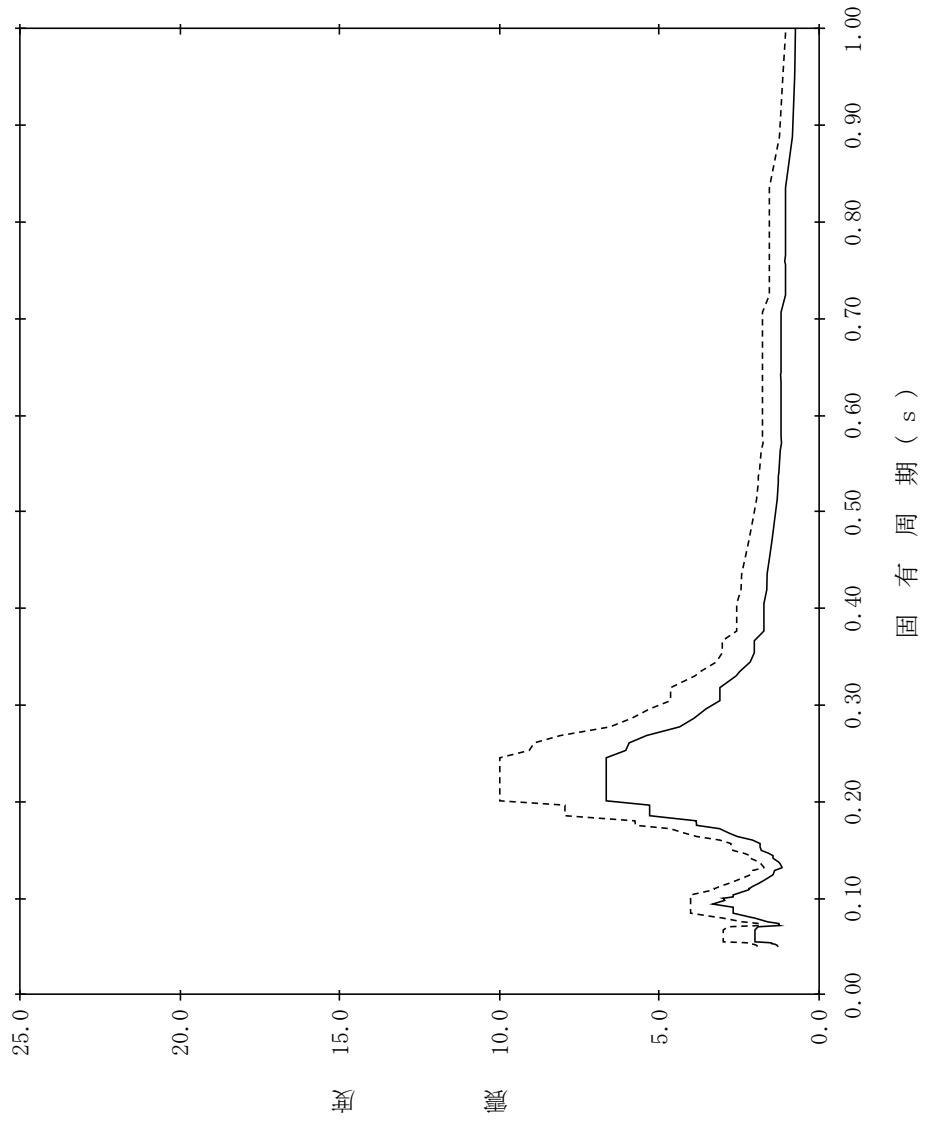
【NS2-RB-SdNS-RB49】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



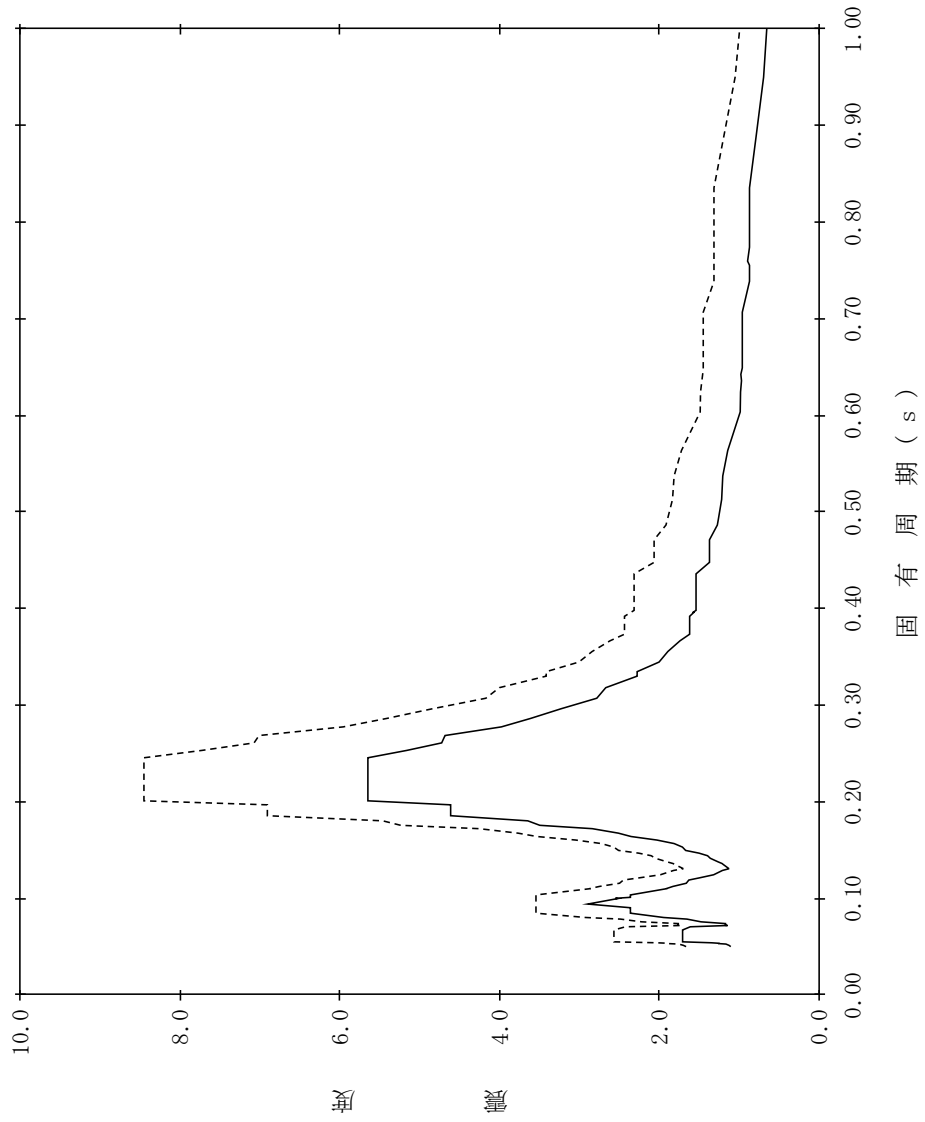
【NS2-RB-SdNS-RB50】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



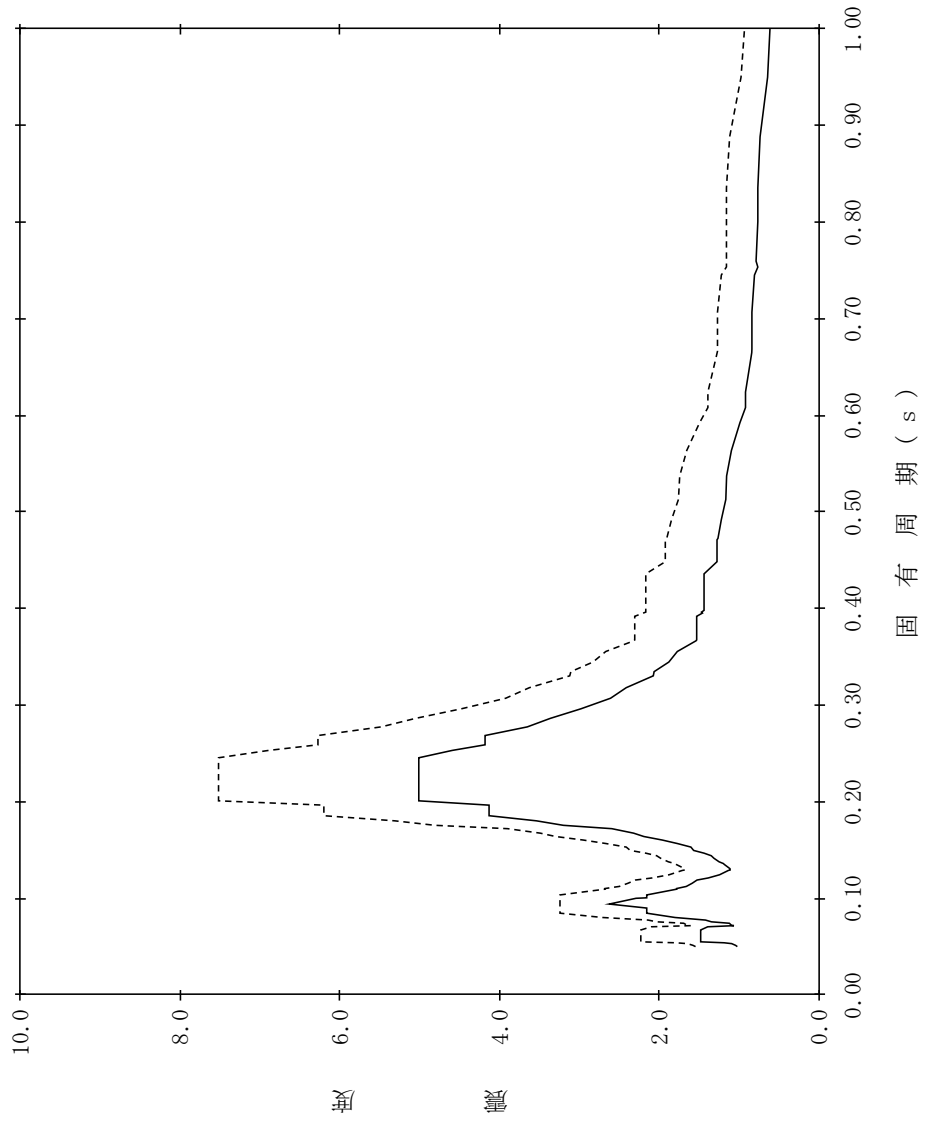
【NS2-RB-SdNS-RB51】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



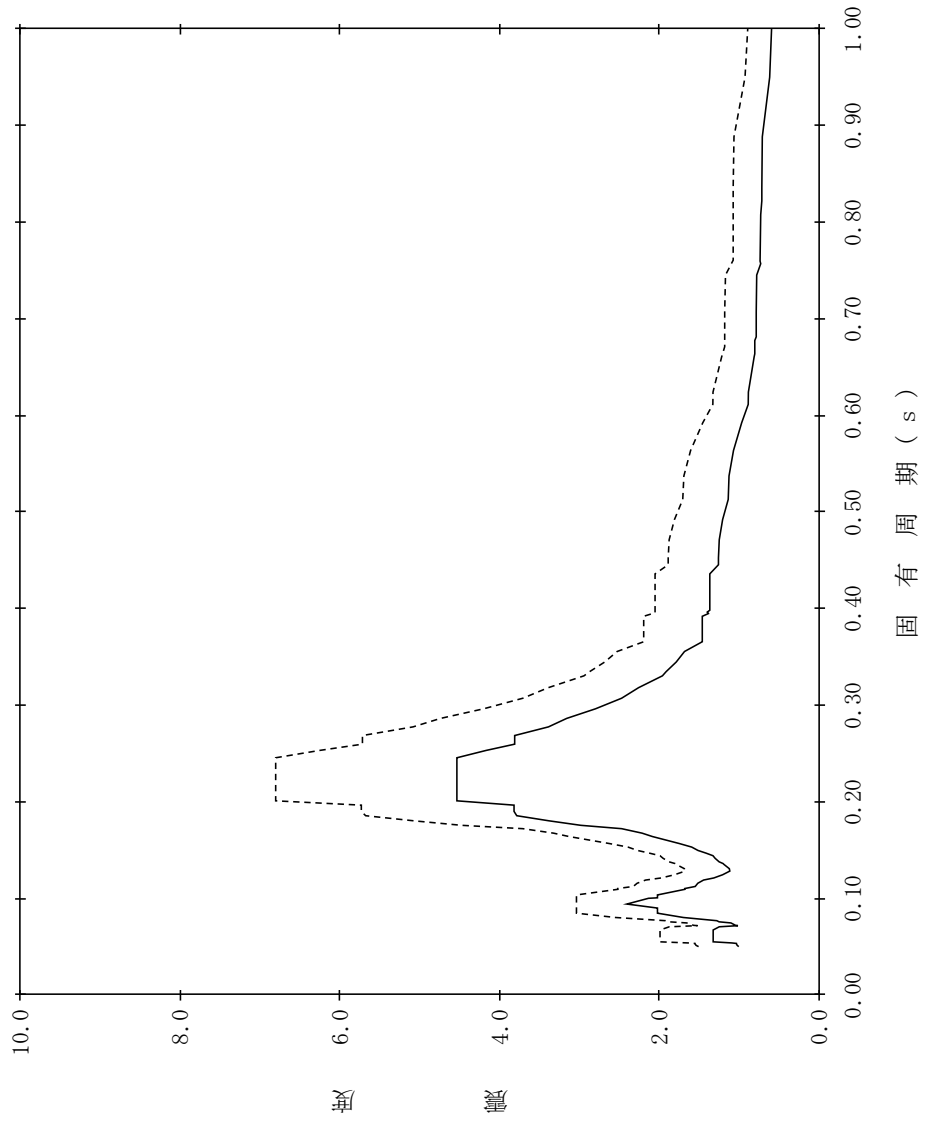
【NS2-RB-SdNS-RB52】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



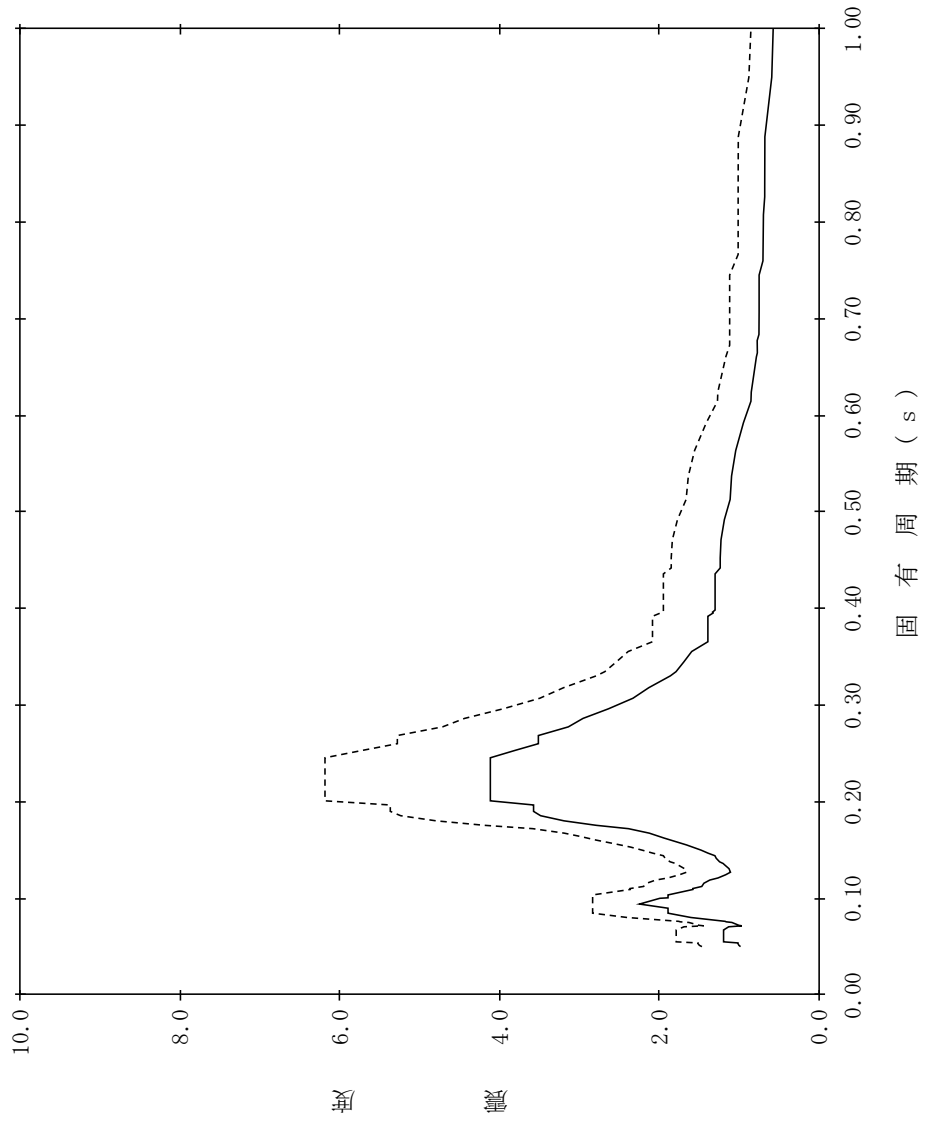
【NS2-RB-SdNS-RB53】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



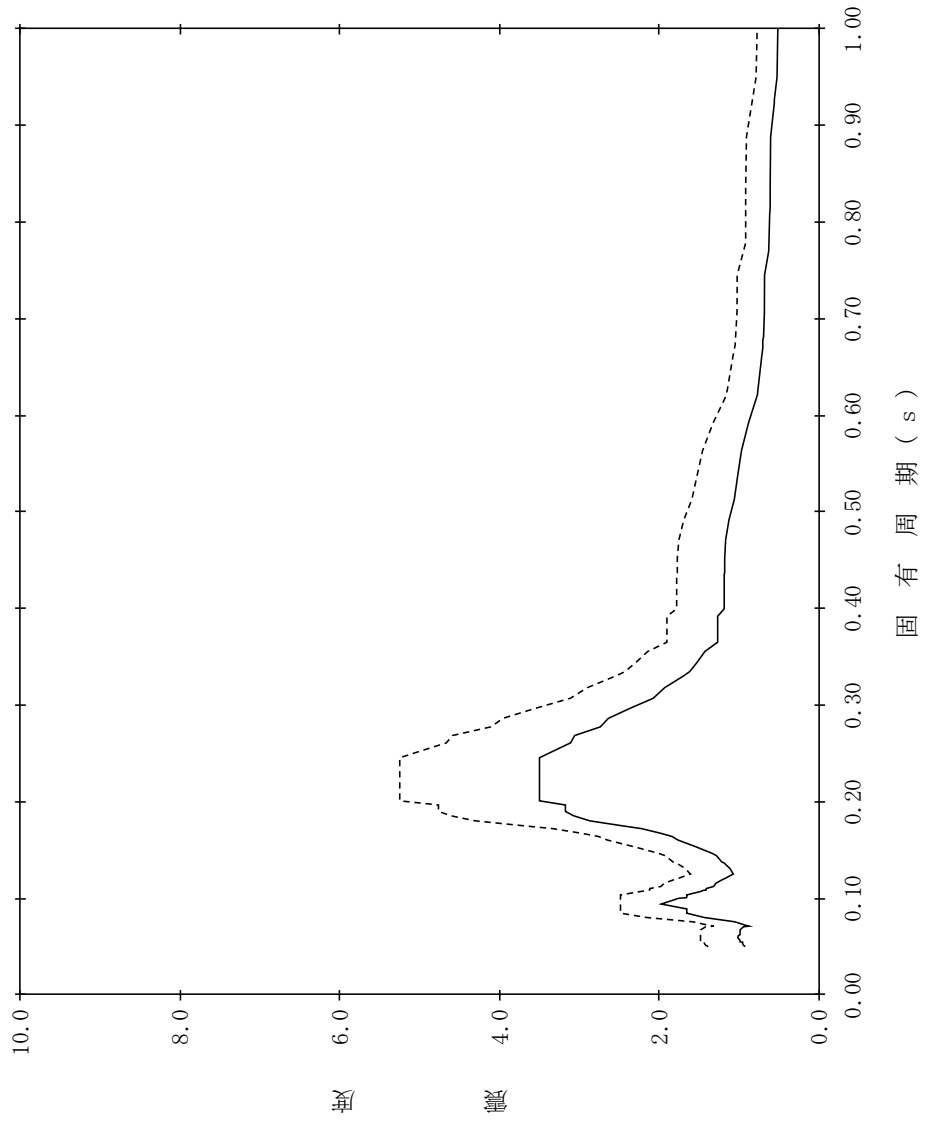
【NS2-RB-SdNS-RB54】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



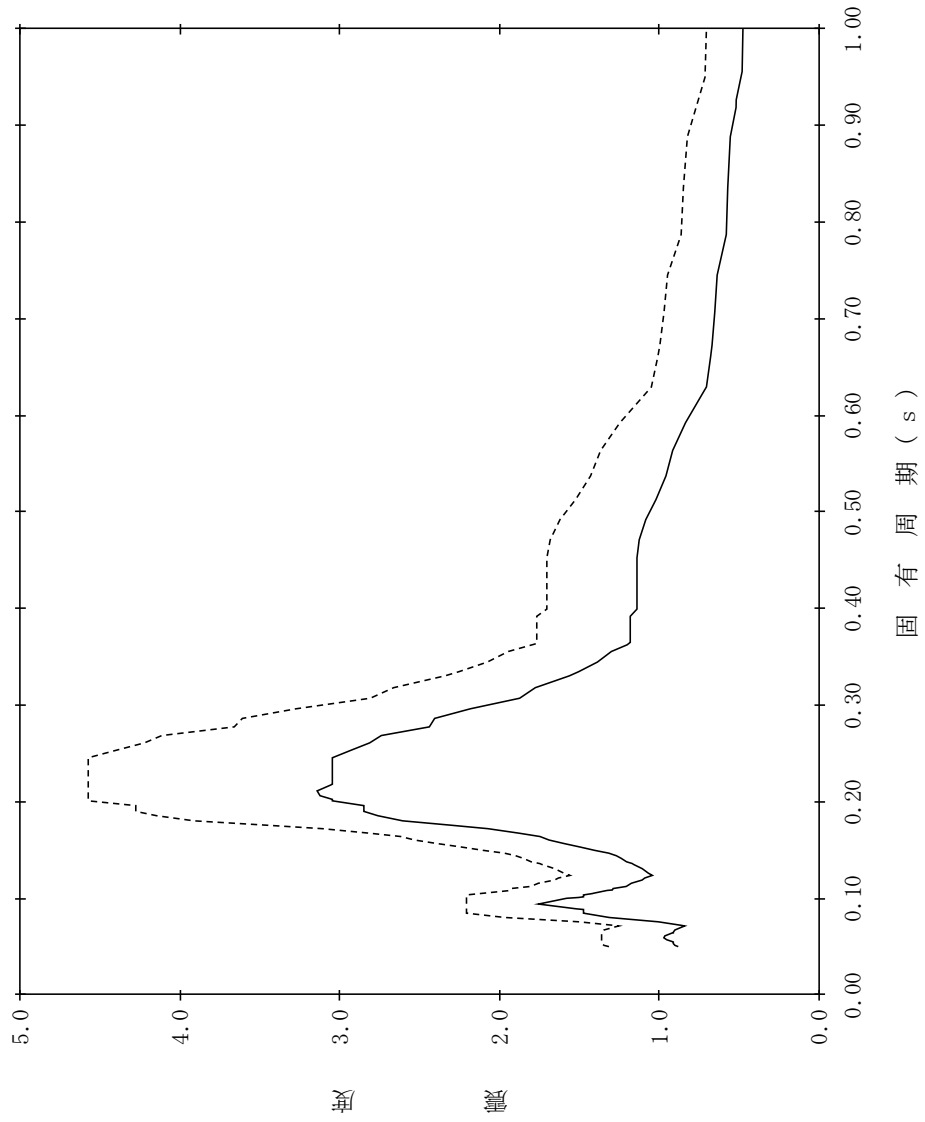
【NS2-RB-SdNS-RB55】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



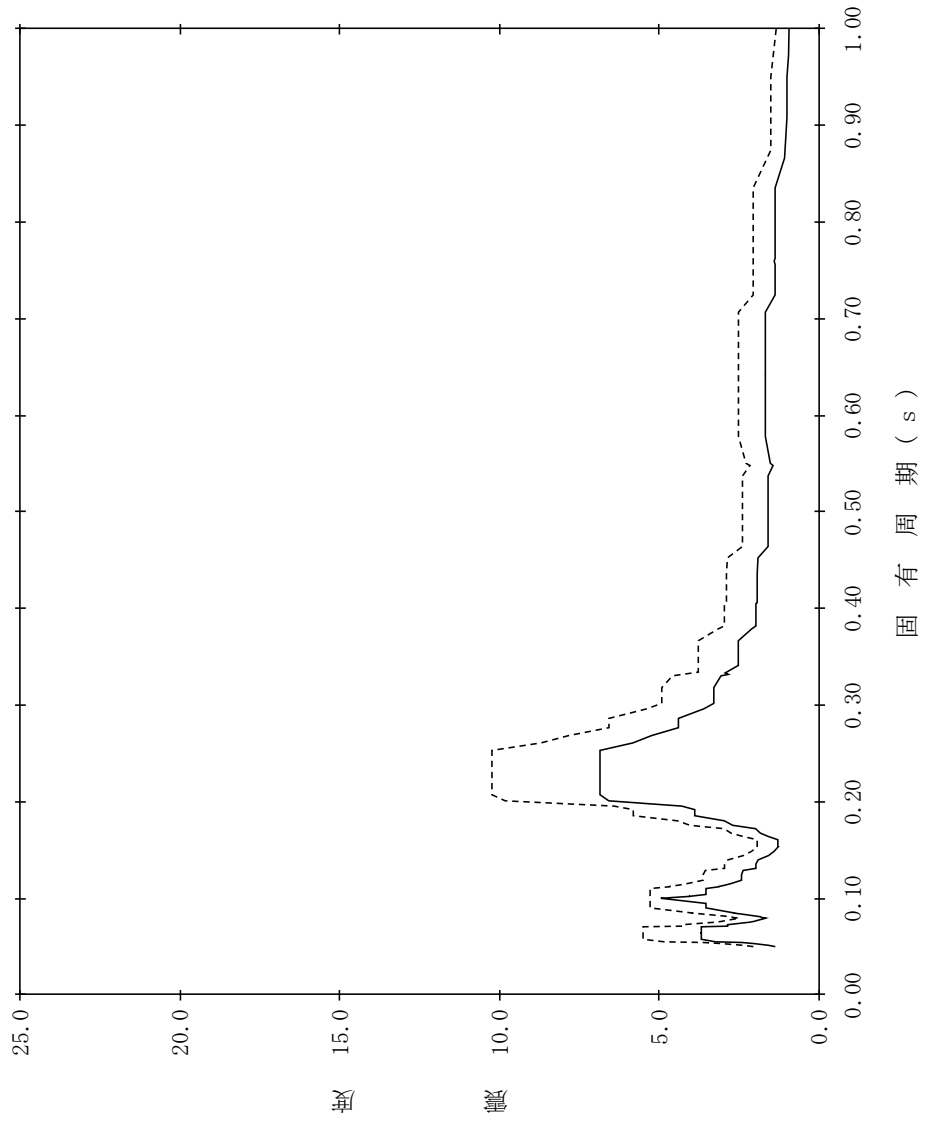
【NS2-RB-SdNS-RB56】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

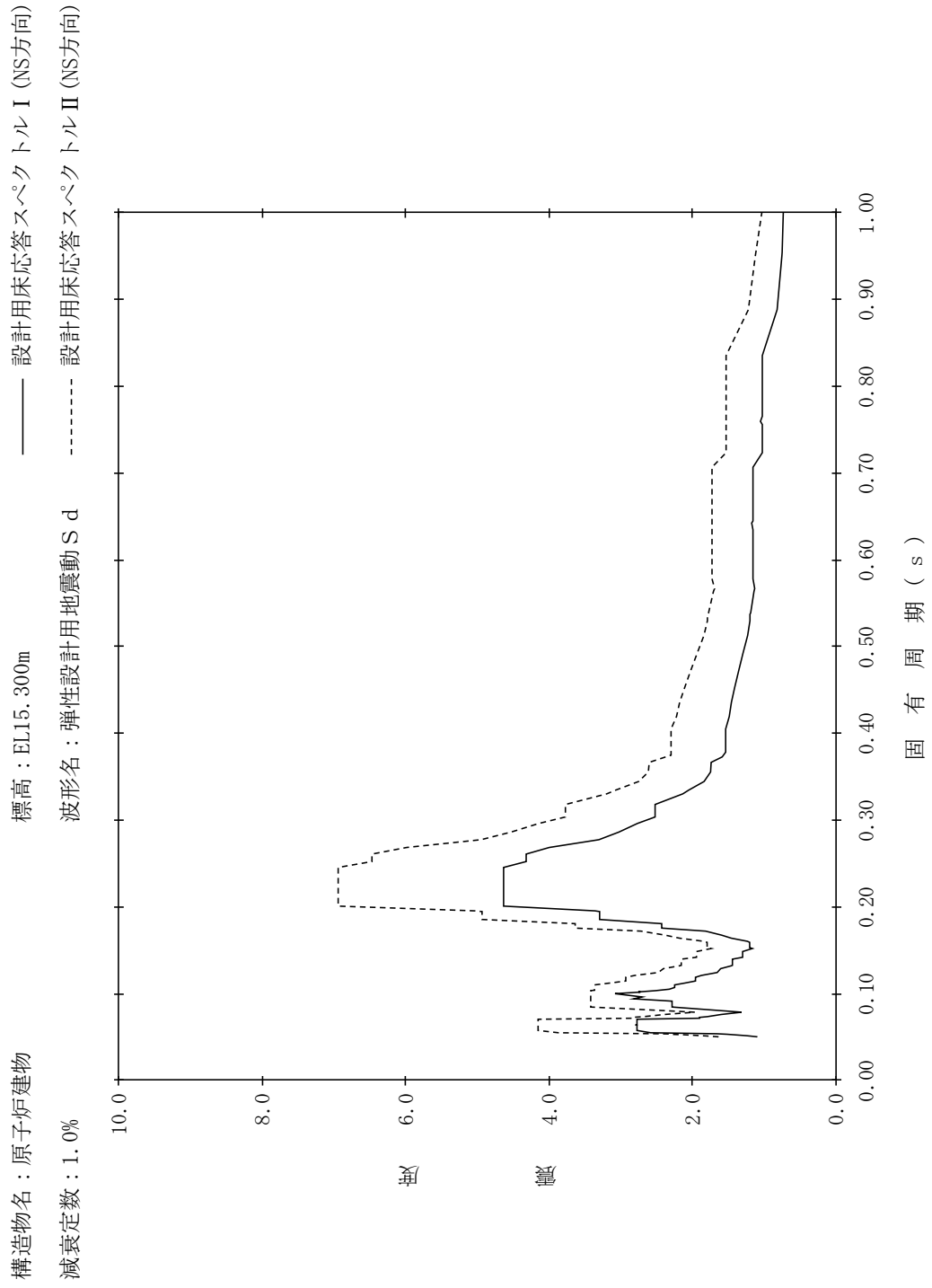


【NS2-RB-SdNS-RB57】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

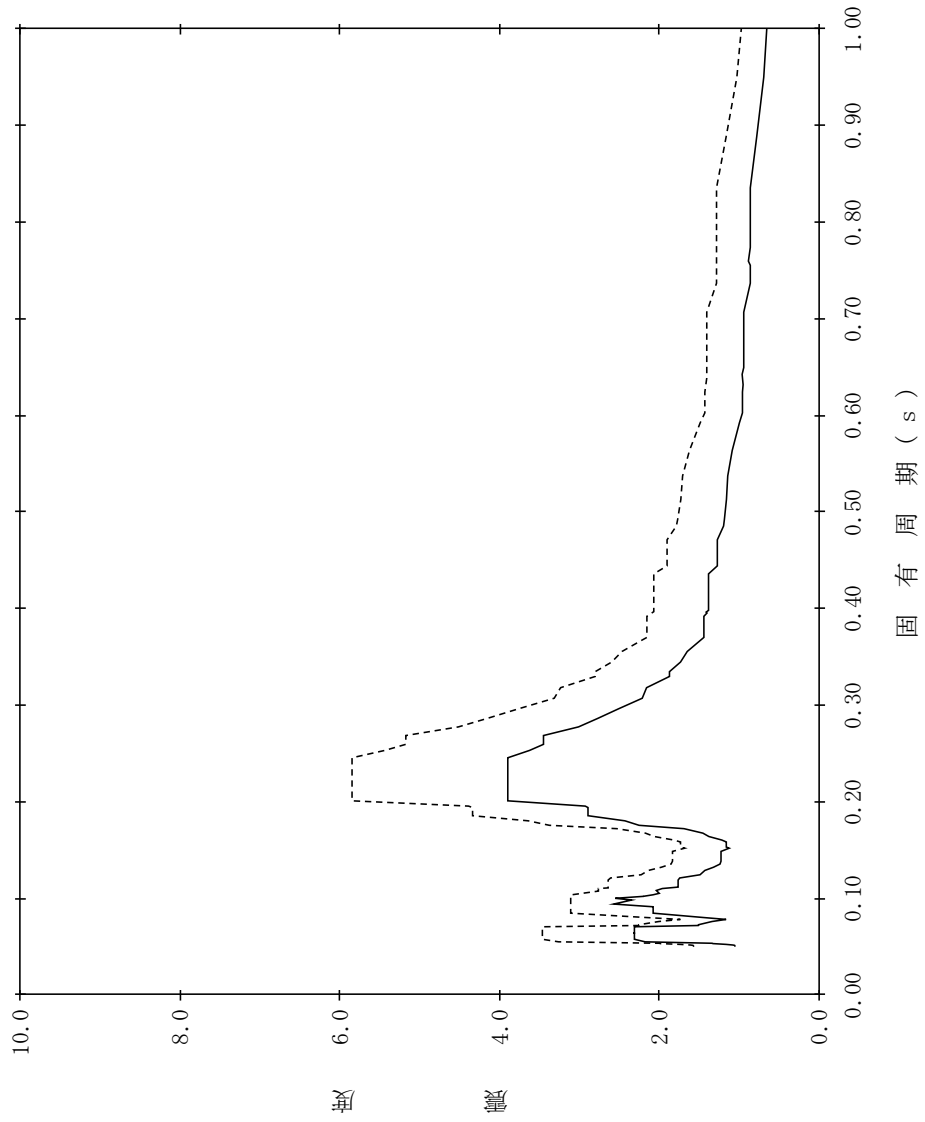


【NS2-RB-SdNS-RB58】



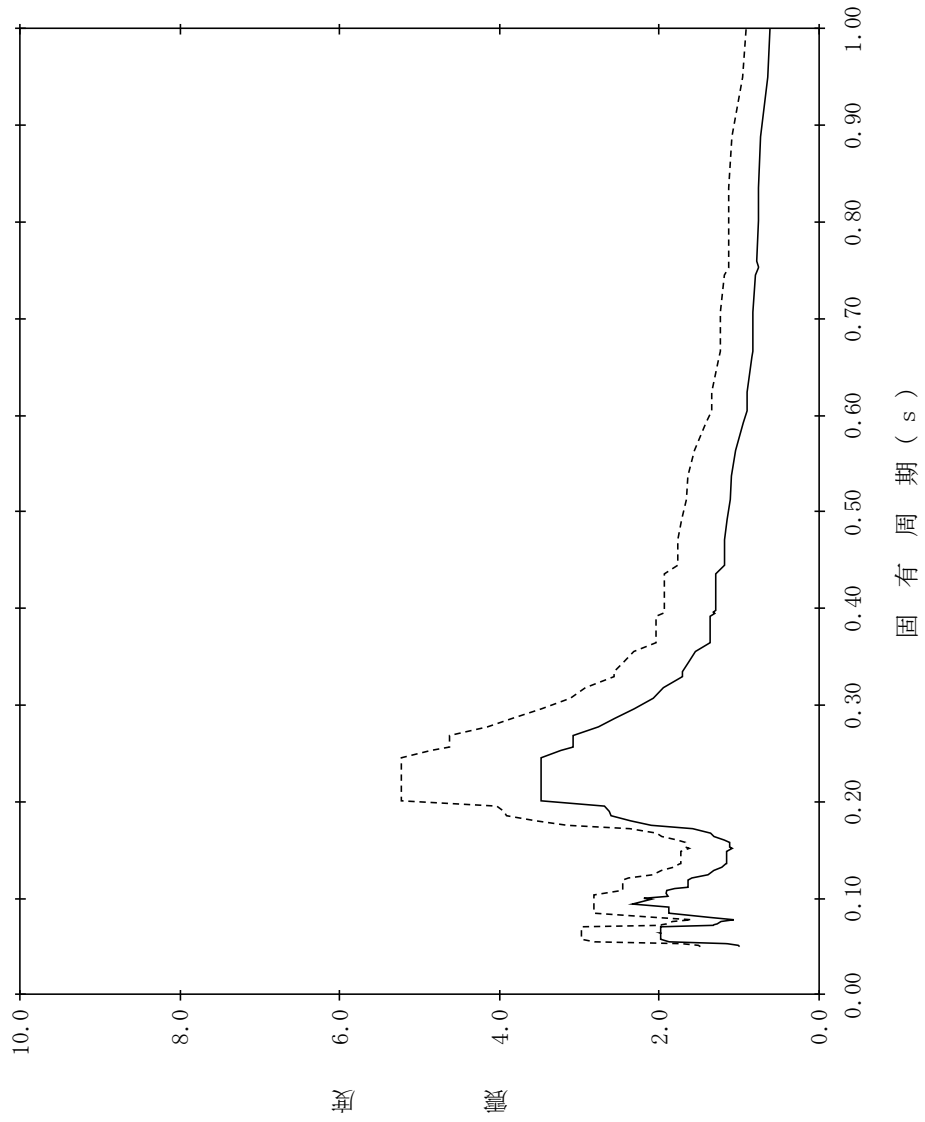
【NS2-RB-SdNS-RB59】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



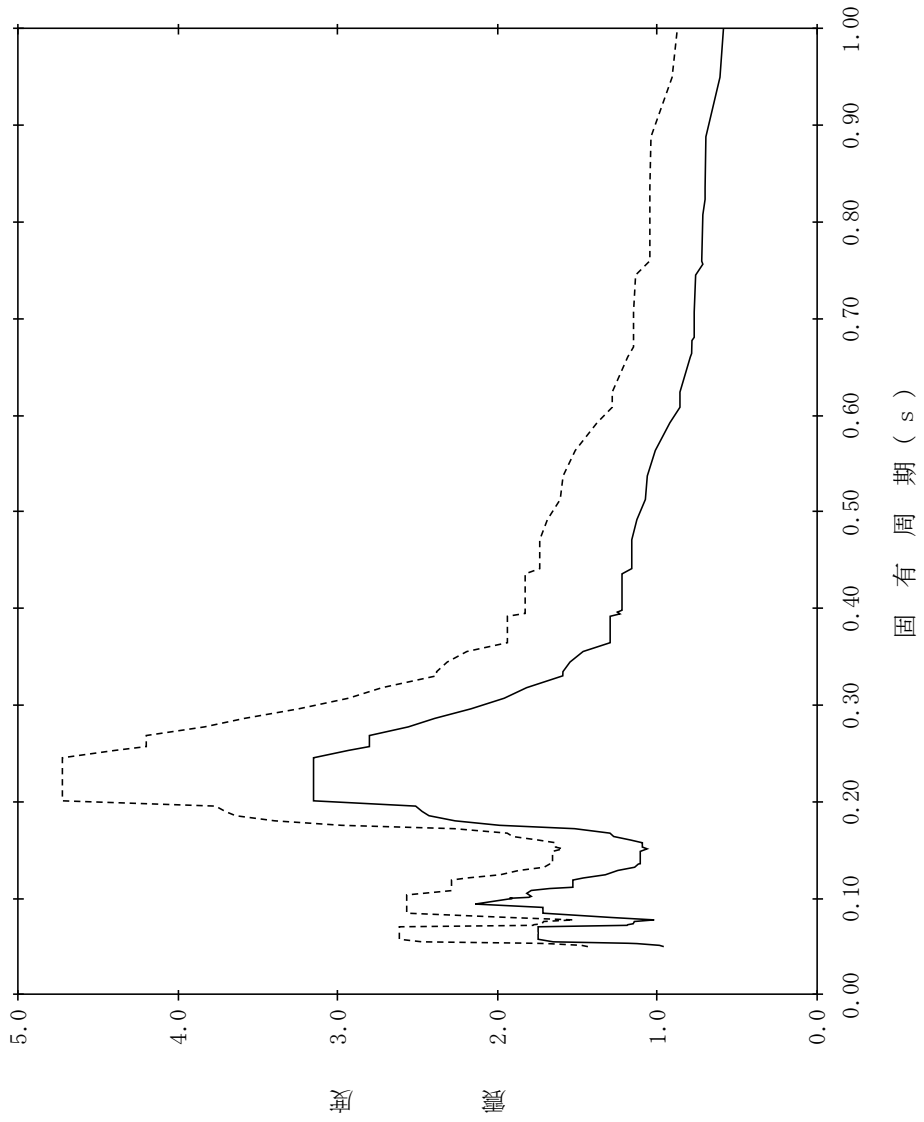
【NS2-RB-SdNS-RB60】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



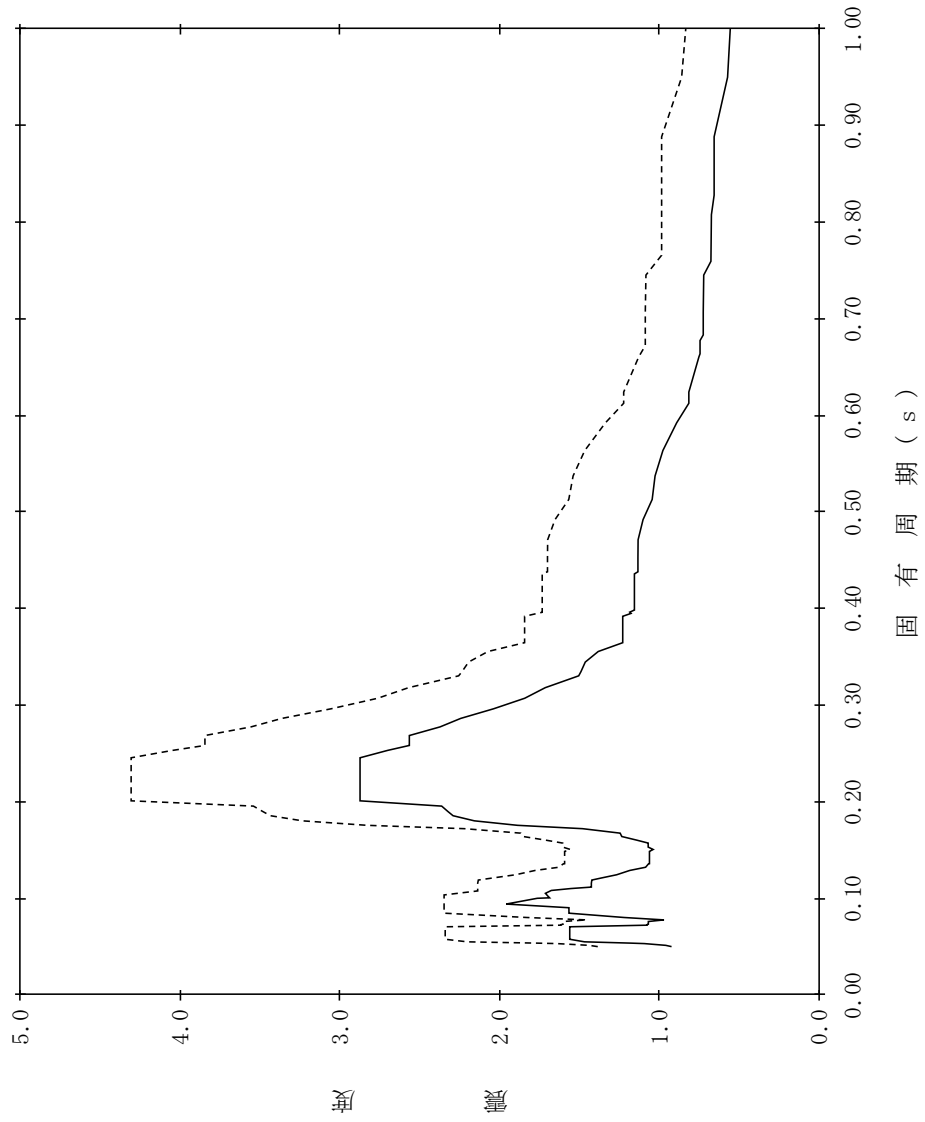
【NS2-RB-SdNS-RB61】

構造物名：原子炉建物
 減衰定数：2.5%
 標高：EL15.300m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



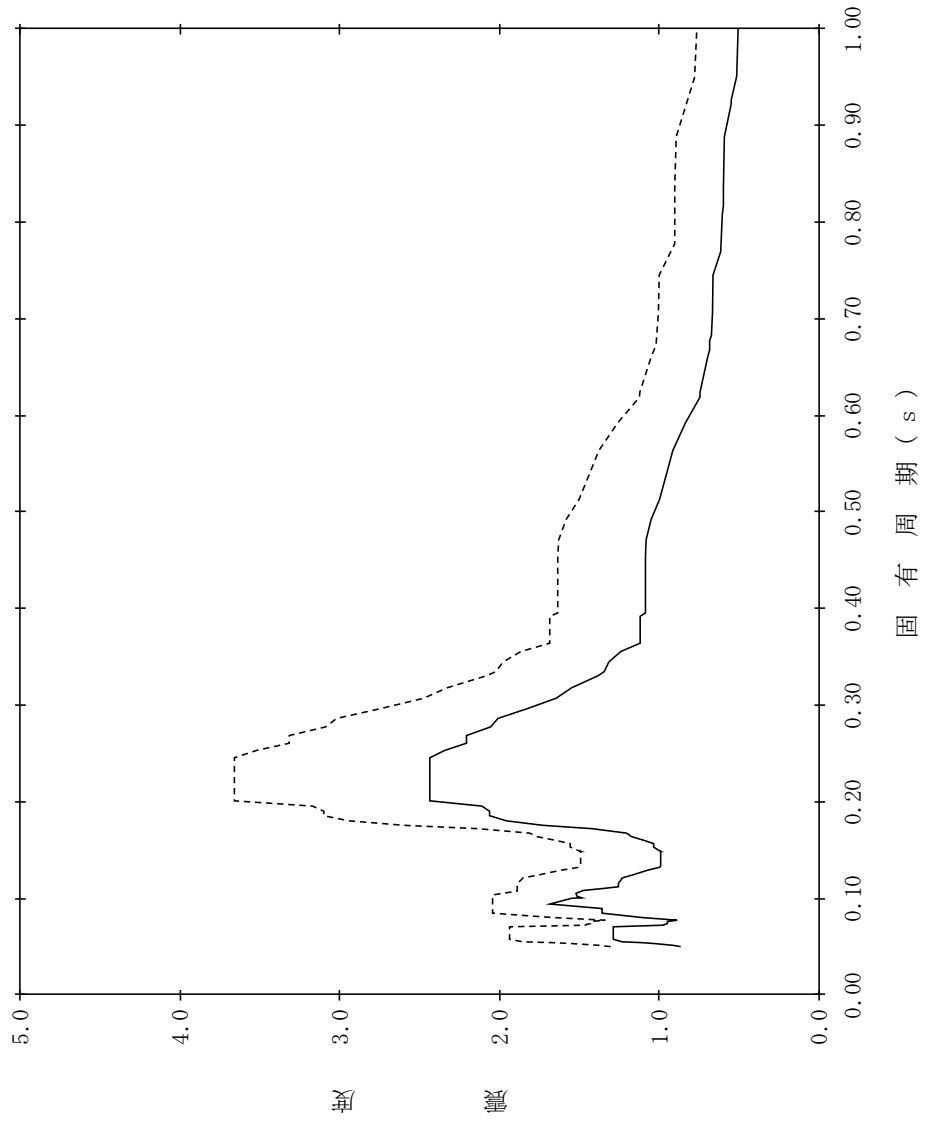
【NS2-RB-SdNS-RB62】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



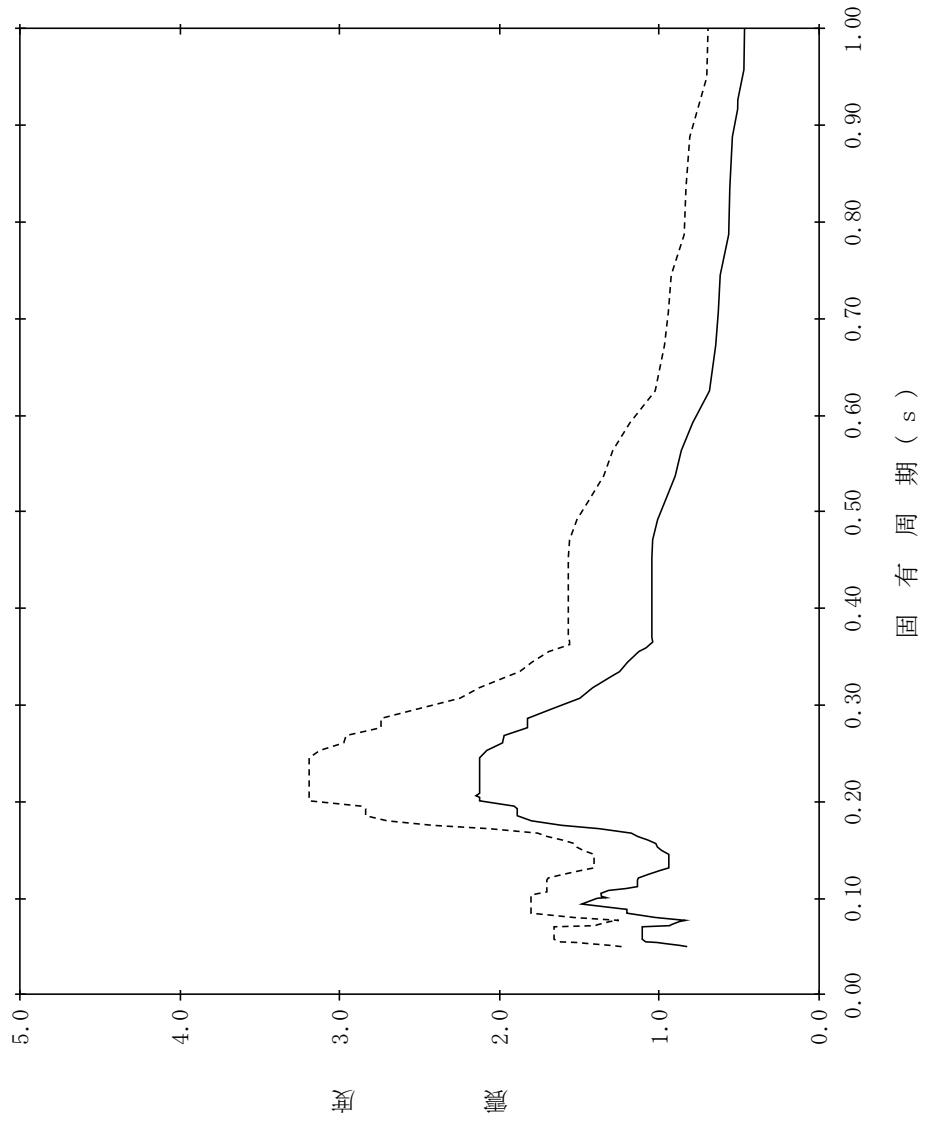
【NS2-RB-SdNS-RB63】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



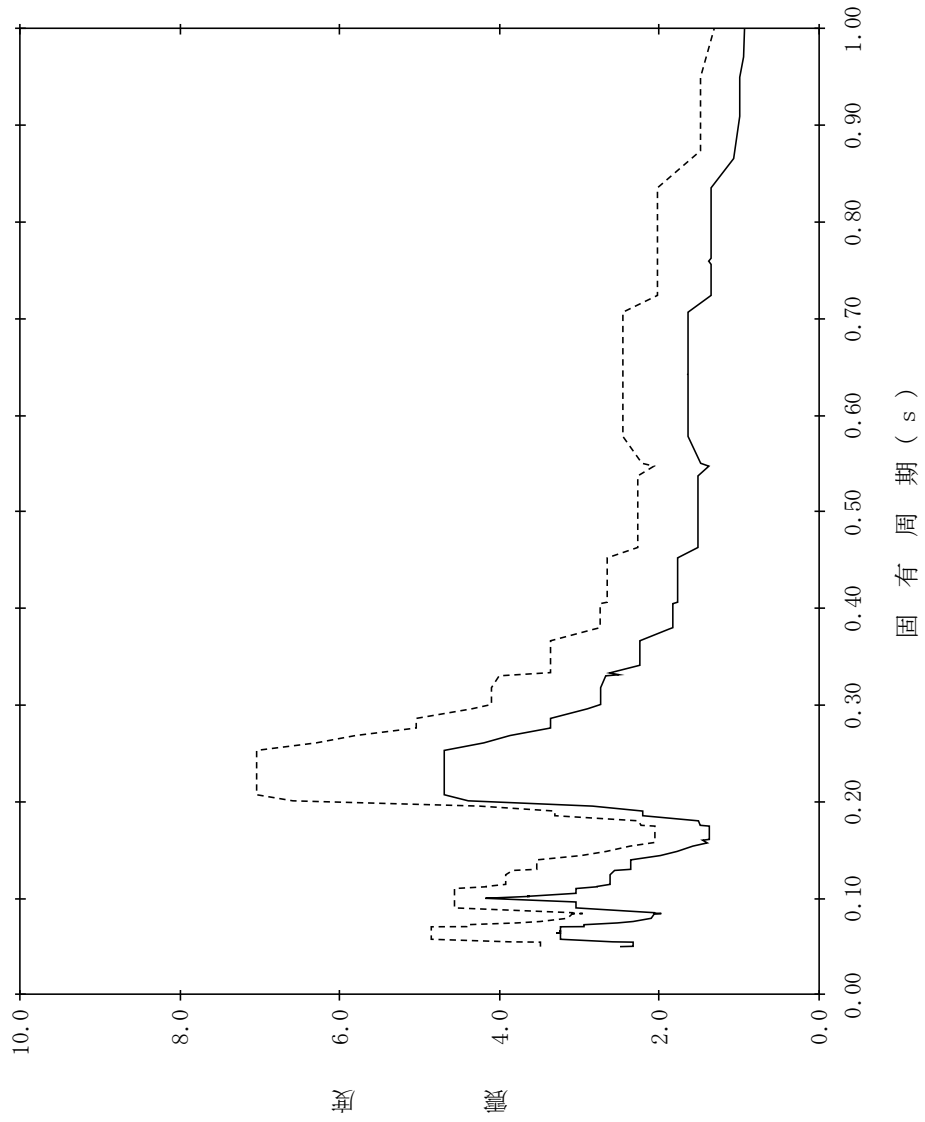
【NS2-RB-SdNS-RB64】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

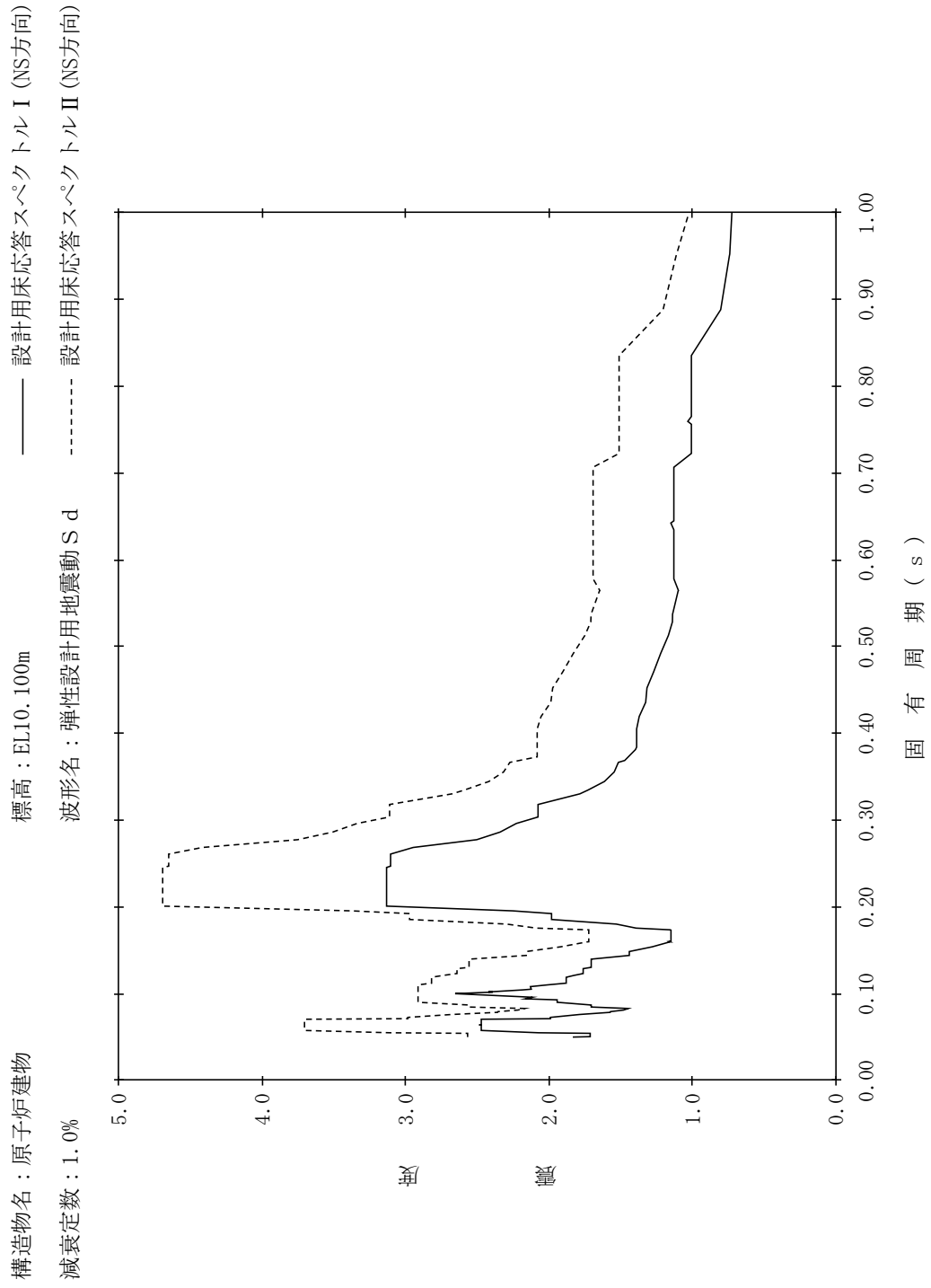


【NS2-RB-SdNS-RB65】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

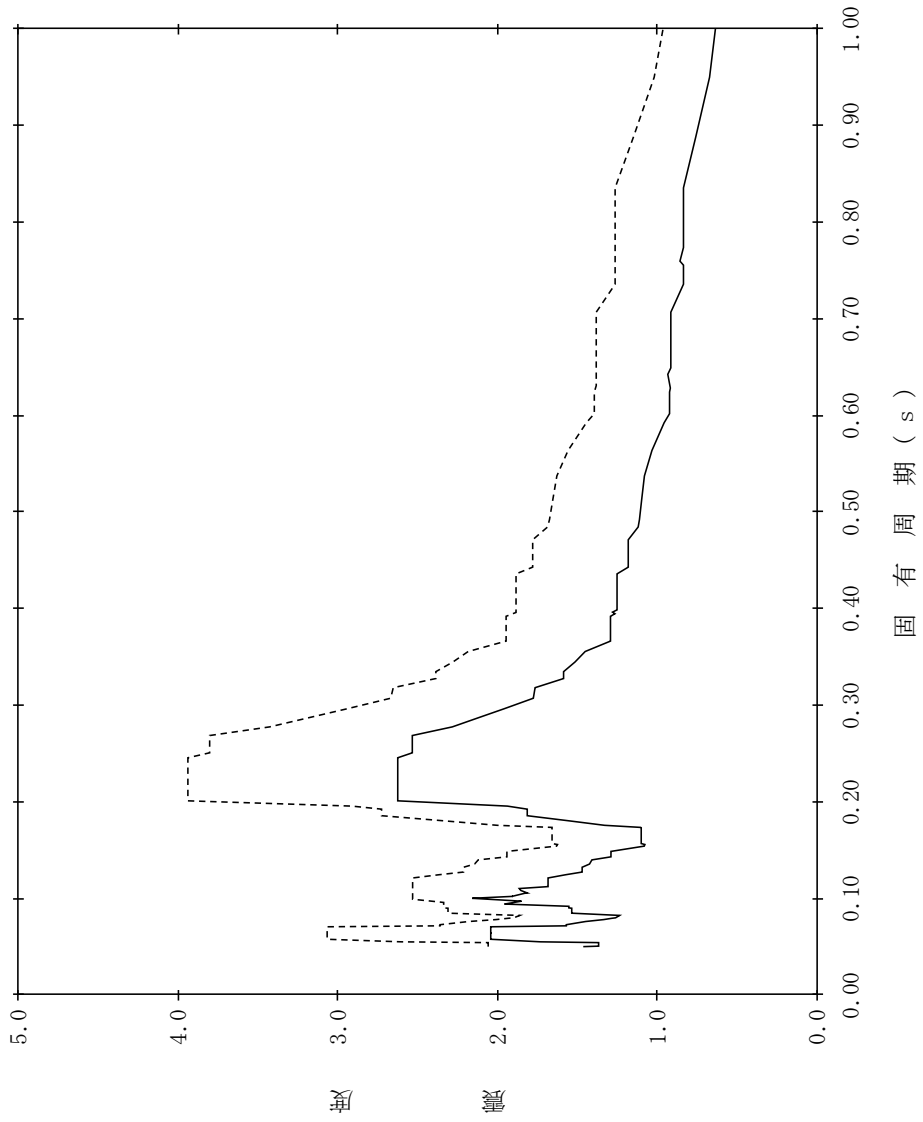


【NS2-RB-SdNS-RB66】



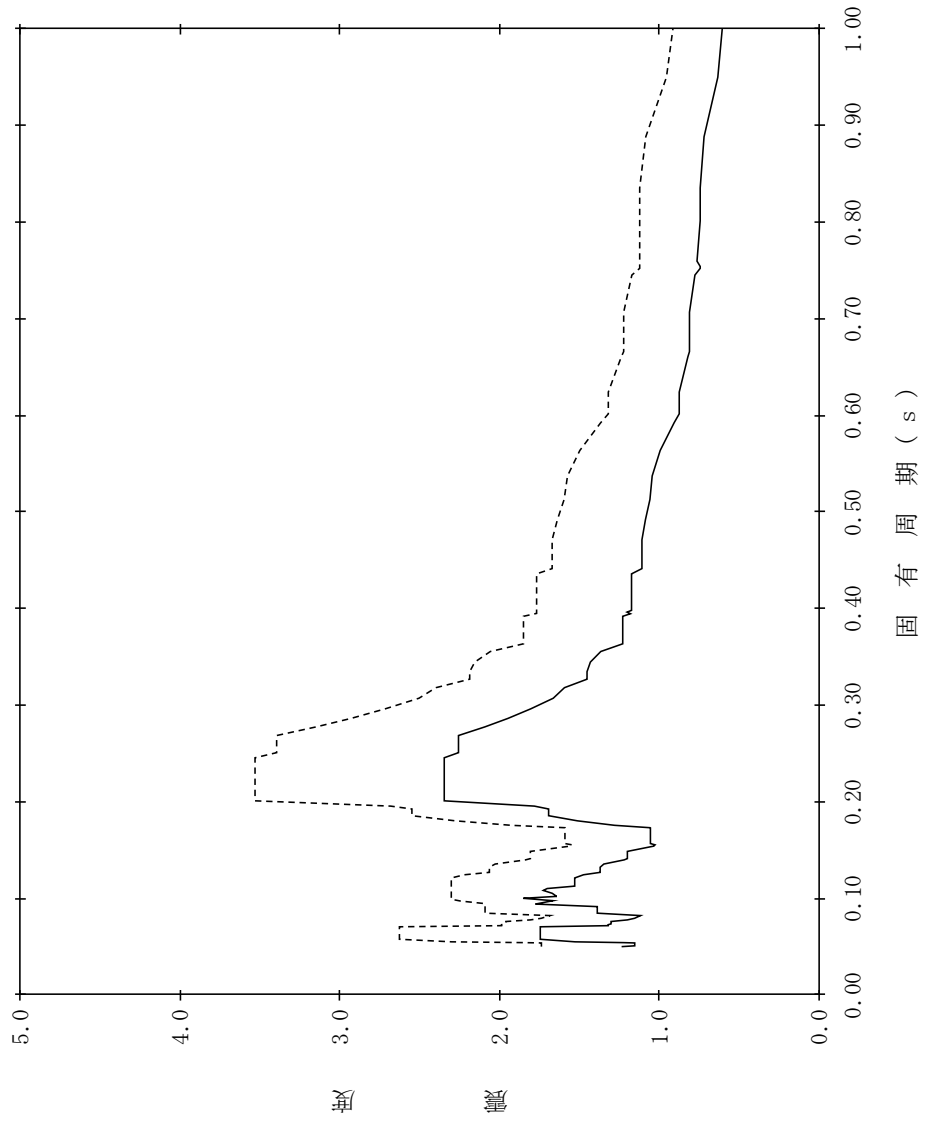
【NS2-RB-SdNS-RB67】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 トル I (NS方向)
 トル II (NS方向)



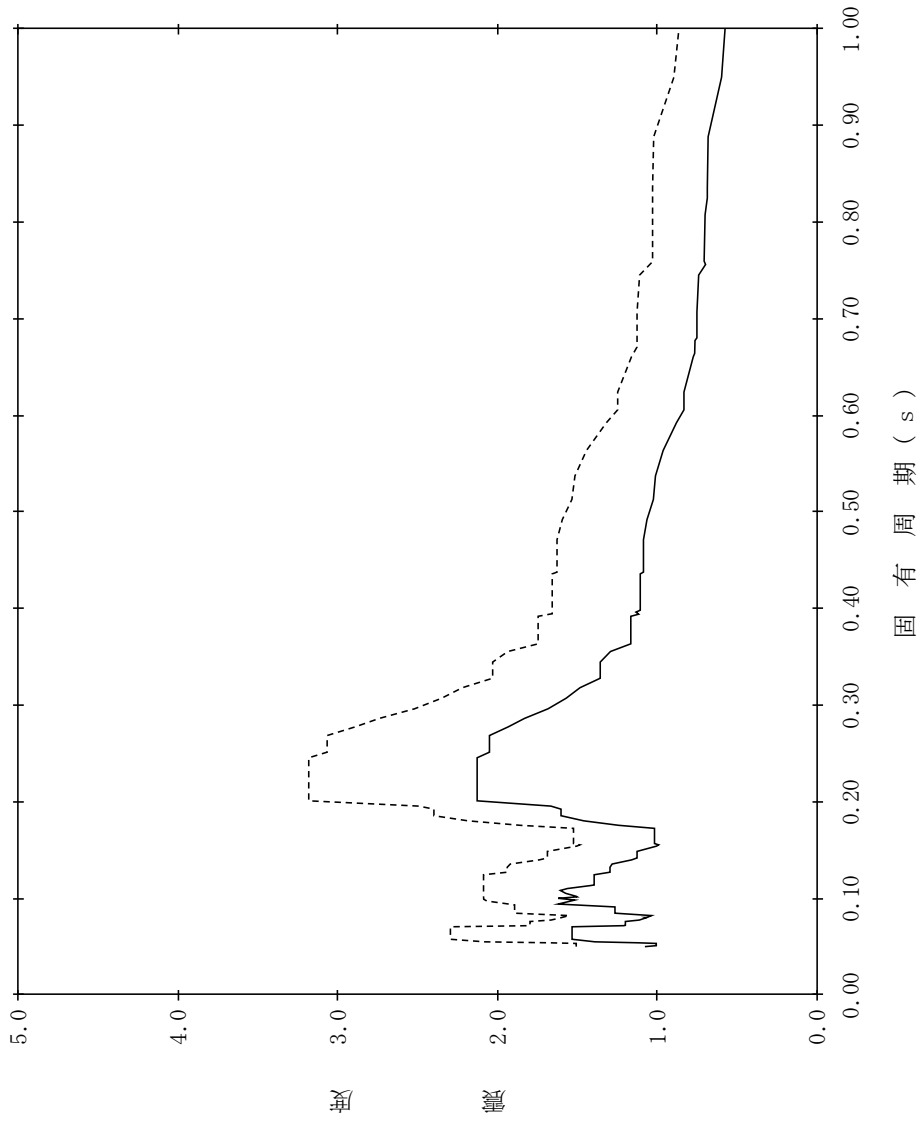
【NS2-RB-SdNS-RB68】

構造物名：原子炉建物
 減衰定数：2.0%
 標高：EL10.100m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



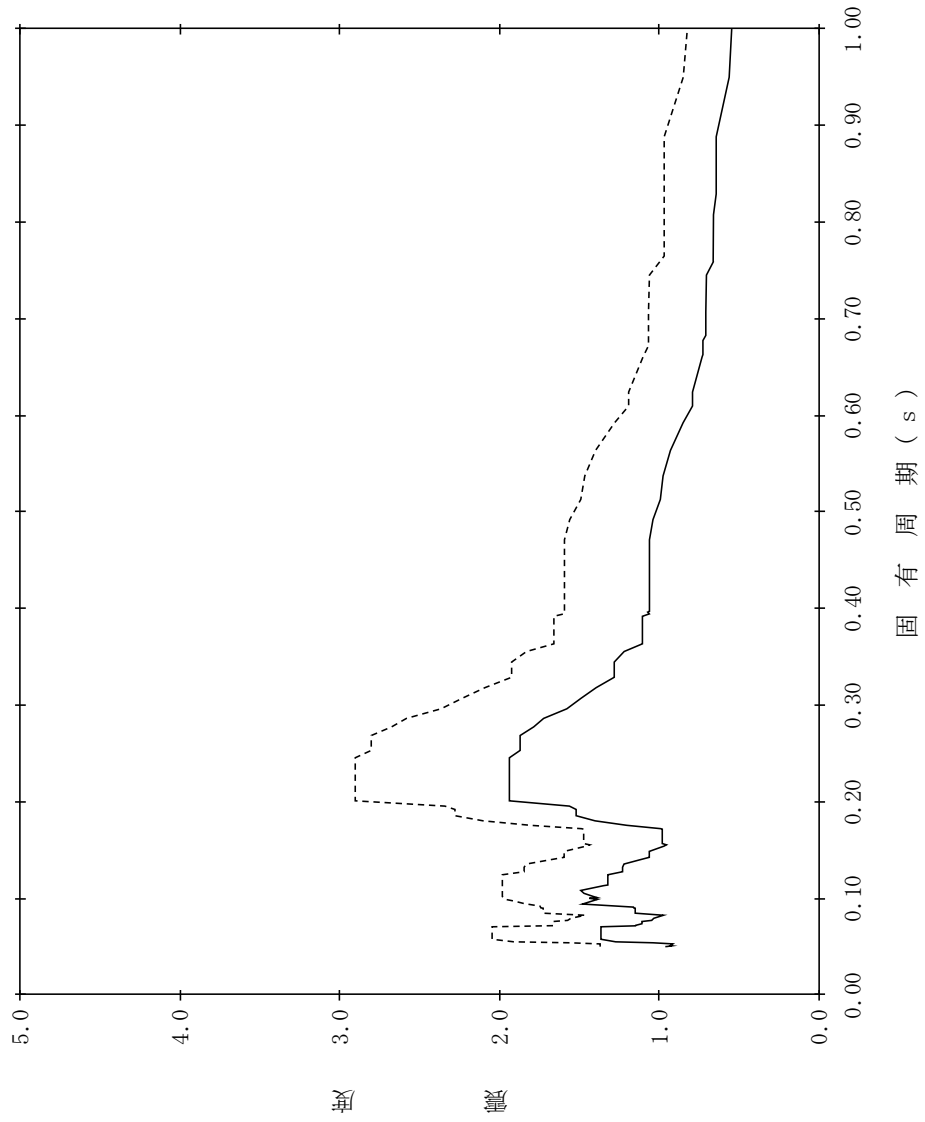
【NS2-RB-SdNS-RB69】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



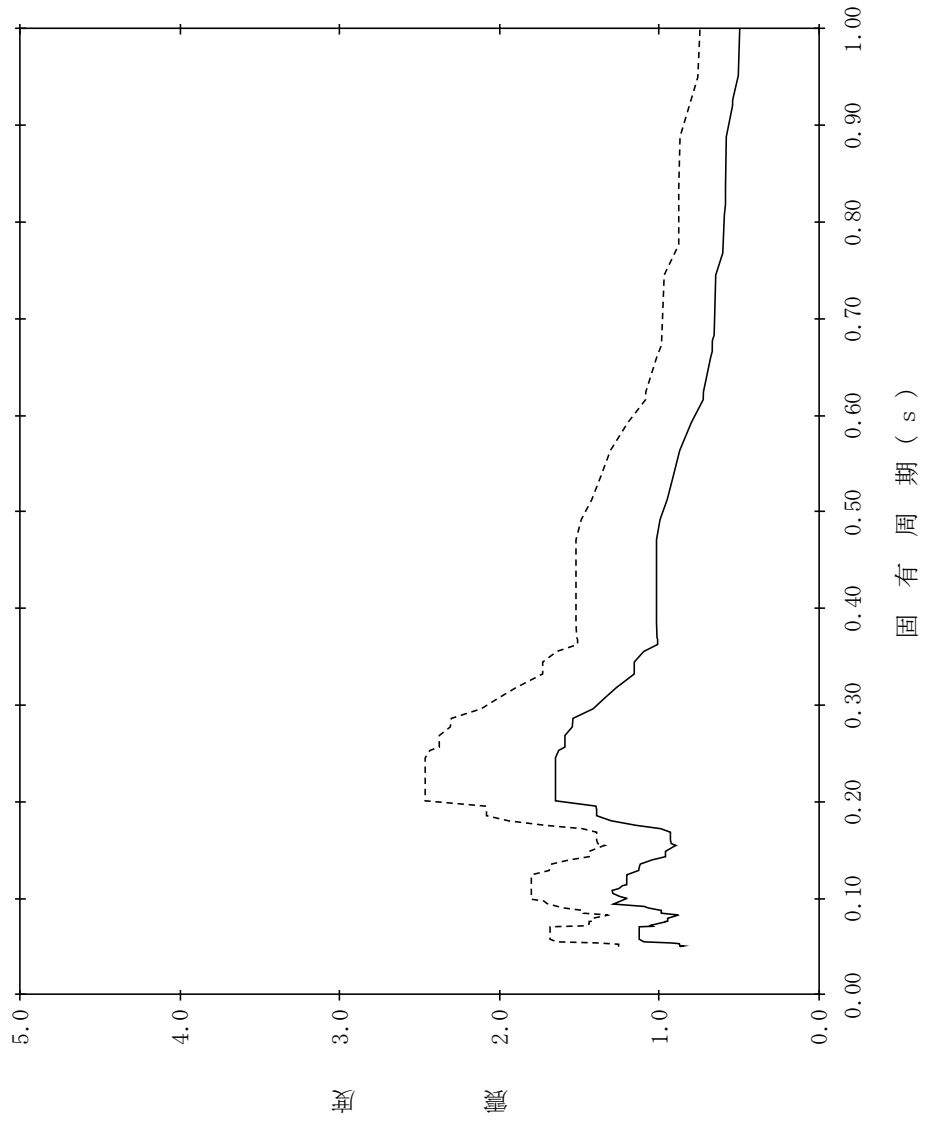
【NS2-RB-SdNS-RB70】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



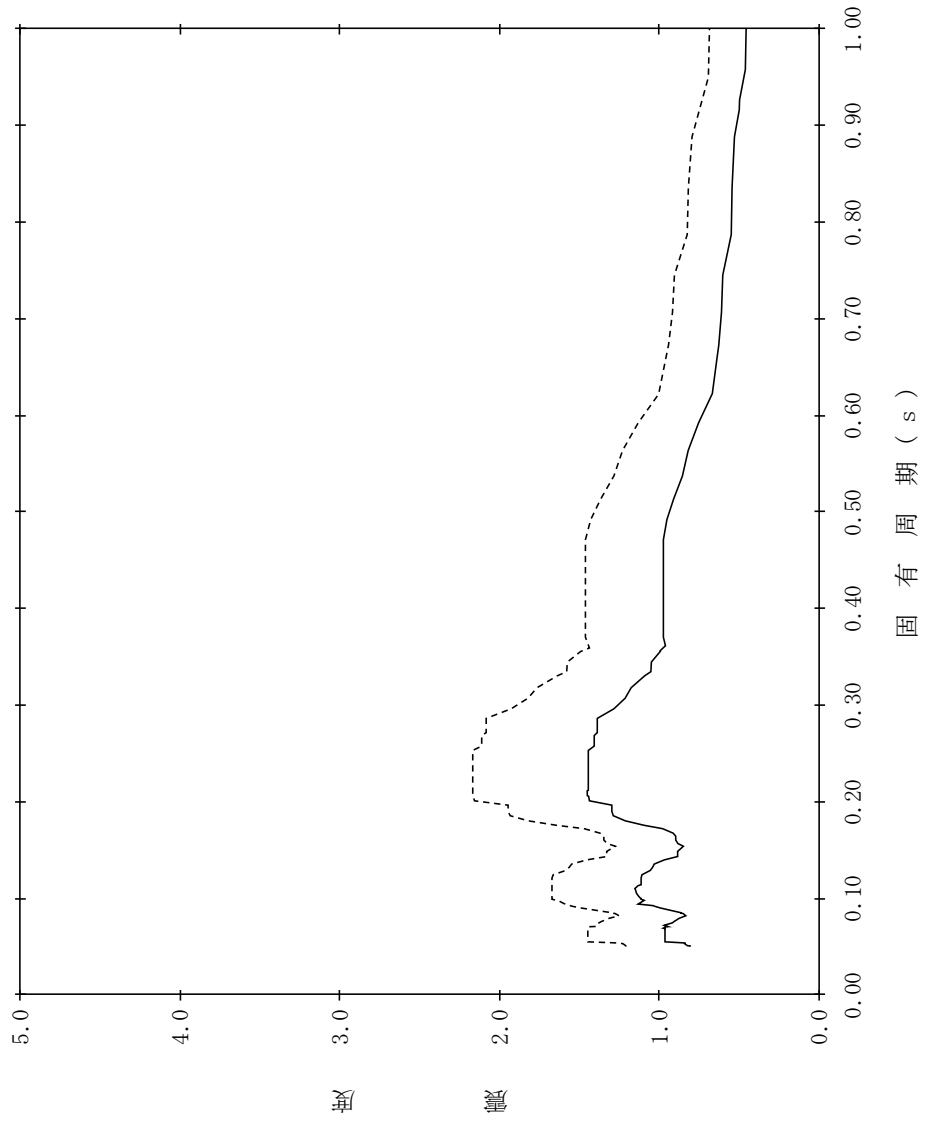
【NS2-RB-SdNS-RB71】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



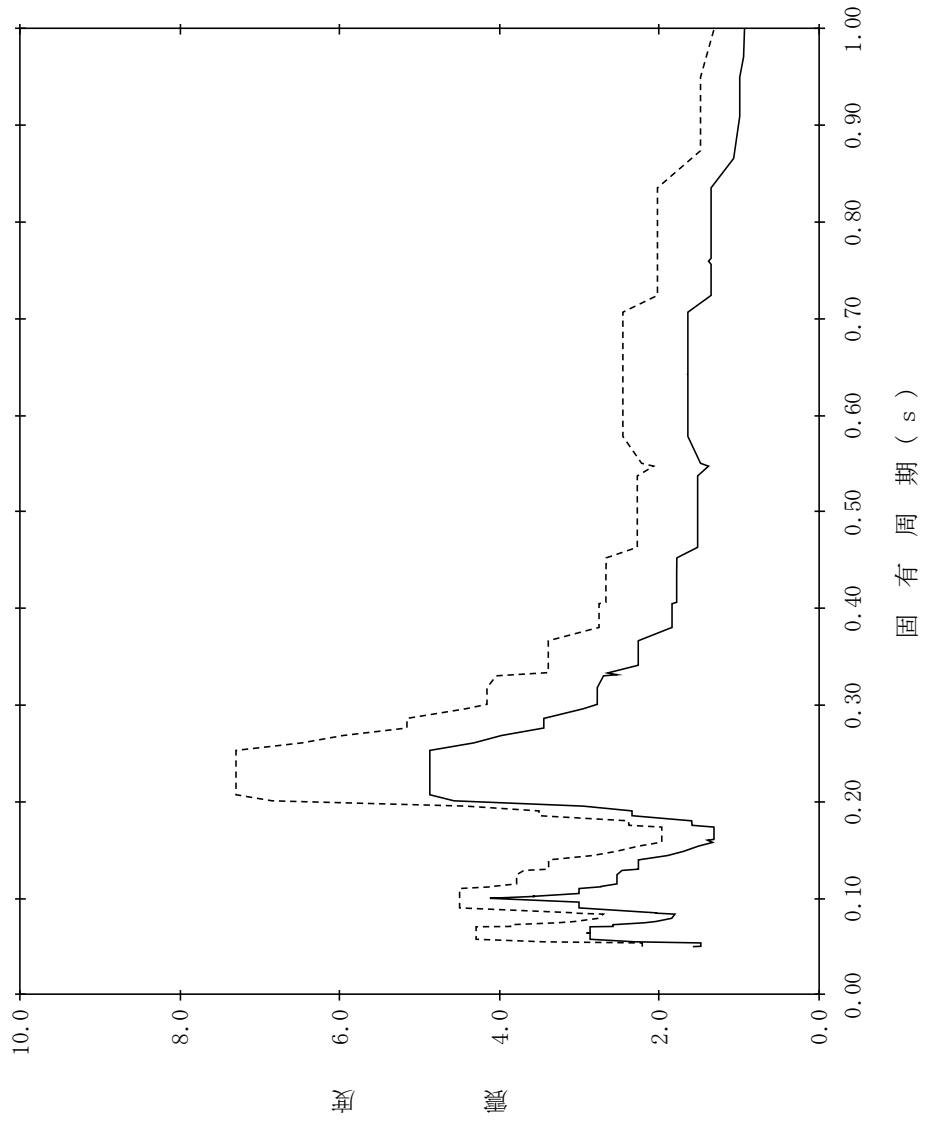
【NS2-RB-SdNS-RB72】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



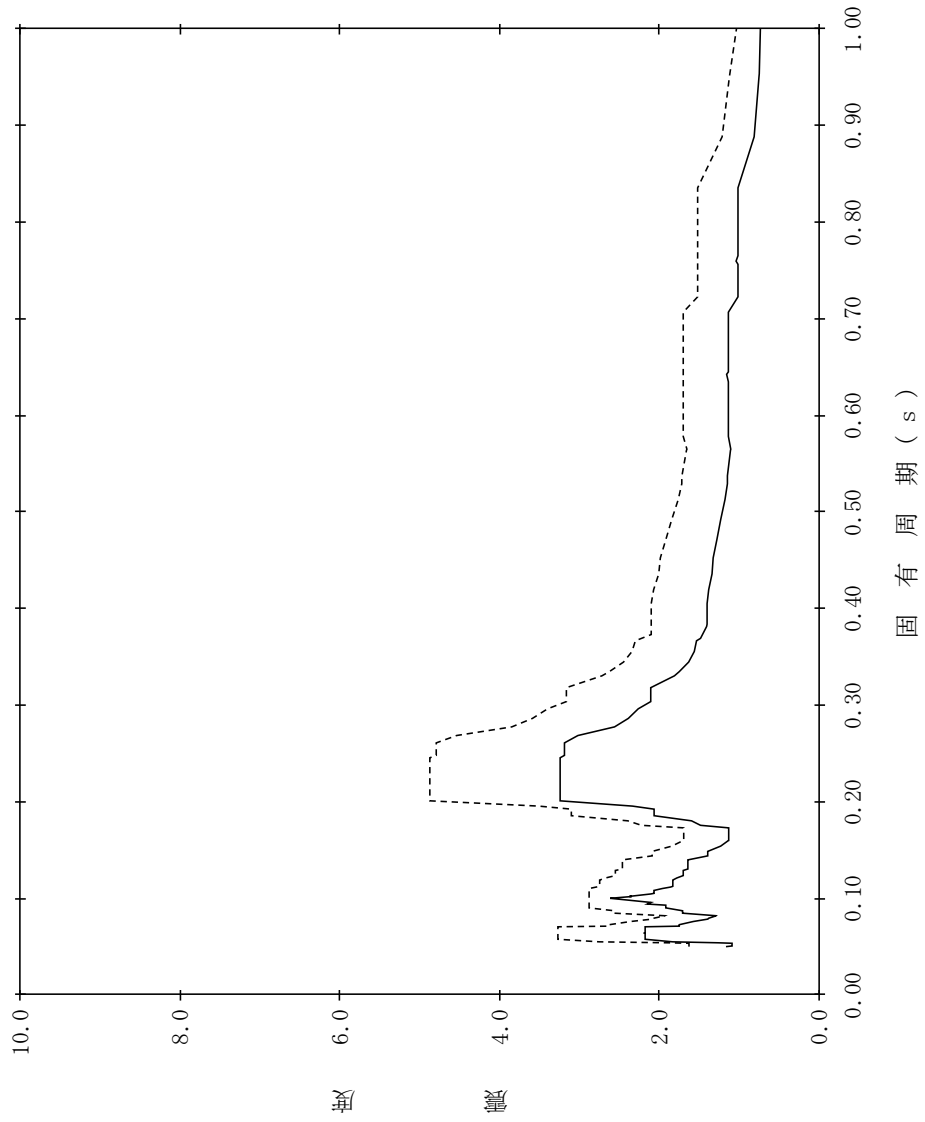
【NS2-RB-SdNS-RB73】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



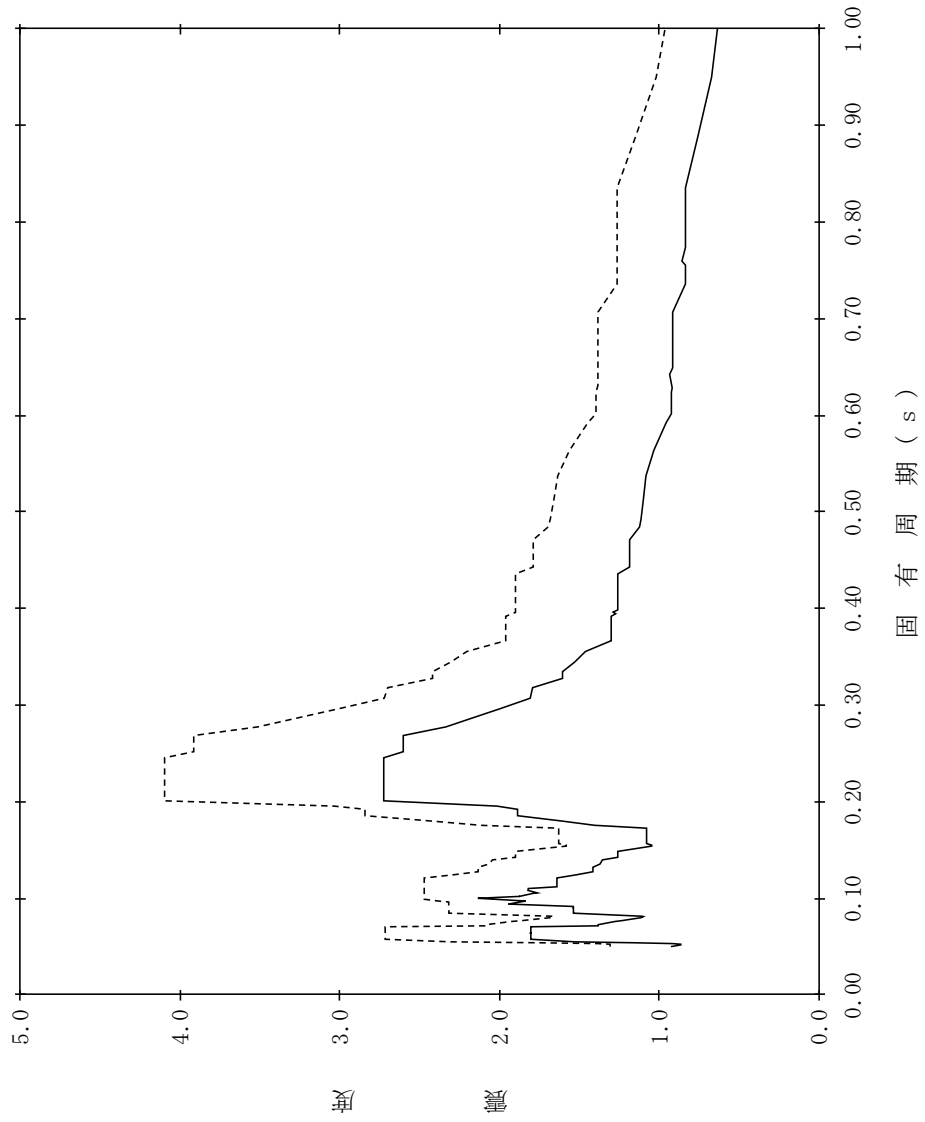
【NS2-RB-SdNS-RB74】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

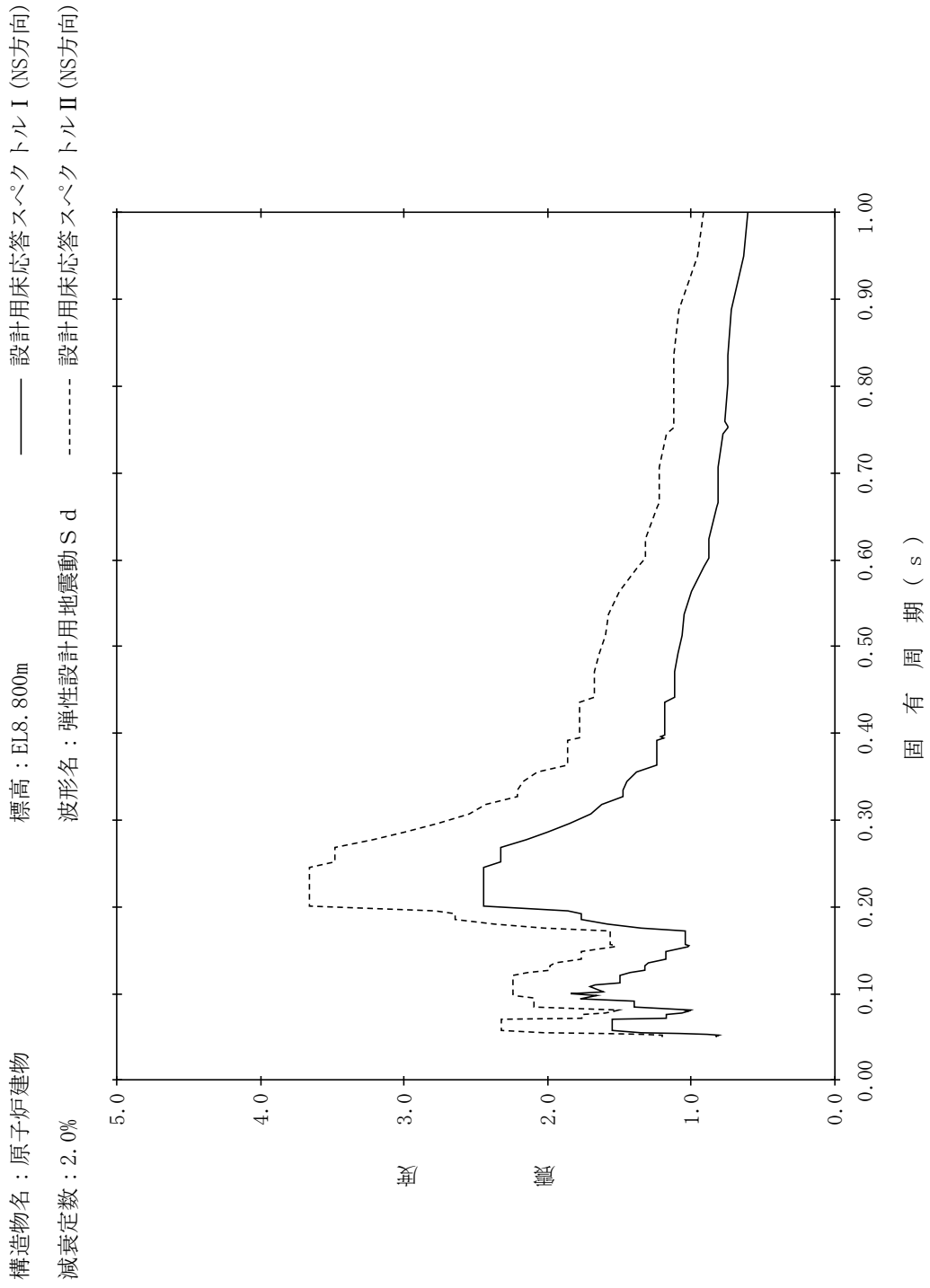


【NS2-RB-SdNS-RB75】

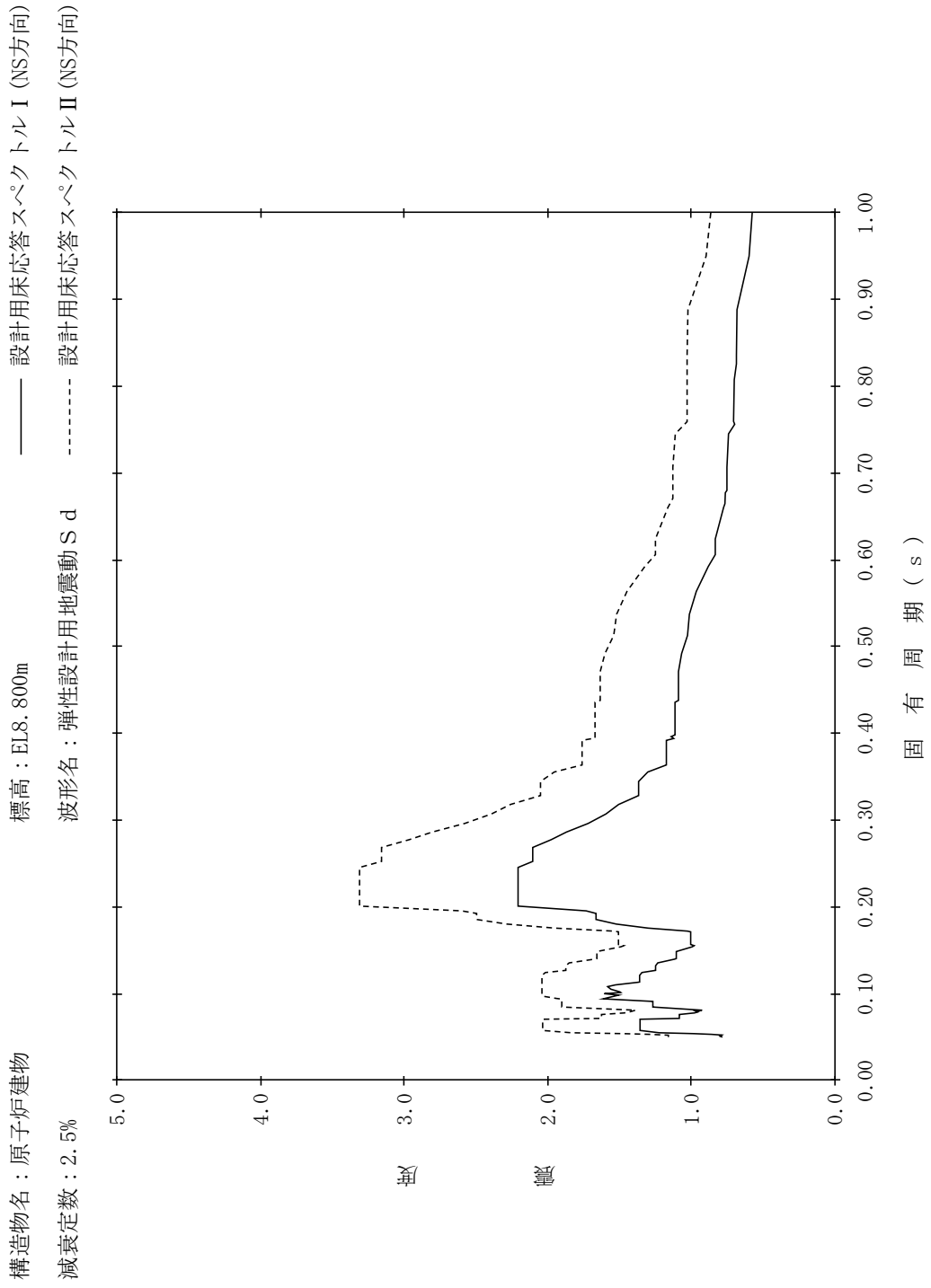
構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-RB-SdNS-RB76】

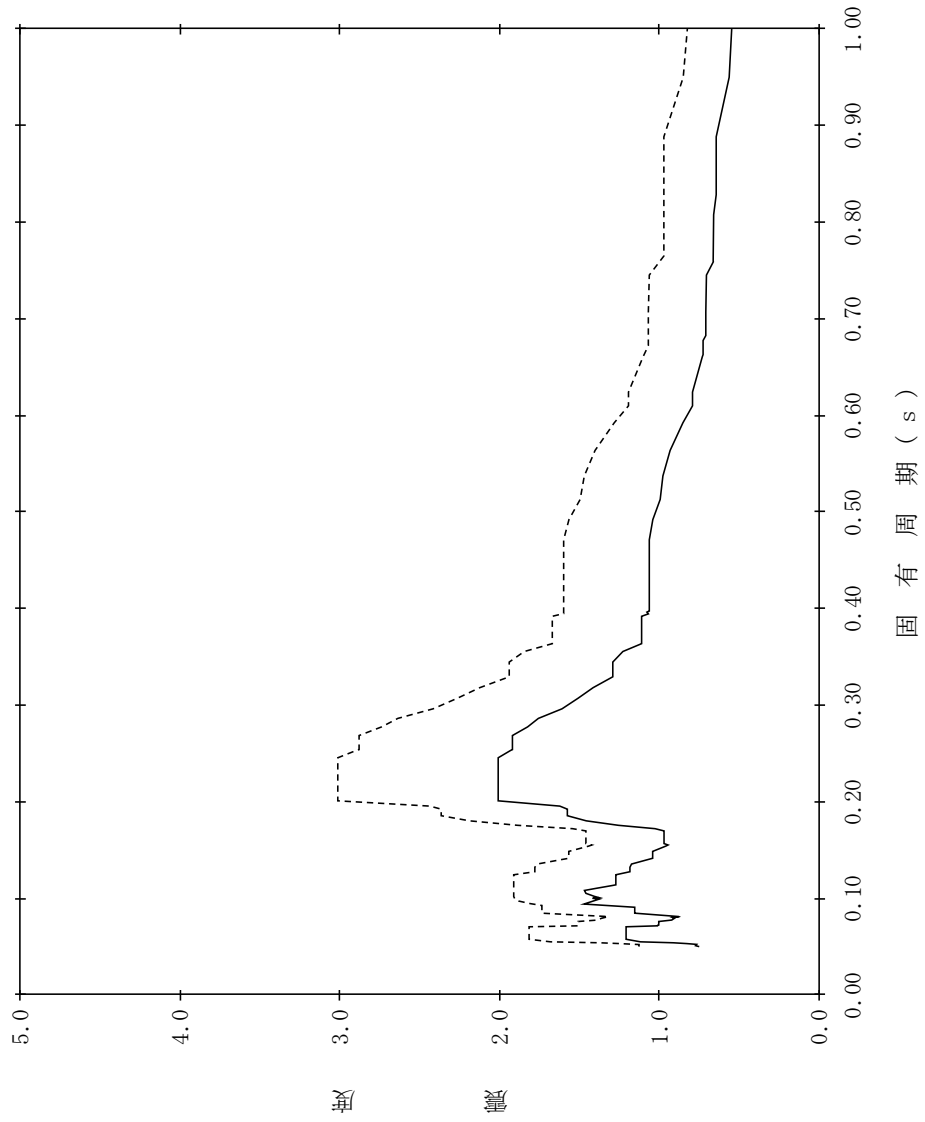


【NS2-RB-SdNS-RB77】



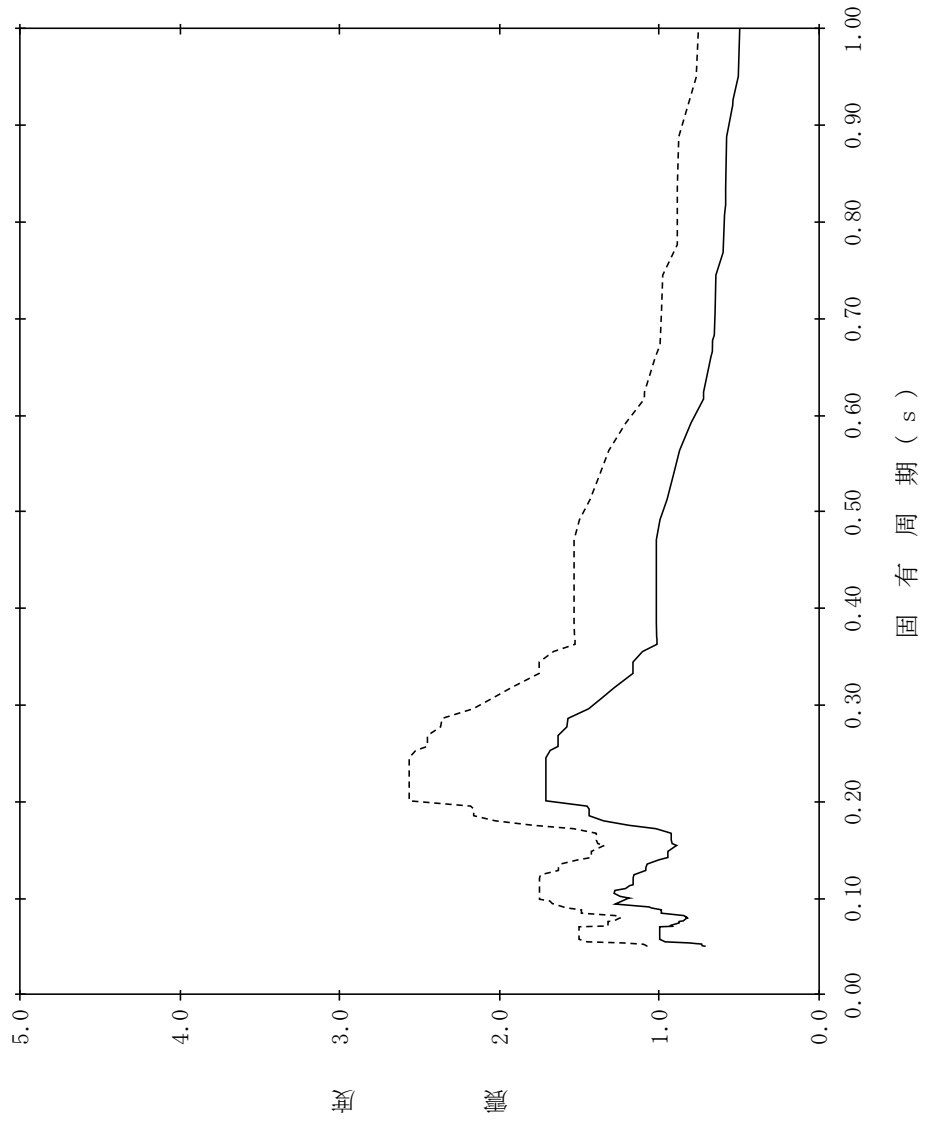
【NS2-RB-SdNS-RB78】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



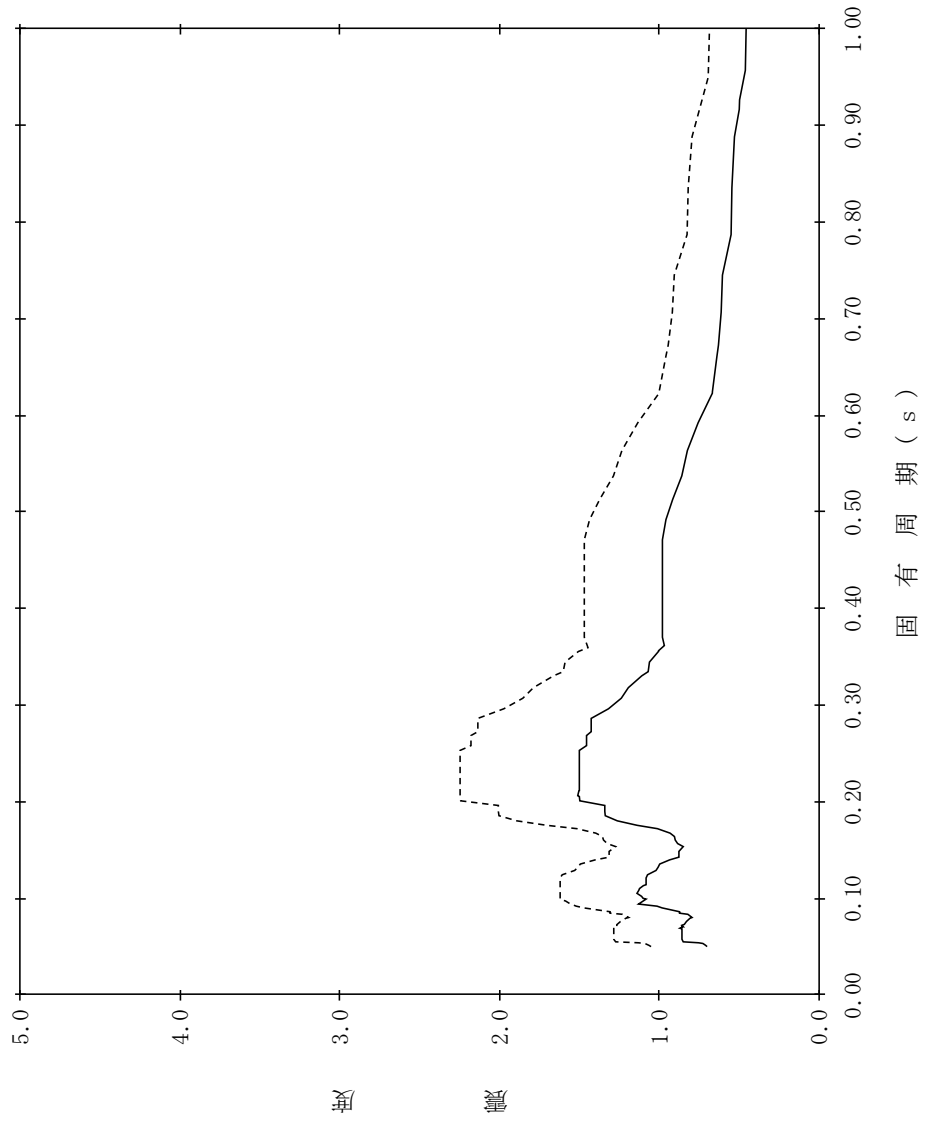
【NS2-RB-SdNS-RB79】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



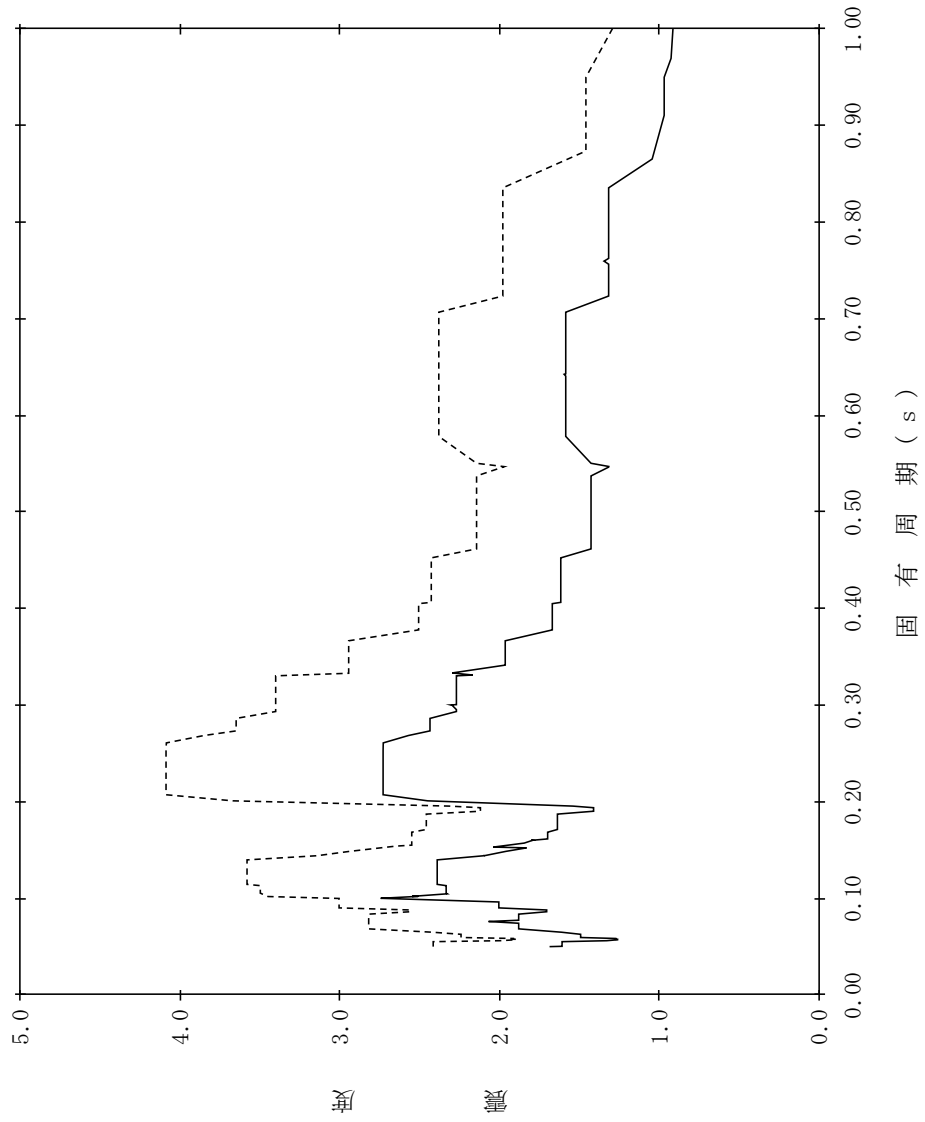
【NS2-RB-SdNS-RB80】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



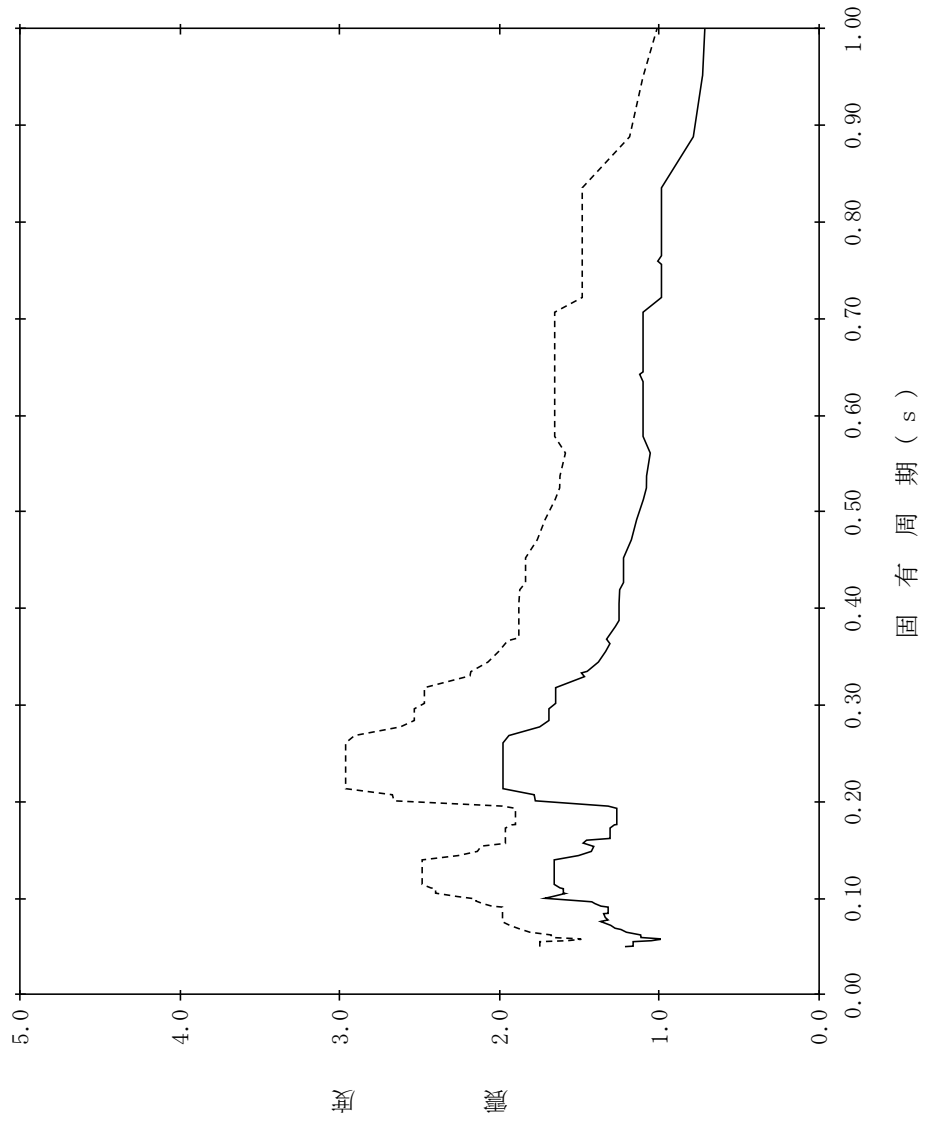
【NS2-RB-SdNS-RB81】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



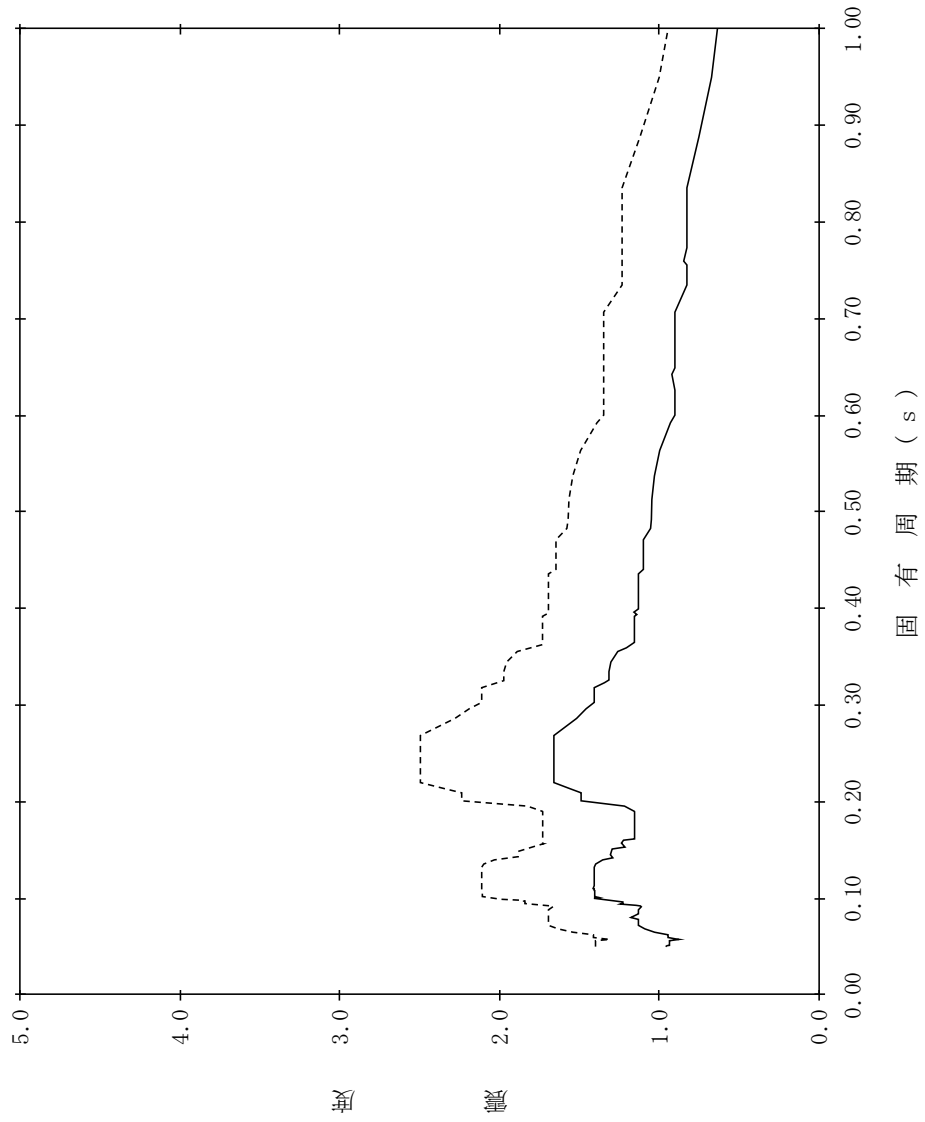
【NS2-RB-SdNS-RB82】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



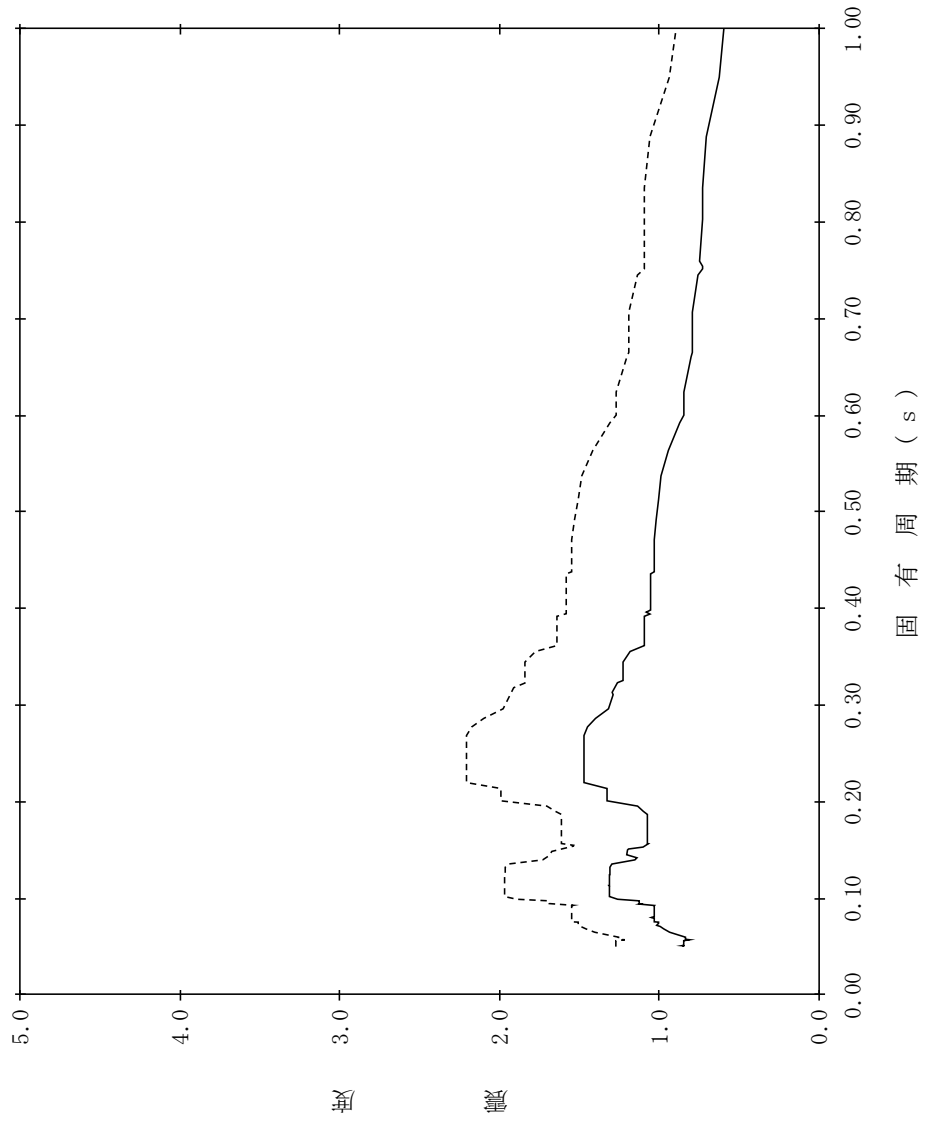
【NS2-RB-SdNS-RB83】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

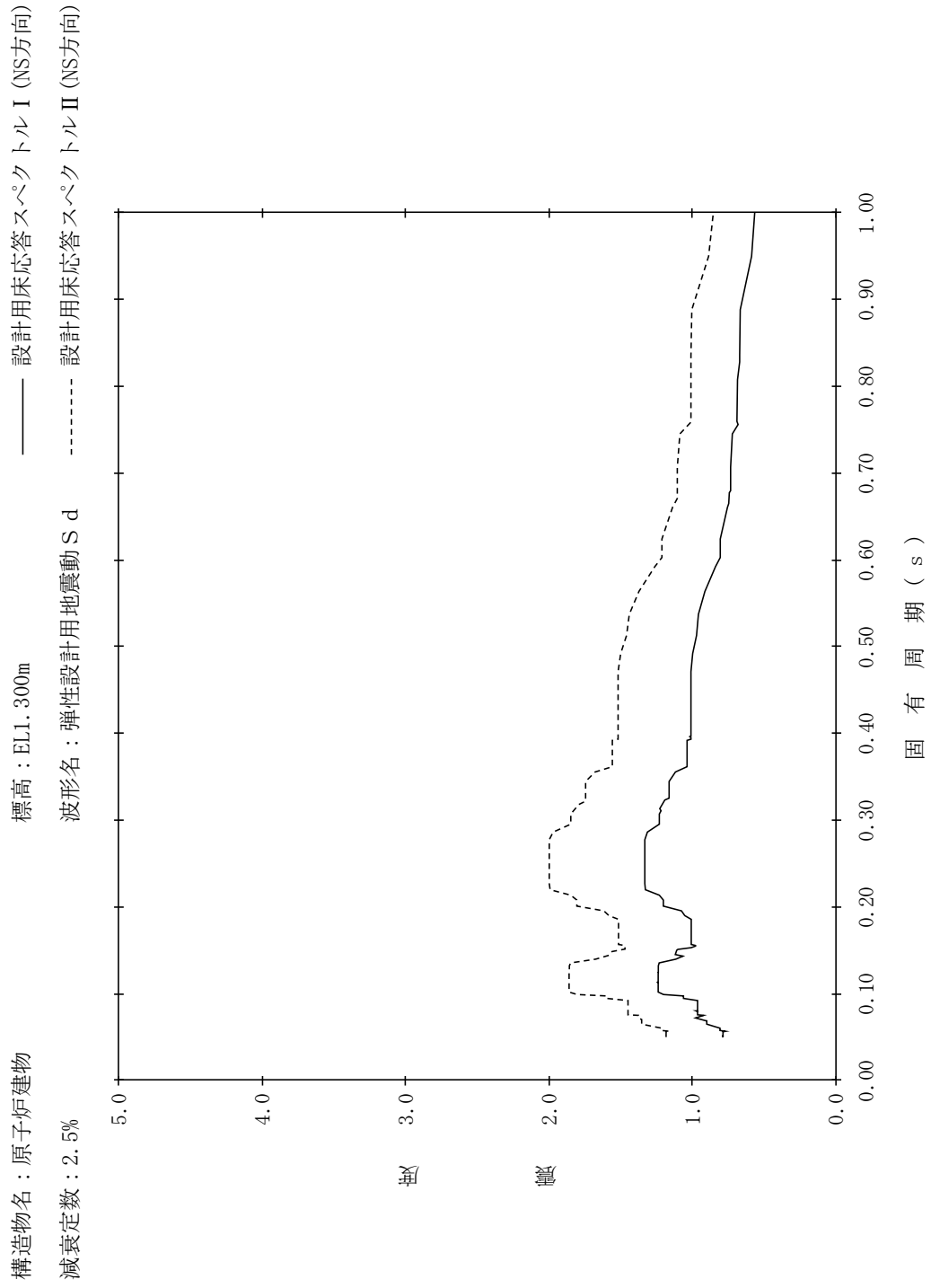


【NS2-RB-SdNS-RB84】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

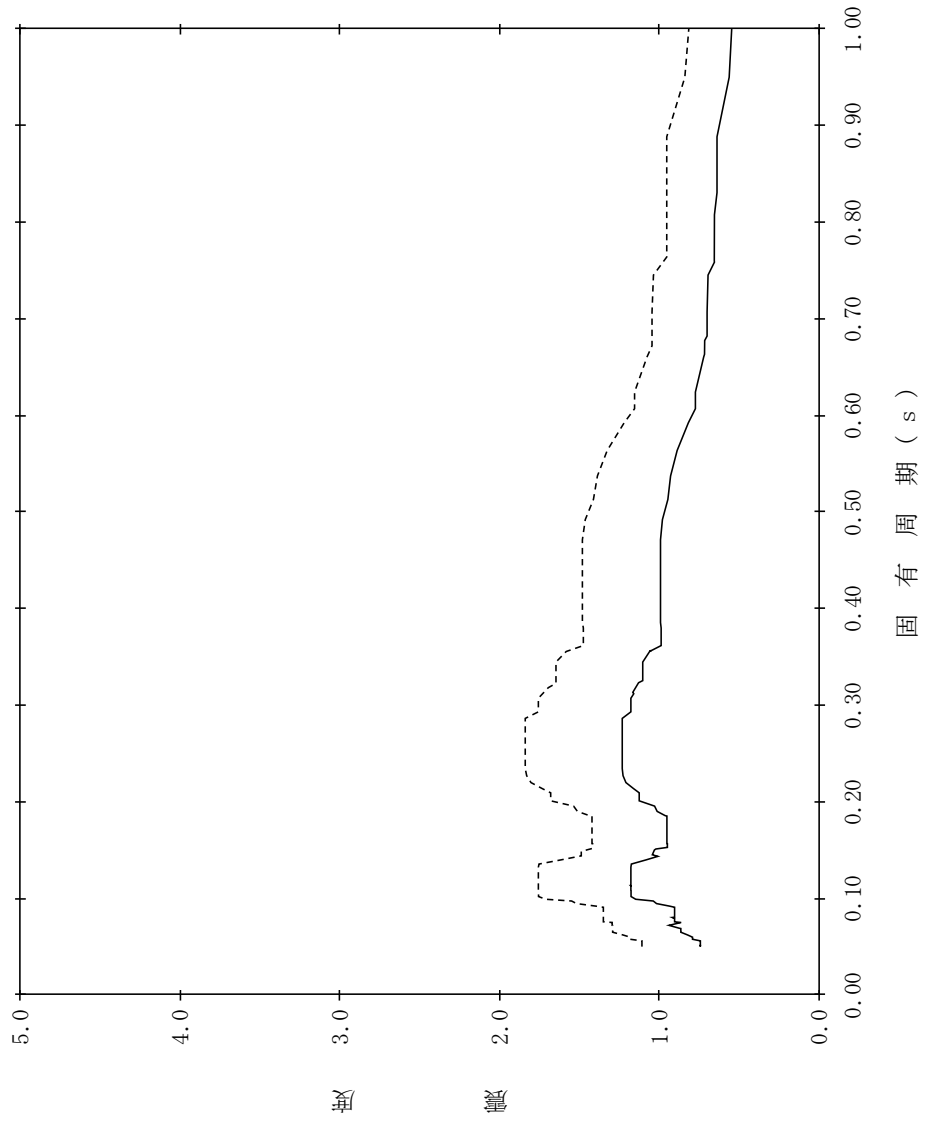


【NS2-RB-SdNS-RB85】

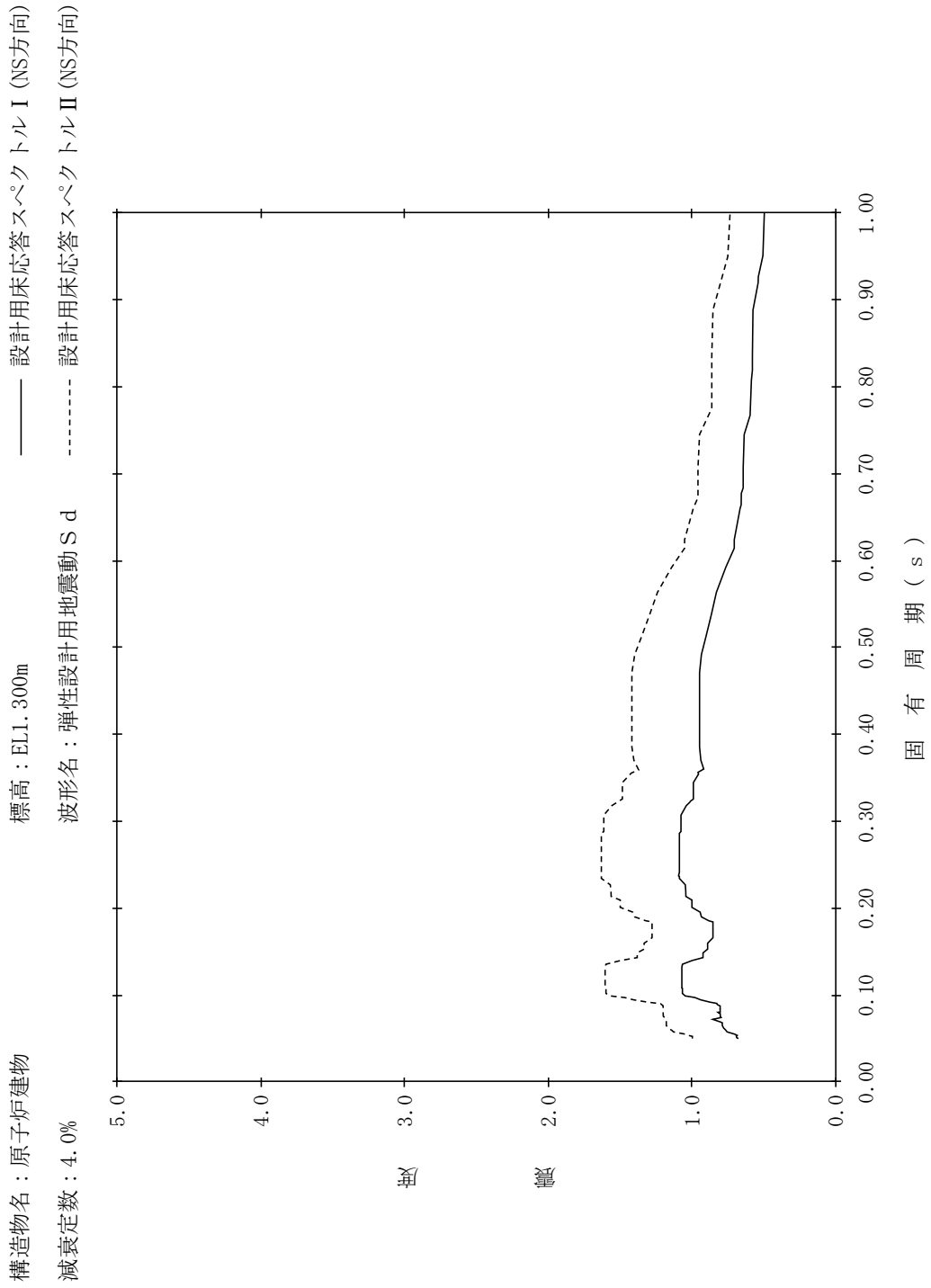


【NS2-RB-SdNS-RB86】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

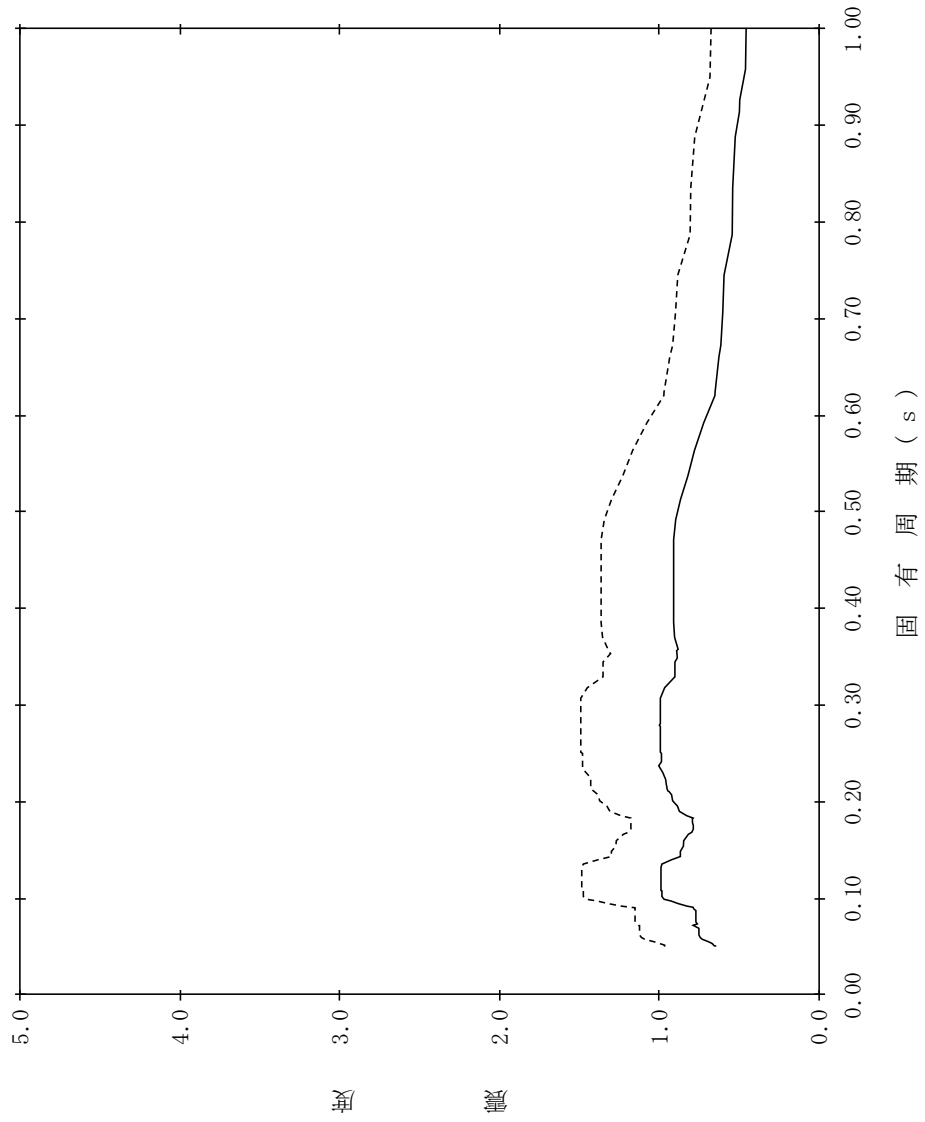


【NS2-RB-SdNS-RB87】



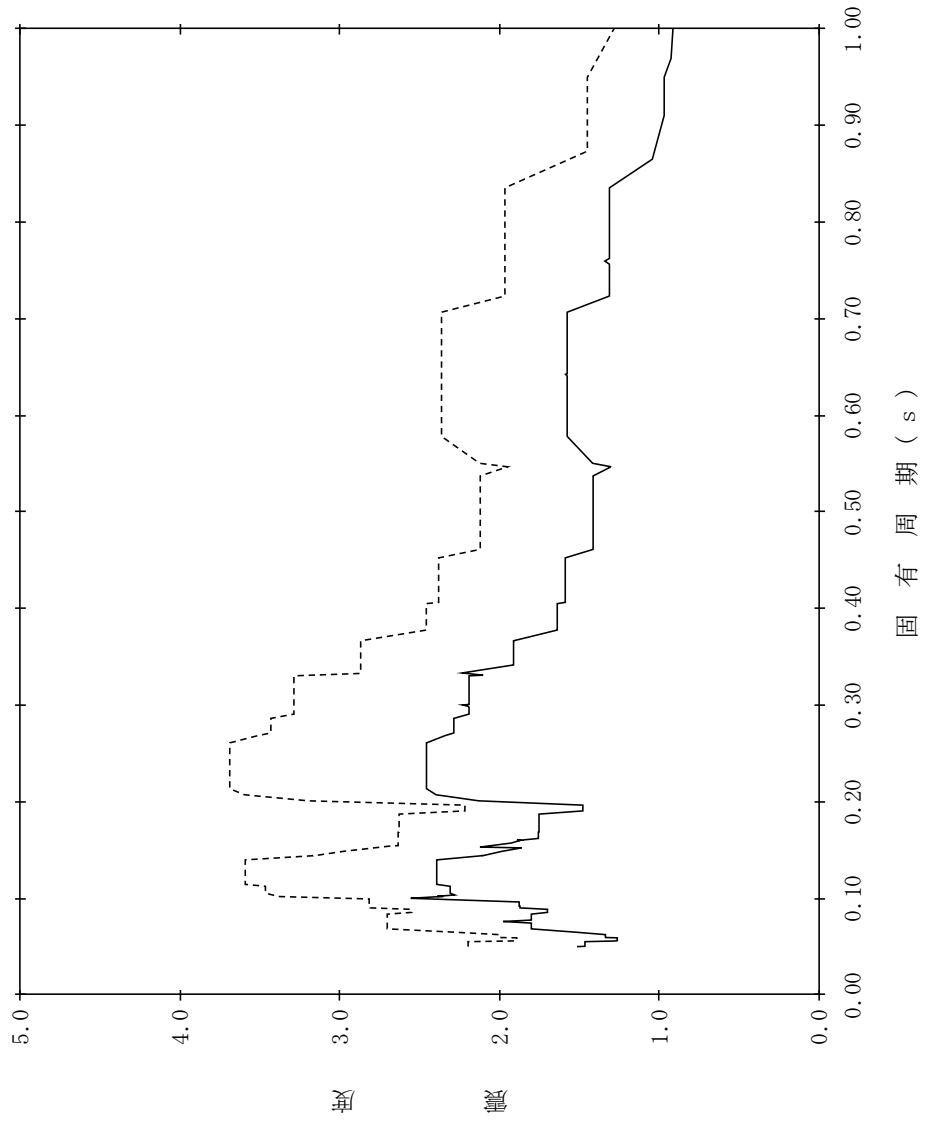
【NS2-RB-SdNS-RB88】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



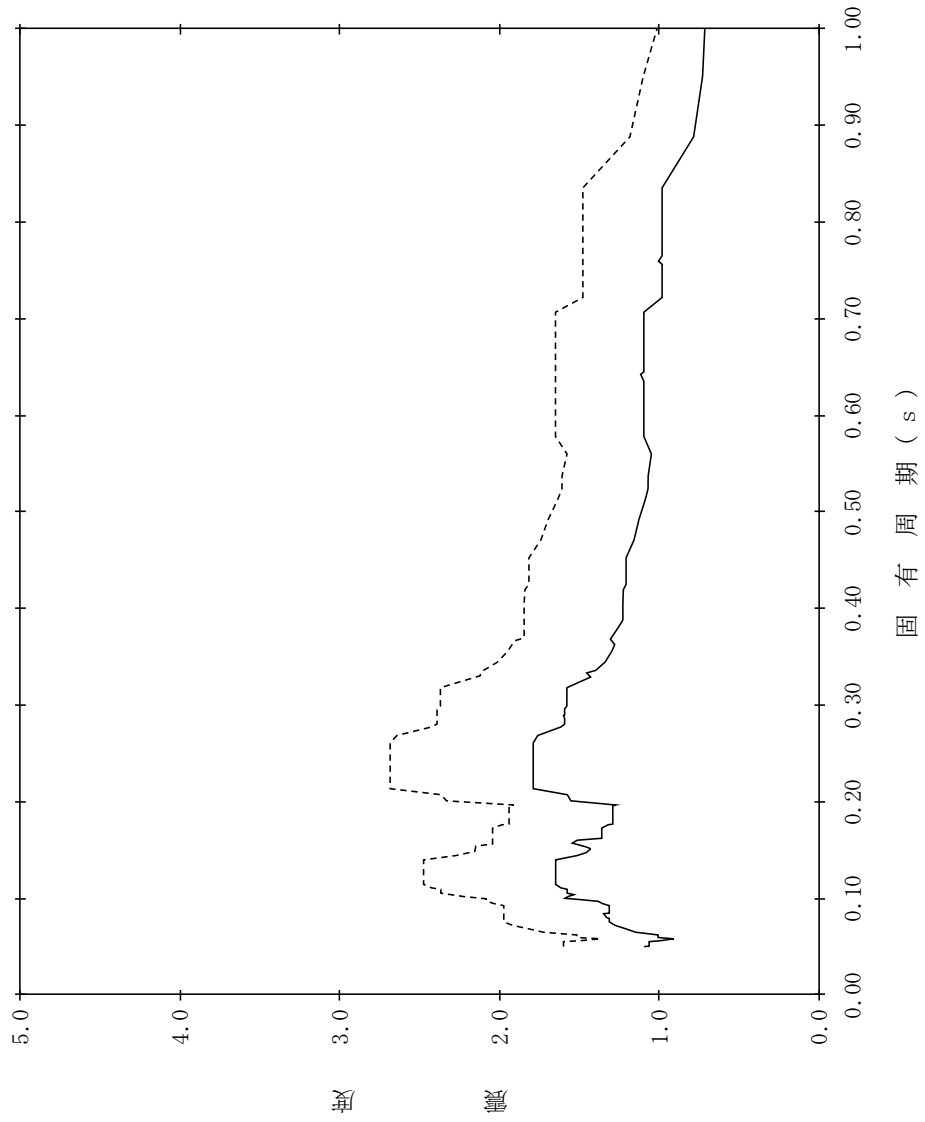
【NS2-RB-SdNS-RB89】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



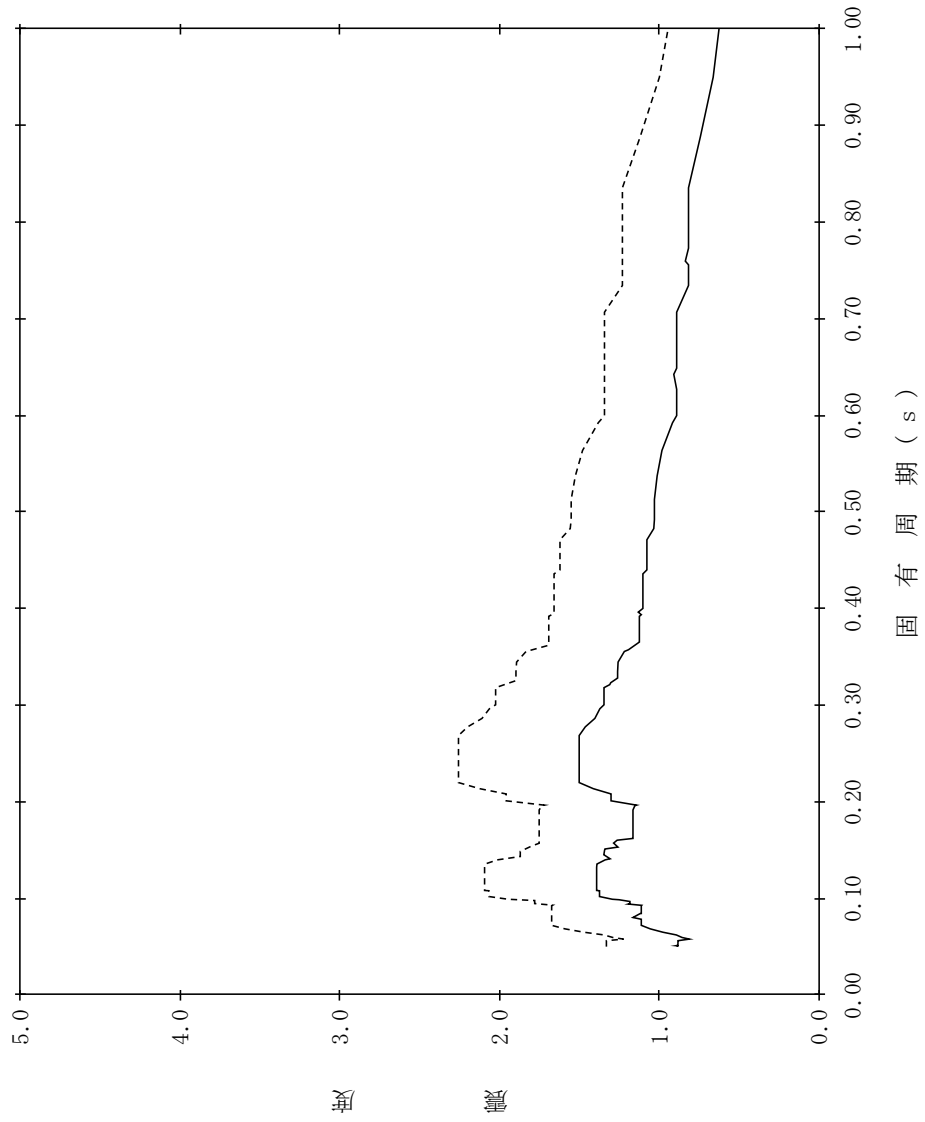
【NS2-RB-SdNS-RB90】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



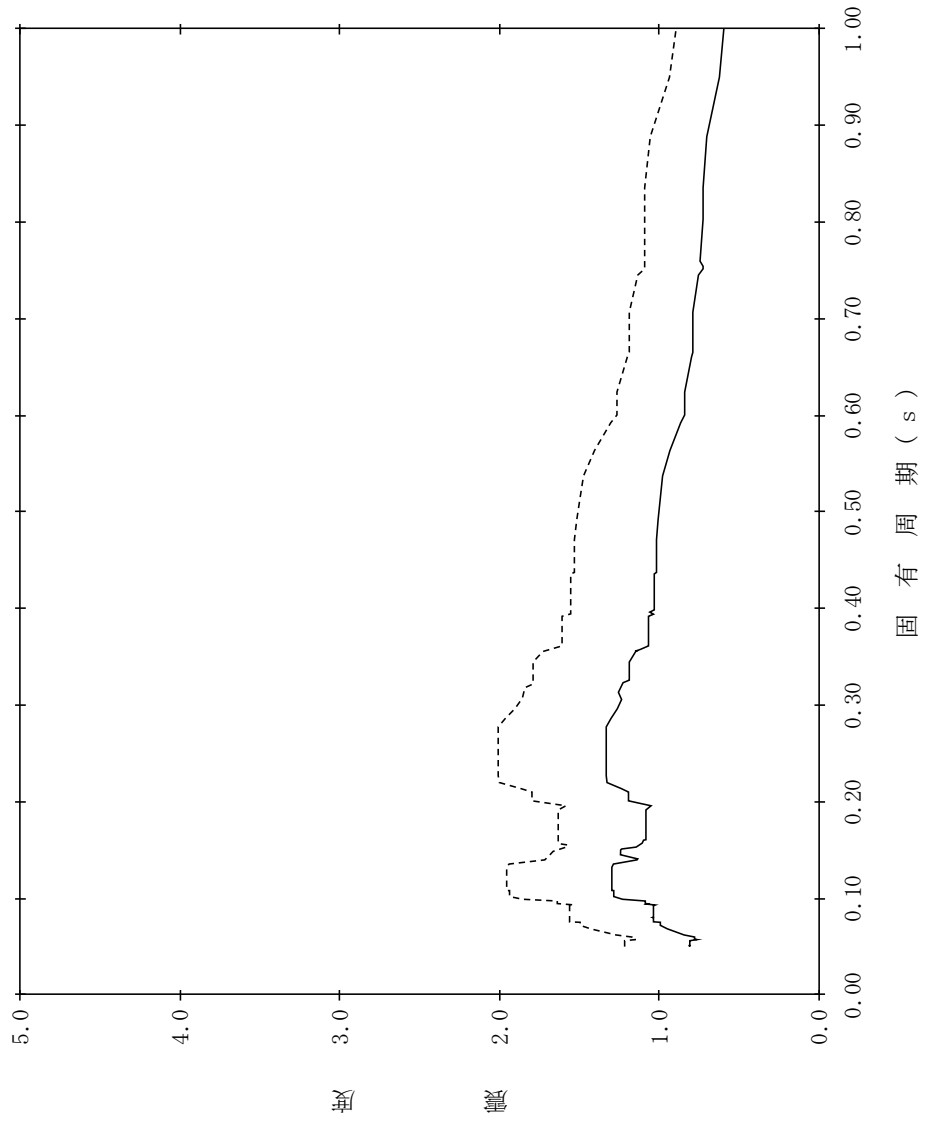
【NS2-RB-SdNS-RB91】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



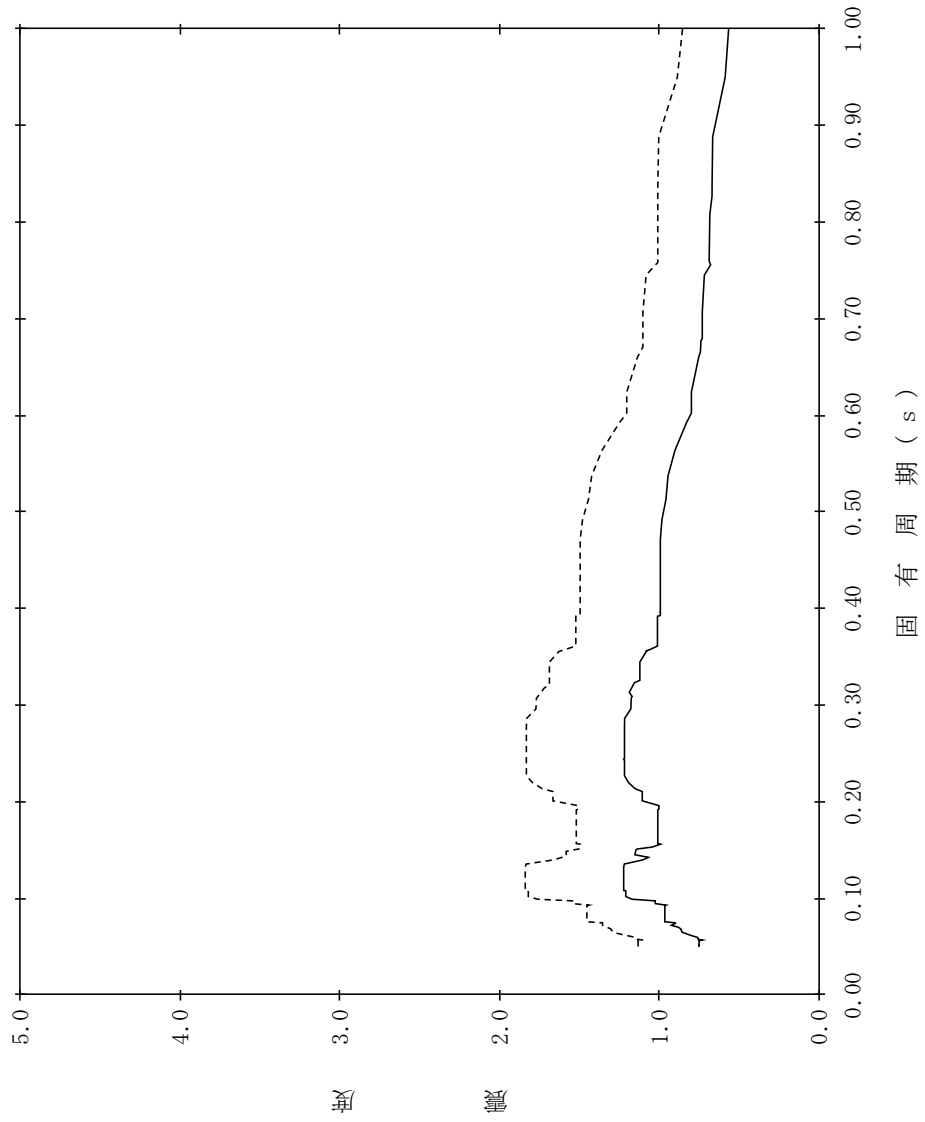
【NS2-RB-SdNS-RB92】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



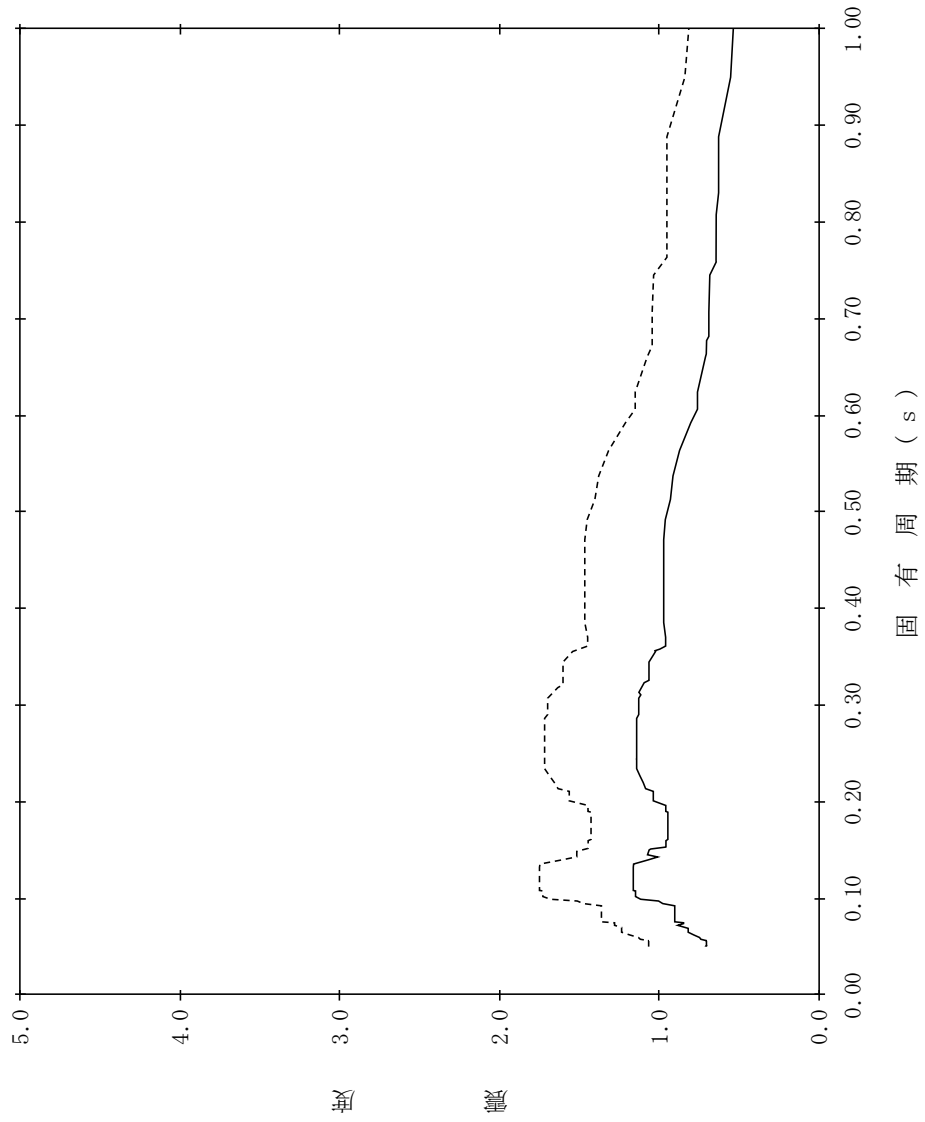
【NS2-RB-SdNS-RB93】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

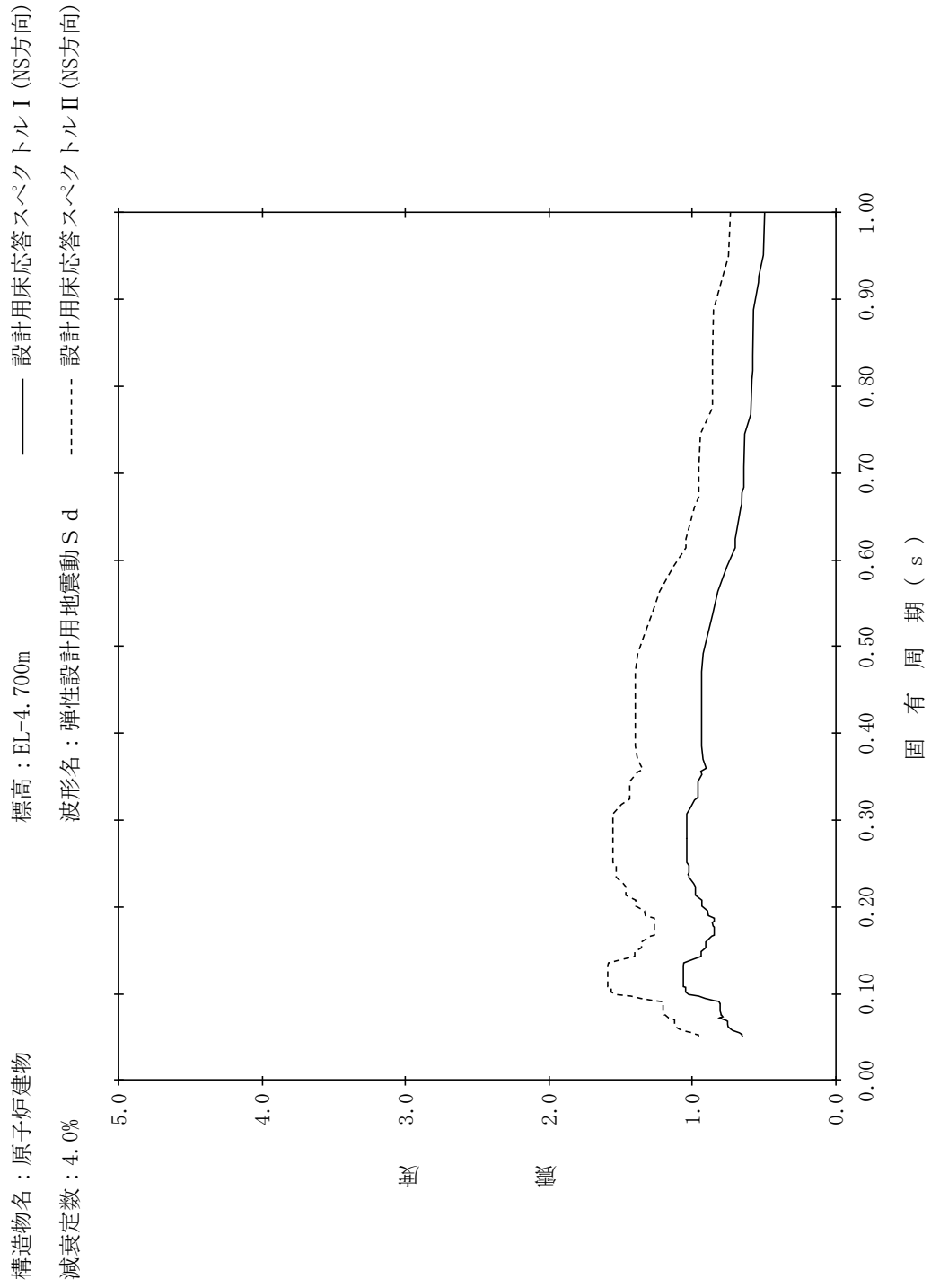


【NS2-RB-SdNS-RB94】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：3.0%
 波形式：弾性設計用地震動 S d
 トル I (NS方向)
 トル II (NS方向)

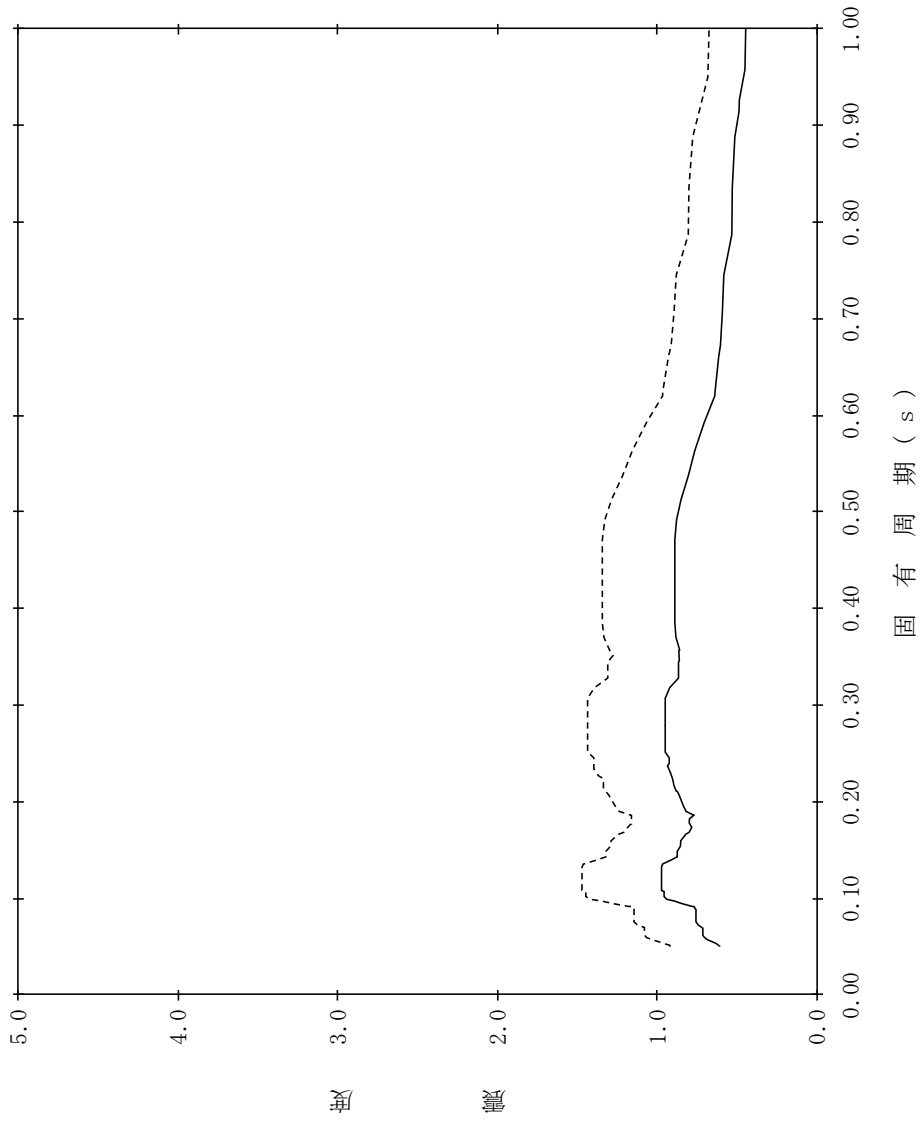


【NS2-RB-SdNS-RB95】



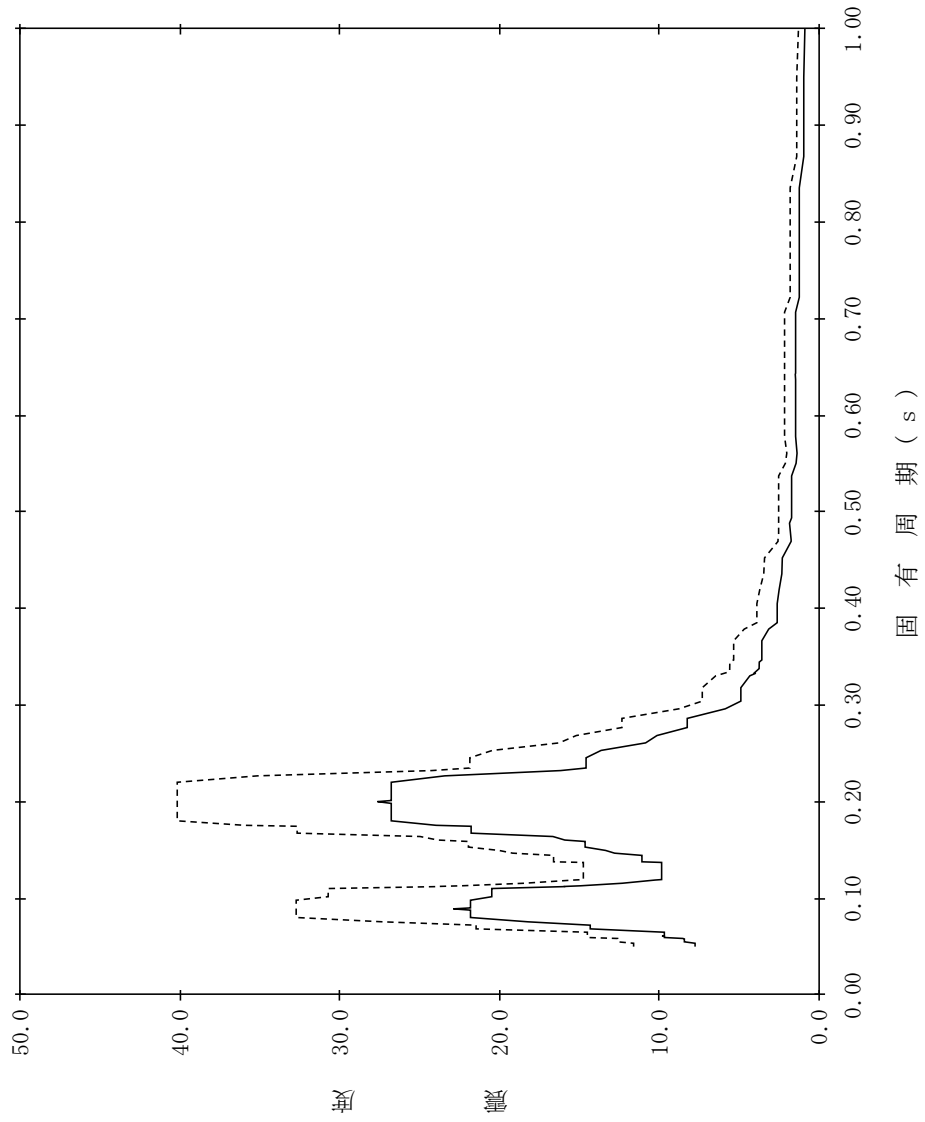
【NS2-RB-SdNS-RB96】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



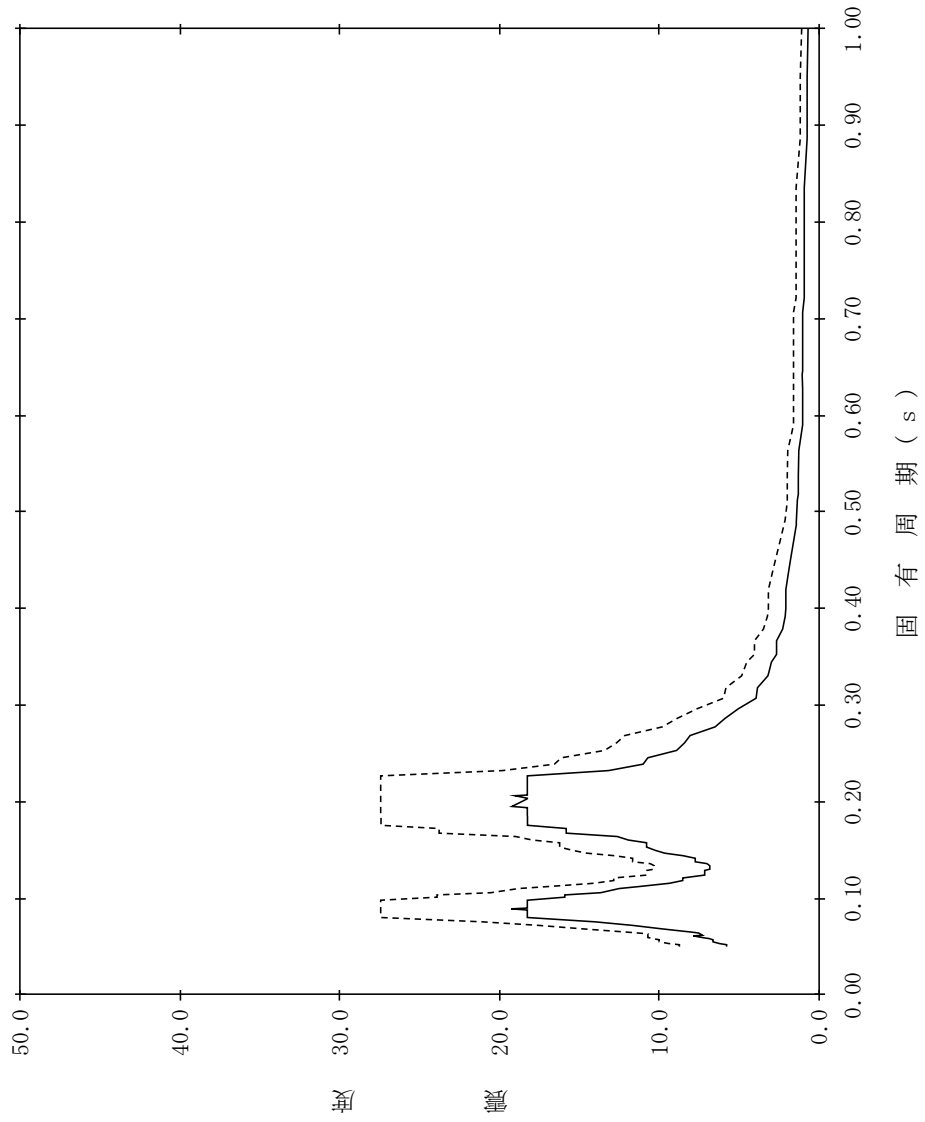
【NS2-RB-SdEW-RB1】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



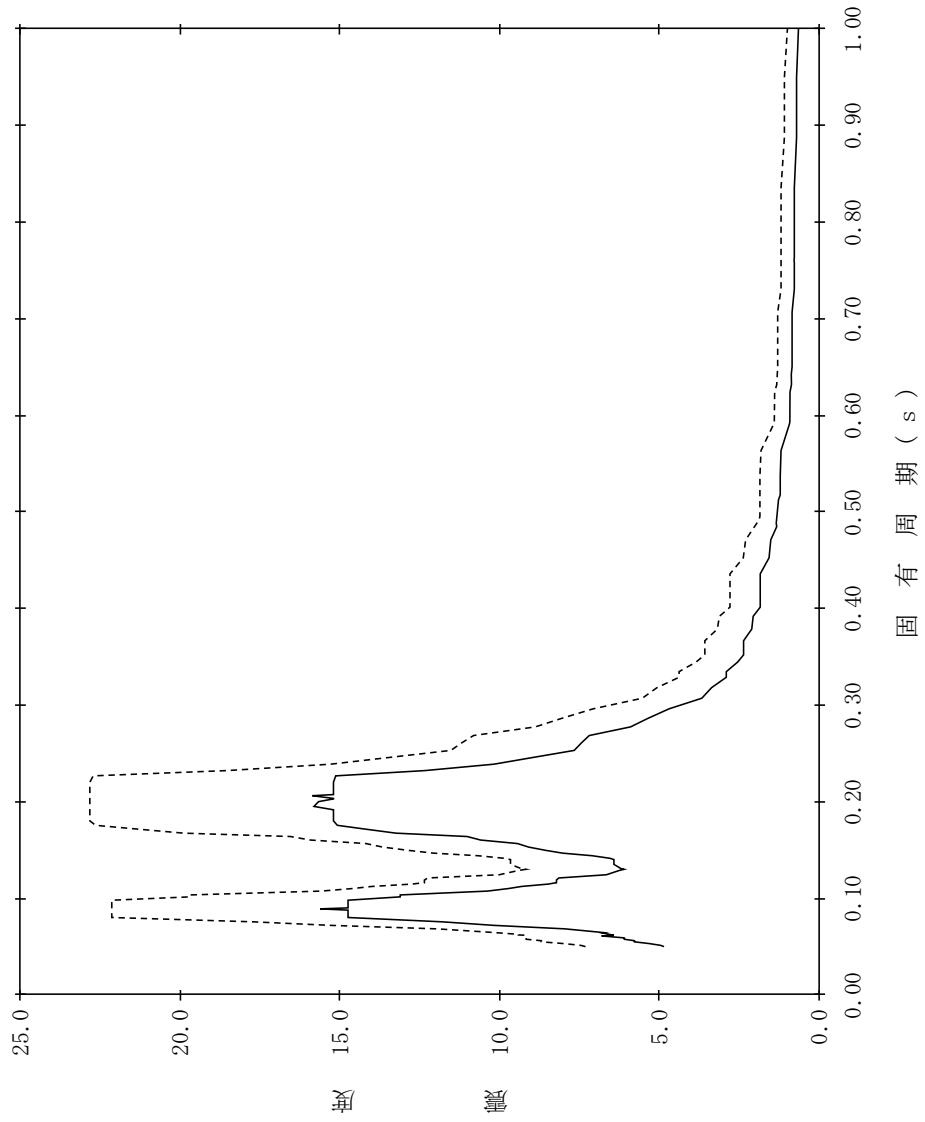
【NS2-RB-SdEW-RB2】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



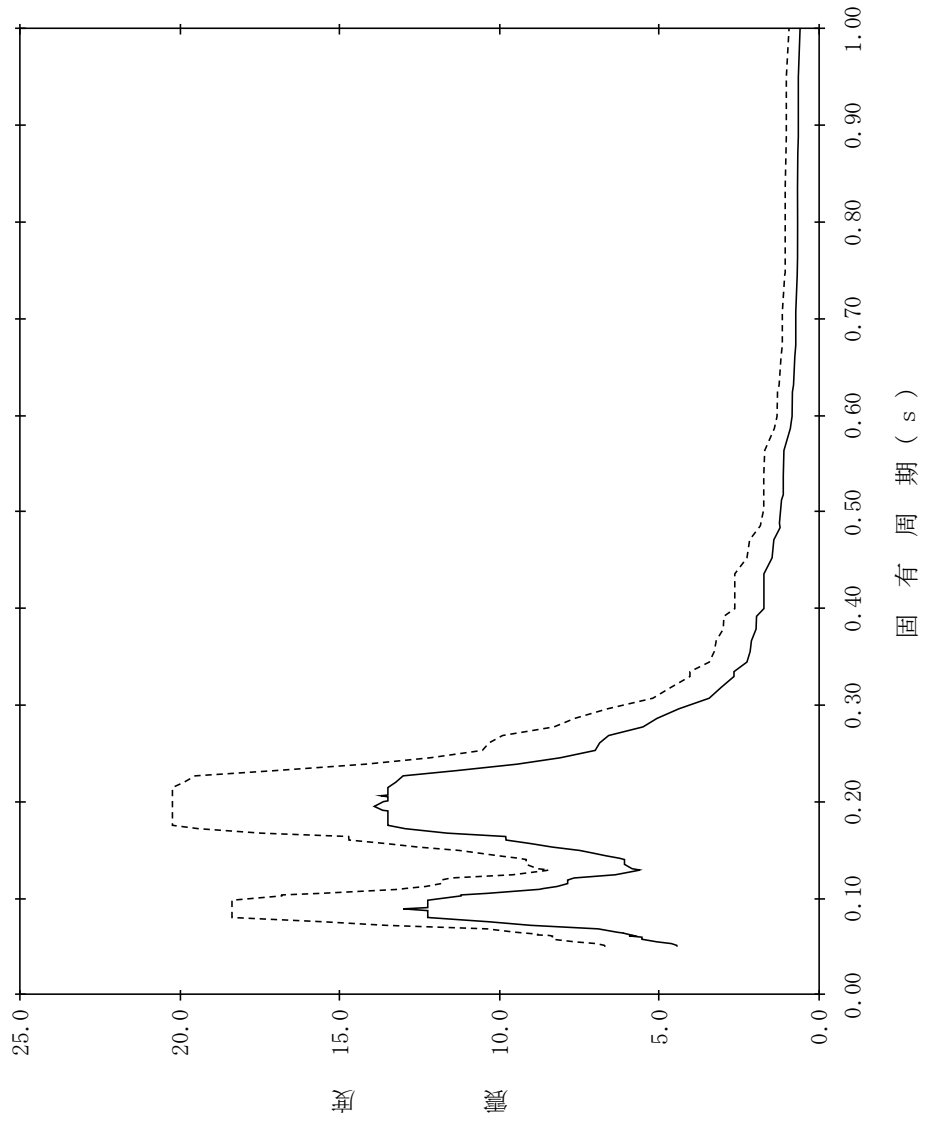
【NS2-RB-SdEW-RB3】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

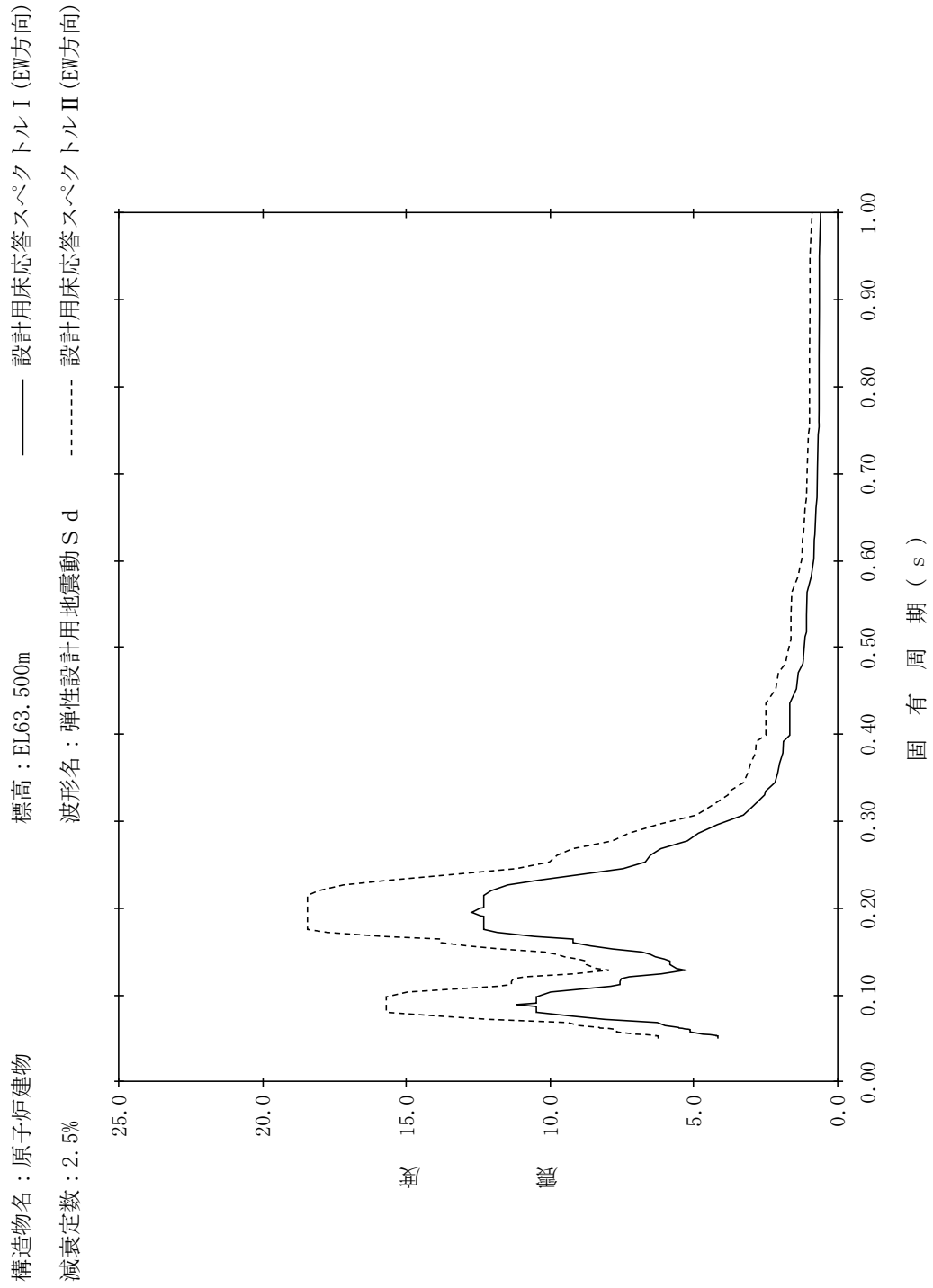


【NS2-RB-SdEW-RB4】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

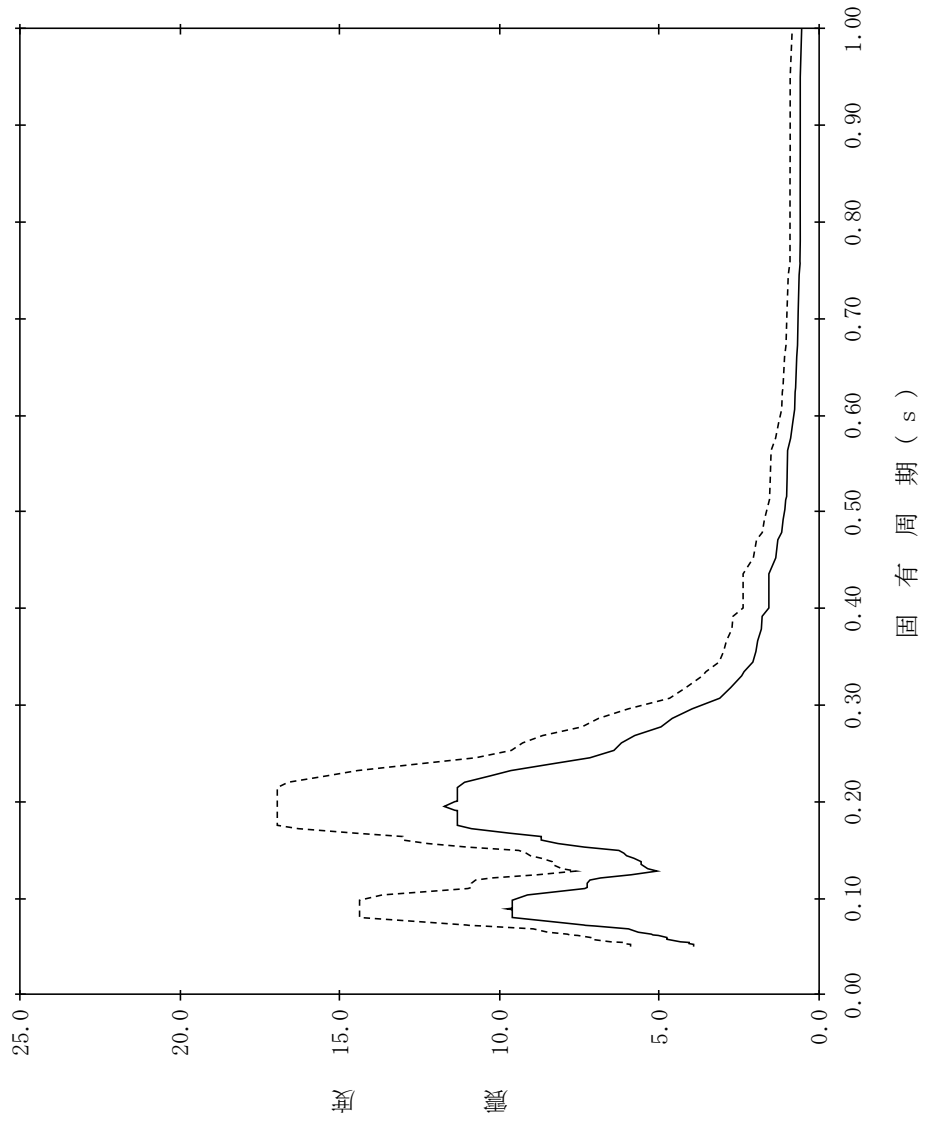


【NS2-RB-SdEW-RB5】



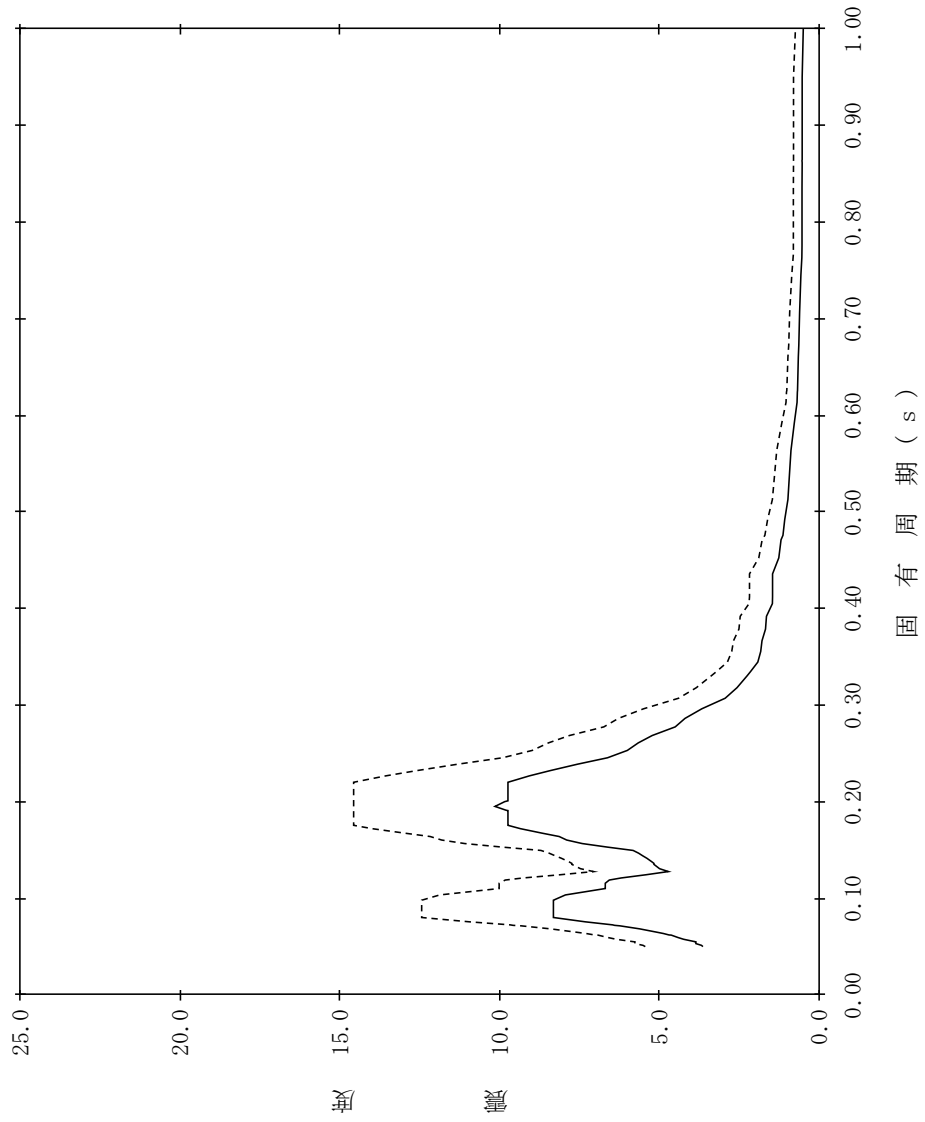
【NS2-RB-SdEW-RB6】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



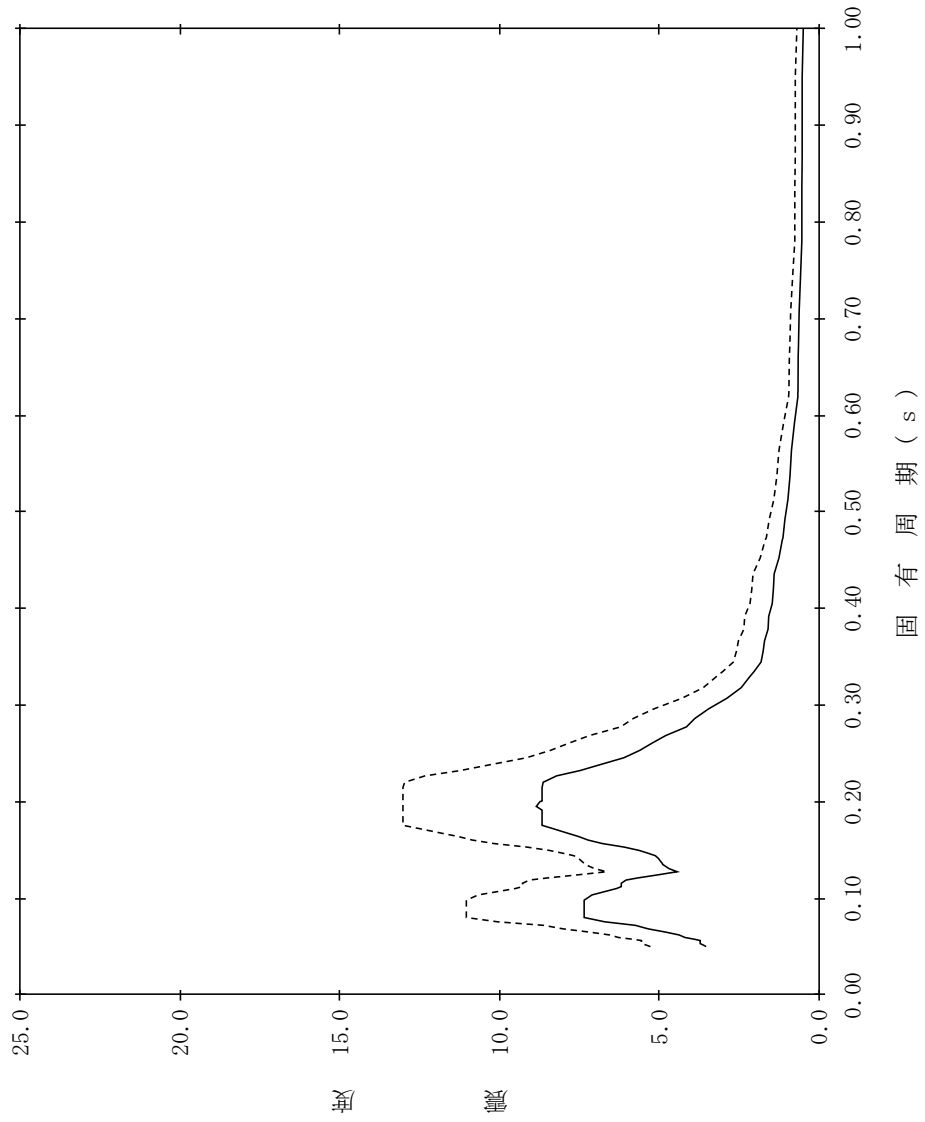
【NS2-RB-SdEW-RB7】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

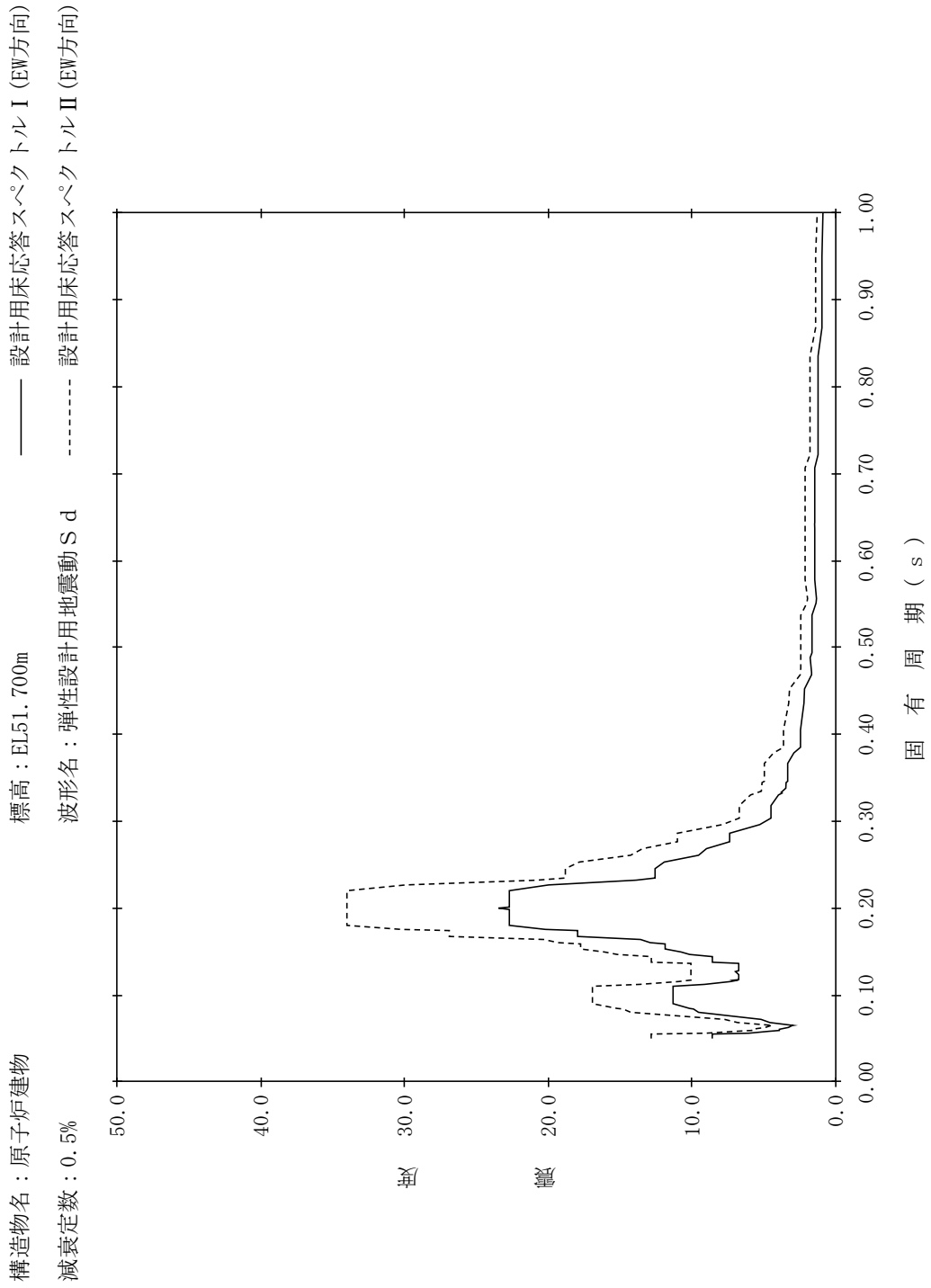


【NS2-RB-SdEW-RB8】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

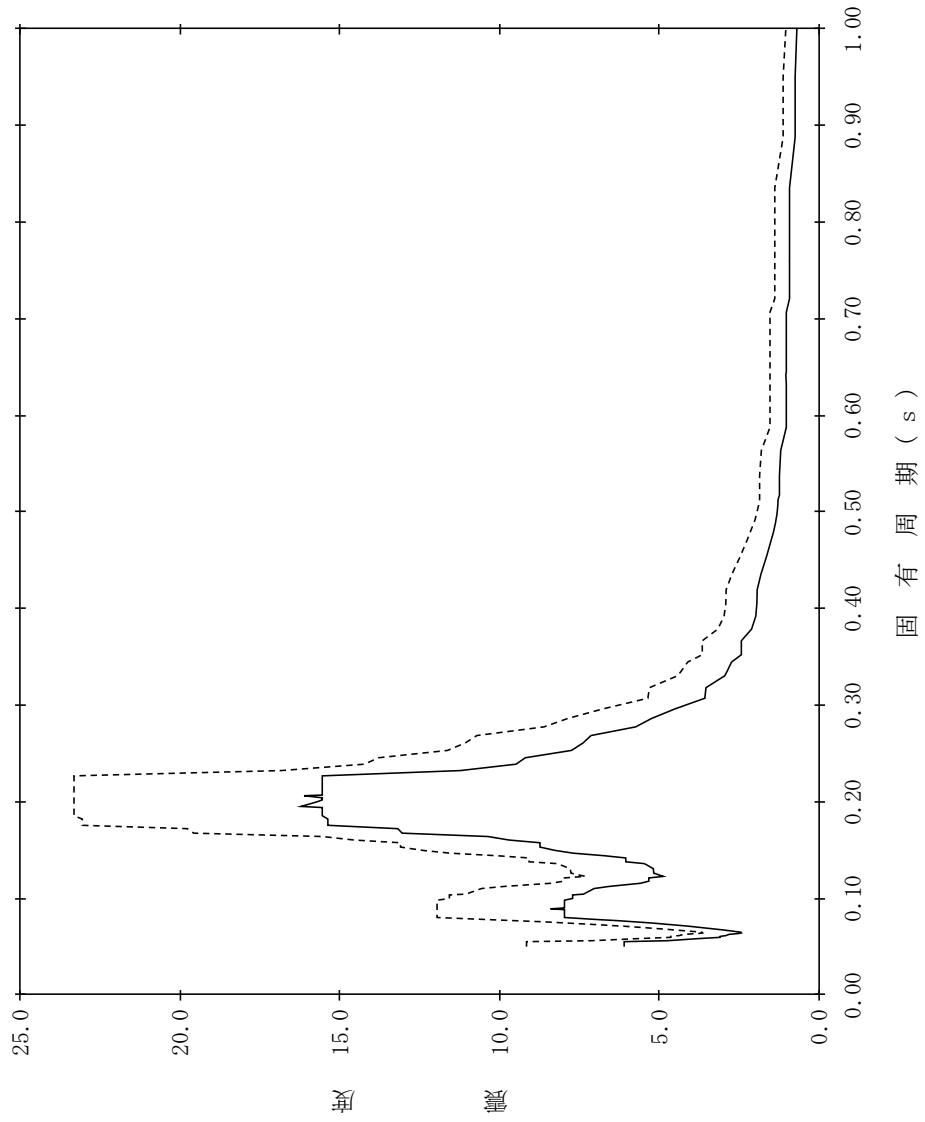


【NS2-RB-SdEW-RB9】



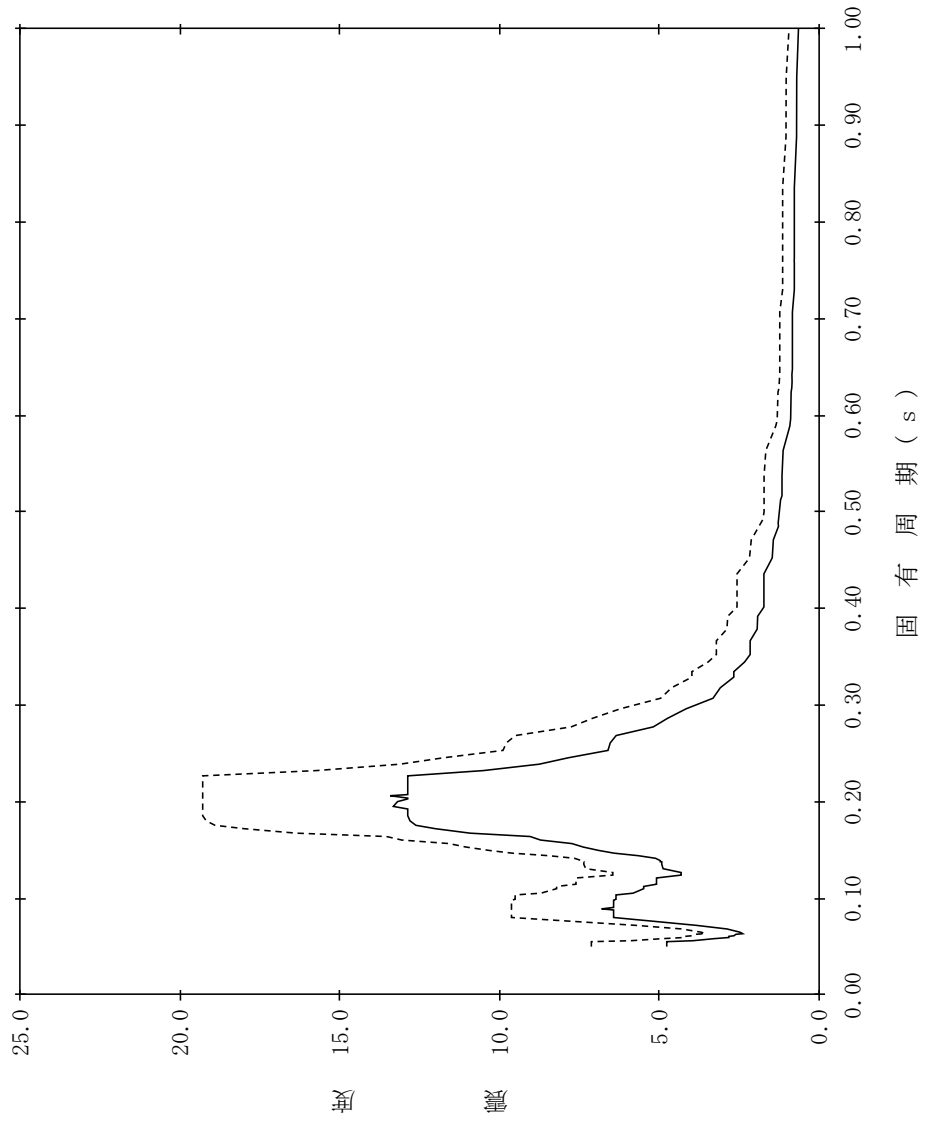
【NS2-RB-SdEW-RB10】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



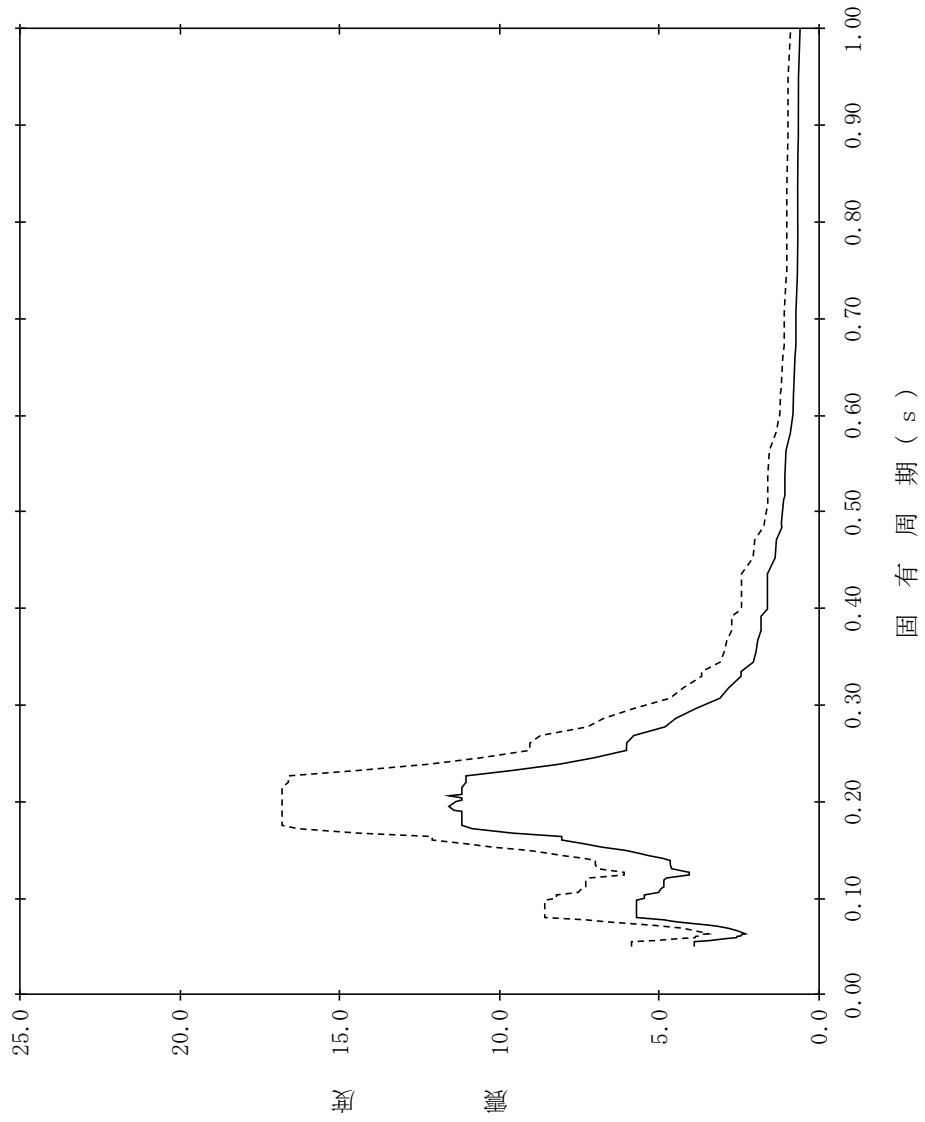
【NS2-RB-SdEW-RB11】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



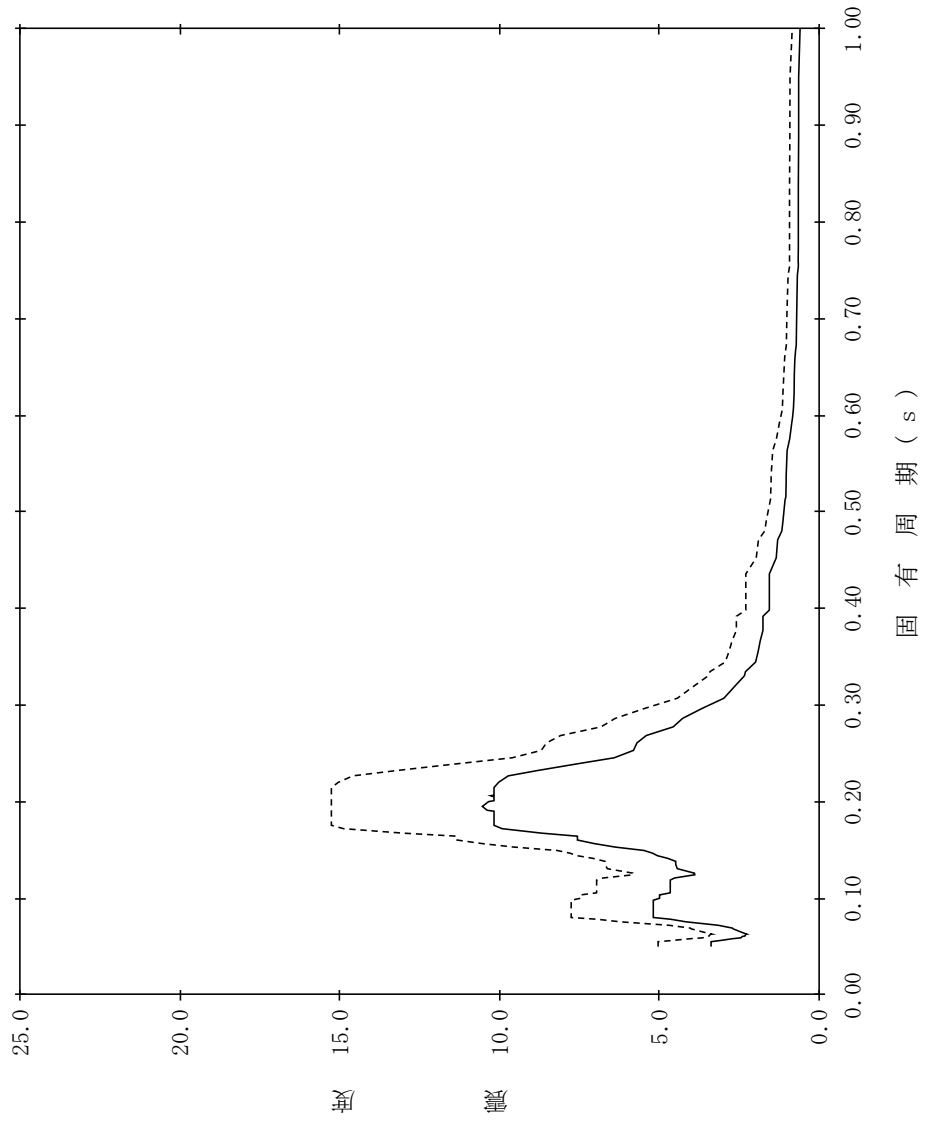
【NS2-RB-SdEW-RB12】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



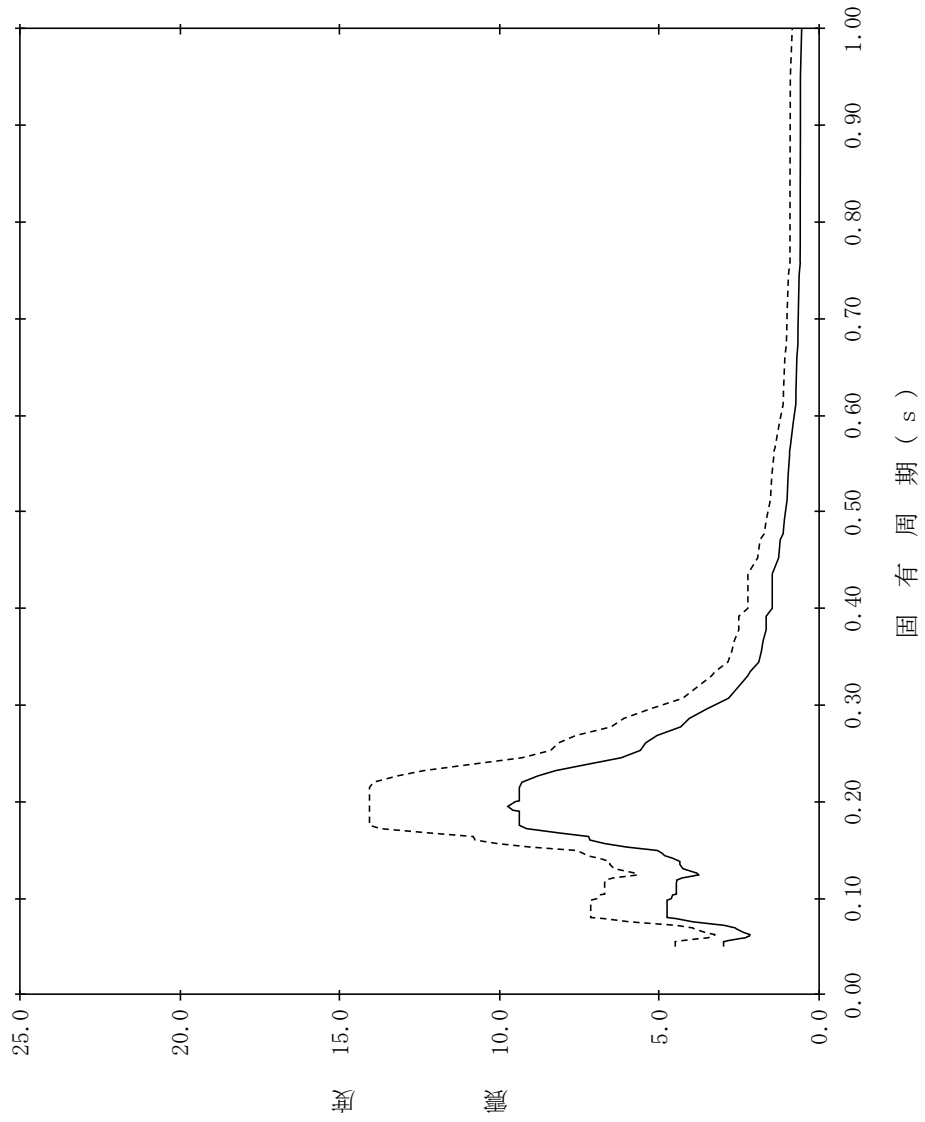
【NS2-RB-SdEW-RB13】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



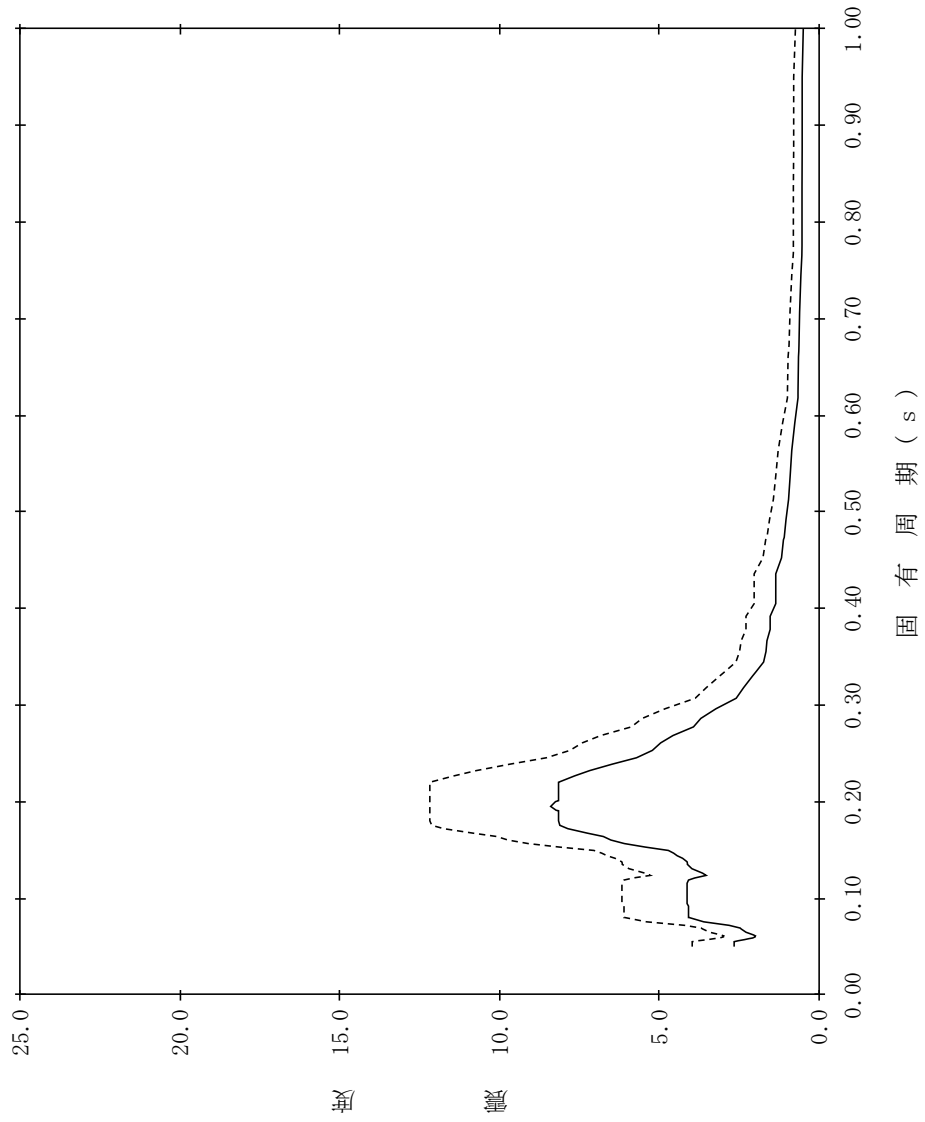
【NS2-RB-SdEW-RB14】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



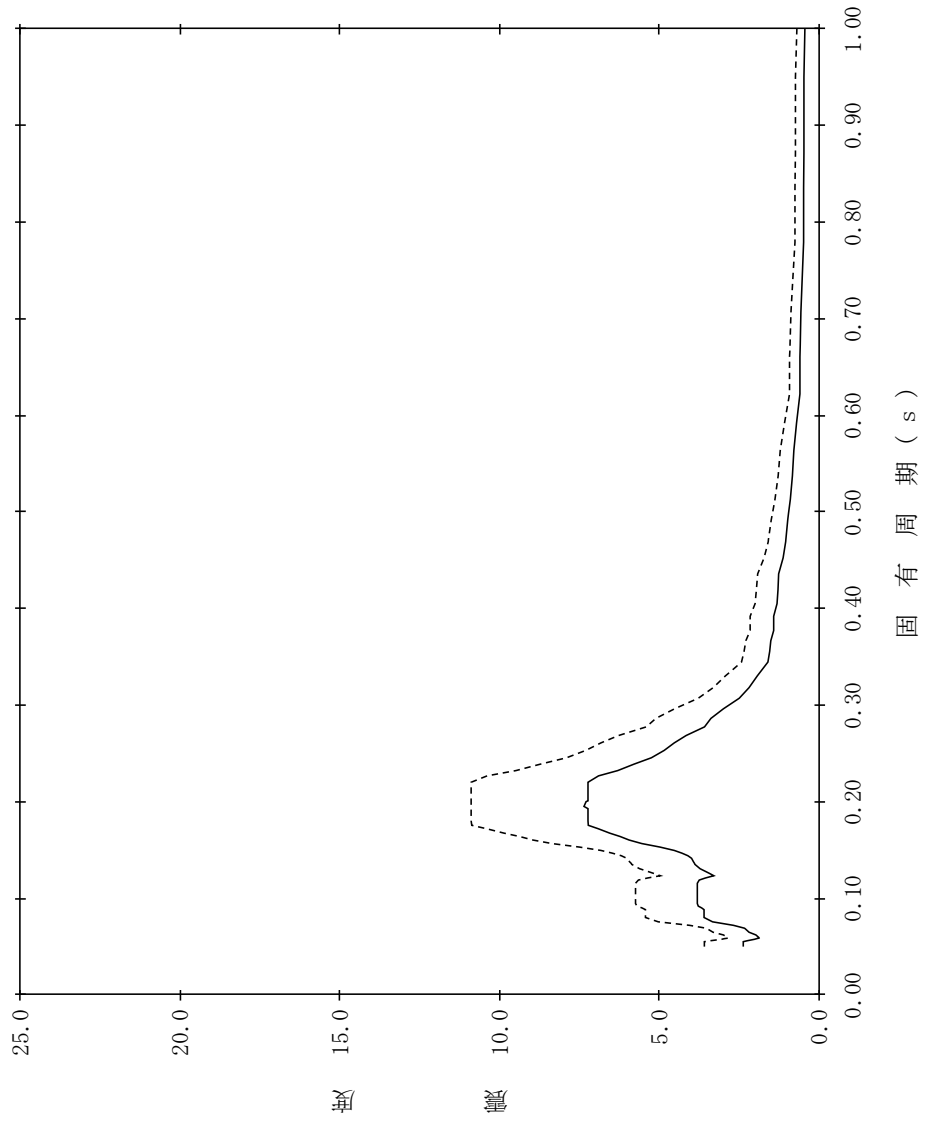
【NS2-RB-SdEW-RB15】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



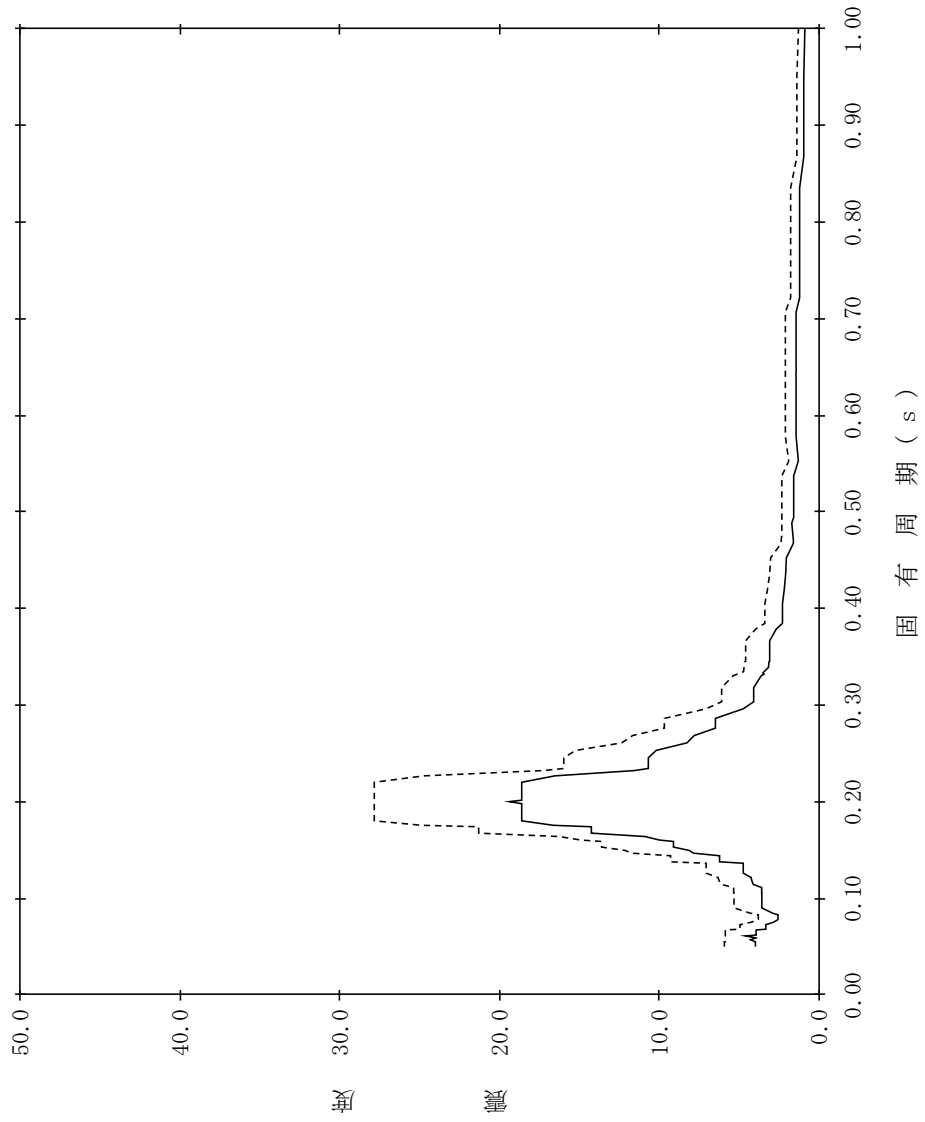
【NS2-RB-SdEW-RB16】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



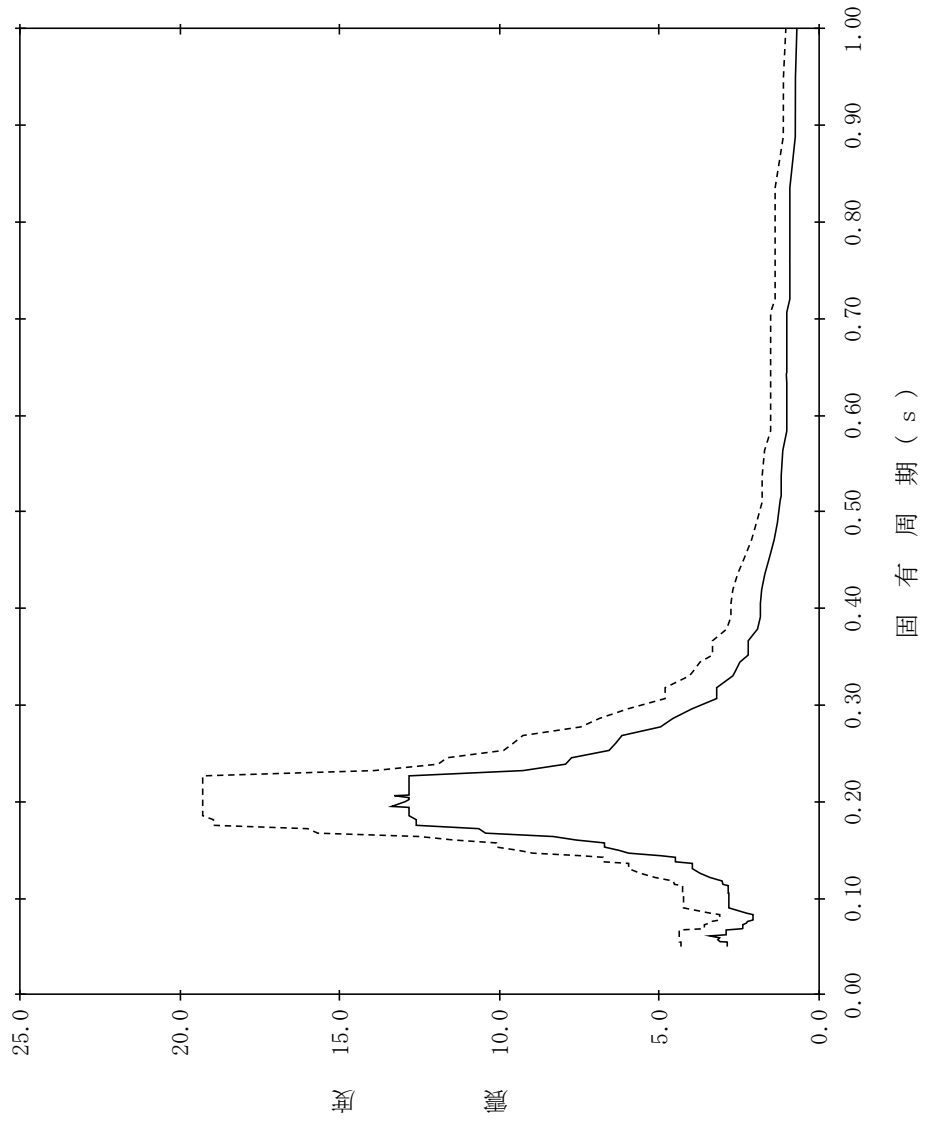
【NS2-RB-SdEW-RB17】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



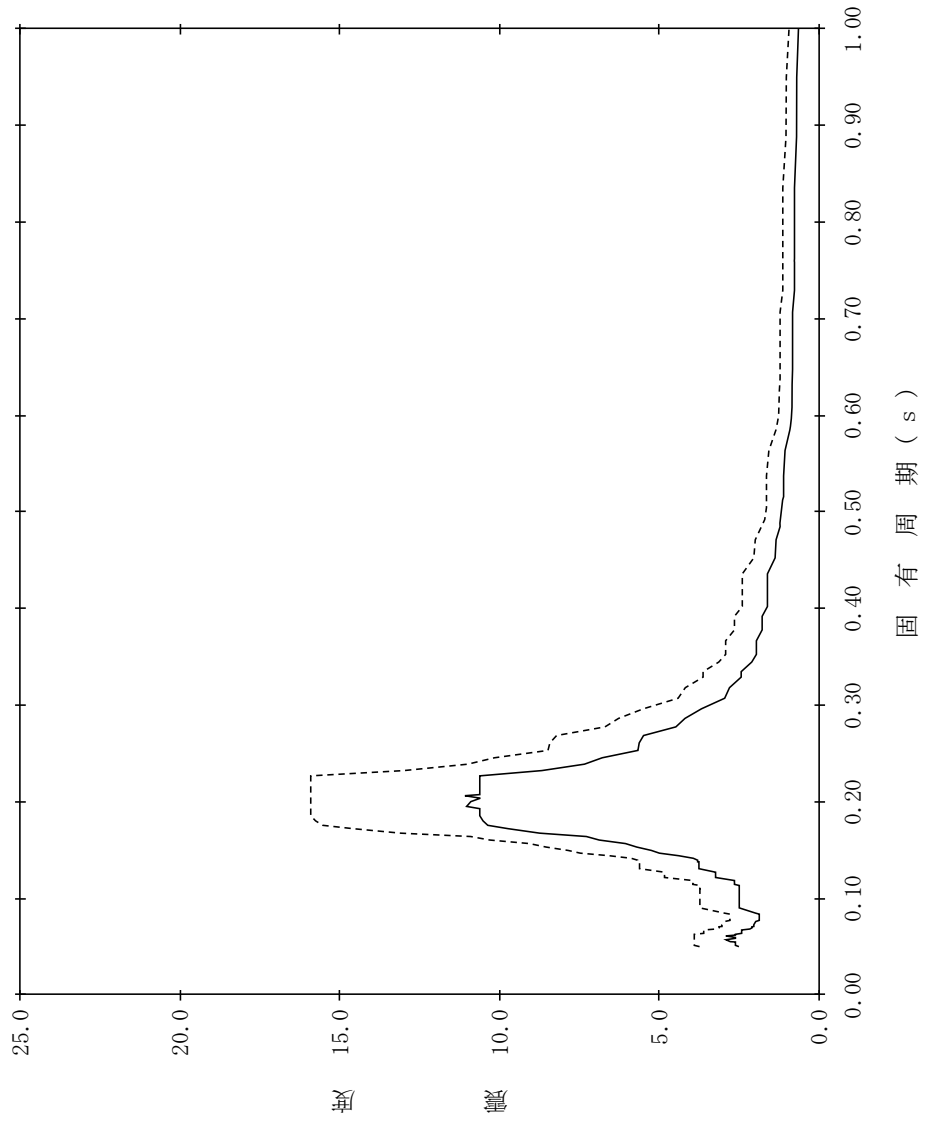
【NS2-RB-SdEW-RB18】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



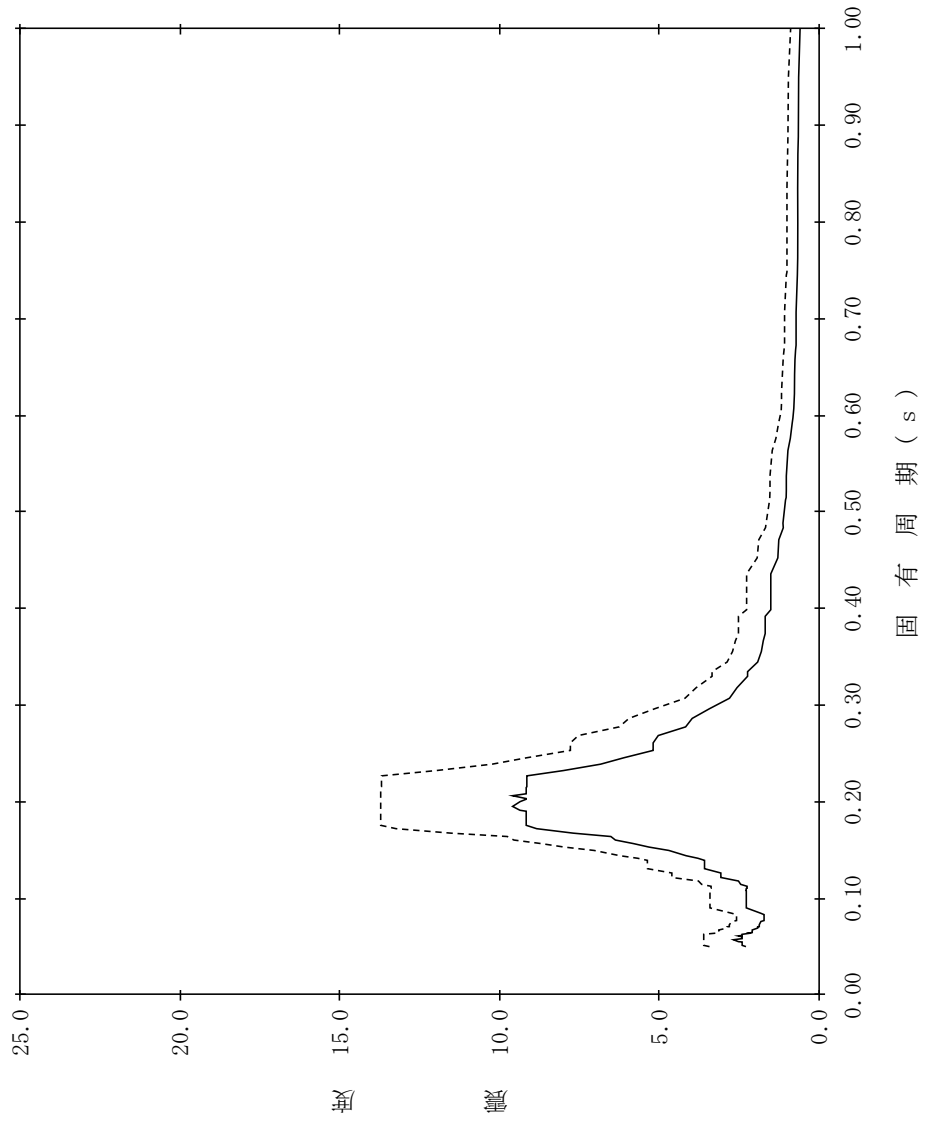
【NS2-RB-SdEW-RB19】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



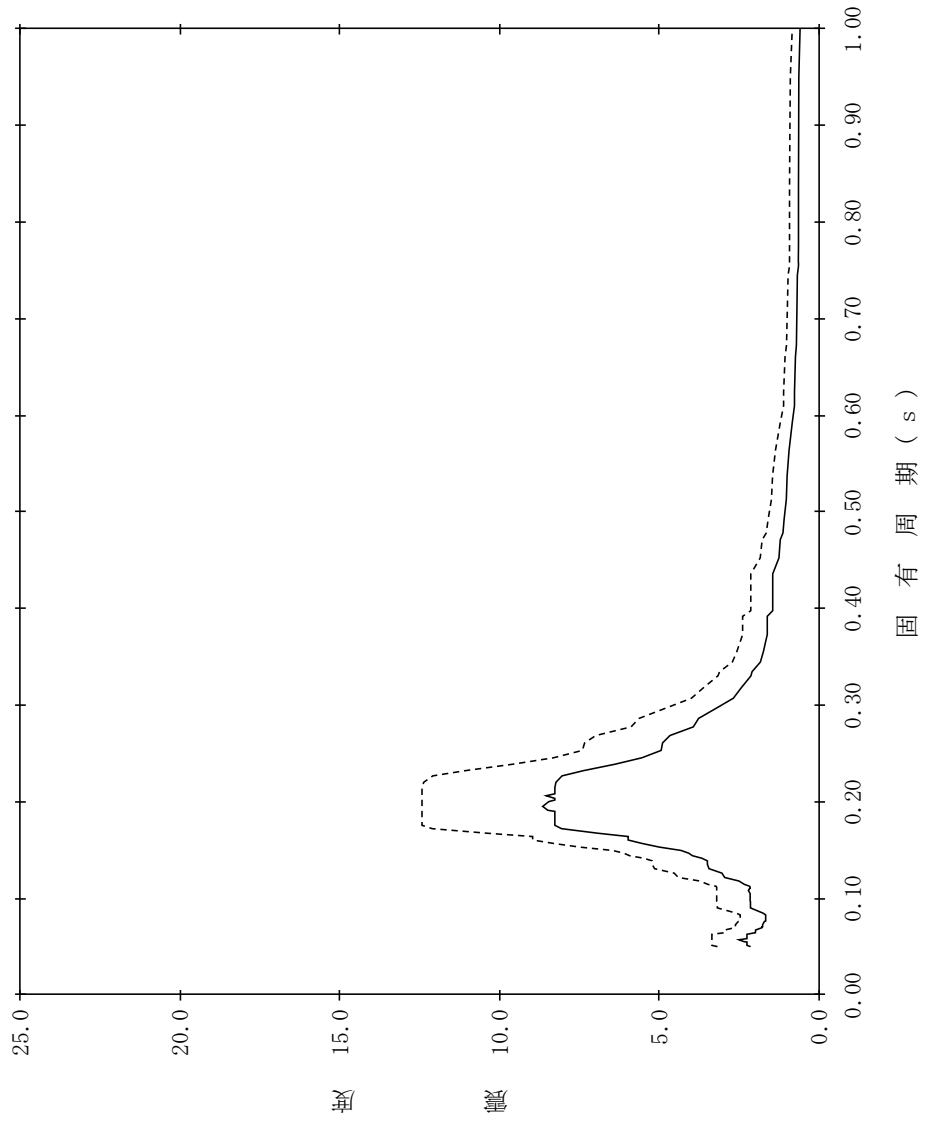
【NS2-RB-SdEW-RB20】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



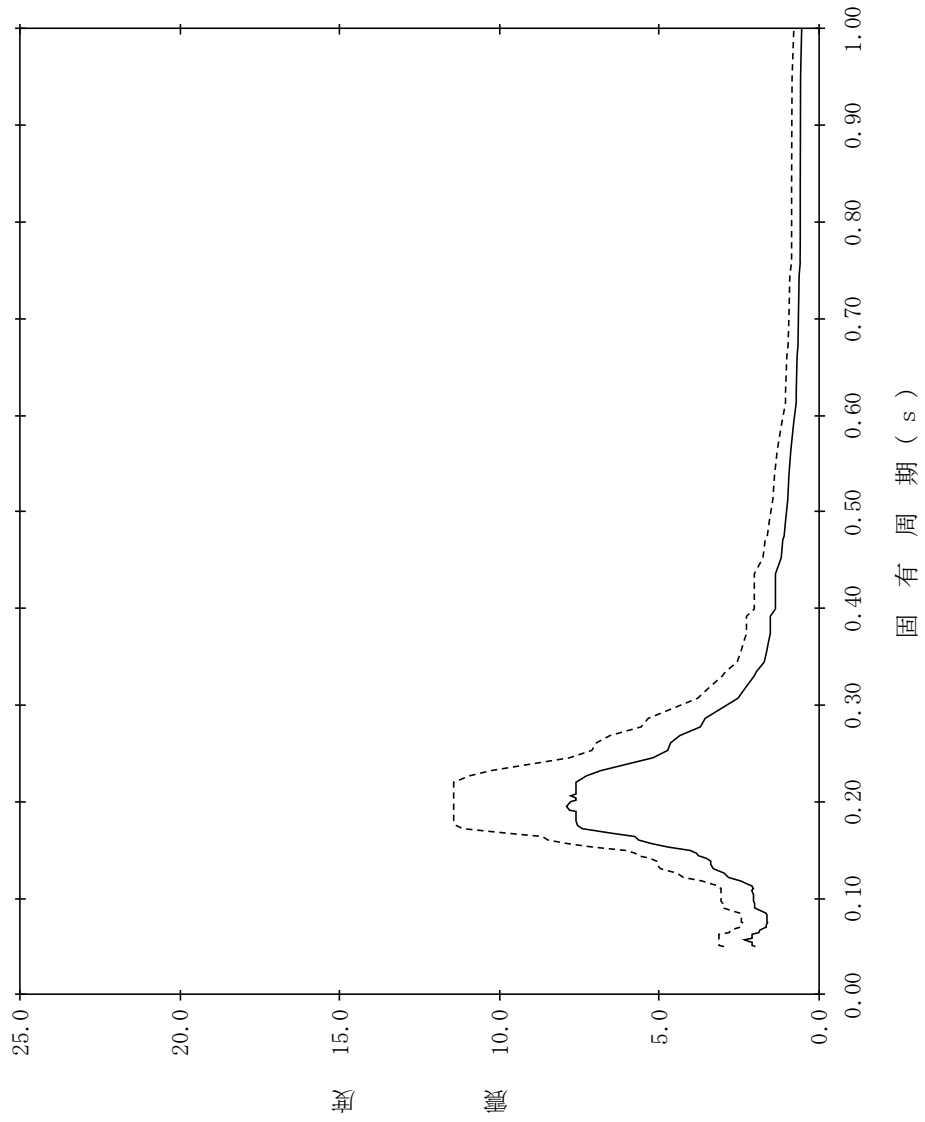
【NS2-RB-SdEW-RB21】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



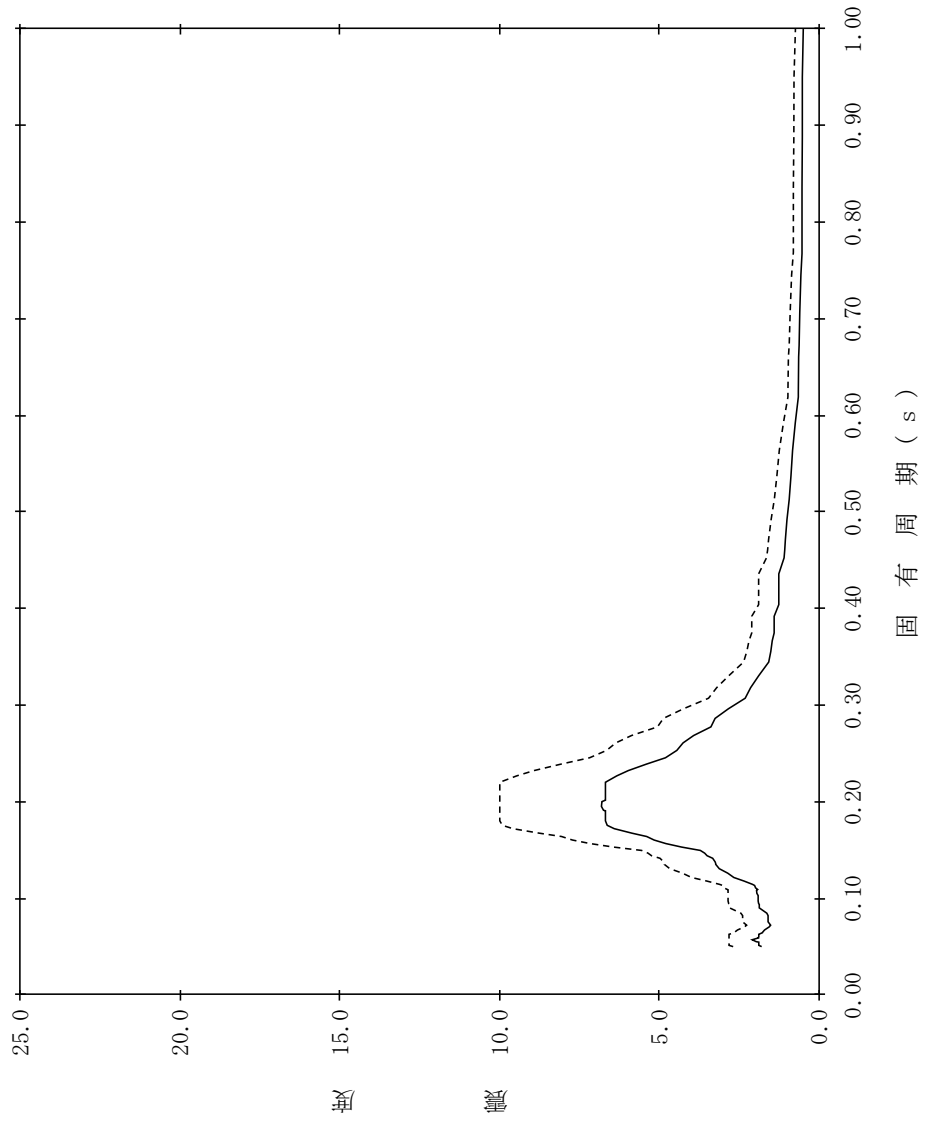
【NS2-RB-SdEW-RB22】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



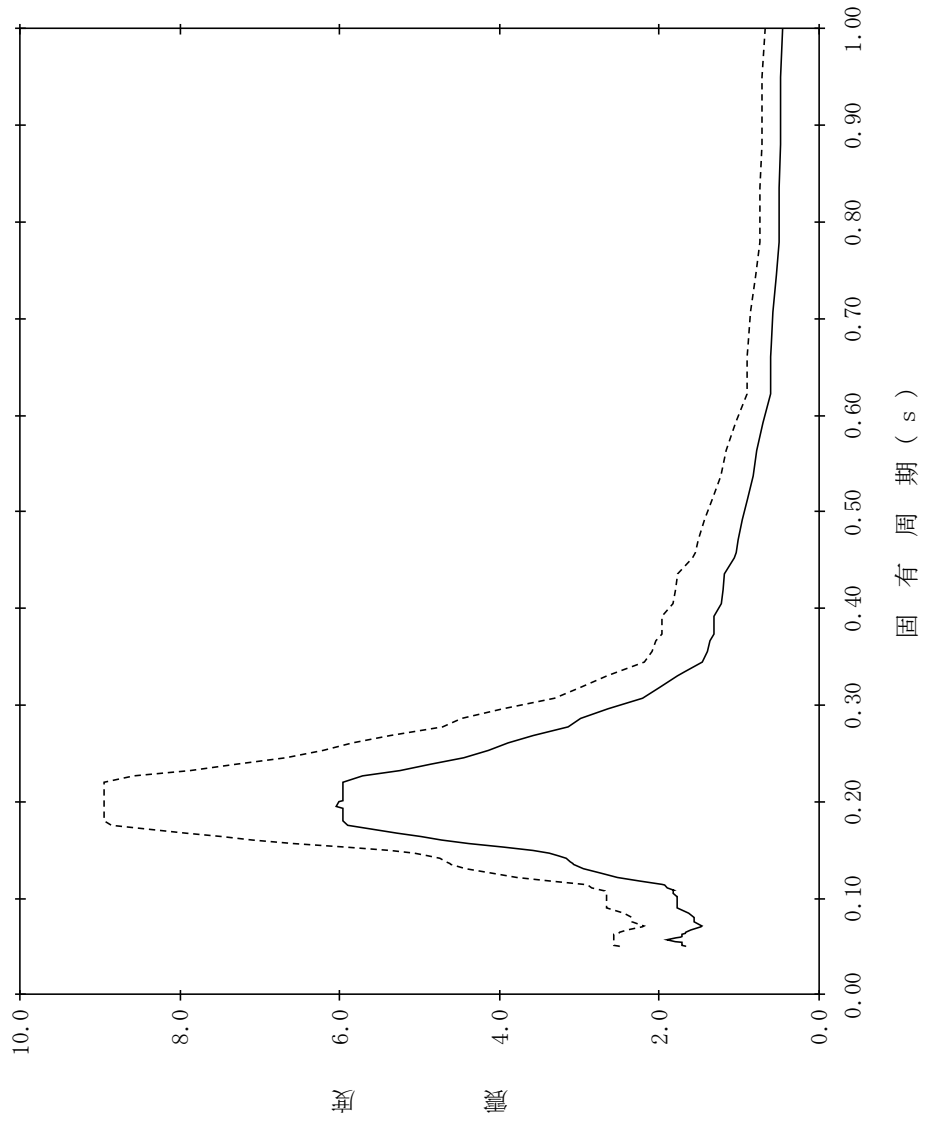
【NS2-RB-SdEW-RB23】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



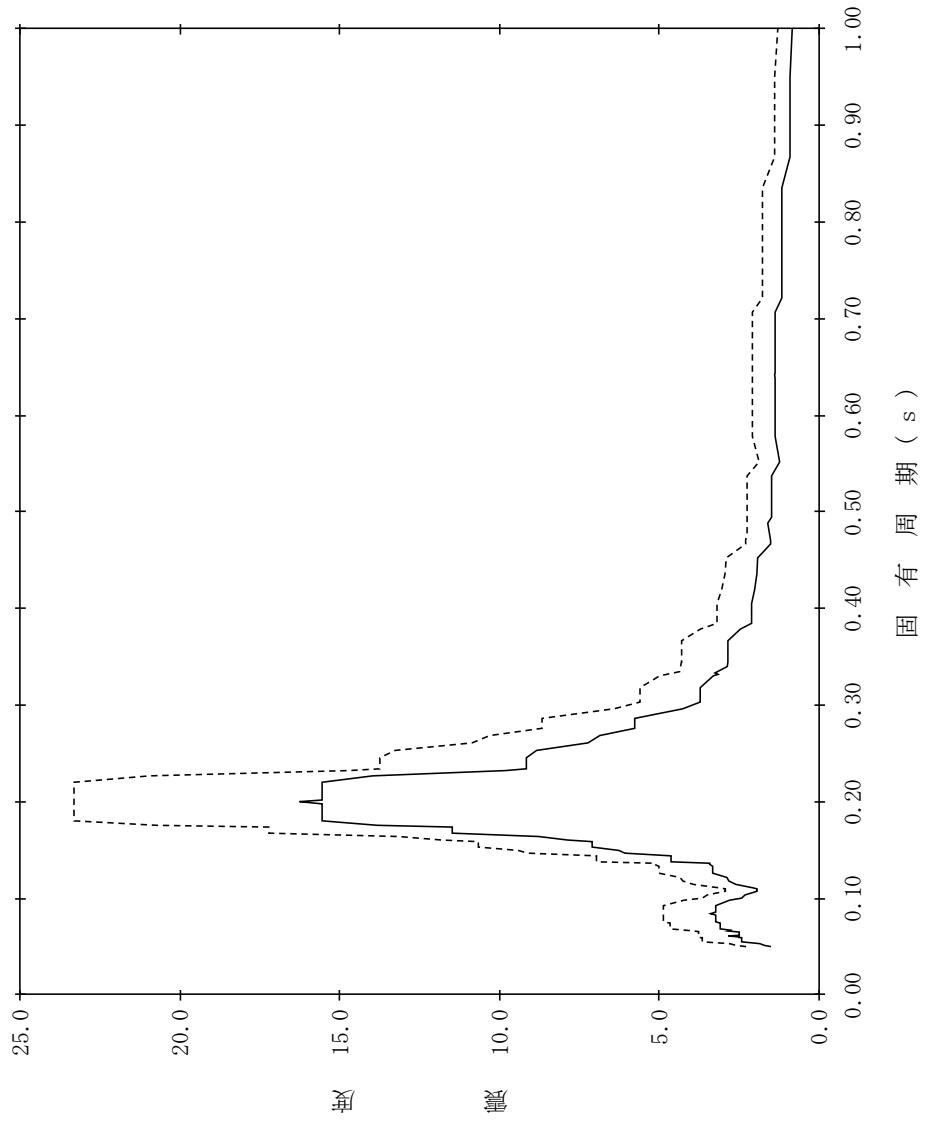
【NS2-RB-SdEW-RB24】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



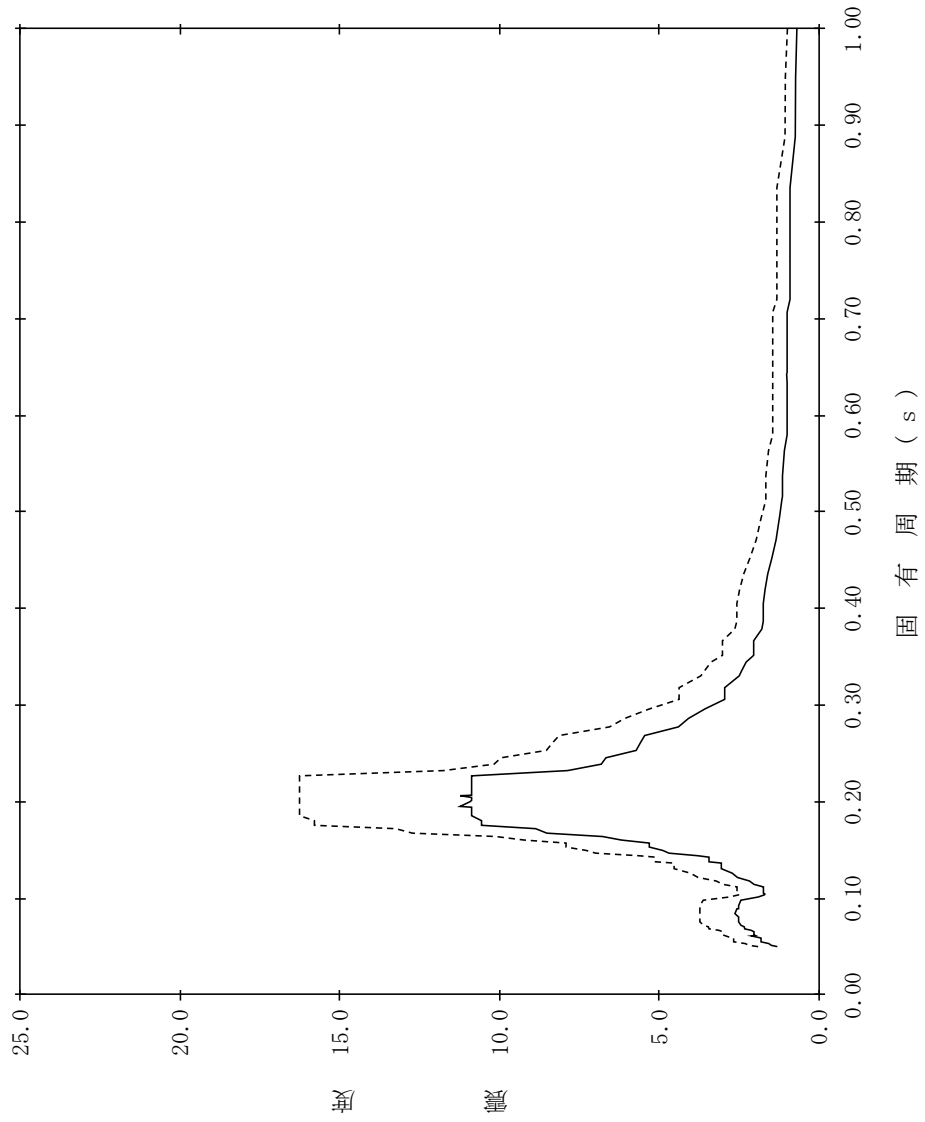
【NS2-RB-SdEW-RB25】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



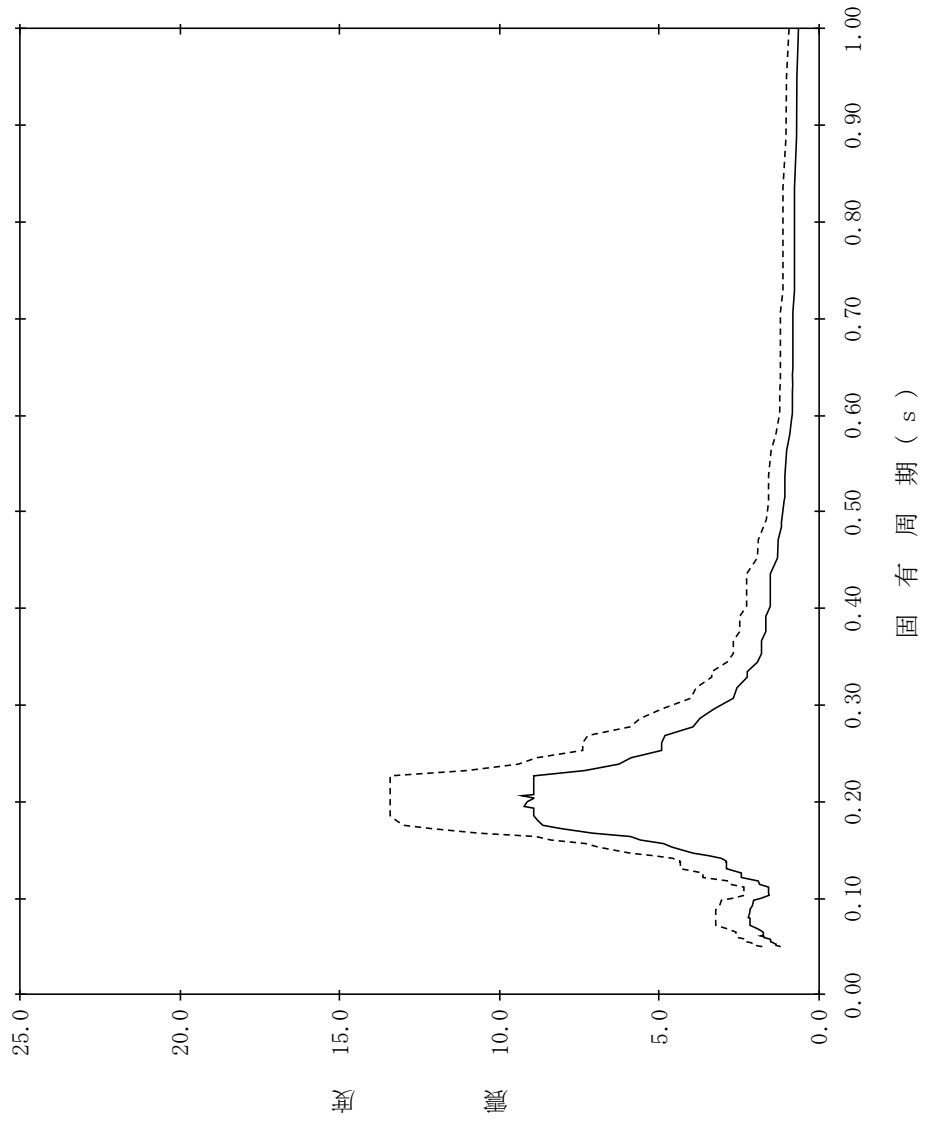
【NS2-RB-SdEW-RB26】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



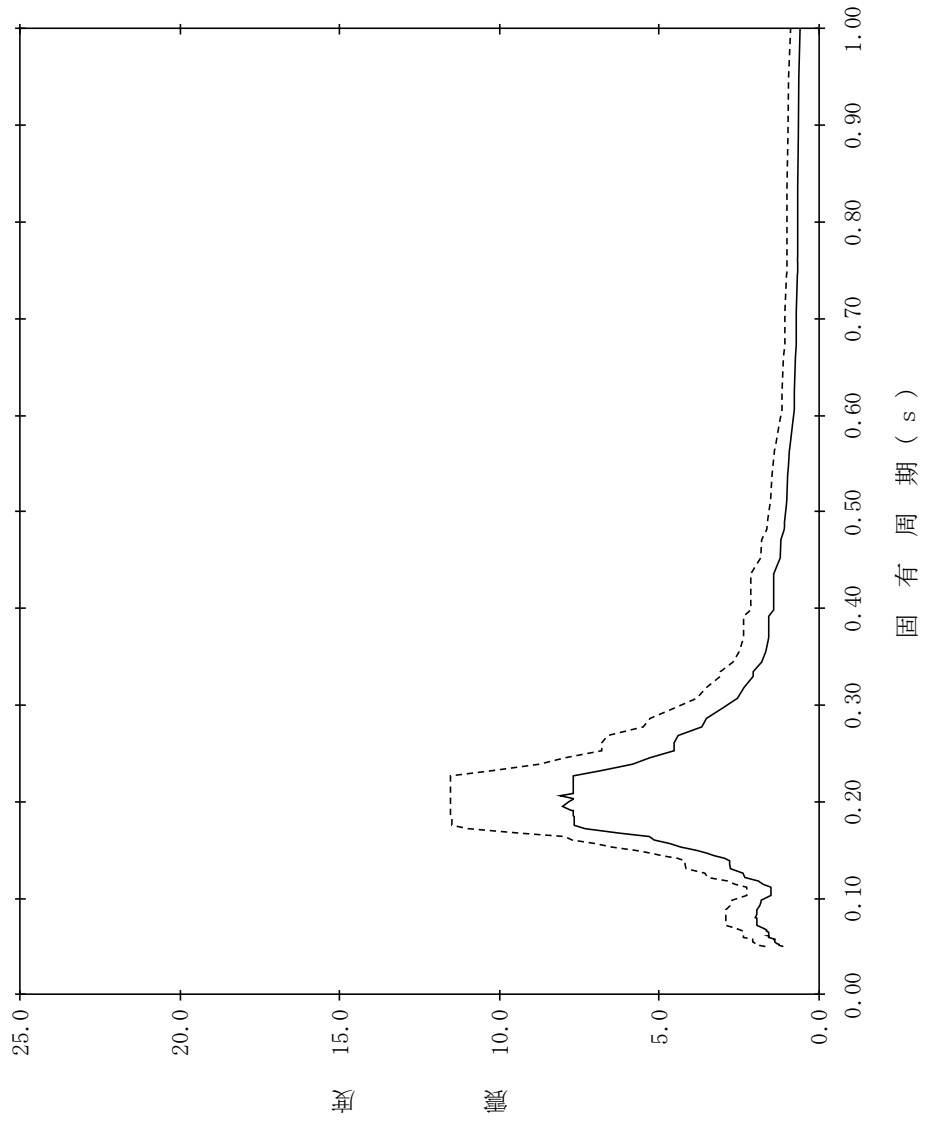
【NS2-RB-SdEW-RB27】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



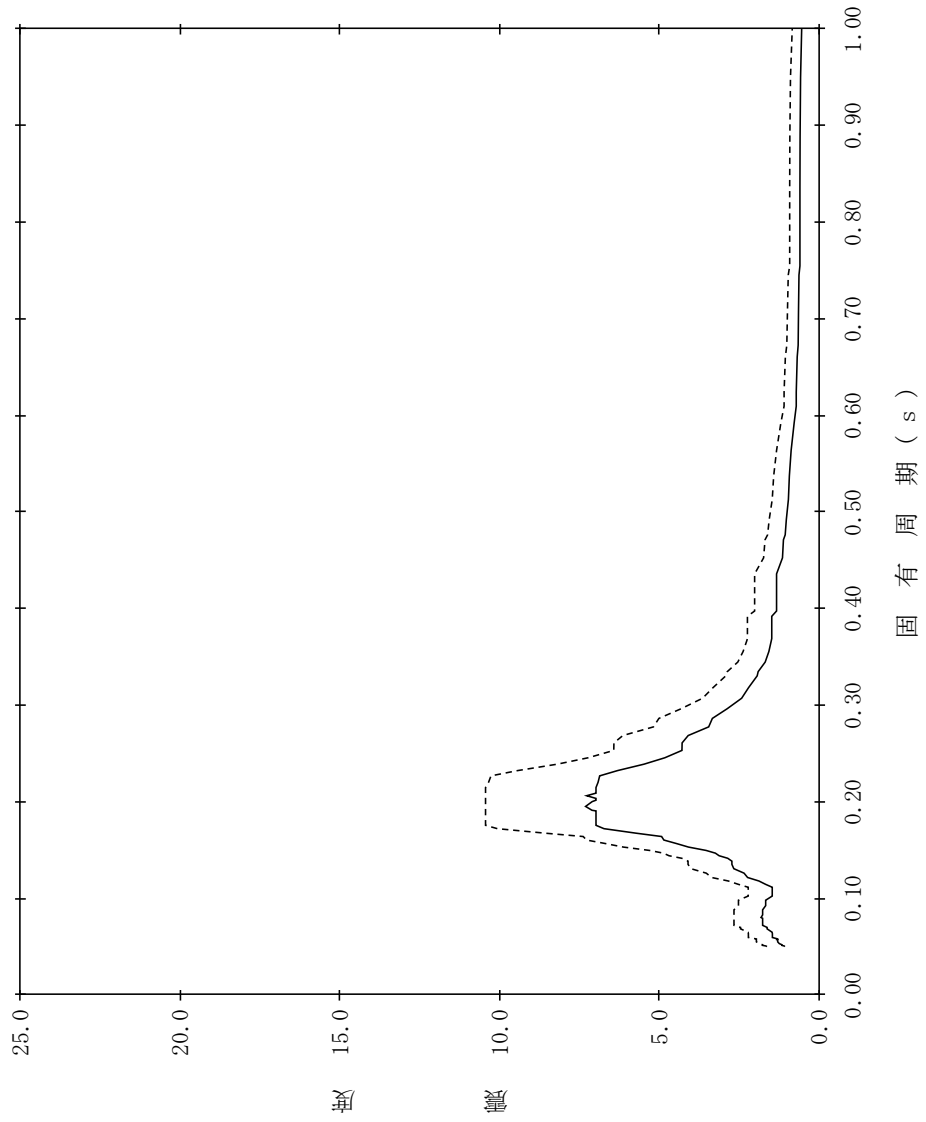
【NS2-RB-SdEW-RB28】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



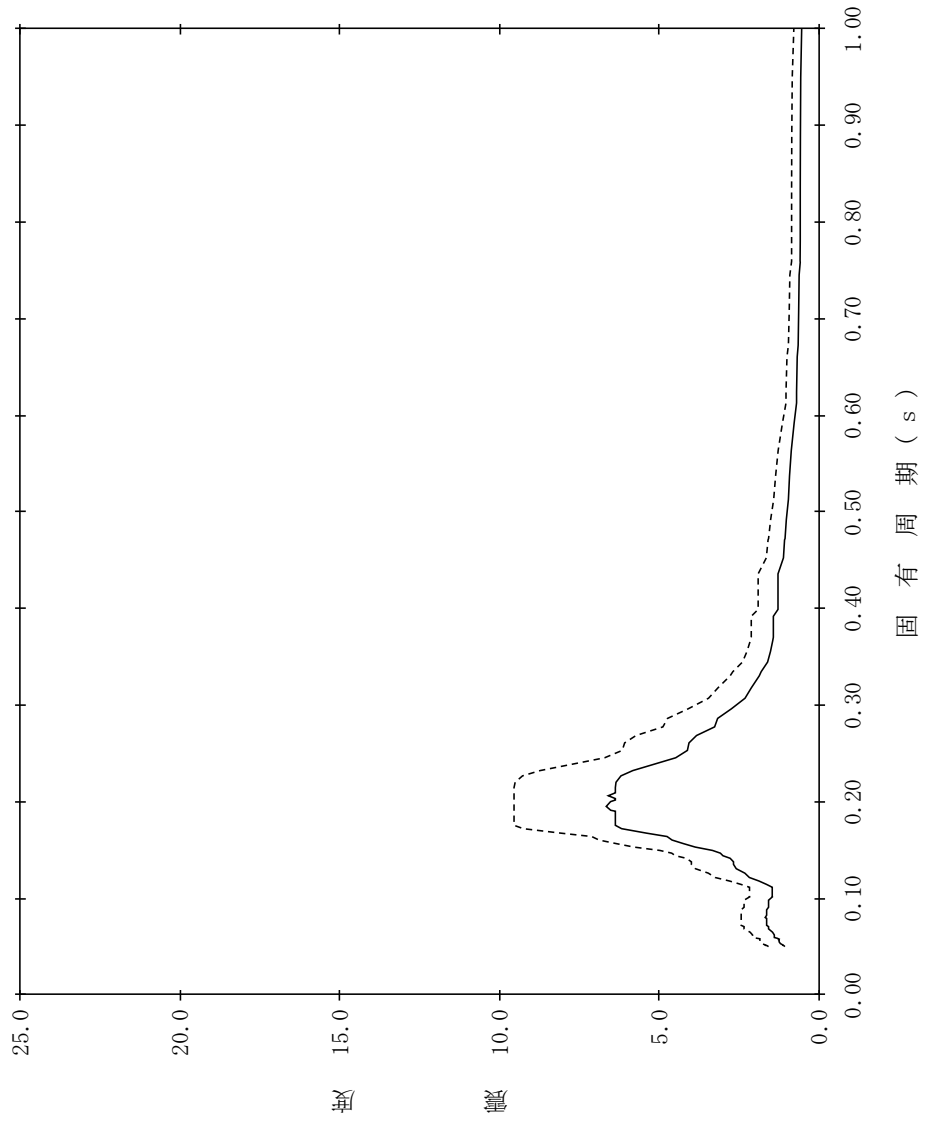
【NS2-RB-SdEW-RB29】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



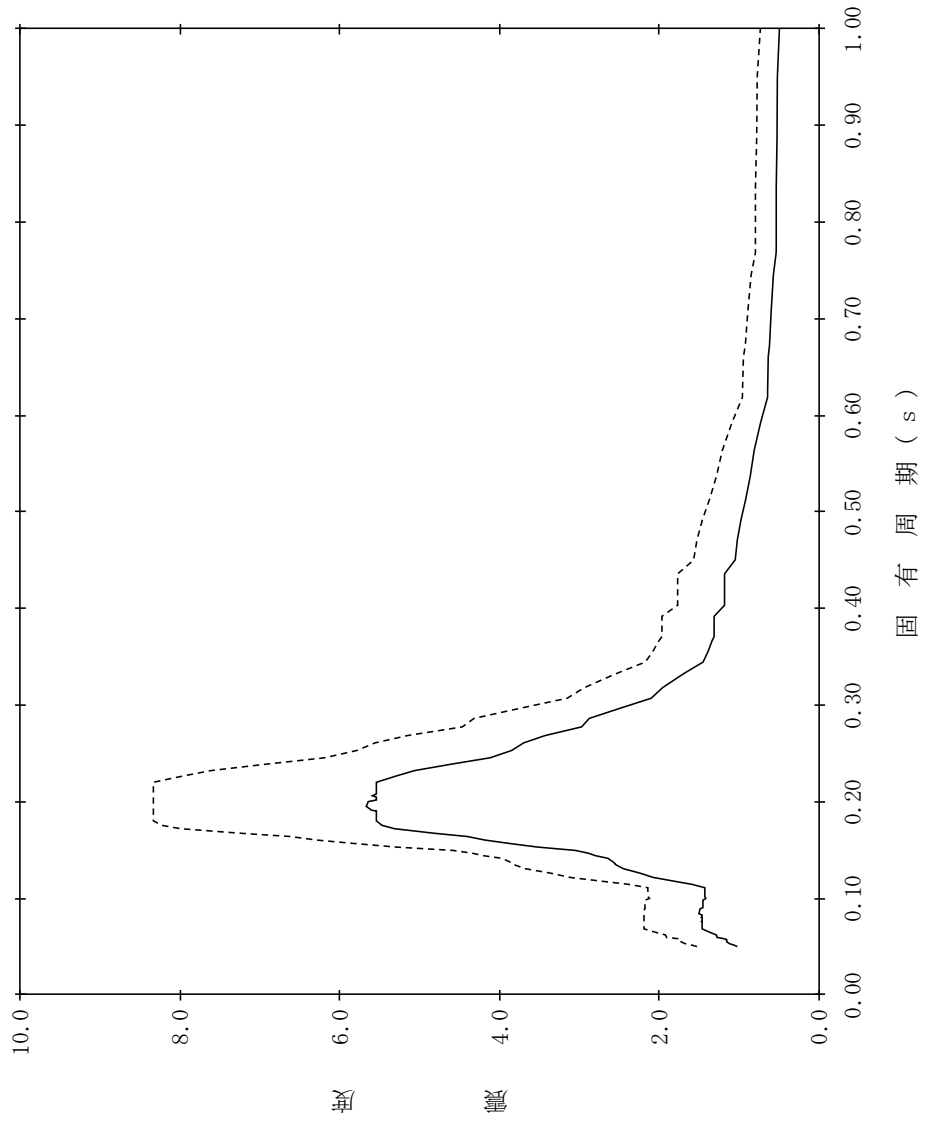
【NS2-RB-SdEW-RB30】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



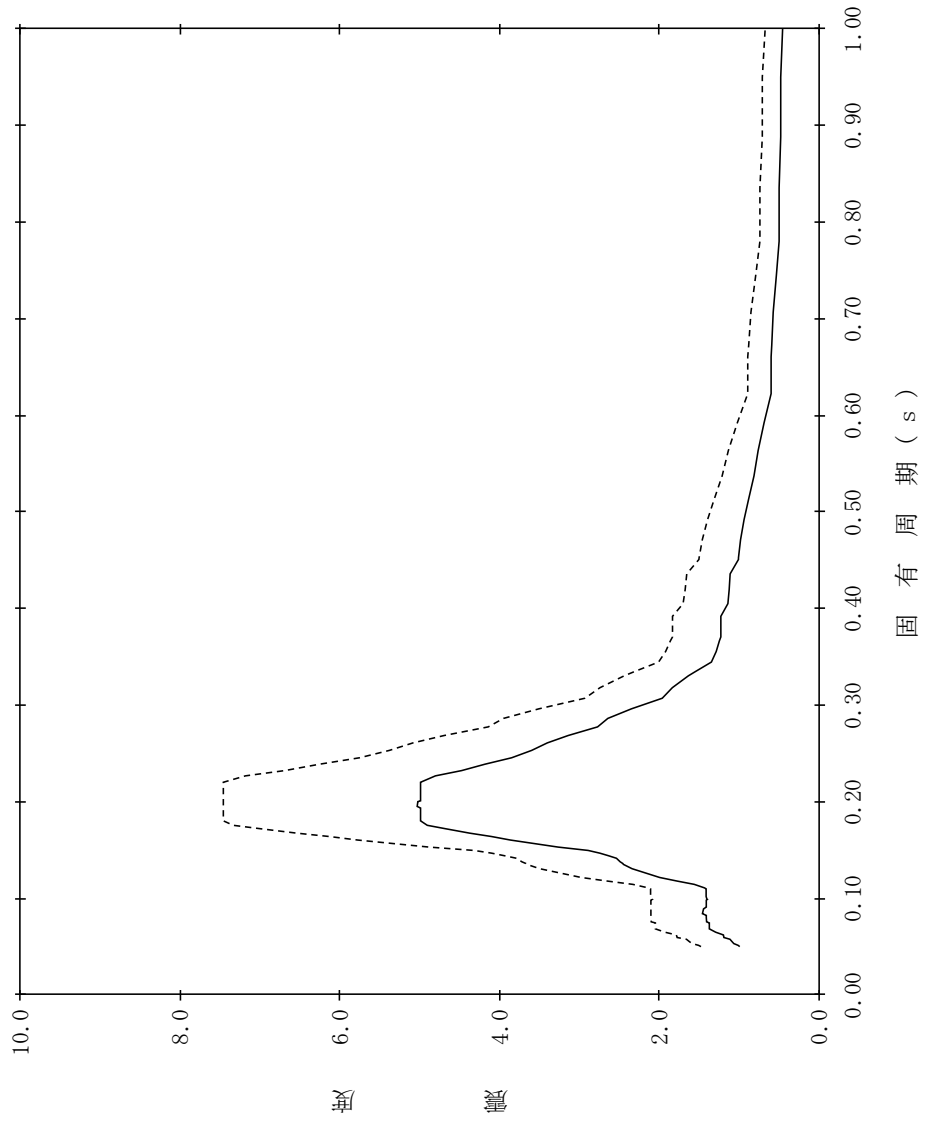
【NS2-RB-SdEW-RB31】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



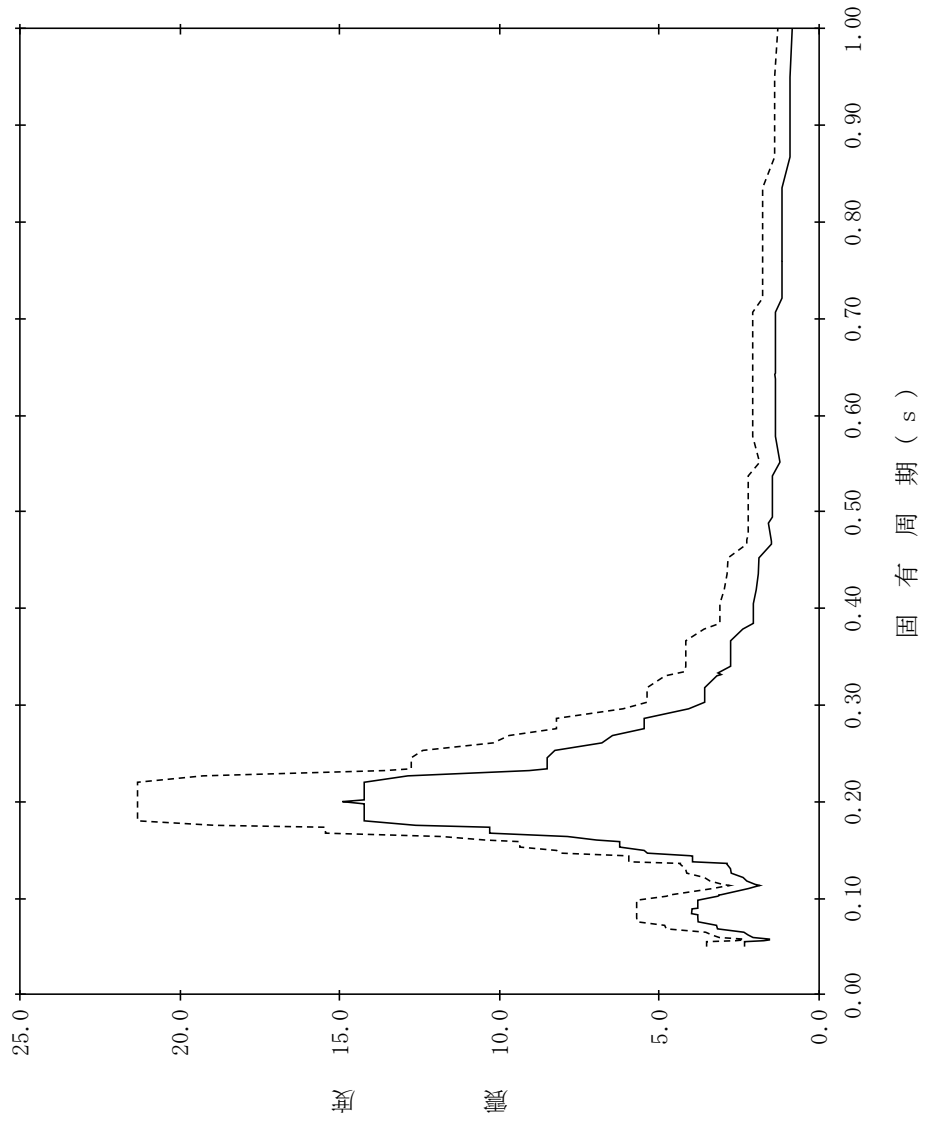
【NS2-RB-SdEW-RB32】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



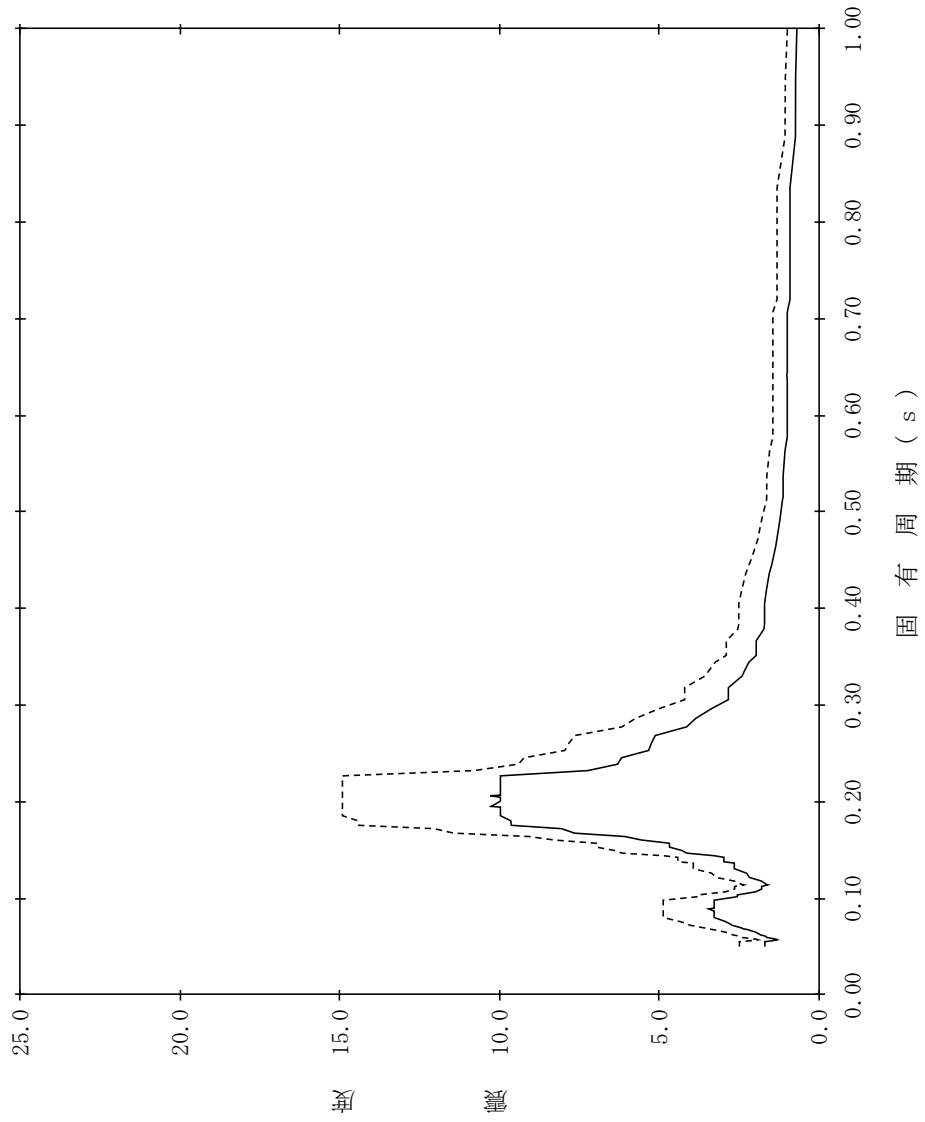
【NS2-RB-SdEW-RB33】

構造物名：原子炉建物
 減衰定数：0.5%
 標高：EL30.500m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



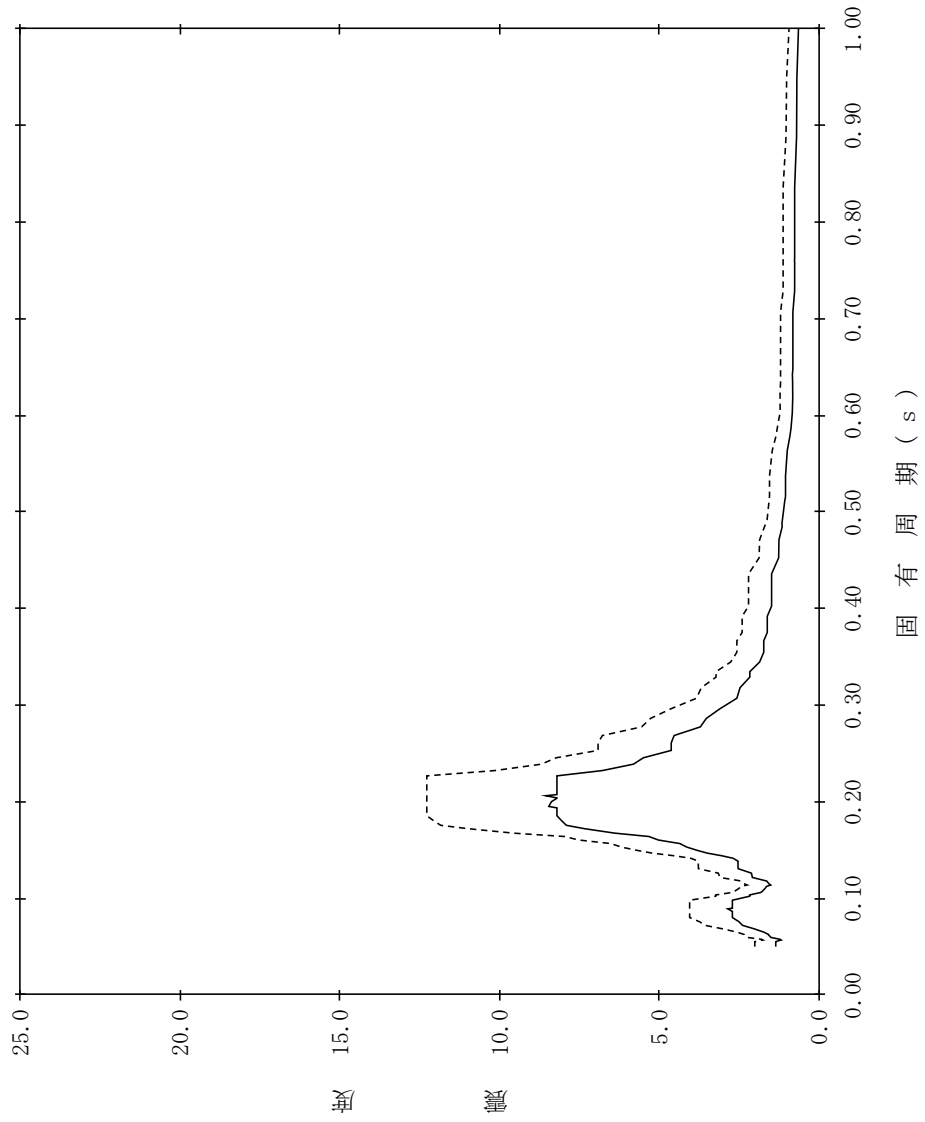
【NS2-RB-SdEW-RB34】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



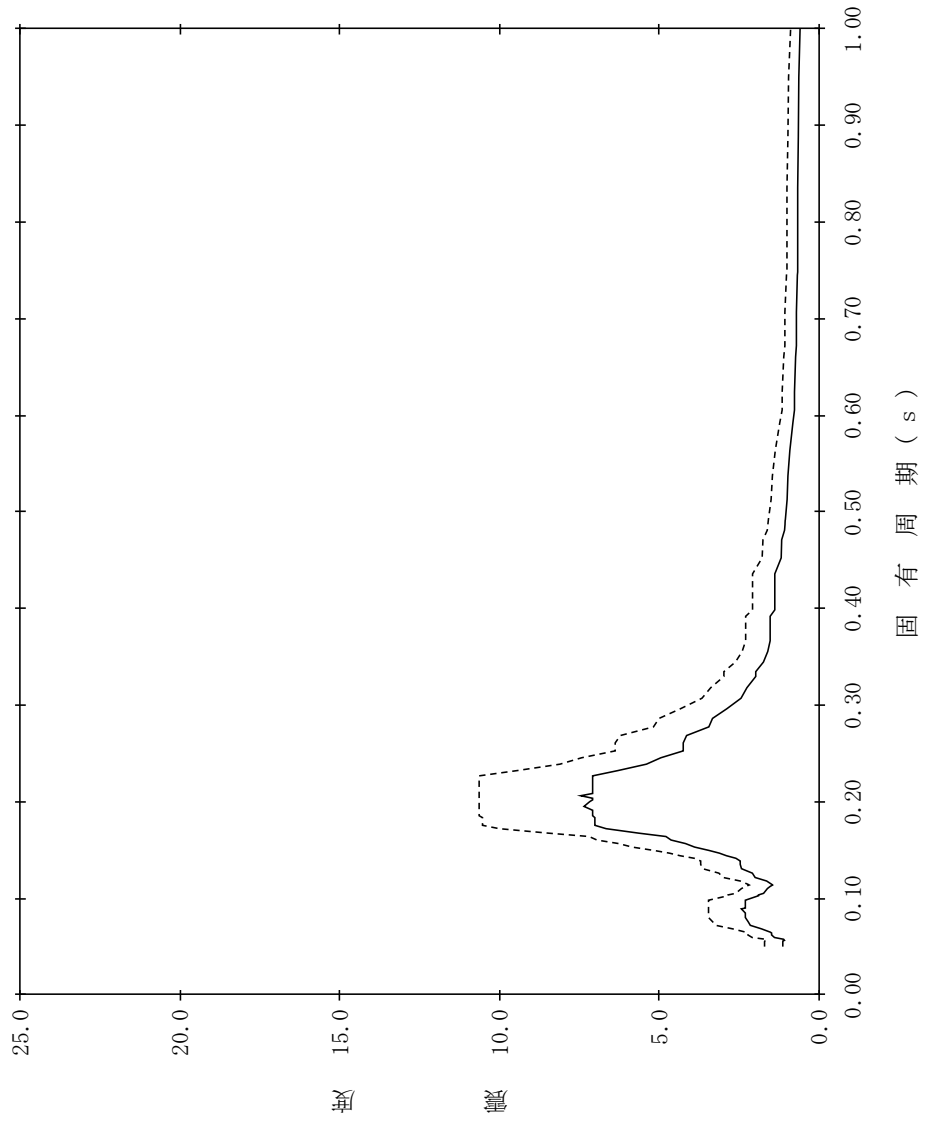
【NS2-RB-SdEW-RB35】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



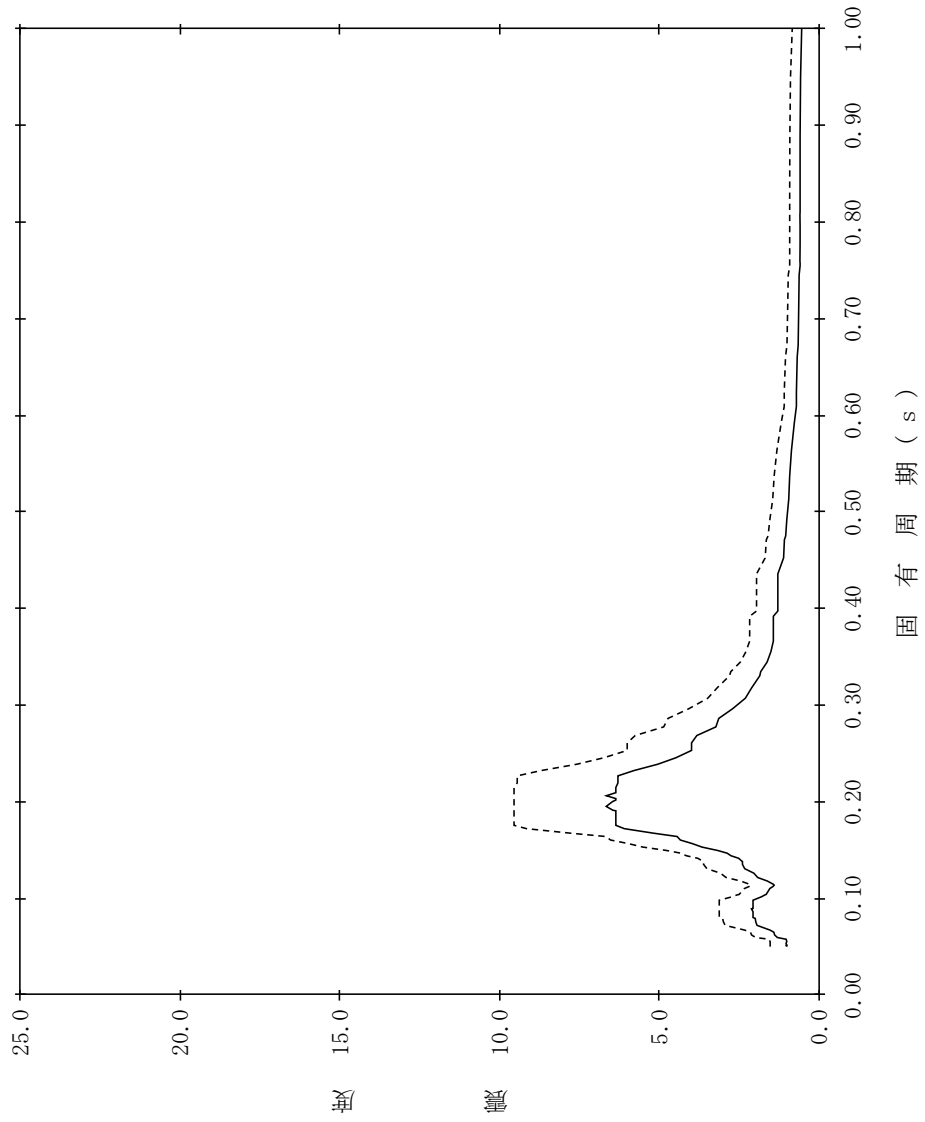
【NS2-RB-SdEW-RB36】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



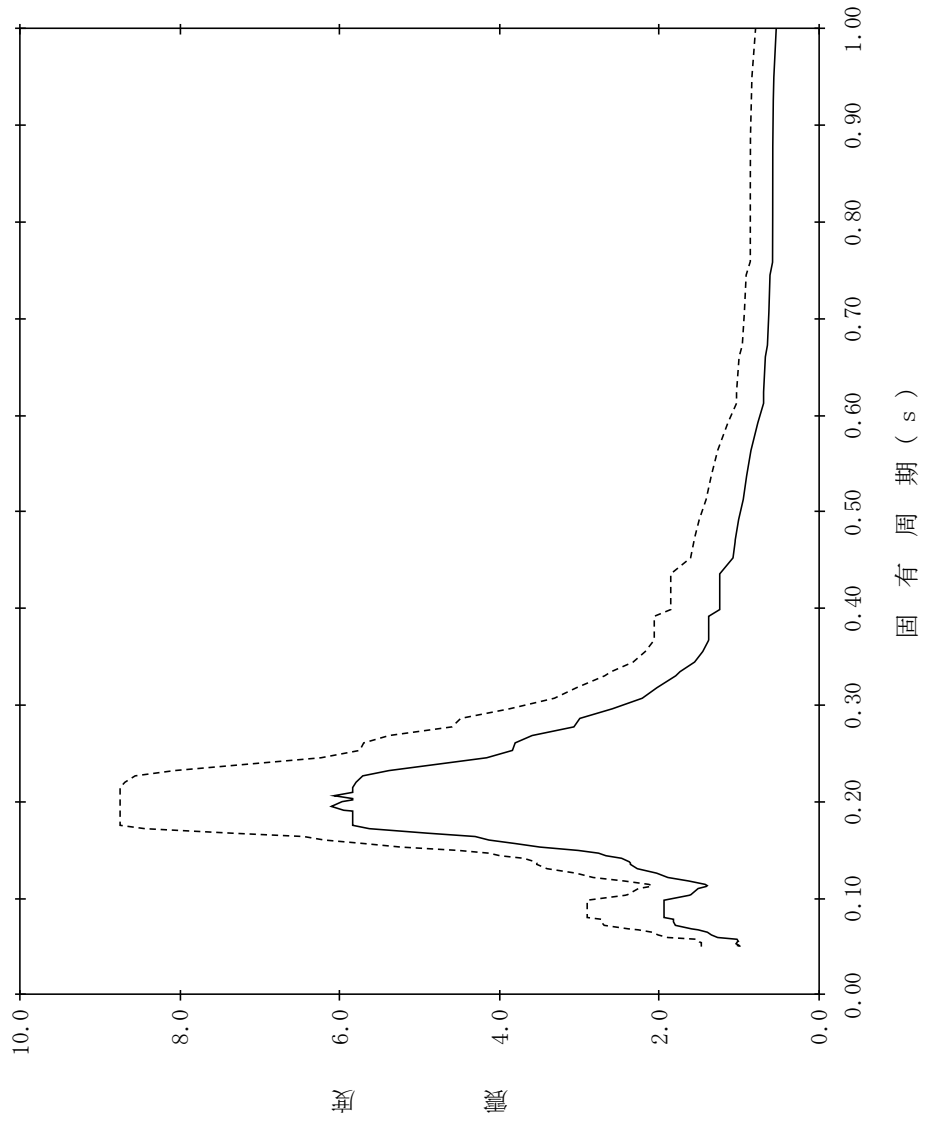
【NS2-RB-SdEW-RB37】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



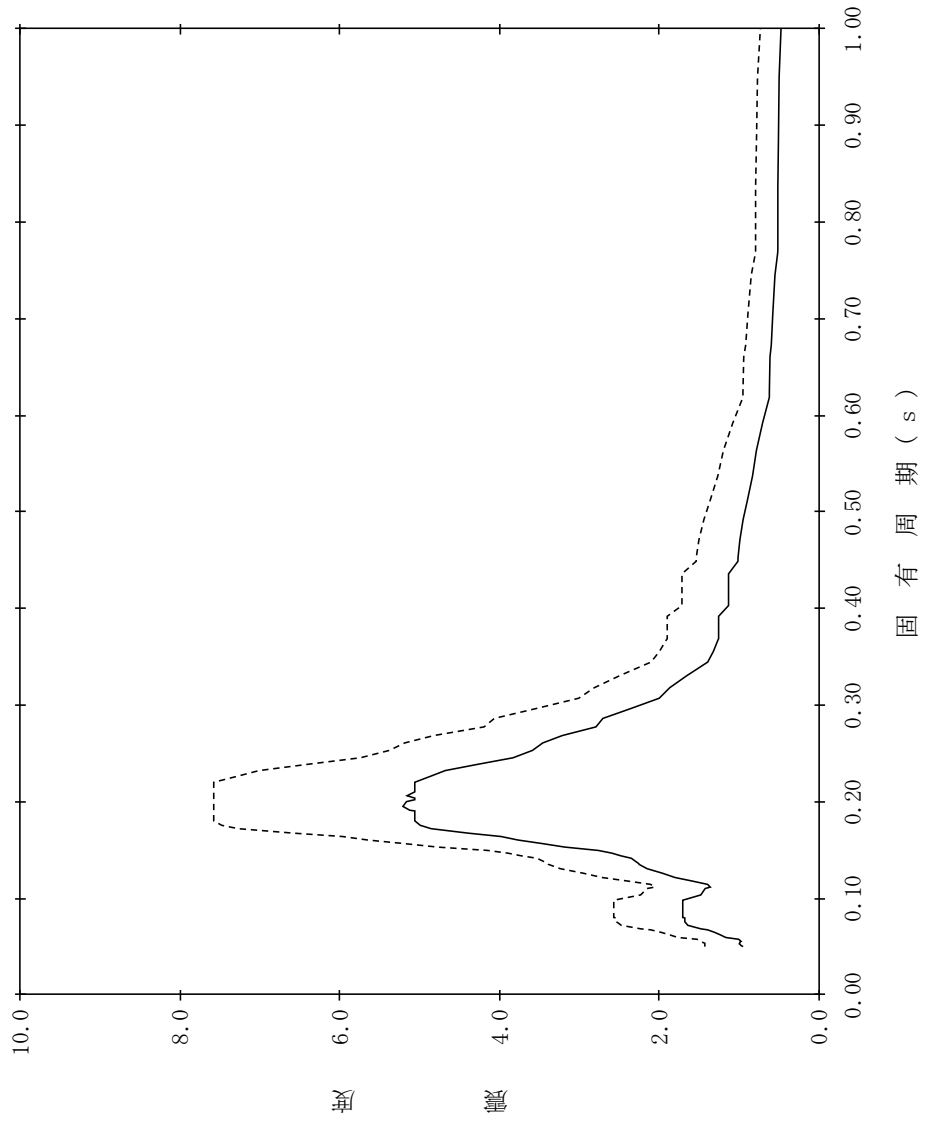
【NS2-RB-SdEW-RB38】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



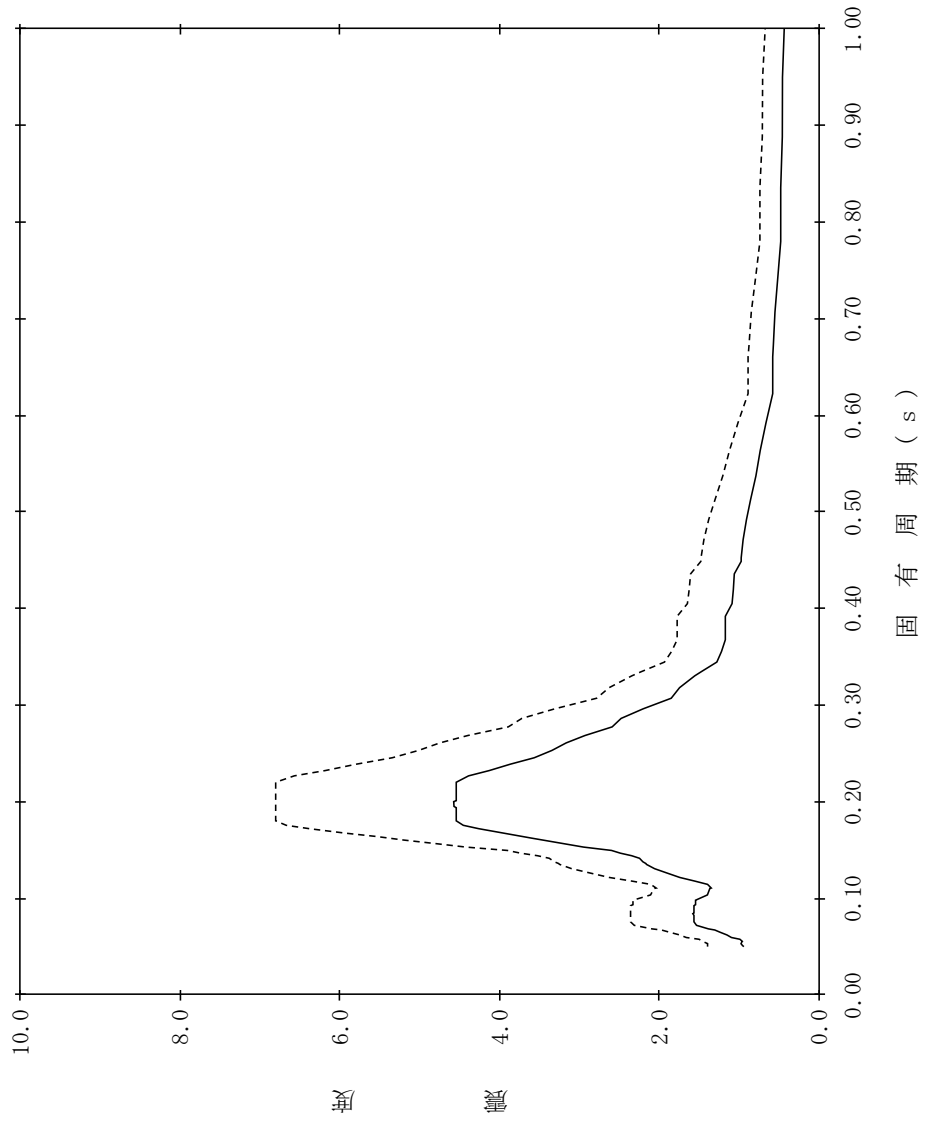
【NS2-RB-SdEW-RB39】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



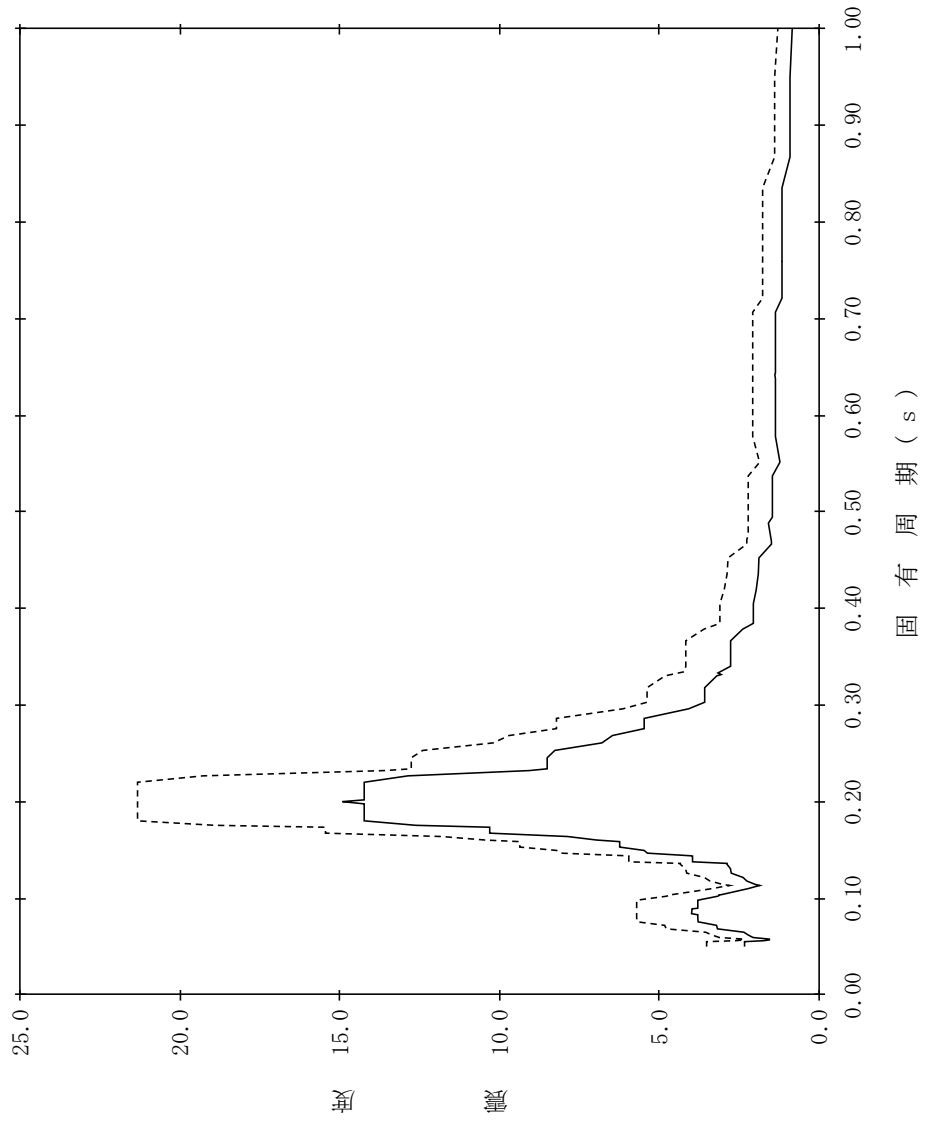
【NS2-RB-SdEW-RB40】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



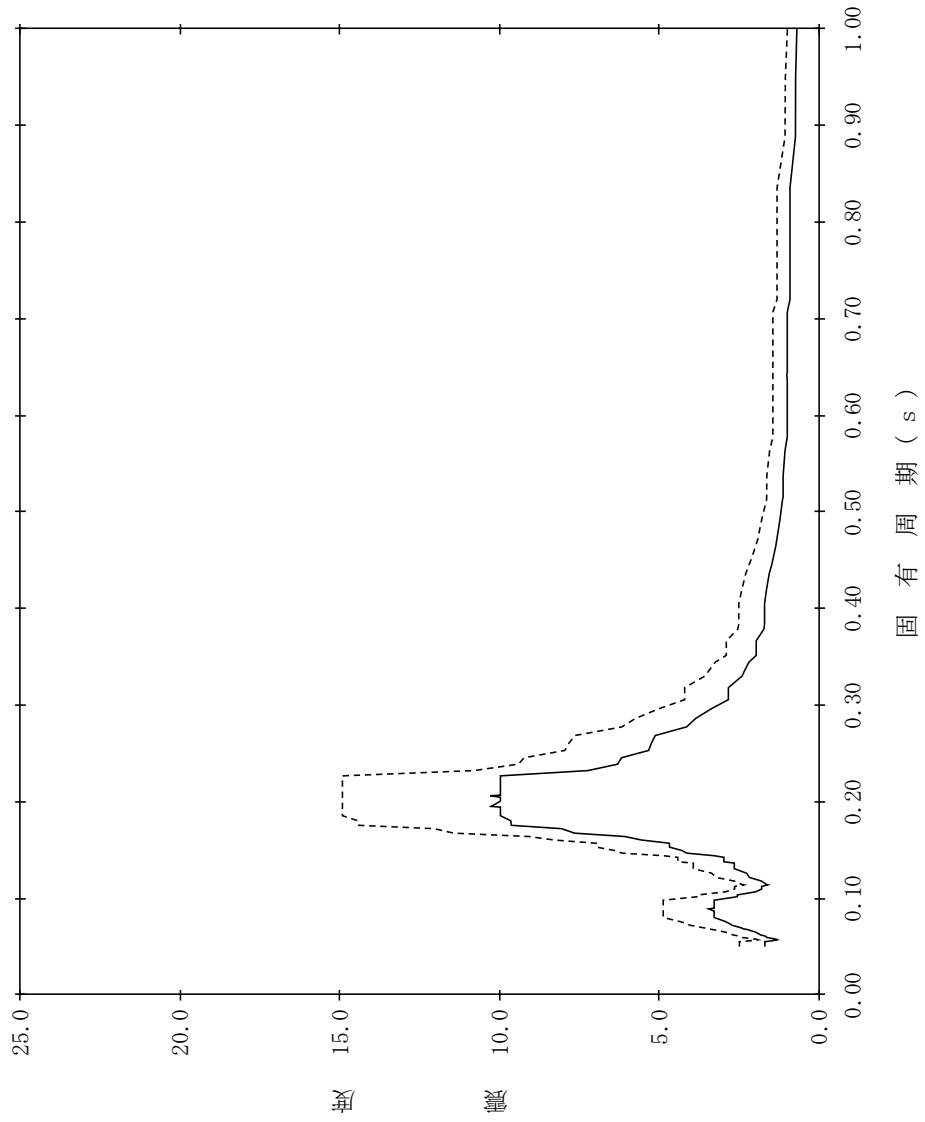
【NS2-RB-SdEW-RB41】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：0.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



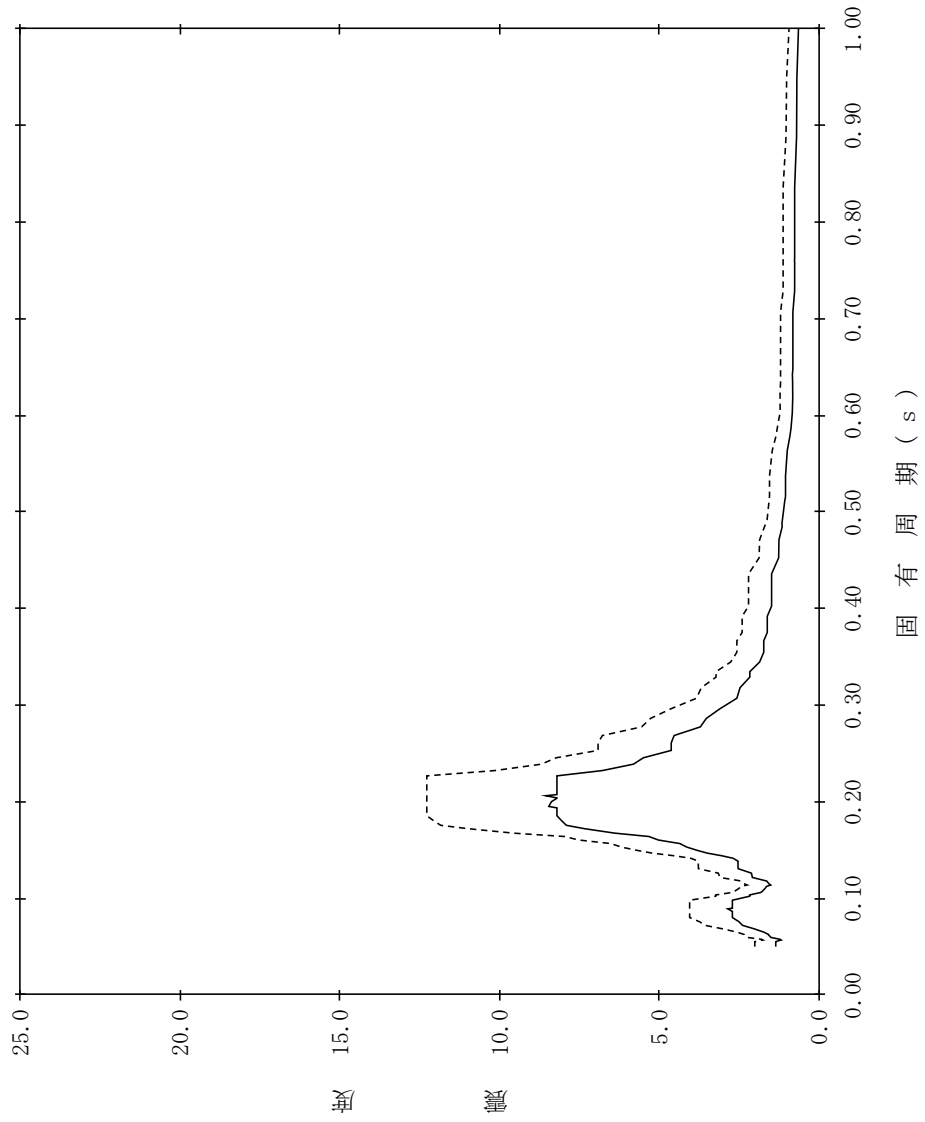
【NS2-RB-SdEW-RB42】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：1.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



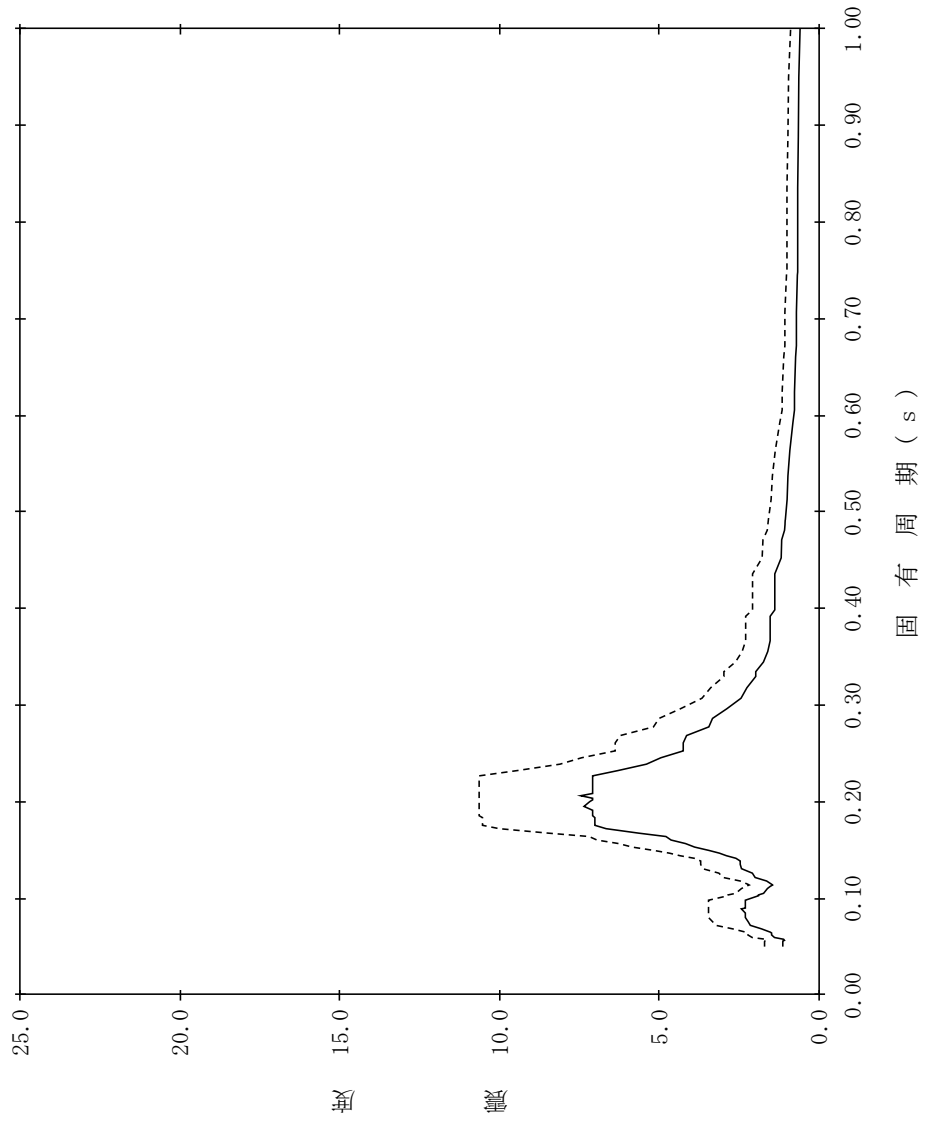
【NS2-RB-SdEW-RB43】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトルⅠ (EW方向)
 減衰定数：1.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトルⅡ (EW方向)



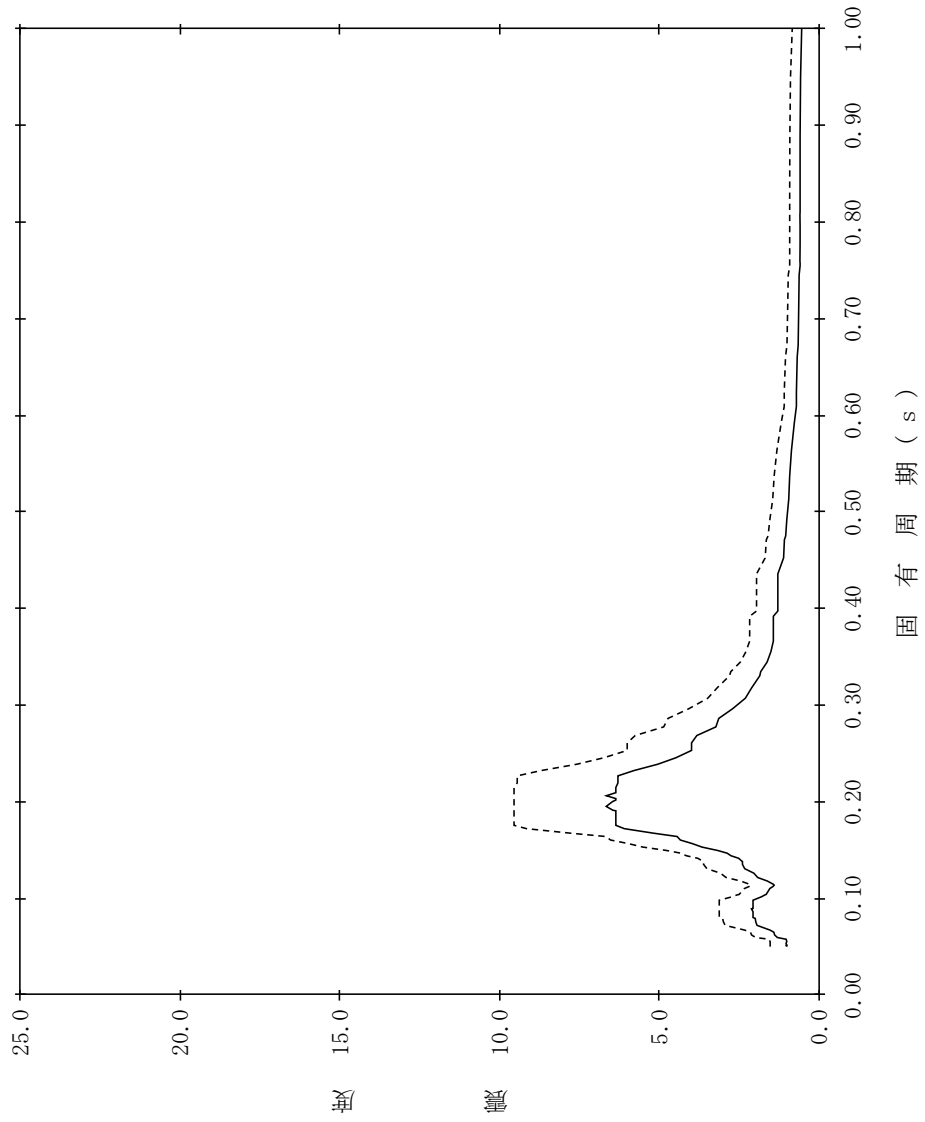
【NS2-RB-SdEW-RB44】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：2.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



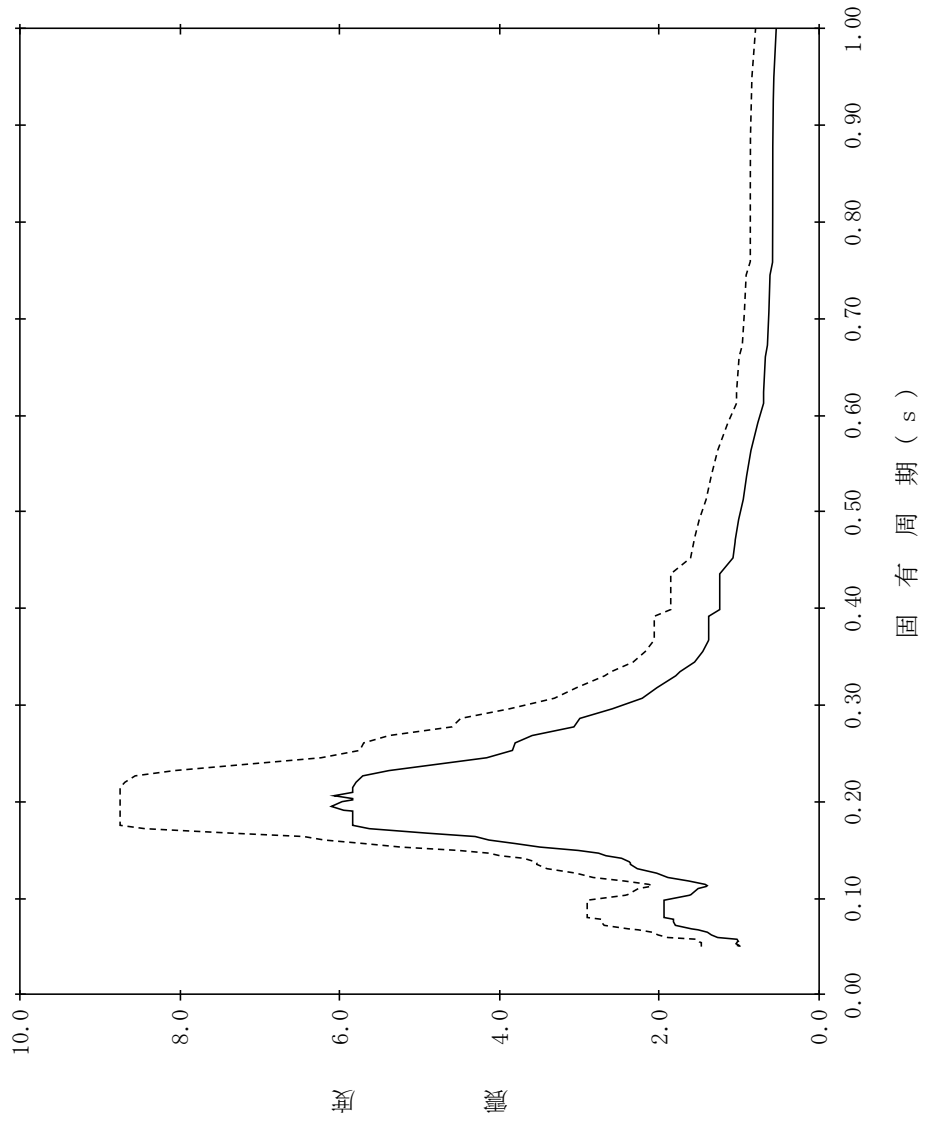
【NS2-RB-SdEW-RB45】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：2.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



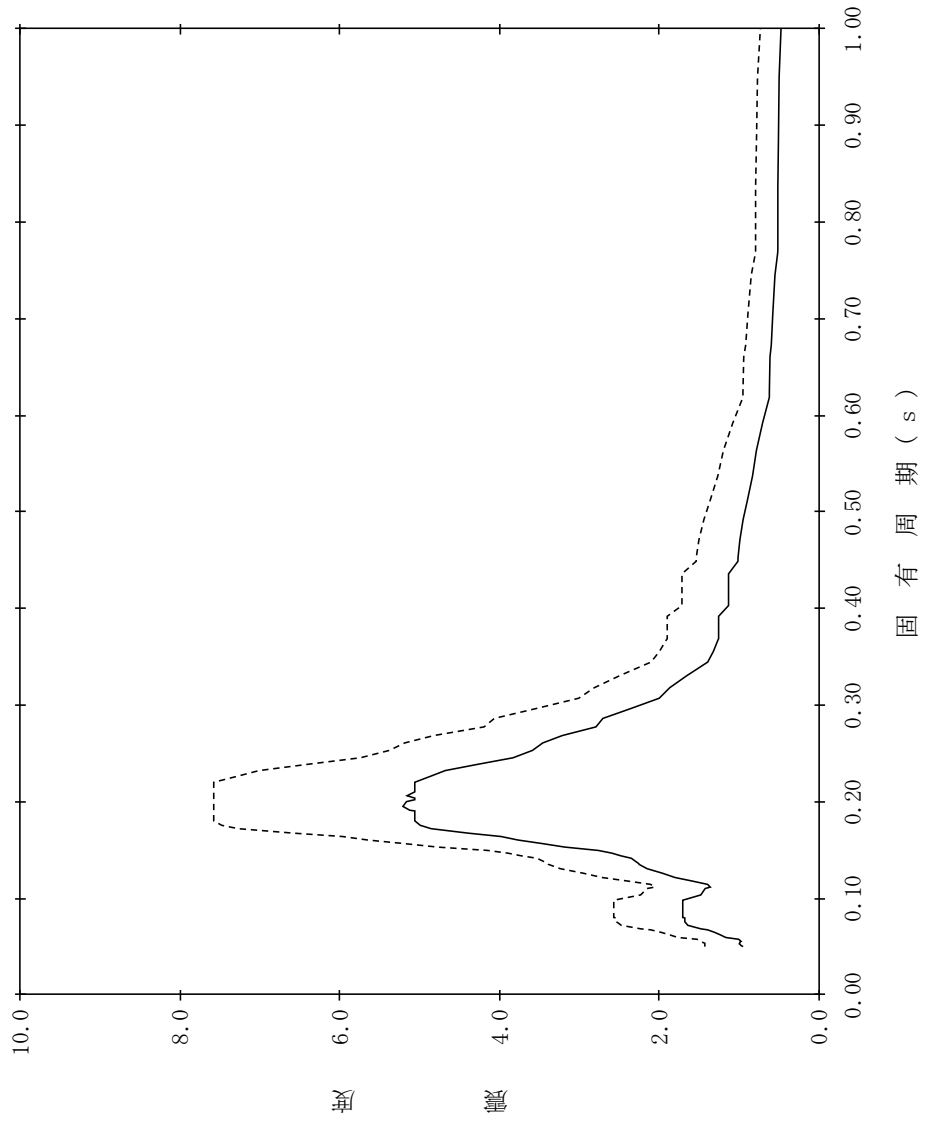
【NS2-RB-SdEW-RB46】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：3.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



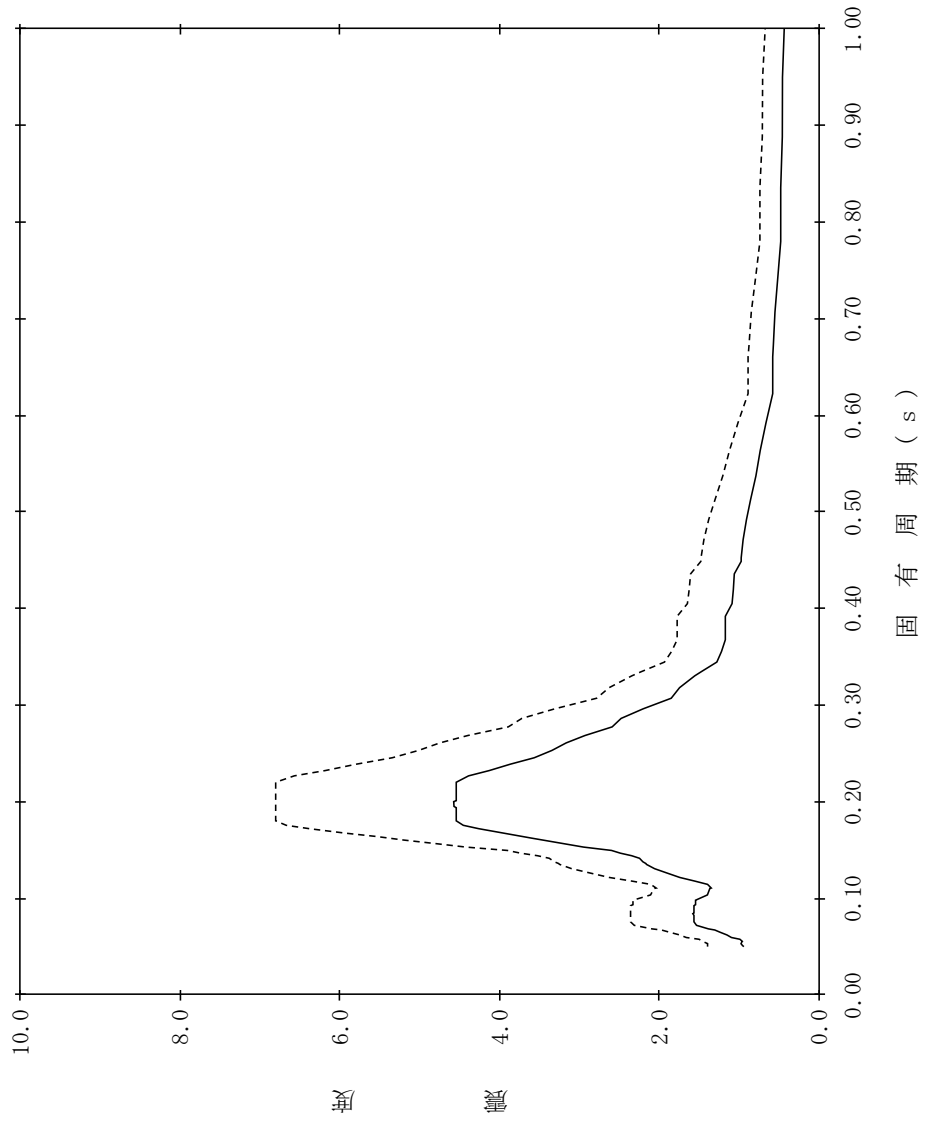
【NS2-RB-SdEW-RB47】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：4.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



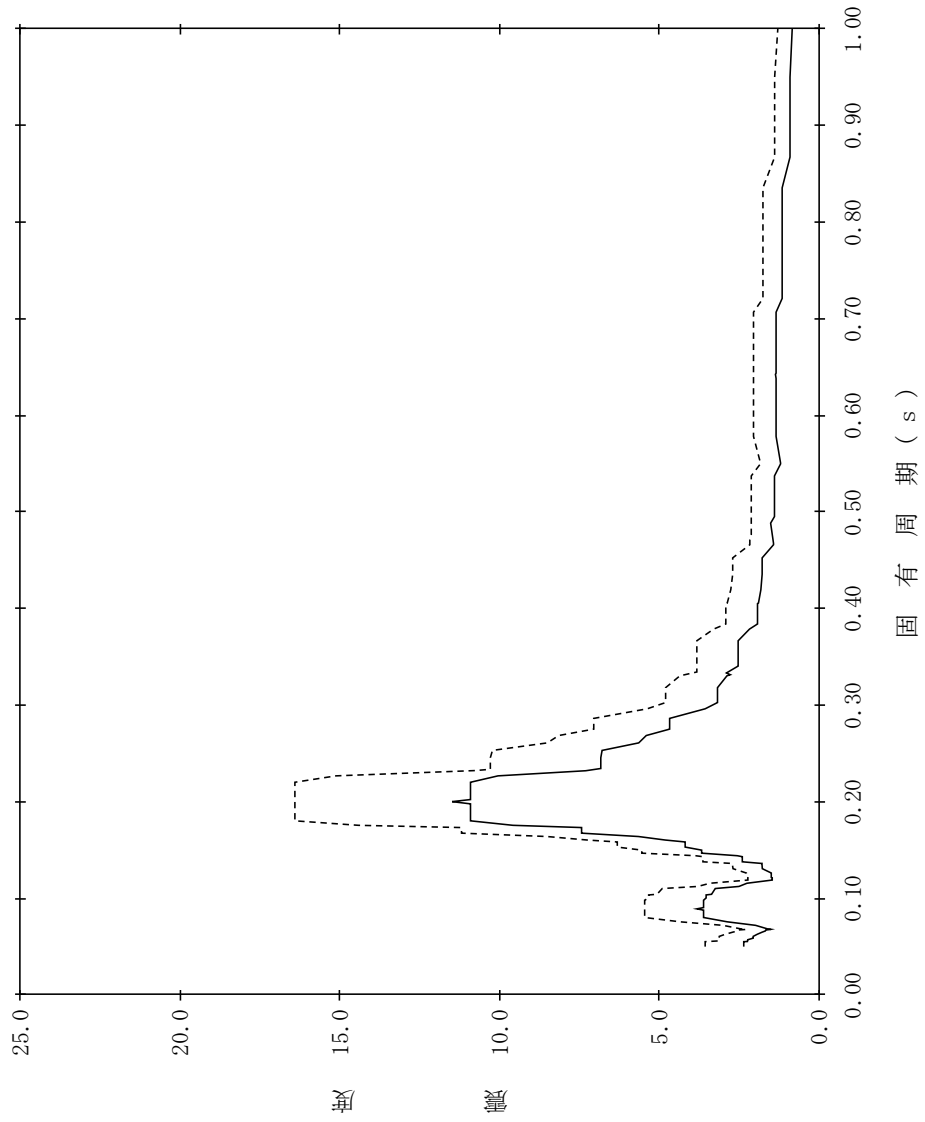
【NS2-RB-SdEW-RB48】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：5.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



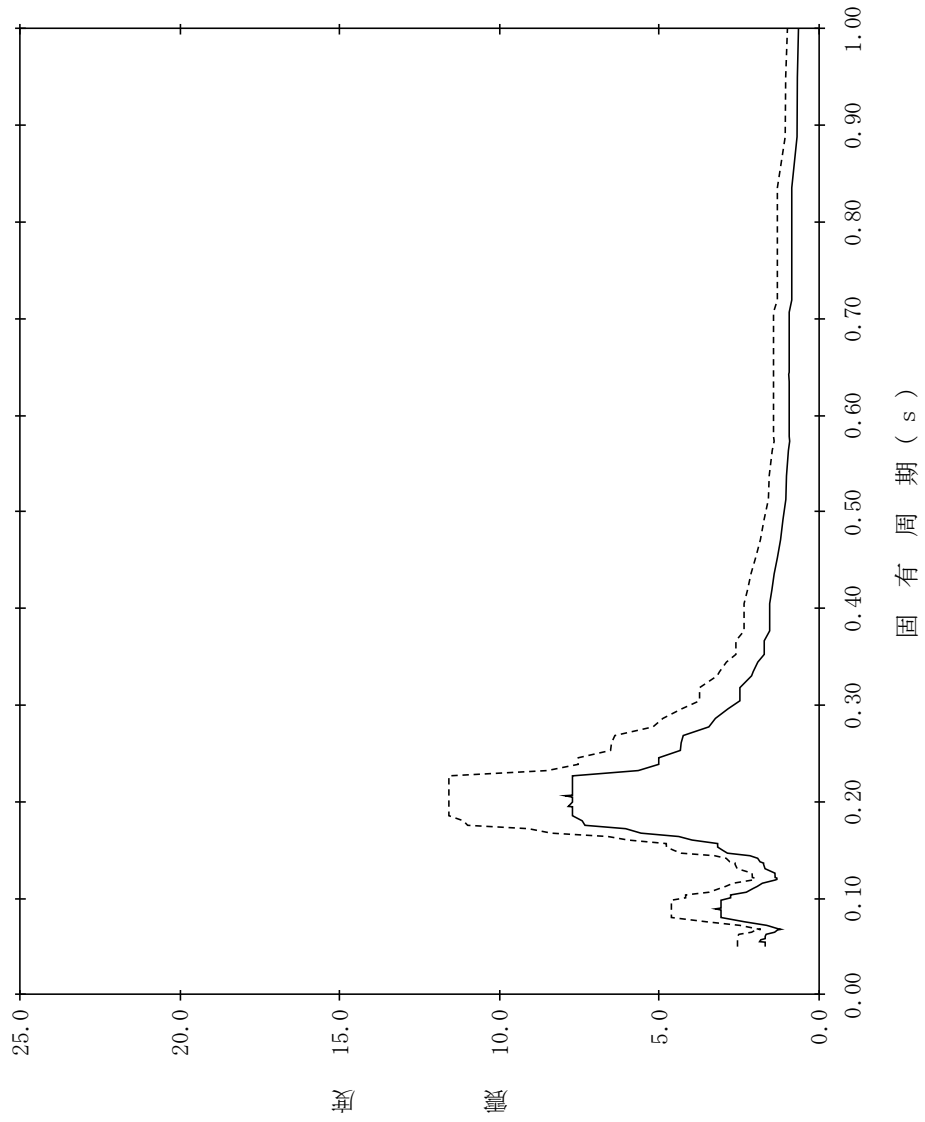
【NS2-RB-SdEW-RB49】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



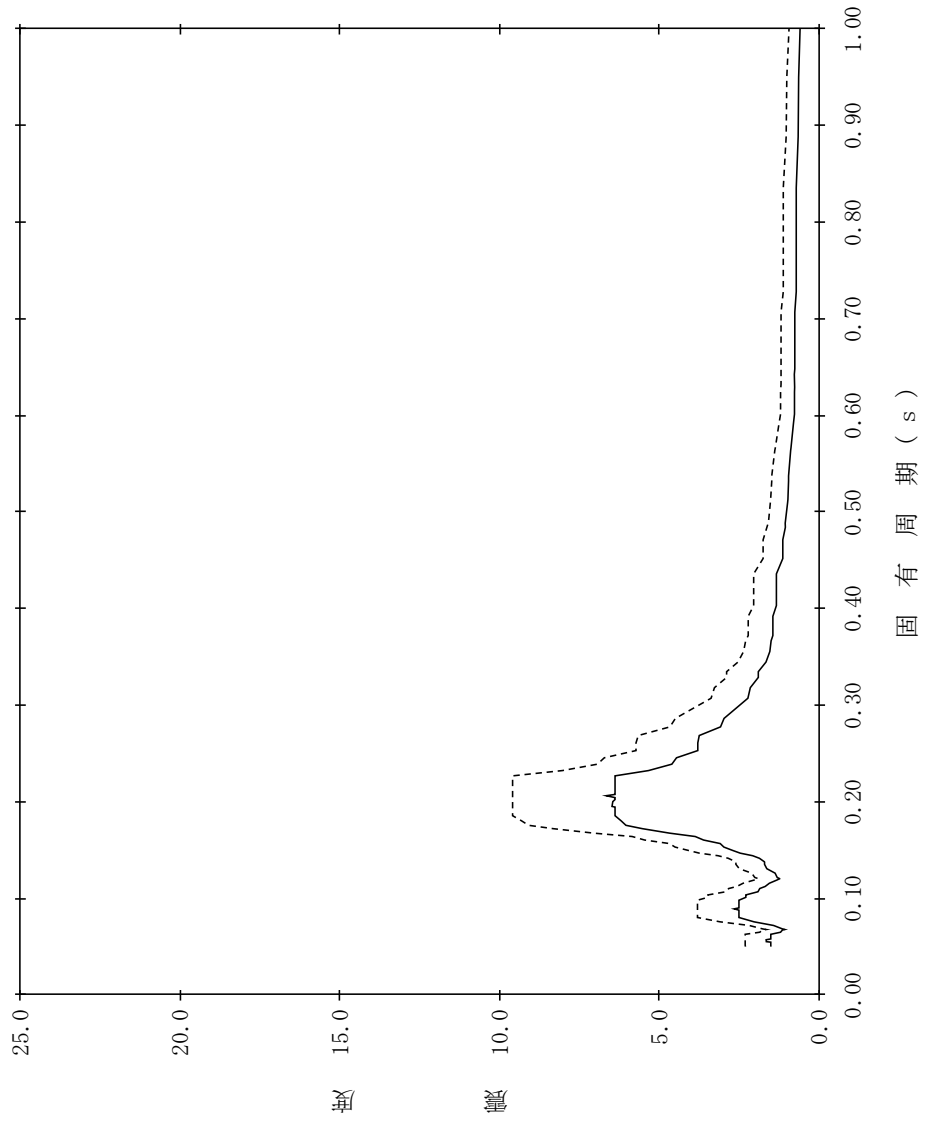
【NS2-RB-SdEW-RB50】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



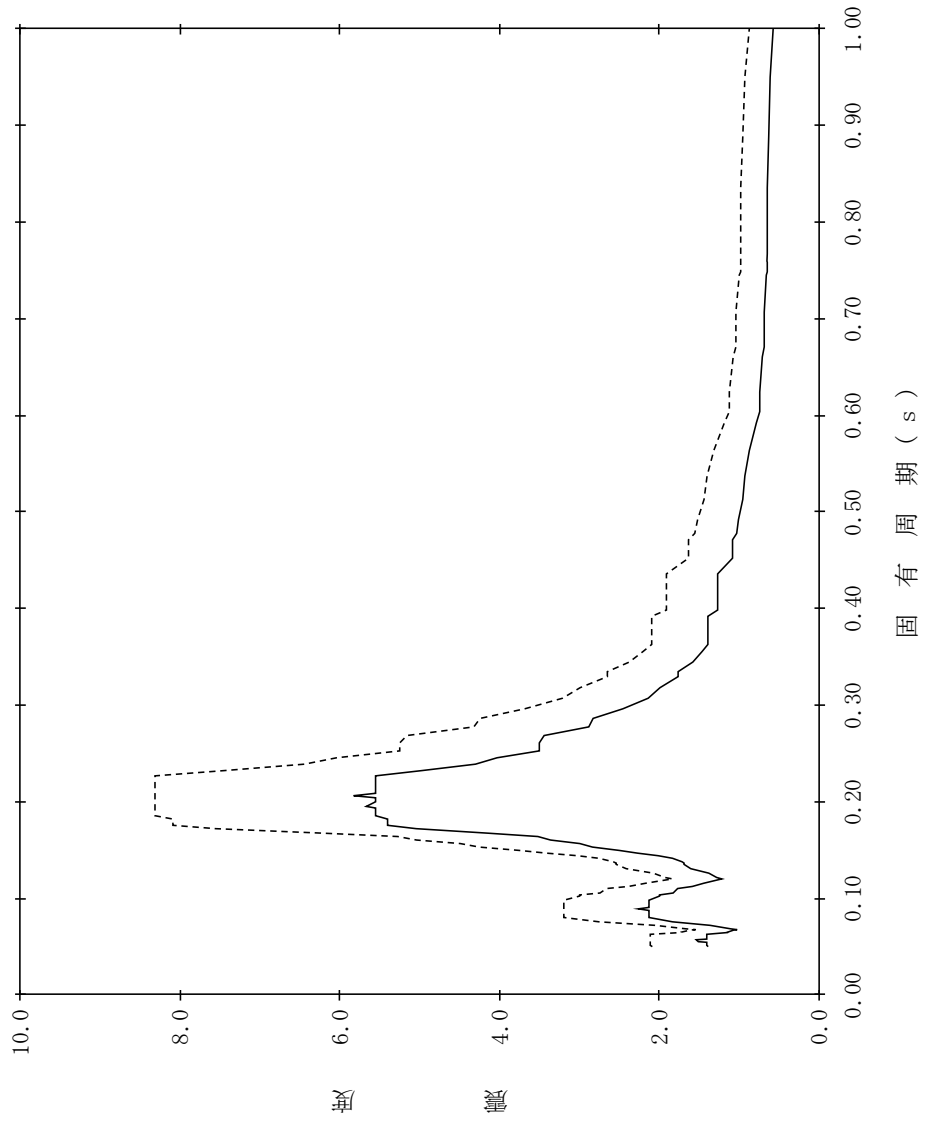
【NS2-RB-SdEW-RB51】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



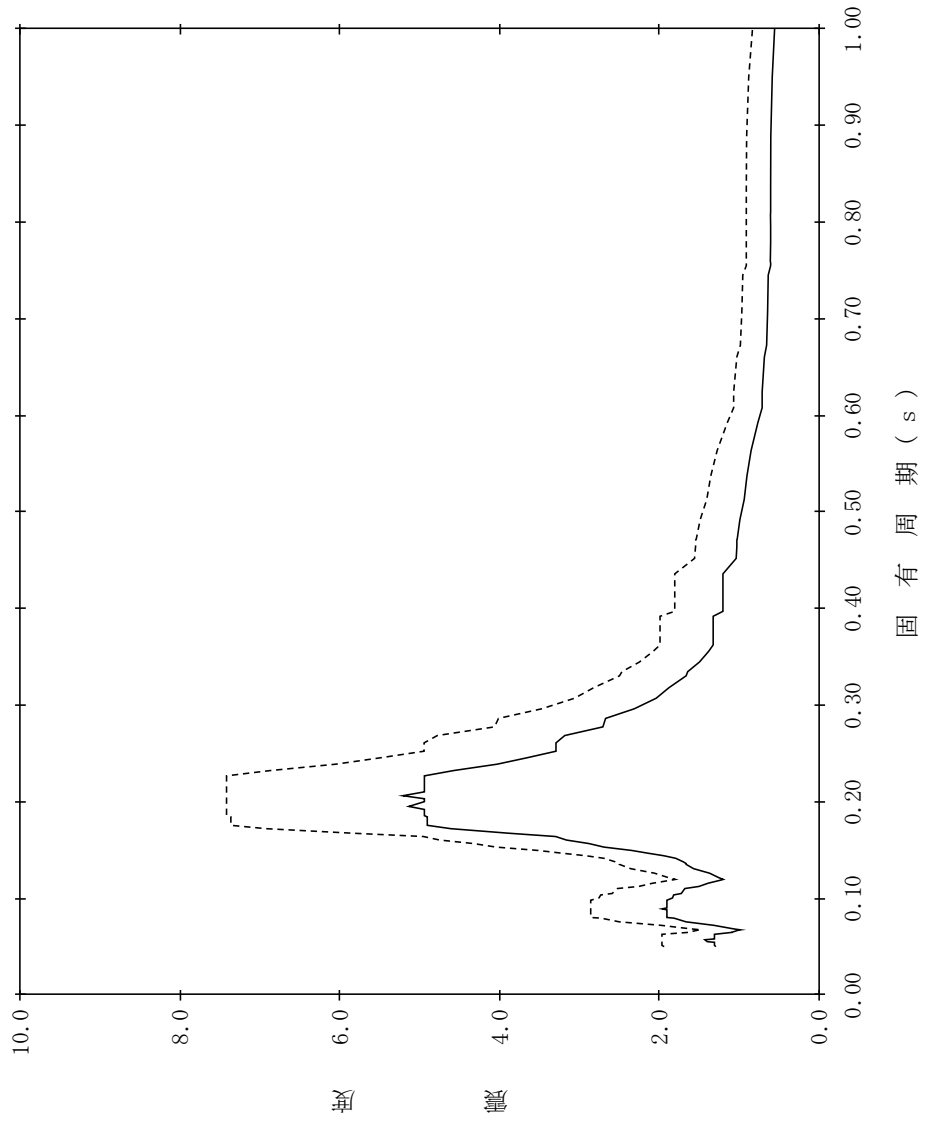
【NS2-RB-SdEW-RB52】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



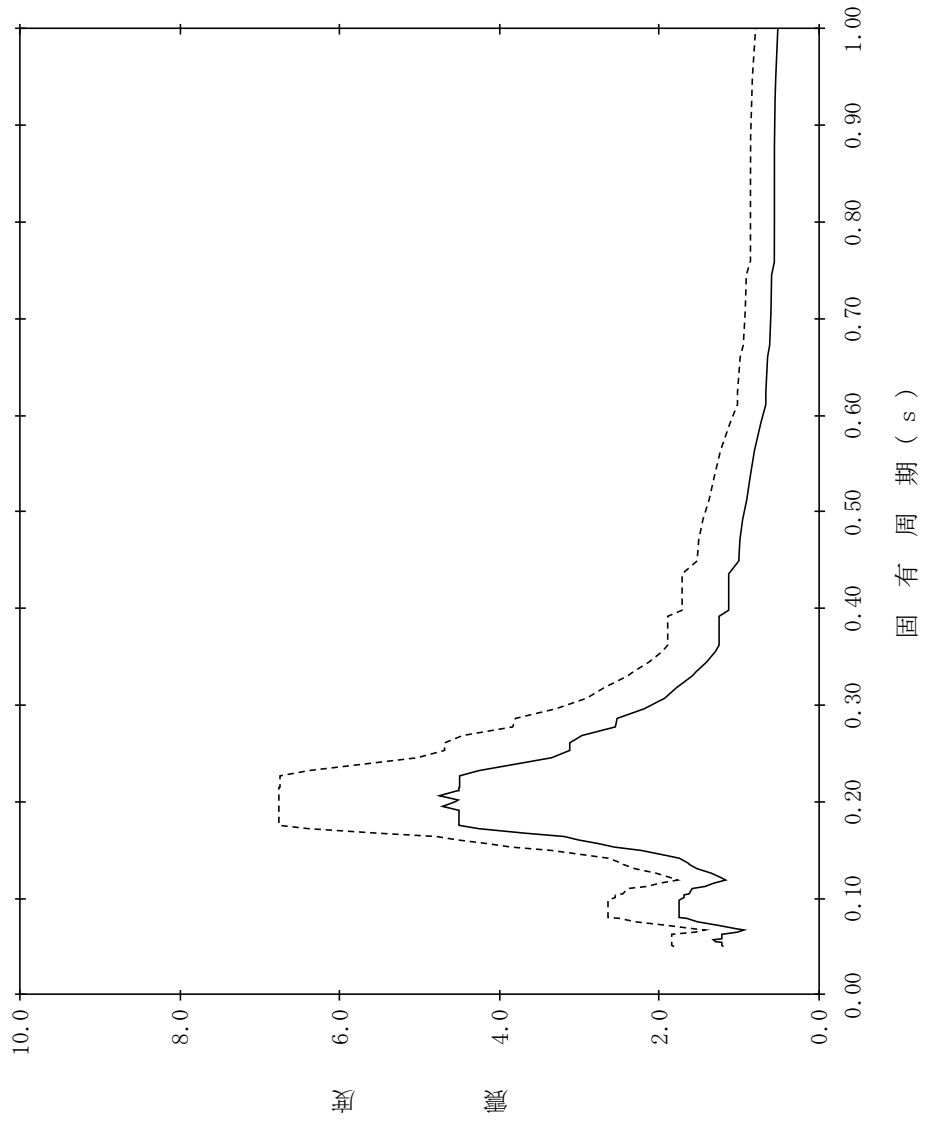
【NS2-RB-SdEW-RB53】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



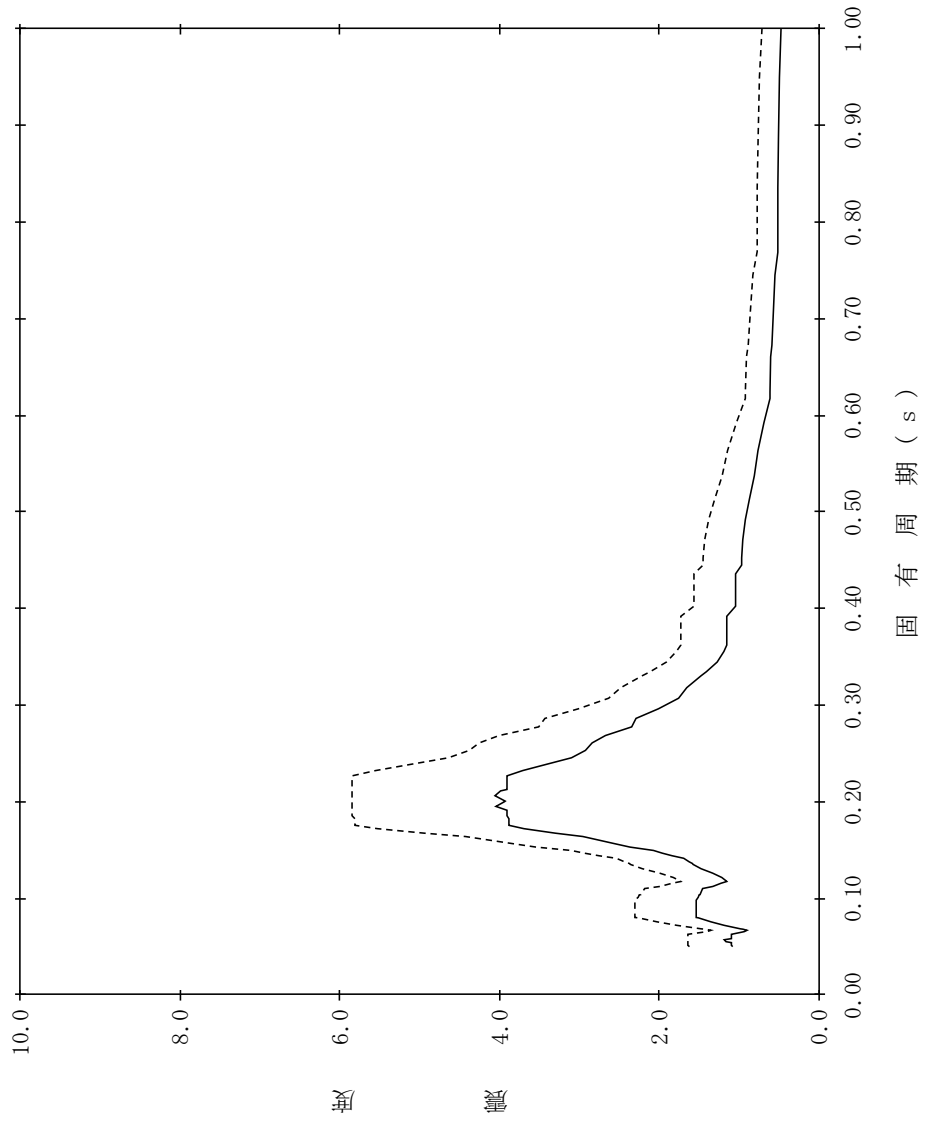
【NS2-RB-SdEW-RB54】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



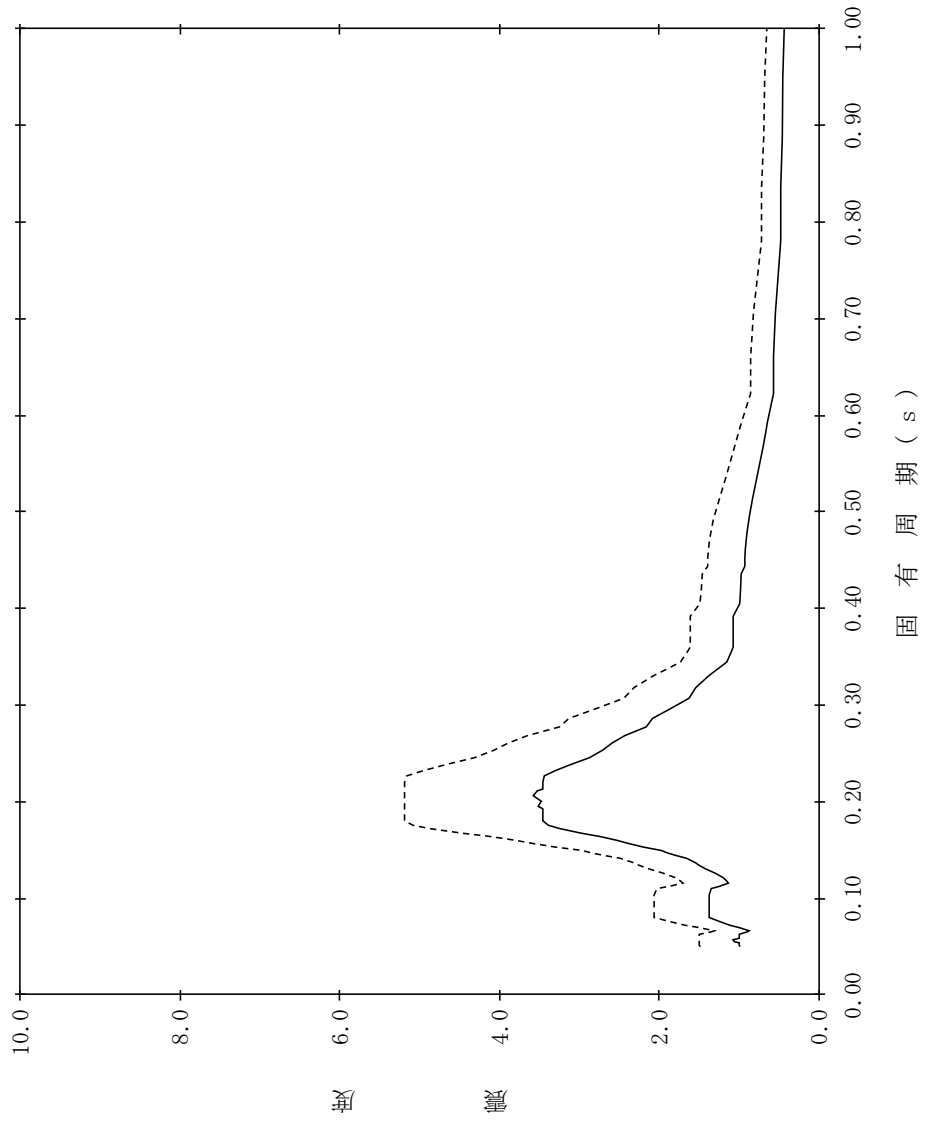
【NS2-RB-SdEW-RB55】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



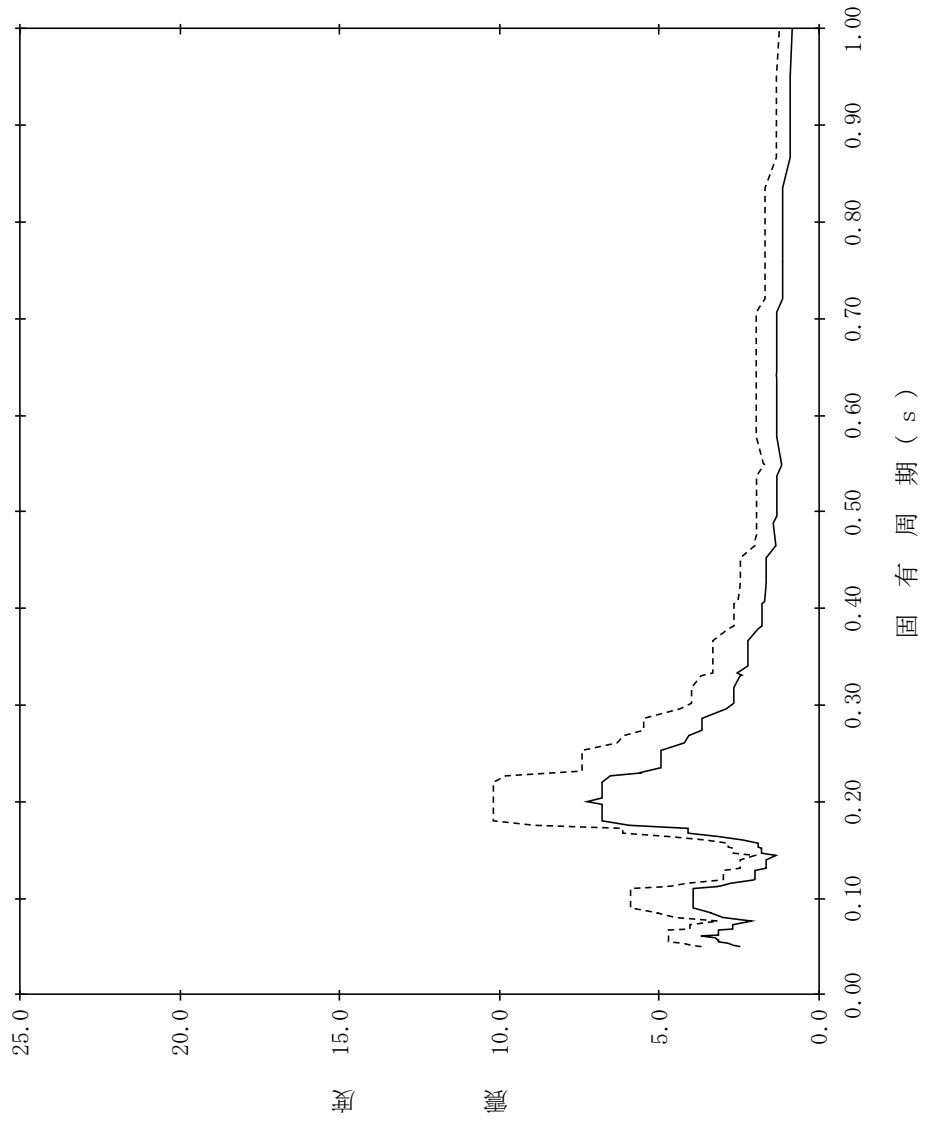
【NS2-RB-SdEW-RB56】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



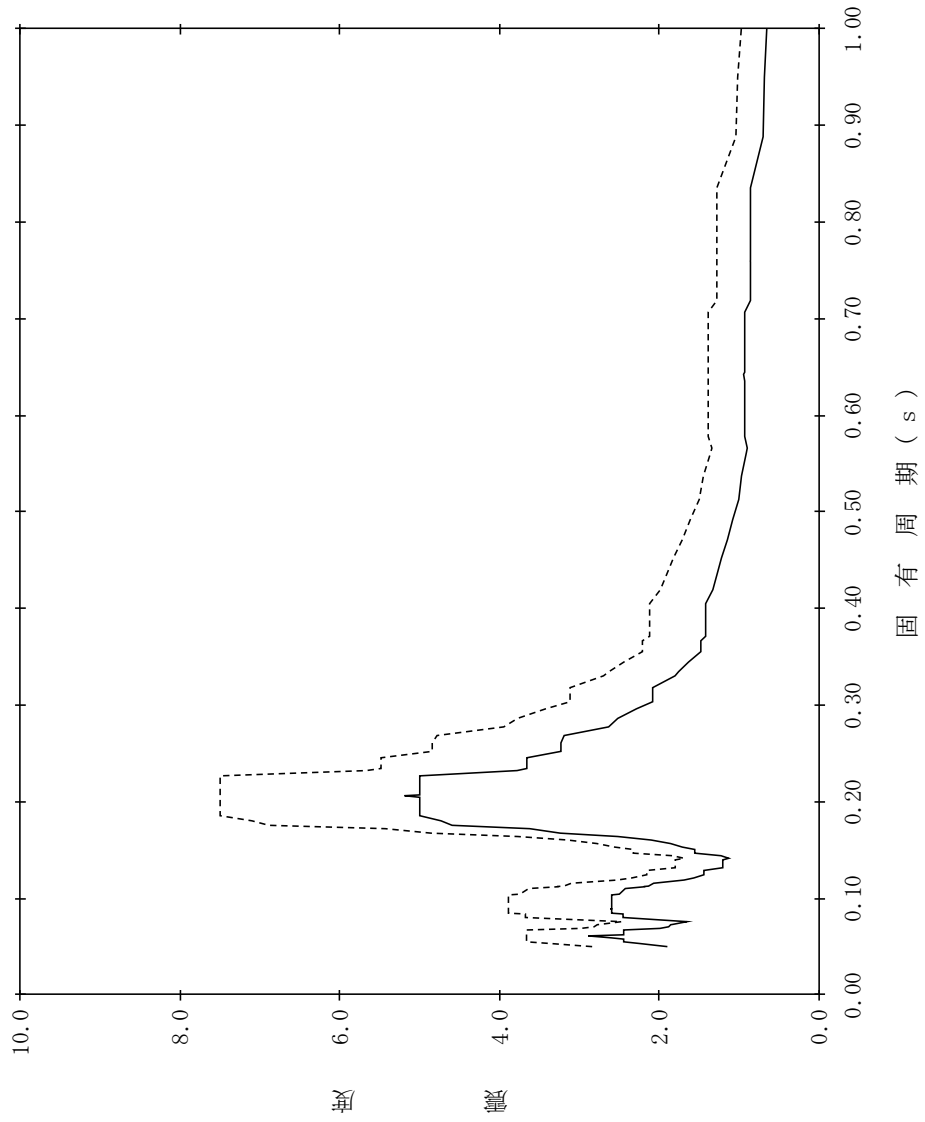
【NS2-RB-SdEW-RB57】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



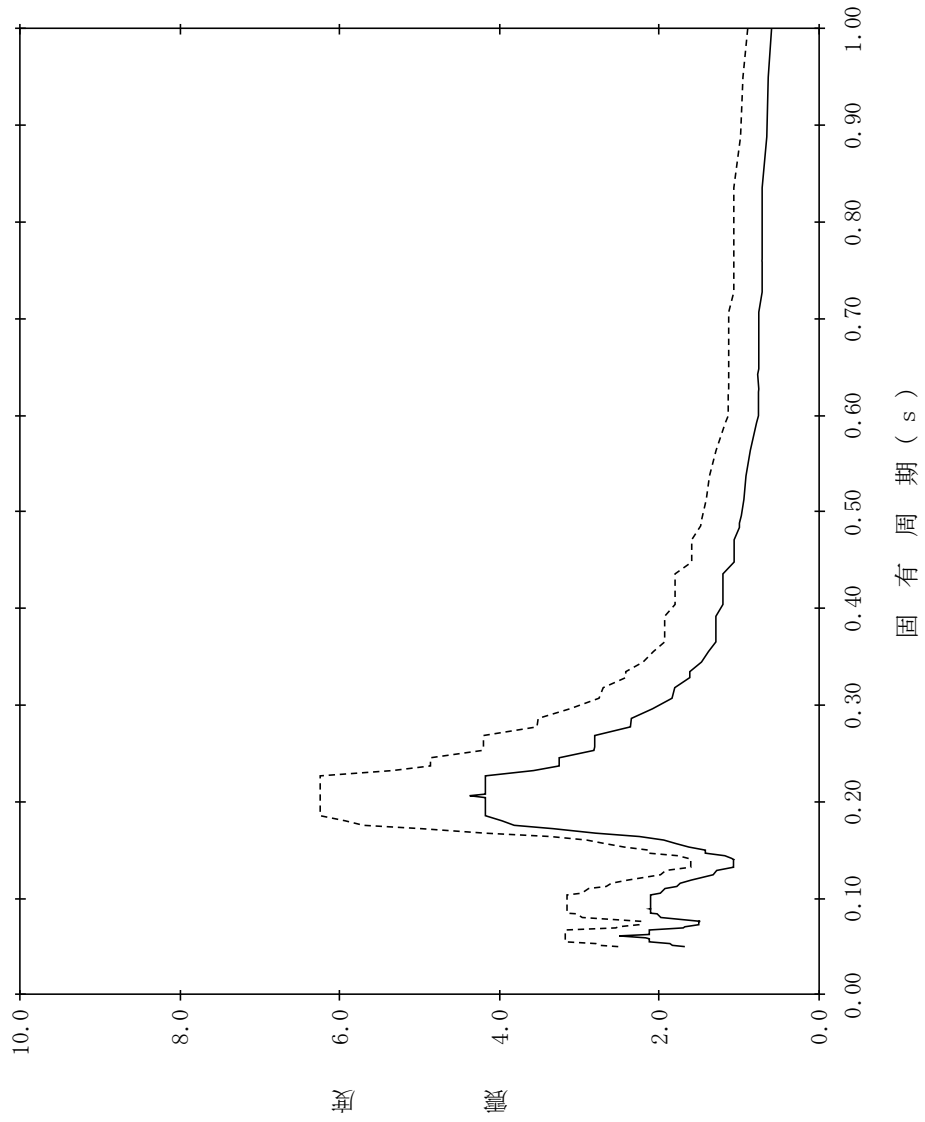
【NS2-RB-SdEW-RB58】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



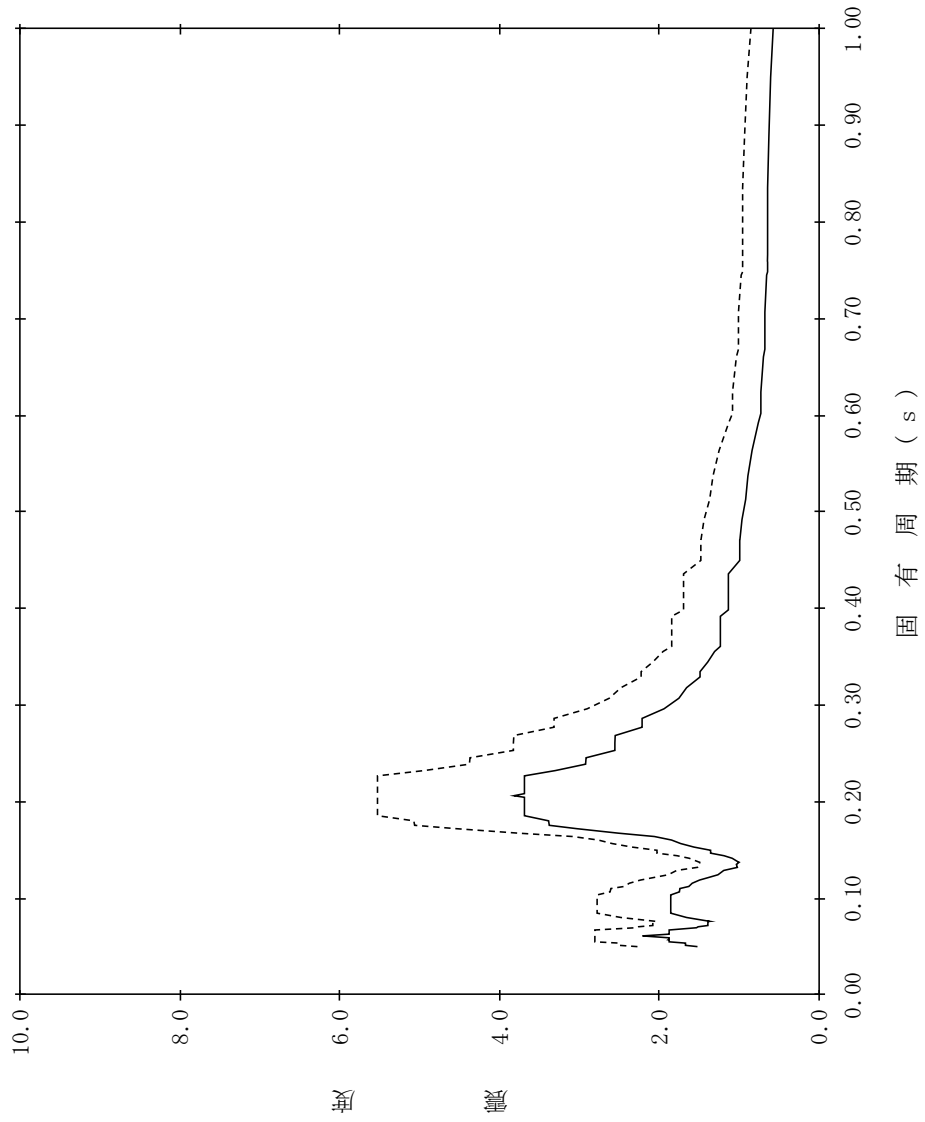
【NS2-RB-SdEW-RB59】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



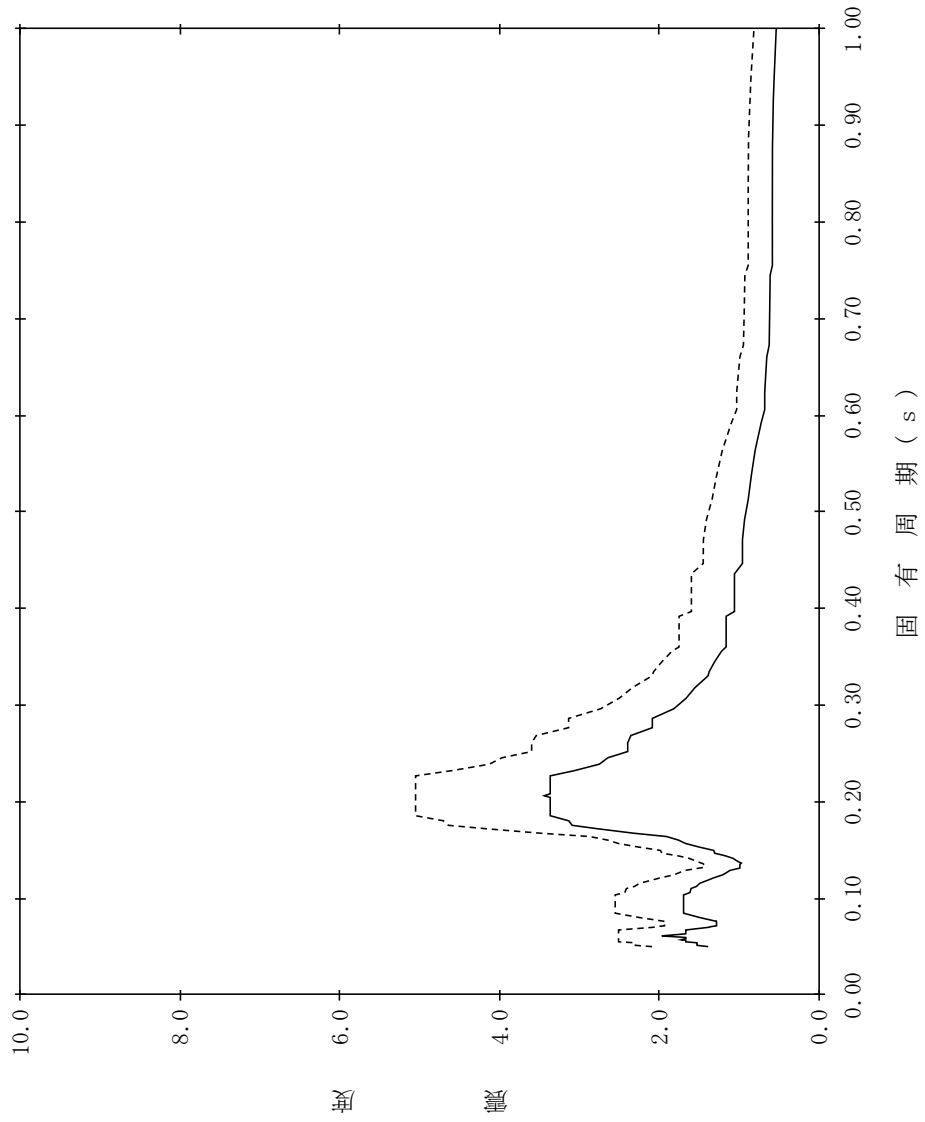
【NS2-RB-SdEW-RB60】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



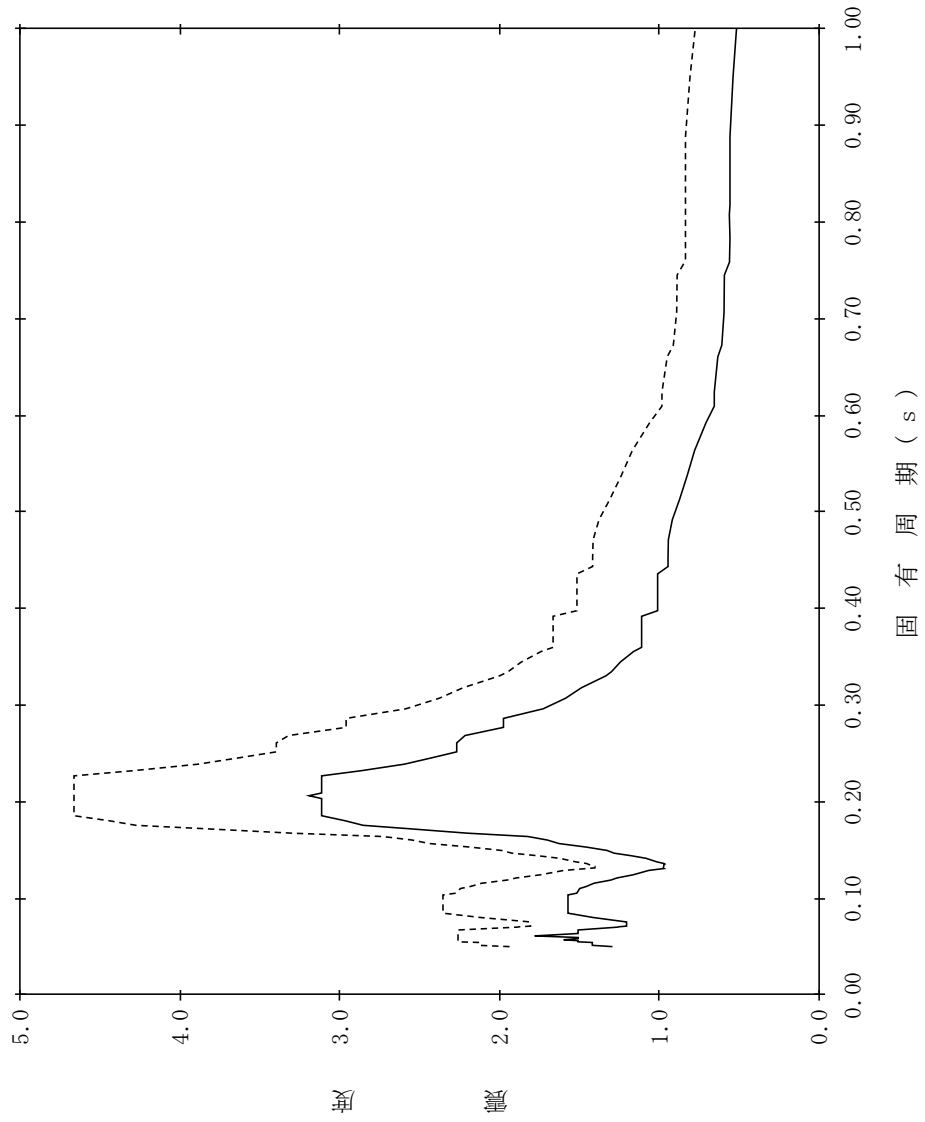
【NS2-RB-SdEW-RB61】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



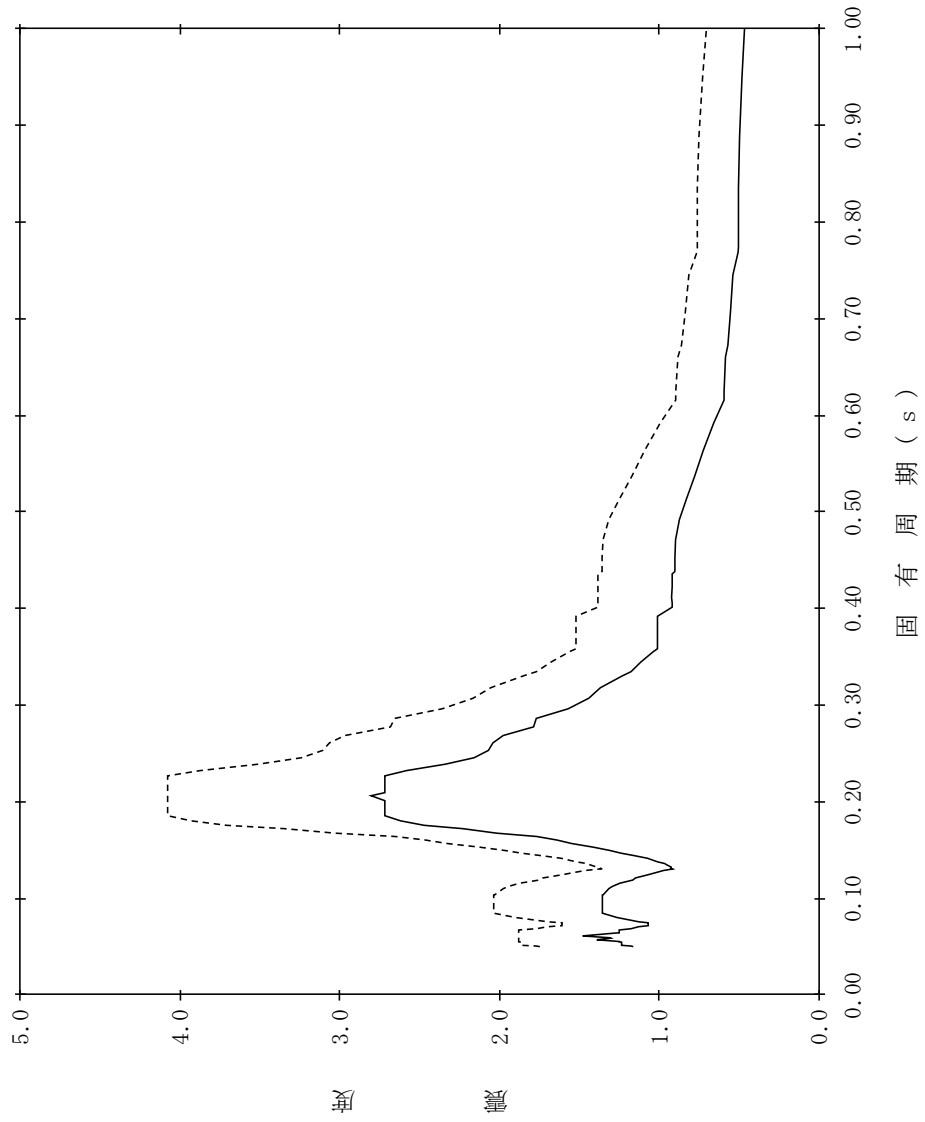
【NS2-RB-SdEW-RB62】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



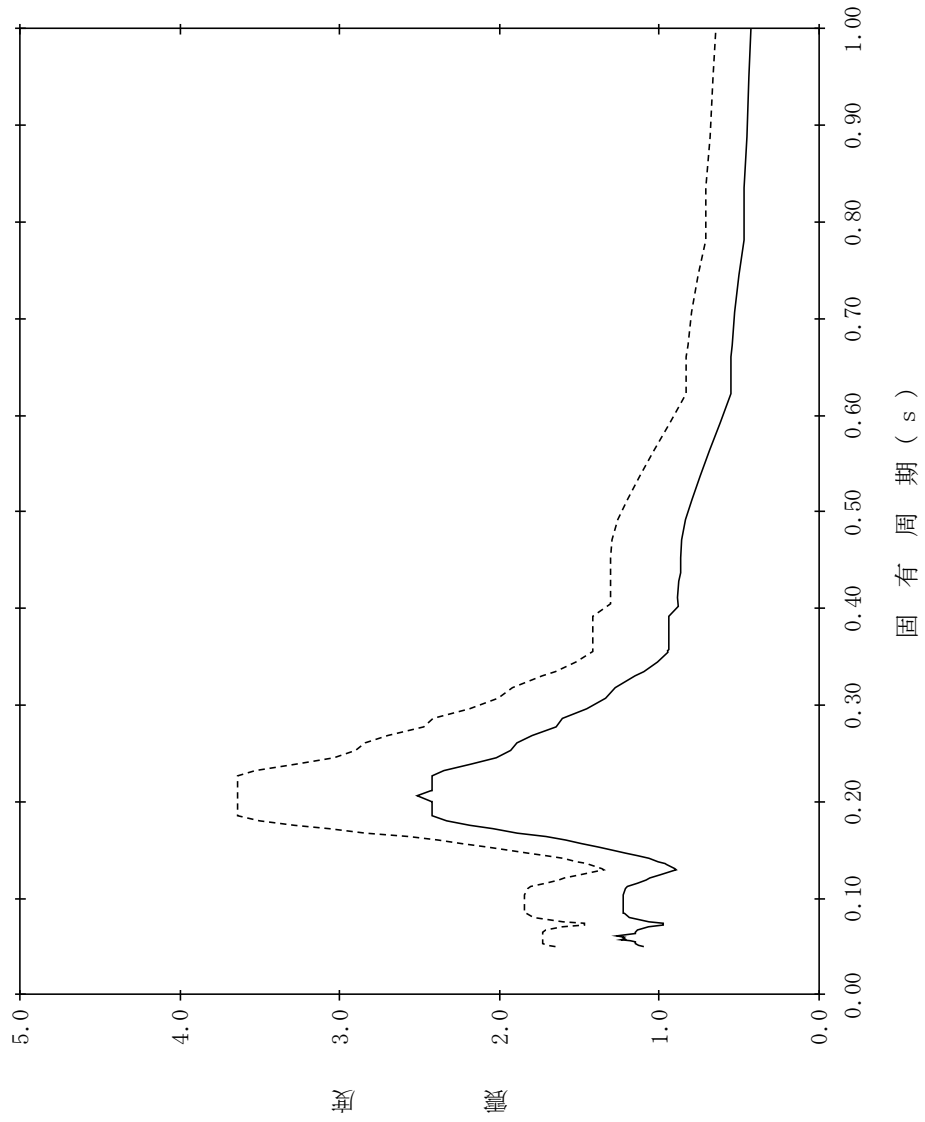
【NS2-RB-SdEW-RB63】

構造物名：原子炉建物
標高：EL15.300m
減衰定数：4.0%
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



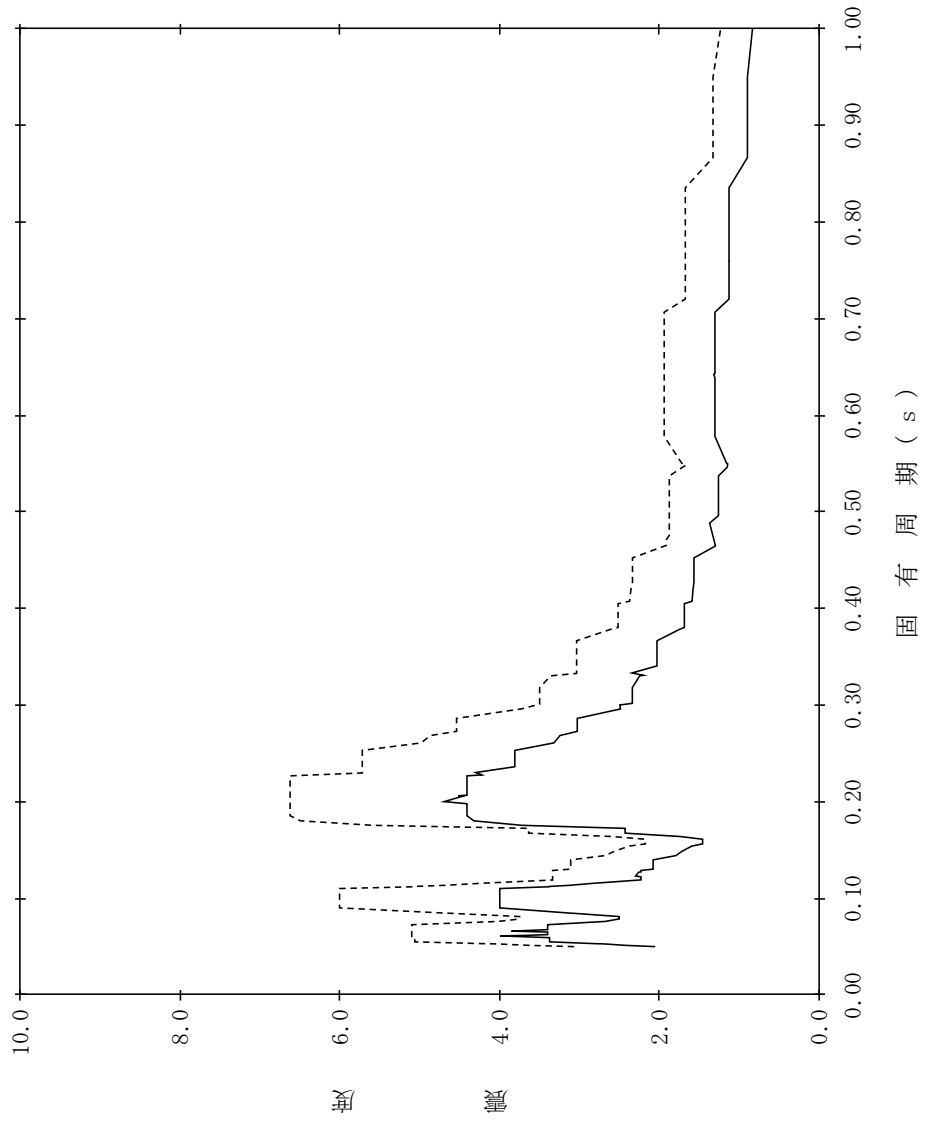
【NS2-RB-SdEW-RB64】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



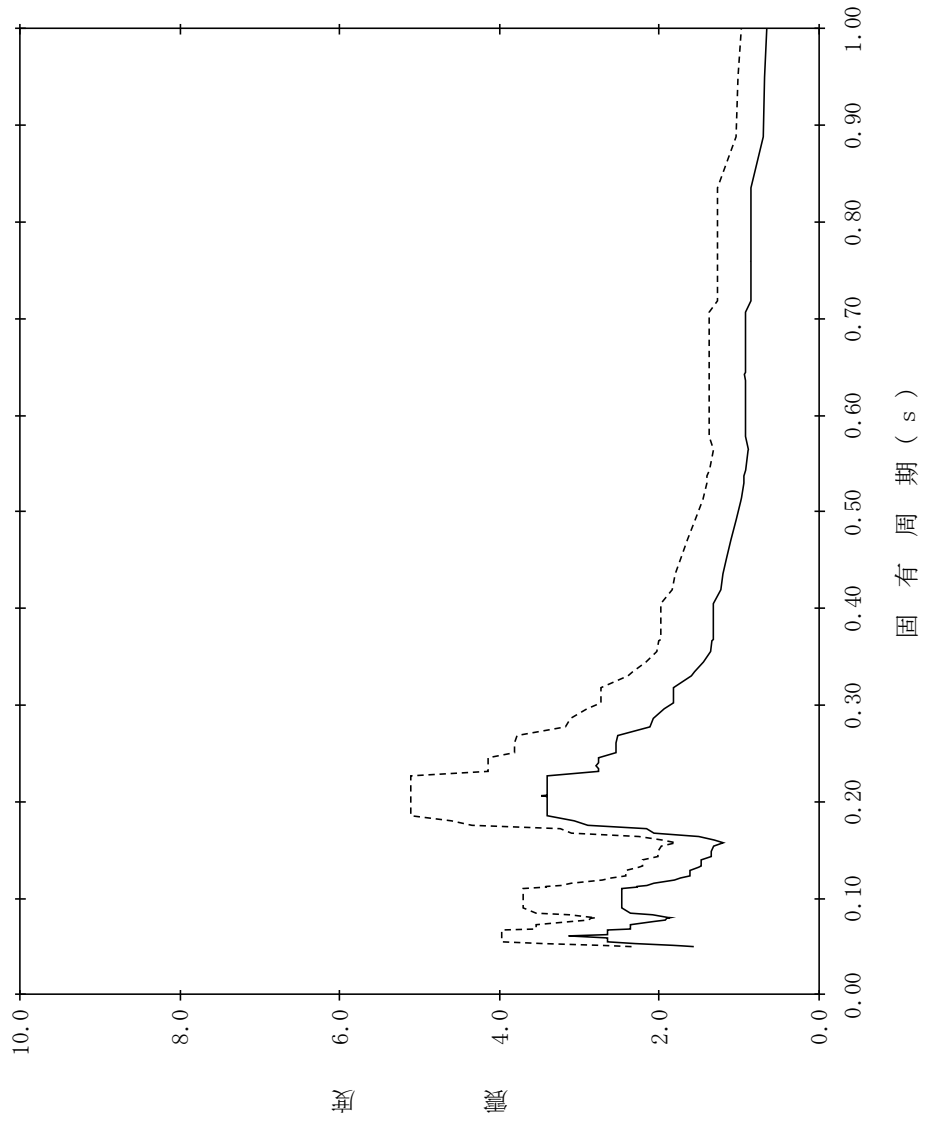
【NS2-RB-SdEW-RB65】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

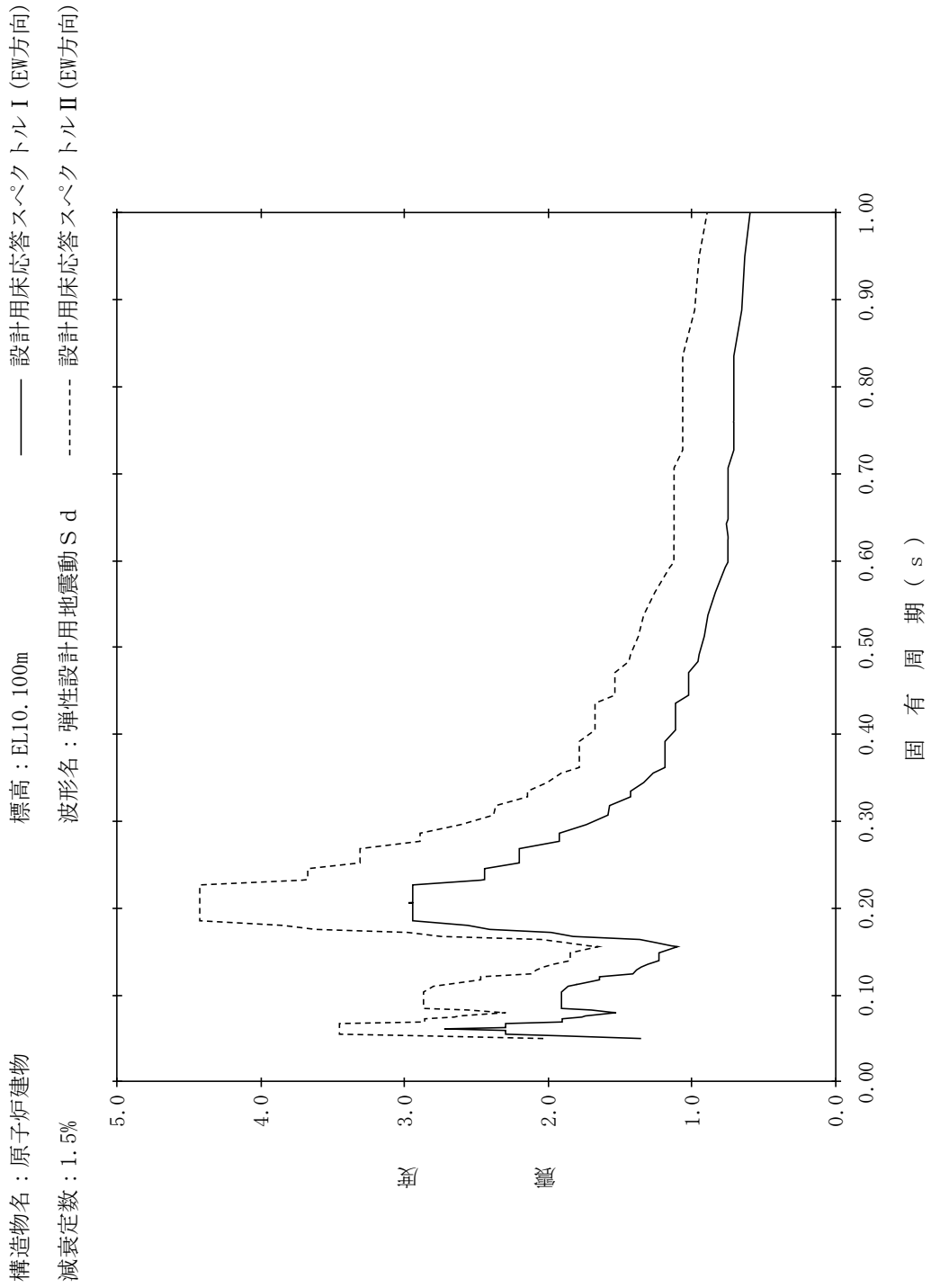


【NS2-RB-SdEW-RB66】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

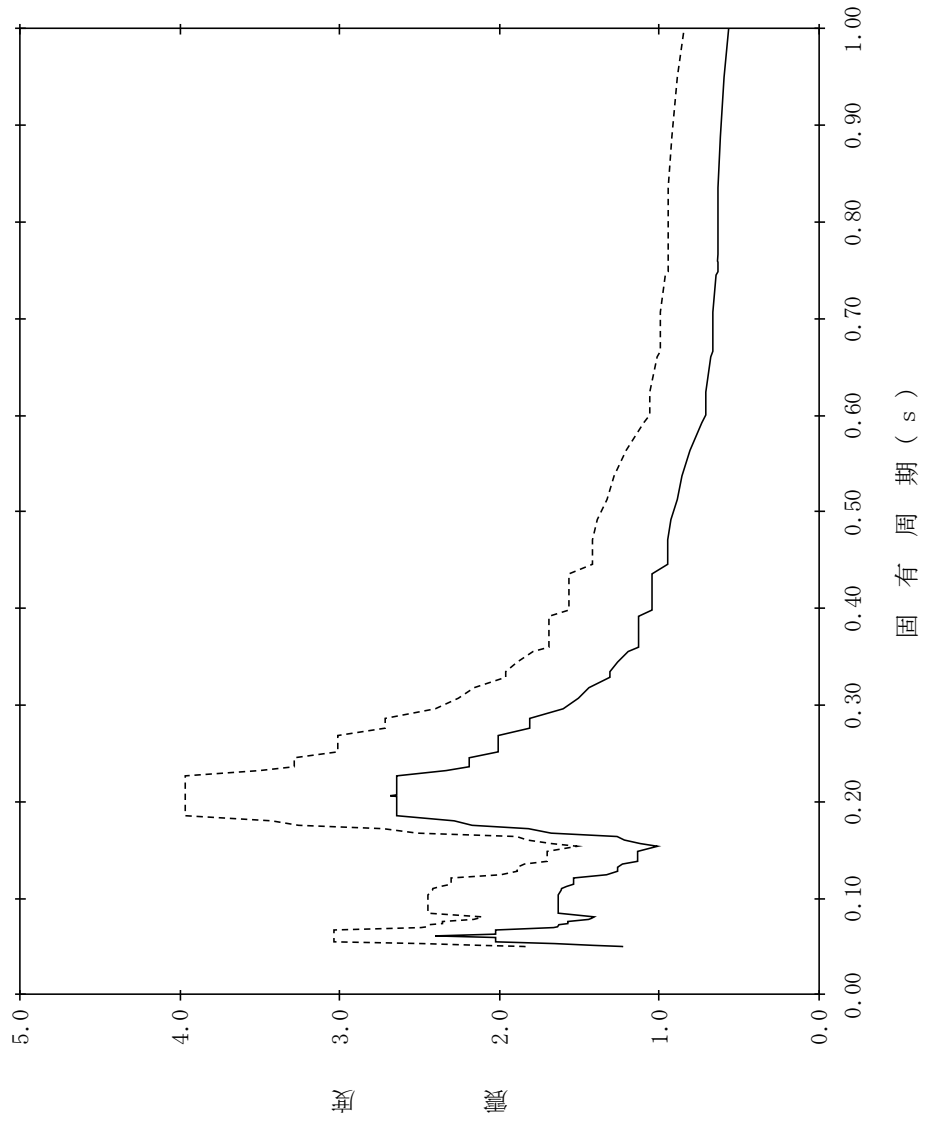


【NS2-RB-SdEW-RB67】

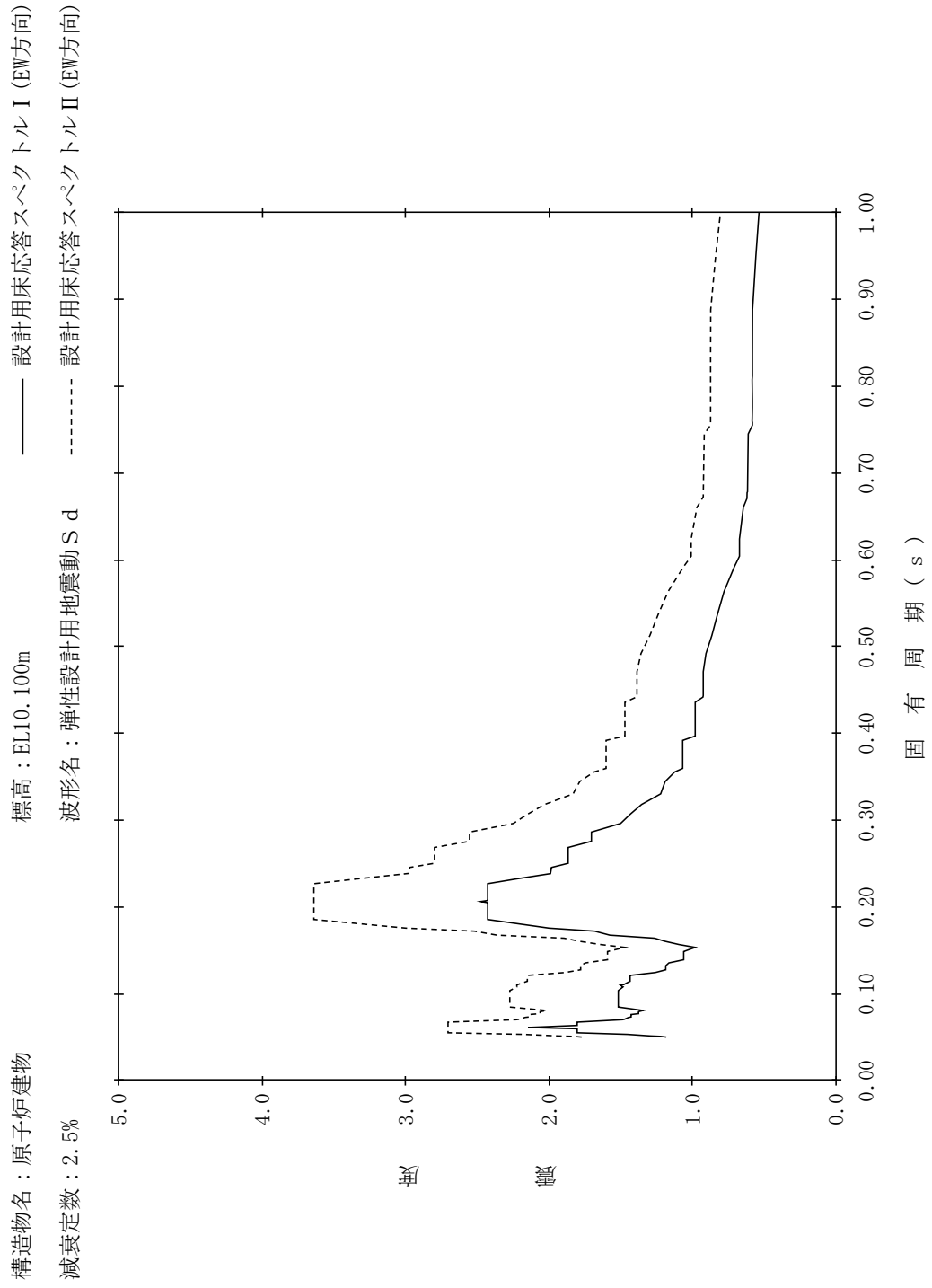


【NS2-RB-SdEW-RB68】

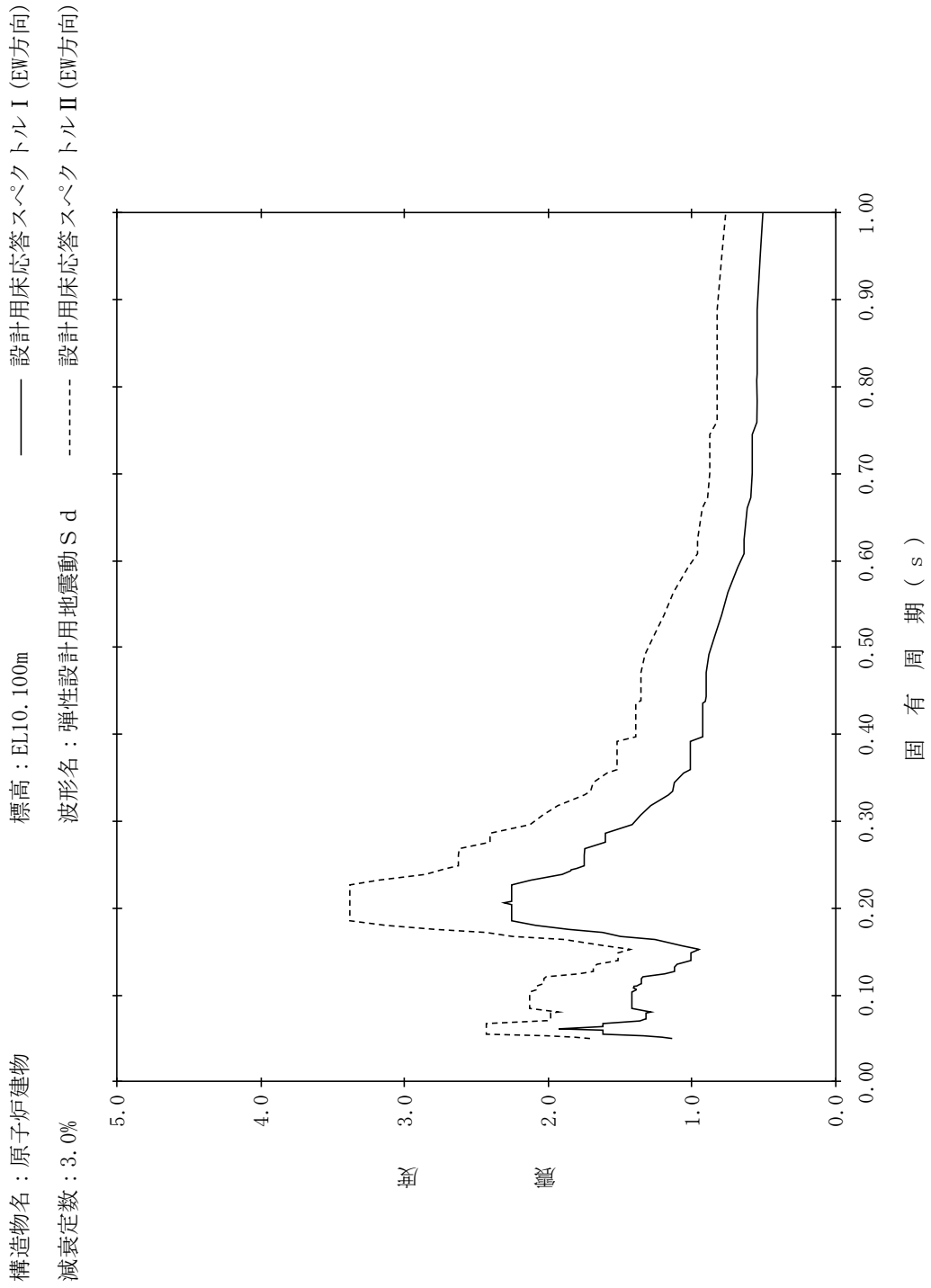
構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



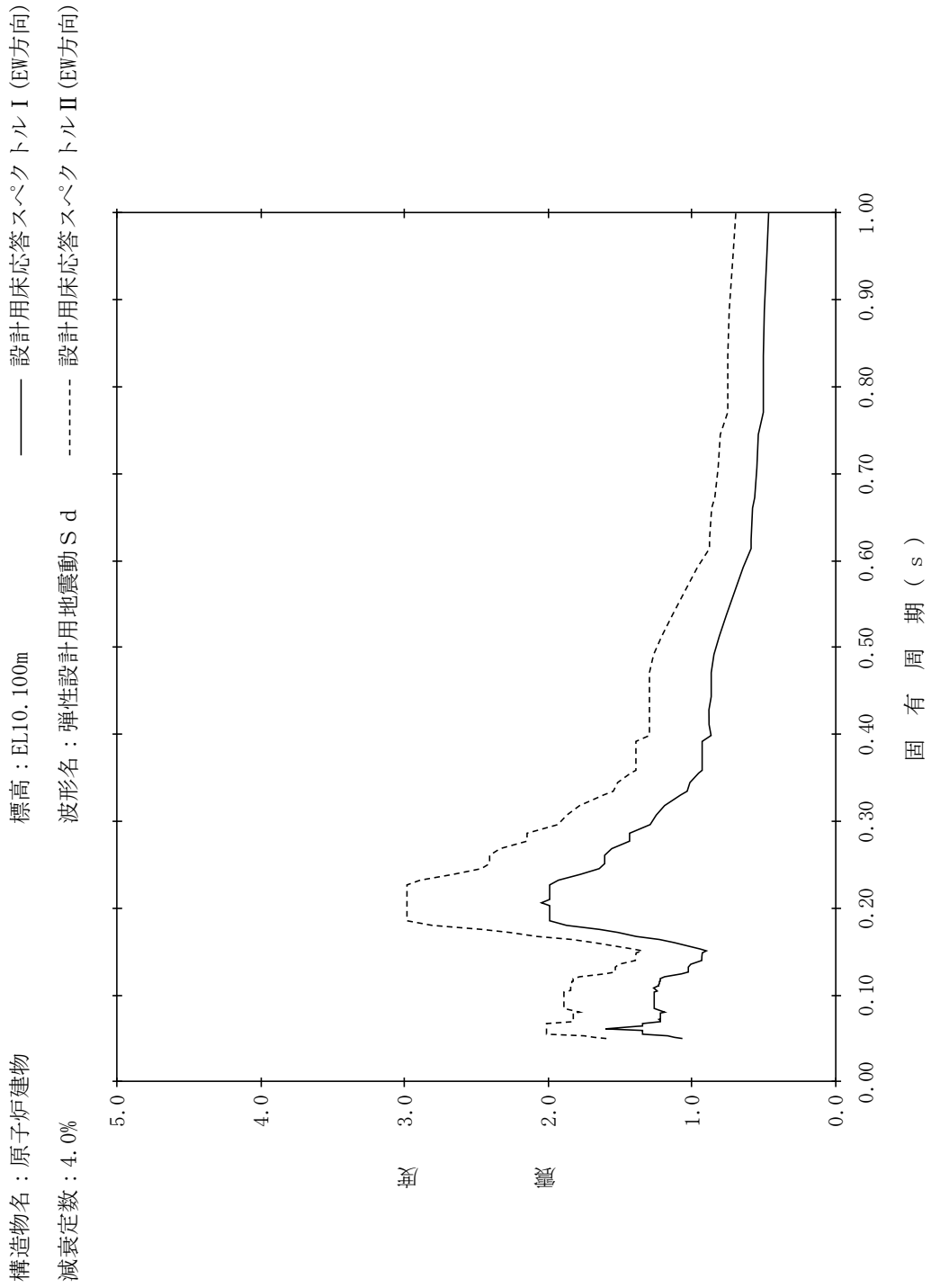
【NS2-RB-SdEW-RB69】



【NS2-RB-SdEW-RB70】

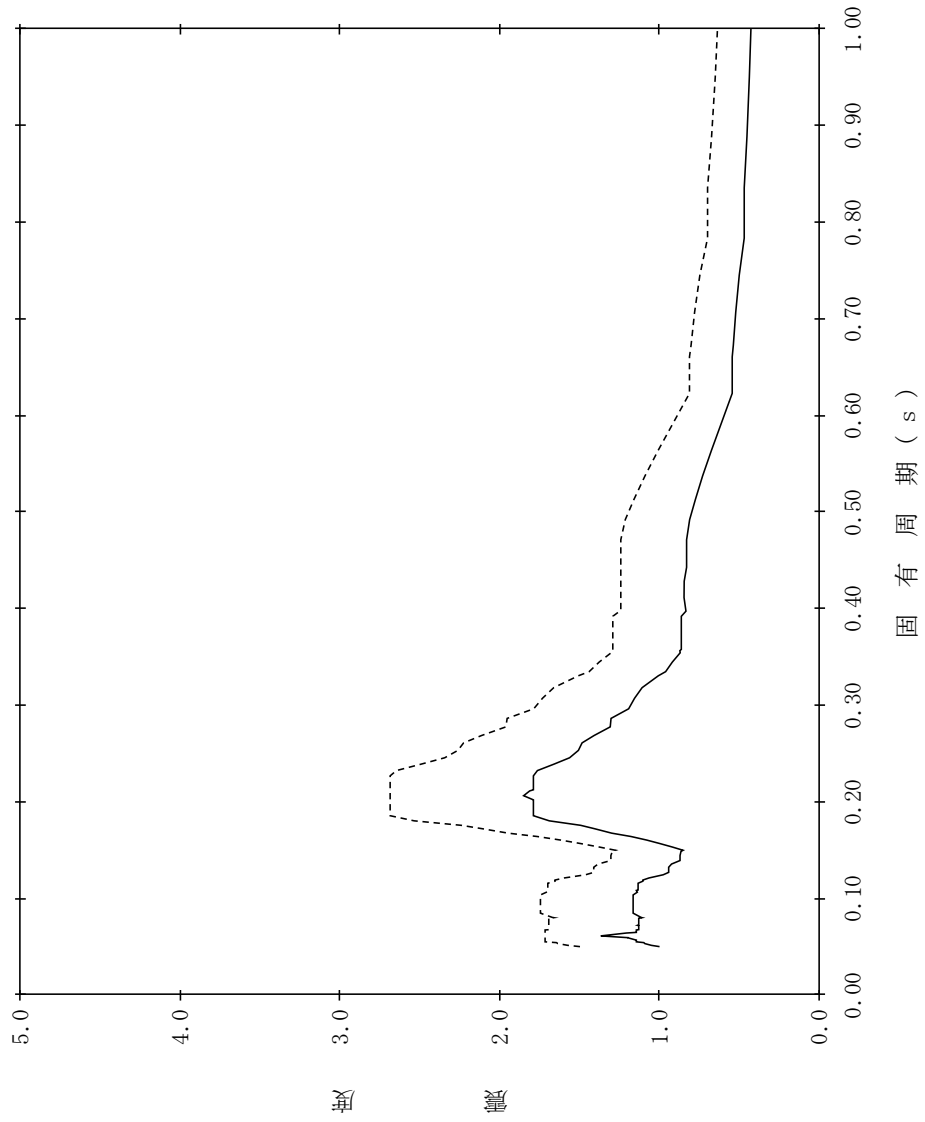


【NS2-RB-SdEW-RB71】

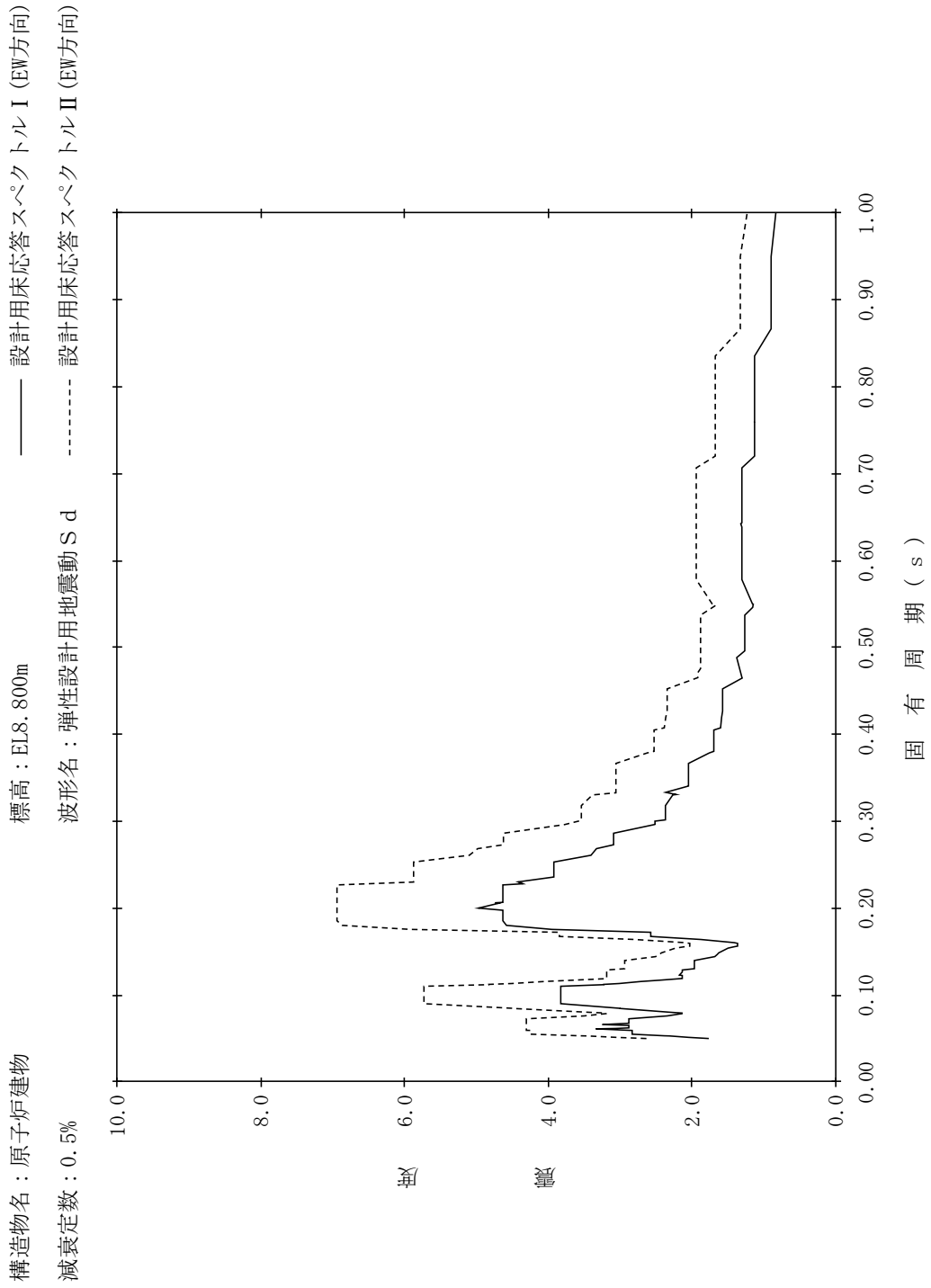


【NS2-RB-SdEW-RB72】

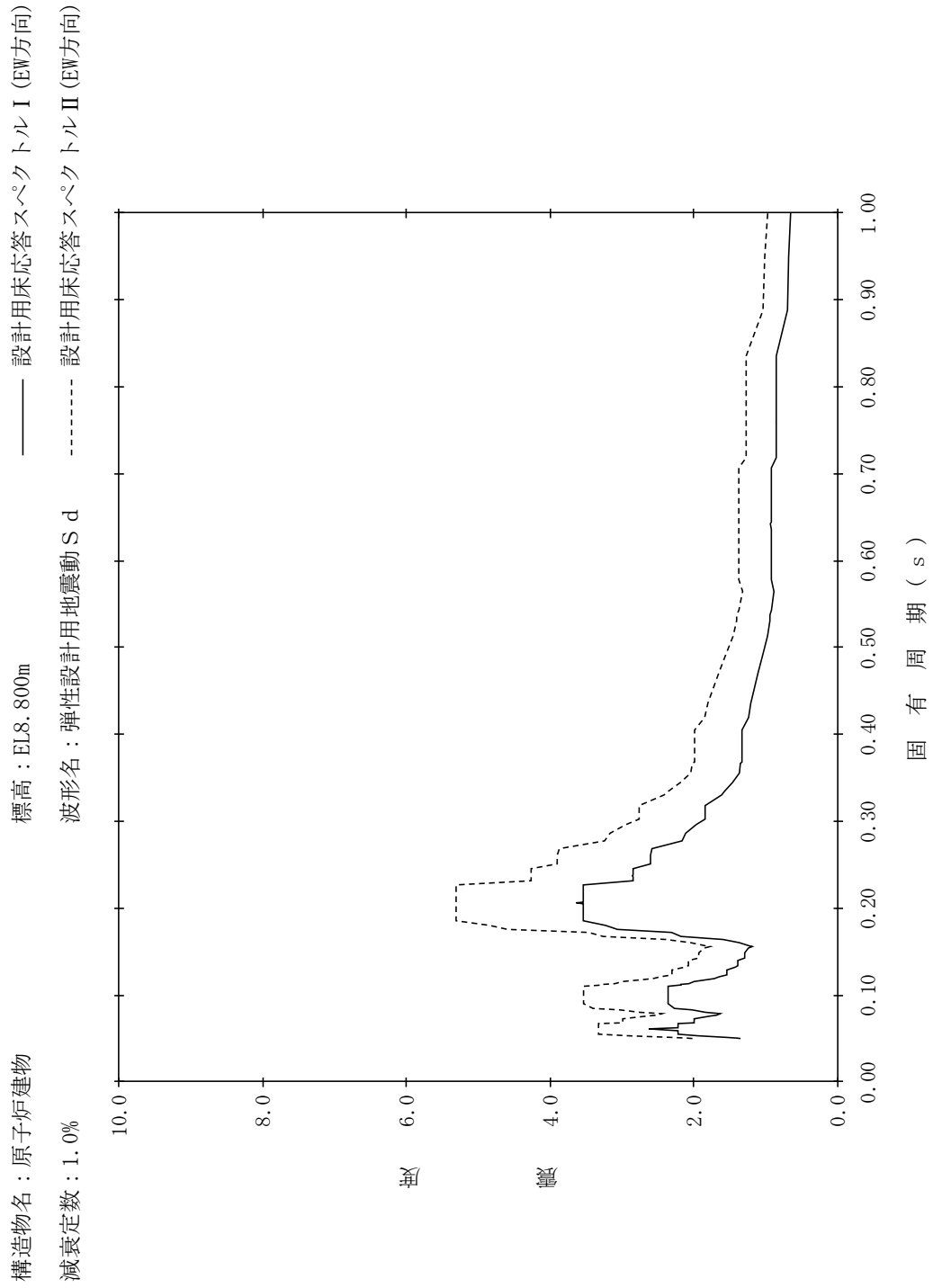
構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-RB-SdEW-RB73】

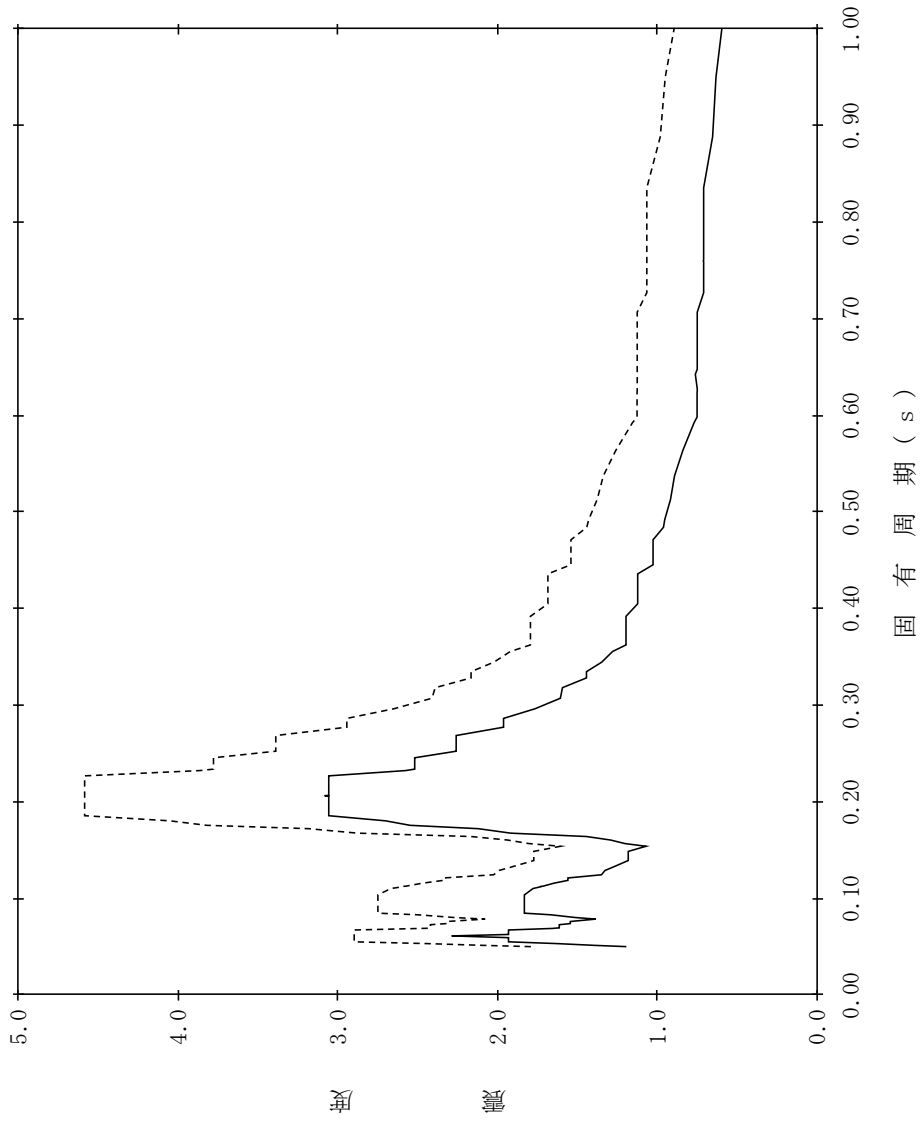


【NS2-RB-SdEW-RB74】

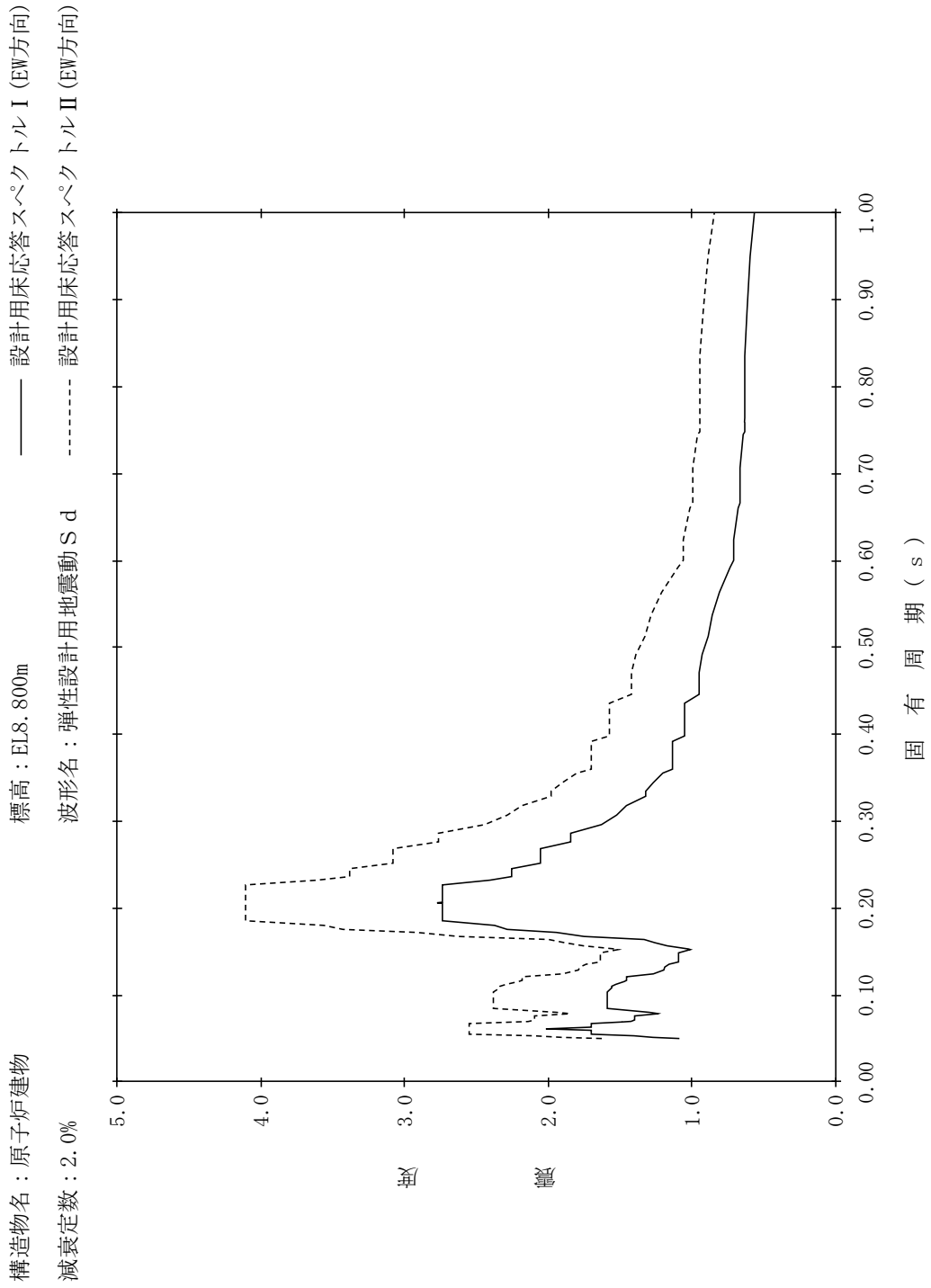


【NS2-RB-SdEW-RB75】

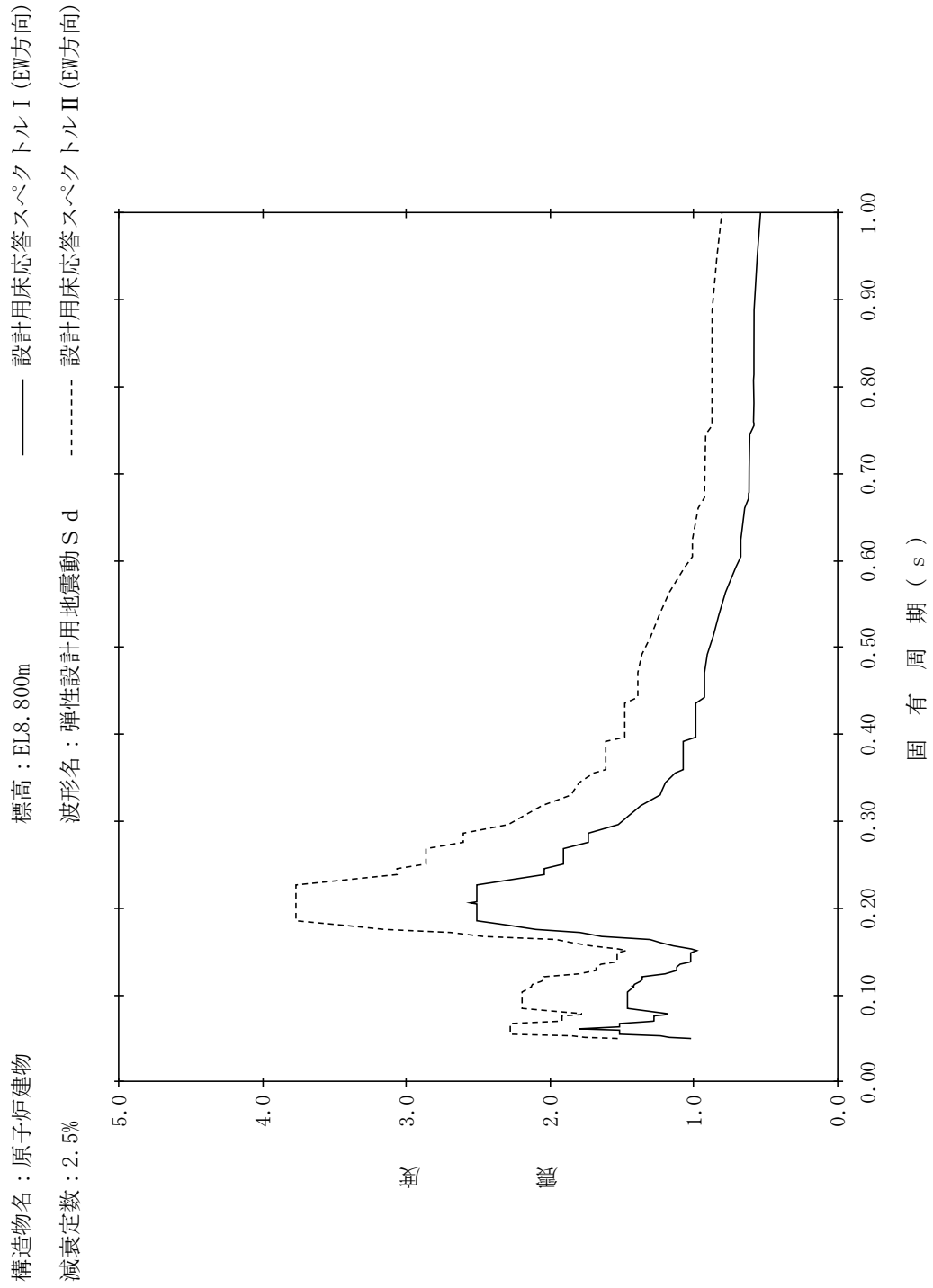
構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-RB-SdEW-RB76】

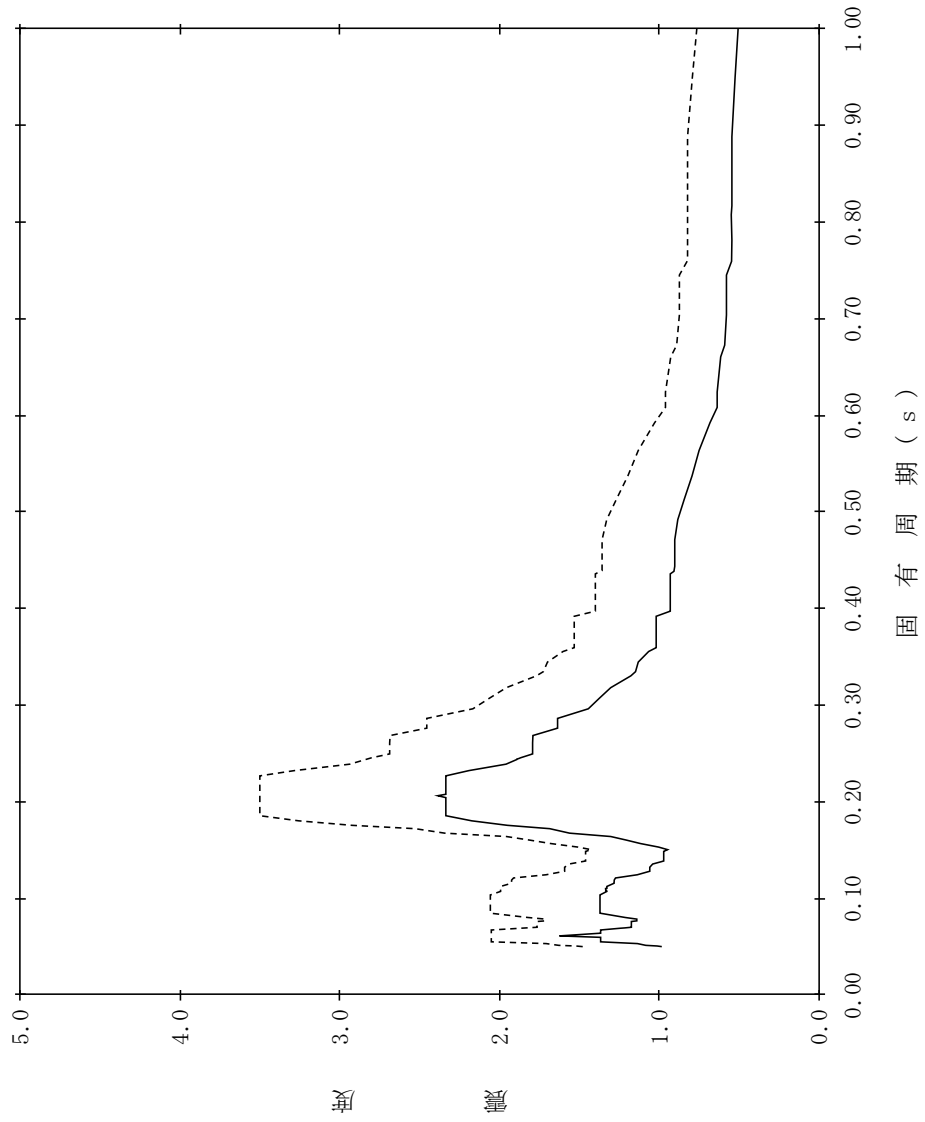


【NS2-RB-SdEW-RB77】



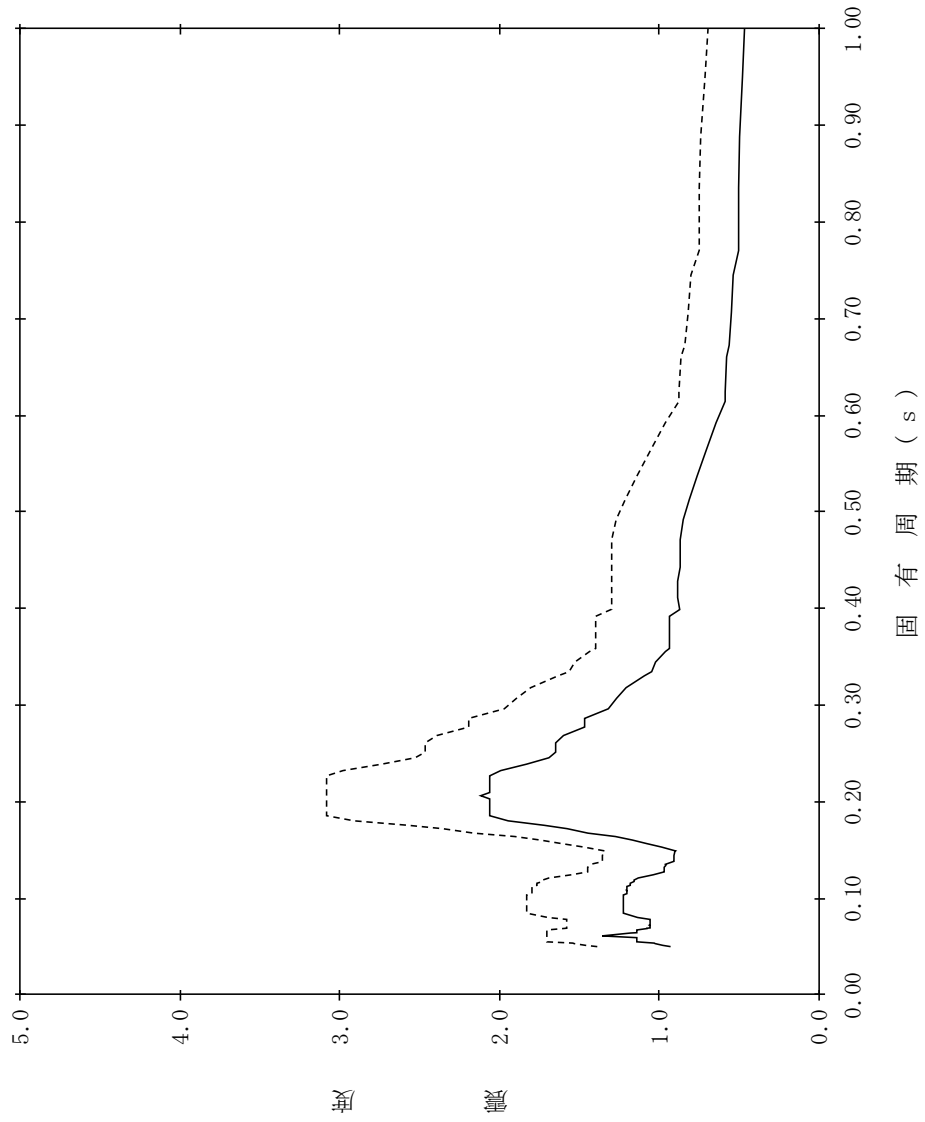
【NS2-RB-SdEW-RB78】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



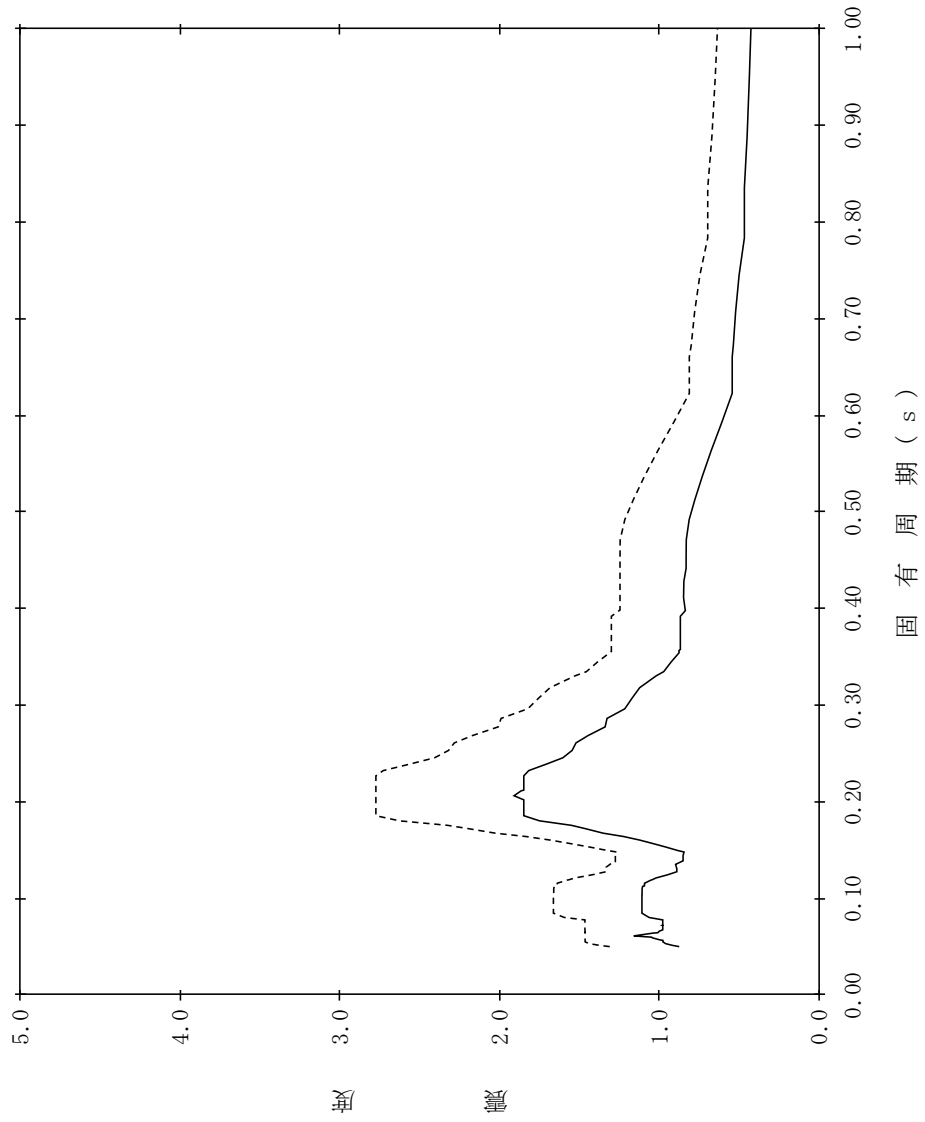
【NS2-RB-SdEW-RB79】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



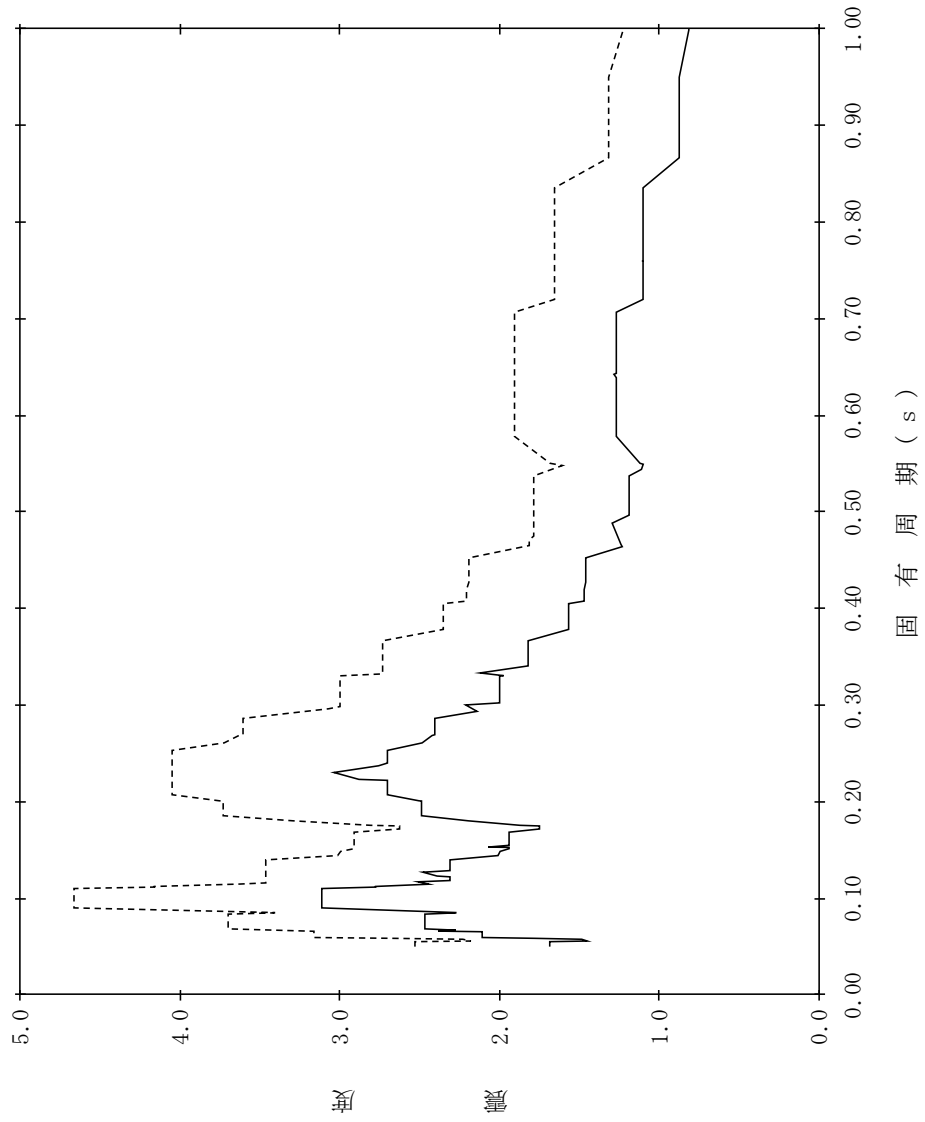
【NS2-RB-SdEW-RB80】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



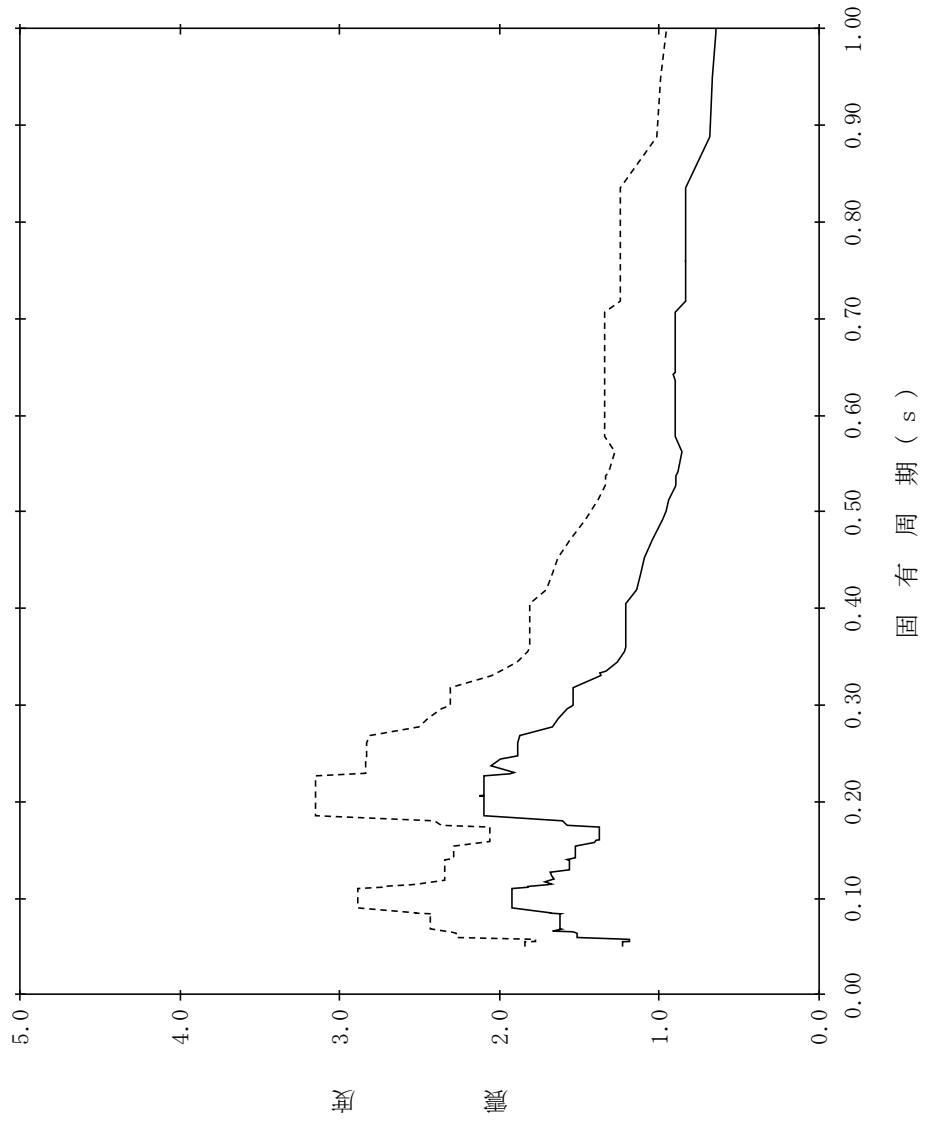
【NS2-RB-SdEW-RB81】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



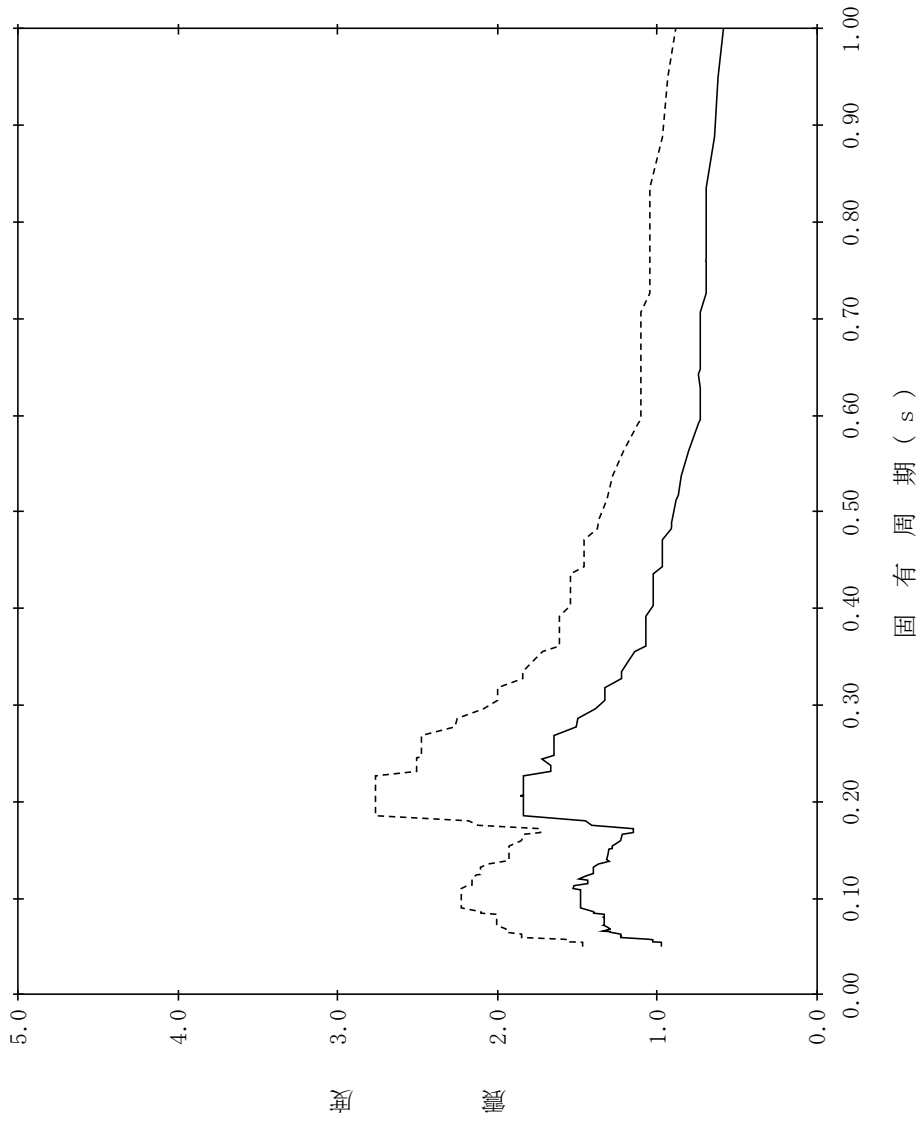
【NS2-RB-SdEW-RB82】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

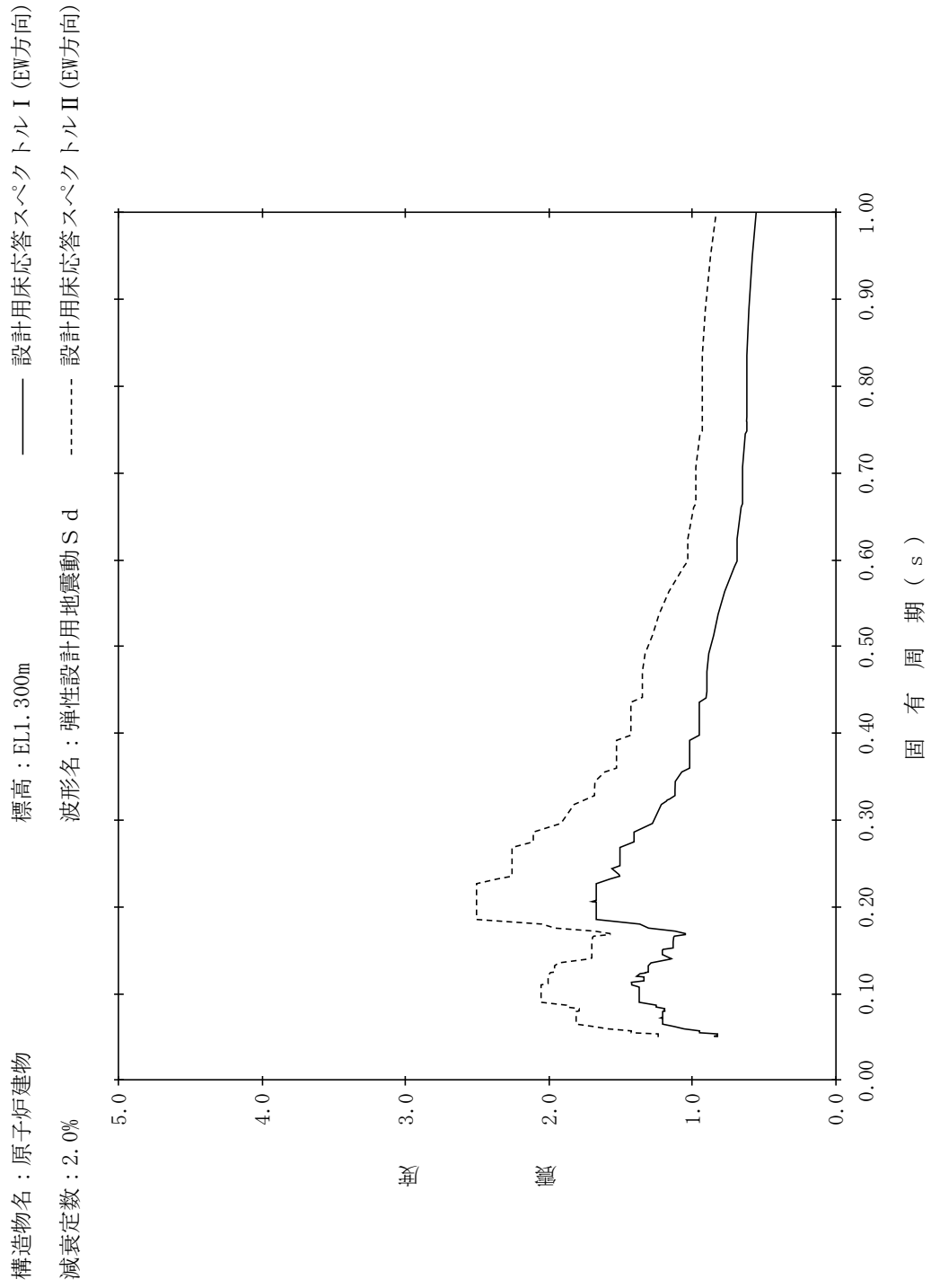


【NS2-RB-SdEW-RB83】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

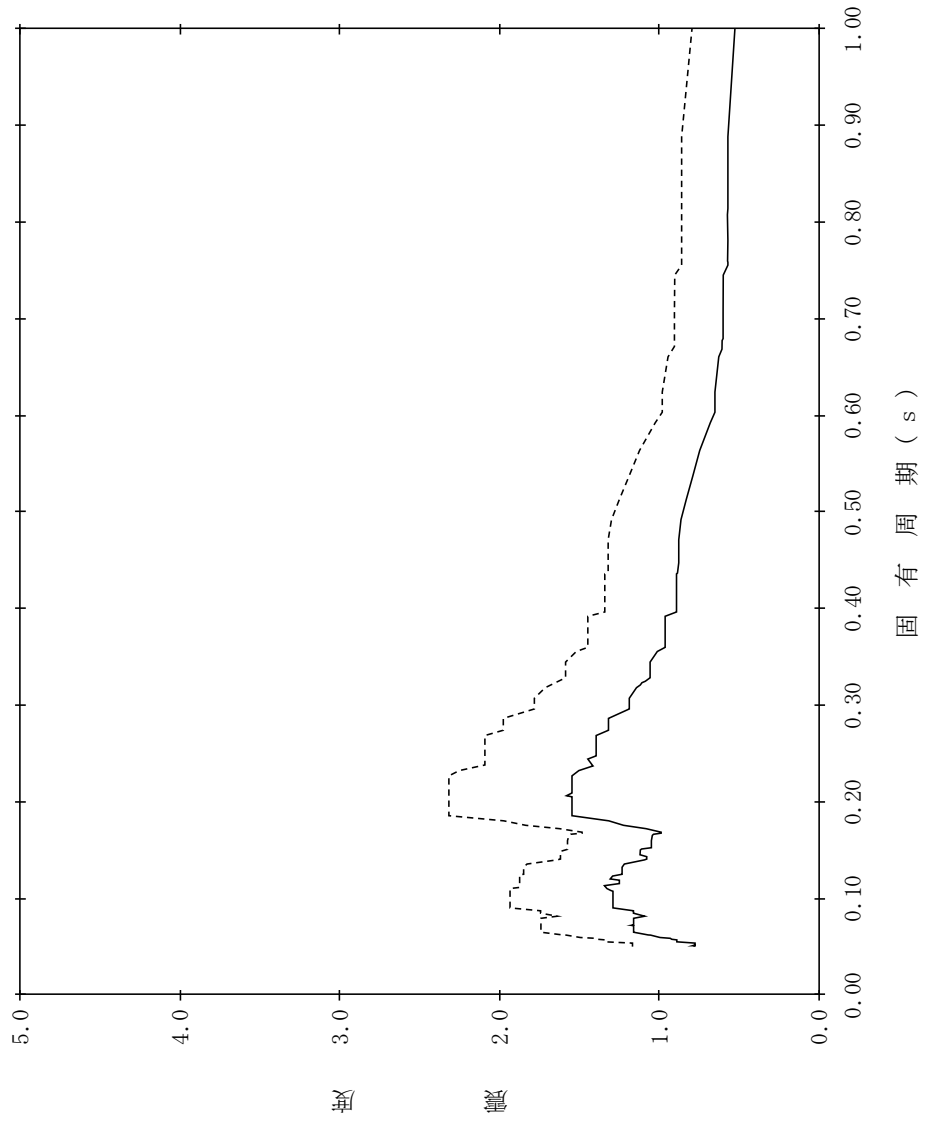


【NS2-RB-SdEW-RB84】



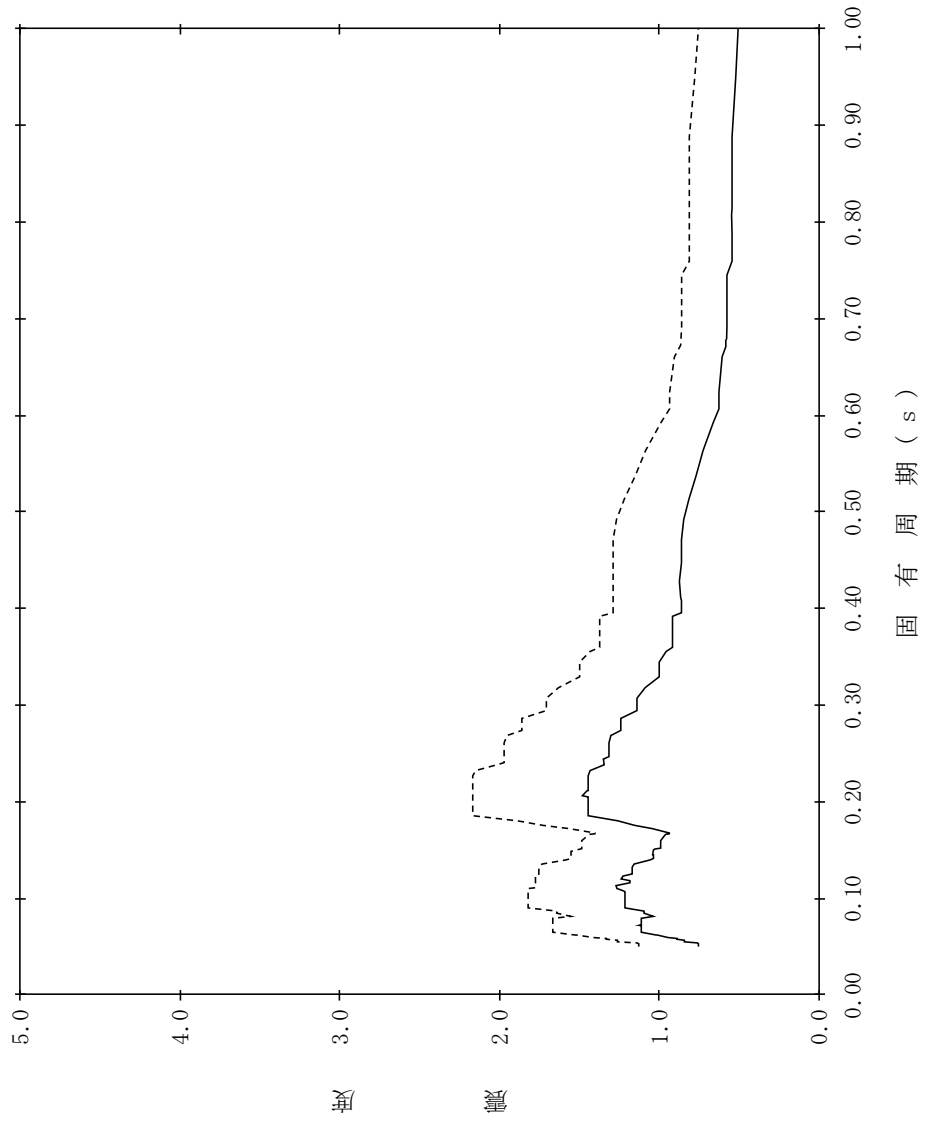
【NS2-RB-SdEW-RB85】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

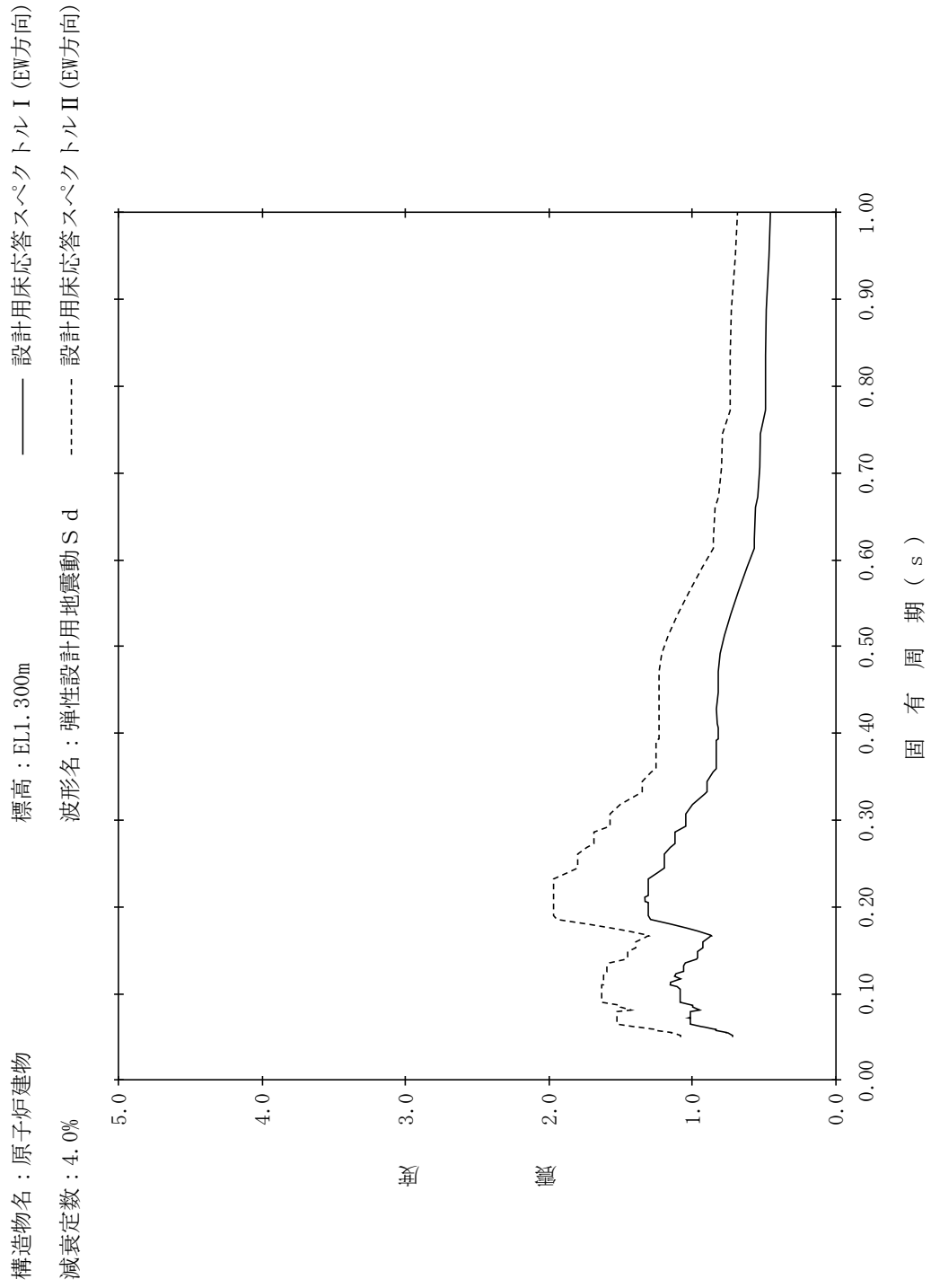


【NS2-RB-SdEW-RB86】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

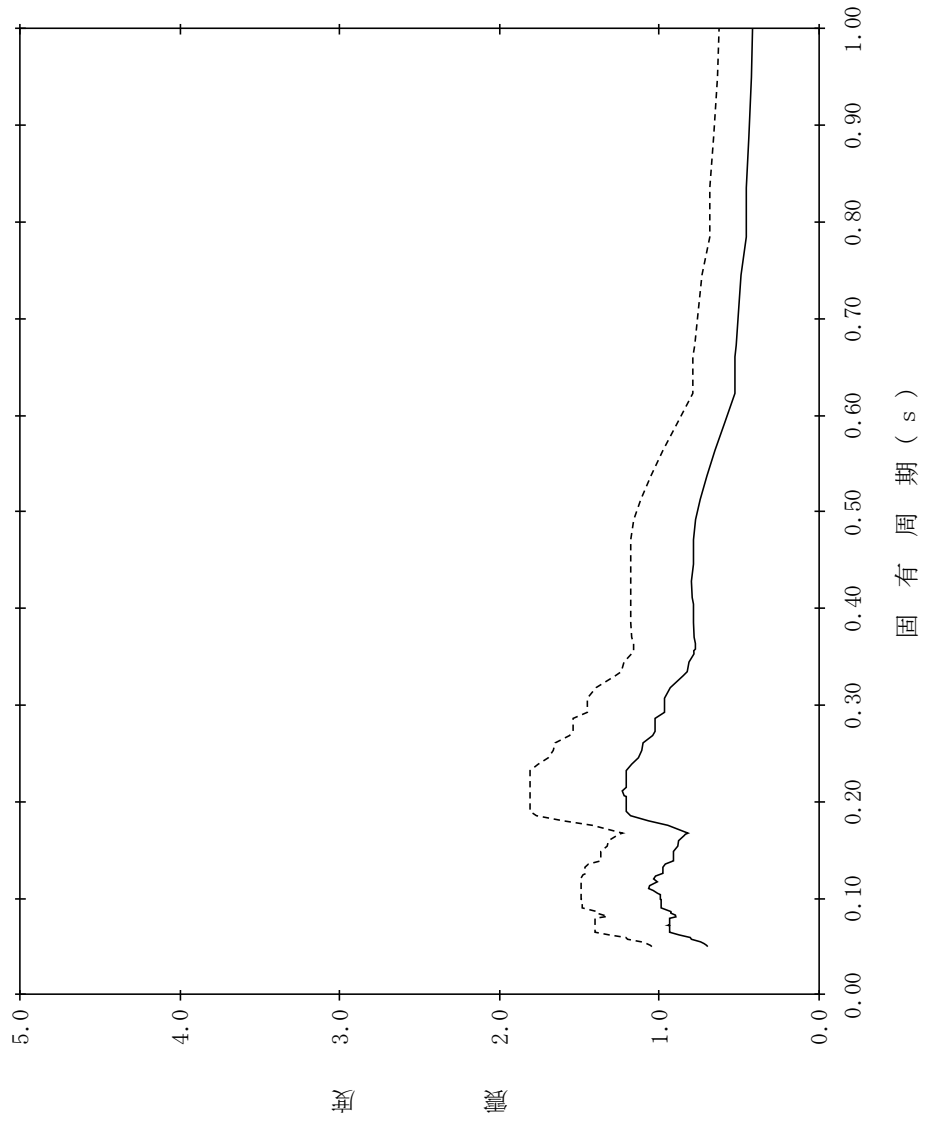


【NS2-RB-SdEW-RB87】



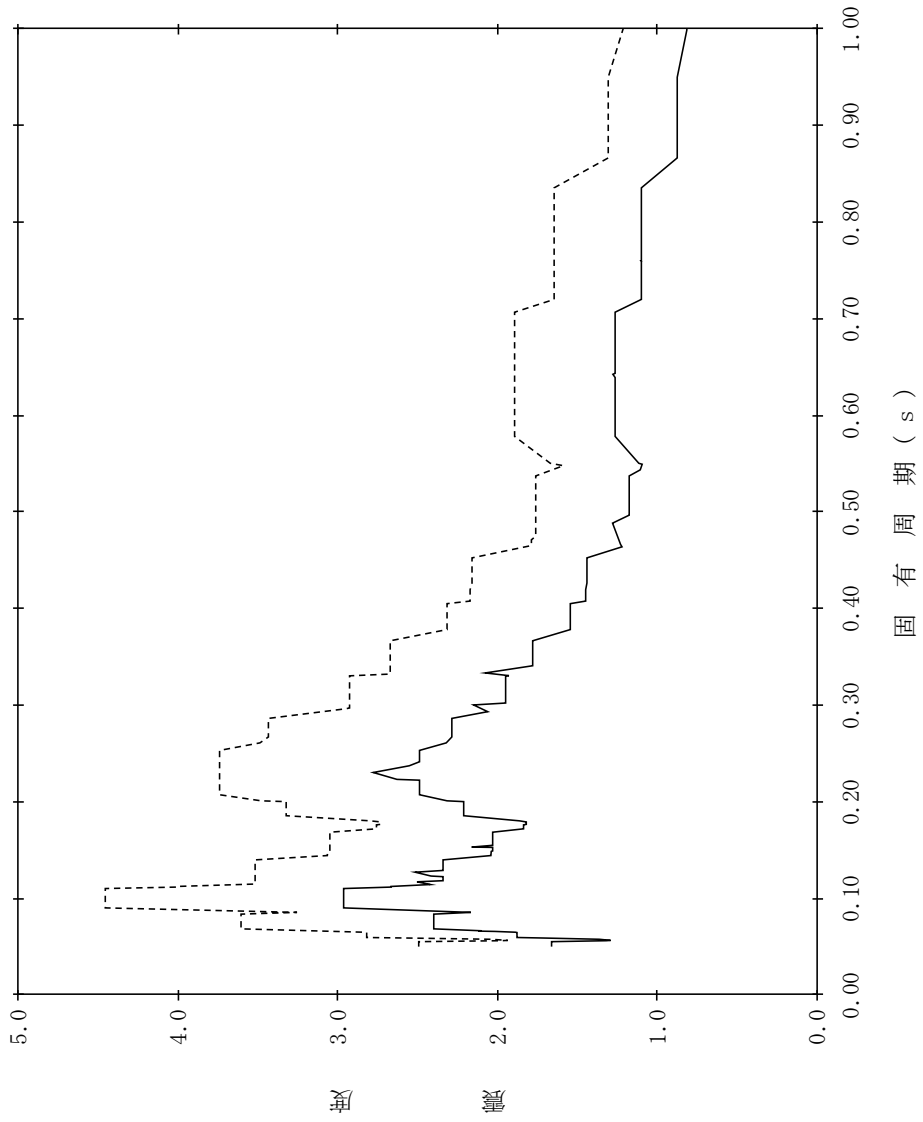
【NS2-RB-SdEW-RB88】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



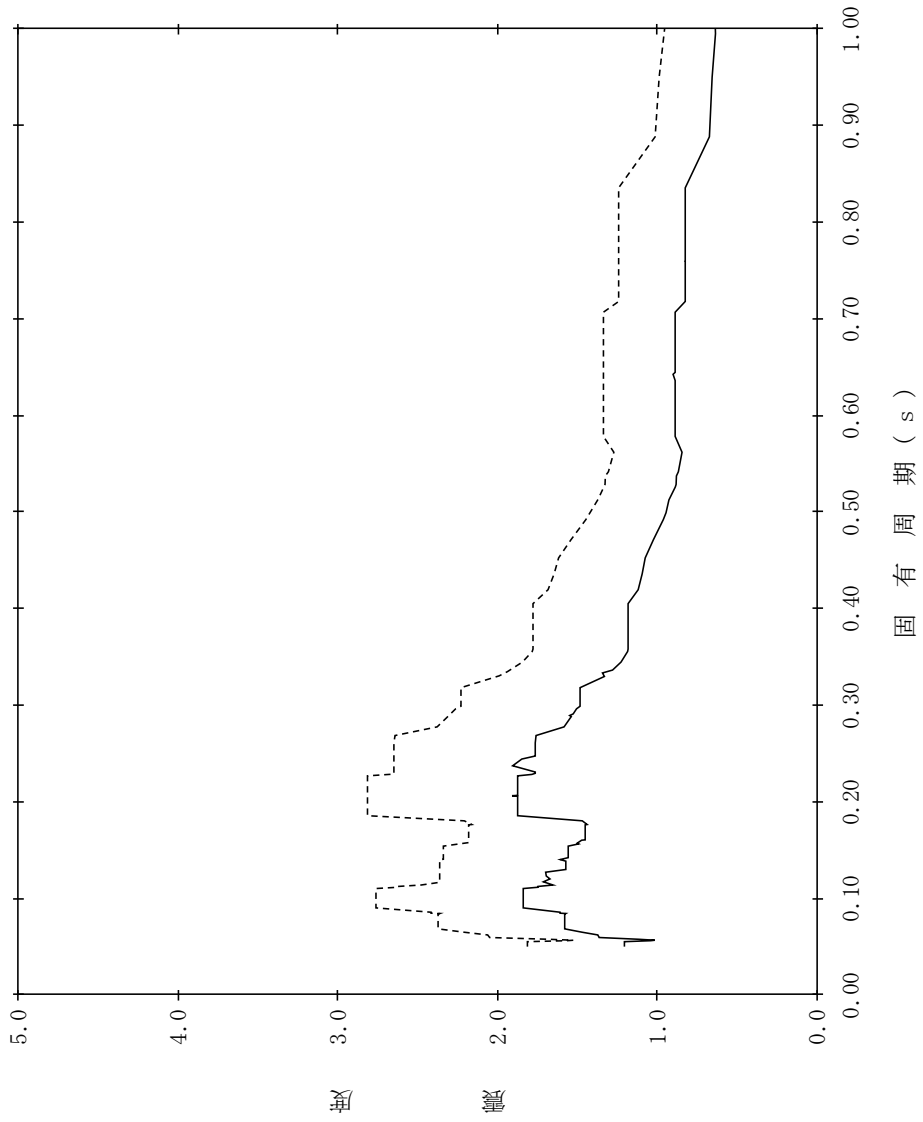
【NS2-RB-SdEW-RB89】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



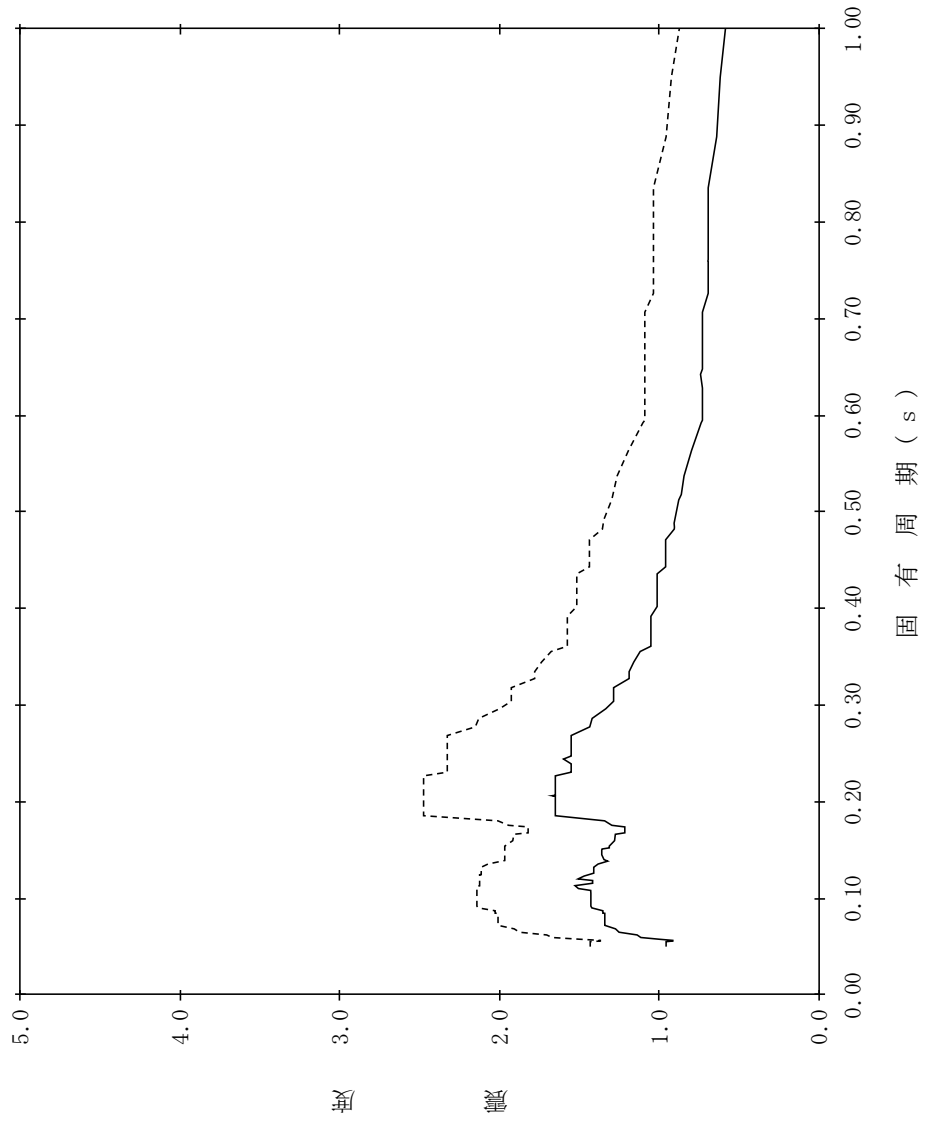
【NS2-RB-SdEW-RB90】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



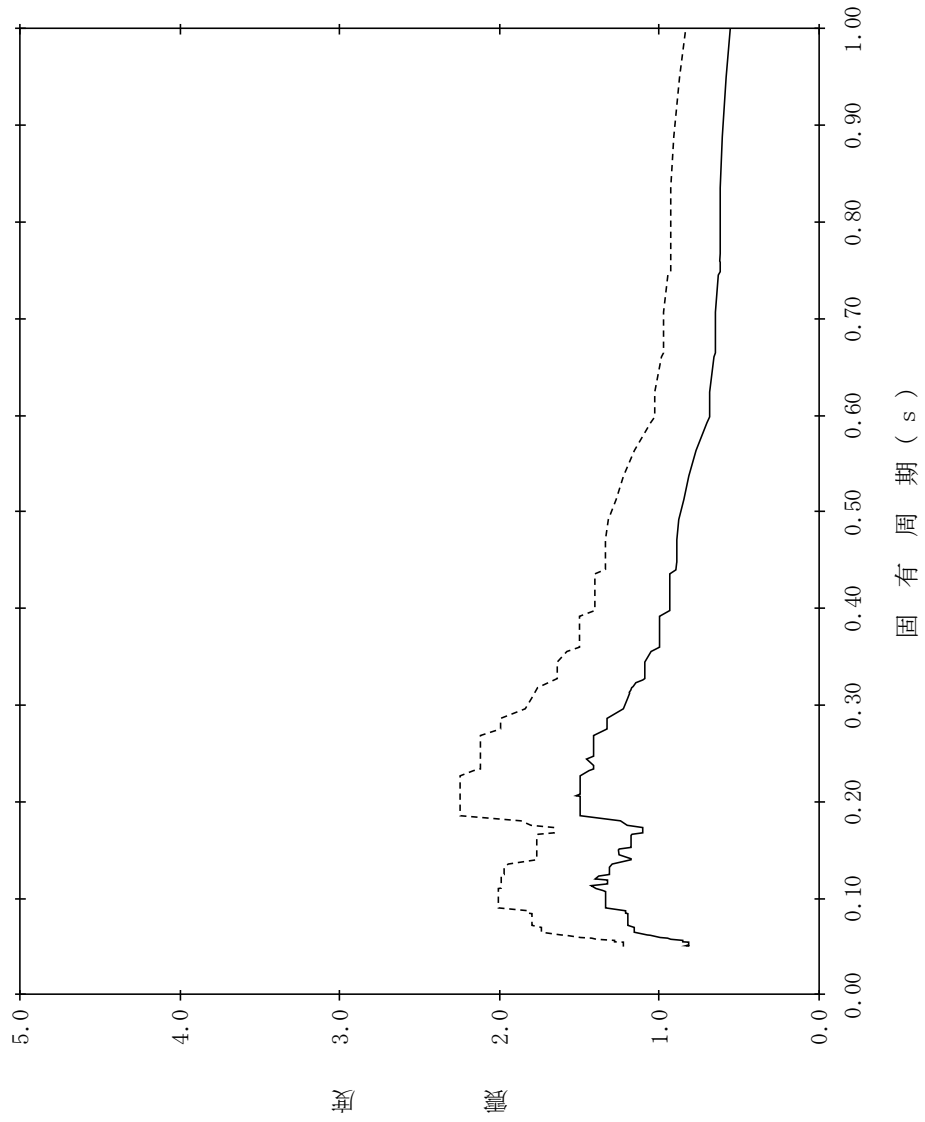
【NS2-RB-SdEW-RB91】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



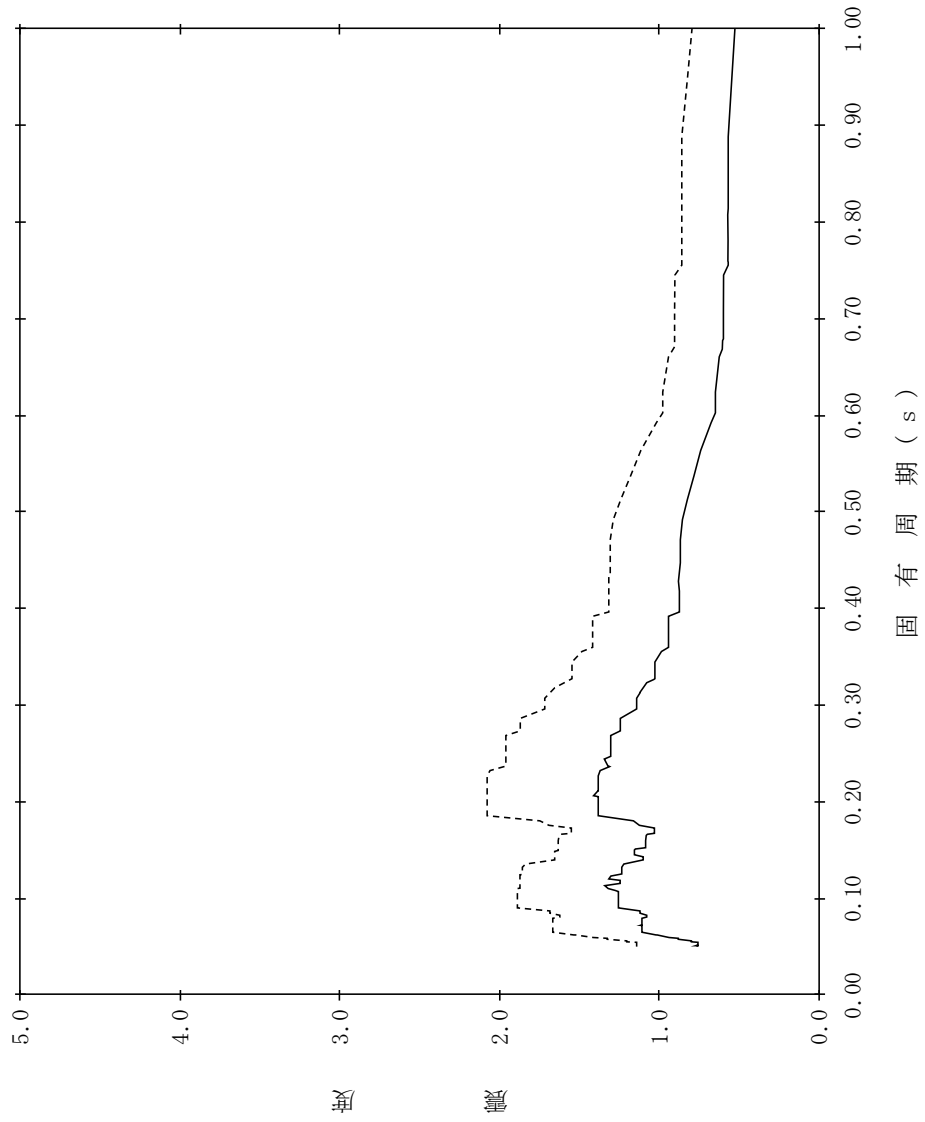
【NS2-RB-SdEW-RB92】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



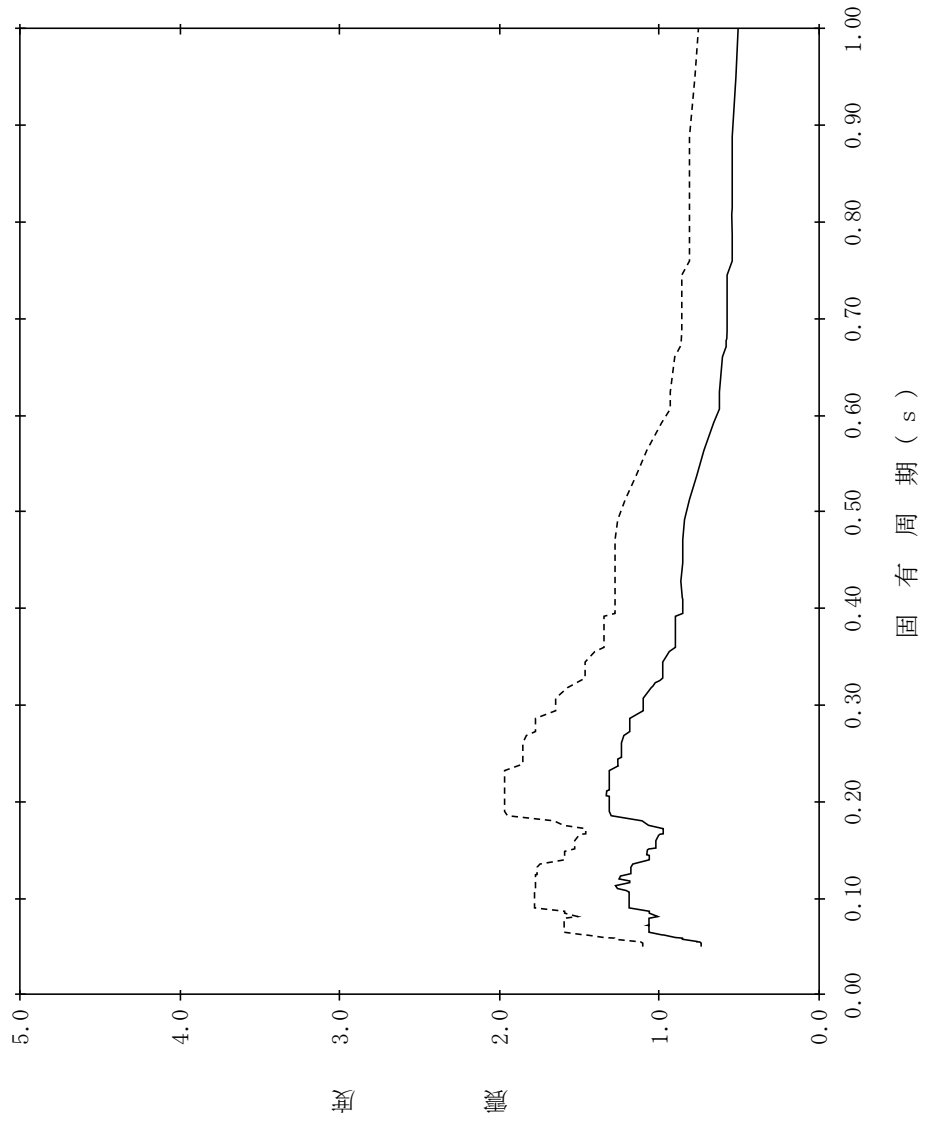
【NS2-RB-SdEW-RB93】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



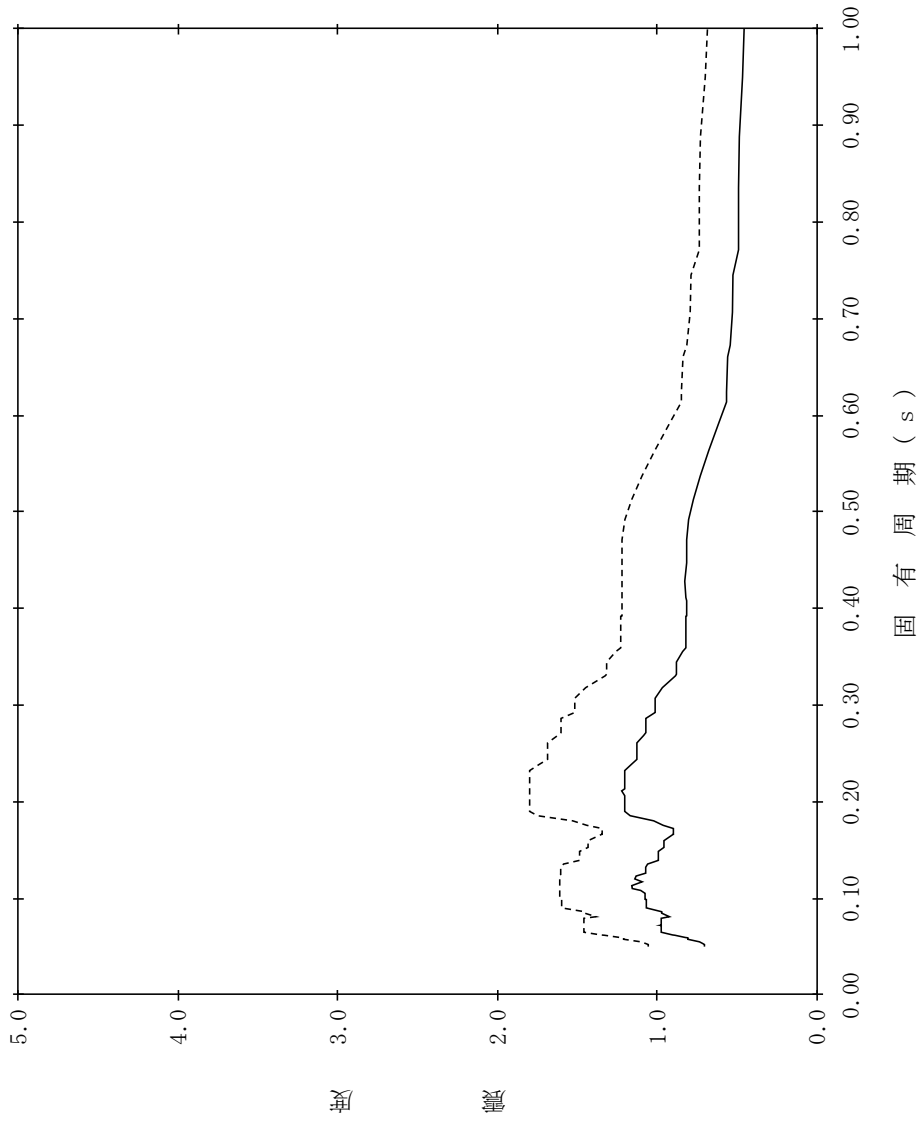
【NS2-RB-SdEW-RB94】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



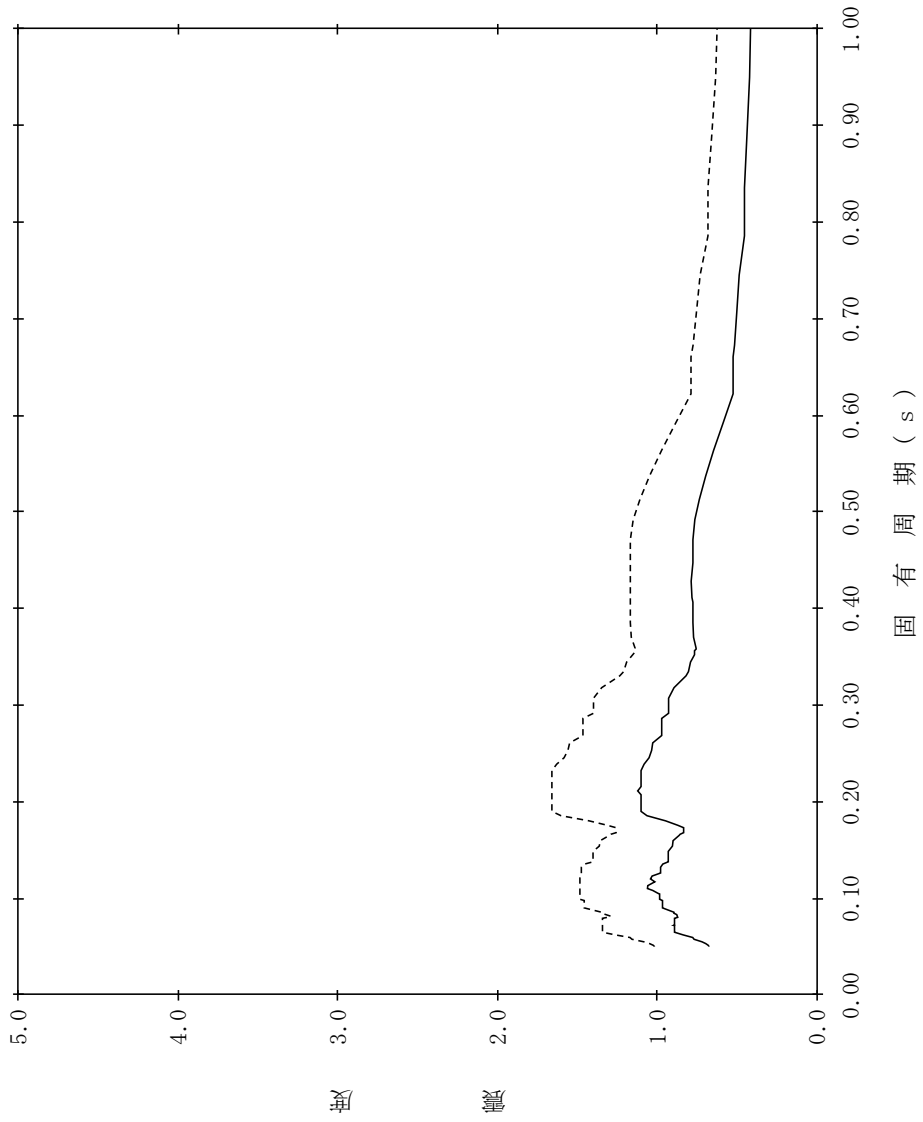
【NS2-RB-SdEW-RB95】

構造物名：原子炉建物
標高：EL-4.700m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
設計用床応答スペクトル I (EW方向)
設計用床応答スペクトル II (EW方向)



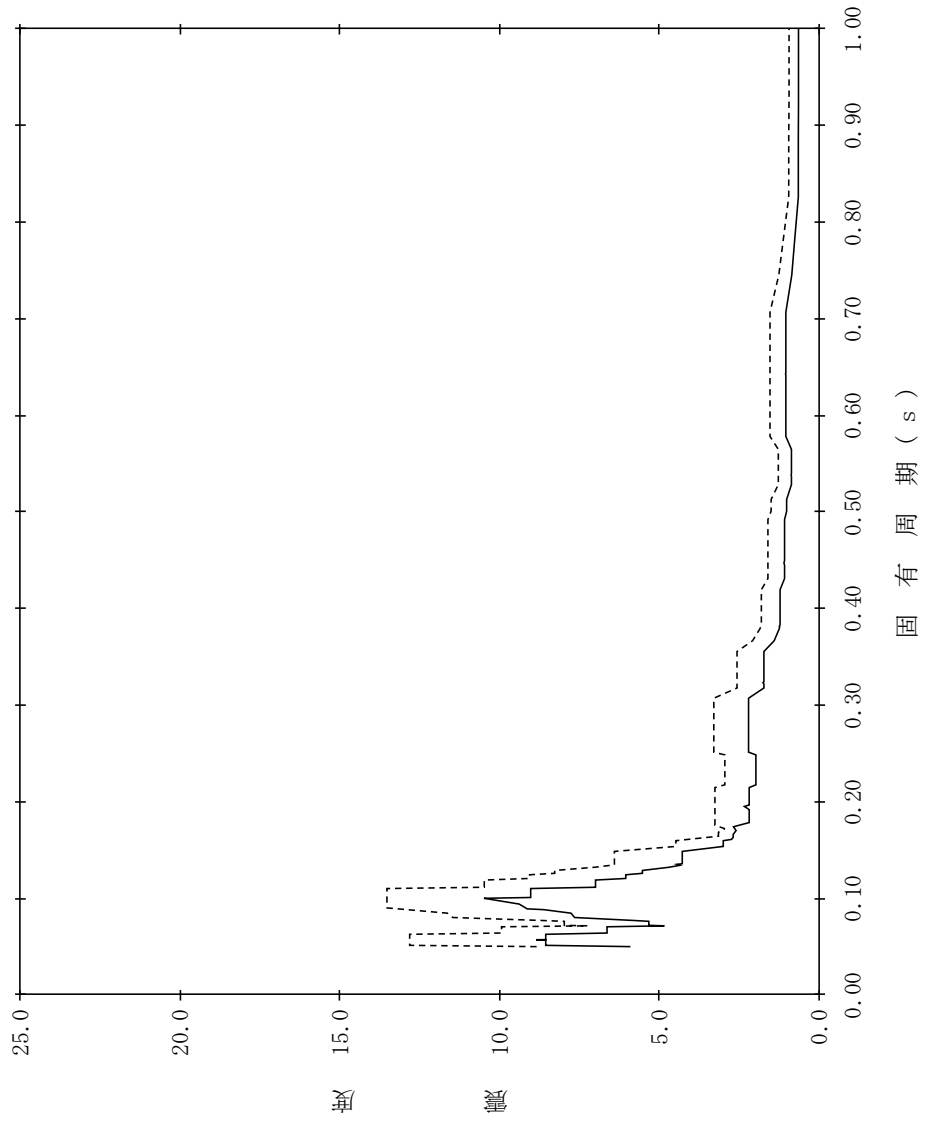
【NS2-RB-SdEW-RB96】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



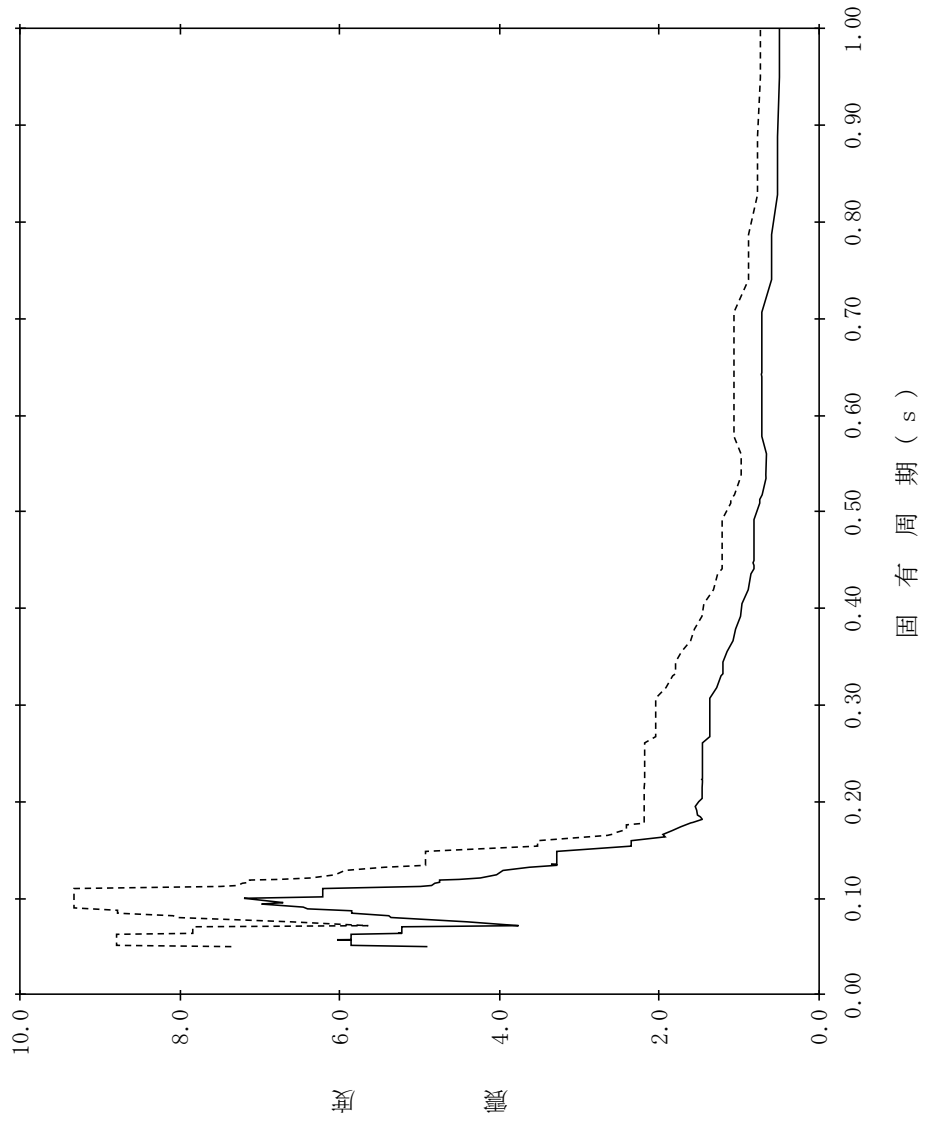
【NS2-RB-SdV-RB1】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



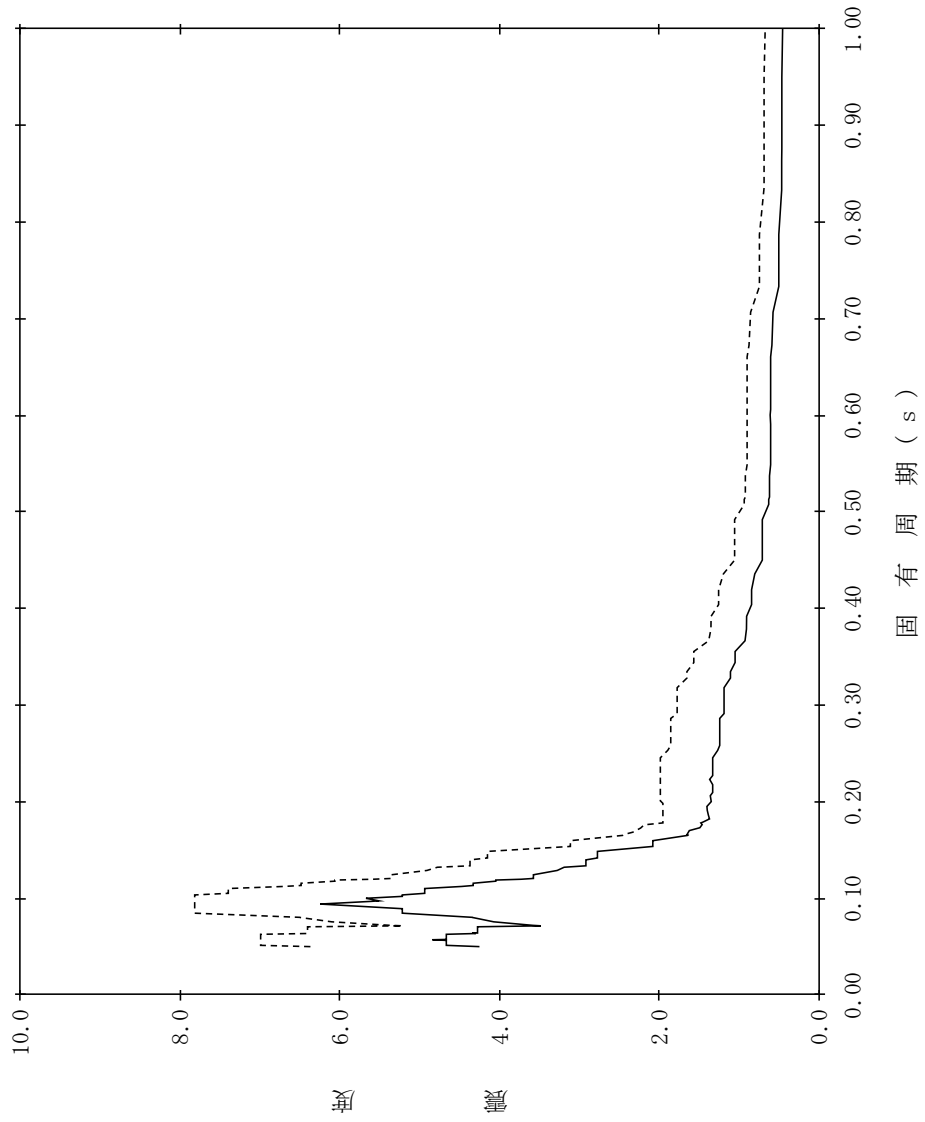
【NS2-RB-SdV-RB2】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



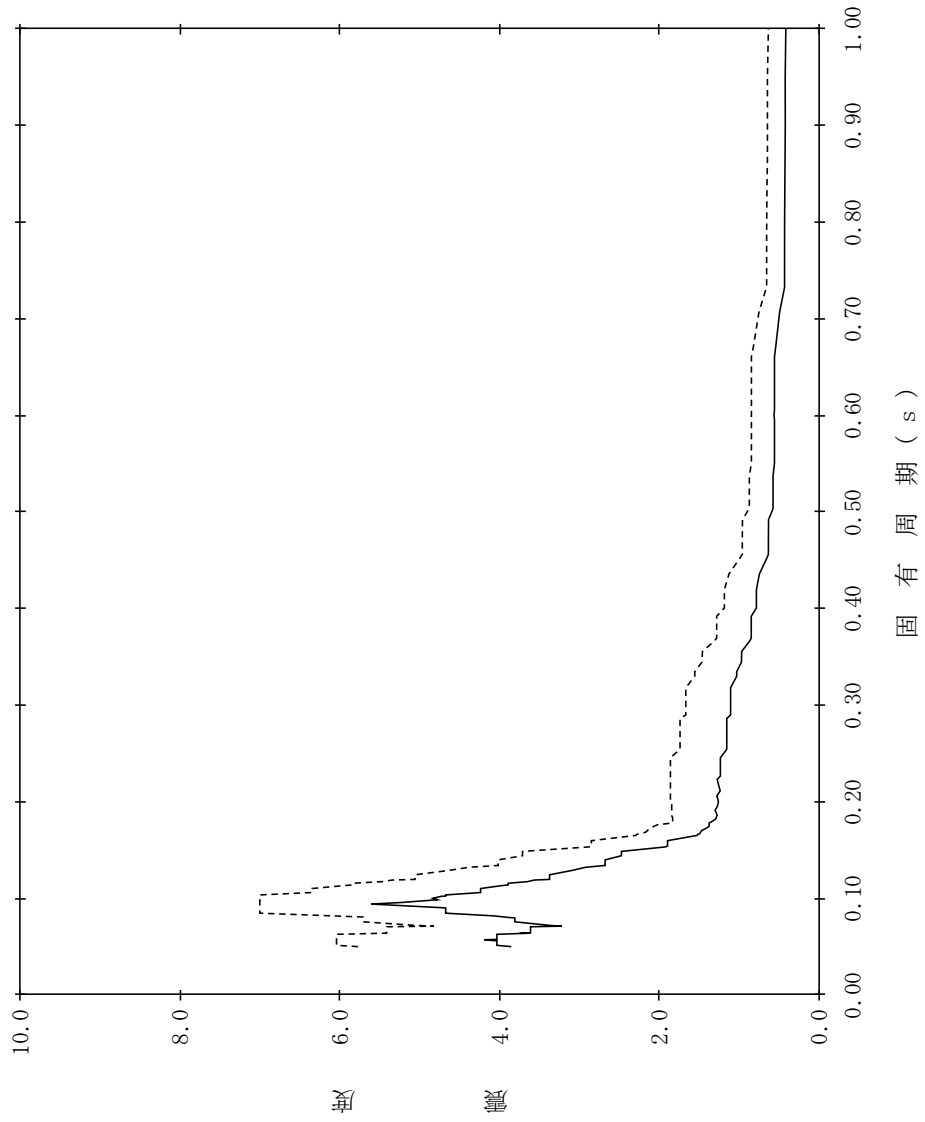
【NS2-RB-SdV-RB3】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



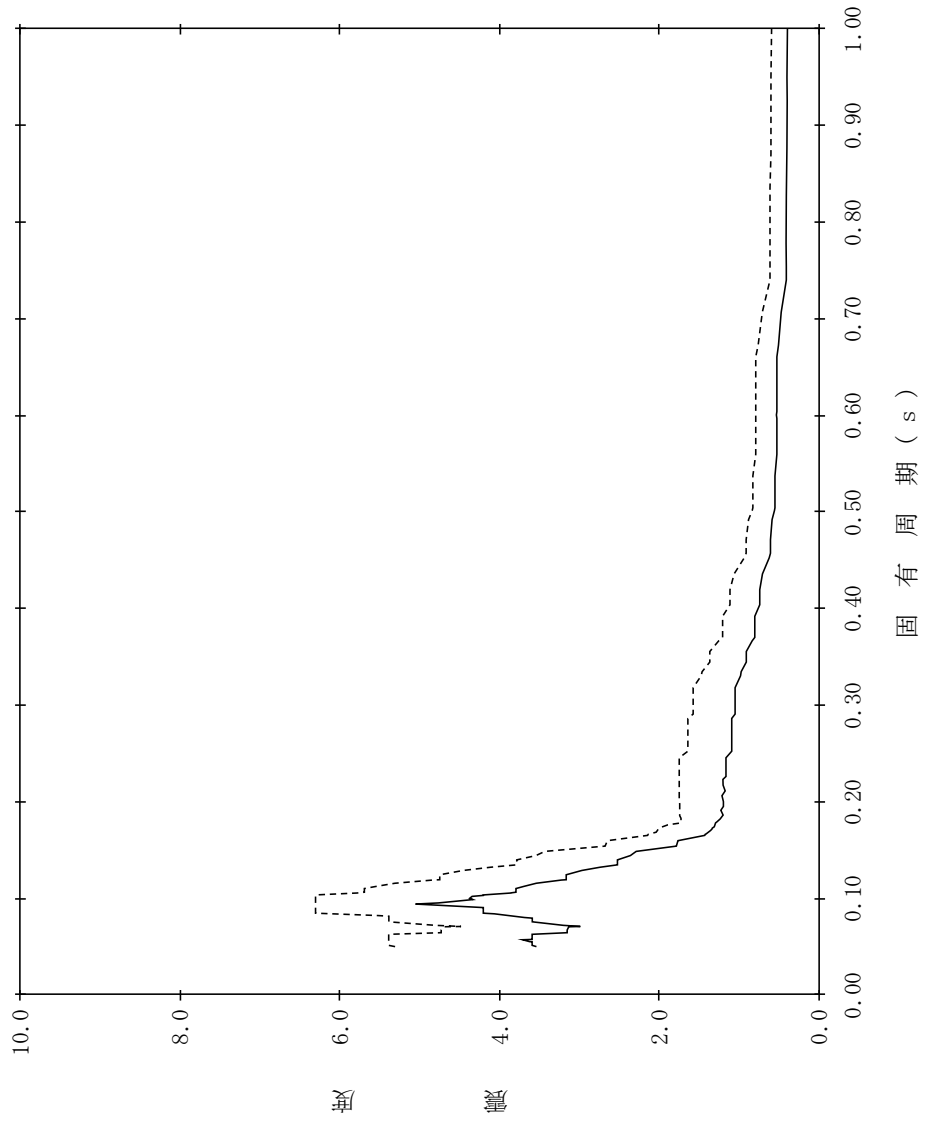
【NS2-RB-SdV-RB4】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



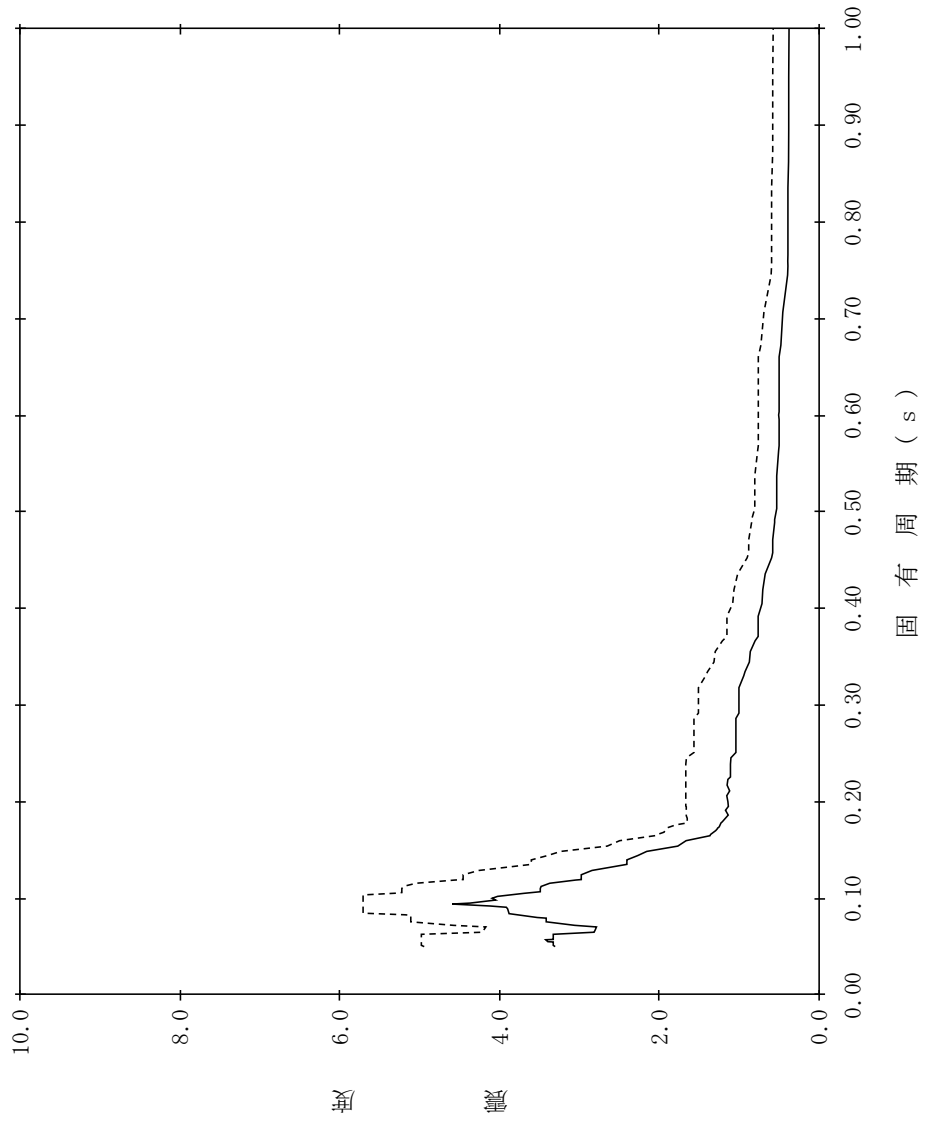
【NS2-RB-SdV-RB5】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



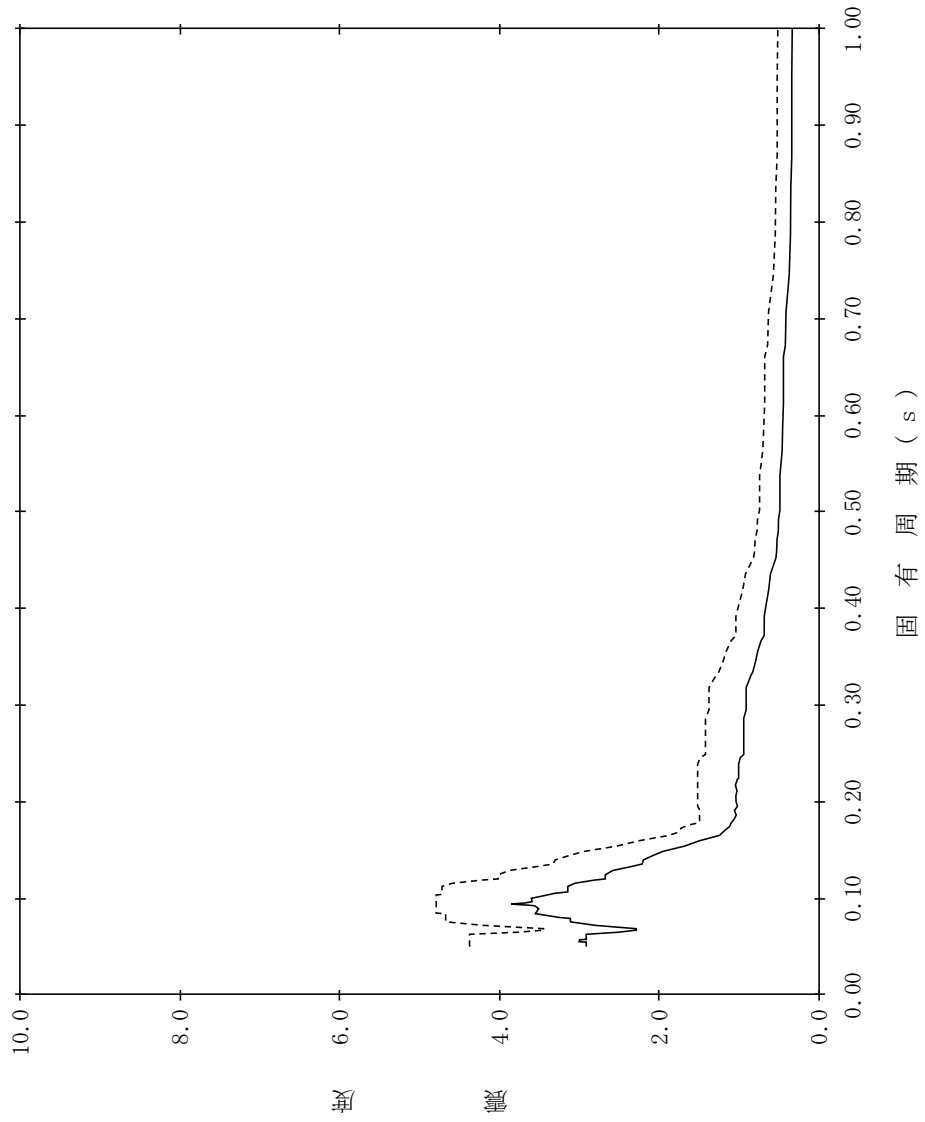
【NS2-RB-SdV-RB6】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



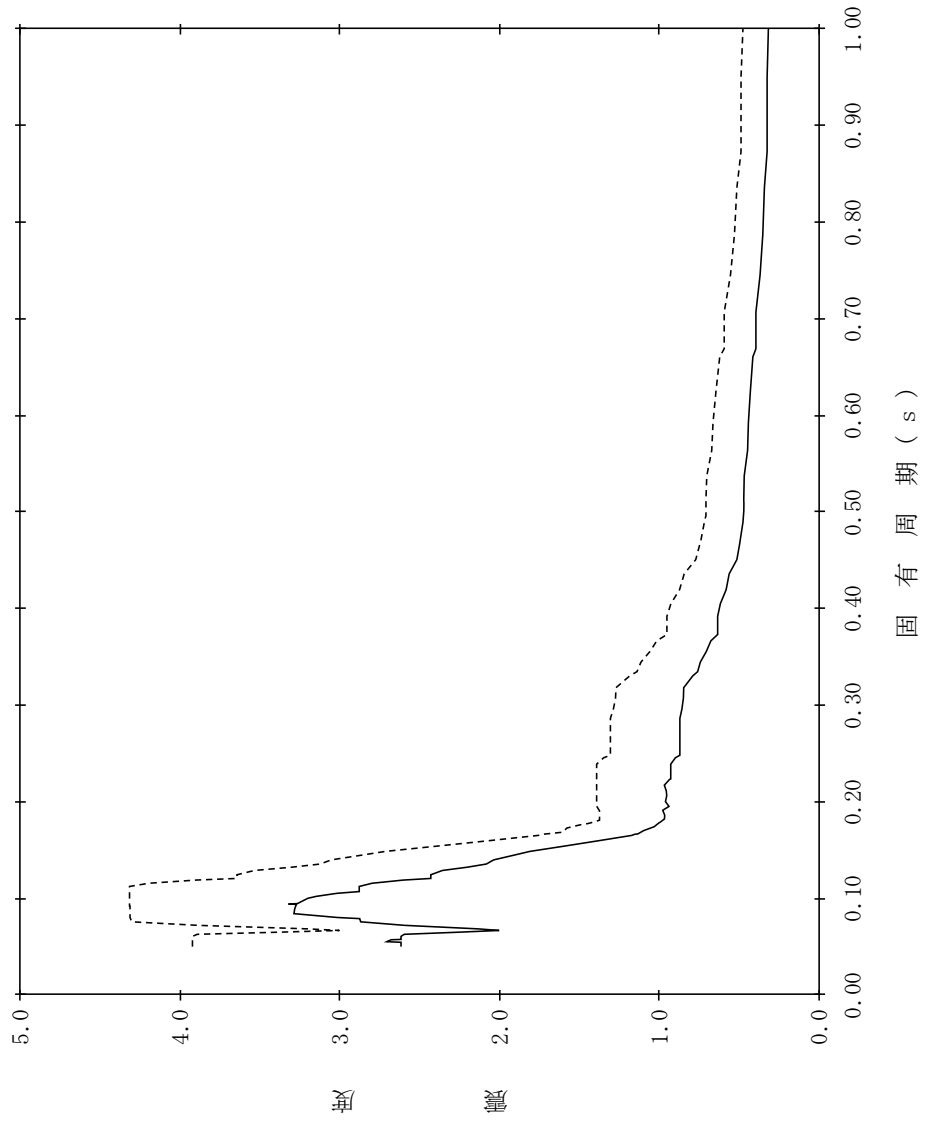
【NS2-RB-SdV-RB7】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



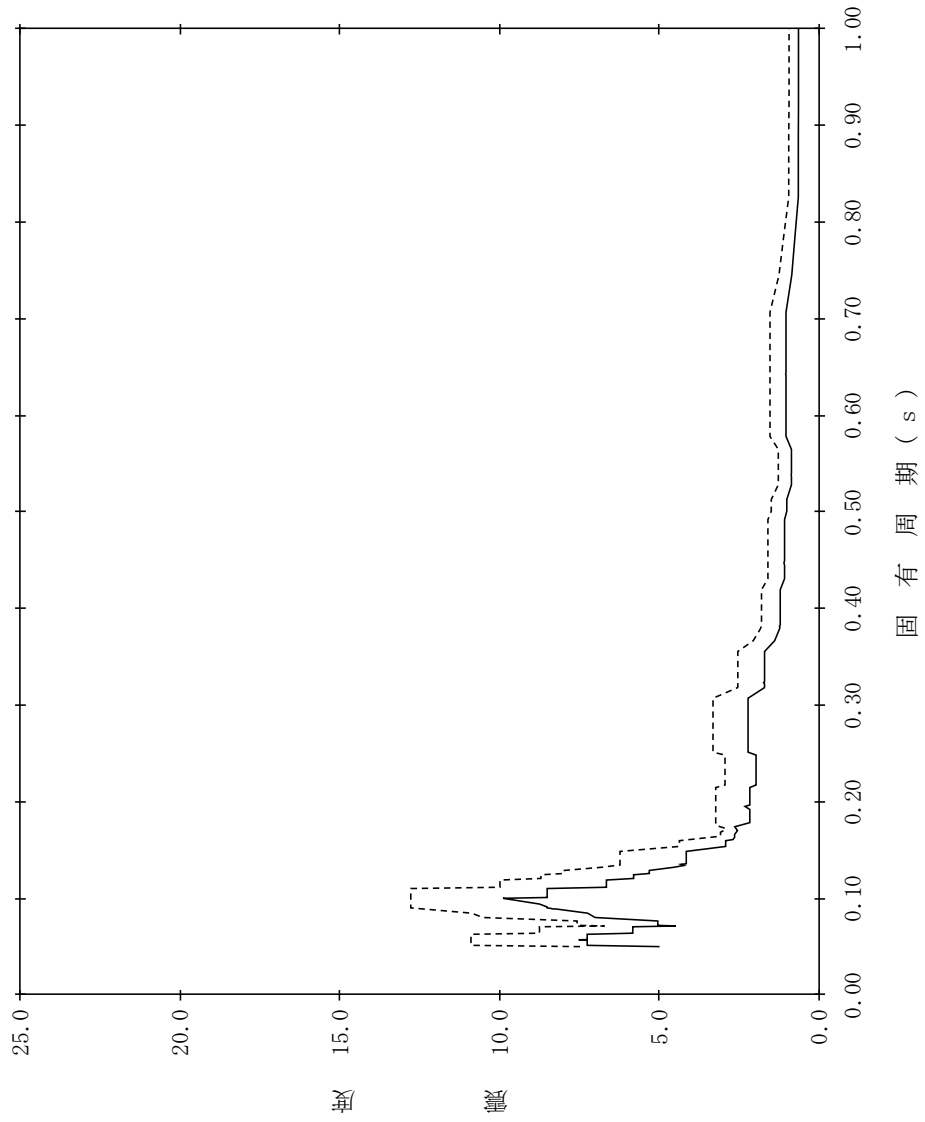
【NS2-RB-SdV-RB8】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

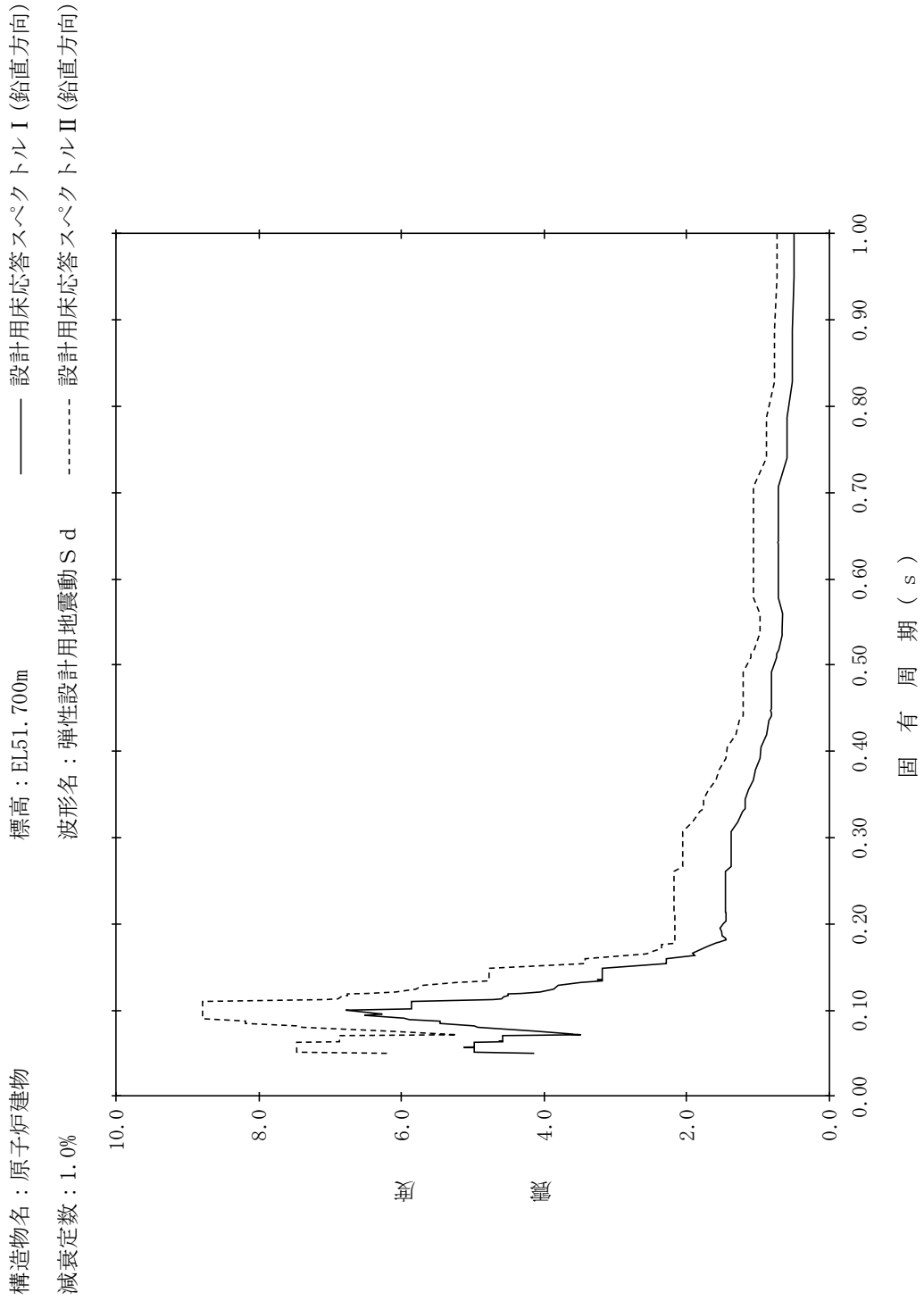


【NS2-RB-SdV-RB9】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

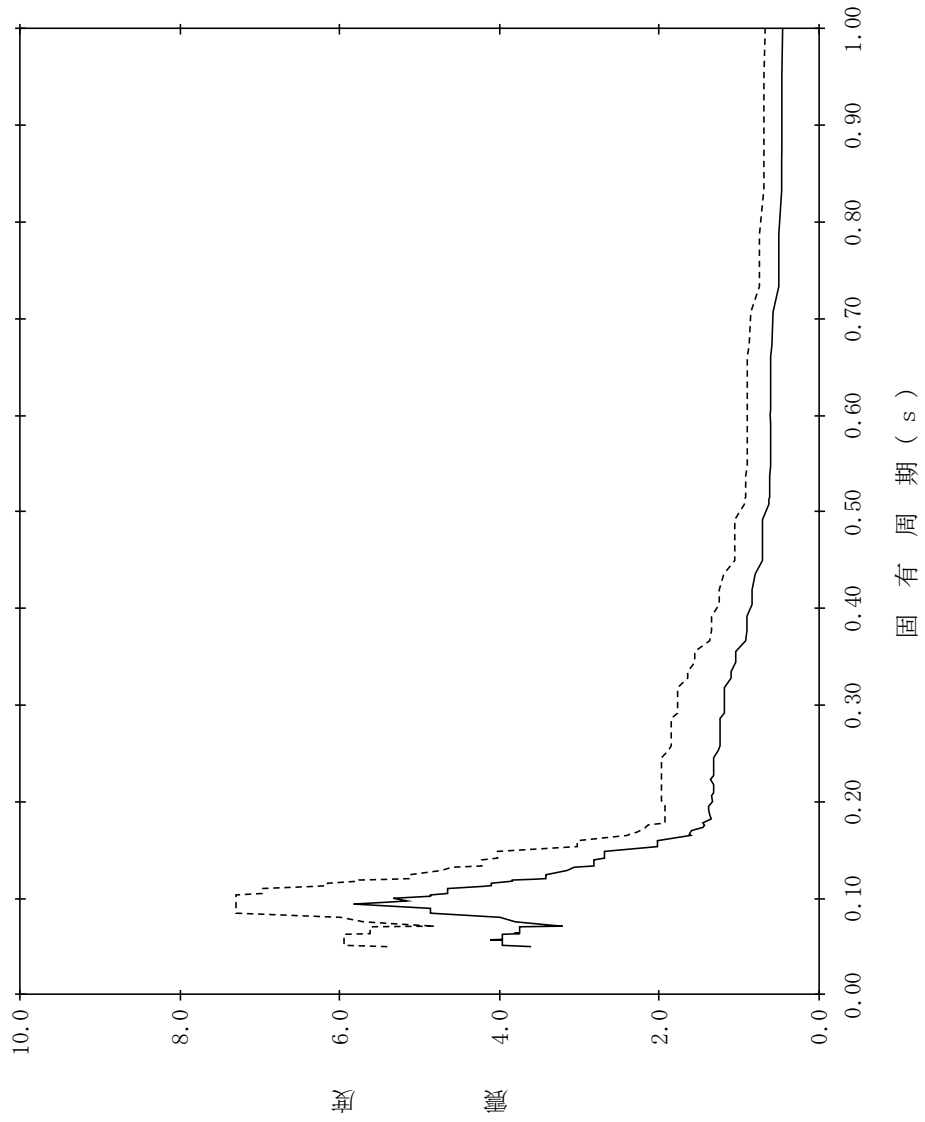


【NS2-RB-SdV-RB10】



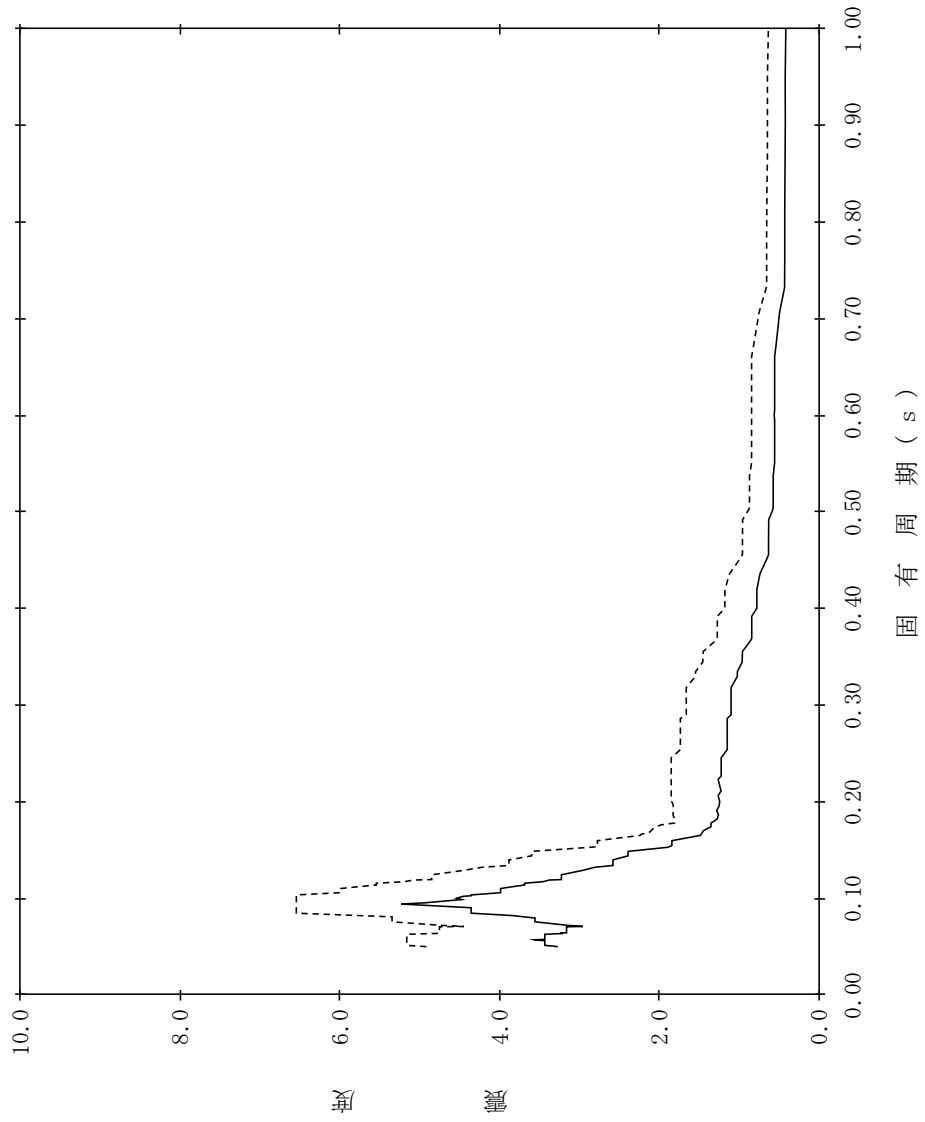
【NS2-RB-SdV-RB11】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

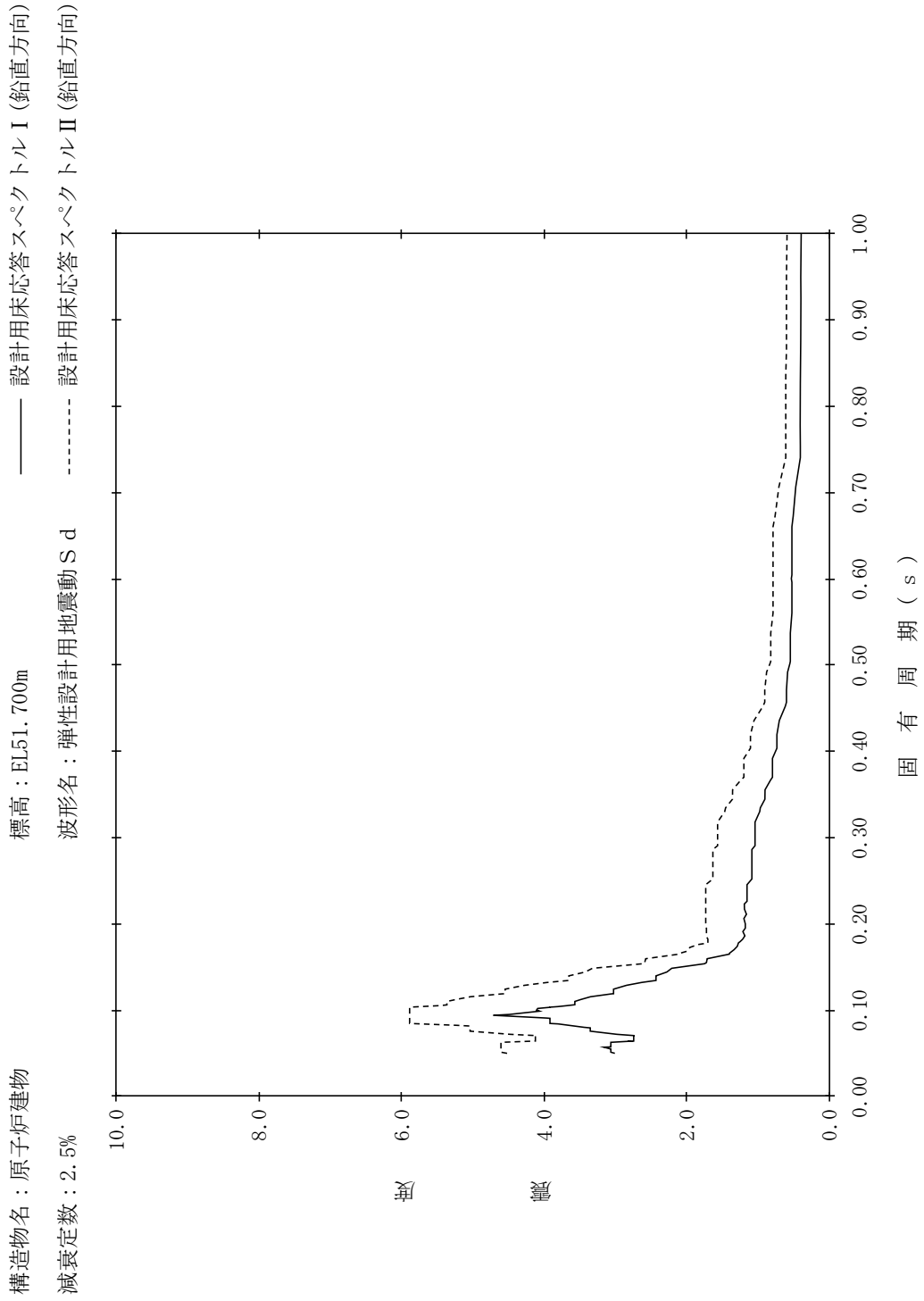


【NS2-RB-SdV-RB12】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

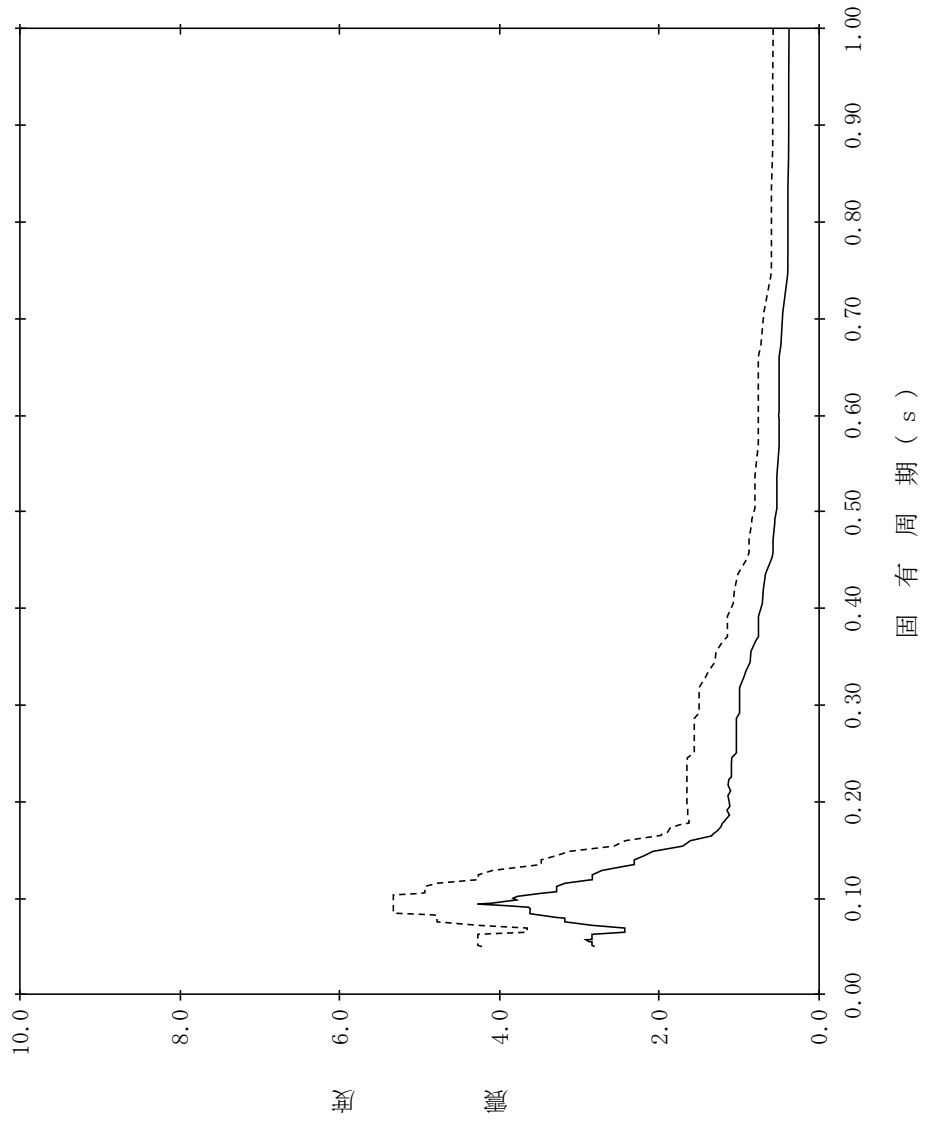


【NS2-RB-SdV-RB13】



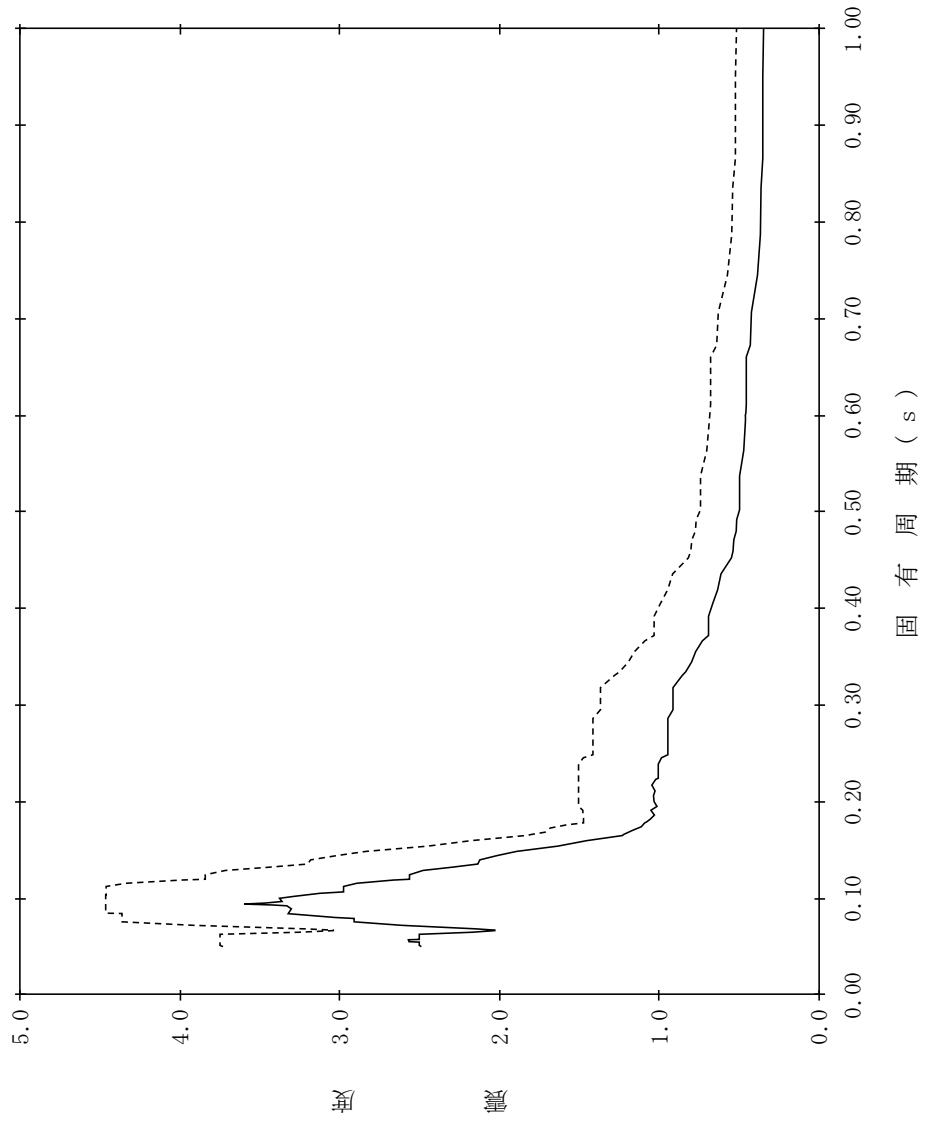
【NS2-RB-SdV-RB14】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



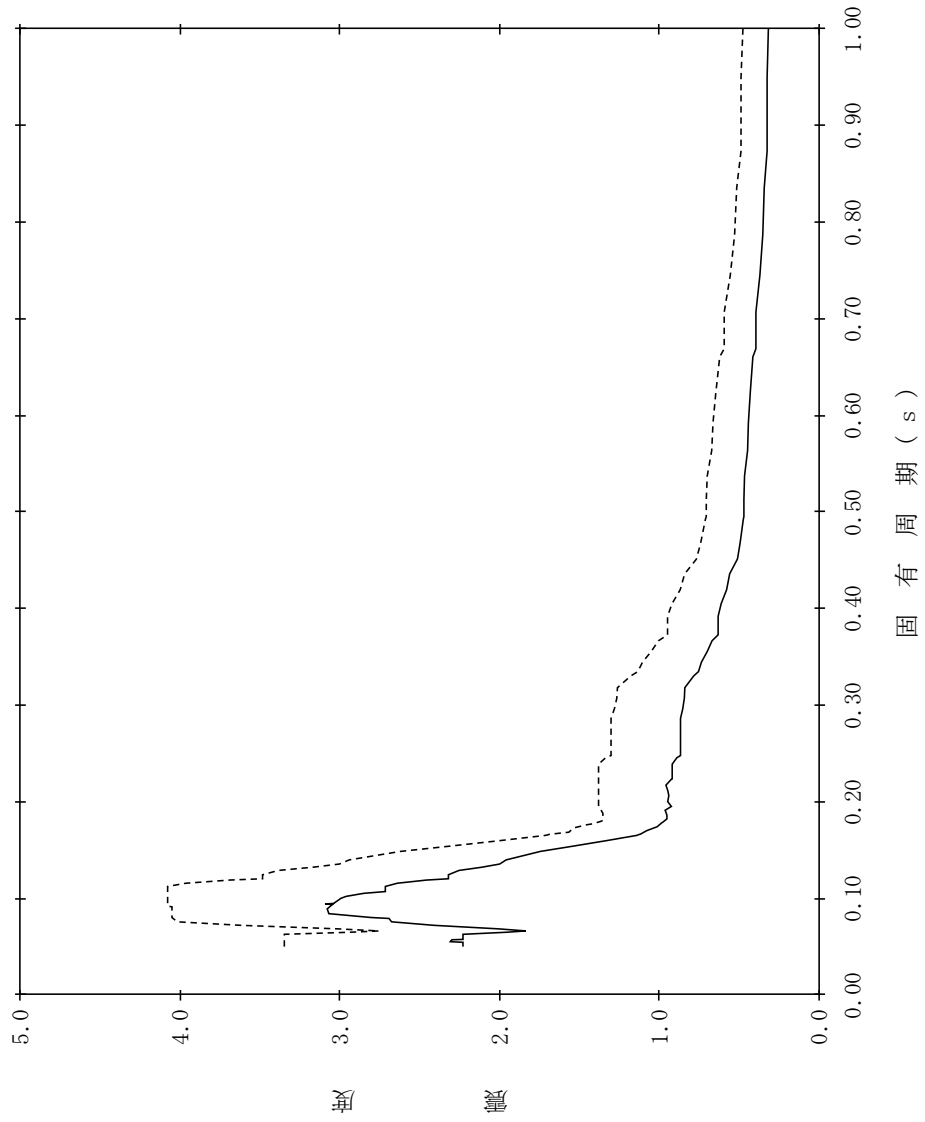
【NS2-RB-SdV-RB15】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



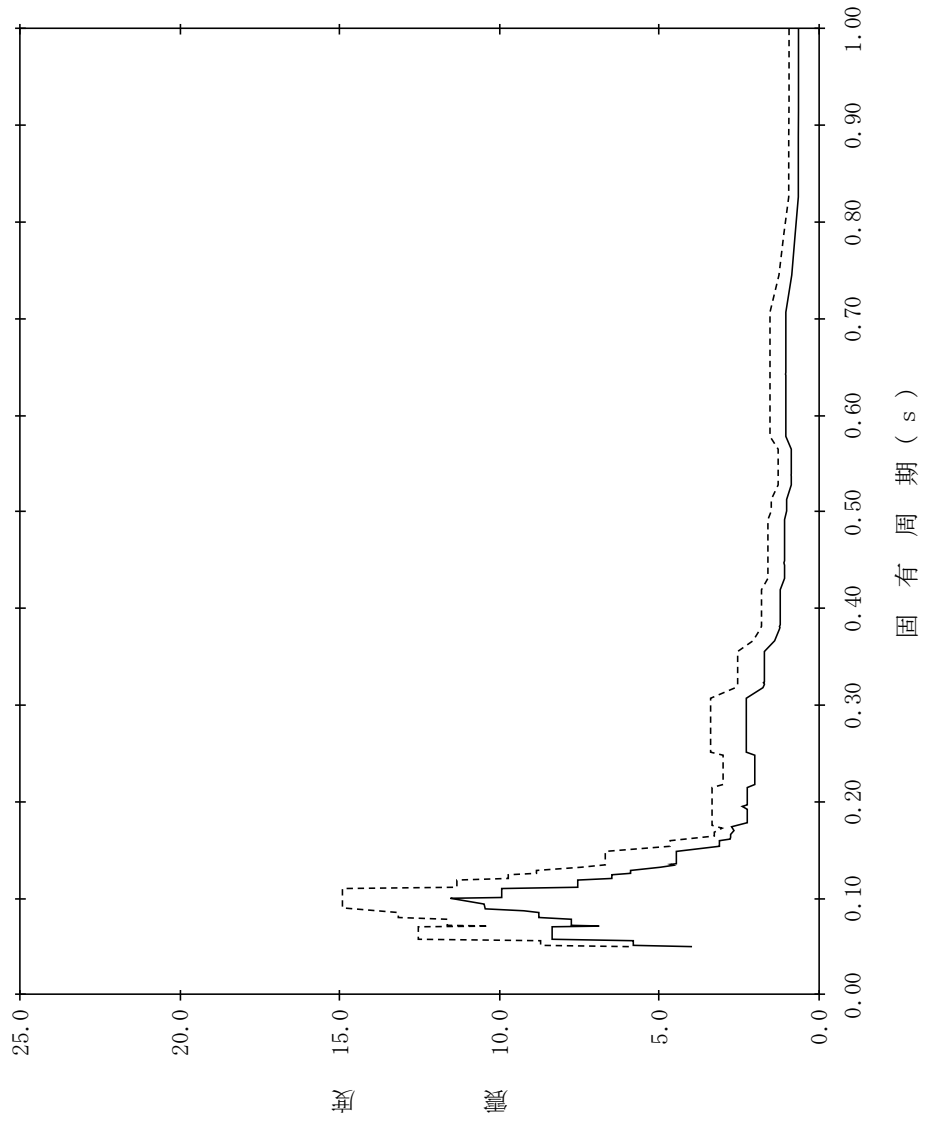
【NS2-RB-SdV-RB16】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

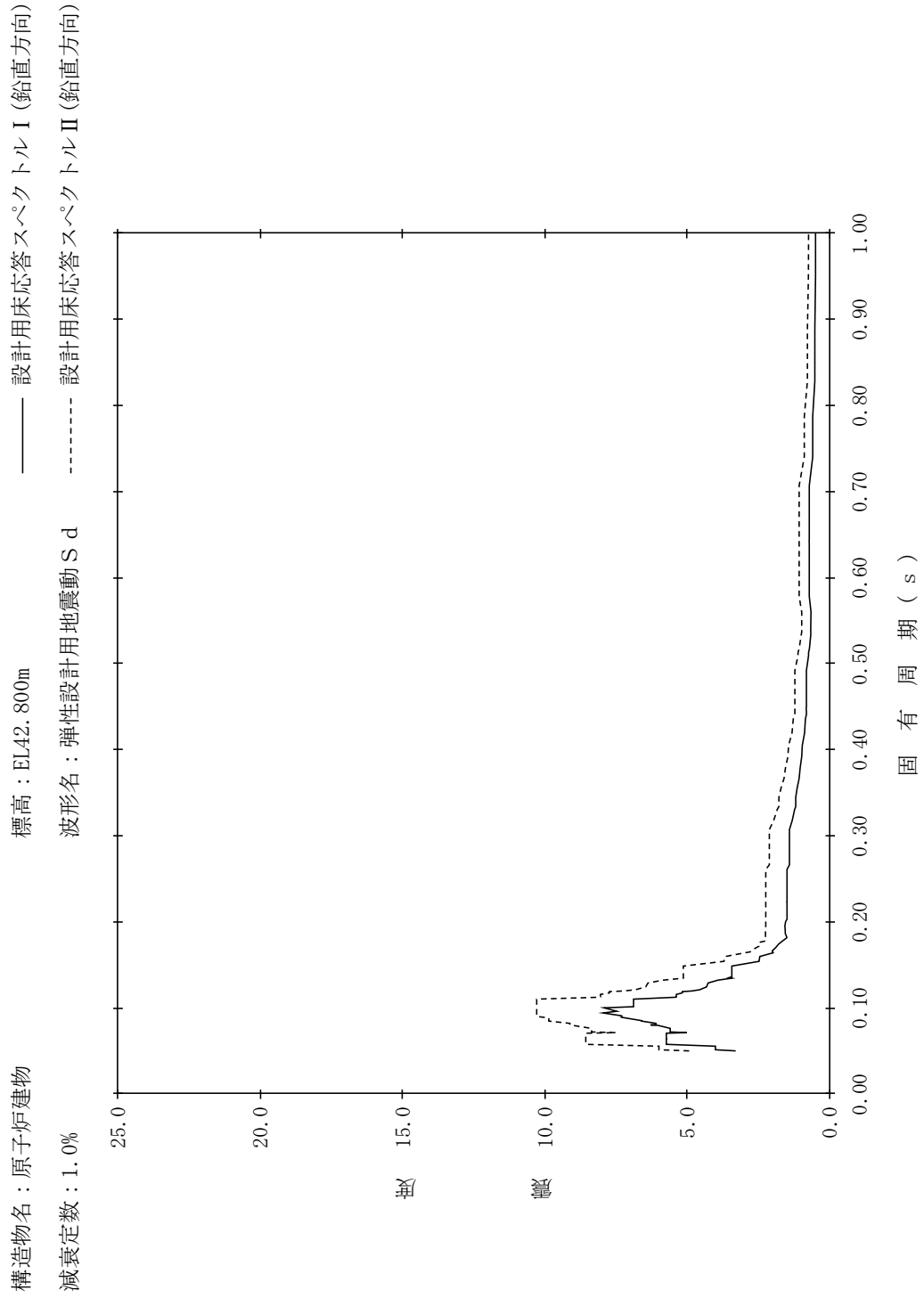


【NS2-RB-SdV-RB17】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

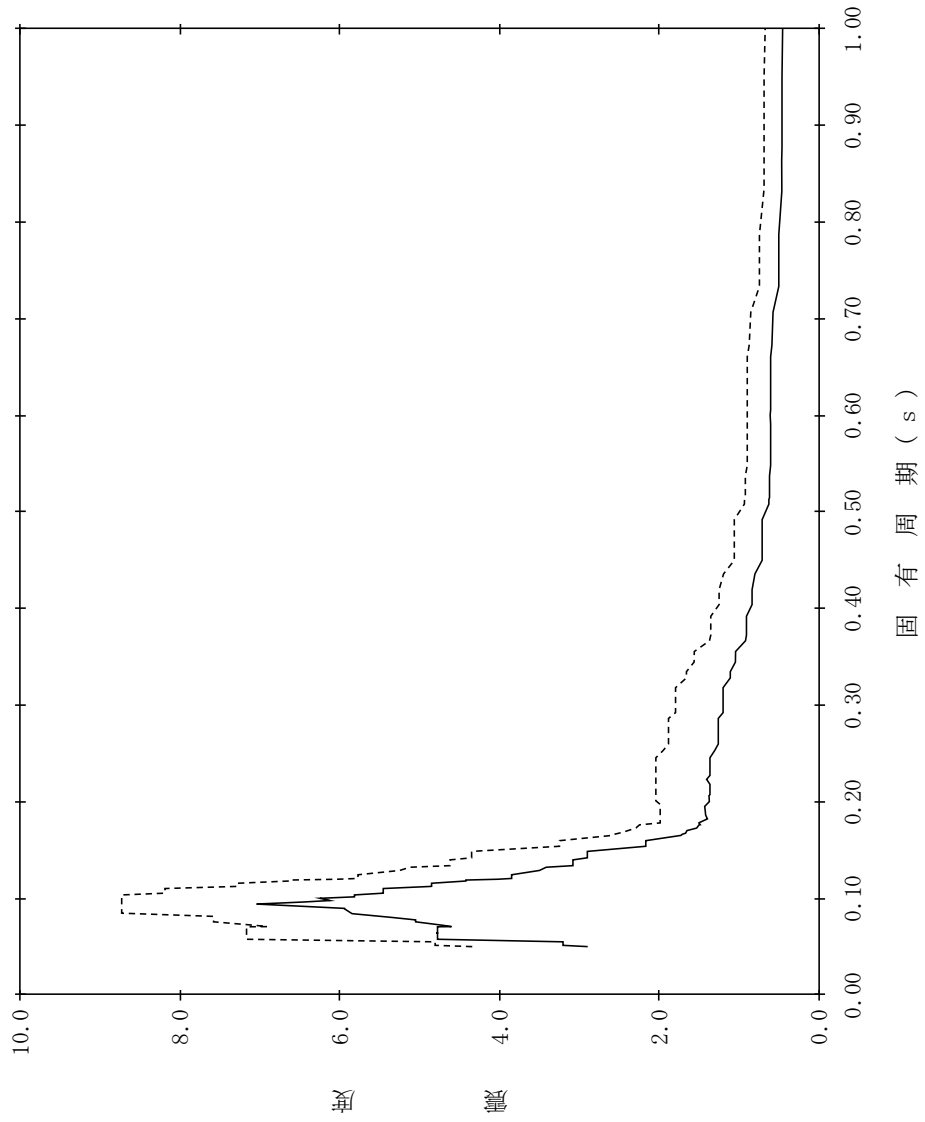


【NS2-RB-SdV-RB18】



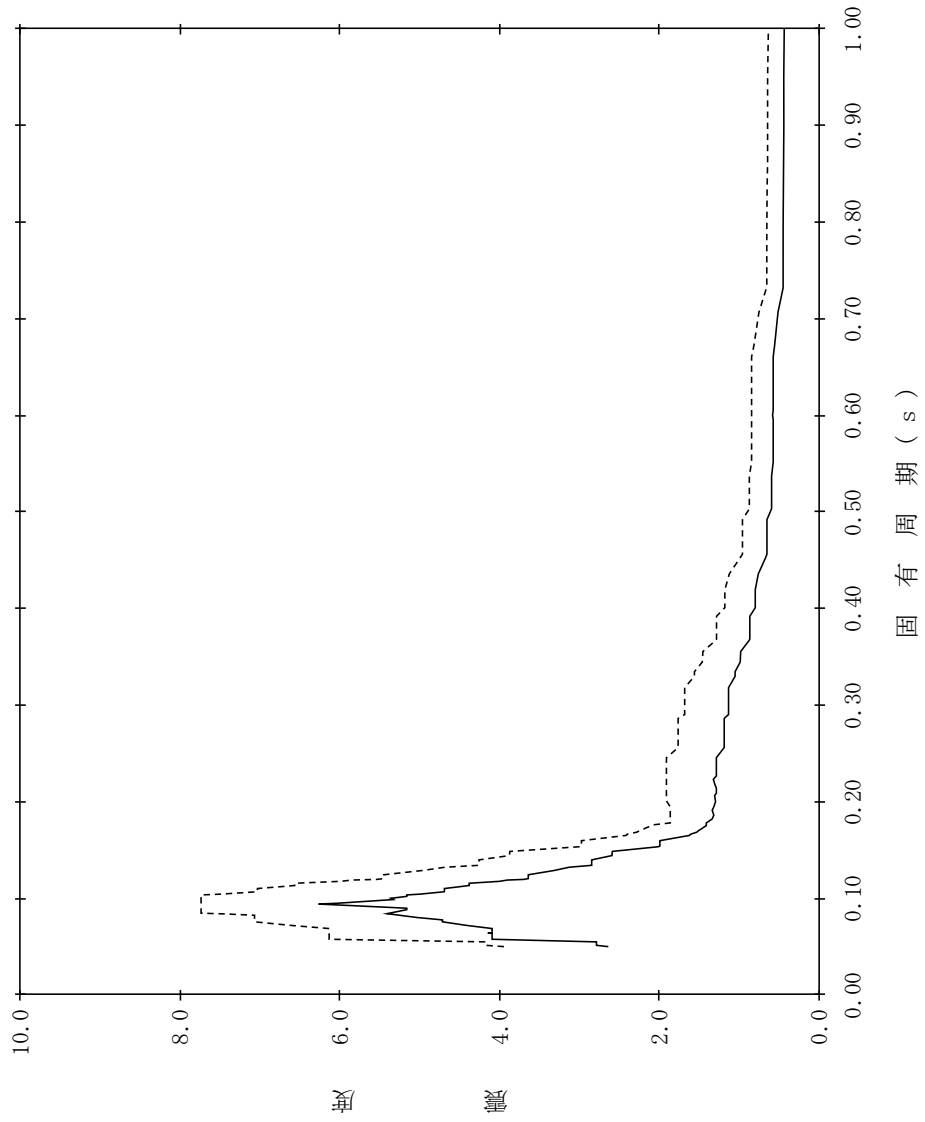
【NS2-RB-SdV-RB19】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



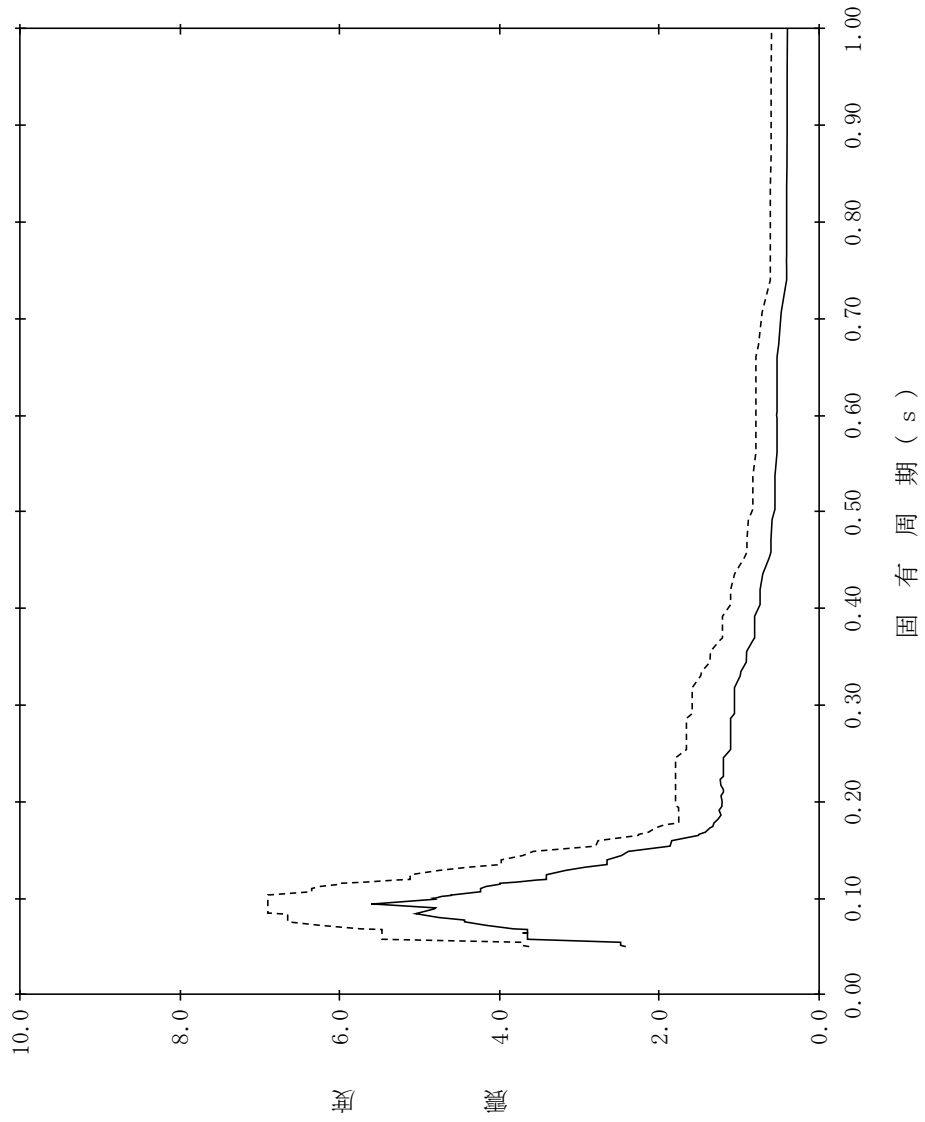
【NS2-RB-SdV-RB20】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



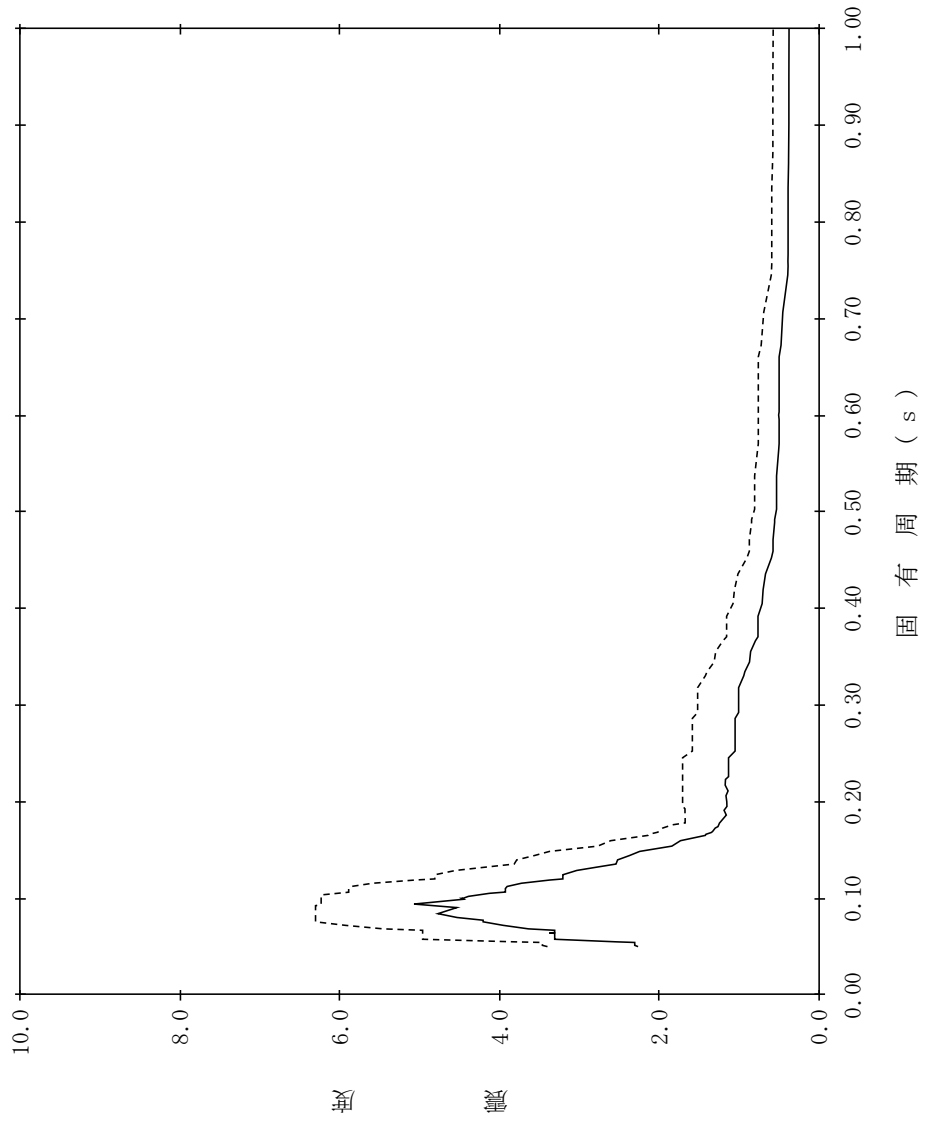
【NS2-RB-SdV-RB21】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



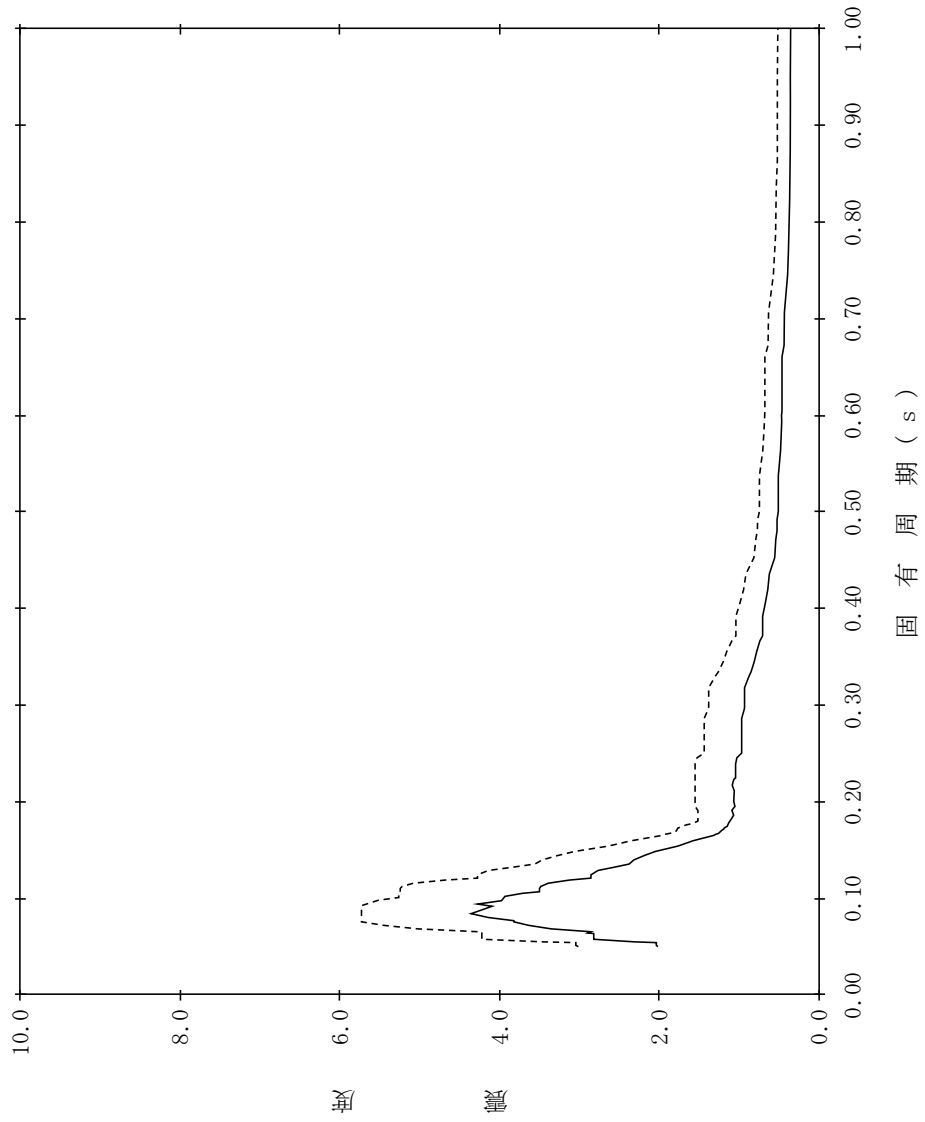
【NS2-RB-SdV-RB22】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



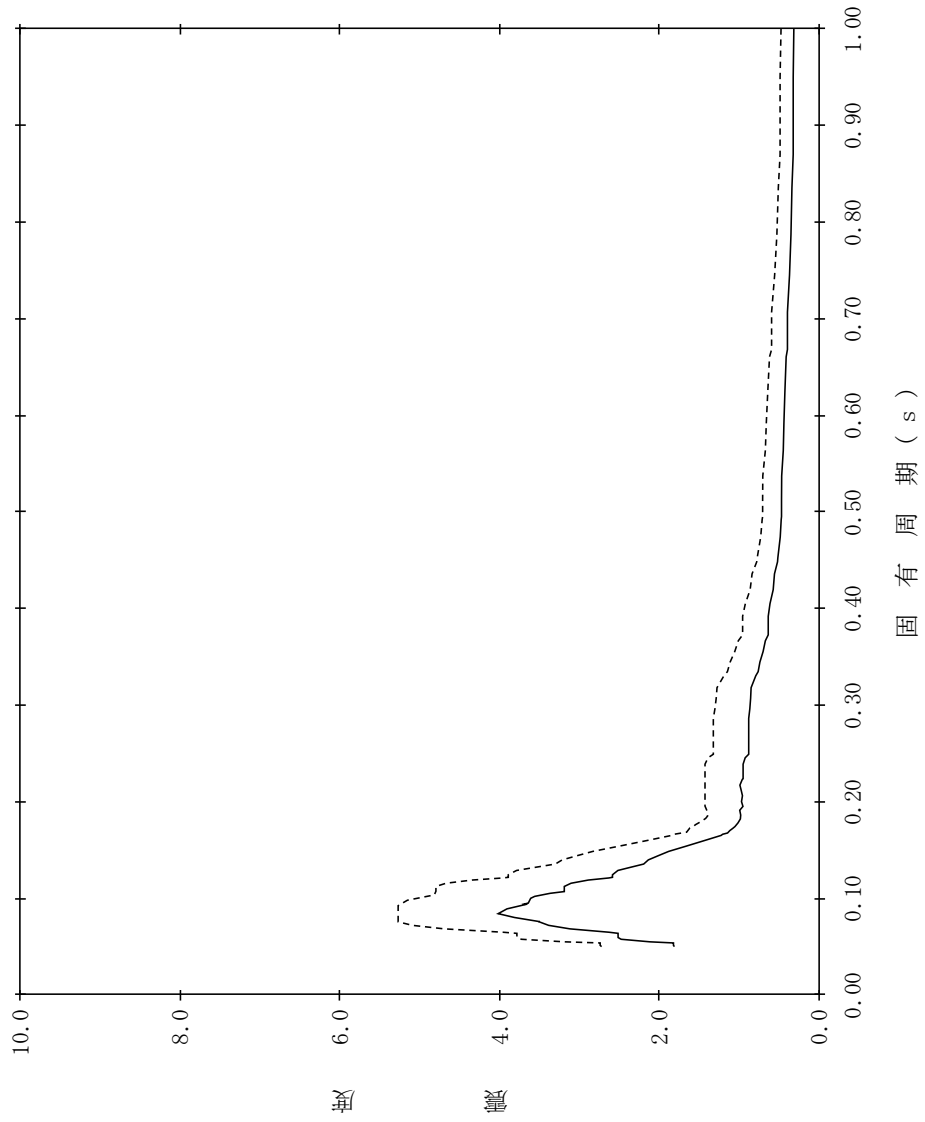
【NS2-RB-SdV-RB23】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



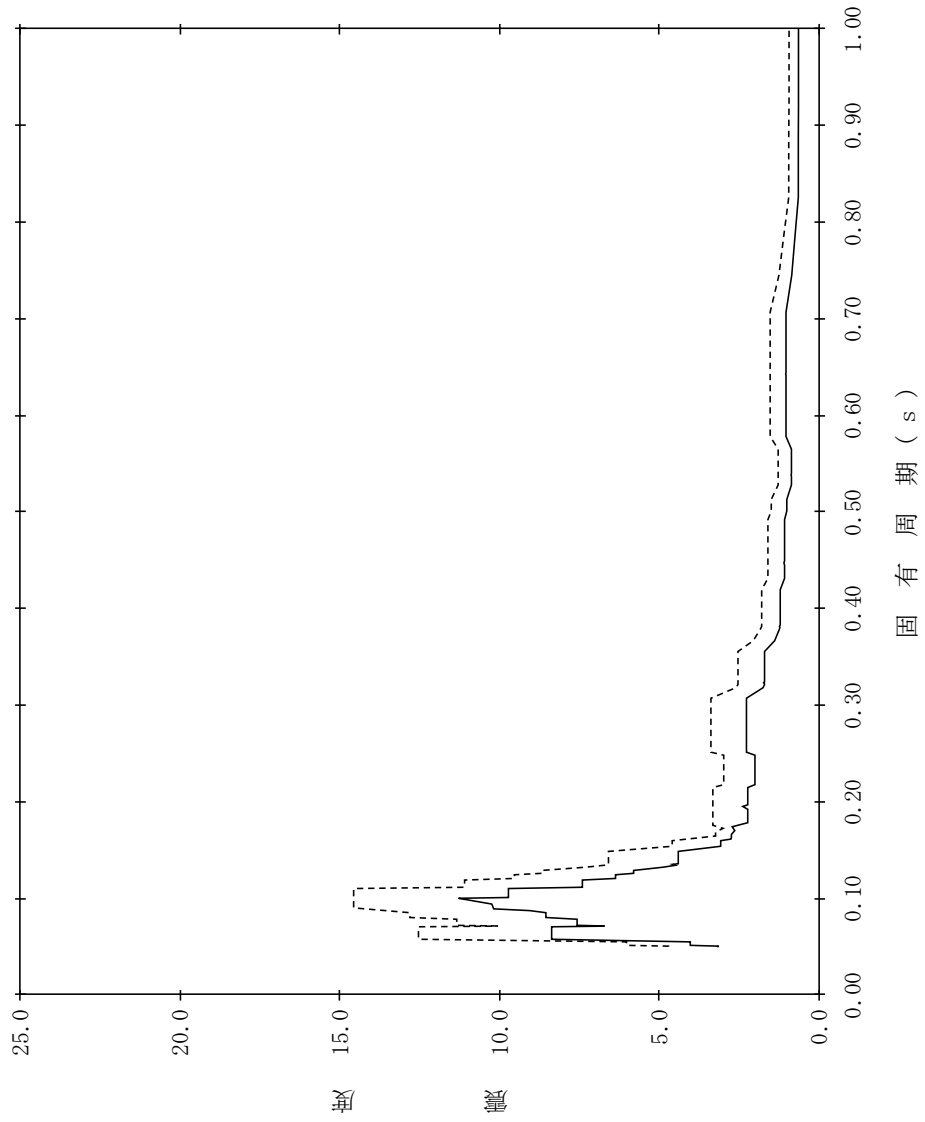
【NS2-RB-SdV-RB24】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



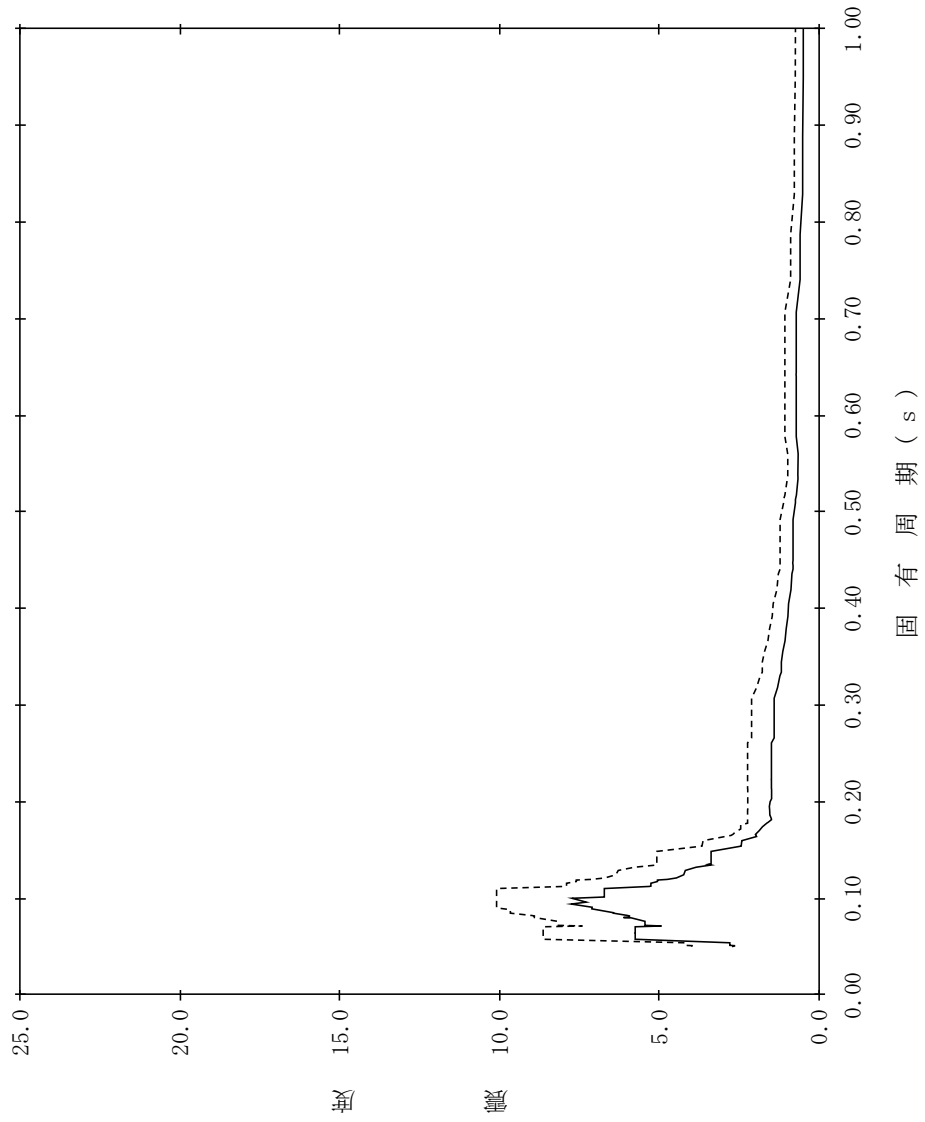
【NS2-RB-SdV-RB25】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



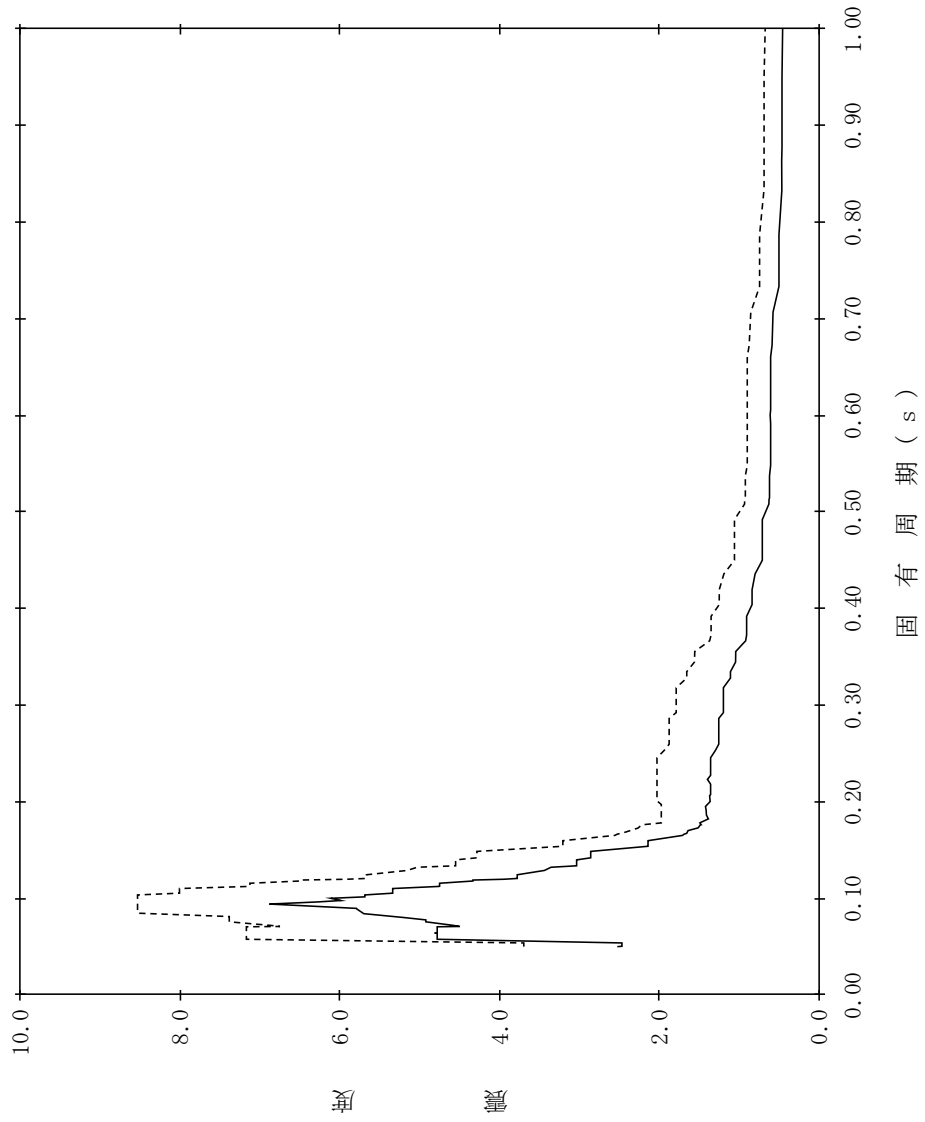
【NS2-RB-SdV-RB26】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



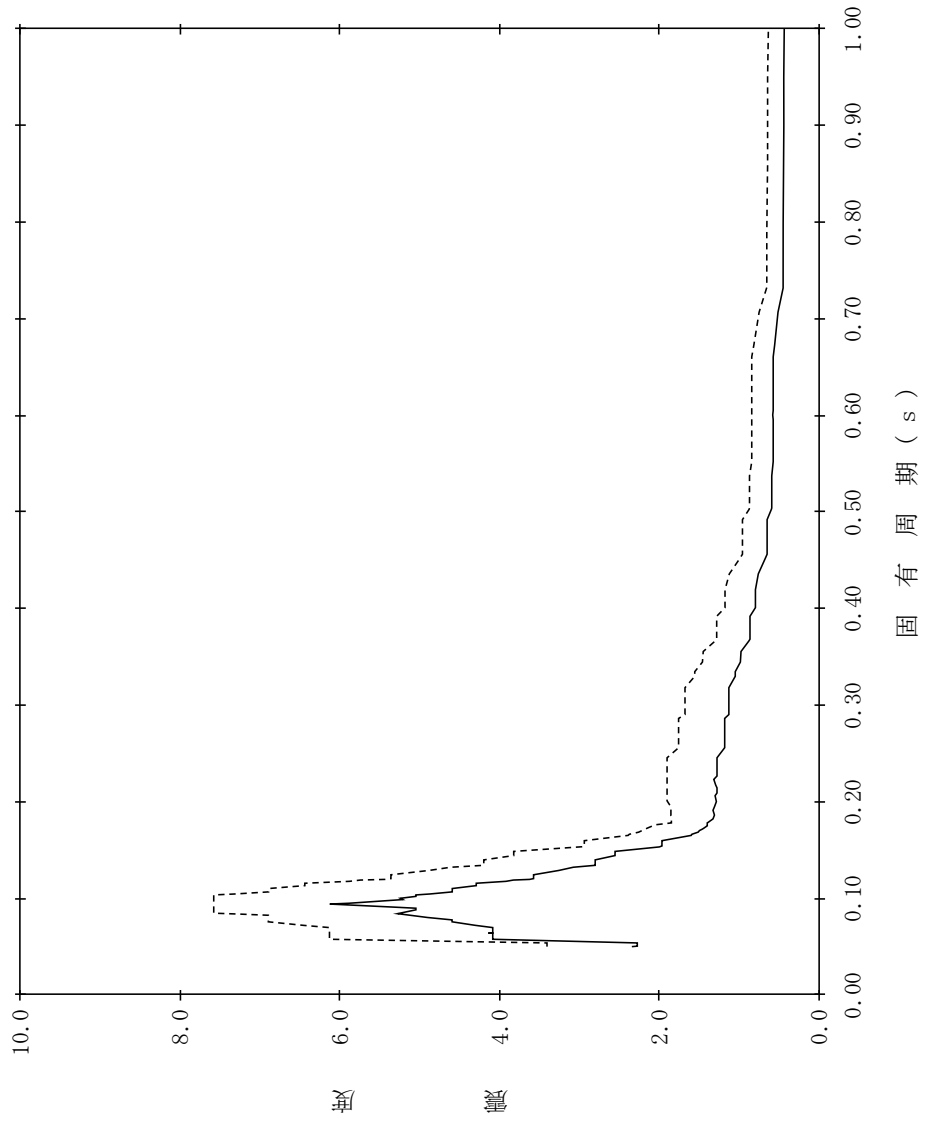
【NS2-RB-SdV-RB27】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

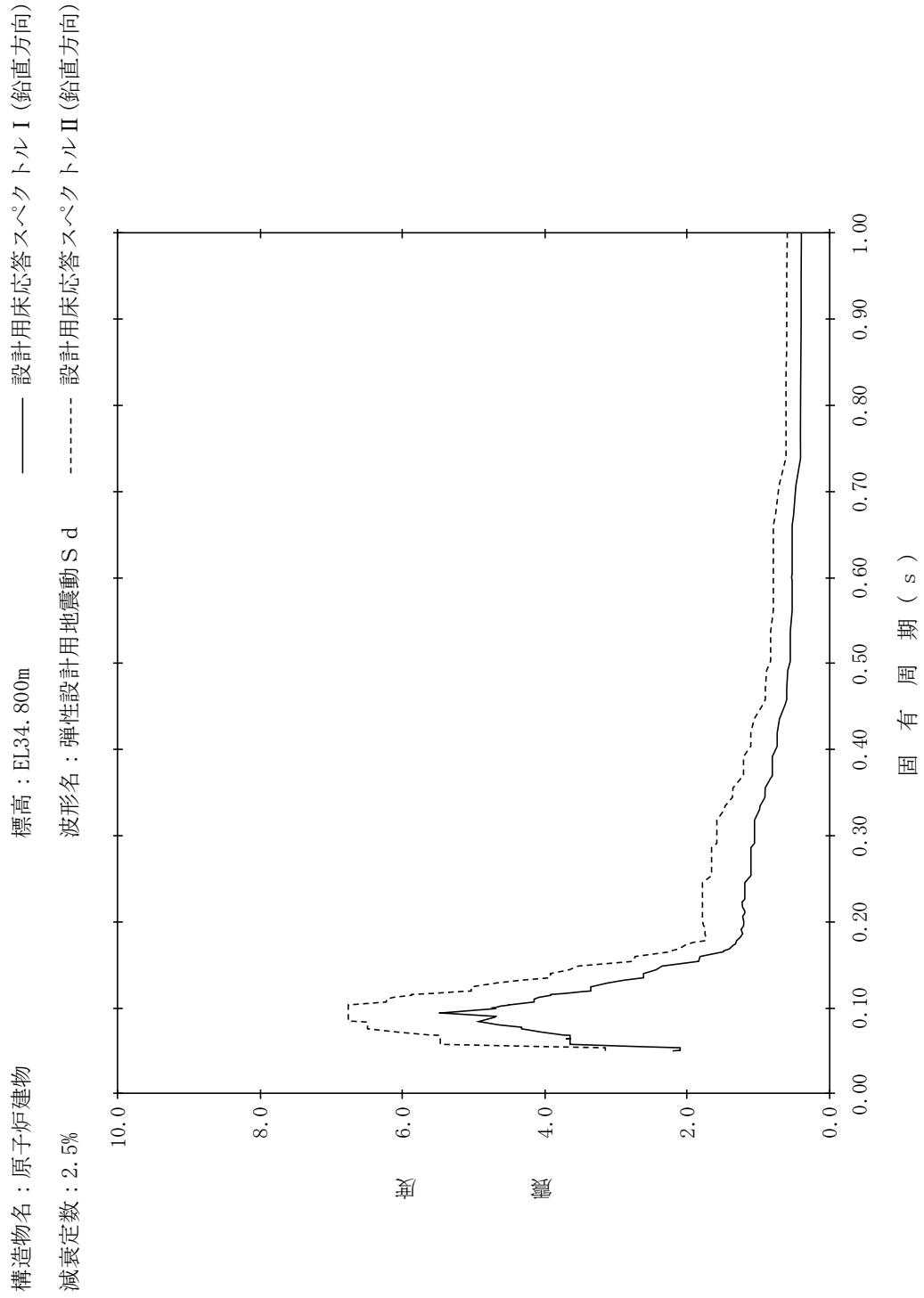


【NS2-RB-SdV-RB28】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

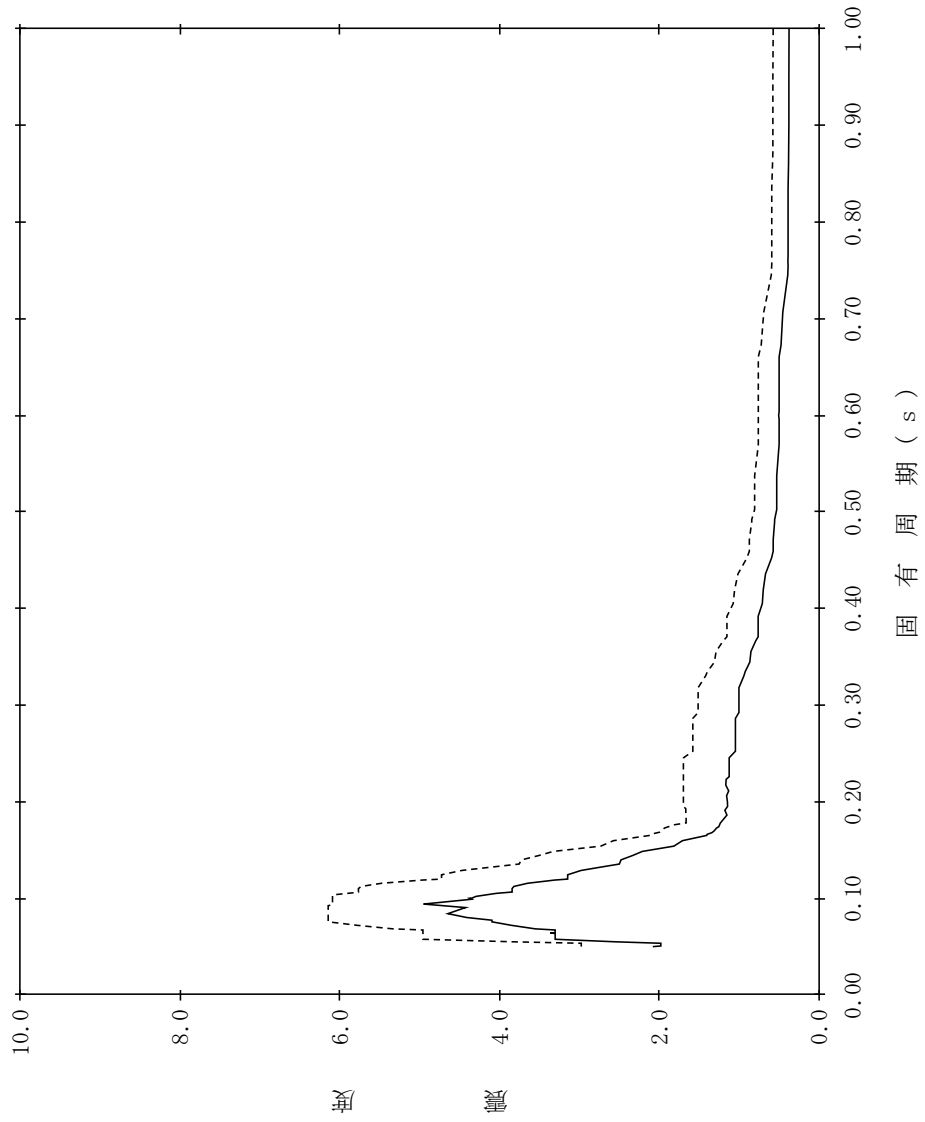


【NS2-RB-SdV-RB29】



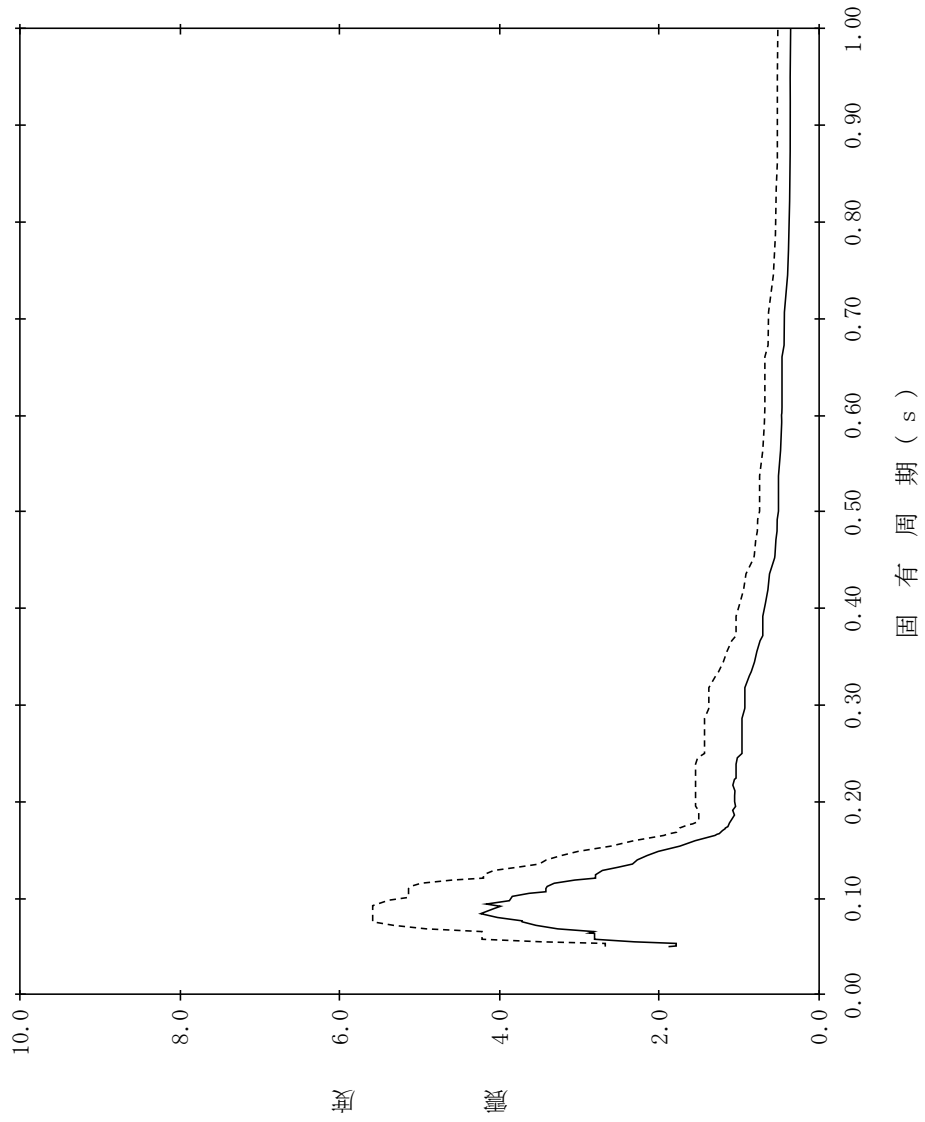
【NS2-RB-SdV-RB30】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



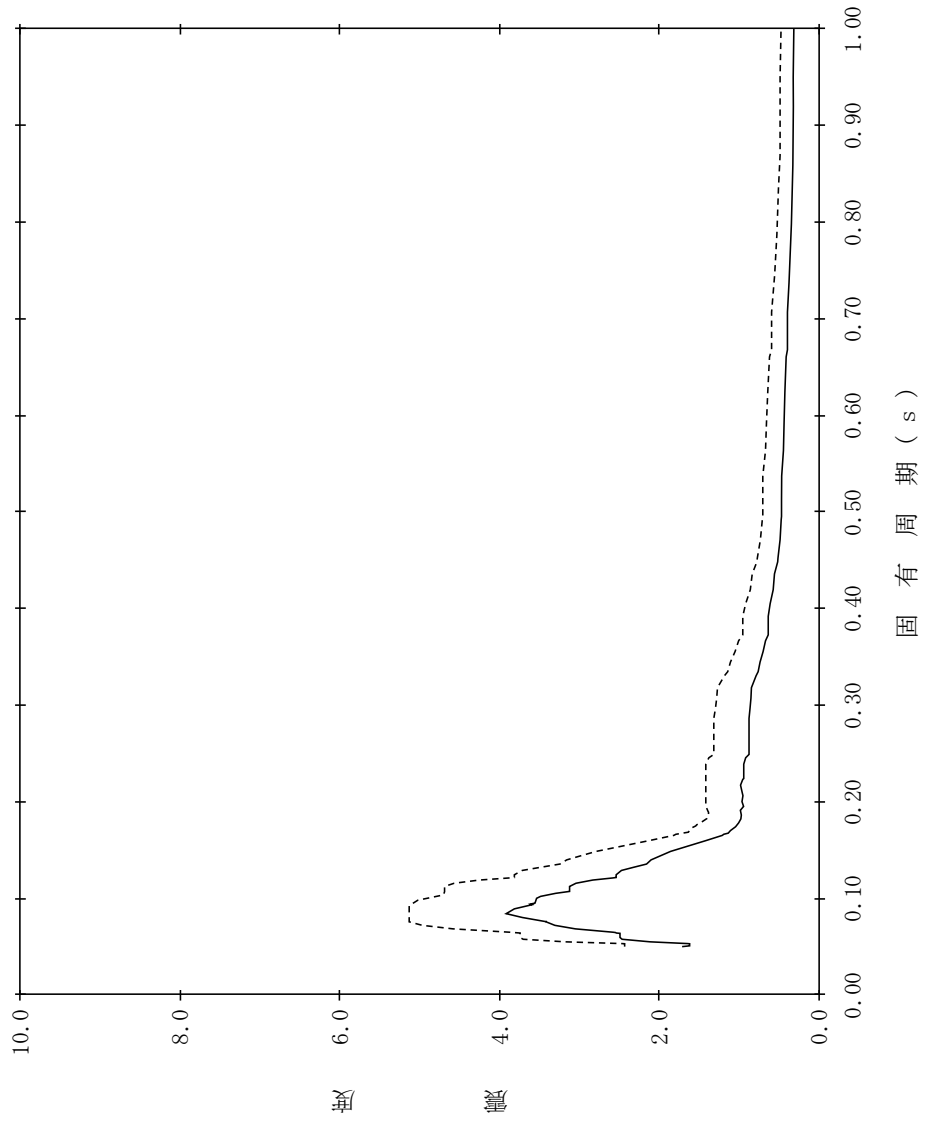
【NS2-RB-SdV-RB31】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

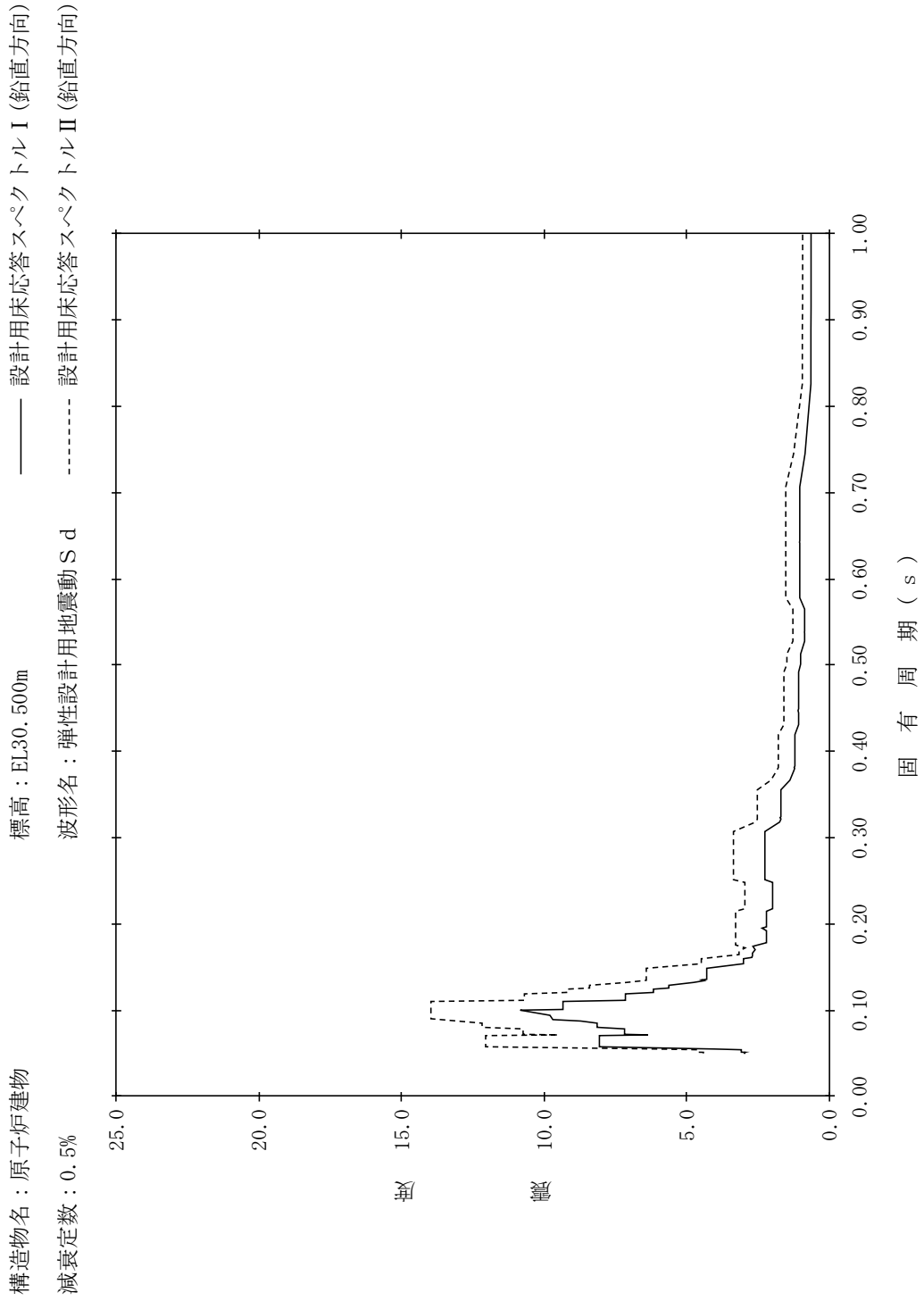


【NS2-RB-SdV-RB32】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

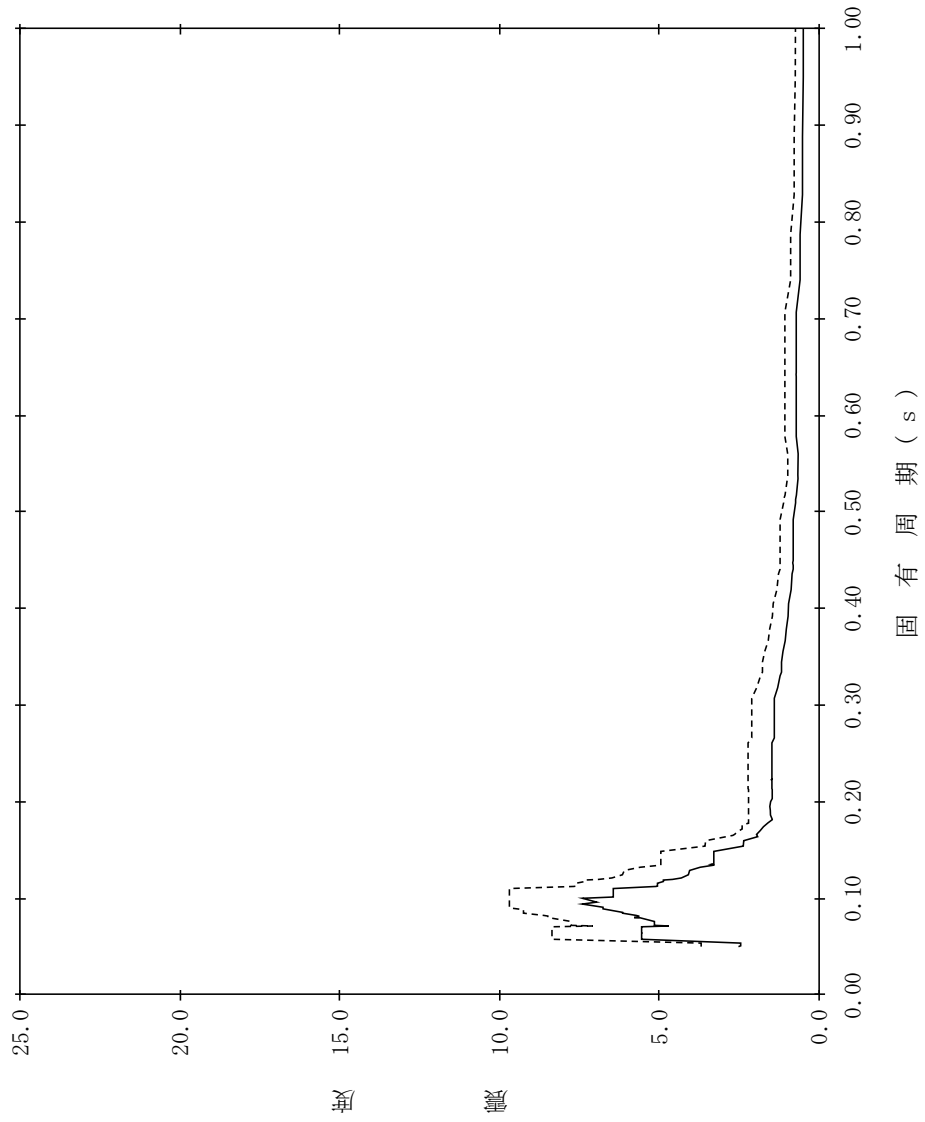


【NS2-RB-SdV-RB33】



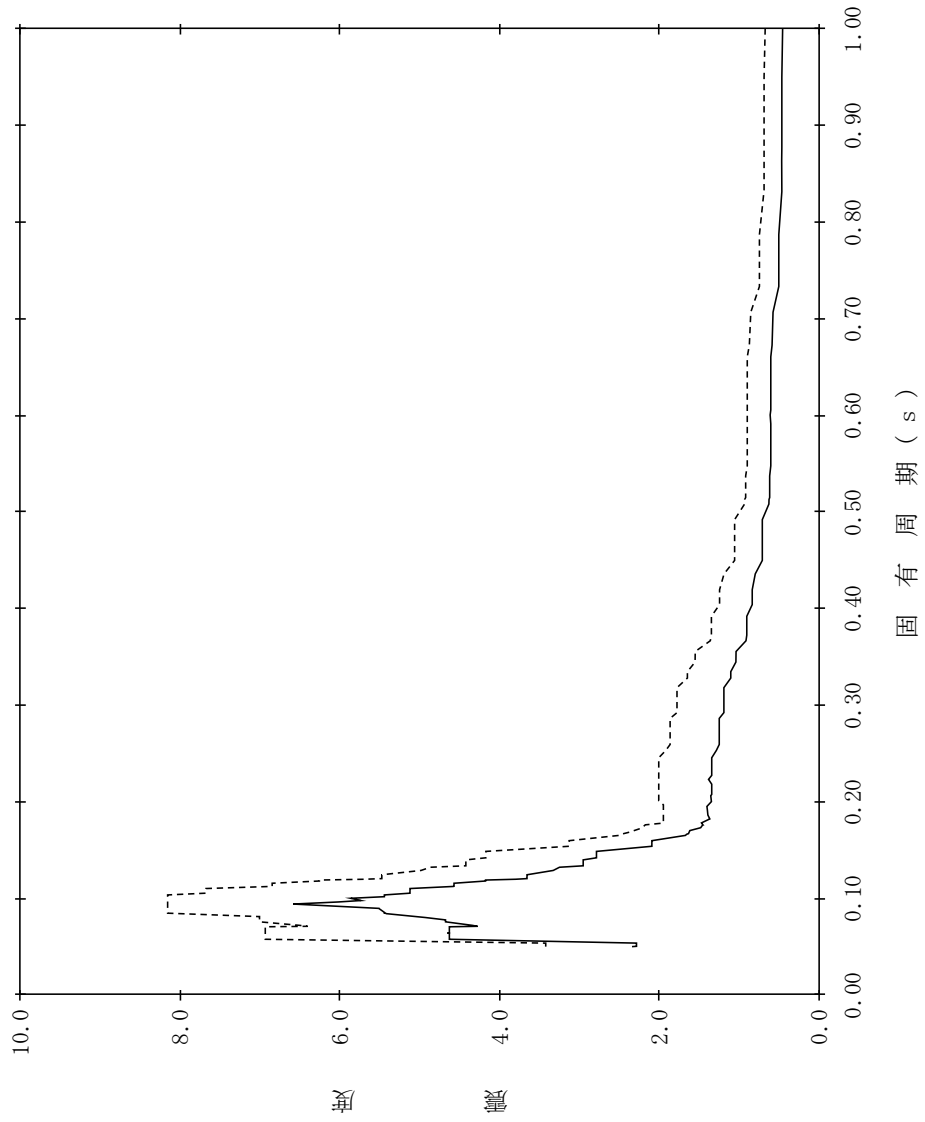
【NS2-RB-SdV-RB34】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



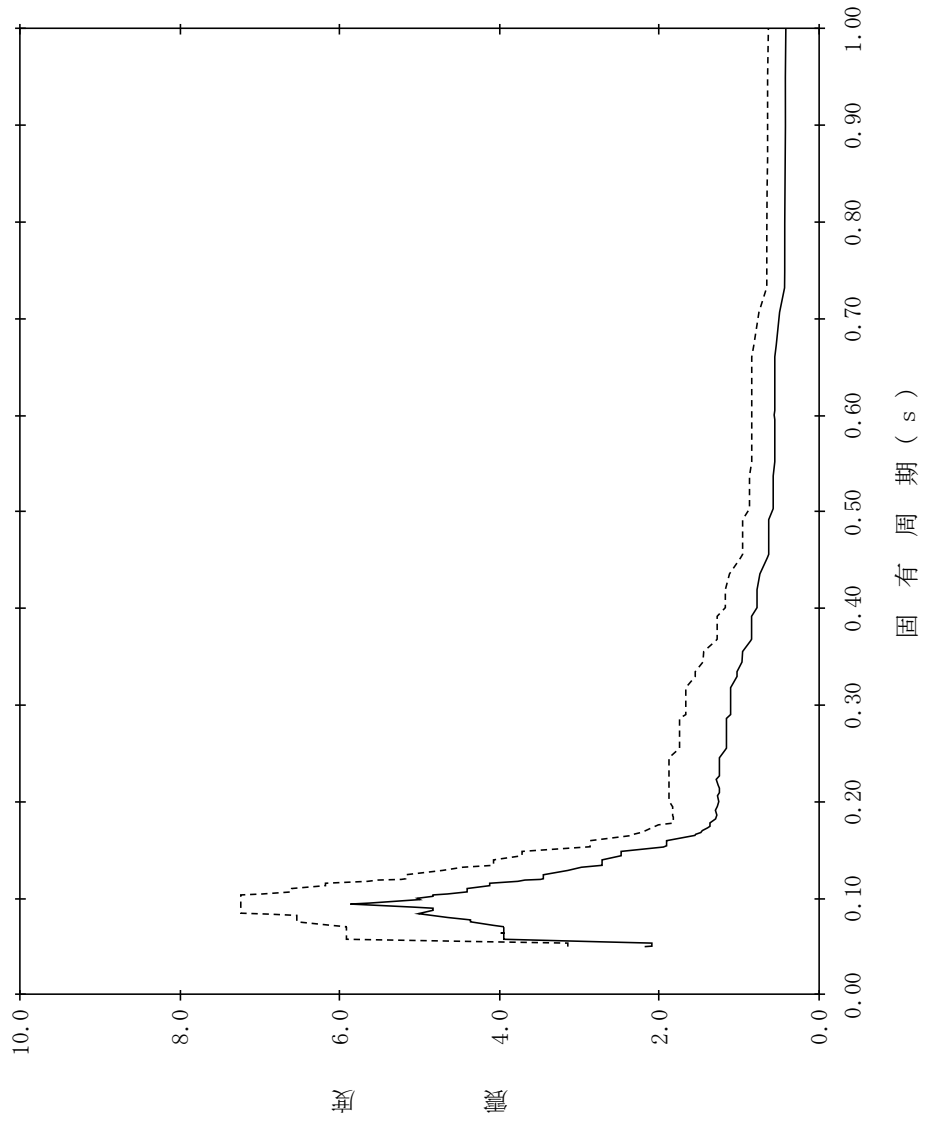
【NS2-RB-SdV-RB35】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



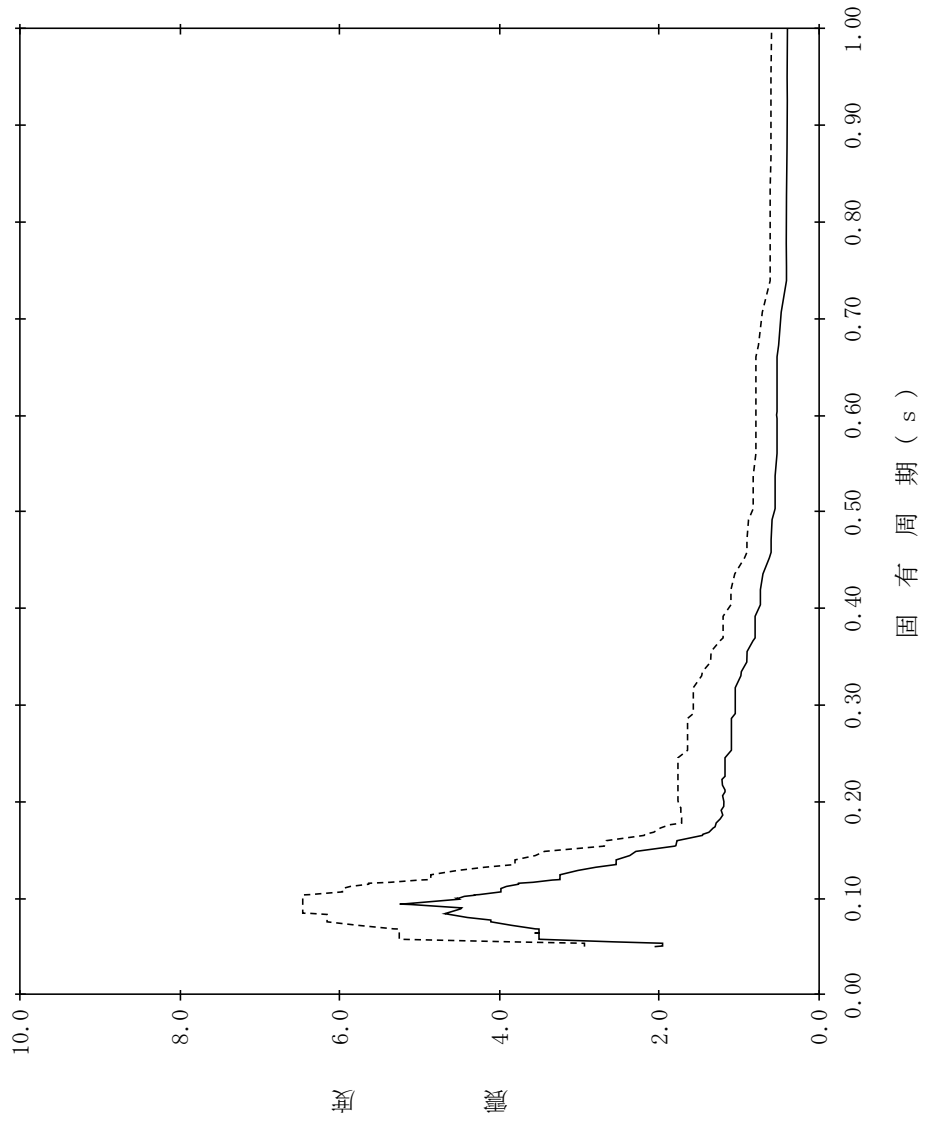
【NS2-RB-SdV-RB36】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

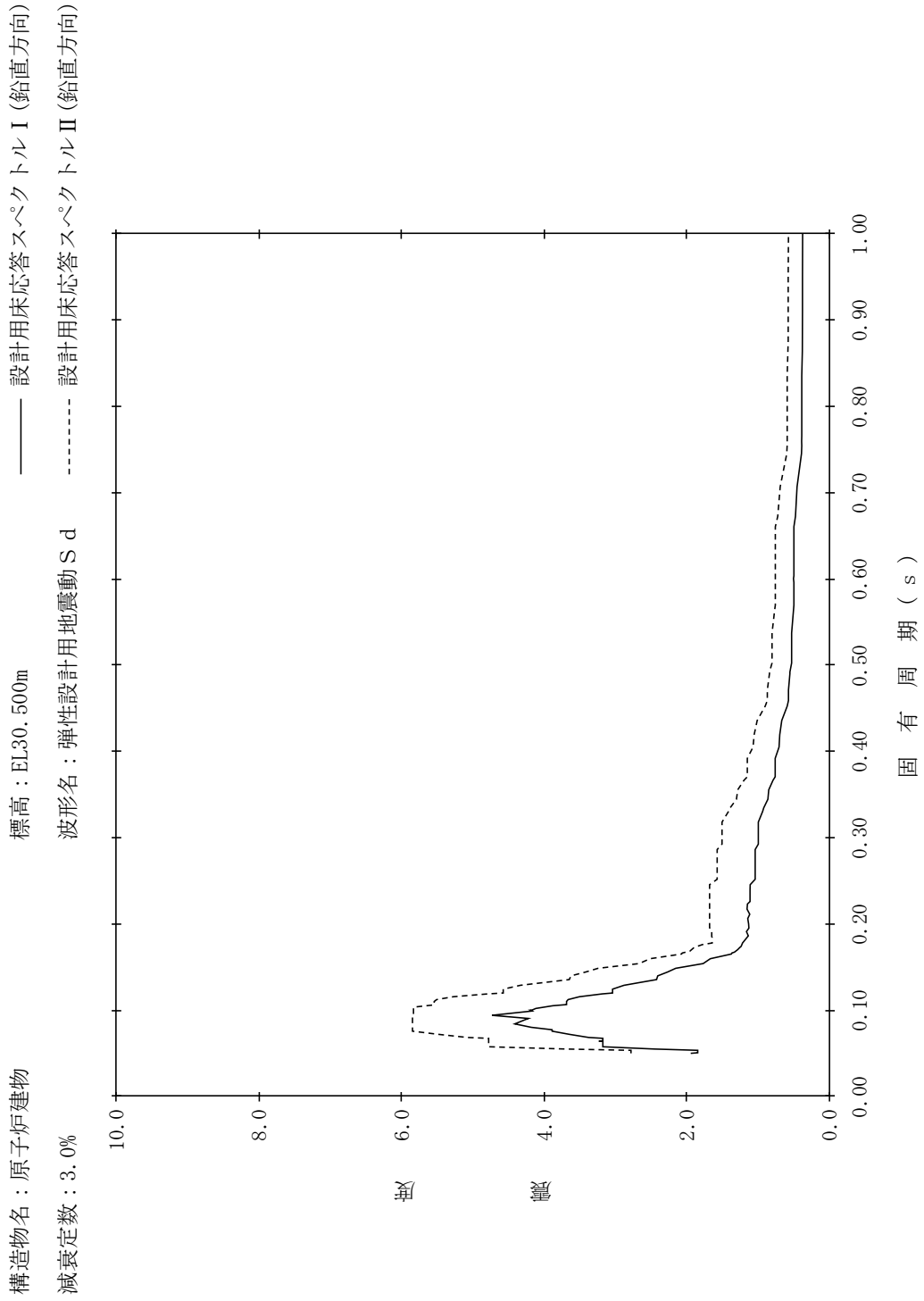


【NS2-RB-SdV-RB37】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

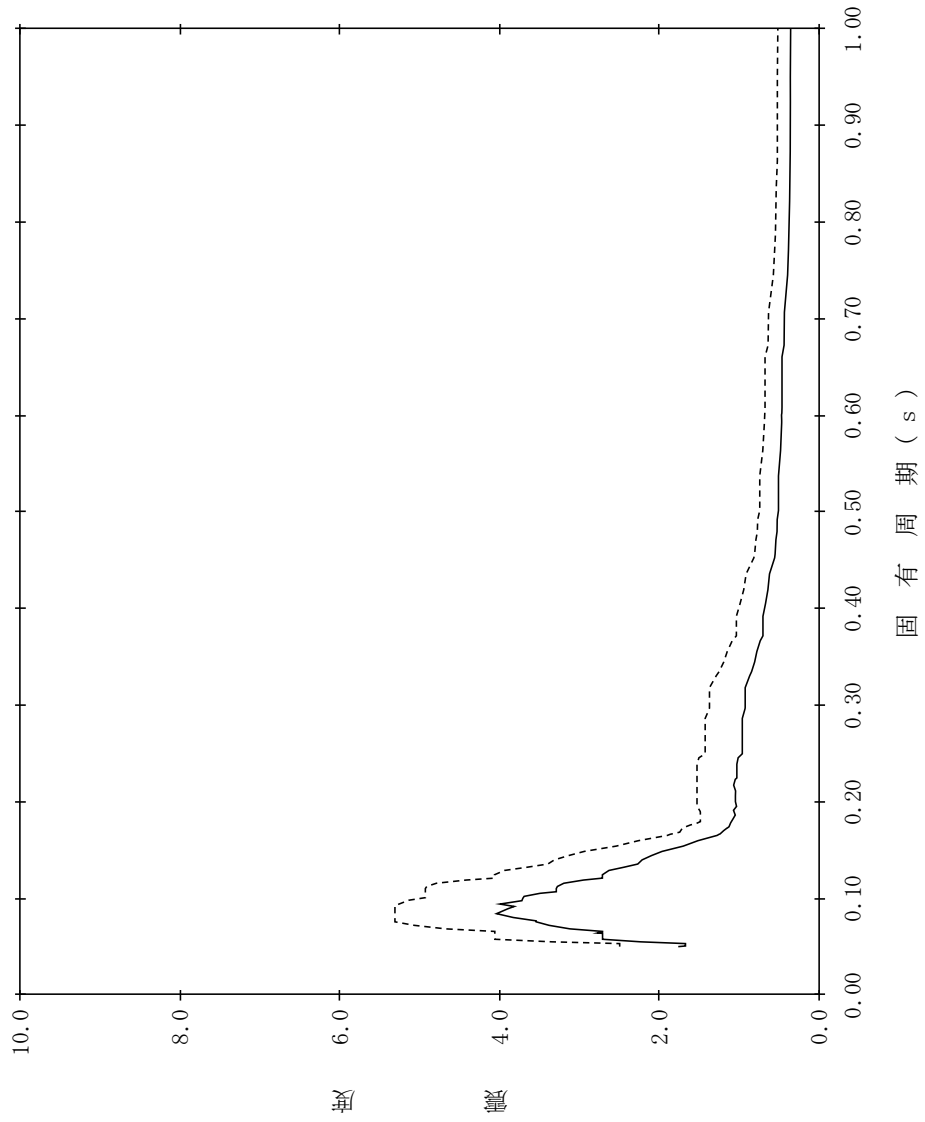


【NS2-RB-SdV-RB38】



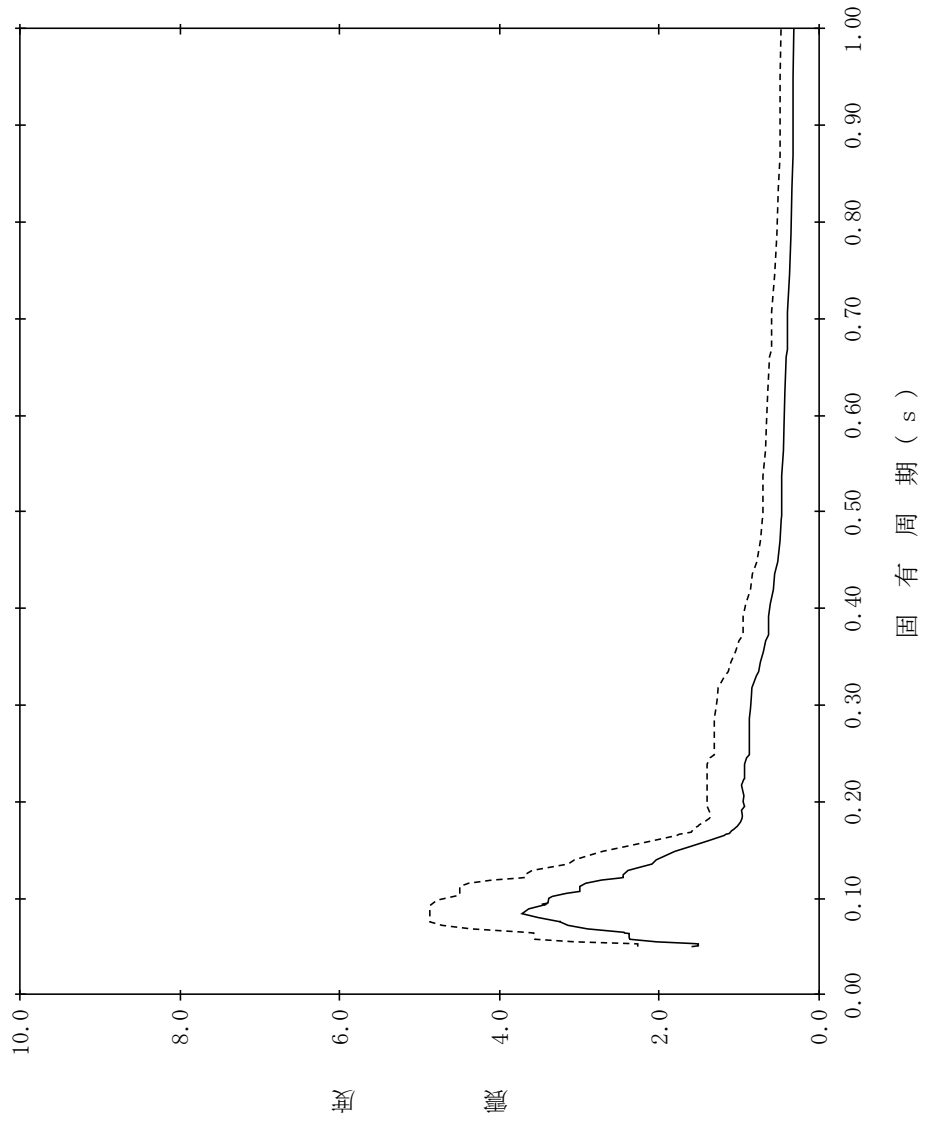
【NS2-RB-SdV-RB39】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RB-SdV-RB40】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

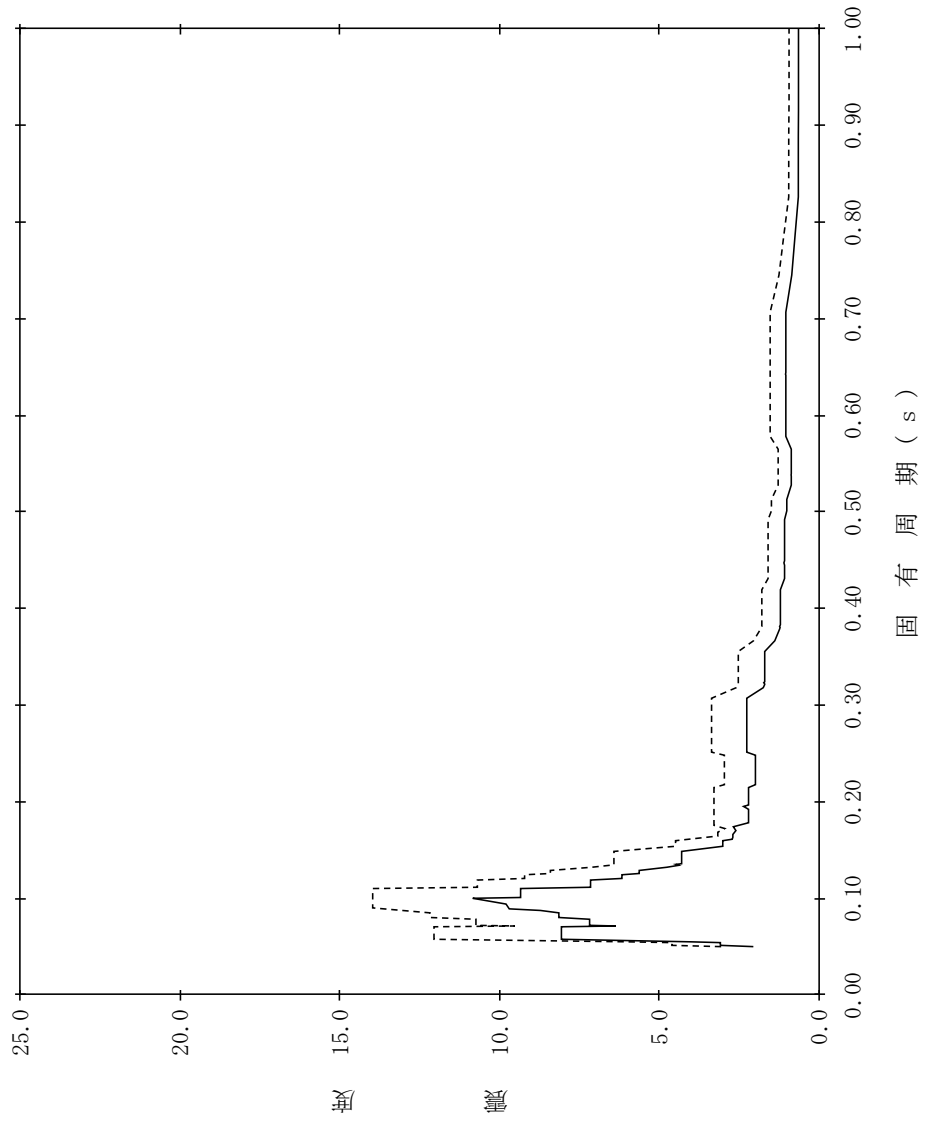


【NS2-RB-SdV-RB41】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：0.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

- - - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

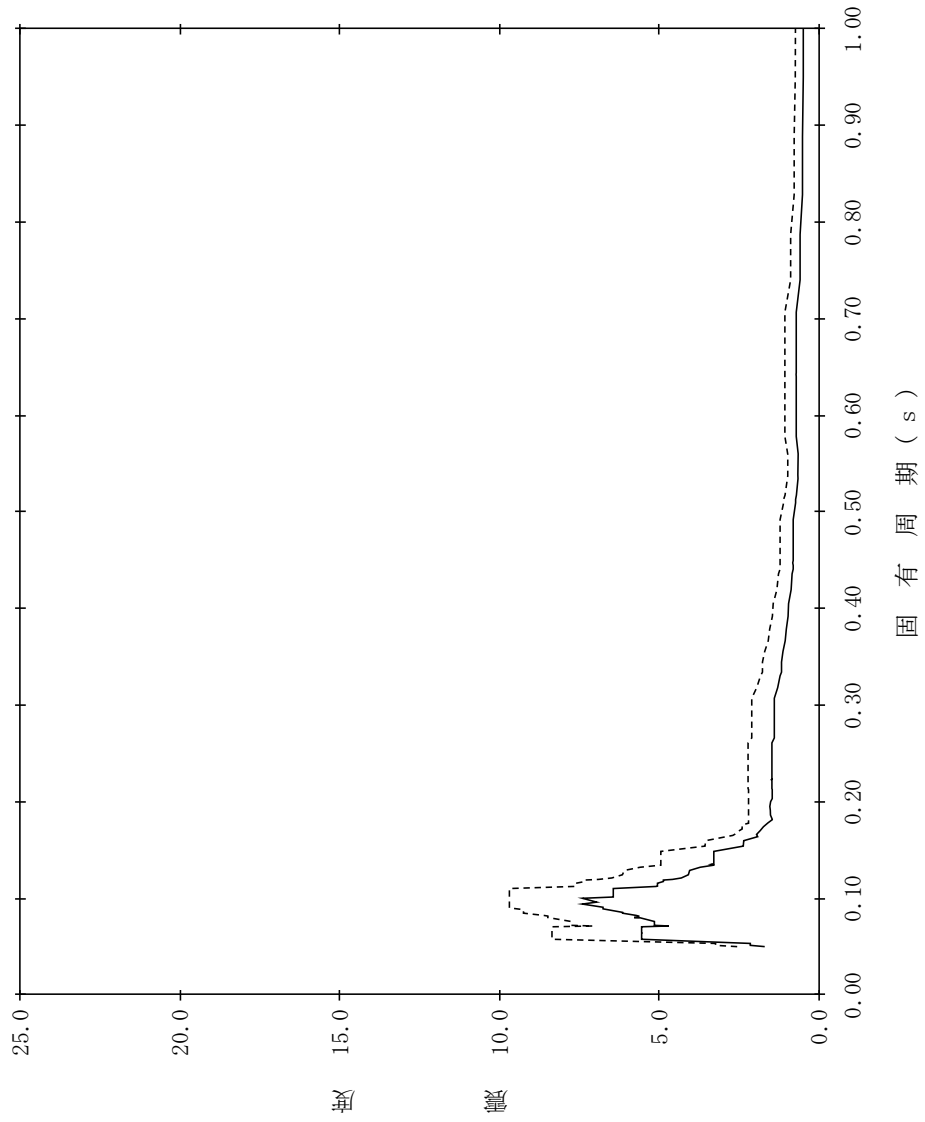


【NS2-RB-SdV-RB42】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：1.0%

—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

- - - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

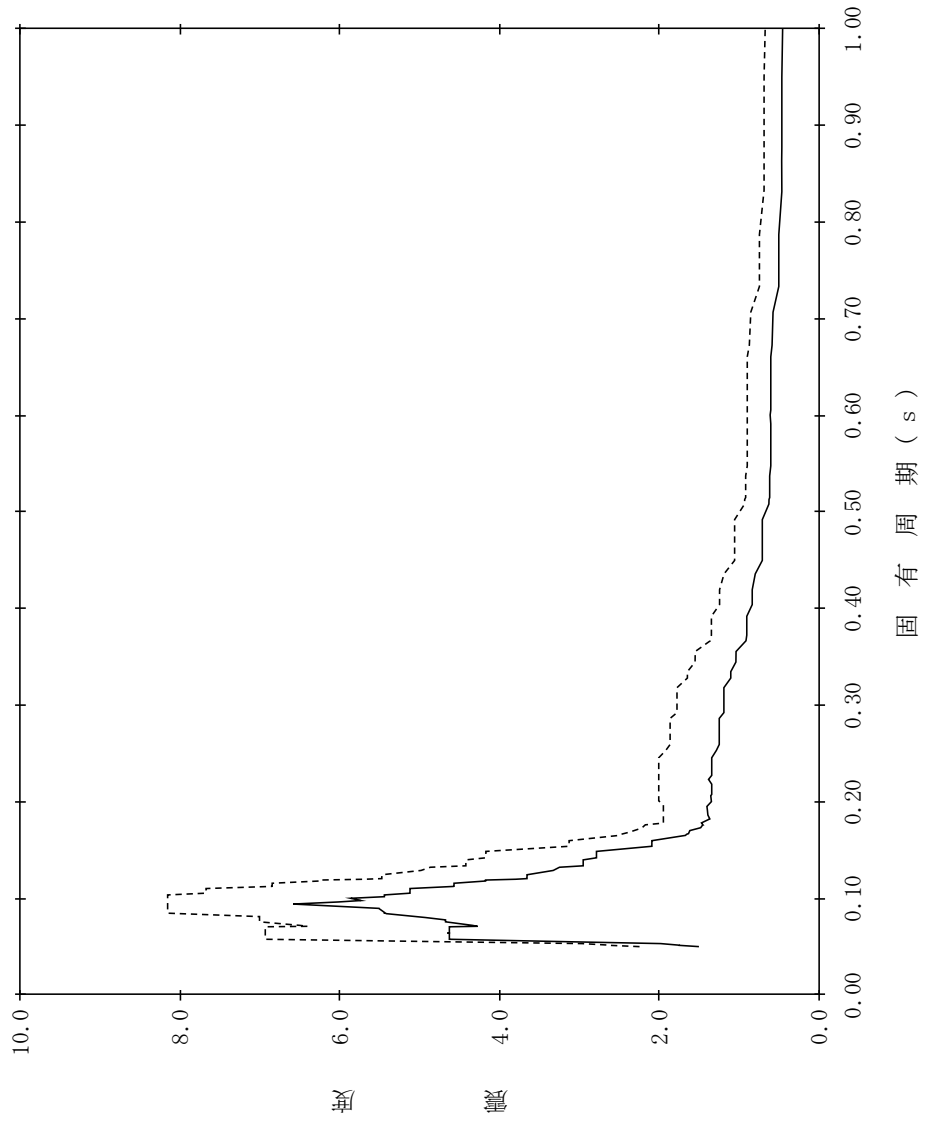


【NS2-RB-SdV-RB43】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：1.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

- - - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

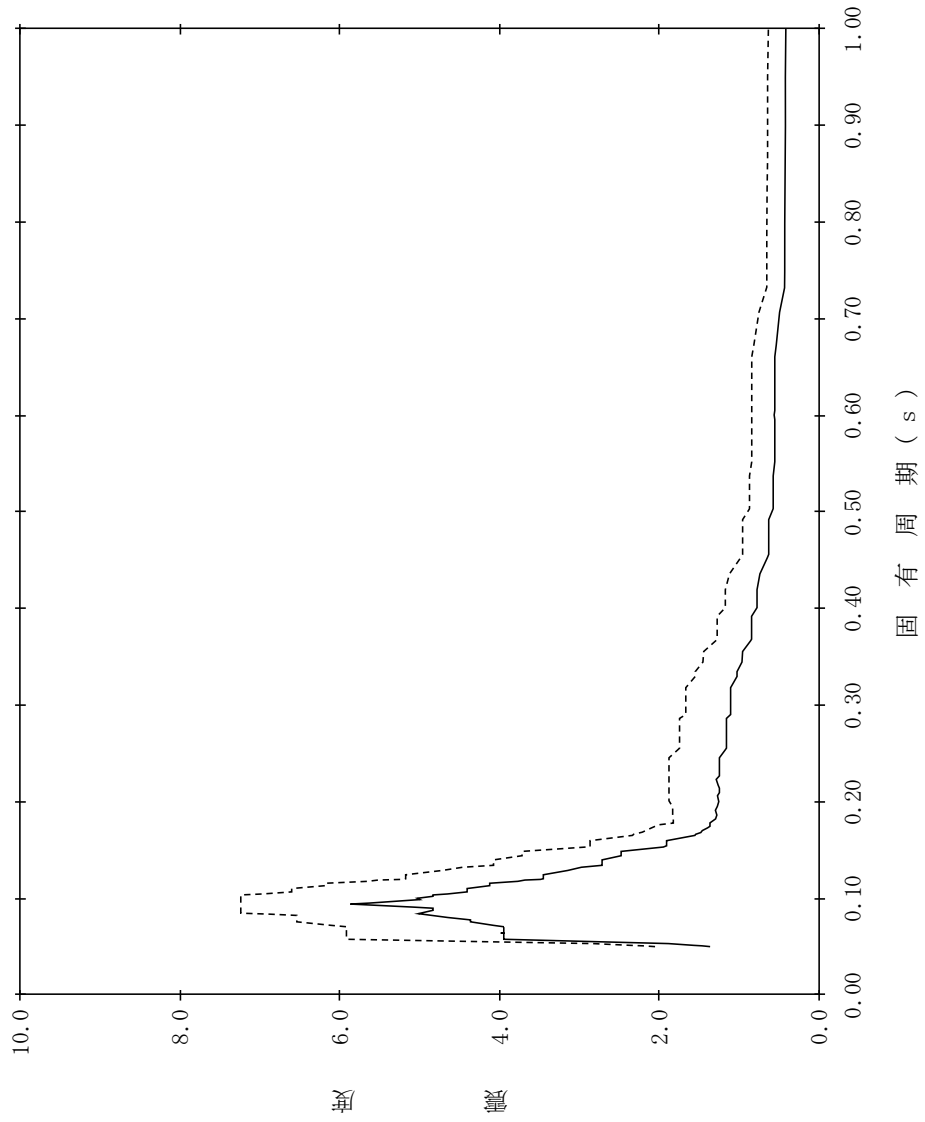


【NS2-RB-SdV-RB44】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：2.0%

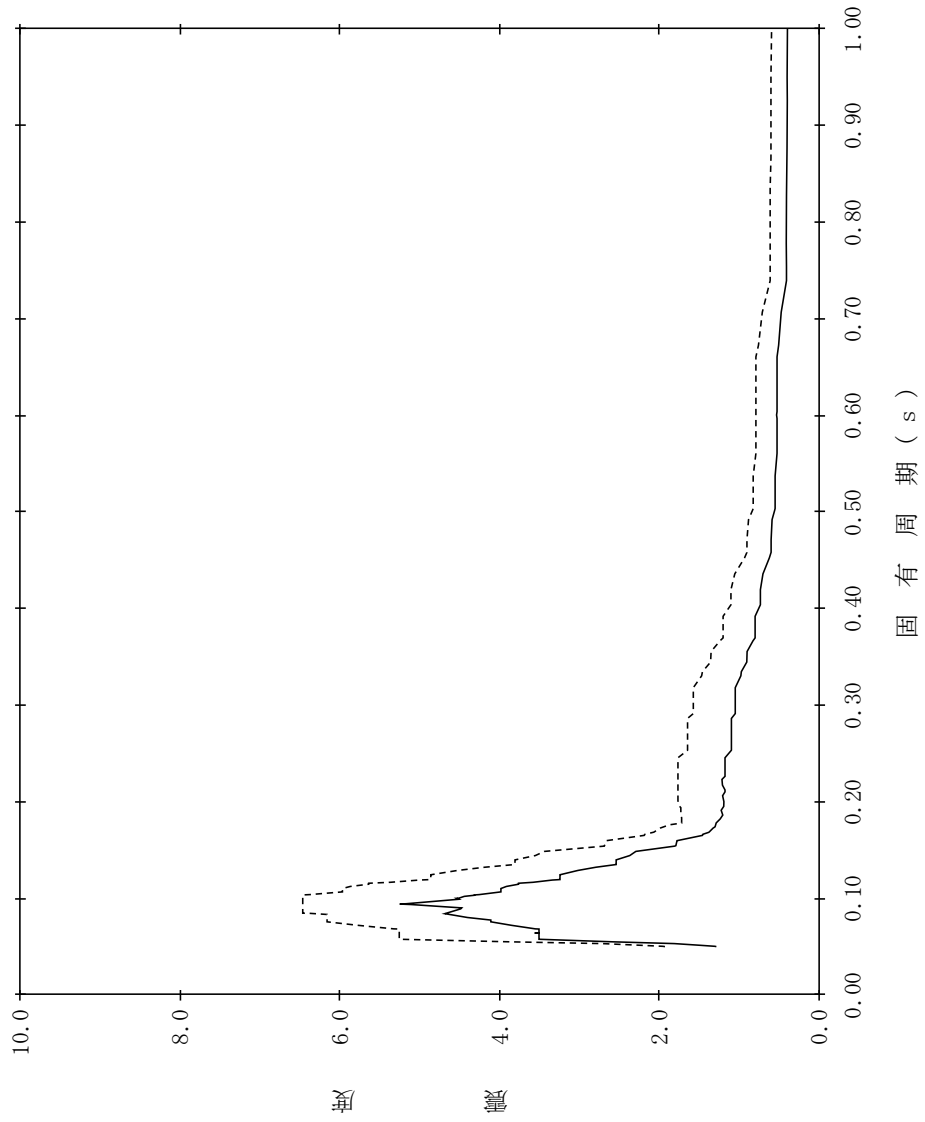
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

- - - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



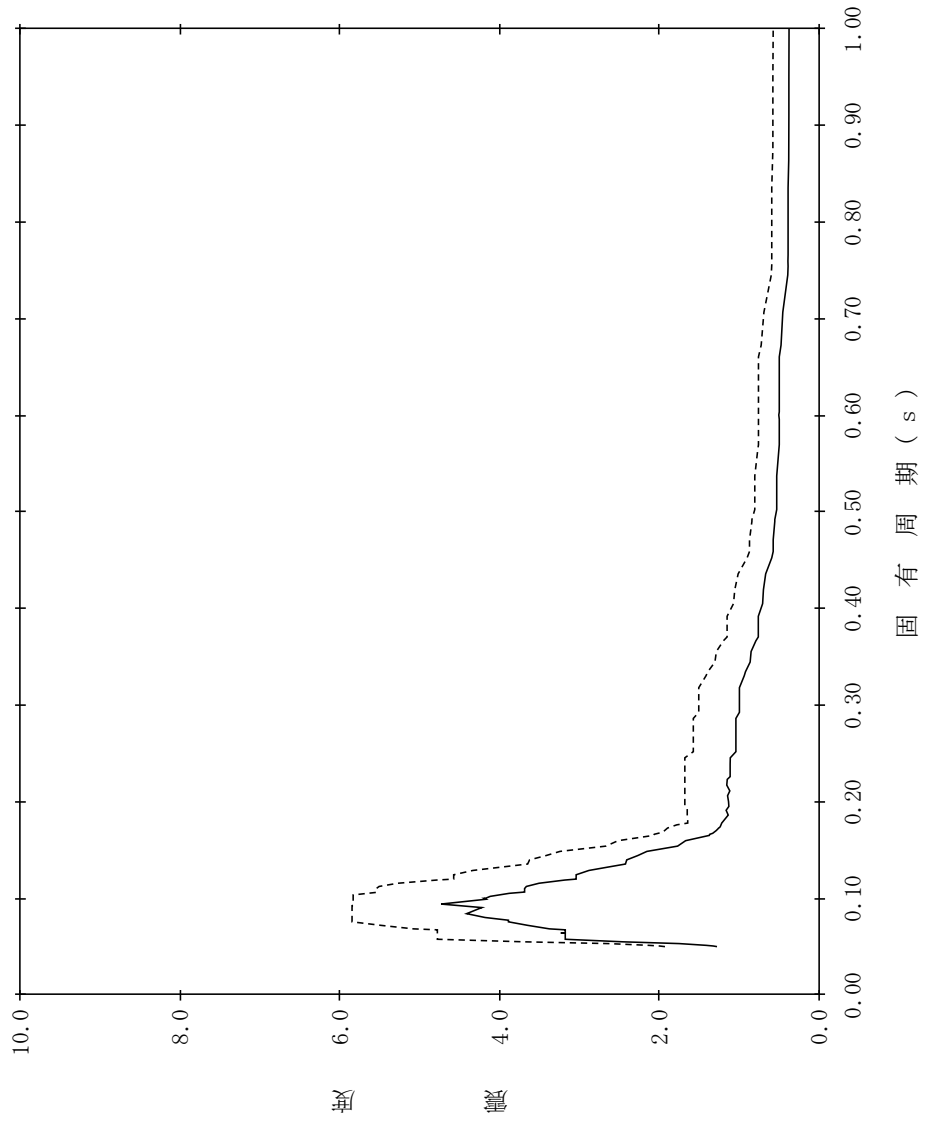
【NS2-RB-SdV-RB45】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



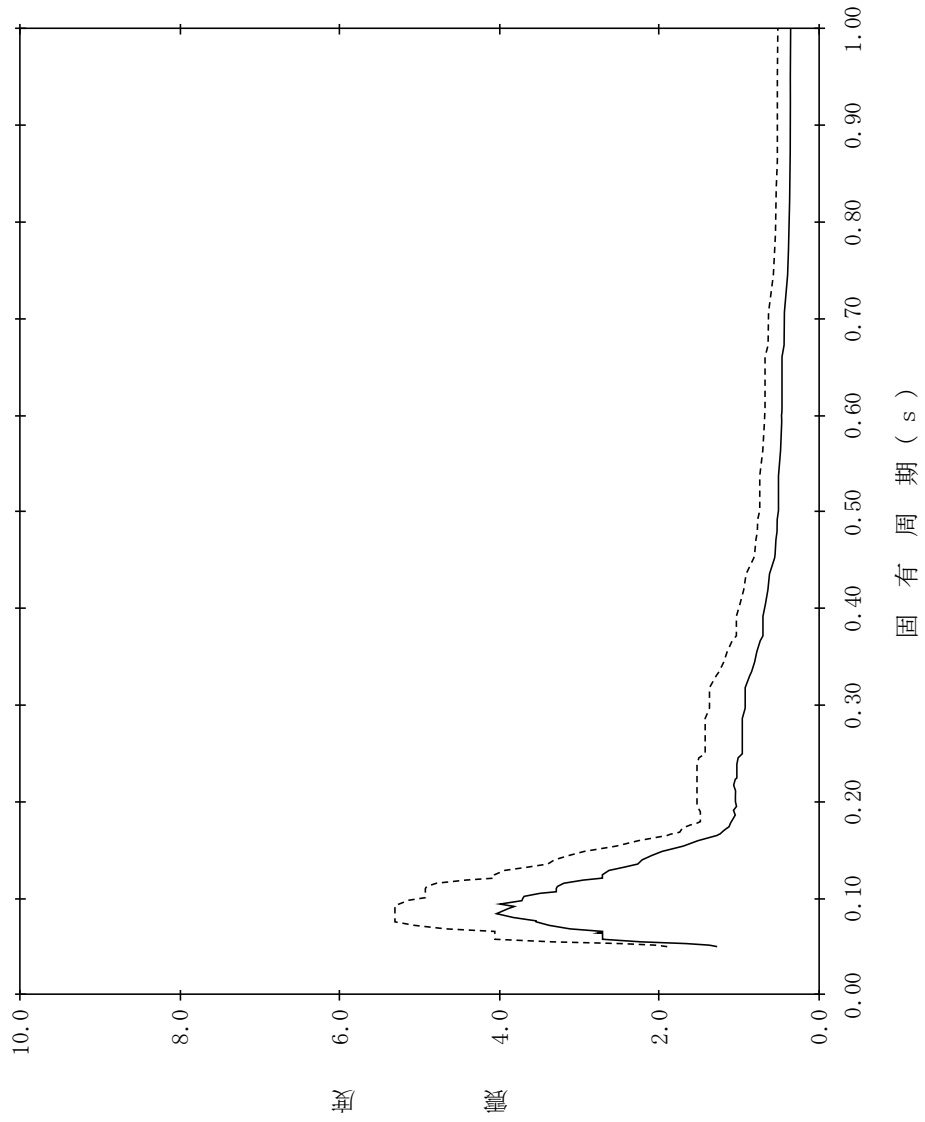
【NS2-RB-SdV-RB46】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 減衰定数：3.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



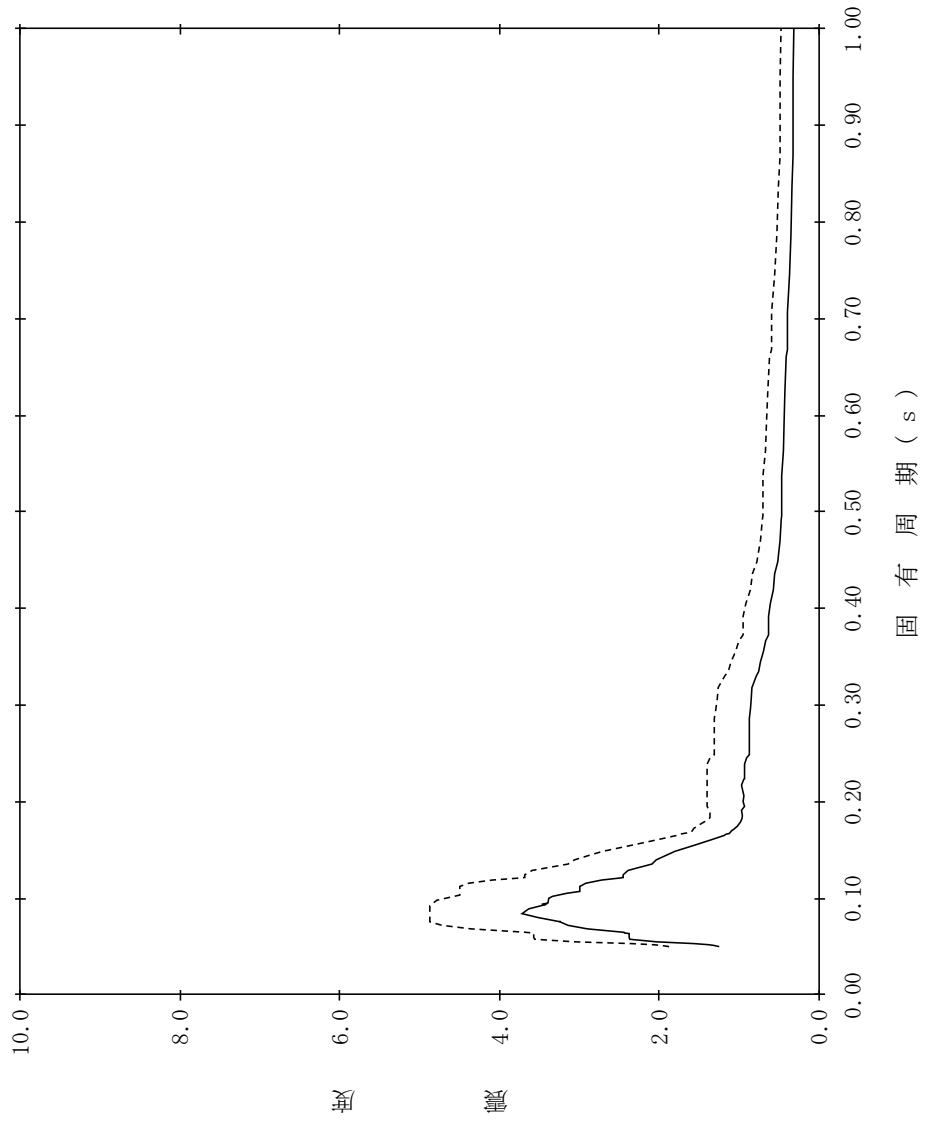
【NS2-RB-SdV-RB47】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 減衰定数：4.0%
 波形式：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



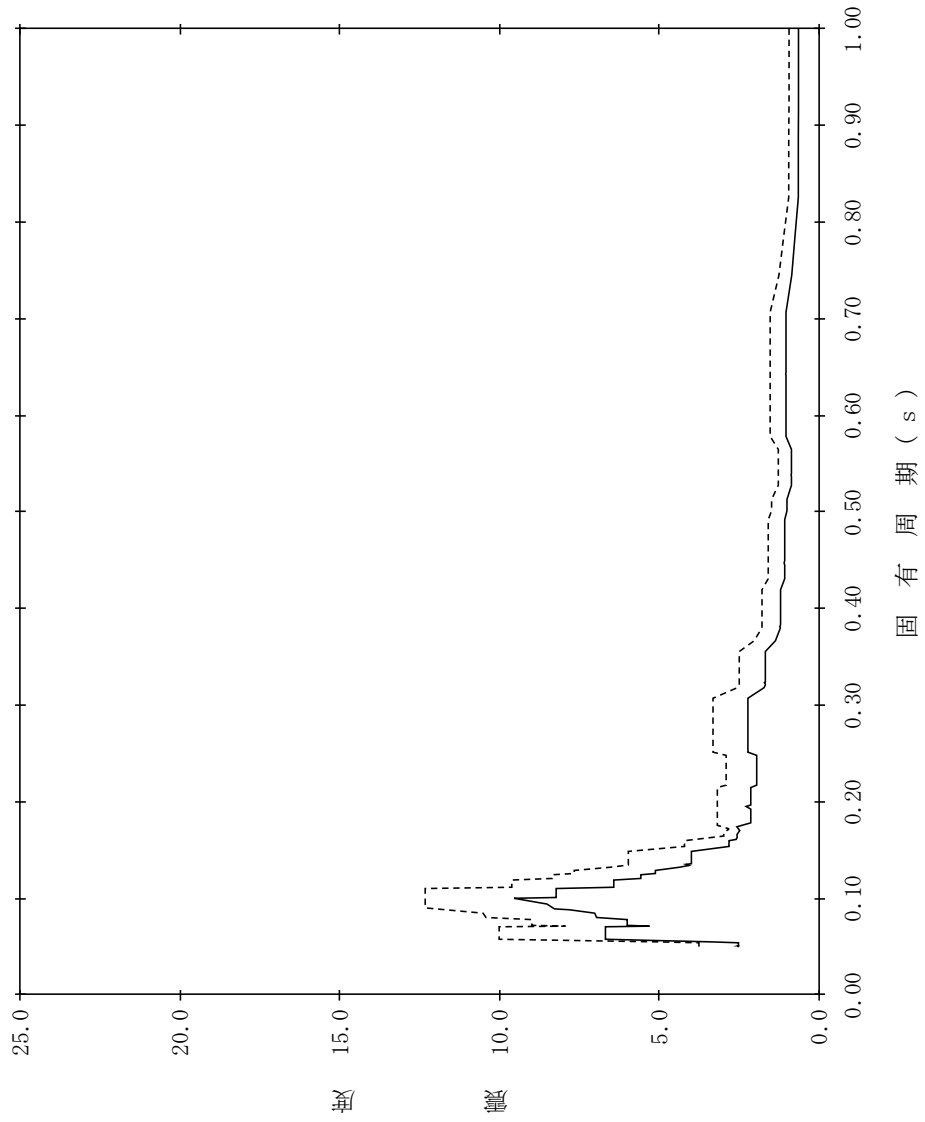
【NS2-RB-SdV-RB48】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 減衰定数：5.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d ----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



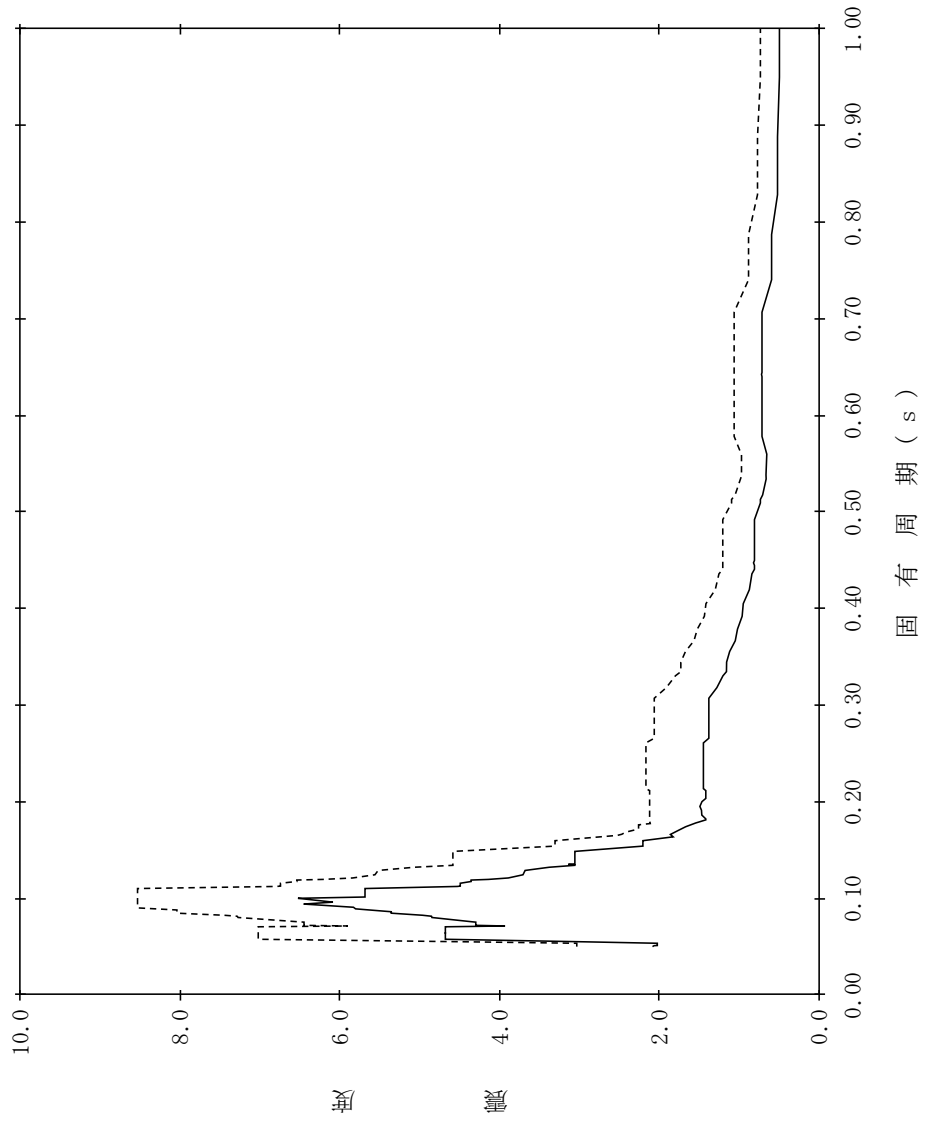
【NS2-RB-SdV-RB49】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



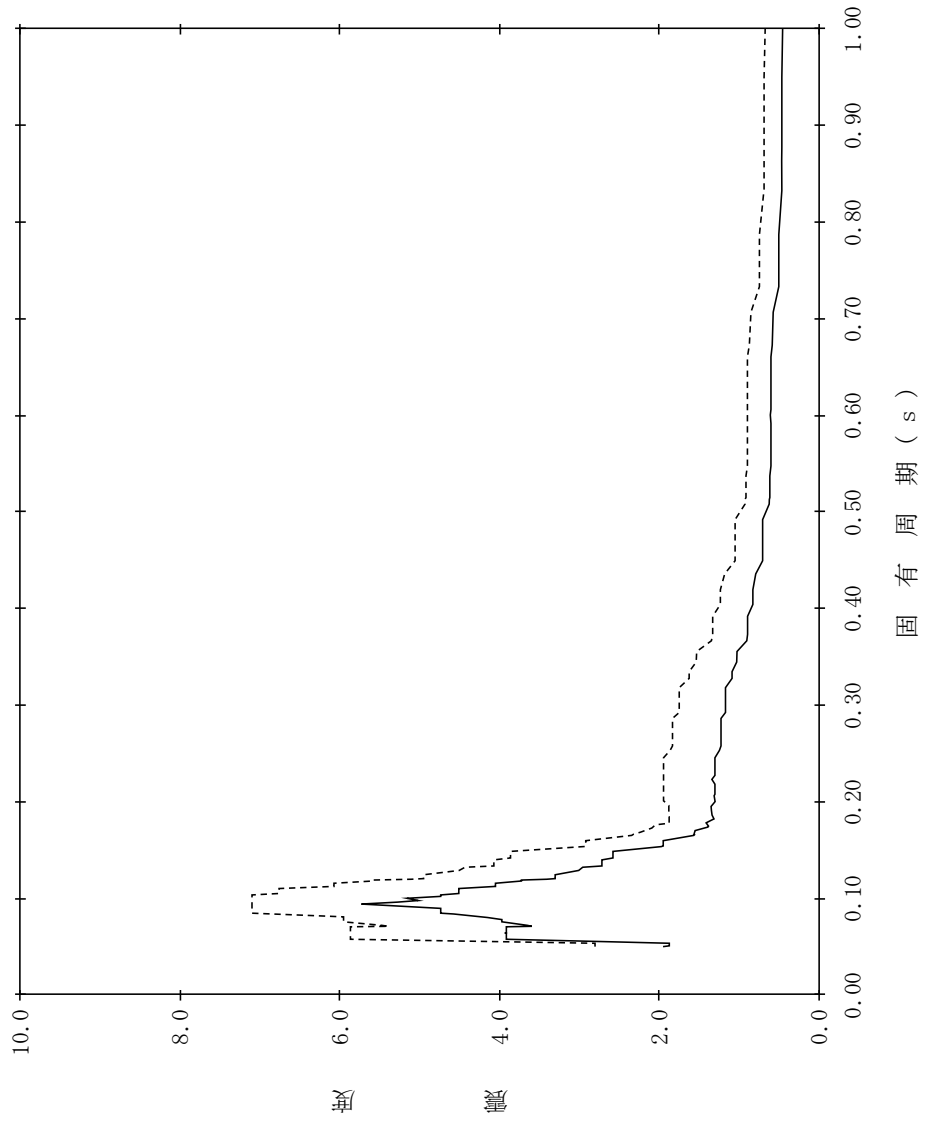
【NS2-RB-SdV-RB50】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



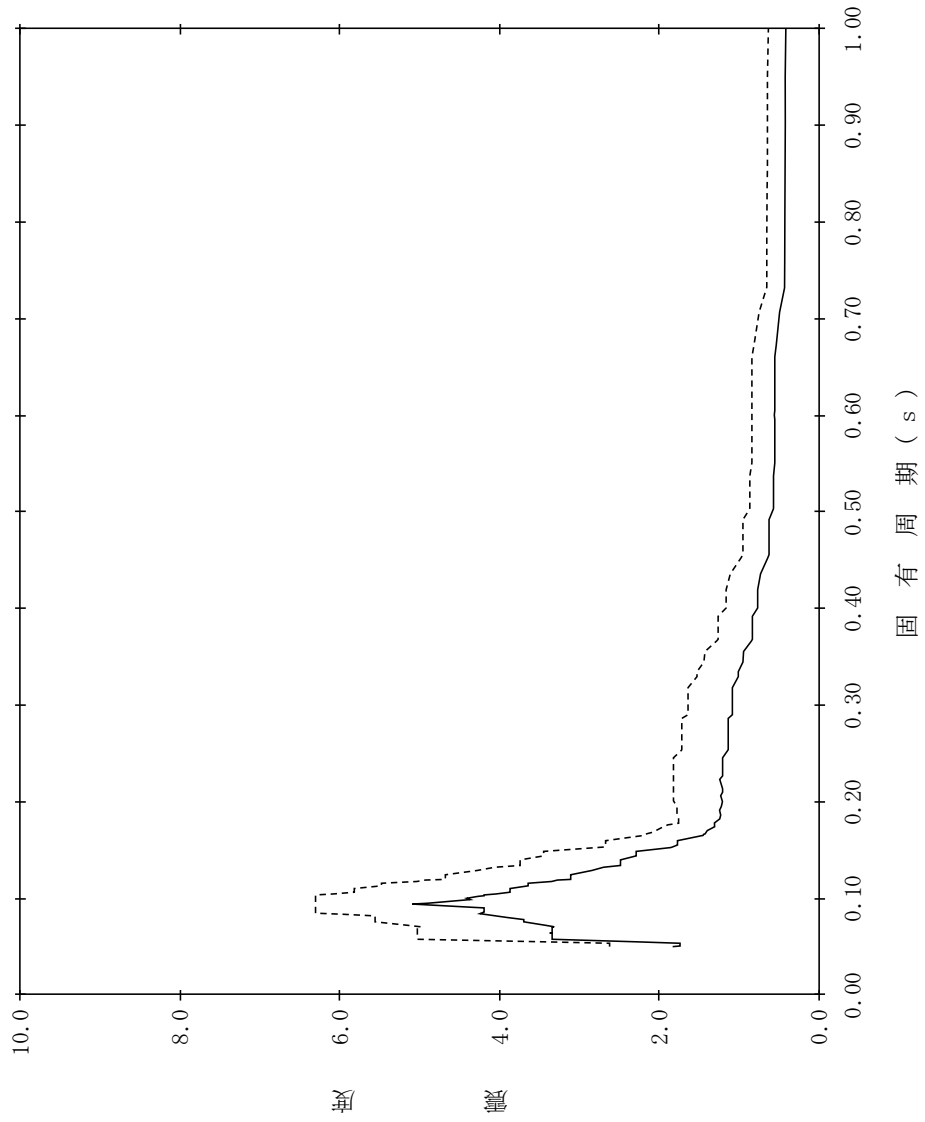
【NS2-RB-SdV-RB51】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



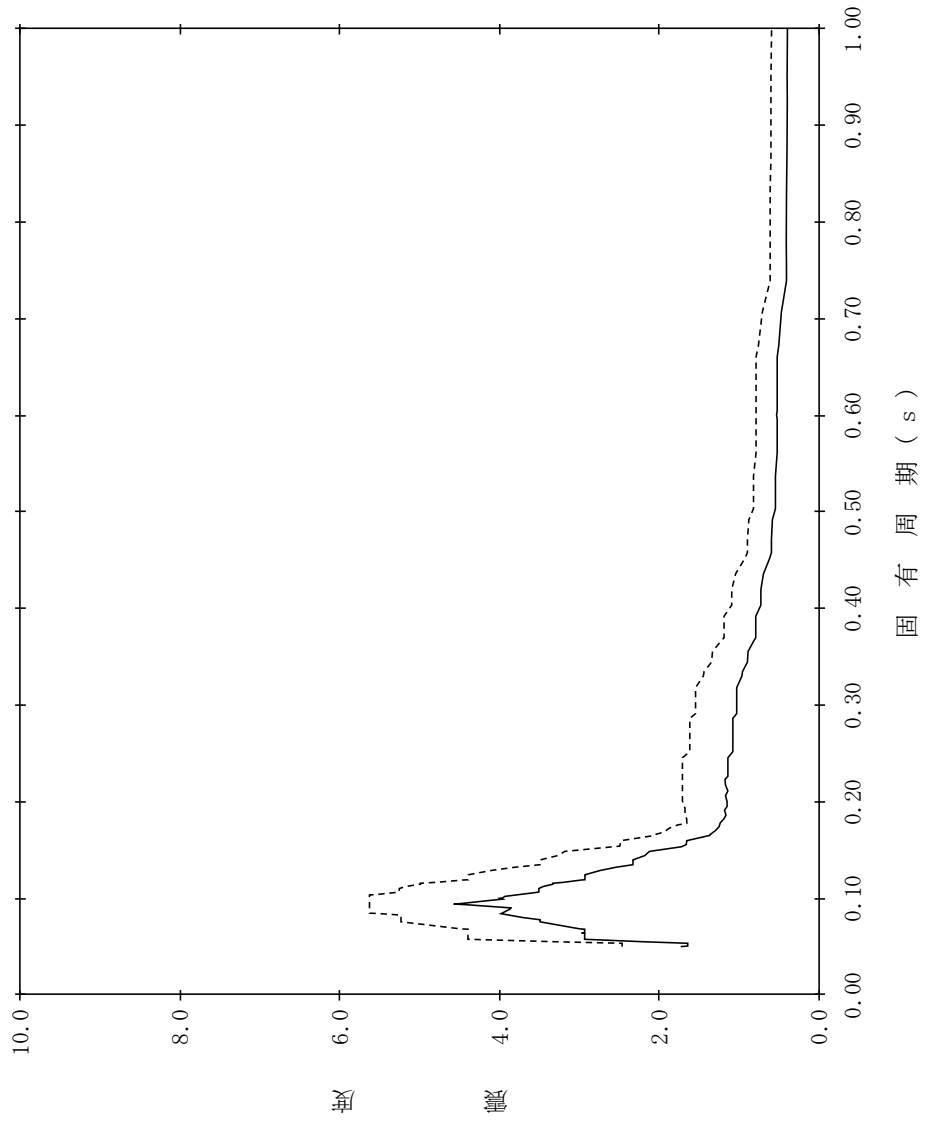
【NS2-RB-SdV-RB52】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



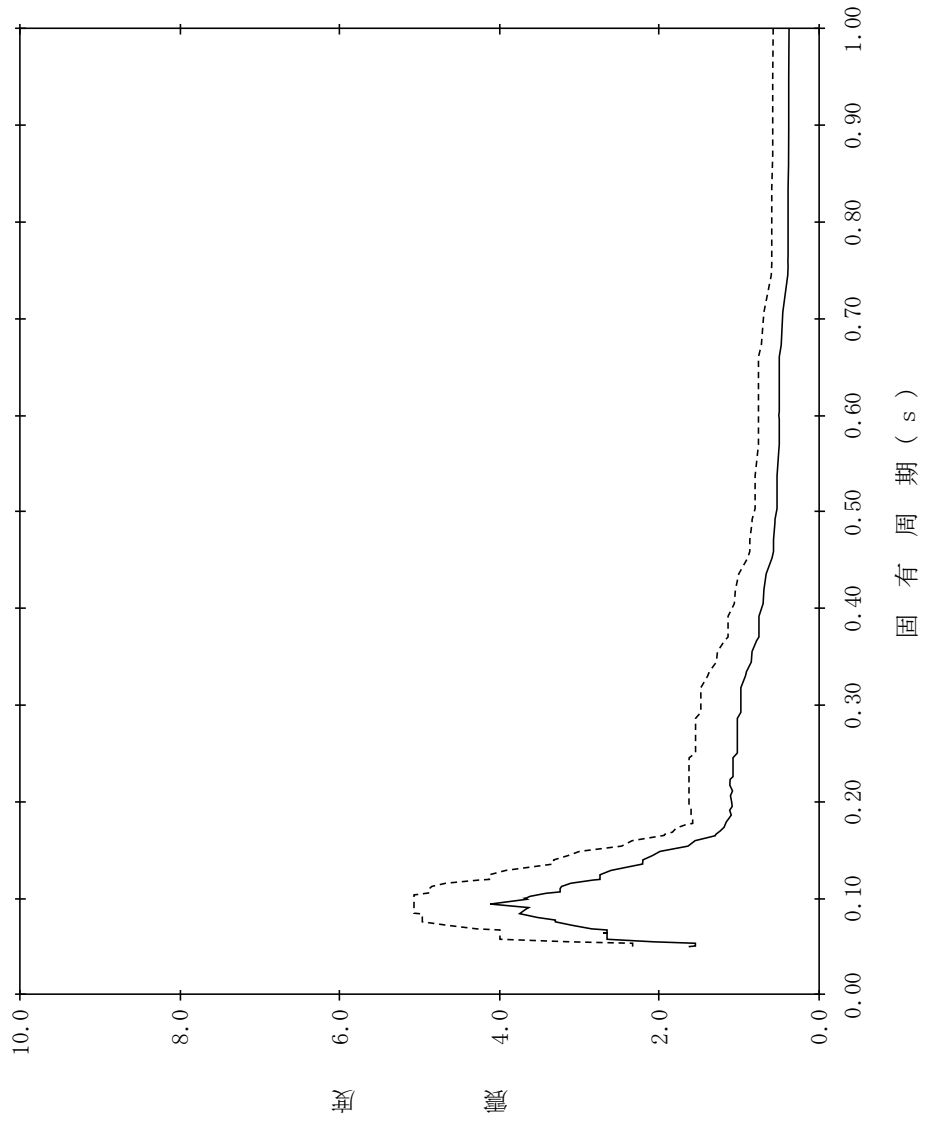
【NS2-RB-SdV-RB53】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



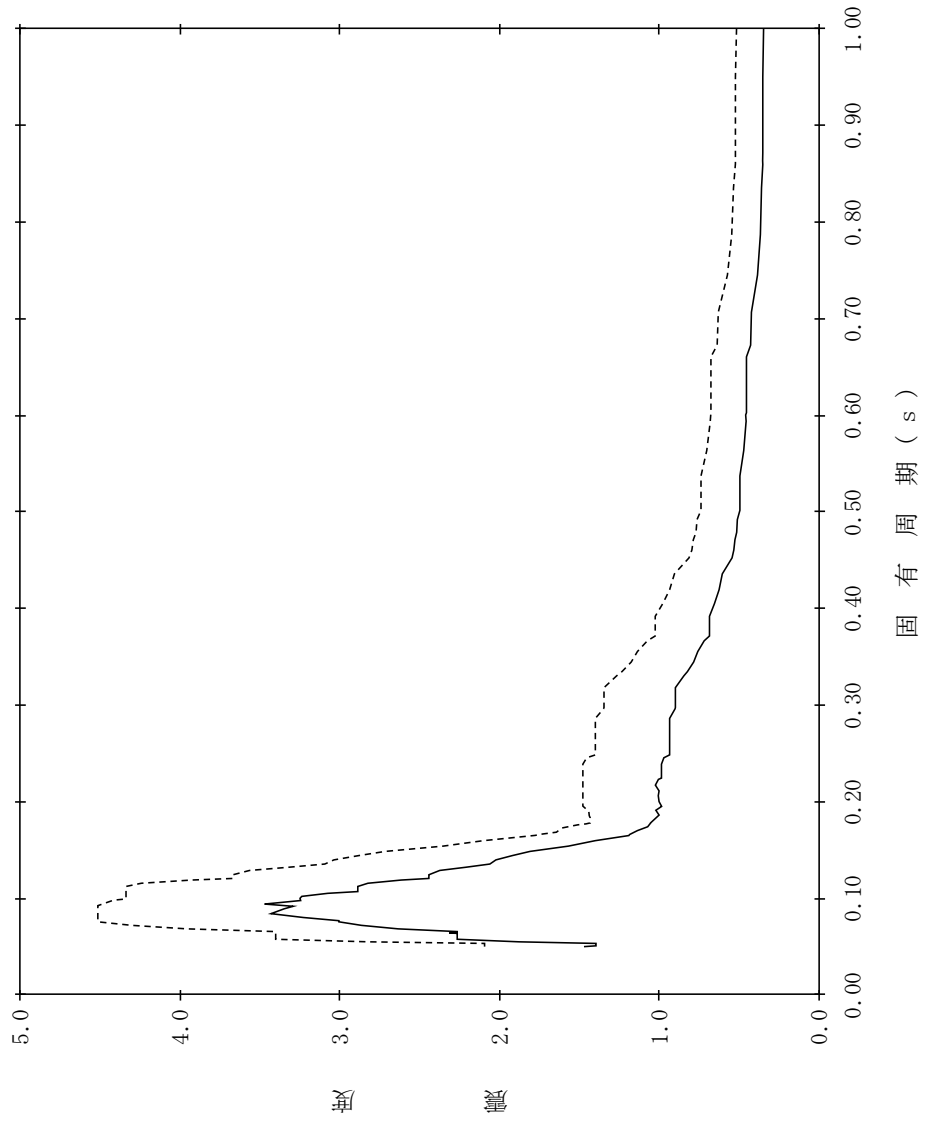
【NS2-RB-SdV-RB54】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



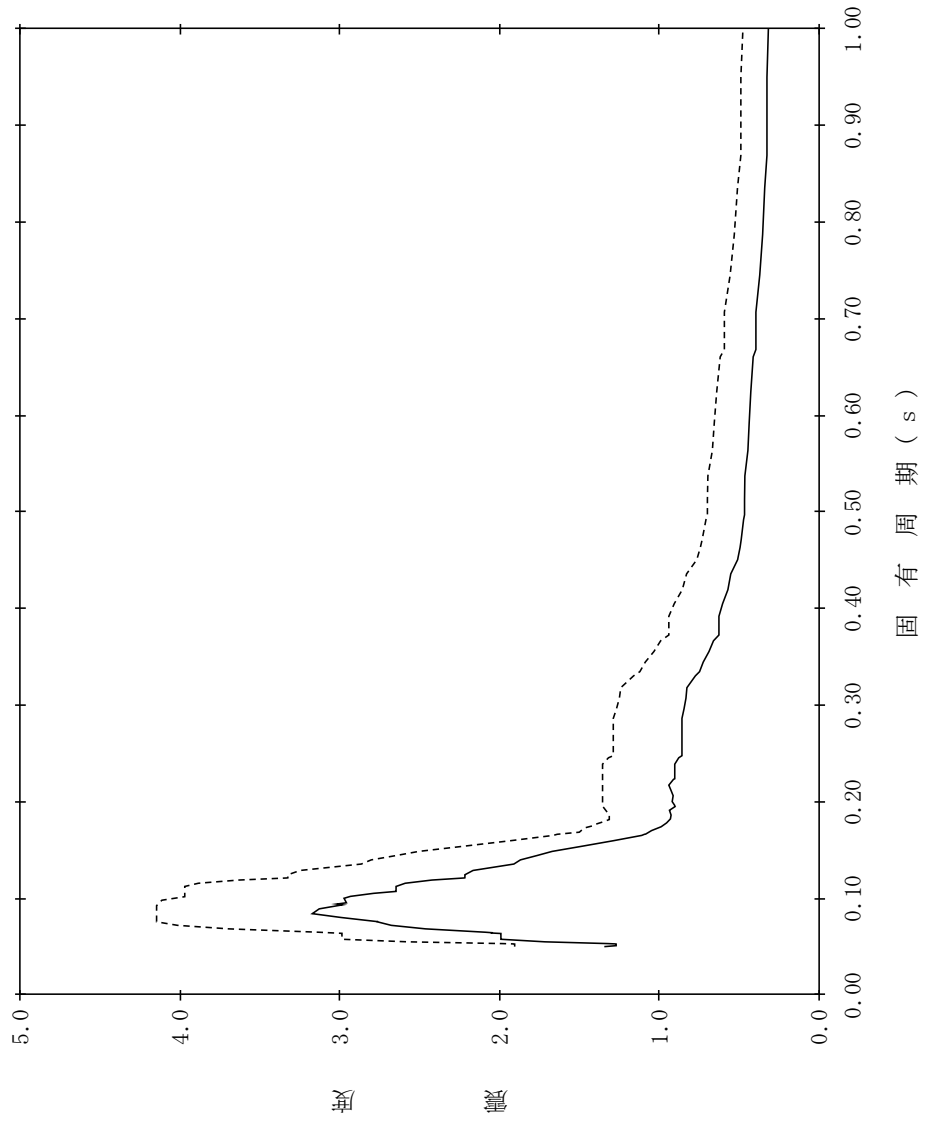
【NS2-RB-SdV-RB55】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



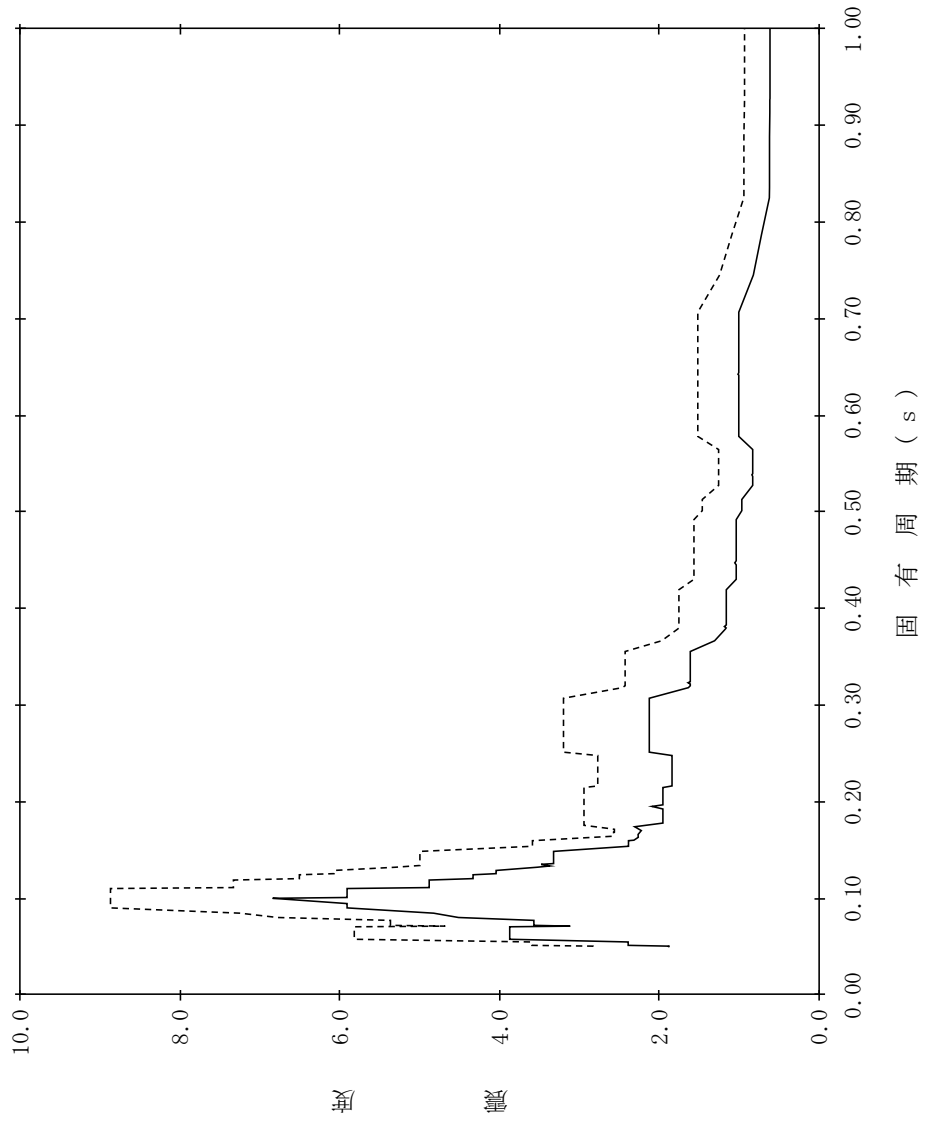
【NS2-RB-SdV-RB56】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



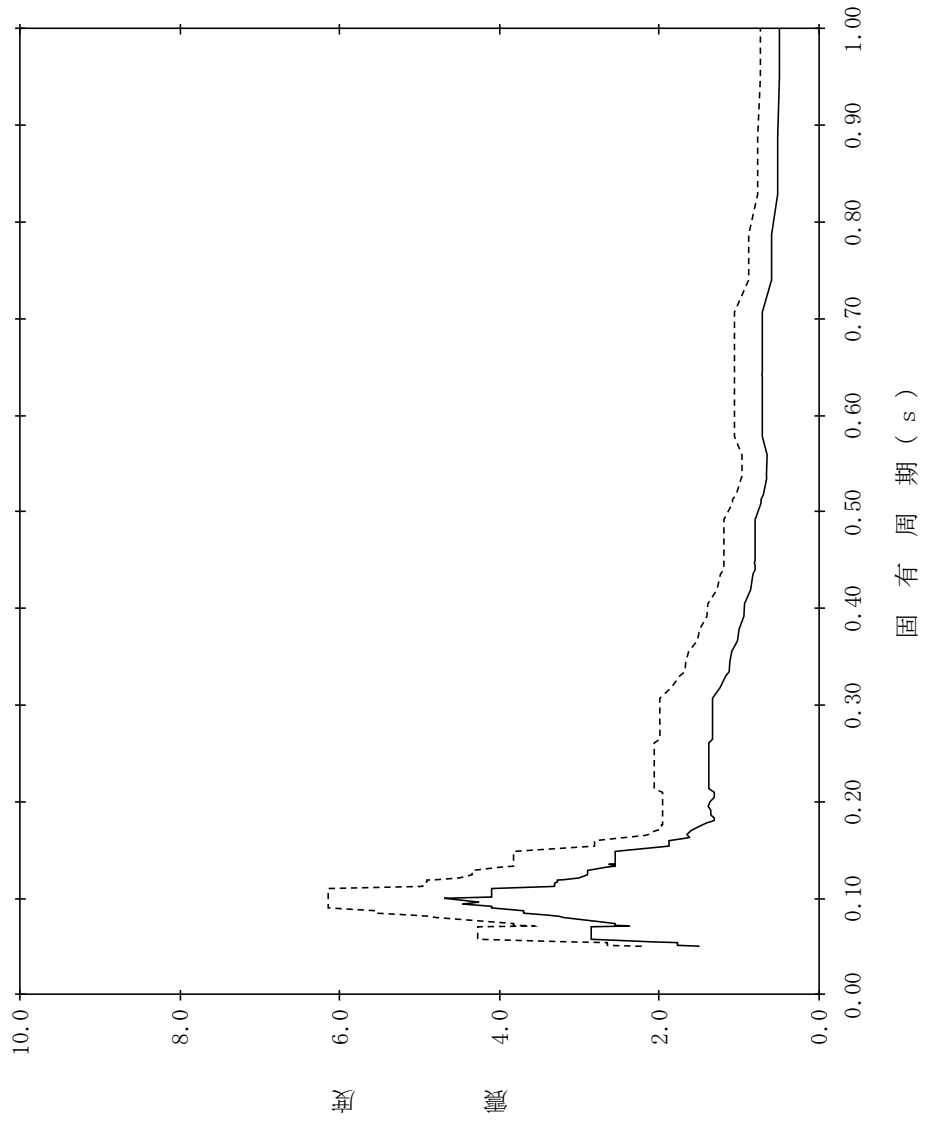
【NS2-RB-SdV-RB57】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



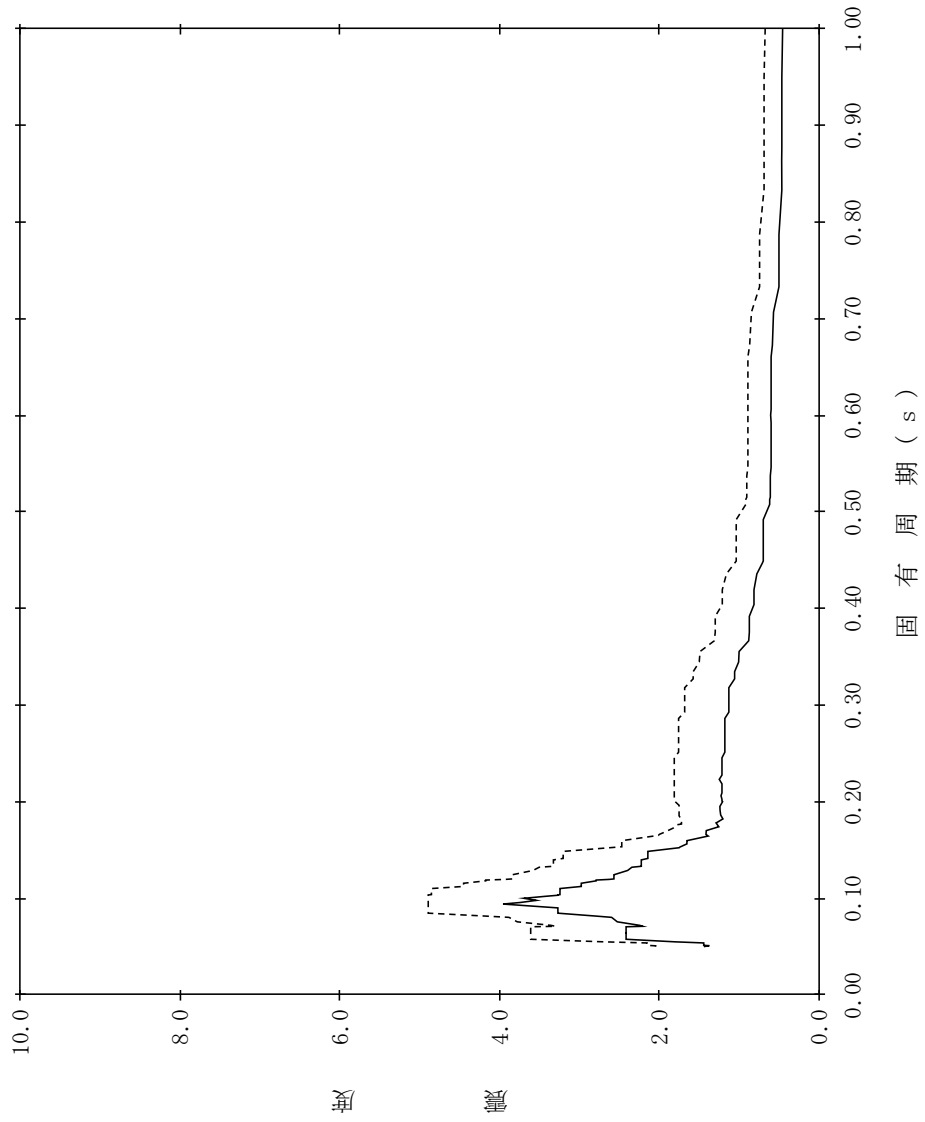
【NS2-RB-SdV-RB58】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



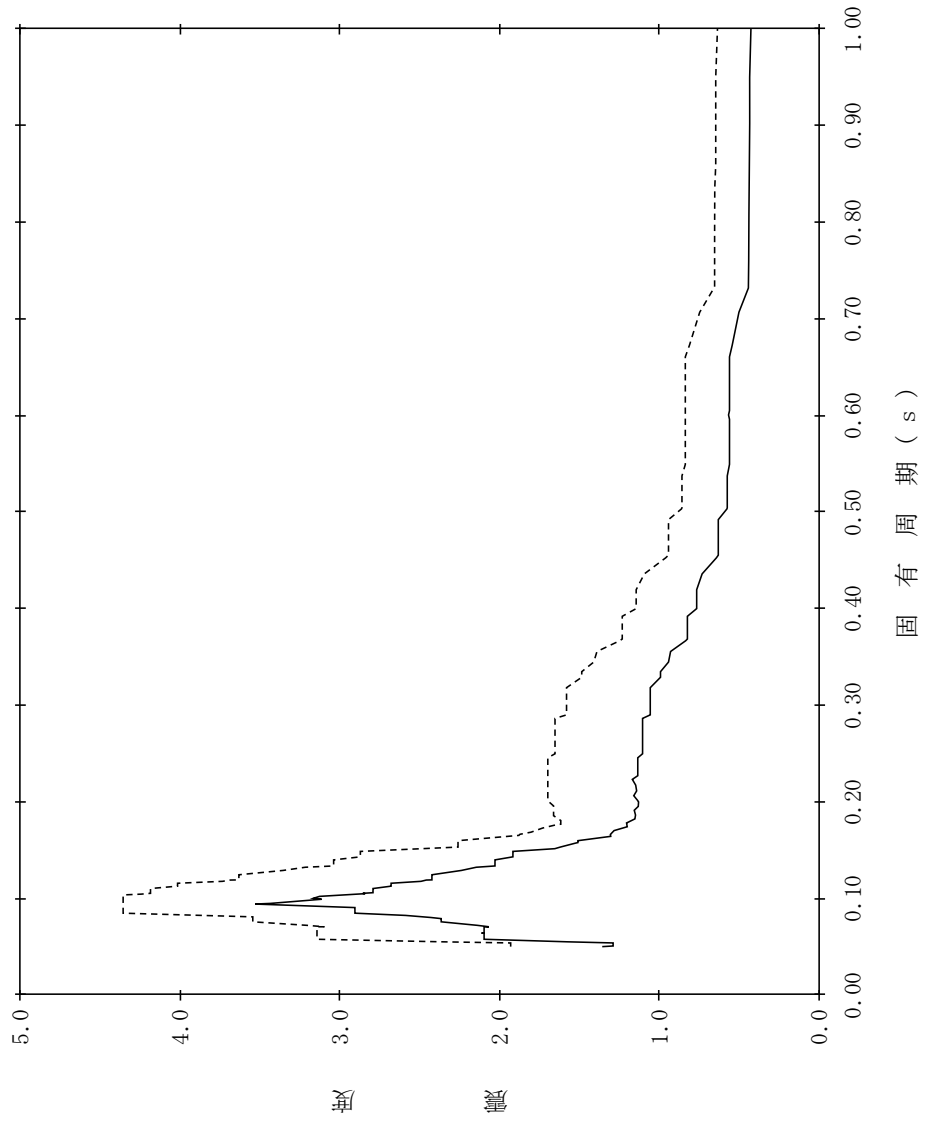
【NS2-RB-SdV-RB59】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



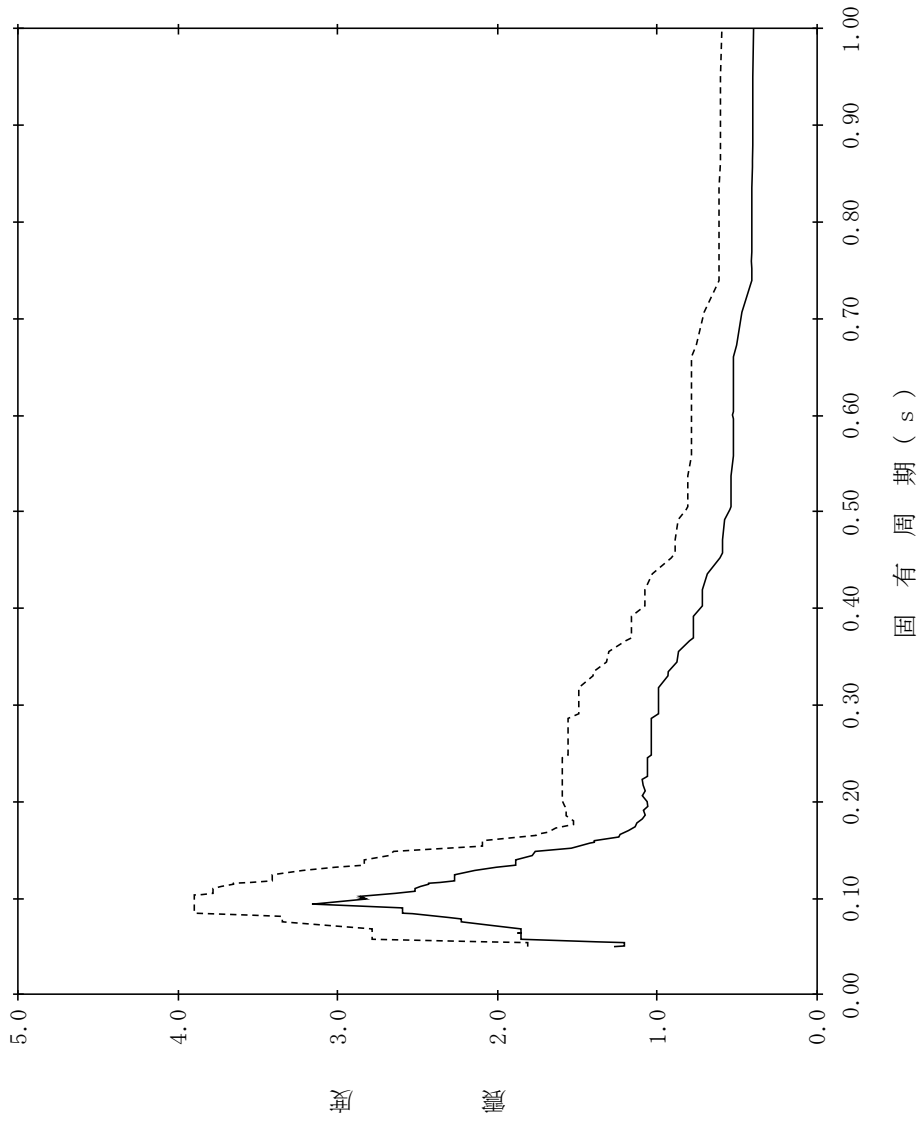
【NS2-RB-SdV-RB60】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



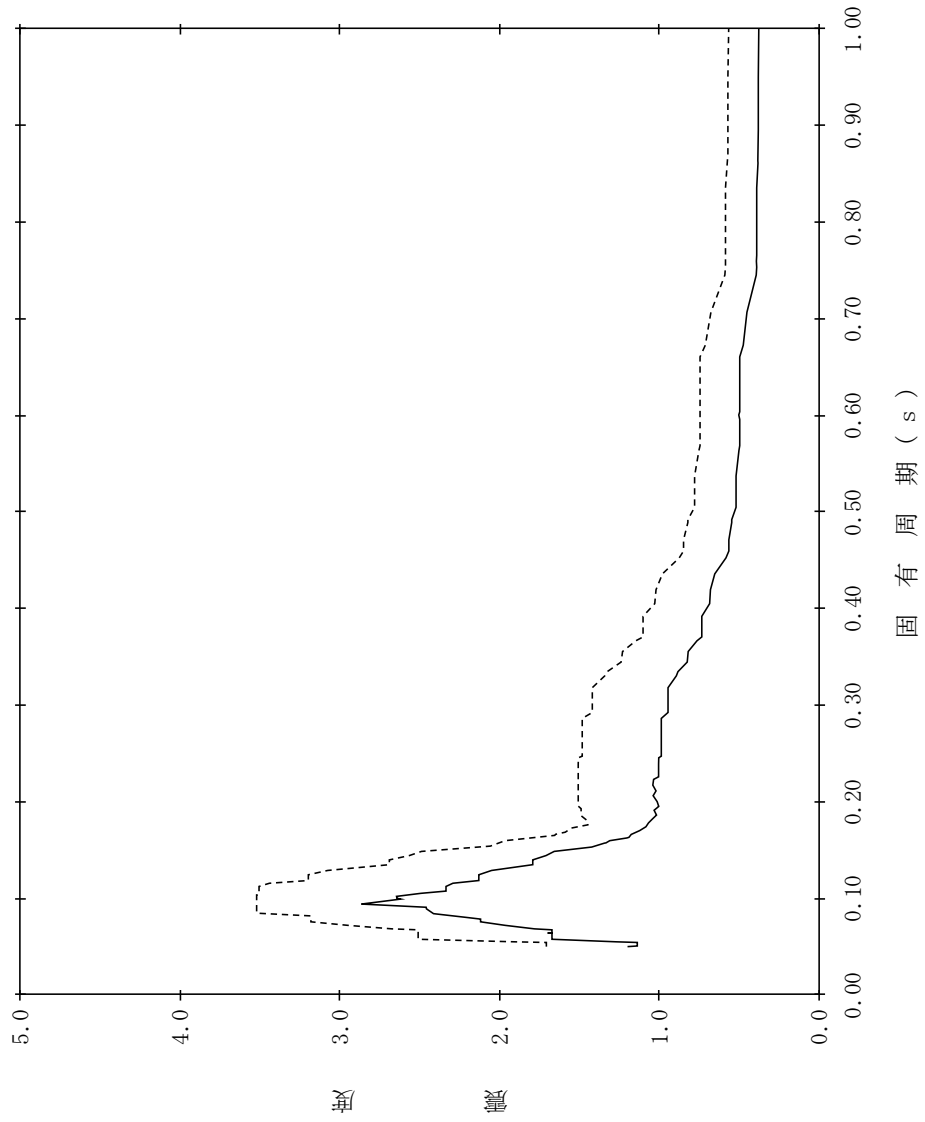
【NS2-RB-SdV-RB61】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



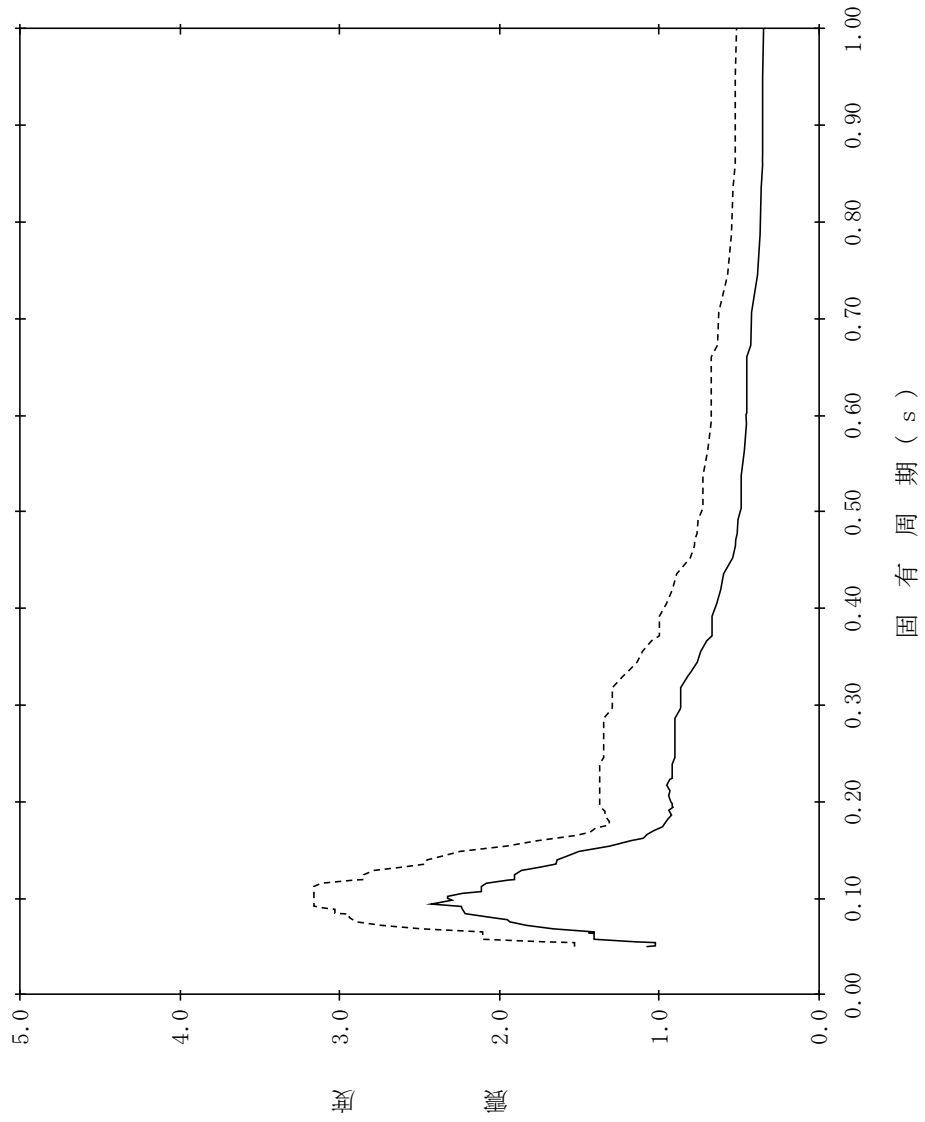
【NS2-RB-SdV-RB62】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



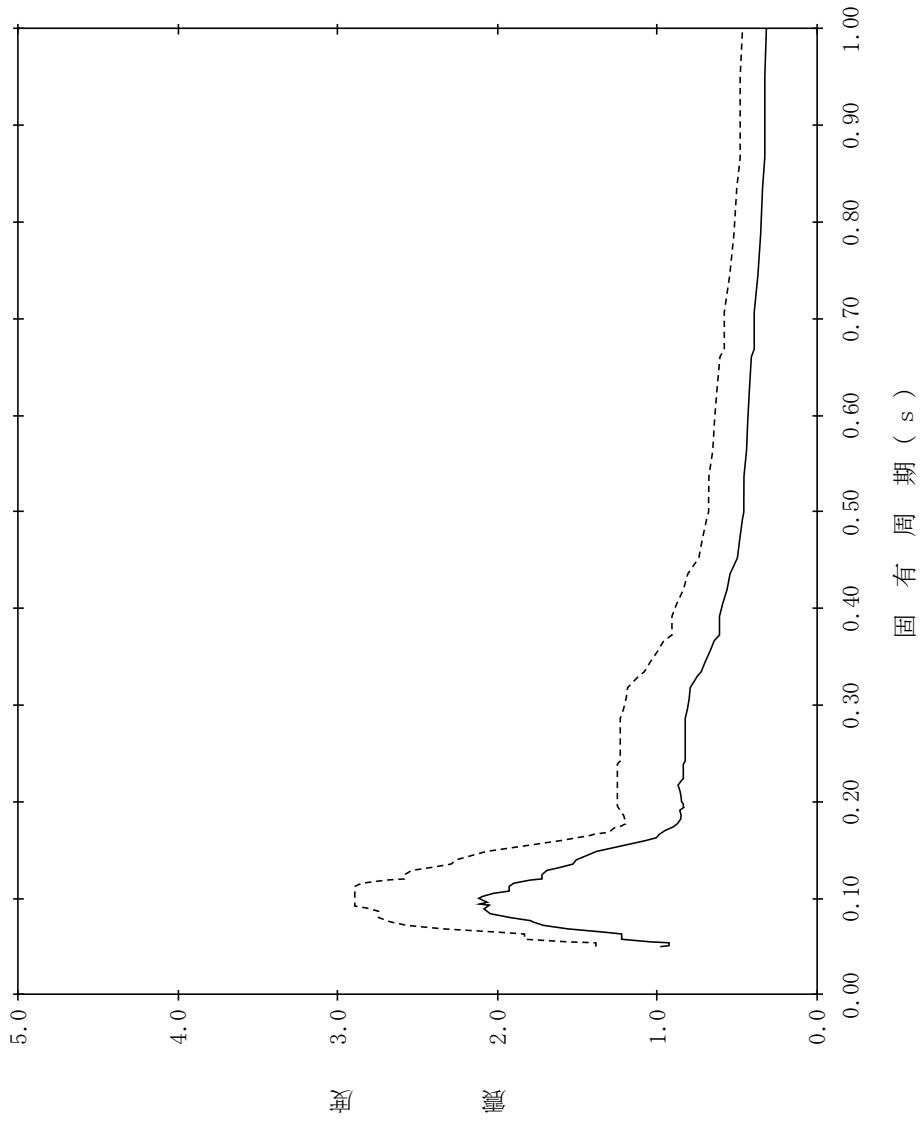
【NS2-RB-SdV-RB63】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



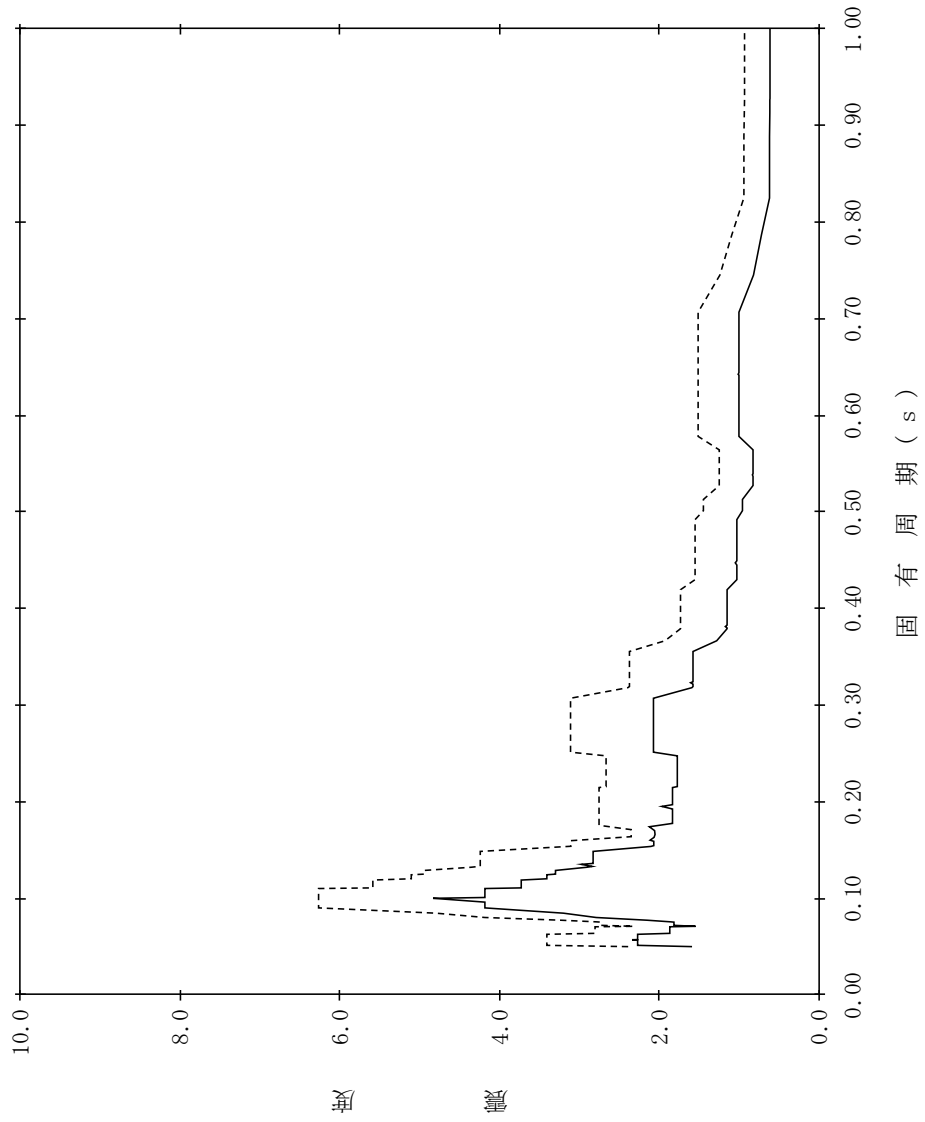
【NS2-RB-SdV-RB64】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

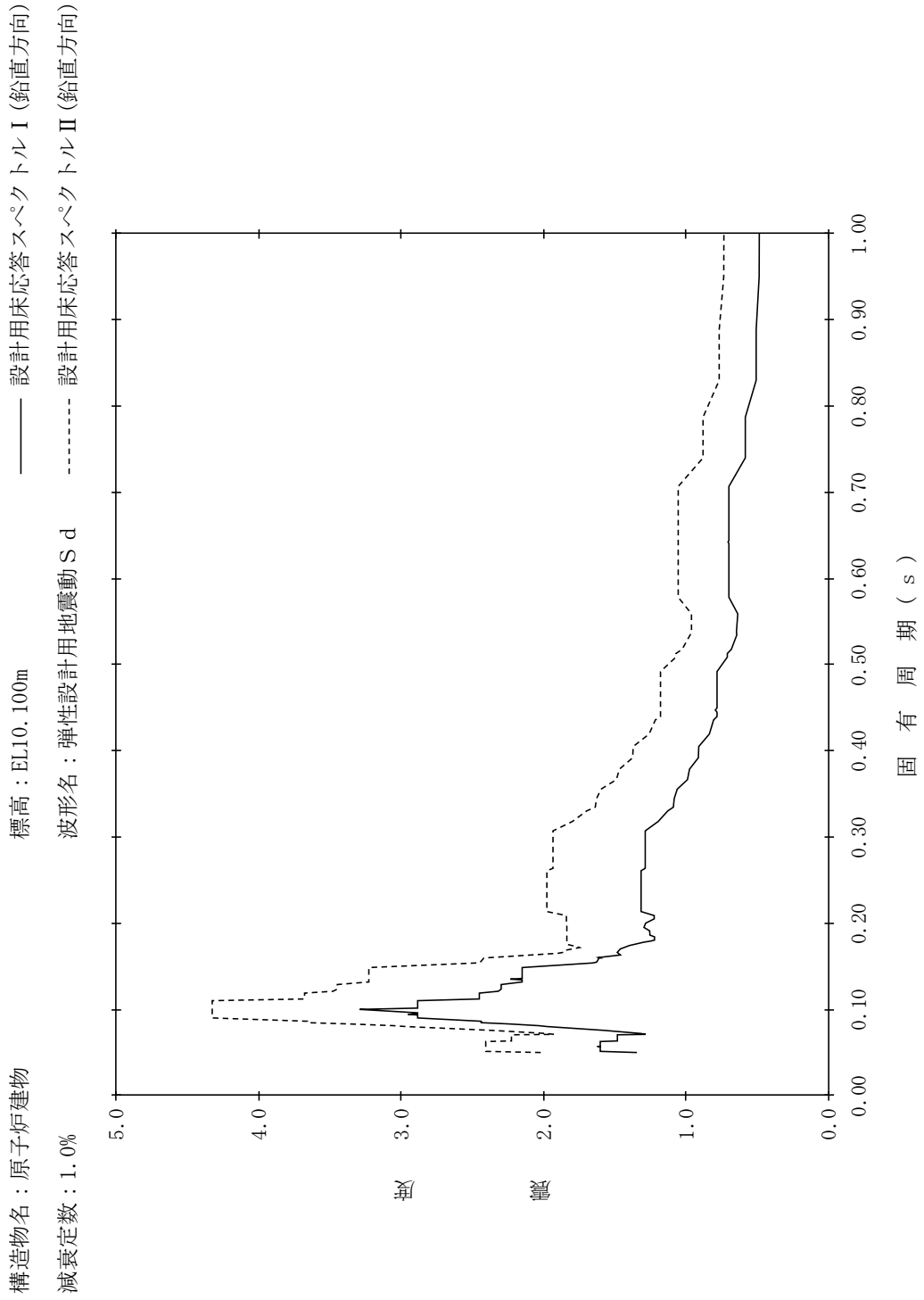


【NS2-RB-SdV-RB65】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

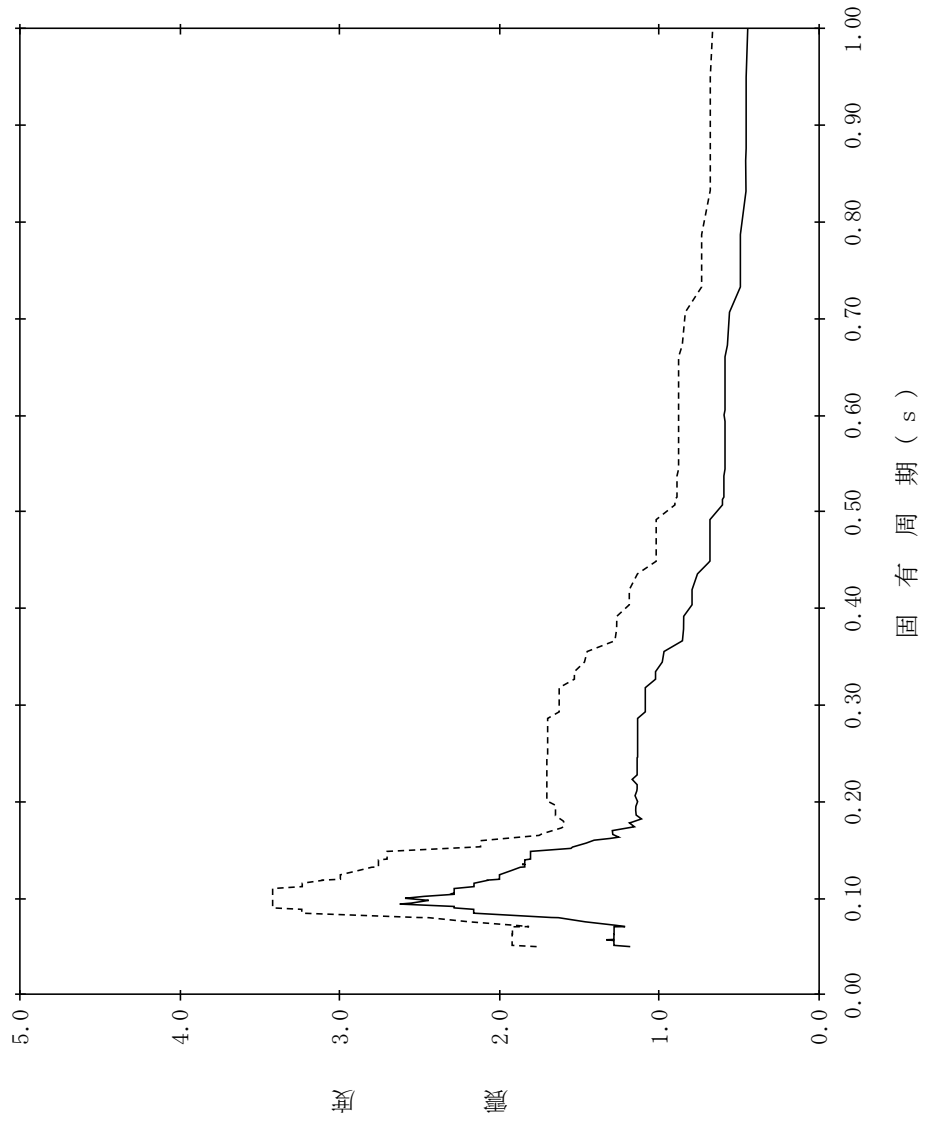


【NS2-RB-SdV-RB66】



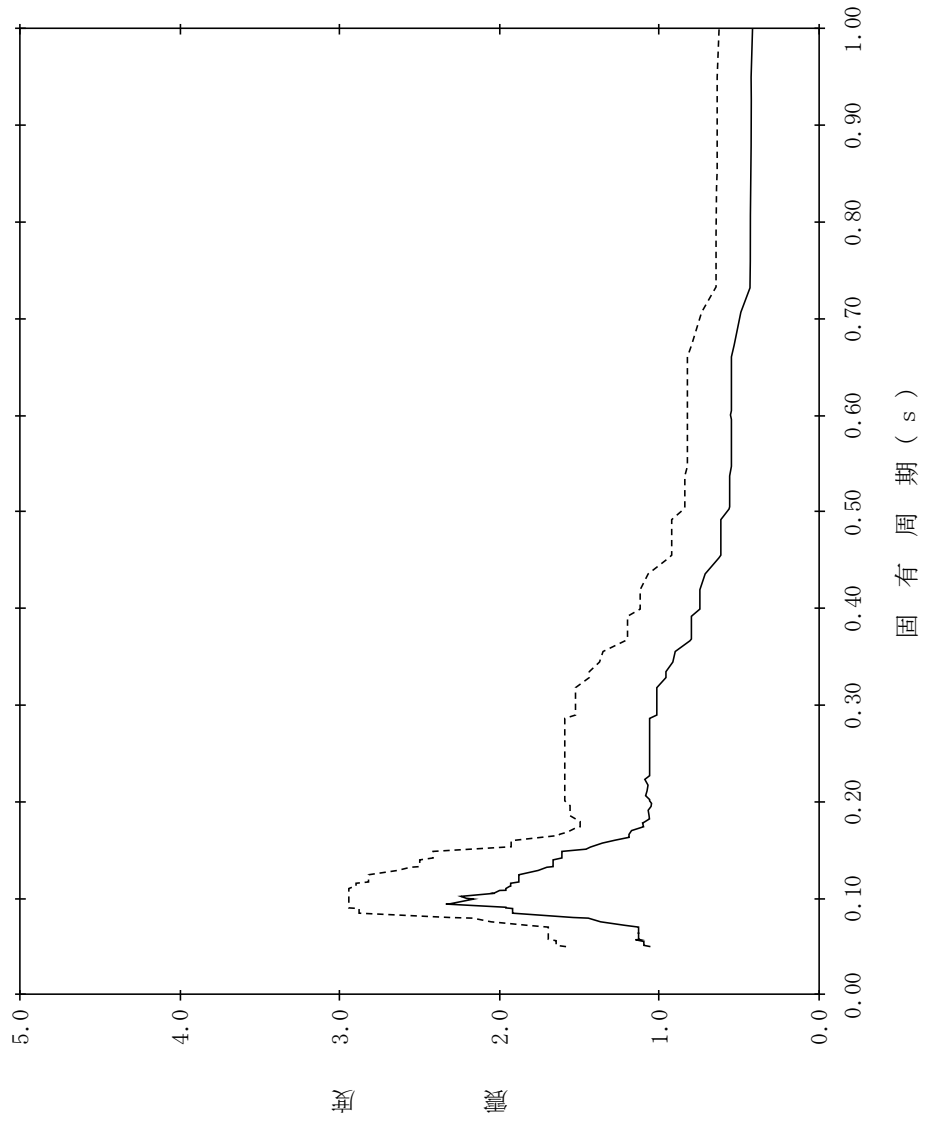
【NS2-RB-SdV-RB67】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



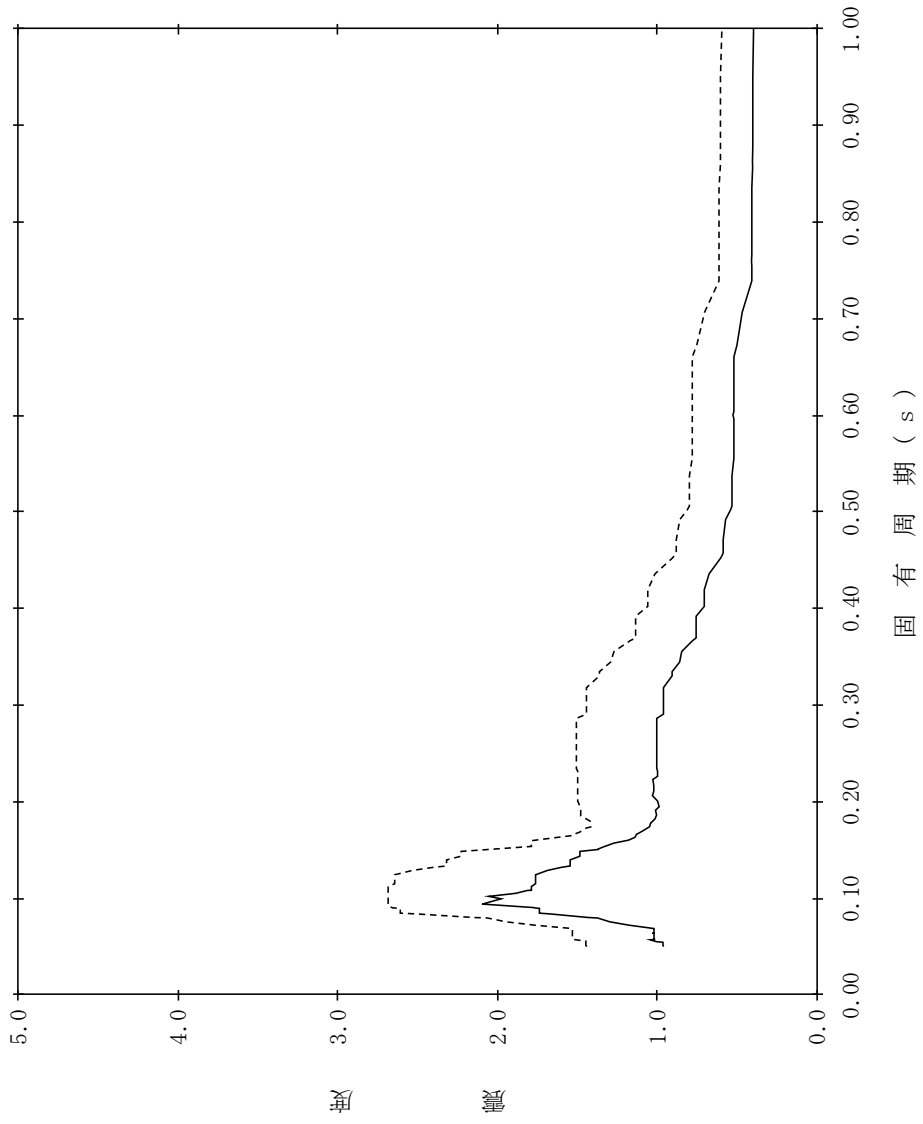
【NS2-RB-SdV-RB68】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

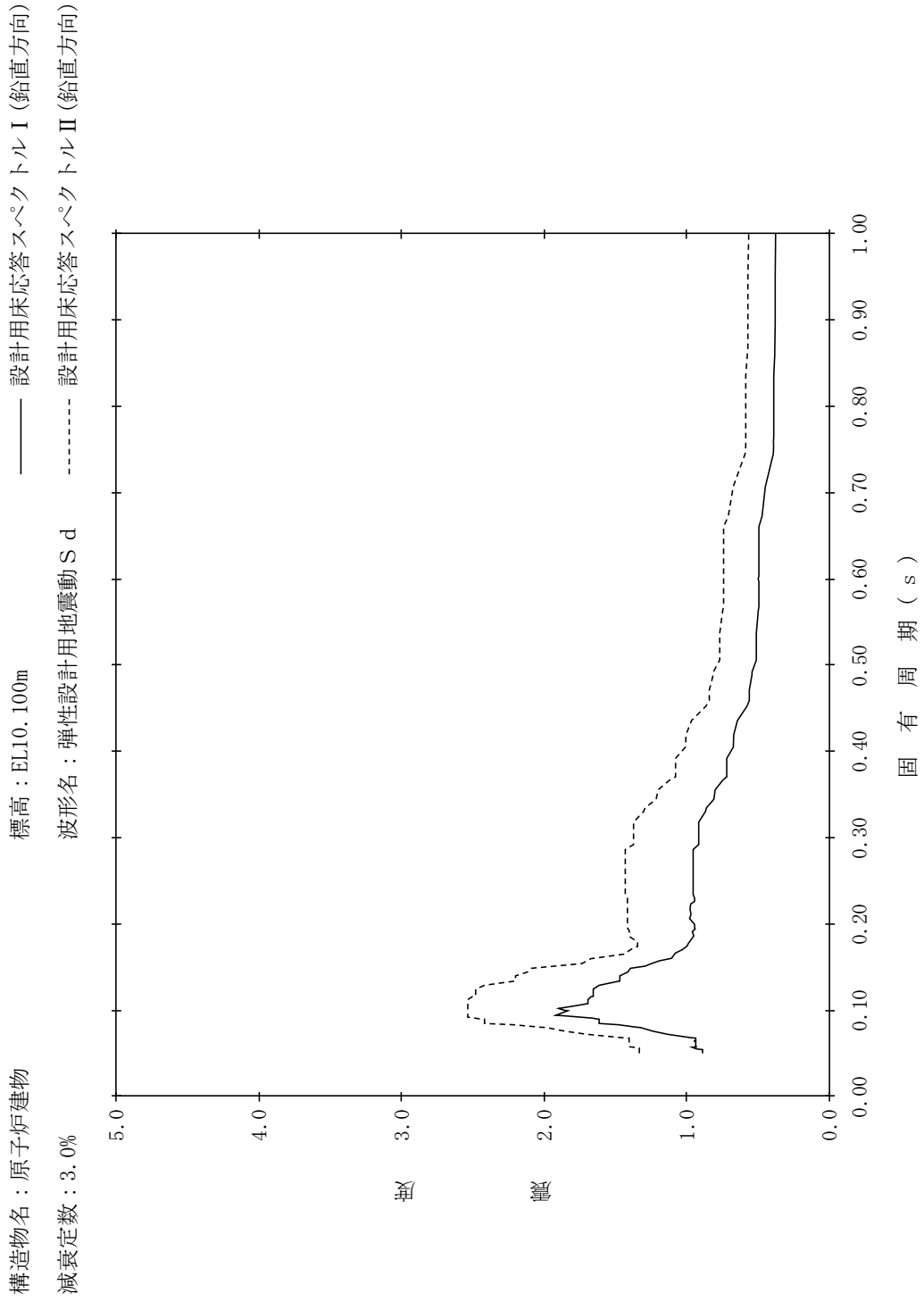


【NS2-RB-SdV-RB69】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

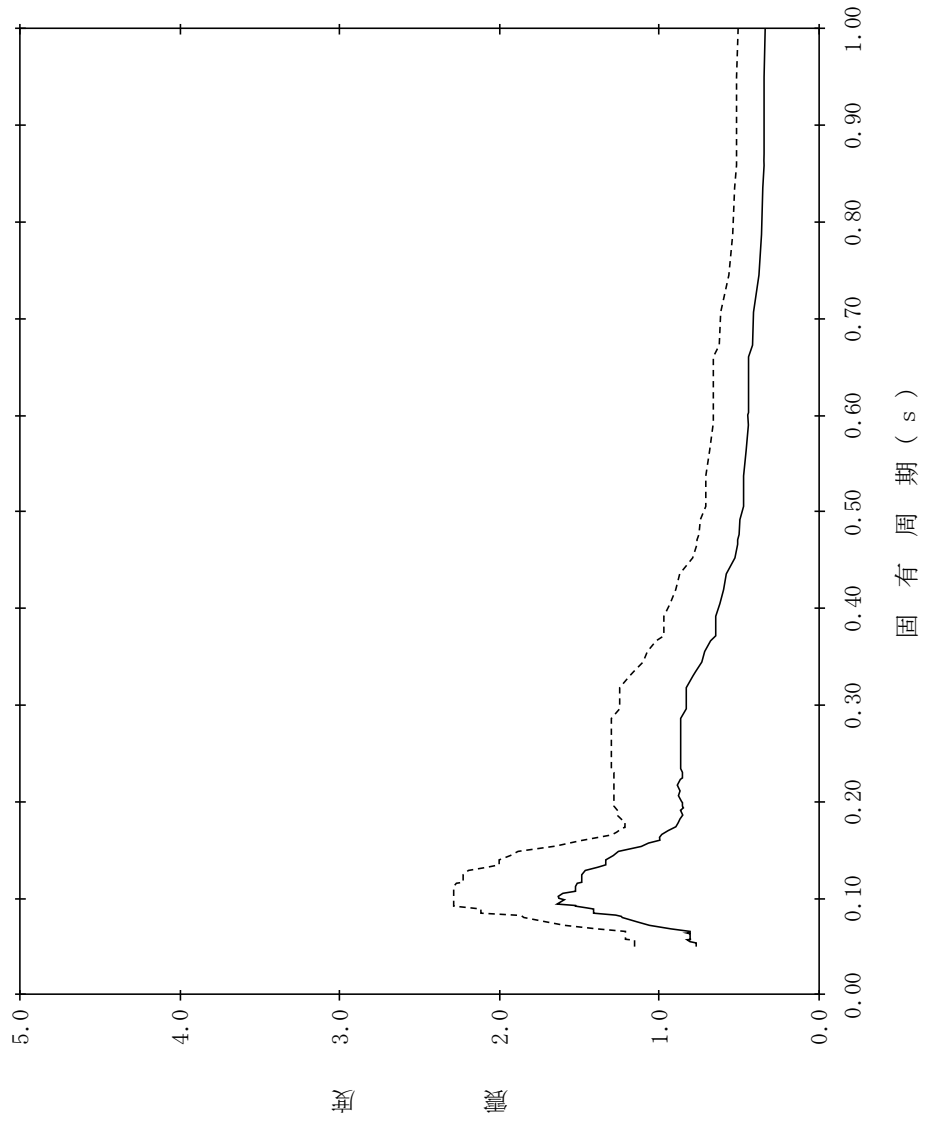


【NS2-RB-SdV-RB70】



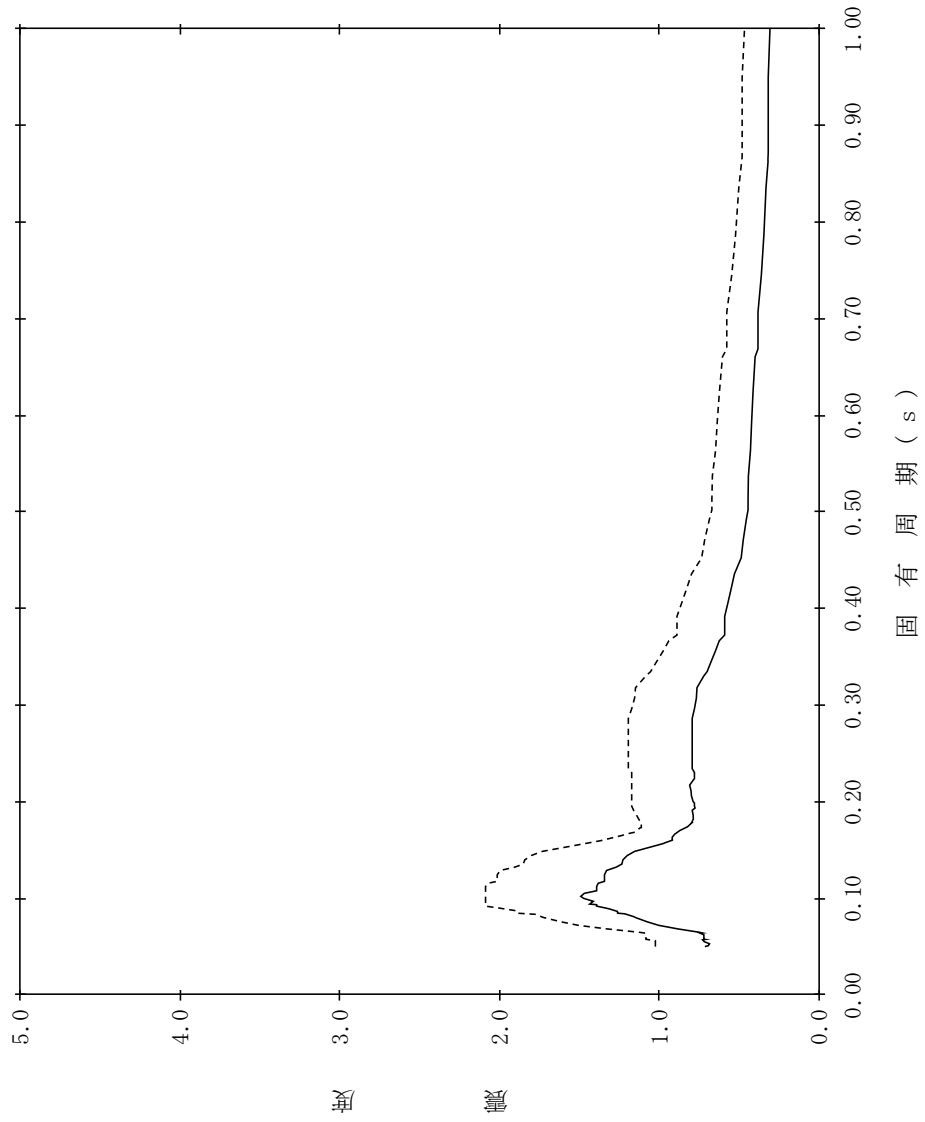
【NS2-RB-SdV-RB71】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



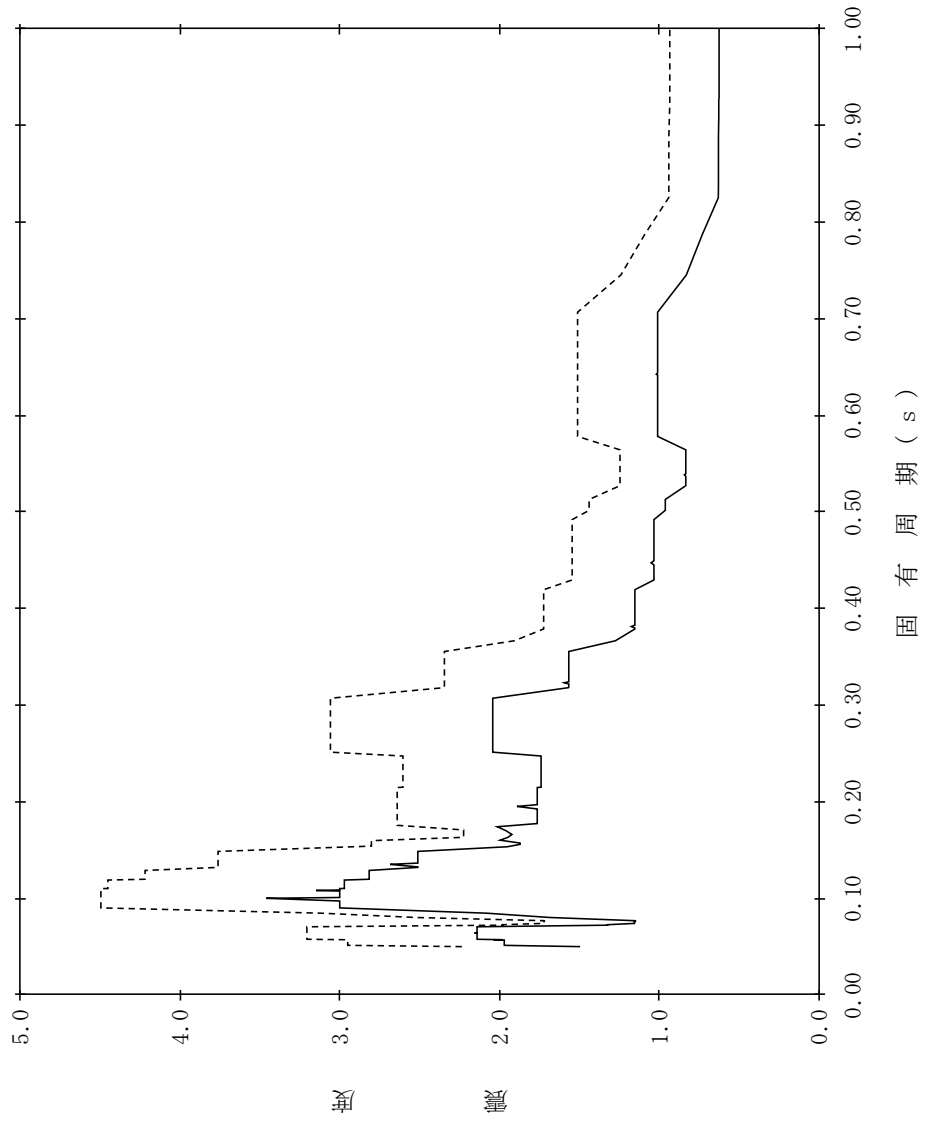
【NS2-RB-SdV-RB72】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



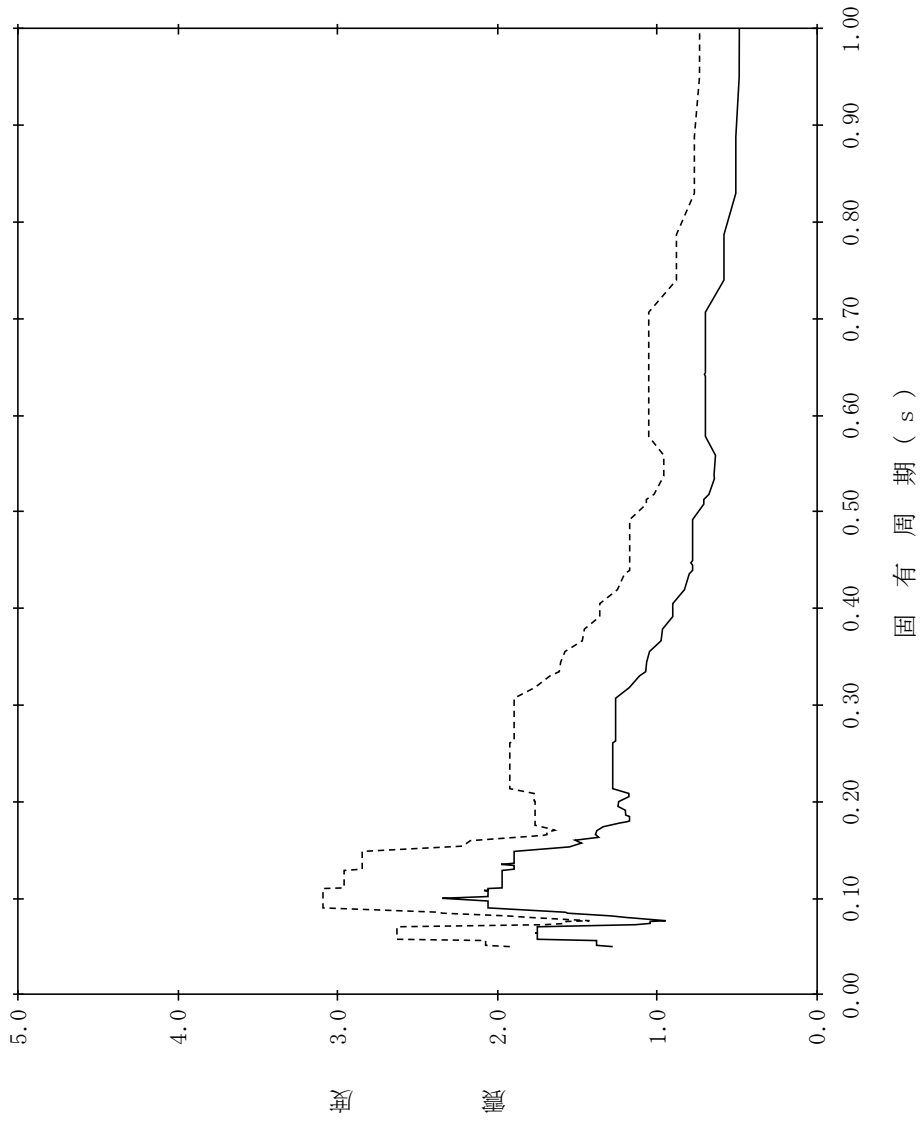
【NS2-RB-SdV-RB73】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



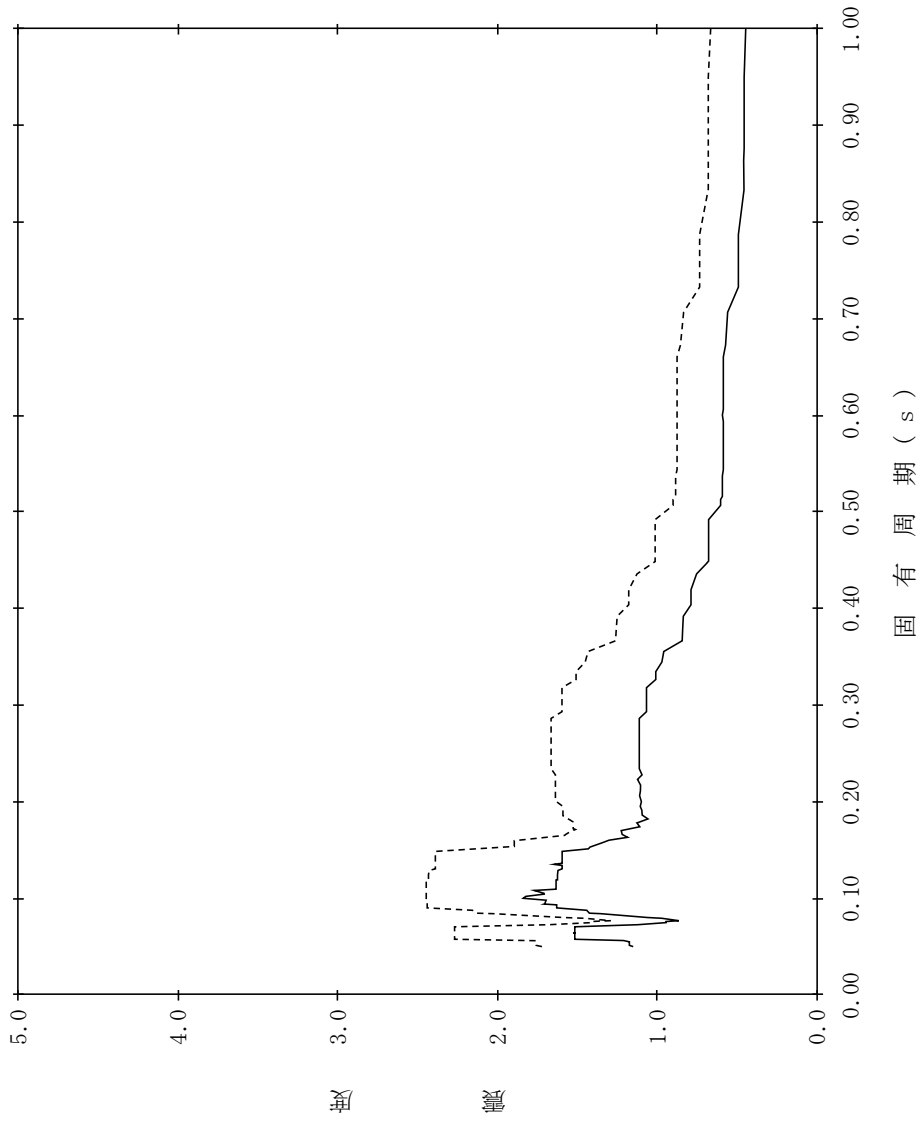
【NS2-RB-SdV-RB74】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



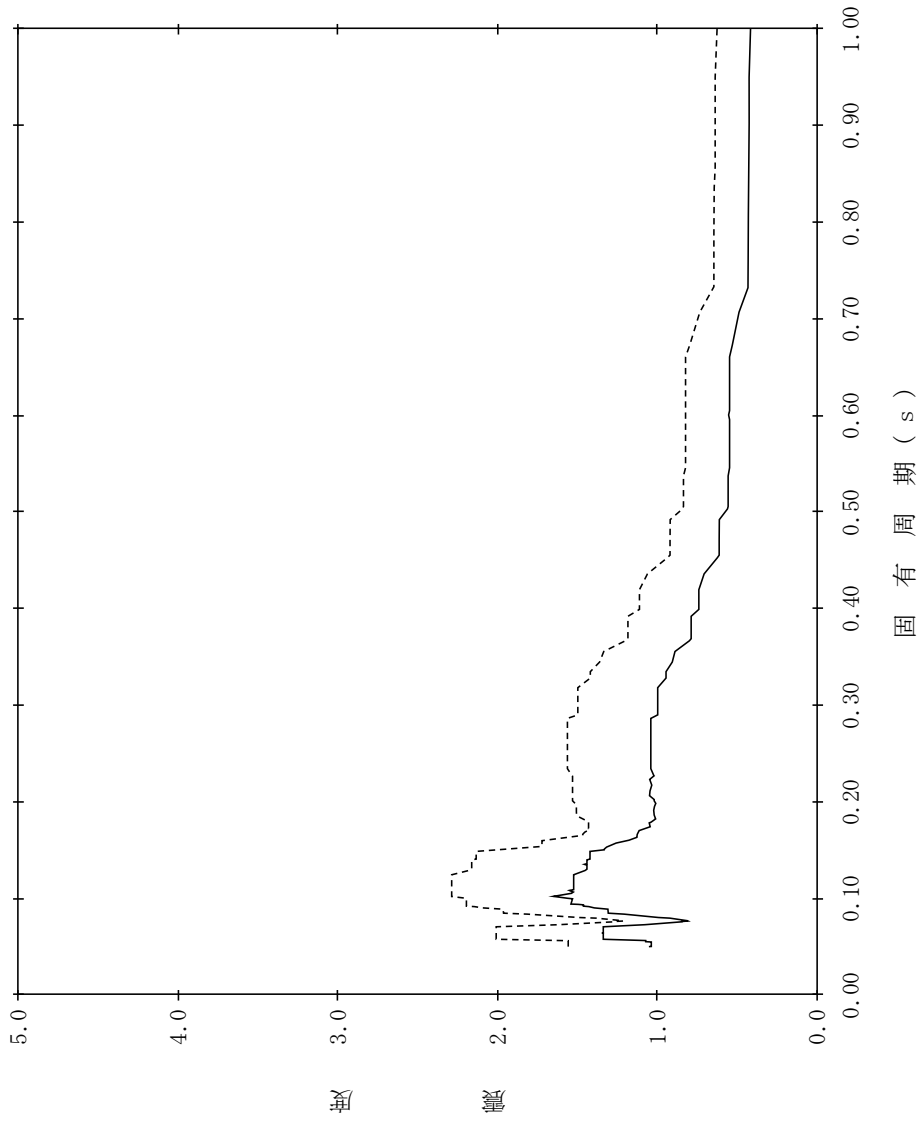
【NS2-RB-SdV-RB75】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

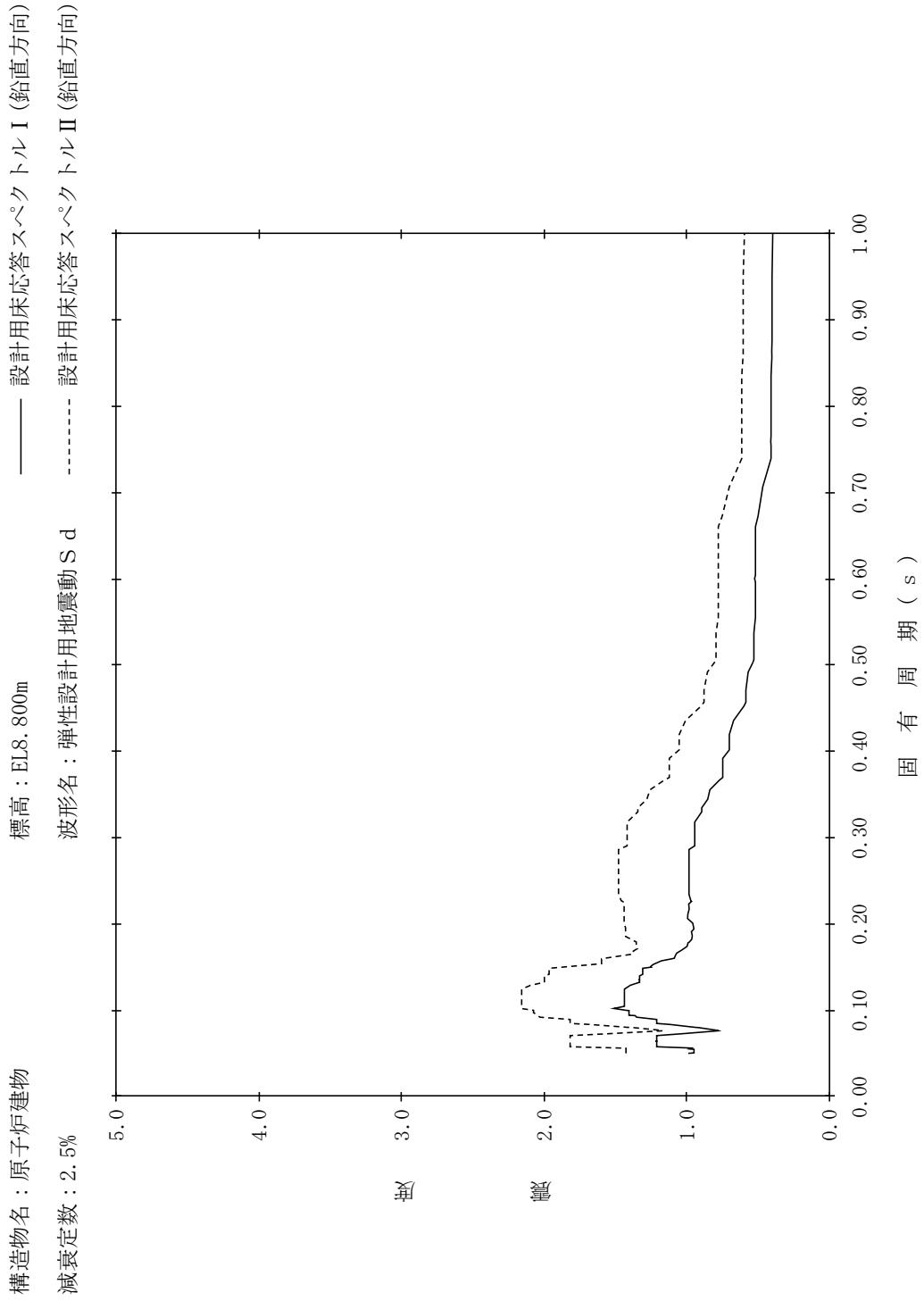


【NS2-RB-SdV-RB76】

構造物名：原子炉建物
標高：EL8.800m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

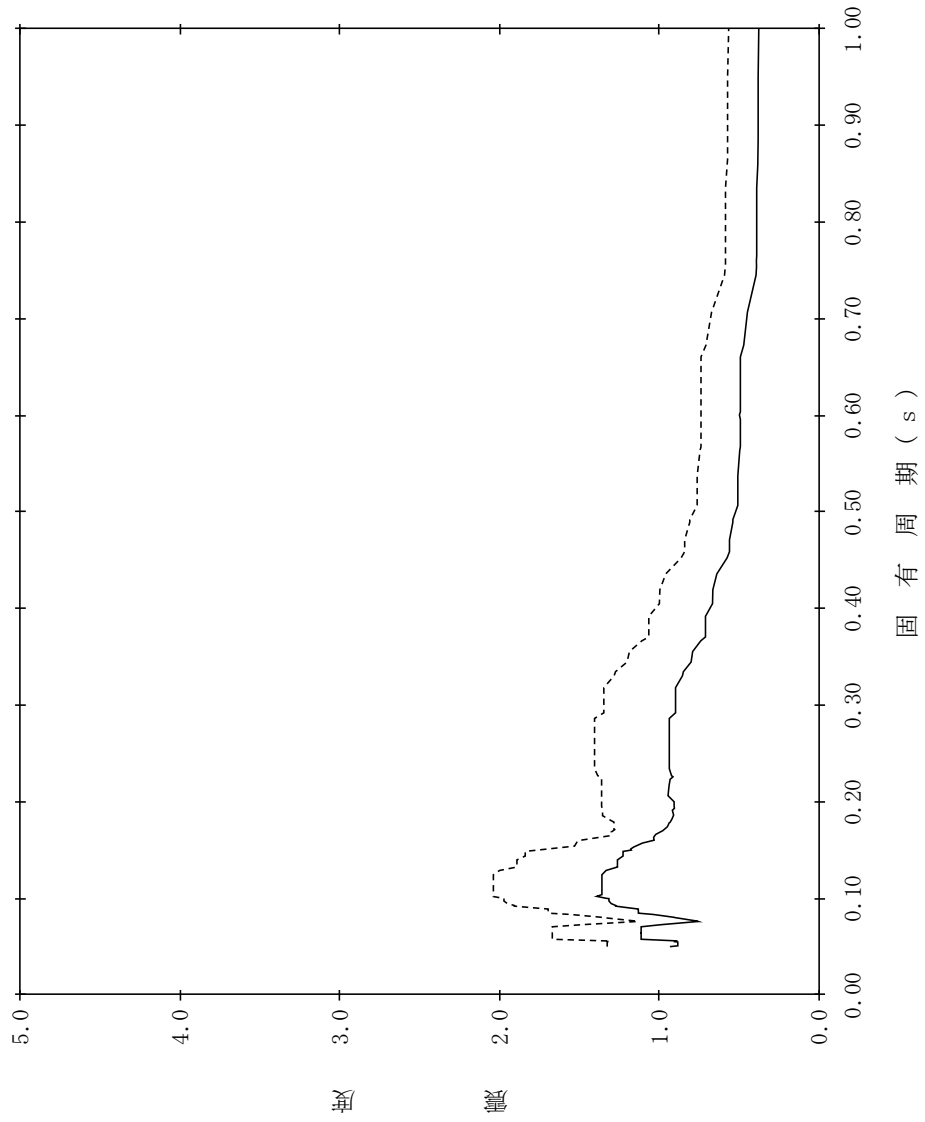


【NS2-RB-SdV-RB77】



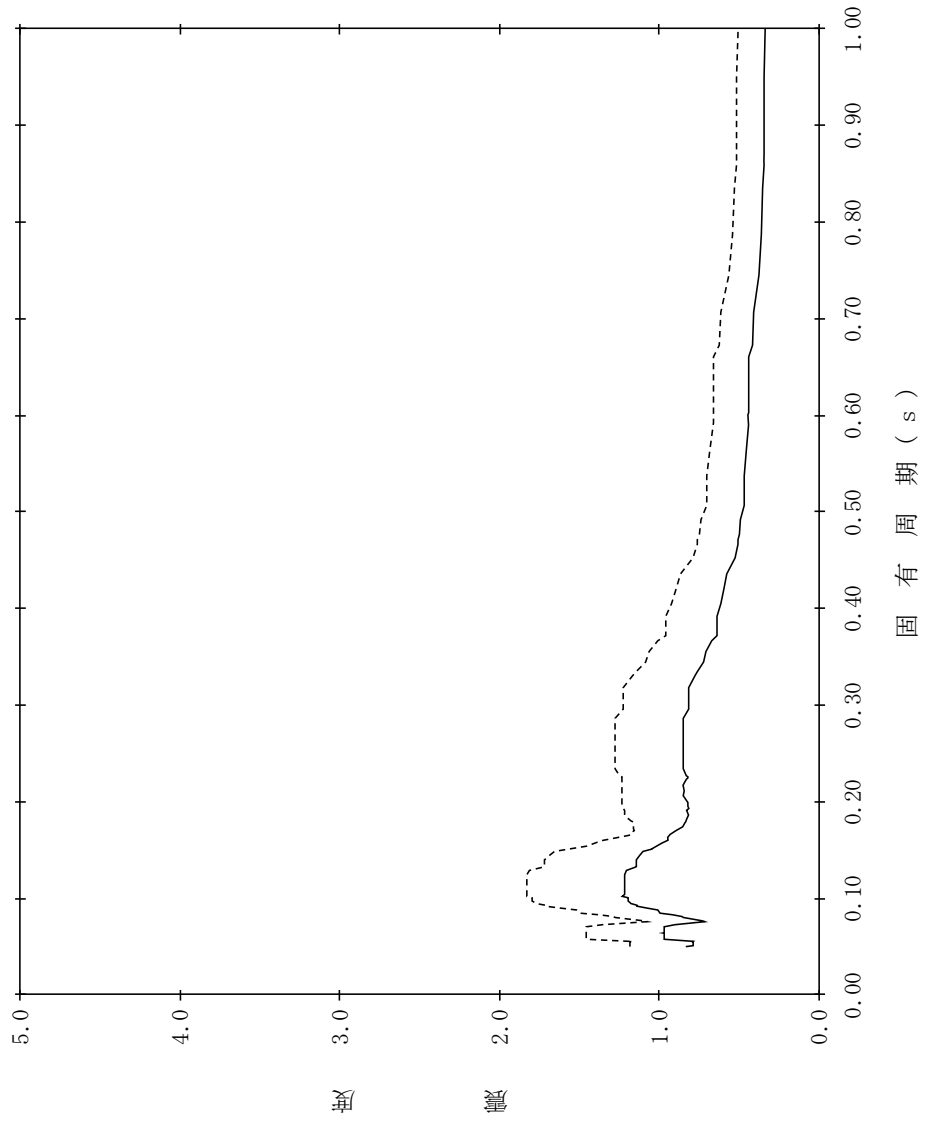
【NS2-RB-SdV-RB78】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



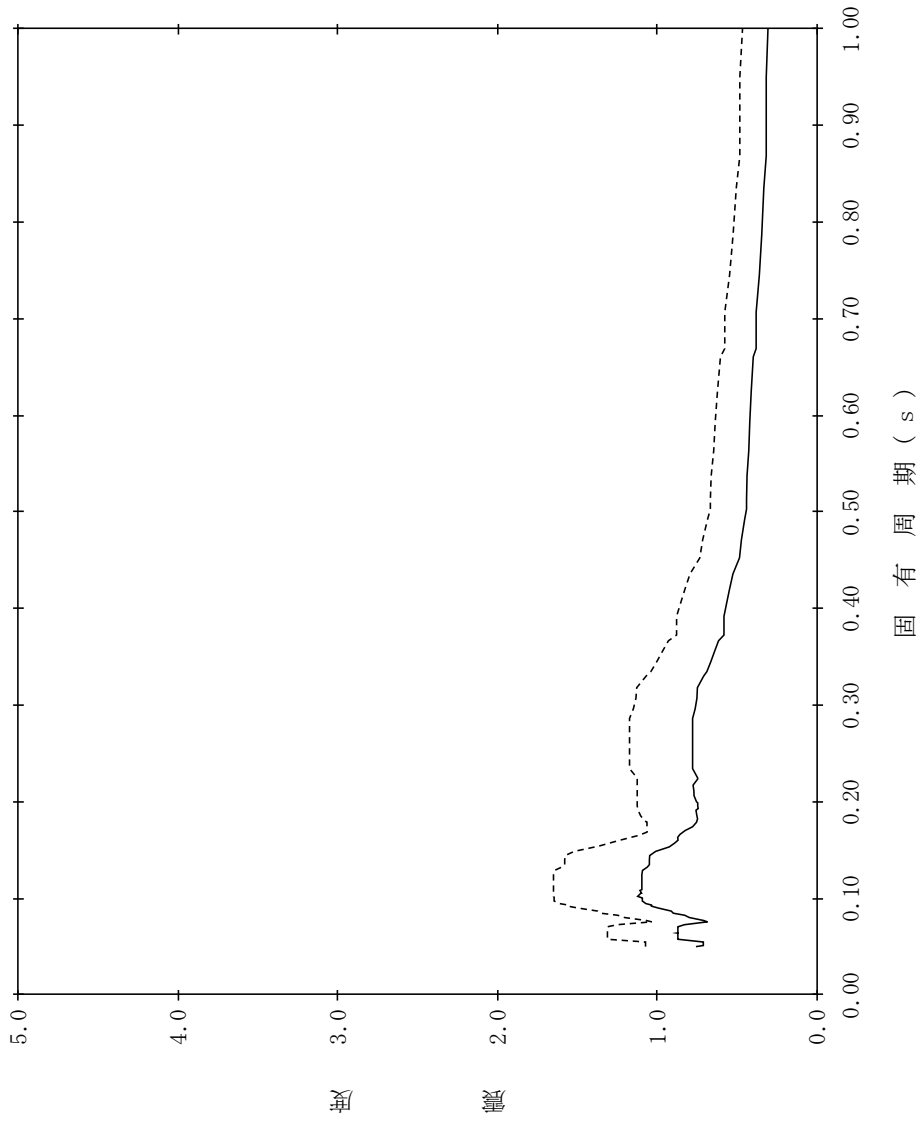
【NS2-RB-SdV-RB79】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



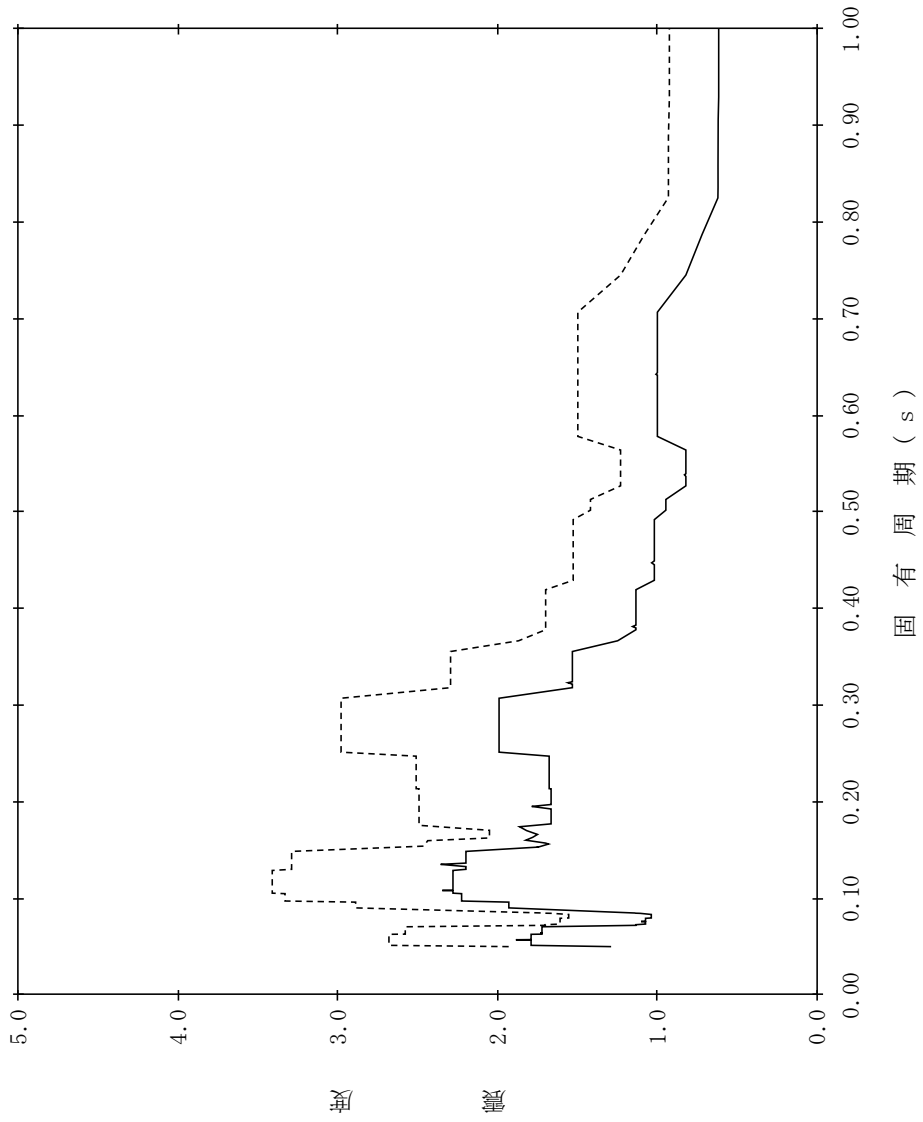
【NS2-RB-SdV-RB80】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

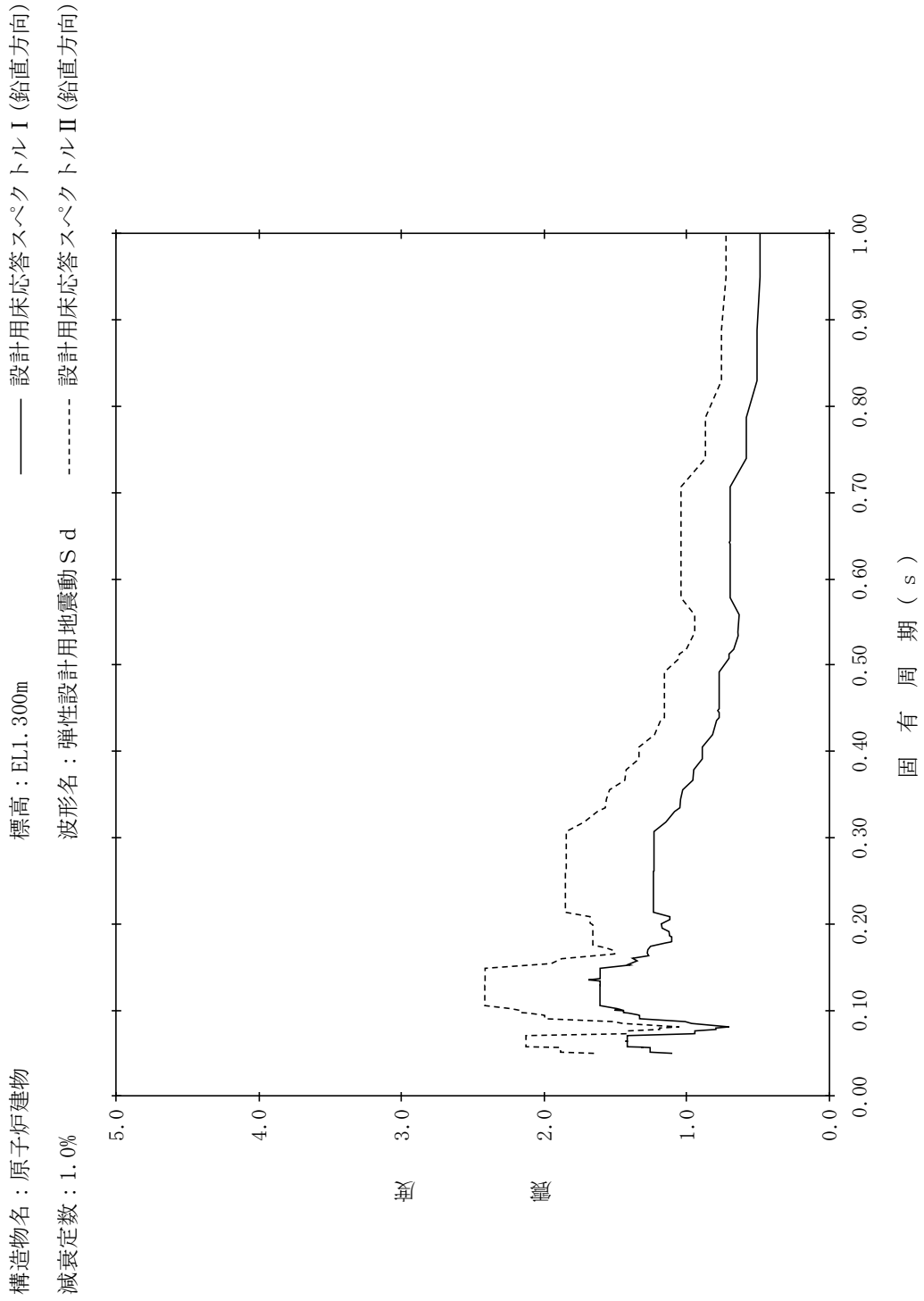


【NS2-RB-SdV-RB81】

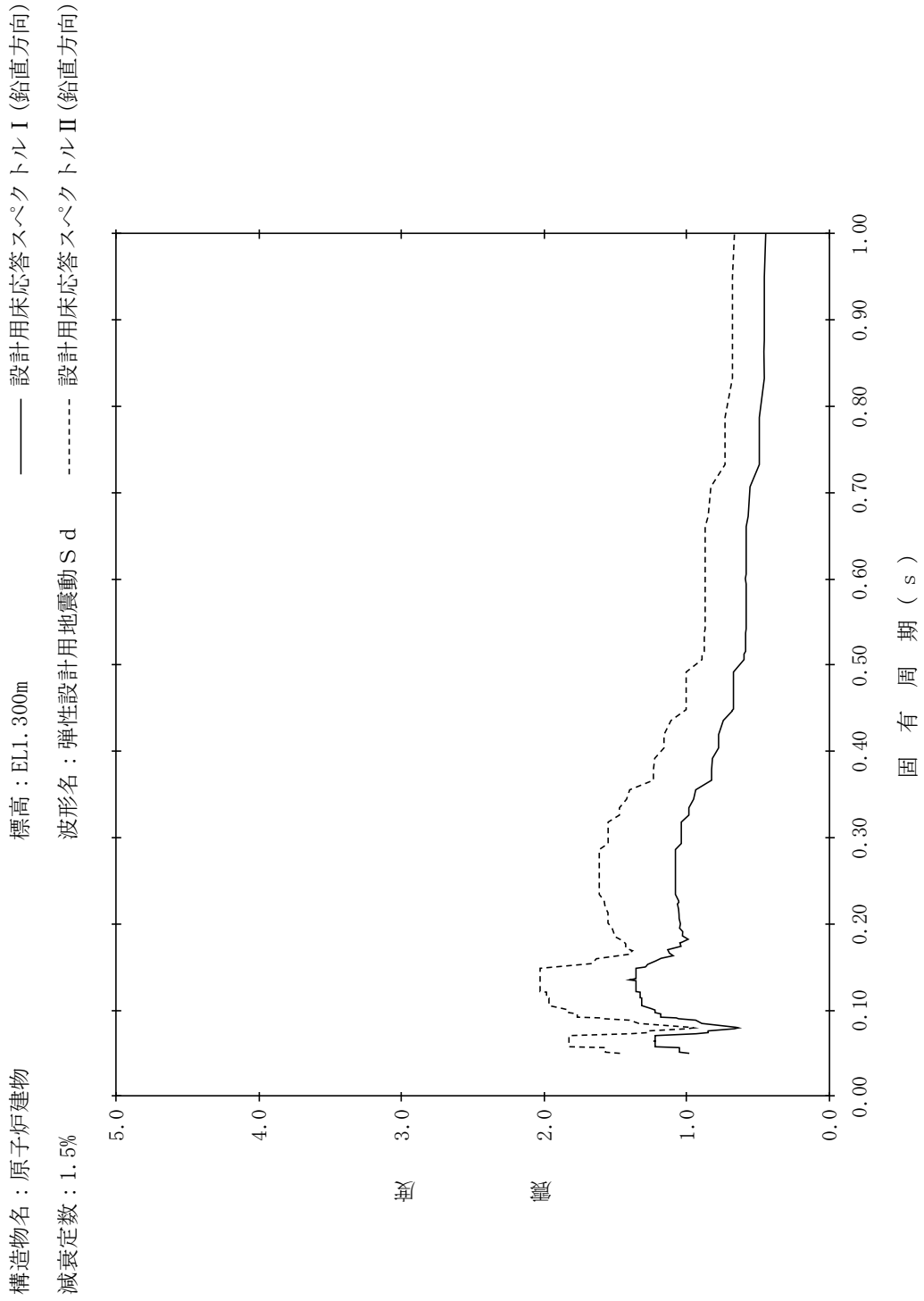
構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



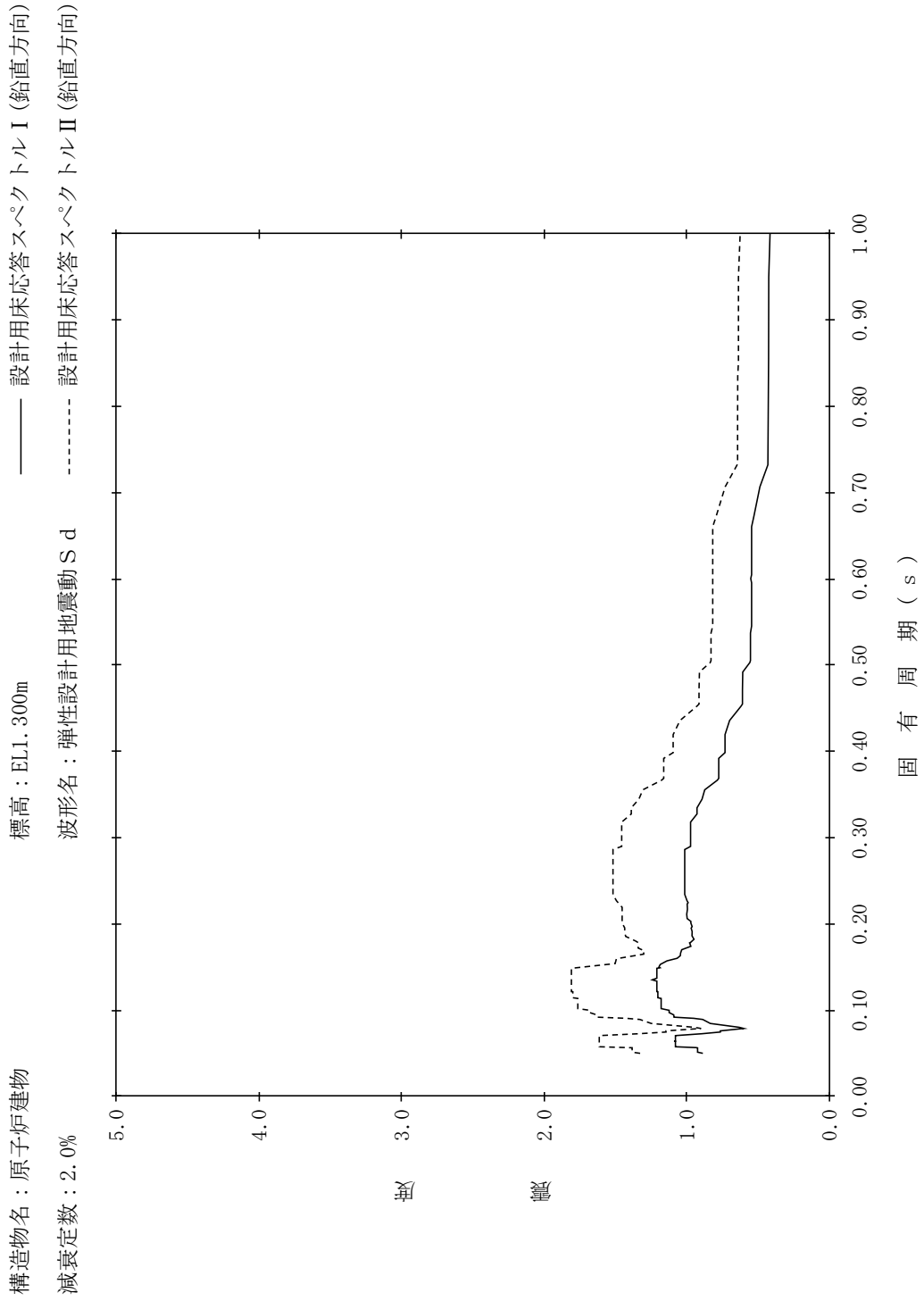
【NS2-RB-SdV-RB82】



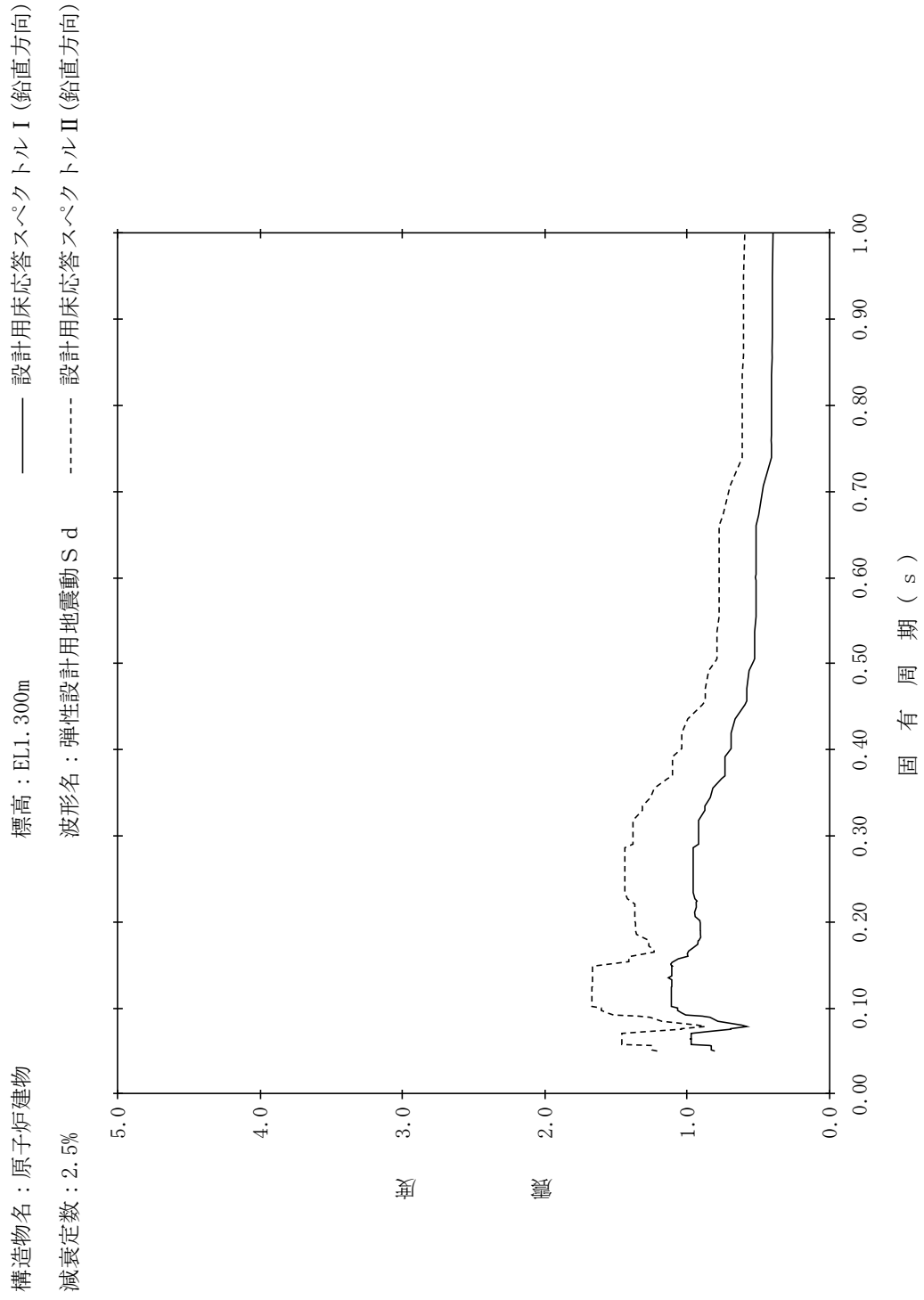
【NS2-RB-SdV-RB83】



【NS2-RB-SdV-RB84】

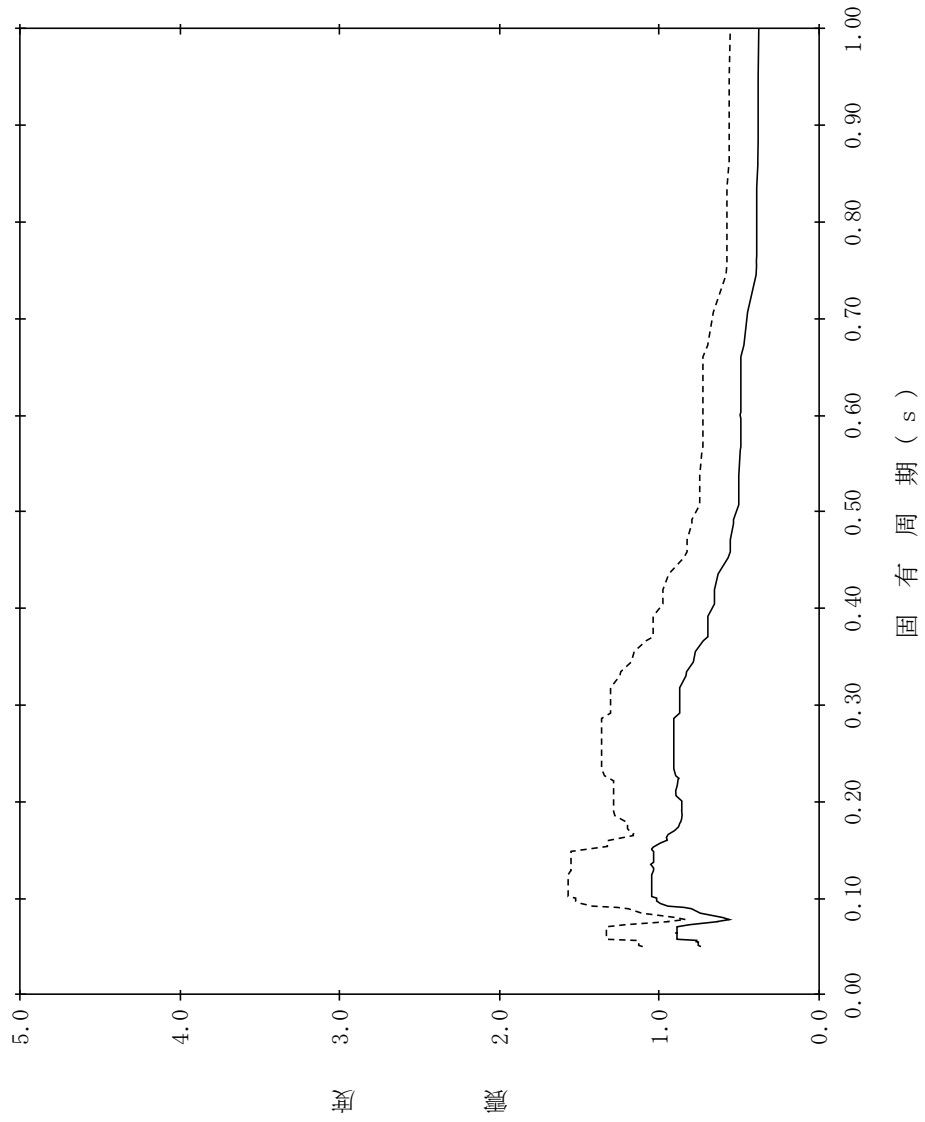


【NS2-RB-SdV-RB85】



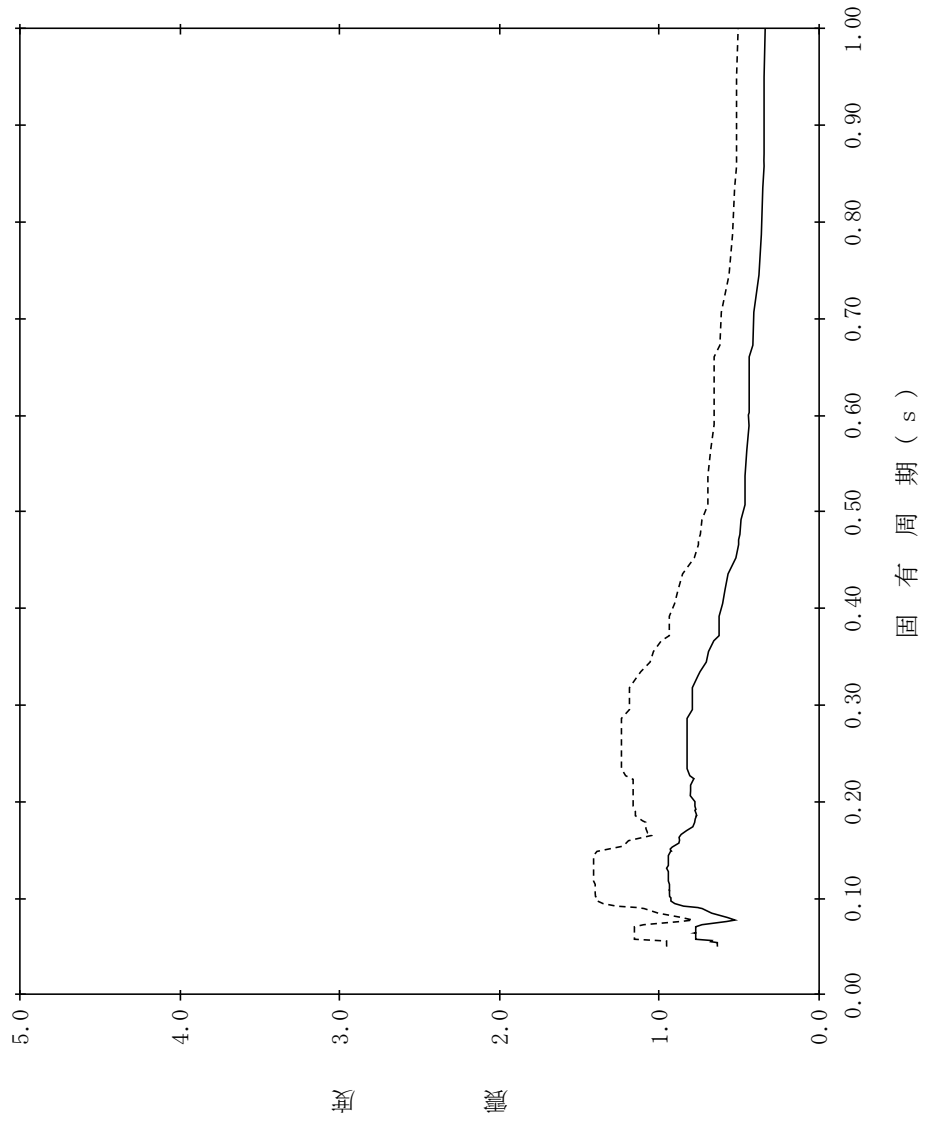
【NS2-RB-SdV-RB86】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

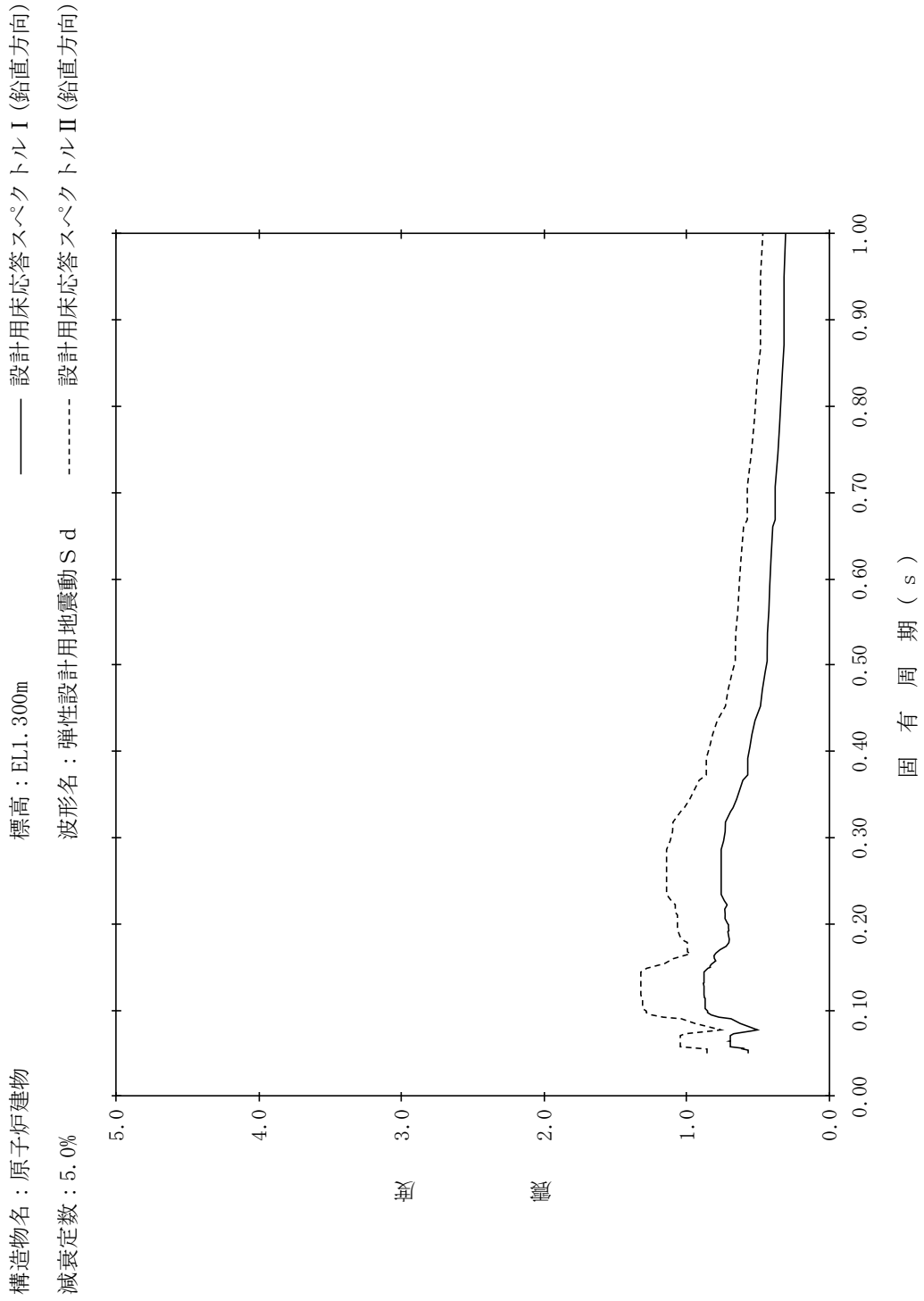


【NS2-RB-SdV-RB87】

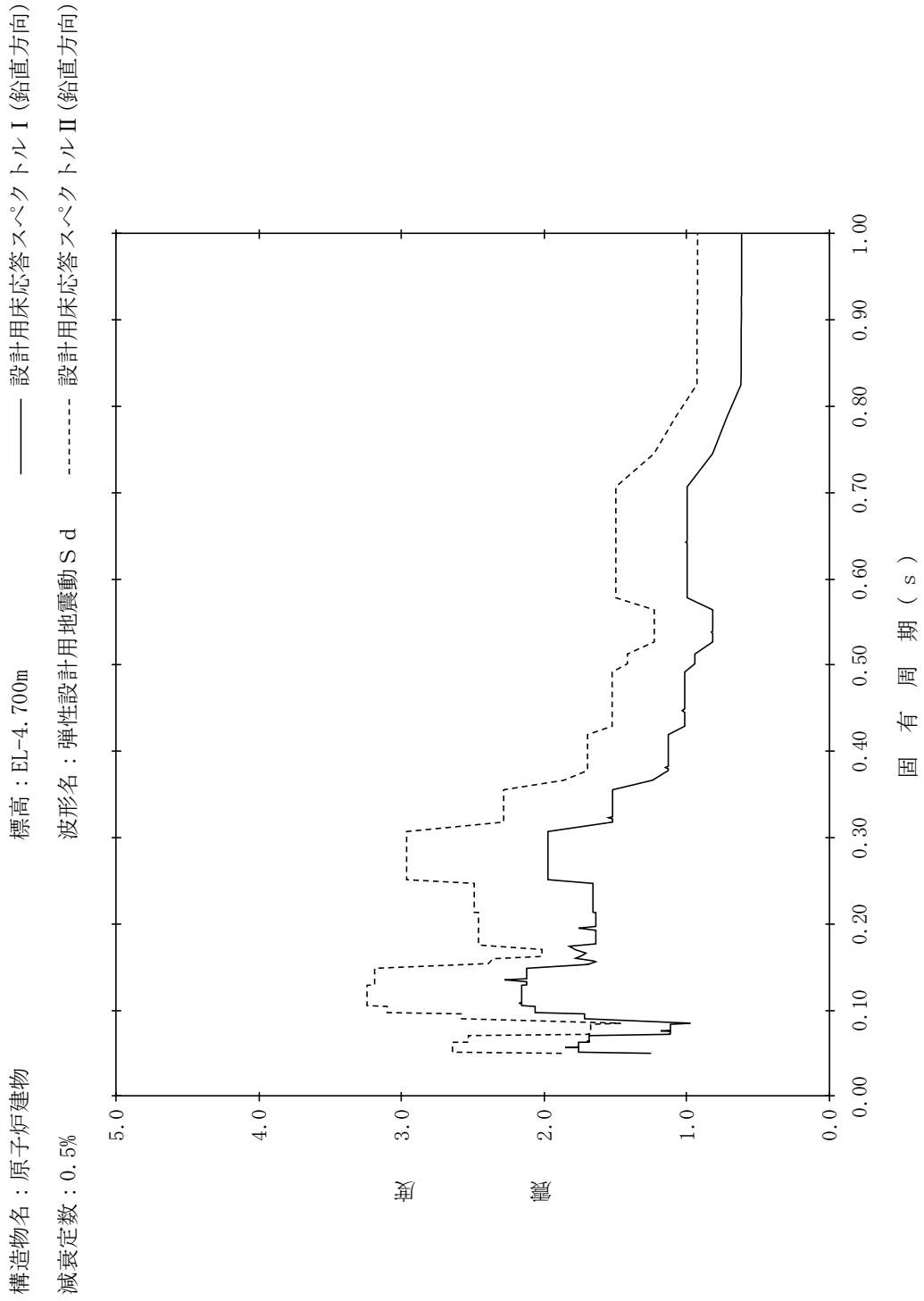
構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



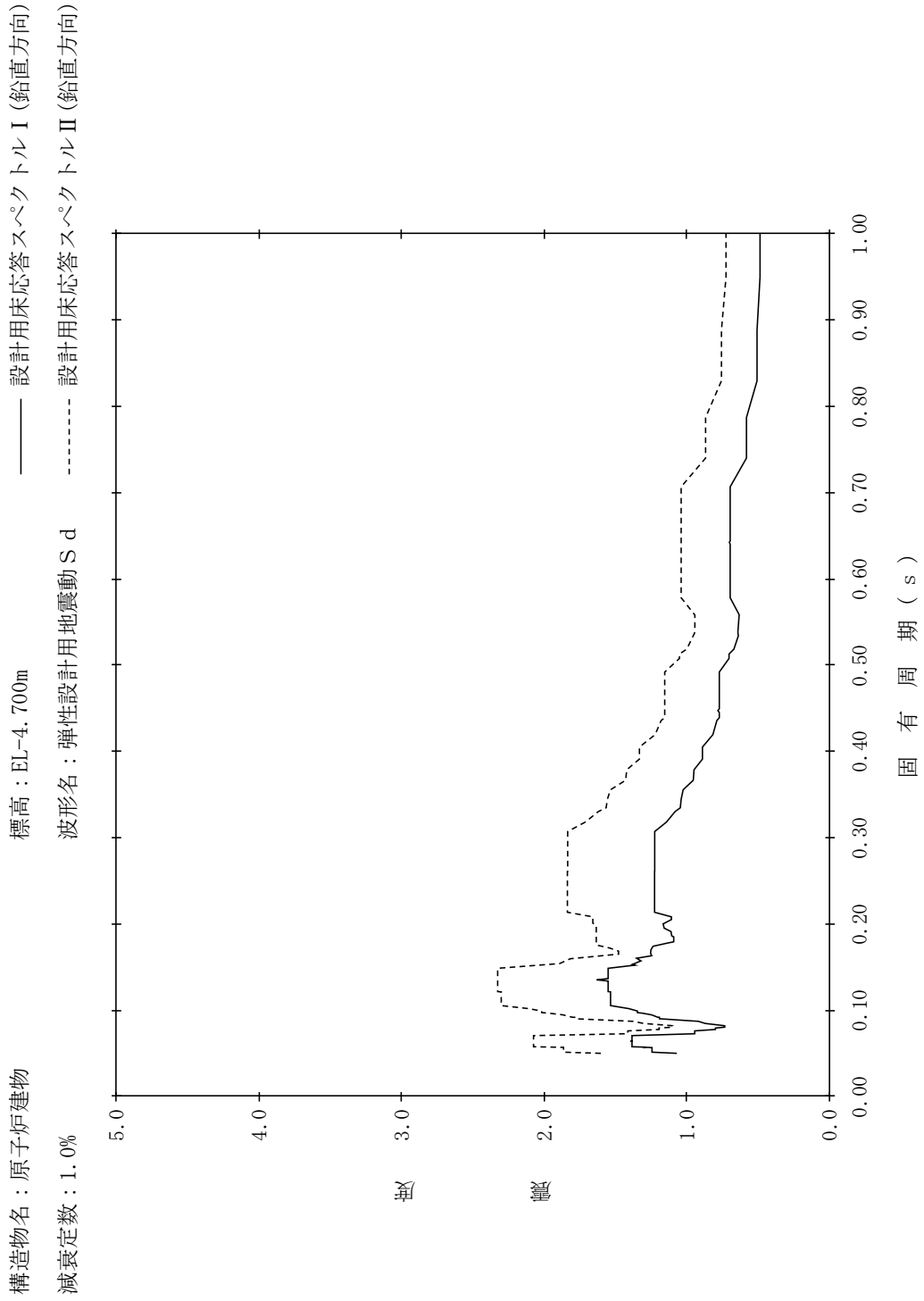
【NS2-RB-SdV-RB88】



【NS2-RB-SdV-RB89】

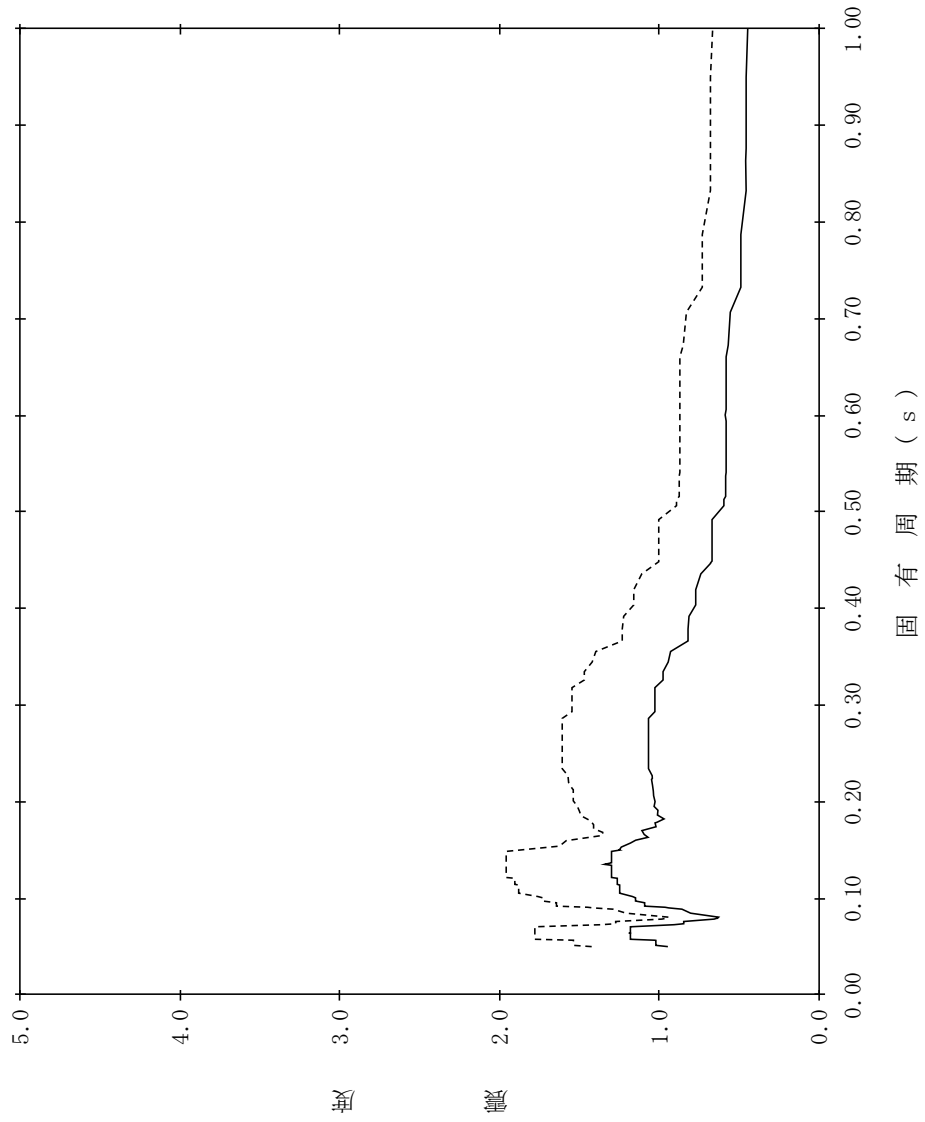


【NS2-RB-SdV-RB90】



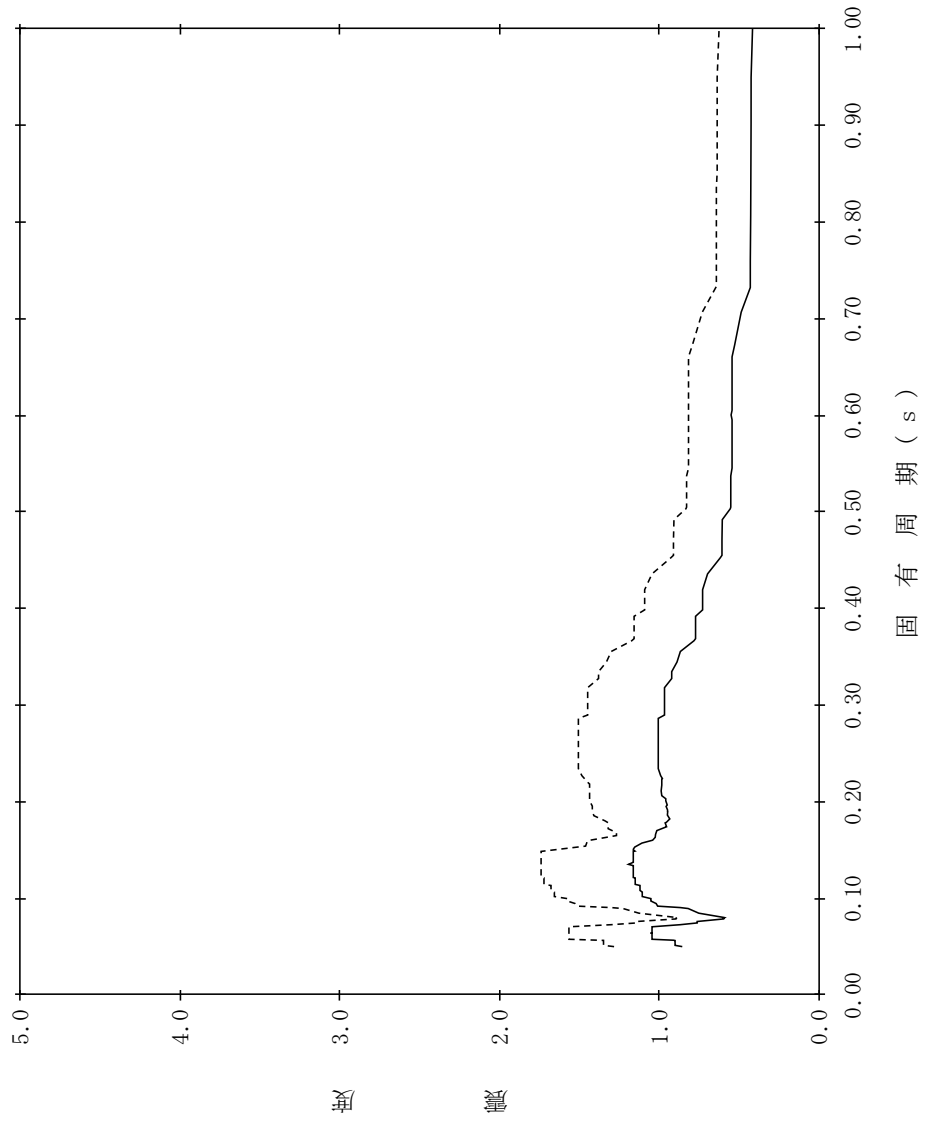
【NS2-RB-SdV-RB91】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



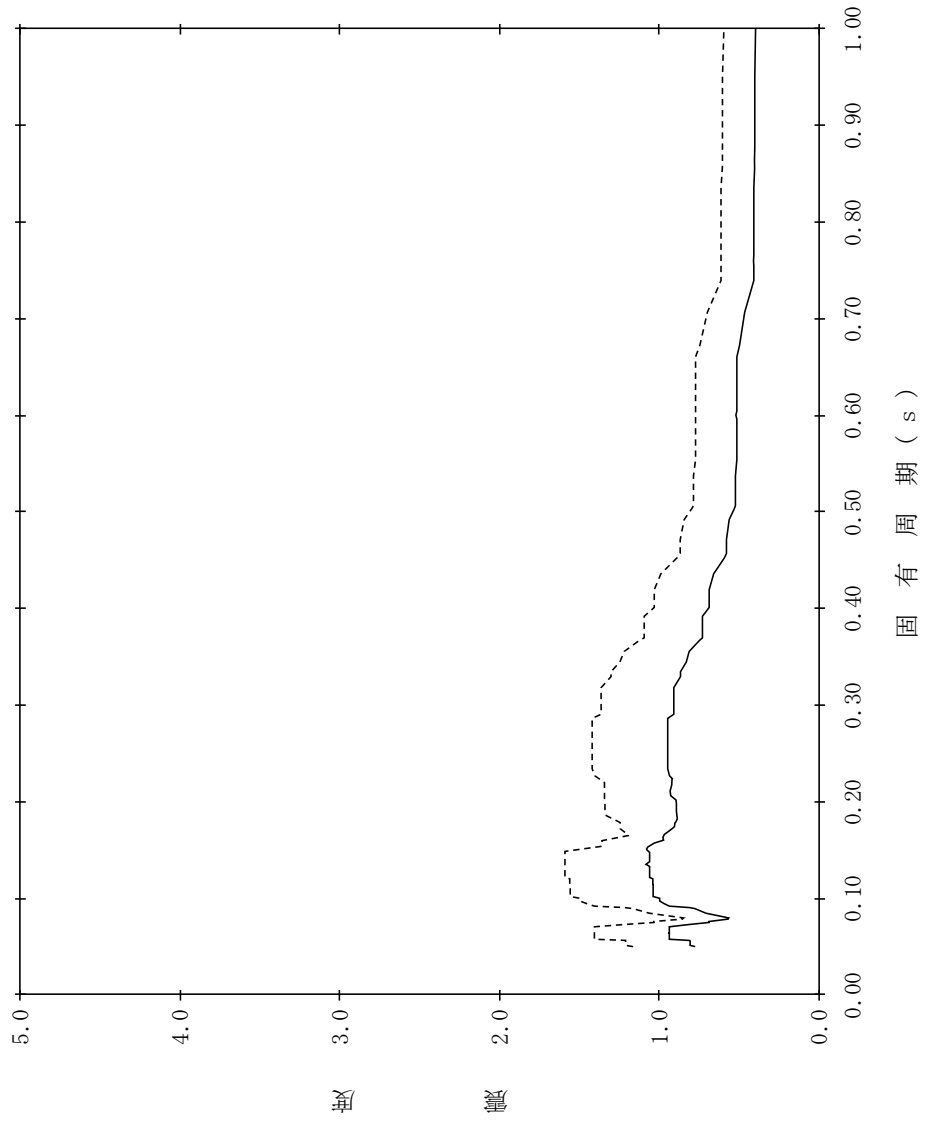
【NS2-RB-SdV-RB92】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



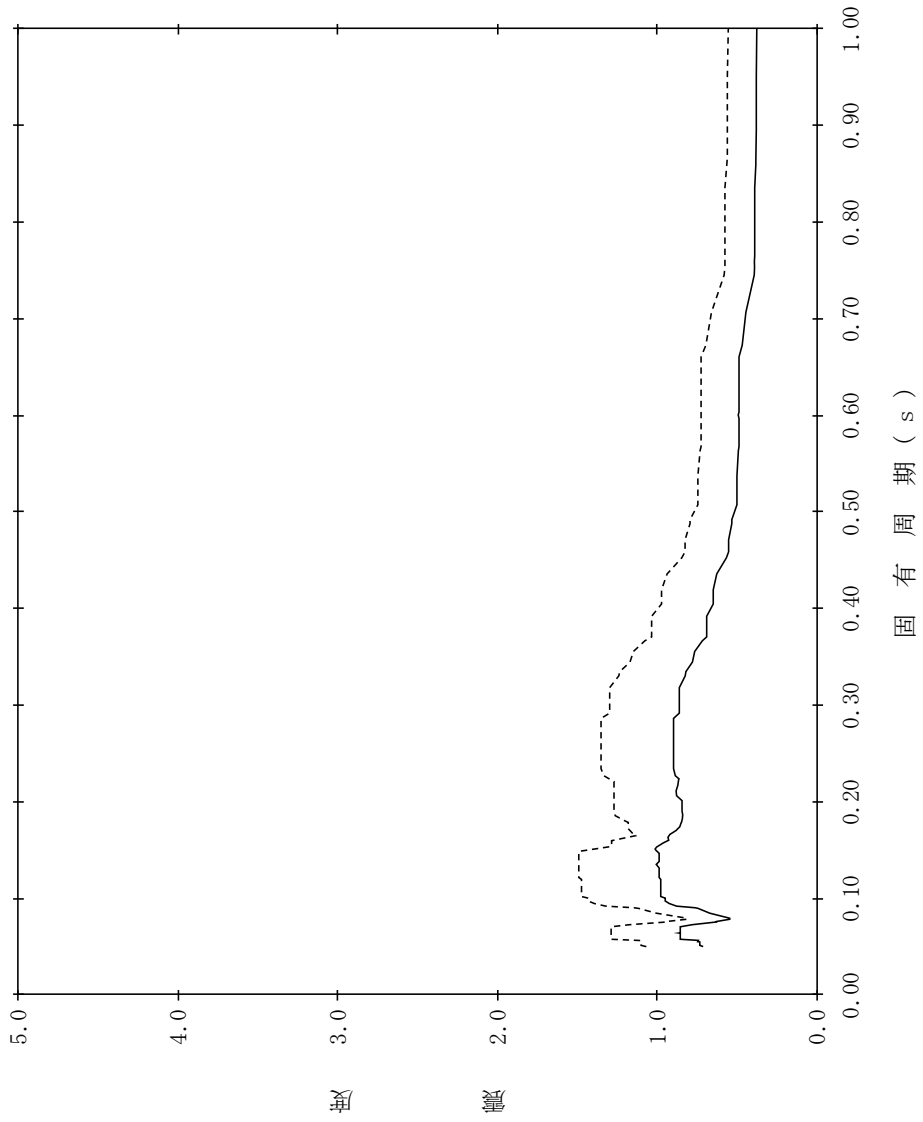
【NS2-RB-SdV-RB93】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



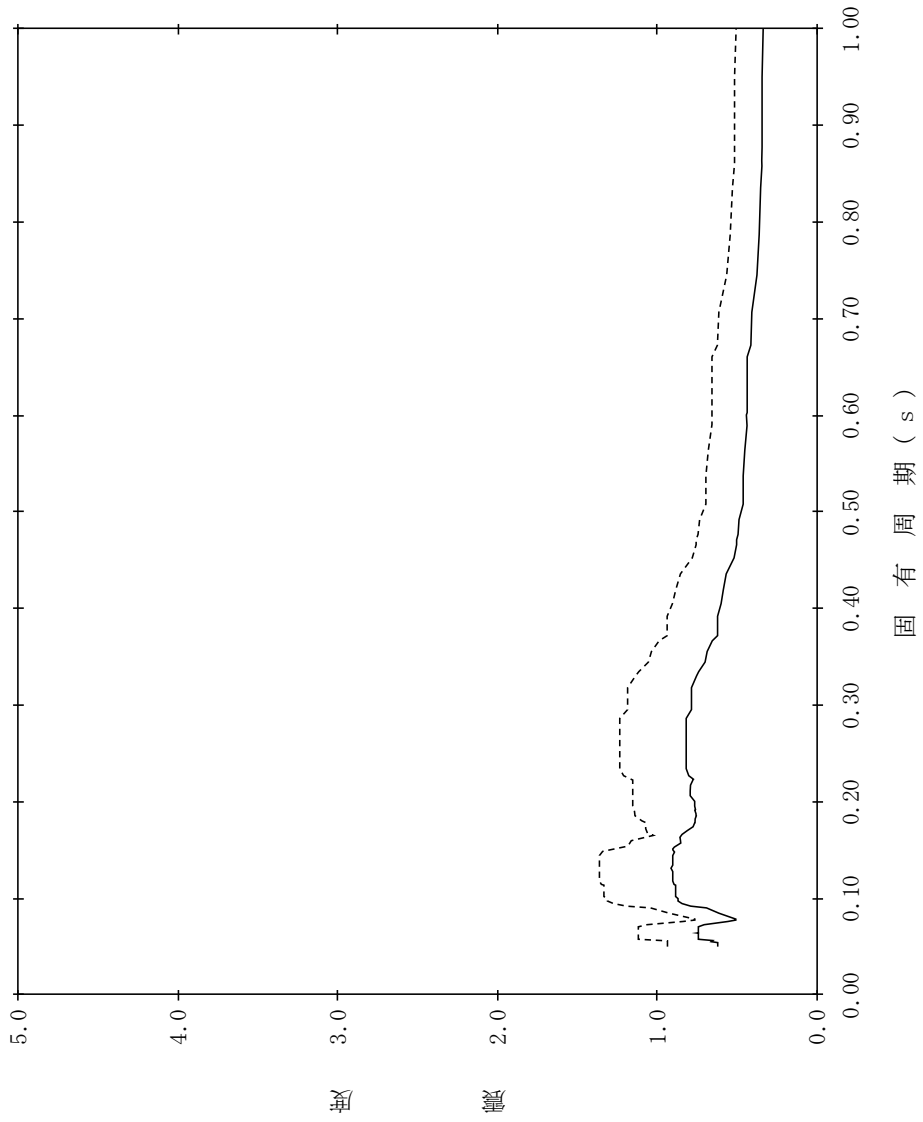
【NS2-RB-SdV-RB94】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RB-SdV-RB95】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RB-SdV-RB96】

構造物名：原子炉建物
標高：EL-4.700m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

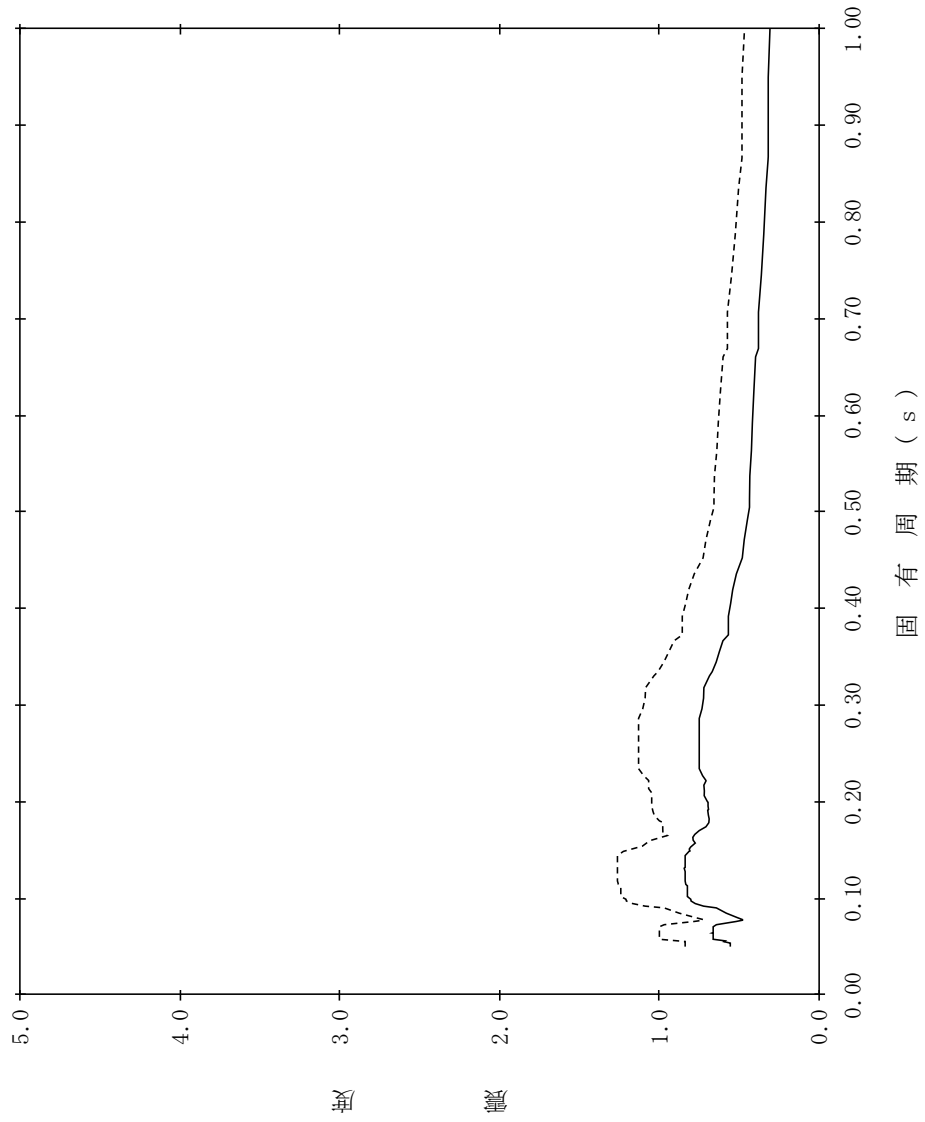


表 4.2-2 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉格納容器内) (1/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	原子炉格納容器	NS 方向	41	39.400	0.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 1
					1.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 2
					1.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 3
					2.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 4
					2.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 5
					3.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 6
					4.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 7
					5.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 8
			42	37.060	0.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 9
					1.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 10
					1.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 11
					2.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 12
					2.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 13
					3.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 14
					4.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 15
					5.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 16
			43	34.758	0.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 17
					1.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 18
					1.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 19
					2.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 20
					2.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 21
					3.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 22
					4.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 23
					5.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 24
			44	33.141	0.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 25
					1.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 26
					1.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 27
					2.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 28
					2.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 29
					3.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 30
					4.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 31
					5.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 32
			45	29.392	0.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 33
					1.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 34
					1.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 35
					2.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 36
					2.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 37
					3.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 38
					4.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 39
					5.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 40
			46	27.907	0.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 41
					1.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 42
					1.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 43
					2.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 44
					2.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 45
					3.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 46
					4.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 47
					5.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 48

表 4.2-2 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉格納容器内) (2/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	原子炉格納容器	NS 方向	47	22.932	0.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 49
					1.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 50
					1.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 51
					2.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 52
					2.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 53
					3.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 54
					4.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 55
					5.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 56
			48	19.878	0.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 57
					1.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 58
					1.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 59
					2.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 60
					2.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 61
					3.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 62
					4.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 63
					5.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 64
			49	16.825	0.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 65
					1.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 66
					1.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 67
					2.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 68
					2.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 69
					3.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 70
					4.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 71
					5.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 72
			50	13.700	0.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 73
					1.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 74
					1.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 75
					2.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 76
					2.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 77
					3.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 78
					4.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 79
					5.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 80
			51	11.900	0.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 81
					1.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 82
					1.5	NS2 - PCV - SdNS - PCV 83
					2.0	NS2 - PCV - SdNS - PCV 84
	2.5				NS2 - PCV - SdNS - PCV 85	
	3.0				NS2 - PCV - SdNS - PCV 86	
	4.0				NS2 - PCV - SdNS - PCV 87	
	5.0				NS2 - PCV - SdNS - PCV 88	
	ガンマ線遮蔽壁		29.962	0.5	NS2 - PCV - SdNS - GSW 89	
				1.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 90	
				1.5	NS2 - PCV - SdNS - GSW 91	
				2.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 92	
				2.5	NS2 - PCV - SdNS - GSW 93	
				3.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 94	
				4.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 95	
				5.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 96	

表 4.2-2 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉格納容器内) (3/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	ガンマ線遮蔽壁	NS 方向	54	26.981	0.5	NS2 - PCV - SdNS - GSW 97
					1.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 98
					1.5	NS2 - PCV - SdNS - GSW 99
					2.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 100
					2.5	NS2 - PCV - SdNS - GSW 101
					3.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 102
					4.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 103
					5.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 104
			55	24.000	0.5	NS2 - PCV - SdNS - GSW 105
					1.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 106
					1.5	NS2 - PCV - SdNS - GSW 107
					2.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 108
					2.5	NS2 - PCV - SdNS - GSW 109
					3.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 110
					4.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 111
					5.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 112
			56	21.500	0.5	NS2 - PCV - SdNS - GSW 113
					1.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 114
					1.5	NS2 - PCV - SdNS - GSW 115
					2.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 116
					2.5	NS2 - PCV - SdNS - GSW 117
					3.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 118
					4.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 119
					5.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 120
	57	19.000	0.5	NS2 - PCV - SdNS - GSW 121		
			1.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 122		
			1.5	NS2 - PCV - SdNS - GSW 123		
			2.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 124		
			2.5	NS2 - PCV - SdNS - GSW 125		
			3.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 126		
			4.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 127		
			5.0	NS2 - PCV - SdNS - GSW 128		
	原子炉压力容器 ペDESTAL	58	15.944	0.5	NS2 - PCV - SdNS - PED 129	
				1.0	NS2 - PCV - SdNS - PED 130	
				1.5	NS2 - PCV - SdNS - PED 131	
				2.0	NS2 - PCV - SdNS - PED 132	
				2.5	NS2 - PCV - SdNS - PED 133	
				3.0	NS2 - PCV - SdNS - PED 134	
				4.0	NS2 - PCV - SdNS - PED 135	
				5.0	NS2 - PCV - SdNS - PED 136	
		59	13.022	0.5	NS2 - PCV - SdNS - PED 137	
				1.0	NS2 - PCV - SdNS - PED 138	
				1.5	NS2 - PCV - SdNS - PED 139	
				2.0	NS2 - PCV - SdNS - PED 140	
2.5				NS2 - PCV - SdNS - PED 141		
3.0				NS2 - PCV - SdNS - PED 142		
4.0				NS2 - PCV - SdNS - PED 143		
5.0				NS2 - PCV - SdNS - PED 144		

表 4.2-2 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉格納容器内) (4/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	原子炉压力容器	NS 方向	65	32.567	0.5	NS2 - PCV - SdNS - RPV 145
					1.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 146
					1.5	NS2 - PCV - SdNS - RPV 147
					2.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 148
					2.5	NS2 - PCV - SdNS - RPV 149
					3.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 150
					4.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 151
					5.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 152
			69	29.181	0.5	NS2 - PCV - SdNS - RPV 153
					1.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 154
					1.5	NS2 - PCV - SdNS - RPV 155
					2.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 156
					2.5	NS2 - PCV - SdNS - RPV 157
					3.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 158
					4.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 159
					5.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 160
			71	27.317	0.5	NS2 - PCV - SdNS - RPV 161
					1.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 162
					1.5	NS2 - PCV - SdNS - RPV 163
					2.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 164
					2.5	NS2 - PCV - SdNS - RPV 165
					3.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 166
					4.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 167
					5.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 168
			76	23.707	0.5	NS2 - PCV - SdNS - RPV 169
					1.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 170
					1.5	NS2 - PCV - SdNS - RPV 171
					2.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 172
					2.5	NS2 - PCV - SdNS - RPV 173
					3.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 174
					4.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 175
					5.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 176
			83	18.250	0.5	NS2 - PCV - SdNS - RPV 177
					1.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 178
					1.5	NS2 - PCV - SdNS - RPV 179
					2.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 180
2.5	NS2 - PCV - SdNS - RPV 181					
3.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 182					
4.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 183					
5.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 184					

表 4.2-2 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉格納容器内) (5/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	炉心シュラウド (上部格子板)	NS 方向	113	25.843	0.5	NS2 - PCV - SdNS - SHD 185
					1.0	NS2 - PCV - SdNS - SHD 186
					1.5	NS2 - PCV - SdNS - SHD 187
					2.0	NS2 - PCV - SdNS - SHD 188
					2.5	NS2 - PCV - SdNS - SHD 189
					3.0	NS2 - PCV - SdNS - SHD 190
					4.0	NS2 - PCV - SdNS - SHD 191
					5.0	NS2 - PCV - SdNS - SHD 192
	炉心シュラウド (炉心支持板)		0.5	NS2 - PCV - SdNS - SHD 193		
			1.0	NS2 - PCV - SdNS - SHD 194		
			1.5	NS2 - PCV - SdNS - SHD 195		
			2.0	NS2 - PCV - SdNS - SHD 196		
			2.5	NS2 - PCV - SdNS - SHD 197		
			3.0	NS2 - PCV - SdNS - SHD 198		
			4.0	NS2 - PCV - SdNS - SHD 199		
			5.0	NS2 - PCV - SdNS - SHD 200		
	原子炉圧力容器 下鏡		0.5	NS2 - PCV - SdNS - RPV 201		
			1.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 202		
			1.5	NS2 - PCV - SdNS - RPV 203		
			2.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 204		
			2.5	NS2 - PCV - SdNS - RPV 205		
			3.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 206		
			4.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 207		
			5.0	NS2 - PCV - SdNS - RPV 208		

表 4.2-2 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉格納容器内) (6/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	原子炉格納容器	EW 方向	42	39.400	0.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 1
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 2
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 3
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 4
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 5
					3.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 6
					4.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 7
					5.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 8
			43	37.060	0.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 9
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 10
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 11
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 12
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 13
					3.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 14
					4.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 15
					5.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 16
			44	34.758	0.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 17
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 18
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 19
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 20
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 21
					3.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 22
					4.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 23
					5.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 24
			45	33.141	0.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 25
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 26
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 27
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 28
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 29
					3.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 30
					4.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 31
					5.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 32
			46	29.392	0.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 33
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 34
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 35
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 36
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 37
					3.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 38
					4.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 39
					5.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 40
			47	27.907	0.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 41
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 42
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 43
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 44
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 45
					3.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 46
					4.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 47
					5.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 48

表 4.2-2 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉格納容器内) (7/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	原子炉格納容器	EW 方向	48	22.932	0.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 49
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 50
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 51
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 52
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 53
					3.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 54
					4.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 55
			5.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 56		
			49	19.878	0.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 57
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 58
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 59
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 60
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 61
					3.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 62
					4.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 63
			5.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 64		
			50	16.825	0.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 65
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 66
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 67
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 68
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 69
					3.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 70
					4.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 71
			5.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 72		
			51	13.700	0.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 73
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 74
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 75
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 76
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 77
					3.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 78
					4.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 79
			5.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 80		
			52	11.900	0.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 81
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 82
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 83
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 84
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - PCV 85
					3.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 86
					4.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 87
			5.0	NS2 - PCV - SdEW - PCV 88		
			54	29.962	0.5	NS2 - PCV - SdEW - GSW 89
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 90
	1.5	NS2 - PCV - SdEW - GSW 91				
	2.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 92				
	2.5	NS2 - PCV - SdEW - GSW 93				
	3.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 94				
	4.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 95				
	5.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 96				

表 4.2-2 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉格納容器内) (8/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	ガンマ線遮蔽壁	EW 方向	55	26.981	0.5	NS2 - PCV - SdEW - GSW 97
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 98
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - GSW 99
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 100
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - GSW 101
					3.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 102
					4.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 103
					5.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 104
			56	24.000	0.5	NS2 - PCV - SdEW - GSW 105
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 106
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - GSW 107
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 108
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - GSW 109
					3.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 110
					4.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 111
					5.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 112
			57	21.500	0.5	NS2 - PCV - SdEW - GSW 113
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 114
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - GSW 115
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 116
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - GSW 117
					3.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 118
					4.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 119
					5.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 120
	58	19.000	0.5	NS2 - PCV - SdEW - GSW 121		
			1.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 122		
			1.5	NS2 - PCV - SdEW - GSW 123		
			2.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 124		
			2.5	NS2 - PCV - SdEW - GSW 125		
			3.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 126		
			4.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 127		
			5.0	NS2 - PCV - SdEW - GSW 128		
	原子炉圧力容器 ペDESTAL	59	15.944	0.5	NS2 - PCV - SdEW - PED 129	
				1.0	NS2 - PCV - SdEW - PED 130	
				1.5	NS2 - PCV - SdEW - PED 131	
				2.0	NS2 - PCV - SdEW - PED 132	
				2.5	NS2 - PCV - SdEW - PED 133	
				3.0	NS2 - PCV - SdEW - PED 134	
				4.0	NS2 - PCV - SdEW - PED 135	
				5.0	NS2 - PCV - SdEW - PED 136	
		60	13.022	0.5	NS2 - PCV - SdEW - PED 137	
				1.0	NS2 - PCV - SdEW - PED 138	
				1.5	NS2 - PCV - SdEW - PED 139	
				2.0	NS2 - PCV - SdEW - PED 140	
				2.5	NS2 - PCV - SdEW - PED 141	
				3.0	NS2 - PCV - SdEW - PED 142	
				4.0	NS2 - PCV - SdEW - PED 143	
				5.0	NS2 - PCV - SdEW - PED 144	

表 4.2-2 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉格納容器内) (9/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	原子炉压力容器	EW 方向	66	32.567	0.5	NS2 - PCV - SdEW - RPV 145
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 146
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - RPV 147
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 148
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - RPV 149
					3.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 150
					4.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 151
					5.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 152
			70	29.181	0.5	NS2 - PCV - SdEW - RPV 153
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 154
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - RPV 155
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 156
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - RPV 157
					3.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 158
					4.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 159
					5.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 160
			72	27.317	0.5	NS2 - PCV - SdEW - RPV 161
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 162
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - RPV 163
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 164
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - RPV 165
					3.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 166
					4.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 167
					5.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 168
			77	23.707	0.5	NS2 - PCV - SdEW - RPV 169
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 170
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - RPV 171
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 172
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - RPV 173
					3.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 174
					4.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 175
					5.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 176
84	18.250	0.5	NS2 - PCV - SdEW - RPV 177			
		1.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 178			
		1.5	NS2 - PCV - SdEW - RPV 179			
		2.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 180			
		2.5	NS2 - PCV - SdEW - RPV 181			
		3.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 182			
		4.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 183			
		5.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 184			

表 4.2-2 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉格納容器内) (10/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	炉心シュラウド (上部格子板)	EW 方向	114	25.843	0.5	NS2 - PCV - SdEW - SHD 185
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - SHD 186
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - SHD 187
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - SHD 188
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - SHD 189
					3.0	NS2 - PCV - SdEW - SHD 190
					4.0	NS2 - PCV - SdEW - SHD 191
					5.0	NS2 - PCV - SdEW - SHD 192
	炉心シュラウド (炉心支持板)	EW 方向	120	21.571	0.5	NS2 - PCV - SdEW - SHD 193
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - SHD 194
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - SHD 195
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - SHD 196
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - SHD 197
					3.0	NS2 - PCV - SdEW - SHD 198
					4.0	NS2 - PCV - SdEW - SHD 199
					5.0	NS2 - PCV - SdEW - SHD 200
	原子炉圧力容器 下鏡	EW 方向	86, 87, 88	18.250~16.508	0.5	NS2 - PCV - SdEW - RPV 201
					1.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 202
					1.5	NS2 - PCV - SdEW - RPV 203
					2.0	NS2 - PCV - SdEW - RPV 204
					2.5	NS2 - PCV - SdEW - RPV 205
3.0					NS2 - PCV - SdEW - RPV 206	
4.0					NS2 - PCV - SdEW - RPV 207	
5.0					NS2 - PCV - SdEW - RPV 208	

表 4.2-2 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉格納容器内) (11/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	原子炉格納容器	鉛直 方向	29	39.400	0.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 1
					1.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 2
					1.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 3
					2.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 4
					2.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 5
					3.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 6
					4.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 7
					5.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 8
			30	37.060	0.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 9
					1.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 10
					1.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 11
					2.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 12
					2.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 13
					3.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 14
					4.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 15
					5.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 16
			31	34.758	0.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 17
					1.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 18
					1.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 19
					2.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 20
					2.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 21
					3.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 22
					4.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 23
					5.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 24
			32	33.141	0.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 25
					1.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 26
					1.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 27
					2.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 28
					2.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 29
					3.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 30
					4.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 31
					5.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 32
			33	29.392	0.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 33
					1.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 34
					1.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 35
					2.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 36
					2.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 37
					3.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 38
					4.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 39
					5.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 40
			34	27.907	0.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 41
					1.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 42
					1.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 43
					2.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 44
					2.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 45
					3.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 46
					4.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 47
					5.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 48

表 4.2-2 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉格納容器内) (12/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番	
S d	原子炉格納容器	鉛直 方向	35	22.932	0.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 49	
					1.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 50	
					1.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 51	
					2.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 52	
					2.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 53	
					3.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 54	
					4.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 55	
					5.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 56	
			36	19.878	0.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 57	
					1.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 58	
					1.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 59	
					2.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 60	
					2.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 61	
					3.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 62	
					4.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 63	
					5.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 64	
			37	16.825	0.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 65	
					1.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 66	
					1.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 67	
					2.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 68	
					2.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 69	
					3.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 70	
					4.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 71	
					5.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 72	
			38	13.700	0.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 73	
					1.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 74	
					1.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 75	
					2.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 76	
					2.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 77	
					3.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 78	
					4.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 79	
					5.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 80	
			39	11.900	0.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 81	
					1.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 82	
					1.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 83	
					2.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 84	
					2.5	NS2 - PCV - SdV - PCV 85	
					3.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 86	
					4.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 87	
					5.0	NS2 - PCV - SdV - PCV 88	
			ガンマ線遮蔽壁	41	29.962	0.5	NS2 - PCV - SdV - GSW 89
						1.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 90
	1.5	NS2 - PCV - SdV - GSW 91					
	2.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 92					
	2.5	NS2 - PCV - SdV - GSW 93					
	3.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 94					
	4.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 95					
	5.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 96					

表 4.2-2 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉格納容器内) (13/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	ガンマ線遮蔽壁	鉛直方向	42	26.981	0.5	NS2 - PCV - SdV - GSW 97
					1.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 98
					1.5	NS2 - PCV - SdV - GSW 99
					2.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 100
					2.5	NS2 - PCV - SdV - GSW 101
					3.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 102
					4.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 103
					5.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 104
			43	24.000	0.5	NS2 - PCV - SdV - GSW 105
					1.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 106
					1.5	NS2 - PCV - SdV - GSW 107
					2.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 108
					2.5	NS2 - PCV - SdV - GSW 109
					3.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 110
					4.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 111
					5.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 112
			44	21.500	0.5	NS2 - PCV - SdV - GSW 113
					1.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 114
					1.5	NS2 - PCV - SdV - GSW 115
					2.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 116
					2.5	NS2 - PCV - SdV - GSW 117
					3.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 118
					4.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 119
					5.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 120
	45	19.000	0.5	NS2 - PCV - SdV - GSW 121		
			1.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 122		
			1.5	NS2 - PCV - SdV - GSW 123		
			2.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 124		
			2.5	NS2 - PCV - SdV - GSW 125		
			3.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 126		
			4.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 127		
			5.0	NS2 - PCV - SdV - GSW 128		
	原子炉圧力容器 ベDESTAL	46	15.944	0.5	NS2 - PCV - SdV - PED 129	
				1.0	NS2 - PCV - SdV - PED 130	
				1.5	NS2 - PCV - SdV - PED 131	
				2.0	NS2 - PCV - SdV - PED 132	
				2.5	NS2 - PCV - SdV - PED 133	
				3.0	NS2 - PCV - SdV - PED 134	
				4.0	NS2 - PCV - SdV - PED 135	
				5.0	NS2 - PCV - SdV - PED 136	
		47	13.022	0.5	NS2 - PCV - SdV - PED 137	
				1.0	NS2 - PCV - SdV - PED 138	
				1.5	NS2 - PCV - SdV - PED 139	
				2.0	NS2 - PCV - SdV - PED 140	
2.5				NS2 - PCV - SdV - PED 141		
3.0				NS2 - PCV - SdV - PED 142		
4.0				NS2 - PCV - SdV - PED 143		
5.0				NS2 - PCV - SdV - PED 144		

表 4.2-2 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉格納容器内) (14/15)

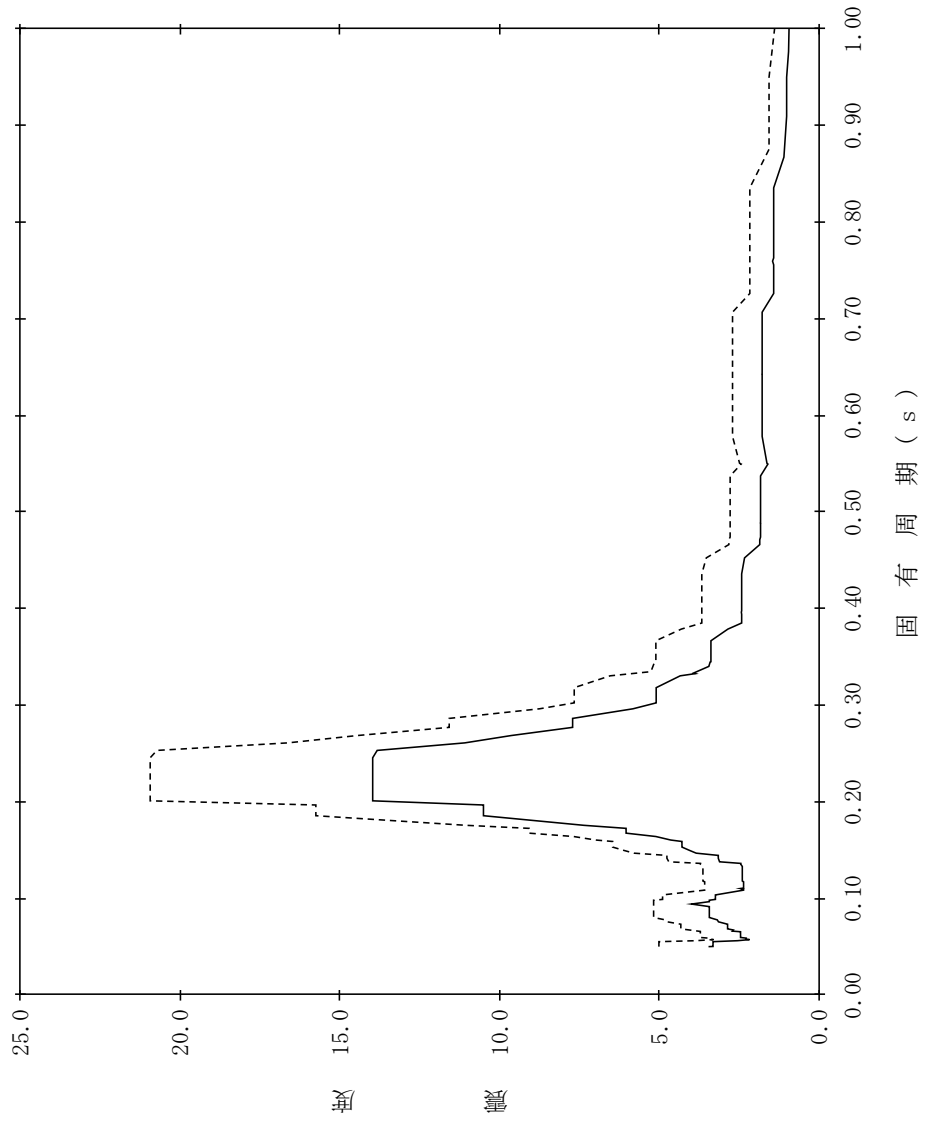
地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	原子炉压力容器	鉛直方向	53	32.567	0.5	NS2 - PCV - SdV - RPV 145
					1.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 146
					1.5	NS2 - PCV - SdV - RPV 147
					2.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 148
					2.5	NS2 - PCV - SdV - RPV 149
					3.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 150
					4.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 151
					5.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 152
			57	29.181	0.5	NS2 - PCV - SdV - RPV 153
					1.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 154
					1.5	NS2 - PCV - SdV - RPV 155
					2.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 156
					2.5	NS2 - PCV - SdV - RPV 157
					3.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 158
					4.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 159
					5.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 160
			59	27.317	0.5	NS2 - PCV - SdV - RPV 161
					1.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 162
					1.5	NS2 - PCV - SdV - RPV 163
					2.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 164
					2.5	NS2 - PCV - SdV - RPV 165
					3.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 166
					4.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 167
					5.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 168
			64	23.707	0.5	NS2 - PCV - SdV - RPV 169
					1.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 170
					1.5	NS2 - PCV - SdV - RPV 171
					2.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 172
2.5	NS2 - PCV - SdV - RPV 173					
3.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 174					
4.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 175					
5.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 176					
71	18.250	0.5	NS2 - PCV - SdV - RPV 177			
		1.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 178			
		1.5	NS2 - PCV - SdV - RPV 179			
		2.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 180			
		2.5	NS2 - PCV - SdV - RPV 181			
		3.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 182			
		4.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 183			
		5.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 184			

表 4.2-2 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (原子炉格納容器内) (15/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	炉心シュラウド (上部格子板)	鉛直 方向	80	25.843	0.5	NS2 - PCV - SdV - SHD 185
					1.0	NS2 - PCV - SdV - SHD 186
					1.5	NS2 - PCV - SdV - SHD 187
					2.0	NS2 - PCV - SdV - SHD 188
					2.5	NS2 - PCV - SdV - SHD 189
					3.0	NS2 - PCV - SdV - SHD 190
					4.0	NS2 - PCV - SdV - SHD 191
					5.0	NS2 - PCV - SdV - SHD 192
	炉心シュラウド (炉心支持板)		0.5	NS2 - PCV - SdV - SHD 193		
			1.0	NS2 - PCV - SdV - SHD 194		
			1.5	NS2 - PCV - SdV - SHD 195		
			2.0	NS2 - PCV - SdV - SHD 196		
			2.5	NS2 - PCV - SdV - SHD 197		
			3.0	NS2 - PCV - SdV - SHD 198		
			4.0	NS2 - PCV - SdV - SHD 199		
			5.0	NS2 - PCV - SdV - SHD 200		
	原子炉圧力容器 下鏡		0.5	NS2 - PCV - SdV - RPV 201		
			1.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 202		
			1.5	NS2 - PCV - SdV - RPV 203		
			2.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 204		
			2.5	NS2 - PCV - SdV - RPV 205		
			3.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 206		
			4.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 207		
			5.0	NS2 - PCV - SdV - RPV 208		

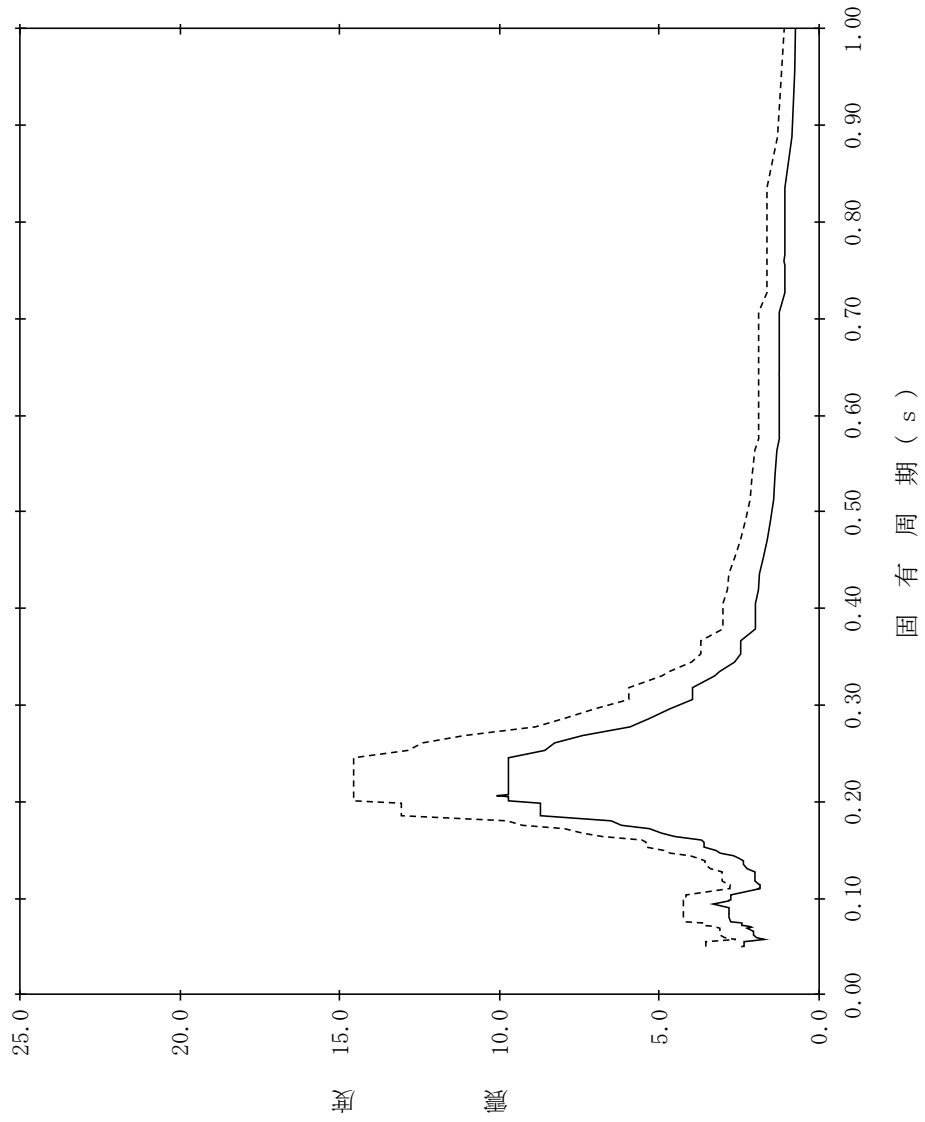
【NS2-PCV-SdNS-PCV1】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



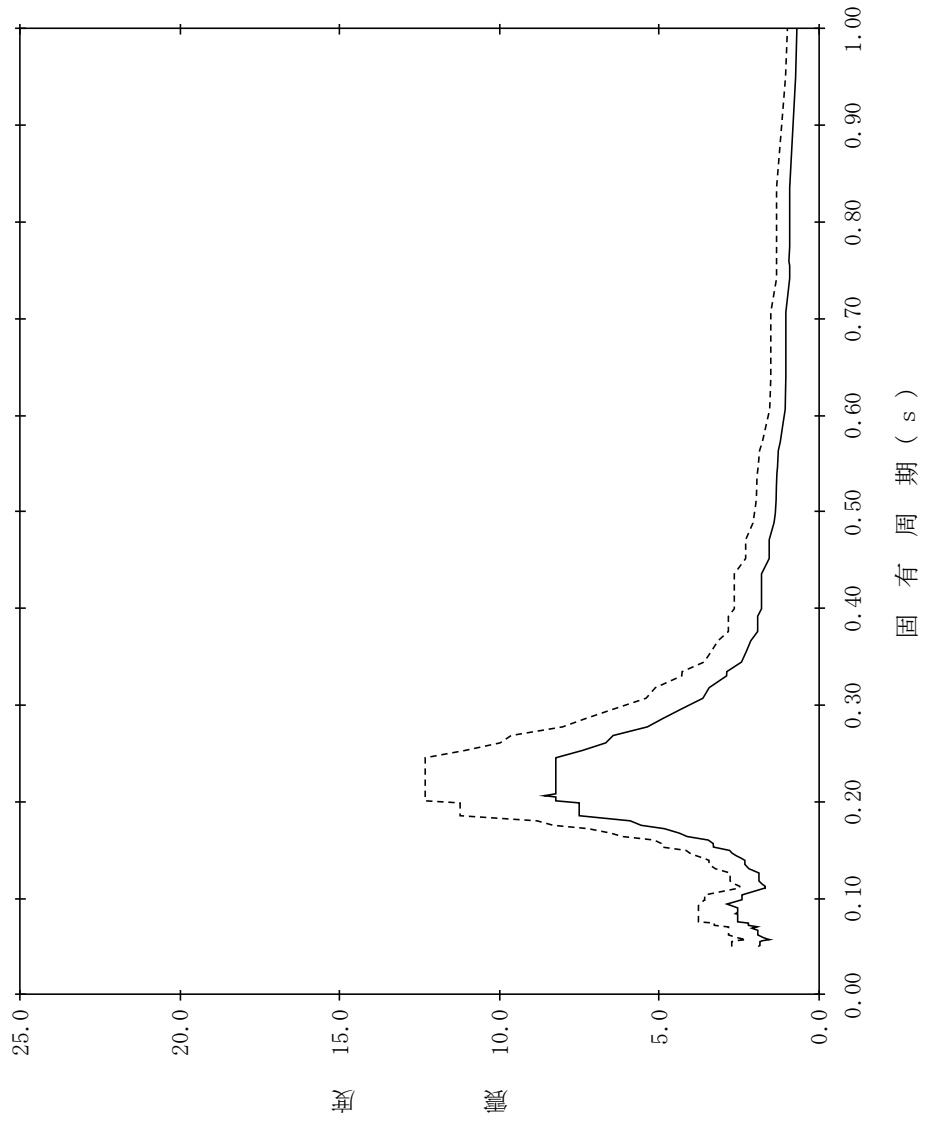
【NS2-PCV-SdNS-PCV2】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



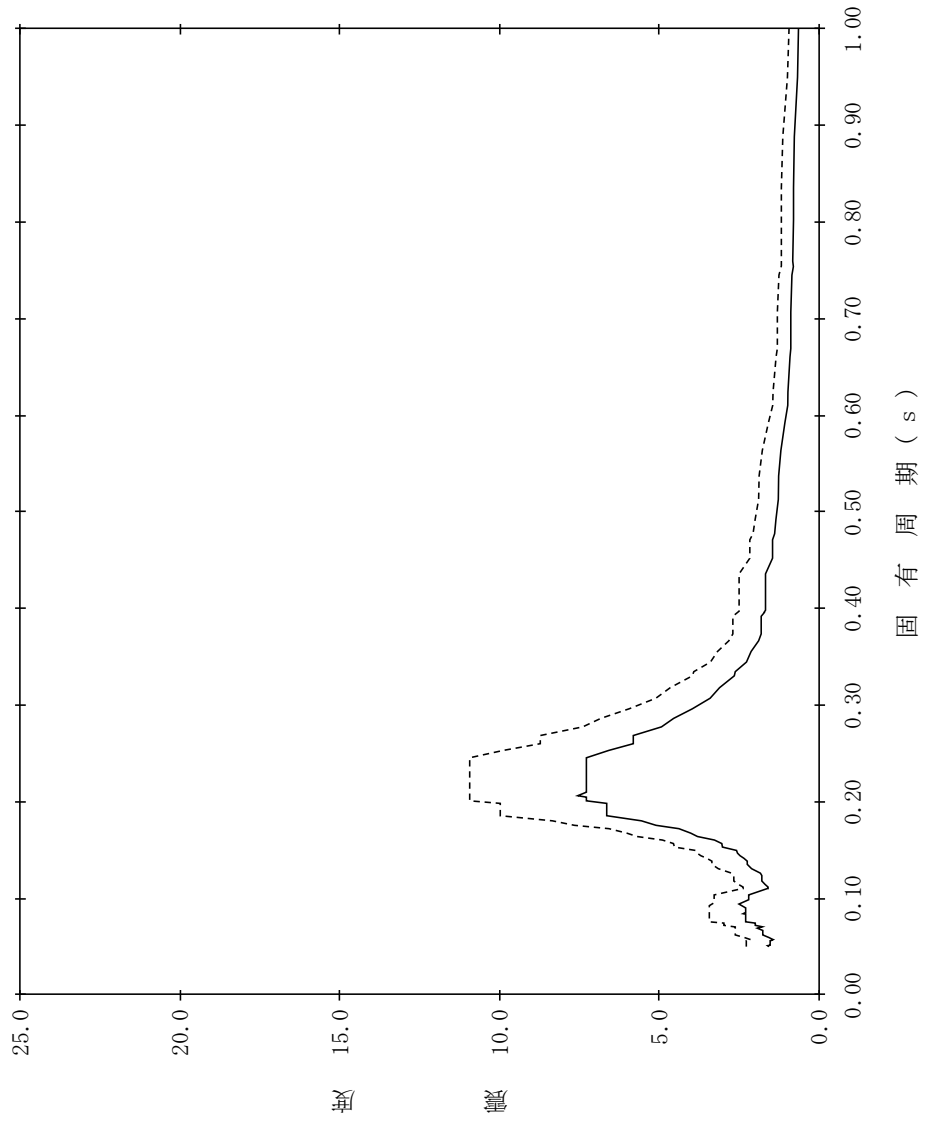
【NS2-PCV-SdNS-PCV3】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



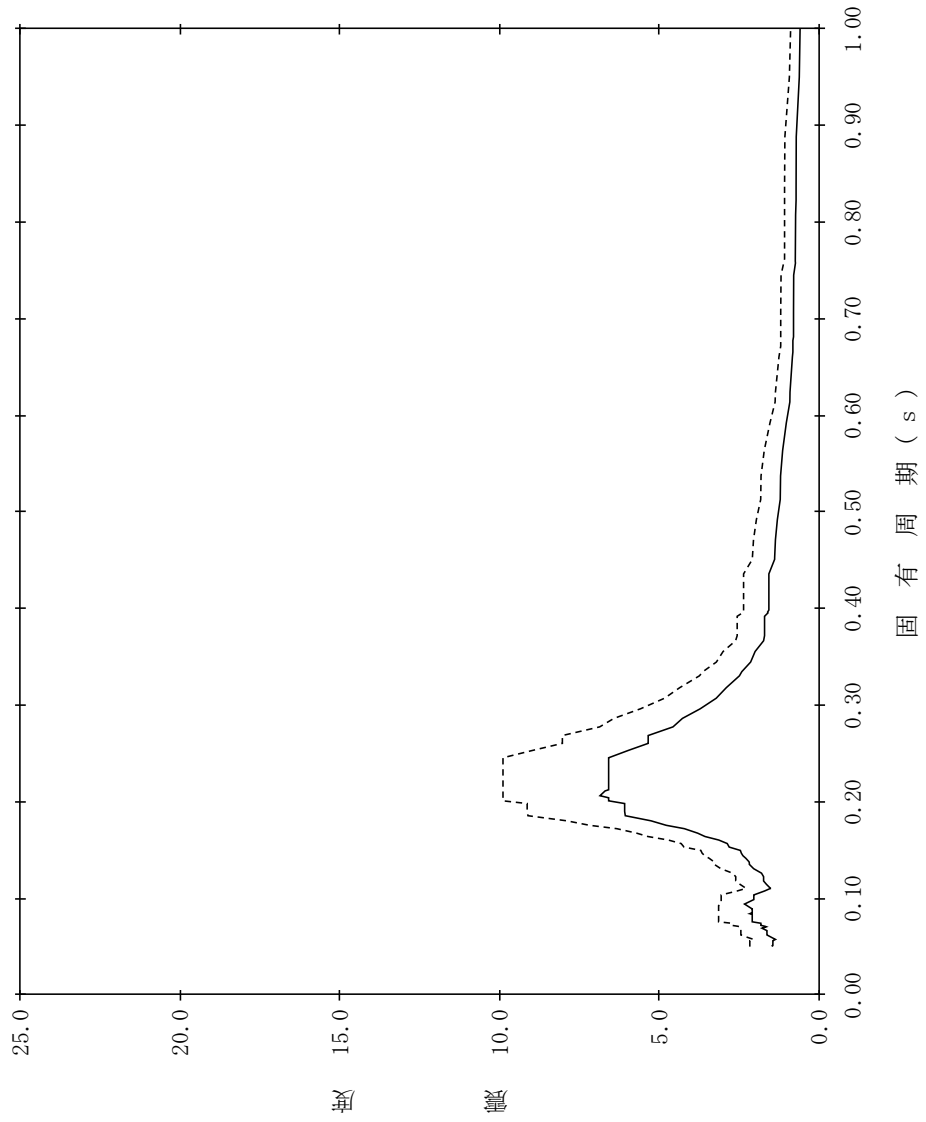
【NS2-PCV-SdNS-PCV4】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



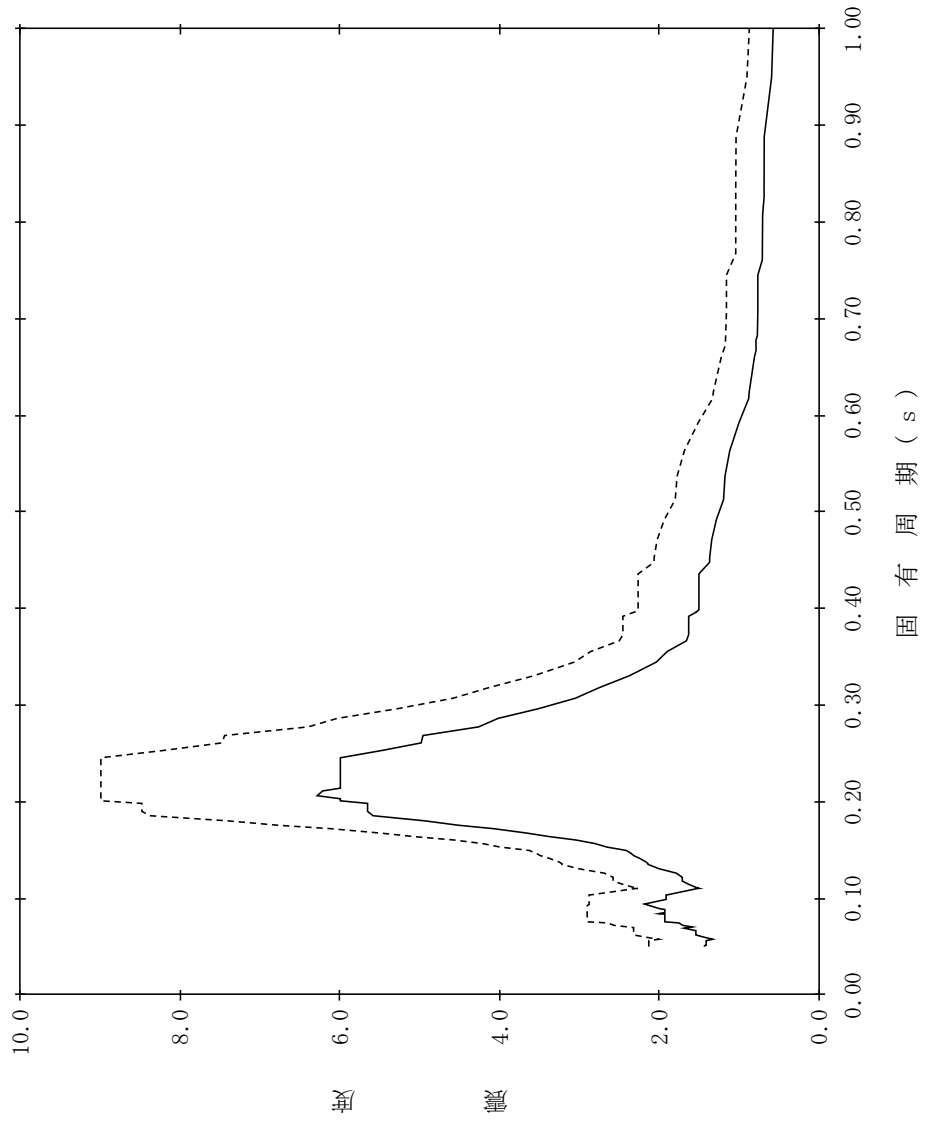
【NS2-PCV-SdNS-PCV5】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



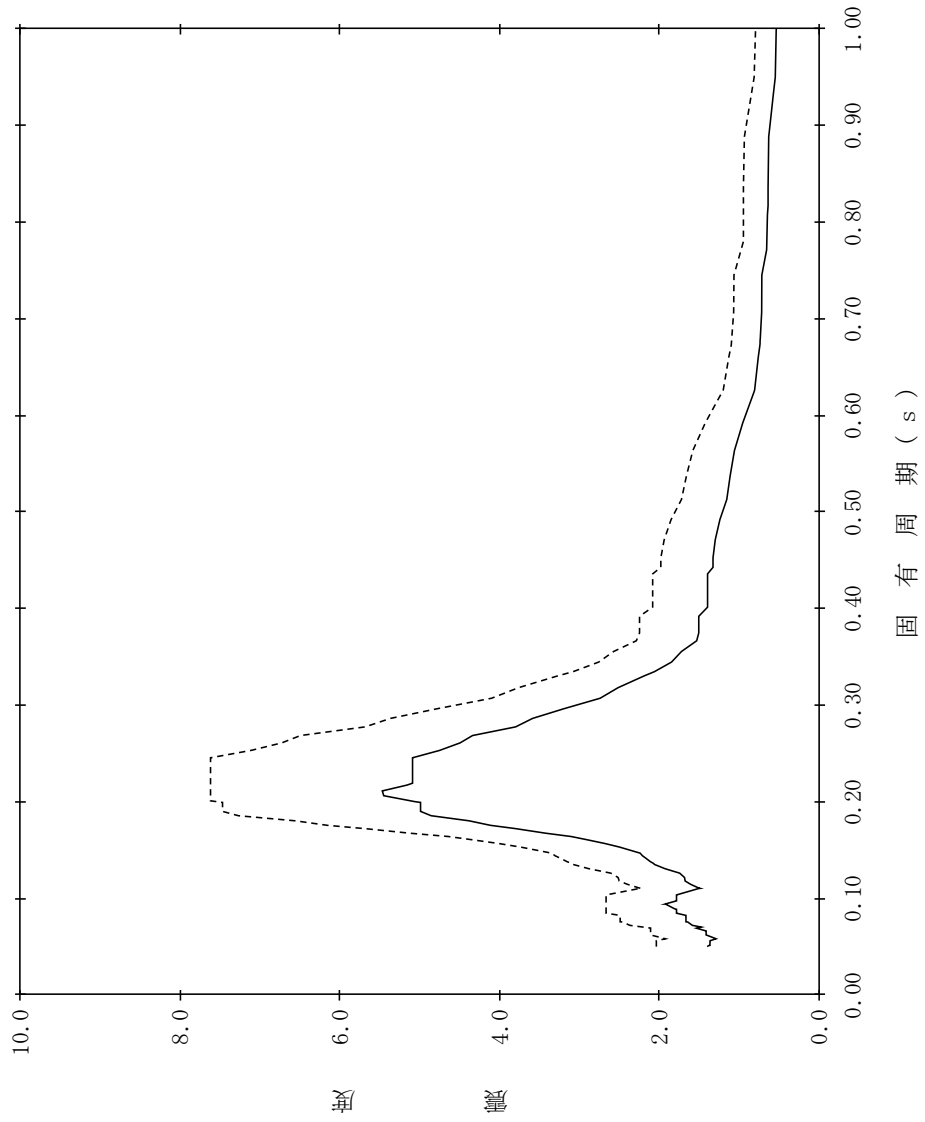
【NS2-PCV-SdNS-PCV6】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



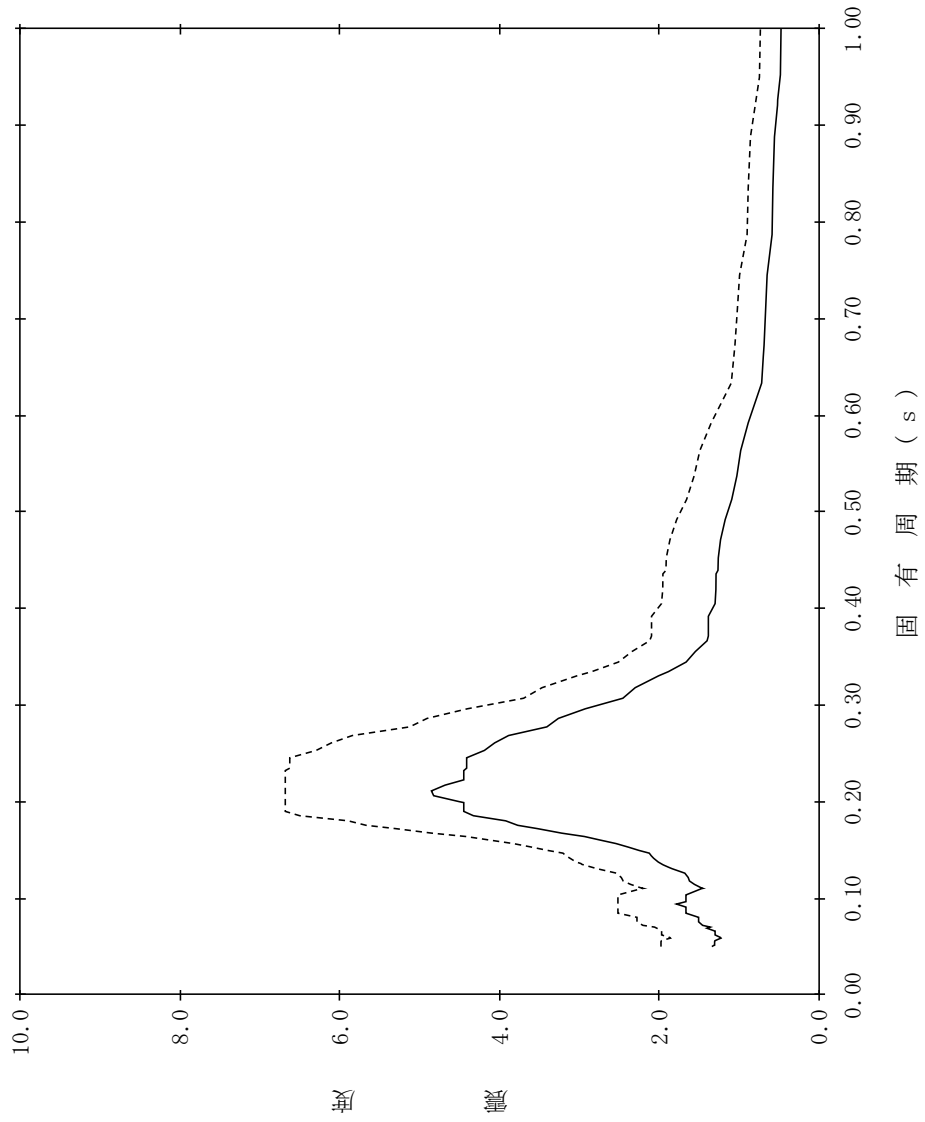
【NS2-PCV-SdNS-PCV7】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



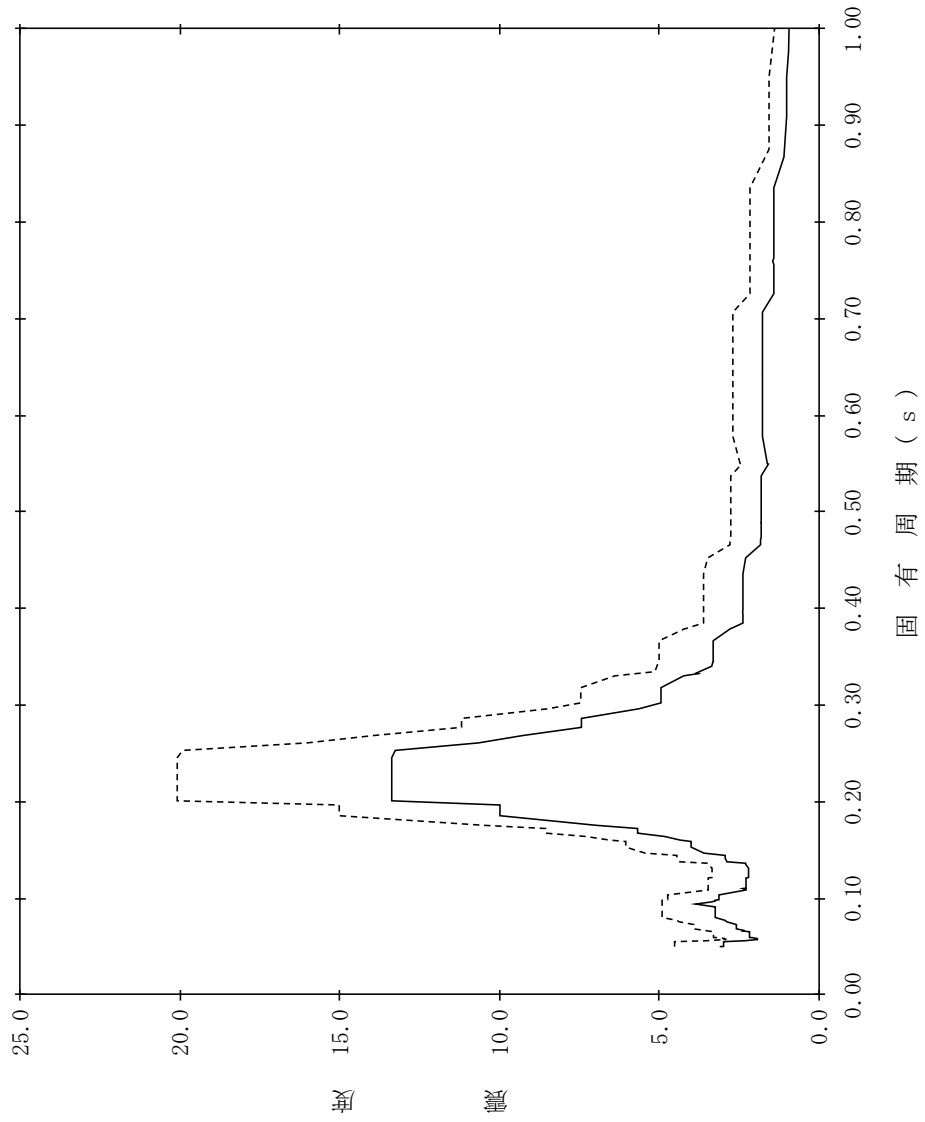
【NS2-PCV-SdNS-PCV8】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



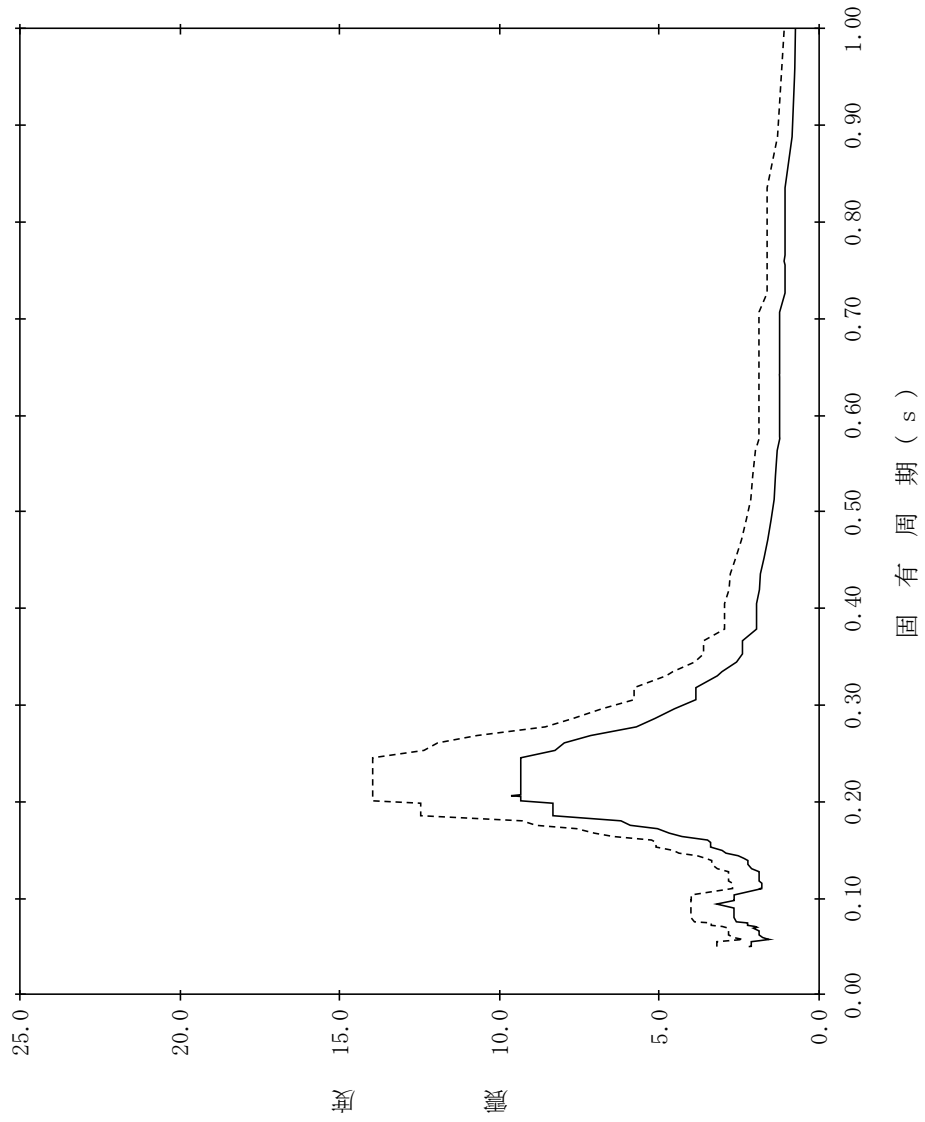
【NS2-PCV-SdNS-PCV9】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



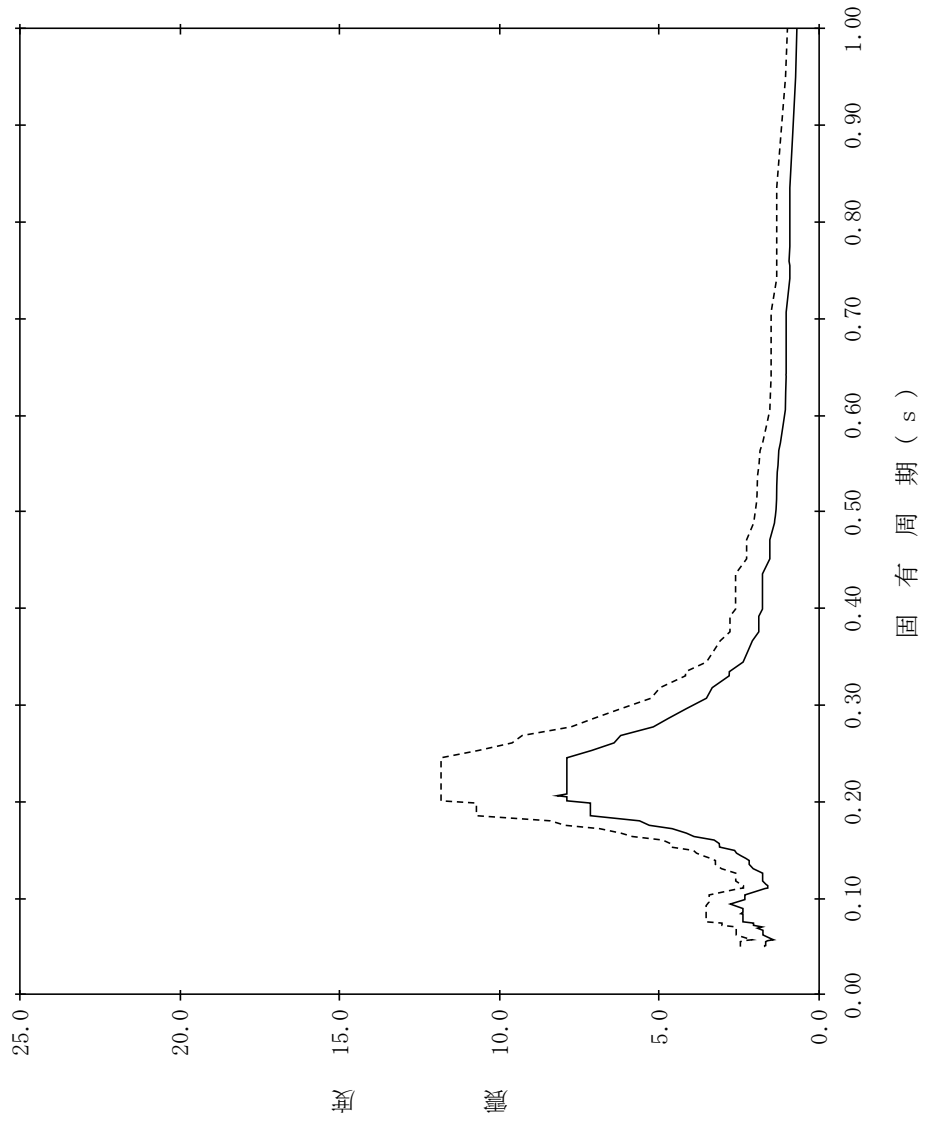
【NS2-PCV-SdNS-PCV10】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



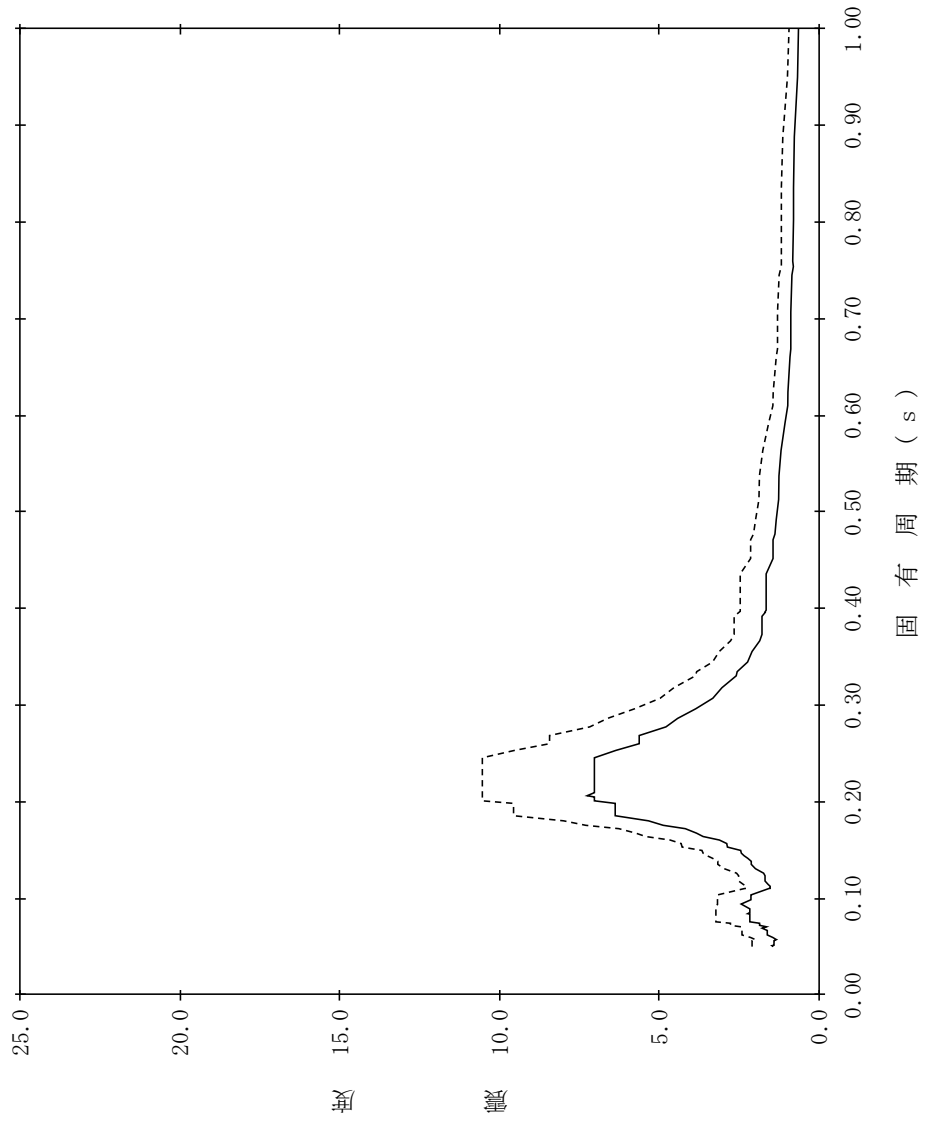
【NS2-PCV-SdNS-PCV11】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



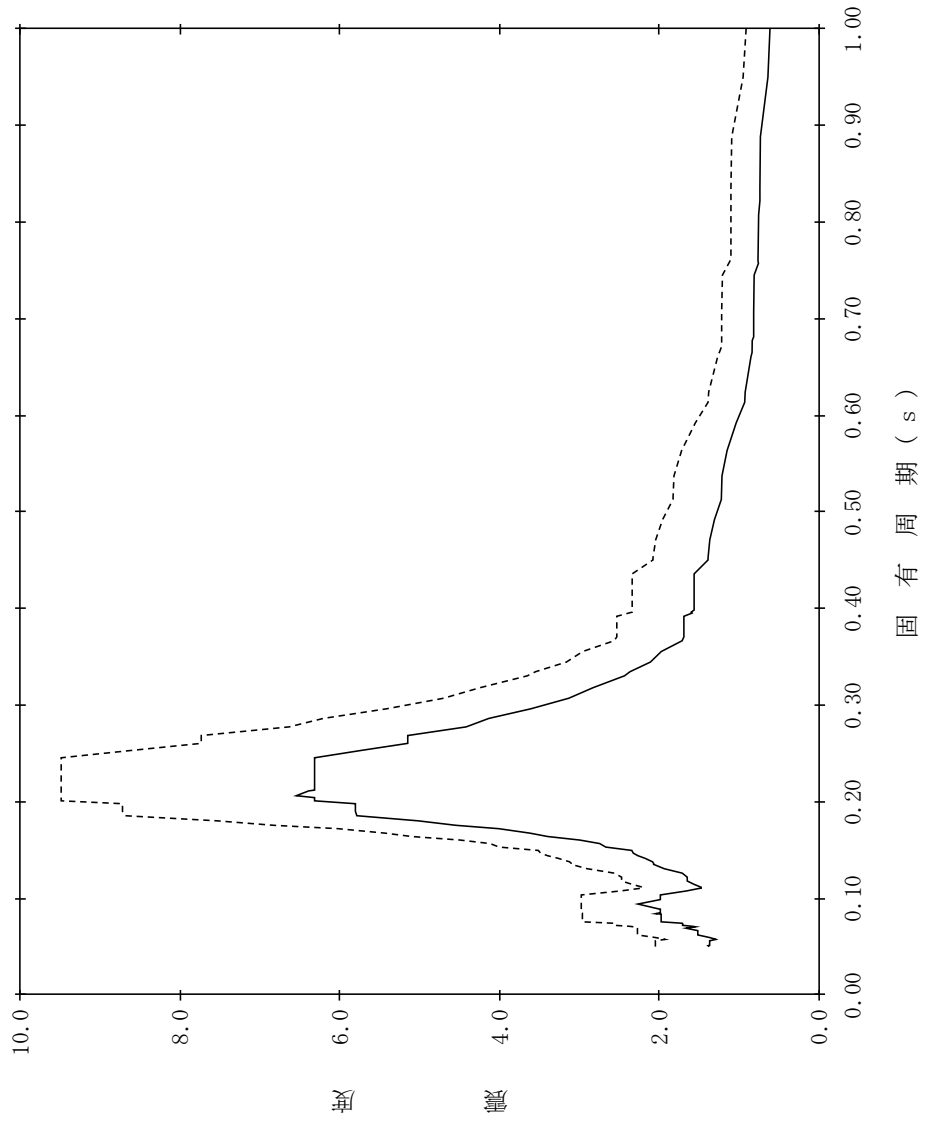
【NS2-PCV-SdNS-PCV12】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



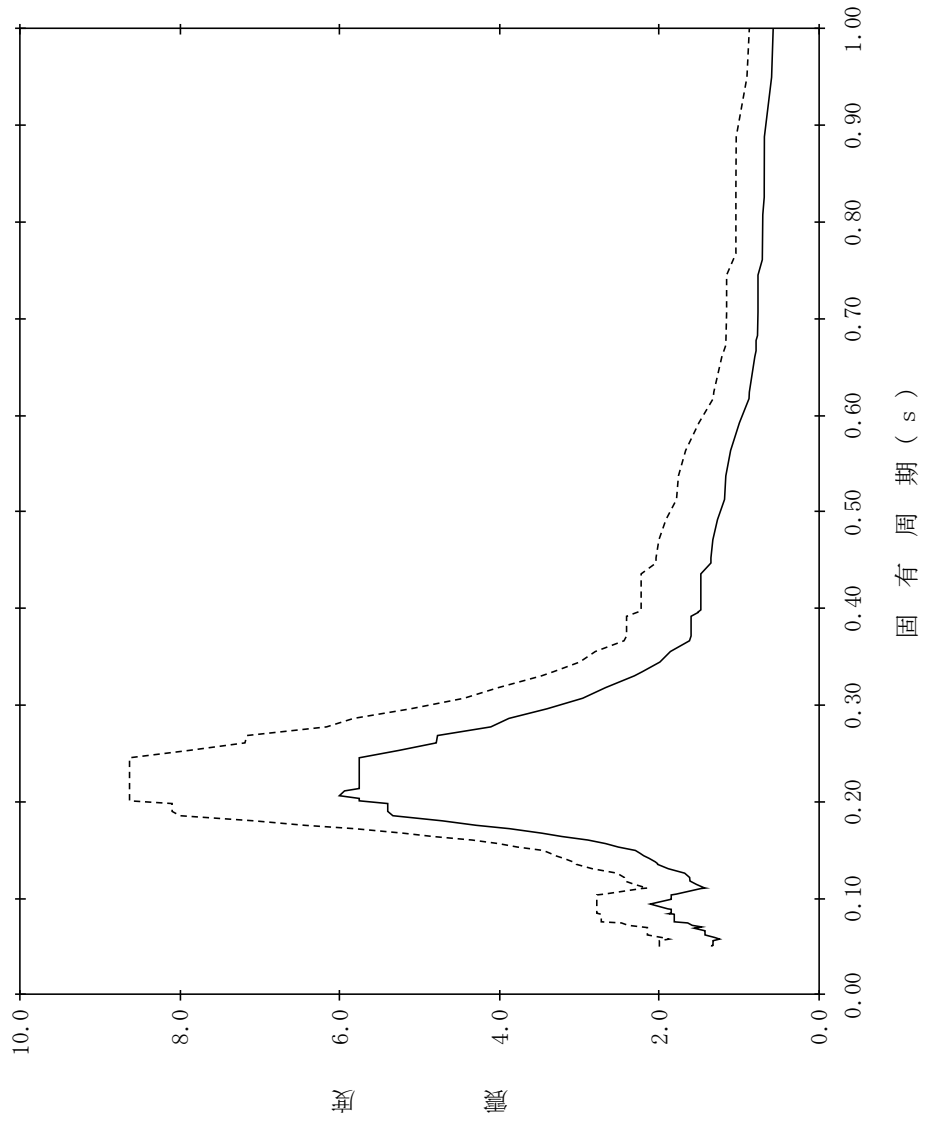
【NS2-PCV-SdNS-PCV13】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



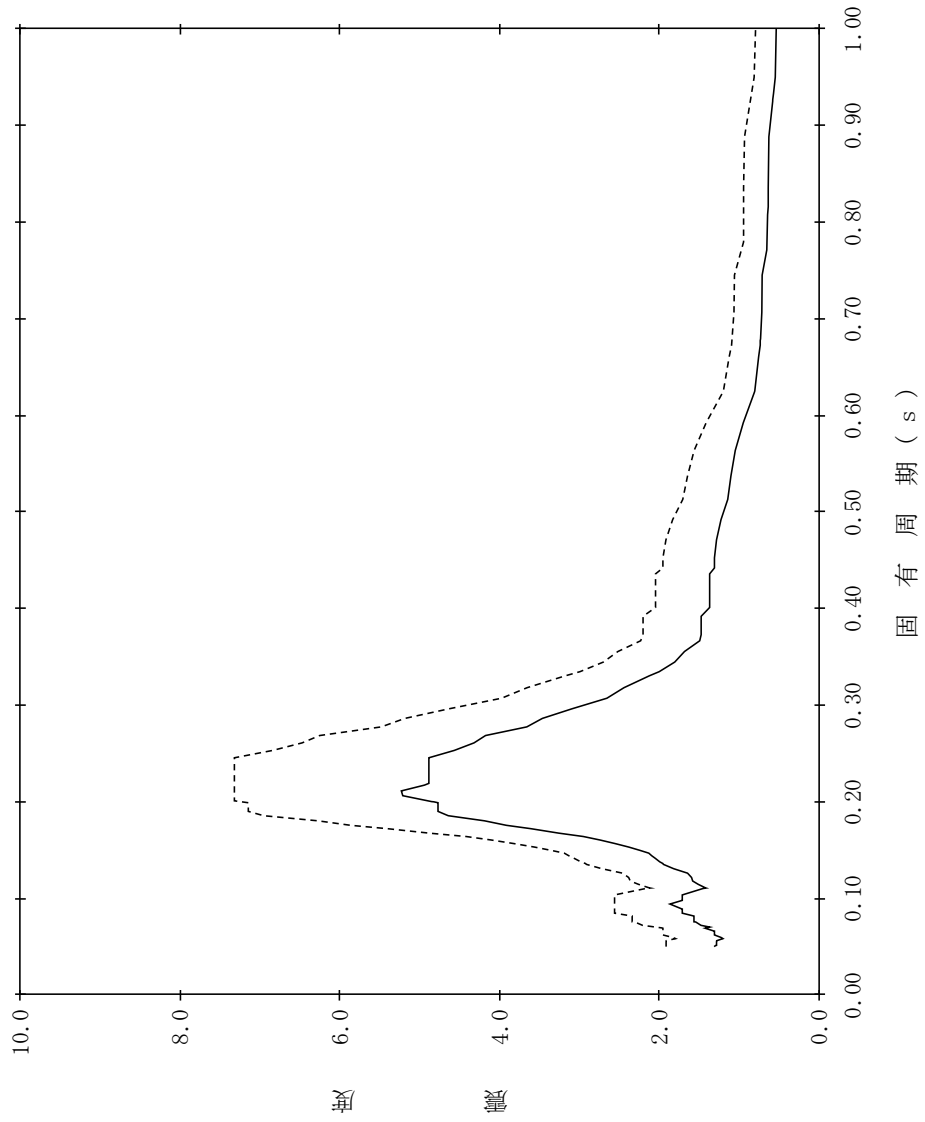
【NS2-PCV-SdNS-PCV14】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



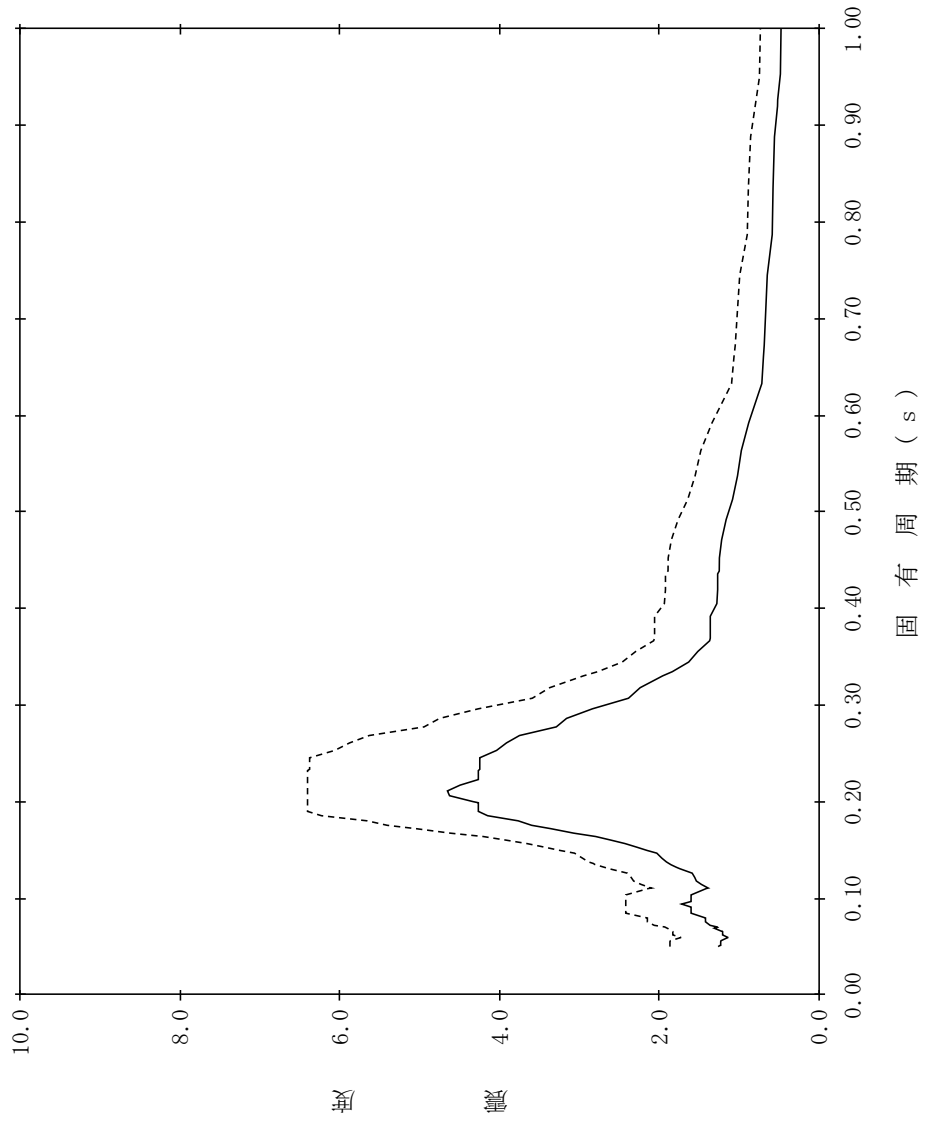
【NS2-PCV-SdNS-PCV15】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



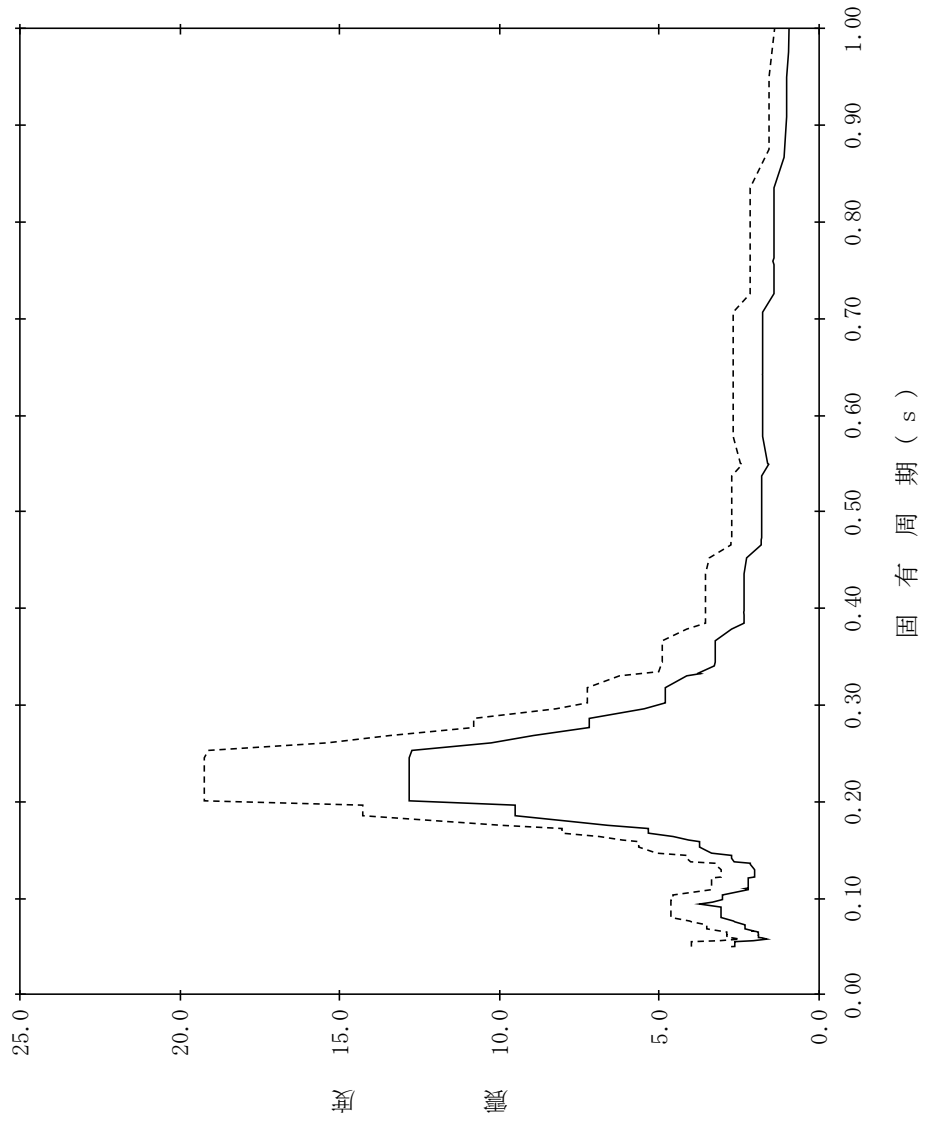
【NS2-PCV-SdNS-PCV16】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



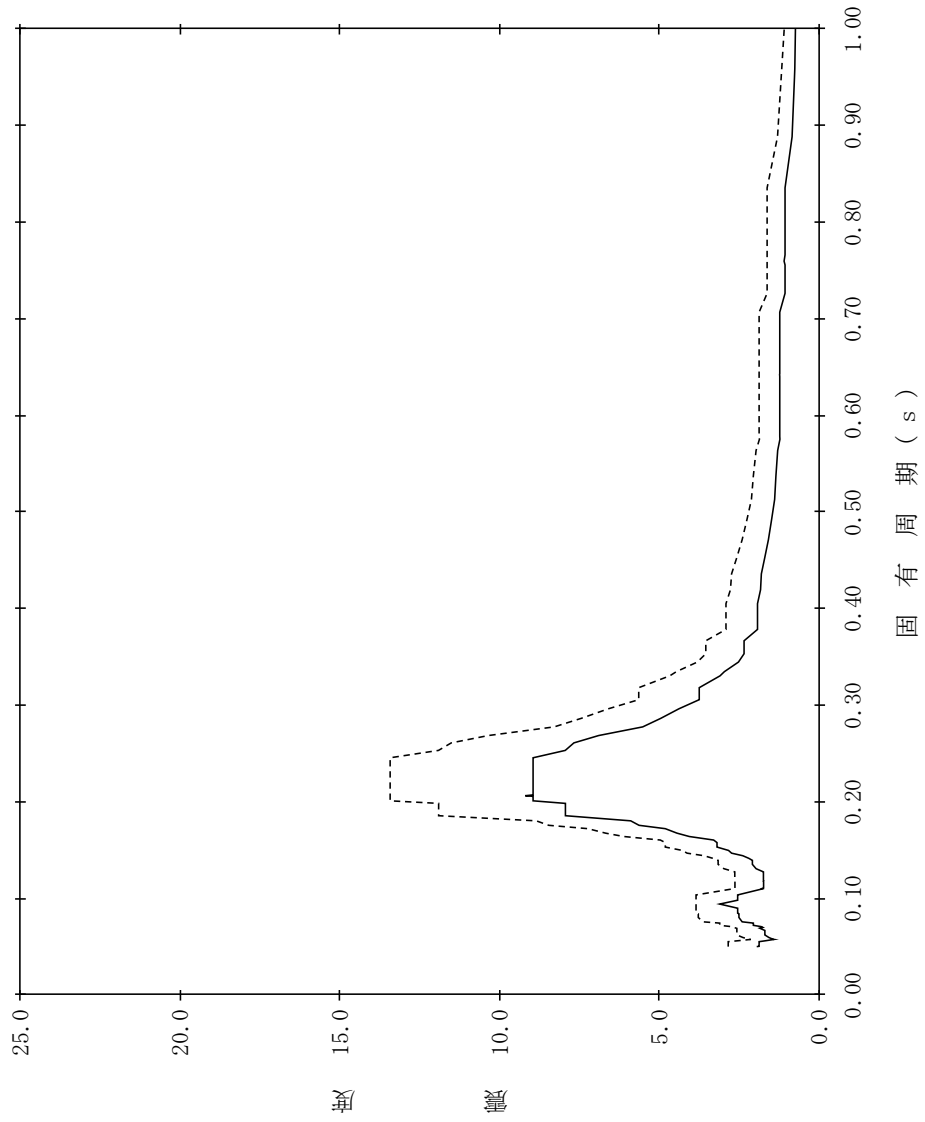
【NS2-PCV-SdNS-PCV17】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

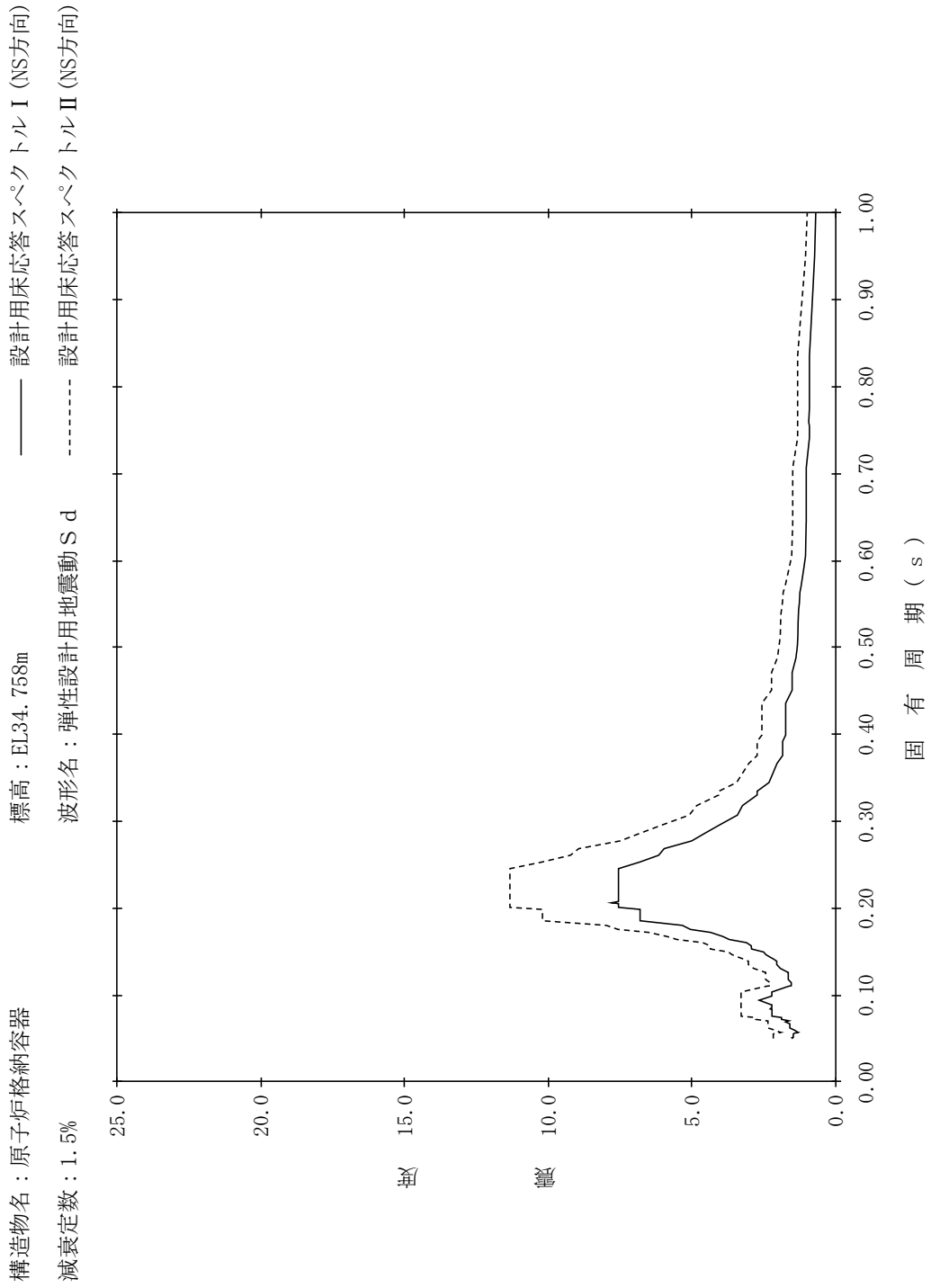


【NS2-PCV-SdNS-PCV18】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

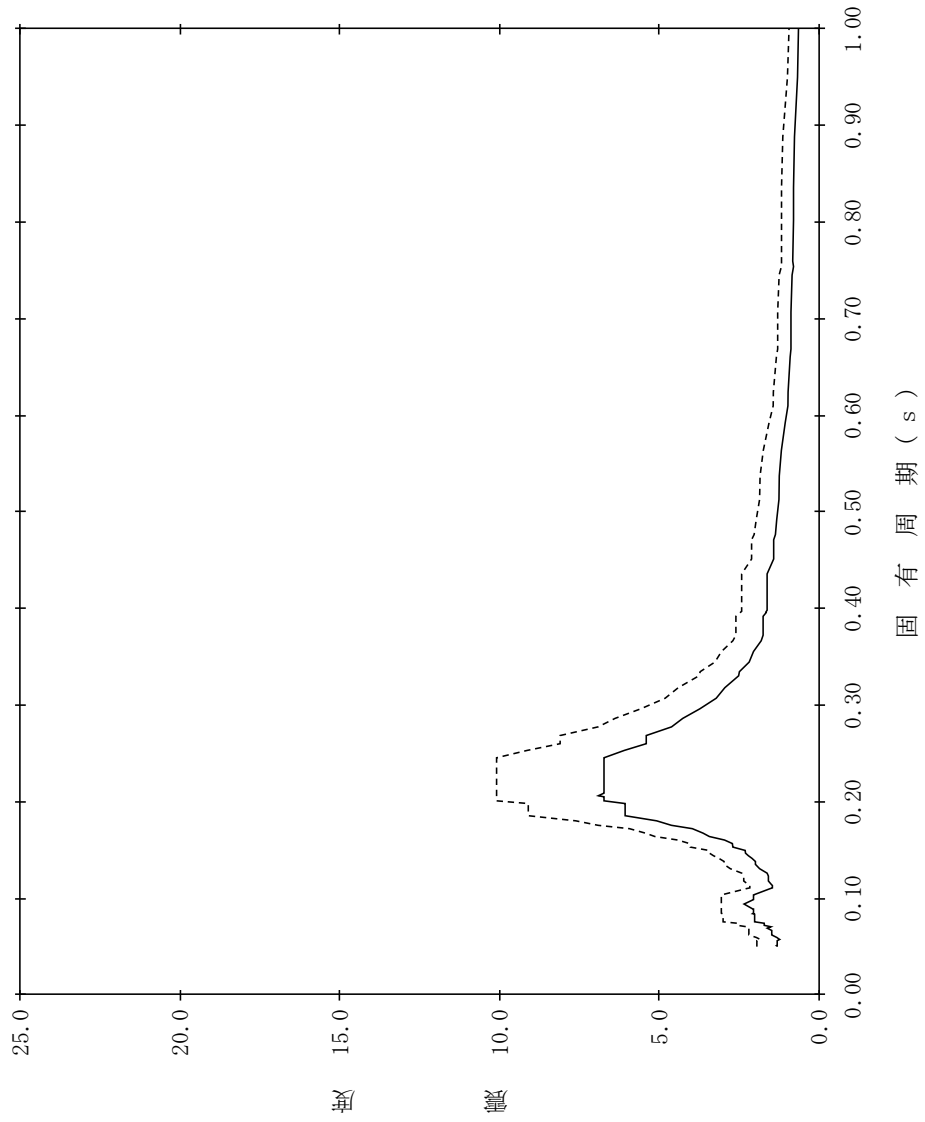


【NS2-PCV-SdNS-PCV19】



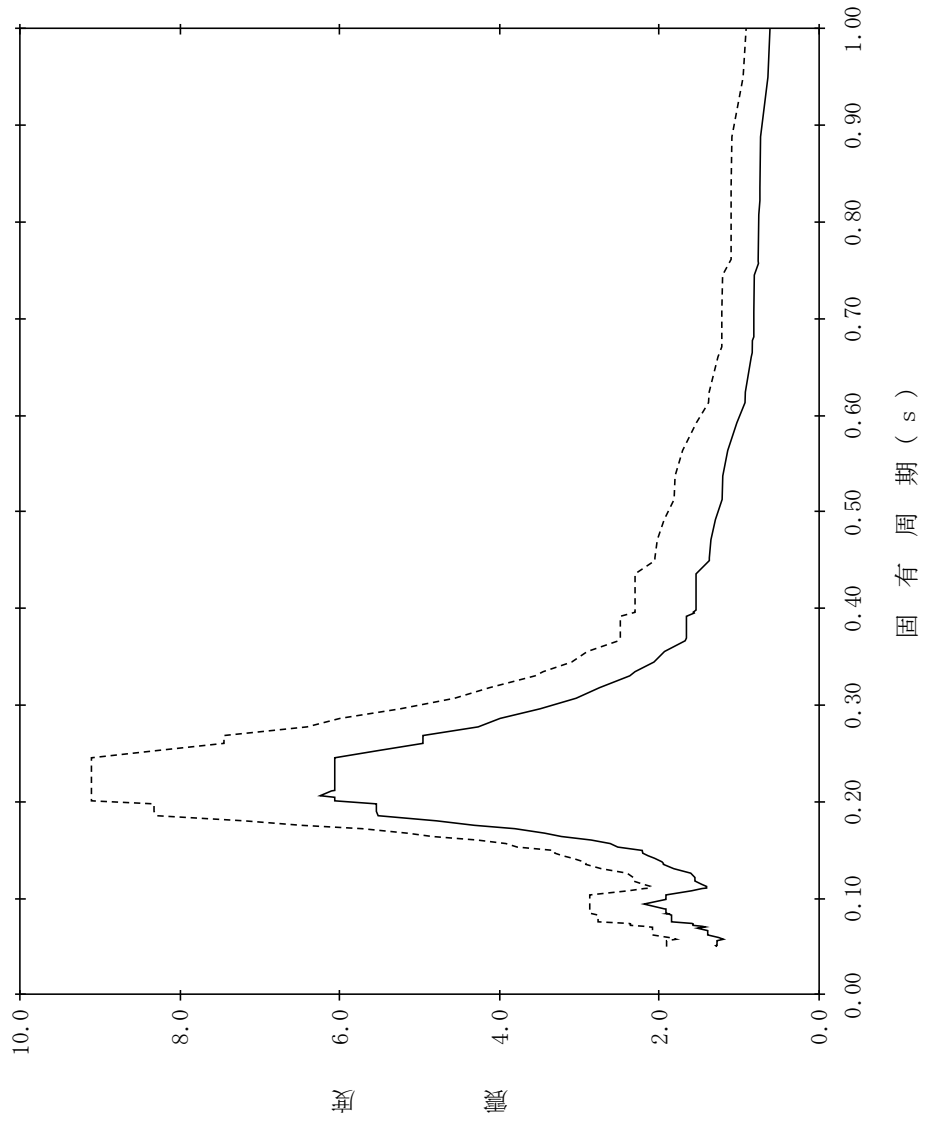
【NS2-PCV-SdNS-PCV20】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



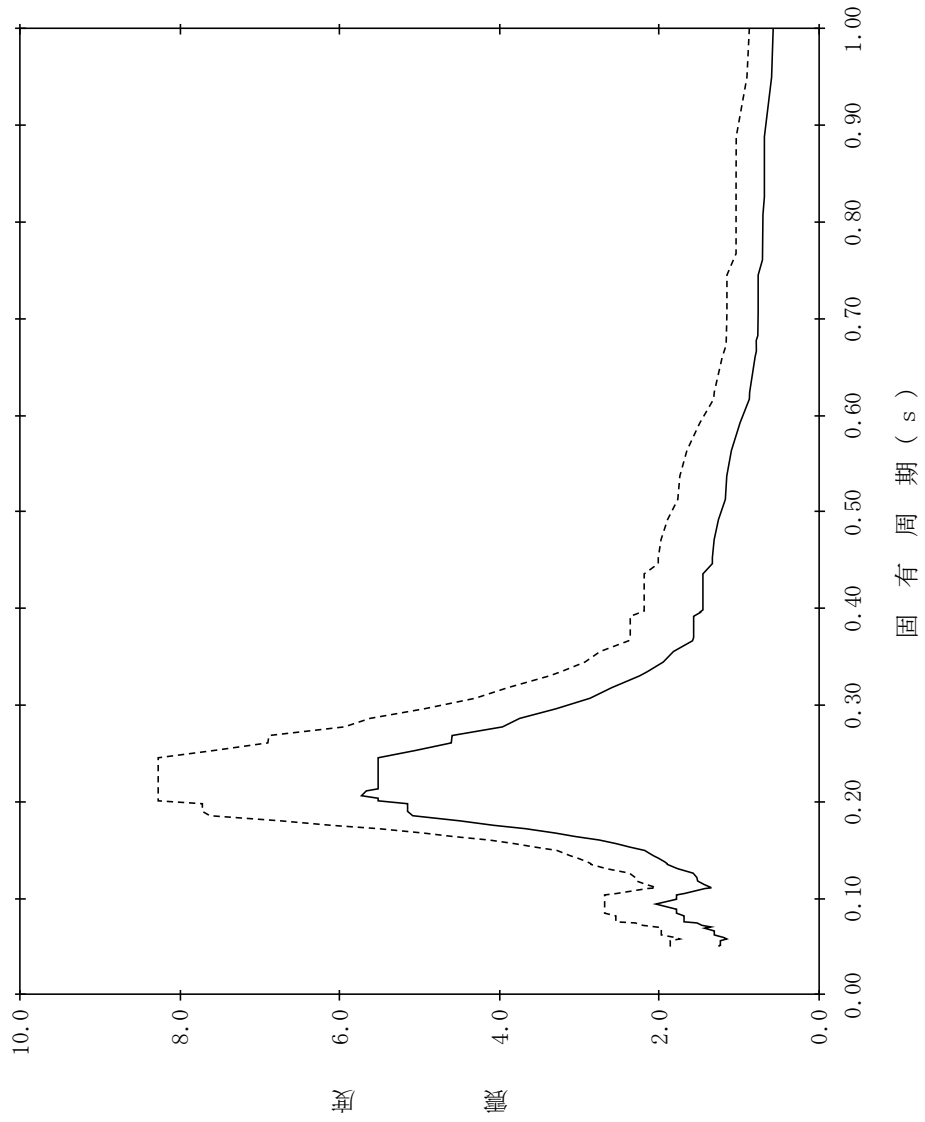
【NS2-PCV-SdNS-PCV21】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



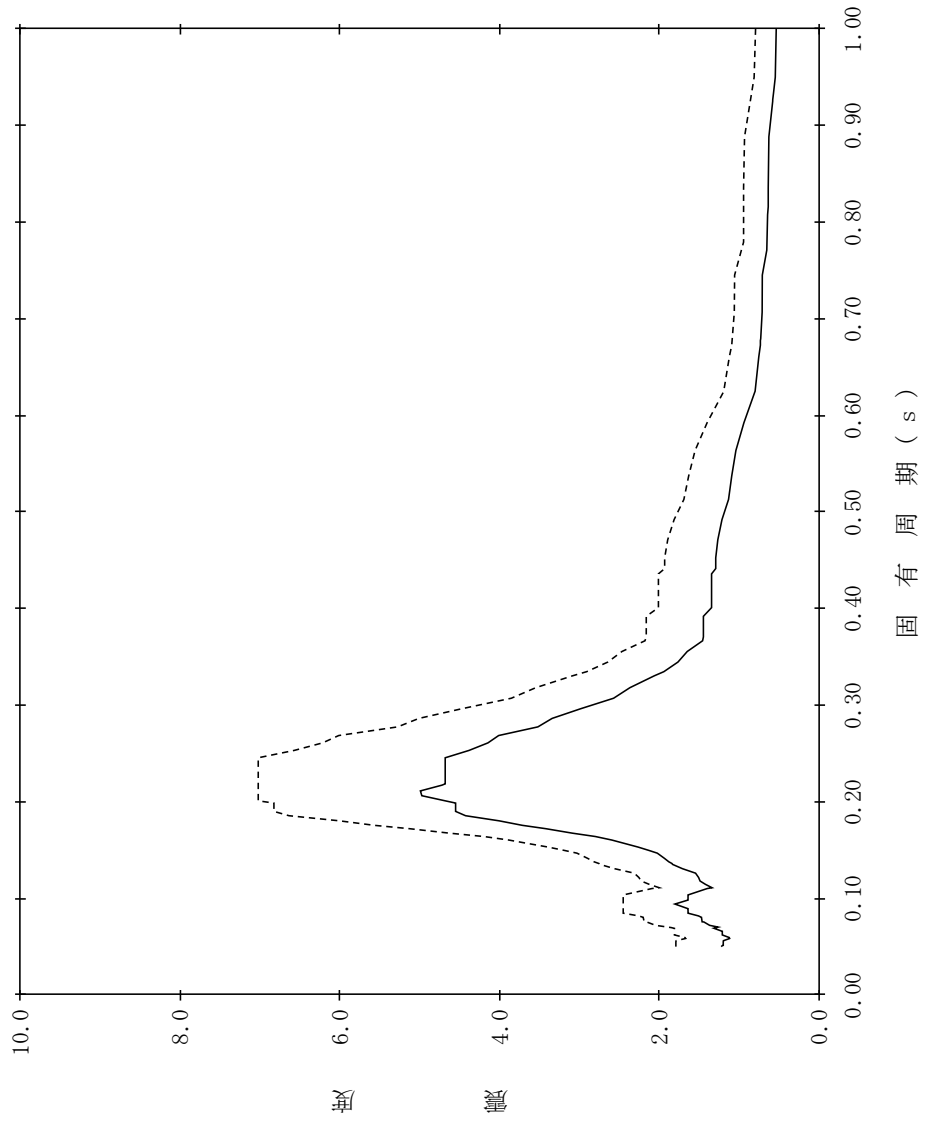
【NS2-PCV-SdNS-PCV22】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



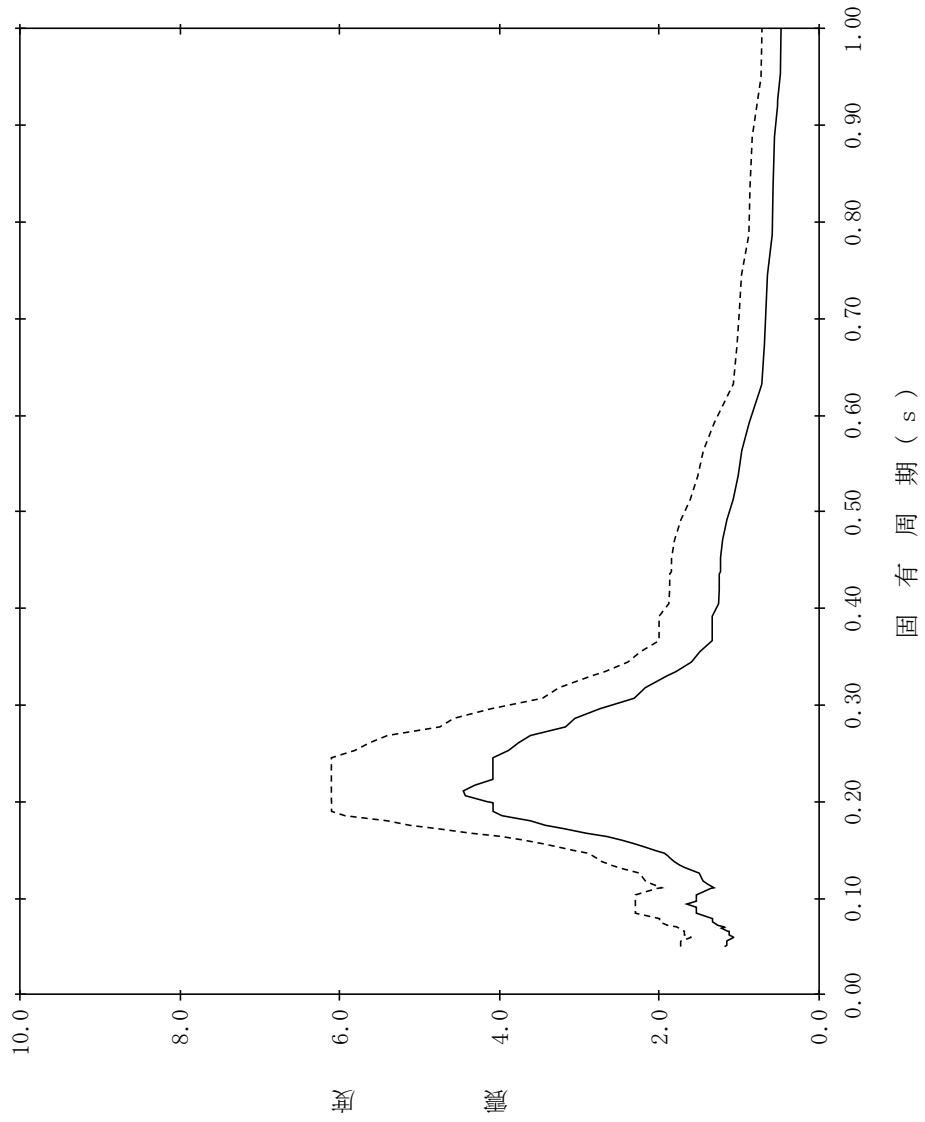
【NS2-PCV-SdNS-PCV23】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



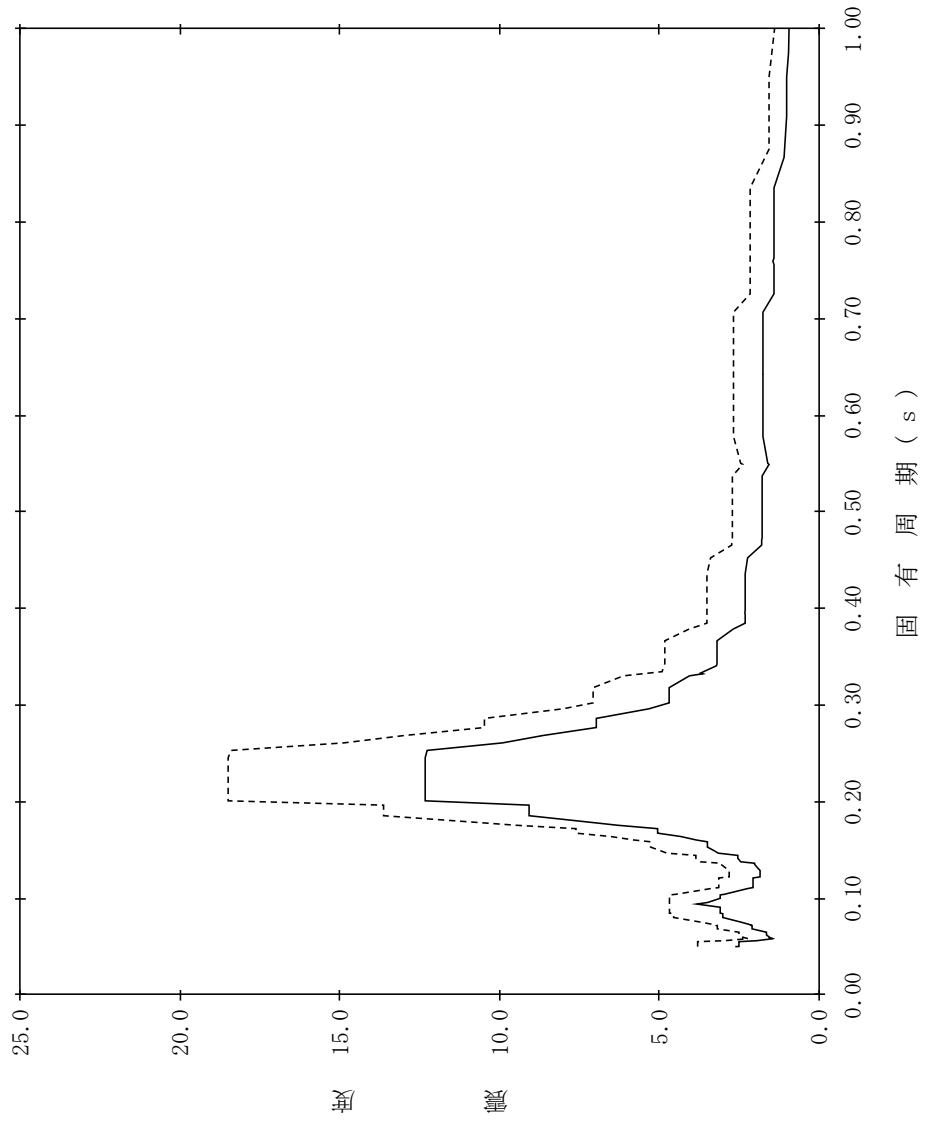
【NS2-PCV-SdNS-PCV24】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



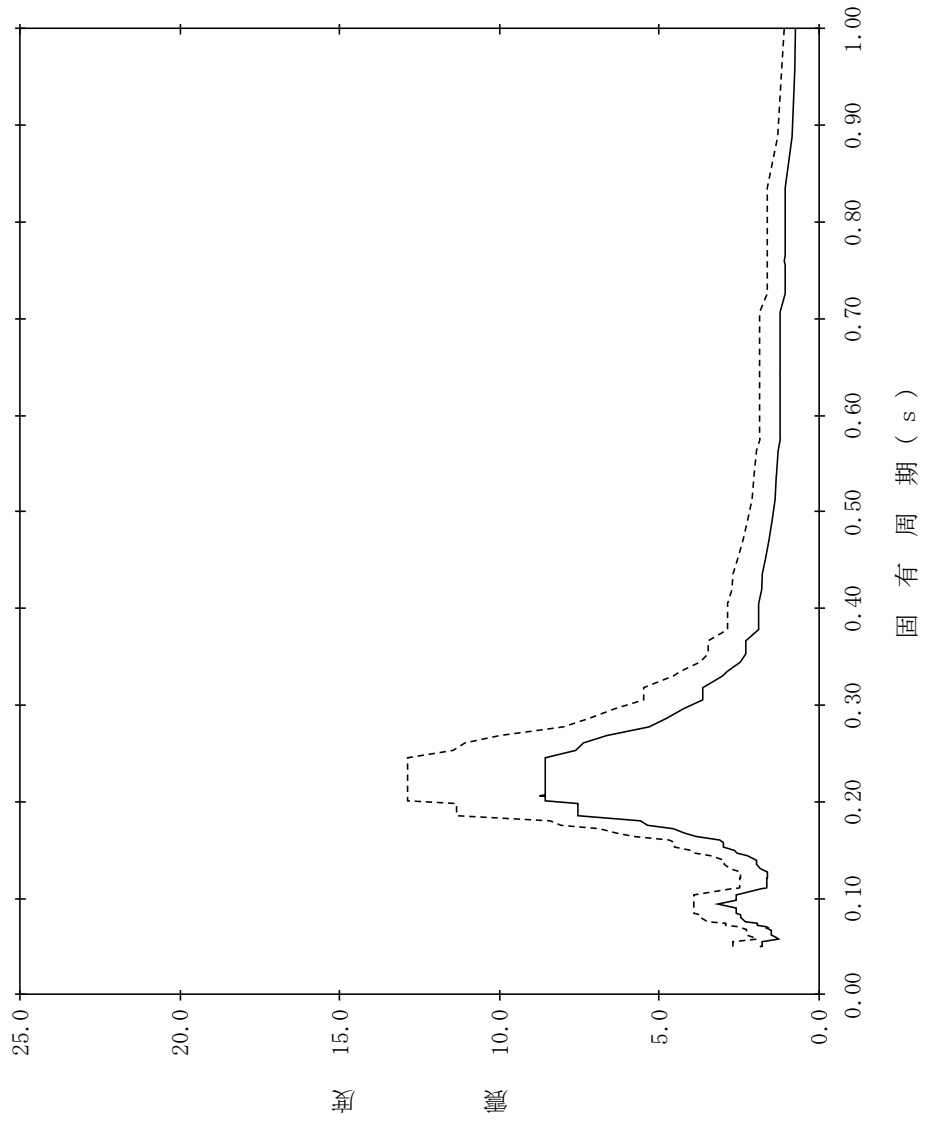
【NS2-PCV-SdNS-PCV25】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



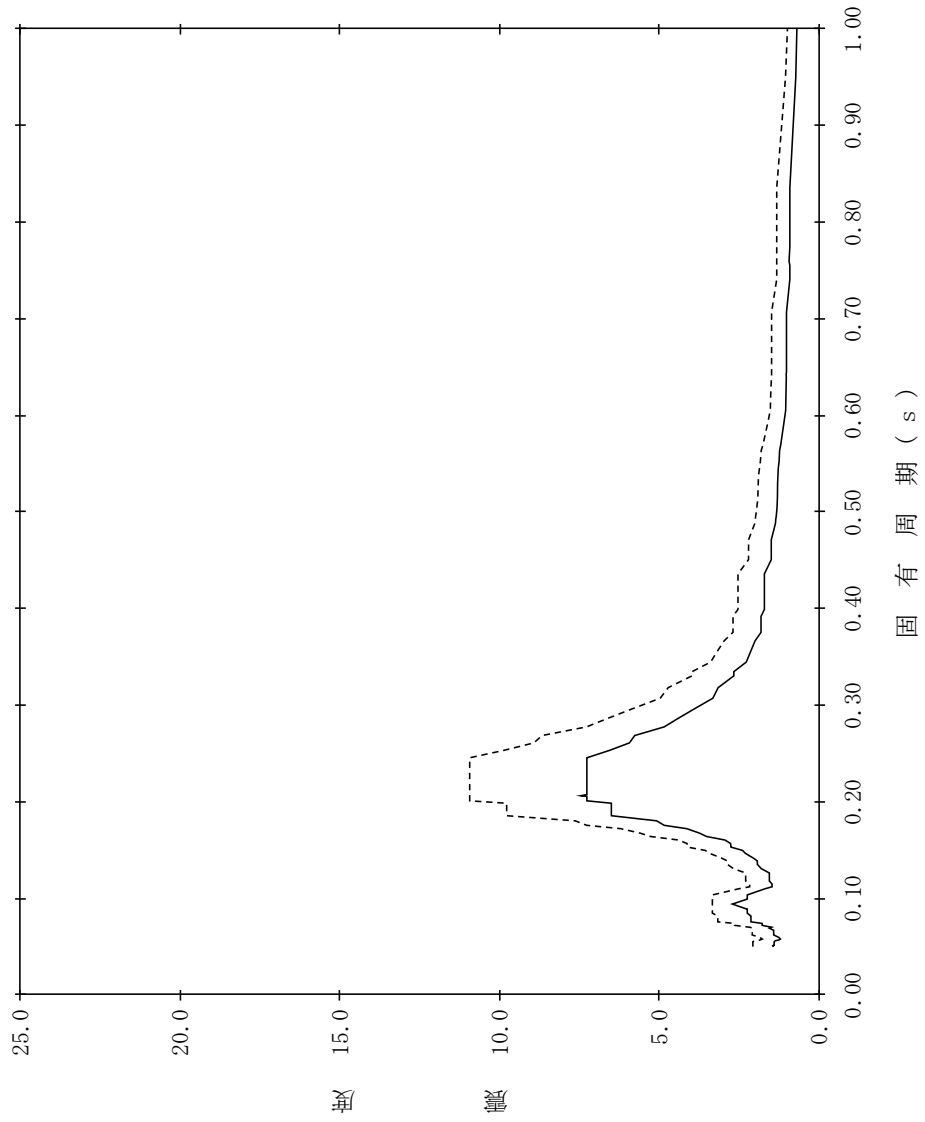
【NS2-PCV-SdNS-PCV26】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



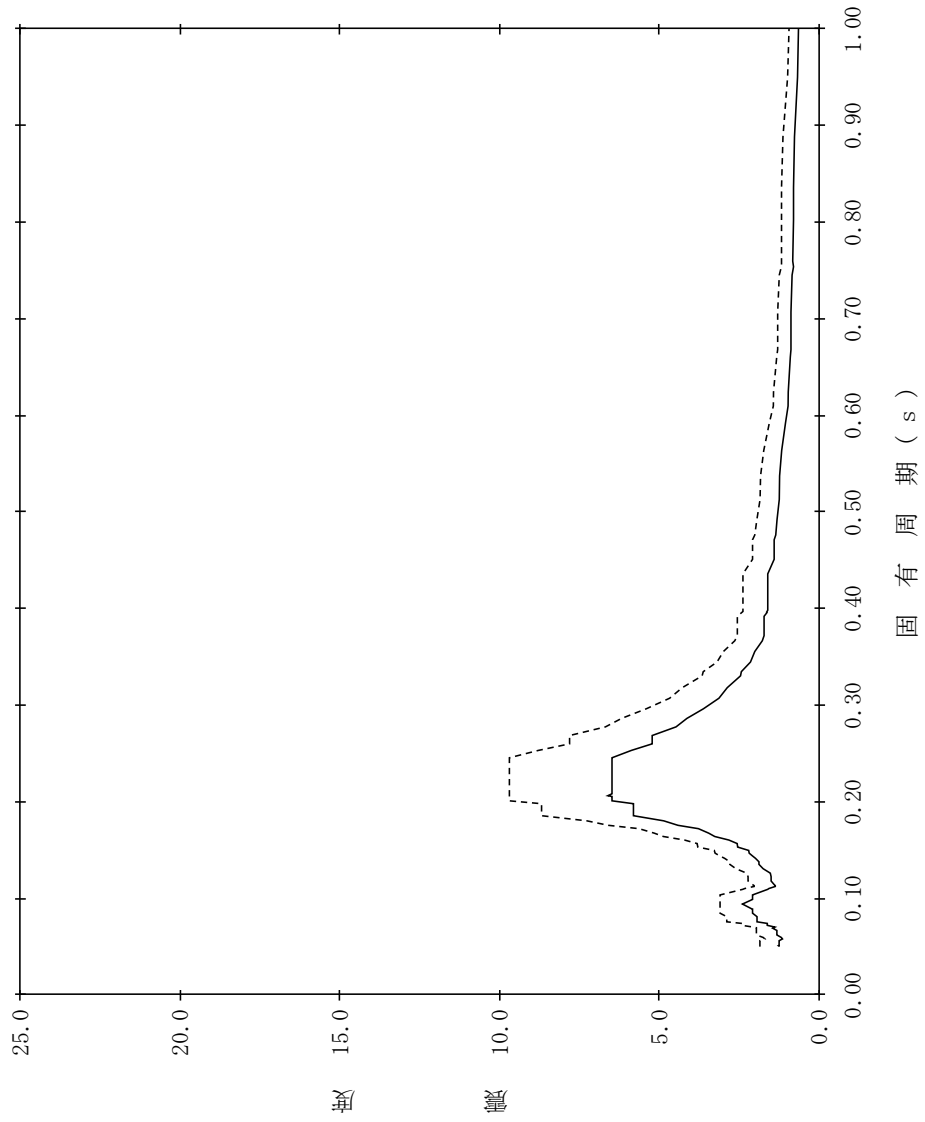
【NS2-PCV-SdNS-PCV27】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

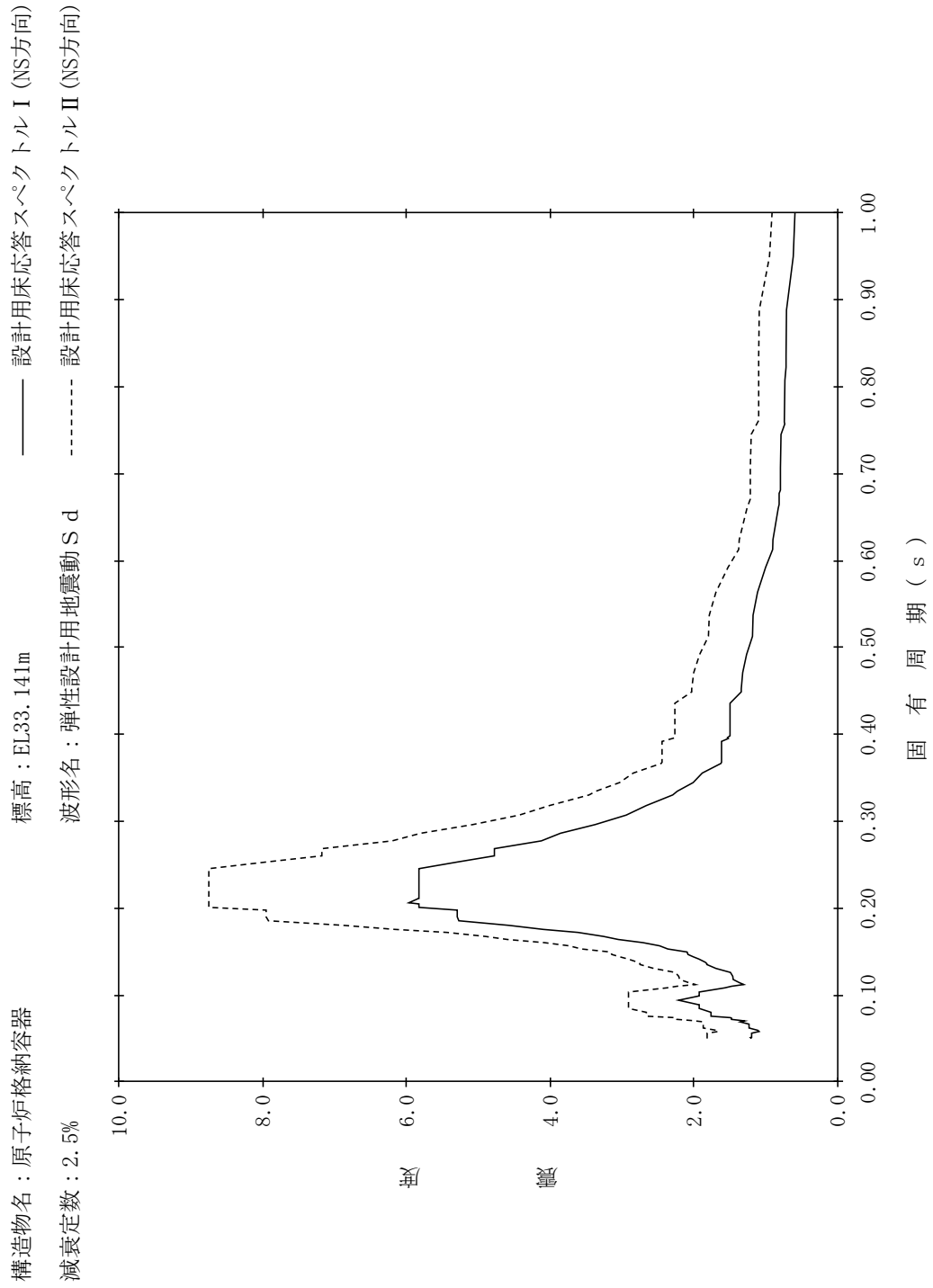


【NS2-PCV-SdNS-PCV28】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

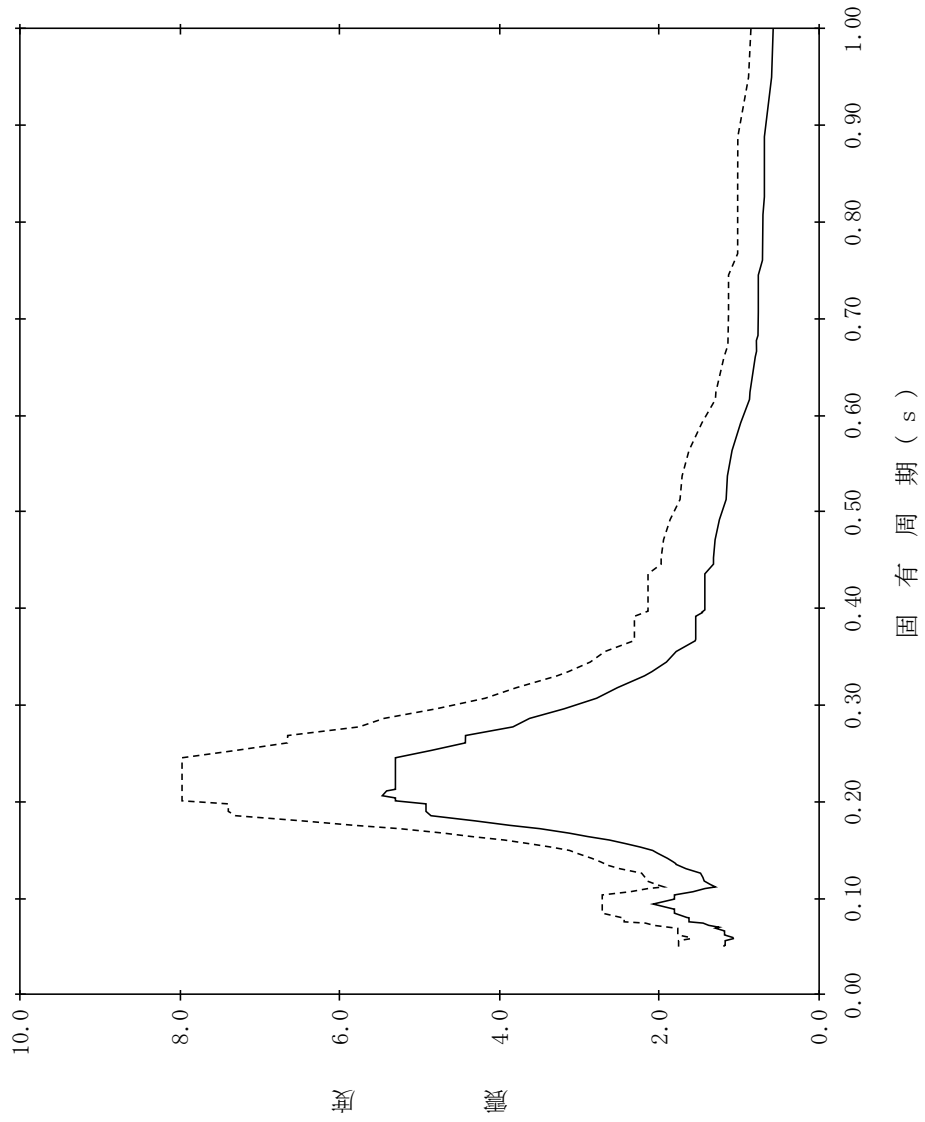


【NS2-PCV-SdNS-PCV29】



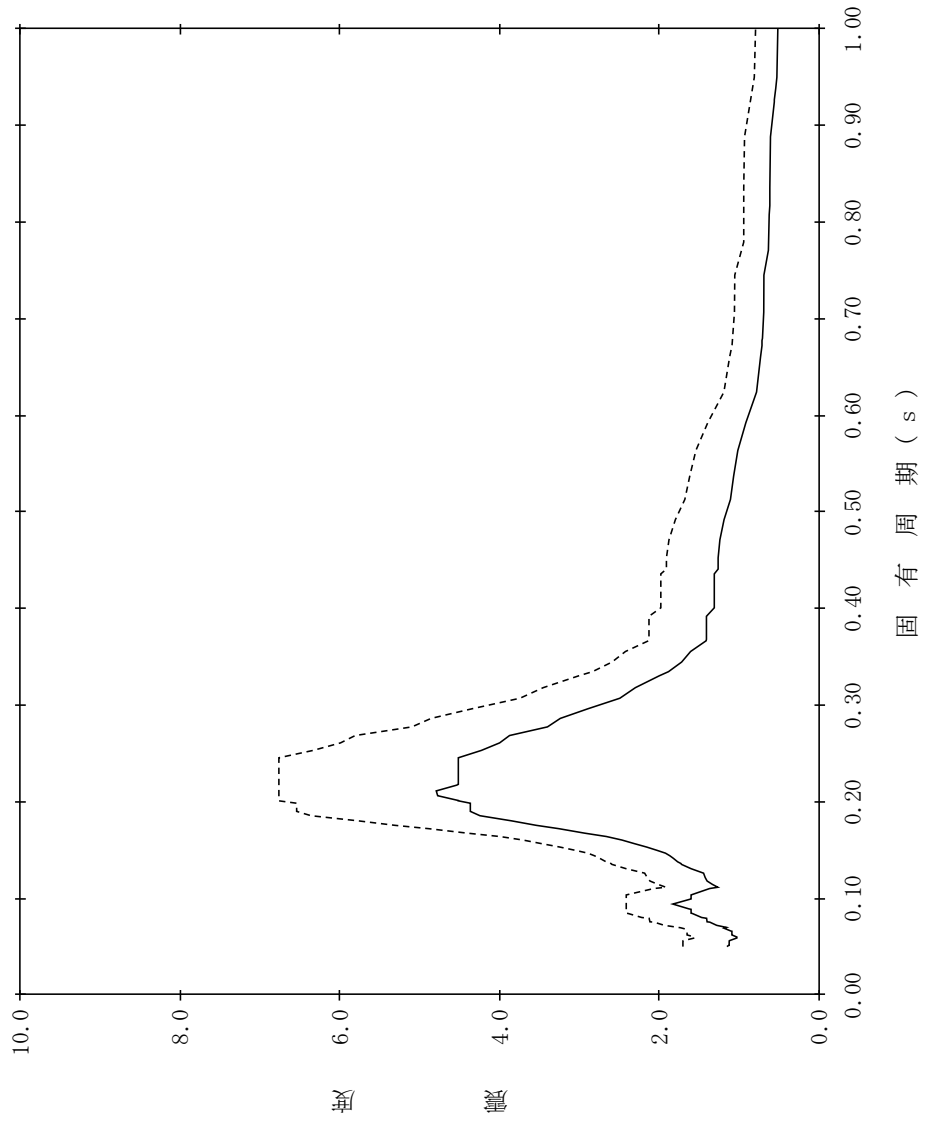
【NS2-PCV-SdNS-PCV30】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



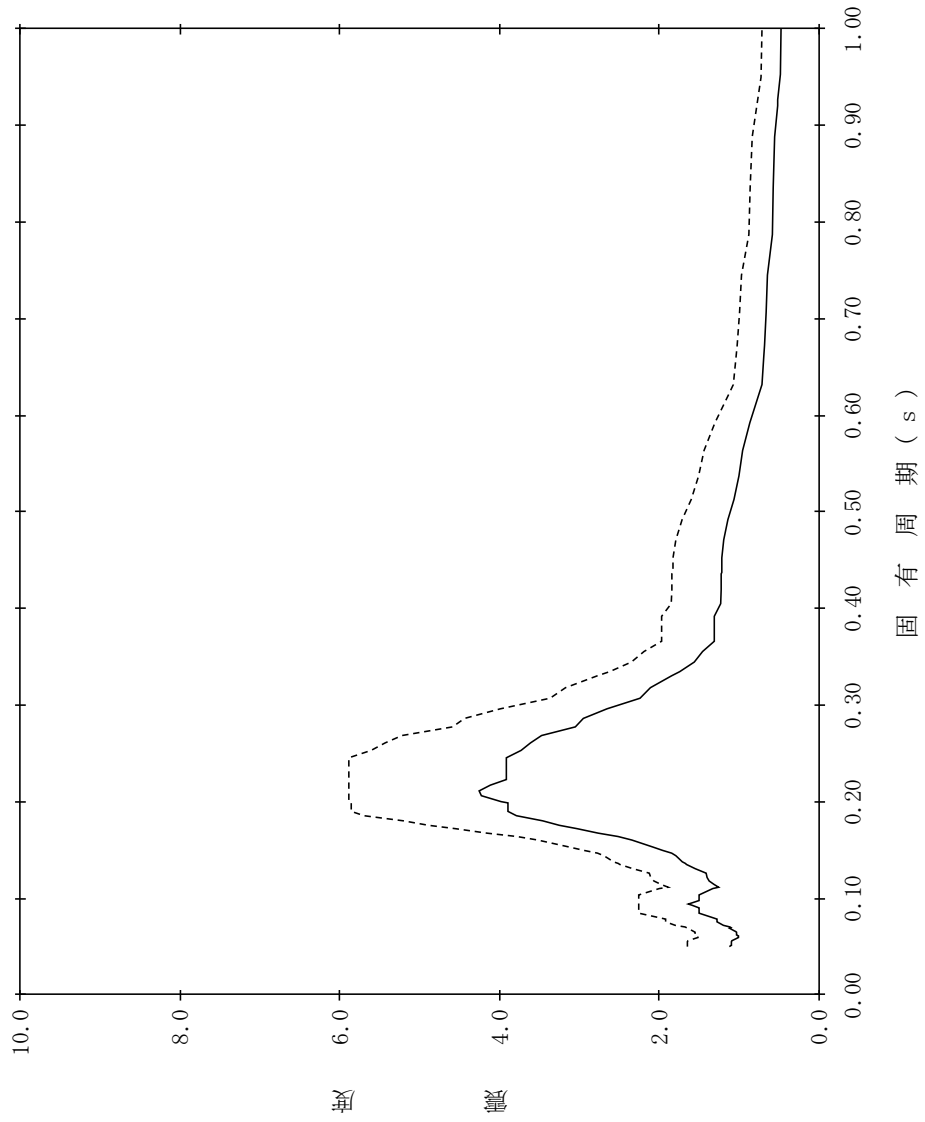
【NS2-PCV-SdNS-PCV31】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



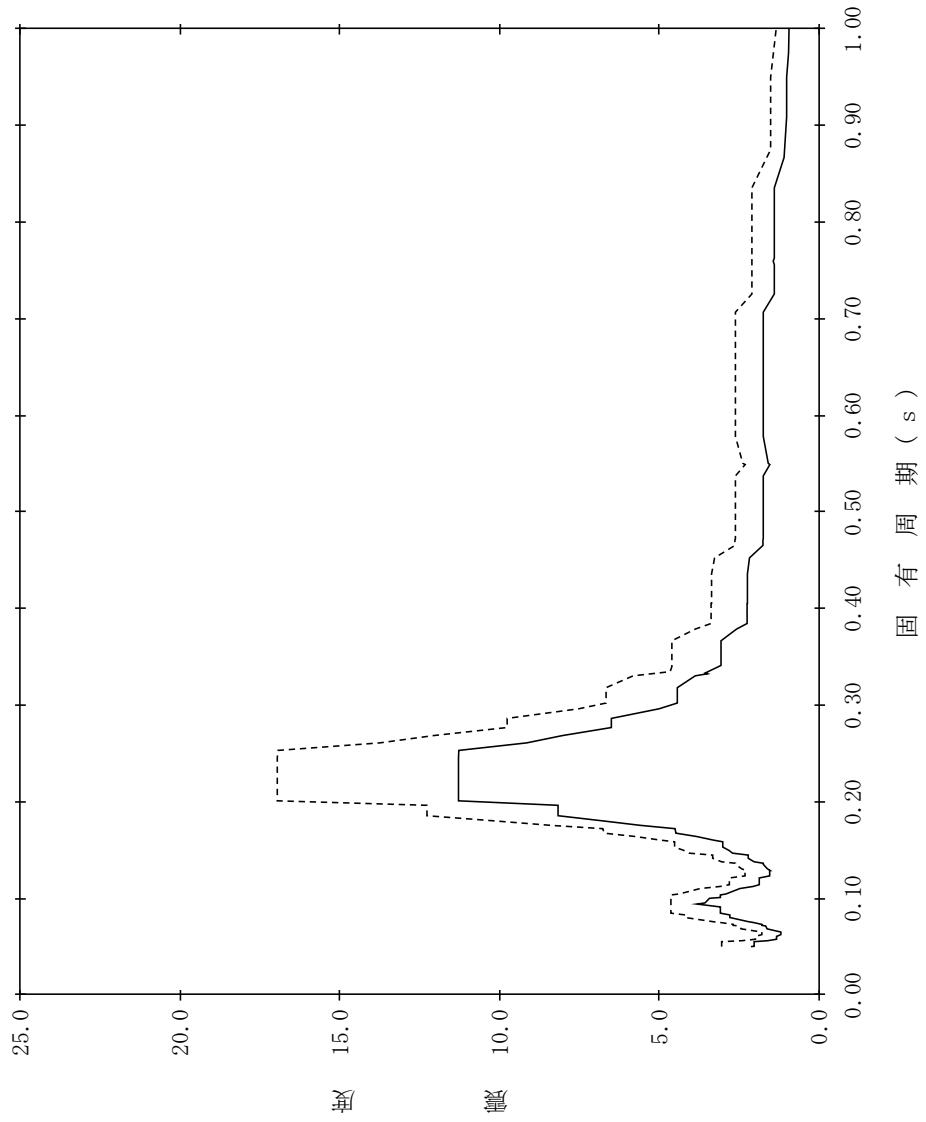
【NS2-PCV-SdNS-PCV32】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



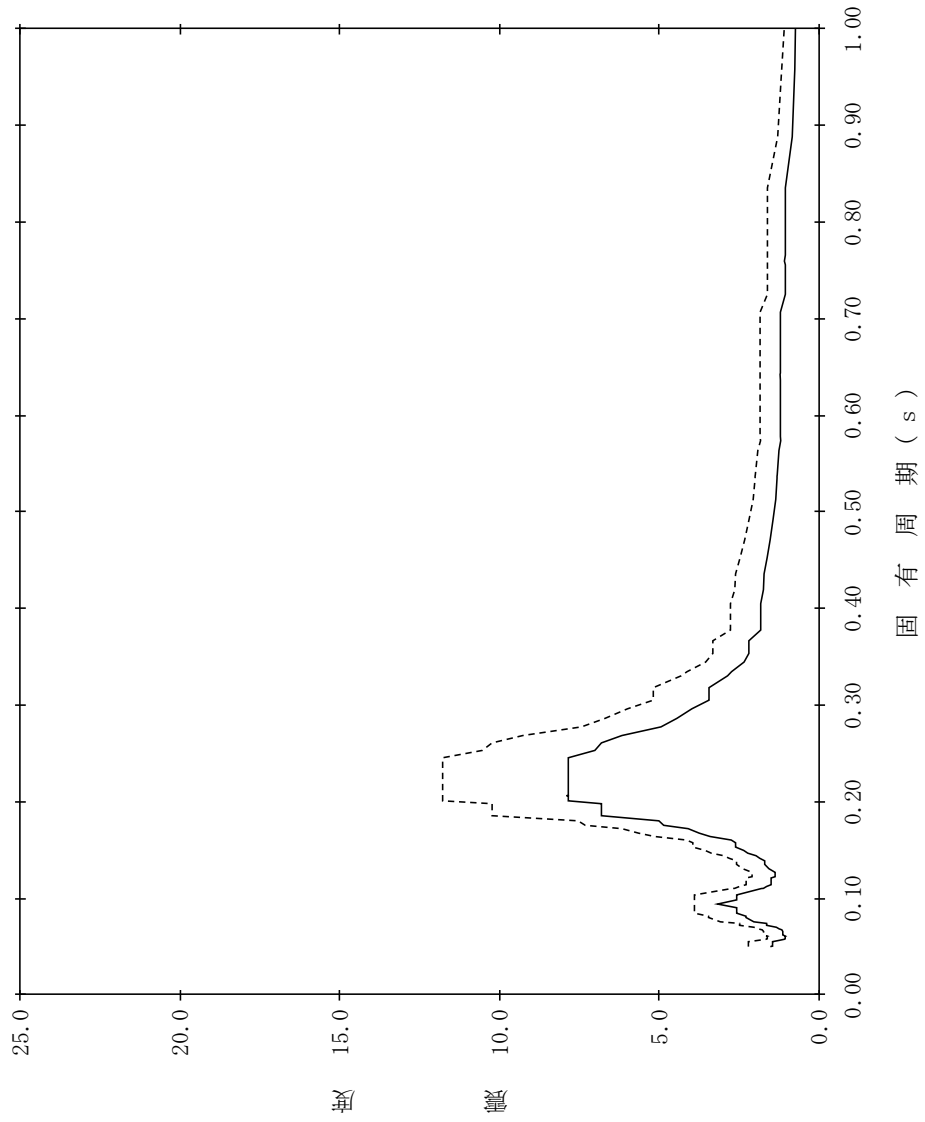
【NS2-PCV-SdNS-PCV33】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



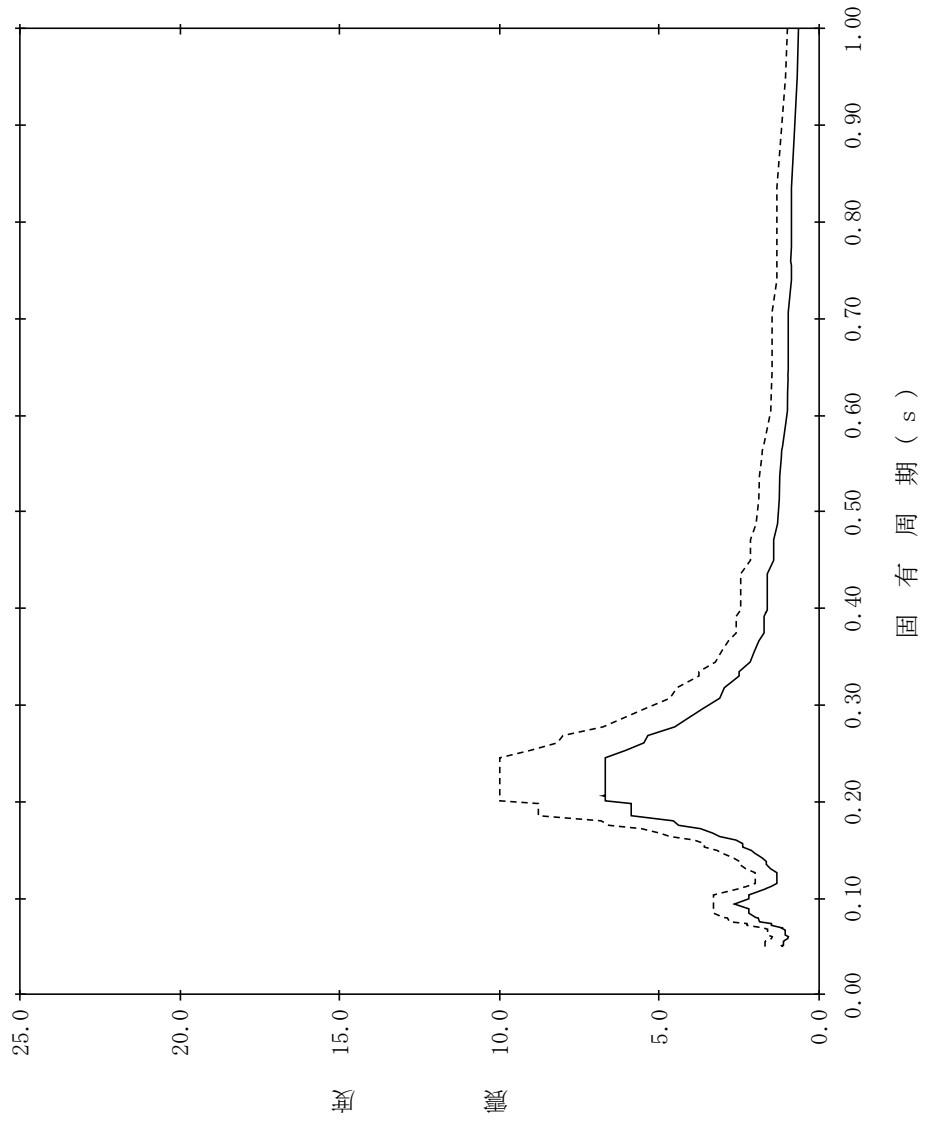
【NS2-PCV-SdNS-PCV34】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



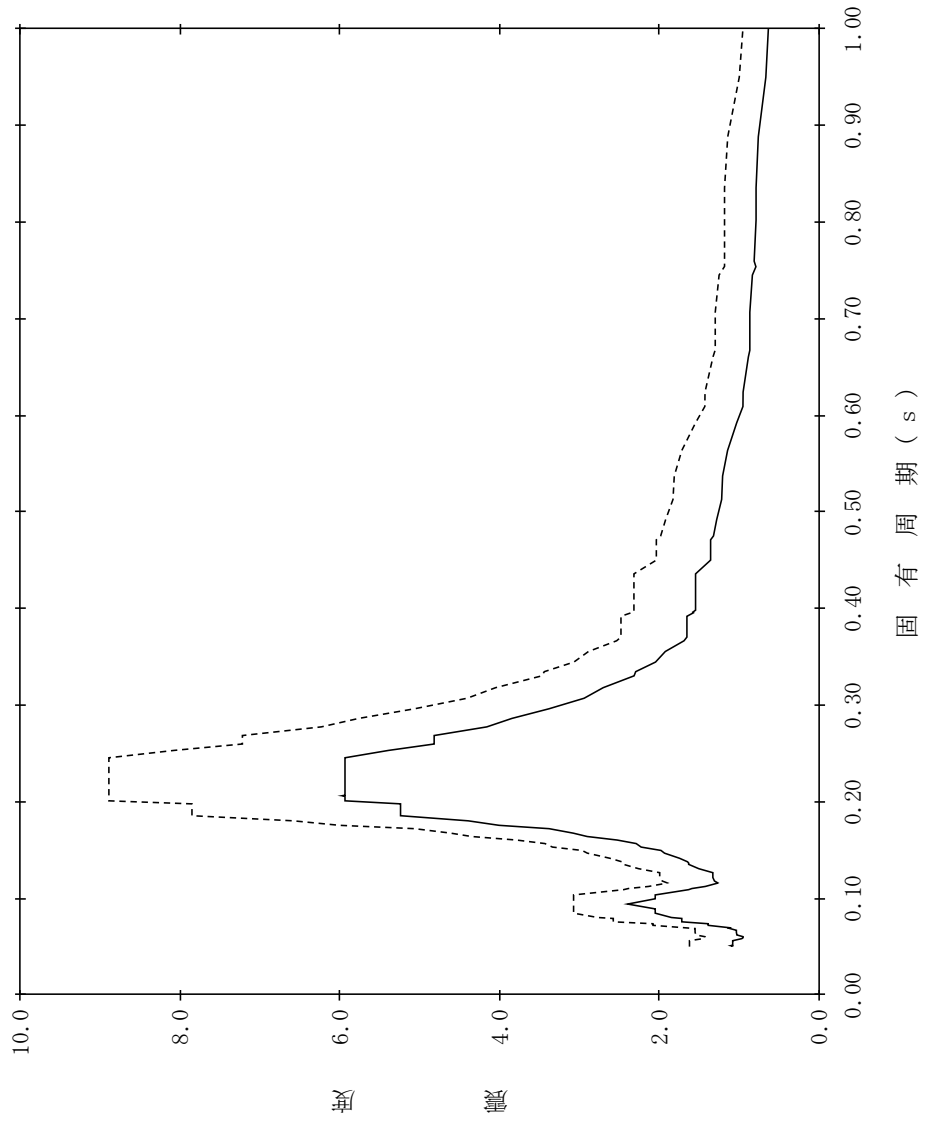
【NS2-PCV-SdNS-PCV35】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



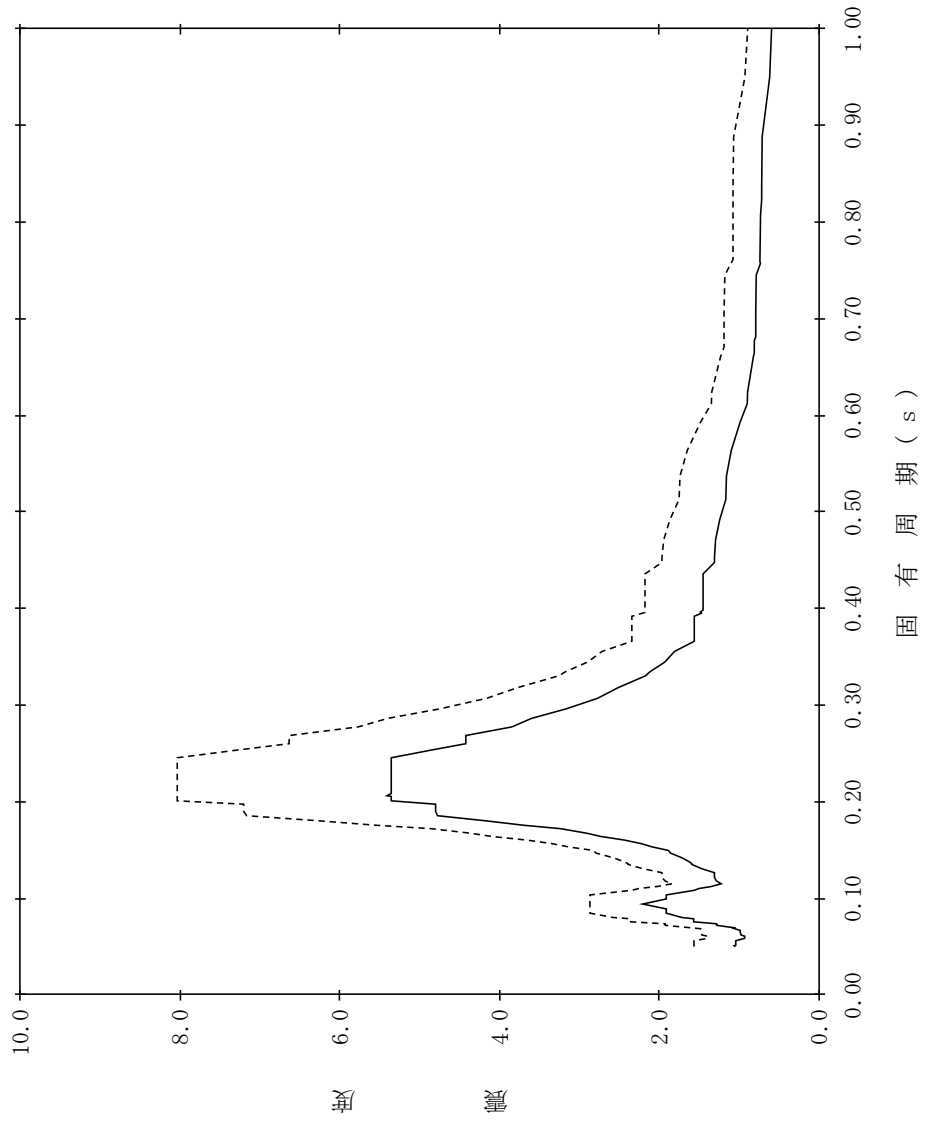
【NS2-PCV-SdNS-PCV36】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



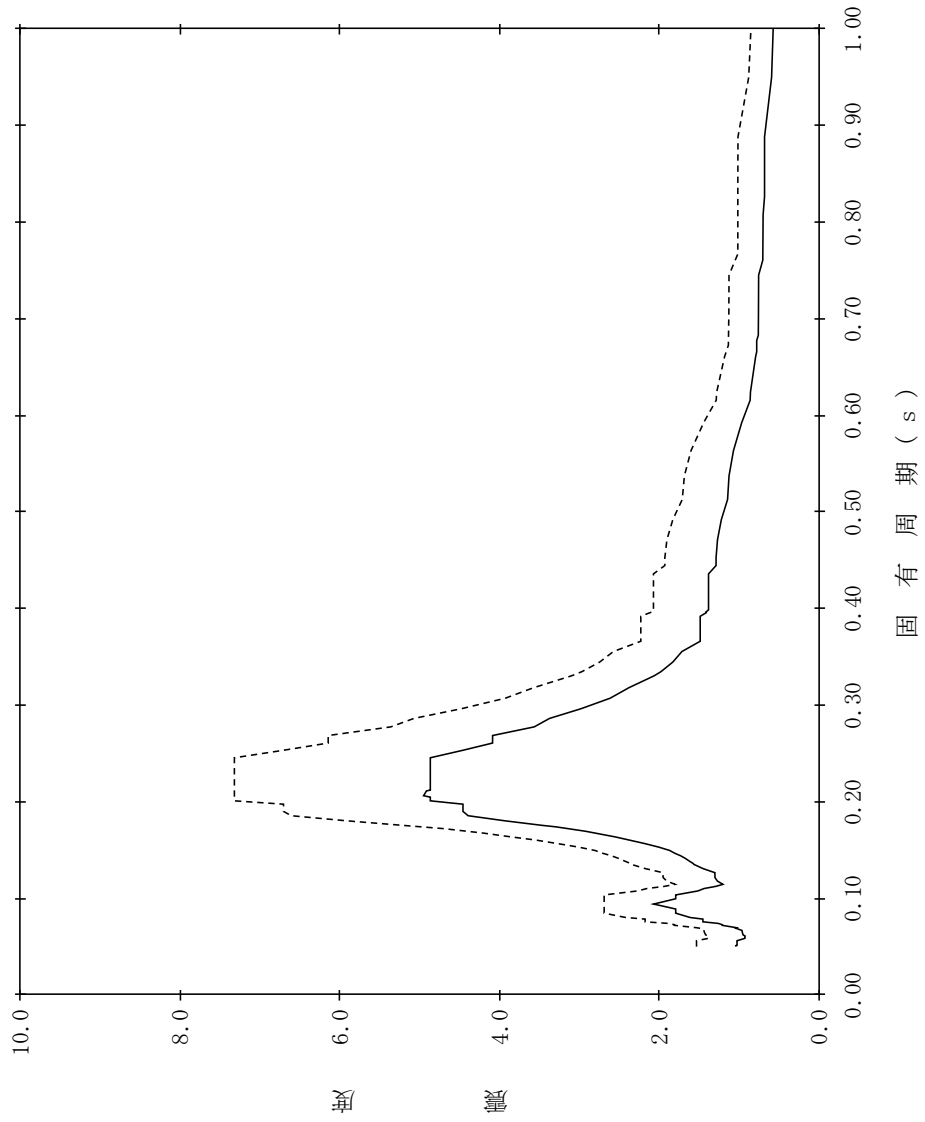
【NS2-PCV-SdNS-PCV37】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



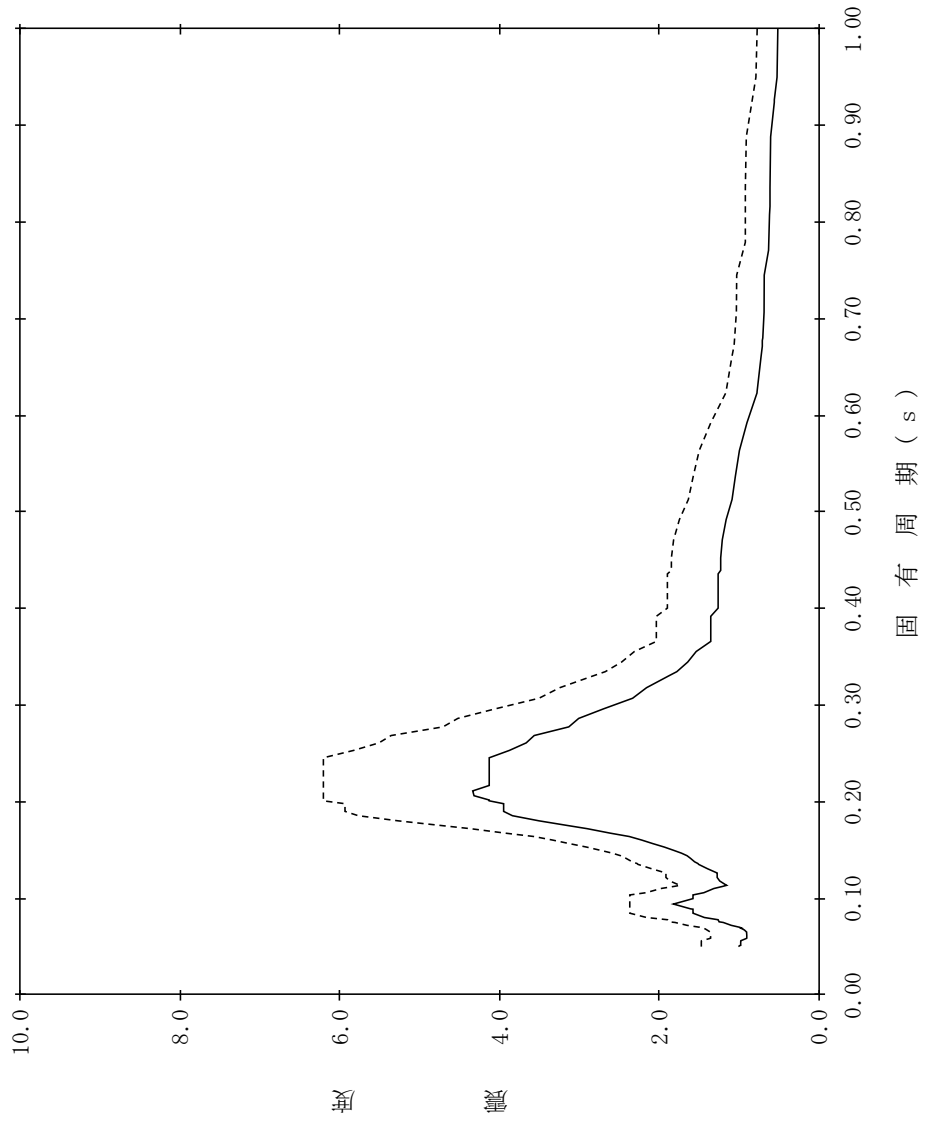
【NS2-PCV-SdNS-PCV38】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



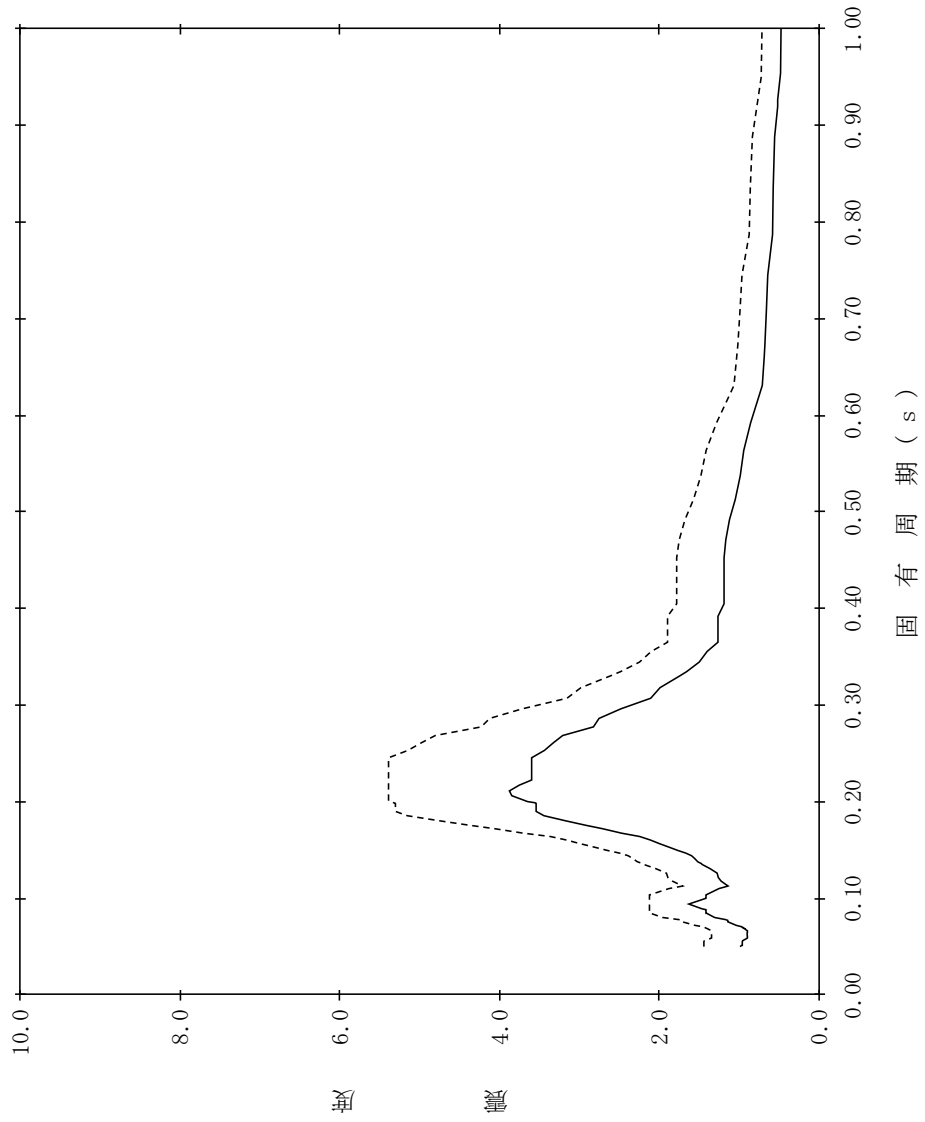
【NS2-PCV-SdNS-PCV39】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



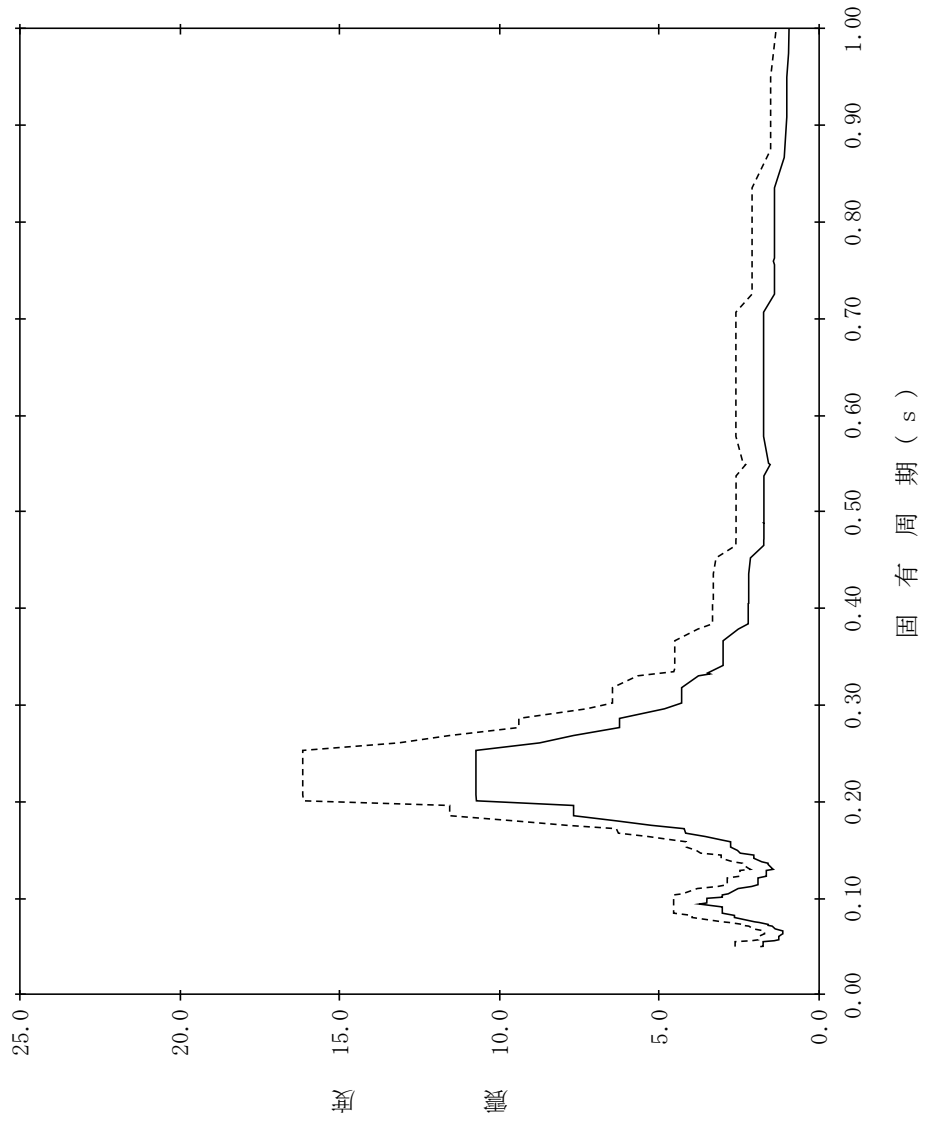
【NS2-PCV-SdNS-PCV40】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



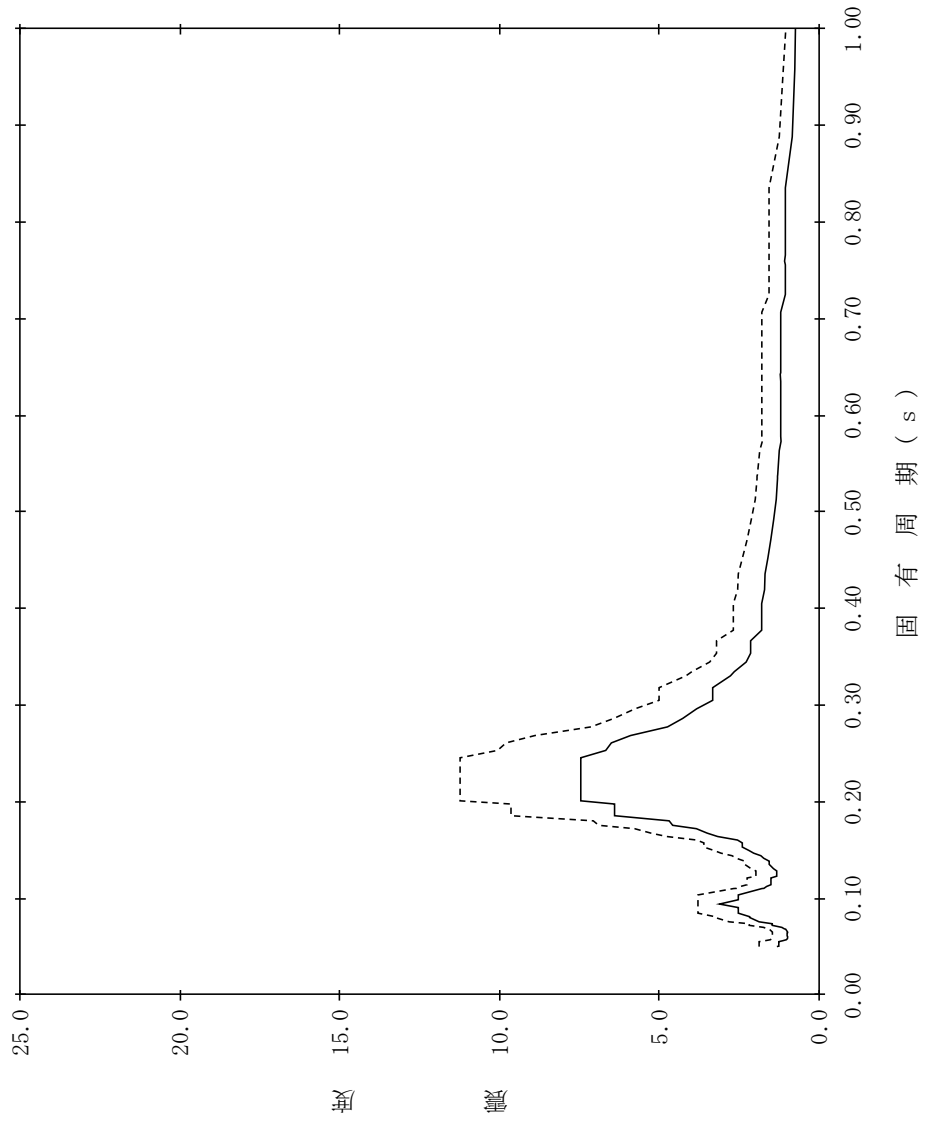
【NS2-PCV-SdNS-PCV41】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



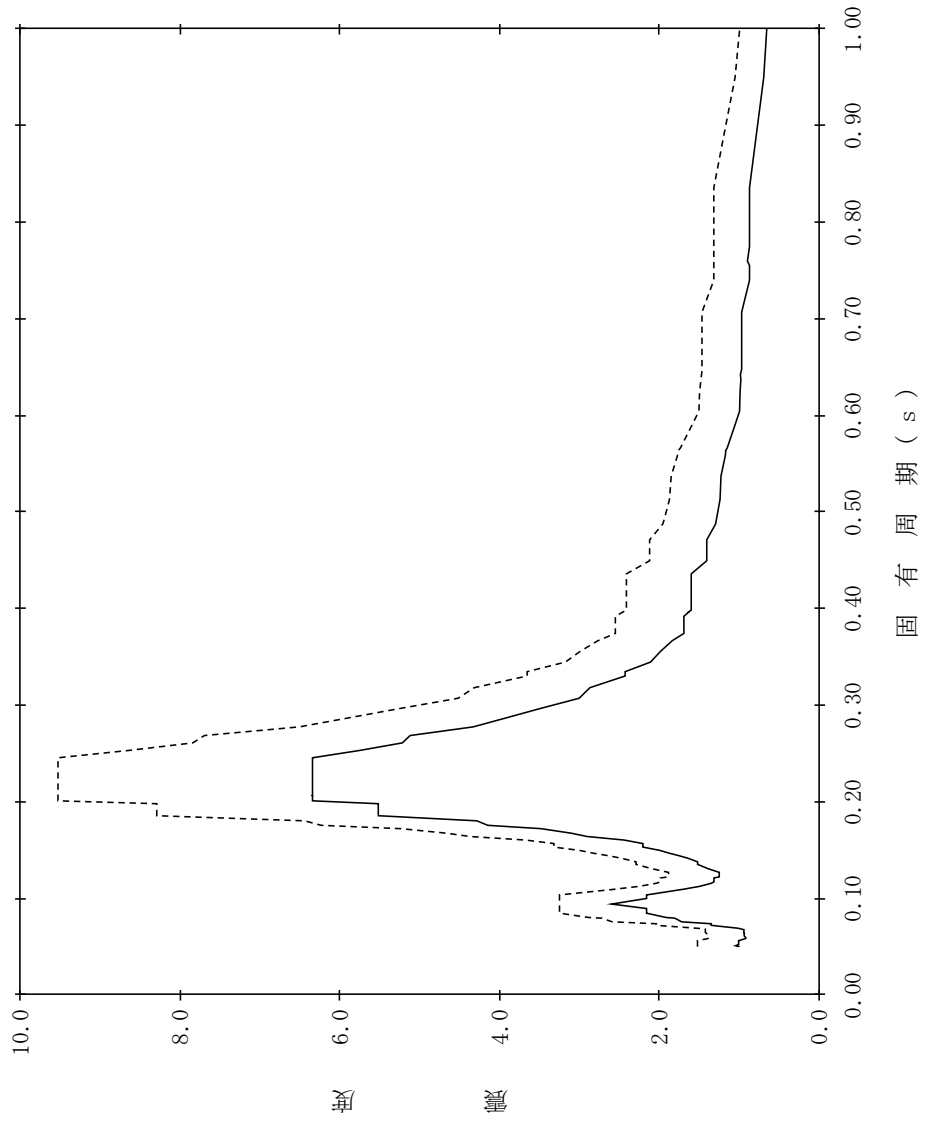
【NS2-PCV-SdNS-PCV42】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



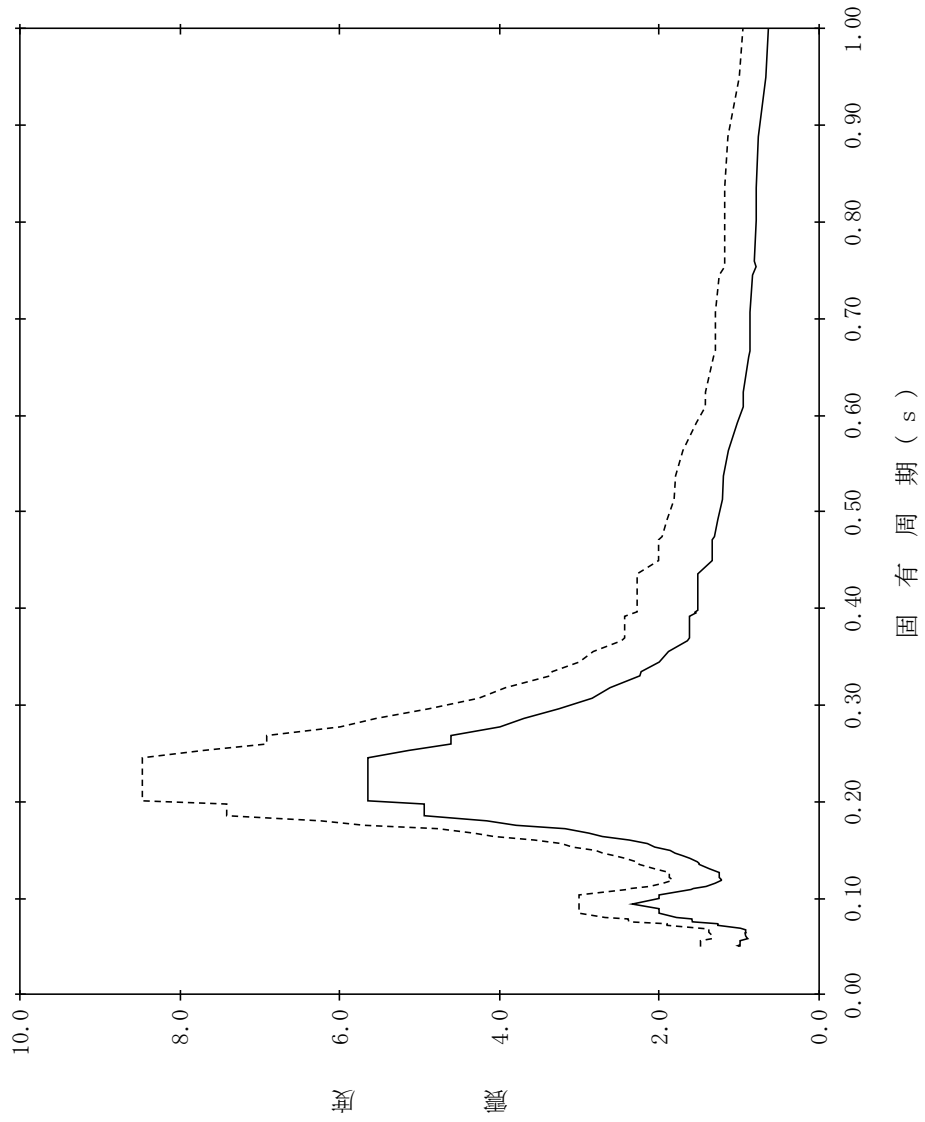
【NS2-PCV-SdNS-PCV43】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



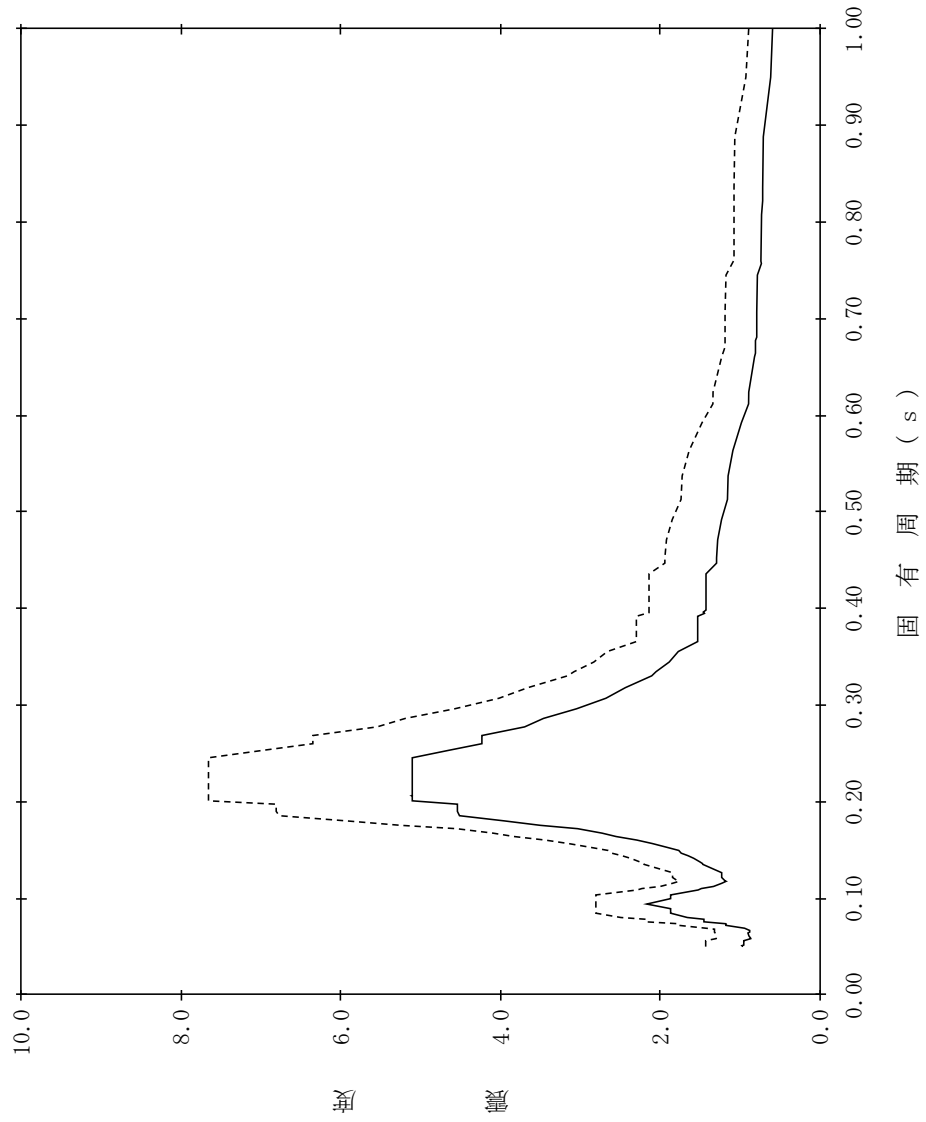
【NS2-PCV-SdNS-PCV44】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



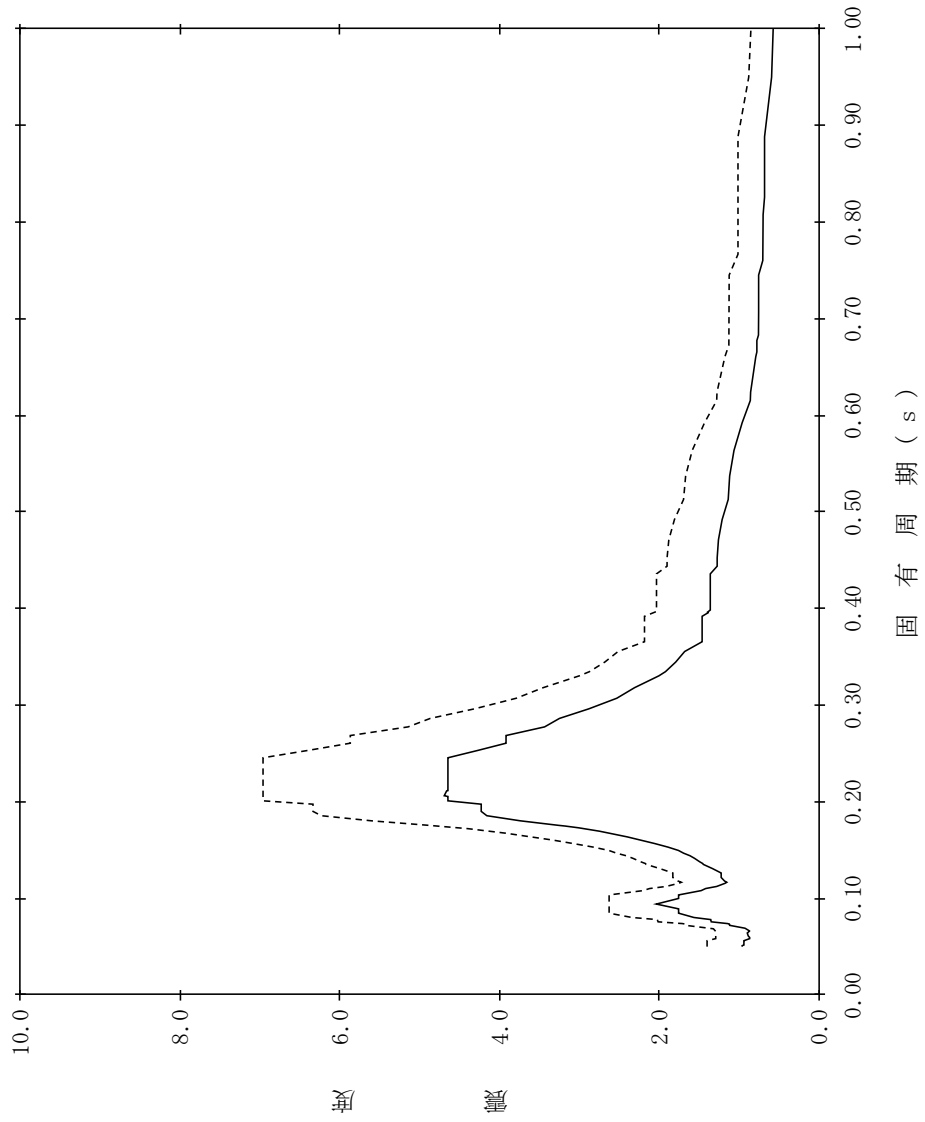
【NS2-PCV-SdNS-PCV45】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



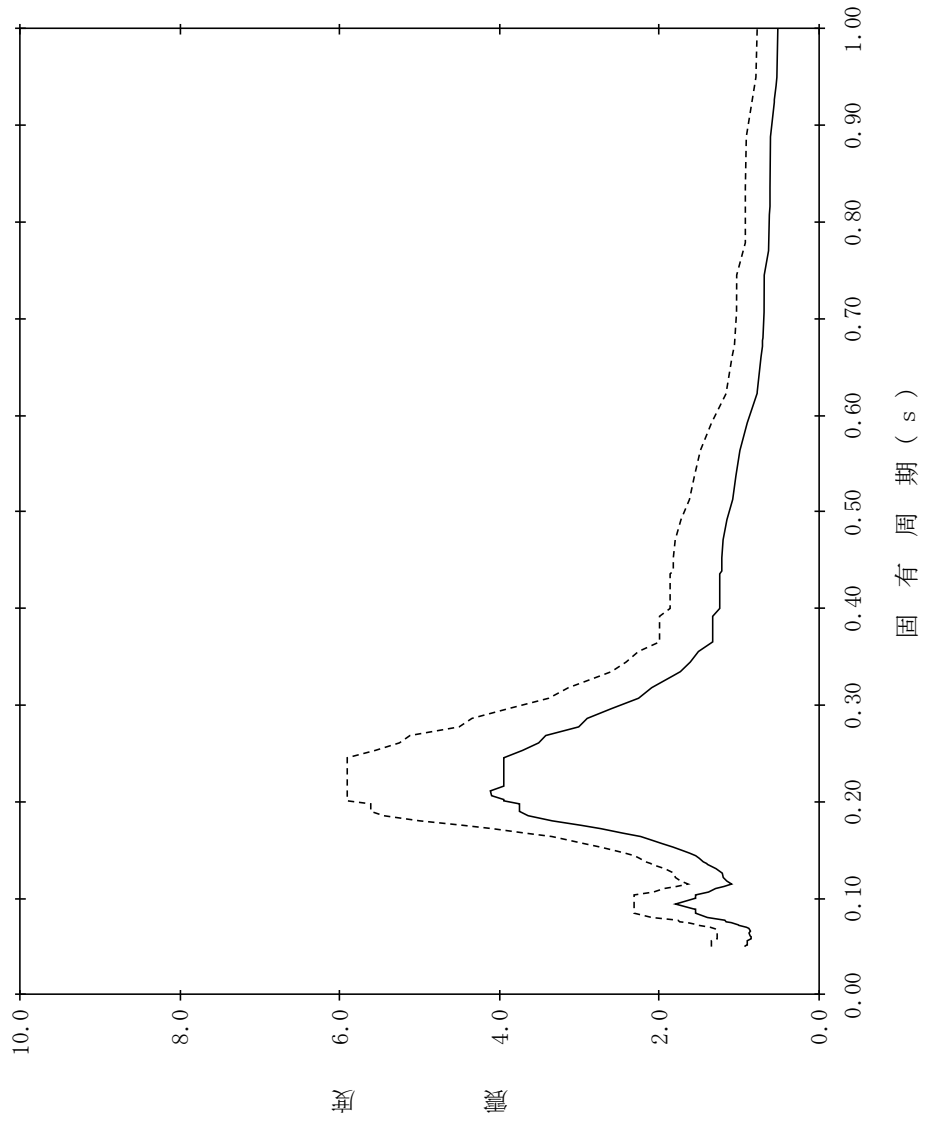
【NS2-PCV-SdNS-PCV46】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



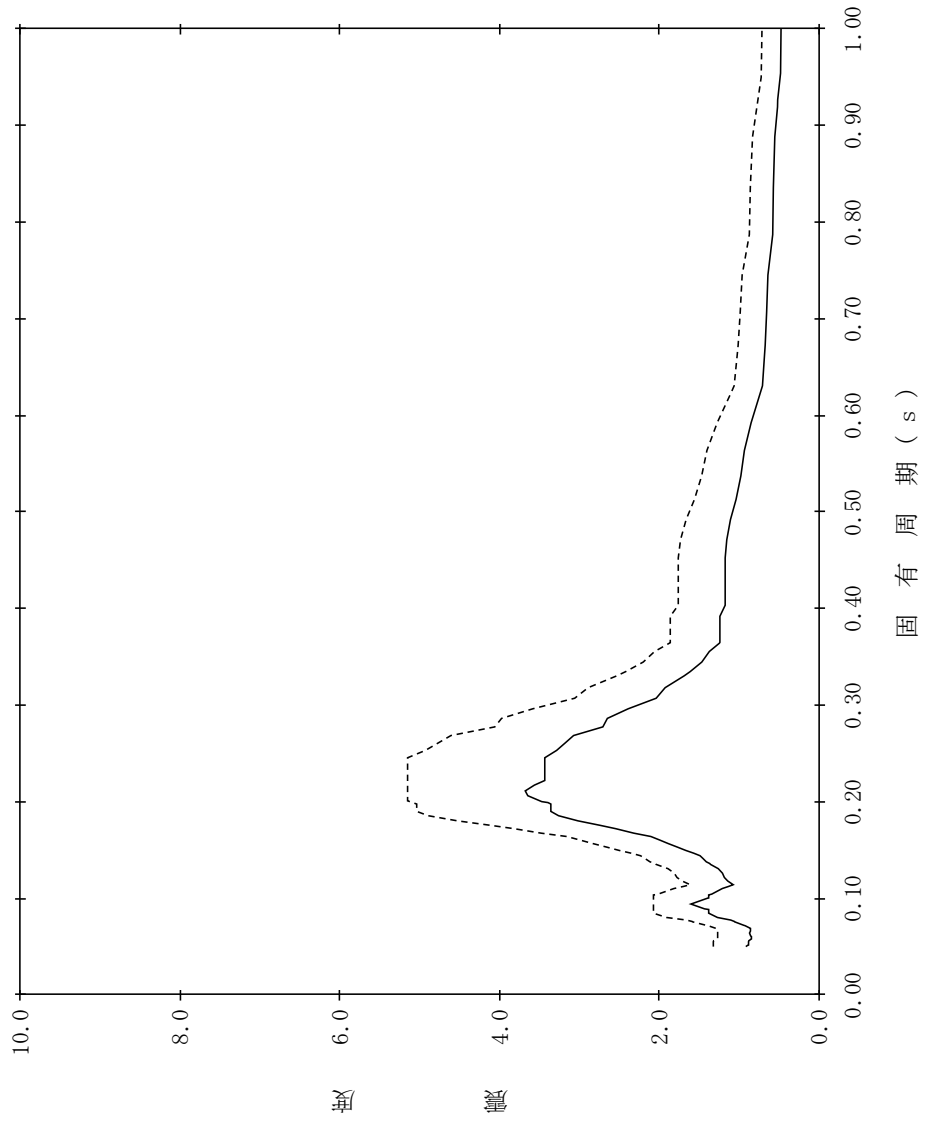
【NS2-PCV-SdNS-PCV47】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



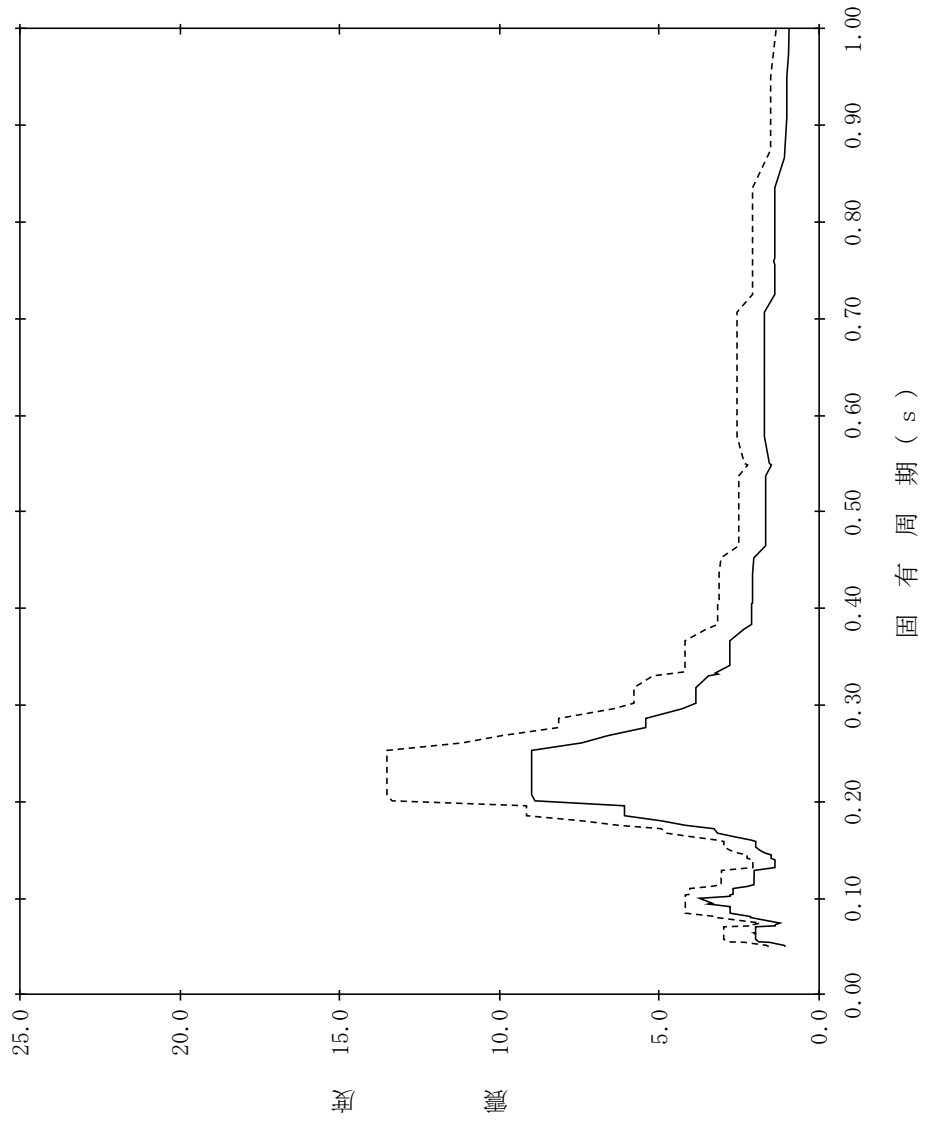
【NS2-PCV-SdNS-PCV48】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



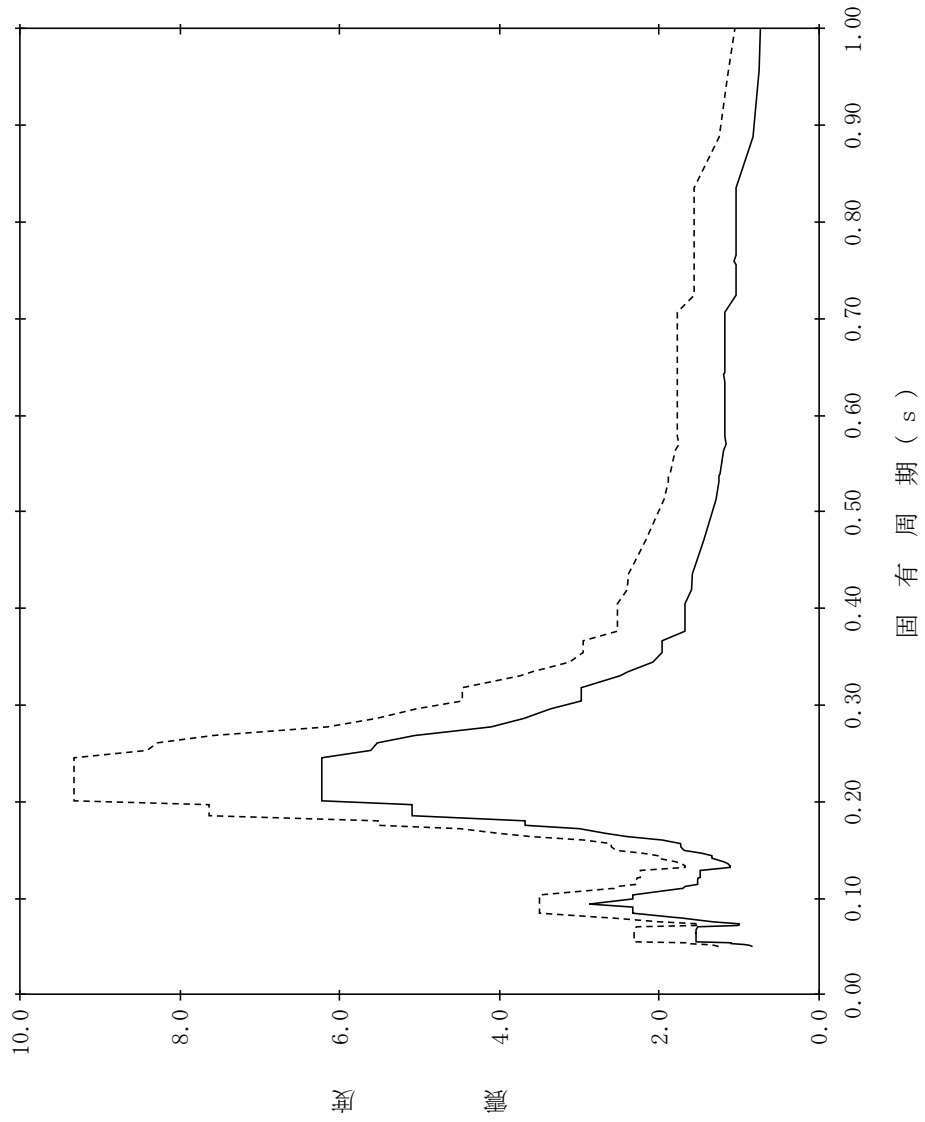
【NS2-PCV-SdNS-PCV49】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



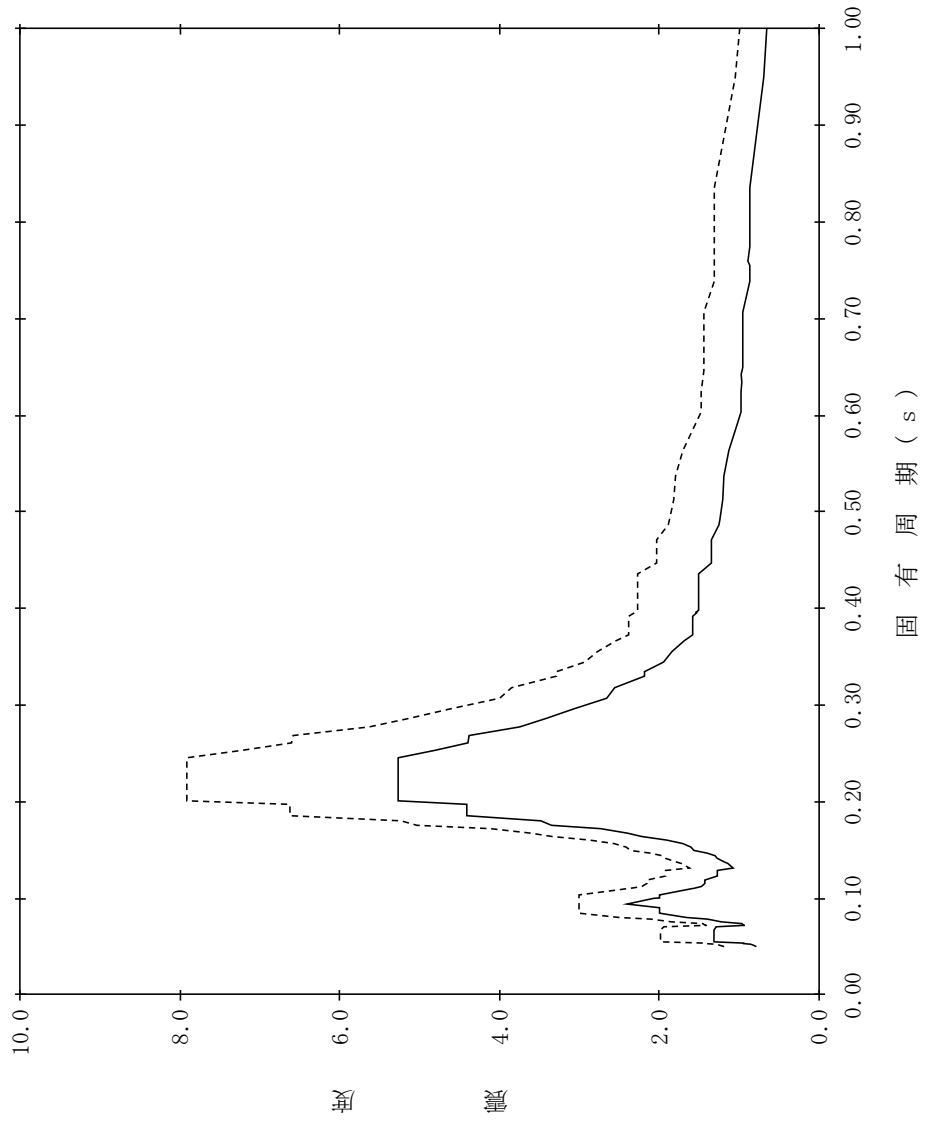
【NS2-PCV-SdNS-PCV50】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



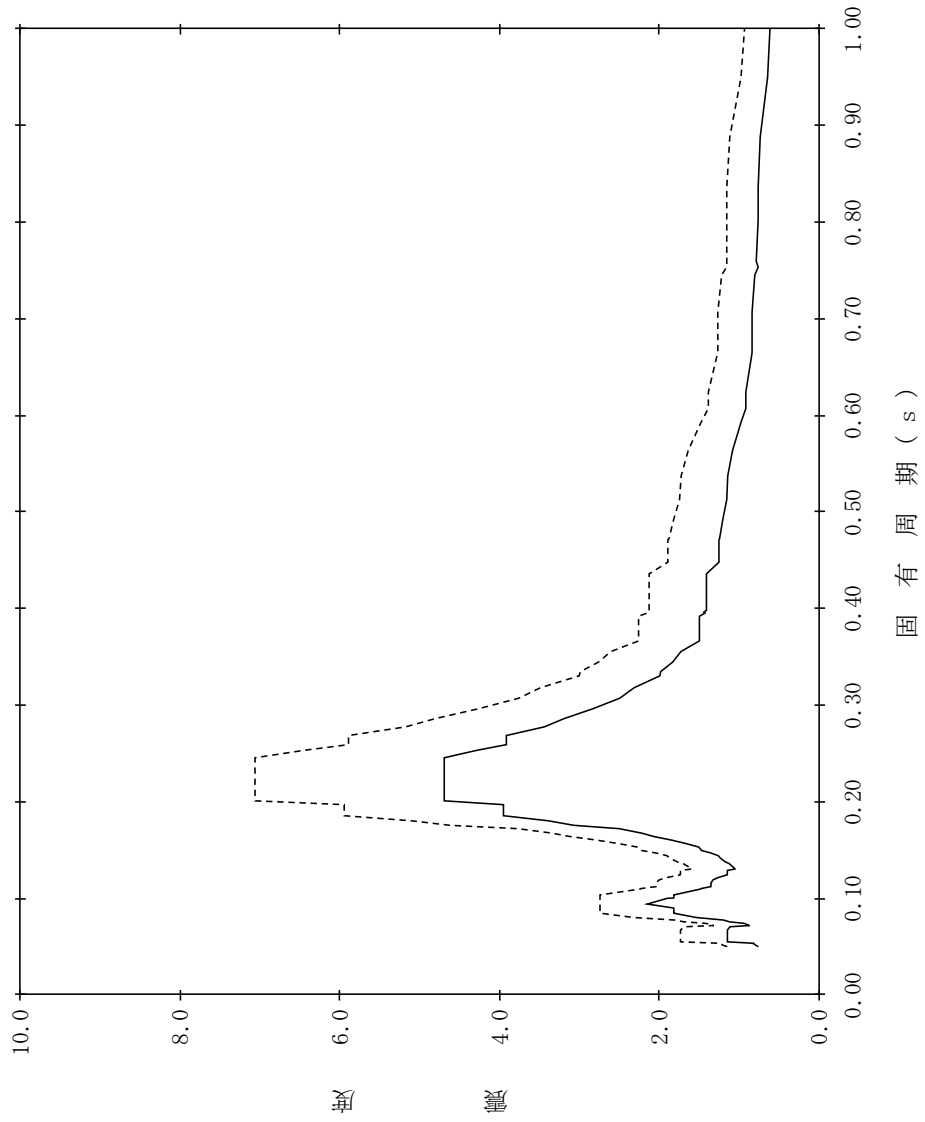
【NS2-PCV-SdNS-PCV51】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



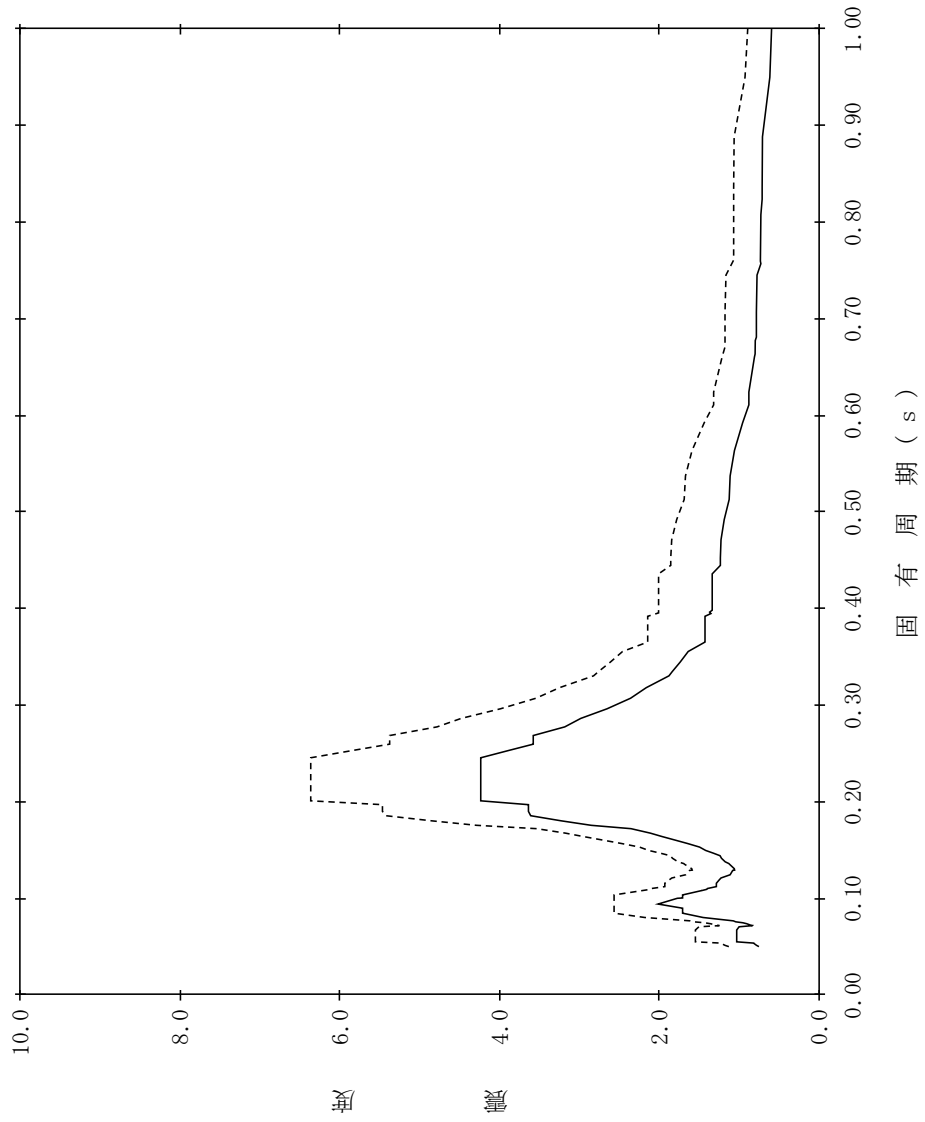
【NS2-PCV-SdNS-PCV52】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



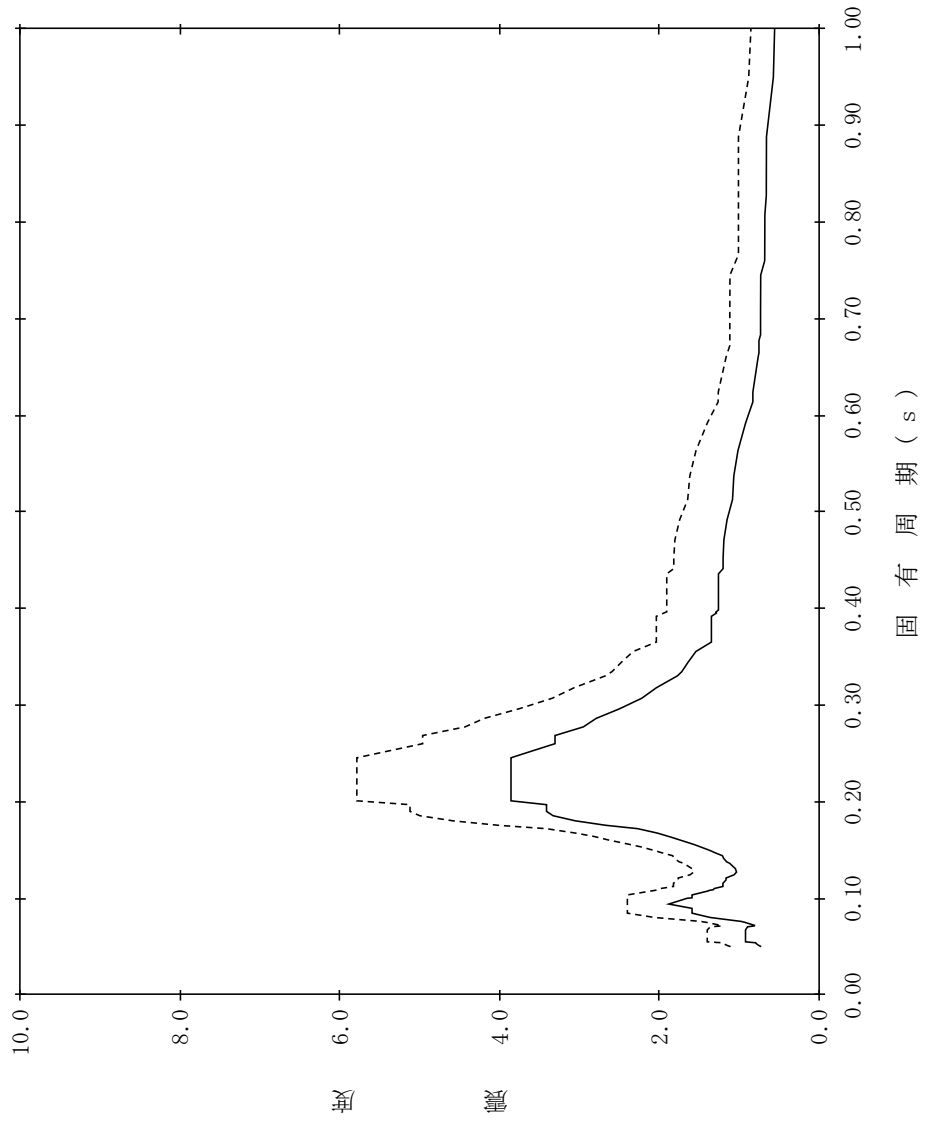
【NS2-PCV-SdNS-PCV53】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



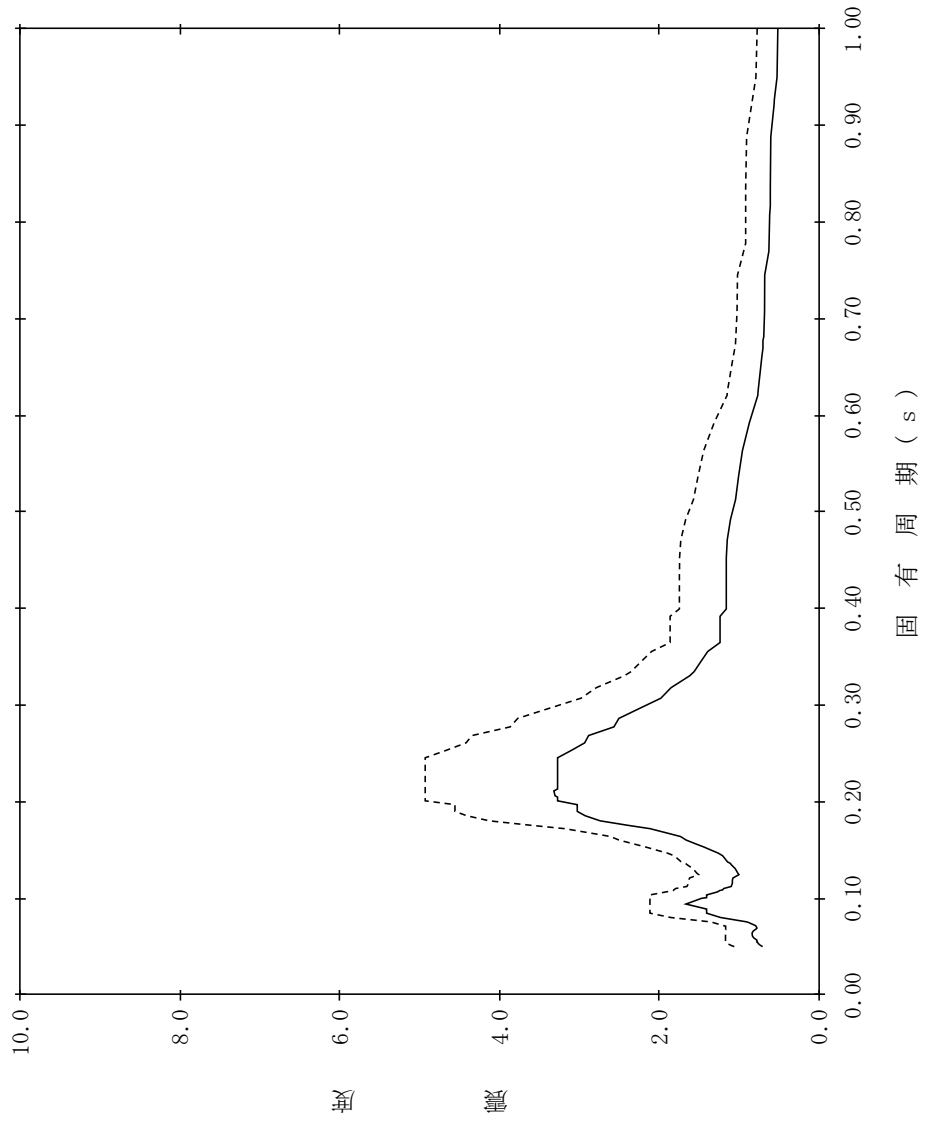
【NS2-PCV-SdNS-PCV54】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



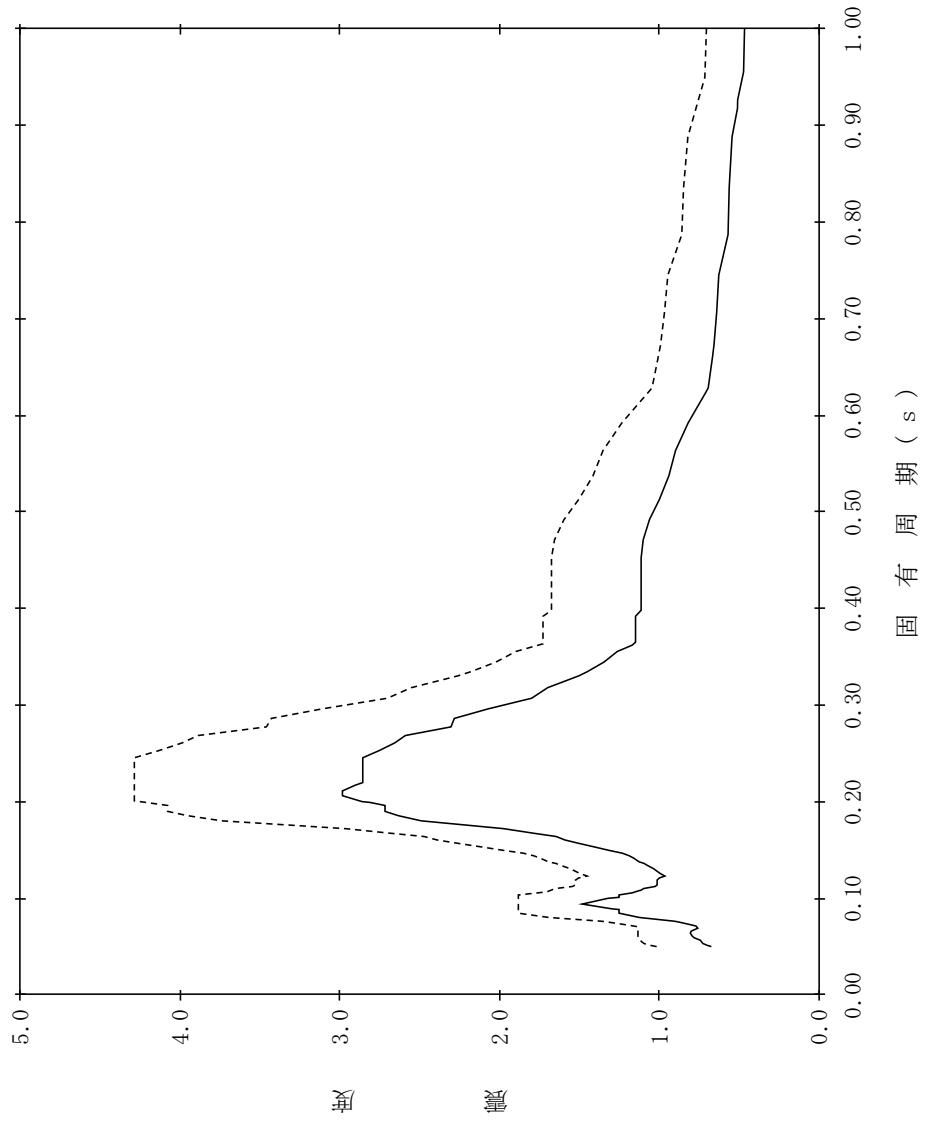
【NS2-PCV-SdNS-PCV55】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



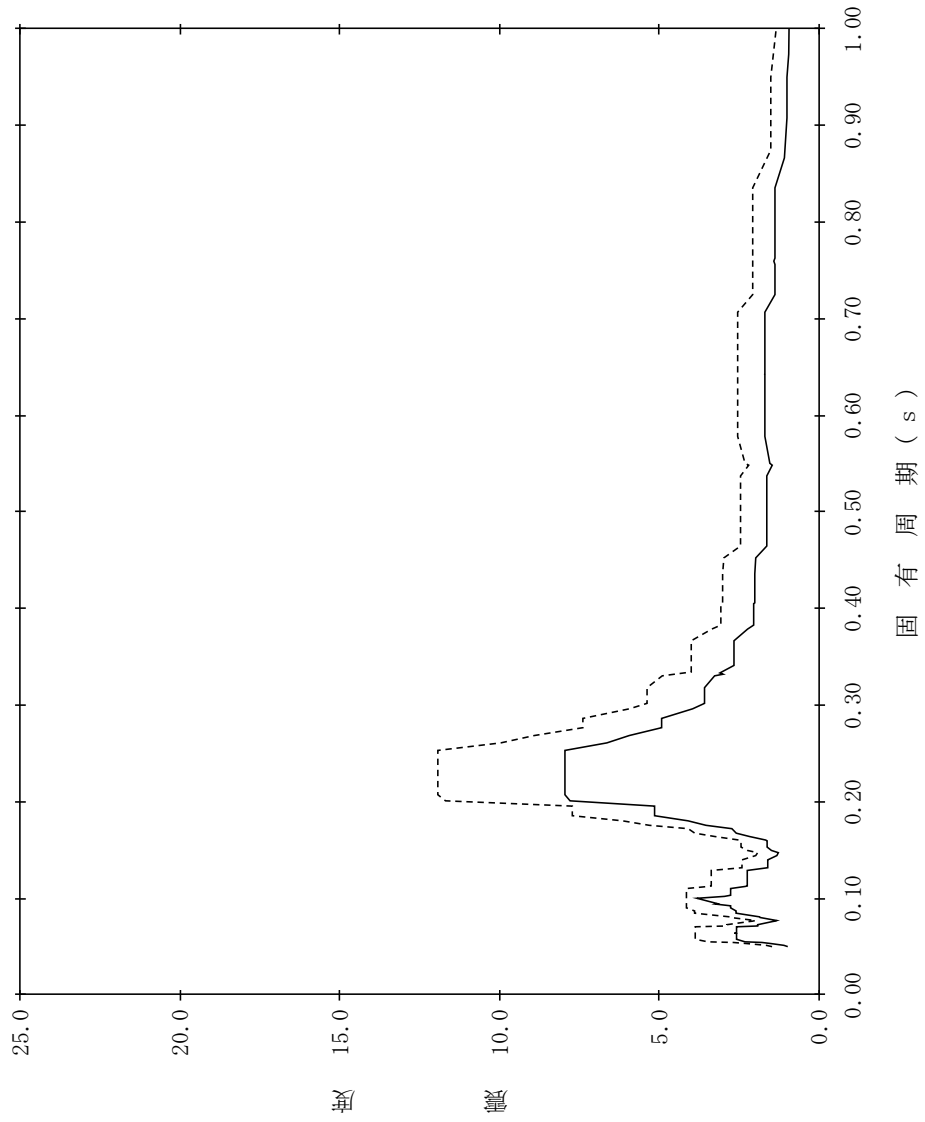
【NS2-PCV-SdNS-PCV56】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



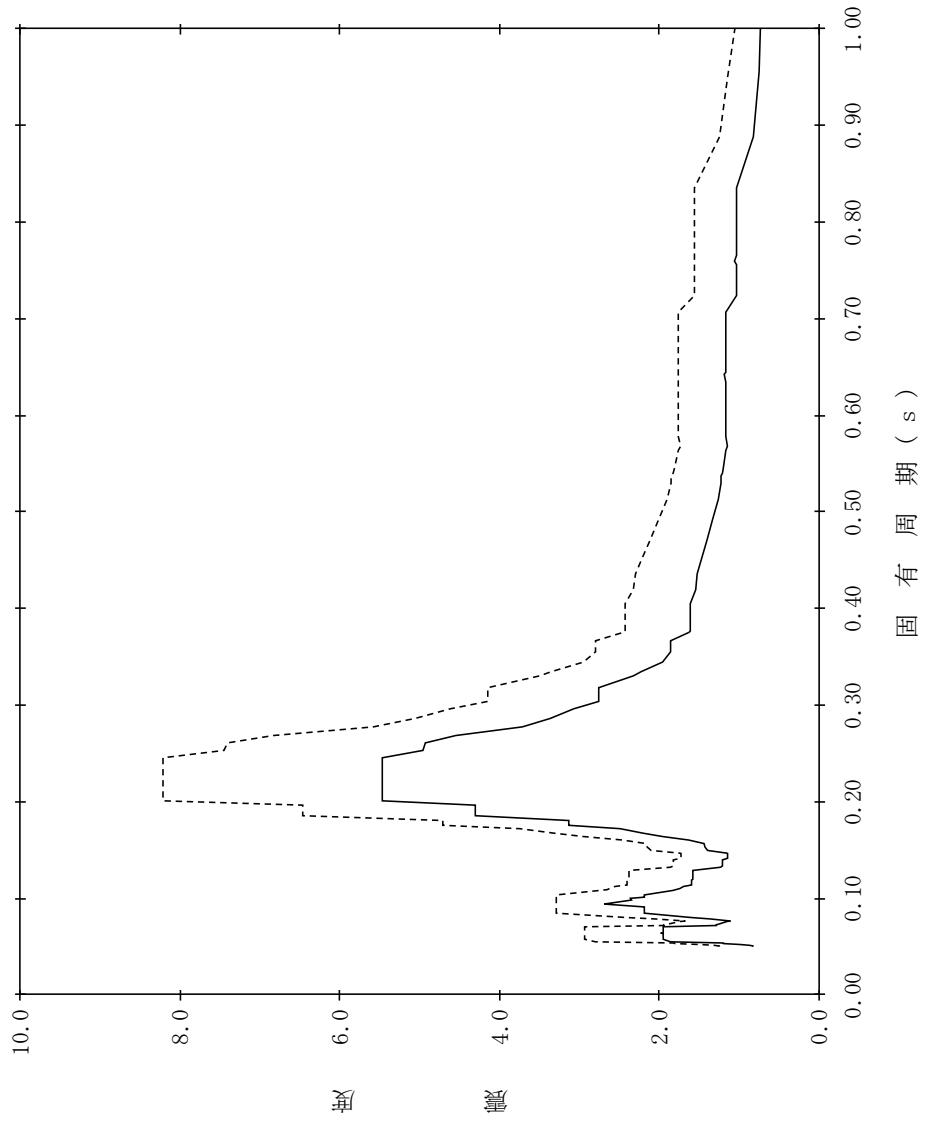
【NS2-PCV-SdNS-PCV57】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



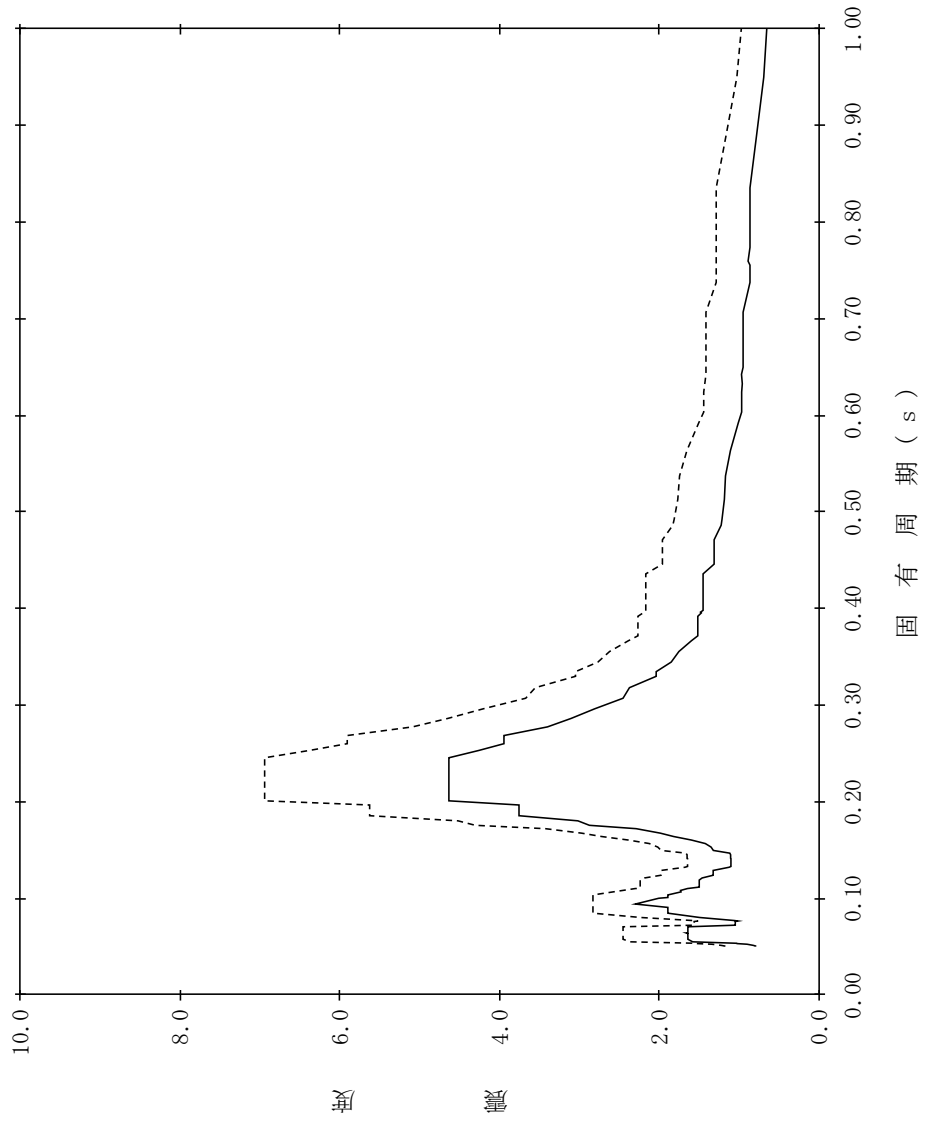
【NS2-PCV-SdNS-PCV58】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL19.878m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



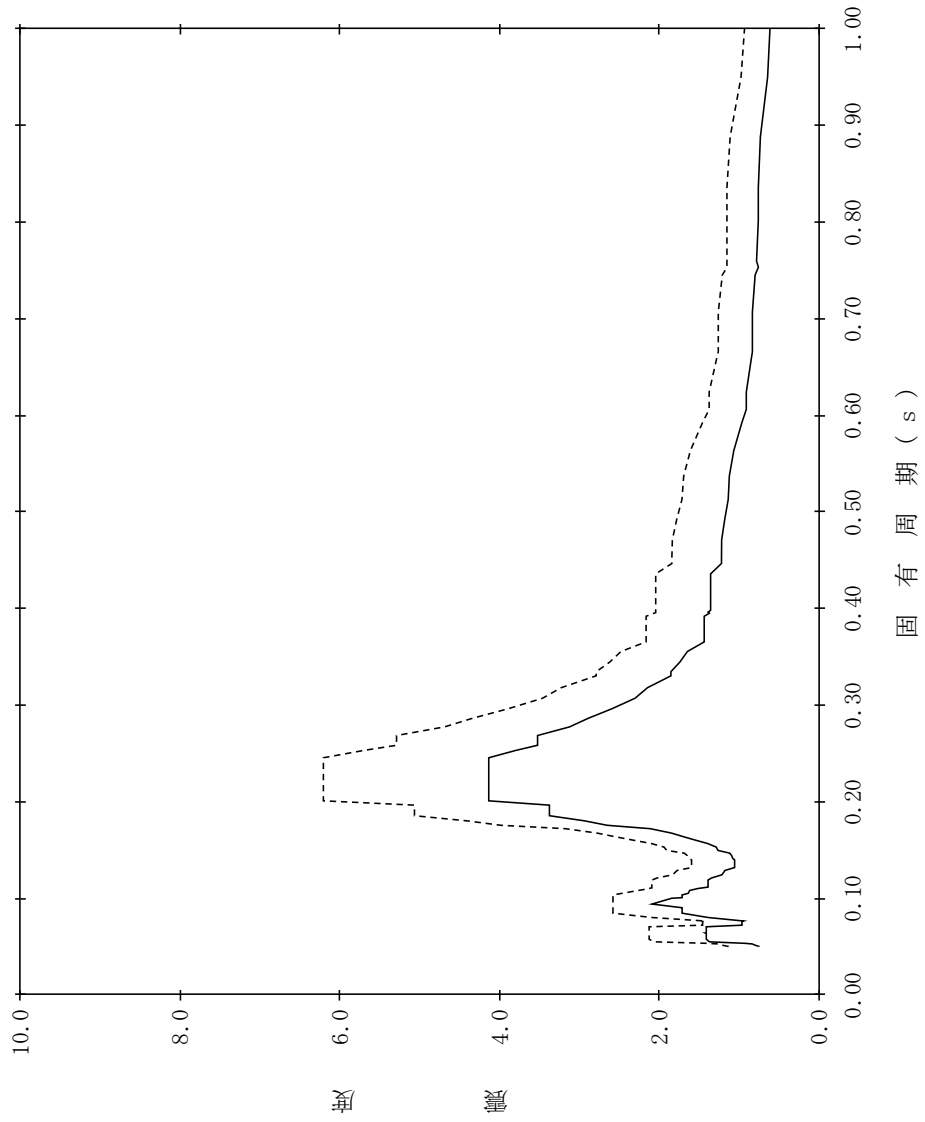
【NS2-PCV-SdNS-PCV59】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



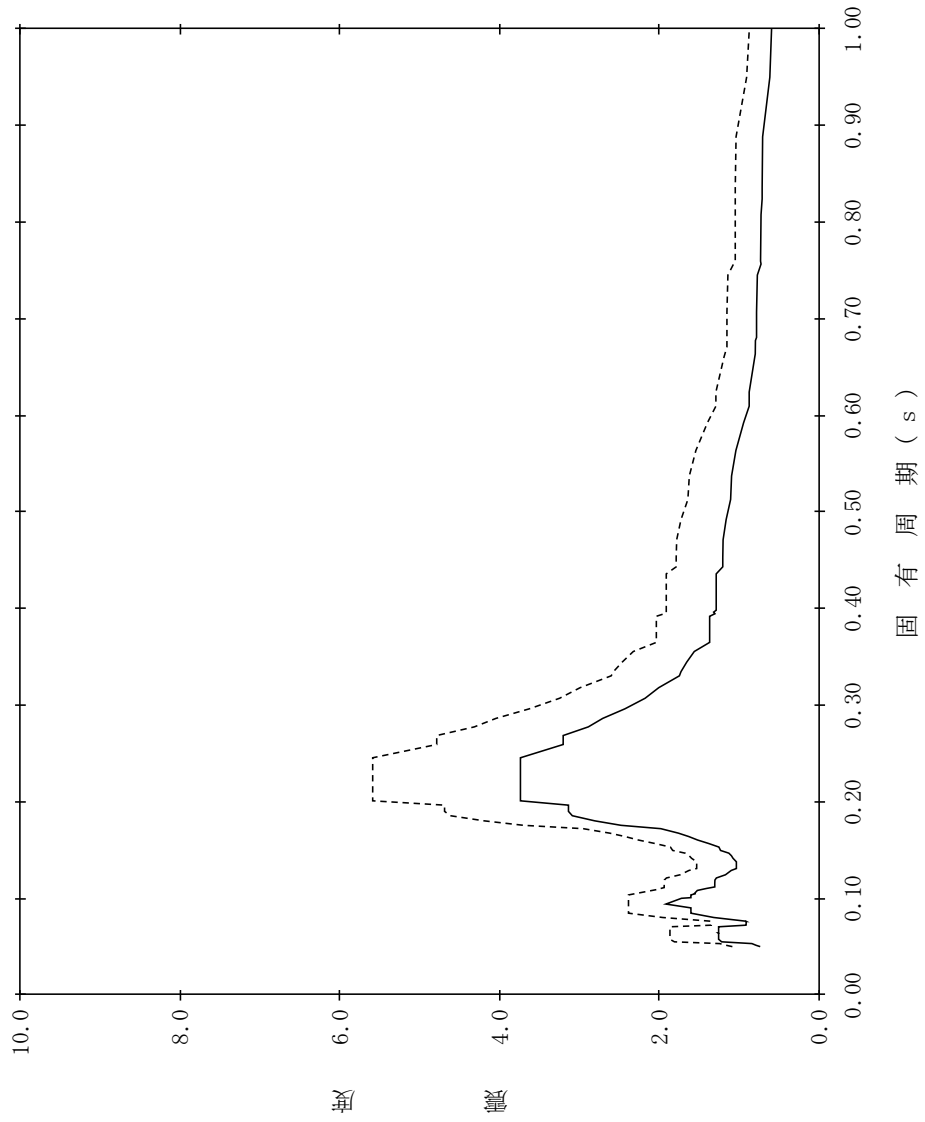
【NS2-PCV-SdNS-PCV60】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

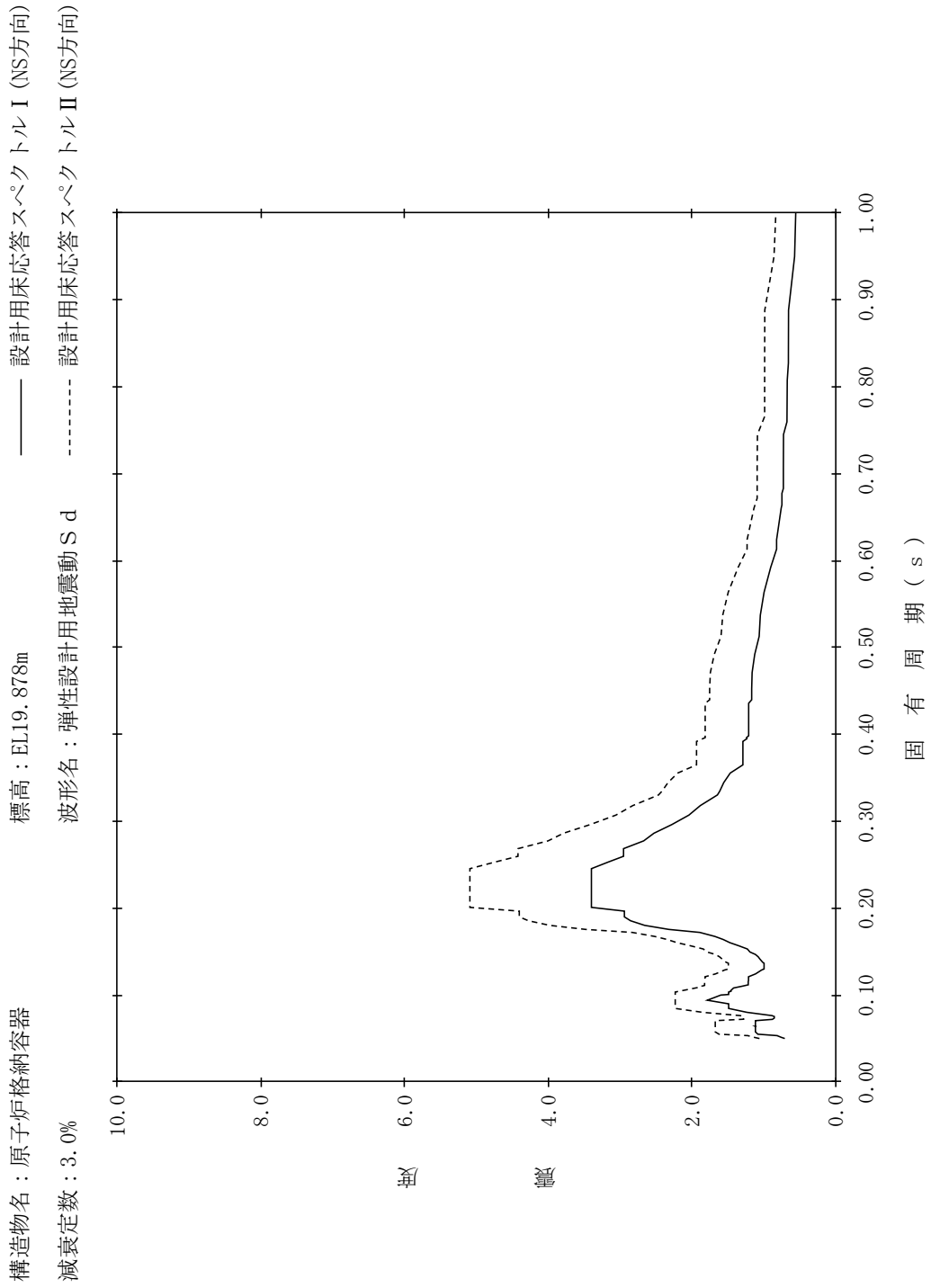


【NS2-PCV-SdNS-PCV61】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

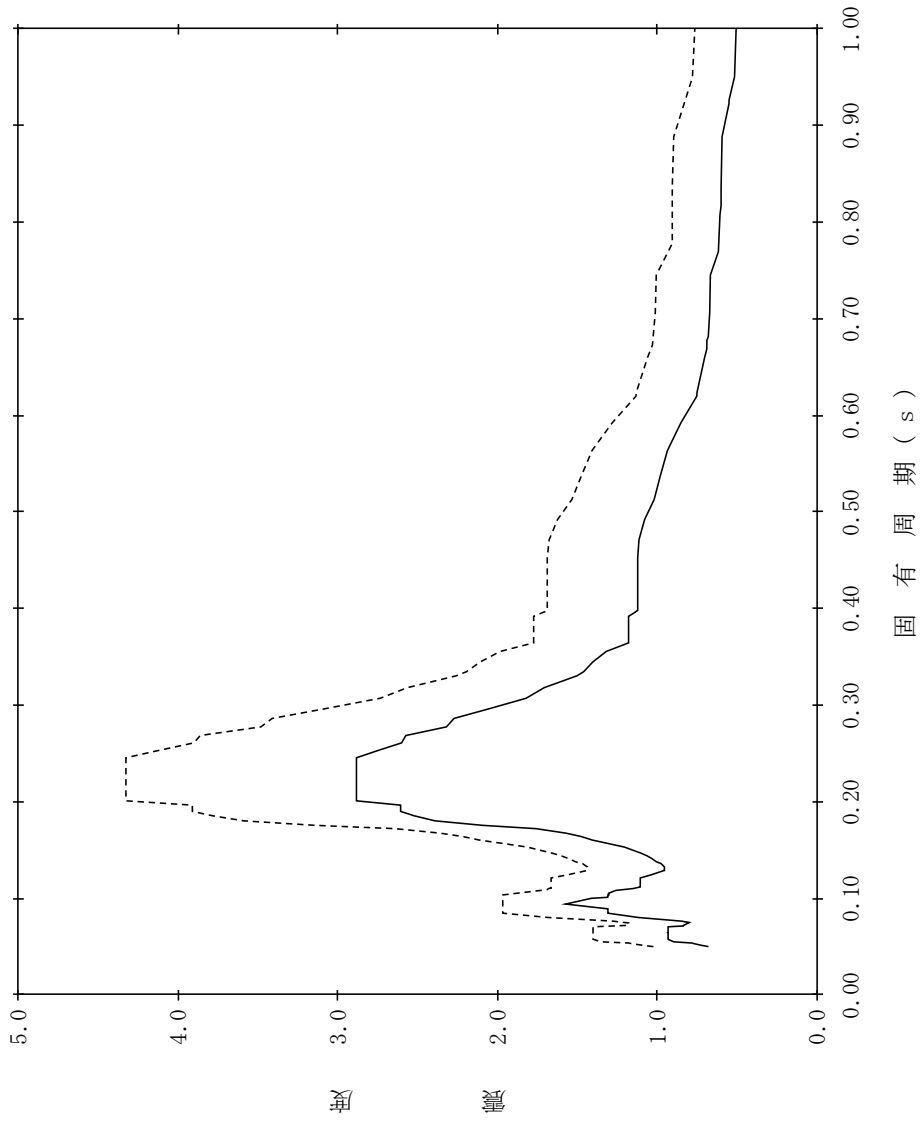


【NS2-PCV-SdNS-PCV62】



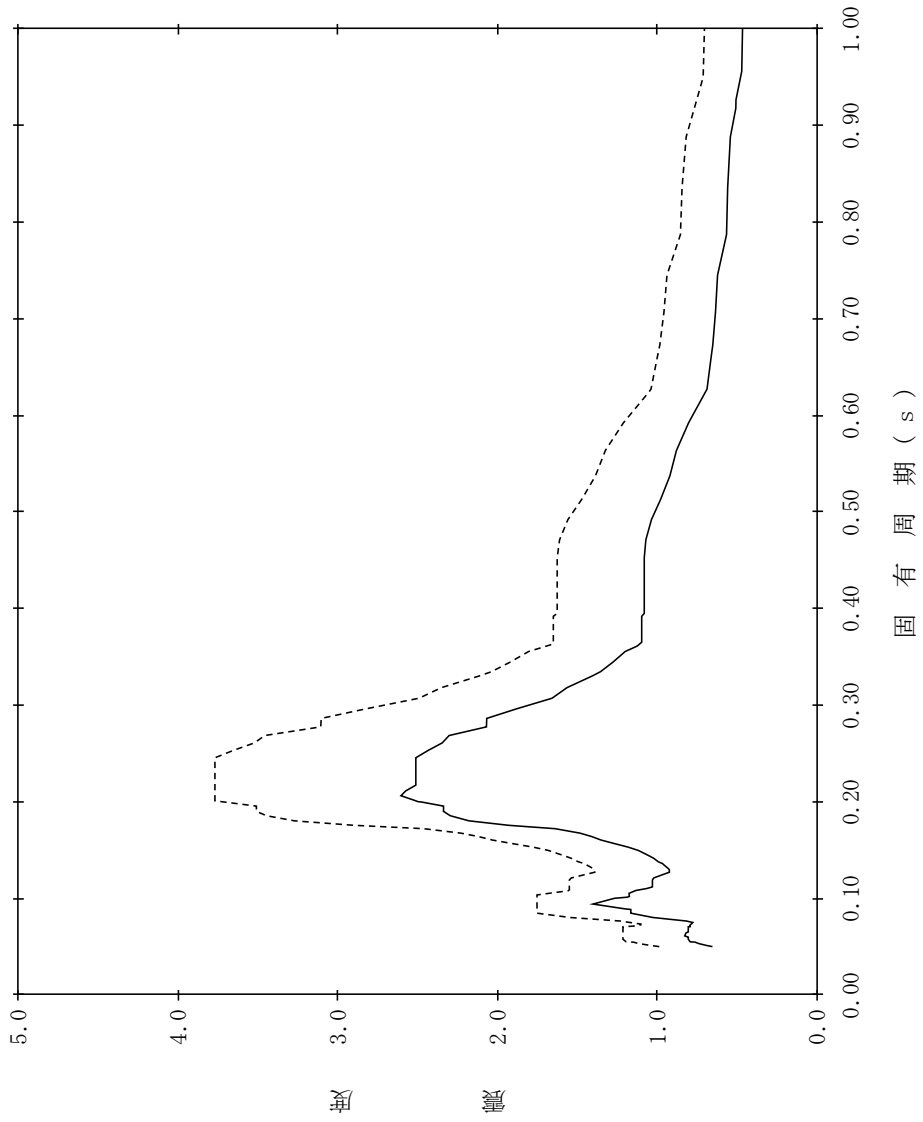
【NS2-PCV-SdNS-PCV63】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



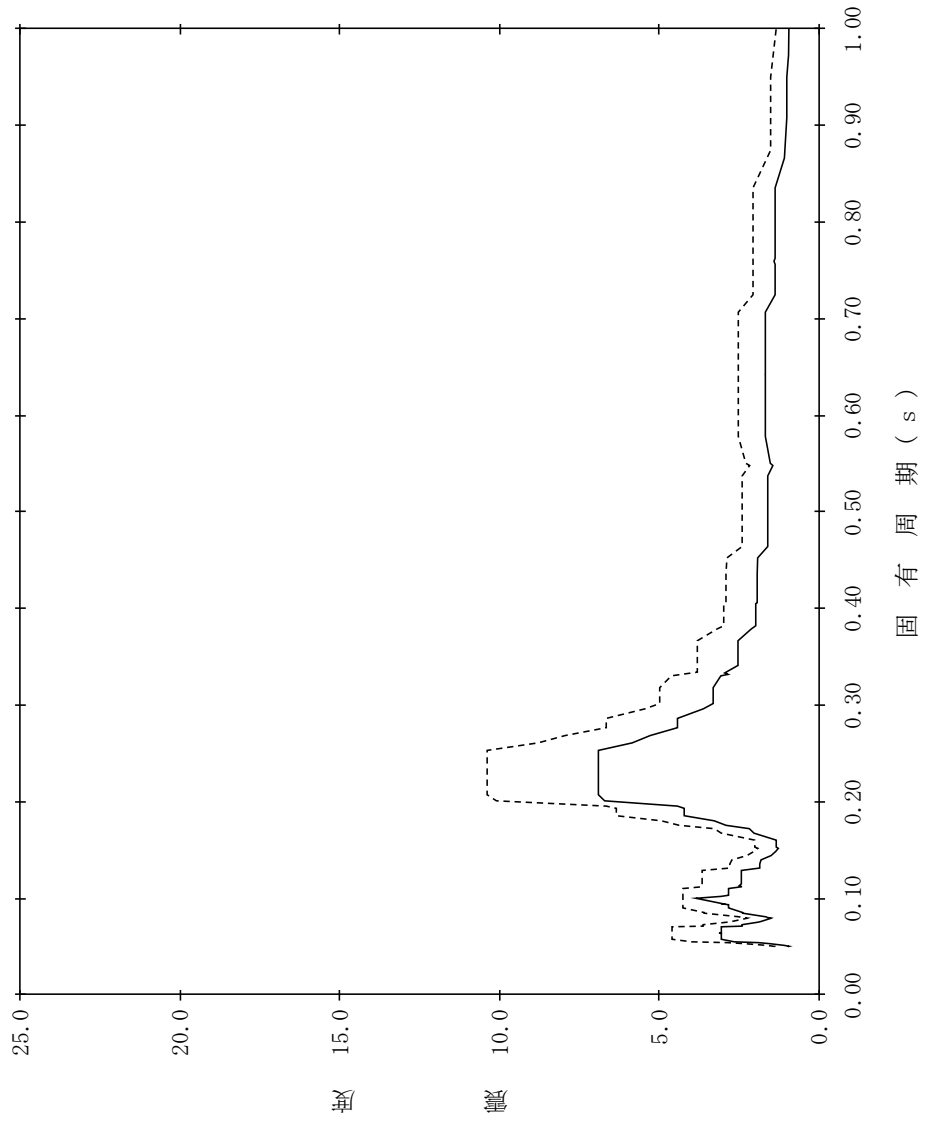
【NS2-PCV-SdNS-PCV64】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



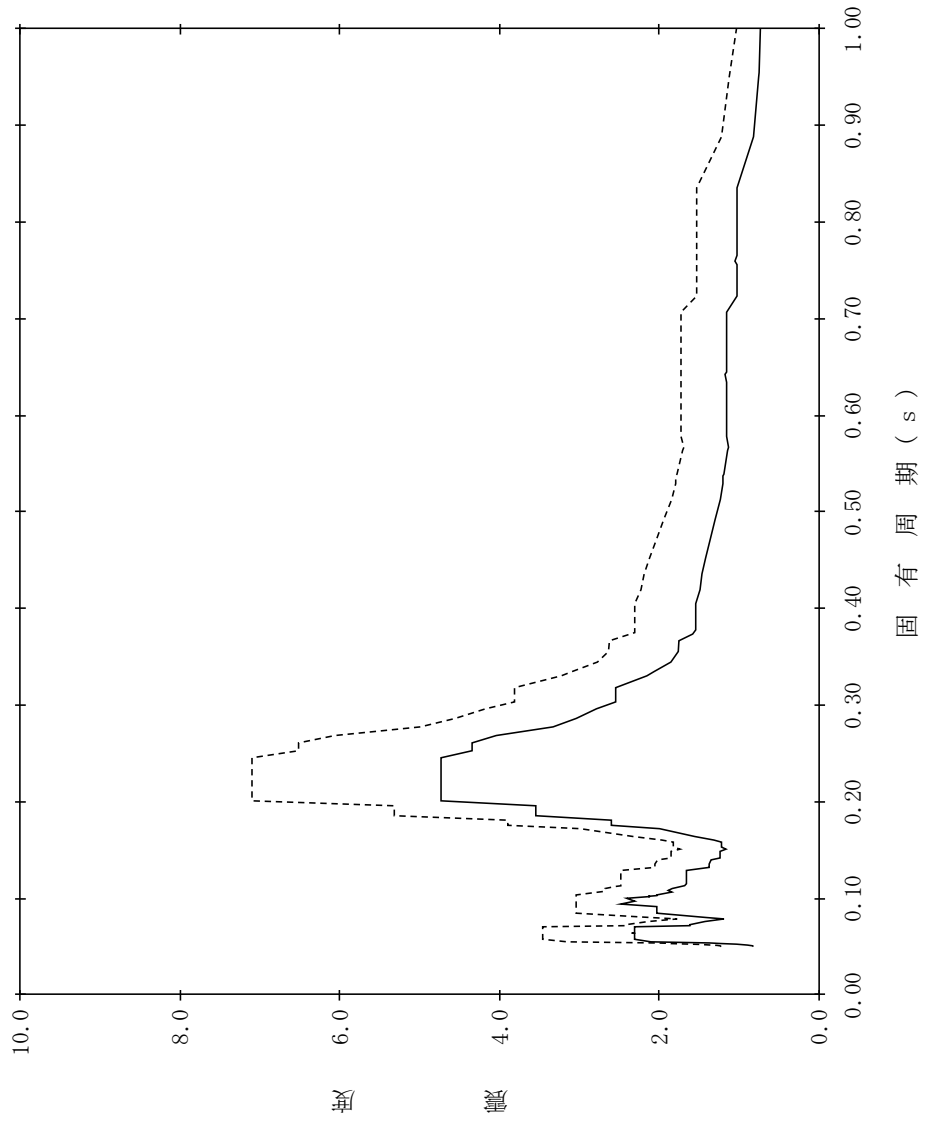
【NS2-PCV-SdNS-PCV65】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



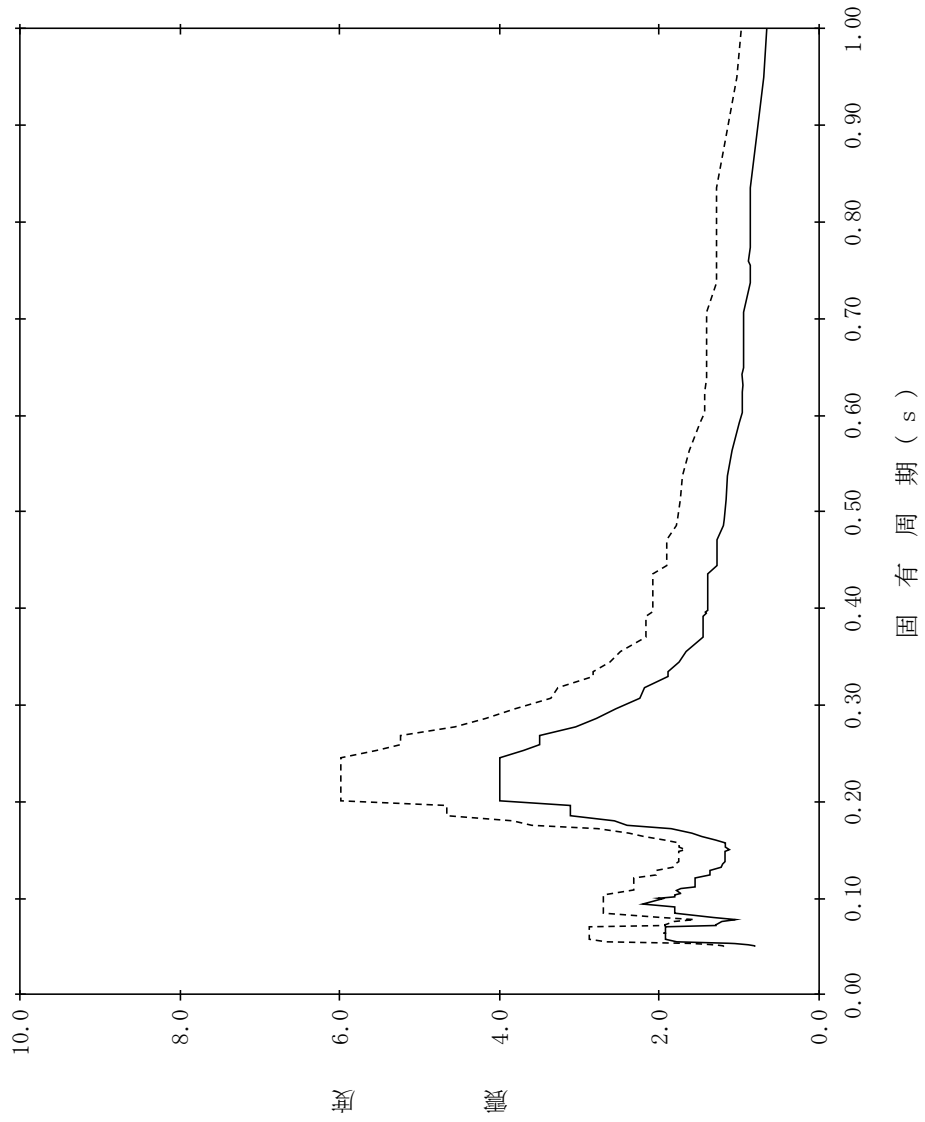
【NS2-PCV-SdNS-PCV66】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



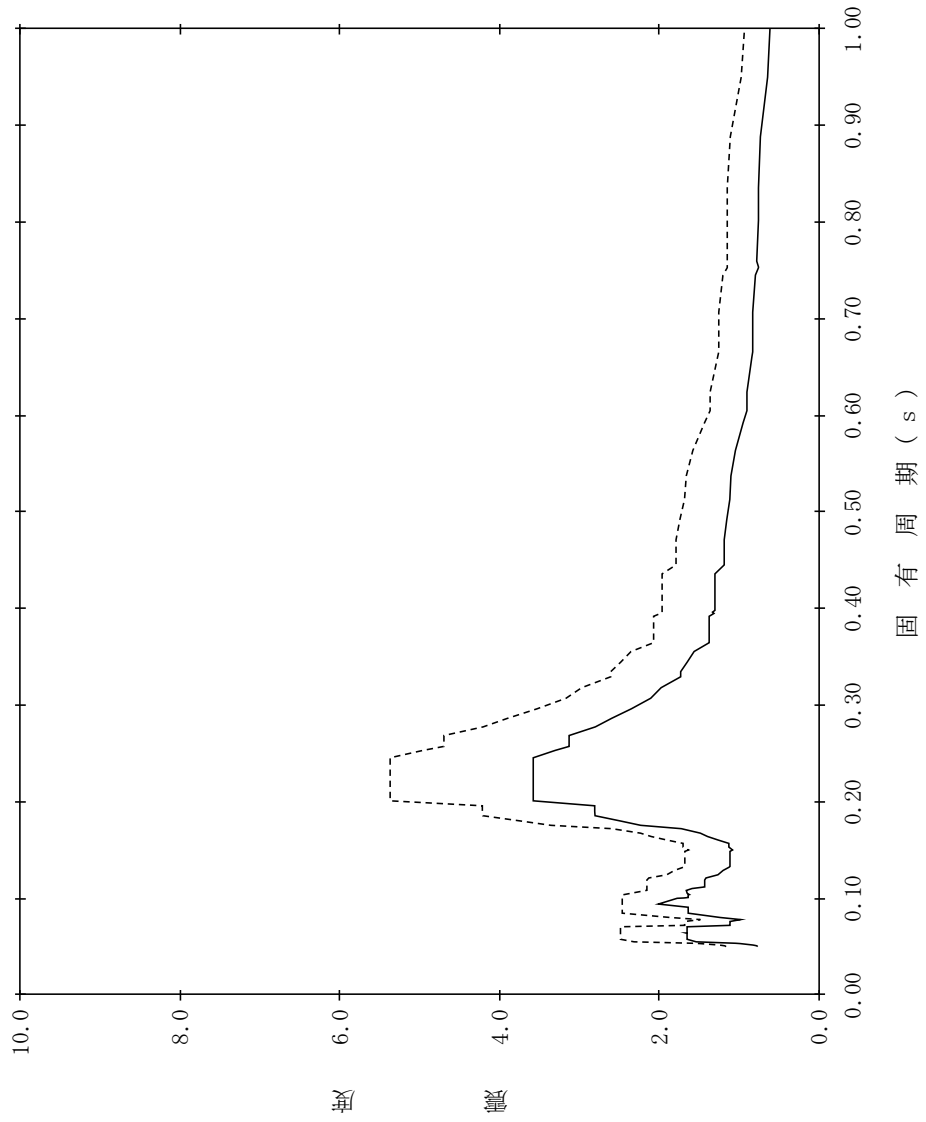
【NS2-PCV-SdNS-PCV67】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

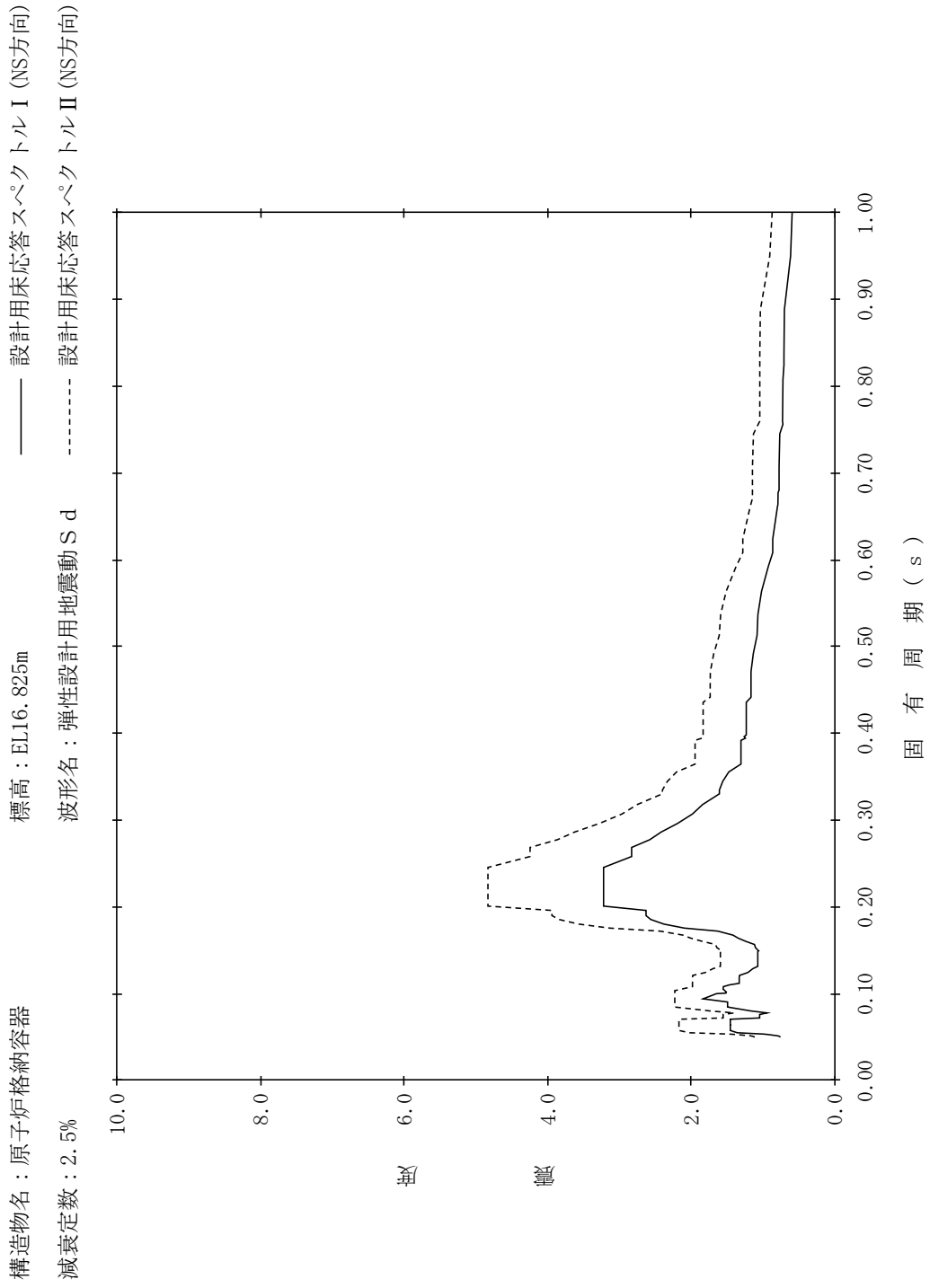


【NS2-PCV-SdNS-PCV68】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

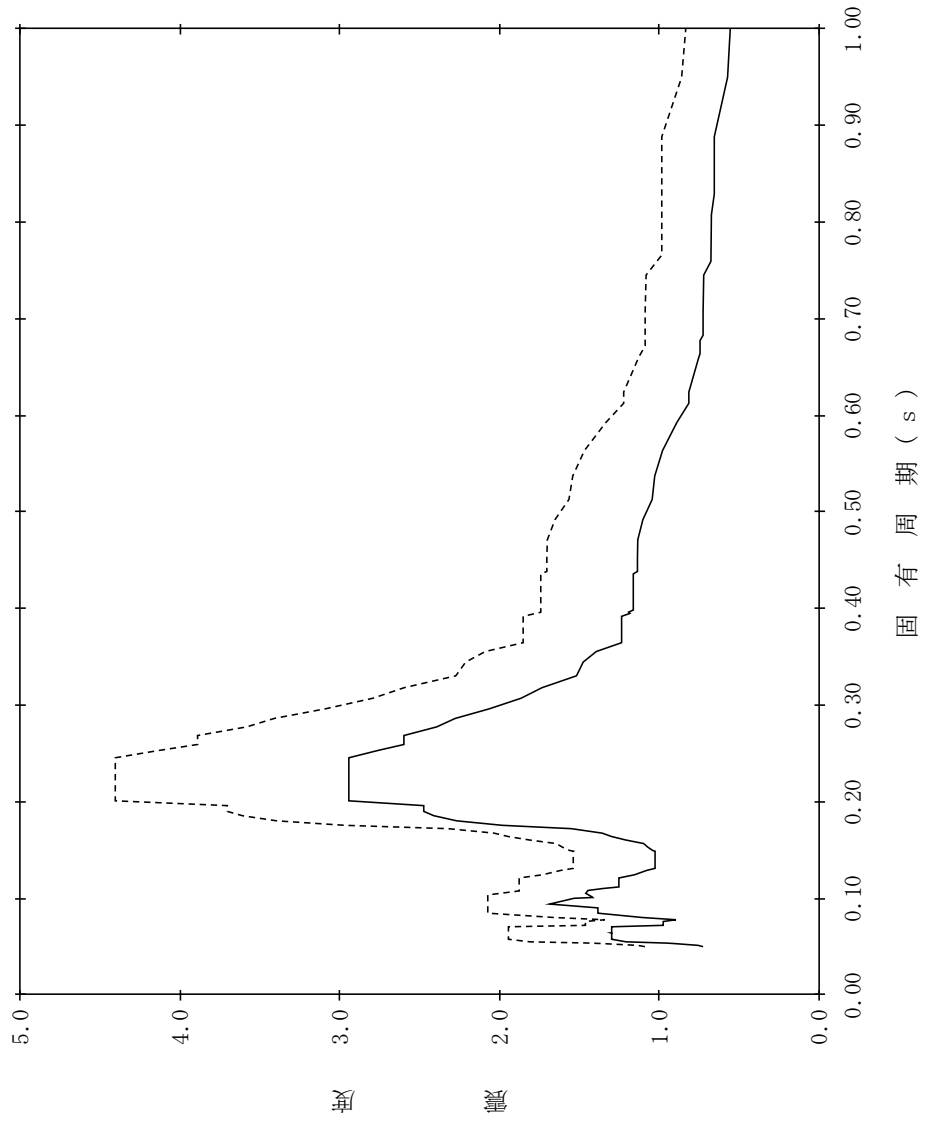


【NS2-PCV-SdNS-PCV69】



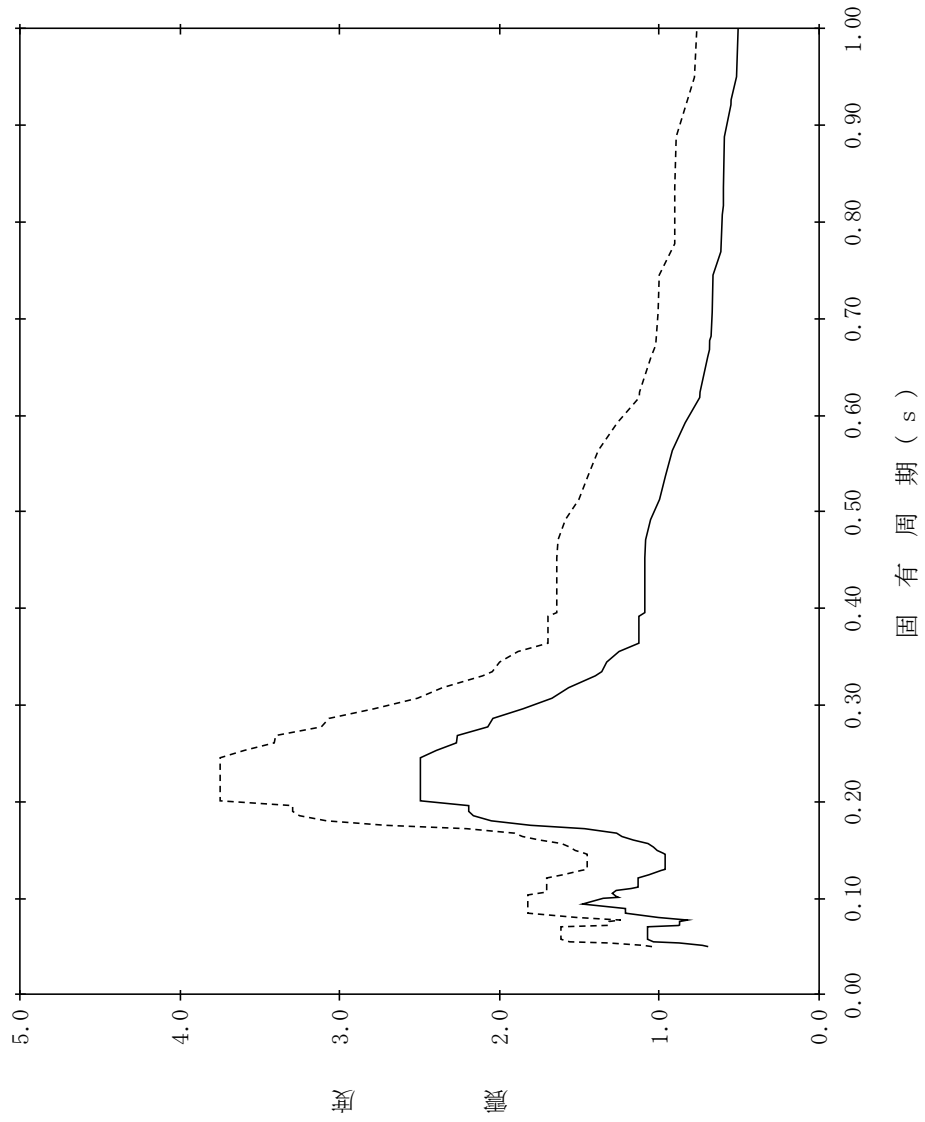
【NS2-PCV-SdNS-PCV70】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

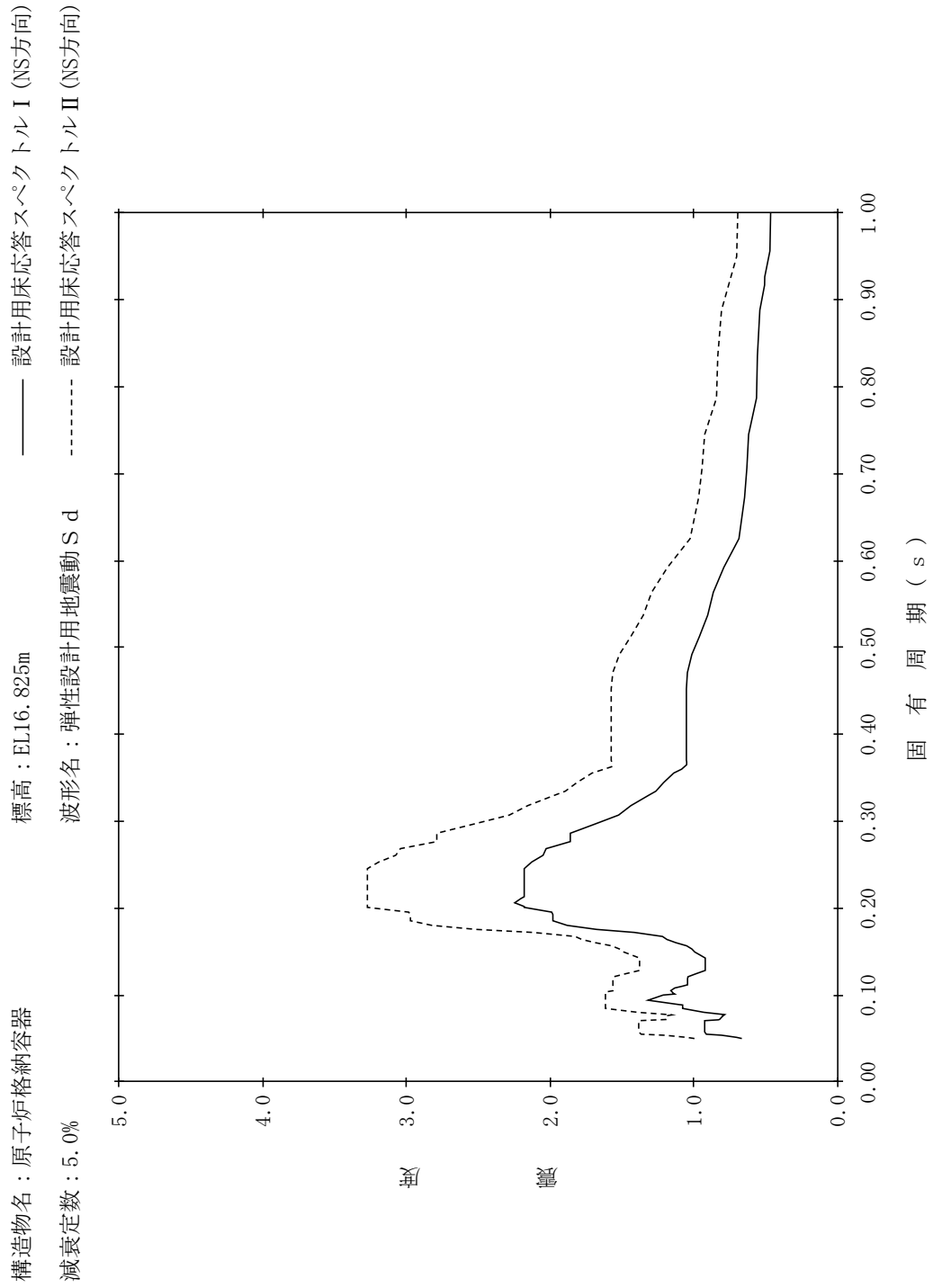


【NS2-PCV-SdNS-PCV71】

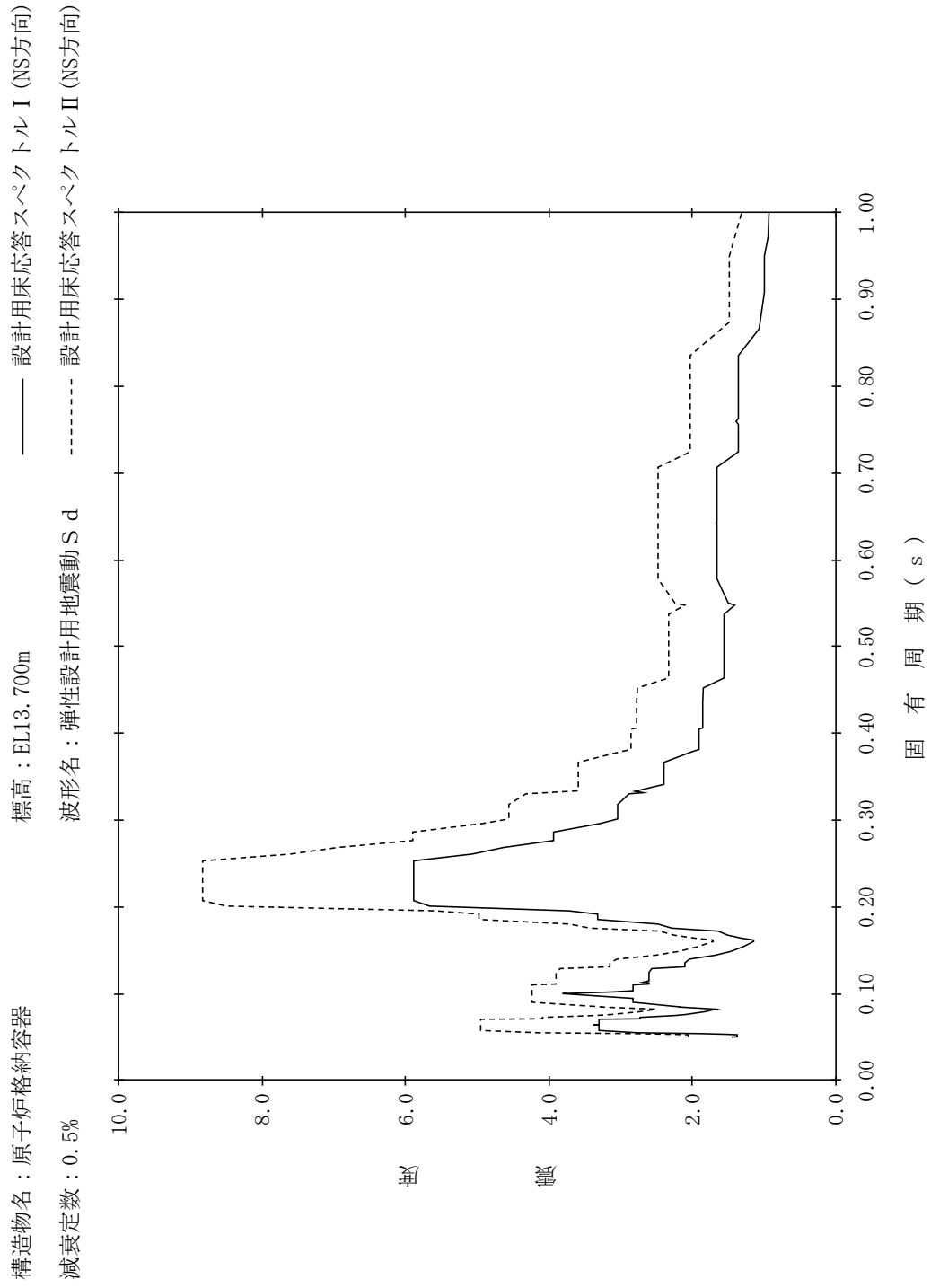
構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-PCV-SdNS-PCV72】

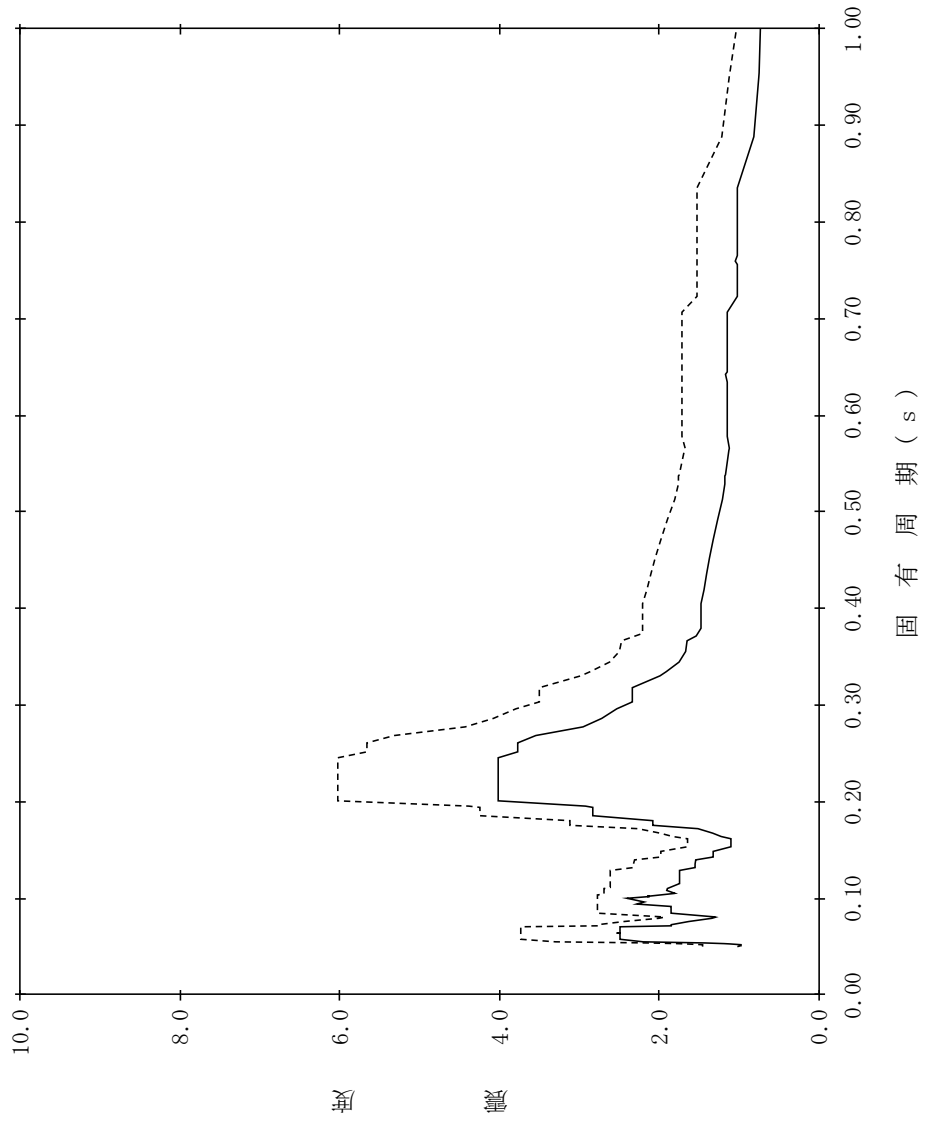


【NS2-PCV-SdNS-PCV73】



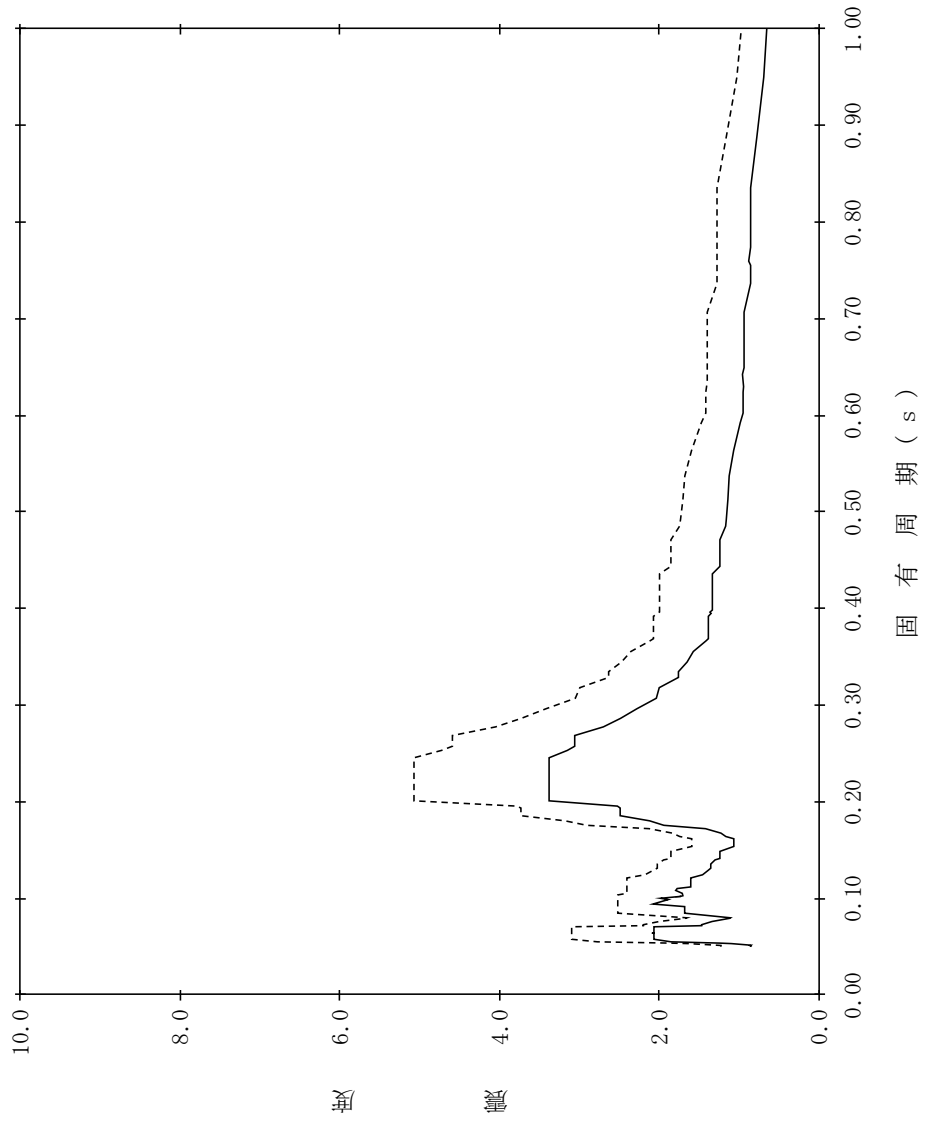
【NS2-PCV-SdNS-PCV74】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



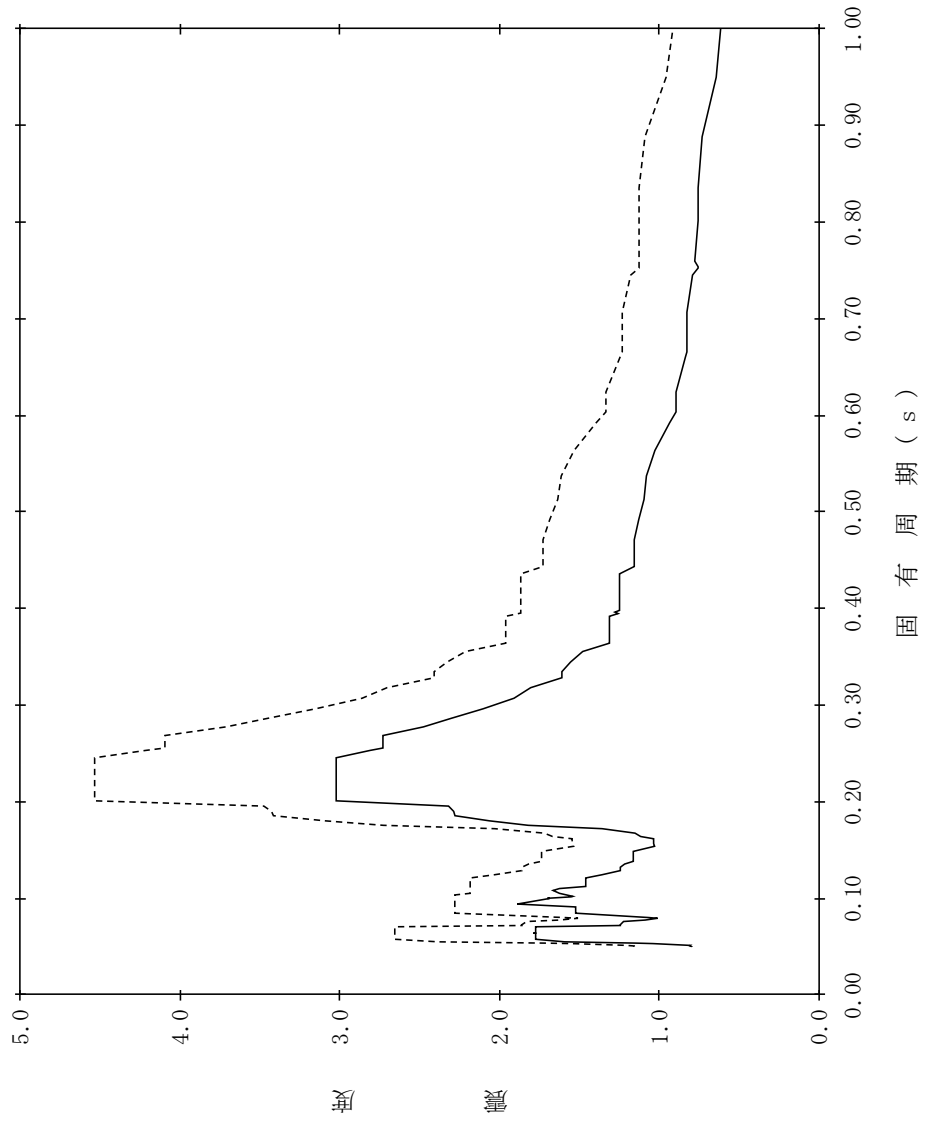
【NS2-PCV-SdNS-PCV75】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



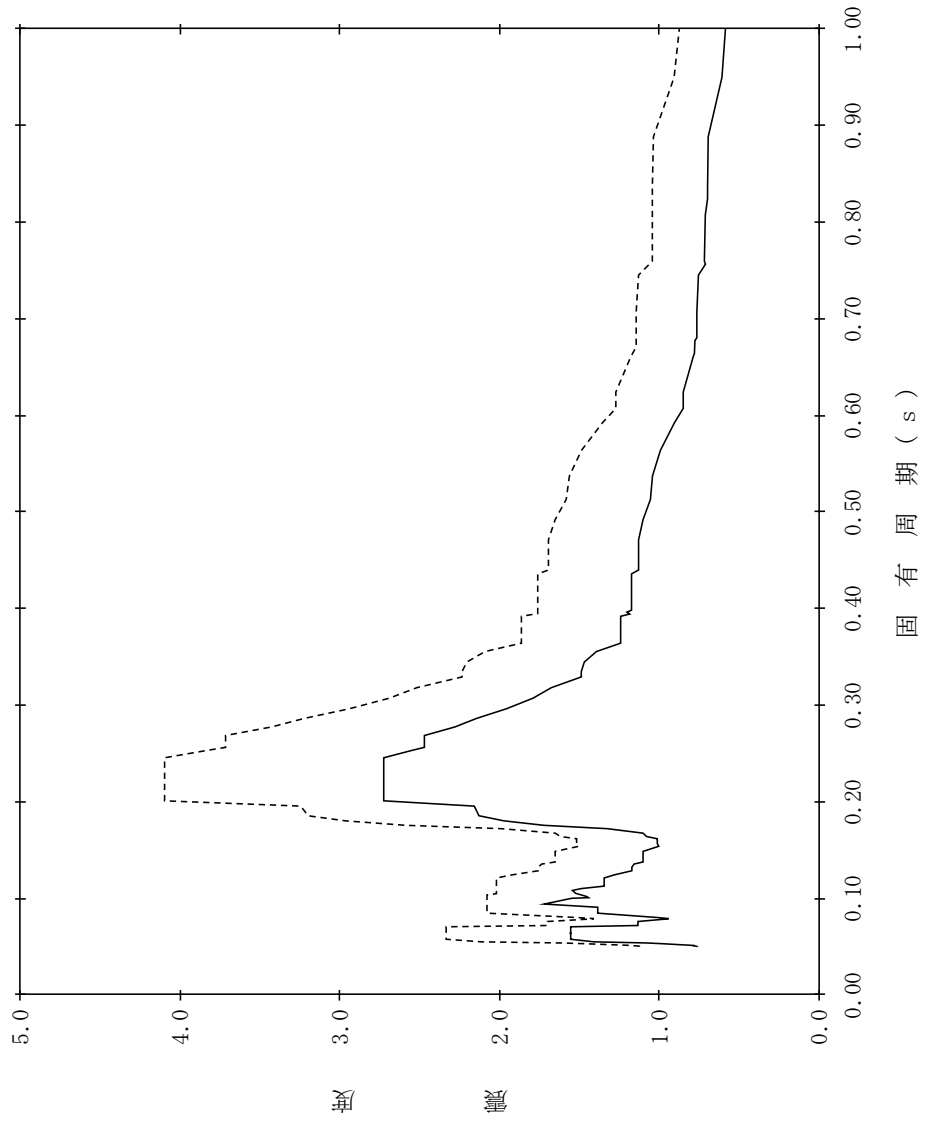
【NS2-PCV-SdNS-PCV76】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



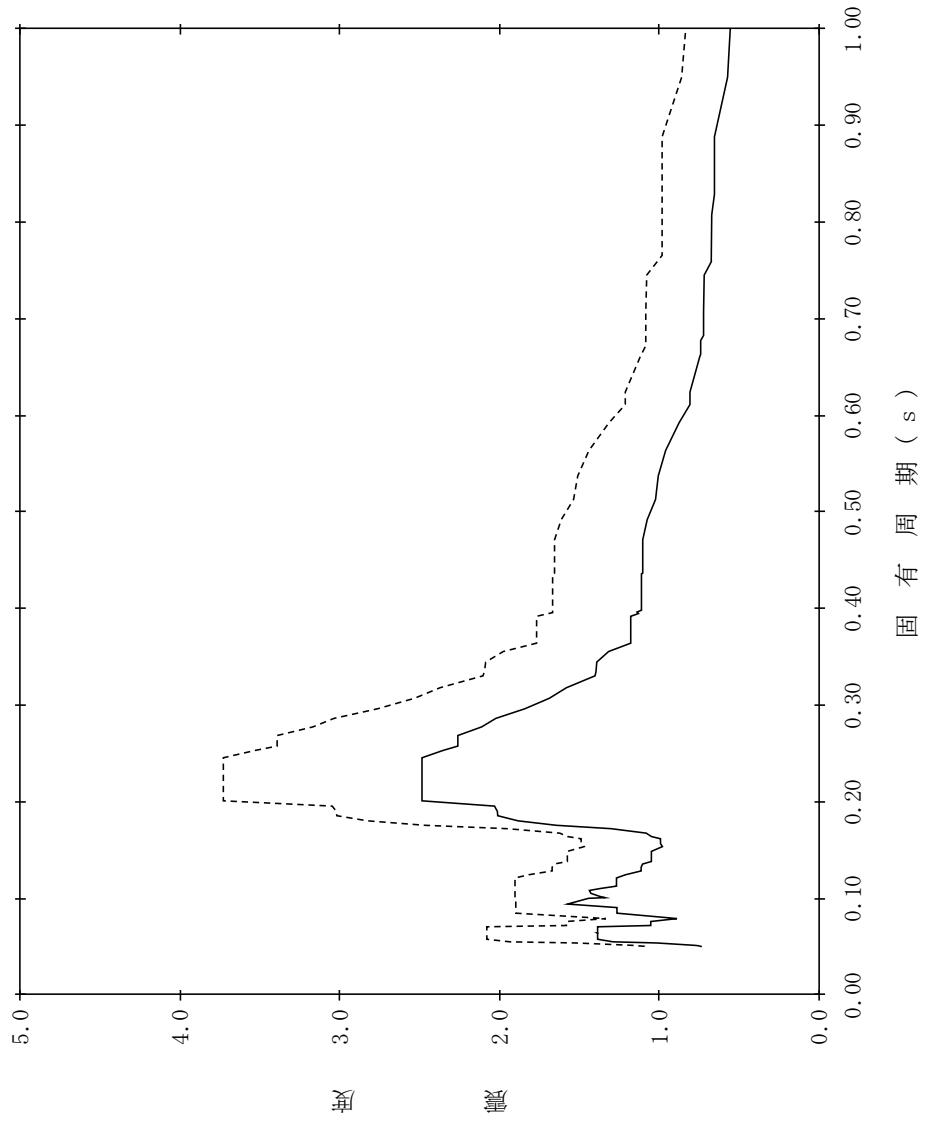
【NS2-PCV-SdNS-PCV77】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



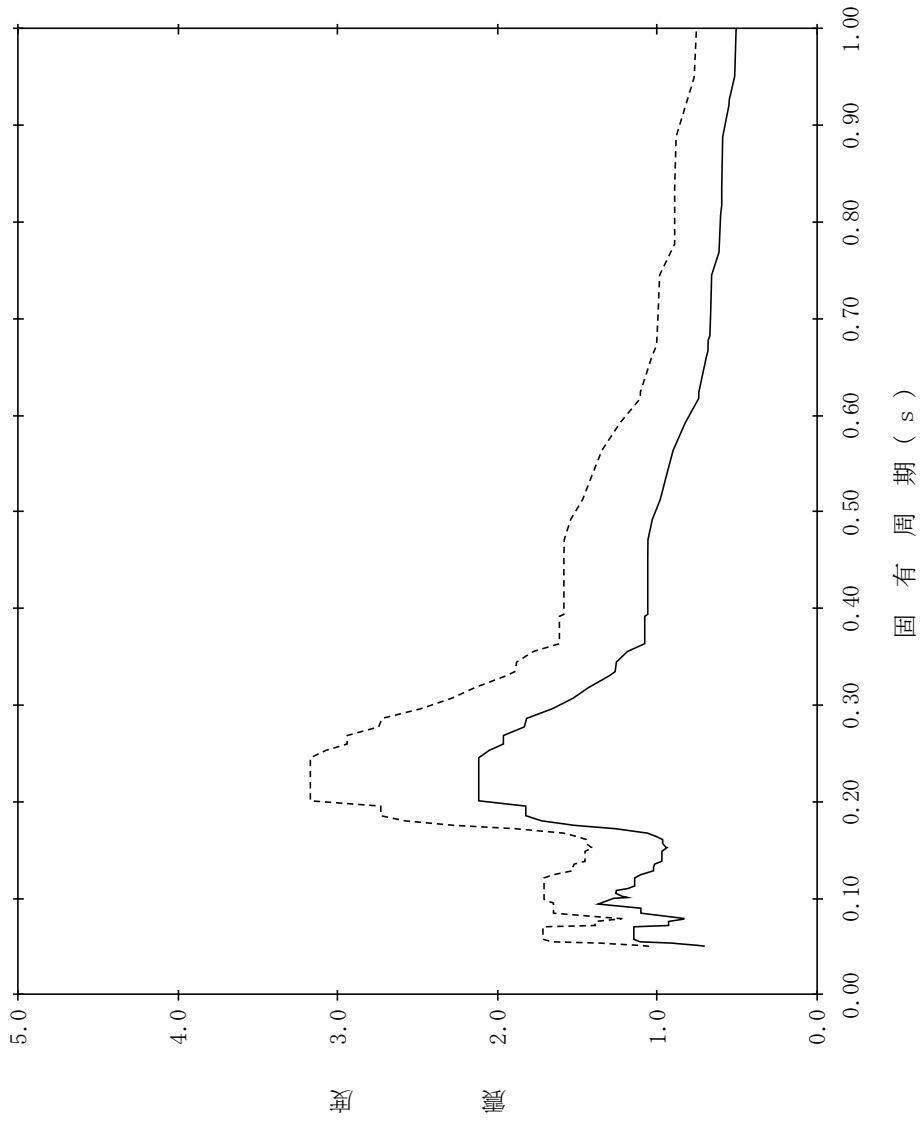
【NS2-PCV-SdNS-PCV78】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

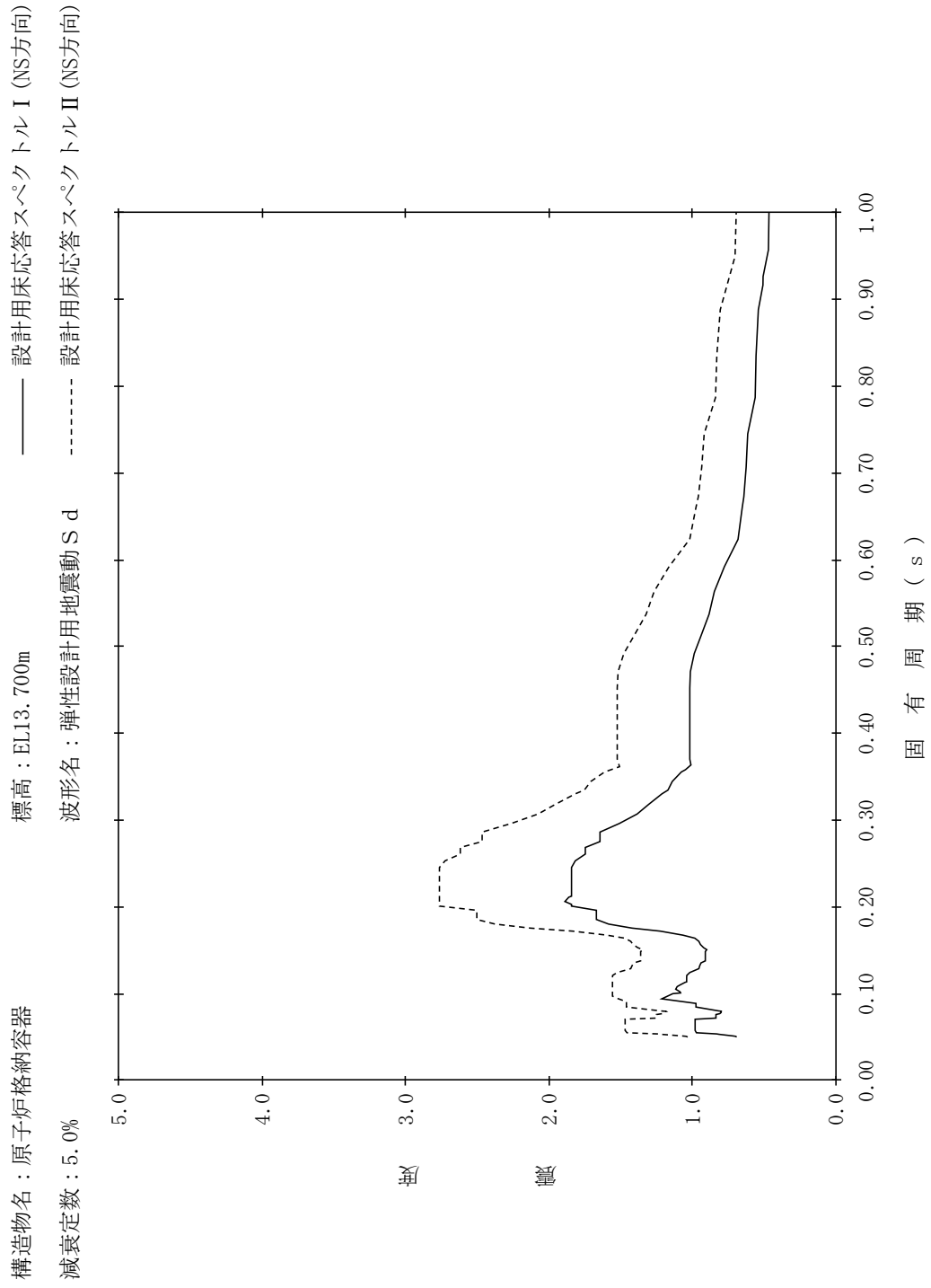


【NS2-PCV-SdNS-PCV79】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

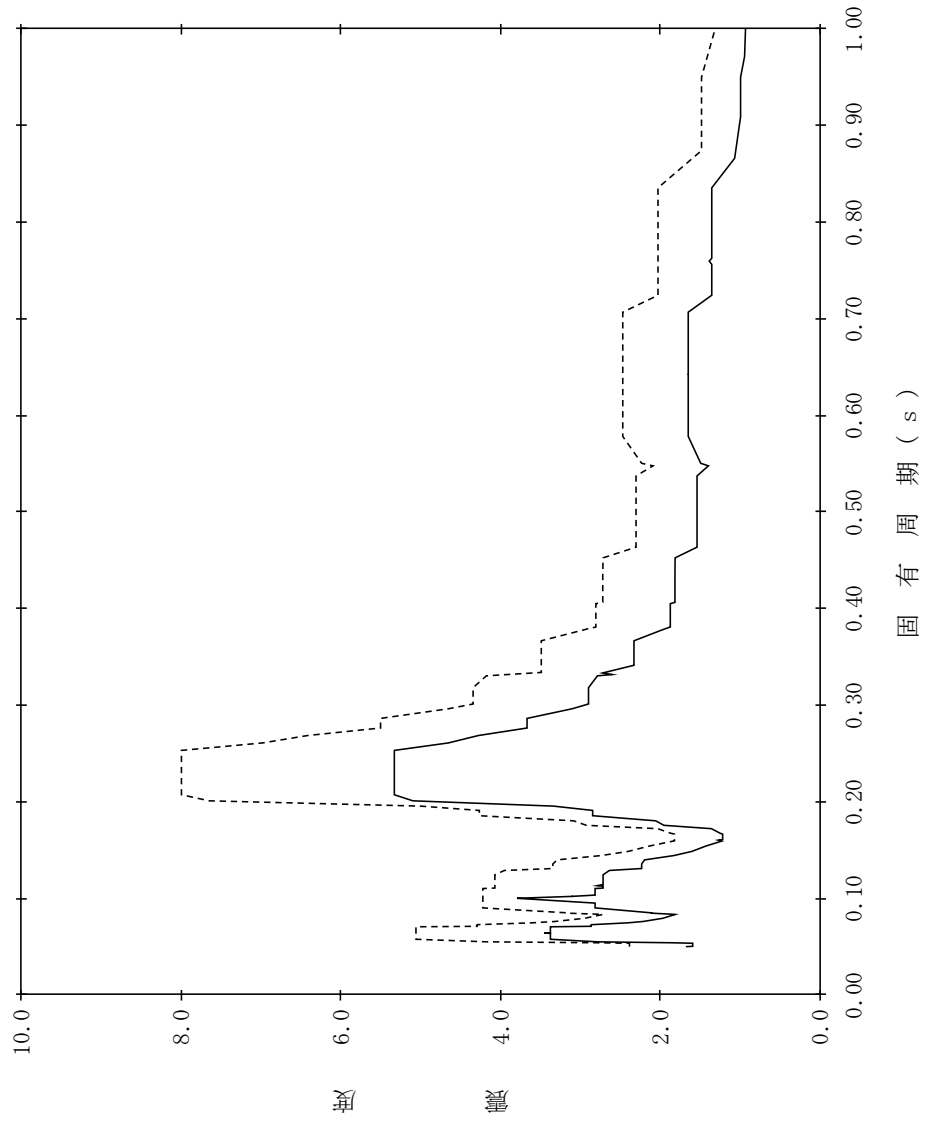


【NS2-PCV-SdNS-PCV80】

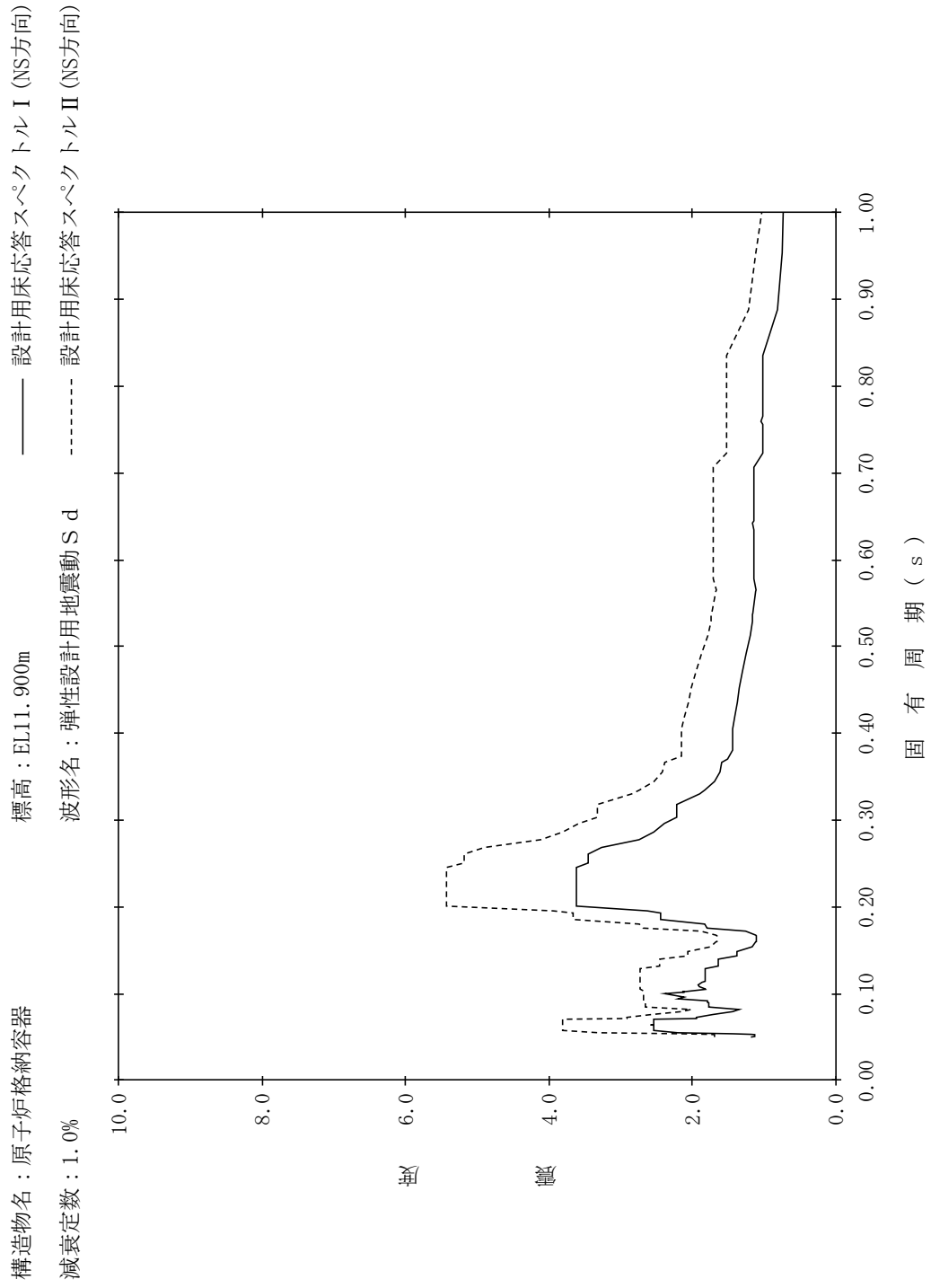


【NS2-PCV-SdNS-PCV81】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

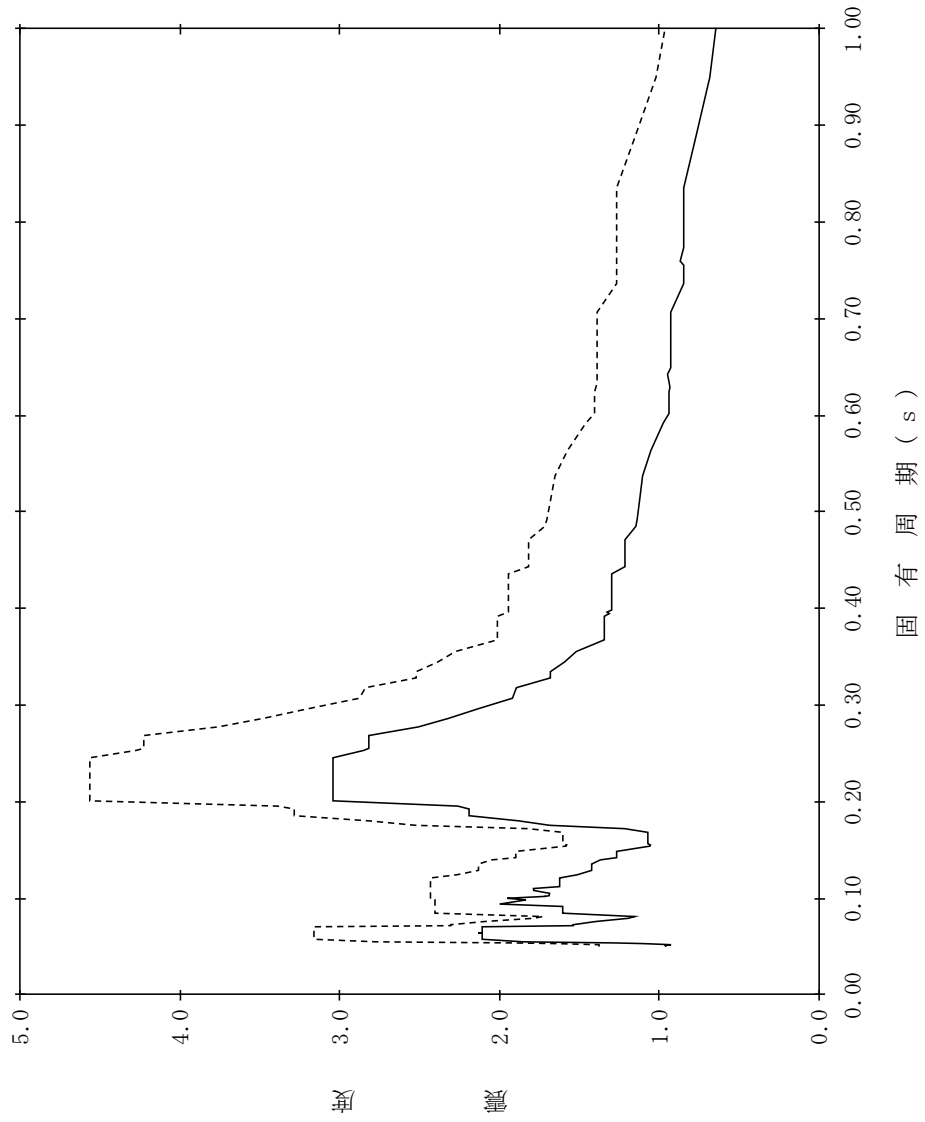


【NS2-PCV-SdNS-PCV82】



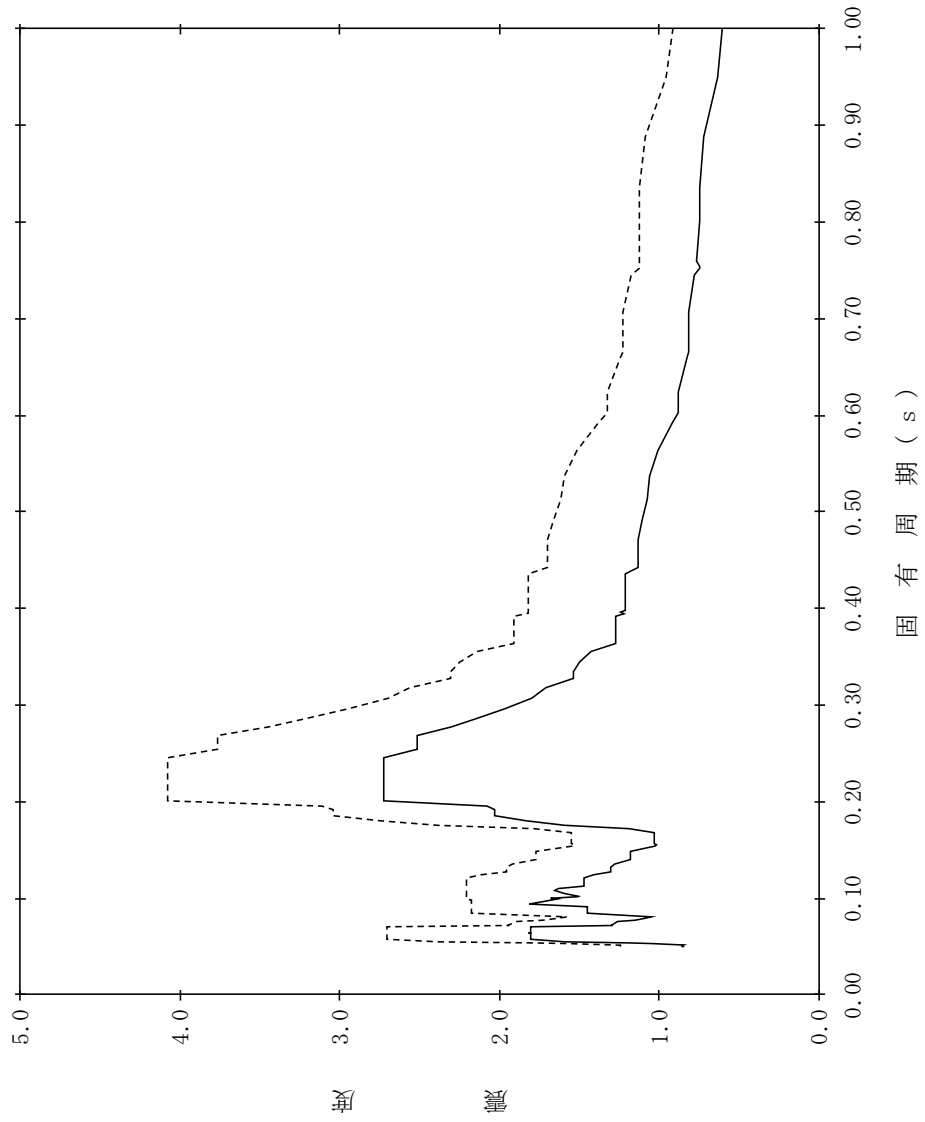
【NS2-PCV-SdNS-PCV83】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



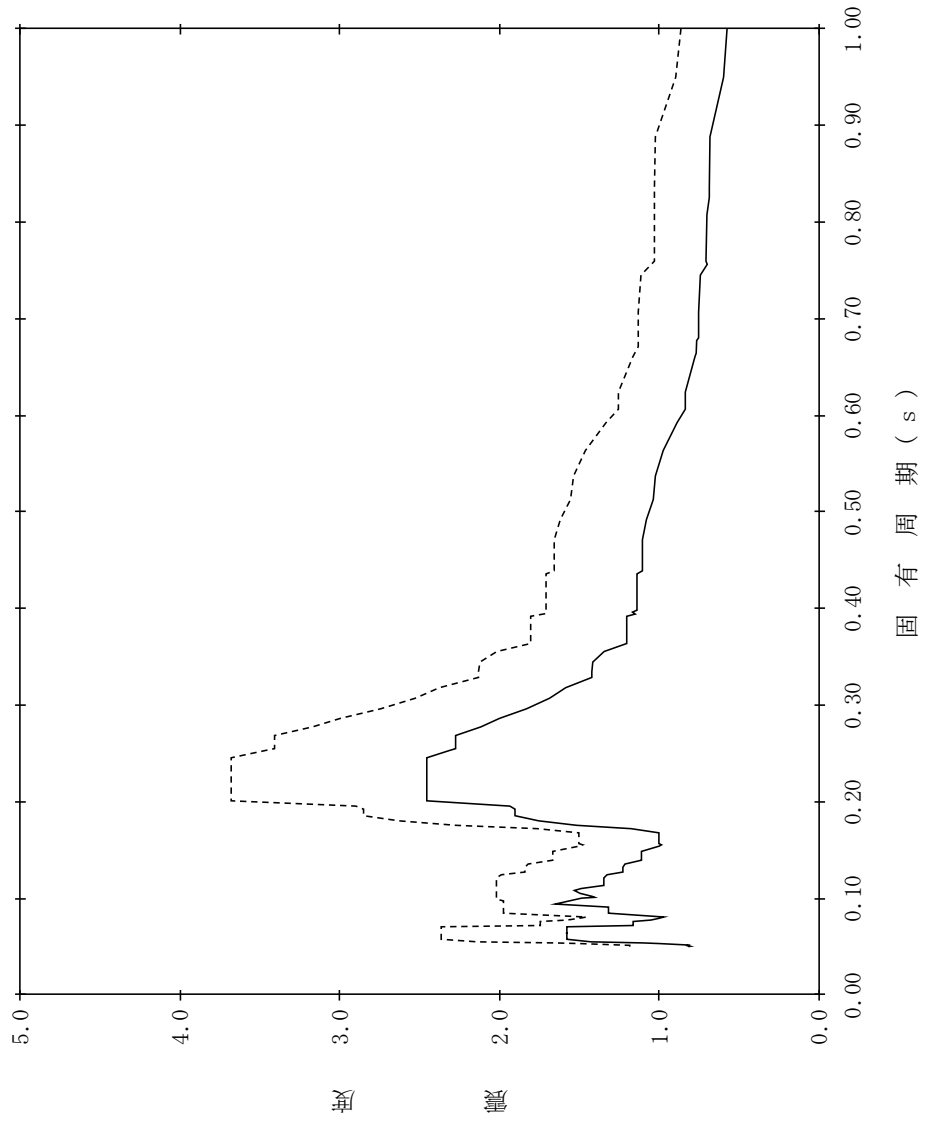
【NS2-PCV-SdNS-PCV84】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



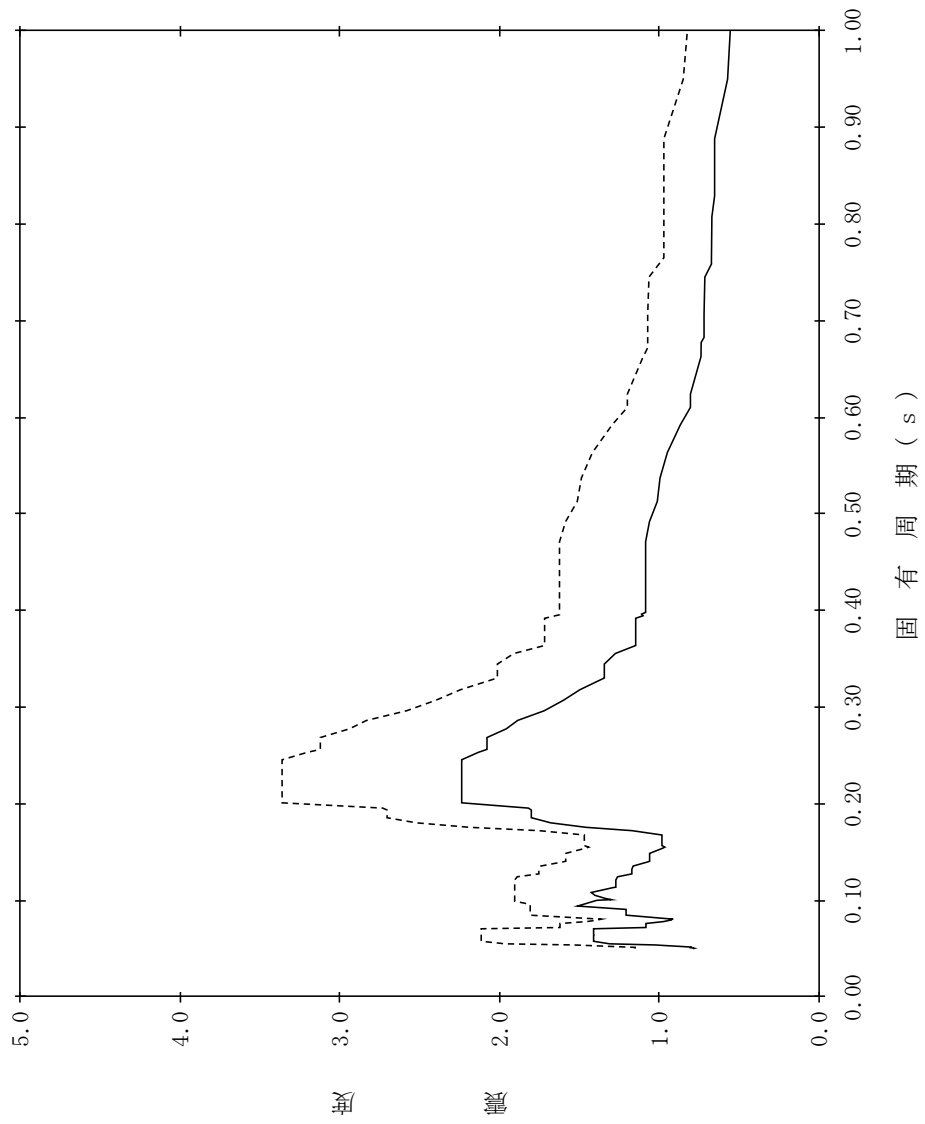
【NS2-PCV-SdNS-PCV85】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



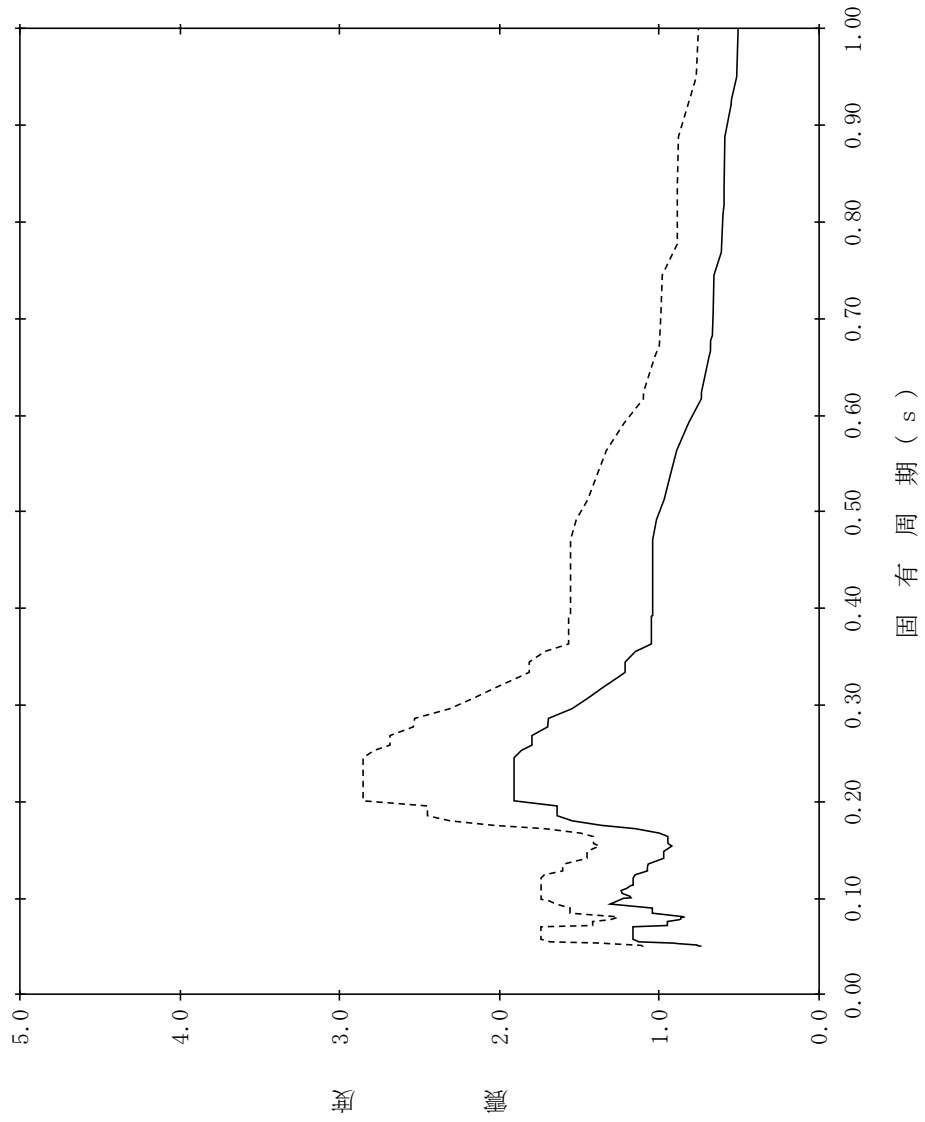
【NS2-PCV-SdNS-PCV86】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



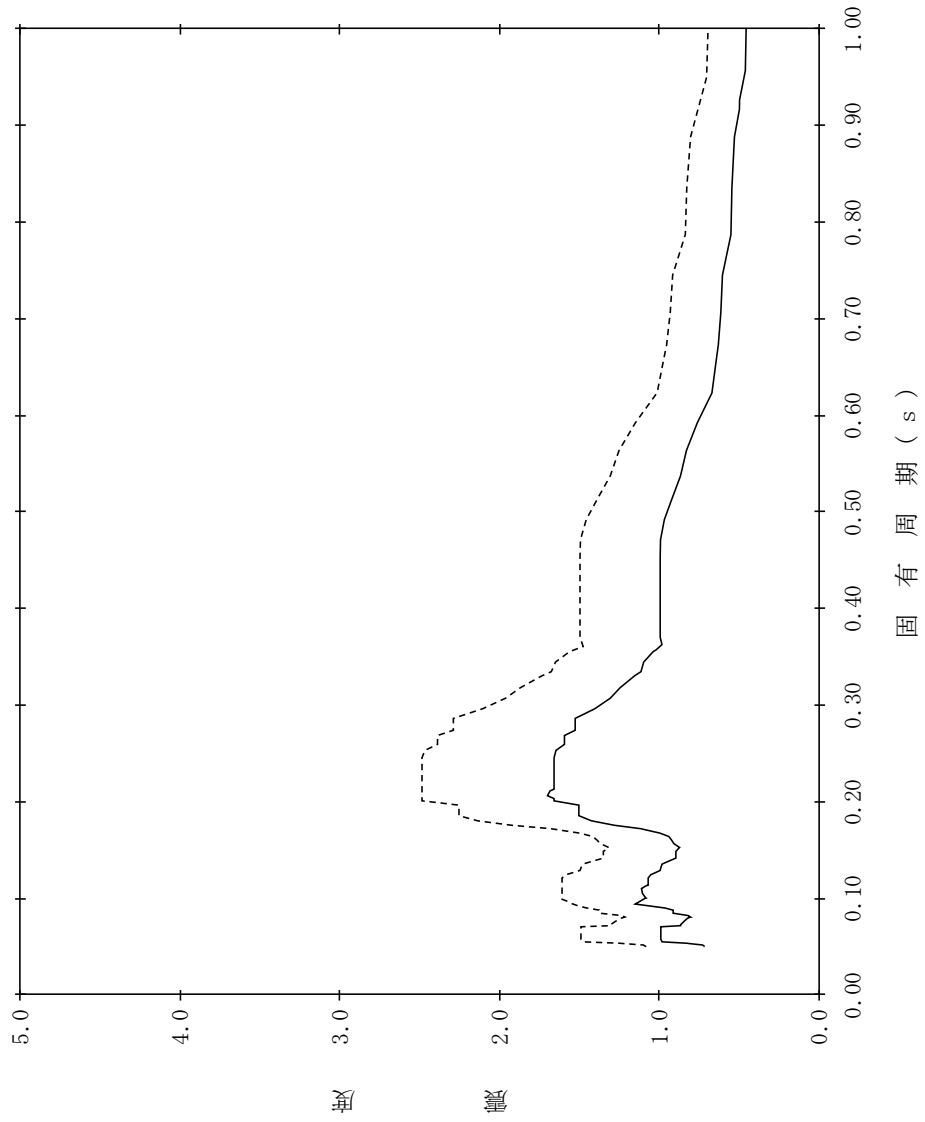
【NS2-PCV-SdNS-PCV87】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



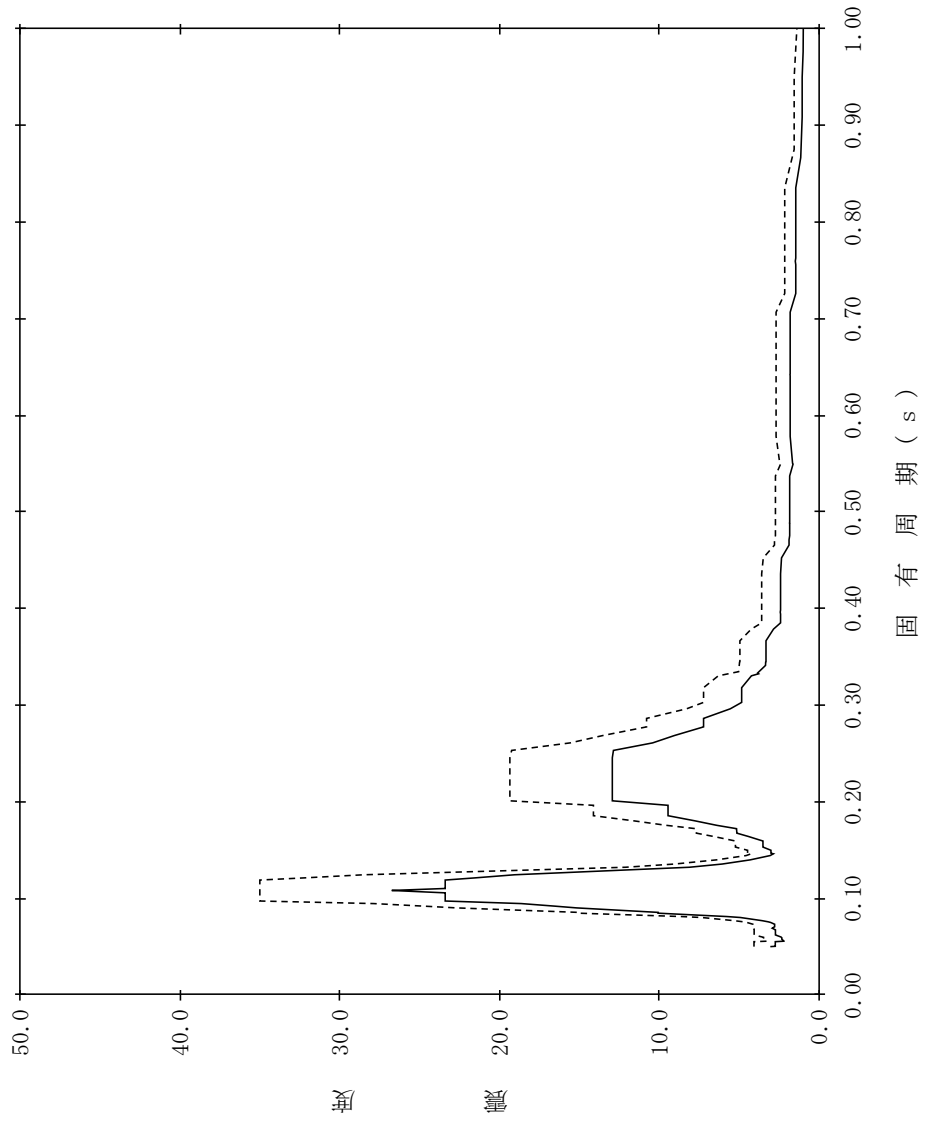
【NS2-PCV-SdNS-PCV88】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



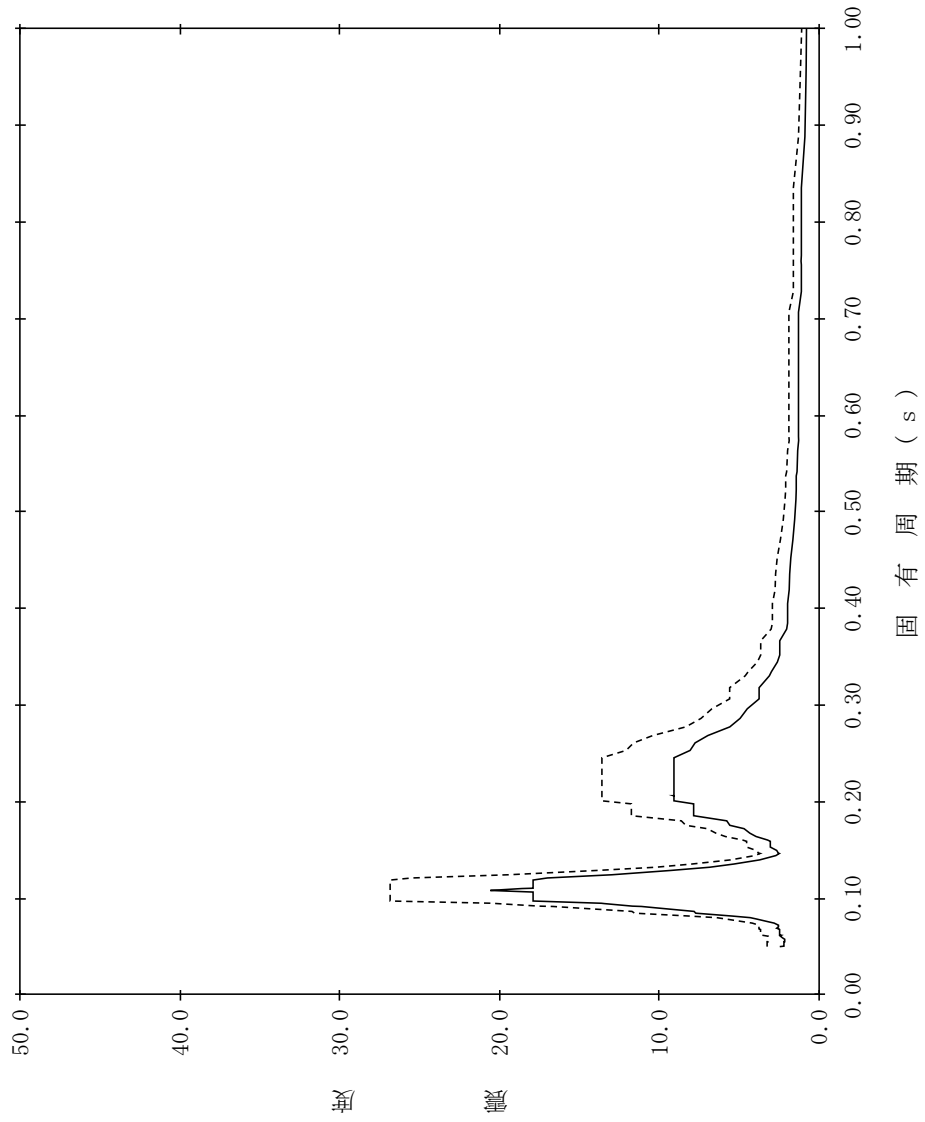
【NS2-PCV-SdNS-GSW89】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



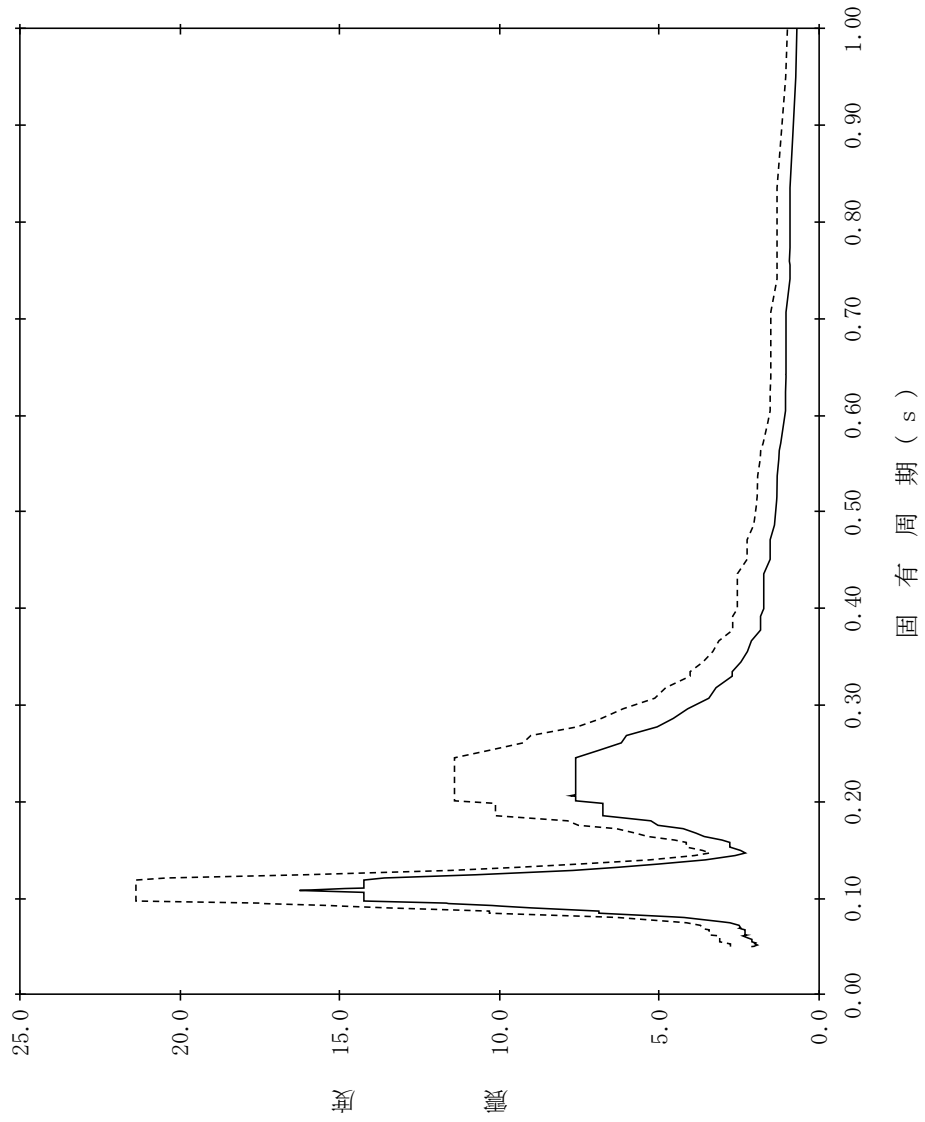
【NS2-PCV-SdNS-GSW90】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



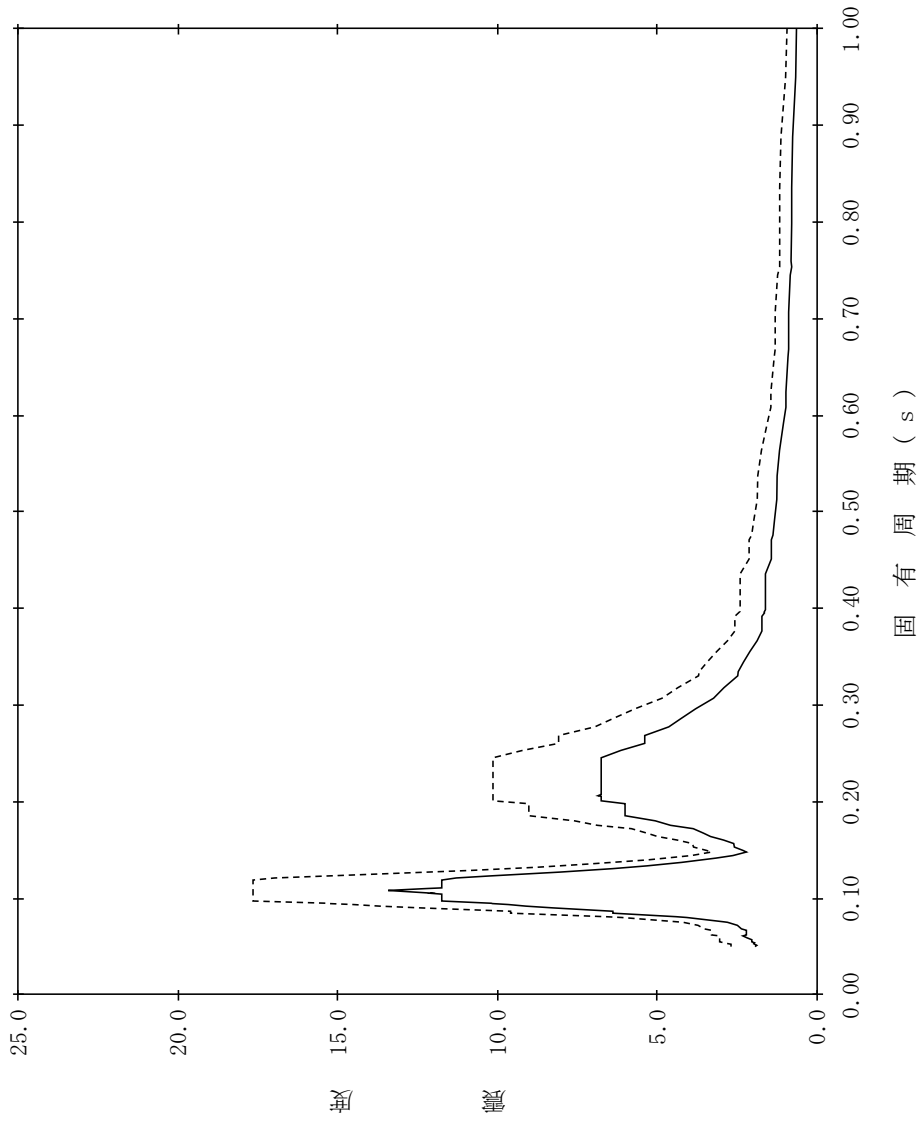
【NS2-PCV-SdNS-GSW91】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



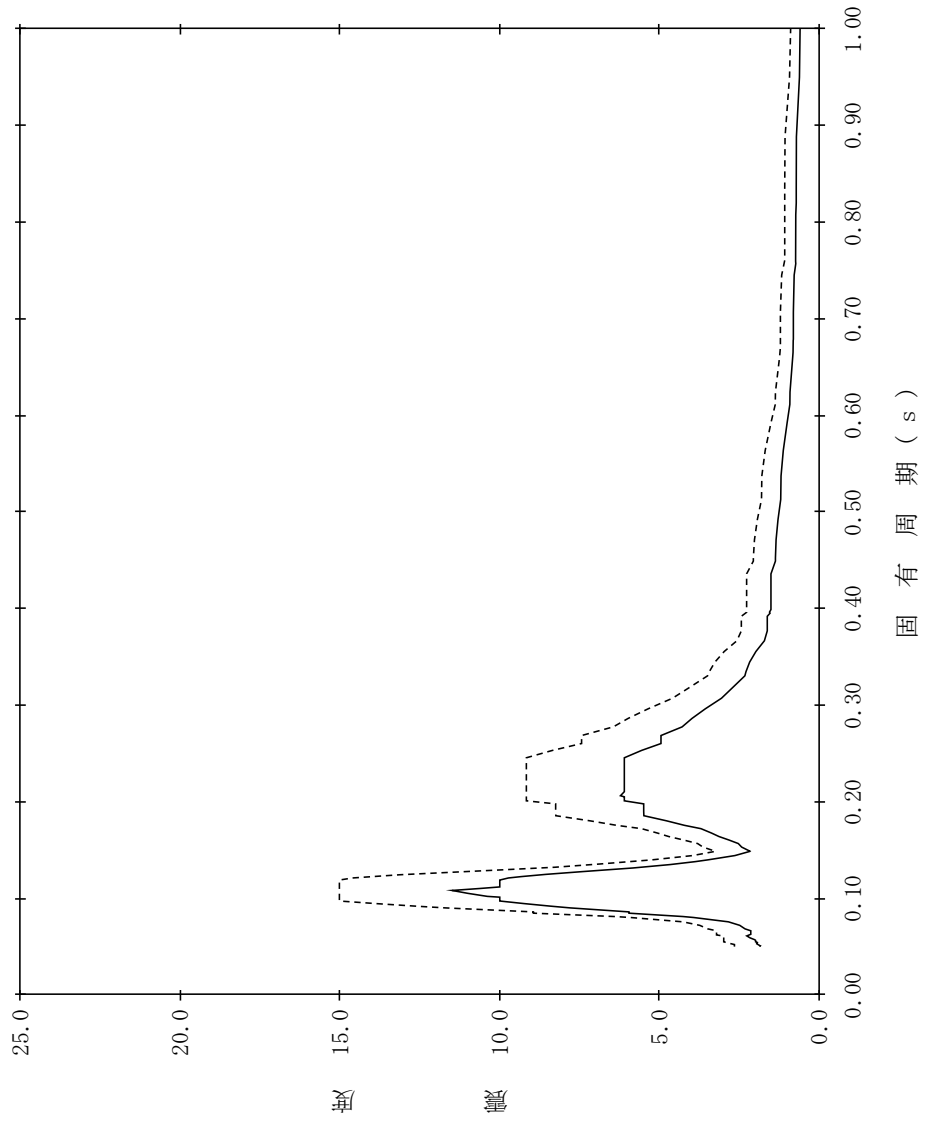
【NS2-PCV-SdNS-GSW92】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



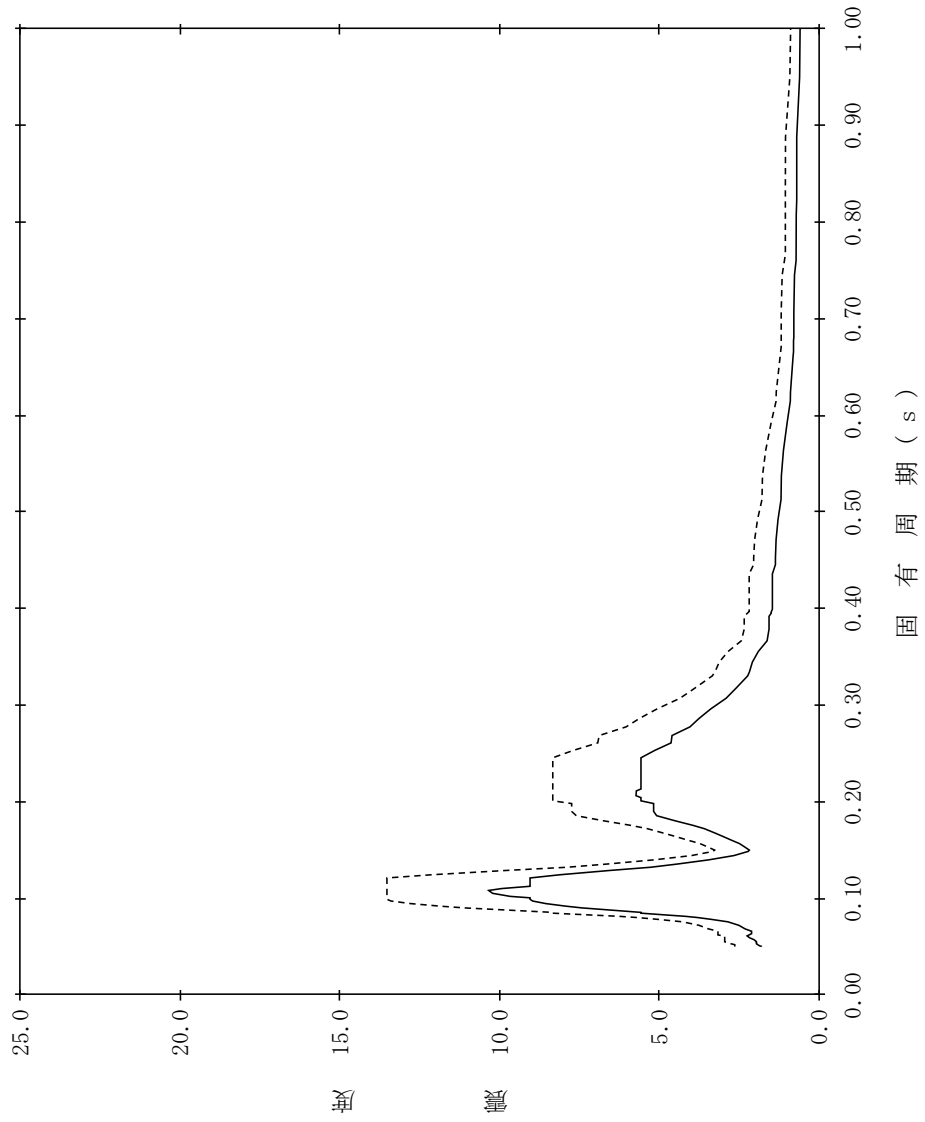
【NS2-PCV-SdNS-GSW93】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



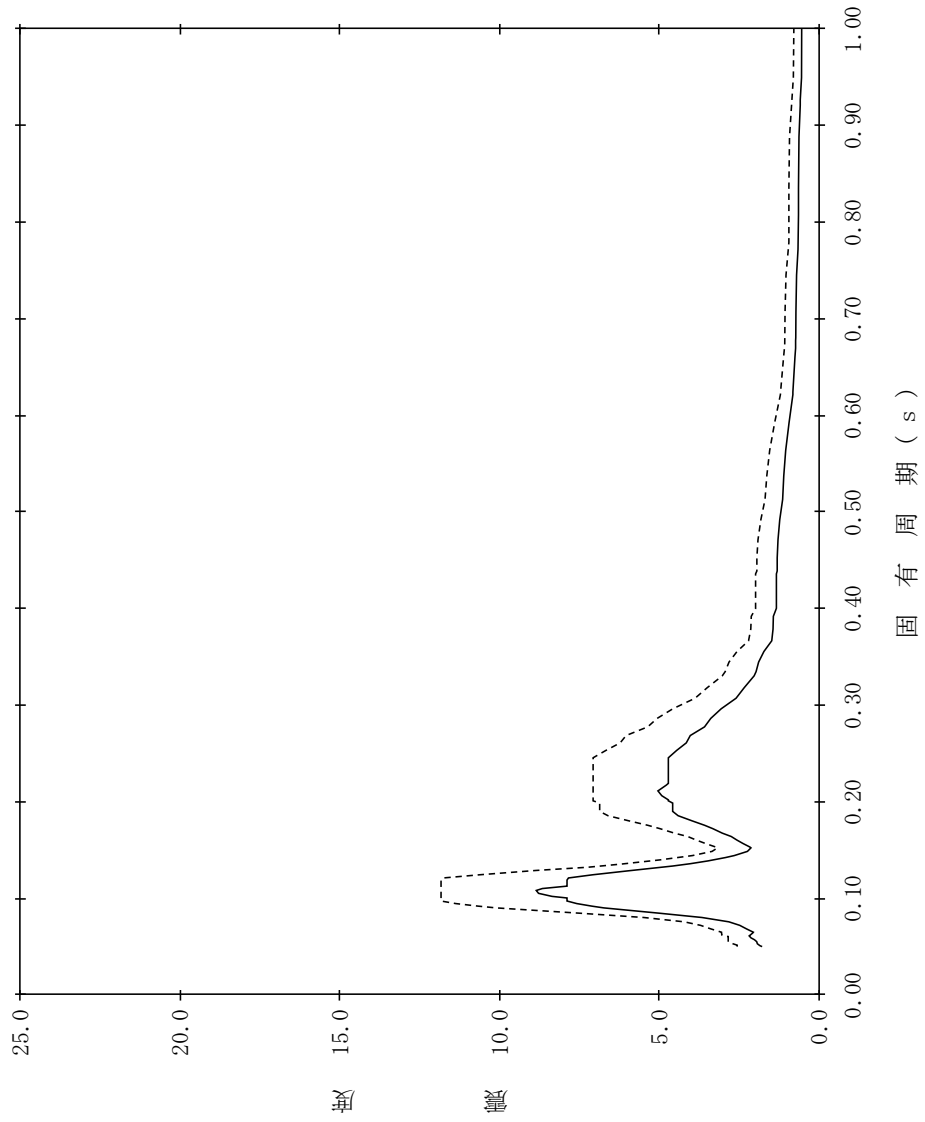
【NS2-PCV-SdNS-GSW94】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



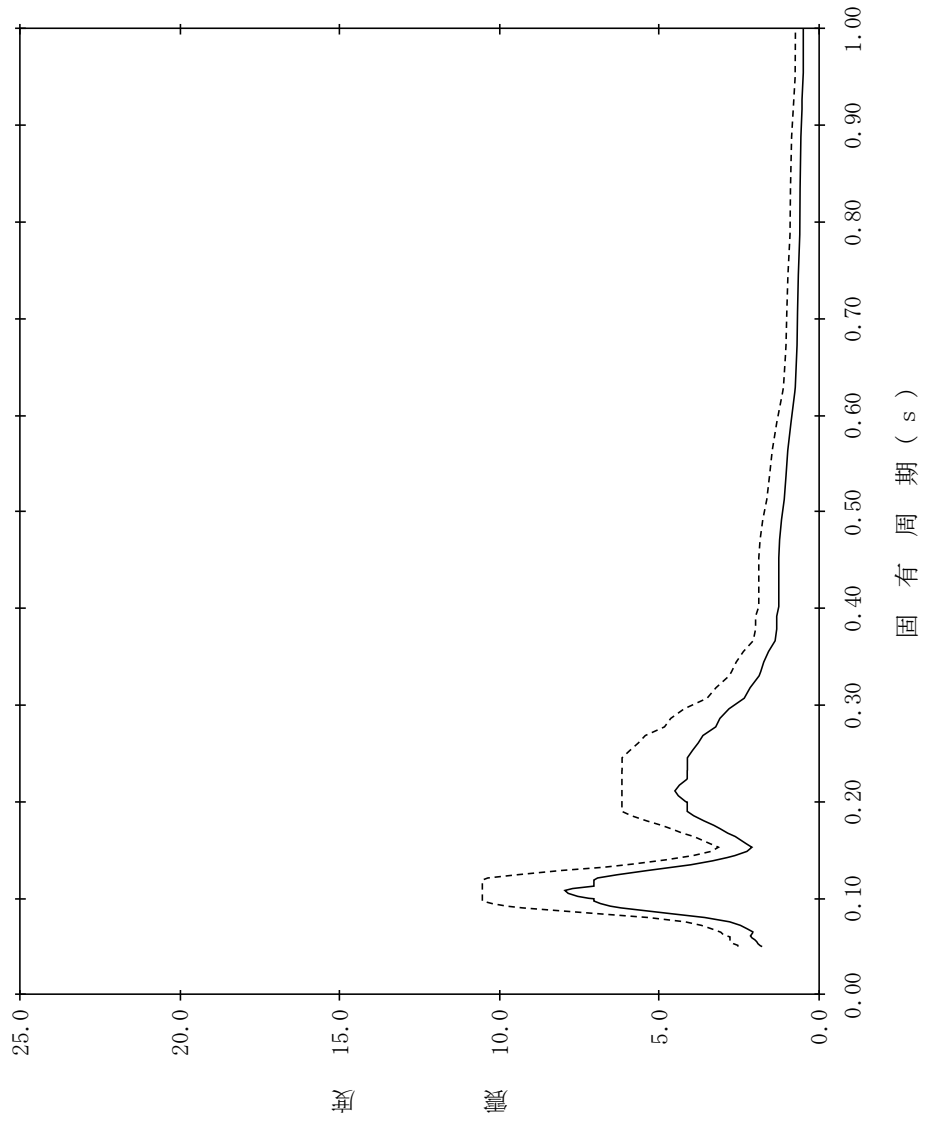
【NS2-PCV-SdNS-GSW95】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



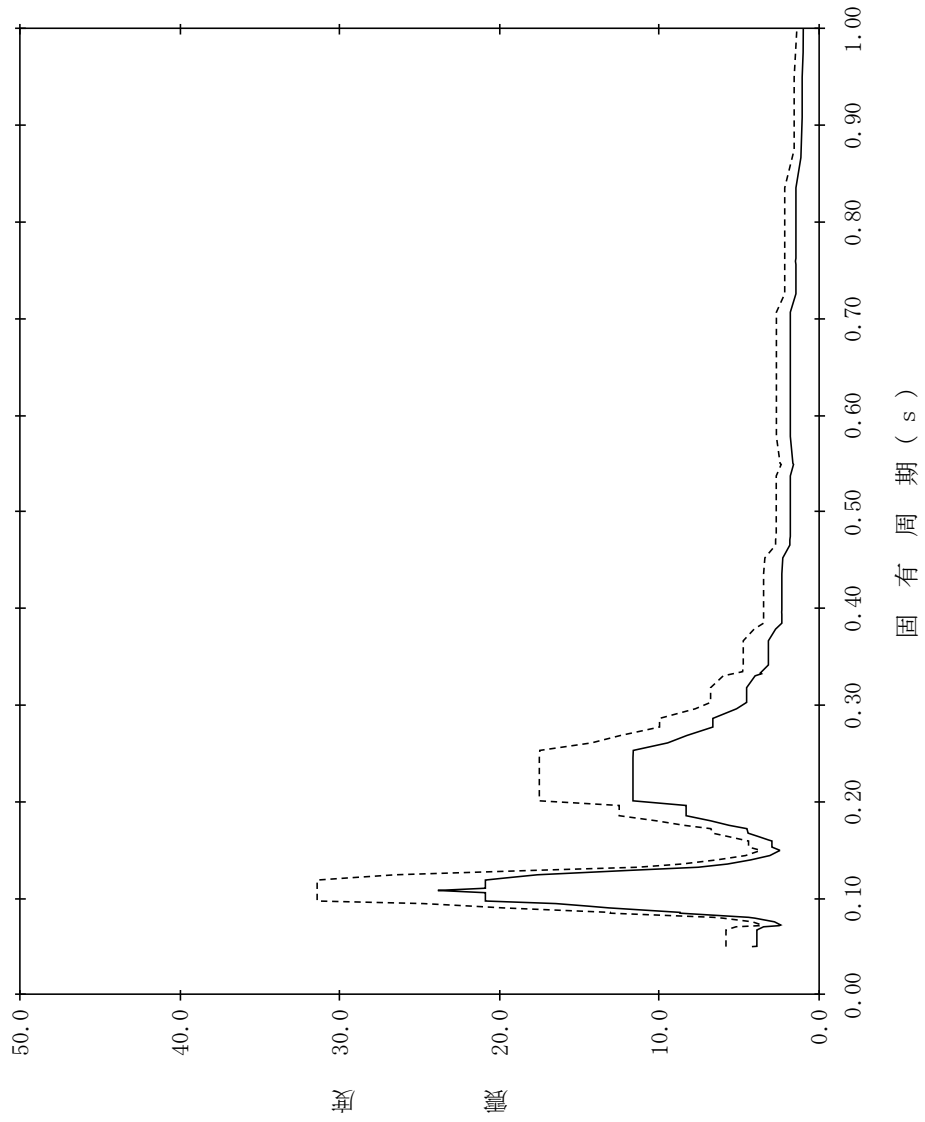
【NS2-PCV-SdNS-GSW96】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



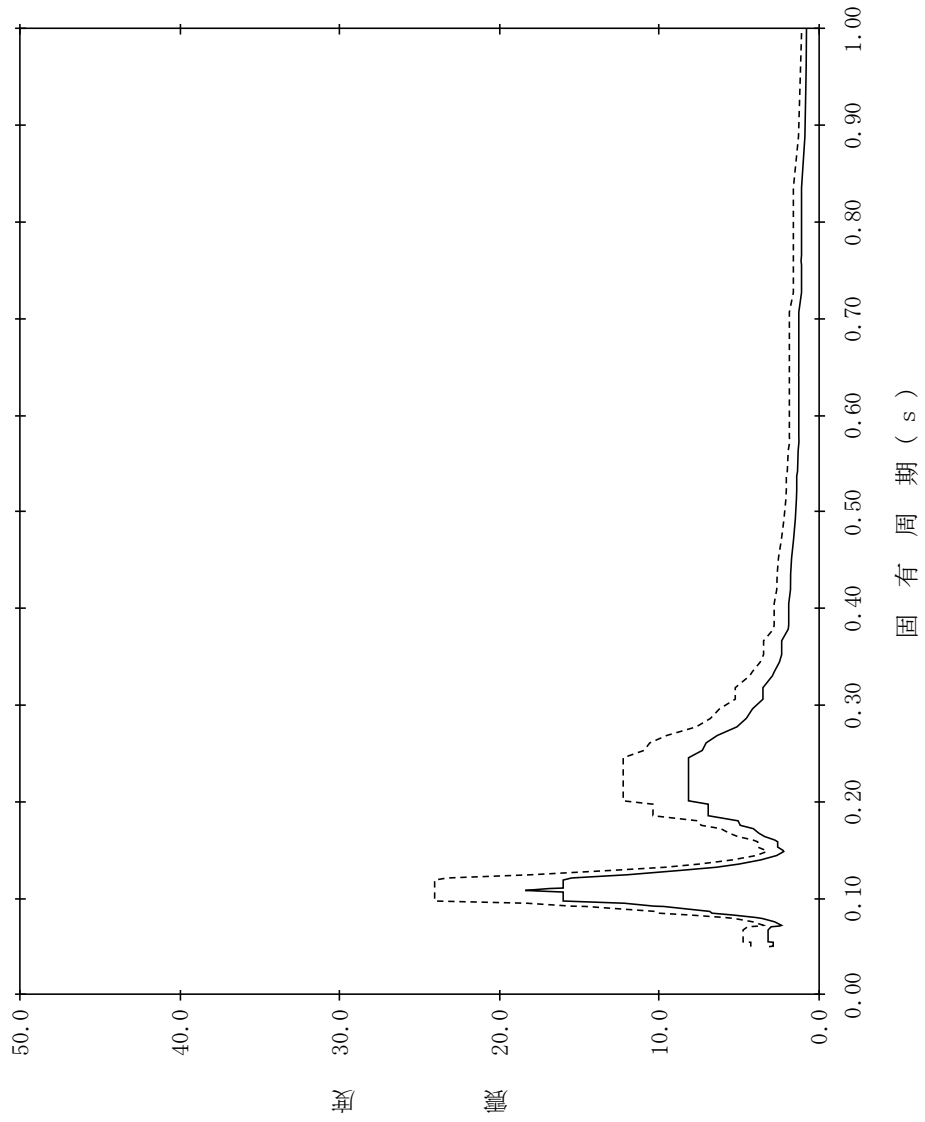
【NS2-PCV-SdNS-GSW97】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



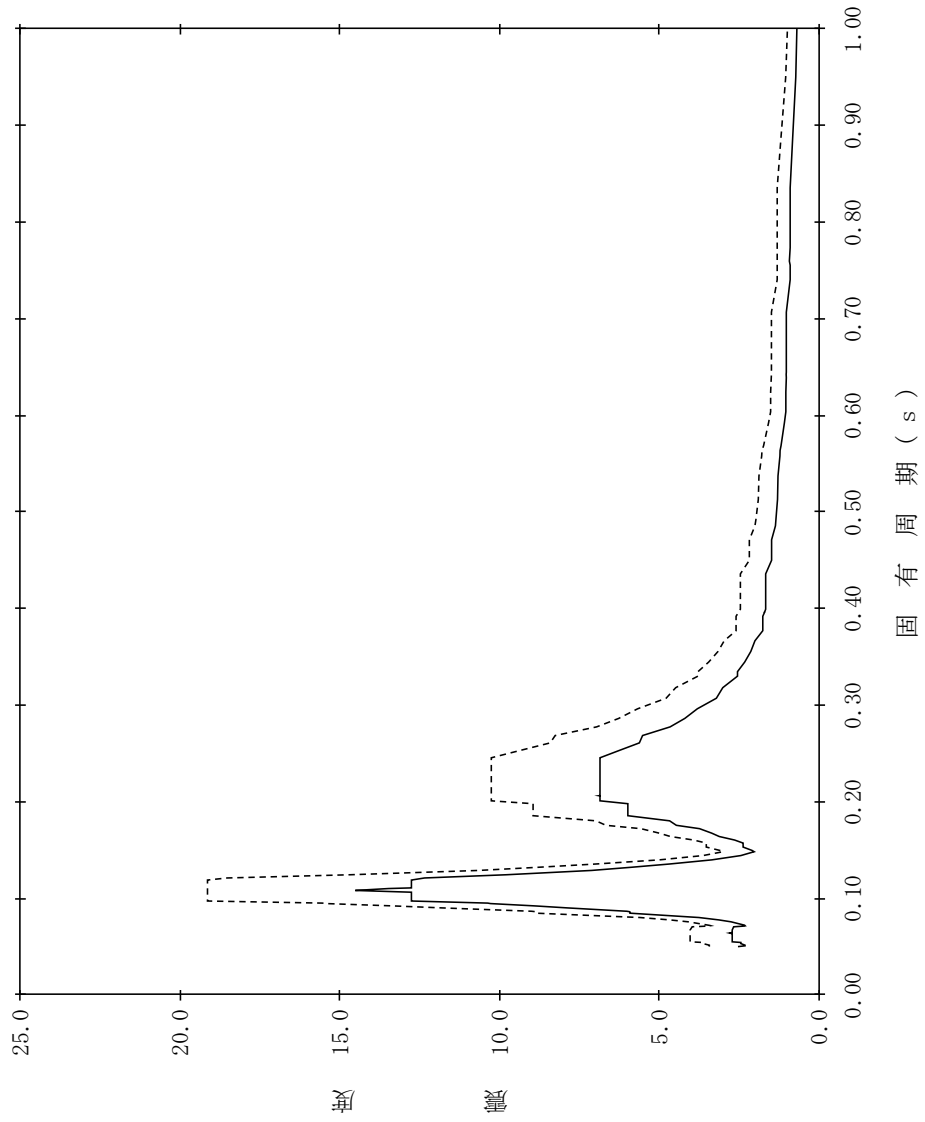
【NS2-PCV-SdNS-GSW98】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



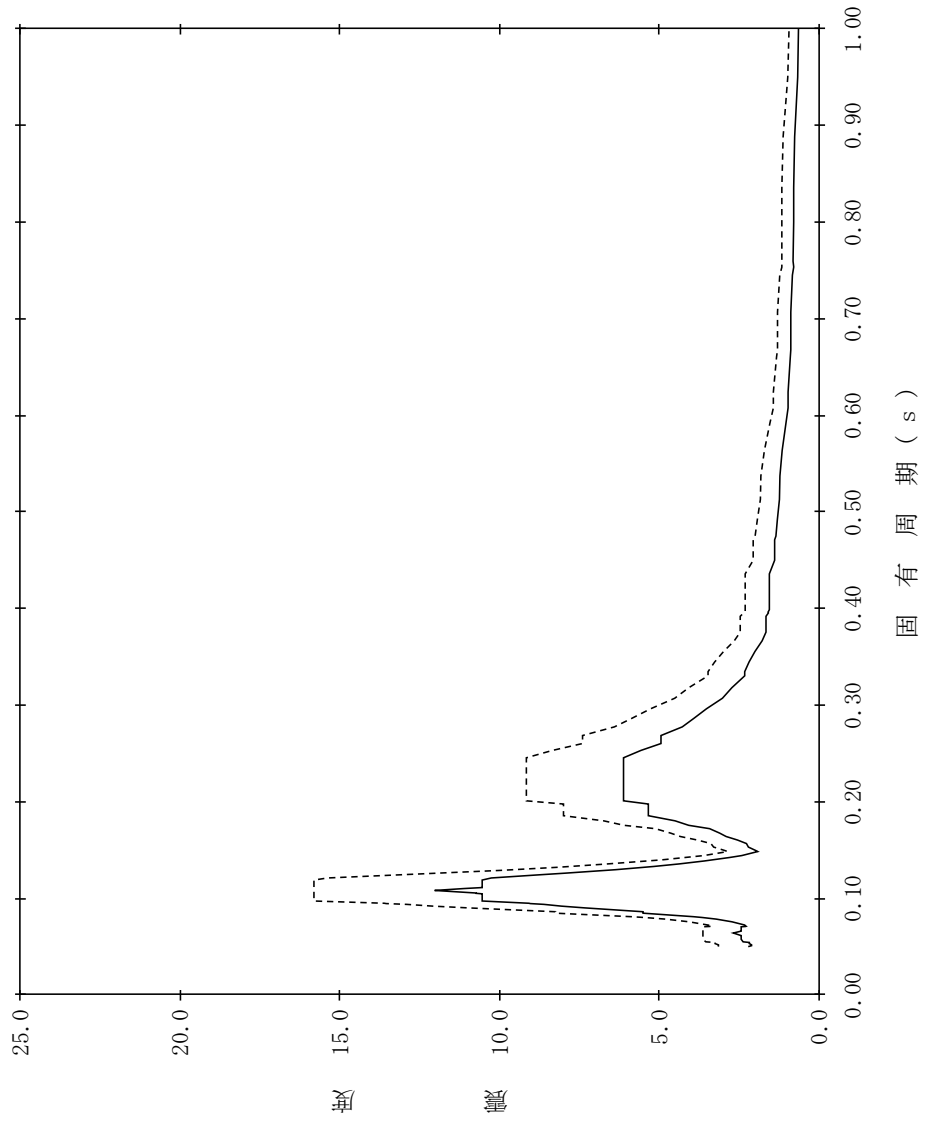
【NS2-PCV-SdNS-GSW99】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



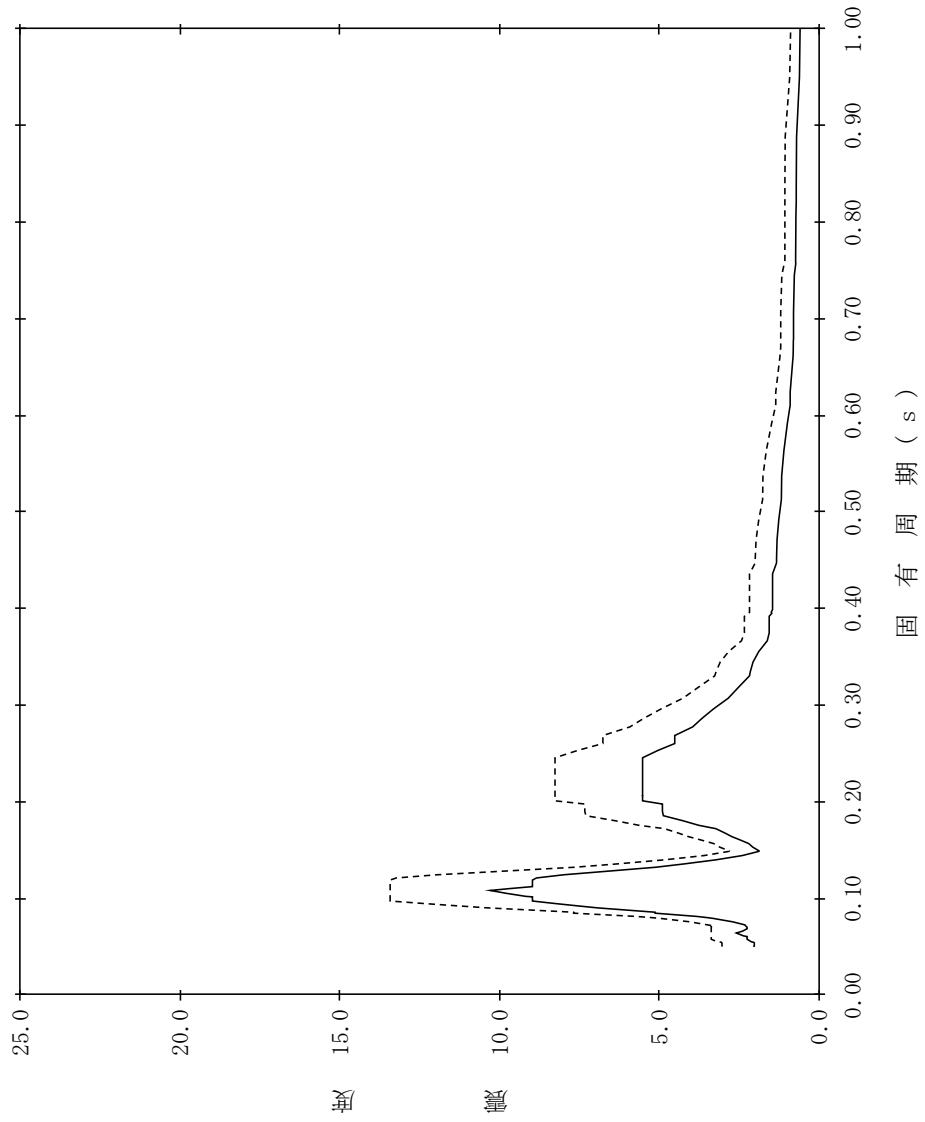
【NS2-PCV-SdNS-GSW100】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



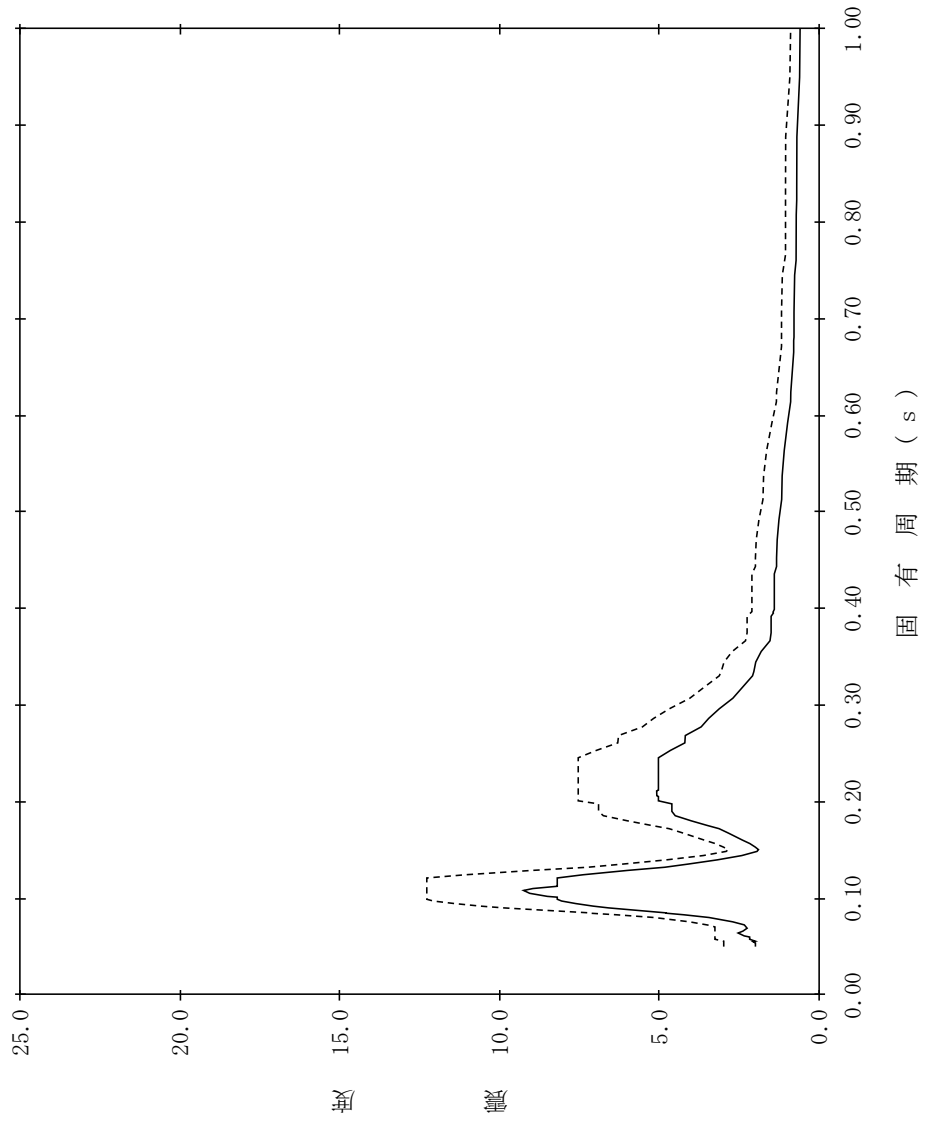
【NS2-PCV-SdNS-GSW101】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



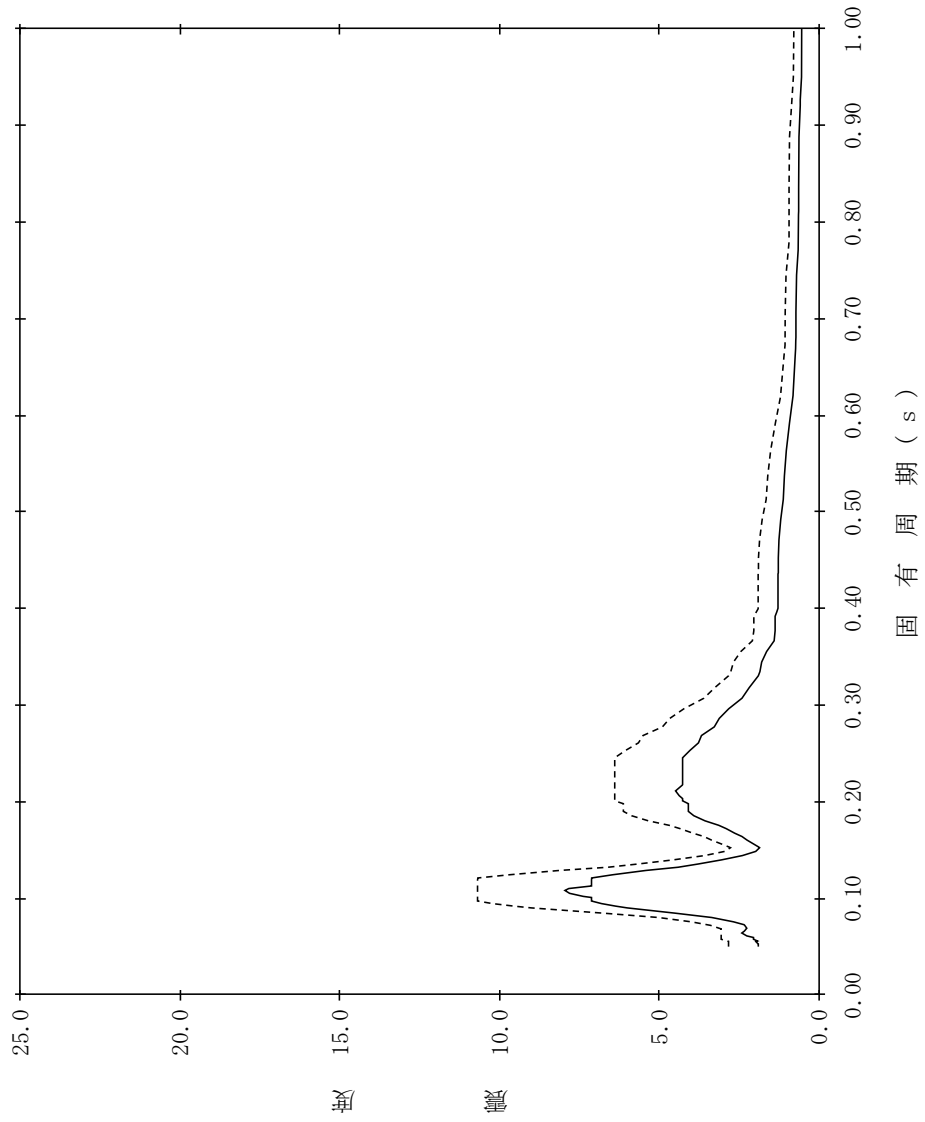
【NS2-PCV-SdNS-GSW102】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



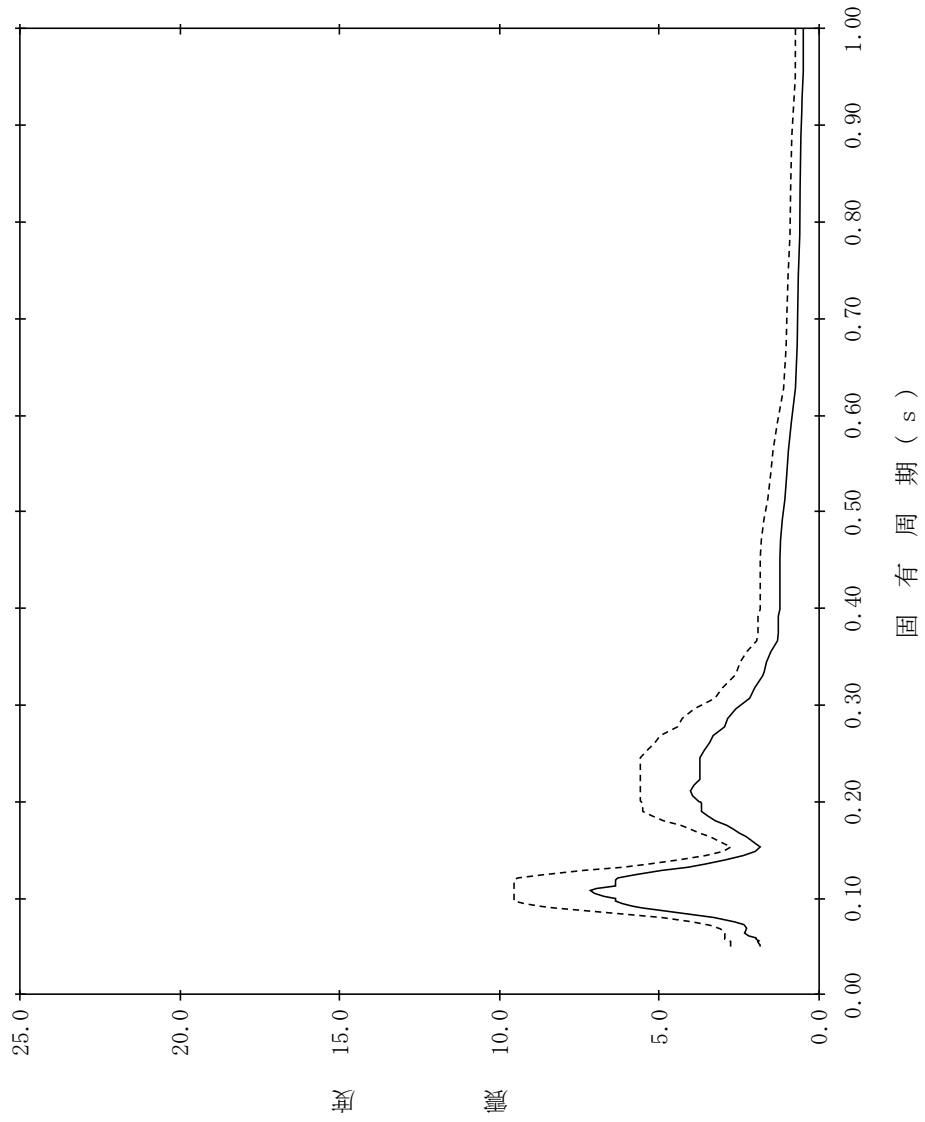
【NS2-PCV-SdNS-GSW103】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



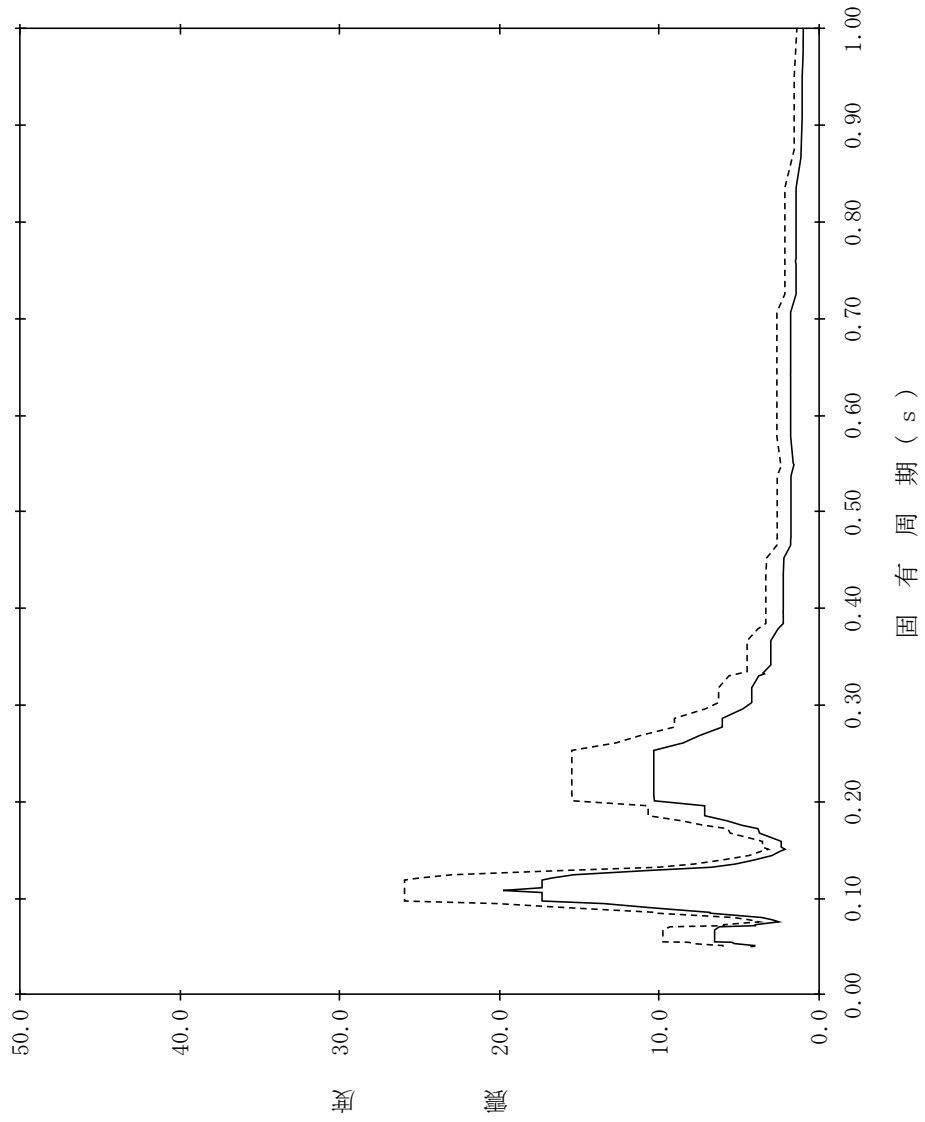
【NS2-PCV-SdNS-GSW104】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



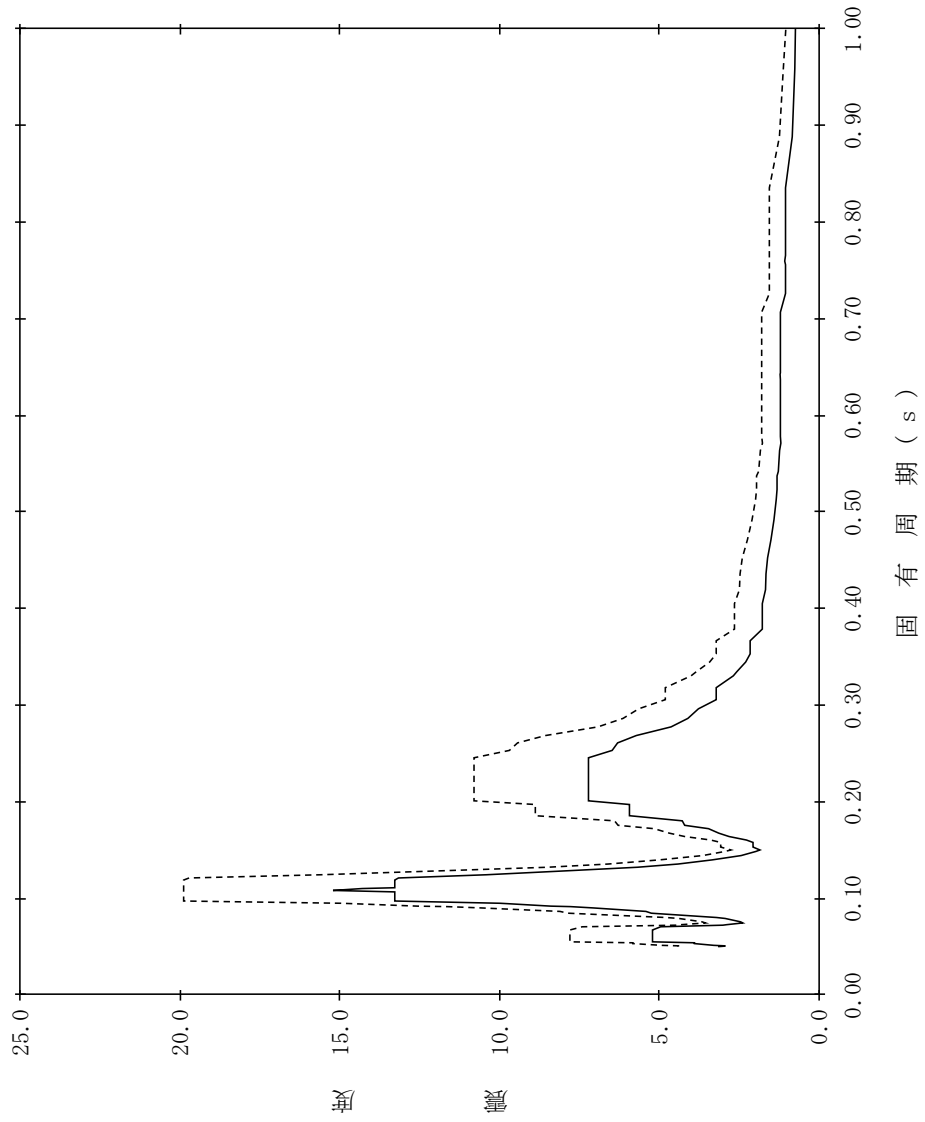
【NS2-PCV-SdNS-GSW105】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



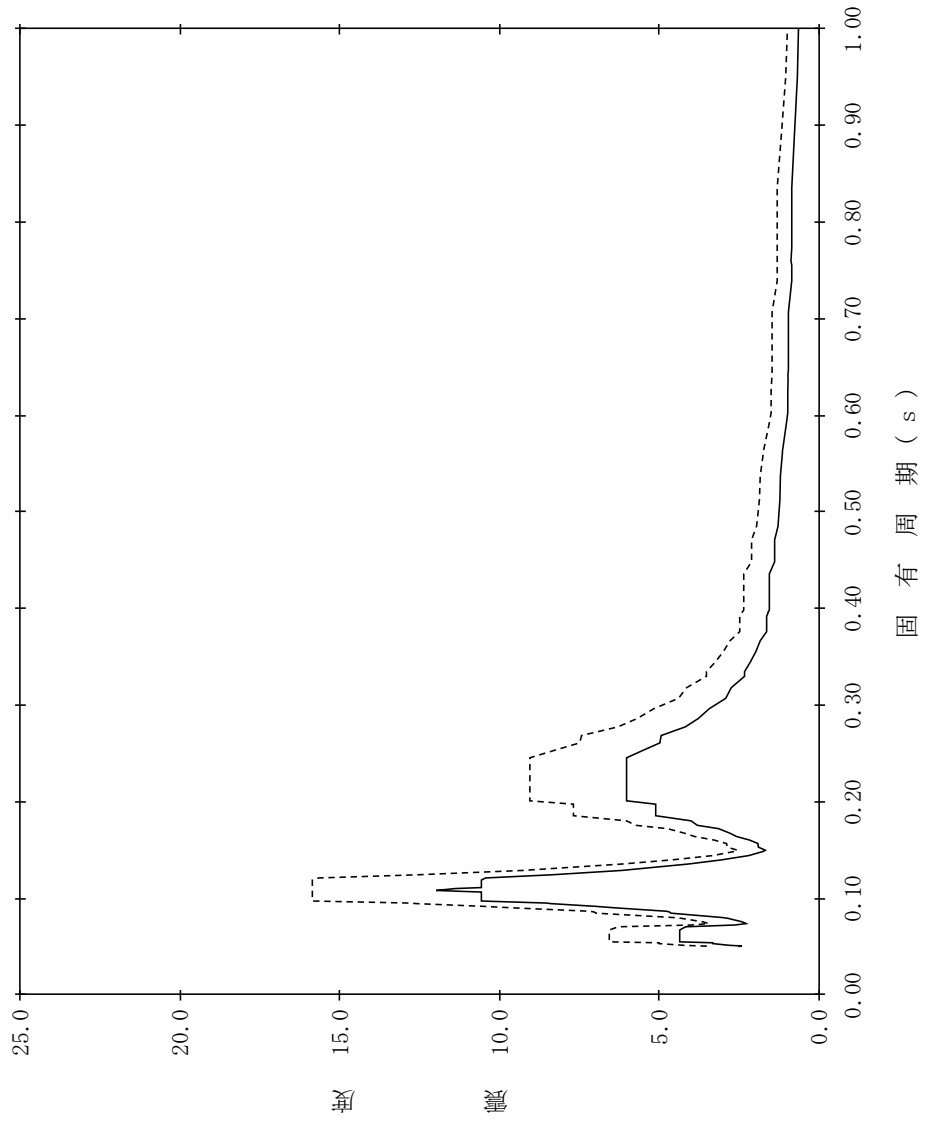
【NS2-PCV-SdNS-GSW106】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



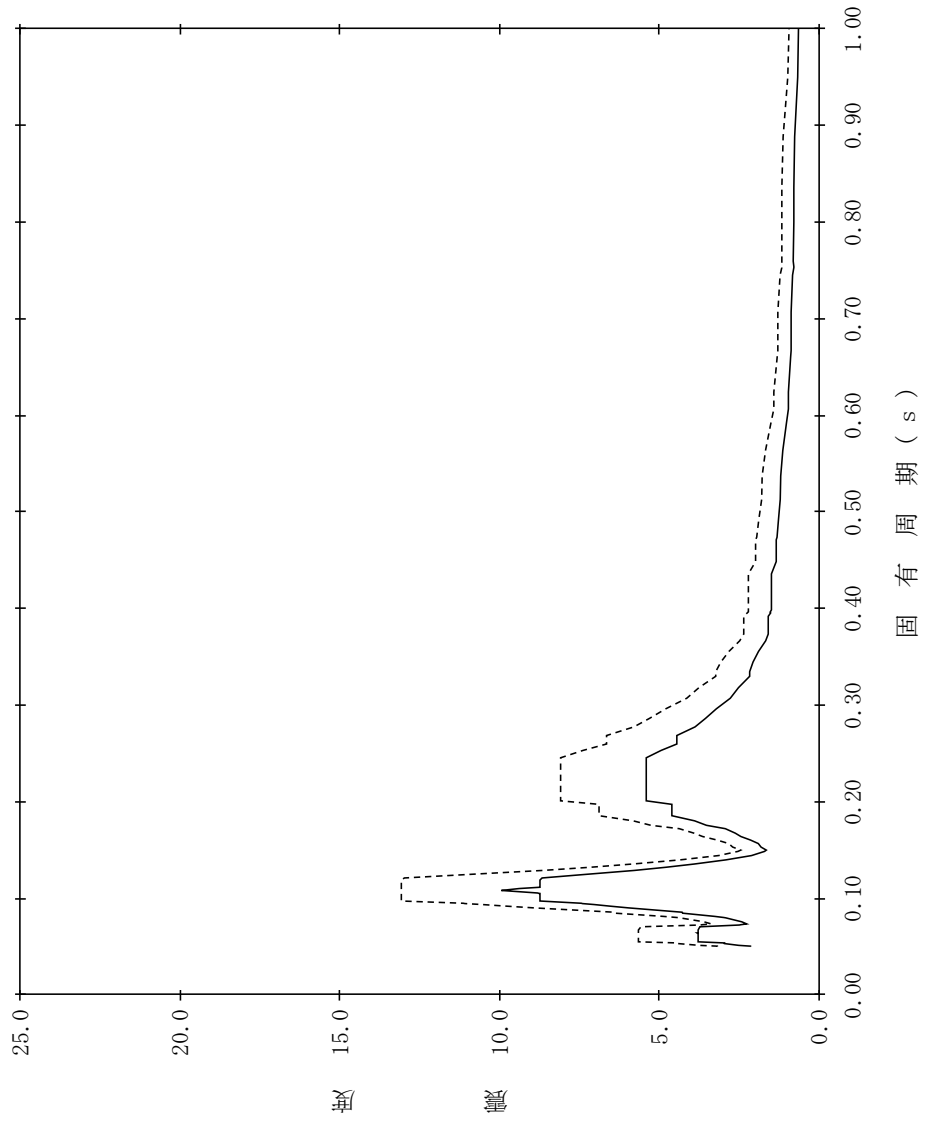
【NS2-PCV-SdNS-GSW107】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



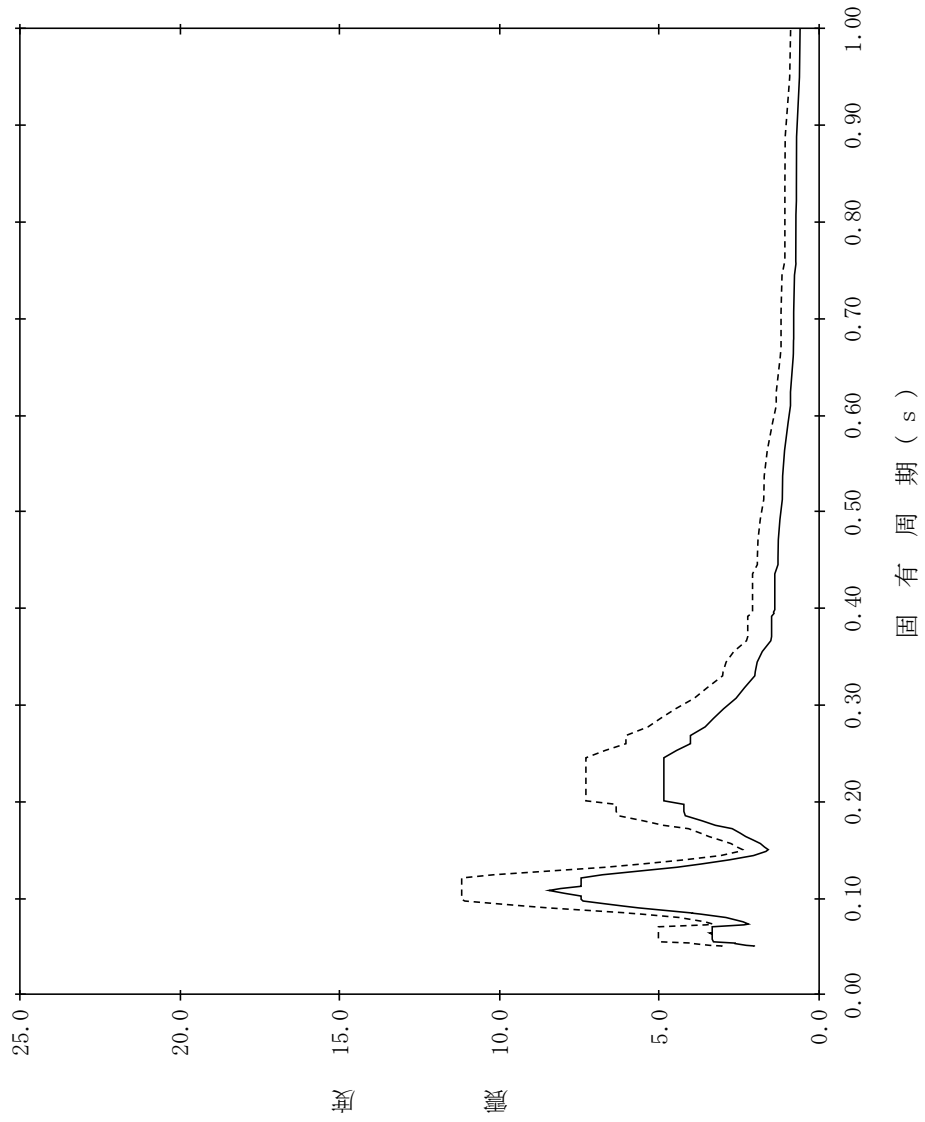
【NS2-PCV-SdNS-GSW108】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



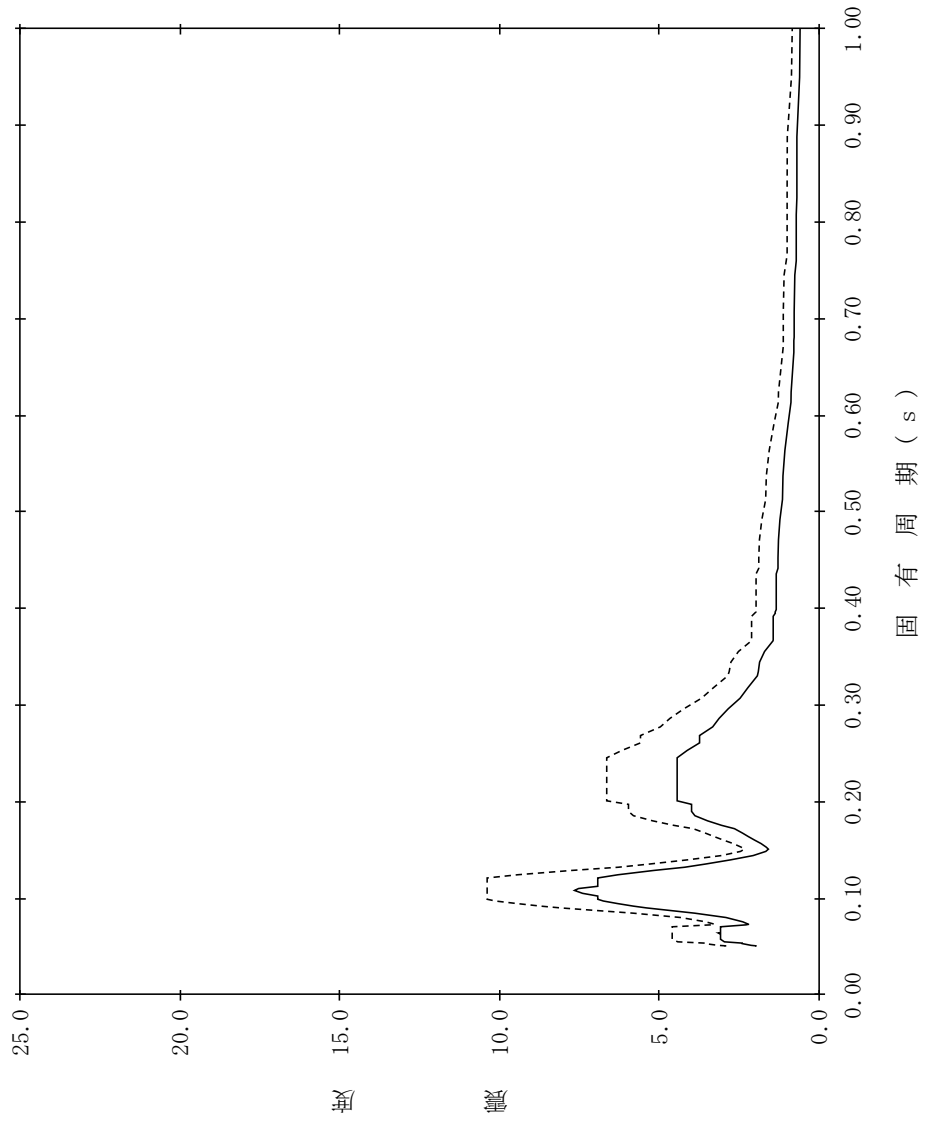
【NS2-PCV-SdNS-GSW109】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



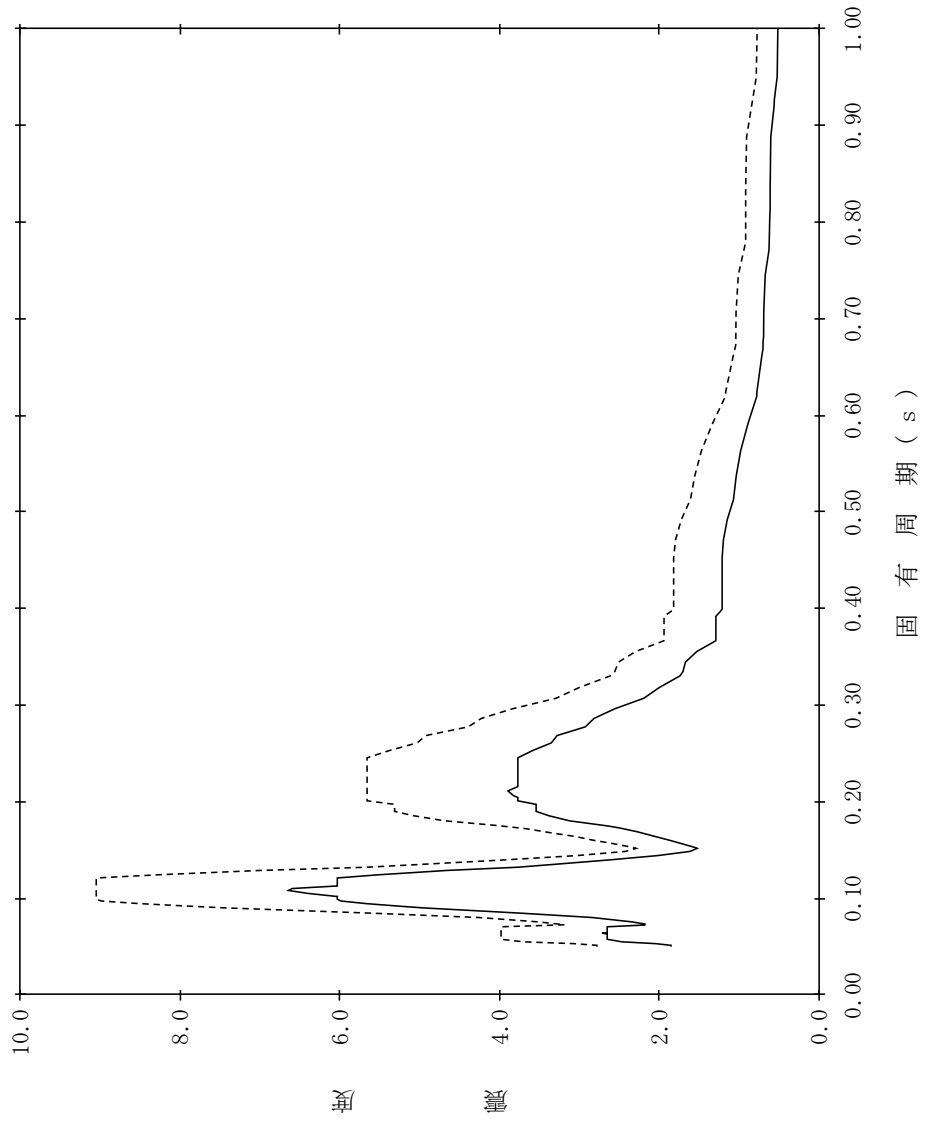
【NS2-PCV-SdNS-GSW110】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



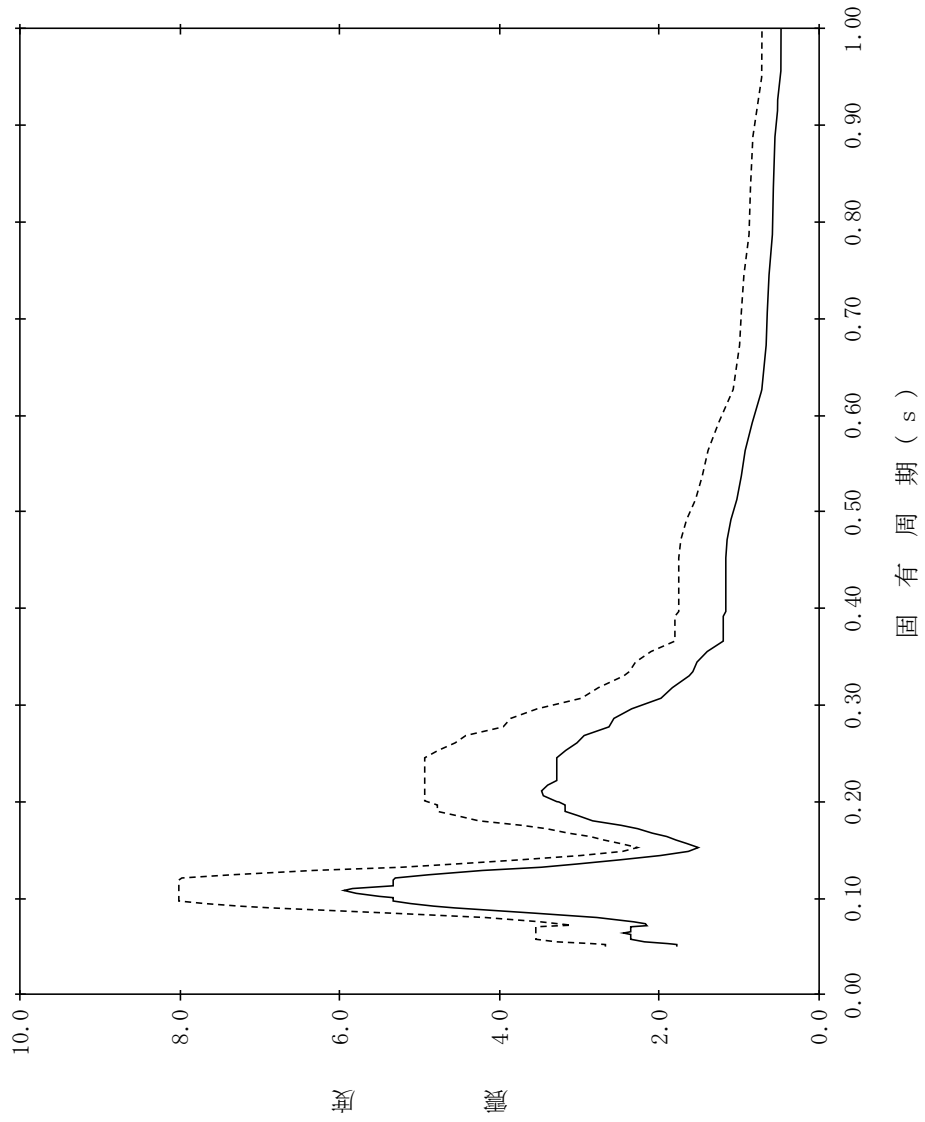
【NS2-PCV-SdNS-GSW111】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



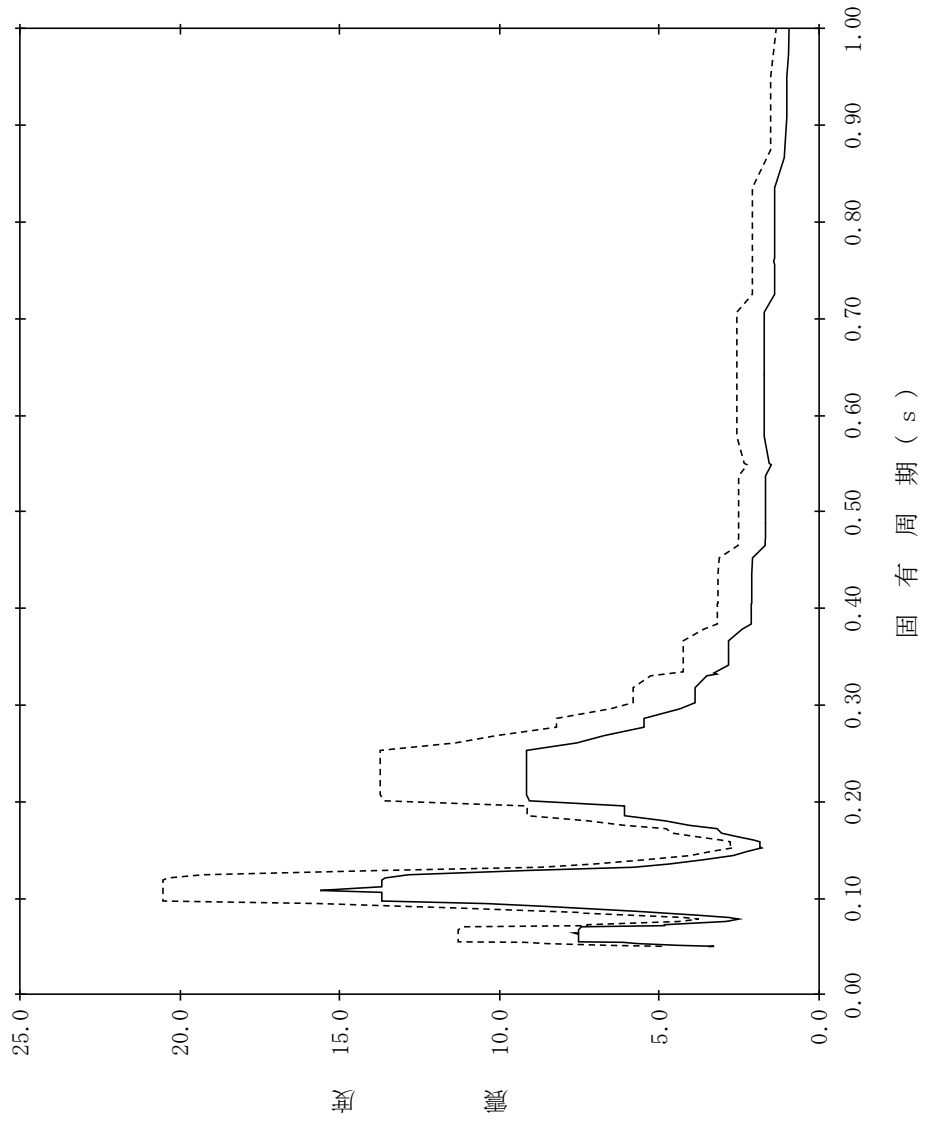
【NS2-PCV-SdNS-GSW112】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



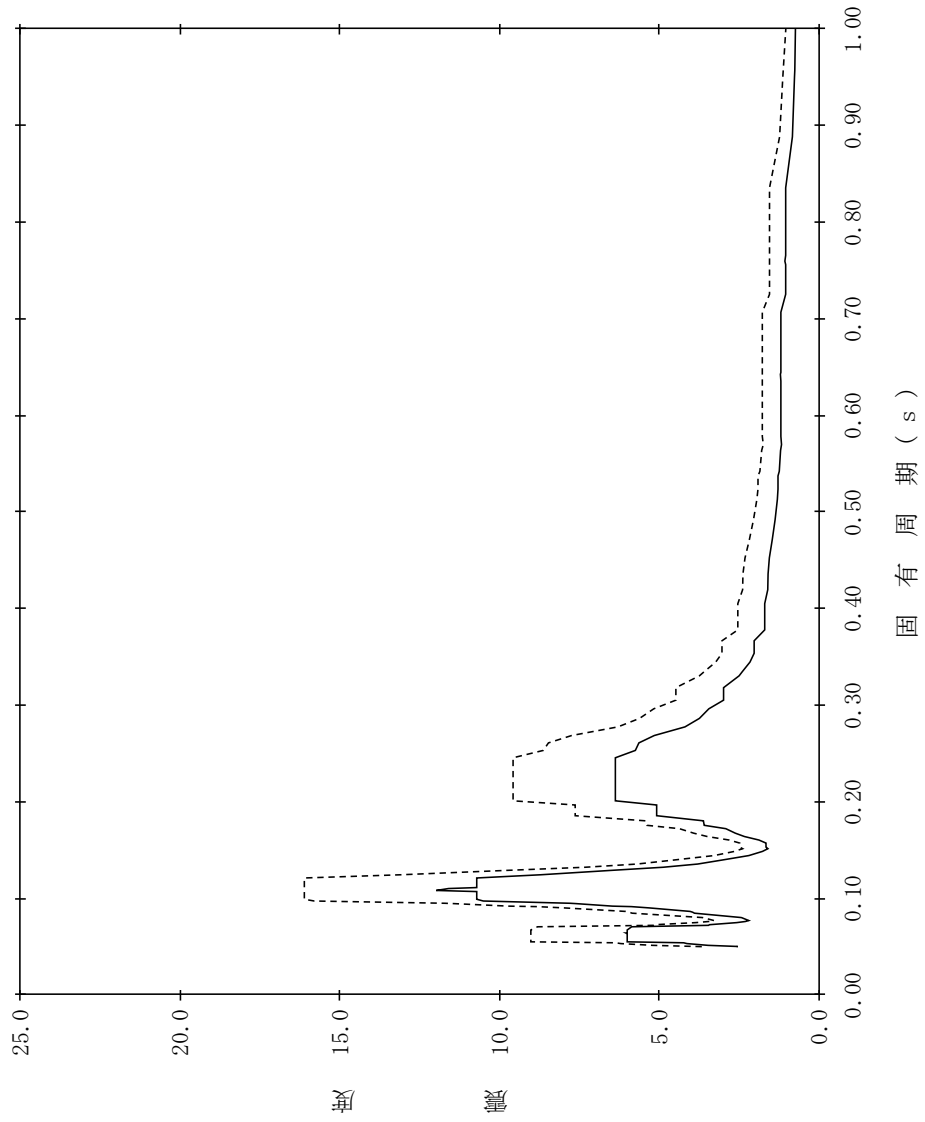
【NS2-PCV-SdNS-GSW113】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



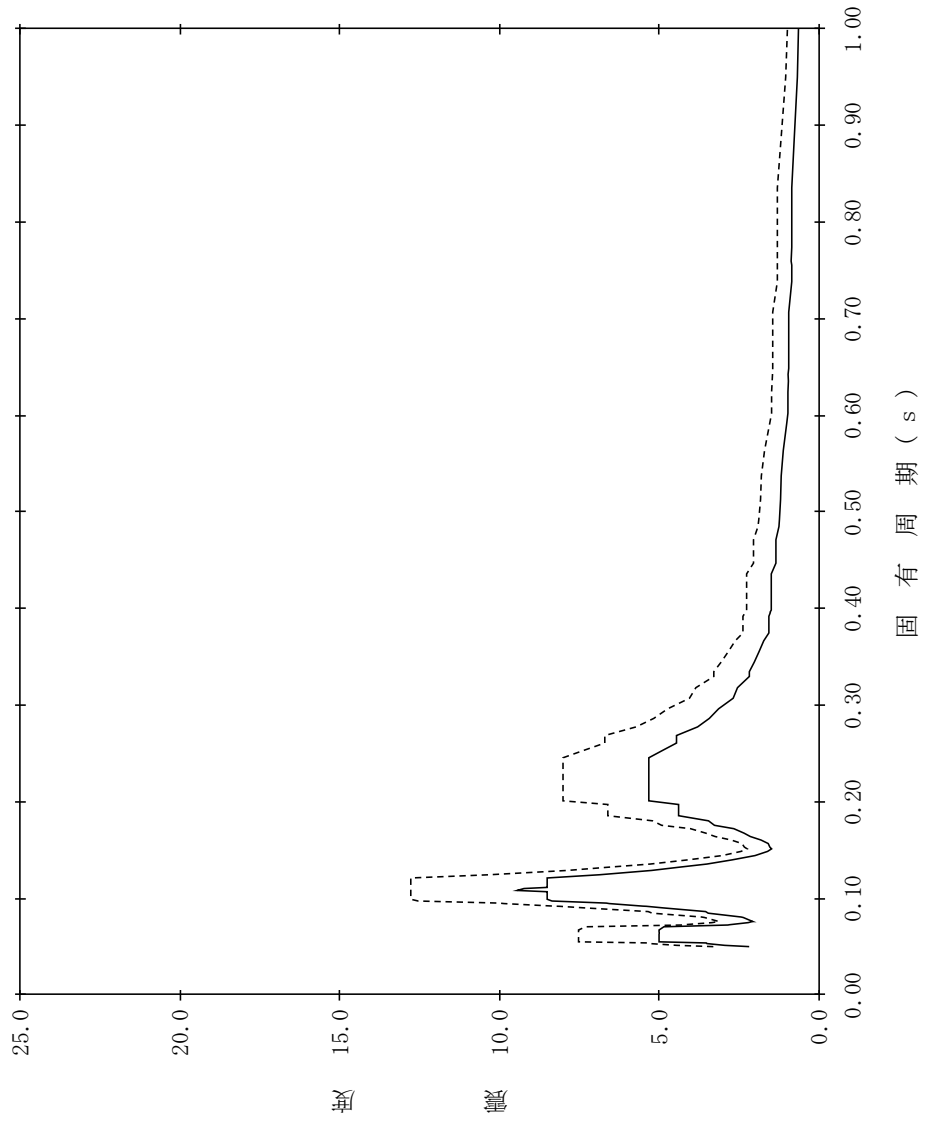
【NS2-PCV-SdNS-GSW114】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



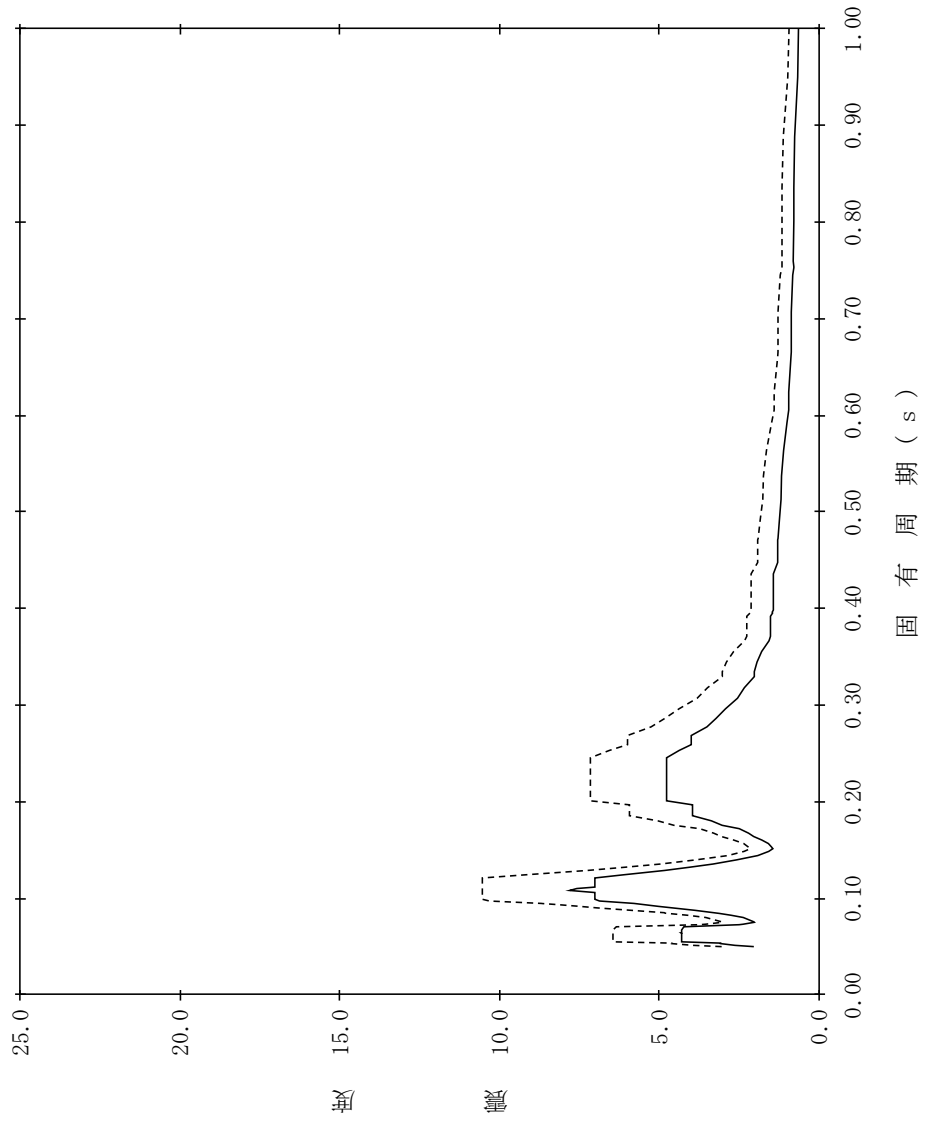
【NS2-PCV-SdNS-GSW115】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



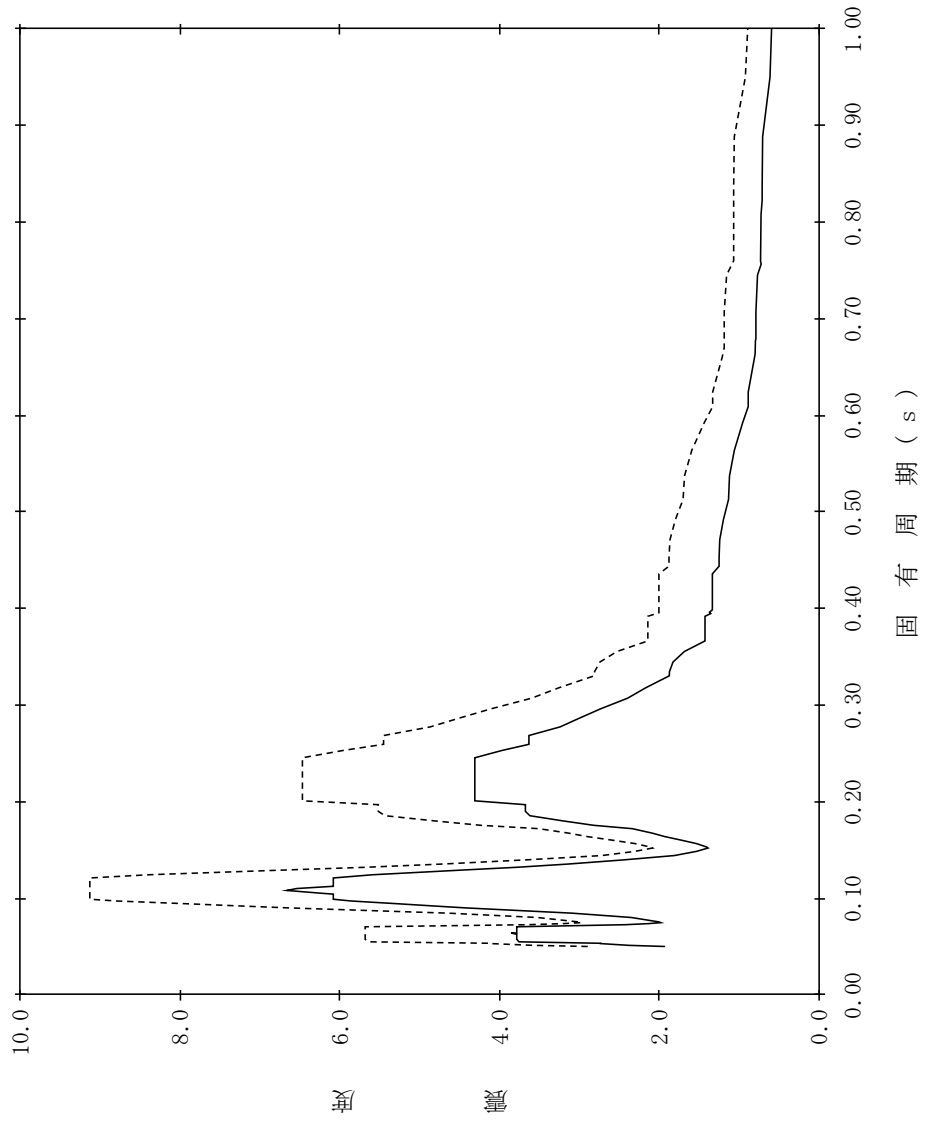
【NS2-PCV-SdNS-GSW116】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



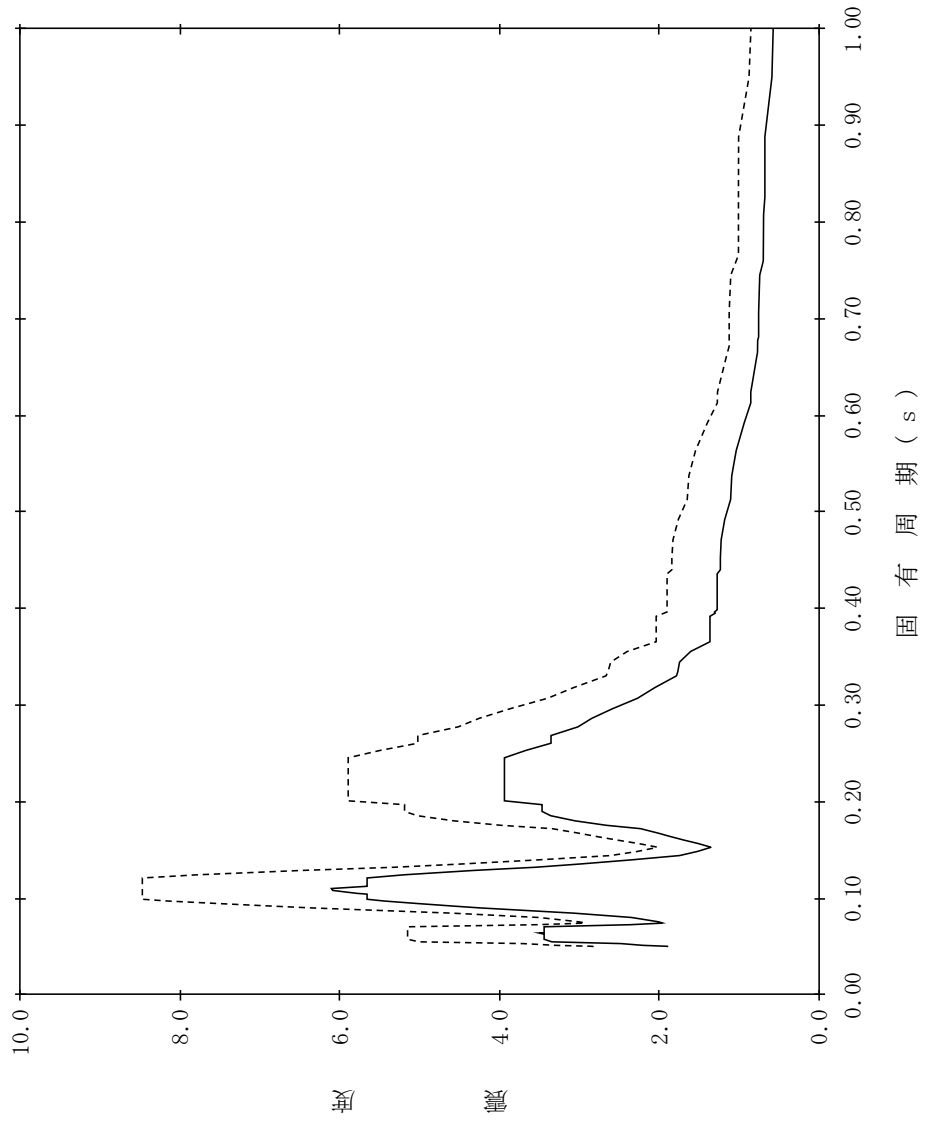
【NS2-PCV-SdNS-GSW117】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



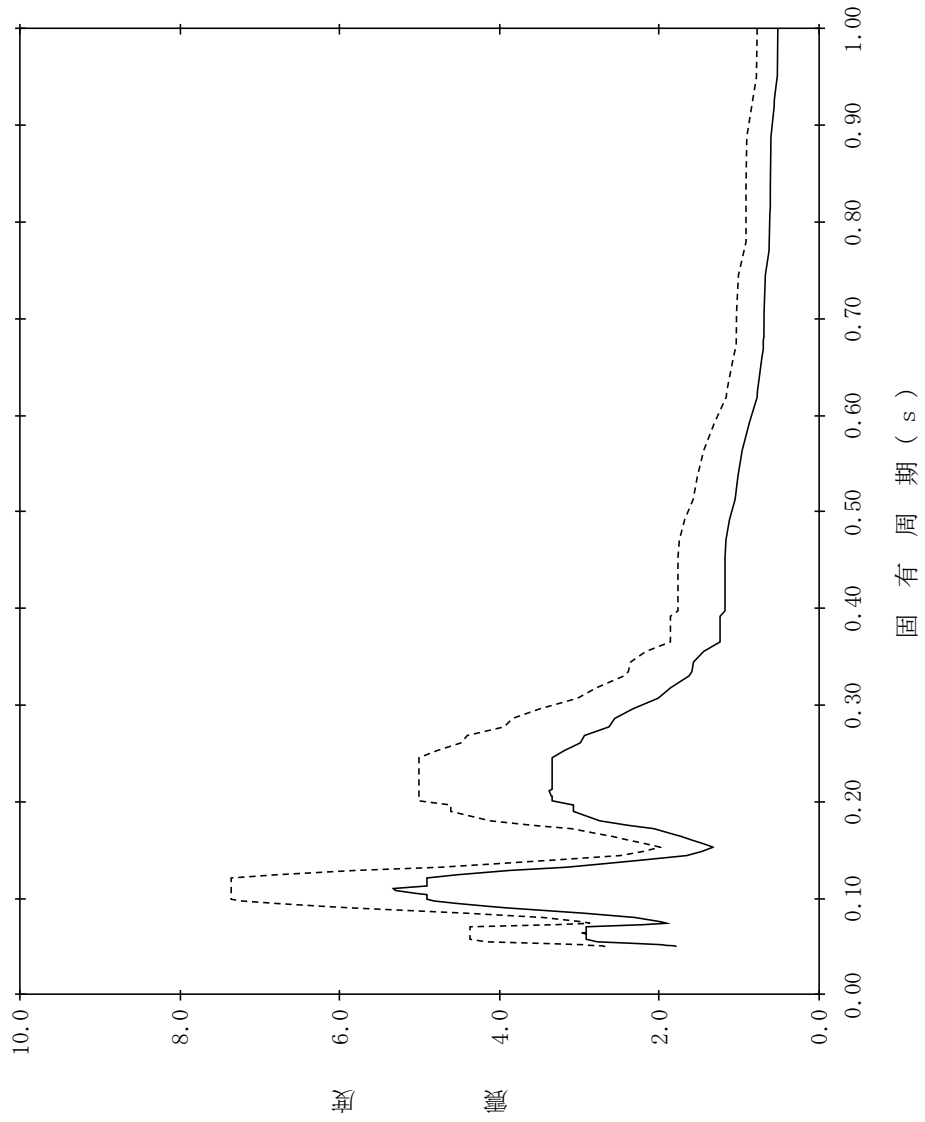
【NS2-PCV-SdNS-GSW118】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



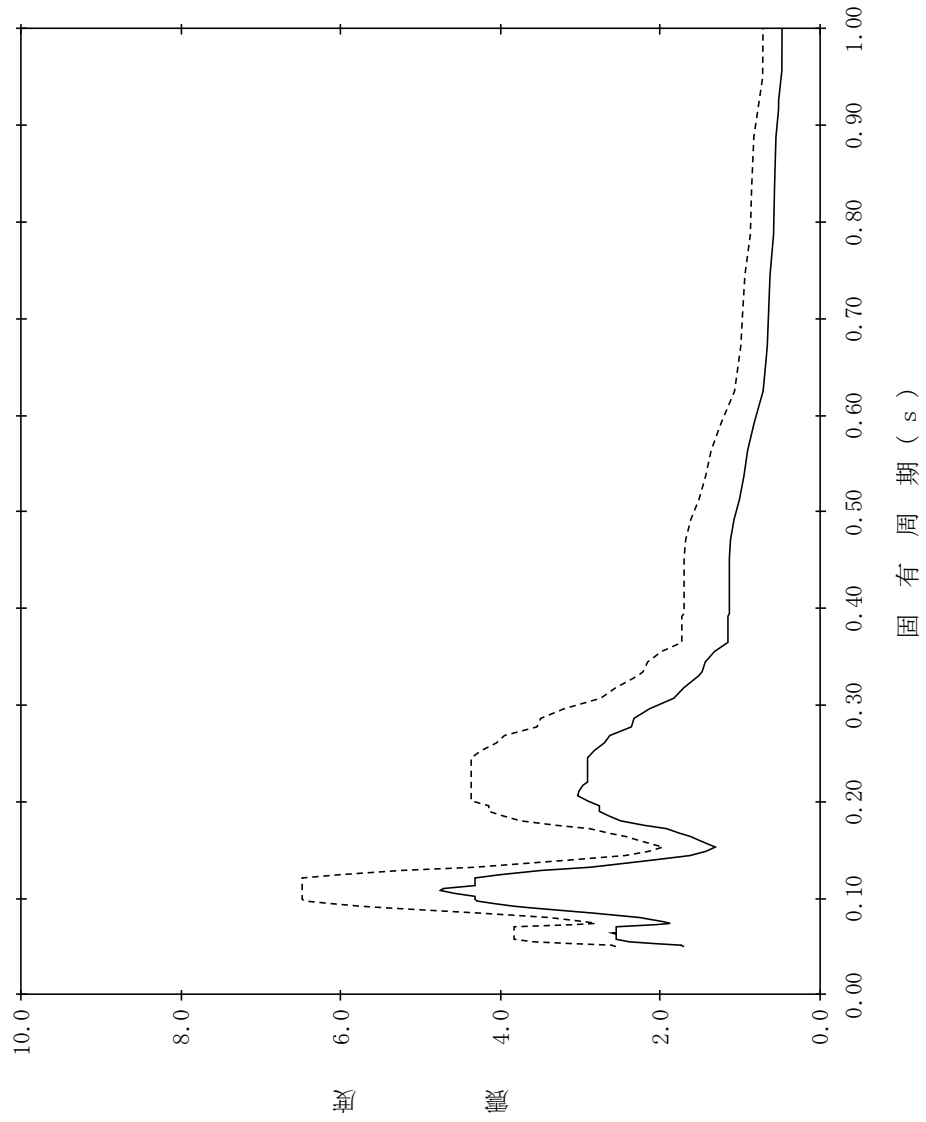
【NS2-PCV-SdNS-GSW119】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



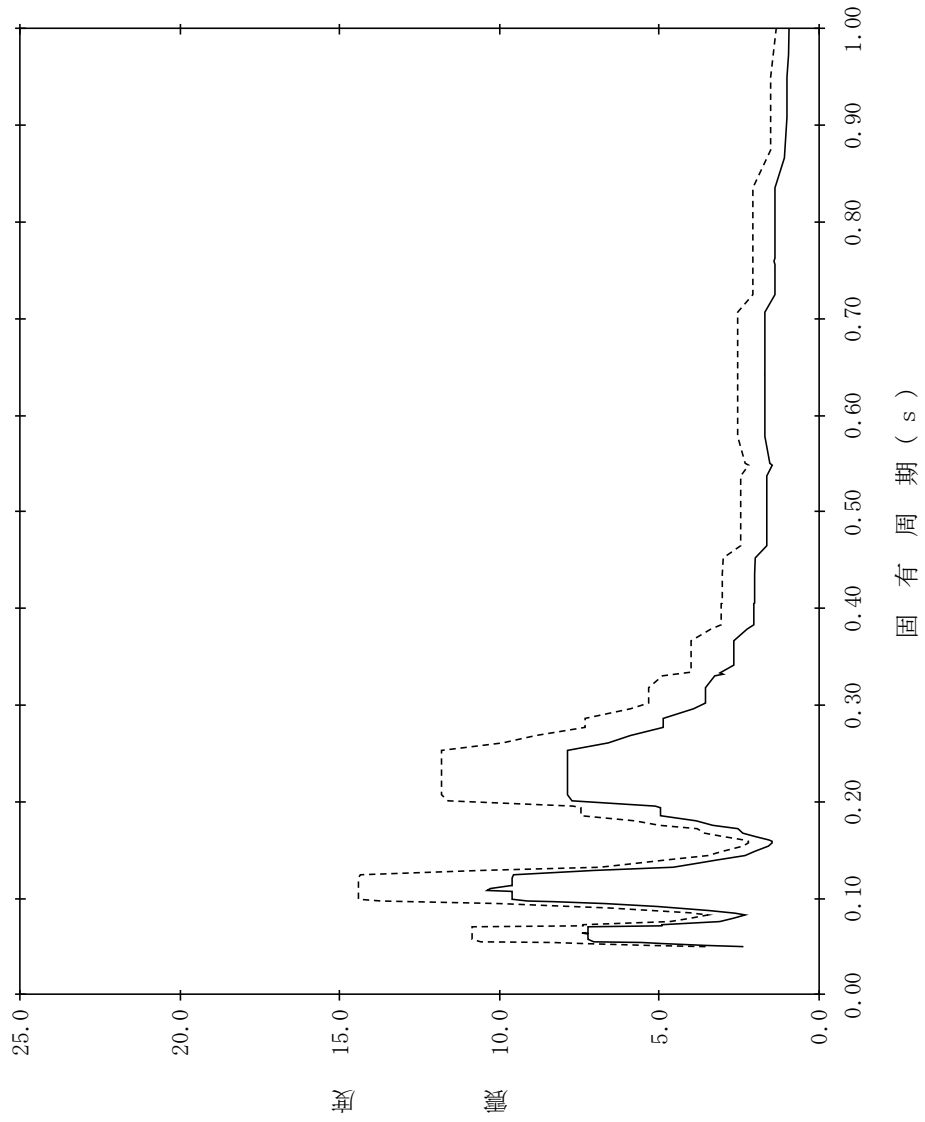
【NS2-PCV-SdNS-GSW120】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



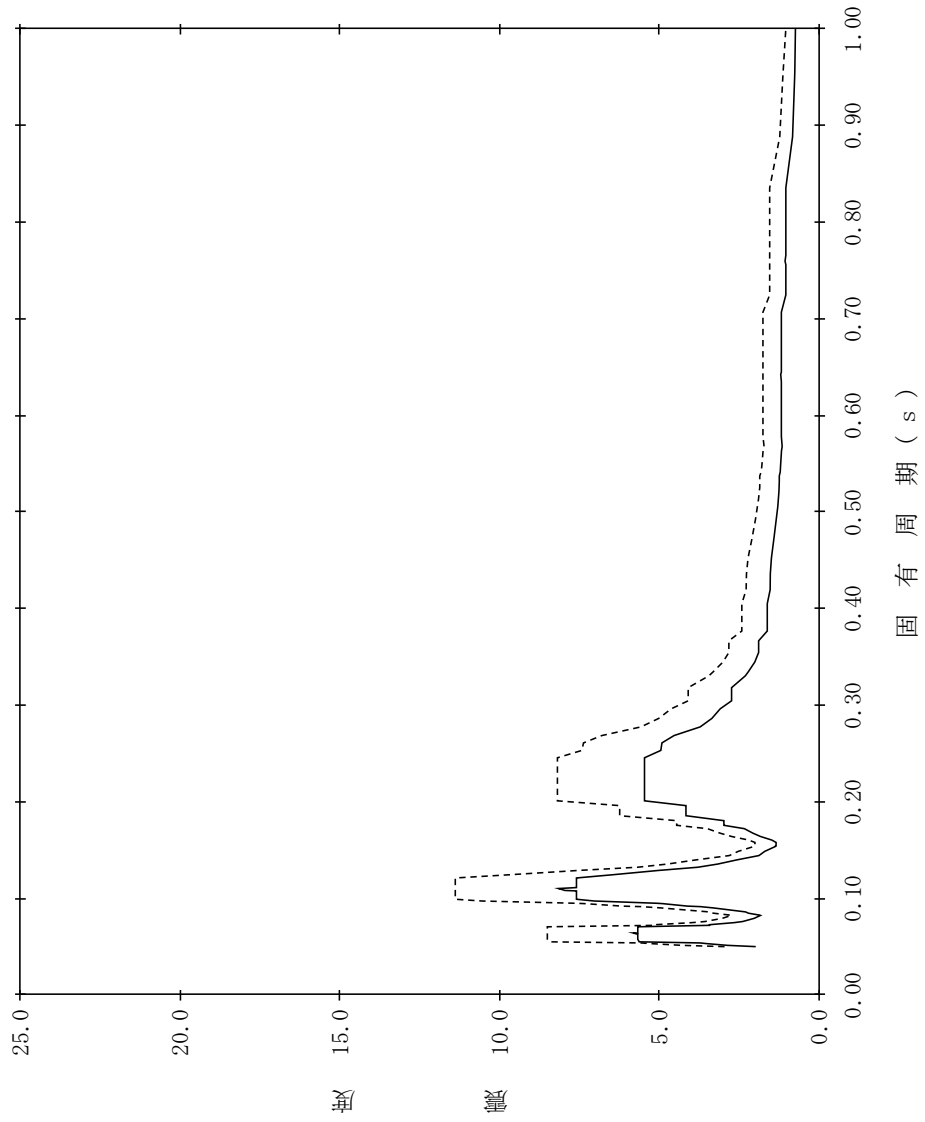
【NS2-PCV-SdNS-GSW121】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



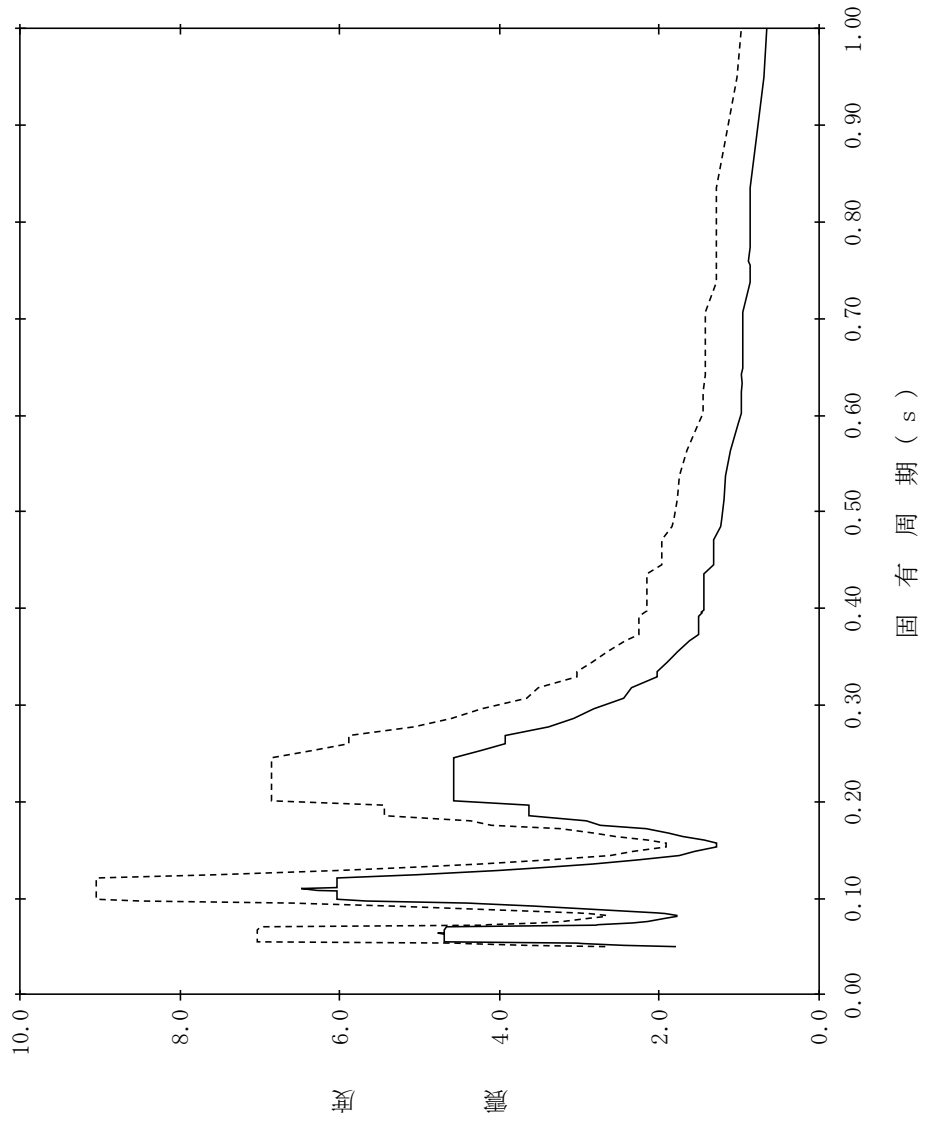
【NS2-PCV-SdNS-GSW122】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



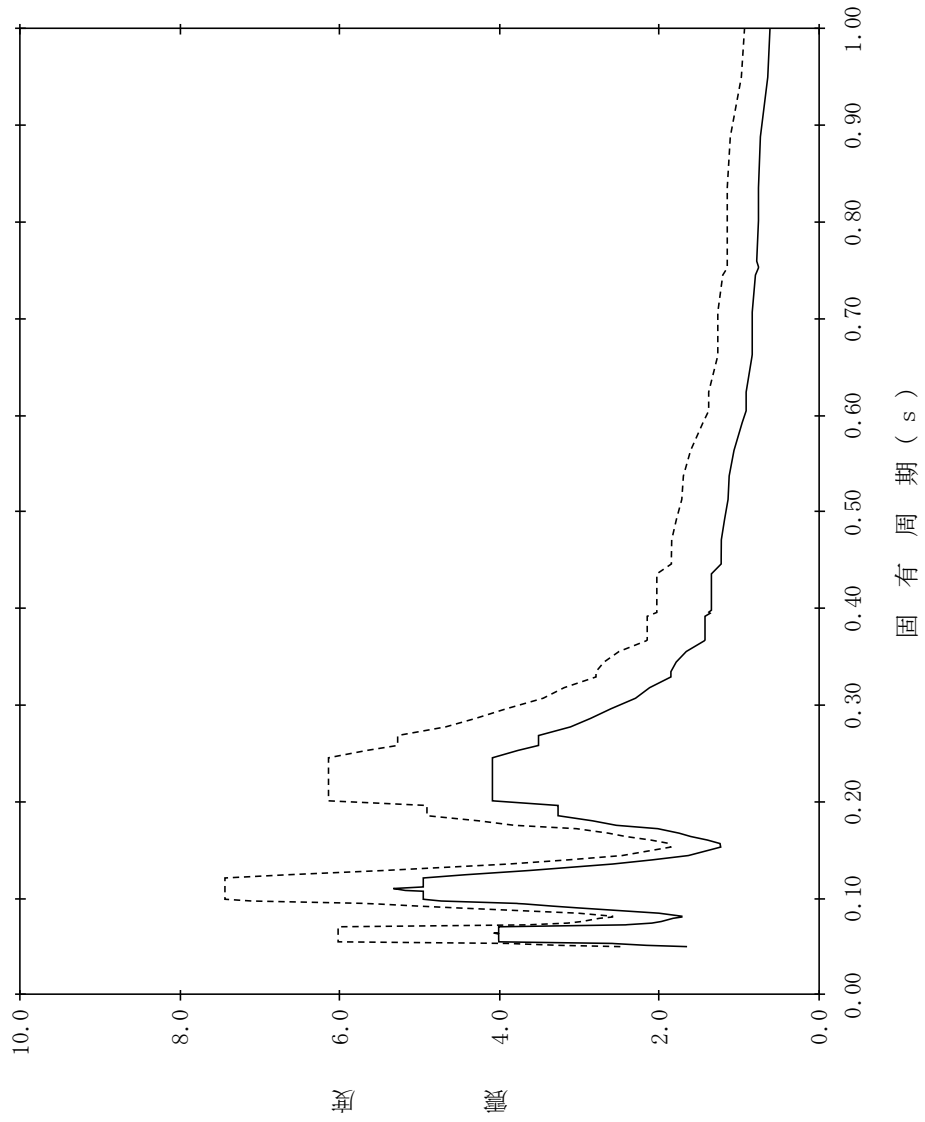
【NS2-PCV-SdNS-GSW123】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



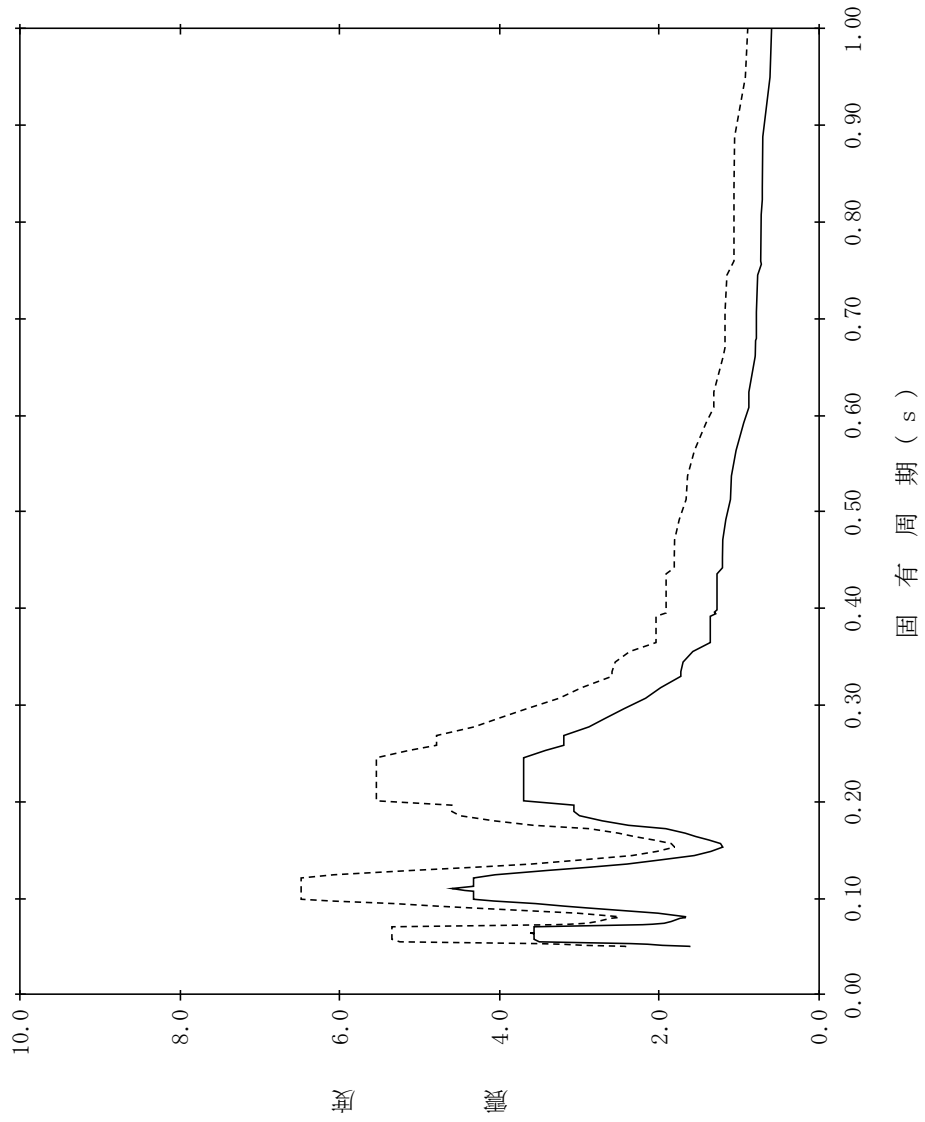
【NS2-PCV-SdNS-GSW124】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



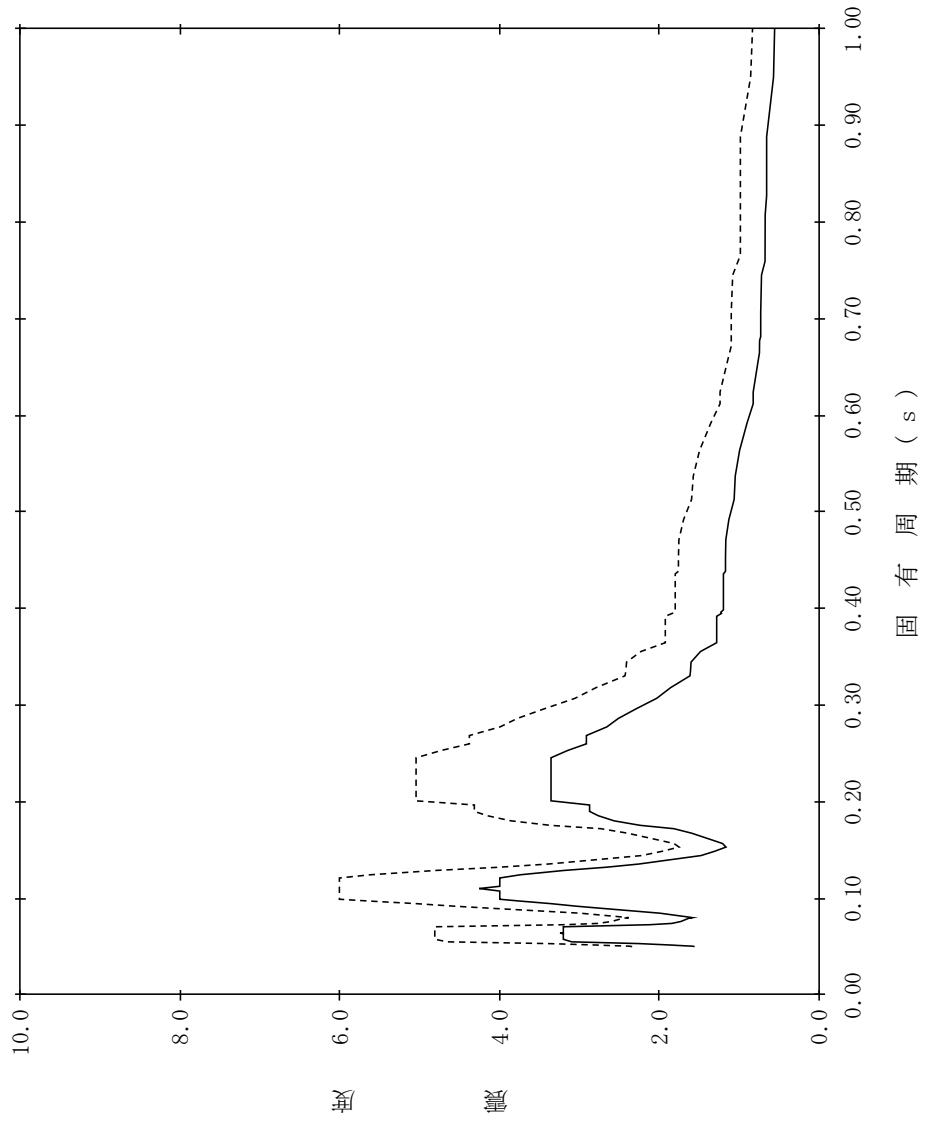
【NS2-PCV-SdNS-GSW125】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



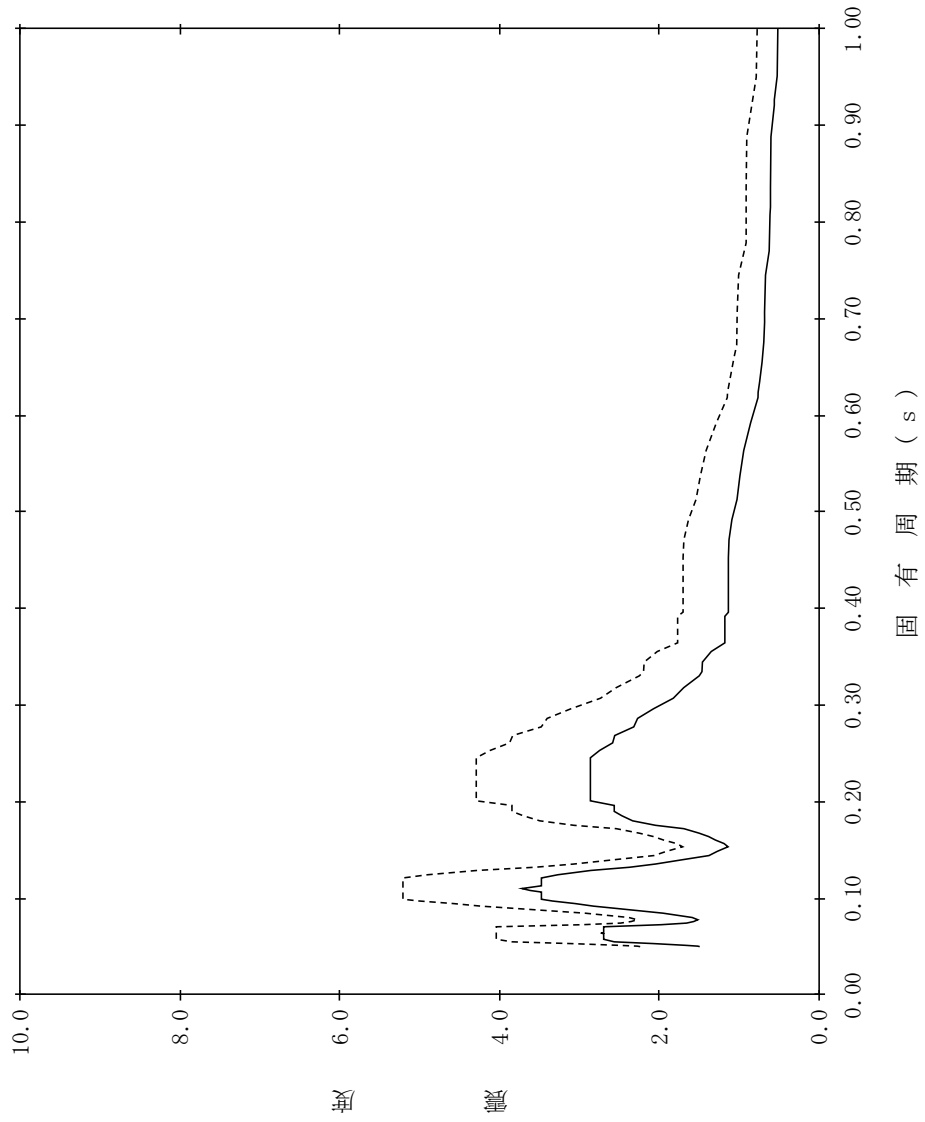
【NS2-PCV-SdNS-GSW126】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



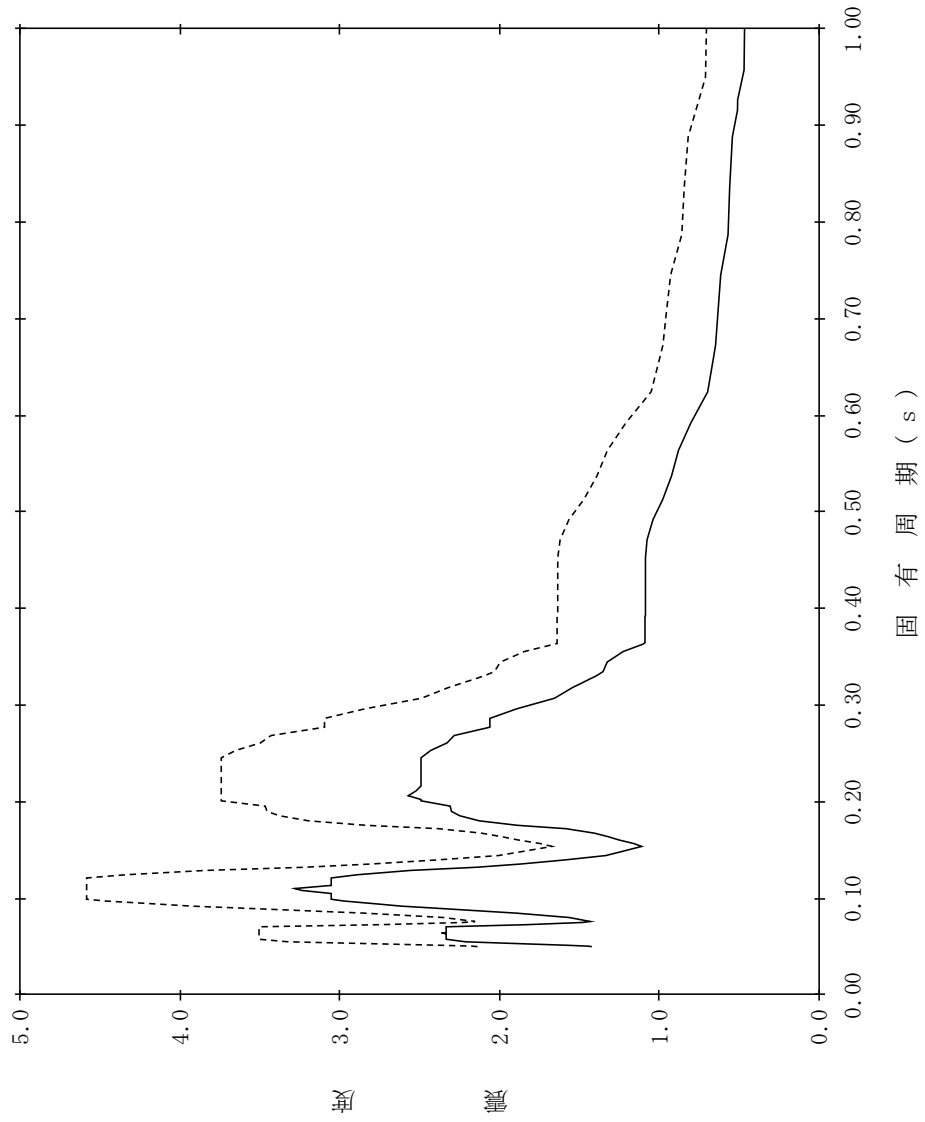
【NS2-PCV-SdNS-GSW127】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



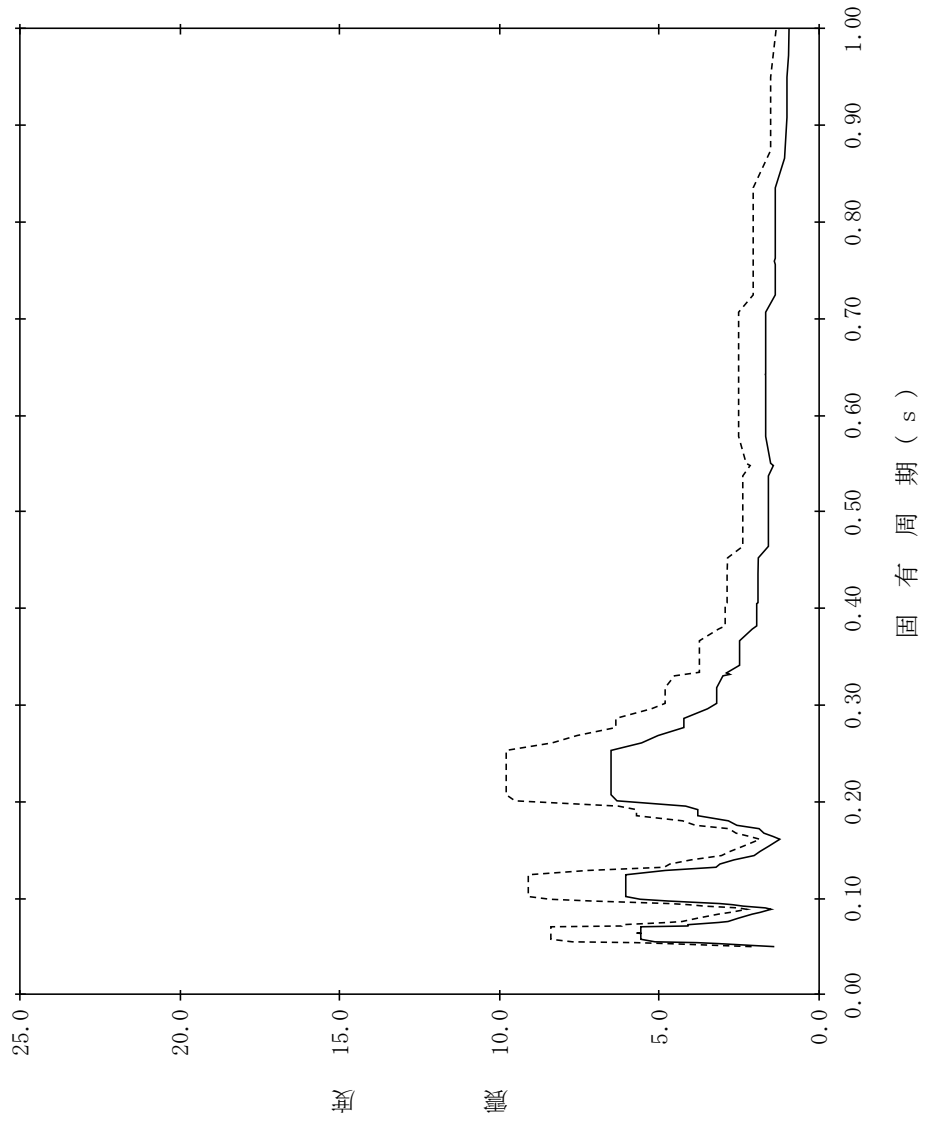
【NS2-PCV-SdNS-GSW128】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



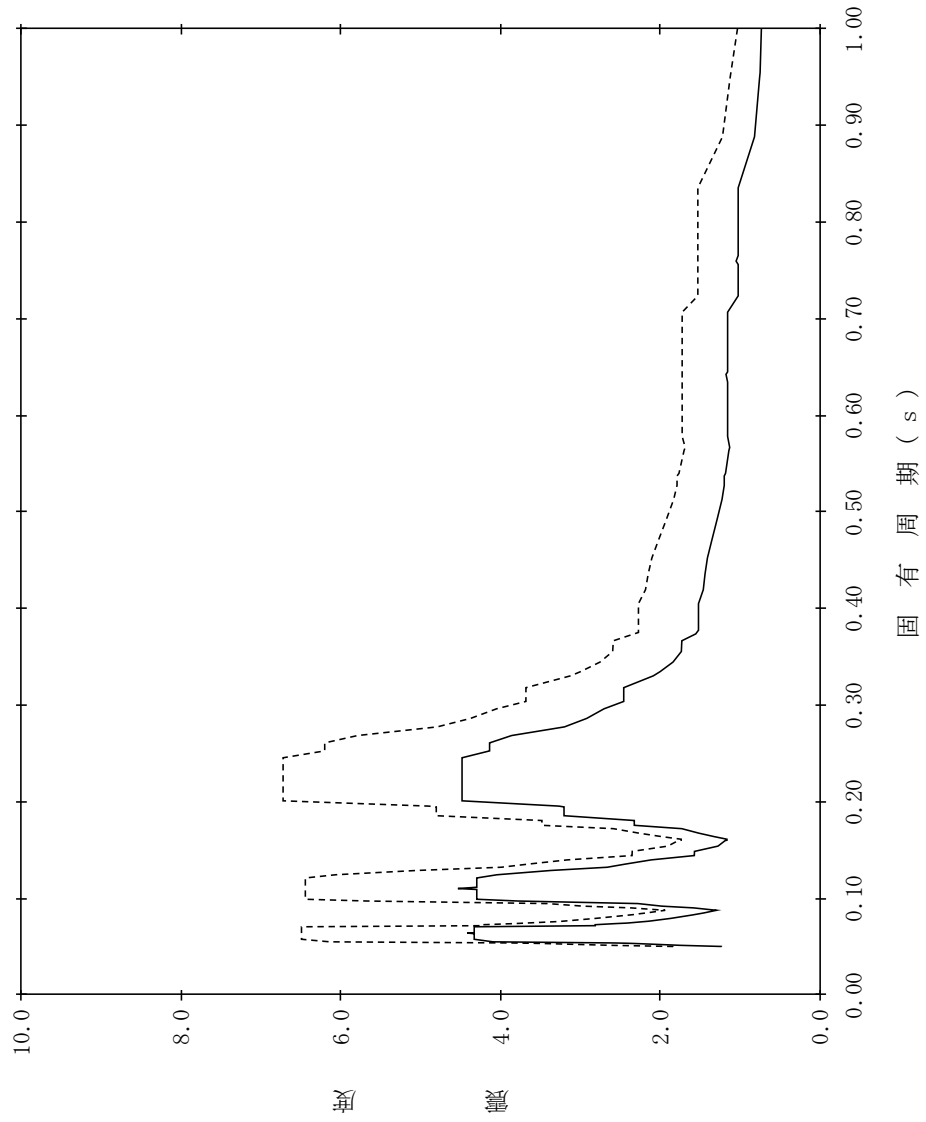
【NS2-PCV-SdNS-PED129】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



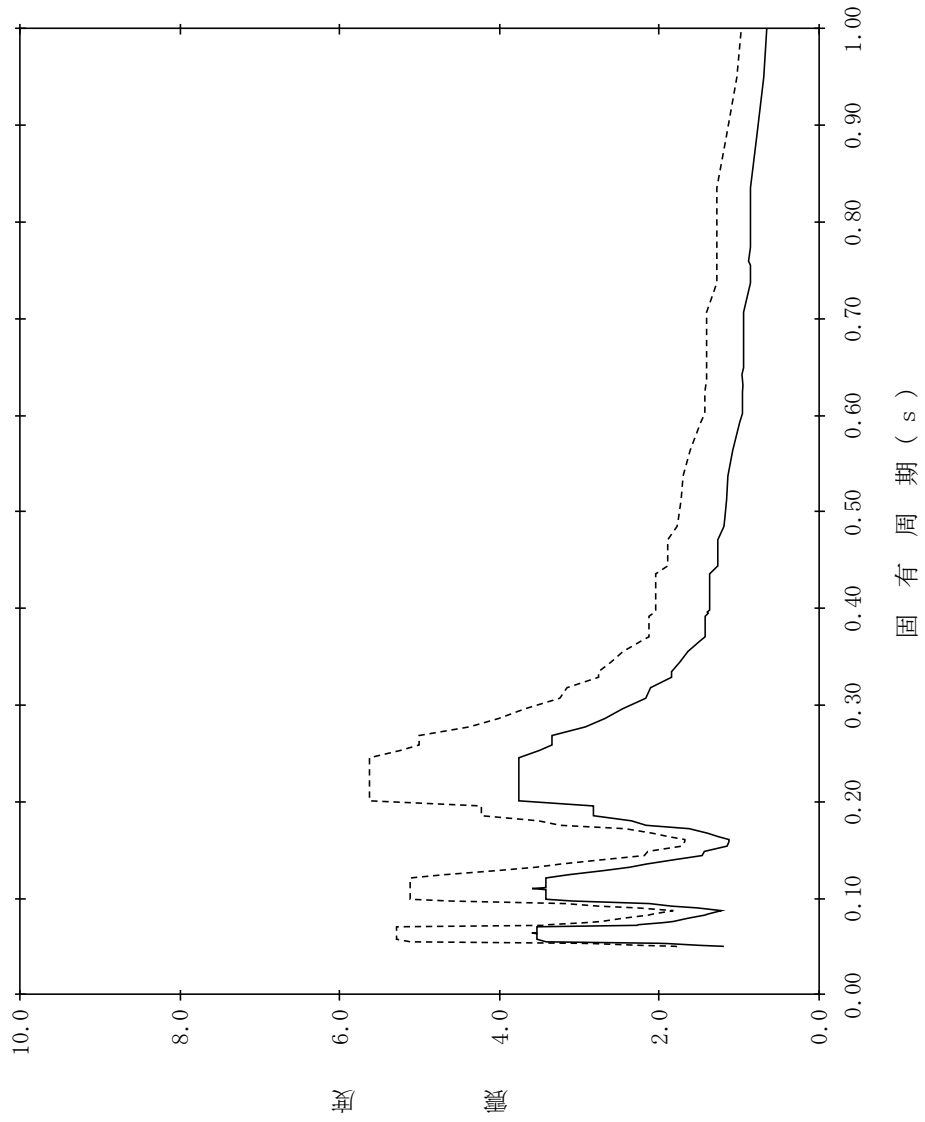
【NS2-PCV-SdNS-PED1.30】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



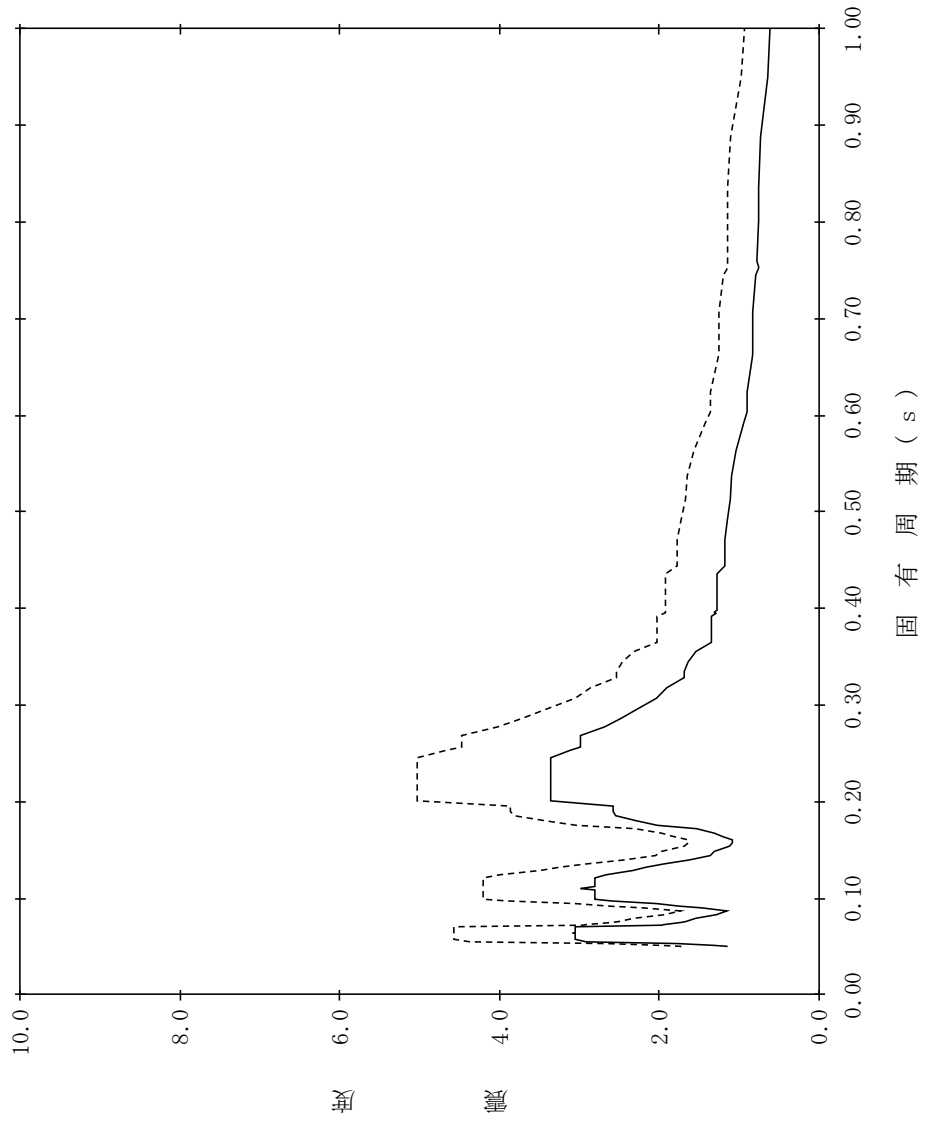
【NS2-PCV-SdNS-PED131】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



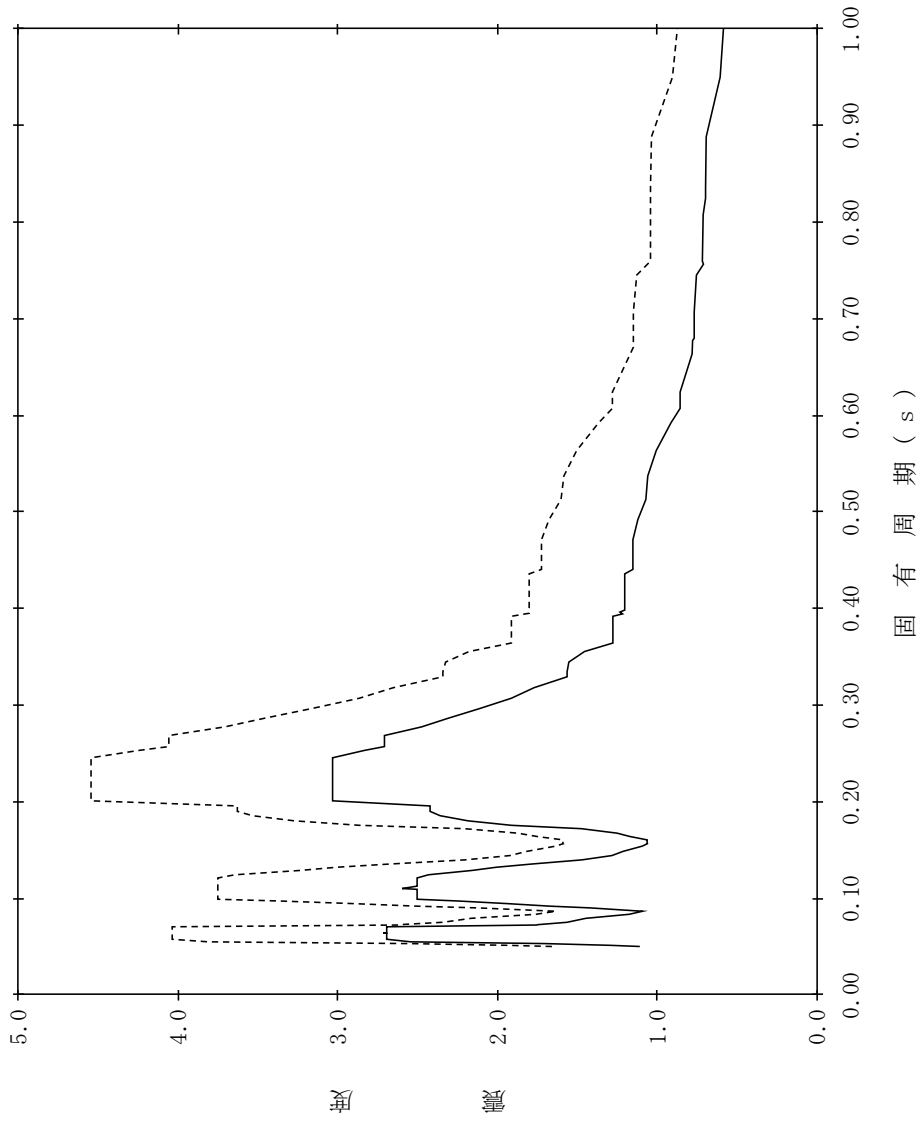
【NS2-PCV-SdNS-PED1.32】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



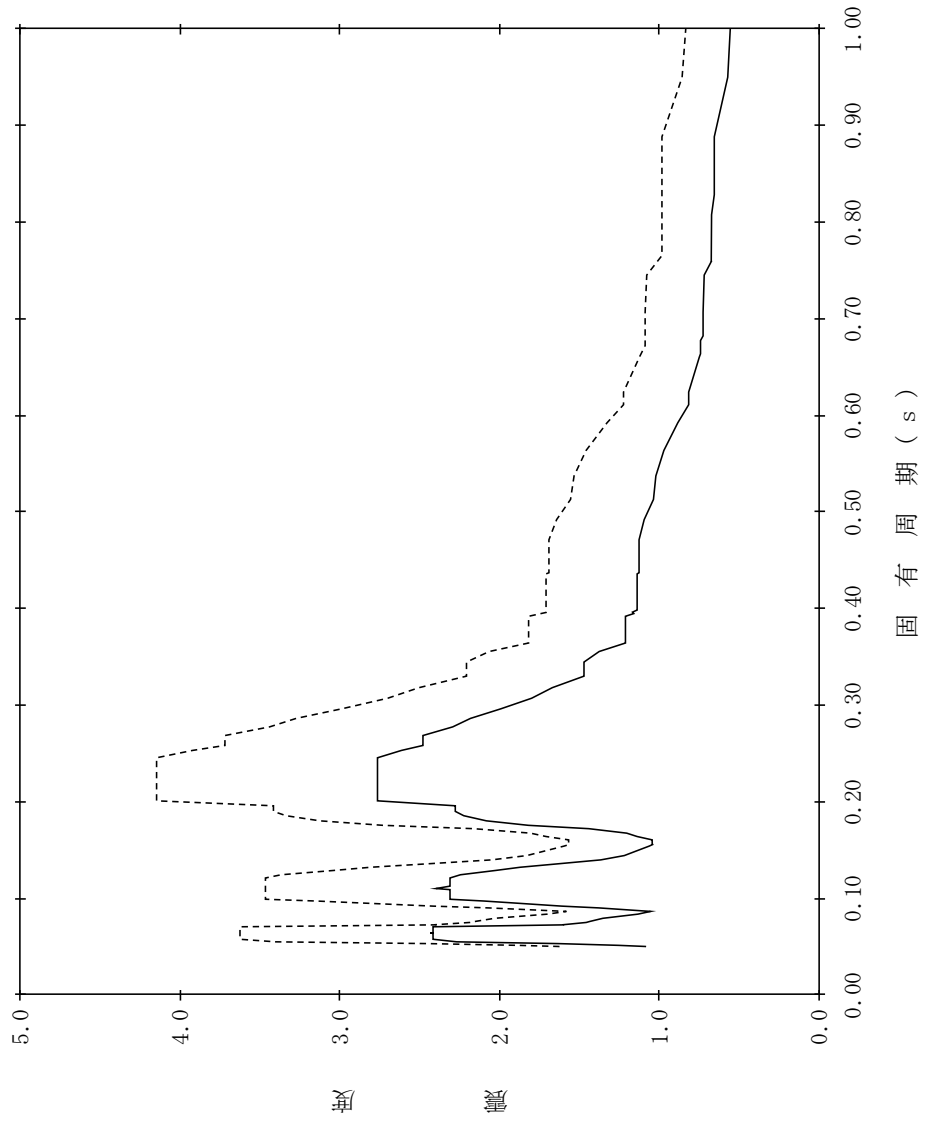
【NS2-PCV-SdNS-PED133】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



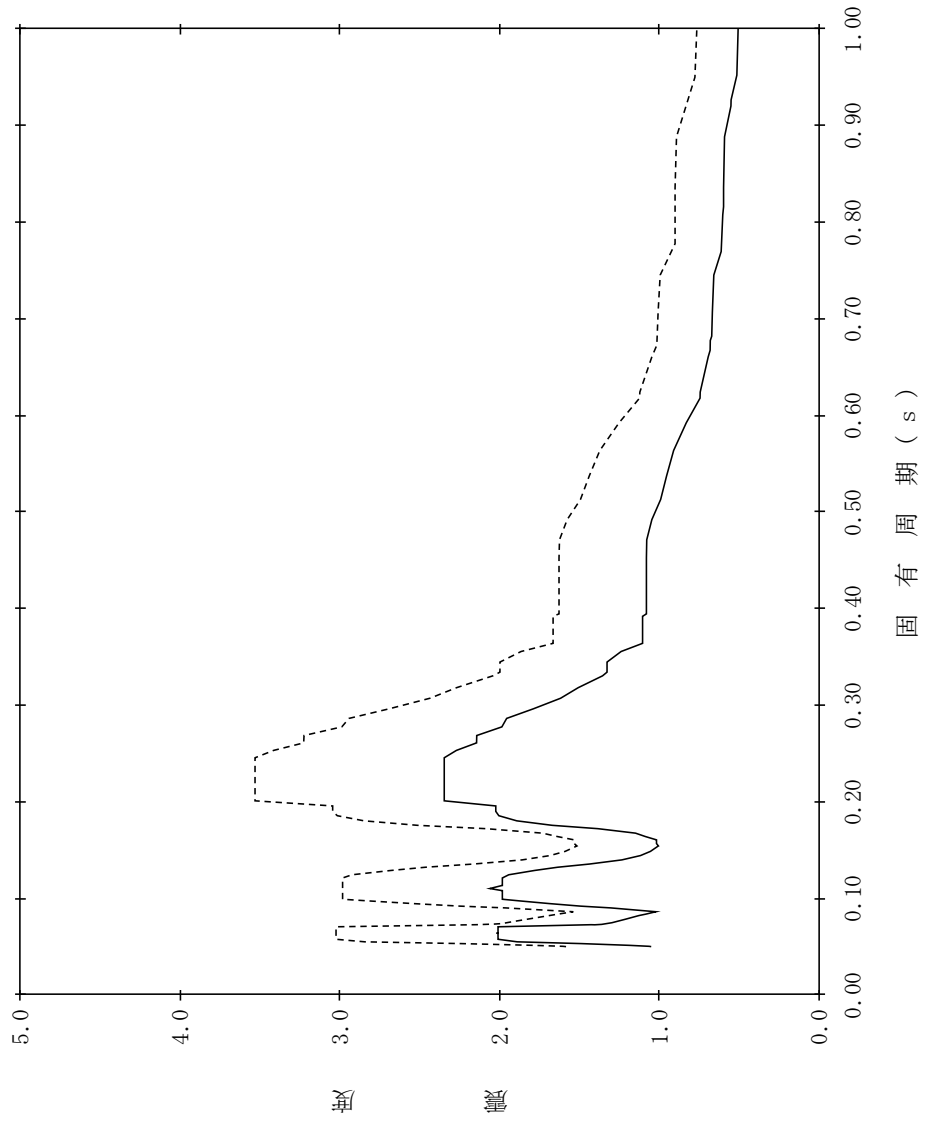
【NS2-PCV-SdNS-PEDI34】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



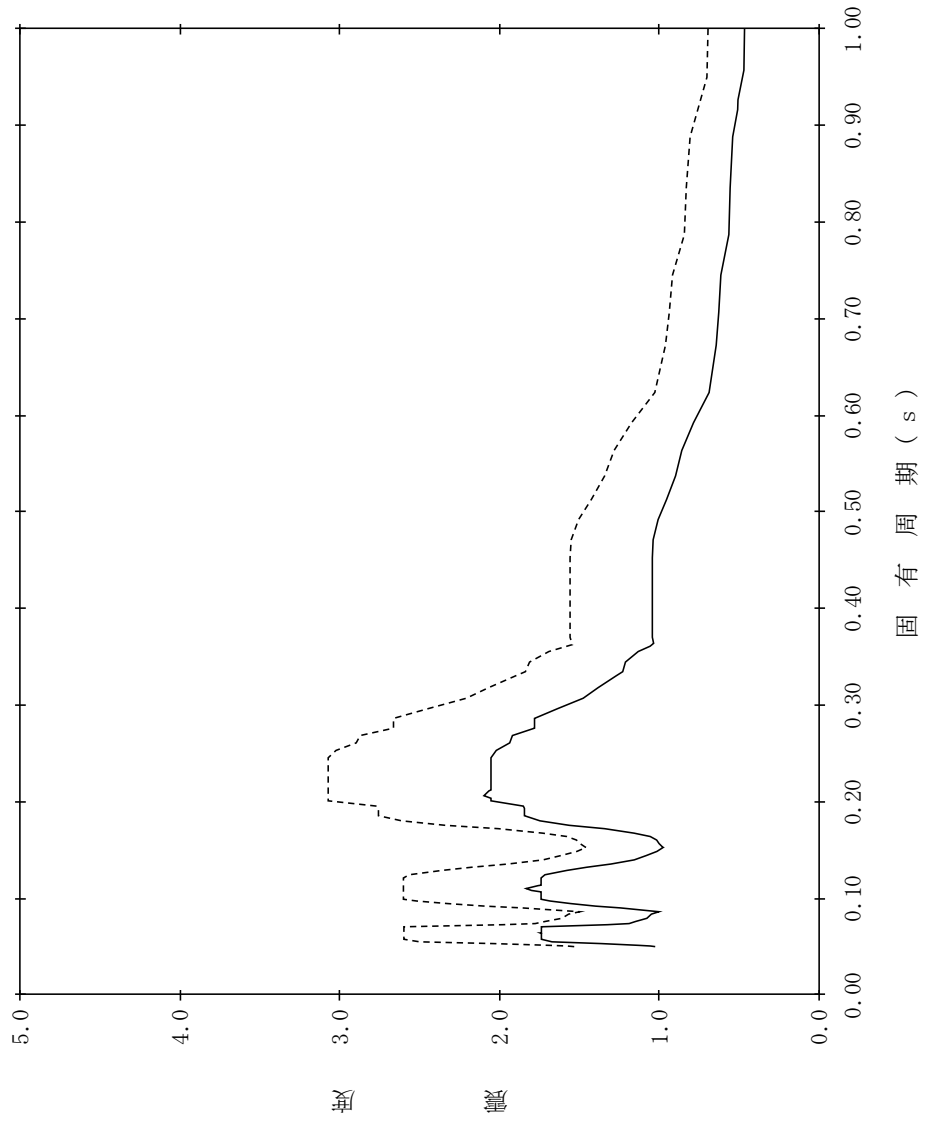
【NS2-PCV-SdNS-PEDI35】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



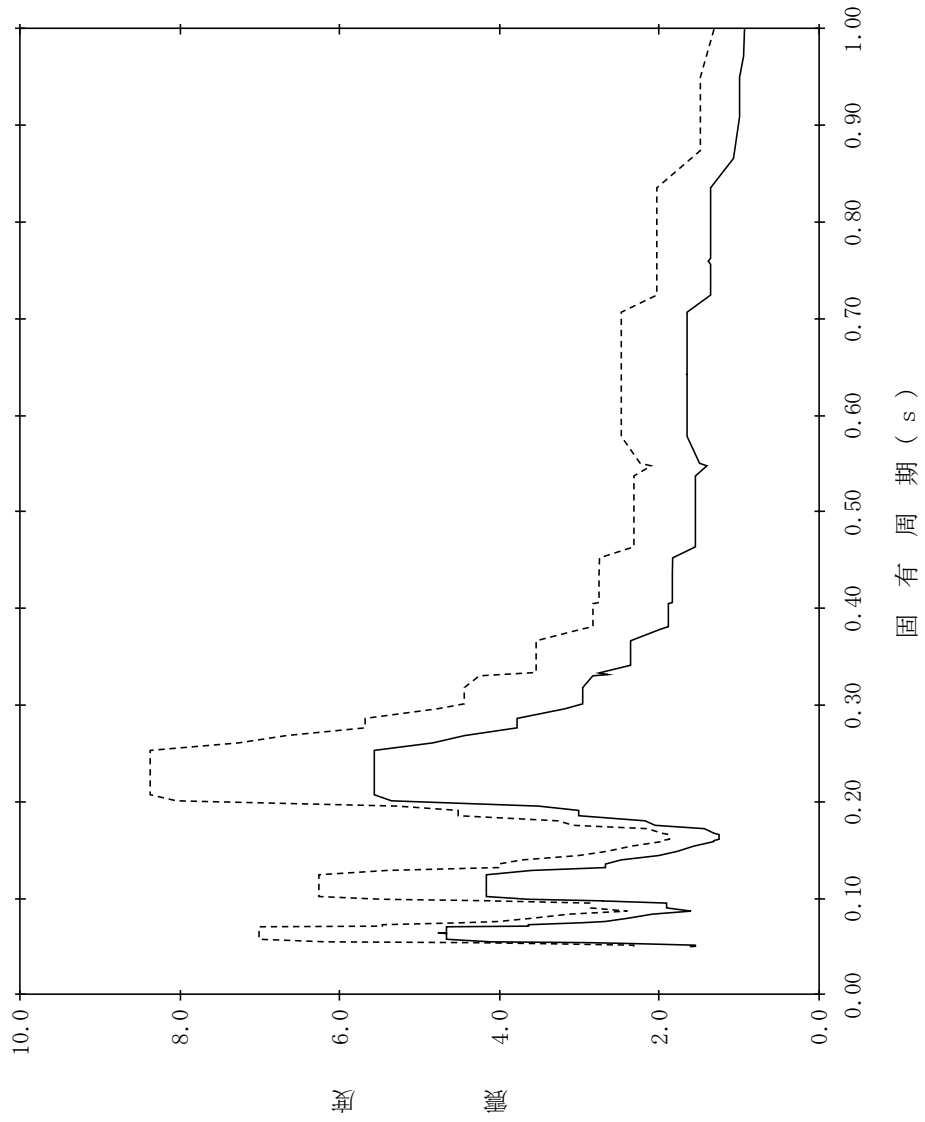
【NS2-PCV-SdNS-PED136】

構造物名：原子炉压力容器ベゼスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



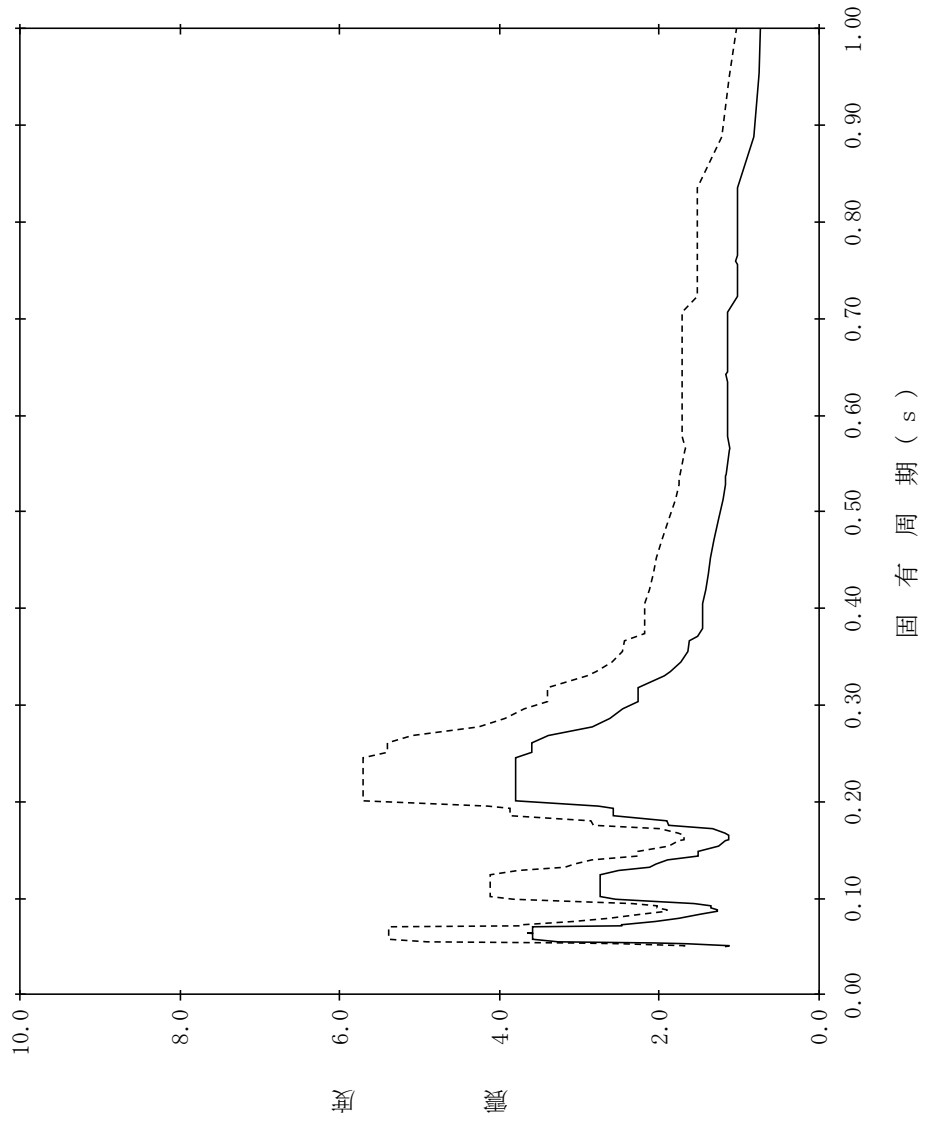
【NS2-PCV-SdNS-PED137】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



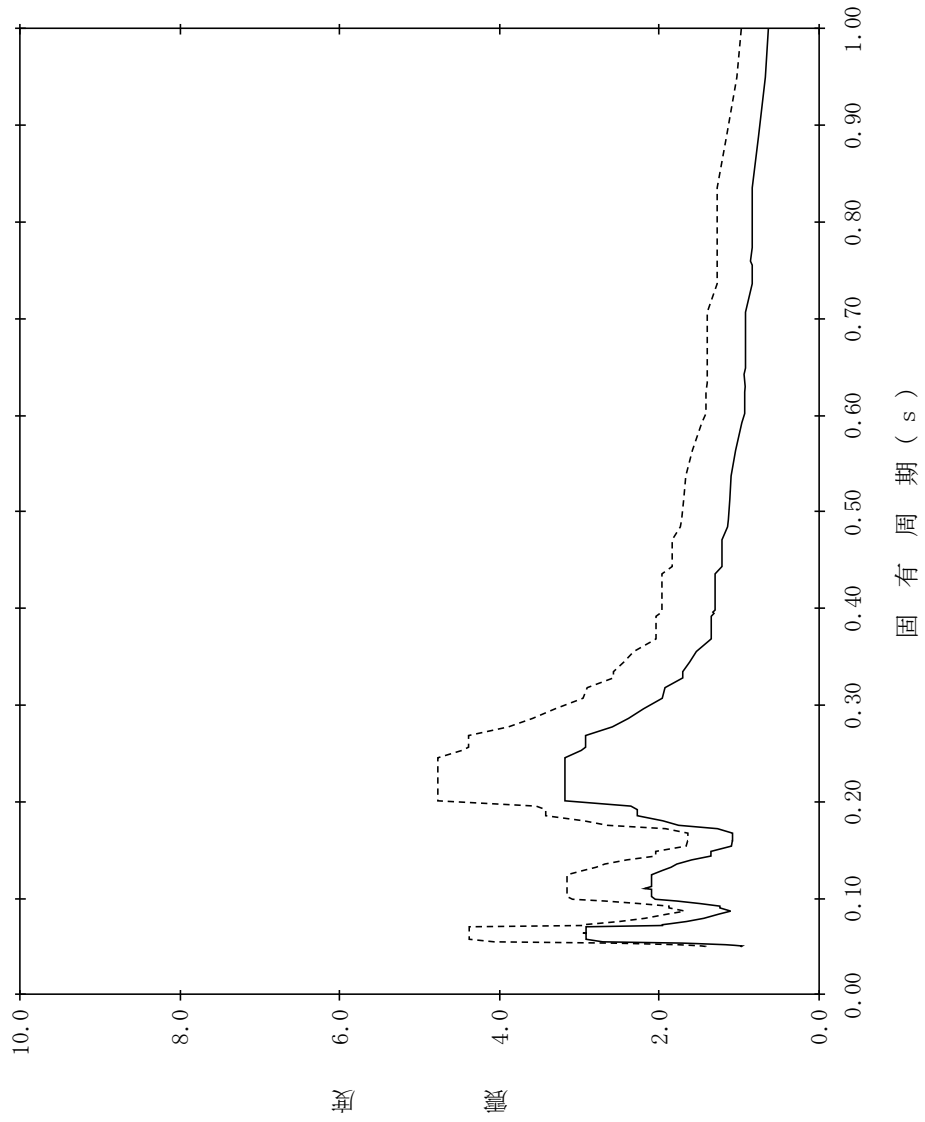
【NS2-PCV-SdNS-PEDI38】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



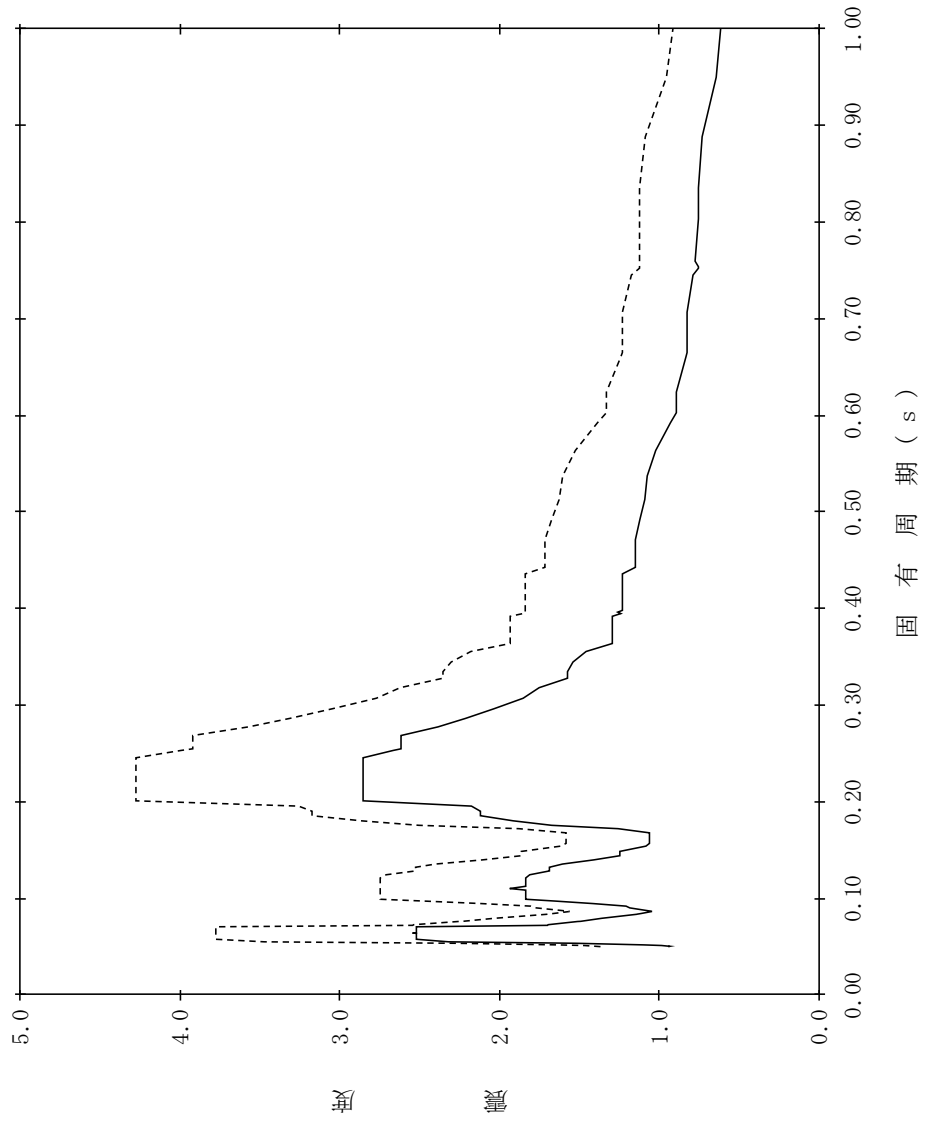
【NS2-PCV-SdNS-PEDI.39】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



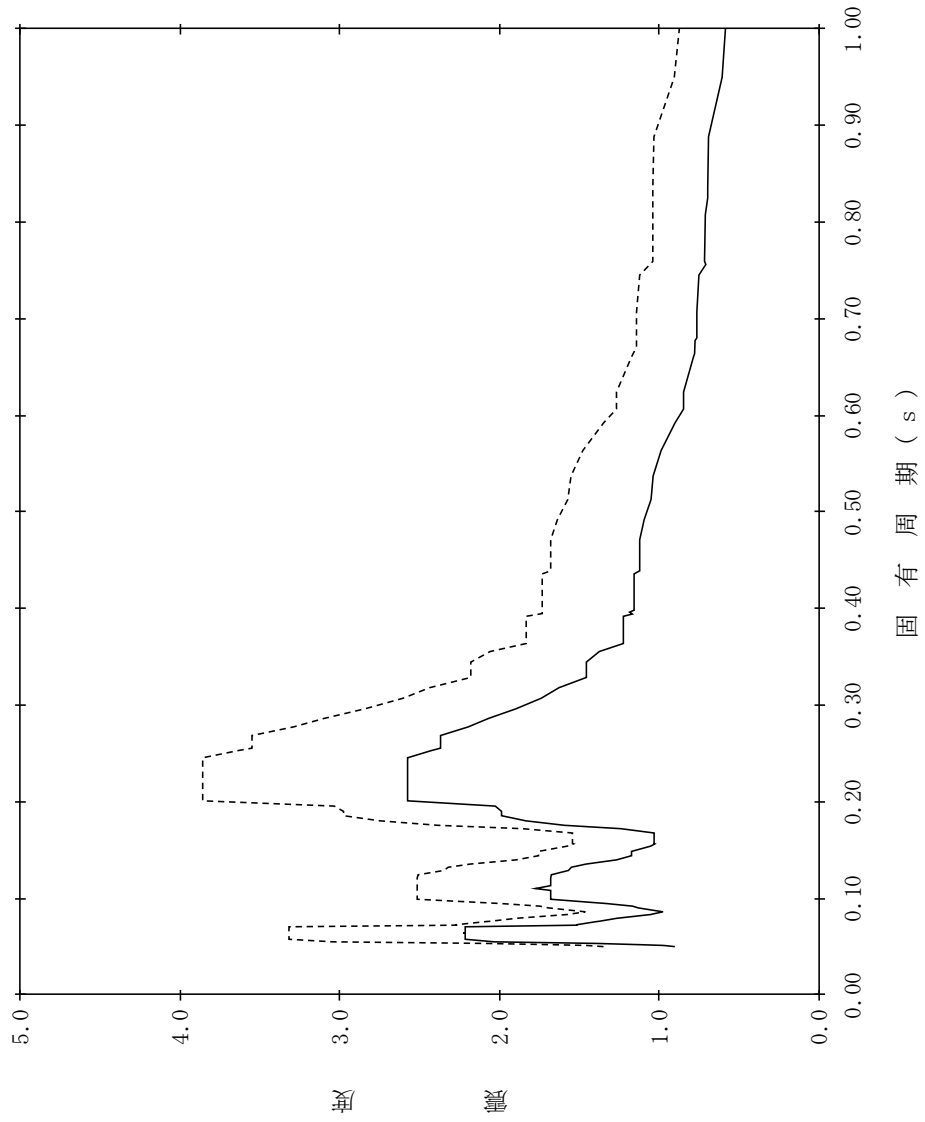
【NS2-PCV-SdNS-PED140】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



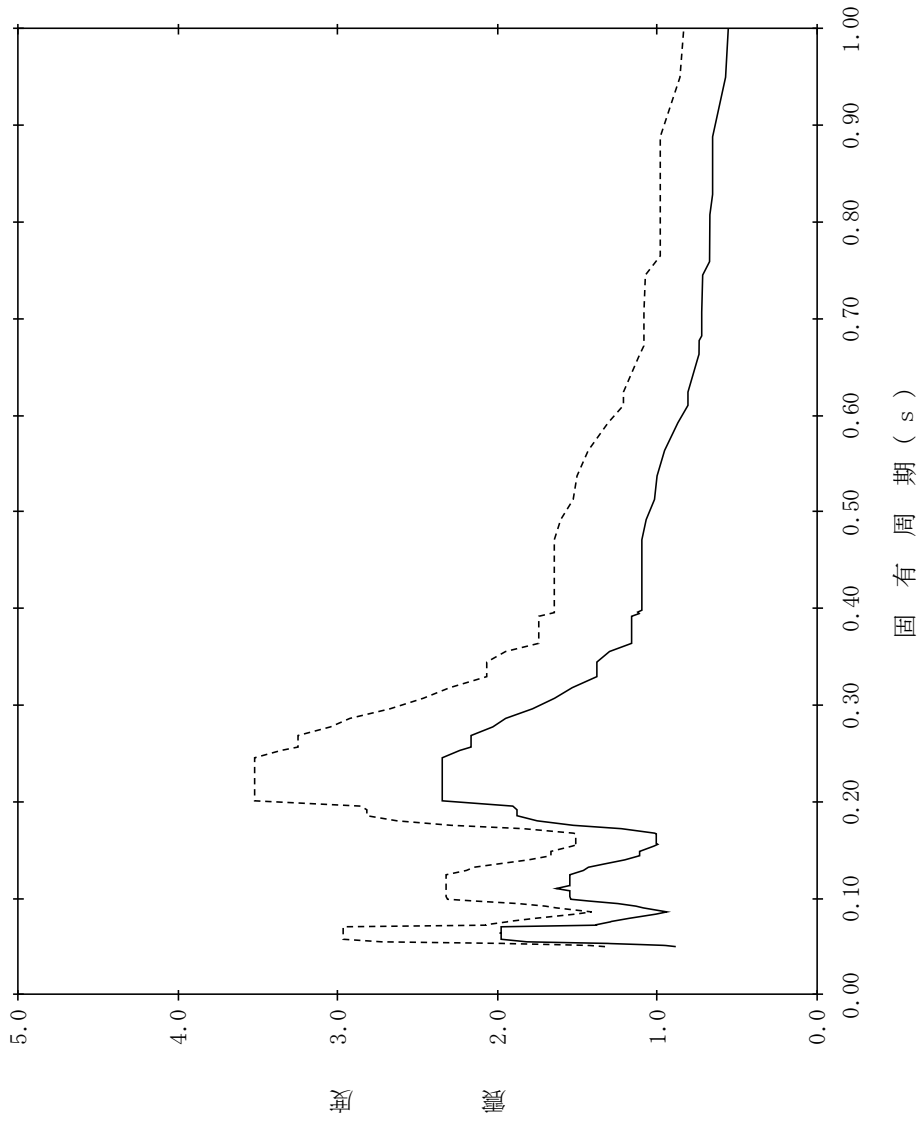
【NS2-PCV-SdNS-PED141】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



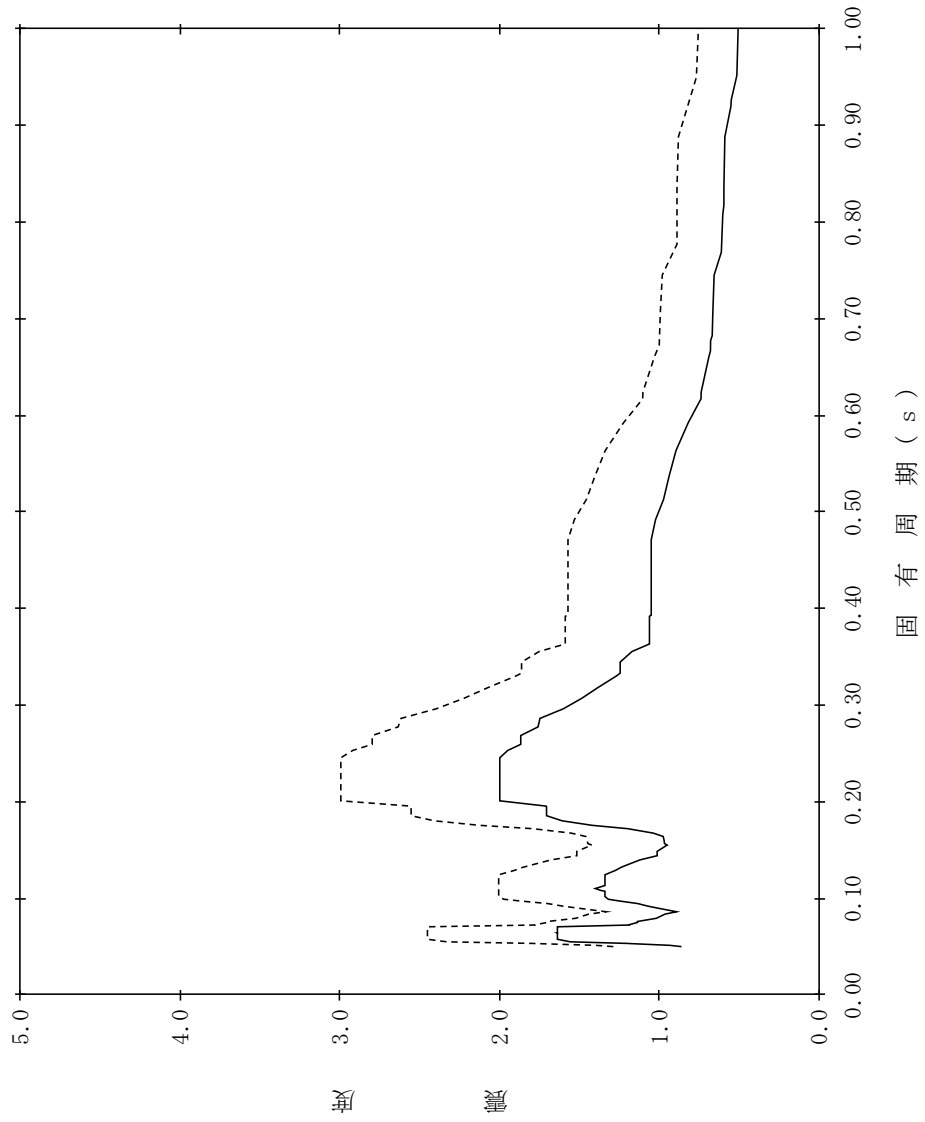
【NS2-PCV-SdNS-PED142】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



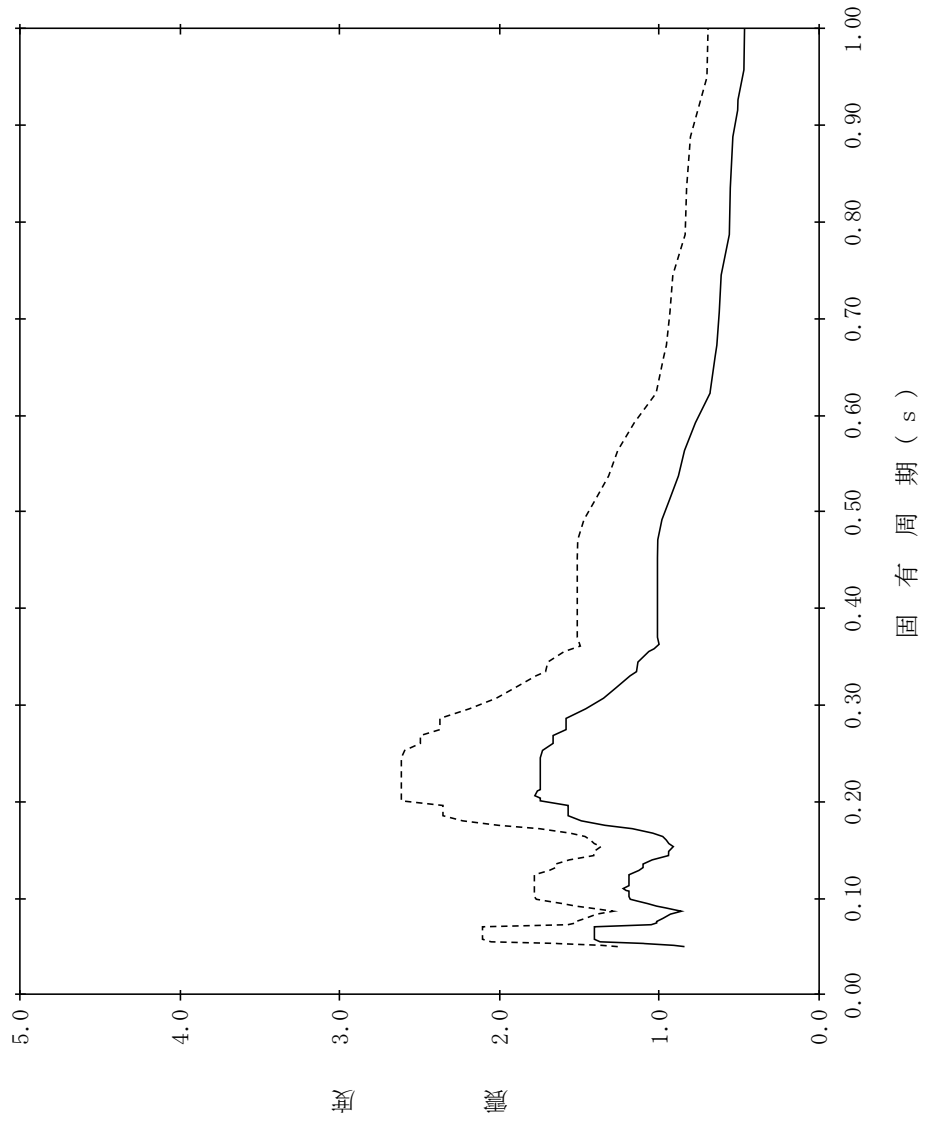
【NS2-PCV-SdNS-PED143】

構造物名：原子炉压力容器ベグスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



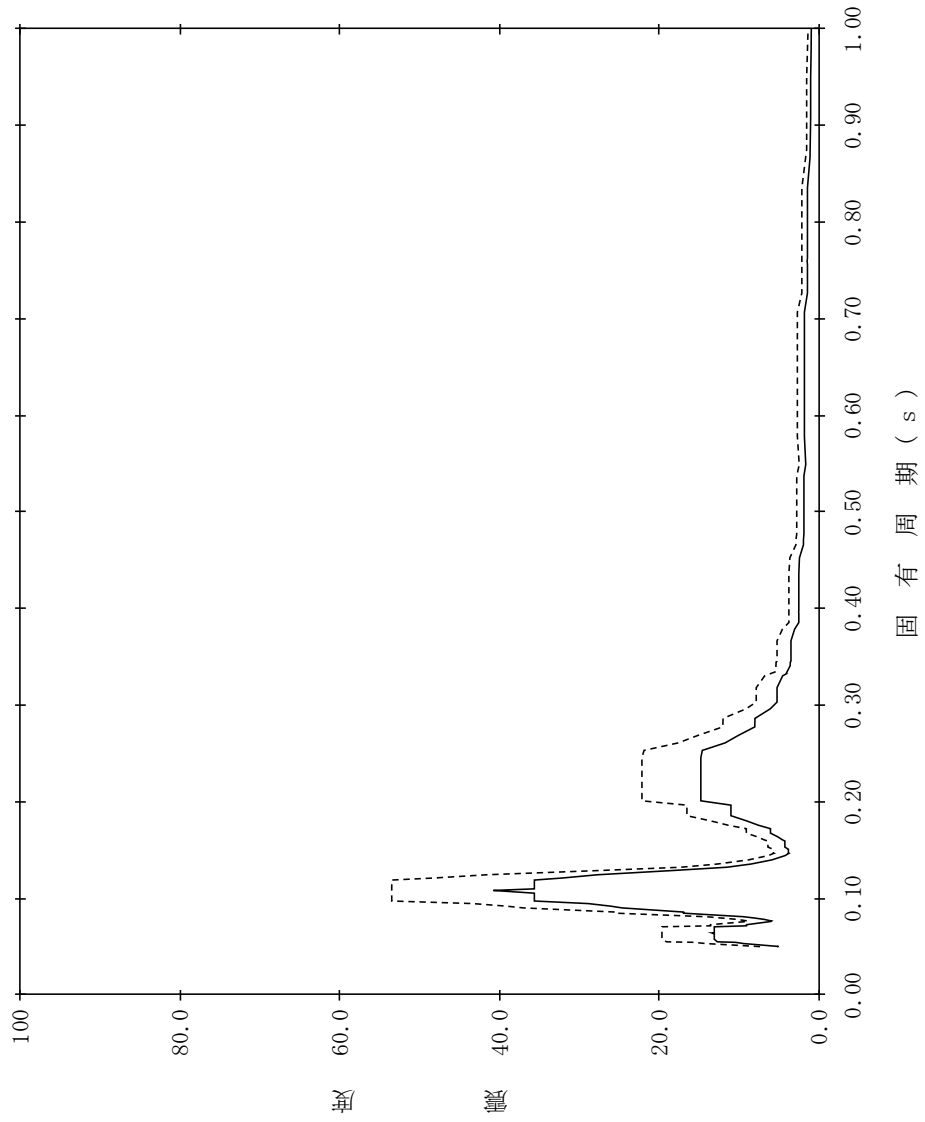
【NS2-PCV-SdNS-PED144】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



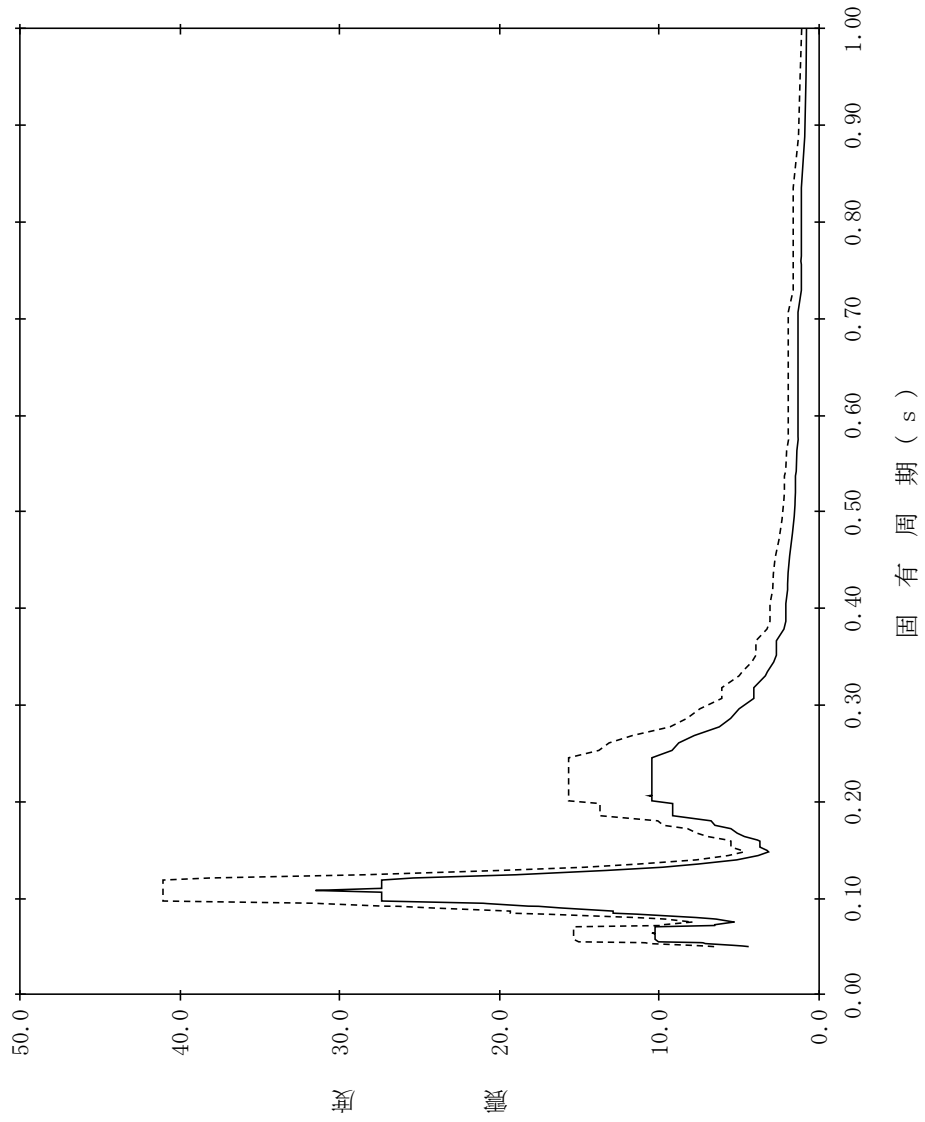
【NS2-PCV-SdNS-RPV145】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



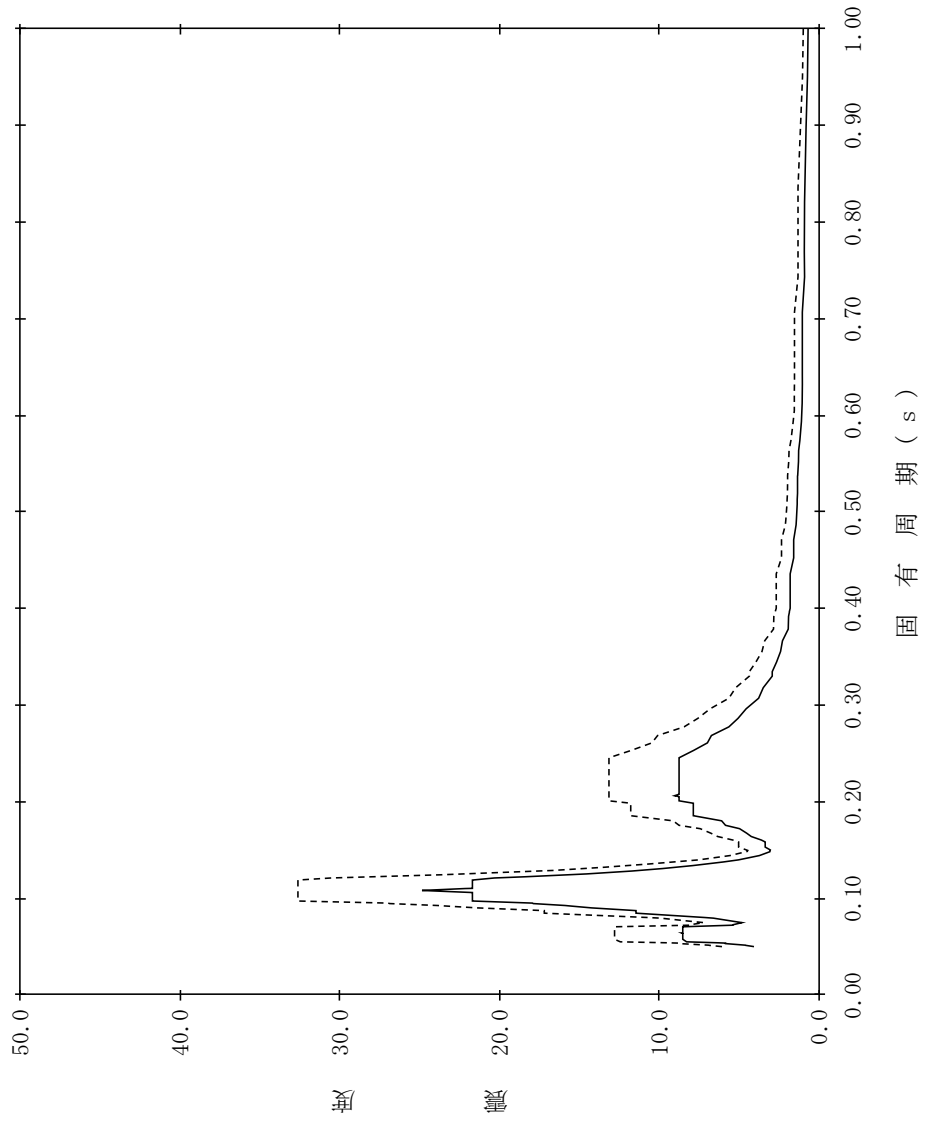
【NS2-PCV-SdNS-RPV146】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



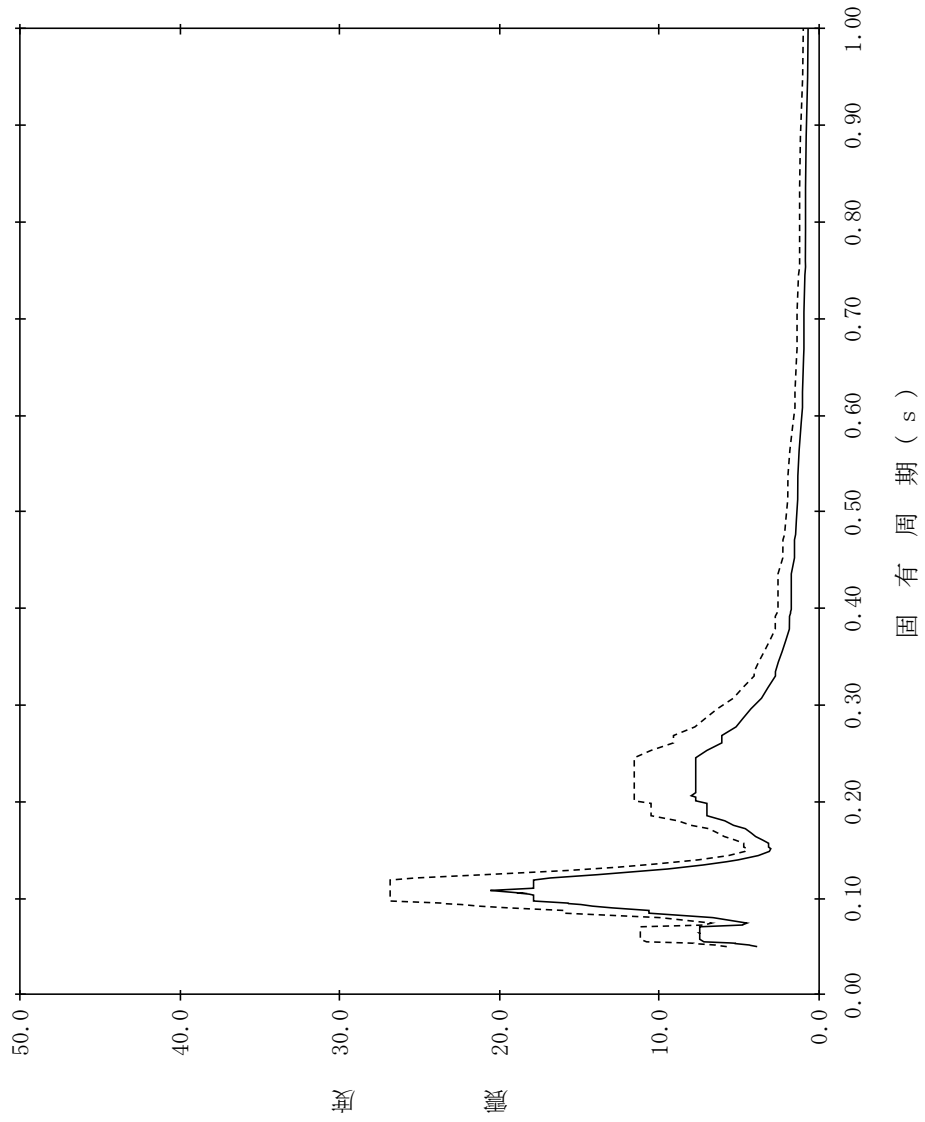
【NS2-PCV-SdNS-RPV147】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



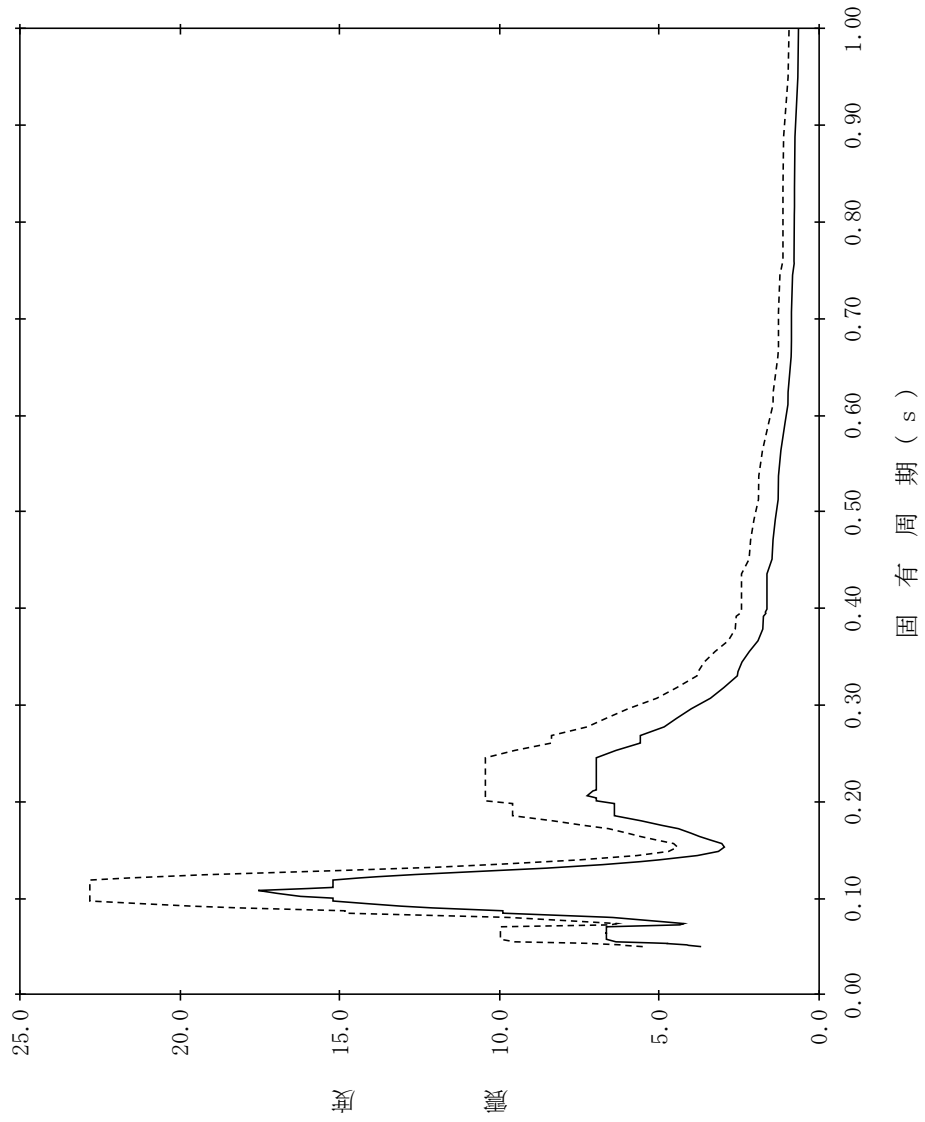
【NS2-PCV-SdNS-RPV148】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



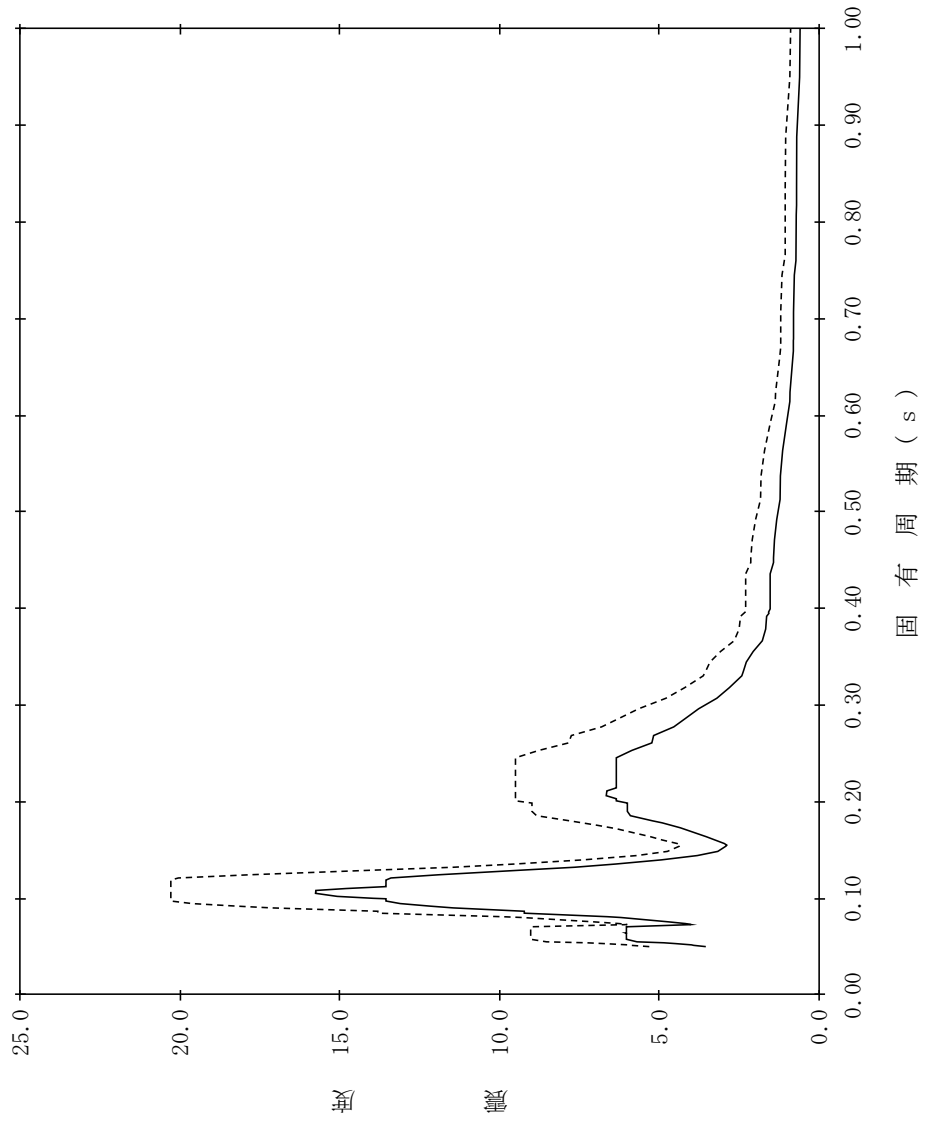
【NS2-PCV-SdNS-RPV149】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



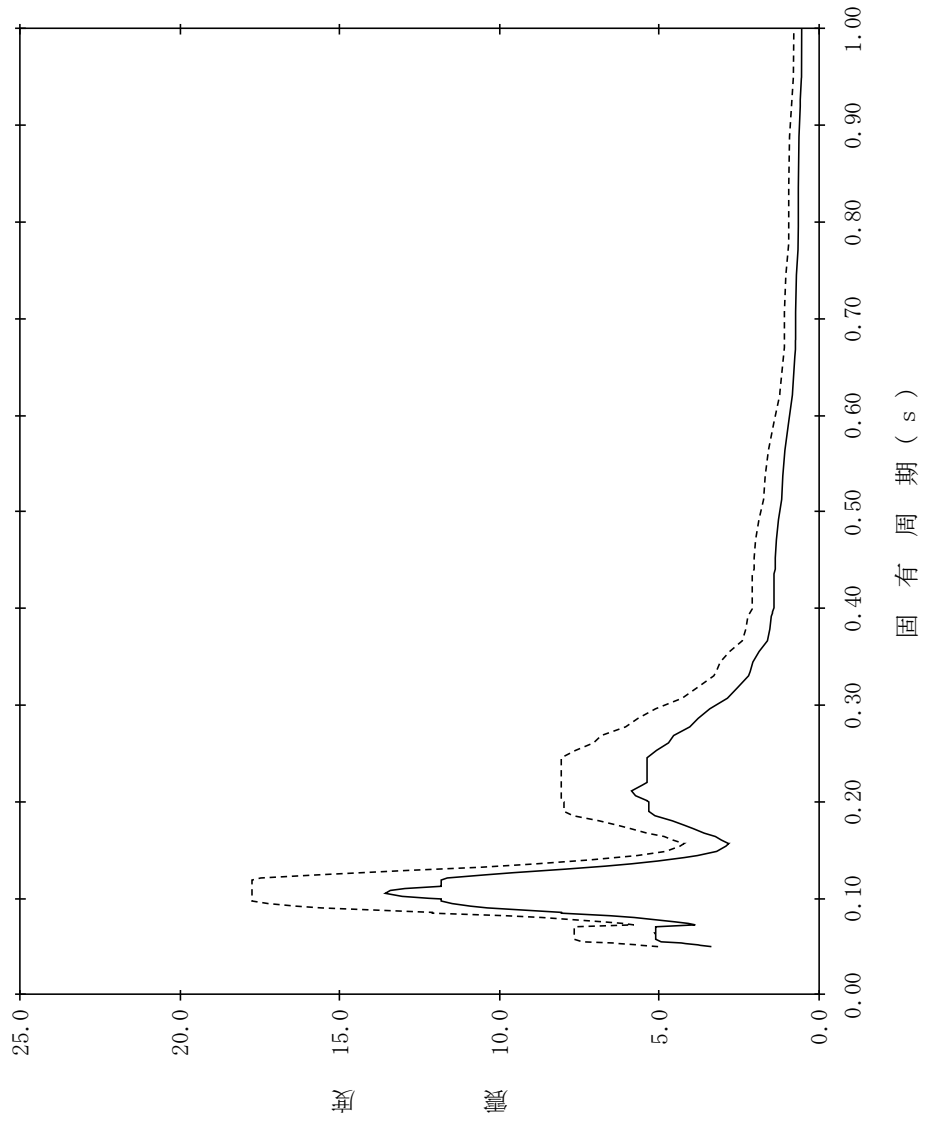
【NS2-PCV-SdNS-RPV150】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



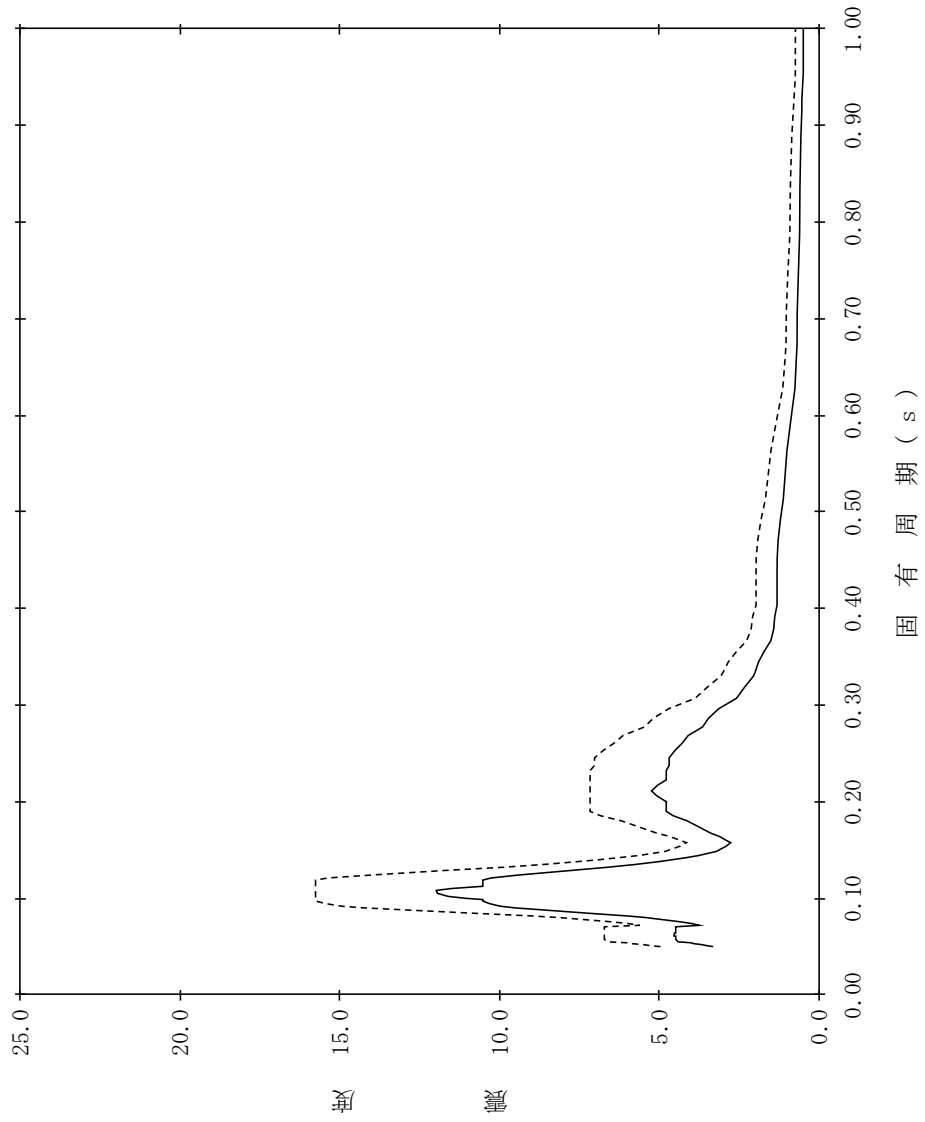
【NS2-PCV-SdNS-RPV151】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



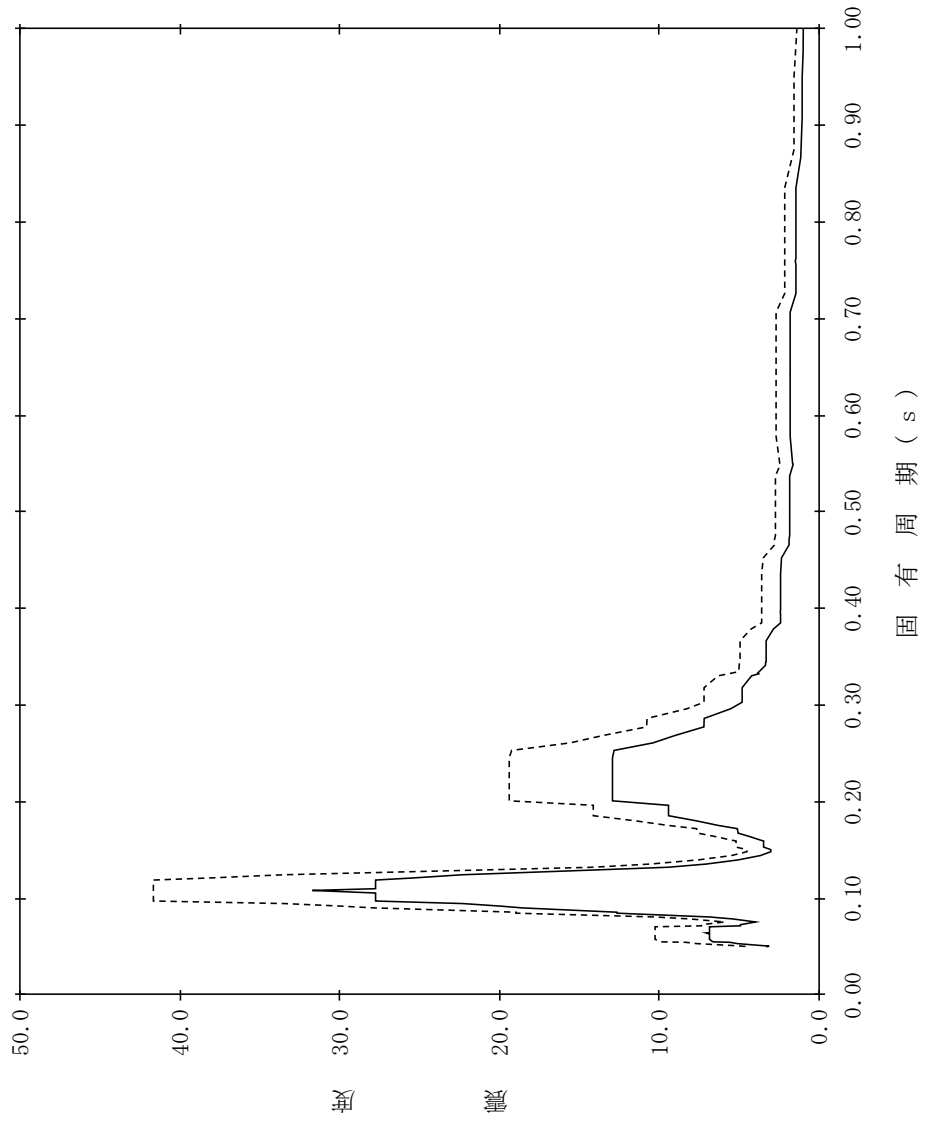
【NS2-PCV-SdNS-RPV152】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



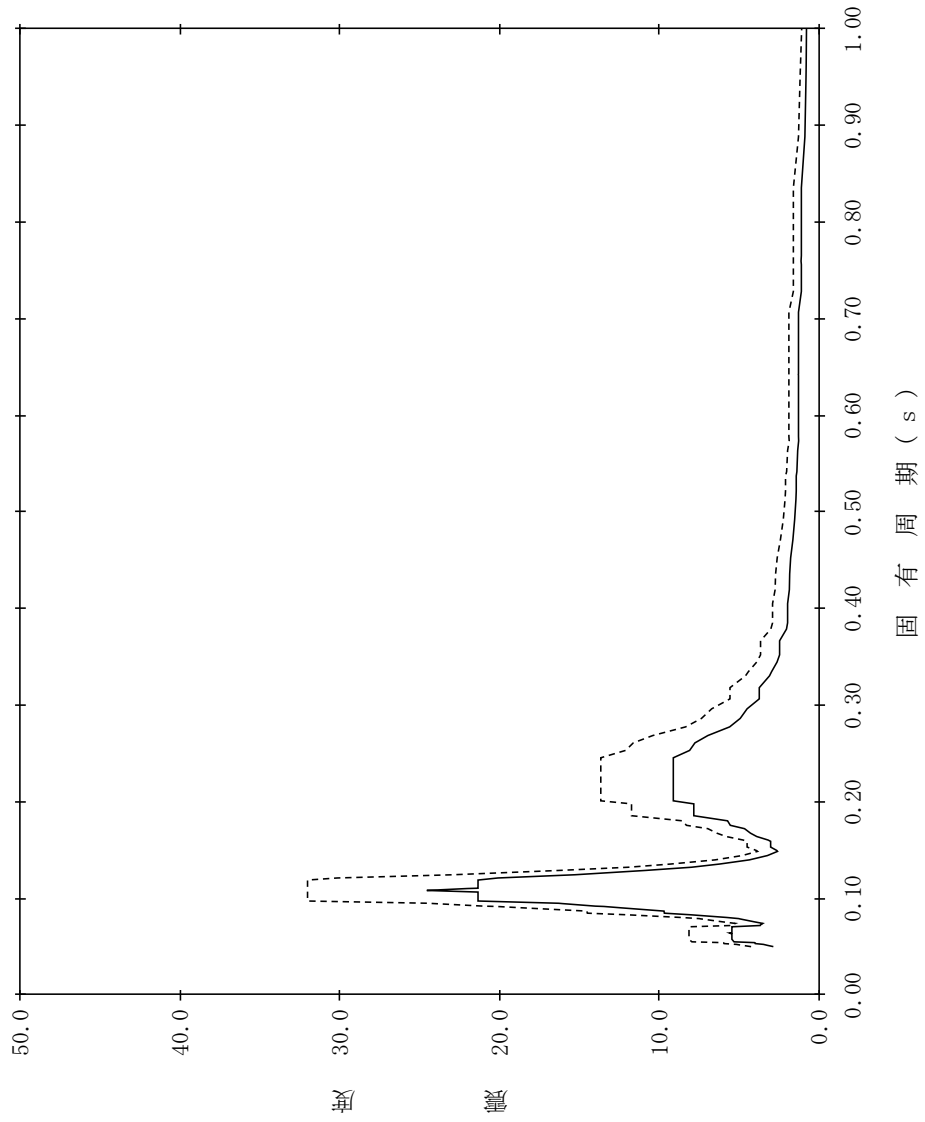
【NS2-PCV-SdNS-RPV153】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



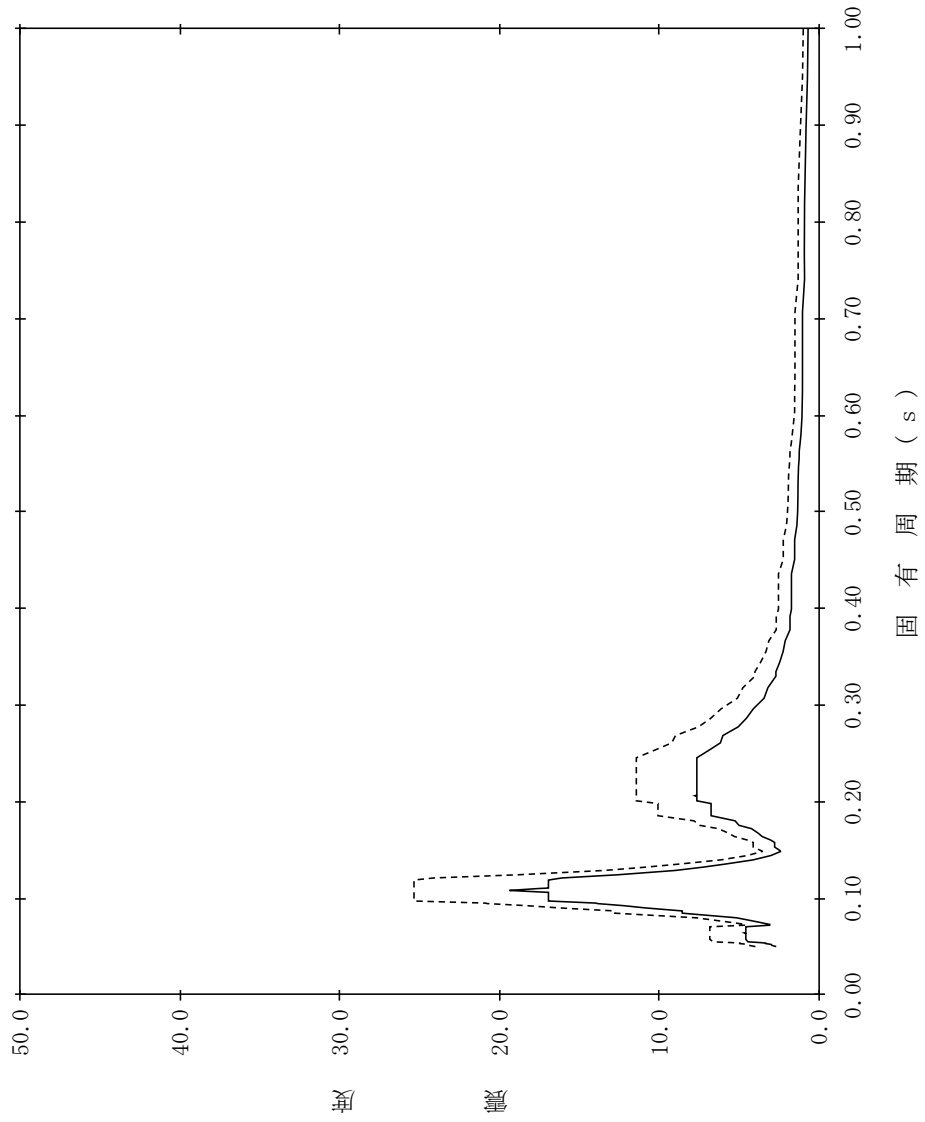
【NS2-PCV-SdNS-RPV154】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



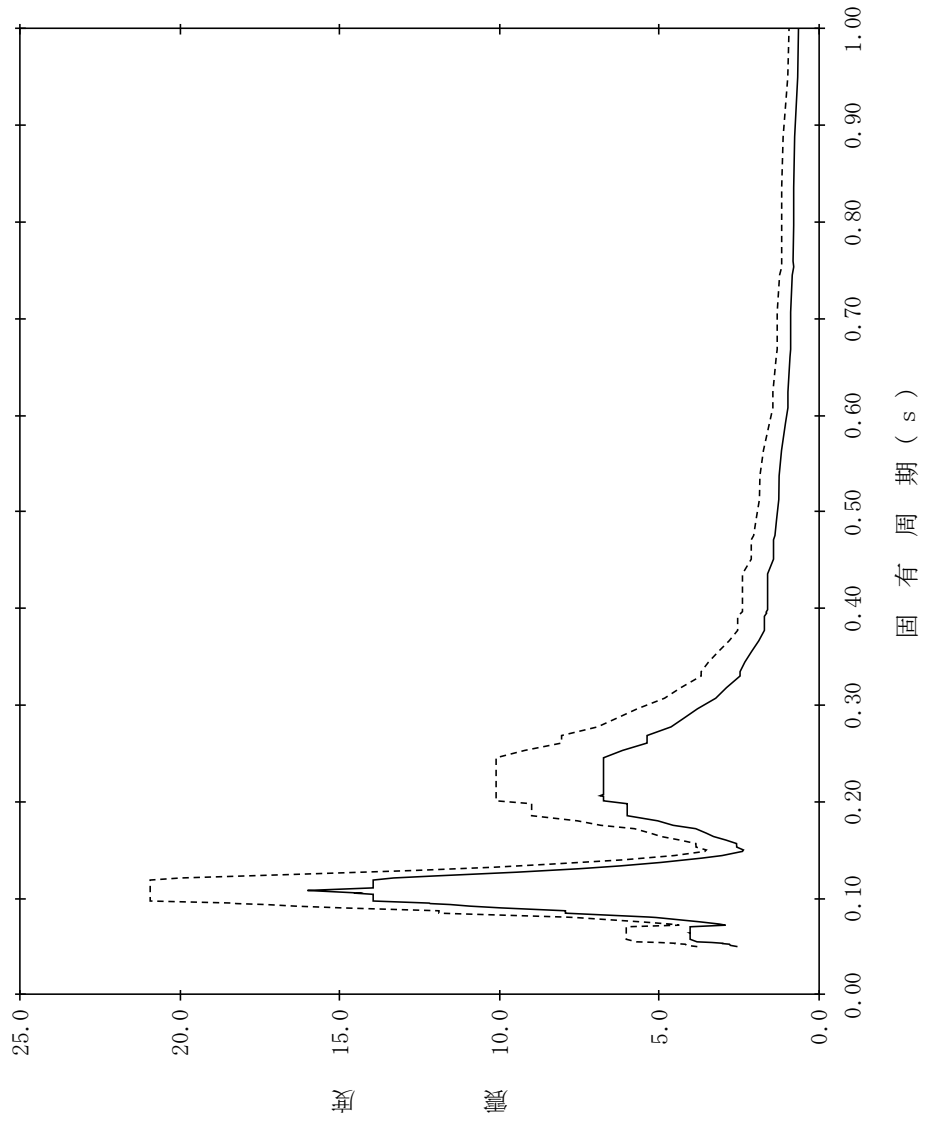
【NS2-PCV-SdNS-RPV155】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



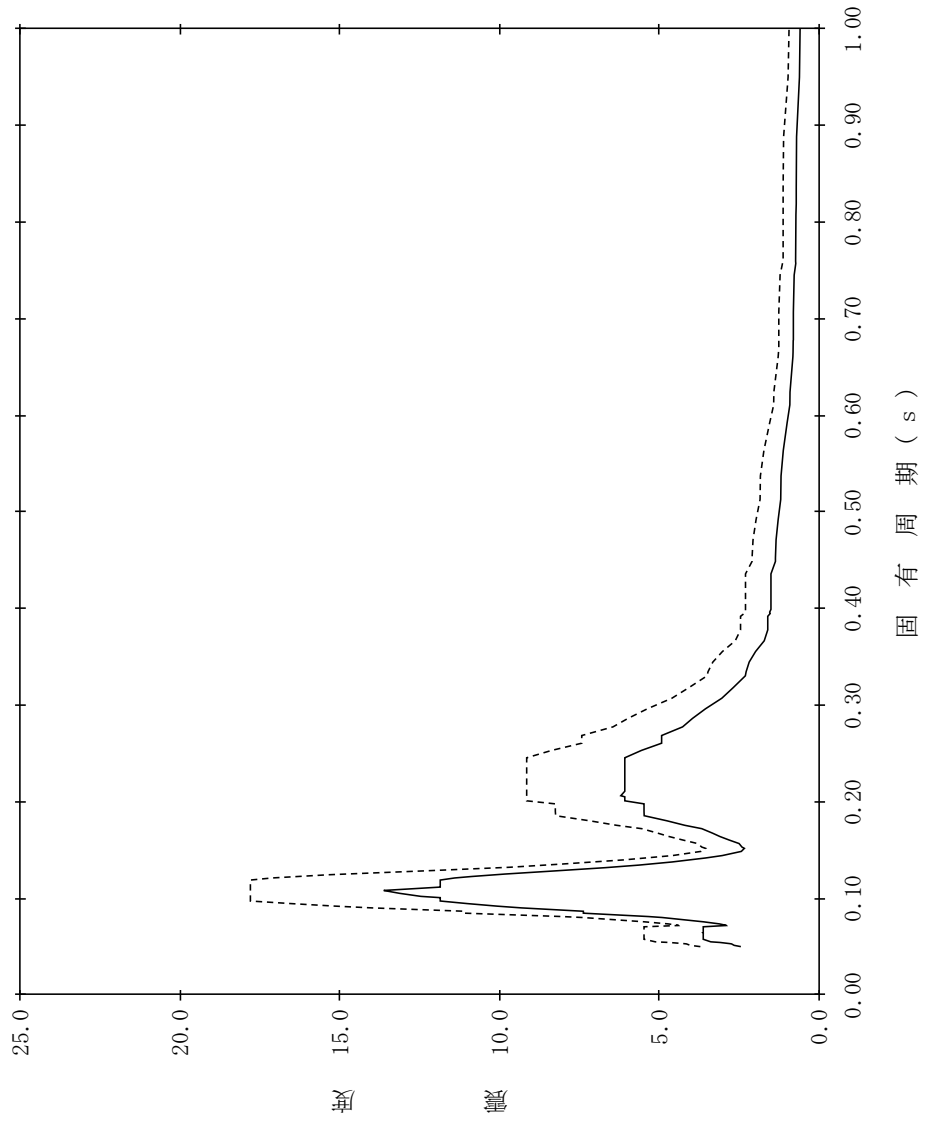
【NS2-PCV-SdNS-RPV156】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



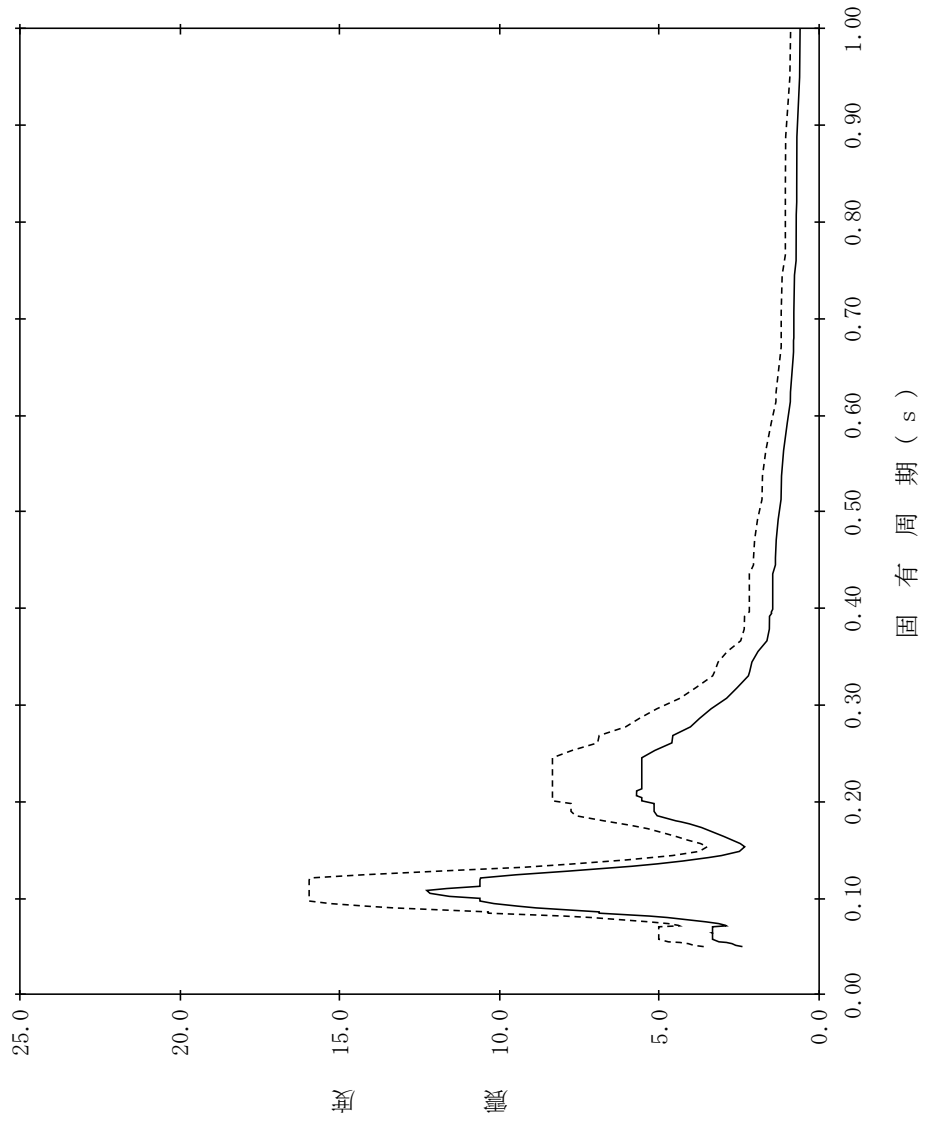
【NS2-PCV-SdNS-RPV157】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



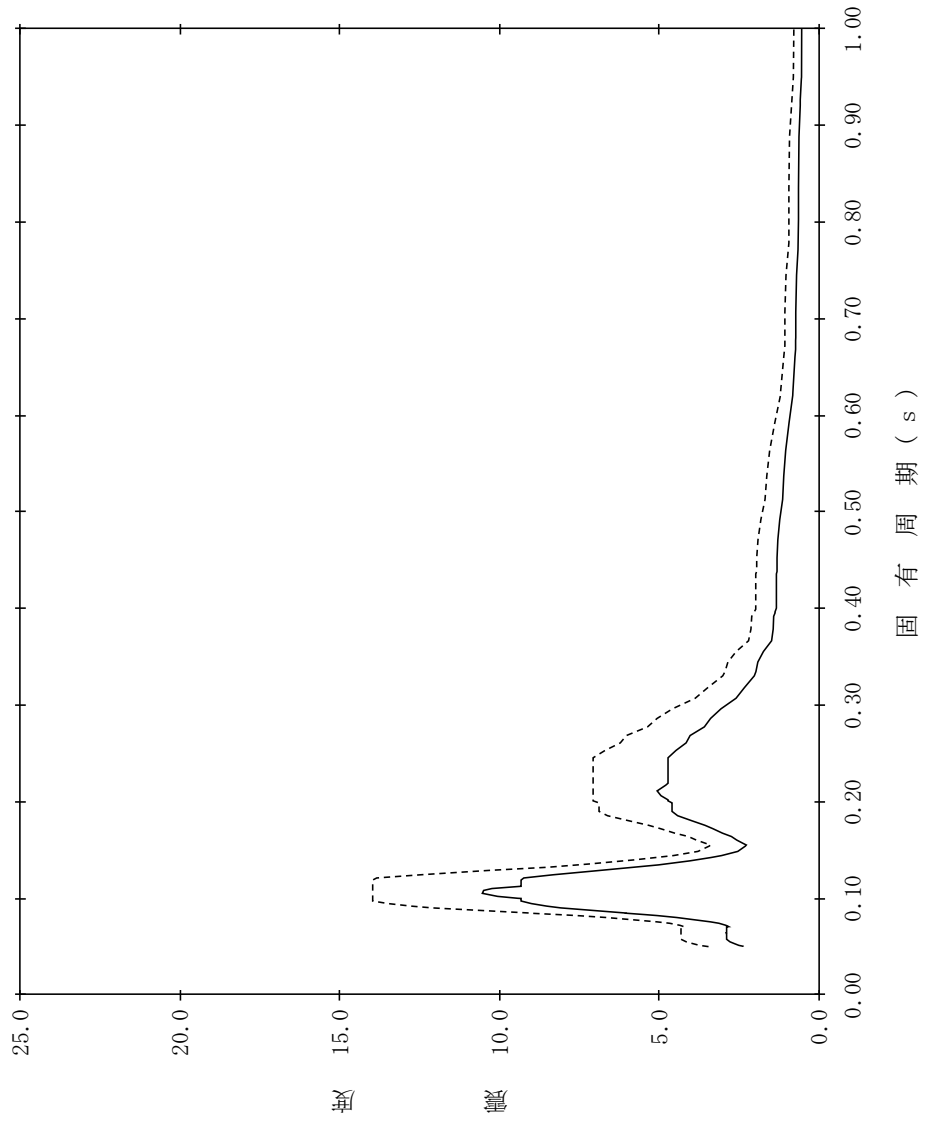
【NS2-PCV-SdNS-RPV158】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



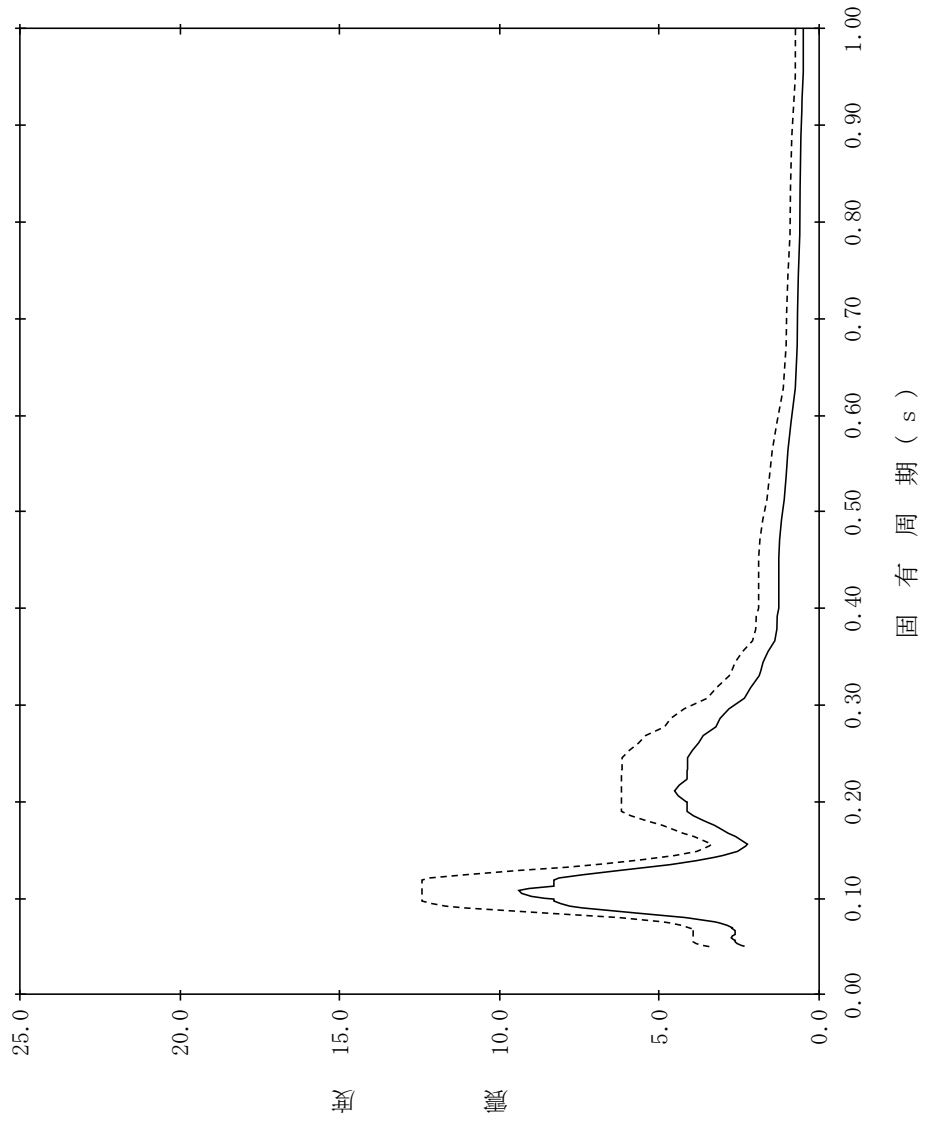
【NS2-PCV-SdNS-RPV159】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



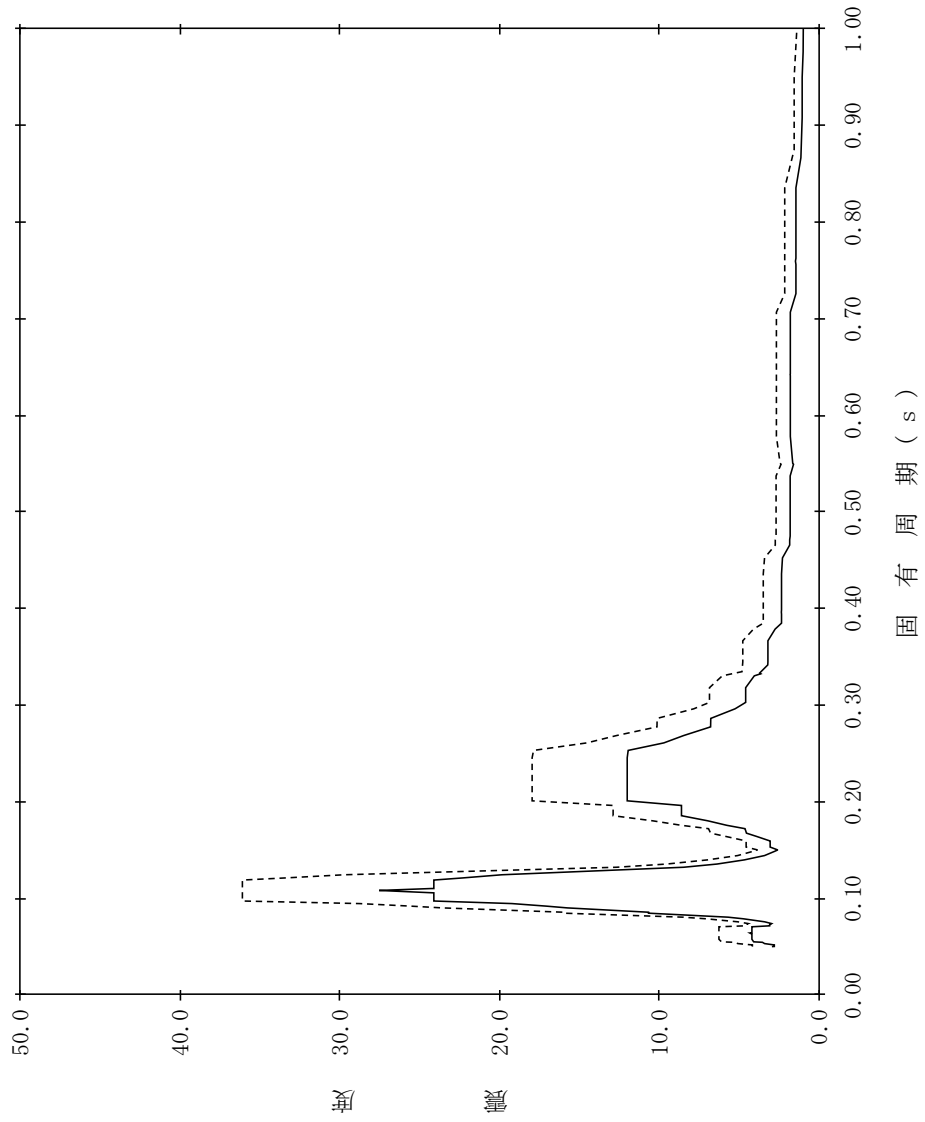
【NS2-PCV-SdNS-RPV160】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



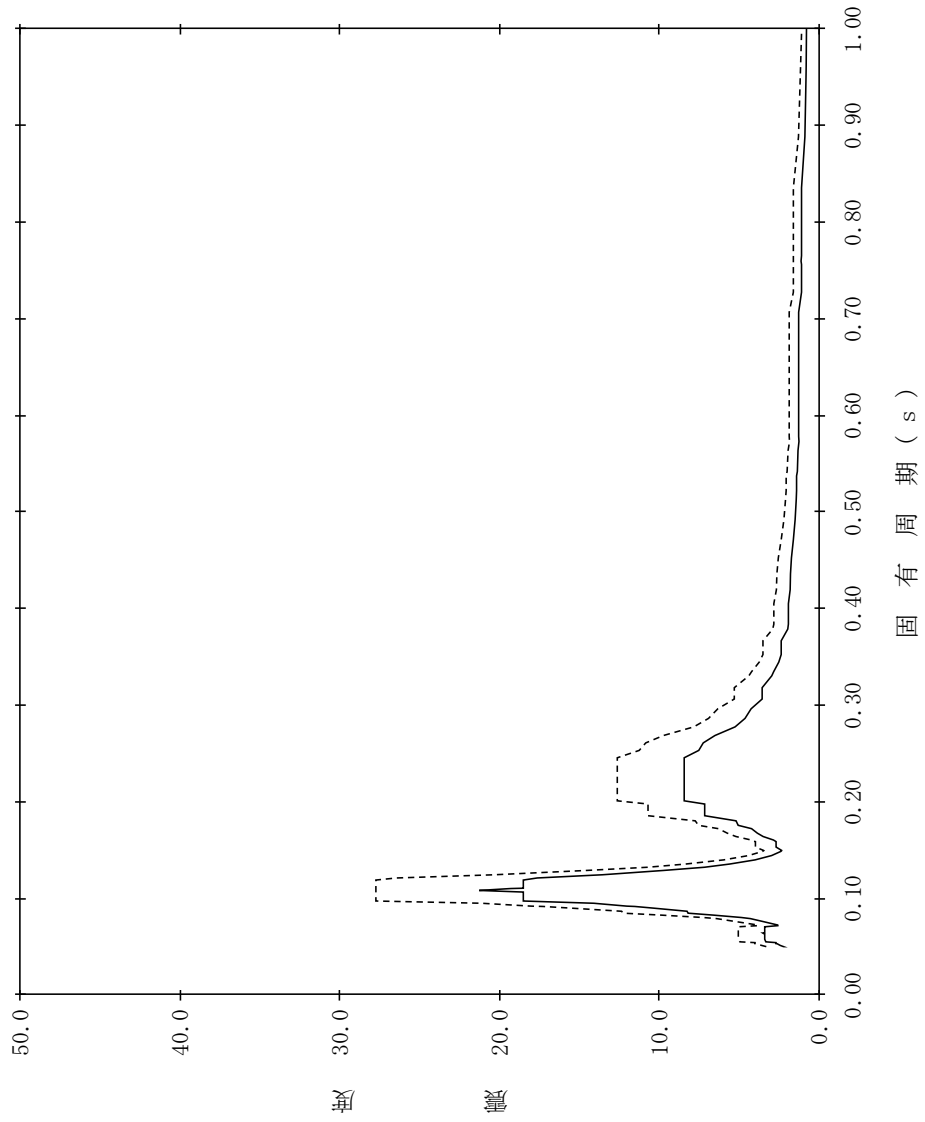
【NS2-PCV-SdNS-RPV161】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



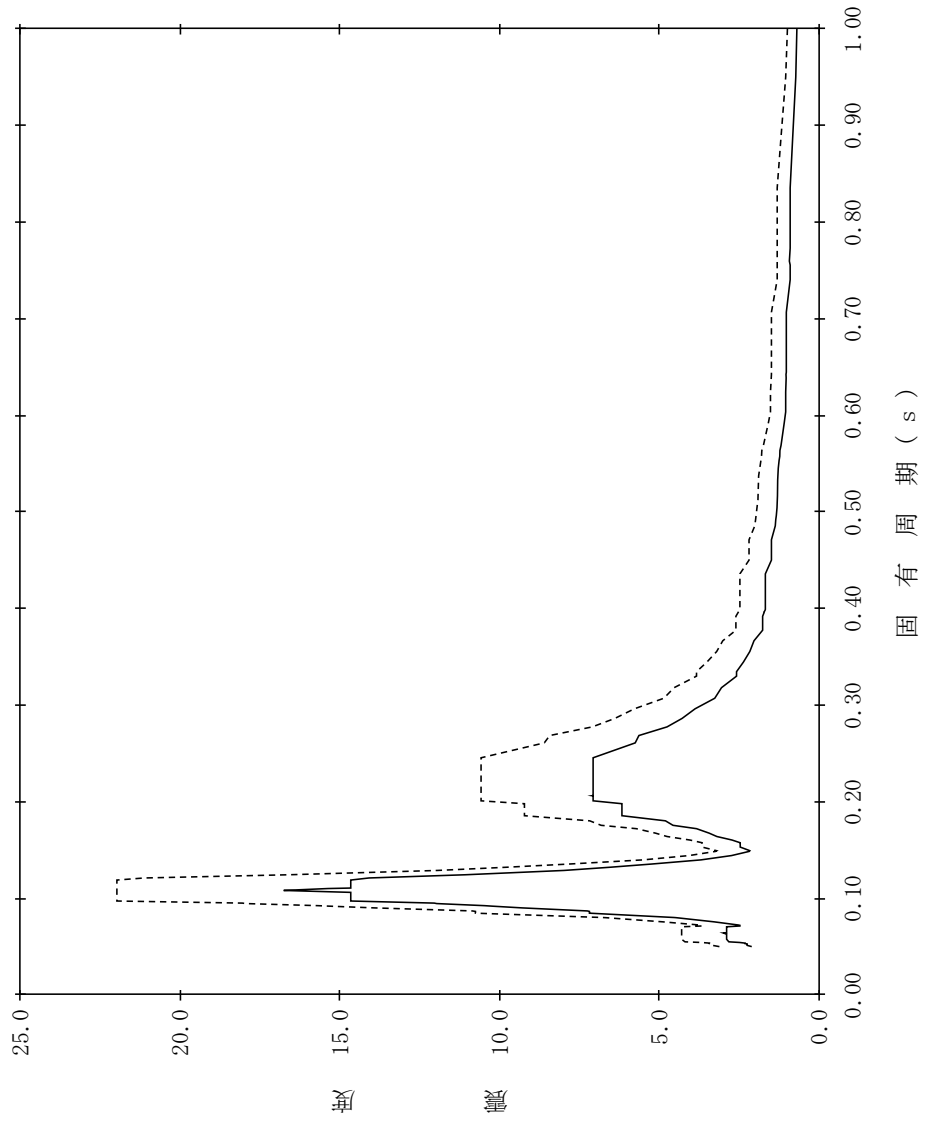
【NS2-PCV-SdNS-RPV162】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL27.317m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



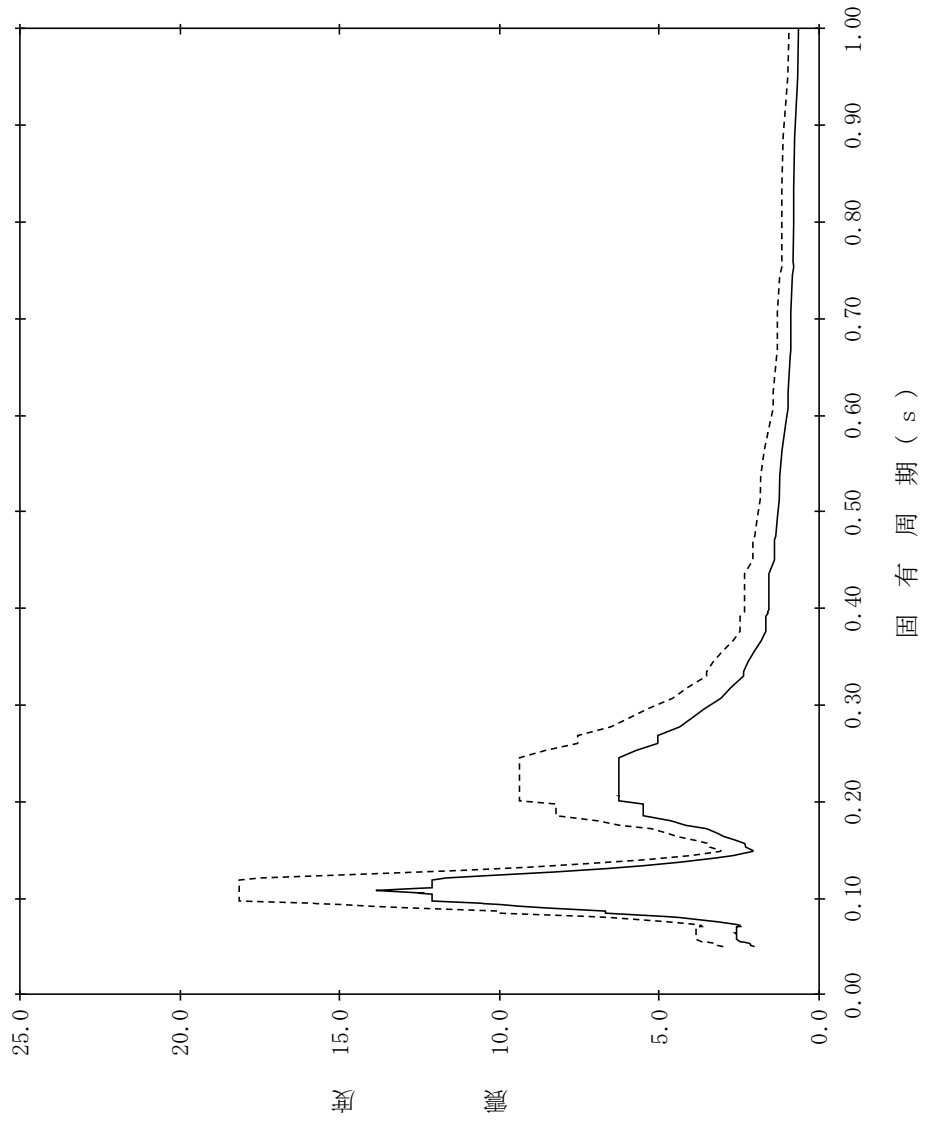
【NS2-PCV-SdNS-RPV163】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



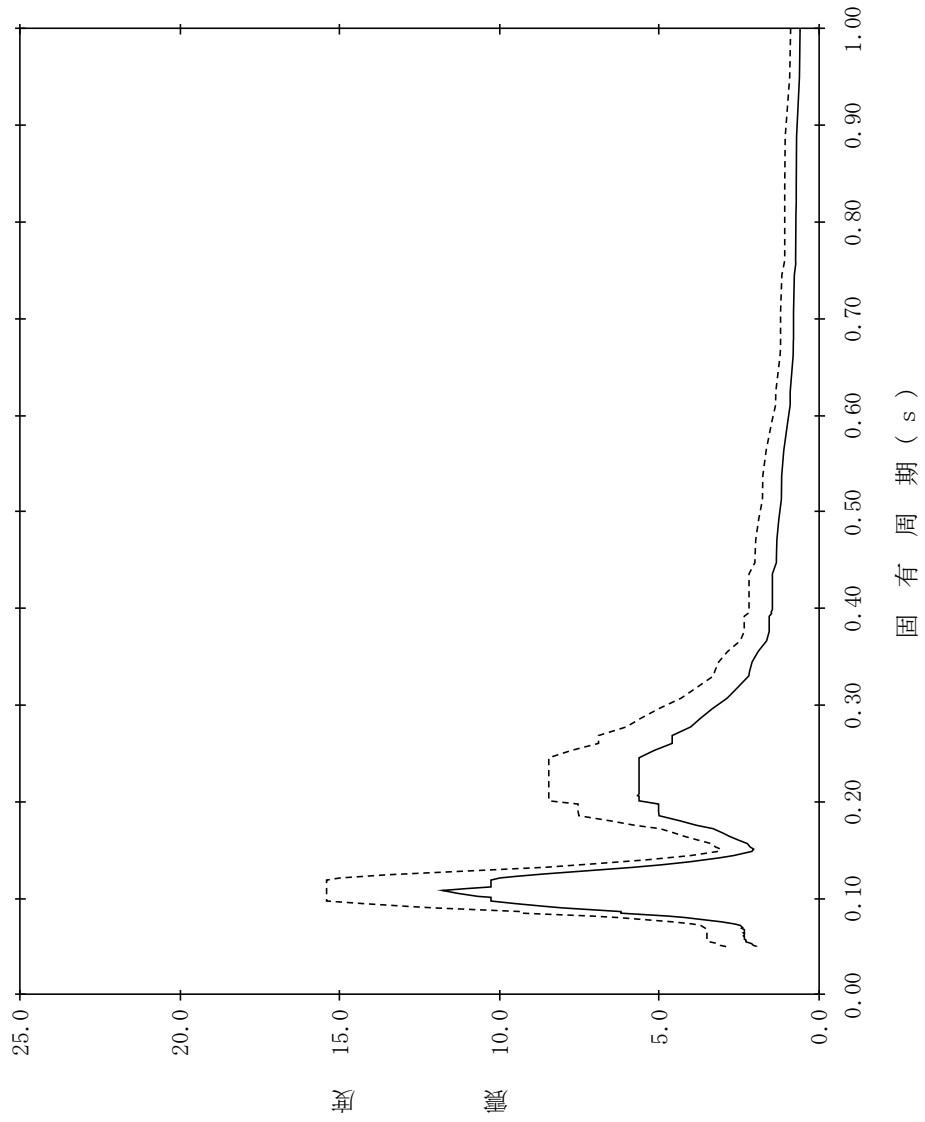
【NS2-PCV-SdNS-RPV164】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



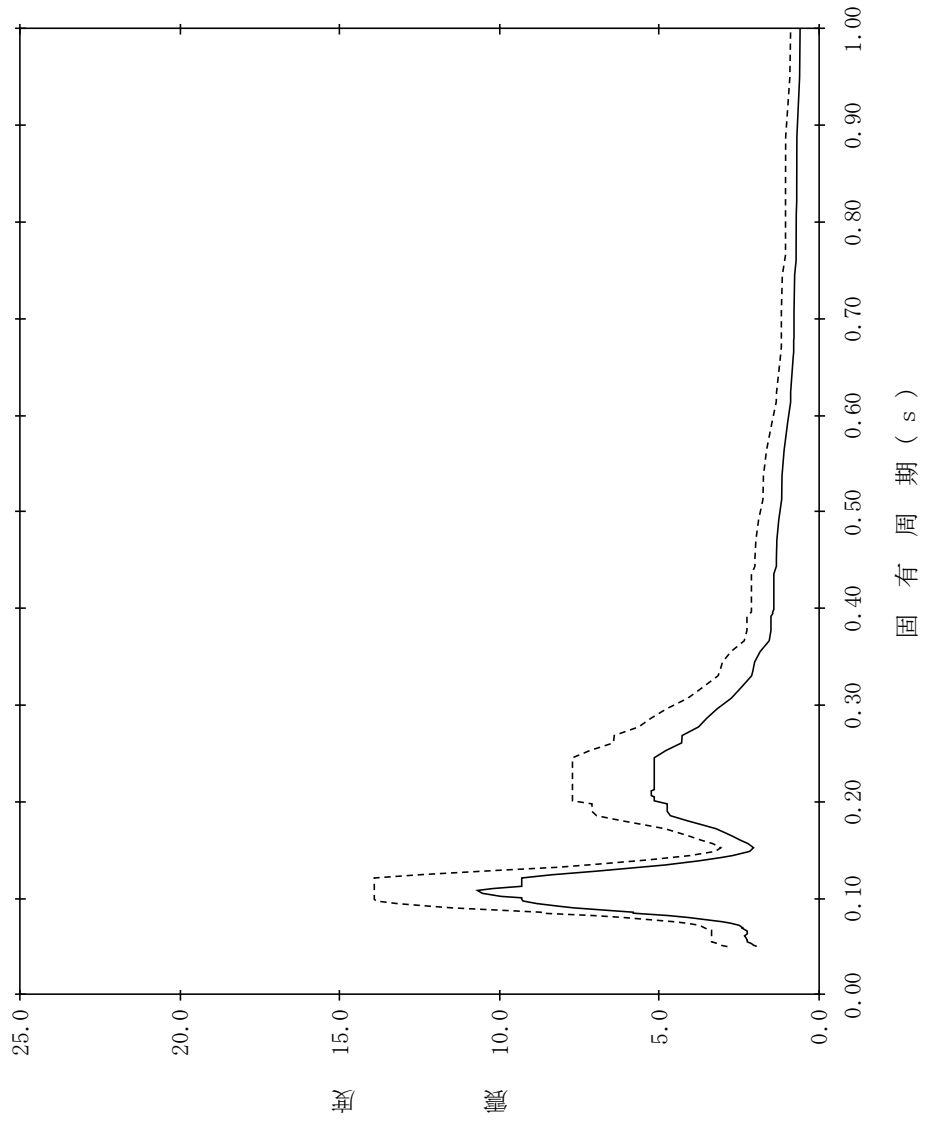
【NS2-PCV-SdNS-RPV165】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



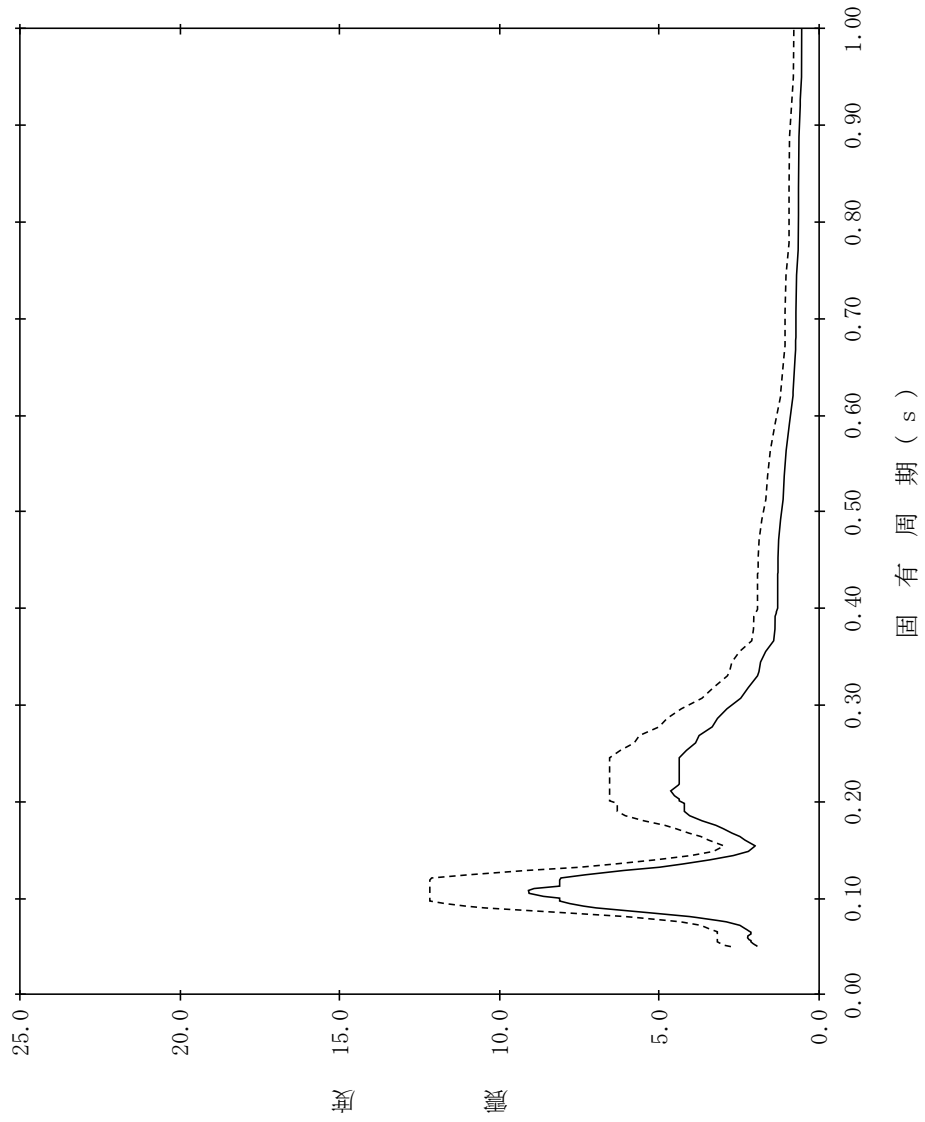
【NS2-PCV-SdNS-RPV166】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



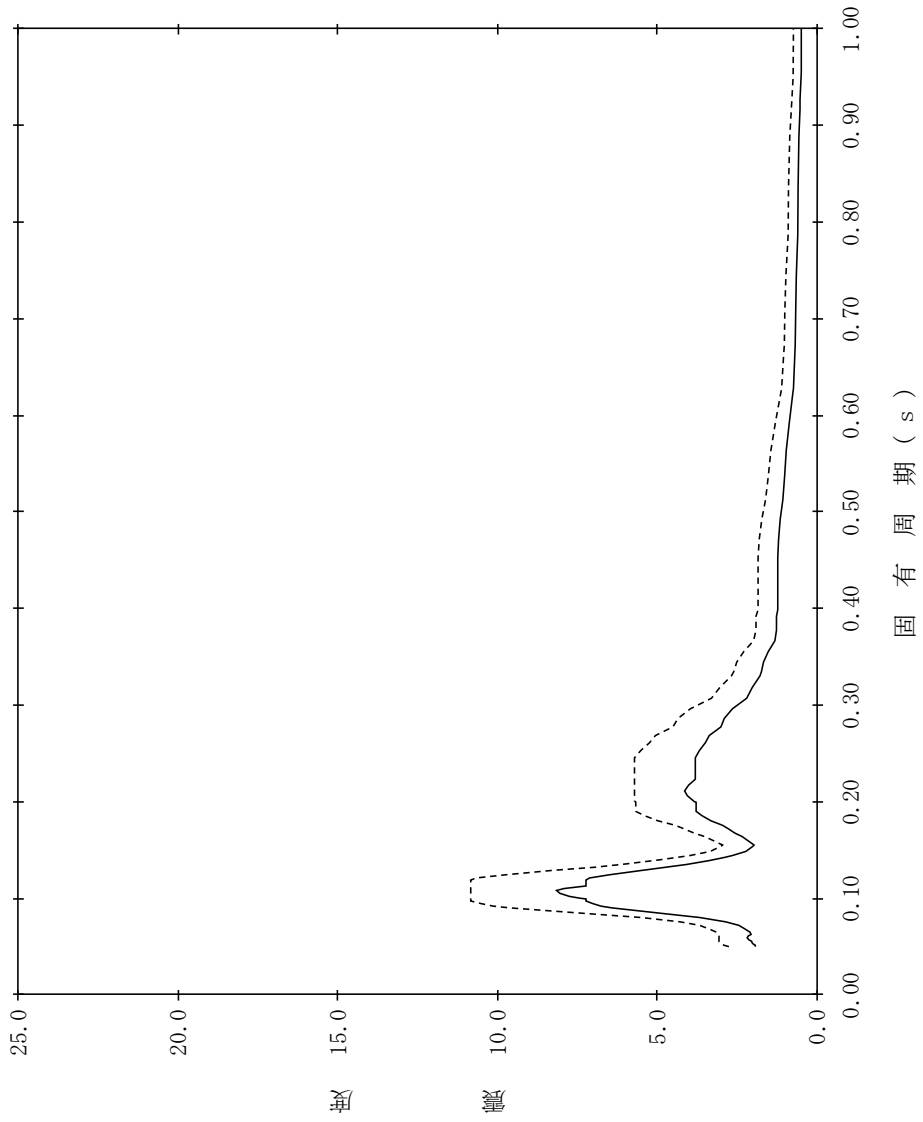
【NS2-PCV-SdNS-RPV167】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



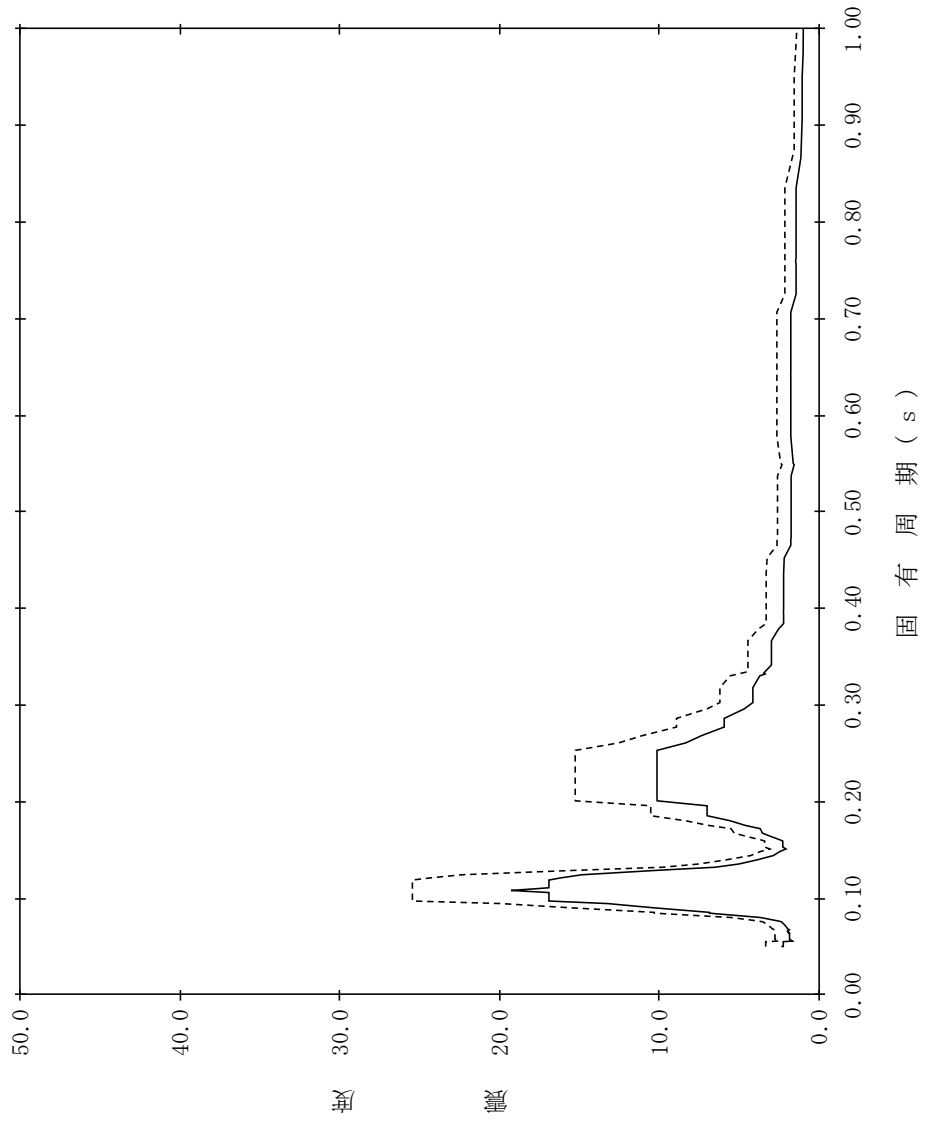
【NS2-PCV-SdNS-RPV168】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



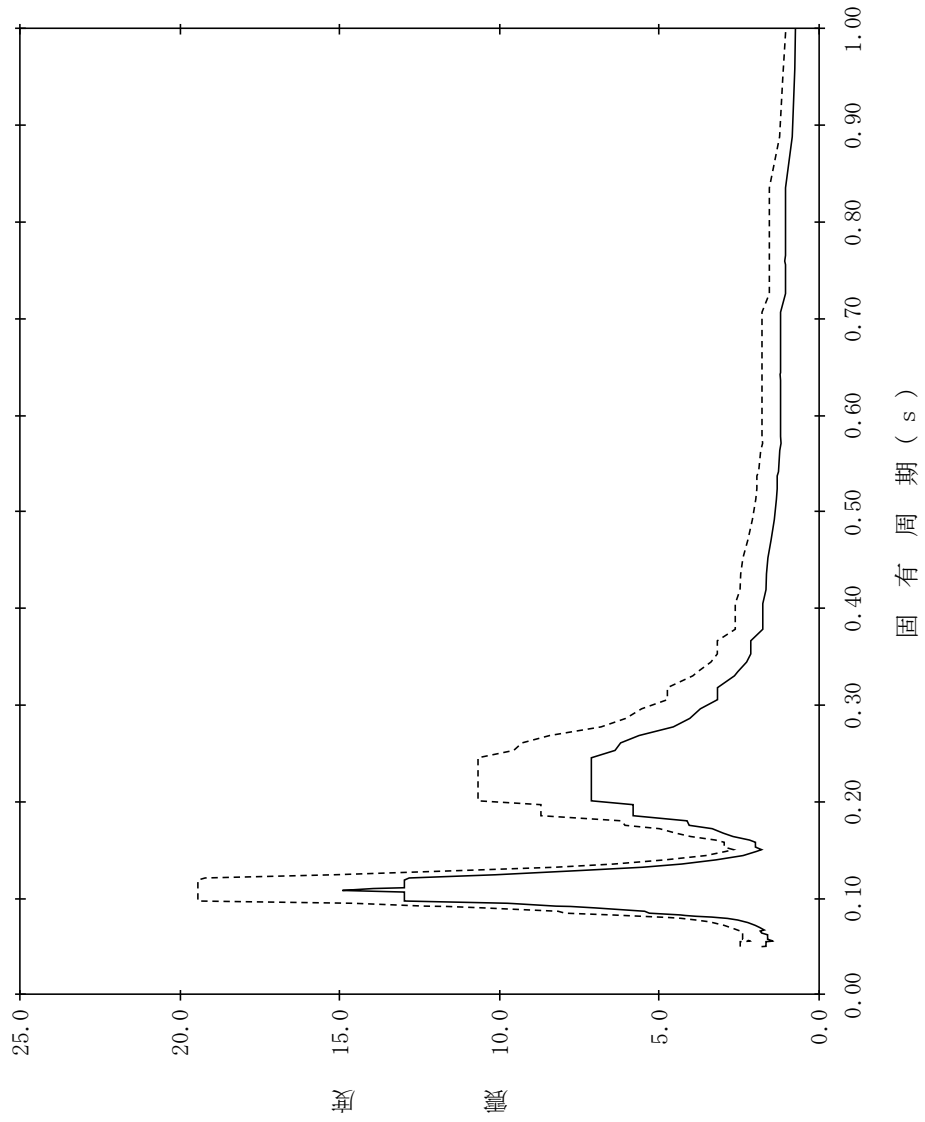
【NS2-PCV-SdNS-RPV169】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



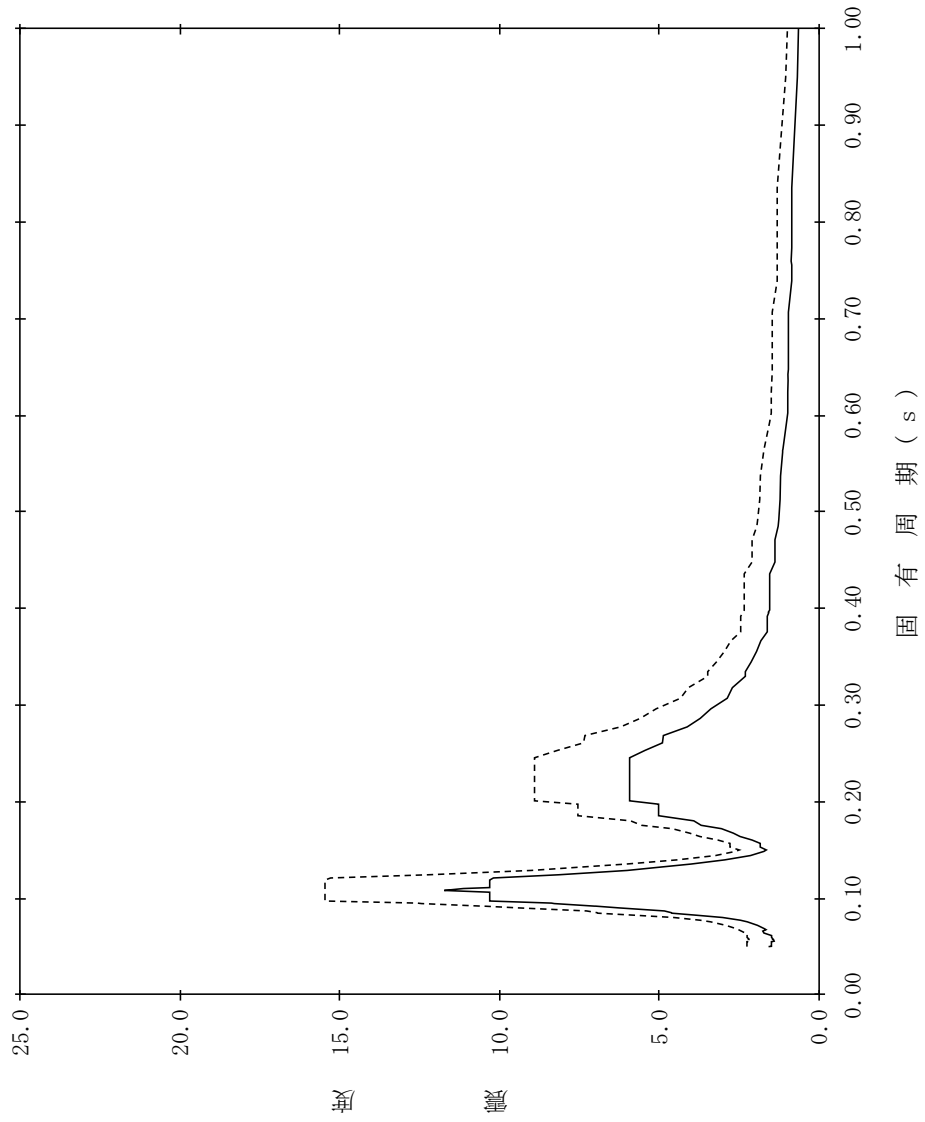
【NS2-PCV-SdNS-RPV170】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



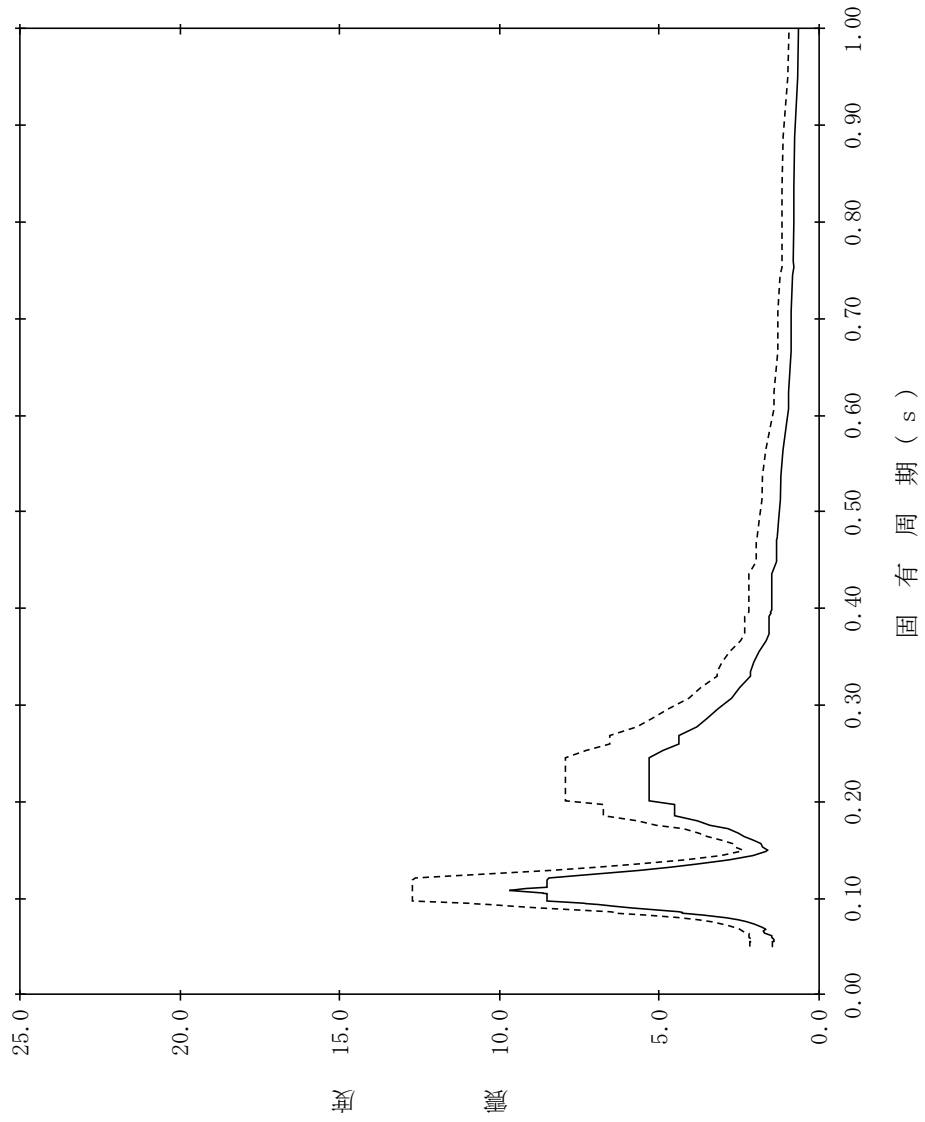
【NS2-PCV-SdNS-RPV171】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



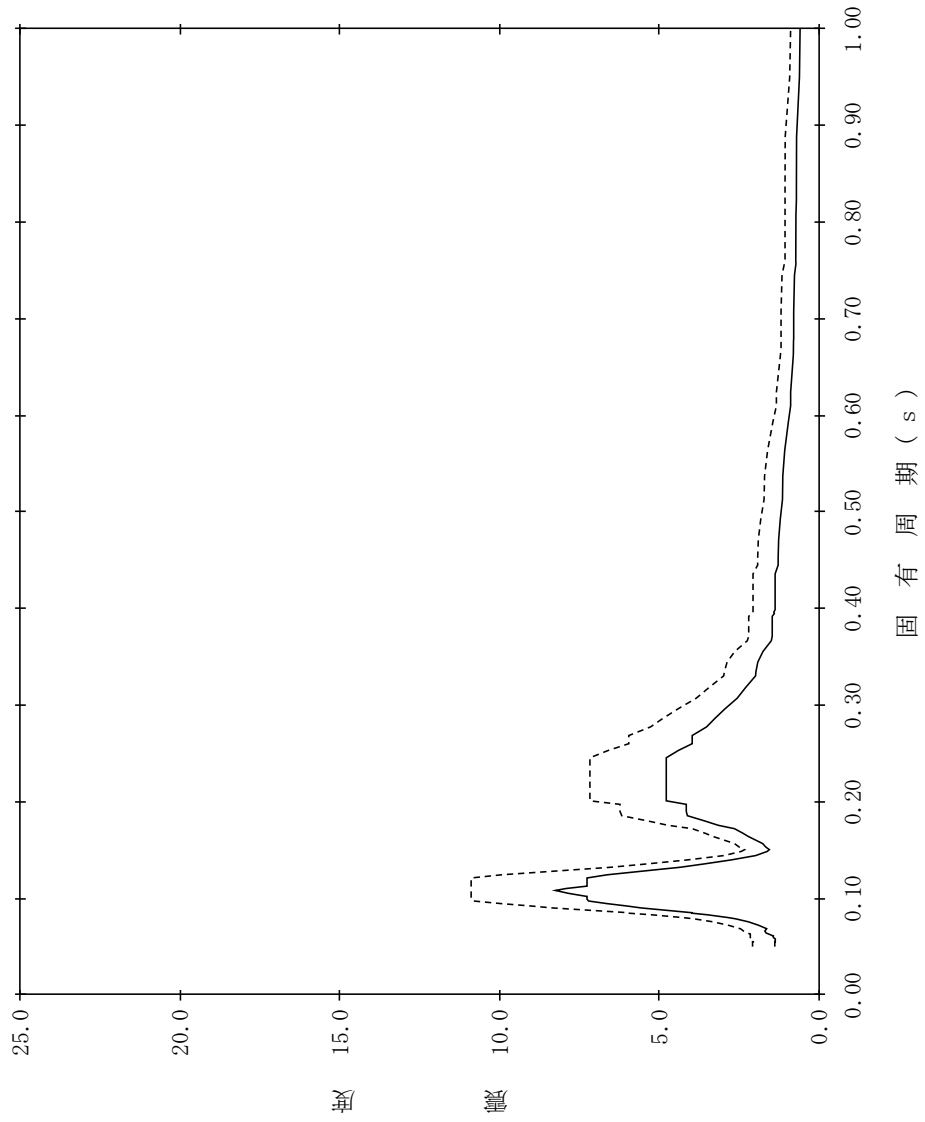
【NS2-PCV-SdNS-RPV172】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



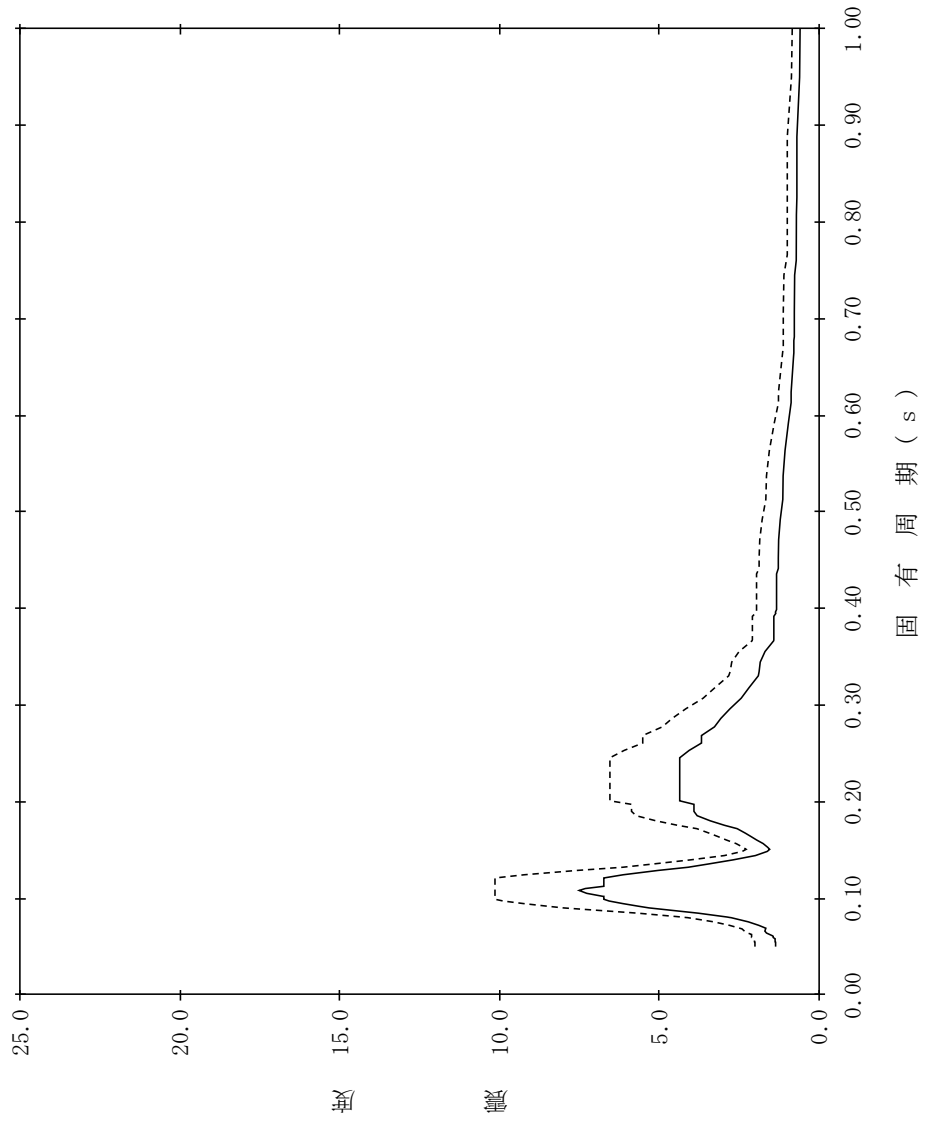
【NS2-PCV-SdNS-RPV173】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



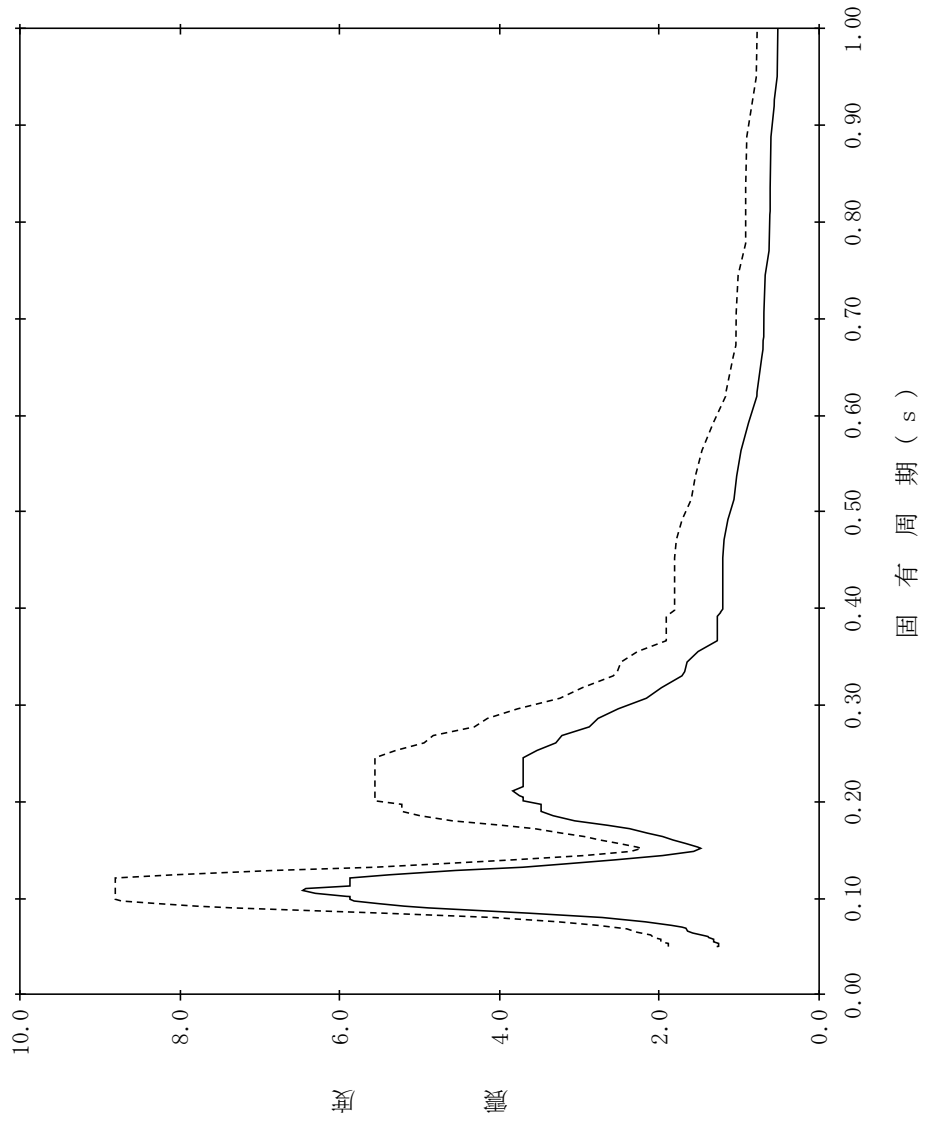
【NS2-PCV-SdNS-RPV174】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



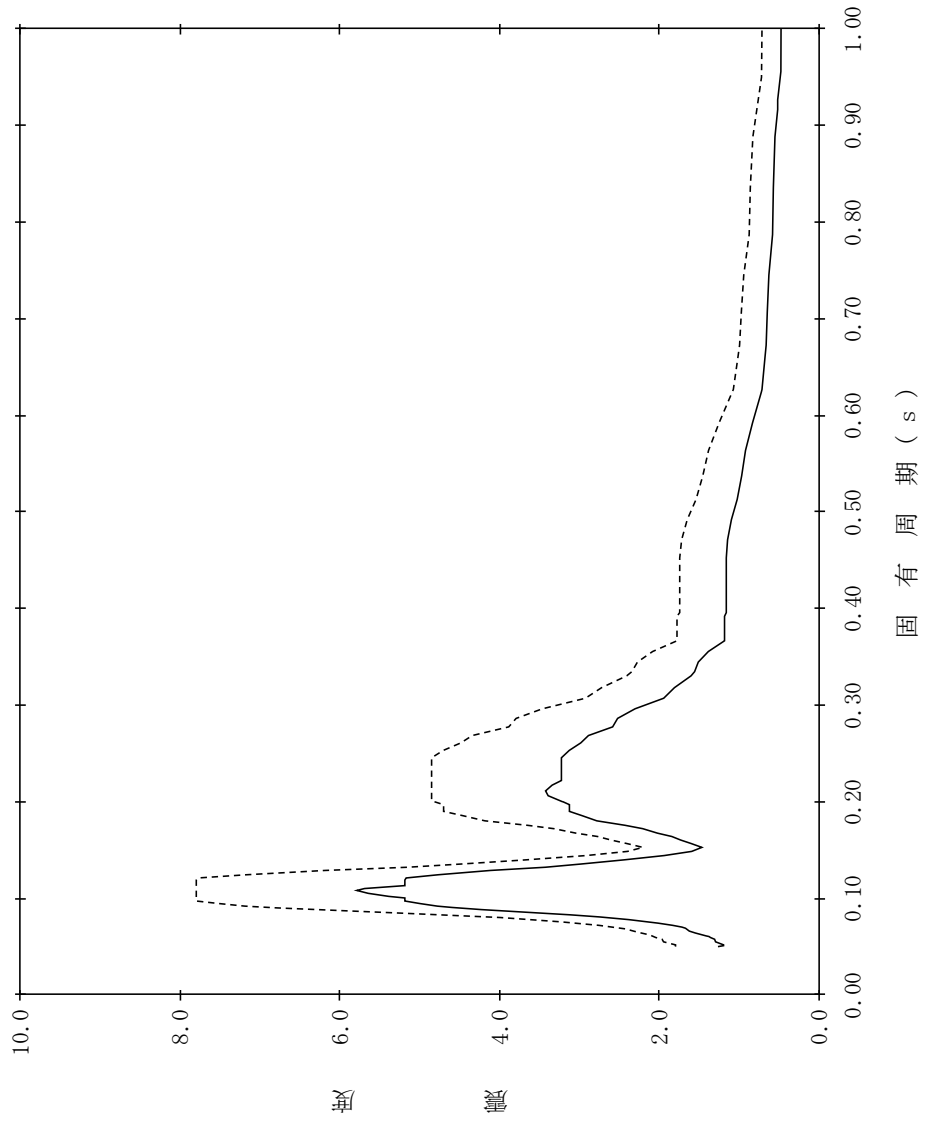
【NS2-PCV-SdNS-RPV175】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



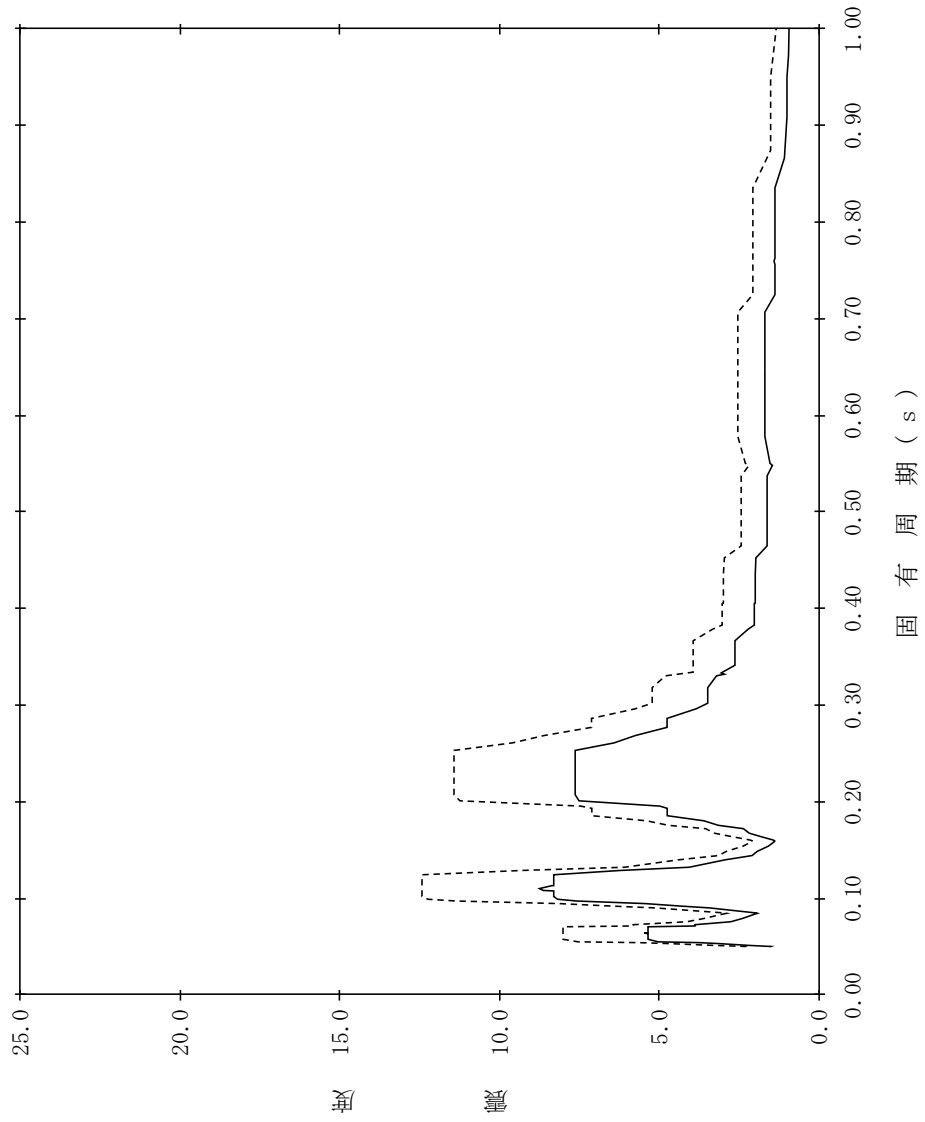
【NS2-PCV-SdNS-RPV176】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



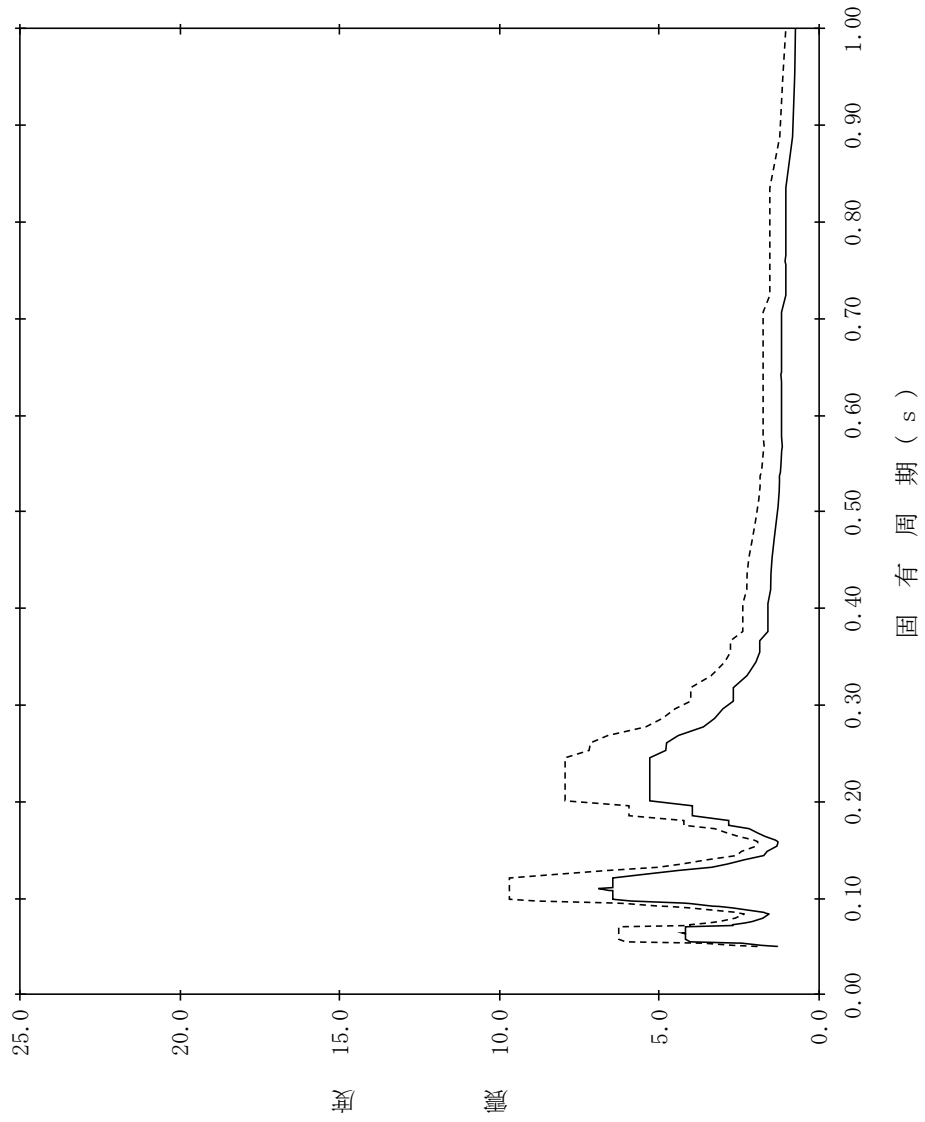
【NS2-PCV-SdNS-RPV177】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



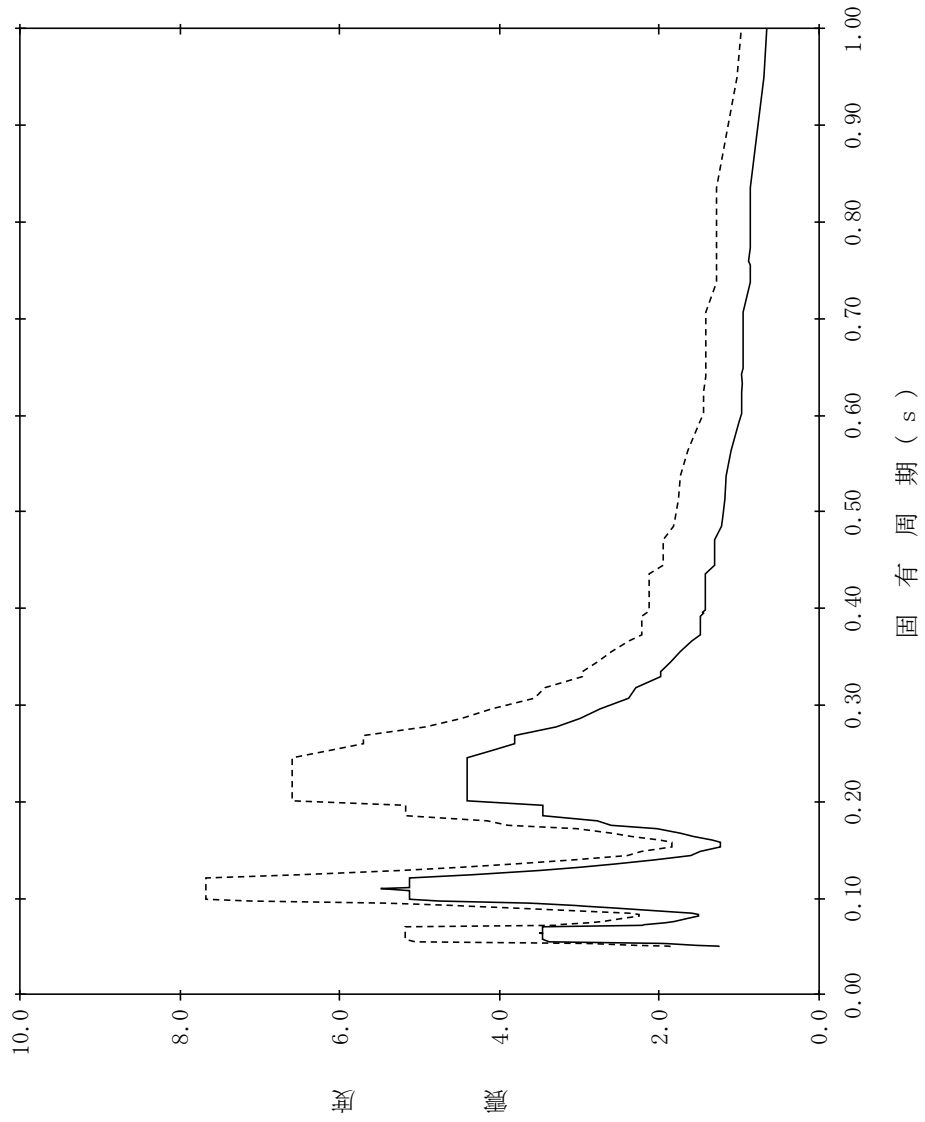
【NS2-PCV-SdNS-RPV178】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



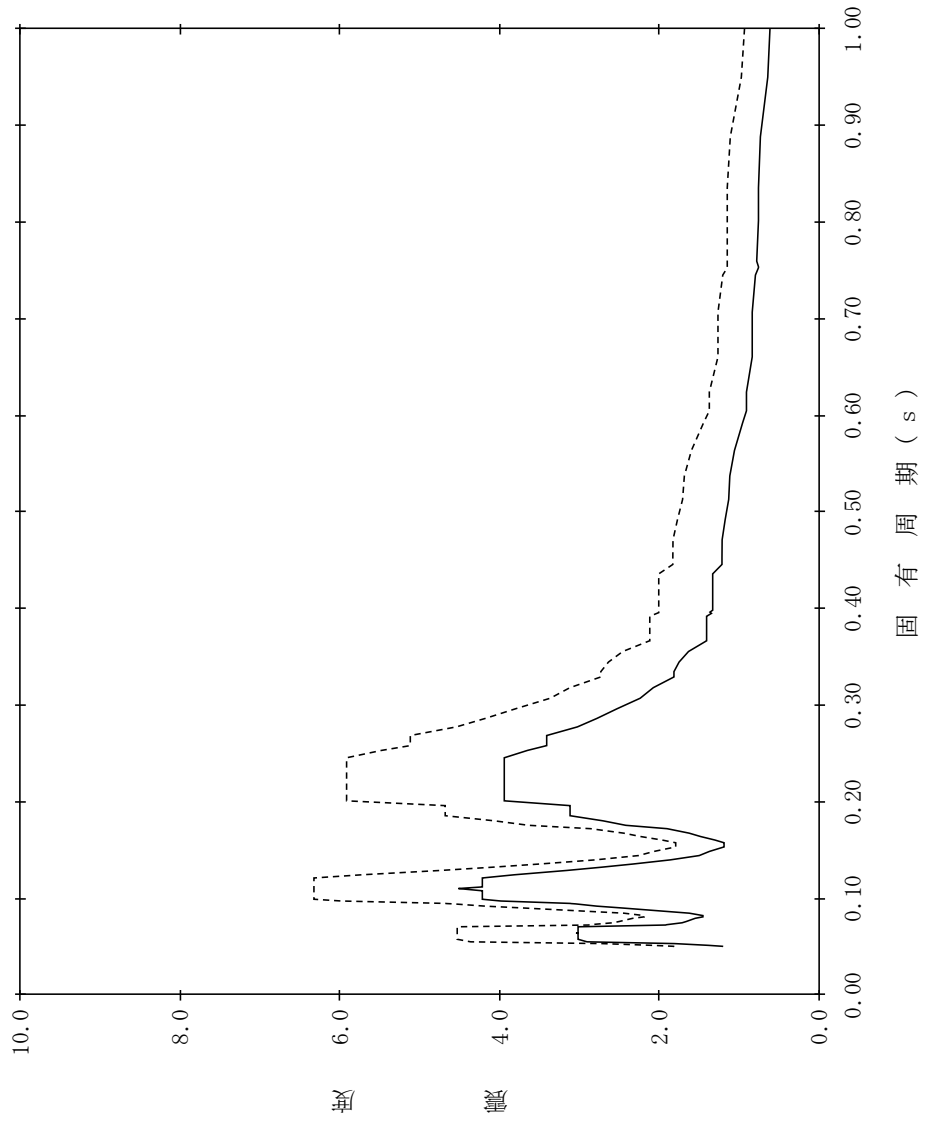
【NS2-PCV-SdNS-RPV179】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



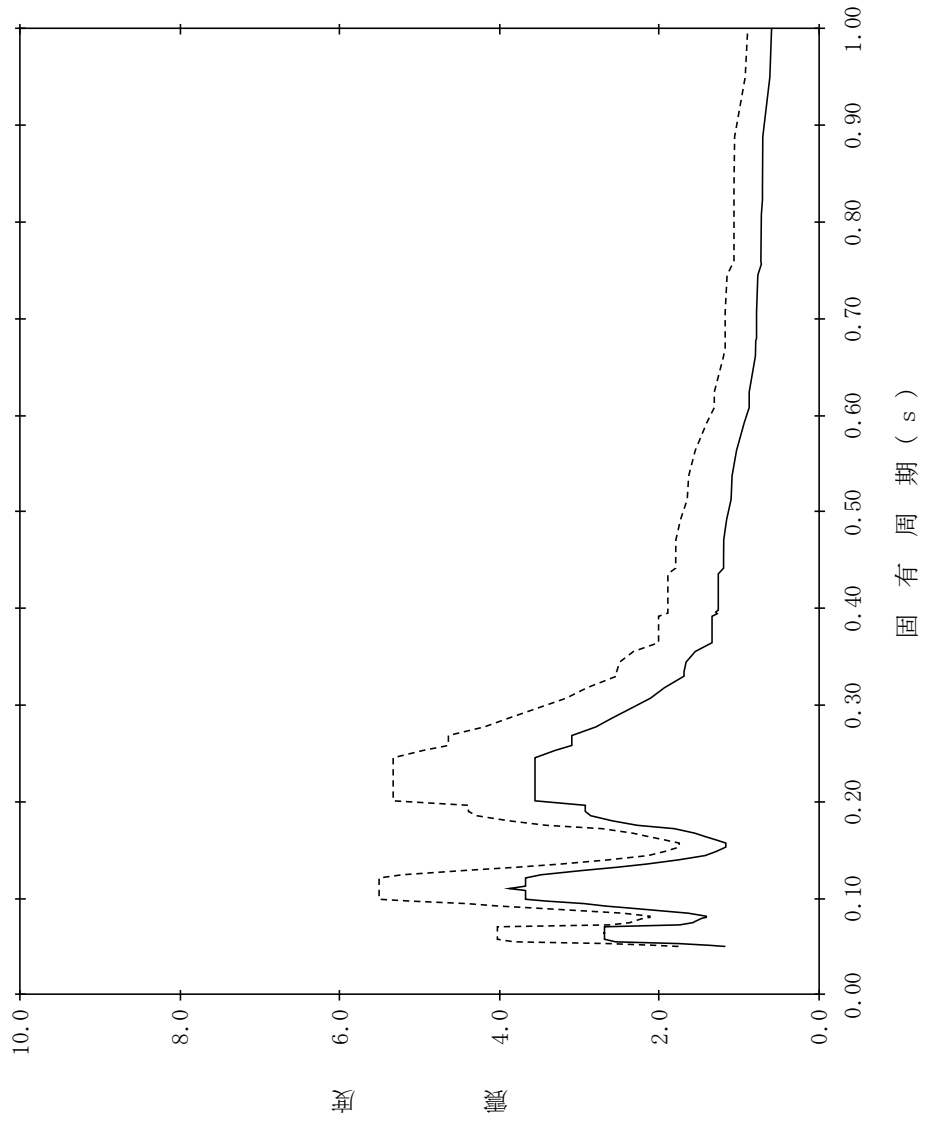
【NS2-PCV-SdNS-RPV180】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



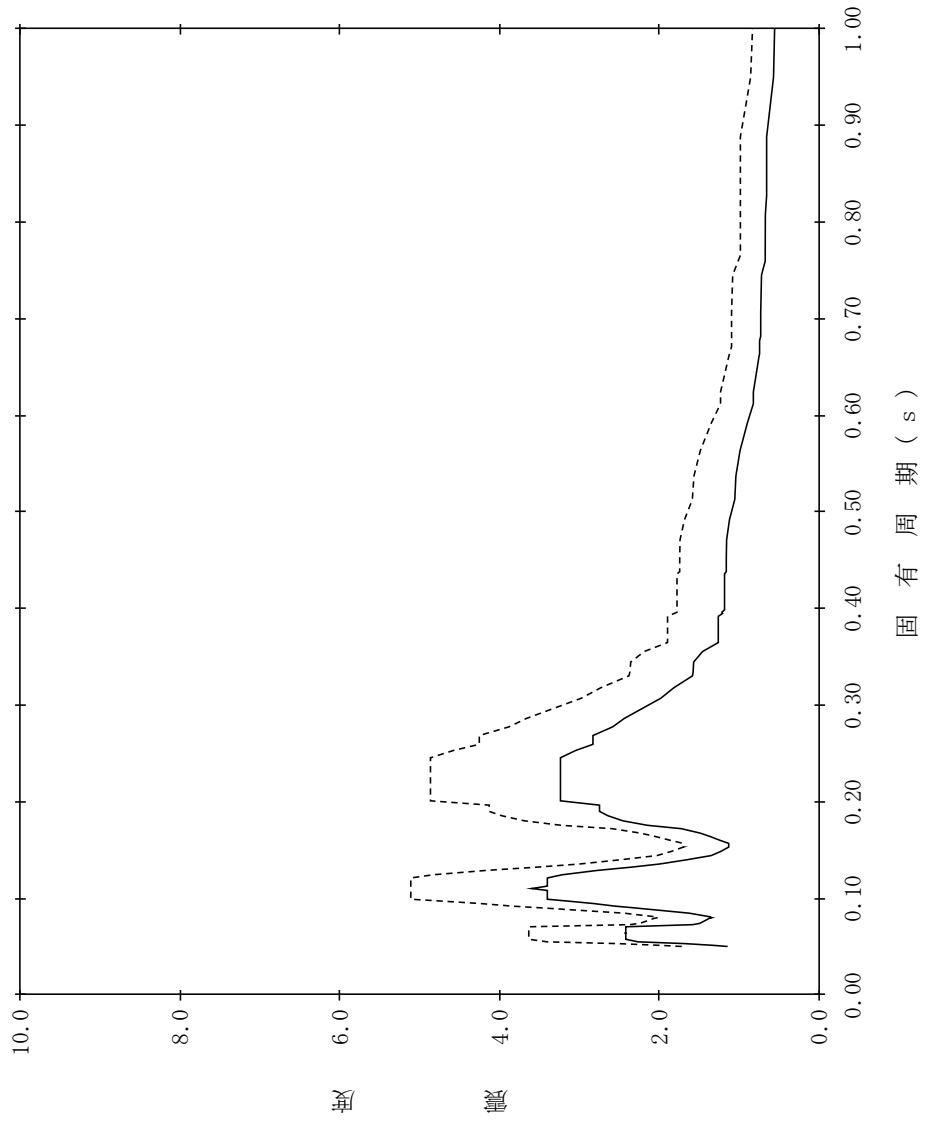
【NS2-PCV-SdNS-RPV181】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



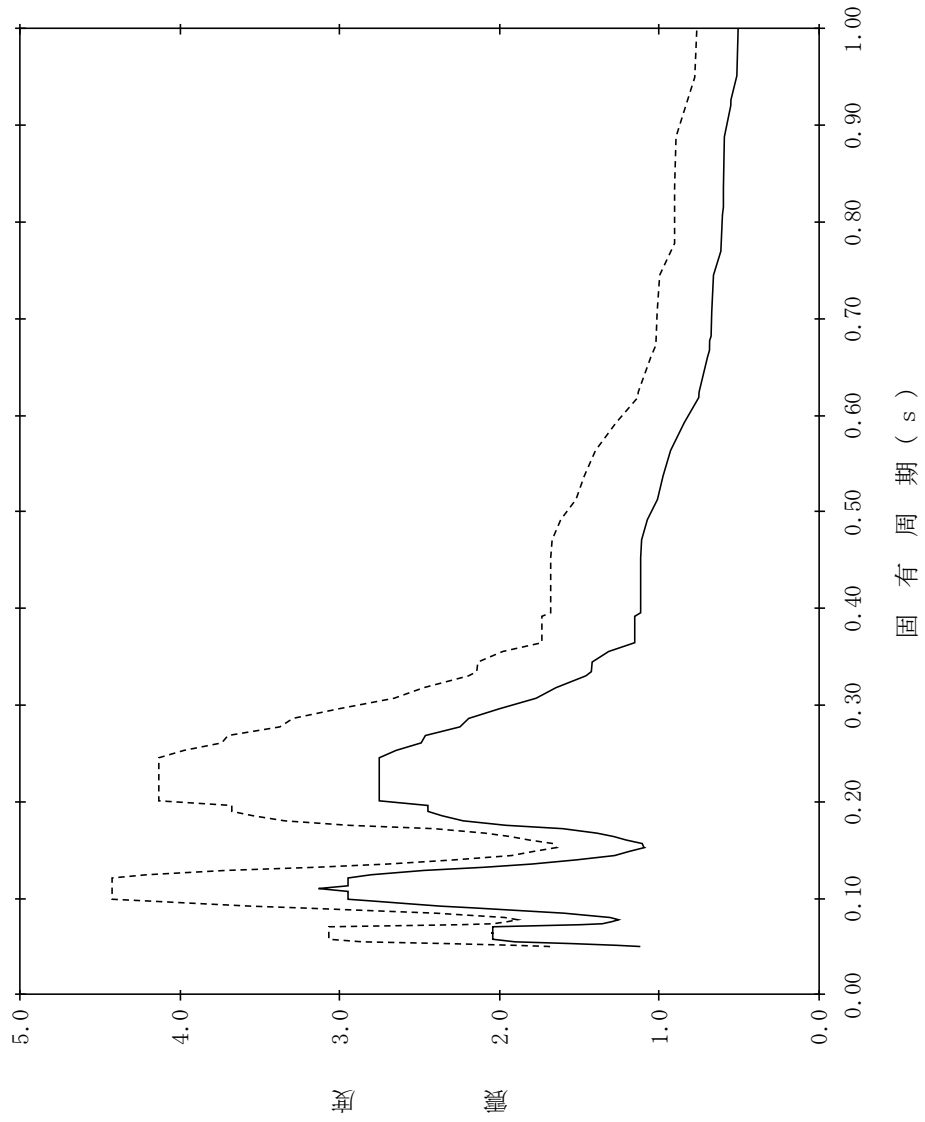
【NS2-PCV-SdNS-RPV182】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



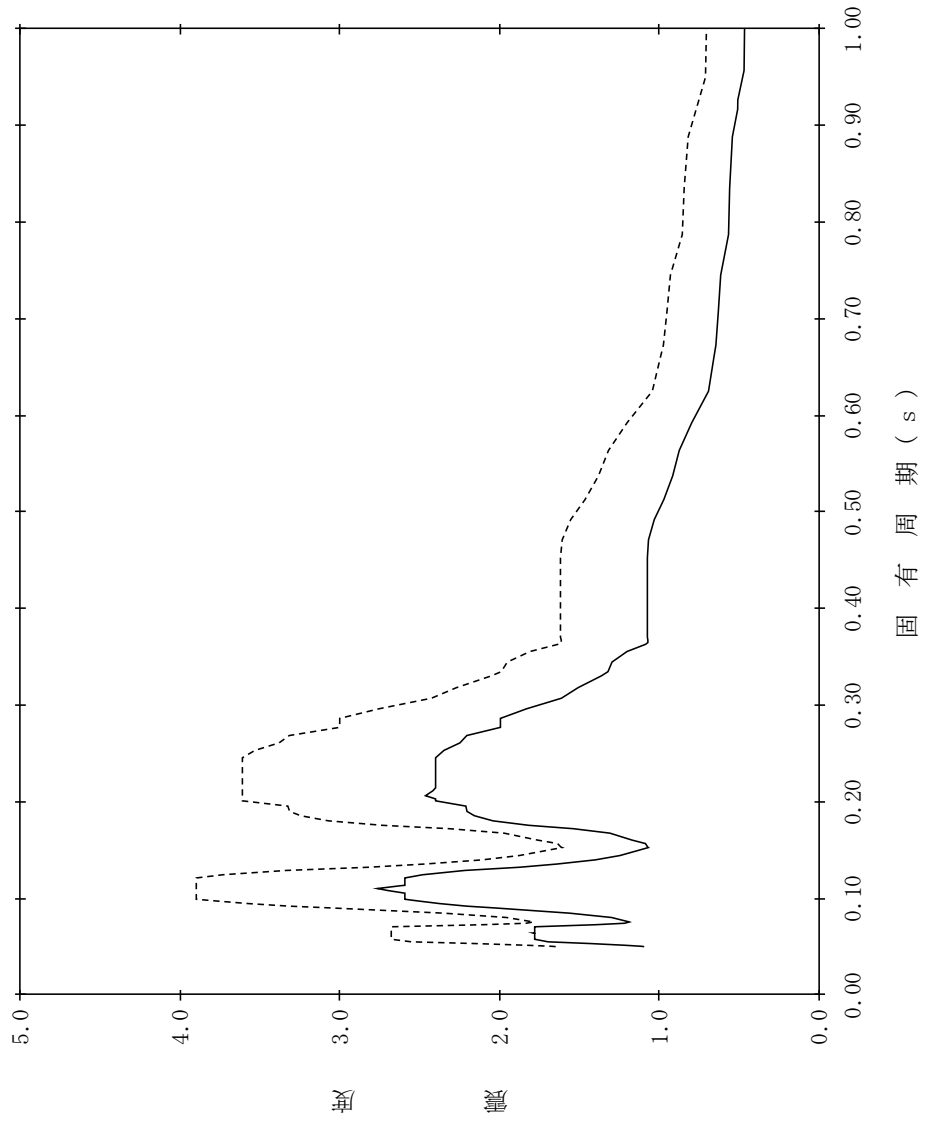
【NS2-PCV-SdNS-RPV183】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



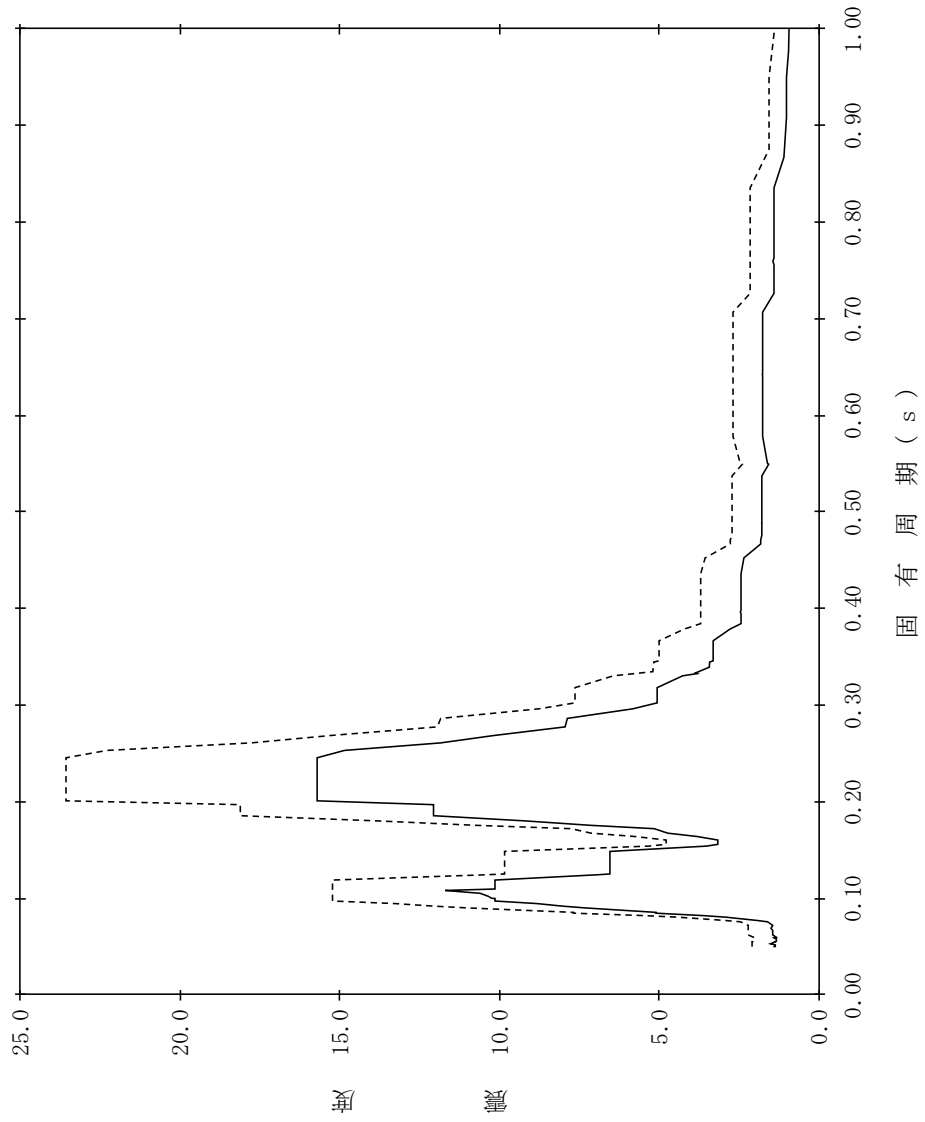
【NS2-PCV-SdNS-RPV184】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



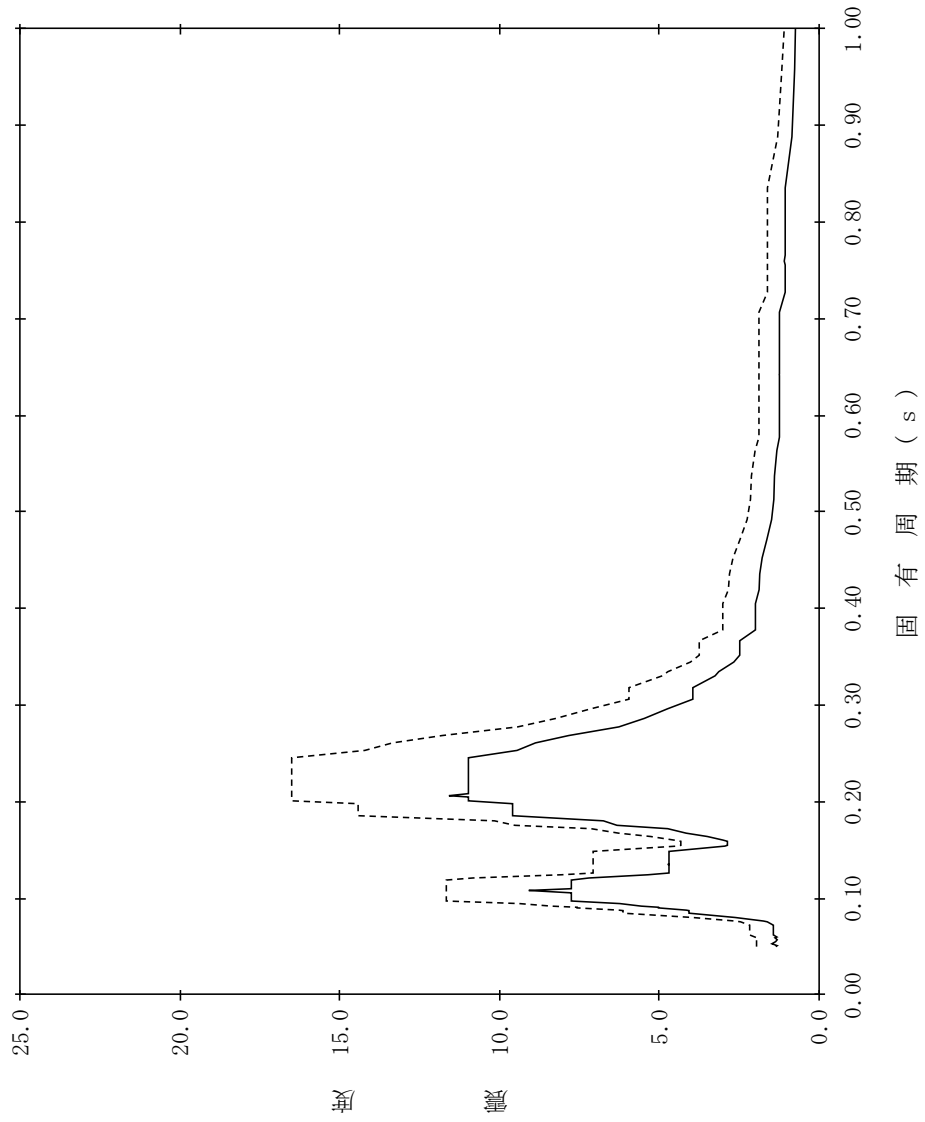
【NS2-PCV-SdNS-SHD185】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：0.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



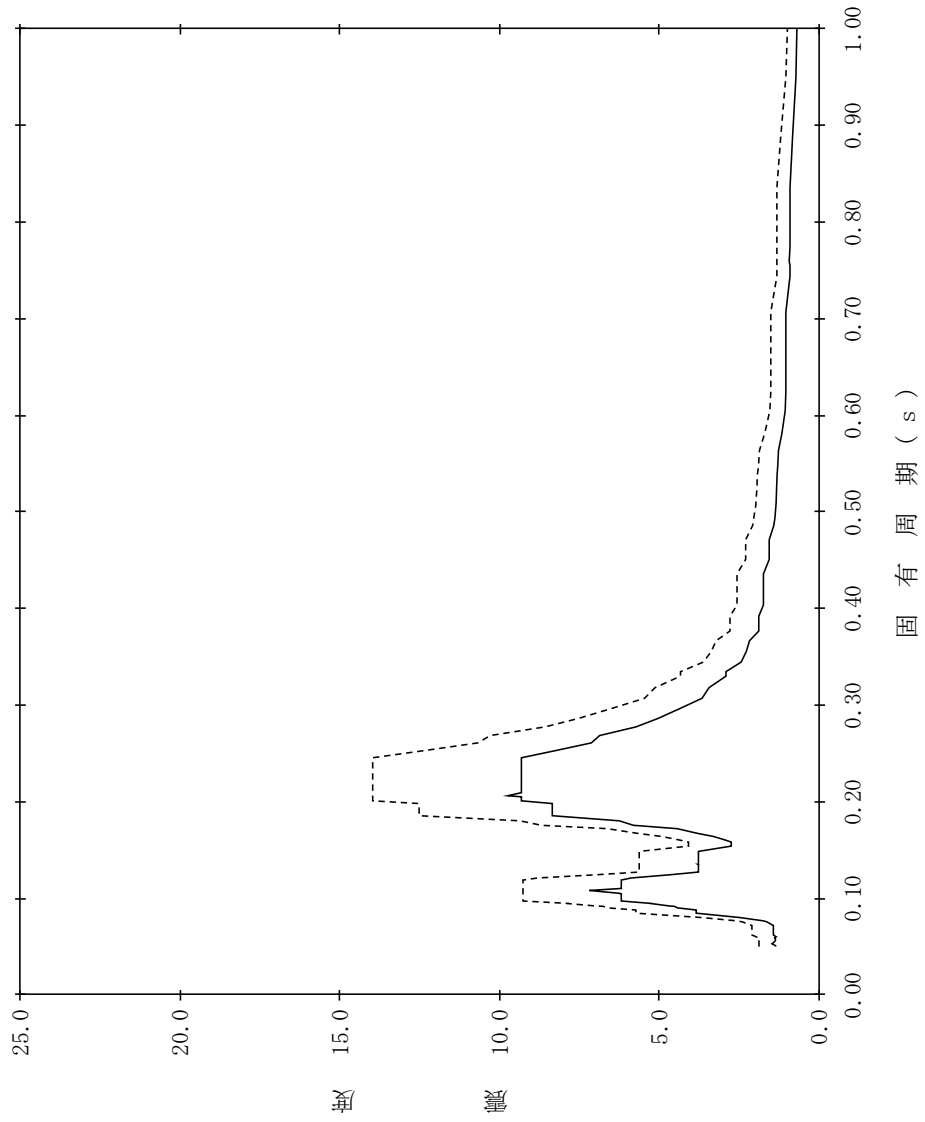
【NS2-PCV-SdNS-SHD186】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：1.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



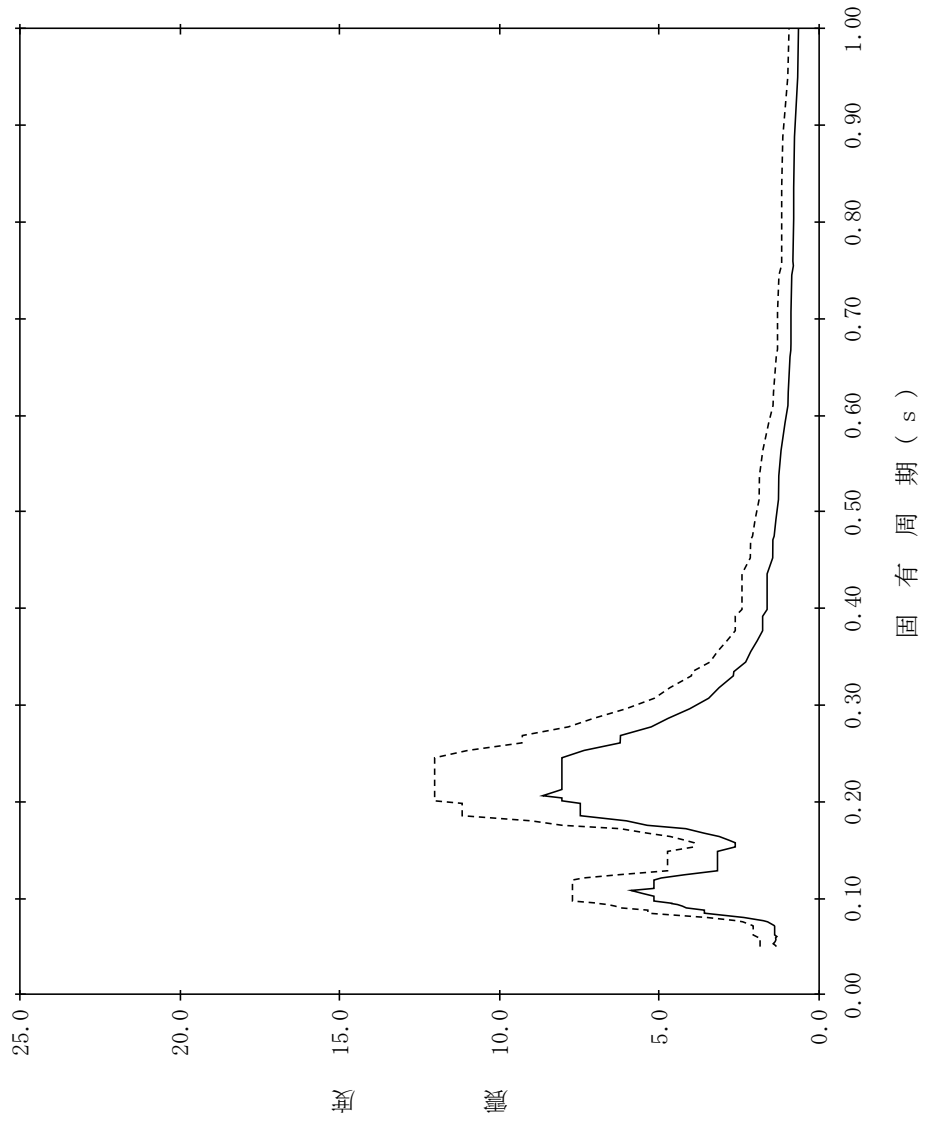
【NS2-PCV-SdNS-SHD187】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：1.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



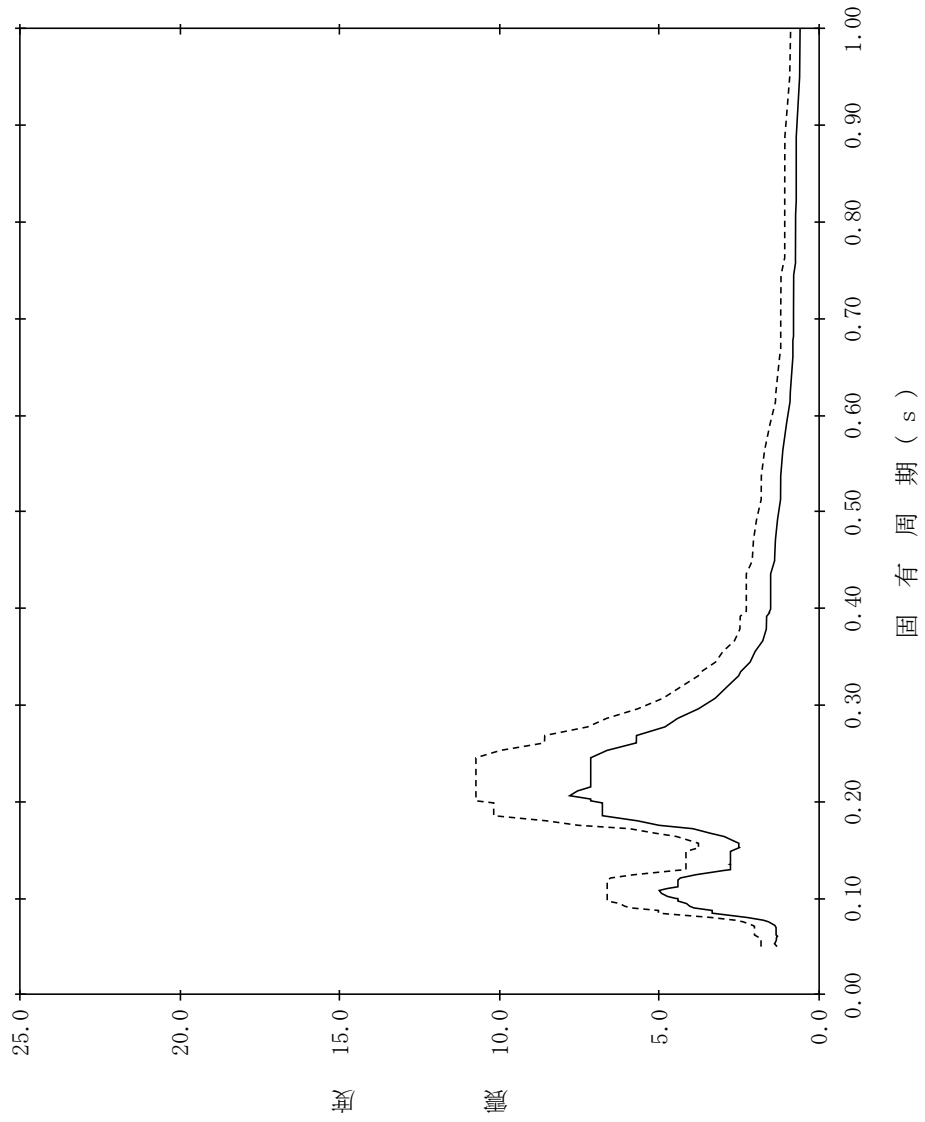
【NS2-PCV-SdNS-SHD188】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：2.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



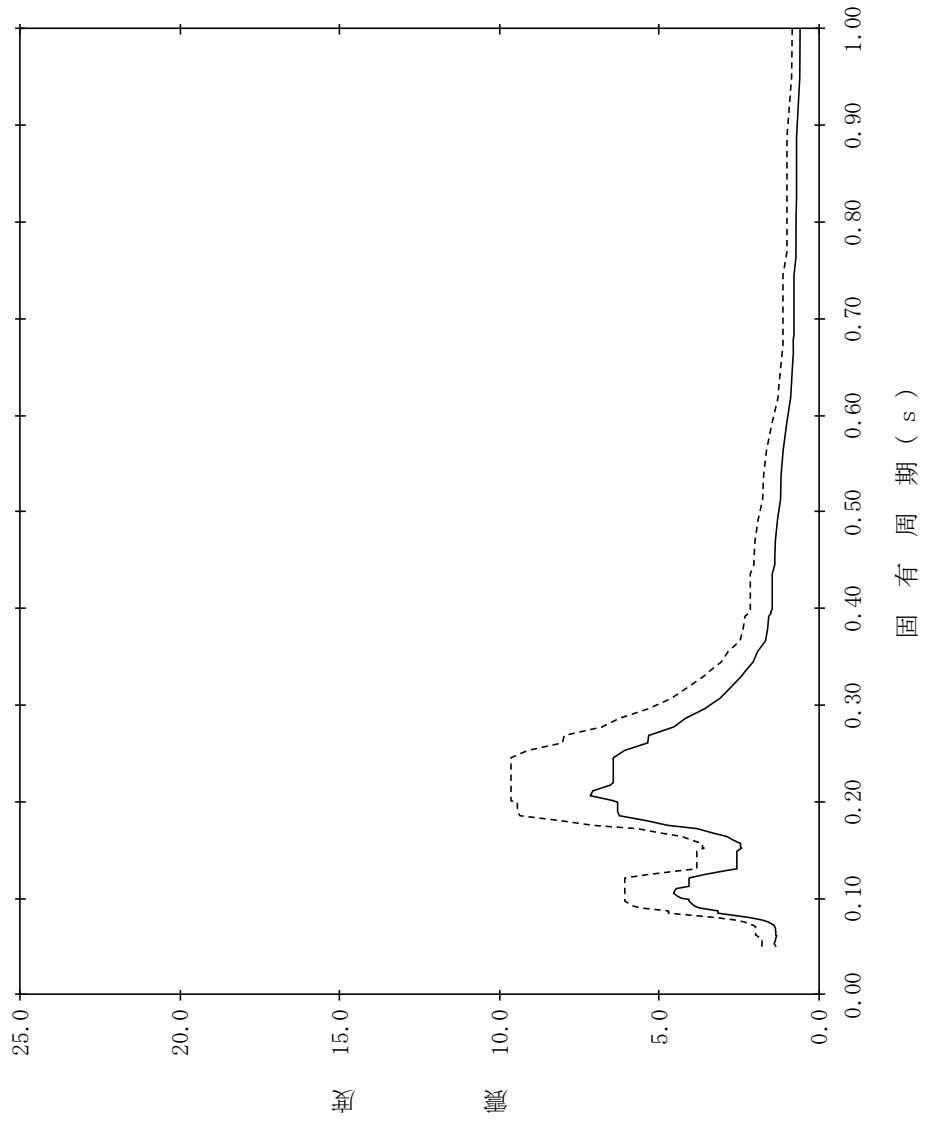
【NS2-PCV-SdNS-SHD189】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：2.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



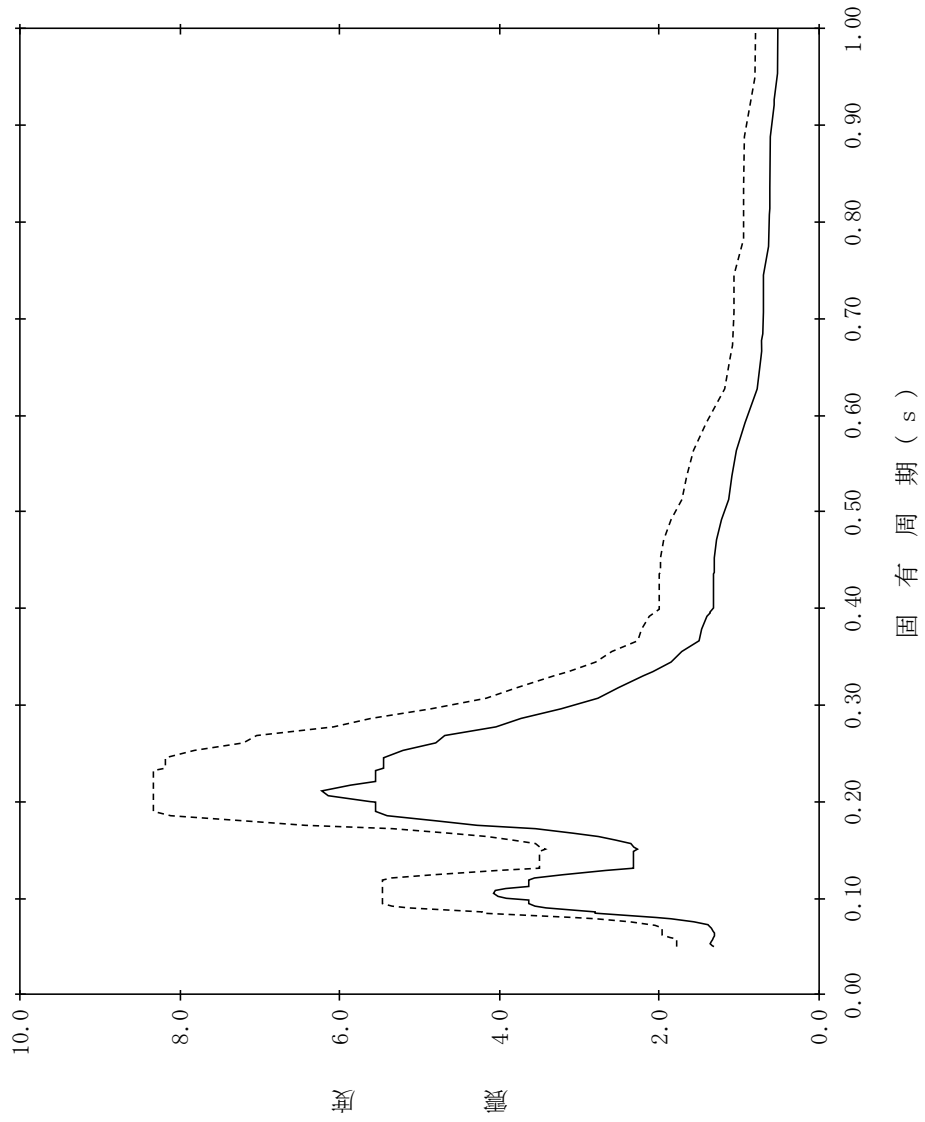
【NS2-PCV-SdNS-SHD190】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：3.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



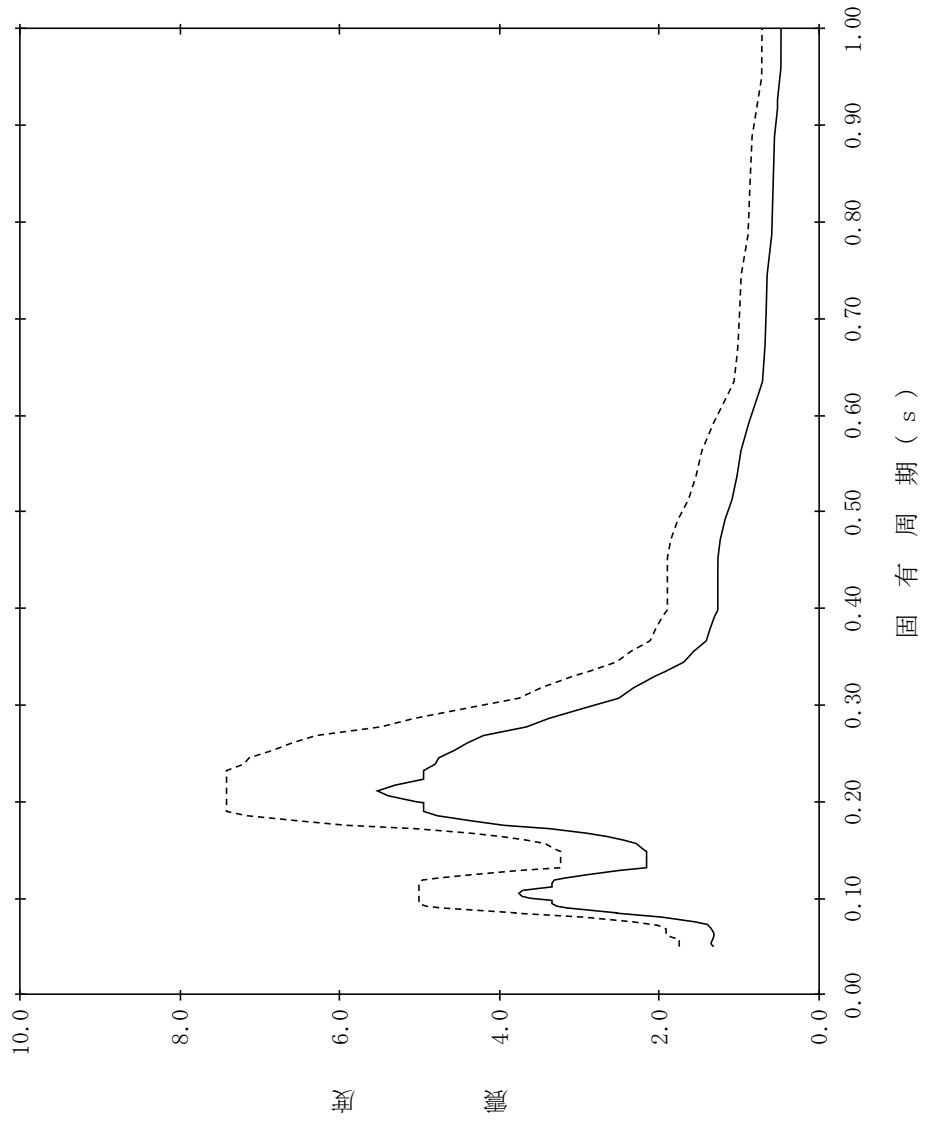
【NS2-PCV-SdNS-SHD191】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：4.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



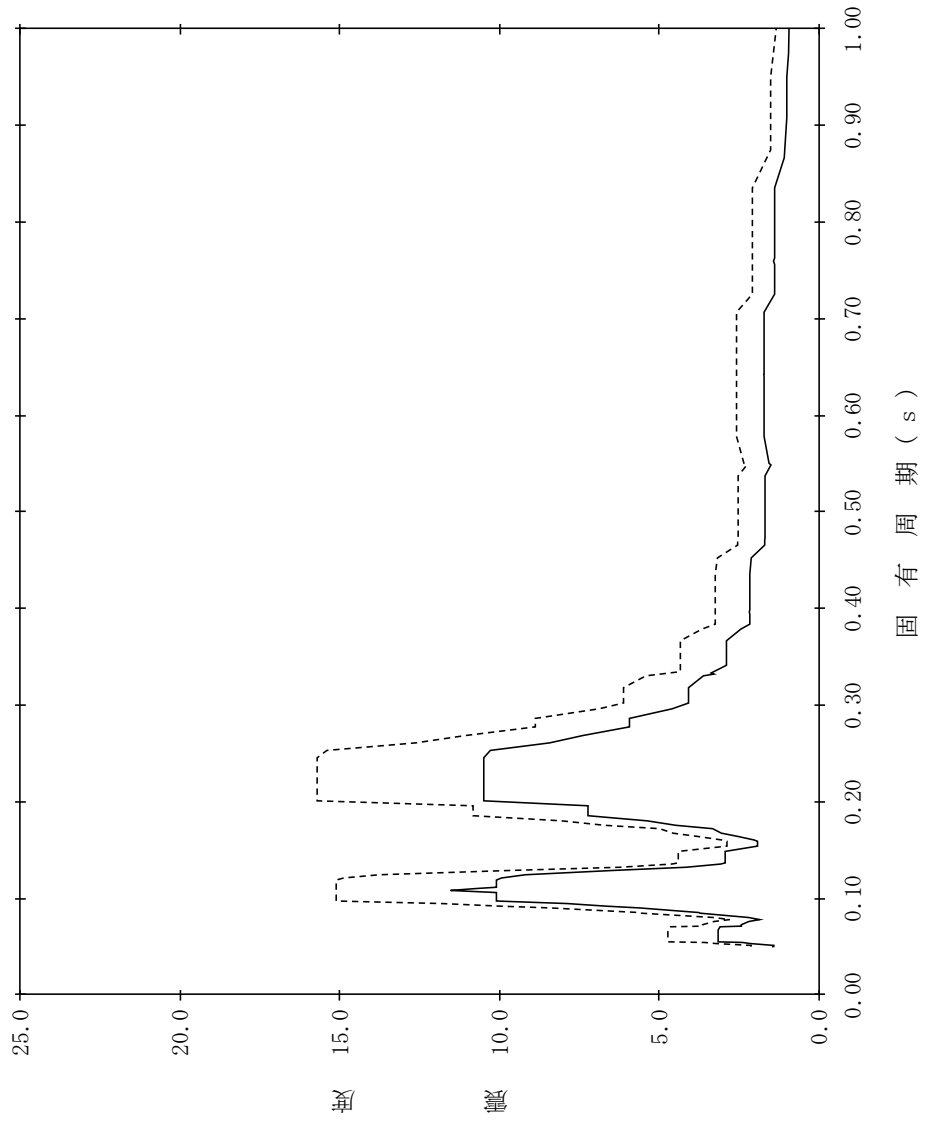
【NS2-PCV-SdNS-SHD192】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m
 減衰定数：5.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d



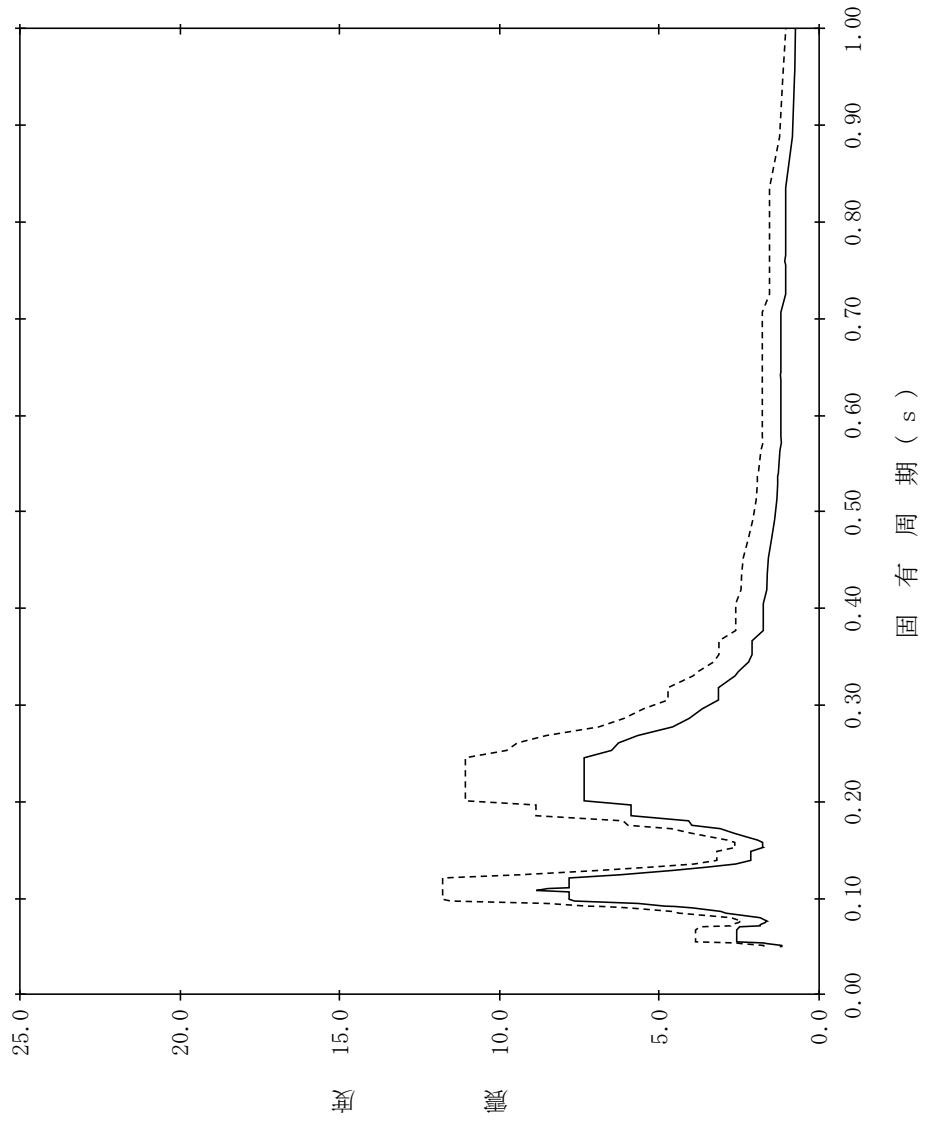
【NS2-PCV-SdNS-SHD193】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：0.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



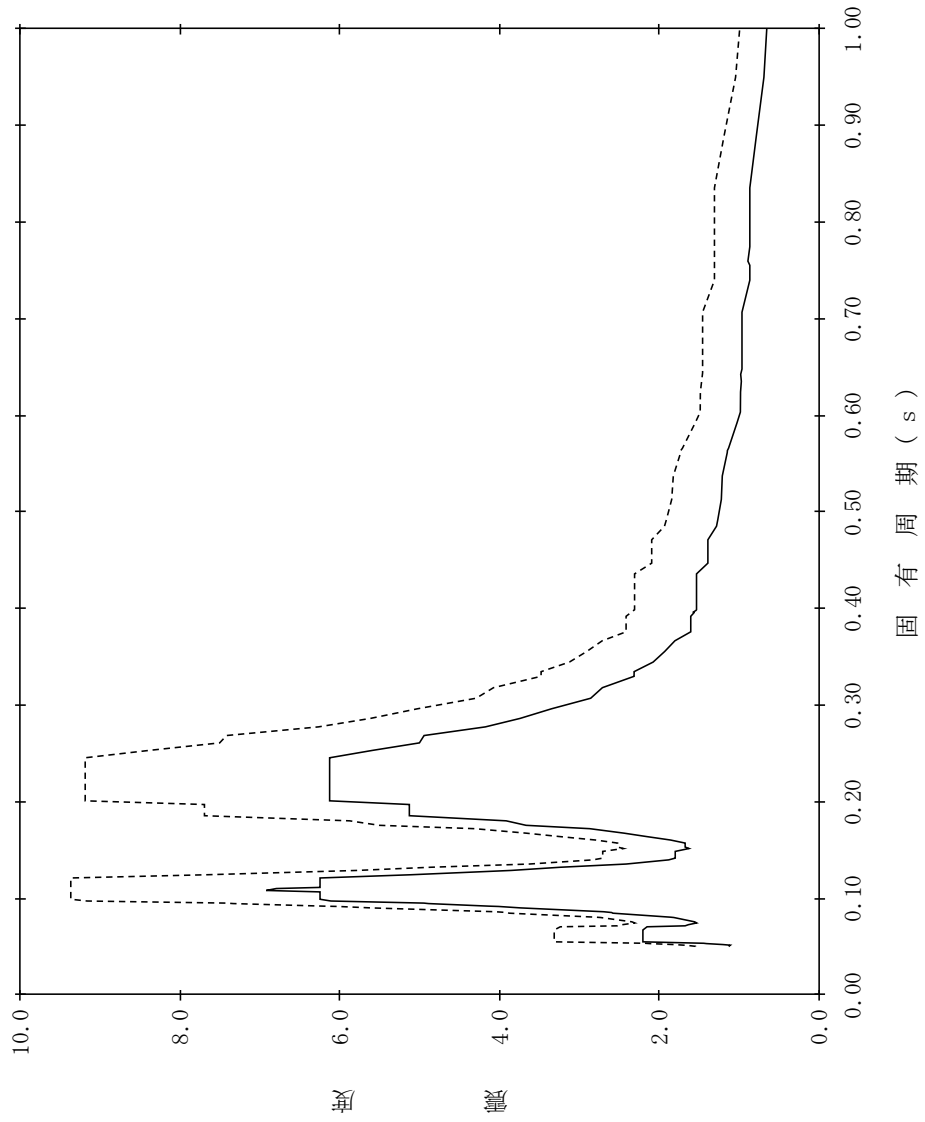
【NS2-PCV-SdNS-SHD194】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：1.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



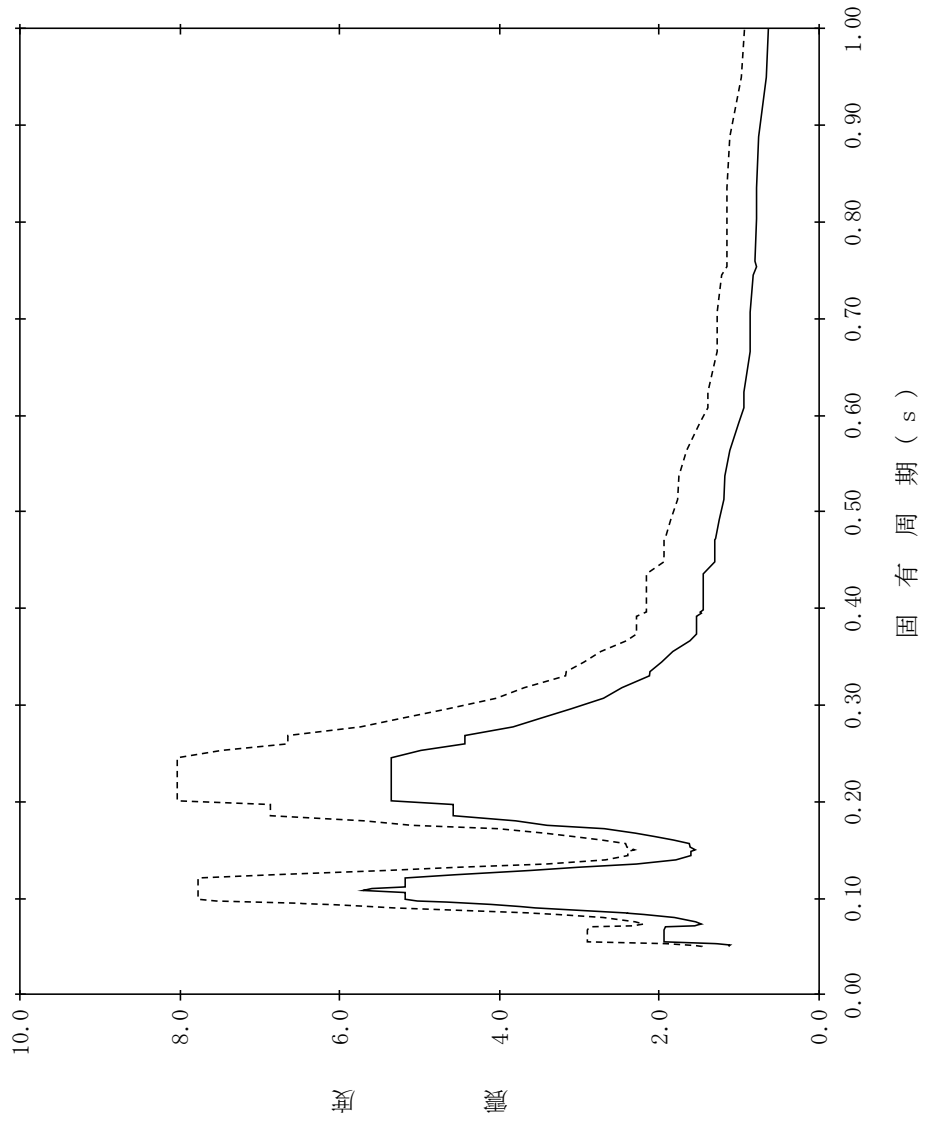
【NS2-PCV-SdNS-SHD195】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：1.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



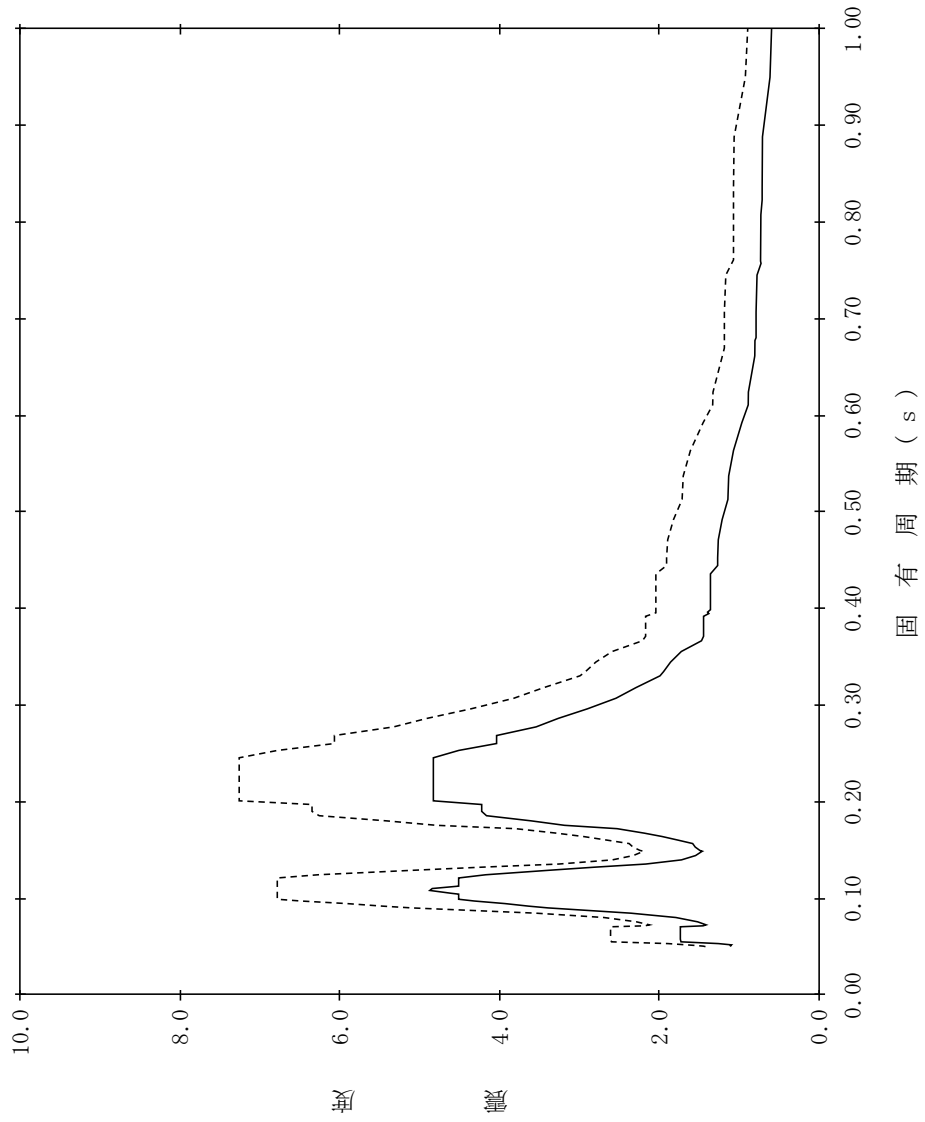
【NS2-PCV-SdNS-SHD196】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：2.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



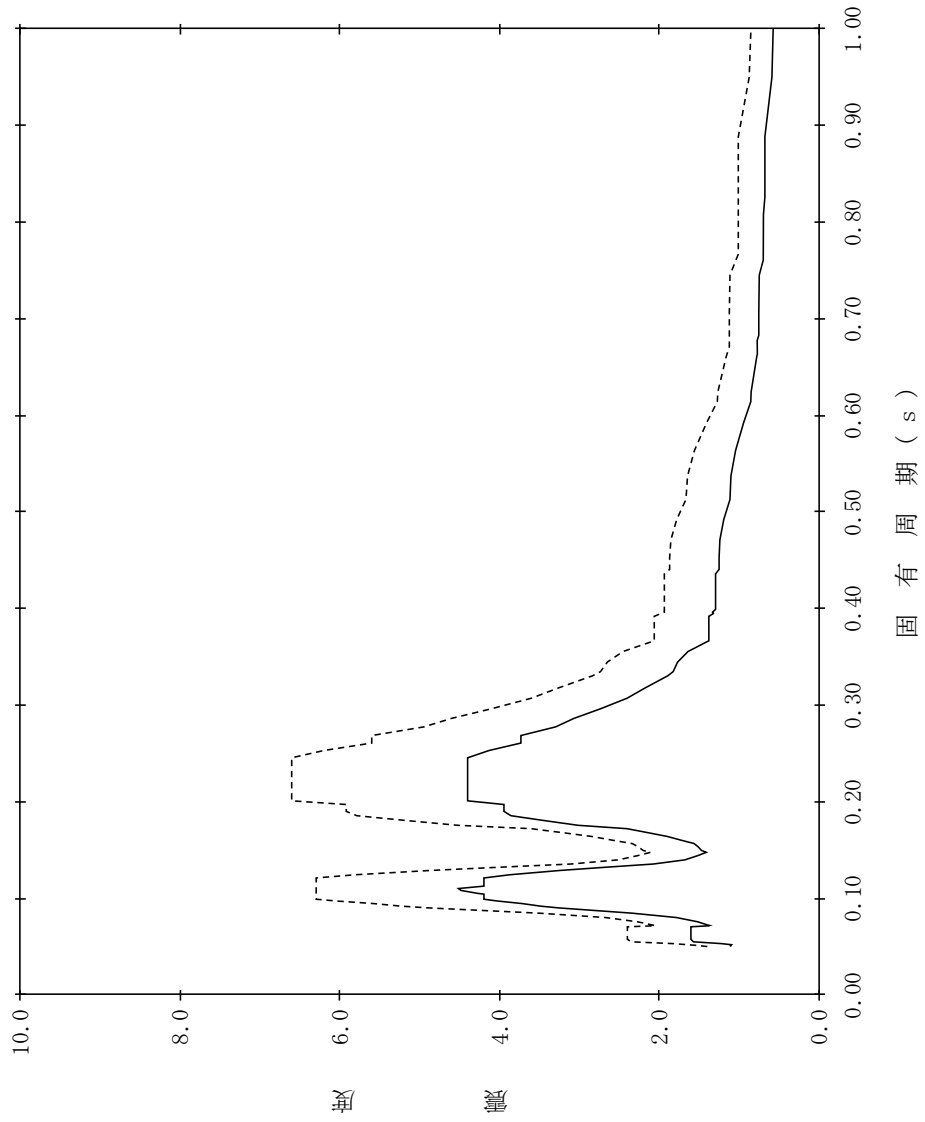
【NS2-PCV-SdNS-SHD197】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：2.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



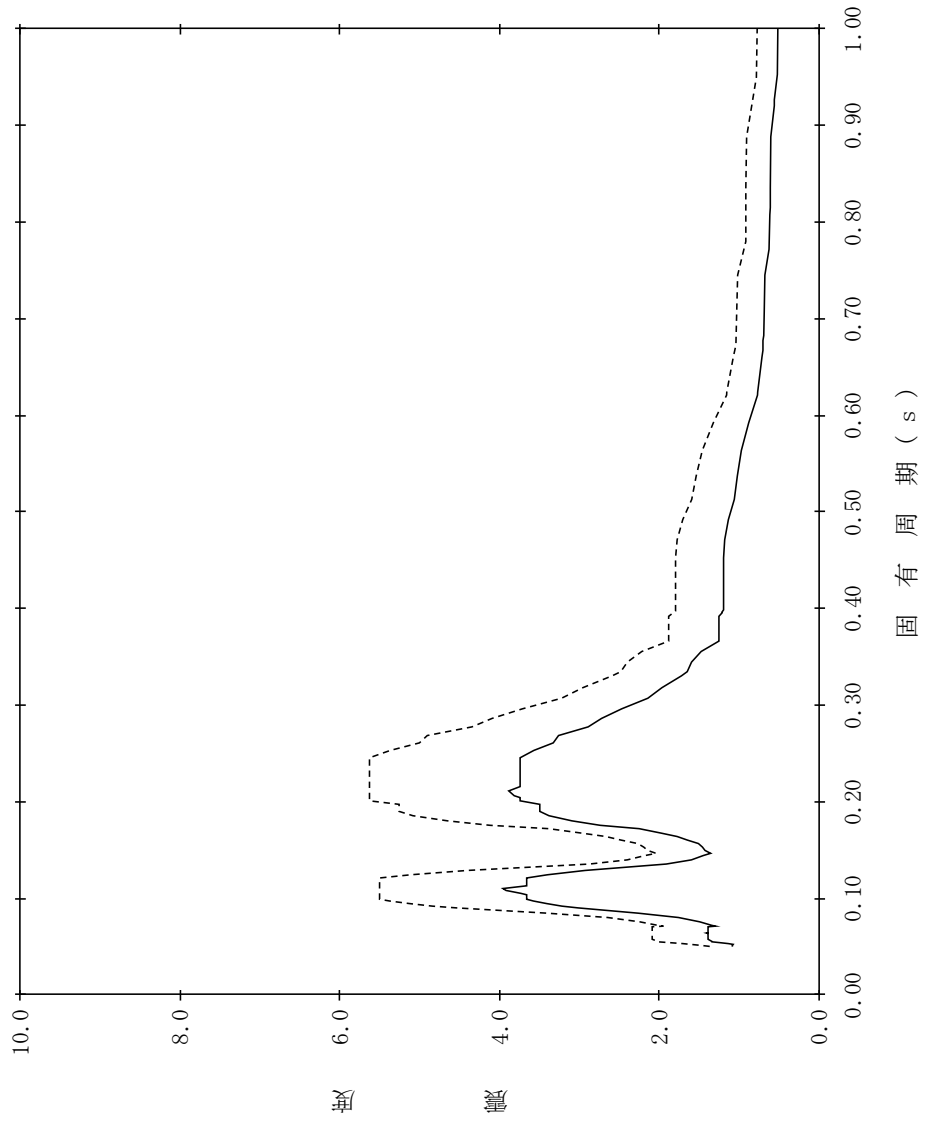
【NS2-PCV-SdNS-SHD198】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：3.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



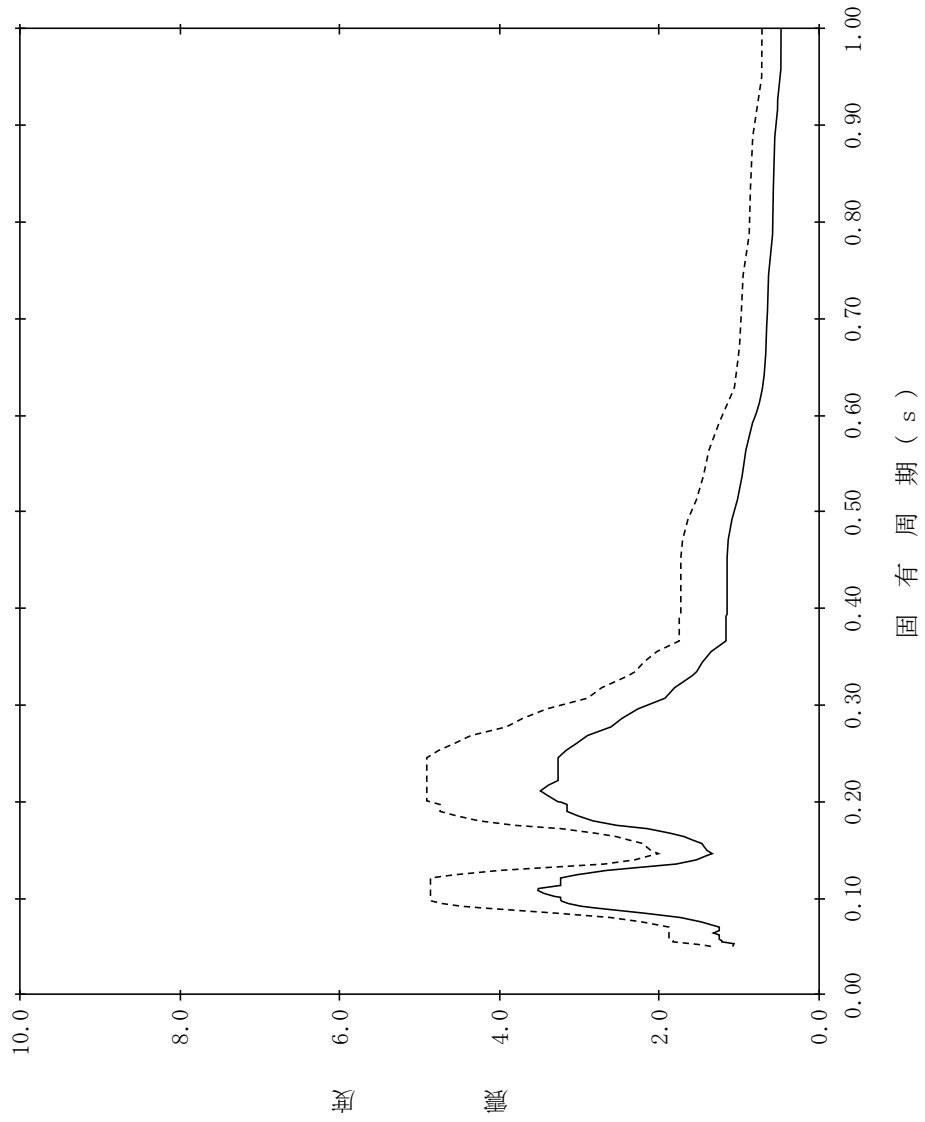
【NS2-PCV-SdNS-SHD199】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：4.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



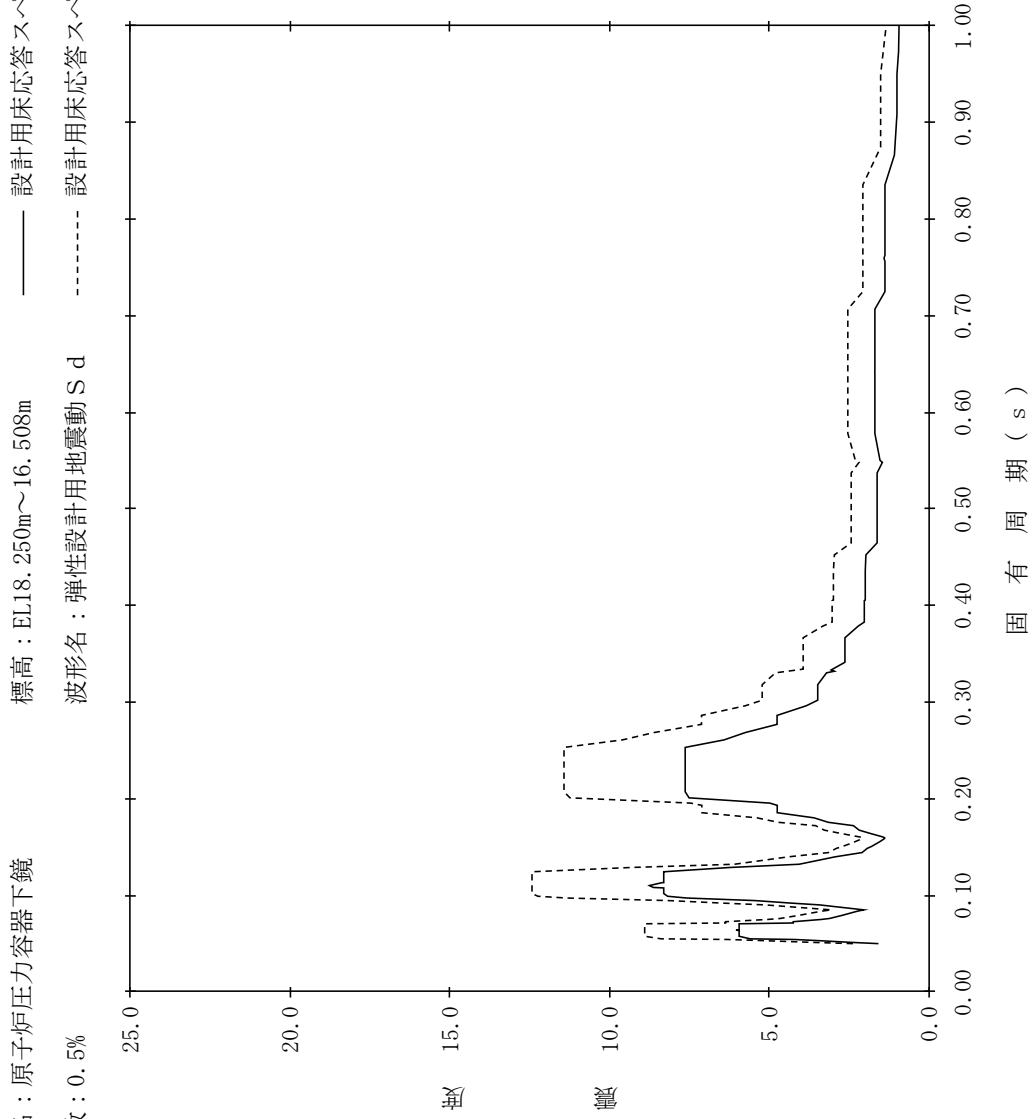
【NS2-PCV-SdNS-SHD200】

構造物名：炉心シェラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：5.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



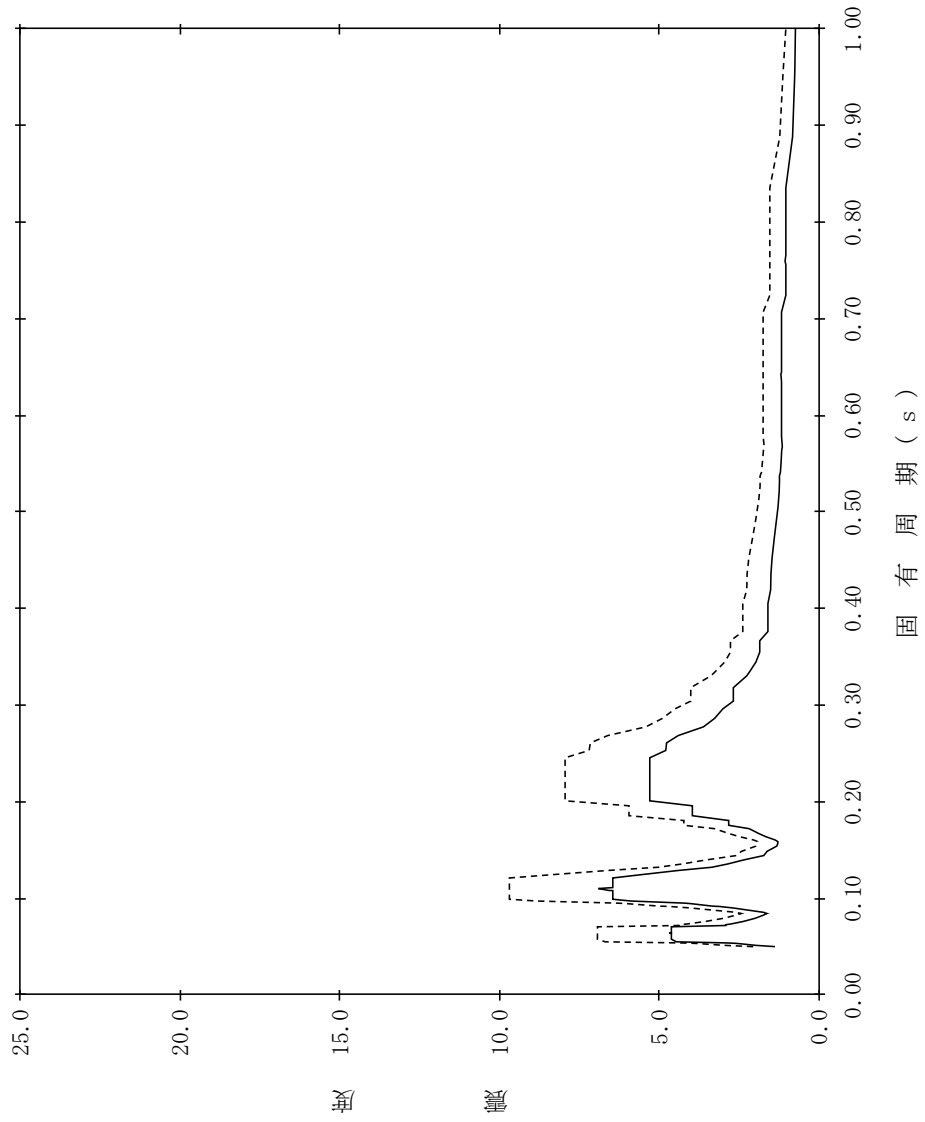
【NS2-PCV-SdNS-RPV201】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：0.5%



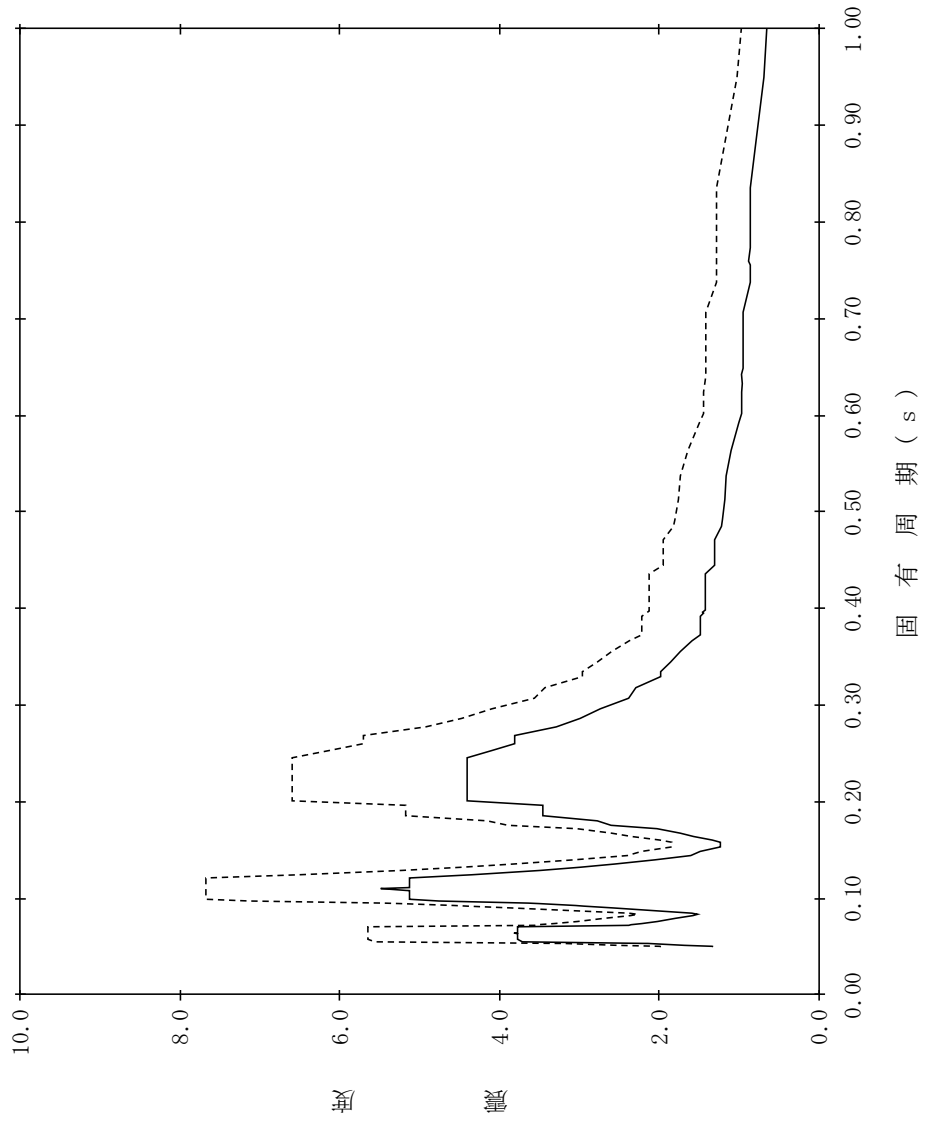
【NS2-PCV-SdNS-RPV202】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



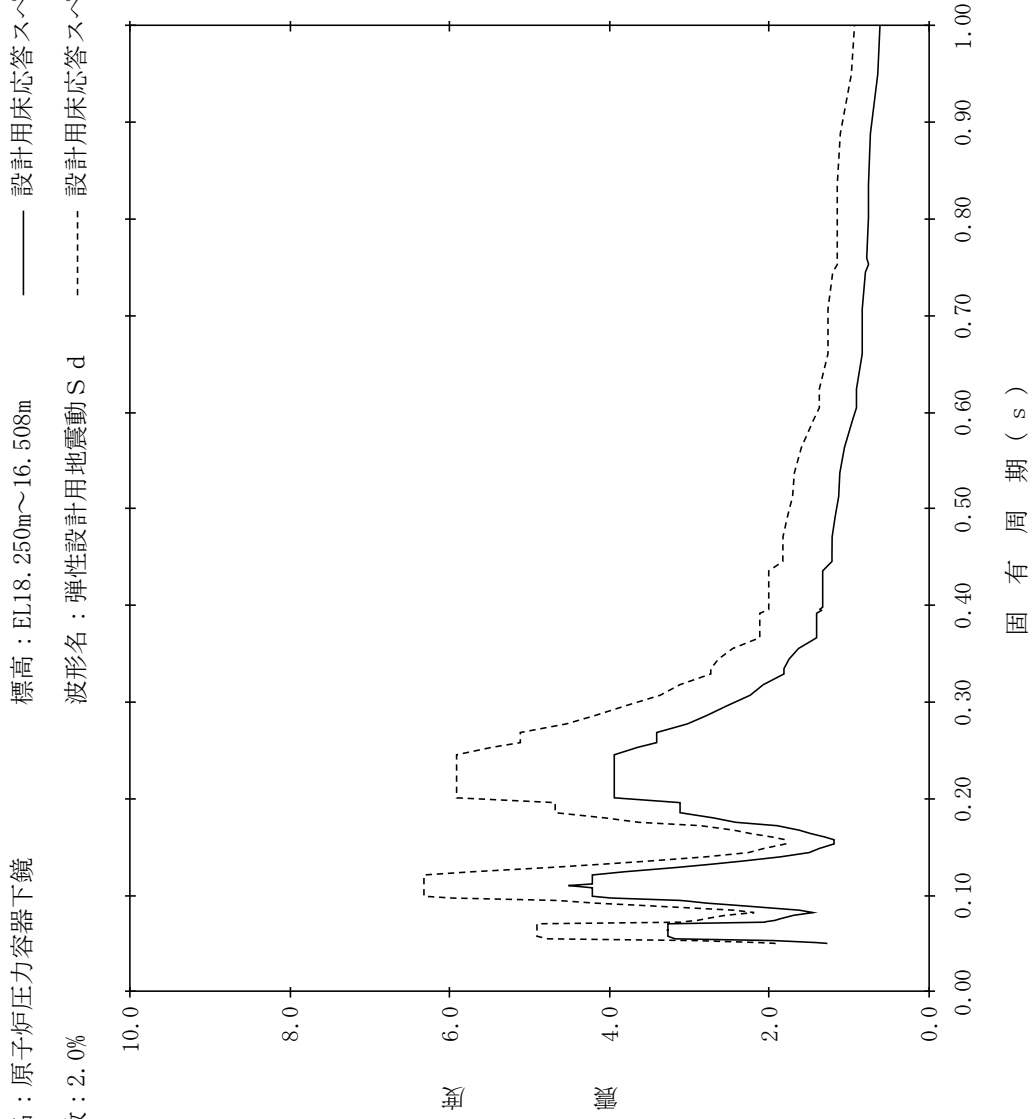
【NS2-PCV-SdNS-RPV203】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



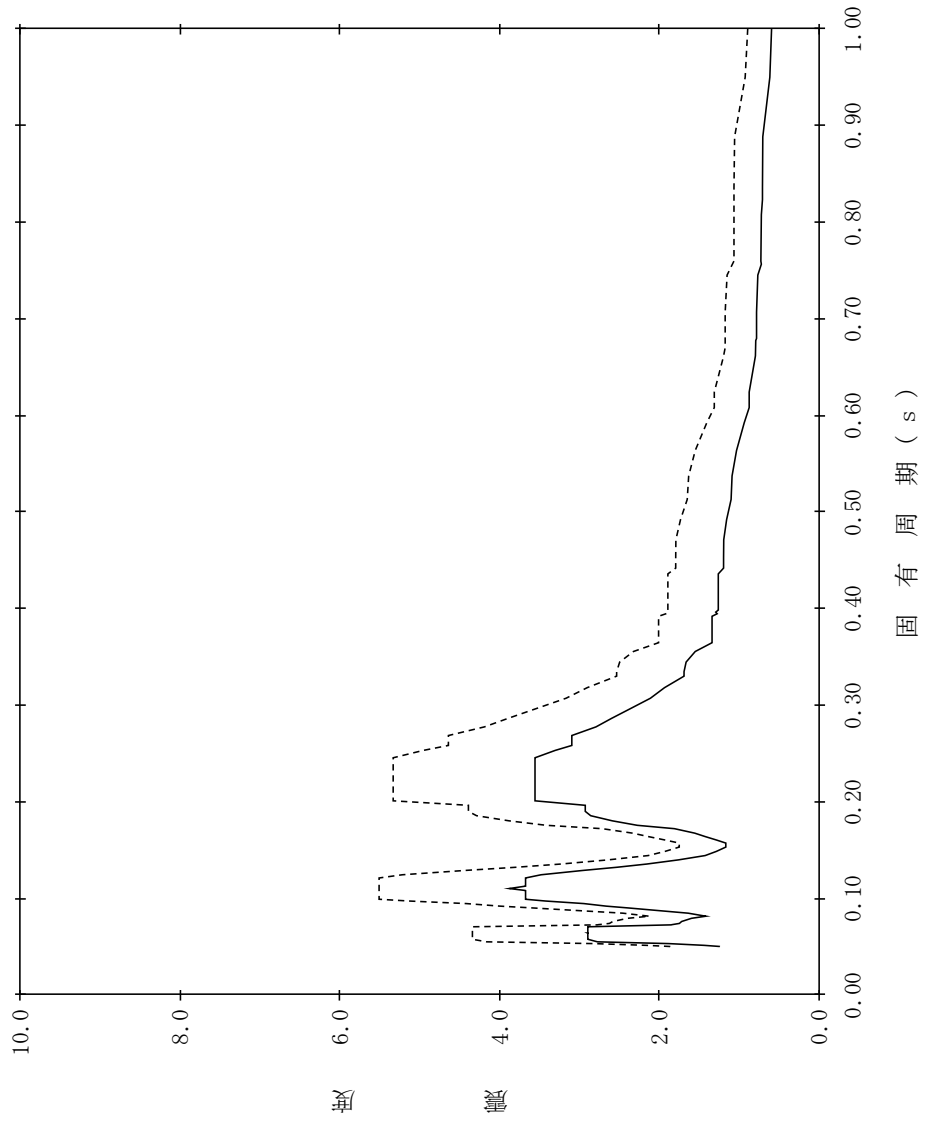
【NS2-PCV-SdNS-RPV204】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：2.0%



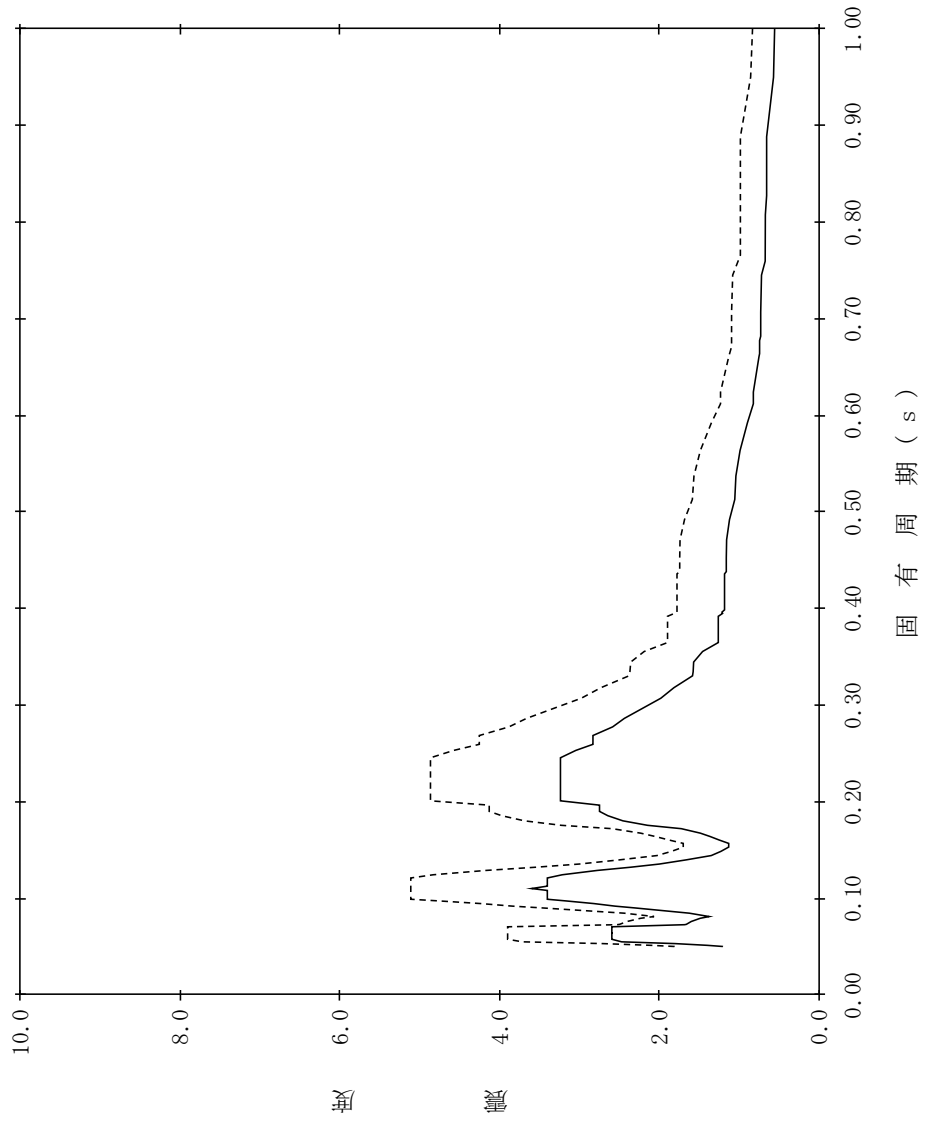
【NS2-PCV-SdNS-RPV205】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



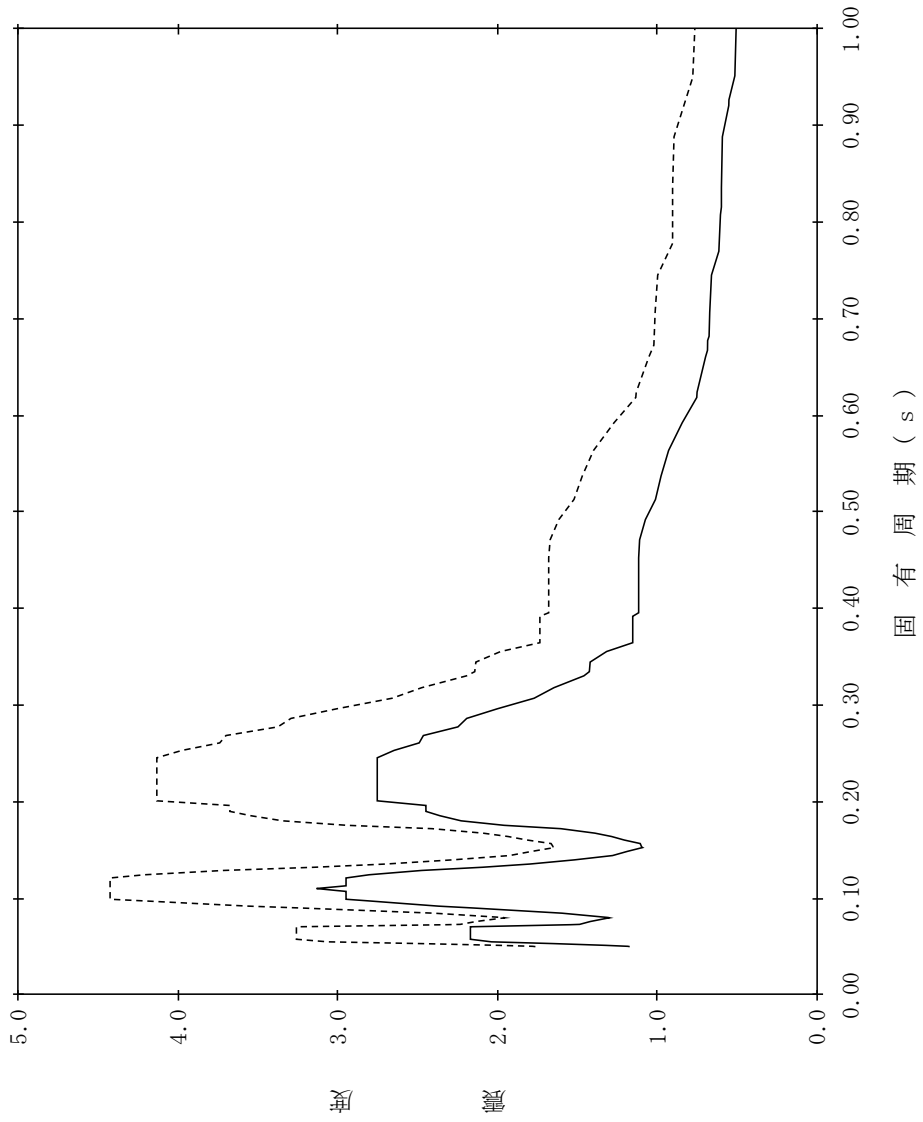
【NS2-PCV-SdNS-RPV206】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



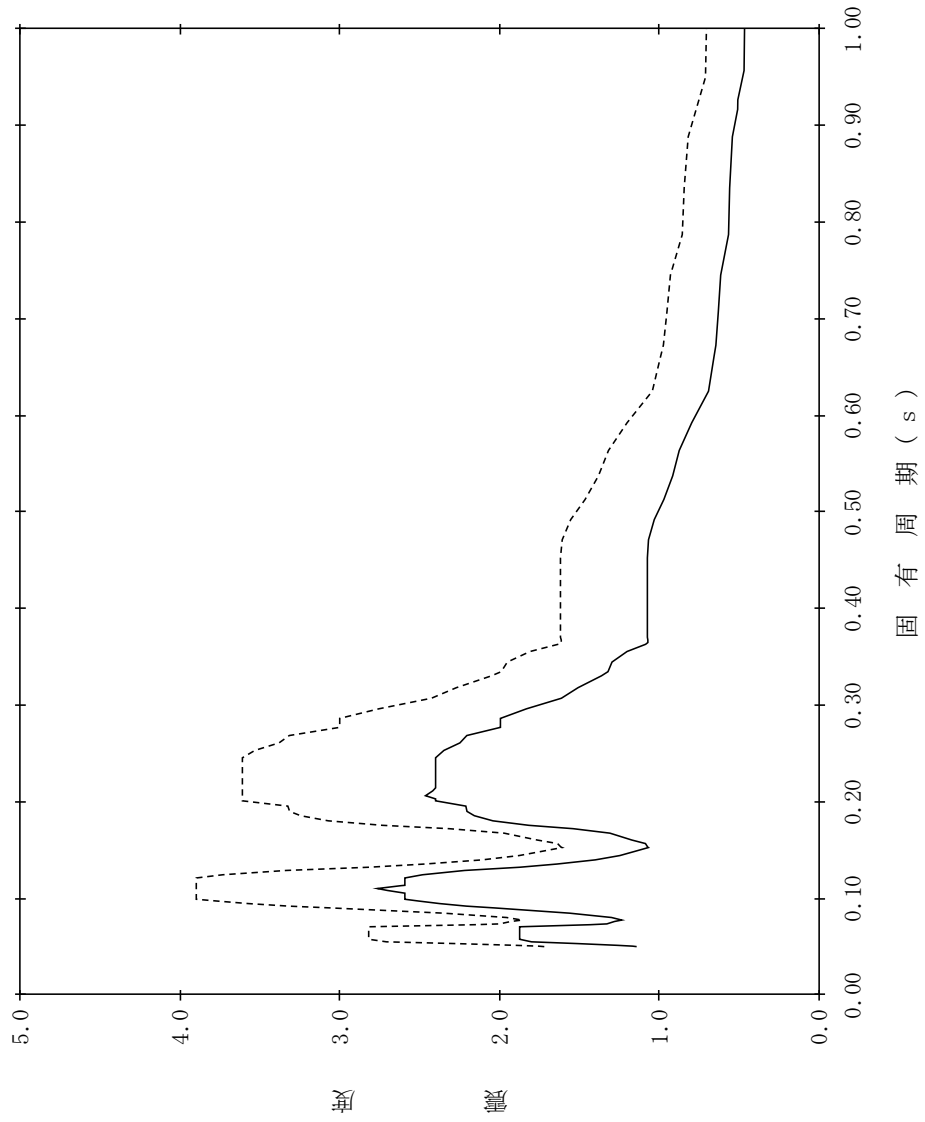
【NS2-PCV-SdNS-RPV207】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



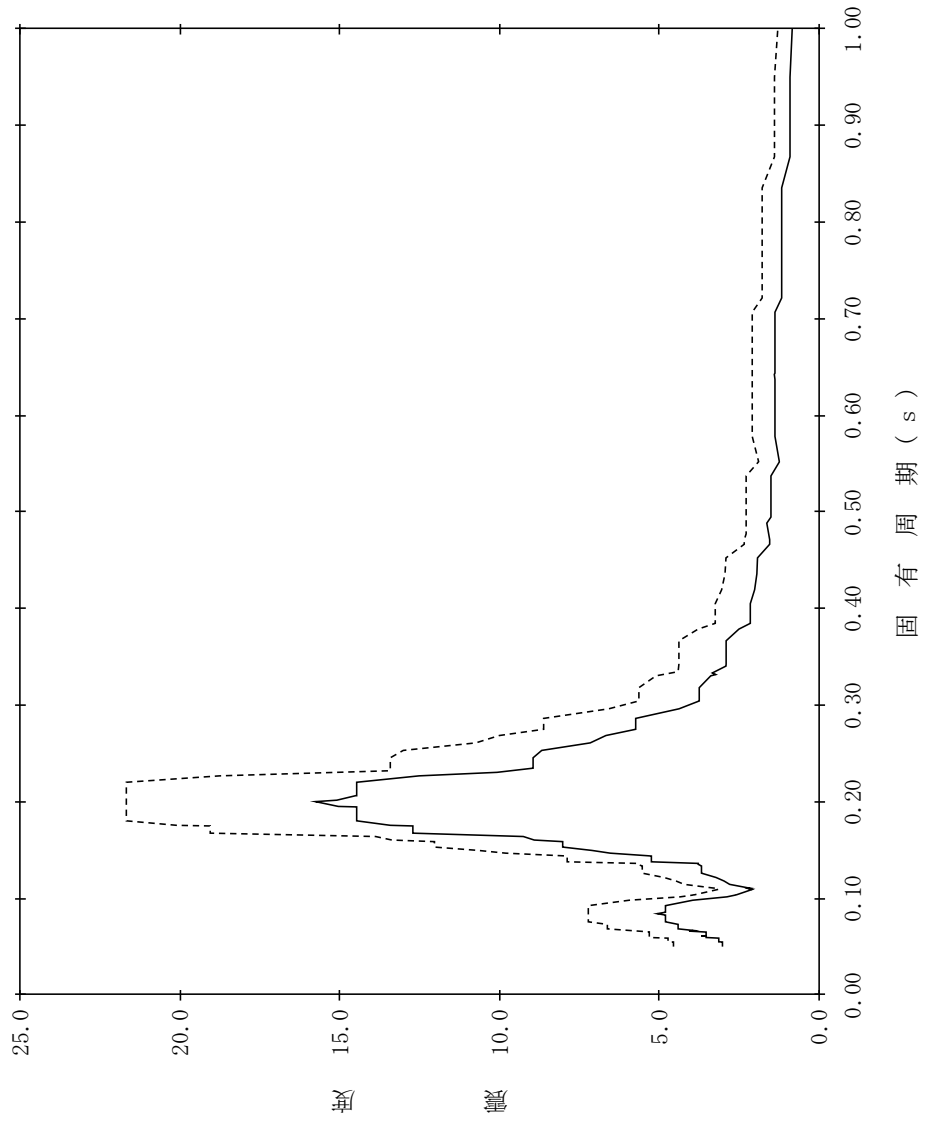
【NS2-PCV-SdNS-RPV208】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



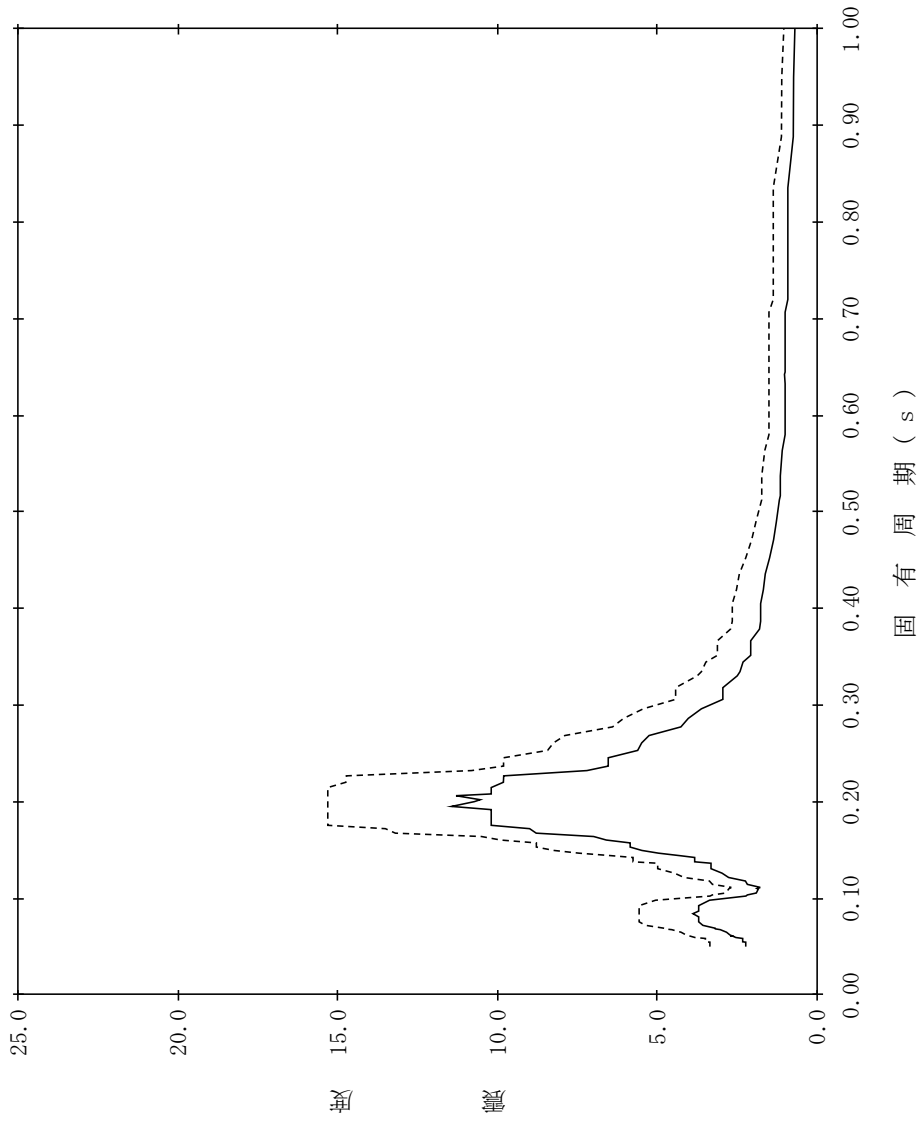
【NS2-PCV-SdEW-PCV1】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



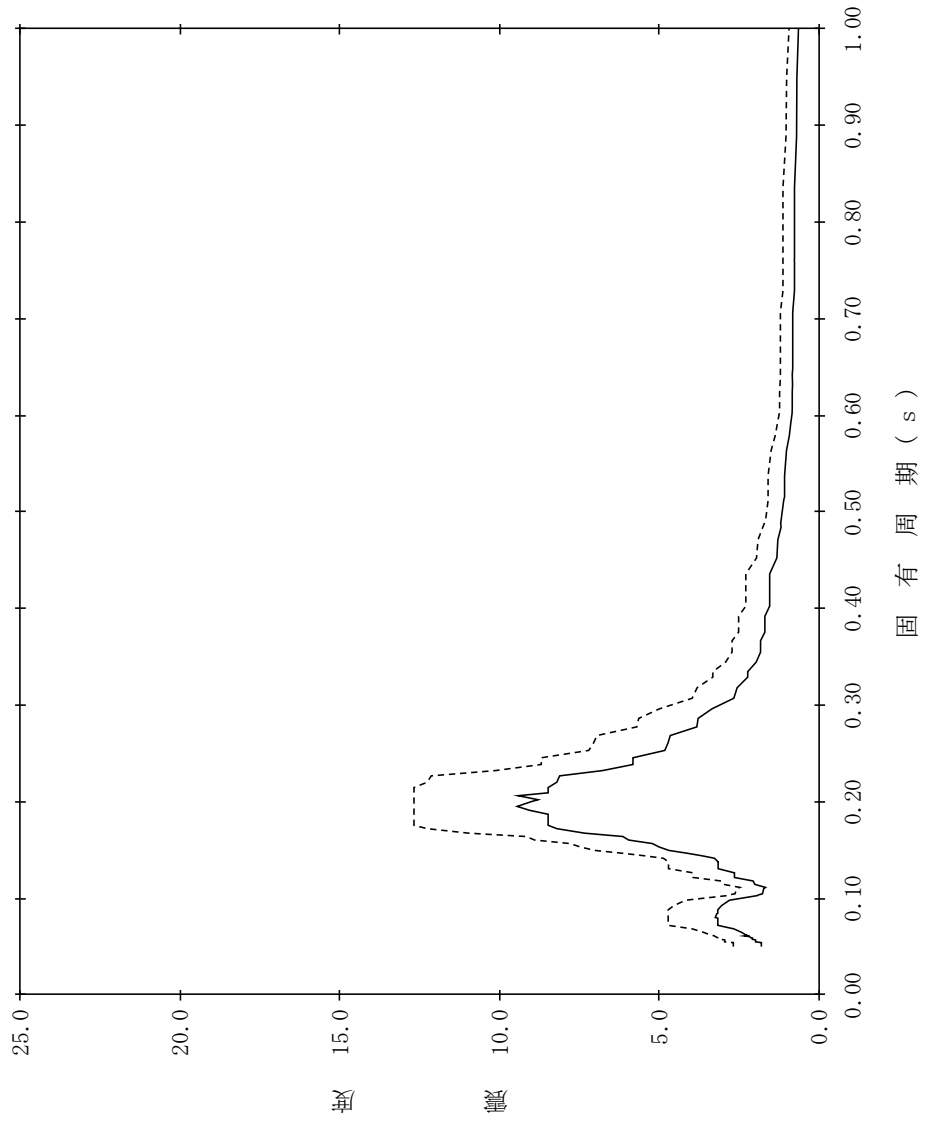
【NS2-PCV-SdEW-PCV2】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



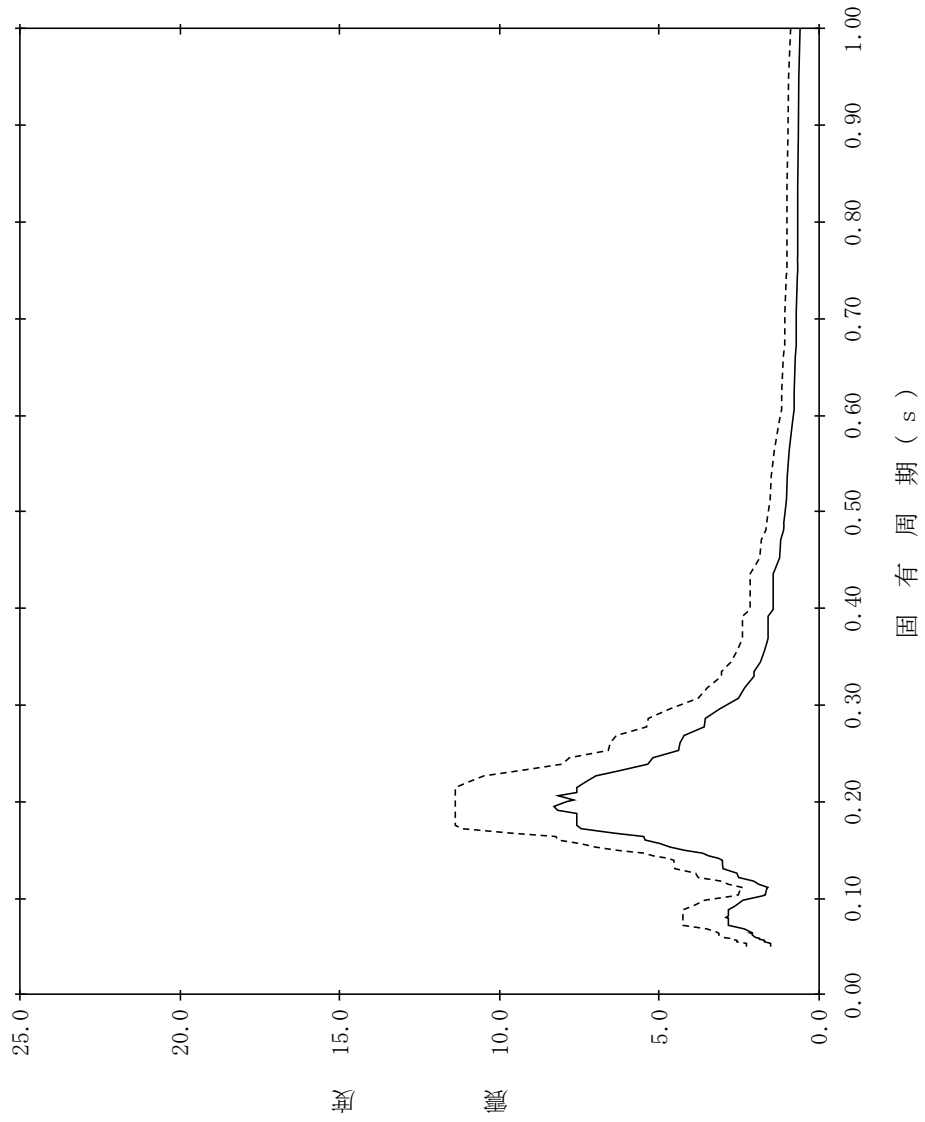
【NS2-PCV-SdEW-PCV3】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



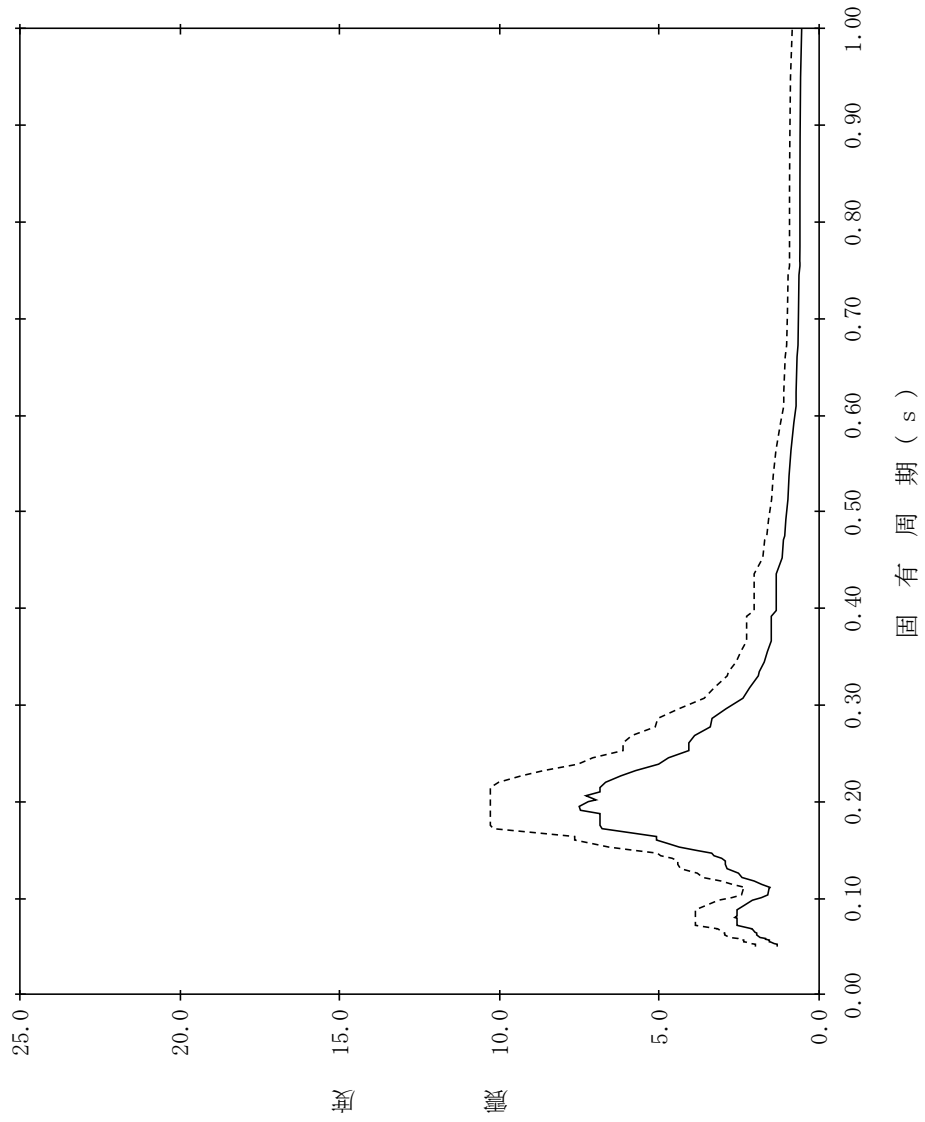
【NS2-PCV-SdEW-PCV4】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



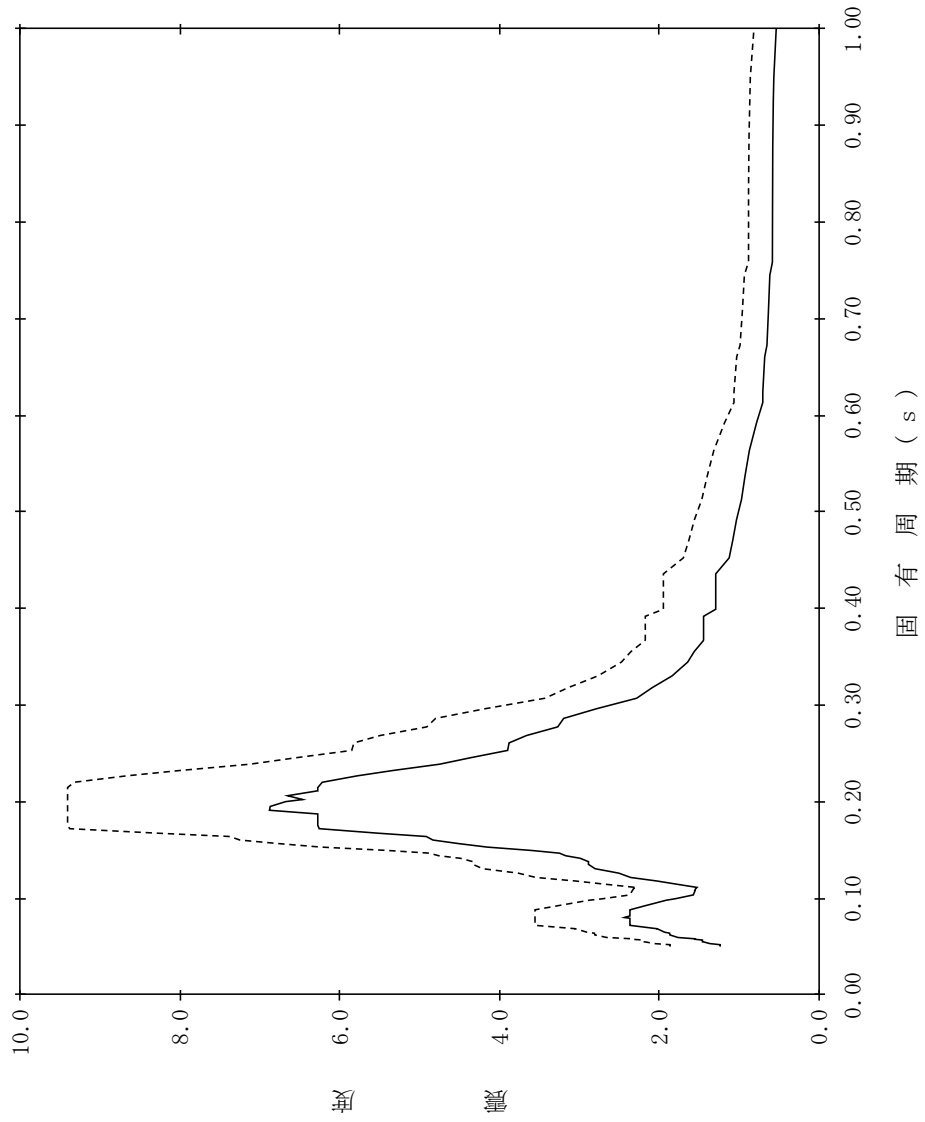
【NS2-PCV-SdEW-PCV5】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



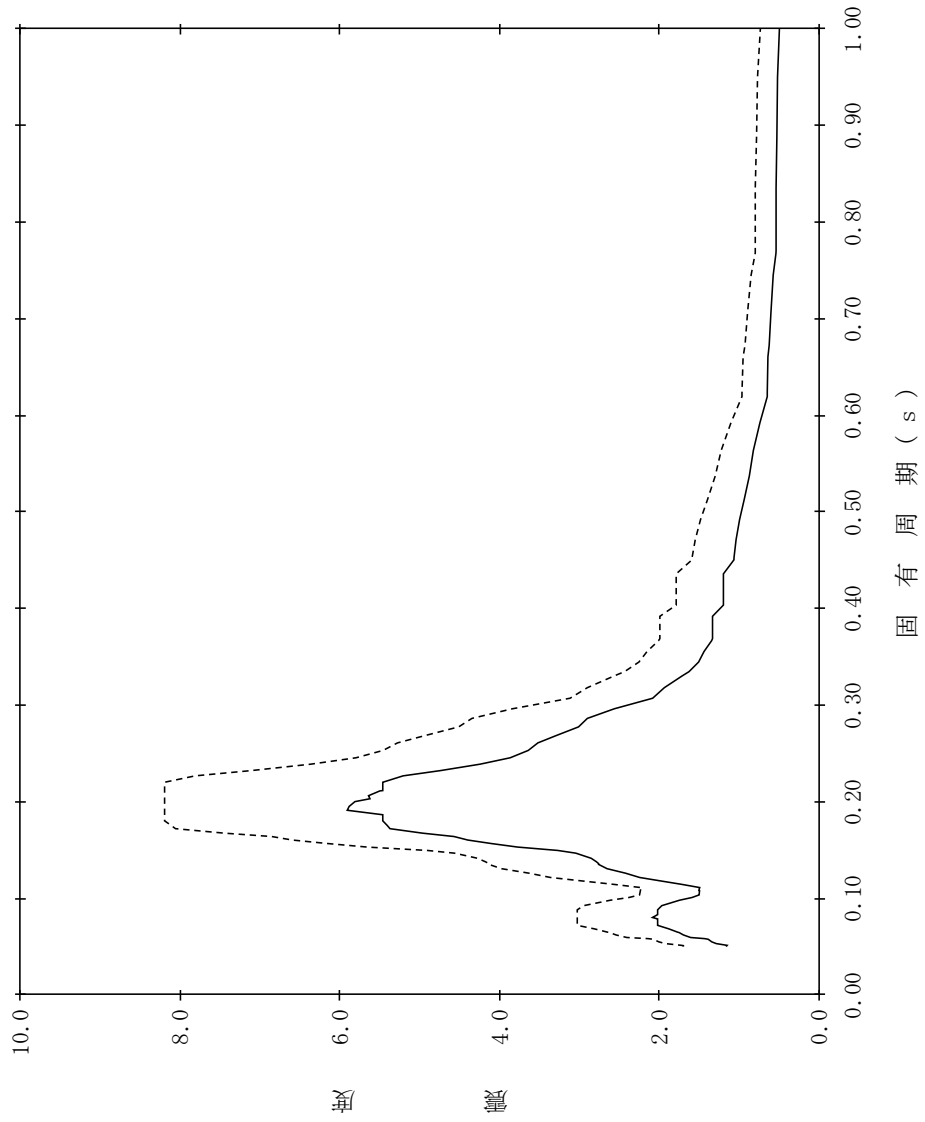
【NS2-PCV-SdEW-PCV6】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



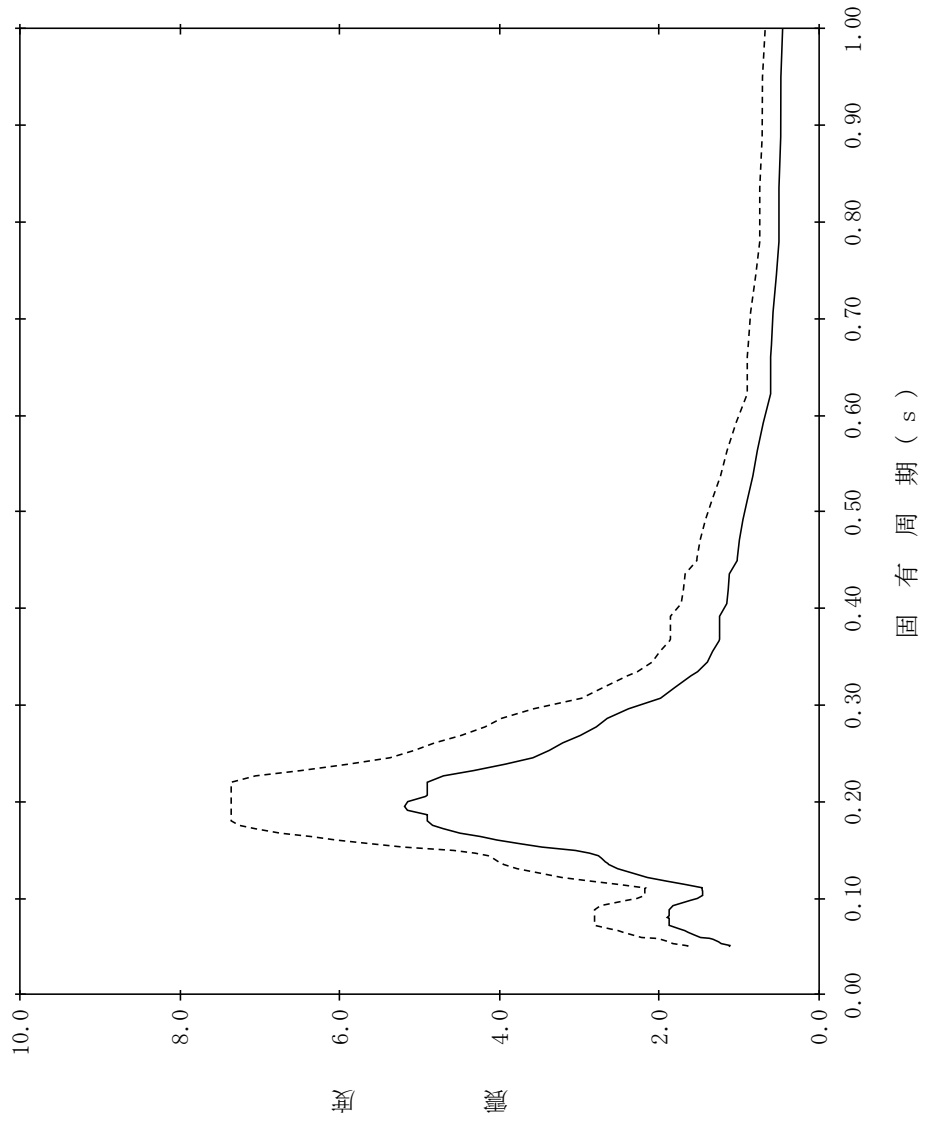
【NS2-PCV-SdEW-PCV7】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



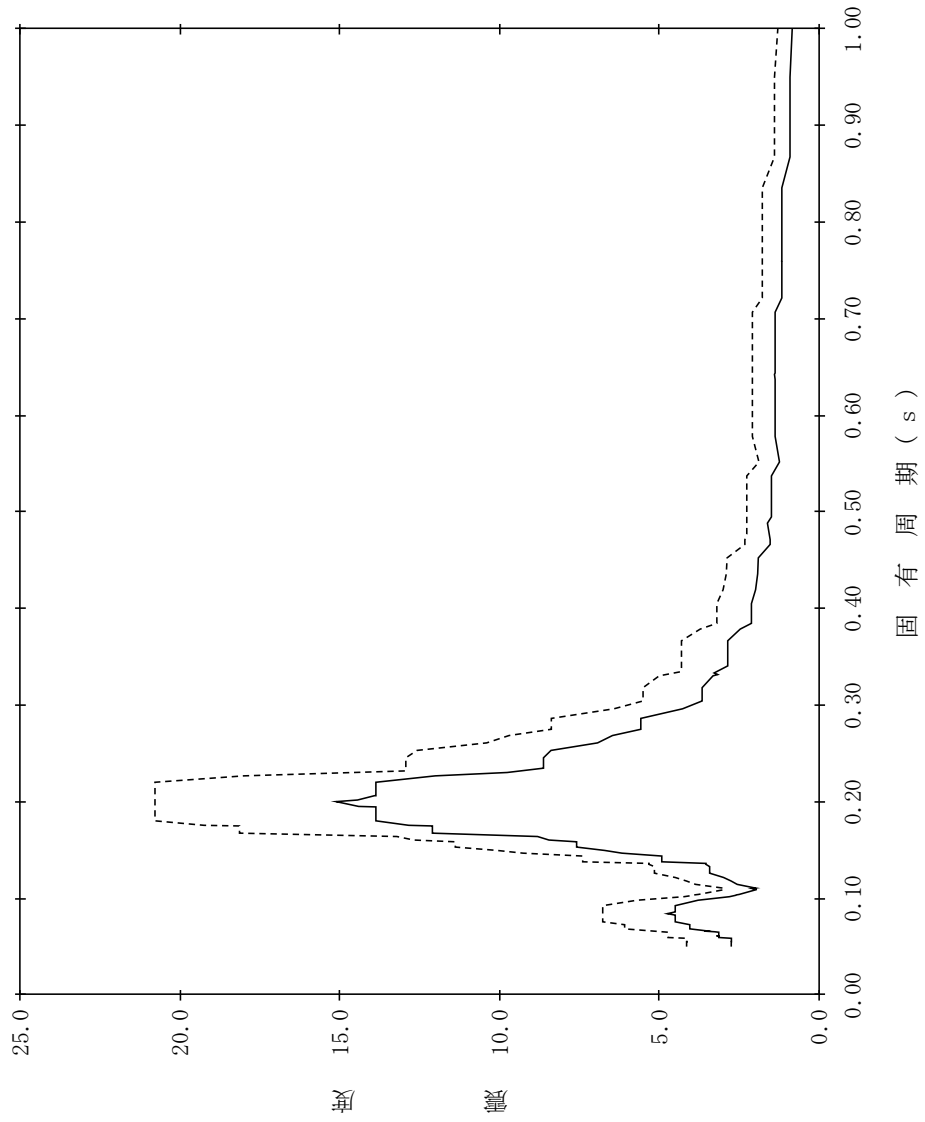
【NS2-PCV-SdEW-PCV8】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



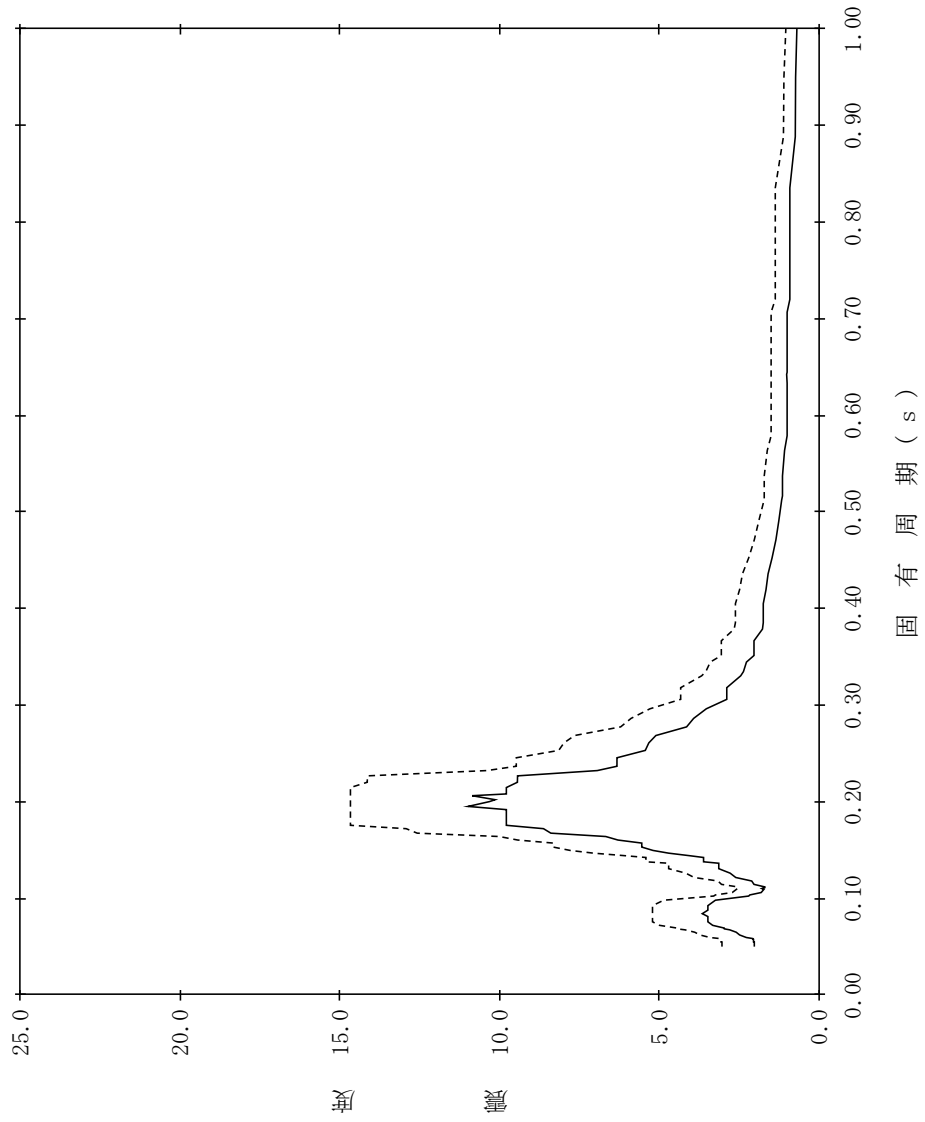
【NS2-PCV-SdEW-PCV9】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



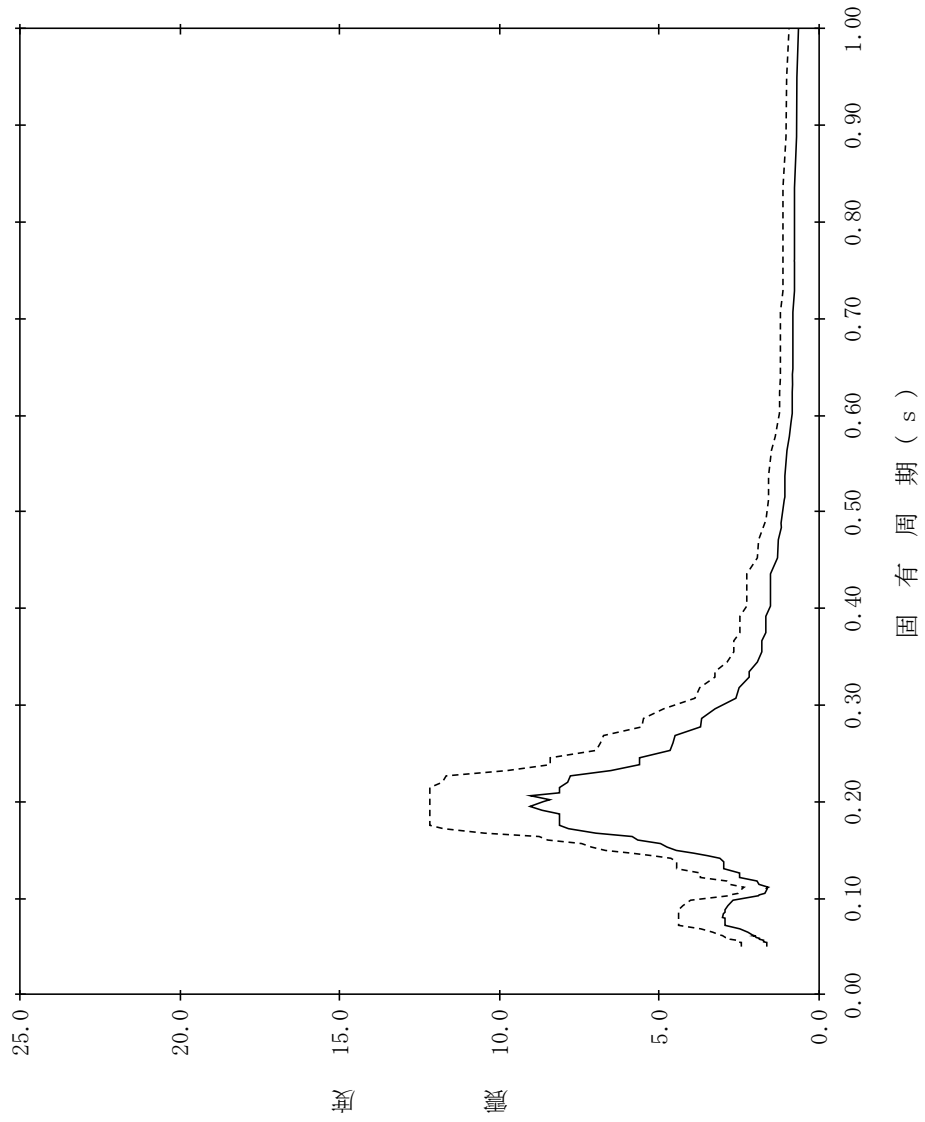
【NS2-PCV-SdEW-PCV10】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



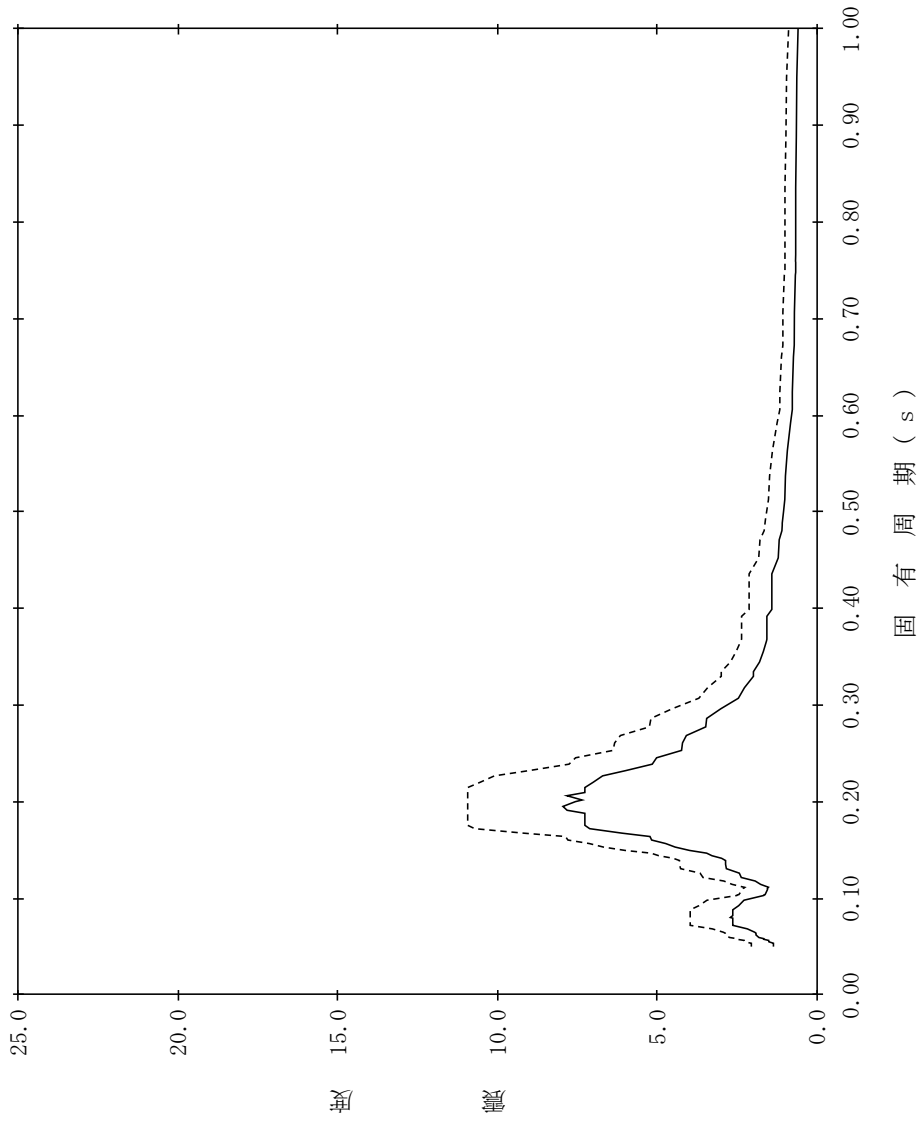
【NS2-PCV-SdEW-PCV11】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



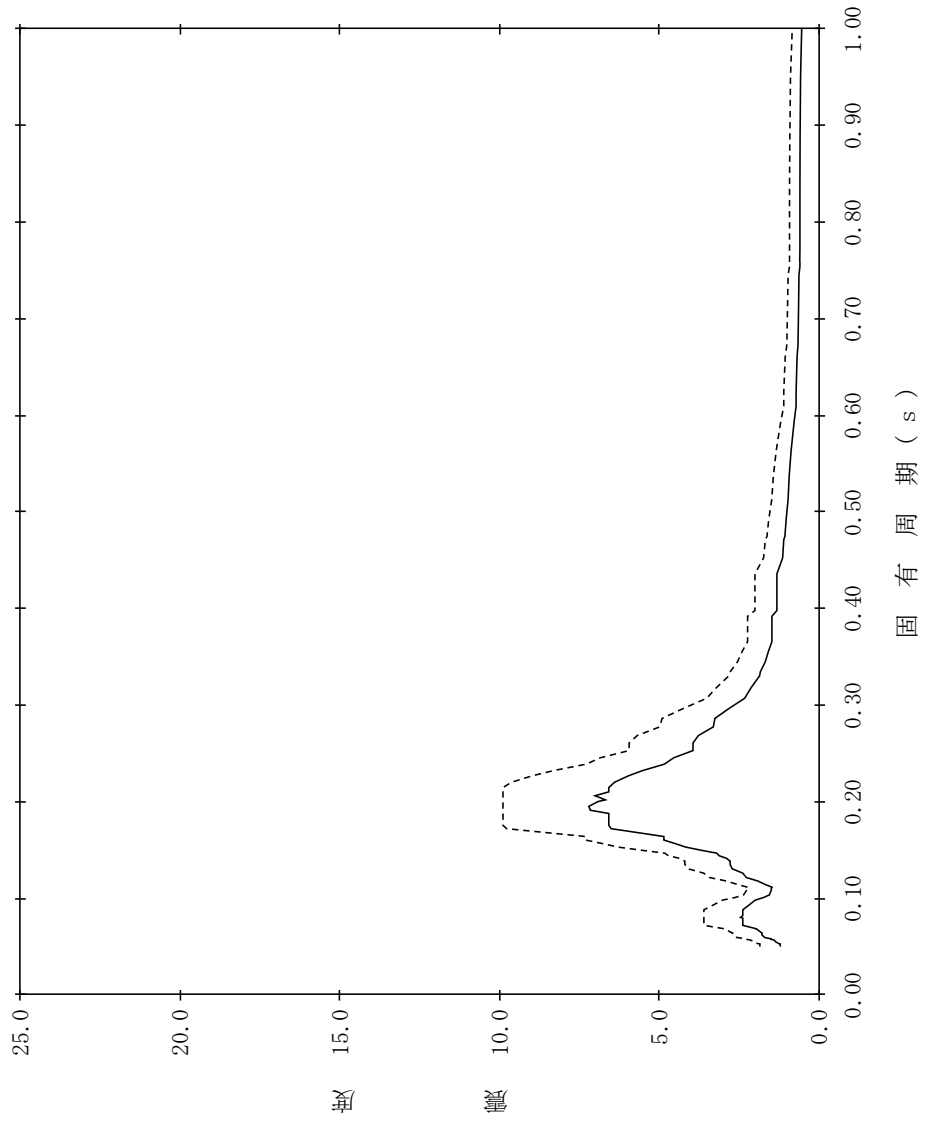
【NS2-PCV-SdEW-PCV12】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



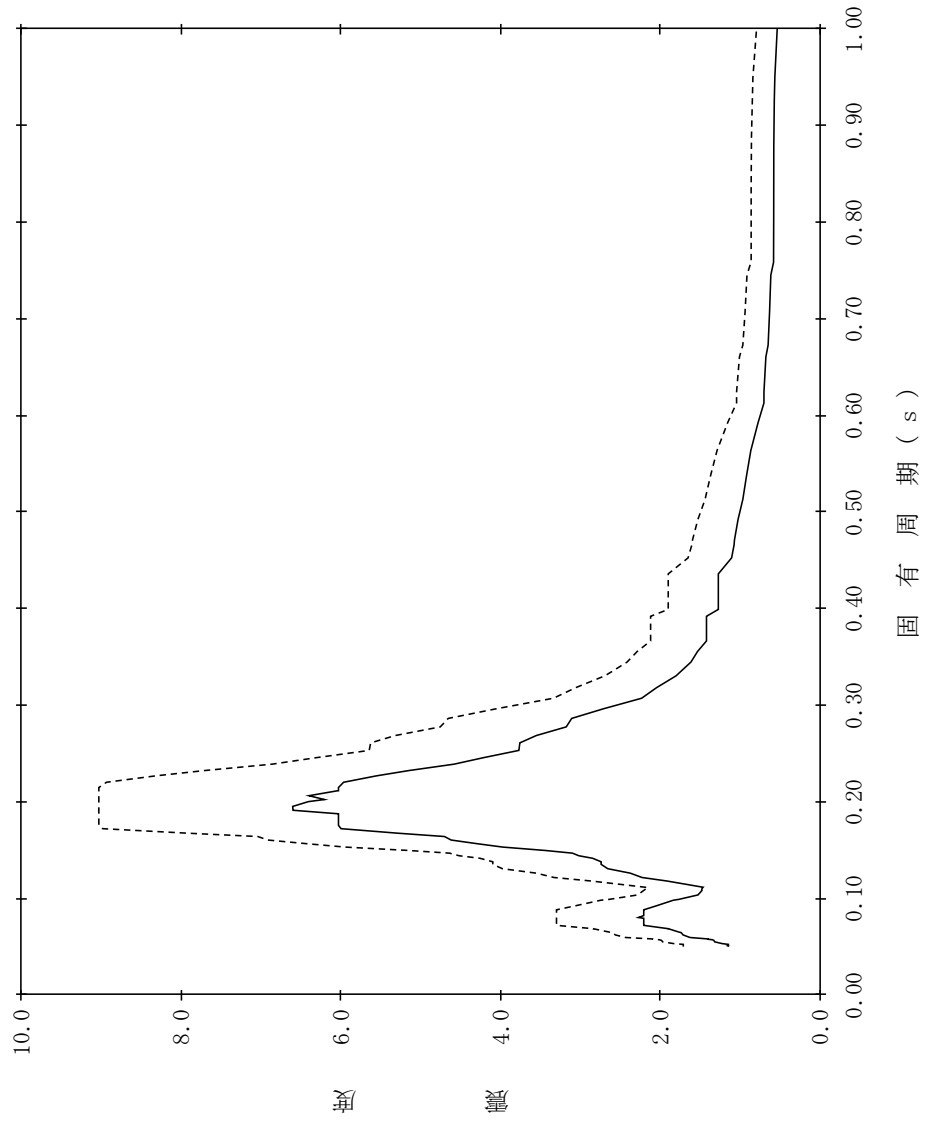
【NS2-PCV-SdEW-PCV13】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



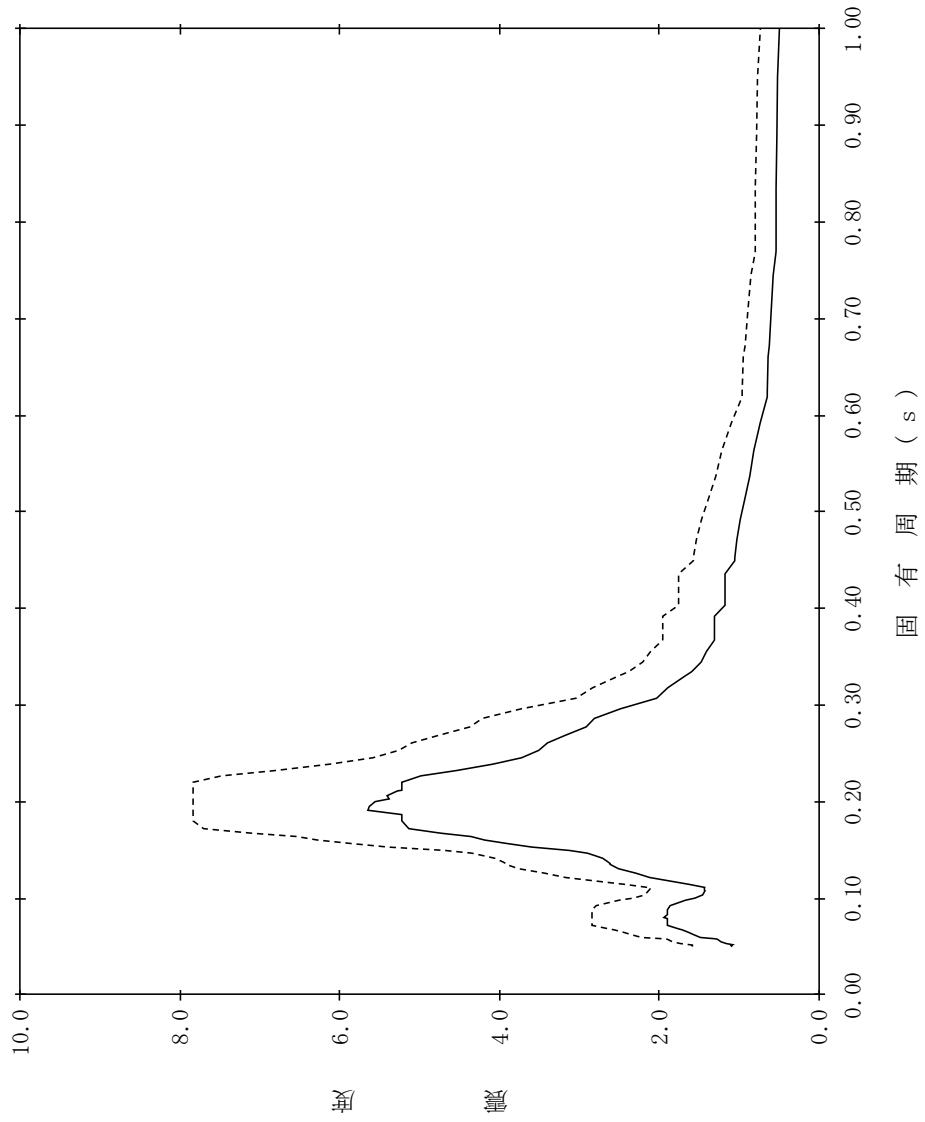
【NS2-PCV-SdEW-PCV14】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



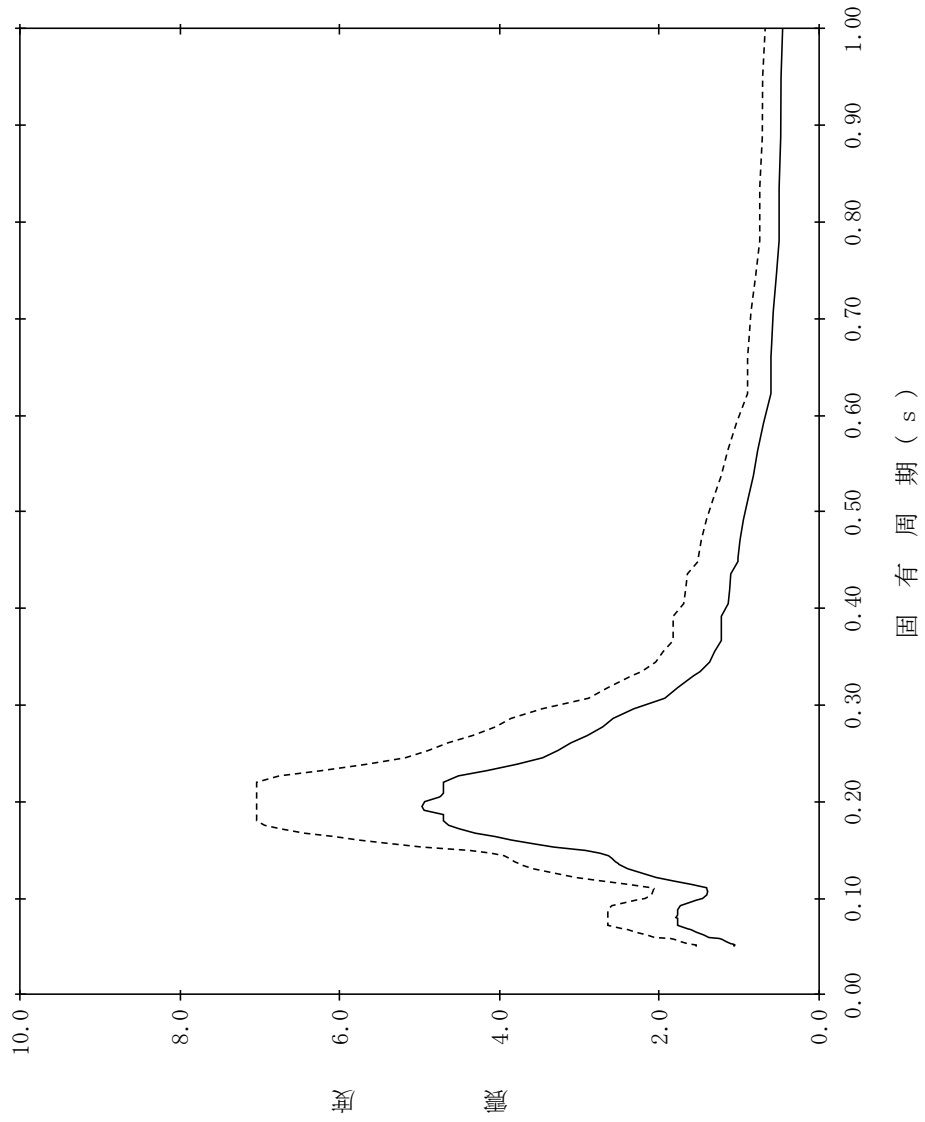
【NS2-PCV-SdEW-PCV15】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

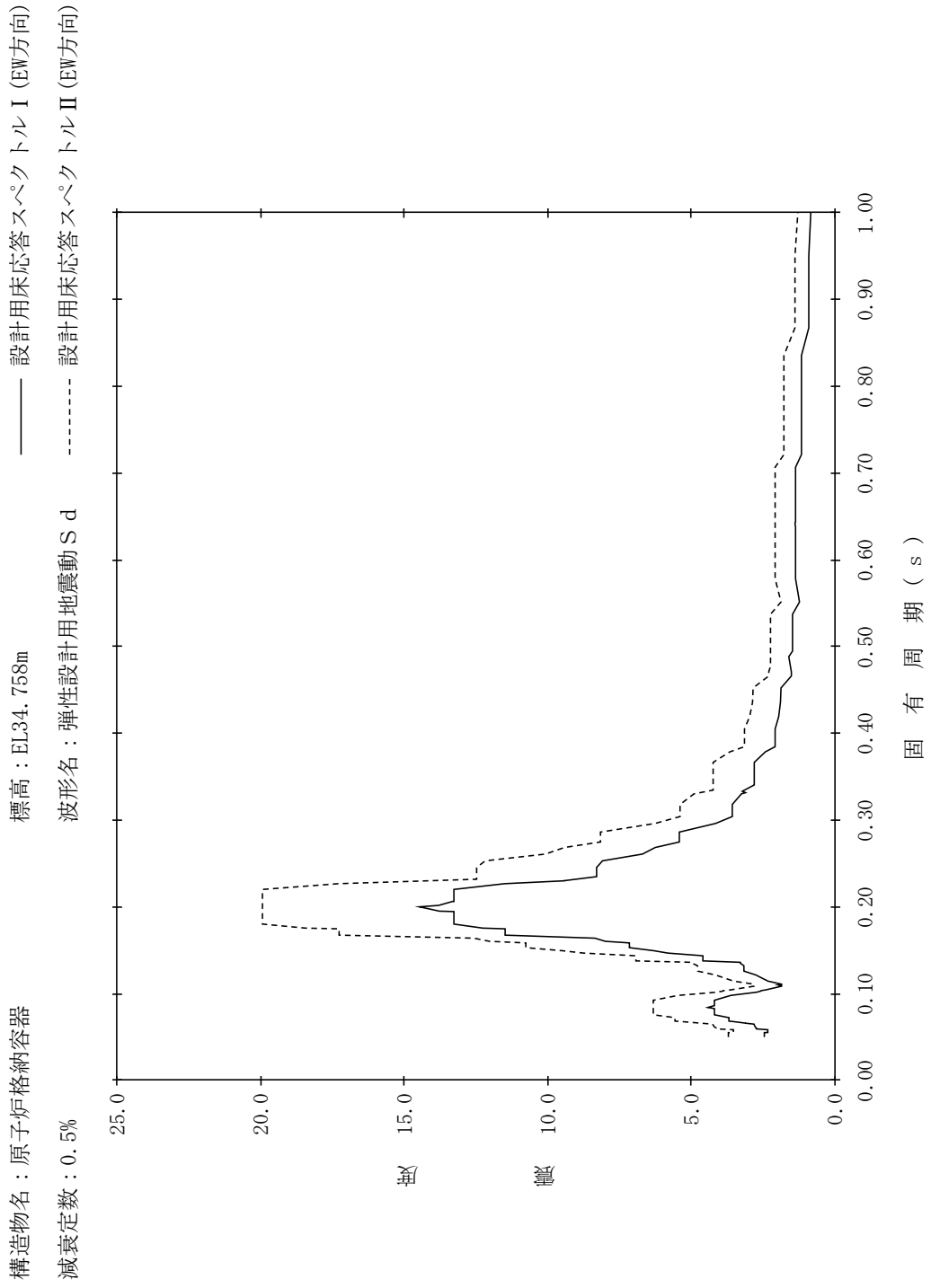


【NS2-PCV-SdEW-PCV16】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

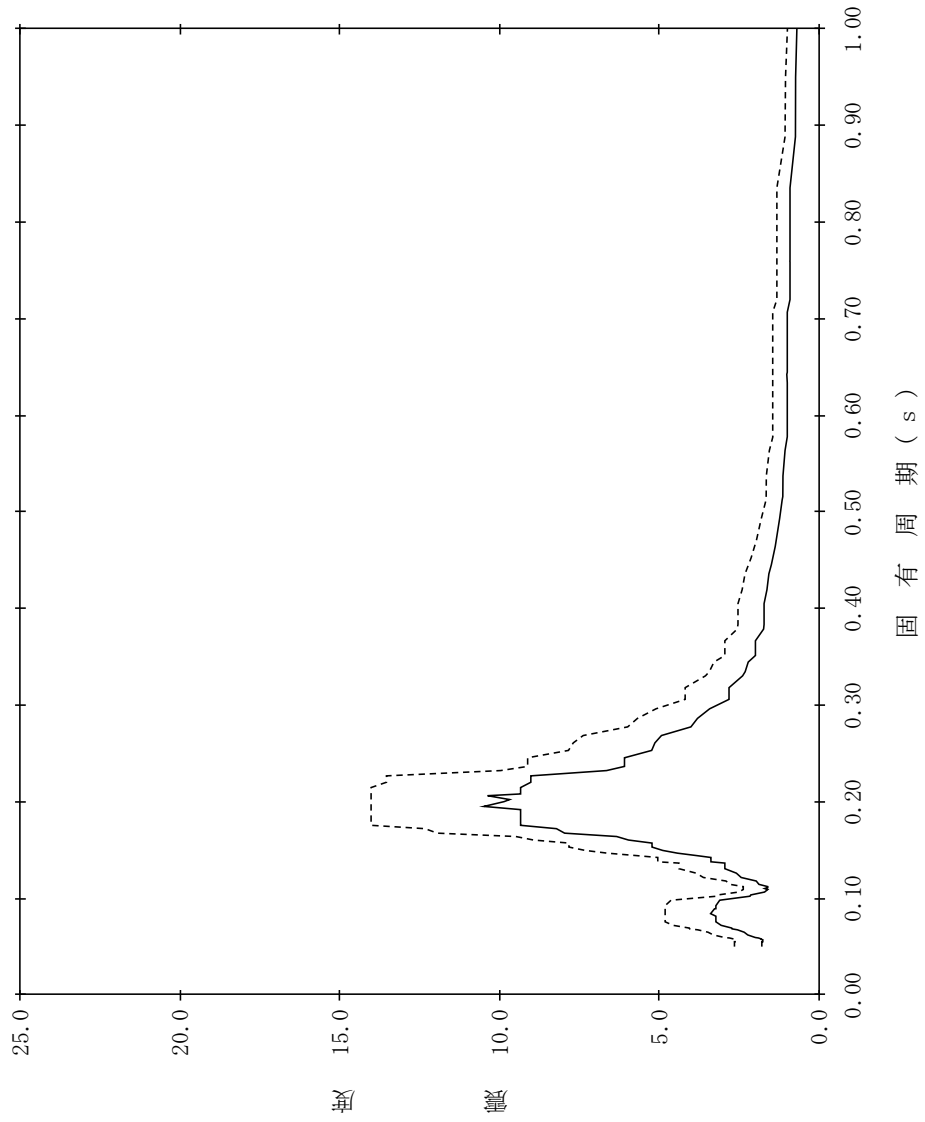


【NS2-PCV-SdEW-PCV17】



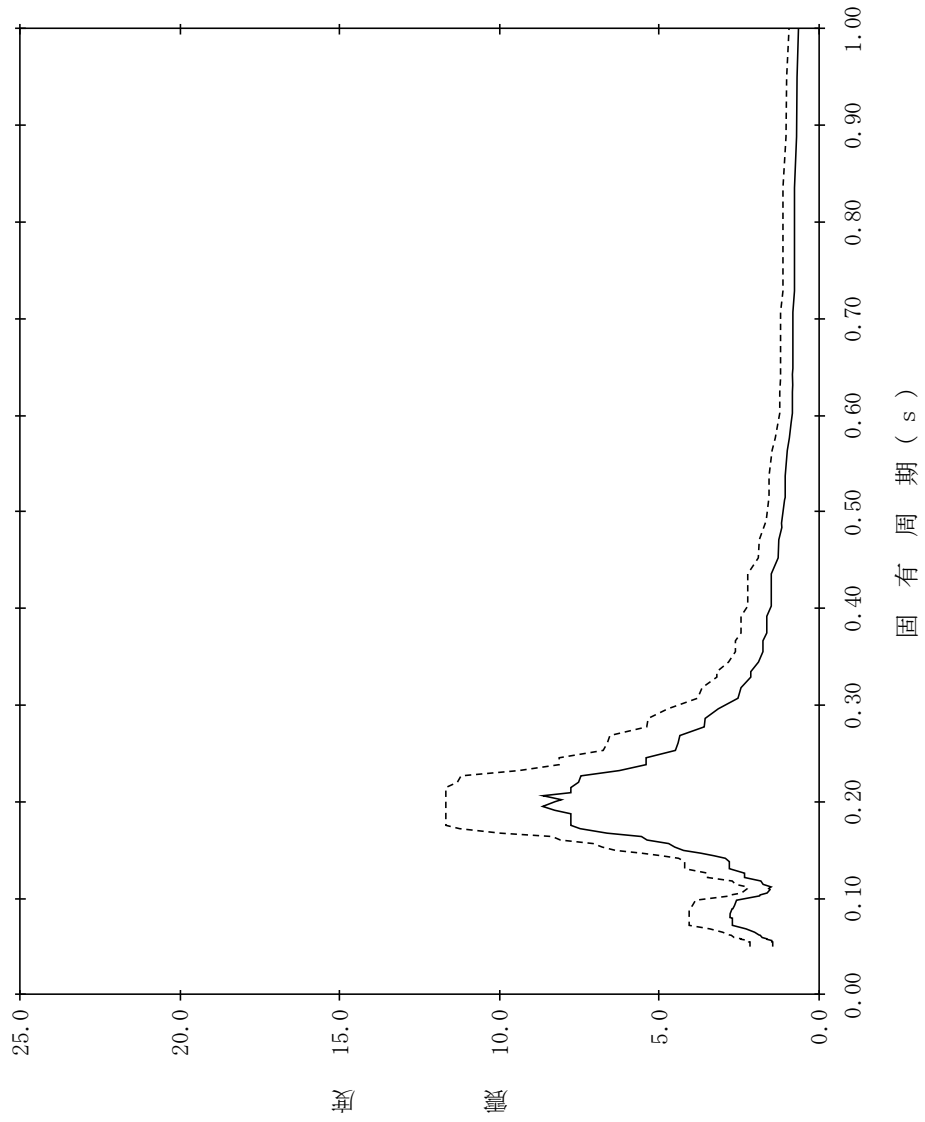
【NS2-PCV-SdEW-PCV18】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



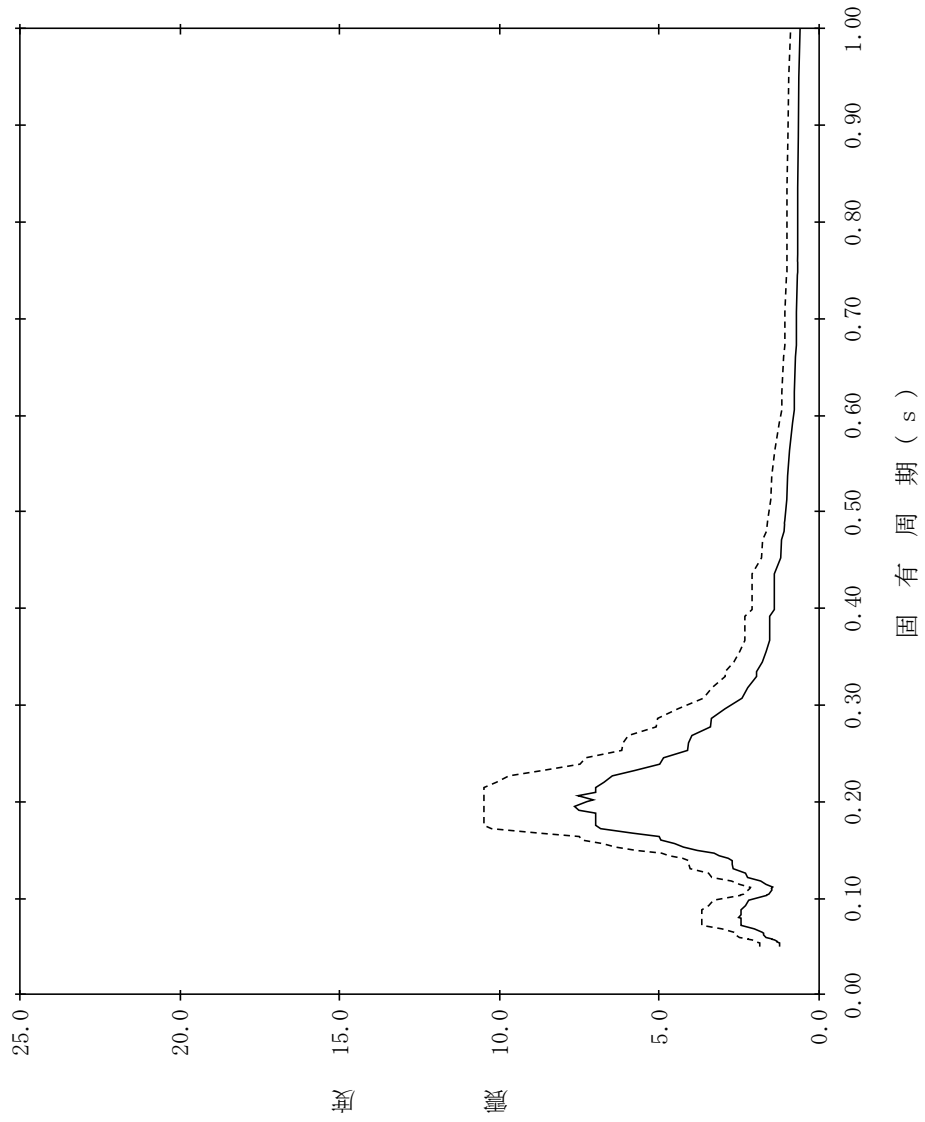
【NS2-PCV-SdEW-PCV19】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



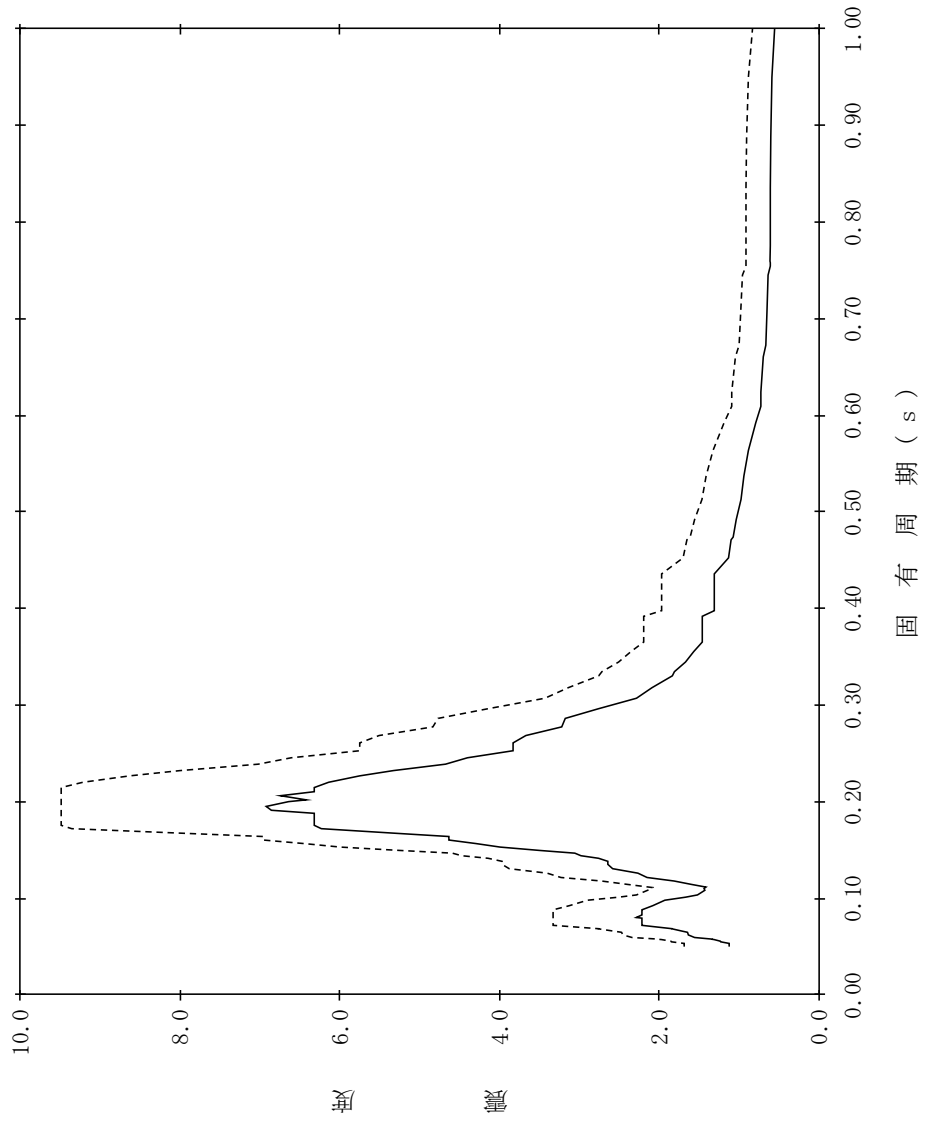
【NS2-PCV-SdEW-PCV20】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



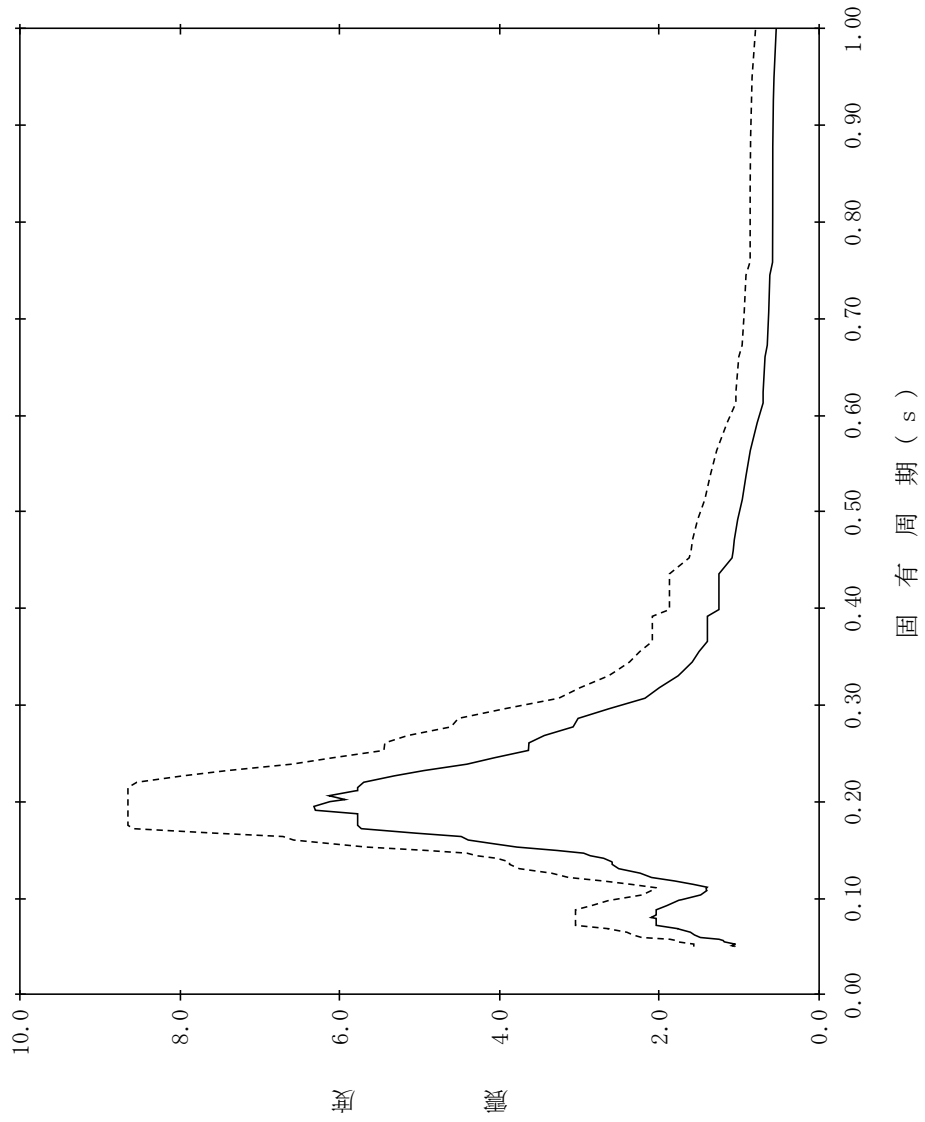
【NS2-PCV-SdEW-PCV21】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



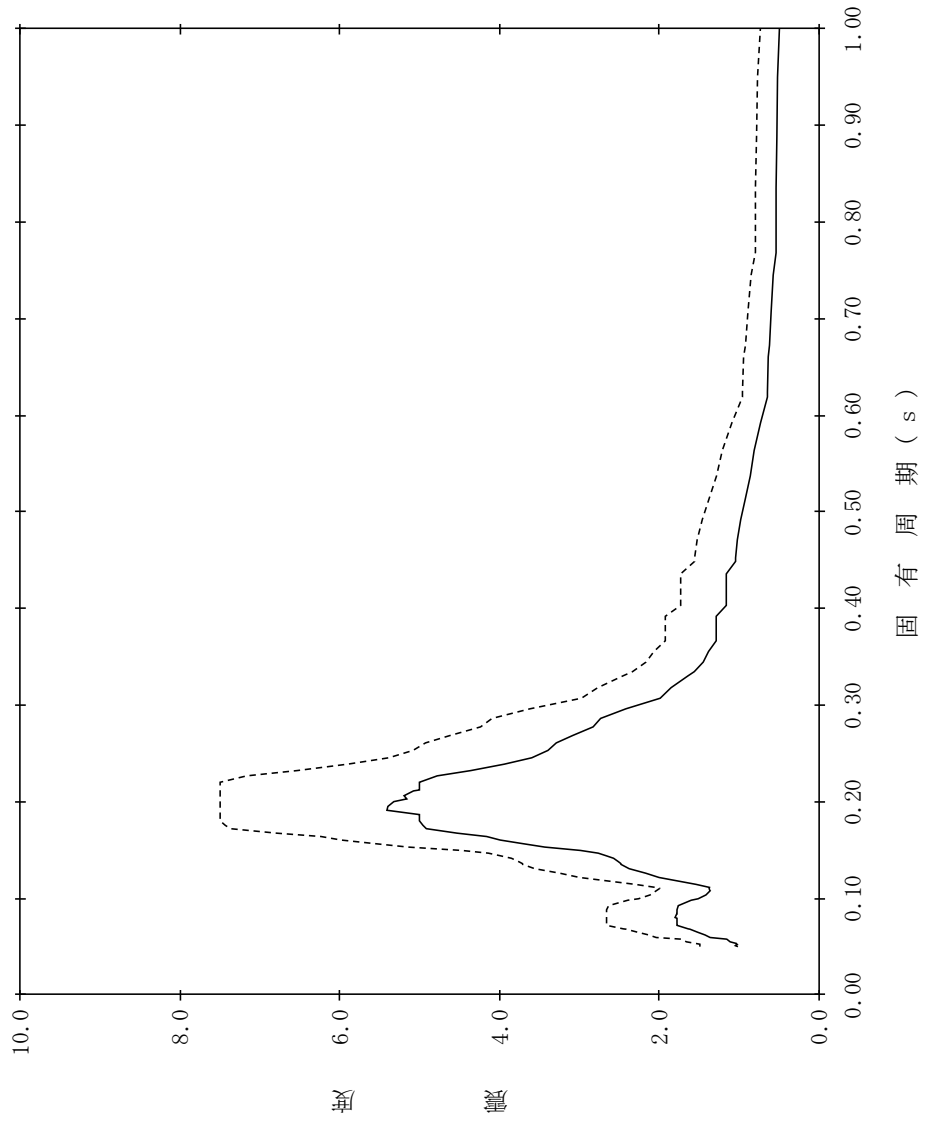
【NS2-PCV-SdEW-PCV22】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



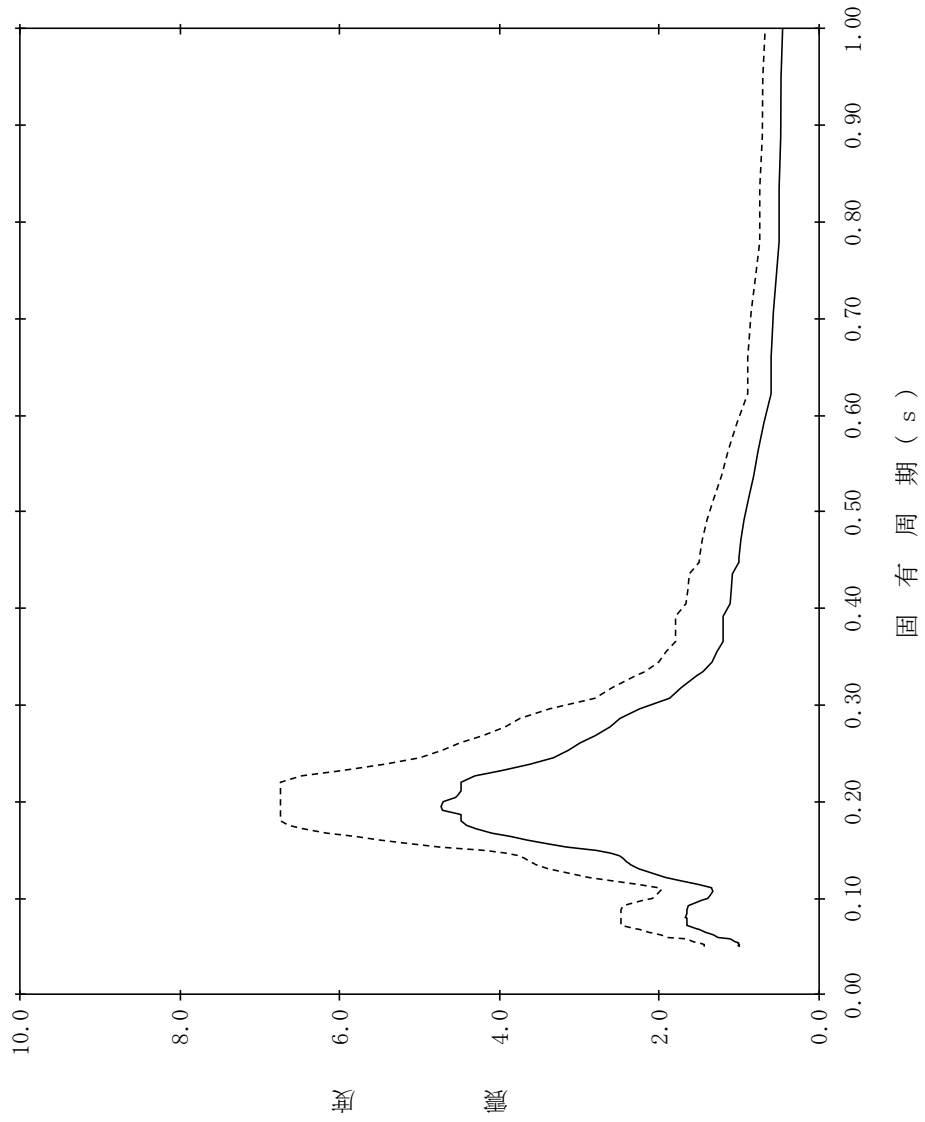
【NS2-PCV-SdEW-PCV23】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



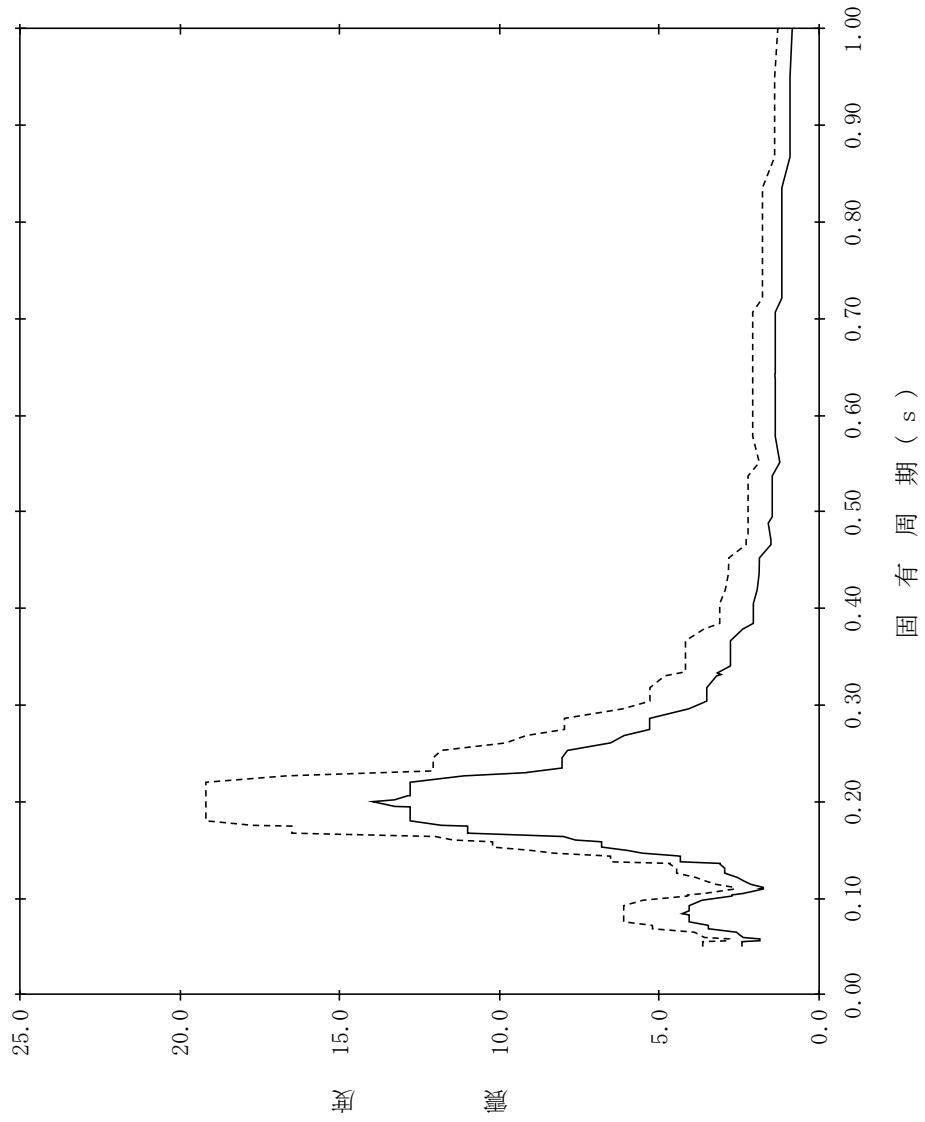
【NS2-PCV-SdEW-PCV24】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

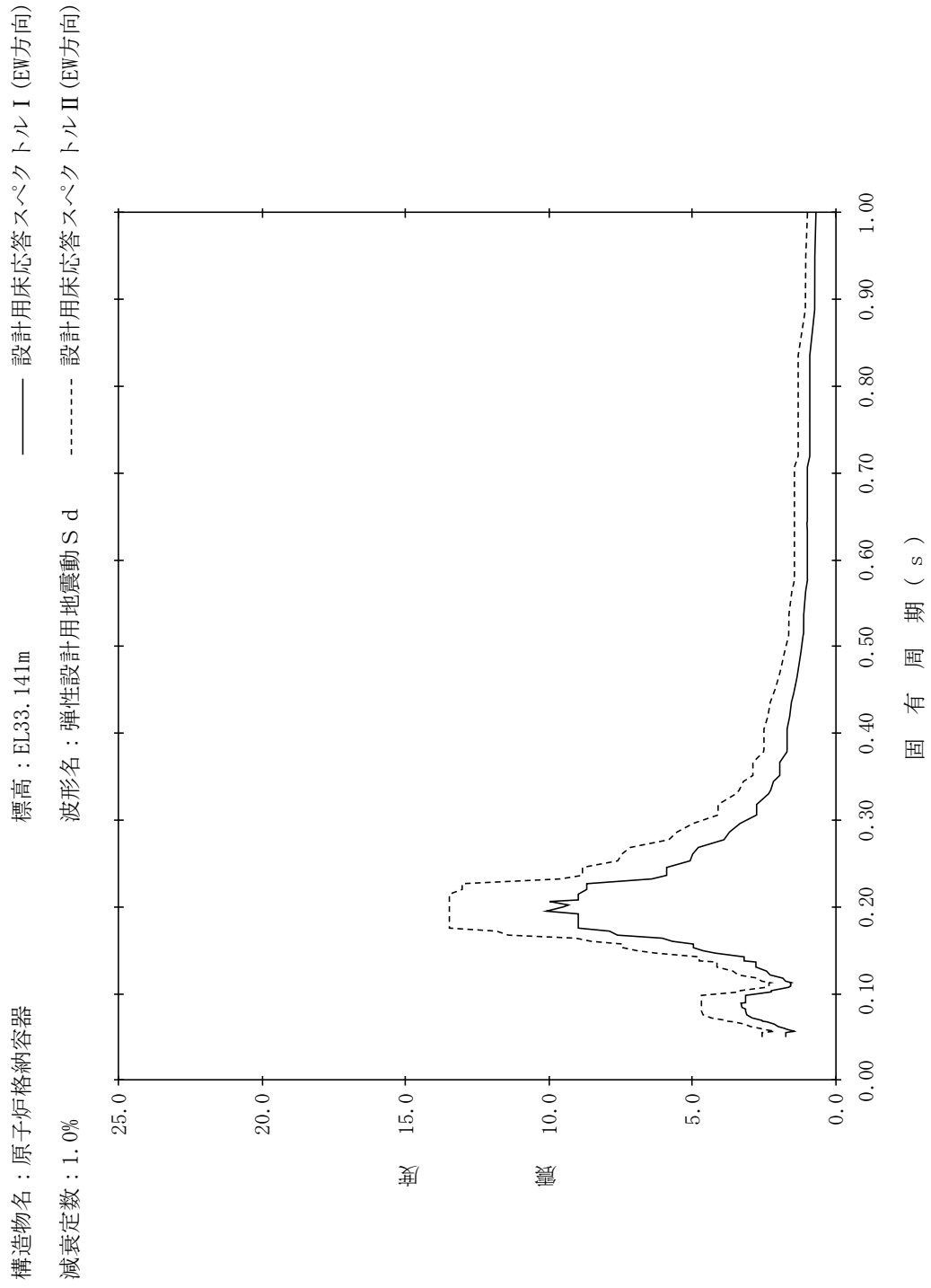


【NS2-PCV-SdEW-PCV25】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

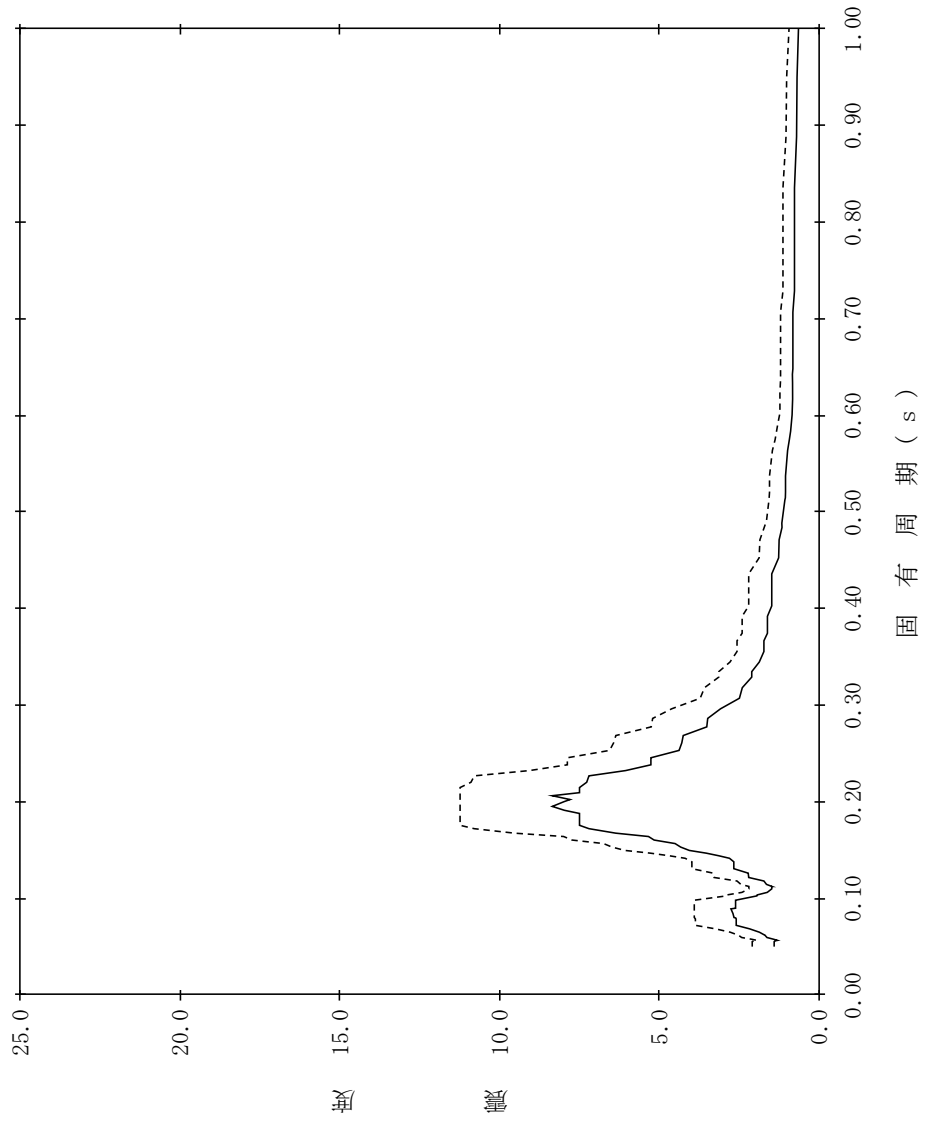


【NS2-PCV-SdEW-PCV26】



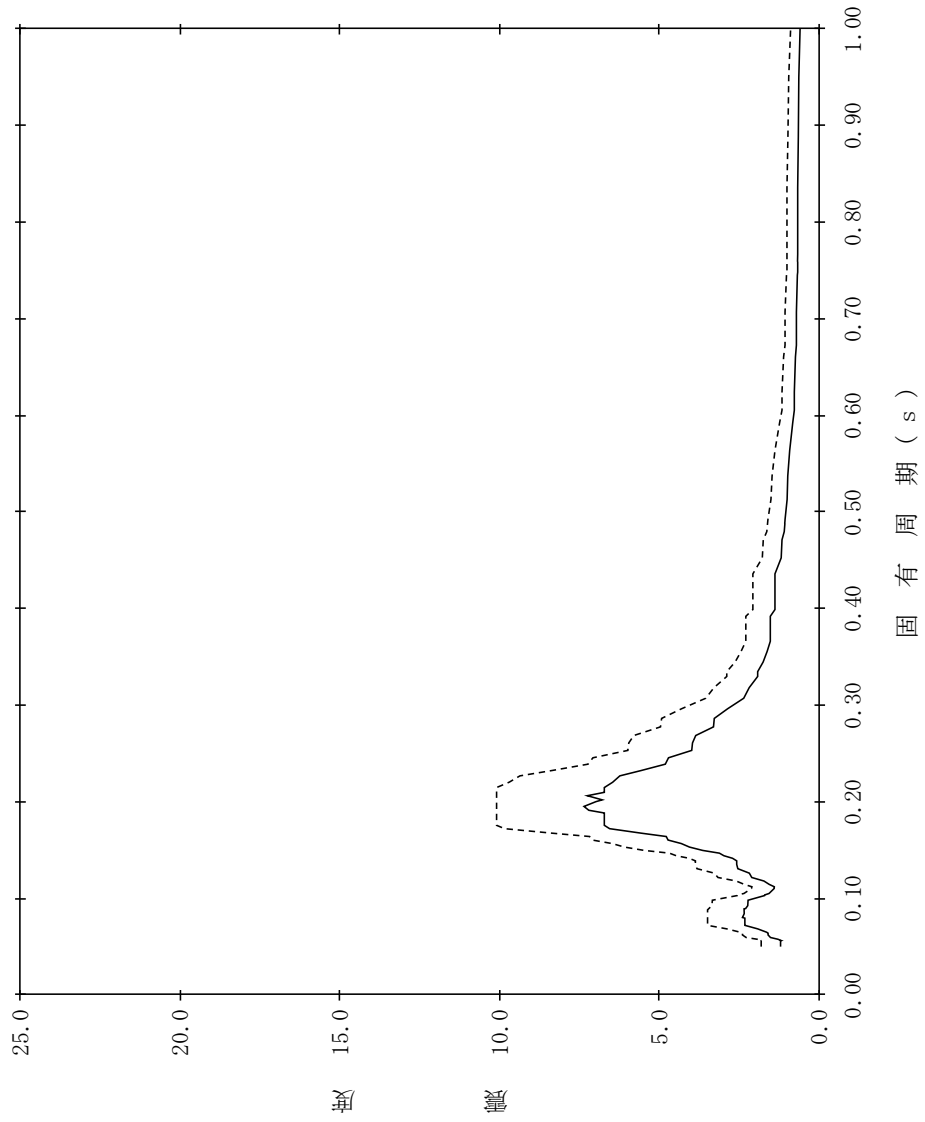
【NS2-PCV-SdEW-PCV27】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

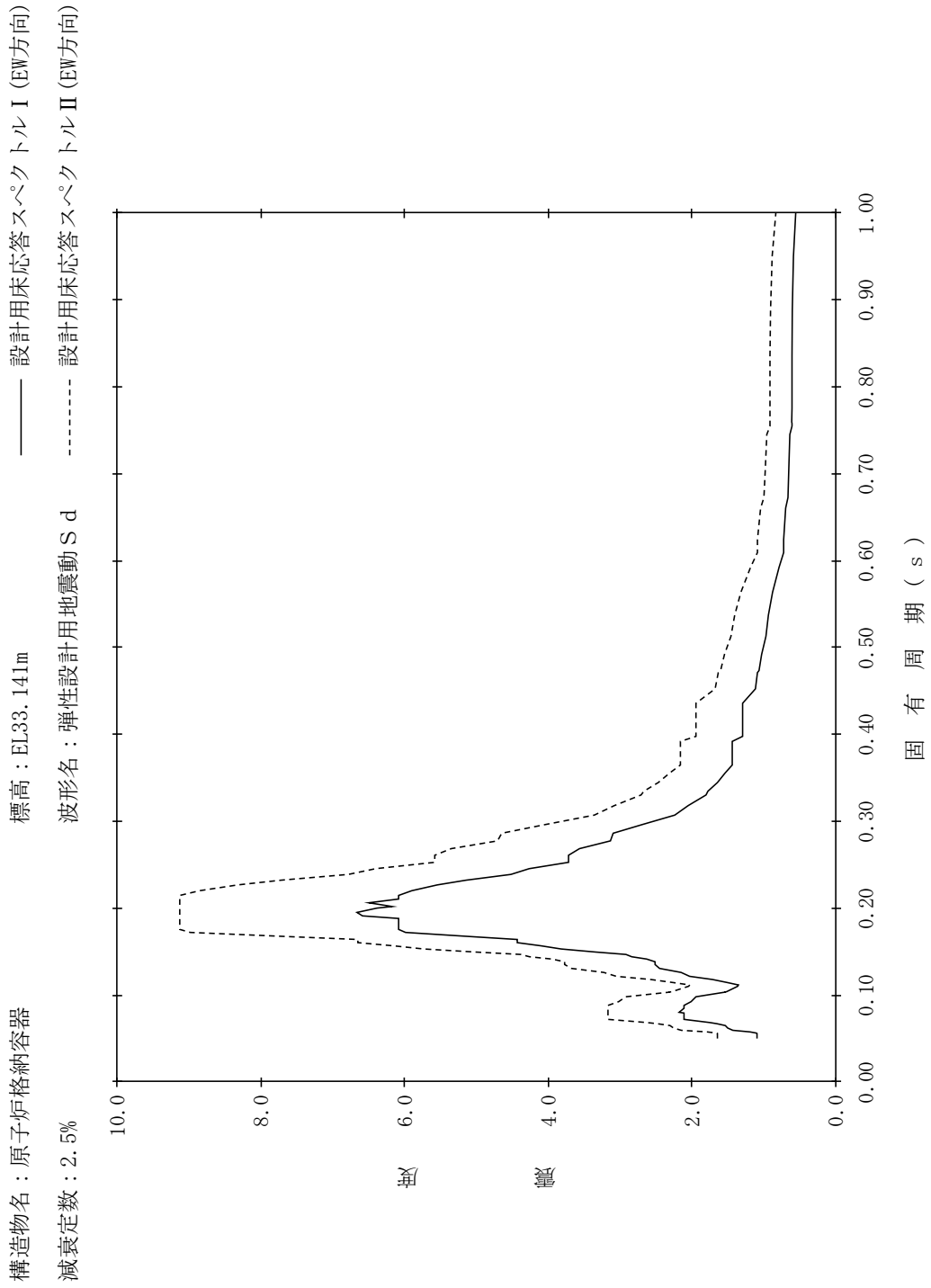


【NS2-PCV-SdEW-PCV28】

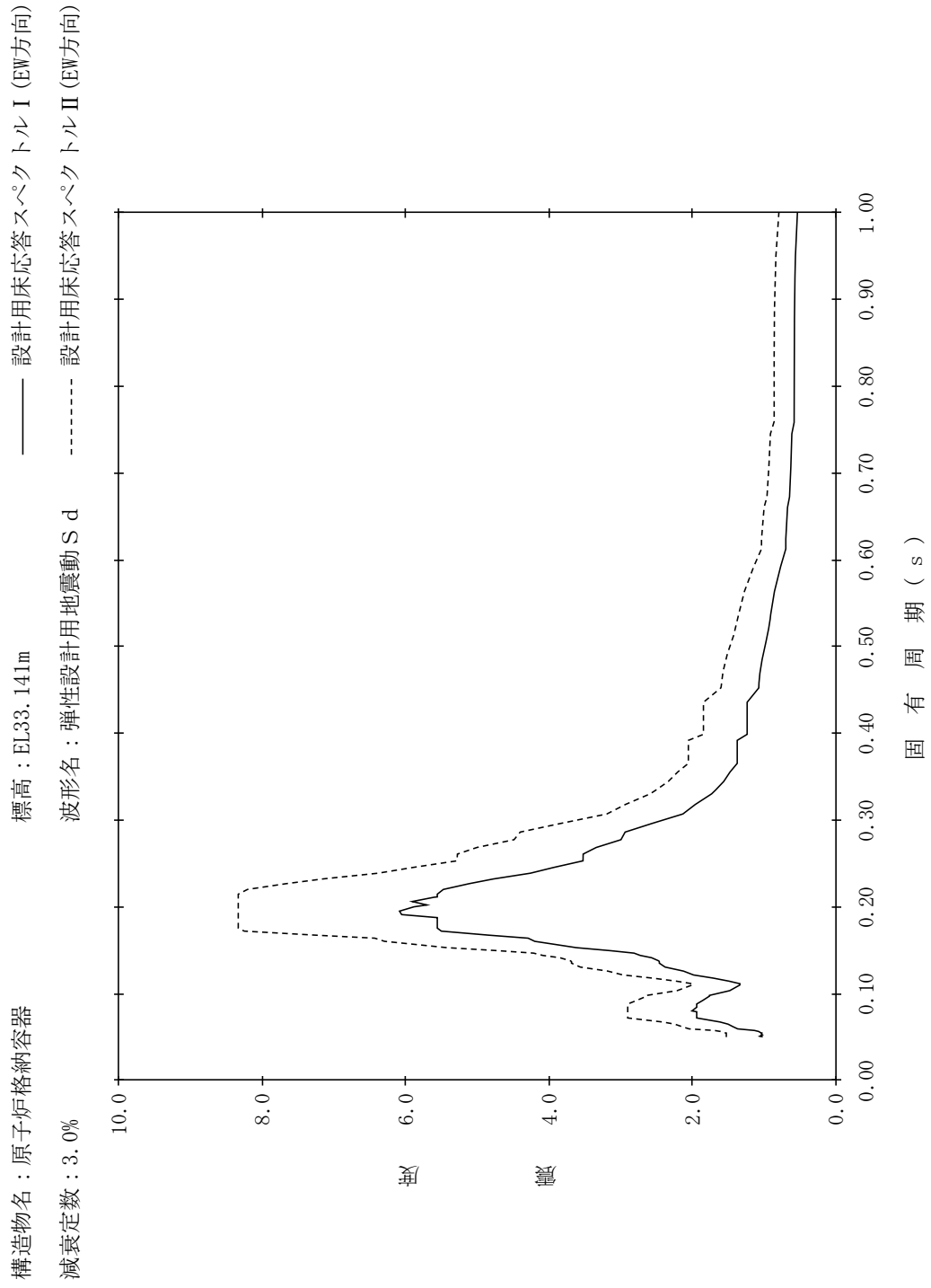
構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-PCV-SdEW-PCV29】

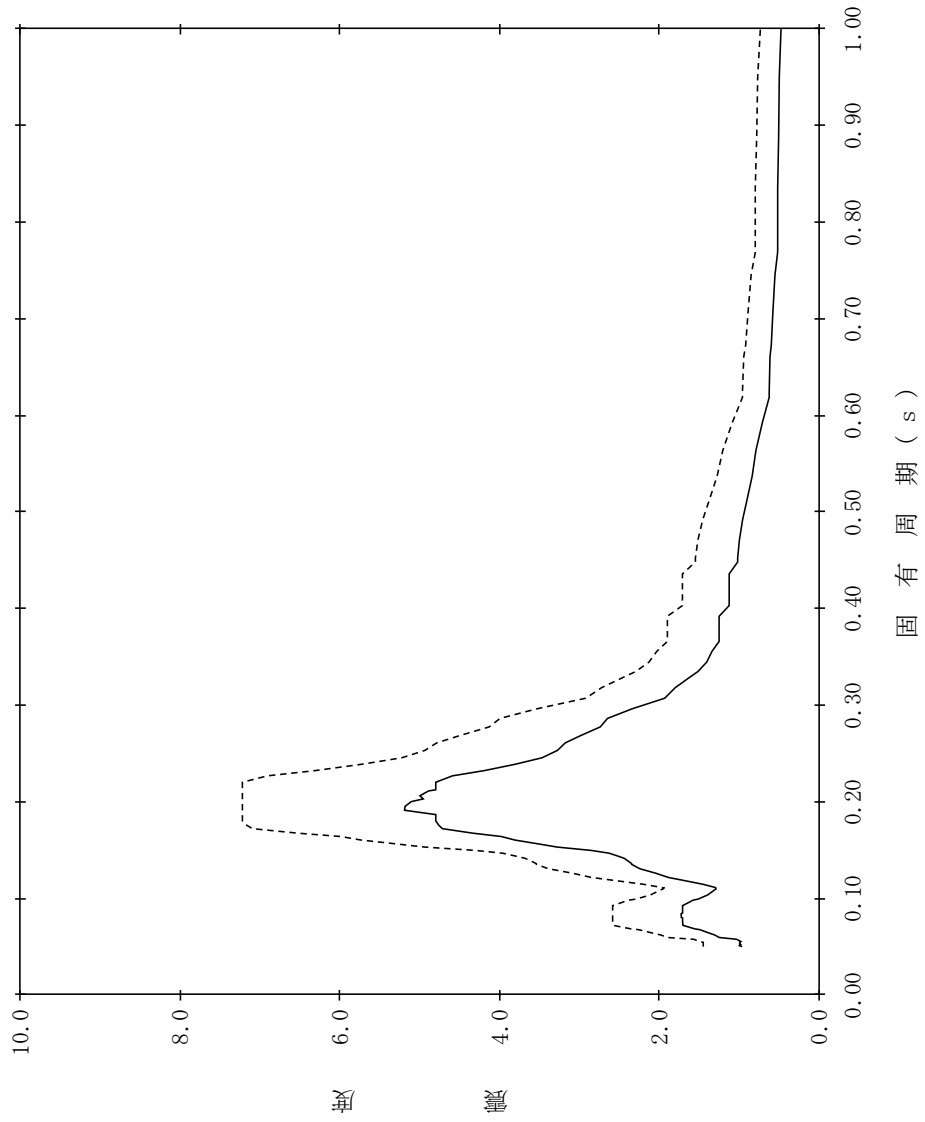


【NS2-PCV-SdEW-PCV30】



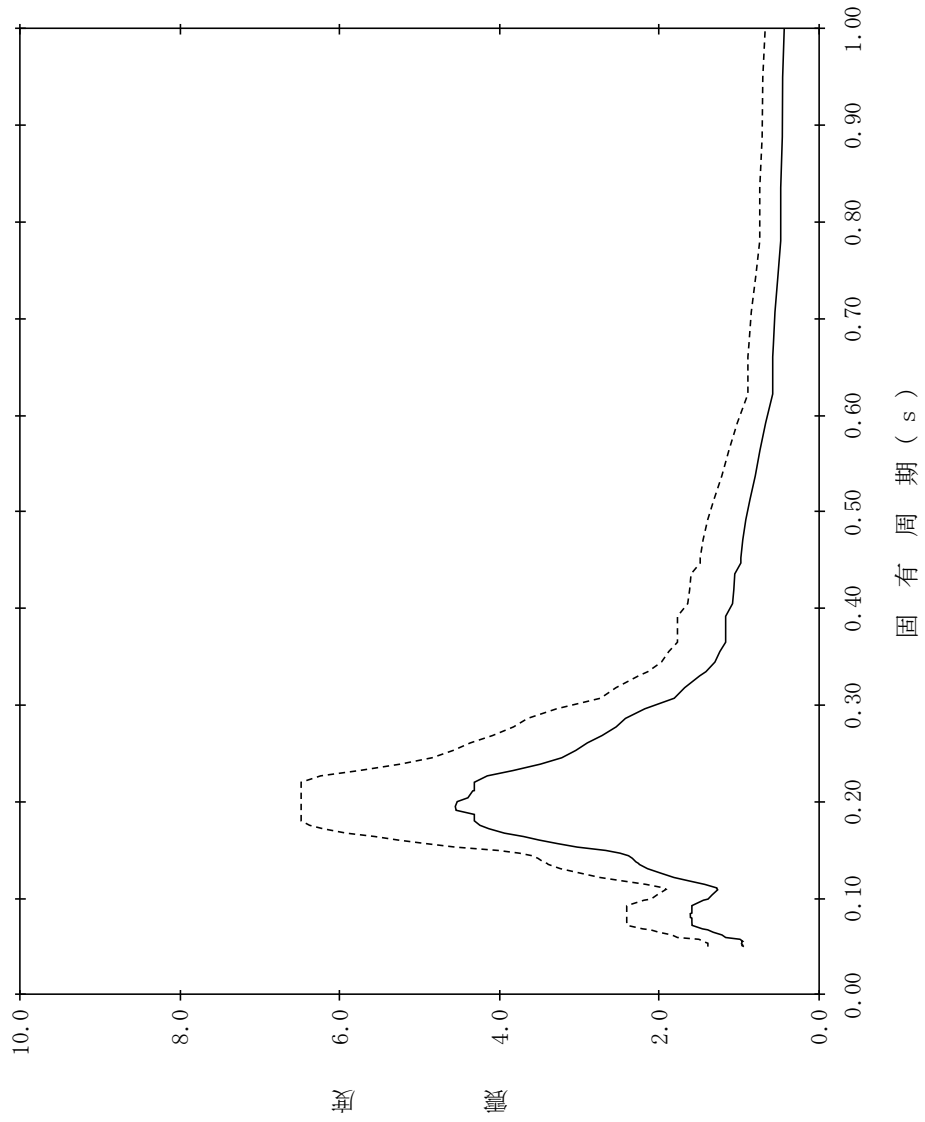
【NS2-PCV-SdEW-PCV31】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

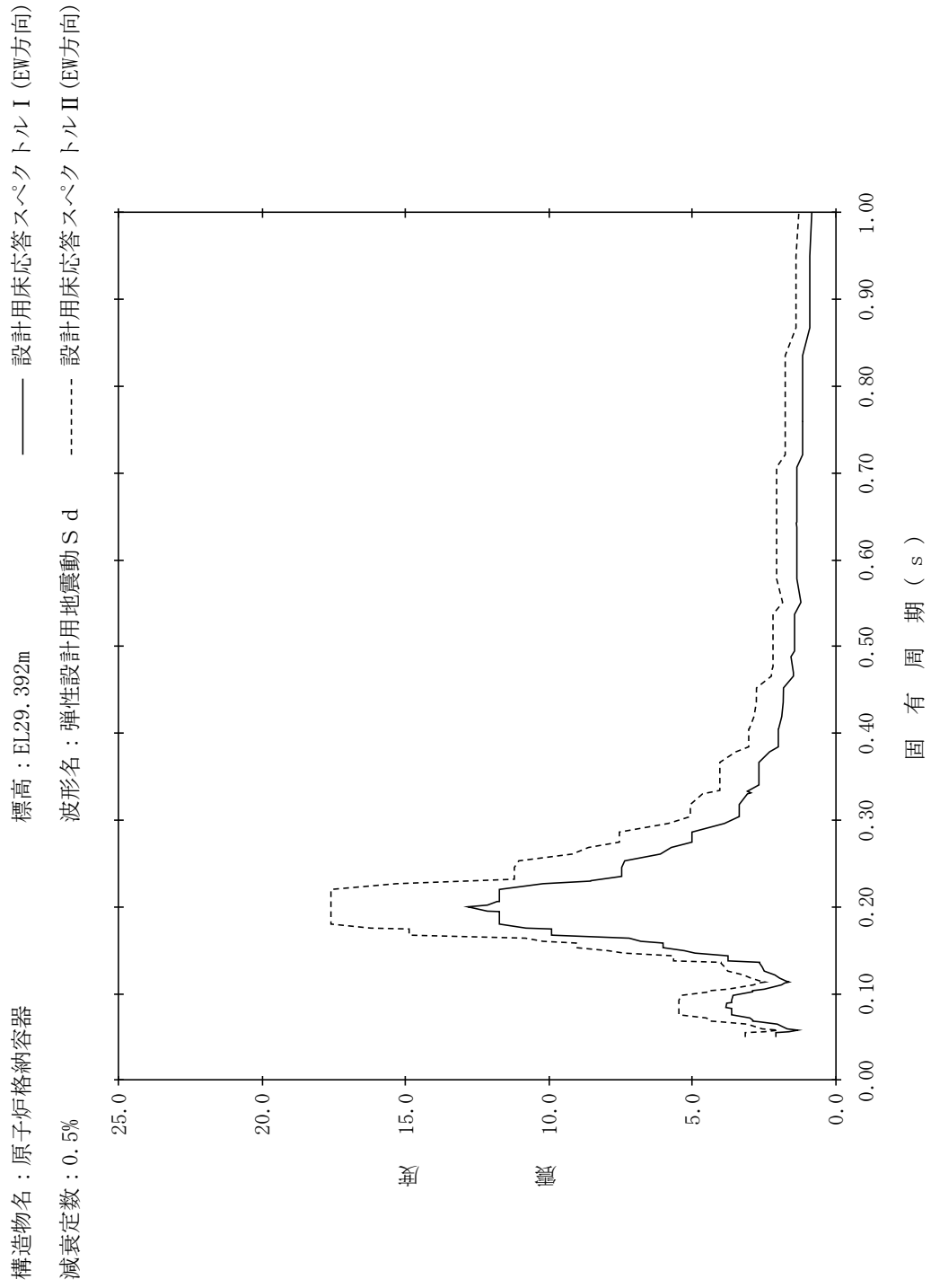


【NS2-PCV-SdEW-PCV32】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

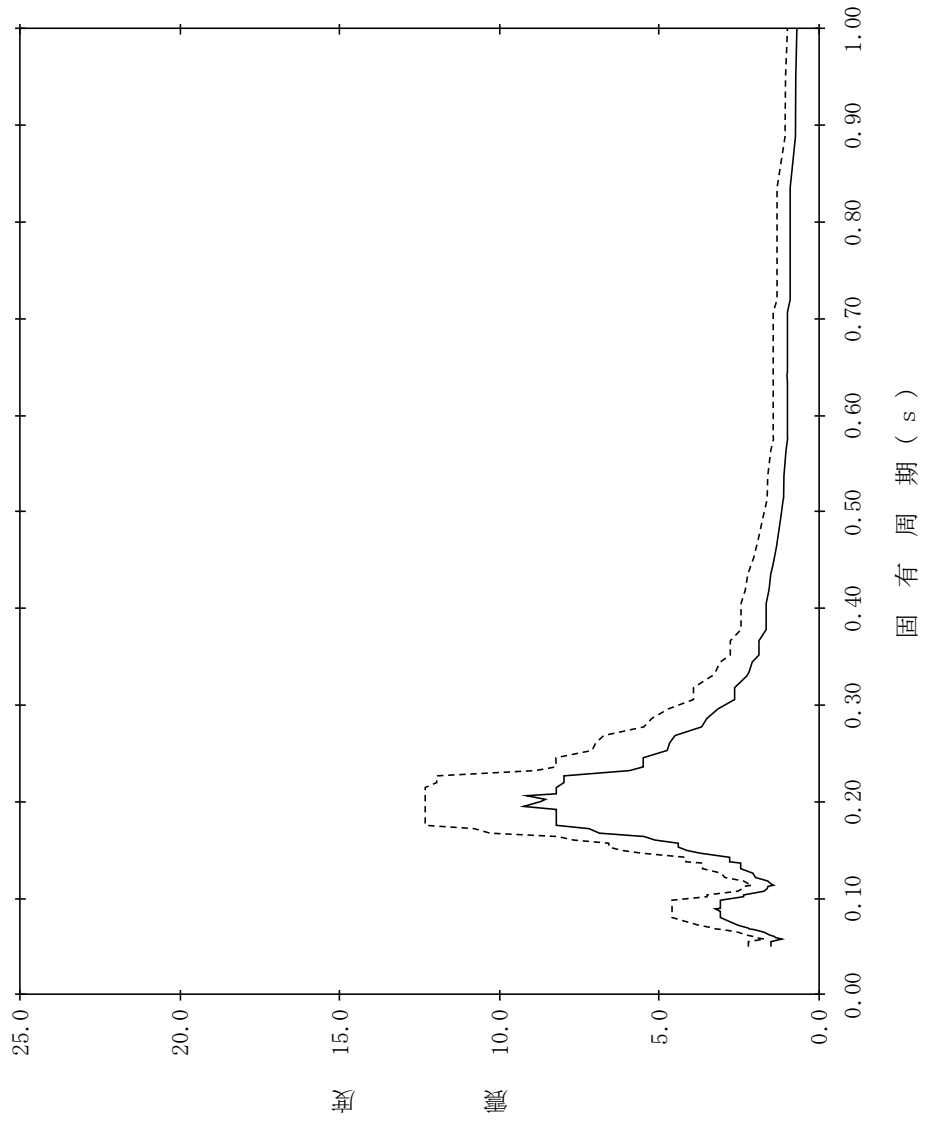


【NS2-PCV-SdEW-PCV33】



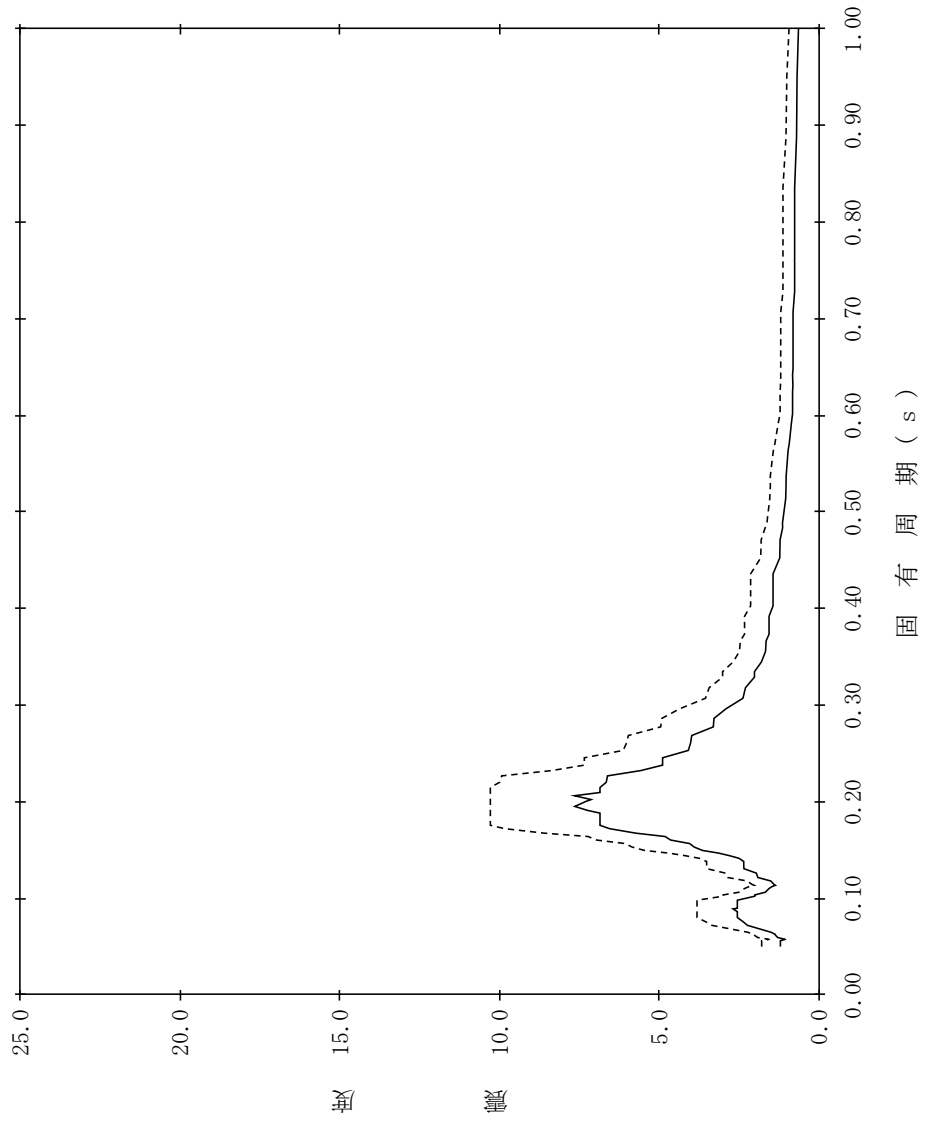
【NS2-PCV-SdEW-PCV34】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL29.392m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



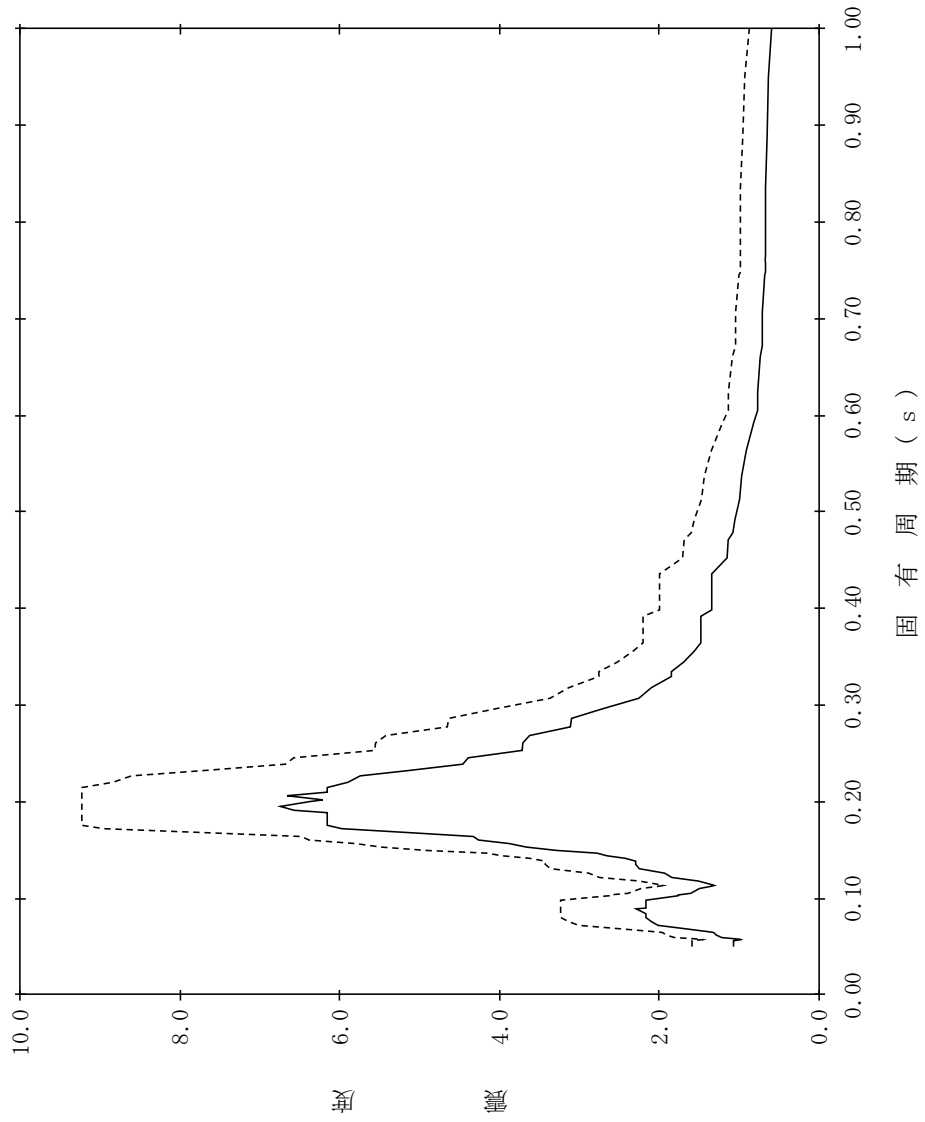
【NS2-PCV-SdEW-PCV35】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

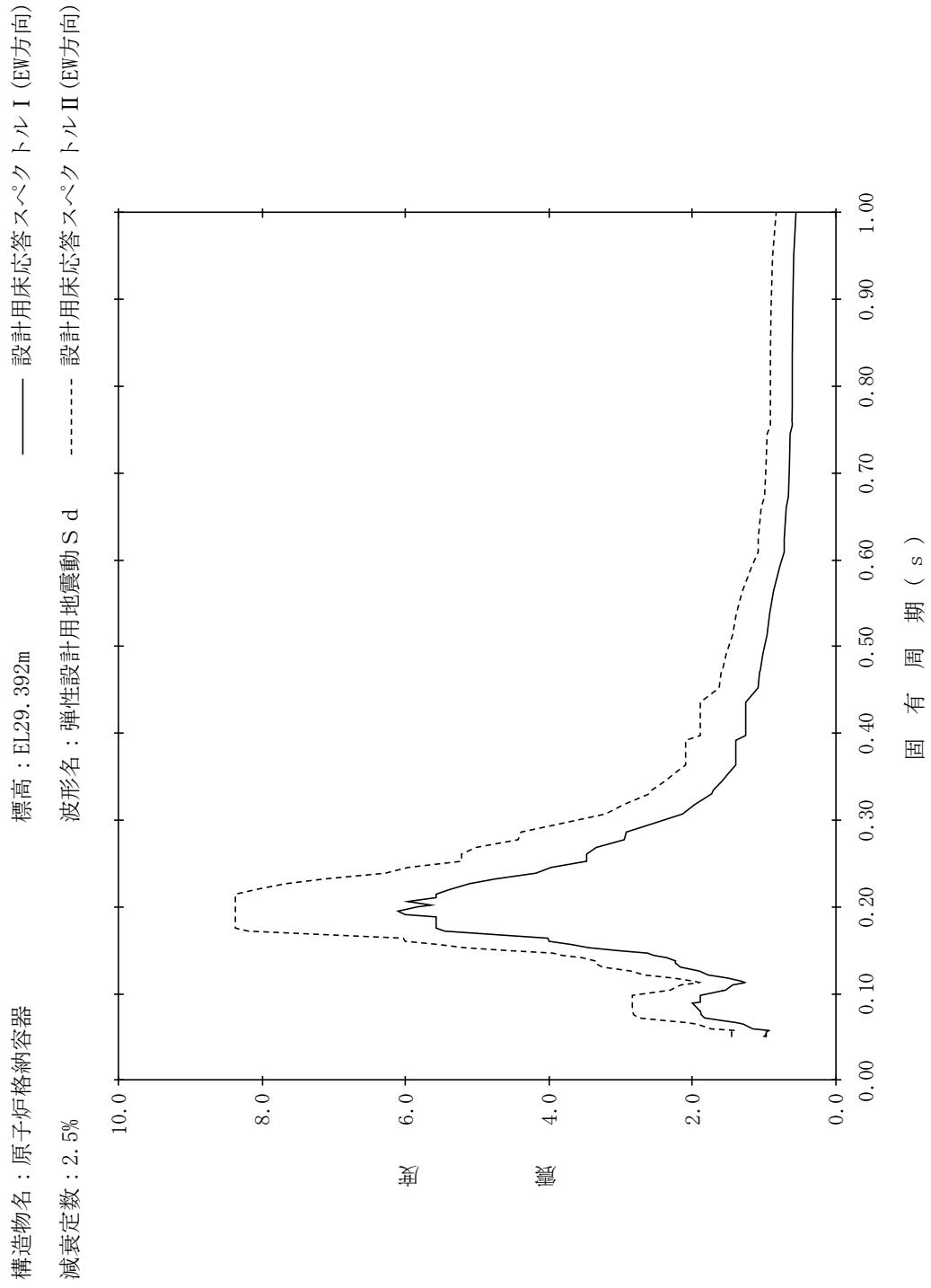


【NS2-PCV-SdEW-PCV36】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

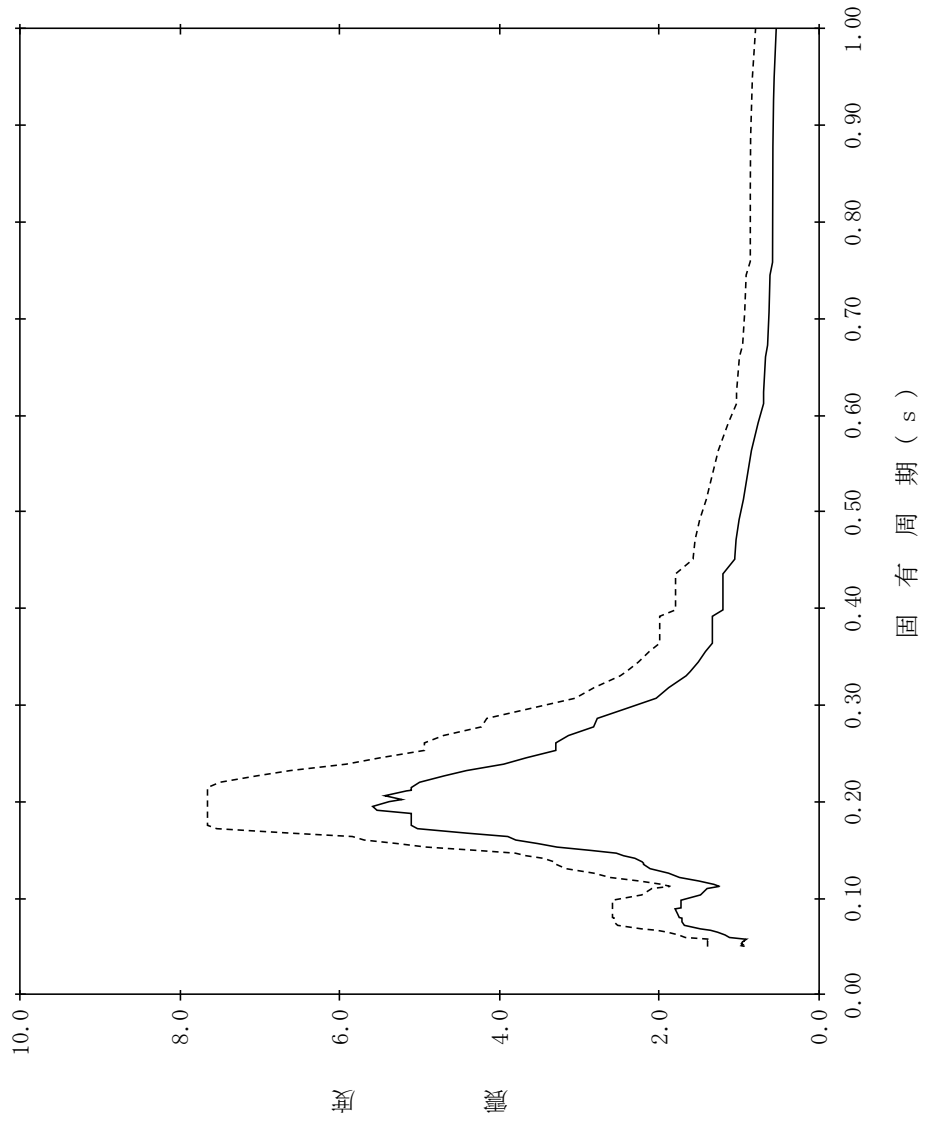


【NS2-PCV-SdEW-PCV37】



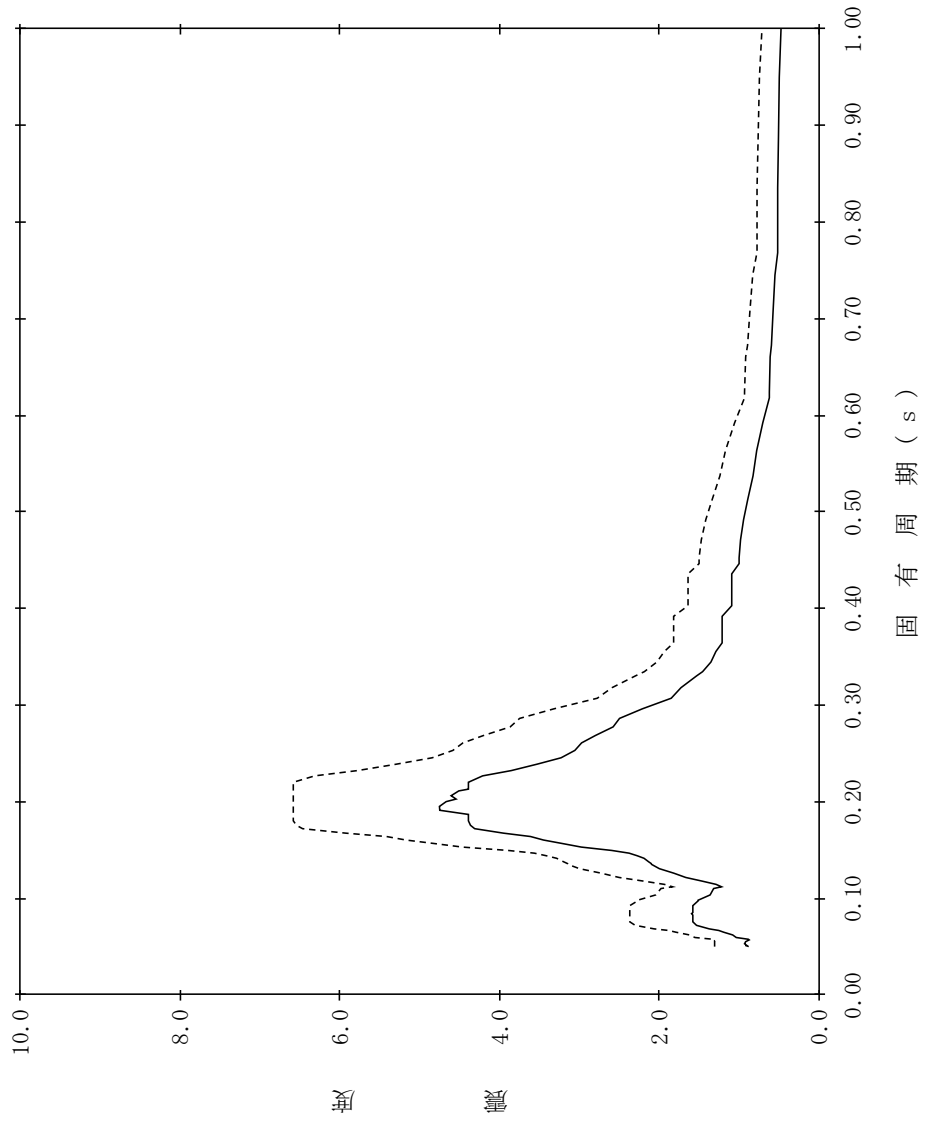
【NS2-PCV-SdEW-PCV38】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



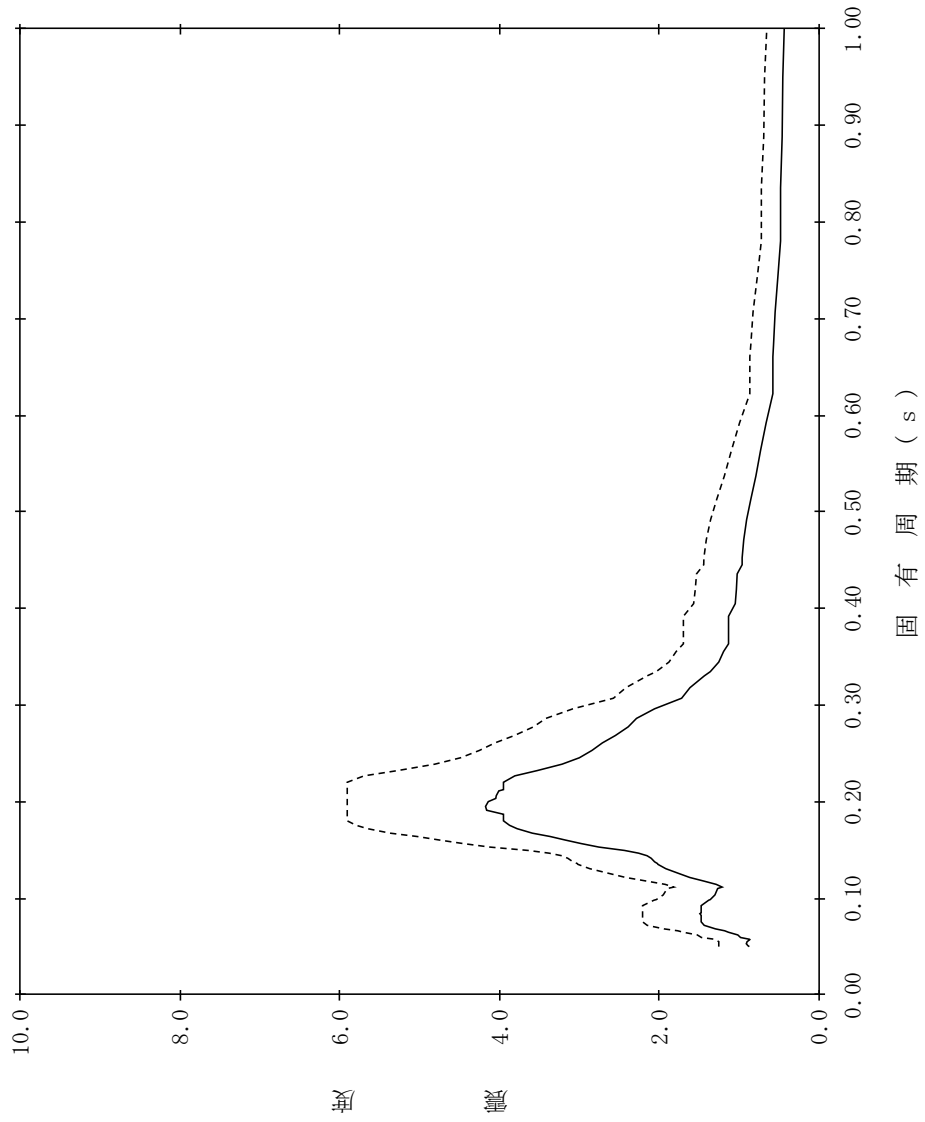
【NS2-PCV-SdEW-PCV39】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



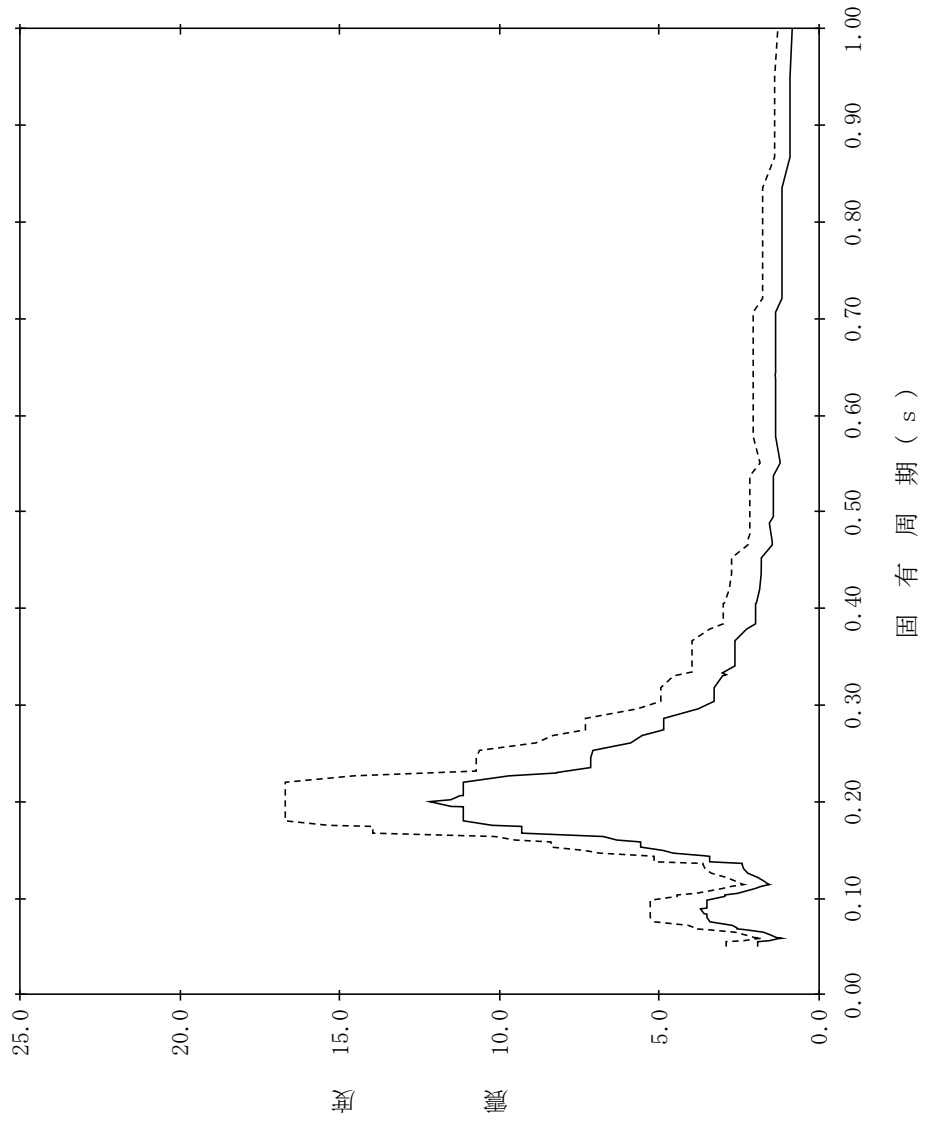
【NS2-PCV-SdEW-PCV40】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



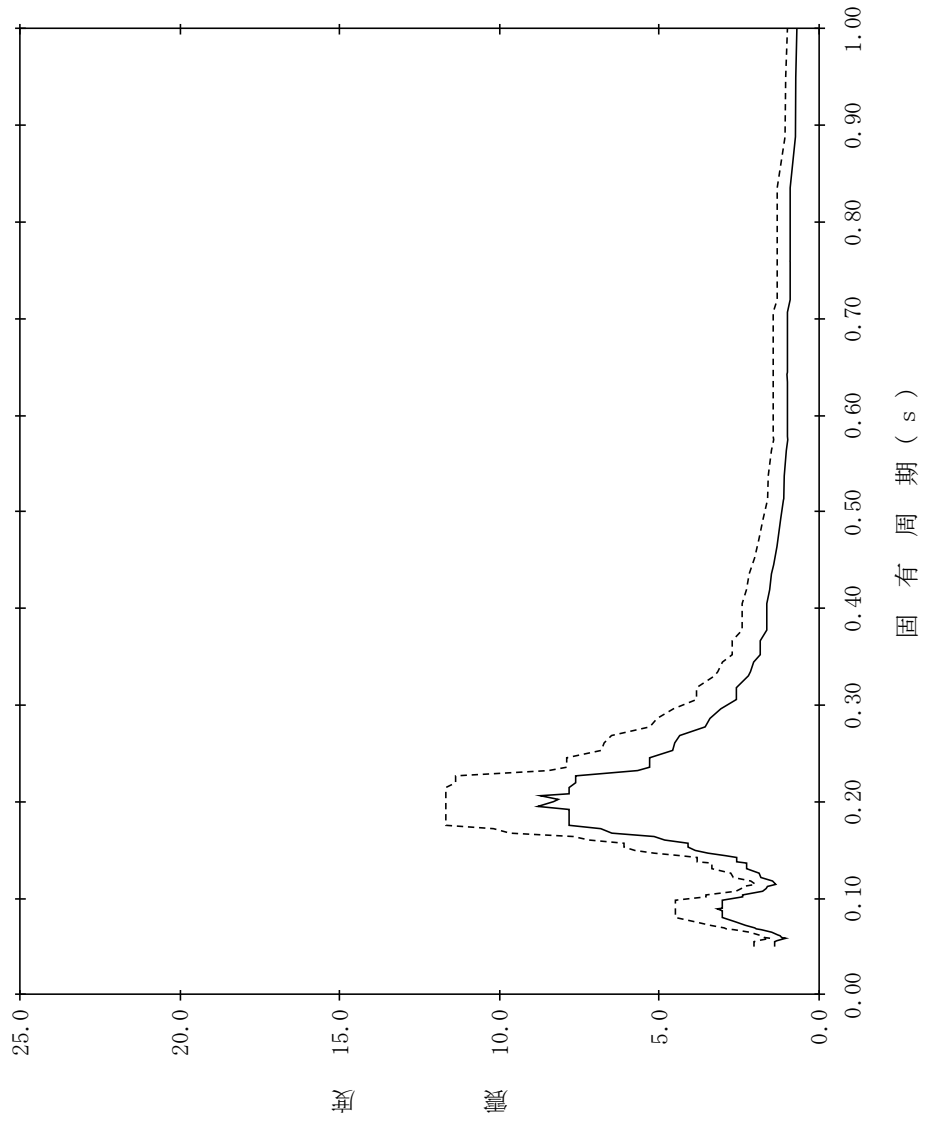
【NS2-PCV-SdEW-PCV41】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



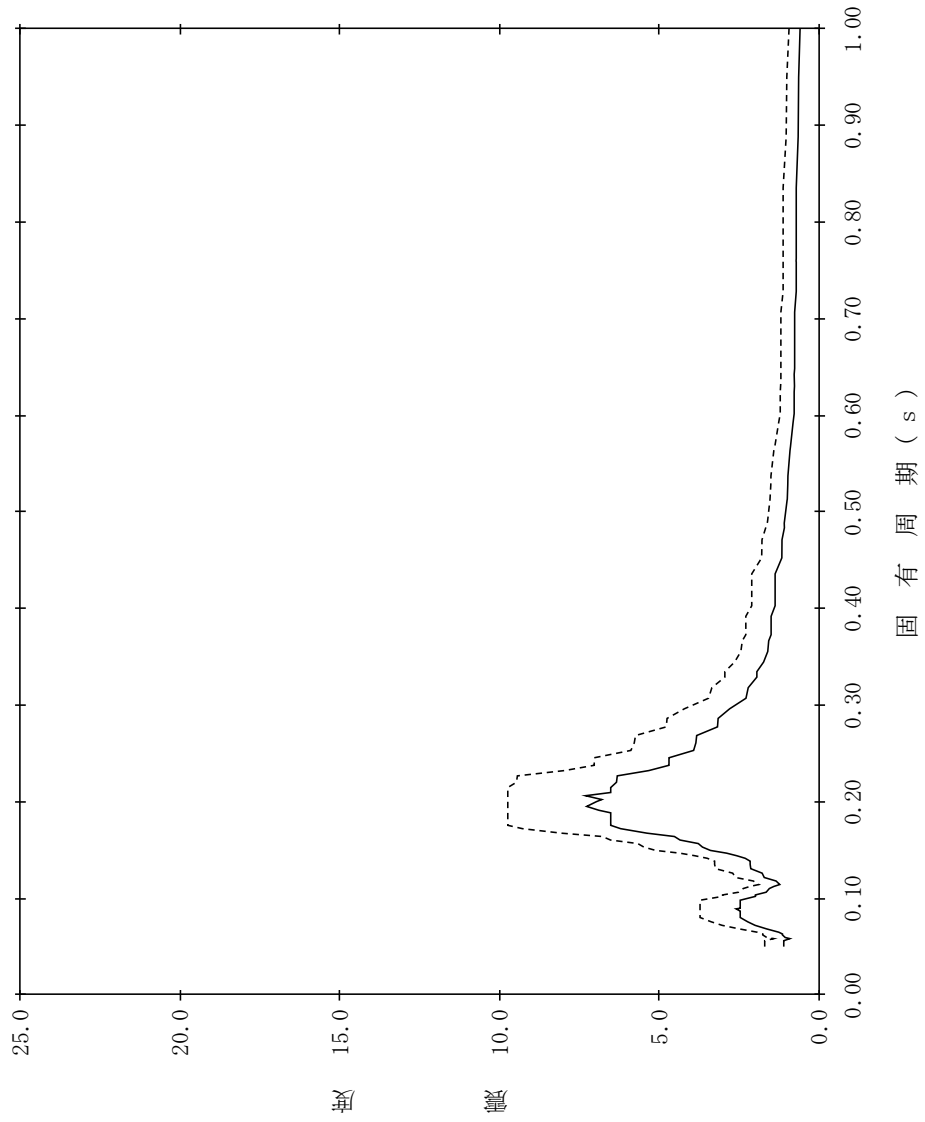
【NS2-PCV-SdEW-PCV42】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



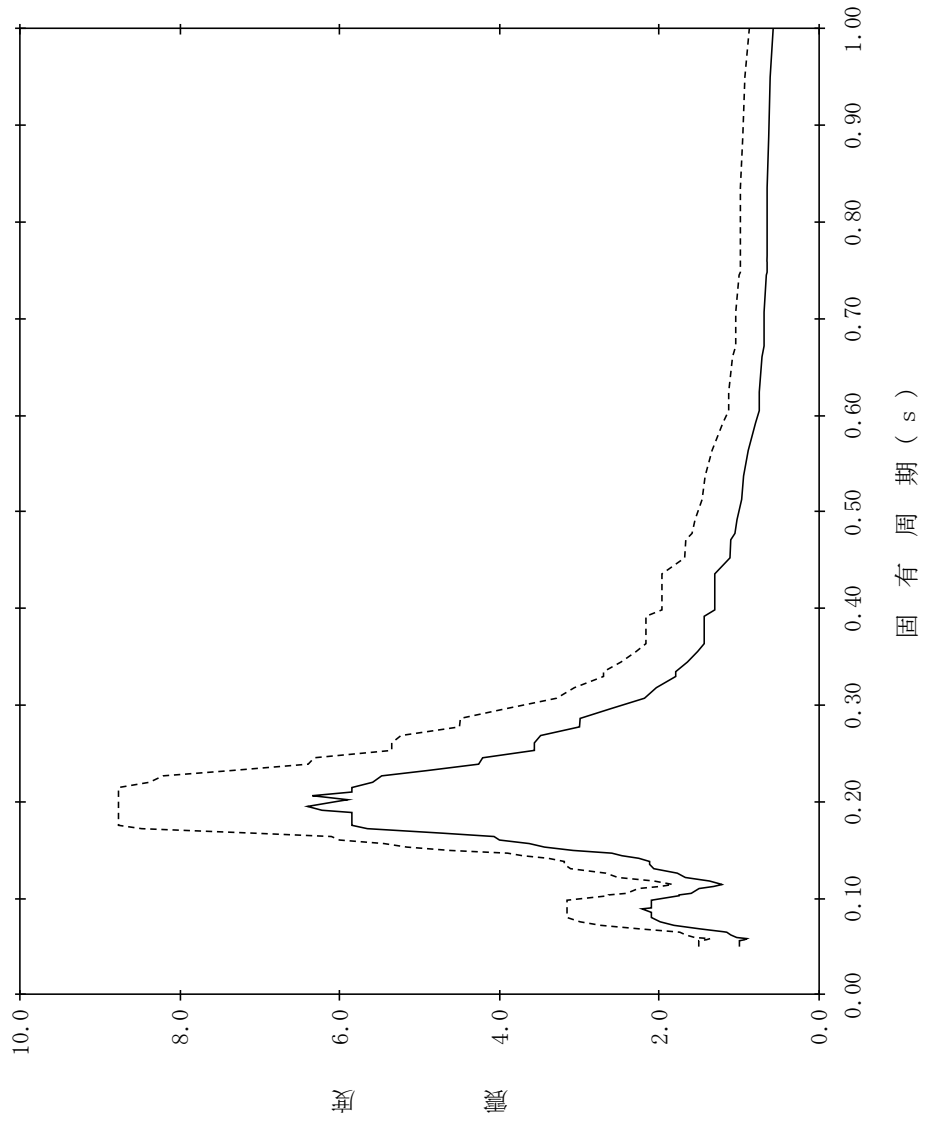
【NS2-PCV-SdEW-PCV43】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



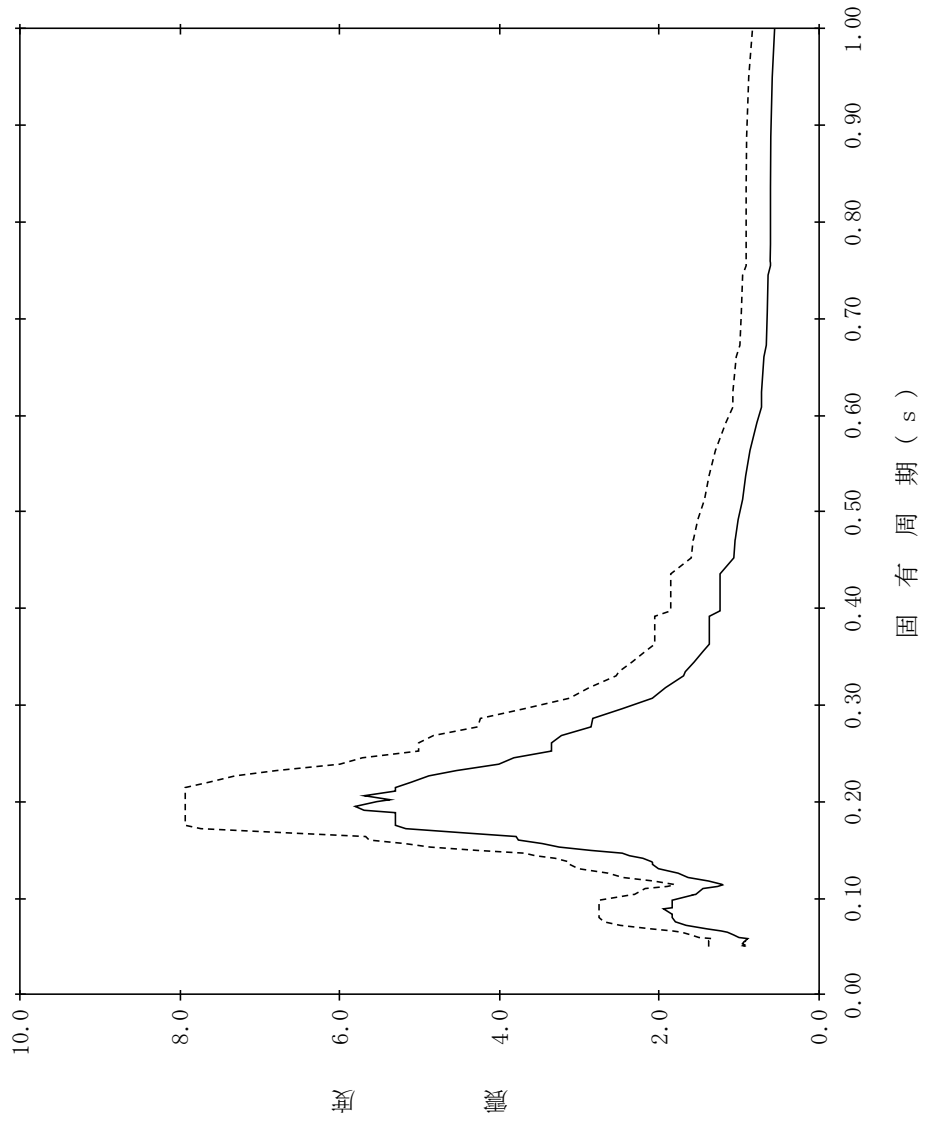
【NS2-PCV-SdEW-PCV44】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



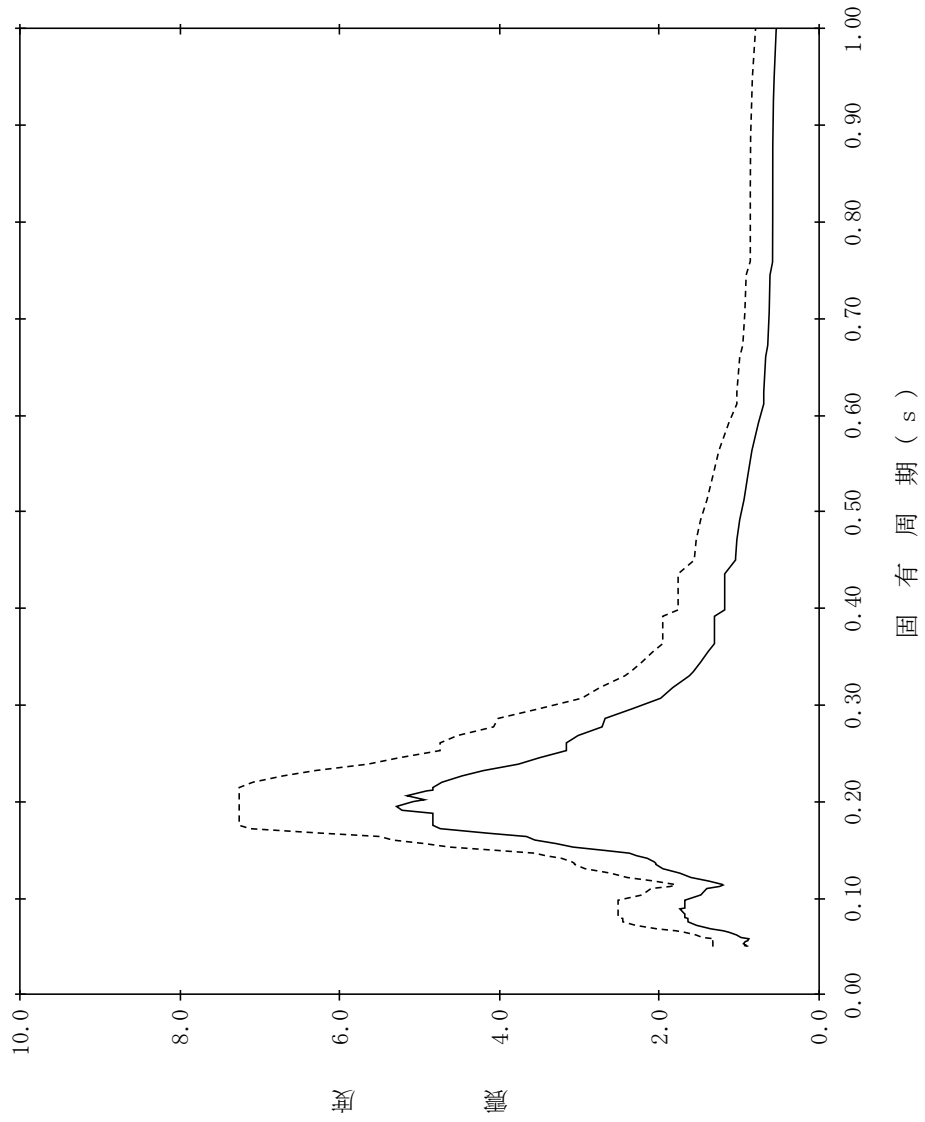
【NS2-PCV-SdEW-PCV45】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



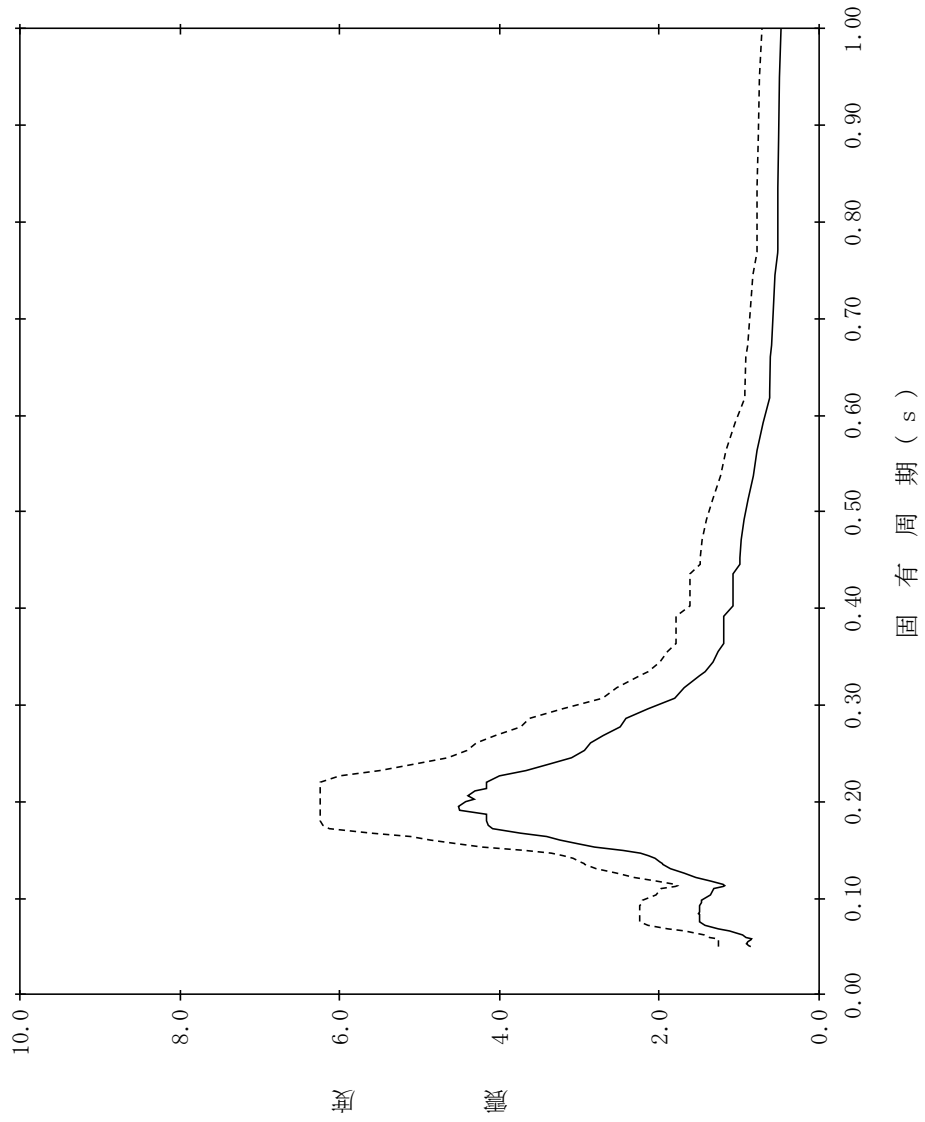
【NS2-PCV-SdEW-PCV46】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



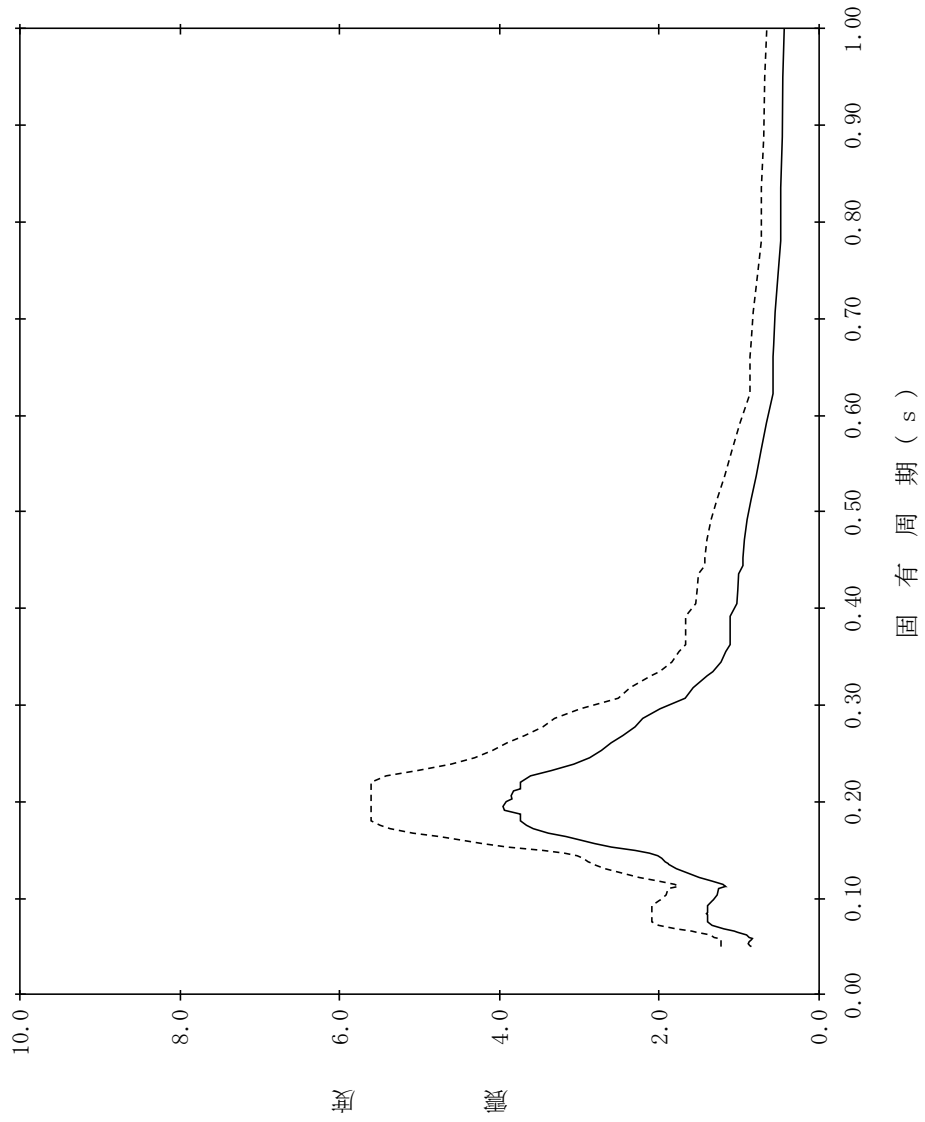
【NS2-PCV-SdEW-PCV47】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



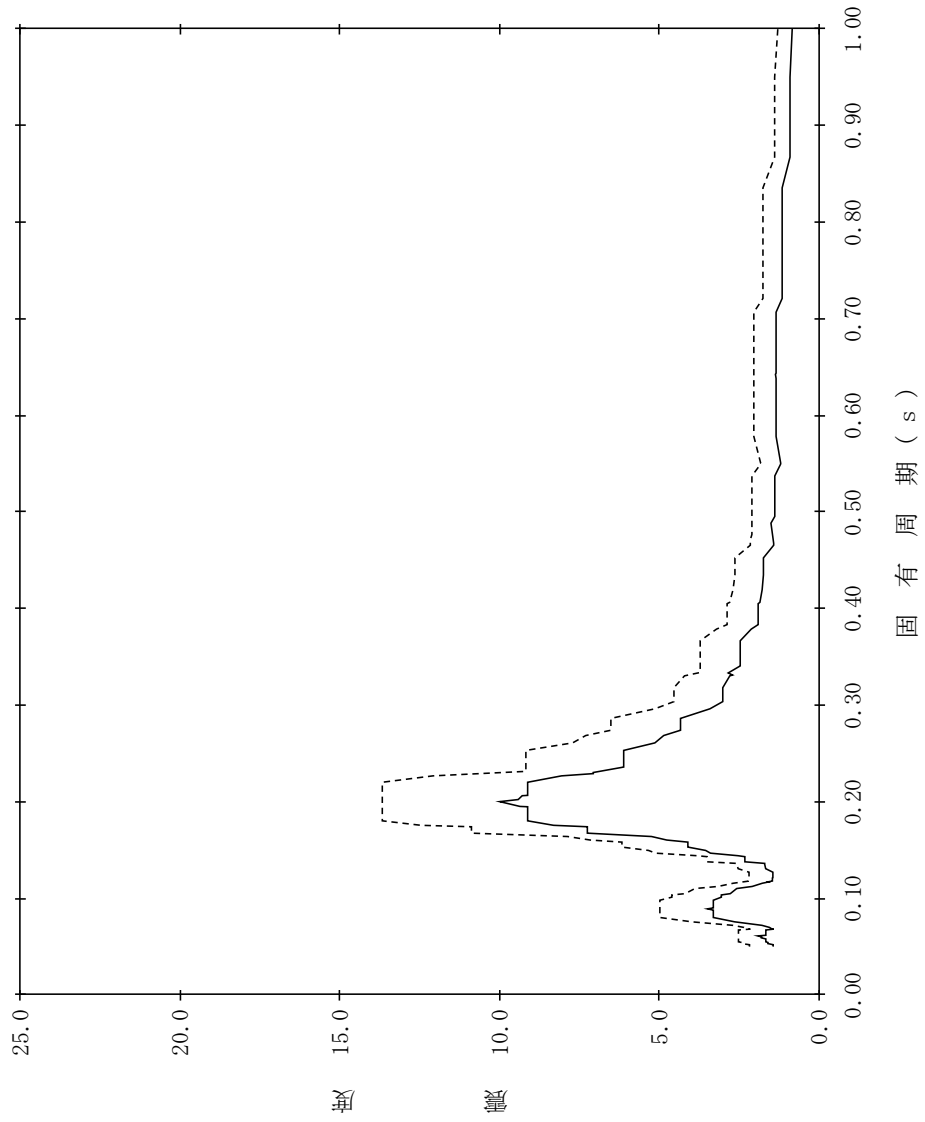
【NS2-PCV-SdEW-PCV48】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



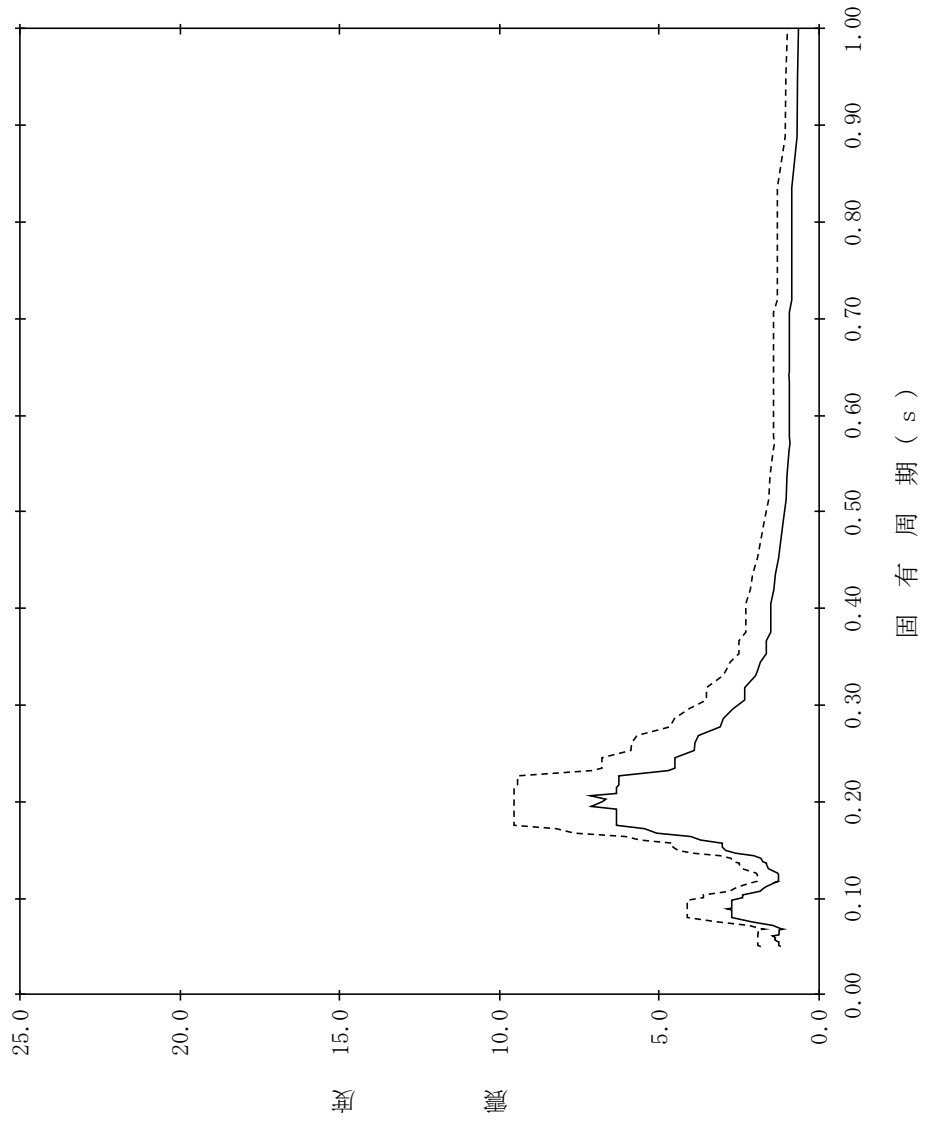
【NS2-PCV-SdEW-PCV49】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL22.932m
減衰定数：0.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



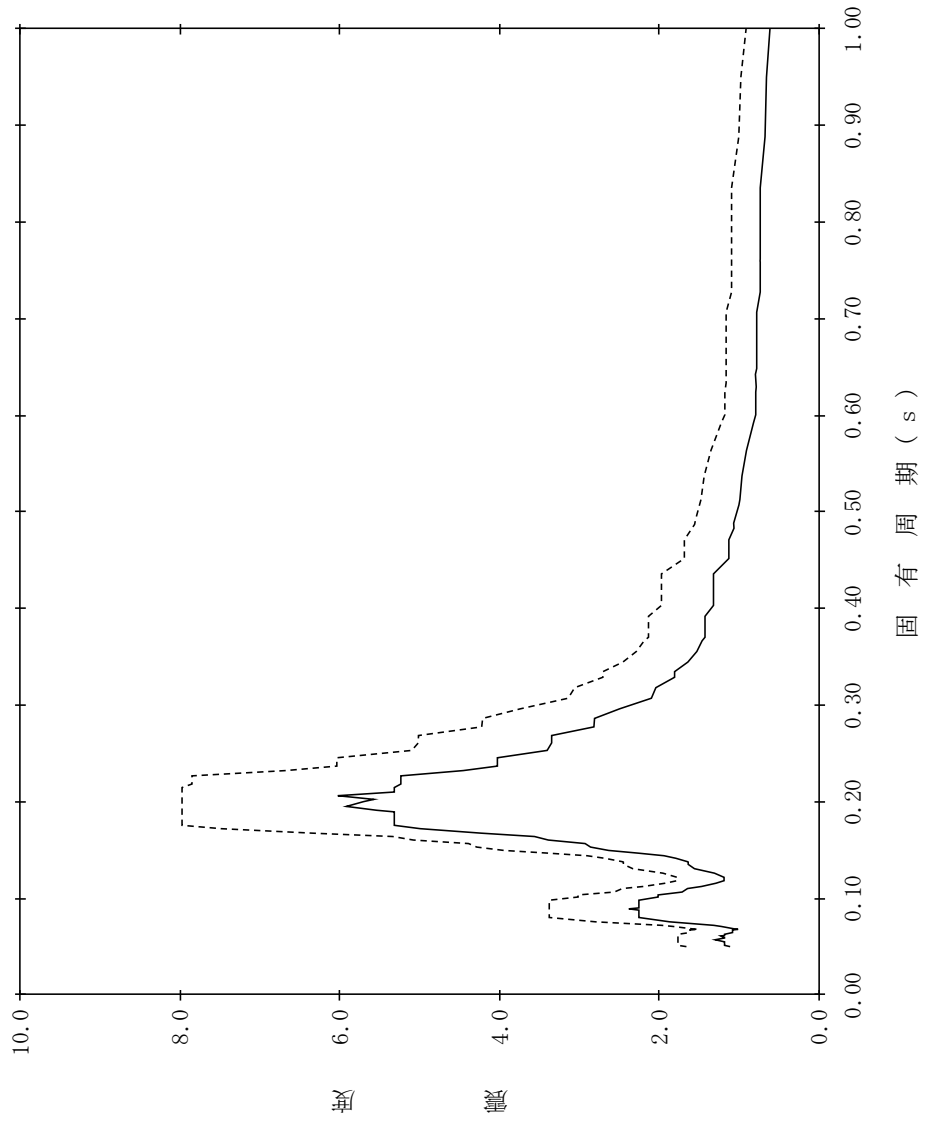
【NS2-PCV-SdEW-PCV50】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



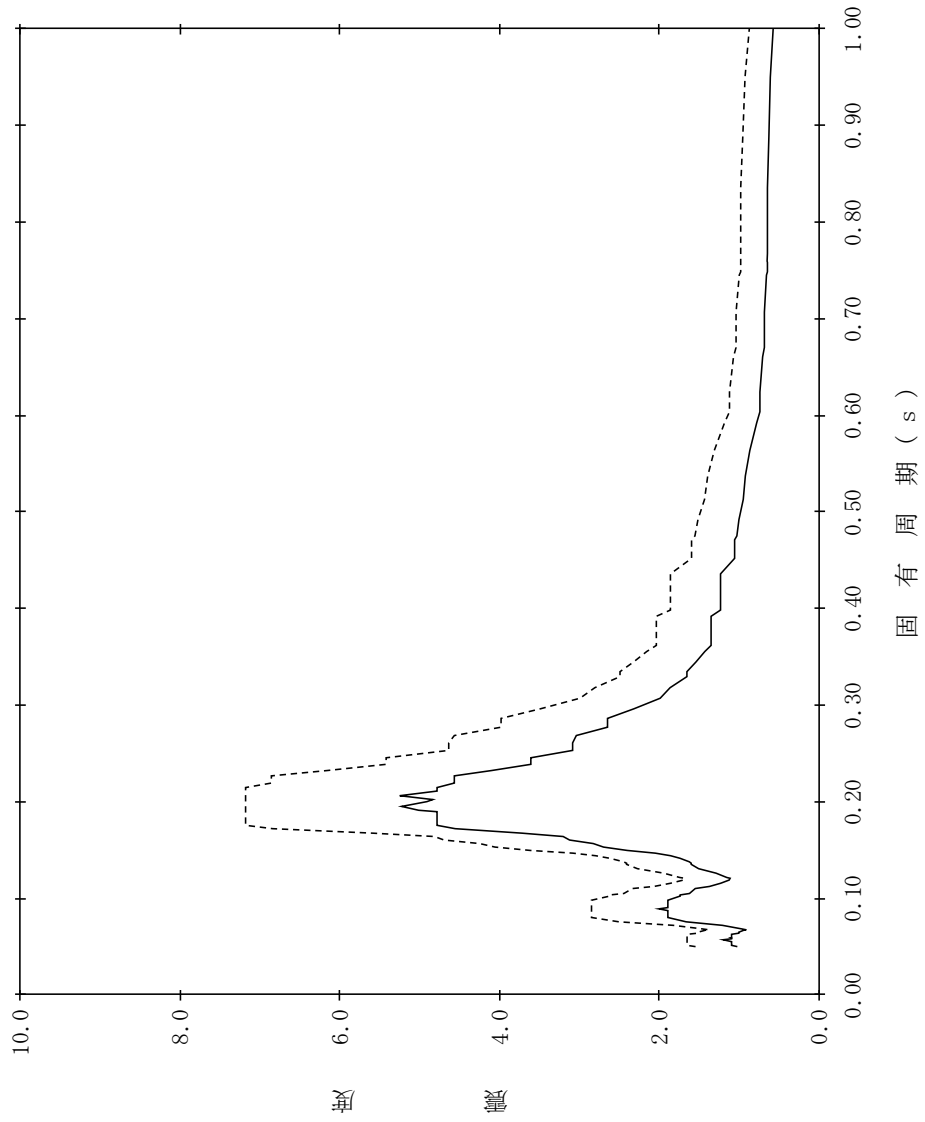
【NS2-PCV-SdEW-PCV51】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



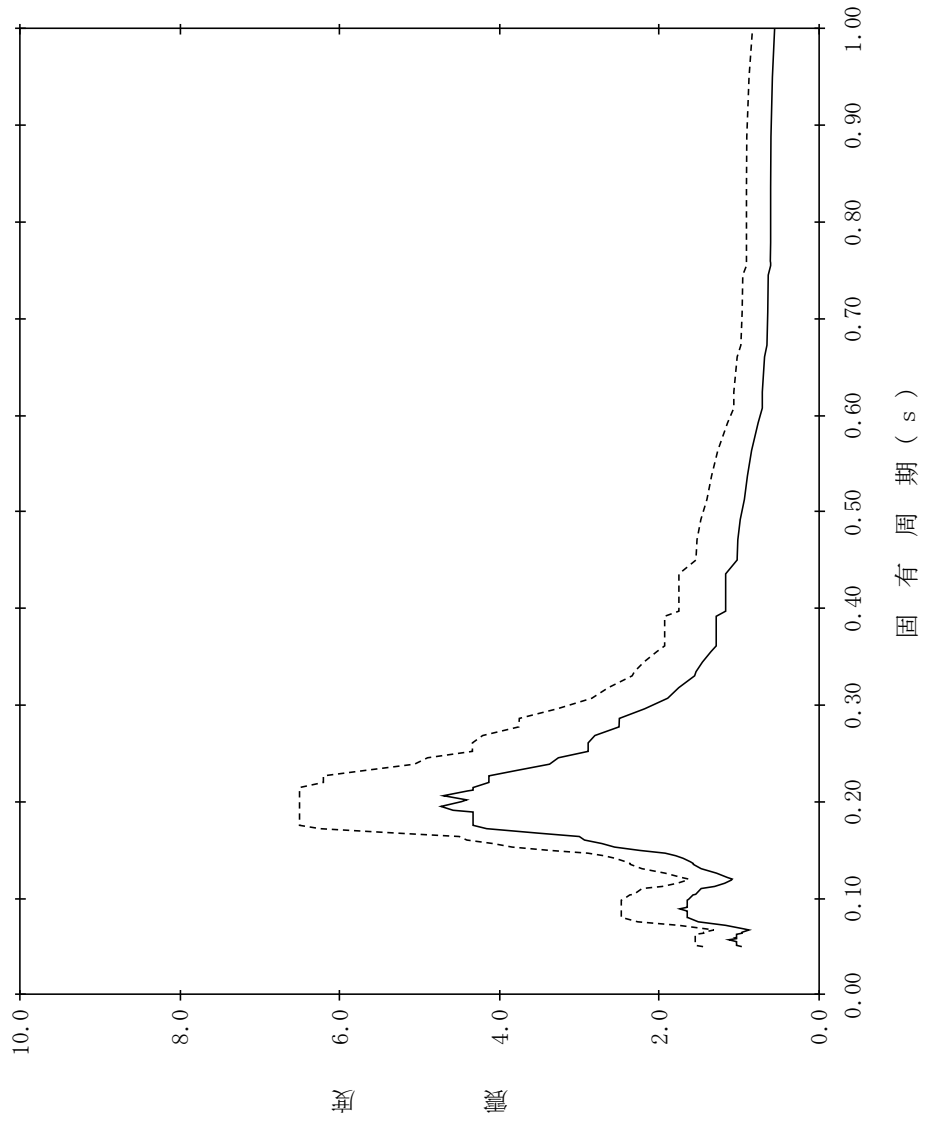
【NS2-PCV-SdEW-PCV52】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



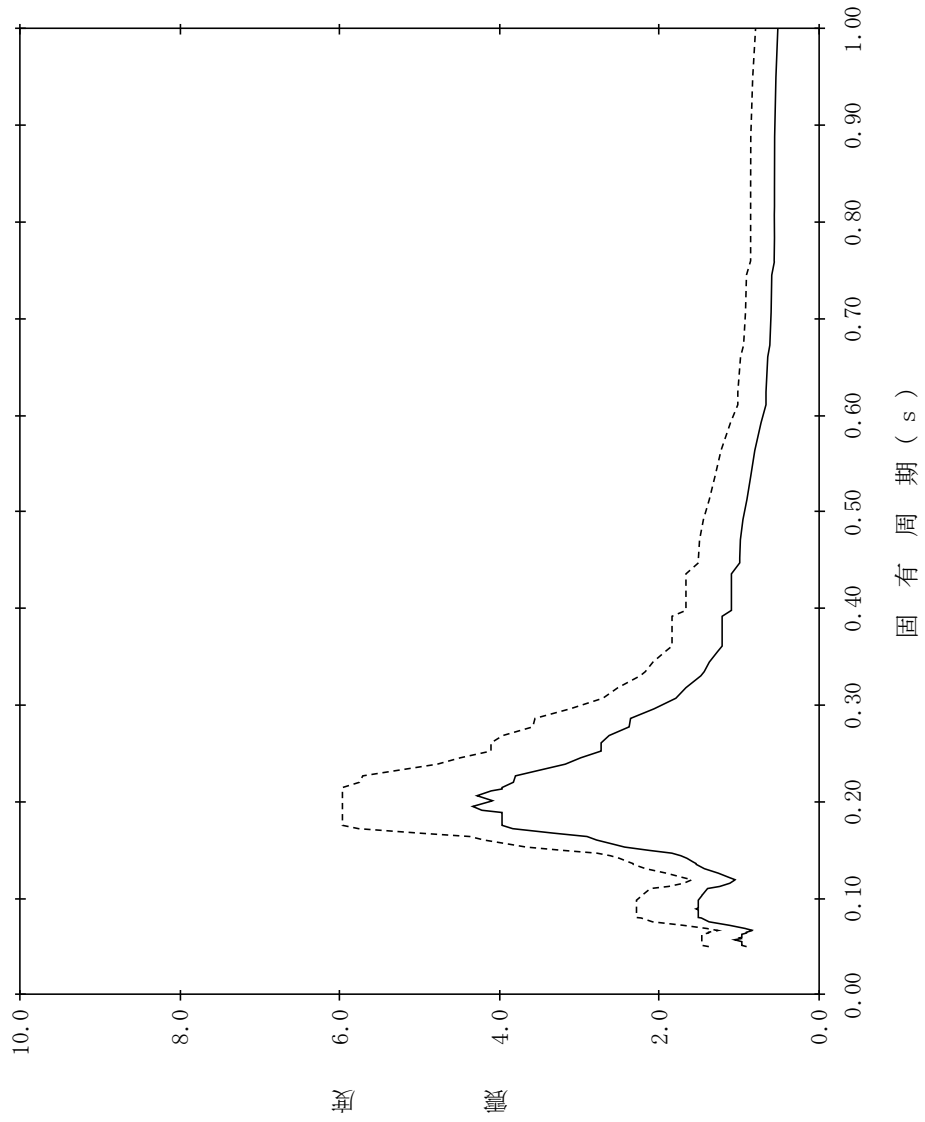
【NS2-PCV-SdEW-PCV53】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



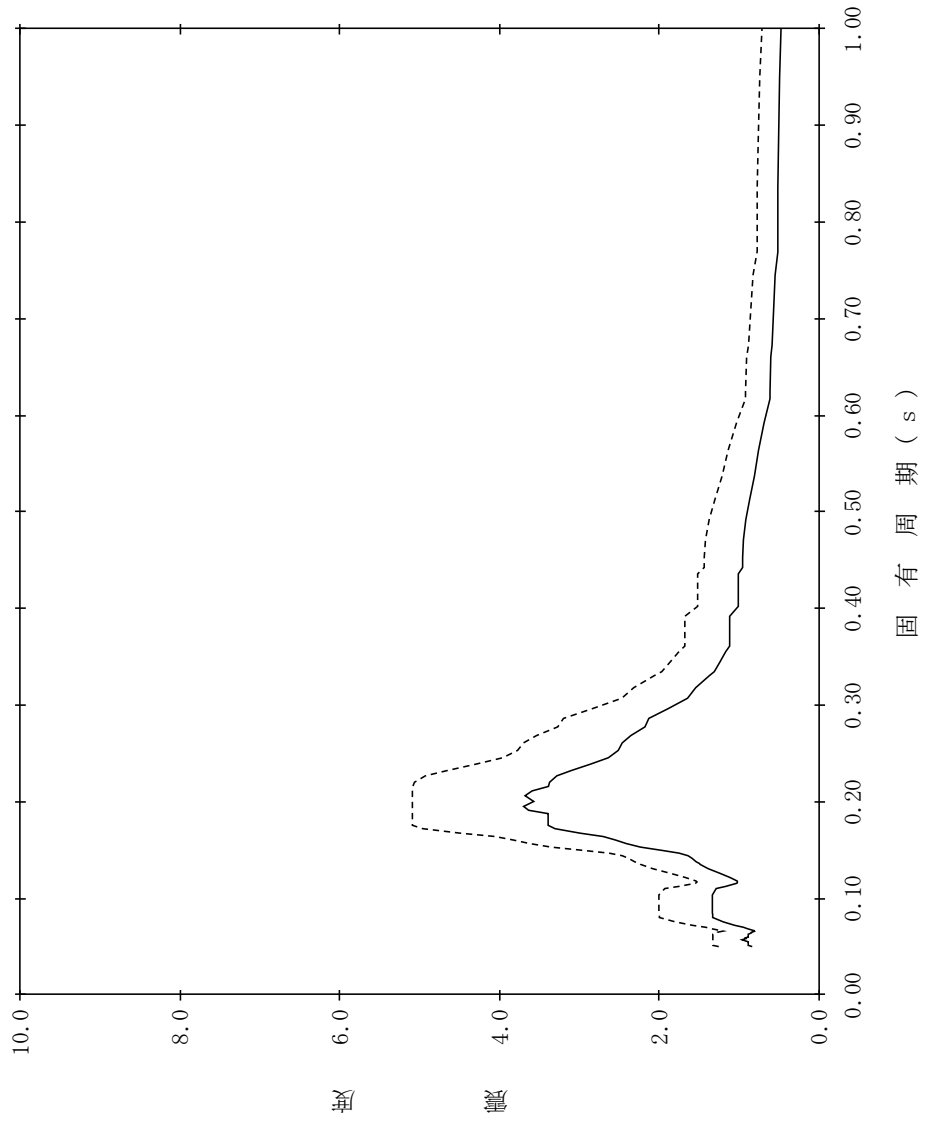
【NS2-PCV-SdEW-PCV54】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



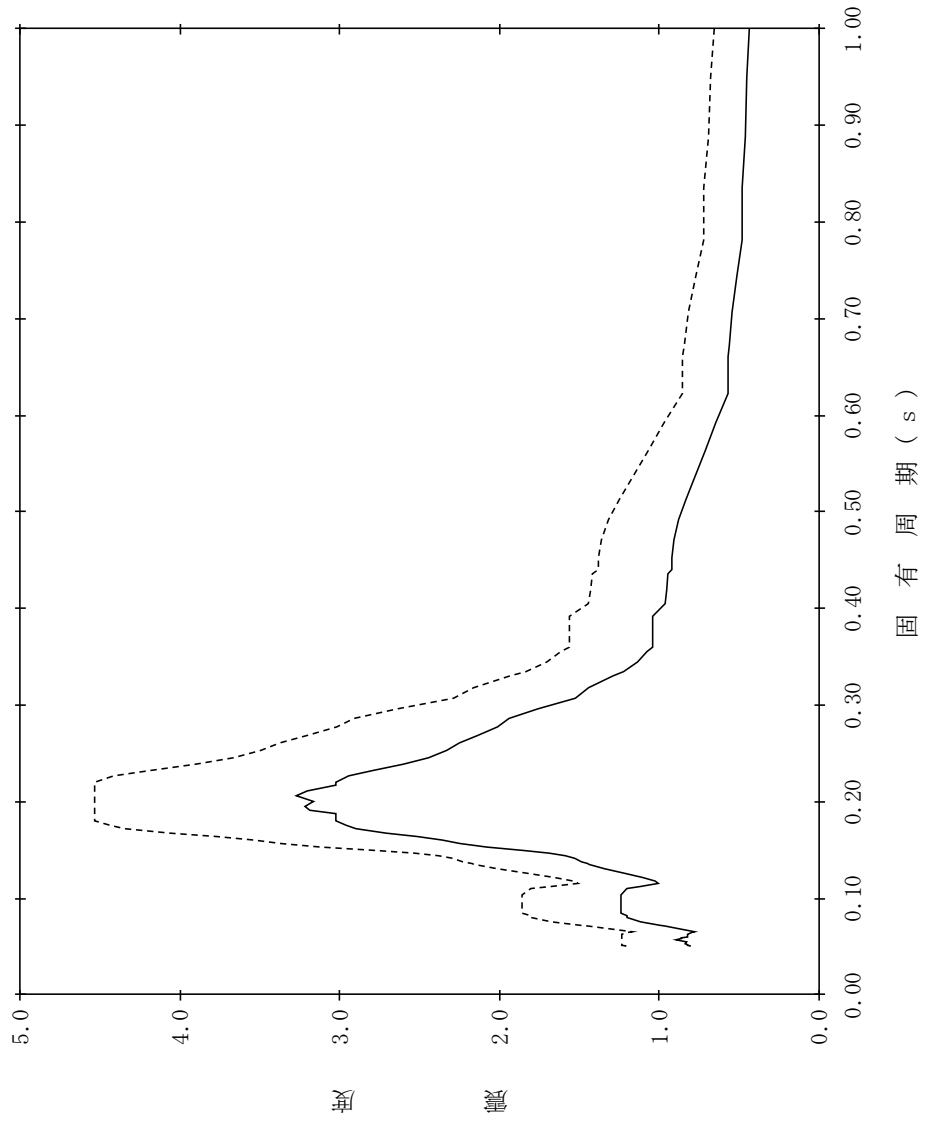
【NS2-PCV-SdEW-PCV55】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

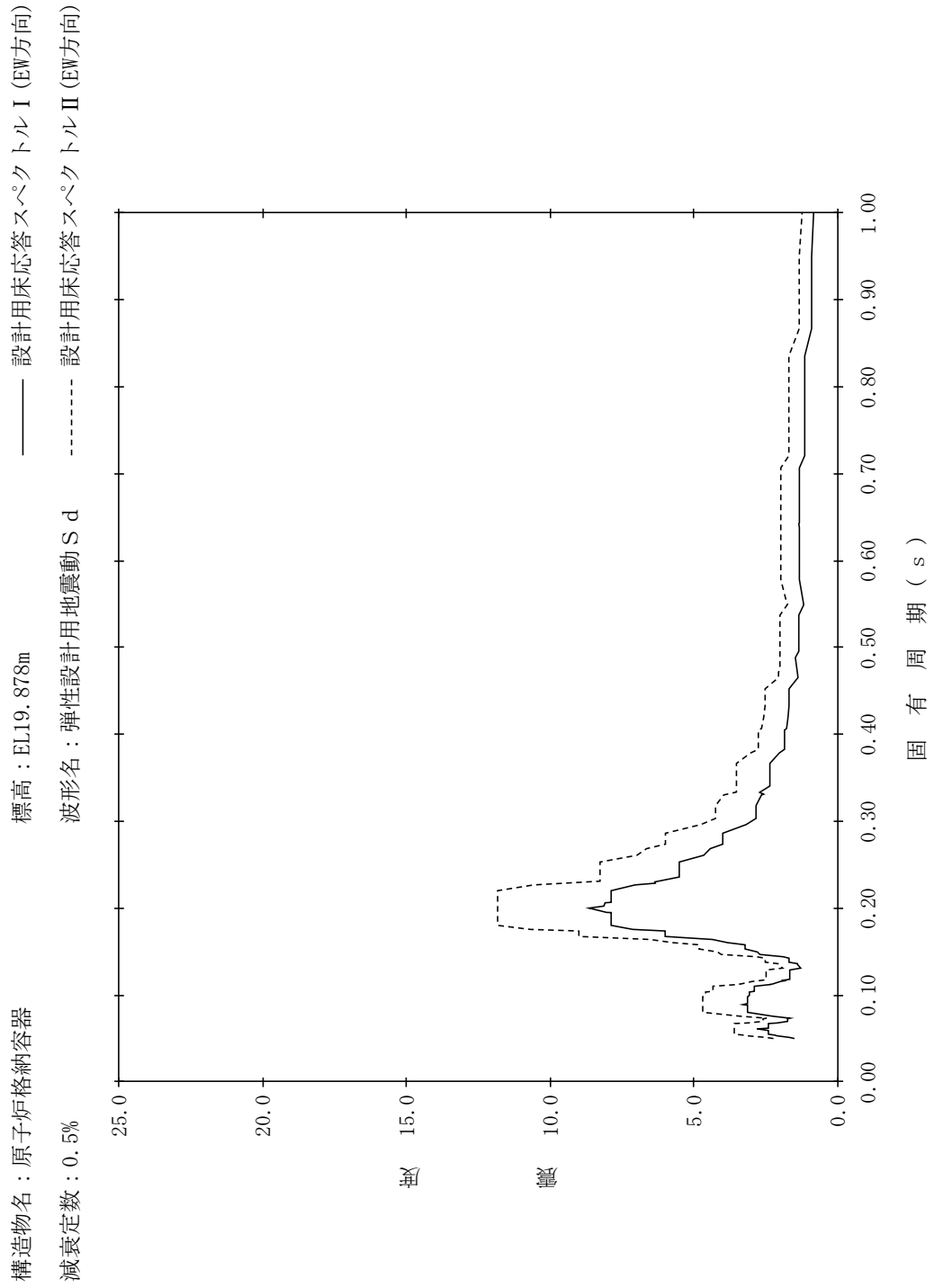


【NS2-PCV-SdEW-PCV56】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

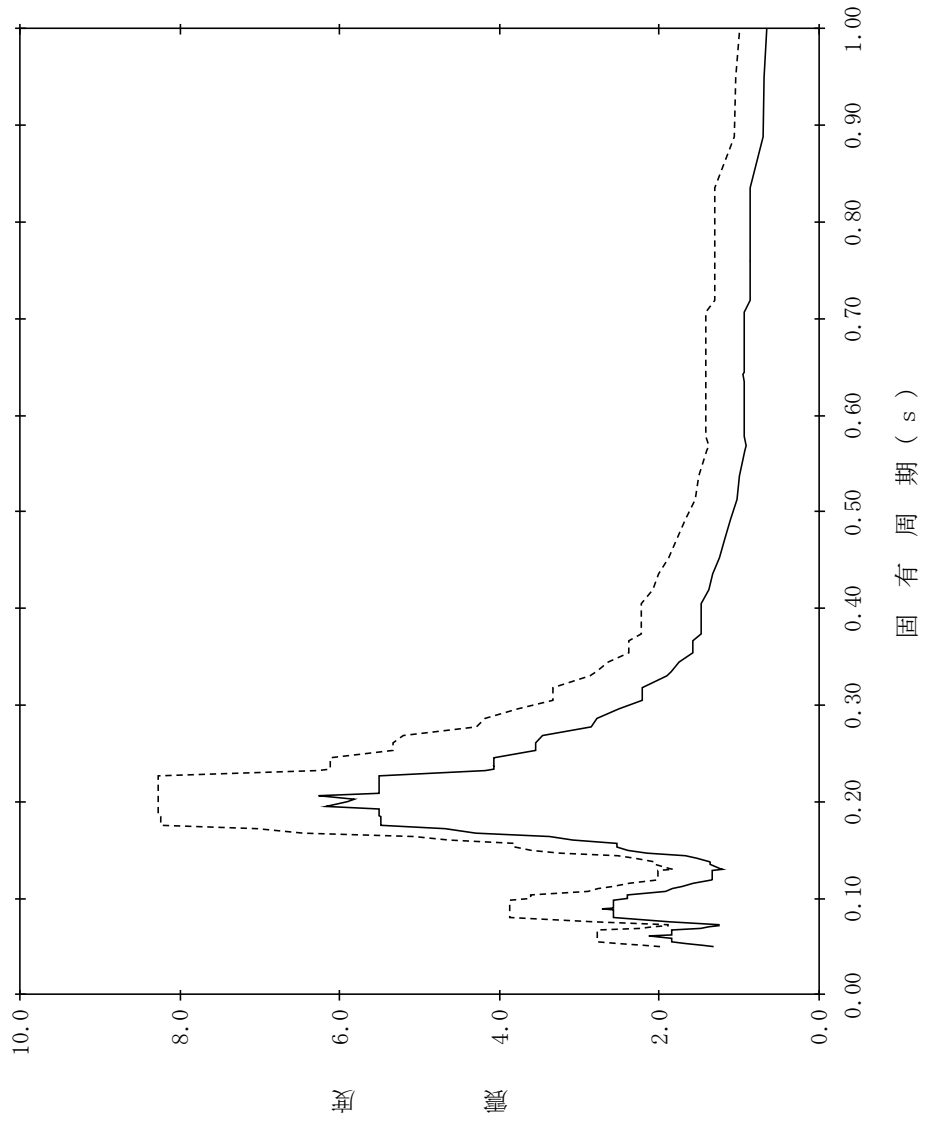


【NS2-PCV-SdEW-PCV57】

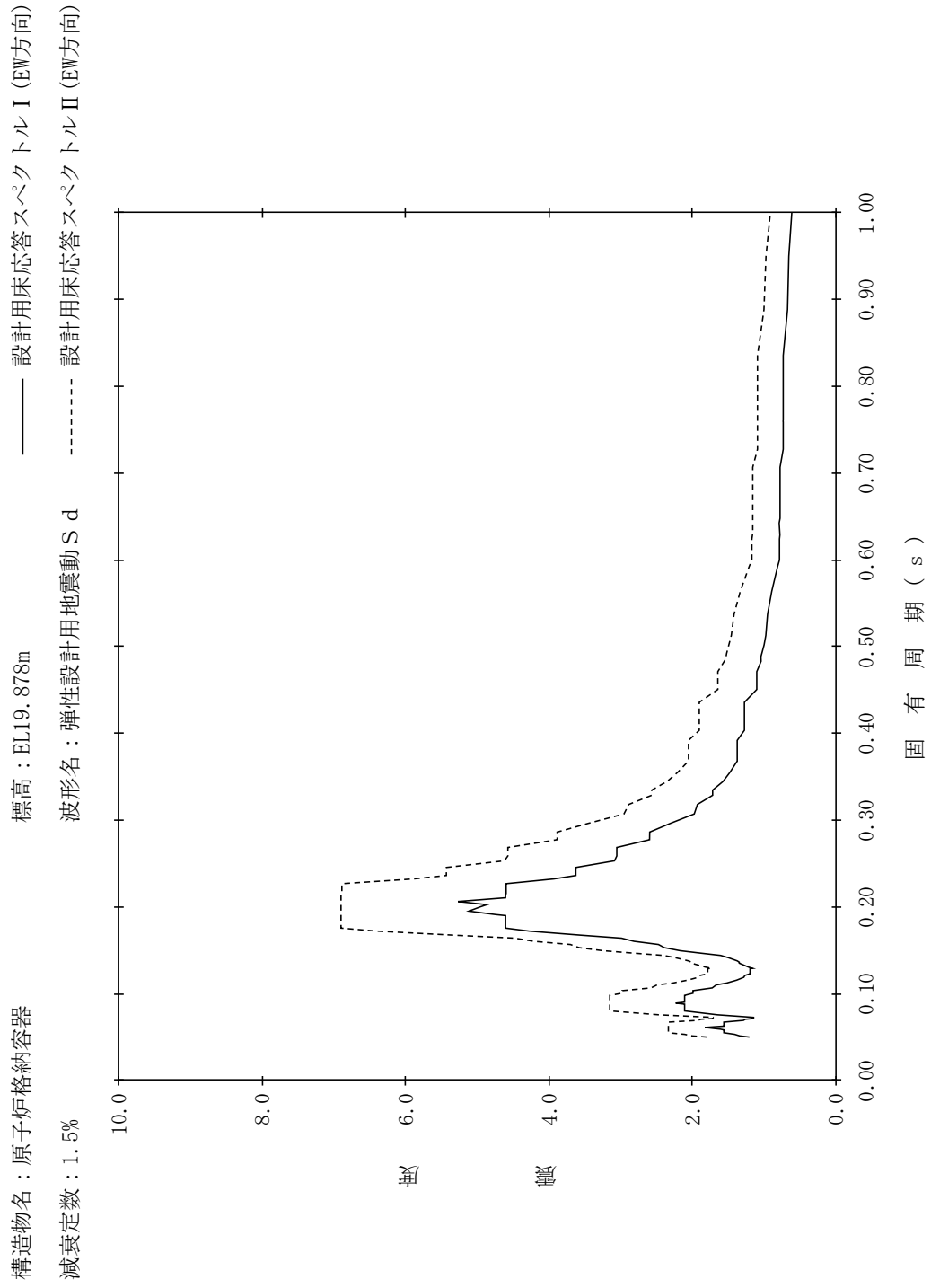


【NS2-PCV-SdEW-PCV58】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL19.878m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

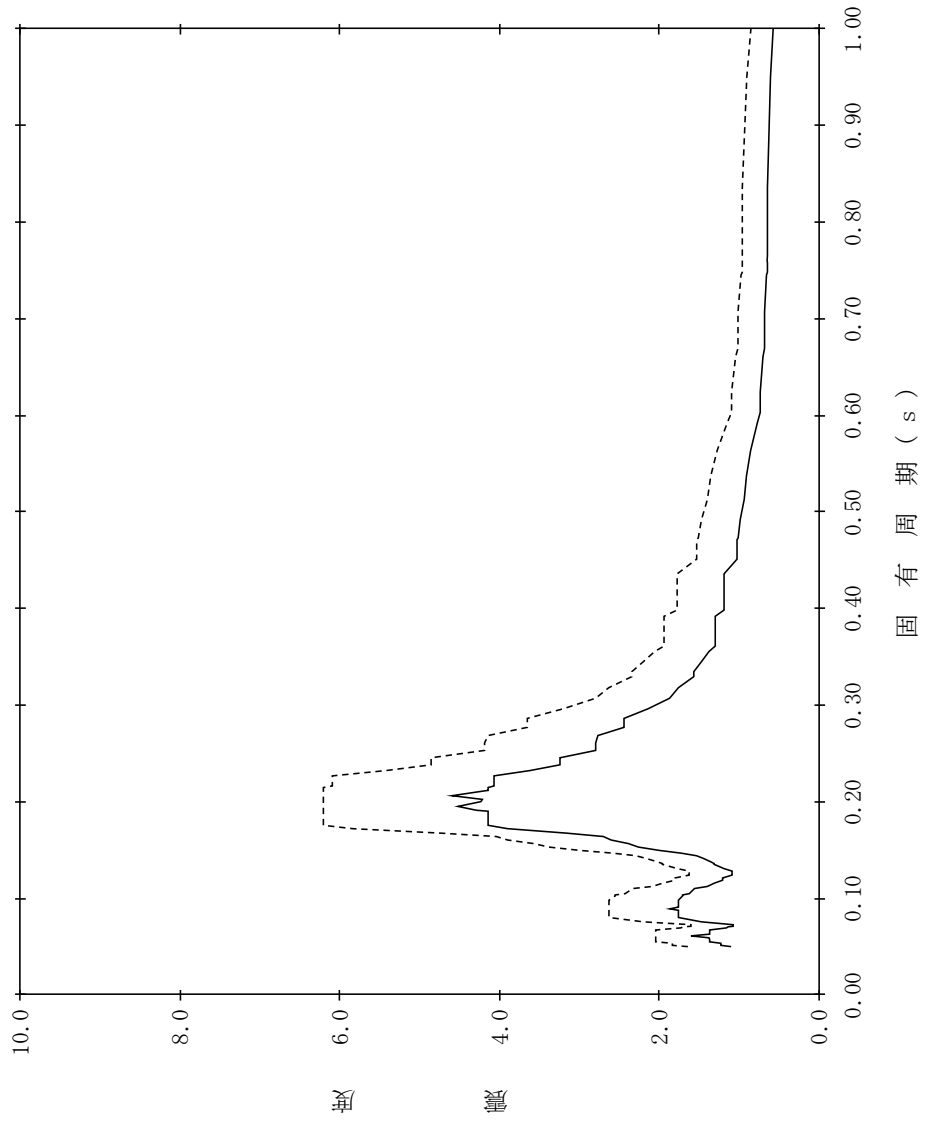


【NS2-PCV-SdEW-PCV59】



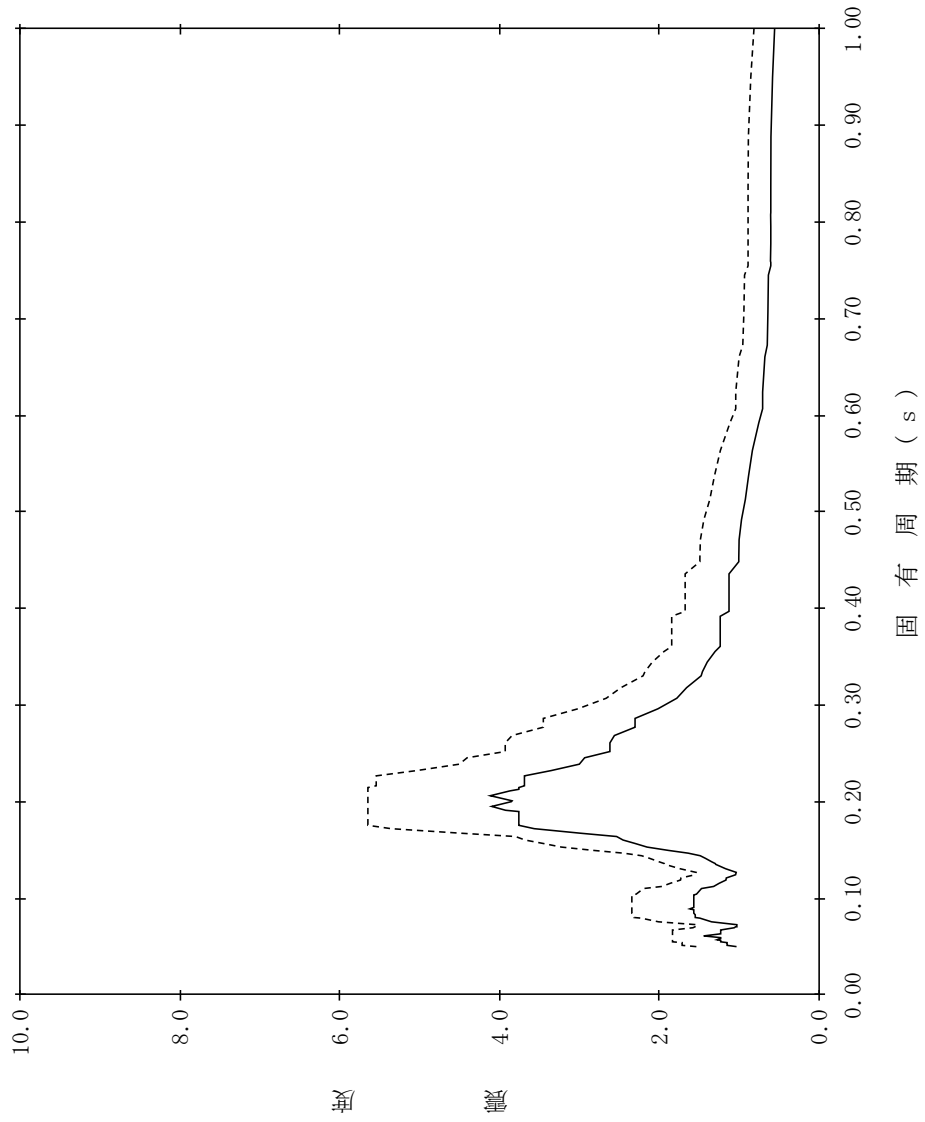
【NS2-PCV-SdEW-PCV60】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



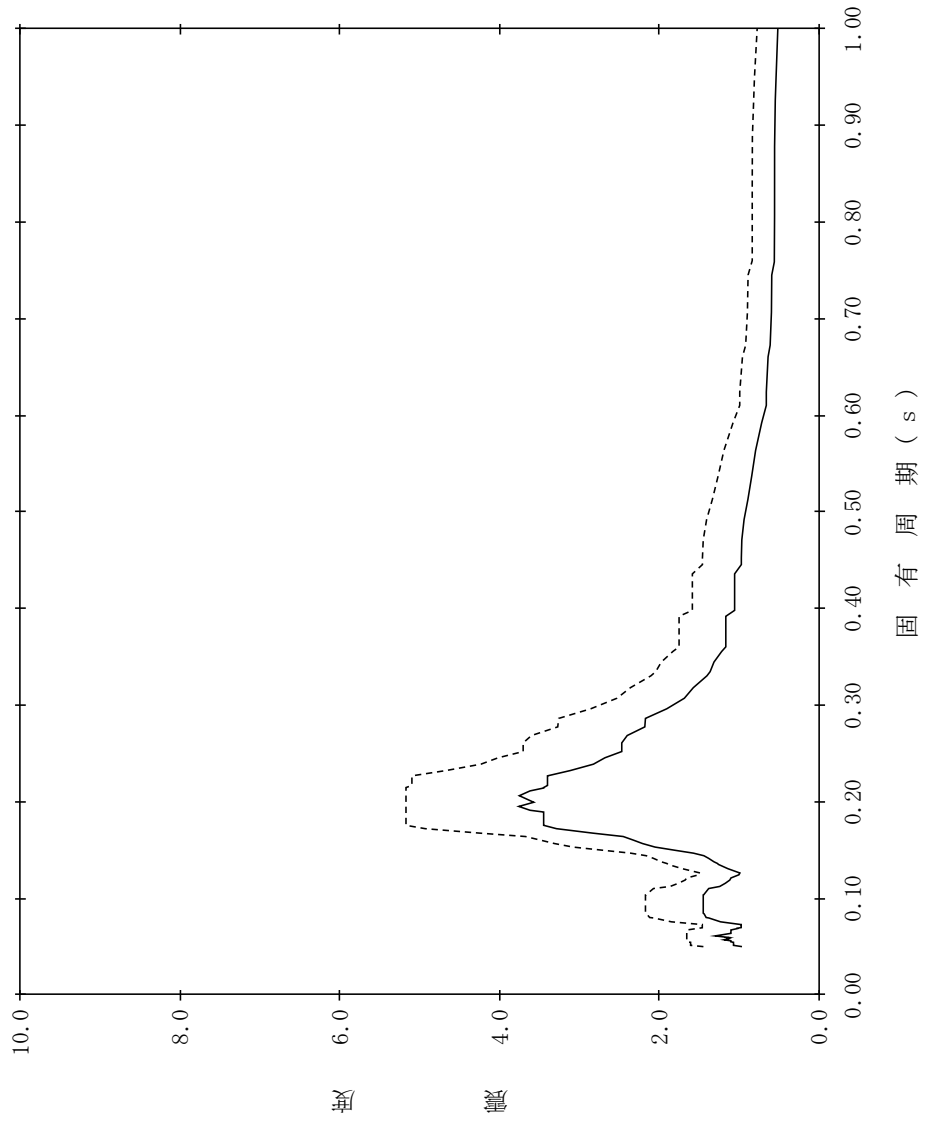
【NS2-PCV-SdEW-PCV61】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



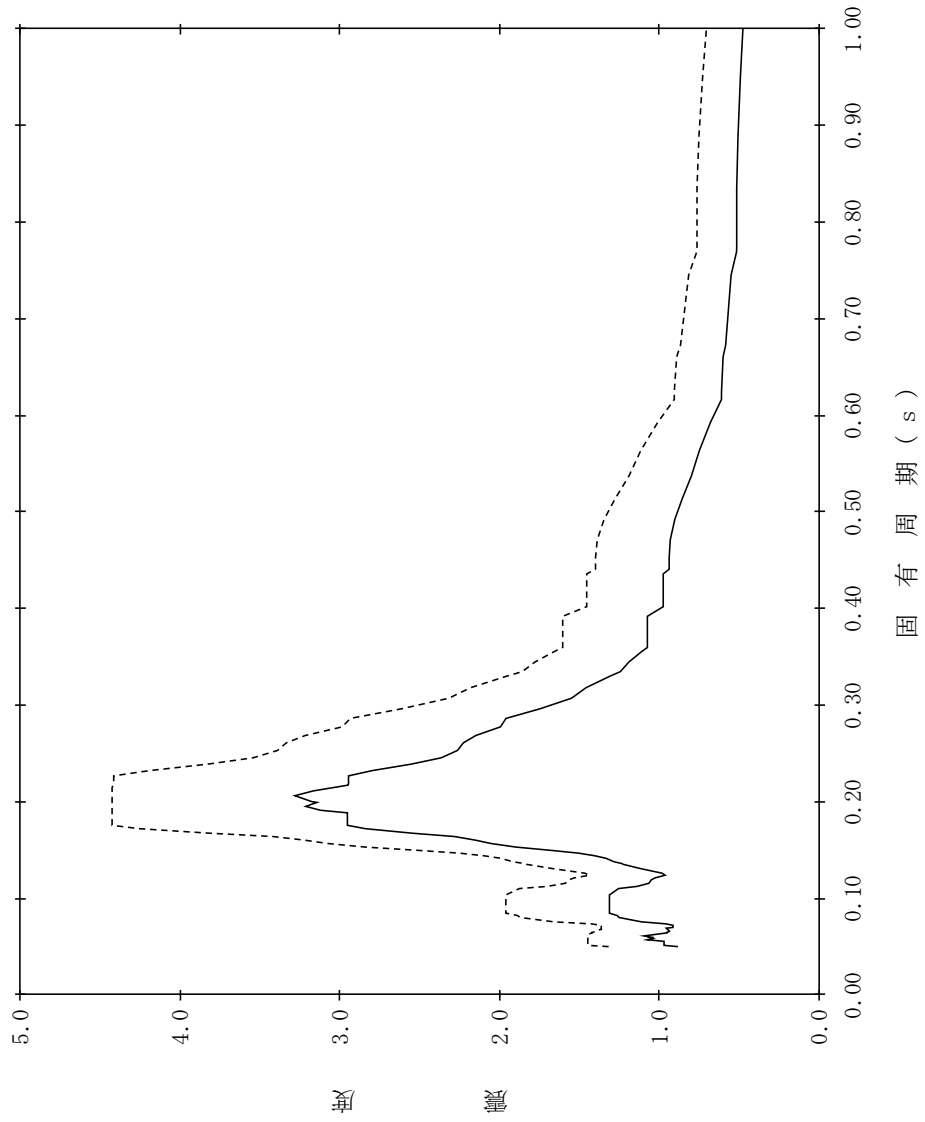
【NS2-PCV-SdEW-PCV62】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



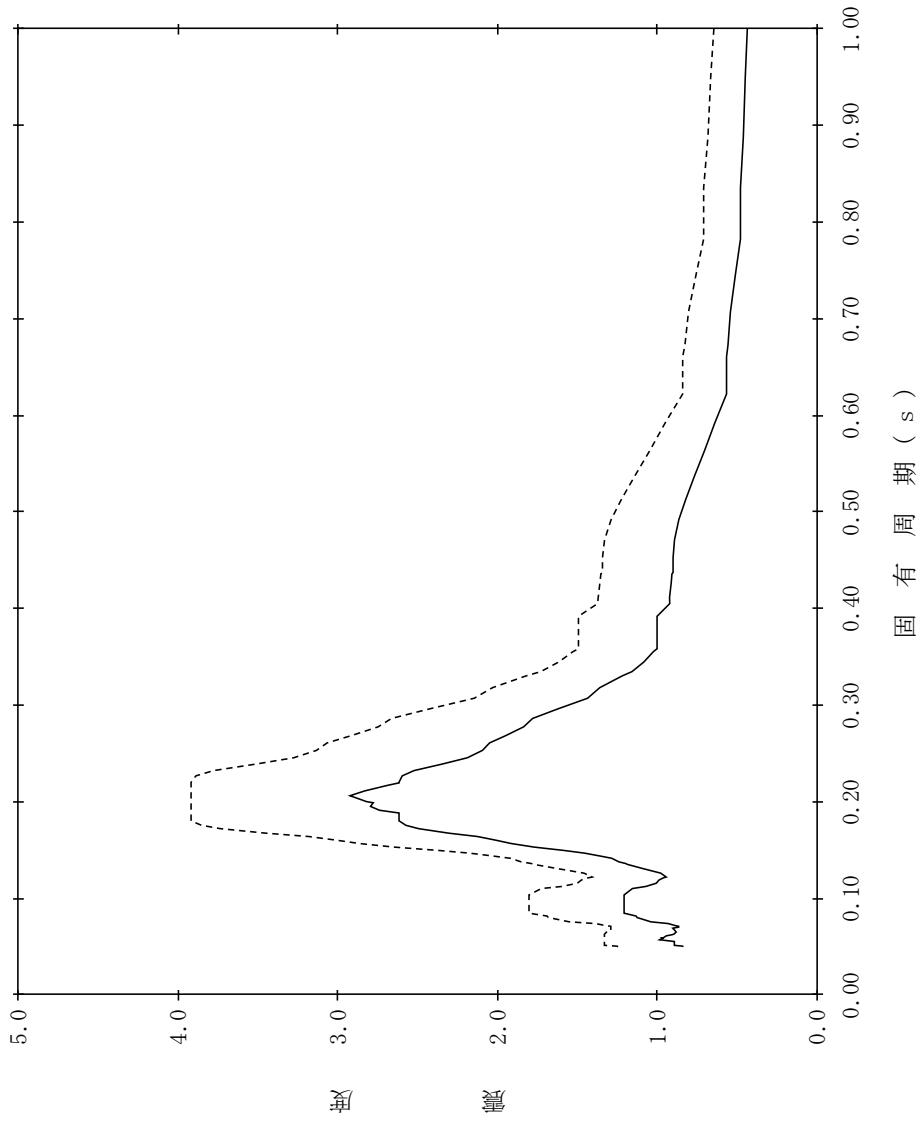
【NS2-PCV-SdEW-PCV63】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



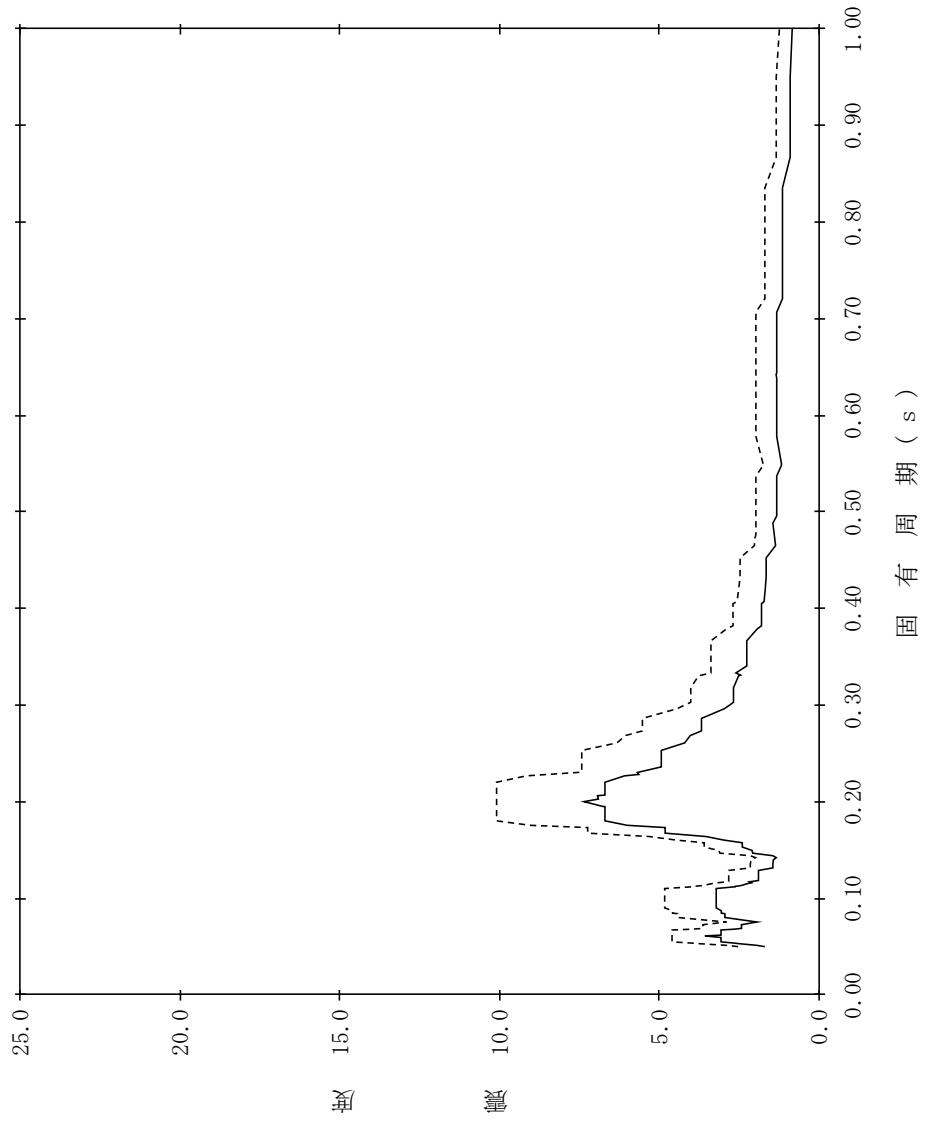
【NS2-PCV-SdEW-PCV64】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

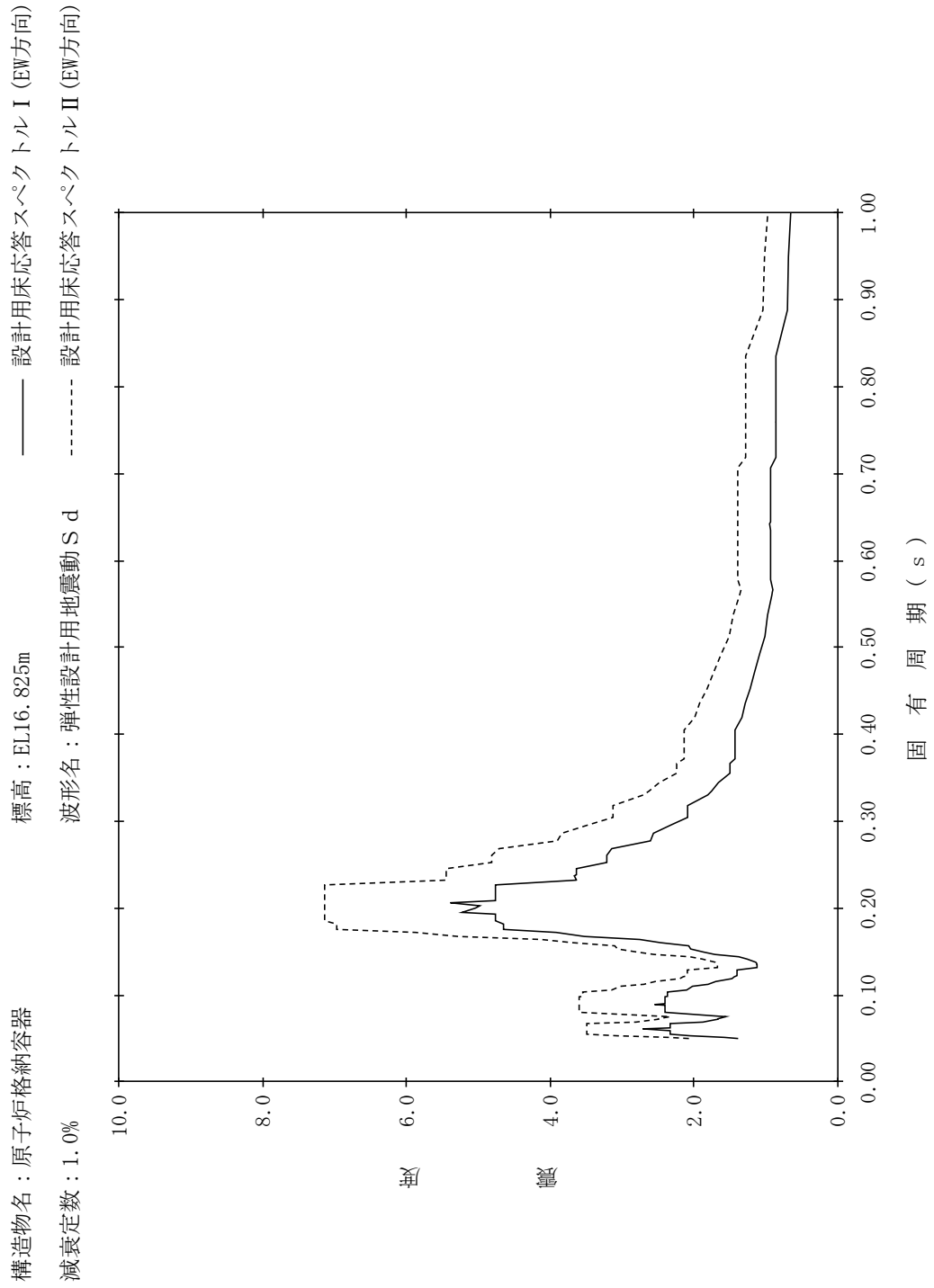


【NS2-PCV-SdEW-PCV65】

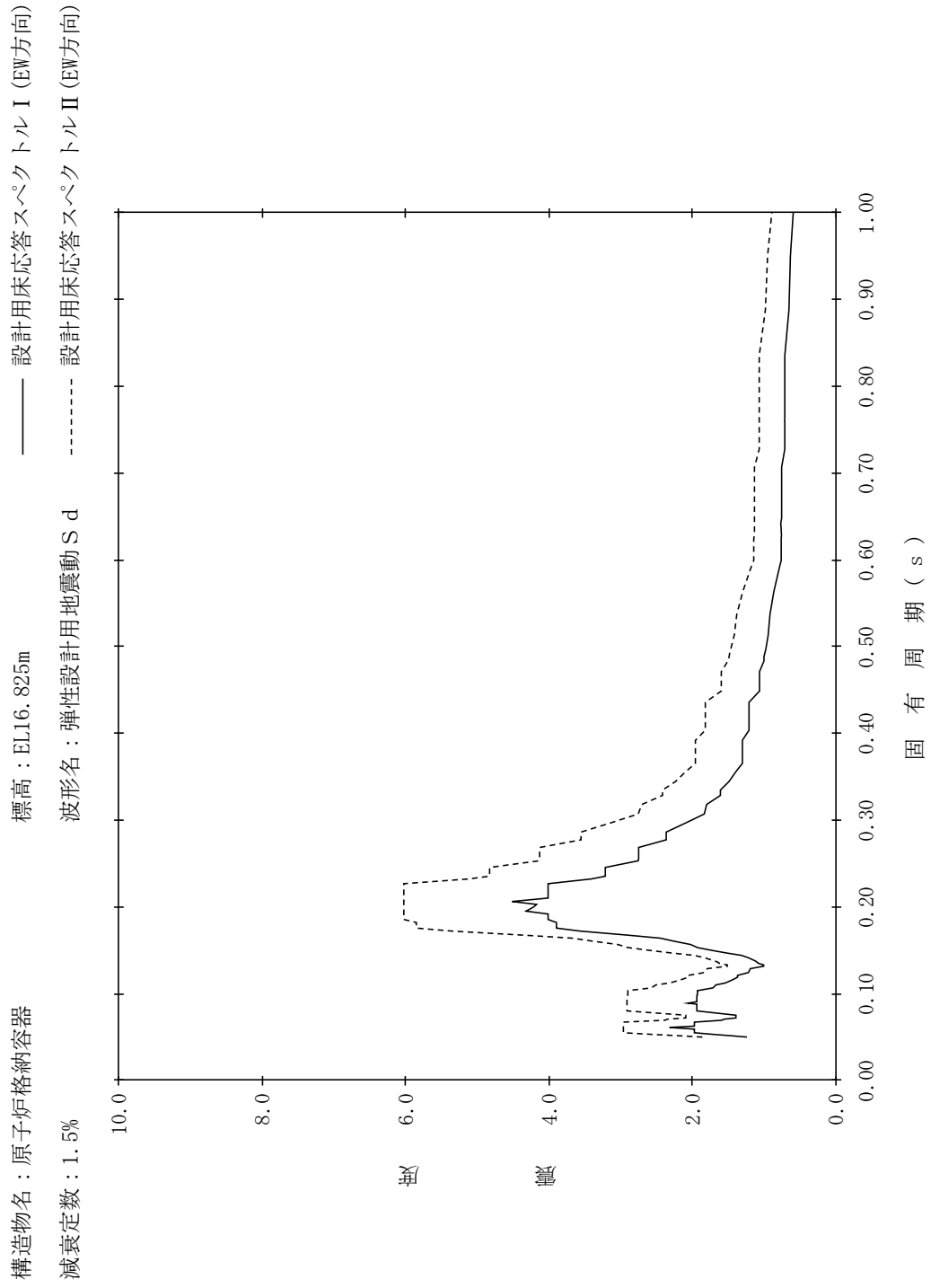
構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-PCV-SdEW-PCV66】

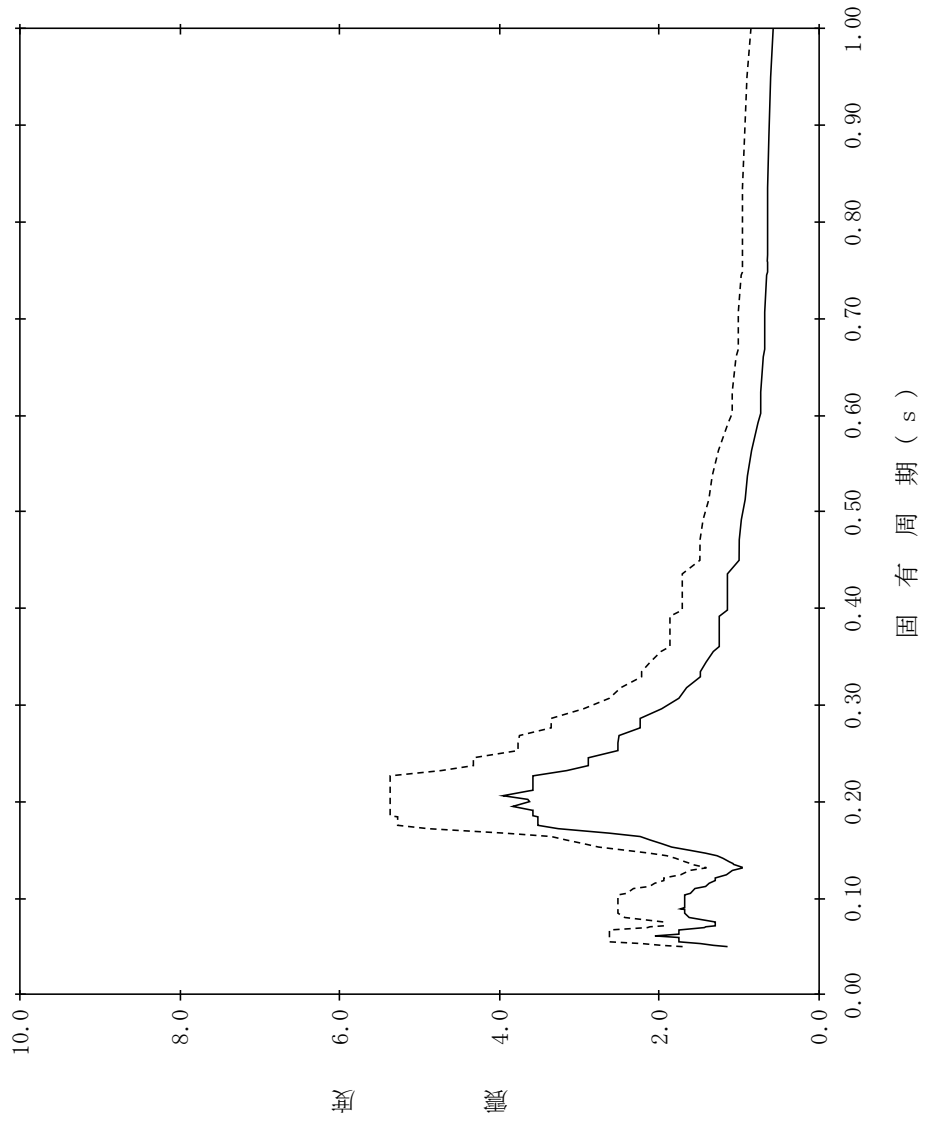


【NS2-PCV-SdEW-PCV67】



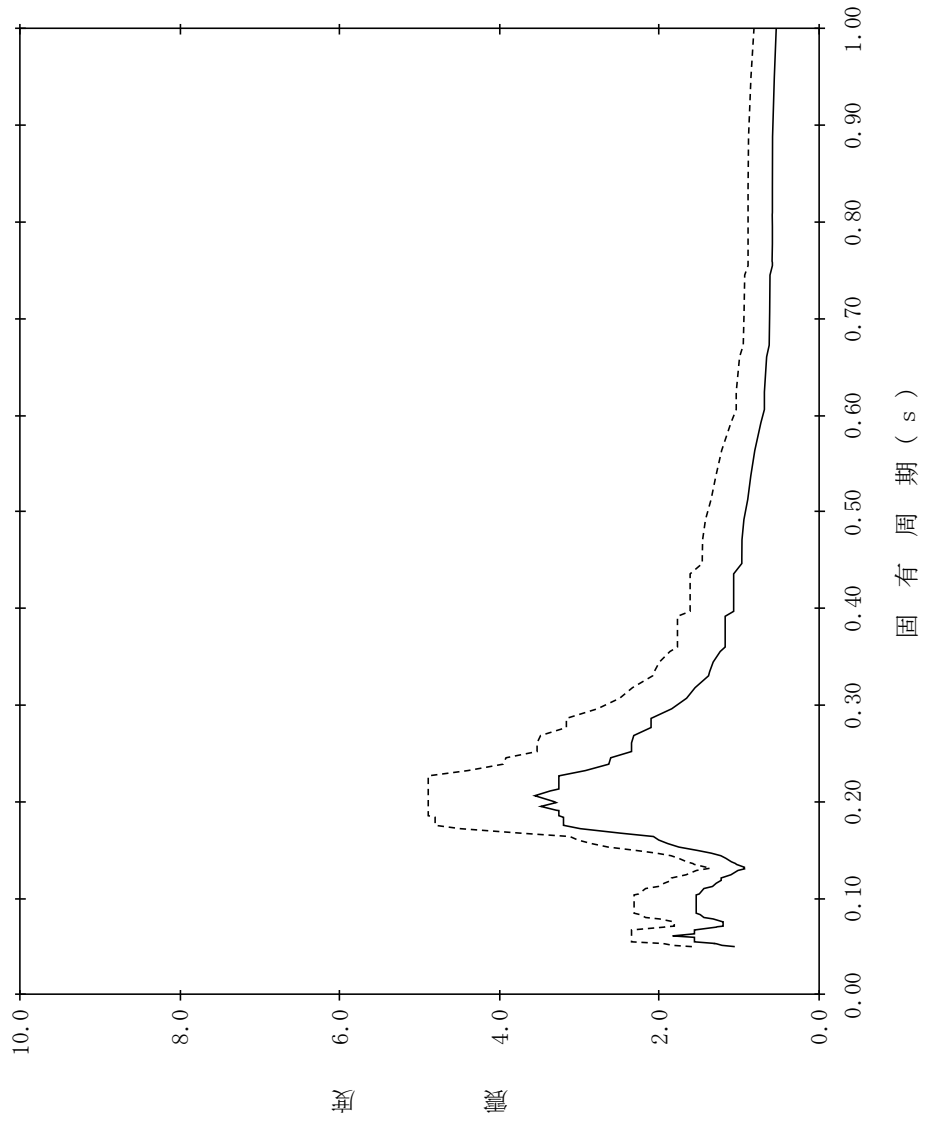
【NS2-PCV-SdEW-PCV68】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



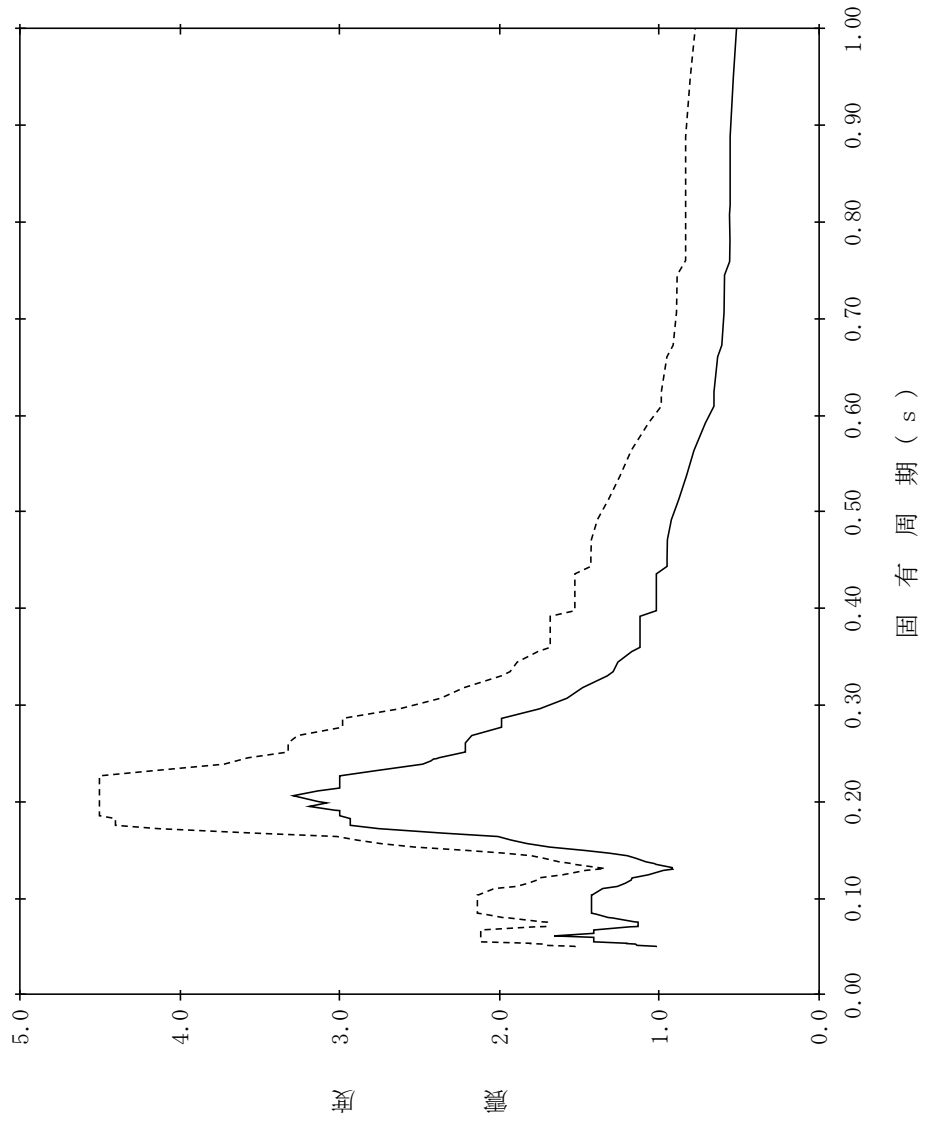
【NS2-PCV-SdEW-PCV69】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



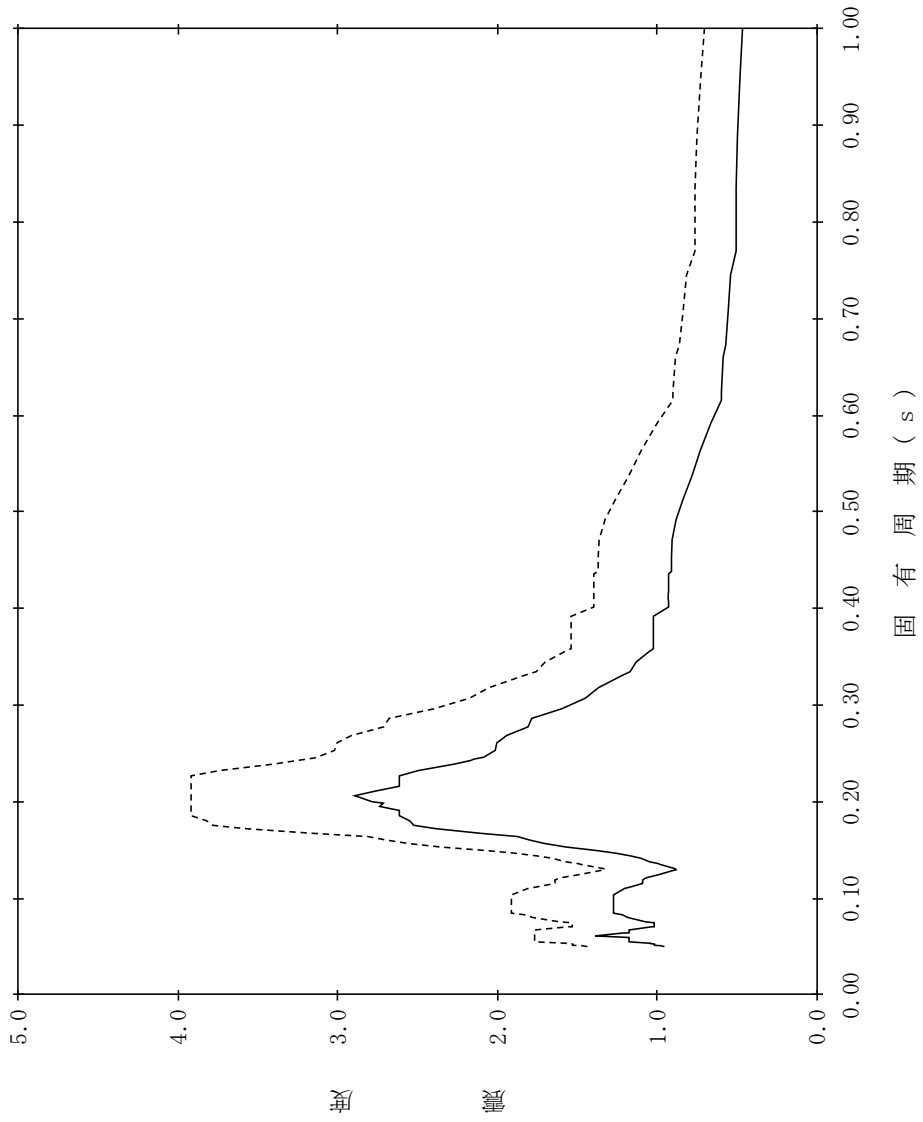
【NS2-PCV-SdEW-PCV70】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



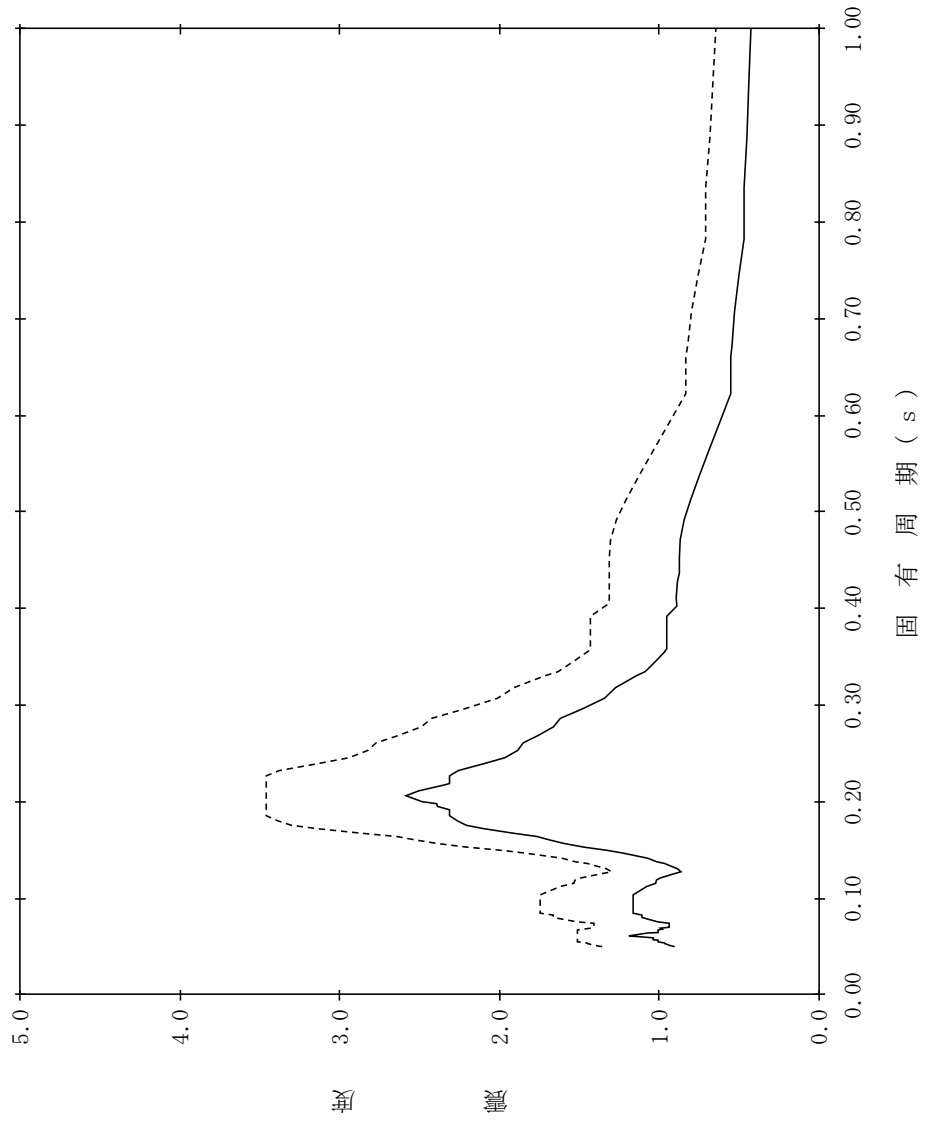
【NS2-PCV-SdEW-PCV71】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



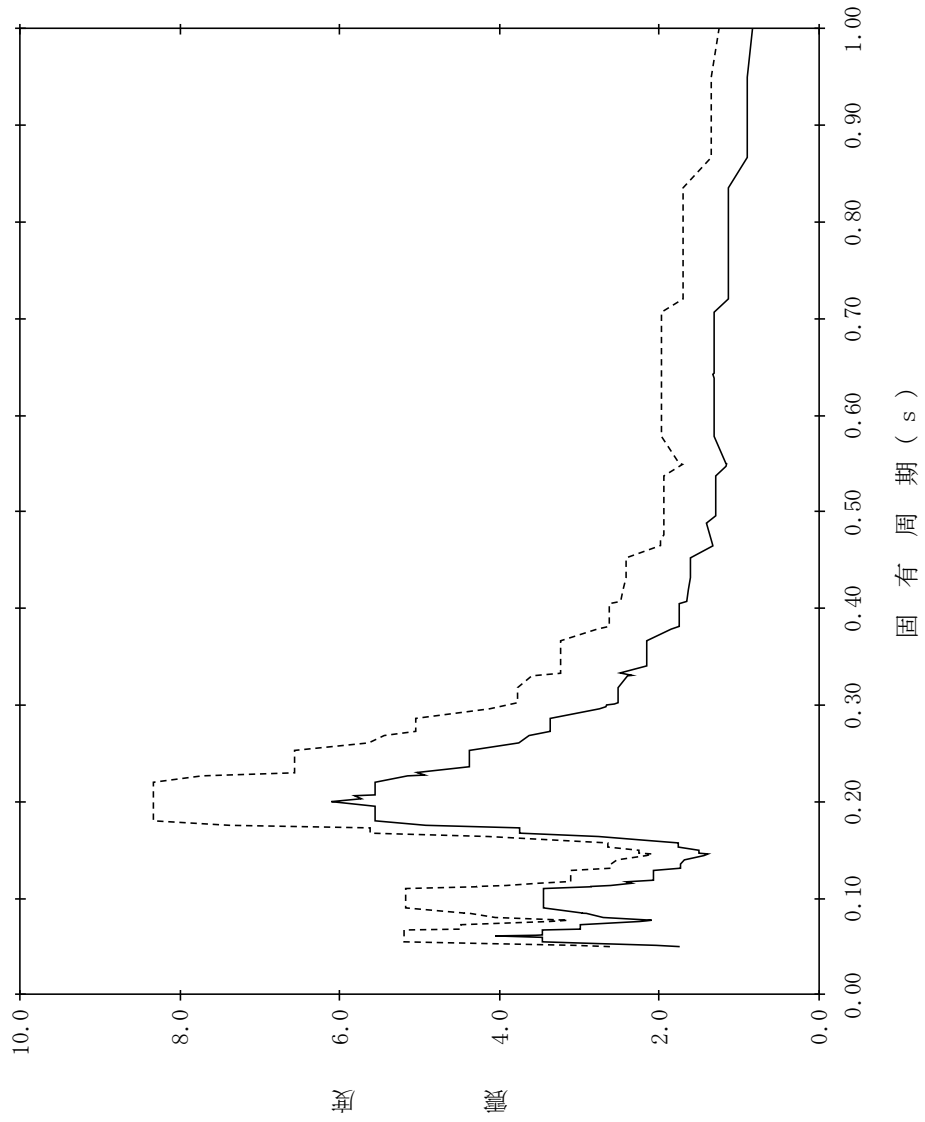
【NS2-PCV-SdEW-PCV72】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL16.825m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



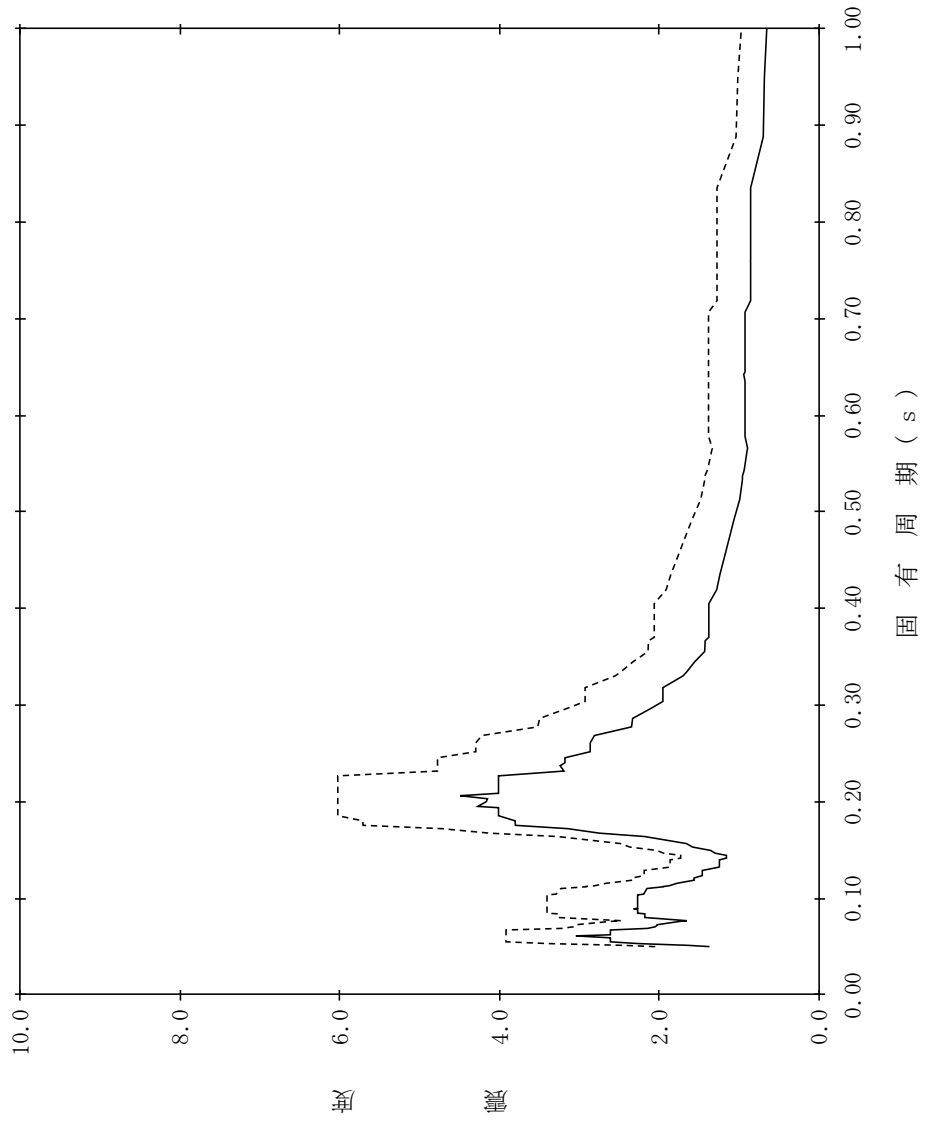
【NS2-PCV-SdEW-PCV73】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



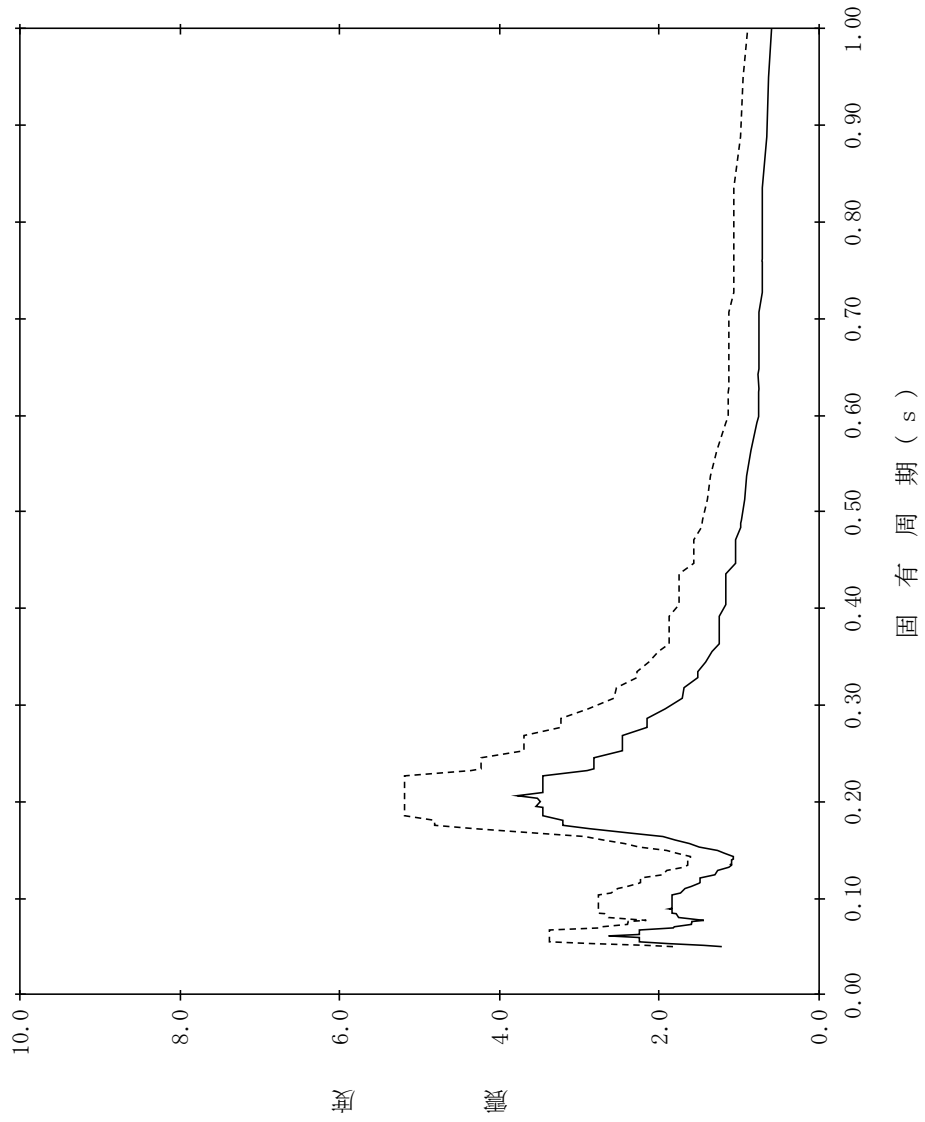
【NS2-PCV-SdEW-PCV74】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

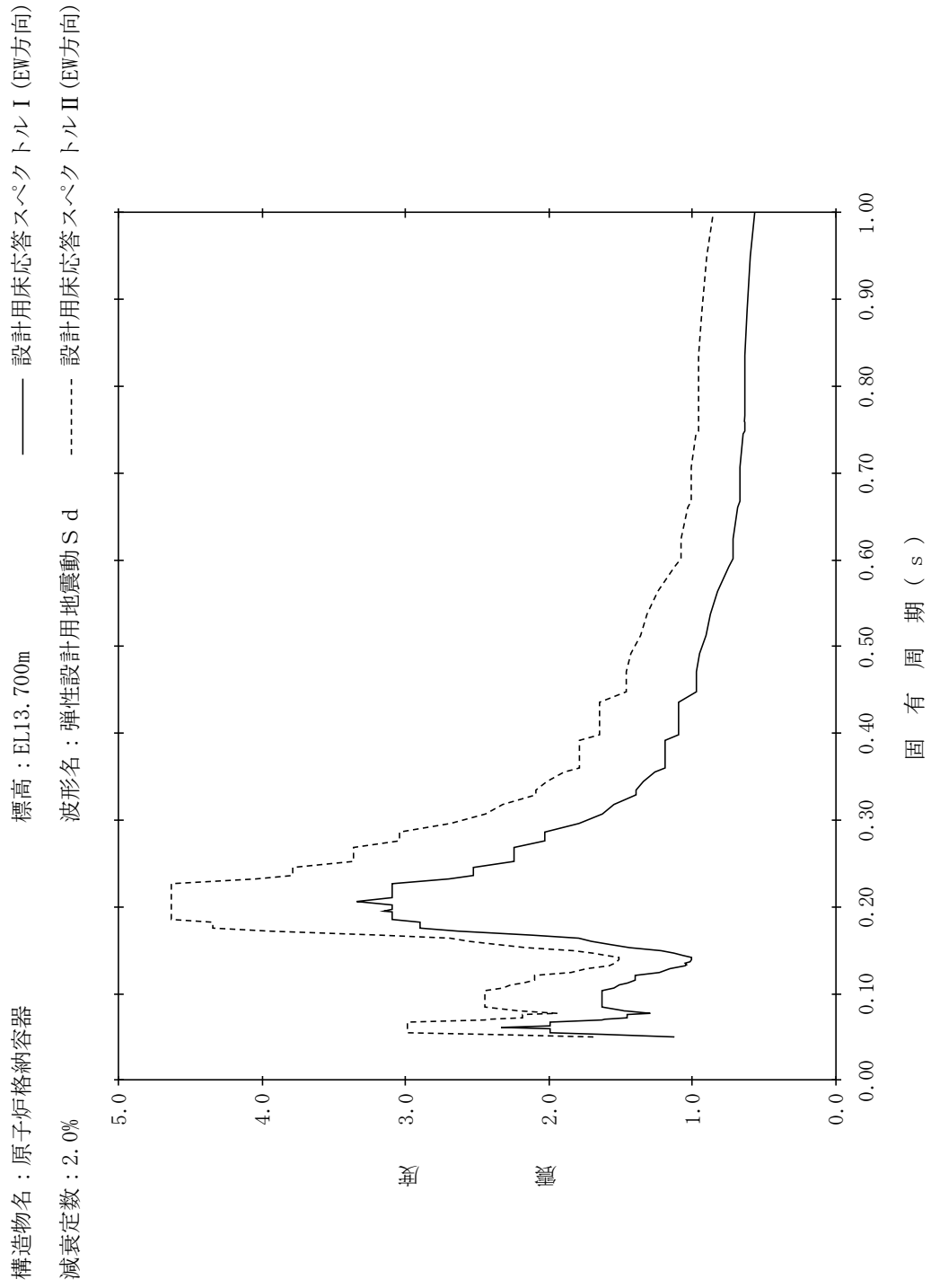


【NS2-PCV-SdEW-PCV75】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



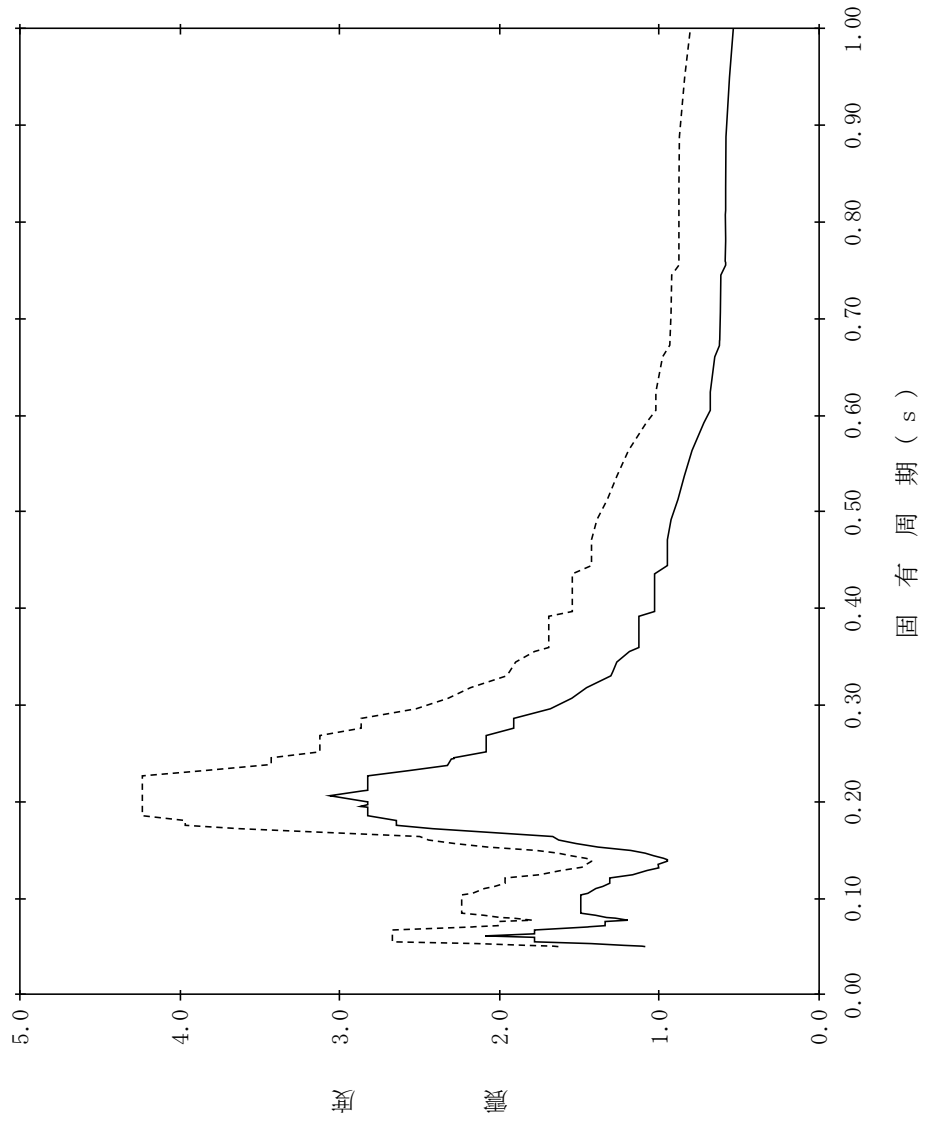
【NS2-PCV-SdEW-PCV76】



【NS2-PCV-SdEW-PCV77】

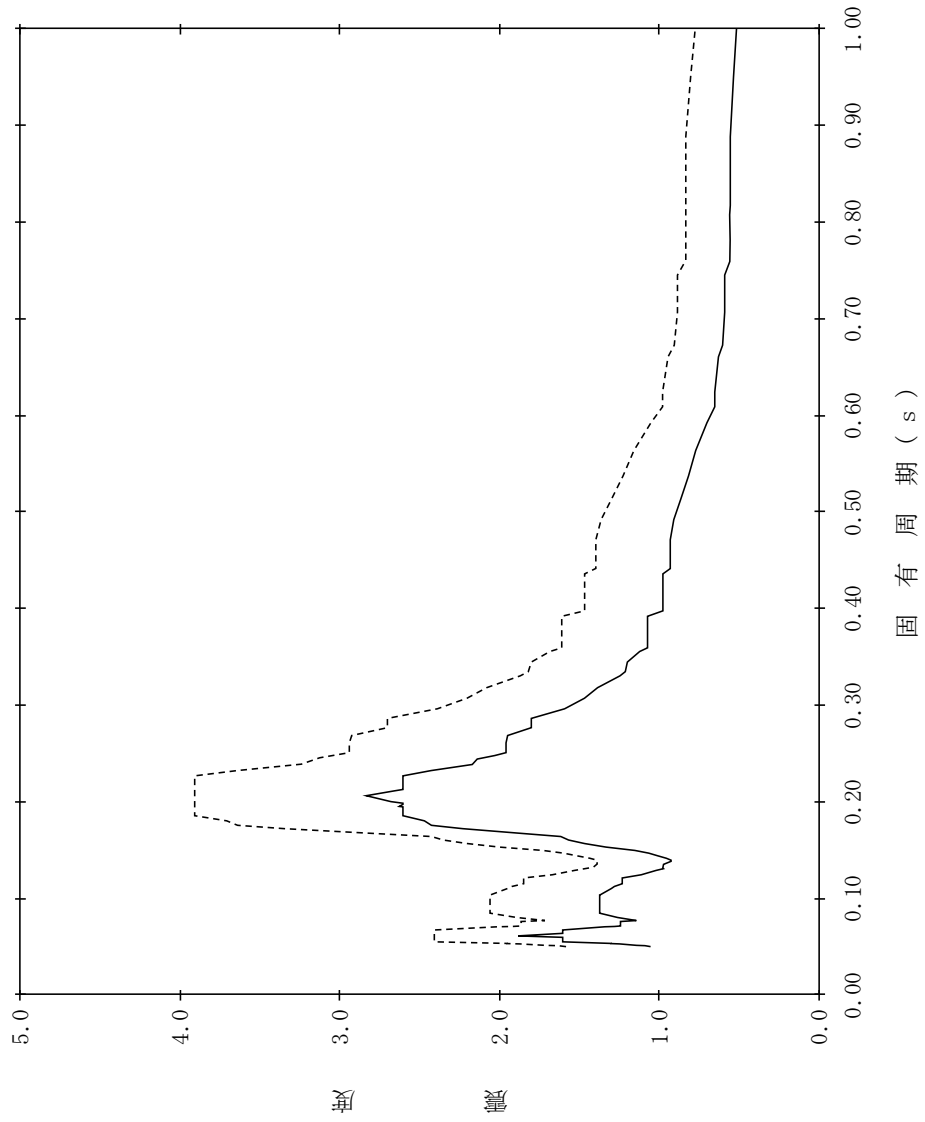
構造物名：原子炉格納容器
標高：EL13.700m
減衰定数：2.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



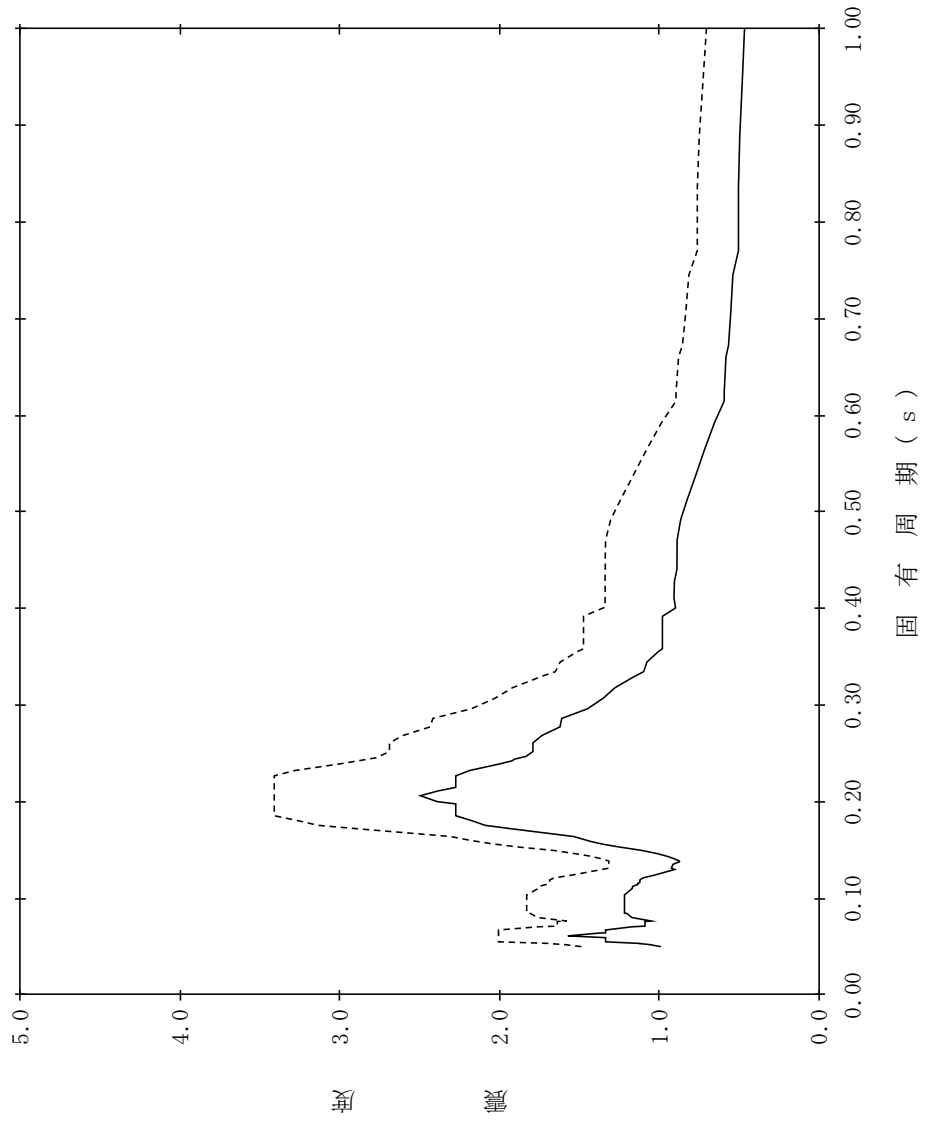
【NS2-PCV-SdEW-PCV78】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL13.700m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



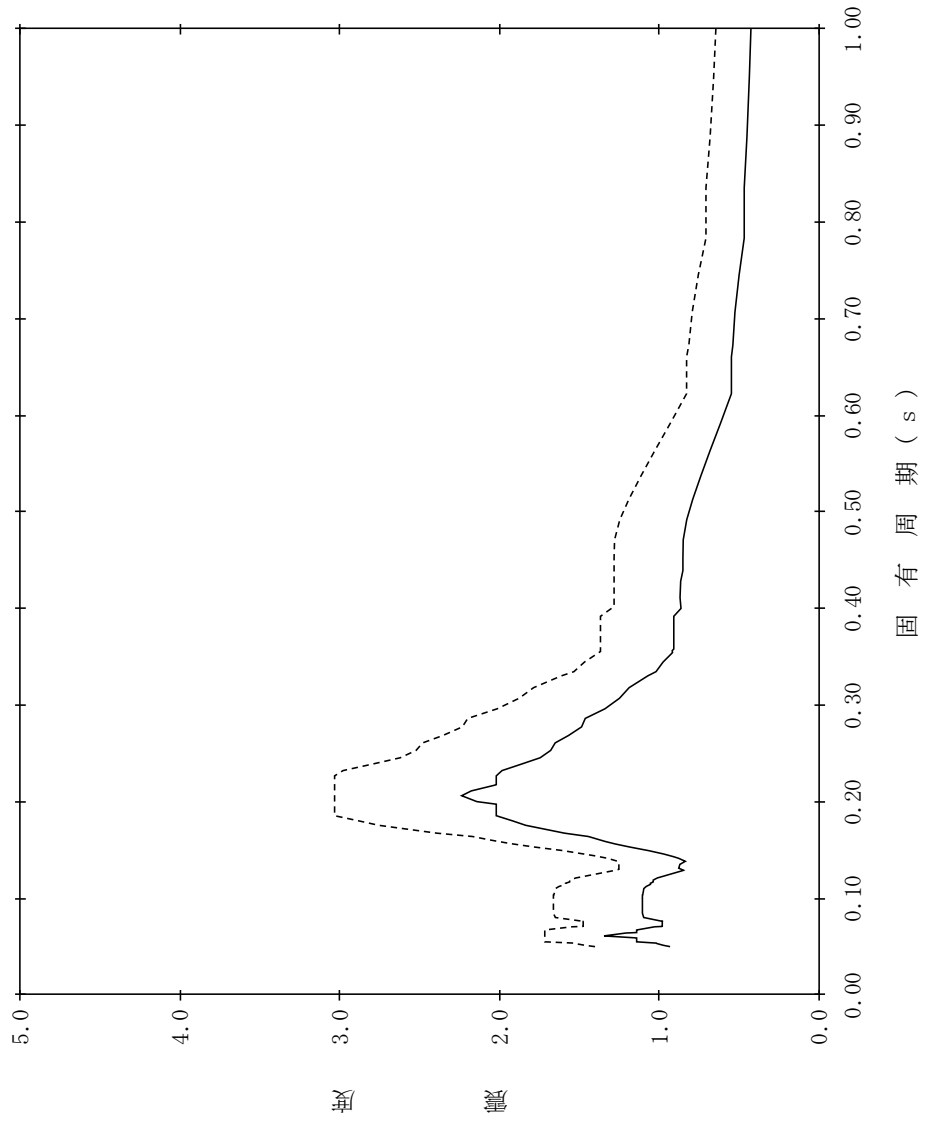
【NS2-PCV-SdEW-PCV79】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



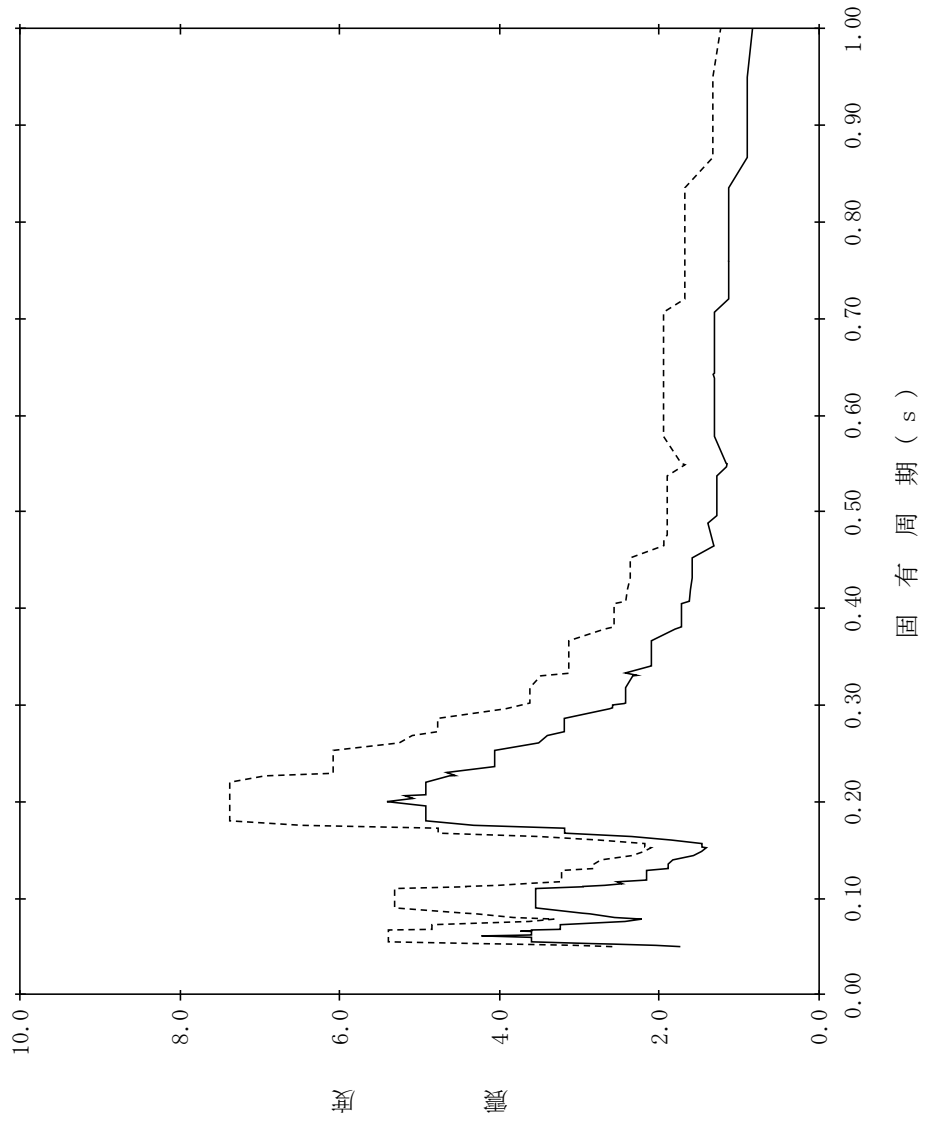
【NS2-PCV-SdEW-PCV80】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



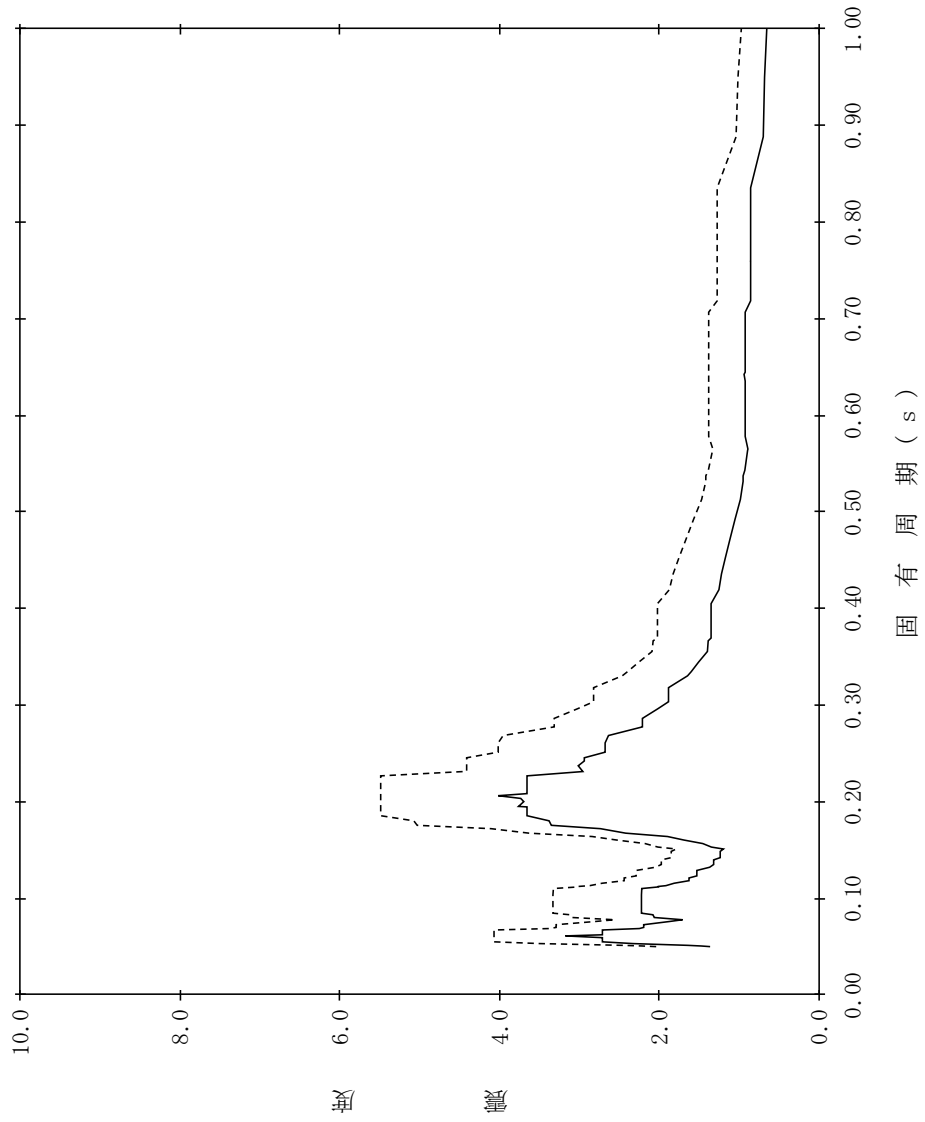
【NS2-PCV-SdEW-PCV81】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

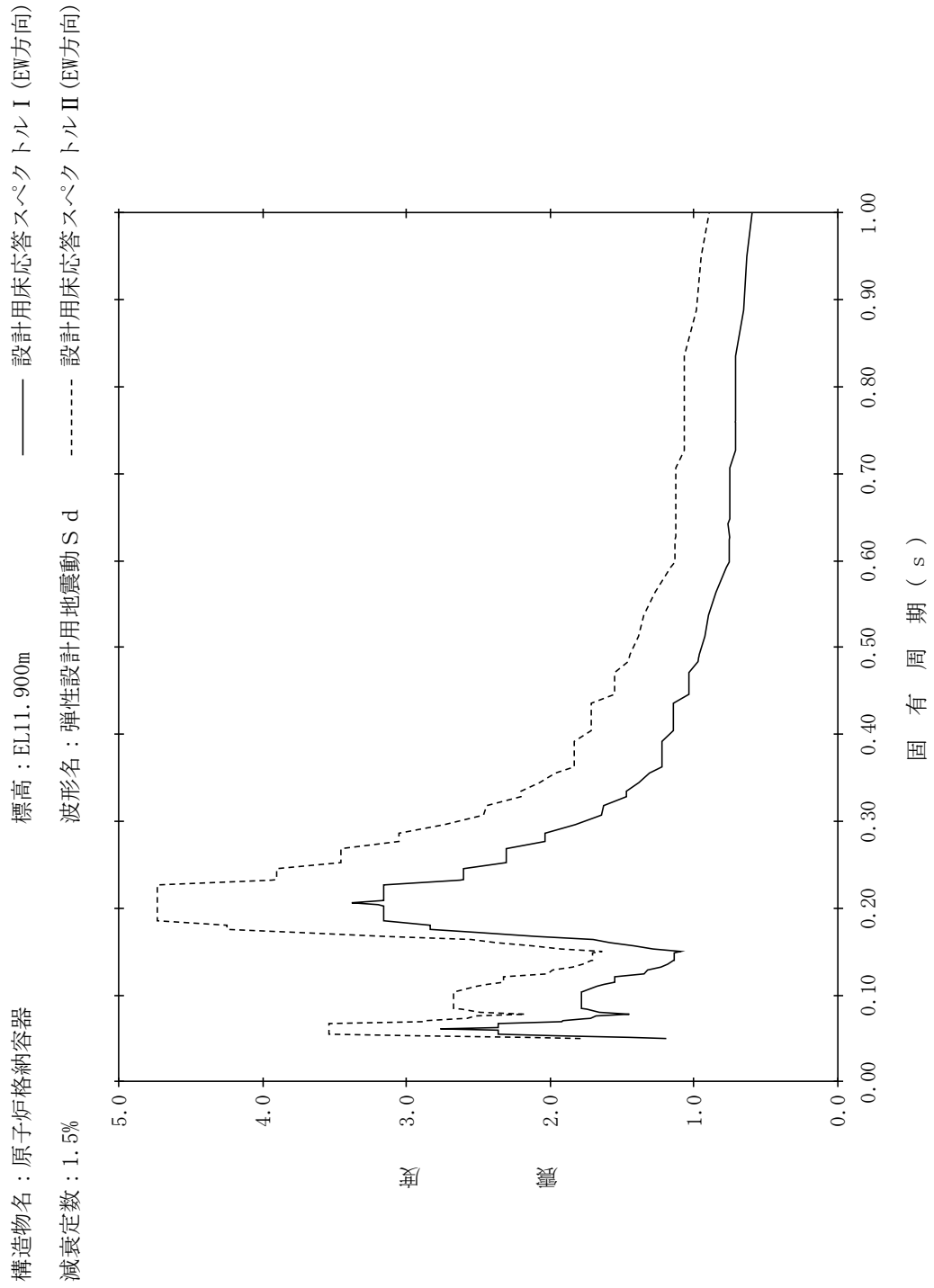


【NS2-PCV-SdEW-PCV82】

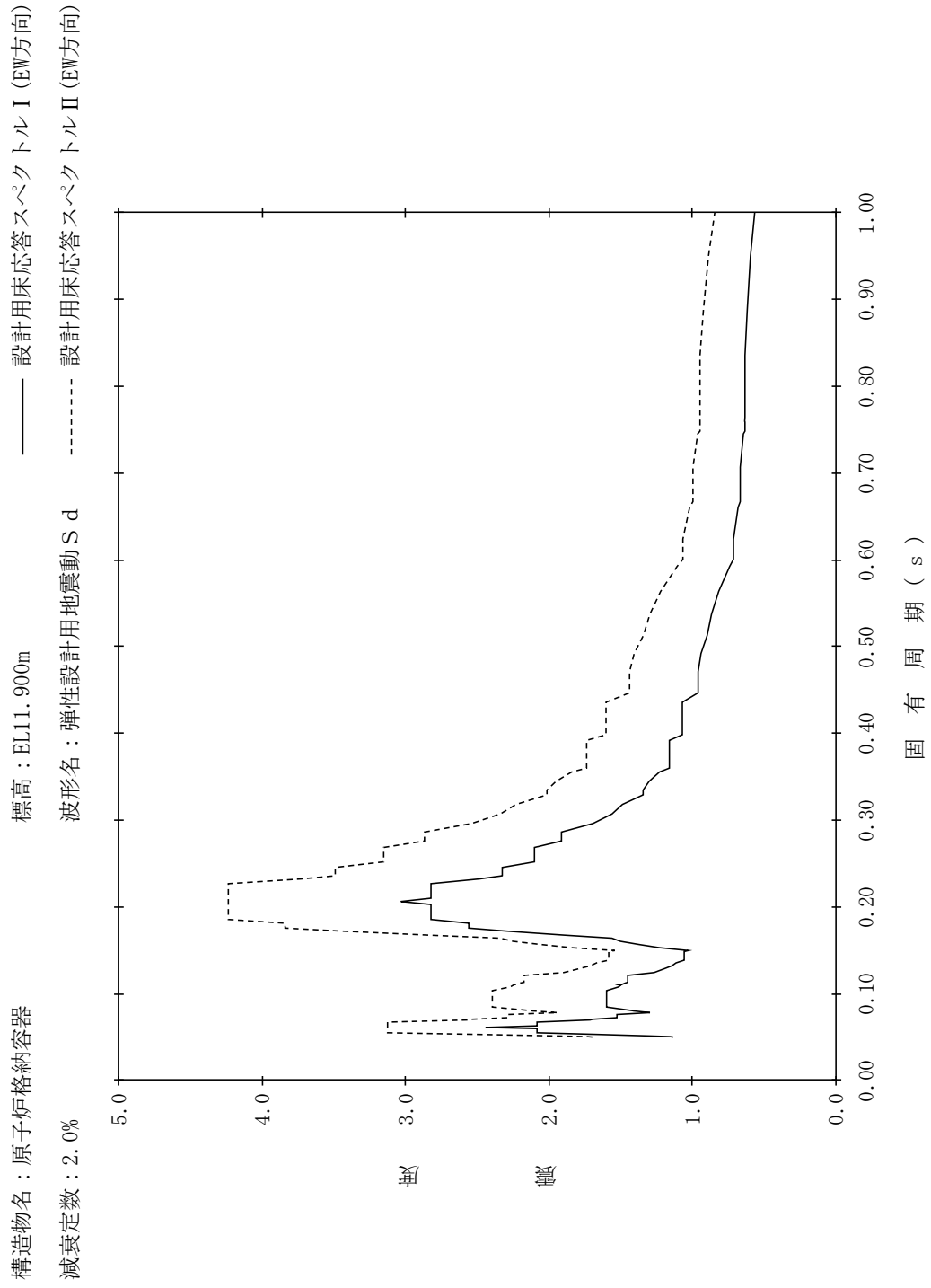
構造物名：原子炉格納容器
標高：EL11.900m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
設計用床応答スペクトル I (EW方向)
設計用床応答スペクトル II (EW方向)



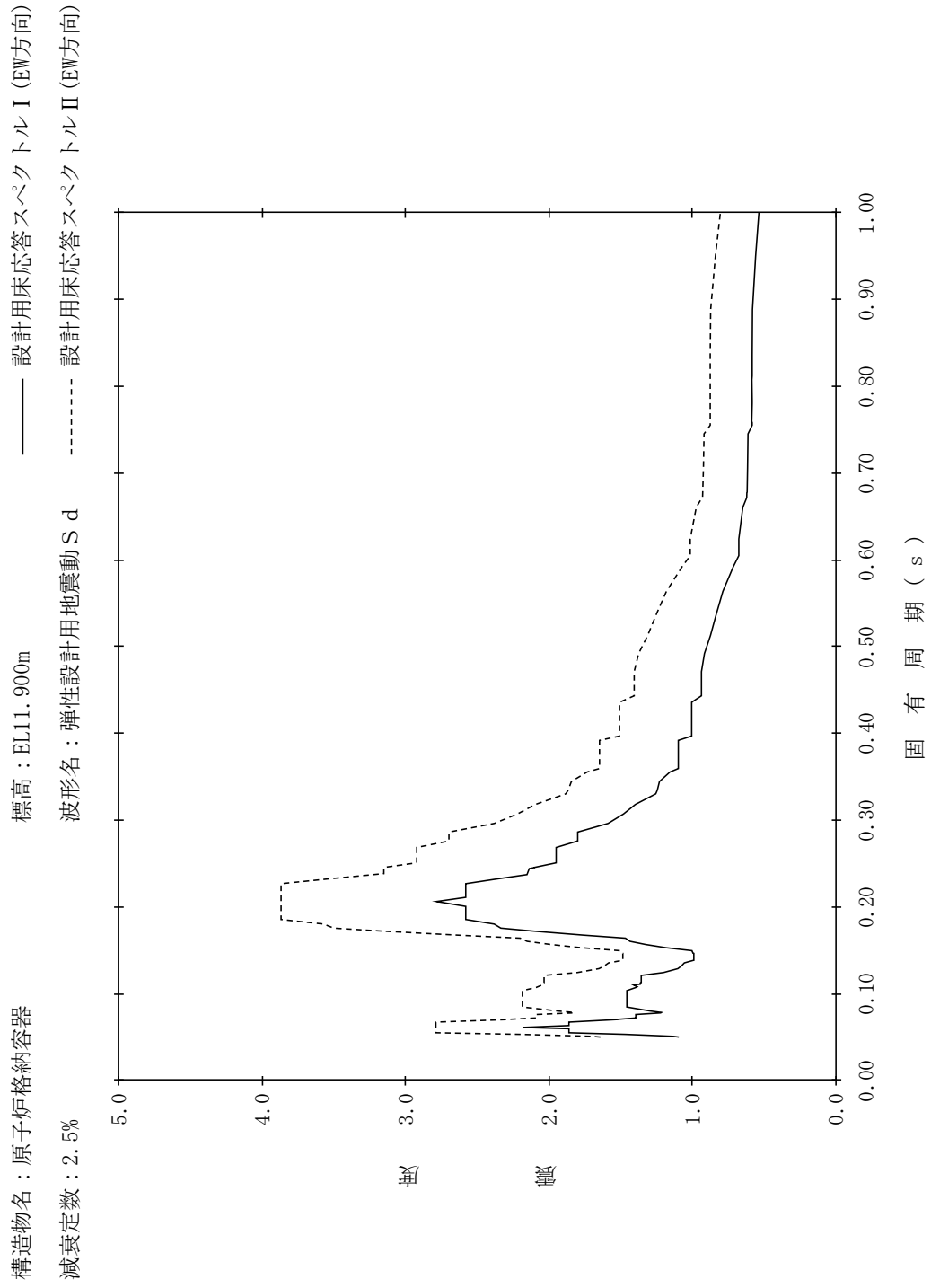
【NS2-PCV-SdEW-PCV83】



【NS2-PCV-SdEW-PCV84】

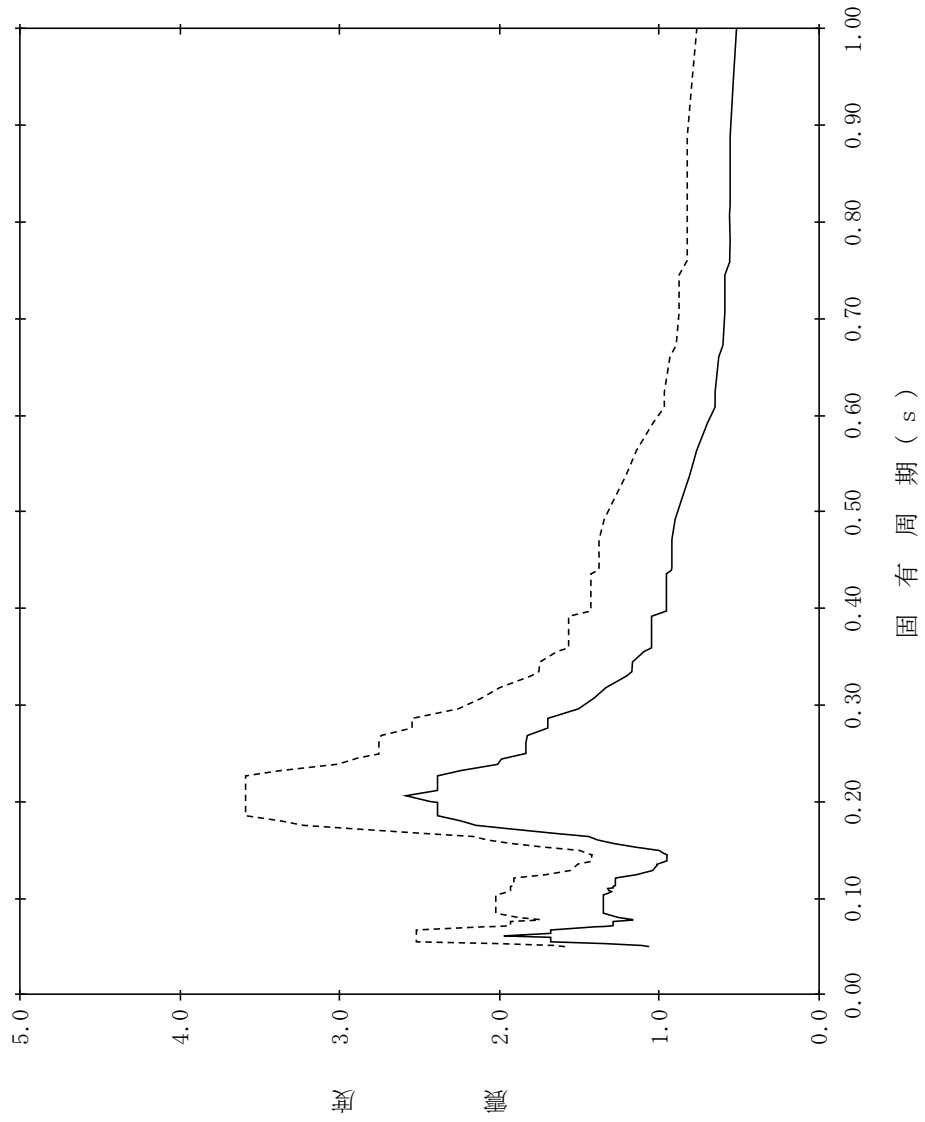


【NS2-PCV-SdEW-PCV85】



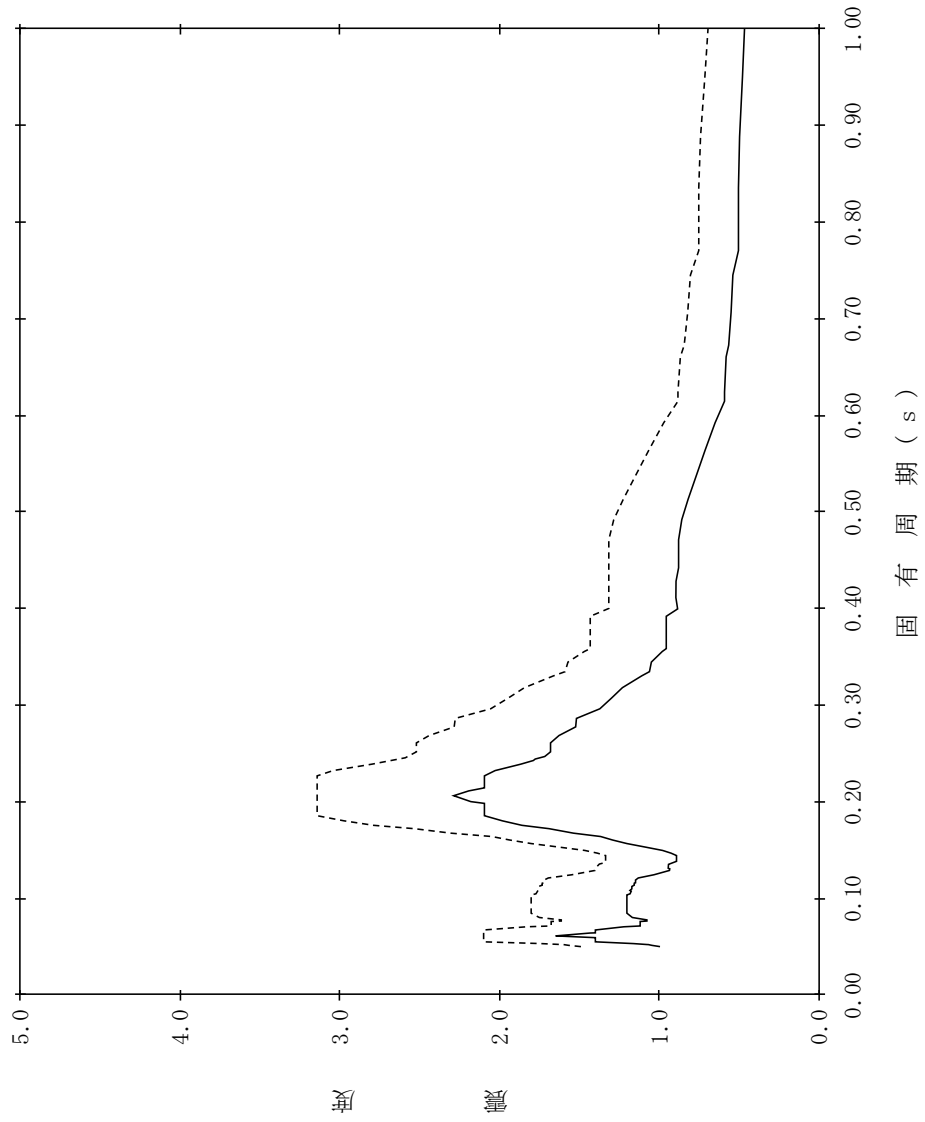
【NS2-PCV-SdEW-PCV86】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



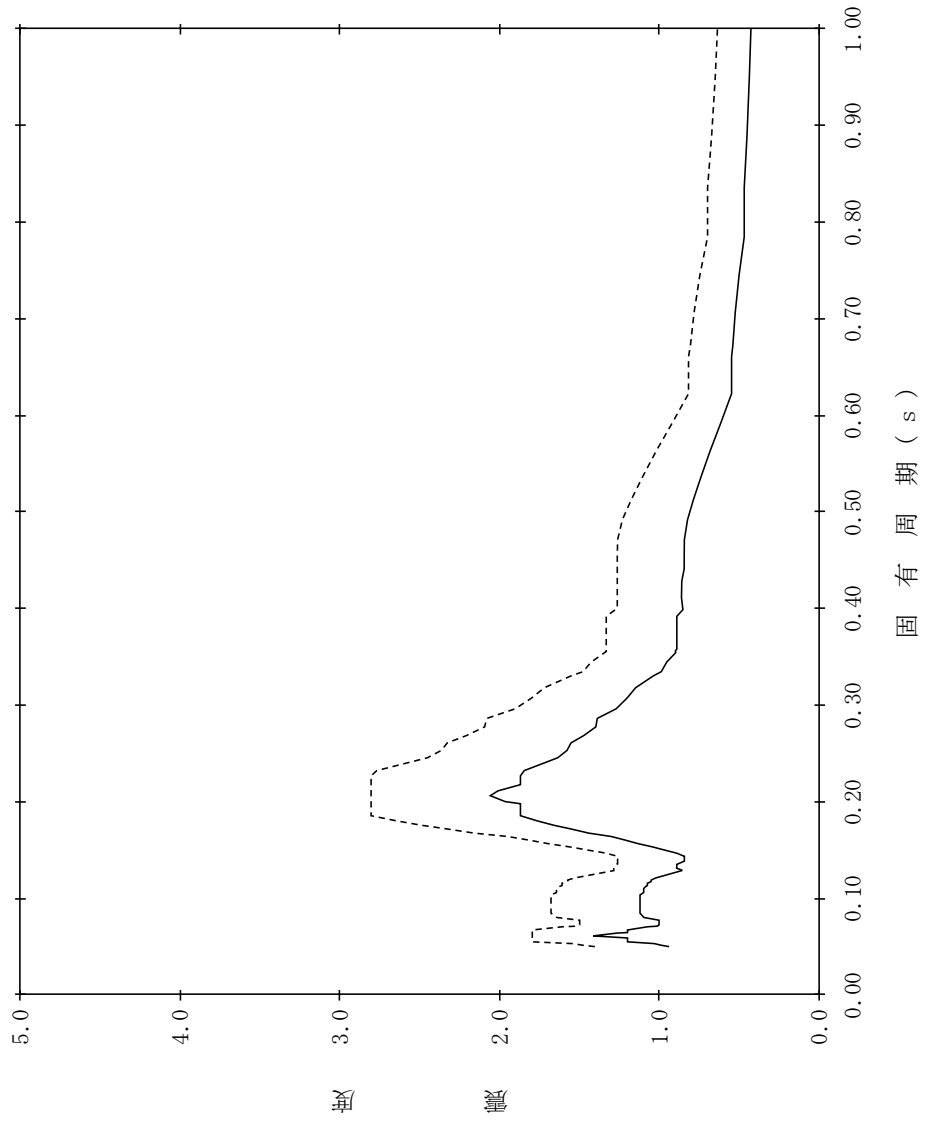
【NS2-PCV-SdEW-PCV87】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



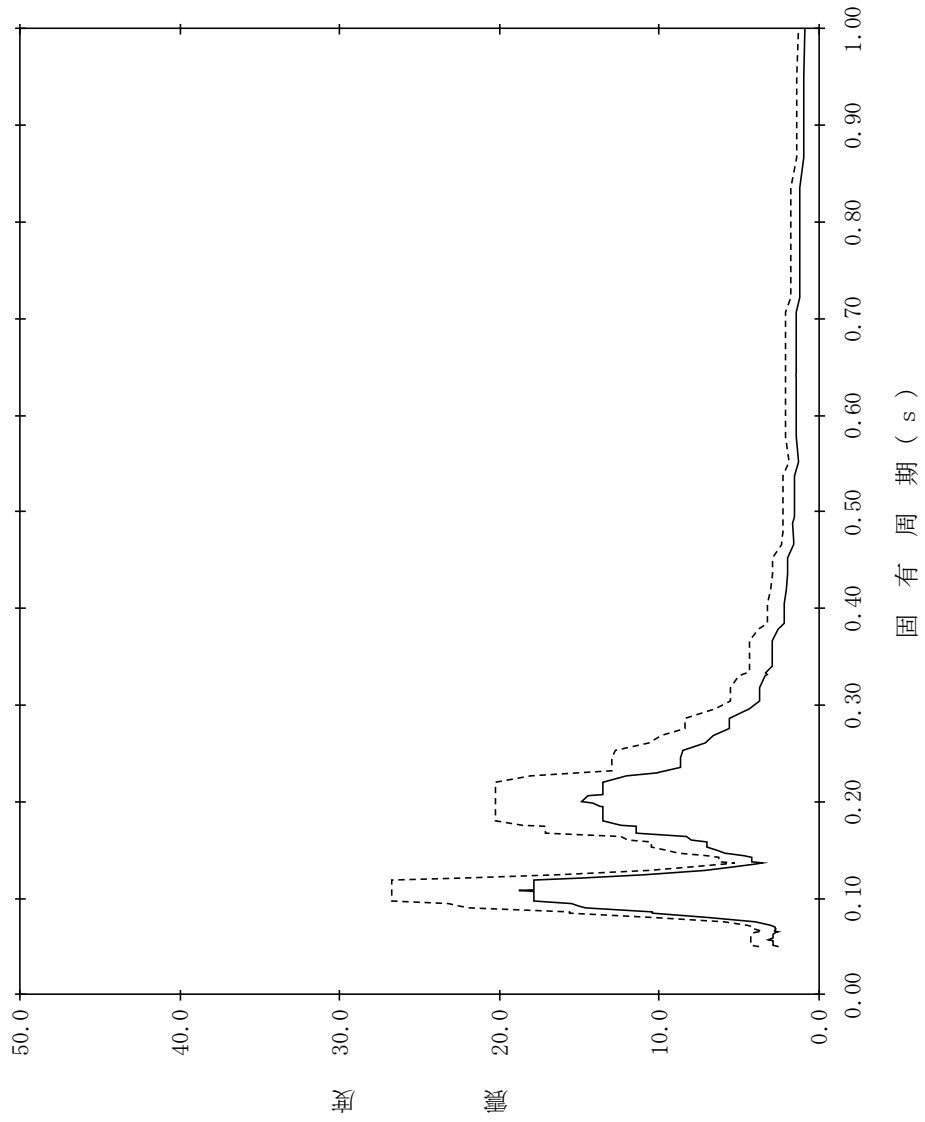
【NS2-PCV-SdEW-PCV88】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL11.900m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



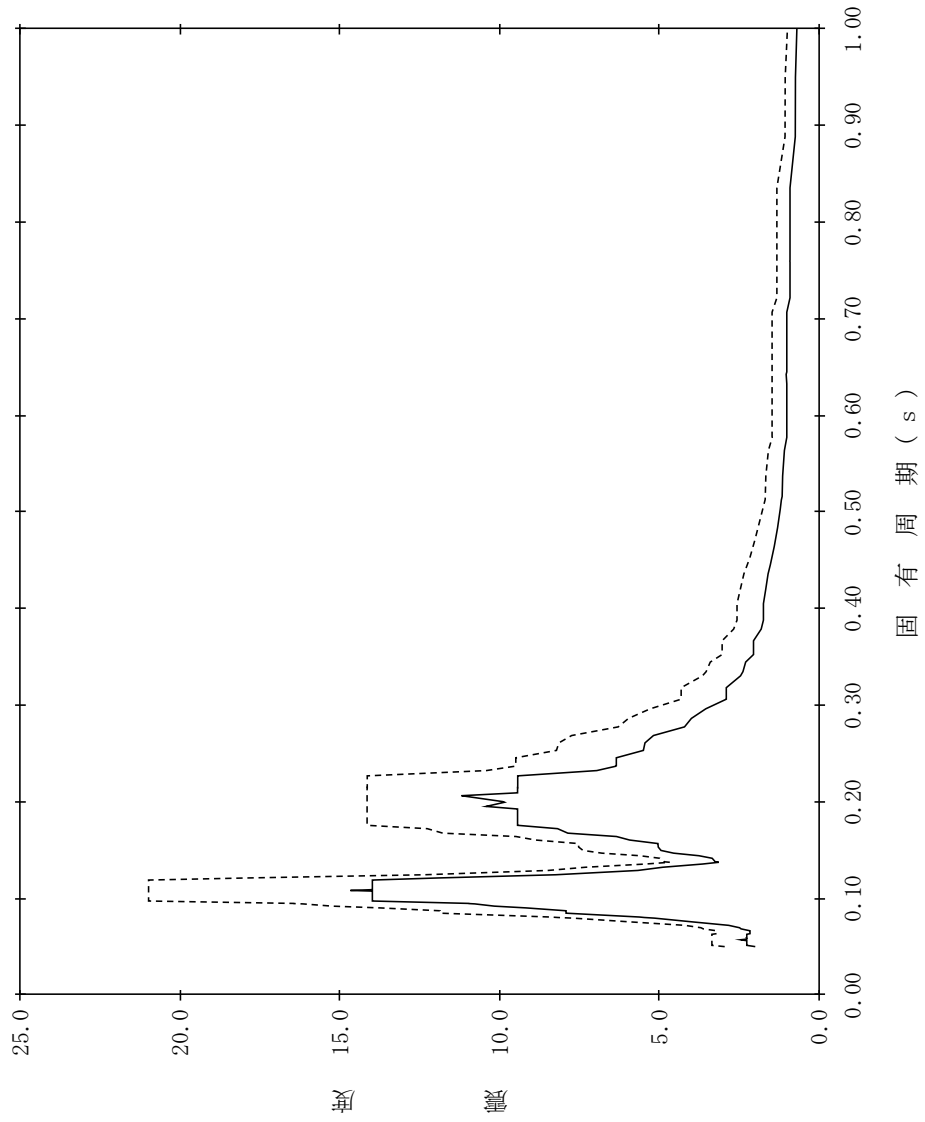
【NS2-PCV-SdEW-GSW89】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



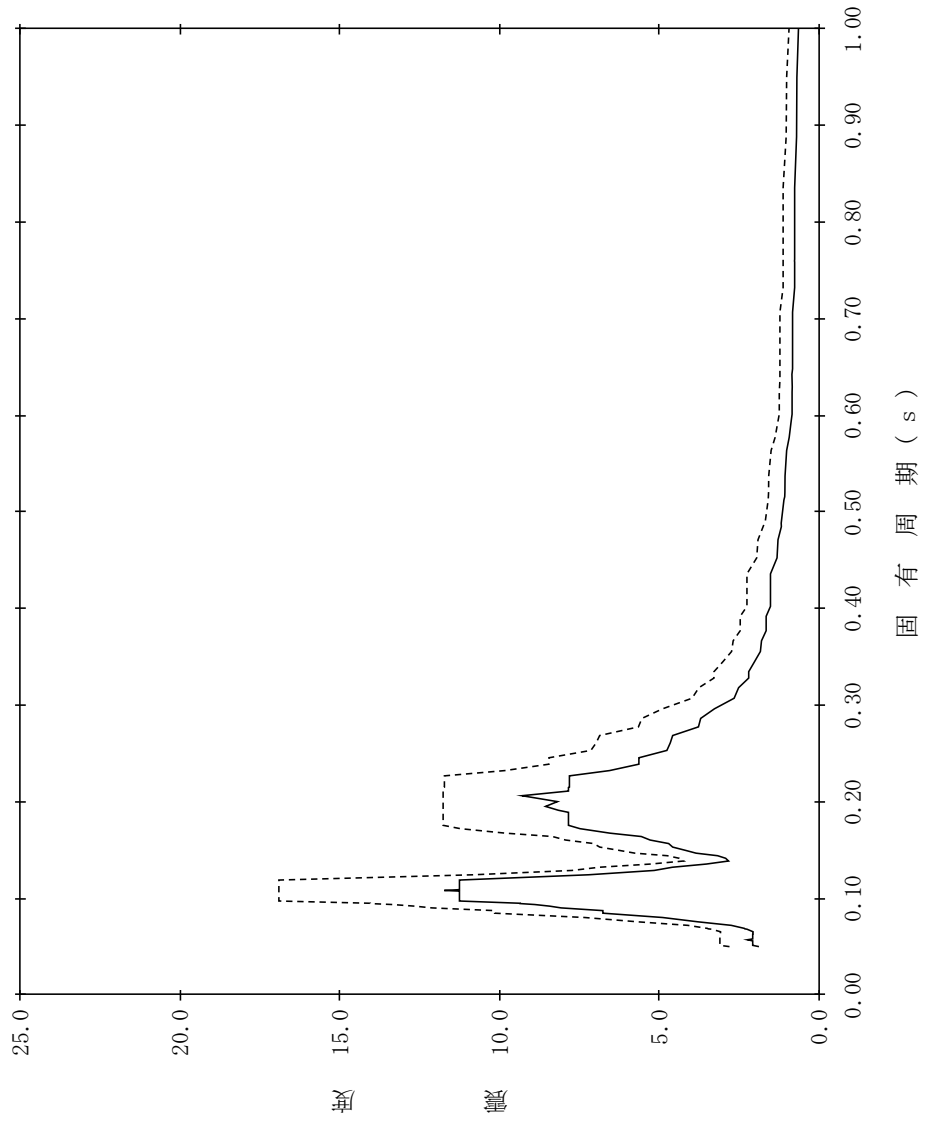
【NS2-PCV-SdEW-GSW90】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



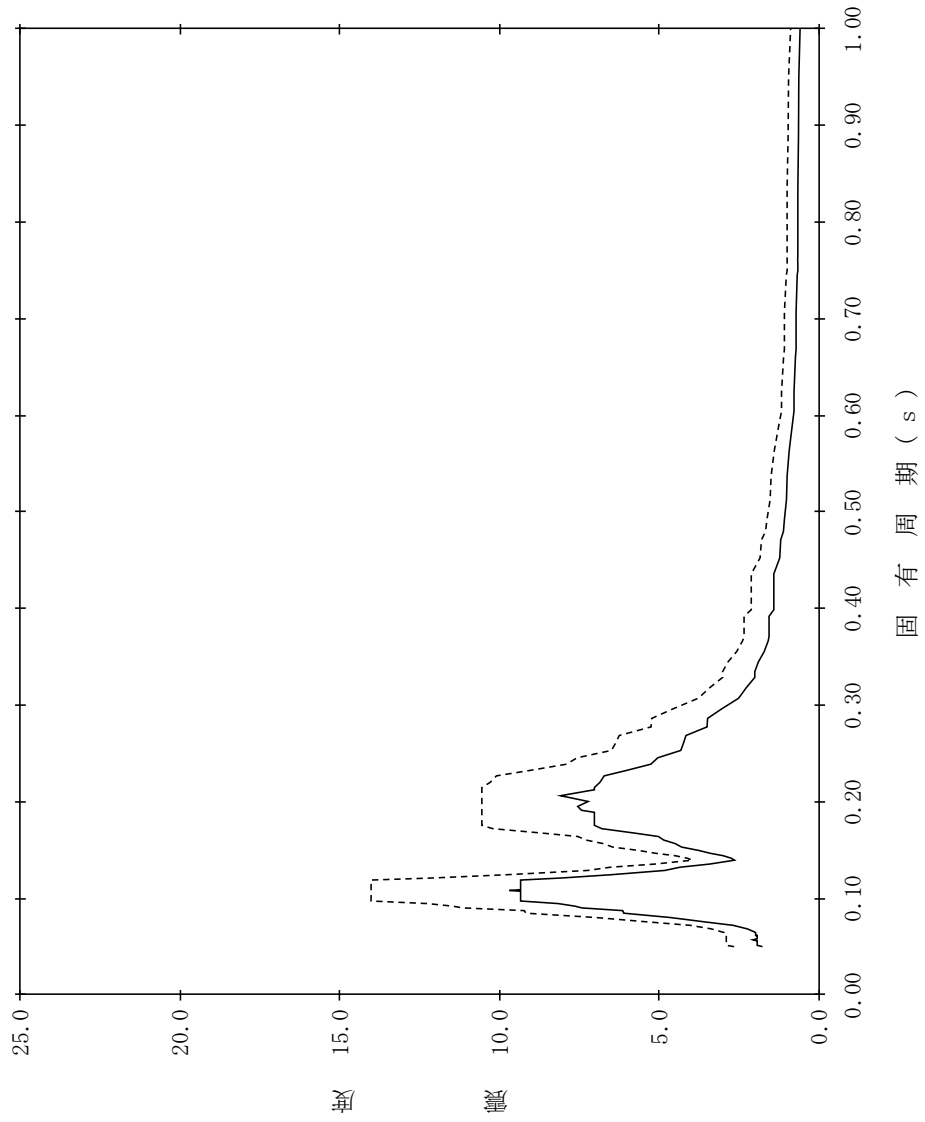
【NS2-PCV-SdEW-GSW91】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



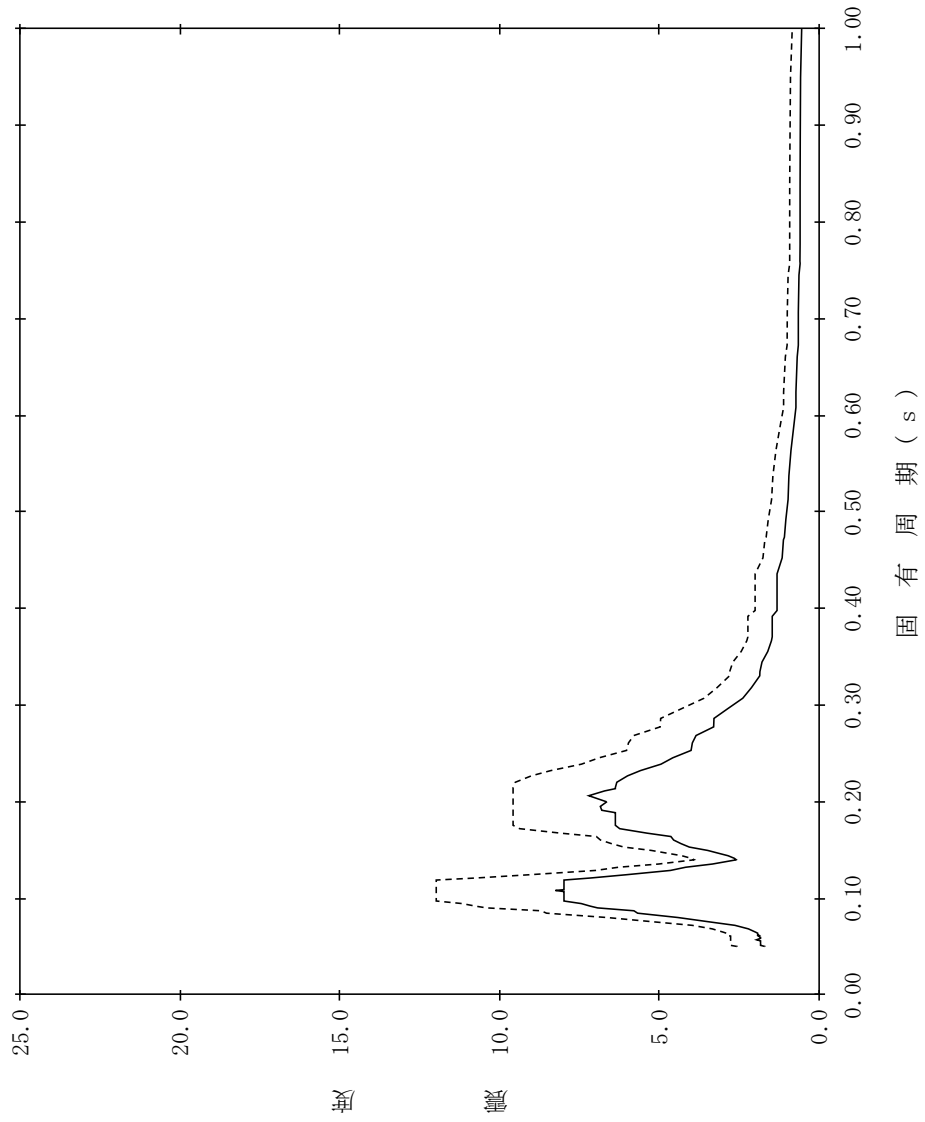
【NS2-PCV-SdEW-GSW92】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



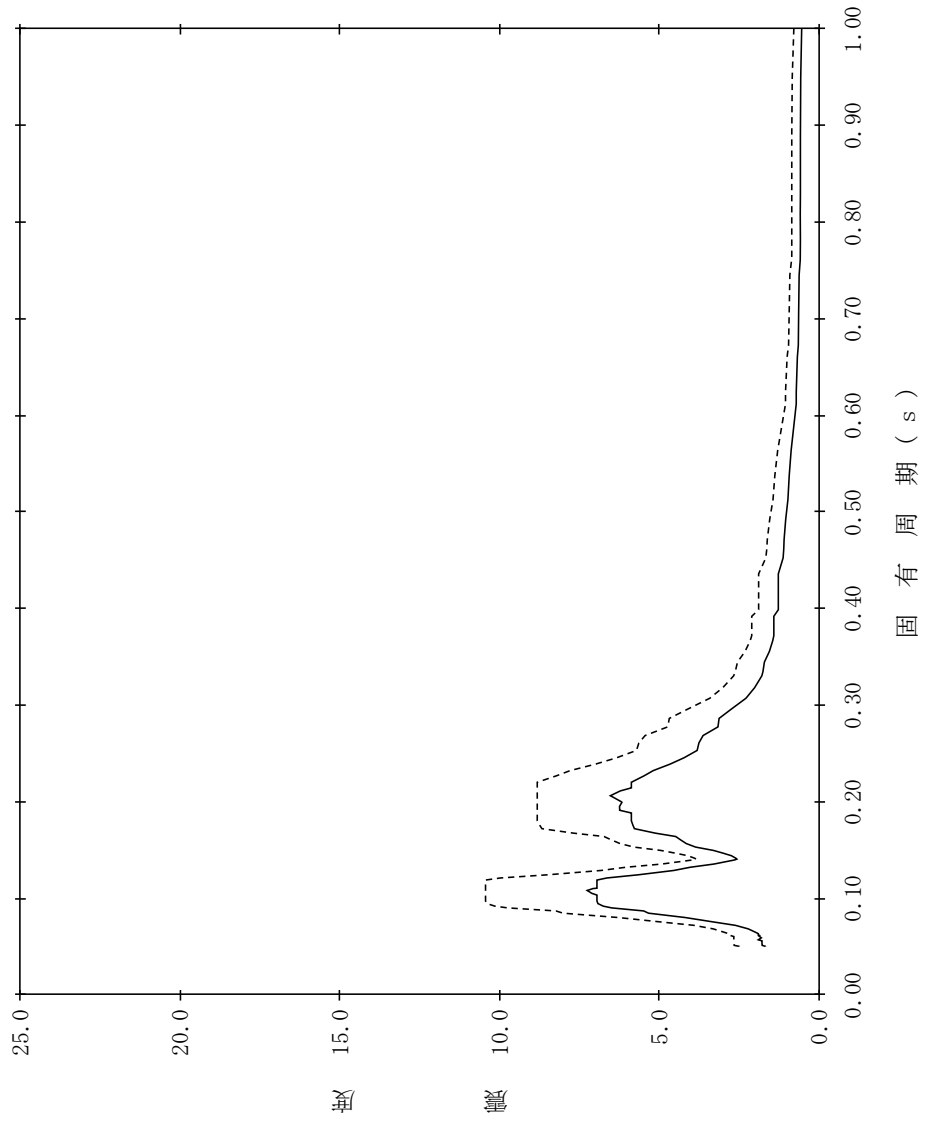
【NS2-PCV-SdEW-GSW93】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



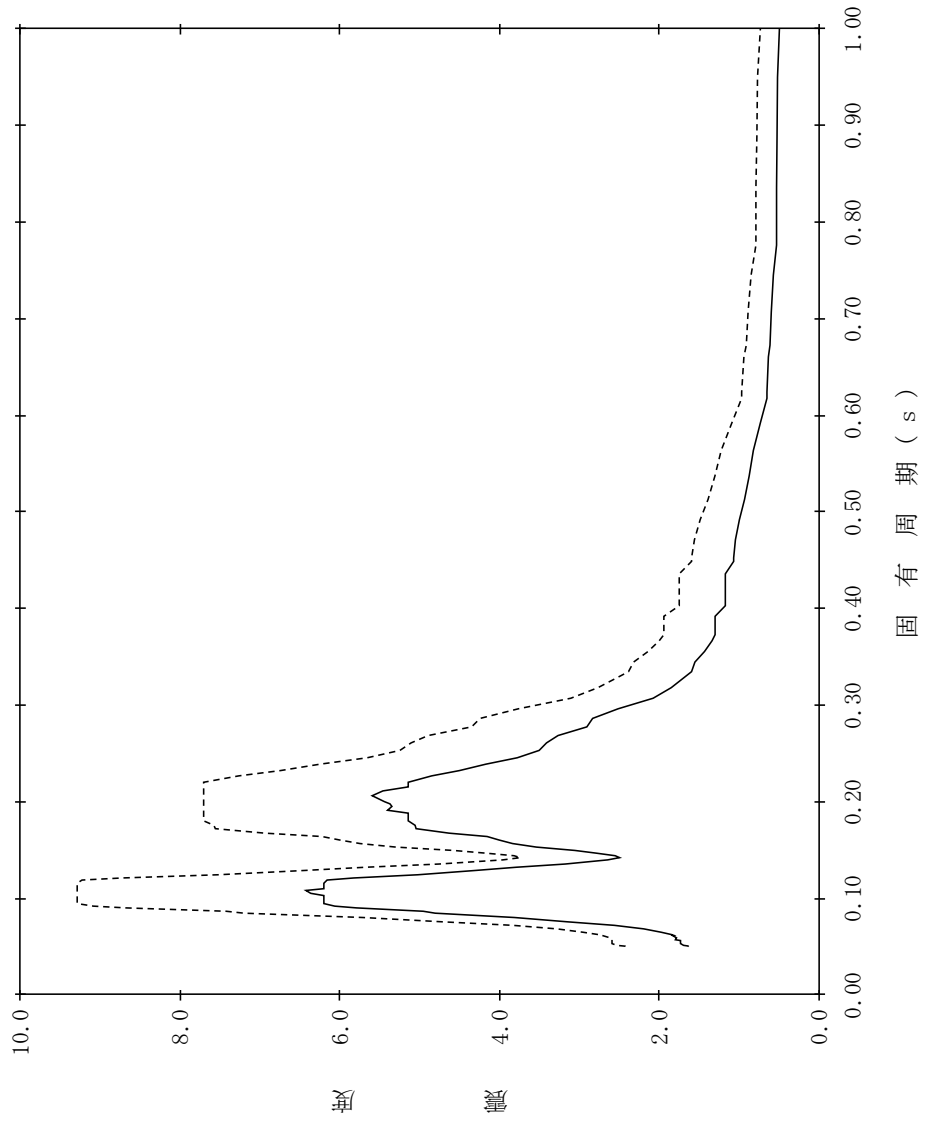
【NS2-PCV-SdEW-GSW94】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



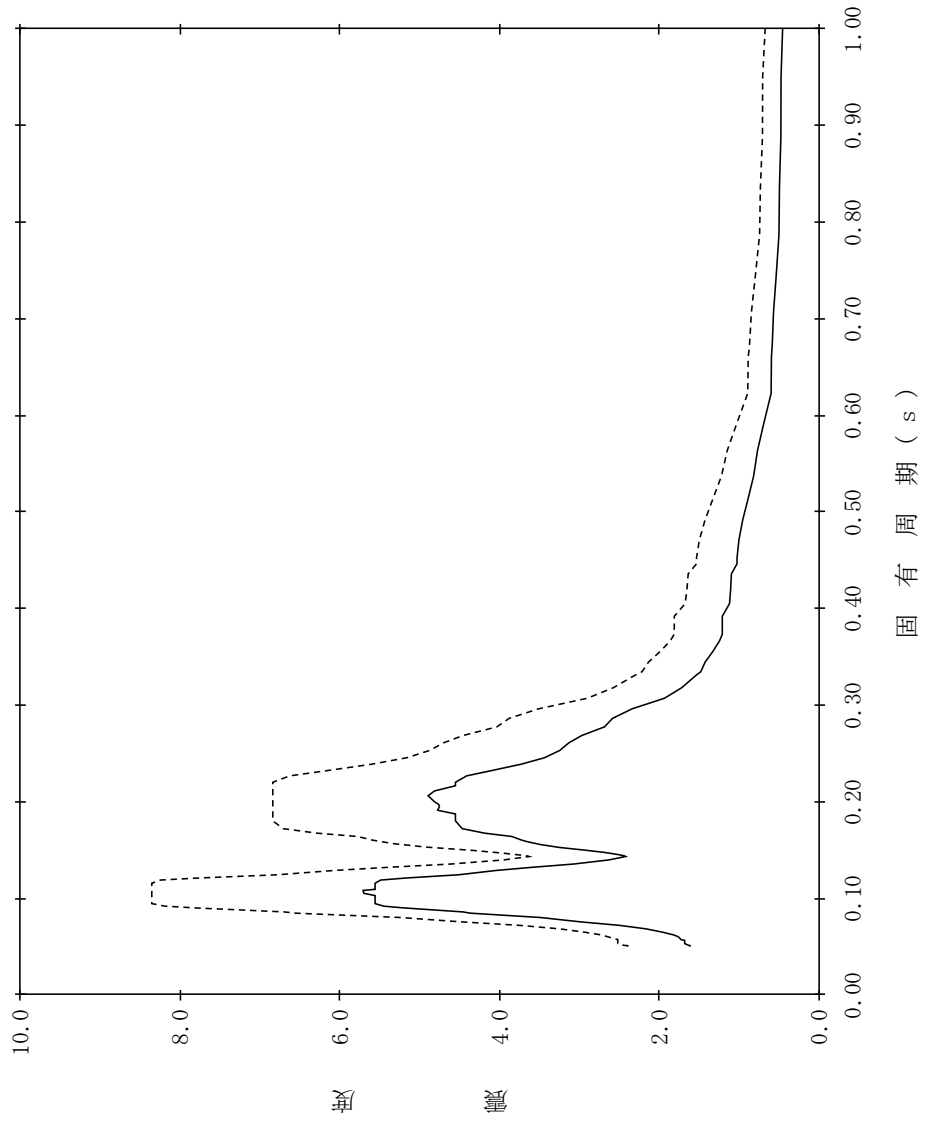
【NS2-PCV-SdEW-GSW95】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



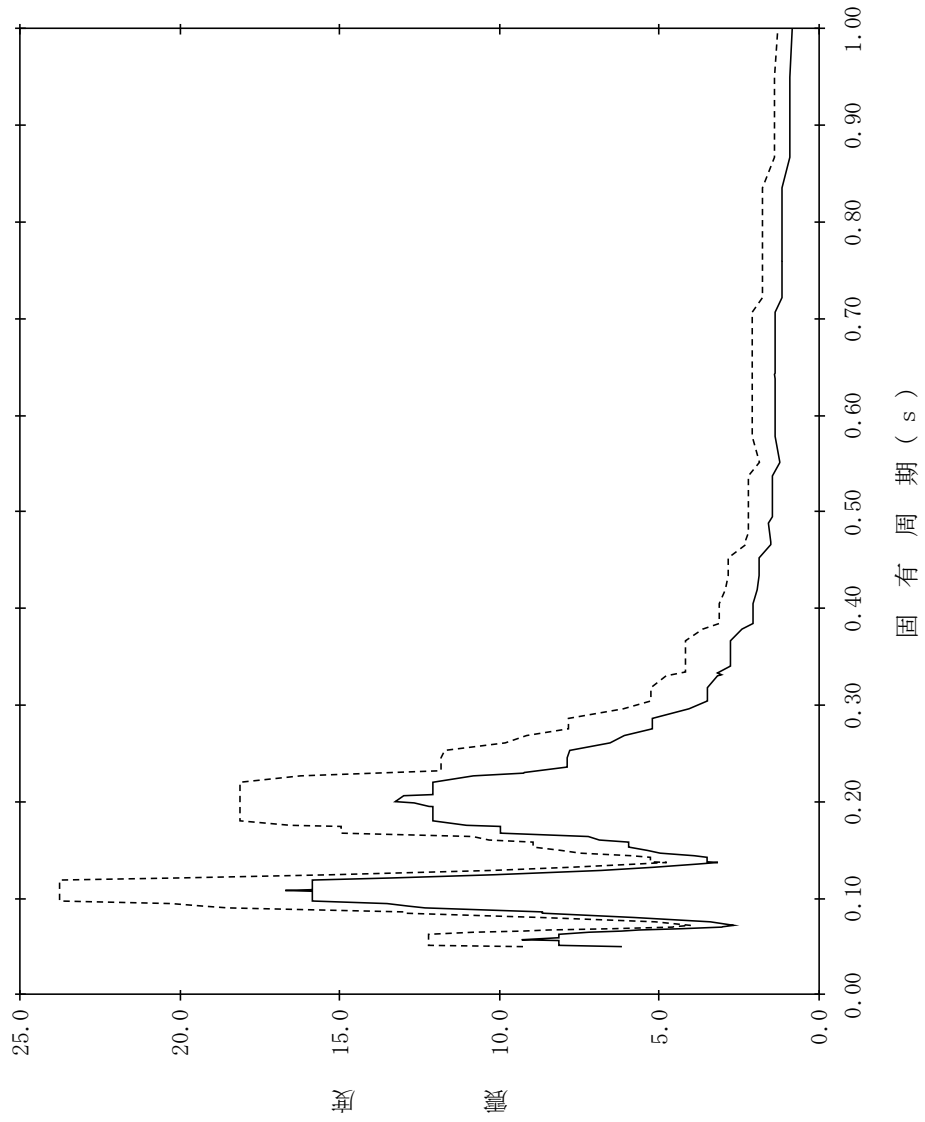
【NS2-PCV-SdEW-GSW96】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



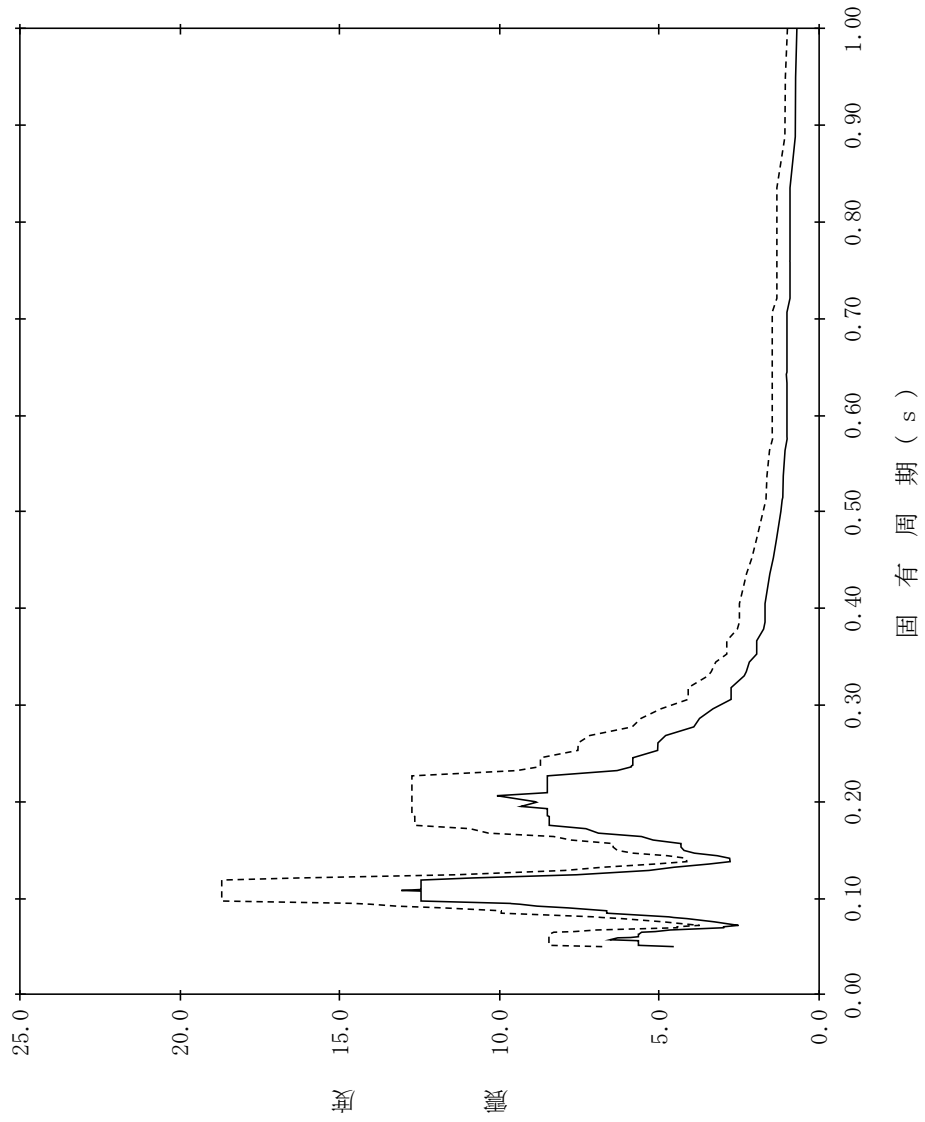
【NS2-PCV-SdEW-GSW97】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



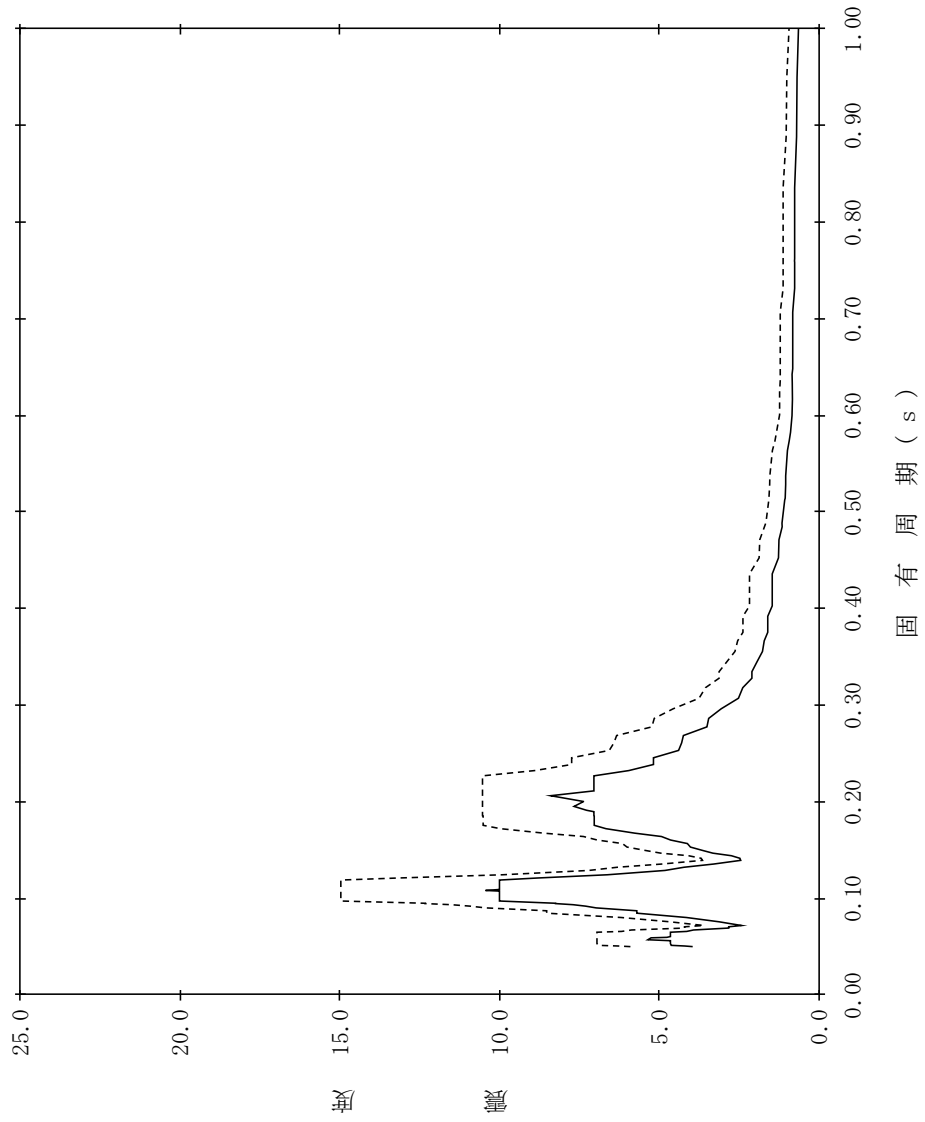
【NS2-PCV-SdEW-GSW98】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



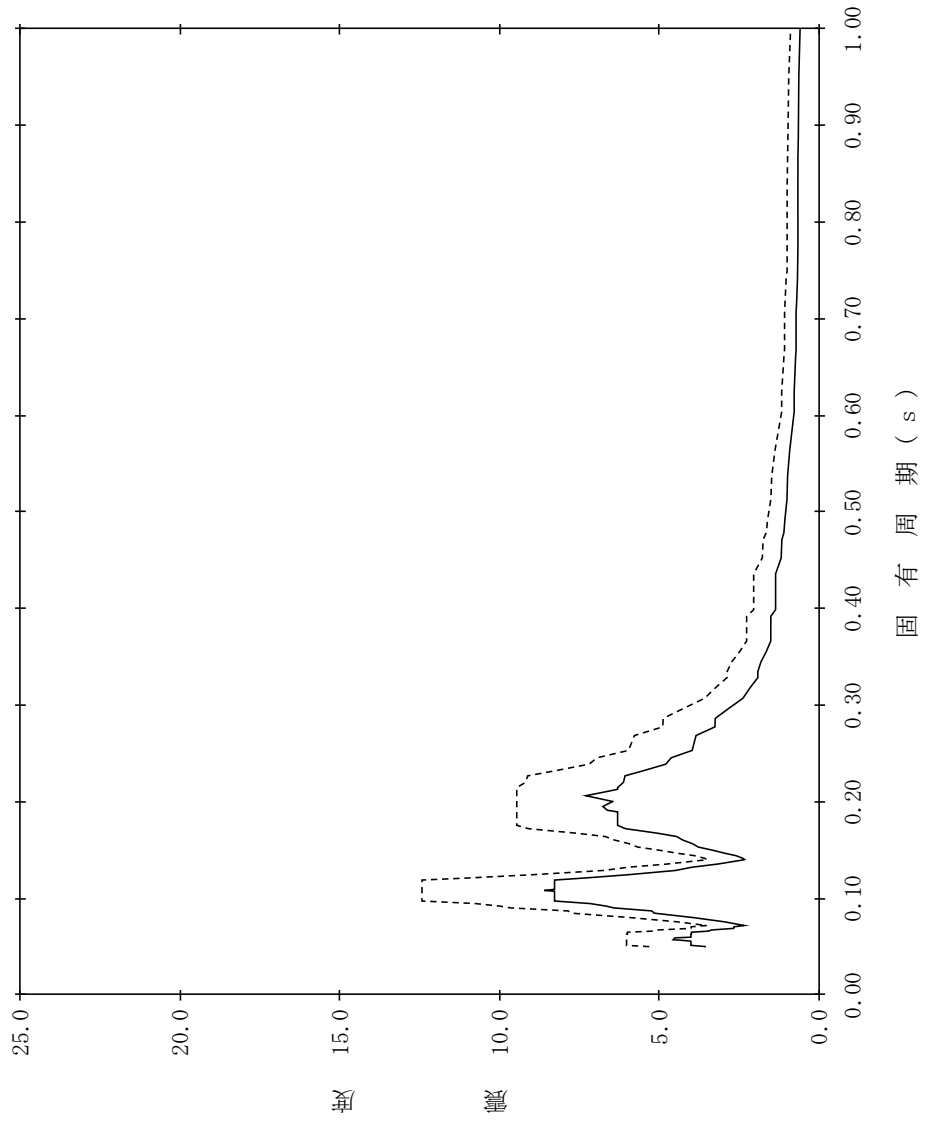
【NS2-PCV-SdEW-GSW99】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



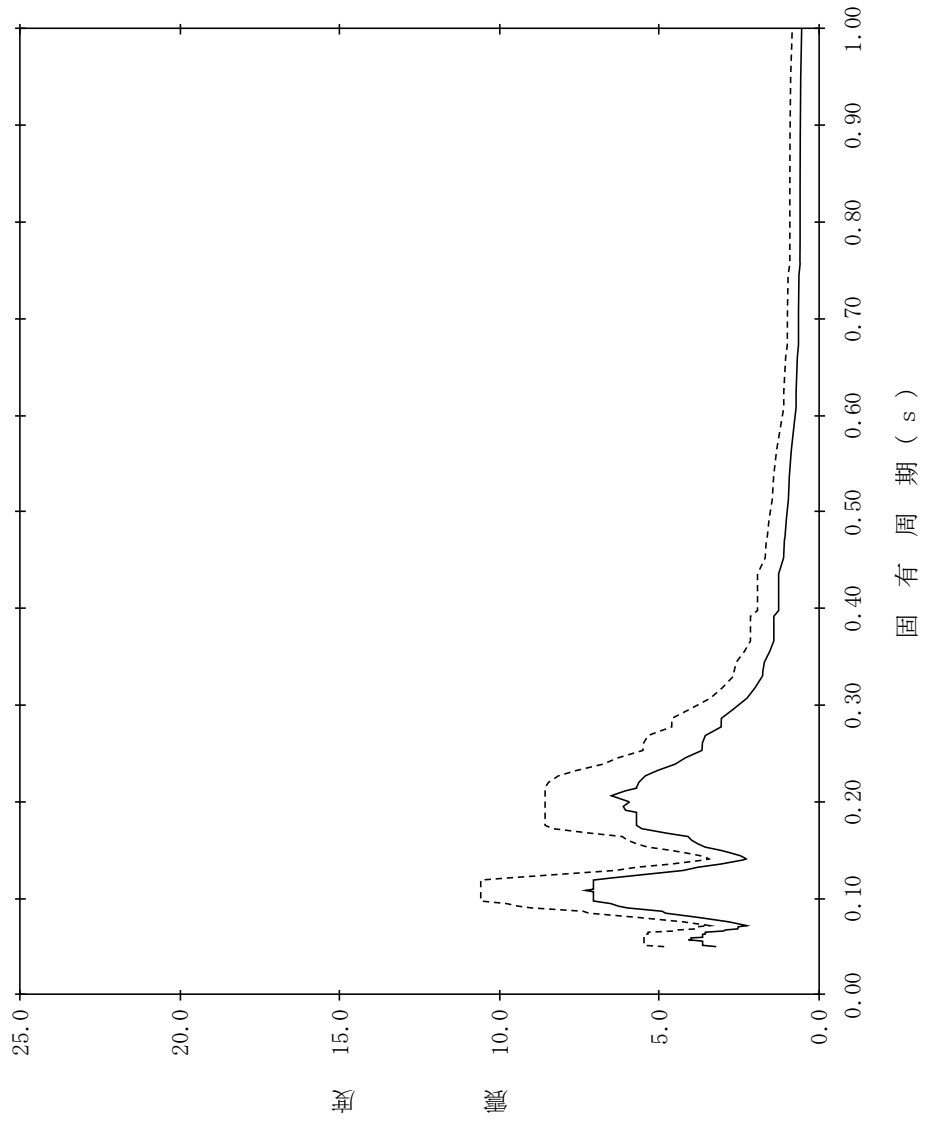
【NS2-PCV-SdEW-GSW100】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



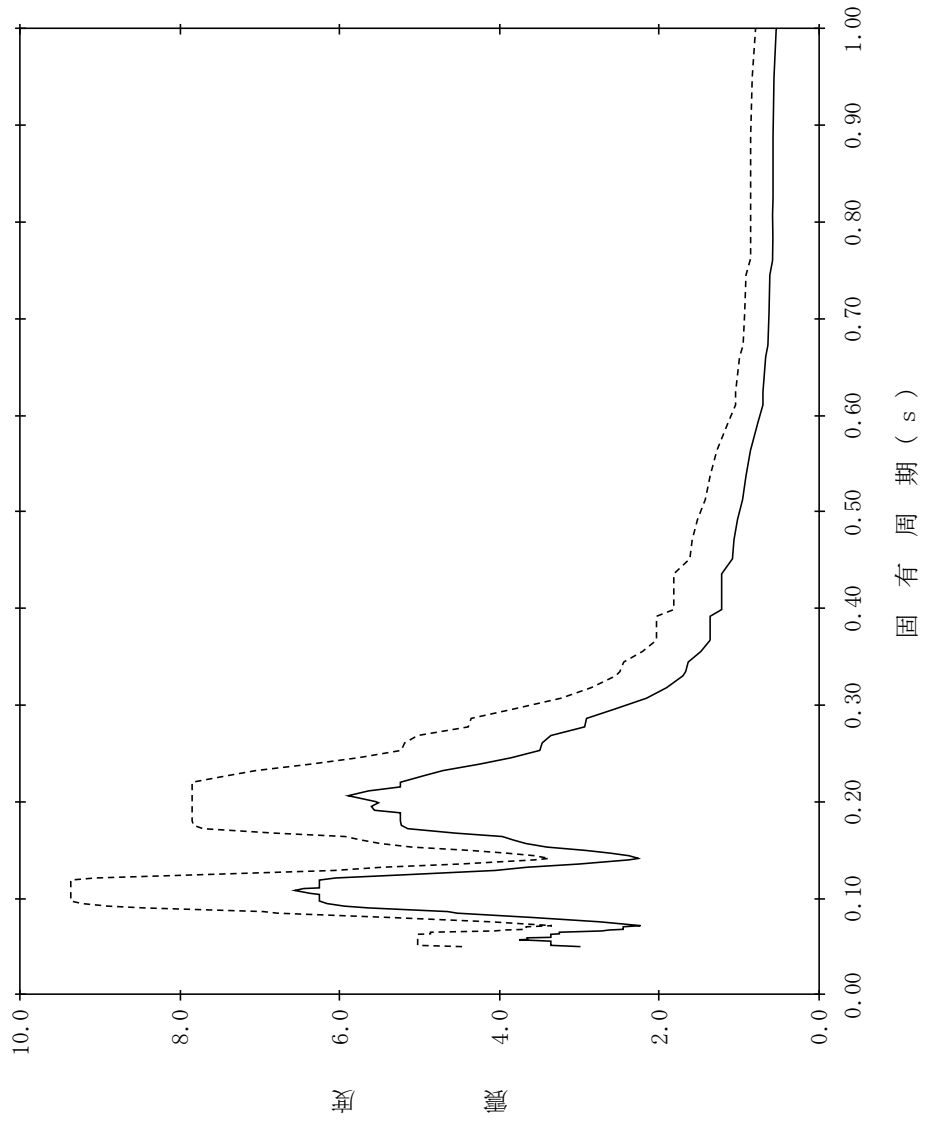
【NS2-PCV-SdEW-GSW101】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



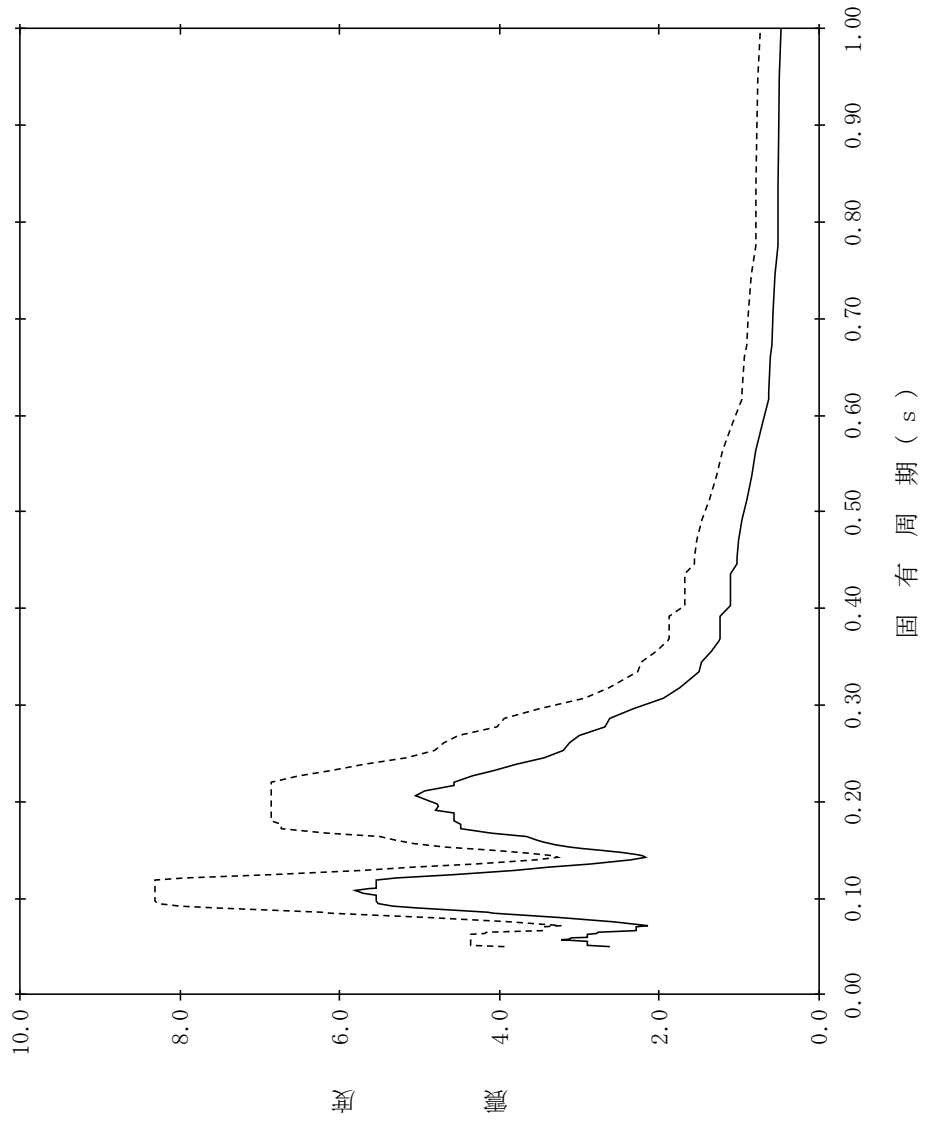
【NS2-PCV-SdEW-GSW102】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



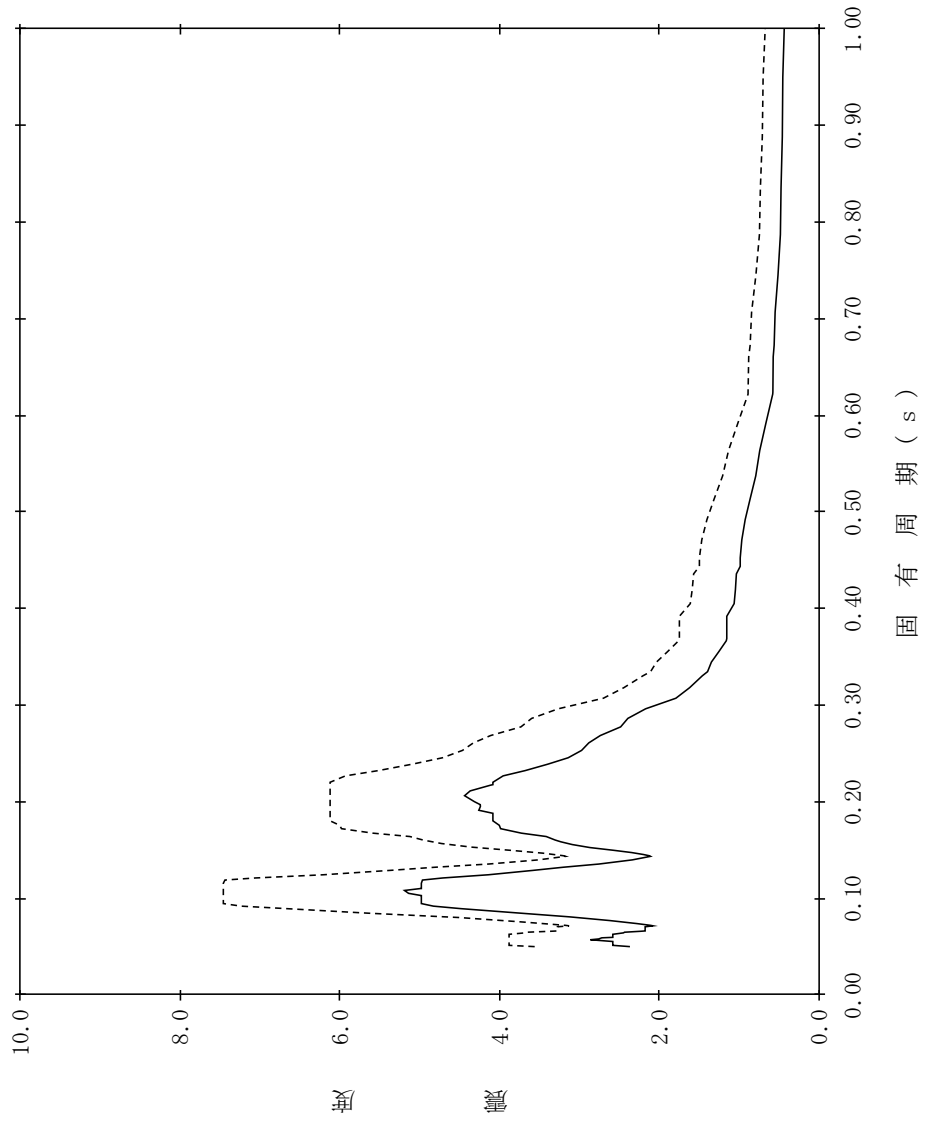
【NS2-PCV-SdEW-GSW103】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



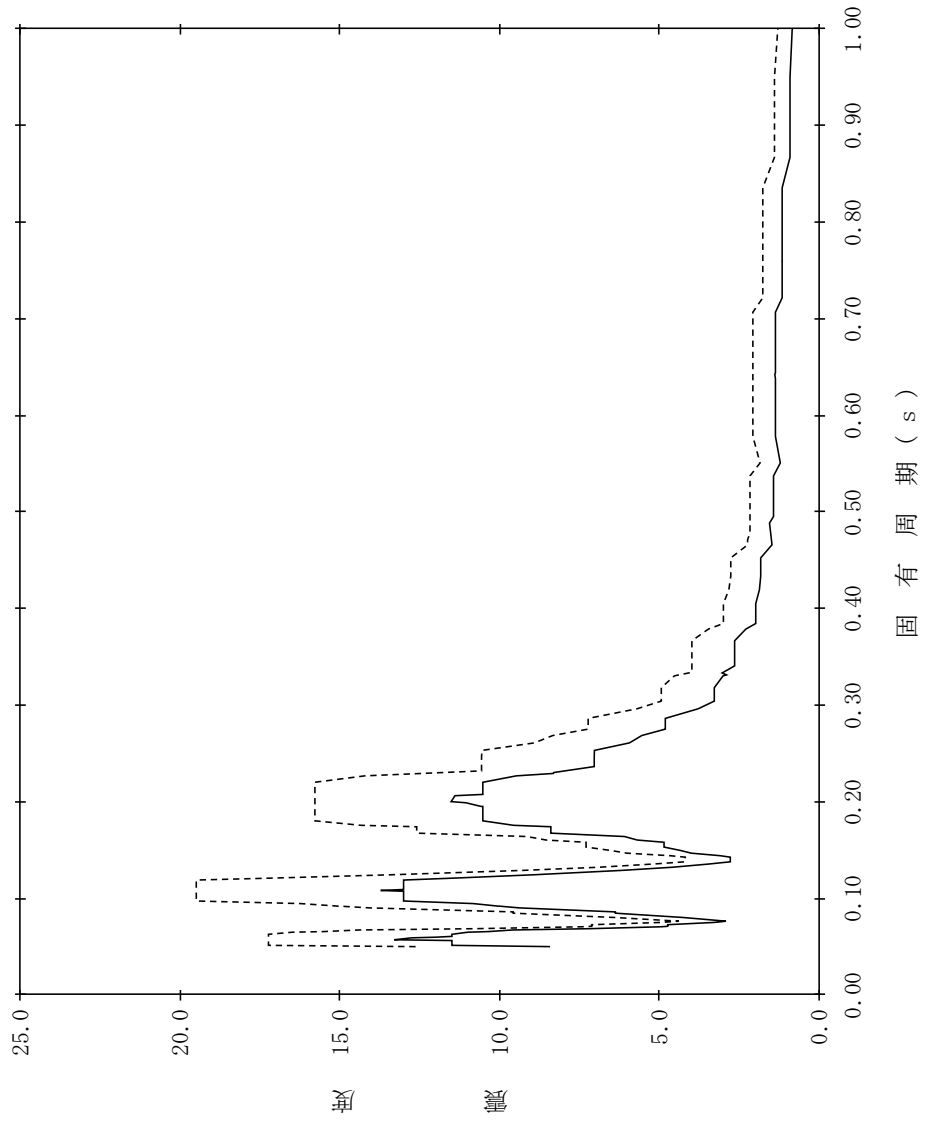
【NS2-PCV-SdEW-GSW104】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL26.981m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



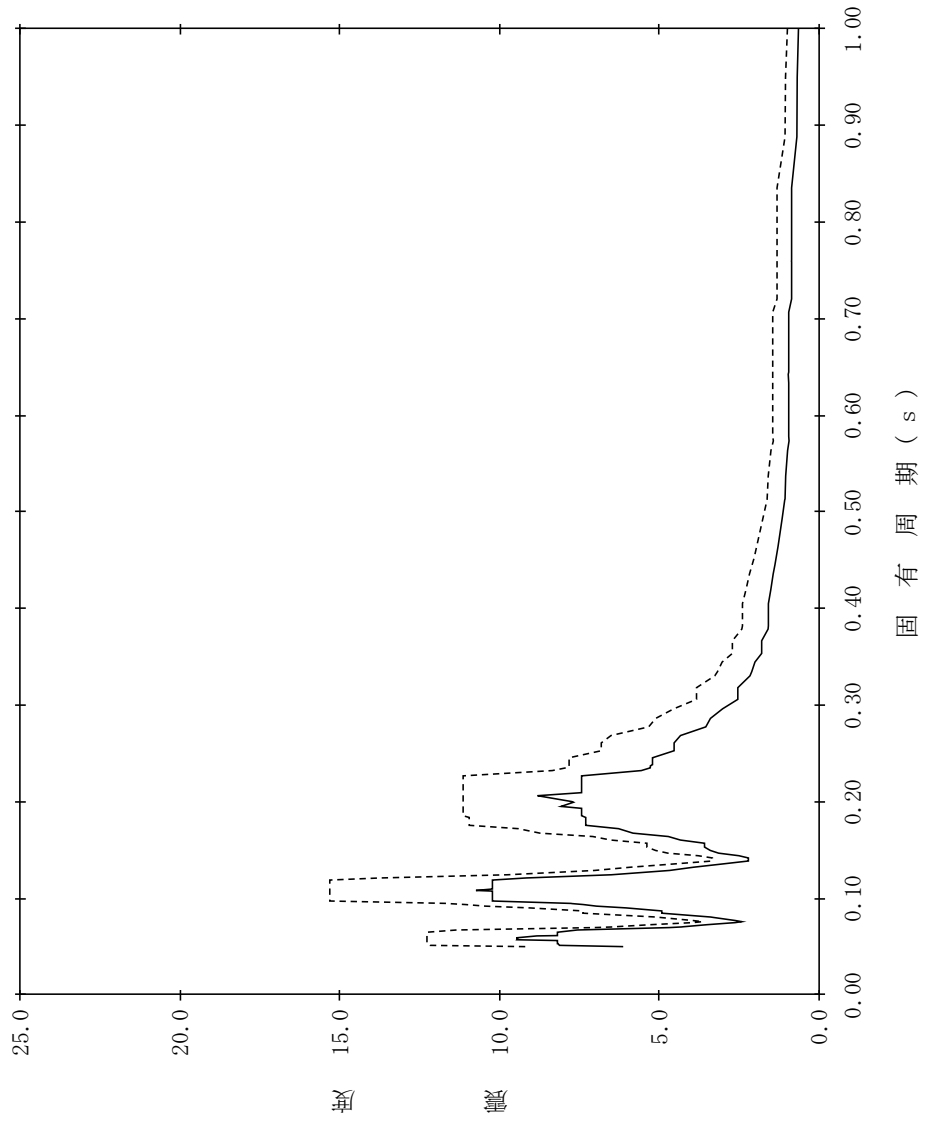
【NS2-PCV-SdEW-GSW105】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



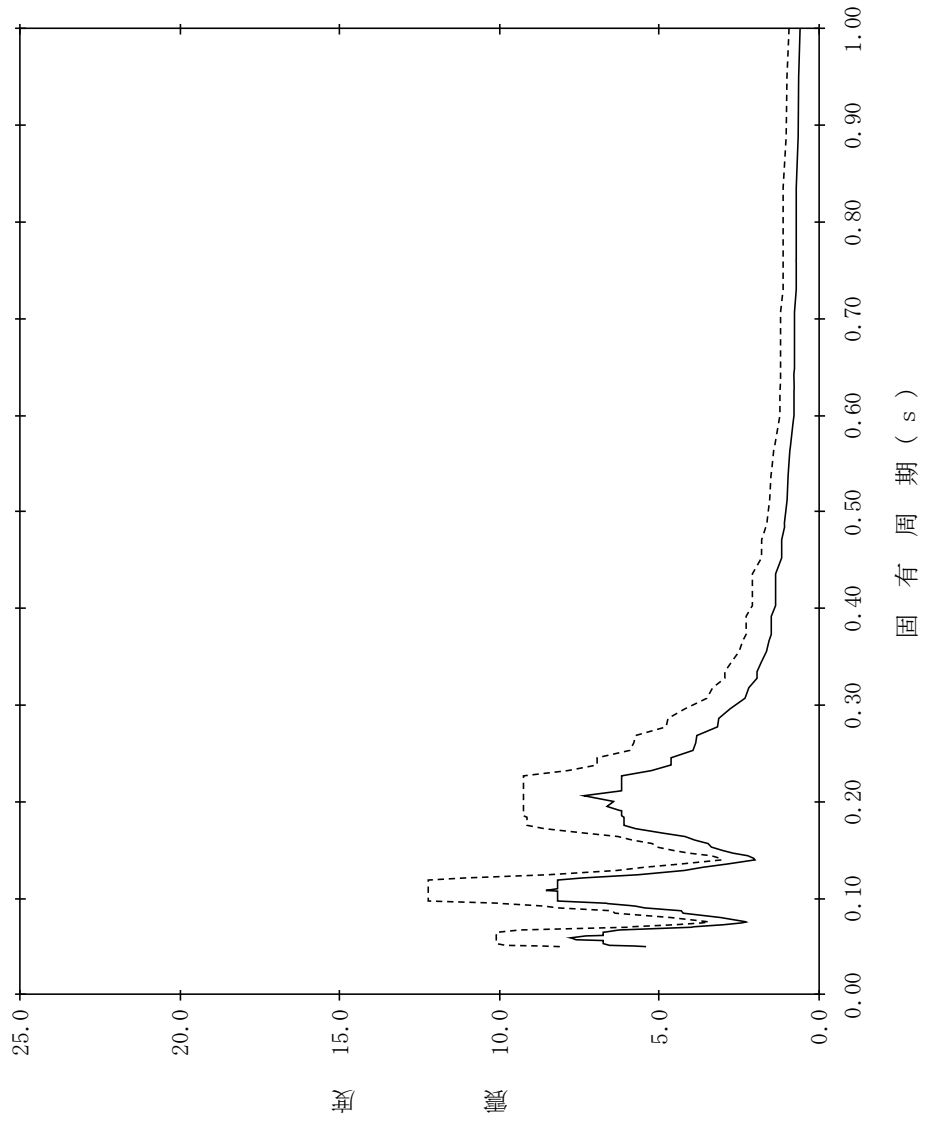
【NS2-PCV-SdEW-GSW106】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



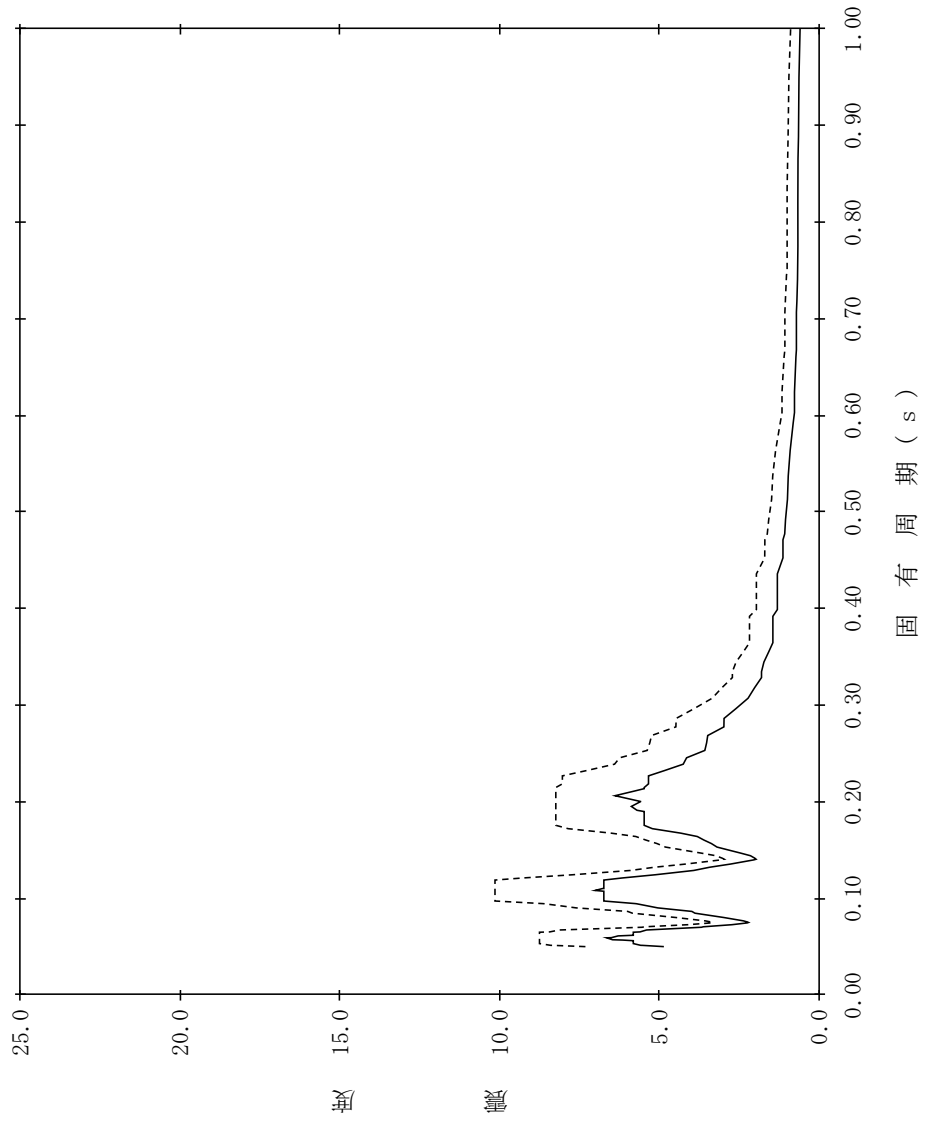
【NS2-PCV-SdEW-GSW107】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



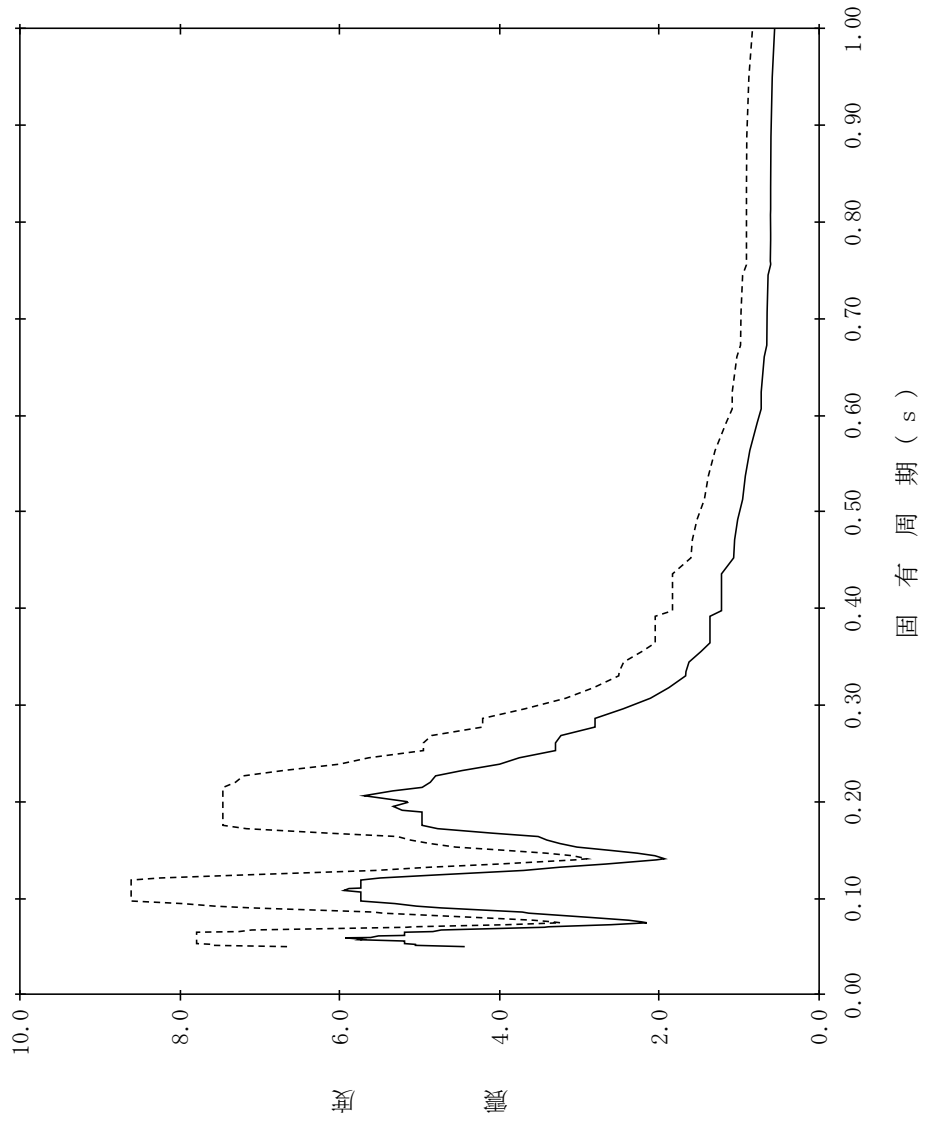
【NS2-PCV-SdEW-GSW108】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



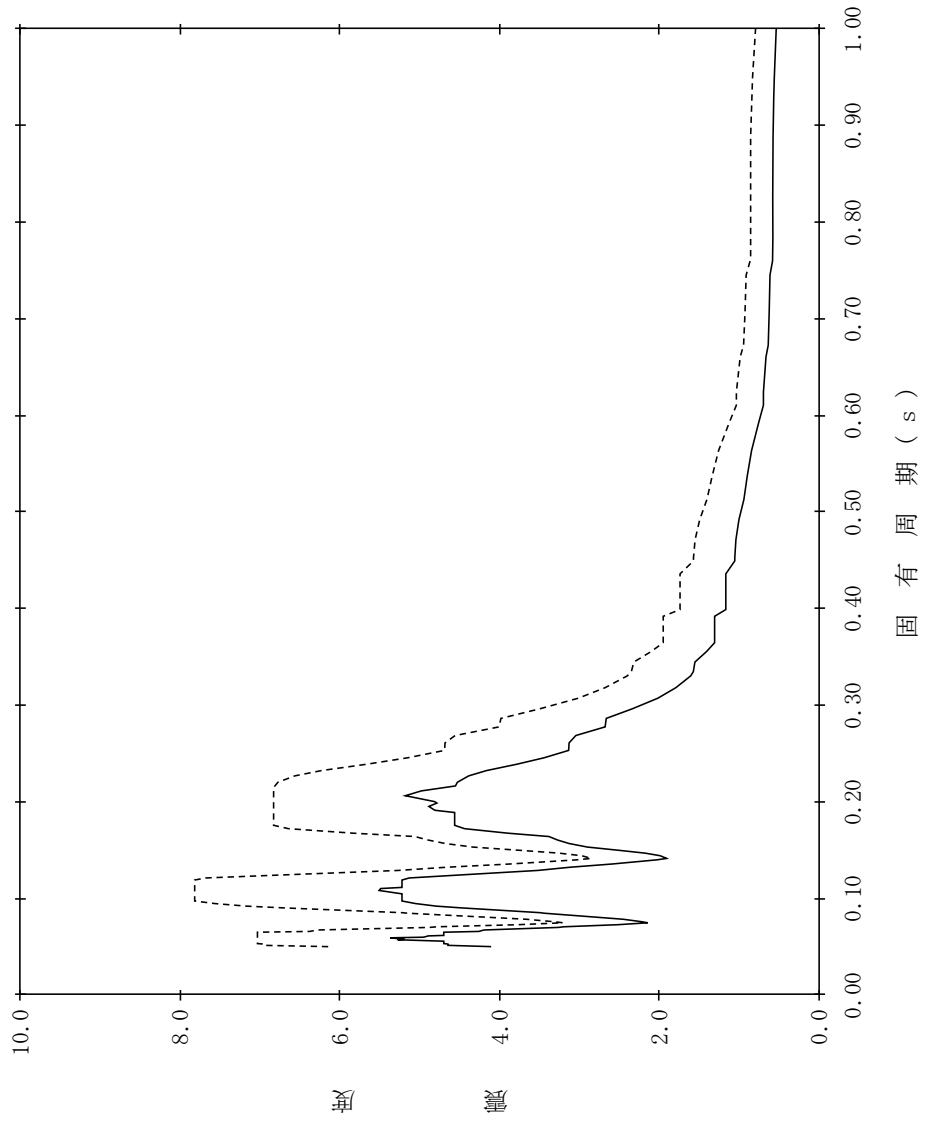
【NS2-PCV-SdEW-GSW109】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



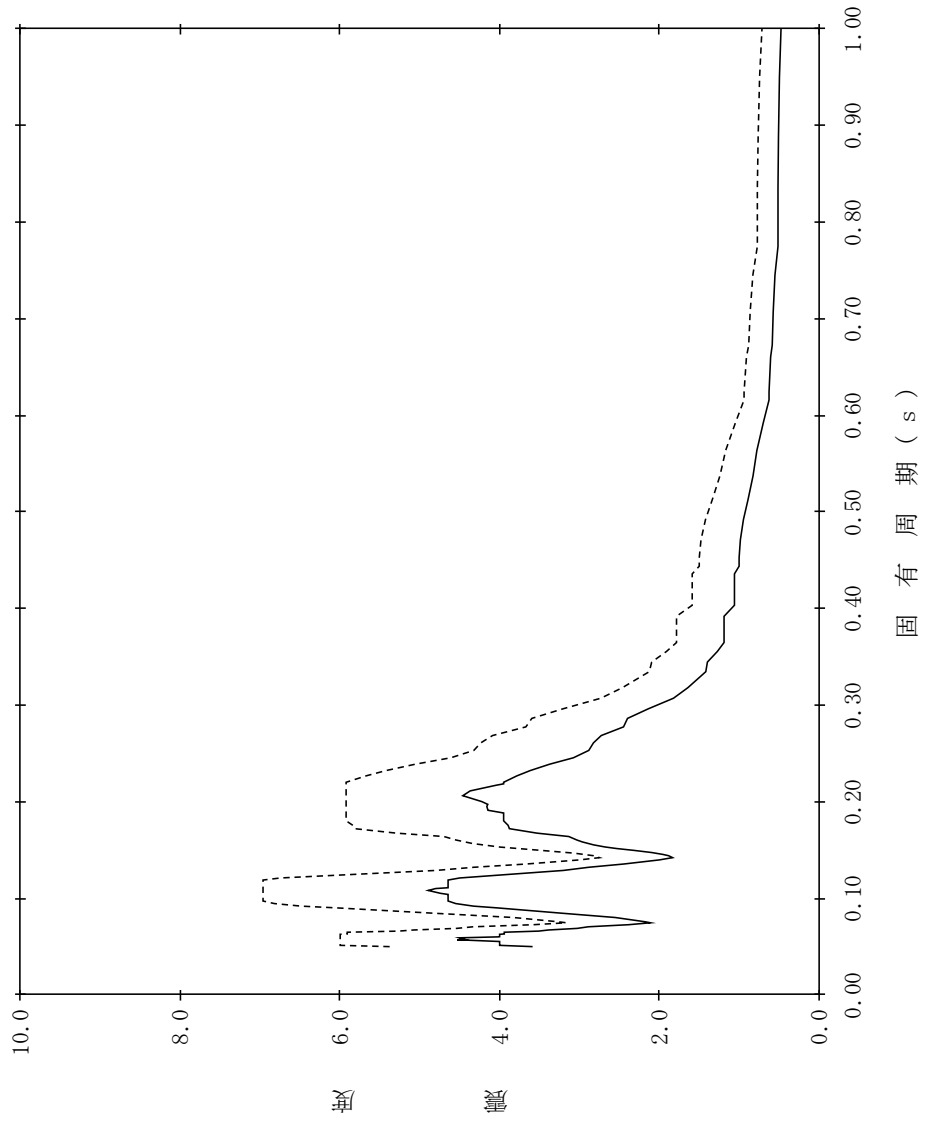
【NS2-PCV-SdEW-GSW110】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL24.000m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



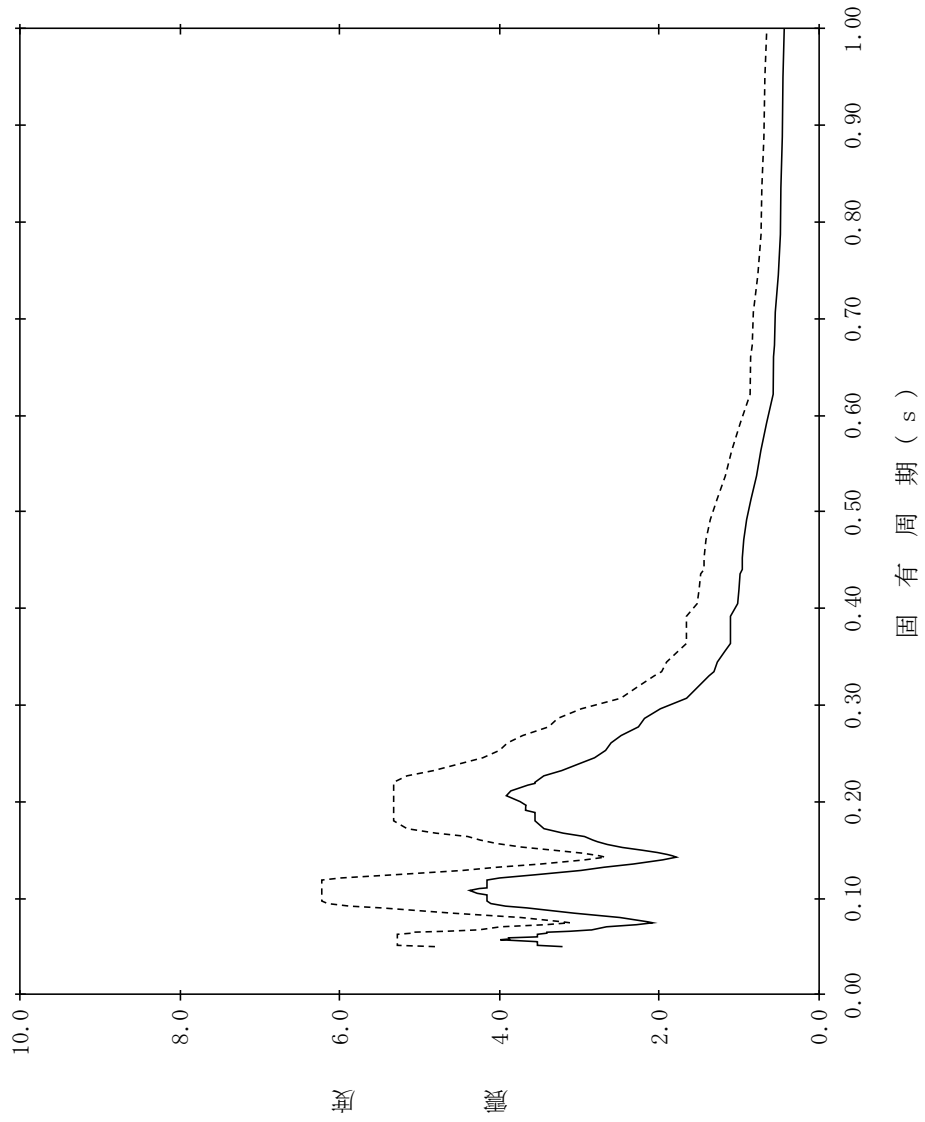
【NS2-PCV-SdEW-GSW111】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



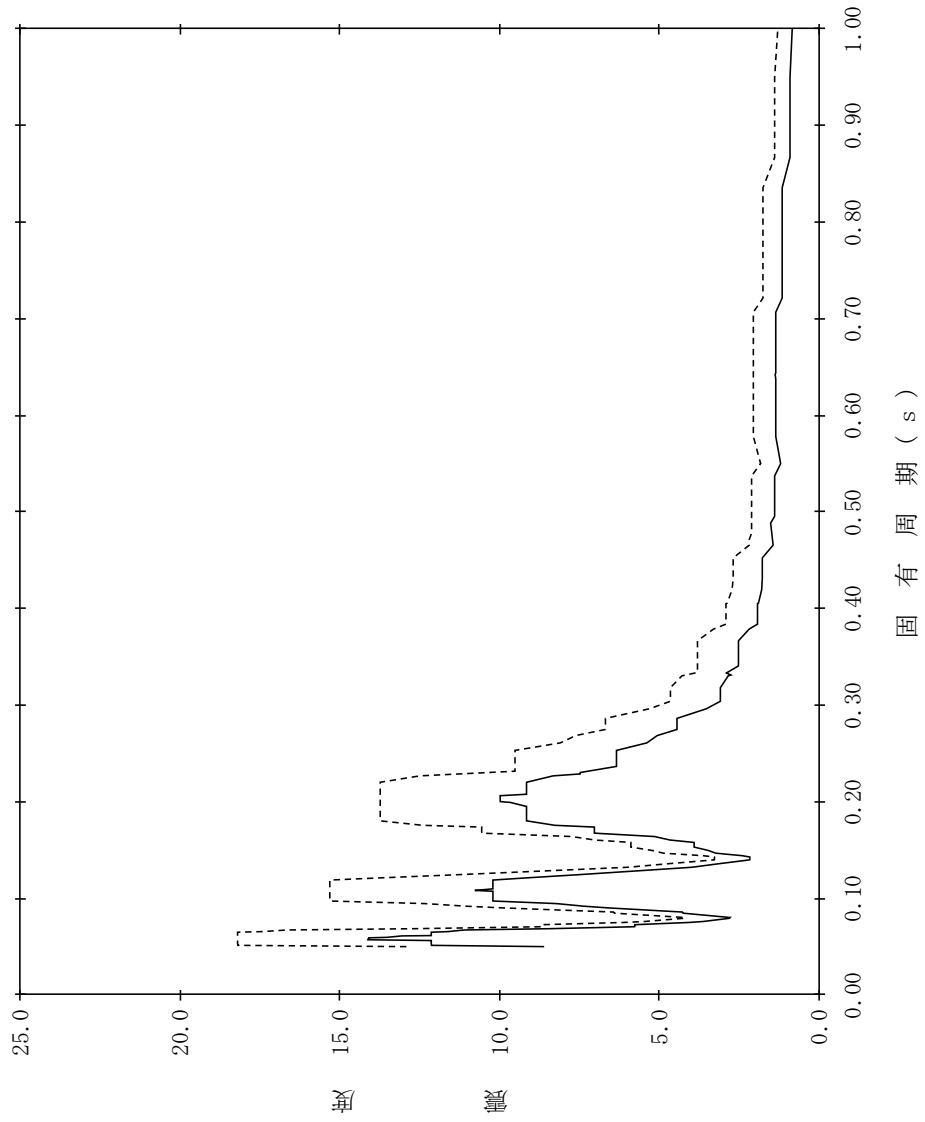
【NS2-PCV-SdEW-GSW112】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL24.000m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



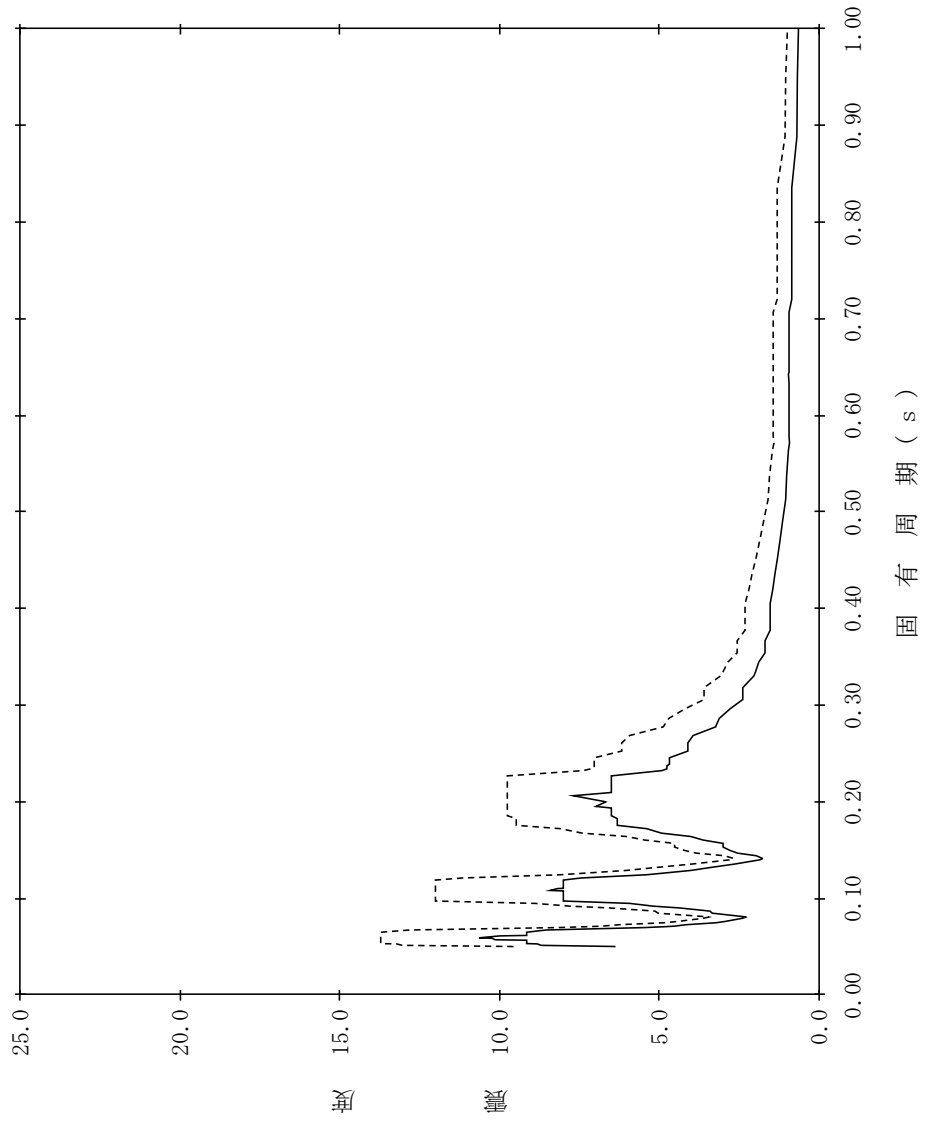
【NS2-PCV-SdEW-GSW113】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



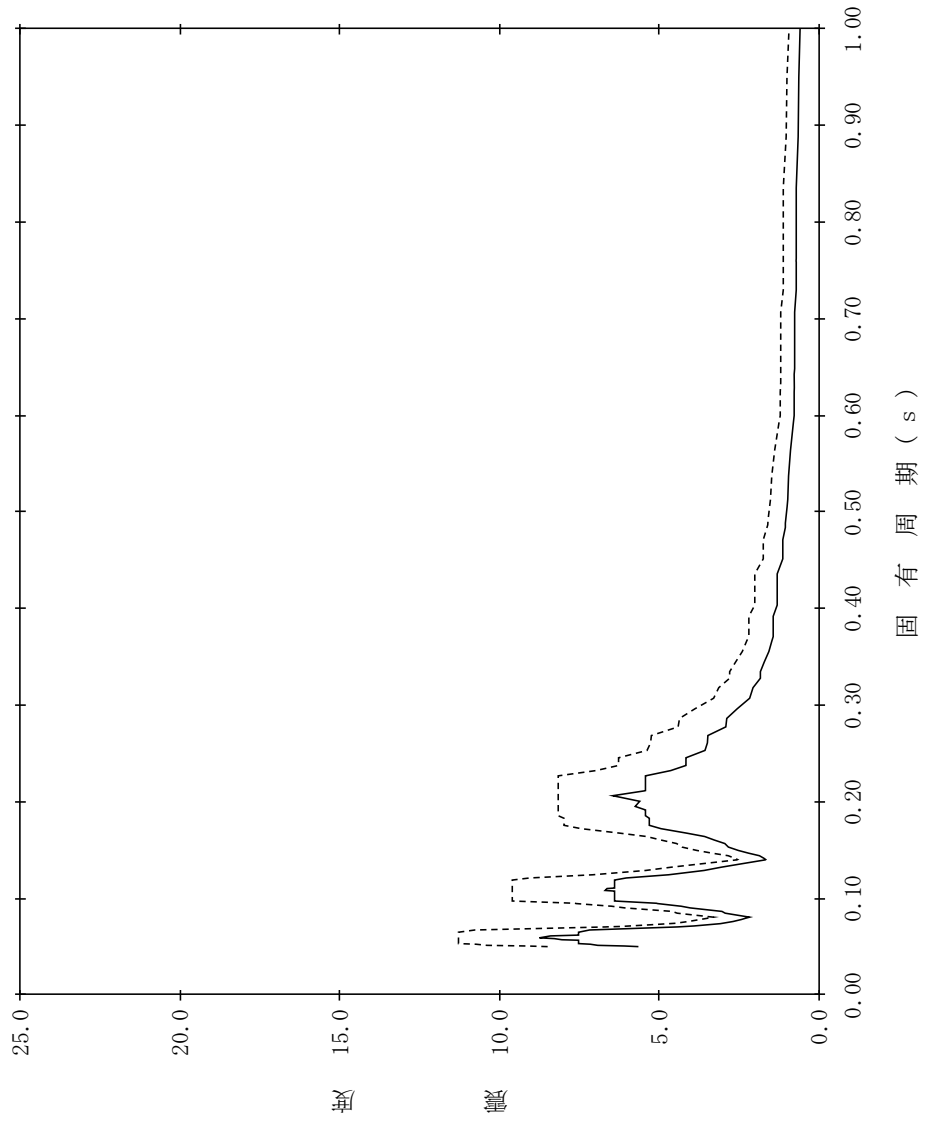
【NS2-PCV-SdEW-GSW114】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

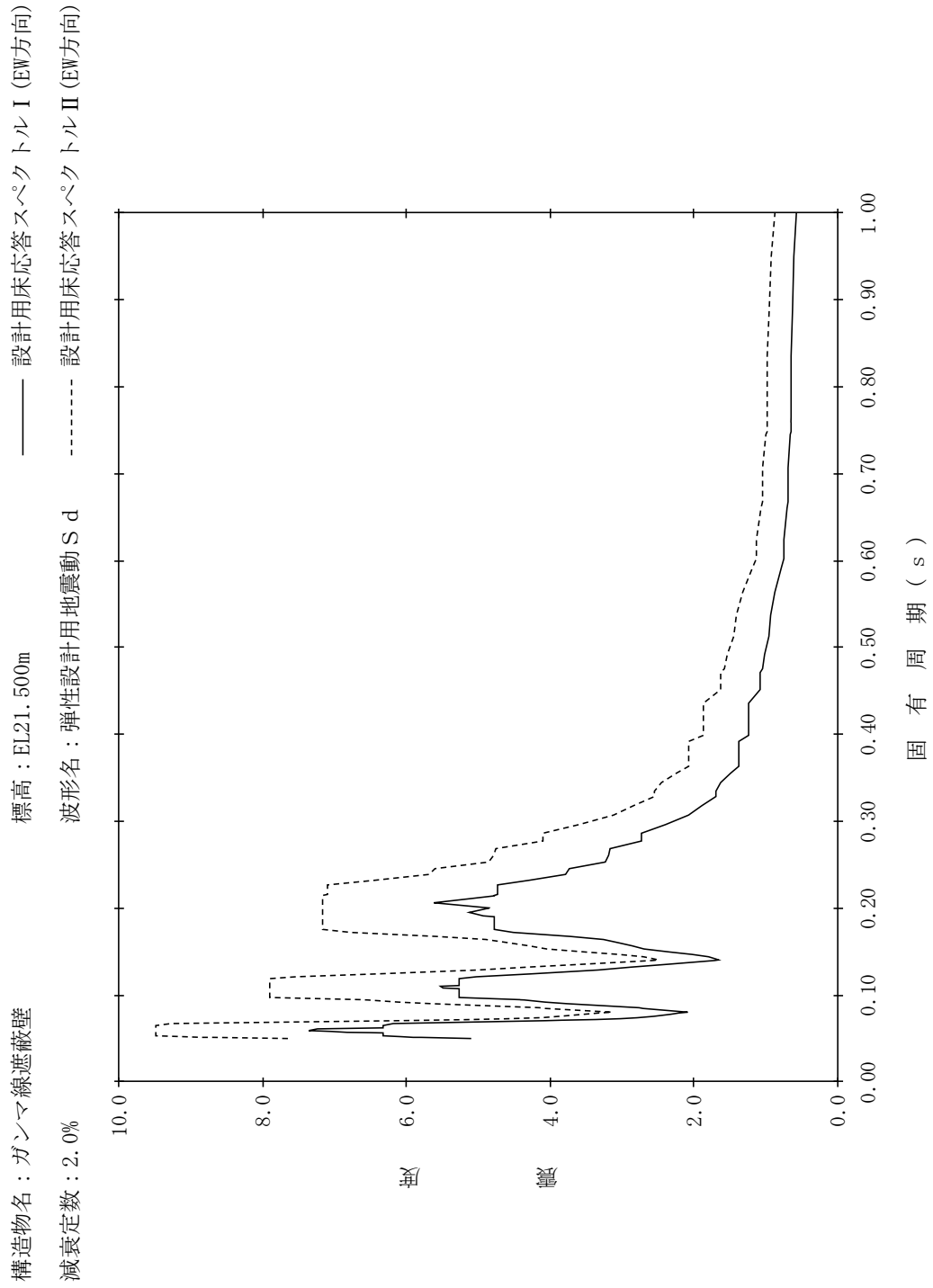


【NS2-PCV-SdEW-GSW115】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

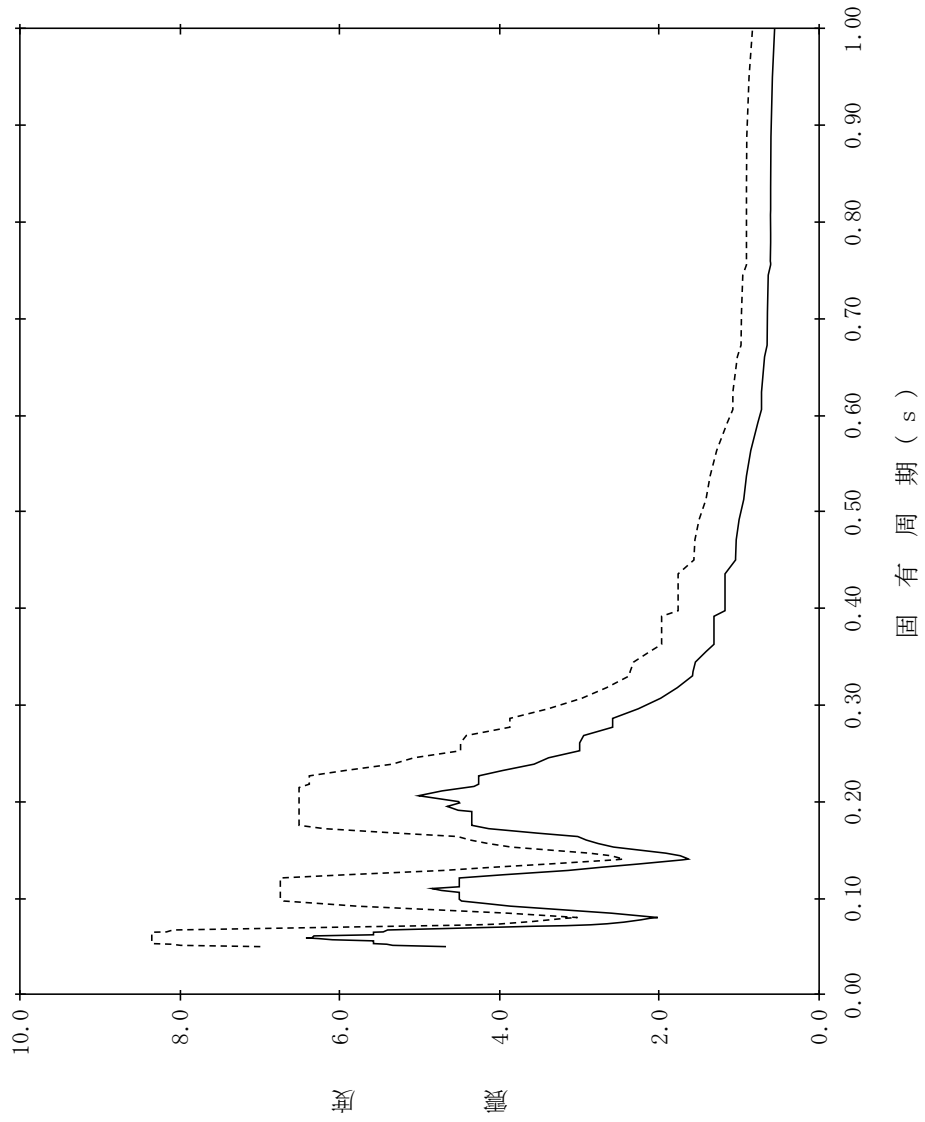


【NS2-PCV-SdEW-GSW116】



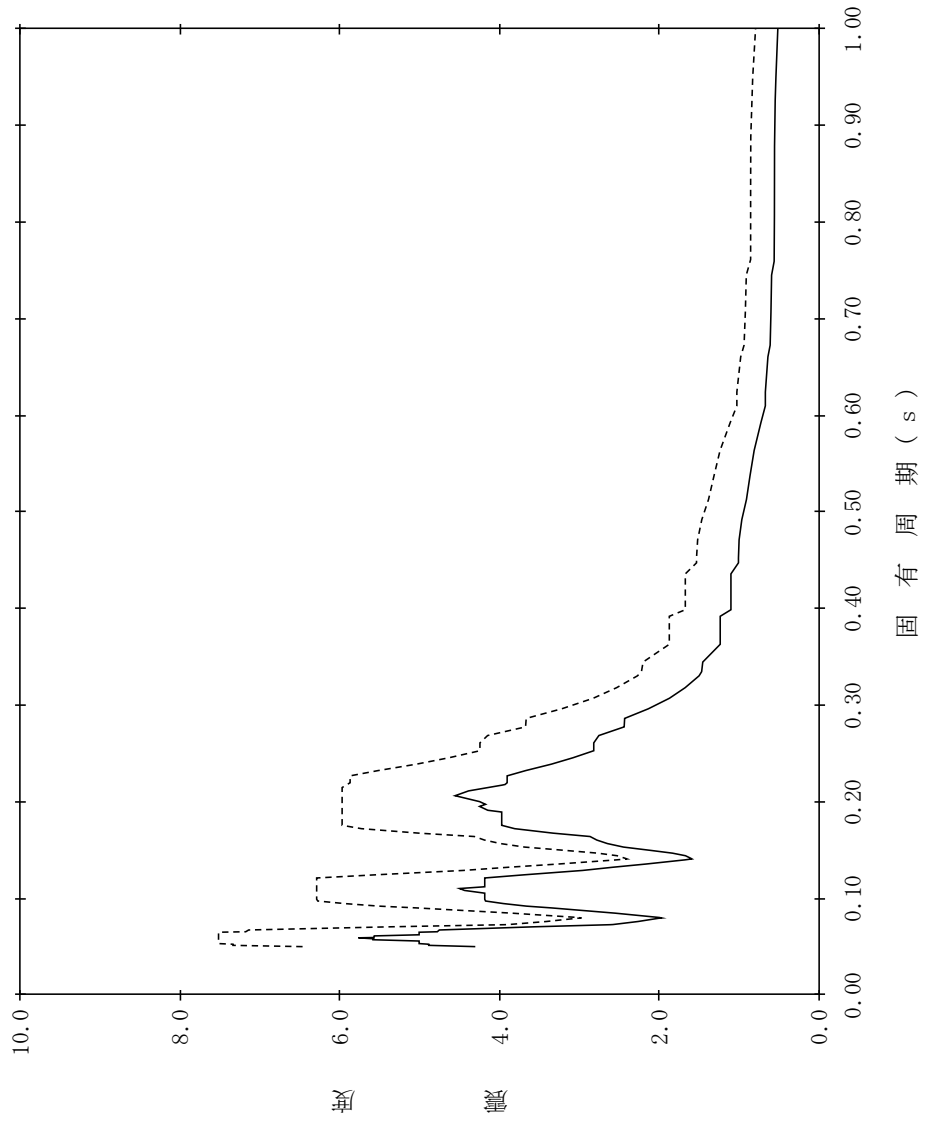
【NS2-PCV-SdEW-GSW117】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



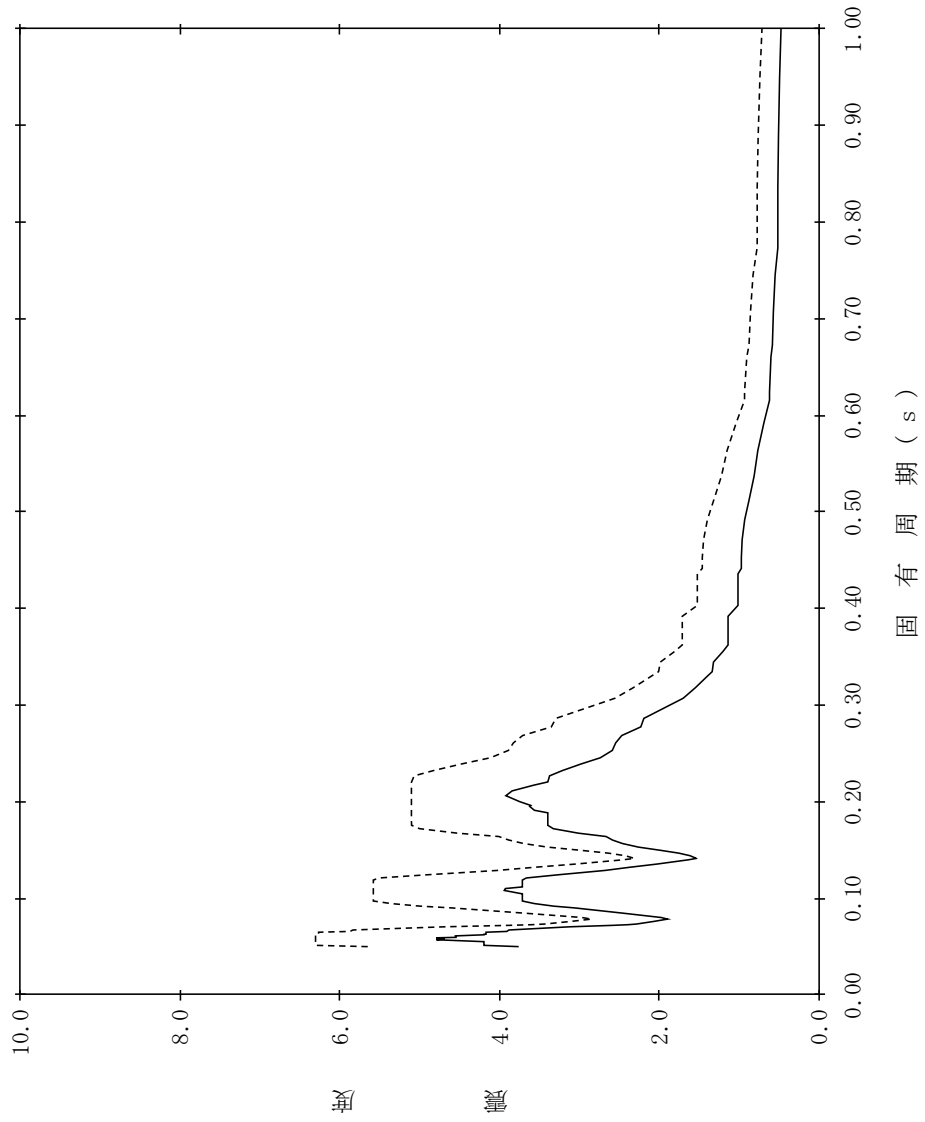
【NS2-PCV-SdEW-GSW118】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL21.500m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



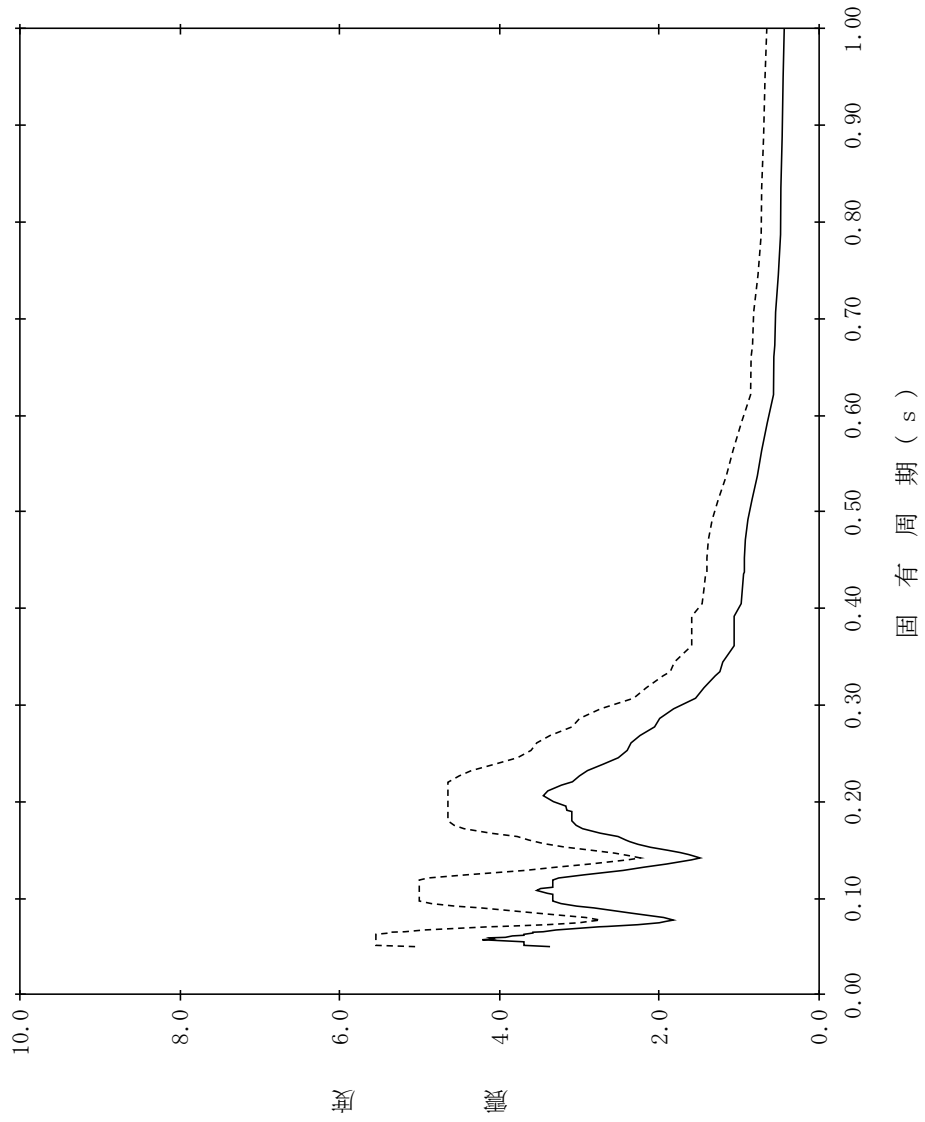
【NS2-PCV-SdEW-GSW119】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

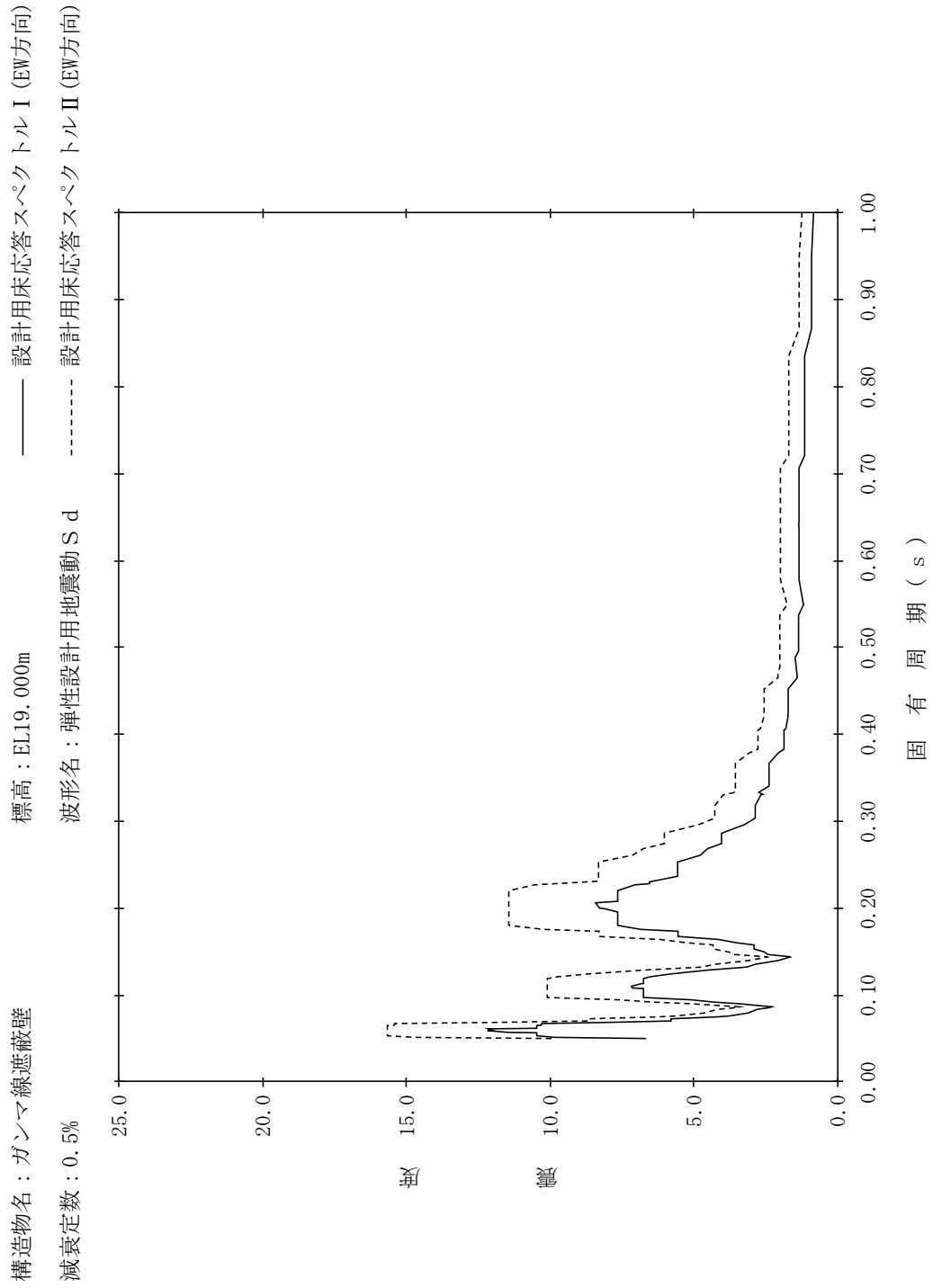


【NS2-PCV-SdEW-GSW120】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

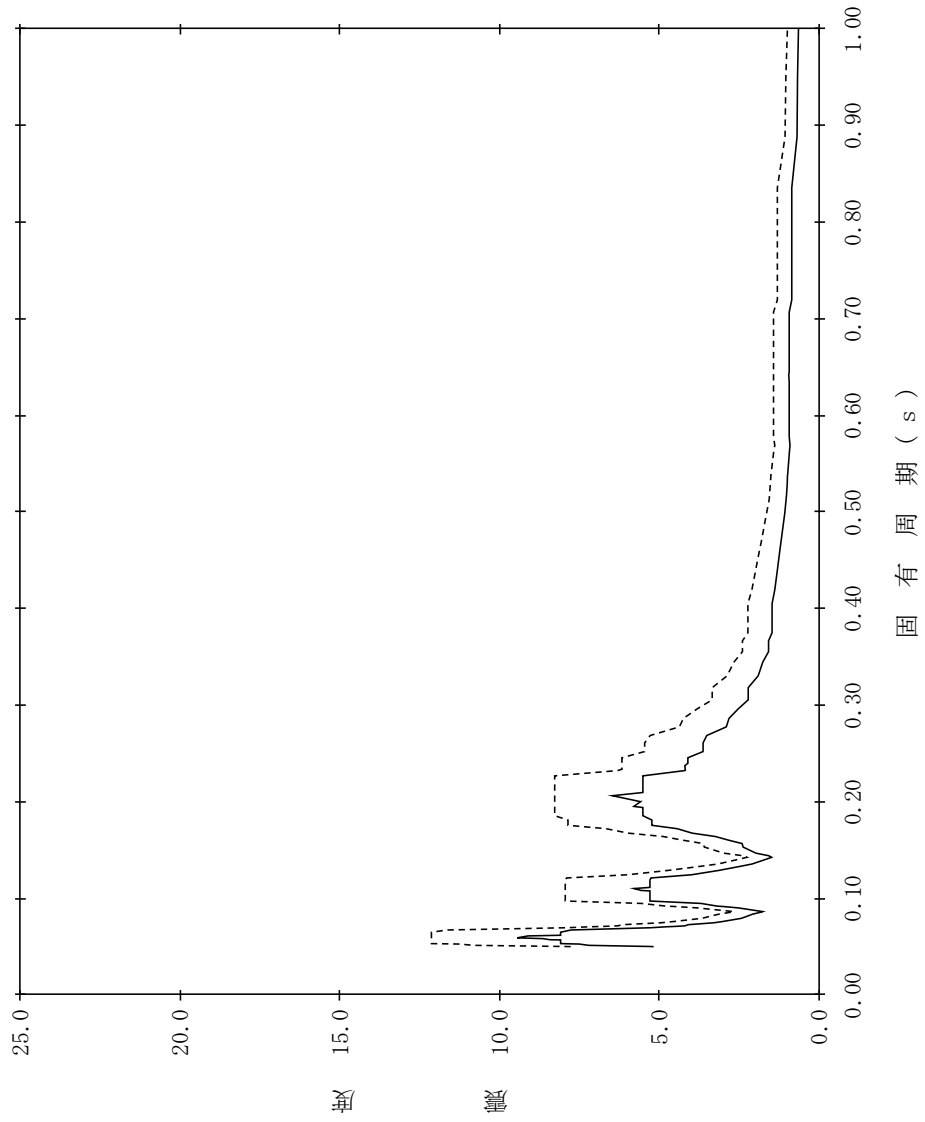


【NS2-PCV-SdEW-GSW121】



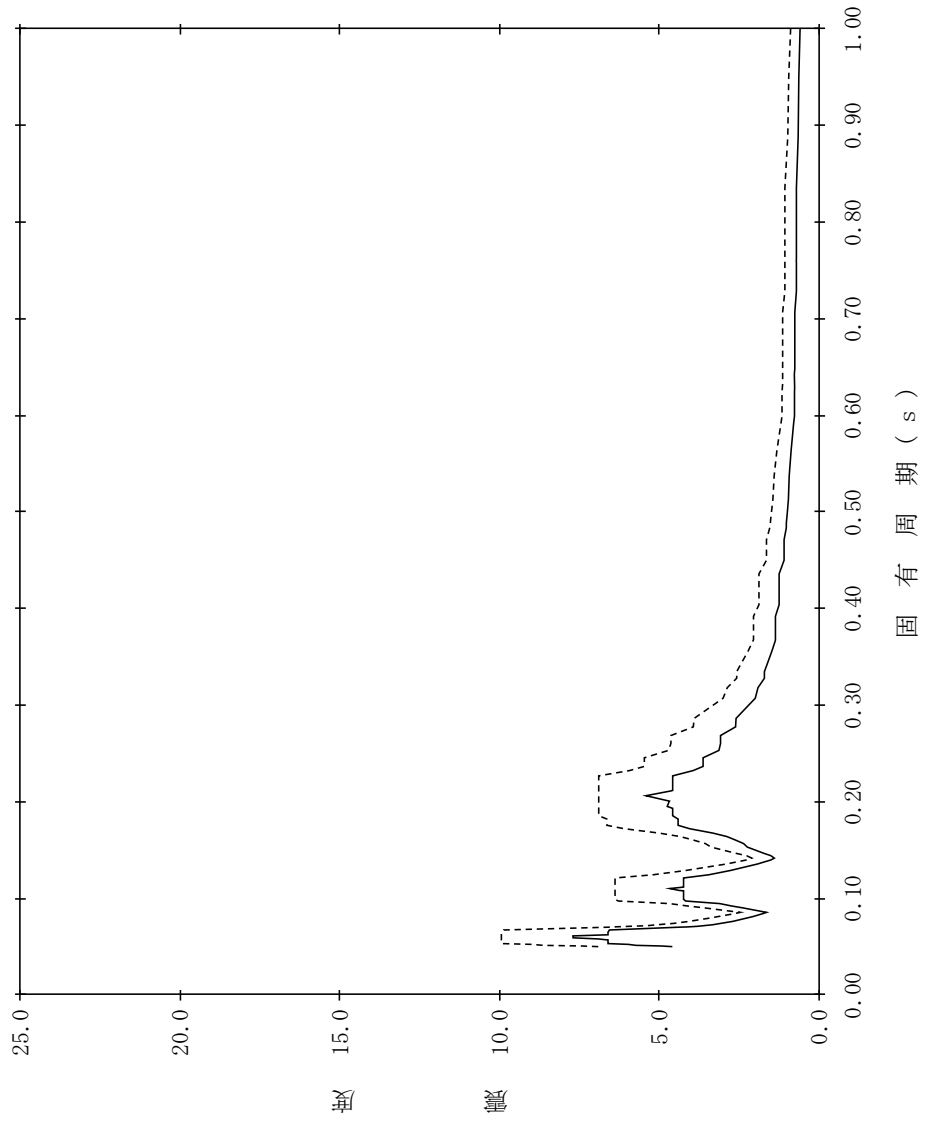
【NS2-PCV-SdEW-GSW122】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



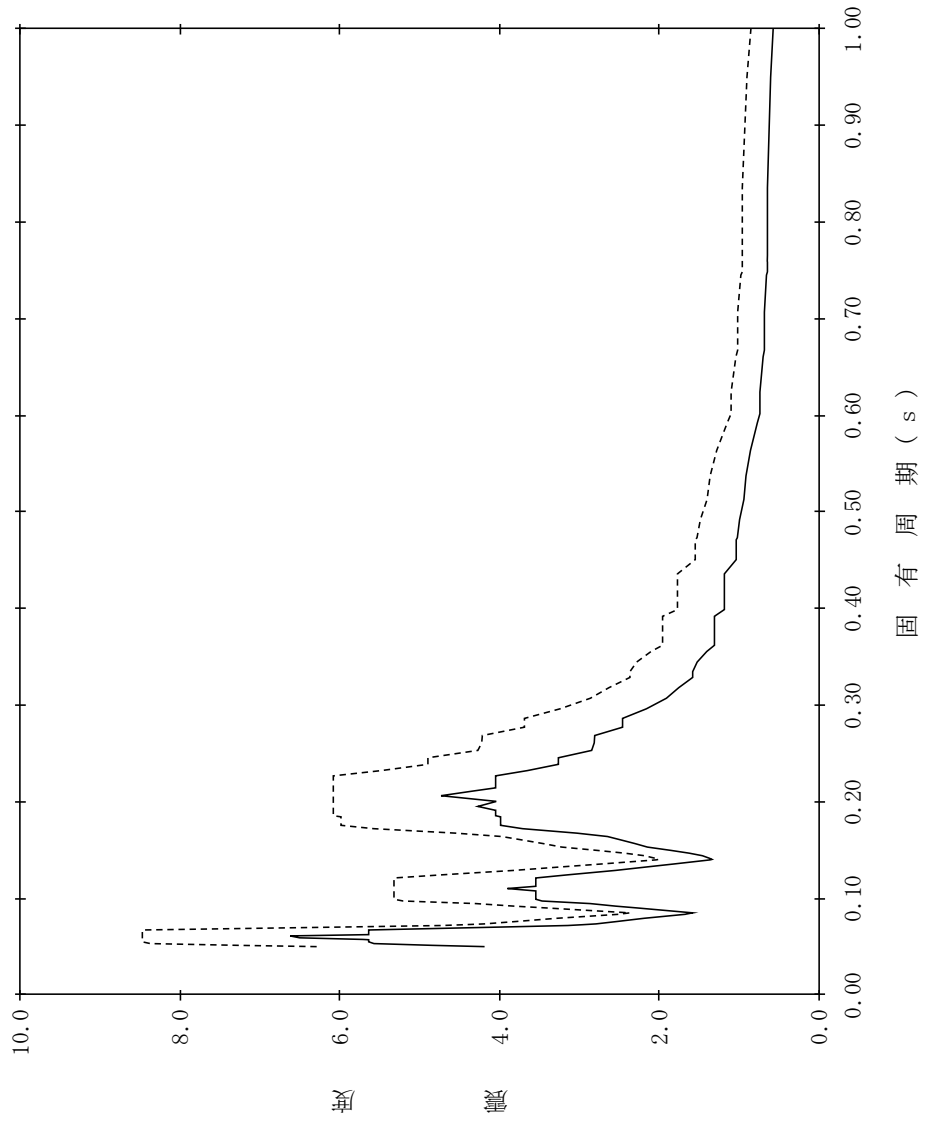
【NS2-PCV-SdEW-GSW123】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL19.000m
減衰定数：1.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



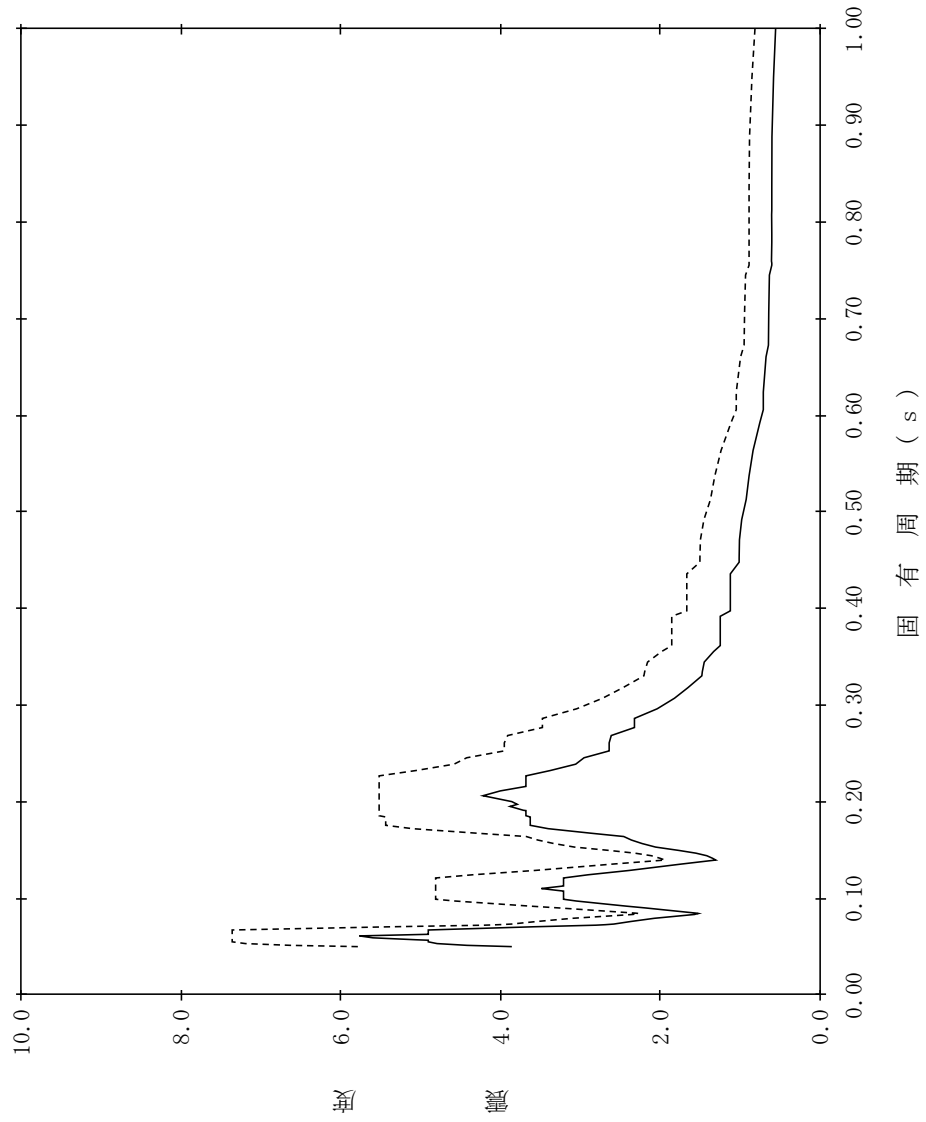
【NS2-PCV-SdEW-GSW124】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



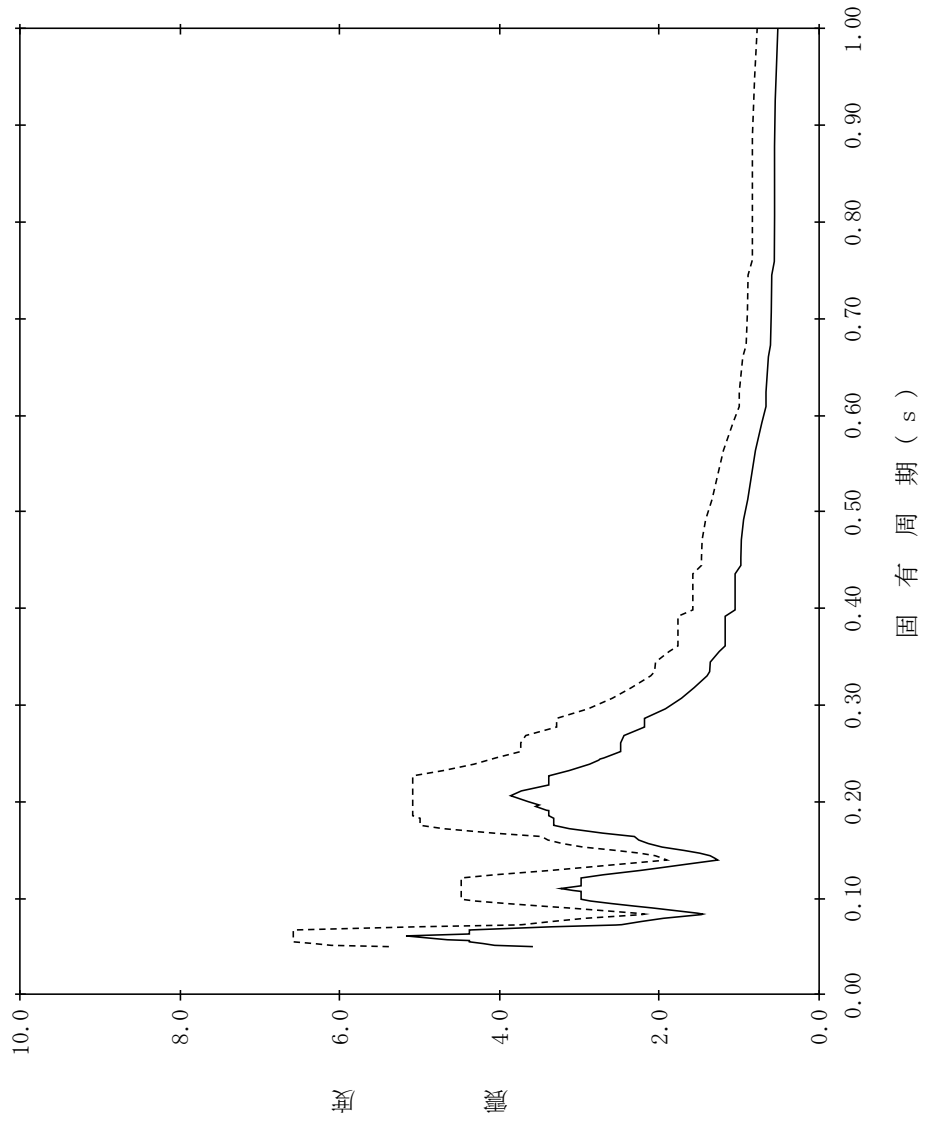
【NS2-PCV-SdEW-GSW125】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



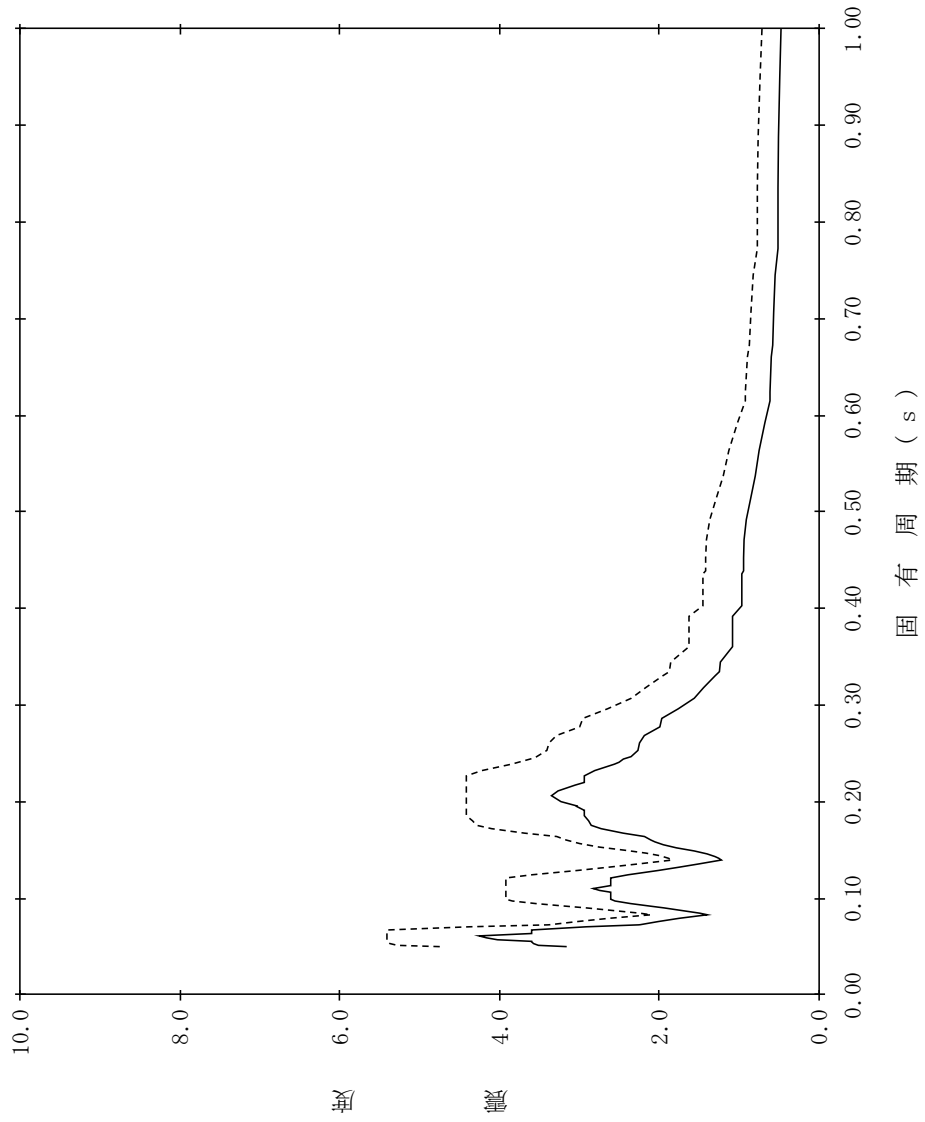
【NS2-PCV-SdEW-GSW126】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



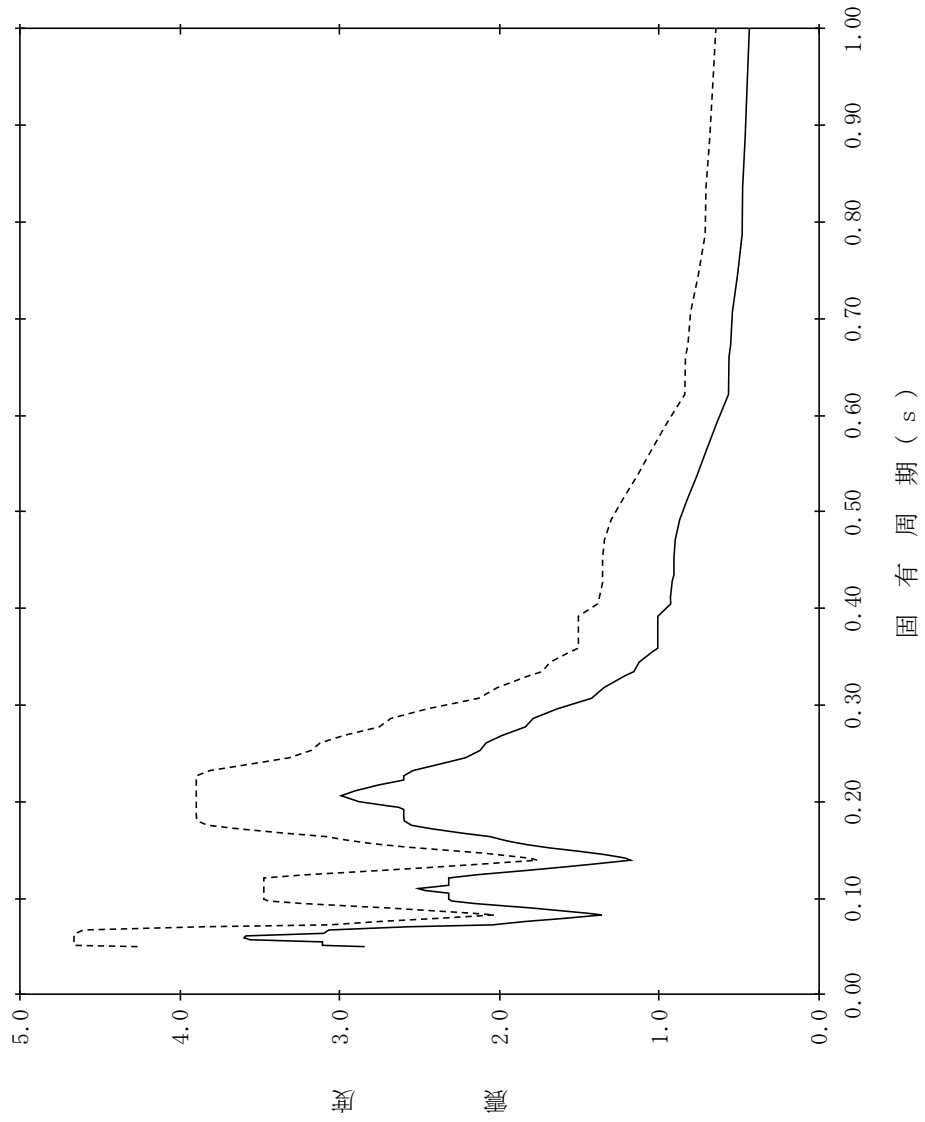
【NS2-PCV-SdEW-GSW127】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



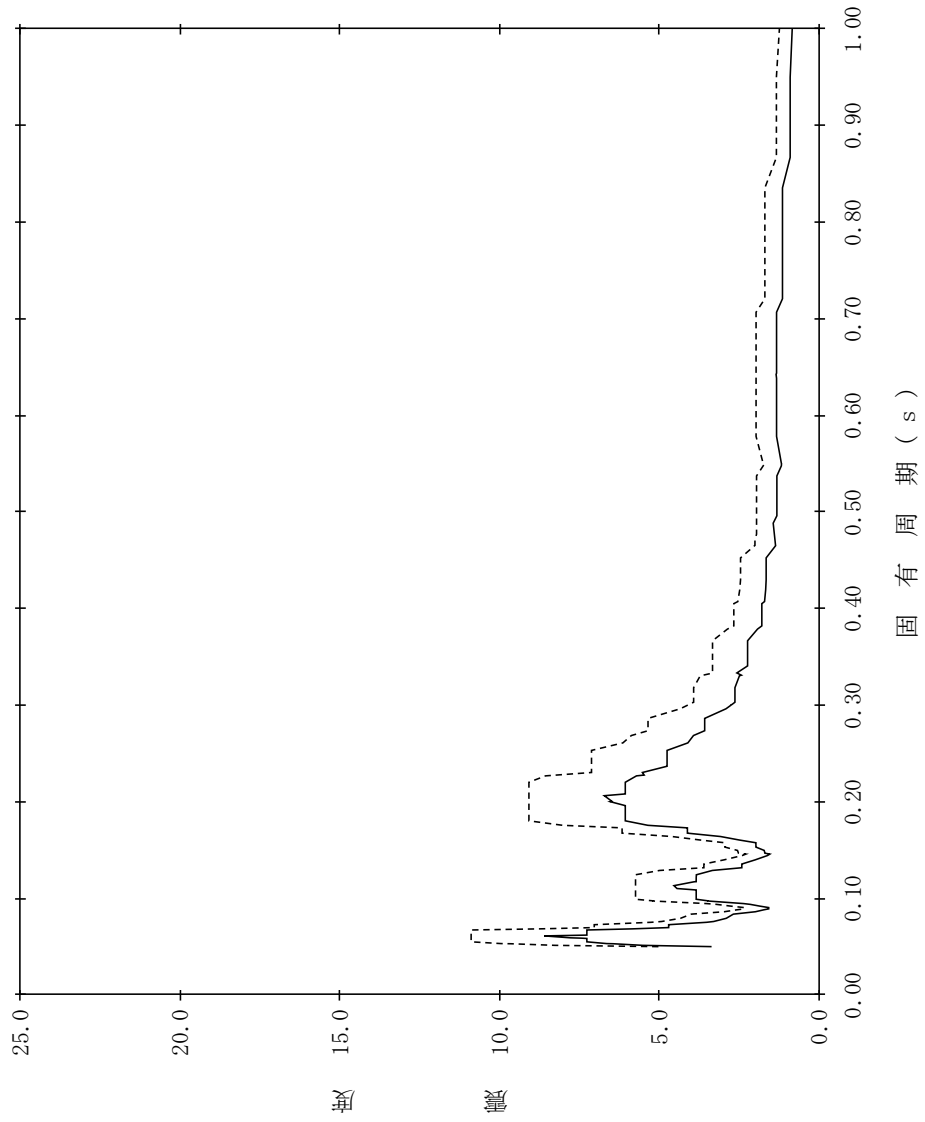
【NS2-PCV-SdEW-GSW128】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



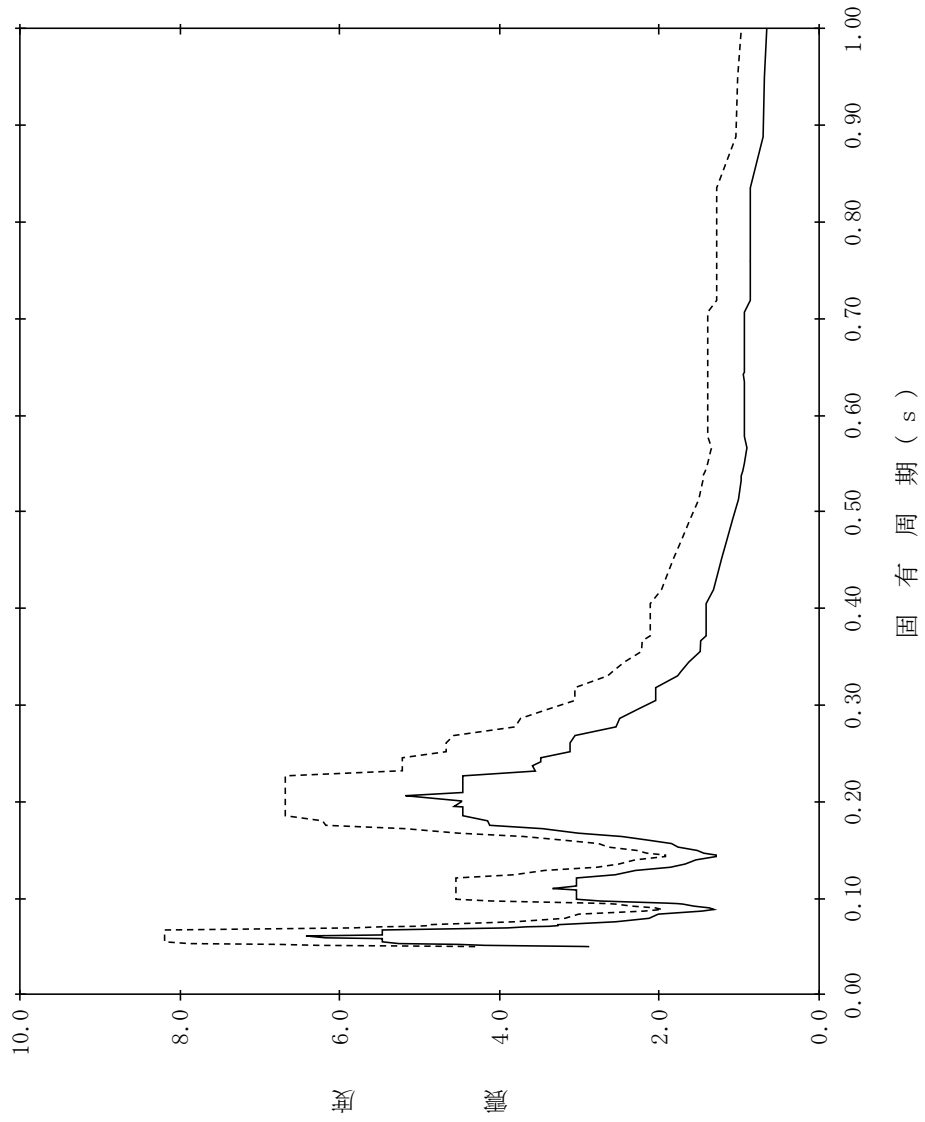
【NS2-PCV-SdEW-PED129】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



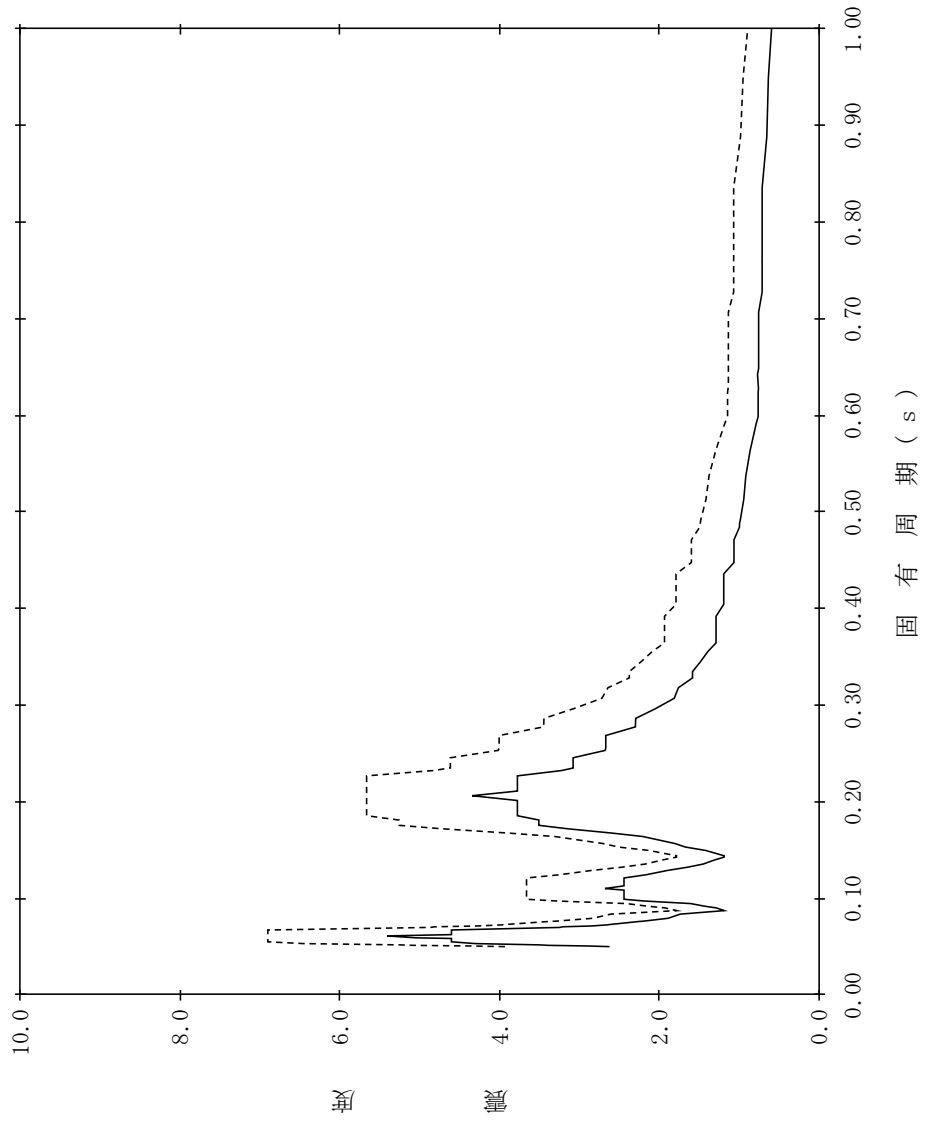
【NS2-PCV-SdEW-PED130】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



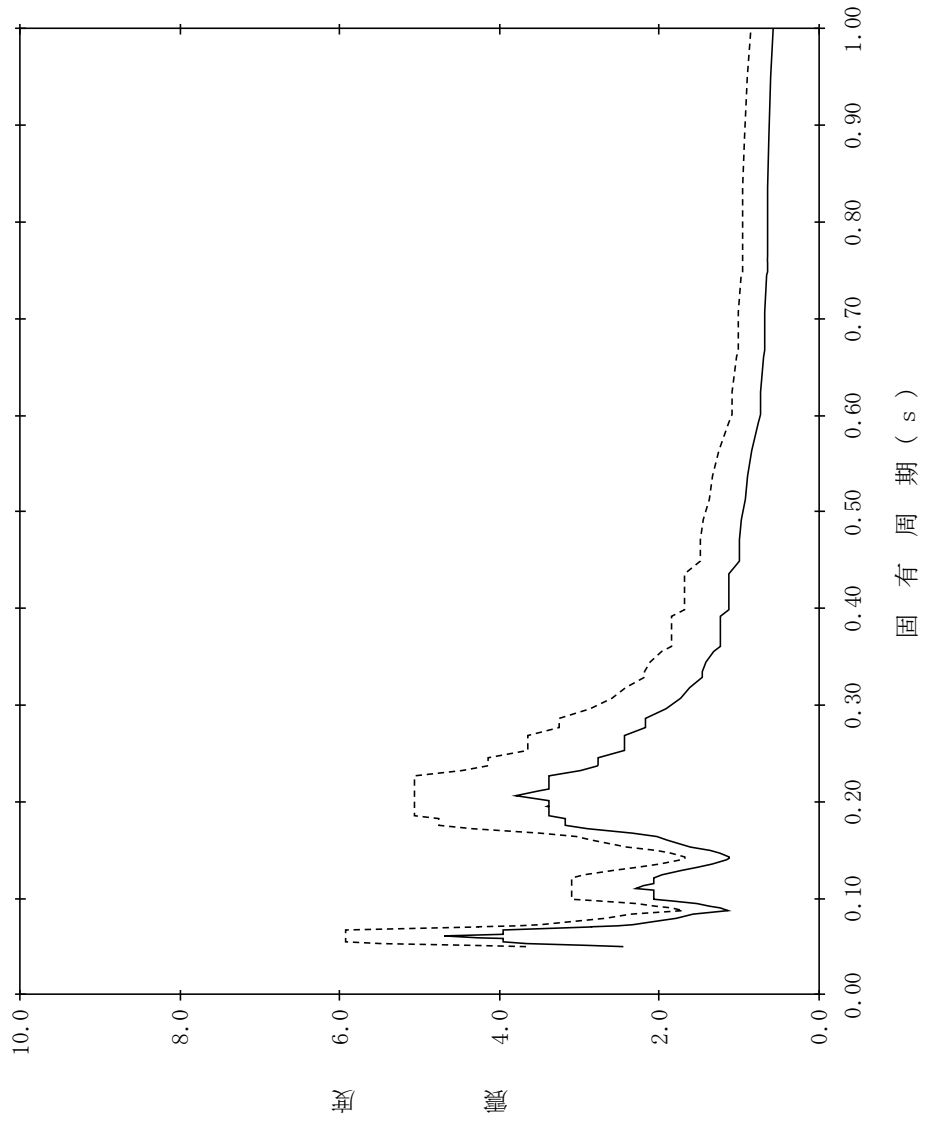
【NS2-PCV-SdEW-PED131】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



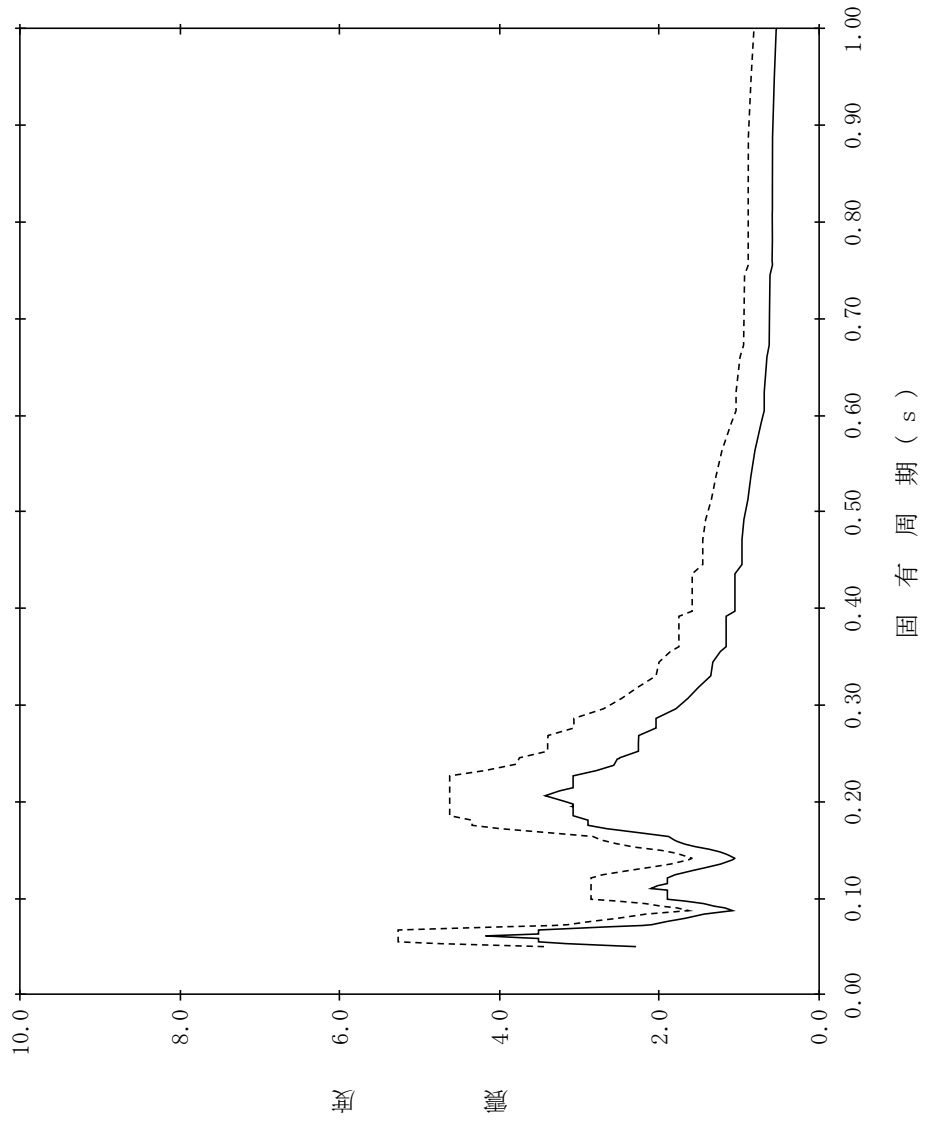
【NS2-PCV-SdEW-PED132】

構造物名：原子炉圧力容器ベグスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



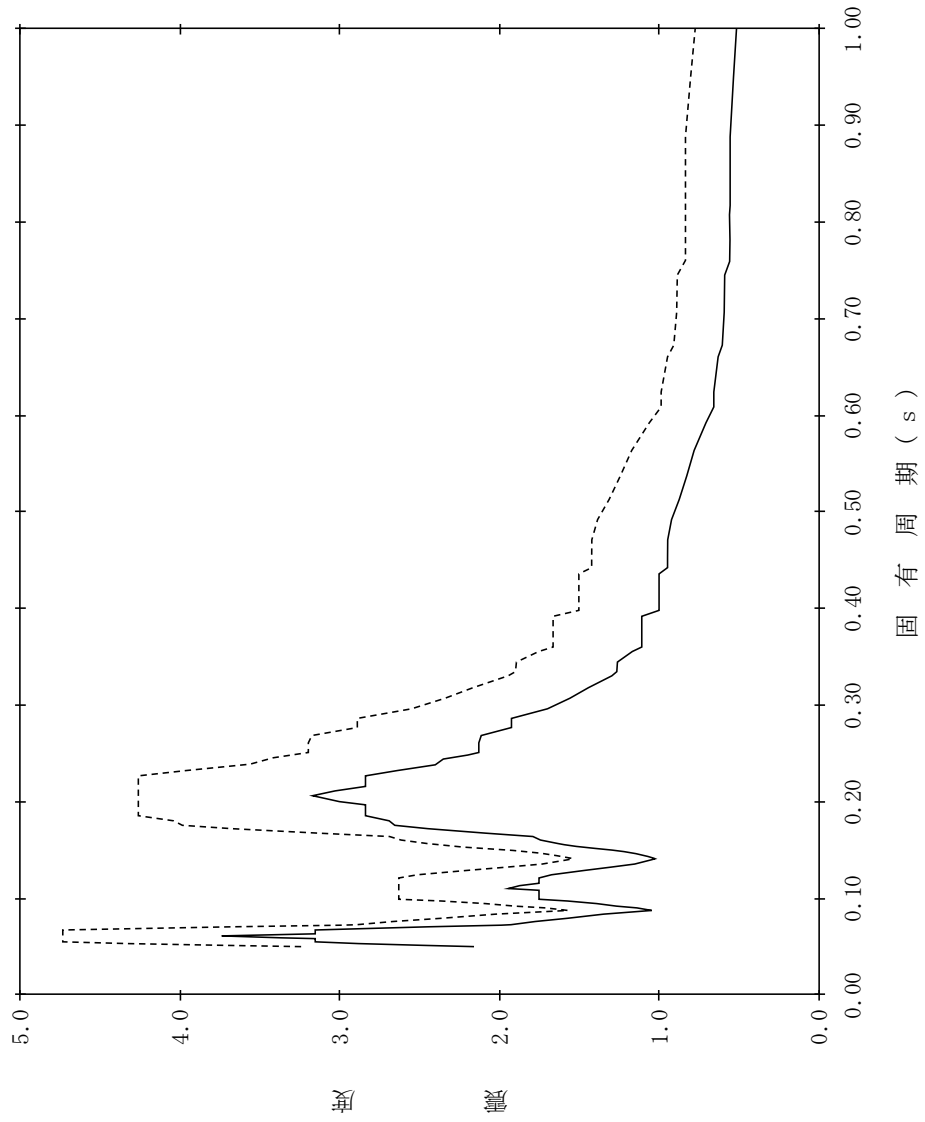
【NS2-PCV-SdEW-PED133】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



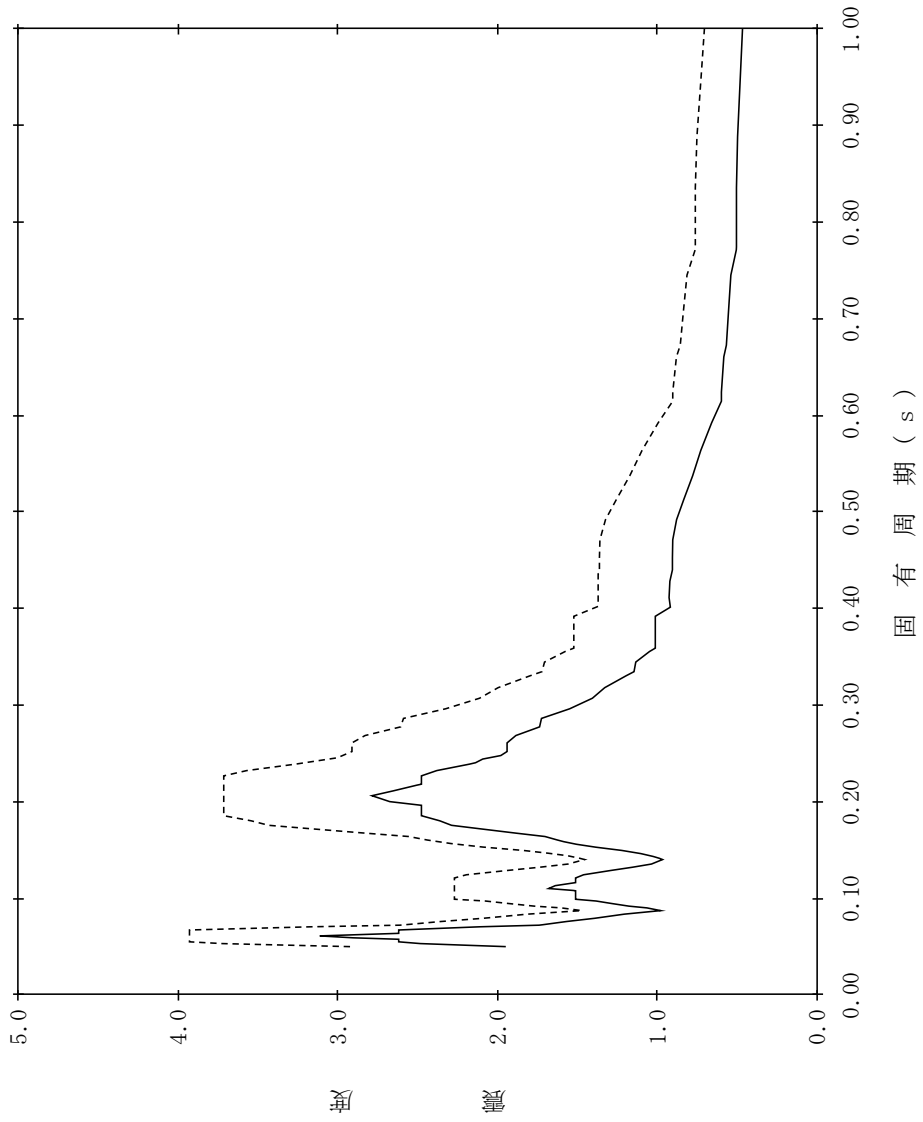
【NS2-PCV-SdEW-PED134】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

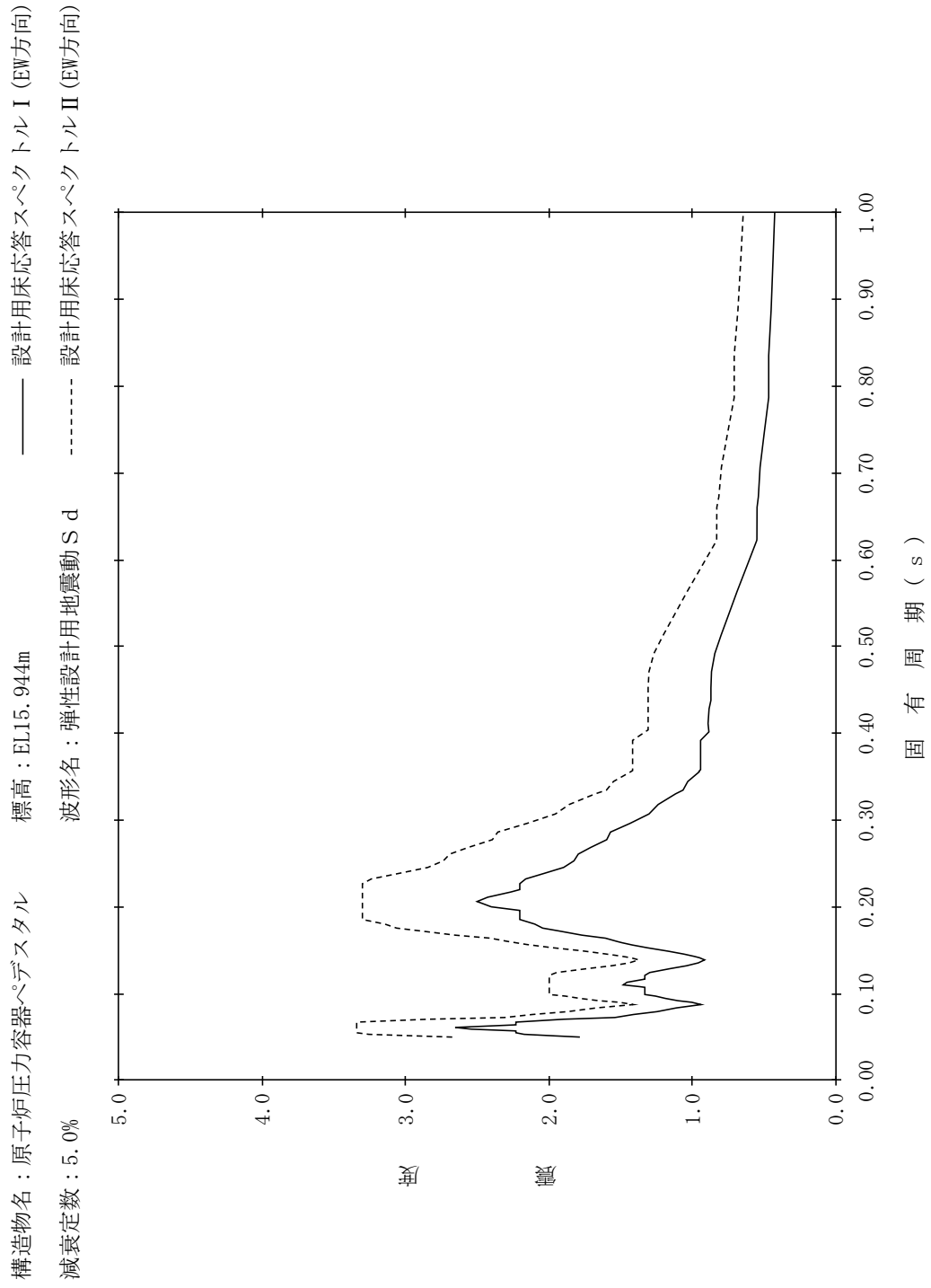


【NS2-PCV-SdEW-PED135】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

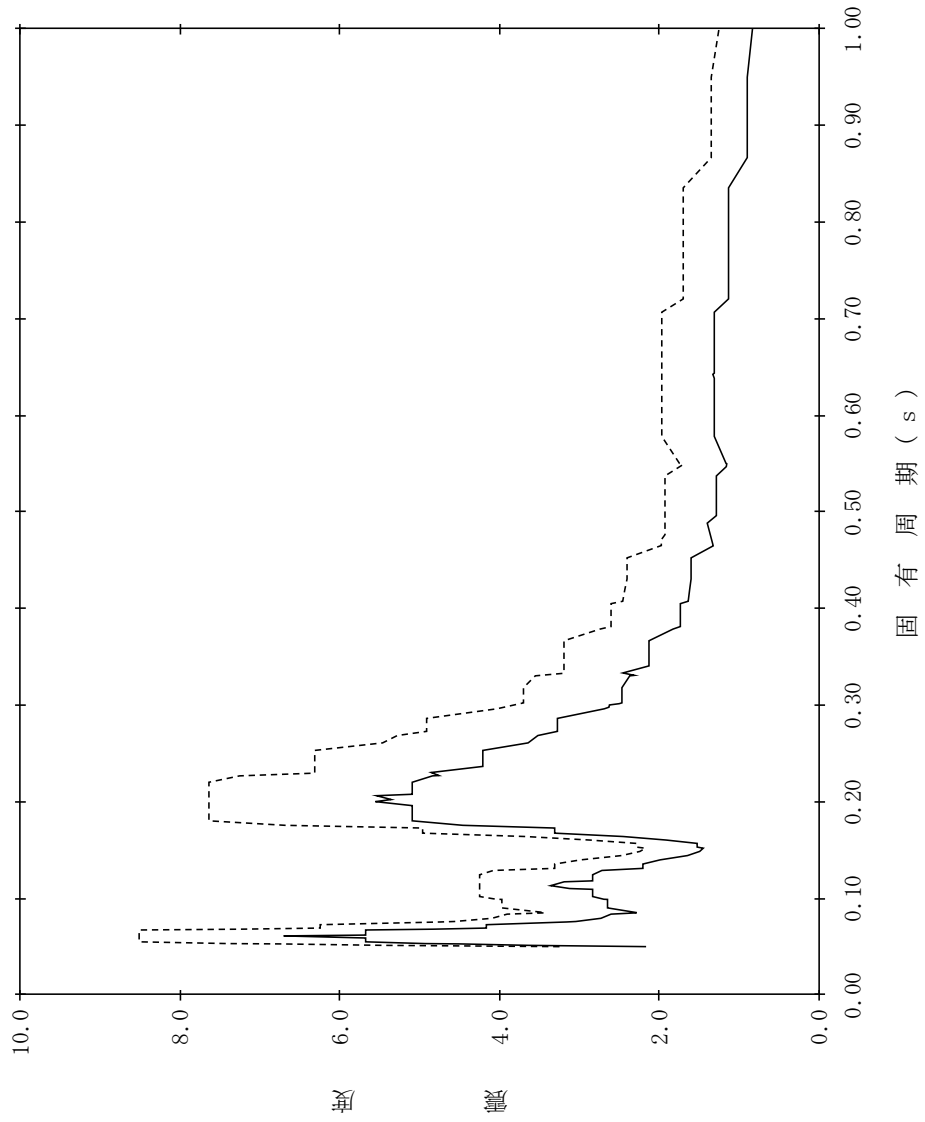


【NS2-PCV-SdEW-PED136】



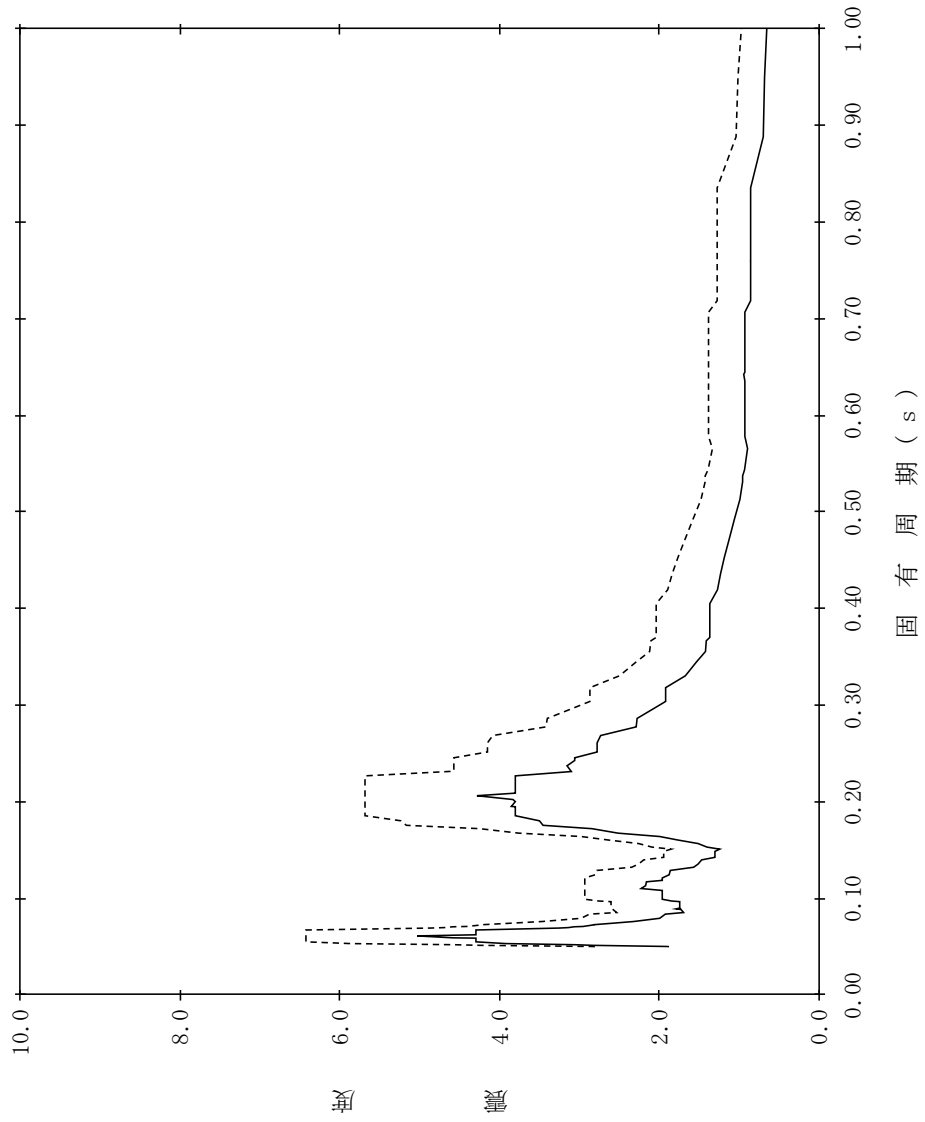
【NS2-PCV-SdEW-PED137】

構造物名：原子炉圧力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



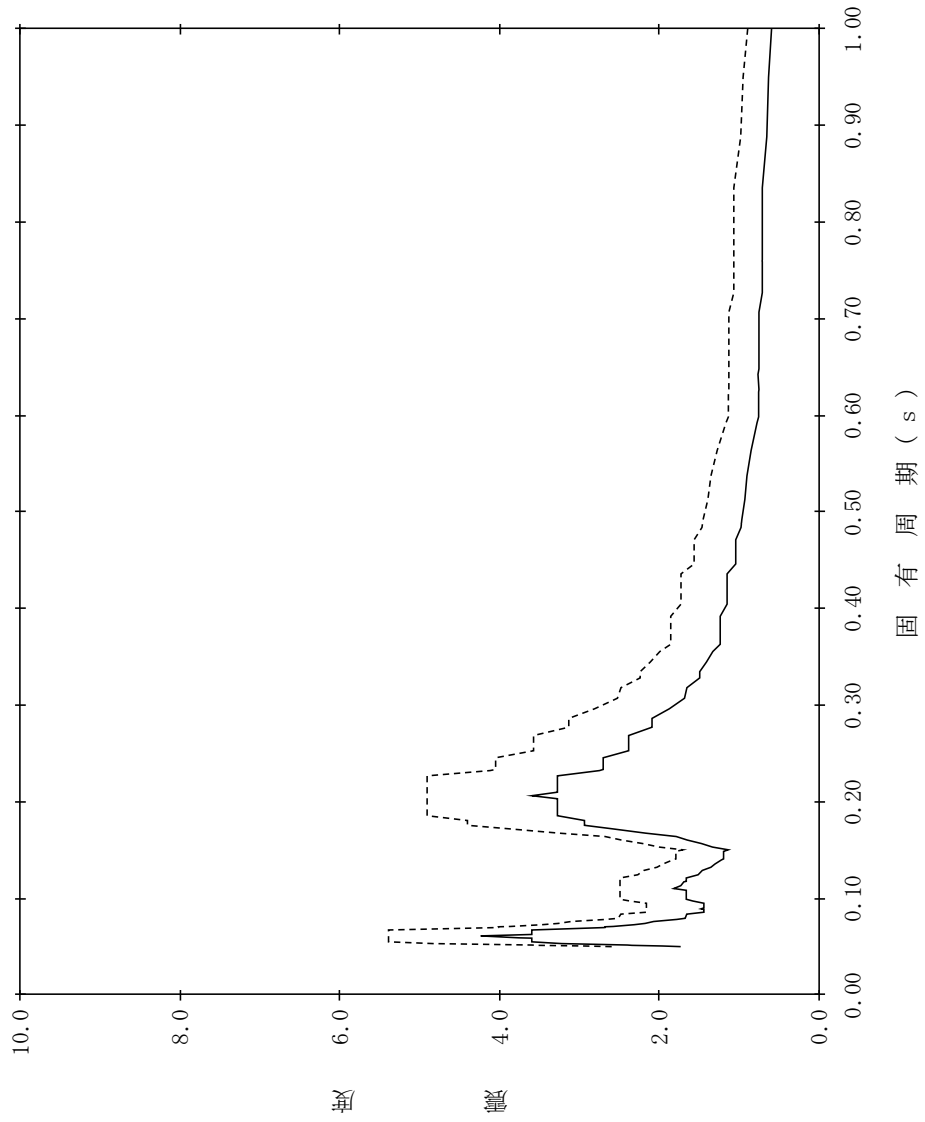
【NS2-PCV-SdEW-PED138】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



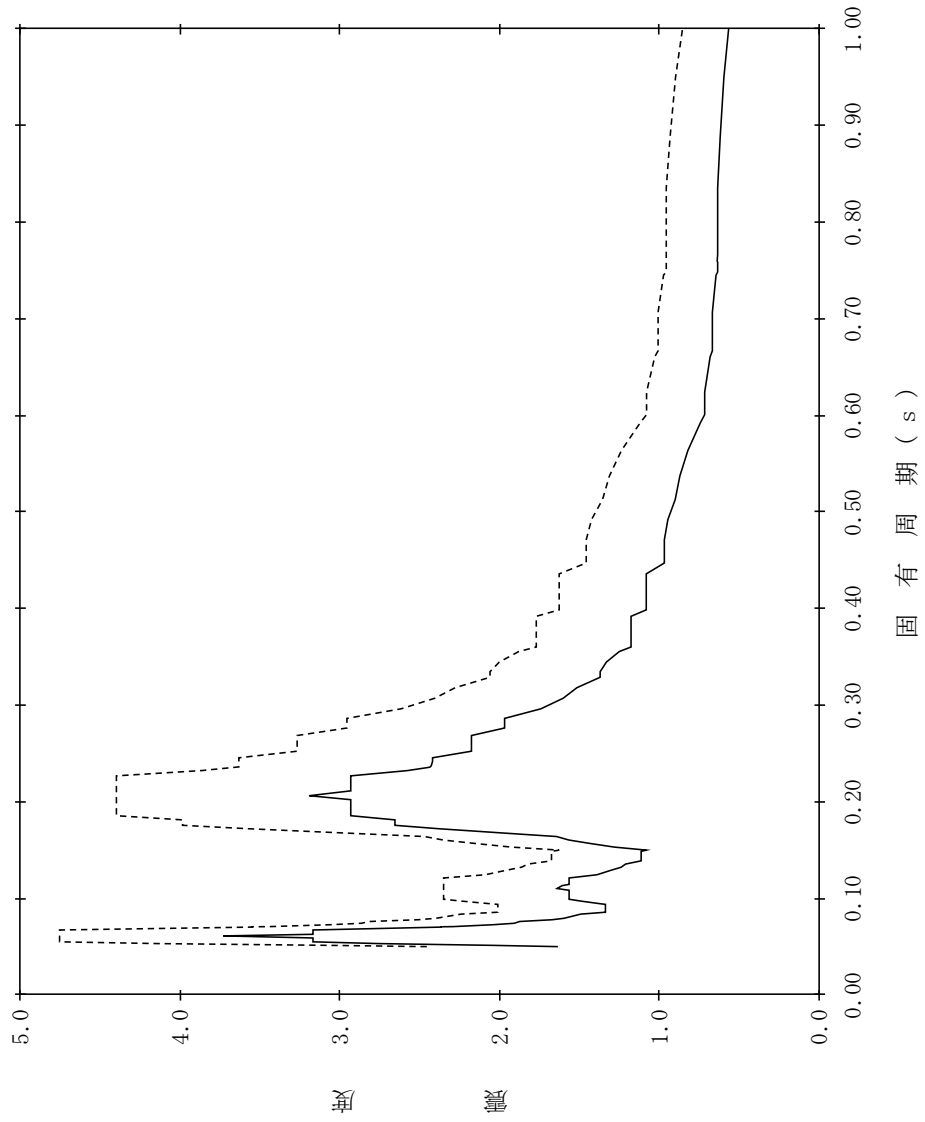
【NS2-PCV-SdEW-PED139】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



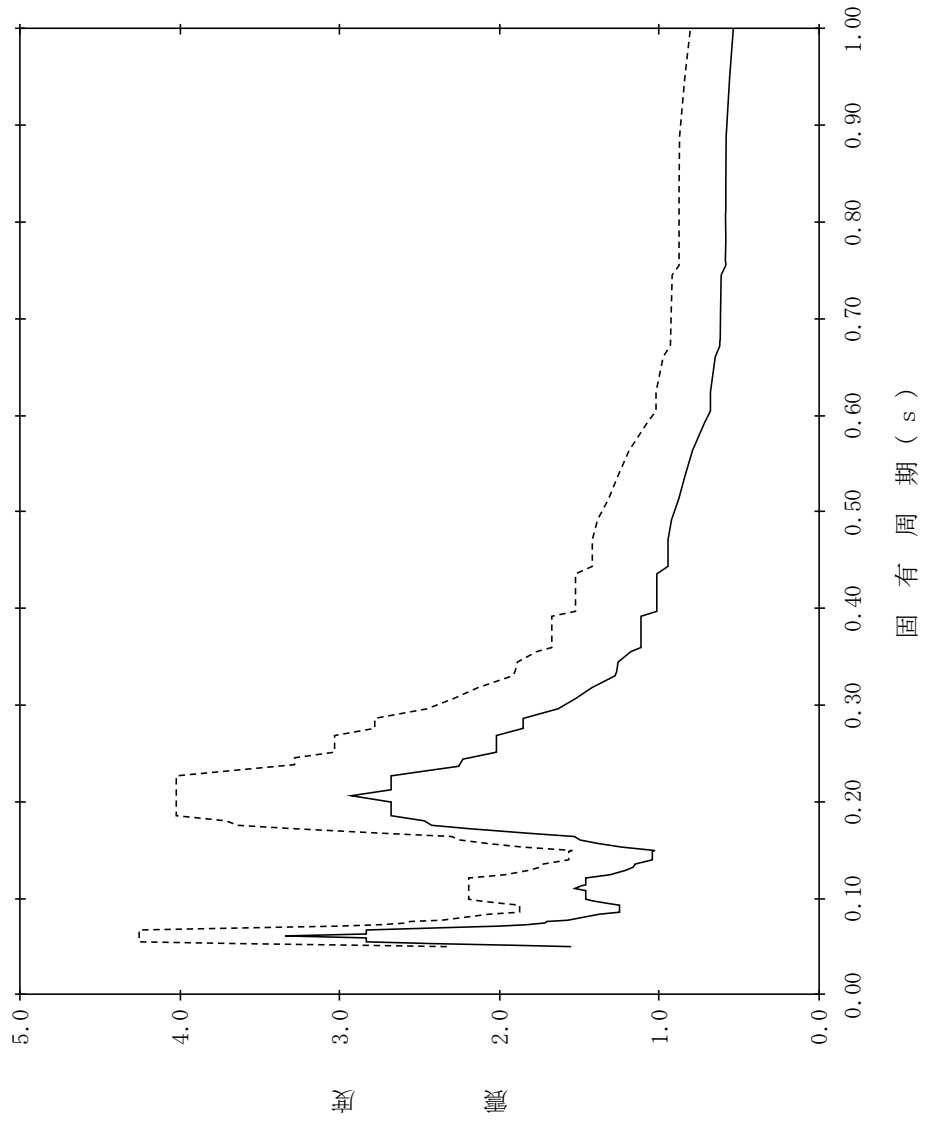
【NS2-PCV-SdEW-PED140】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



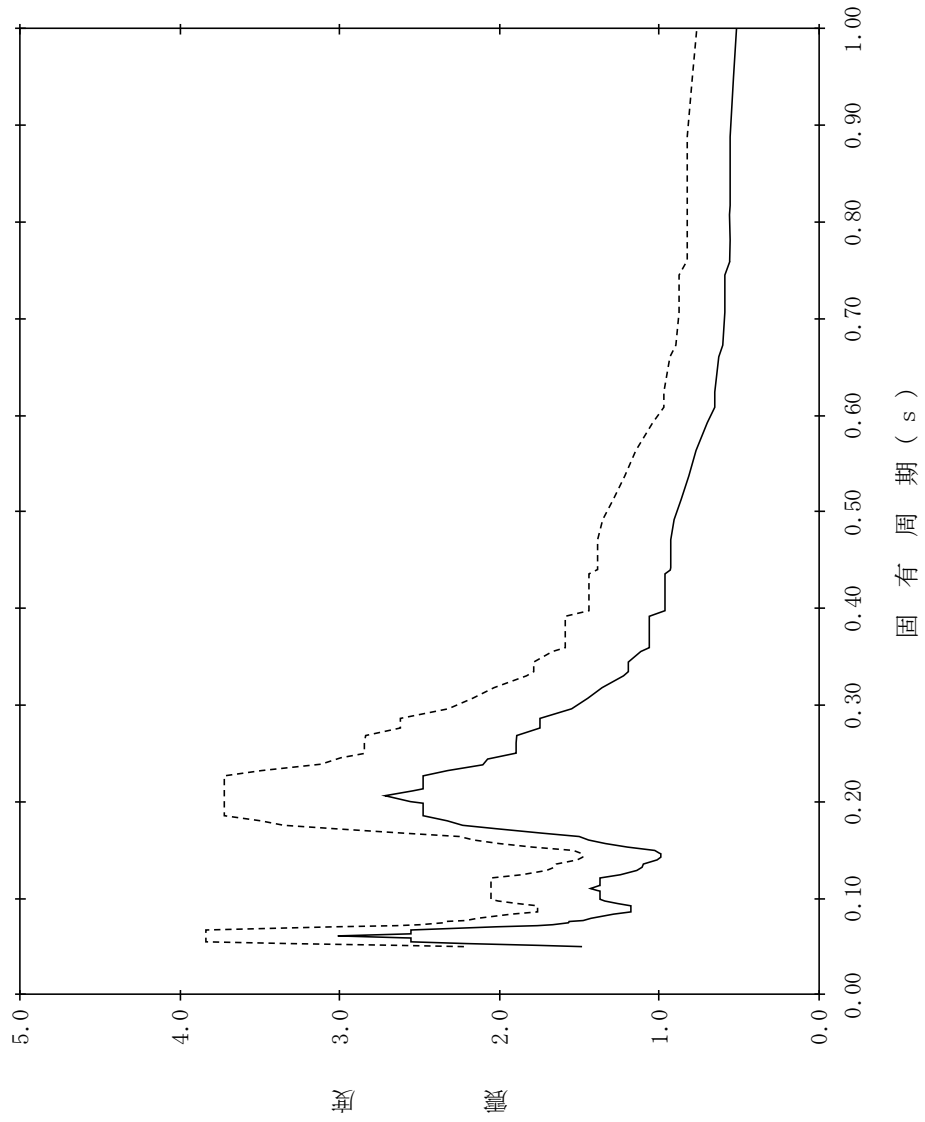
【NS2-PCV-SdEW-PED141】

構造物名：原子炉圧力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



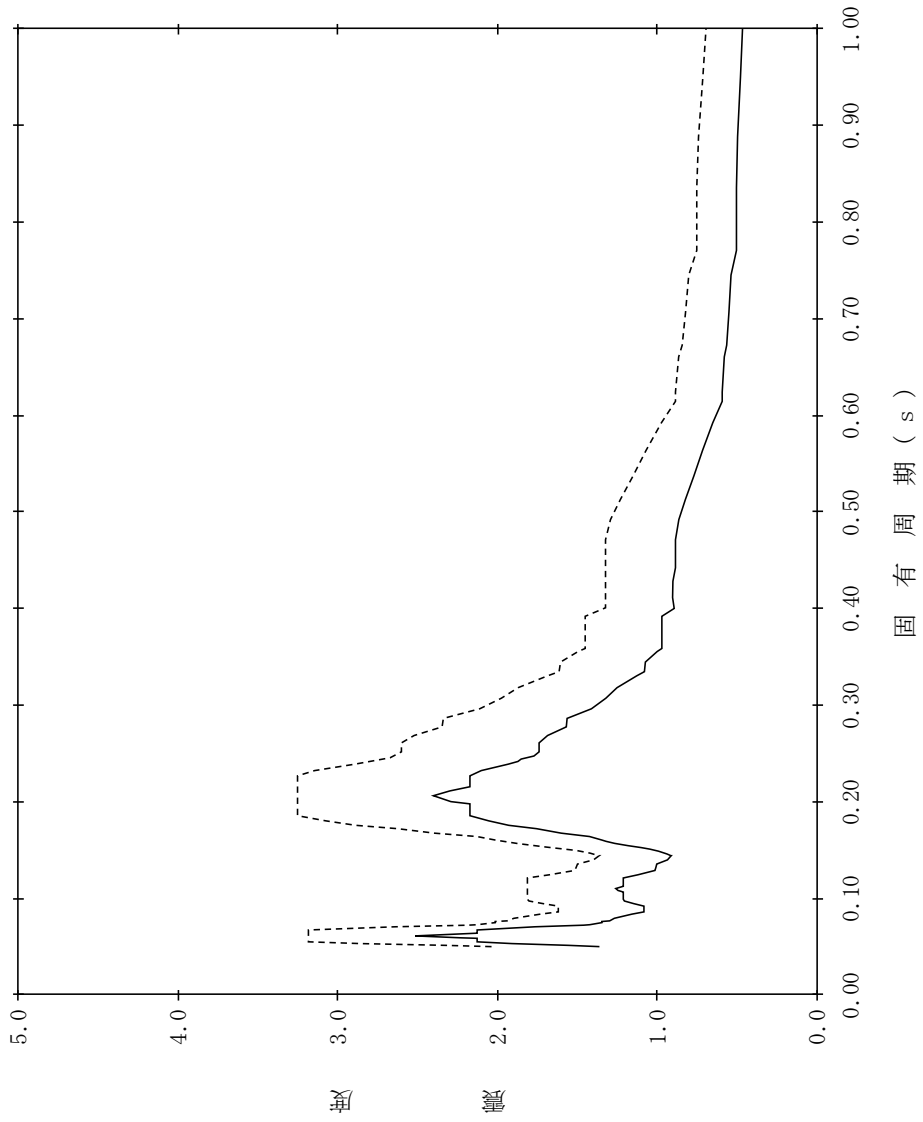
【NS2-PCV-SdEW-PED142】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



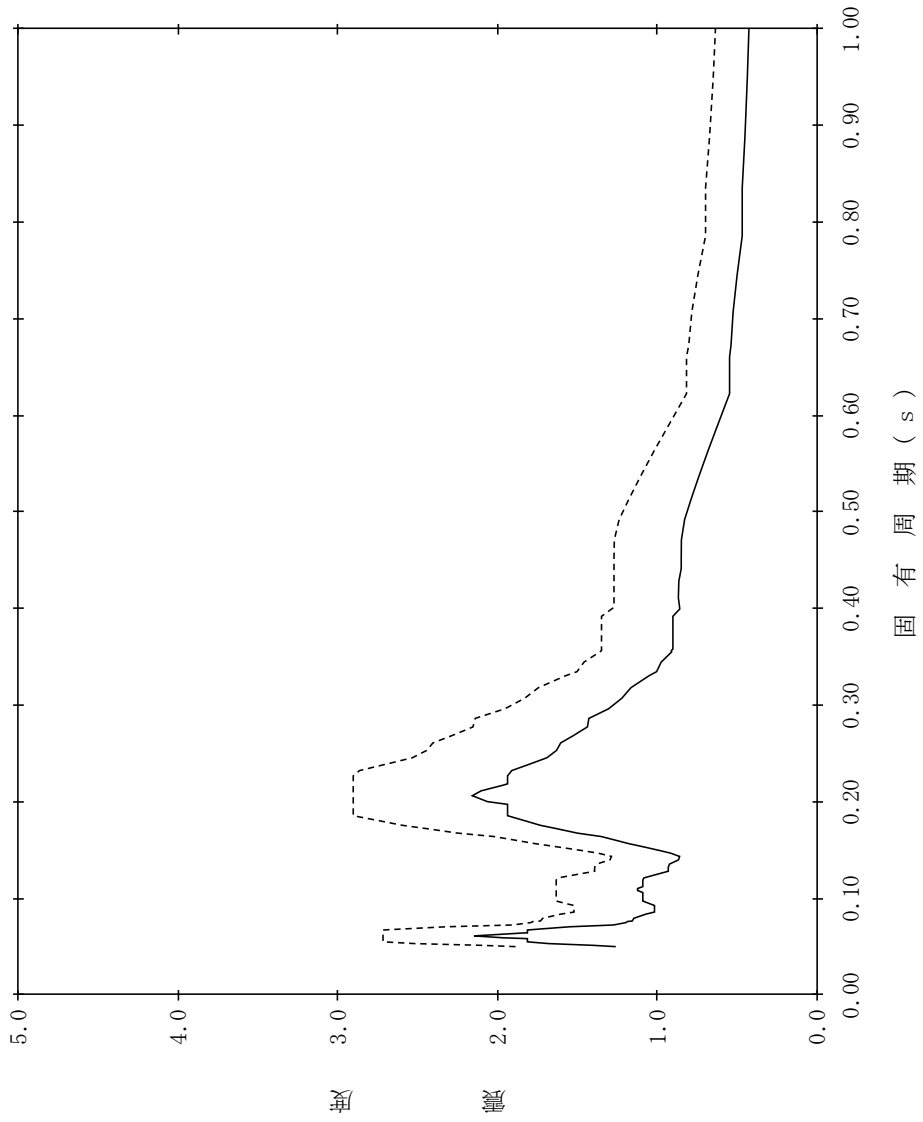
【NS2-PCV-SdEW-PED143】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



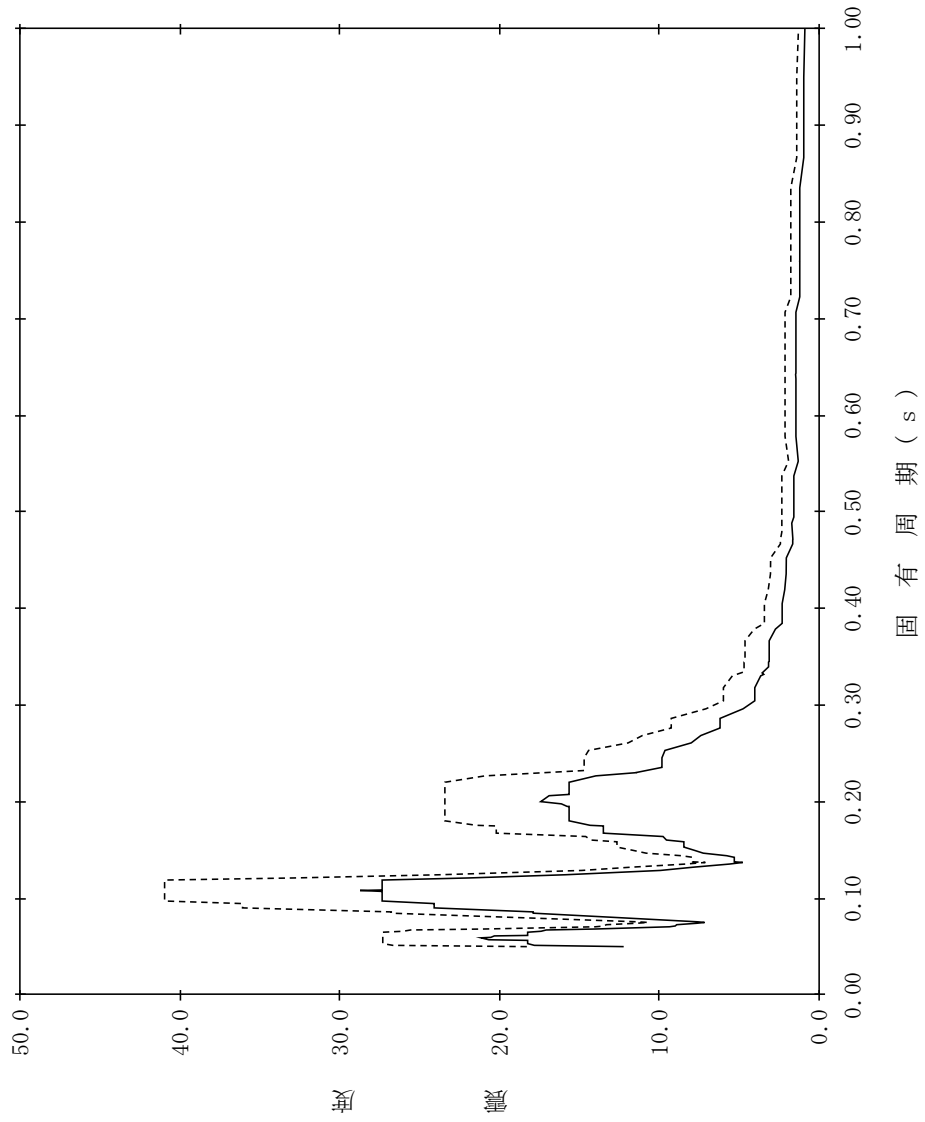
【NS2-PCV-SdEW-PED144】

構造物名：原子炉压力容器ベグスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



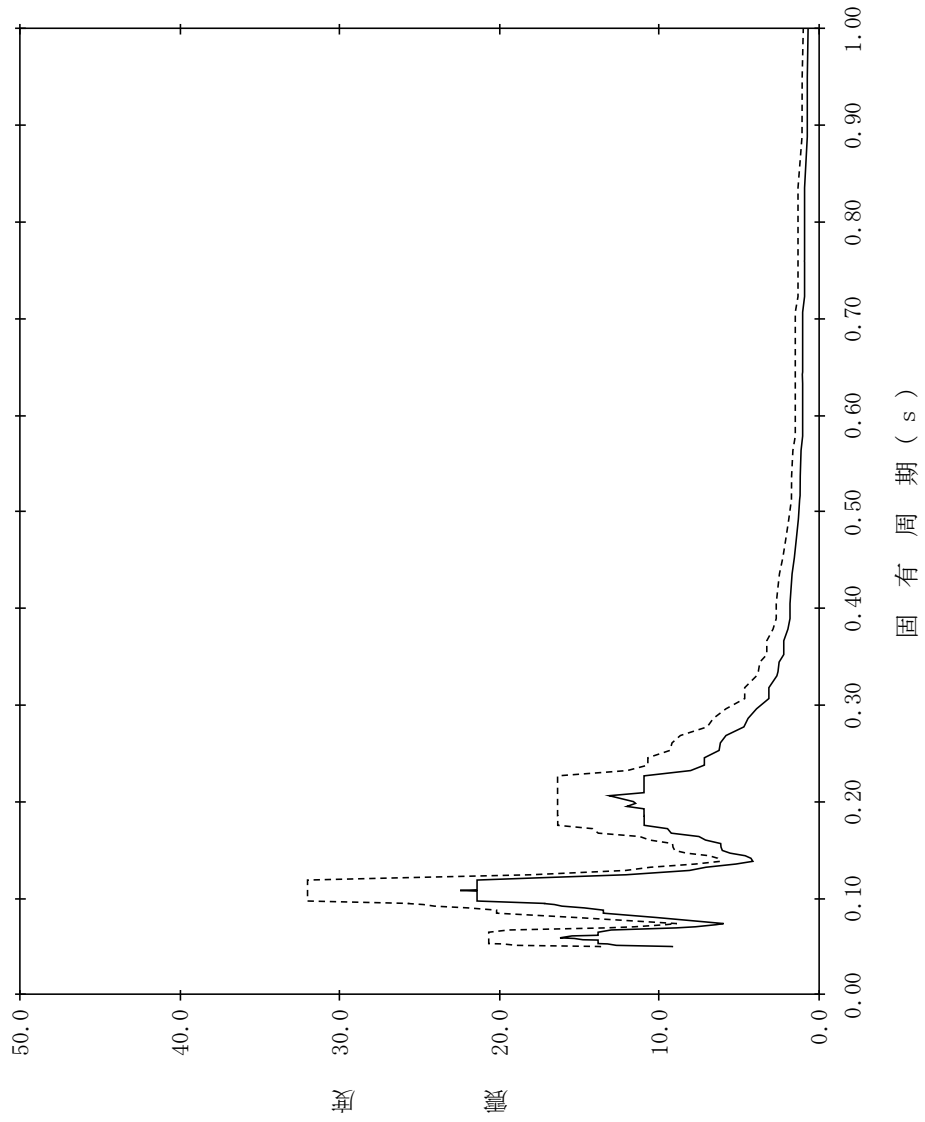
【NS2-PCV-SdEW-RPV145】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



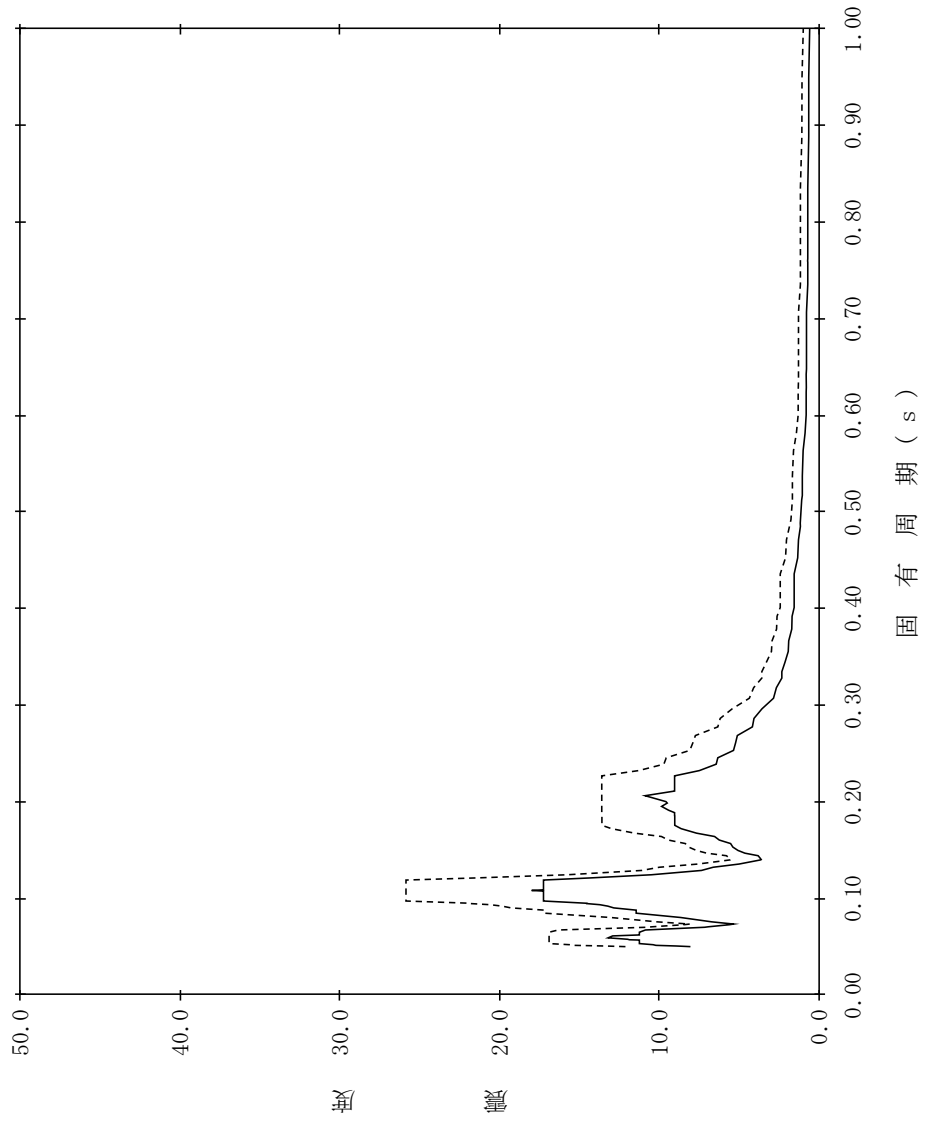
【NS2-PCV-SdEW-RPV146】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



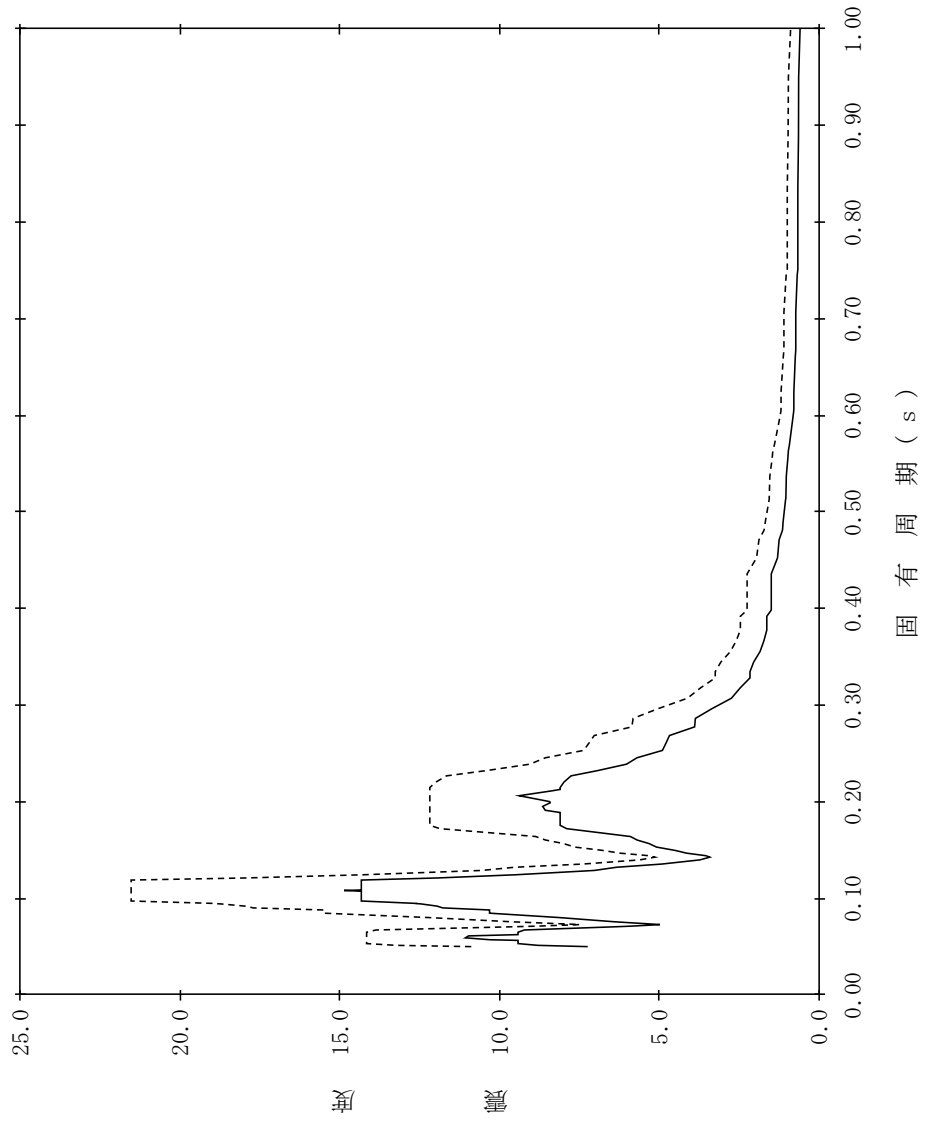
【NS2-PCV-SdEW-RPV147】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



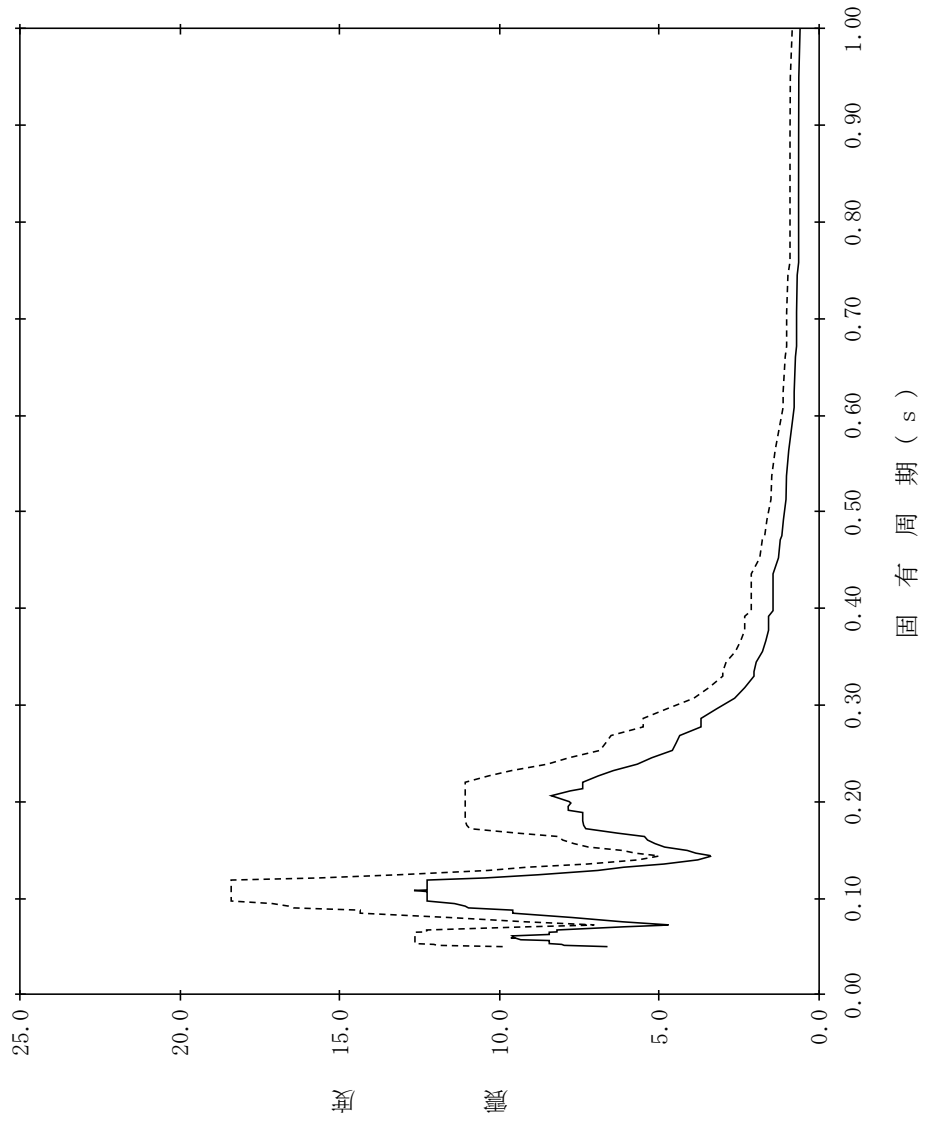
【NS2-PCV-SdEW-RPV148】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



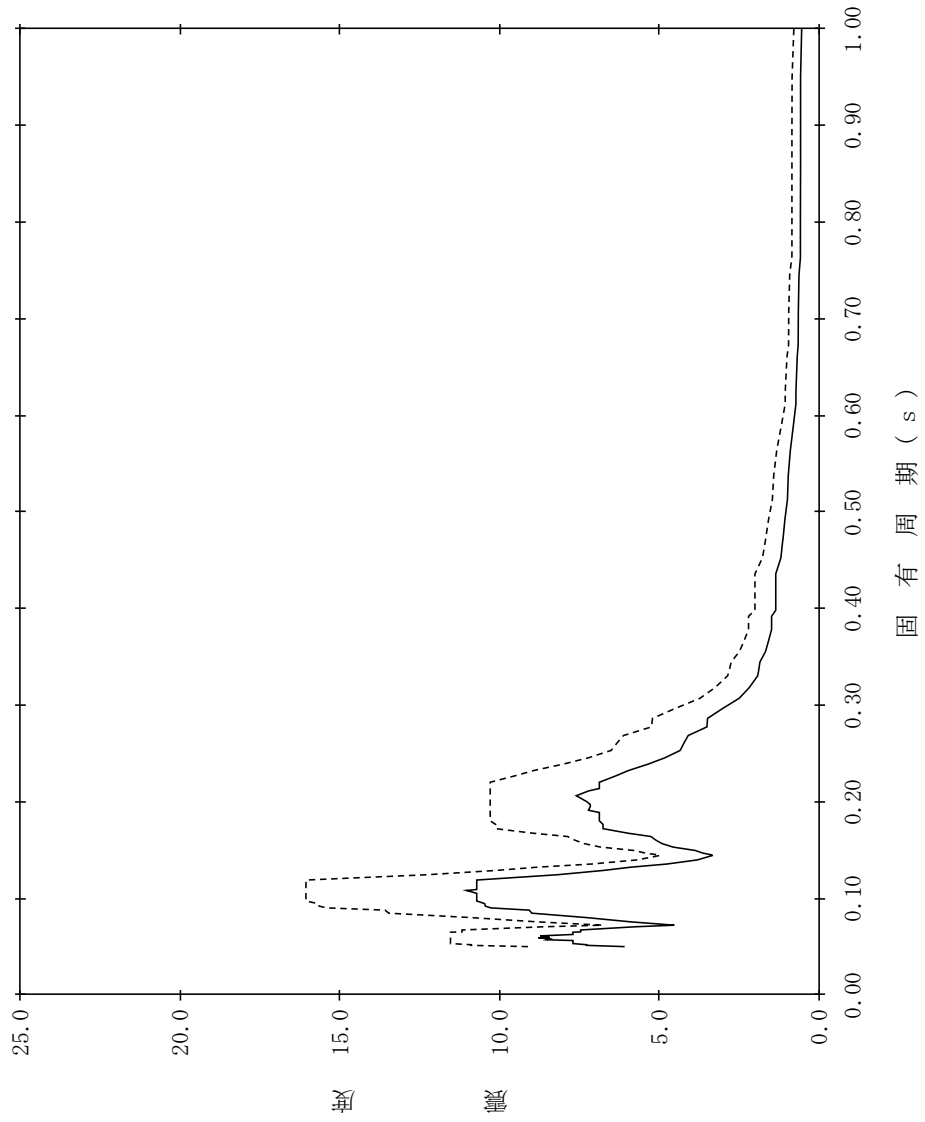
【NS2-PCV-SdEW-RPV149】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL32.567m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



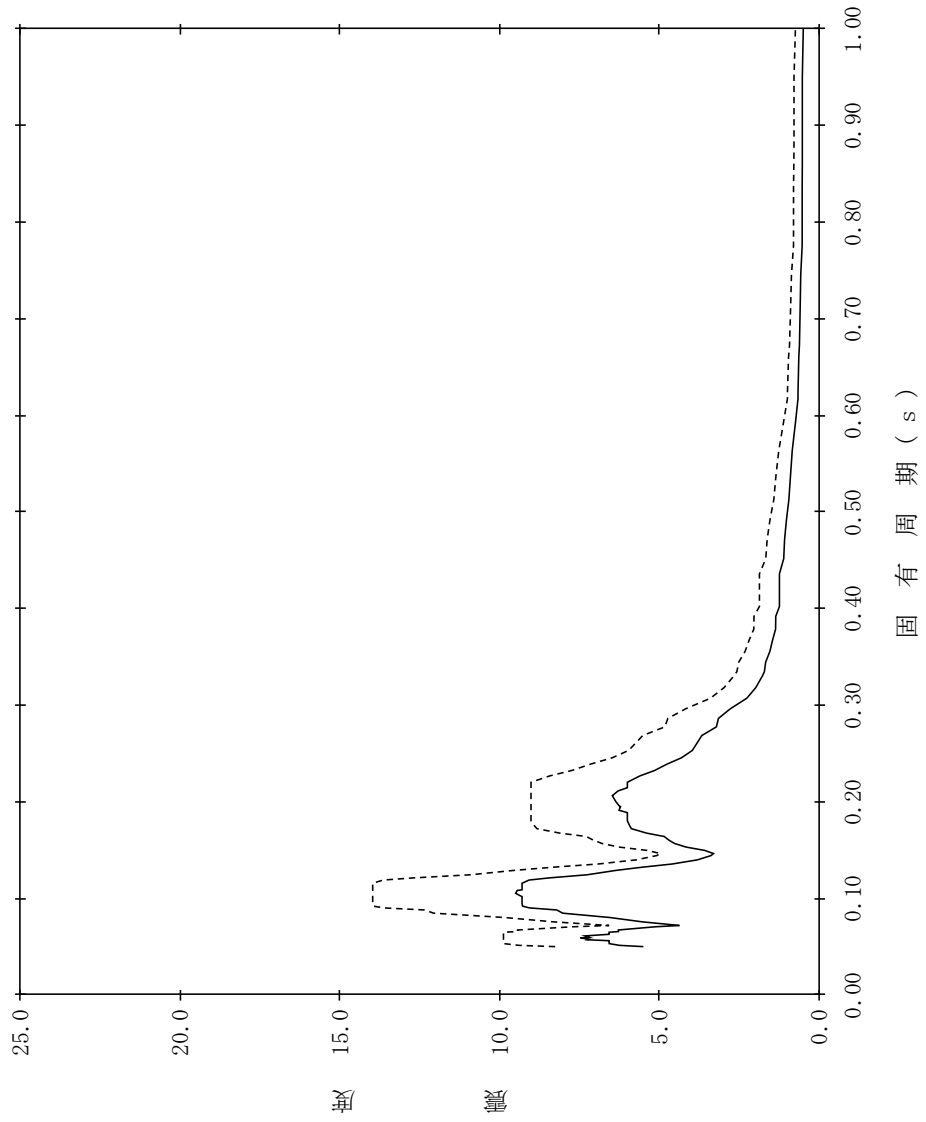
【NS2-PCV-SdEW-RPV150】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



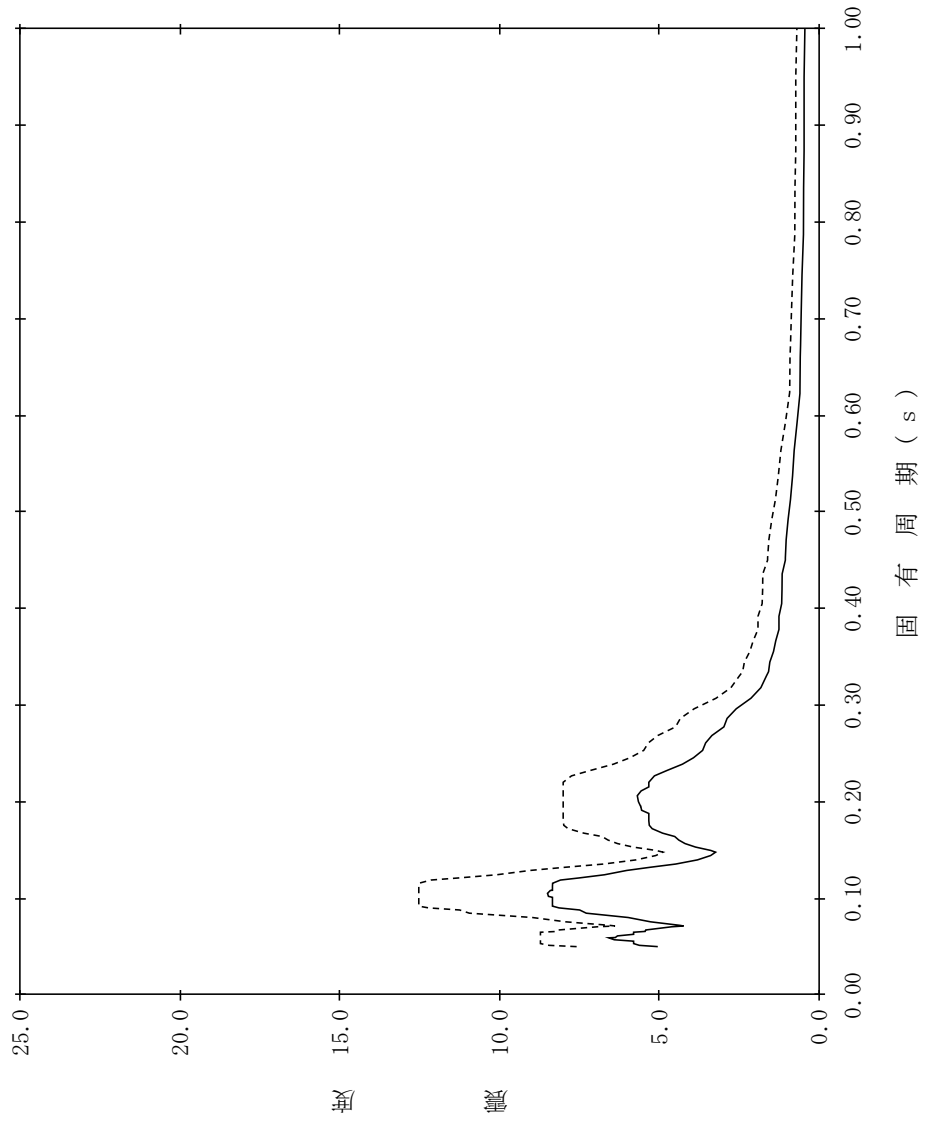
【NS2-PCV-SdEW-RPV151】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL32.567m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



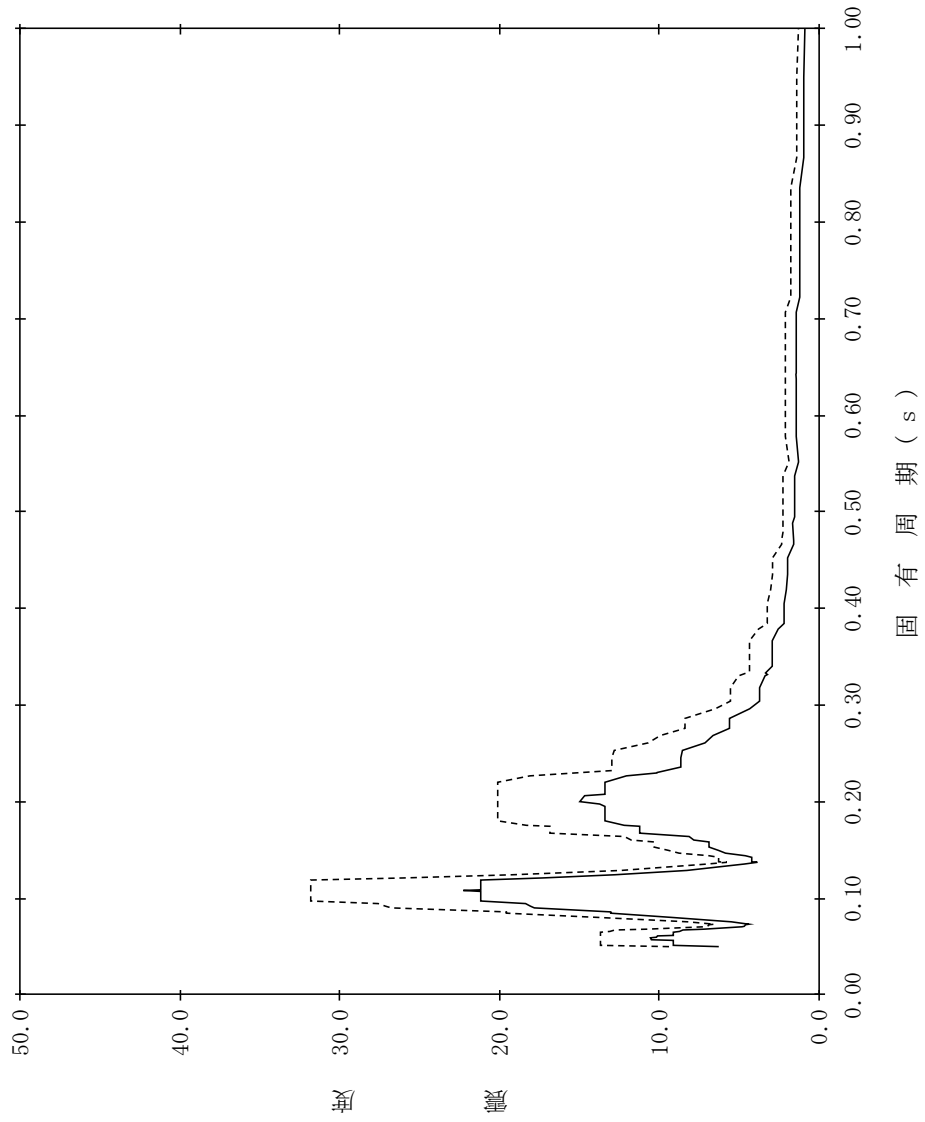
【NS2-PCV-SdEW-RPV152】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



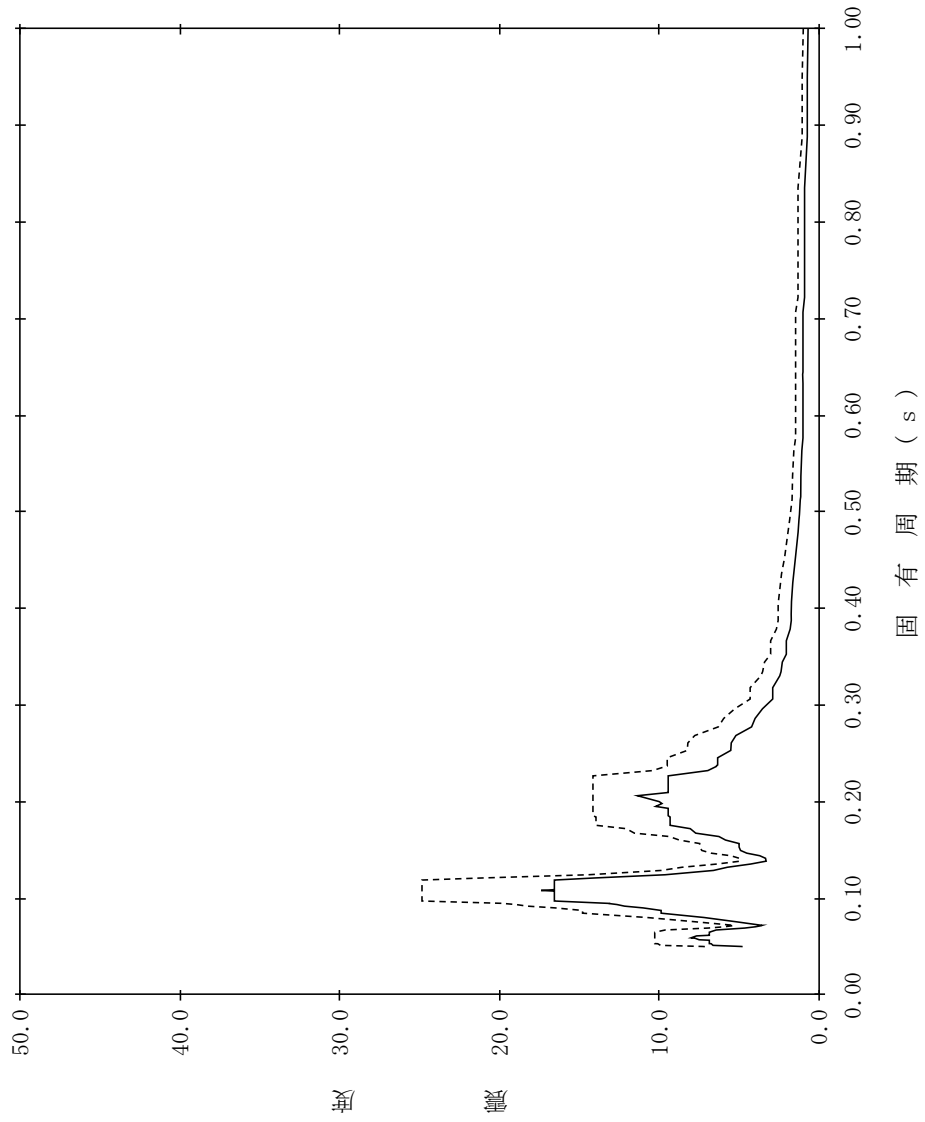
【NS2-PCV-SdEW-RPV153】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



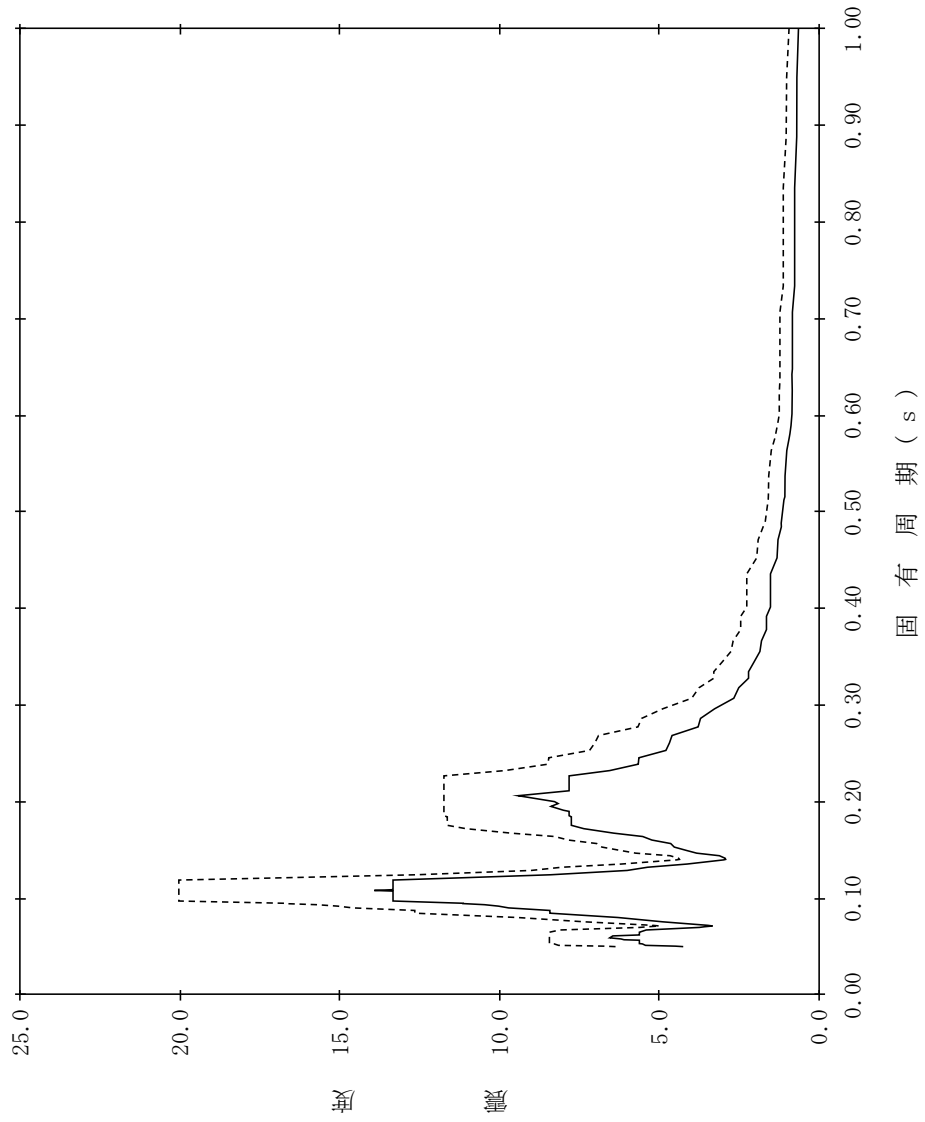
【NS2-PCV-SdEW-RPV154】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



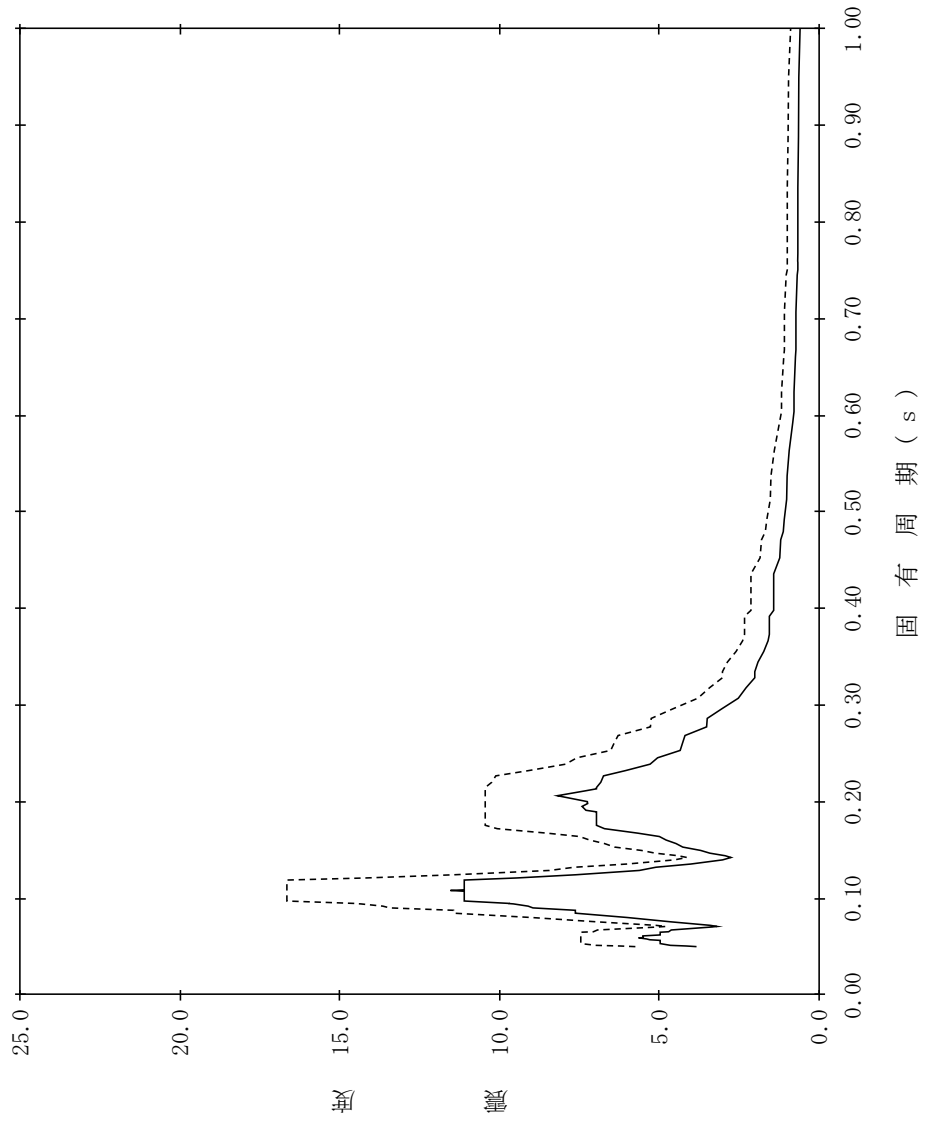
【NS2-PCV-SdEW-RPV155】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



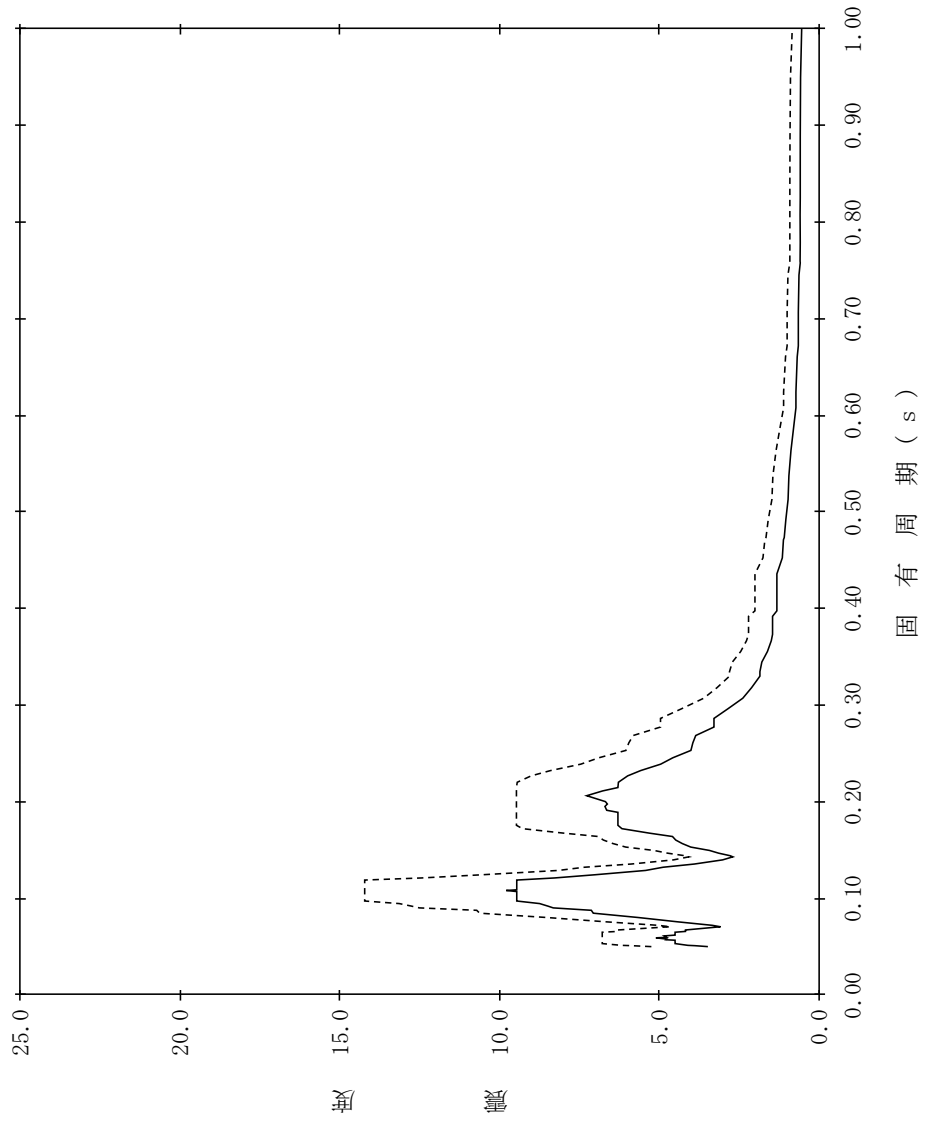
【NS2-PCV-SdEW-RPV156】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



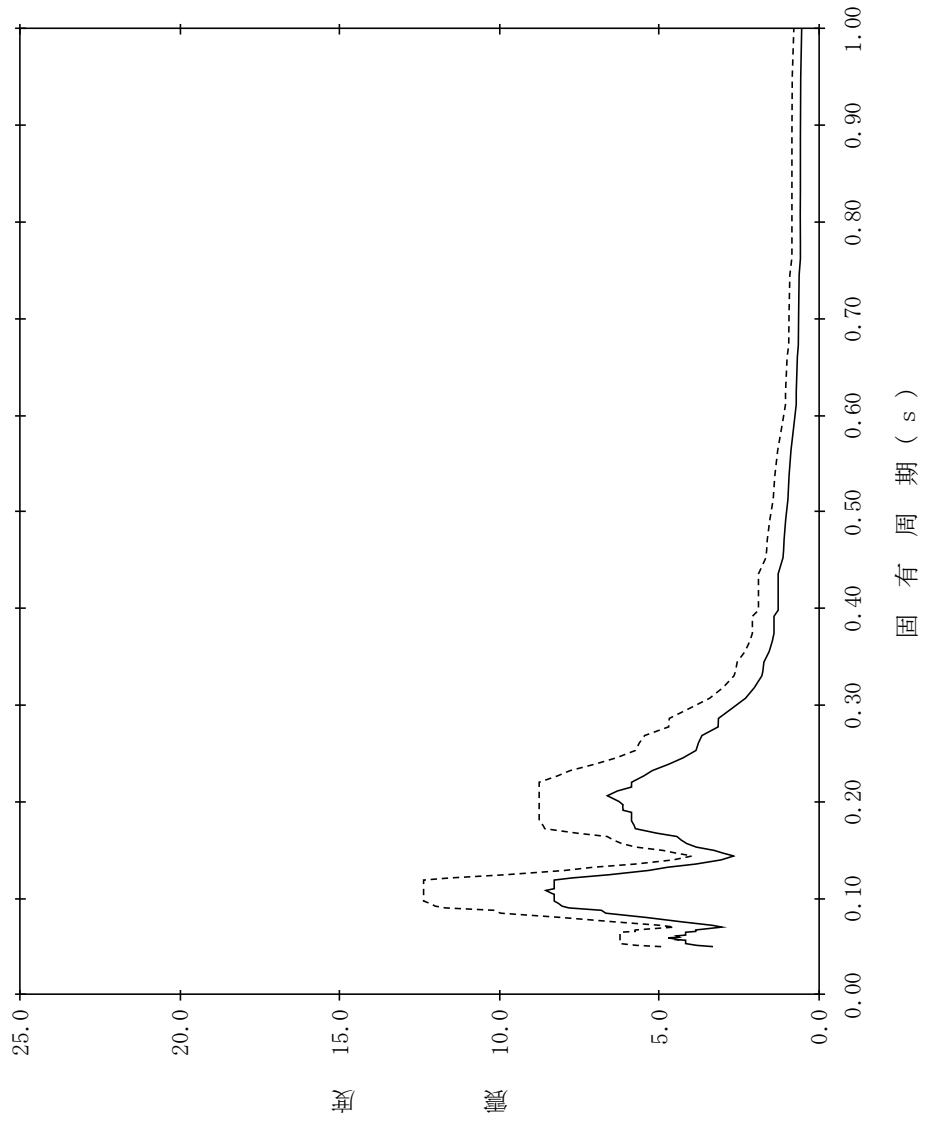
【NS2-PCV-SdEW-RPV157】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



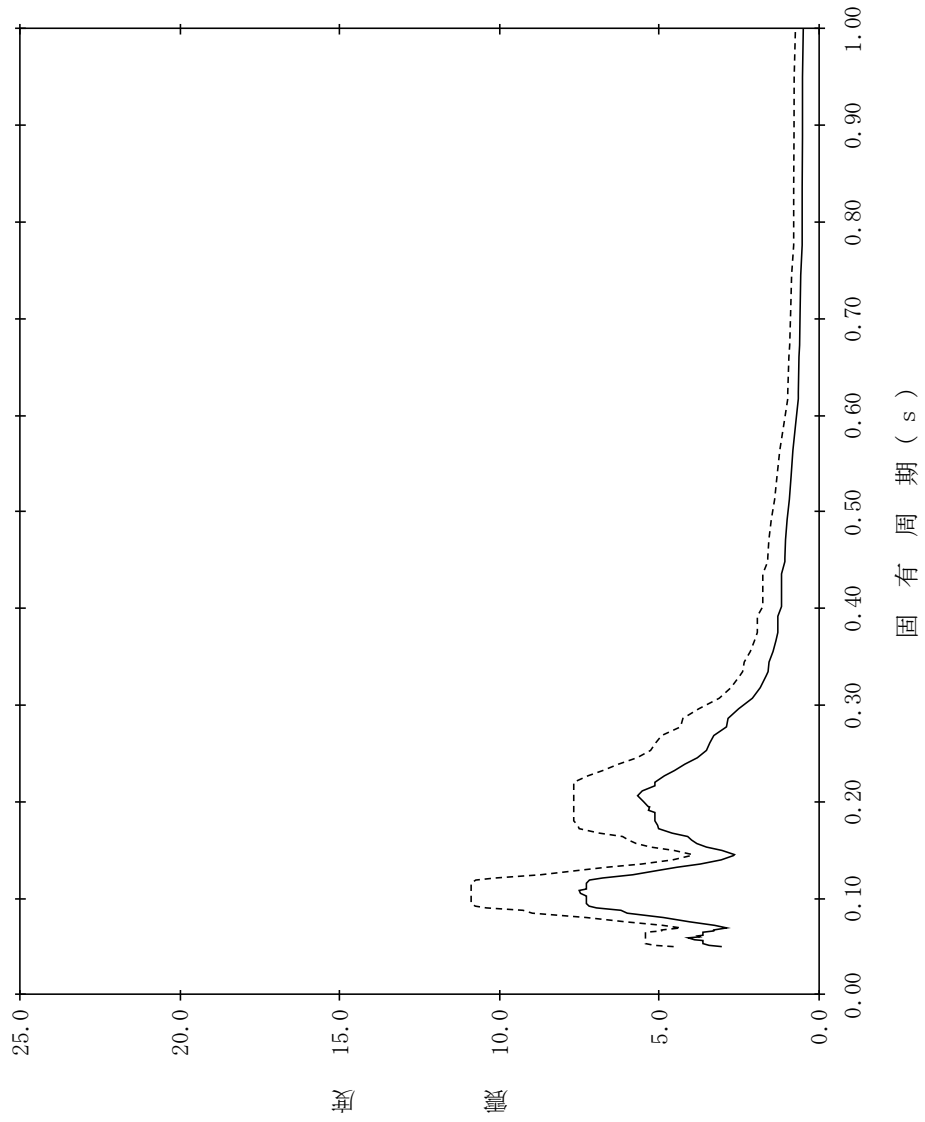
【NS2-PCV-SdEW-RPV158】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL29.181m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



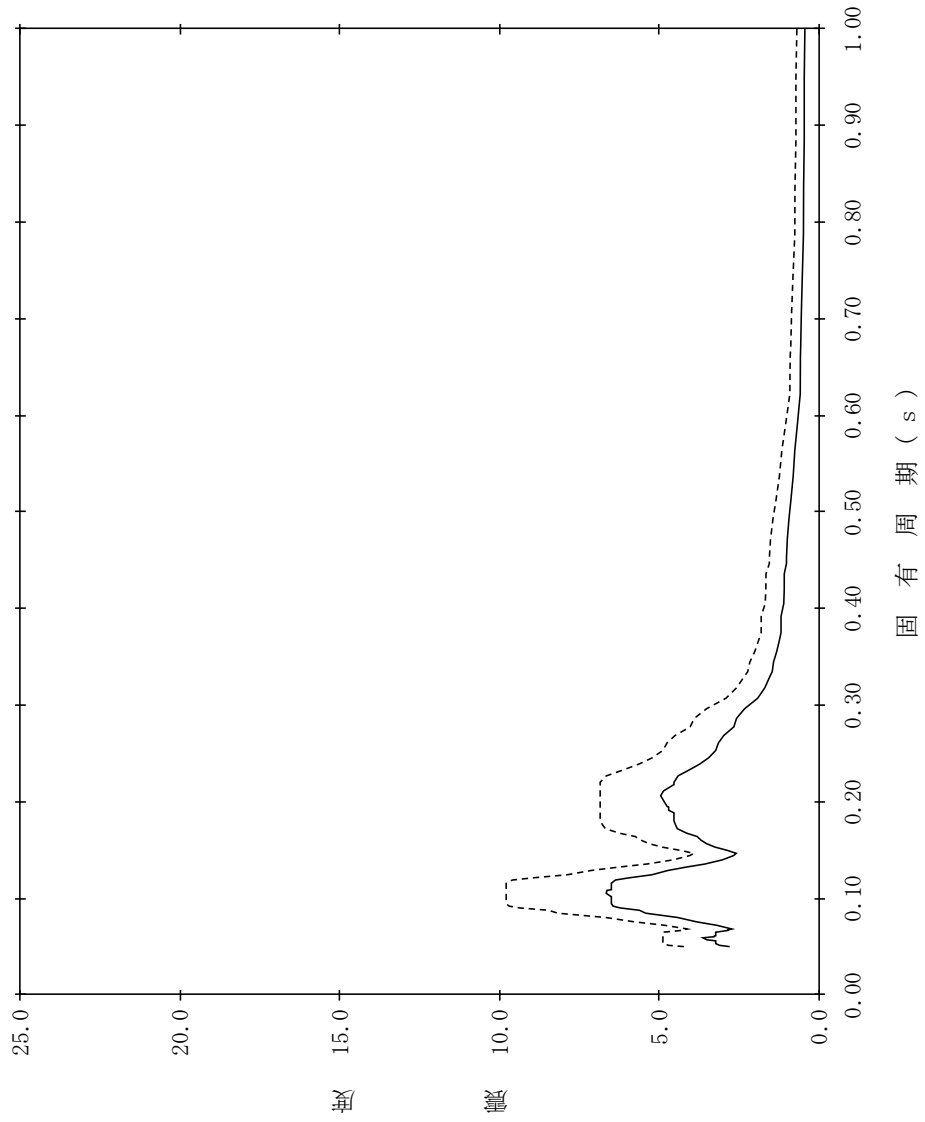
【NS2-PCV-SdEW-RPV159】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



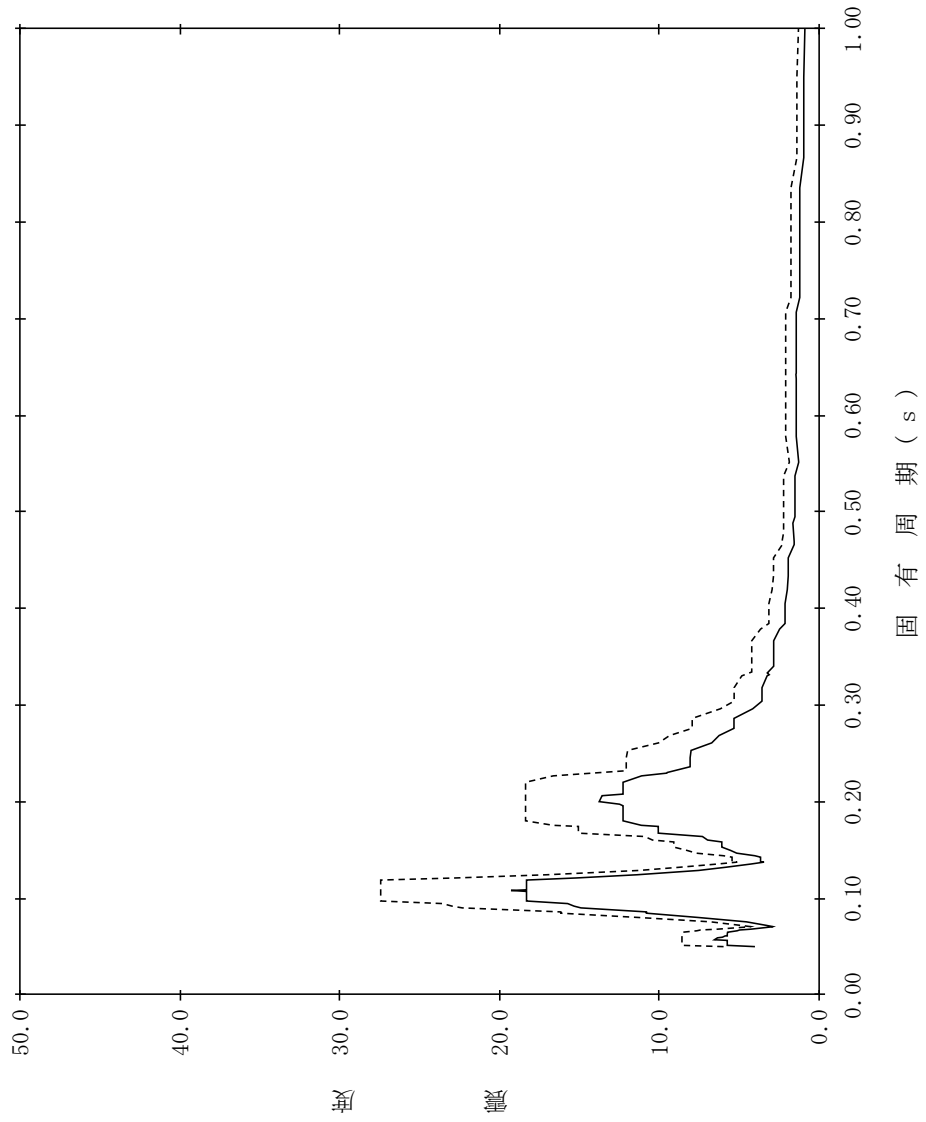
【NS2-PCV-SdEW-RPV160】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



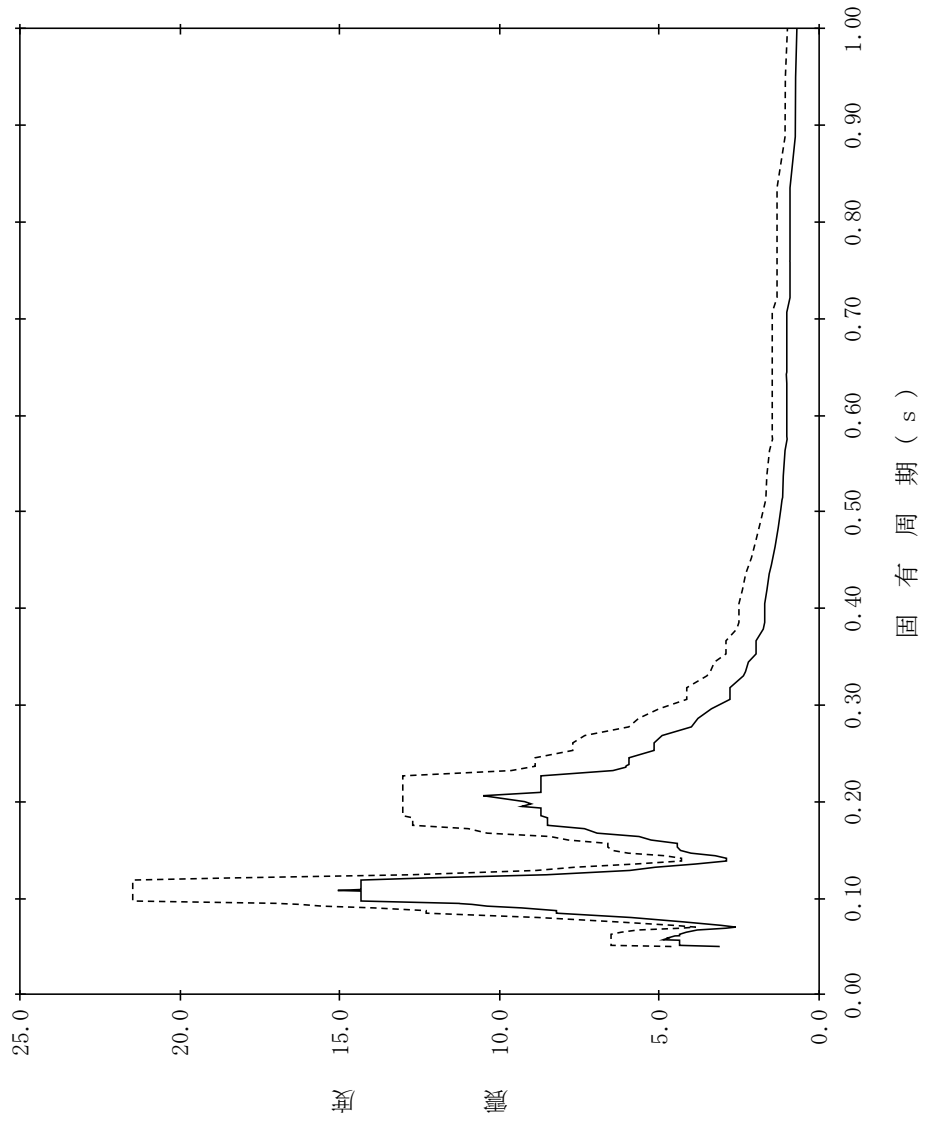
【NS2-PCV-SdEW-RPV161】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



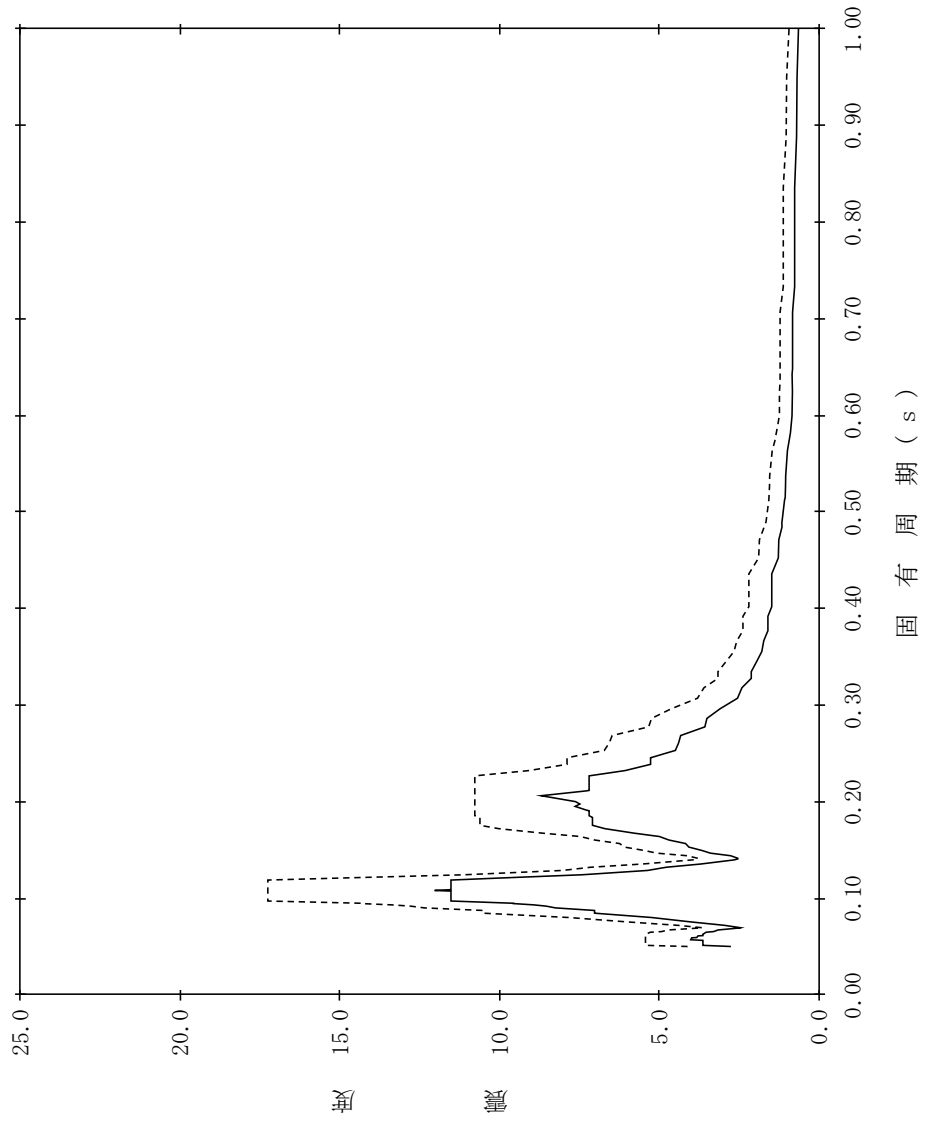
【NS2-PCV-SdEW-RPV162】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



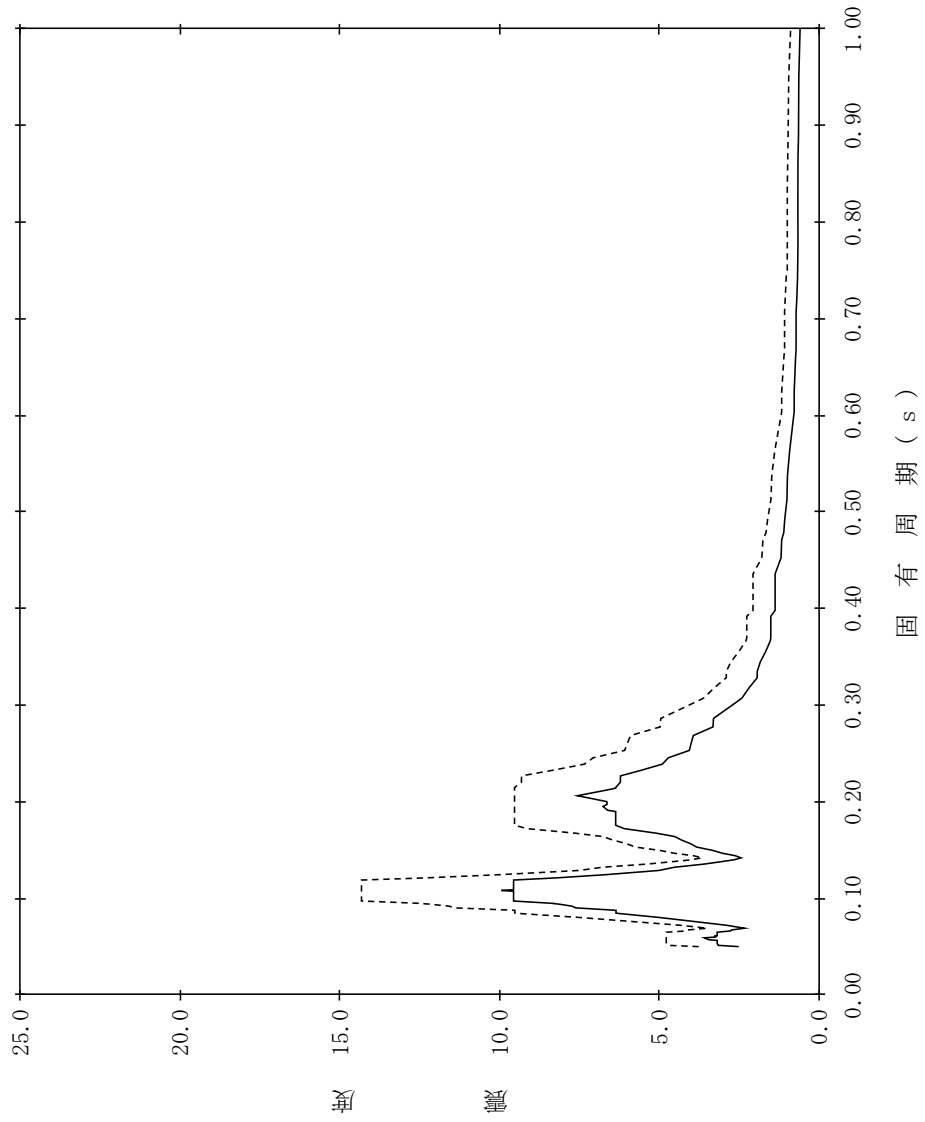
【NS2-PCV-SdEW-RPV163】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



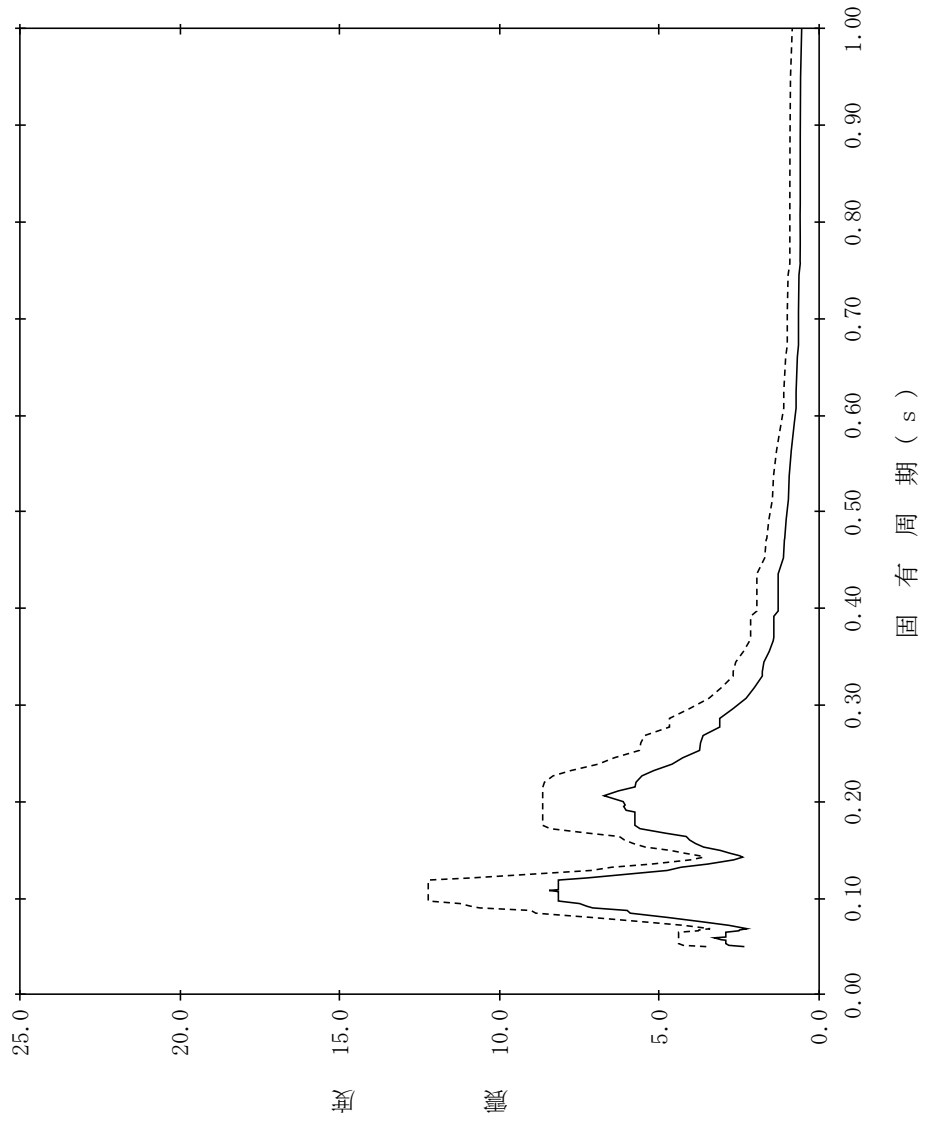
【NS2-PCV-SdEW-RPV164】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



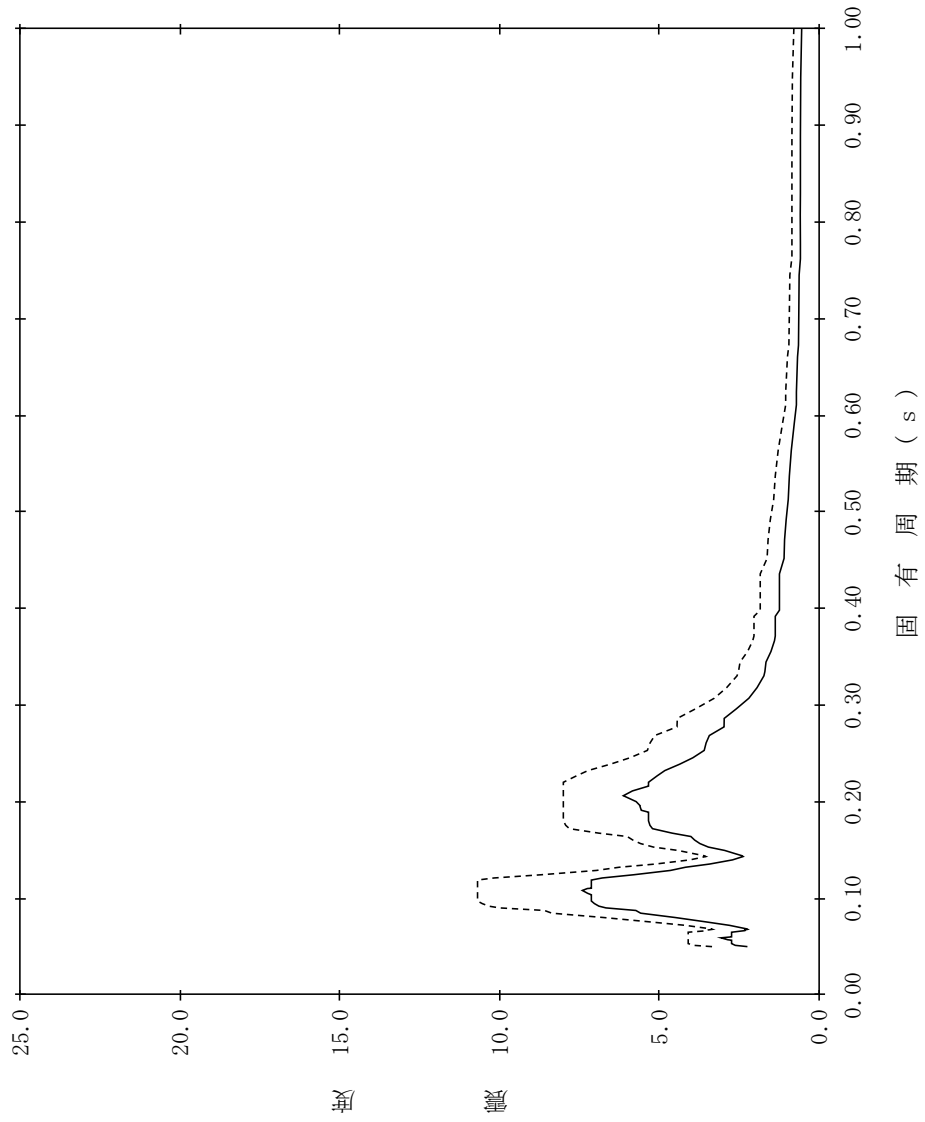
【NS2-PCV-SdEW-RPV165】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



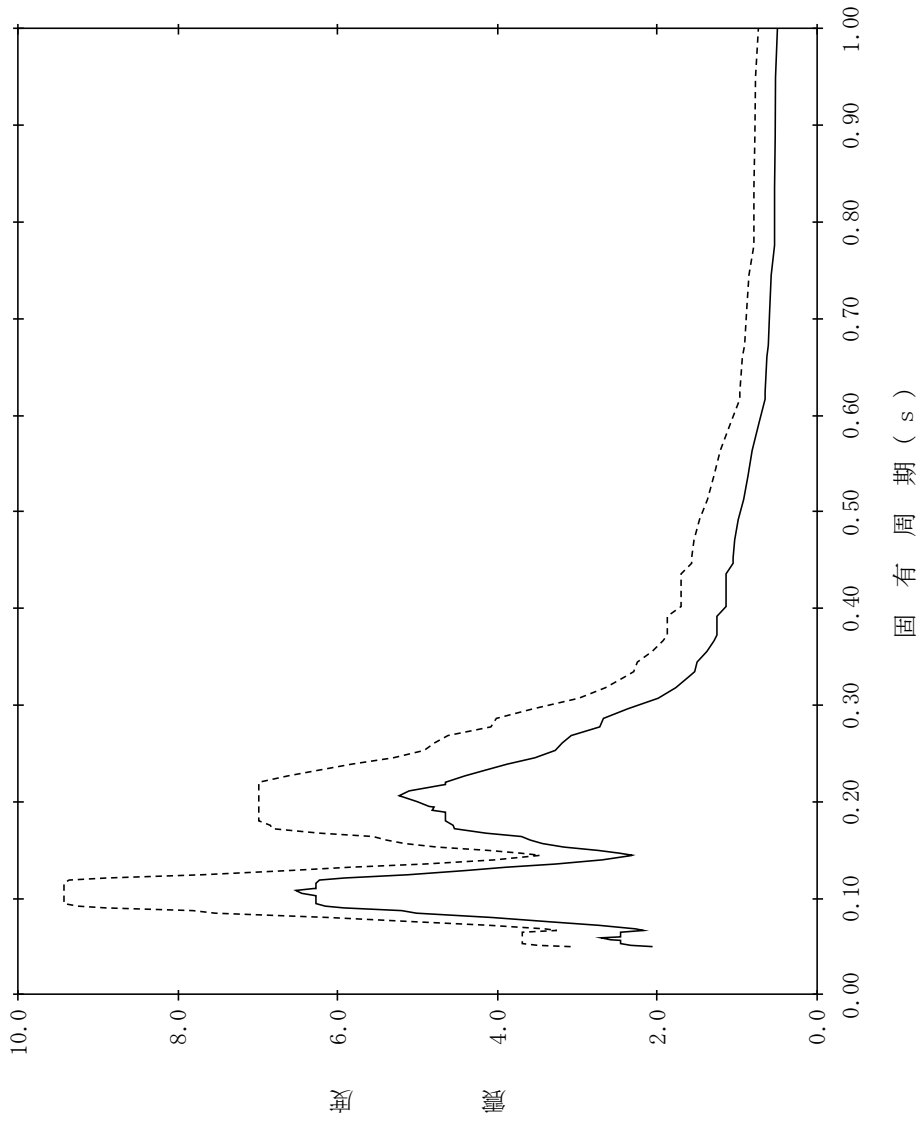
【NS2-PCV-SdEW-RPV166】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



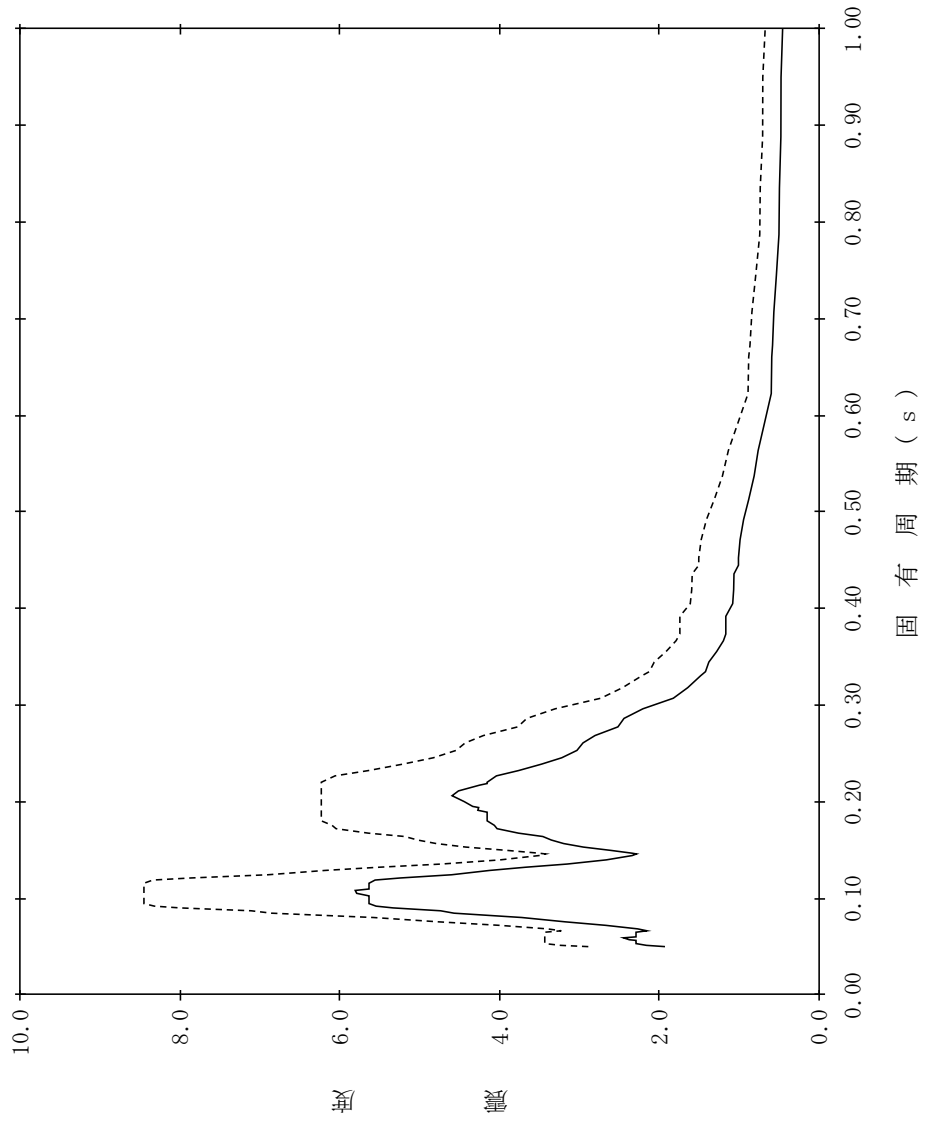
【NS2-PCV-SdEW-RPV167】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



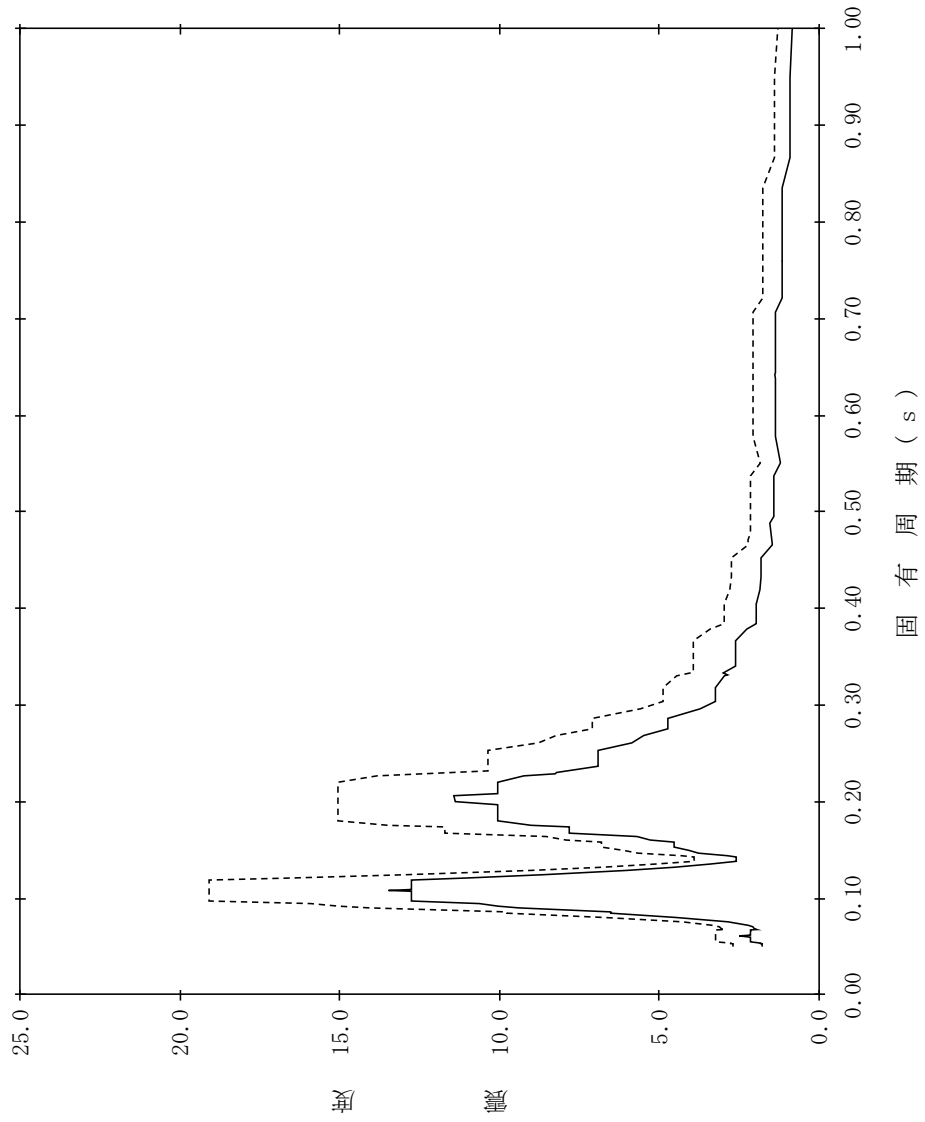
【NS2-PCV-SdEW-RPV168】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



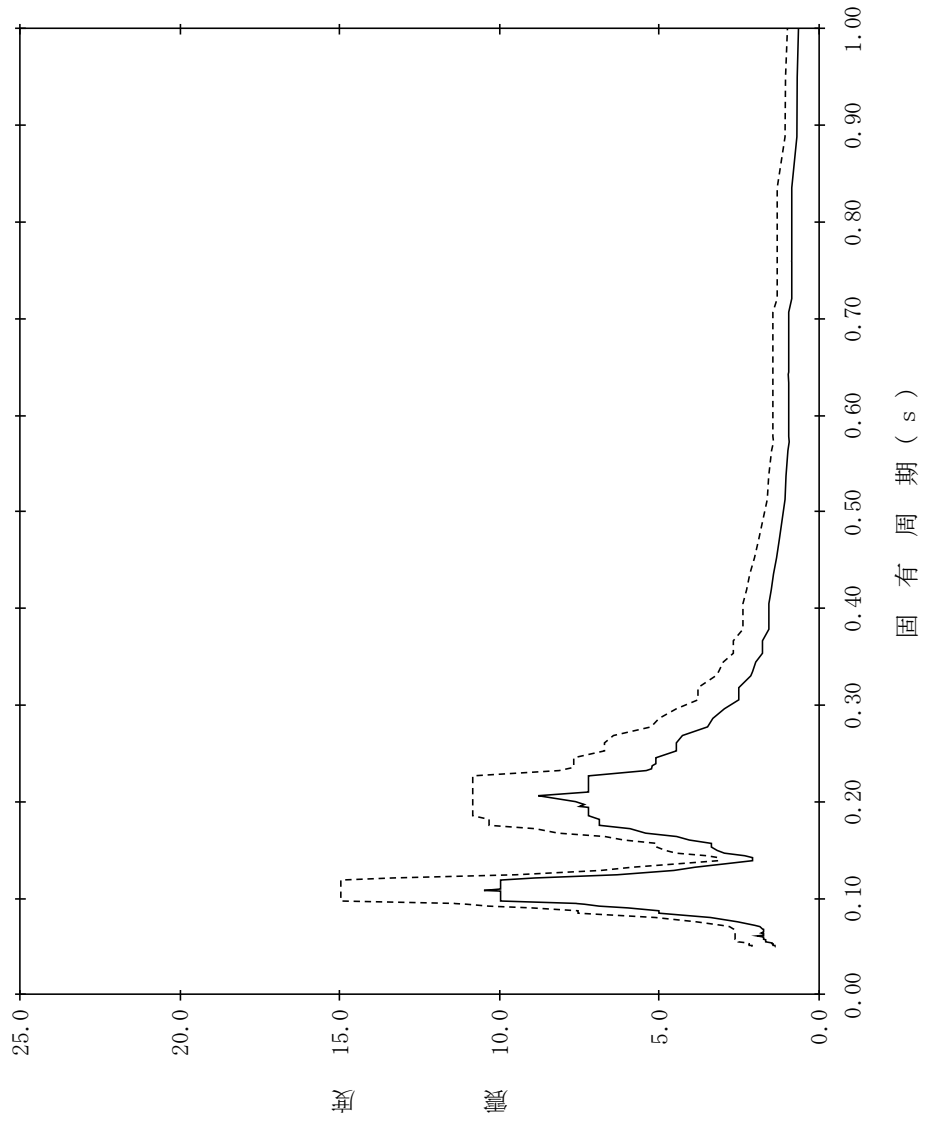
【NS2-PCV-SdEW-RPV169】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



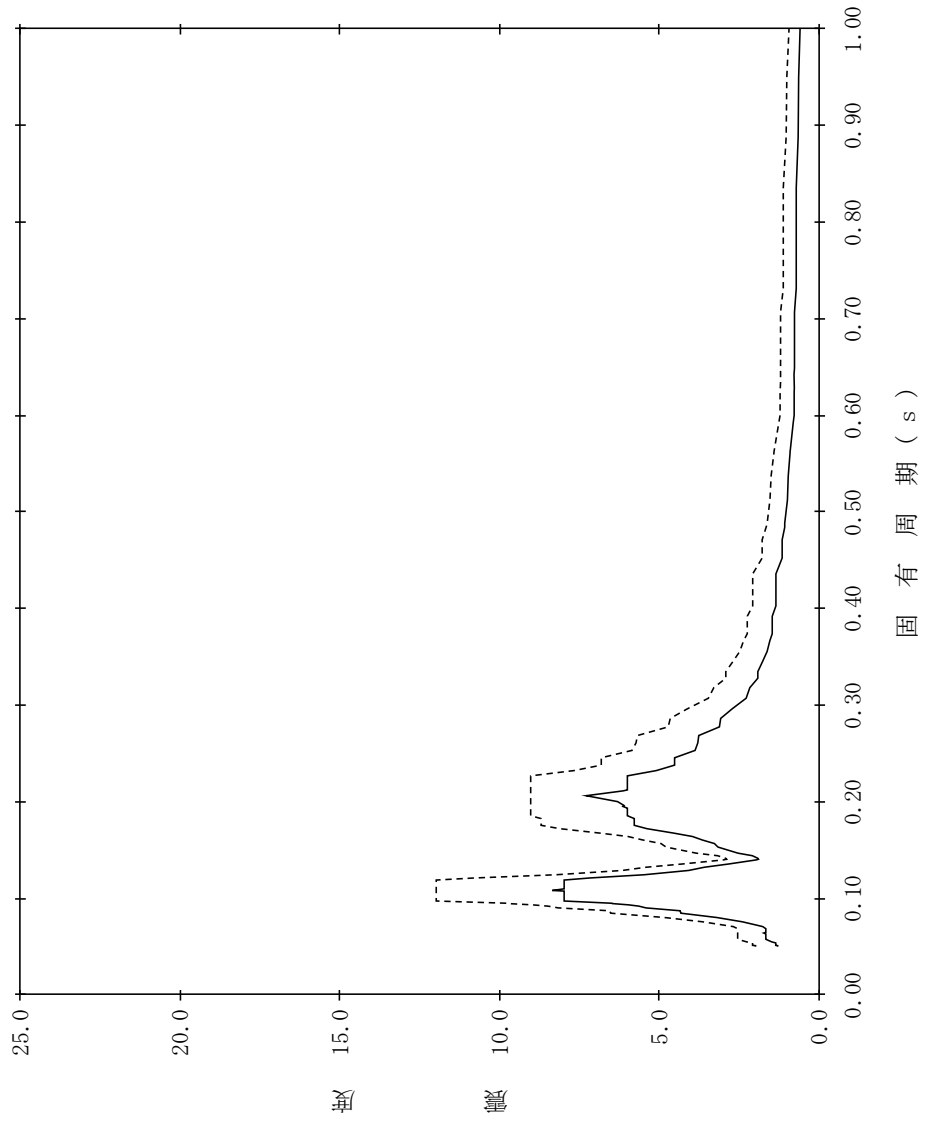
【NS2-PCV-SdEW-RPV170】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



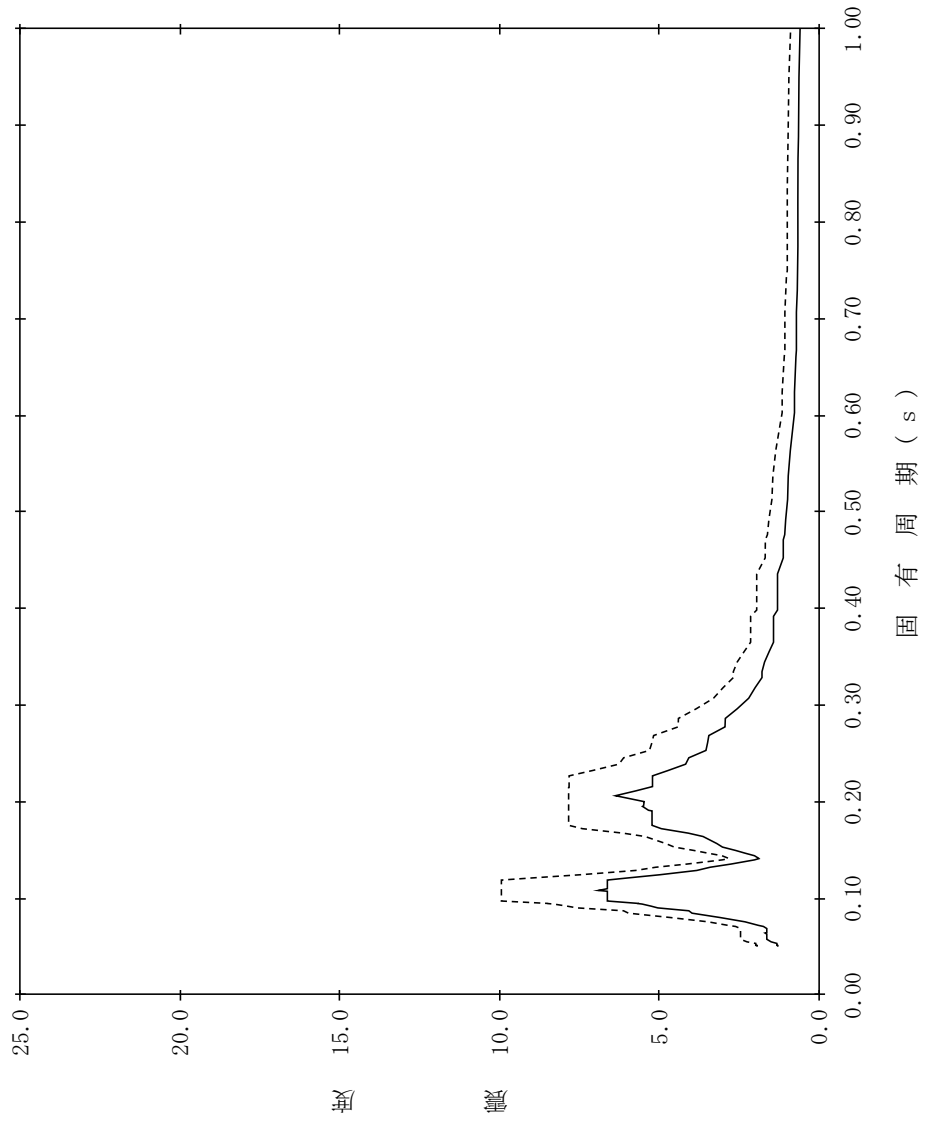
【NS2-PCV-SdEW-RPV171】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



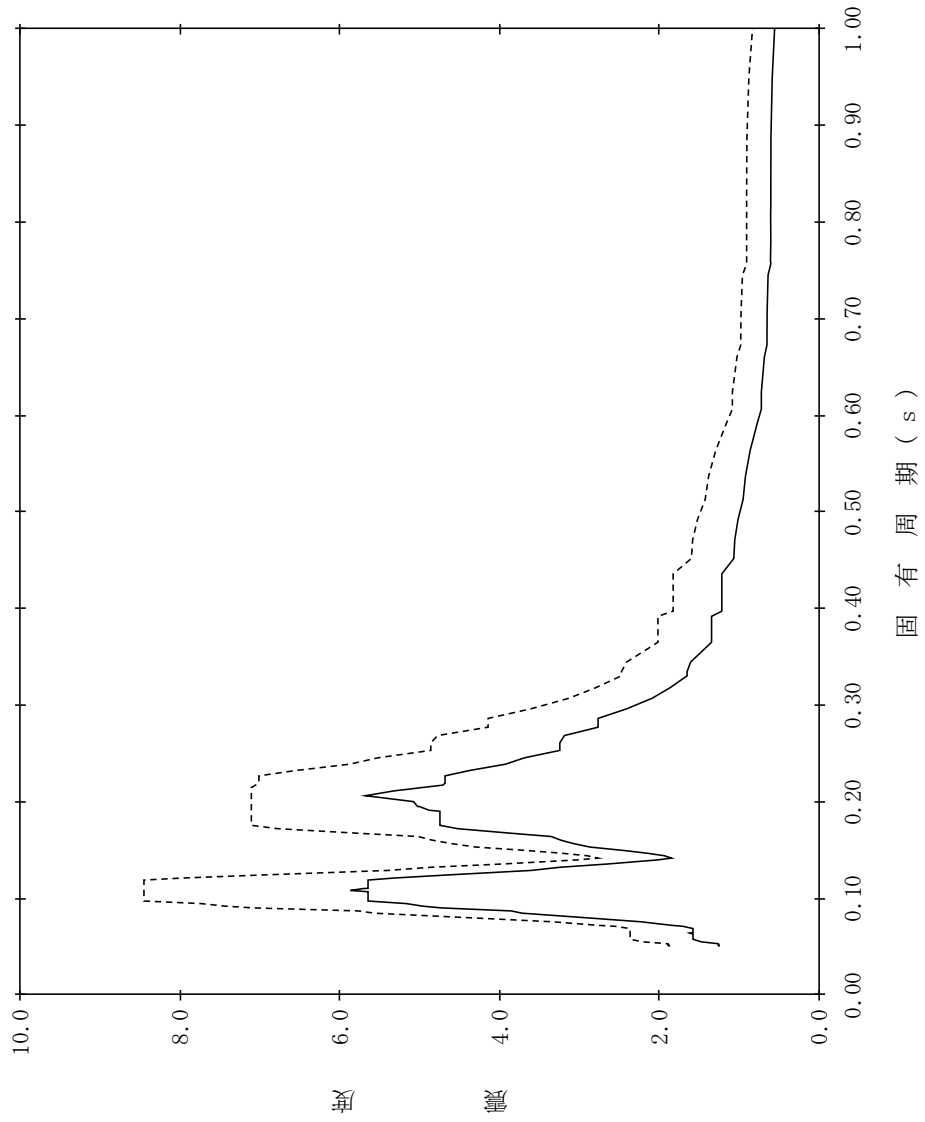
【NS2-PCV-SdEW-RPV172】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



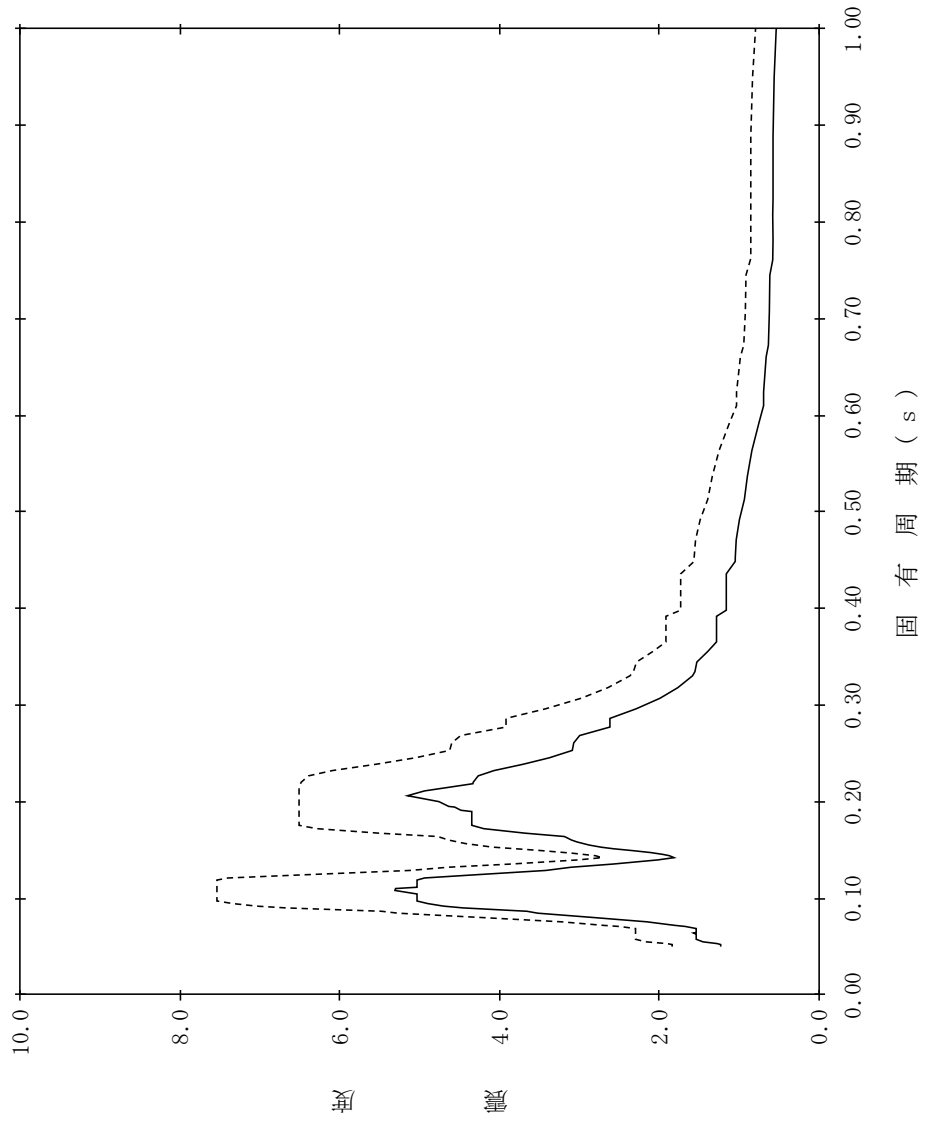
【NS2-PCV-SdEW-RPV173】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



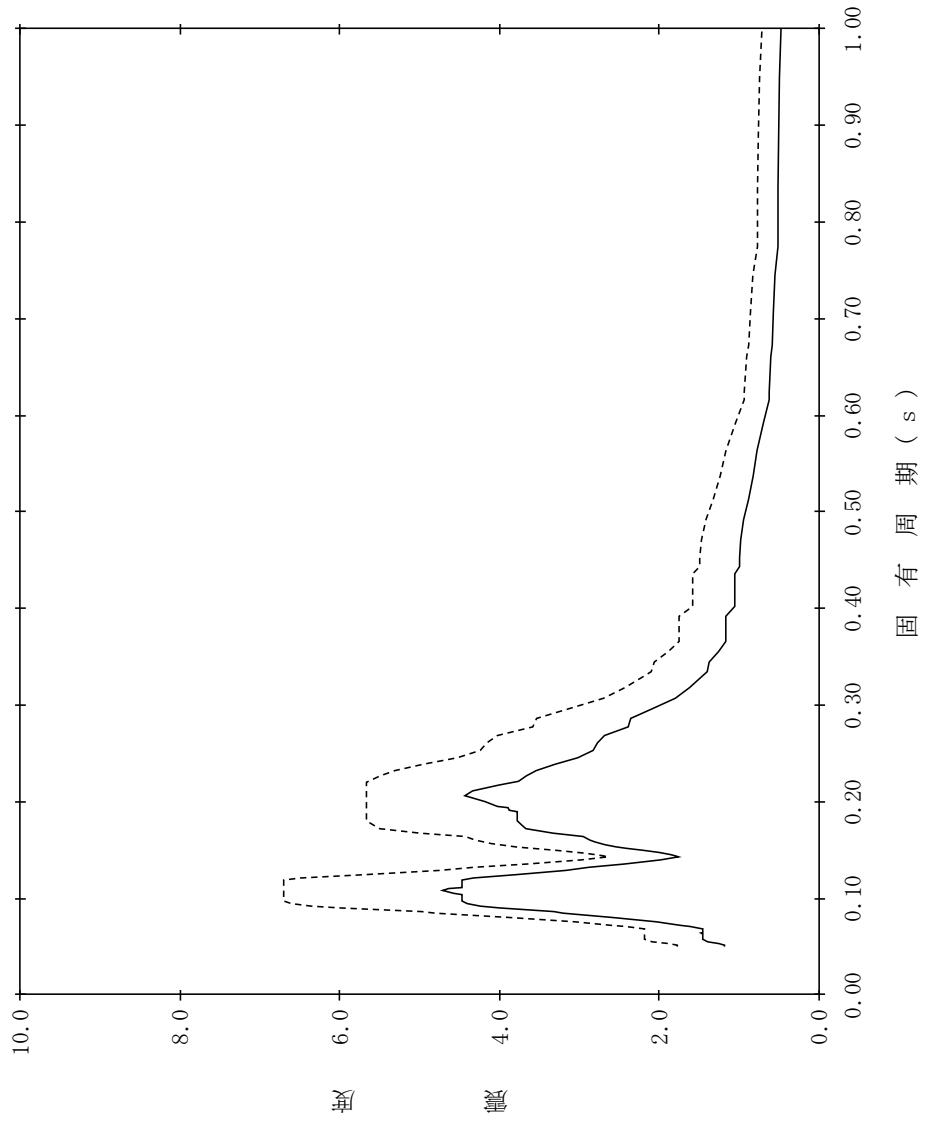
【NS2-PCV-SdEW-RPV174】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



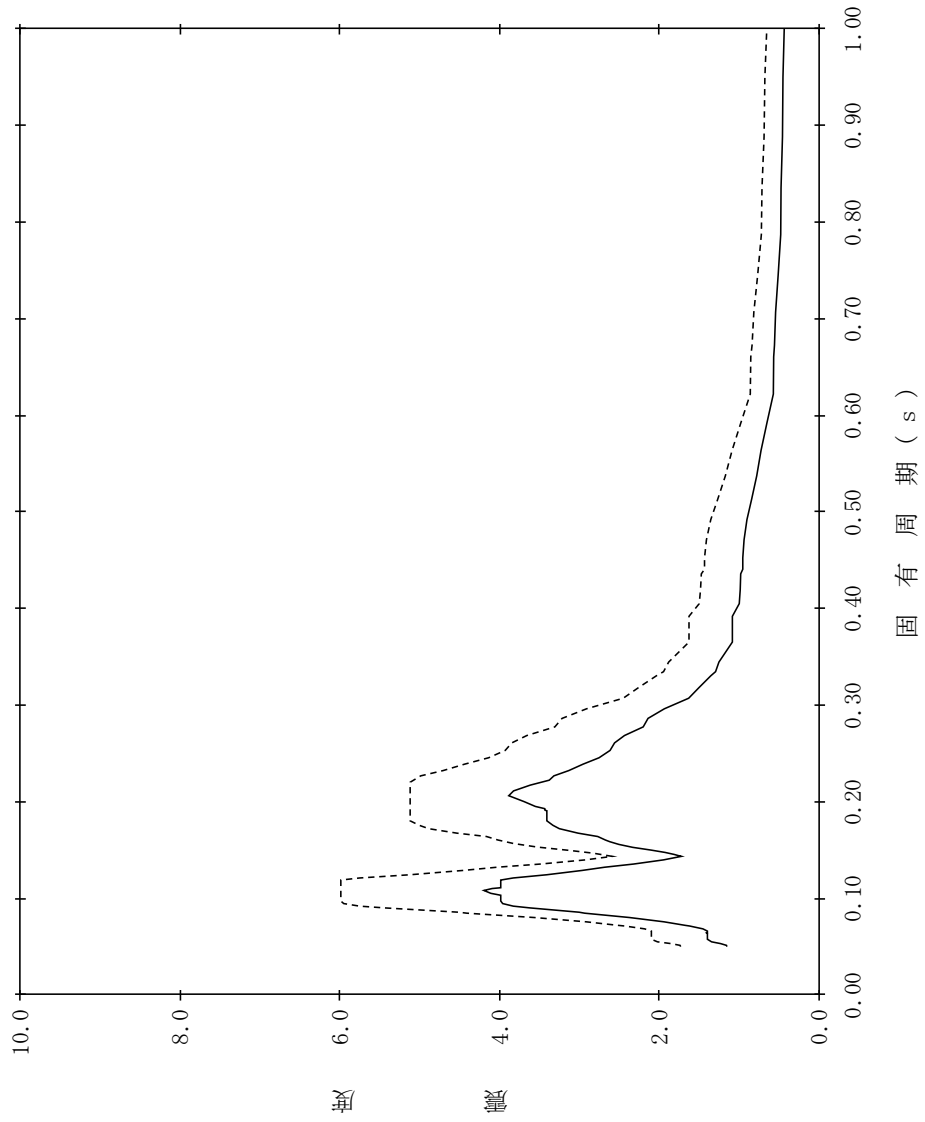
【NS2-PCV-SdEW-RPV175】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



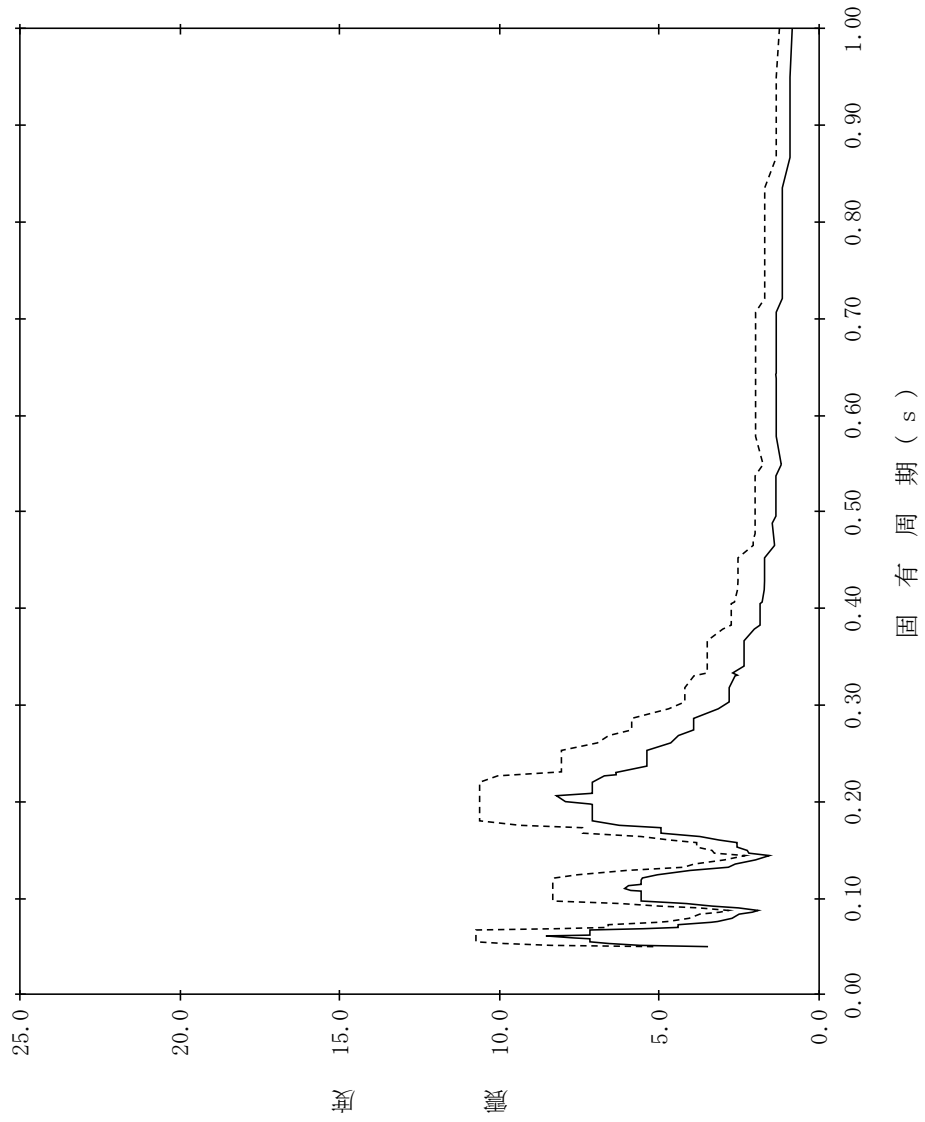
【NS2-PCV-SdEW-RPV176】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



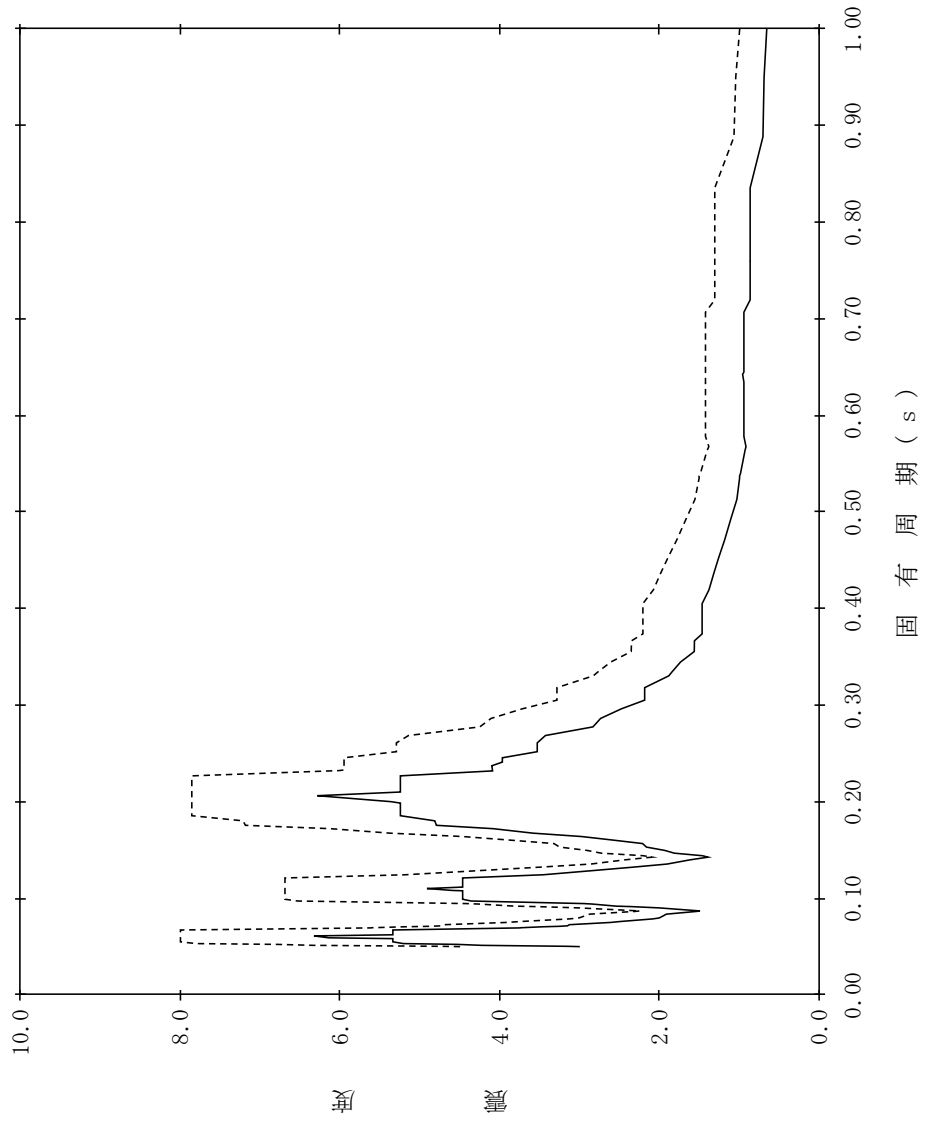
【NS2-PCV-SdEW-RPV177】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



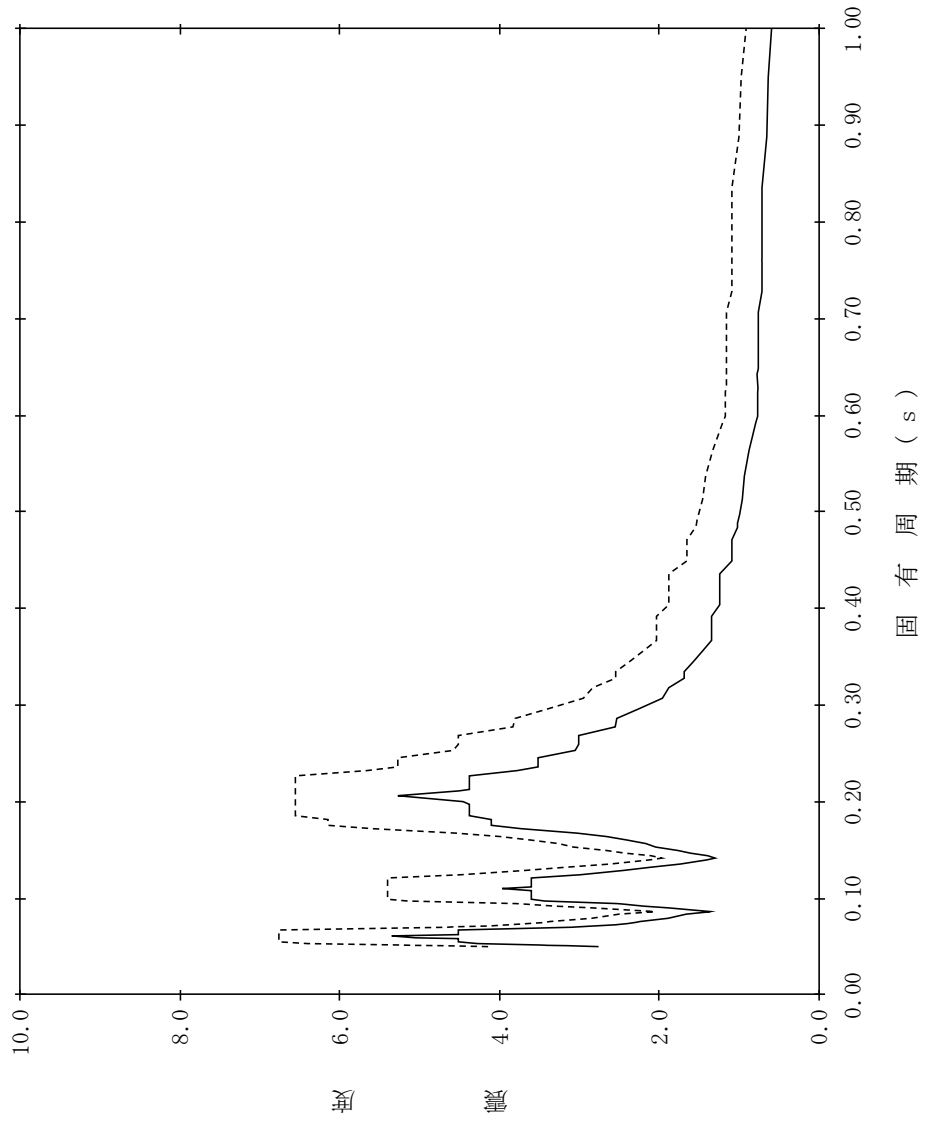
【NS2-PCV-SdEW-RPV178】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



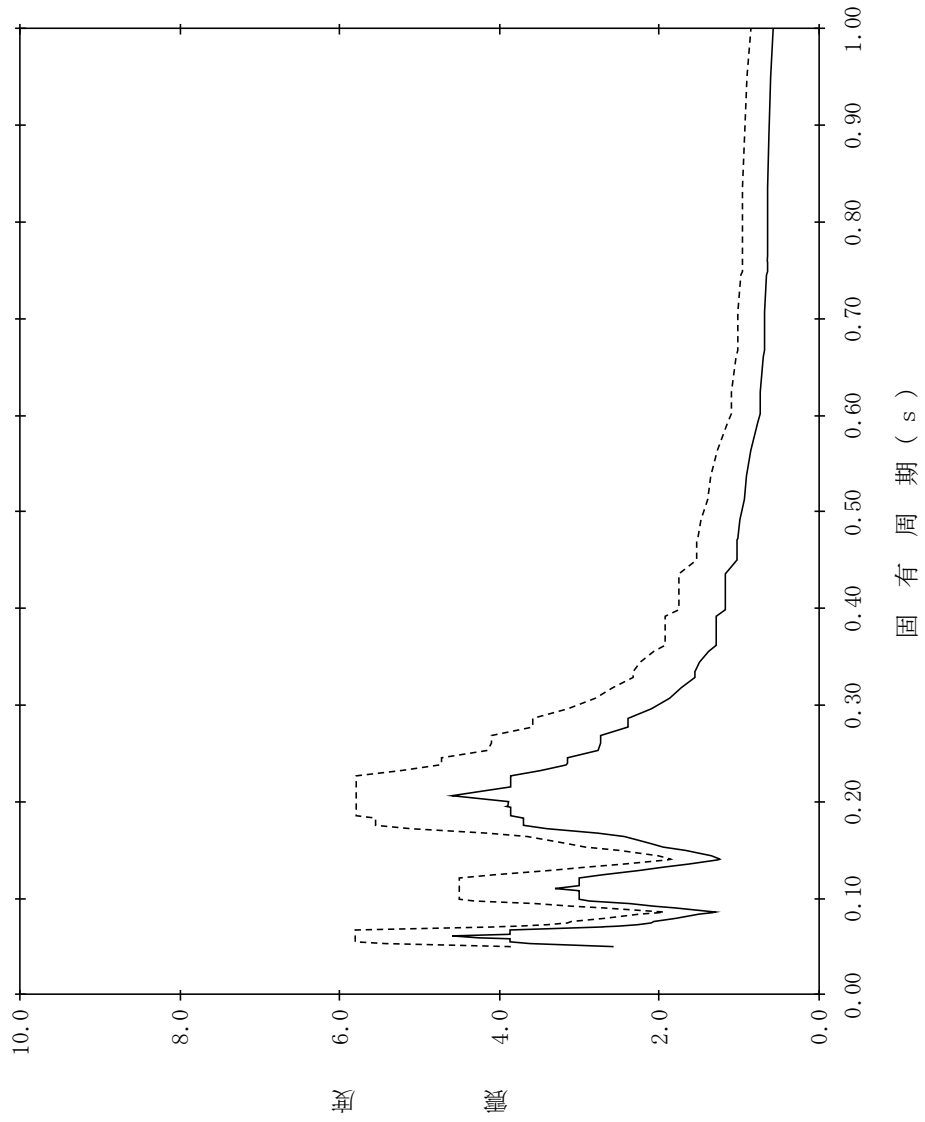
【NS2-PCV-SdEW-RPV179】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



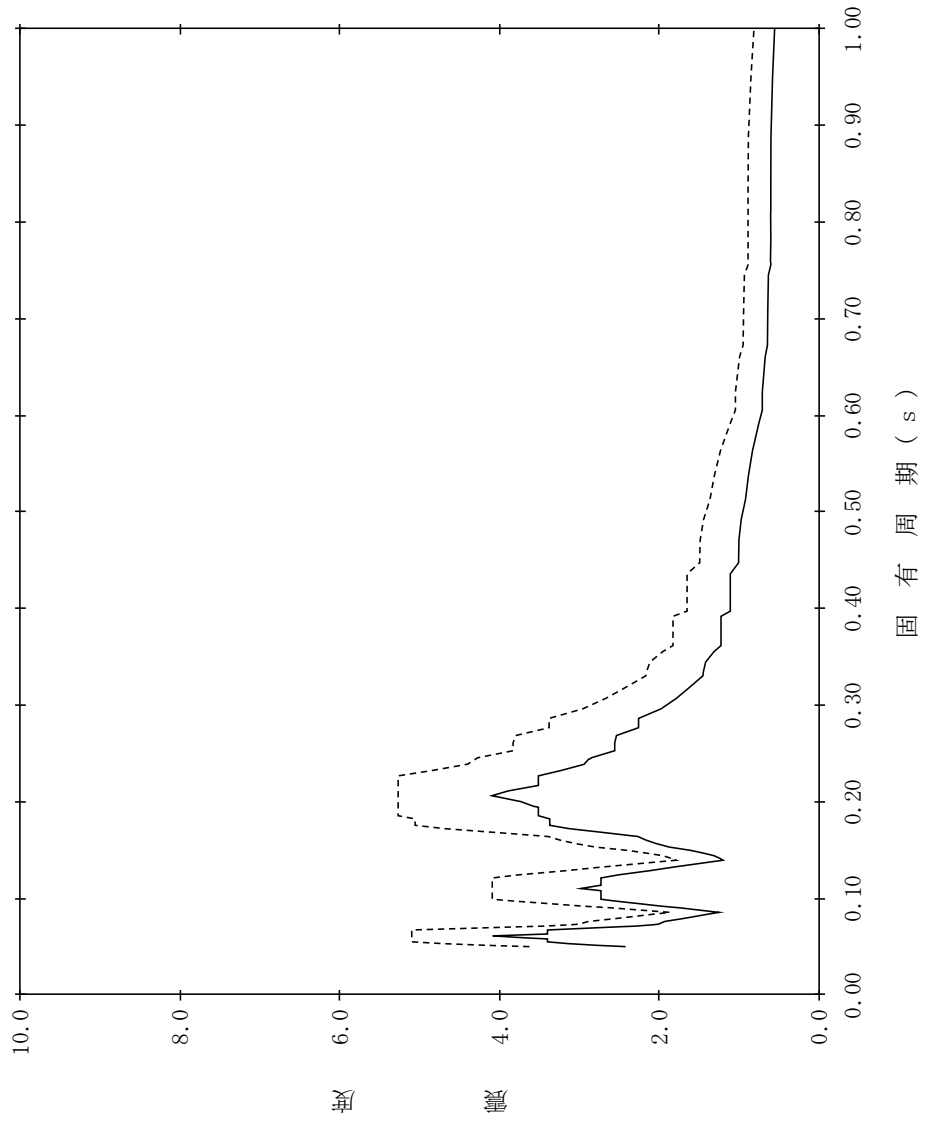
【NS2-PCV-SdEW-RPV180】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



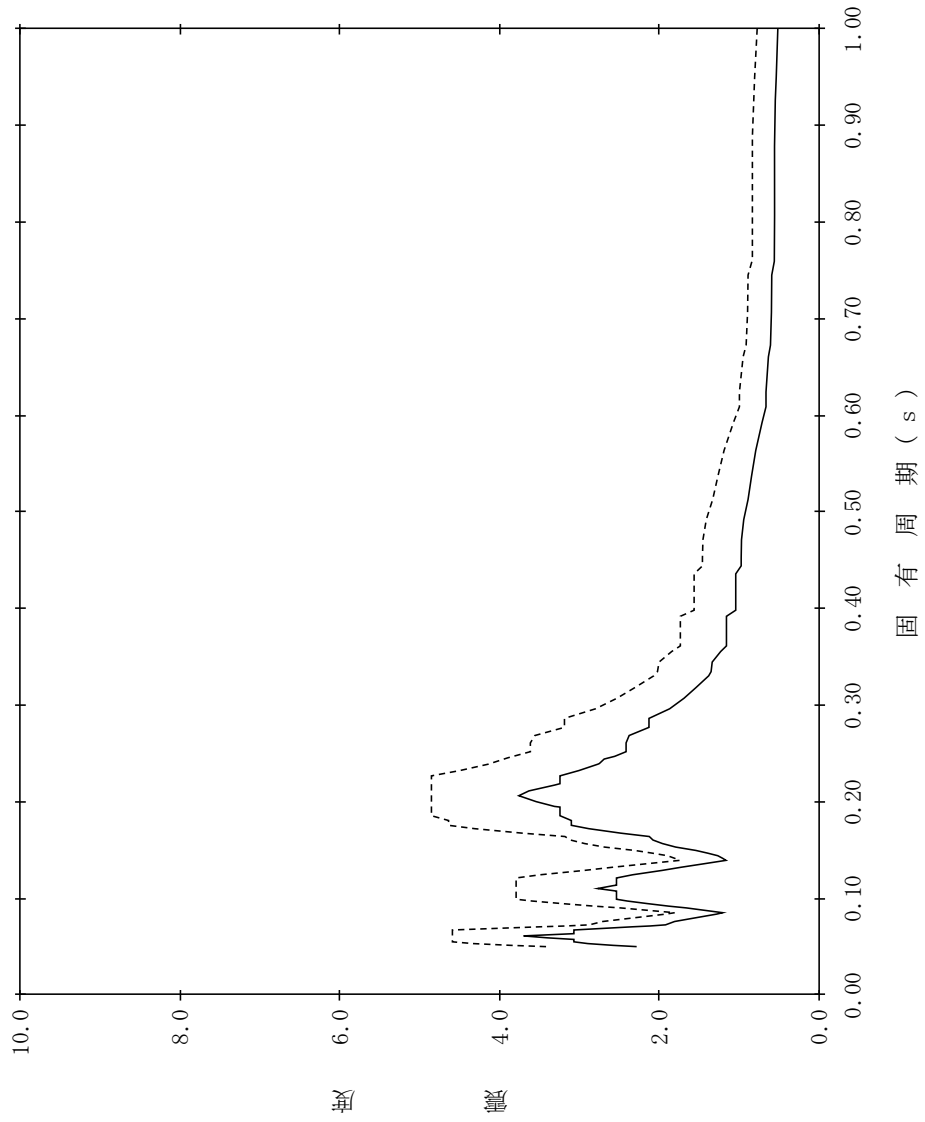
【NS2-PCV-SdEW-RPV181】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



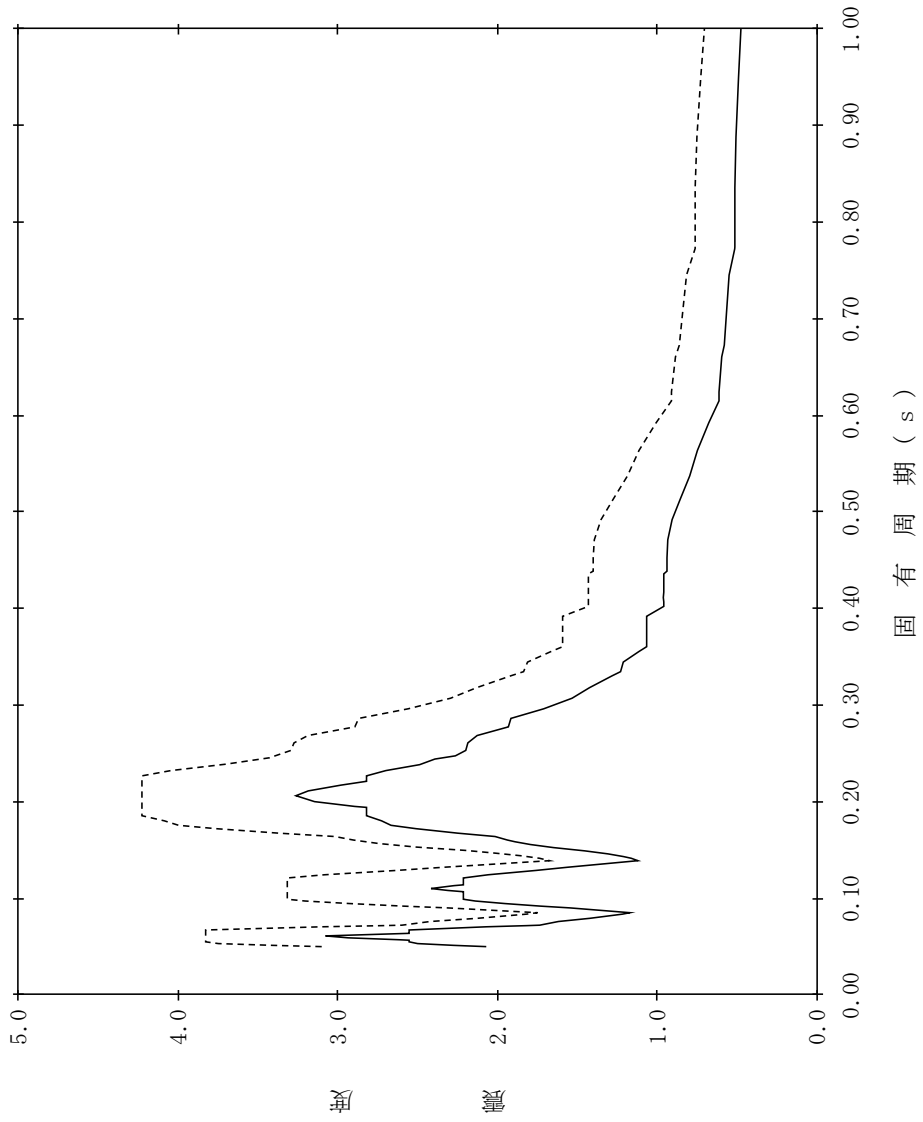
【NS2-PCV-SdEW-RPV182】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



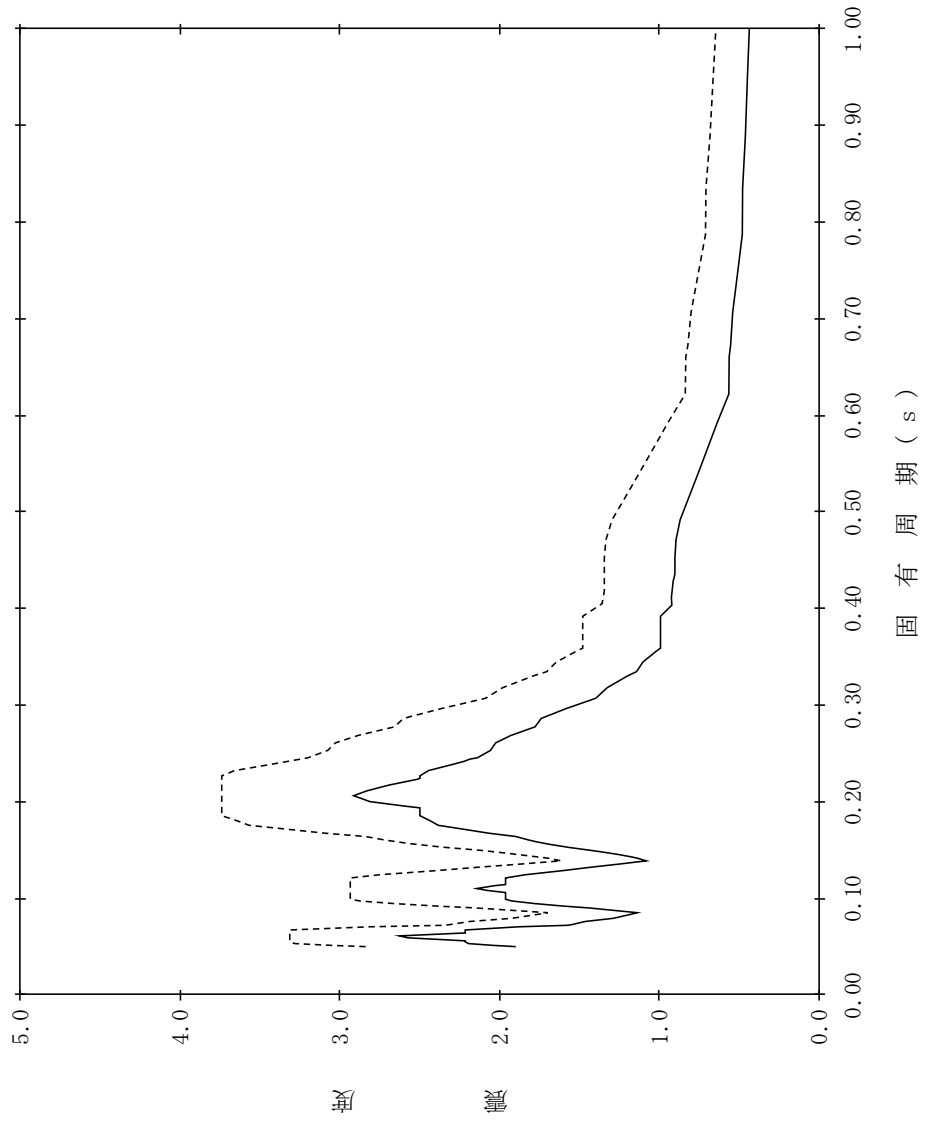
【NS2-PCV-SdEW-RPV183】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



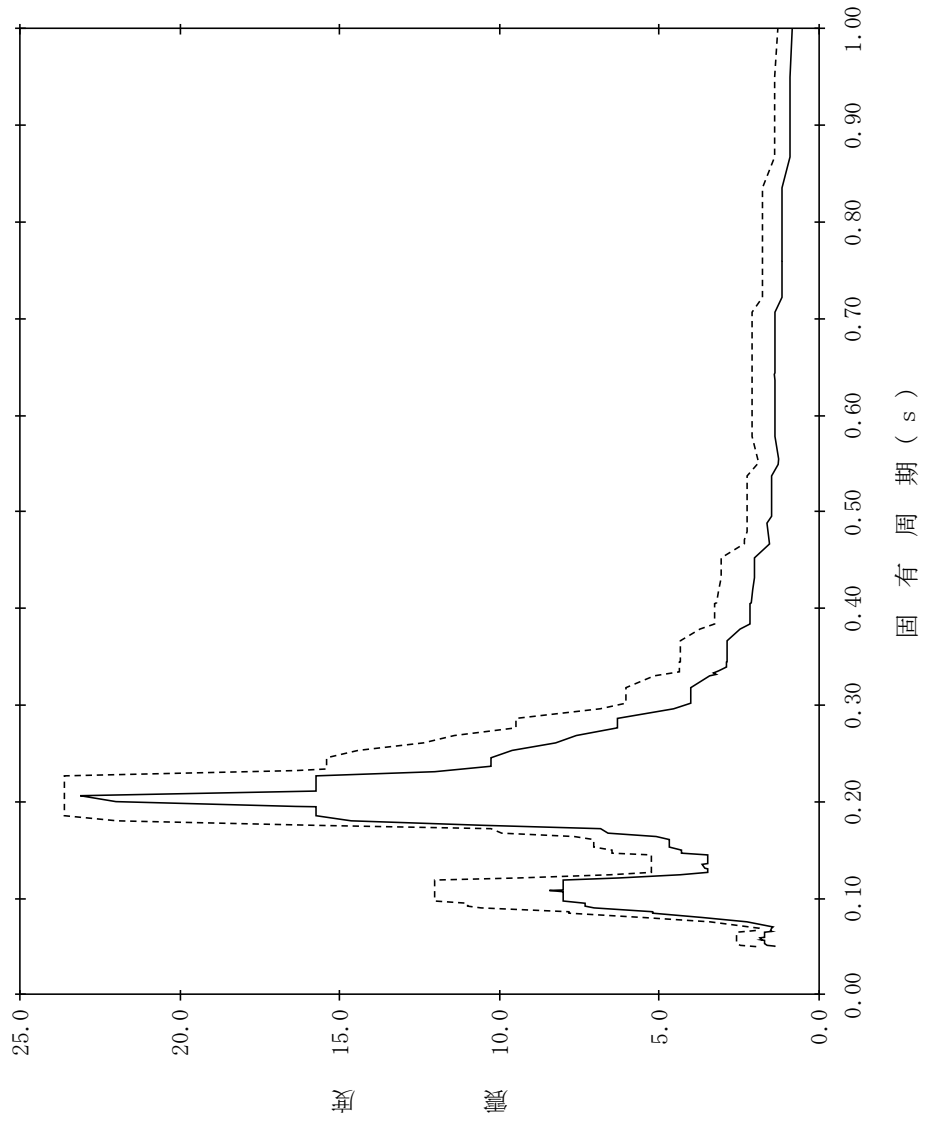
【NS2-PCV-SdEW-RPV184】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL18.250m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



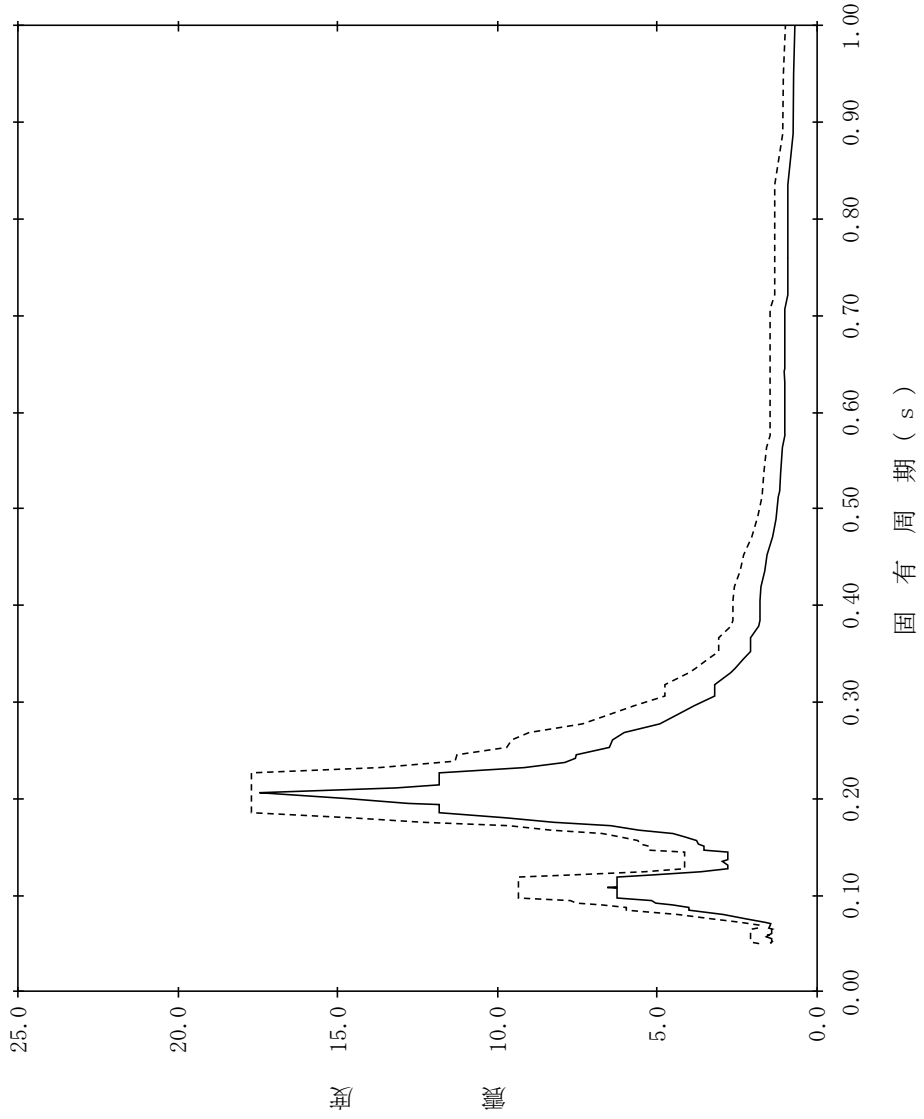
【NS2-PCV-SdEW-SHD185】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：0.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



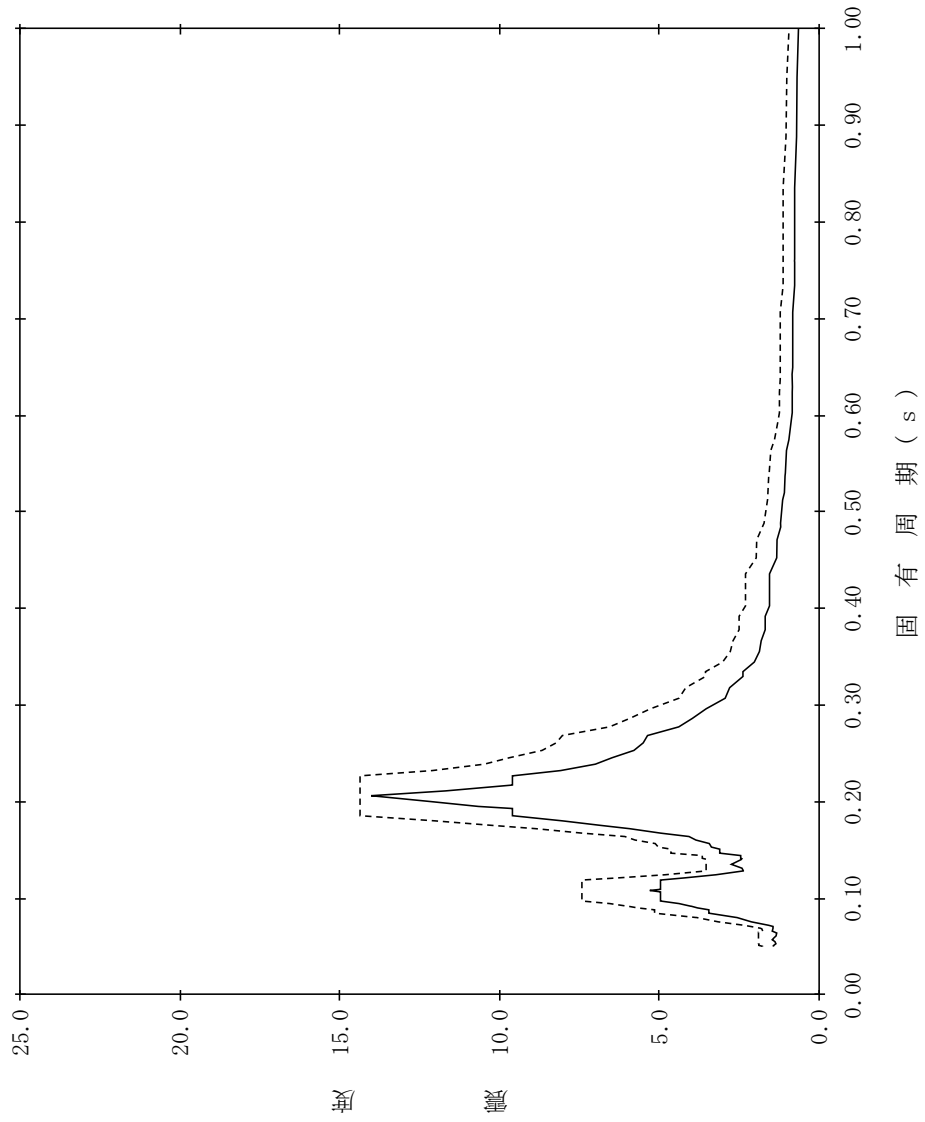
【NS2-PCV-SdEW-SHD186】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：1.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



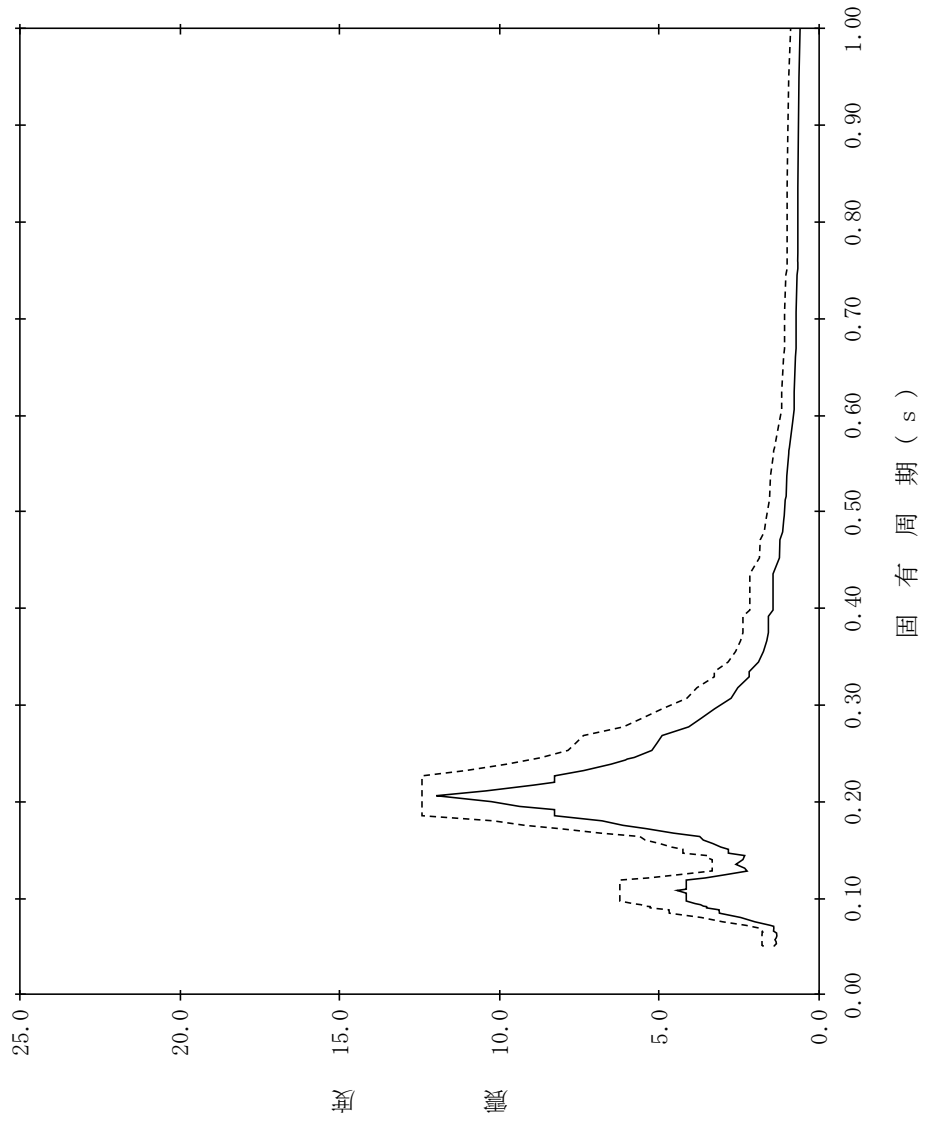
【NS2-PCV-SdEW-SHD187】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m ———— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：1.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d - - - - - 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



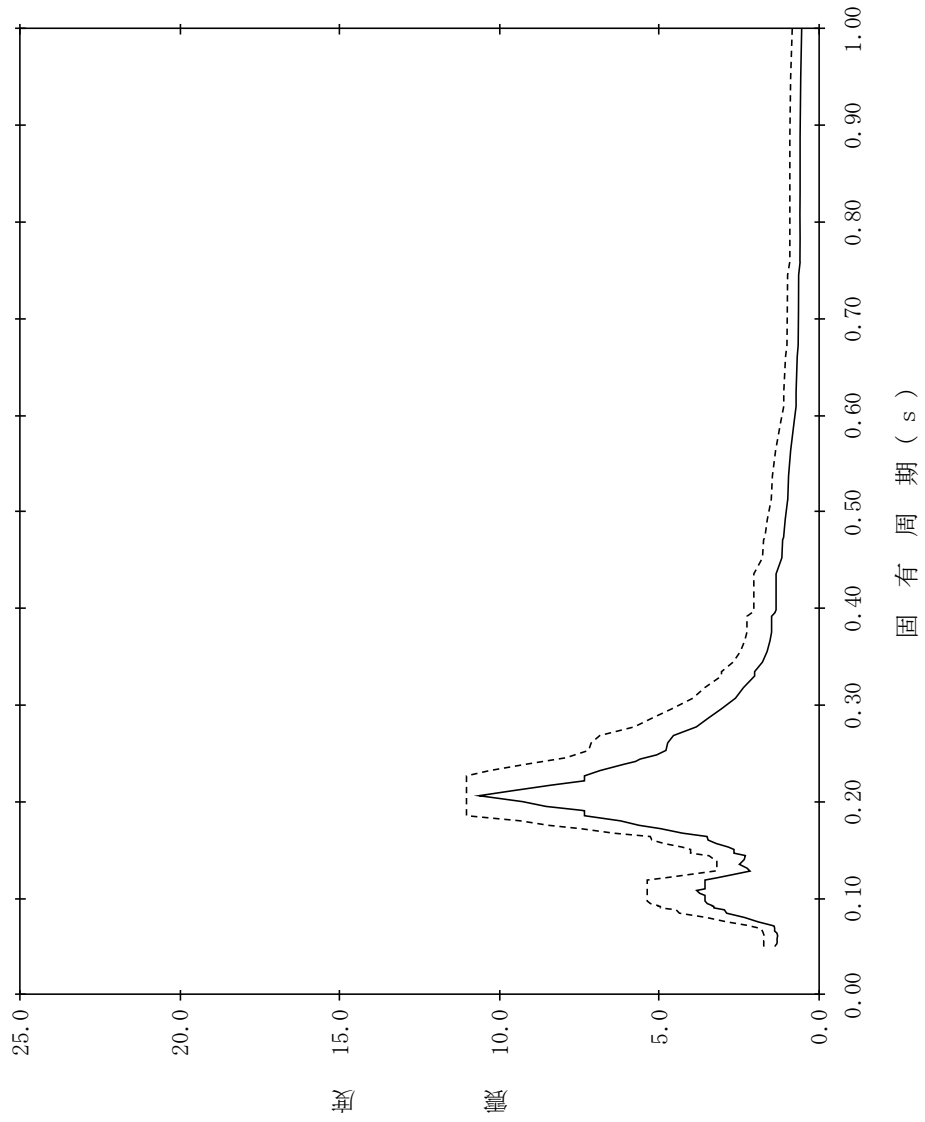
【NS2-PCV-SdEW-SHD188】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：2.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



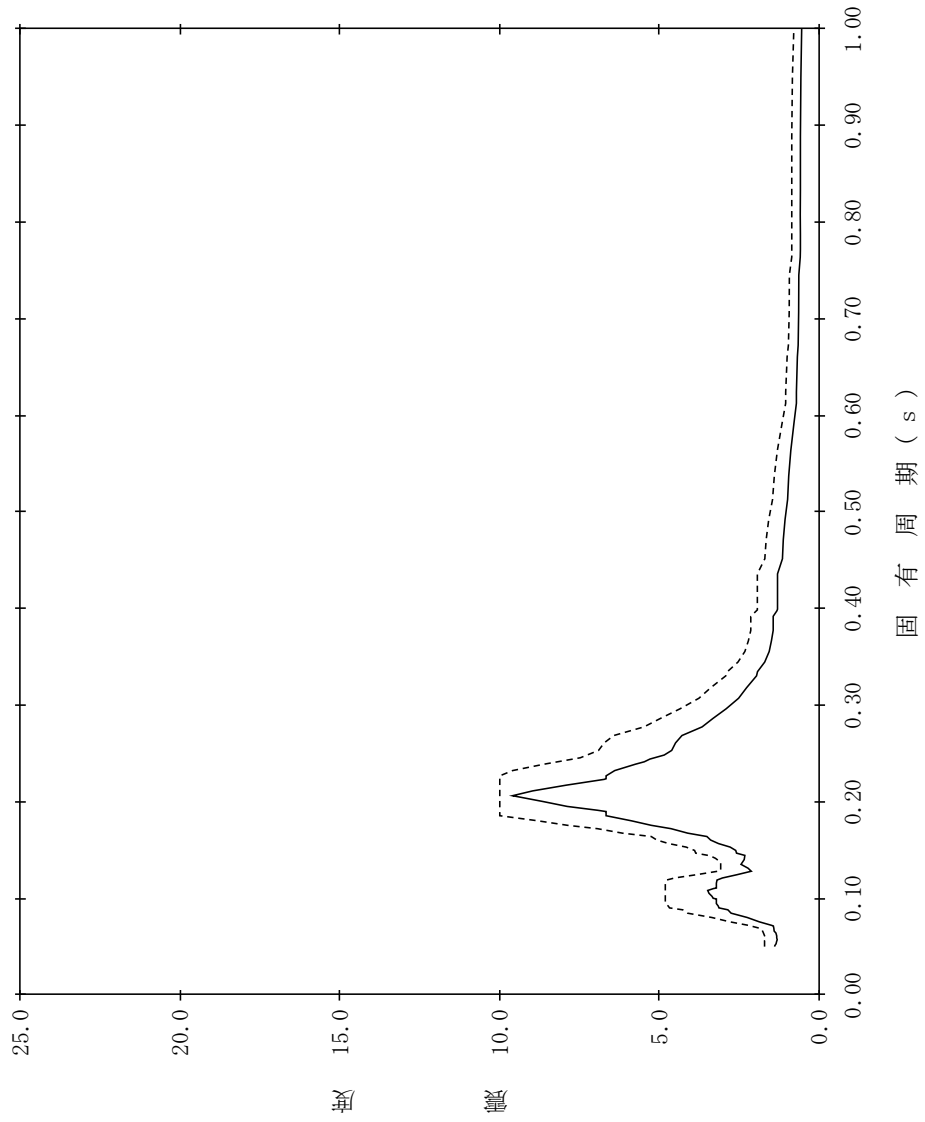
【NS2-PCV-SdEW-SHD189】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：2.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



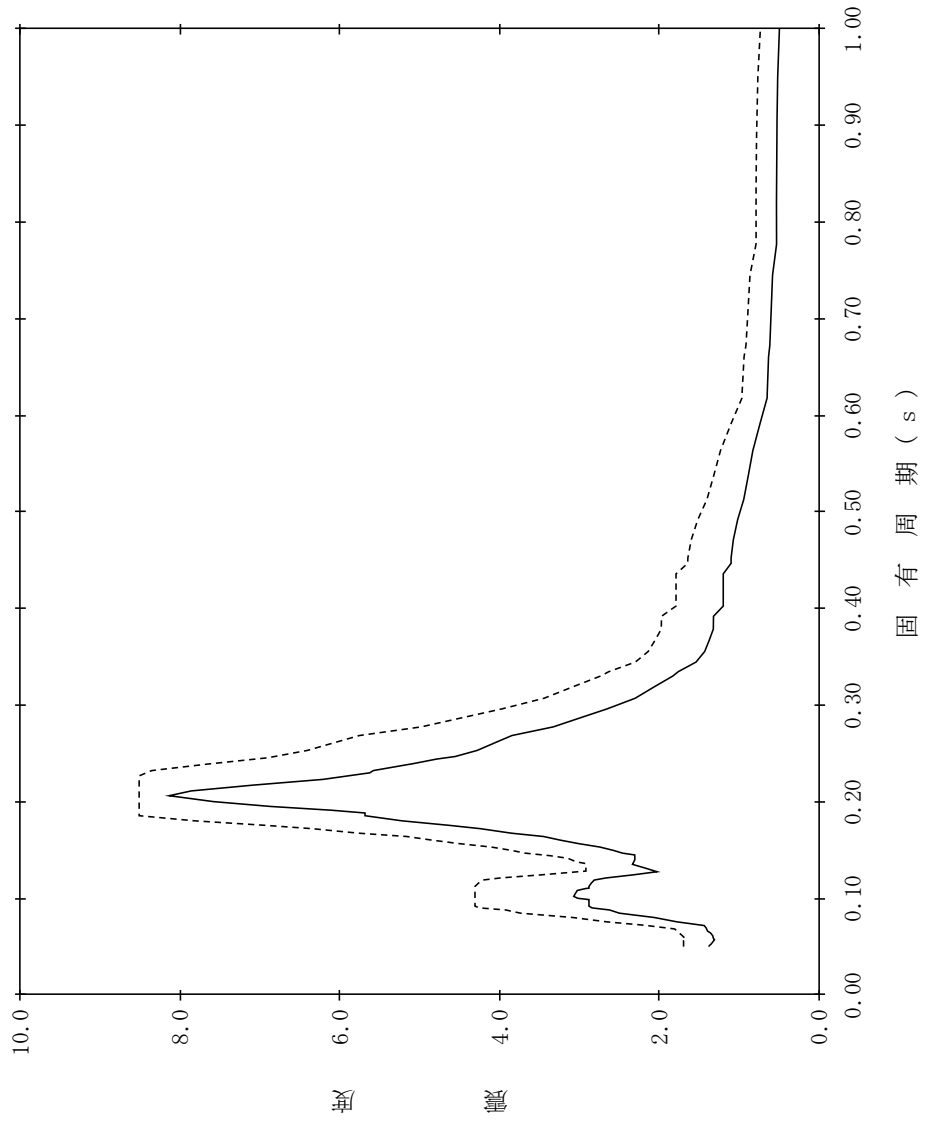
【NS2-PCV-SdEW-SHD190】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：3.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



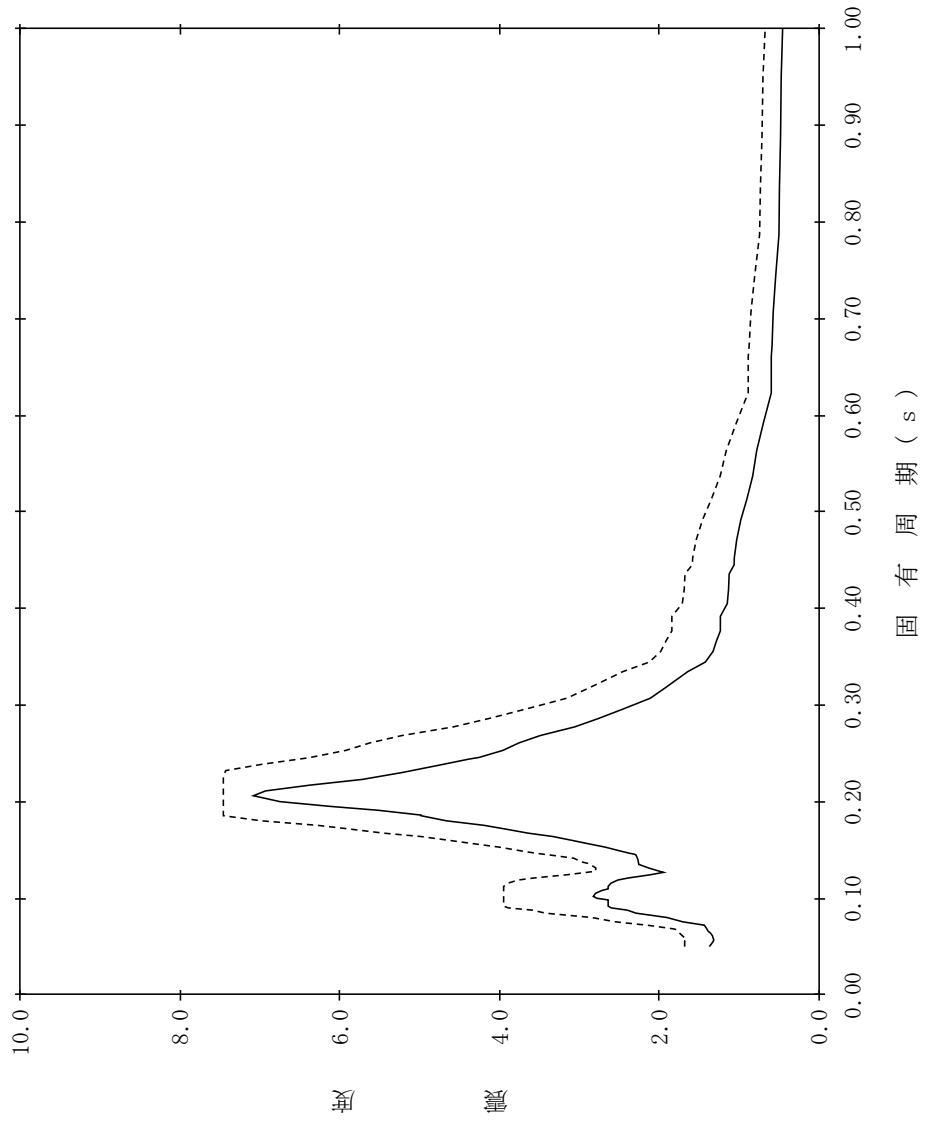
【NS2-PCV-SdEW-SHD191】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：4.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



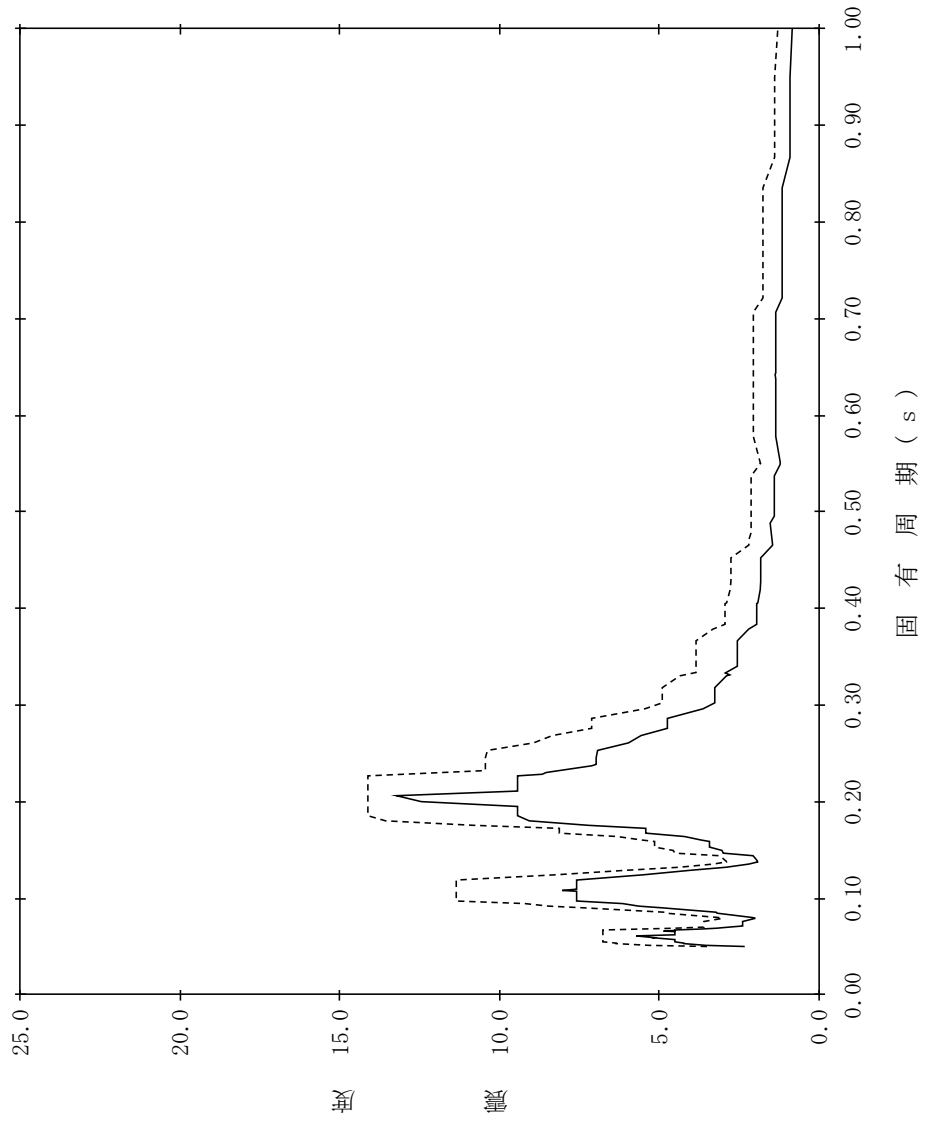
【NS2-PCV-SdEW-SHD192】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：5.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



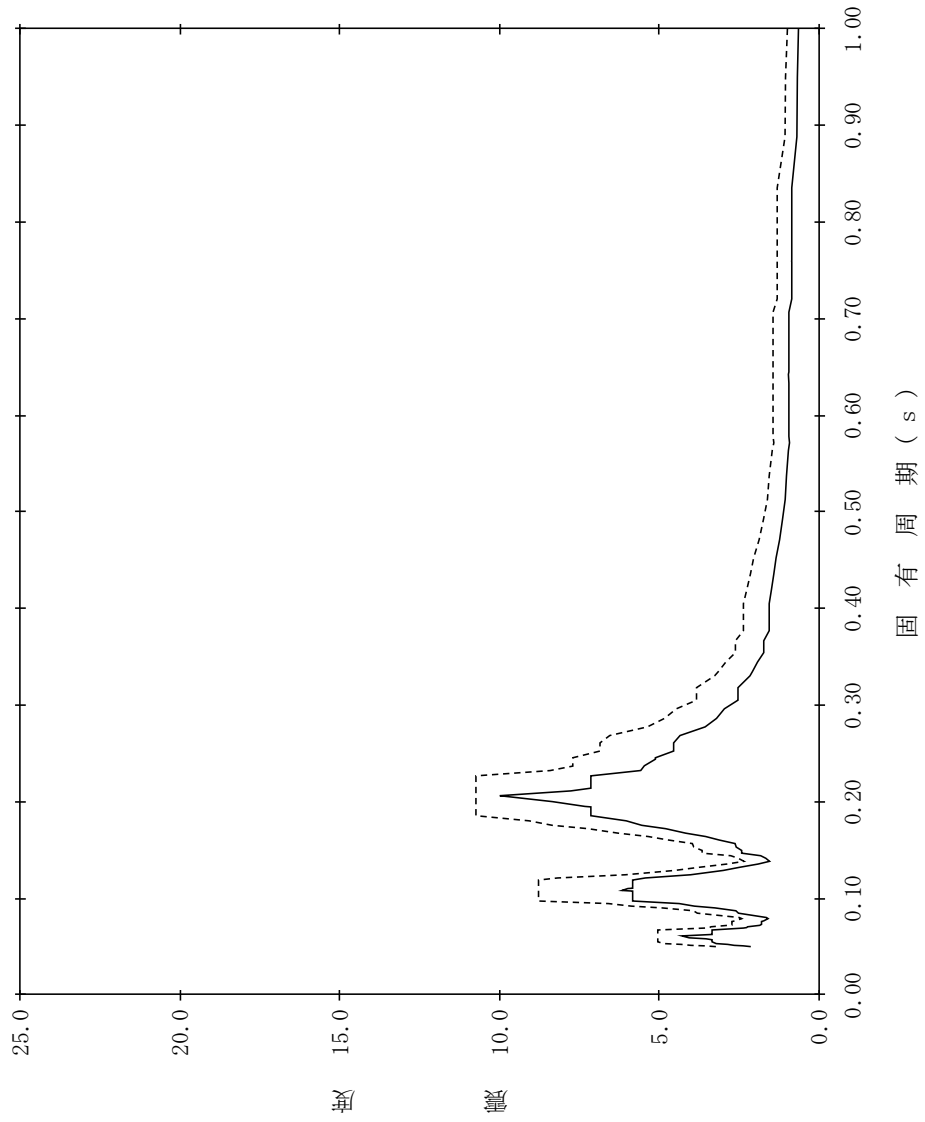
【NS2-PCV-SdEW-SHD193】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：0.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



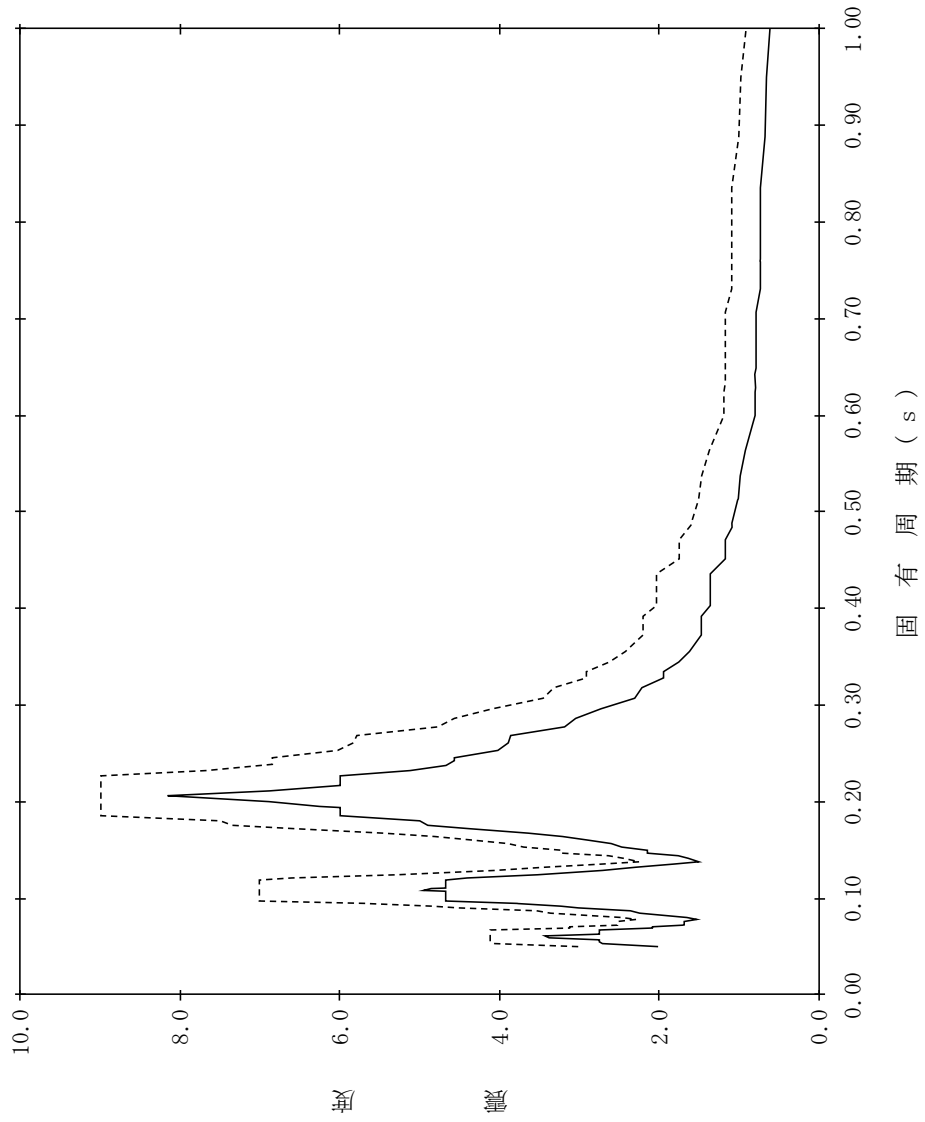
【NS2-PCV-SdEW-SHD194】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：1.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



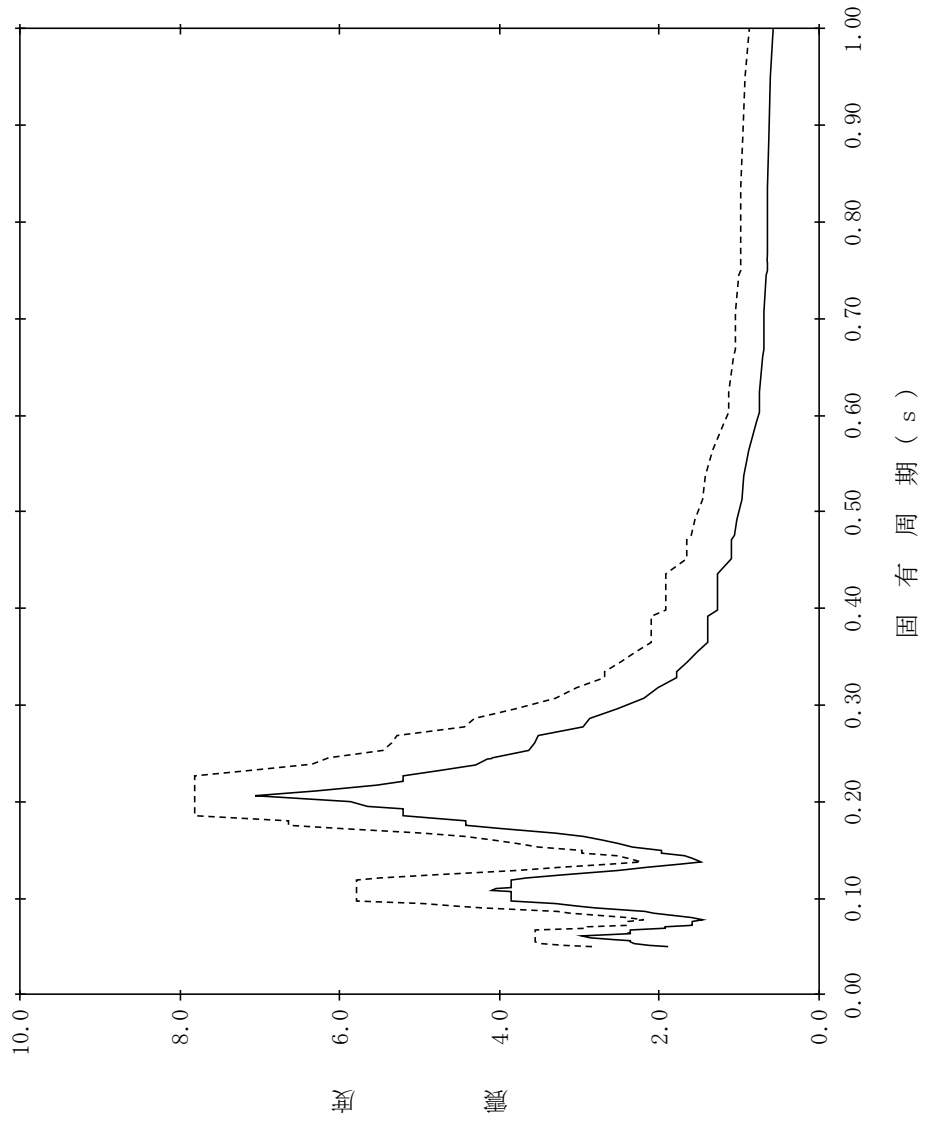
【NS2-PCV-SdEW-SHD195】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：1.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



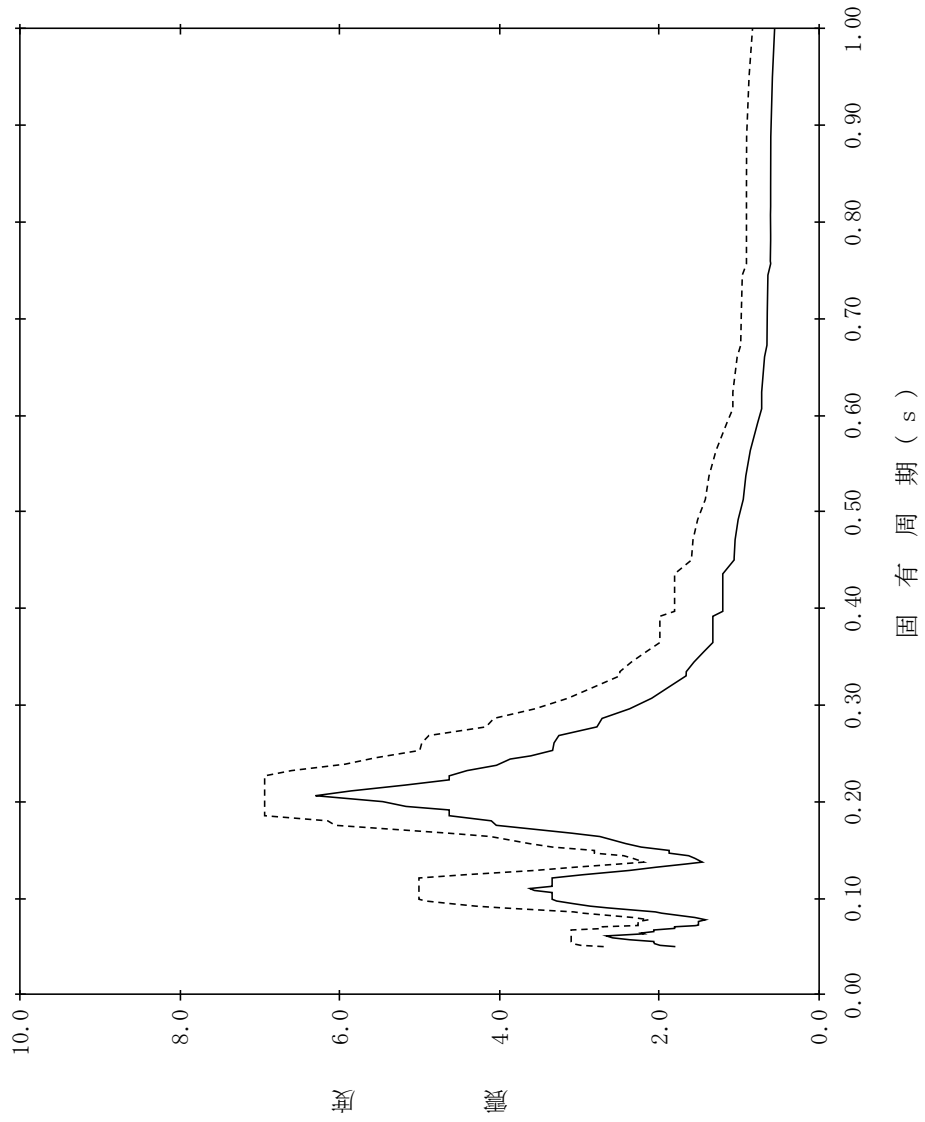
【NS2-PCV-SdEW-SHD196】

構造物名：炉心シェラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：2.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



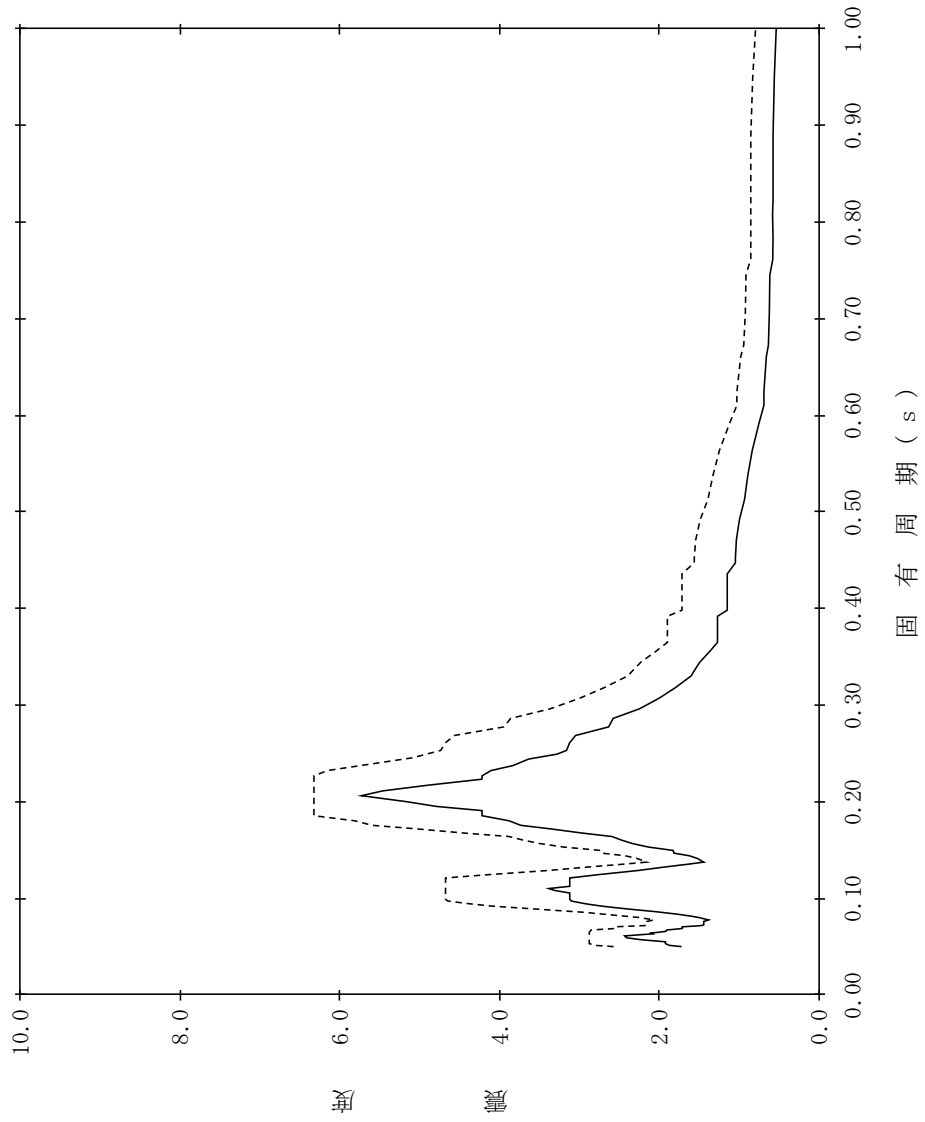
【NS2-PCV-SdEW-SHD197】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：2.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



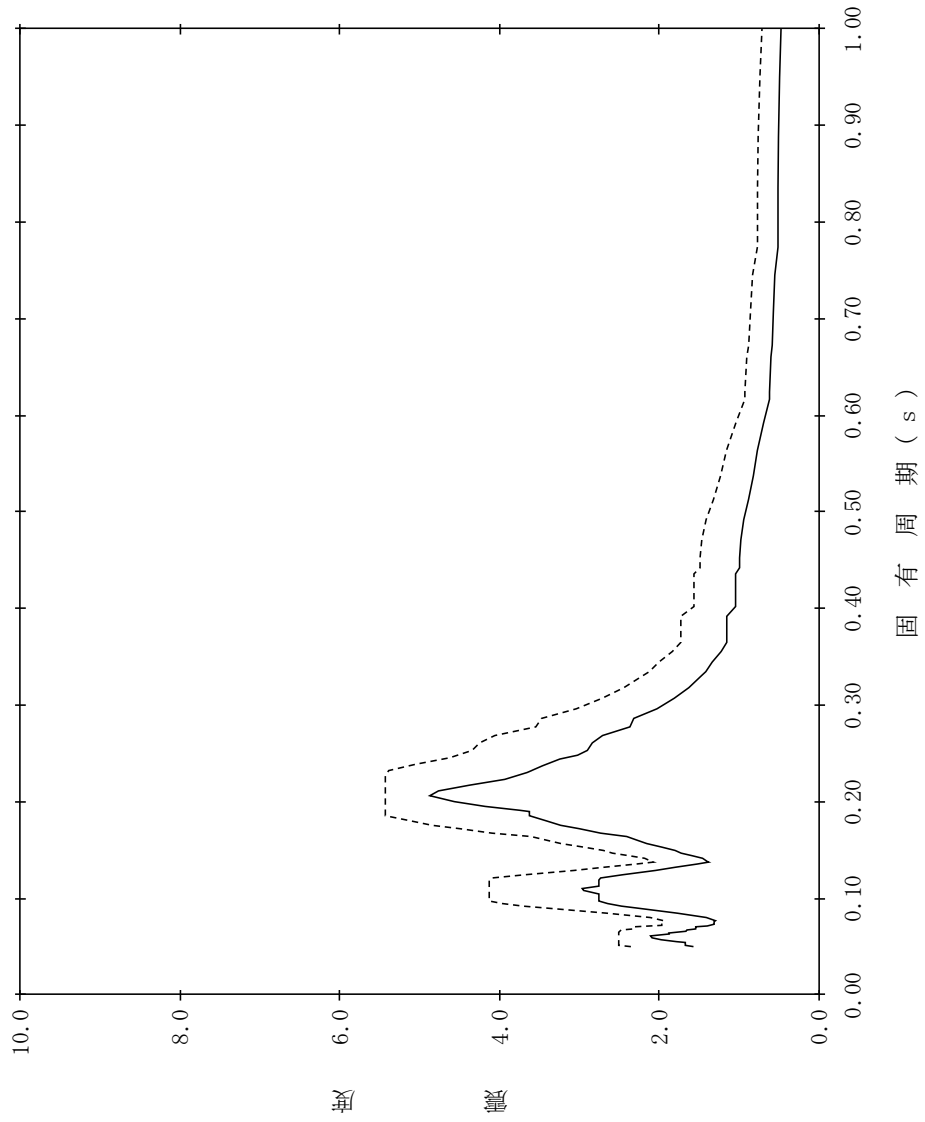
【NS2-PCV-SdEW-SHD198】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：3.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



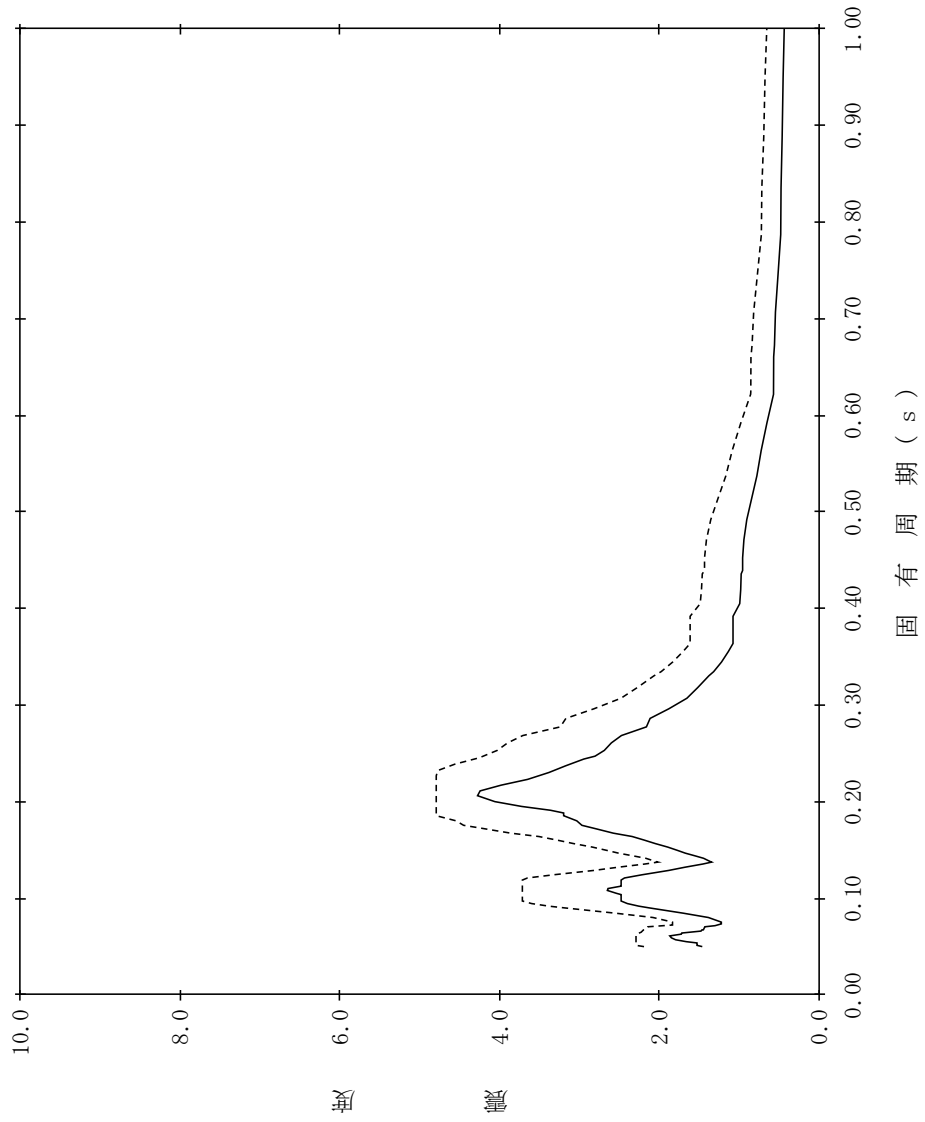
【NS2-PCV-SdEW-SHD199】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：4.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



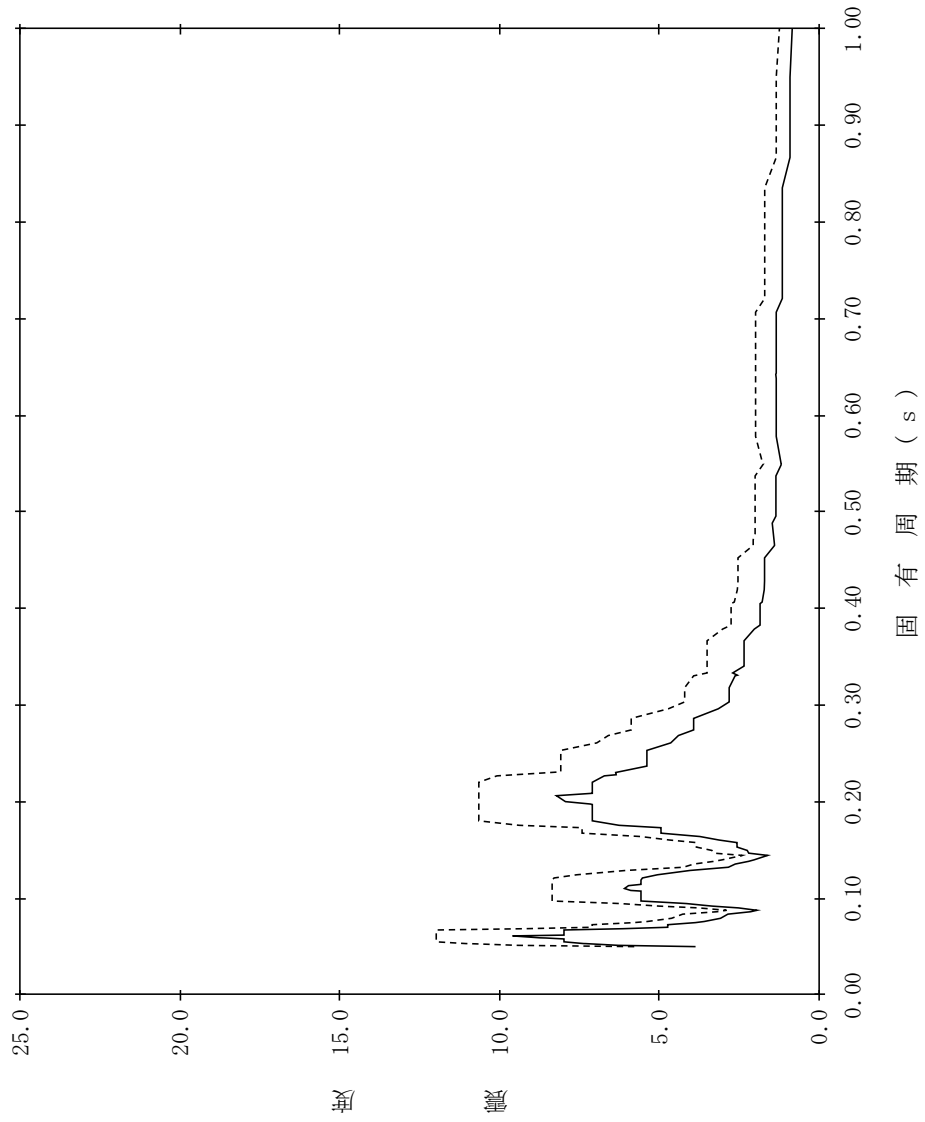
【NS2-PCV-SdEW-SHD200】

構造物名：炉心シェラウド(炉心支持板) 標高：EL1.571m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：5.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



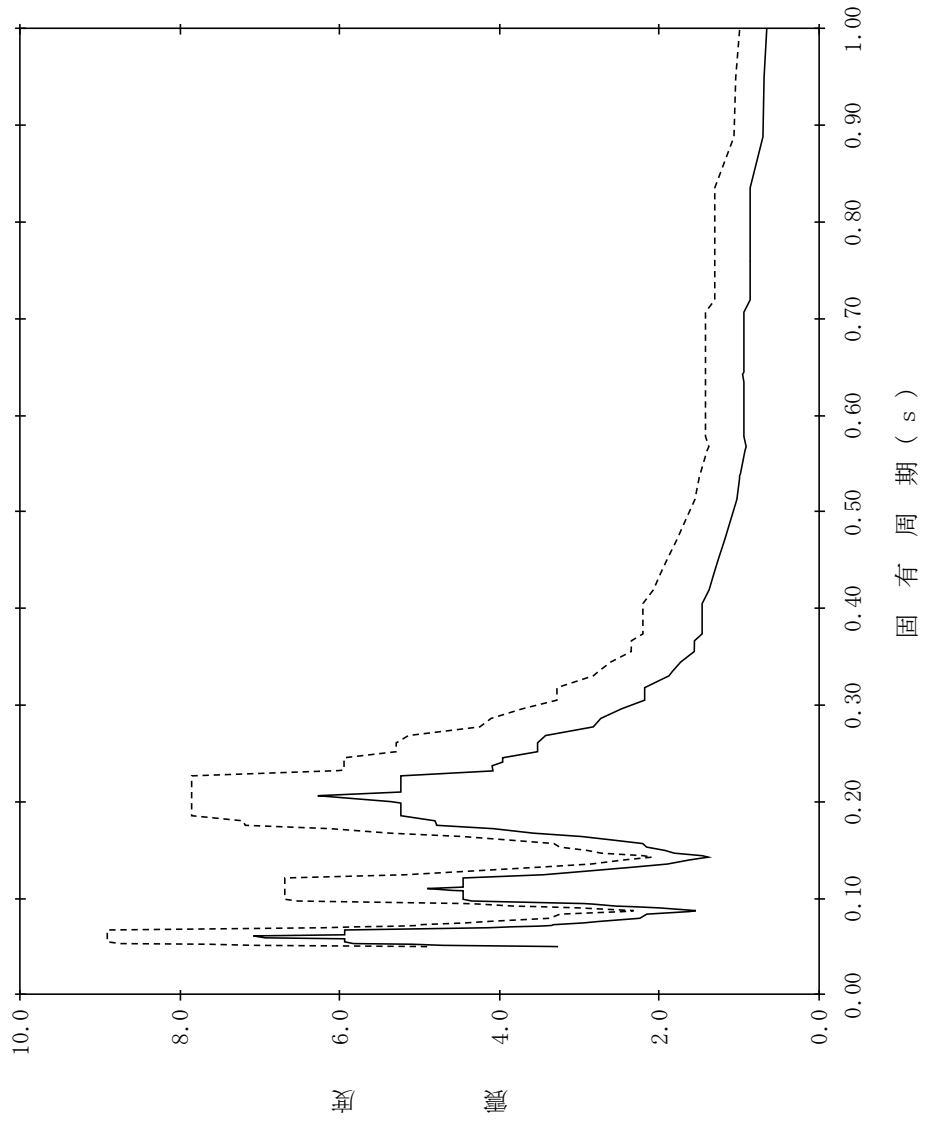
【NS2-PCV-SdEW-RPV201】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



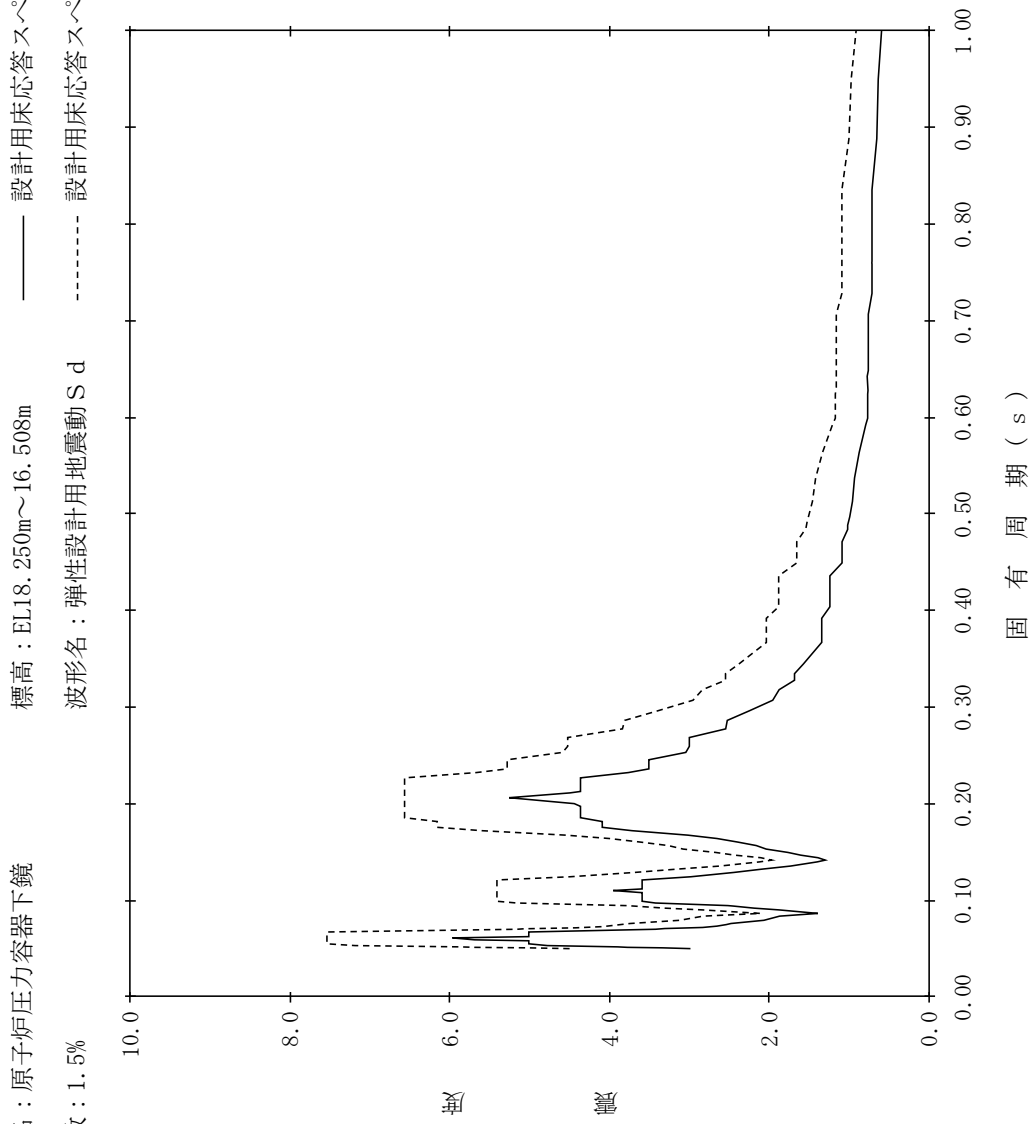
【NS2-PCV-SdEW-RPV202】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



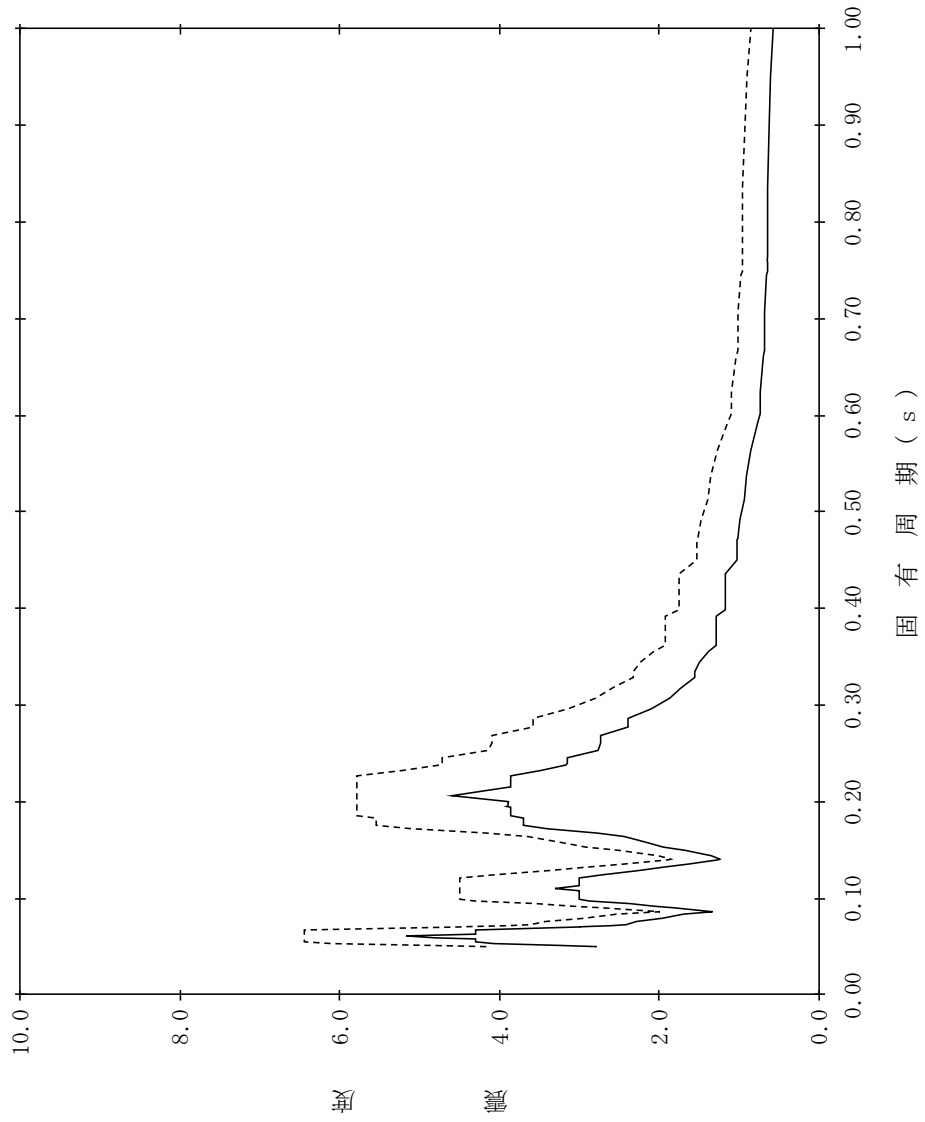
【NS2-PCV-SdEW-RPV203】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：1.5%



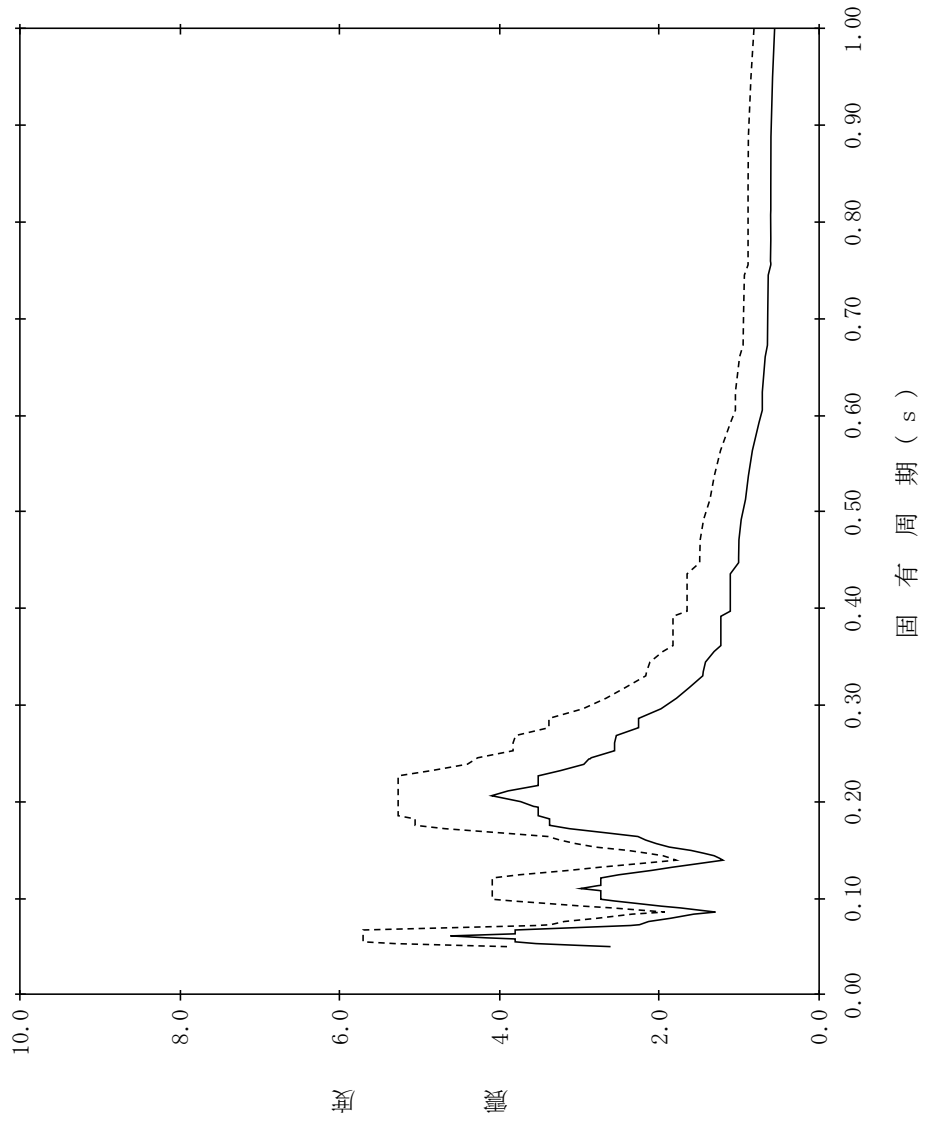
【NS2-PCV-SdEW-RPV204】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



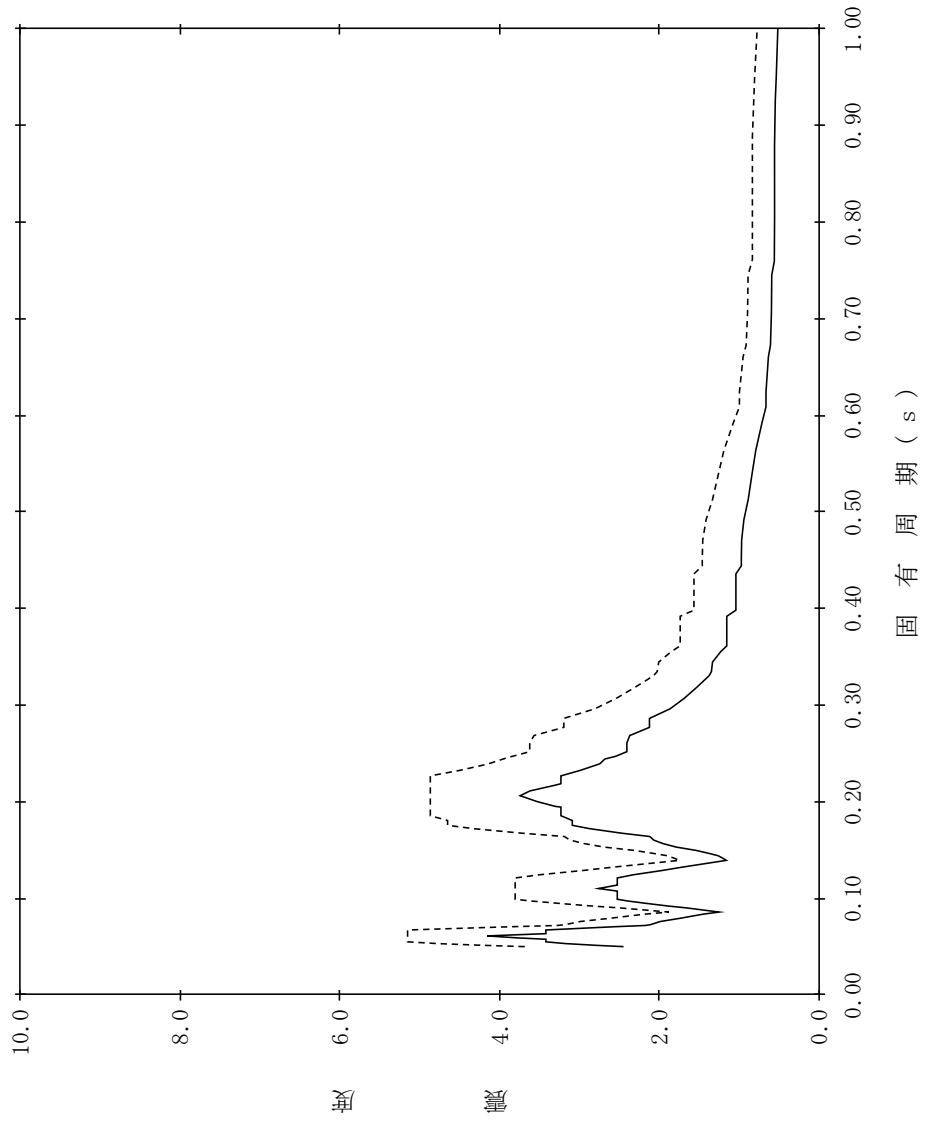
【NS2-PCV-SdEW-RPV205】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-PCV-SdEW-RPV206】

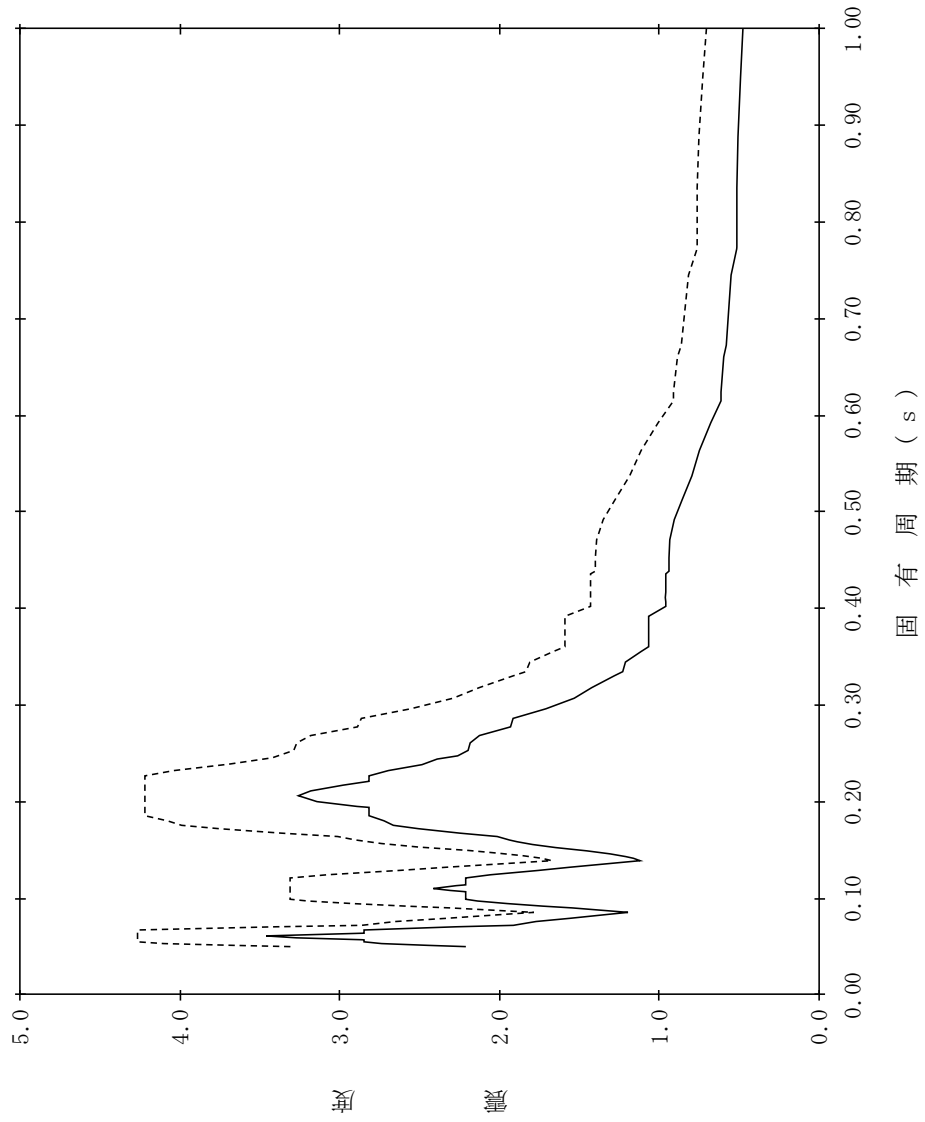
構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：3.0%



【NS2-PCV-SdEW-RPV207】

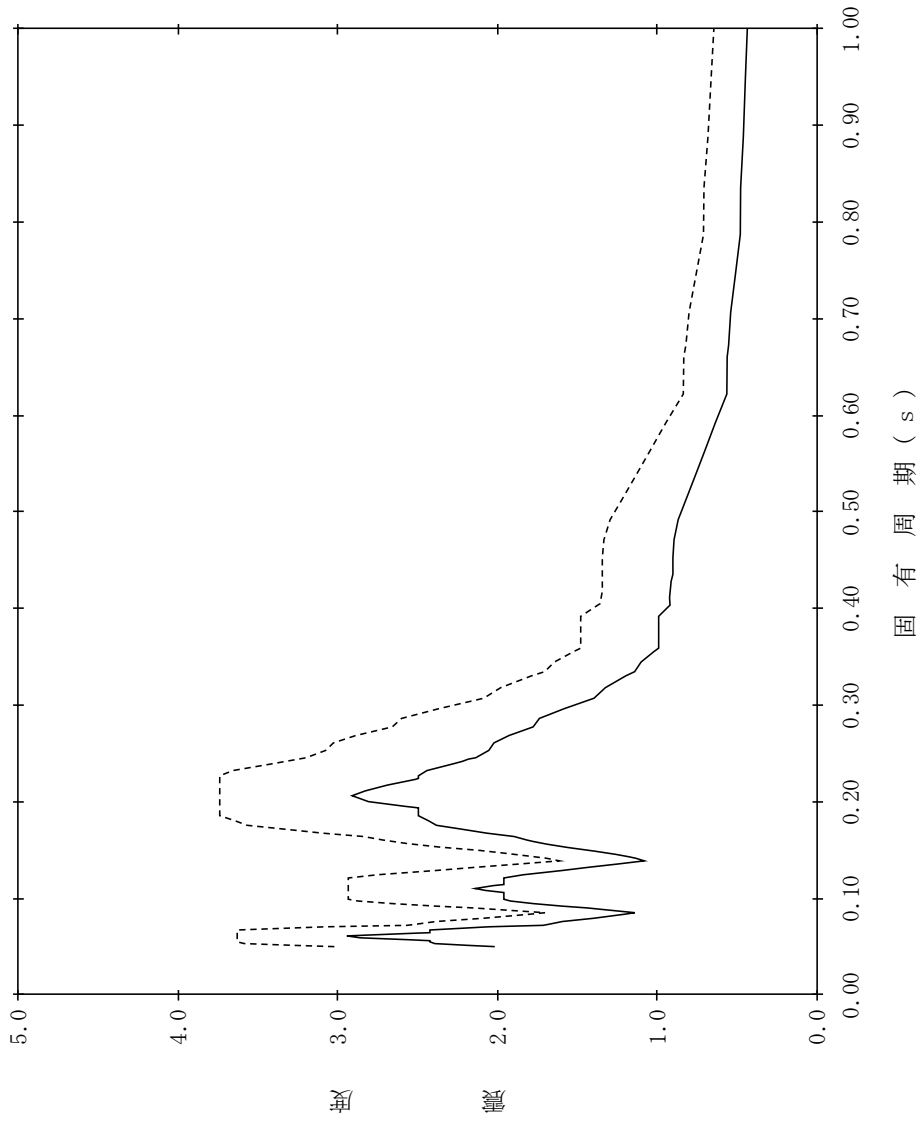
構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：4.0%

設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



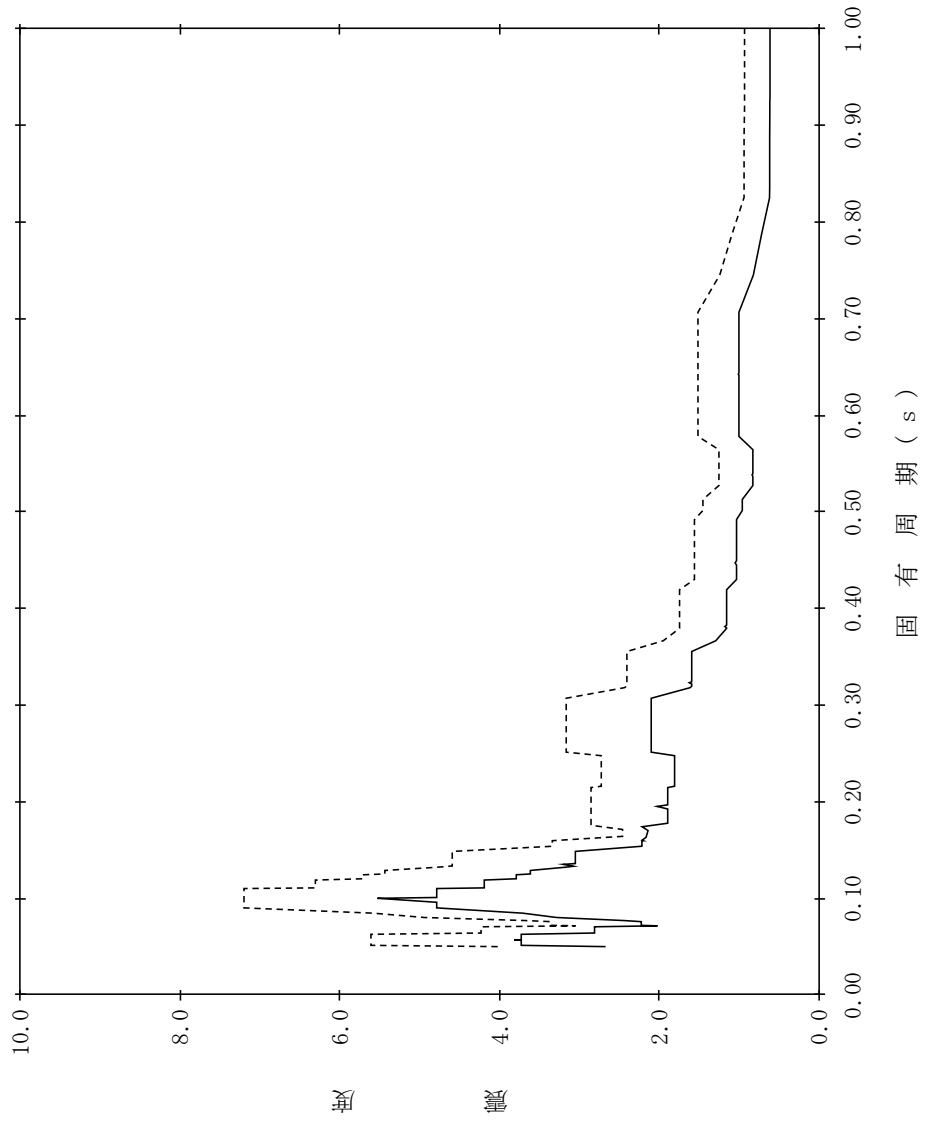
【NS2-PCV-SdEW-RPV208】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



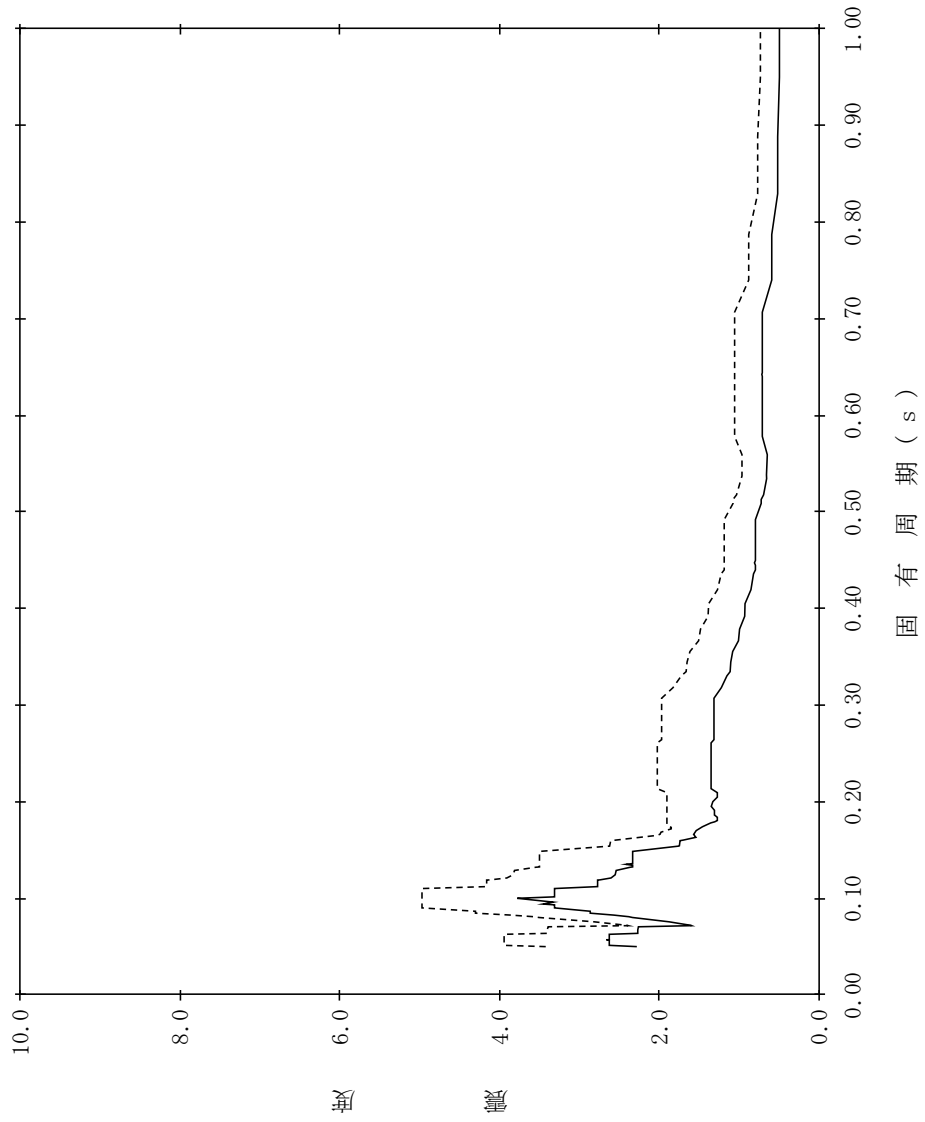
【NS2-PCV-SdV-PCV1】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



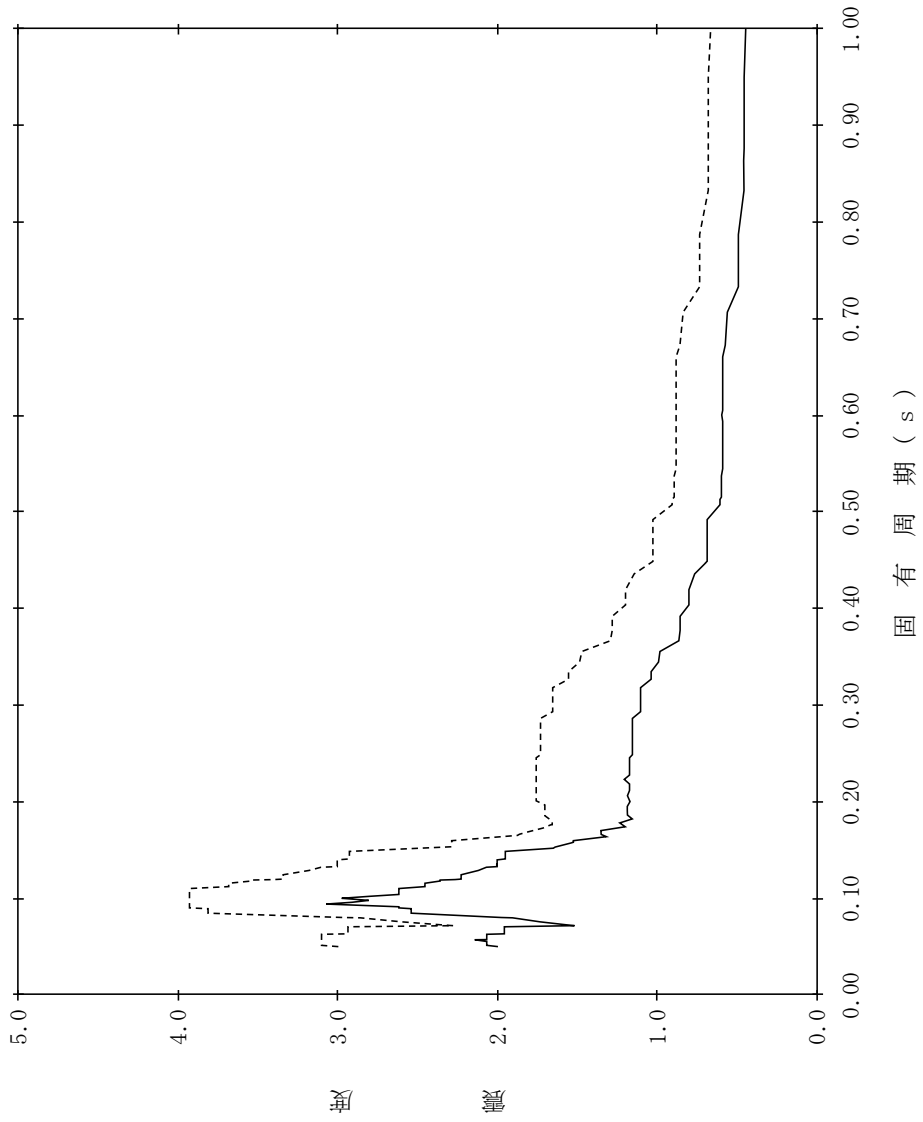
【NS2-PCV-SdV-PCV2】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL39.400m
減衰定数：1.0%
波形式：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



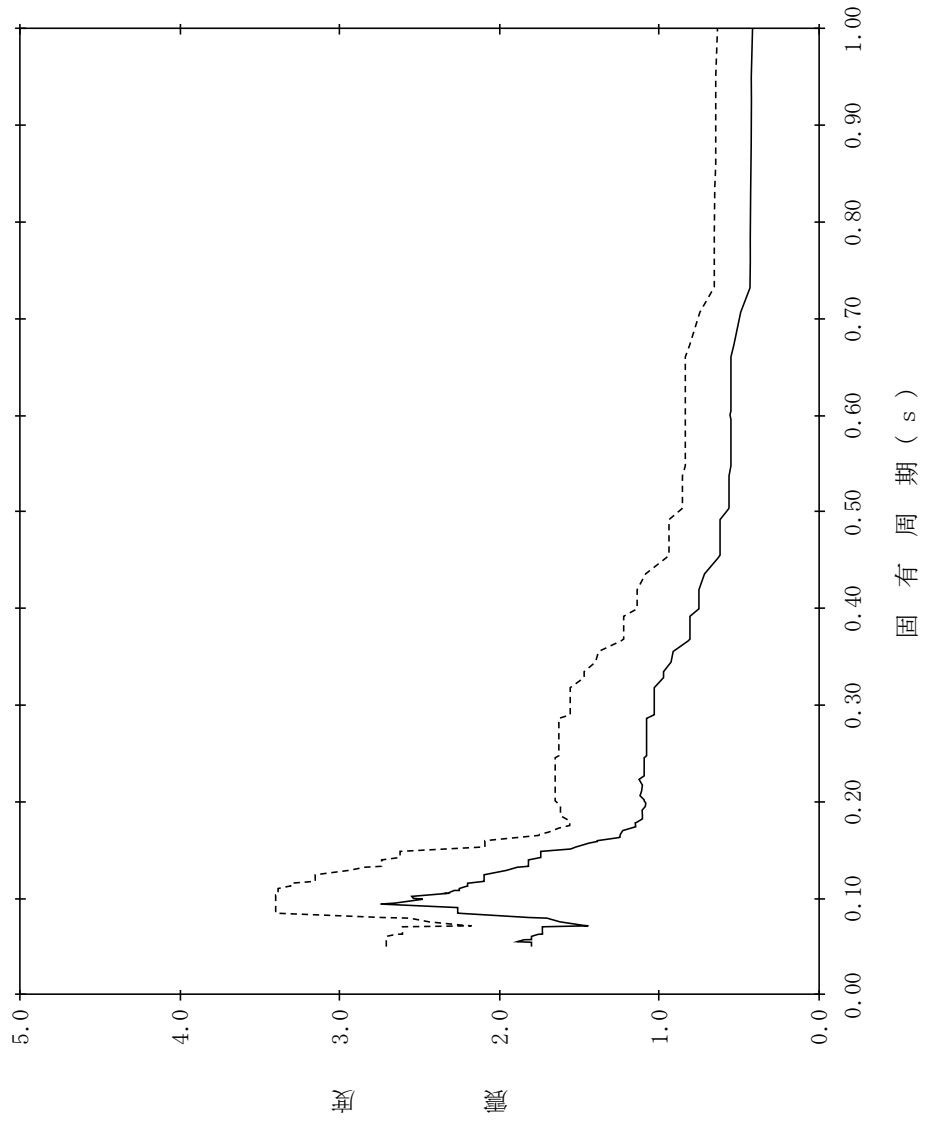
【NS2-PCV-SdV-PCV3】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



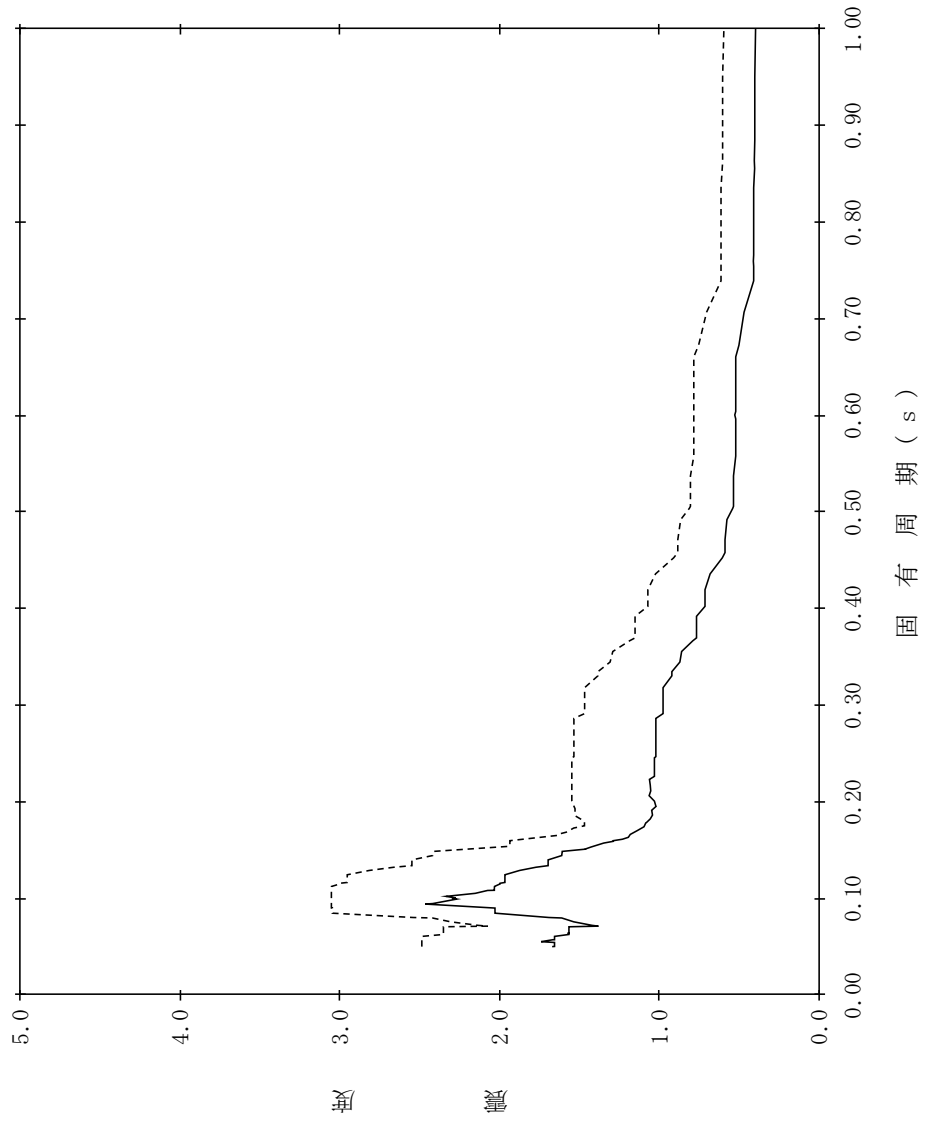
【NS2-PCV-SdV-PCV4】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



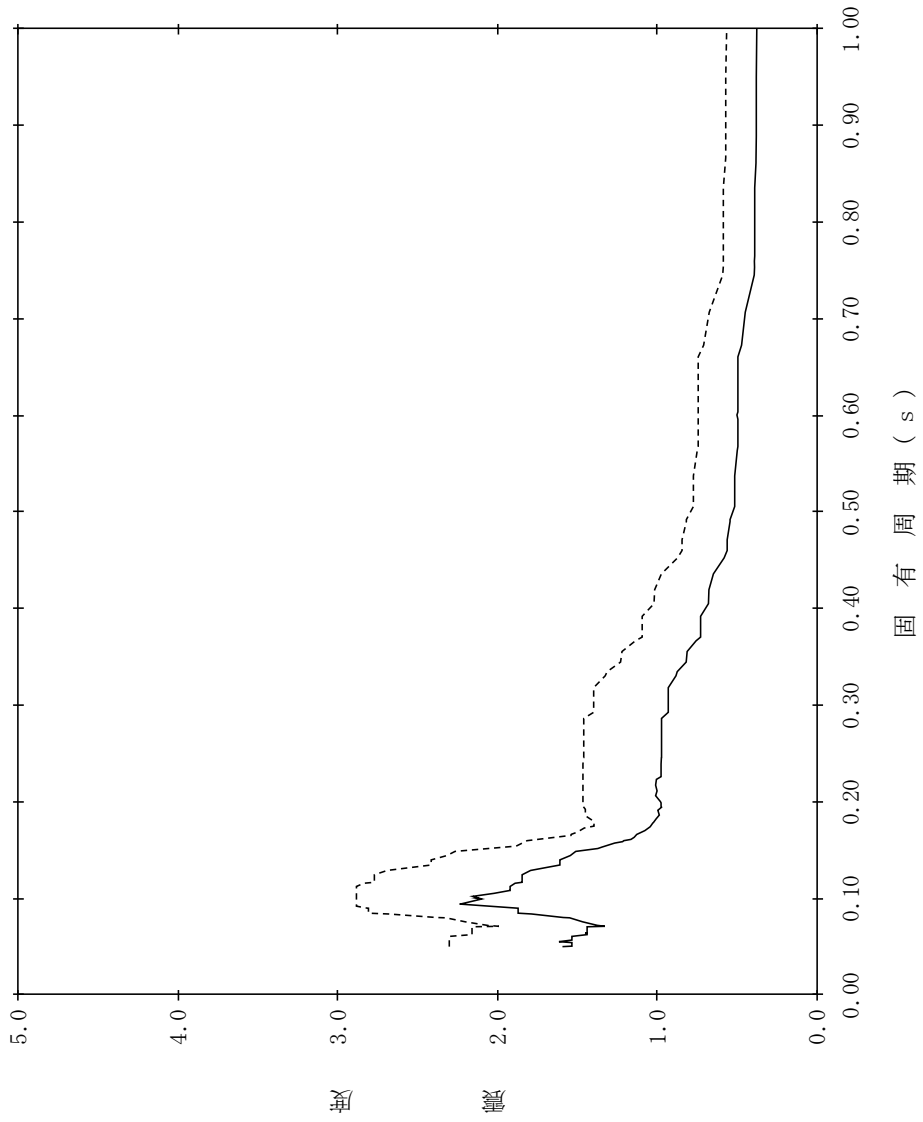
【NS2-PCV-SdV-PCV5】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



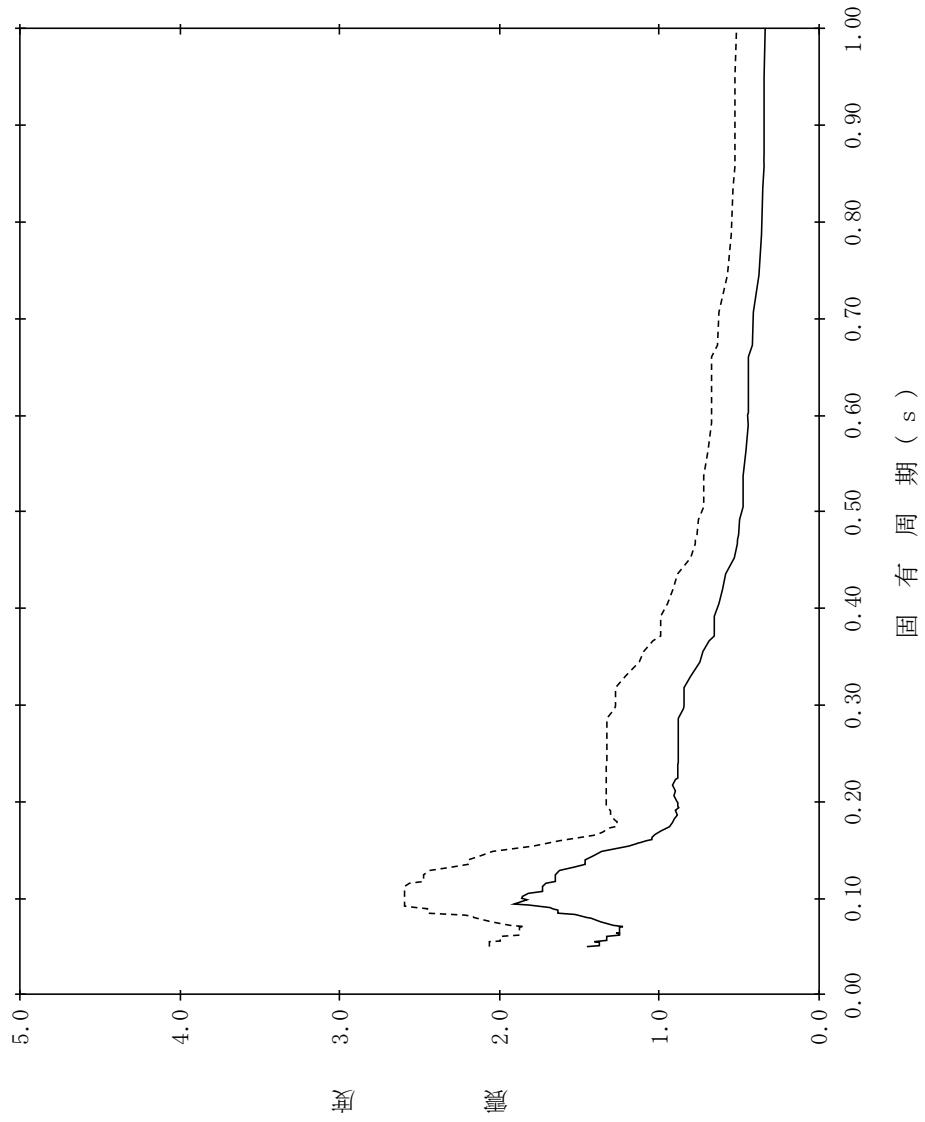
【NS2-PCV-SdV-PCV6】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



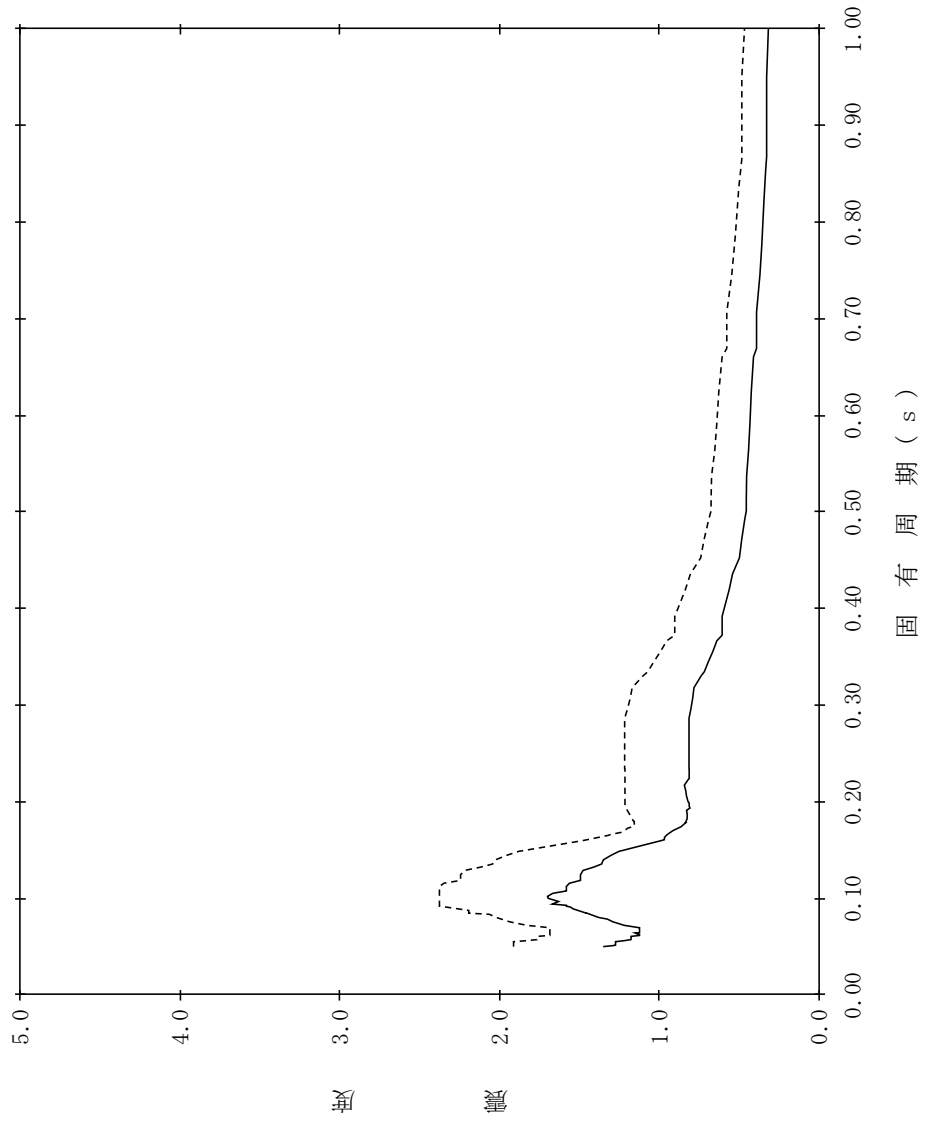
【NS2-PCV-SdV-PCV7】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



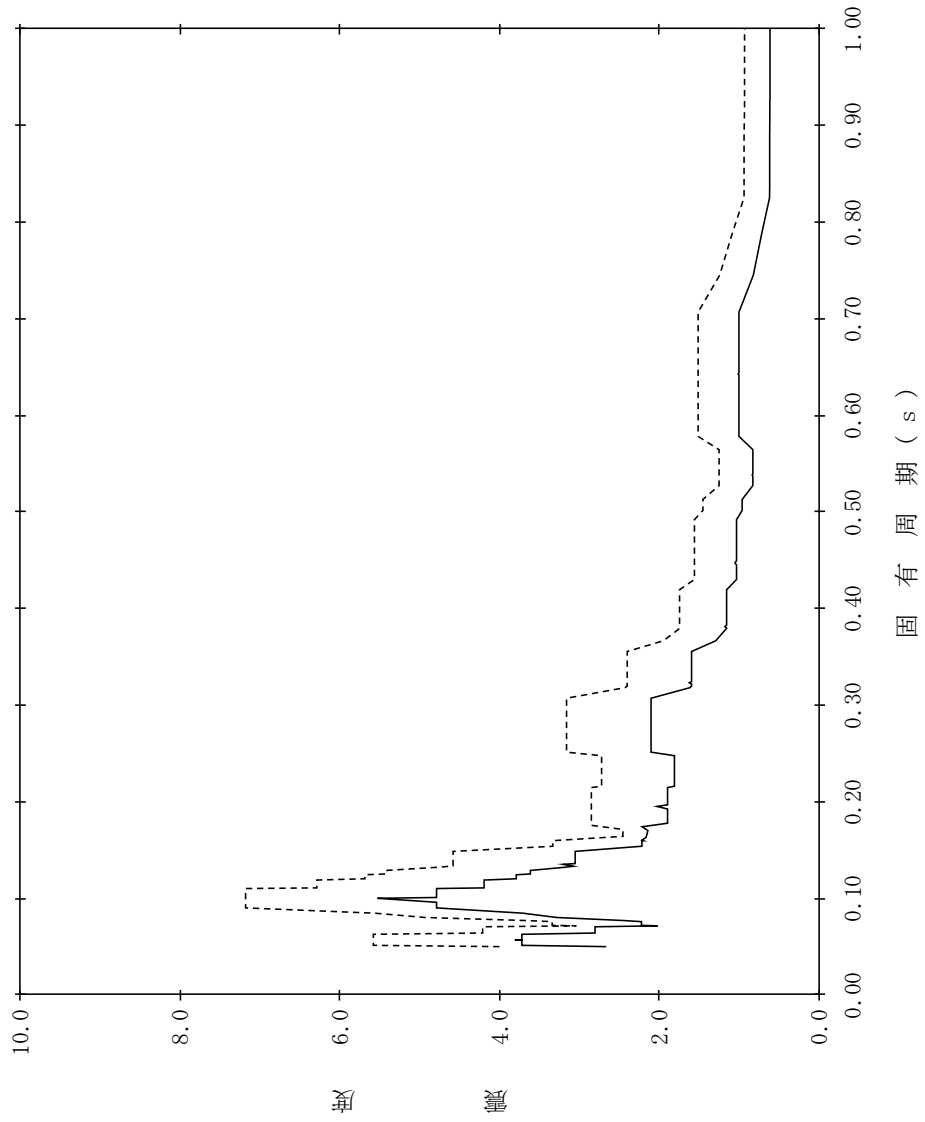
【NS2-PCV-SdV-PCV8】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



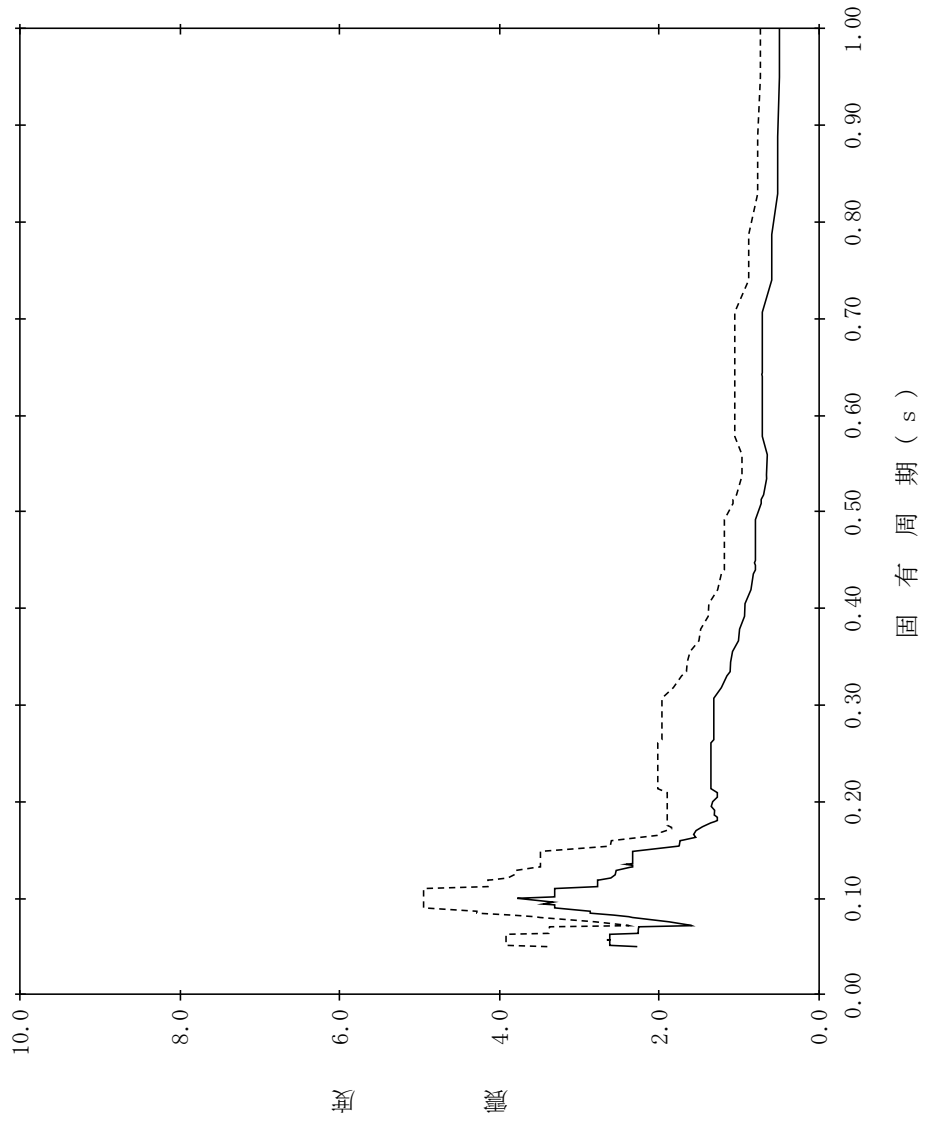
【NS2-PCV-SdV-PCV9】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-PCV-SdV-PCV10】

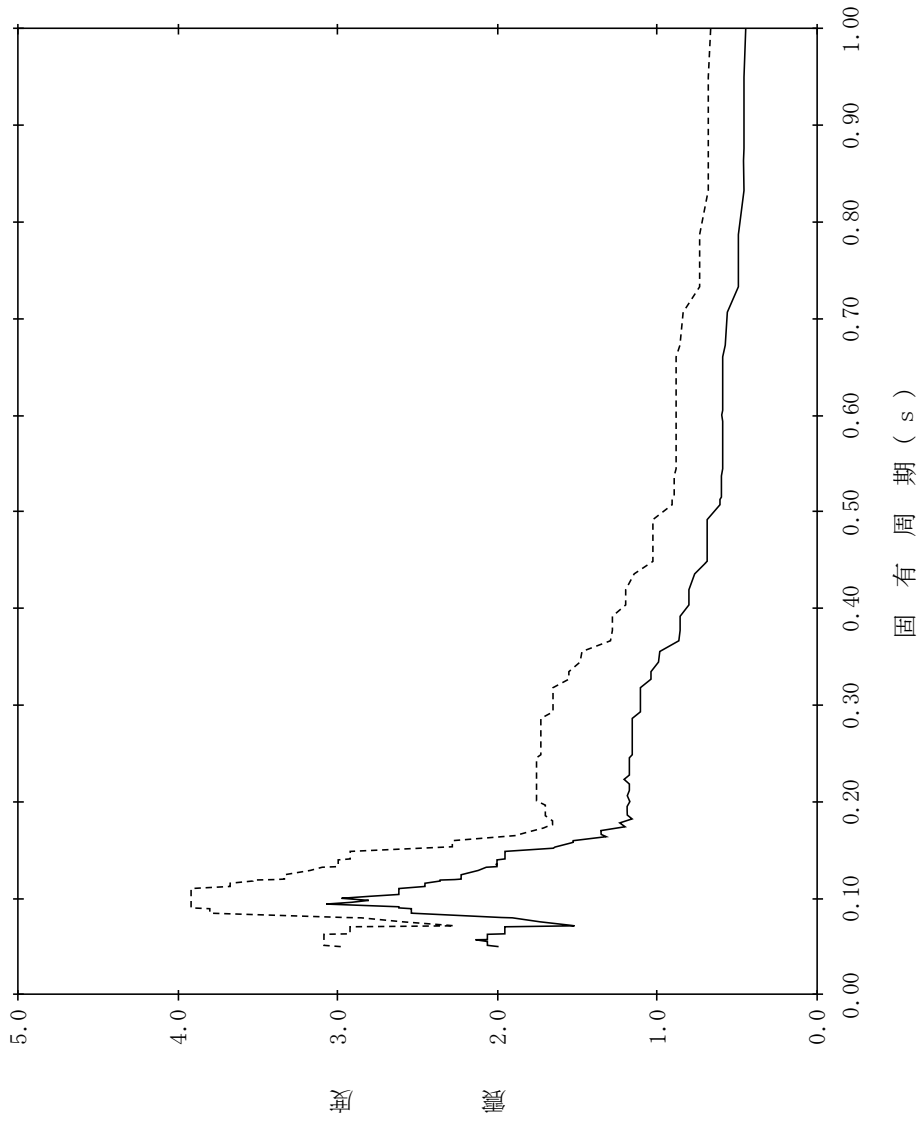
構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-PCV-SdV-PCV11】

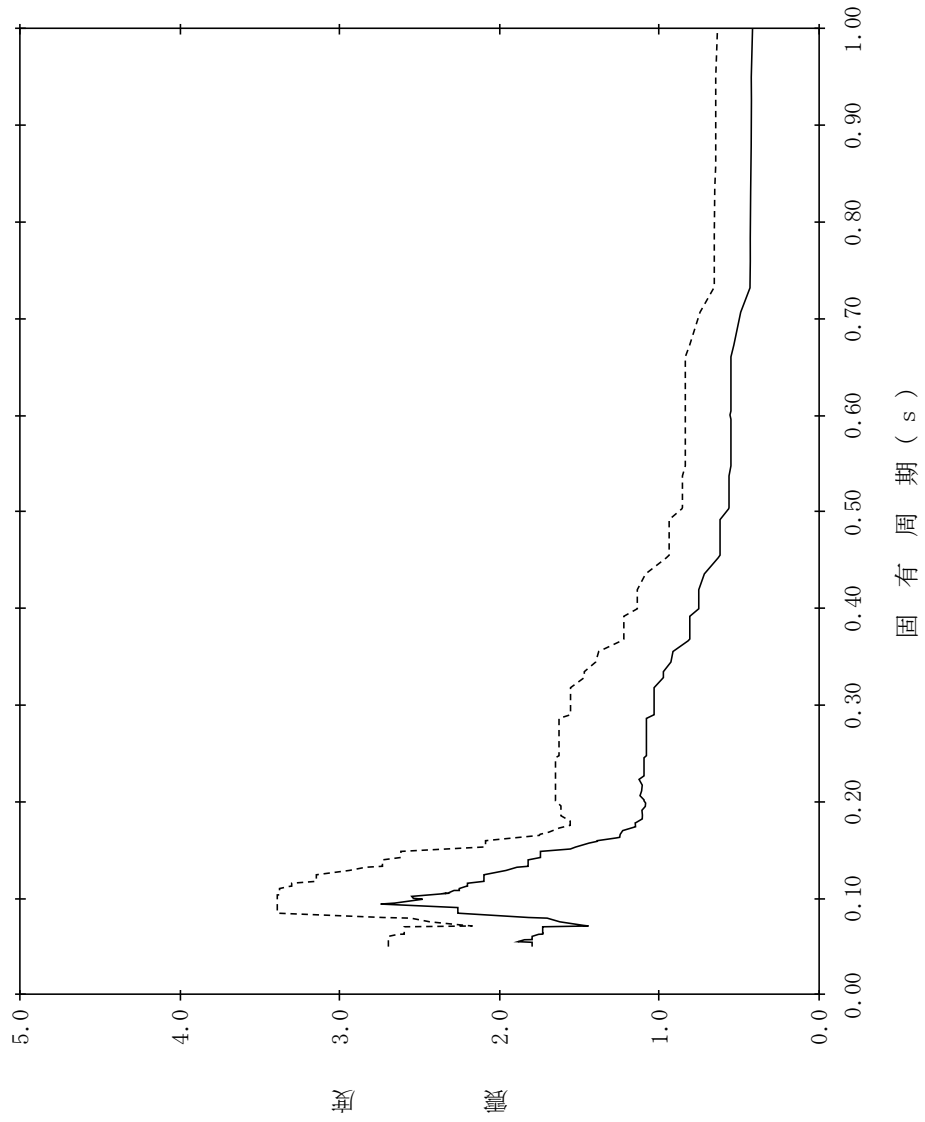
構造物名：原子炉格納容器
標高：EL37.060m
減衰定数：1.5%

—— 設計用床応答スペクトルⅠ (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトルⅡ (鉛直方向)



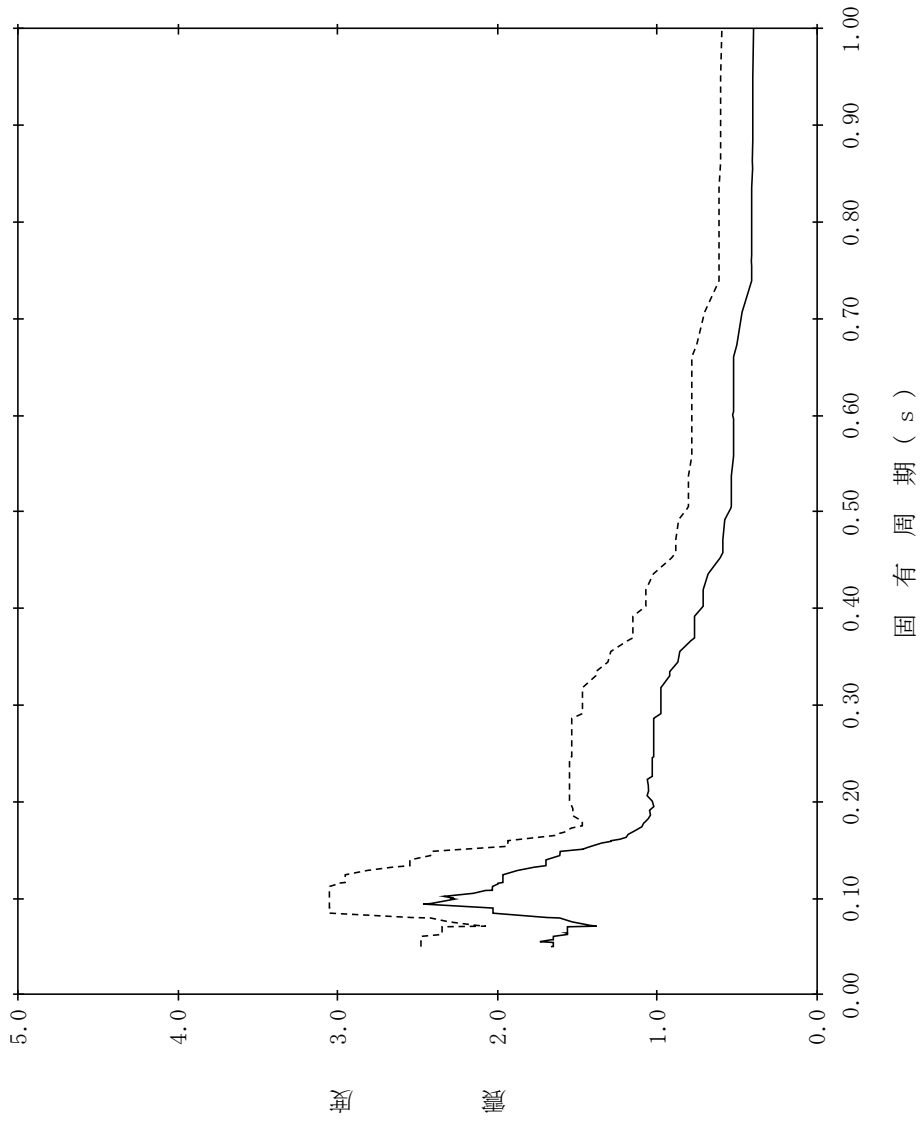
【NS2-PCV-SdV-PCV12】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



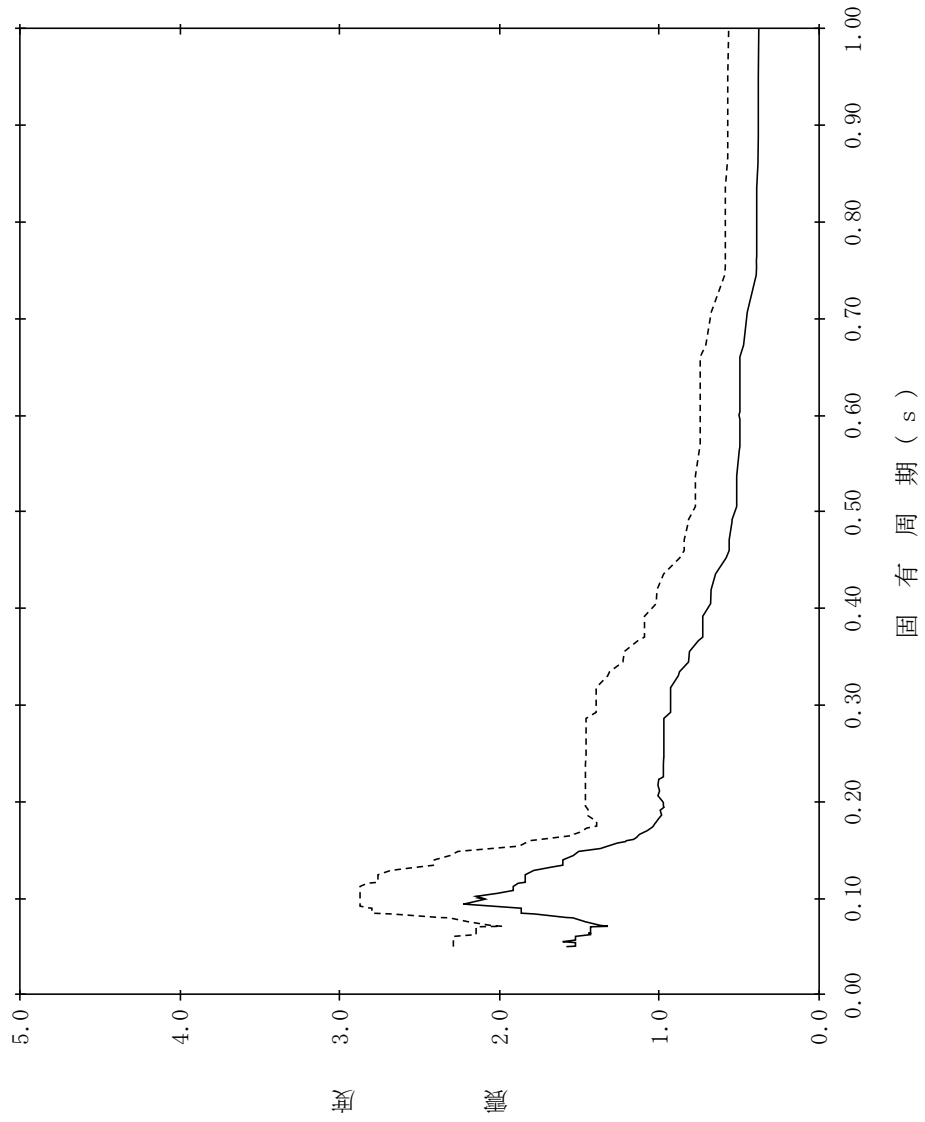
【NS2-PCV-SdV-PCV13】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



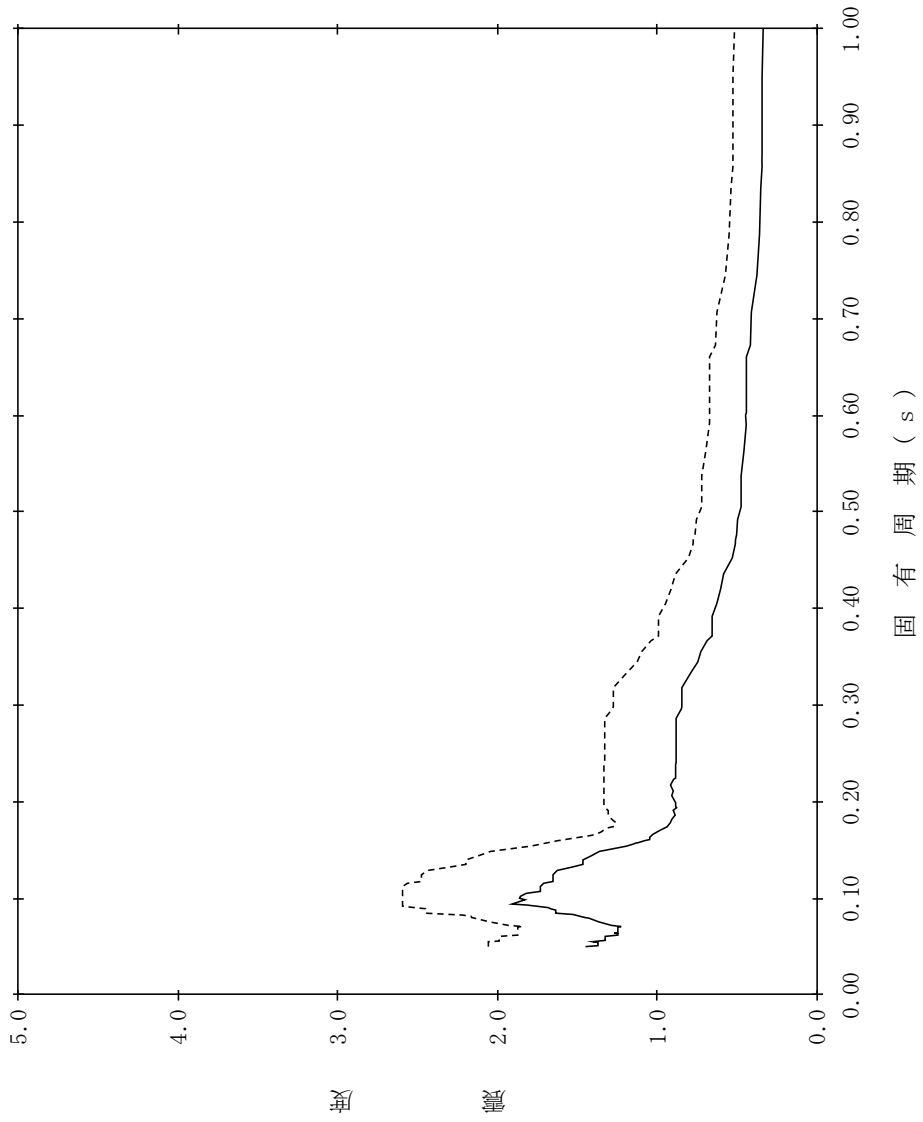
【NS2-PCV-SdV-PCV14】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



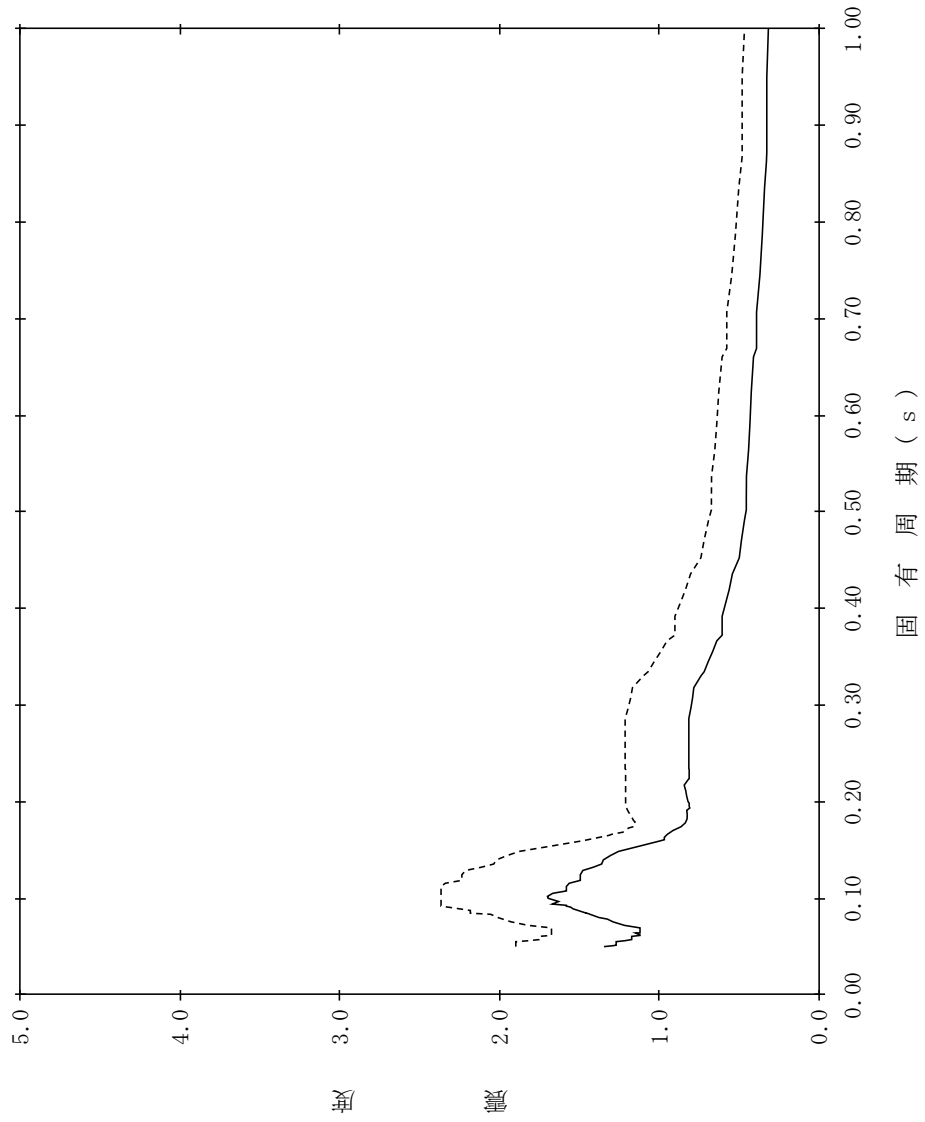
【NS2-PCV-SdV-PCV15】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



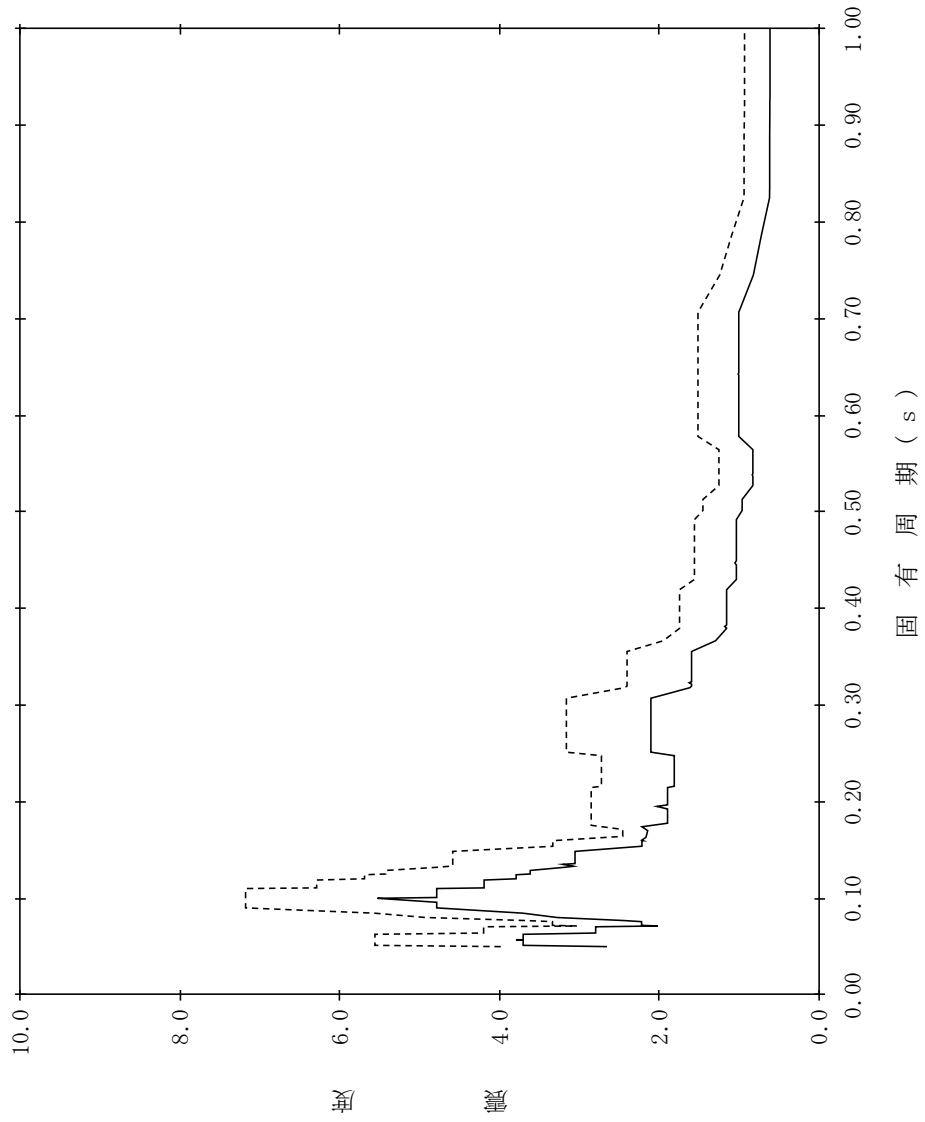
【NS2-PCV-SdV-PCV16】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



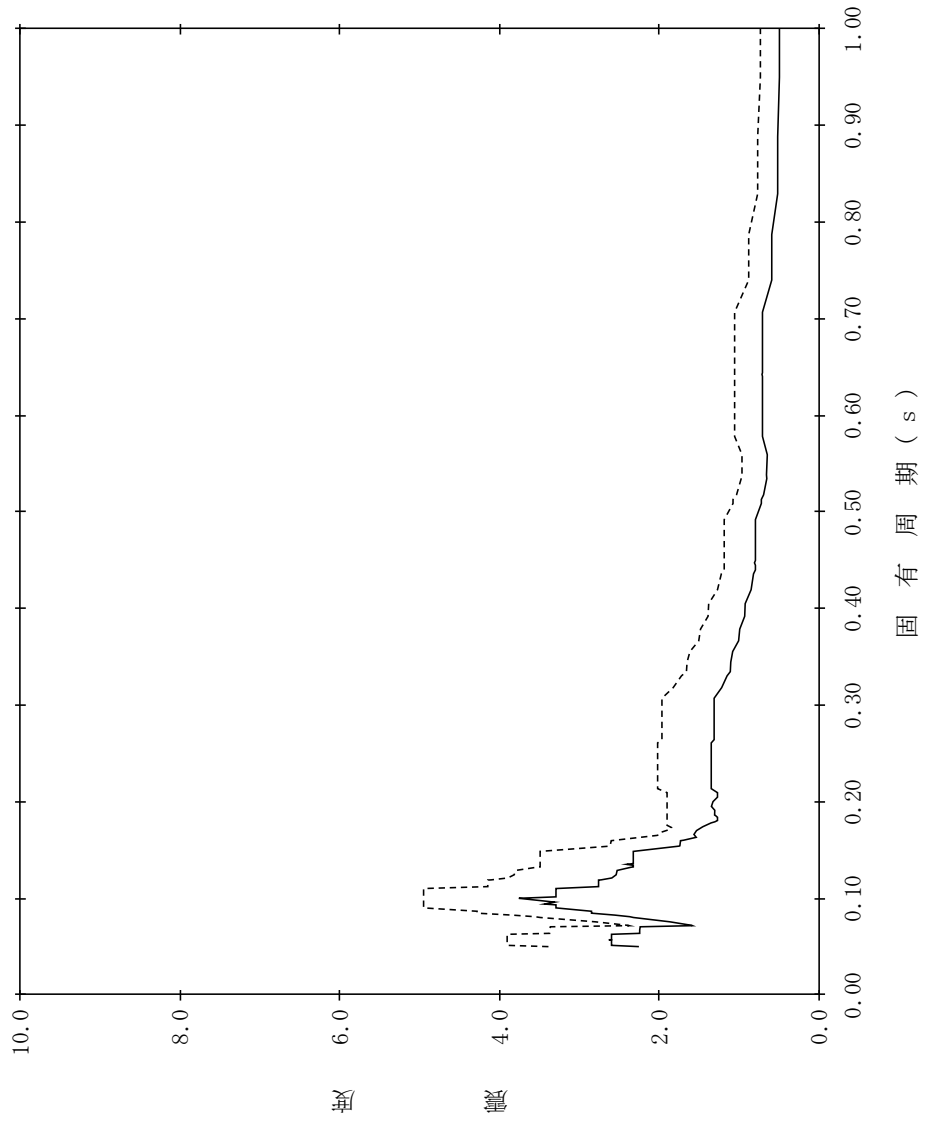
【NS2-PCV-SdV-PCV17】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



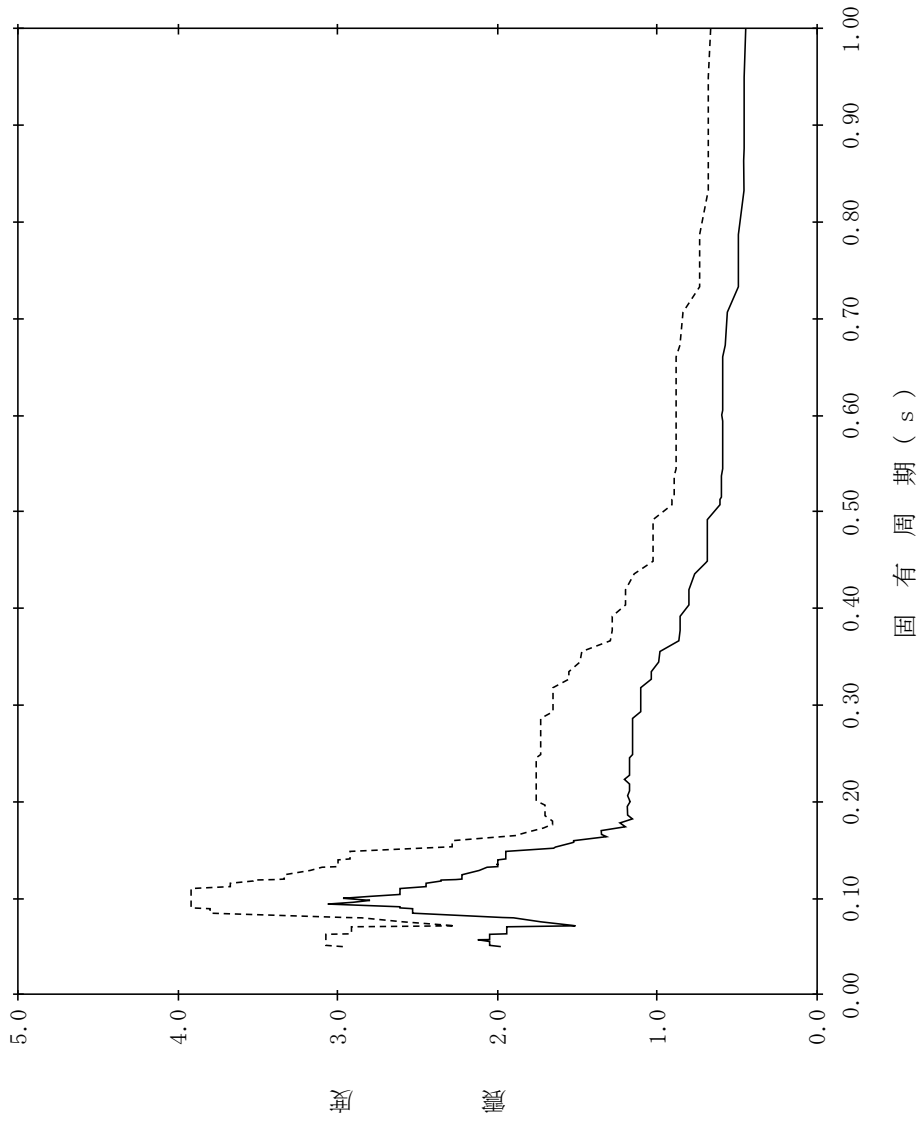
【NS2-PCV-SdV-PCV18】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



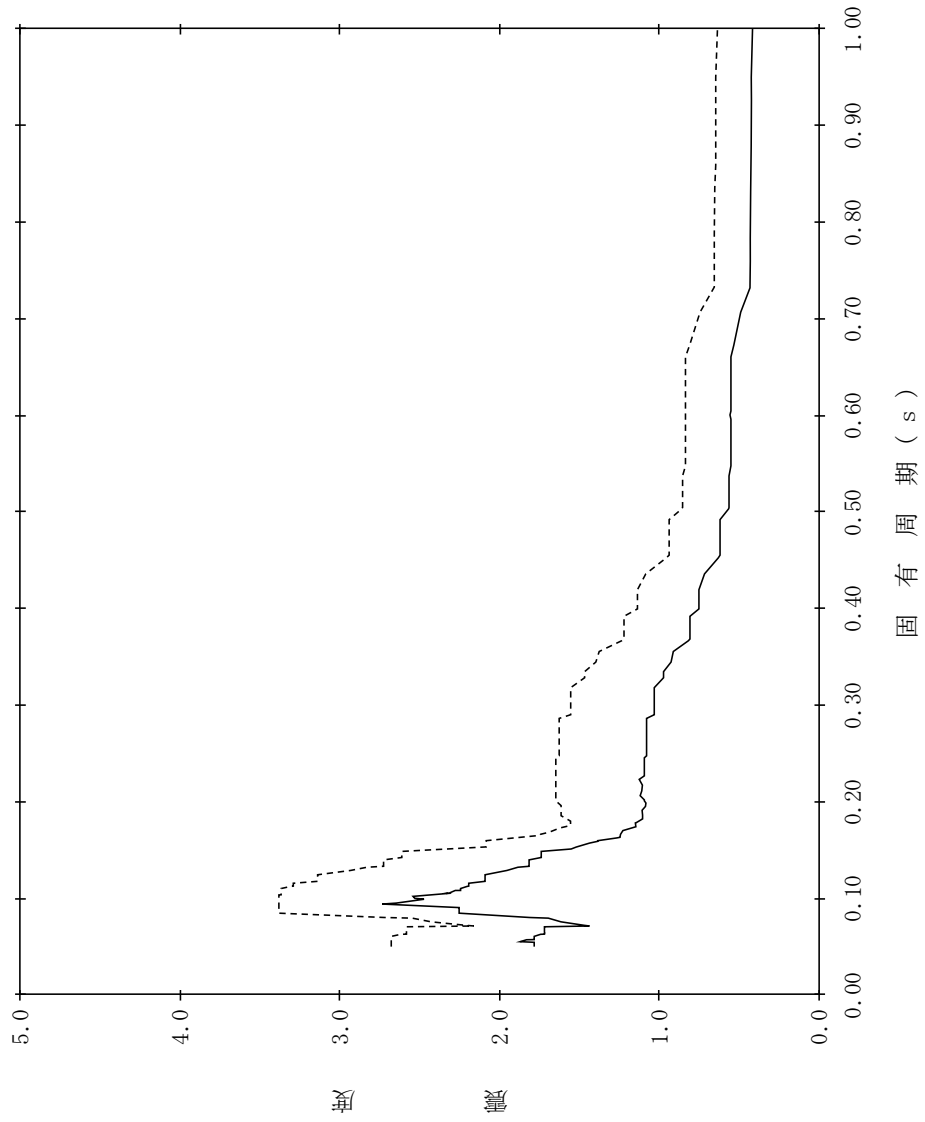
【NS2-PCV-SdV-PCV19】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



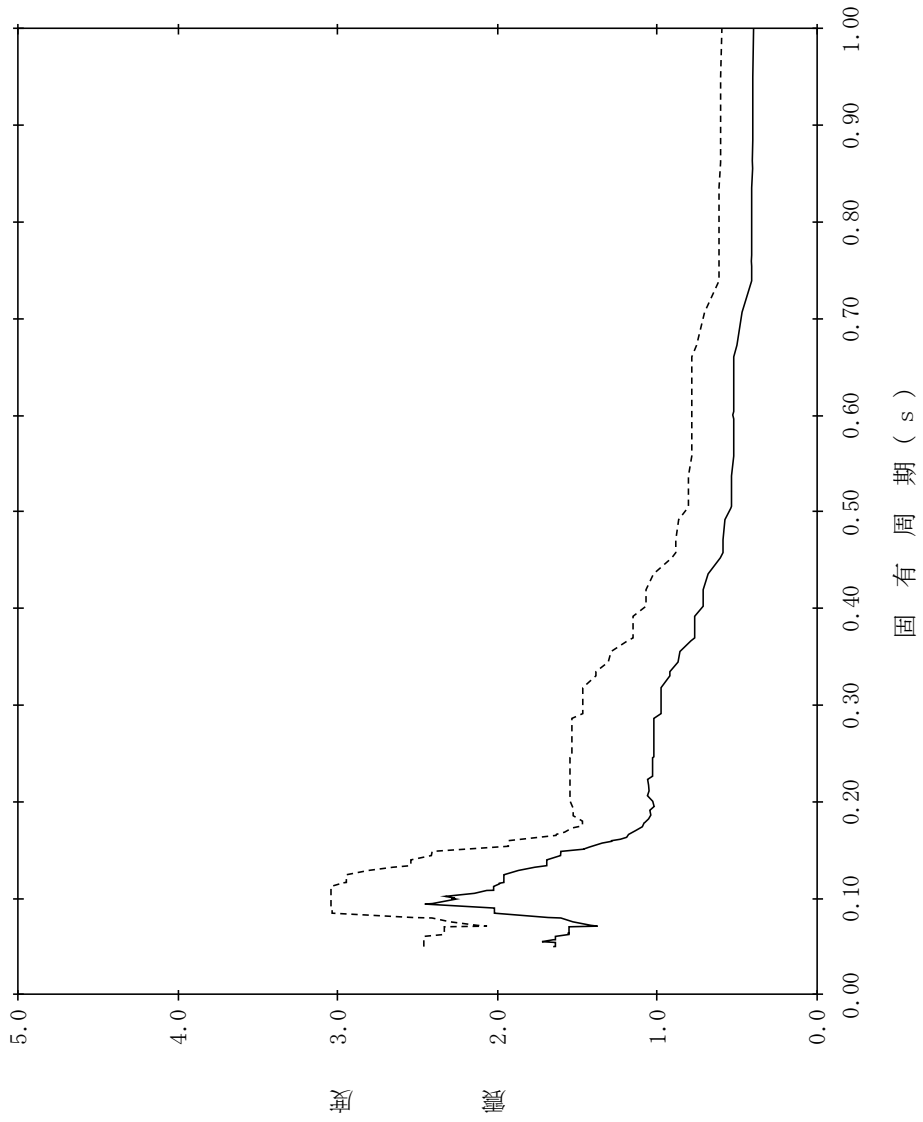
【NS2-PCV-SdV-PCV20】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



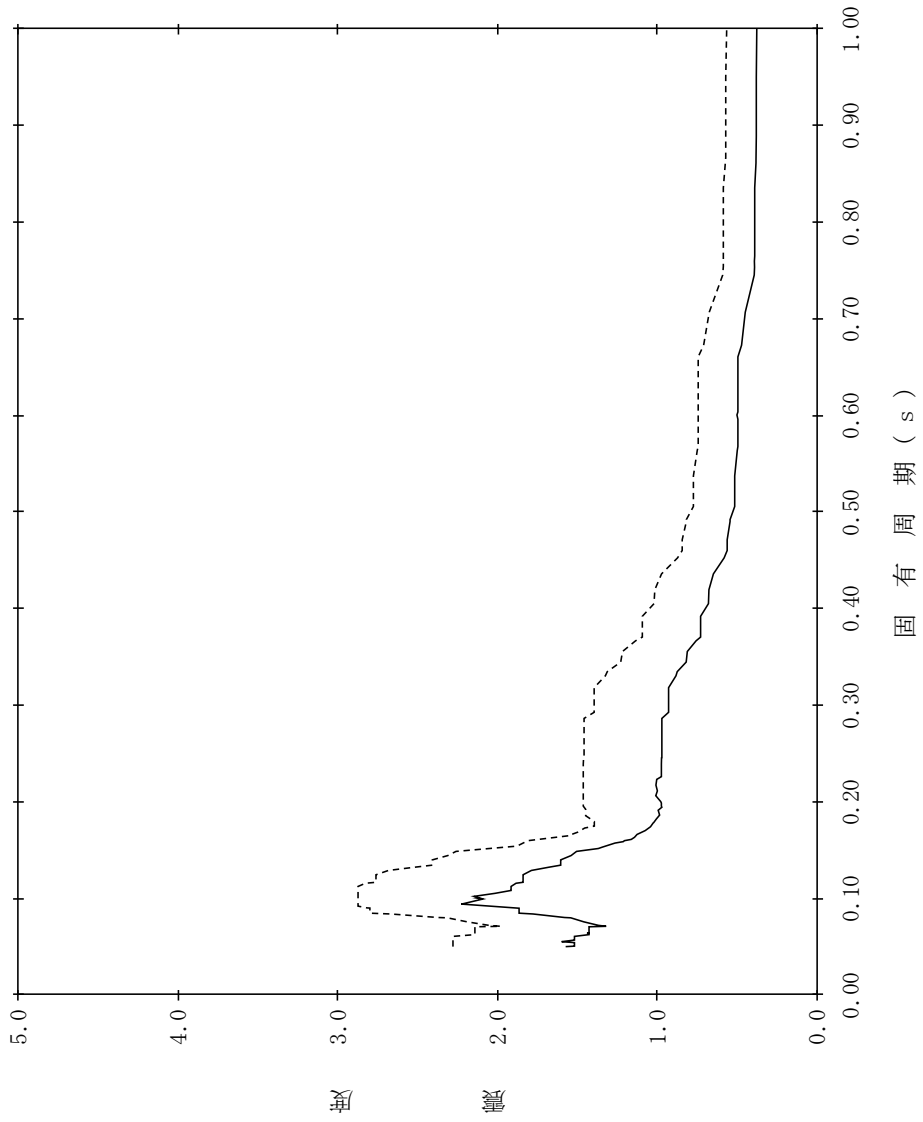
【NS2-PCV-SdV-PCV21】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



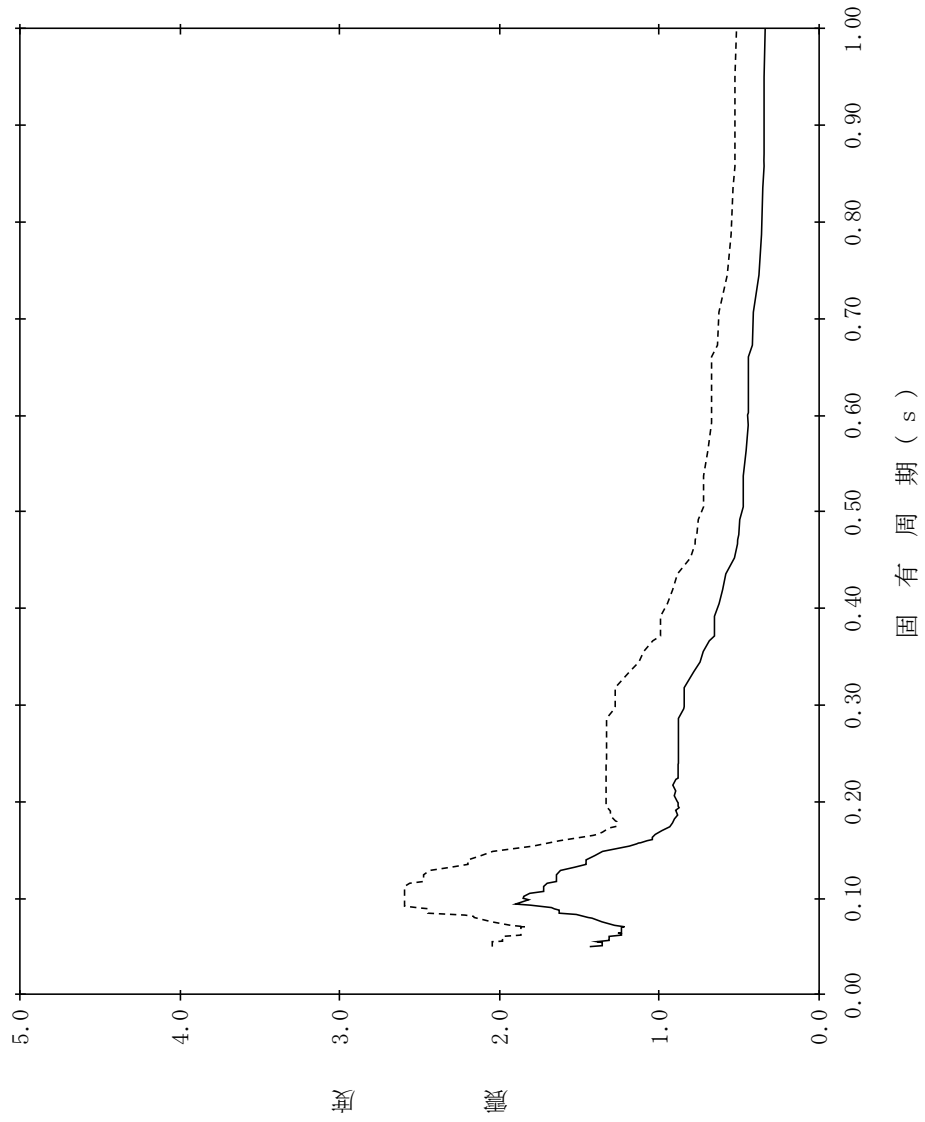
【NS2-PCV-SdV-PCV22】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



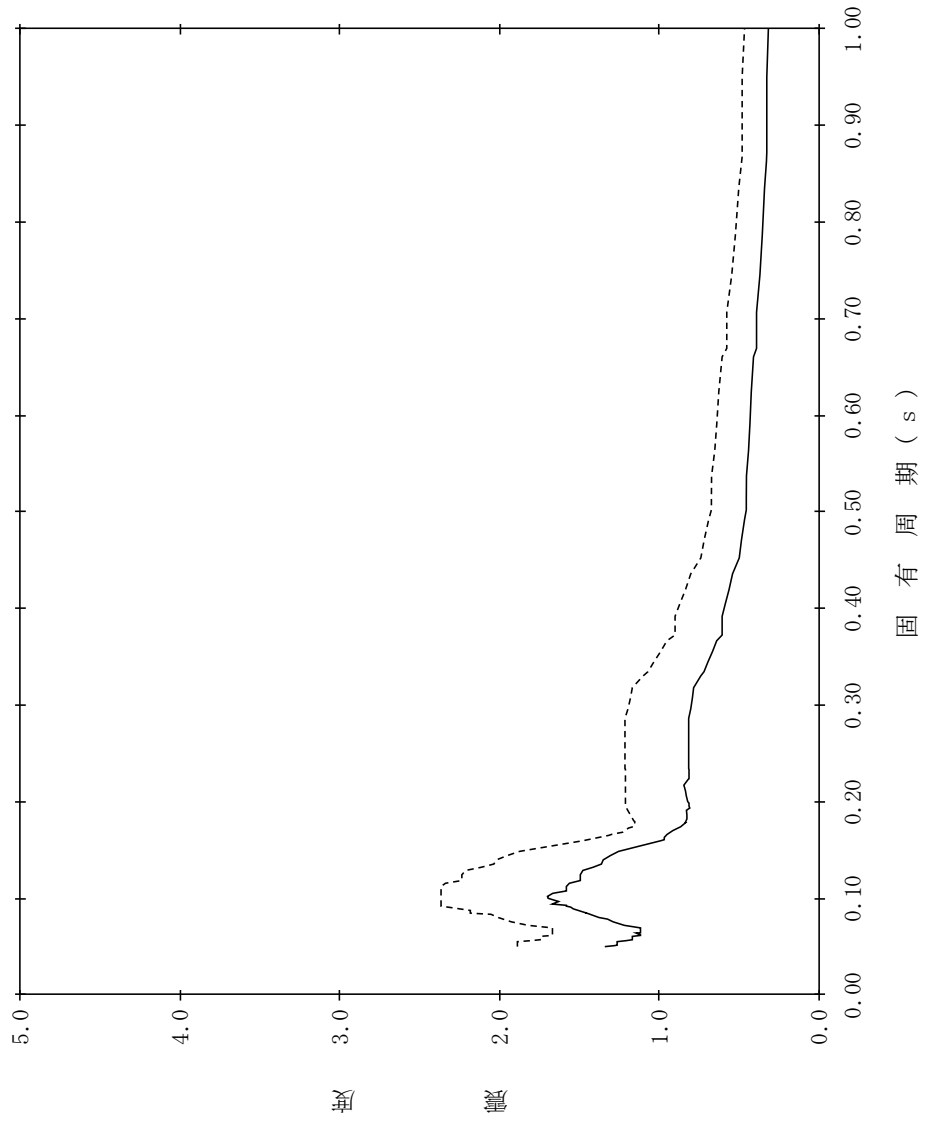
【NS2-PCV-SdV-PCV23】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



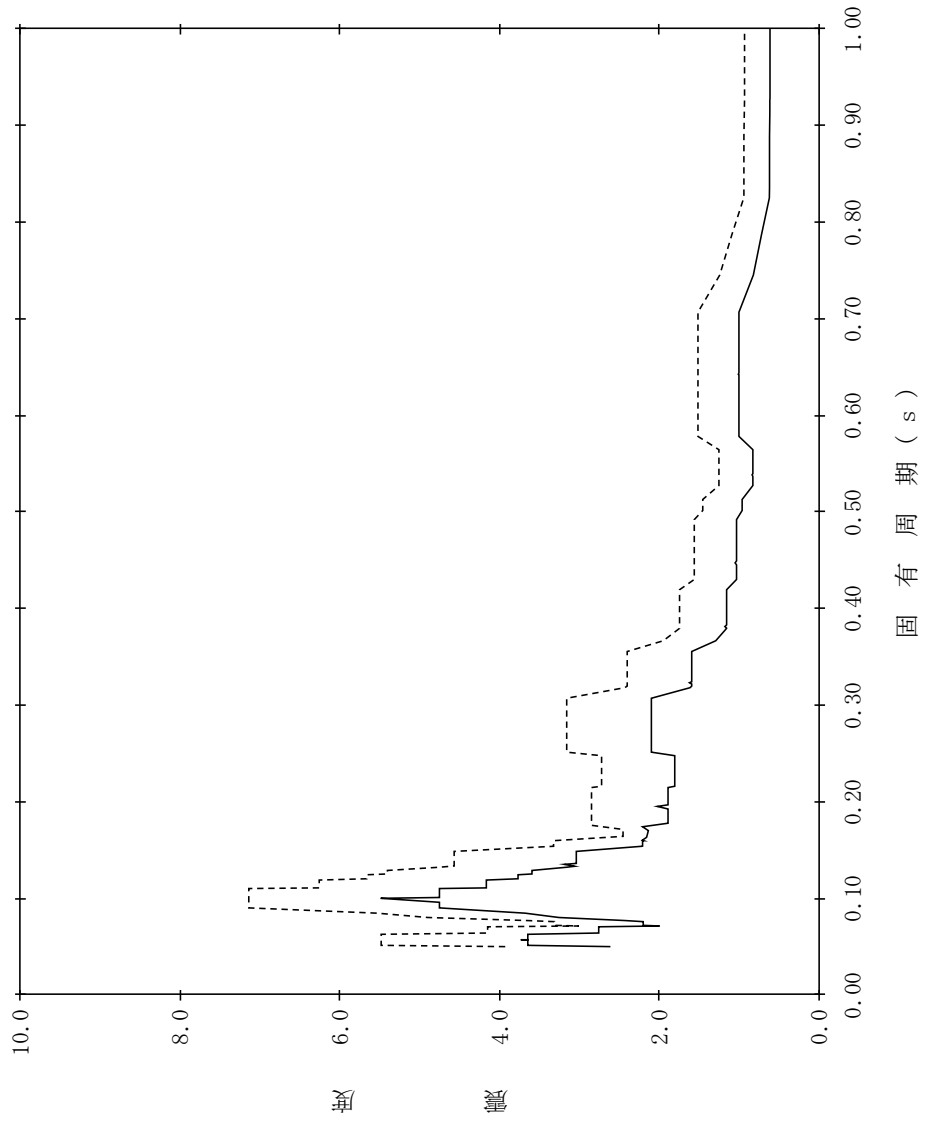
【NS2-PCV-SdV-PCV24】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



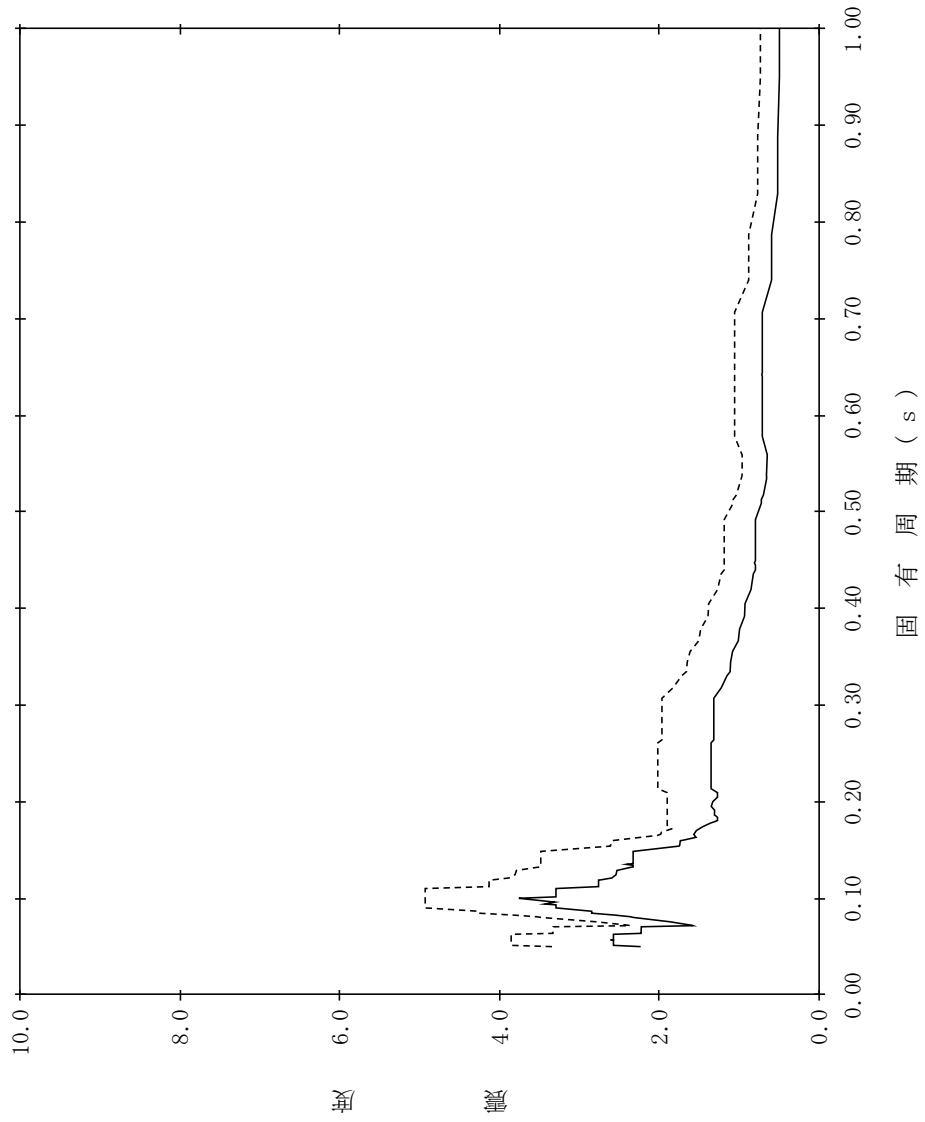
【NS2-PCV-SdV-PCV25】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



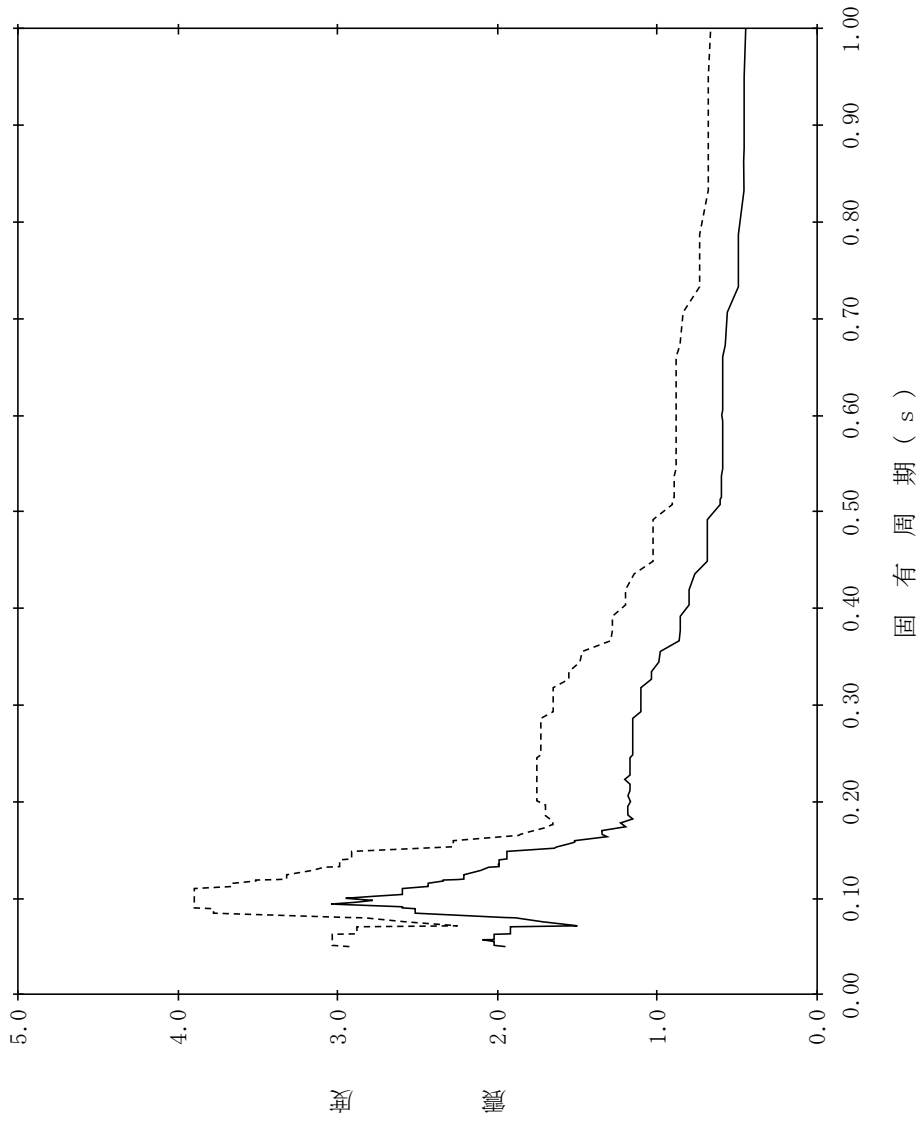
【NS2-PCV-SdV-PCV26】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL33.141m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



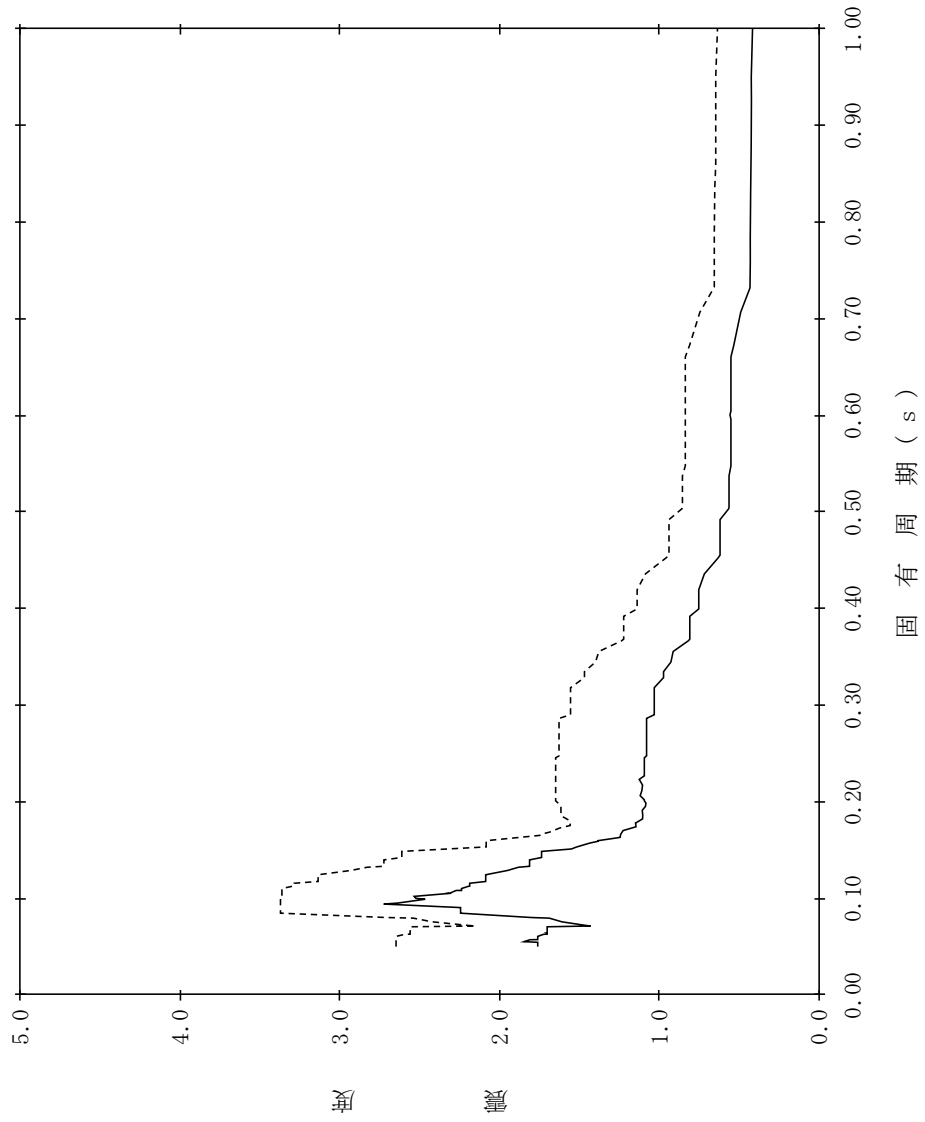
【NS2-PCV-SdV-PCV27】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



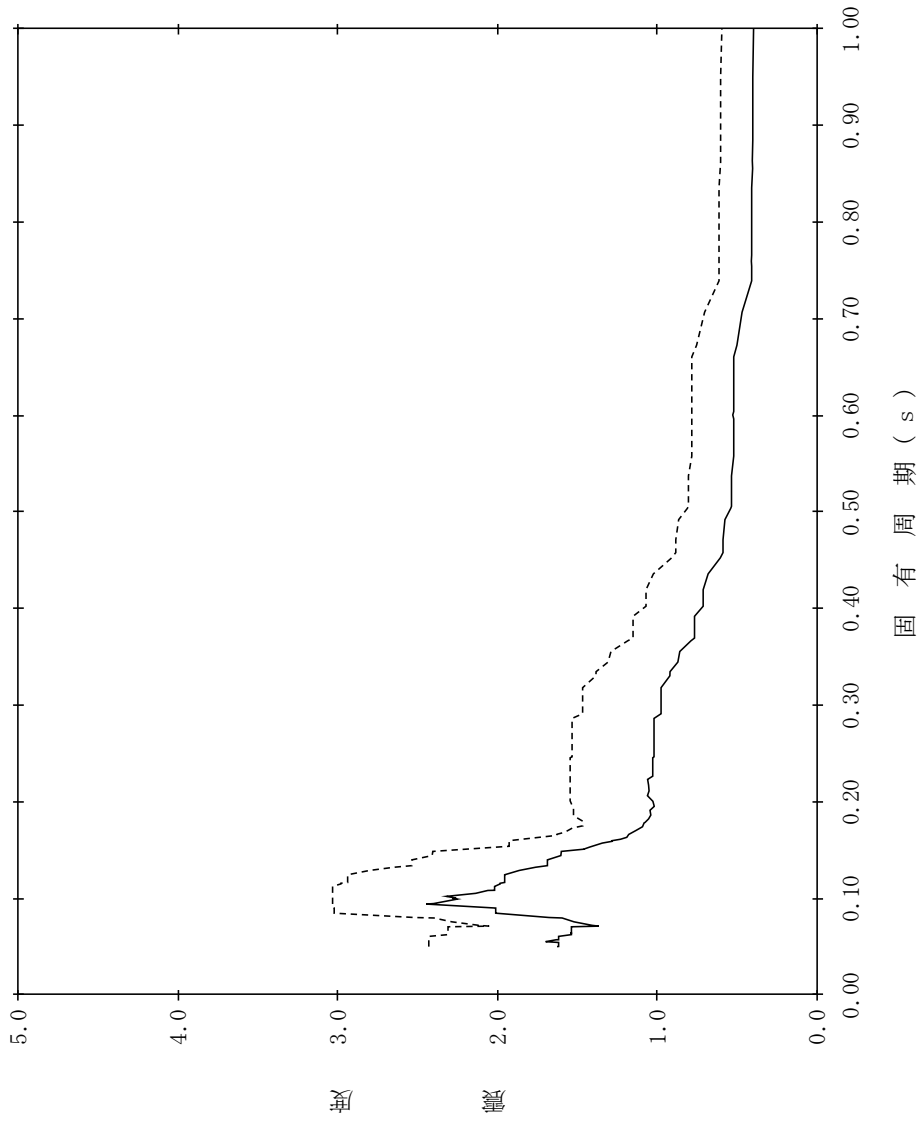
【NS2-PCV-SdV-PCV28】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



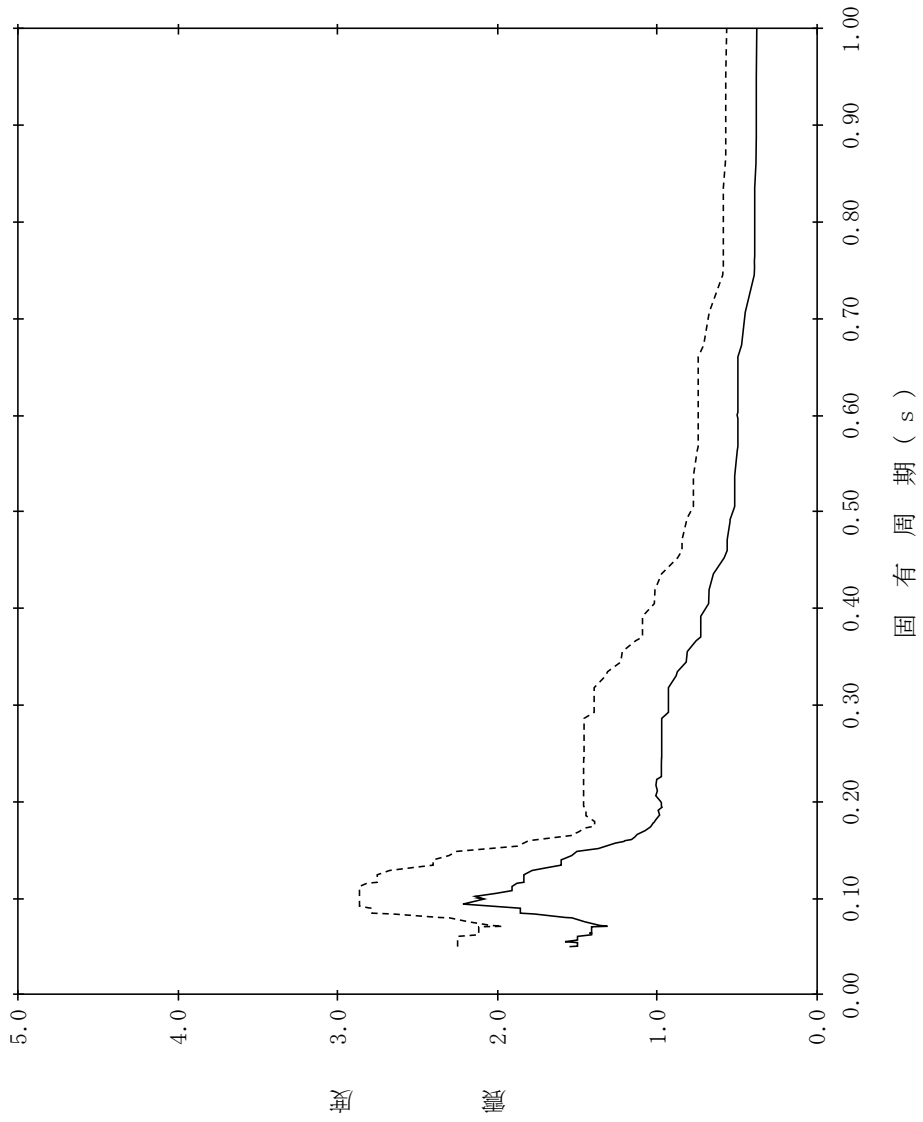
【NS2-PCV-SdV-PCV29】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



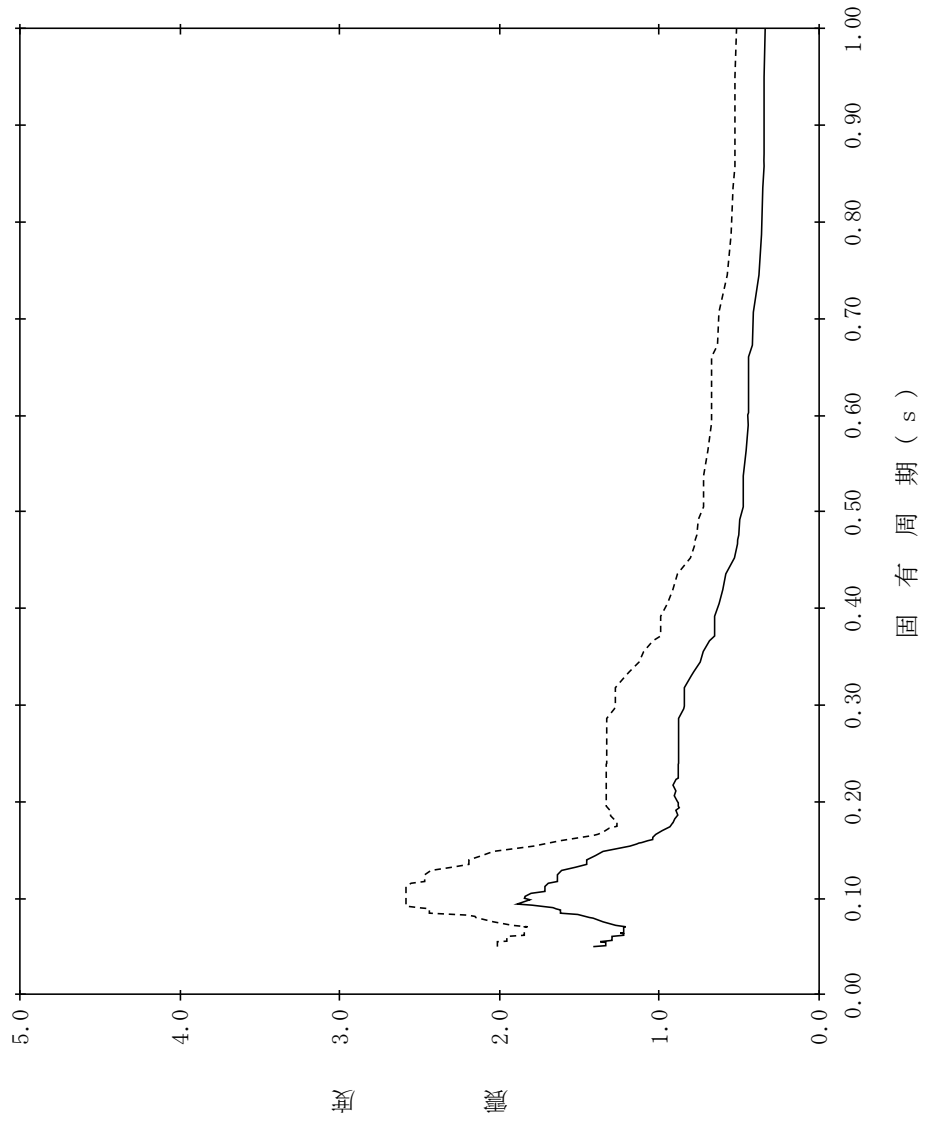
【NS2-PCV-SdV-PCV30】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



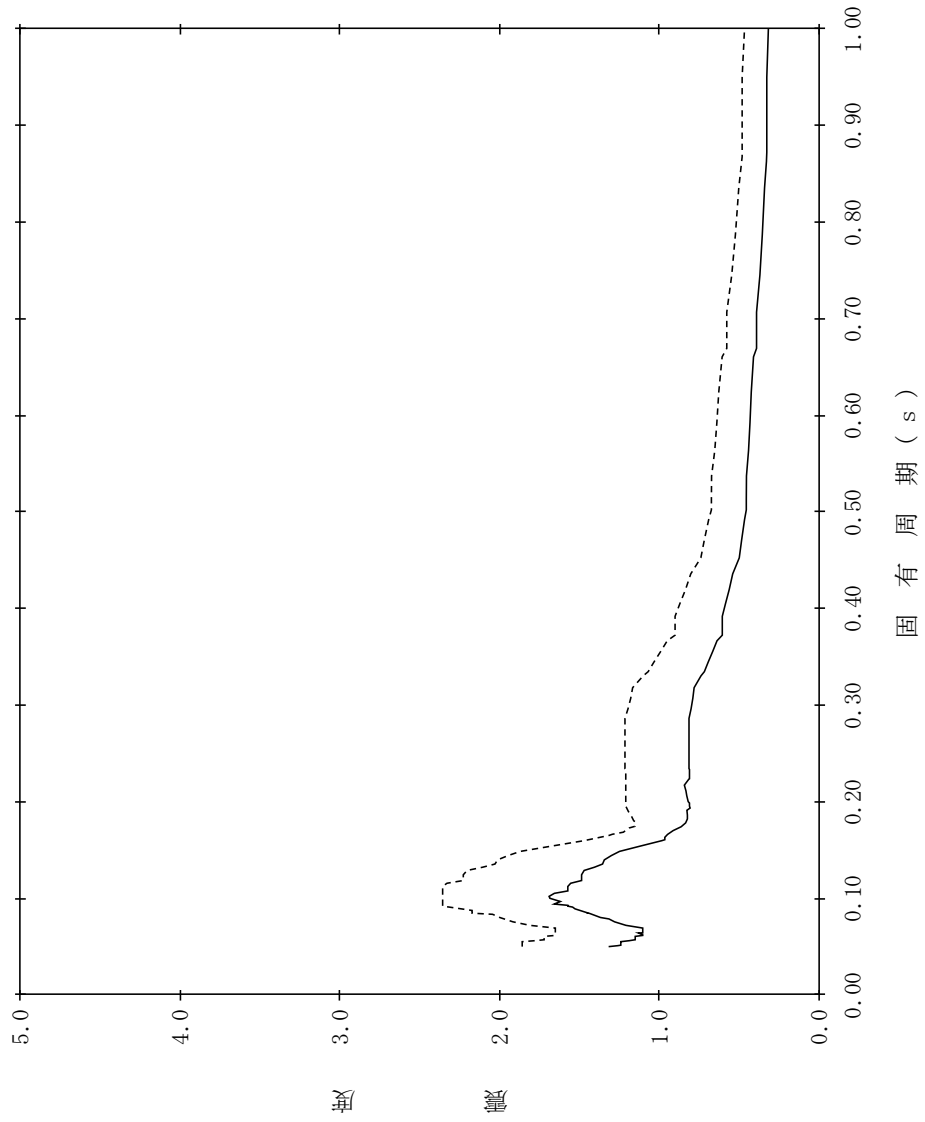
【NS2-PCV-SdV-PCV31】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



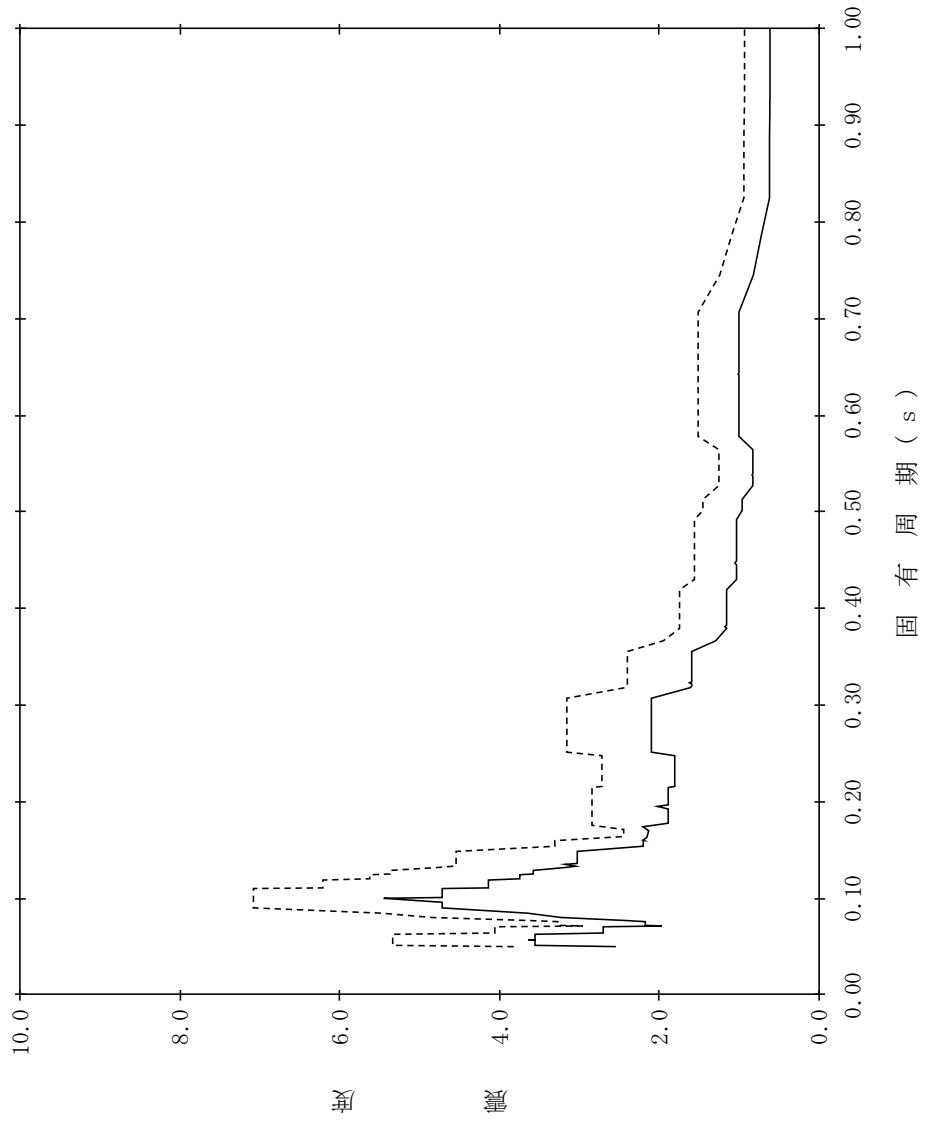
【NS2-PCV-SdV-PCV32】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



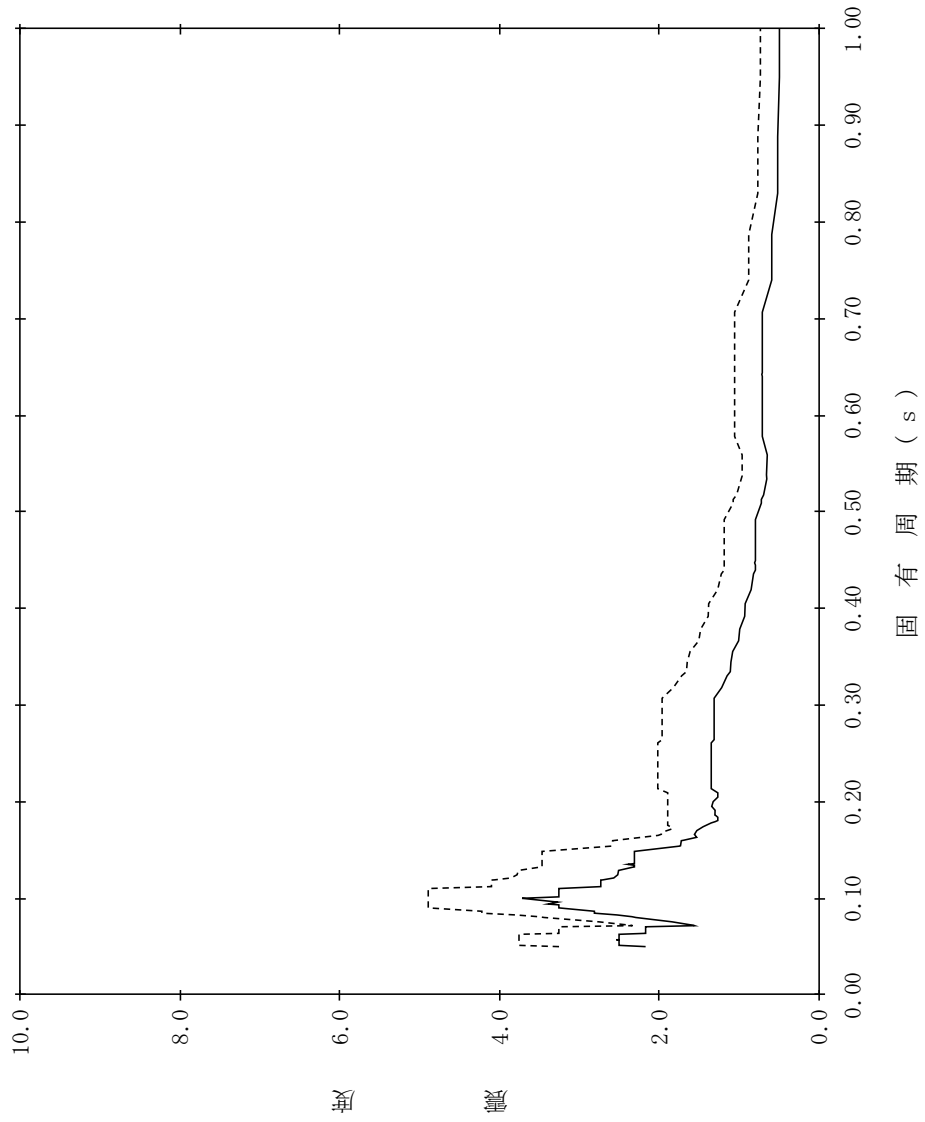
【NS2-PCV-SdV-PCV33】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



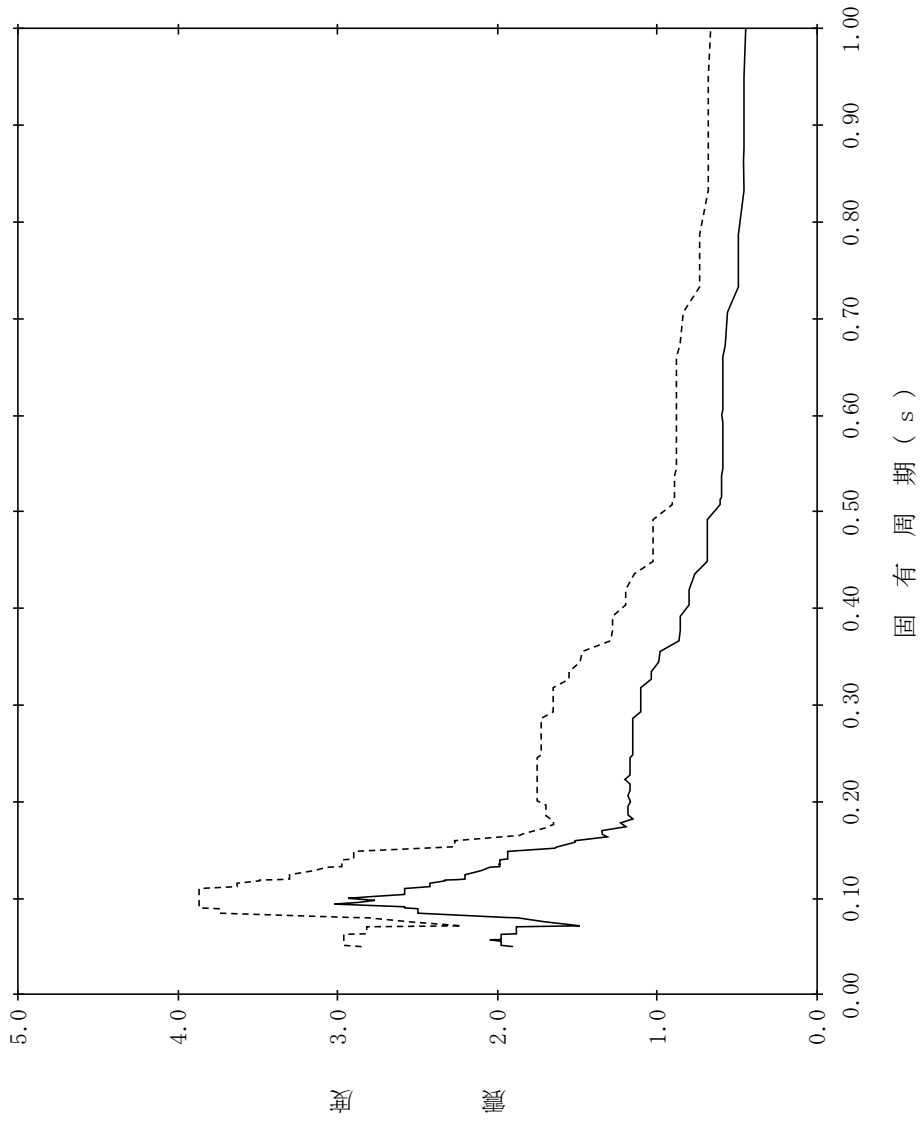
【NS2-PCV-SdV-PCV34】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



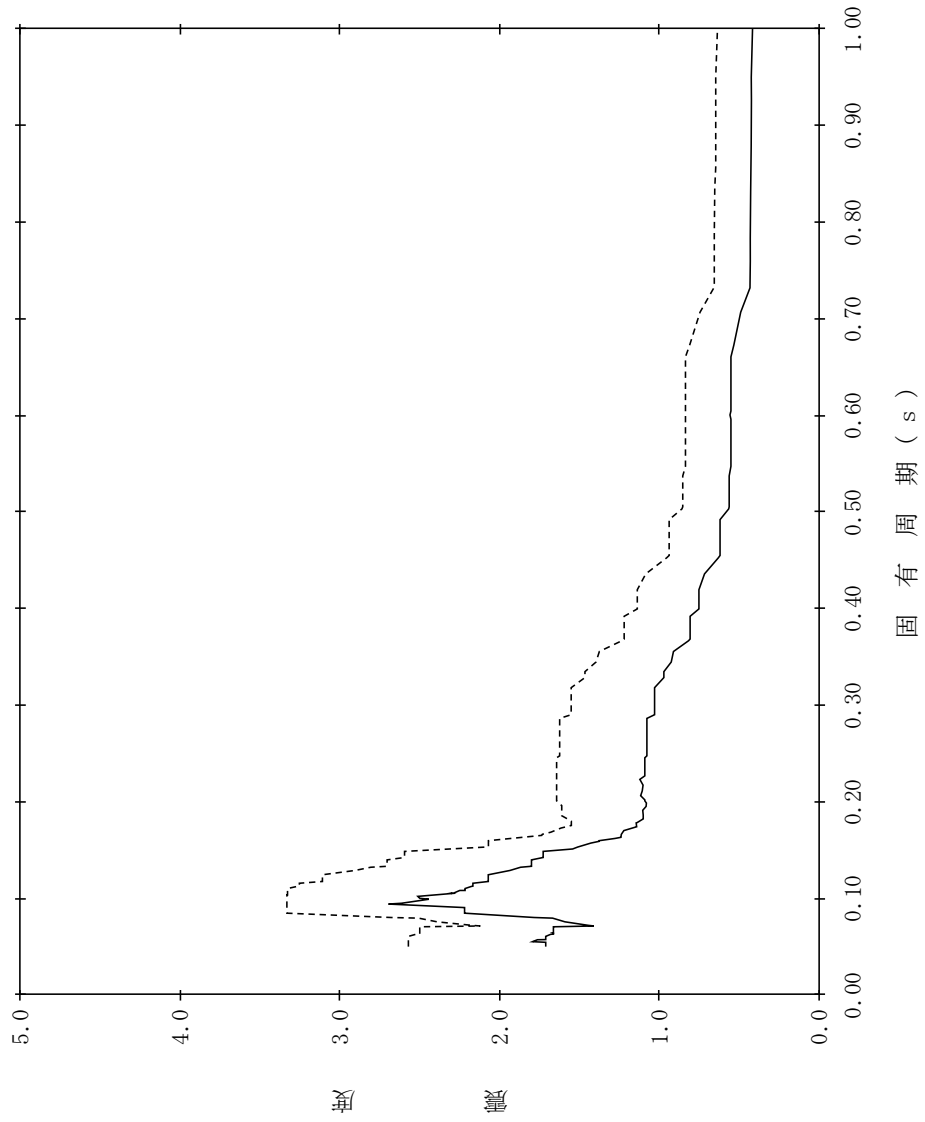
【NS2-PCV-SdV-PCV35】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



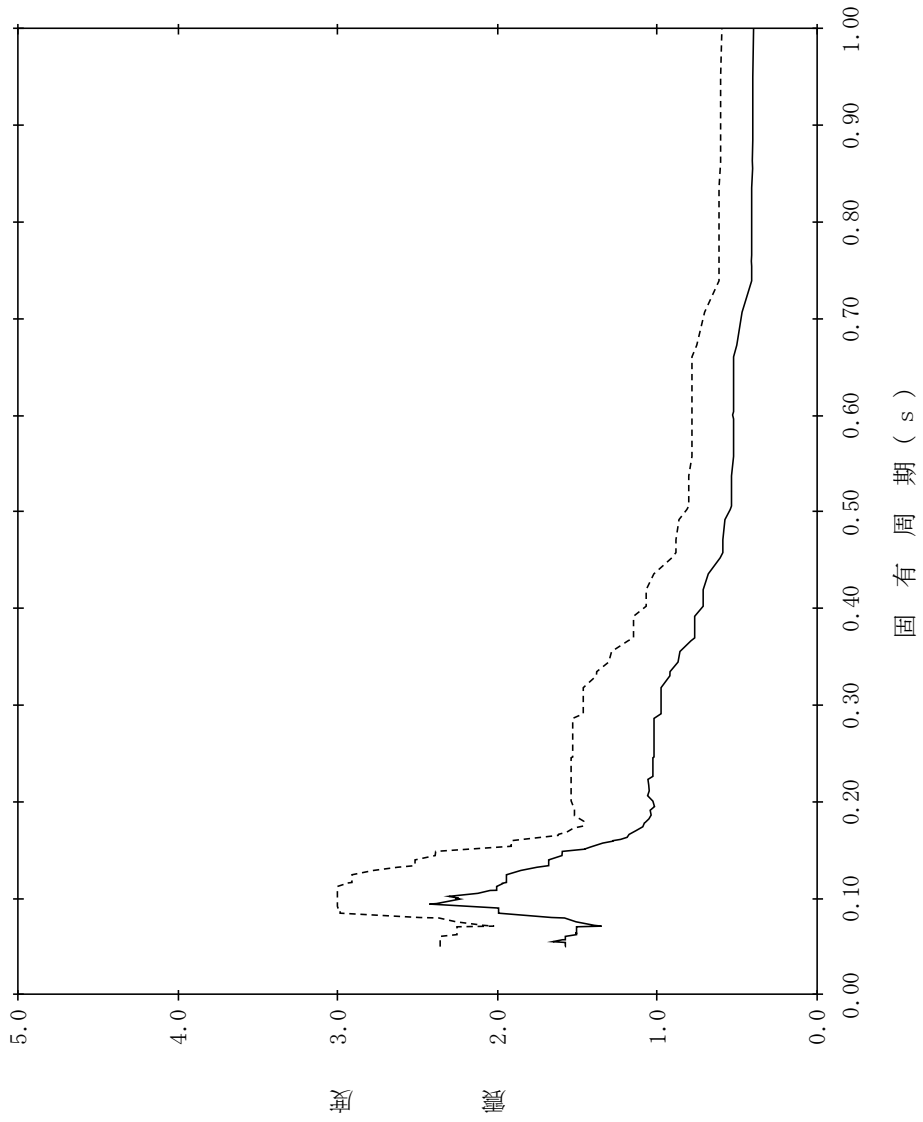
【NS2-PCV-SdV-PCV'36】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



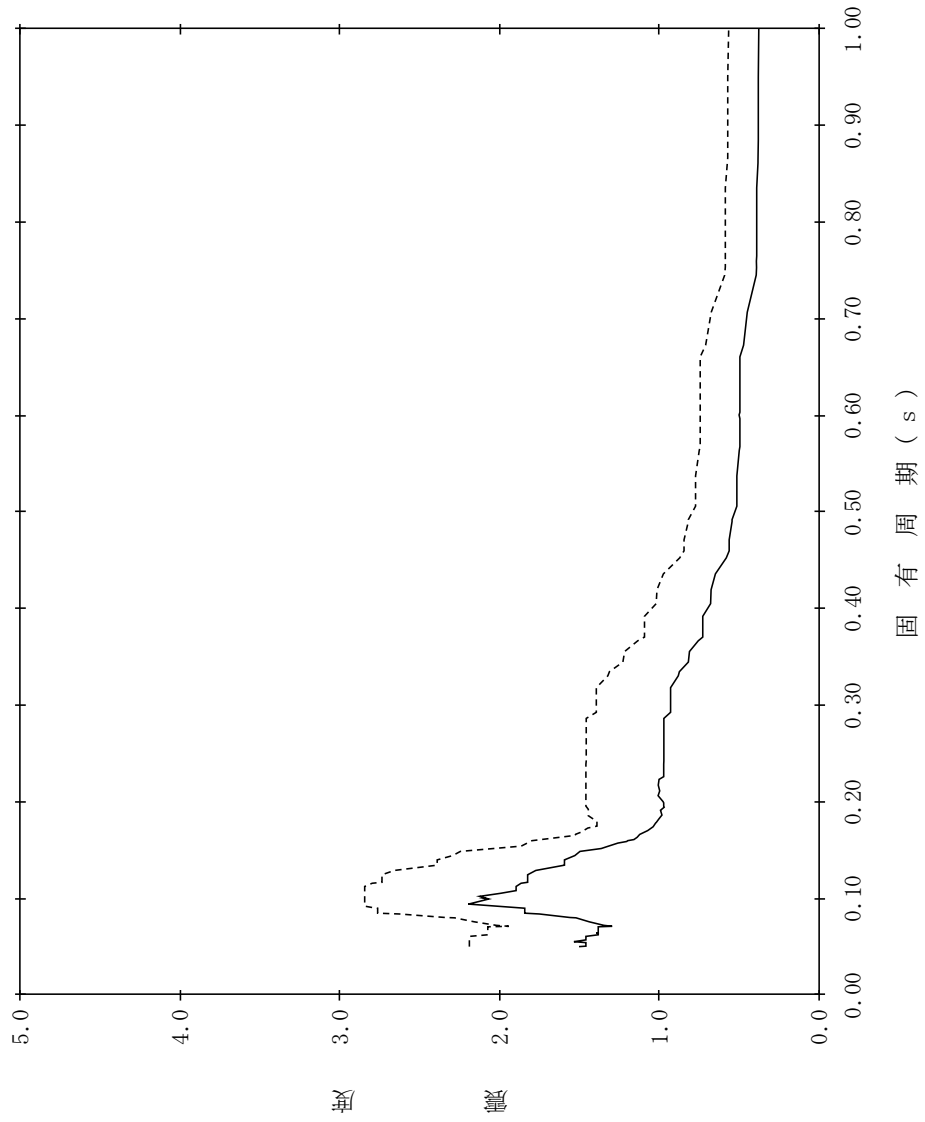
【NS2-PCV-SdV-PCV37】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



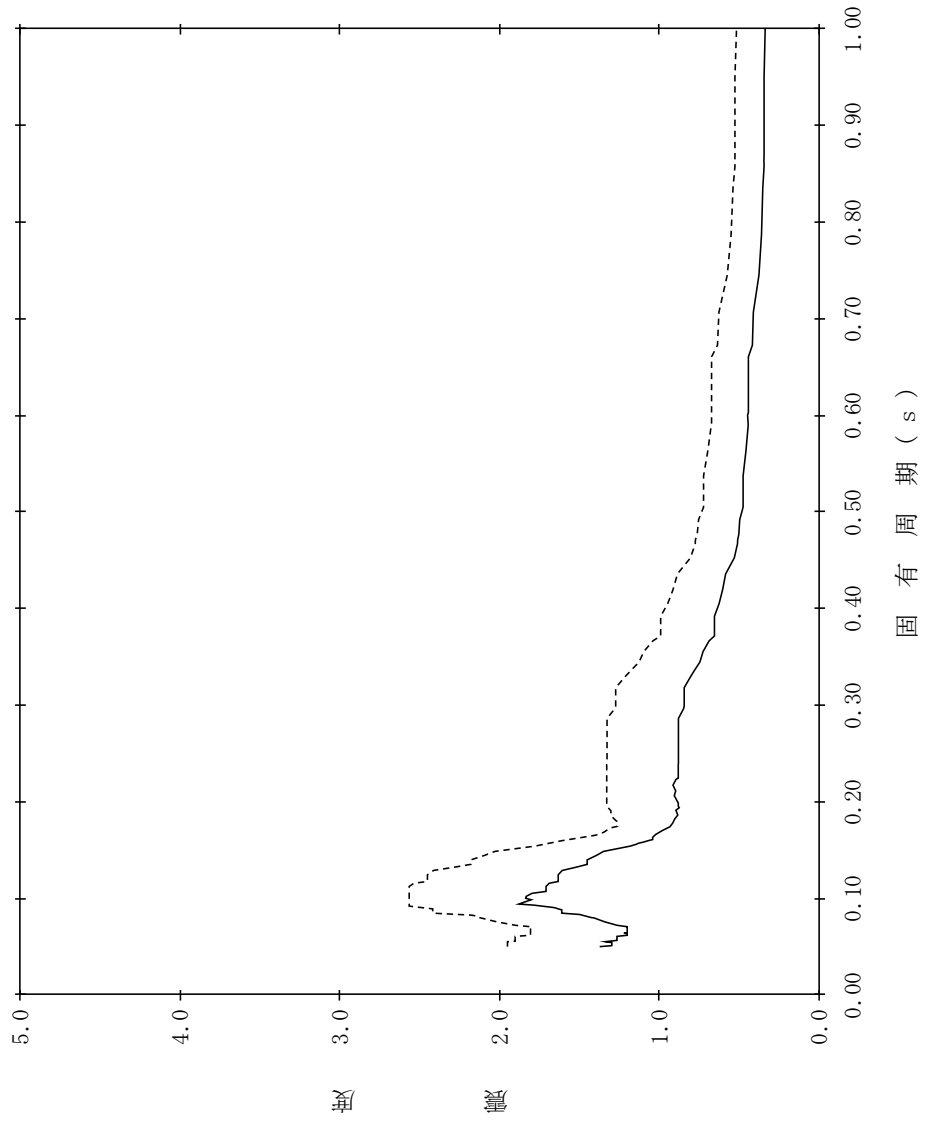
【NS2-PCV-SdV-PCV'38】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



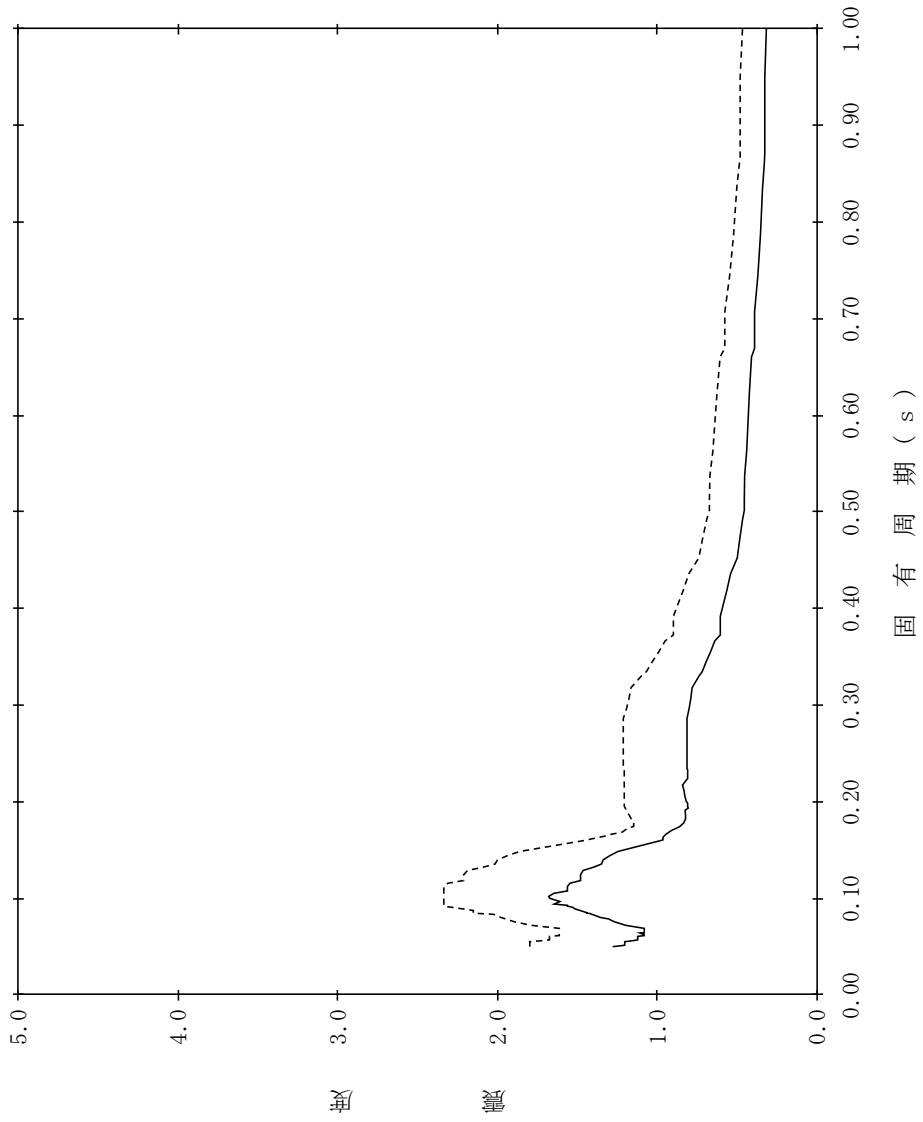
【NS2-PCV-SdV-PCV39】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



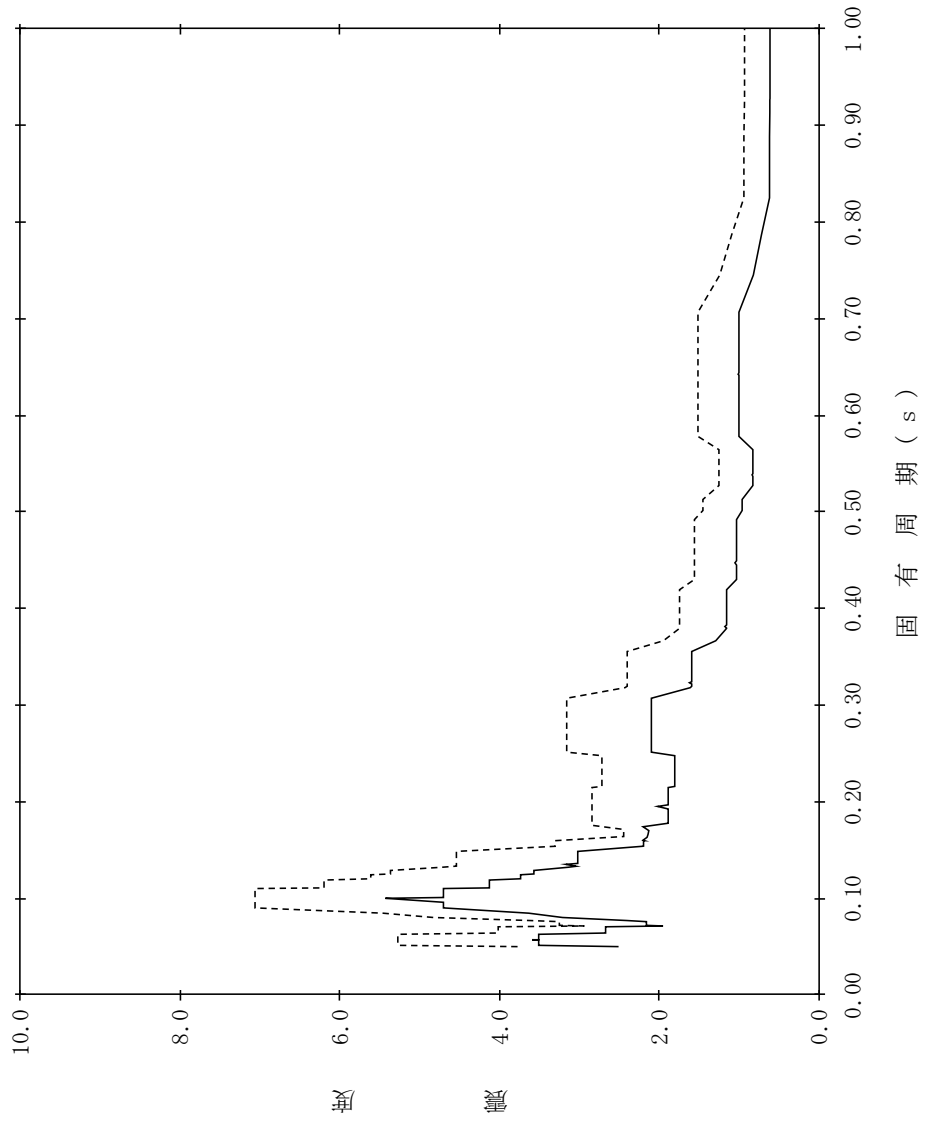
【NS2-PCV-SdV-PCV40】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



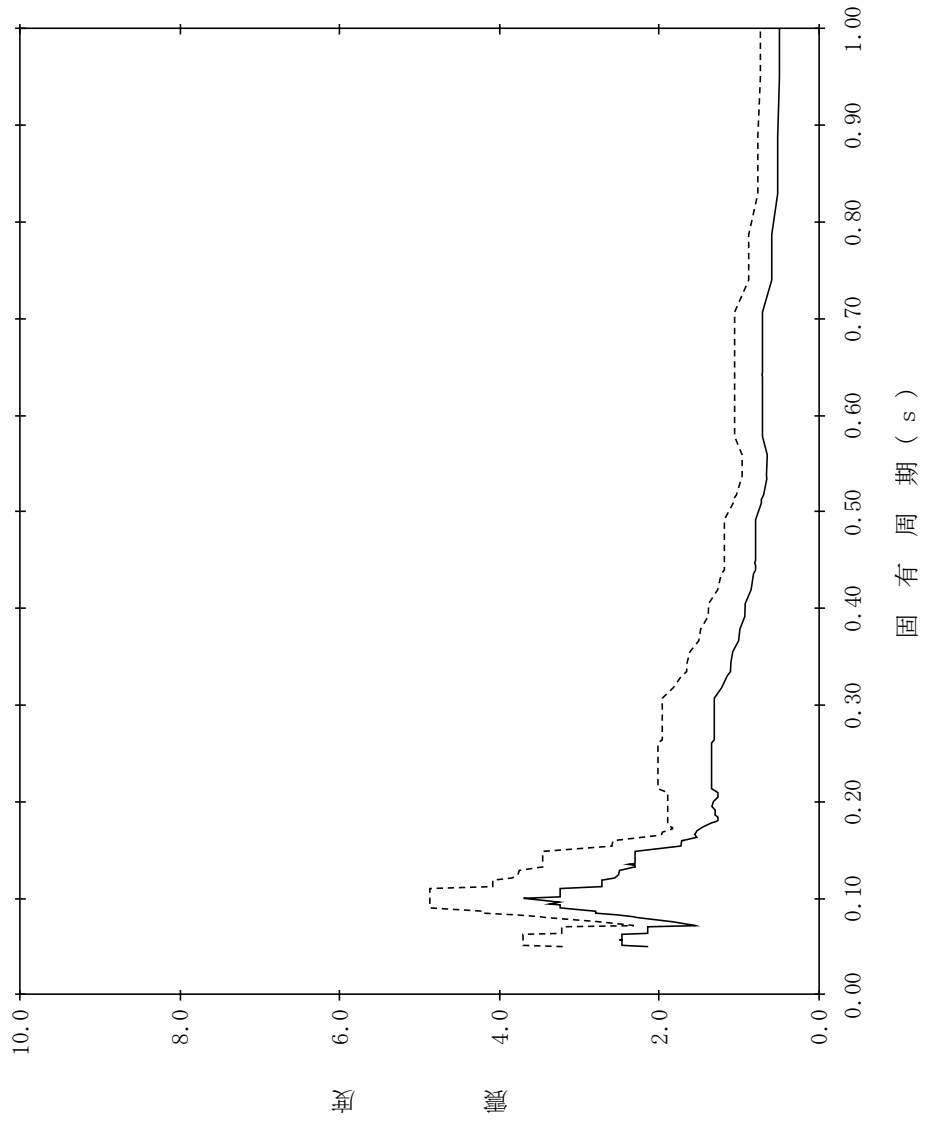
【NS2-PCV-SdV-PCV41】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



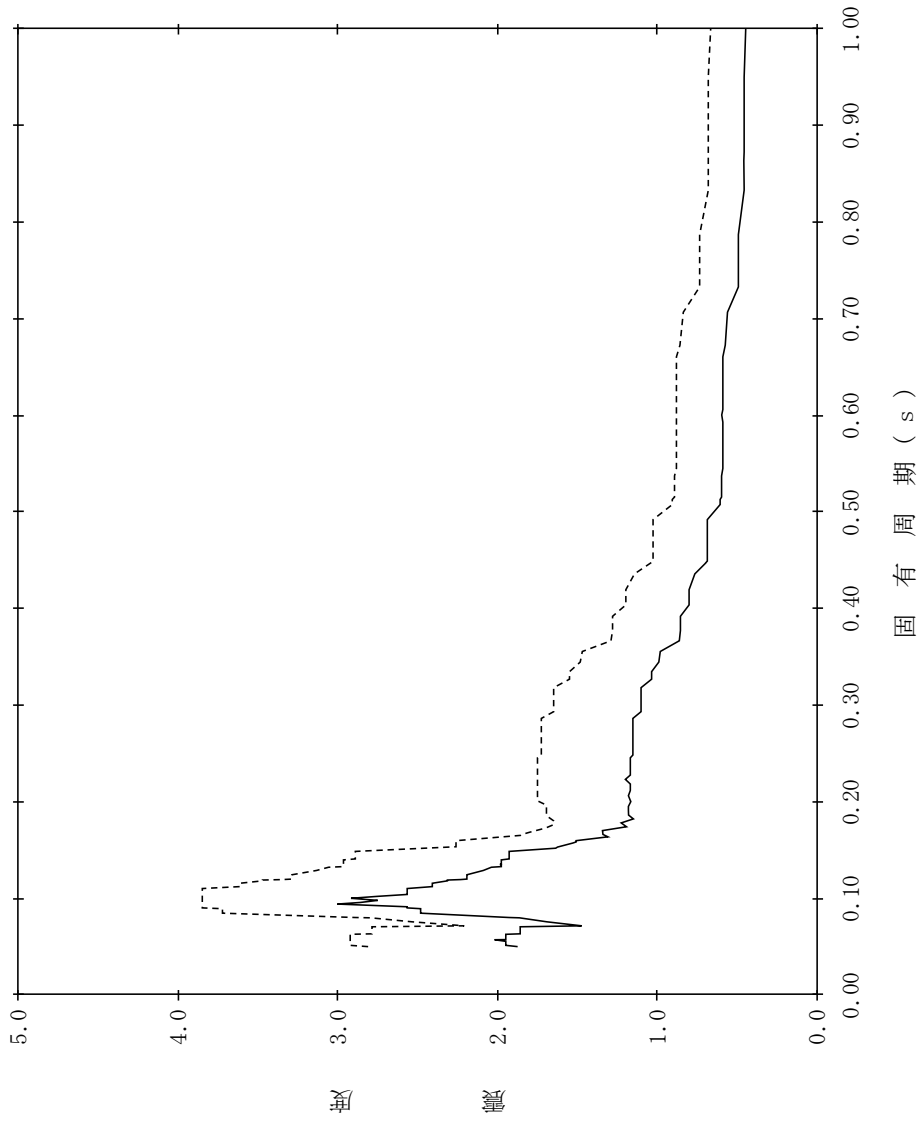
【NS2-PCV-SdV-PCV42】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL27.907m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



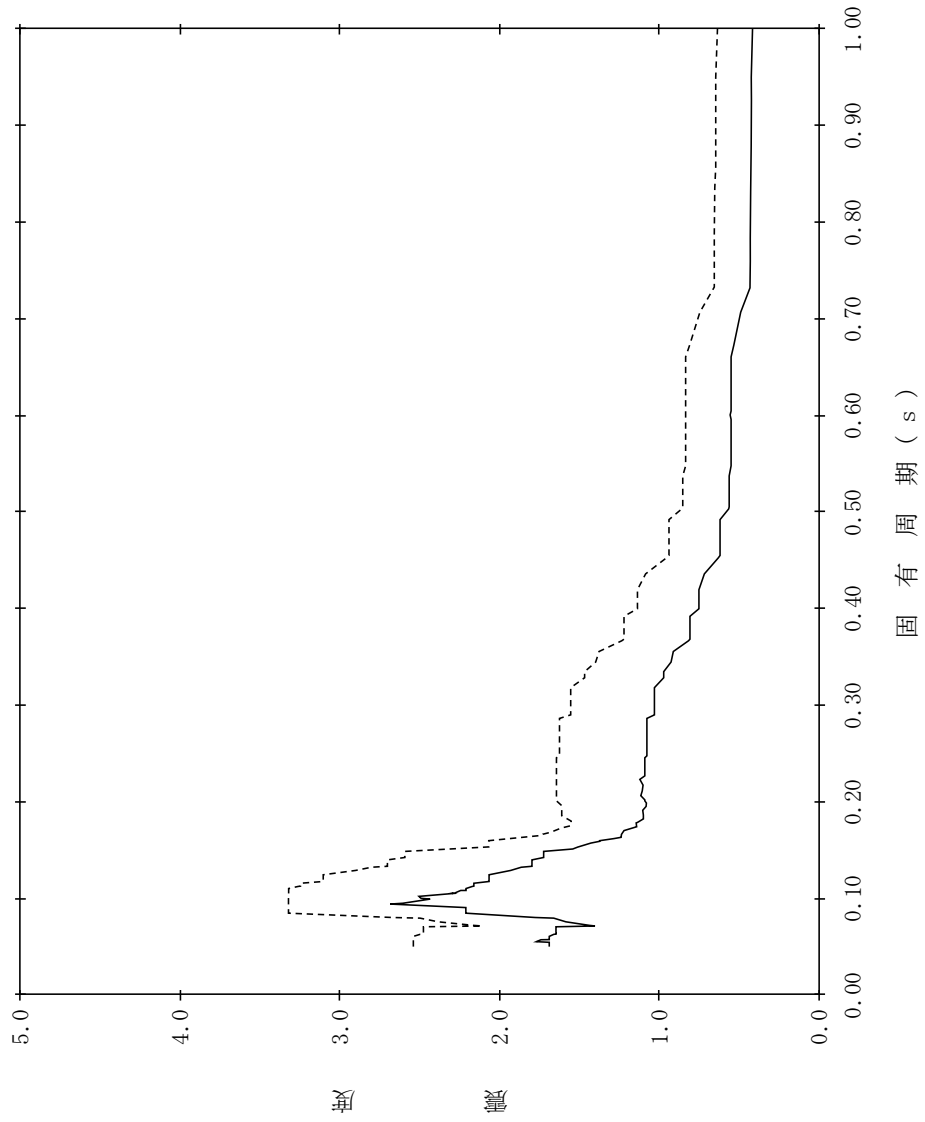
【NS2-PCV-SdV-PCV43】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



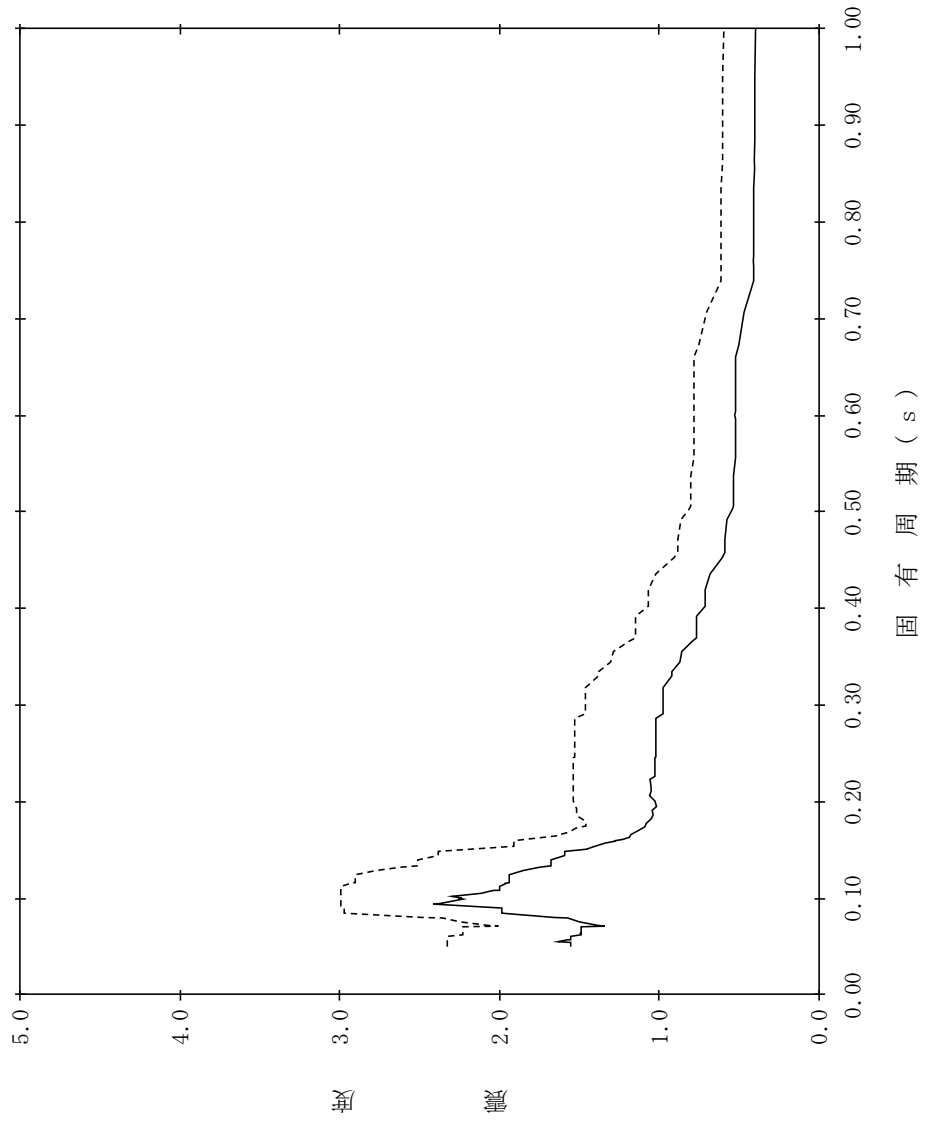
【NS2-PCV-SdV-PCV44】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



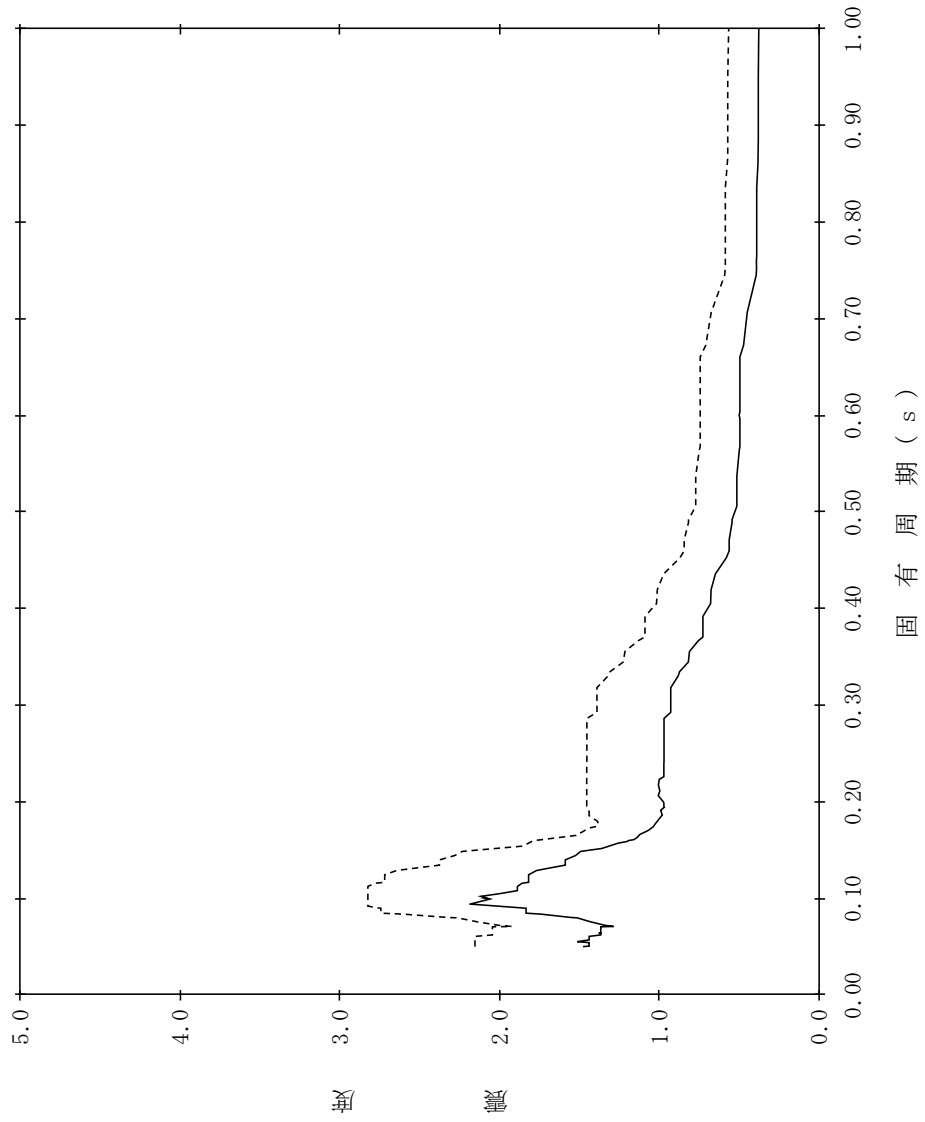
【NS2-PCV-SdV-PCV45】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



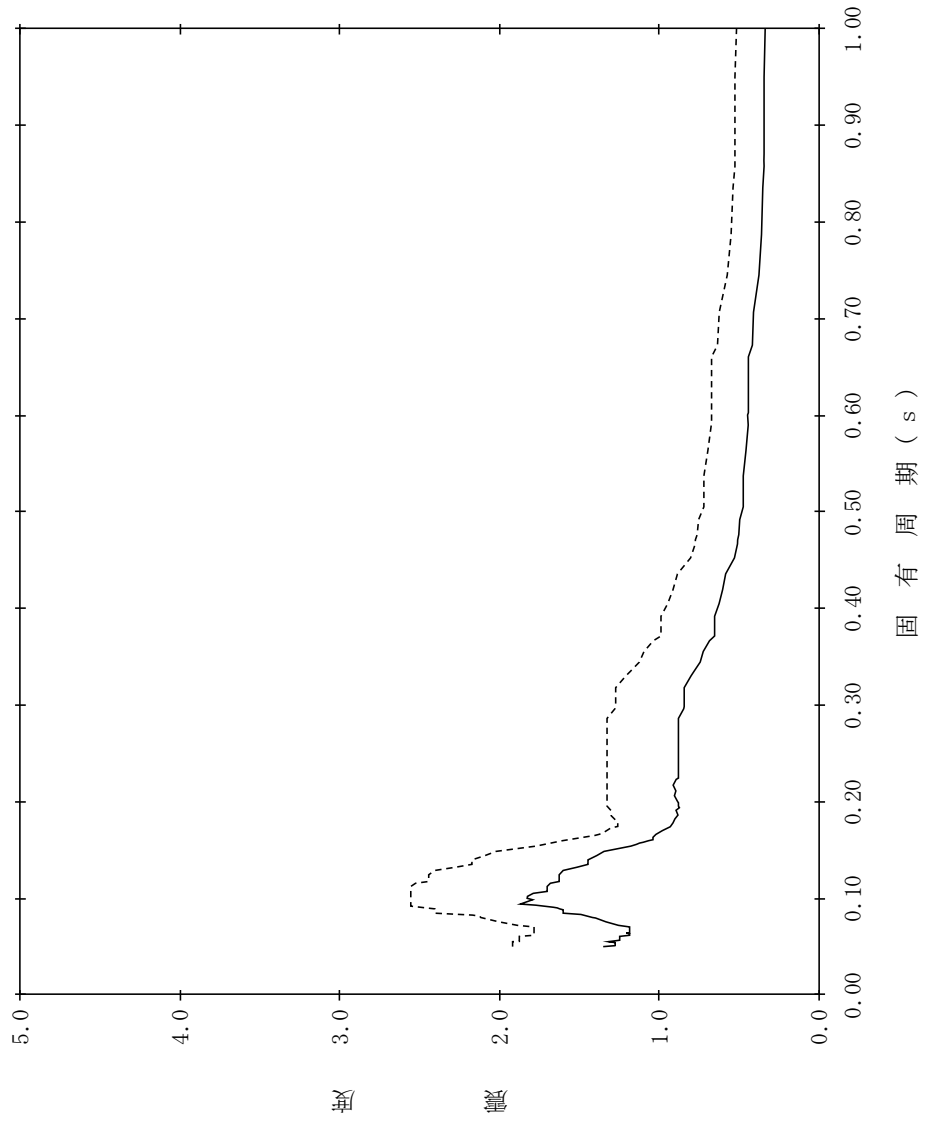
【NS2-PCV-SdV-PCV46】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



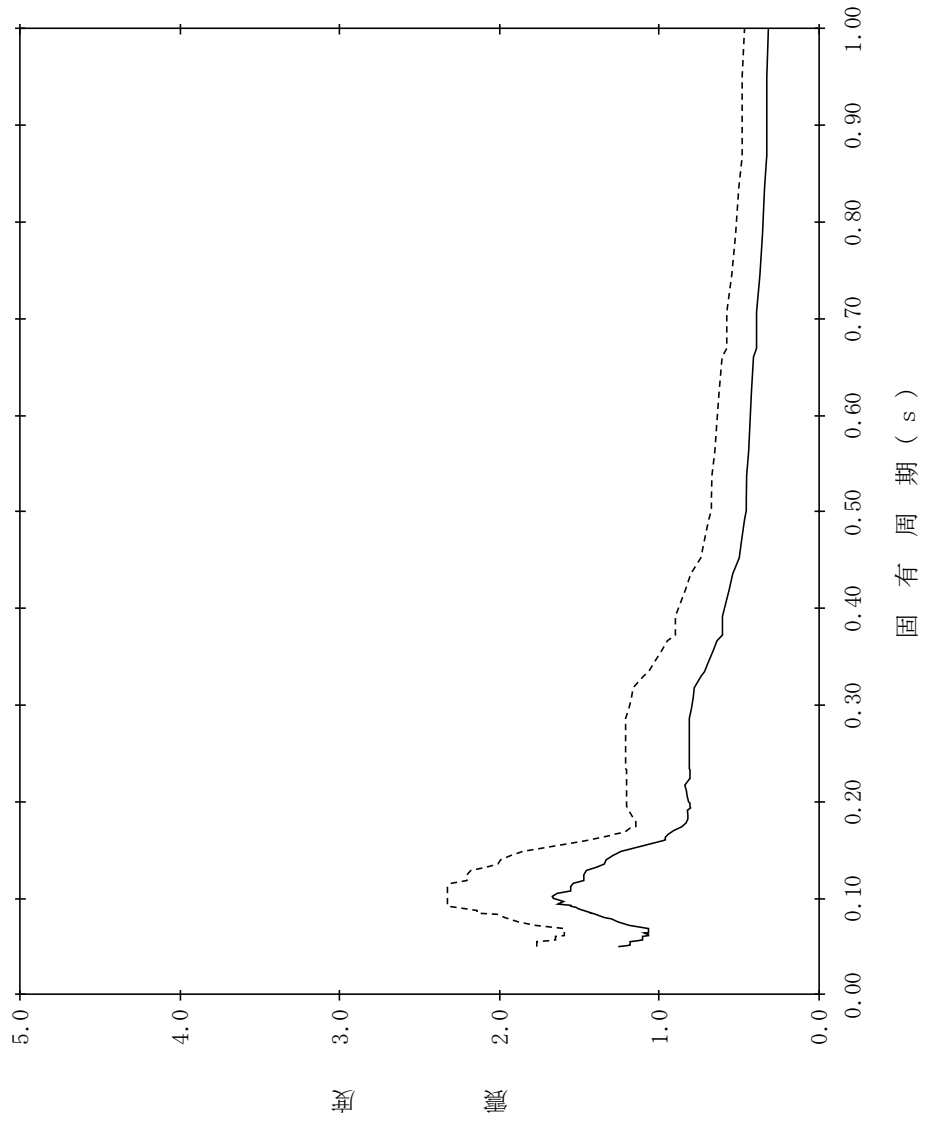
【NS2-PCV-SdV-PCV47】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



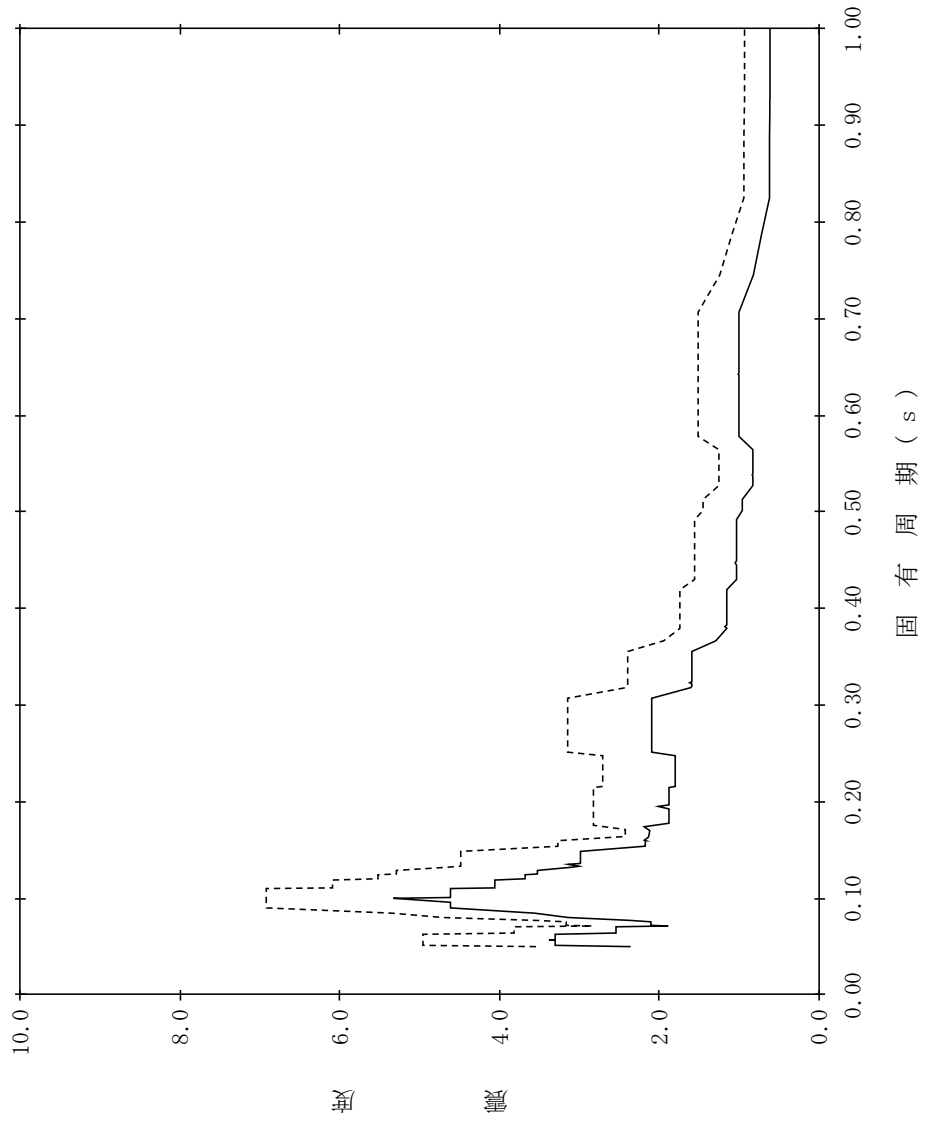
【NS2-PCV-SdV-PCV48】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL27.907m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



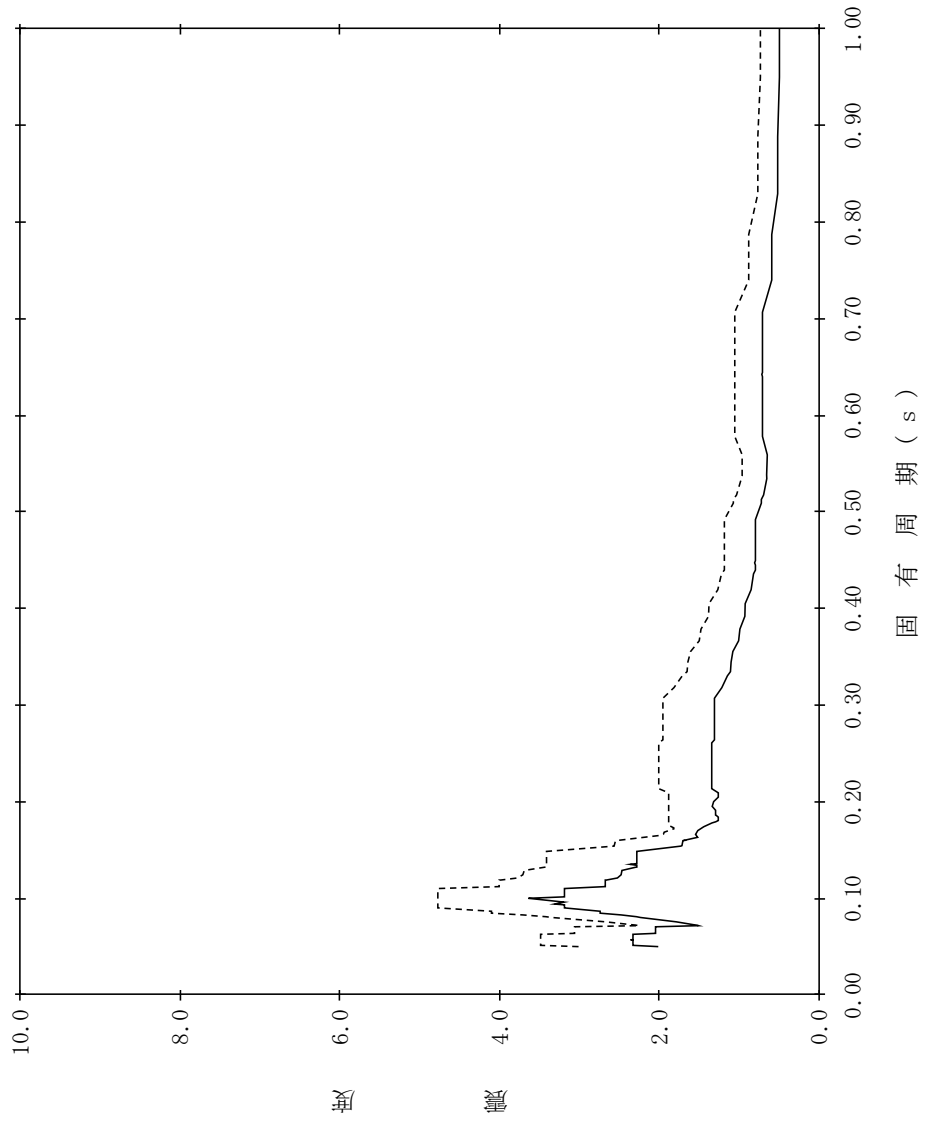
【NS2-PCV-SdV-PCV49】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



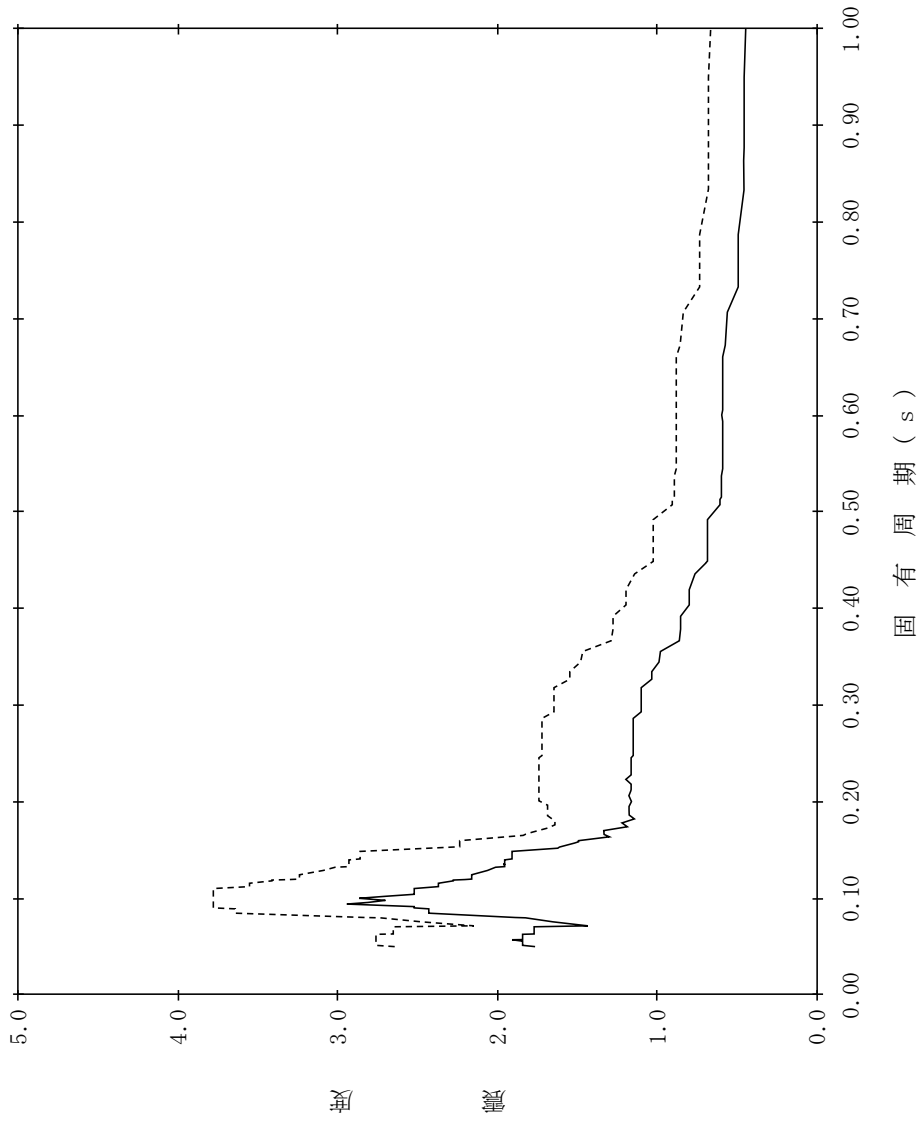
【NS2-PCV-SdV-PCV50】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL22.932m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



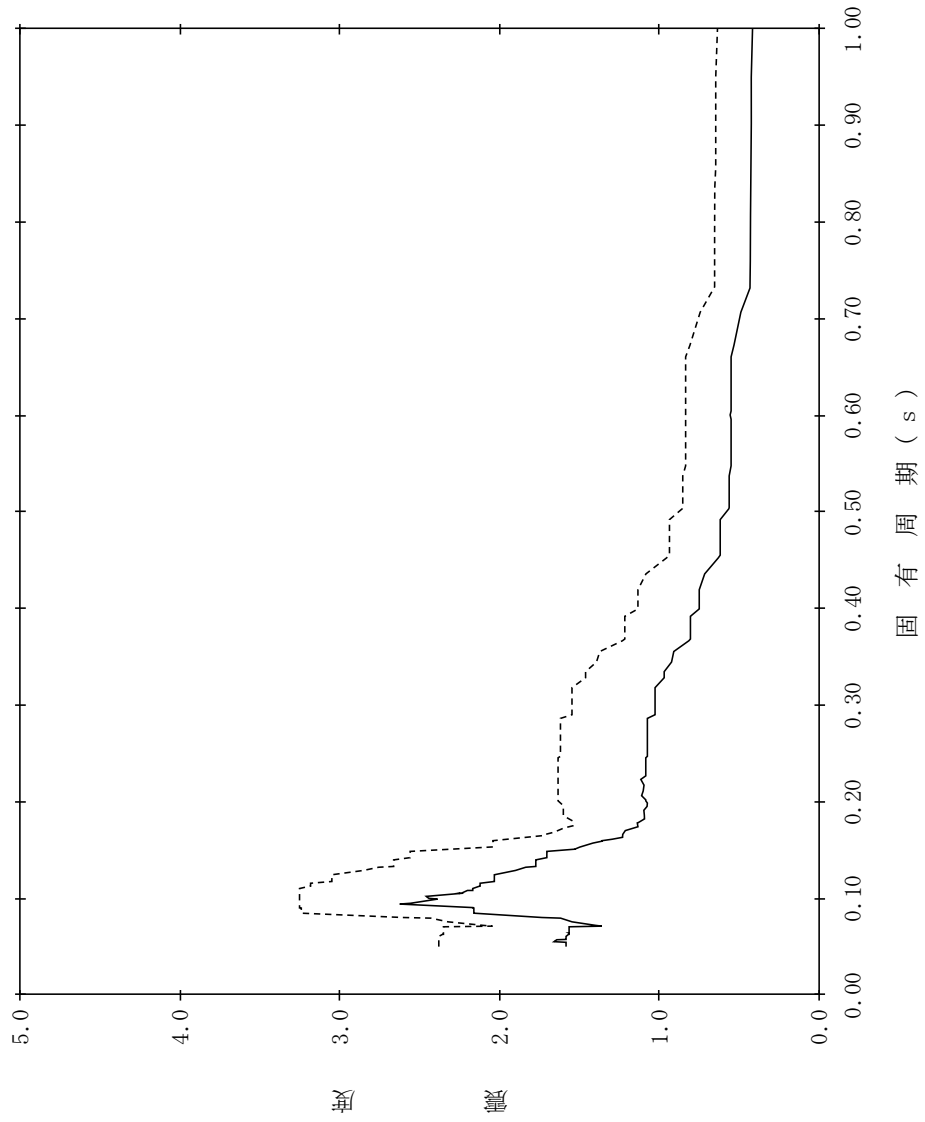
【NS2-PCV-SdV-PCV51】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



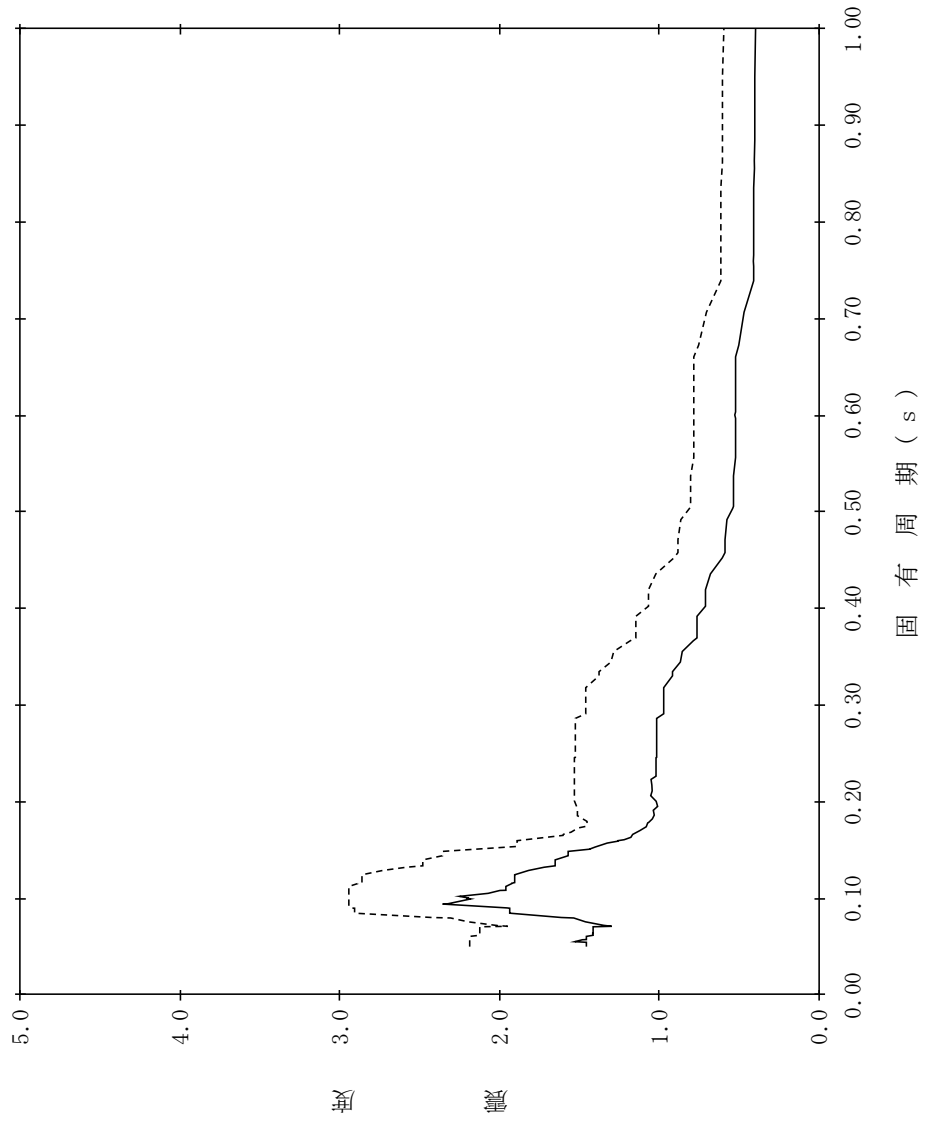
【NS2-PCV-SdV-PCV52】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL22.932m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



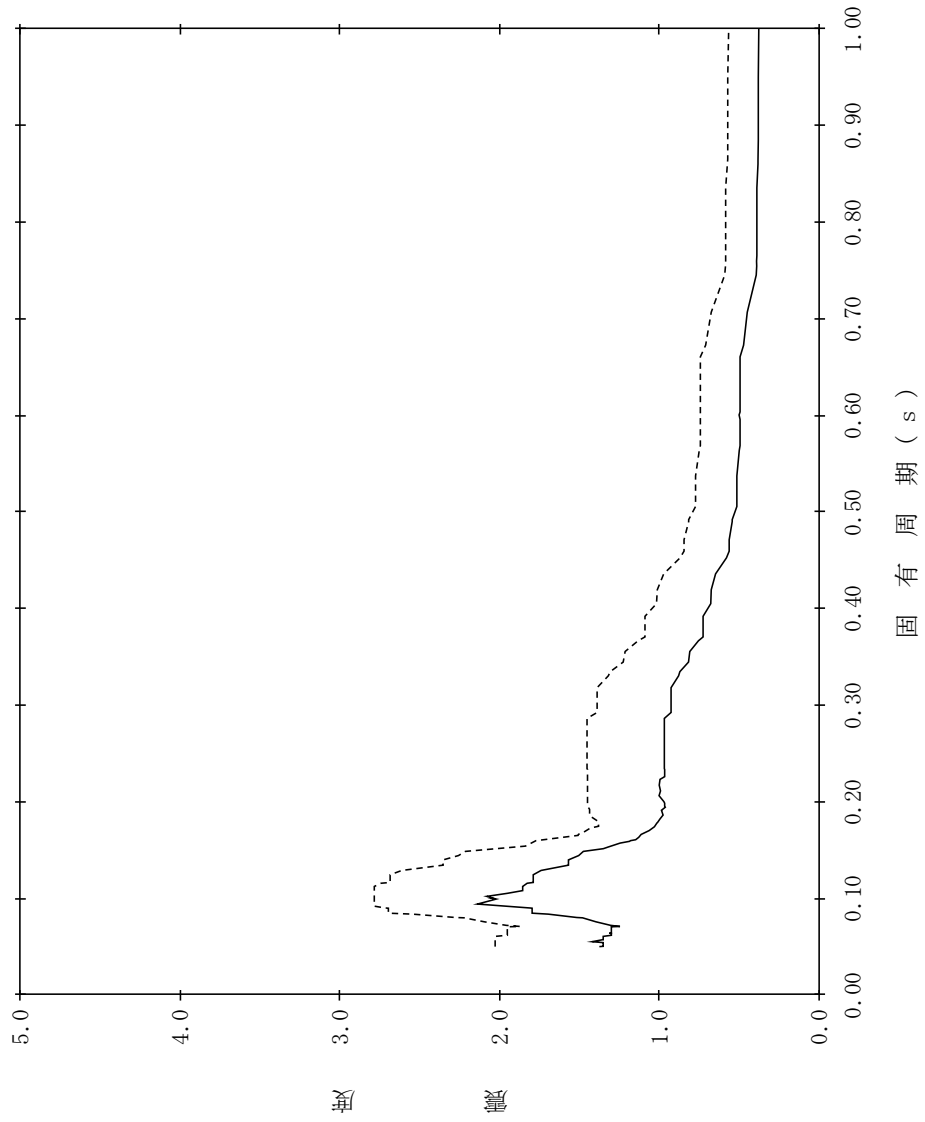
【NS2-PCV-SdV-PCV53】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL22.932m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



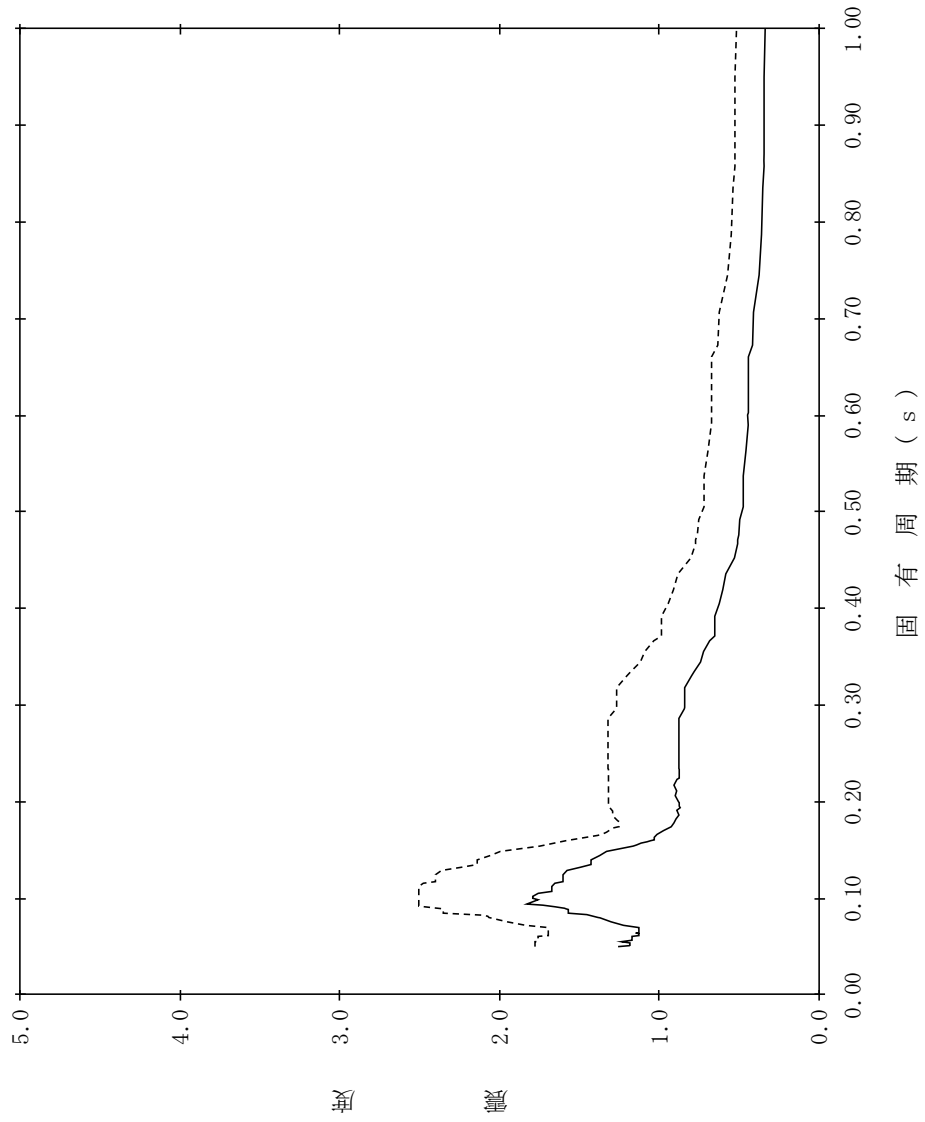
【NS2-PCV-SdV-PCV54】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



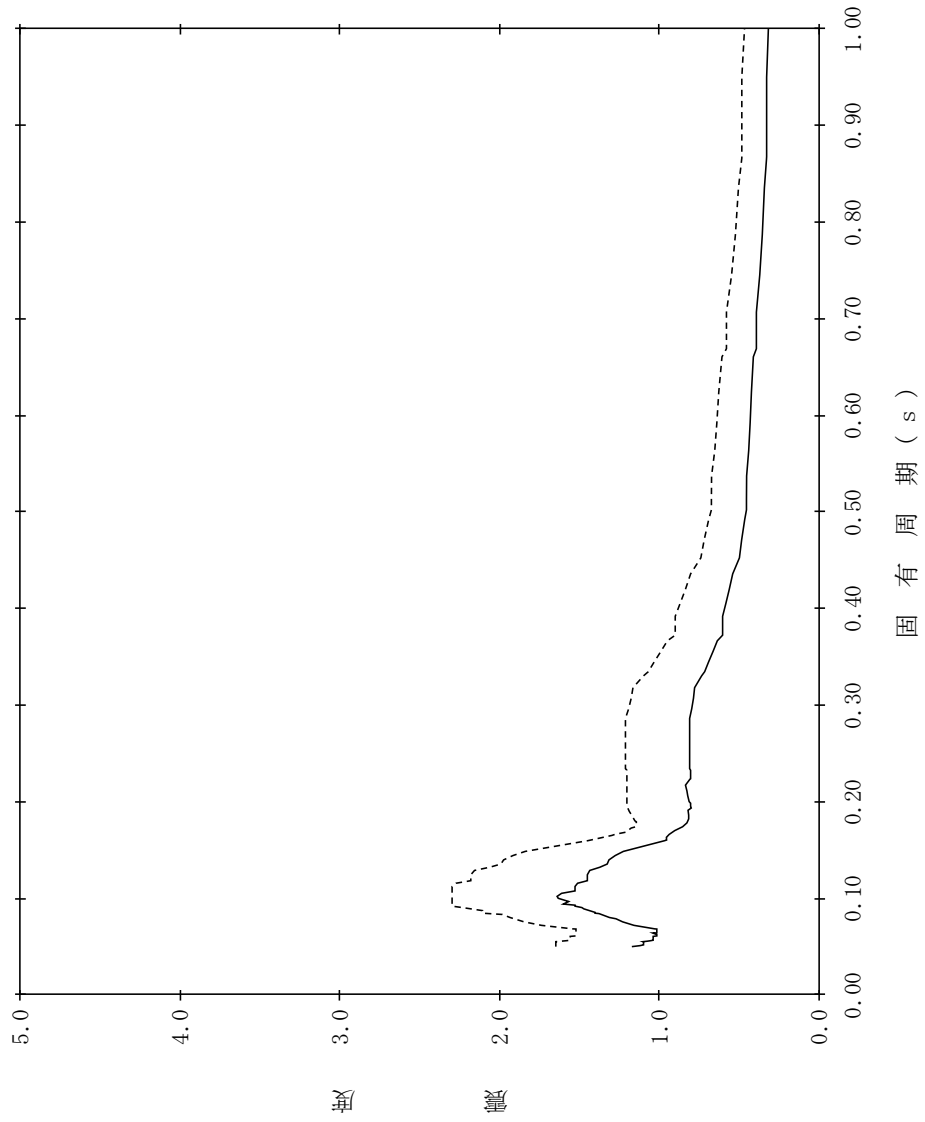
【NS2-PCV-SdV-PCV55】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



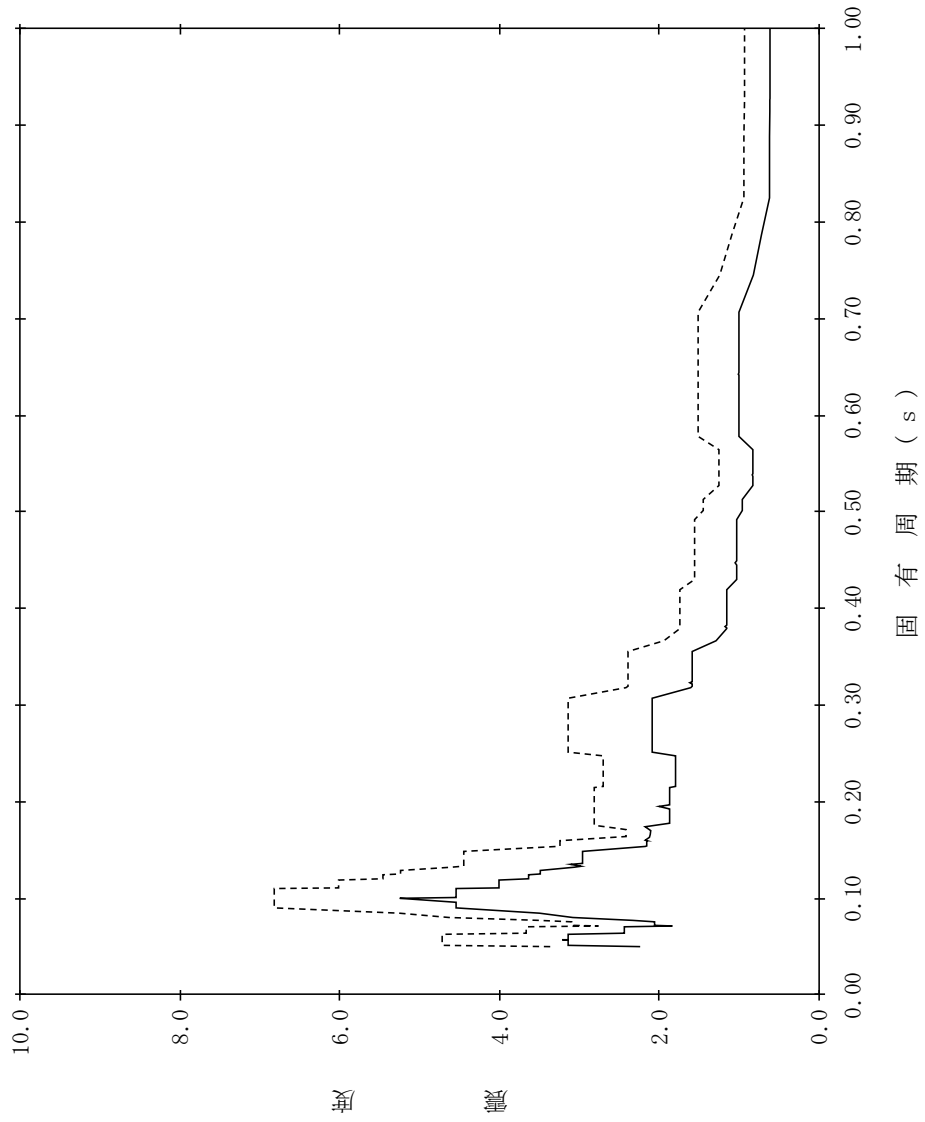
【NS2-PCV-SdV-PCV56】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



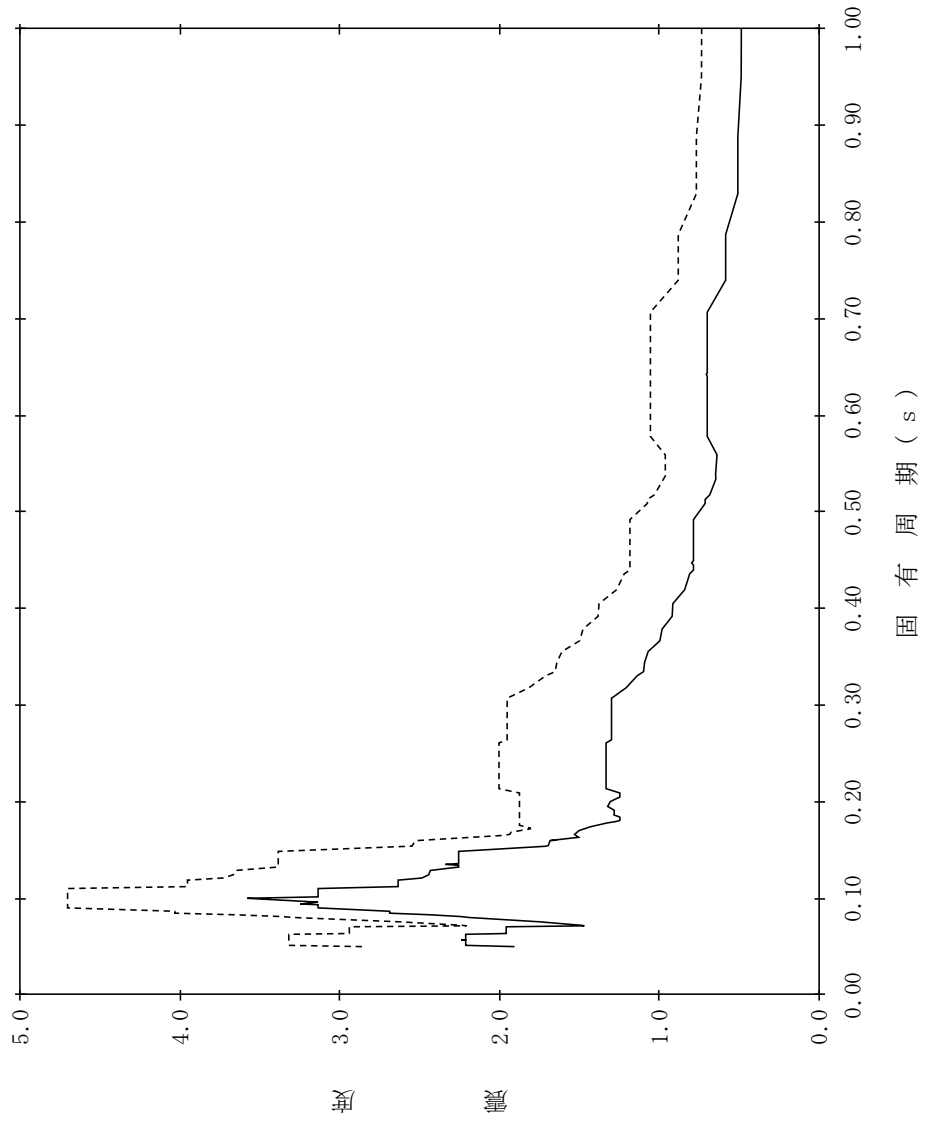
【NS2-PCV-SdV-PCV57】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



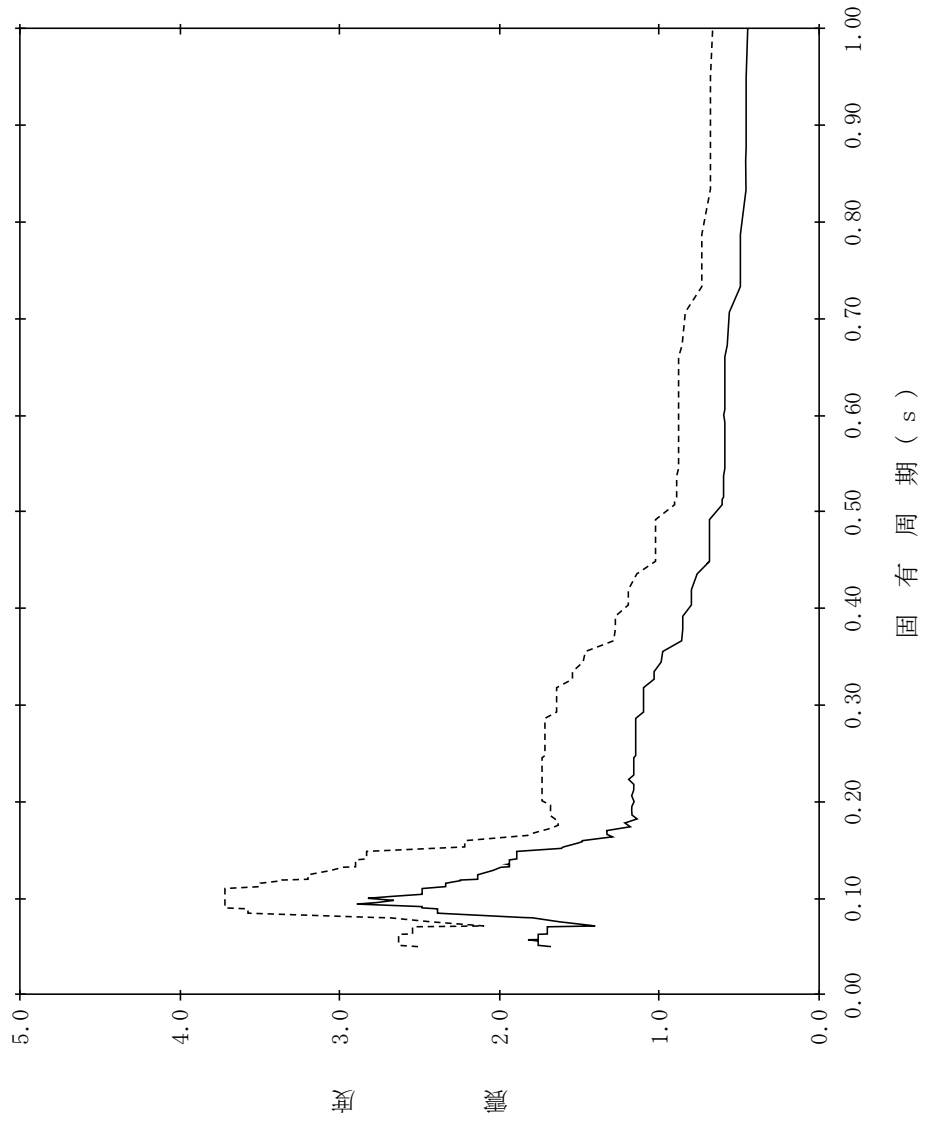
【NS2-PCV-SdV-PCV58】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



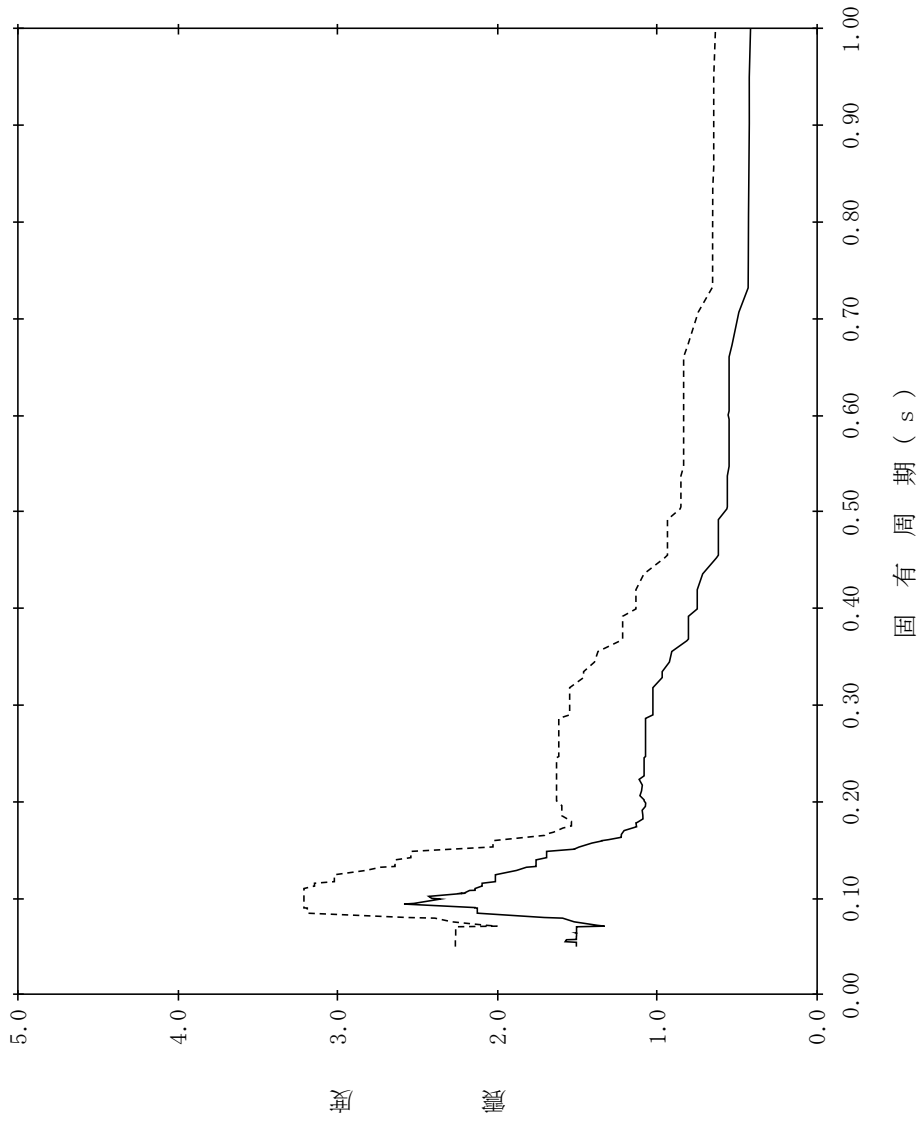
【NS2-PCV-SdV-PCV59】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



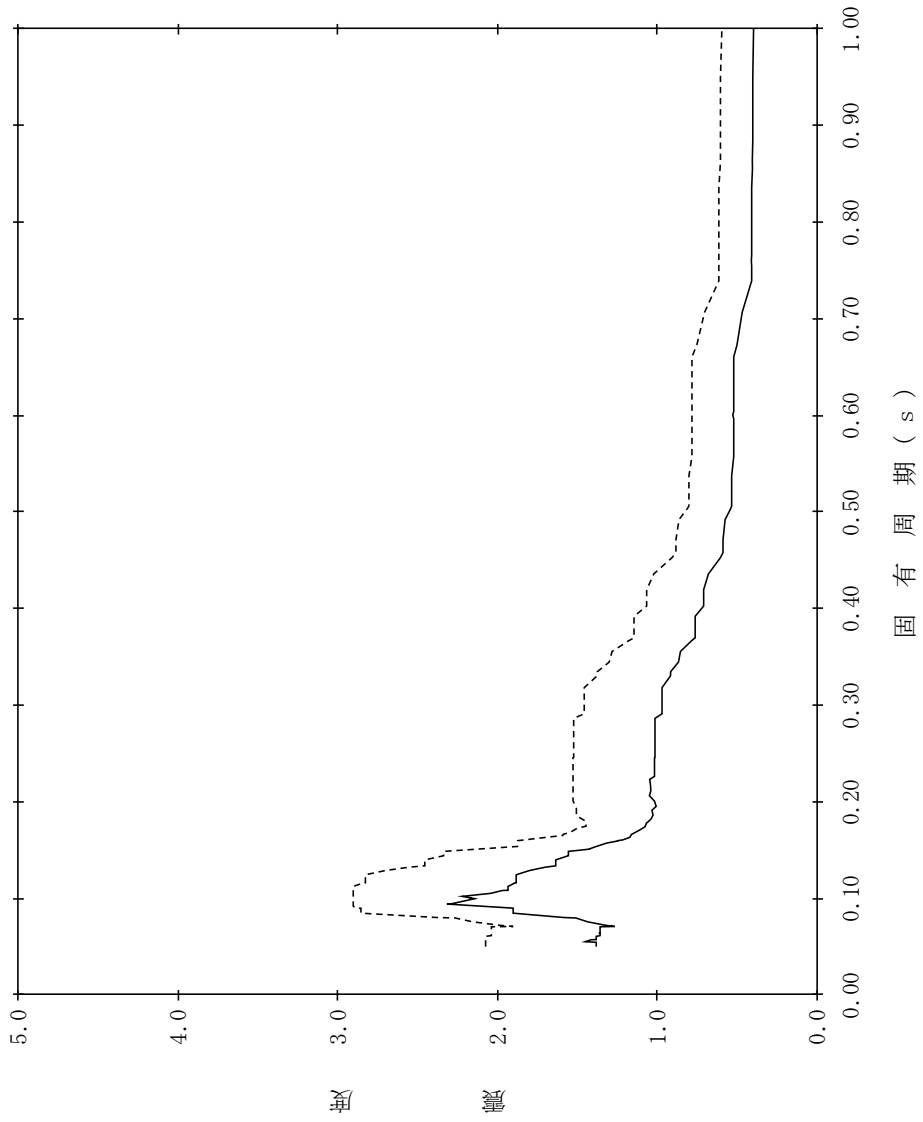
【NS2-PCV-SdV-PCV60】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



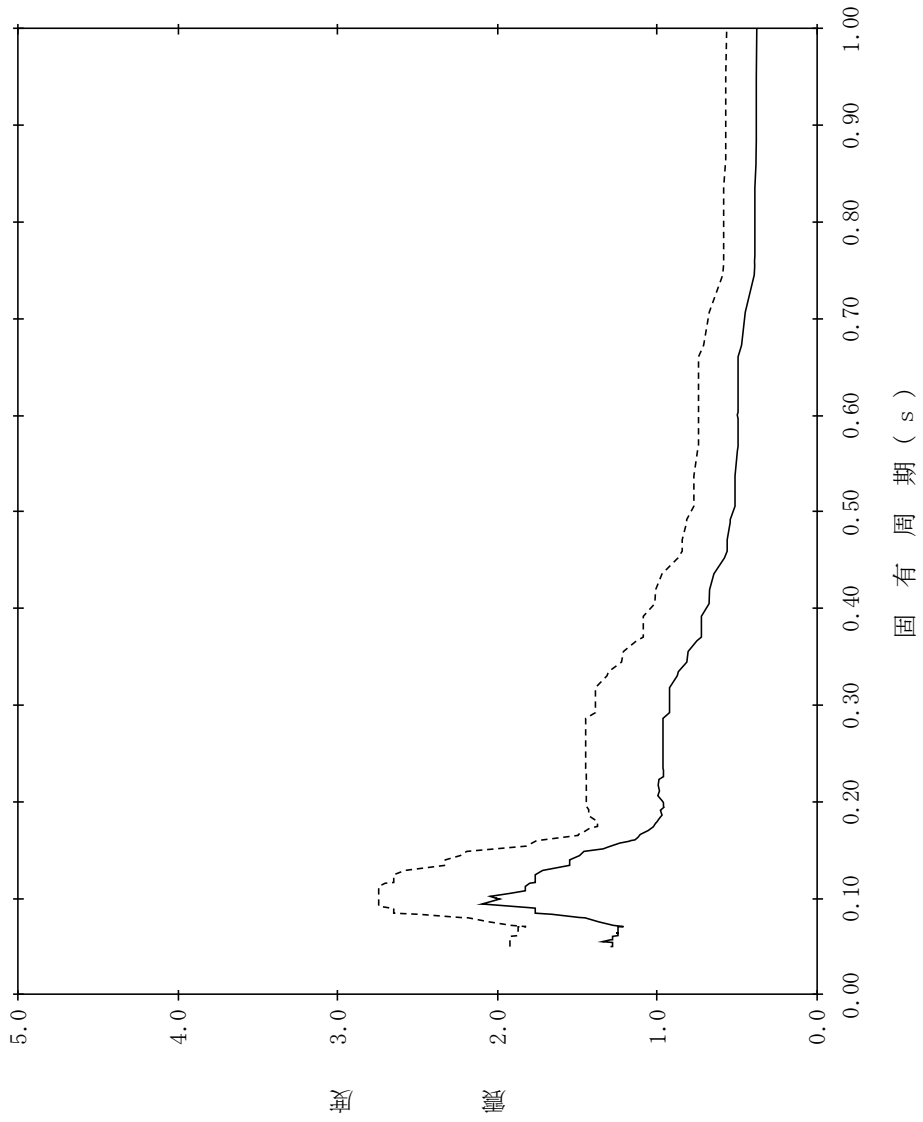
【NS2-PCV-SdV-PCV61】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



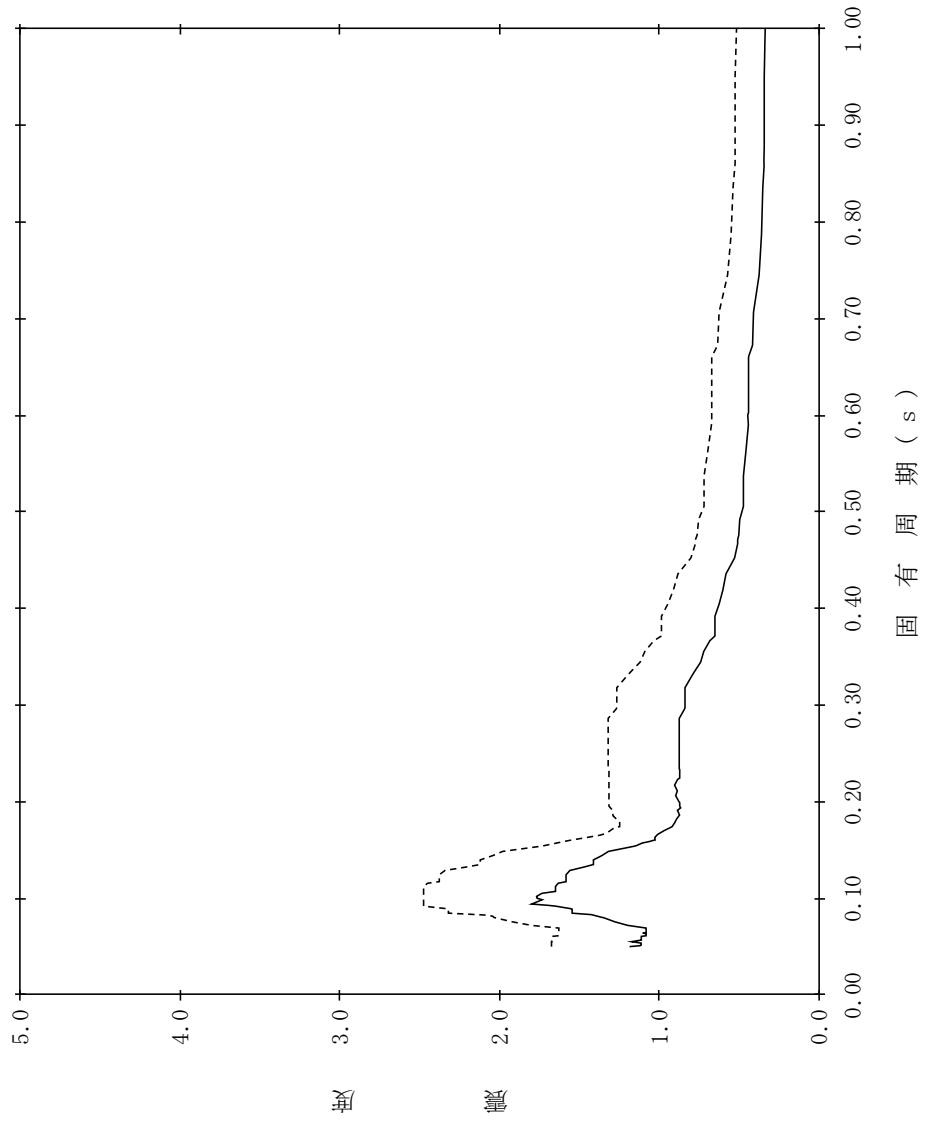
【NS2-PCV-SdV-PCV62】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



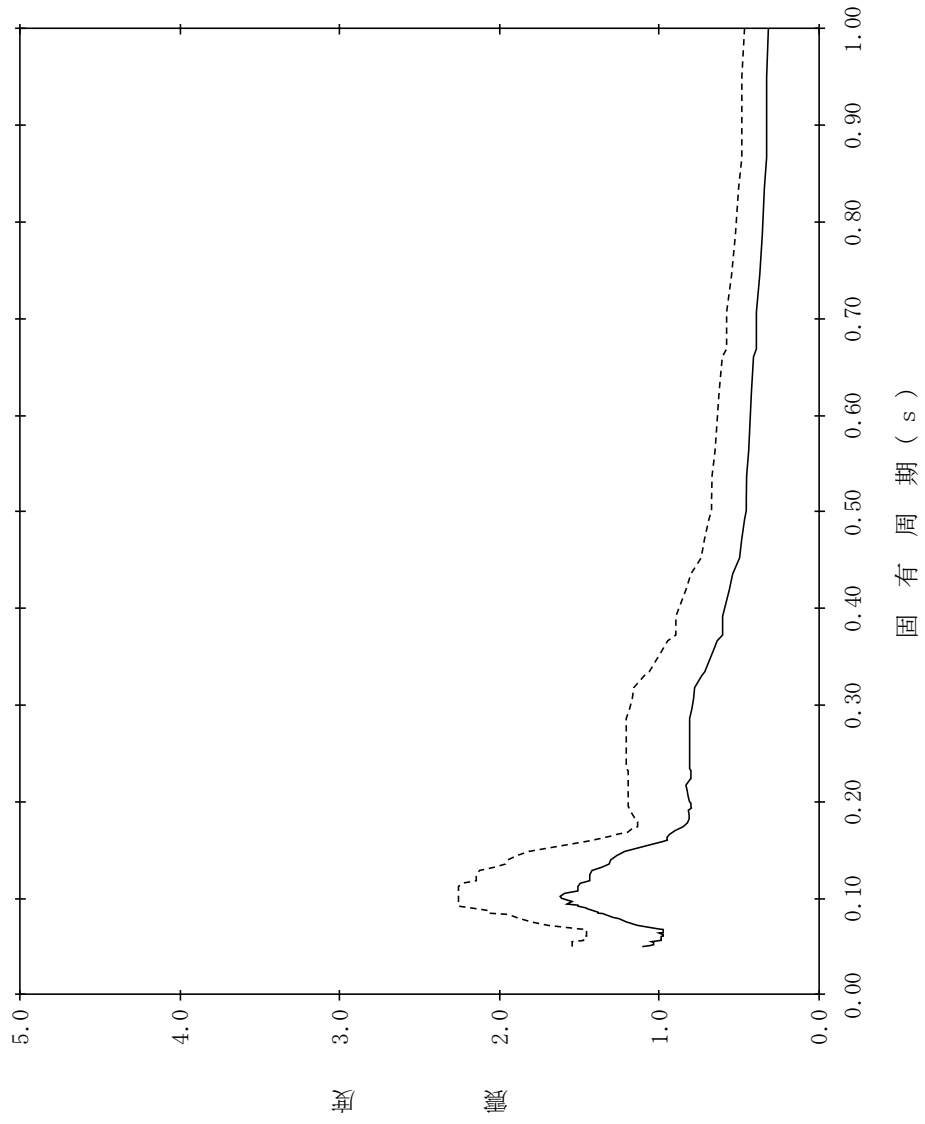
【NS2-PCV-SdV-PCV63】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



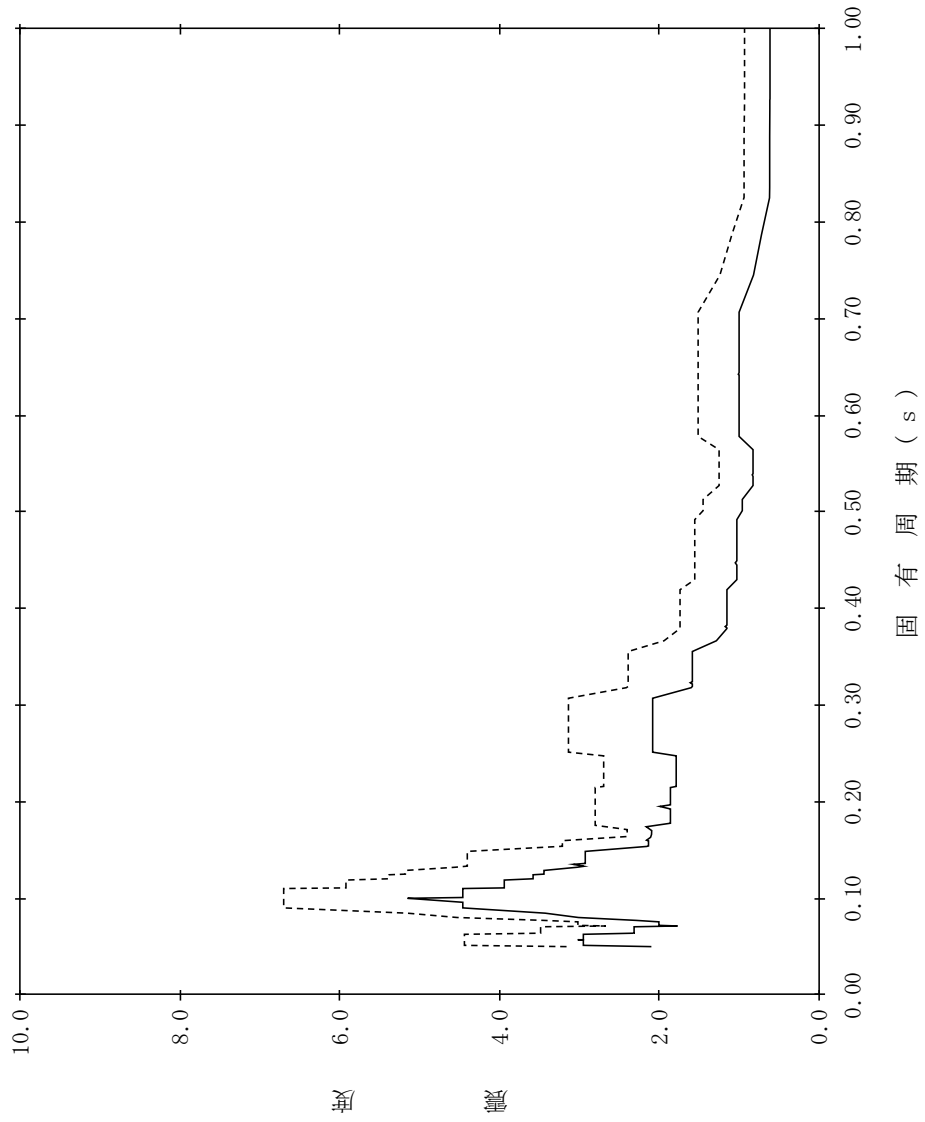
【NS2-PCV-SdV-PCV64】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL19.878m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



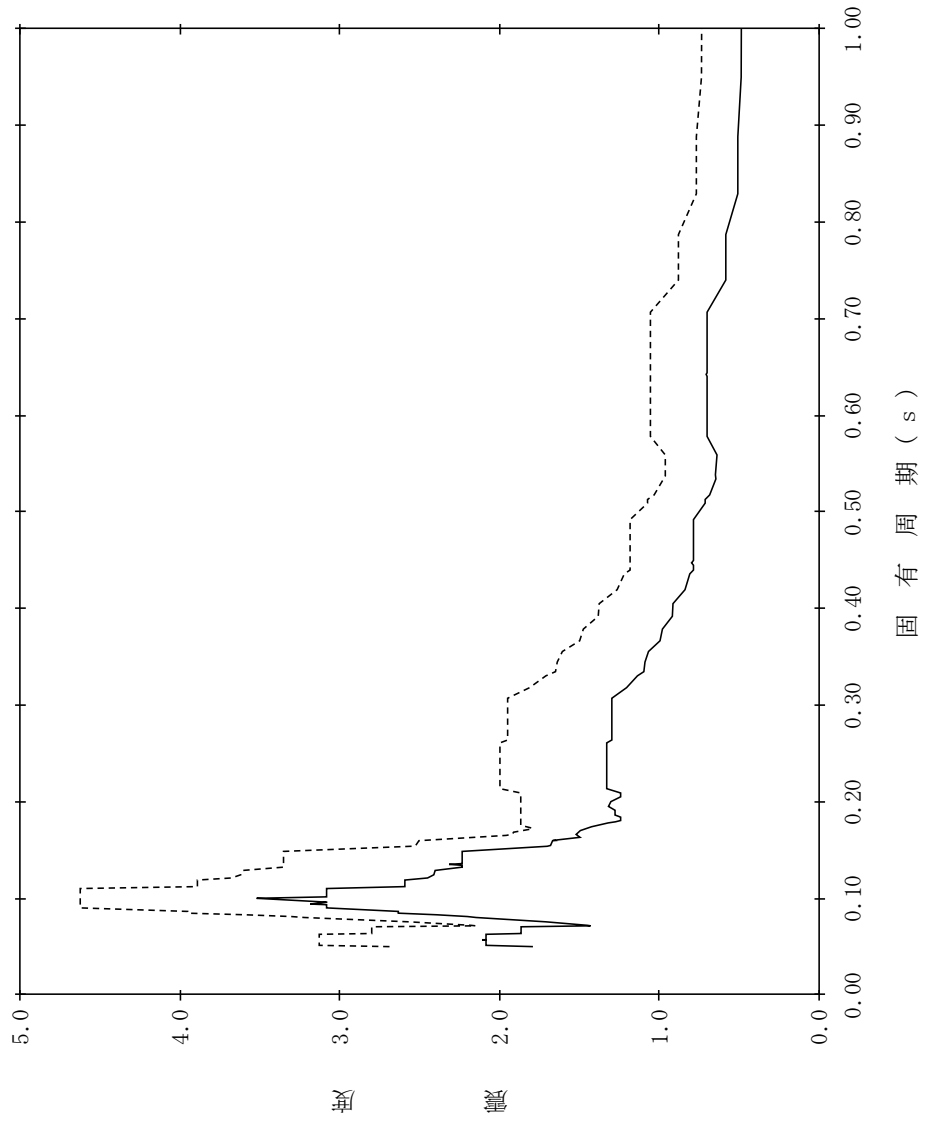
【NS2-PCV-SdV-PCV65】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



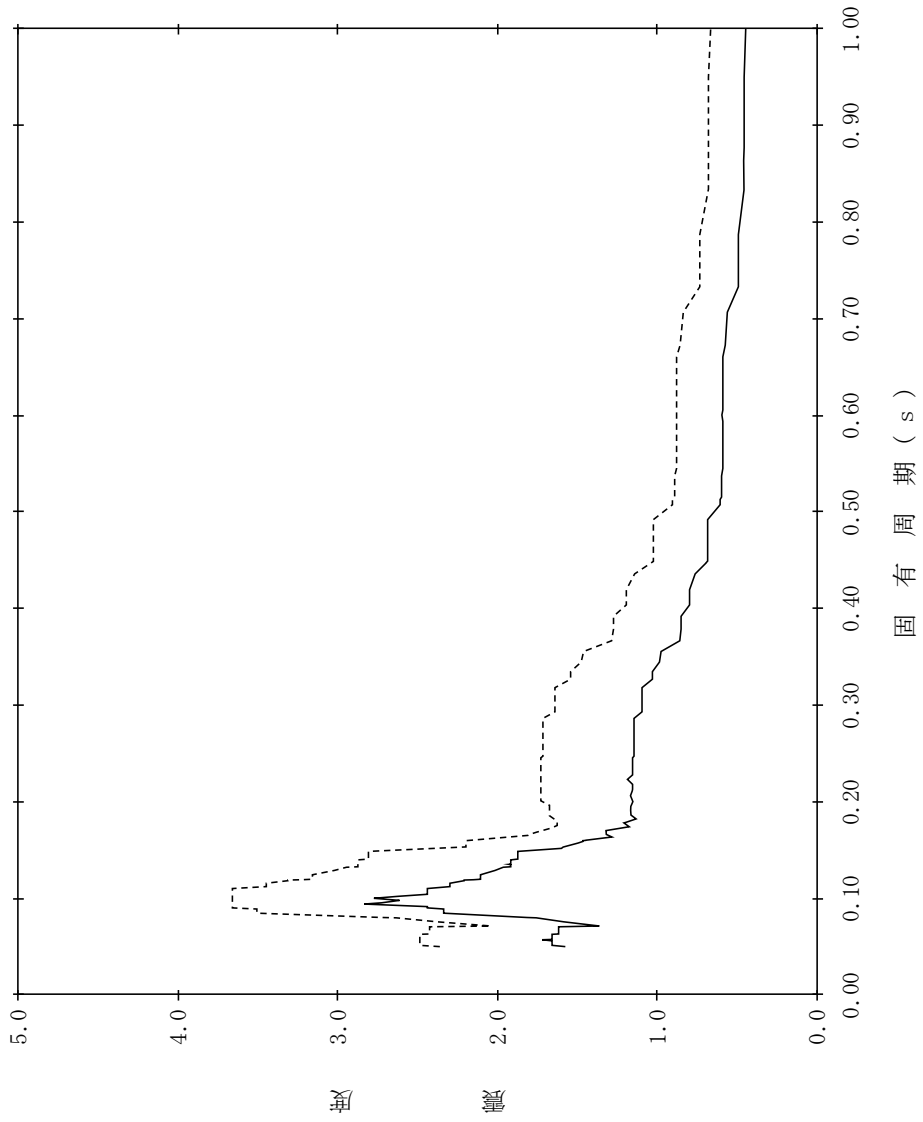
【NS2-PCV-SdV-PCV66】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



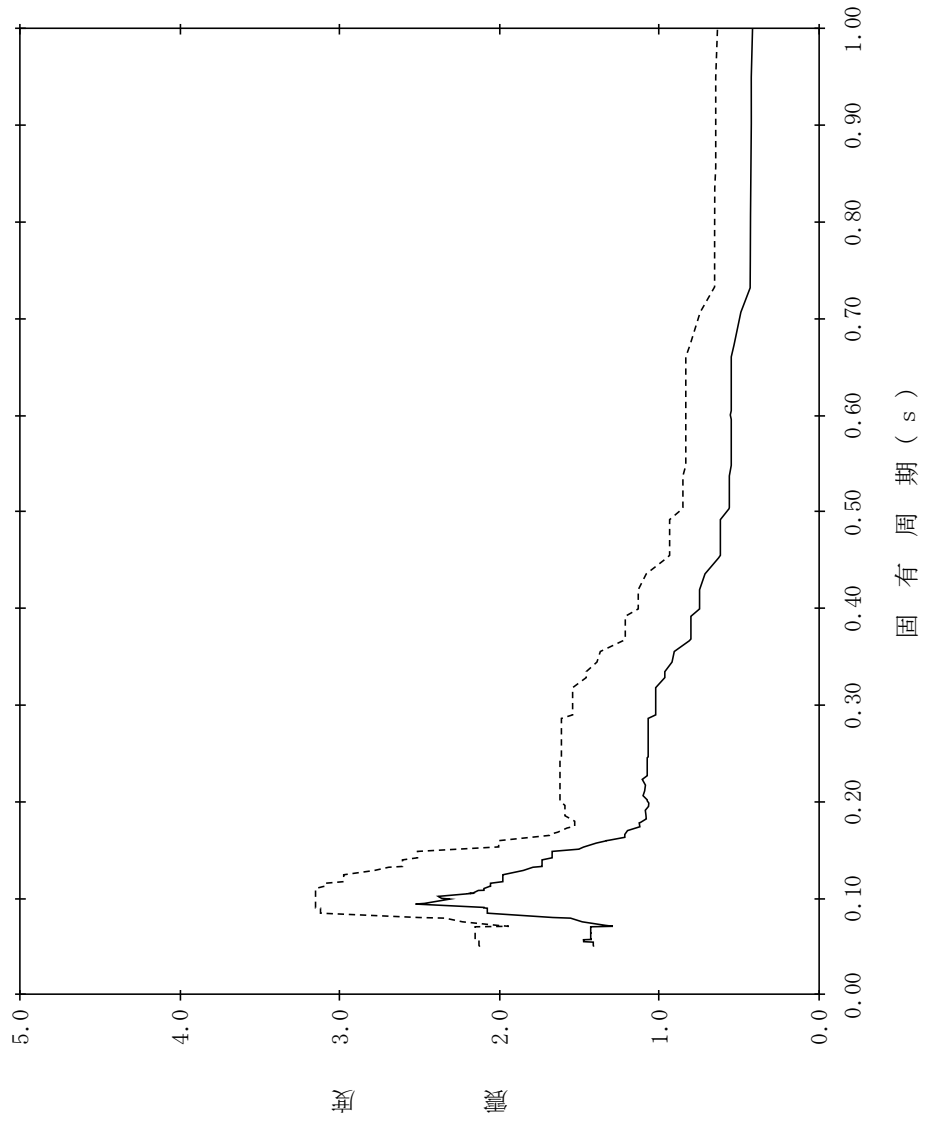
【NS2-PCV-SdV-PCV67】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



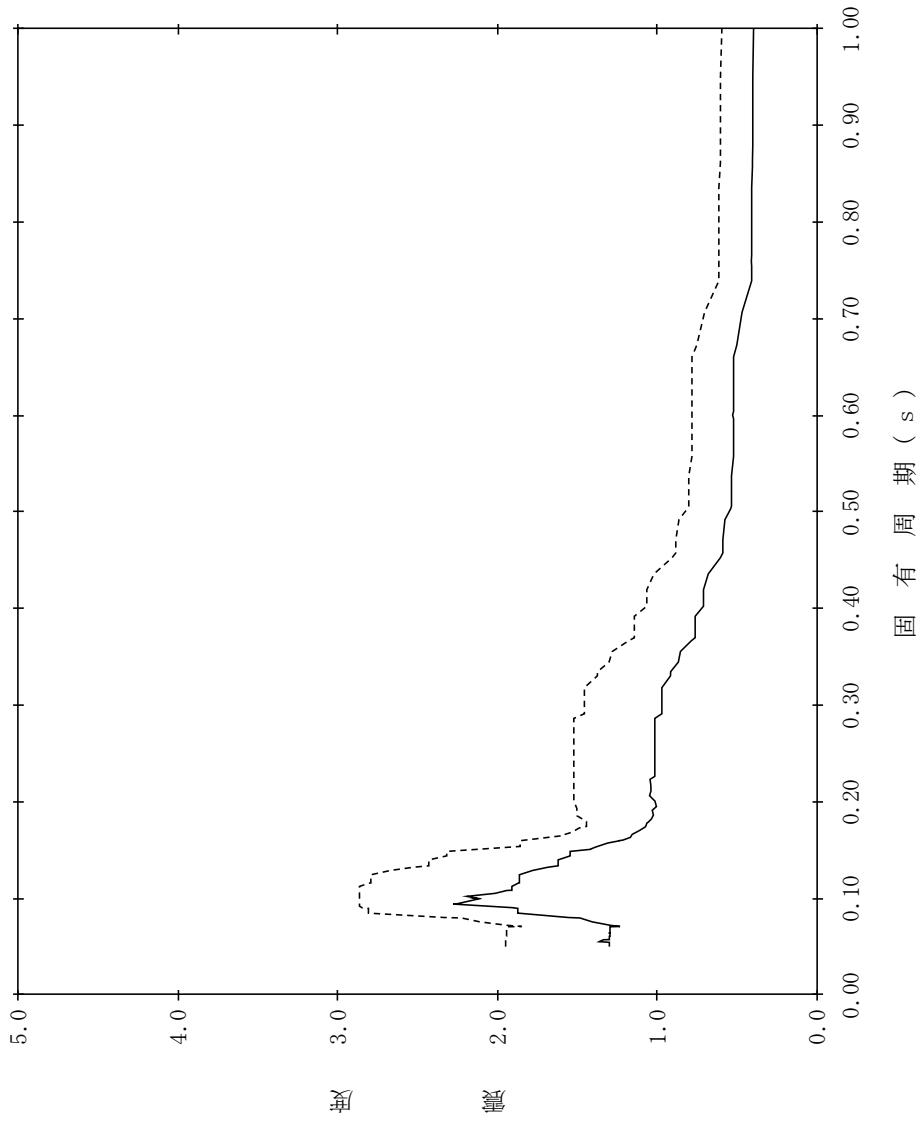
【NS2-PCV-SdV-PCV68】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



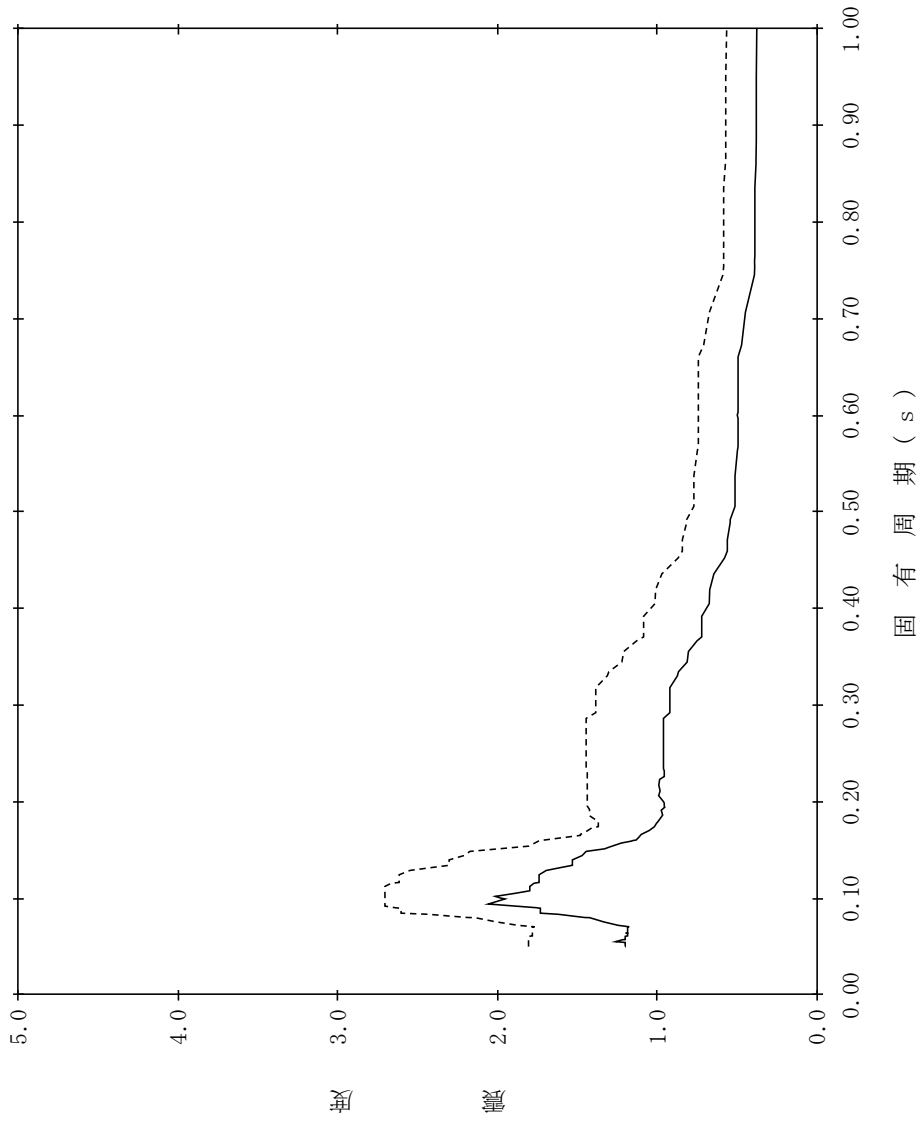
【NS2-PCV-SdV-PCV69】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



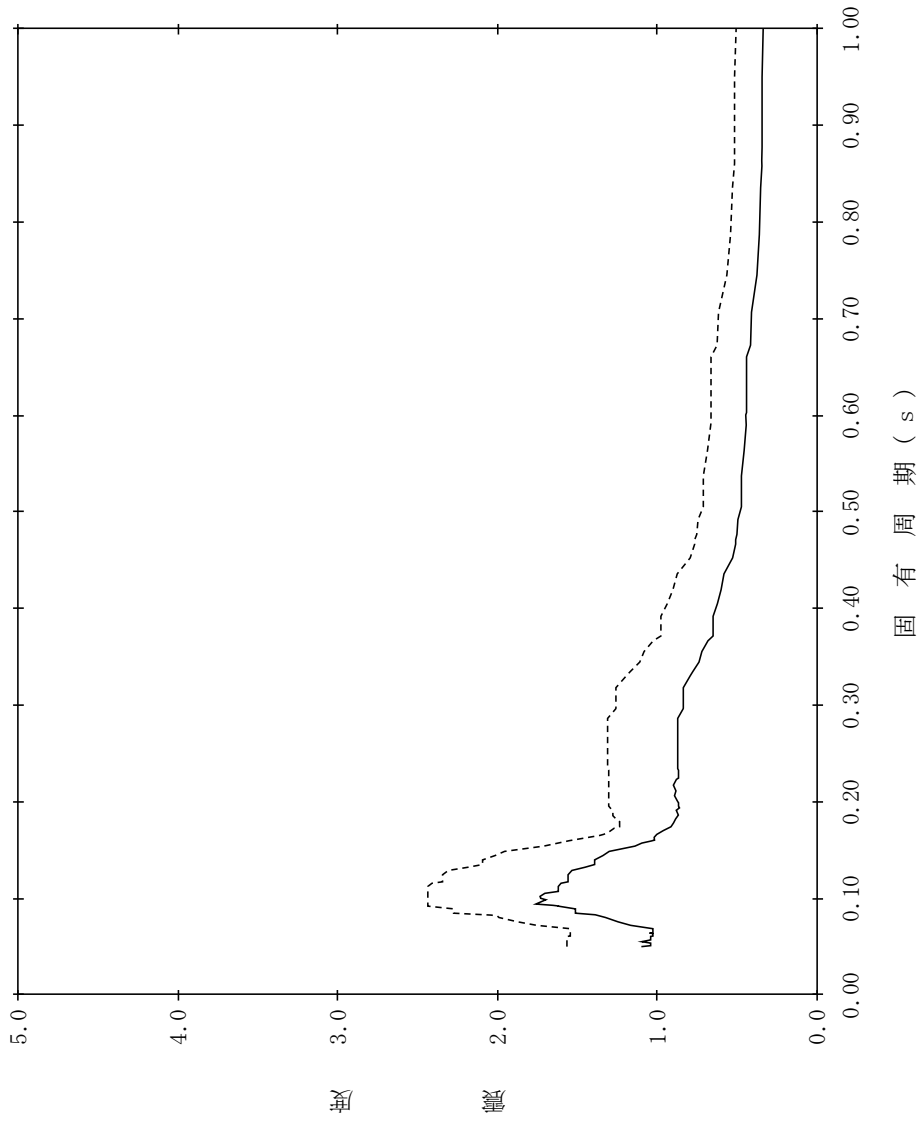
【NS2-PCV-SdV-PCV70】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



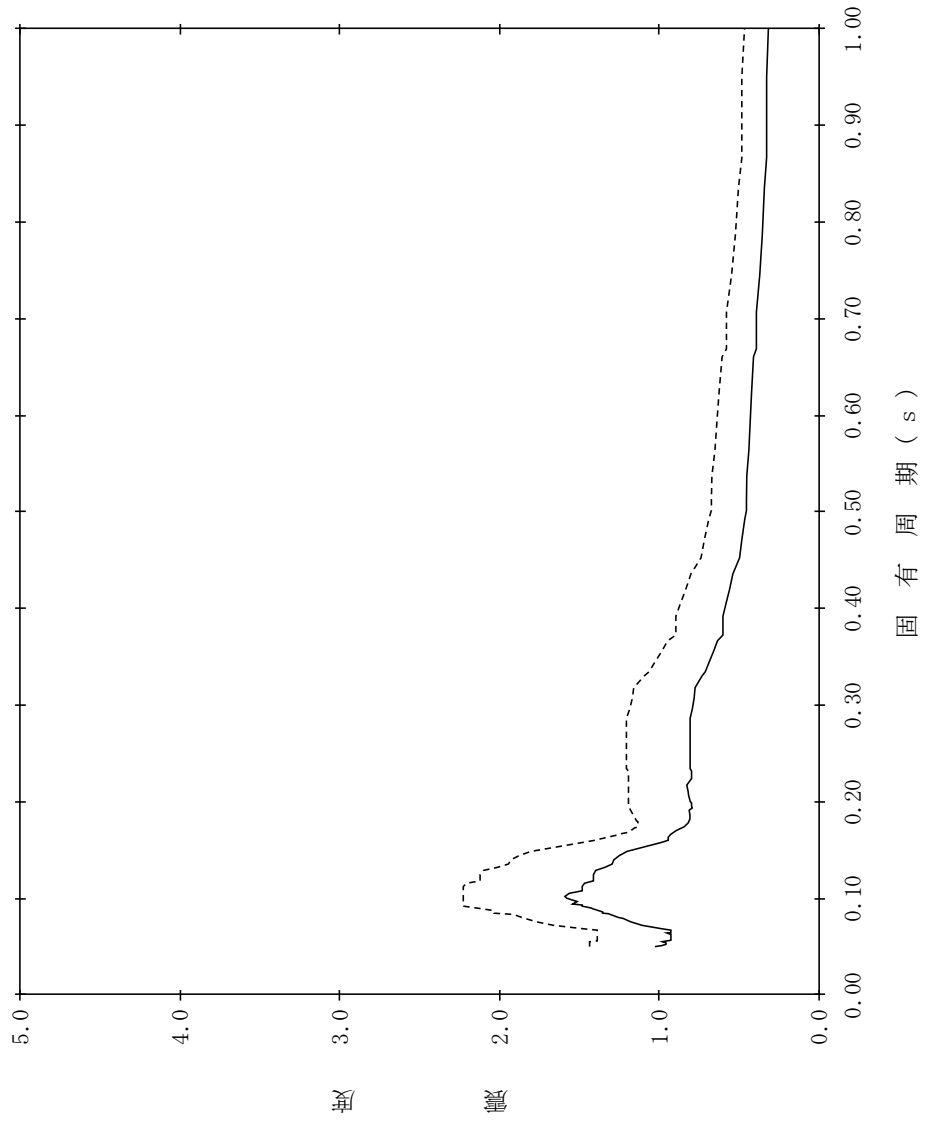
【NS2-PCV-SdV-PCV71】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



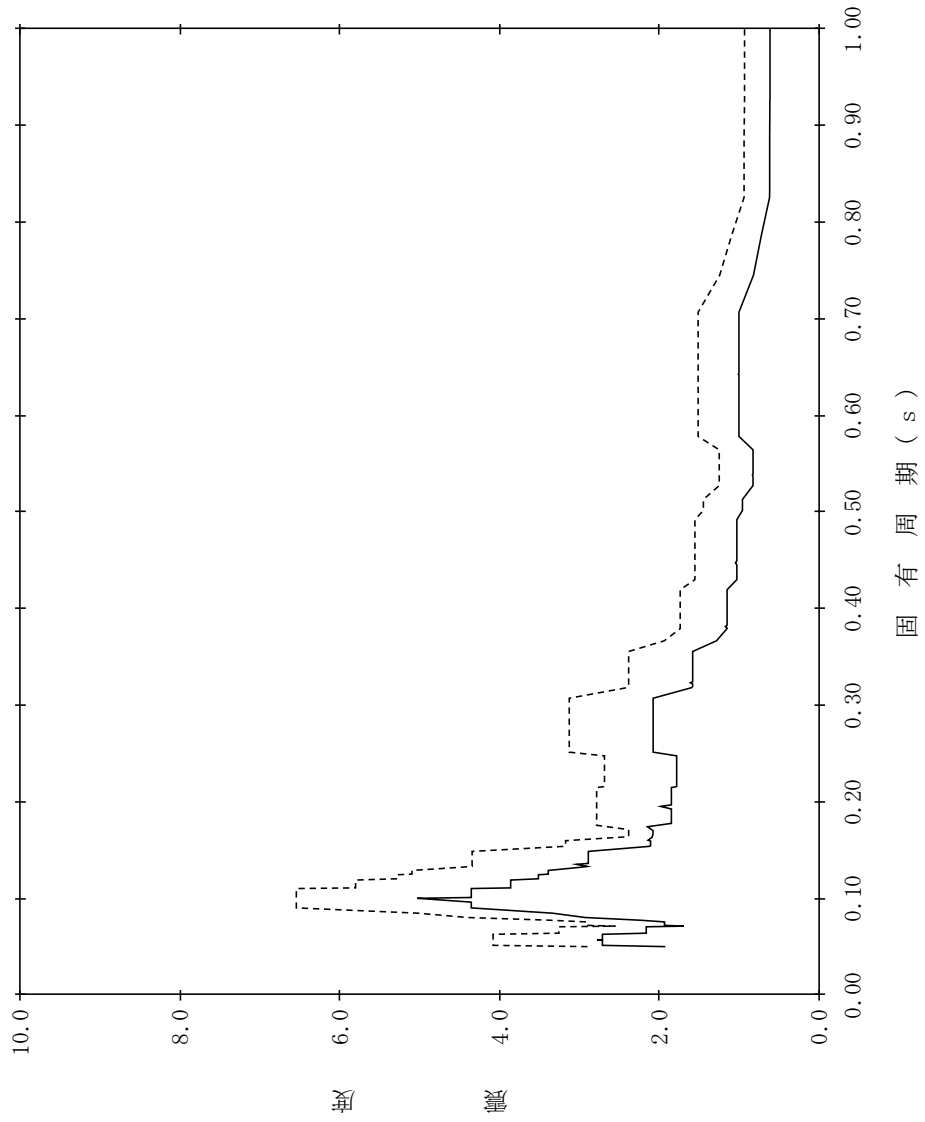
【NS2-PCV-SdV-PCV72】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



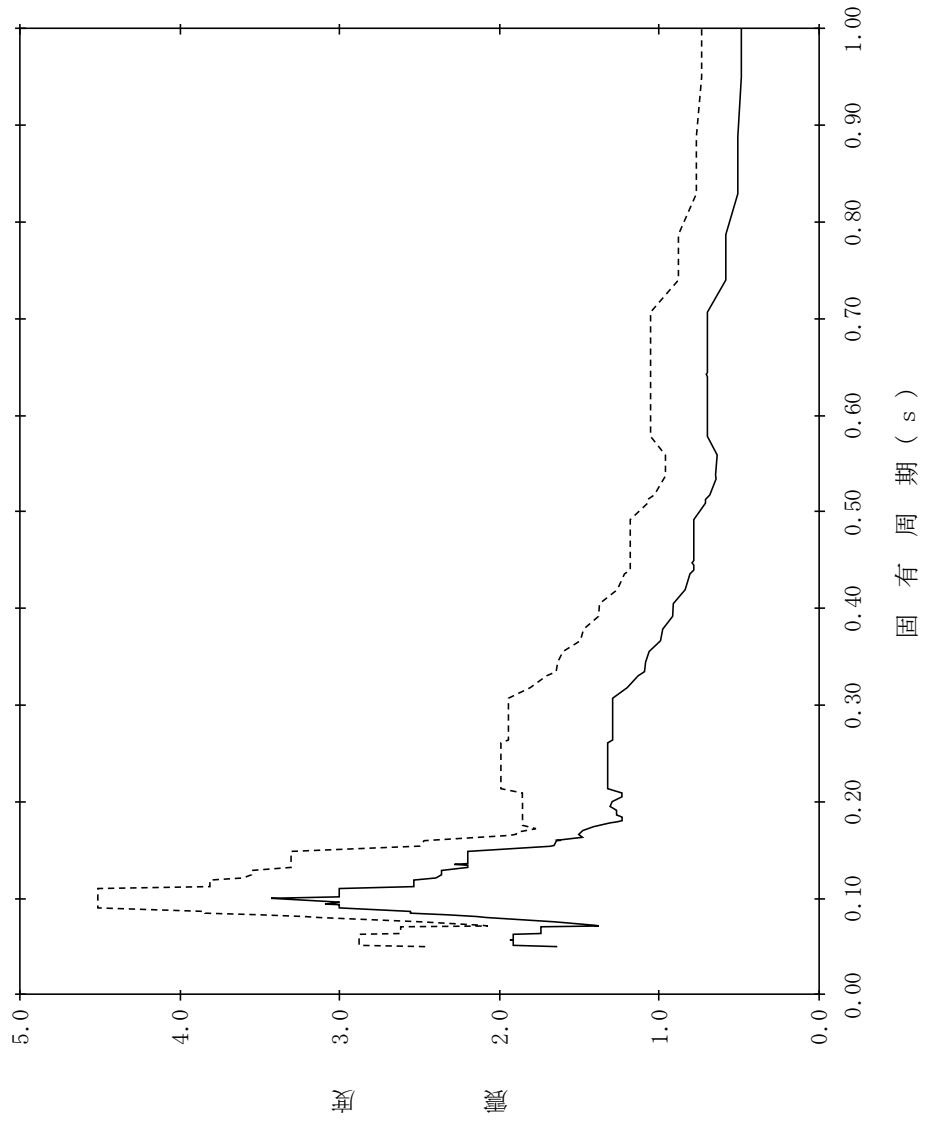
【NS2-PCV-SdV-PCV73】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



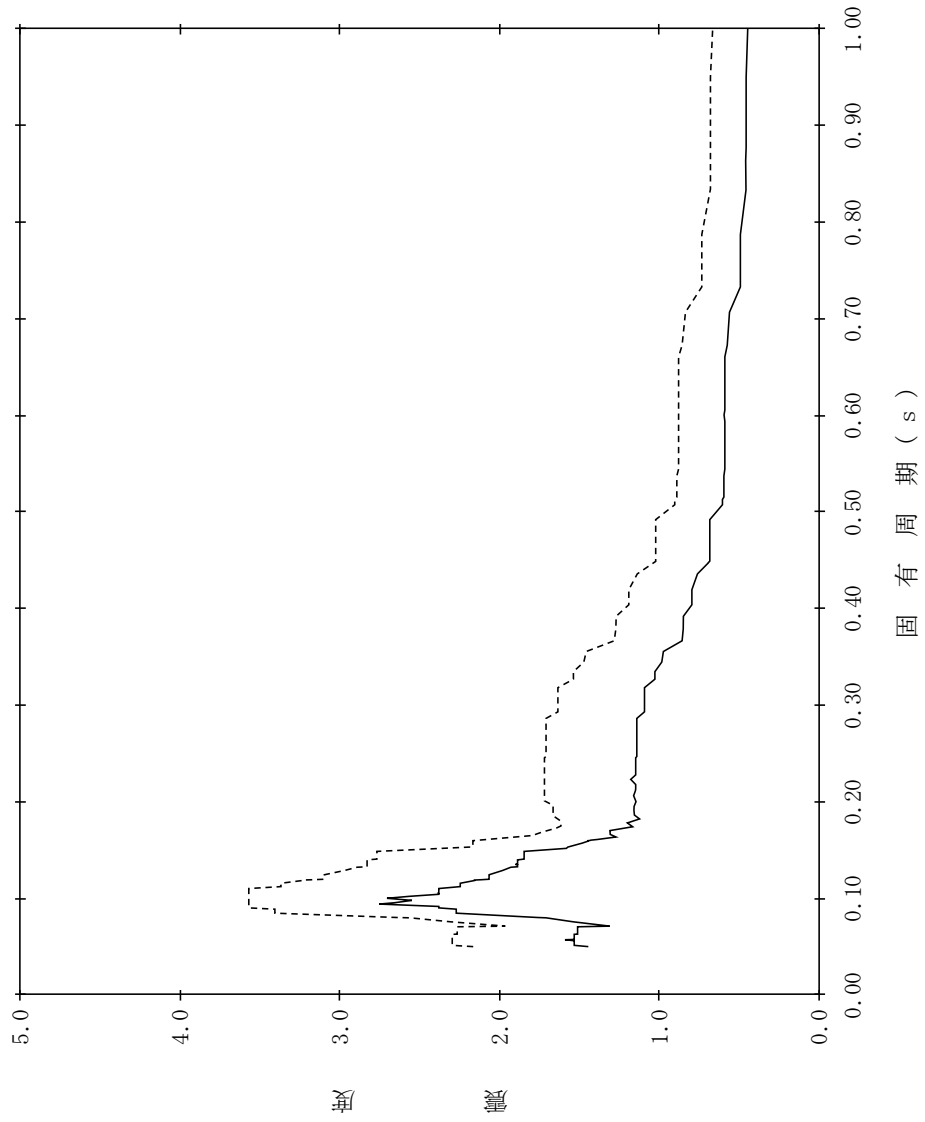
【NS2-PCV-SdV-PCV74】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



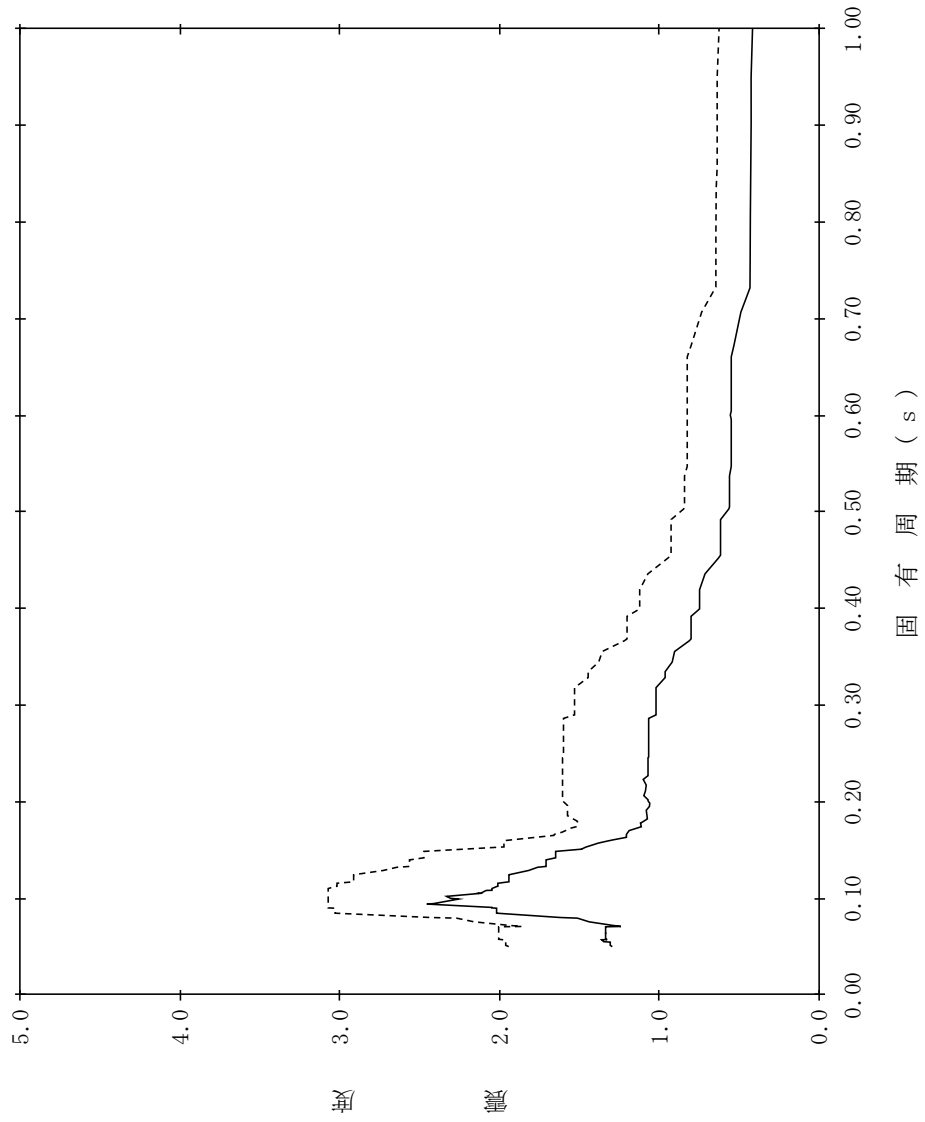
【NS2-PCV-SdV-PCV75】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



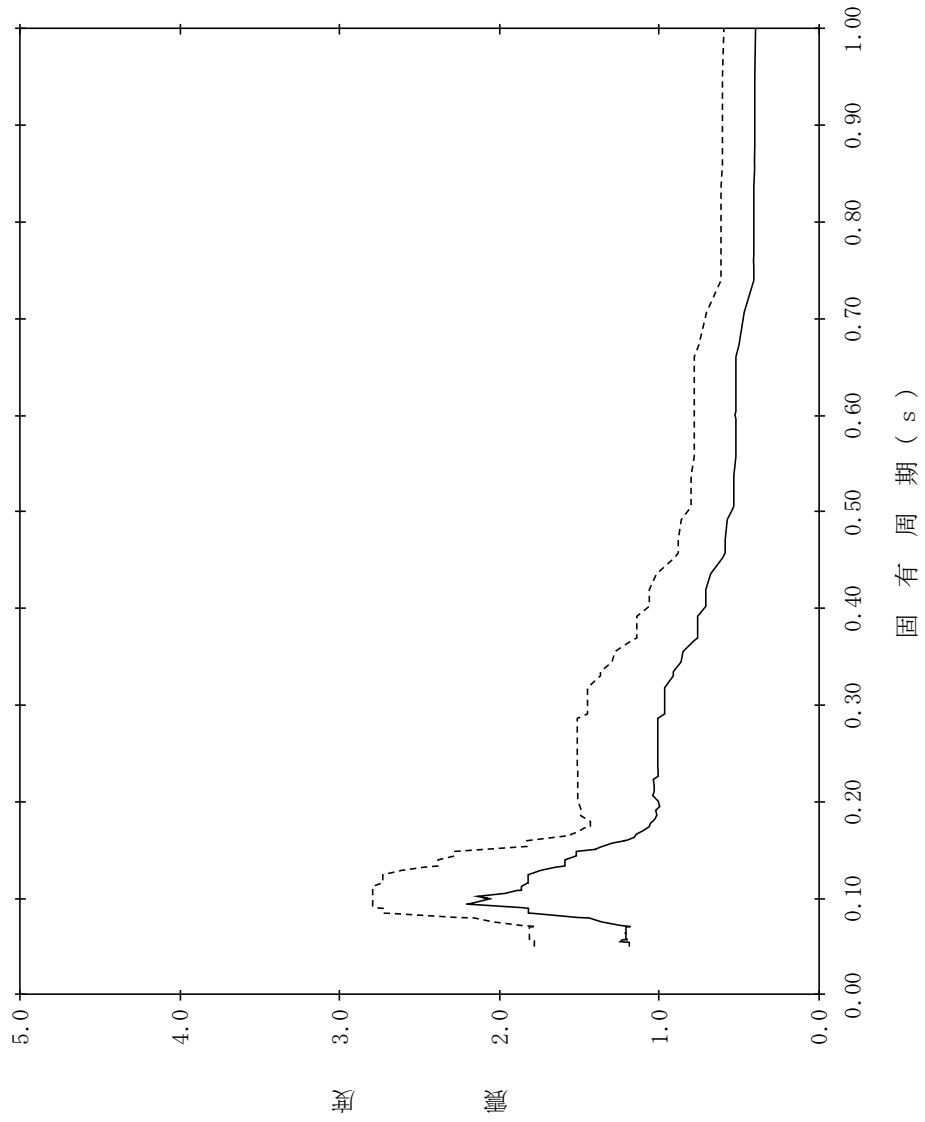
【NS2-PCV-SdV-PCV76】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



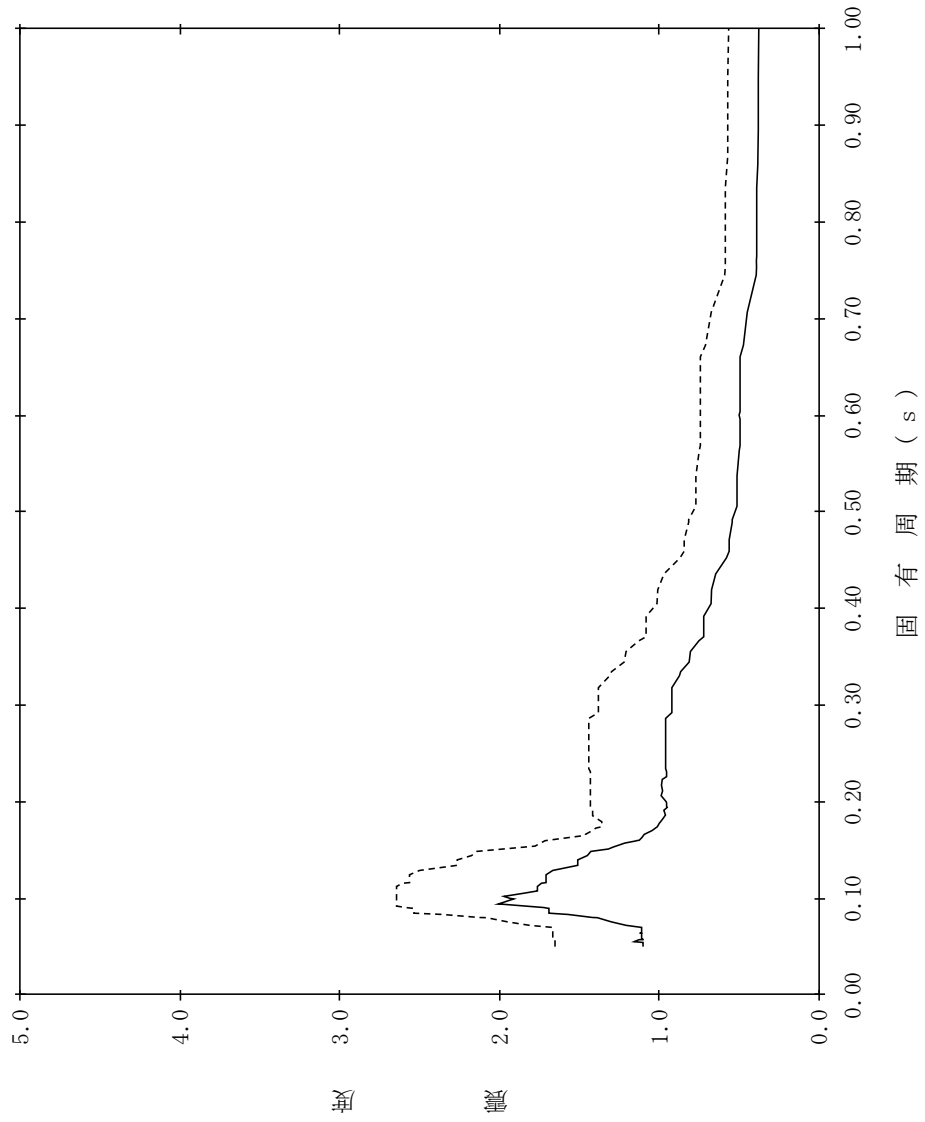
【NS2-PCV-SdV-PCV77】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



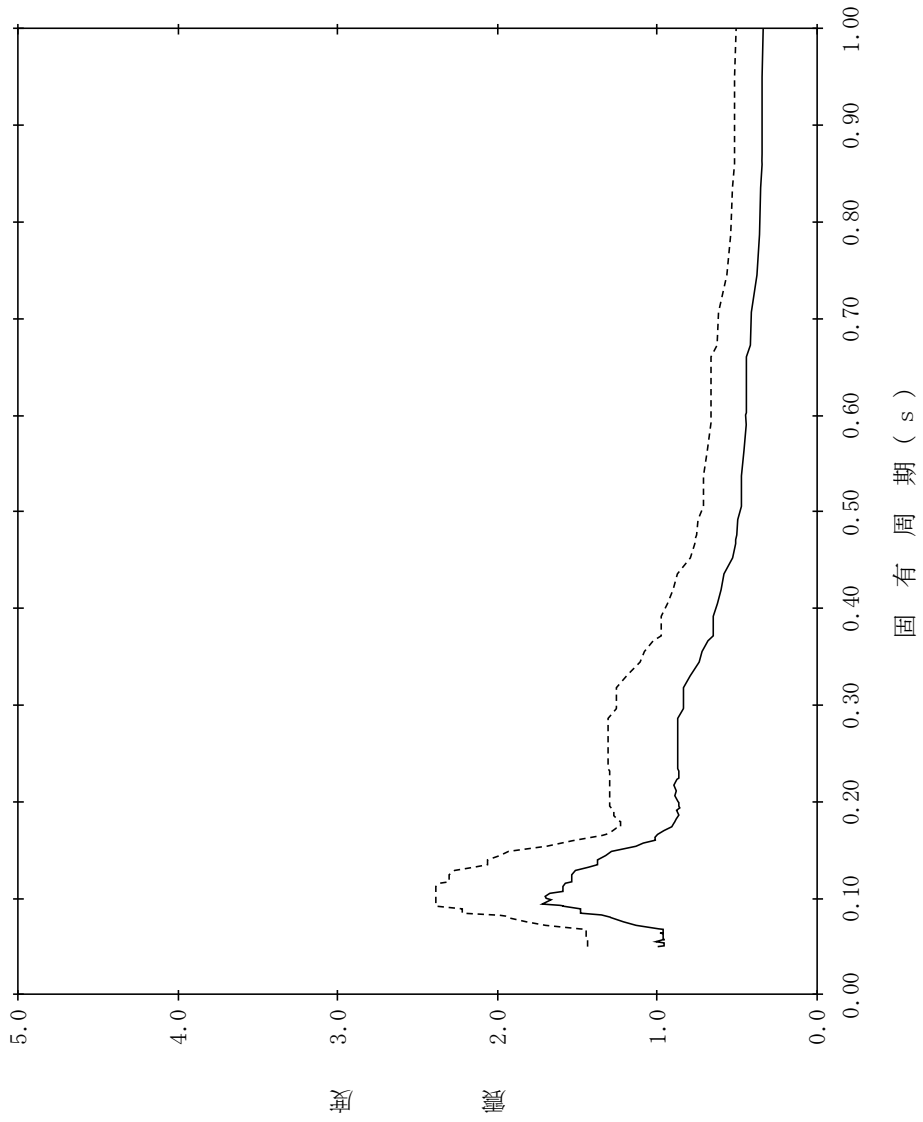
【NS2-PCV-SdV-PCV78】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



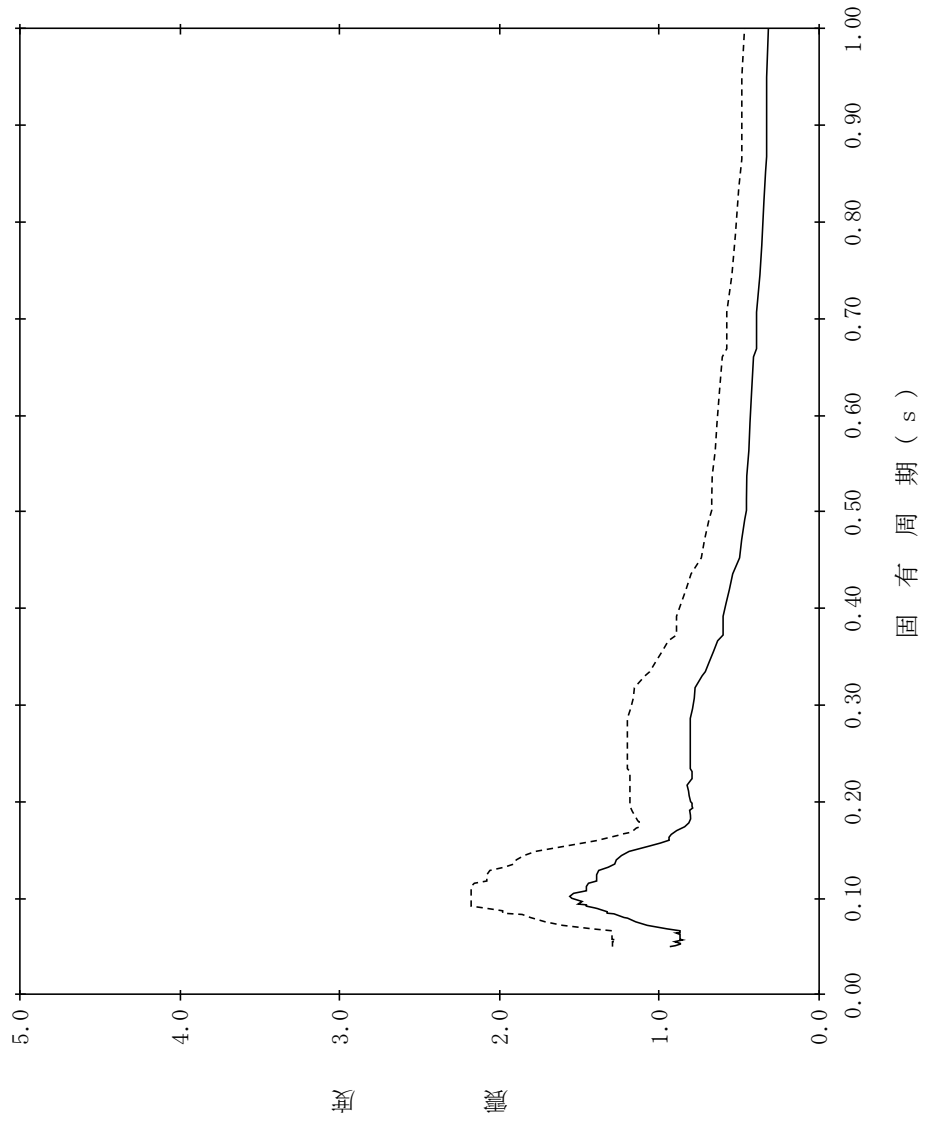
【NS2-PCV-SdV-PCV79】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



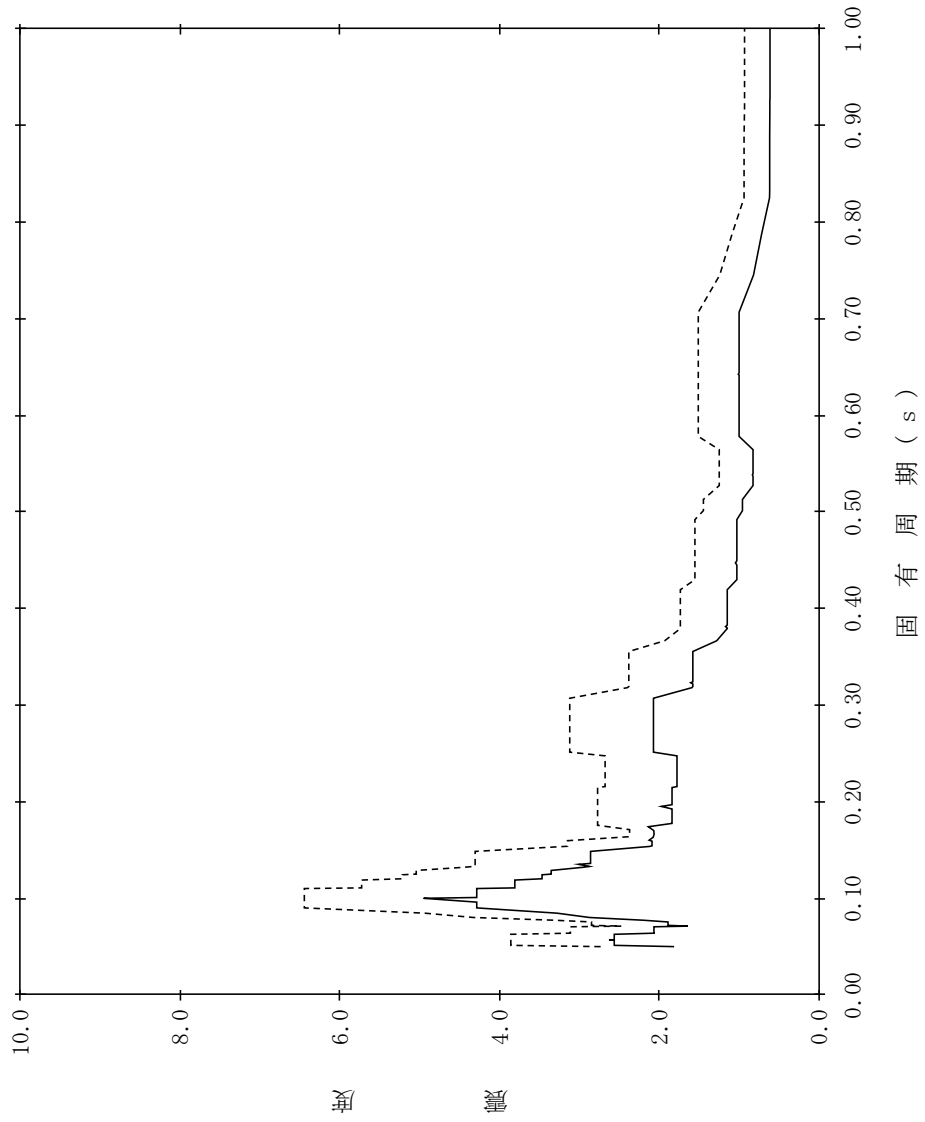
【NS2-PCV-SdV-PCV80】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL13.700m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



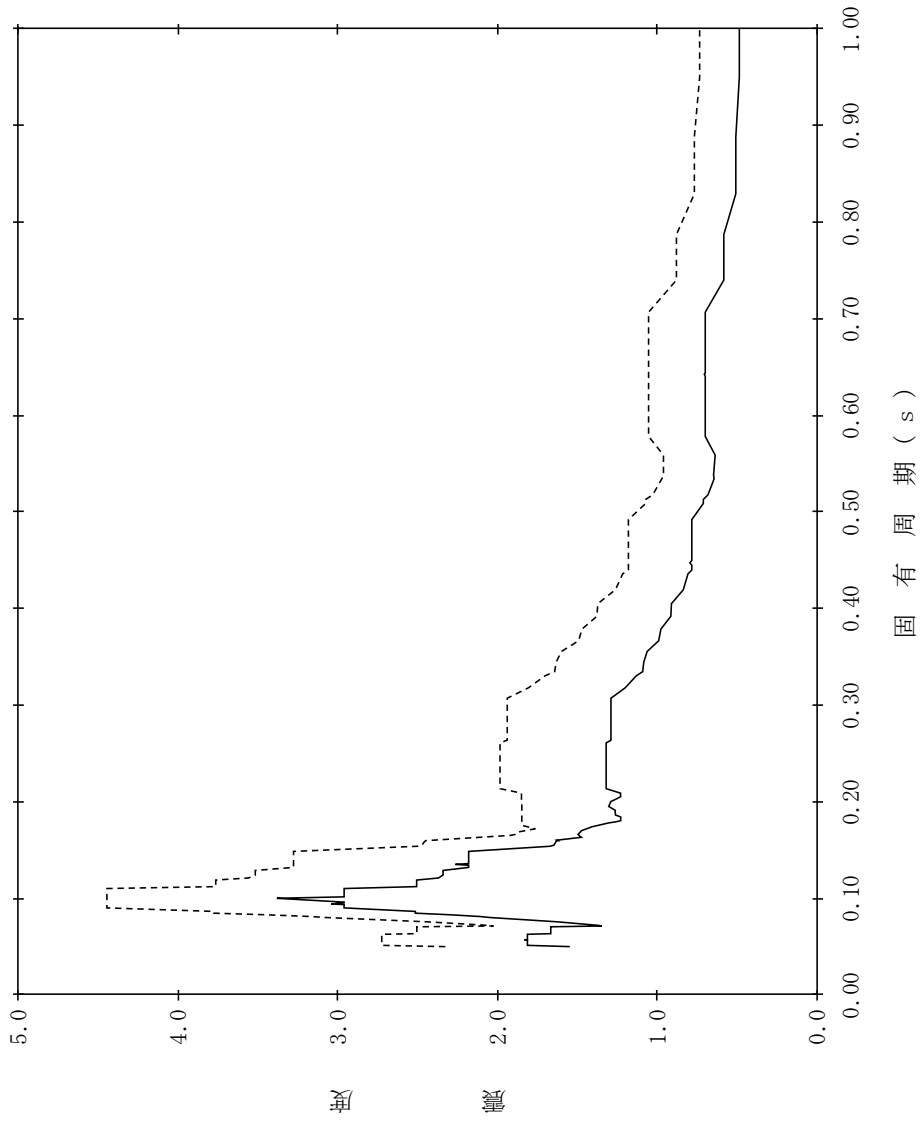
【NS2-PCV-SdV-PCV81】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

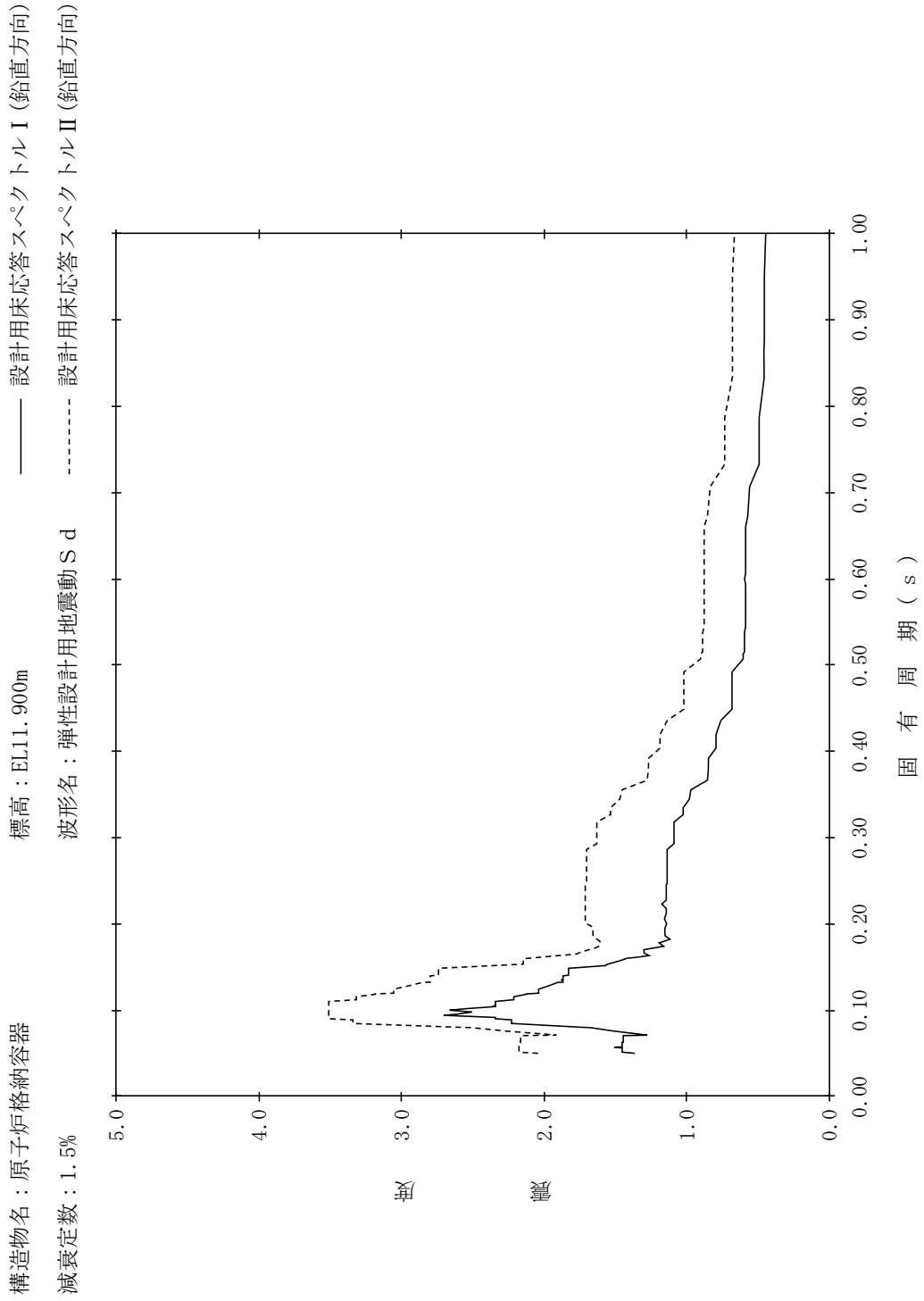


【NS2-PCV-SdV-PCV82】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

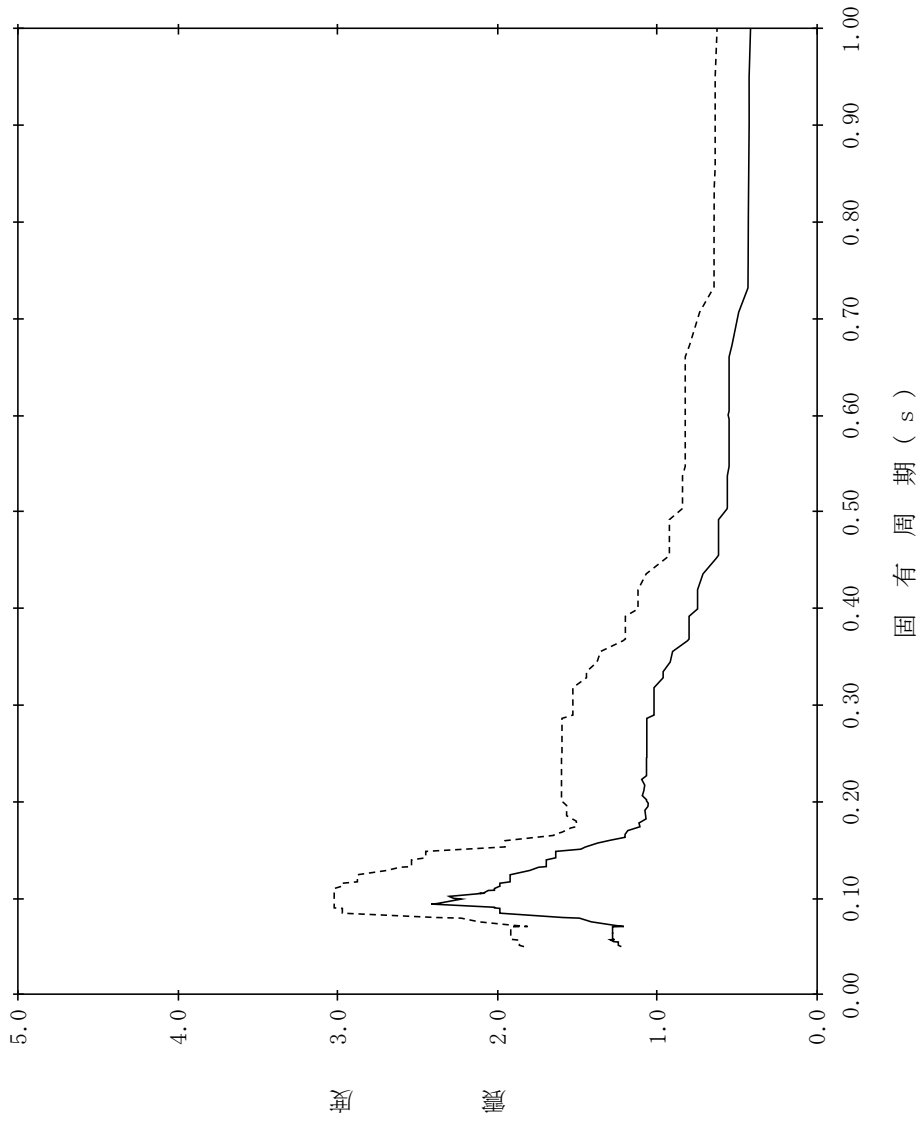


【NS2-PCV-SdV-PCV83】



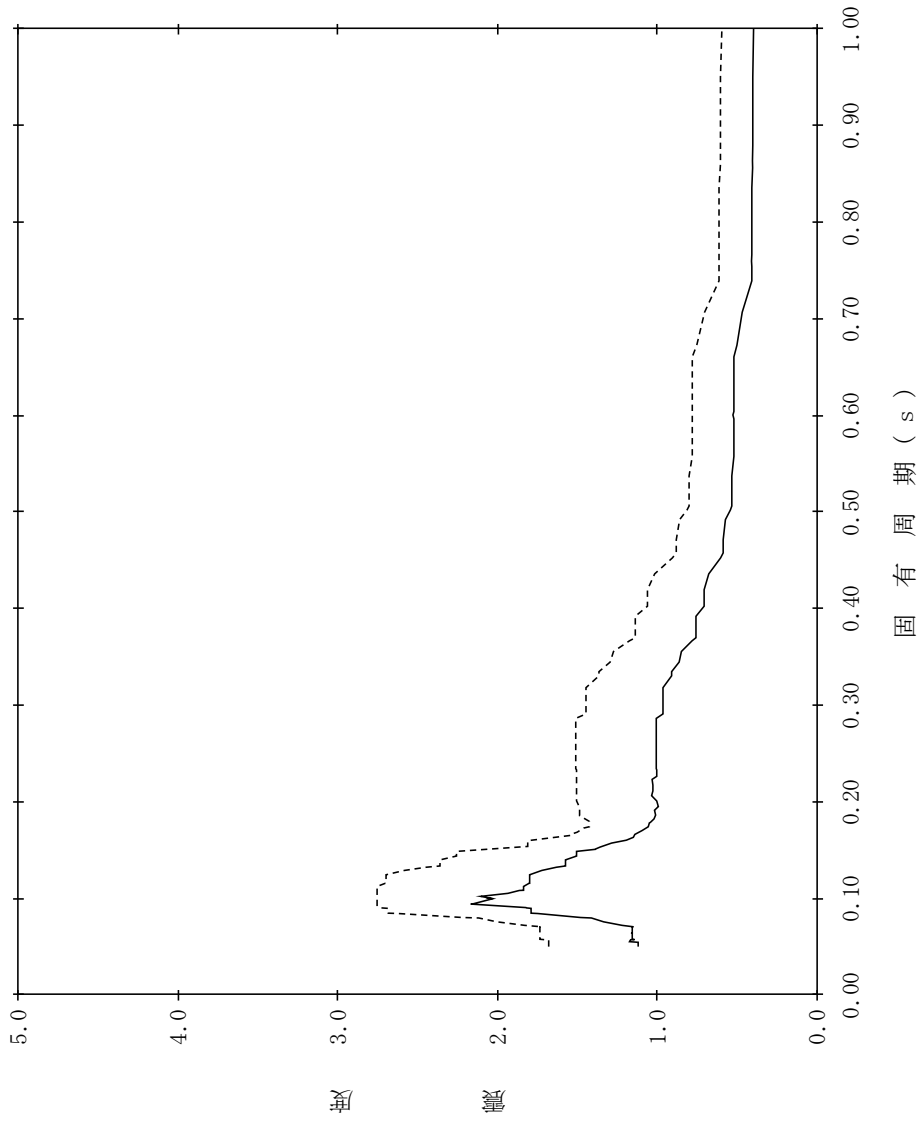
【NS2-PCV-SdV-PCV84】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



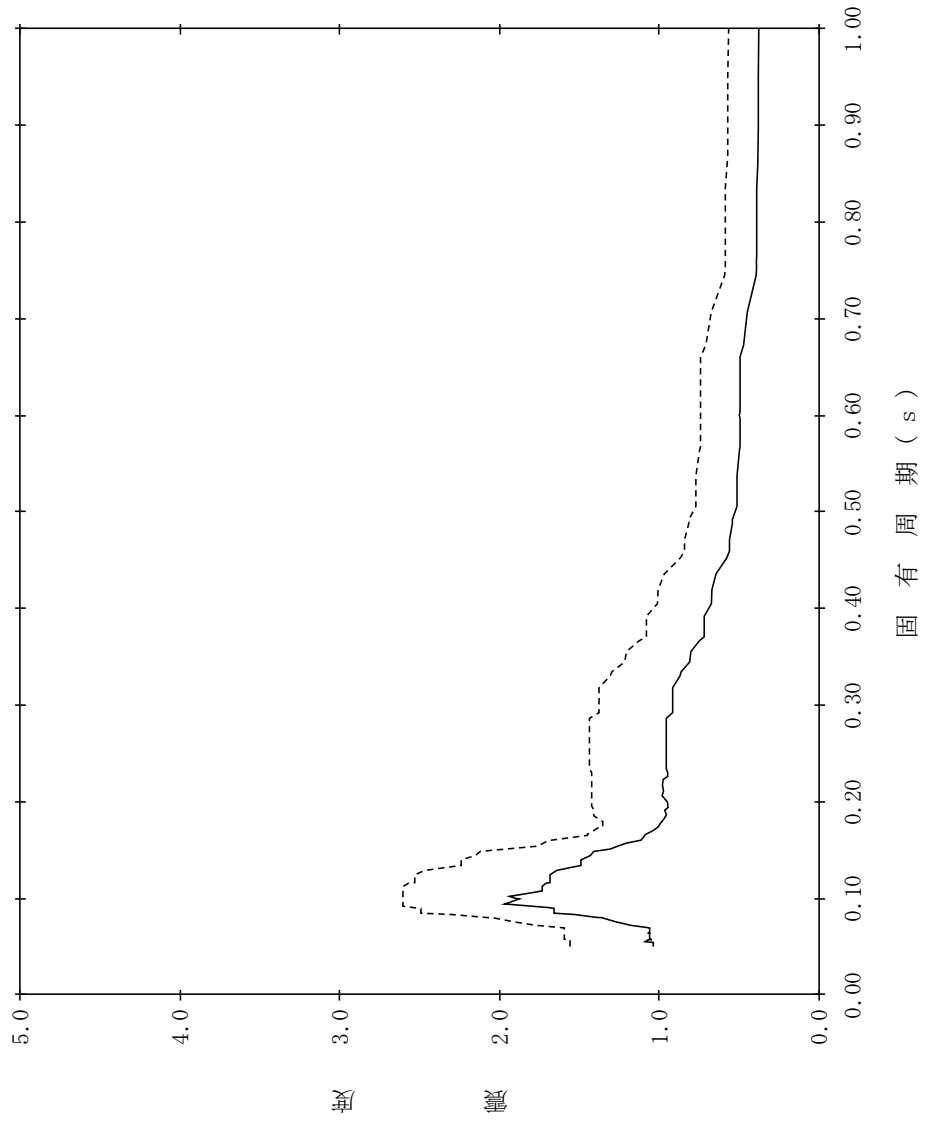
【NS2-PCV-SdV-PCV85】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



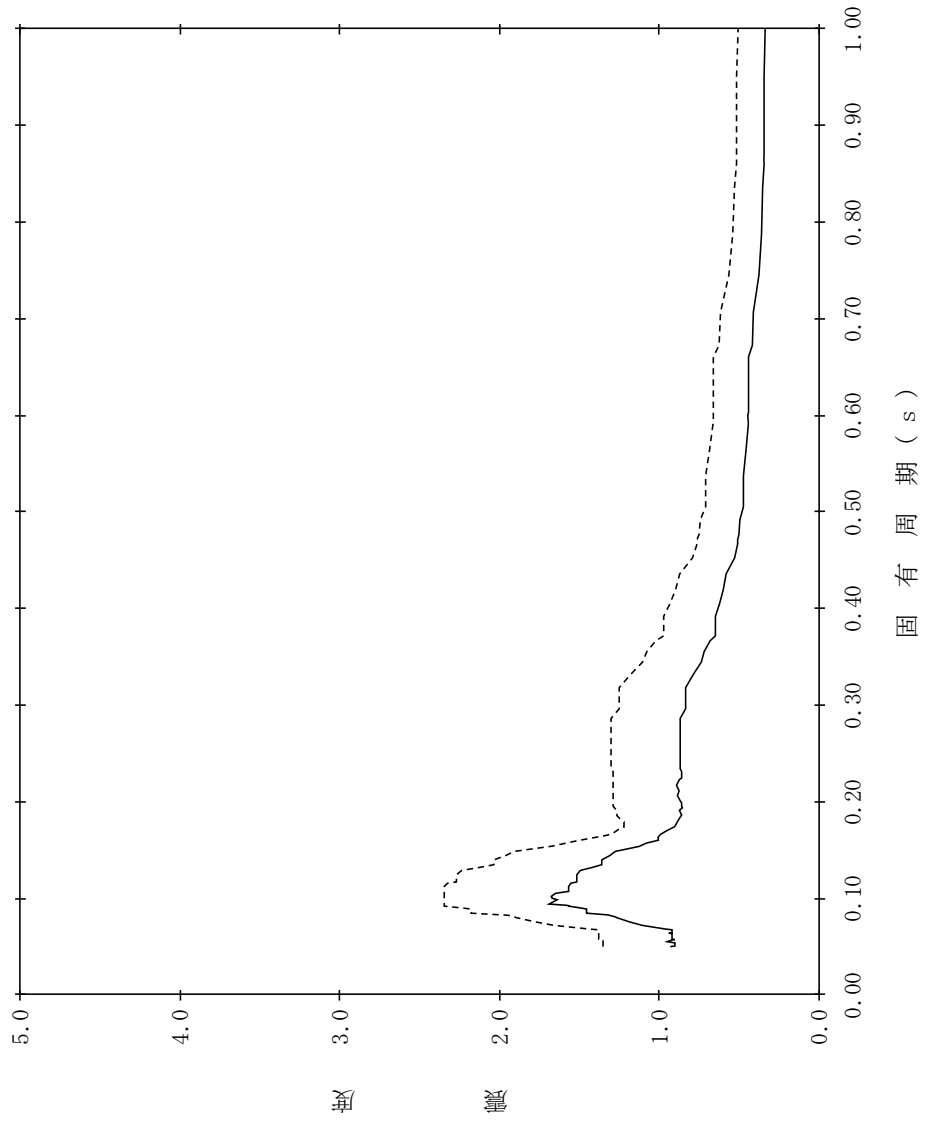
【NS2-PCV-SdV-PCV86】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



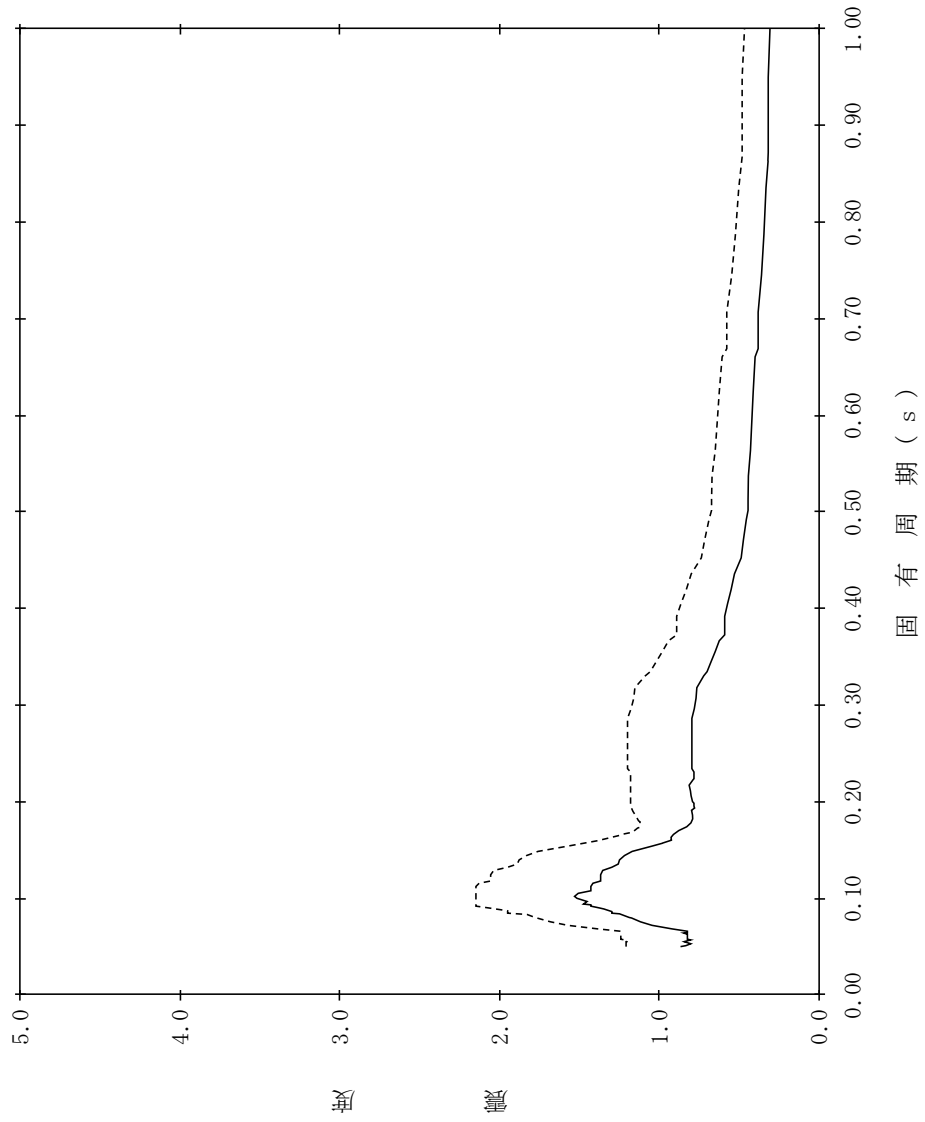
【NS2-PCV-SdV-PCV87】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



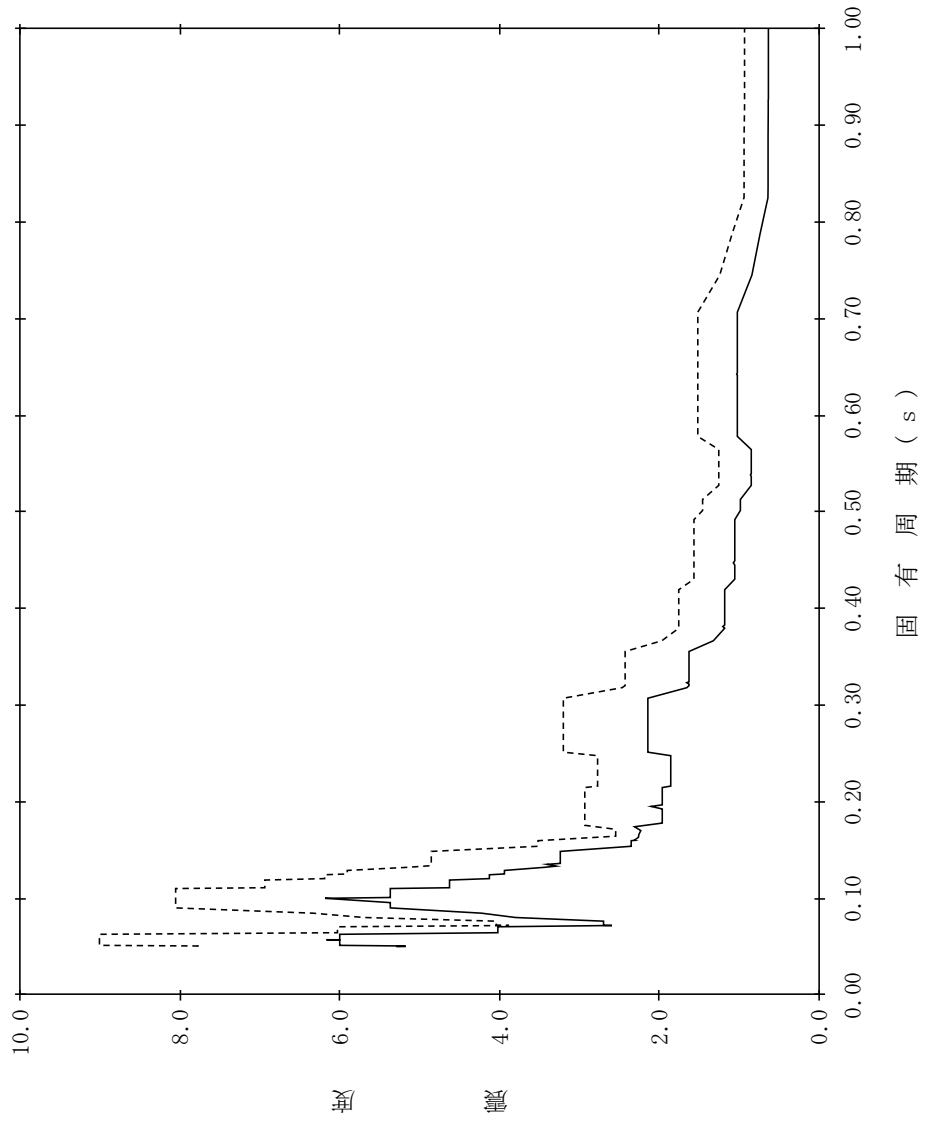
【NS2-PCV-SdV-PCV88】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



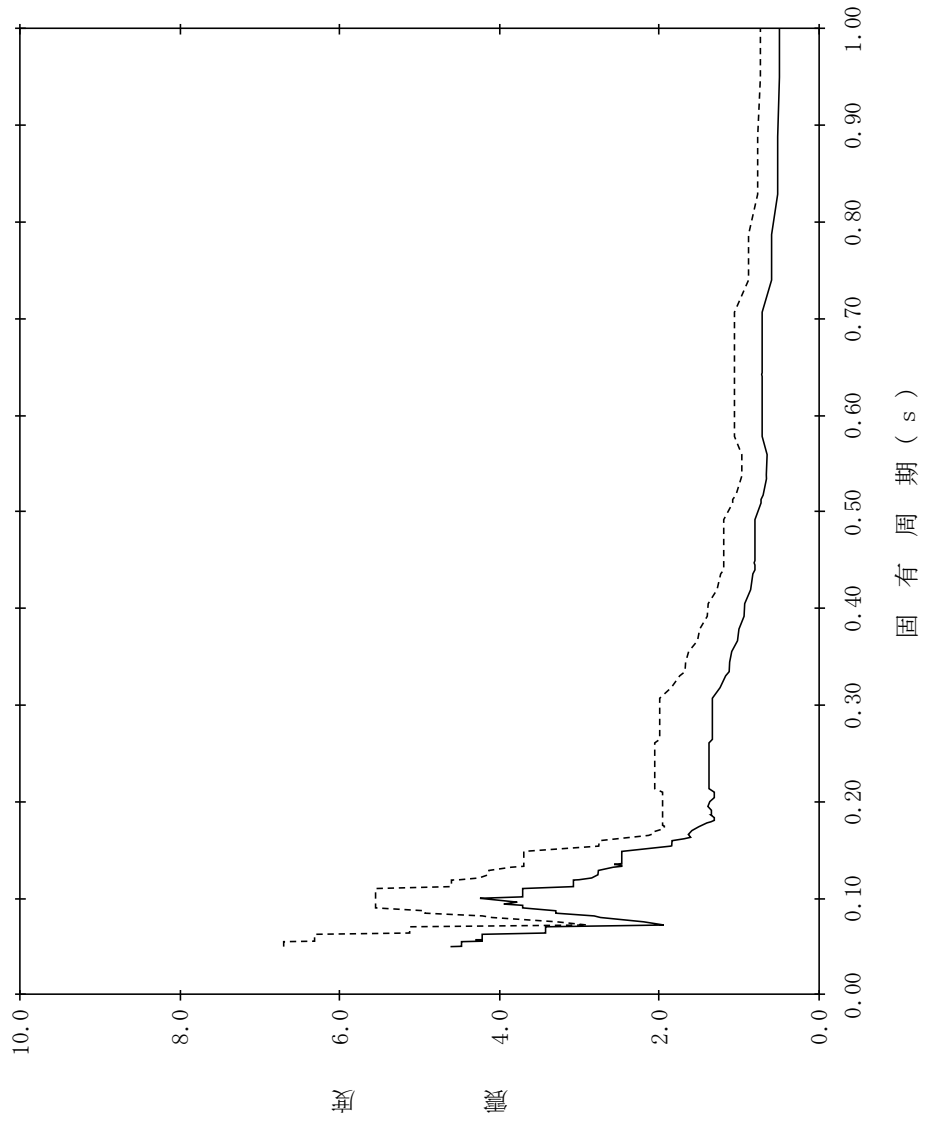
【NS2-PCV-SdV-GSW89】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



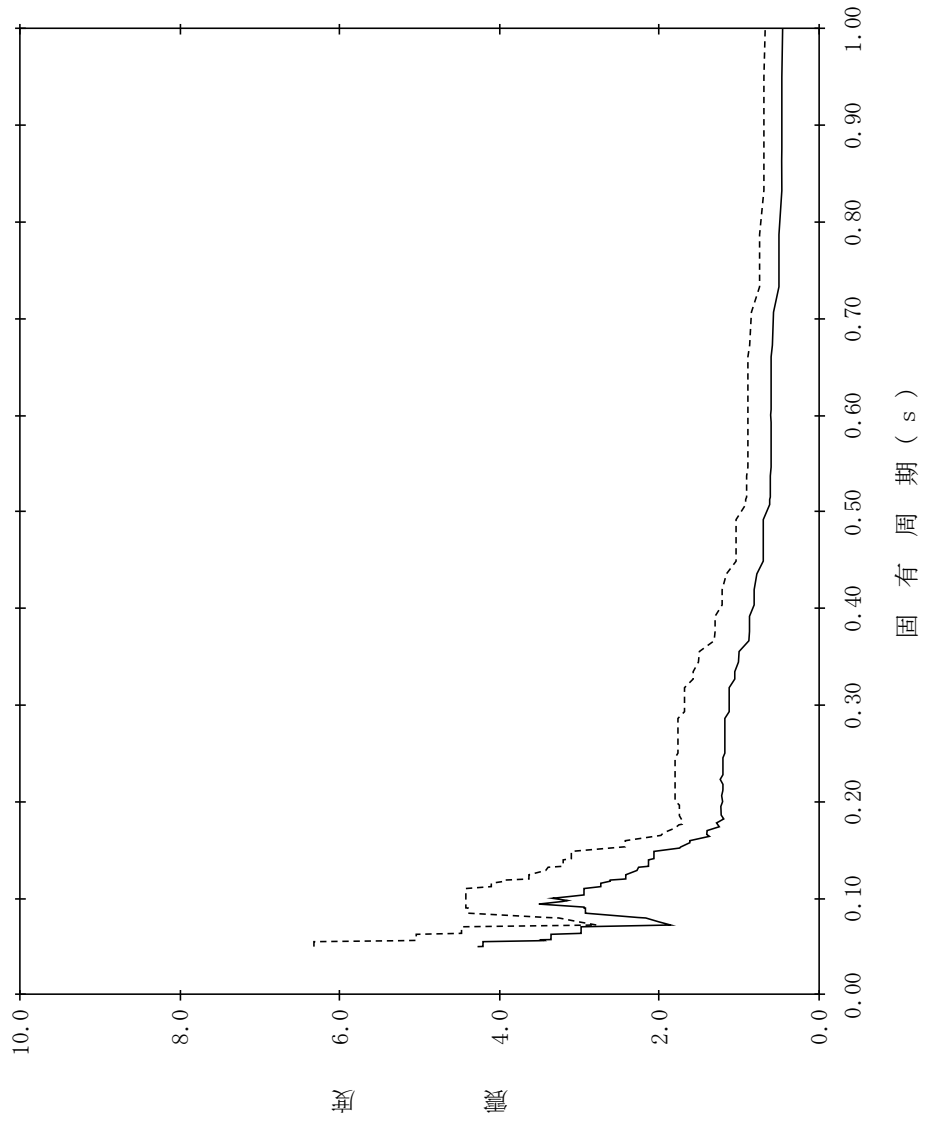
【NS2-PCV-SdV-GSW90】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



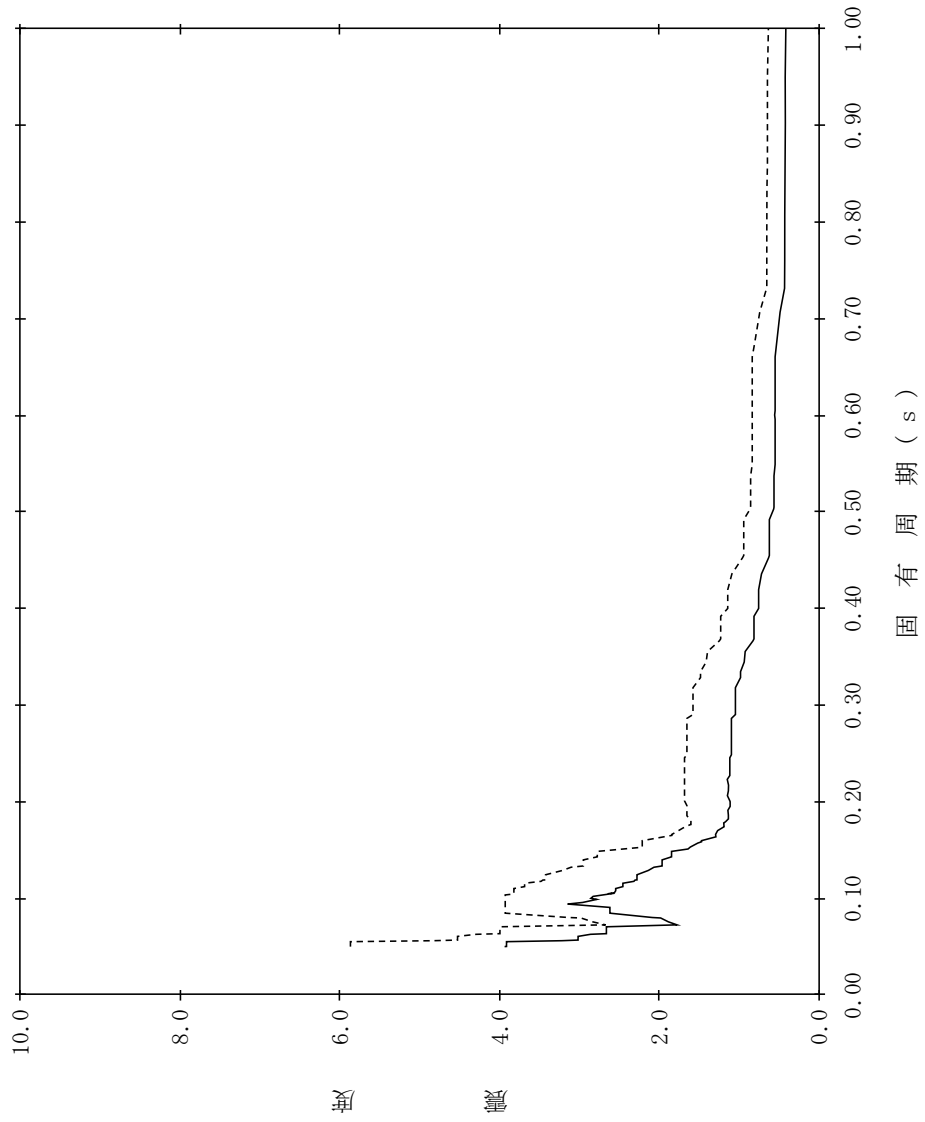
【NS2-PCV-SdV-GSW91】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



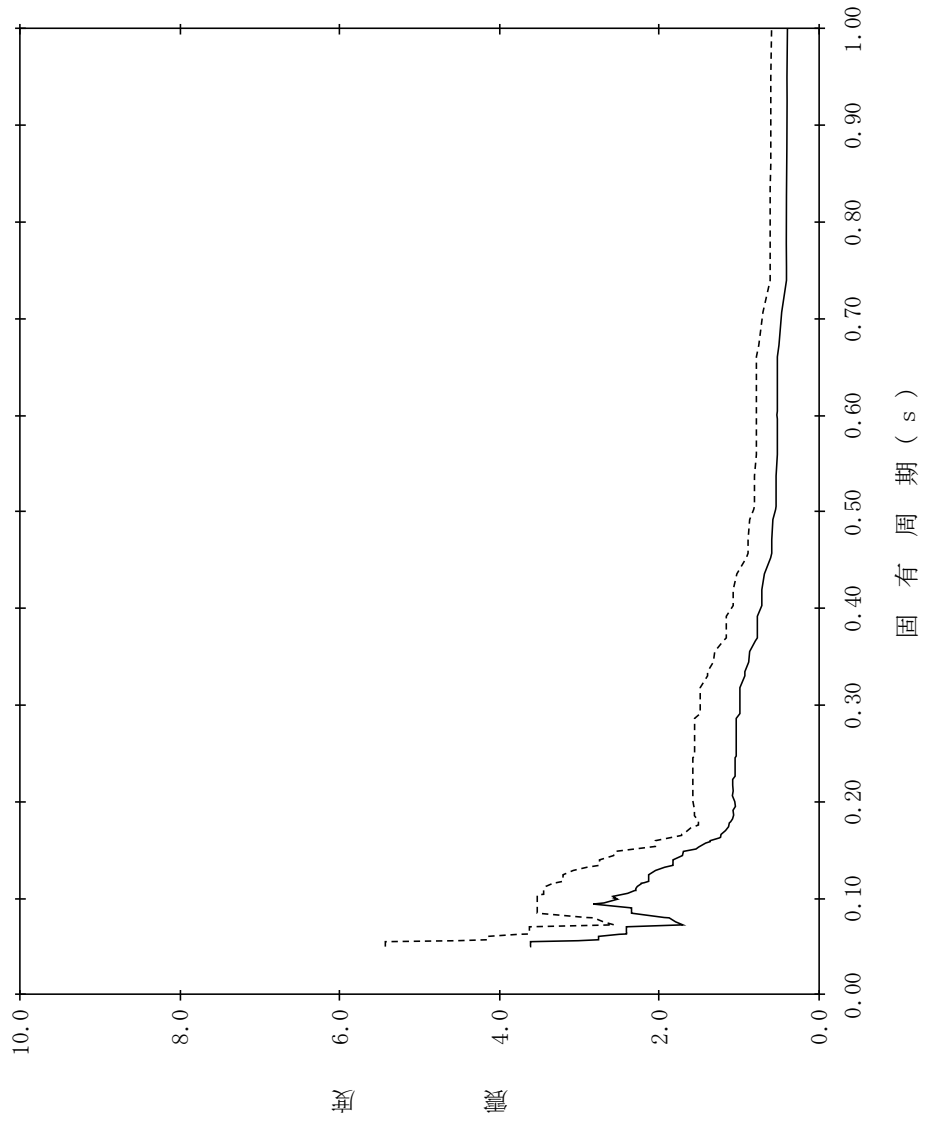
【NS2-PCV-SdV-GSW92】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



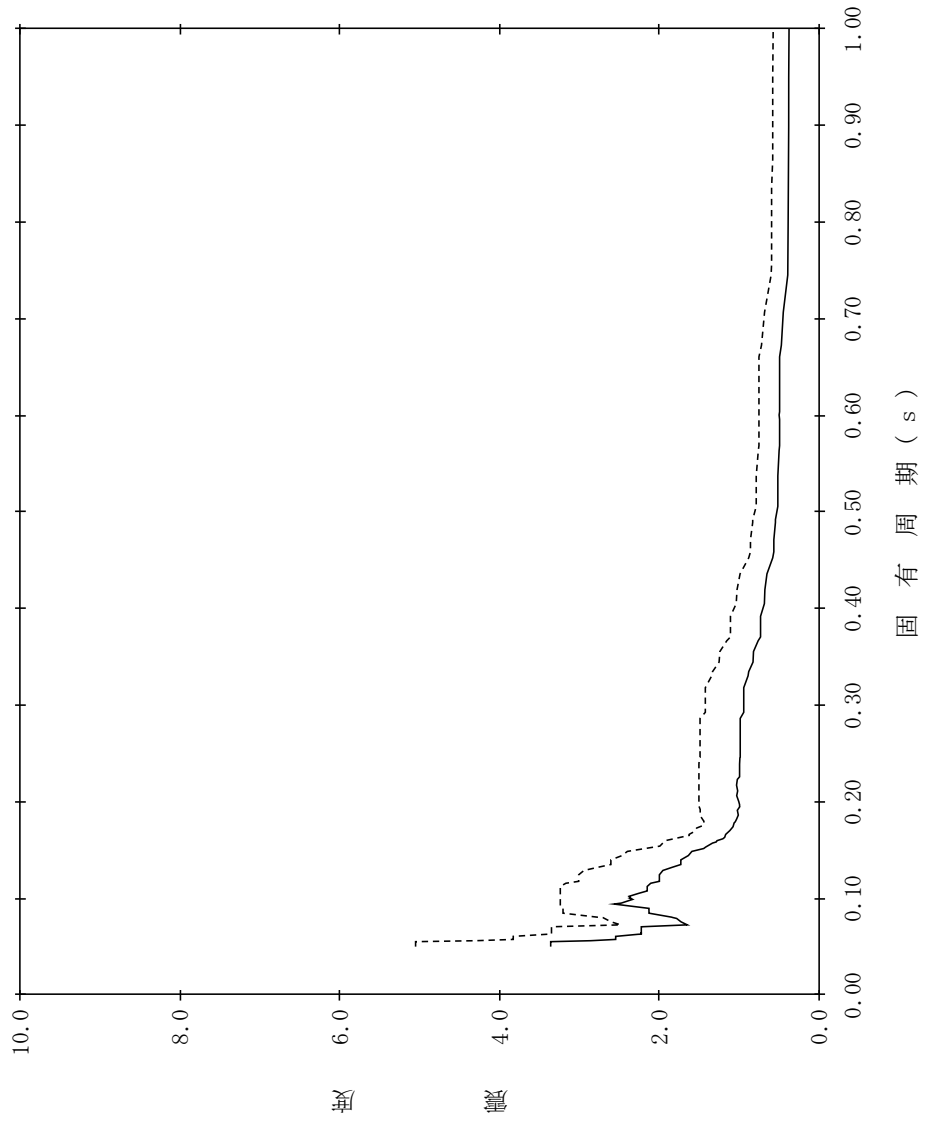
【NS2-PCV-SdV-GSW93】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



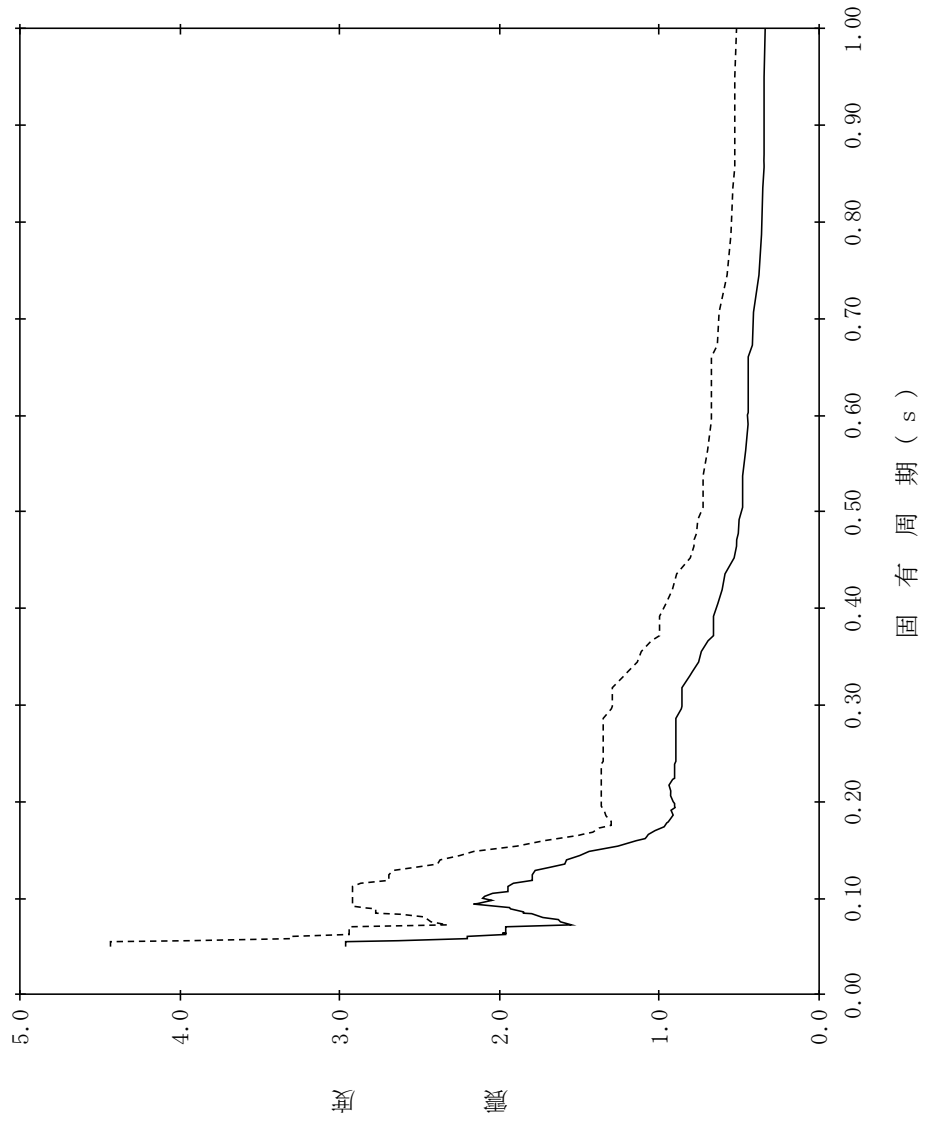
【NS2-PCV-SdV-GSW94】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL29.962m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



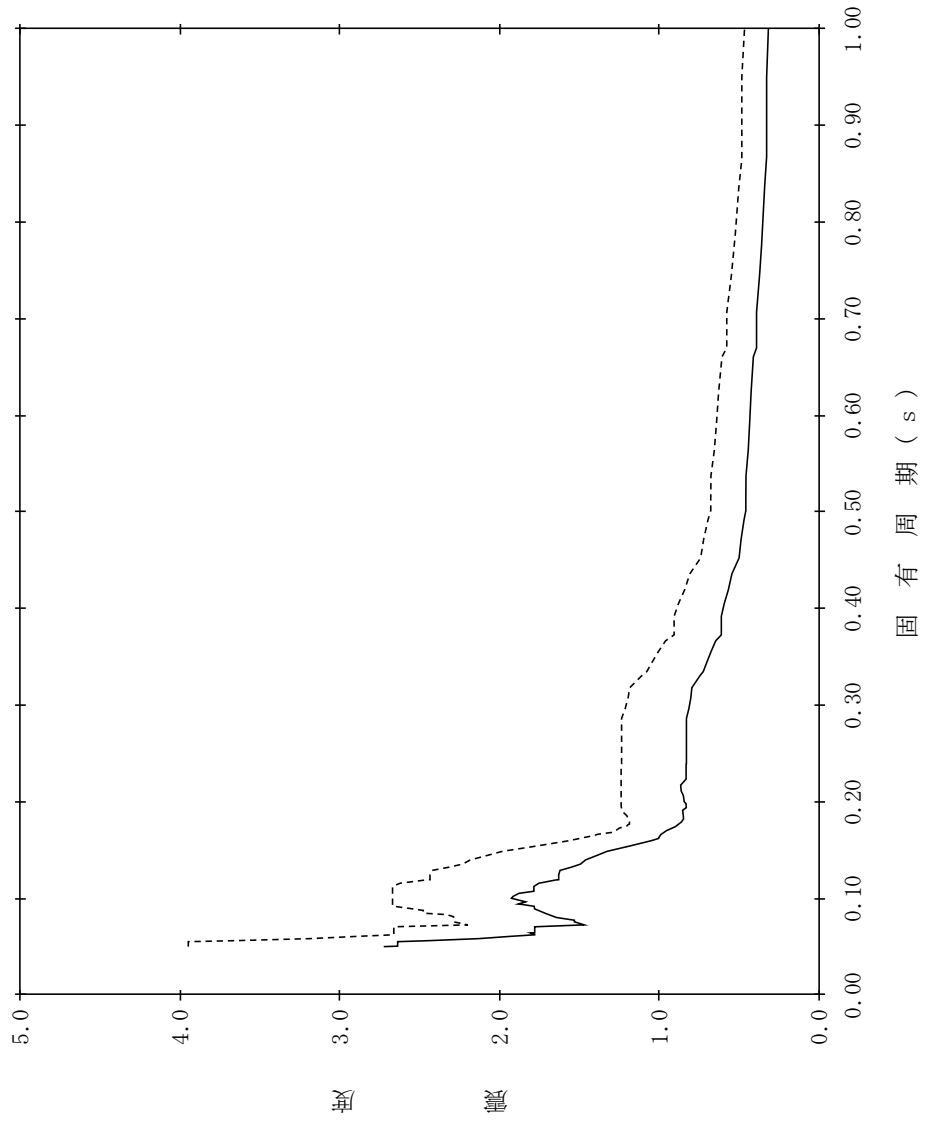
【NS2-PCV-SdV-GSW95】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



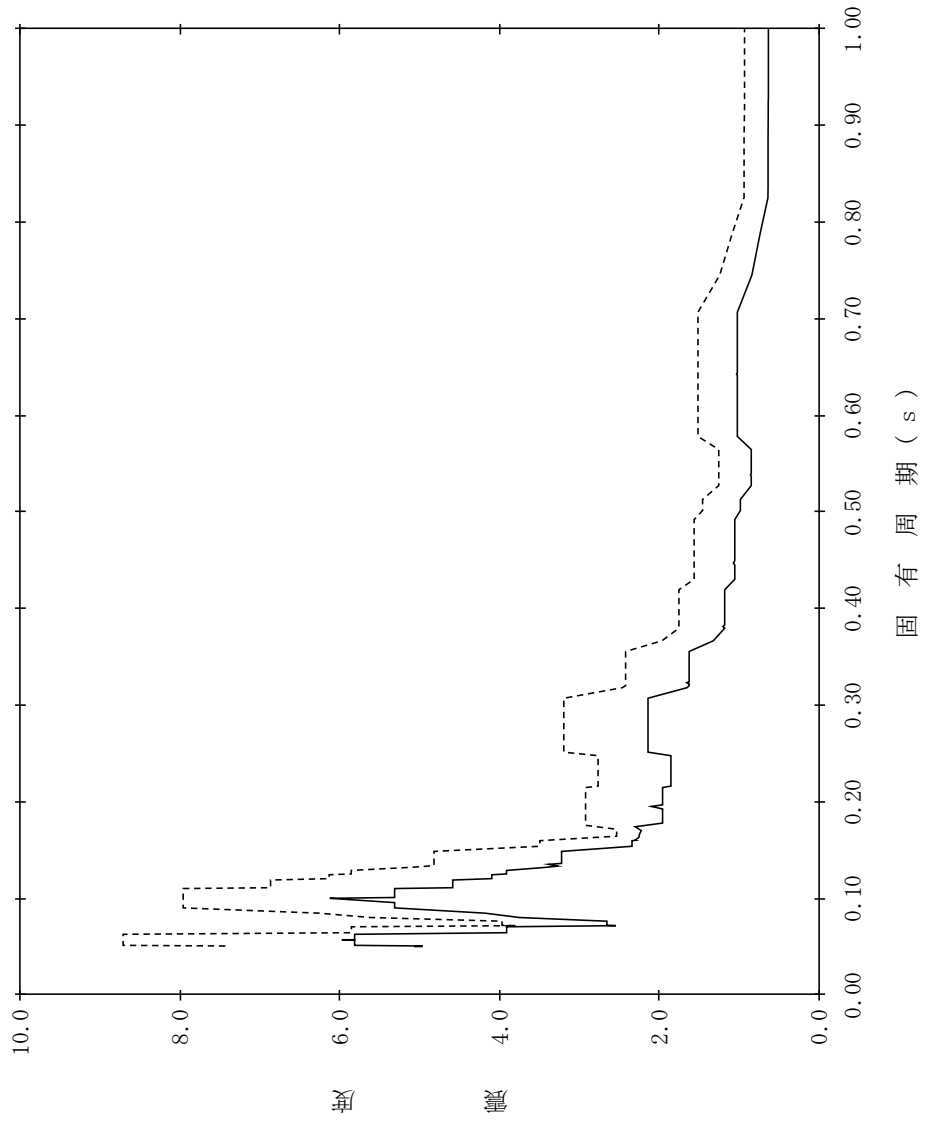
【NS2-PCV-SdV-GSW96】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



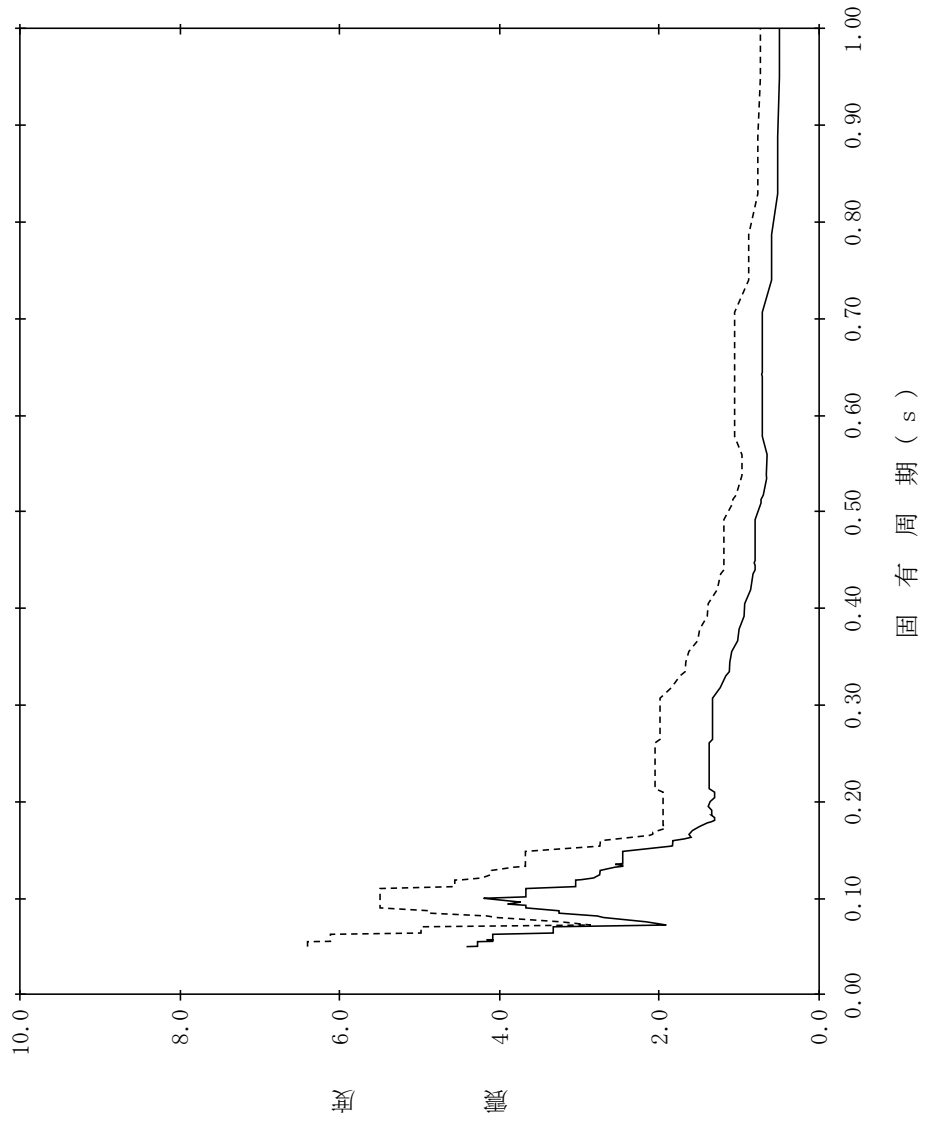
【NS2-PCV-SdV-GSW97】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



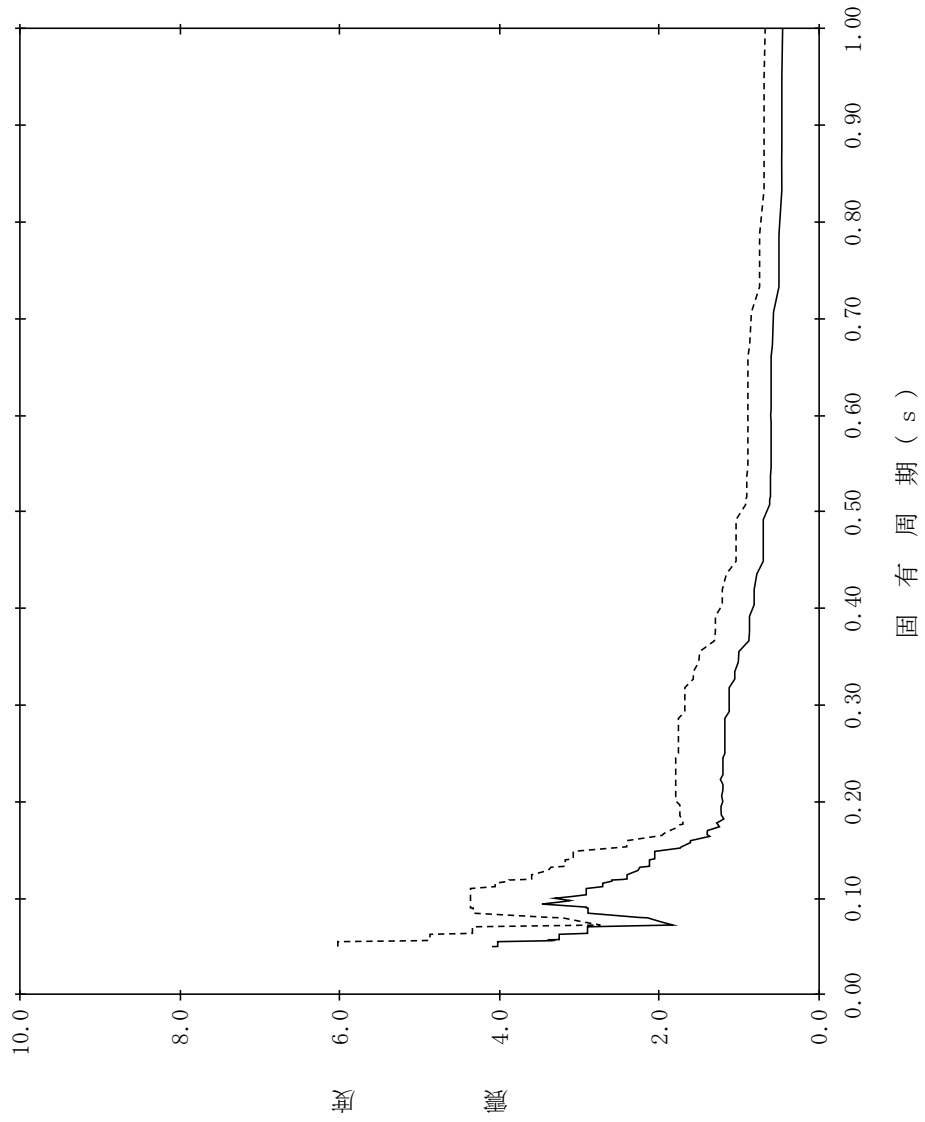
【NS2-PCV-SdV-GSW98】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



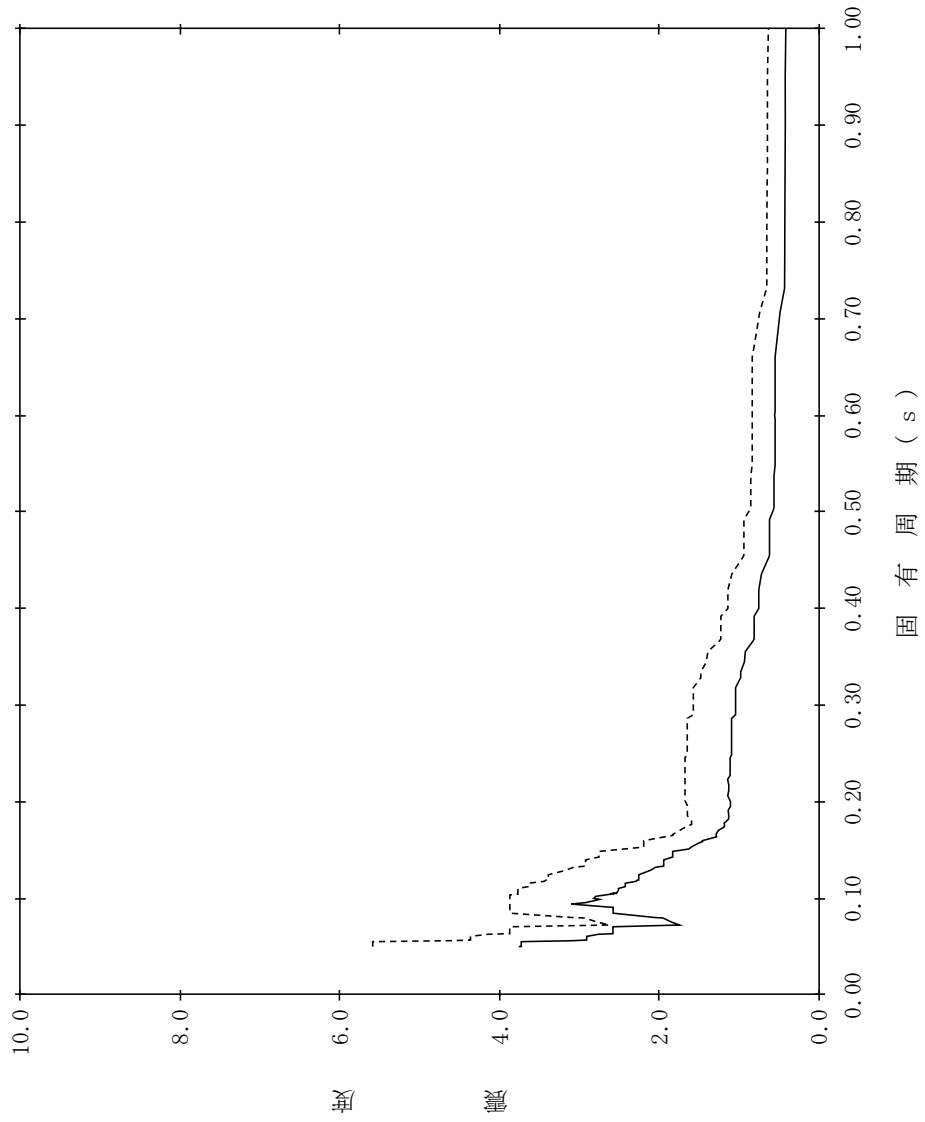
【NS2-PCV-SdV-GSW99】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL26.981m
減衰定数：1.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



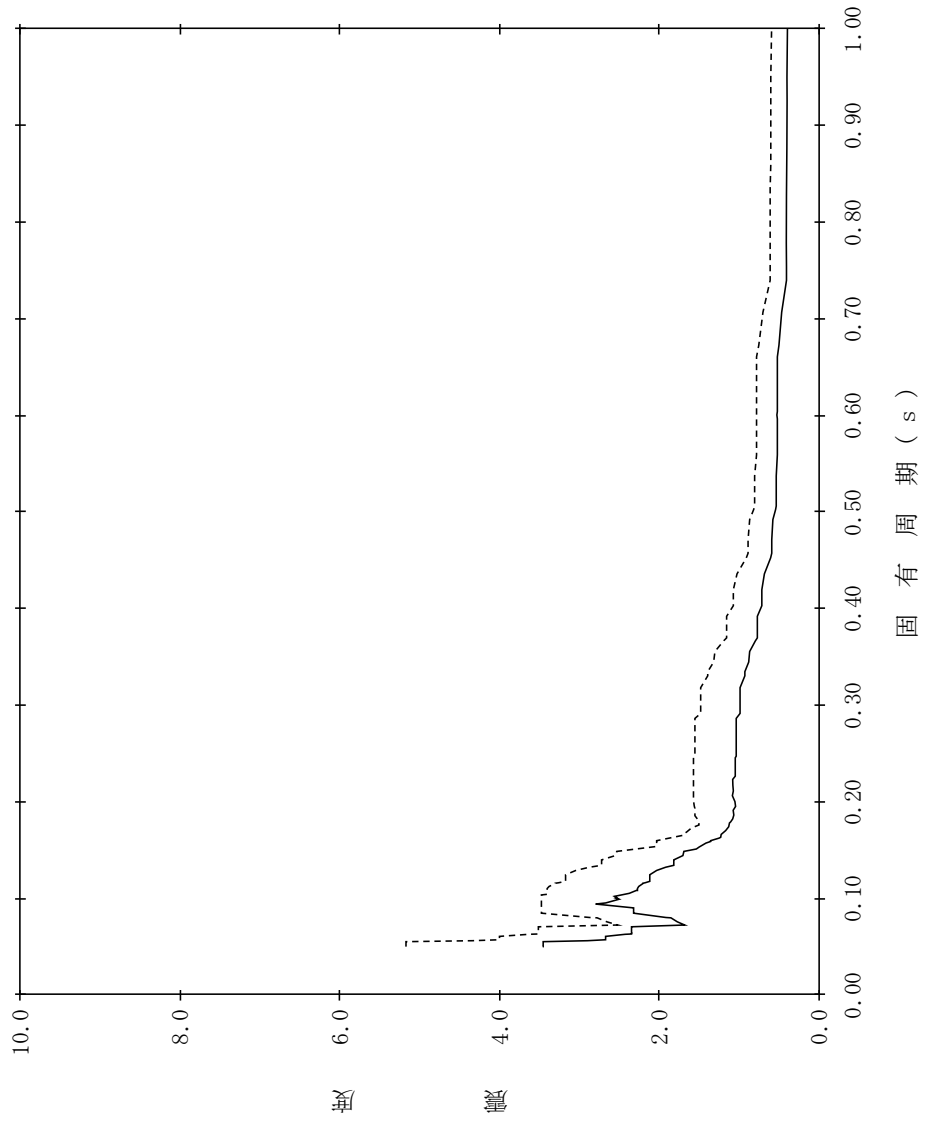
【NS2-PCV-SdV-GSW100】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



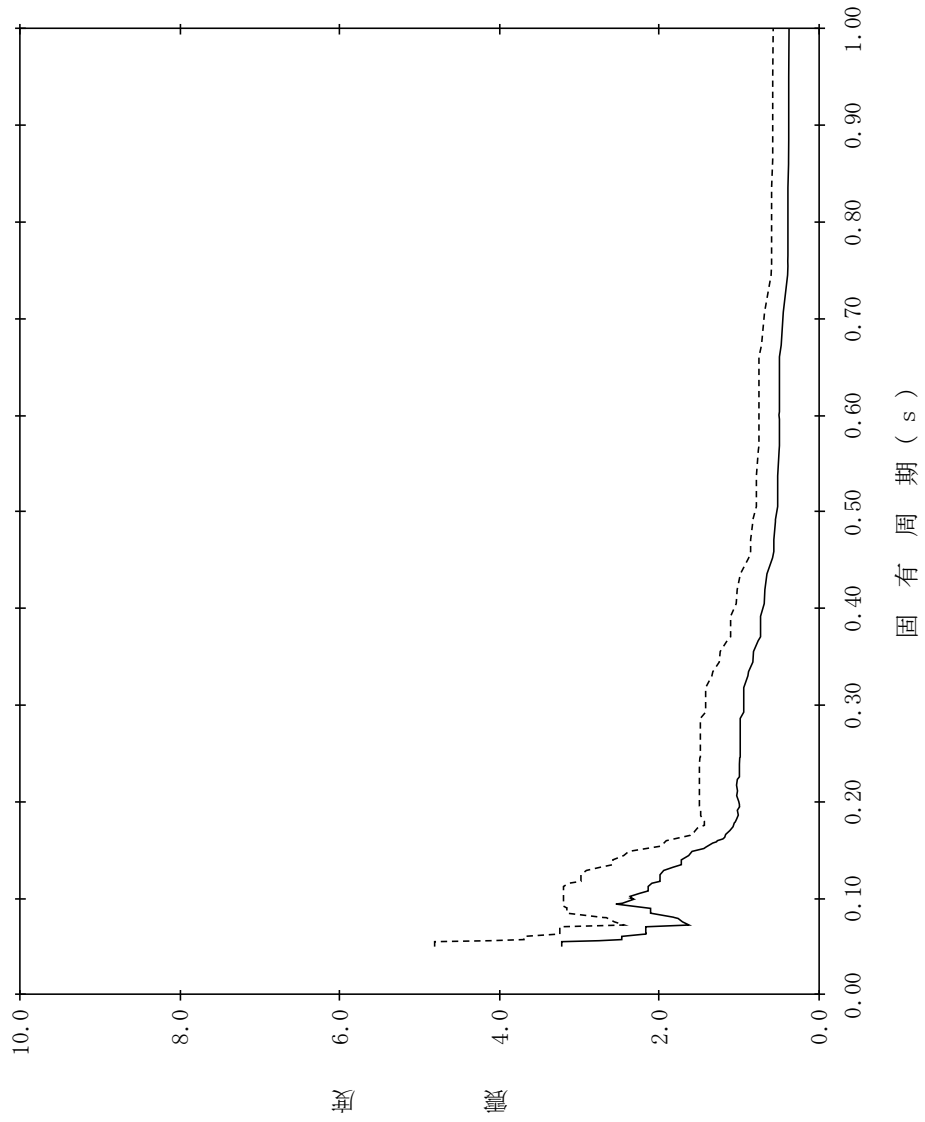
【NS2-PCV-SdV-GSW101】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



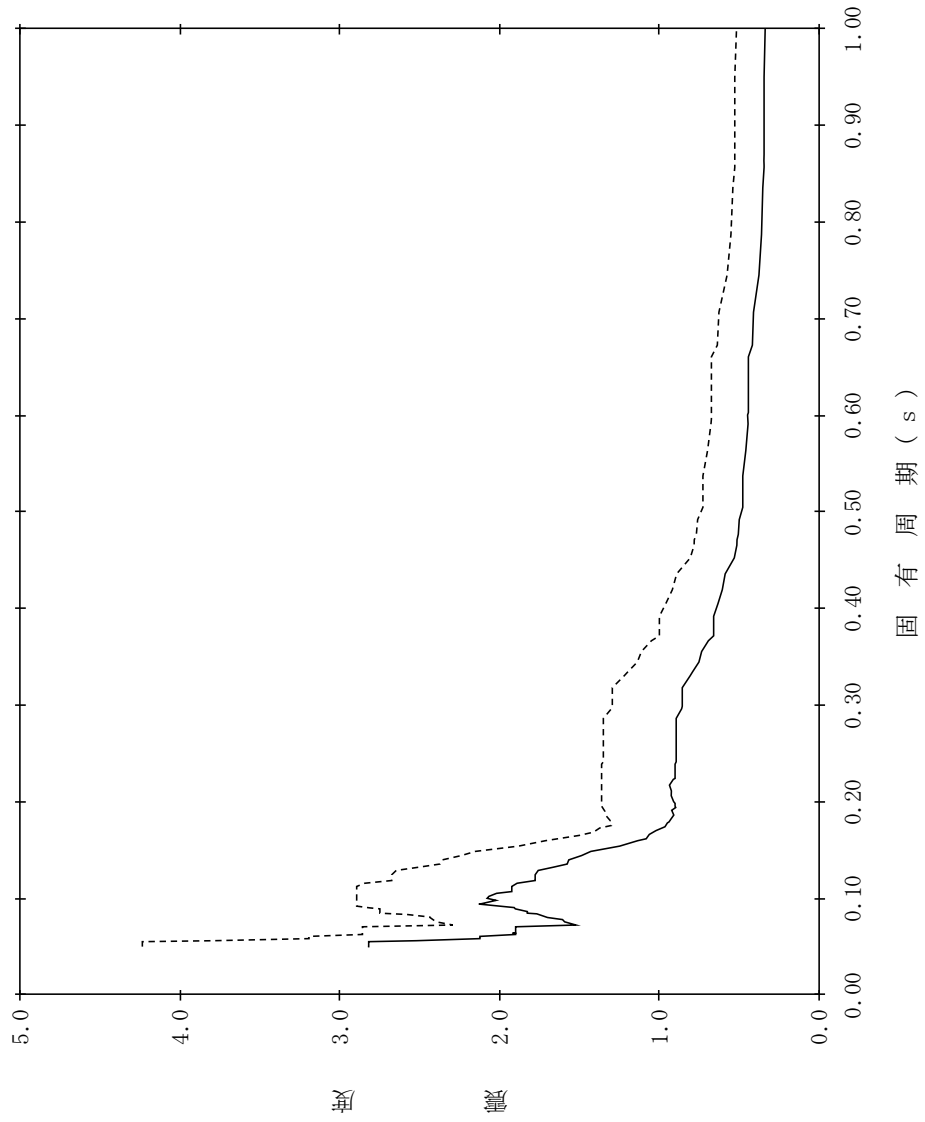
【NS2-PCV-SdV-GSW102】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



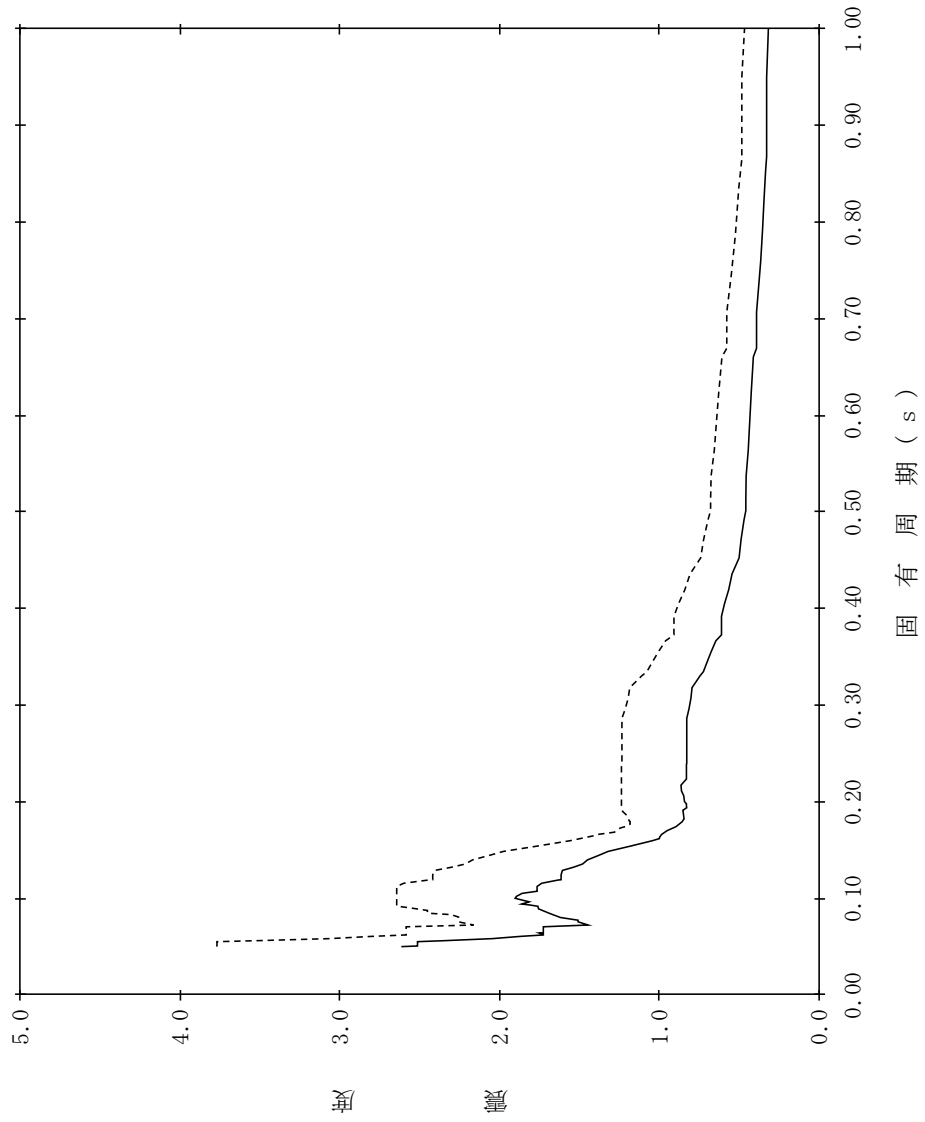
【NS2-PCV-SdV-GSW103】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



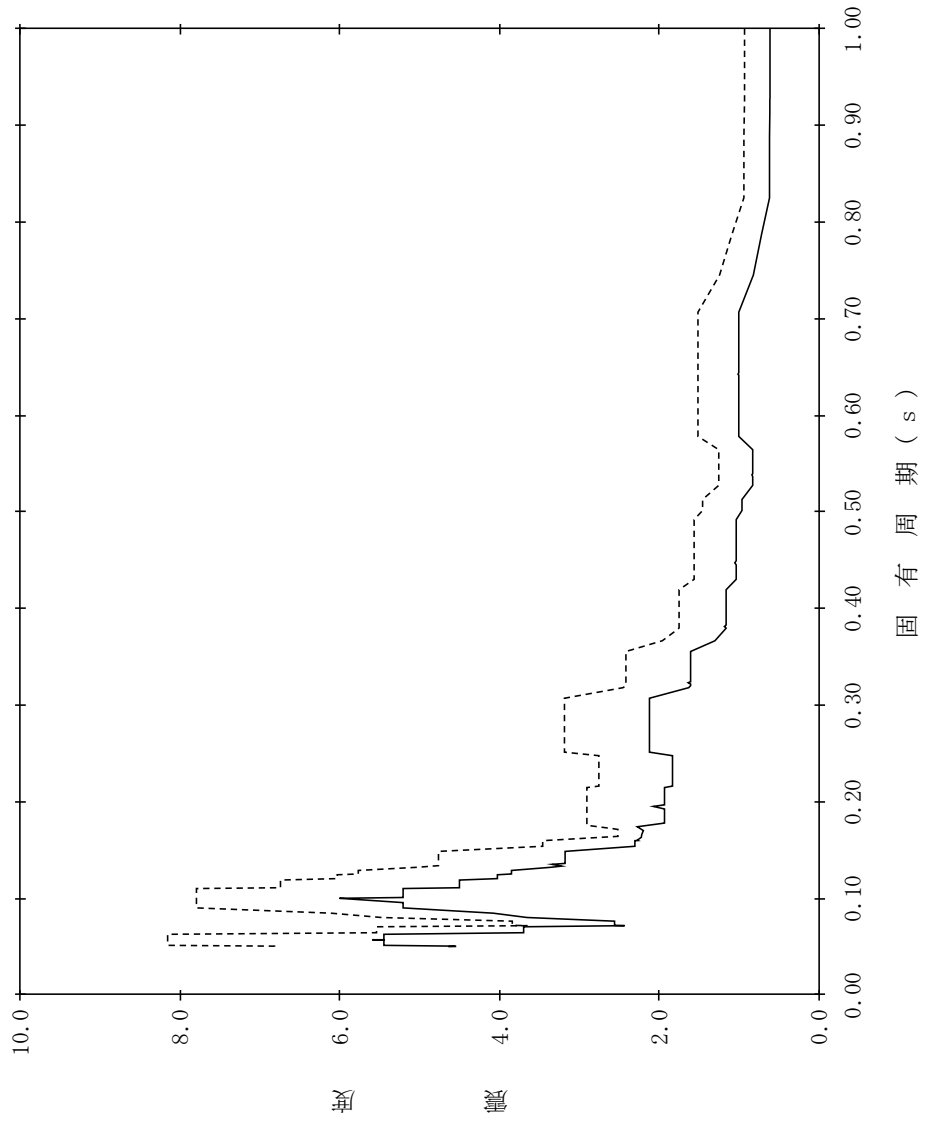
【NS2-PCV-SdV-GSW104】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL26.981m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



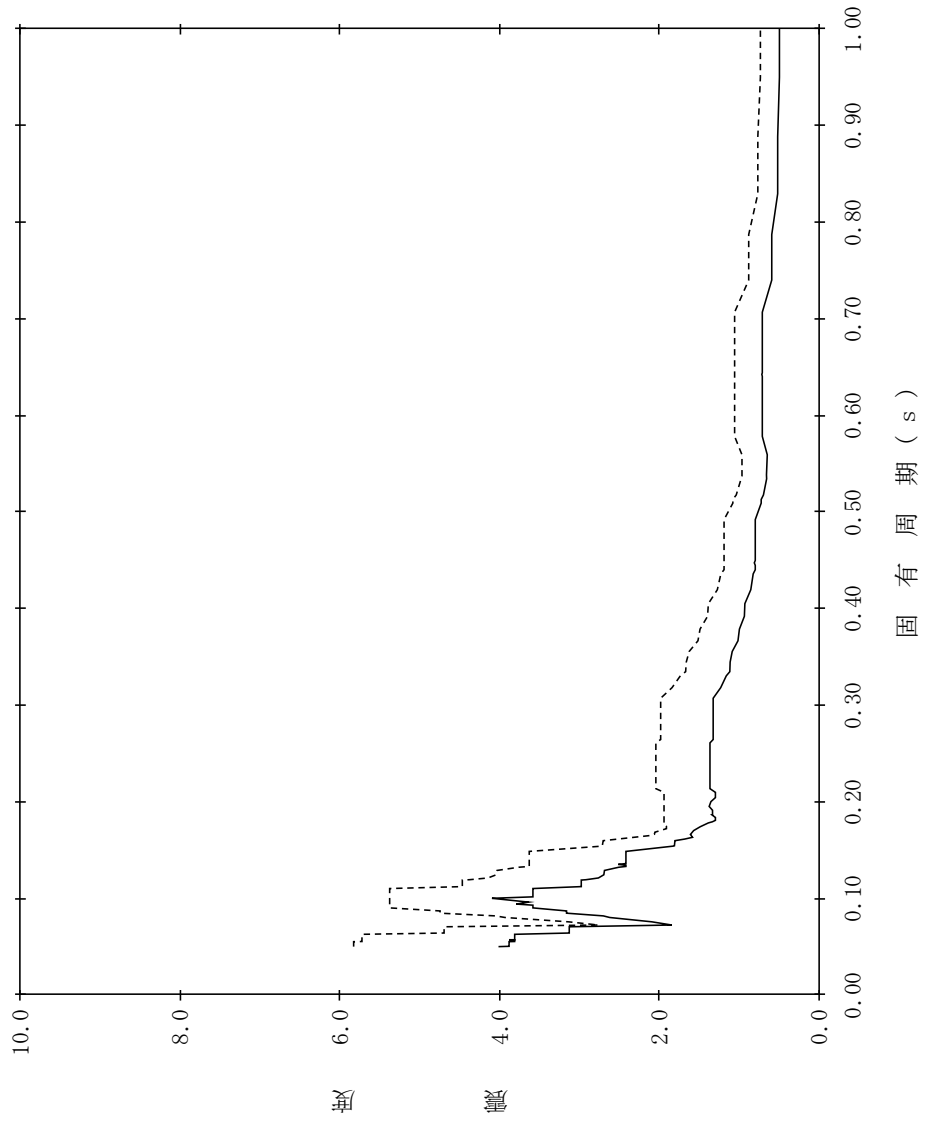
【NS2-PCV-SdV-GSW105】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



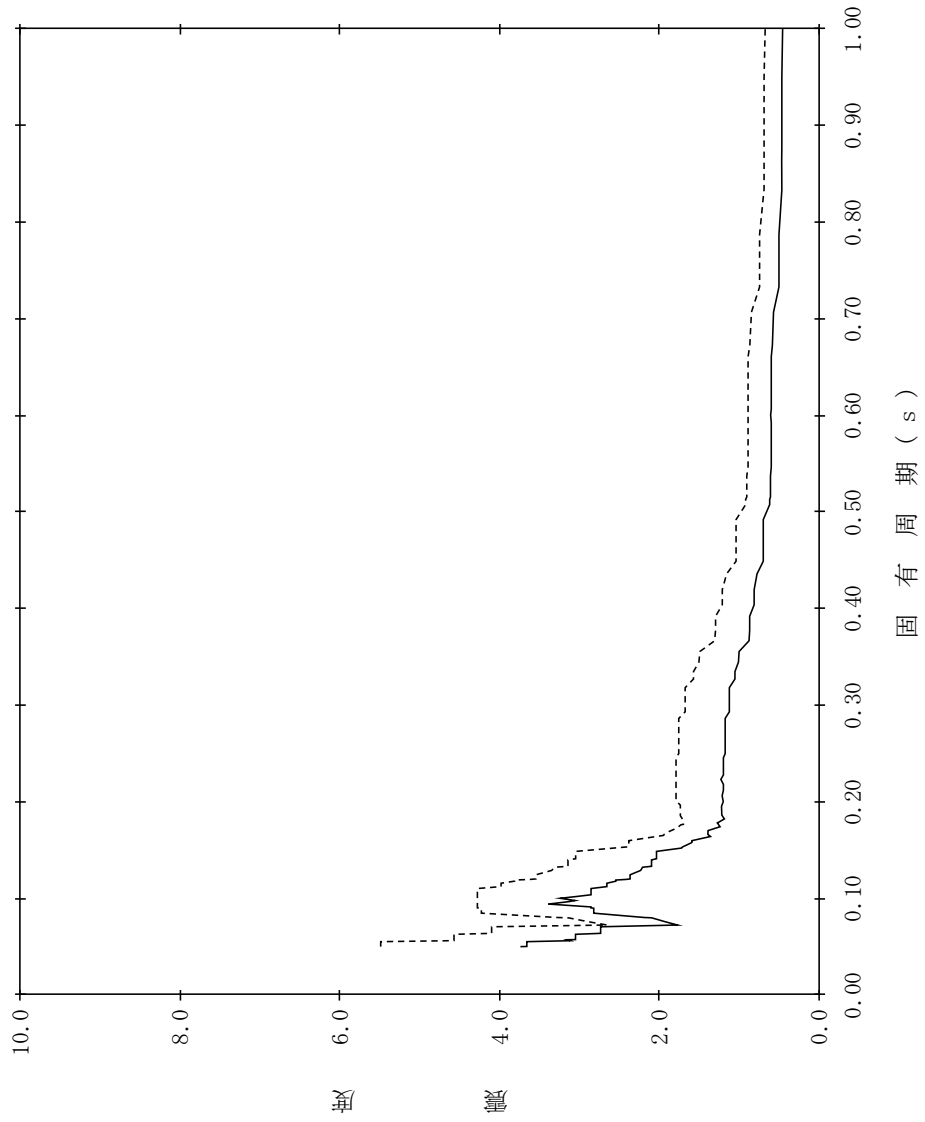
【NS2-PCV-SdV-GSW106】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



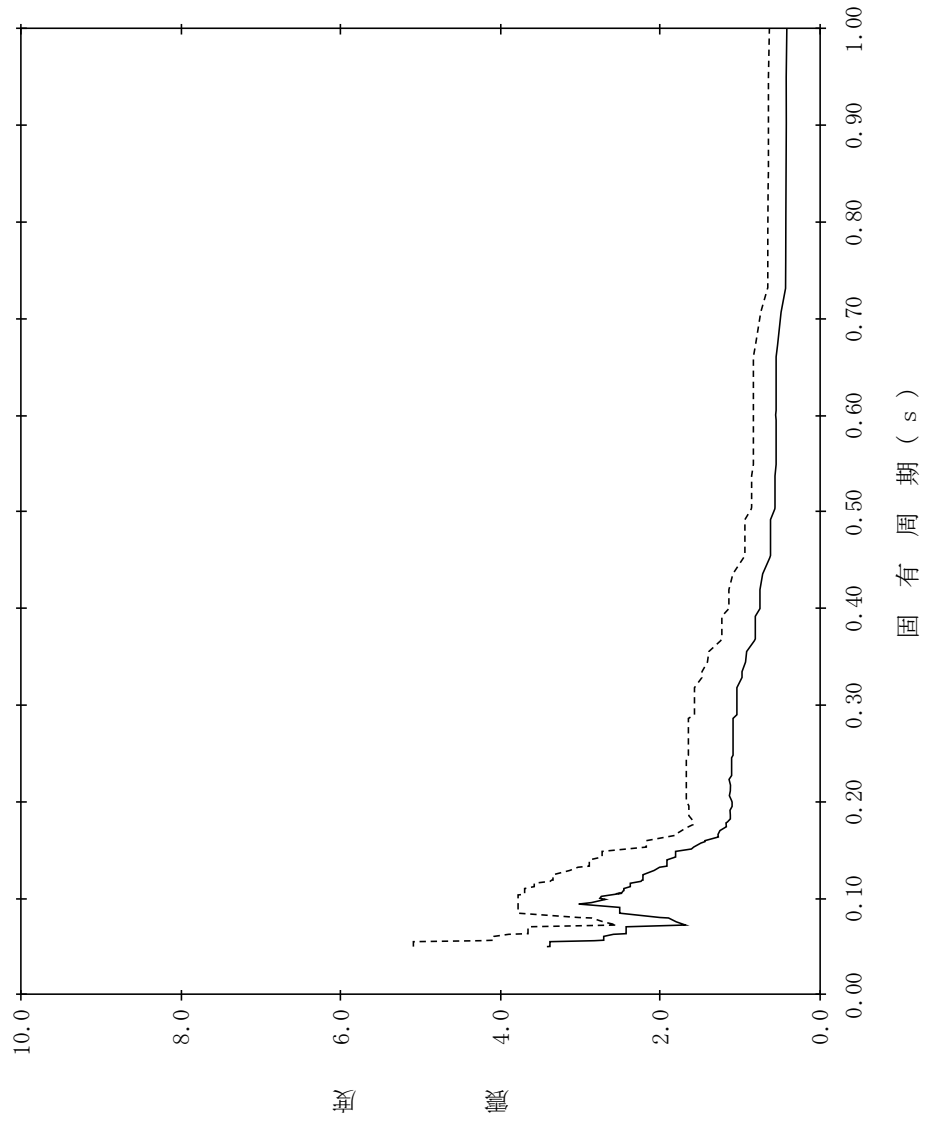
【NS2-PCV-SdV-GSW107】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



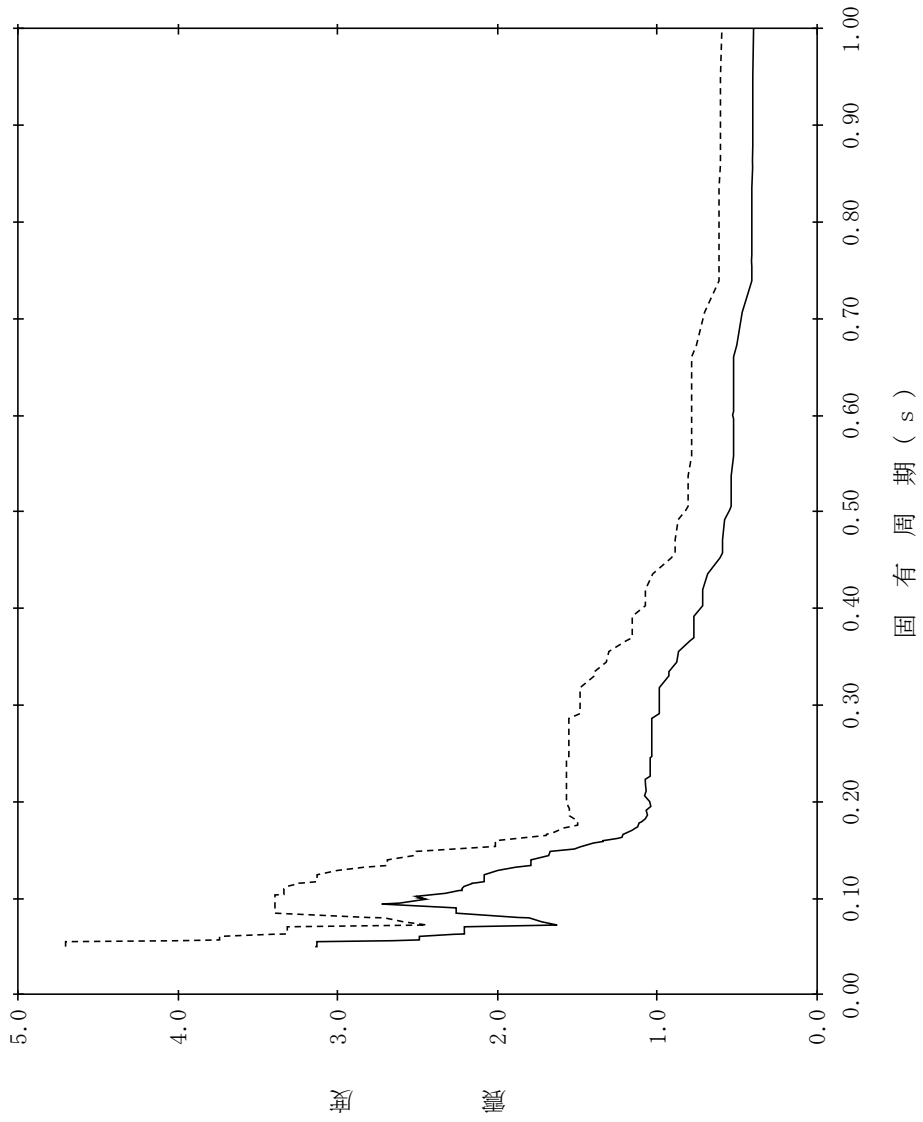
【NS2-PCV-SdV-GSW108】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



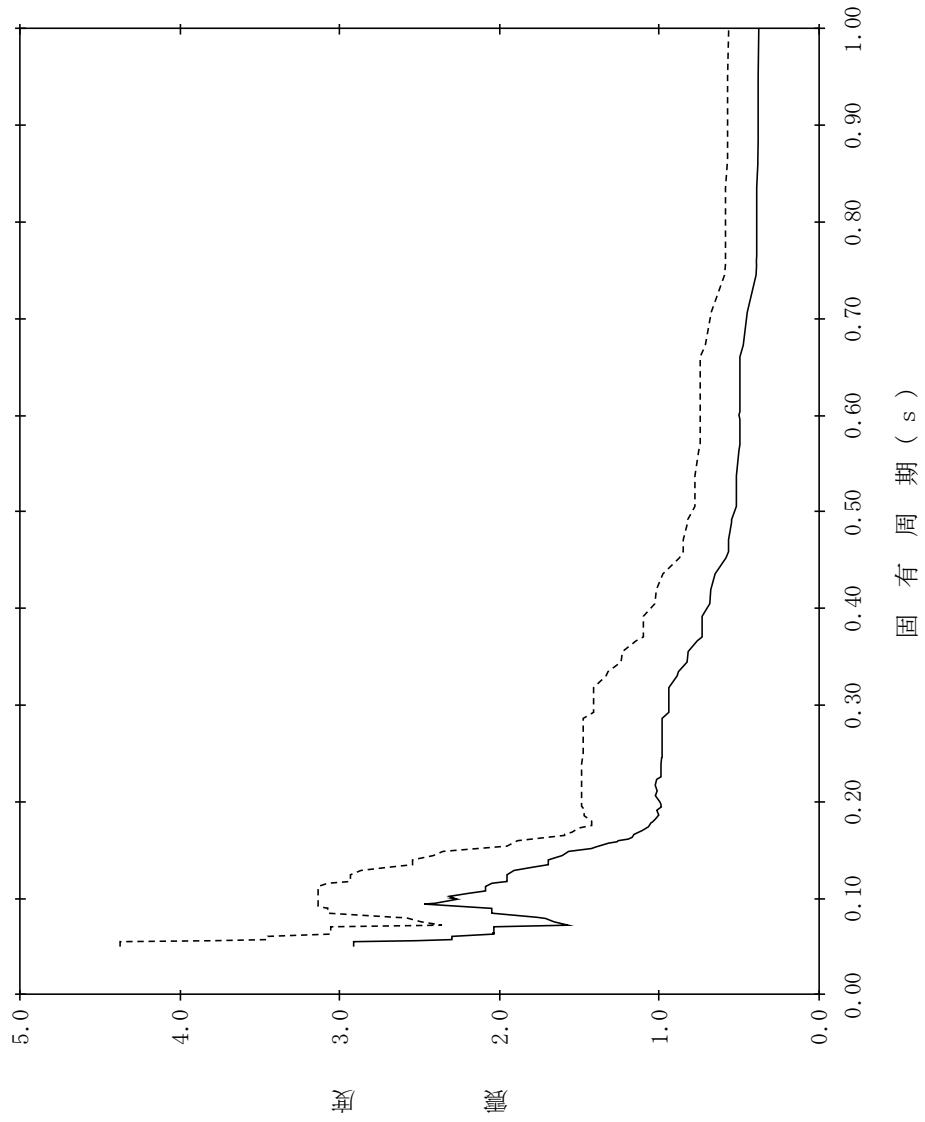
【NS2-PCV-SdV-GSW109】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



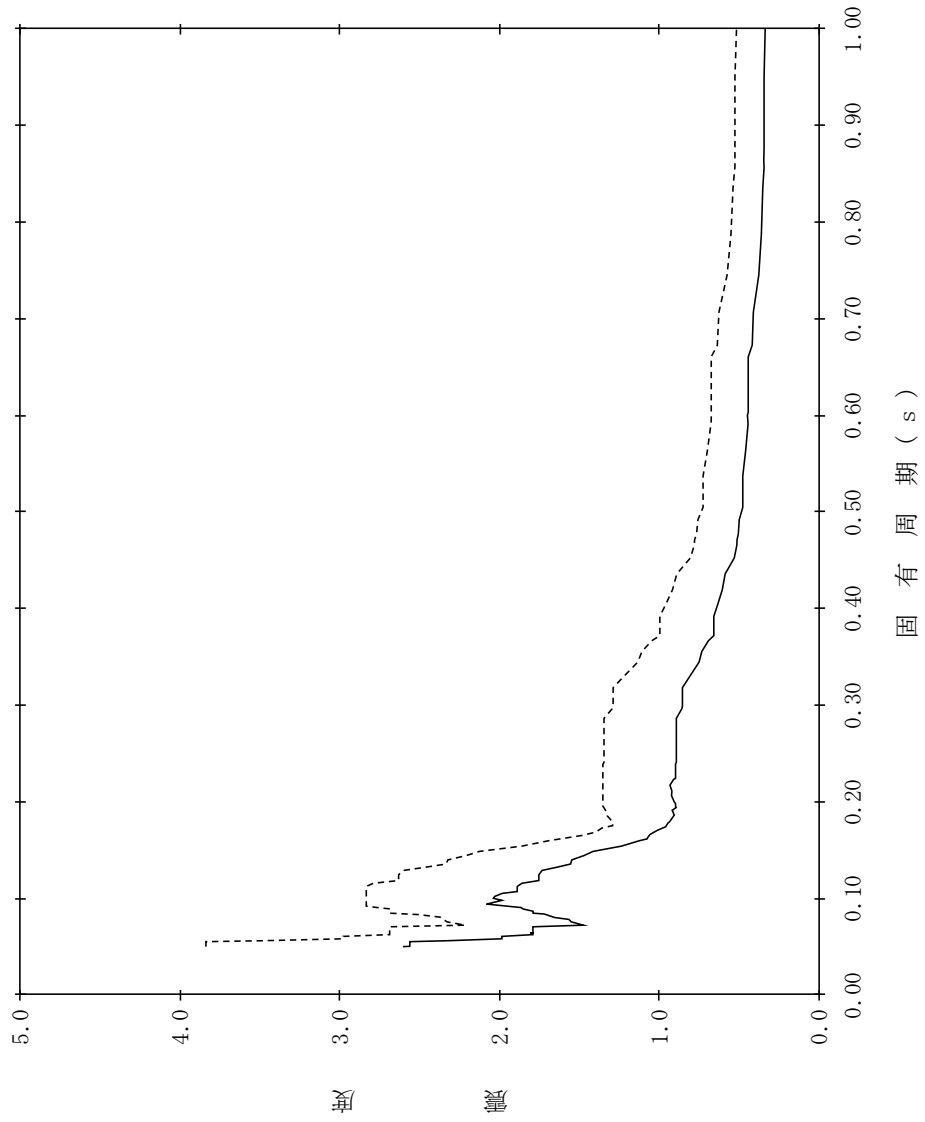
【NS2-PCV-SdV-GSW110】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



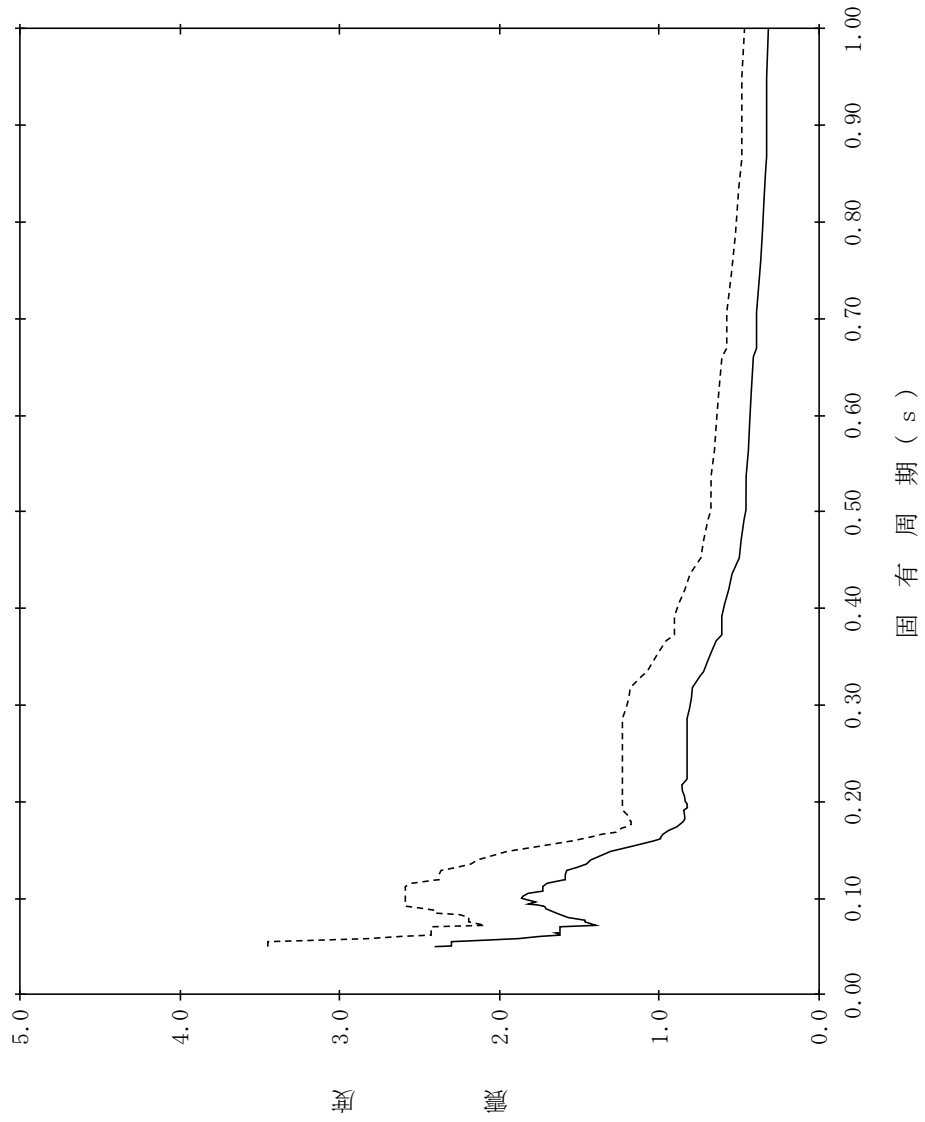
【NS2-PCV-SdV-GSW111】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



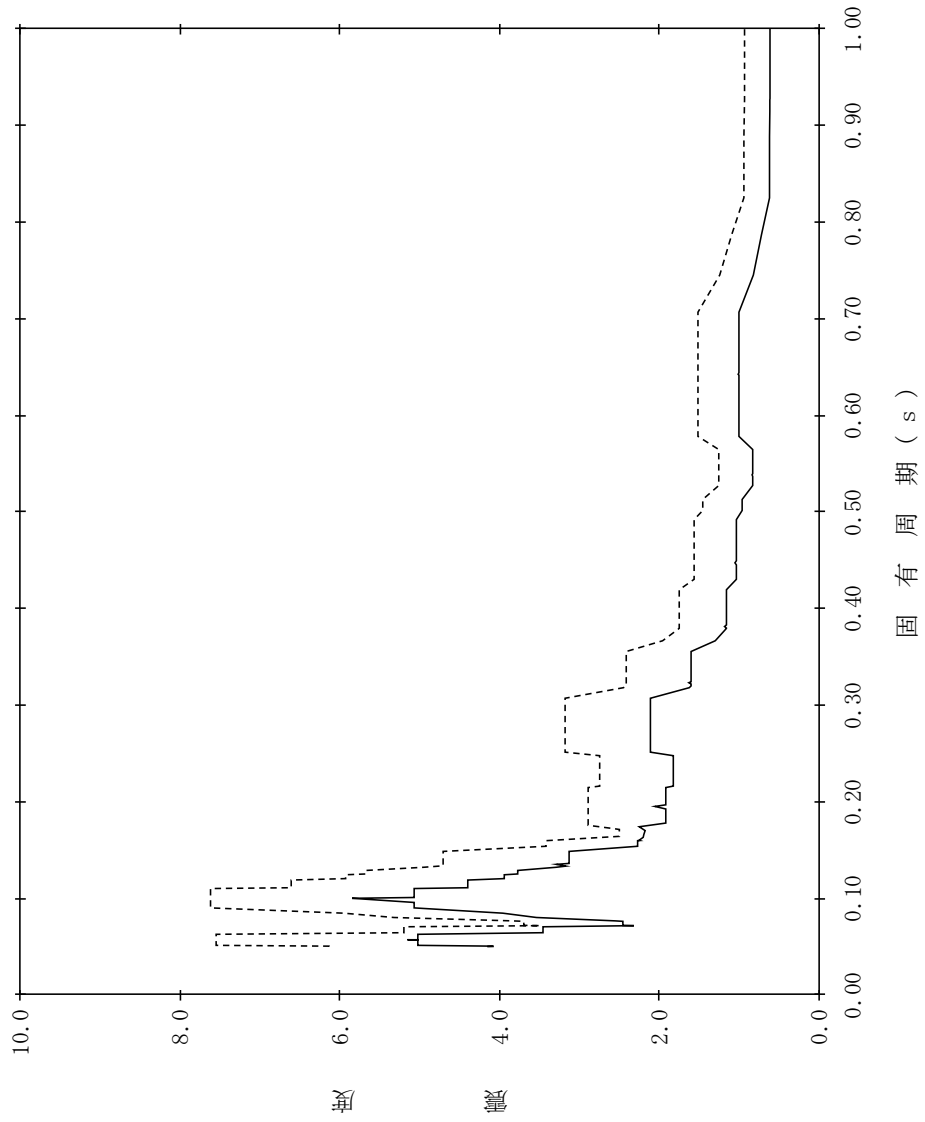
【NS2-PCV-SdV-GSW112】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



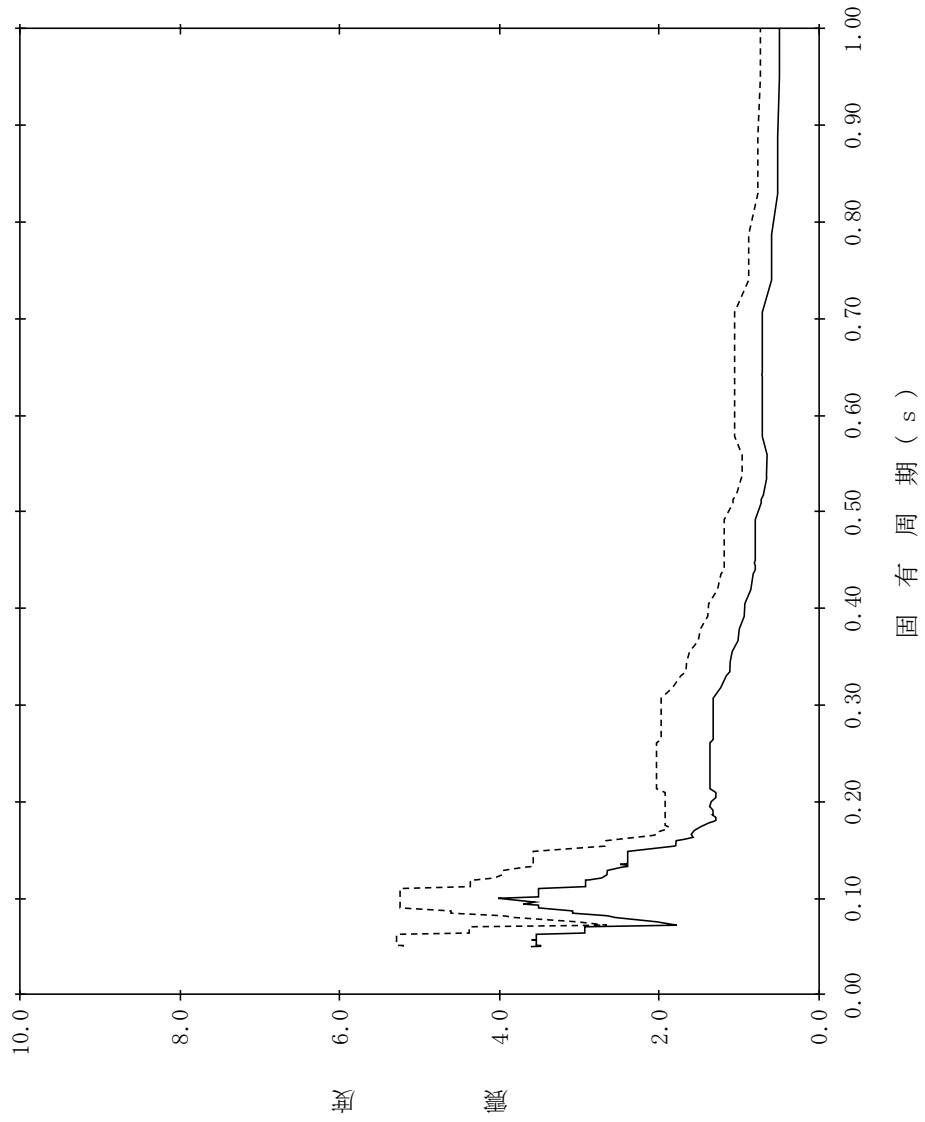
【NS2-PCV-SdV-GSW113】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



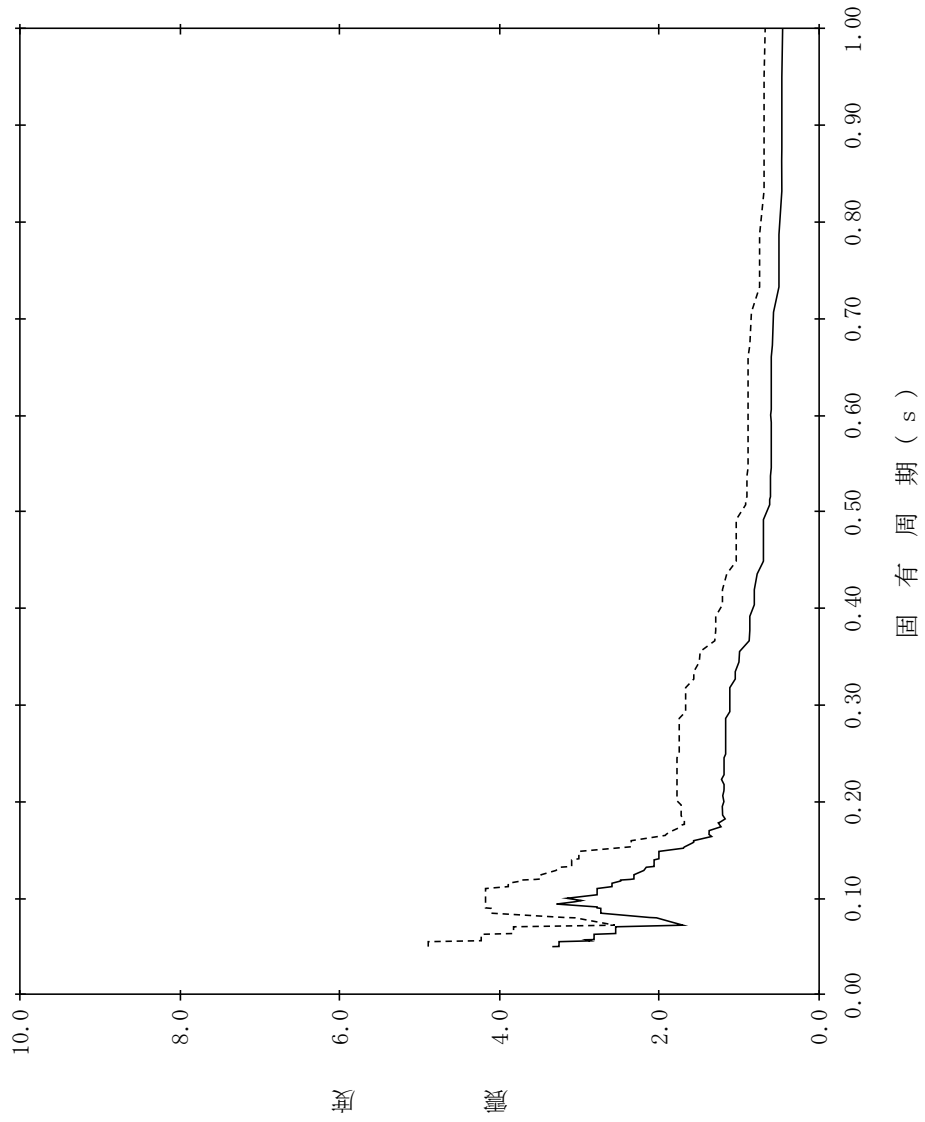
【NS2-PCV-SdV-GSW114】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL1.500m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



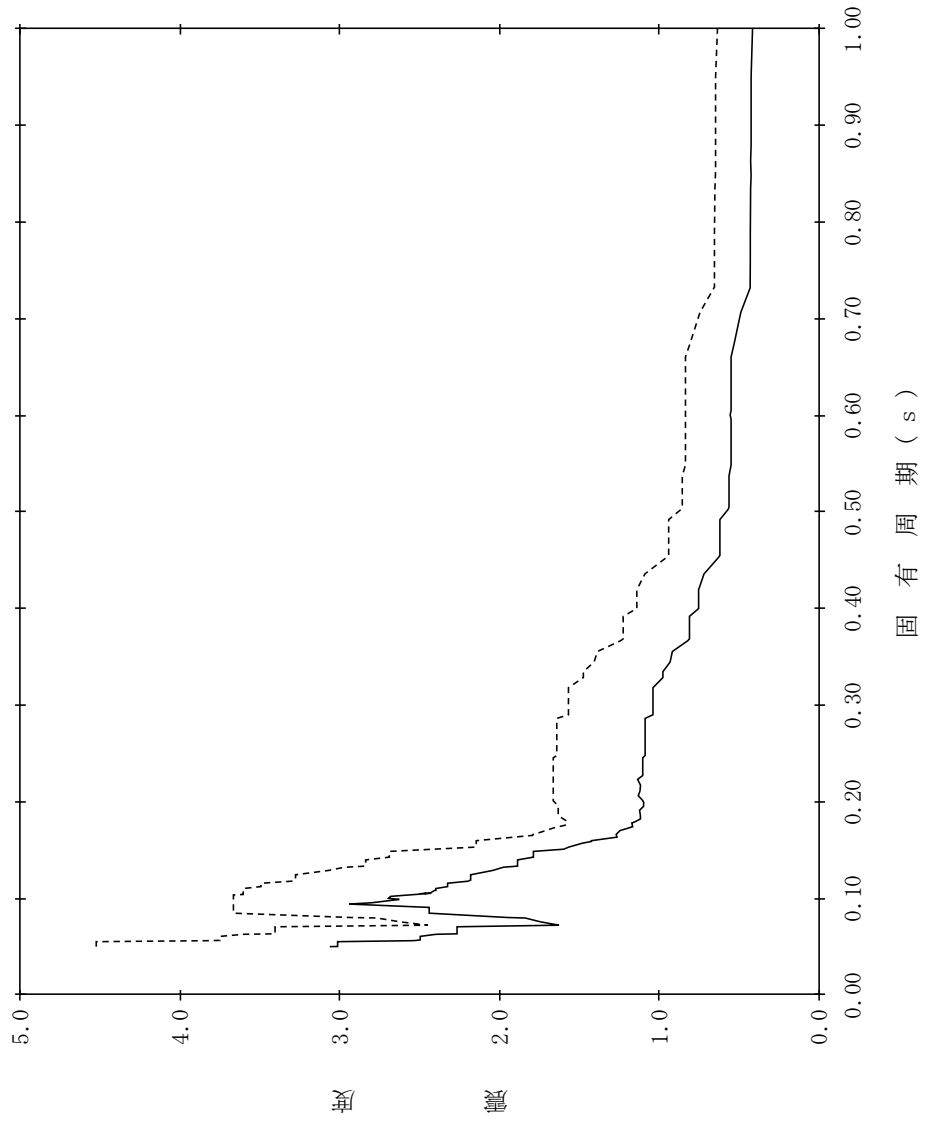
【NS2-PCV-SdV-GSW115】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL1.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



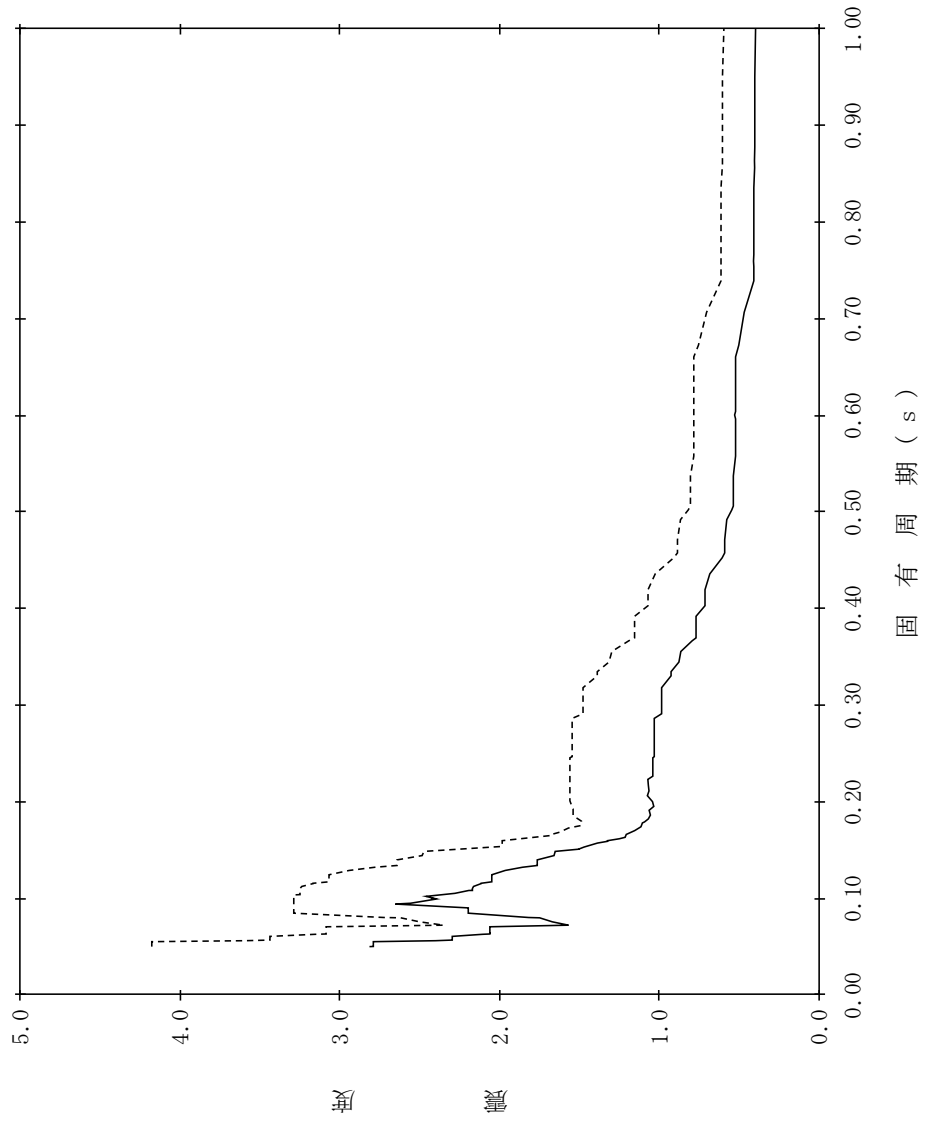
【NS2-PCV-SdV-GSW116】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL1.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



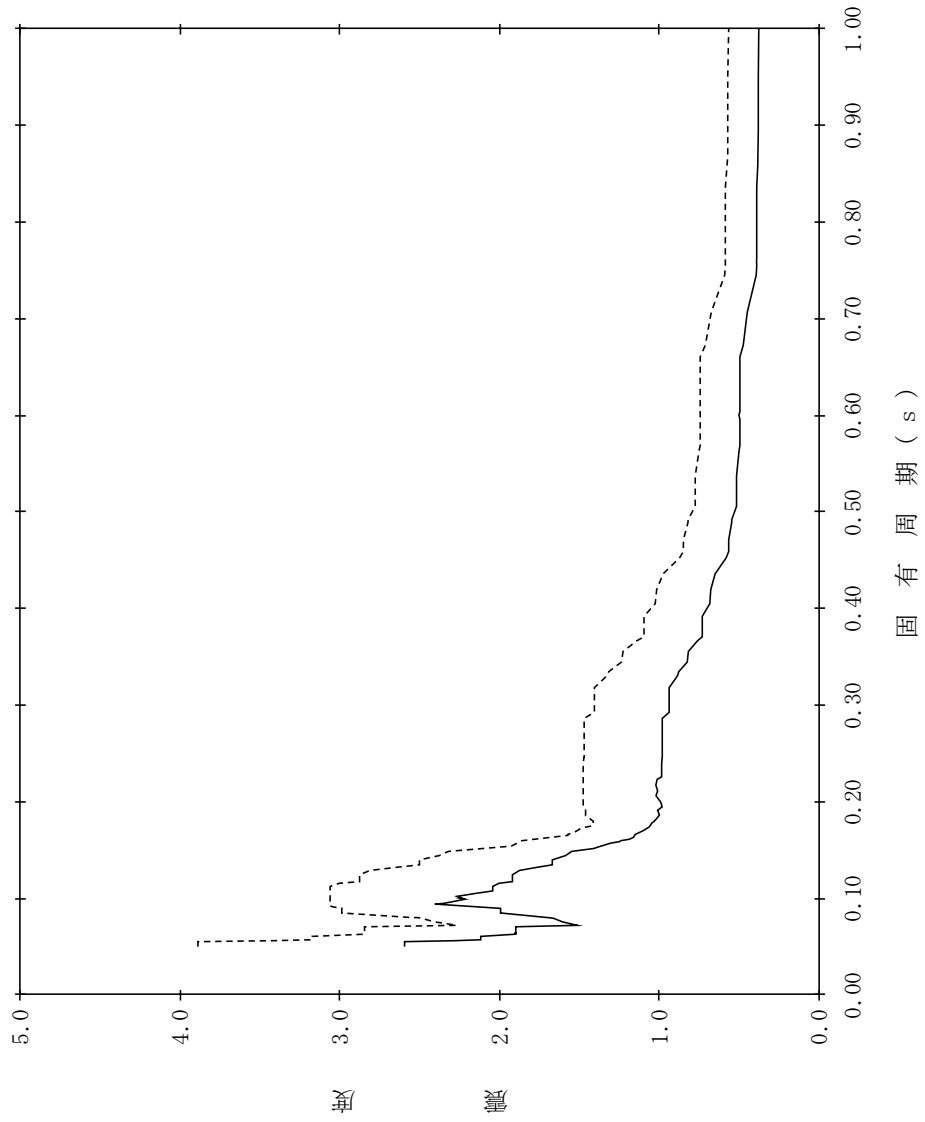
【NS2-PCV-SdV-GSW117】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



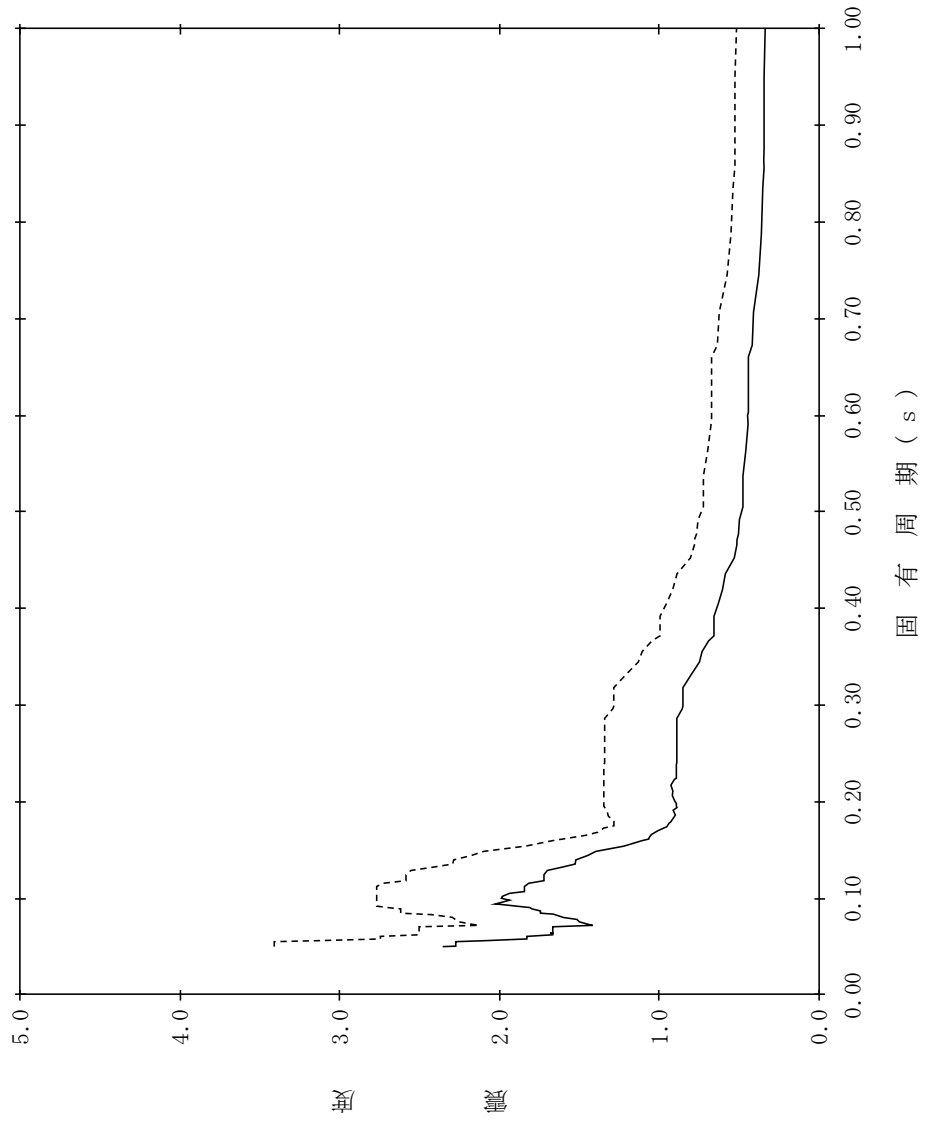
【NS2-PCV-SdV-GSW118】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



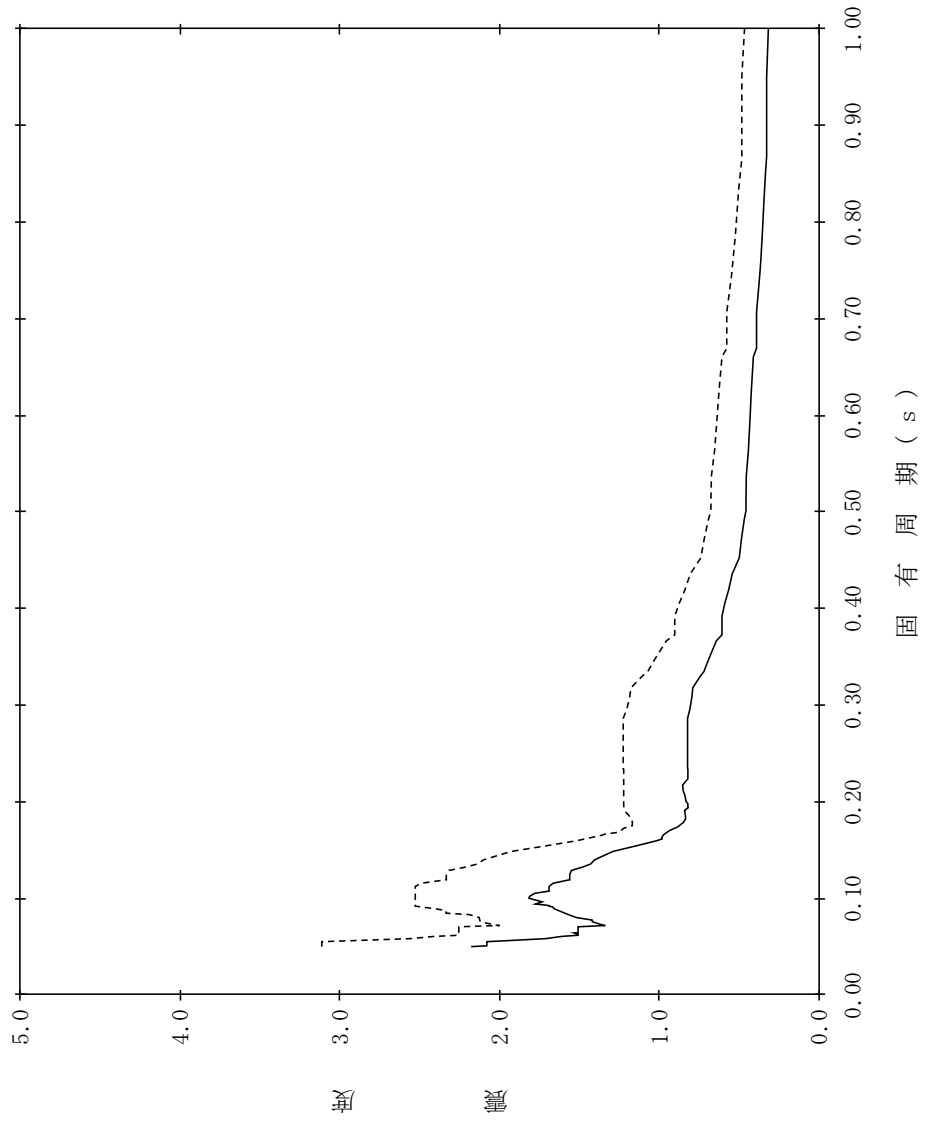
【NS2-PCV-SdV-GSW119】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



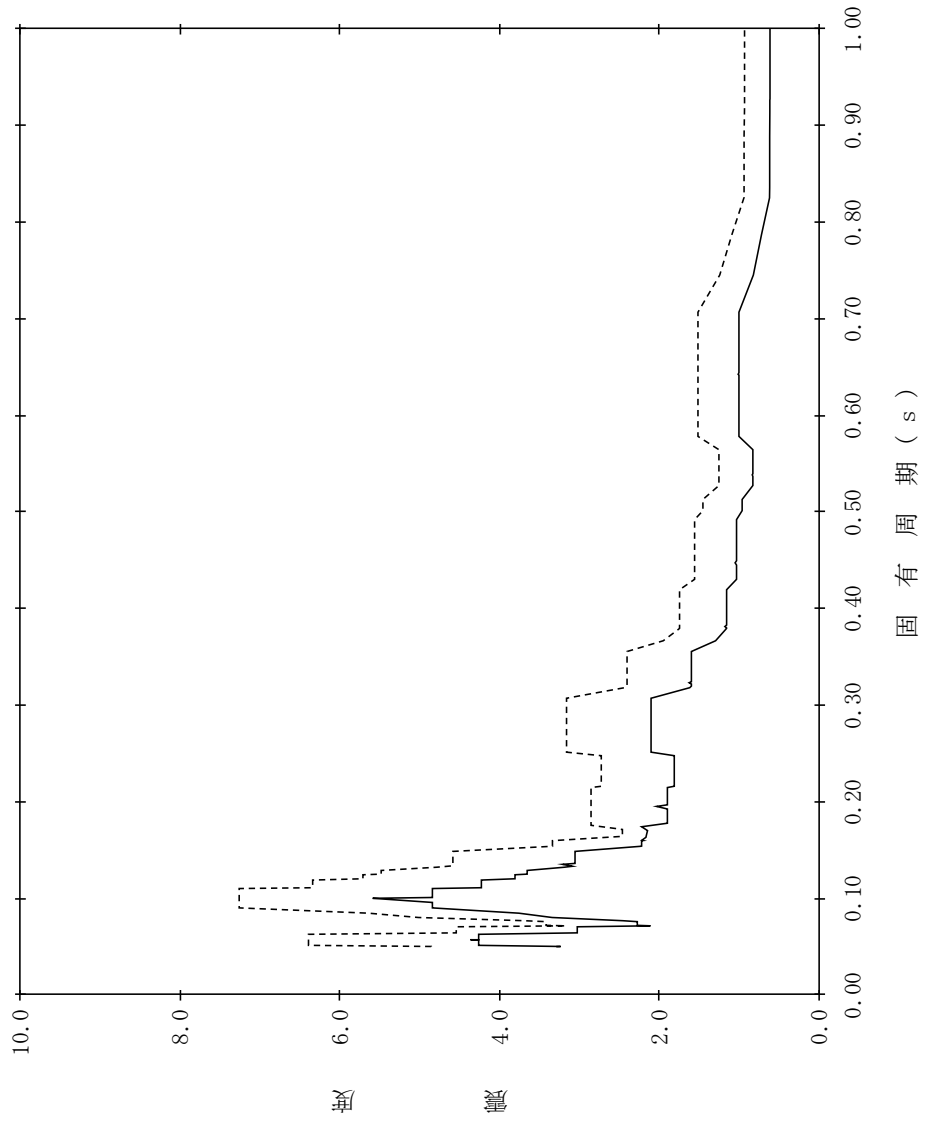
【NS2-PCV-SdV-GSW120】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL1.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



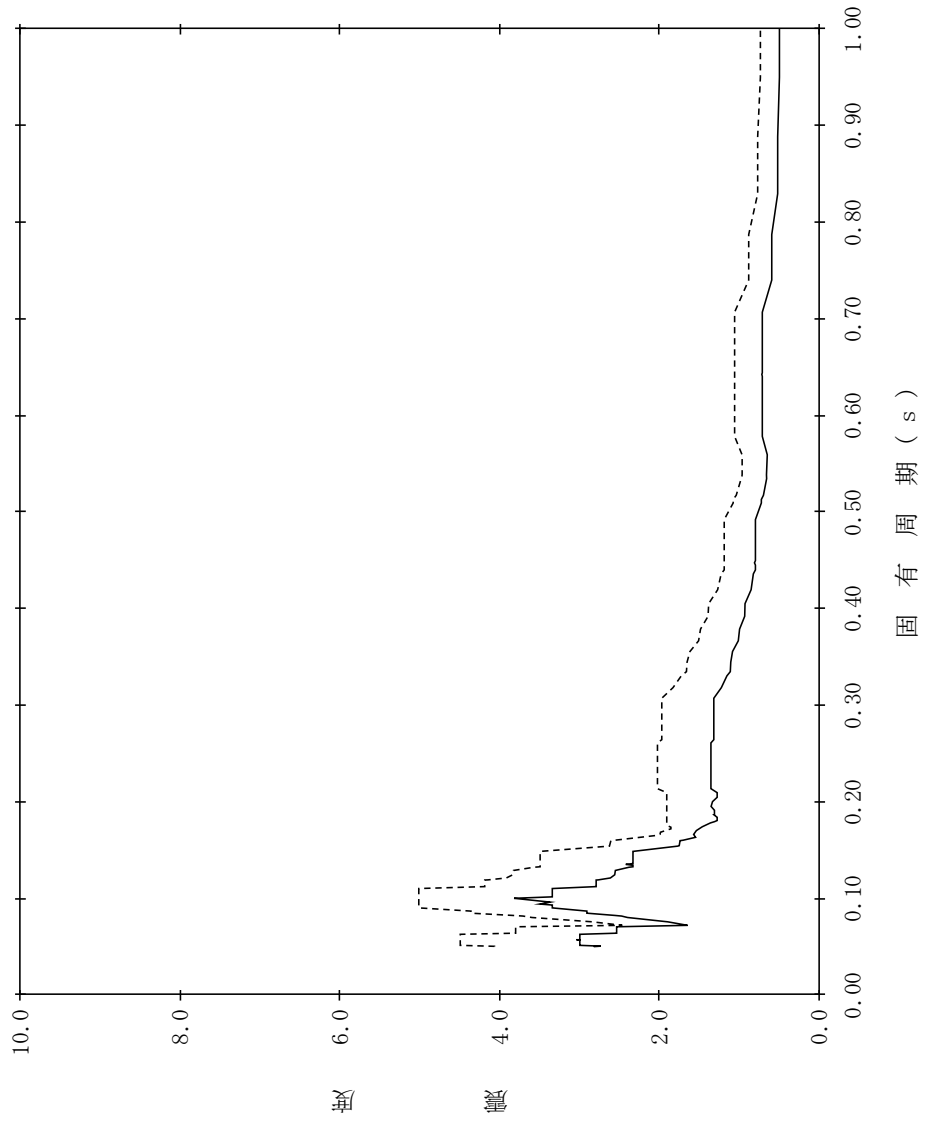
【NS2-PCV-SdV-GSW121】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



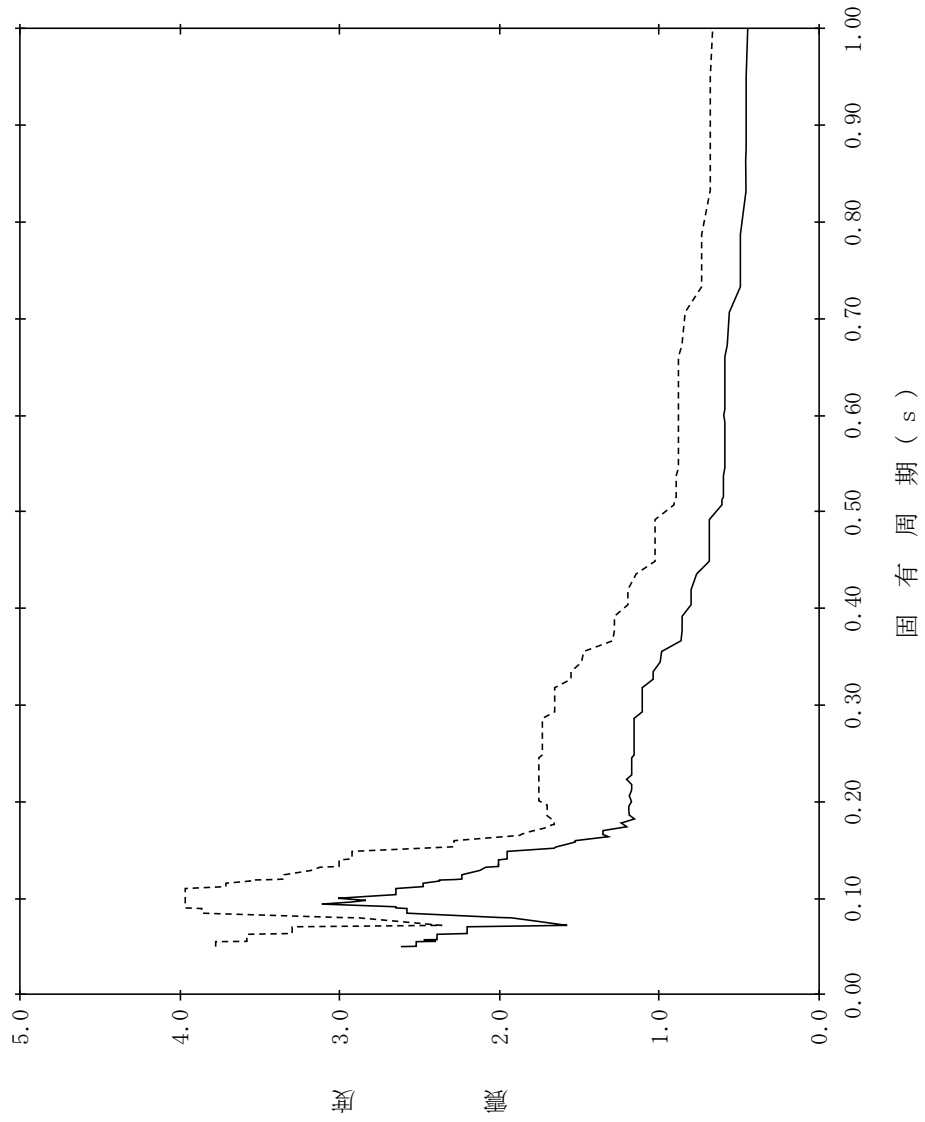
【NS2-PCV-SdV-GSW122】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



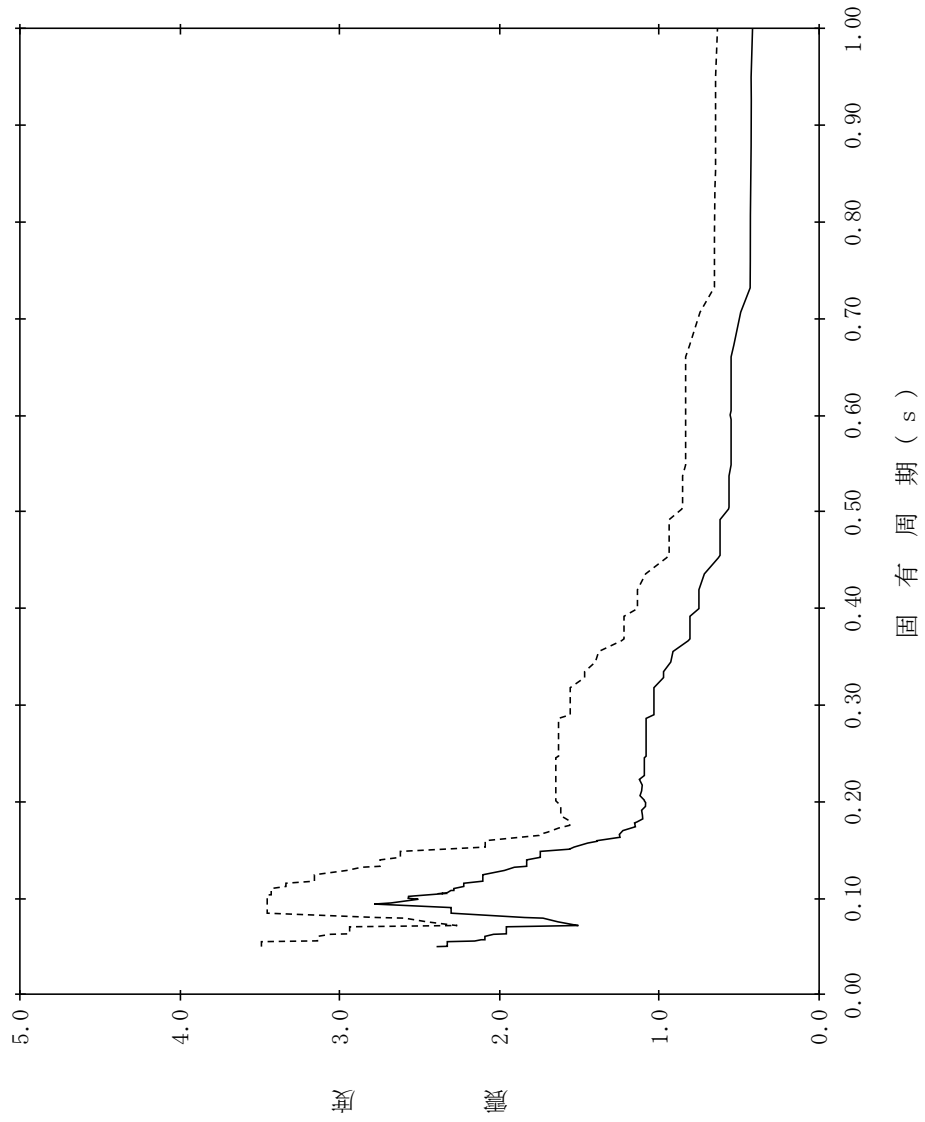
【NS2-PCV-SdV-GSW123】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



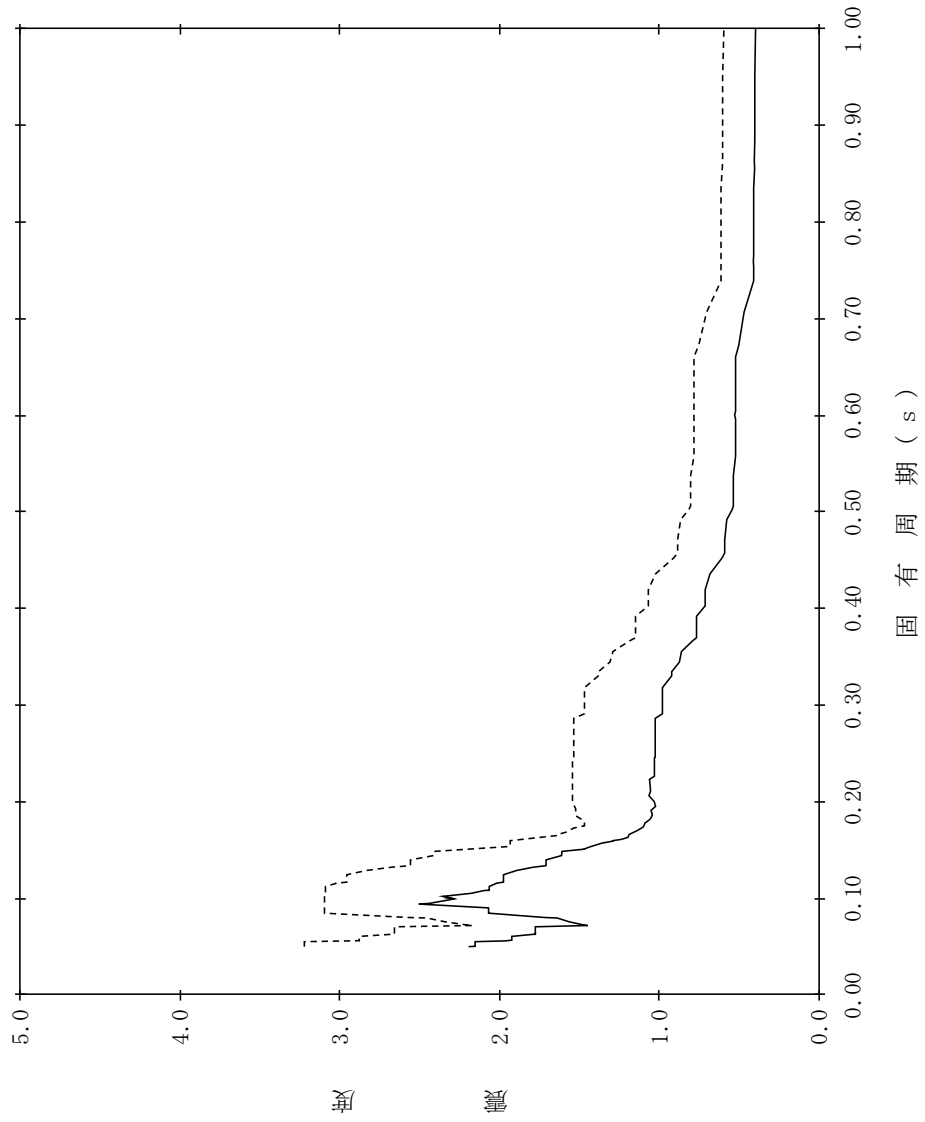
【NS2-PCV-SdV-GSW124】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



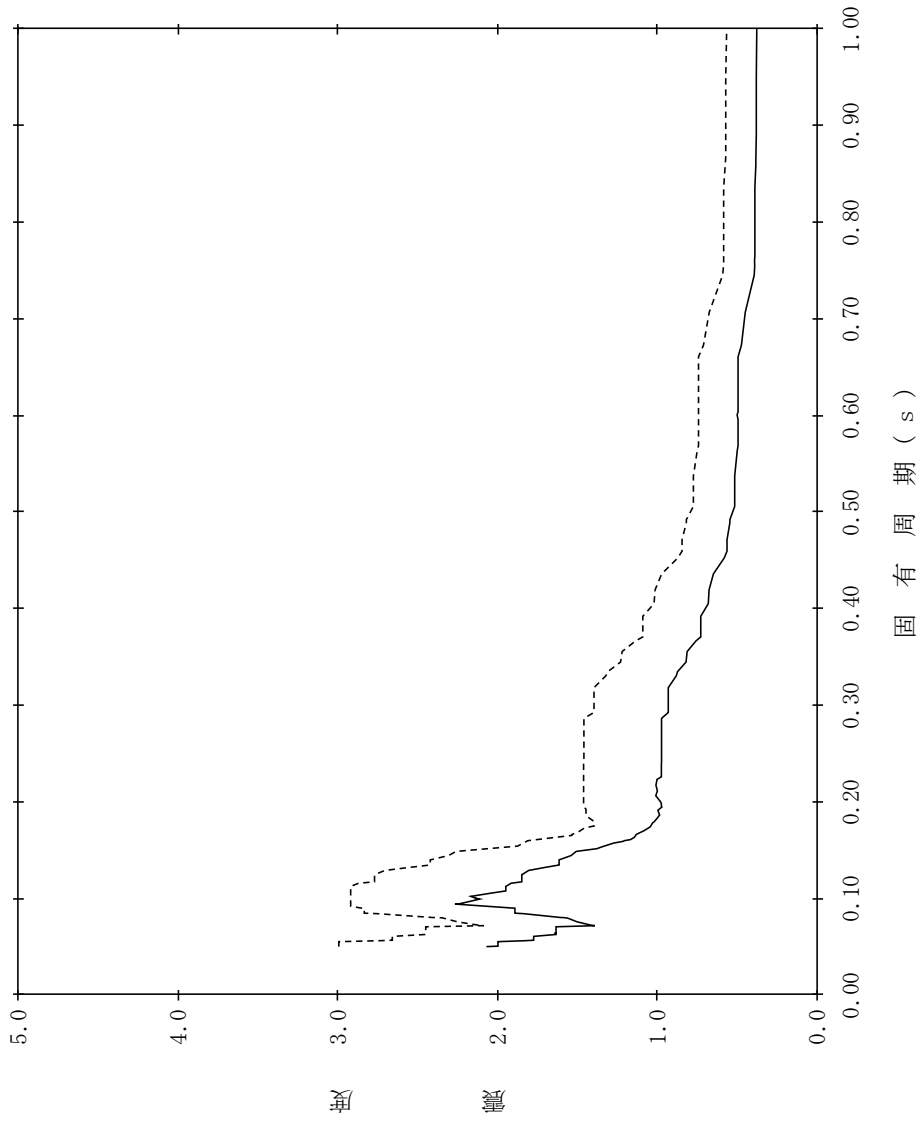
【NS2-PCV-SdV-GSW125】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



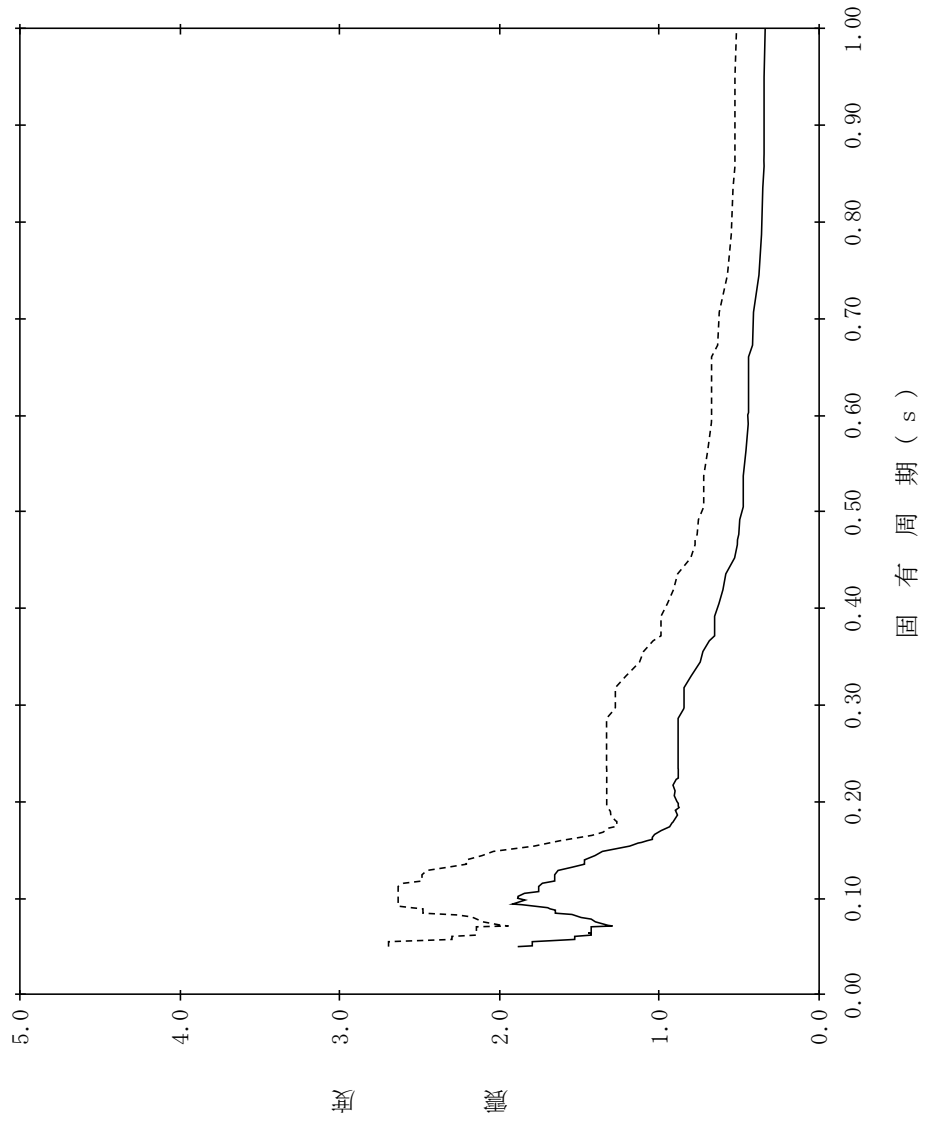
【NS2-PCV-SdV-GSW126】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



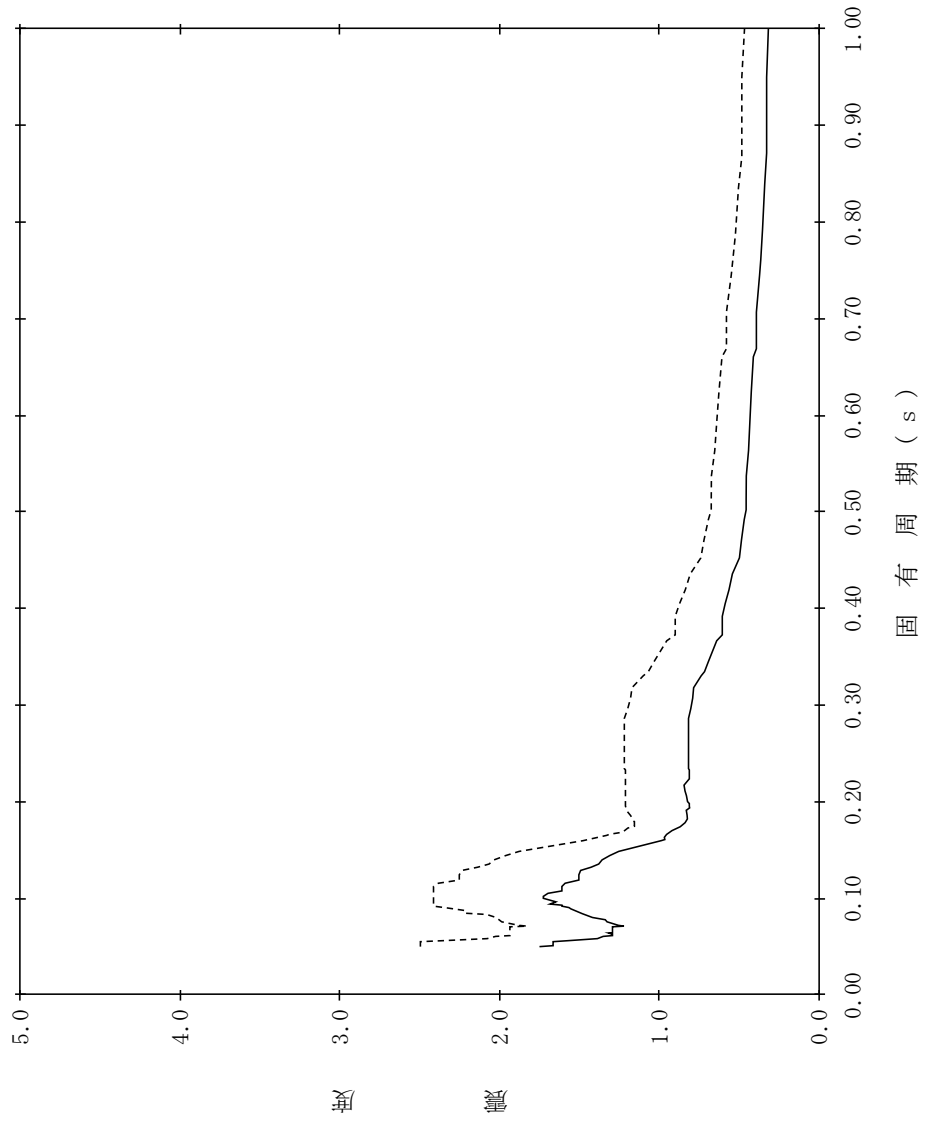
【NS2-PCV-SdV-GSW127】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



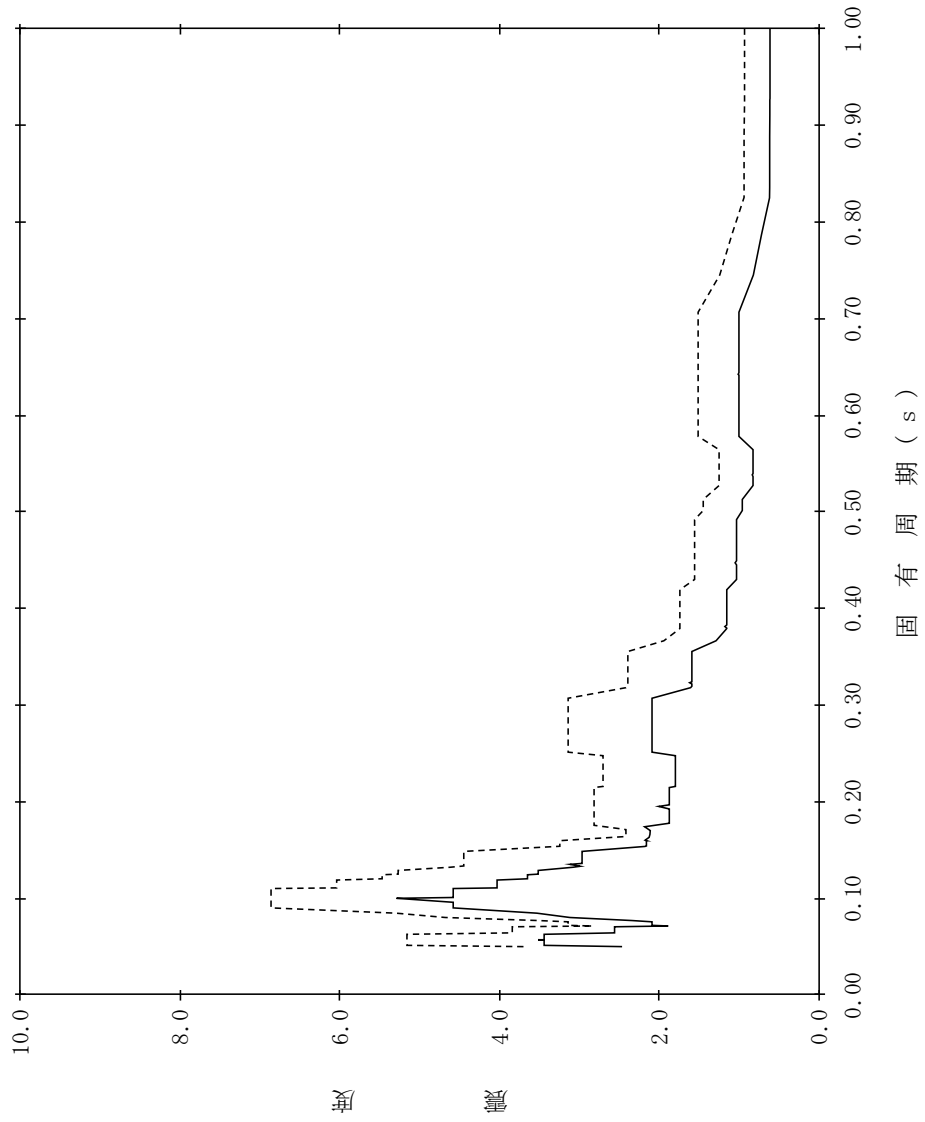
【NS2-PCV-SdV-GSW128】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



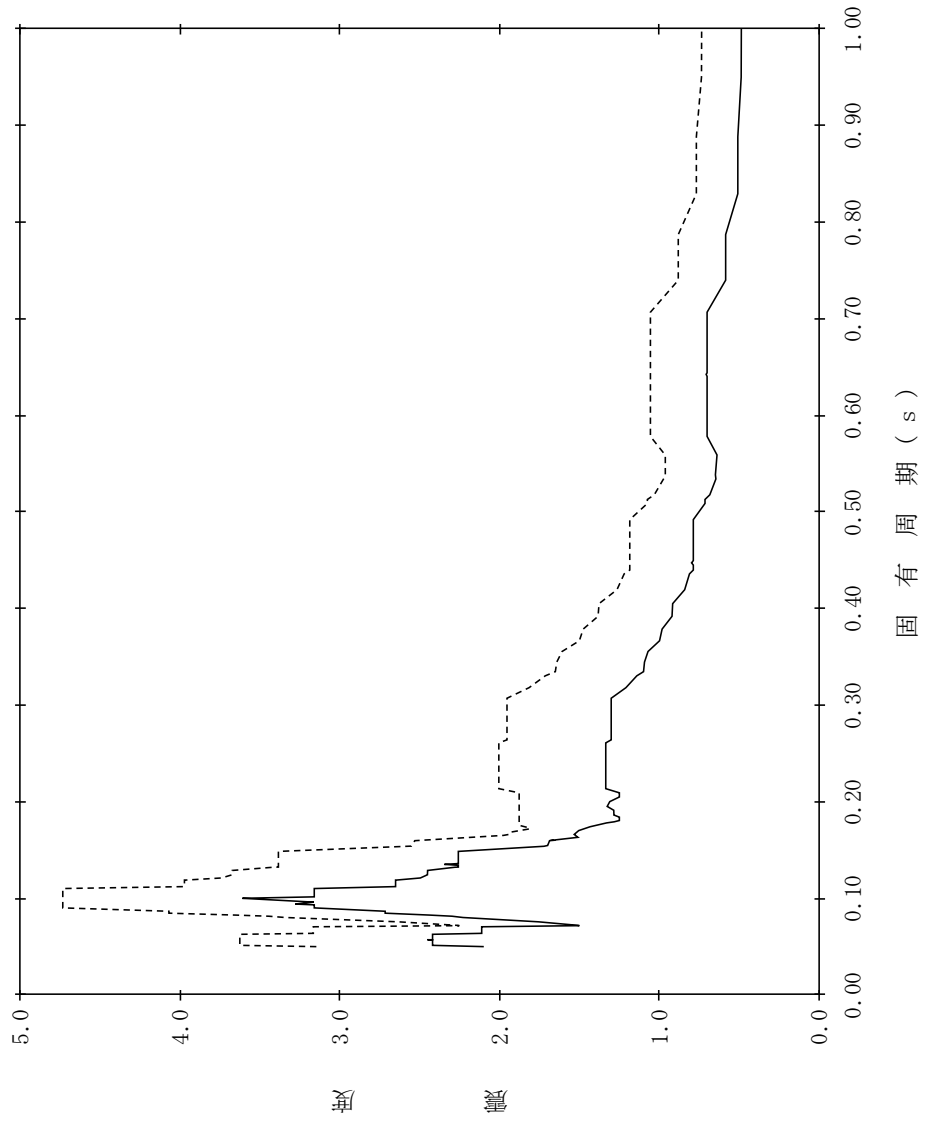
【NS2-PCV-SdV-PED129】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



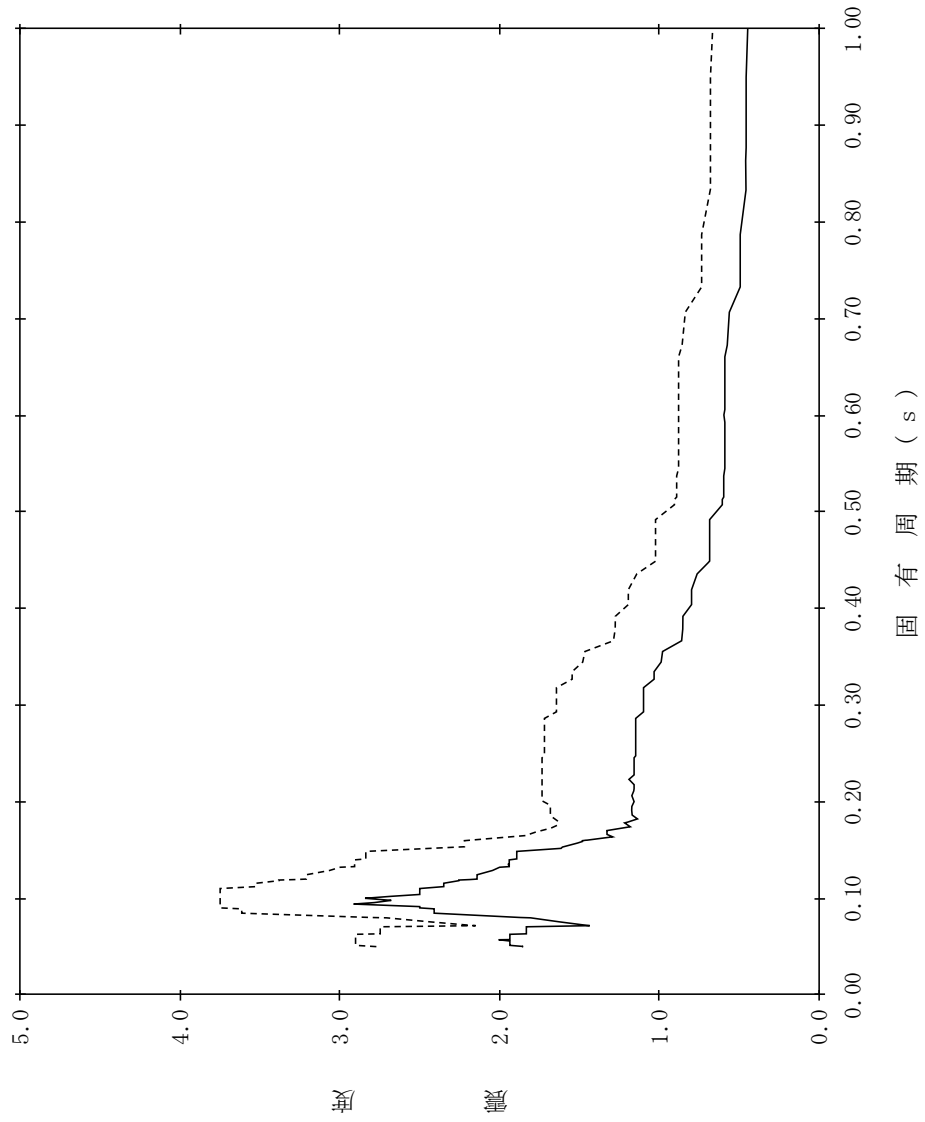
【NS2-PCV-SdV-PED130】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



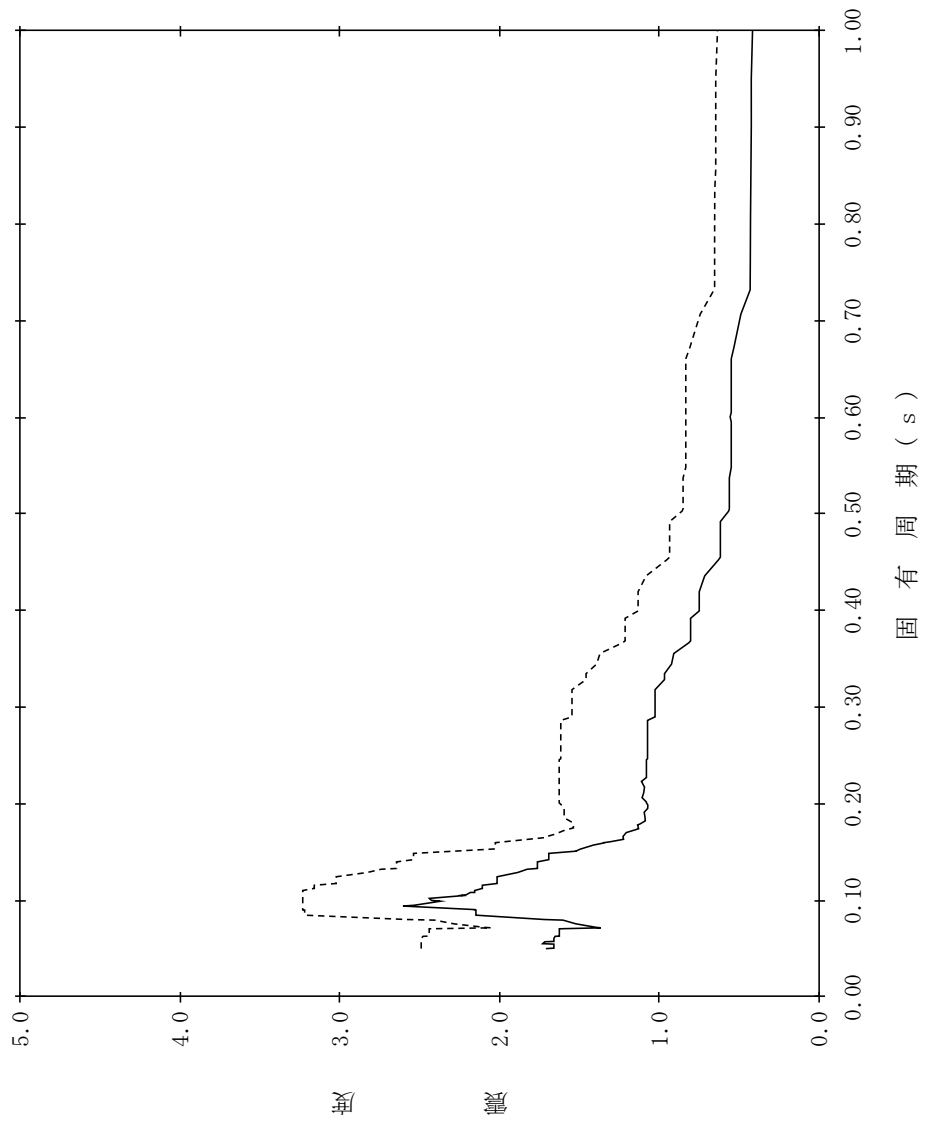
【NS2-PCV-SdV-PED131】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



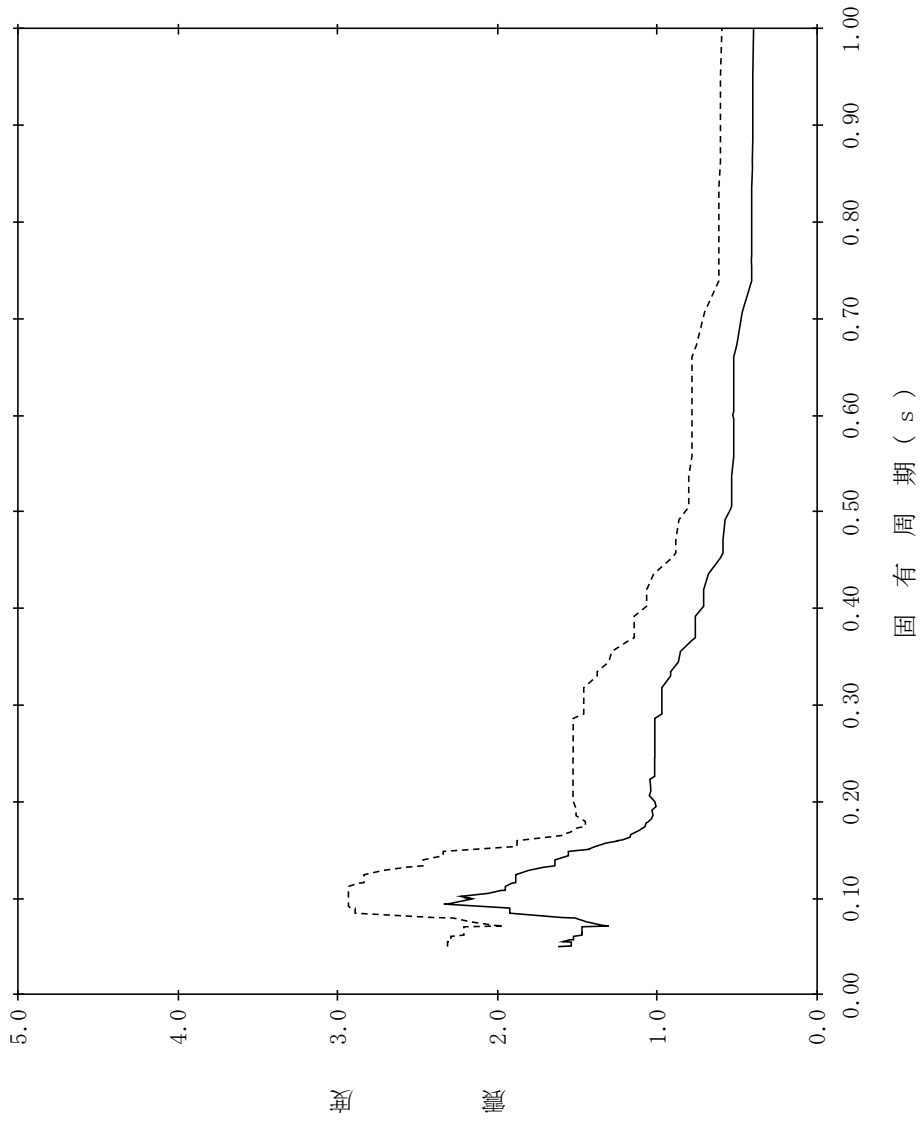
【NS2-PCV-SdV-PED132】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



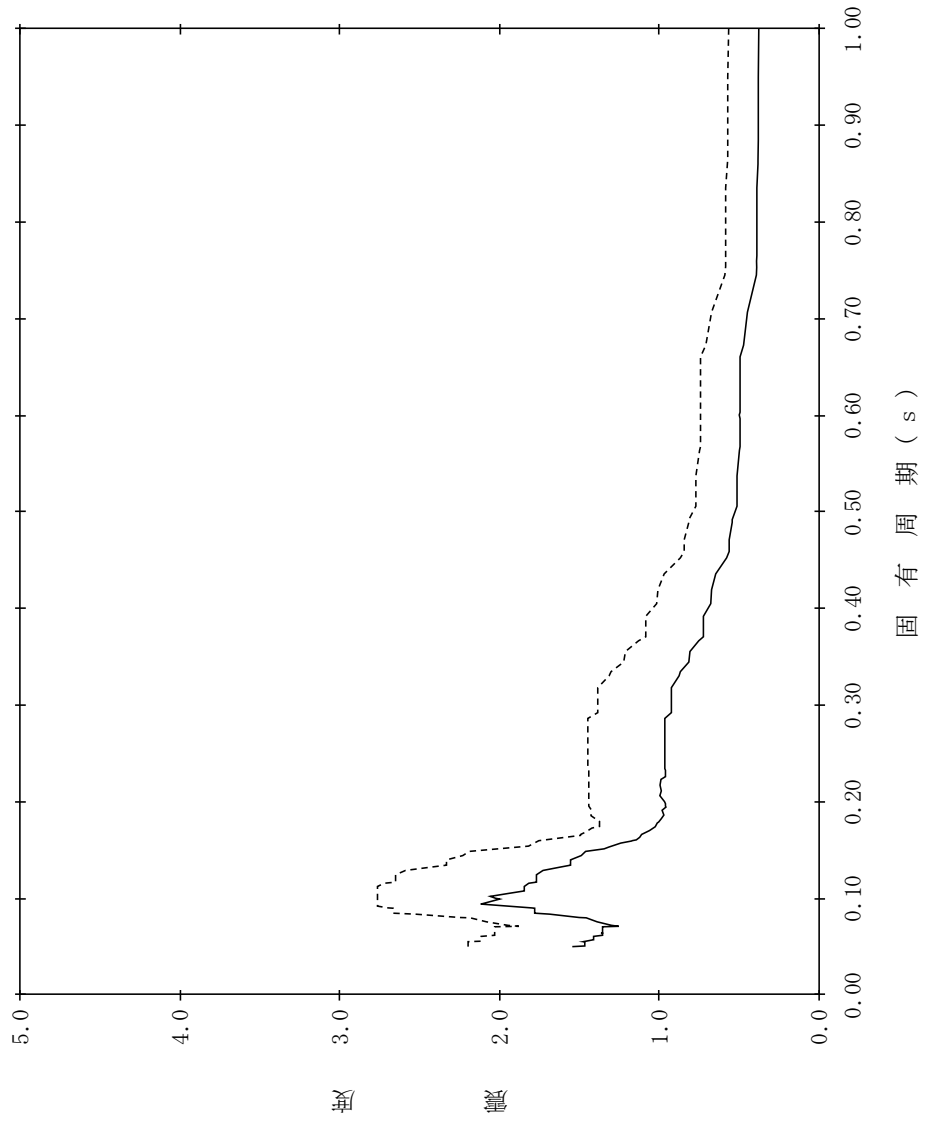
【NS2-PCV-SdV-PED133】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



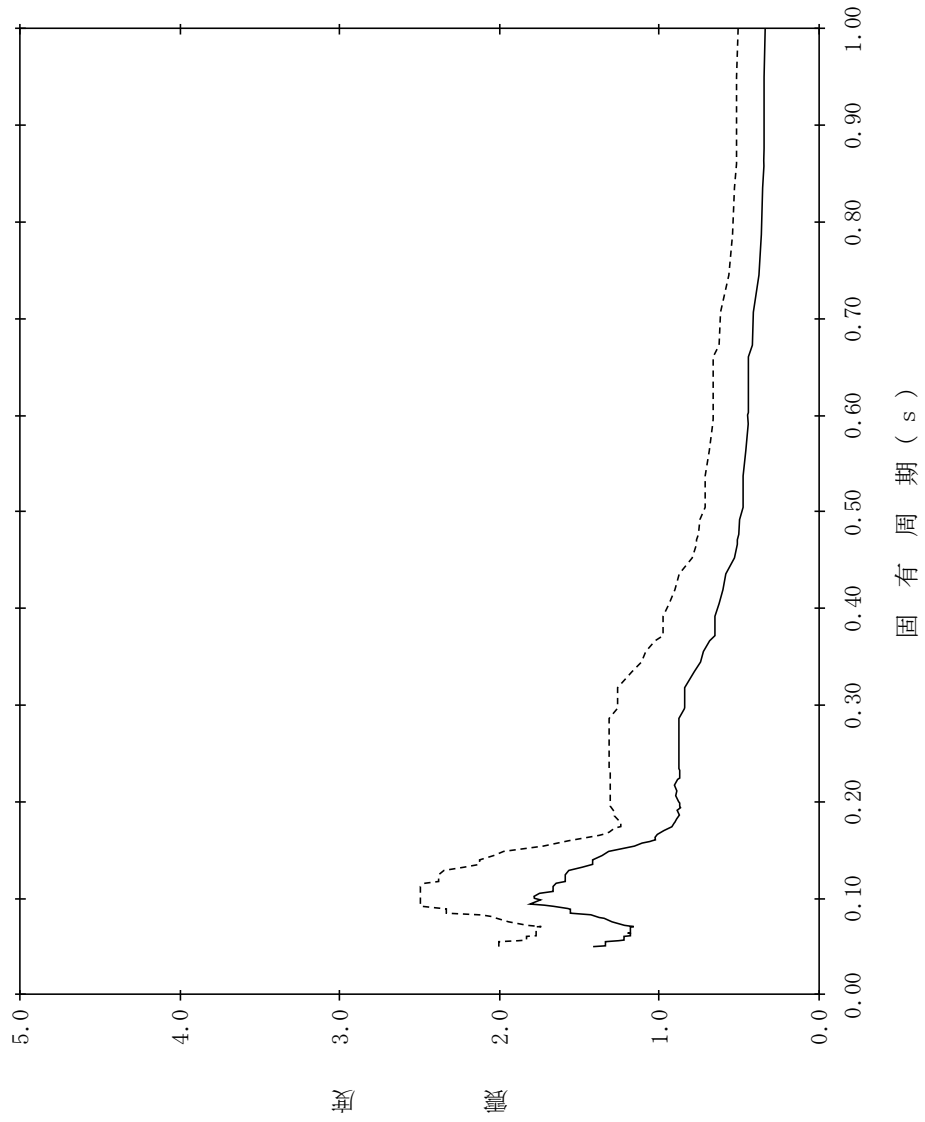
【NS2-PCV-SdV-PED134】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



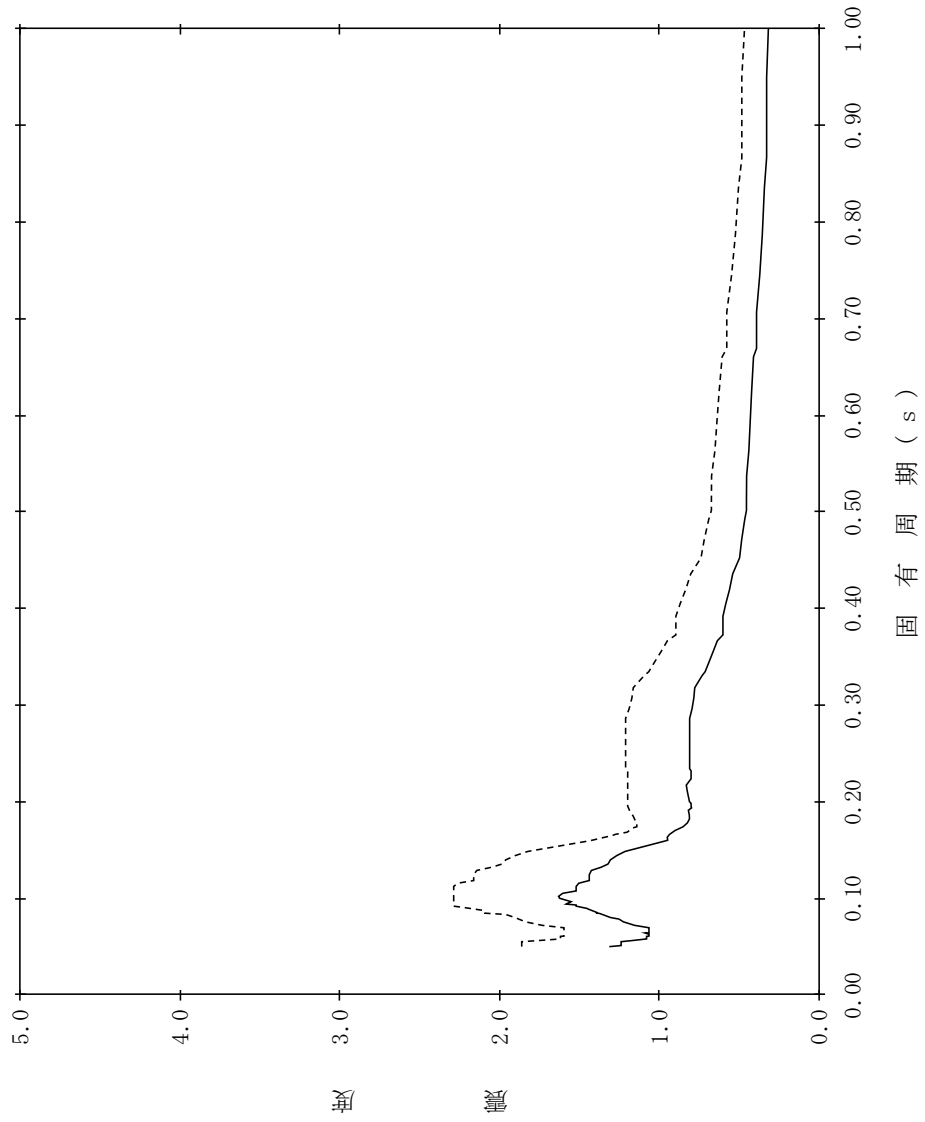
【NS2-PCV-SdV-PED135】

構造物名：原子炉压力容器ベゼスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



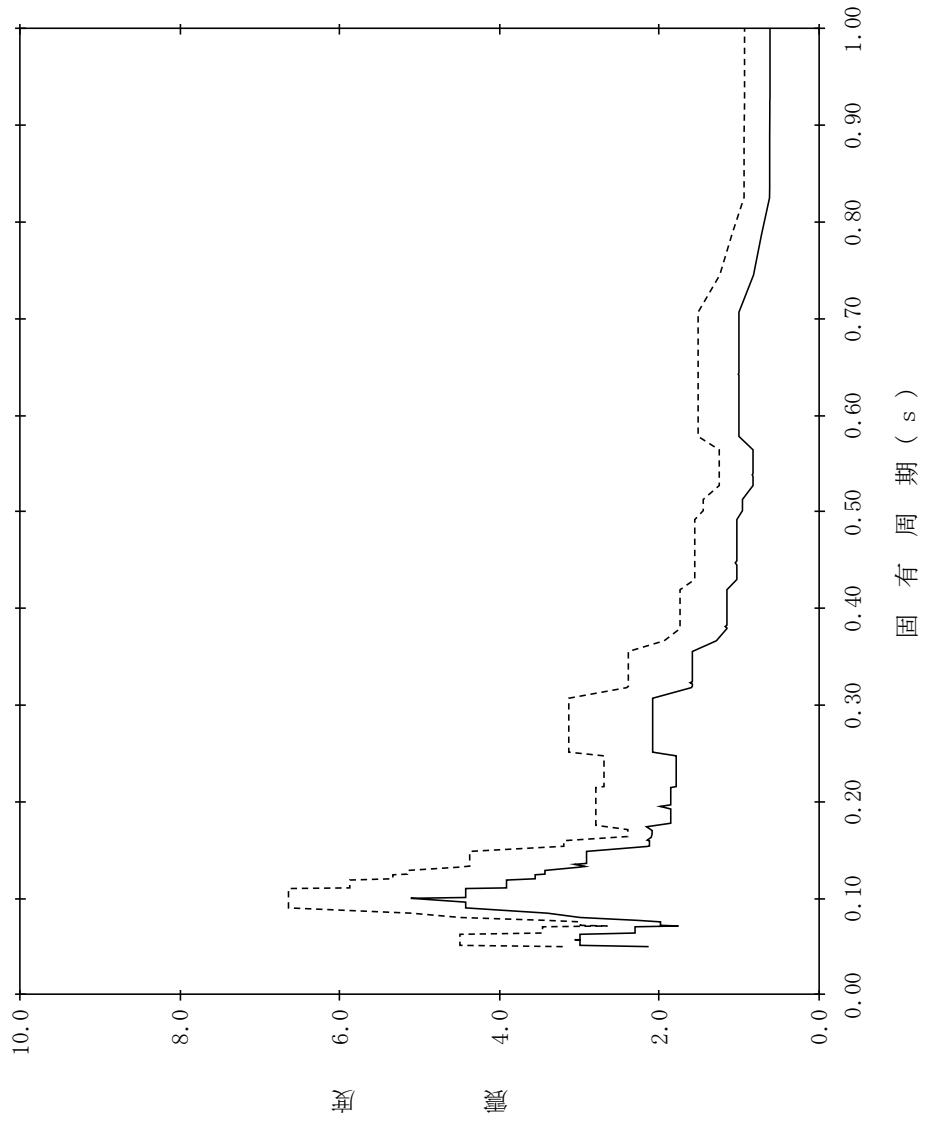
【NS2-PCV-SdV-PED136】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



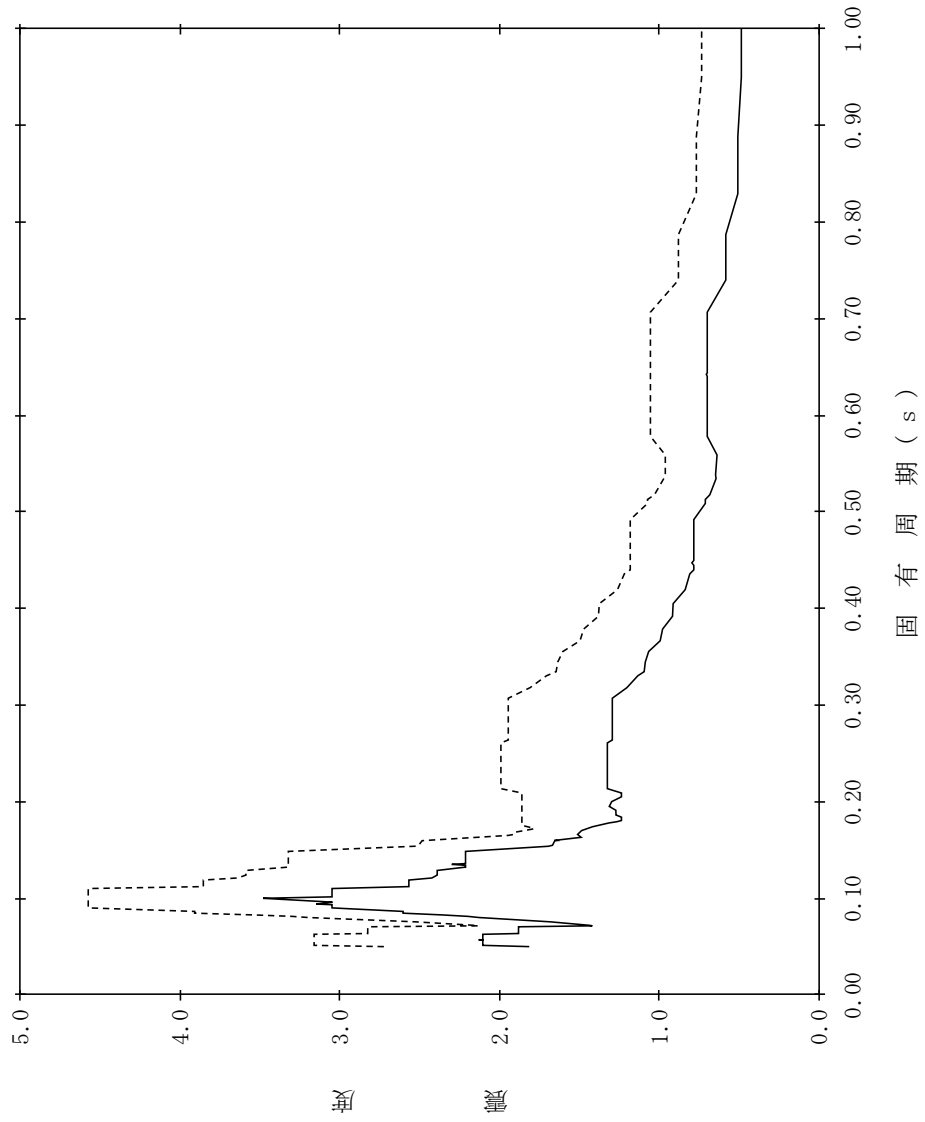
【NS2-PCV-SdV-PED137】

構造物名：原子炉压力容器ベゼスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



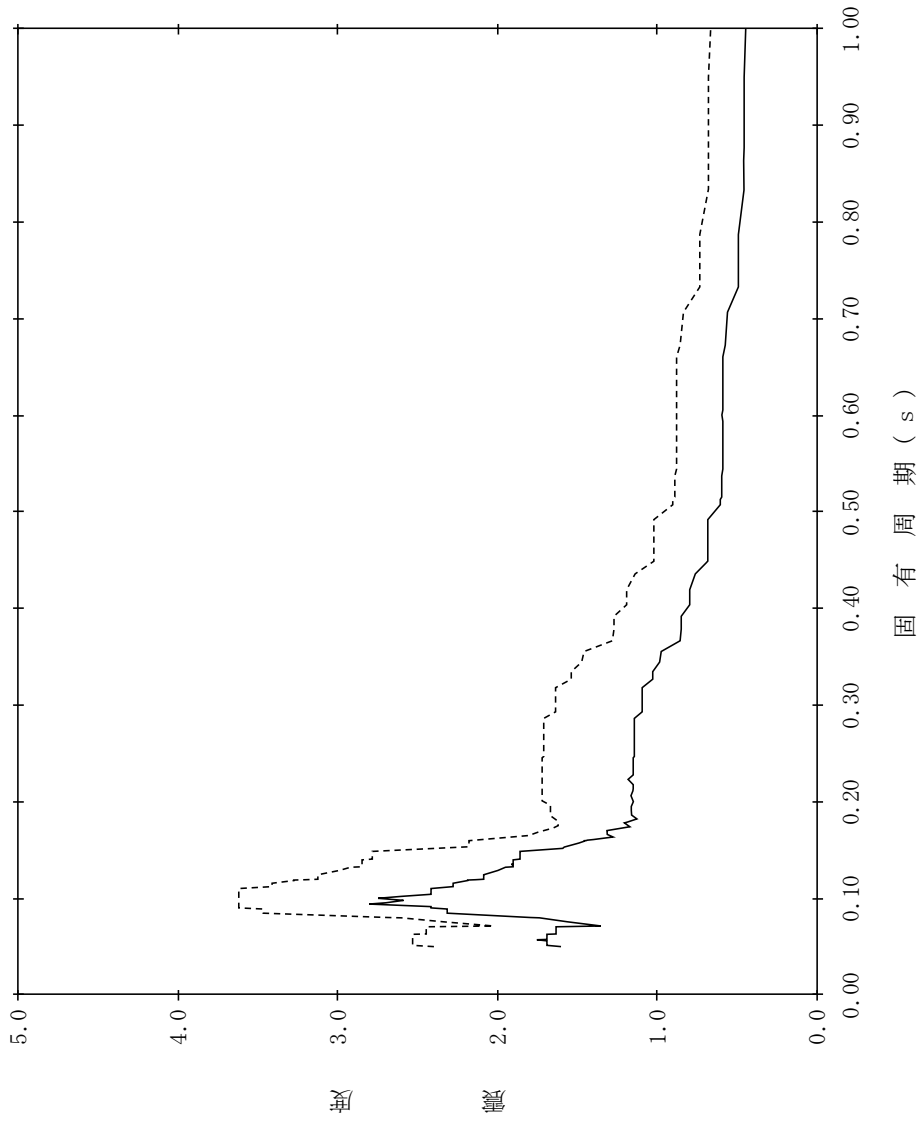
【NS2-PCV-SdV-PED138】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



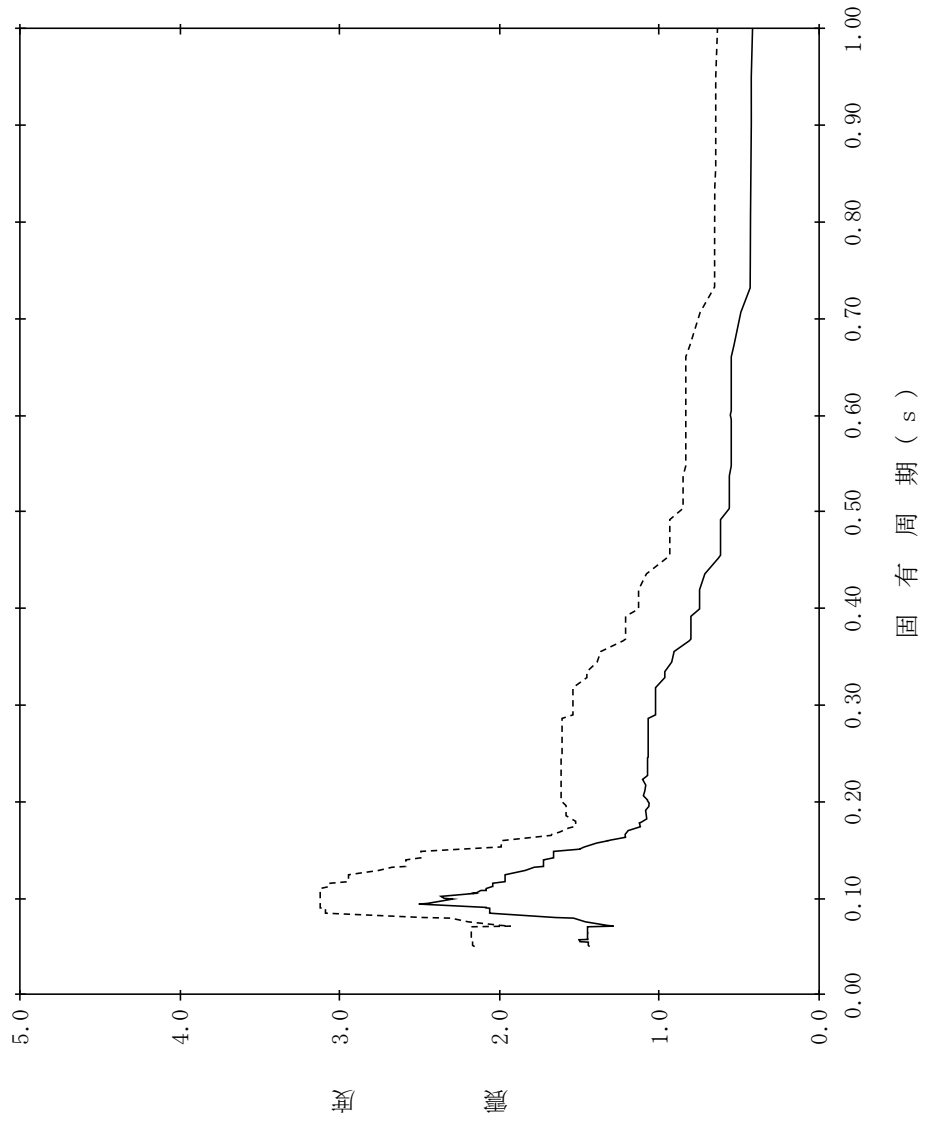
【NS2-PCV-SdV-PED139】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



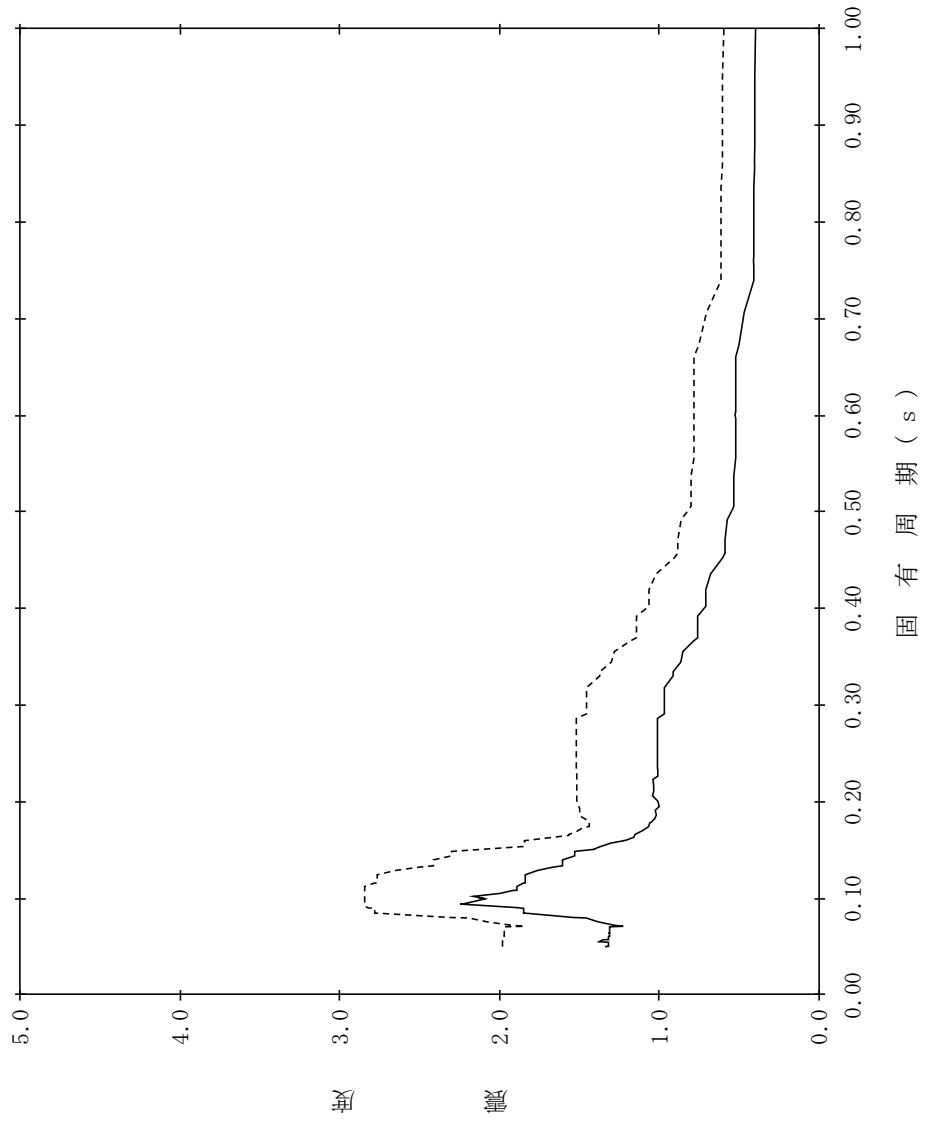
【NS2-PCV-SdV-PED140】

構造物名：原子炉压力容器ベゼスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



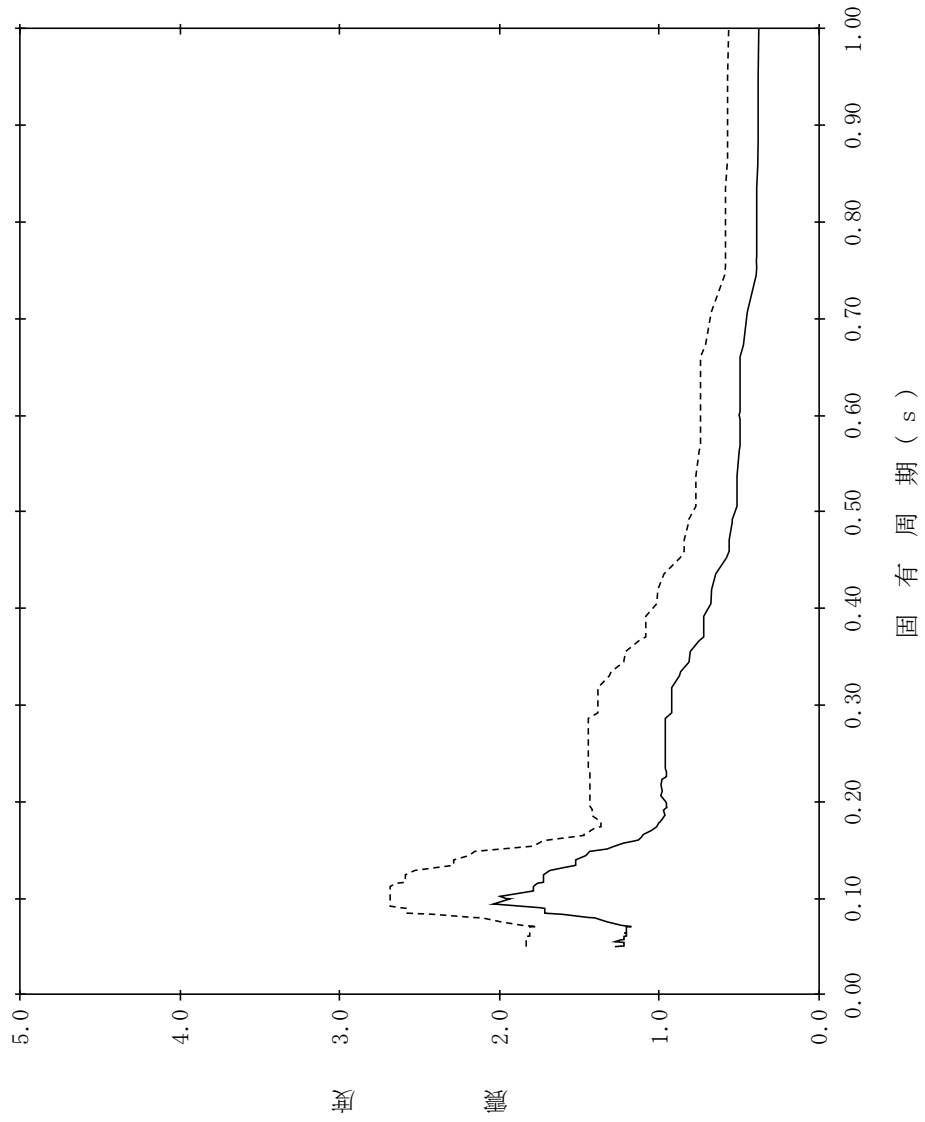
【NS2-PCV-SdV-PED141】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



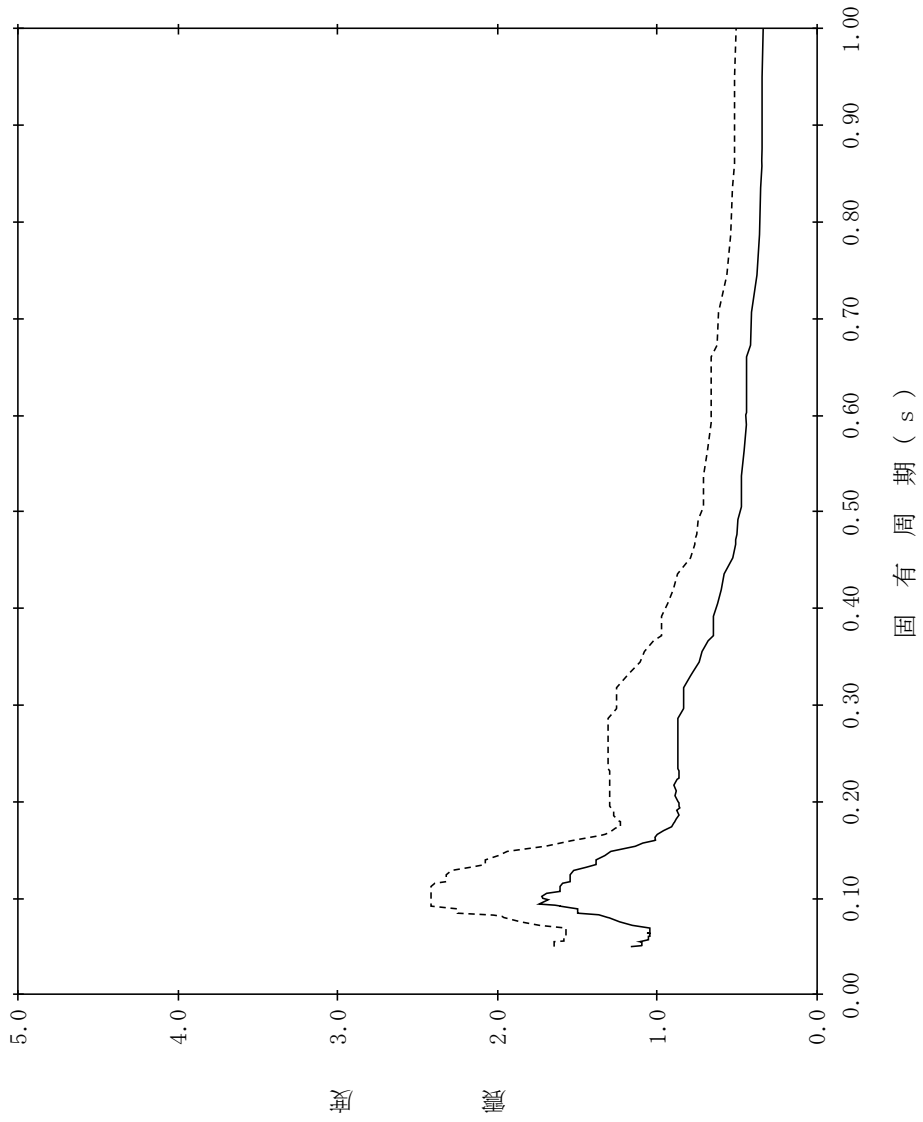
【NS2-PCV-SdV-PED142】

構造物名：原子炉压力容器ベゼスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



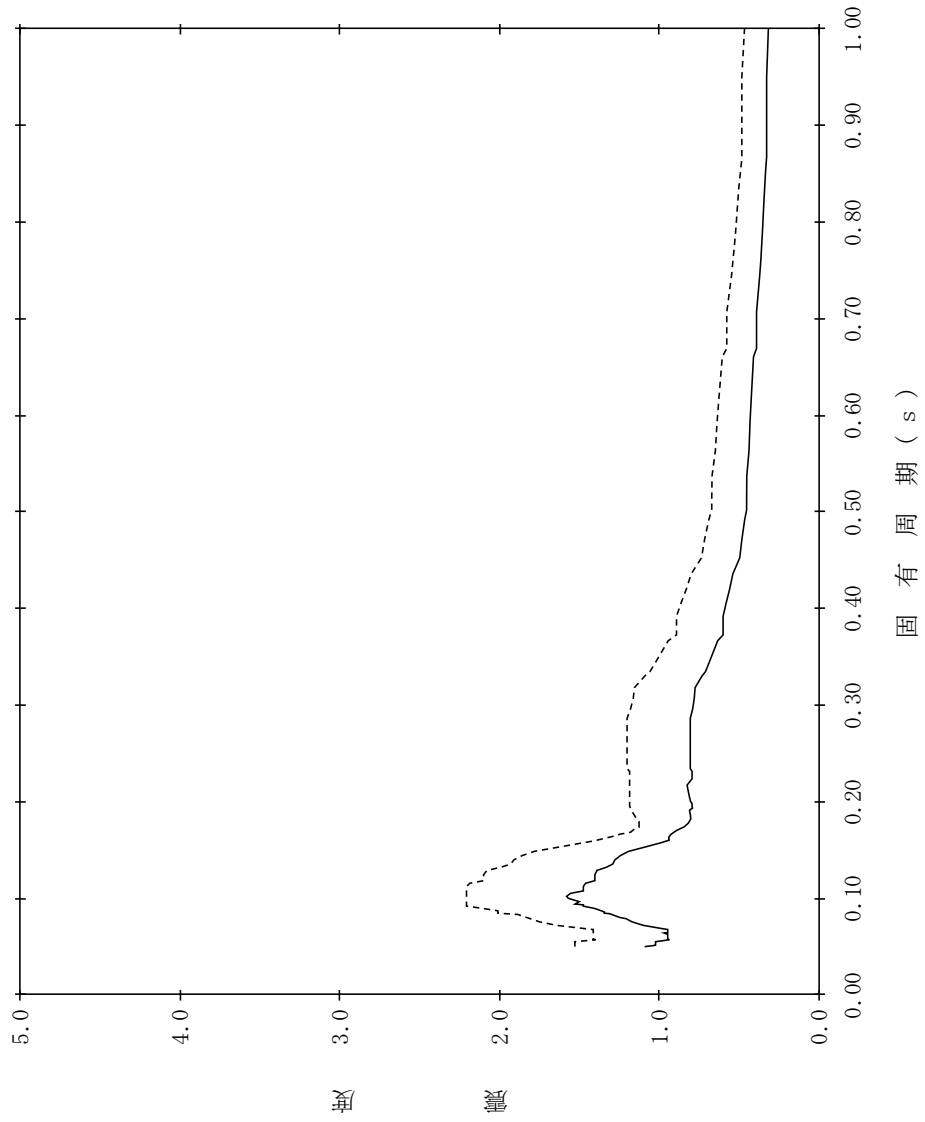
【NS2-PCV-SdV-PED143】

構造物名：原子炉压力容器ベゼスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



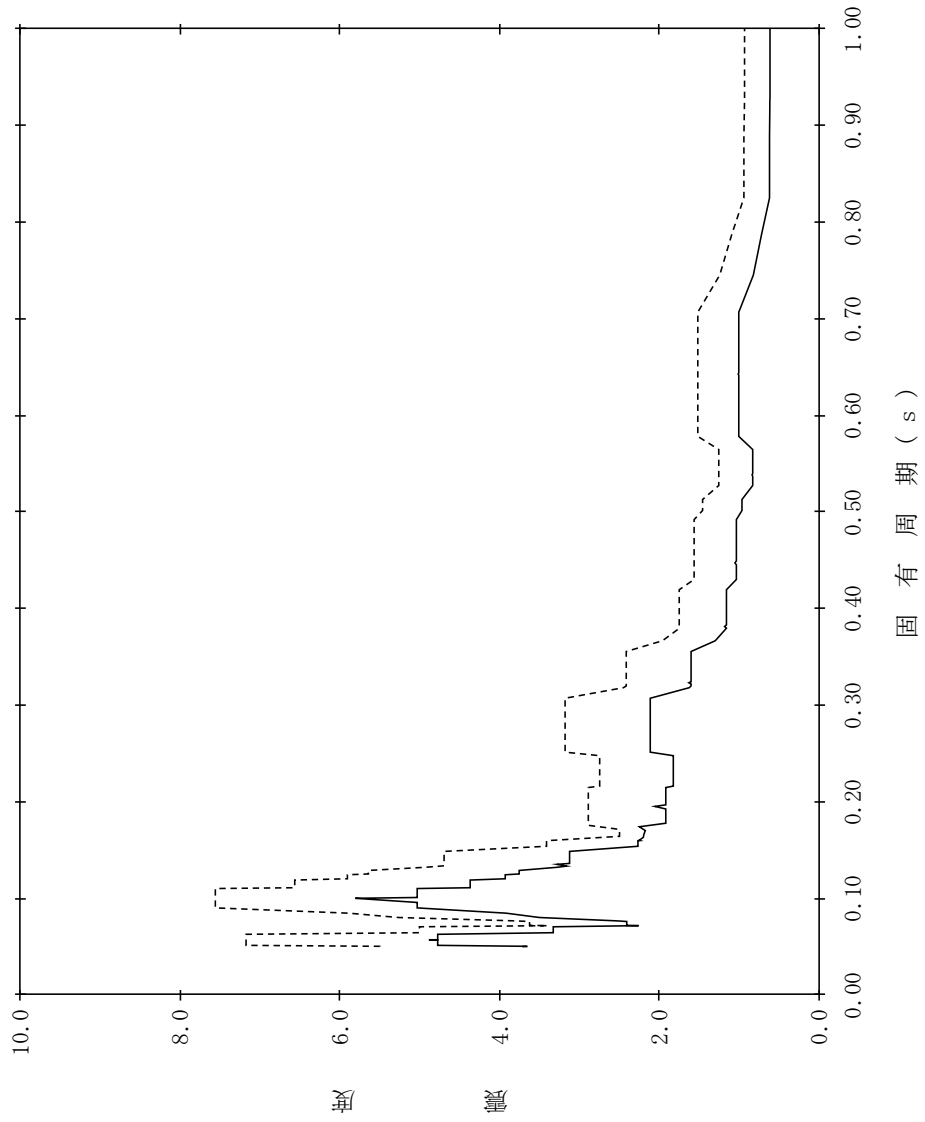
【NS2-PCV-SdV-PED144】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



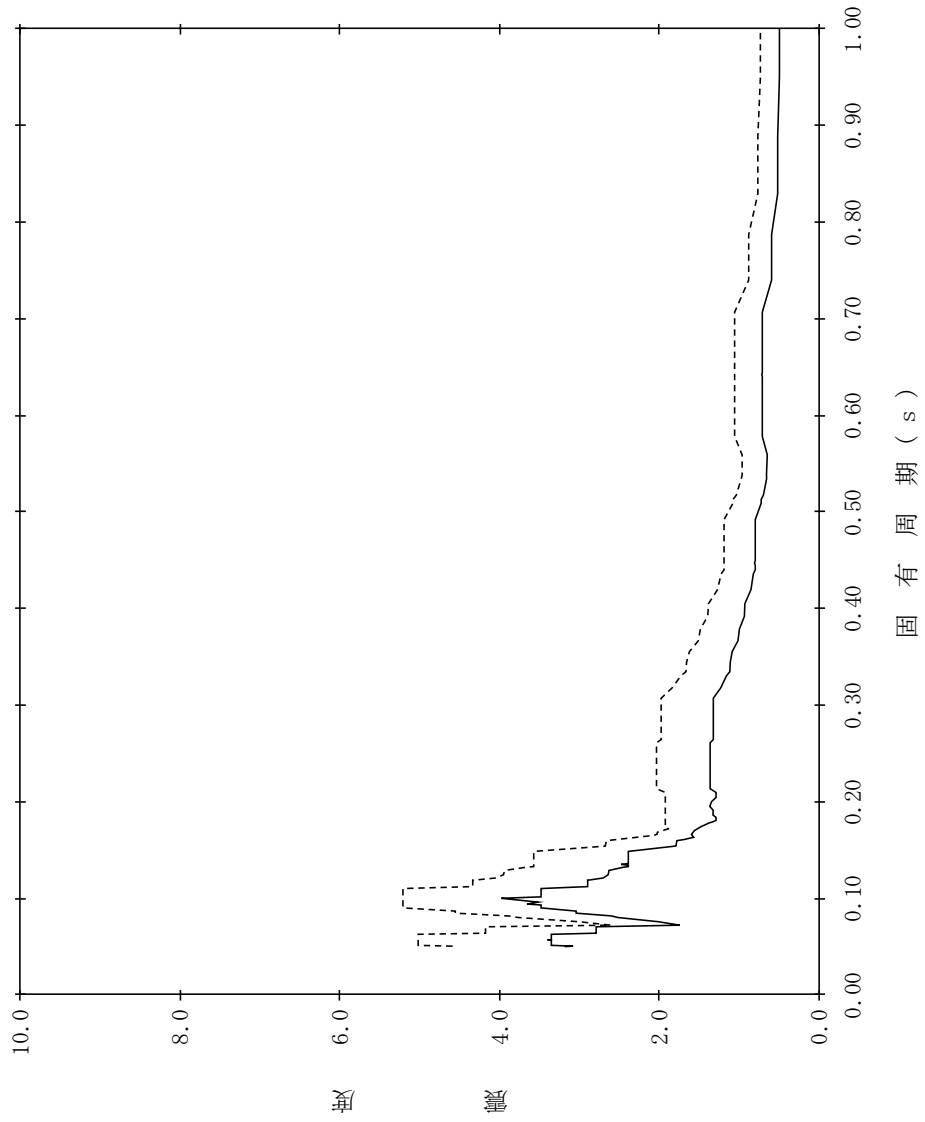
【NS2-PCV-SdV-RPV145】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



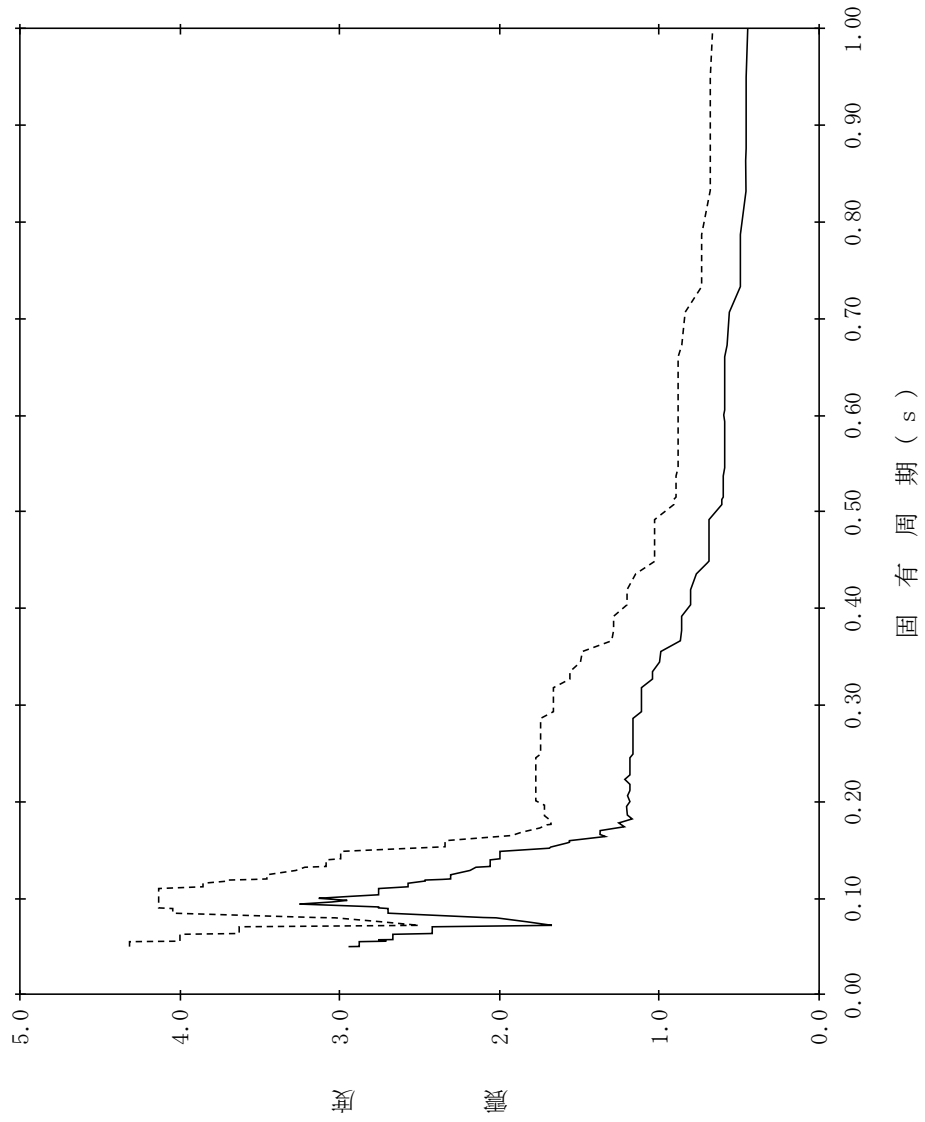
【NS2-PCV-SdV-RPV146】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



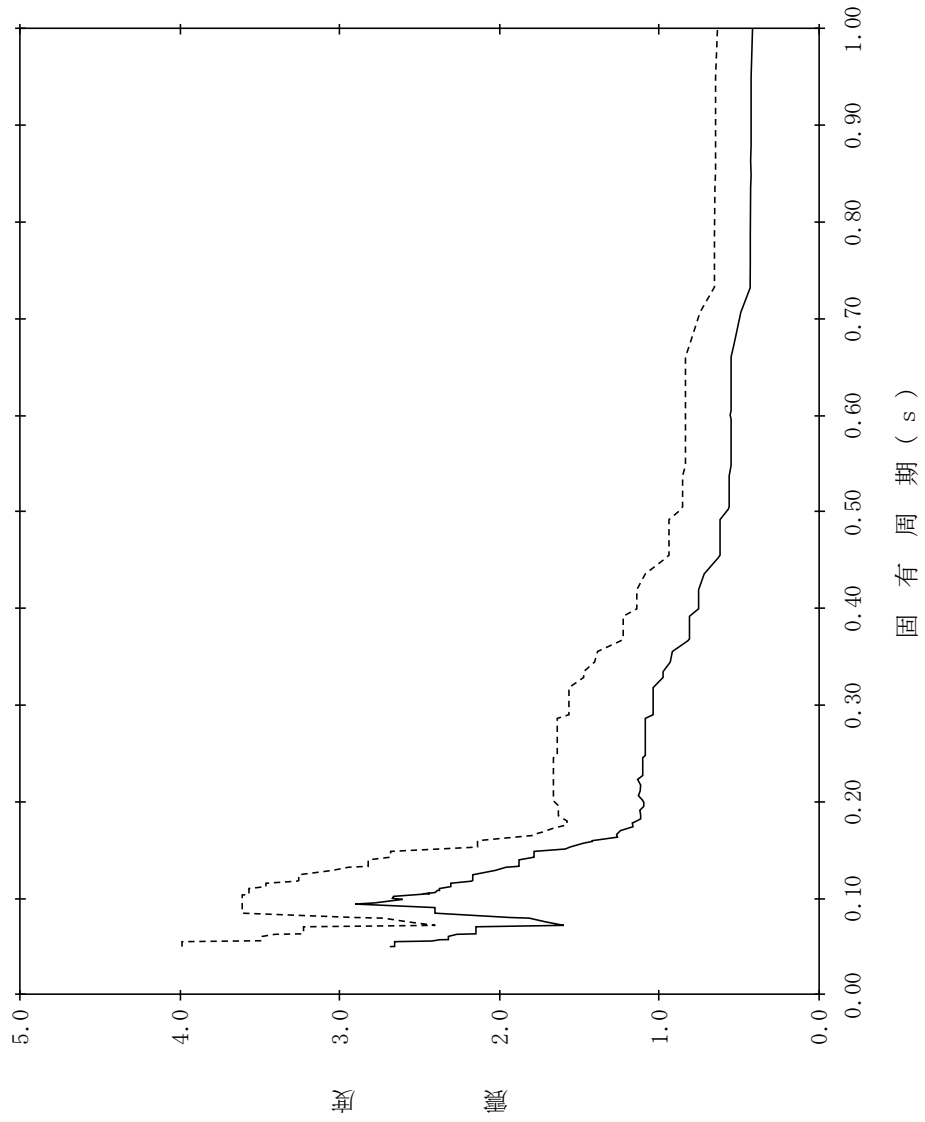
【NS2-PCV-SdV-RPV147】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



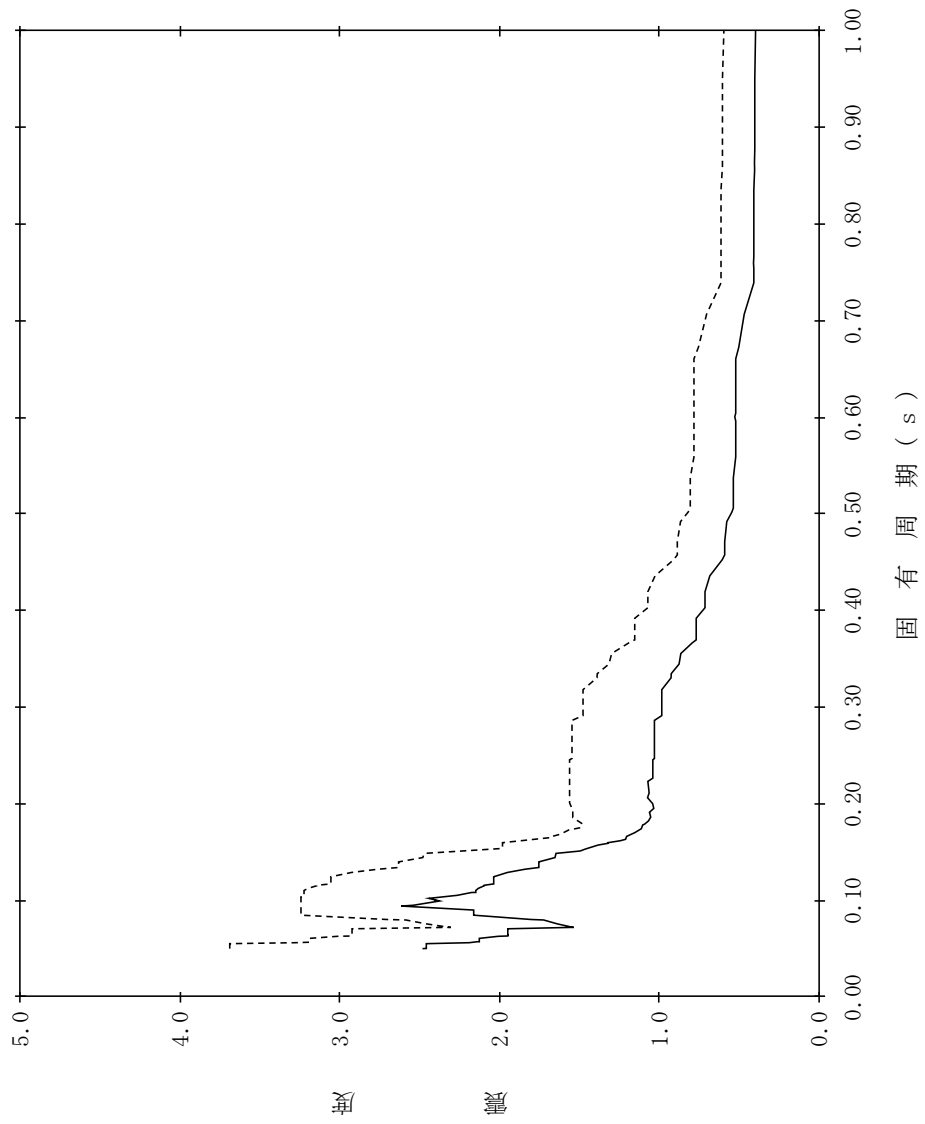
【NS2-PCV-SdV-RPV148】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



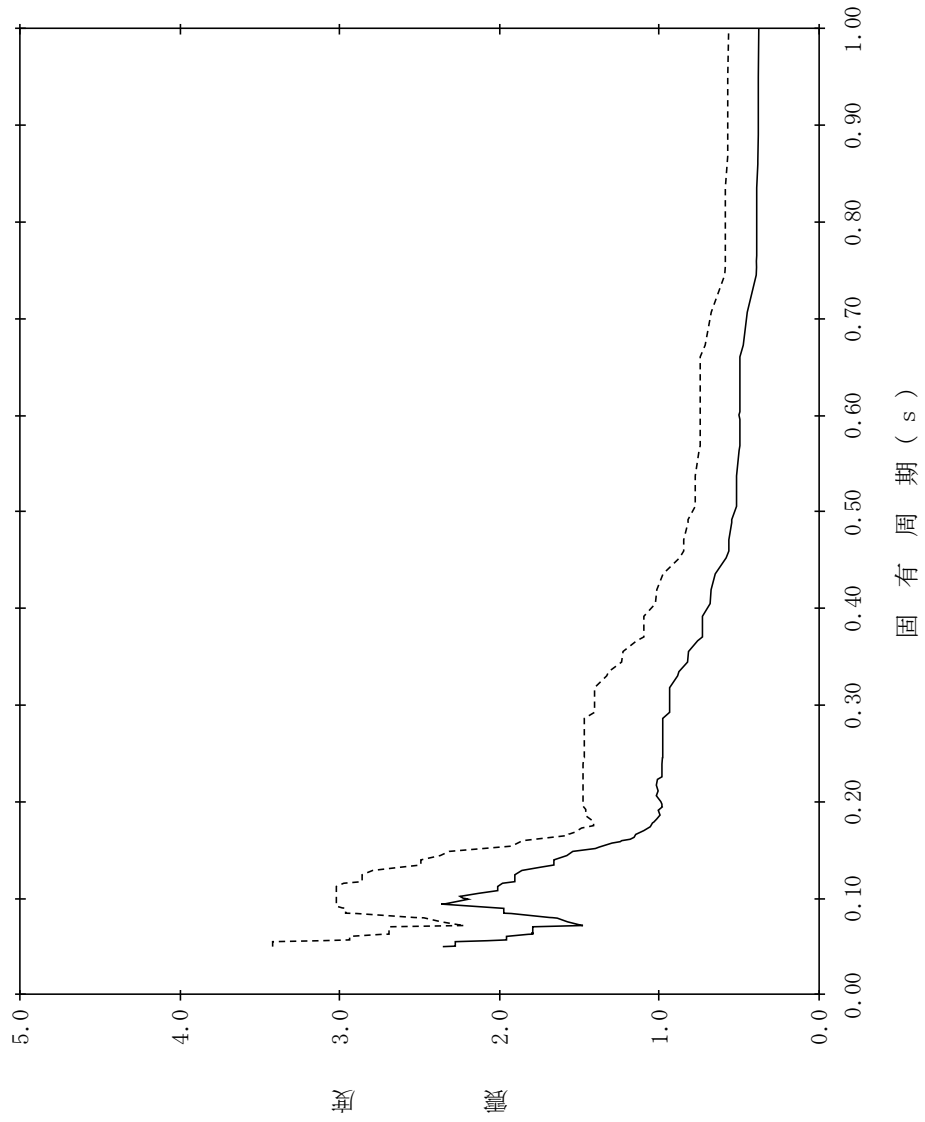
【NS2-PCV-SdV-RPV149】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



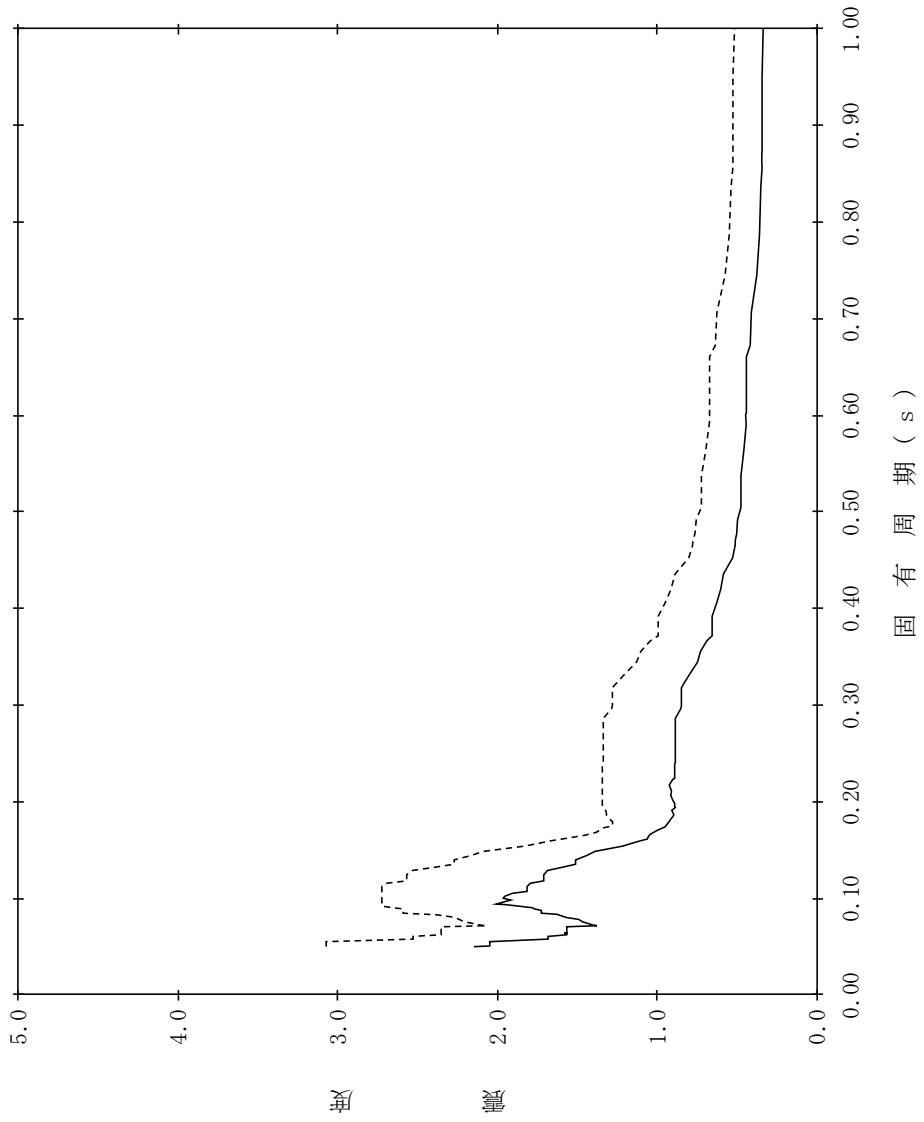
【NS2-PCV-SdV-RPV150】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



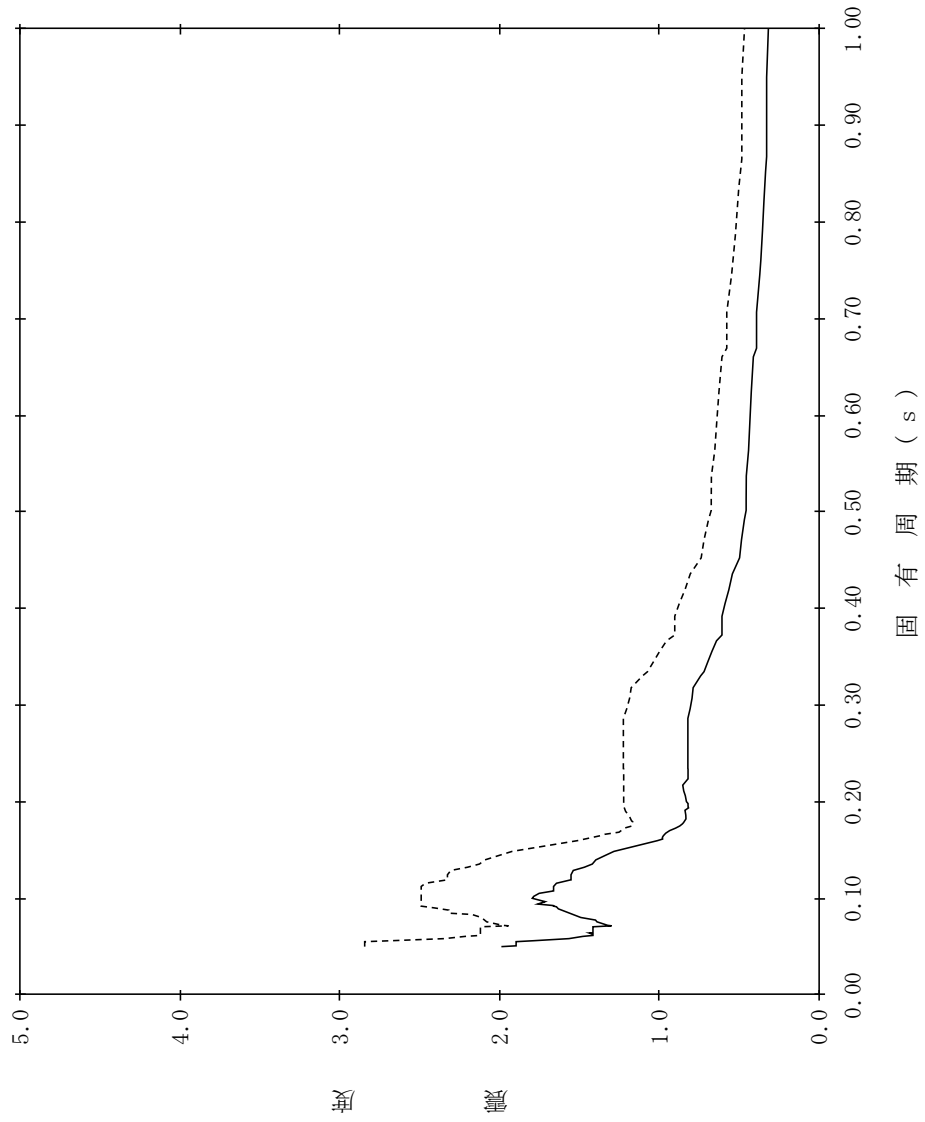
【NS2-PCV-SdV-RPV151】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



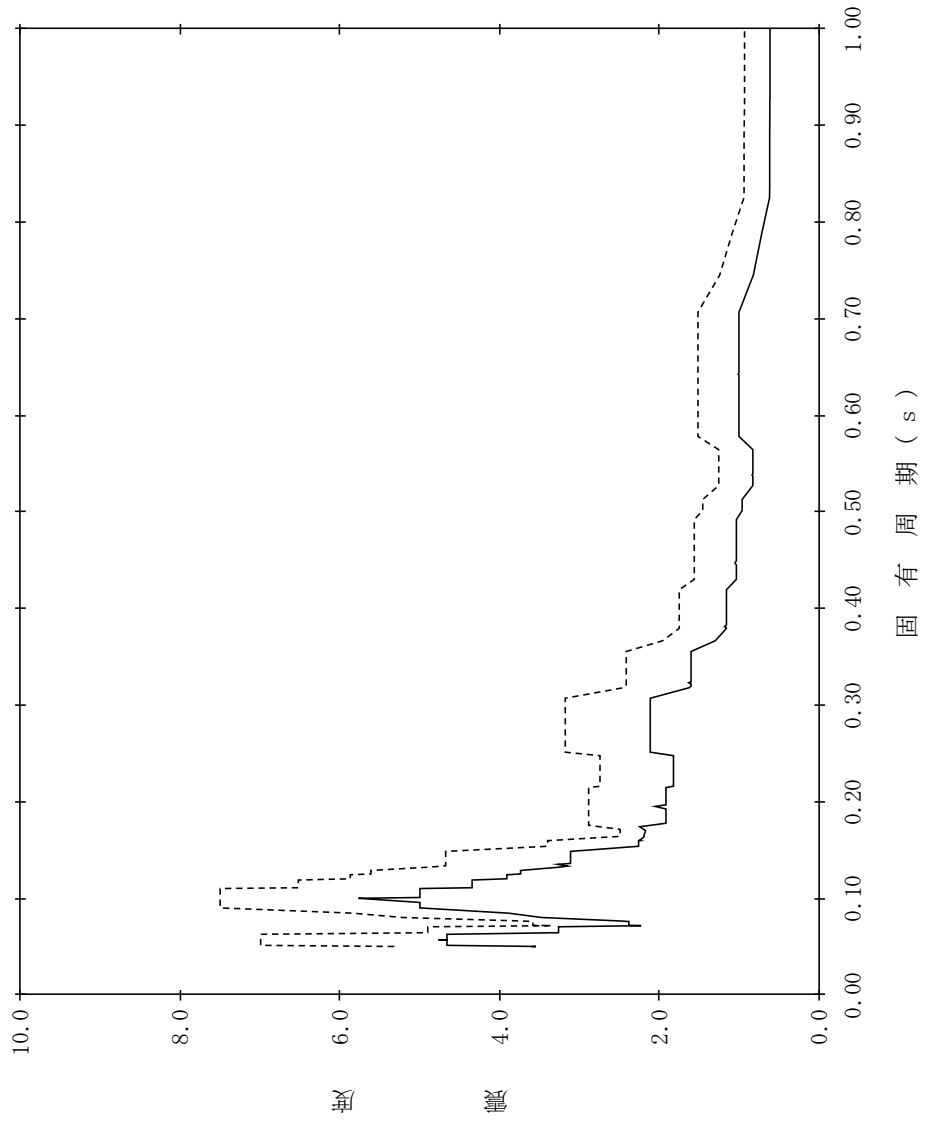
【NS2-PCV-SdV-RPV152】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



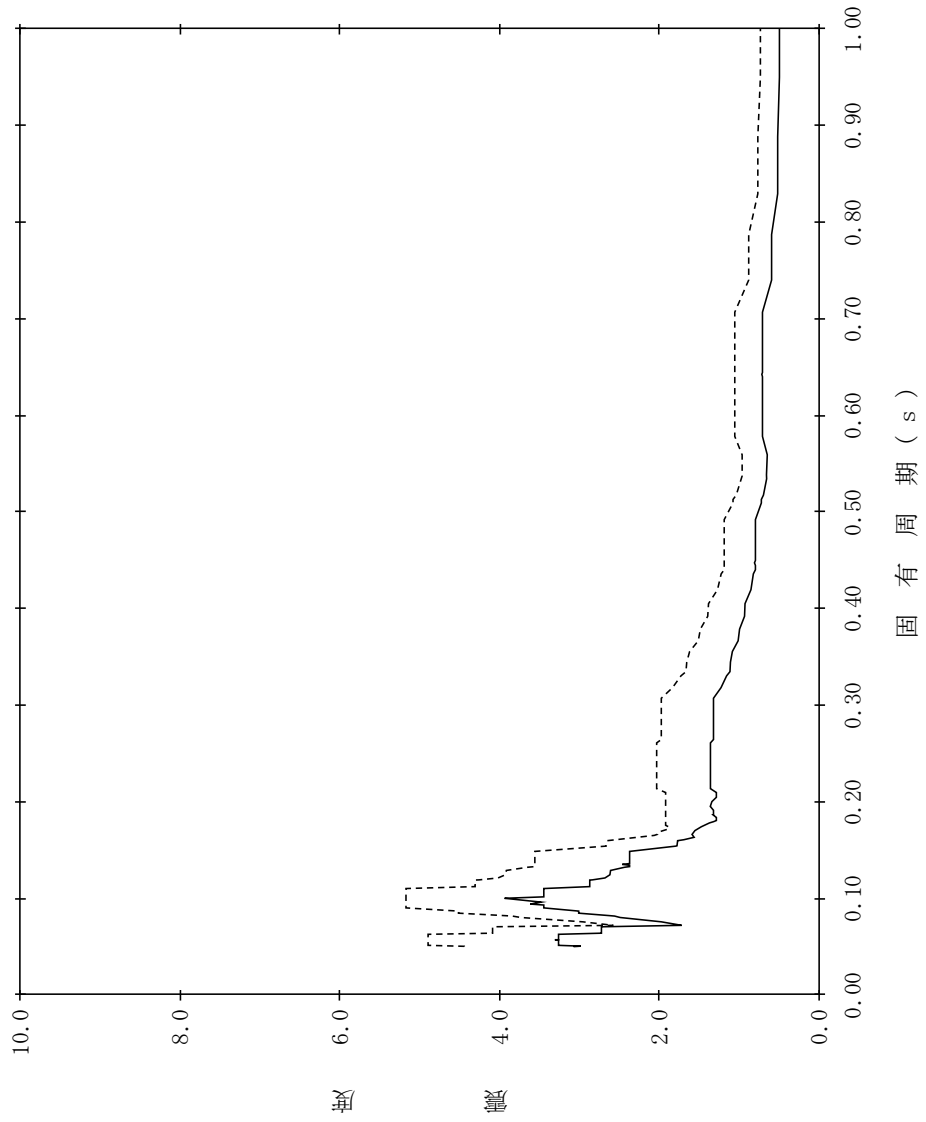
【NS2-PCV-SdV-RPV153】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



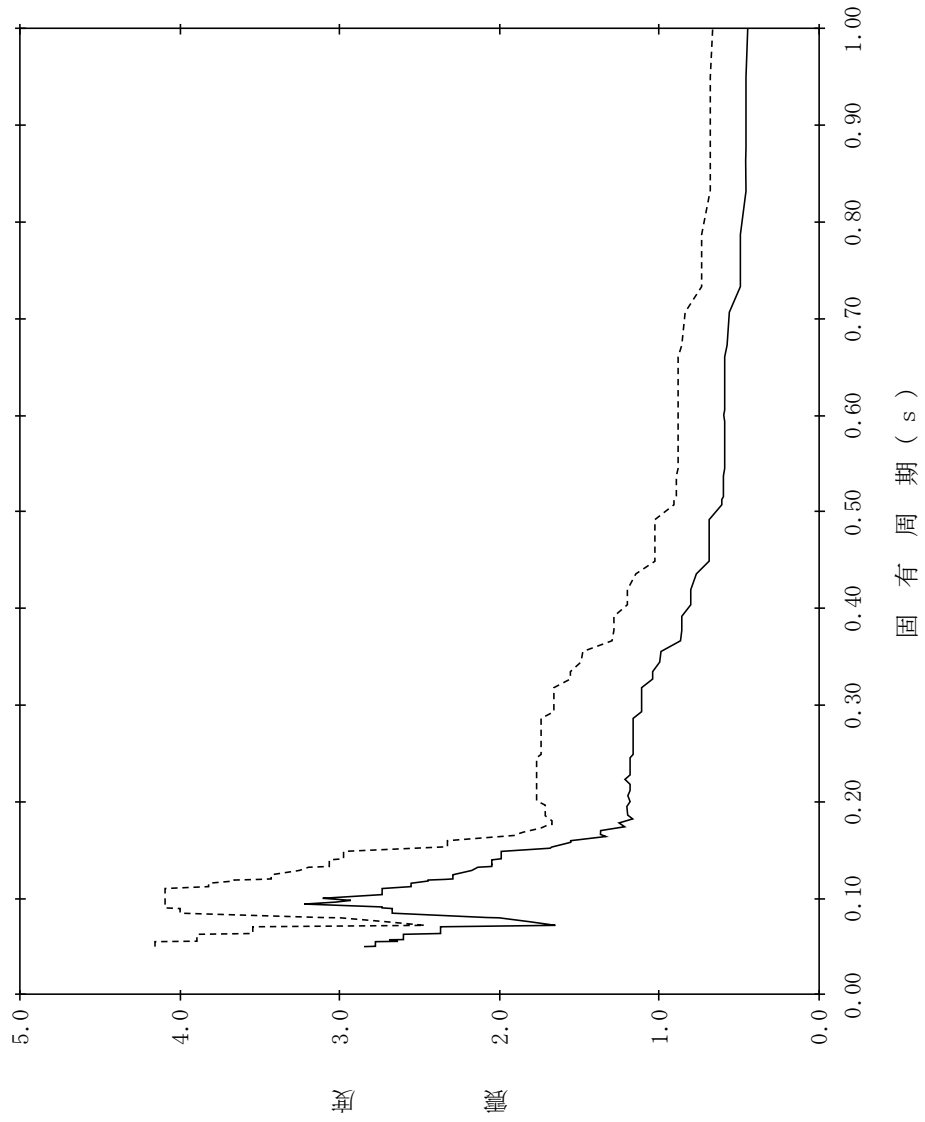
【NS2-PCV-SdV-RPV154】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL29.181m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



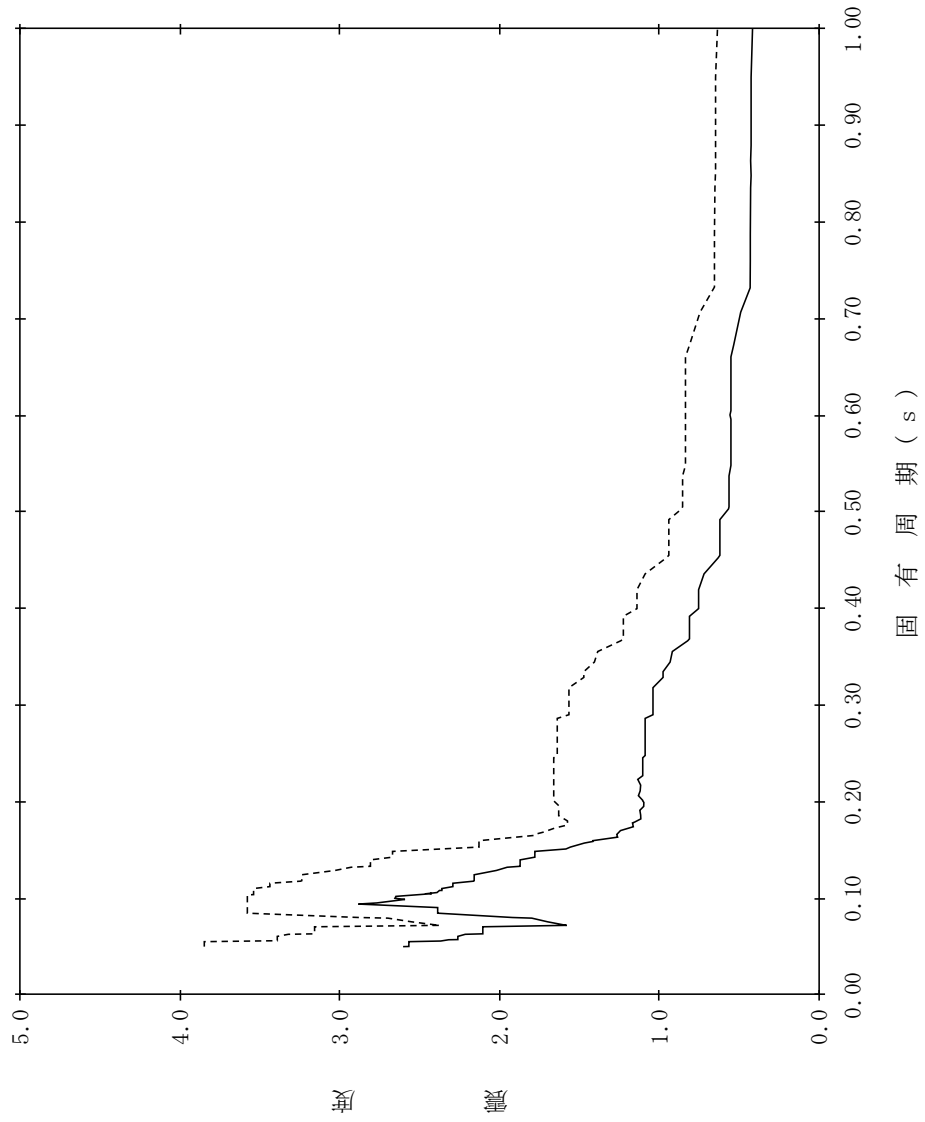
【NS2-PCV-SdV-RPV155】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



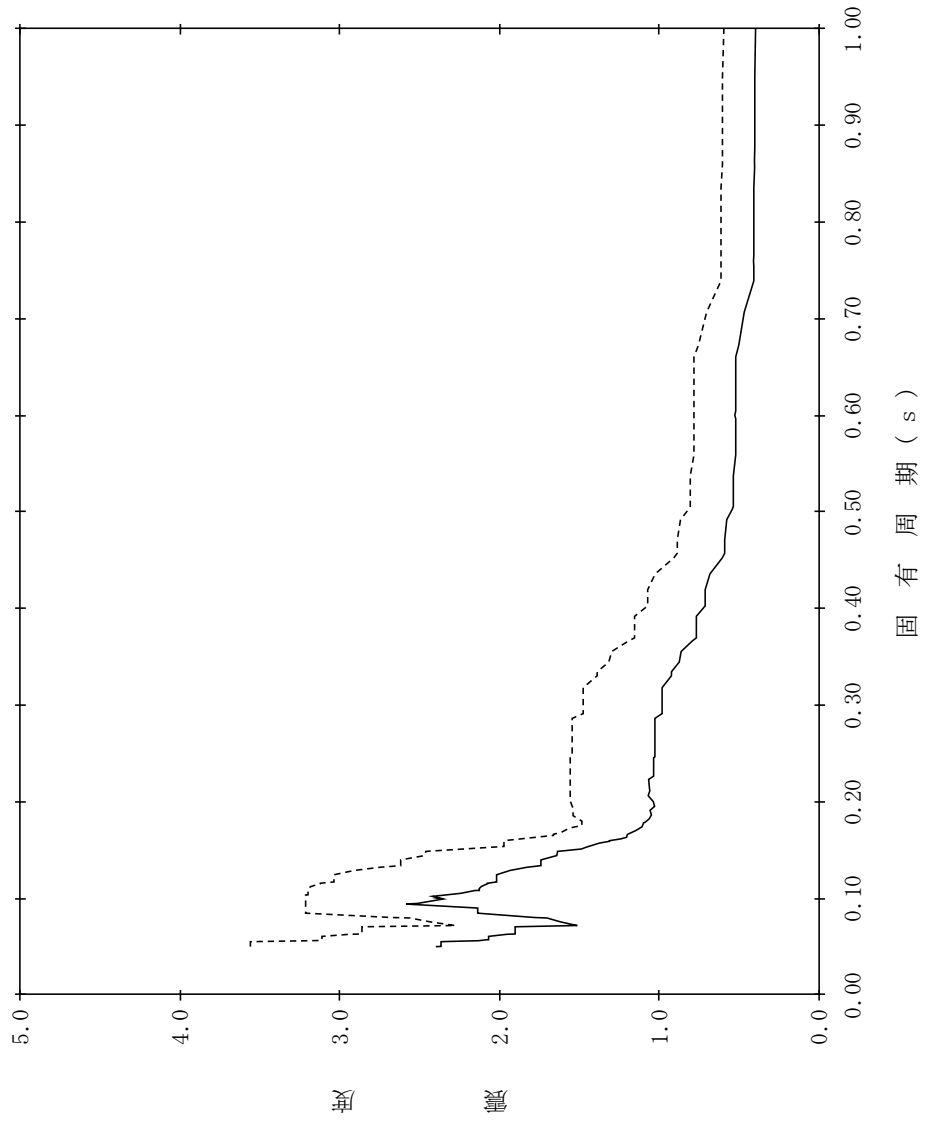
【NS2-PCV-SdV-RPV156】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



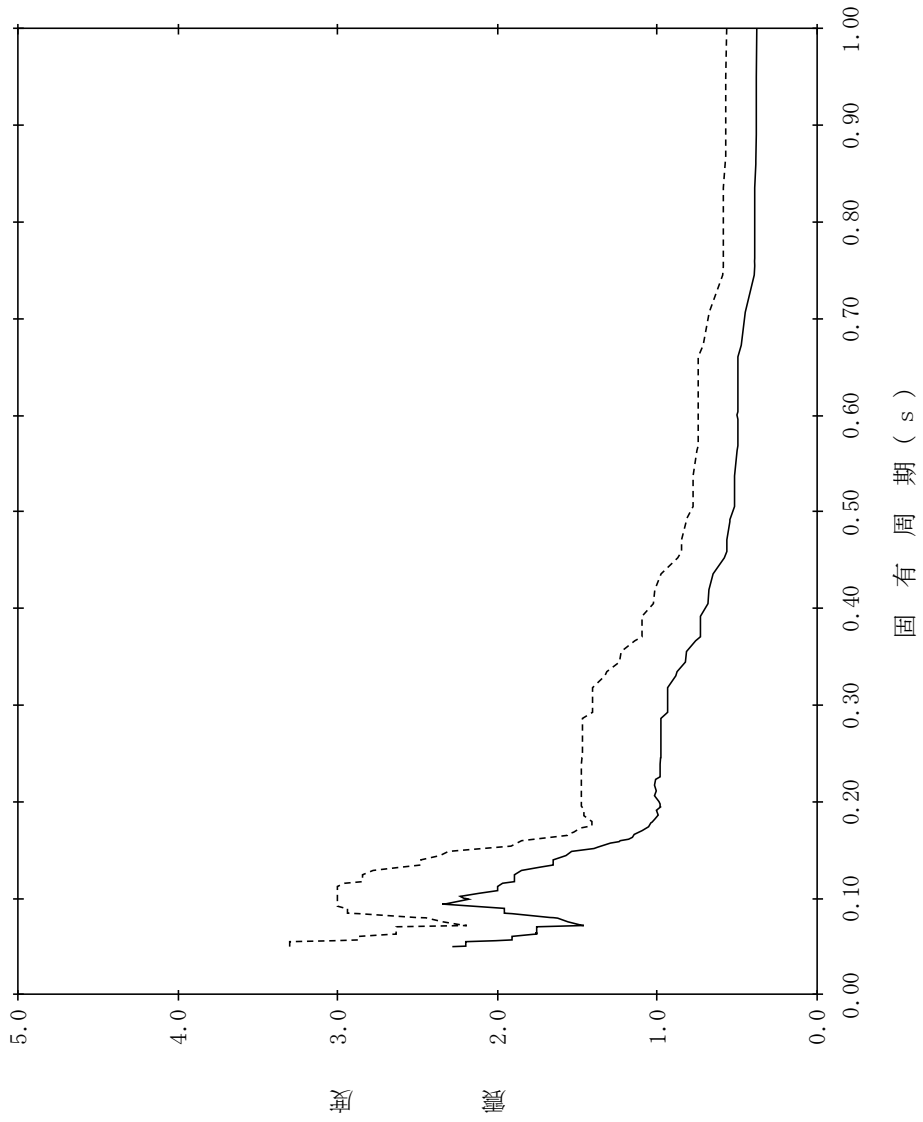
【NS2-PCV-SdV-RPV157】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



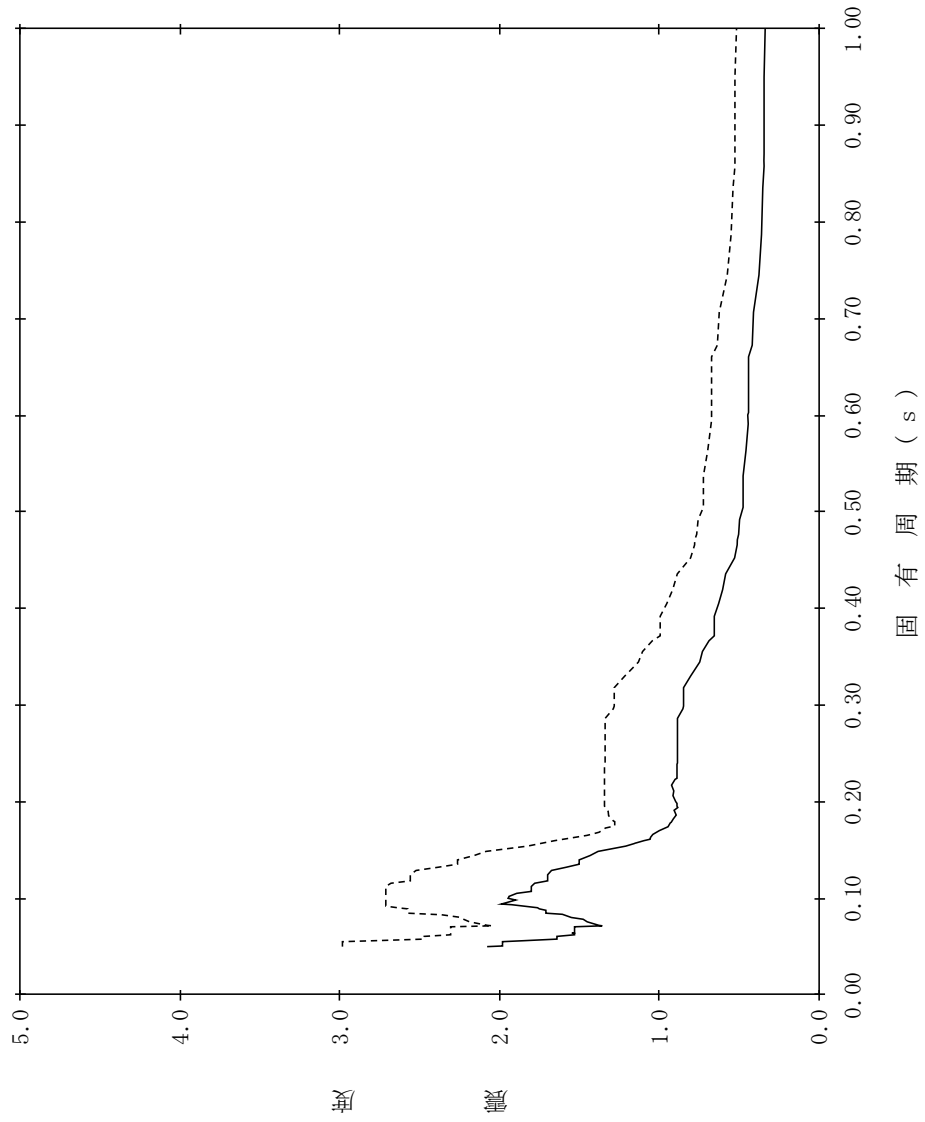
【NS2-PCV-SdV-RPV158】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



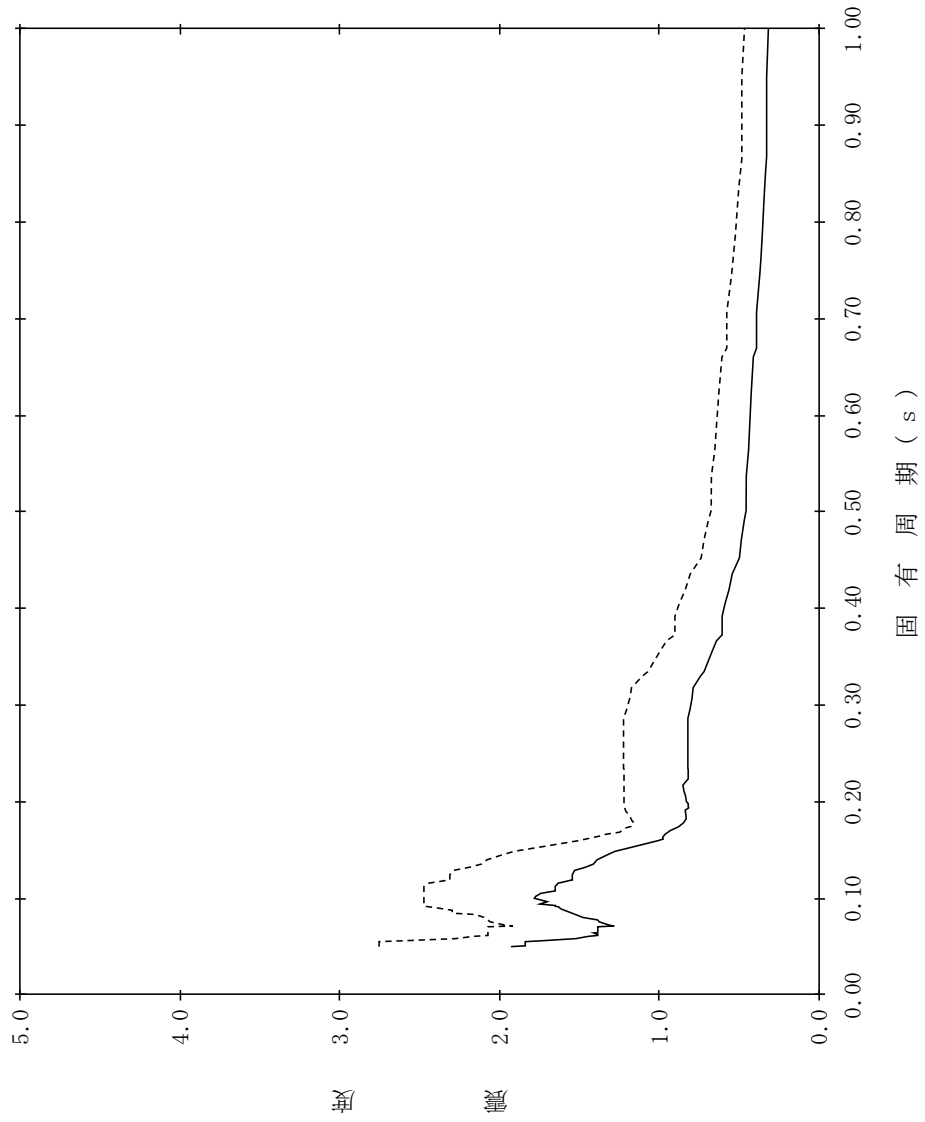
【NS2-PCV-SdV-RPV159】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL29.181m
減衰定数：4.0%
—— 設計用床応答スペクトルⅠ（鉛直方向）
----- 設計用床応答スペクトルⅡ（鉛直方向）



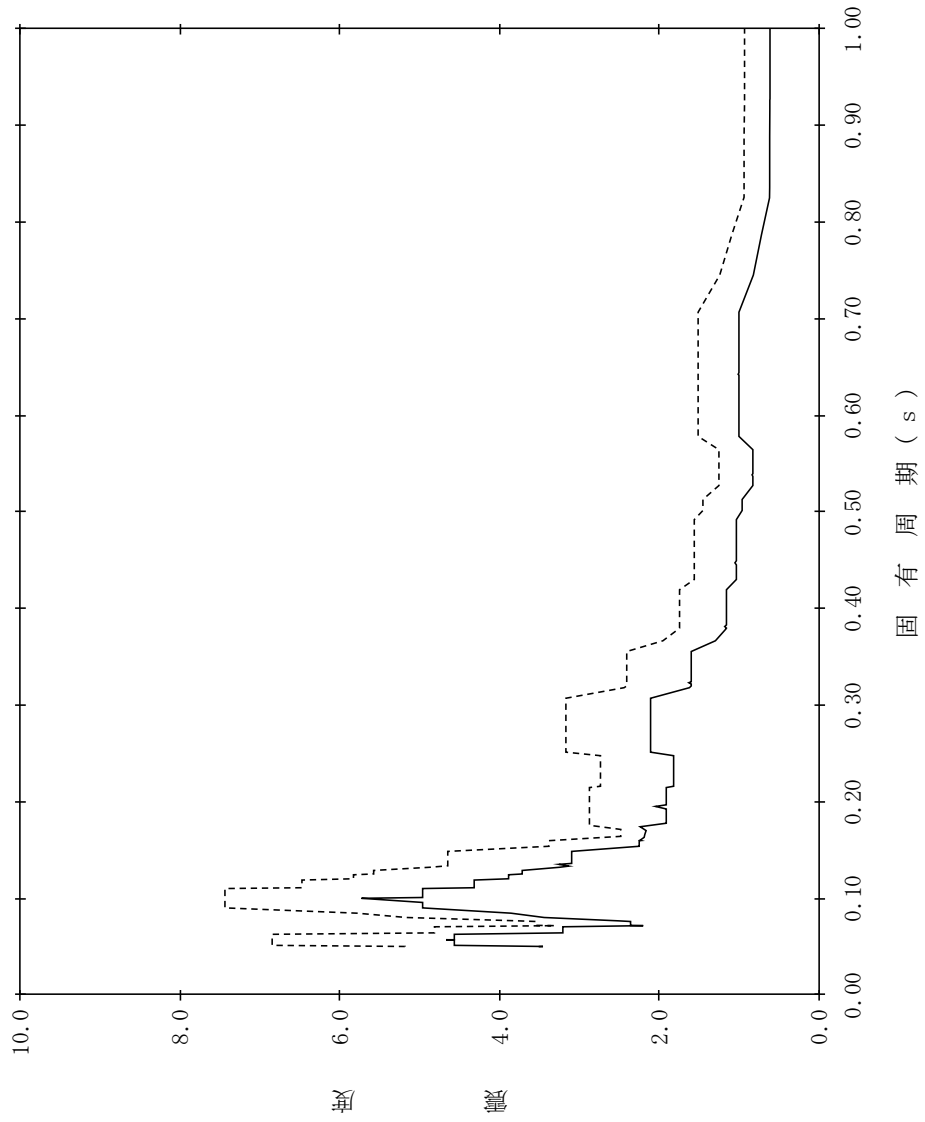
【NS2-PCV-SdV-RPV160】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL29.181m
減衰定数：5.0%
波形式：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



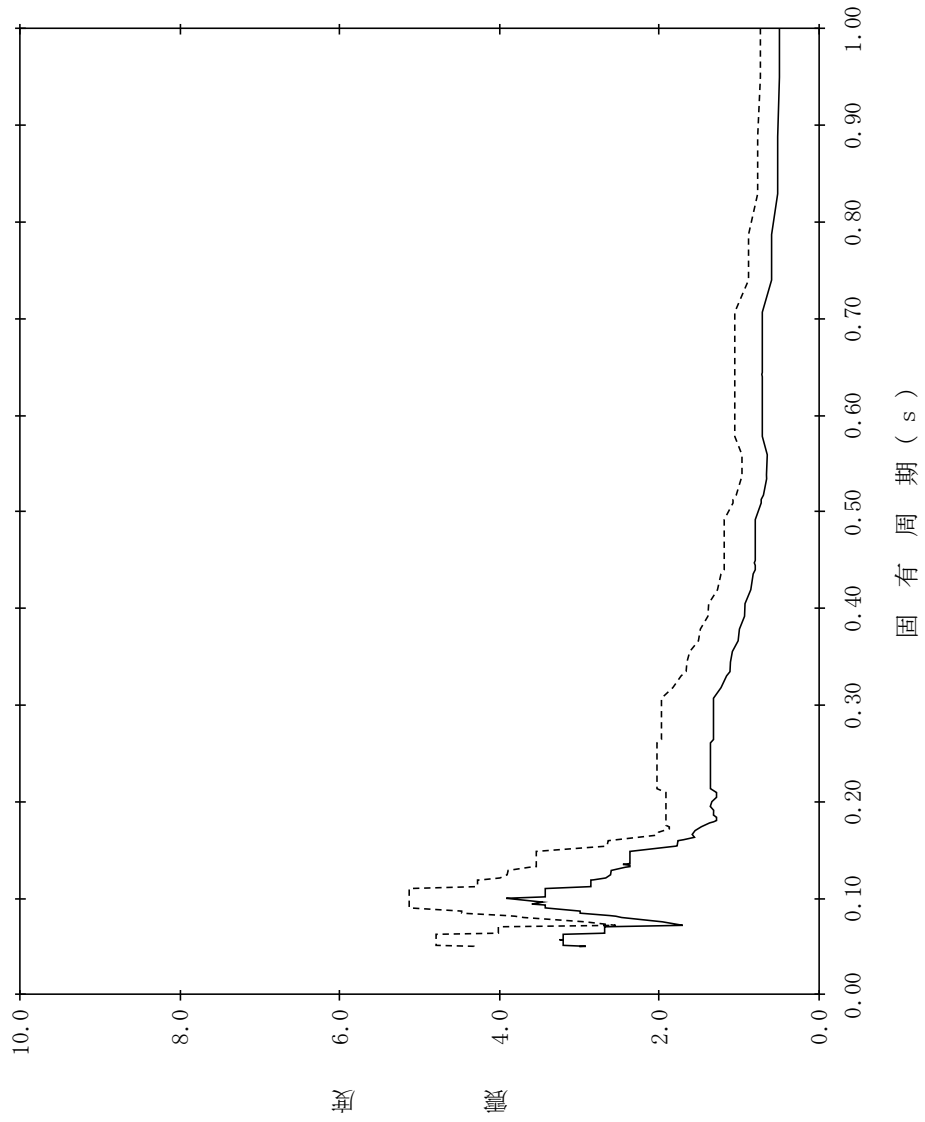
【NS2-PCV-SdV-RPV161】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



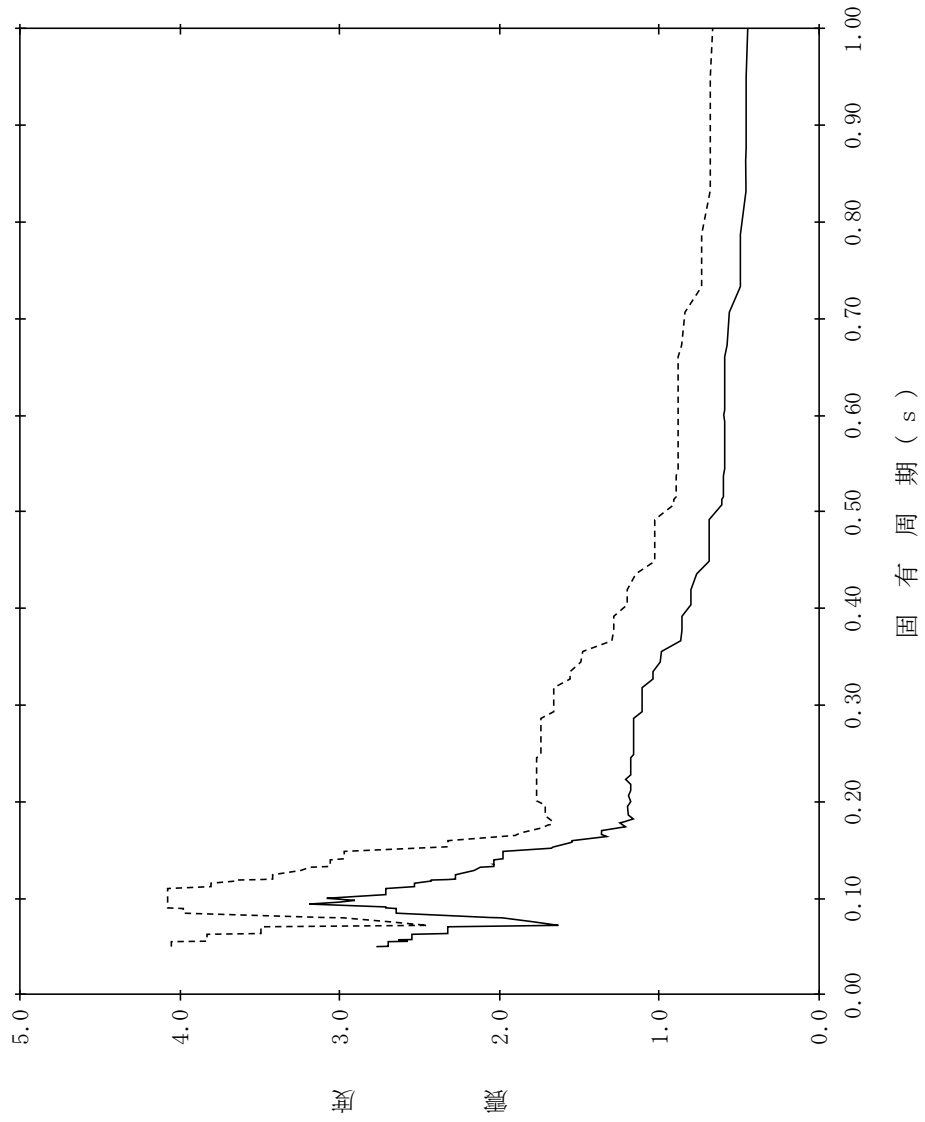
【NS2-PCV-SdV-RPV162】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



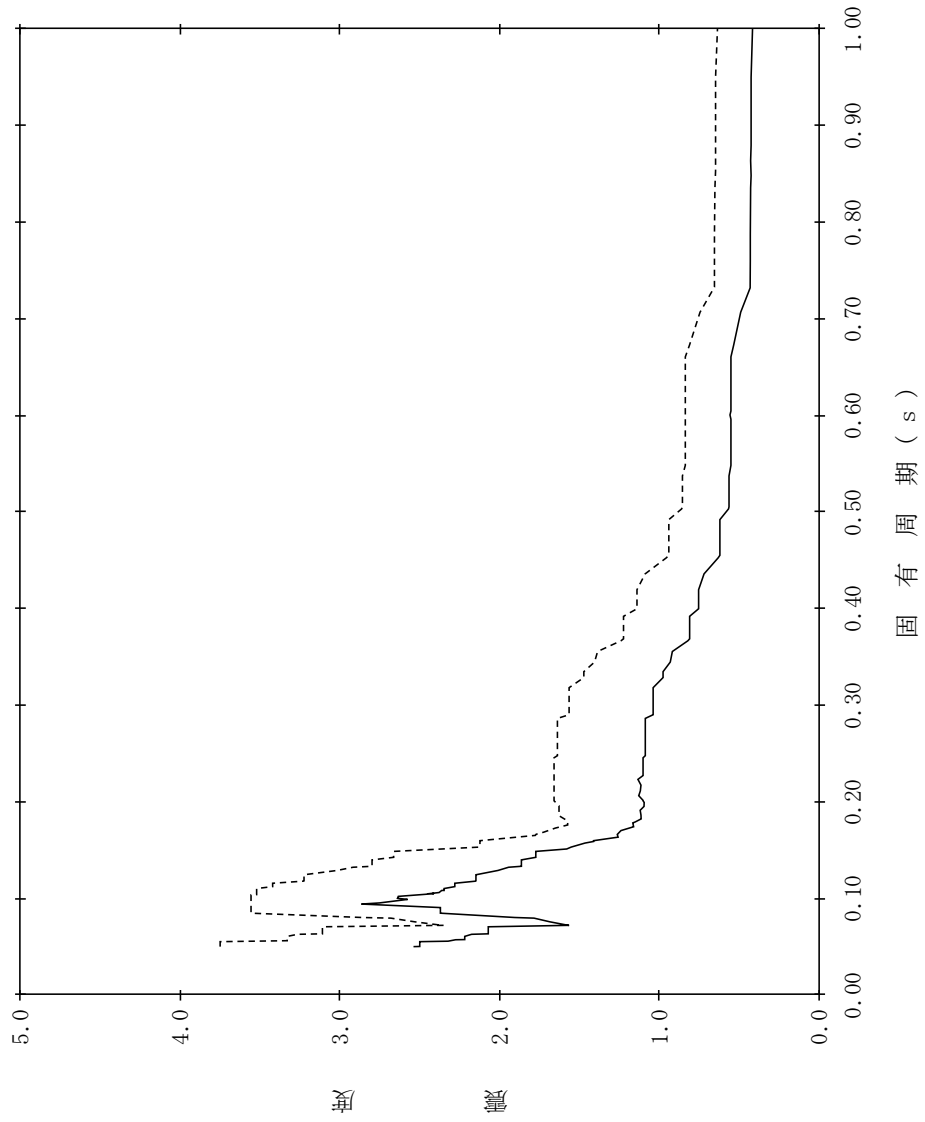
【NS2-PCV-SdV-RPV163】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



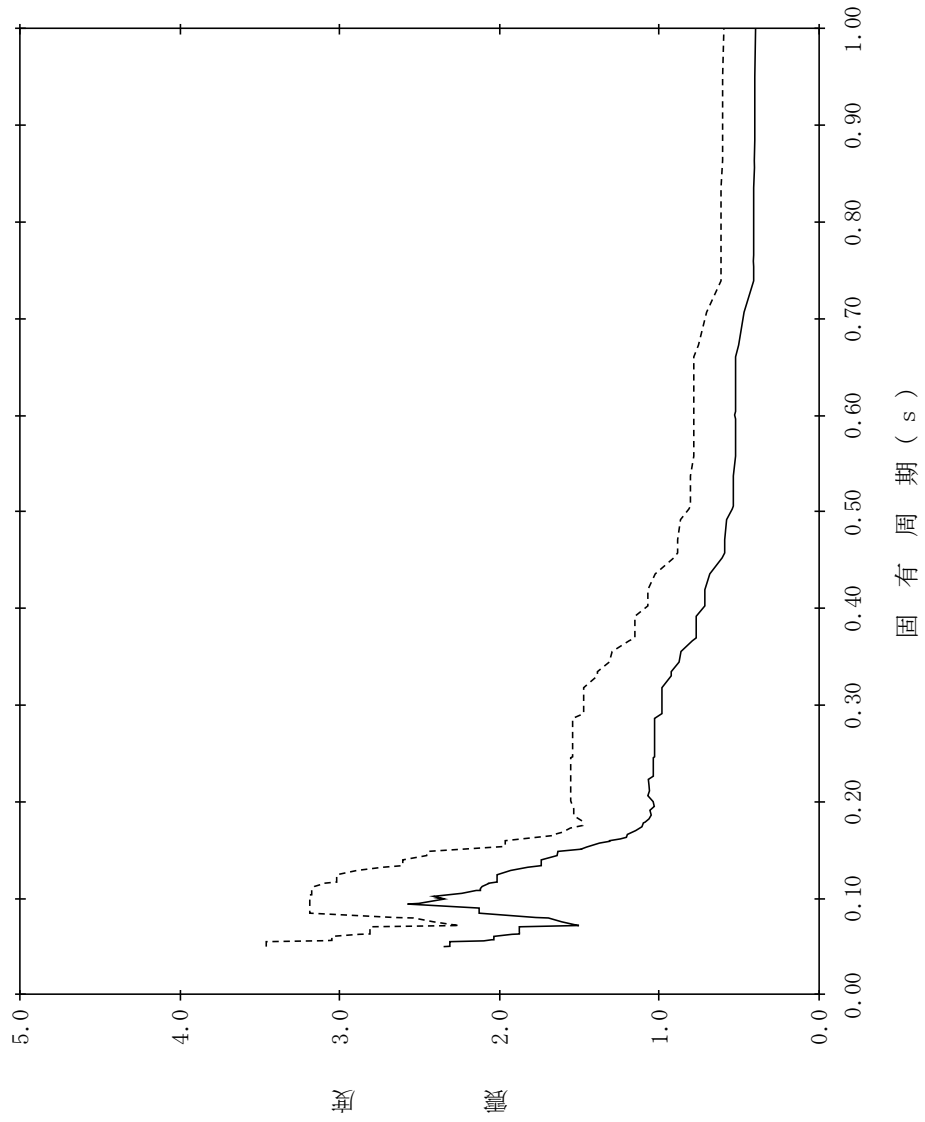
【NS2-PCV-SdV-RPV164】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



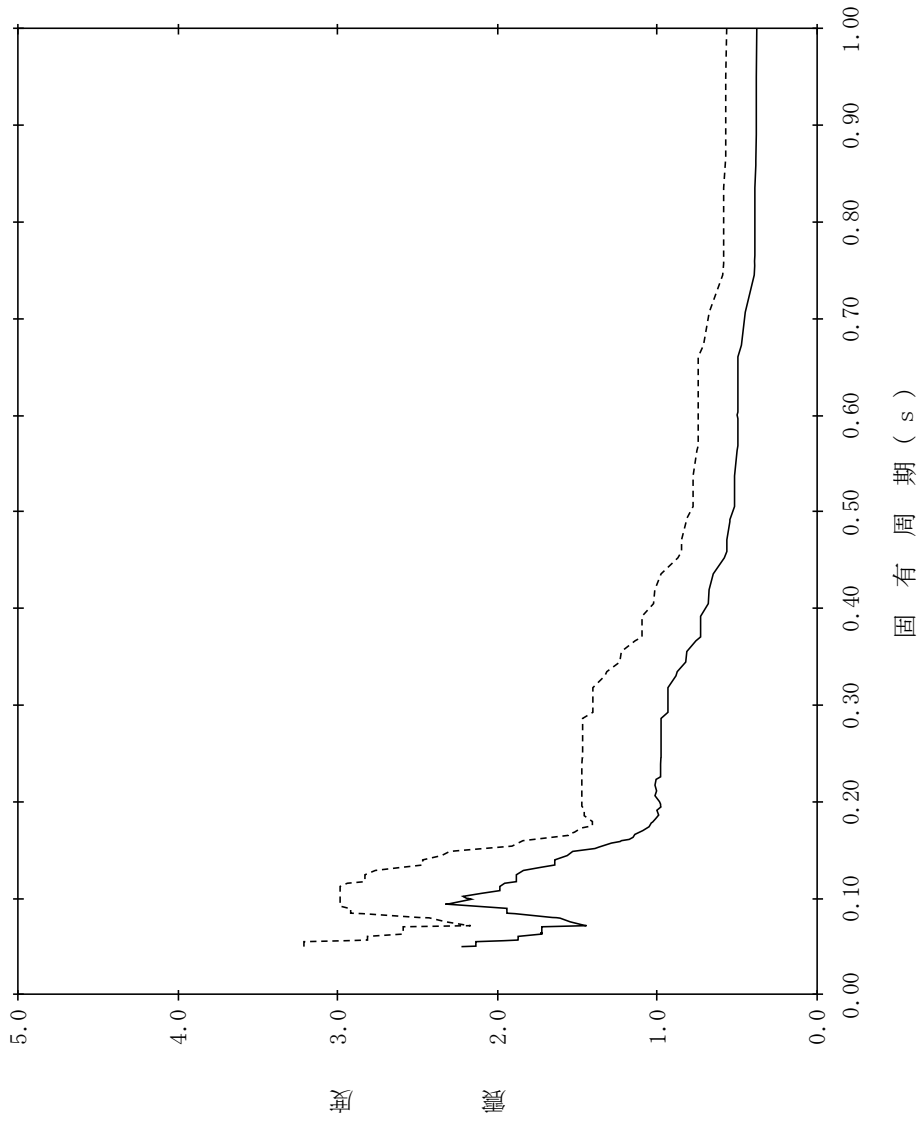
【NS2-PCV-SdV-RPV165】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



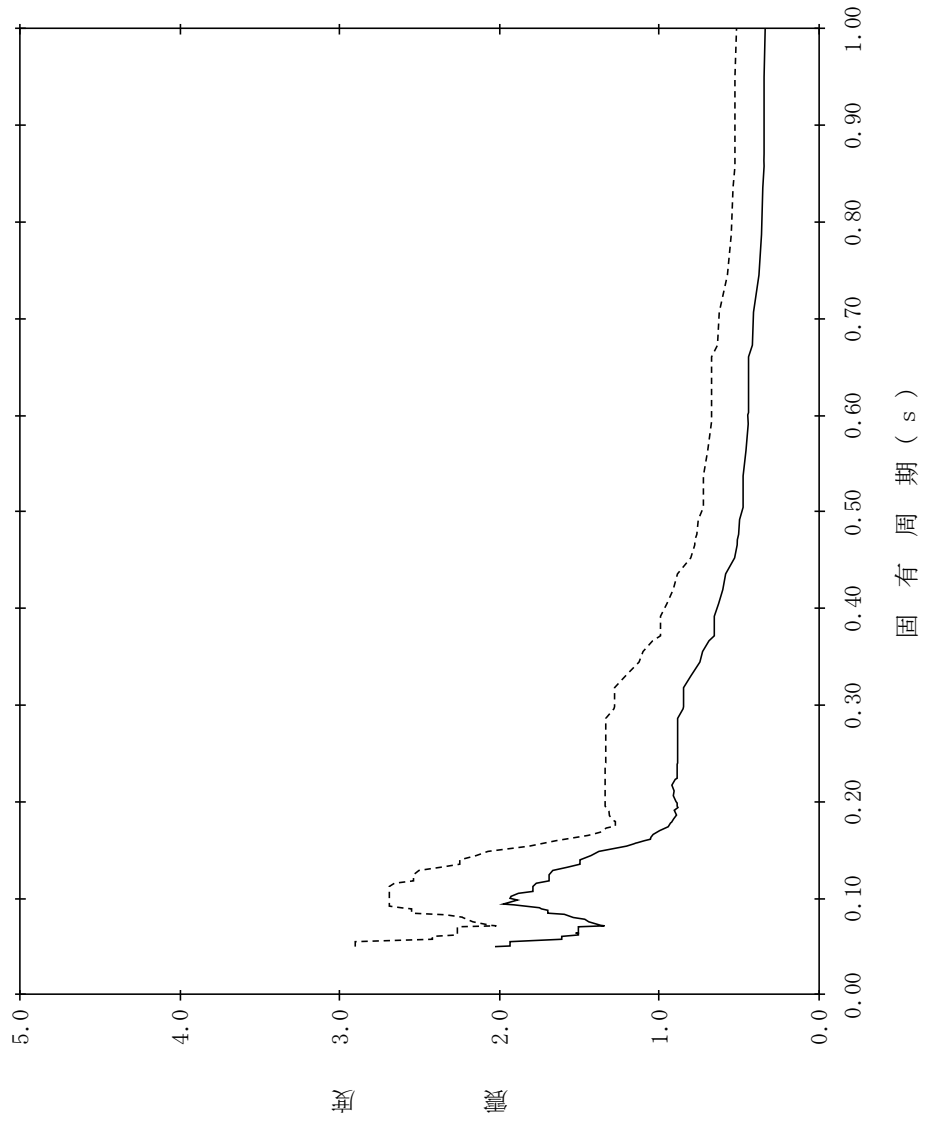
【NS2-PCV-SdV-RPV166】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



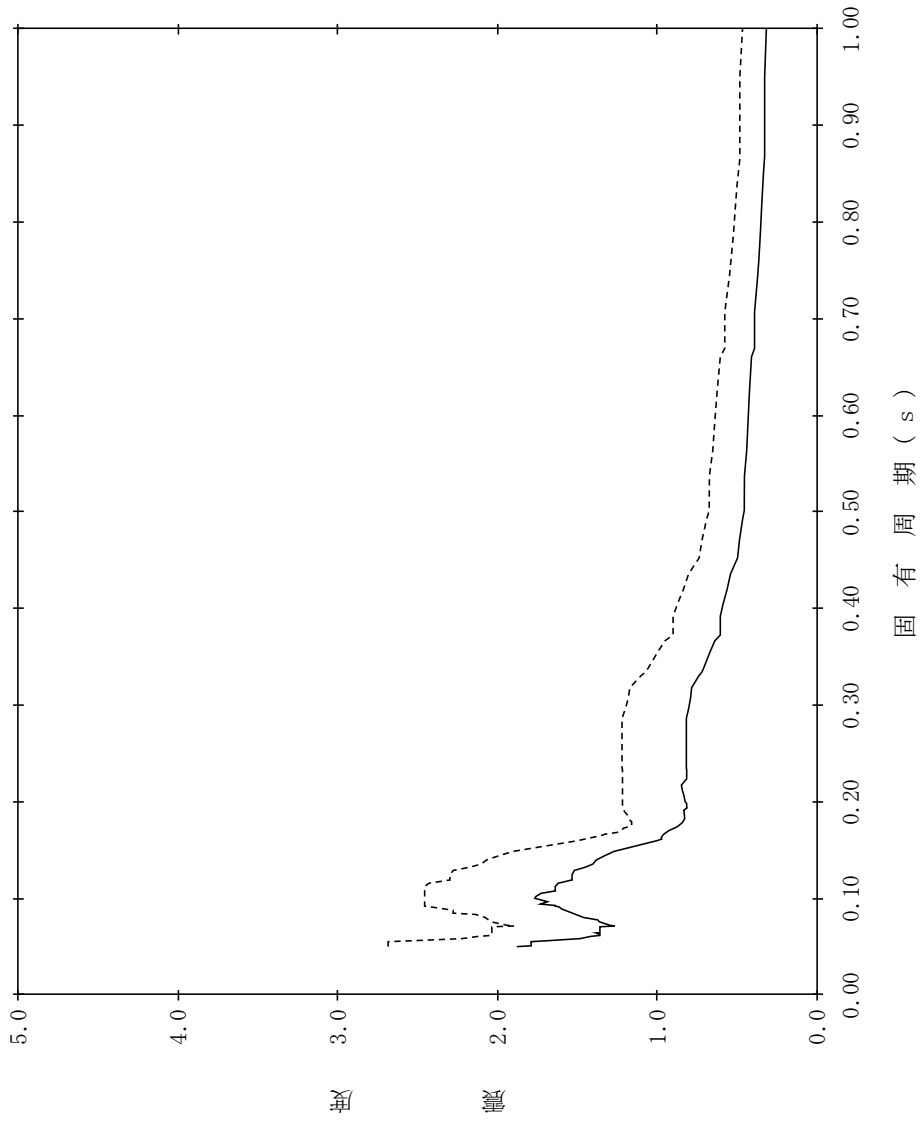
【NS2-PCV-SdV-RPV167】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



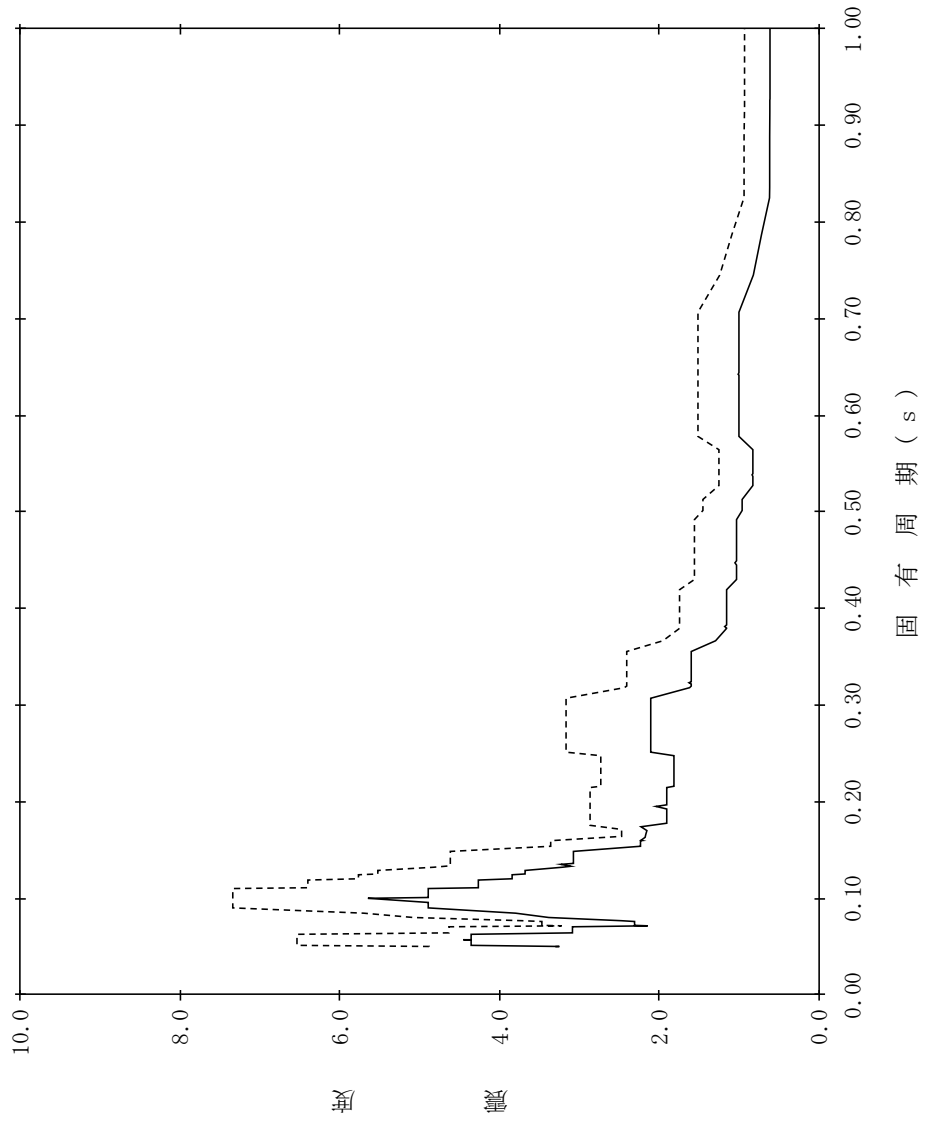
【NS2-PCV-SdV-RPV168】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



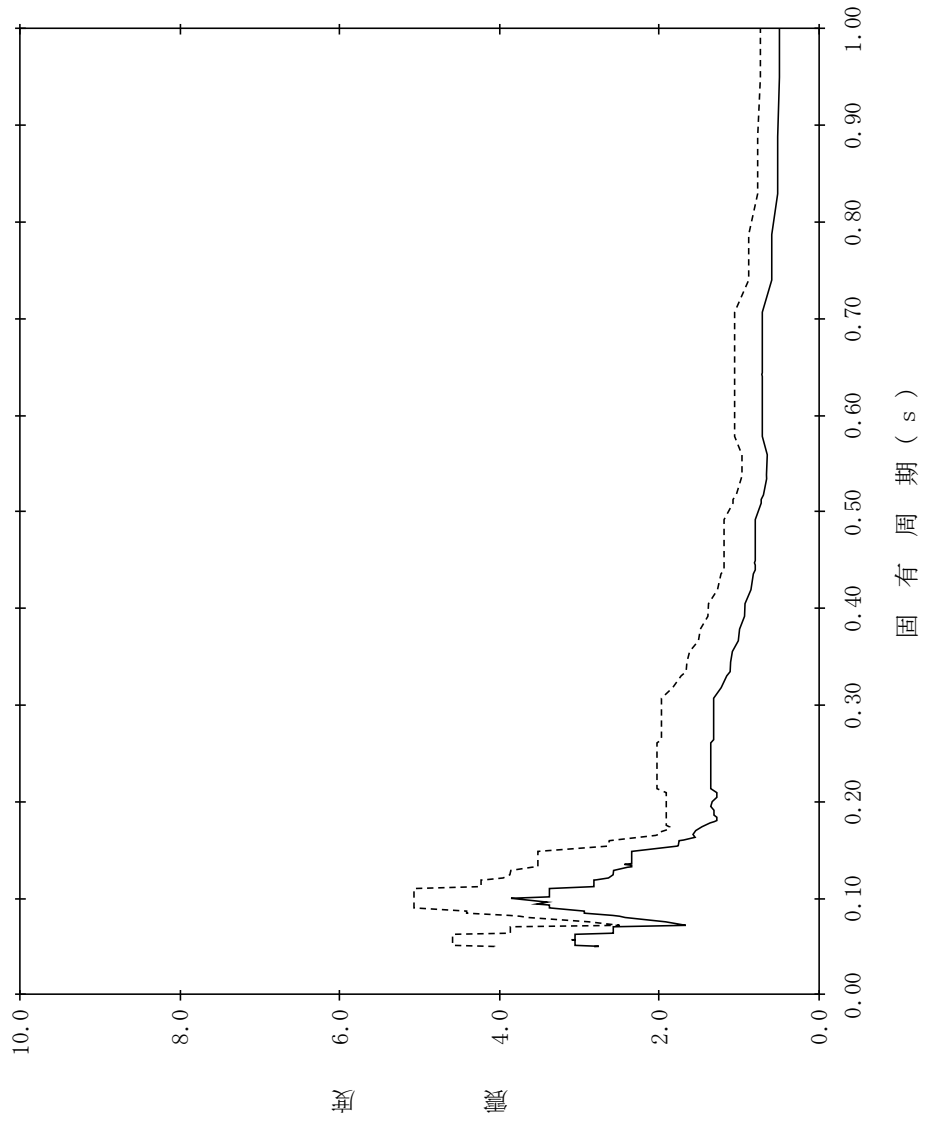
【NS2-PCV-SdV-RPV169】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



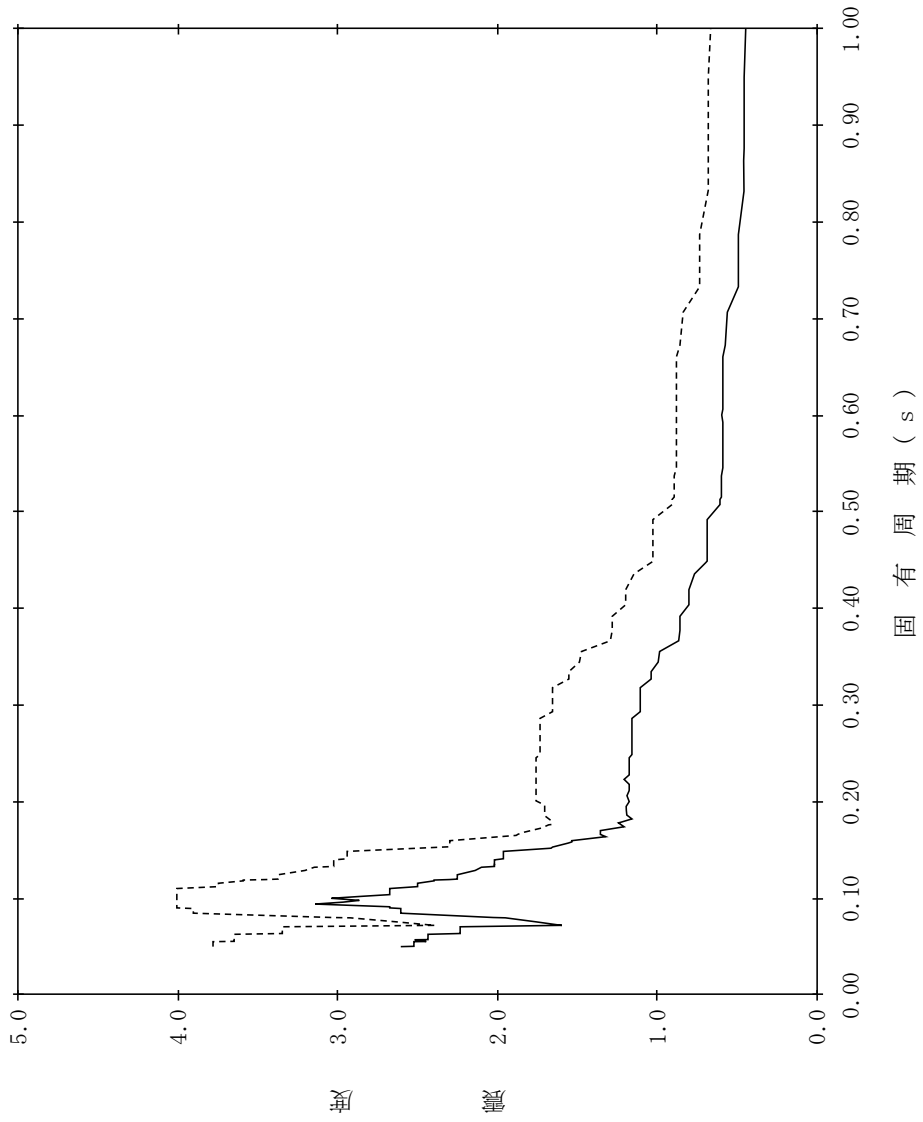
【NS2-PCV-SdV-RPV170】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



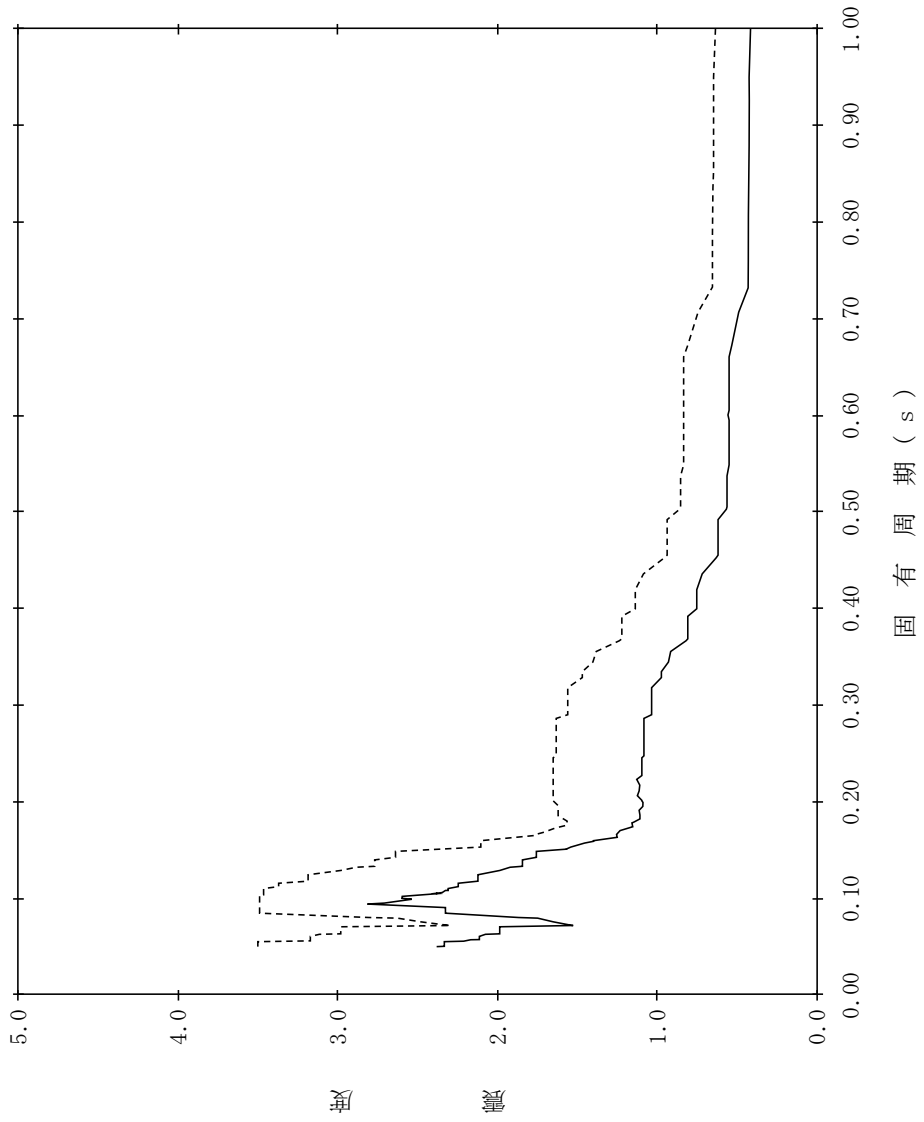
【NS2-PCV-SdV-RPV171】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



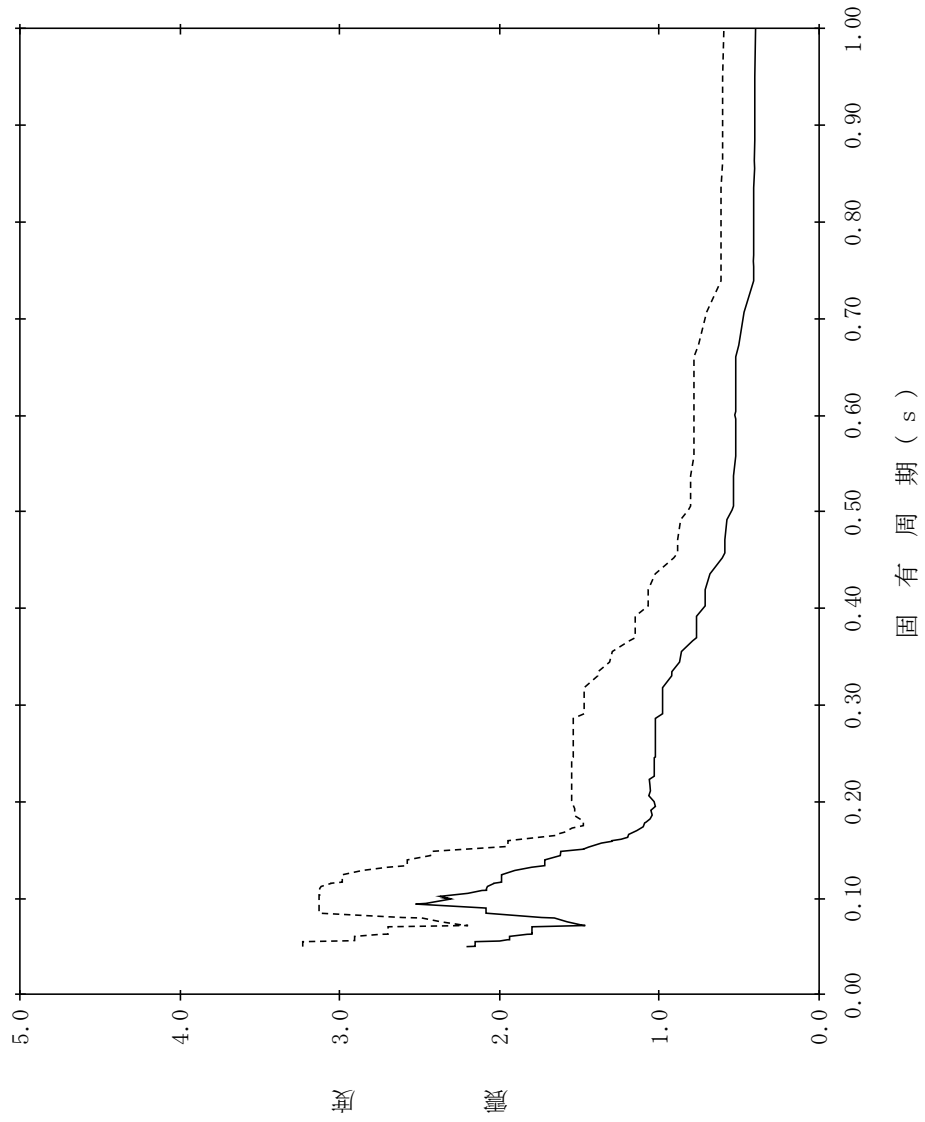
【NS2-PCV-SdV-RPV172】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



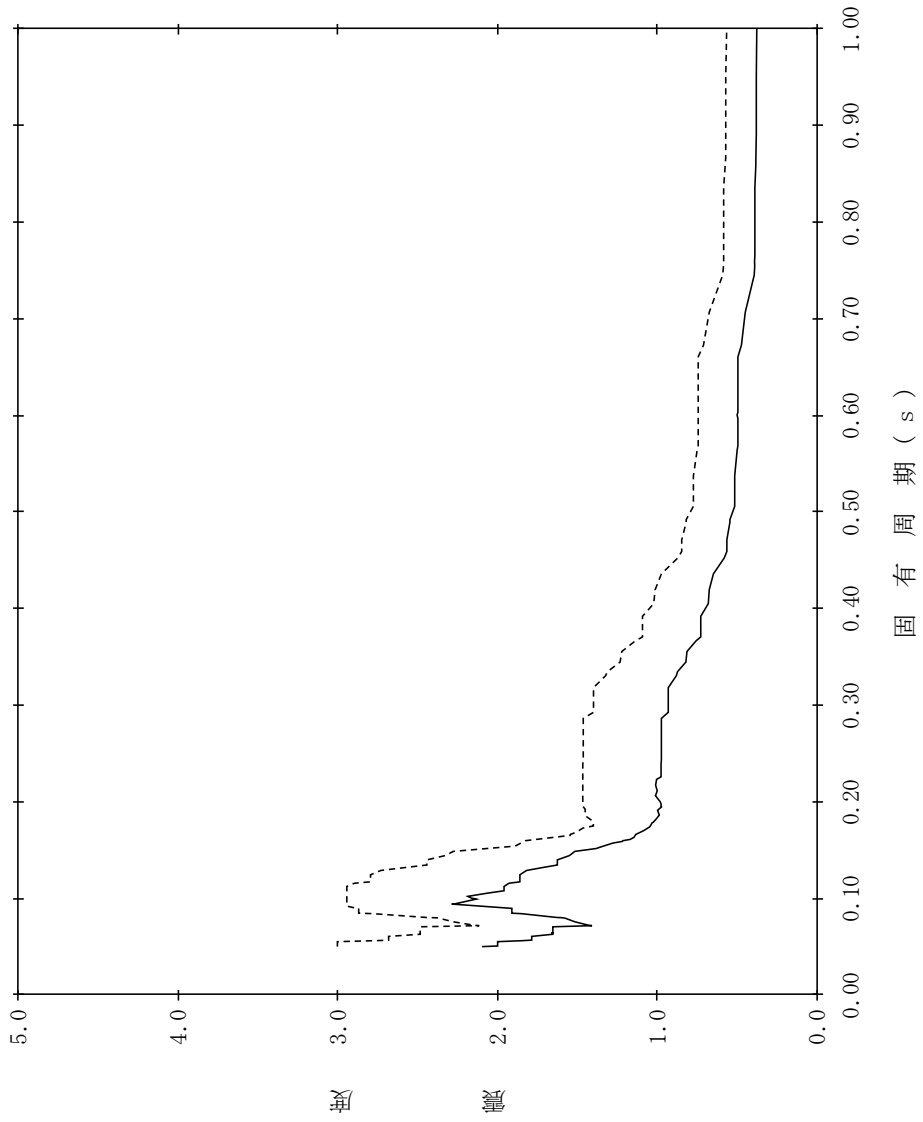
【NS2-PCV-SdV-RPV173】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



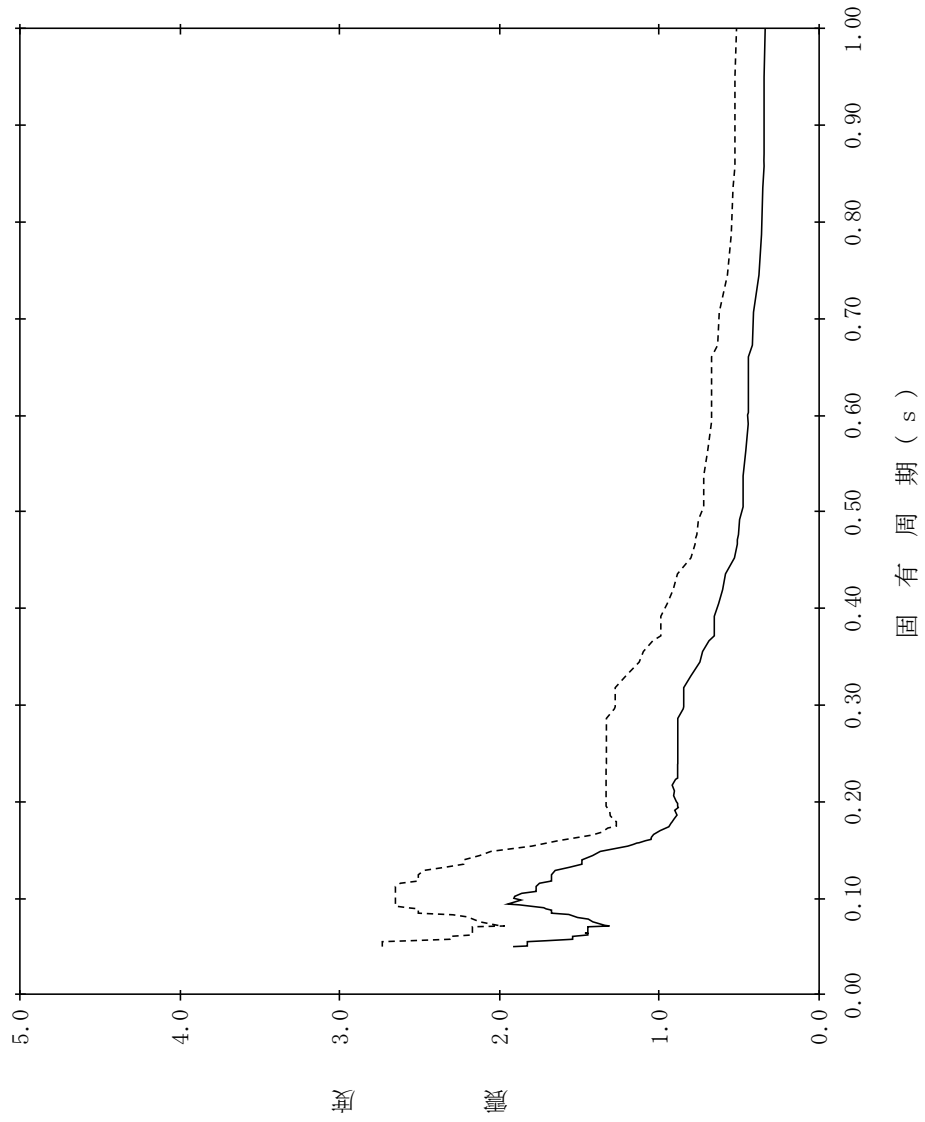
【NS2-PCV-SdV-RPV174】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



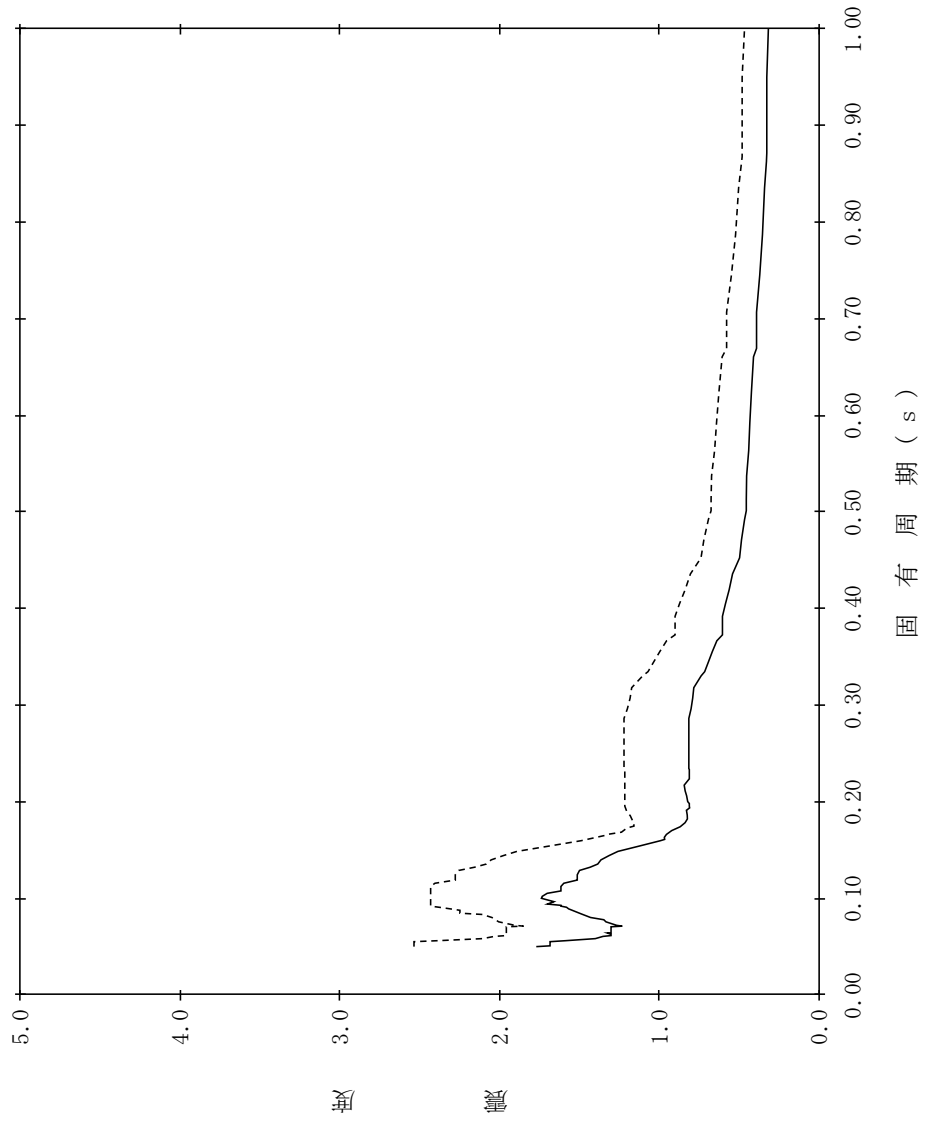
【NS2-PCV-SdV-RPV175】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL23.707m
減衰定数：4.0%
波形式：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



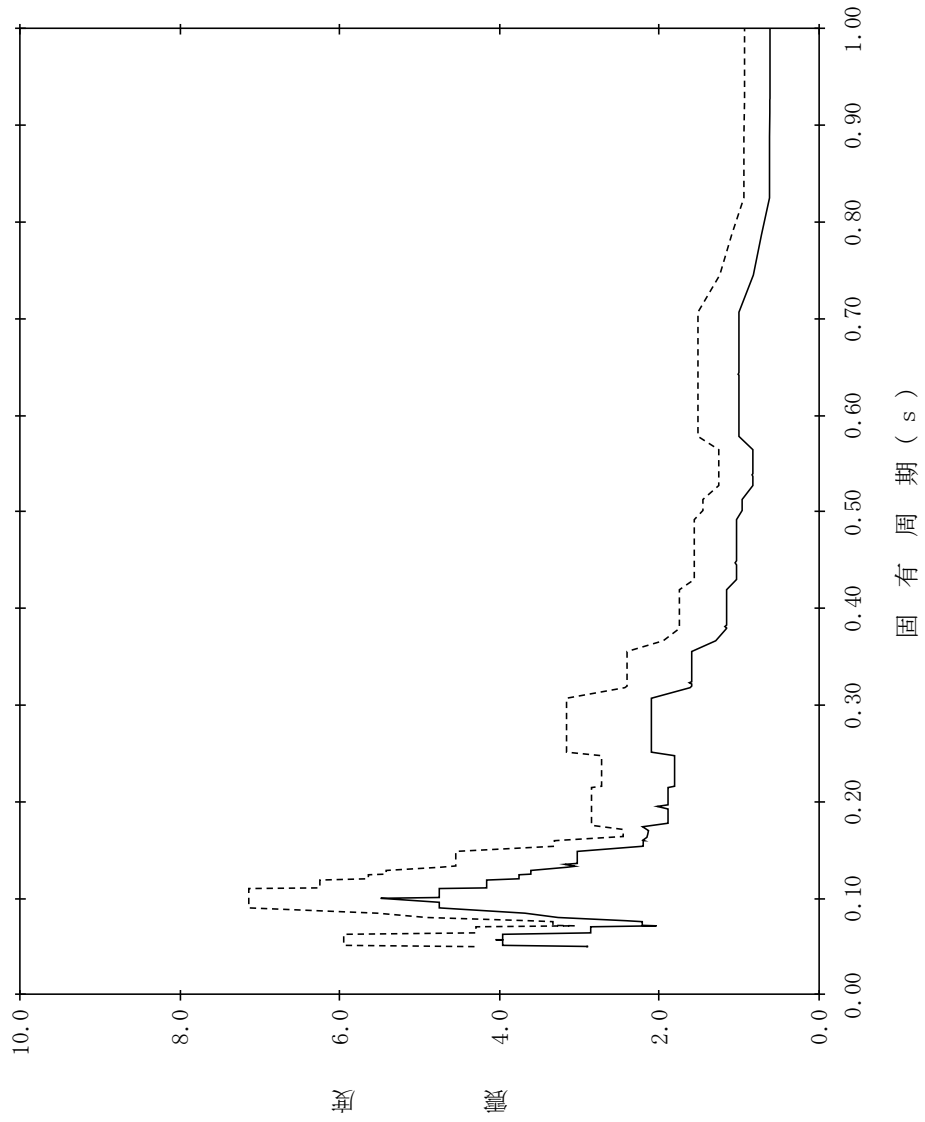
【NS2-PCV-SdV-RPV176】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL23.707m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



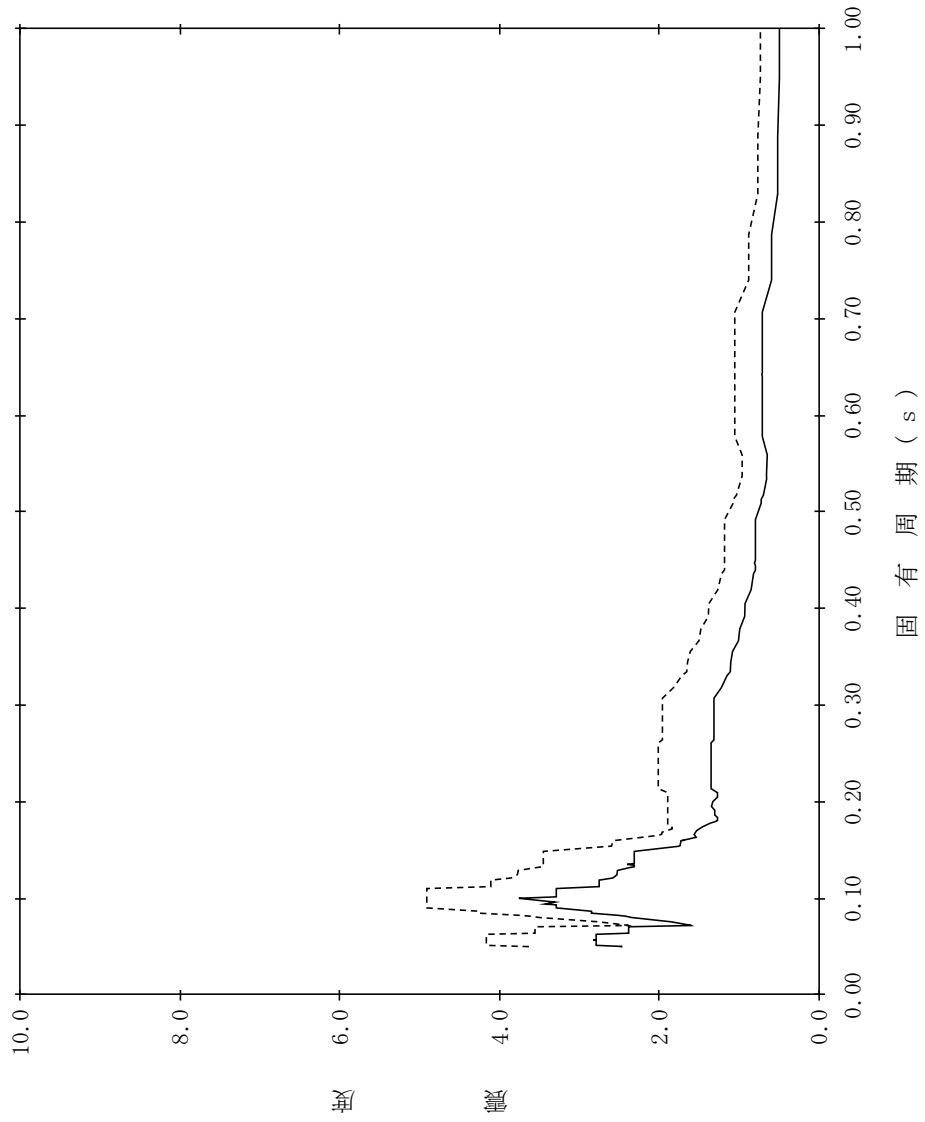
【NS2-PCV-SdV-RPV177】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



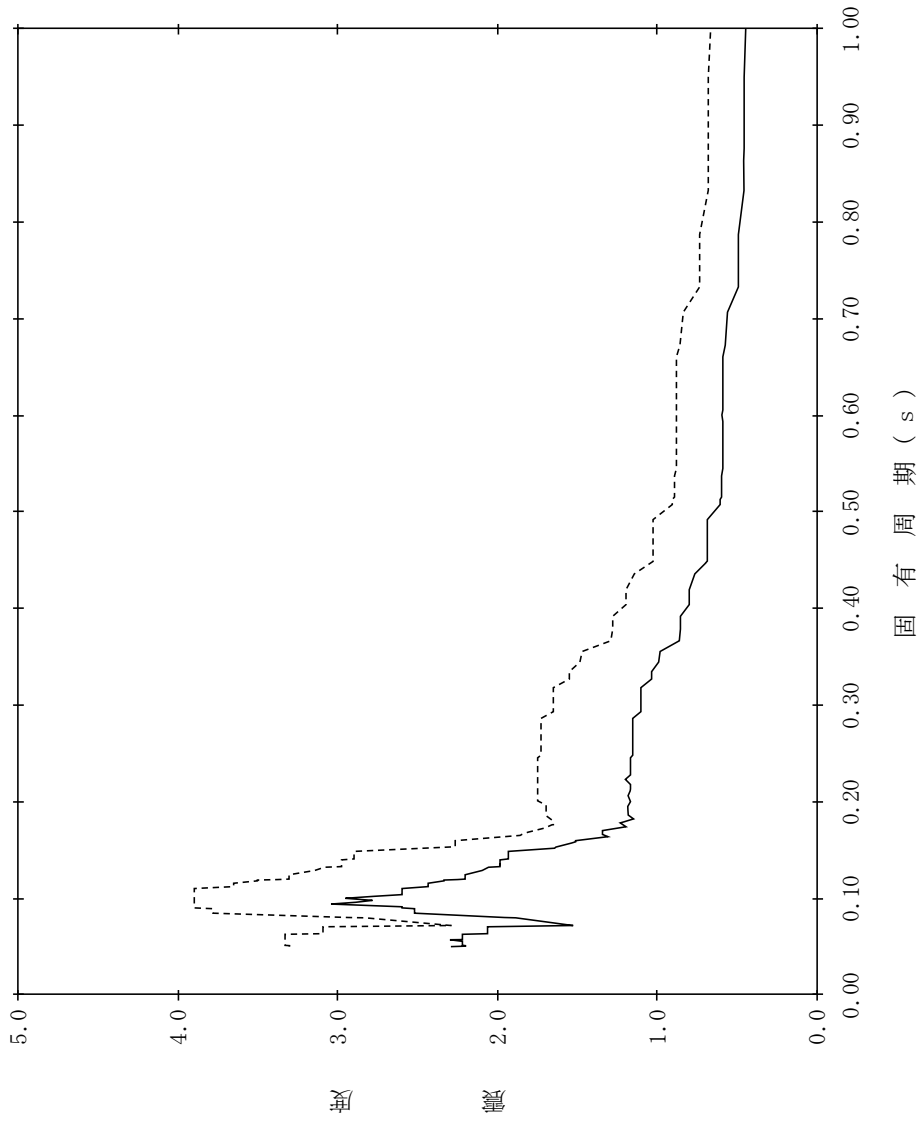
【NS2-PCV-SdV-RPV178】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



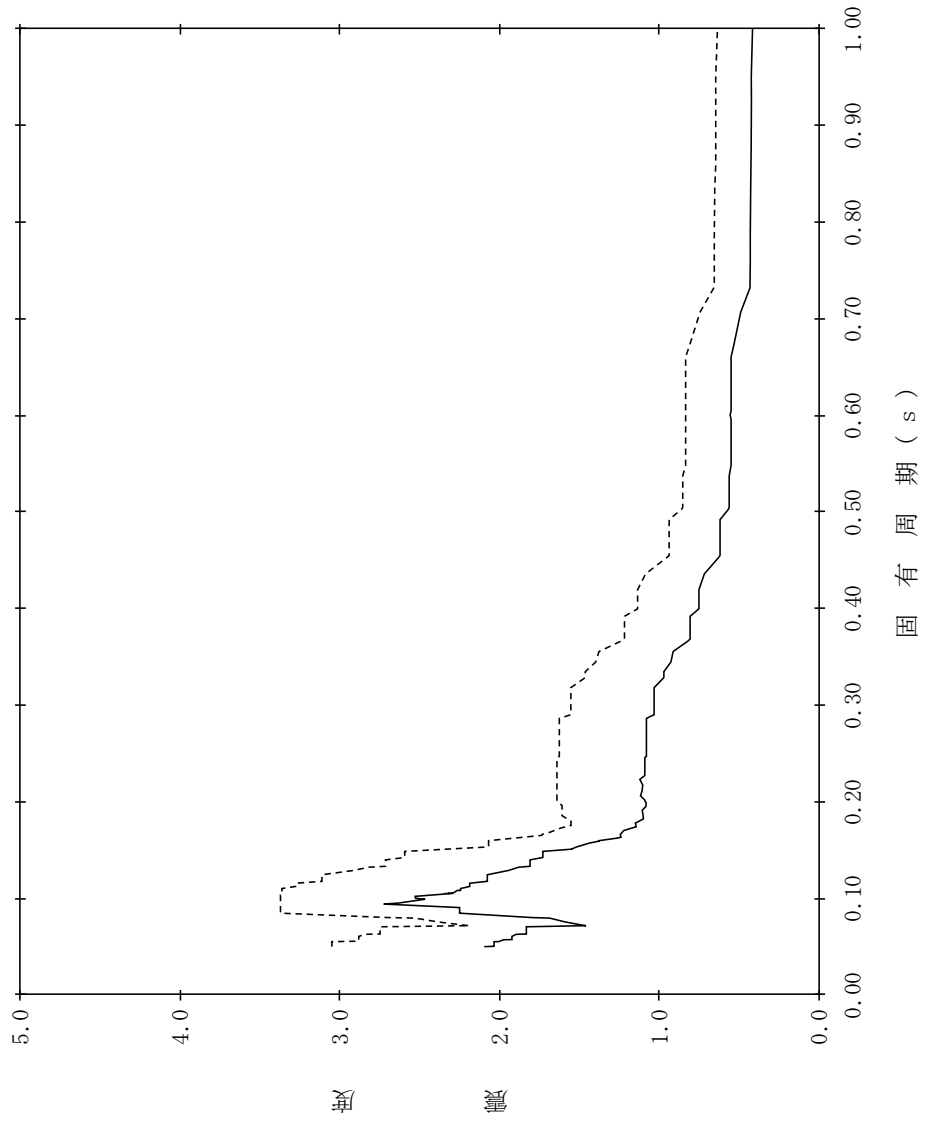
【NS2-PCV-SdV-RPV179】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：1.5%
 波形式：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



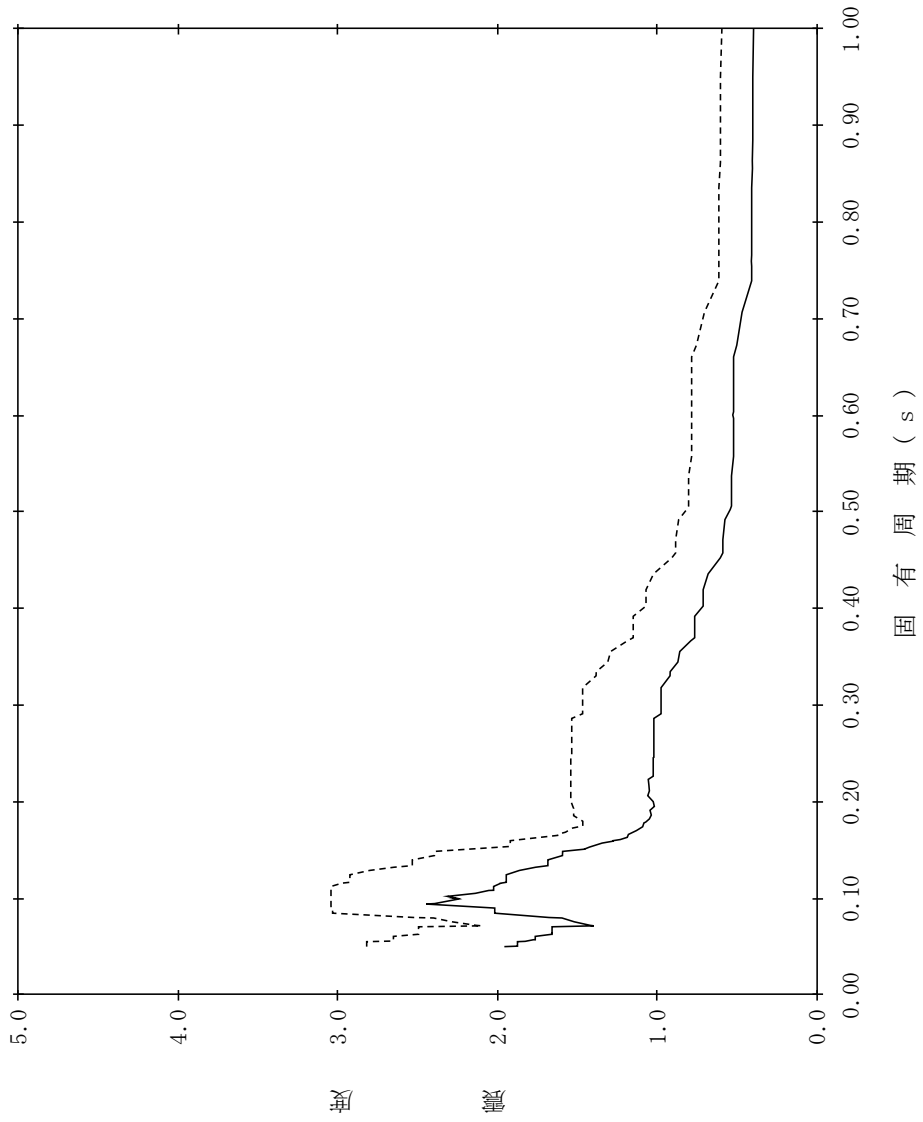
【NS2-PCV-SdV-RPV180】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL18.250m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



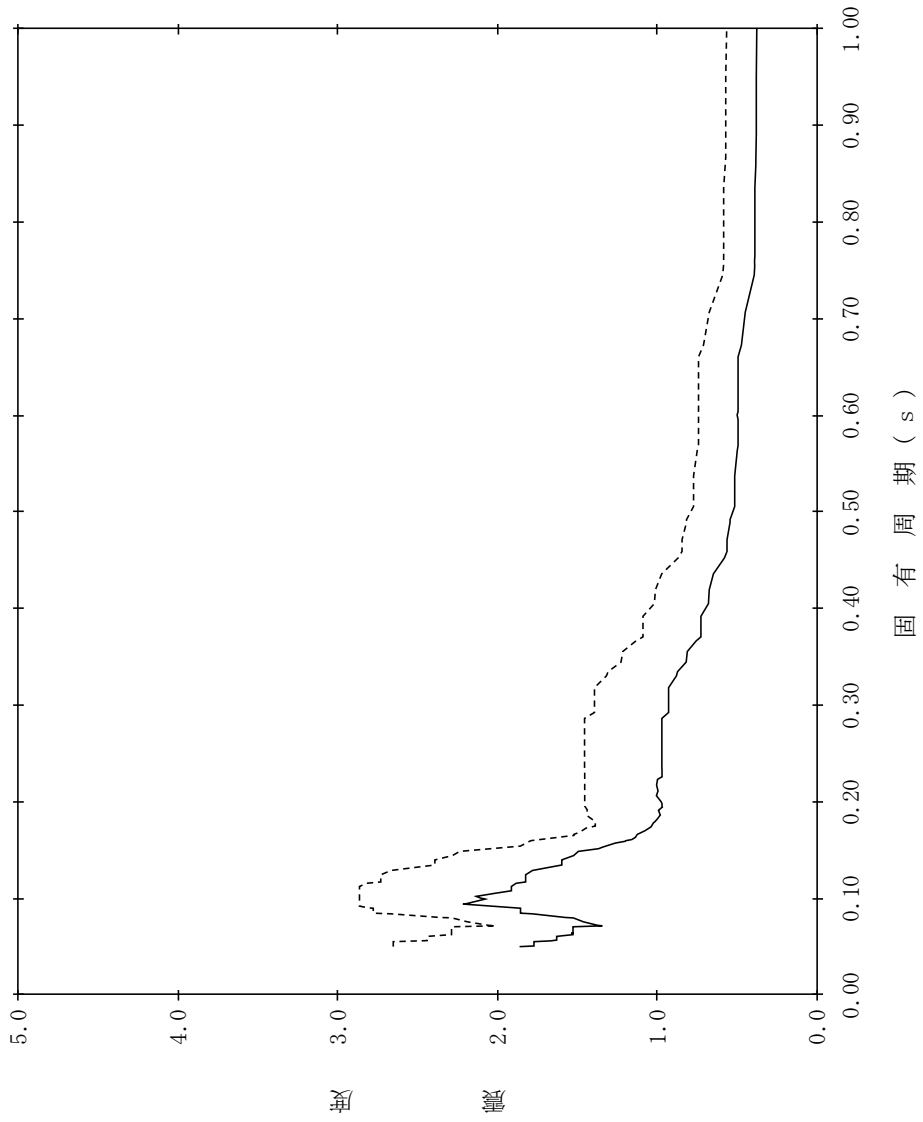
【NS2-PCV-SdV-RPV181】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



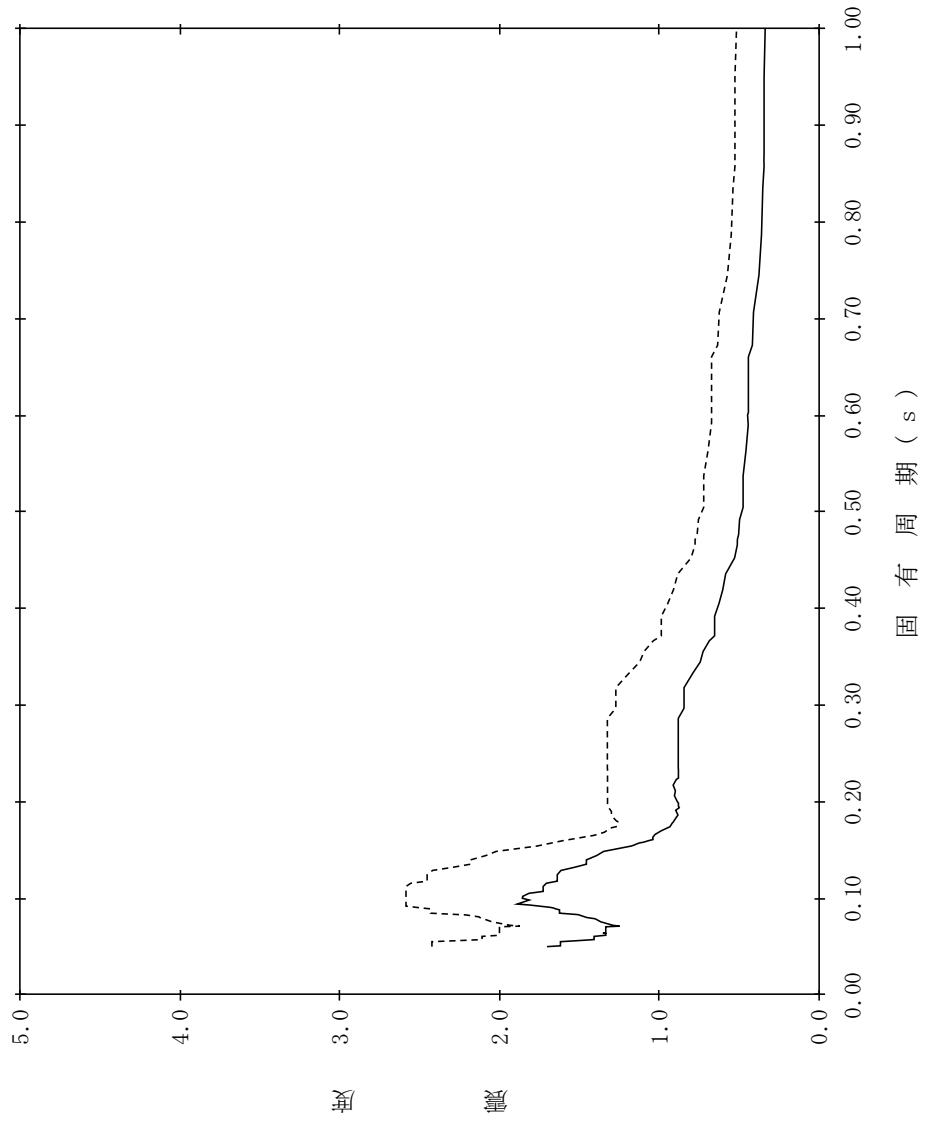
【NS2-PCV-SdV-RPV182】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



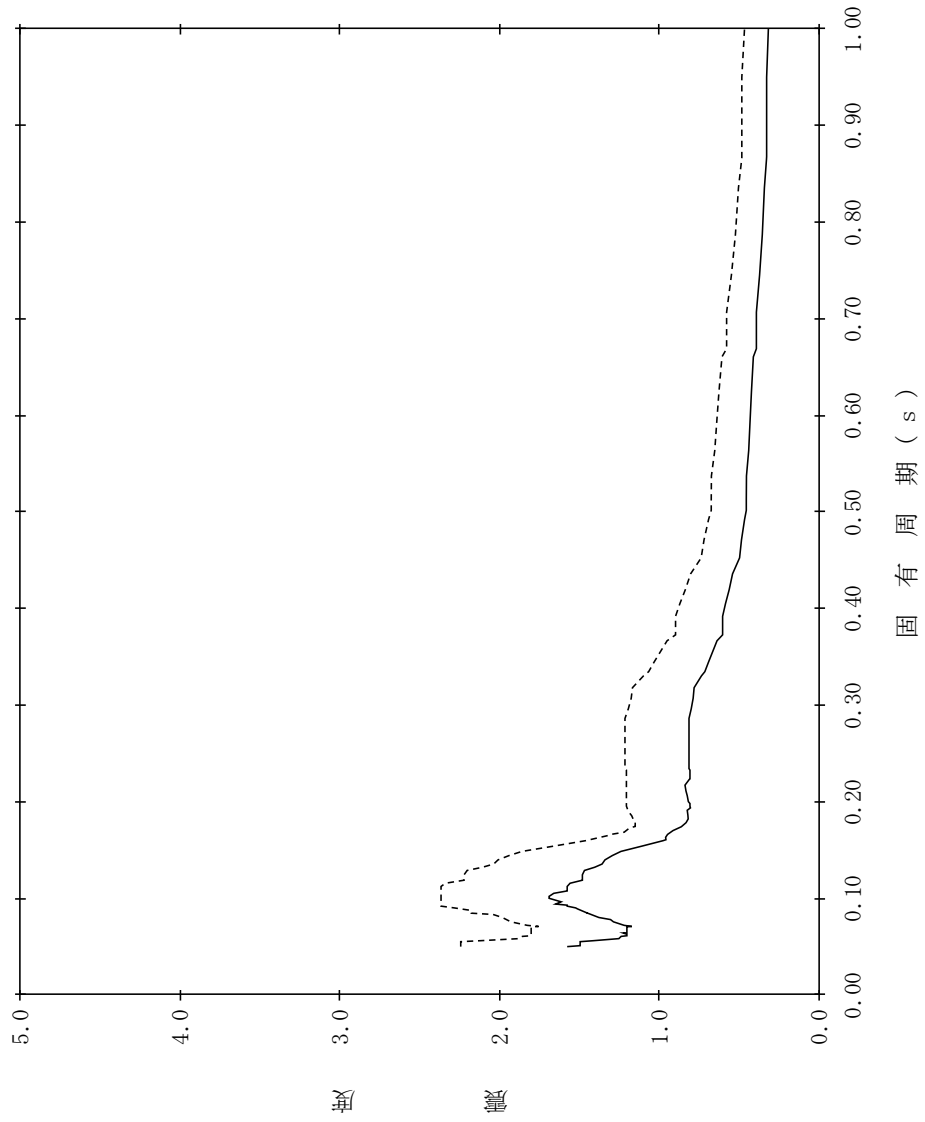
【NS2-PCV-SdV-RPV183】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



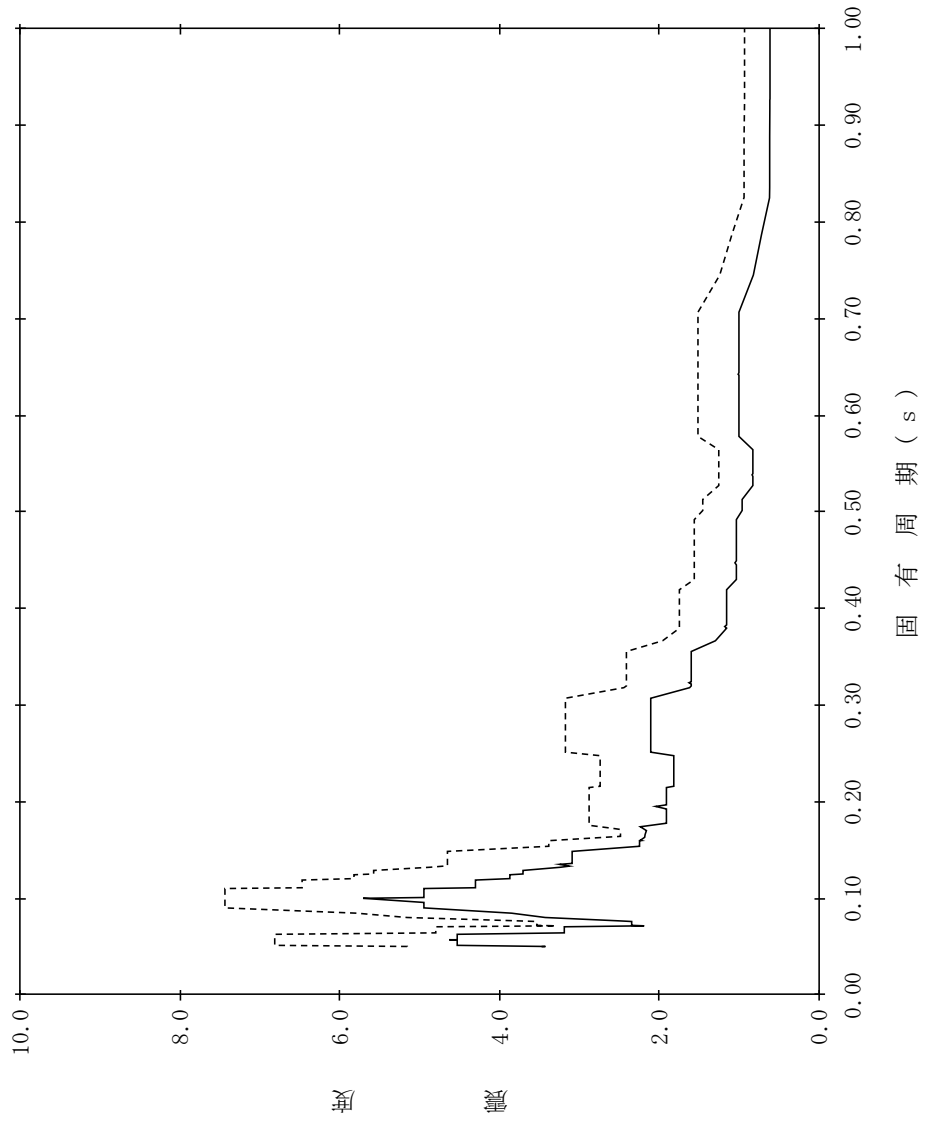
【NS2-PCV-SdV-RPV184】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



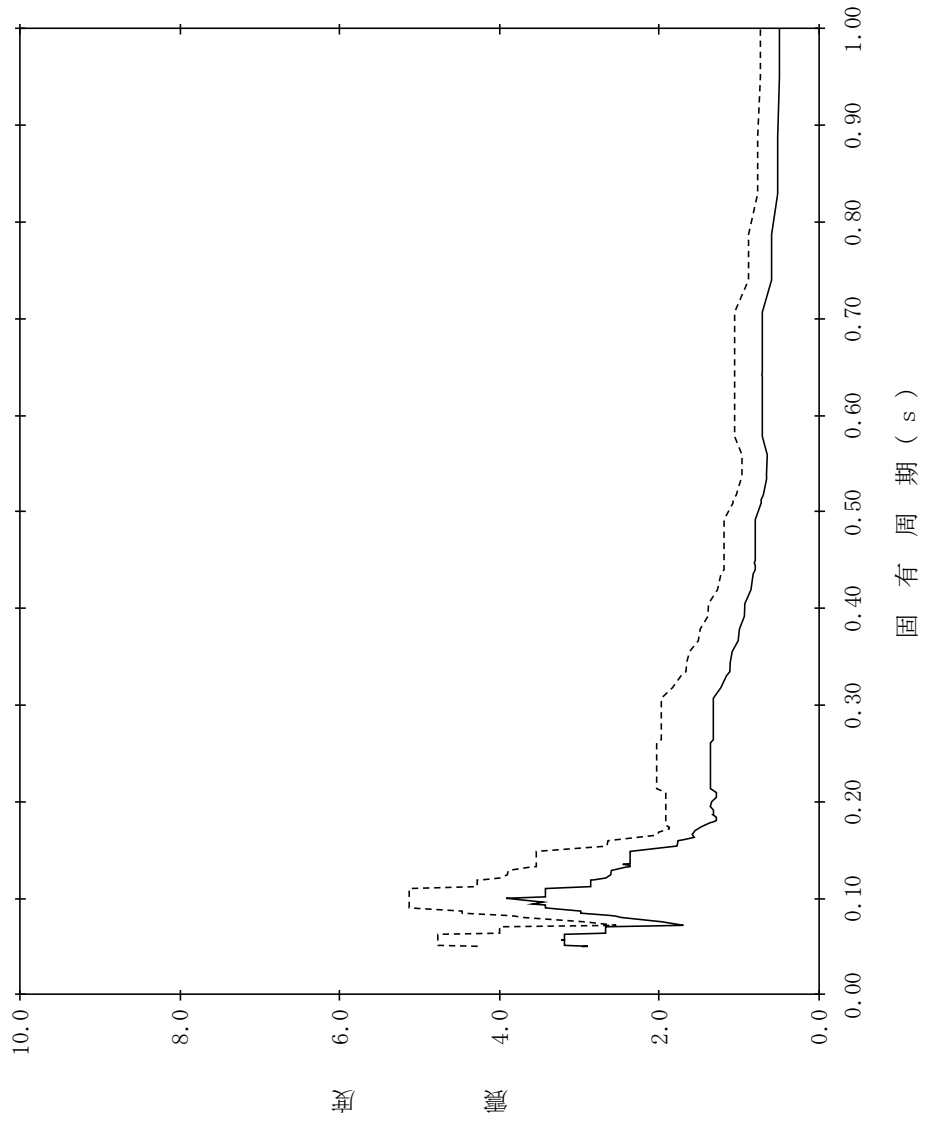
【NS2-PCV-SdV-SHD185】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 減衰定数：0.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



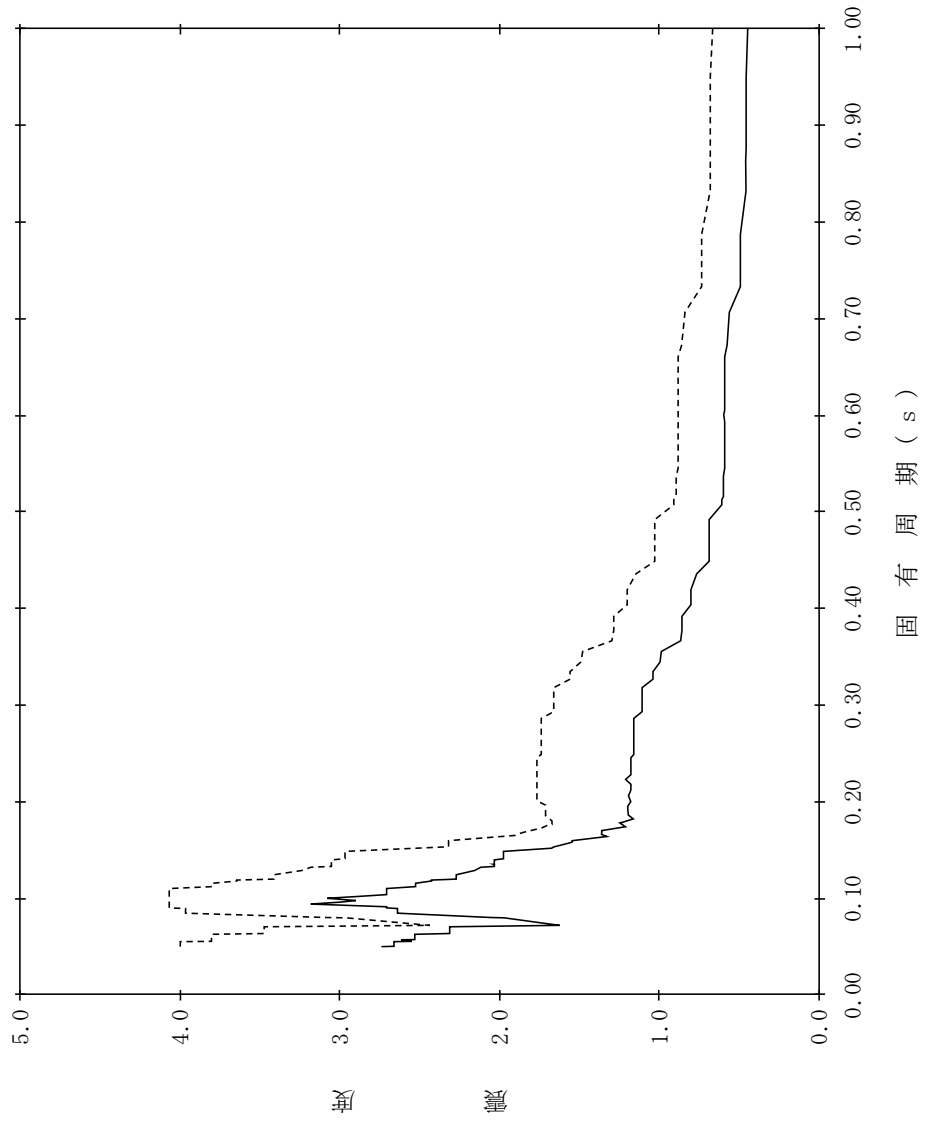
【NS2-PCV-SdV-SHD186】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：1.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



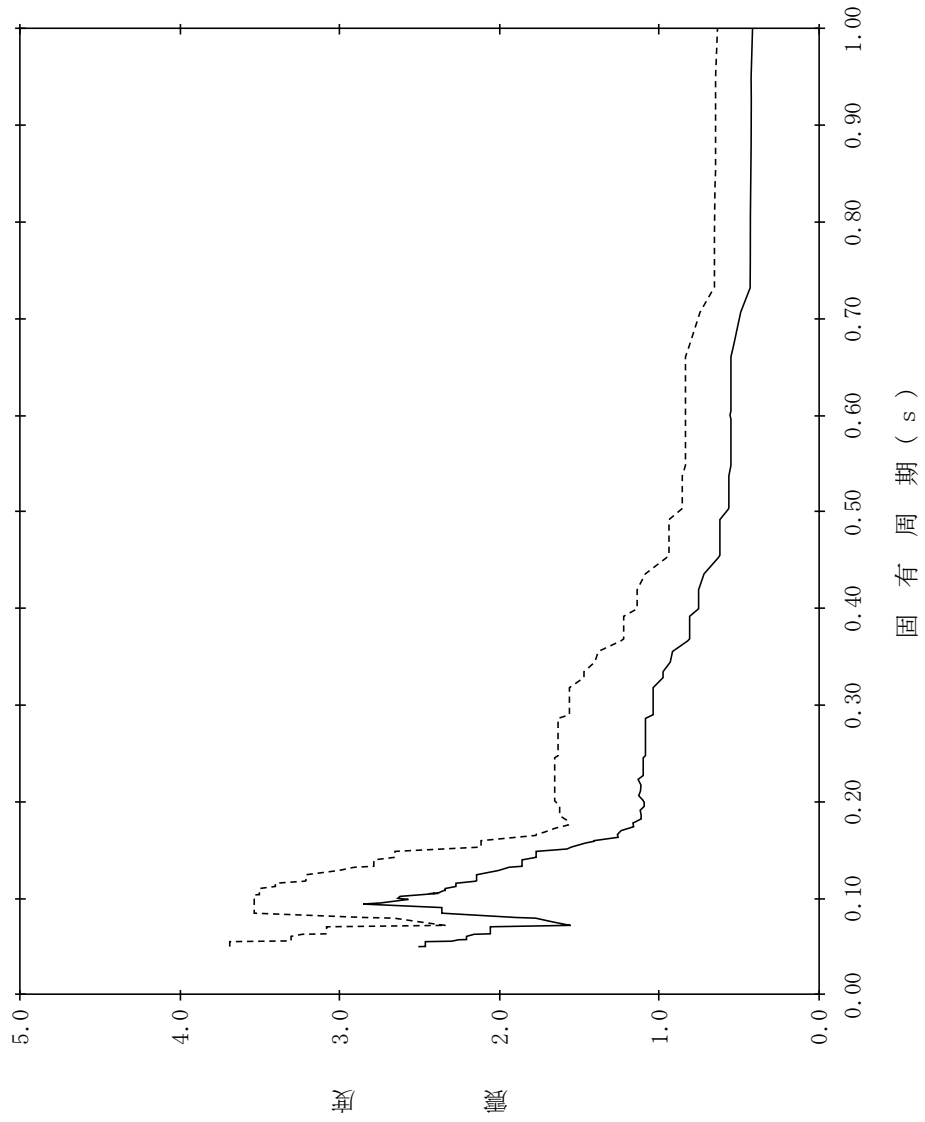
【NS2-PCV-SdV-SHD187】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：1.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



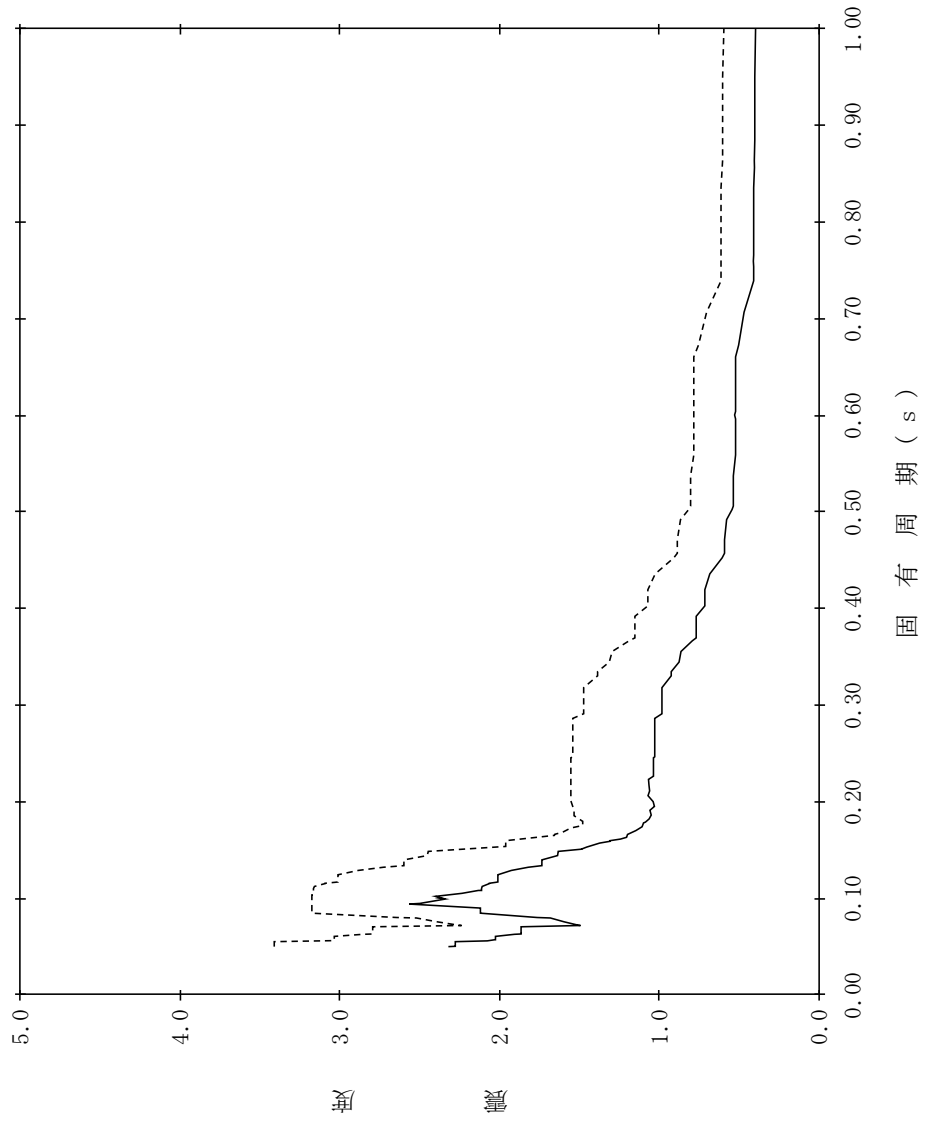
【NS2-PCV-SdV-SHD188】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：2.0% 波形名：弾性設計用地震動Sd 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



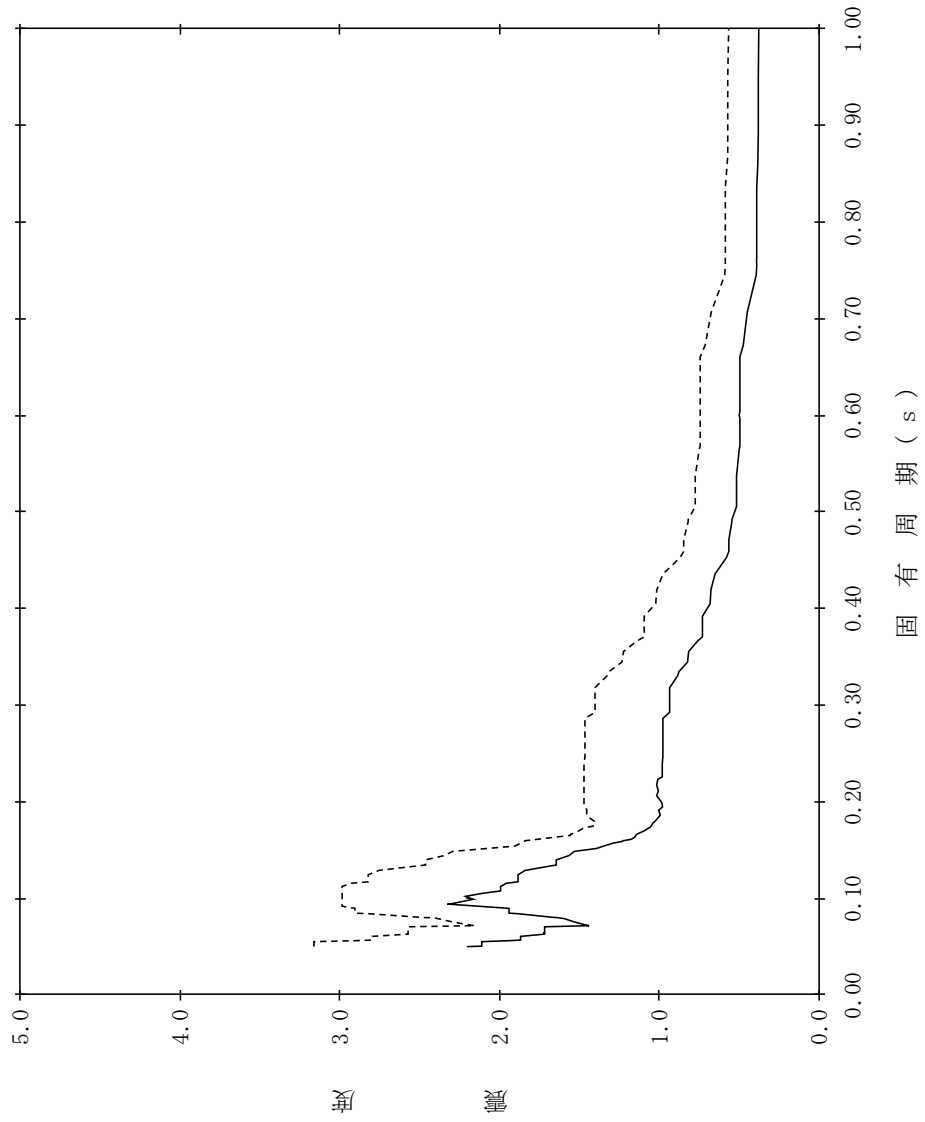
【NS2-PCV-SdV-SHD189】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：2.5% 波形名：弾性設計用地震動Sd 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



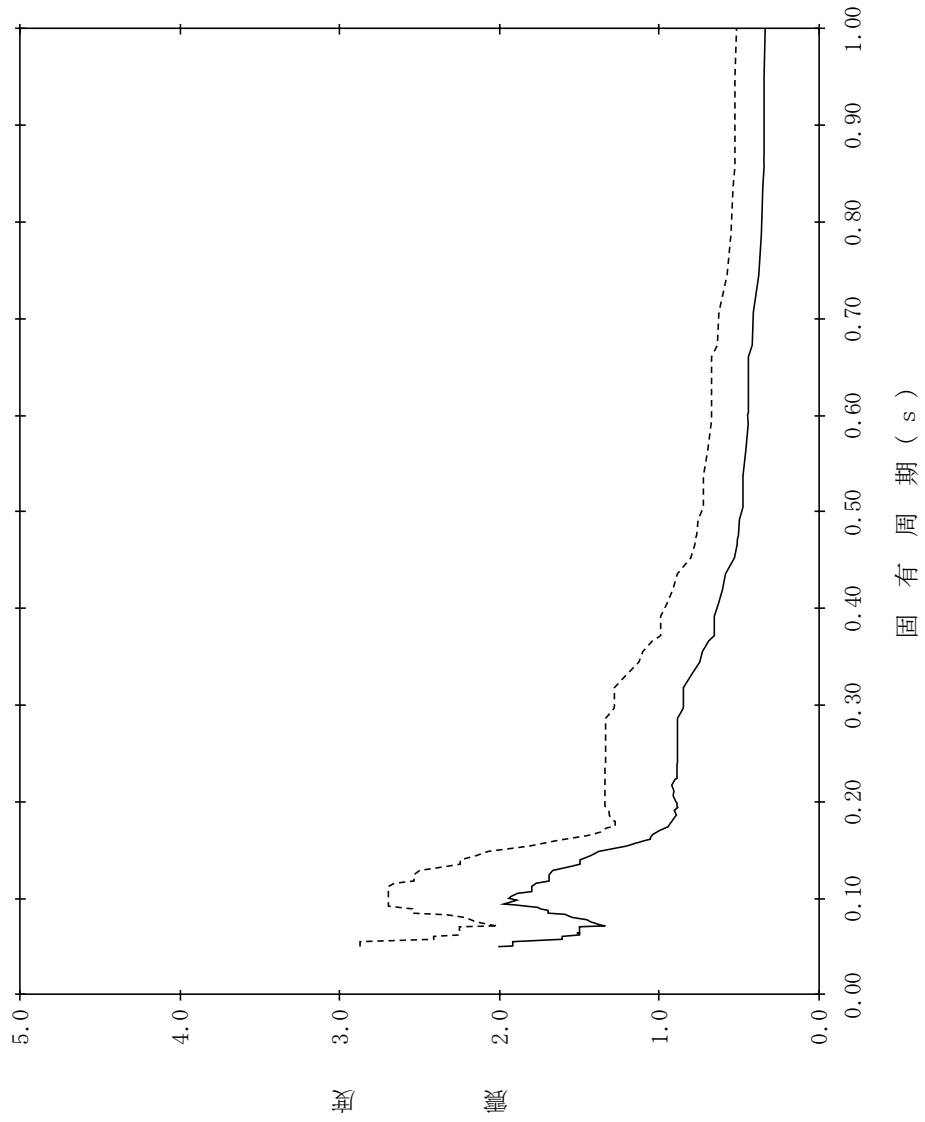
【NS2-PCV-SdV-SHD190】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m ———— 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：3.0% 波形名：弾性設計用地震動S d - - - - - 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



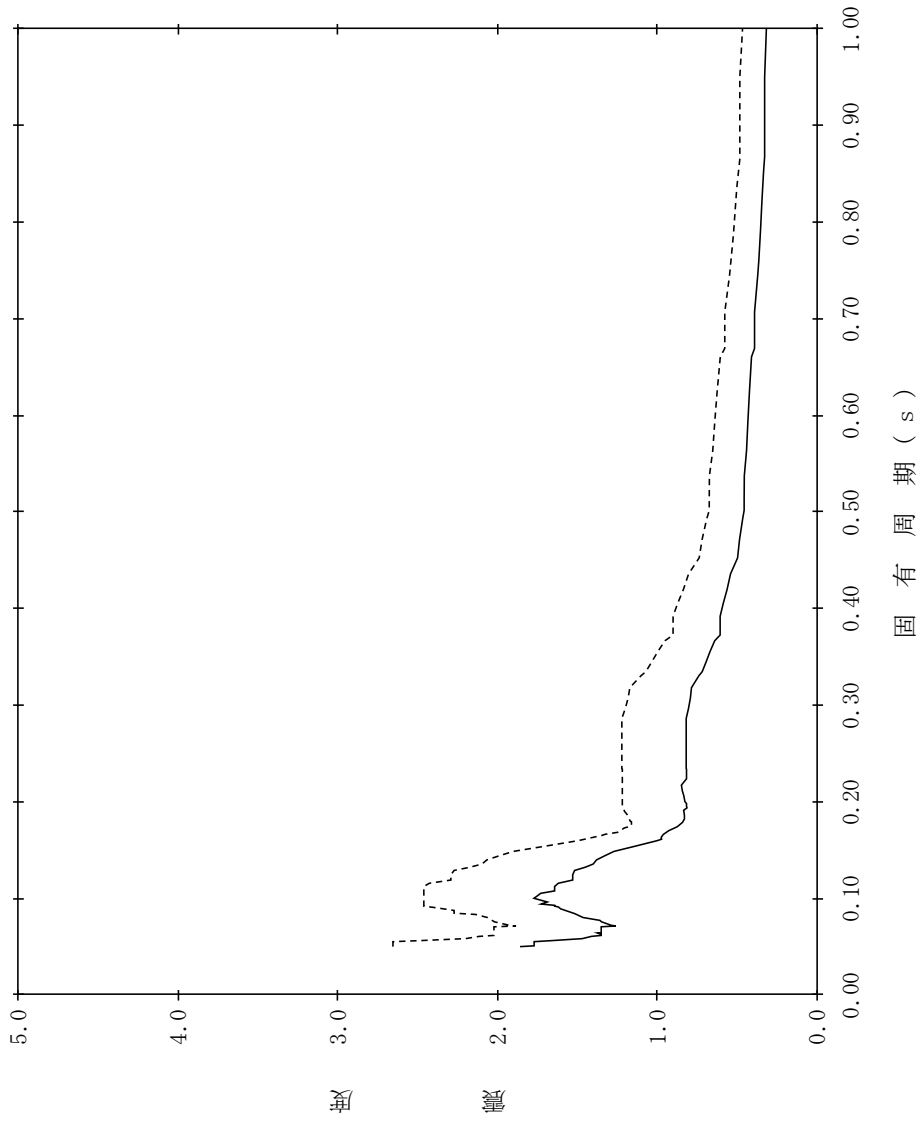
【NS2-PCV-SdV-SHD191】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m ——— 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：4.0% 波形名：弾性設計用地震動Sd - - - - - 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



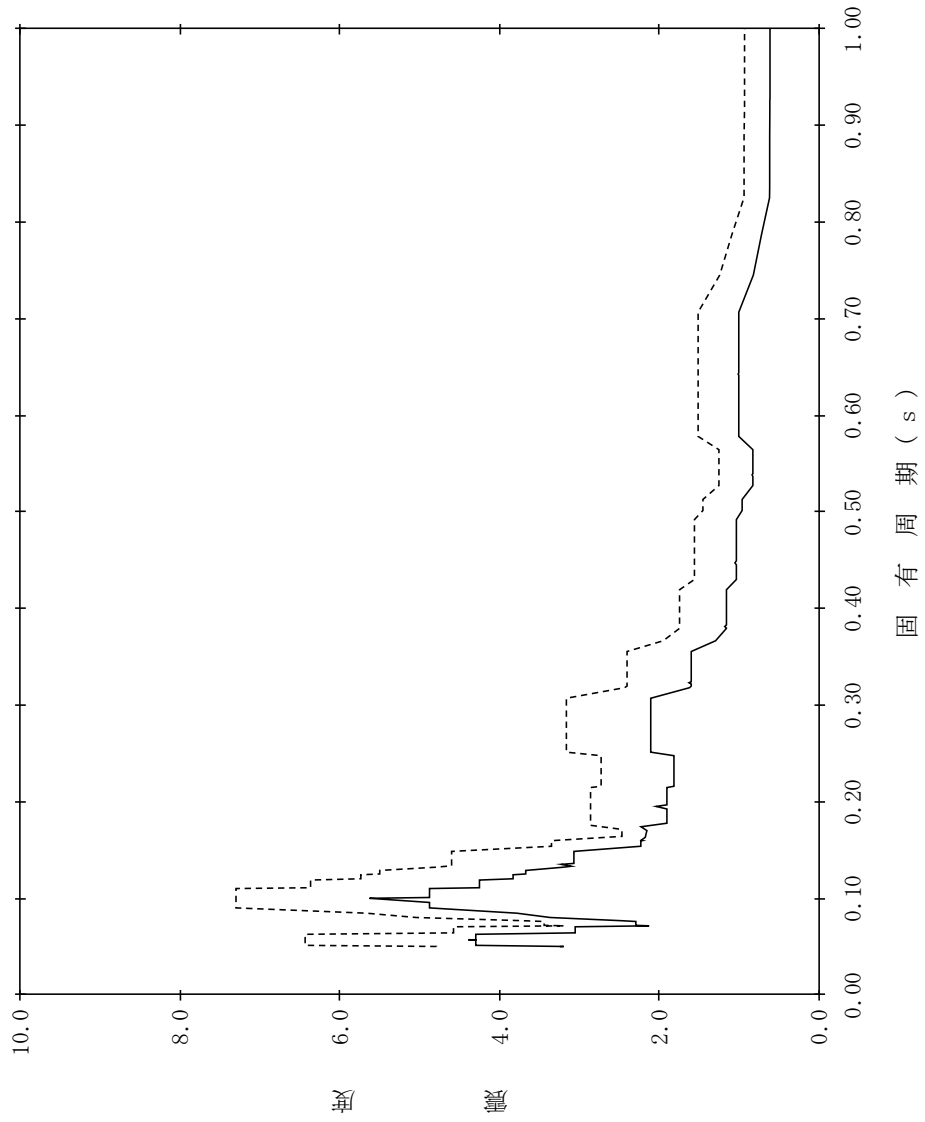
【NS2-PCV-SdV-SHD192】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 減衰定数：5.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



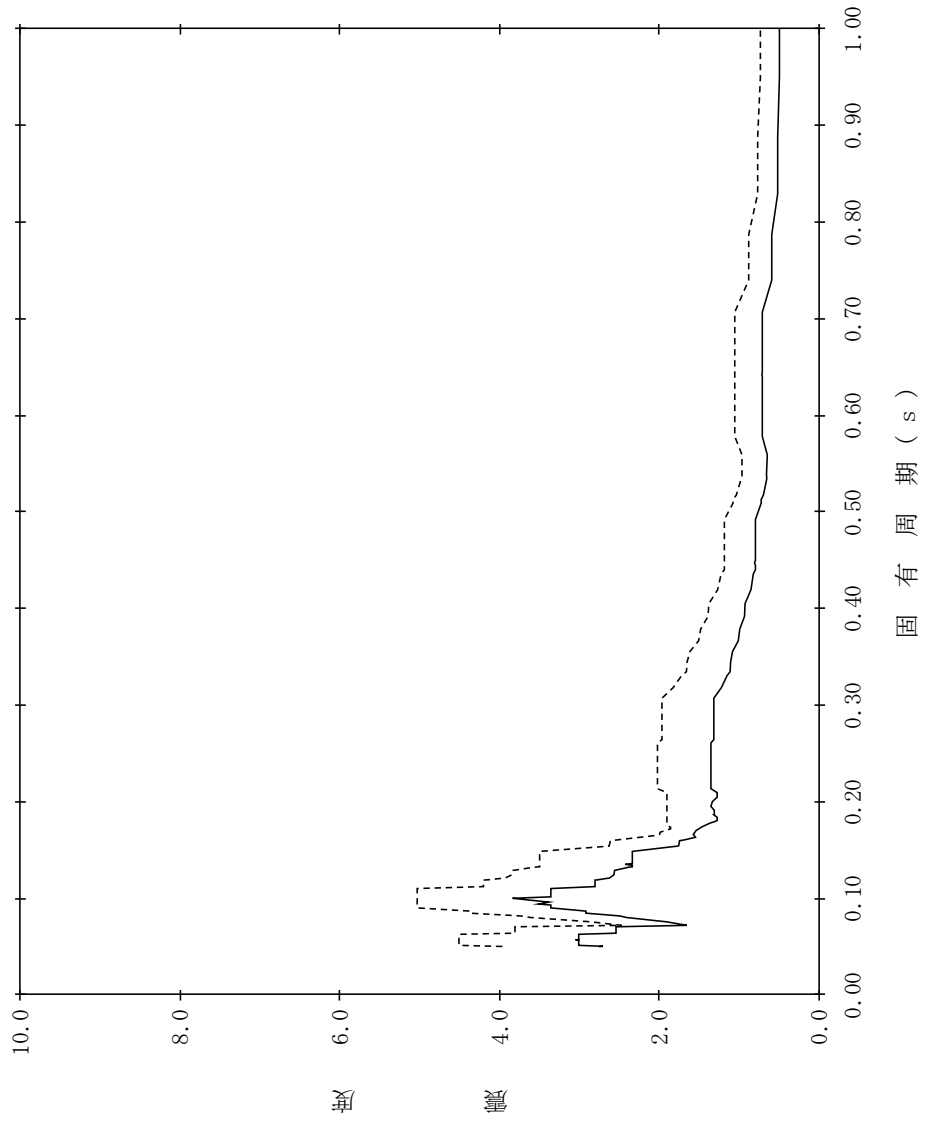
【NS2-PCV-SdV-SHD193】

構造物名：炉心シェラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 減衰定数：0.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



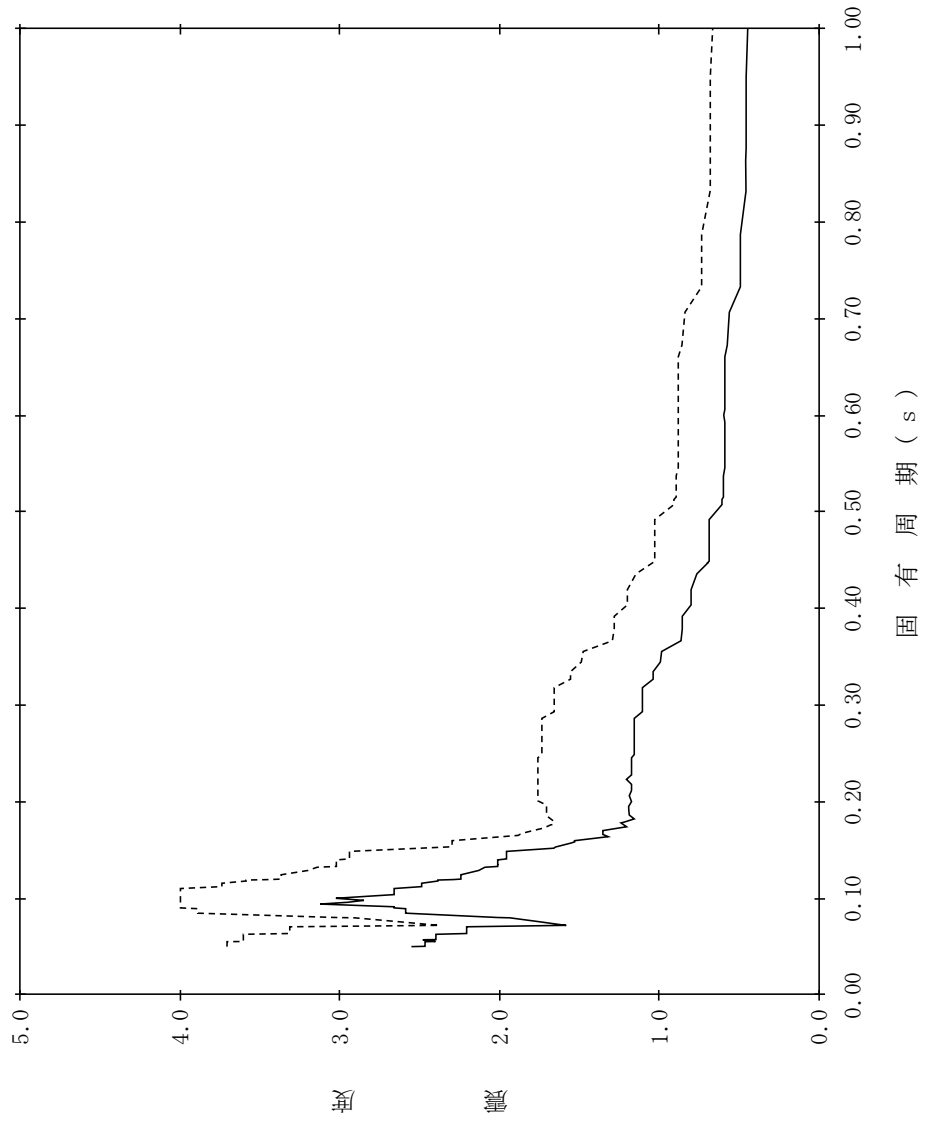
【NS2-PCV-SdV-SHD194】

構造物名：炉心シェラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 減衰定数：1.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



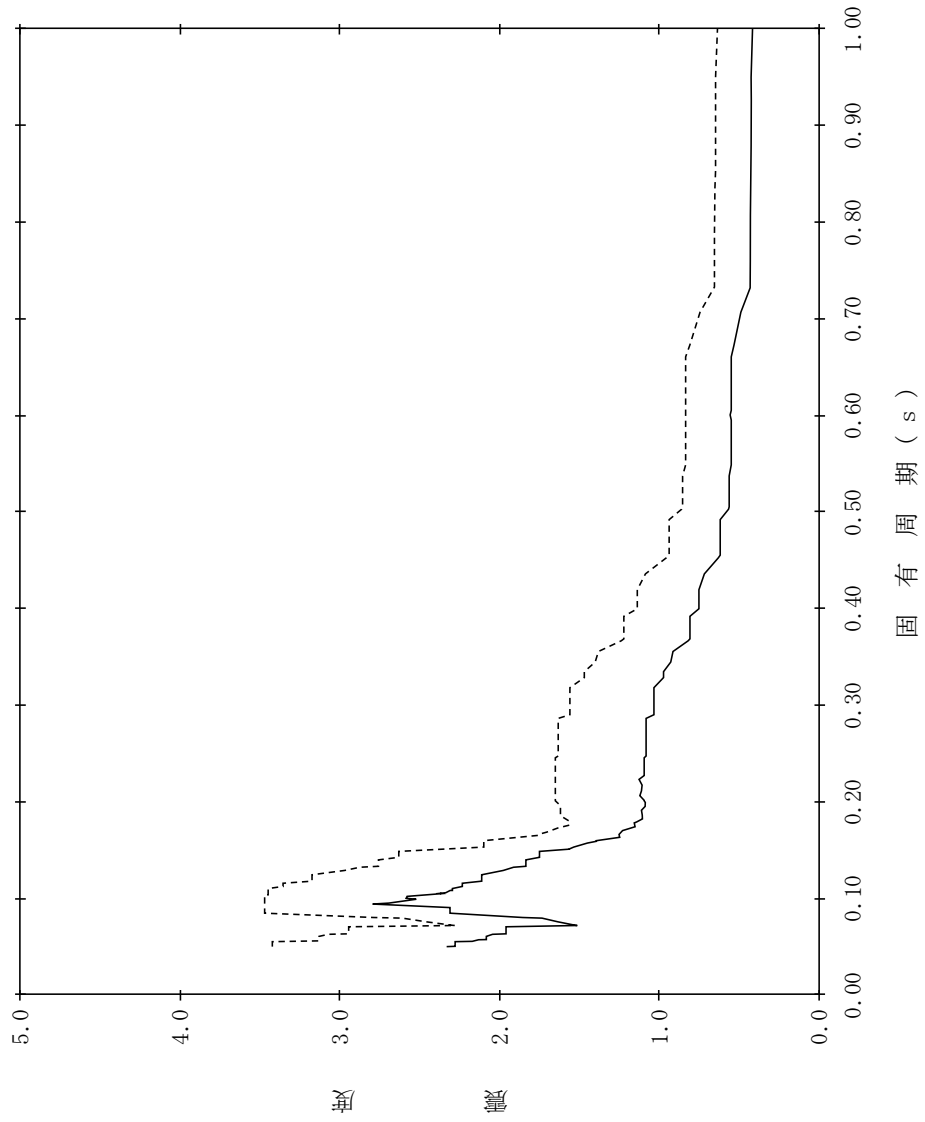
【NS2-PCV-SdV-SHD195】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：1.5% 波形名：弾性設計用地震動Sd 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



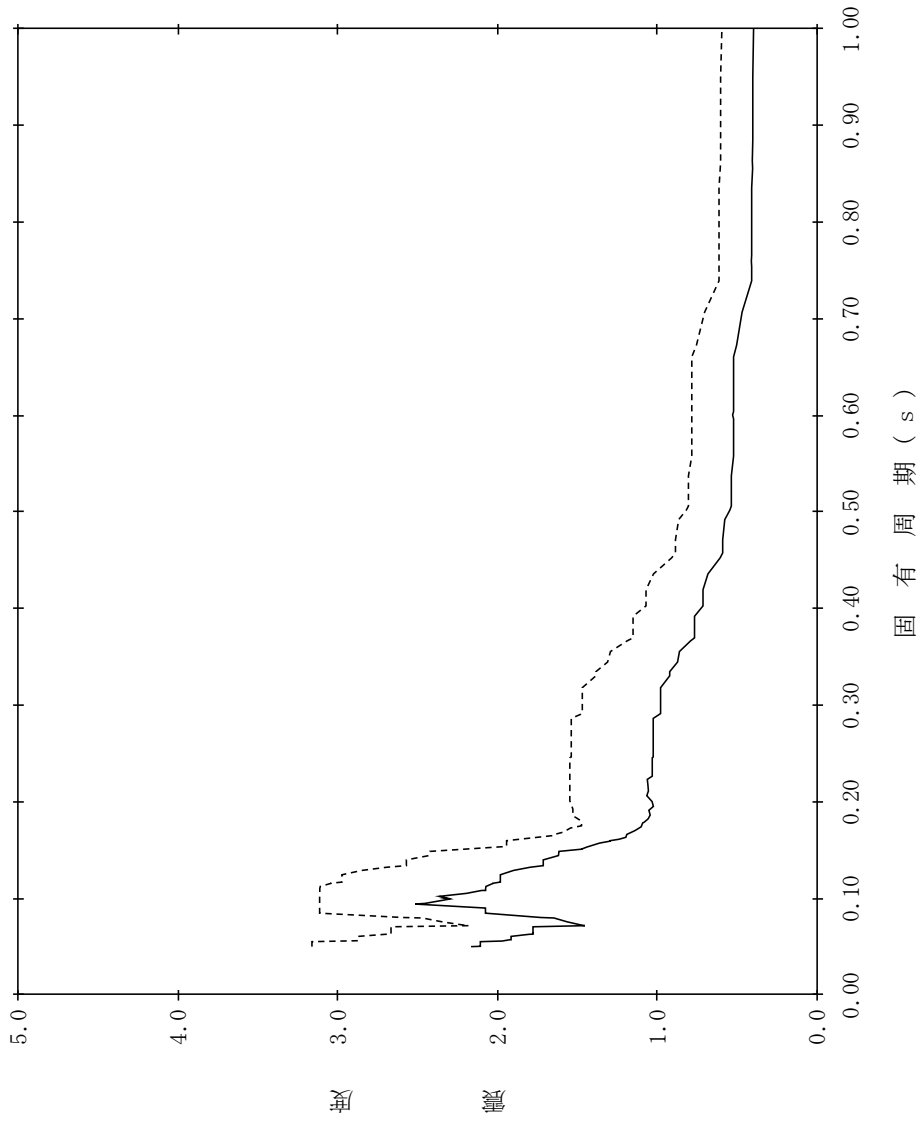
【NS2-PCV-SdV-SHD196】

構造物名：炉心シェラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：2.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



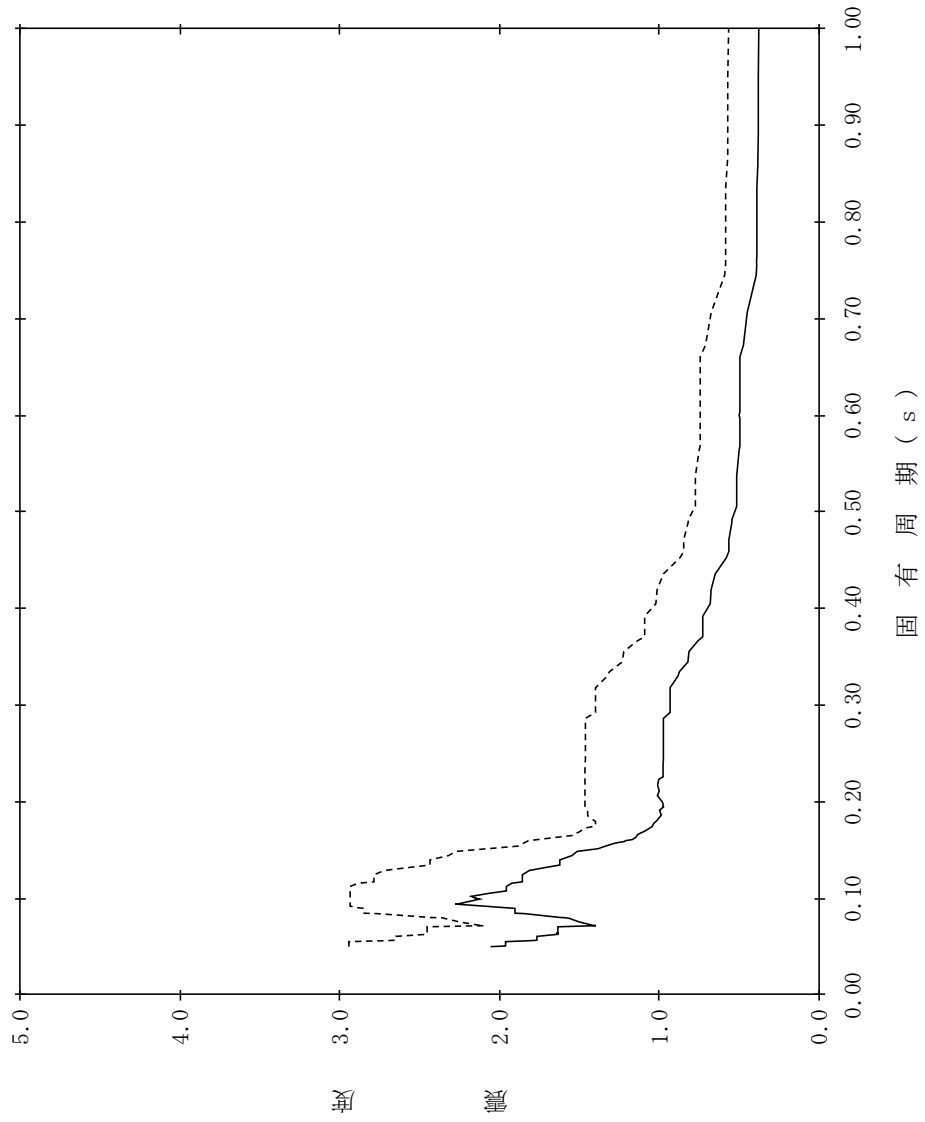
【NS2-PCV-SdV-SHD197】

構造物名：炉心シェラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 減衰定数：2.5% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



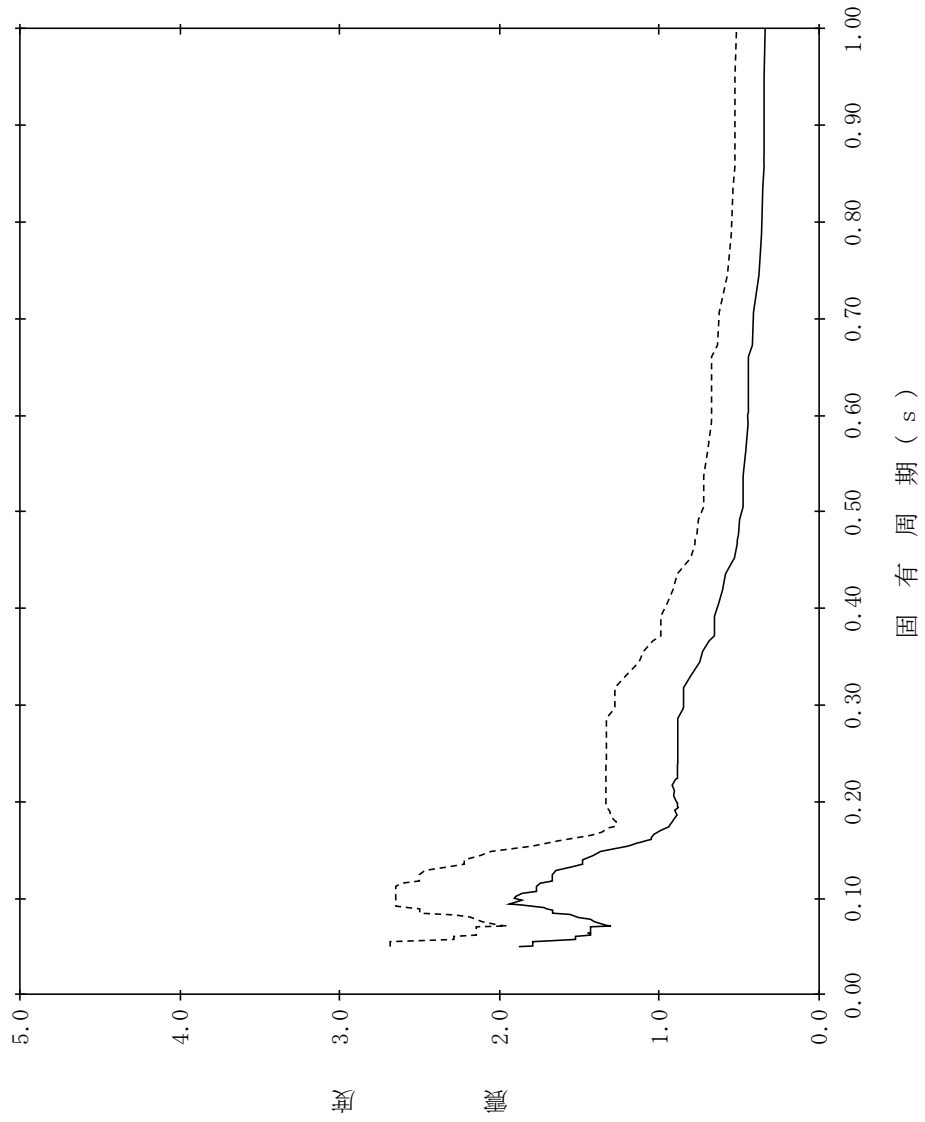
【NS2-PCV-SdV-SHD198】

構造物名：炉心シェラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：3.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



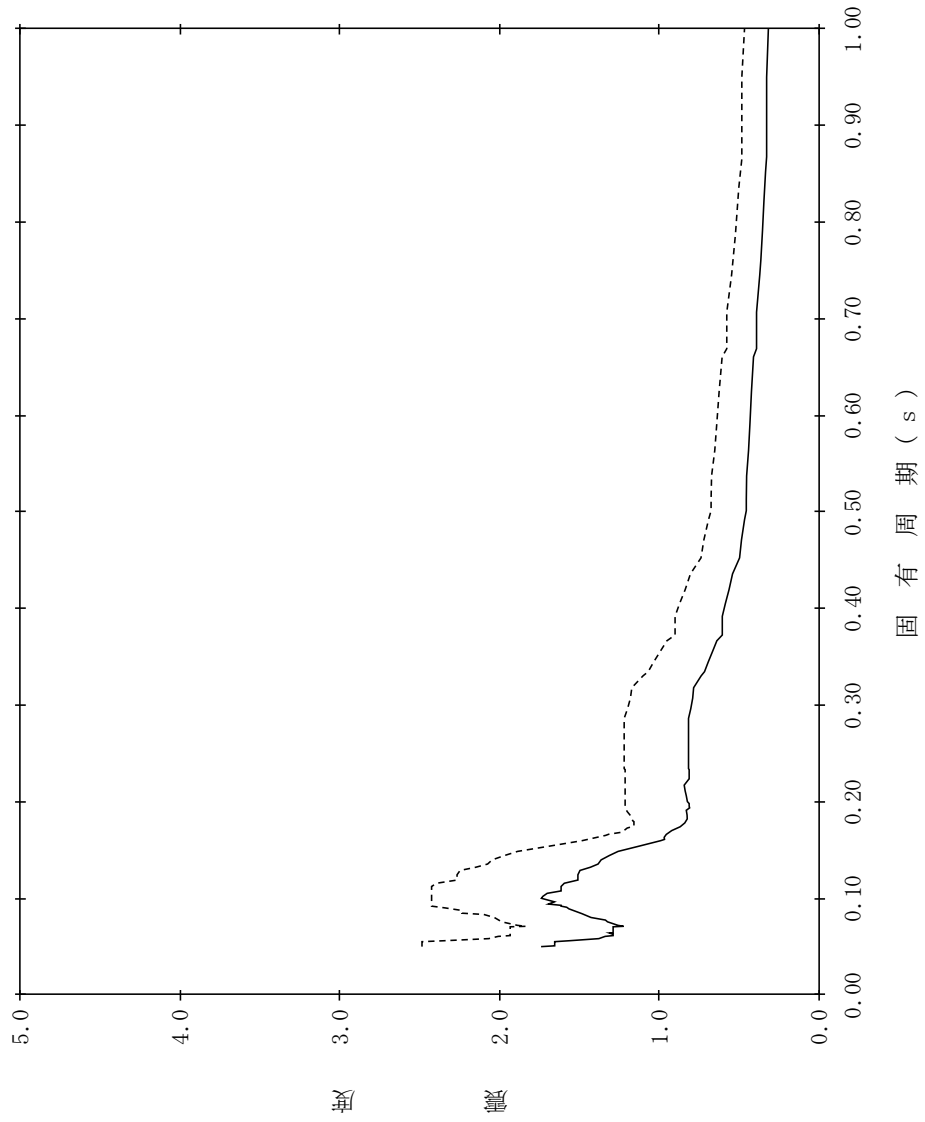
【NS2-PCV-SdV-SHD199】

構造物名：炉心シェラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 減衰定数：4.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-PCV-SdV-SHD200】

構造物名：炉心シェラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：5.0% 波形名：弾性設計用地震動 S d 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)

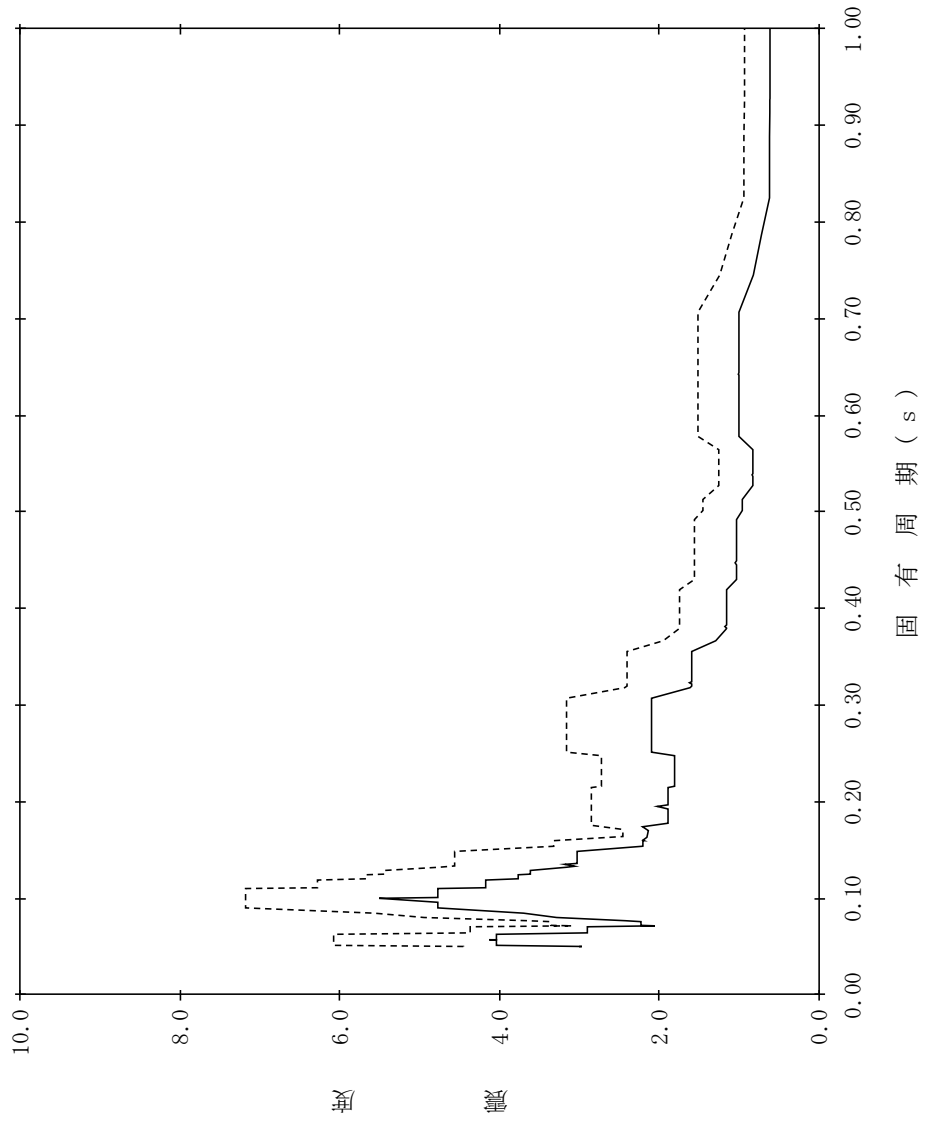


【NS2-PCV-SdV-RPV201】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：0.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

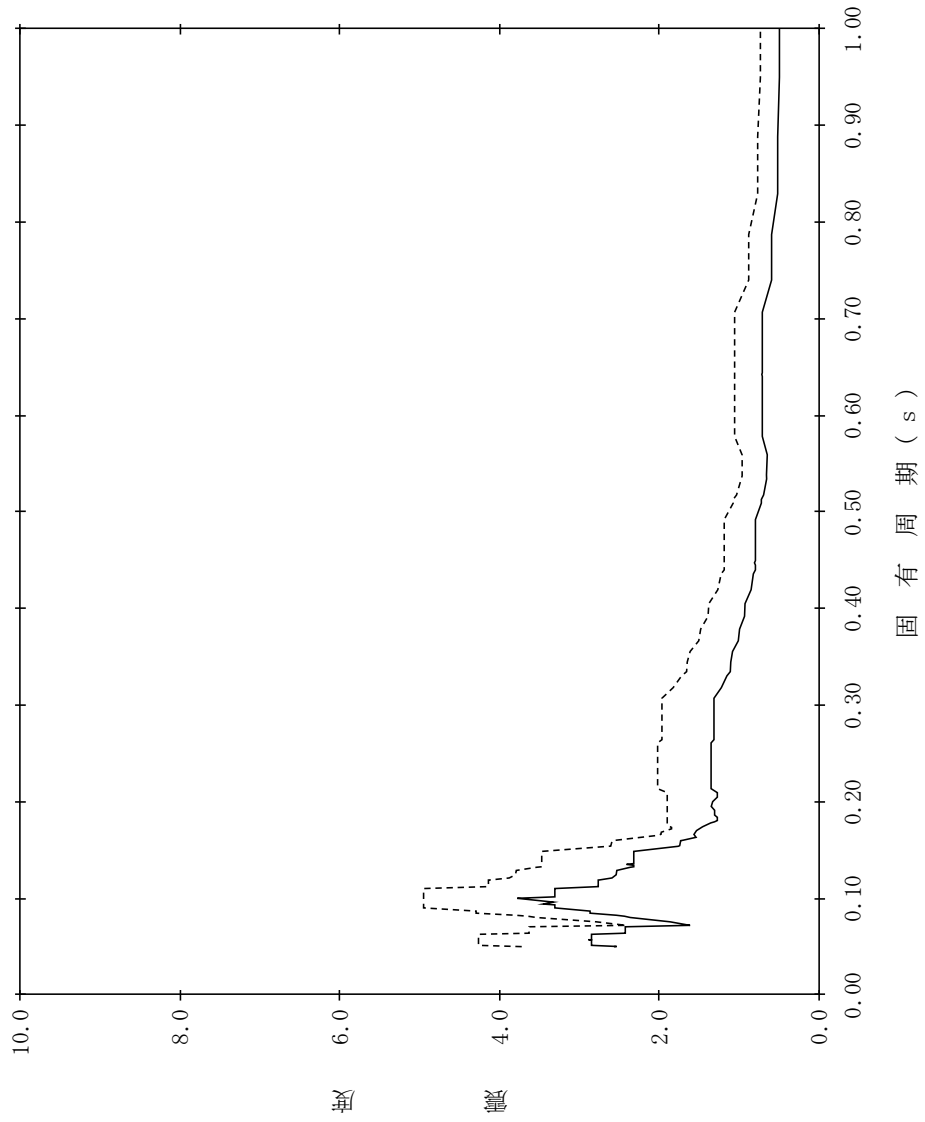


【NS2-PCV-SdV-RPV202】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：1.0%

—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

- - - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

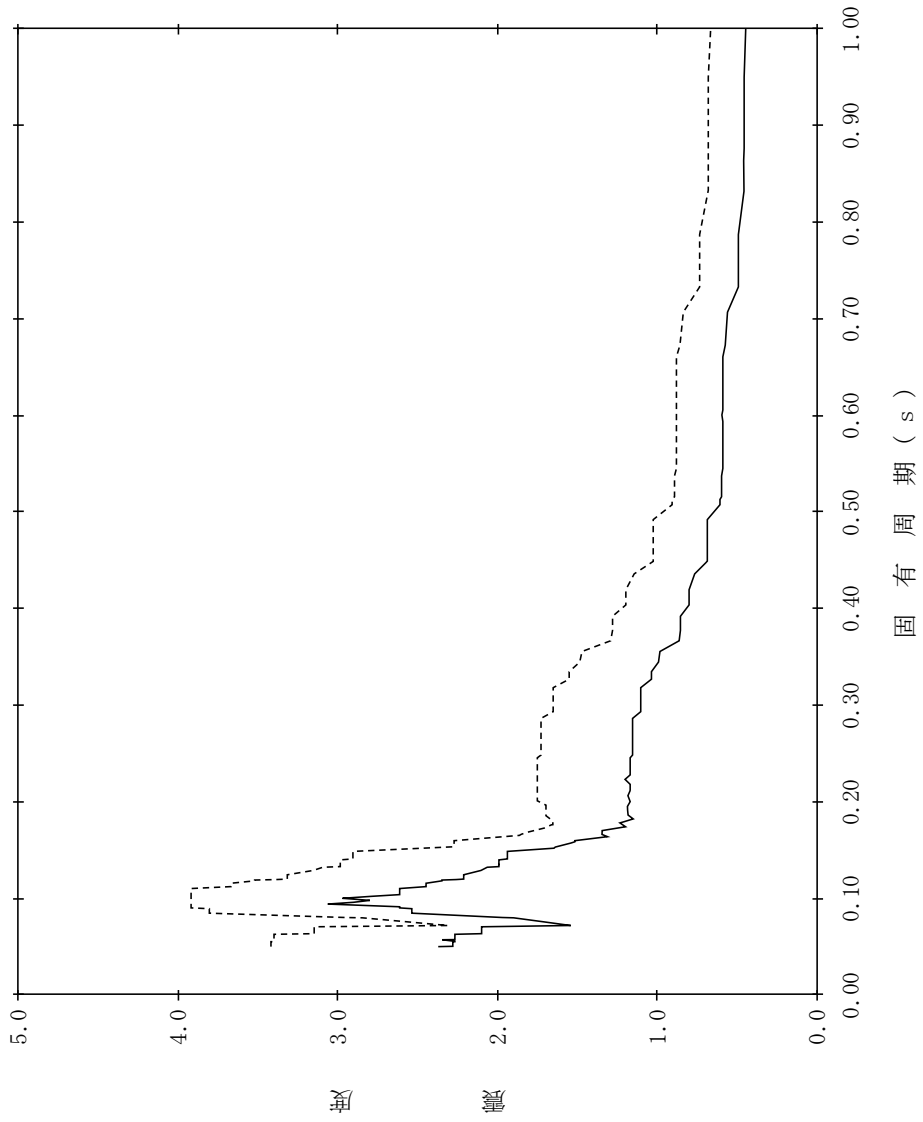


【NS2-PCV-SdV-RPV203】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：1.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

- - - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

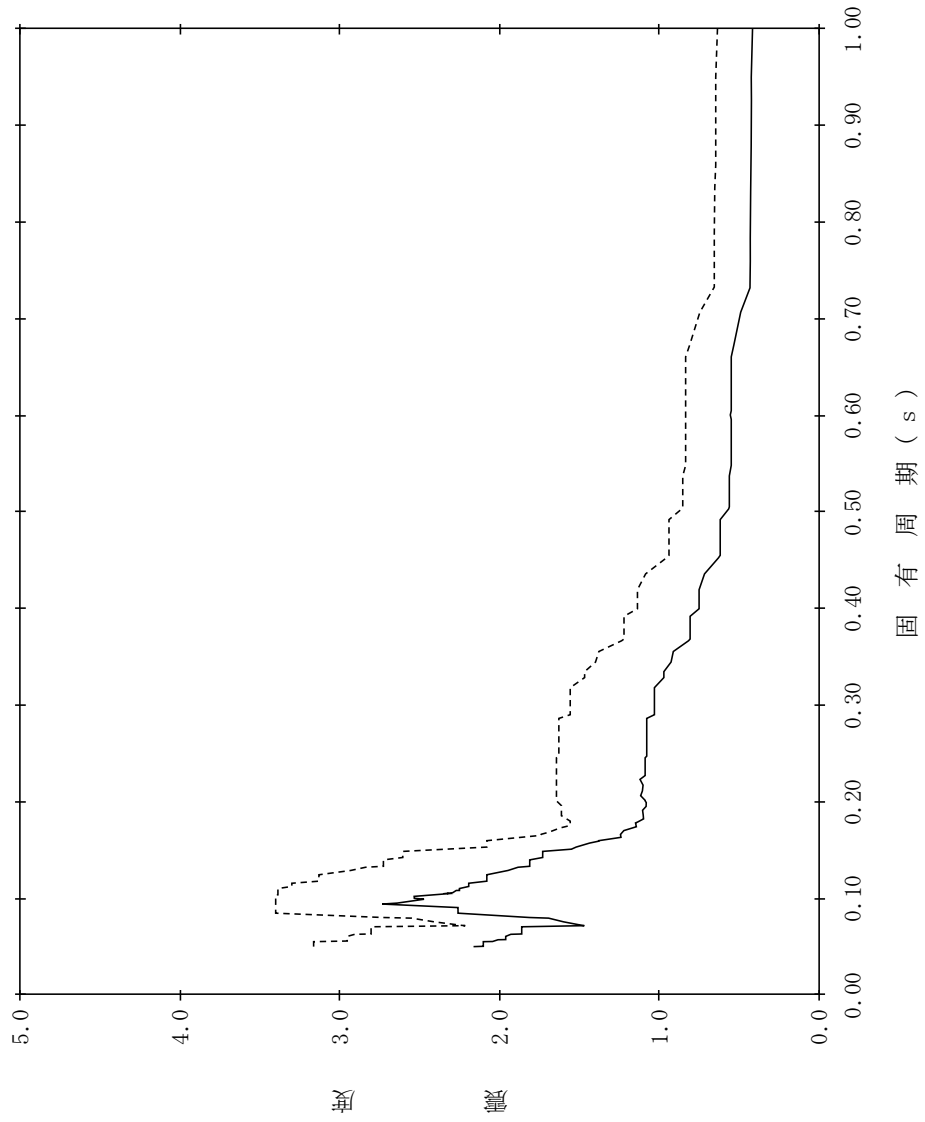


【NS2-PCV-SdV-RPY204】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：2.0%

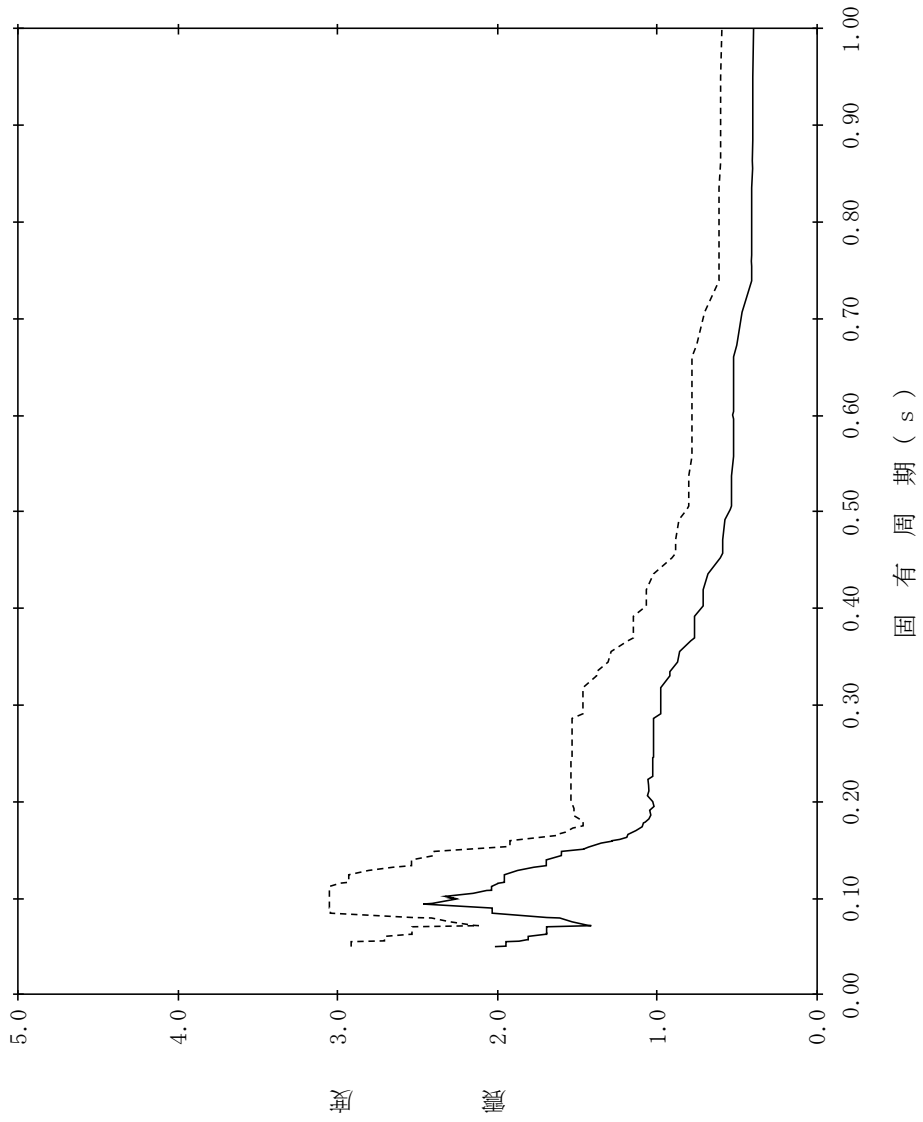
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-PCV-SdV-RPY205】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

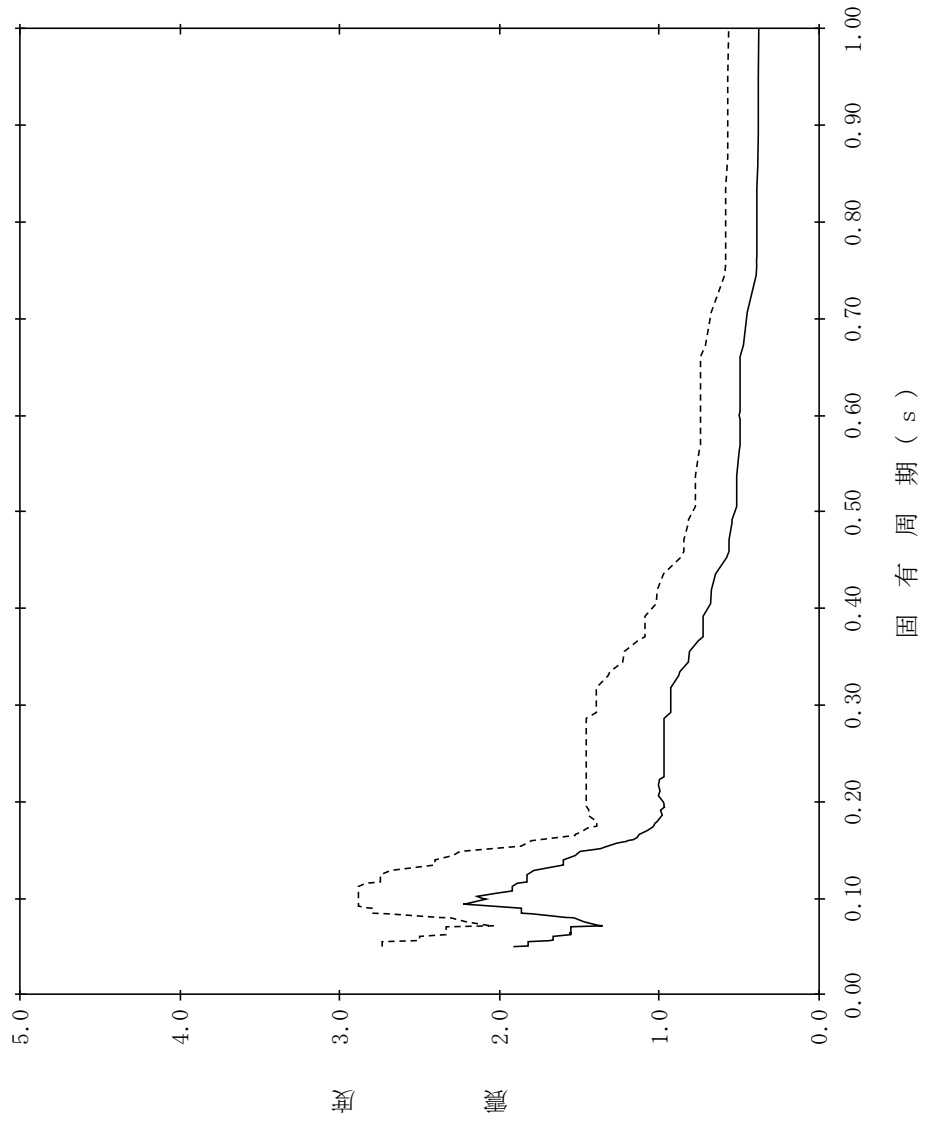


【NS2-PCV-SdV-RPV206】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：3.0%

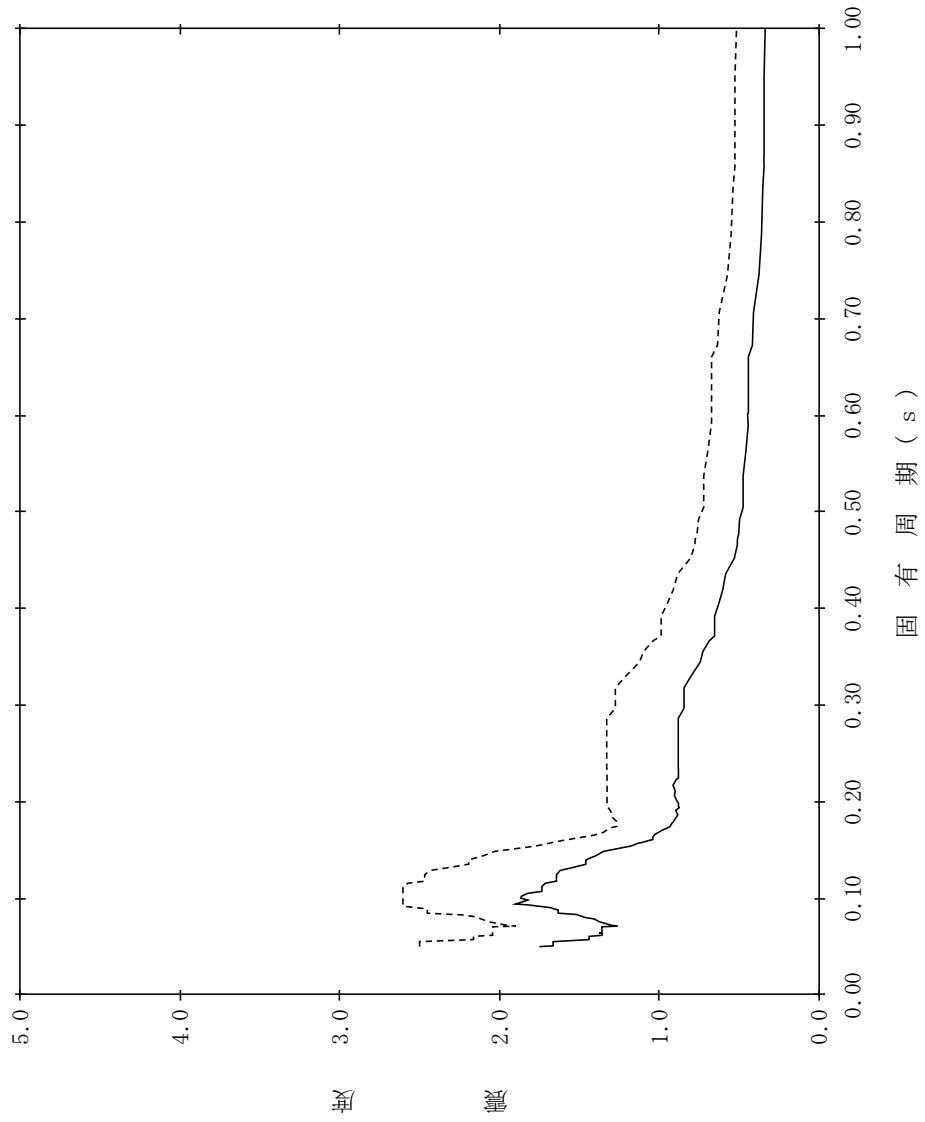
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

- - - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-PCV-SdV-RPV207】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-PCV-SdV-RPY208】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：5.0%

—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

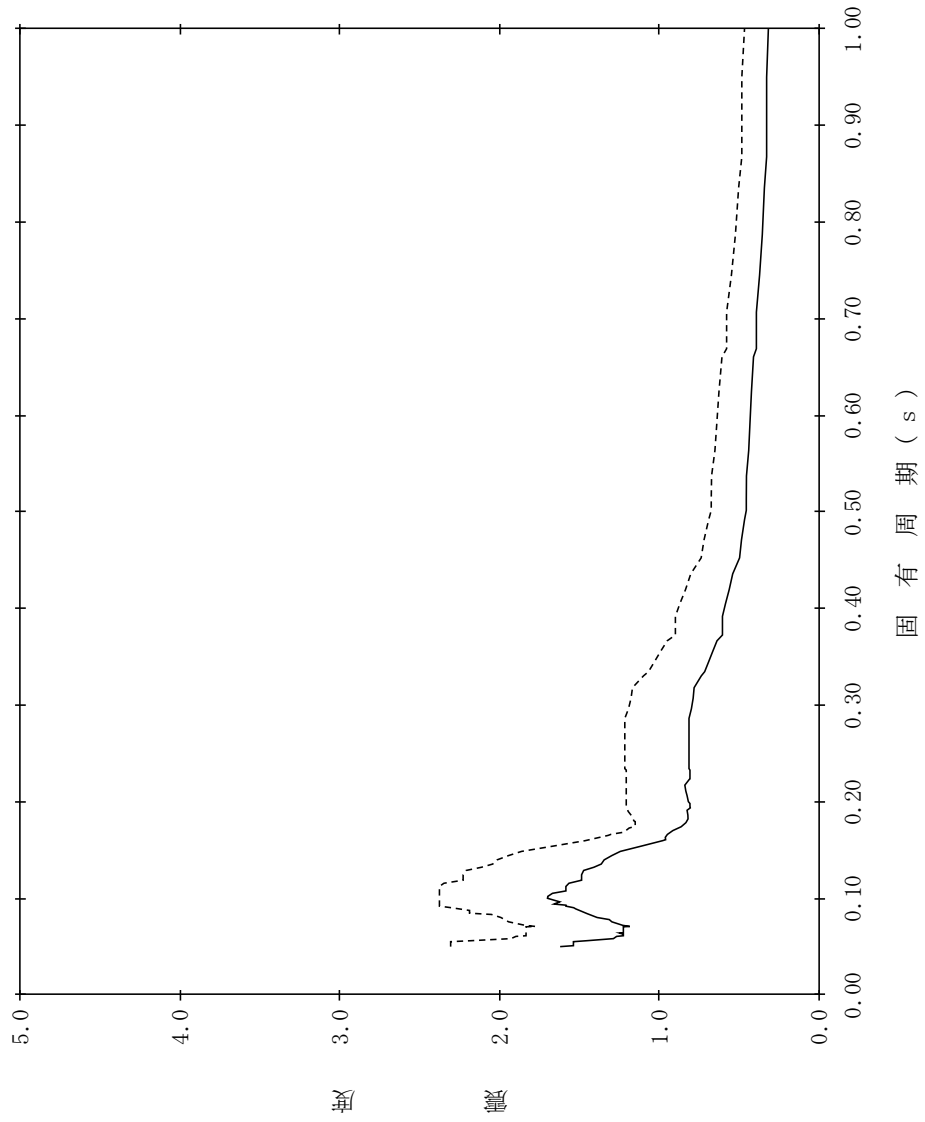


表 4.2-3 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (制御室建物) (1/3)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL (m)	減衰定数 (%)	図番
Sd	制御室建物	NS 方向	1	22.050	0.5	NS2 - CB - SdNS - CB 1
					1.0	NS2 - CB - SdNS - CB 2
					1.5	NS2 - CB - SdNS - CB 3
					2.0	NS2 - CB - SdNS - CB 4
					2.5	NS2 - CB - SdNS - CB 5
					3.0	NS2 - CB - SdNS - CB 6
					4.0	NS2 - CB - SdNS - CB 7
					5.0	NS2 - CB - SdNS - CB 8
			2	16.900	0.5	NS2 - CB - SdNS - CB 9
					1.0	NS2 - CB - SdNS - CB 10
					1.5	NS2 - CB - SdNS - CB 11
					2.0	NS2 - CB - SdNS - CB 12
					2.5	NS2 - CB - SdNS - CB 13
					3.0	NS2 - CB - SdNS - CB 14
					4.0	NS2 - CB - SdNS - CB 15
					5.0	NS2 - CB - SdNS - CB 16
			3	12.800	0.5	NS2 - CB - SdNS - CB 17
					1.0	NS2 - CB - SdNS - CB 18
					1.5	NS2 - CB - SdNS - CB 19
					2.0	NS2 - CB - SdNS - CB 20
					2.5	NS2 - CB - SdNS - CB 21
					3.0	NS2 - CB - SdNS - CB 22
					4.0	NS2 - CB - SdNS - CB 23
					5.0	NS2 - CB - SdNS - CB 24
			4, 7	8.800	0.5	NS2 - CB - SdNS - CB 25
					1.0	NS2 - CB - SdNS - CB 26
					1.5	NS2 - CB - SdNS - CB 27
					2.0	NS2 - CB - SdNS - CB 28
					2.5	NS2 - CB - SdNS - CB 29
					3.0	NS2 - CB - SdNS - CB 30
					4.0	NS2 - CB - SdNS - CB 31
					5.0	NS2 - CB - SdNS - CB 32
			5	1.600	0.5	NS2 - CB - SdNS - CB 33
					1.0	NS2 - CB - SdNS - CB 34
					1.5	NS2 - CB - SdNS - CB 35
					2.0	NS2 - CB - SdNS - CB 36
					2.5	NS2 - CB - SdNS - CB 37
					3.0	NS2 - CB - SdNS - CB 38
					4.0	NS2 - CB - SdNS - CB 39
					5.0	NS2 - CB - SdNS - CB 40
			6	0.100	0.5	NS2 - CB - SdNS - CB 41
					1.0	NS2 - CB - SdNS - CB 42
					1.5	NS2 - CB - SdNS - CB 43
					2.0	NS2 - CB - SdNS - CB 44
					2.5	NS2 - CB - SdNS - CB 45
					3.0	NS2 - CB - SdNS - CB 46
					4.0	NS2 - CB - SdNS - CB 47
					5.0	NS2 - CB - SdNS - CB 48

表 4.2-3 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (制御室建物) (2/3)

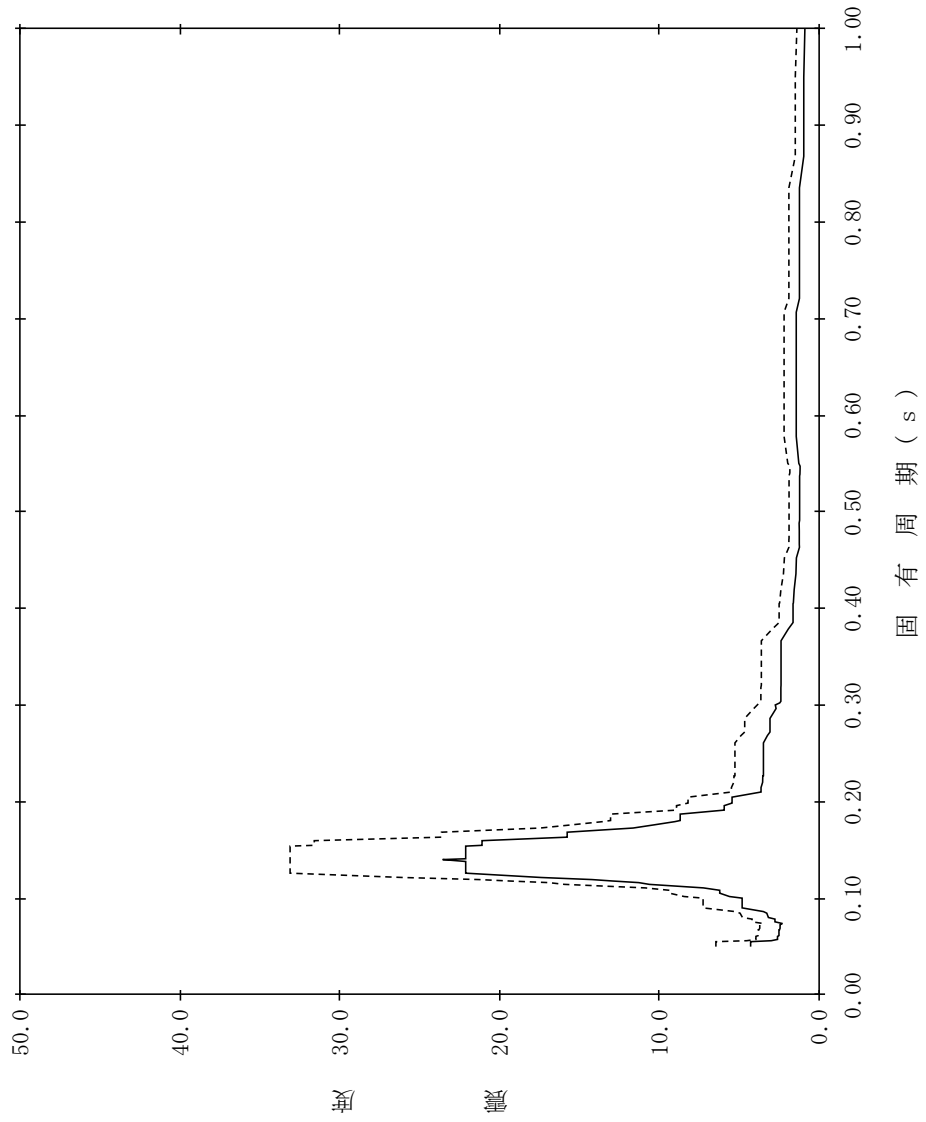
地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	制御室建物	EW 方向	1	22.050	0.5	NS2 - CB - SdEW - CB 1
					1.0	NS2 - CB - SdEW - CB 2
					1.5	NS2 - CB - SdEW - CB 3
					2.0	NS2 - CB - SdEW - CB 4
					2.5	NS2 - CB - SdEW - CB 5
					3.0	NS2 - CB - SdEW - CB 6
					4.0	NS2 - CB - SdEW - CB 7
					5.0	NS2 - CB - SdEW - CB 8
			2	16.900	0.5	NS2 - CB - SdEW - CB 9
					1.0	NS2 - CB - SdEW - CB 10
					1.5	NS2 - CB - SdEW - CB 11
					2.0	NS2 - CB - SdEW - CB 12
					2.5	NS2 - CB - SdEW - CB 13
					3.0	NS2 - CB - SdEW - CB 14
					4.0	NS2 - CB - SdEW - CB 15
					5.0	NS2 - CB - SdEW - CB 16
			3	12.800	0.5	NS2 - CB - SdEW - CB 17
					1.0	NS2 - CB - SdEW - CB 18
					1.5	NS2 - CB - SdEW - CB 19
					2.0	NS2 - CB - SdEW - CB 20
					2.5	NS2 - CB - SdEW - CB 21
					3.0	NS2 - CB - SdEW - CB 22
					4.0	NS2 - CB - SdEW - CB 23
					5.0	NS2 - CB - SdEW - CB 24
			4	8.800	0.5	NS2 - CB - SdEW - CB 25
					1.0	NS2 - CB - SdEW - CB 26
					1.5	NS2 - CB - SdEW - CB 27
					2.0	NS2 - CB - SdEW - CB 28
					2.5	NS2 - CB - SdEW - CB 29
					3.0	NS2 - CB - SdEW - CB 30
					4.0	NS2 - CB - SdEW - CB 31
					5.0	NS2 - CB - SdEW - CB 32
			5	1.600	0.5	NS2 - CB - SdEW - CB 33
					1.0	NS2 - CB - SdEW - CB 34
					1.5	NS2 - CB - SdEW - CB 35
					2.0	NS2 - CB - SdEW - CB 36
					2.5	NS2 - CB - SdEW - CB 37
					3.0	NS2 - CB - SdEW - CB 38
					4.0	NS2 - CB - SdEW - CB 39
					5.0	NS2 - CB - SdEW - CB 40
			6	0.100	0.5	NS2 - CB - SdEW - CB 41
					1.0	NS2 - CB - SdEW - CB 42
					1.5	NS2 - CB - SdEW - CB 43
					2.0	NS2 - CB - SdEW - CB 44
					2.5	NS2 - CB - SdEW - CB 45
					3.0	NS2 - CB - SdEW - CB 46
					4.0	NS2 - CB - SdEW - CB 47
					5.0	NS2 - CB - SdEW - CB 48

表 4.2-3 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (制御室建物) (3/3)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	制御室建物	鉛直 方向	1	22.050	0.5	NS2 - CB - SdV - CB 1
					1.0	NS2 - CB - SdV - CB 2
					1.5	NS2 - CB - SdV - CB 3
					2.0	NS2 - CB - SdV - CB 4
					2.5	NS2 - CB - SdV - CB 5
					3.0	NS2 - CB - SdV - CB 6
					4.0	NS2 - CB - SdV - CB 7
			2	16.900	0.5	NS2 - CB - SdV - CB 9
					1.0	NS2 - CB - SdV - CB 10
					1.5	NS2 - CB - SdV - CB 11
					2.0	NS2 - CB - SdV - CB 12
					2.5	NS2 - CB - SdV - CB 13
					3.0	NS2 - CB - SdV - CB 14
					4.0	NS2 - CB - SdV - CB 15
			3	12.800	0.5	NS2 - CB - SdV - CB 17
					1.0	NS2 - CB - SdV - CB 18
					1.5	NS2 - CB - SdV - CB 19
					2.0	NS2 - CB - SdV - CB 20
					2.5	NS2 - CB - SdV - CB 21
					3.0	NS2 - CB - SdV - CB 22
					4.0	NS2 - CB - SdV - CB 23
			4	8.800	0.5	NS2 - CB - SdV - CB 25
					1.0	NS2 - CB - SdV - CB 26
					1.5	NS2 - CB - SdV - CB 27
					2.0	NS2 - CB - SdV - CB 28
					2.5	NS2 - CB - SdV - CB 29
					3.0	NS2 - CB - SdV - CB 30
					4.0	NS2 - CB - SdV - CB 31
			5	1.600	0.5	NS2 - CB - SdV - CB 33
					1.0	NS2 - CB - SdV - CB 34
					1.5	NS2 - CB - SdV - CB 35
					2.0	NS2 - CB - SdV - CB 36
					2.5	NS2 - CB - SdV - CB 37
					3.0	NS2 - CB - SdV - CB 38
					4.0	NS2 - CB - SdV - CB 39
			6	0.100	0.5	NS2 - CB - SdV - CB 41
					1.0	NS2 - CB - SdV - CB 42
					1.5	NS2 - CB - SdV - CB 43
					2.0	NS2 - CB - SdV - CB 44
					2.5	NS2 - CB - SdV - CB 45
					3.0	NS2 - CB - SdV - CB 46
					4.0	NS2 - CB - SdV - CB 47
			5.0	NS2 - CB - SdV - CB 48		

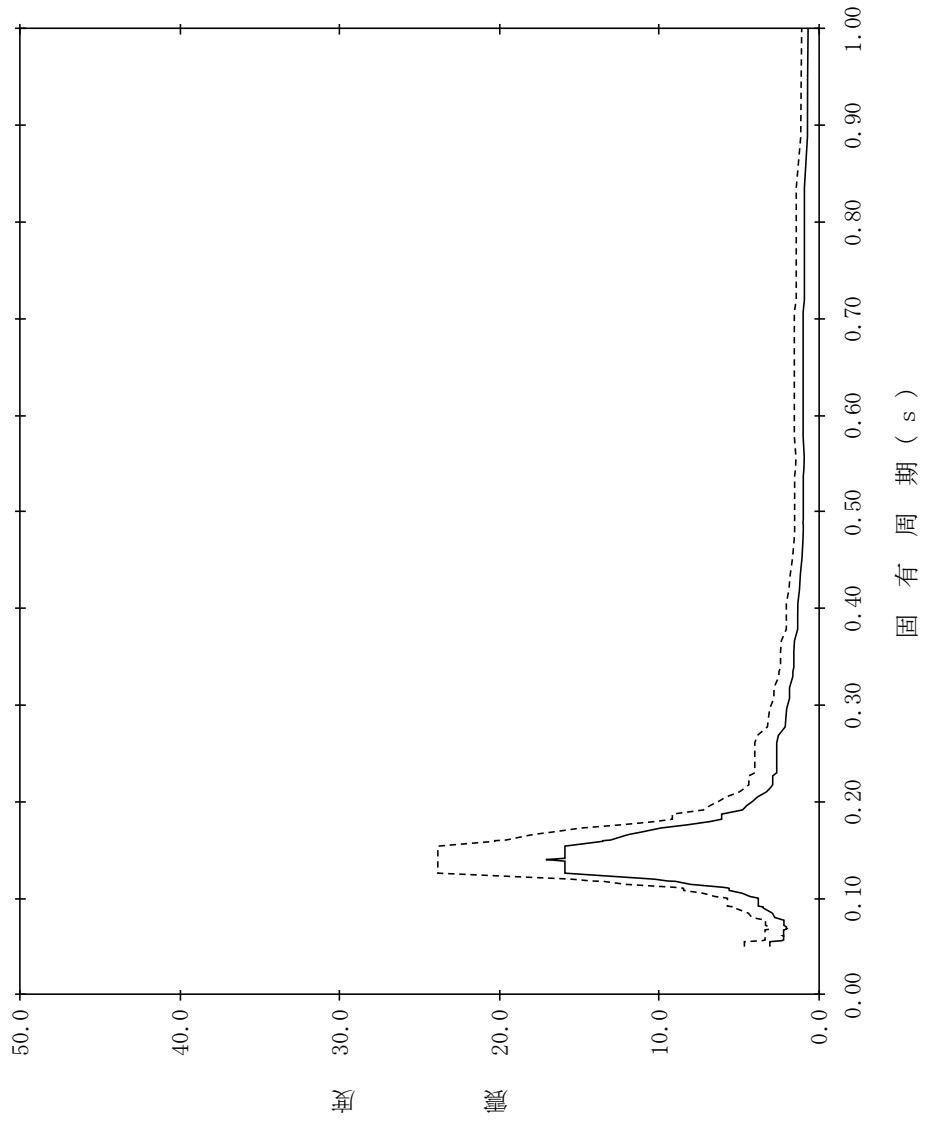
【NS2-CB-SdNS-CB1】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



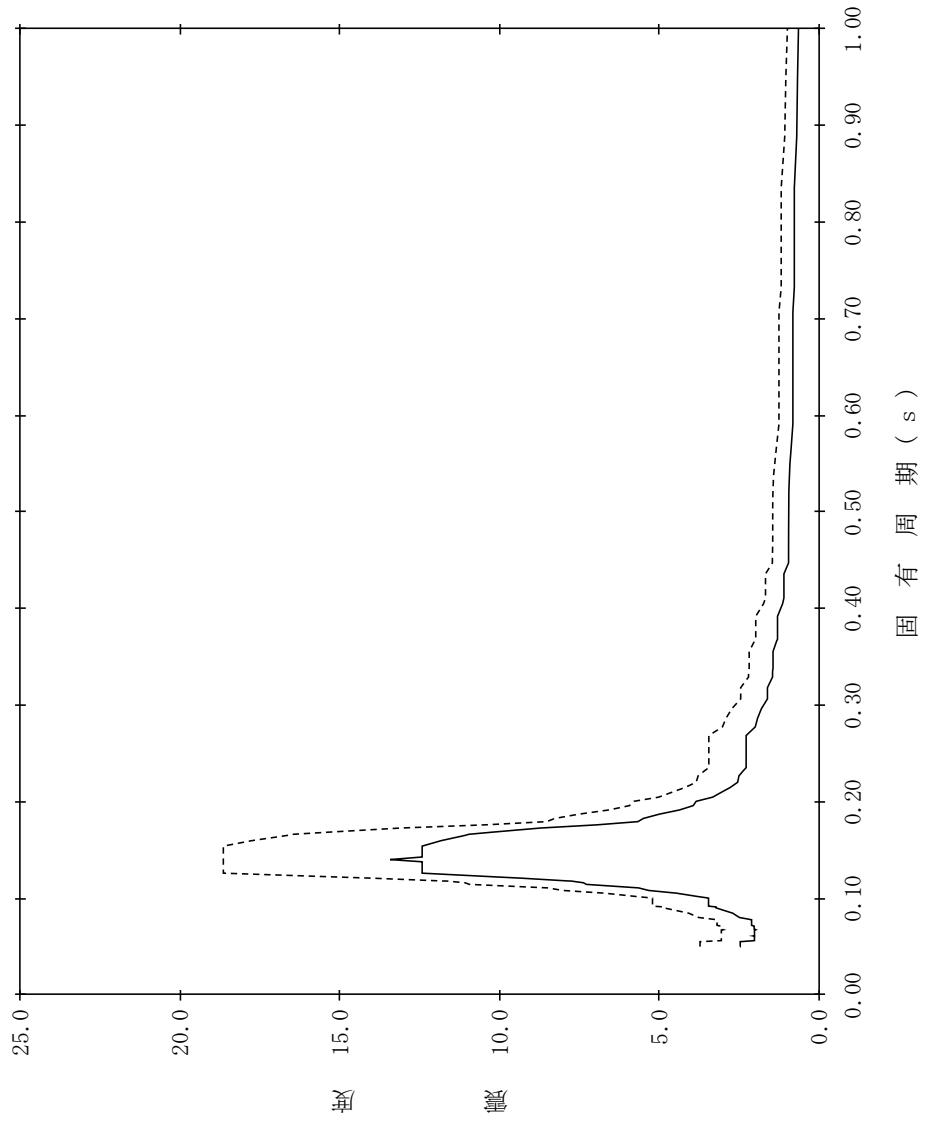
【NS2-CB-SdNS-CB2】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



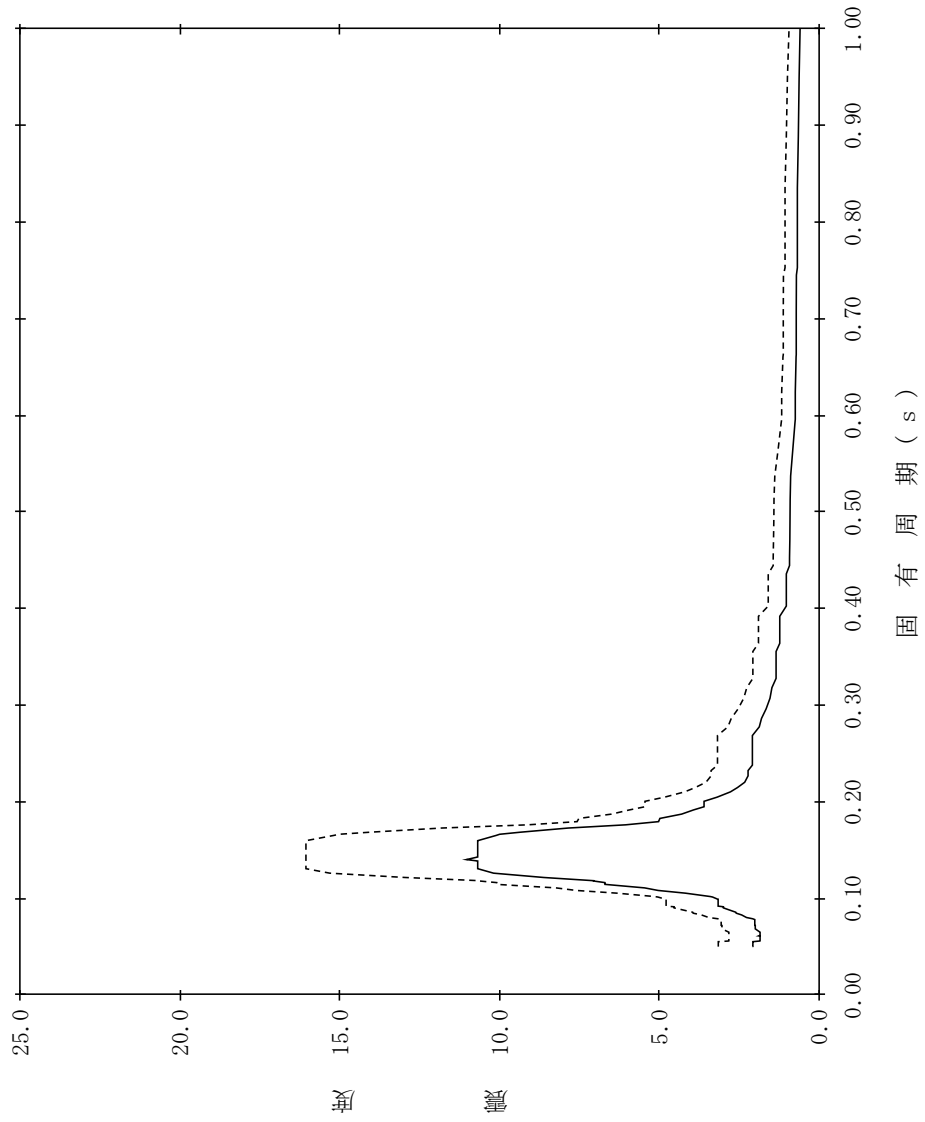
【NS2-CB-SdNS-CB3】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



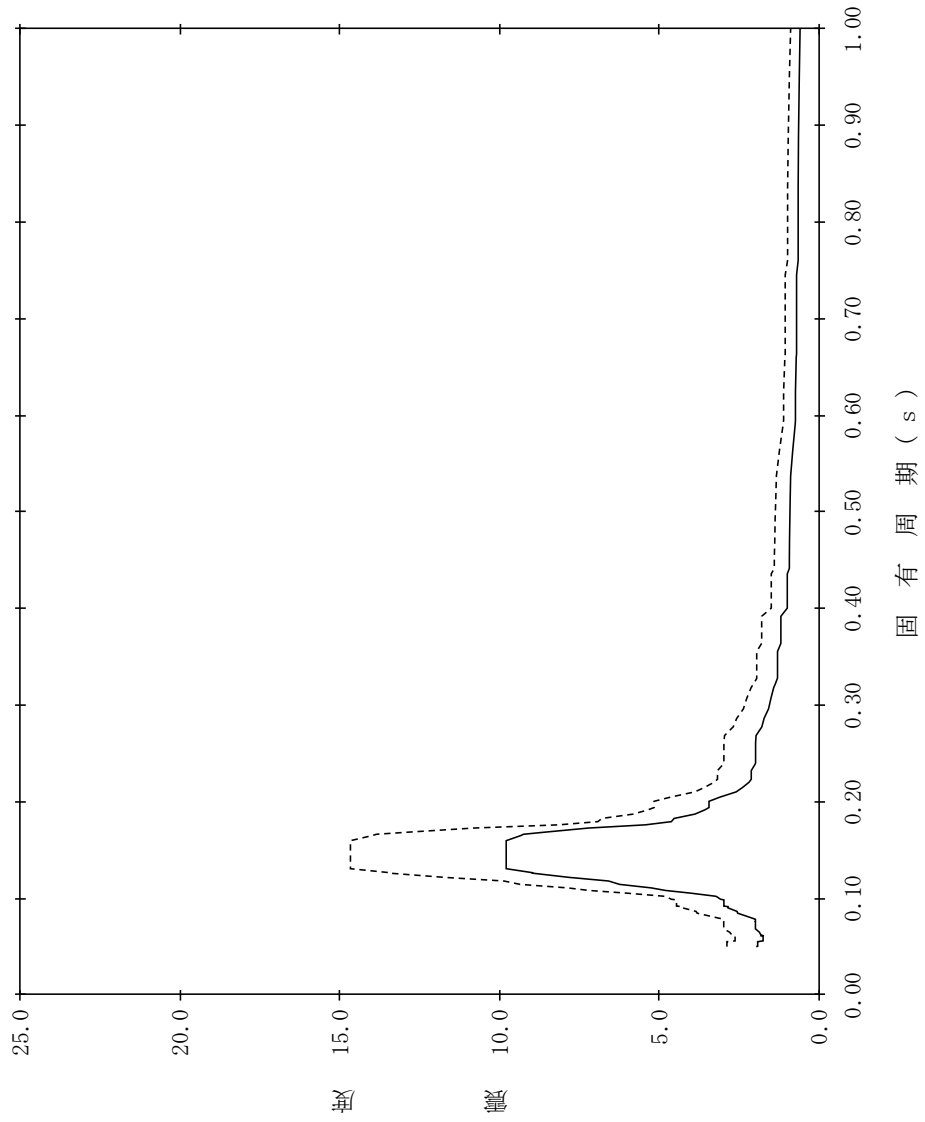
【NS2-CB-SdNS-CB4】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



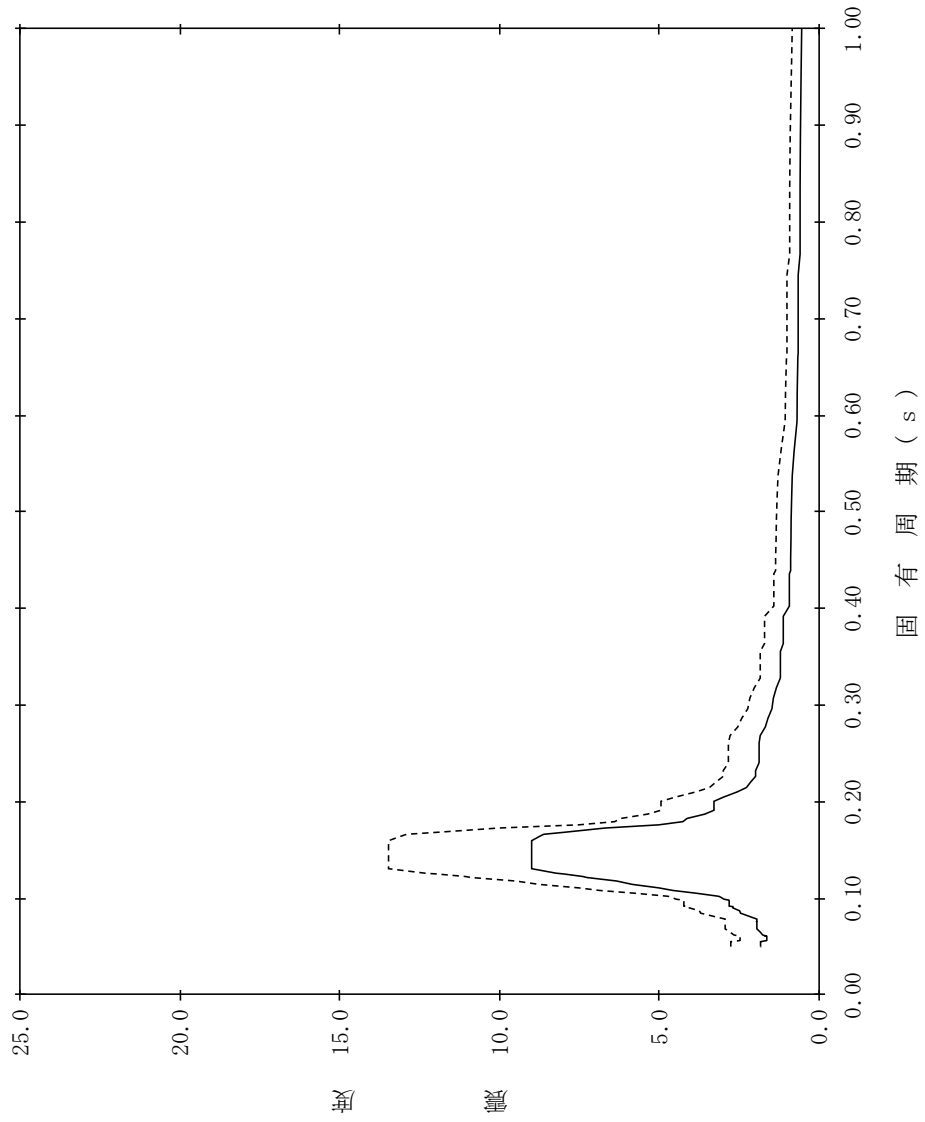
【NS2-CB-SdNS-CB5】

構造物名：制御室建物
標高：EL22.050m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



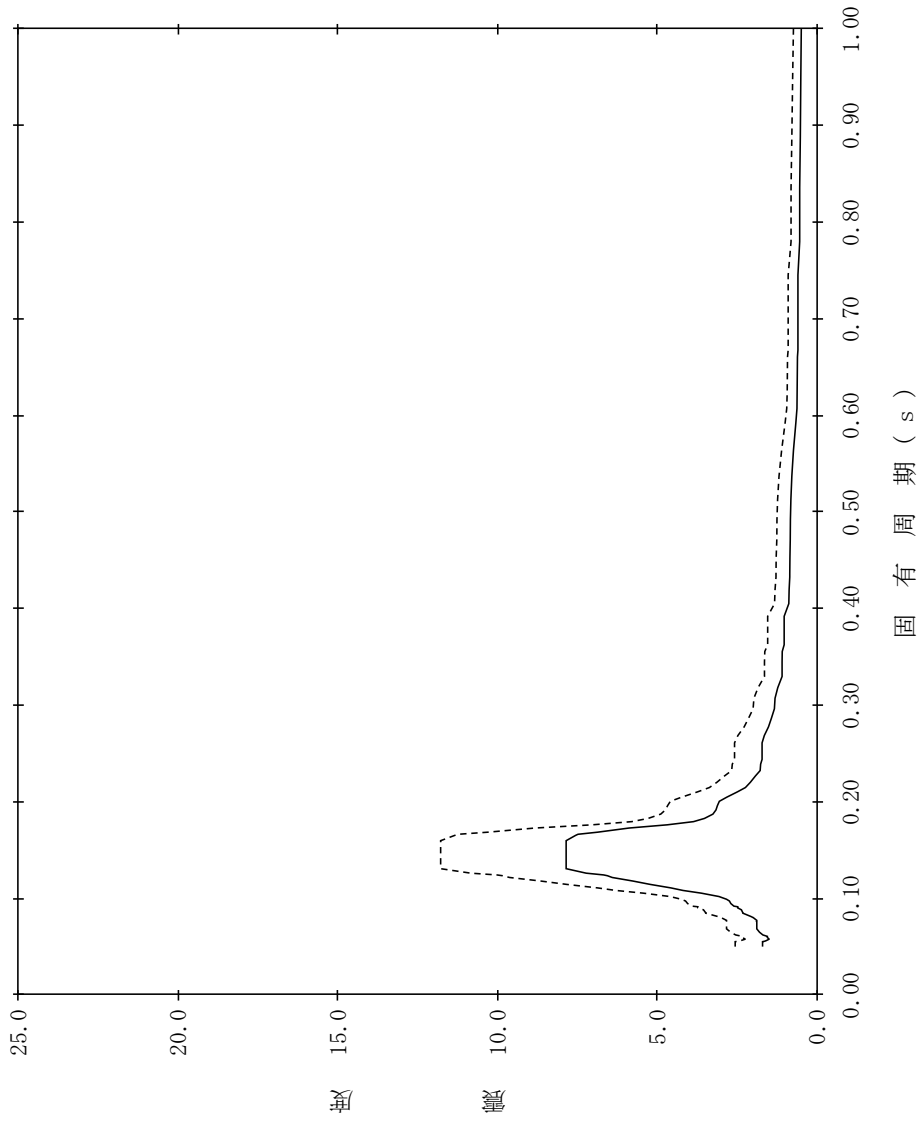
【NS2-CB-SdNS-CB6】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



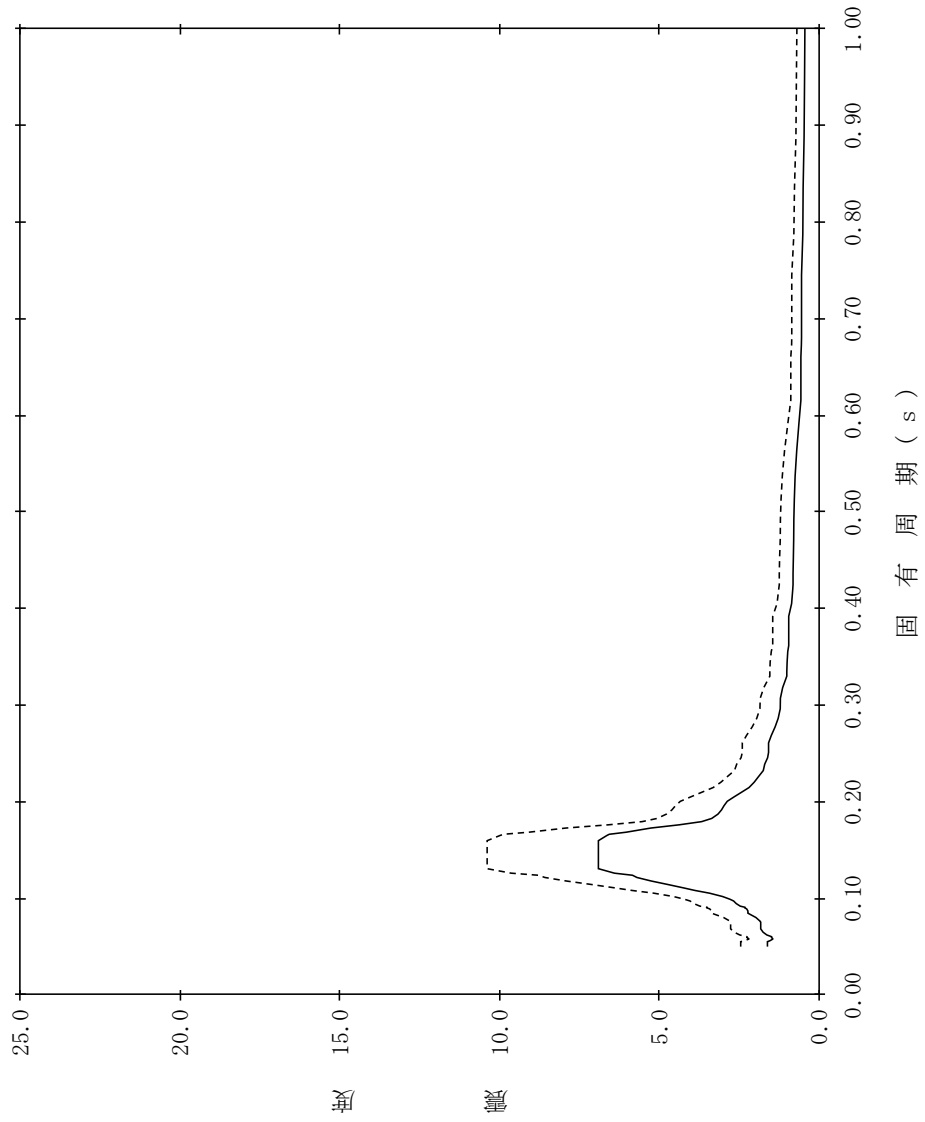
【NS2-CB-SdNS-CB7】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



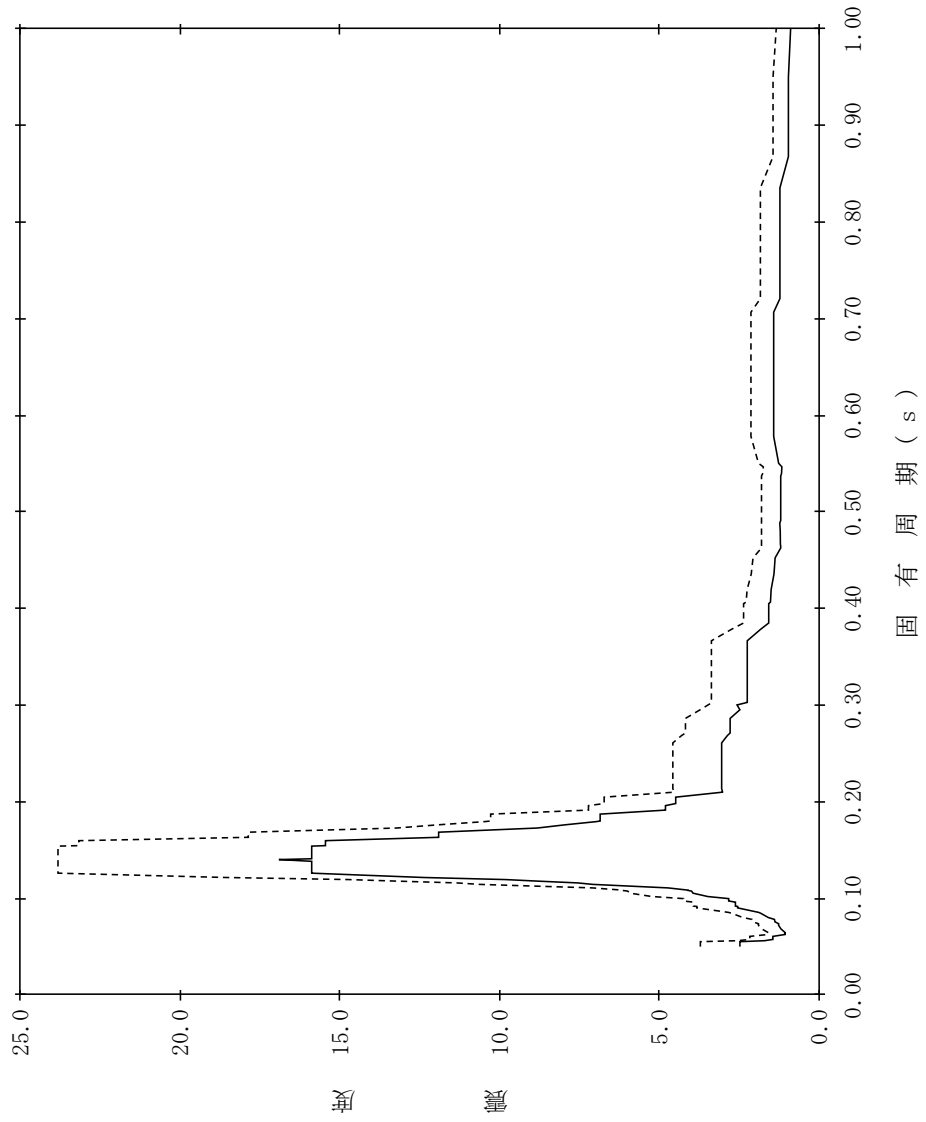
【NS2-CB-SdNS-CB8】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



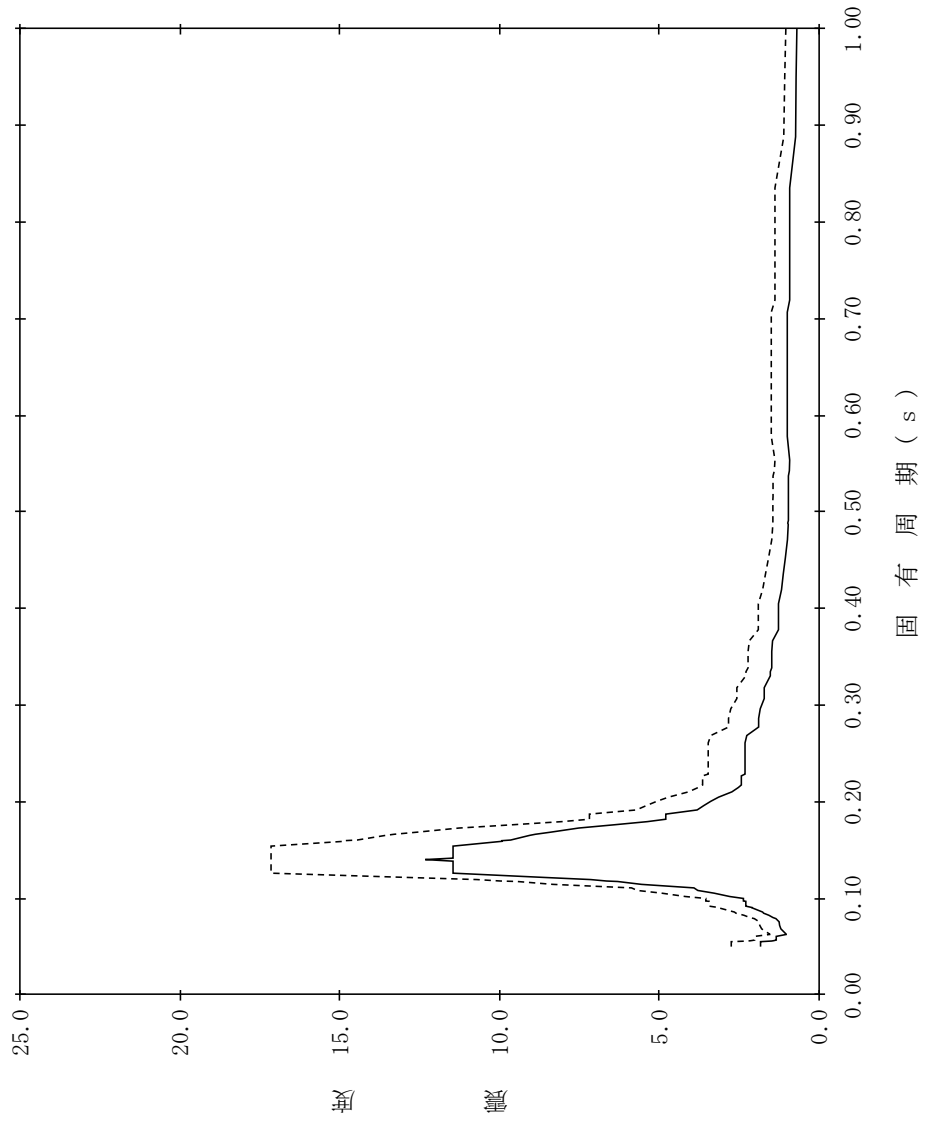
【NS2-CB-SdNS-CB9】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



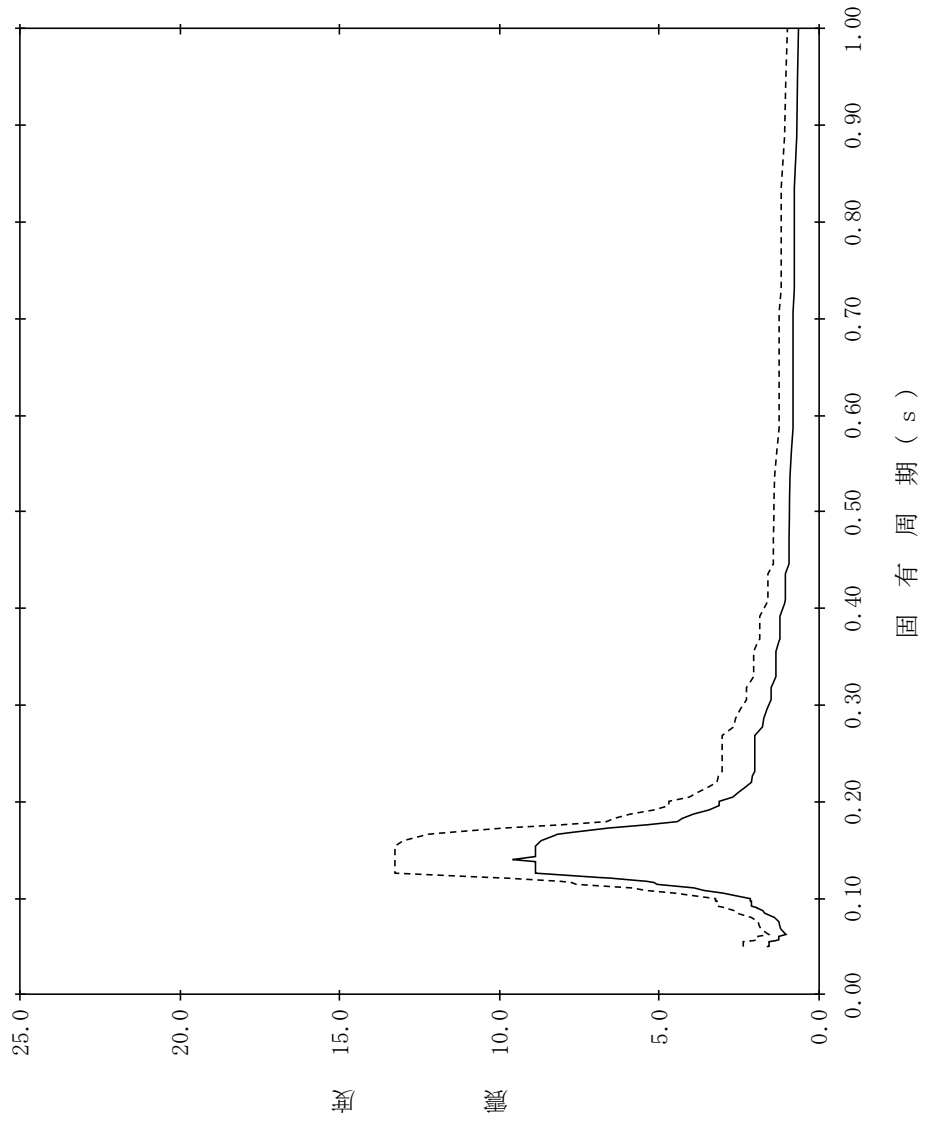
【NS2-CB-SdNS-CB10】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



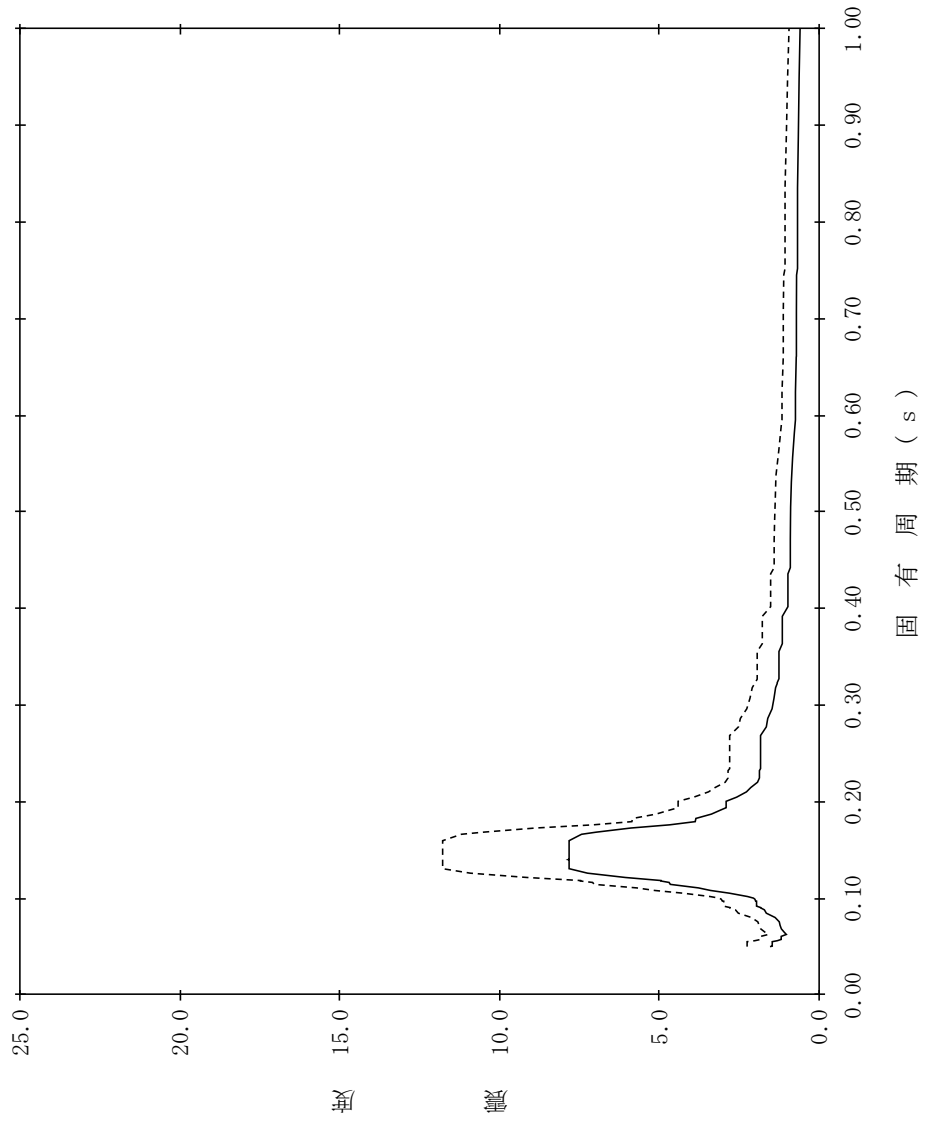
【NS2-CB-SdNS-CB11】

構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：1.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



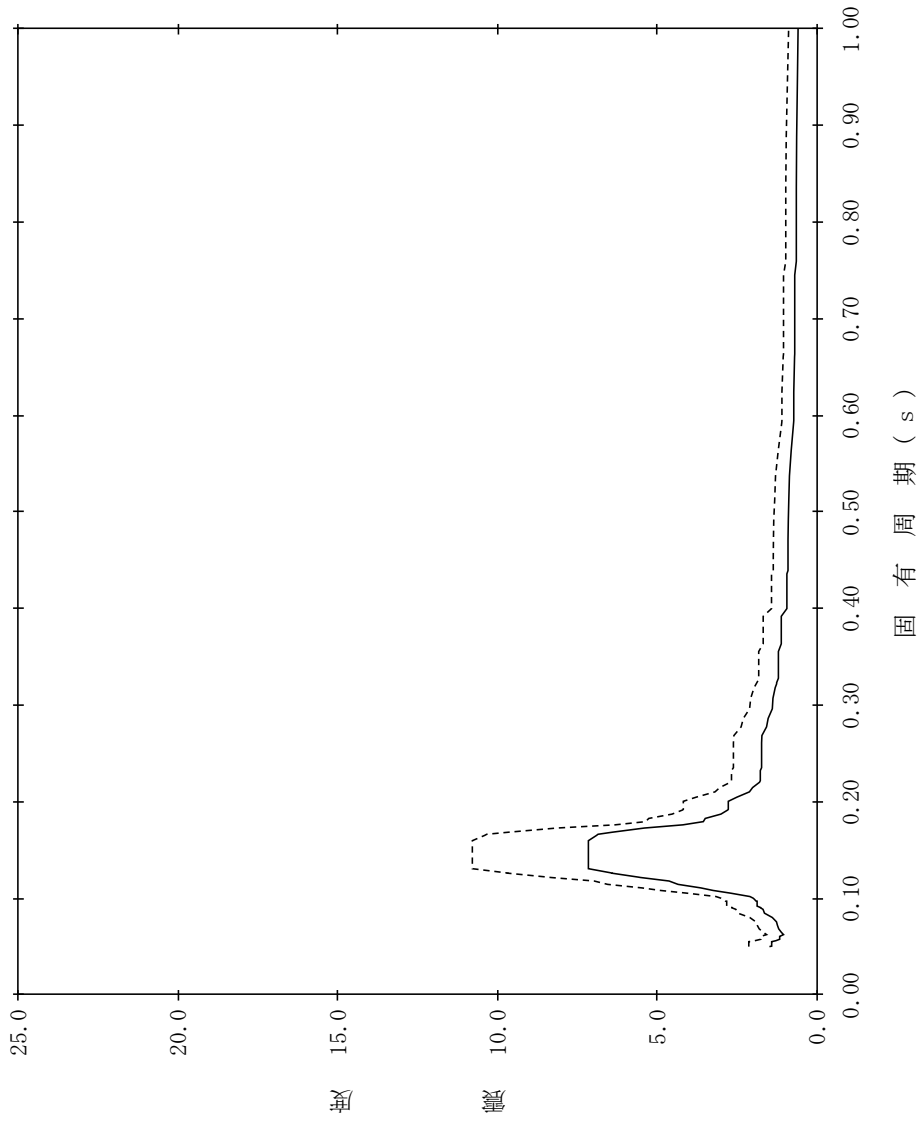
【NS2-CB-SdNS-CB12】

構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



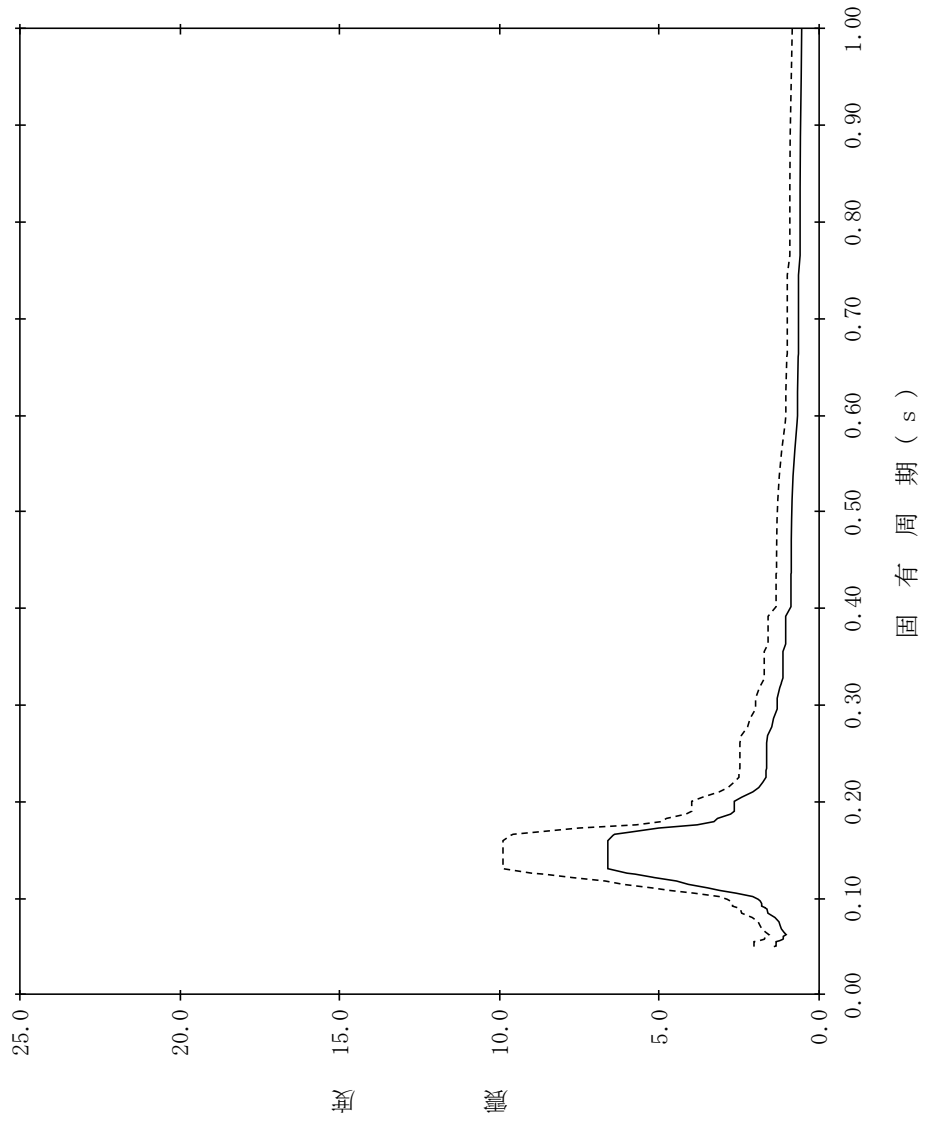
【NS2-CB-SdNS-CB13】

構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



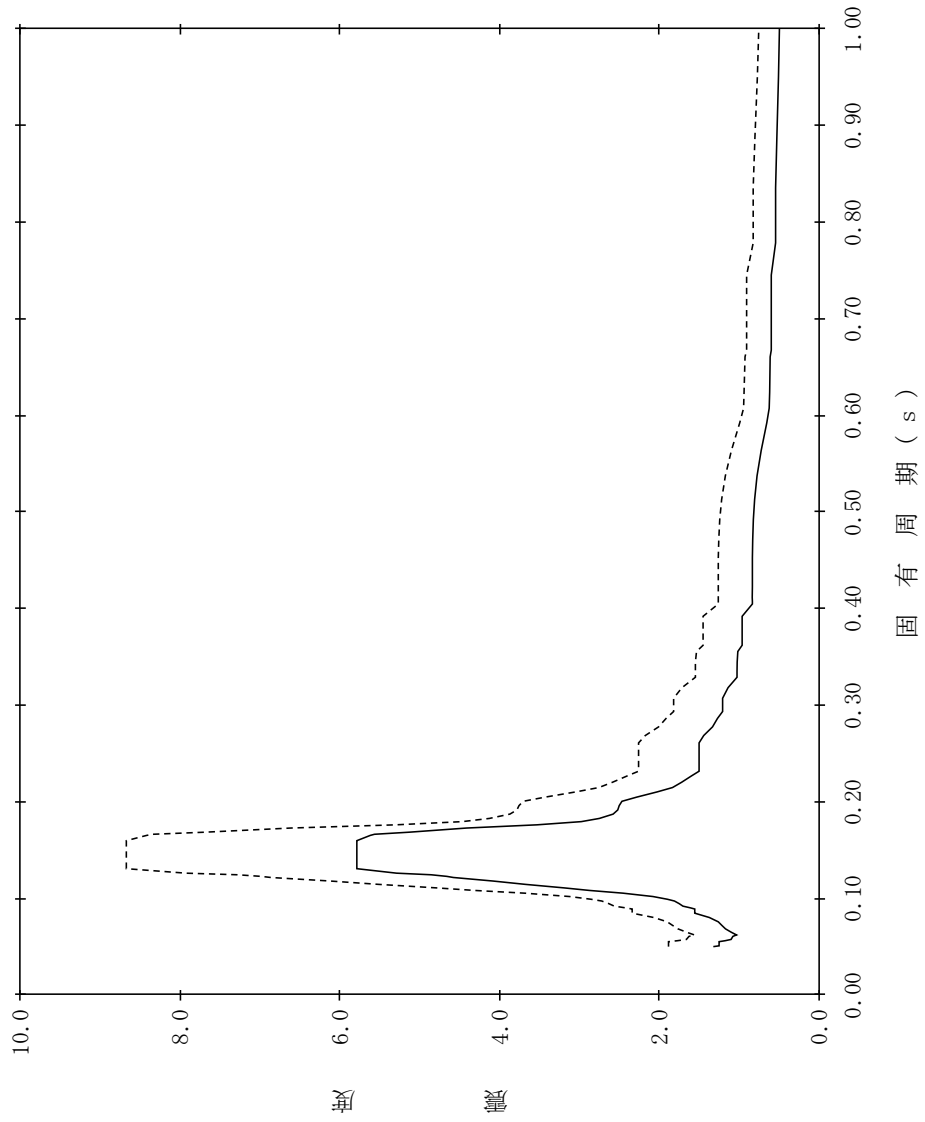
【NS2-CB-SdNS-CB14】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



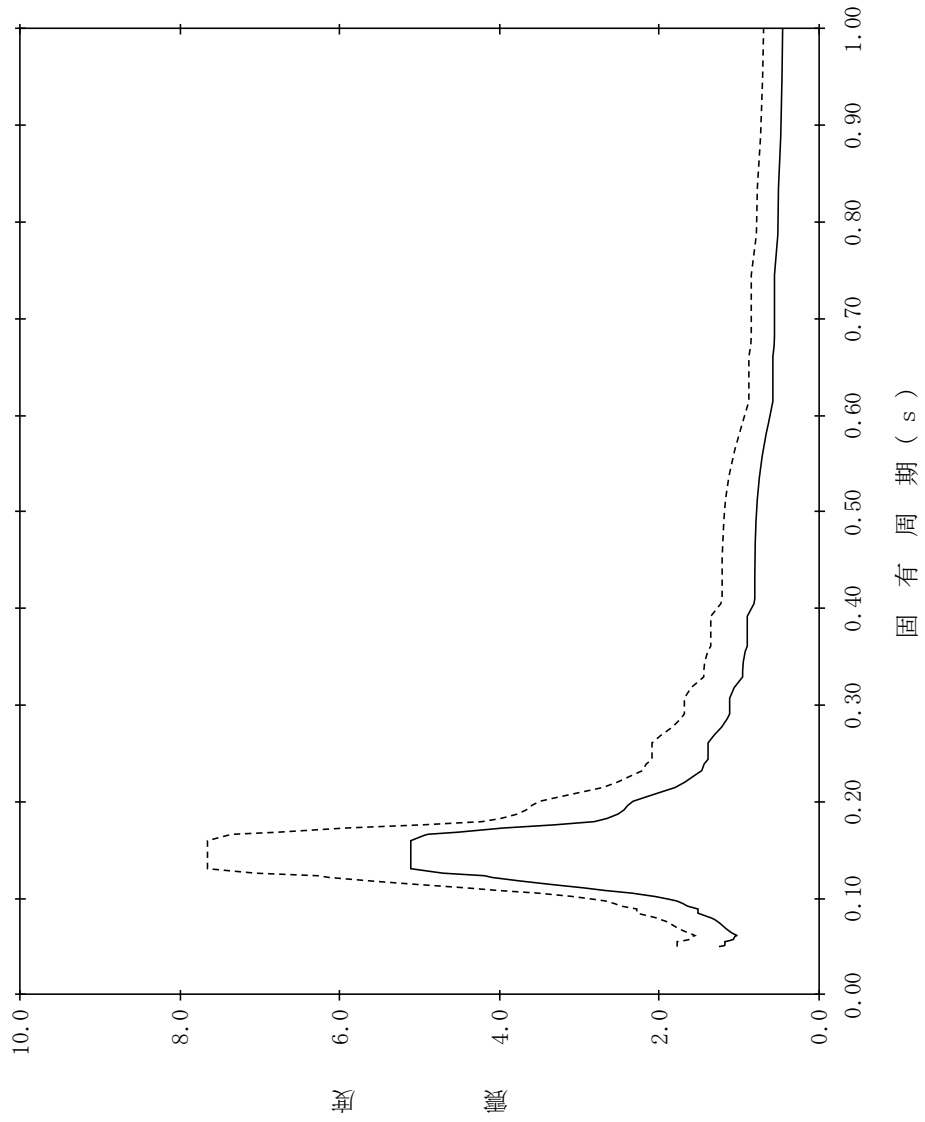
【NS2-CB-SdNS-CB15】

構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



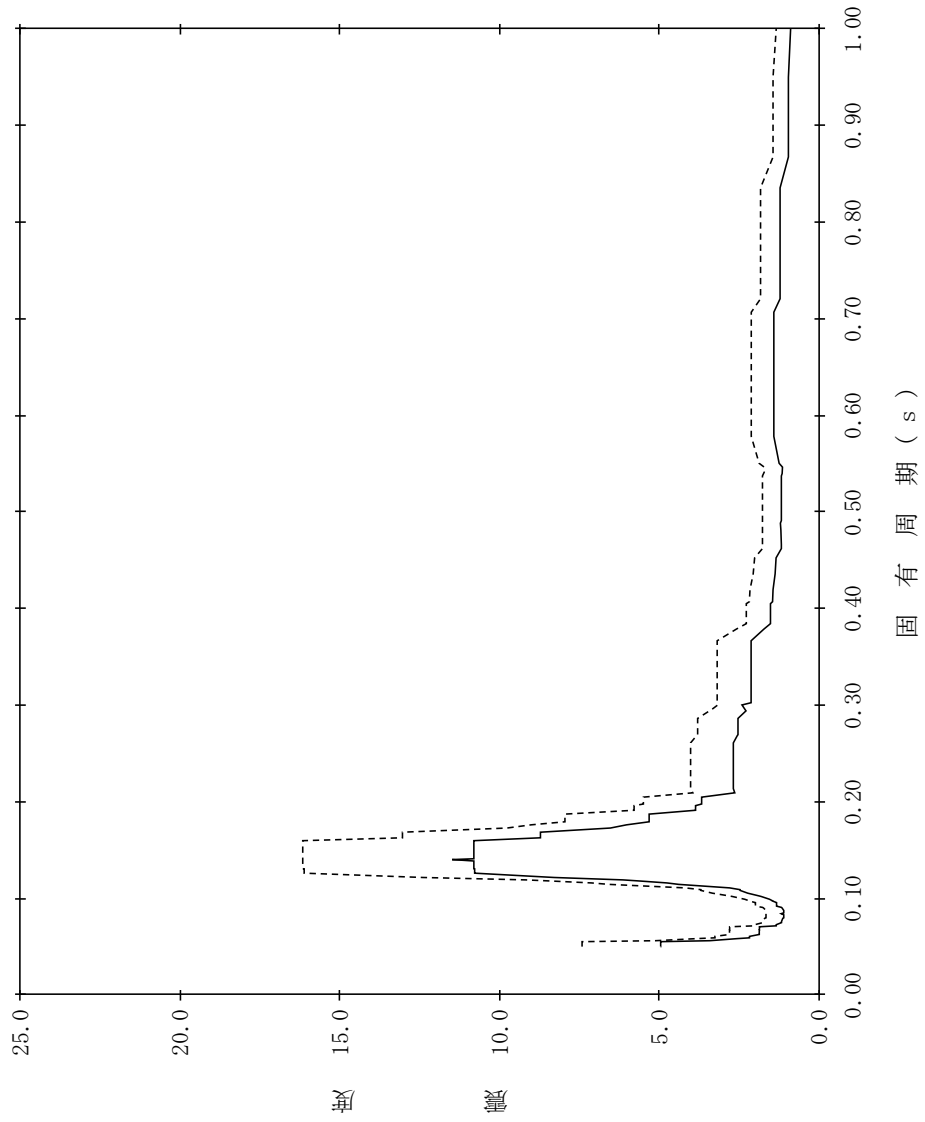
【NS2-CB-SdNS-CB16】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



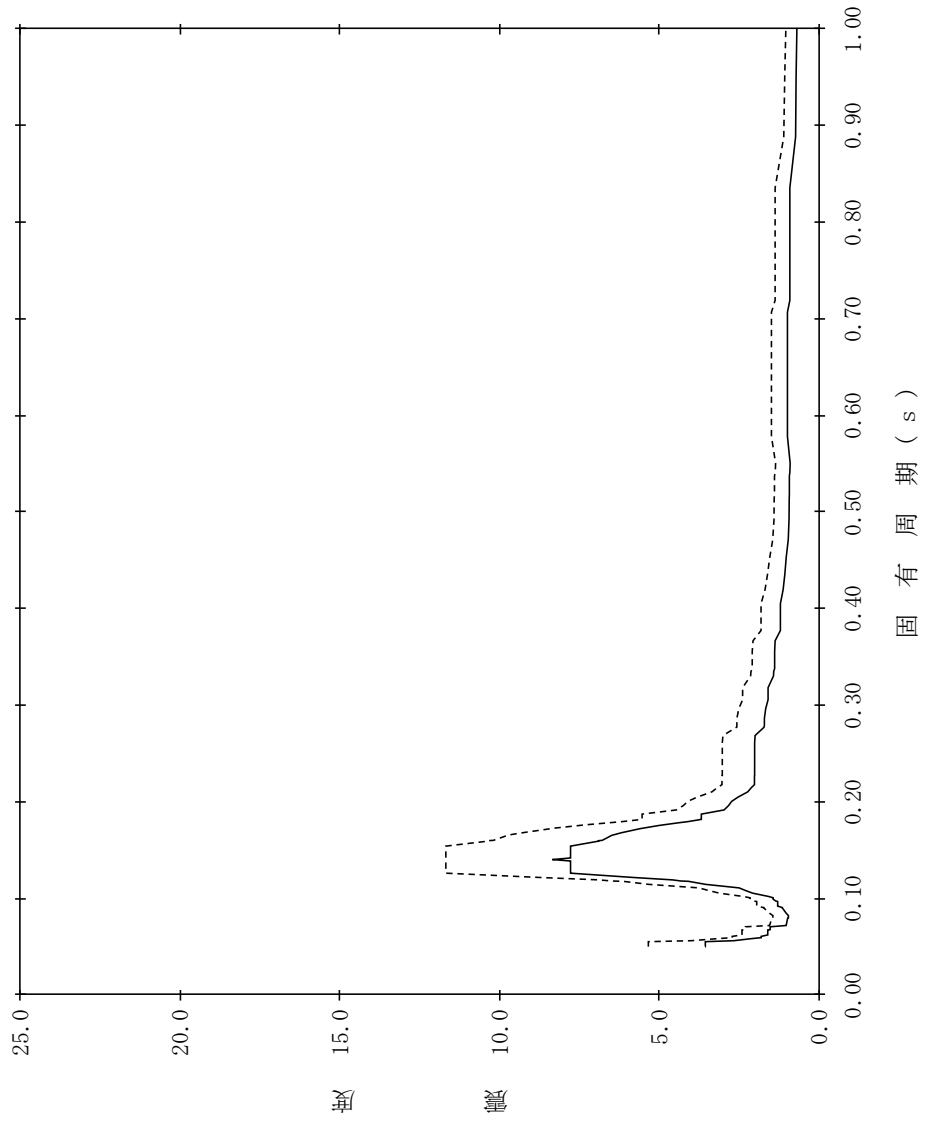
【NS2-CB-SdNS-CB17】

構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



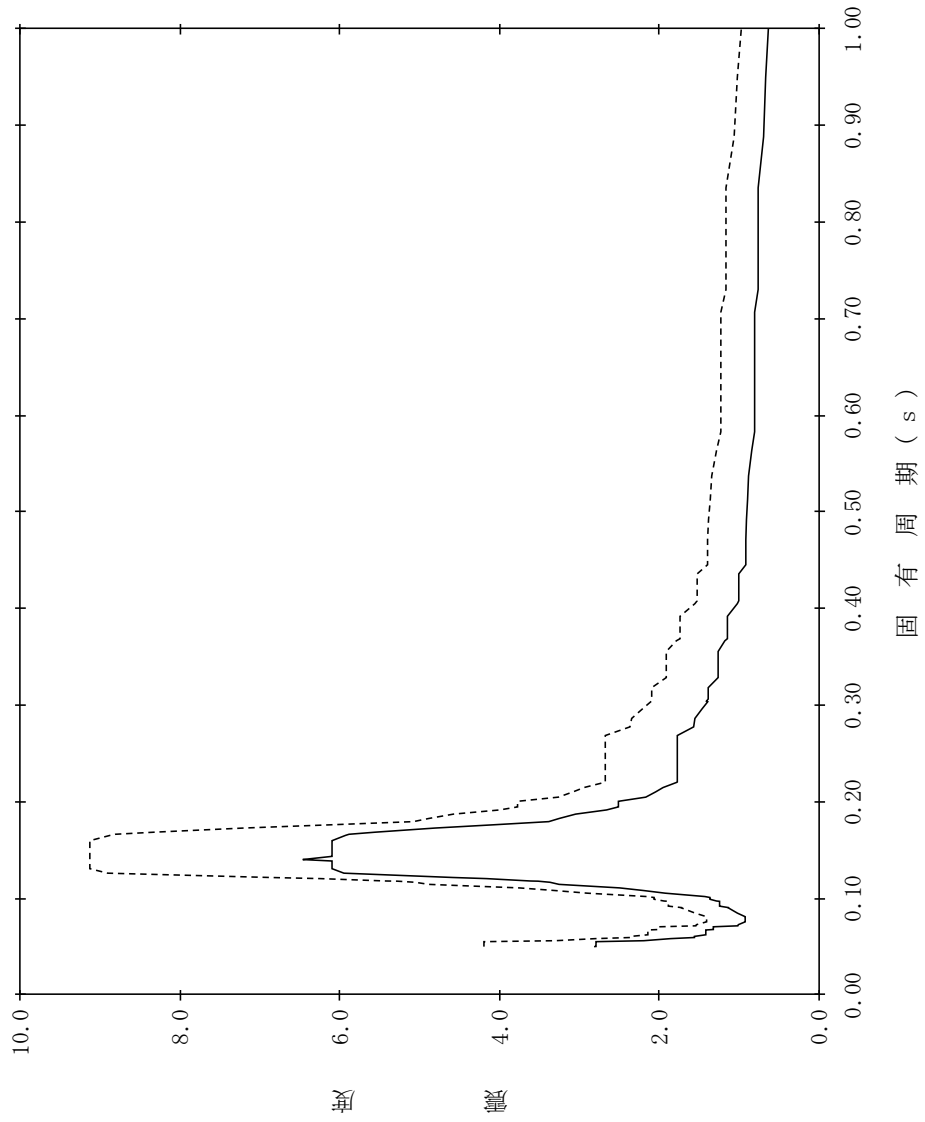
【NS2-CB-SdNS-CB18】

構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



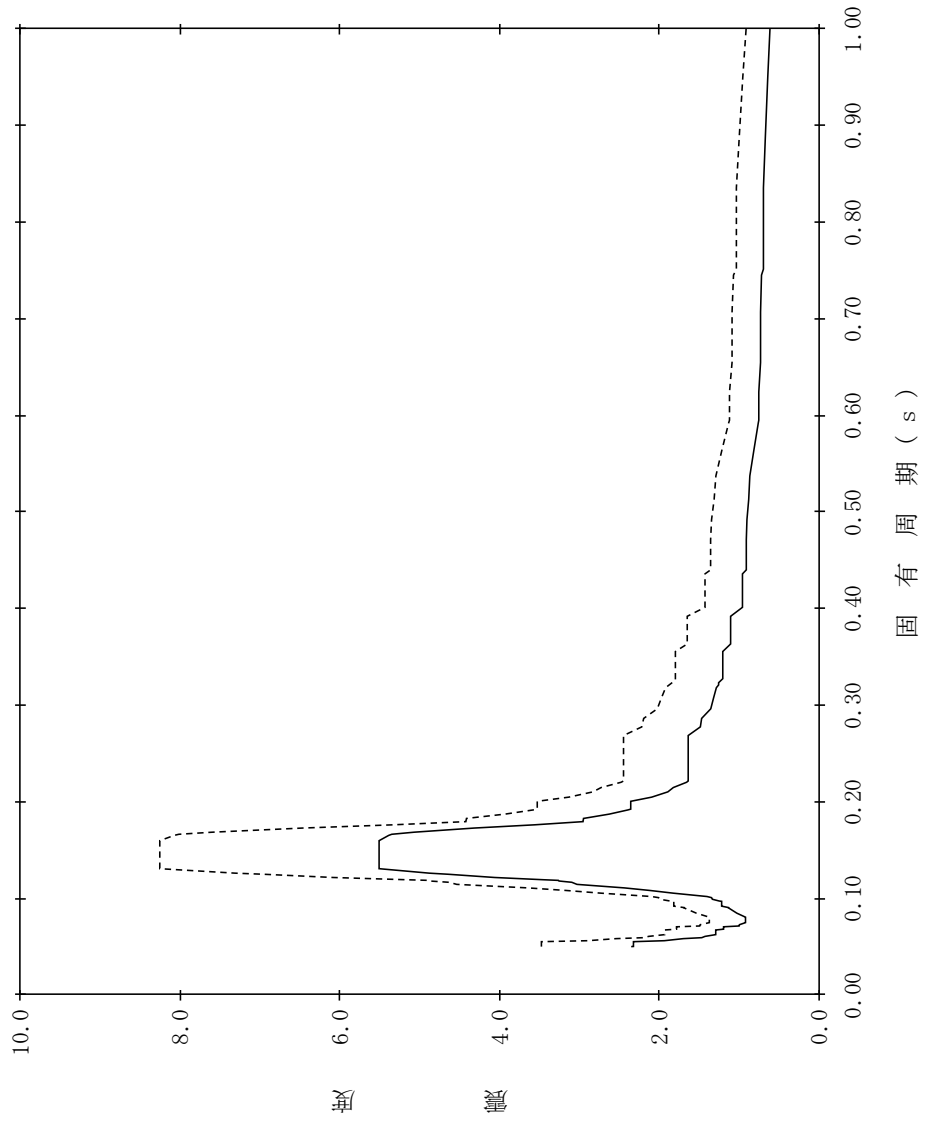
【NS2-CB-SdNS-CB19】

構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：1.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



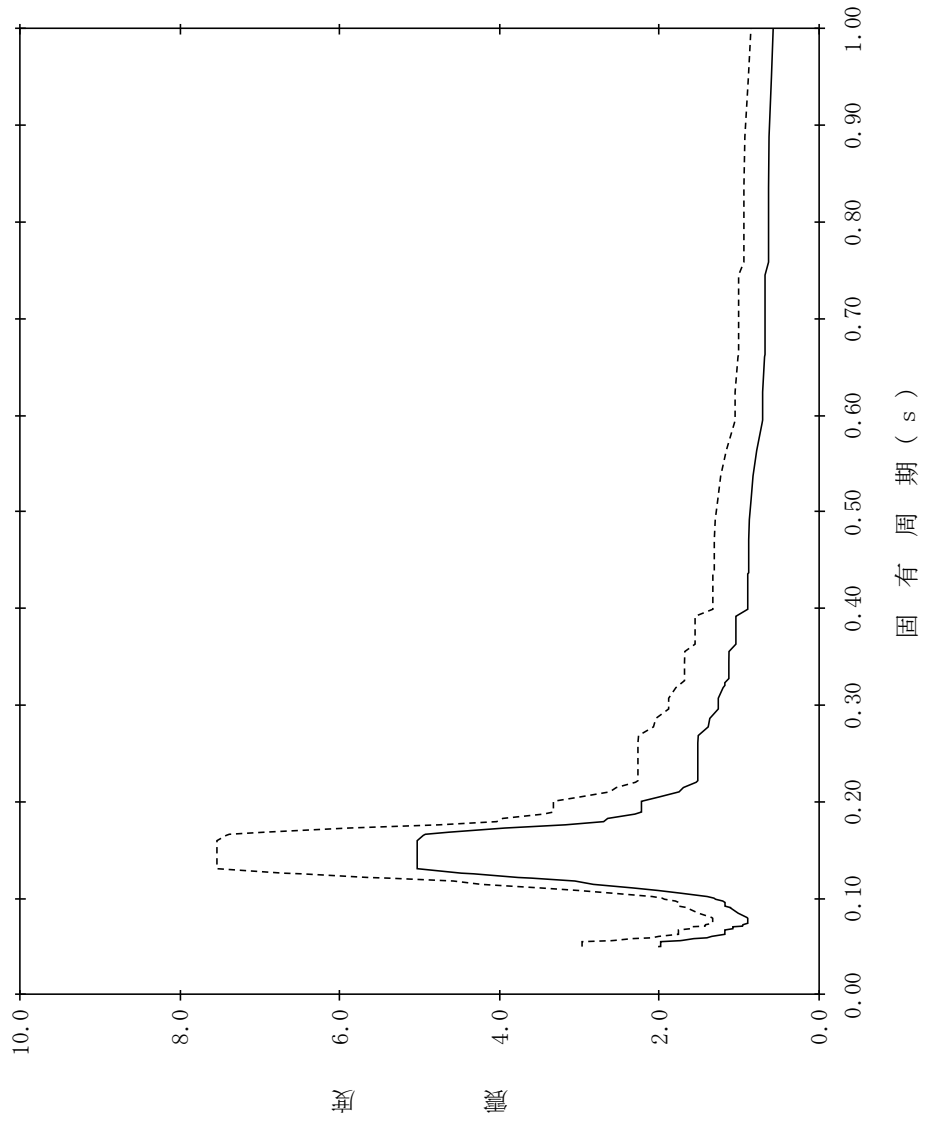
【NS2-CB-SdNS-CB20】

構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



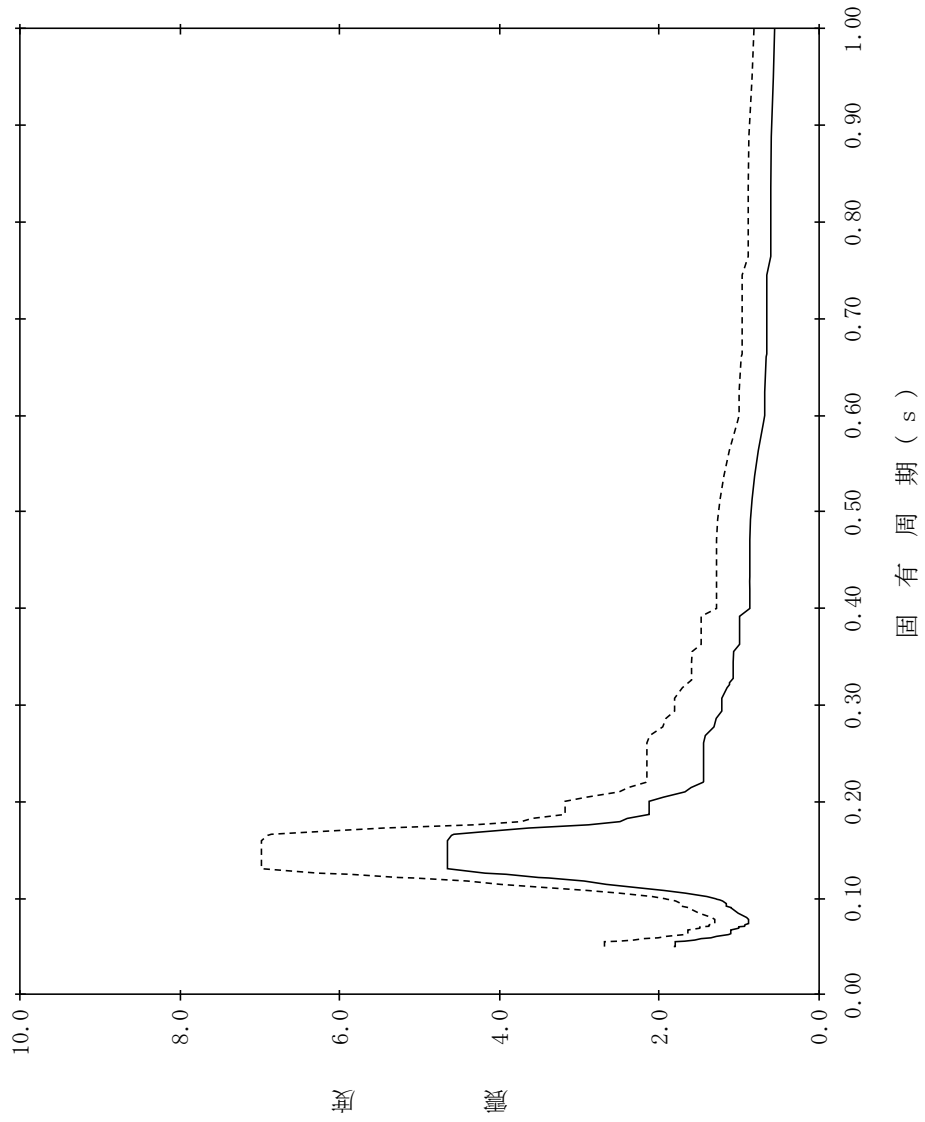
【NS2-CB-SdNS-CB21】

構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



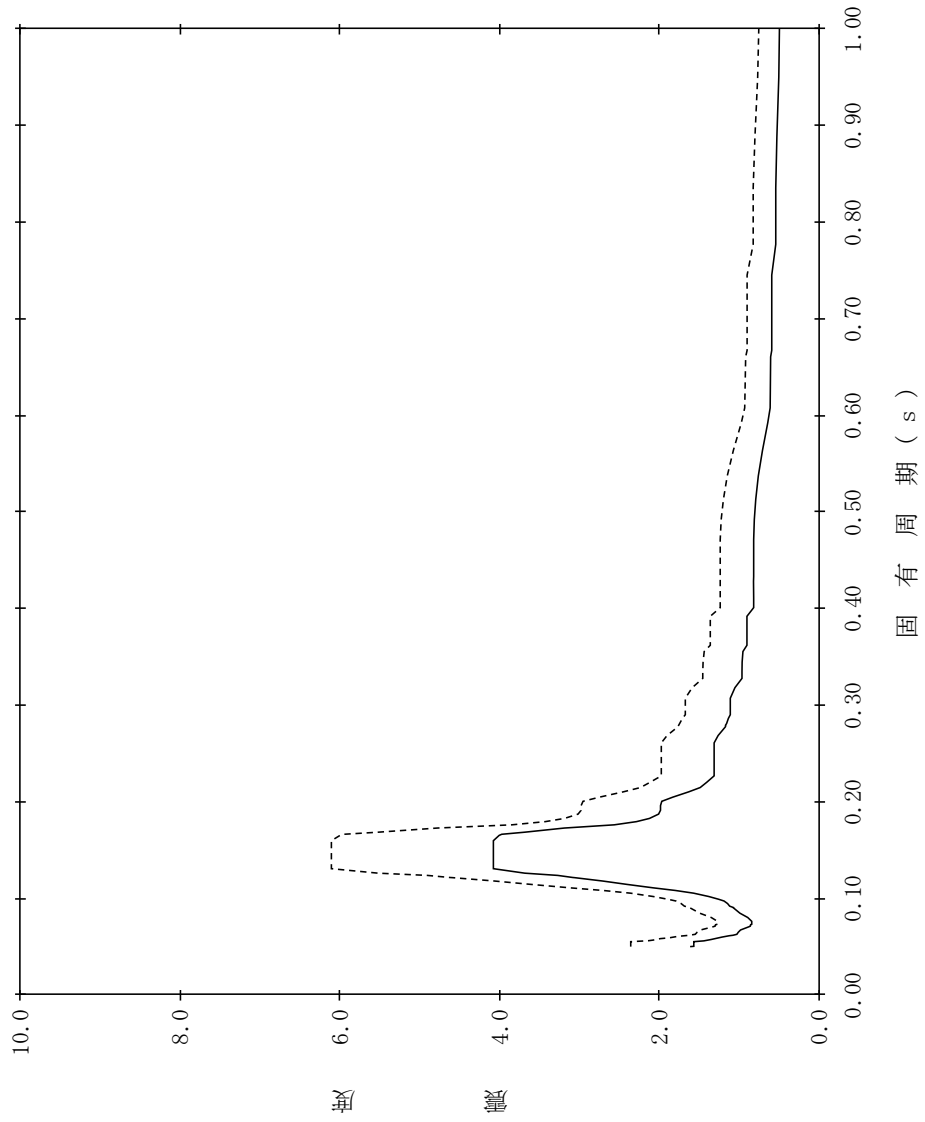
【NS2-CB-SdNS-CB22】

構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



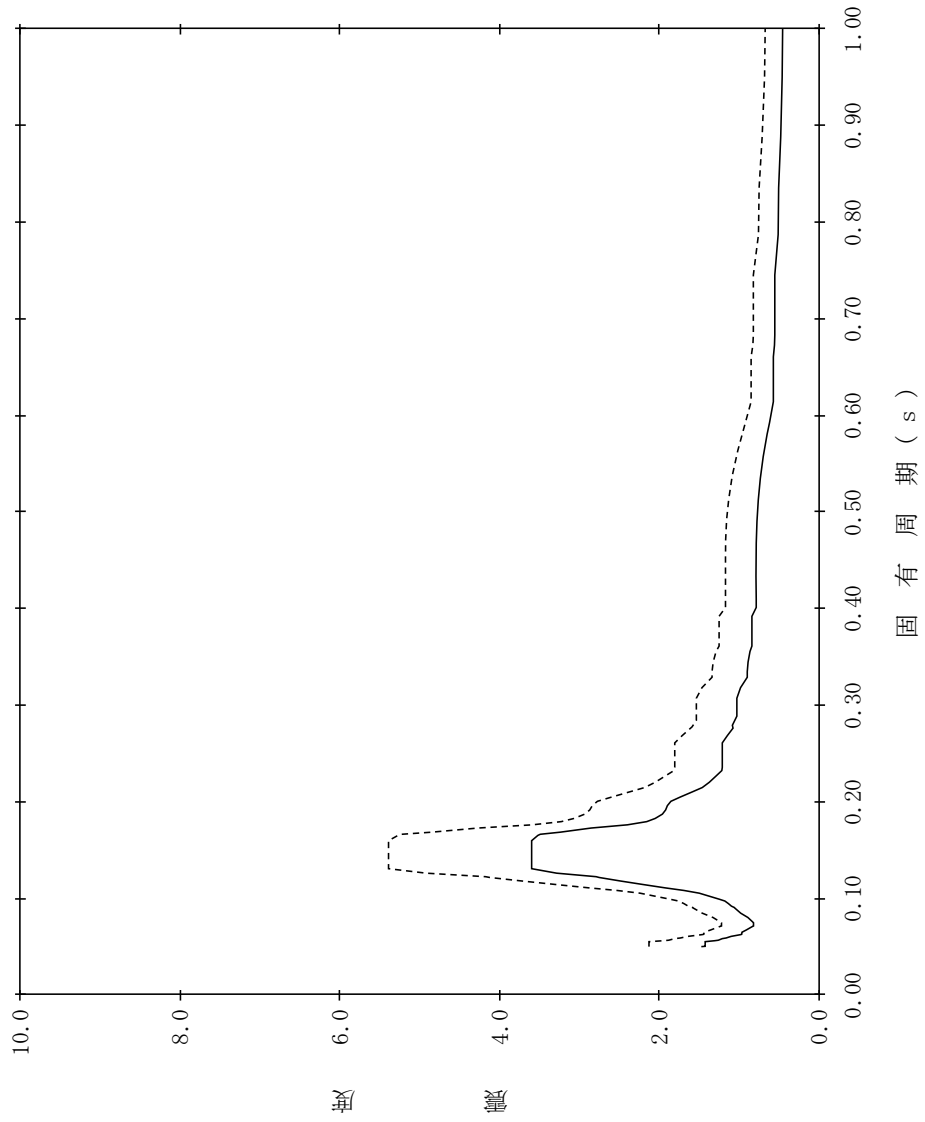
【NS2-CB-SdNS-CB23】

構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



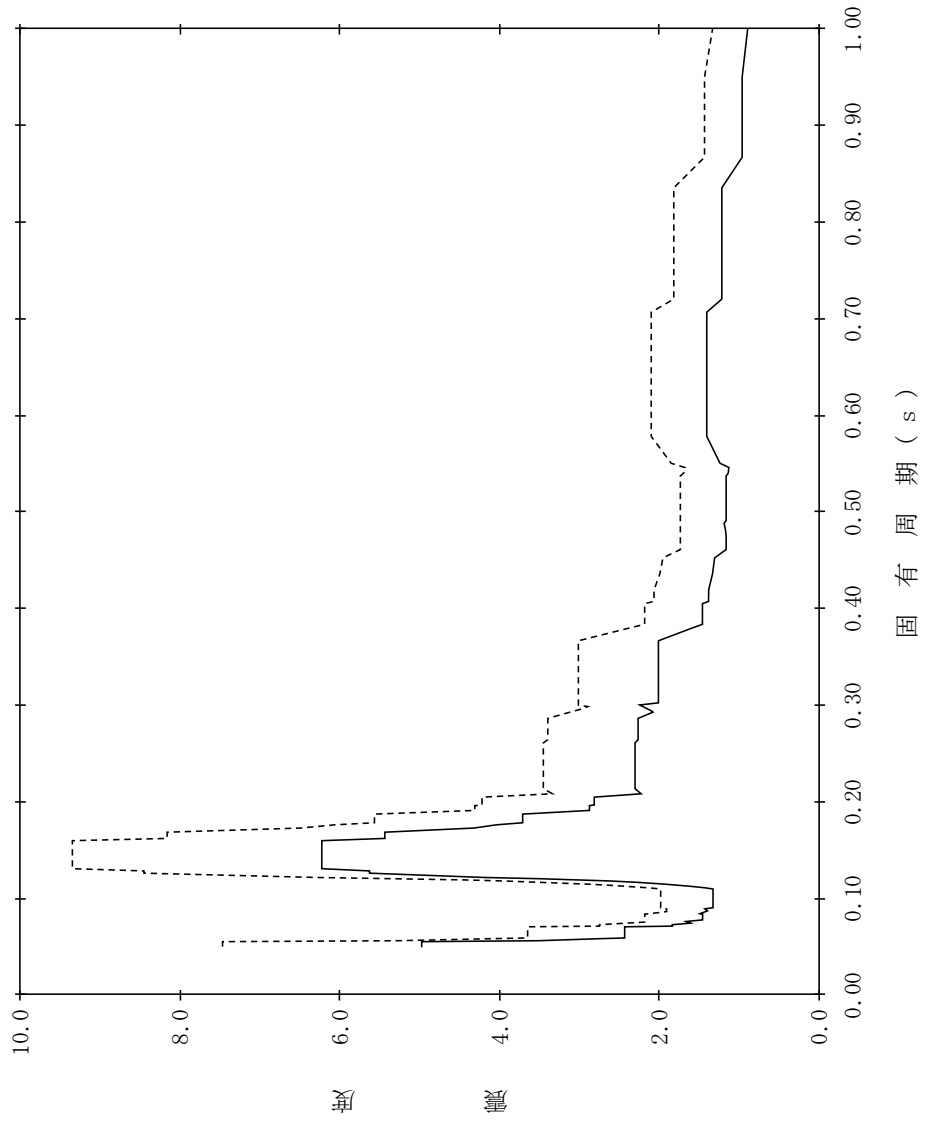
【NS2-CB-SdNS-CB24】

構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



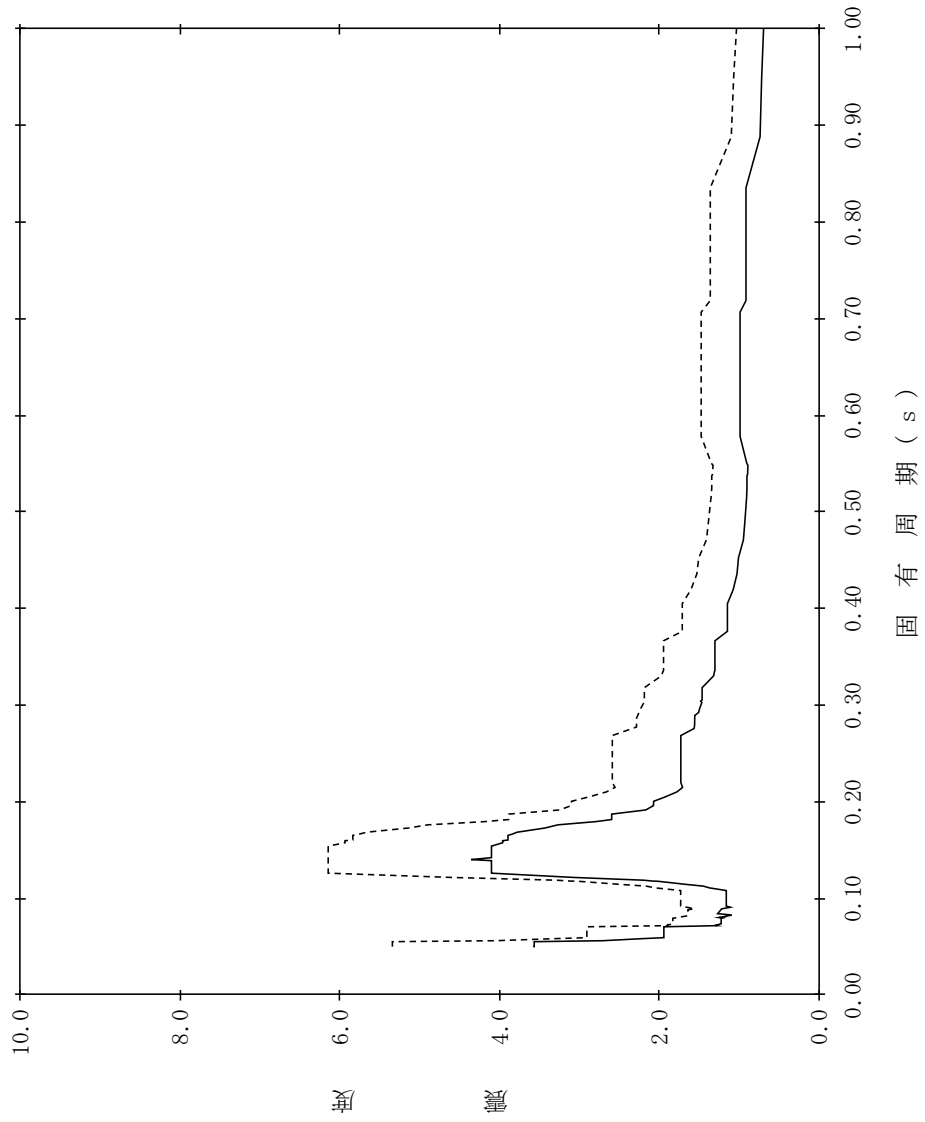
【NS2-CB-SdNS-CB25】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



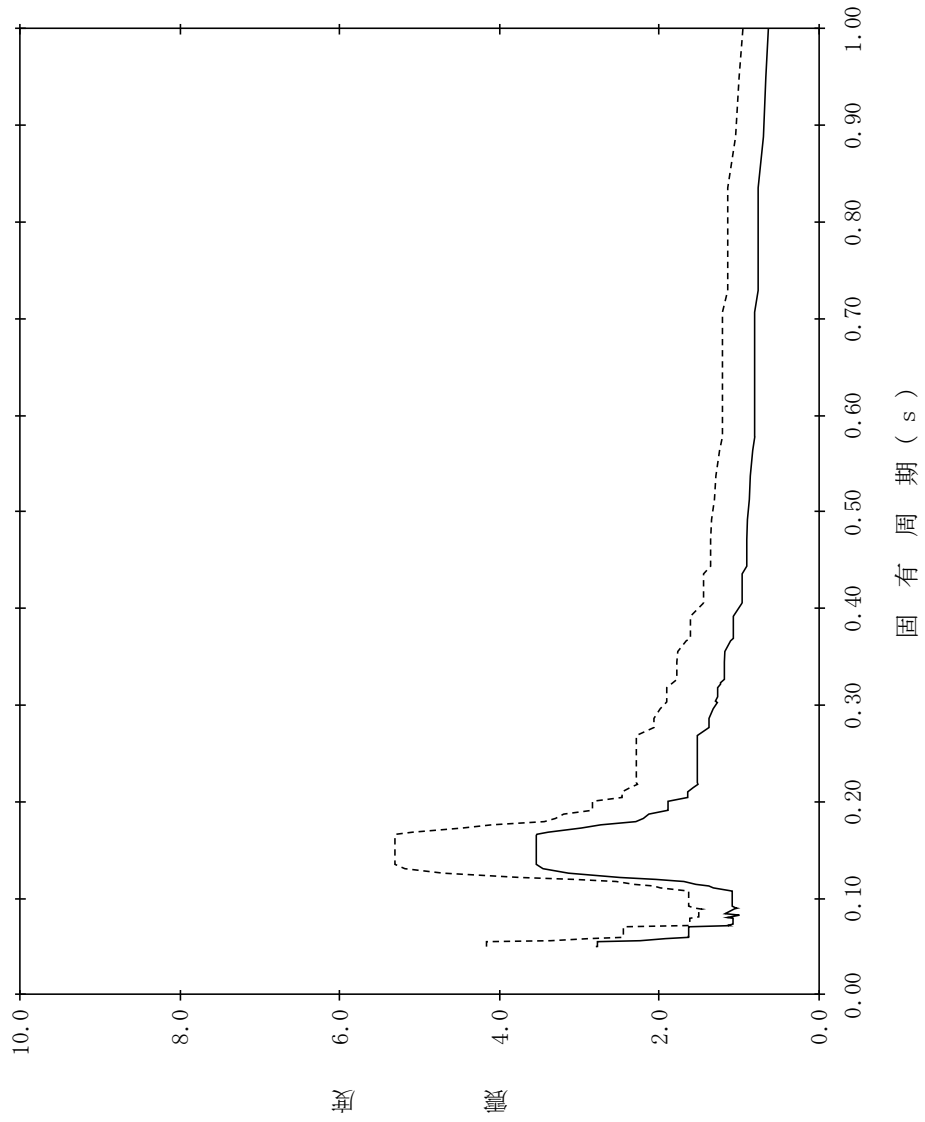
【NS2-CB-SdNS-CB26】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



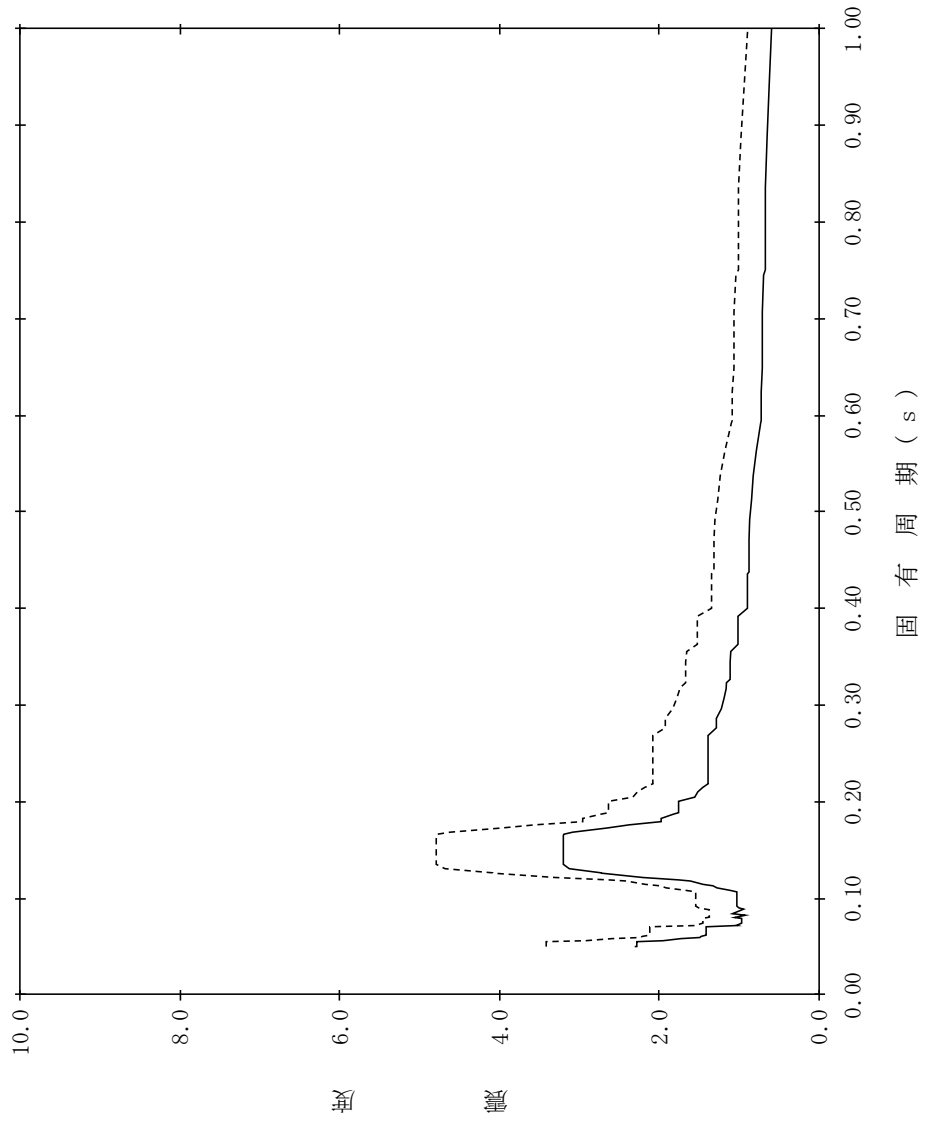
【NS2-CB-SdNS-CB27】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



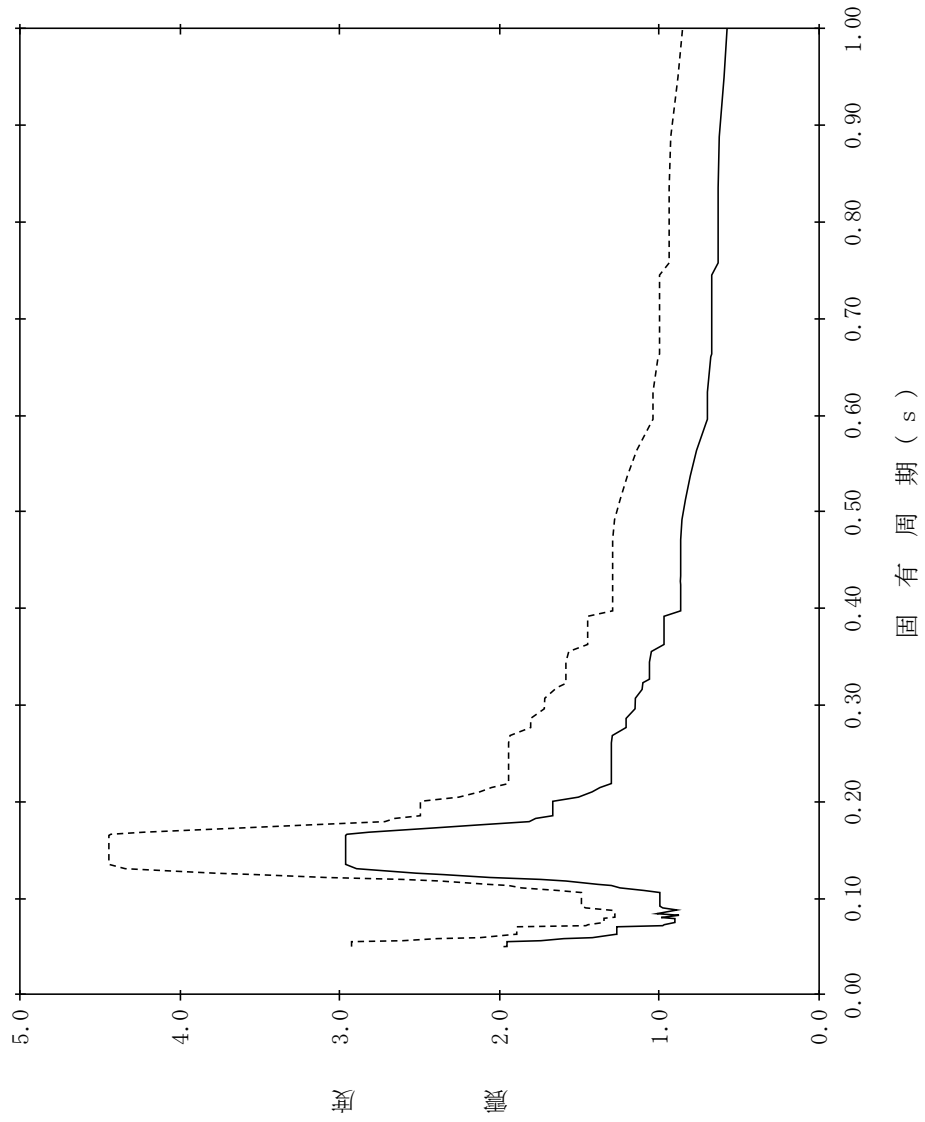
【NS2-CB-SdNS-CB28】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



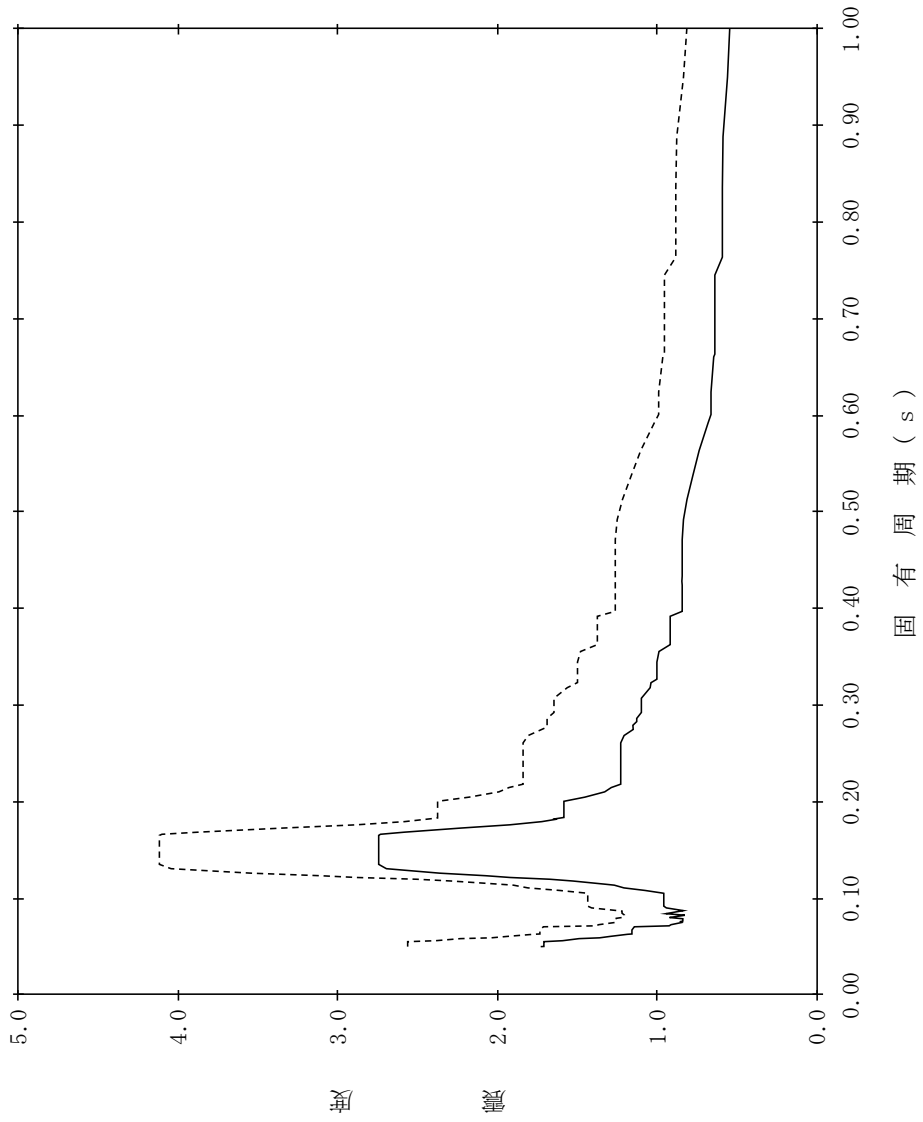
【NS2-CB-SdNS-CB29】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



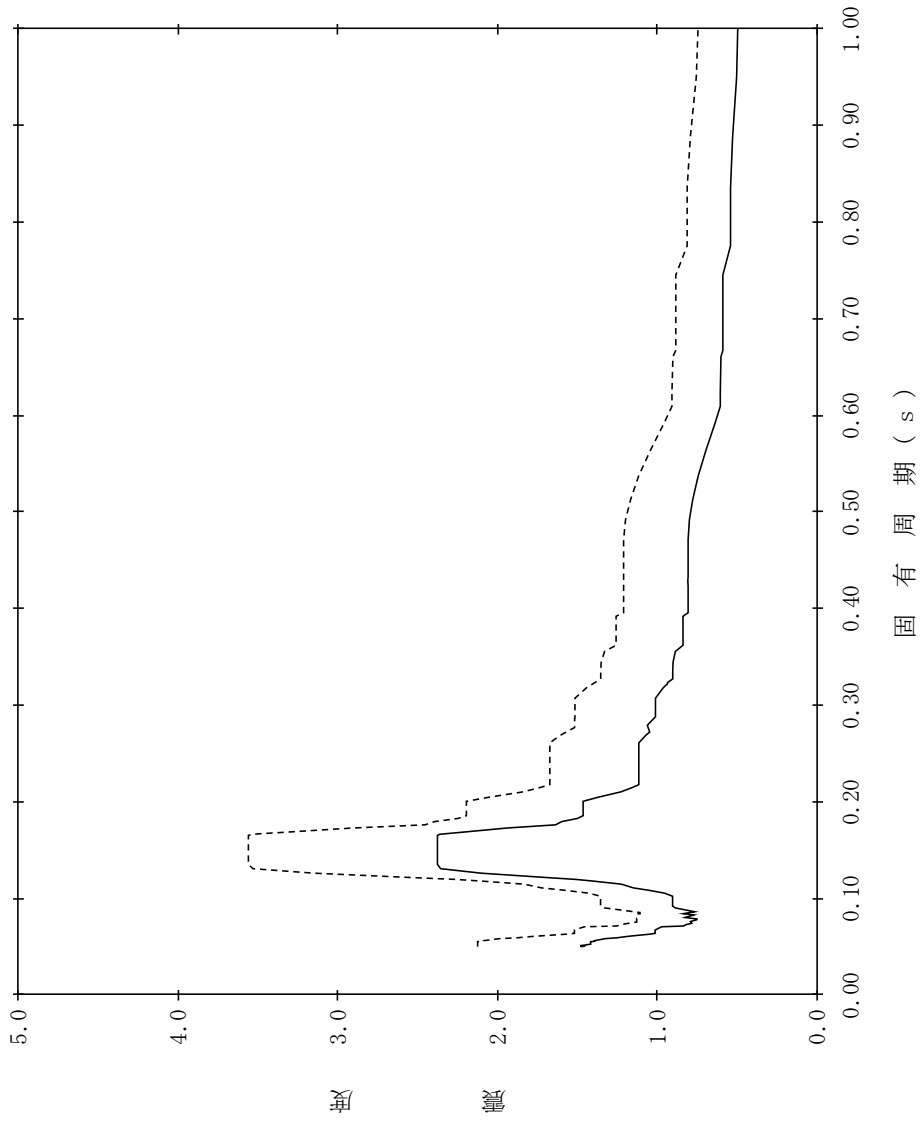
【NS2-CB-SdNS-CB30】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



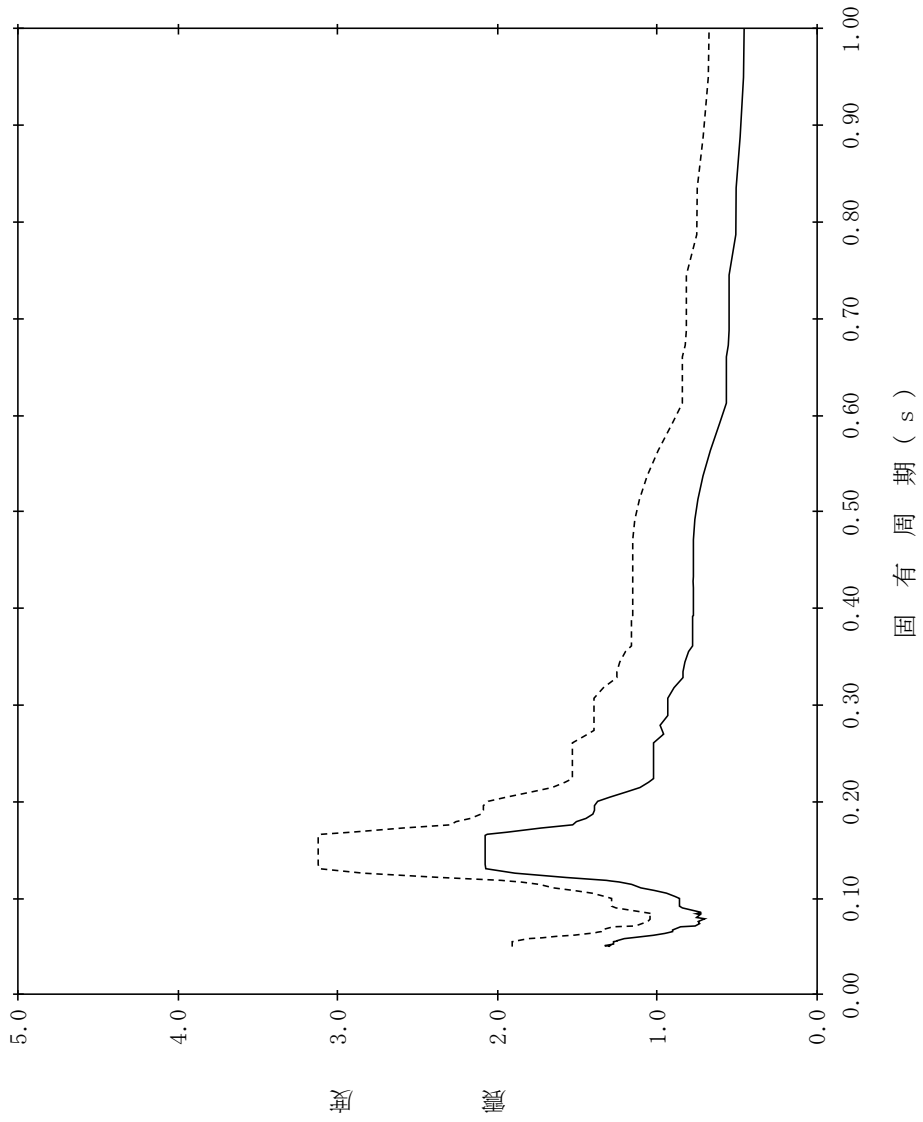
【NS2-CB-SdNS-CB31】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



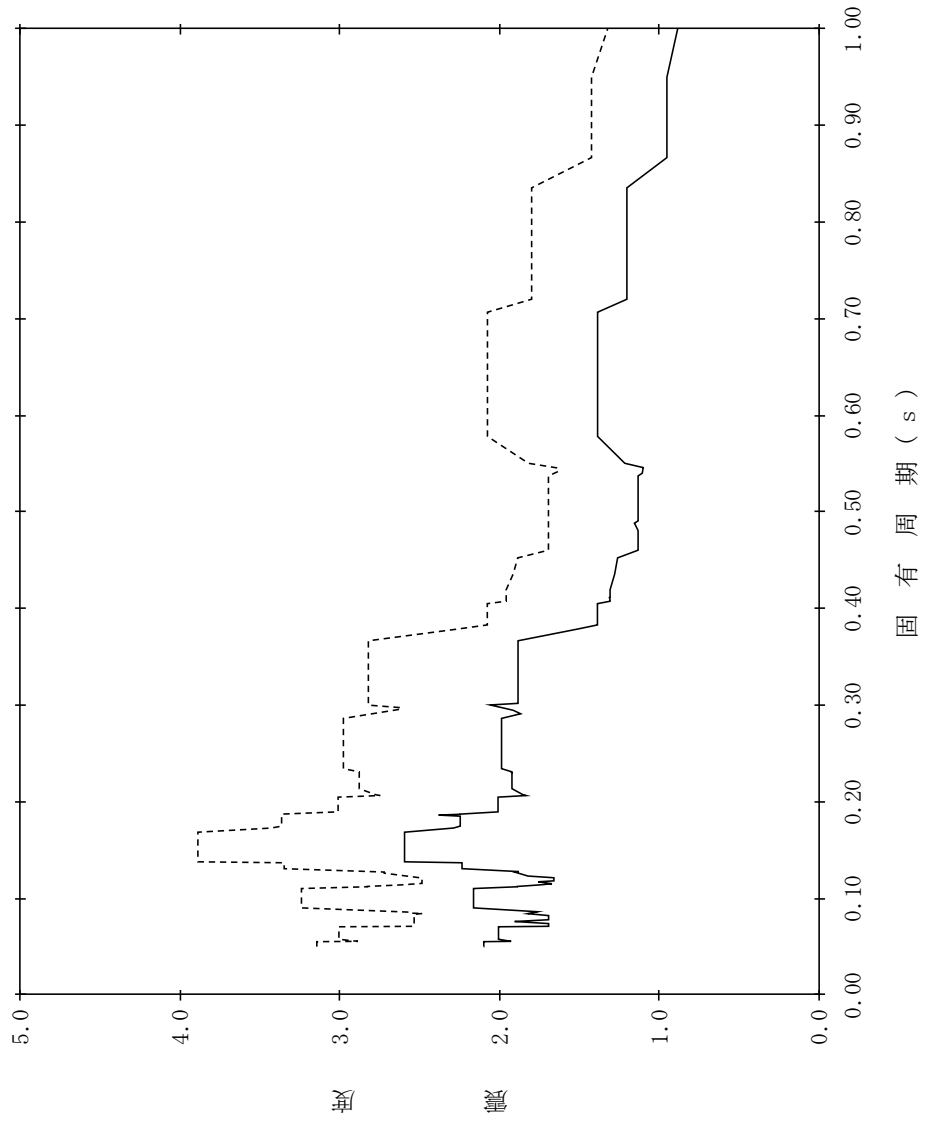
【NS2-CB-SdNS-CB32】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



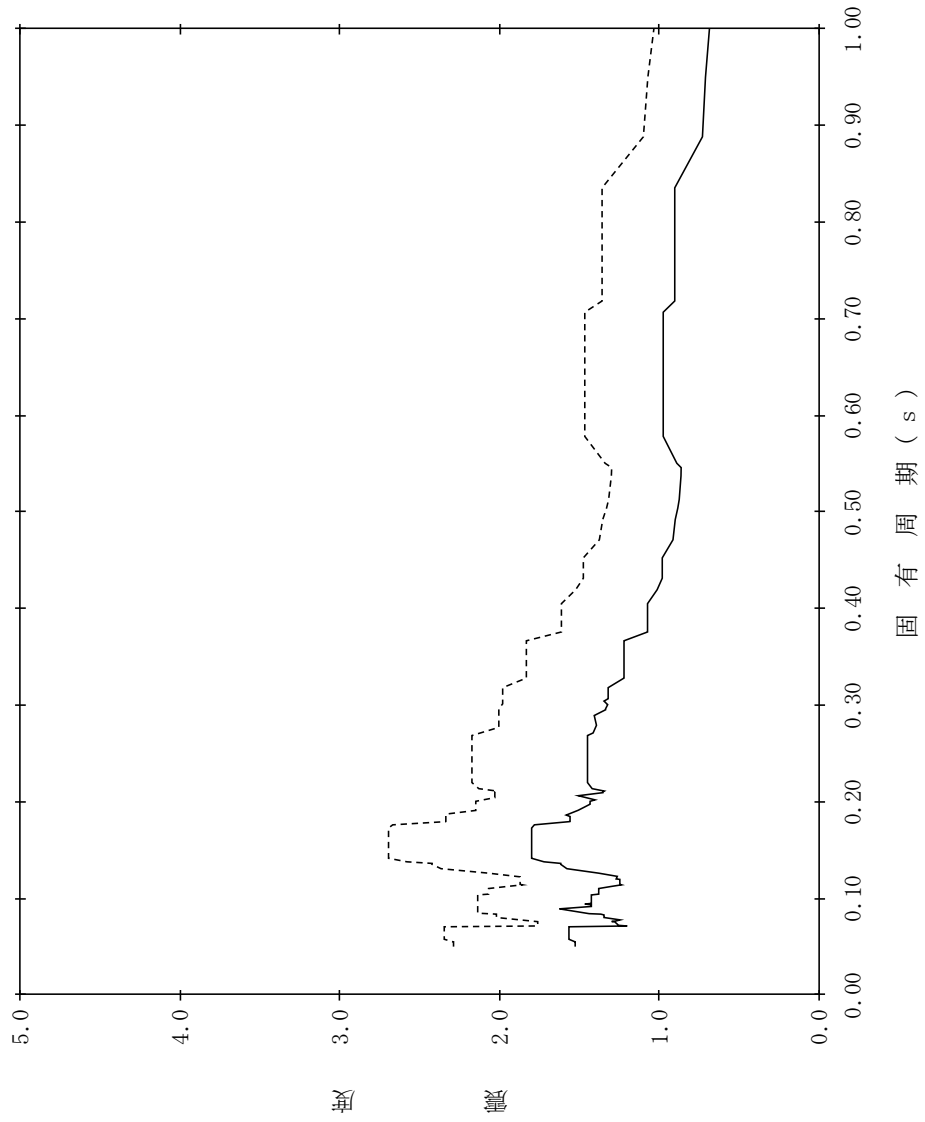
【NS2-CB-SdNS-CB33】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



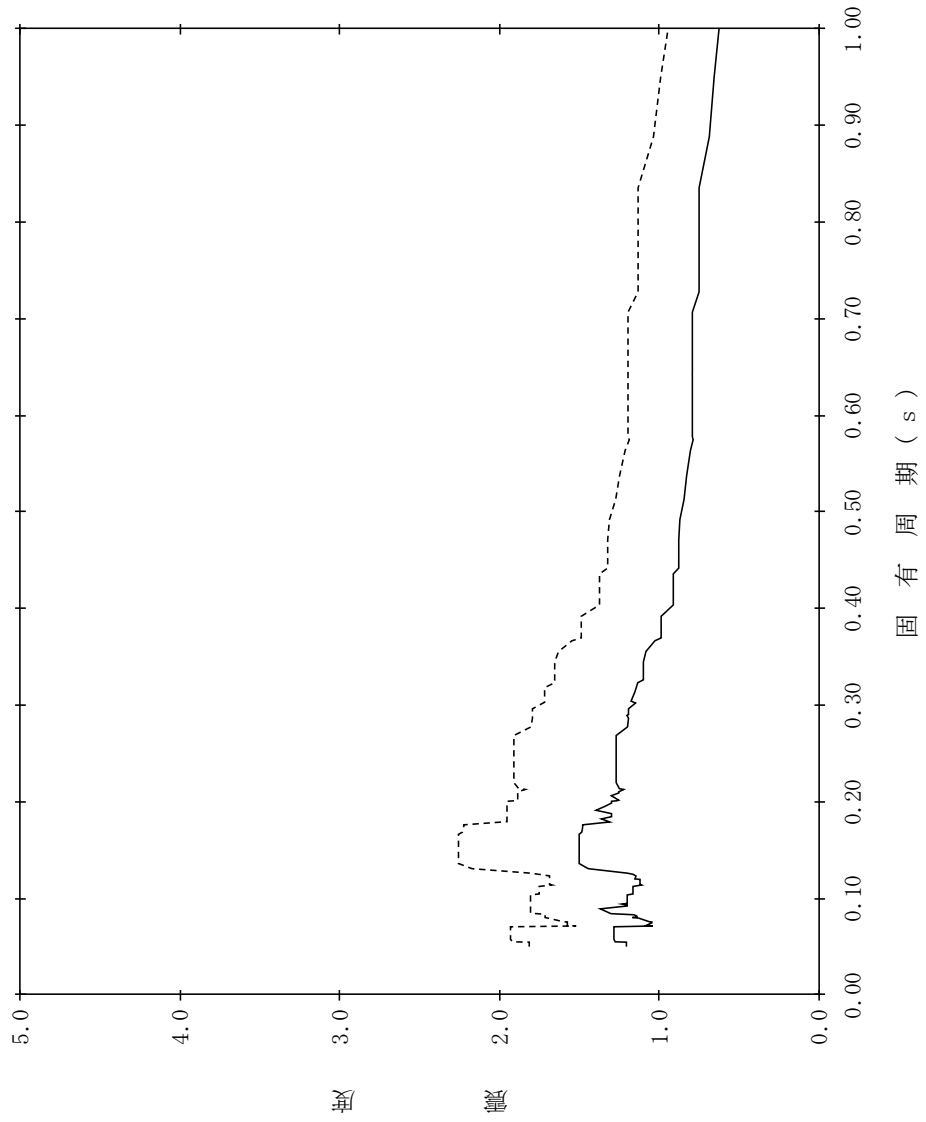
【NS2-CB-SdNS-CB34】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



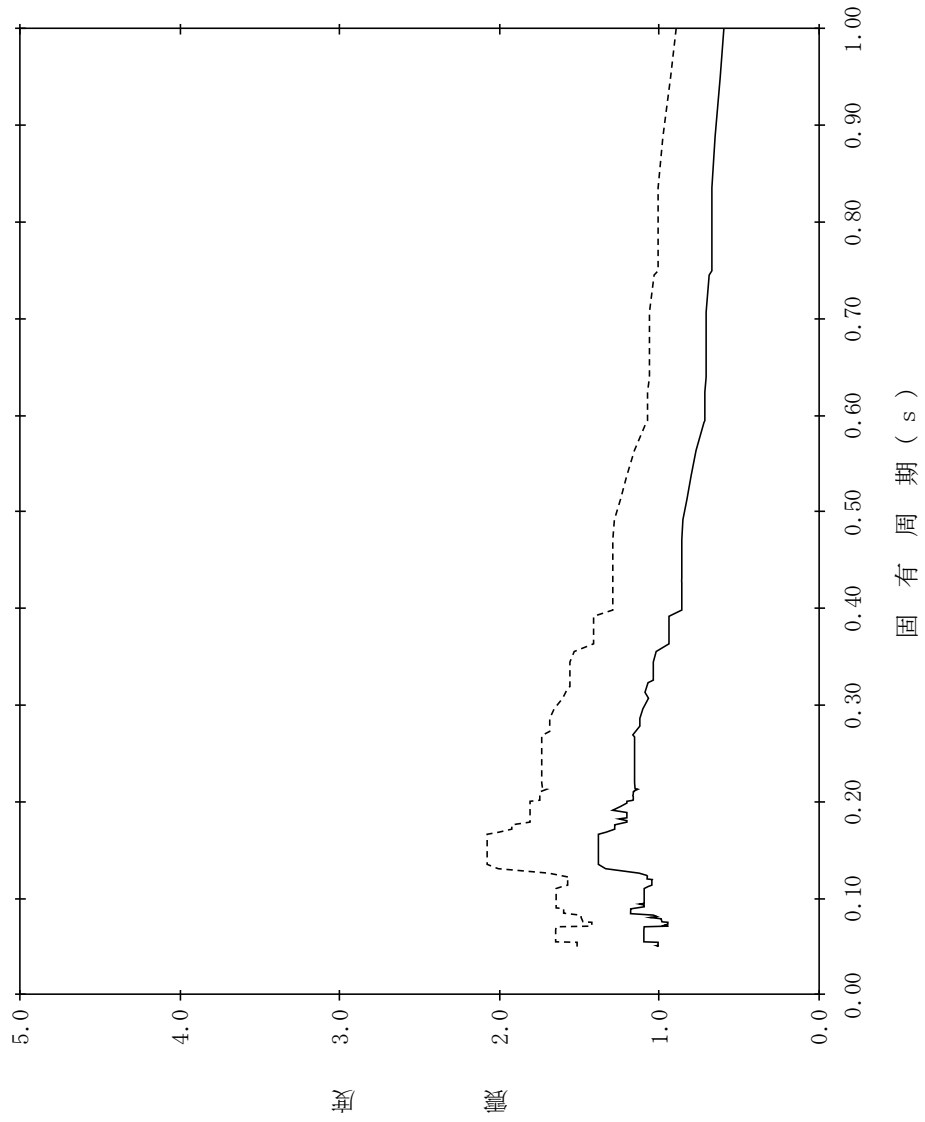
【NS2-CB-SdNS-CB35】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



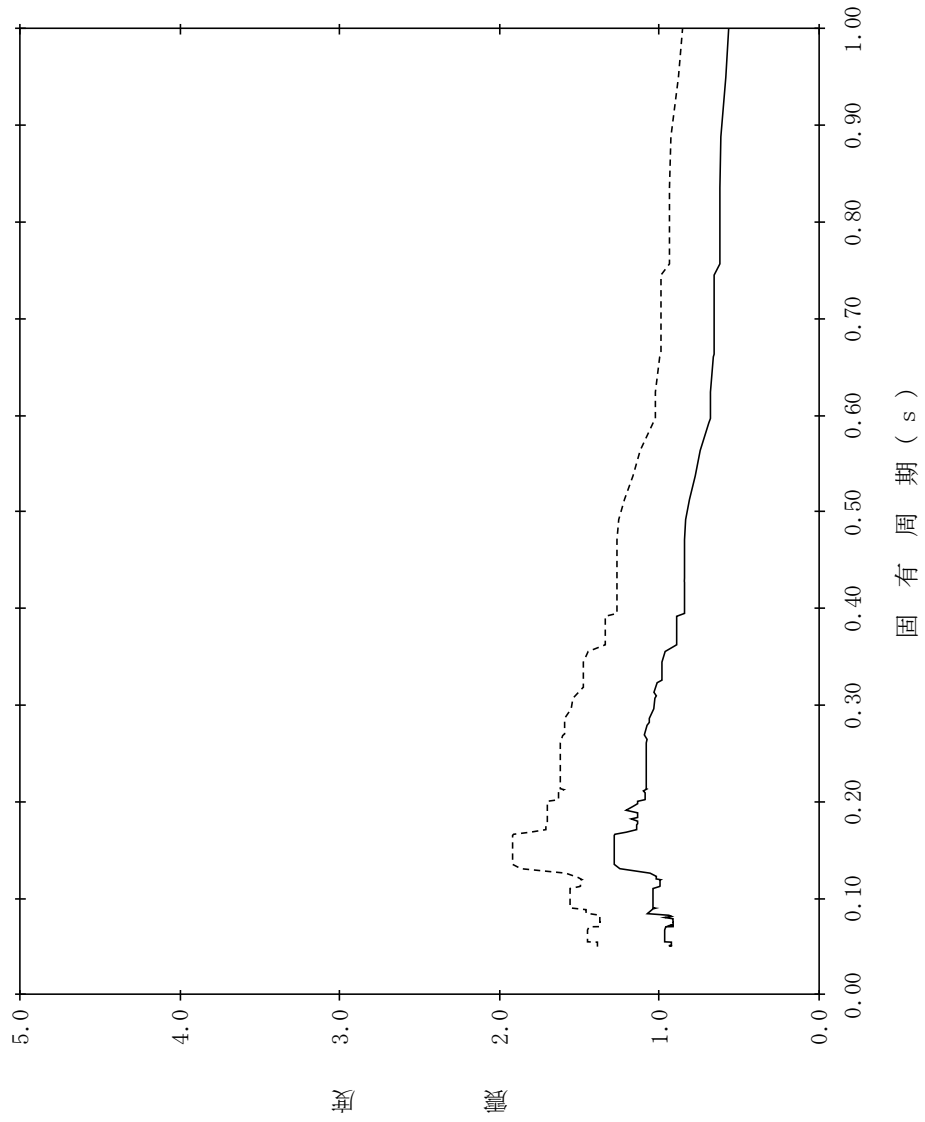
【NS2-CB-SdNS-CB36】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



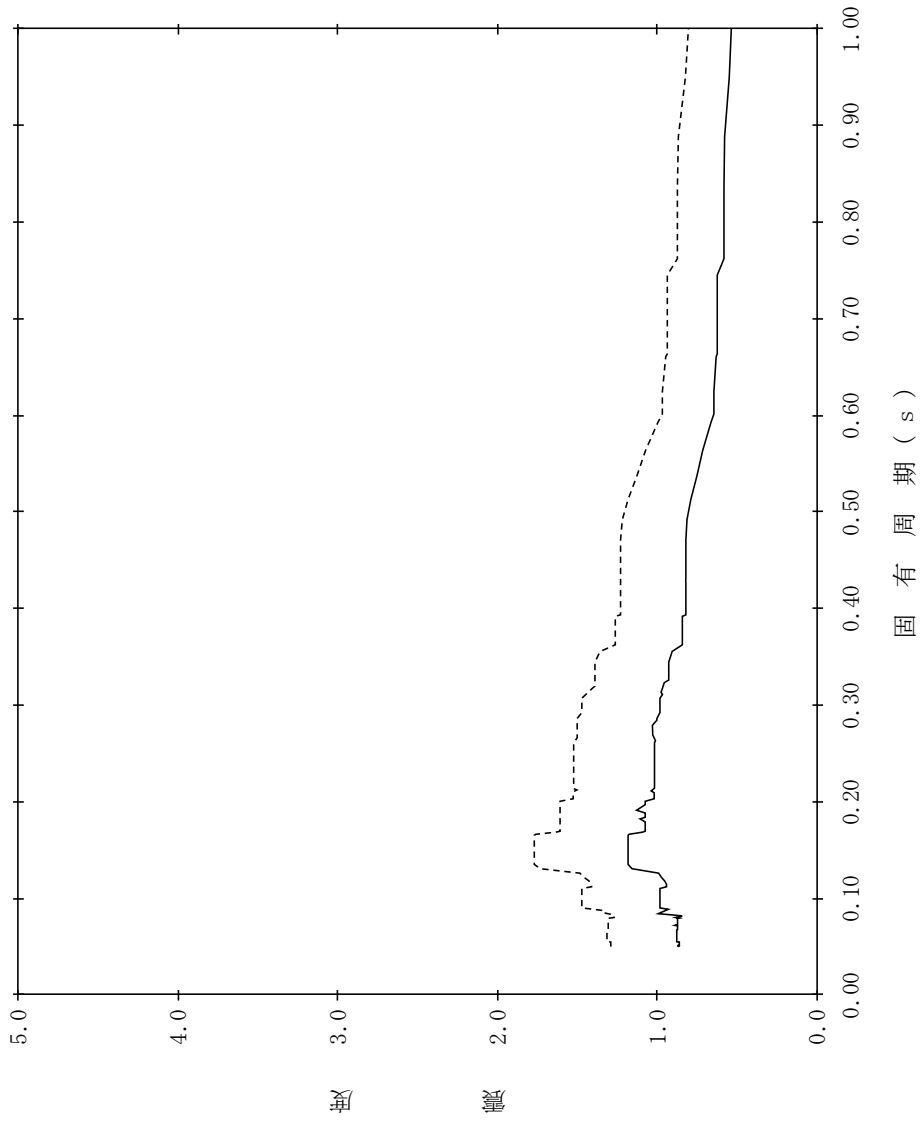
【NS2-CB-SdNS-CB37】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



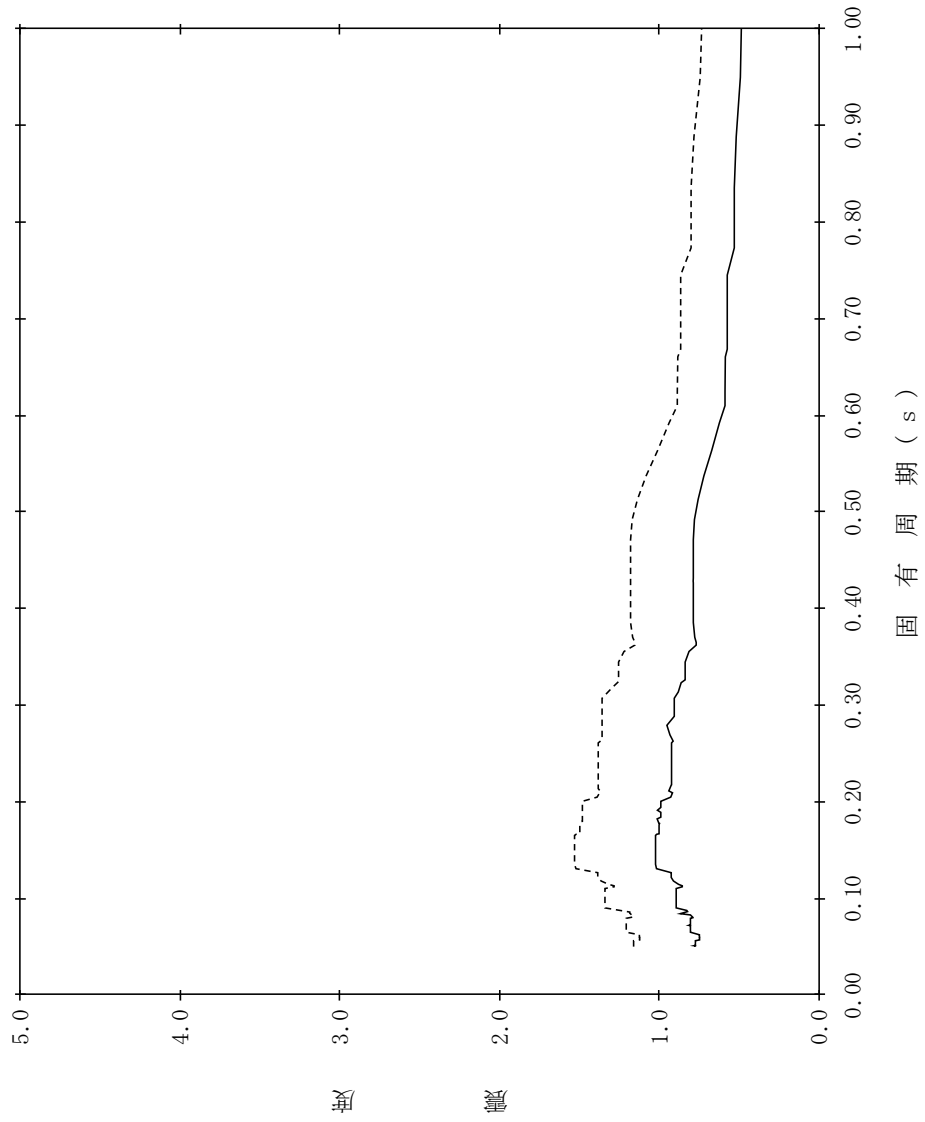
【NS2-CB-SdNS-CB38】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



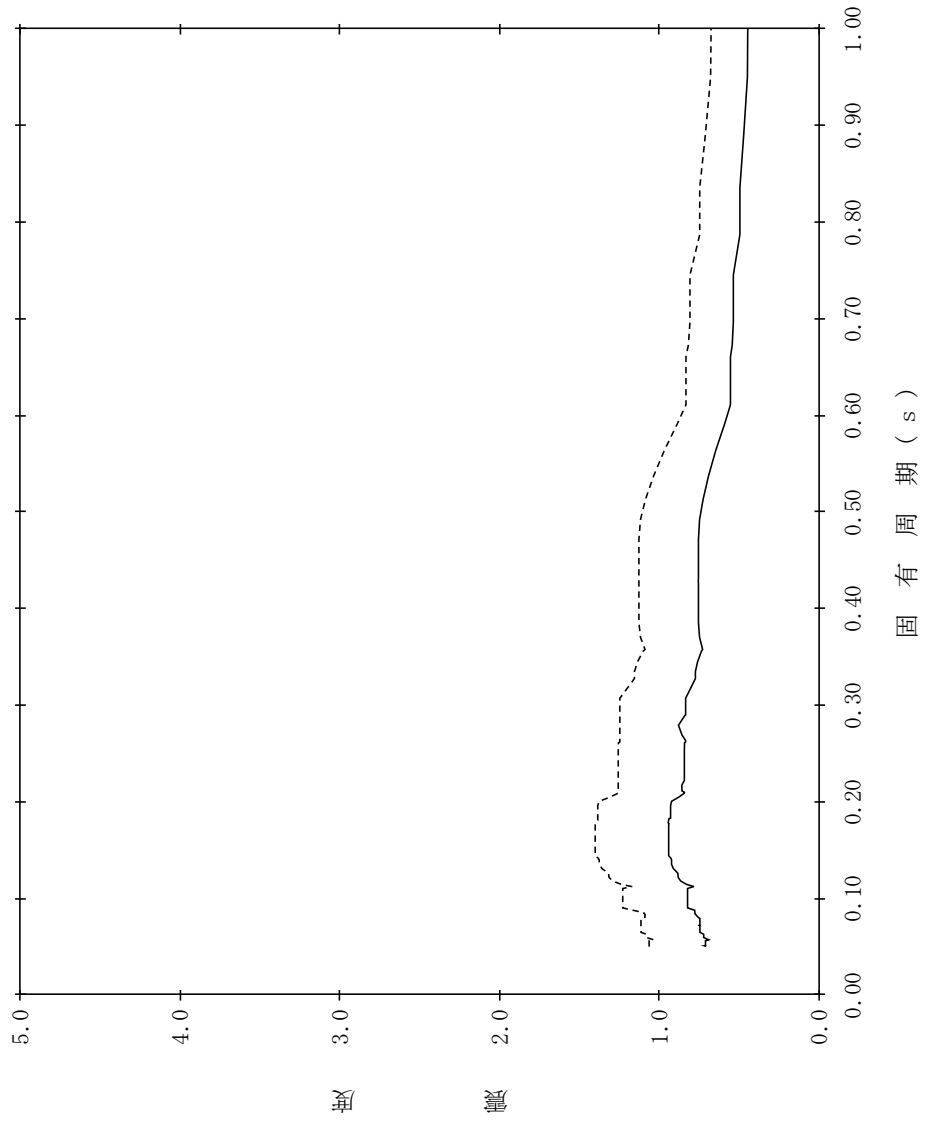
【NS2-CB-SdNS-CB39】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



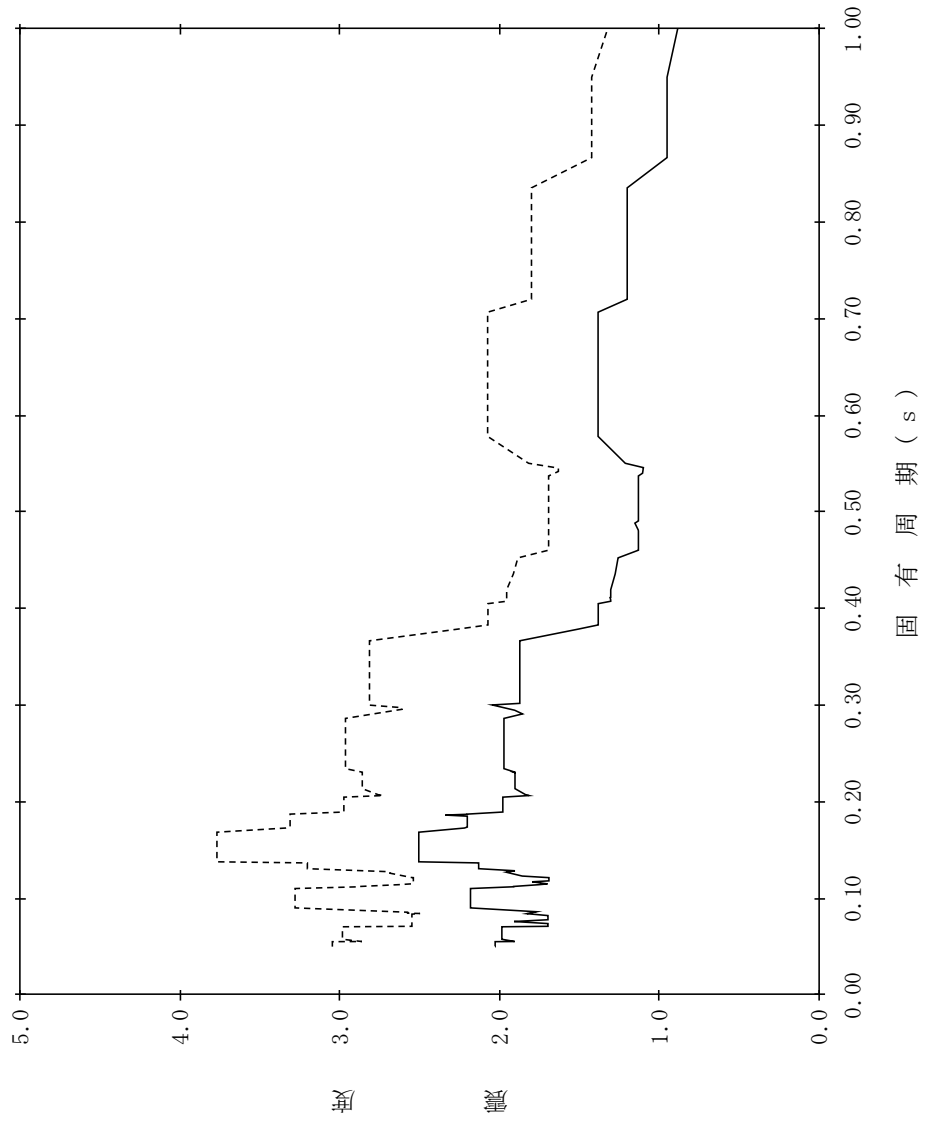
【NS2-CB-SdNS-CB40】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



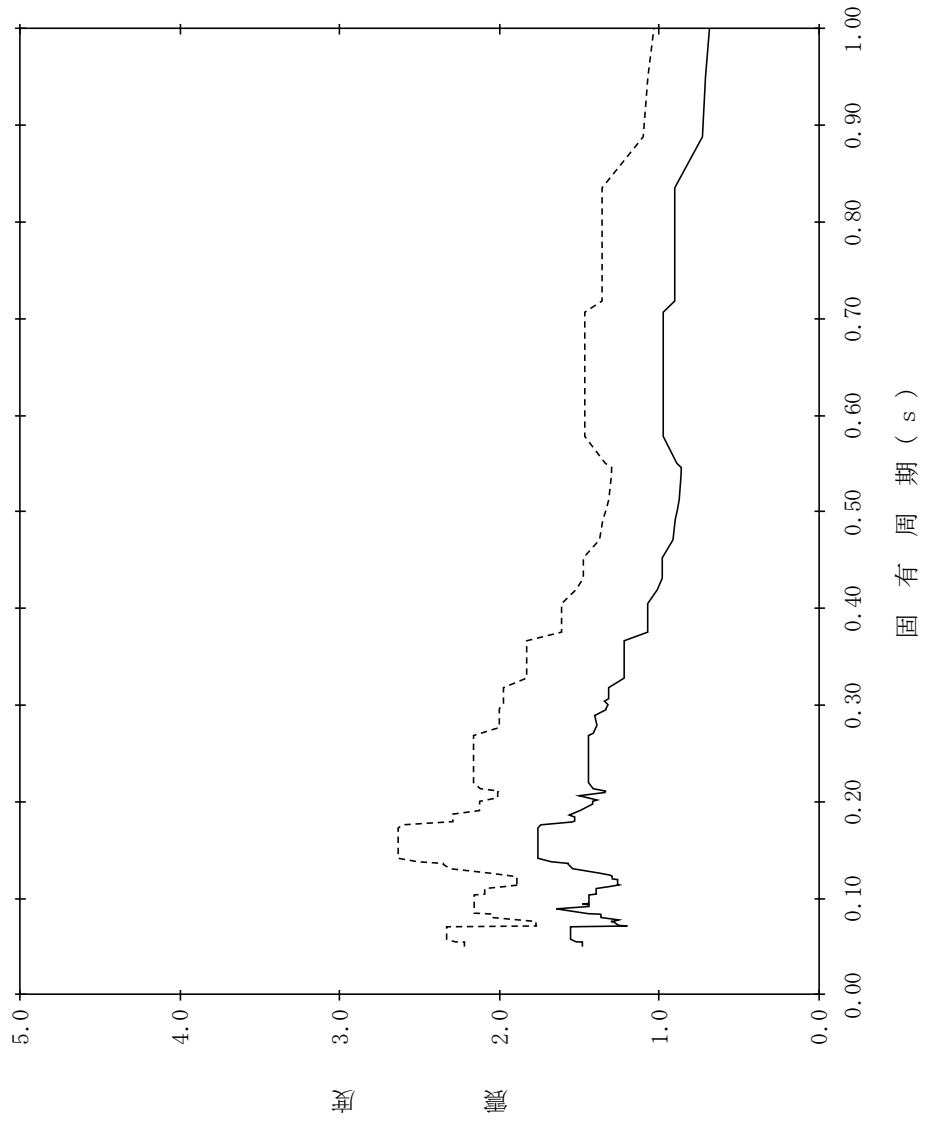
【NS2-CB-SdNS-CB41】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



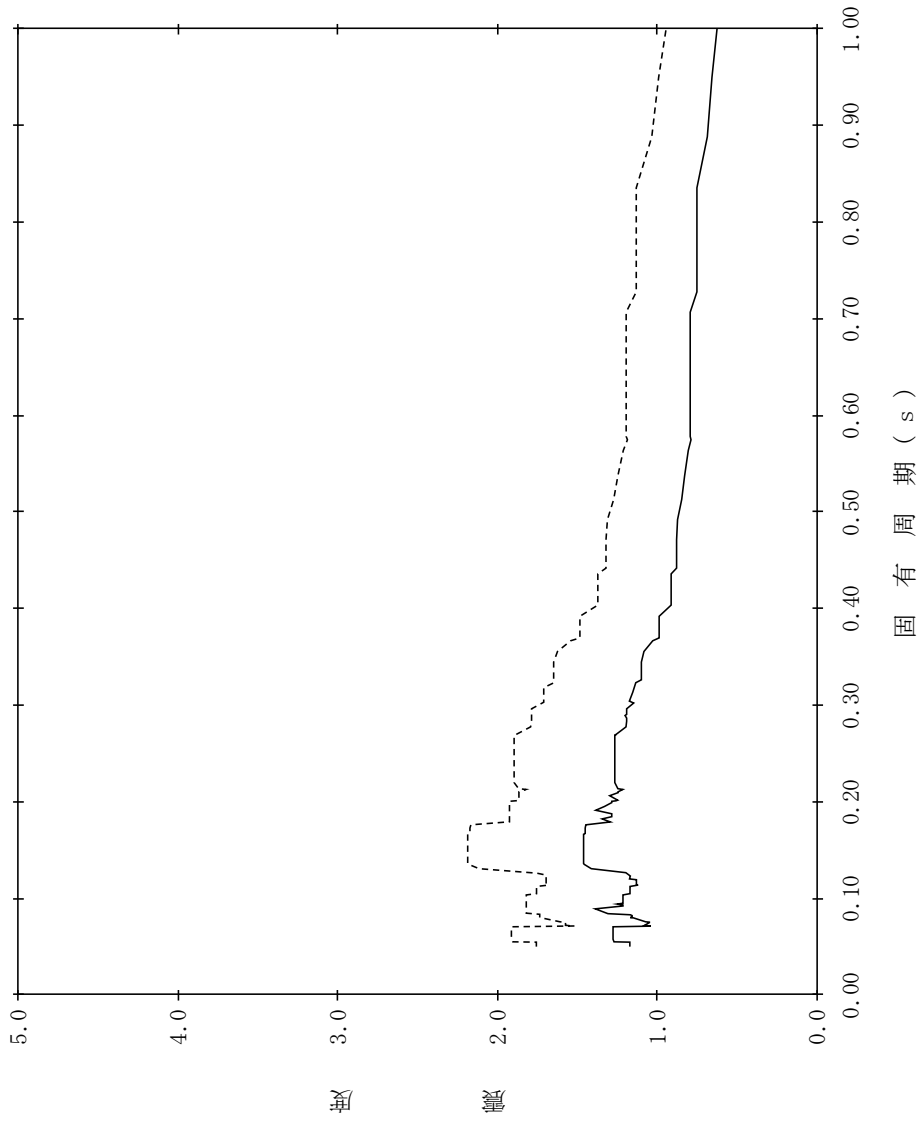
【NS2-CB-SdNS-CB42】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



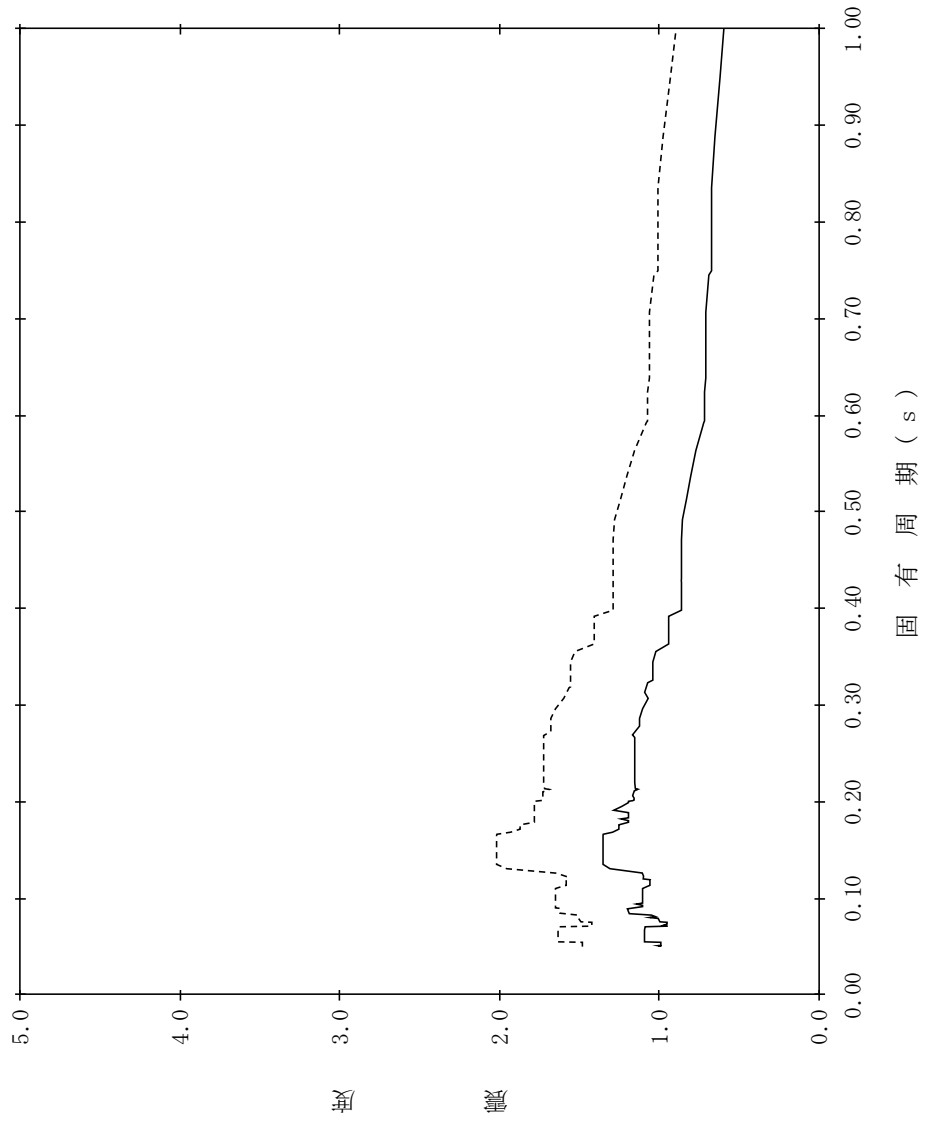
【NS2-CB-SdNS-CB43】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



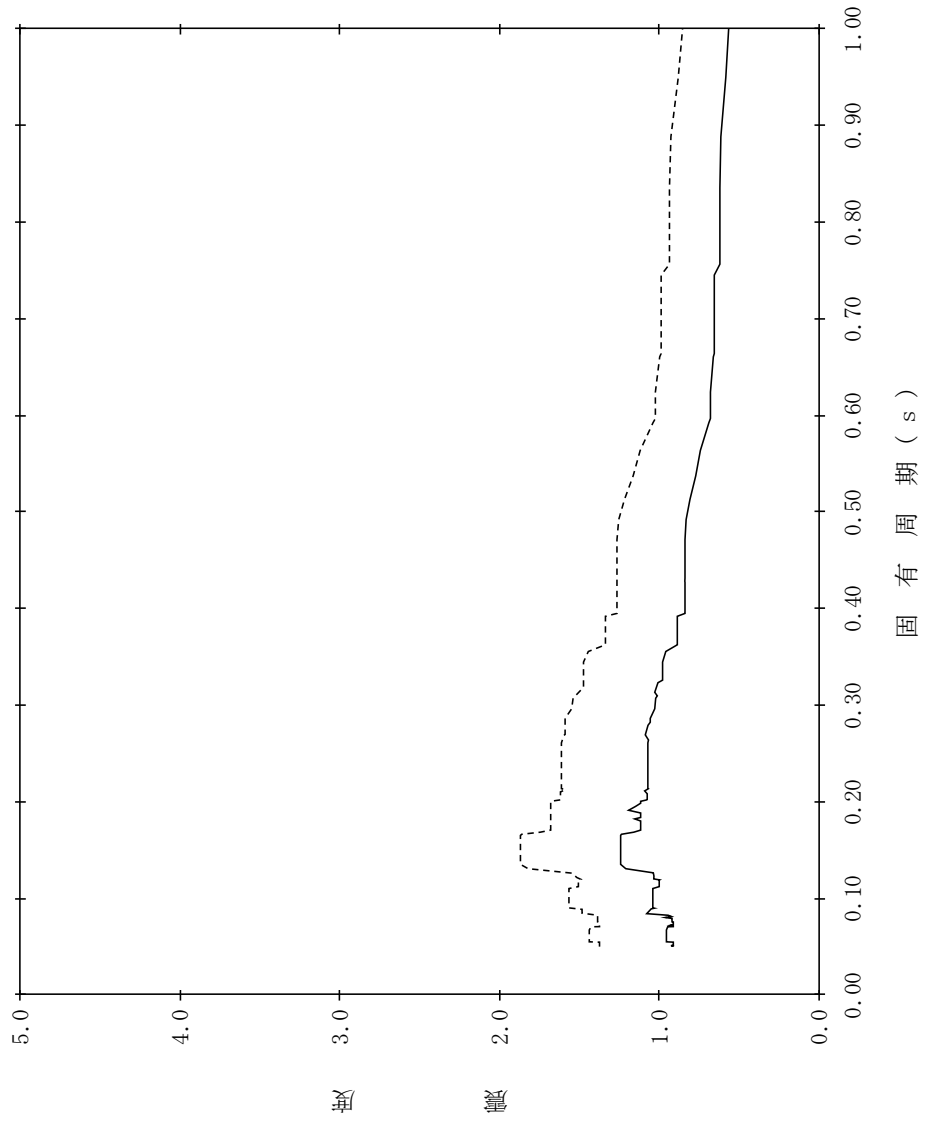
【NS2-CB-SdNS-CB44】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



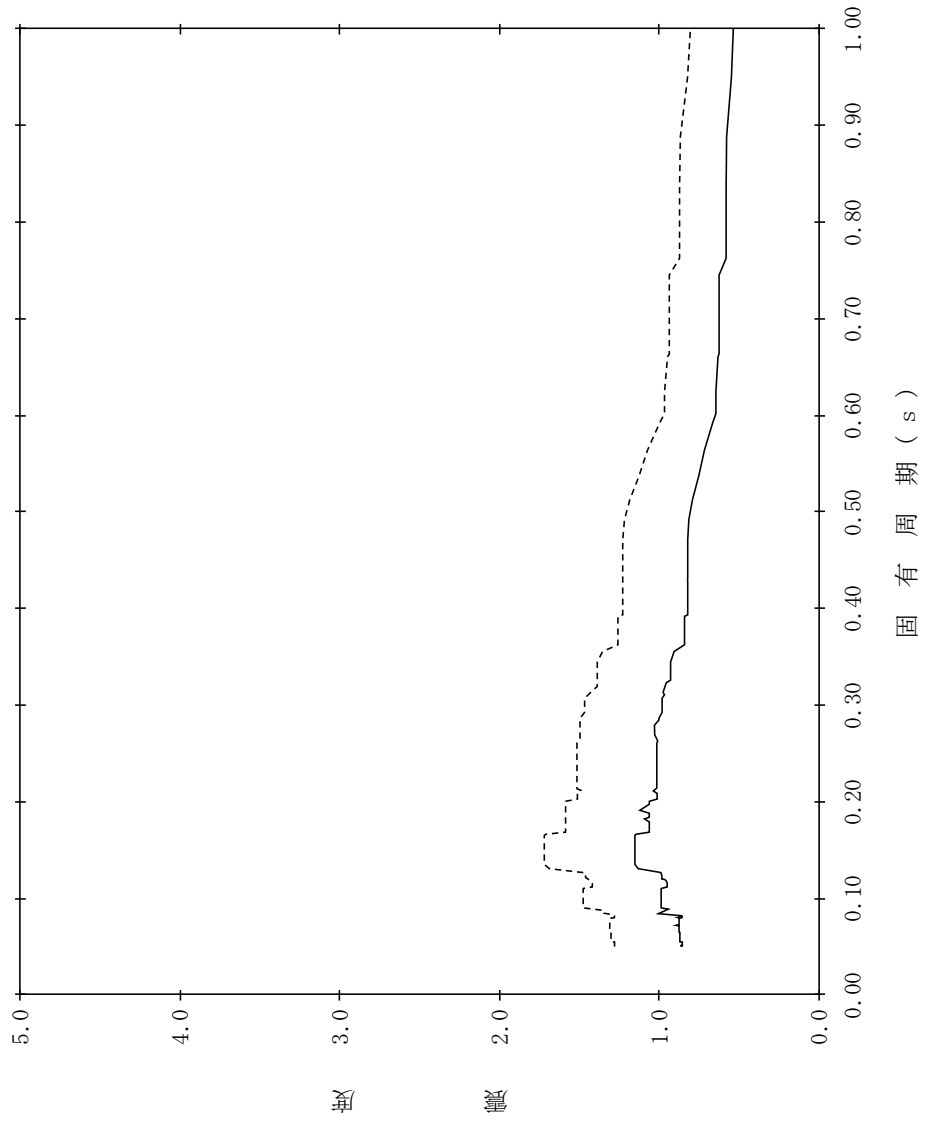
【NS2-CB-SdNS-CB45】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



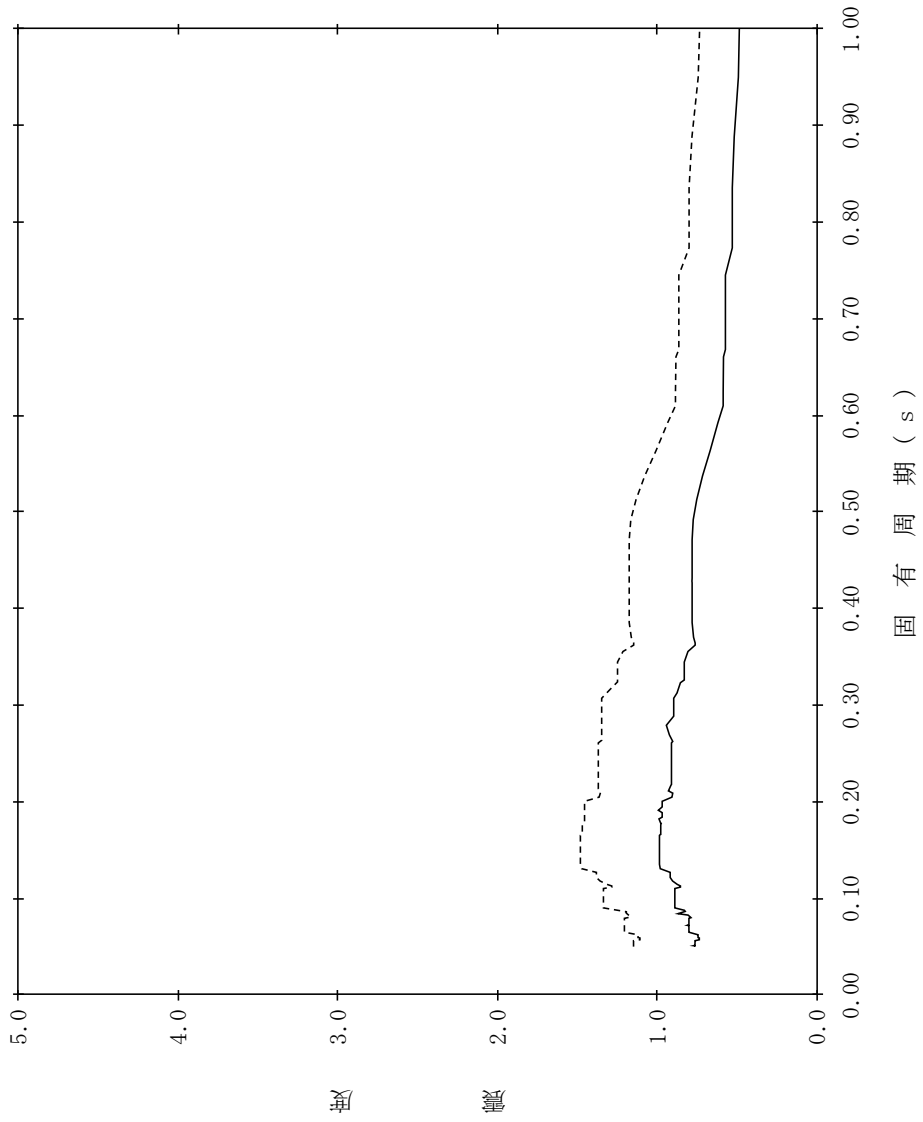
【NS2-CB-SdNS-CB46】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



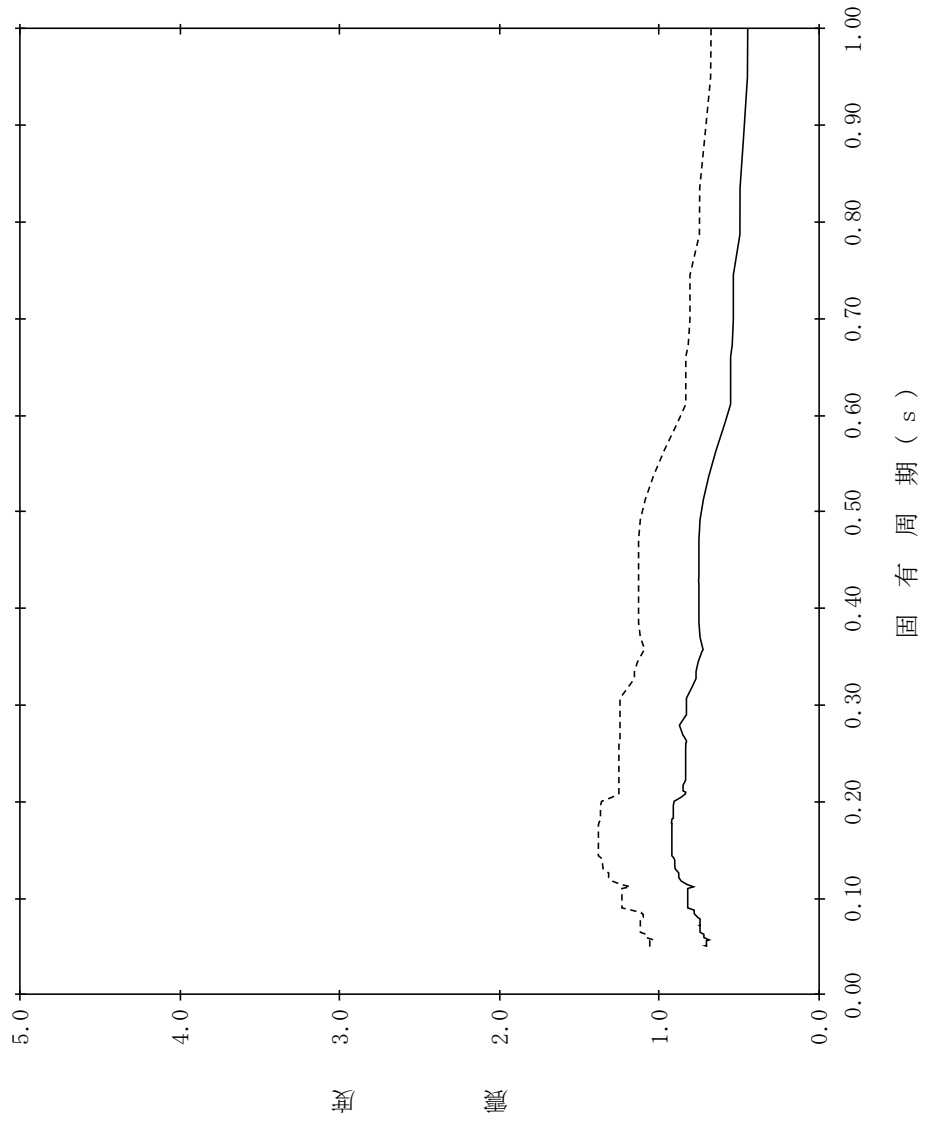
【NS2-CB-SdNS-CB47】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



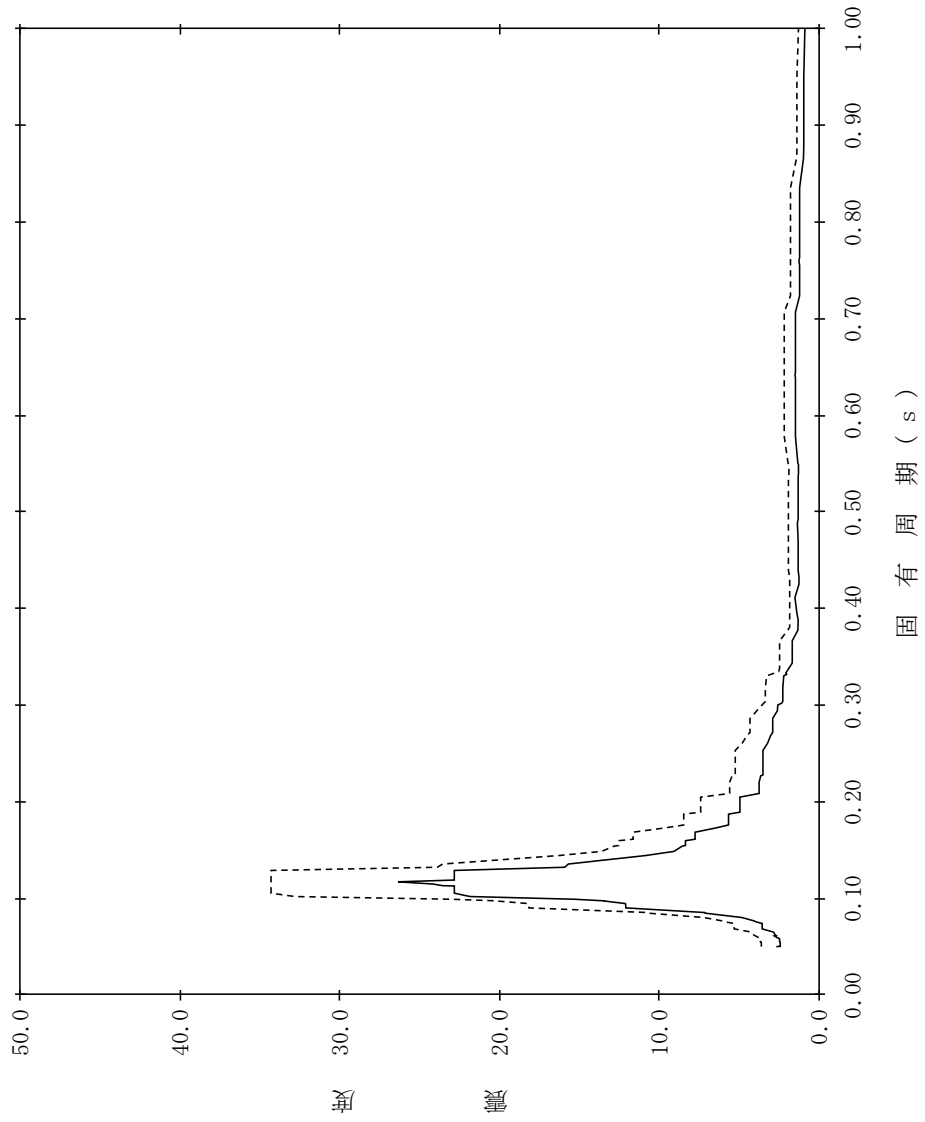
【NS2-CB-SdNS-CB48】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



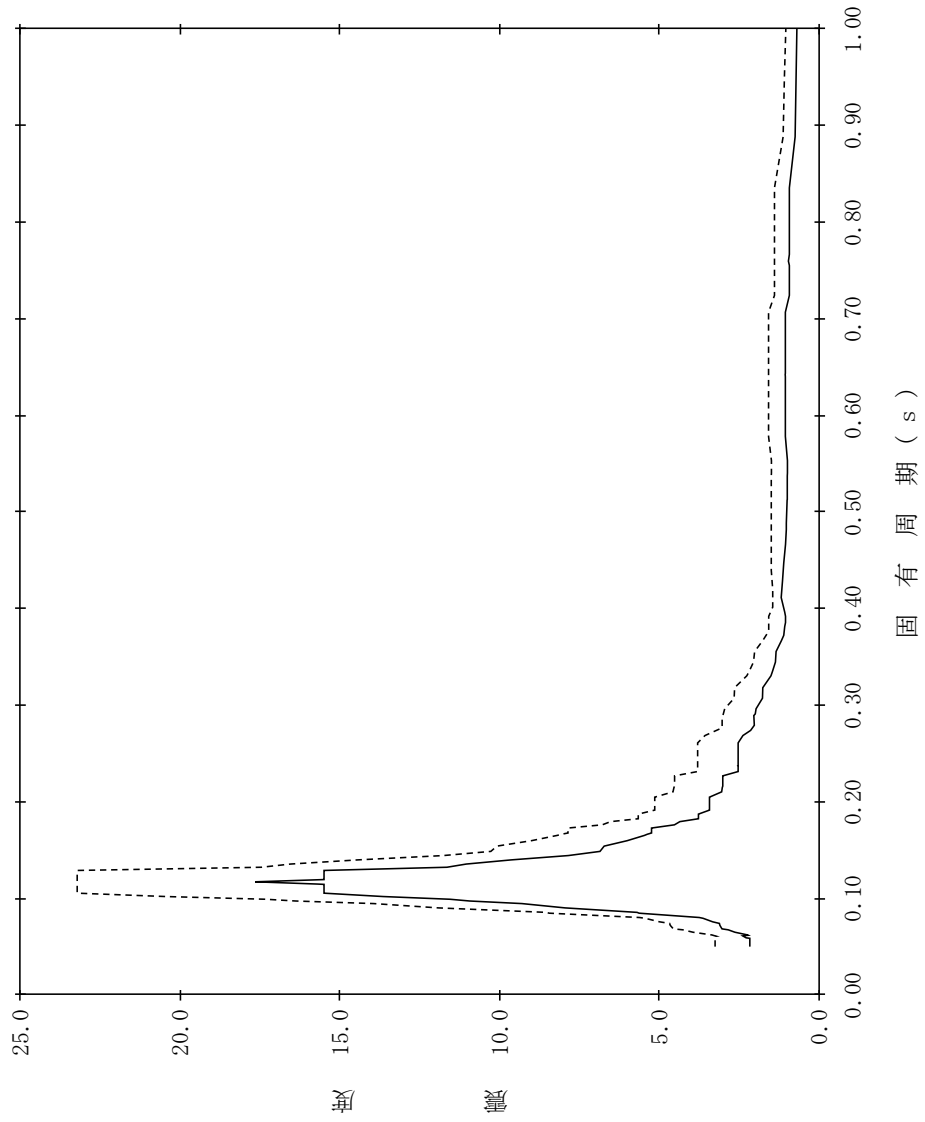
【NS2-CB-SdEW-CB1】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



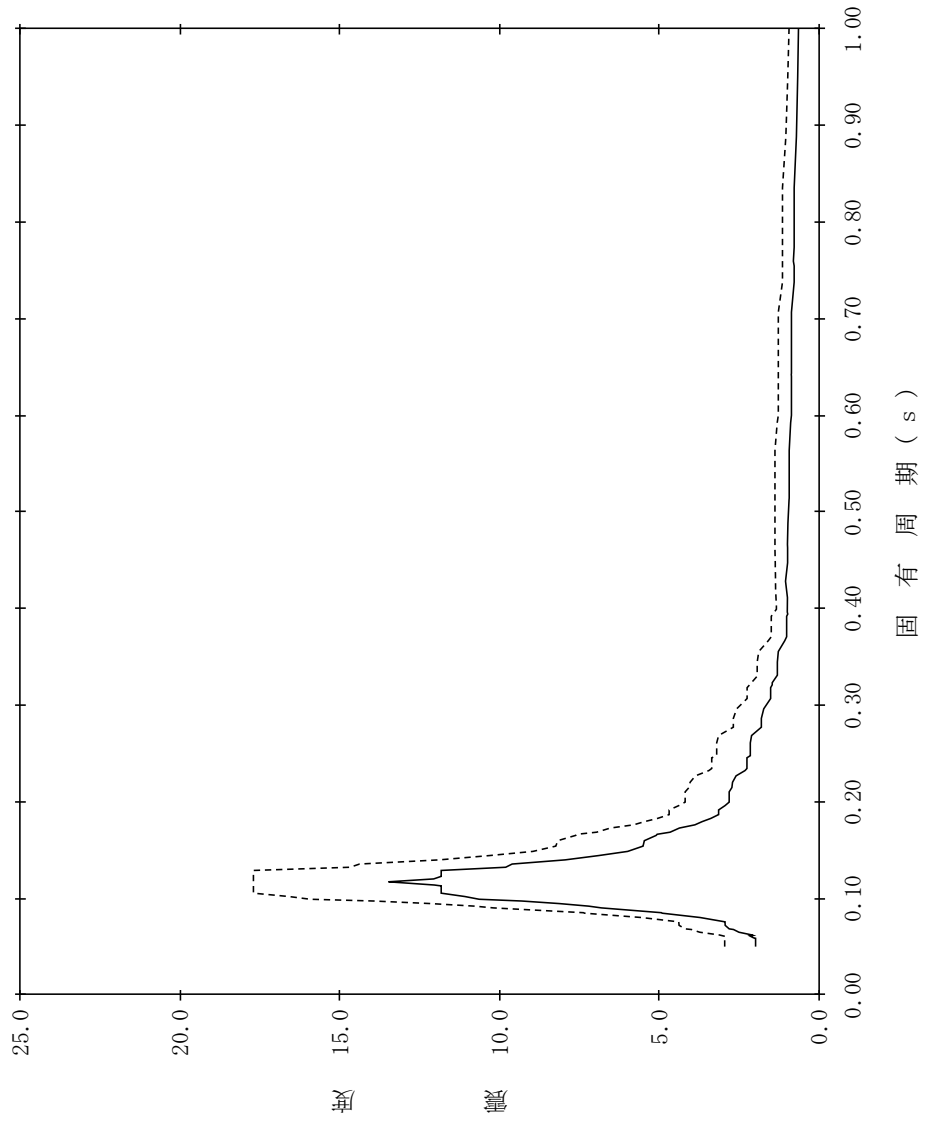
【NS2-CB-SdEW-CB2】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



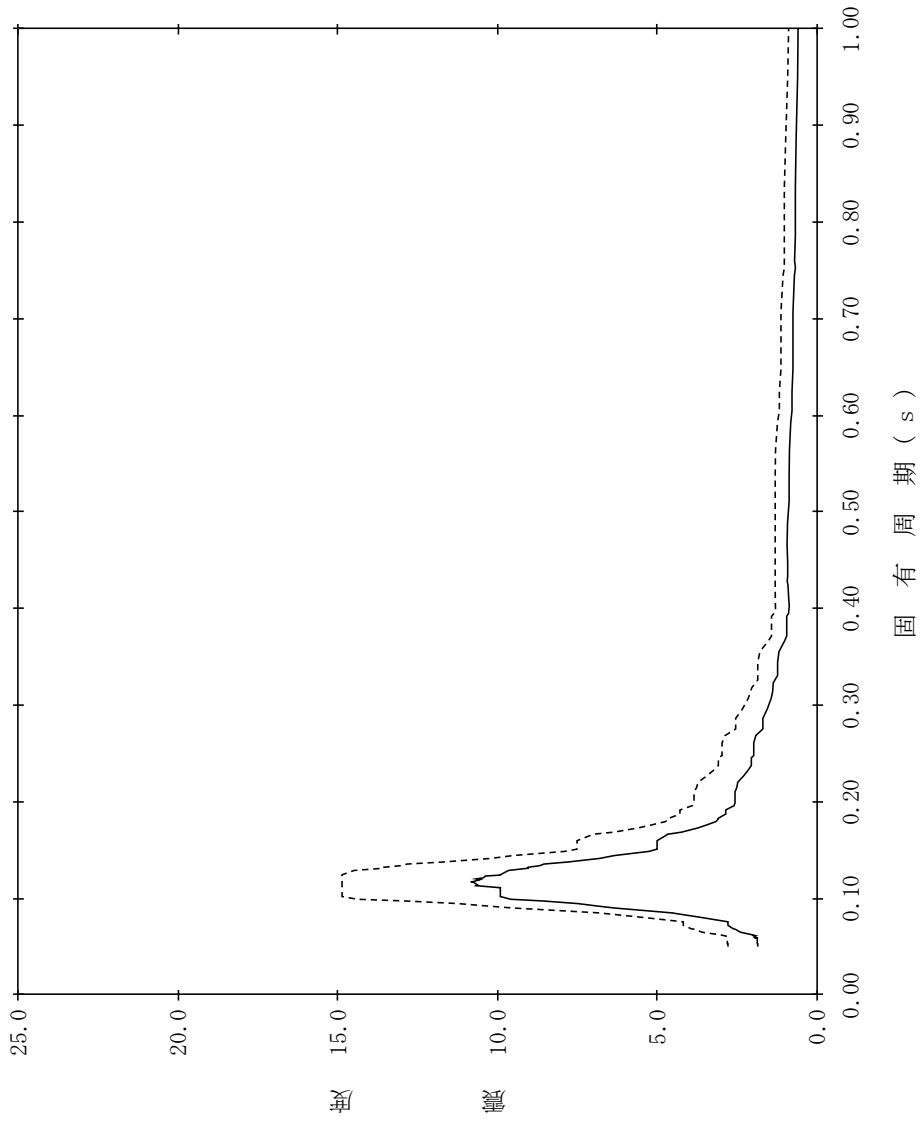
【NS2-CB-SdEW-CB3】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



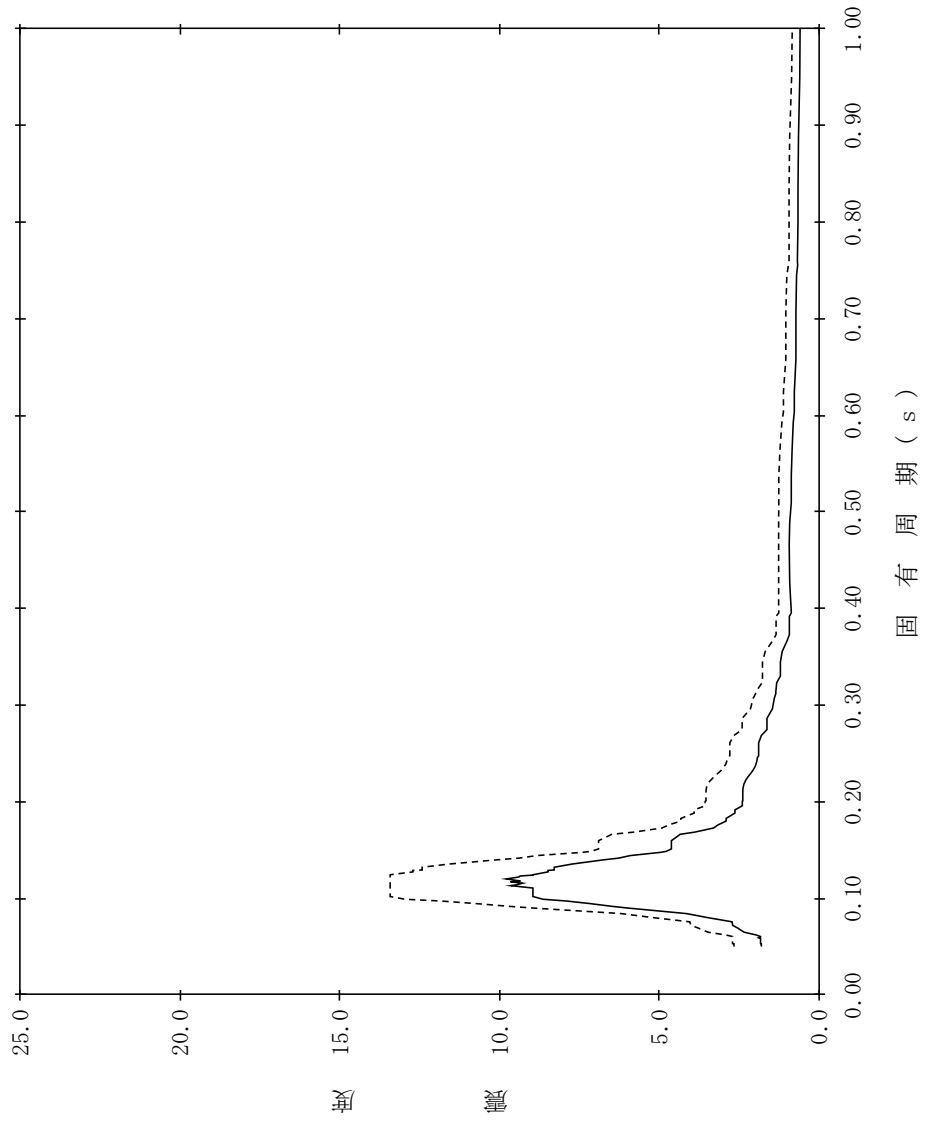
【NS2-CB-SdEW-CB4】

構造物名：制御室建物
標高：EL22.050m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



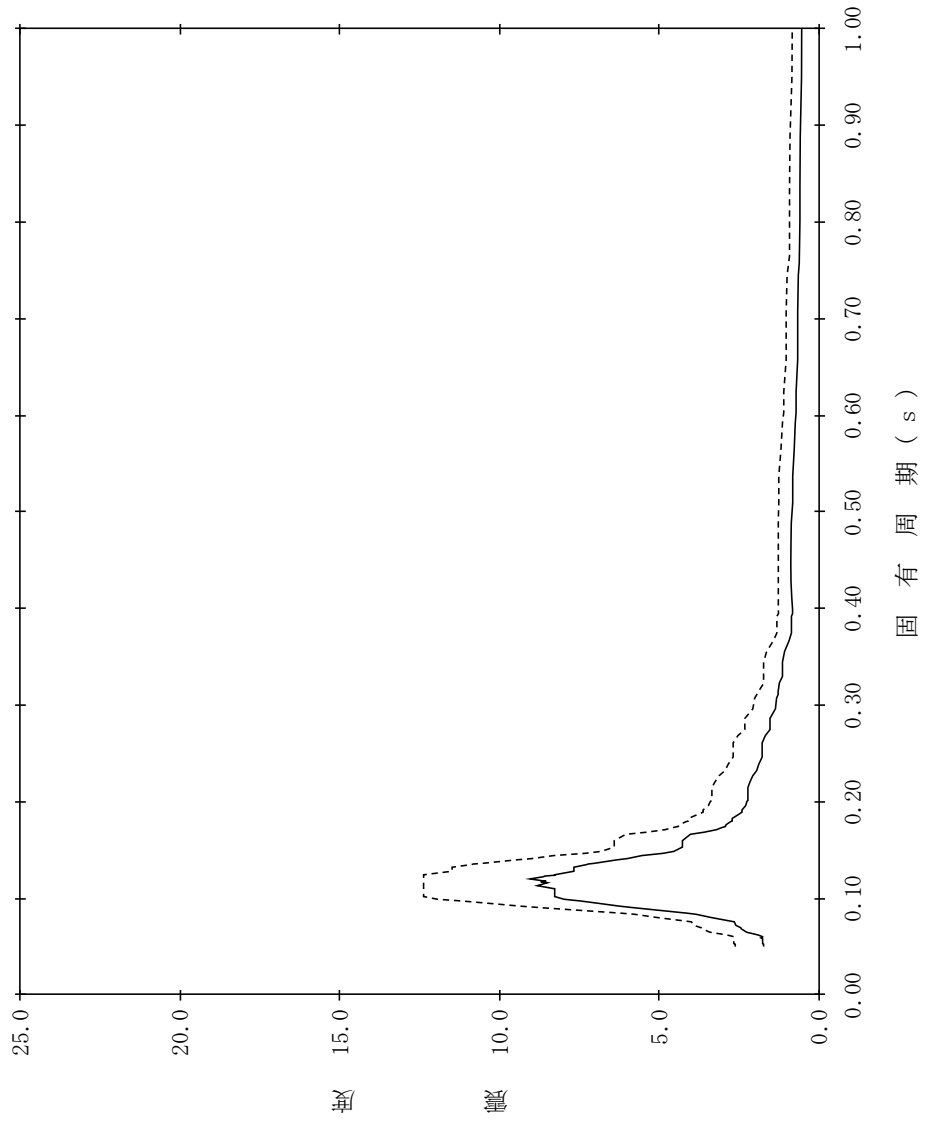
【NS2-CB-SdEW-CB5】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



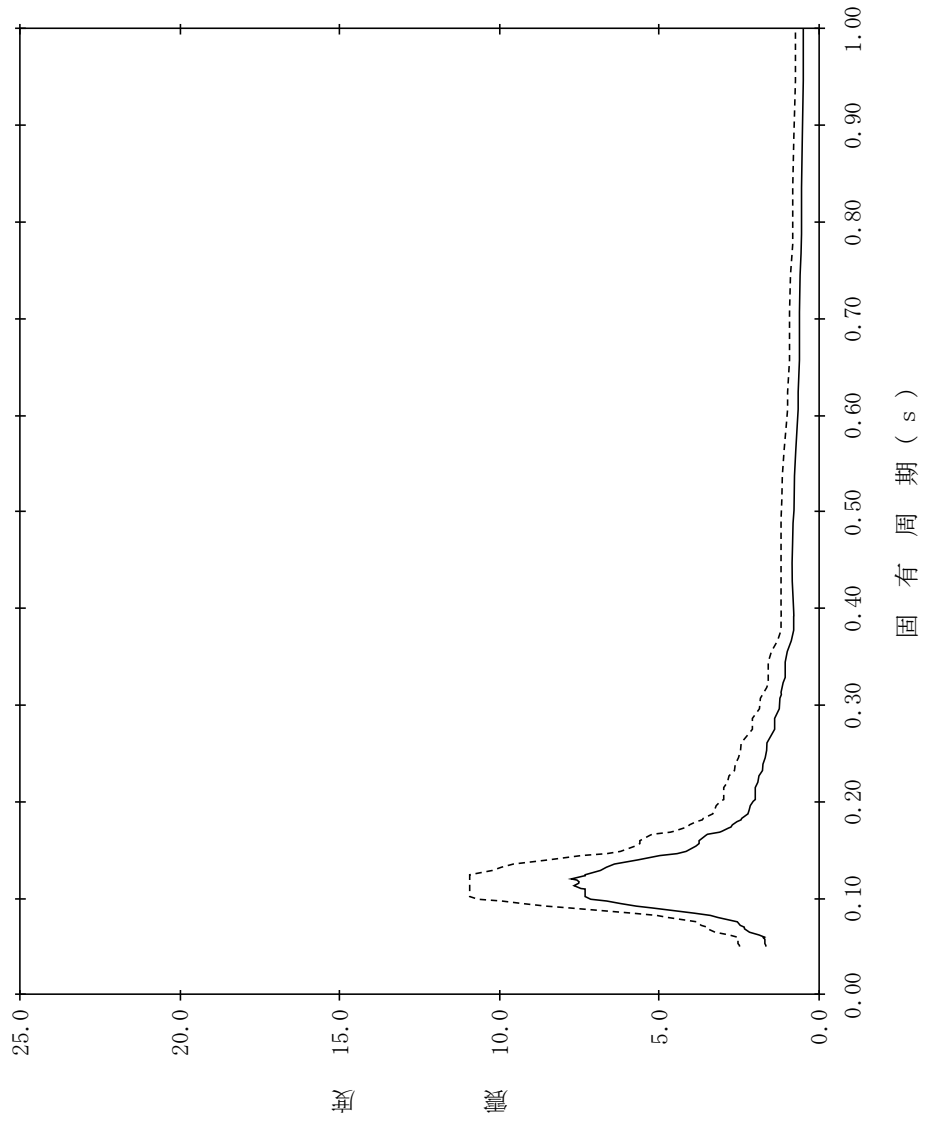
【NS2-CB-SdEW-CB6】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



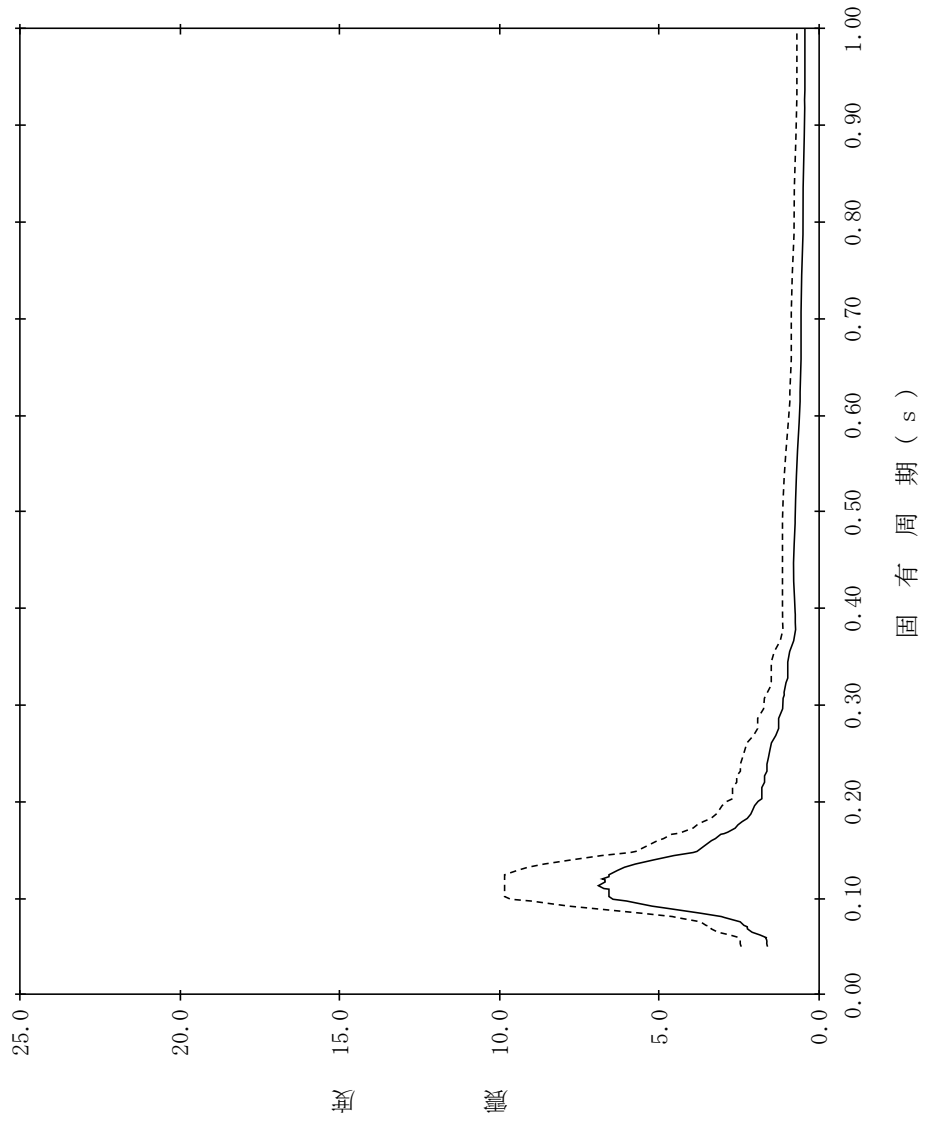
【NS2-CB-SdEW-CB7】

構造物名：制御室建物
標高：EL22.050m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



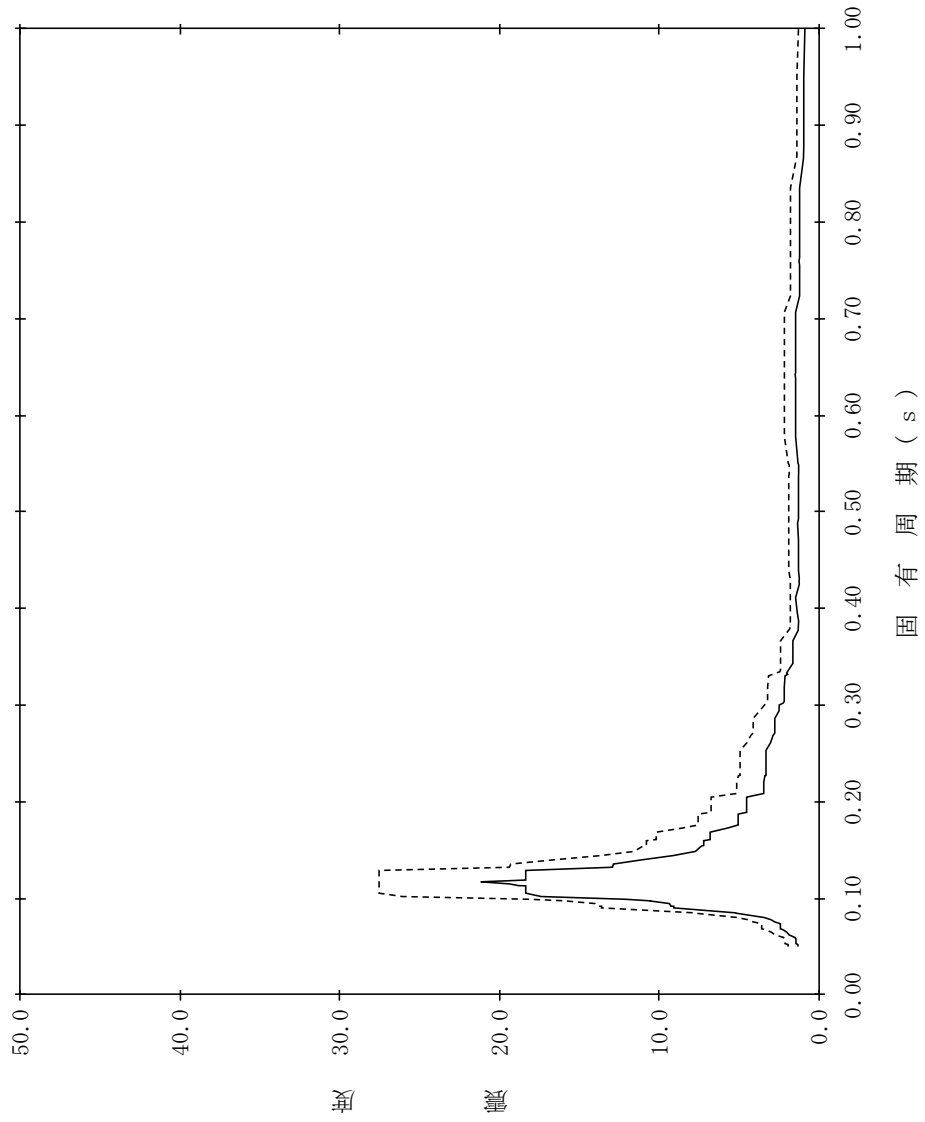
【NS2-CB-SdEW-CB8】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



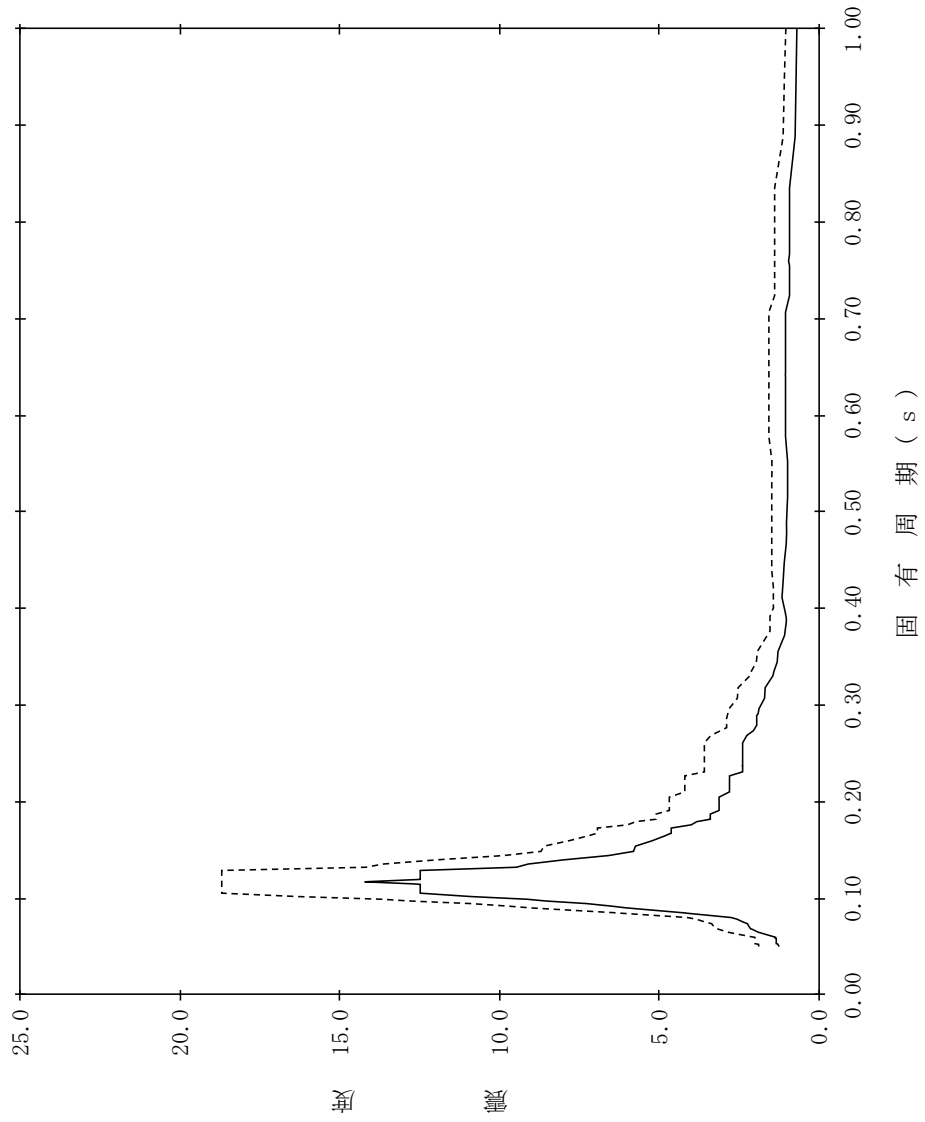
【NS2-CB-SdEW-CB9】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



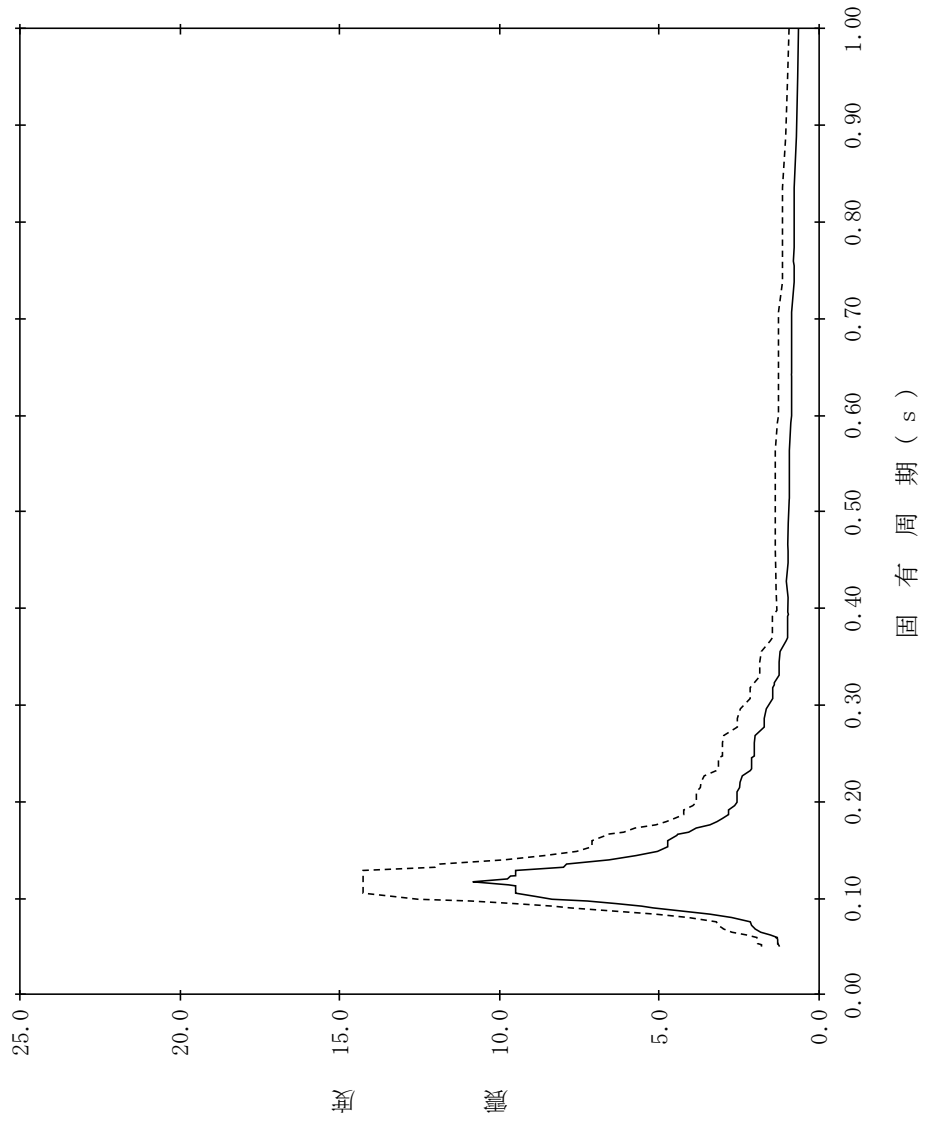
【NS2-CB-SdEW-CB10】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



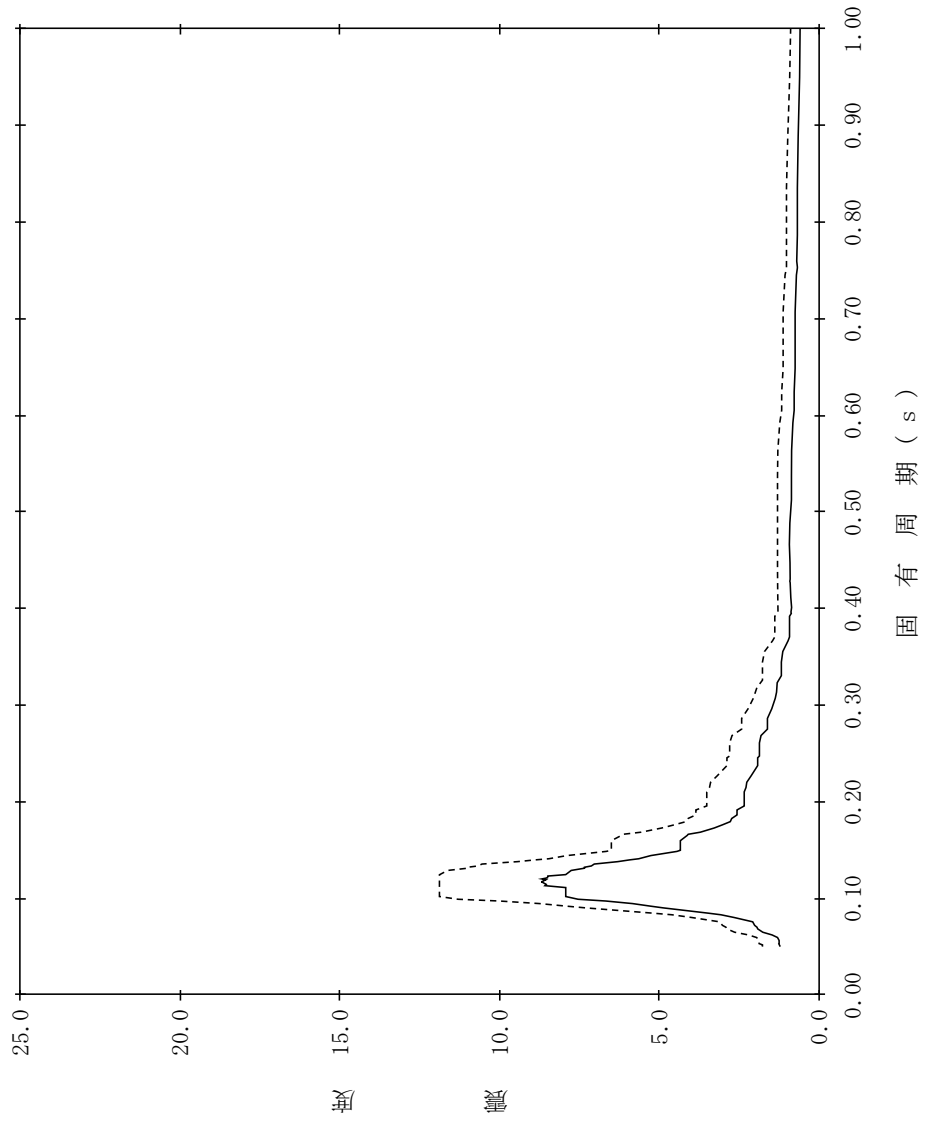
【NS2-CB-SdEW-CB11】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



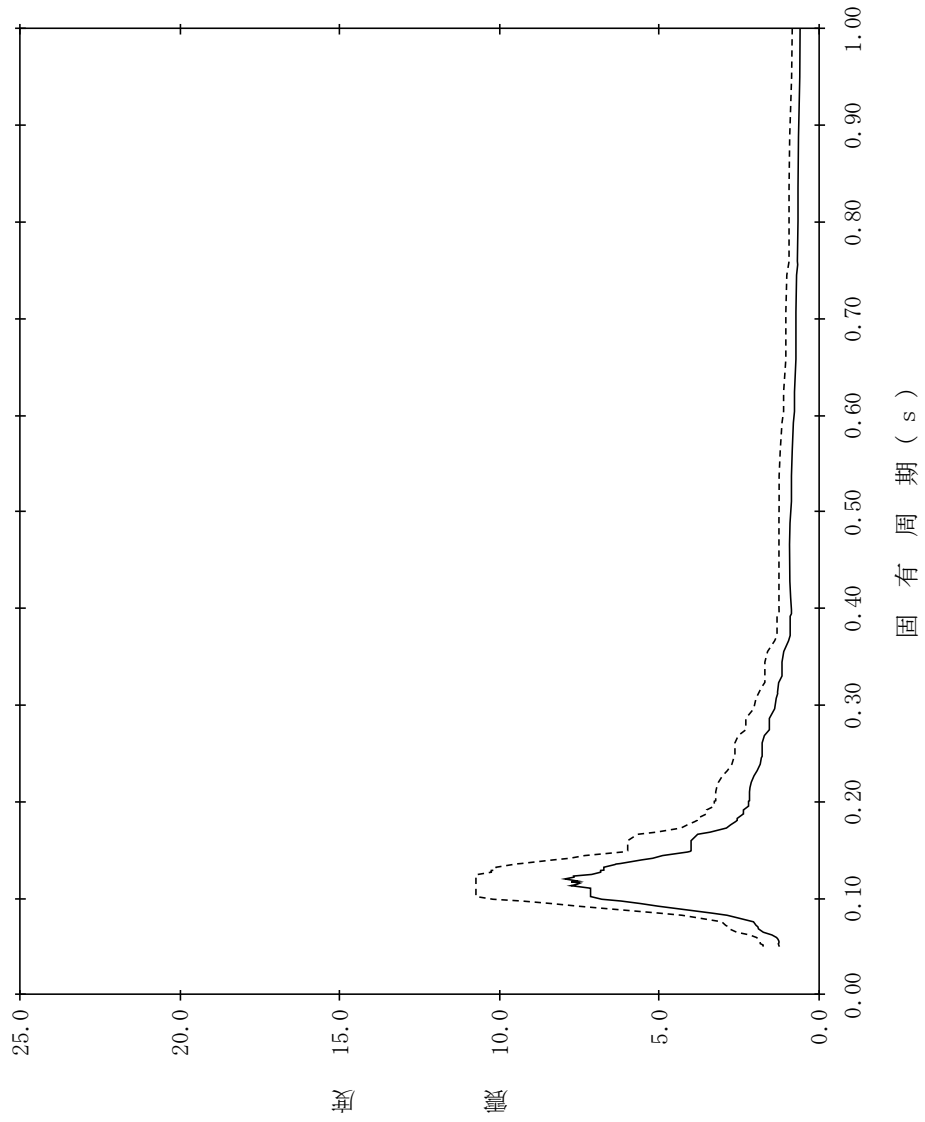
【NS2-CB-SdEW-CB12】

構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



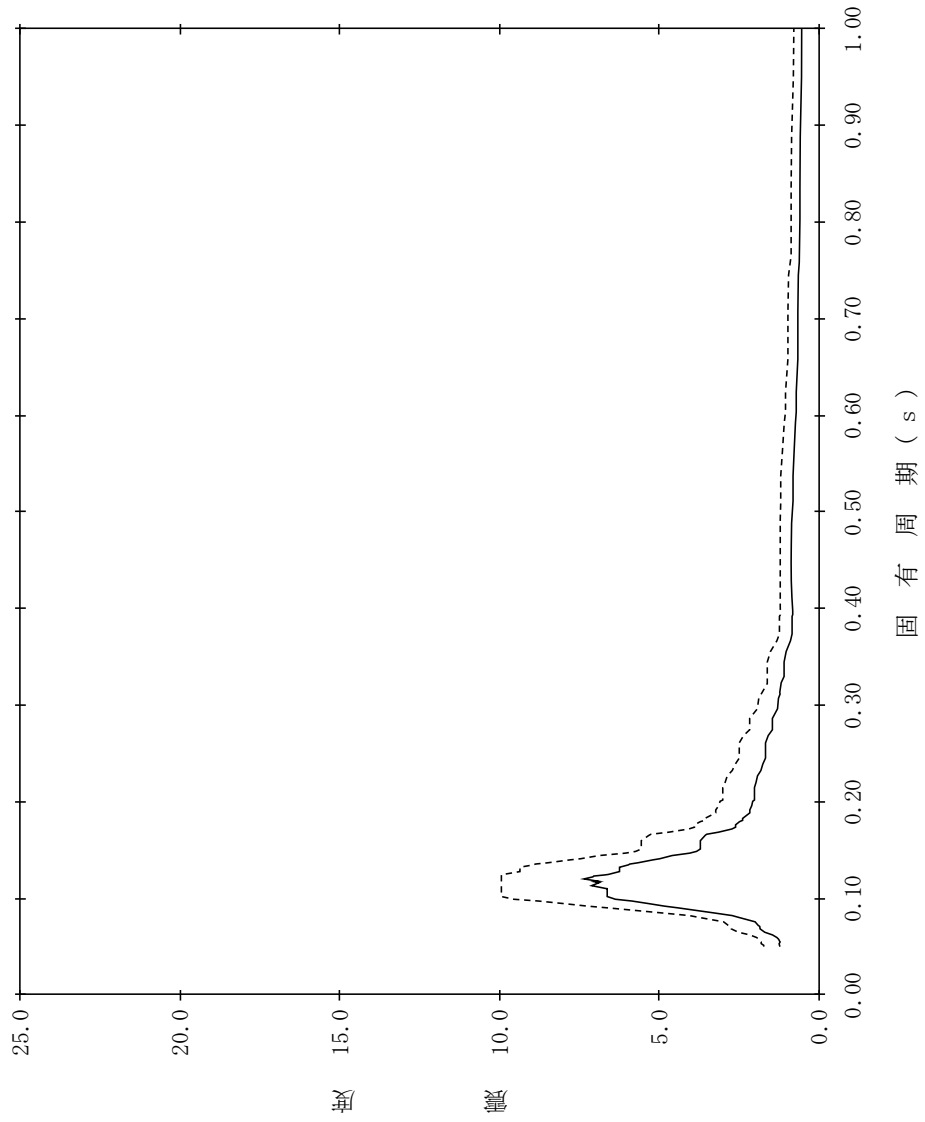
【NS2-CB-SdEW-CB13】

構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



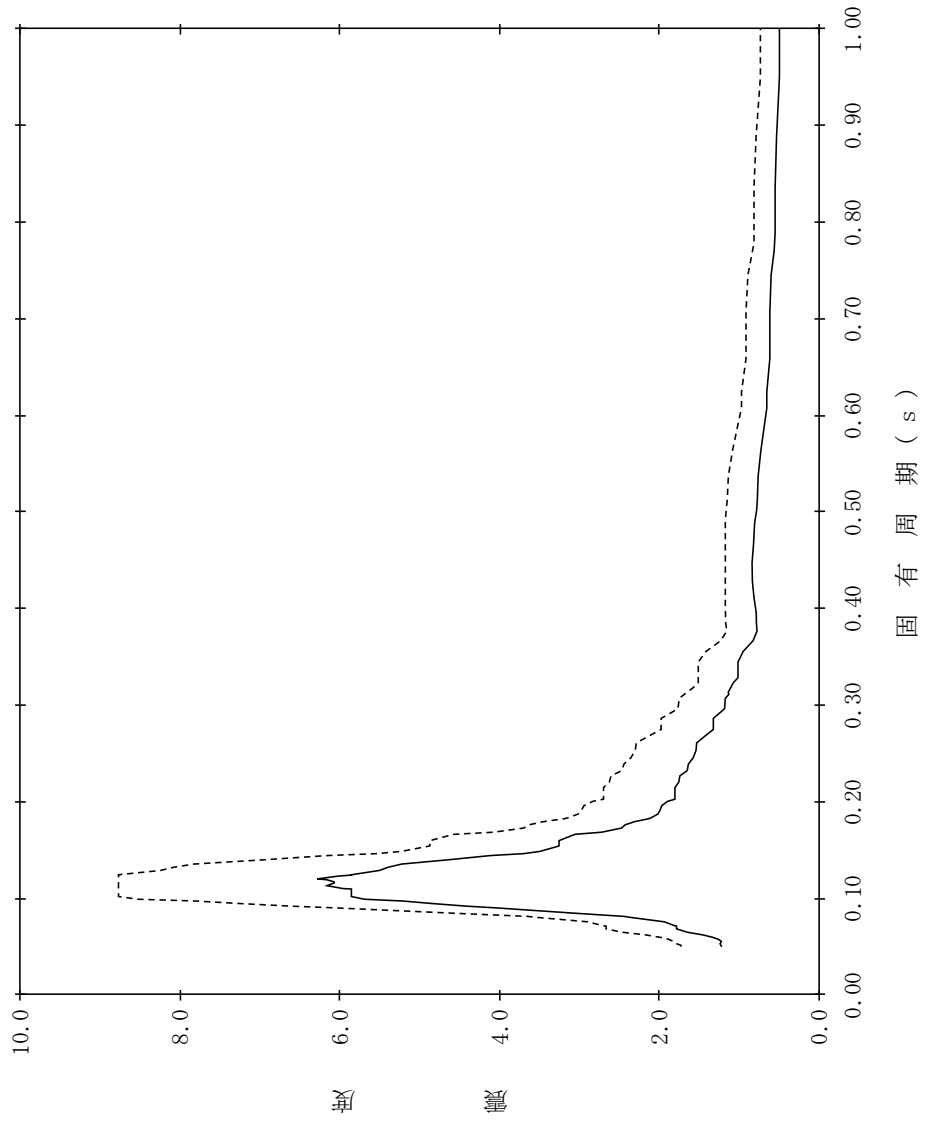
【NS2-CB-SdEW-CB14】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



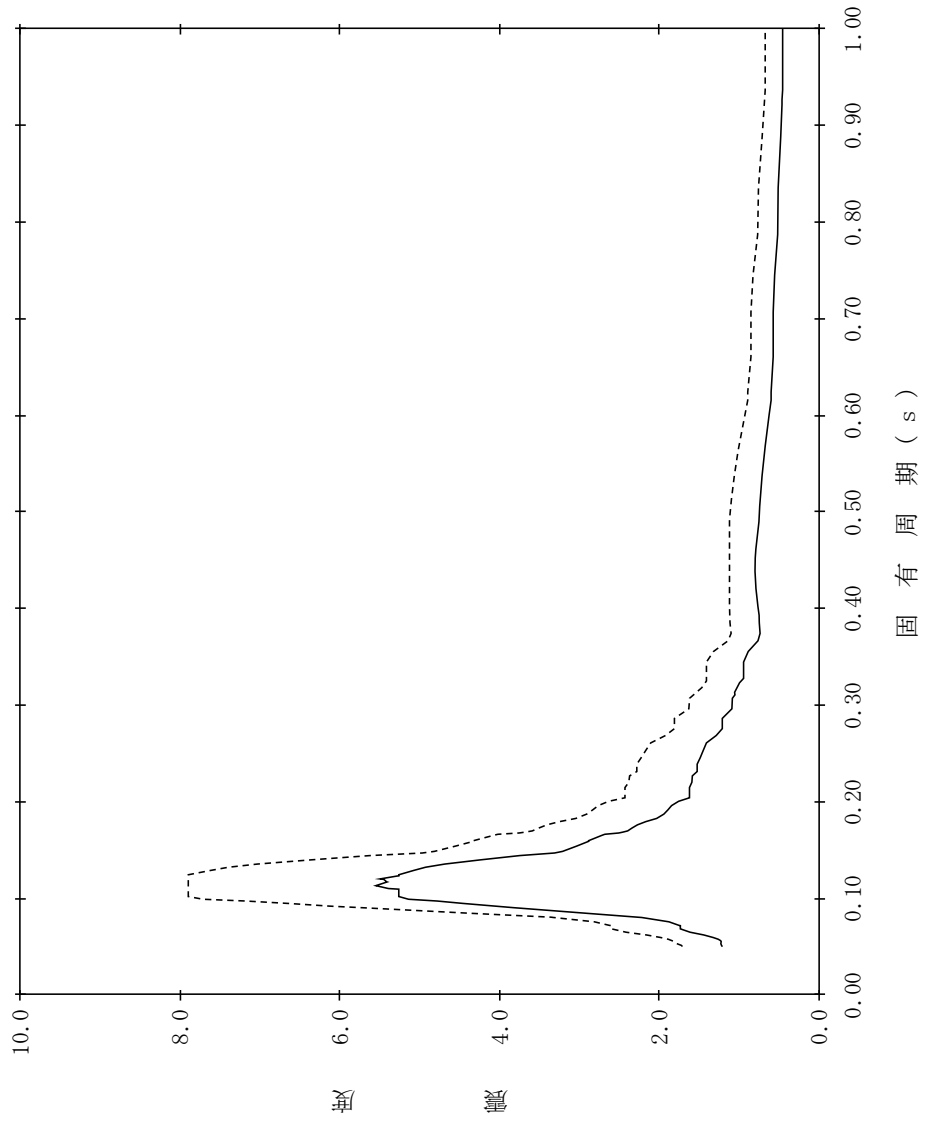
【NS2-CB-SdEW-CB15】

構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



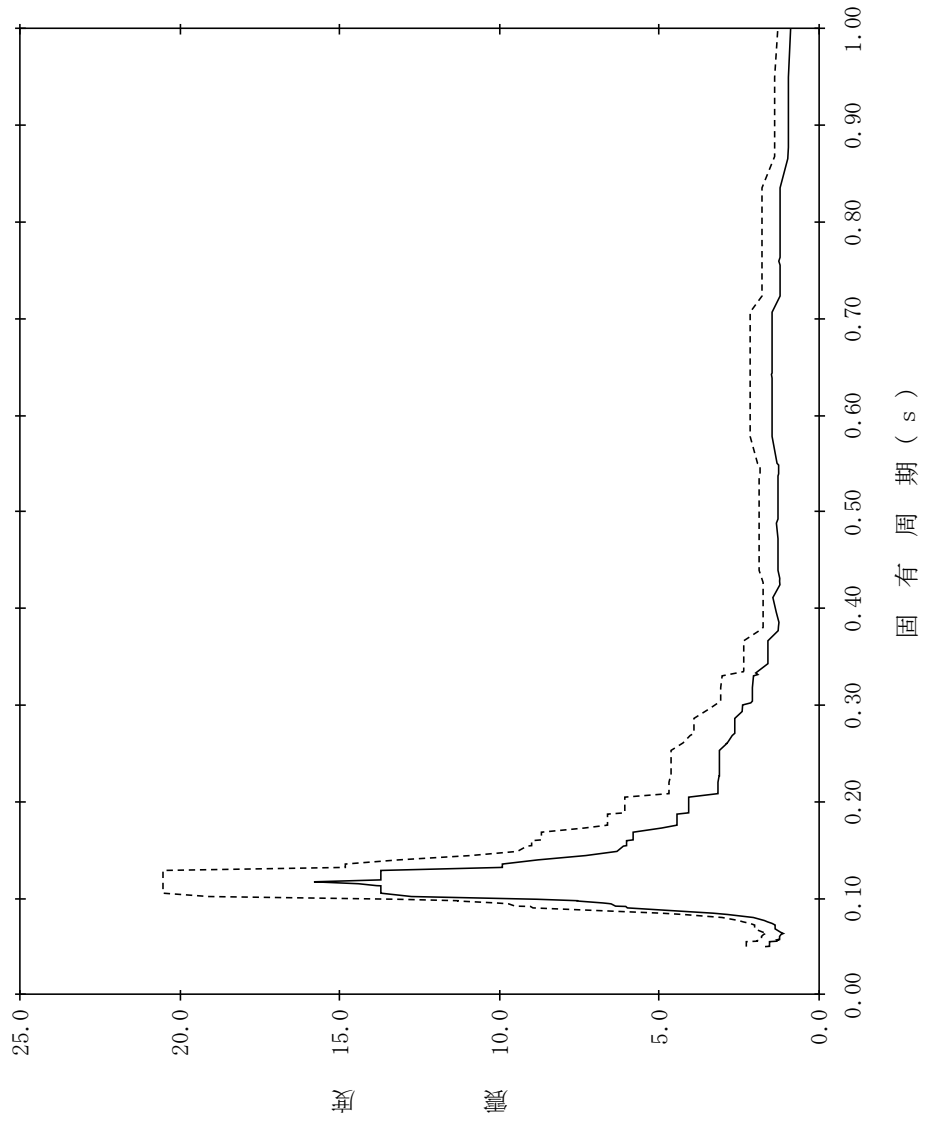
【NS2-CB-SdEW-CB16】

構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



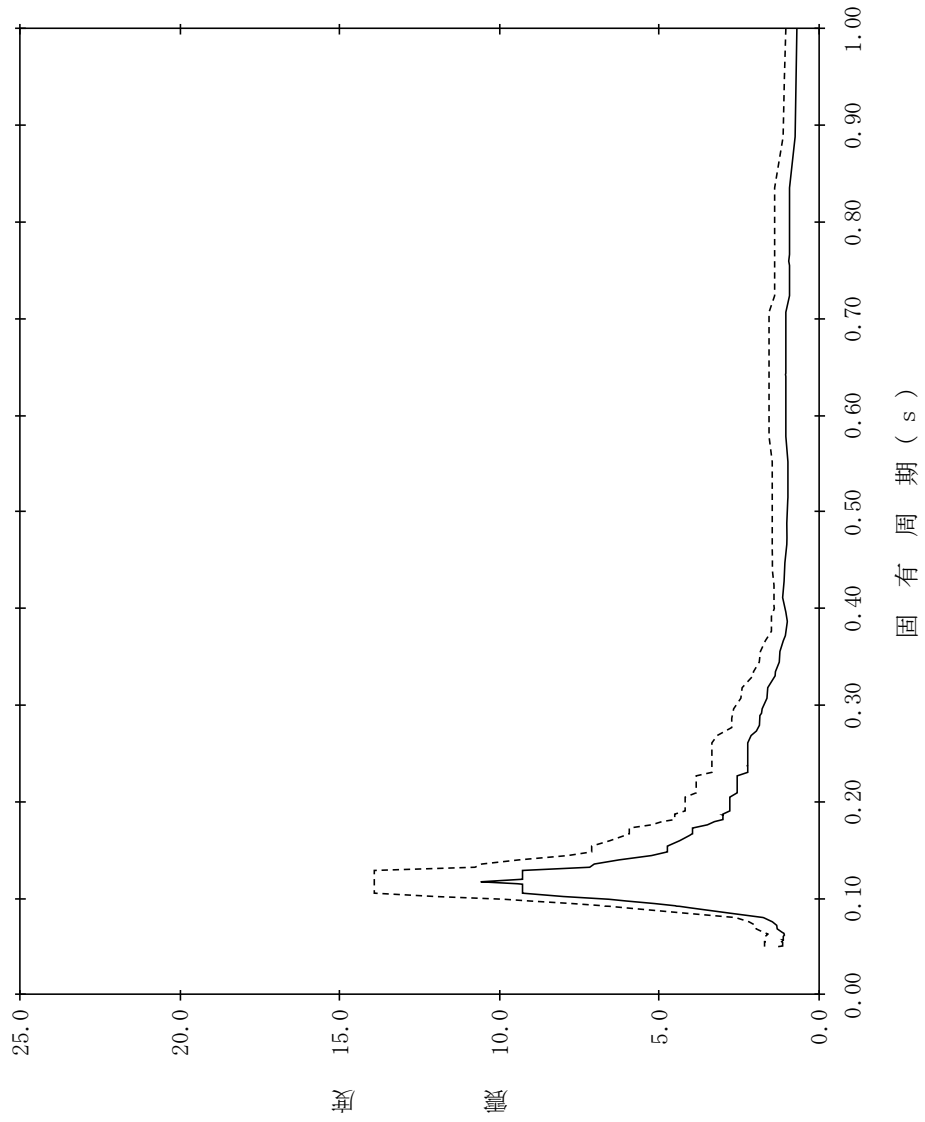
【NS2-CB-SdEW-CB17】

構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：0.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



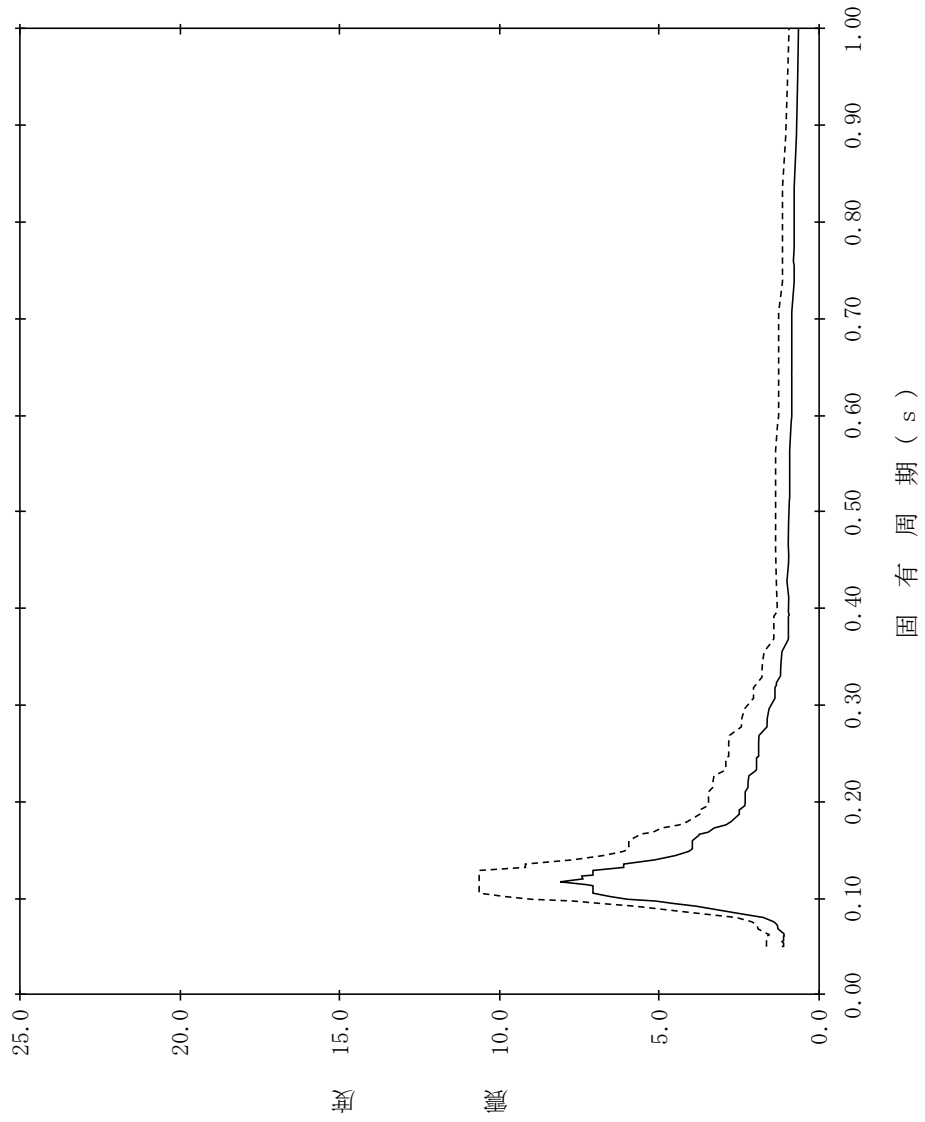
【NS2-CB-SdEW-CB18】

構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



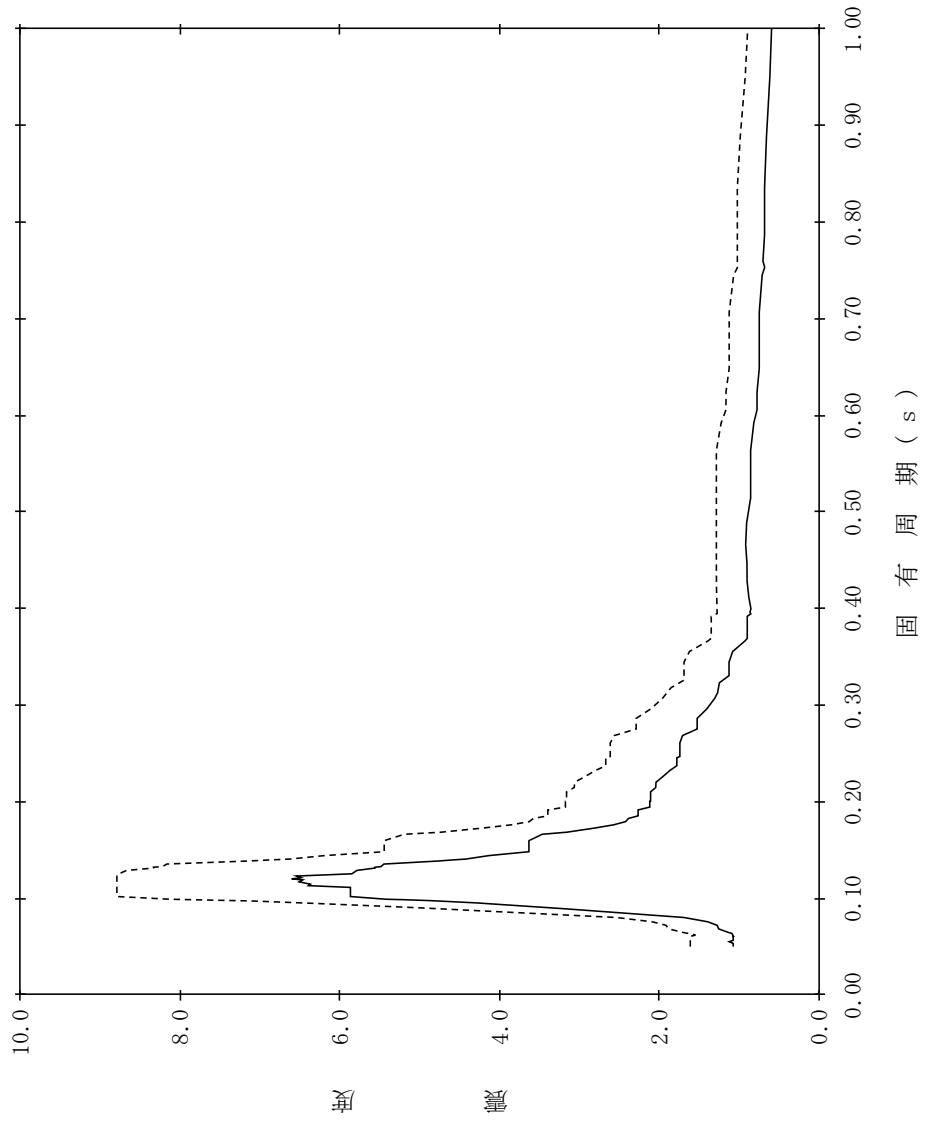
【NS2-CB-SdEW-CB19】

構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：1.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



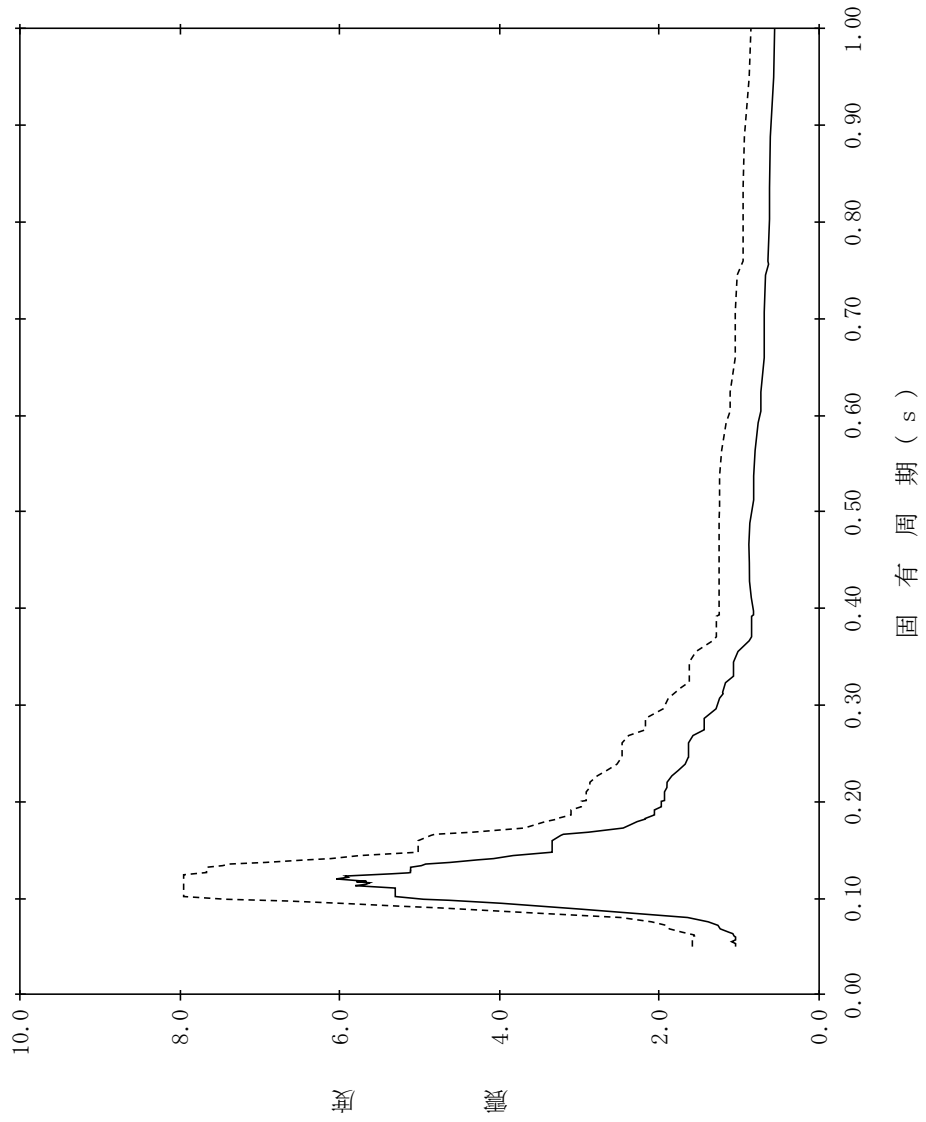
【NS2-CB-SdEW-CB20】

構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



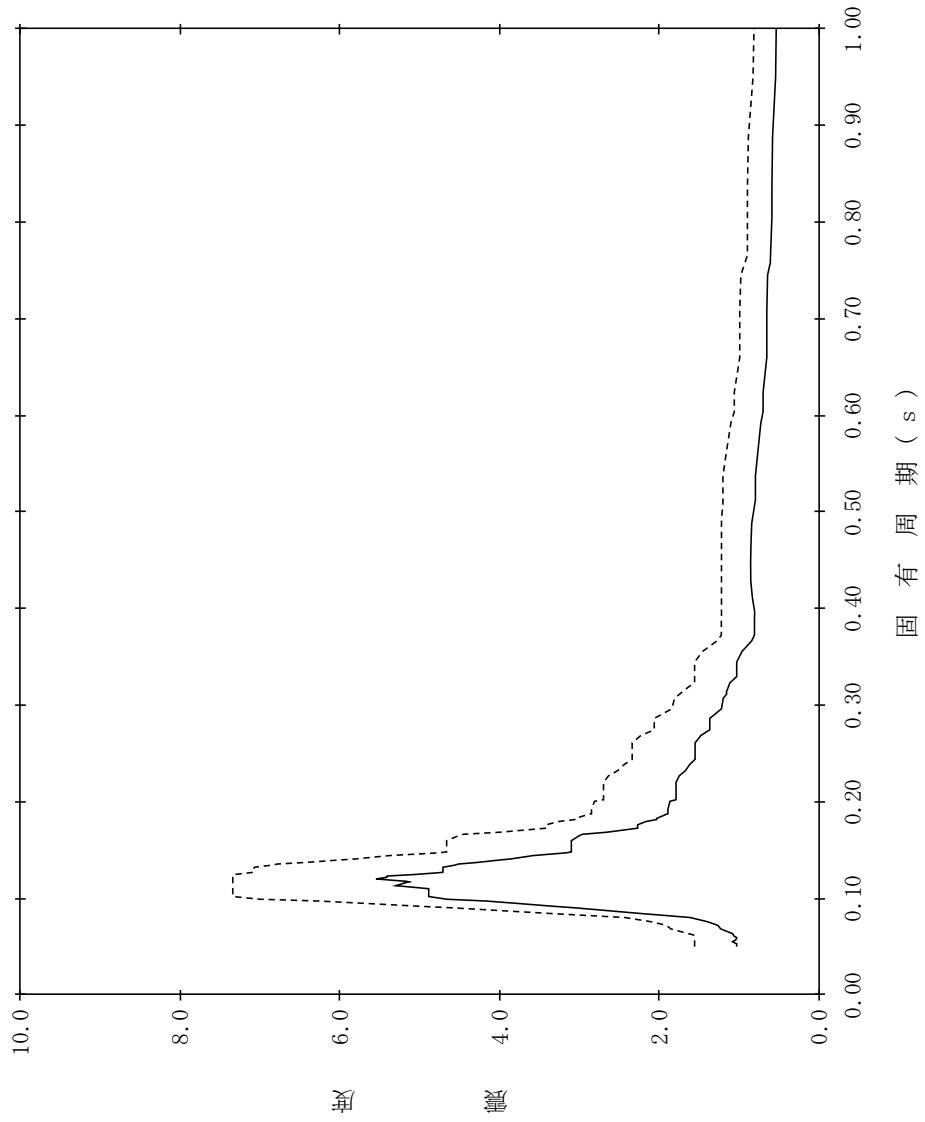
【NS2-CB-SdEW-CB21】

構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



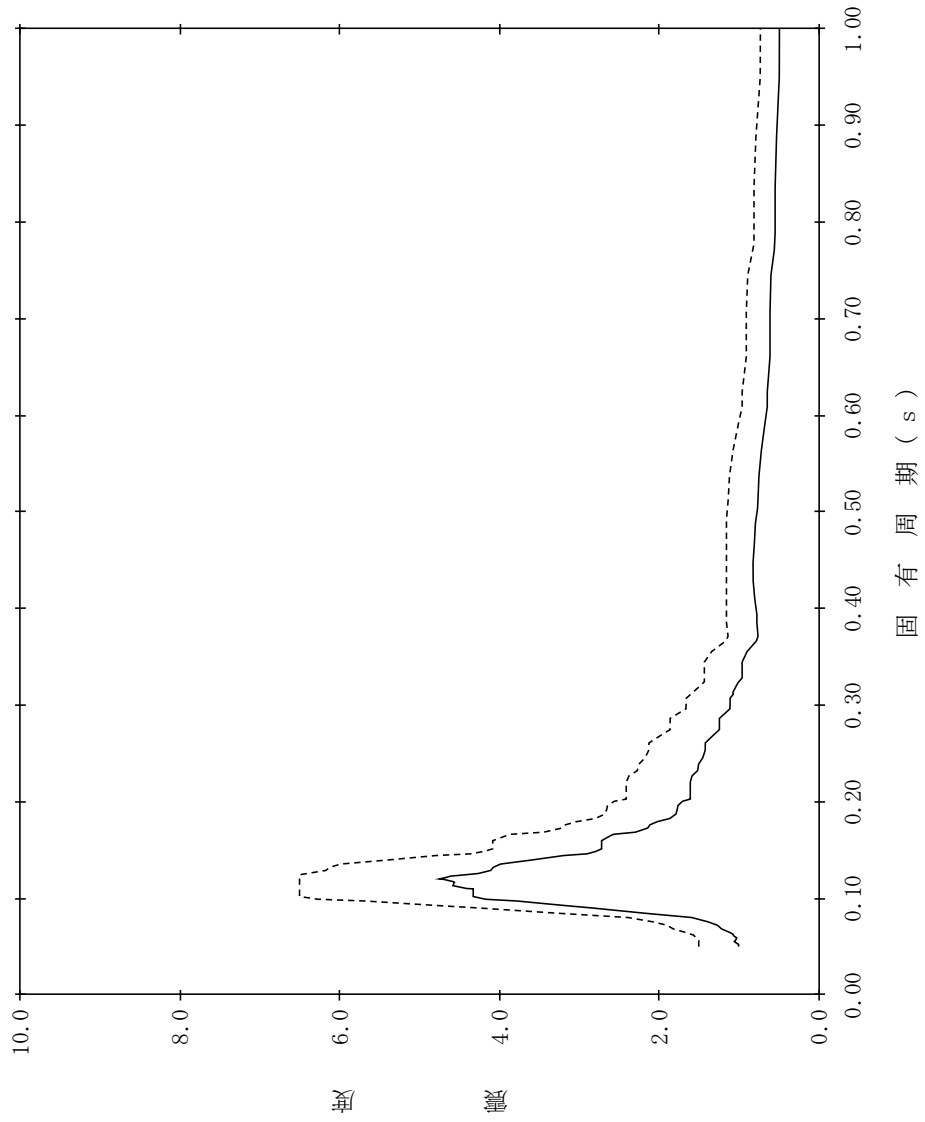
【NS2-CB-SdEW-CB22】

構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



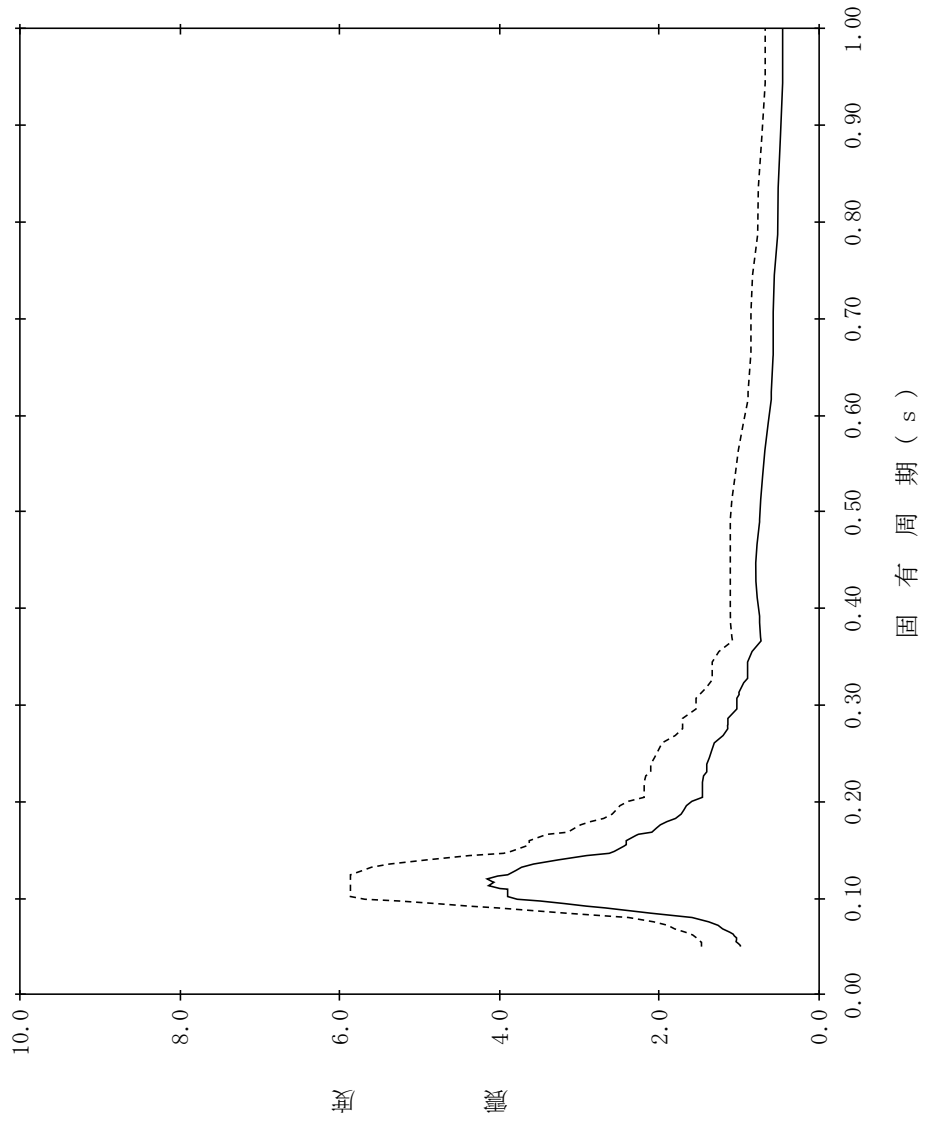
【NS2-CB-SdEW-CB23】

構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



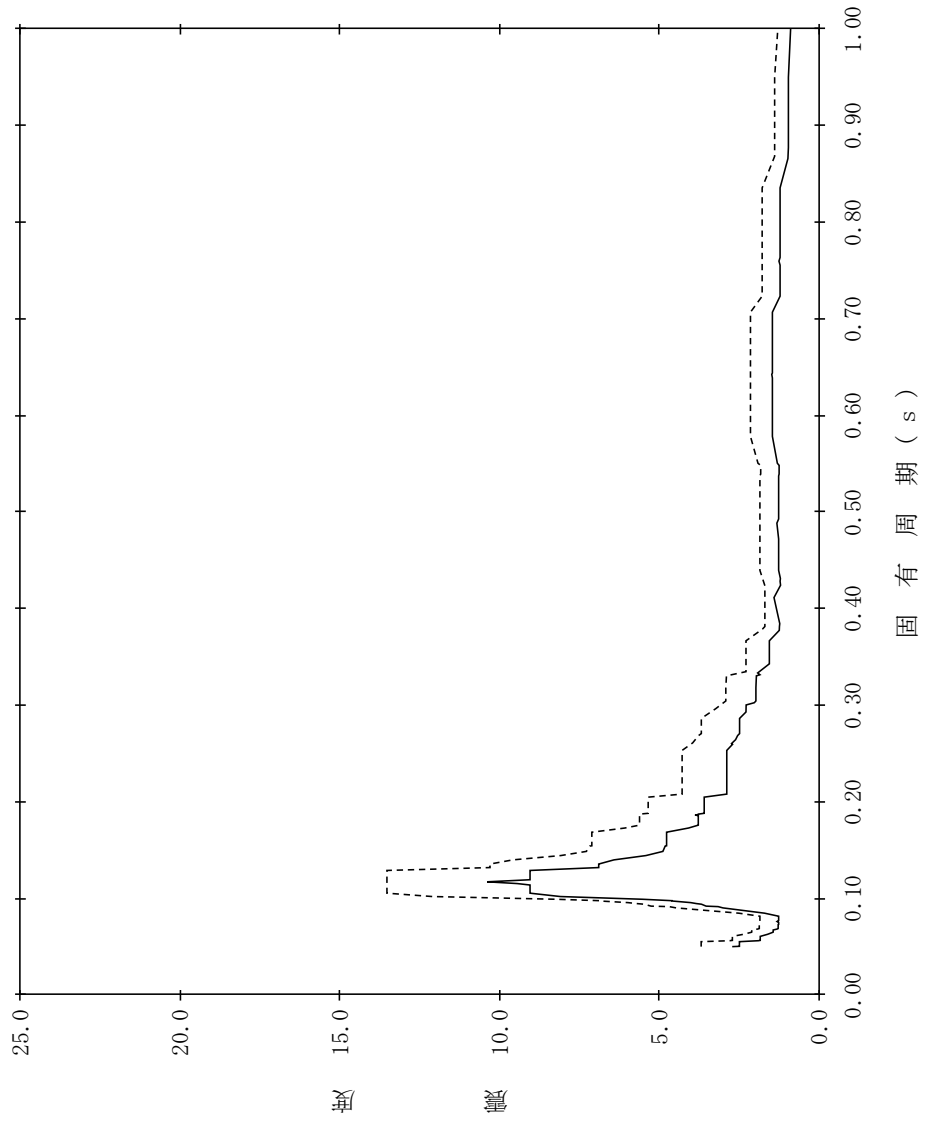
【NS2-CB-SdEW-CB24】

構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



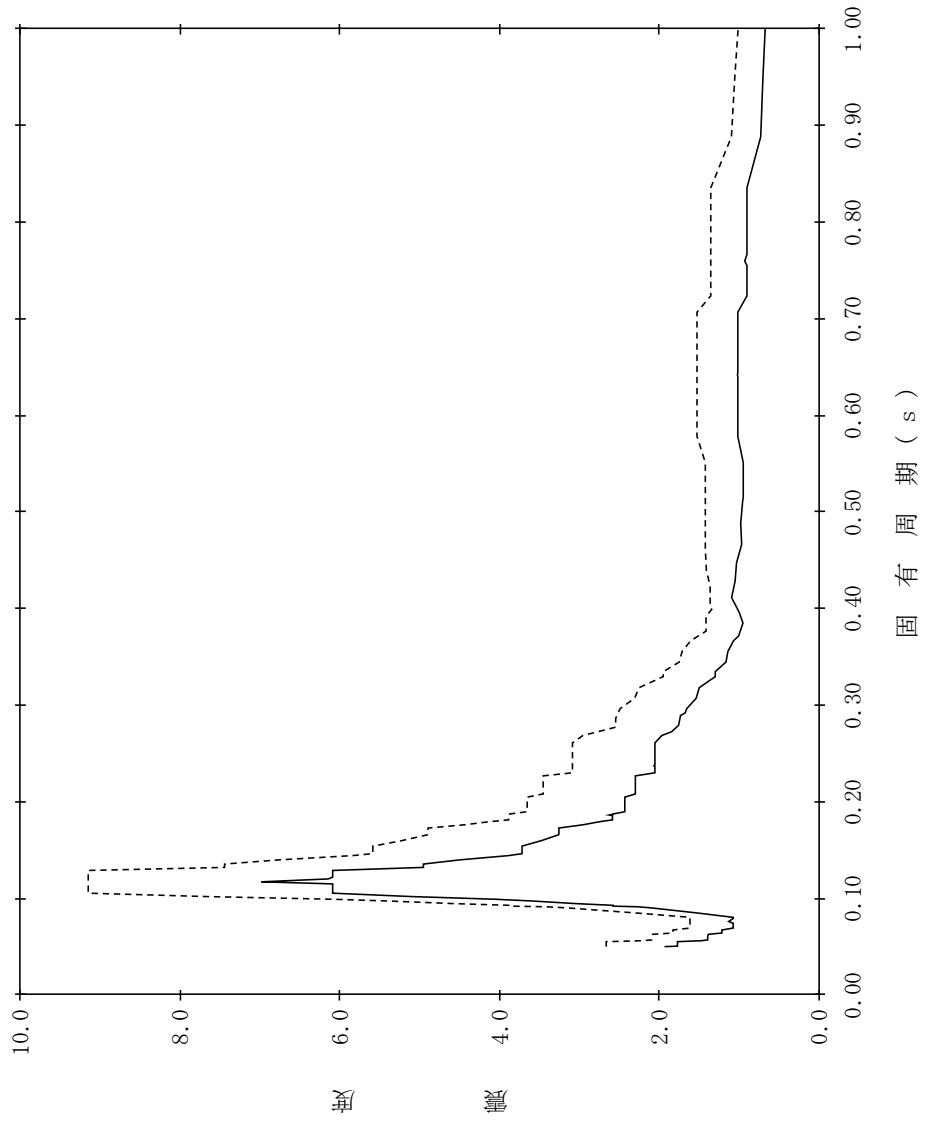
【NS2-CB-SdEW-CB25】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

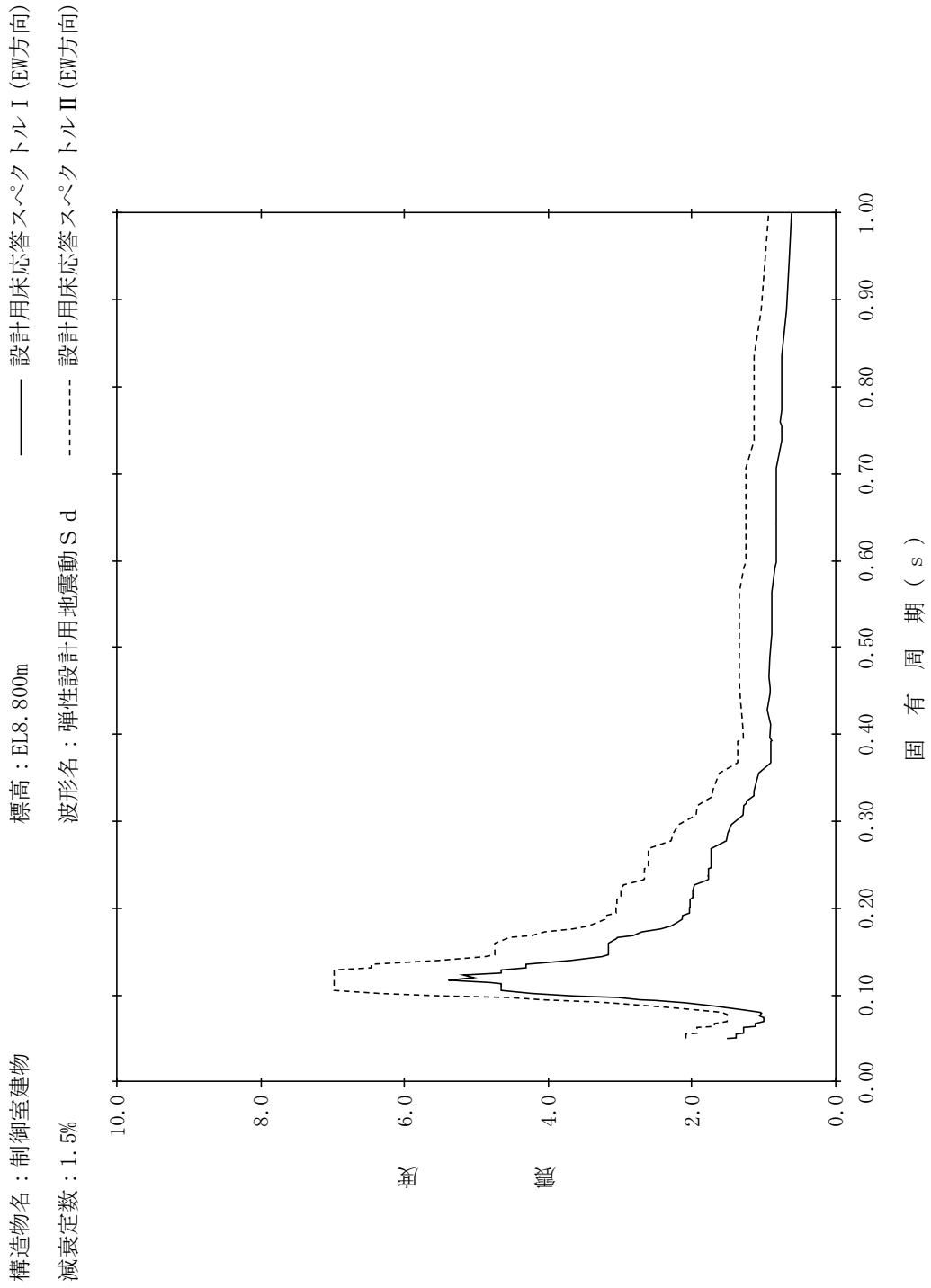


【NS2-CB-SdEW-CB26】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

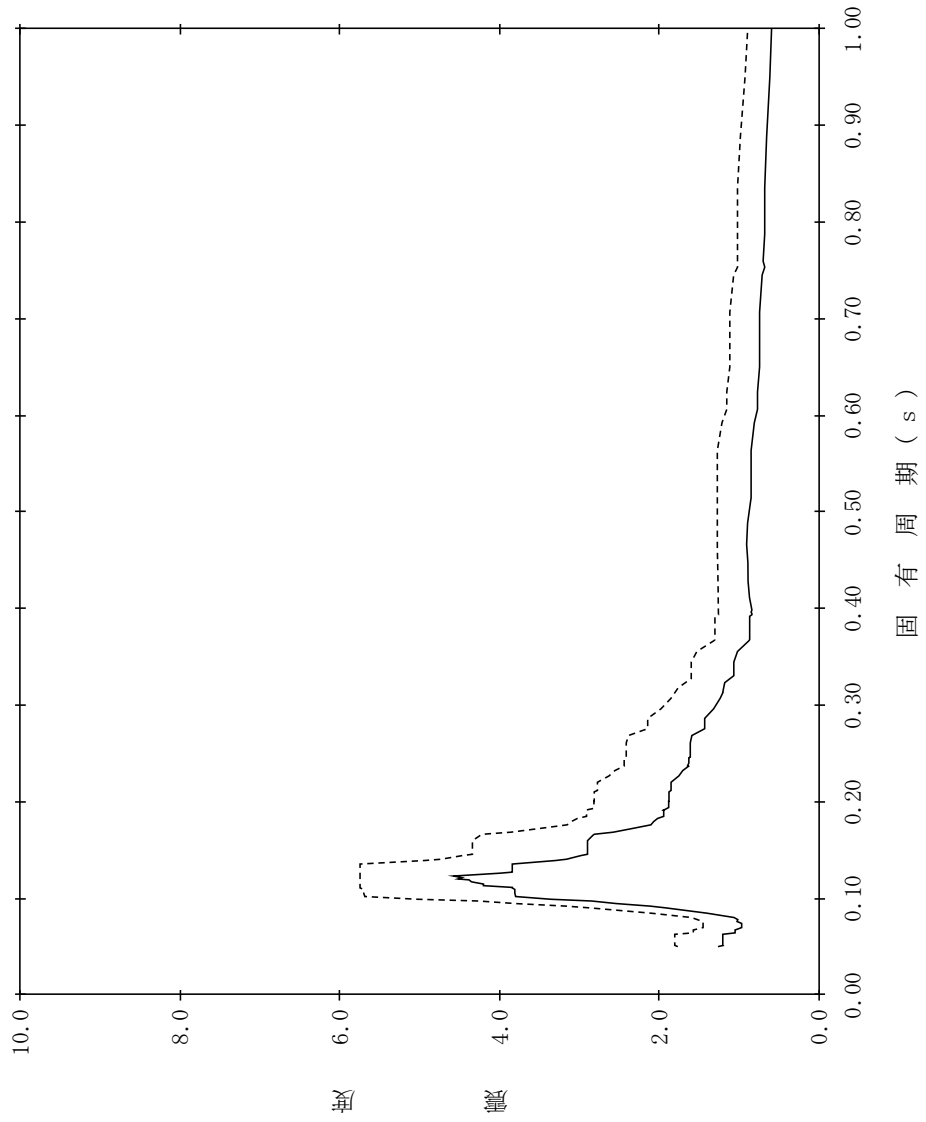


【NS2-CB-SdEW-CB27】



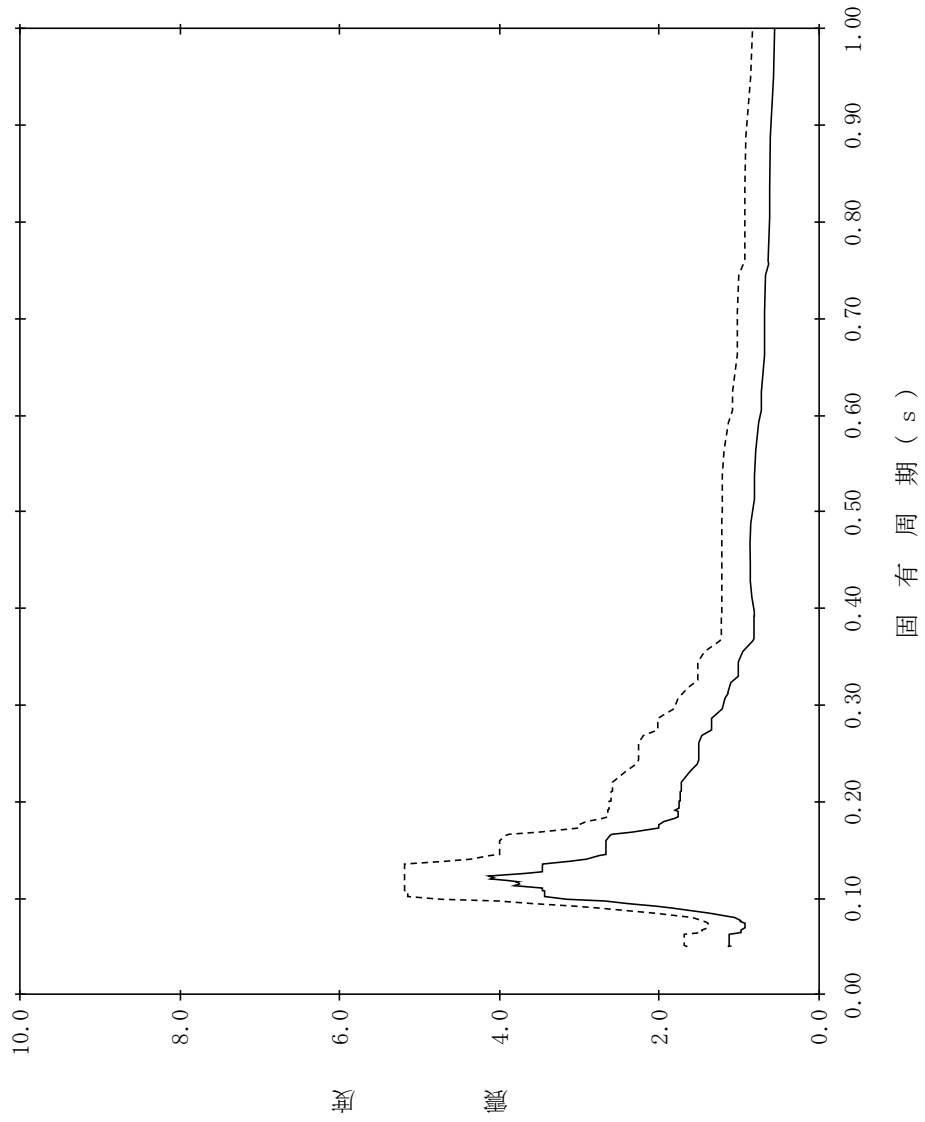
【NS2-CB-SdEW-CB28】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



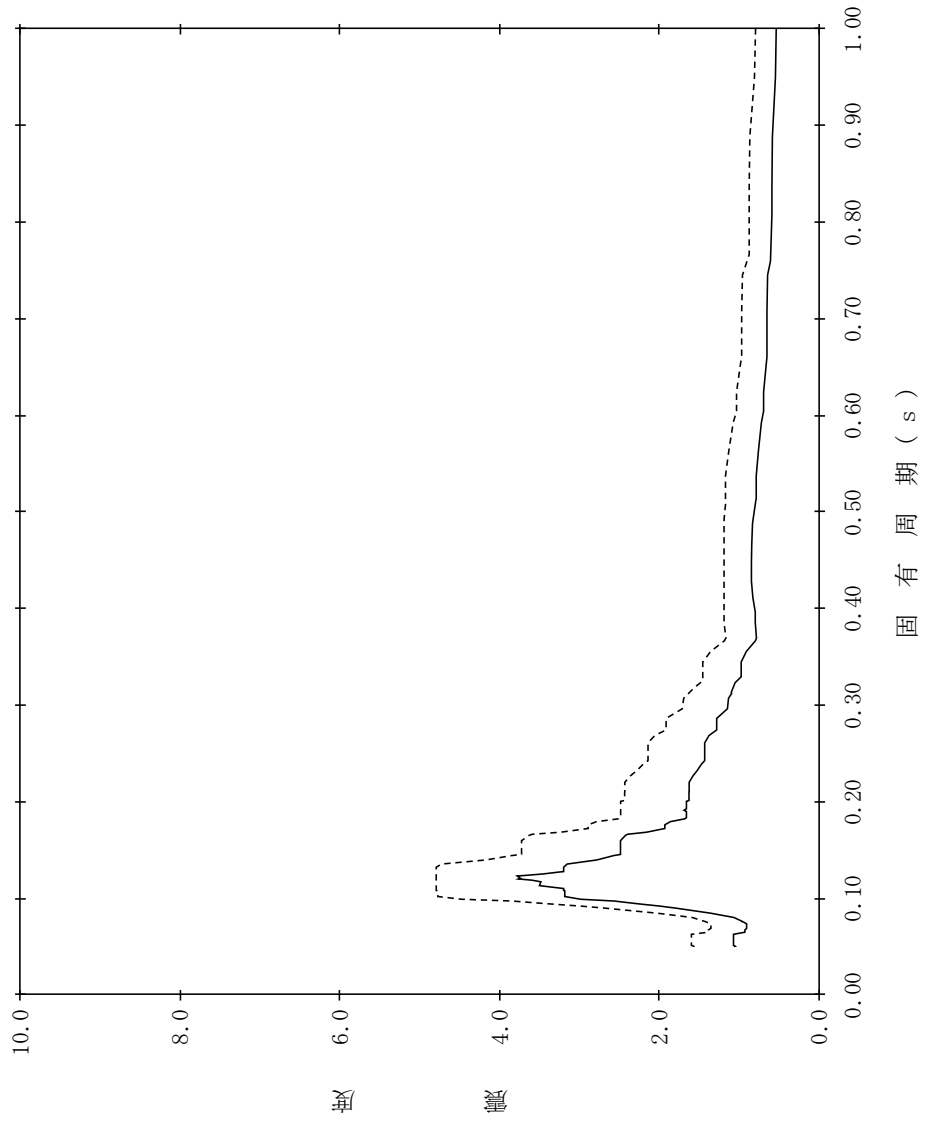
【NS2-CB-SdEW-CB29】

構造物名：制御室建物
標高：EL8.800m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



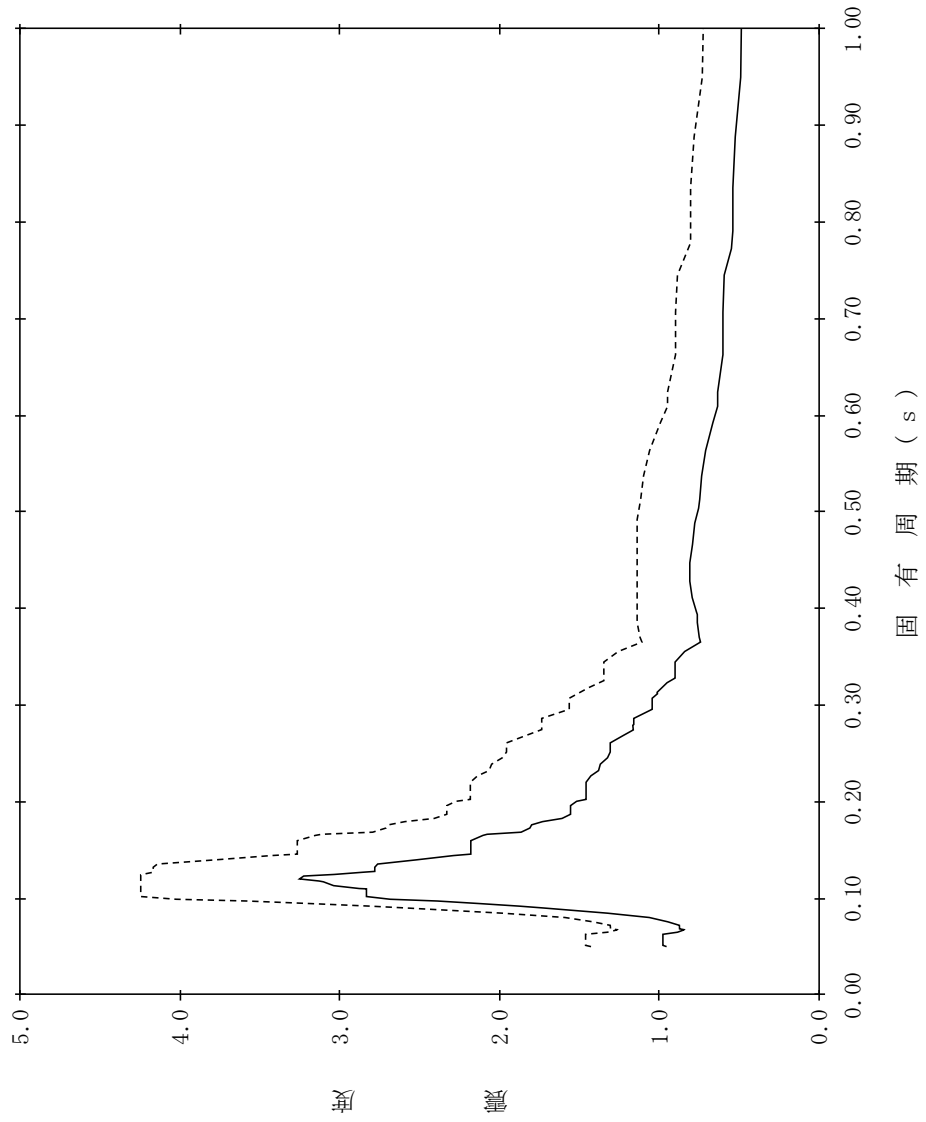
【NS2-CB-SdEW-CB30】

構造物名：制御室建物
標高：EL8.800m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



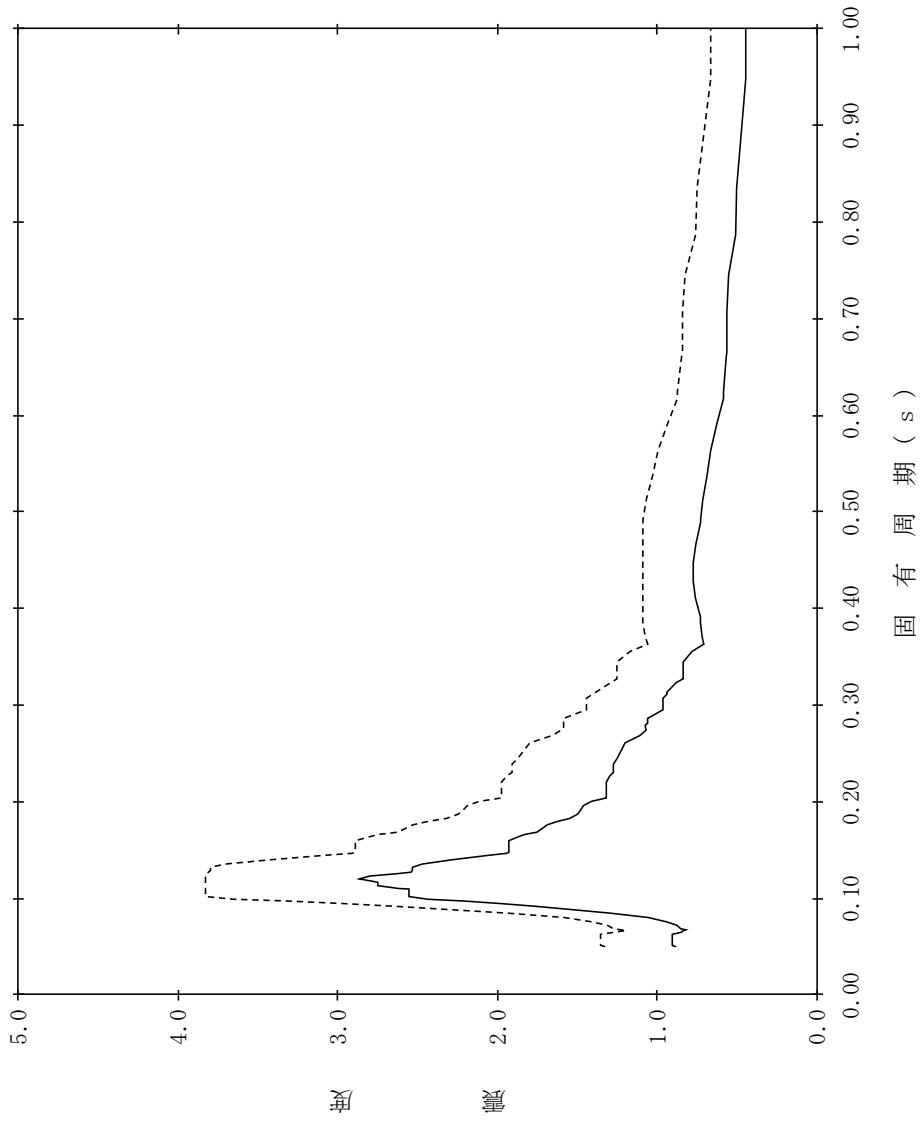
【NS2-CB-SdEW-CB31】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



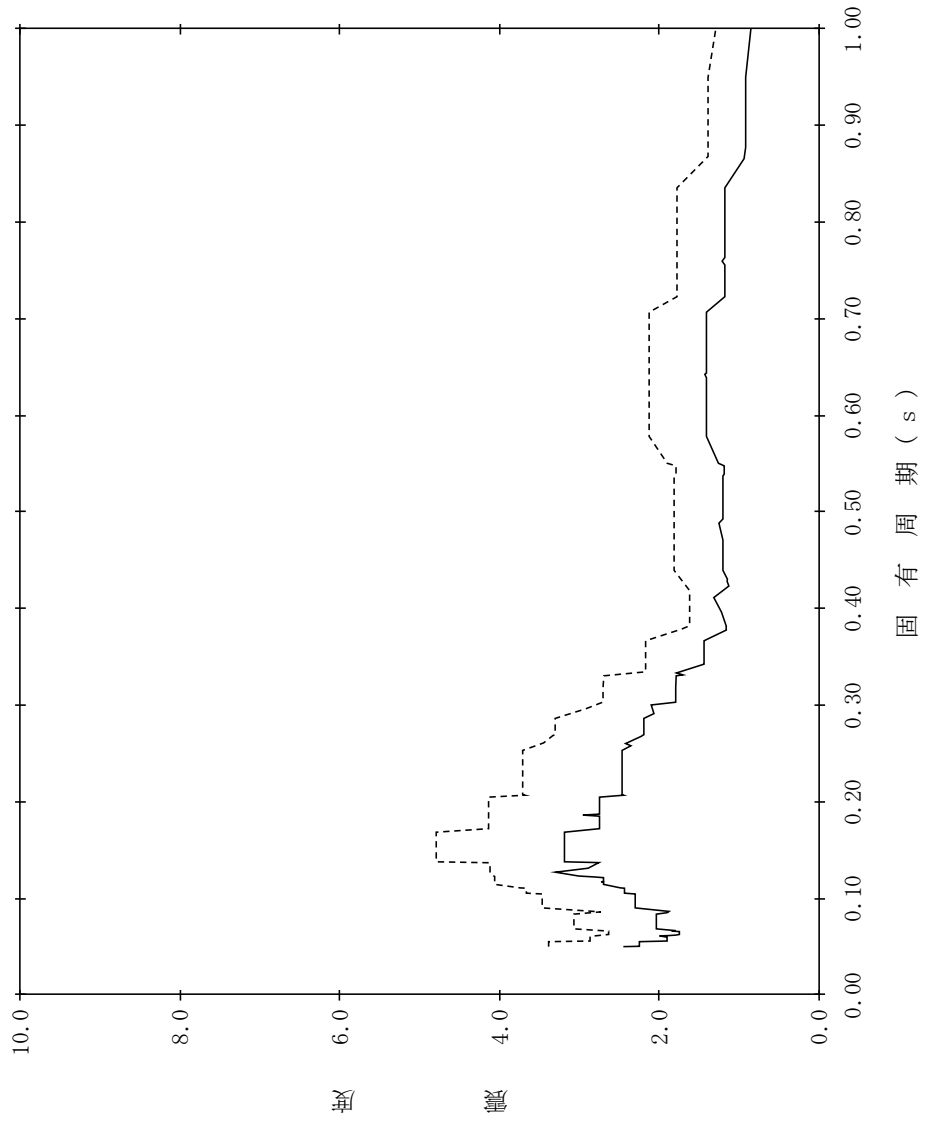
【NS2-CB-SdEW-CB32】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



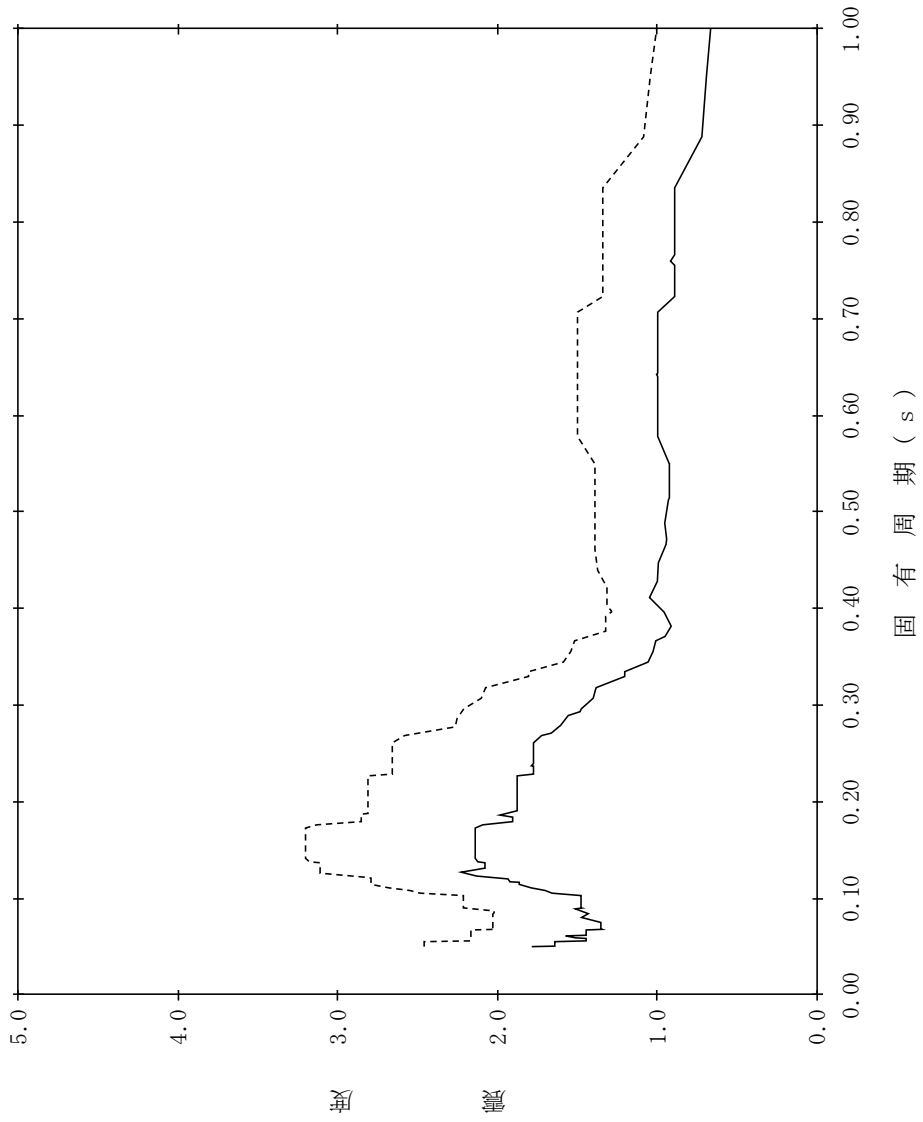
【NS2-CB-SdEW-CB33】

構造物名：制御室建物
標高：EL1.600m
減衰定数：0.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-CB-SdEW-CB34】

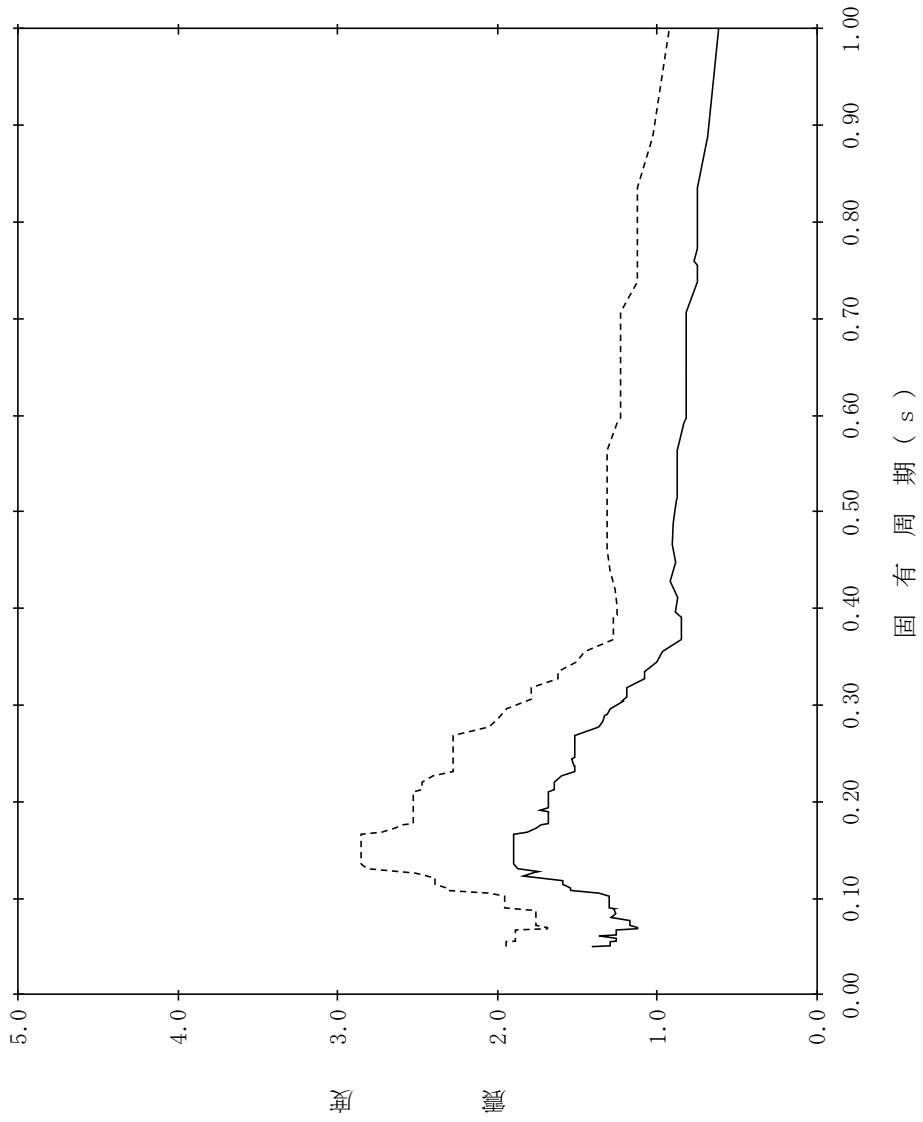
構造物名：制御室建物
標高：EL1.600m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-CB-SdEW-CB35】

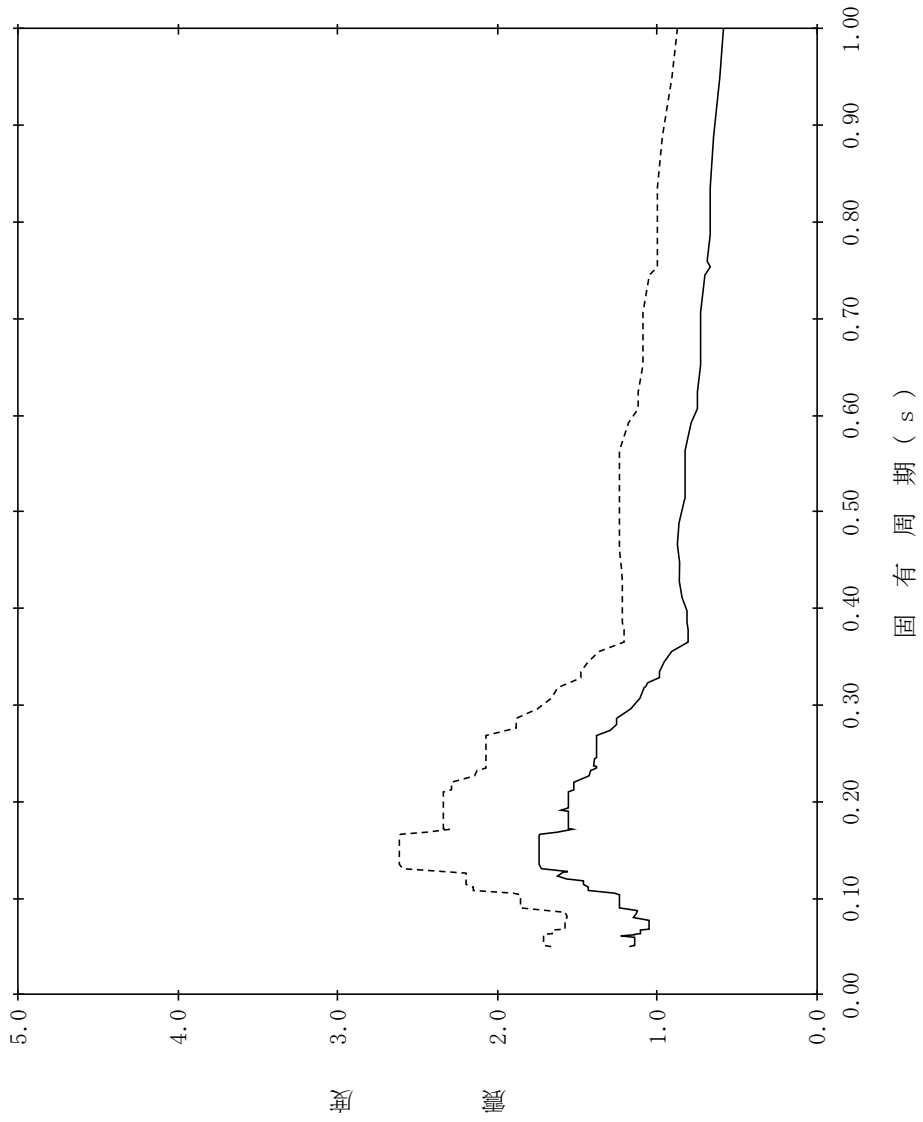
構造物名：制御室建物
標高：EL1.600m
減衰定数：1.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



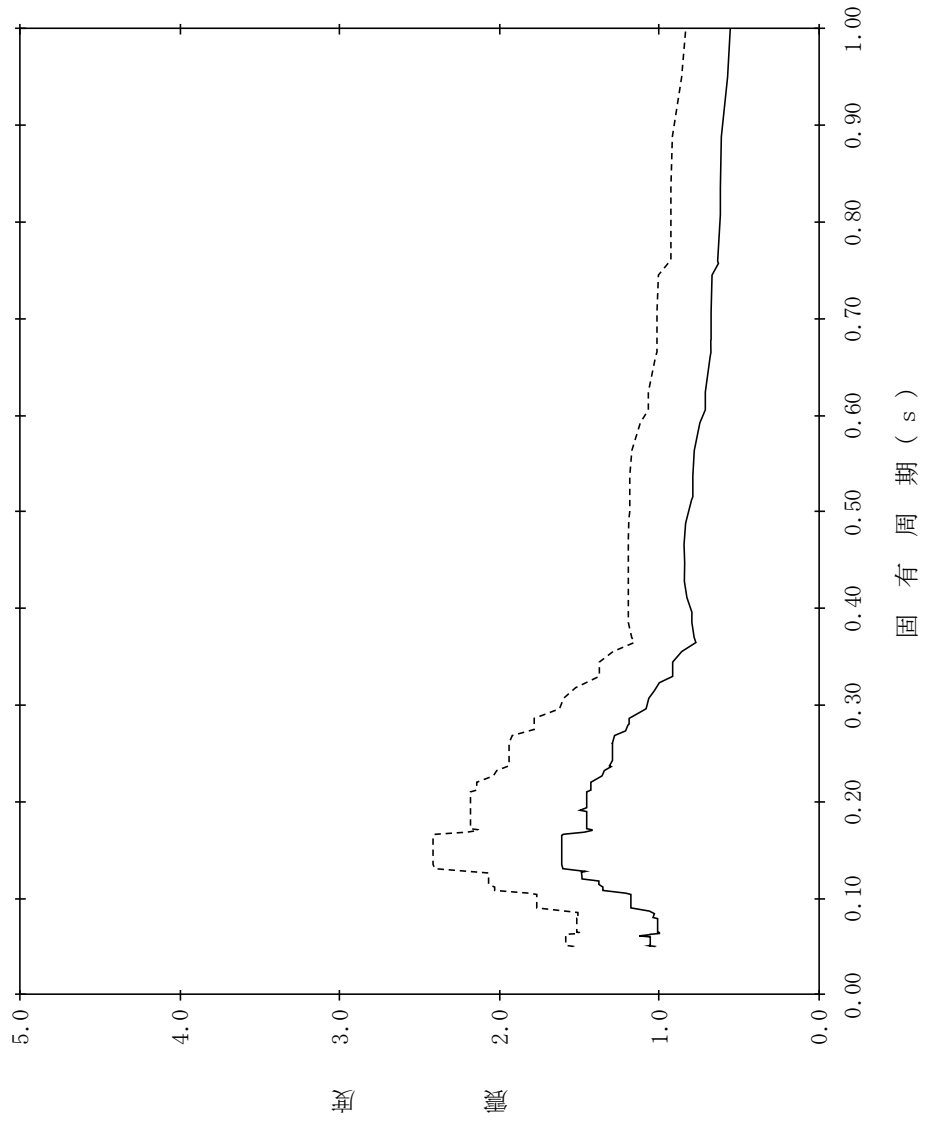
【NS2-CB-SdEW-CB36】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



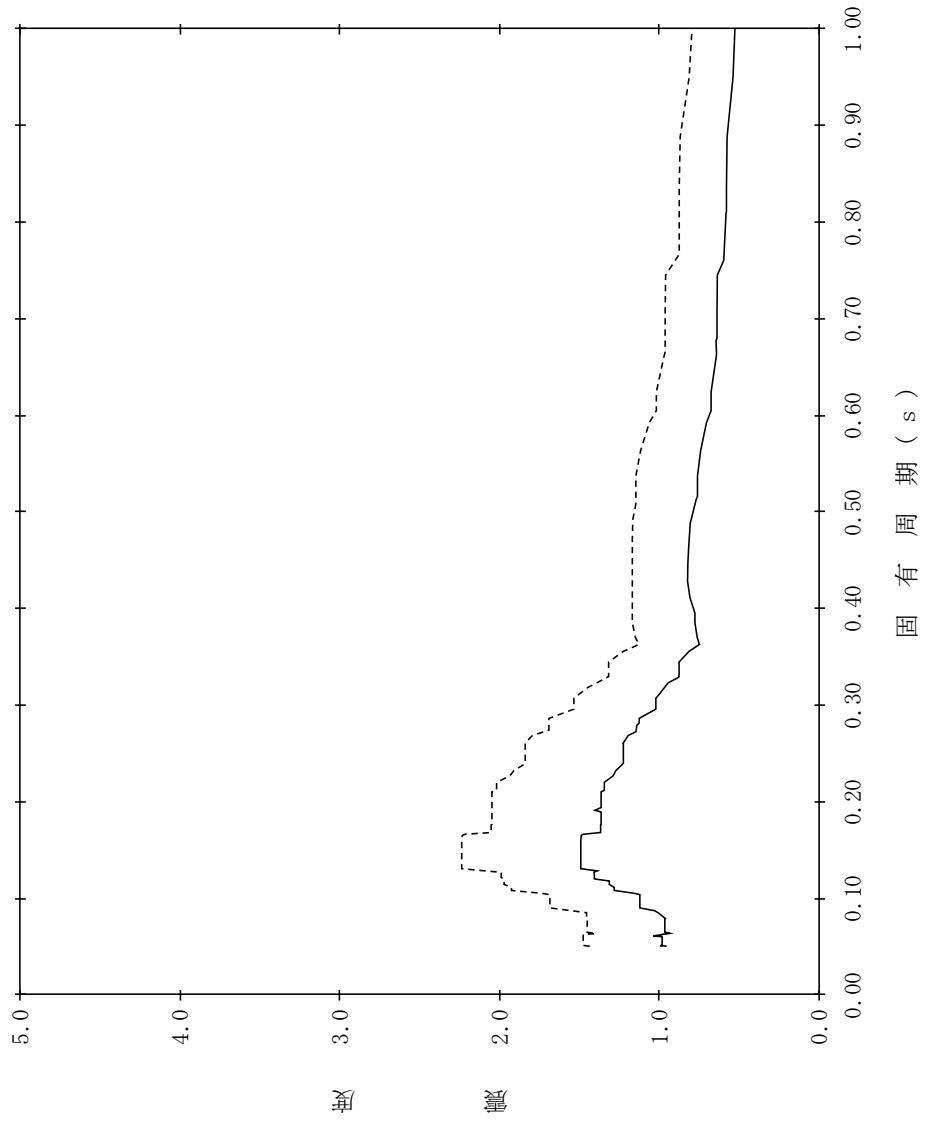
【NS2-CB-SdEW-CB37】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



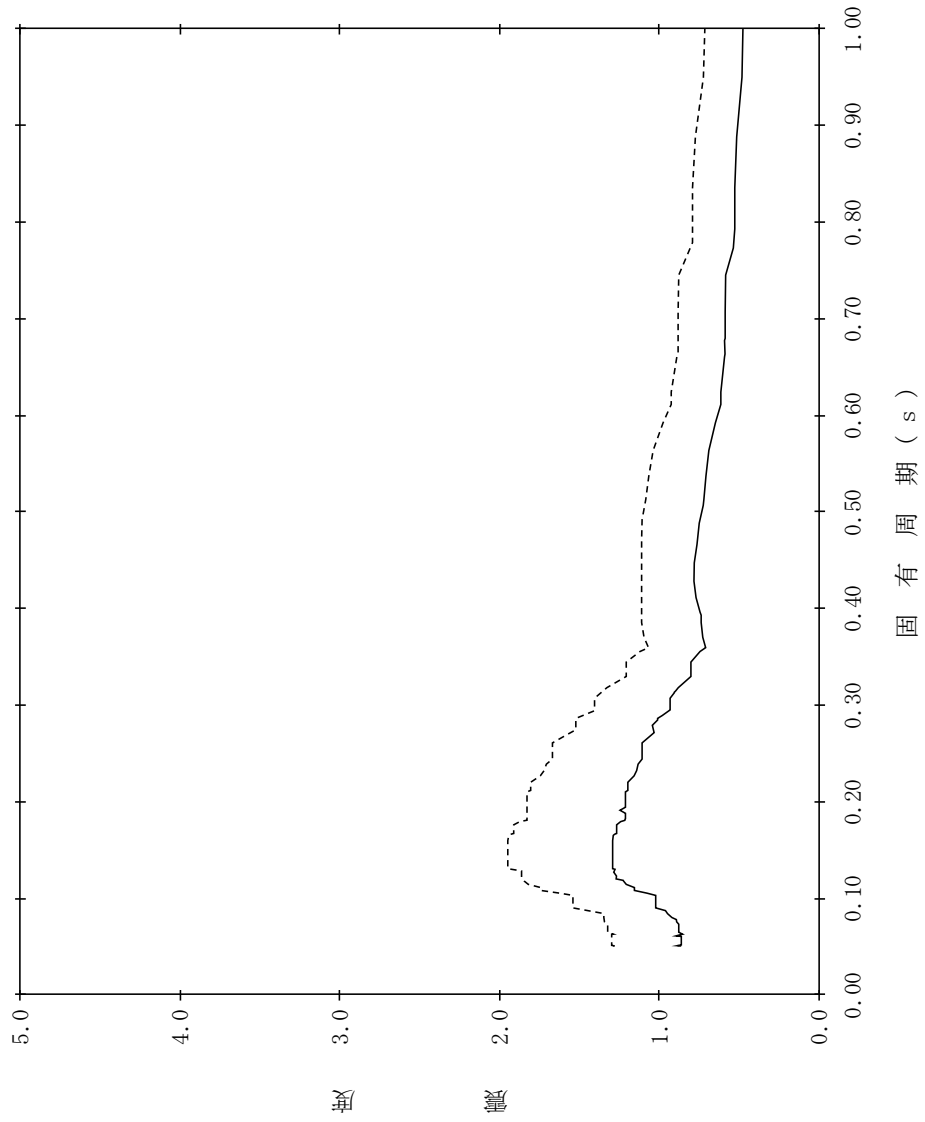
【NS2-CB-SdEW-CB38】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



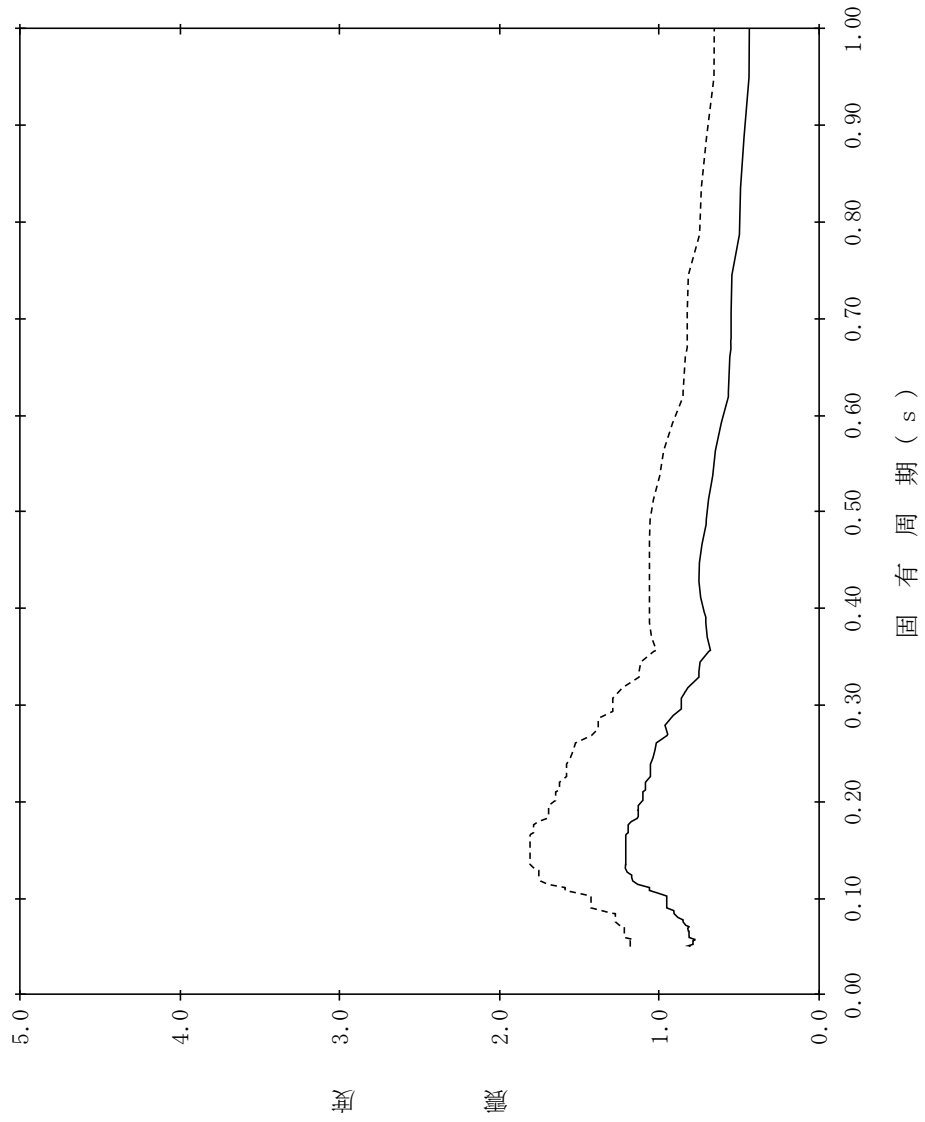
【NS2-CB-SdEW-CB39】

構造物名：制御室建物
標高：EL1.600m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



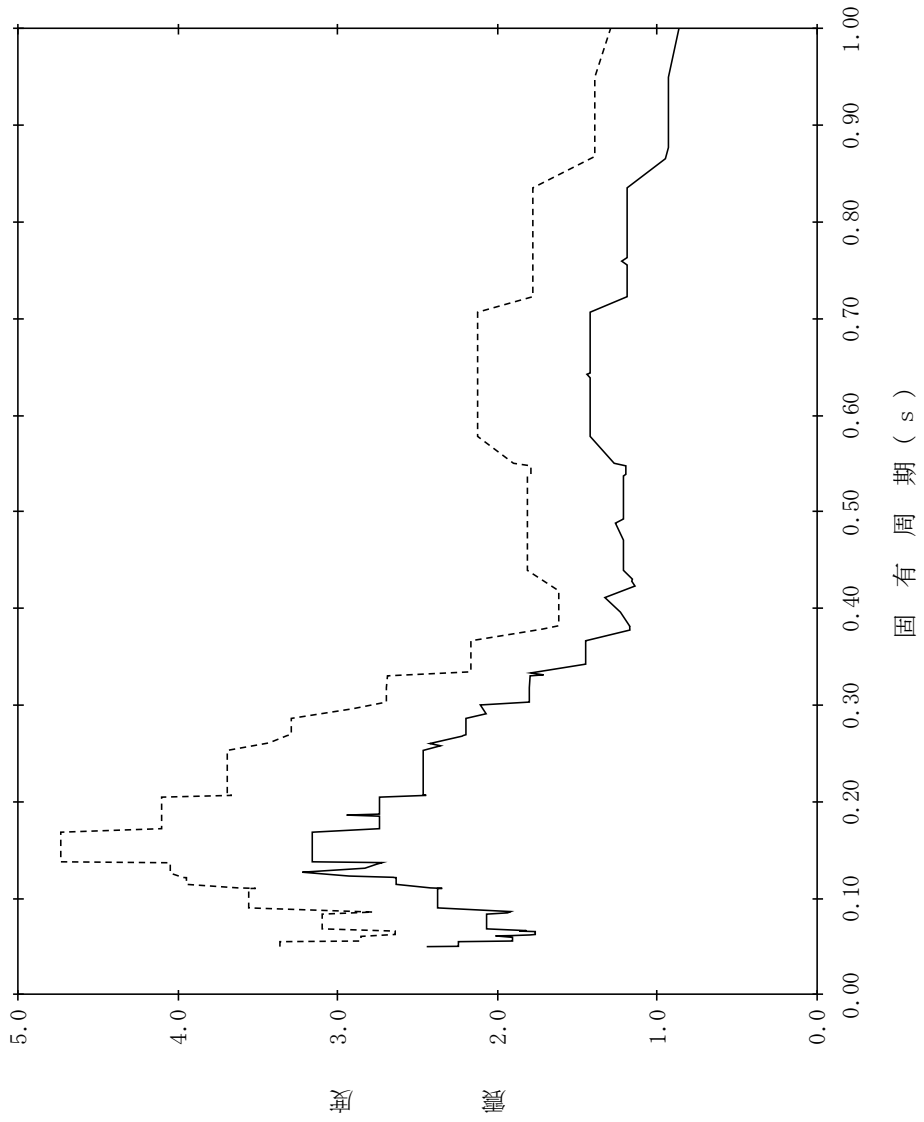
【NS2-CB-SdEW-CB40】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



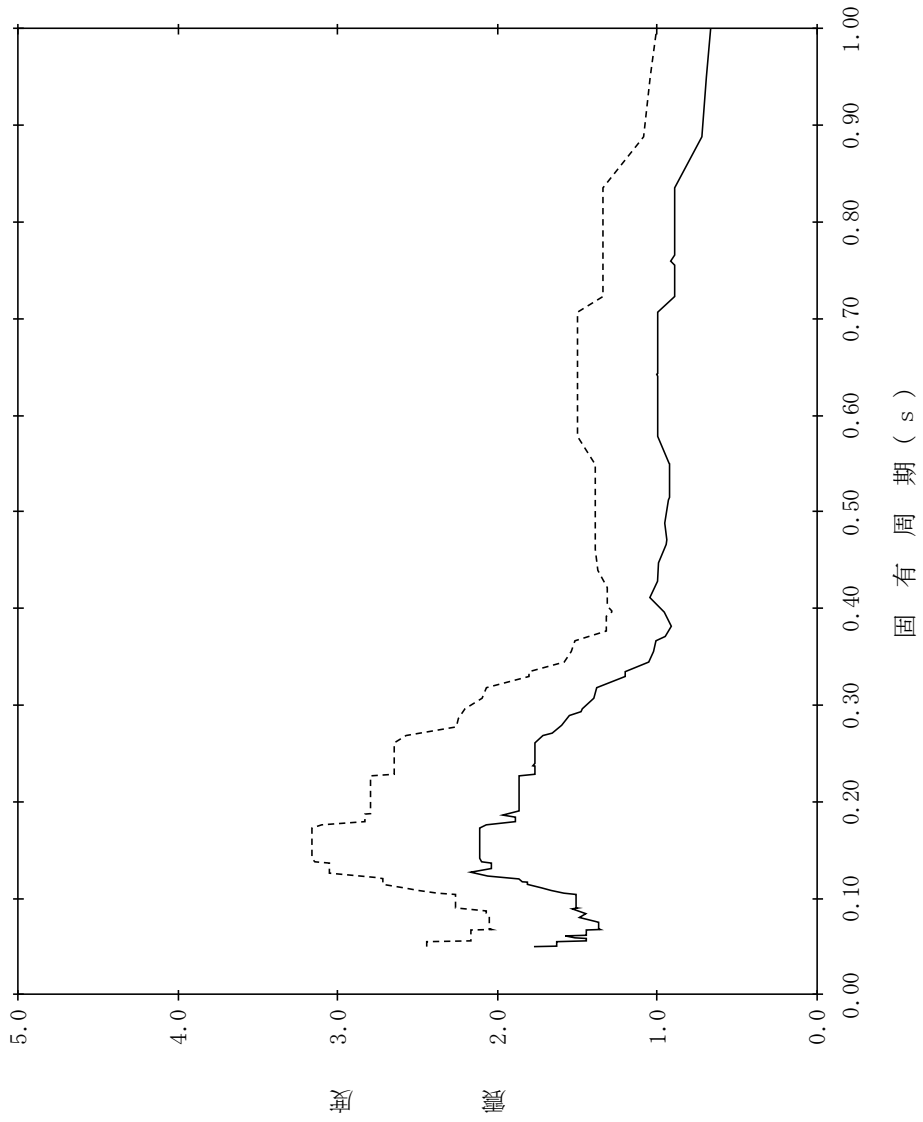
【NS2-CB-SdEW-CB41】

構造物名：制御室建物
標高：EL0.100m
減衰定数：0.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



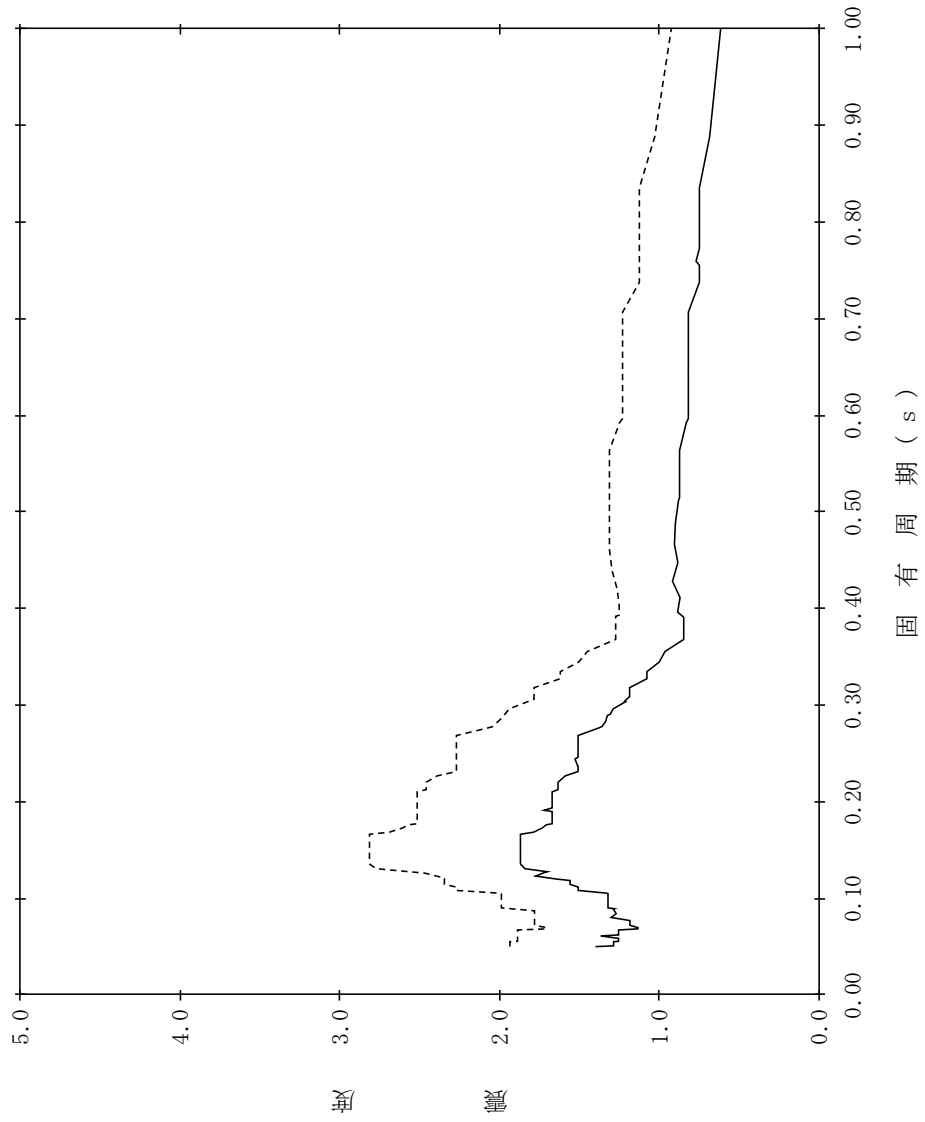
【NS2-CB-SdEW-CB42】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

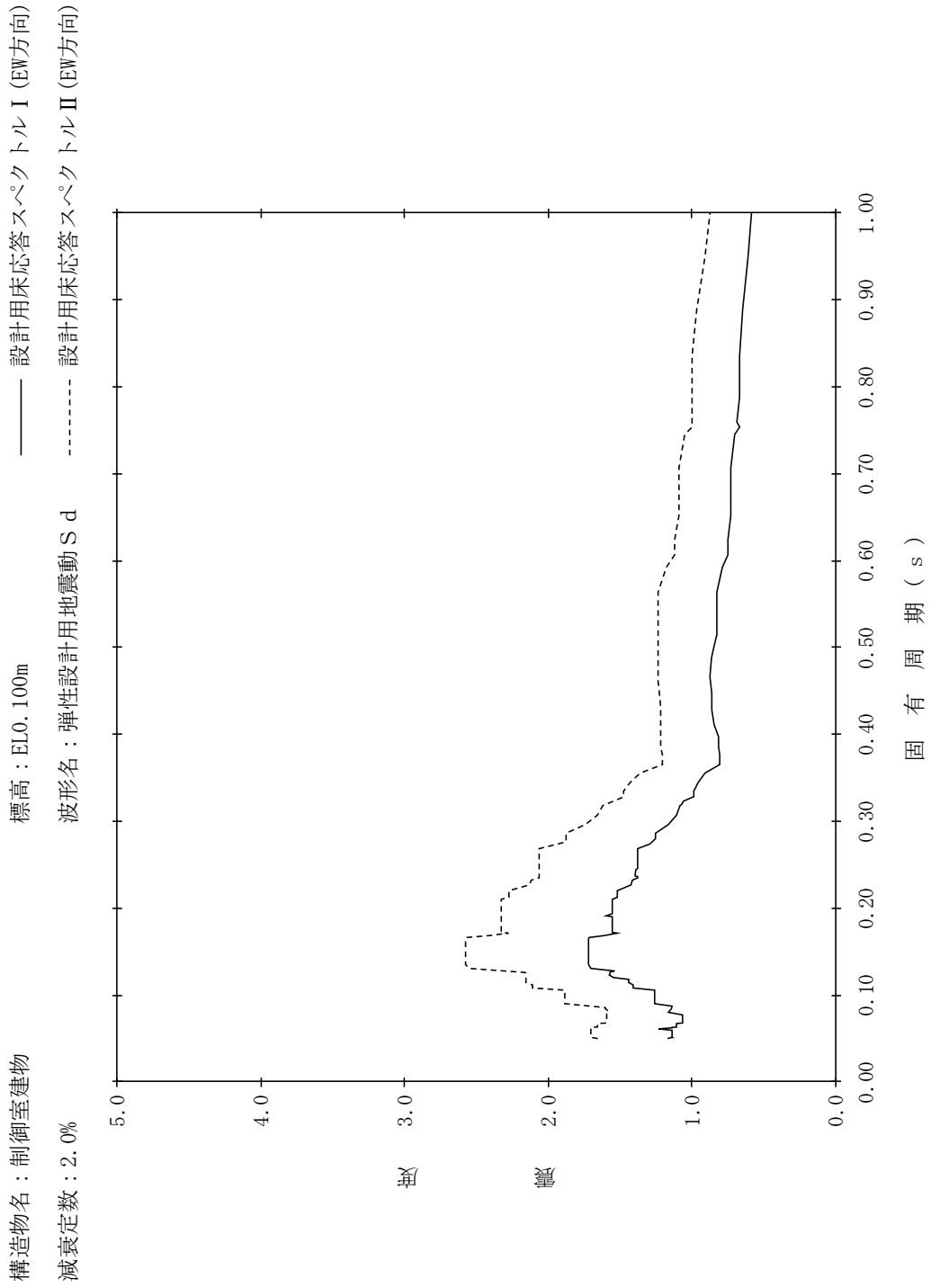


【NS2-CB-SdEW-CB43】

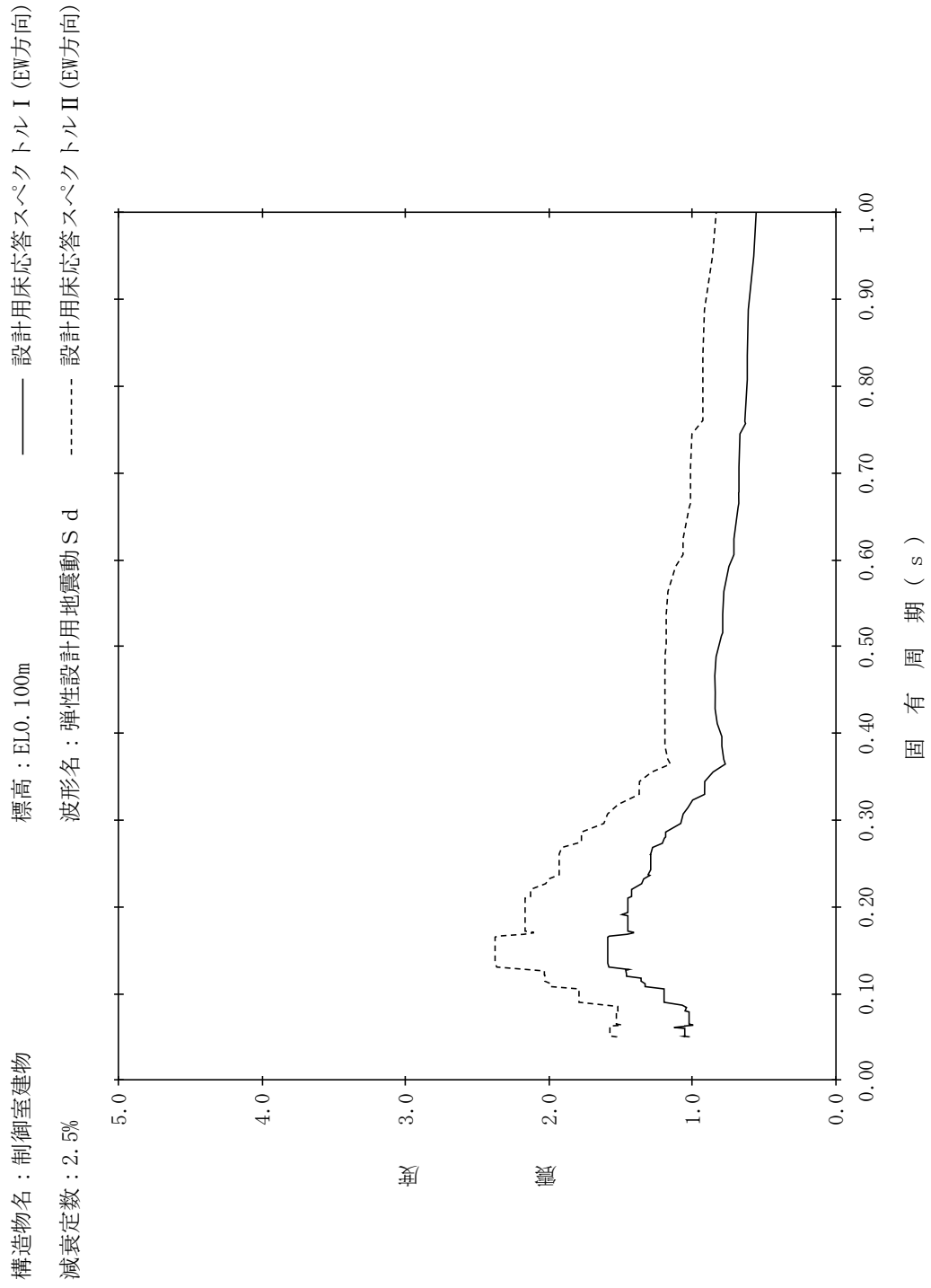
構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



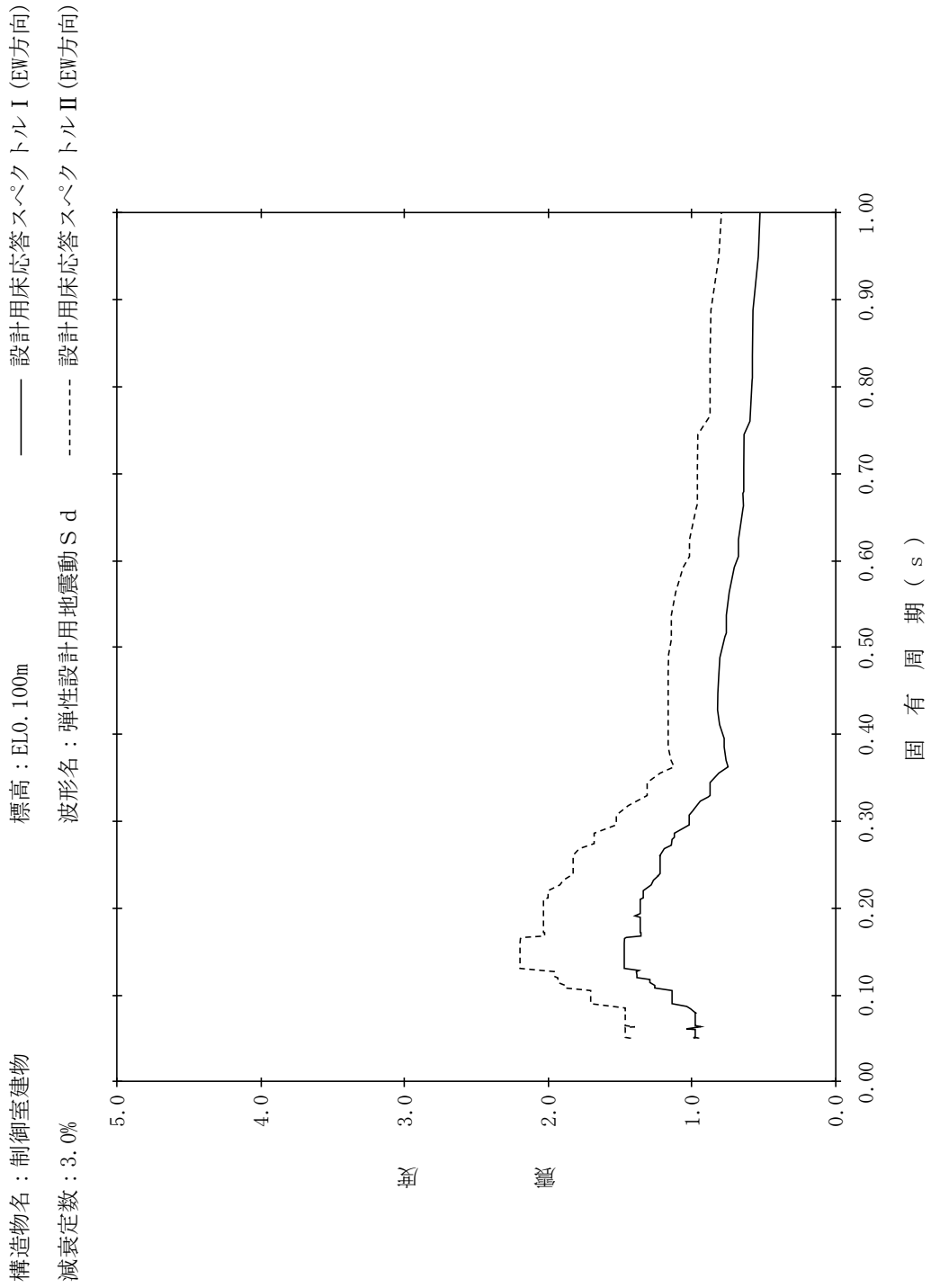
【NS2-CB-SdEW-CB44】



【NS2-CB-SdEW-CB45】

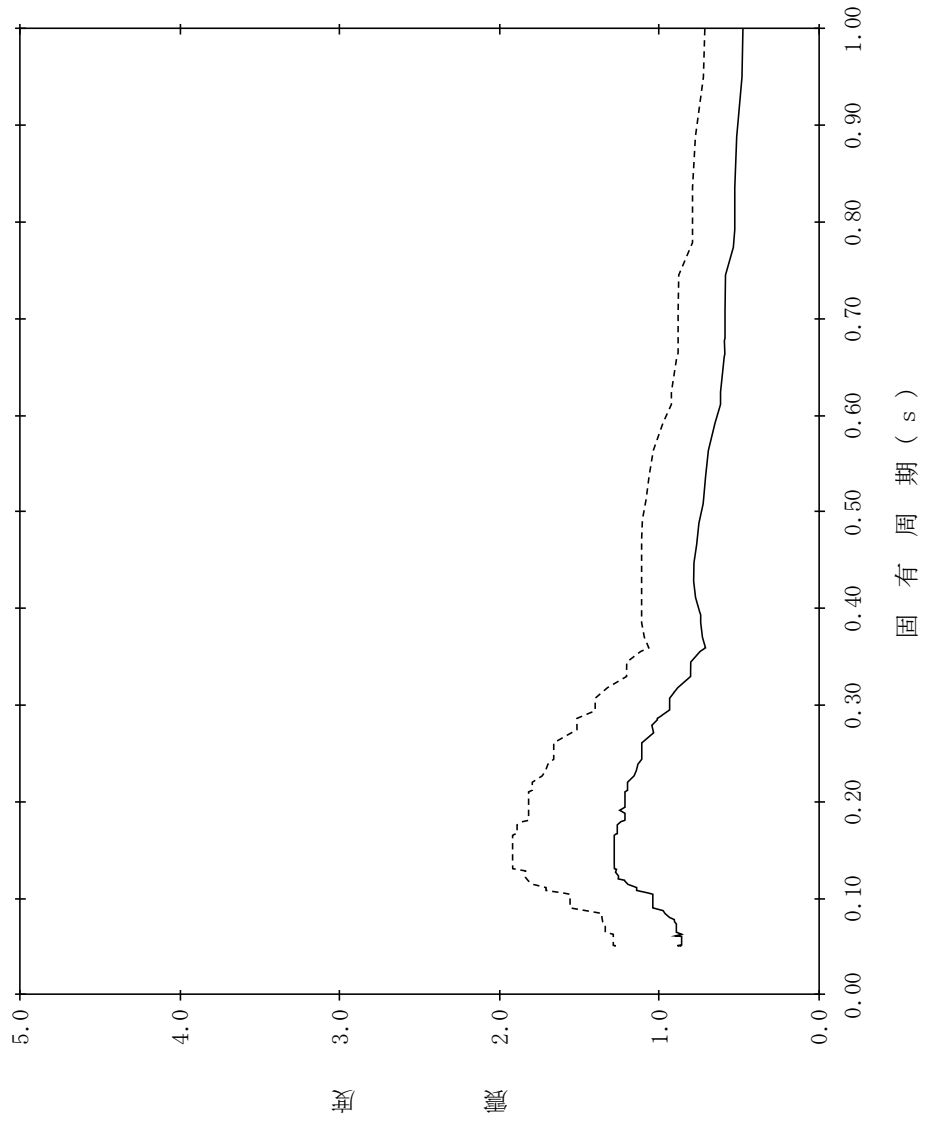


【NS2-CB-SdEW-CB46】



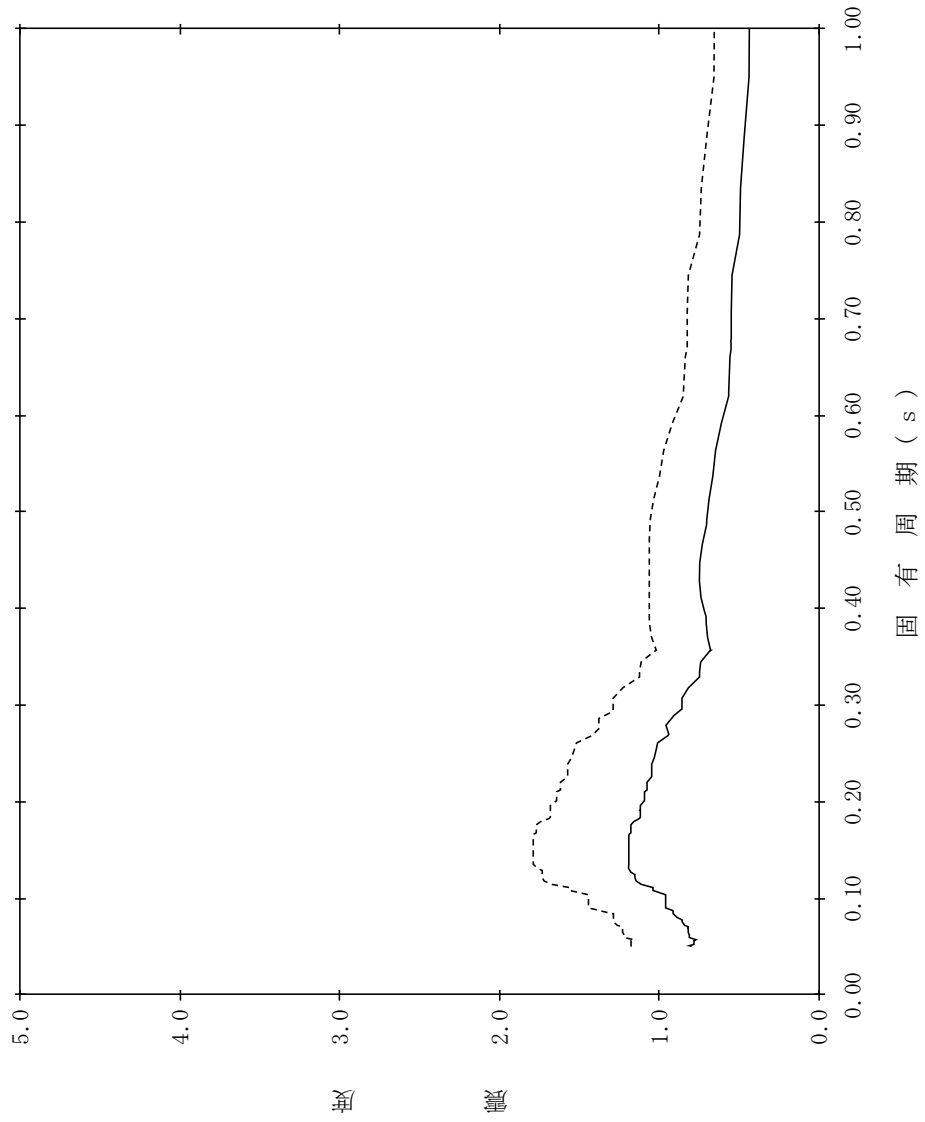
【NS2-CB-SdEW-CB47】

構造物名：制御室建物
標高：EL0.100m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



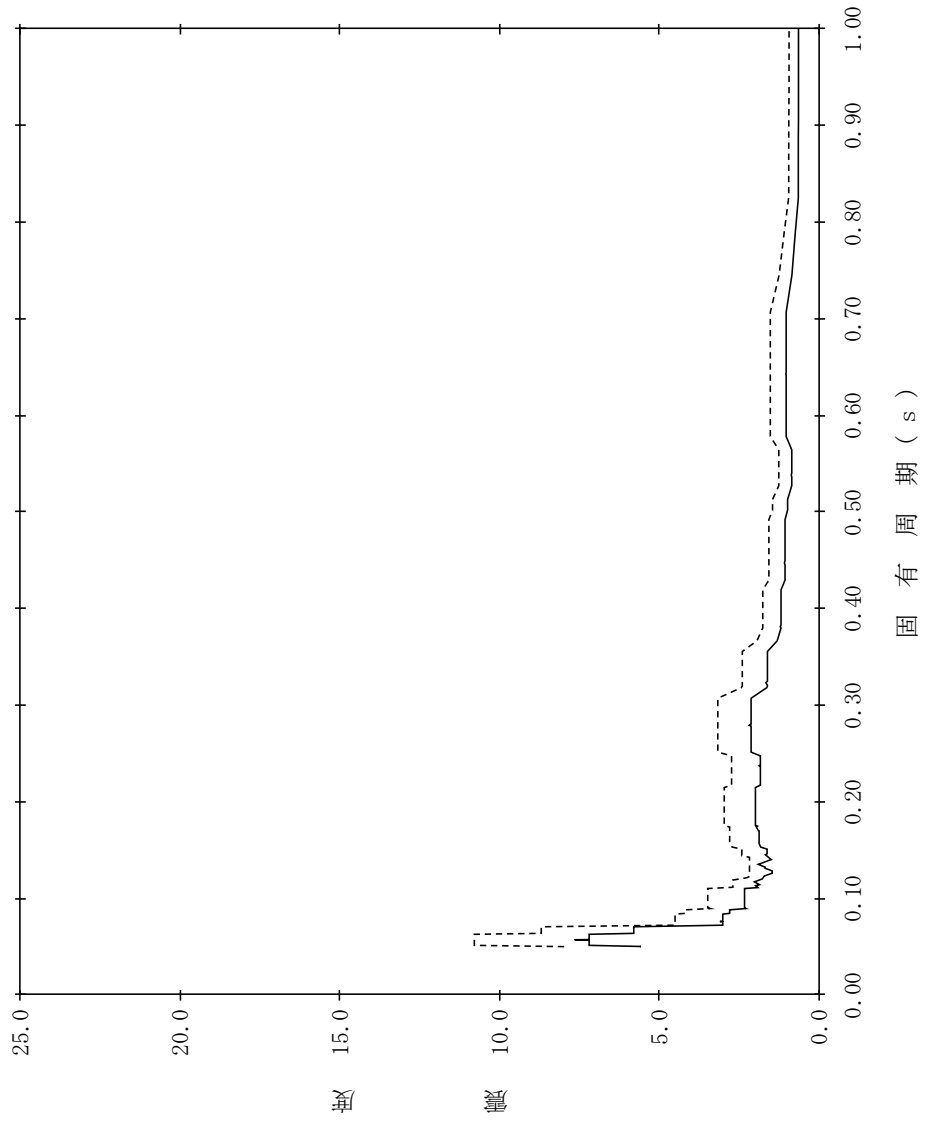
【NS2-CB-SdEW-CB48】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



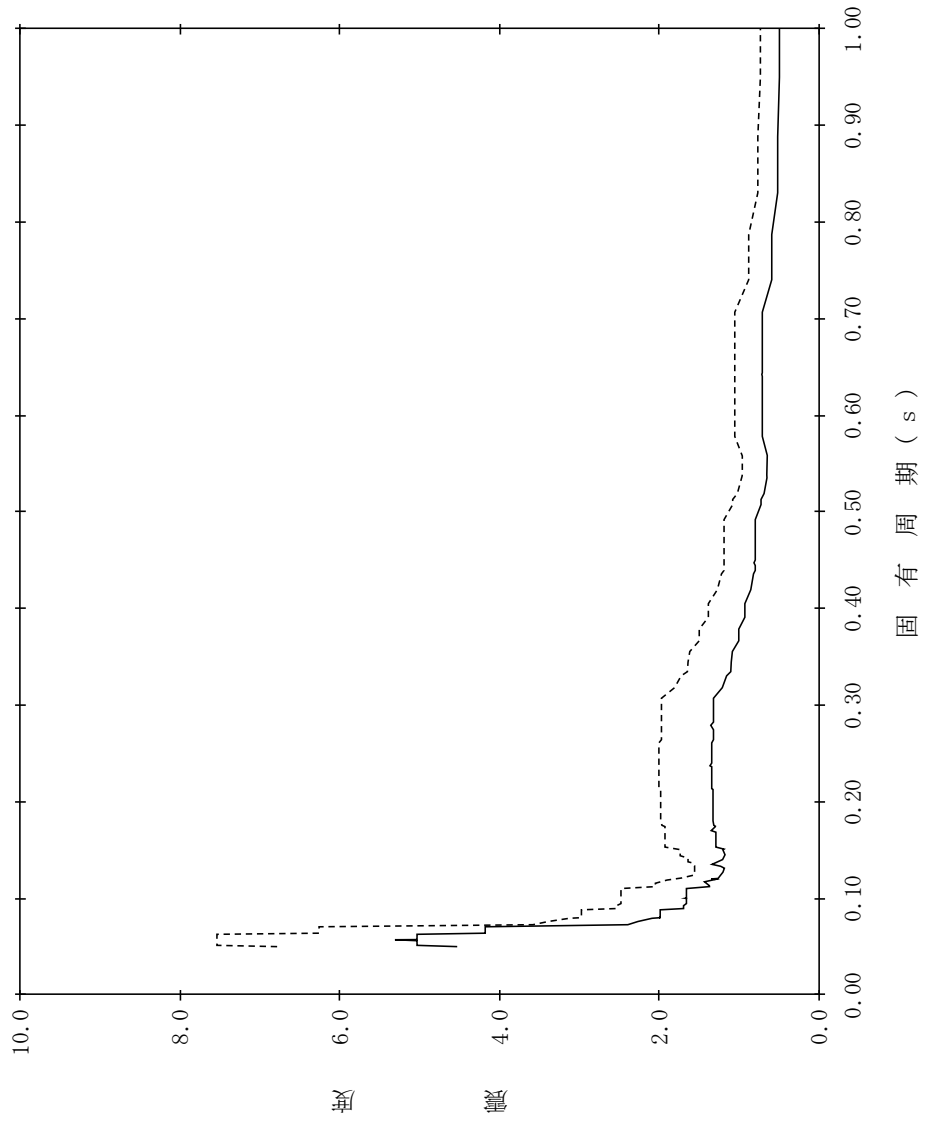
【NS2-CB-SdV-CB1】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



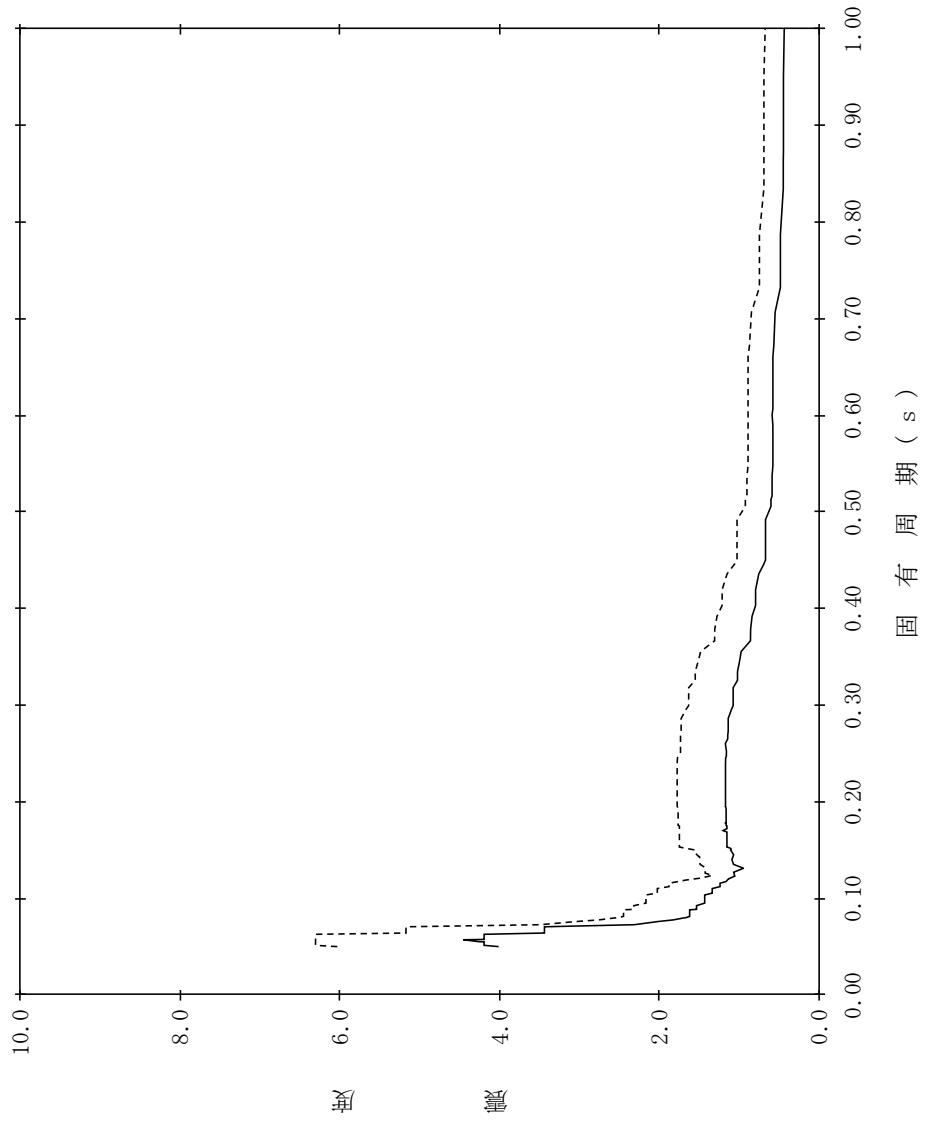
【NS2-CB-SdV-CB2】

構造物名：制御室建物
標高：EL22.050m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



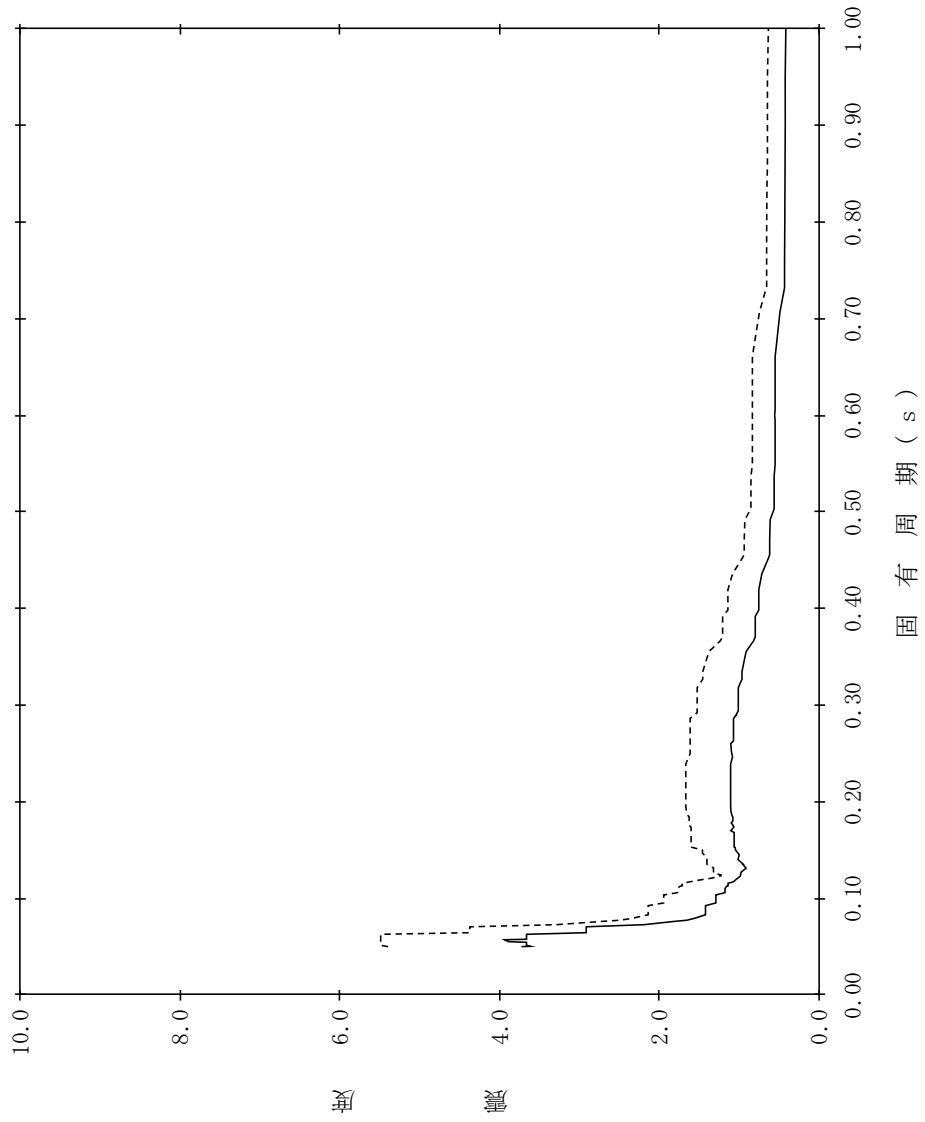
【NS2-CB-SdV-CB3】

構造物名：制御室建物
標高：EL22.050m
減衰定数：1.5%
—— 設計用床応答スペクトルⅠ（鉛直方向）
----- 設計用床応答スペクトルⅡ（鉛直方向）



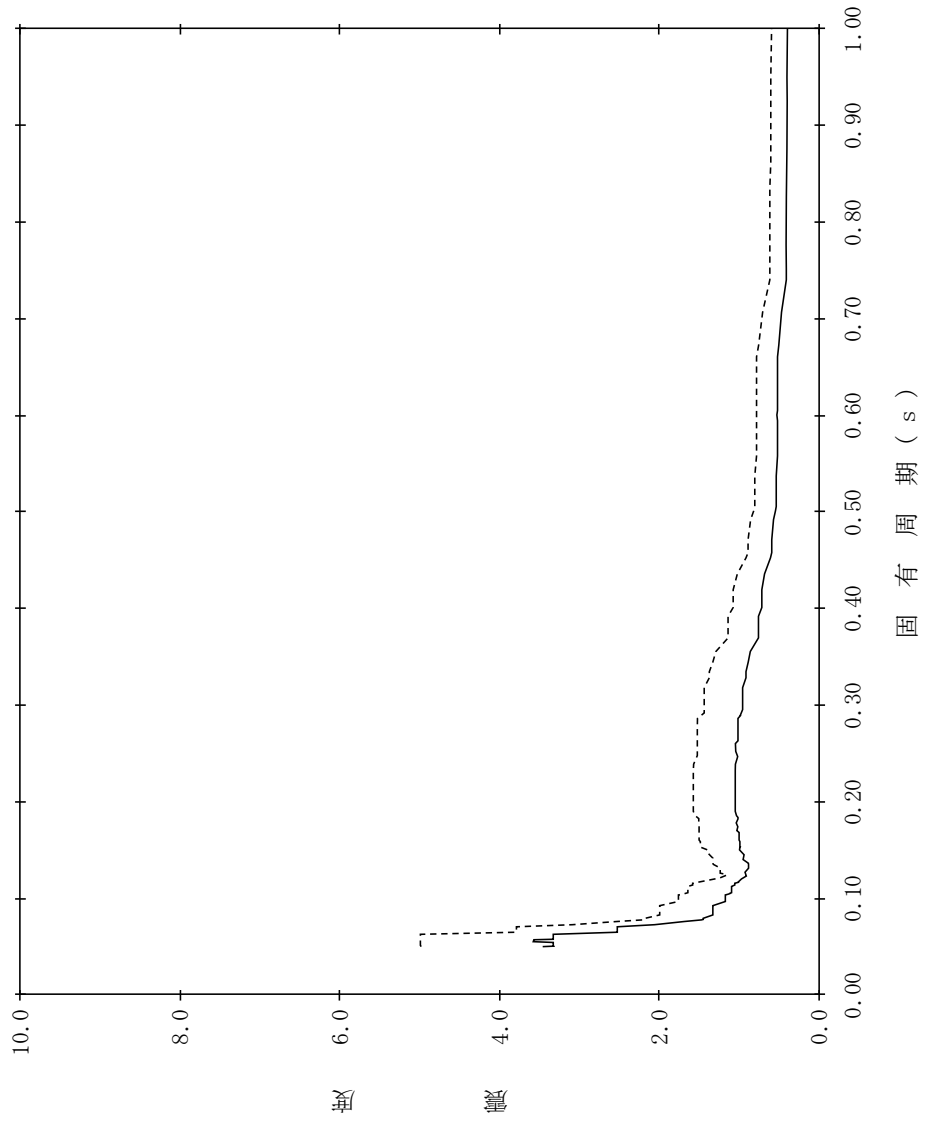
【NS2-CB-SdV-CB4】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



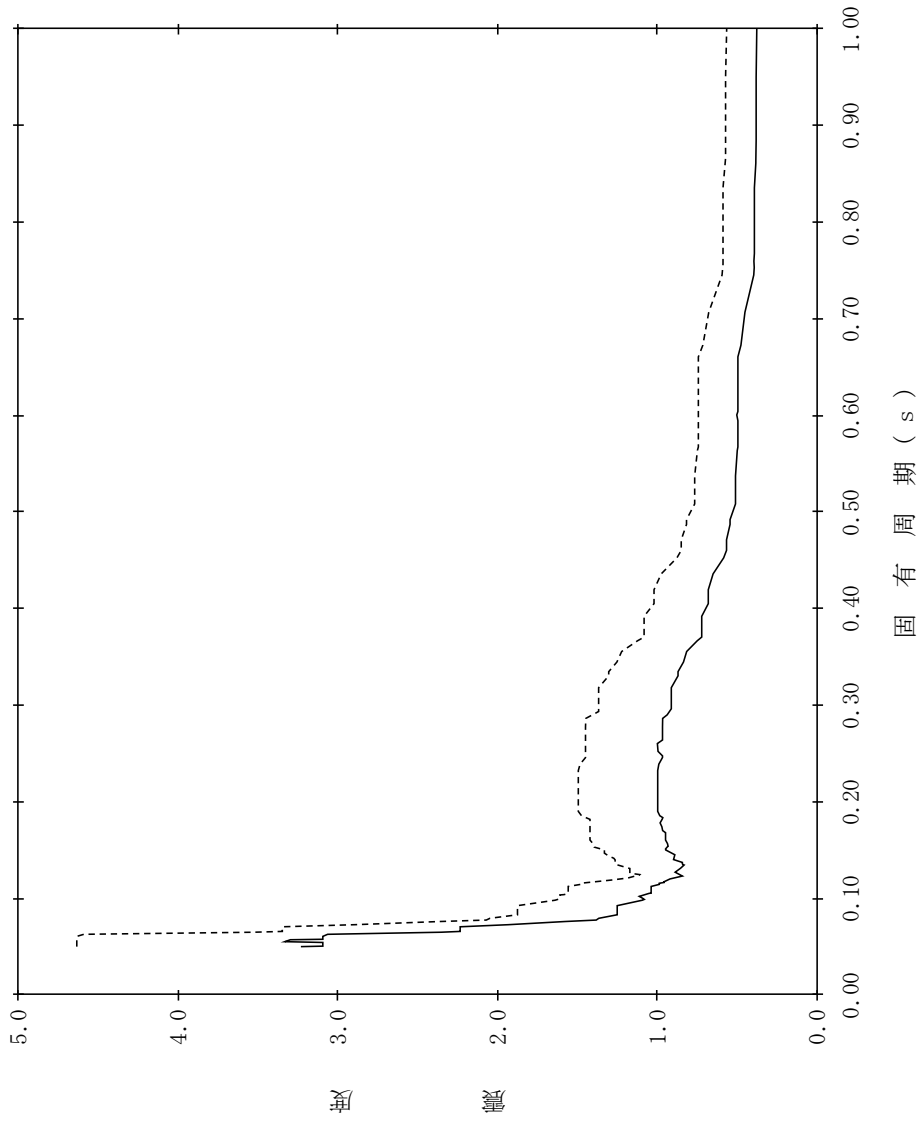
【NS2-CB-SdV-CB5】

構造物名：制御室建物
標高：EL22.050m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



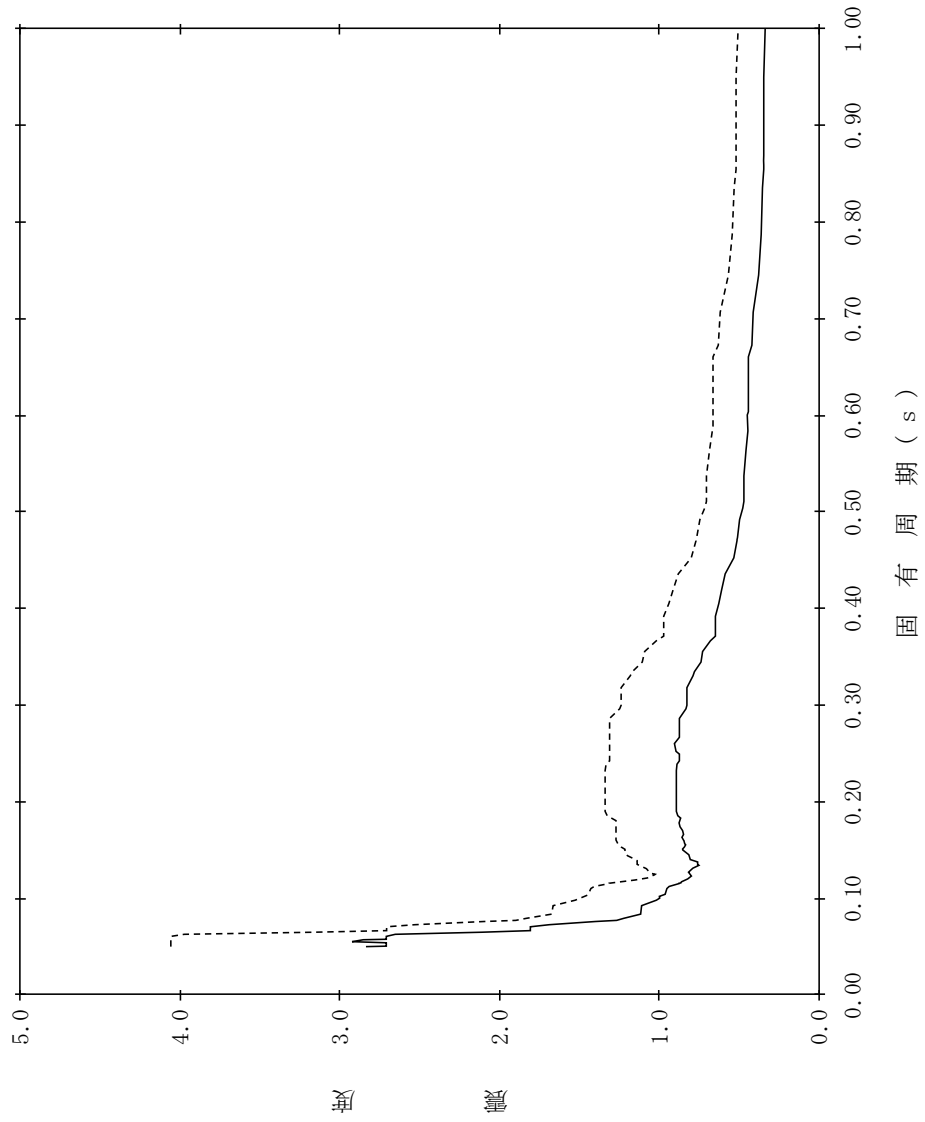
【NS2-CB-SdV-CB6】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



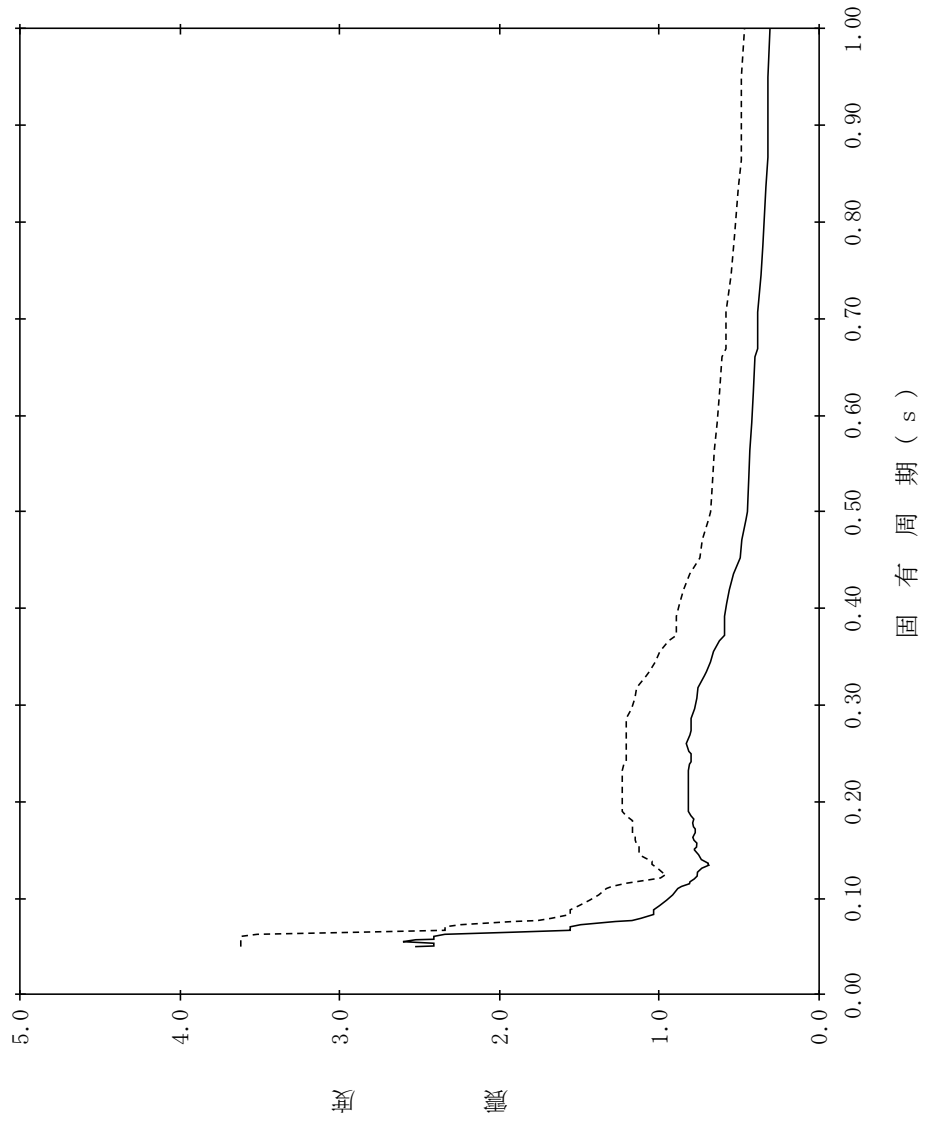
【NS2-CB-SdV-CB7】

構造物名：制御室建物
標高：EL22.050m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

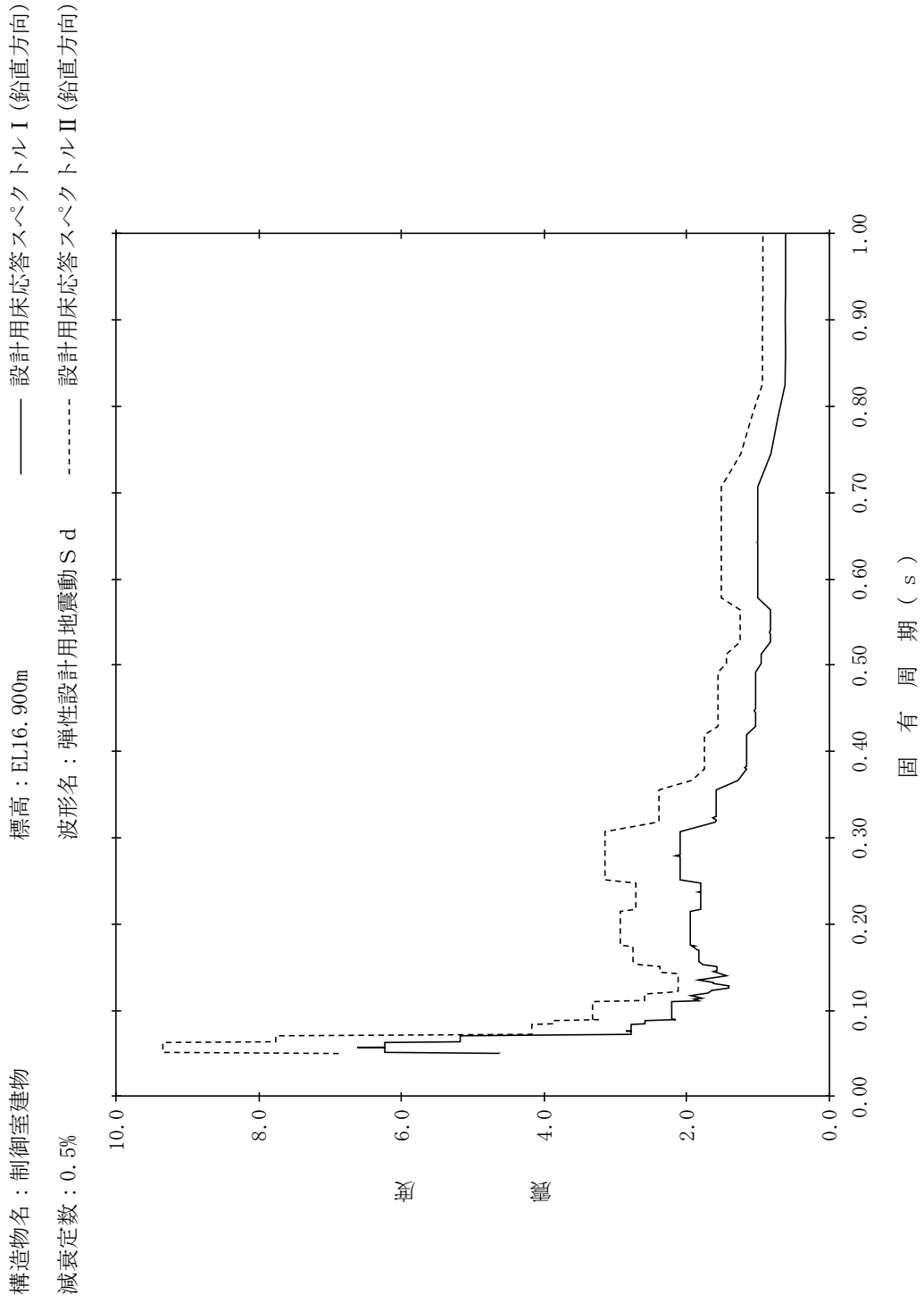


【NS2-CB-SdV-CB8】

構造物名：制御室建物
標高：EL22.050m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

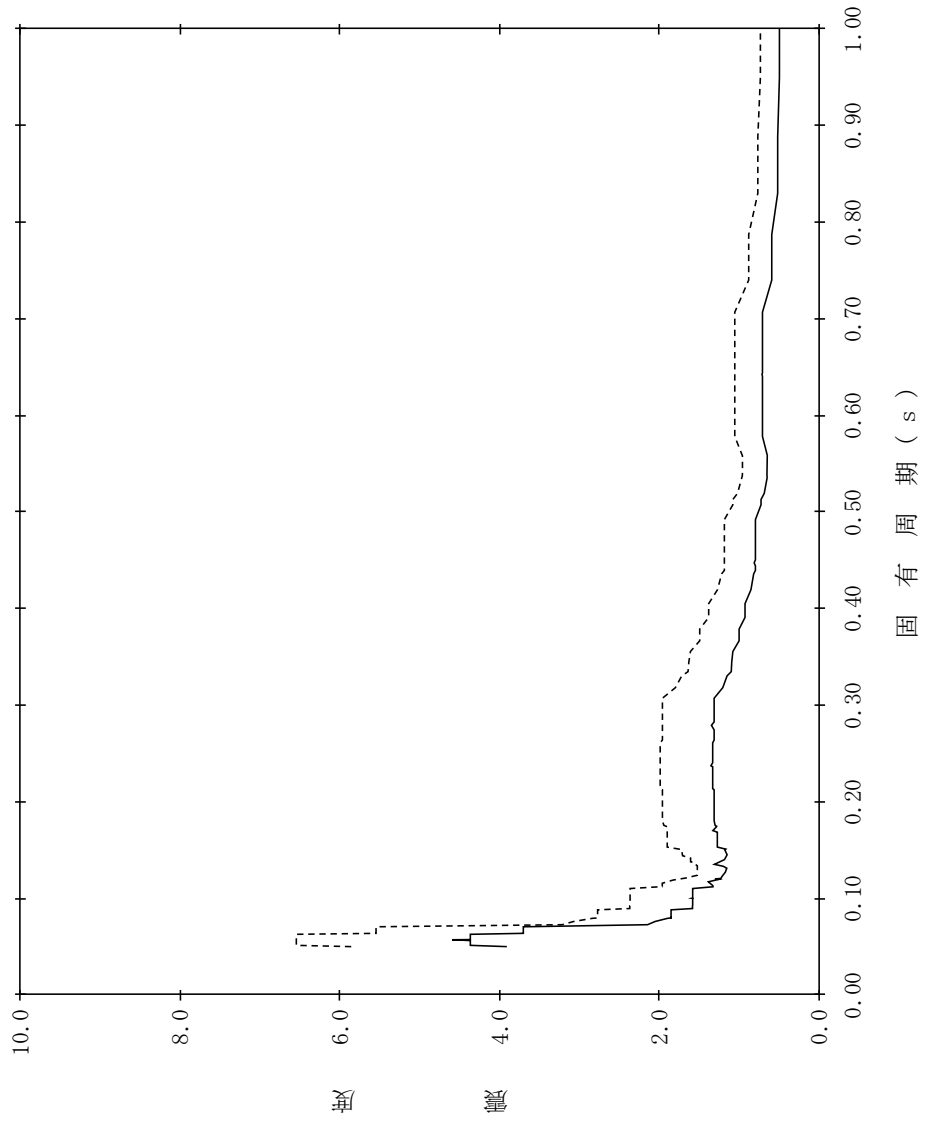


【NS2-CB-SdV-CB9】



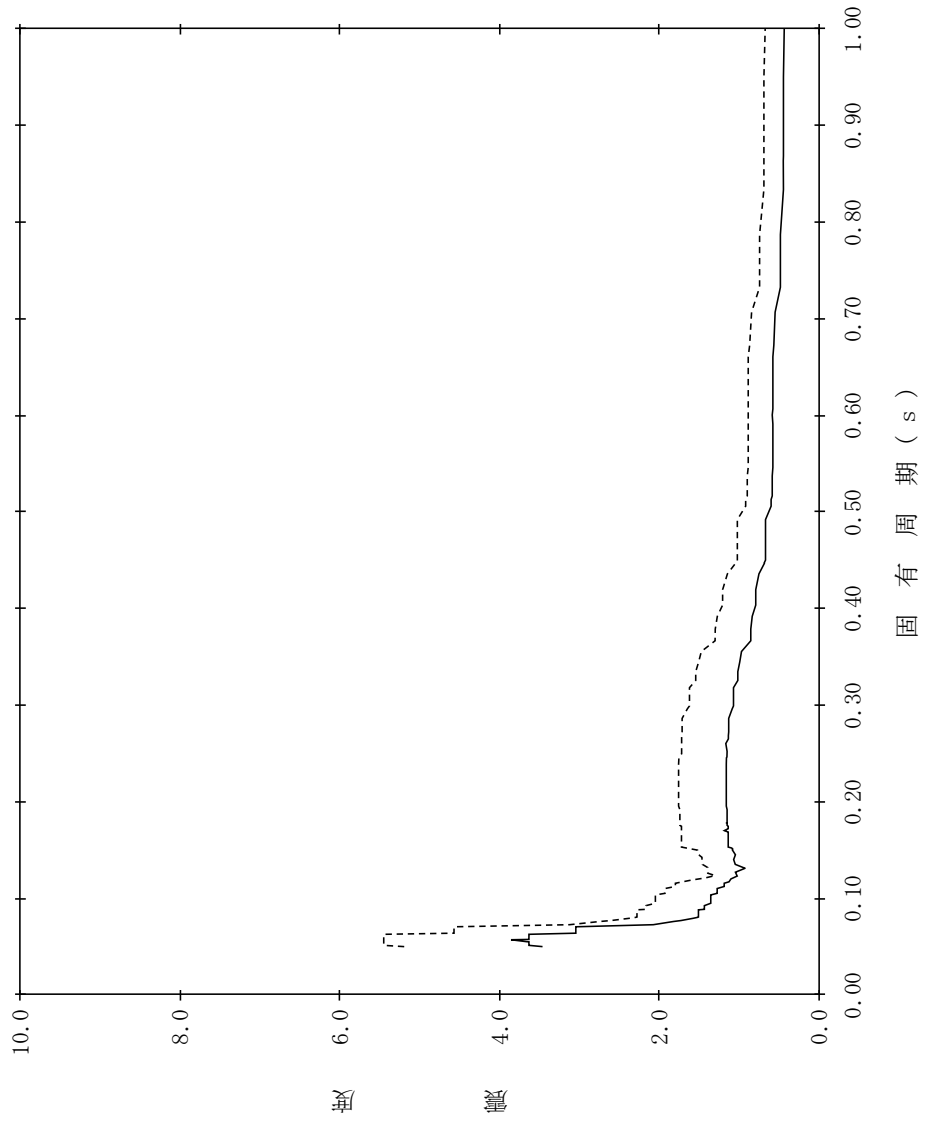
【NS2-CB-SdV-CB10】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



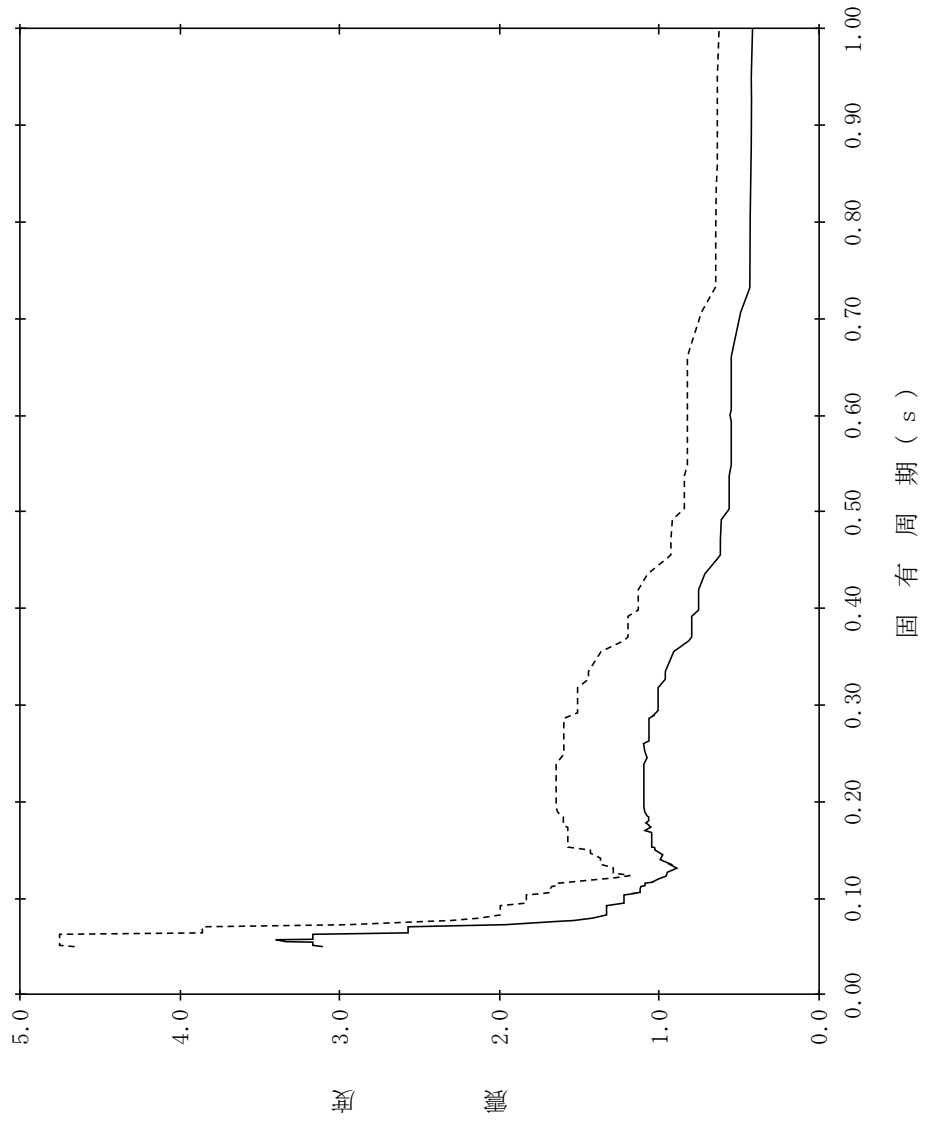
【NS2-CB-SdV-CB11】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



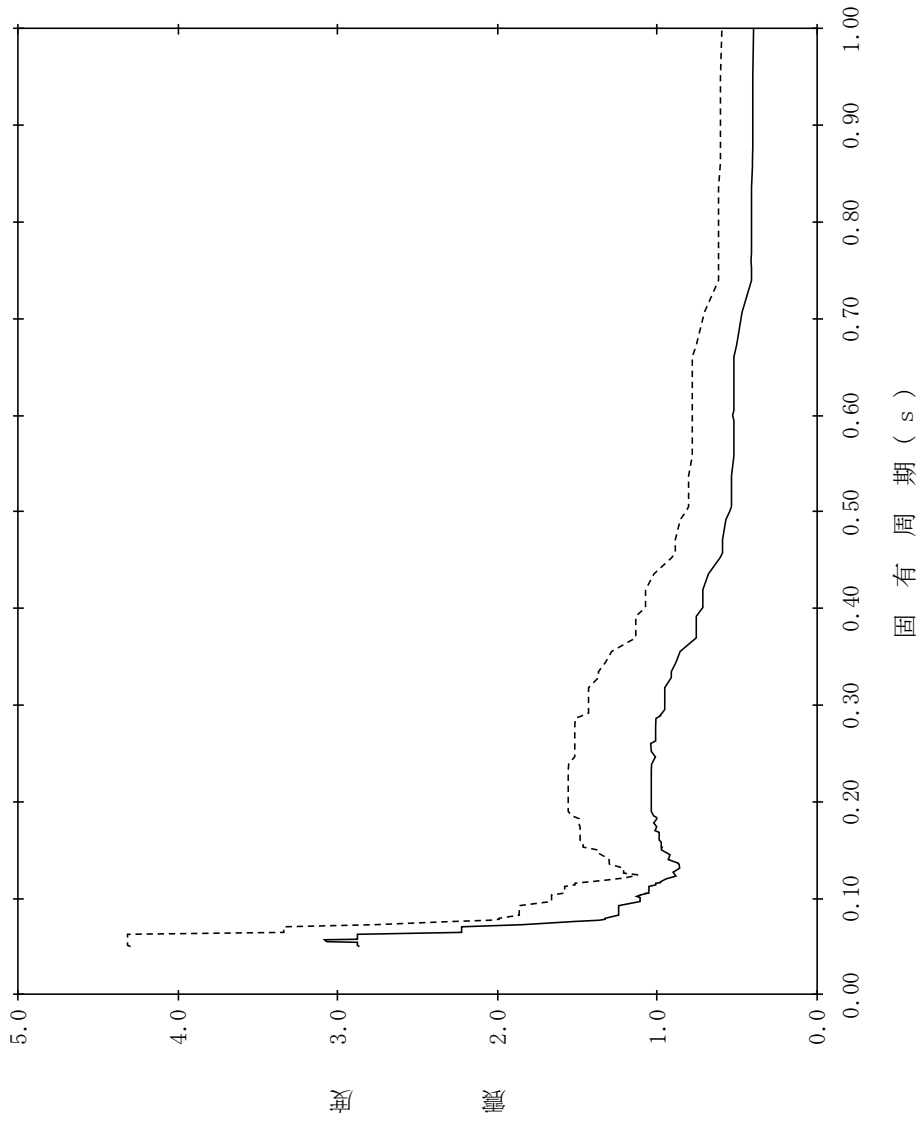
【NS2-CB-SdV-CB12】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



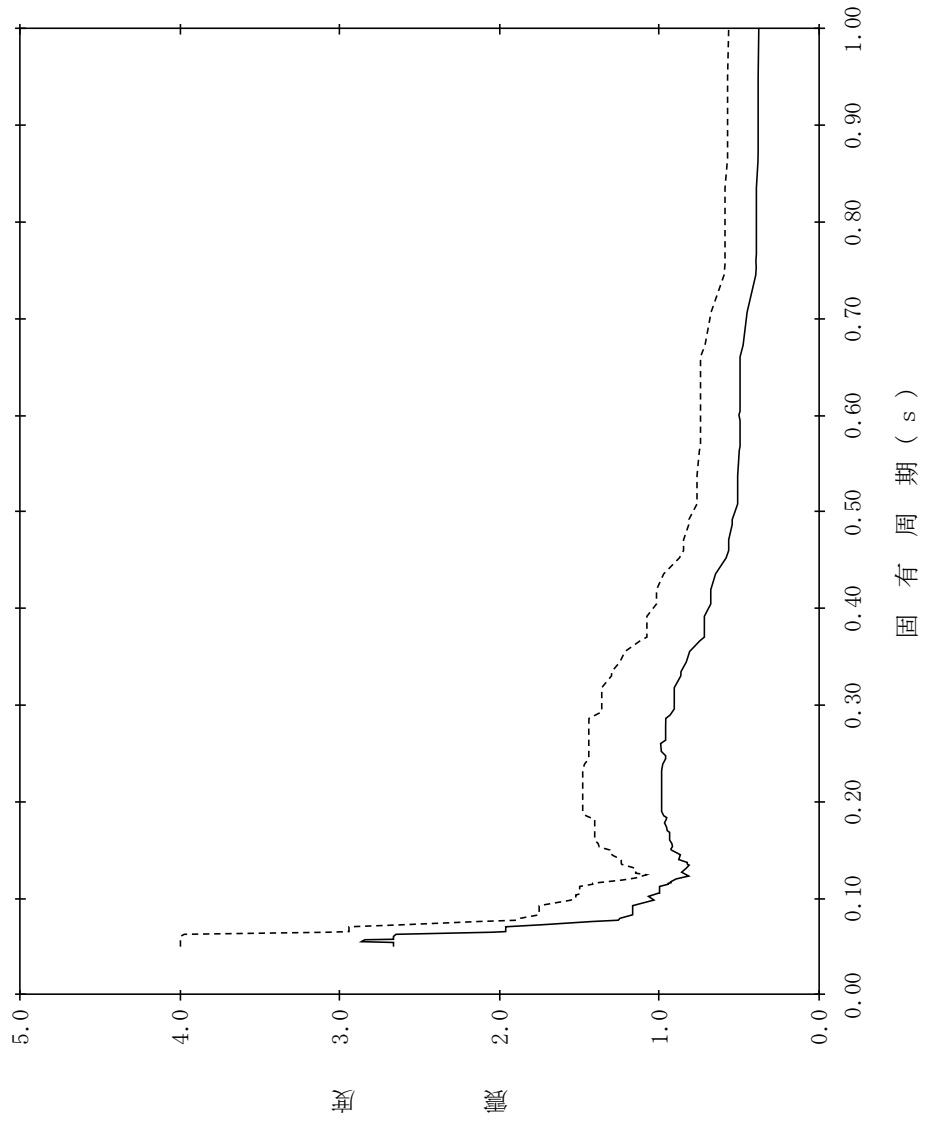
【NS2-CB-SdV-CB13】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



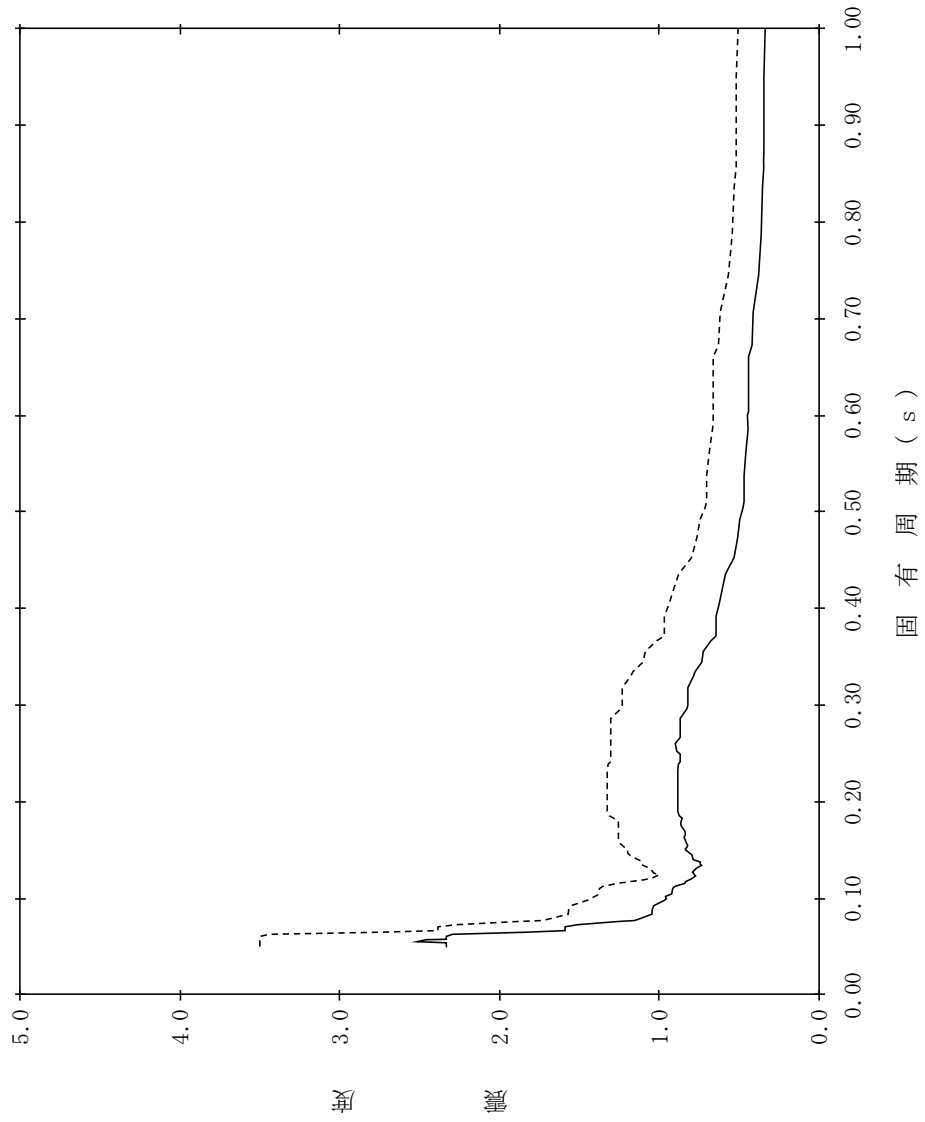
【NS2-CB-SdV-CB14】

構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



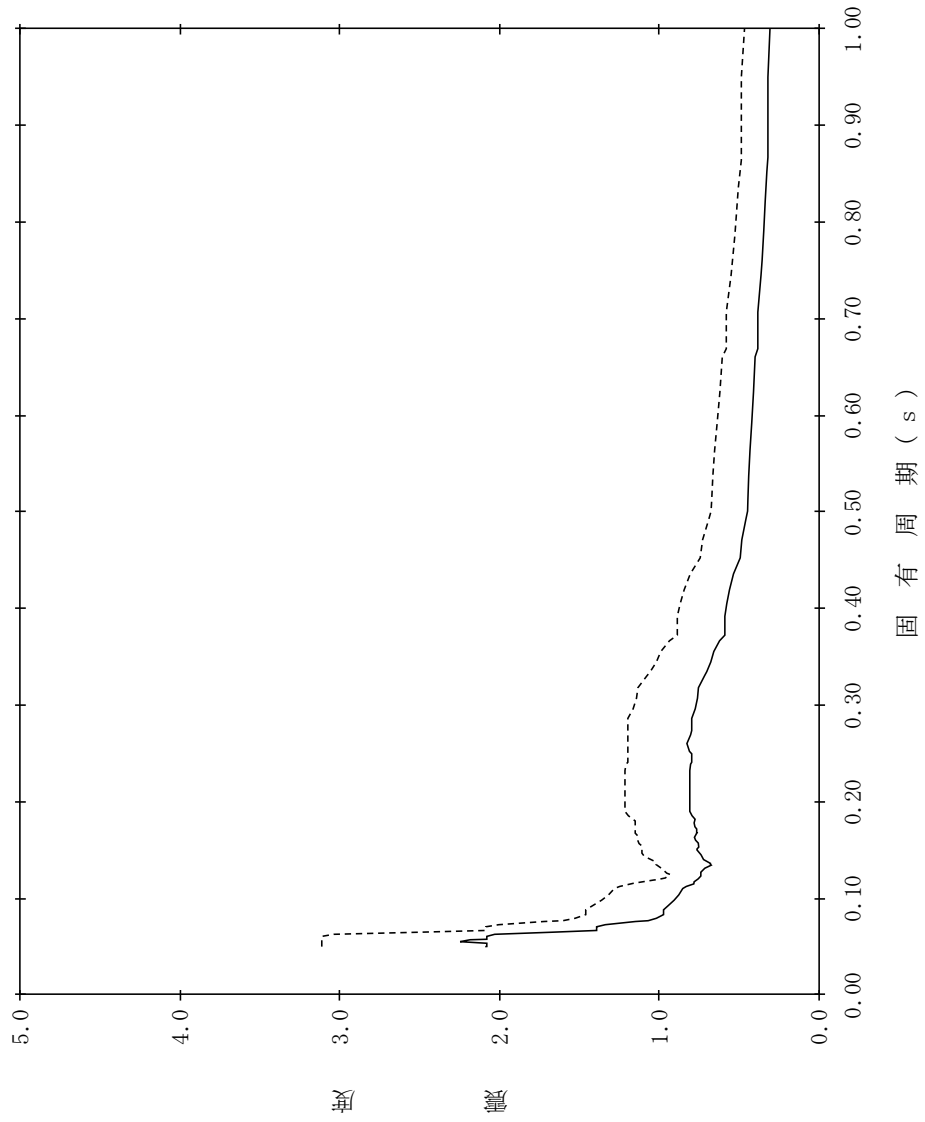
【NS2-CB-SdV-CB15】

構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



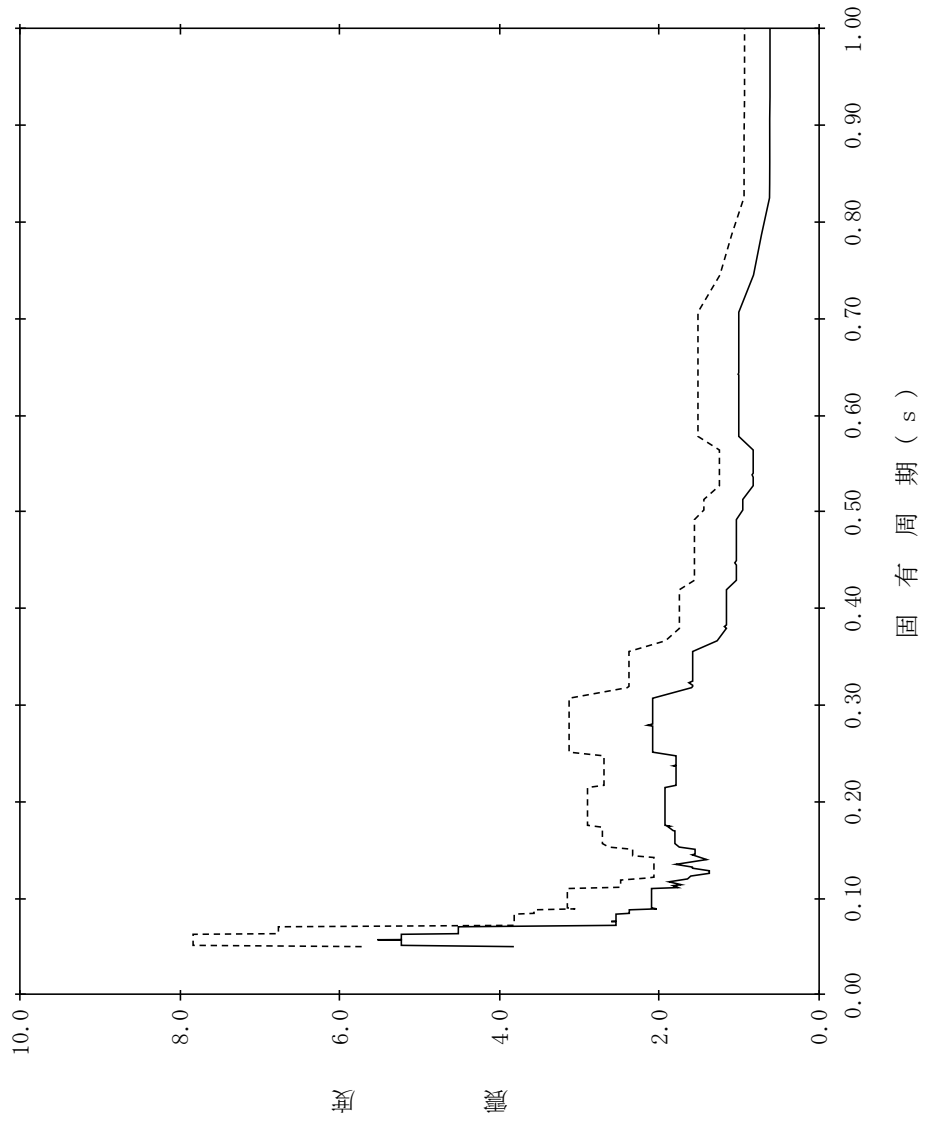
【NS2-CB-SdV-CB16】

構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



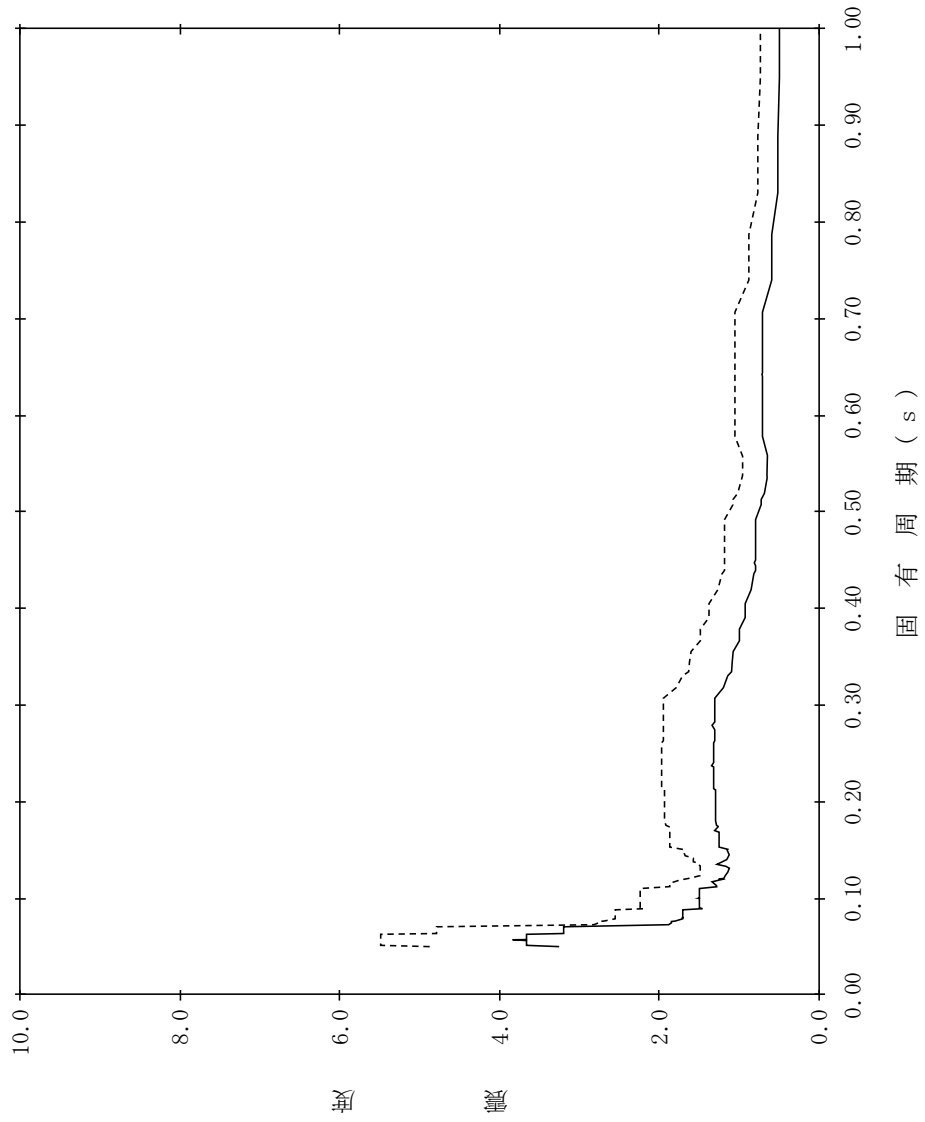
【NS2-CB-SdV-CB17】

構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-CB-SdV-CB18】

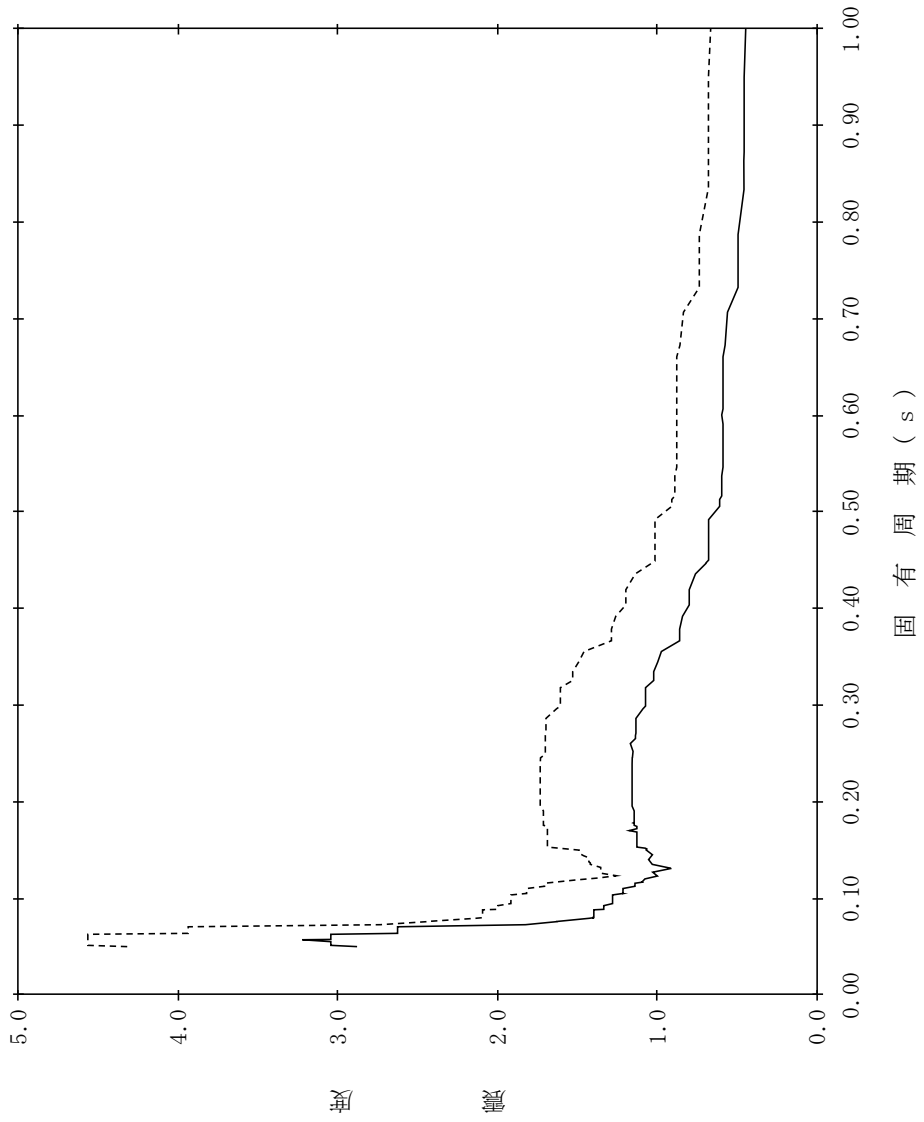
構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-CB-SdV-CB19】

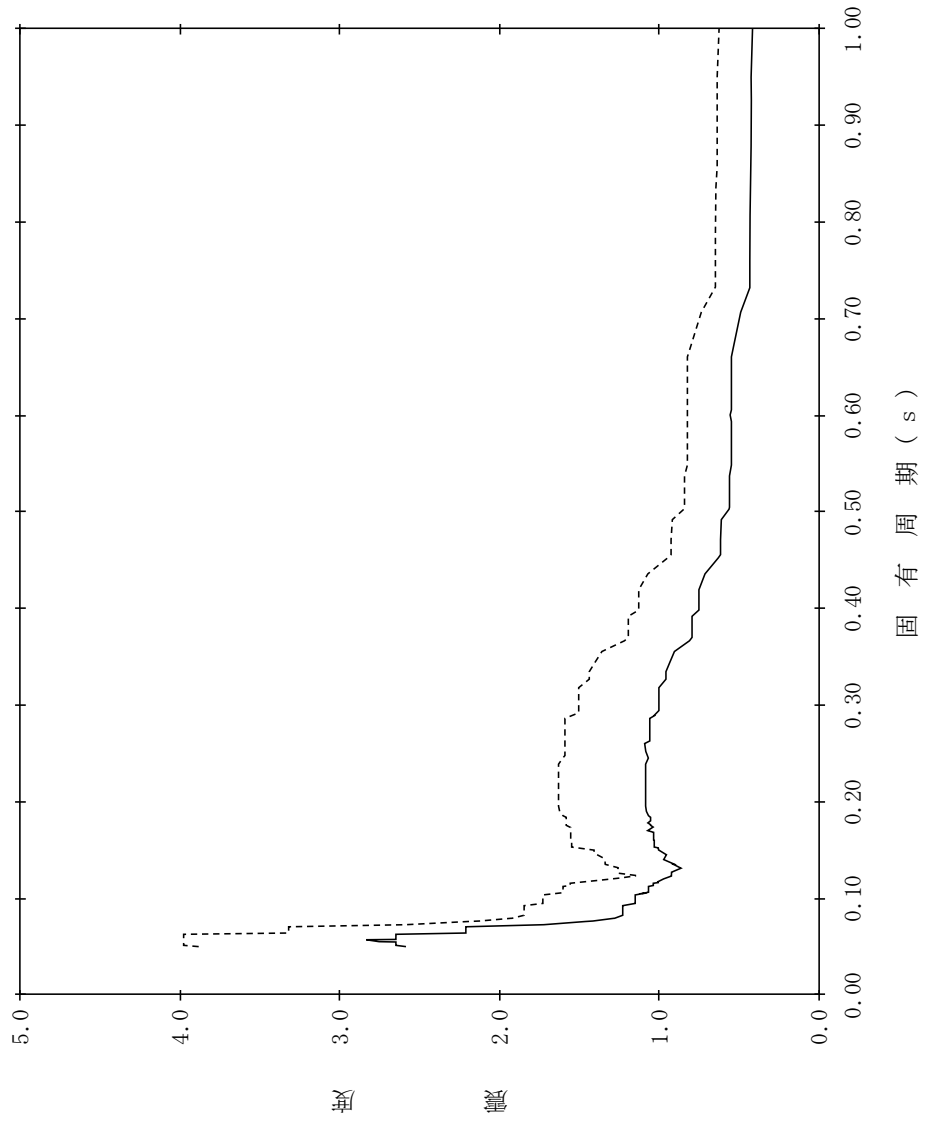
構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：1.5%

—— 設計用床応答スペクトルⅠ (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトルⅡ (鉛直方向)



【NS2-CB-SdV-CB20】

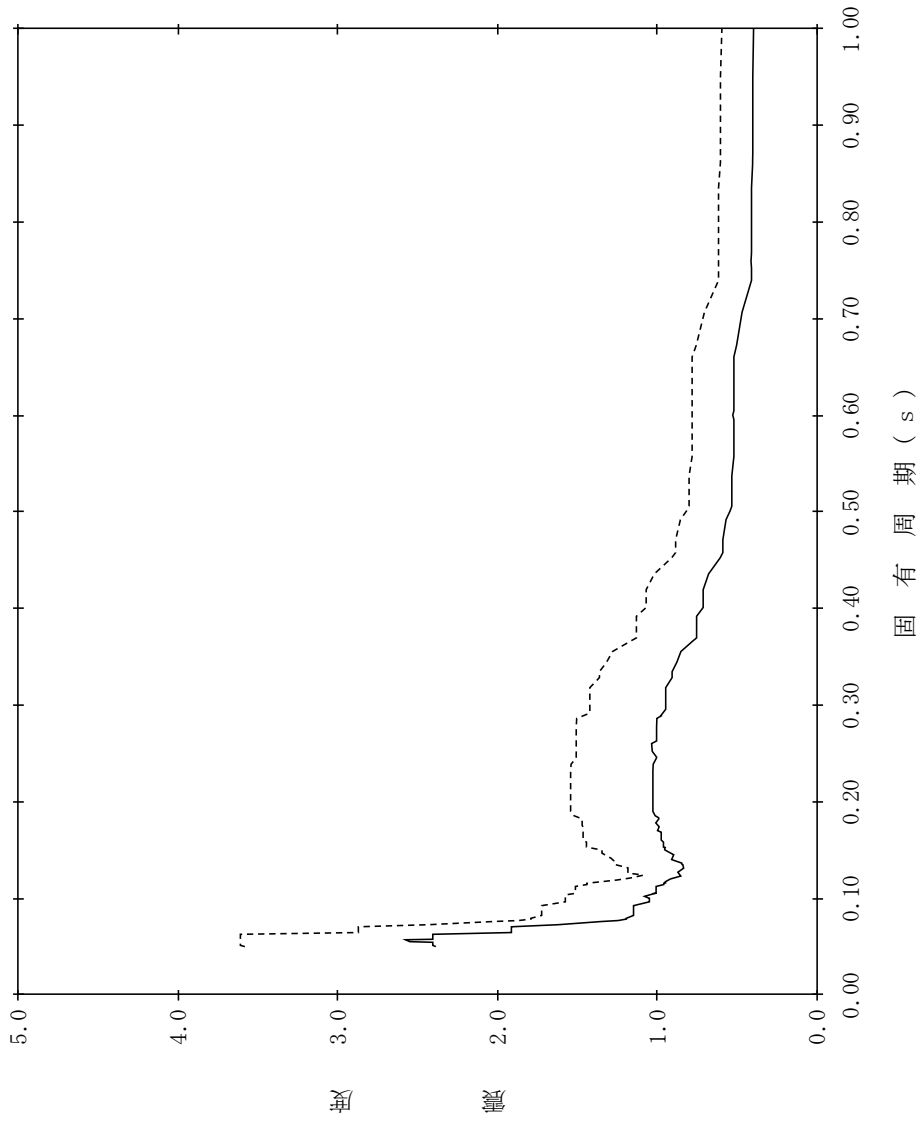
構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-CB-SdV-CB21】

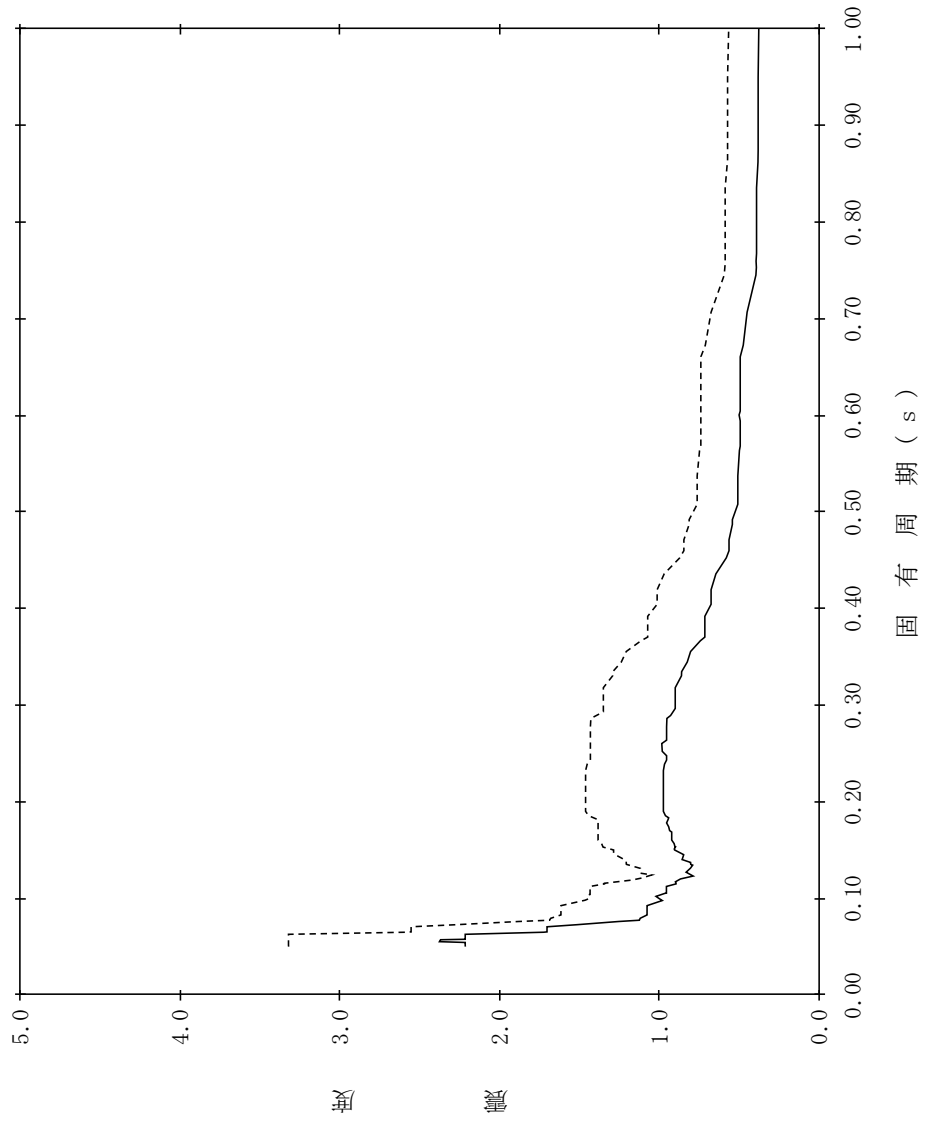
構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：2.5%

—— 設計用床応答スペクトルⅠ (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトルⅡ (鉛直方向)



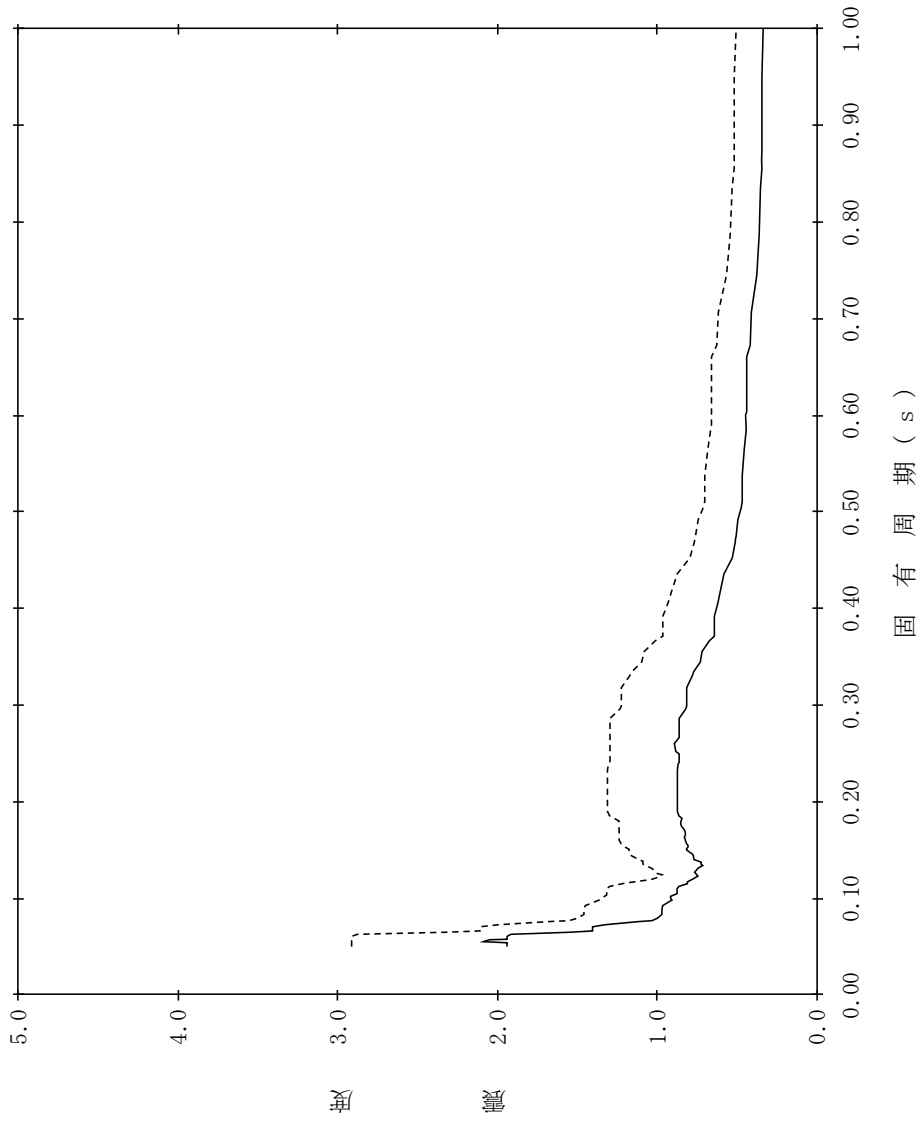
【NS2-CB-SdV-CB22】

構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



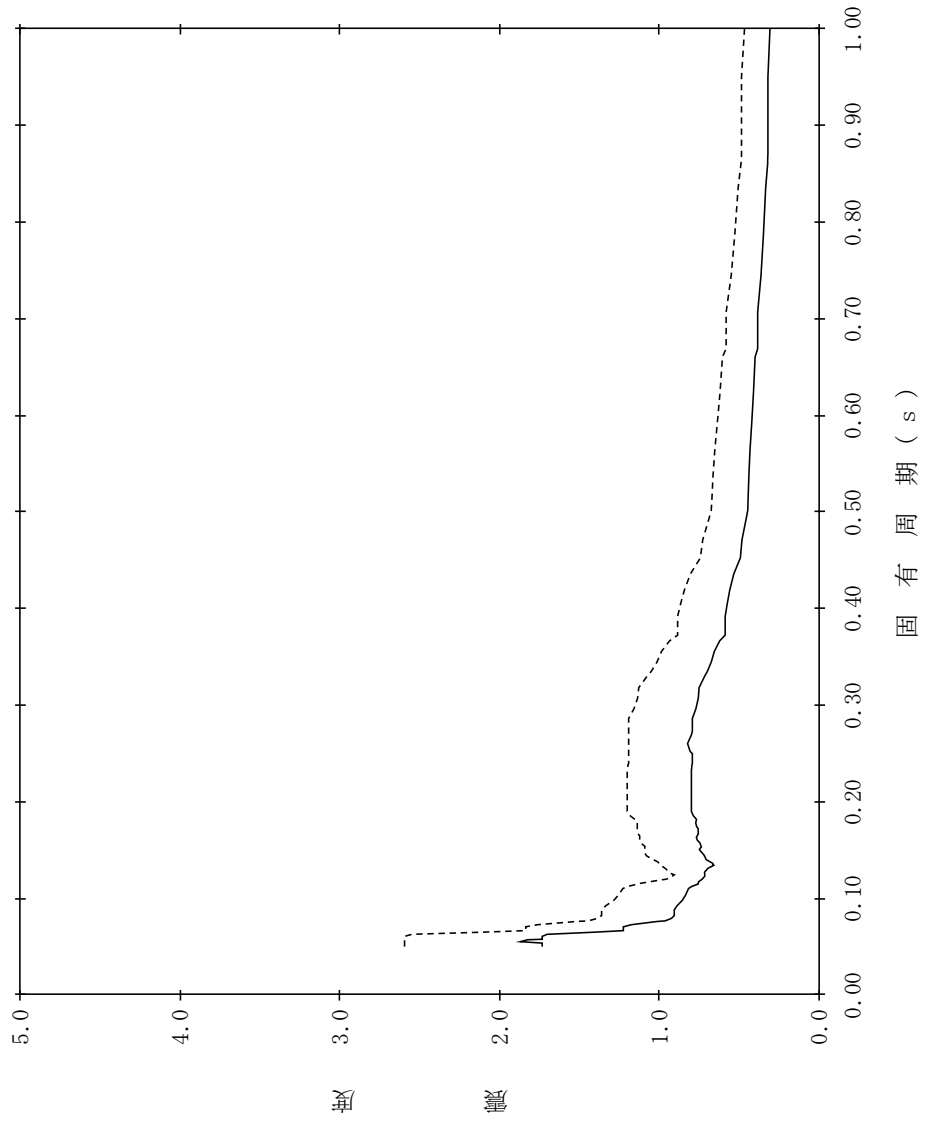
【NS2-CB-SdV-CB23】

構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



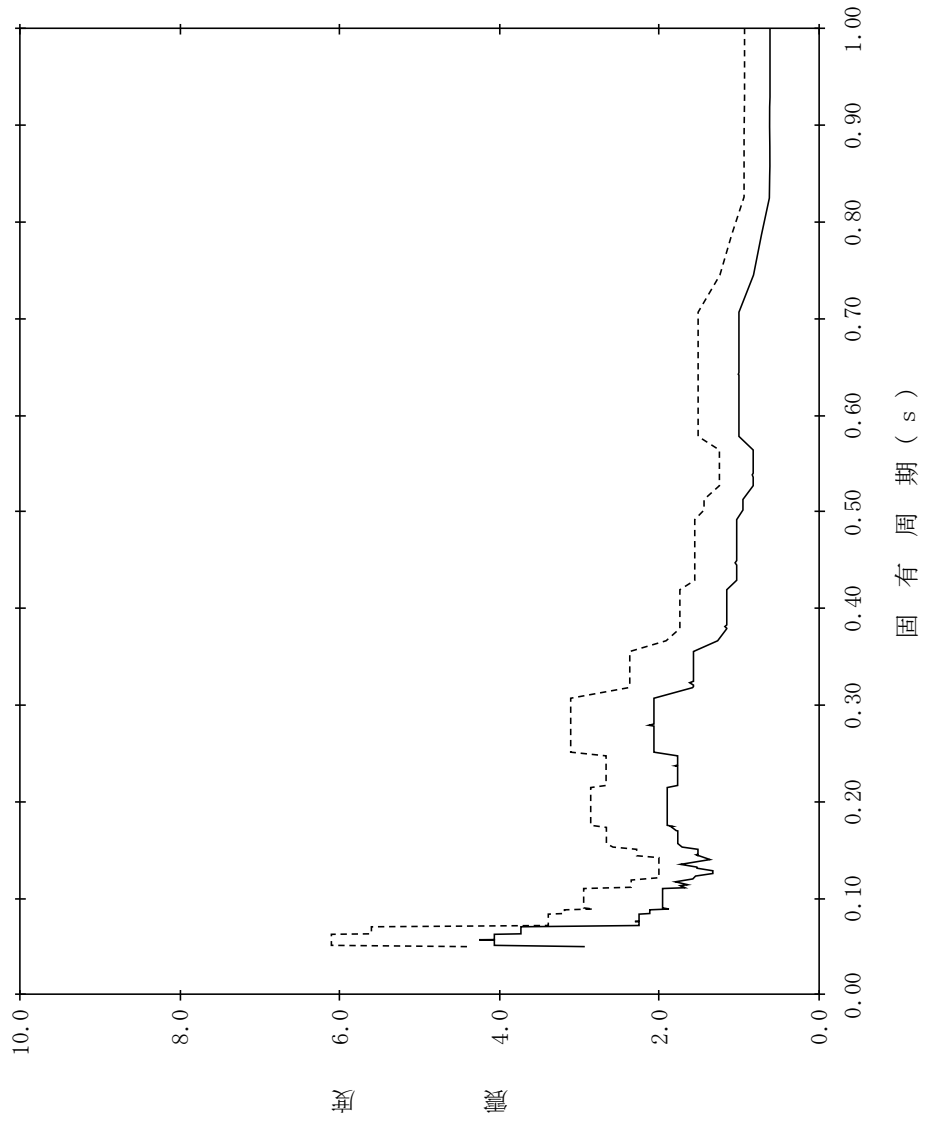
【NS2-CB-SdV-CB24】

構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



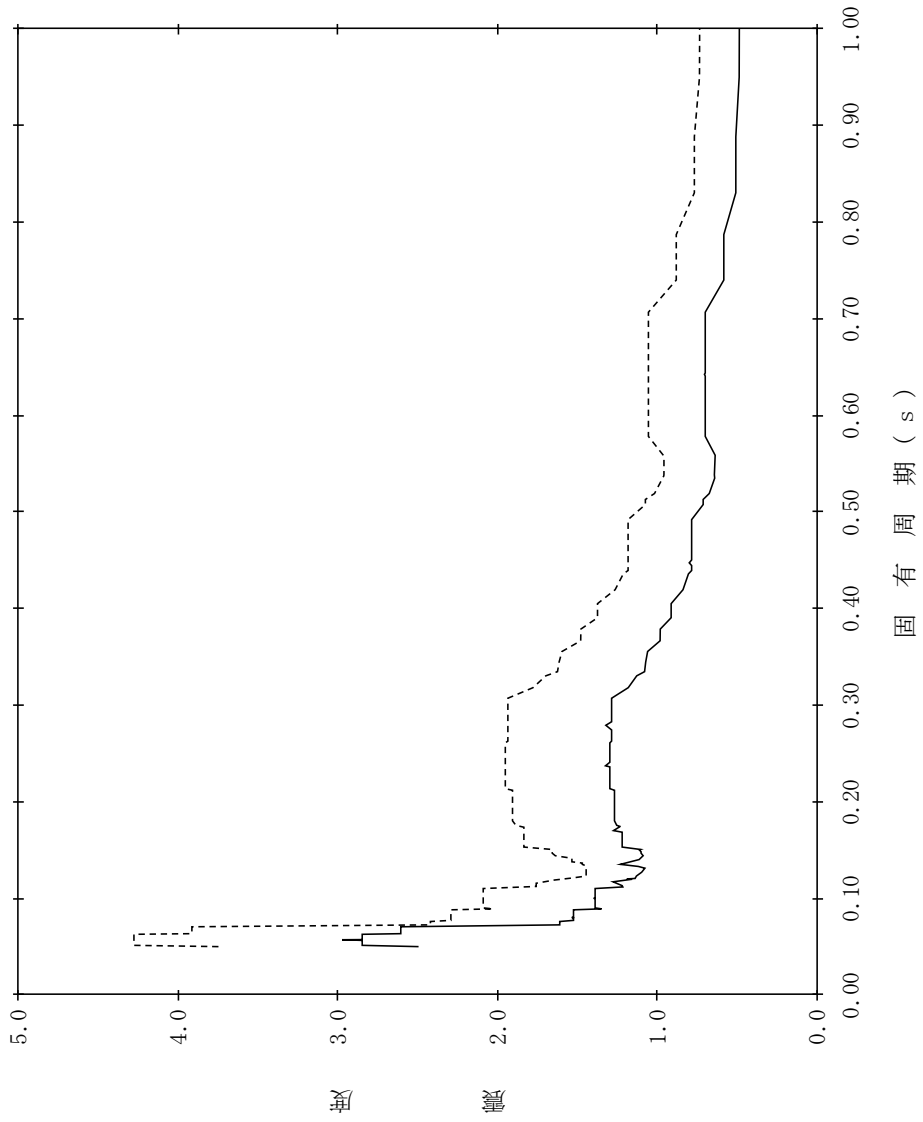
【NS2-CB-SdV-CB25】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



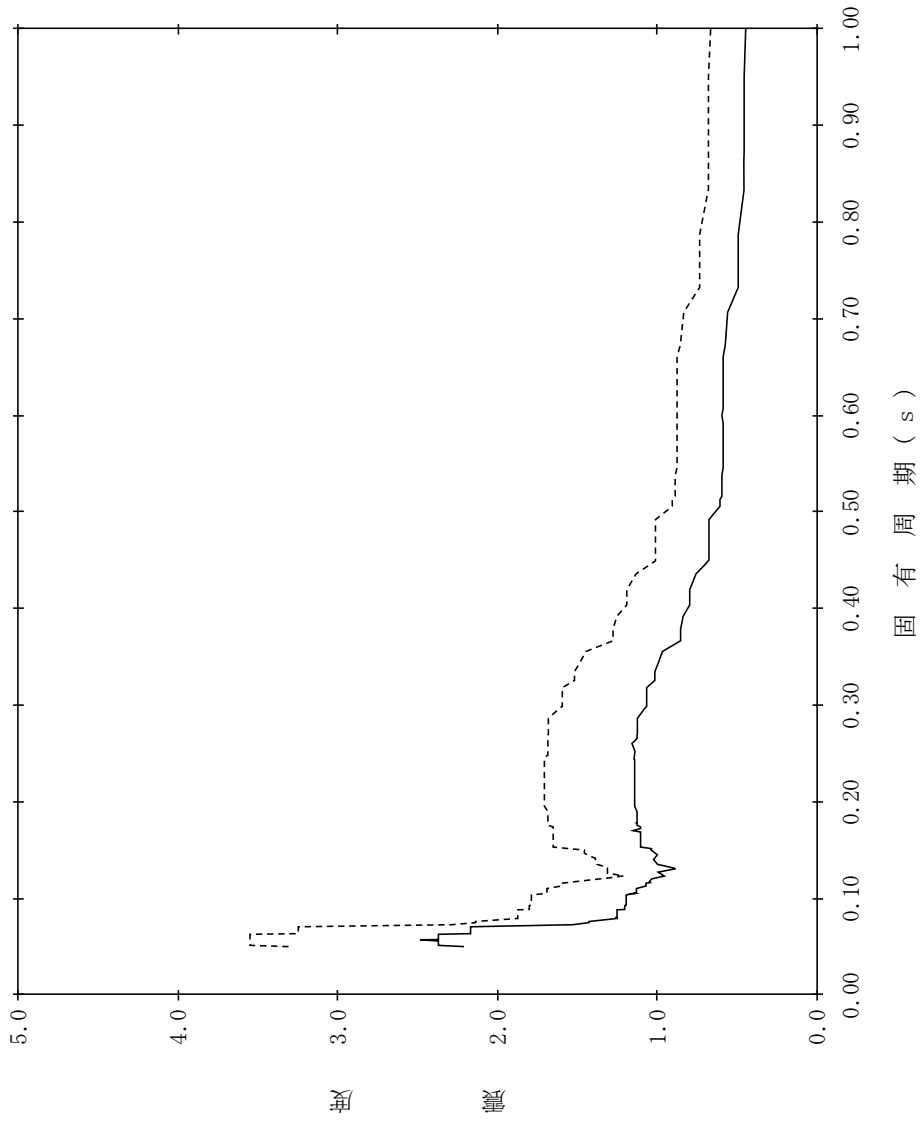
【NS2-CB-SdV-CB26】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



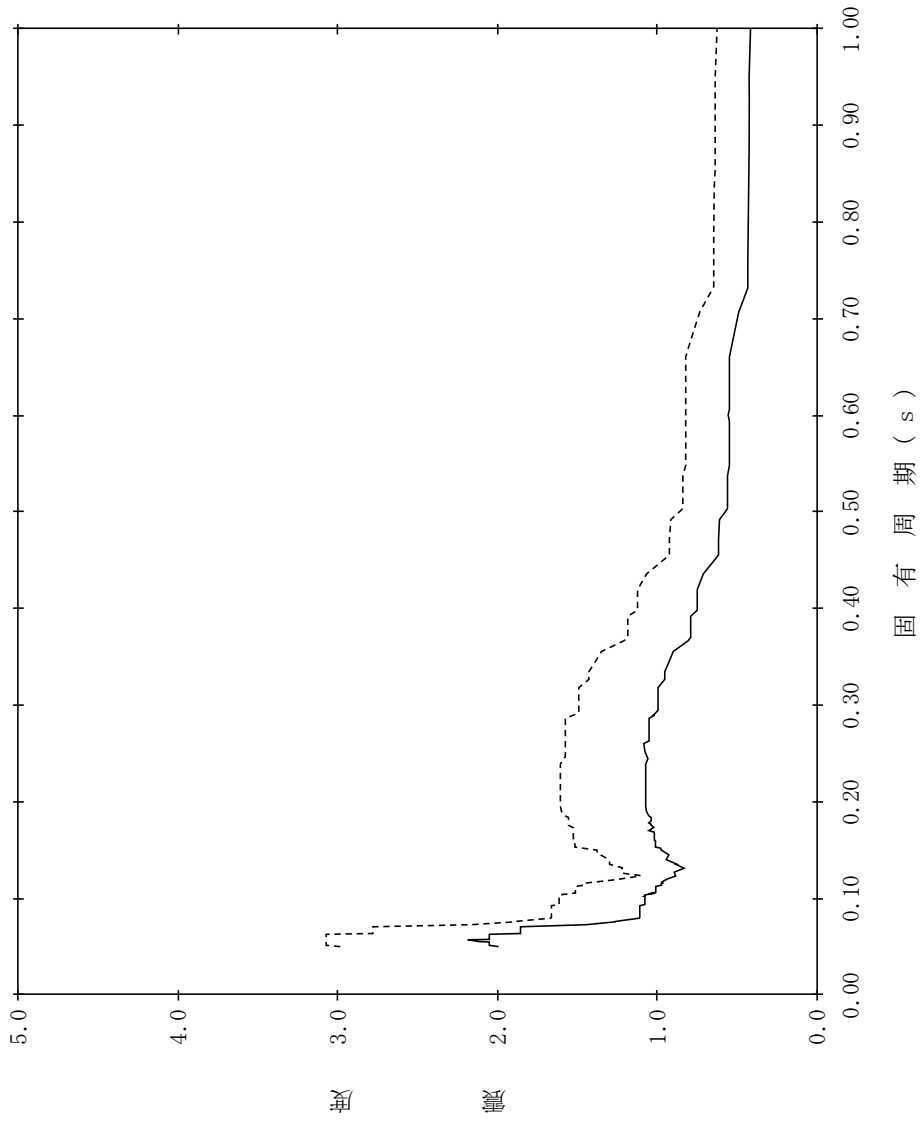
【NS2-CB-SdV-CB27】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



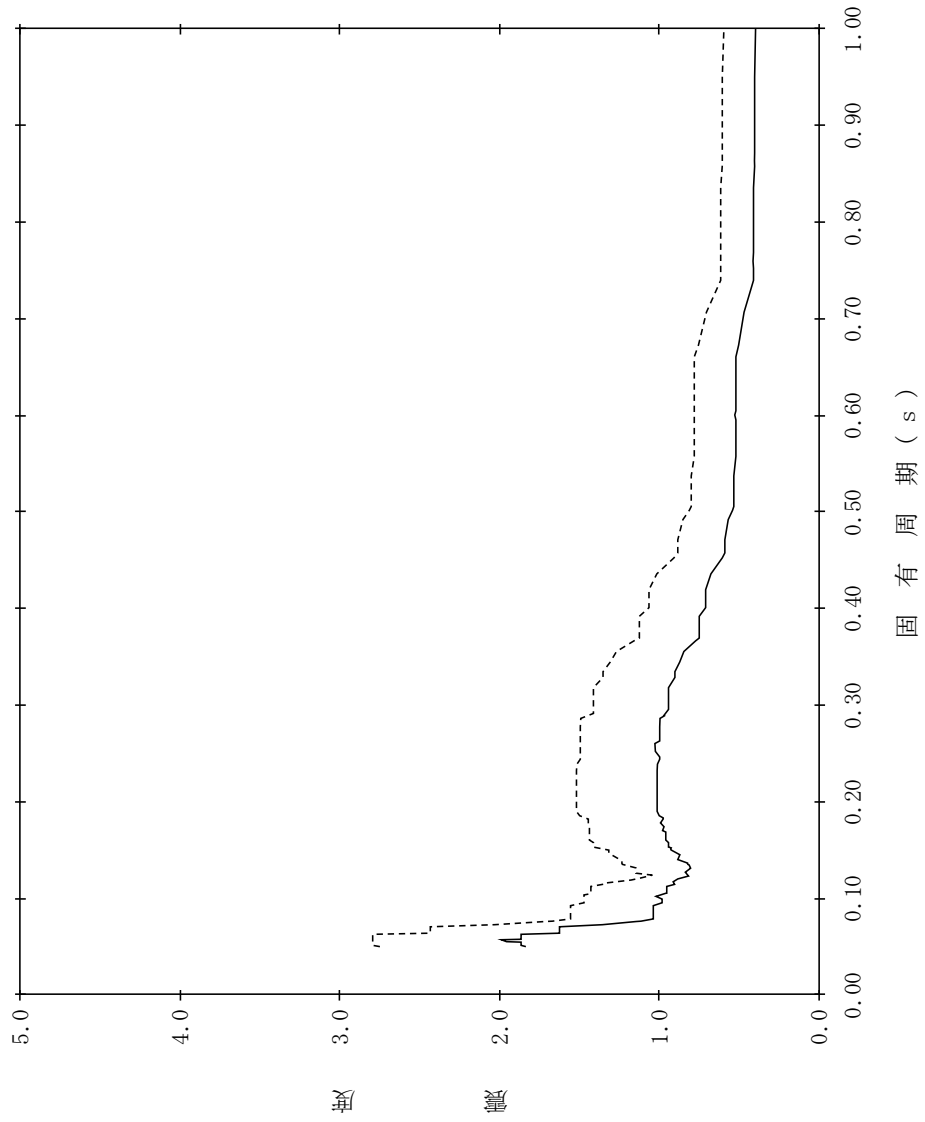
【NS2-CB-SdV-CB28】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



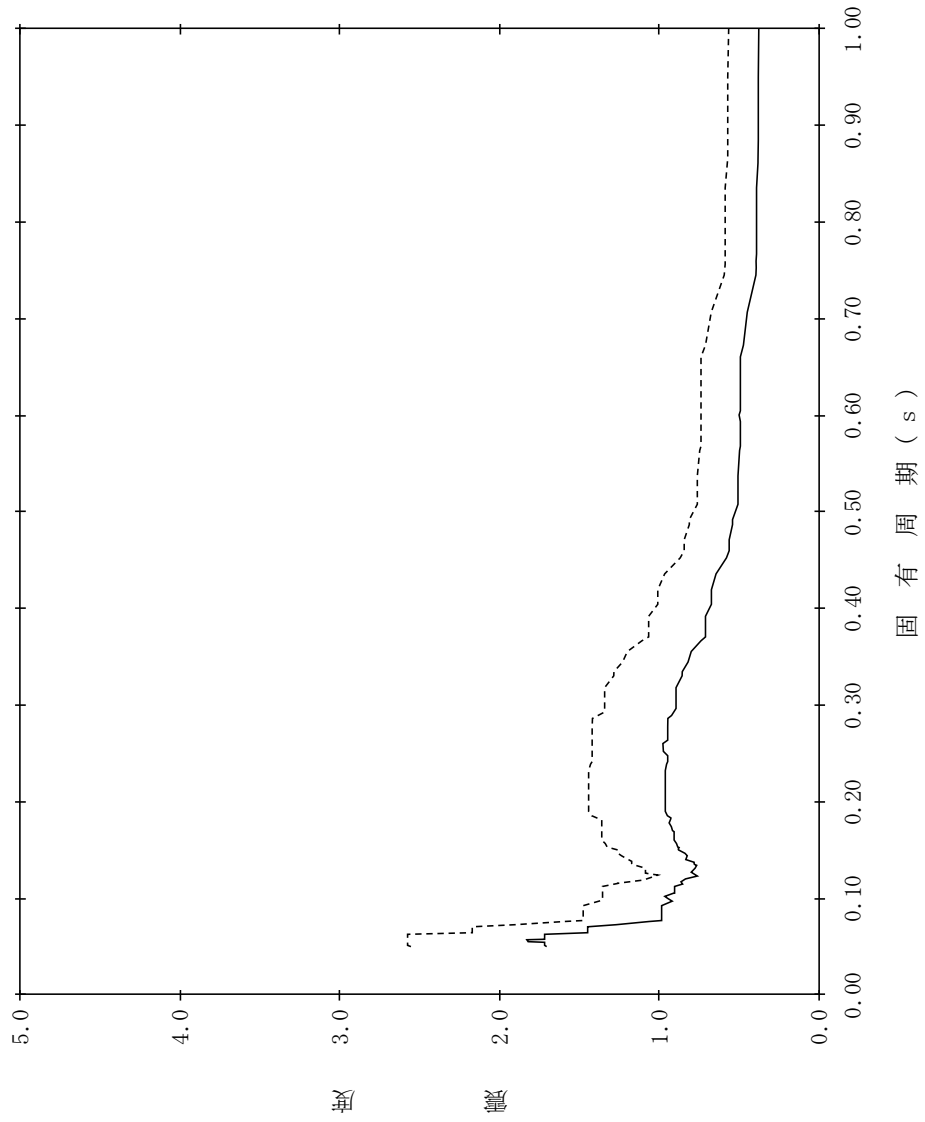
【NS2-CB-SdV-CB29】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



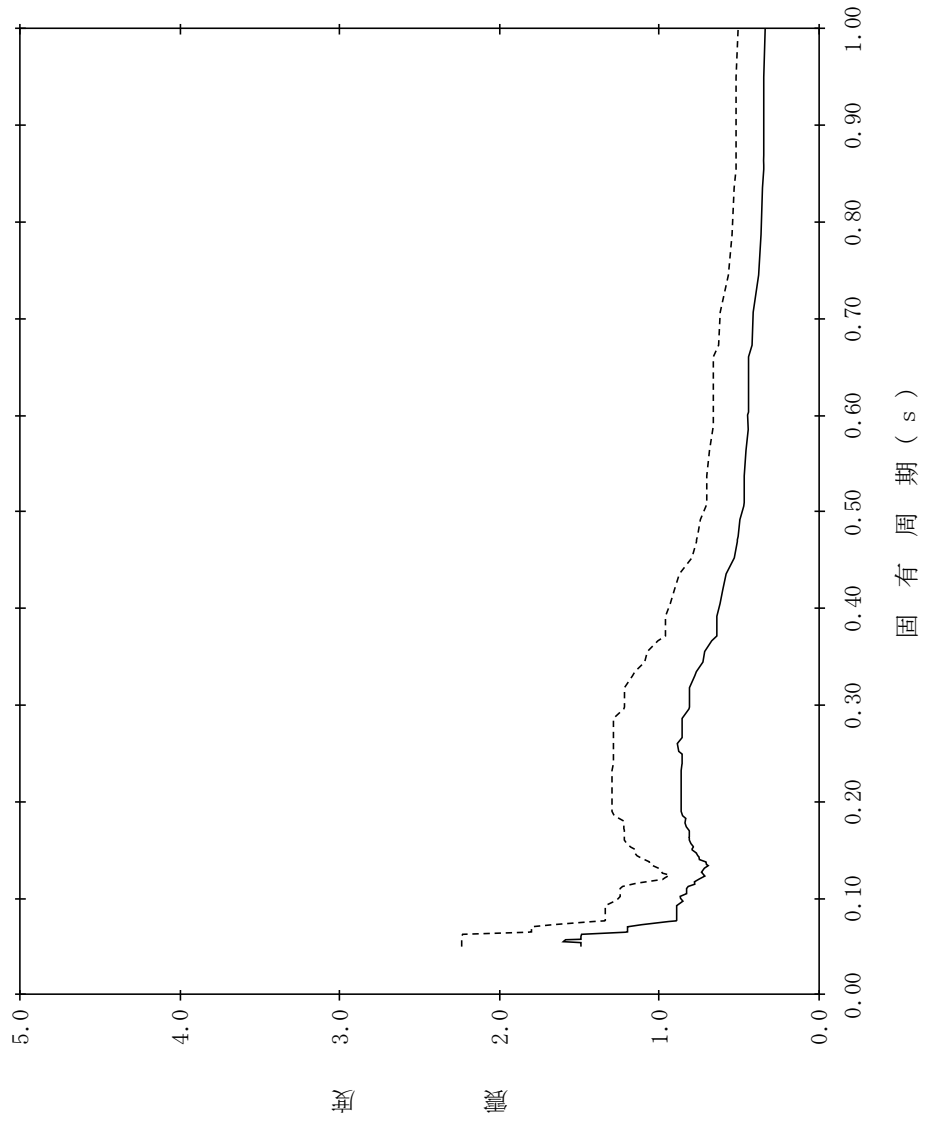
【NS2-CB-SdV-CB30】

構造物名：制御室建物
標高：EL8.800m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



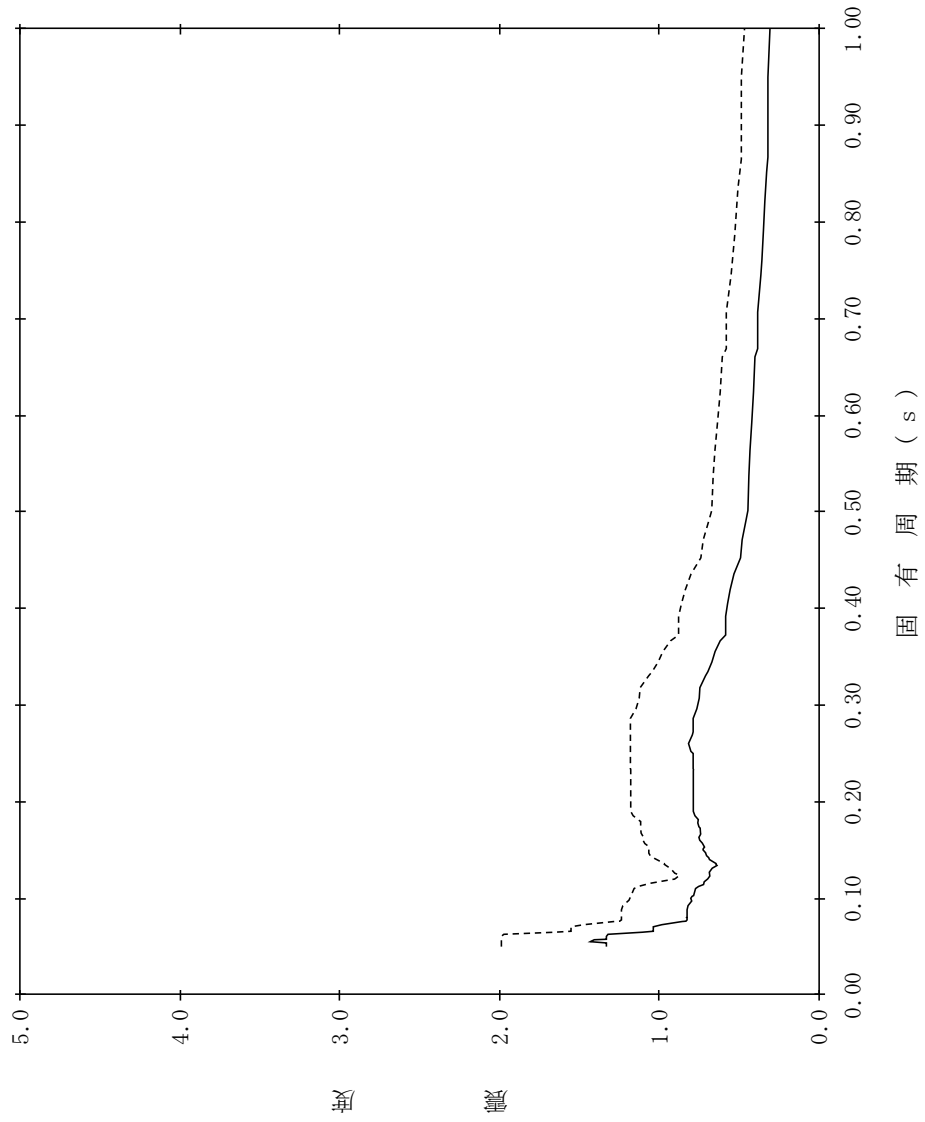
【NS2-CB-SdV-CB31】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



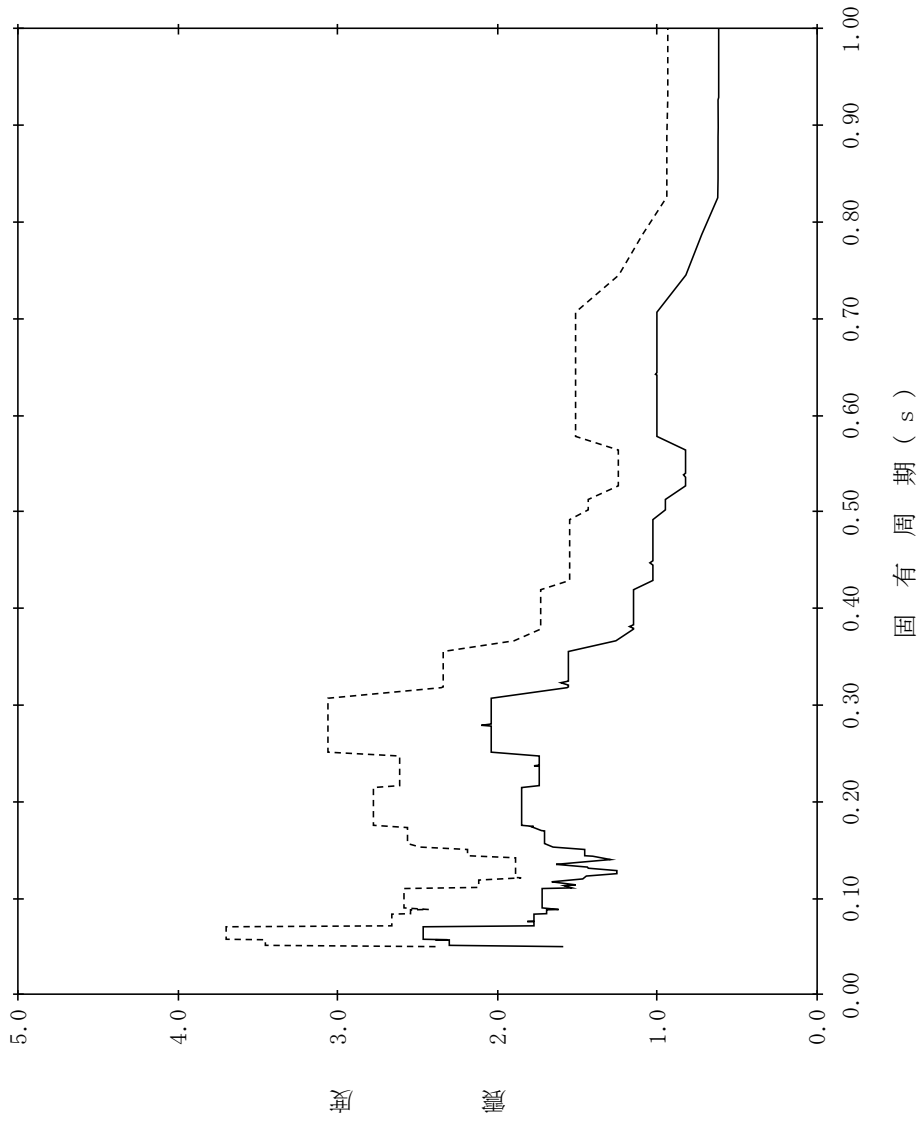
【NS2-CB-SdV-CB32】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

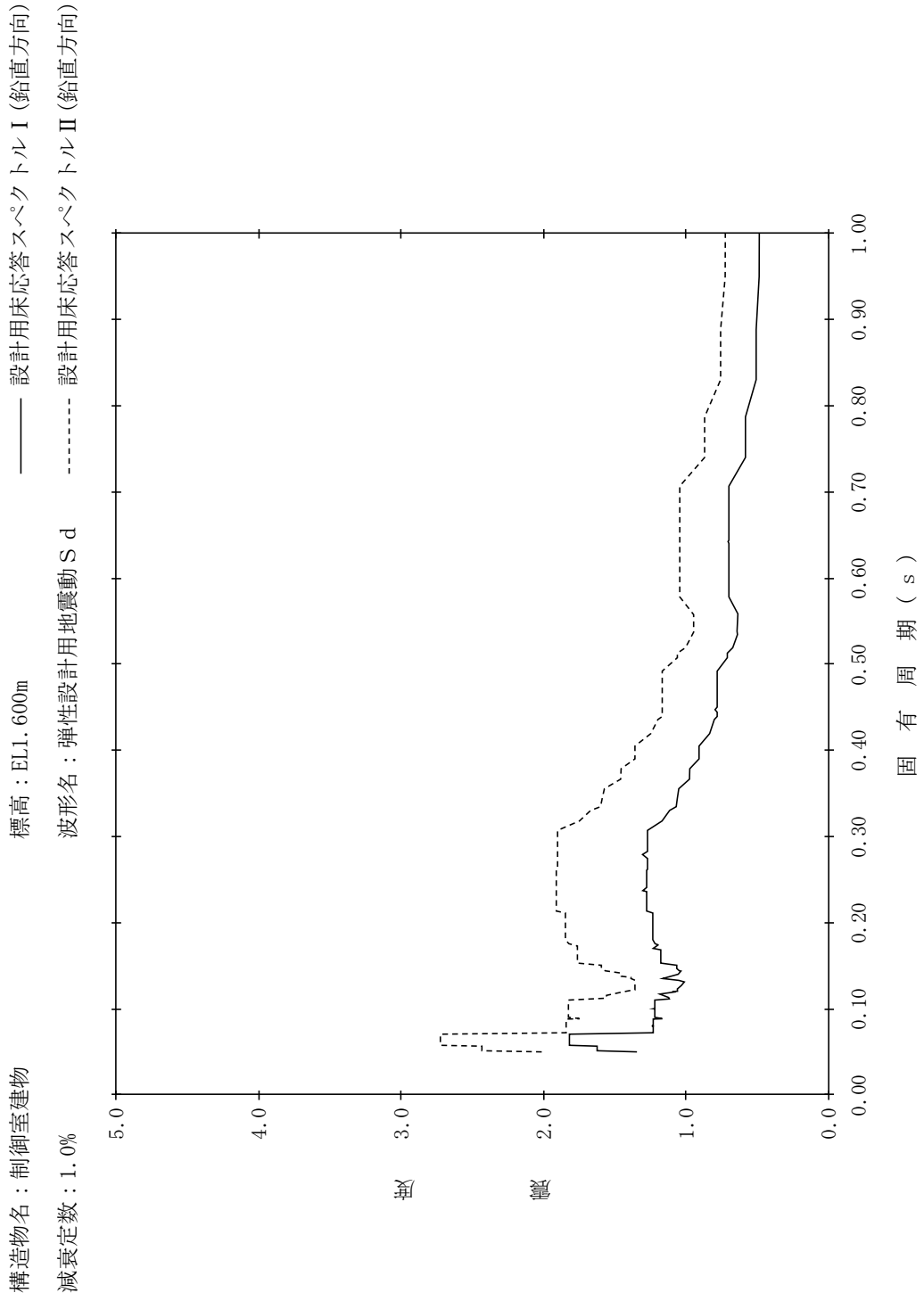


【NS2-CB-SdV-CB33】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

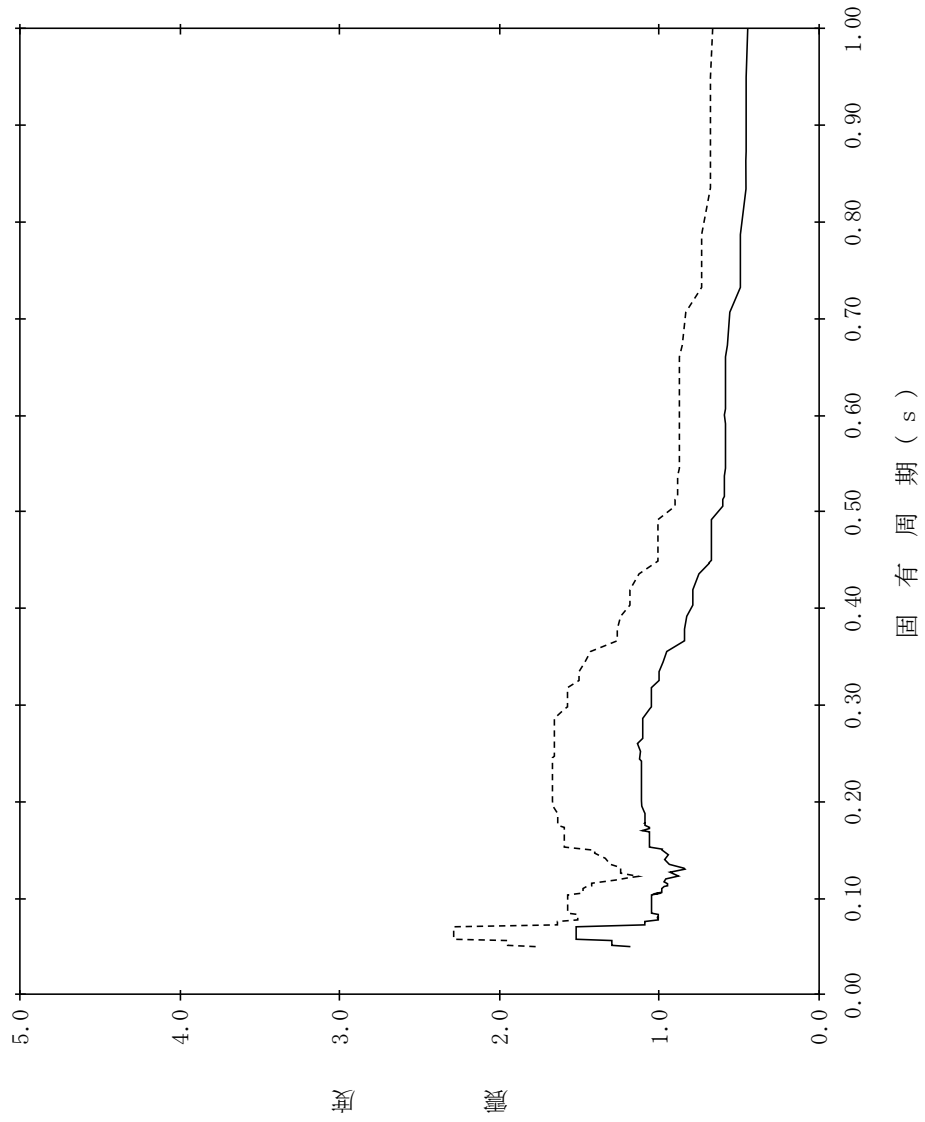


【NS2-CB-SdV-CB34】



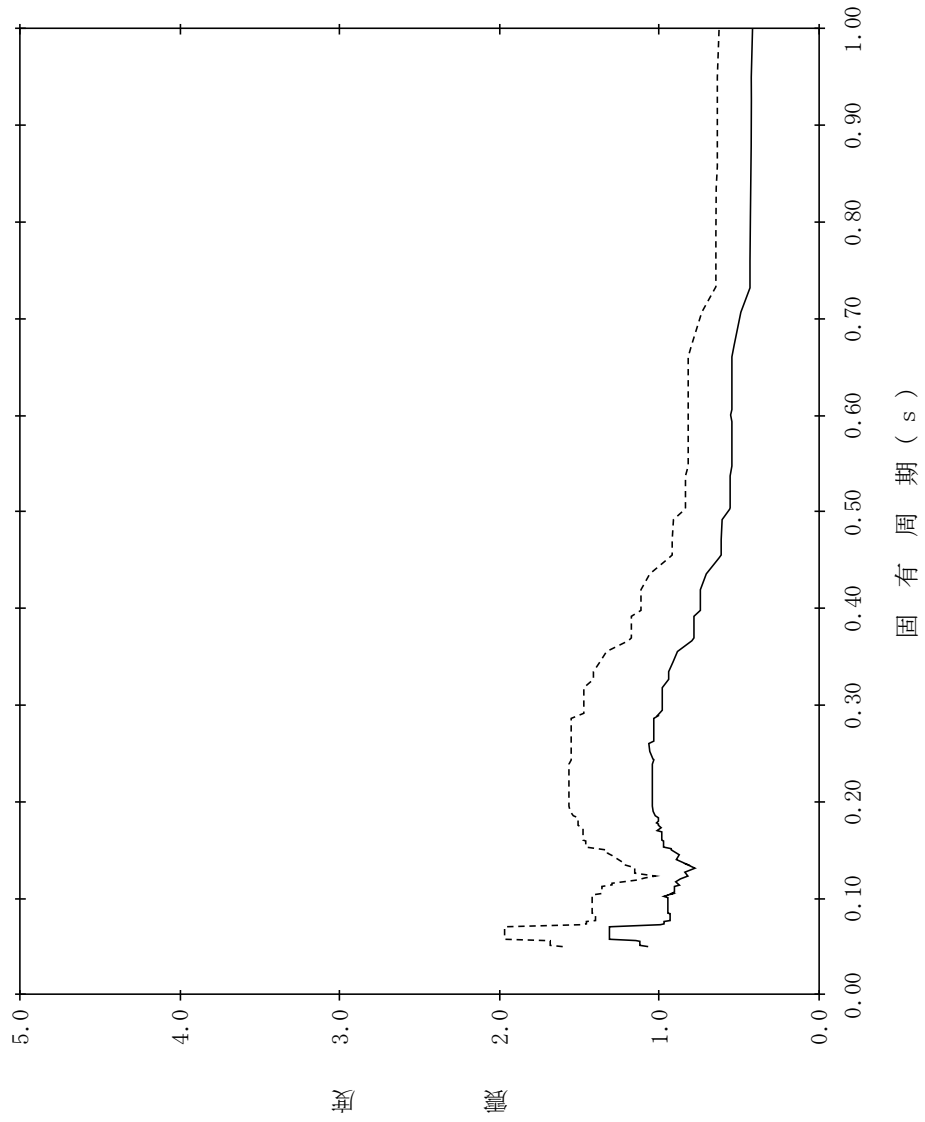
【NS2-CB-SdV-CB35】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-CB-SdV-CB36】

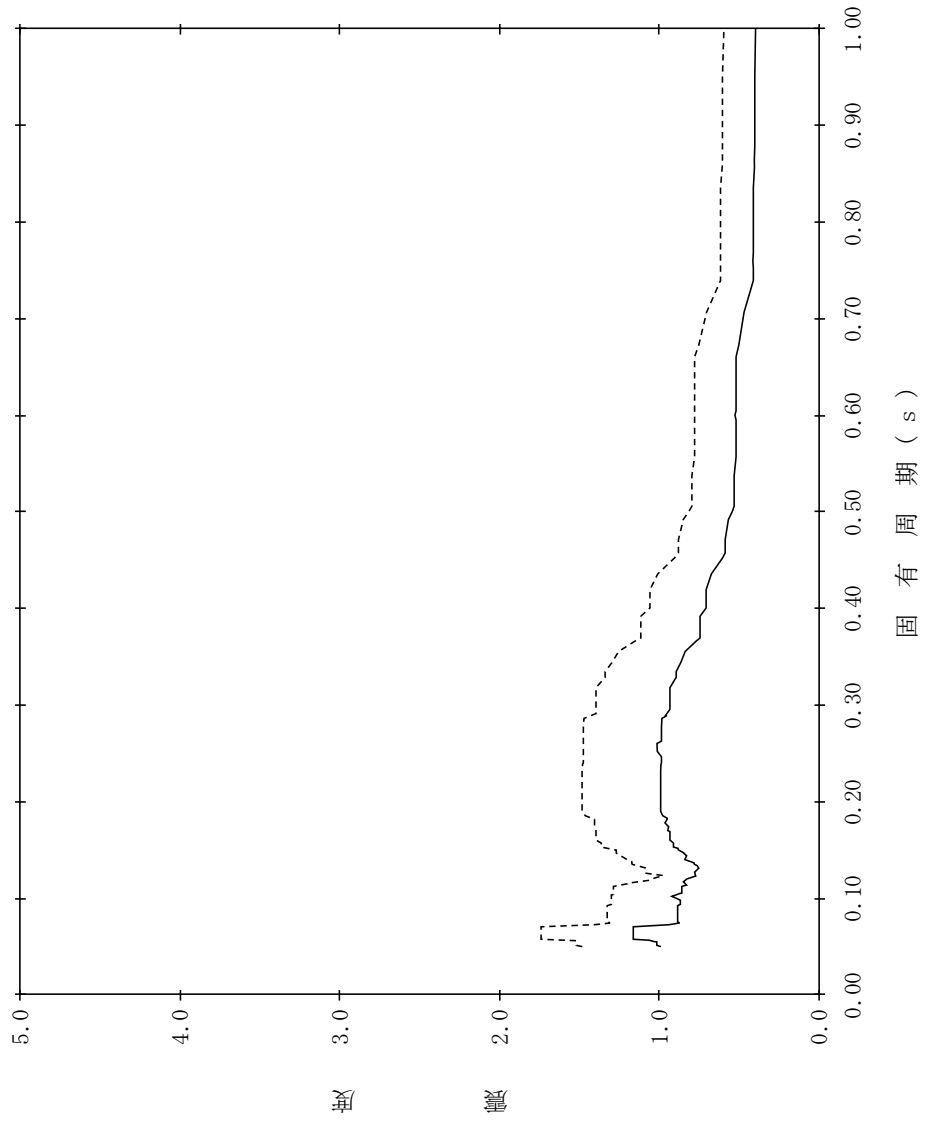
構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-CB-SdV-CB37】

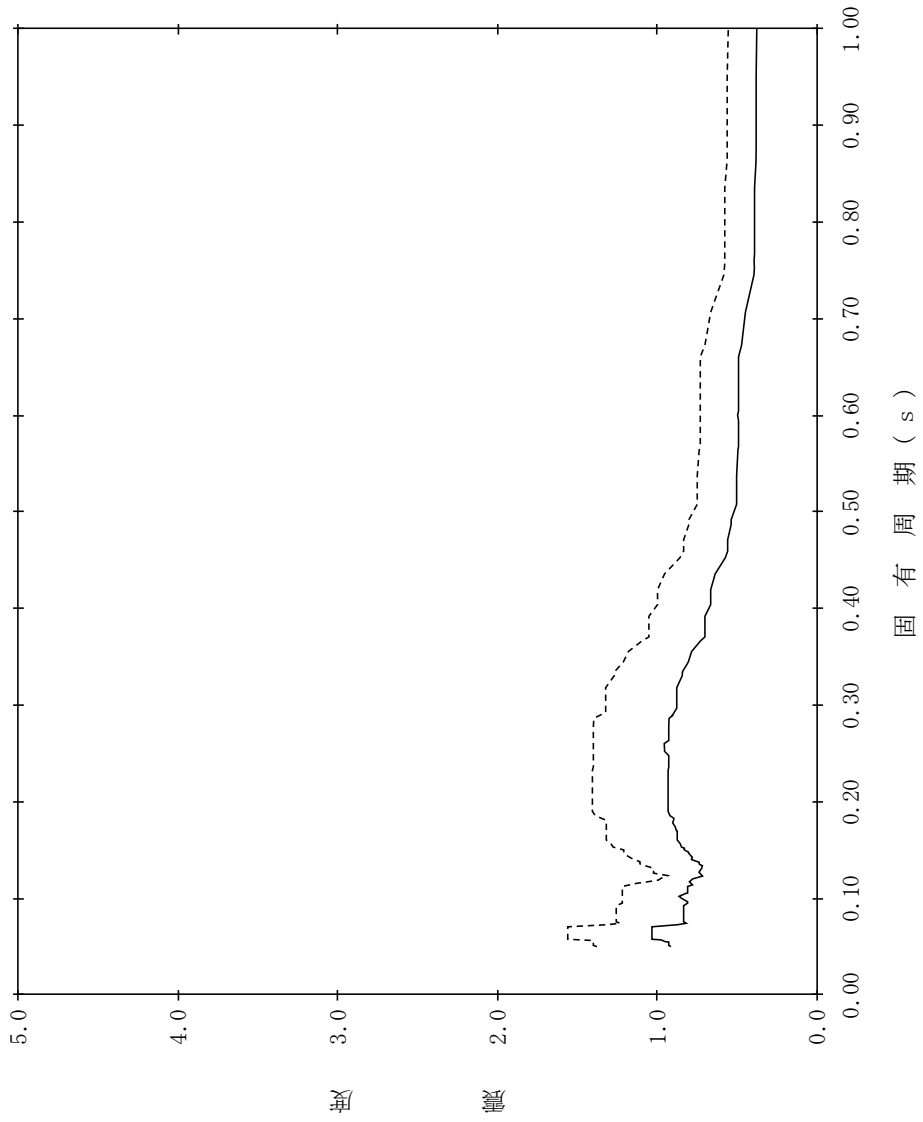
構造物名：制御室建物
標高：EL1.600m
減衰定数：2.5%

—— 設計用床応答スペクトルⅠ (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトルⅡ (鉛直方向)



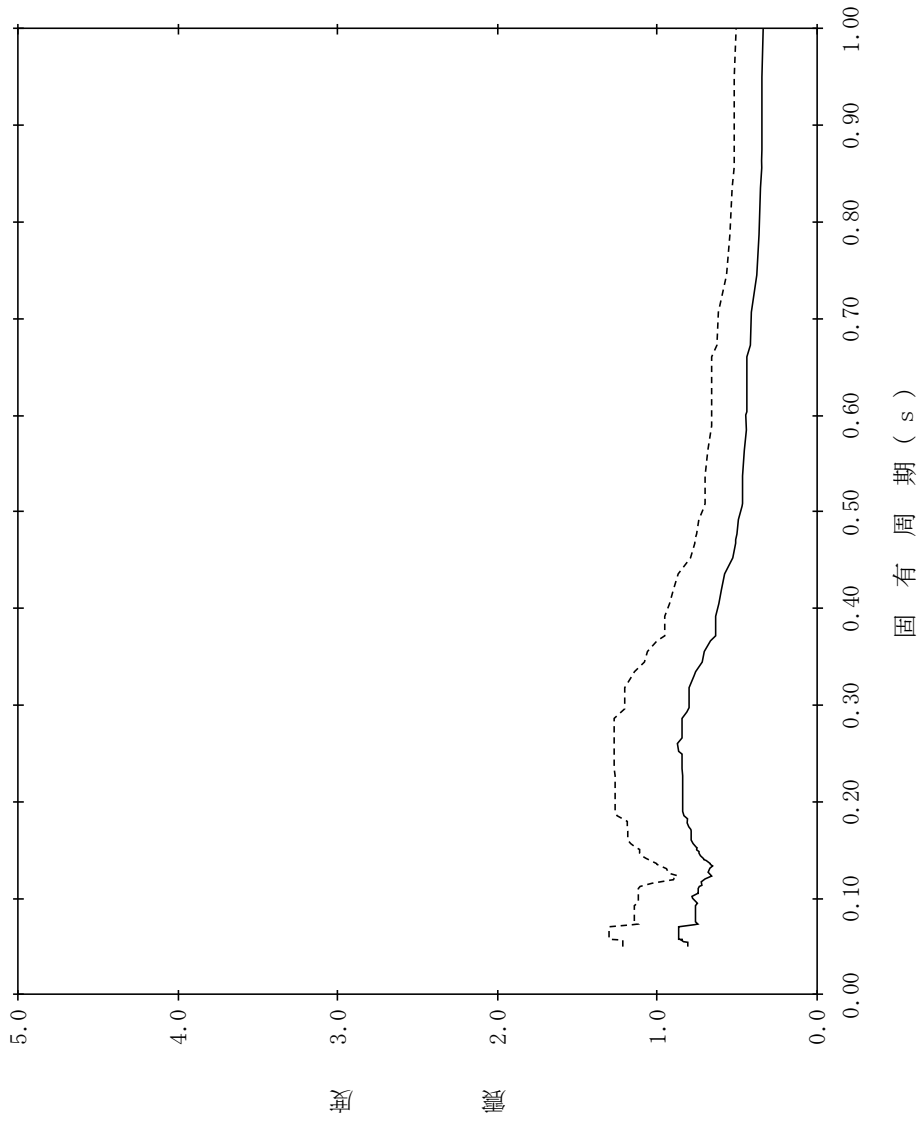
【NS2-CB-SdV-CB38】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



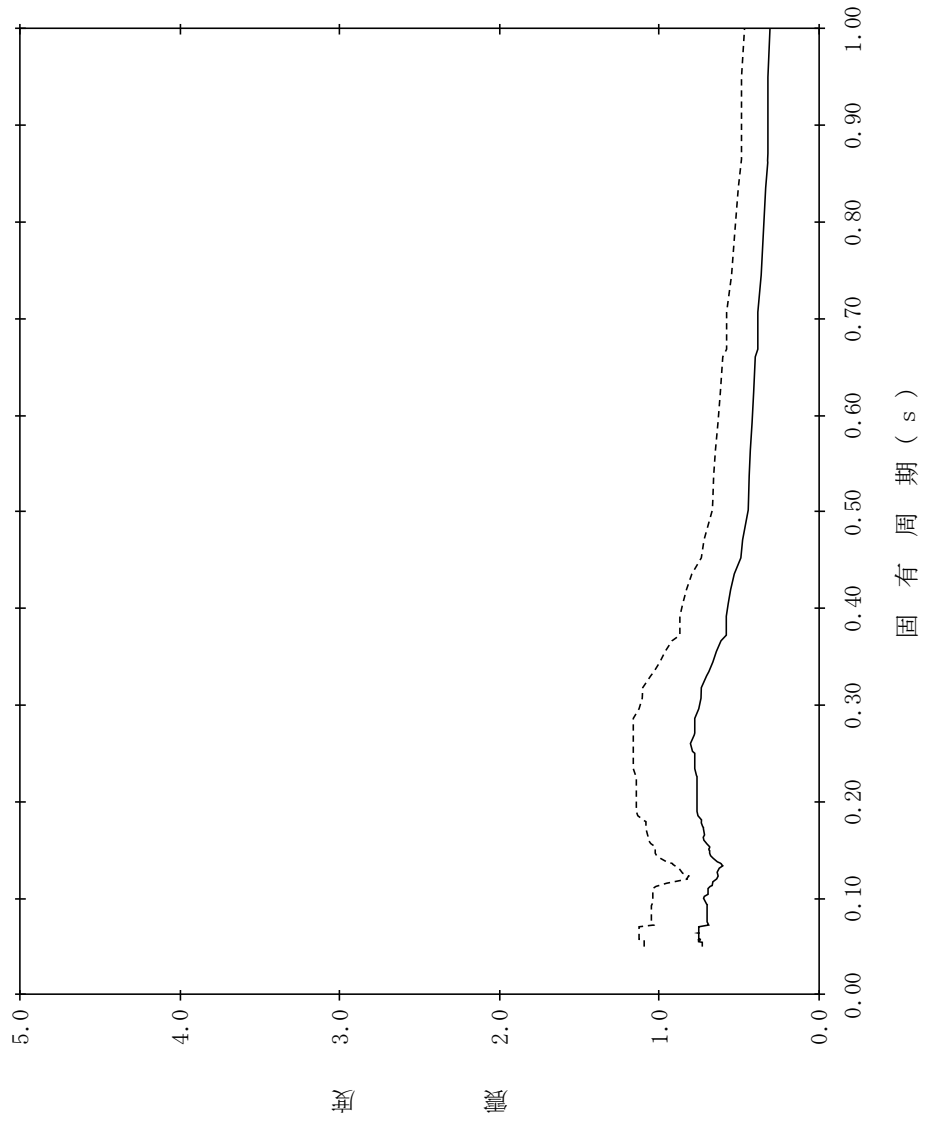
【NS2-CB-SdV-CB39】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



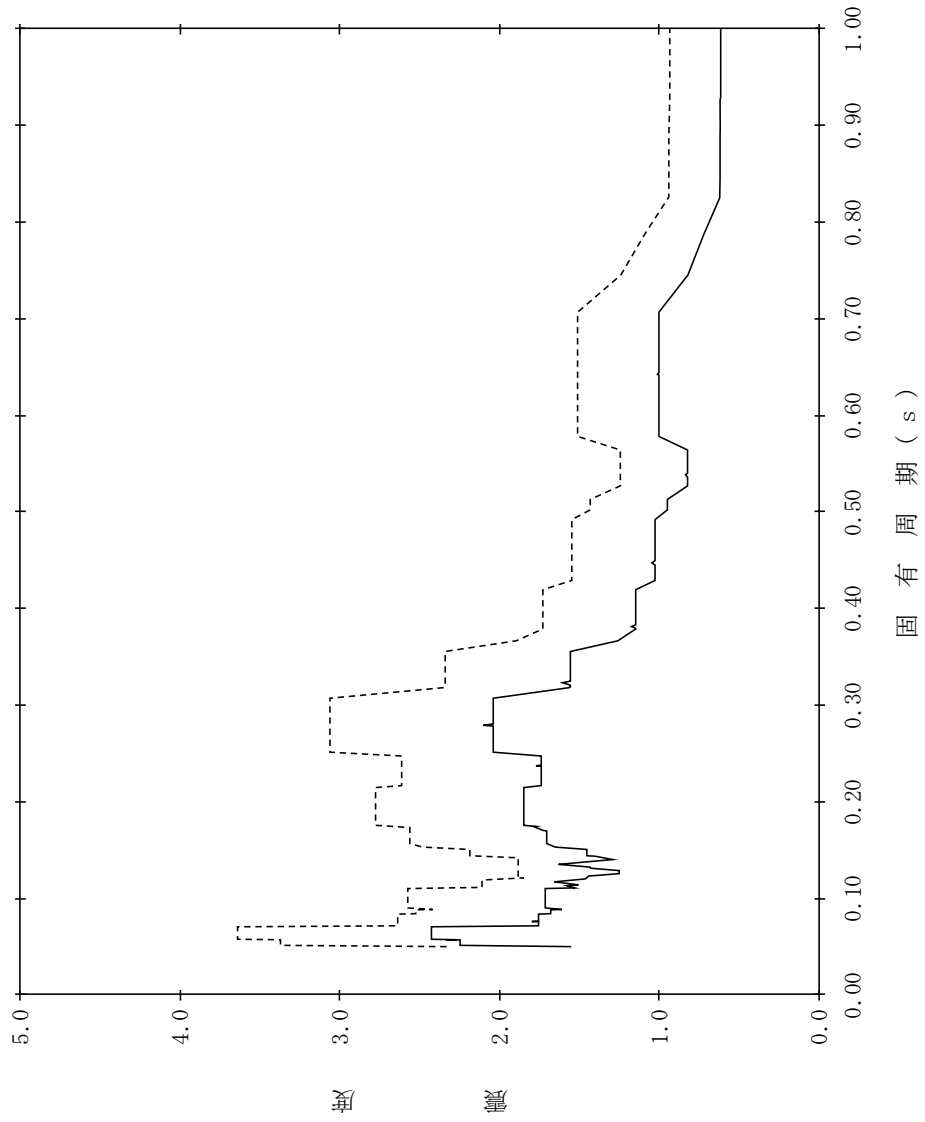
【NS2-CB-SdV-CB40】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

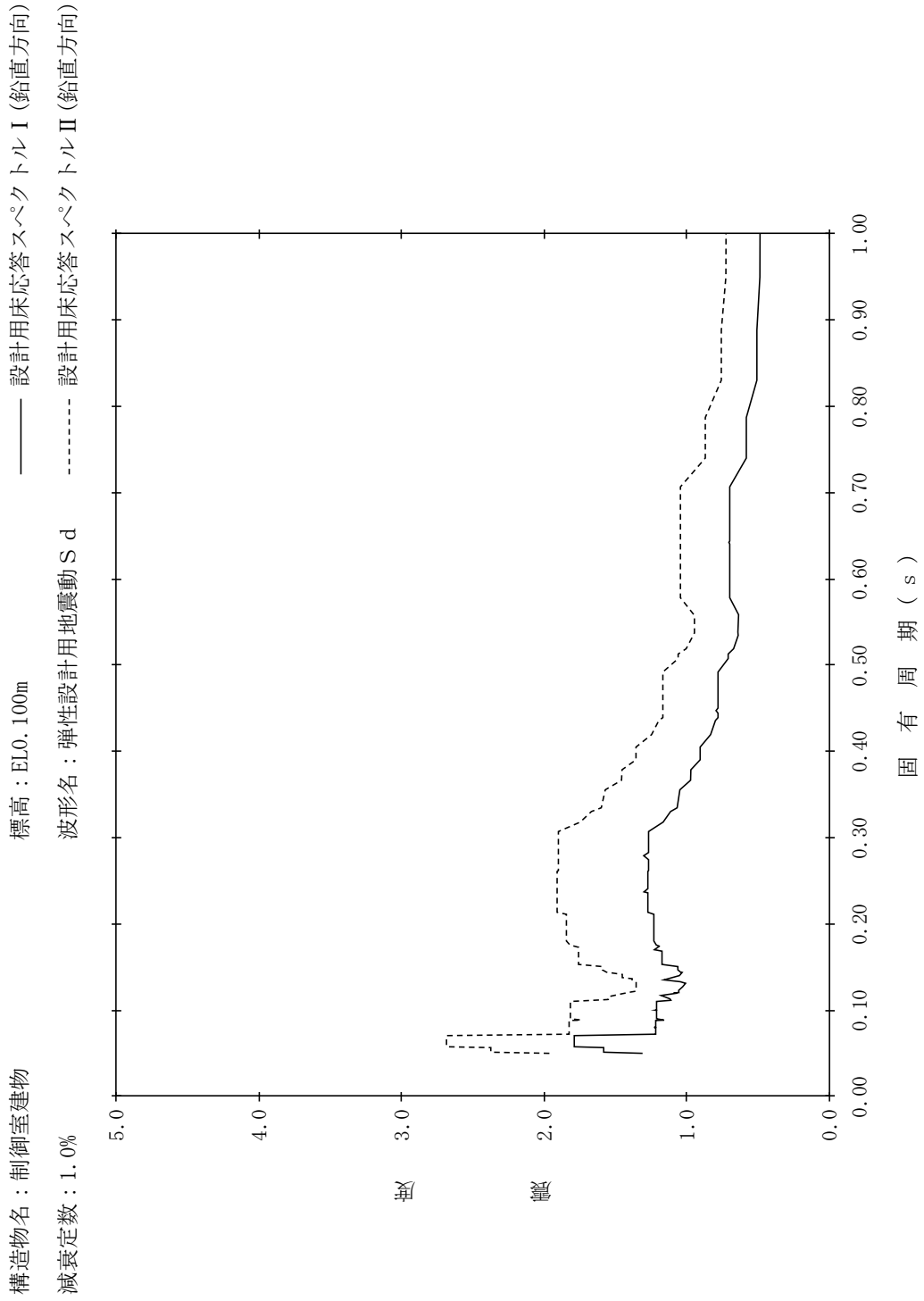


【NS2-CB-SdV-CB41】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

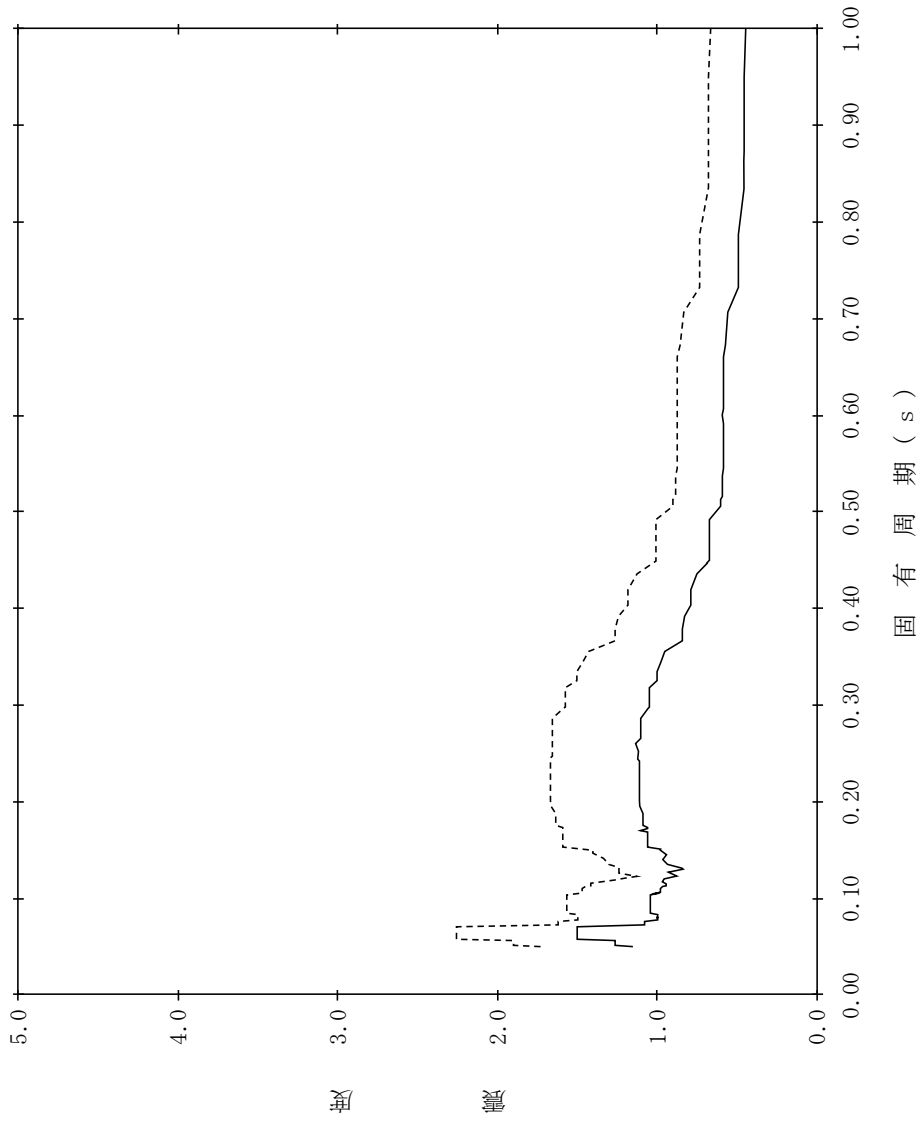


【NS2-CB-SdV-CB42】



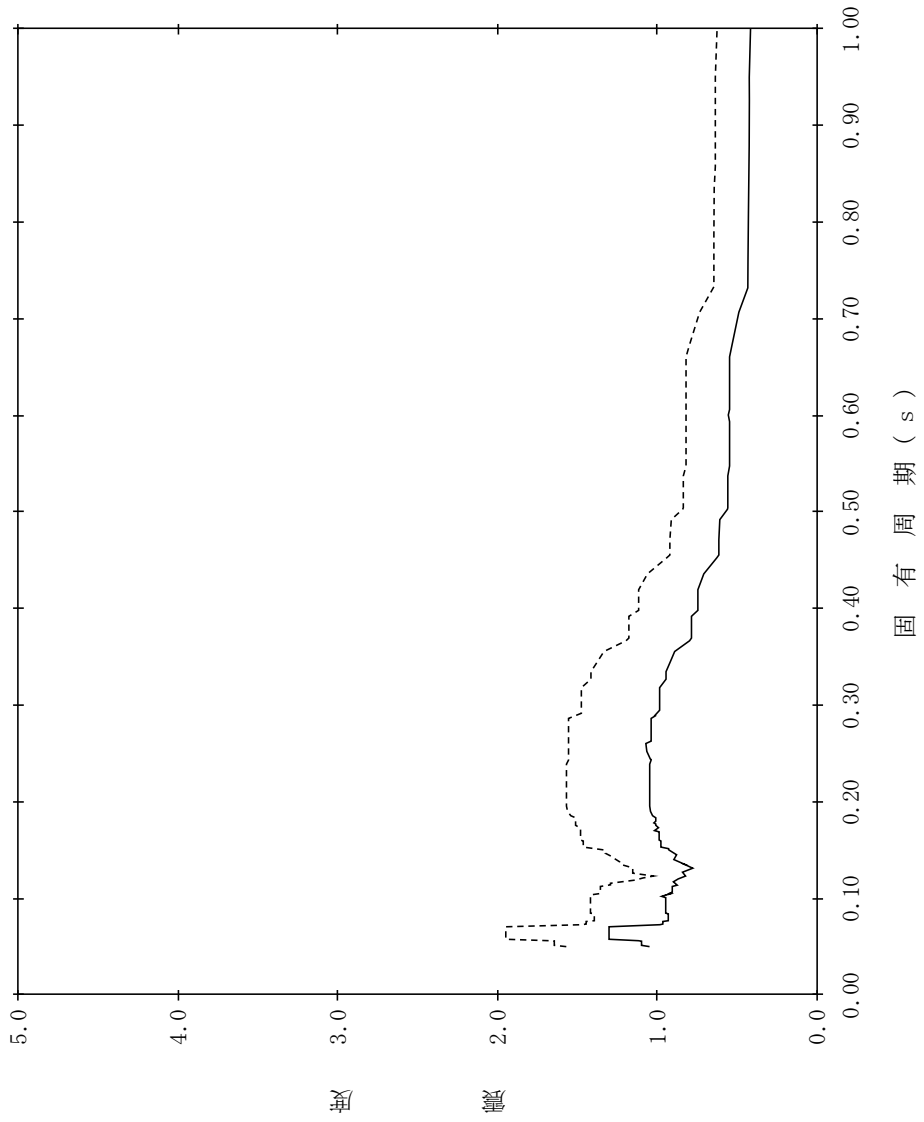
【NS2-CB-SdV-CB43】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



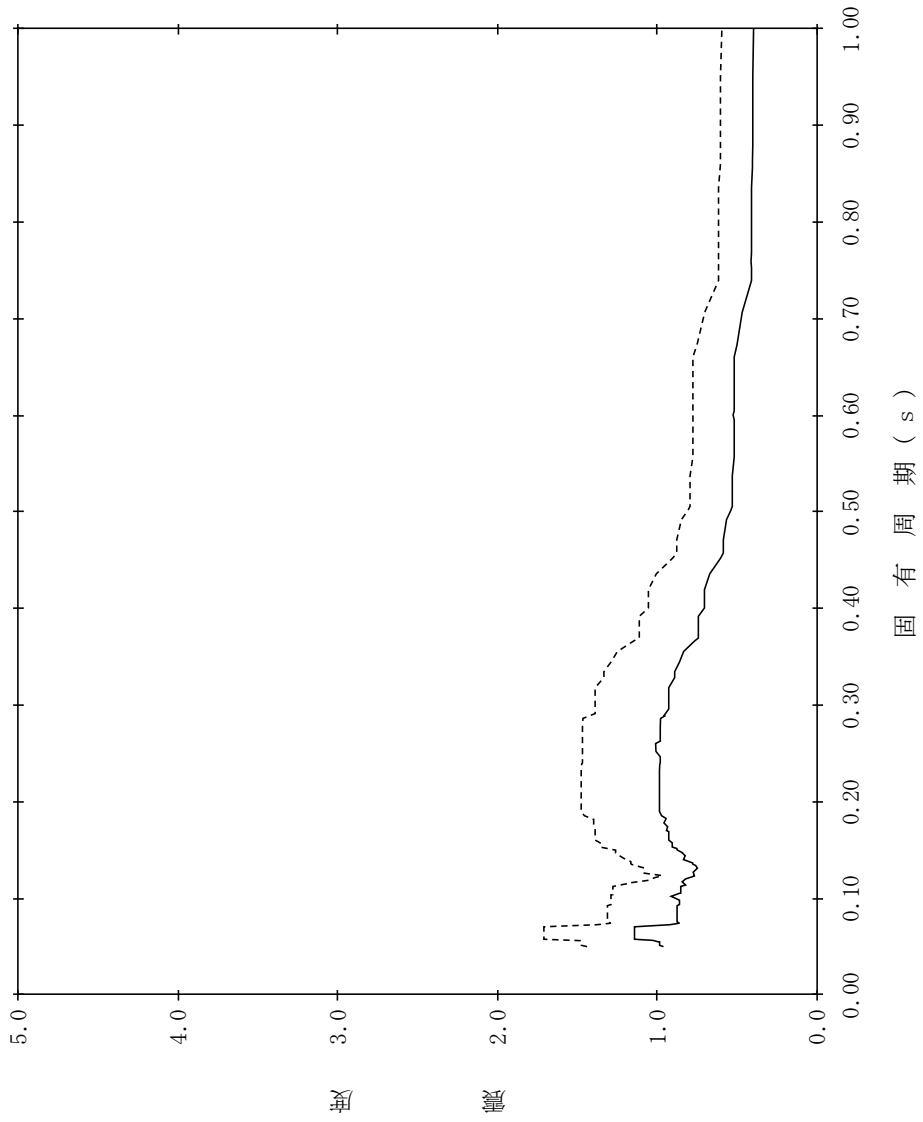
【NS2-CB-SdV-CB44】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



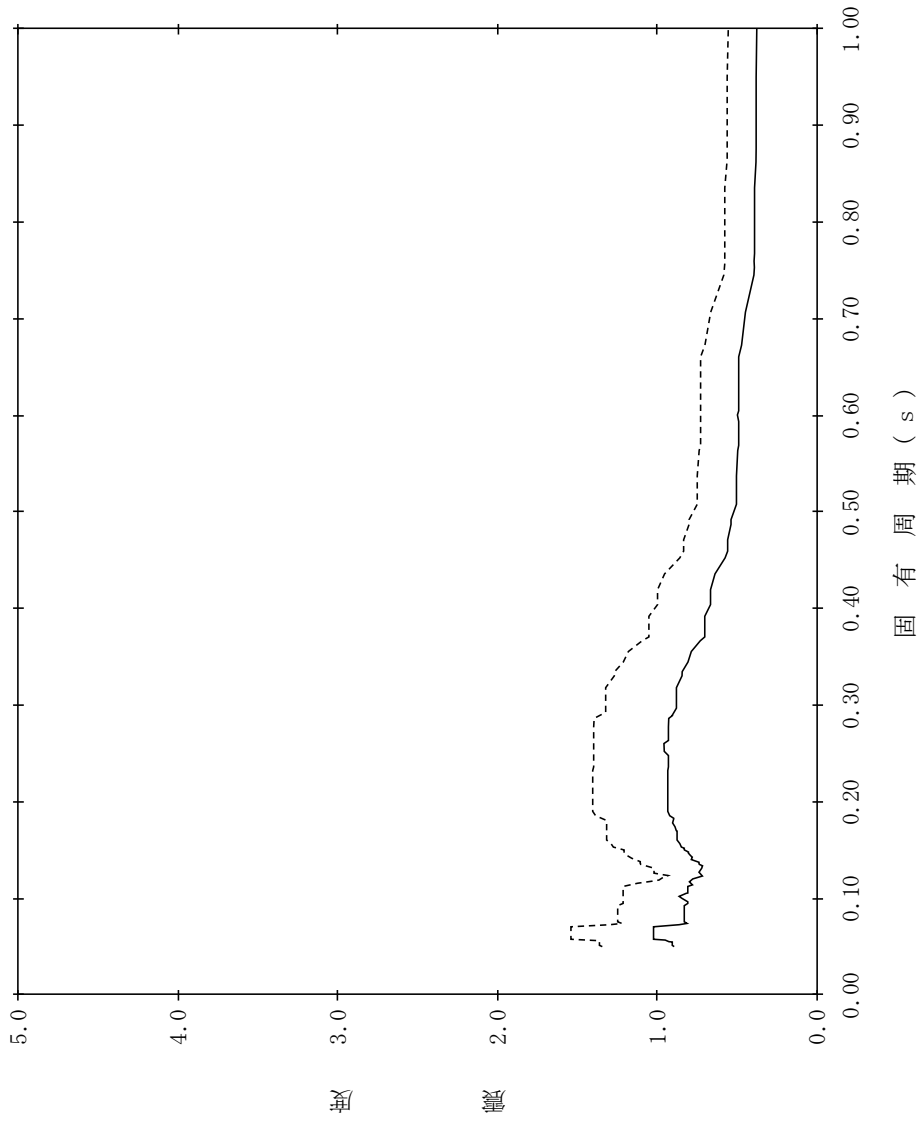
【NS2-CB-SdV-CB45】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

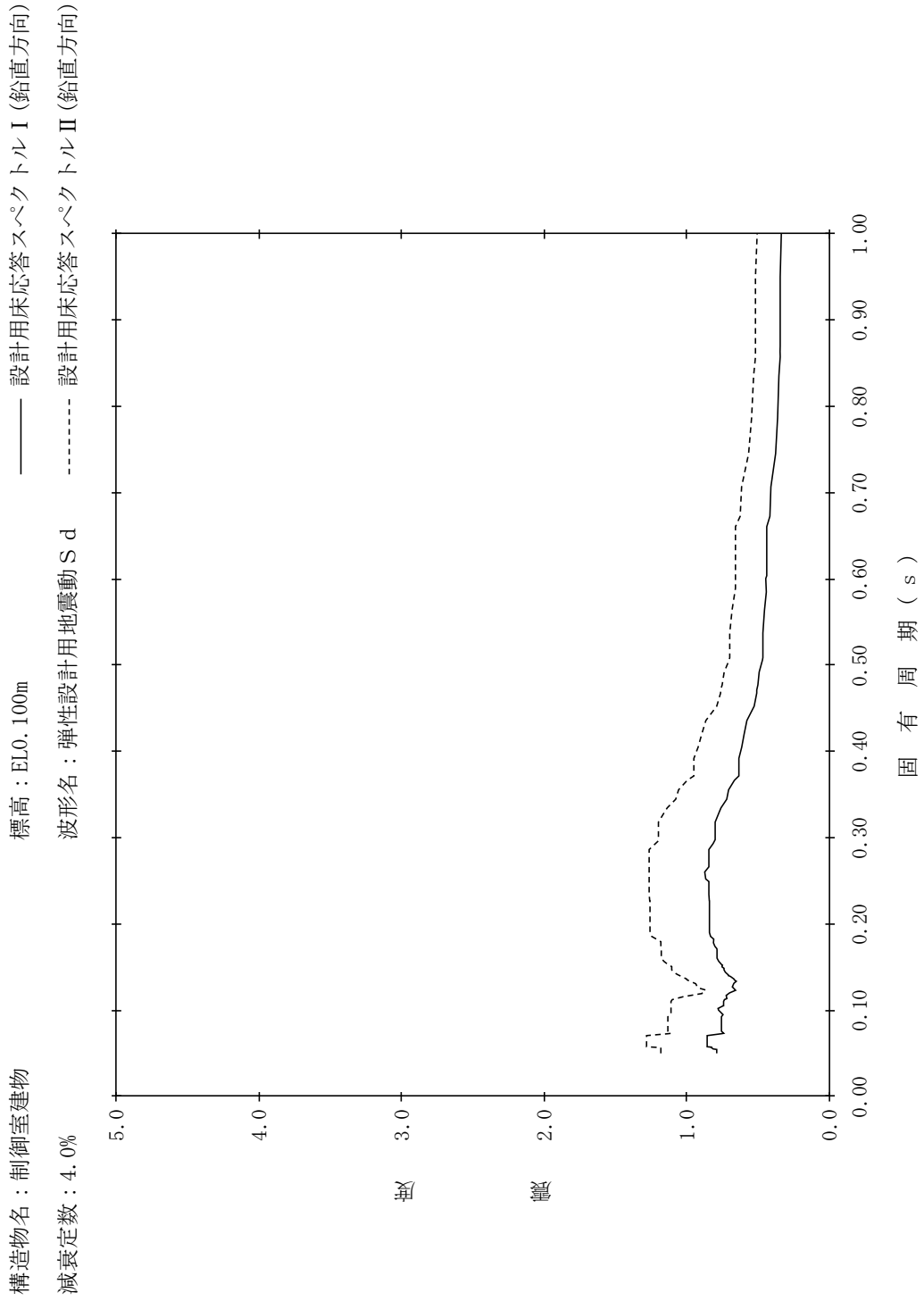


【NS2-CB-SdV-CB46】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-CB-SdV-CB47】



【NS2-CB-SdV-CB48】

構造物名：制御室建物
標高：EL0.100m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

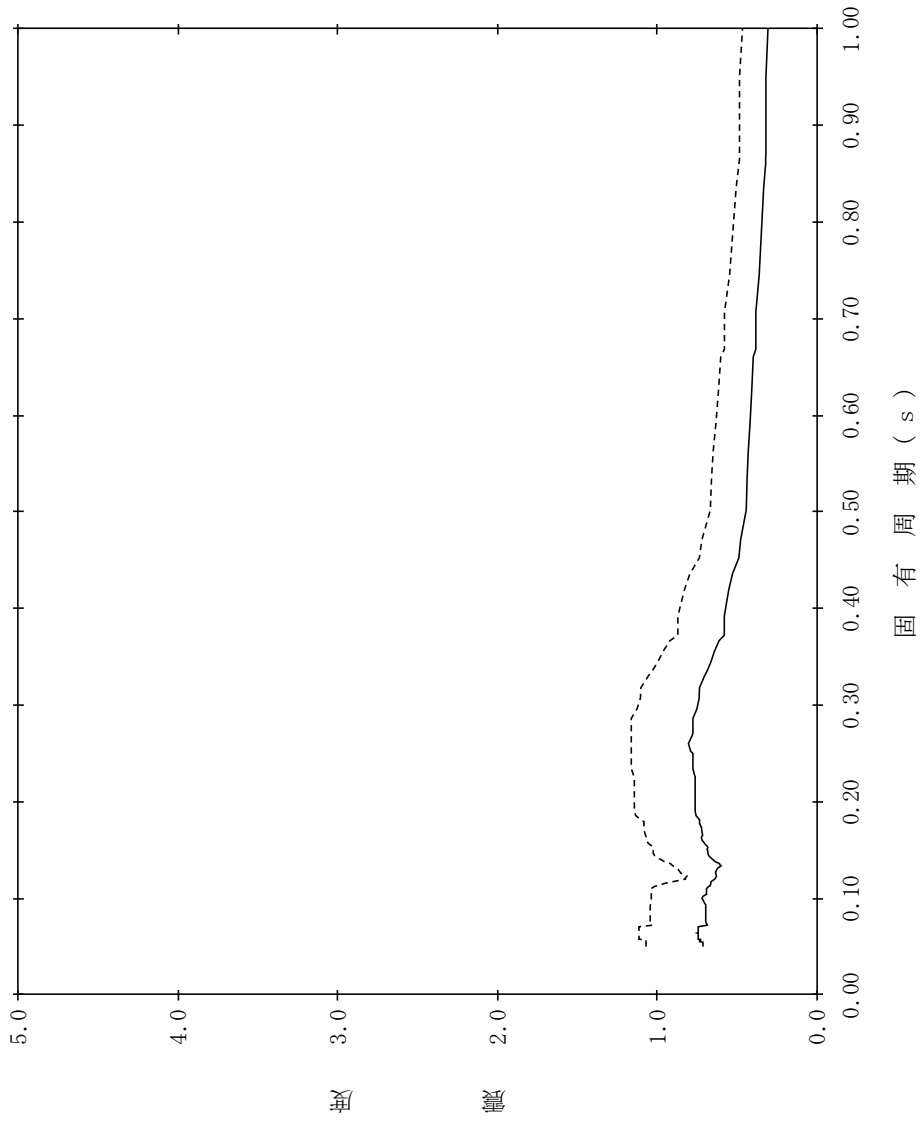


表 4.2-4 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (タービン建物) (1/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	タービン建物	NS 方向	5, 7, 13, 22, 28	41.600	0.5	NS2 - TB - SdNS - TB 1
					1.0	NS2 - TB - SdNS - TB 2
					1.5	NS2 - TB - SdNS - TB 3
					2.0	NS2 - TB - SdNS - TB 4
					2.5	NS2 - TB - SdNS - TB 5
					3.0	NS2 - TB - SdNS - TB 6
					4.0	NS2 - TB - SdNS - TB 7
					5.0	NS2 - TB - SdNS - TB 8
			1, 6, 8	33.700	0.5	NS2 - TB - SdNS - TB 9
					1.0	NS2 - TB - SdNS - TB 10
					1.5	NS2 - TB - SdNS - TB 11
					2.0	NS2 - TB - SdNS - TB 12
					2.5	NS2 - TB - SdNS - TB 13
					3.0	NS2 - TB - SdNS - TB 14
					4.0	NS2 - TB - SdNS - TB 15
					5.0	NS2 - TB - SdNS - TB 16
			9, 18, 24	32.000	0.5	NS2 - TB - SdNS - TB 17
					1.0	NS2 - TB - SdNS - TB 18
					1.5	NS2 - TB - SdNS - TB 19
					2.0	NS2 - TB - SdNS - TB 20
					2.5	NS2 - TB - SdNS - TB 21
					3.0	NS2 - TB - SdNS - TB 22
					4.0	NS2 - TB - SdNS - TB 23
					5.0	NS2 - TB - SdNS - TB 24
			14, 23, 29	30.550	0.5	NS2 - TB - SdNS - TB 25
					1.0	NS2 - TB - SdNS - TB 26
					1.5	NS2 - TB - SdNS - TB 27
					2.0	NS2 - TB - SdNS - TB 28
					2.5	NS2 - TB - SdNS - TB 29
					3.0	NS2 - TB - SdNS - TB 30
					4.0	NS2 - TB - SdNS - TB 31
					5.0	NS2 - TB - SdNS - TB 32
			2, 10, 15, 19, 25, 30	20.600	0.5	NS2 - TB - SdNS - TB 33
					1.0	NS2 - TB - SdNS - TB 34
					1.5	NS2 - TB - SdNS - TB 35
					2.0	NS2 - TB - SdNS - TB 36
					2.5	NS2 - TB - SdNS - TB 37
					3.0	NS2 - TB - SdNS - TB 38
					4.0	NS2 - TB - SdNS - TB 39
					5.0	NS2 - TB - SdNS - TB 40
			3, 11, 16, 20, 26, 31	12.500	0.5	NS2 - TB - SdNS - TB 41
					1.0	NS2 - TB - SdNS - TB 42
					1.5	NS2 - TB - SdNS - TB 43
					2.0	NS2 - TB - SdNS - TB 44
					2.5	NS2 - TB - SdNS - TB 45
					3.0	NS2 - TB - SdNS - TB 46
					4.0	NS2 - TB - SdNS - TB 47
					5.0	NS2 - TB - SdNS - TB 48

表 4.2-4 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (タービン建物) (2/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数 (%)	図番
S d	タービン建物	NS 方向	4	9.000	0.5	NS2 - TB - SdNS - TB 49
					1.0	NS2 - TB - SdNS - TB 50
					1.5	NS2 - TB - SdNS - TB 51
					2.0	NS2 - TB - SdNS - TB 52
					2.5	NS2 - TB - SdNS - TB 53
					3.0	NS2 - TB - SdNS - TB 54
					4.0	NS2 - TB - SdNS - TB 55
					5.0	NS2 - TB - SdNS - TB 56
			12, 17, 21, 27	5.500	0.5	NS2 - TB - SdNS - TB 57
					1.0	NS2 - TB - SdNS - TB 58
					1.5	NS2 - TB - SdNS - TB 59
					2.0	NS2 - TB - SdNS - TB 60
					2.5	NS2 - TB - SdNS - TB 61
					3.0	NS2 - TB - SdNS - TB 62
					4.0	NS2 - TB - SdNS - TB 63
					5.0	NS2 - TB - SdNS - TB 64
			34	2.000	0.5	NS2 - TB - SdNS - TB 65
					1.0	NS2 - TB - SdNS - TB 66
					1.5	NS2 - TB - SdNS - TB 67
					2.0	NS2 - TB - SdNS - TB 68
					2.5	NS2 - TB - SdNS - TB 69
					3.0	NS2 - TB - SdNS - TB 70
					4.0	NS2 - TB - SdNS - TB 71
					5.0	NS2 - TB - SdNS - TB 72
			35	0.000	0.5	NS2 - TB - SdNS - TB 73
					1.0	NS2 - TB - SdNS - TB 74
					1.5	NS2 - TB - SdNS - TB 75
					2.0	NS2 - TB - SdNS - TB 76
	2.5				NS2 - TB - SdNS - TB 77	
	3.0				NS2 - TB - SdNS - TB 78	
	4.0				NS2 - TB - SdNS - TB 79	
	5.0				NS2 - TB - SdNS - TB 80	
	蒸気 タービンの基礎		32	20.480	0.5	NS2 - TB - SdNS - TG 81
					1.0	NS2 - TB - SdNS - TG 82
					1.5	NS2 - TB - SdNS - TG 83
					2.0	NS2 - TB - SdNS - TG 84
					2.5	NS2 - TB - SdNS - TG 85
					3.0	NS2 - TB - SdNS - TG 86
					4.0	NS2 - TB - SdNS - TG 87
					5.0	NS2 - TB - SdNS - TG 88
33		13.000	0.5	NS2 - TB - SdNS - TG 89		
			1.0	NS2 - TB - SdNS - TG 90		
			1.5	NS2 - TB - SdNS - TG 91		
			2.0	NS2 - TB - SdNS - TG 92		
			2.5	NS2 - TB - SdNS - TG 93		
			3.0	NS2 - TB - SdNS - TG 94		
			4.0	NS2 - TB - SdNS - TG 95		
			5.0	NS2 - TB - SdNS - TG 96		

表 4.2-4 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (タービン建物) (3/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	タービン建物	EW 方向	1, 8, 14	41.600	0.5	NS2 - TB - SdEW - TB 1
					1.0	NS2 - TB - SdEW - TB 2
					1.5	NS2 - TB - SdEW - TB 3
					2.0	NS2 - TB - SdEW - TB 4
					2.5	NS2 - TB - SdEW - TB 5
					3.0	NS2 - TB - SdEW - TB 6
					4.0	NS2 - TB - SdEW - TB 7
					5.0	NS2 - TB - SdEW - TB 8
			19	33.700	0.5	NS2 - TB - SdEW - TB 9
					1.0	NS2 - TB - SdEW - TB 10
					1.5	NS2 - TB - SdEW - TB 11
					2.0	NS2 - TB - SdEW - TB 12
					2.5	NS2 - TB - SdEW - TB 13
					3.0	NS2 - TB - SdEW - TB 14
					4.0	NS2 - TB - SdEW - TB 15
					5.0	NS2 - TB - SdEW - TB 16
			2, 9	32.000	0.5	NS2 - TB - SdEW - TB 17
					1.0	NS2 - TB - SdEW - TB 18
					1.5	NS2 - TB - SdEW - TB 19
					2.0	NS2 - TB - SdEW - TB 20
					2.5	NS2 - TB - SdEW - TB 21
					3.0	NS2 - TB - SdEW - TB 22
					4.0	NS2 - TB - SdEW - TB 23
					5.0	NS2 - TB - SdEW - TB 24
			15	30.550	0.5	NS2 - TB - SdEW - TB 25
					1.0	NS2 - TB - SdEW - TB 26
					1.5	NS2 - TB - SdEW - TB 27
					2.0	NS2 - TB - SdEW - TB 28
					2.5	NS2 - TB - SdEW - TB 29
					3.0	NS2 - TB - SdEW - TB 30
					4.0	NS2 - TB - SdEW - TB 31
					5.0	NS2 - TB - SdEW - TB 32
			3, 5, 10, 16, 20	20.600	0.5	NS2 - TB - SdEW - TB 33
					1.0	NS2 - TB - SdEW - TB 34
					1.5	NS2 - TB - SdEW - TB 35
					2.0	NS2 - TB - SdEW - TB 36
					2.5	NS2 - TB - SdEW - TB 37
					3.0	NS2 - TB - SdEW - TB 38
					4.0	NS2 - TB - SdEW - TB 39
					5.0	NS2 - TB - SdEW - TB 40
			4, 11, 17, 21	12.500	0.5	NS2 - TB - SdEW - TB 41
					1.0	NS2 - TB - SdEW - TB 42
					1.5	NS2 - TB - SdEW - TB 43
					2.0	NS2 - TB - SdEW - TB 44
					2.5	NS2 - TB - SdEW - TB 45
					3.0	NS2 - TB - SdEW - TB 46
					4.0	NS2 - TB - SdEW - TB 47
					5.0	NS2 - TB - SdEW - TB 48

表 4.2-4 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (タービン建物) (4/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	タービン建物	EW 方向	6	8.800	0.5	NS2 - TB - SdEW - TB 49
					1.0	NS2 - TB - SdEW - TB 50
					1.5	NS2 - TB - SdEW - TB 51
					2.0	NS2 - TB - SdEW - TB 52
					2.5	NS2 - TB - SdEW - TB 53
					3.0	NS2 - TB - SdEW - TB 54
					4.0	NS2 - TB - SdEW - TB 55
					5.0	NS2 - TB - SdEW - TB 56
			7, 12, 13, 18, 22	5.500	0.5	NS2 - TB - SdEW - TB 57
					1.0	NS2 - TB - SdEW - TB 58
					1.5	NS2 - TB - SdEW - TB 59
					2.0	NS2 - TB - SdEW - TB 60
					2.5	NS2 - TB - SdEW - TB 61
					3.0	NS2 - TB - SdEW - TB 62
					4.0	NS2 - TB - SdEW - TB 63
					5.0	NS2 - TB - SdEW - TB 64
			25	2.000	0.5	NS2 - TB - SdEW - TB 65
					1.0	NS2 - TB - SdEW - TB 66
					1.5	NS2 - TB - SdEW - TB 67
					2.0	NS2 - TB - SdEW - TB 68
					2.5	NS2 - TB - SdEW - TB 69
					3.0	NS2 - TB - SdEW - TB 70
					4.0	NS2 - TB - SdEW - TB 71
					5.0	NS2 - TB - SdEW - TB 72
	26	0.000	0.5	NS2 - TB - SdEW - TB 73		
			1.0	NS2 - TB - SdEW - TB 74		
			1.5	NS2 - TB - SdEW - TB 75		
			2.0	NS2 - TB - SdEW - TB 76		
			2.5	NS2 - TB - SdEW - TB 77		
			3.0	NS2 - TB - SdEW - TB 78		
			4.0	NS2 - TB - SdEW - TB 79		
			5.0	NS2 - TB - SdEW - TB 80		
	蒸気 タービンの基礎	23	20.480	0.5	NS2 - TB - SdEW - TG 81	
				1.0	NS2 - TB - SdEW - TG 82	
				1.5	NS2 - TB - SdEW - TG 83	
				2.0	NS2 - TB - SdEW - TG 84	
				2.5	NS2 - TB - SdEW - TG 85	
				3.0	NS2 - TB - SdEW - TG 86	
				4.0	NS2 - TB - SdEW - TG 87	
				5.0	NS2 - TB - SdEW - TG 88	
		24	13.000	0.5	NS2 - TB - SdEW - TG 89	
				1.0	NS2 - TB - SdEW - TG 90	
				1.5	NS2 - TB - SdEW - TG 91	
				2.0	NS2 - TB - SdEW - TG 92	
				2.5	NS2 - TB - SdEW - TG 93	
				3.0	NS2 - TB - SdEW - TG 94	
				4.0	NS2 - TB - SdEW - TG 95	
				5.0	NS2 - TB - SdEW - TG 96	

表 4.2-4 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (タービン建物) (5/6)

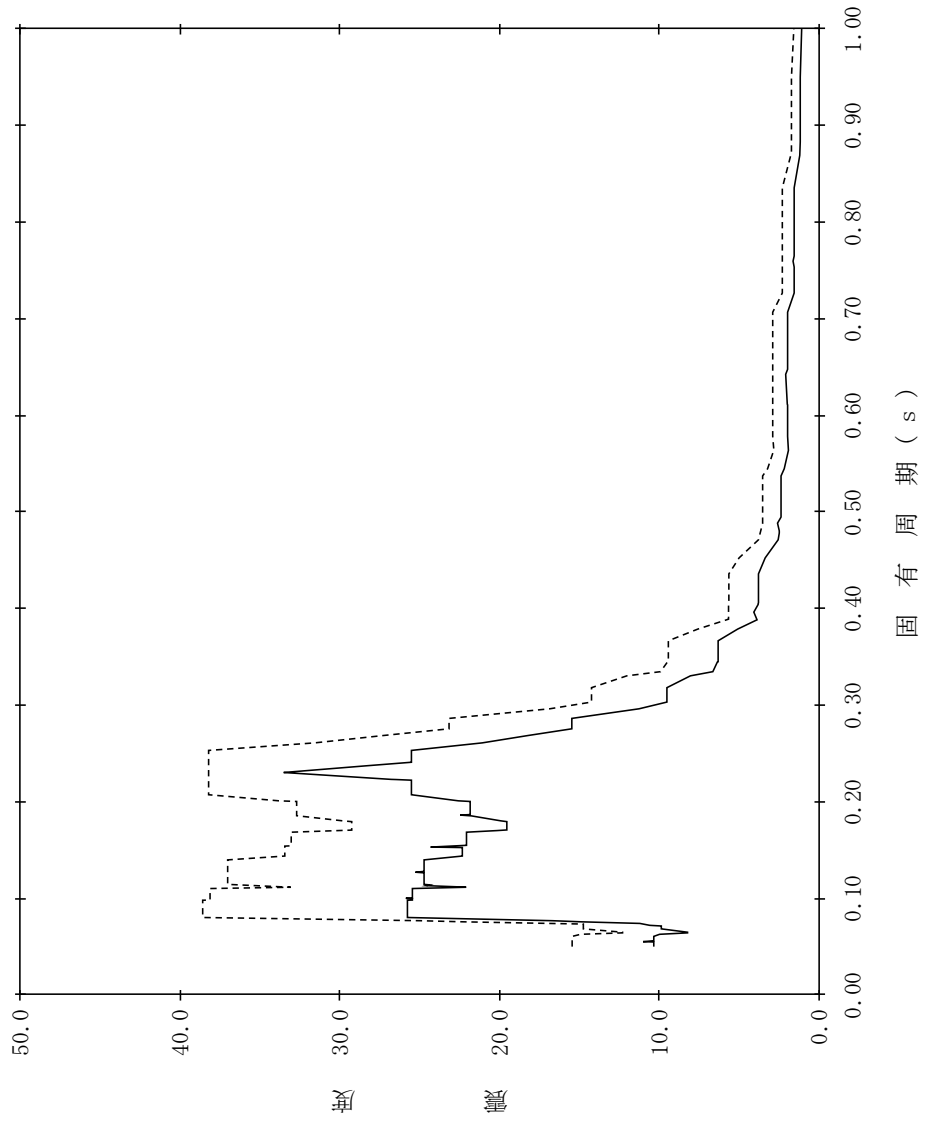
地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	タービン建物	鉛直方向	1	41.600	0.5	NS2 - TB - SdV - TB 1
					1.0	NS2 - TB - SdV - TB 2
					1.5	NS2 - TB - SdV - TB 3
					2.0	NS2 - TB - SdV - TB 4
					2.5	NS2 - TB - SdV - TB 5
					3.0	NS2 - TB - SdV - TB 6
					4.0	NS2 - TB - SdV - TB 7
					5.0	NS2 - TB - SdV - TB 8
			2	32.000	0.5	NS2 - TB - SdV - TB 9
					1.0	NS2 - TB - SdV - TB 10
					1.5	NS2 - TB - SdV - TB 11
					2.0	NS2 - TB - SdV - TB 12
					2.5	NS2 - TB - SdV - TB 13
					3.0	NS2 - TB - SdV - TB 14
					4.0	NS2 - TB - SdV - TB 15
					5.0	NS2 - TB - SdV - TB 16
			3	20.600	0.5	NS2 - TB - SdV - TB 17
					1.0	NS2 - TB - SdV - TB 18
					1.5	NS2 - TB - SdV - TB 19
					2.0	NS2 - TB - SdV - TB 20
					2.5	NS2 - TB - SdV - TB 21
					3.0	NS2 - TB - SdV - TB 22
					4.0	NS2 - TB - SdV - TB 23
					5.0	NS2 - TB - SdV - TB 24
			4	12.500	0.5	NS2 - TB - SdV - TB 25
					1.0	NS2 - TB - SdV - TB 26
					1.5	NS2 - TB - SdV - TB 27
					2.0	NS2 - TB - SdV - TB 28
					2.5	NS2 - TB - SdV - TB 29
					3.0	NS2 - TB - SdV - TB 30
					4.0	NS2 - TB - SdV - TB 31
					5.0	NS2 - TB - SdV - TB 32
			5	5.500	0.5	NS2 - TB - SdV - TB 33
					1.0	NS2 - TB - SdV - TB 34
					1.5	NS2 - TB - SdV - TB 35
					2.0	NS2 - TB - SdV - TB 36
					2.5	NS2 - TB - SdV - TB 37
					3.0	NS2 - TB - SdV - TB 38
					4.0	NS2 - TB - SdV - TB 39
					5.0	NS2 - TB - SdV - TB 40
			8	2.000	0.5	NS2 - TB - SdV - TB 41
					1.0	NS2 - TB - SdV - TB 42
					1.5	NS2 - TB - SdV - TB 43
					2.0	NS2 - TB - SdV - TB 44
					2.5	NS2 - TB - SdV - TB 45
					3.0	NS2 - TB - SdV - TB 46
					4.0	NS2 - TB - SdV - TB 47
					5.0	NS2 - TB - SdV - TB 48

表 4.2-4 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (タービン建物) (6/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL (m)	減衰定数 (%)	図番	
S d	タービン建物	鉛直 方向	9	0.000	0.5	NS2 - TB - SdV - TB 49	
					1.0	NS2 - TB - SdV - TB 50	
					1.5	NS2 - TB - SdV - TB 51	
					2.0	NS2 - TB - SdV - TB 52	
					2.5	NS2 - TB - SdV - TB 53	
					3.0	NS2 - TB - SdV - TB 54	
					4.0	NS2 - TB - SdV - TB 55	
					5.0	NS2 - TB - SdV - TB 56	
	蒸気 タービンの基礎		6	20.480	0.5	NS2 - TB - SdV - TG 57	
					1.0	NS2 - TB - SdV - TG 58	
					1.5	NS2 - TB - SdV - TG 59	
					2.0	NS2 - TB - SdV - TG 60	
					2.5	NS2 - TB - SdV - TG 61	
			3.0		NS2 - TB - SdV - TG 62		
			4.0		NS2 - TB - SdV - TG 63		
			5.0		NS2 - TB - SdV - TG 64		
			7		13.000	0.5	NS2 - TB - SdV - TG 65
						1.0	NS2 - TB - SdV - TG 66
						1.5	NS2 - TB - SdV - TG 67
						2.0	NS2 - TB - SdV - TG 68
						2.5	NS2 - TB - SdV - TG 69
3.0	NS2 - TB - SdV - TG 70						
4.0	NS2 - TB - SdV - TG 71						
5.0	NS2 - TB - SdV - TG 72						

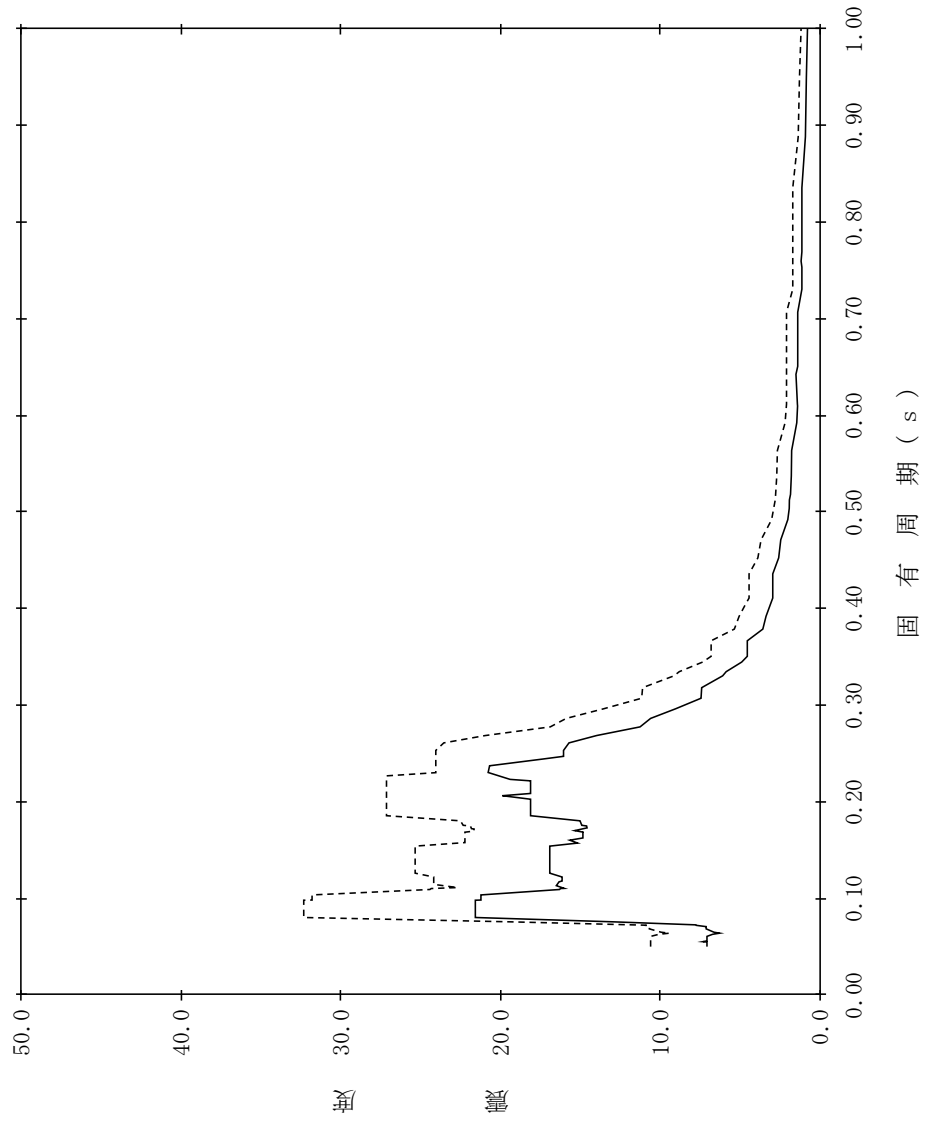
【NS2-TB-SdNS-TB1】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



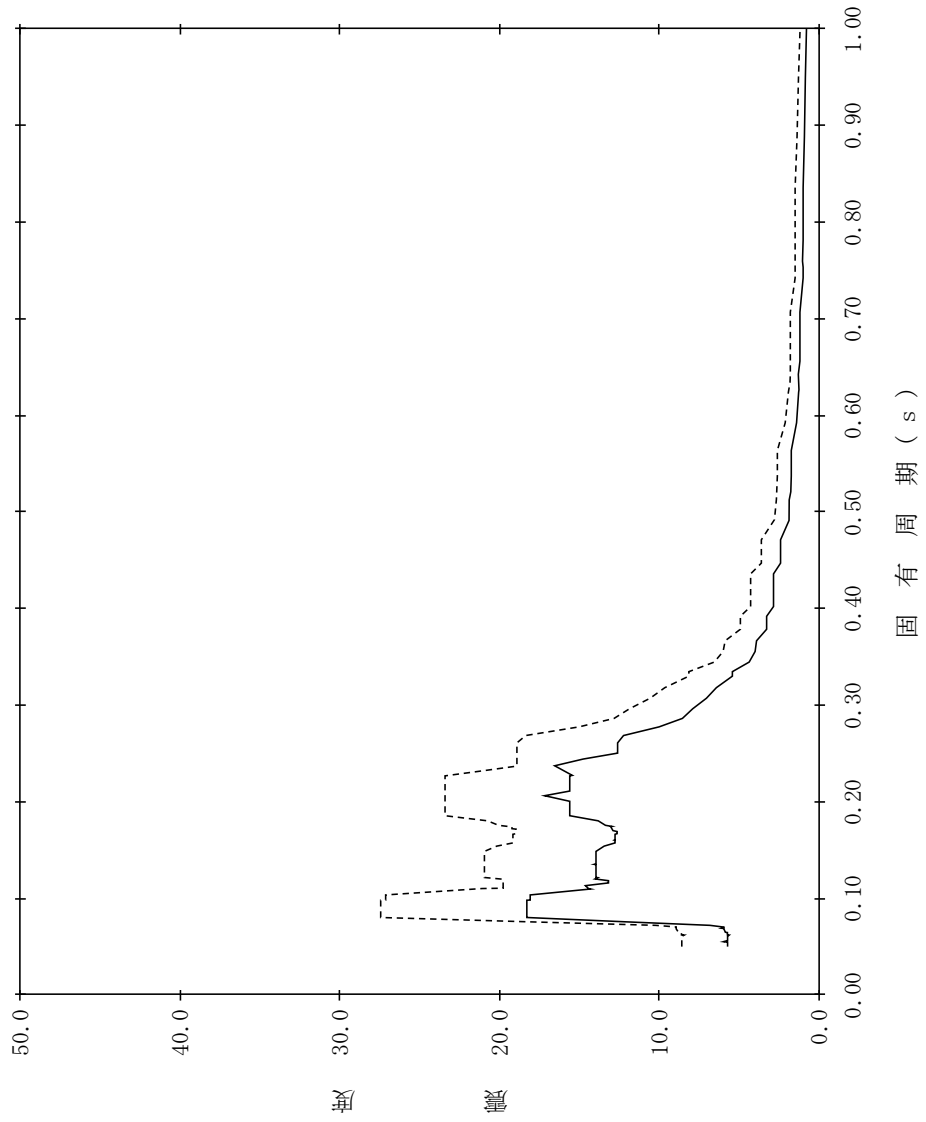
【NS2-TB-SdNS-TB2】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



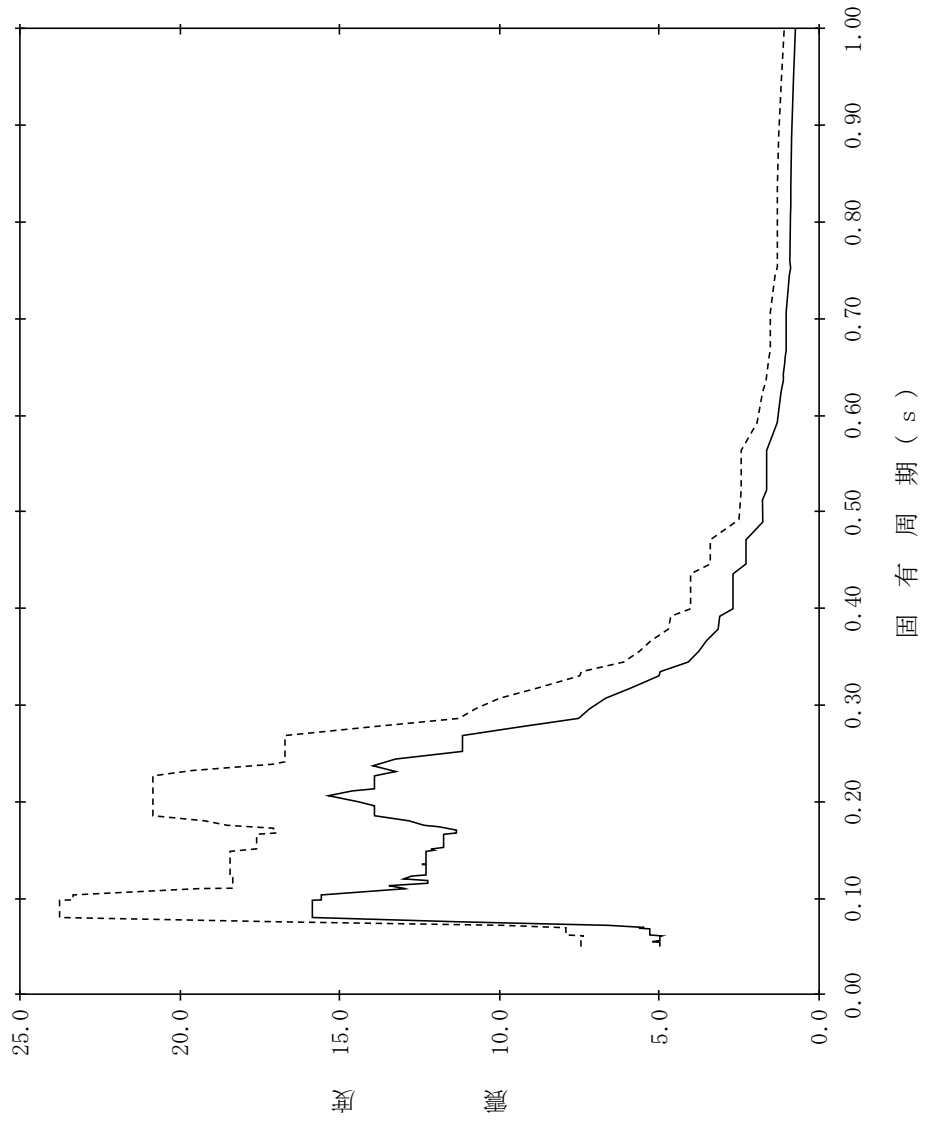
【NS2-TB-SdNS-TB3】

構造物名：タービン建物
標高：EL41.600m
減衰定数：1.5%
波形式：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SdNS-TB4】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

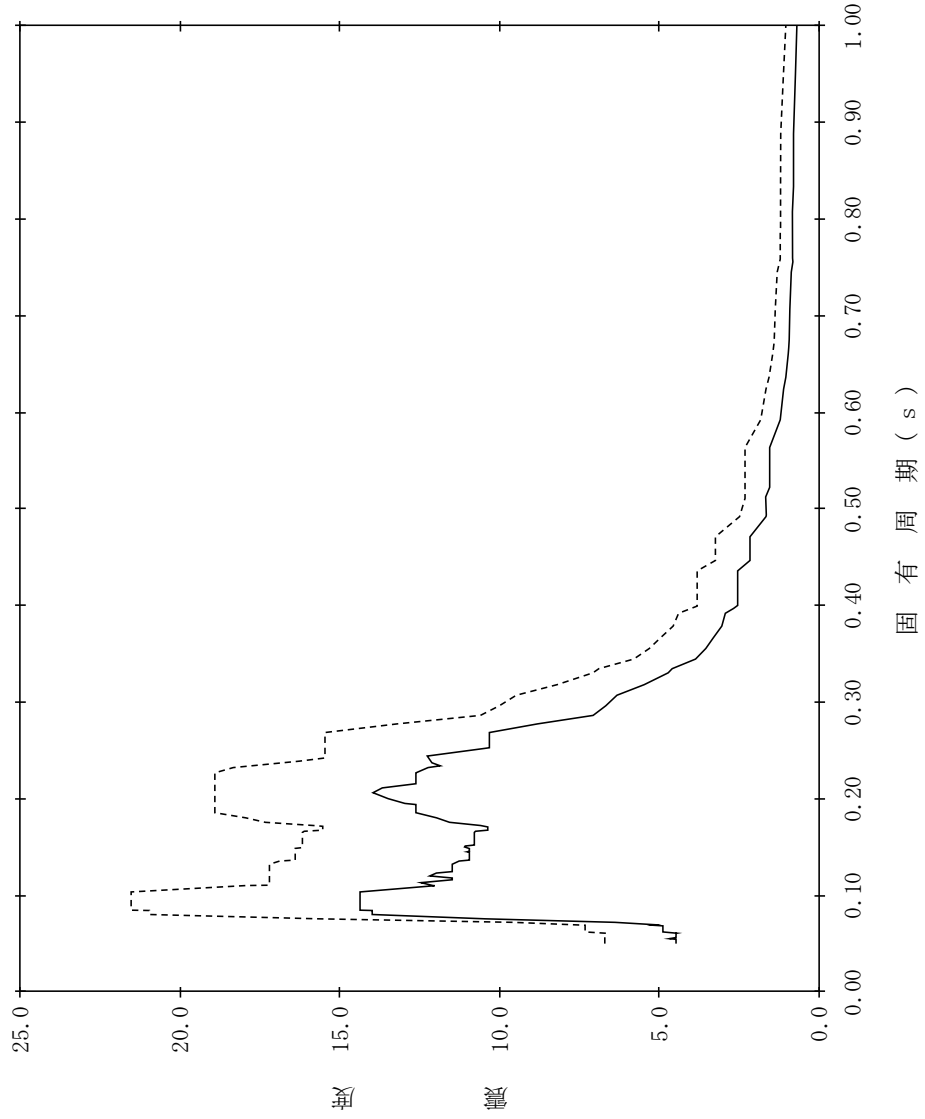


【NS2-TB-SdNS-TB5】

構造物名：タービン建物
標高：EL41.600m
減衰定数：2.5%

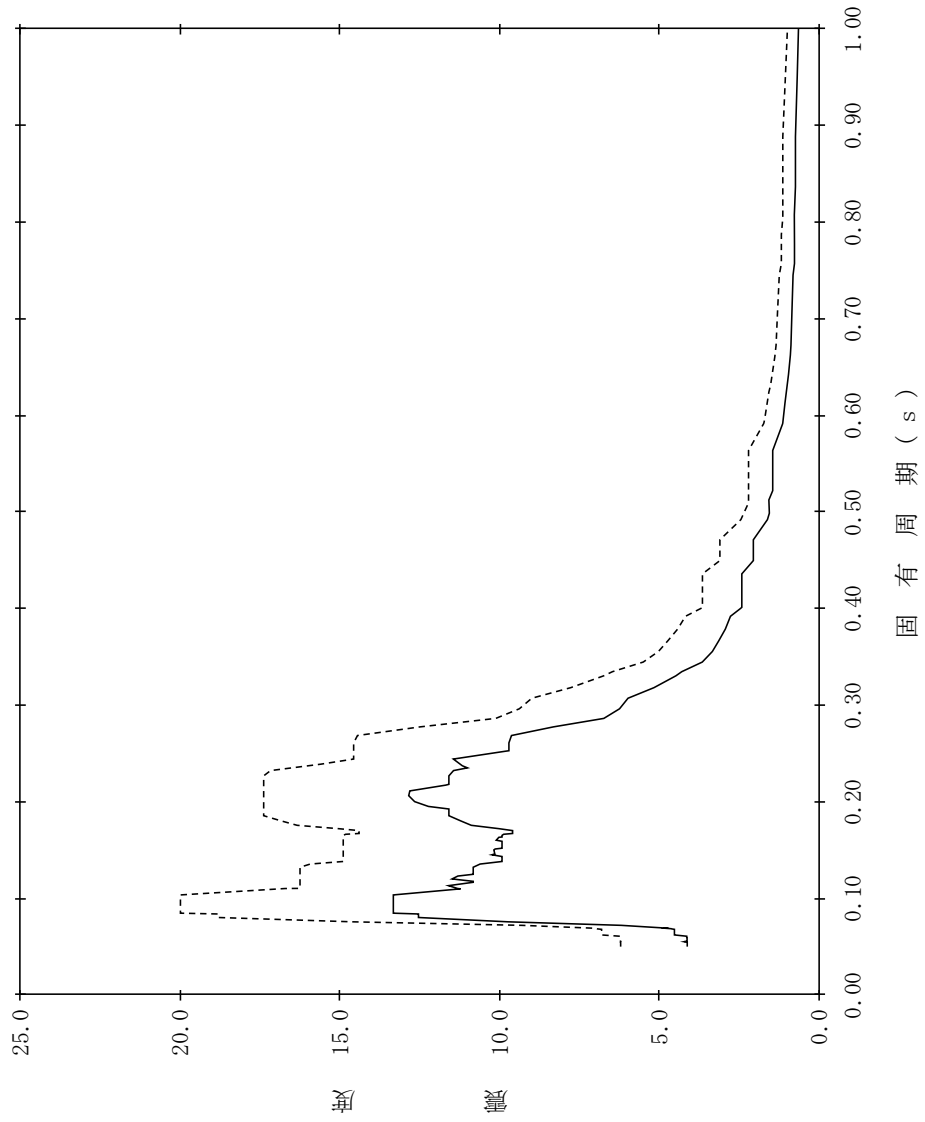
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)

- - - - - 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



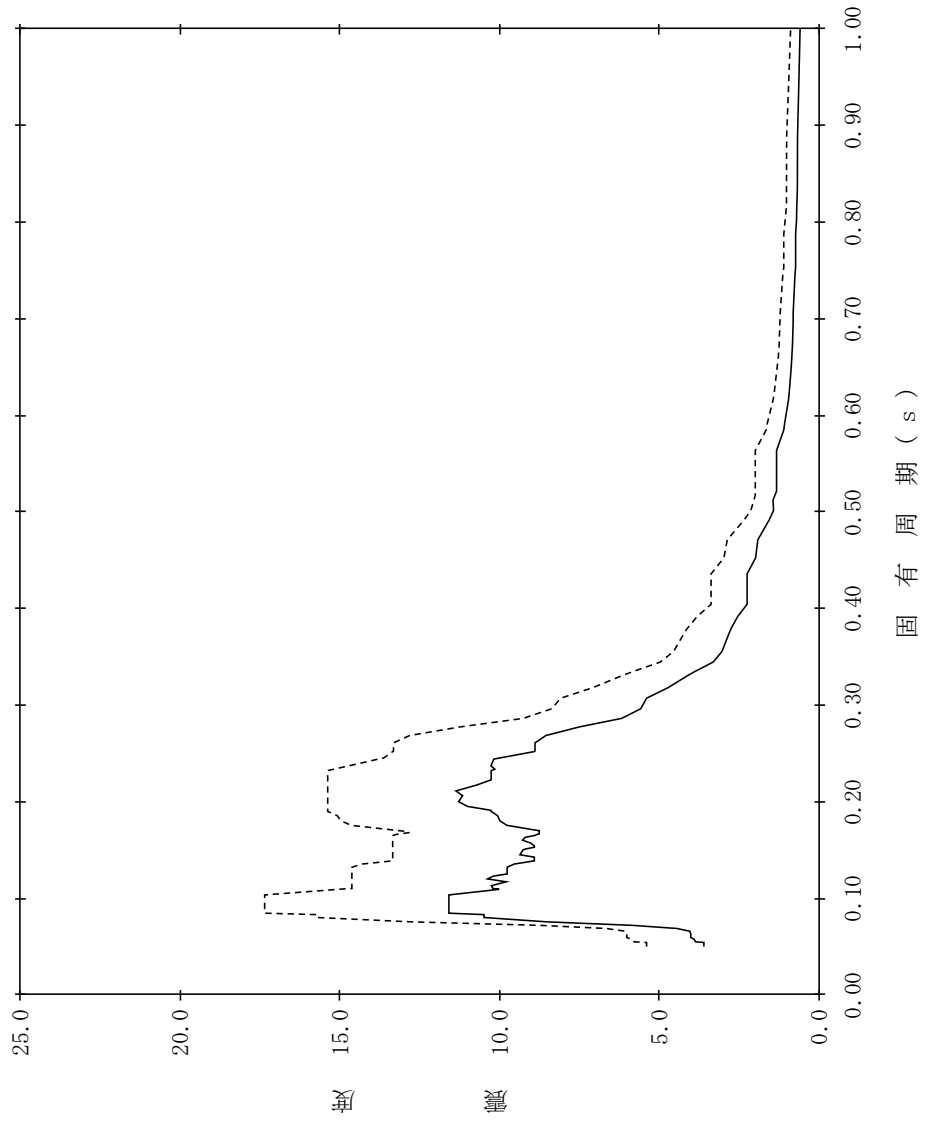
【NS2-TB-SdNS-TB6】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



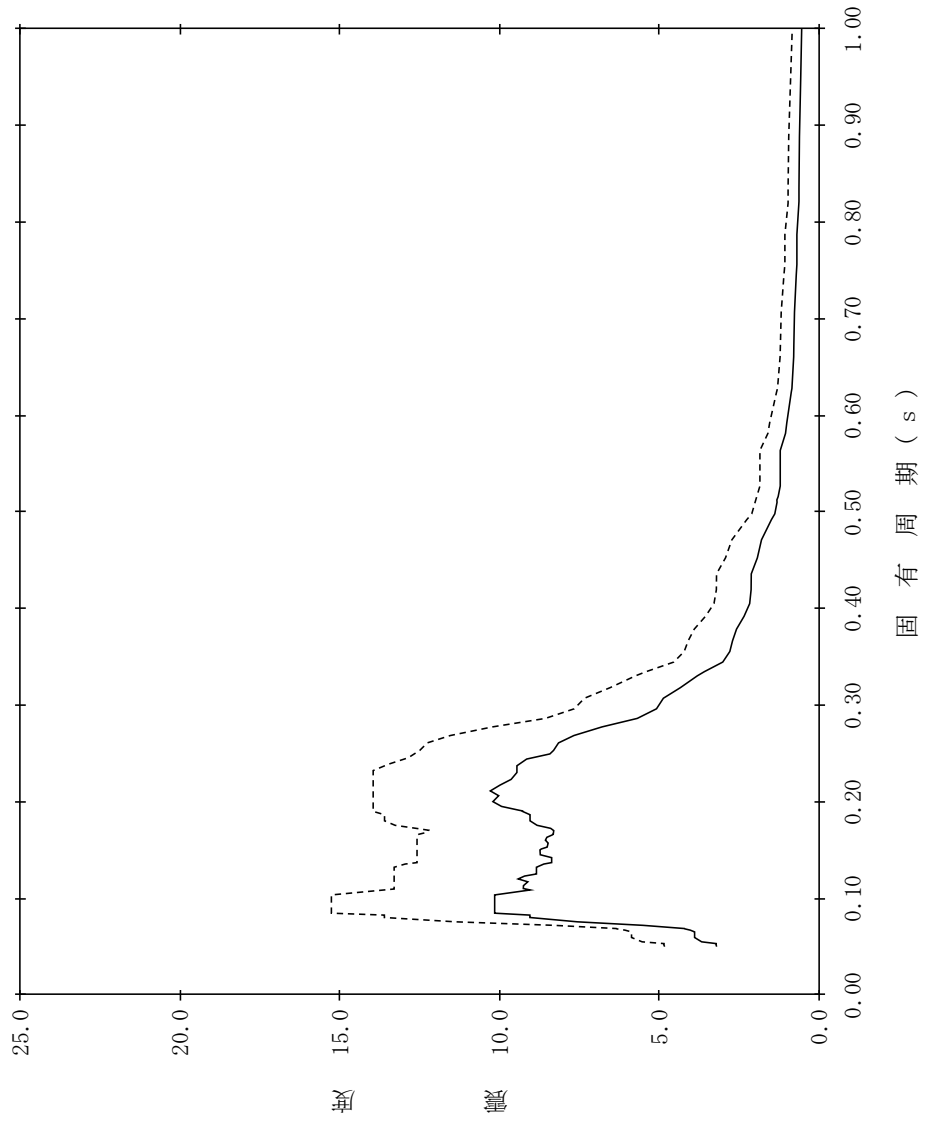
【NS2-TB-SdNS-TB7】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



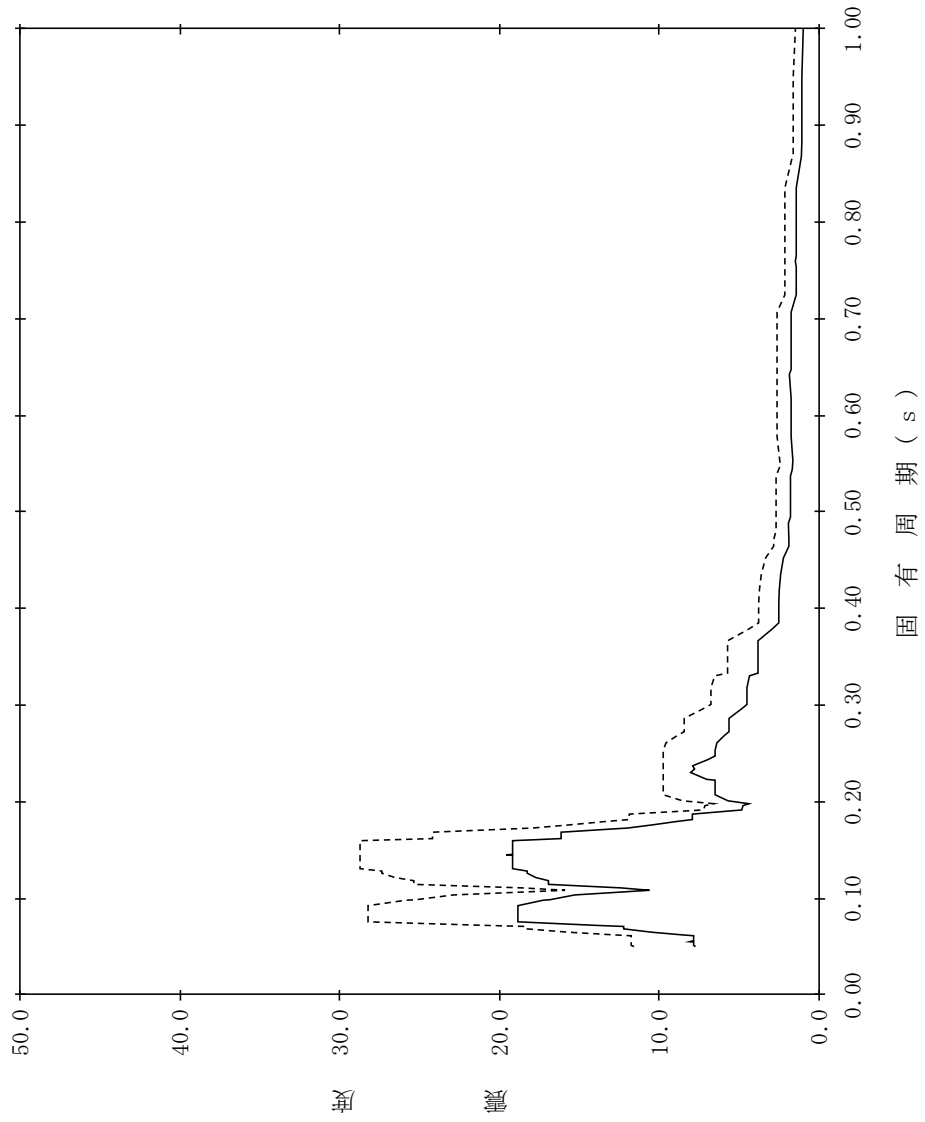
【NS2-TB-SdNS-TB8】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



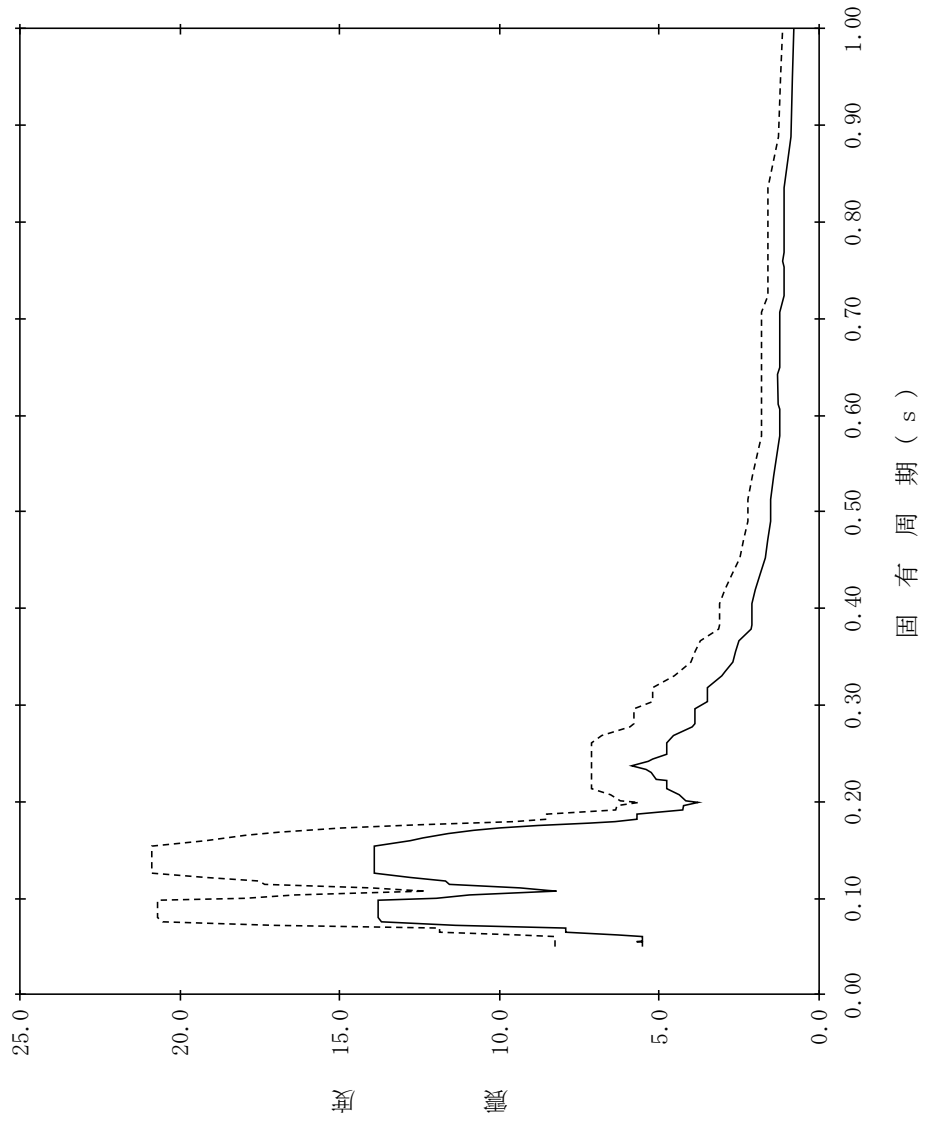
【NS2-TB-SdNS-TB9】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



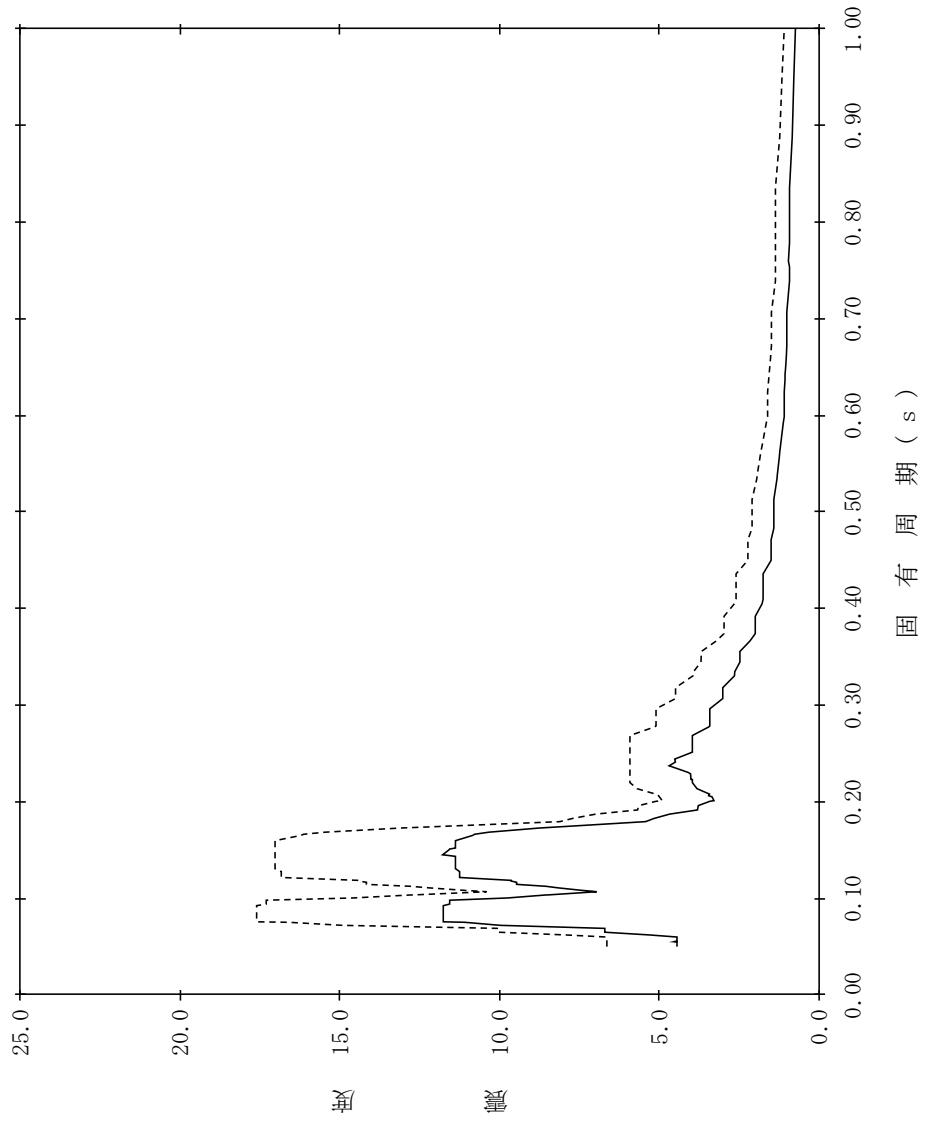
【NS2-TB-SdNS-TB10】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



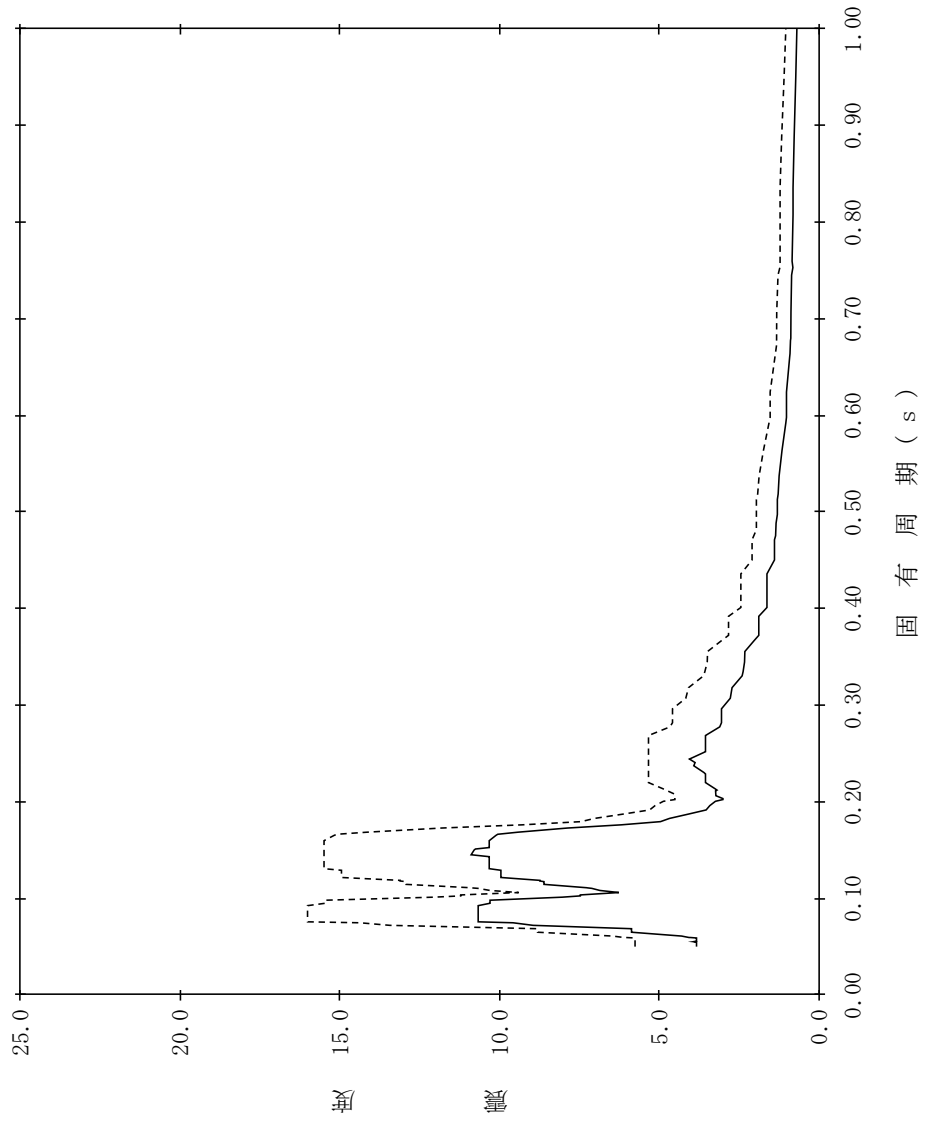
【NS2-TB-SdNS-TB11】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



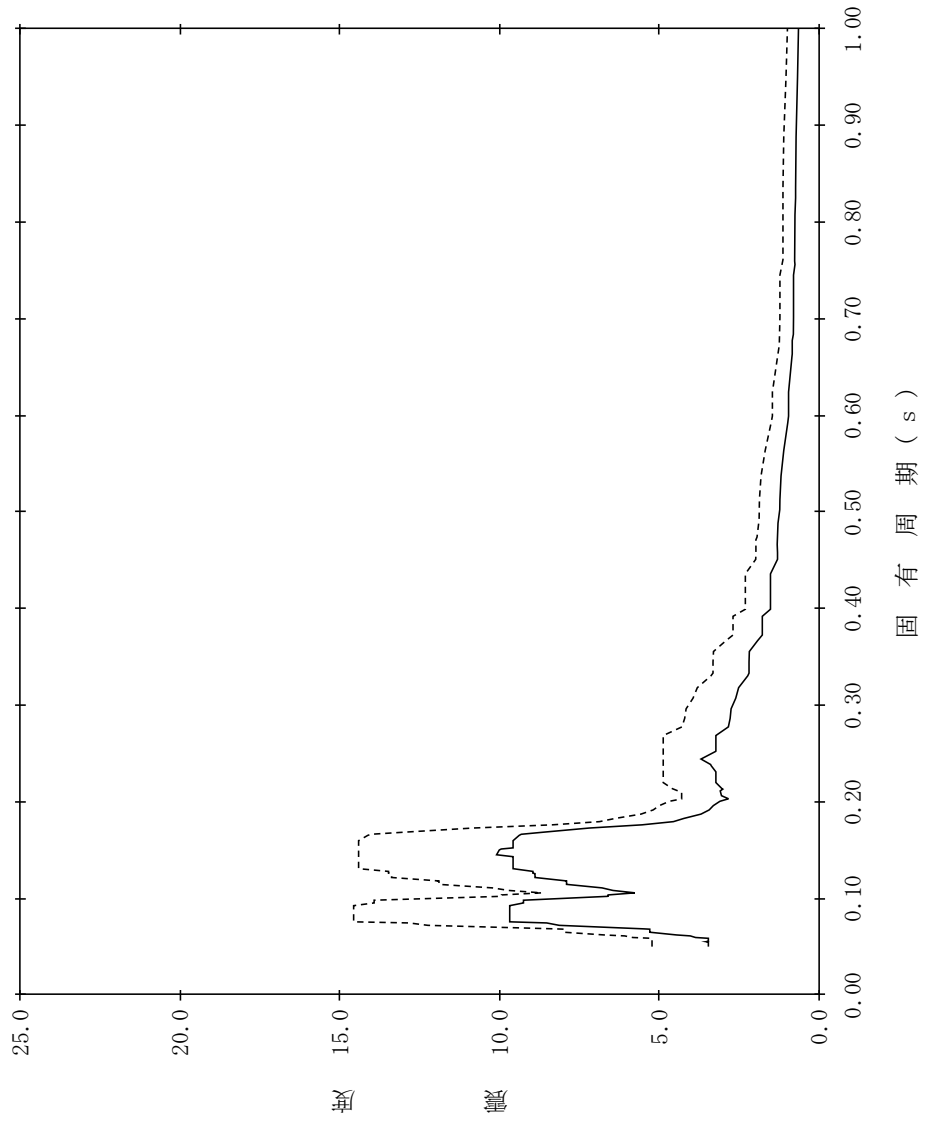
【NS2-TB-SdNS-TB12】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



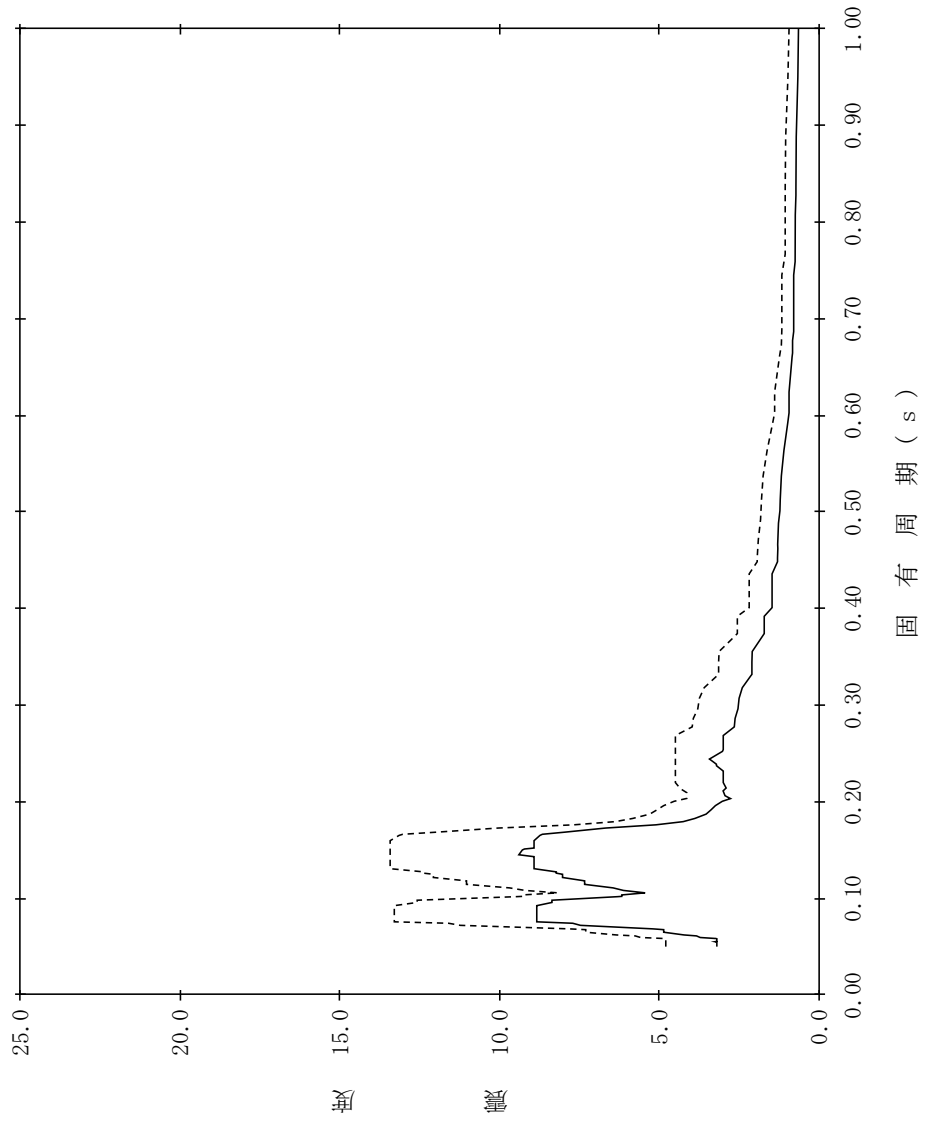
【NS2-TB-SdNS-TB13】

構造物名：タービン建物
標高：EL33.700m
減衰定数：2.5%
波形式：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



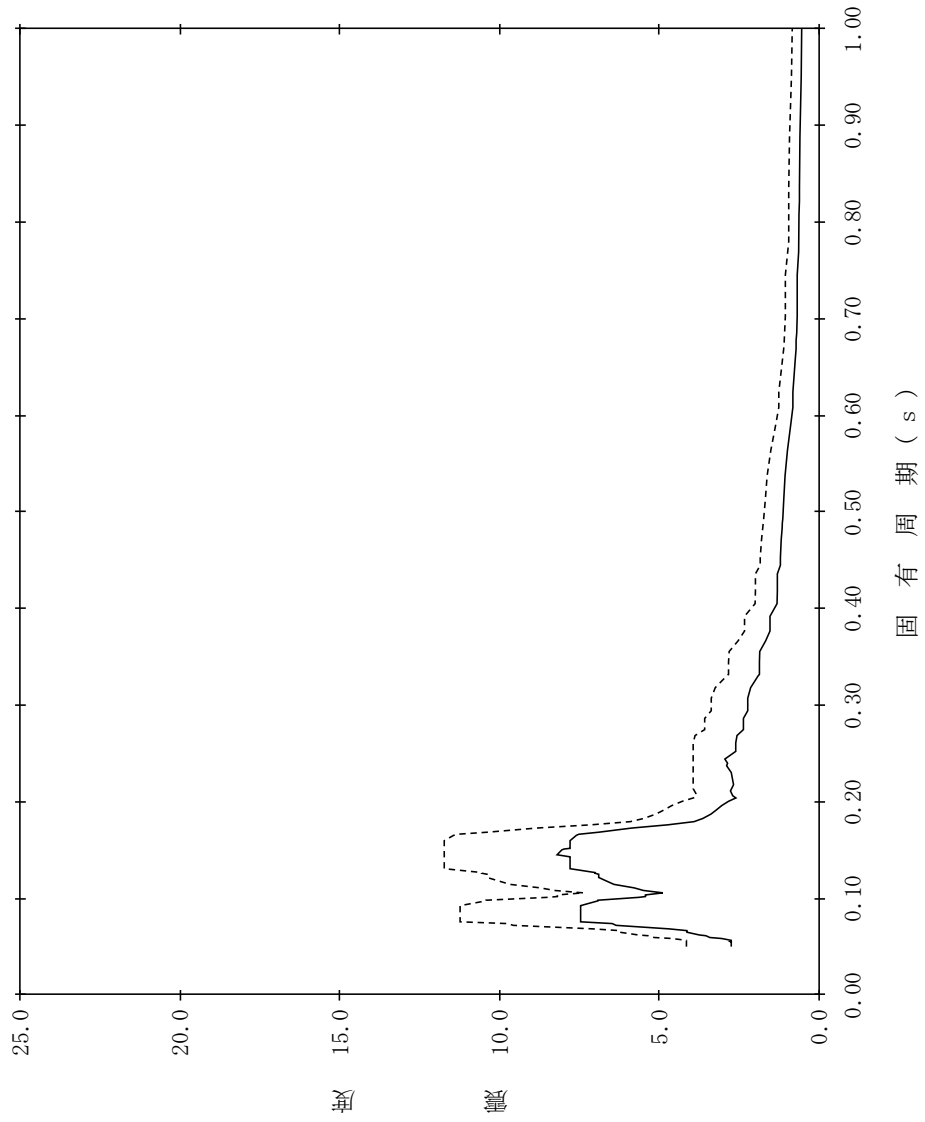
【NS2-TB-SdNS-TB14】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



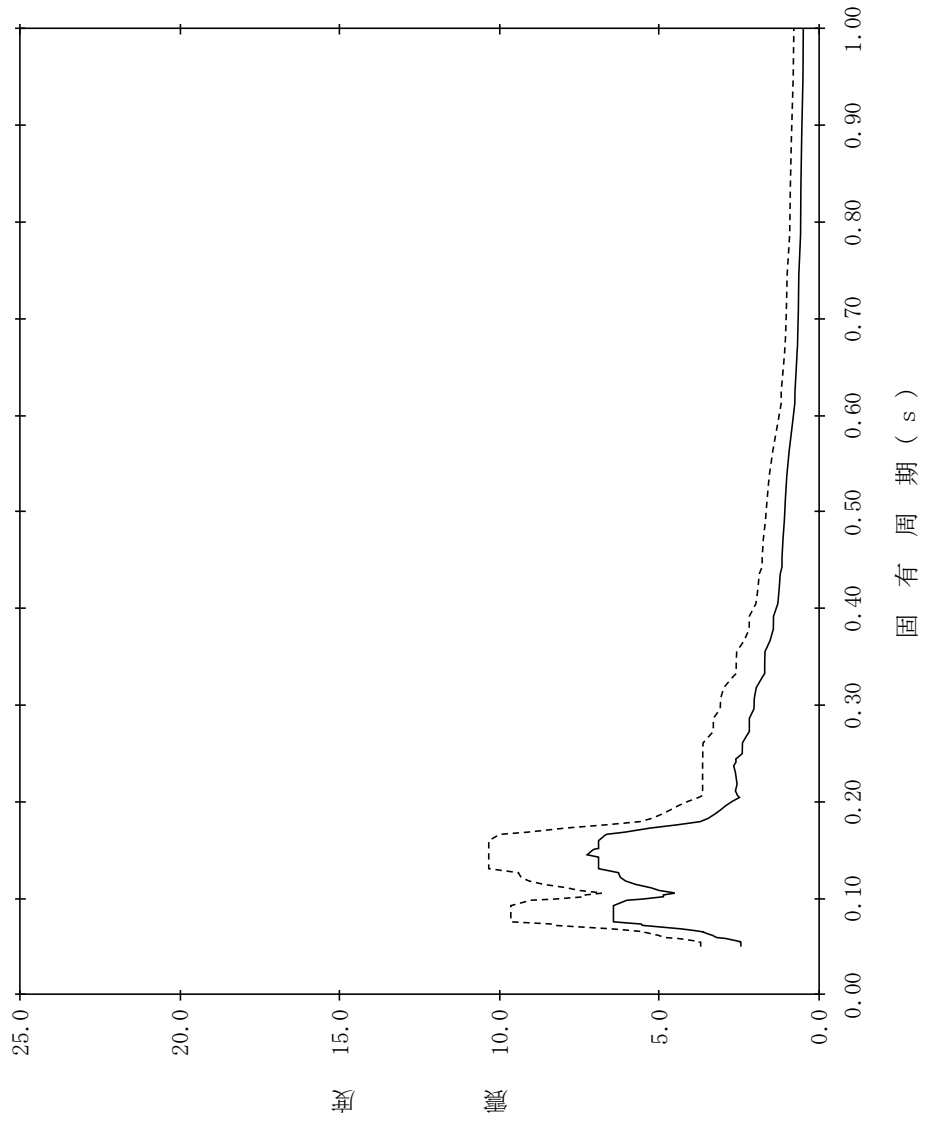
【NS2-TB-SdNS-TB15】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



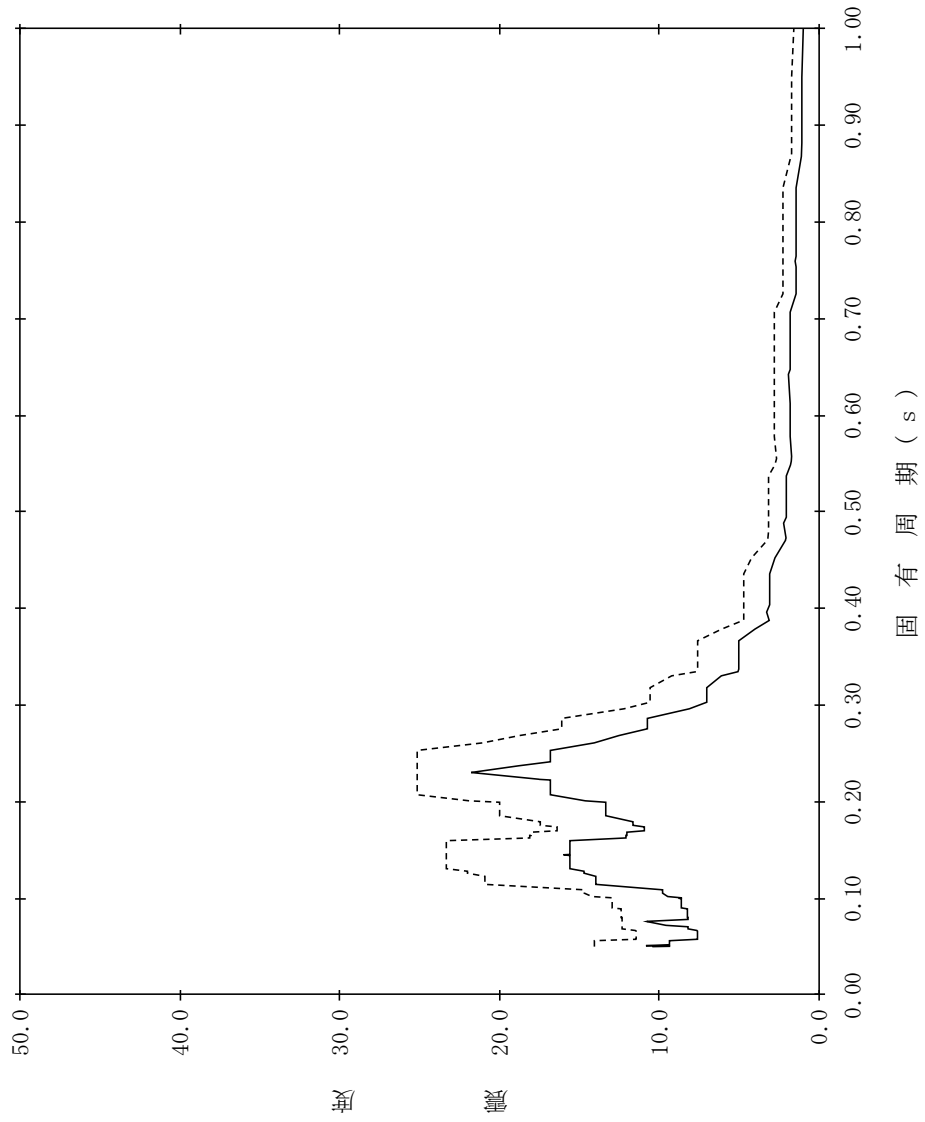
【NS2-TB-SdNS-TB16】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



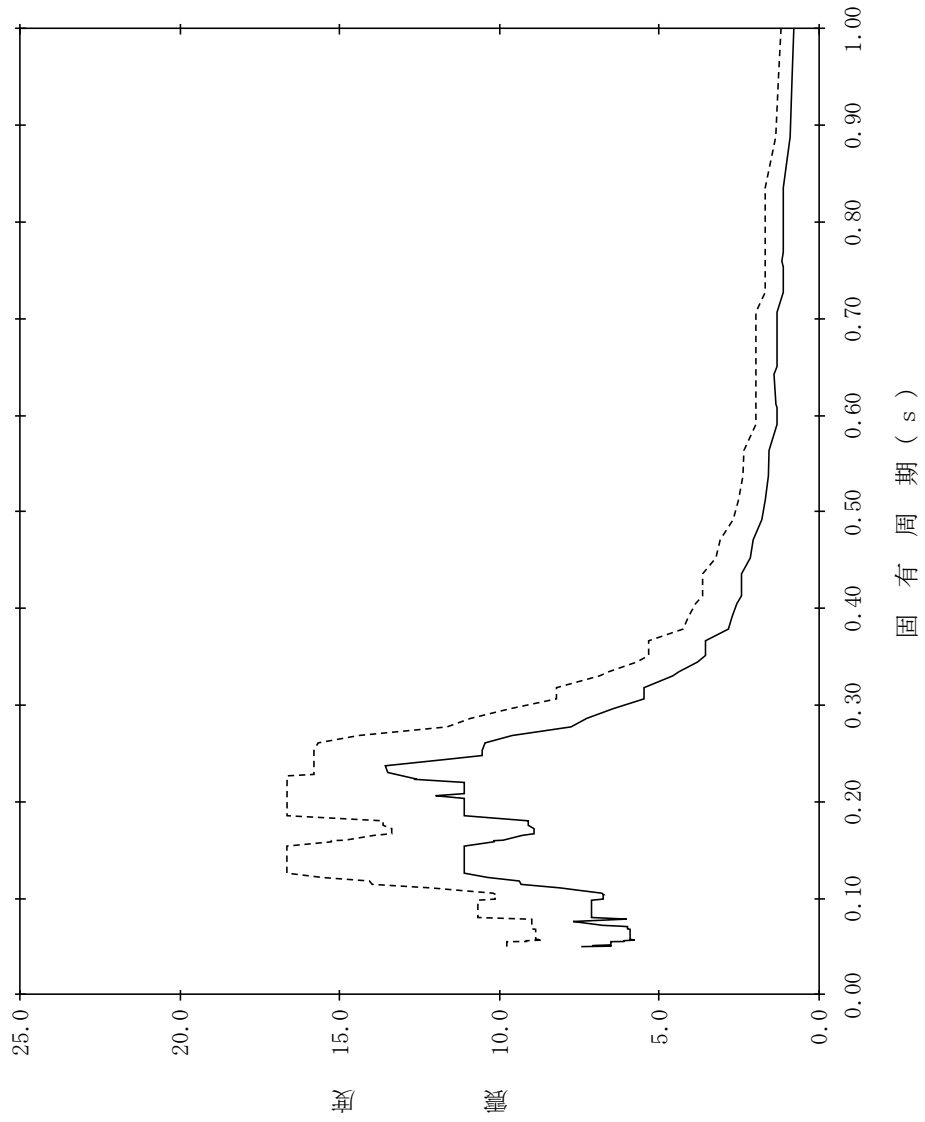
【NS2-TB-SdNS-TB17】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



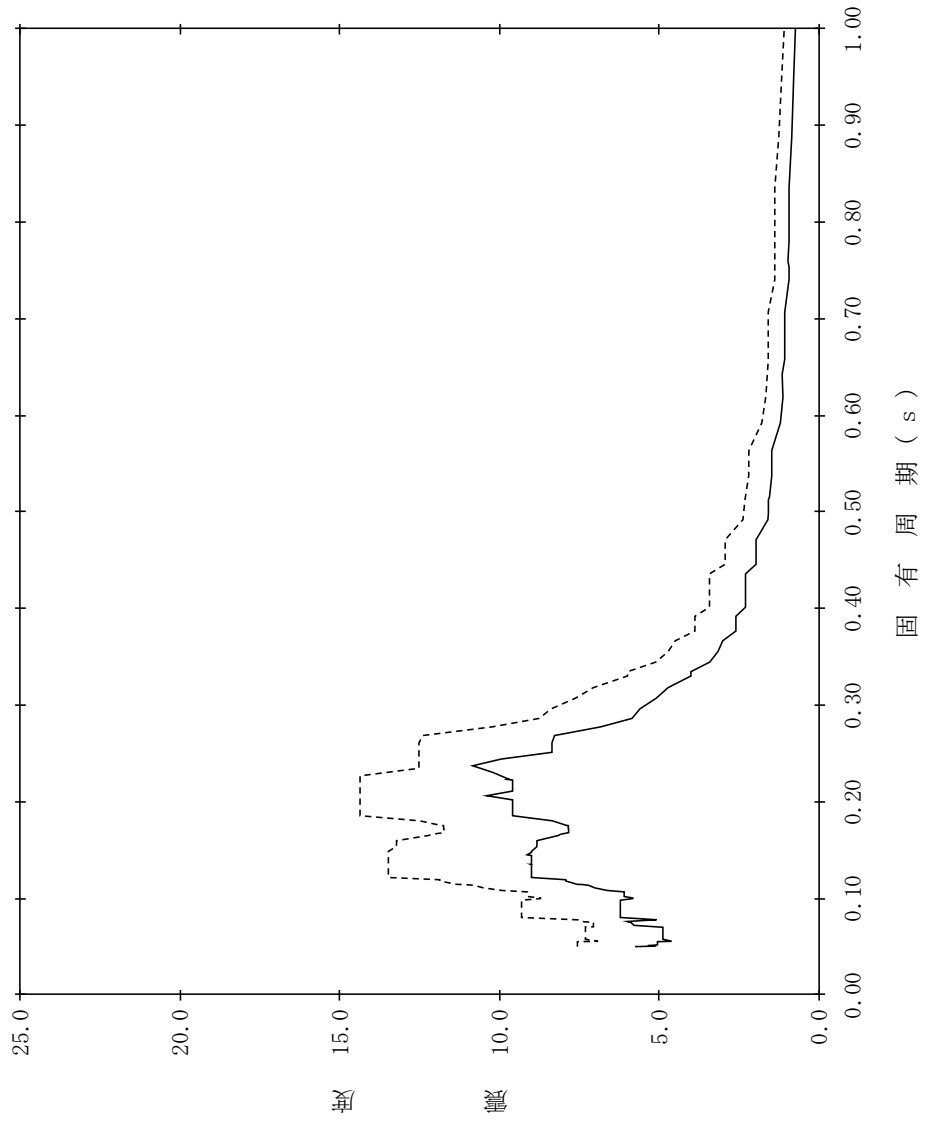
【NS2-TB-SdNS-TB18】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



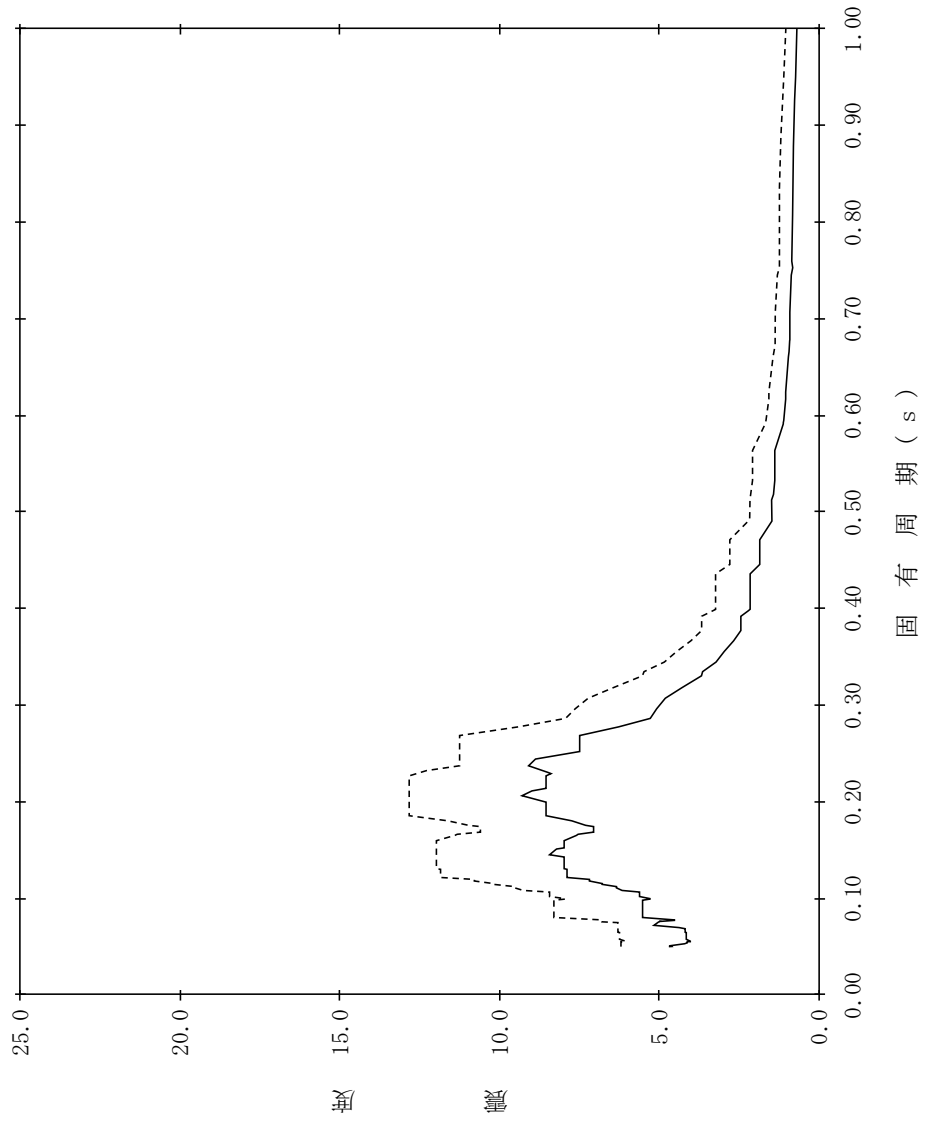
【NS2-TB-SdNS-TB19】

構造物名：タービン建物
標高：EL32.000m
減衰定数：1.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



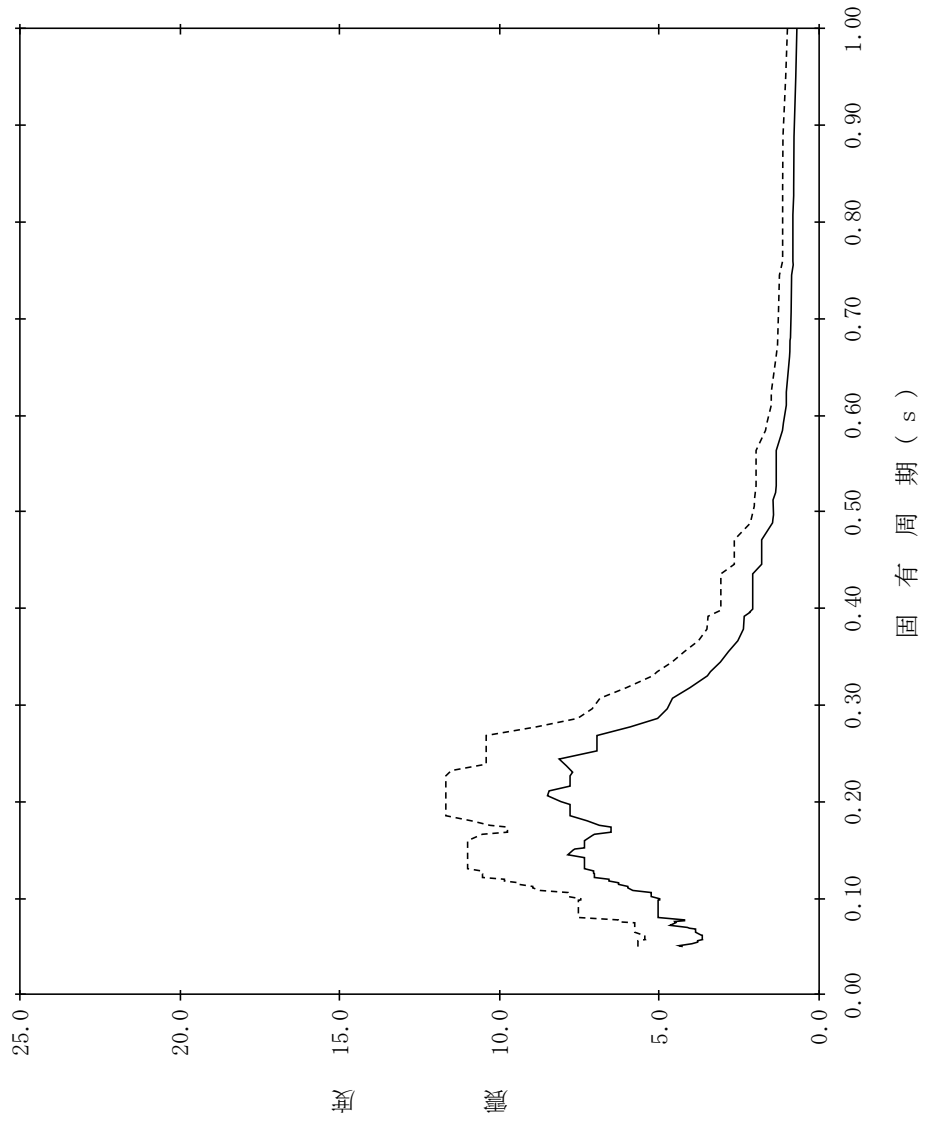
【NS2-TB-SdNS-TB20】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



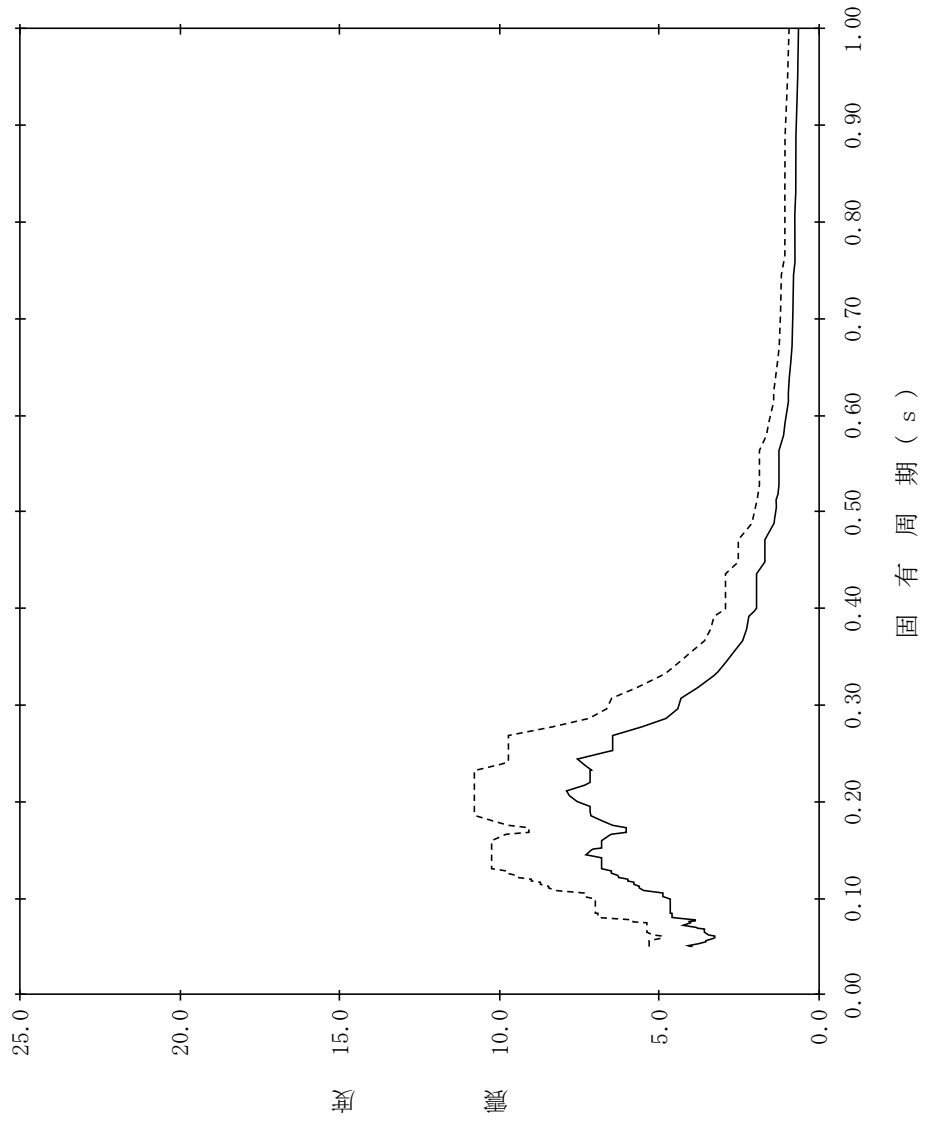
【NS2-TB-SdNS-TB21】

構造物名：タービン建物
標高：EL32.000m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



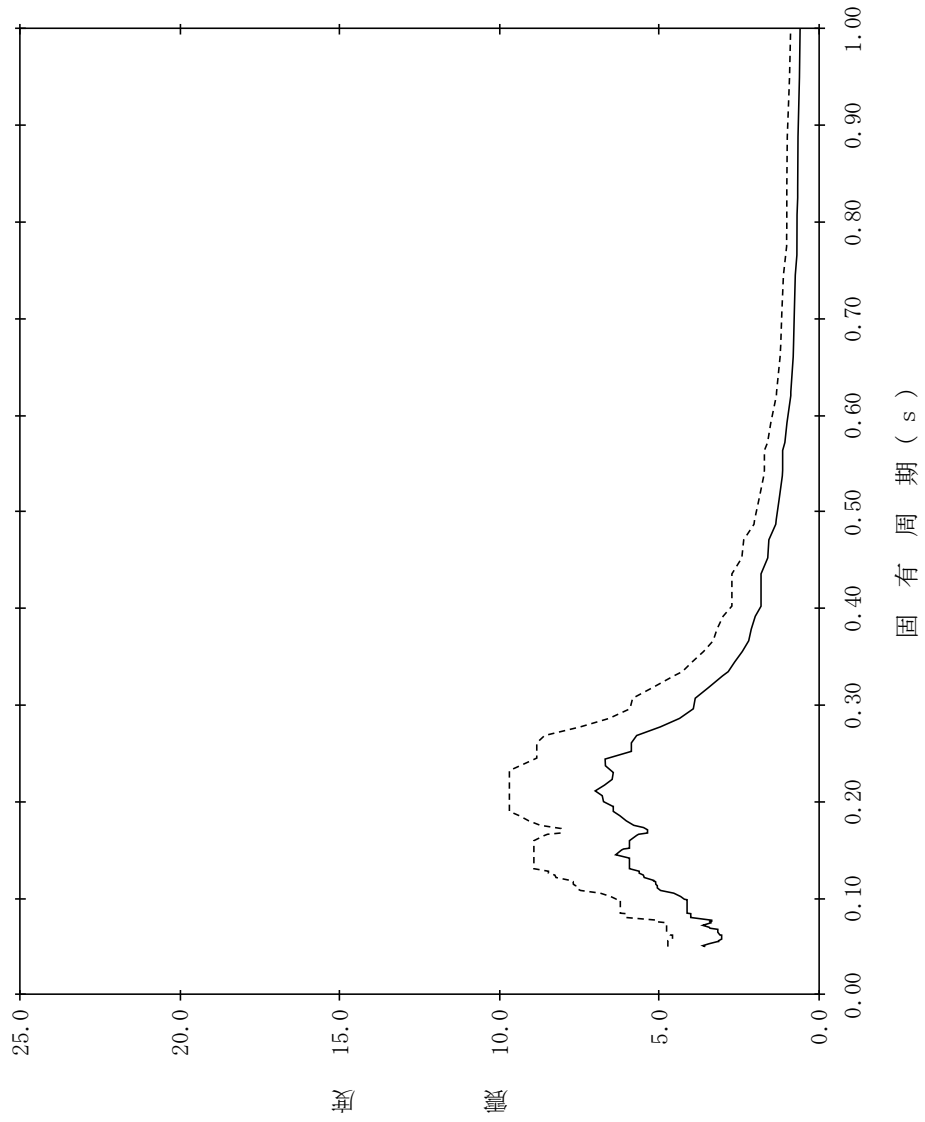
【NS2-TB-SdNS-TB22】

構造物名：タービン建物
標高：EL32.000m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



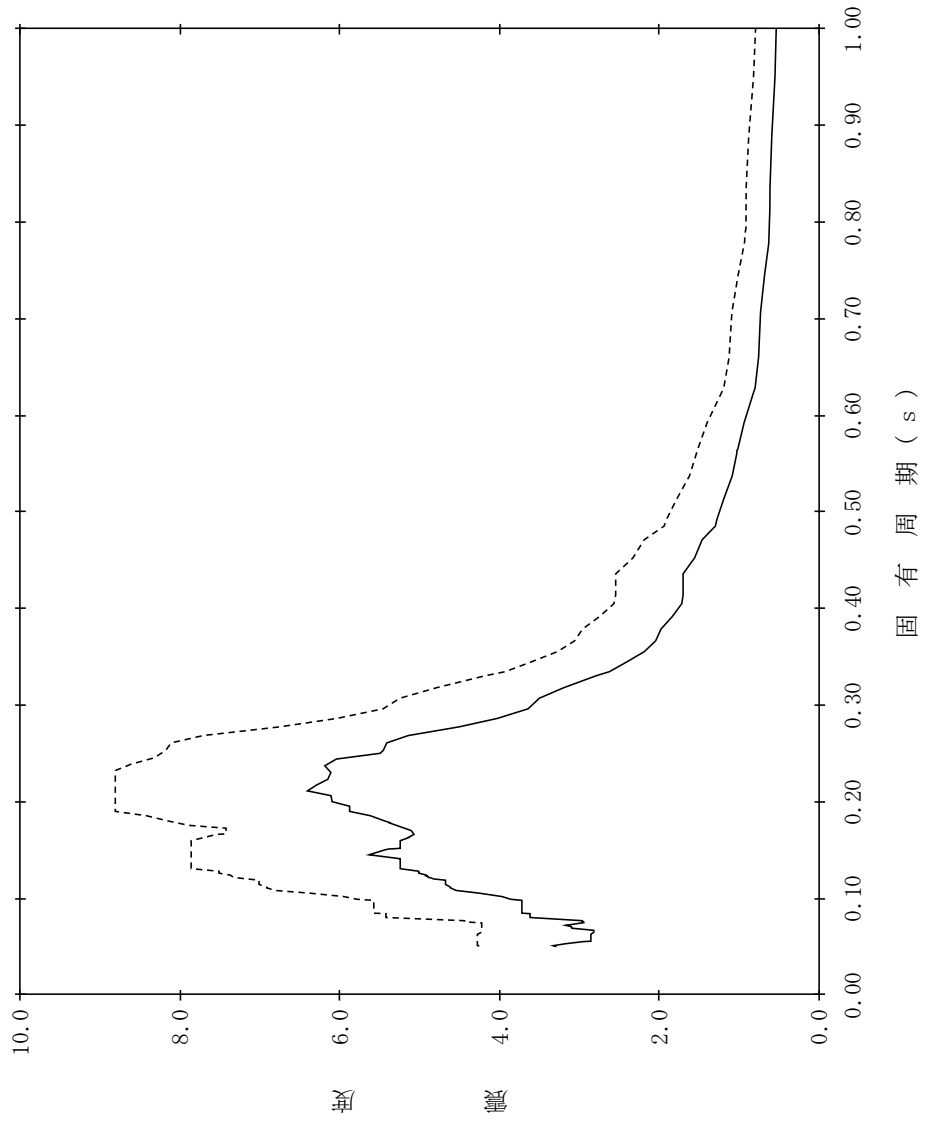
【NS2-TB-SdNS-TB23】

構造物名：タービン建物
標高：EL32.000m
減衰定数：4.0%
波形式：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



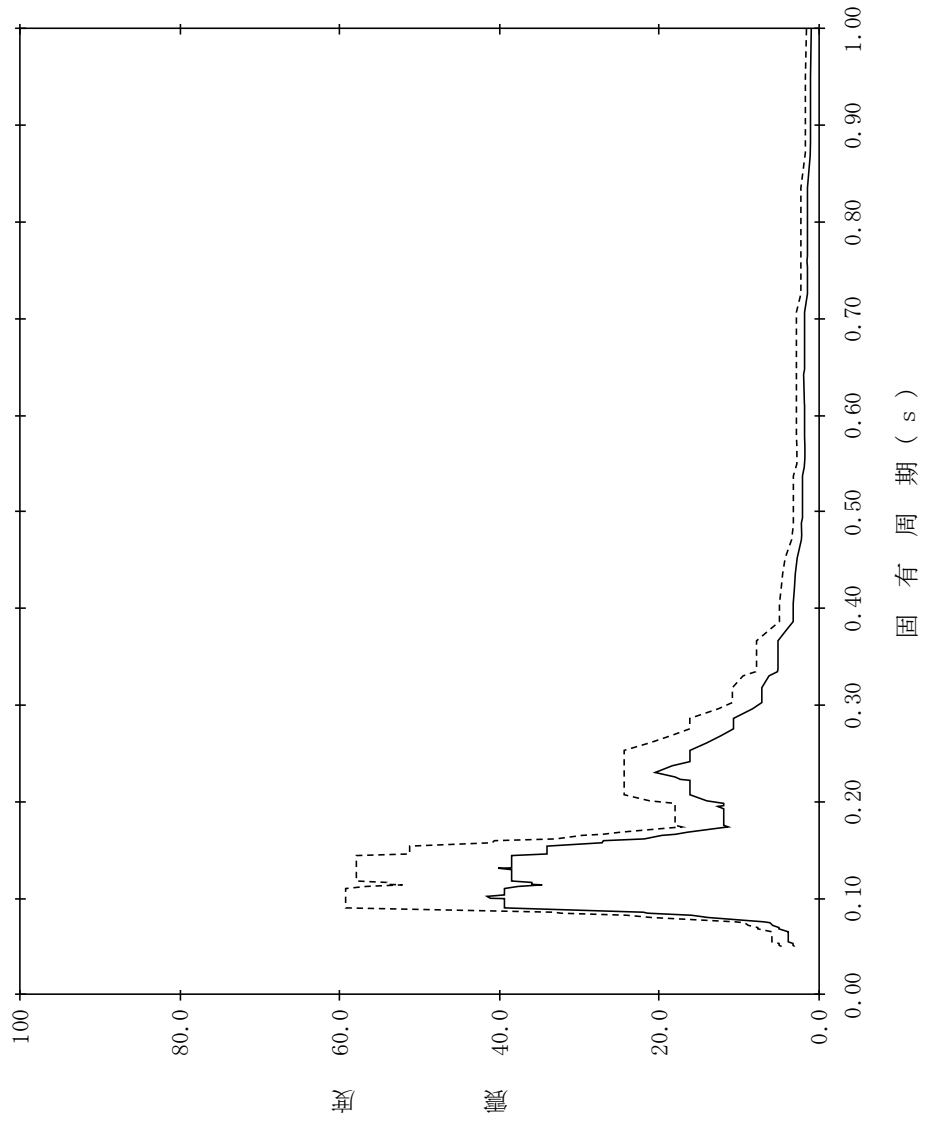
【NS2-TB-SdNS-TB24】

構造物名：タービン建物
標高：EL32.000m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



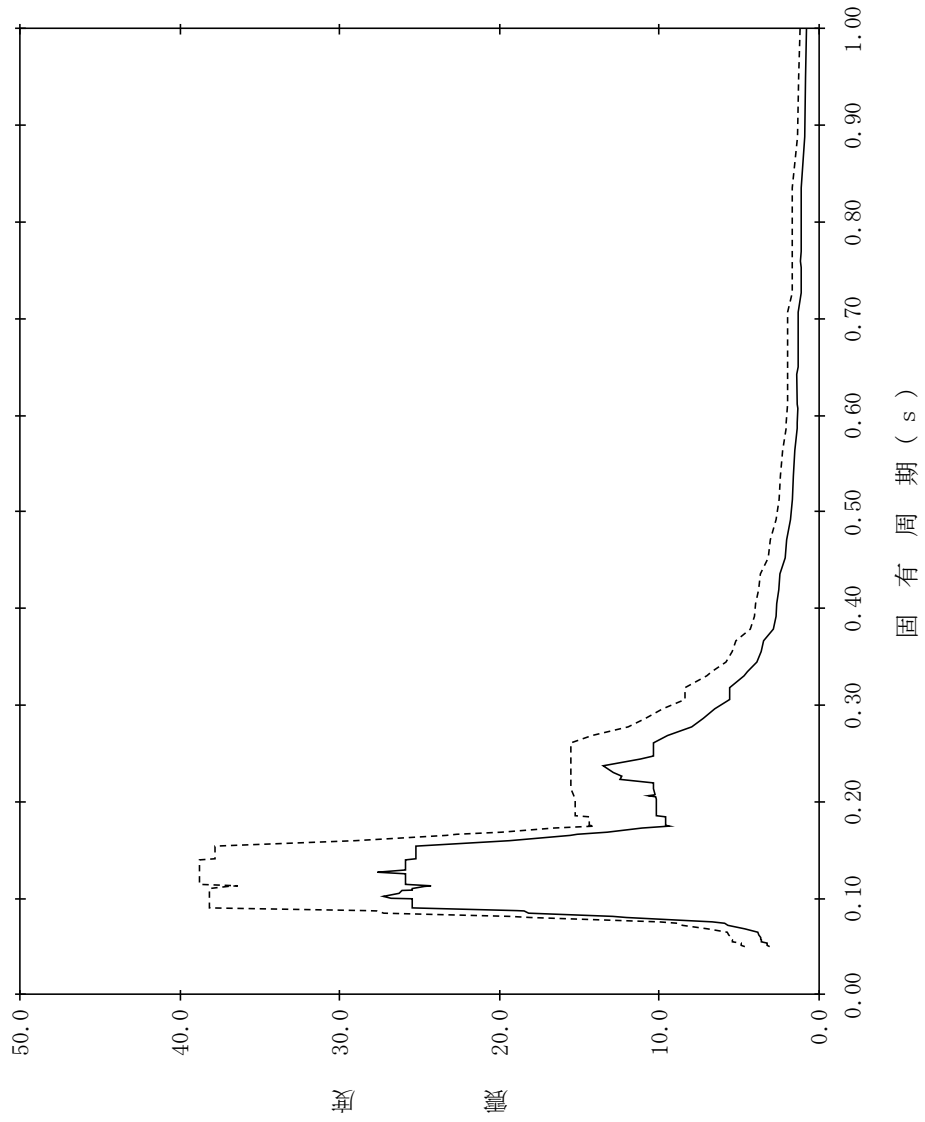
【NS2-TB-SdNS-TB25】

構造物名：タービン建物
 標高：EL30.550m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



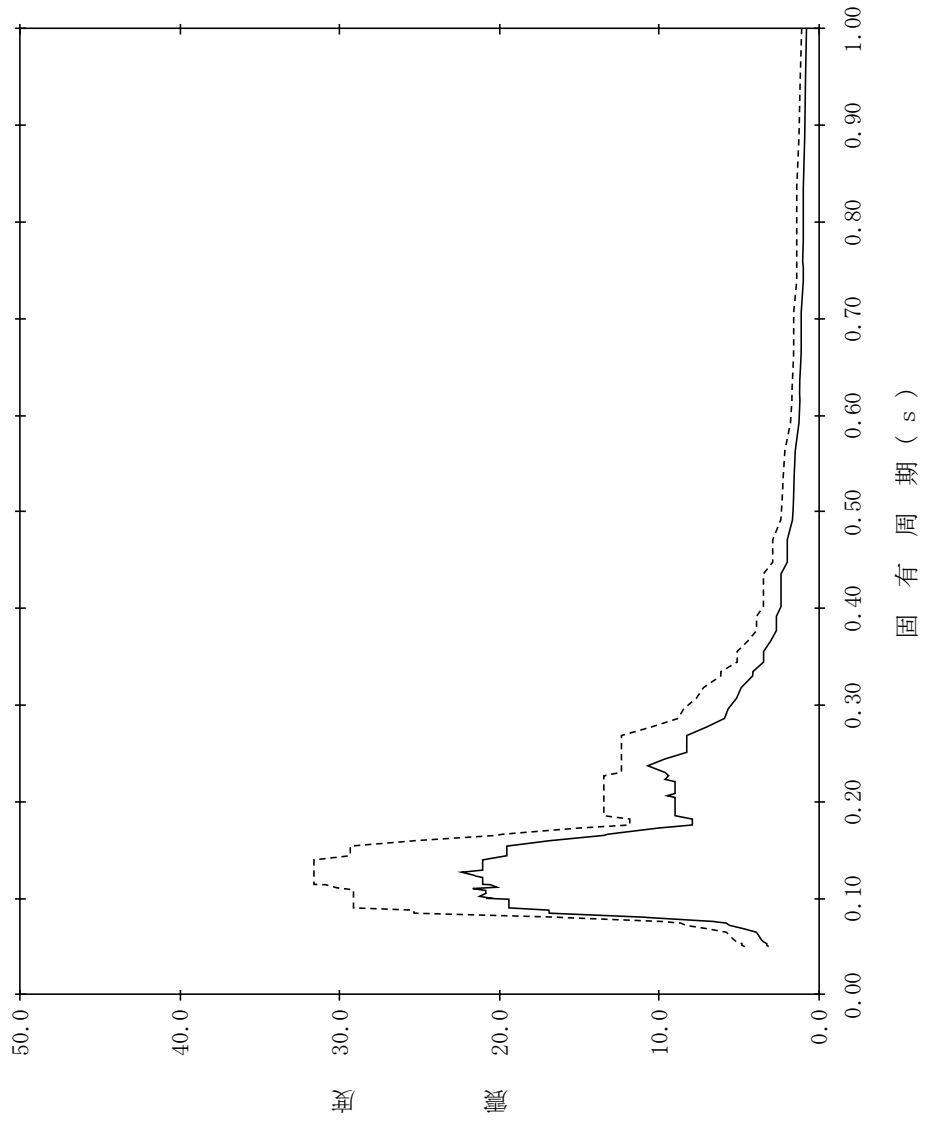
【NS2-TB-SdNS-TB26】

構造物名：タービン建物
 標高：EL30.550m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



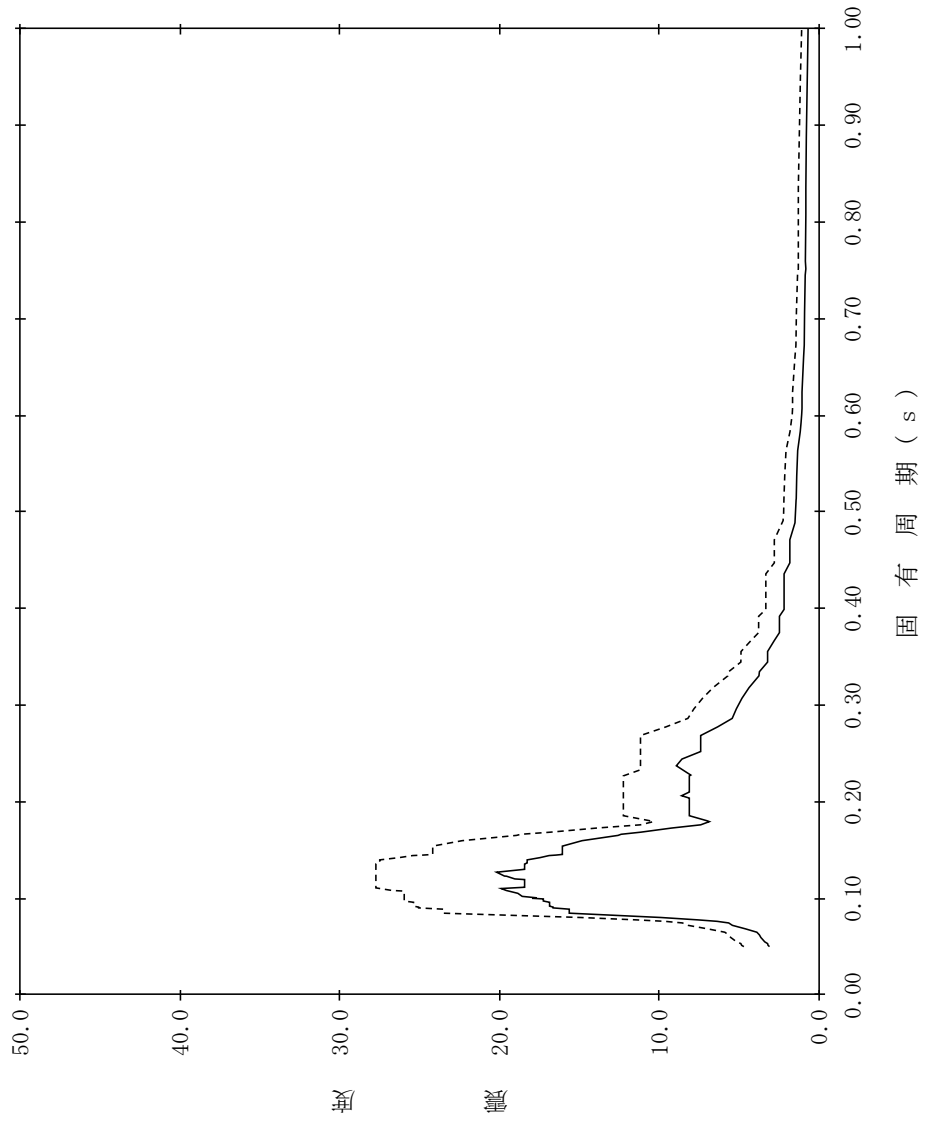
【NS2-TB-SdNS-TB27】

構造物名：タービン建物
 標高：EL30.550m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



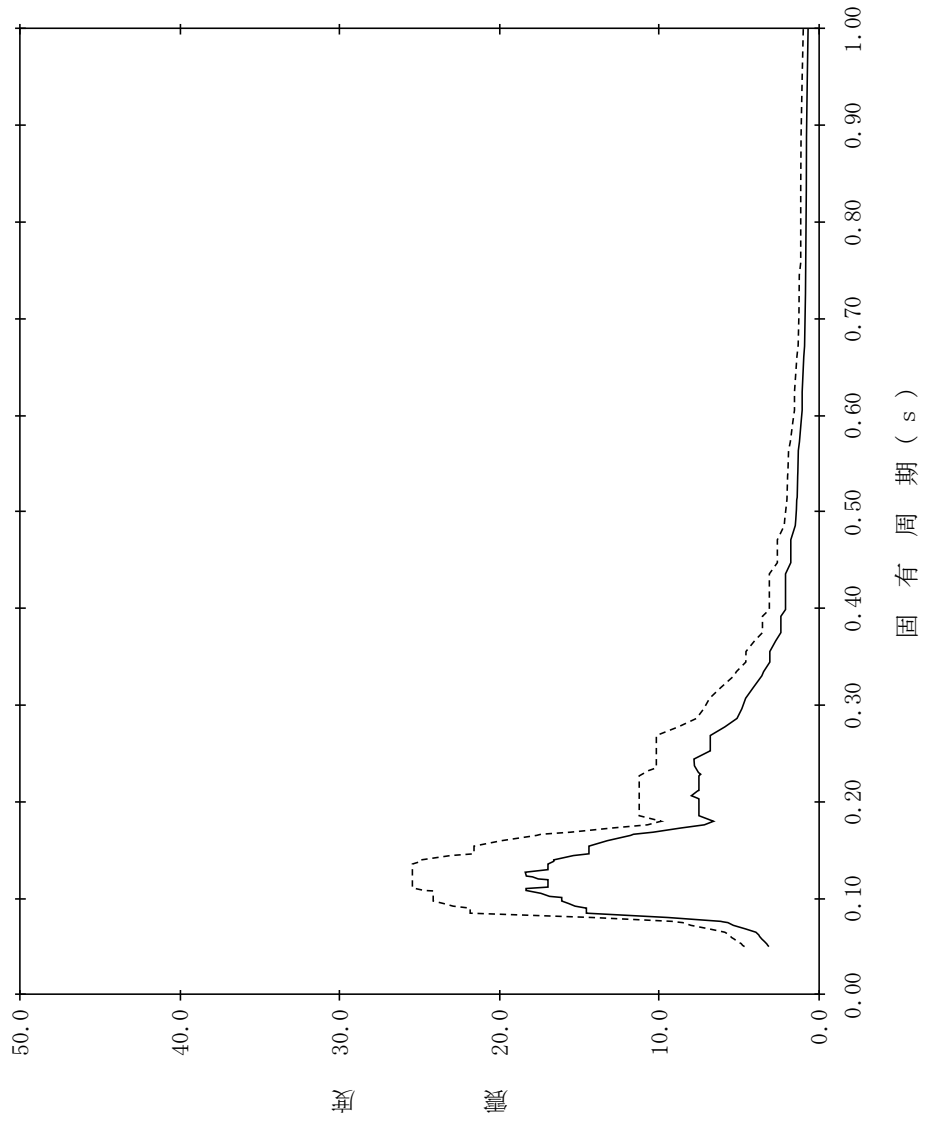
【NS2-TB-SdNS-TB28】

構造物名：タービン建物
標高：EL30.550m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



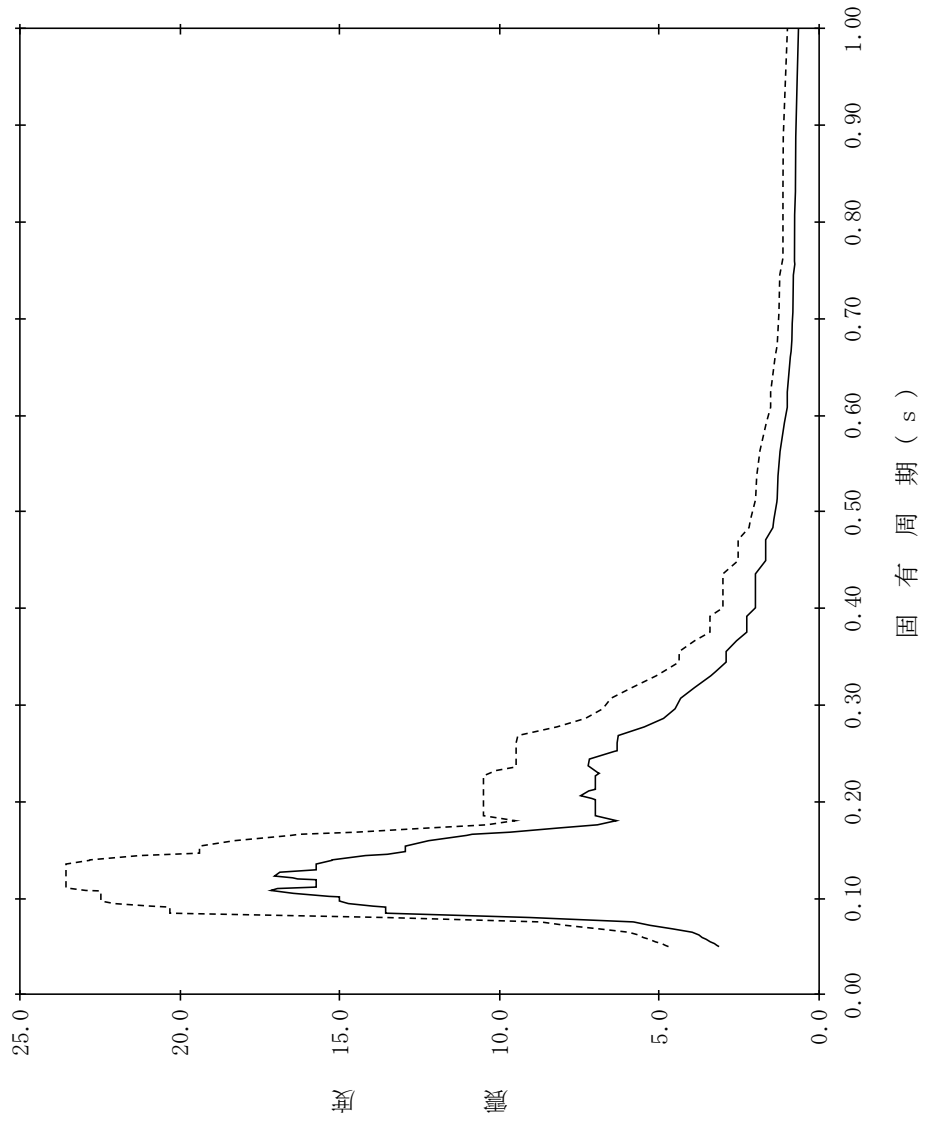
【NS2-TB-SdNS-TB29】

構造物名：タービン建物
標高：EL30.550m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



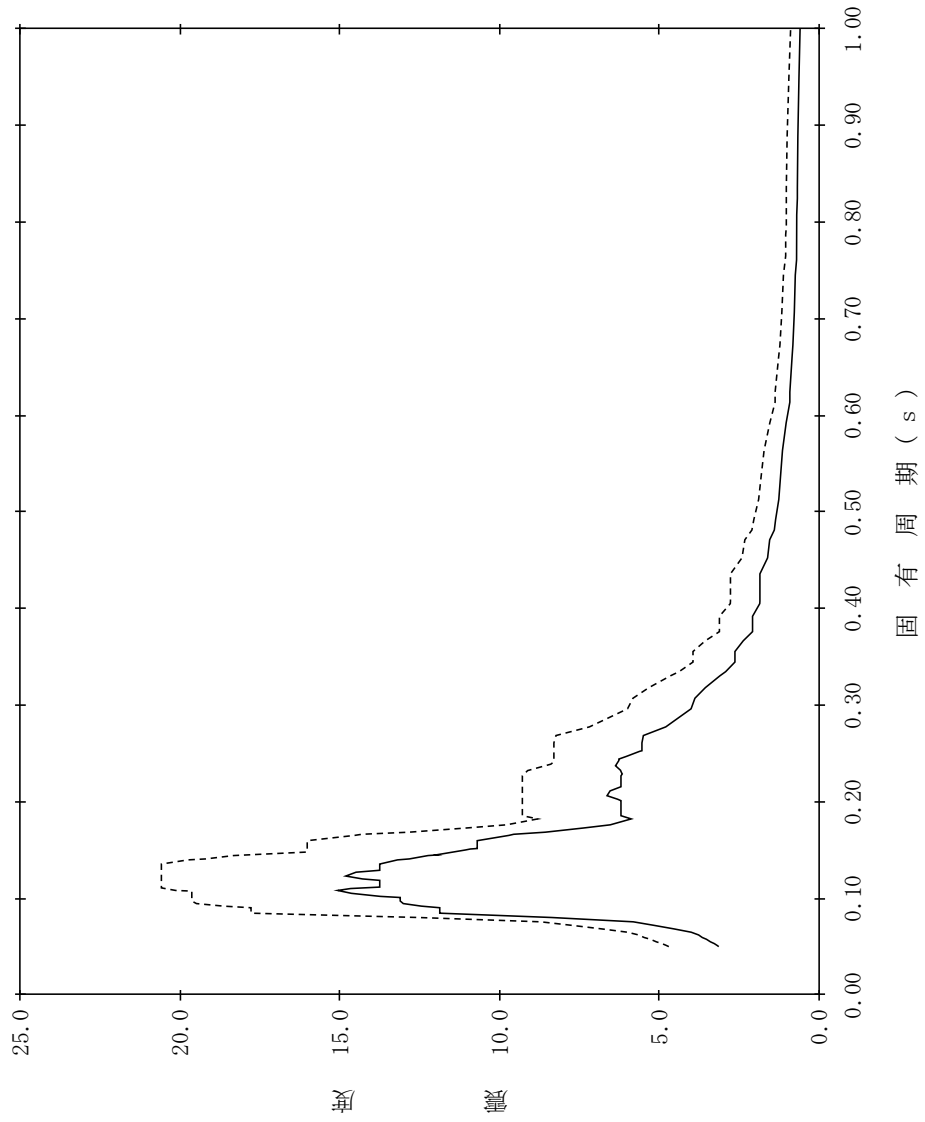
【NS2-TB-SdNS-TB30】

構造物名：タービン建物
標高：EL30.550m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



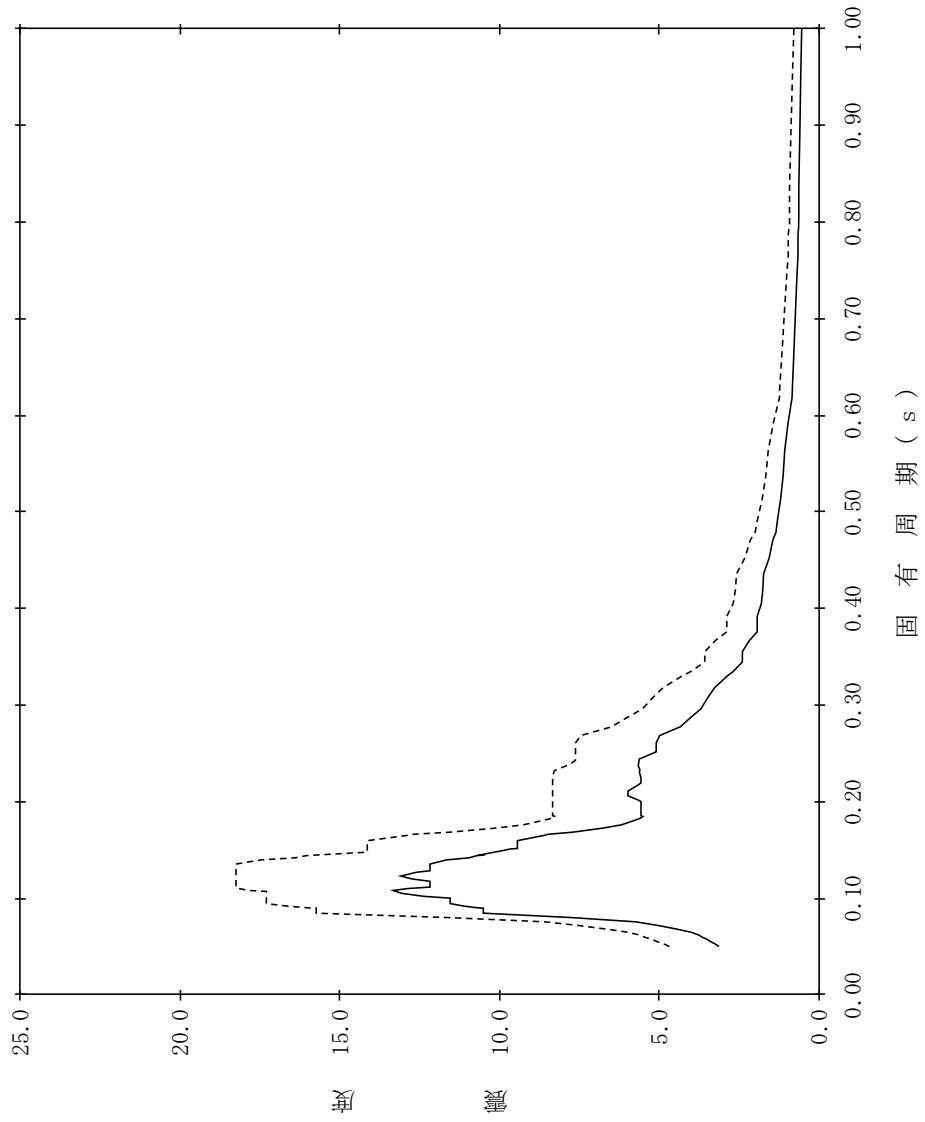
【NS2-TB-SdNS-TB31】

構造物名：タービン建物
標高：EL30.550m
減衰定数：4.0%
波形式：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



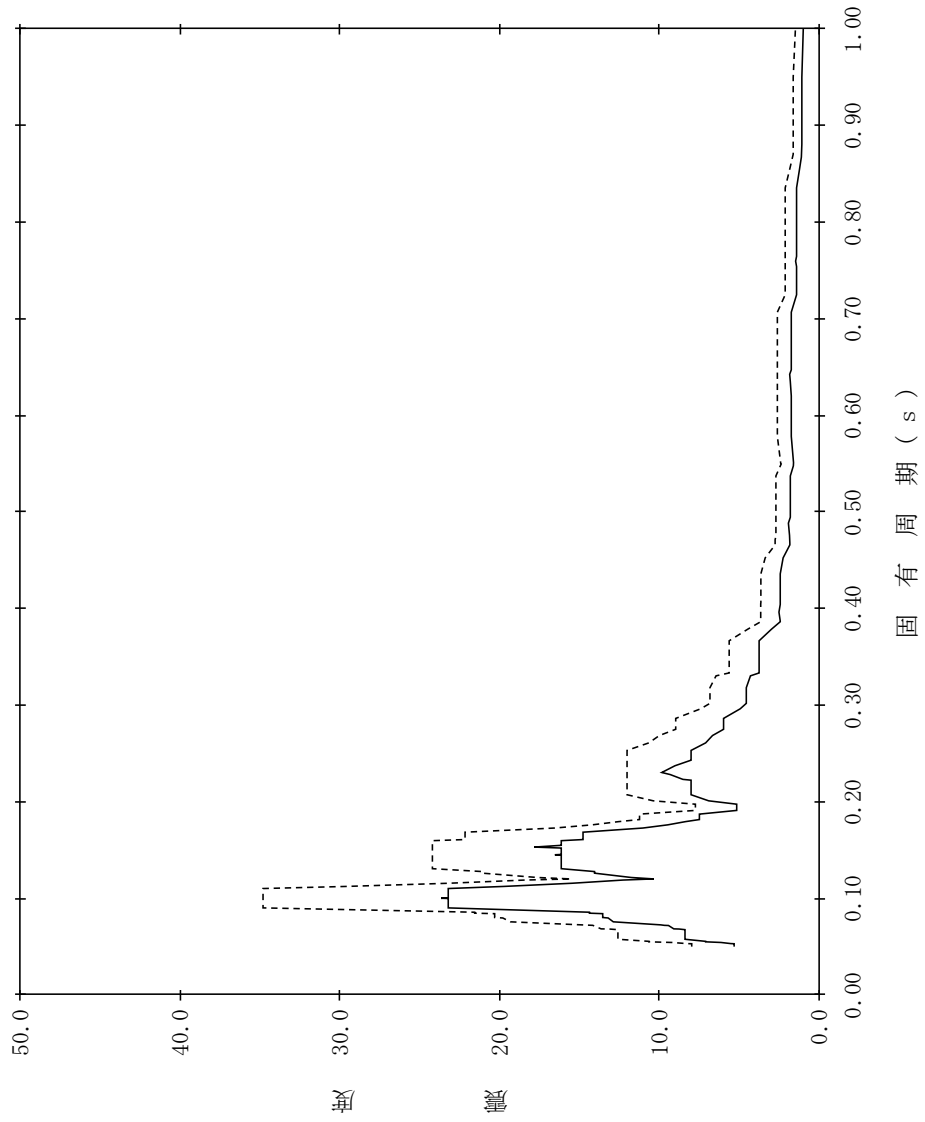
【NS2-TB-SdNS-TB32】

構造物名：タービン建物
 標高：EL30.550m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



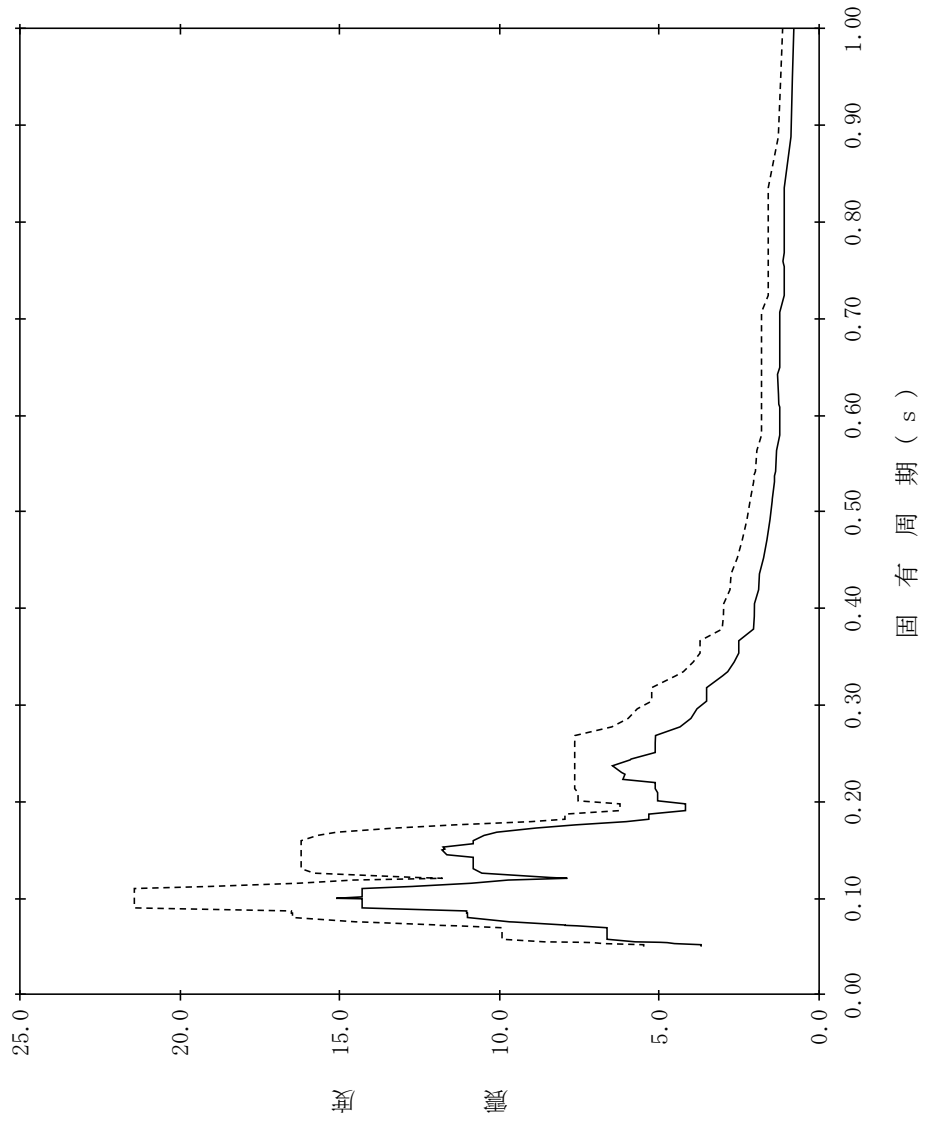
【NS2-TB-SdNS-TB33】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



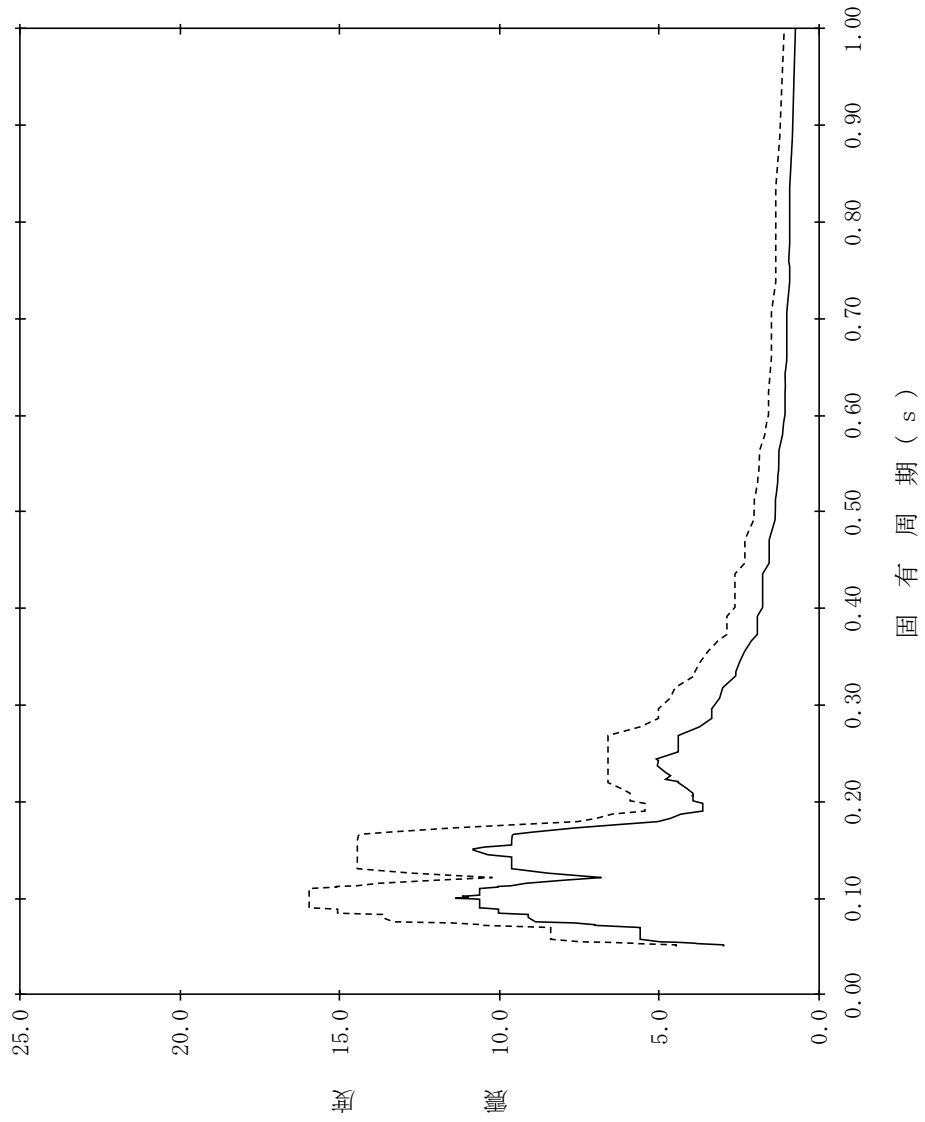
【NS2-TB-SdNS-TB34】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



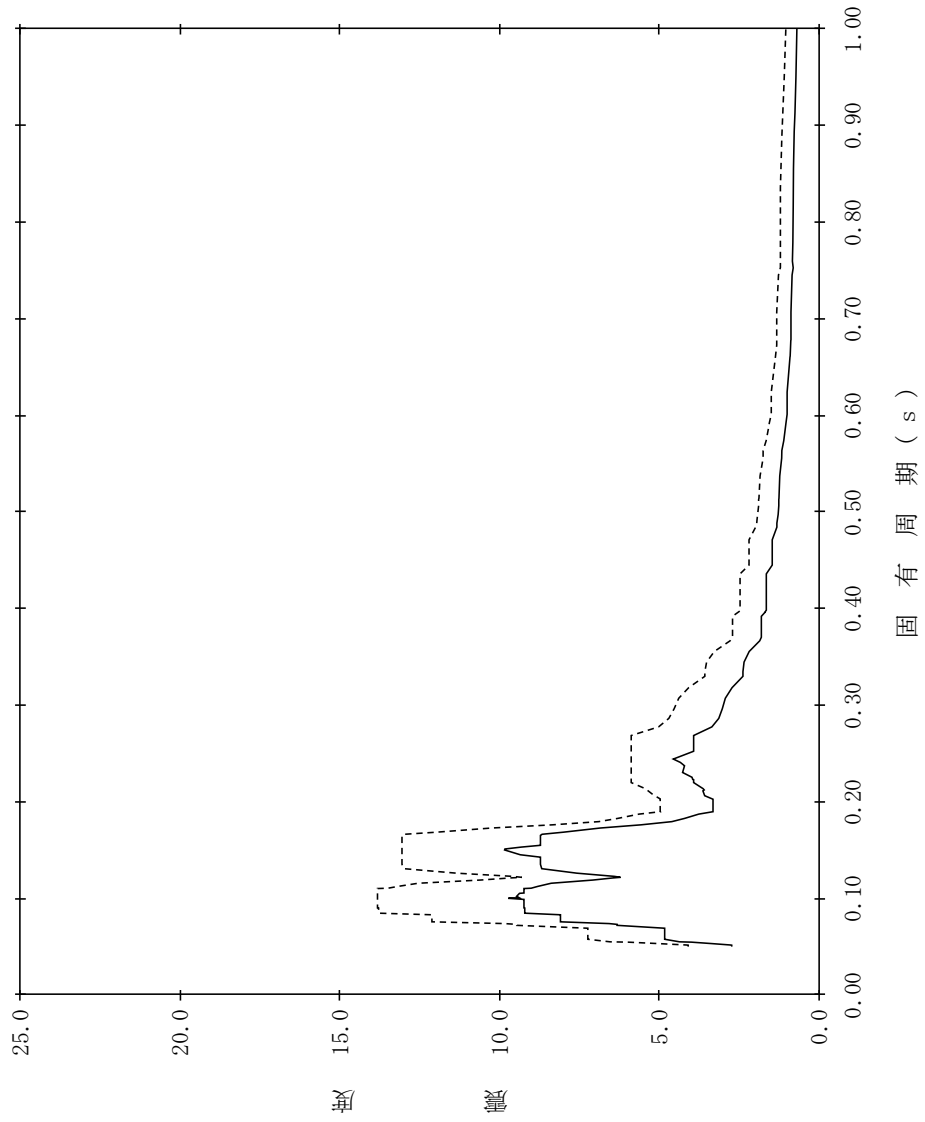
【NS2-TB-SdNS-TB35】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



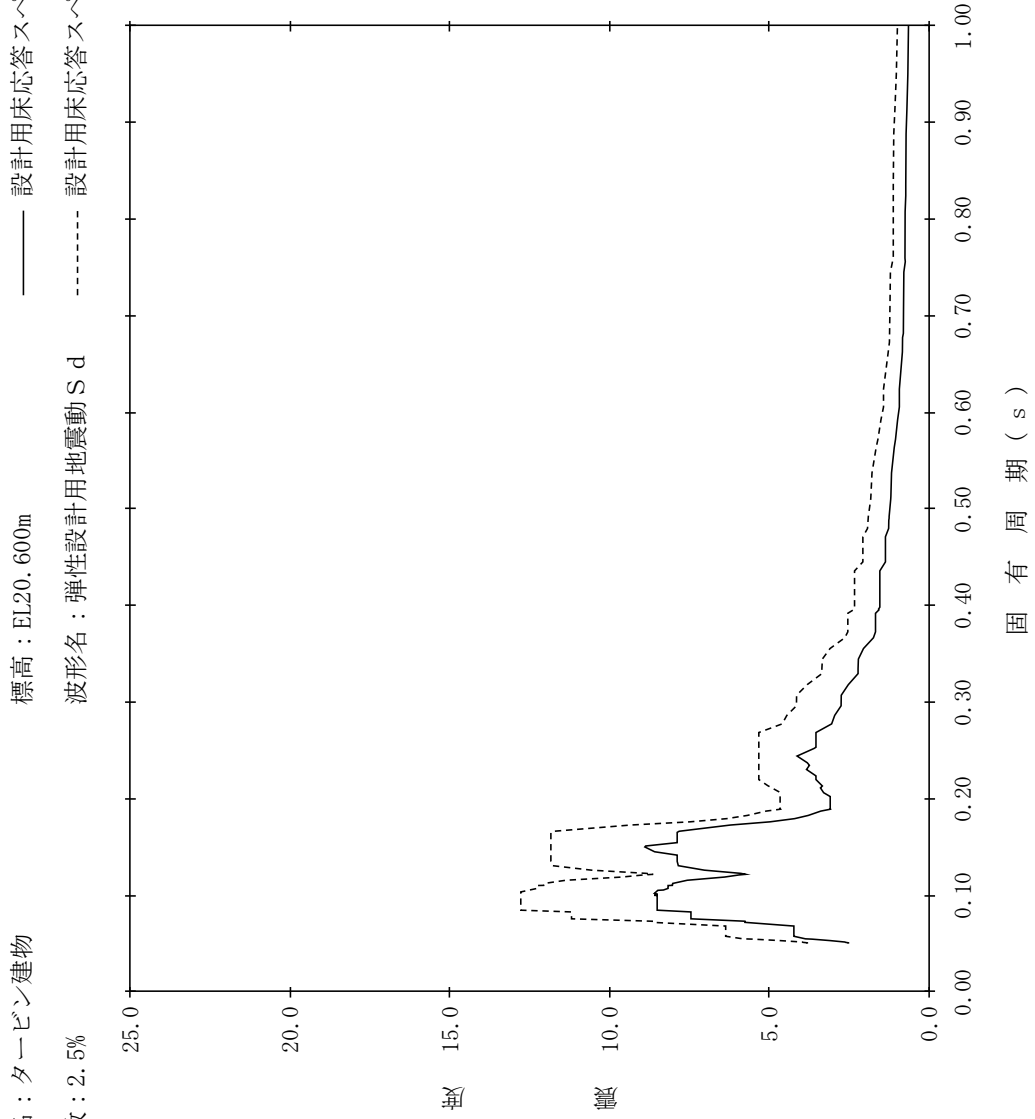
【NS2-TB-SdNS-TB36】

構造物名：タービン建物
標高：EL20.600m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



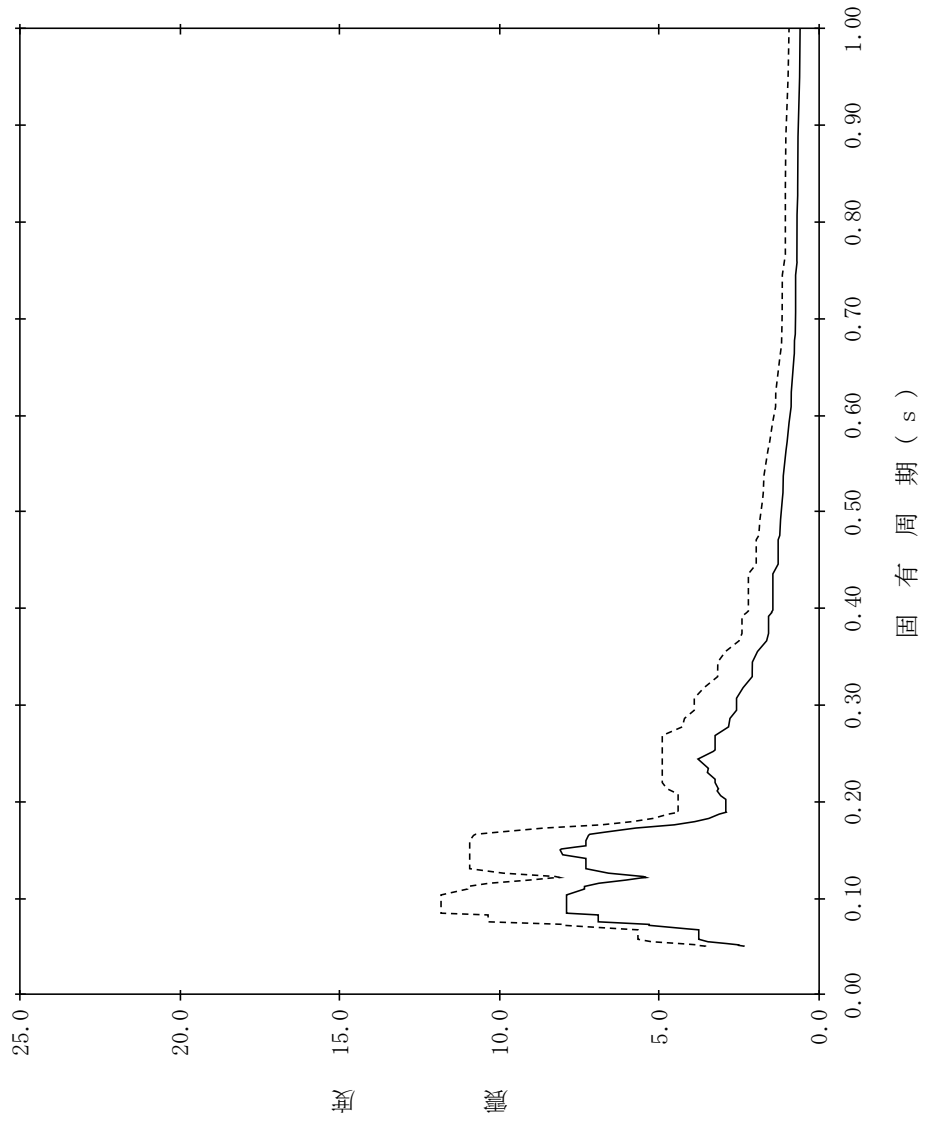
【NS2-TB-SdNS-TB37】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：2.5%



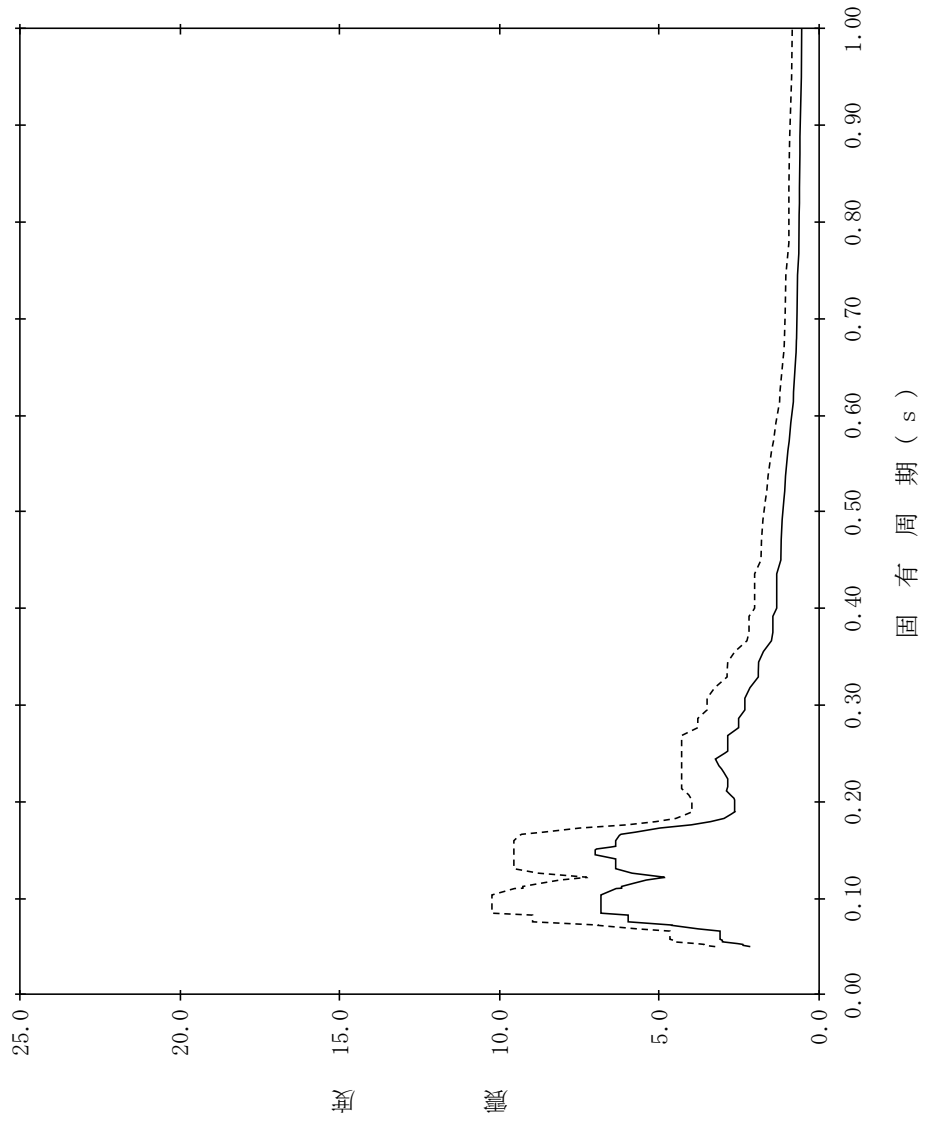
【NS2-TB-SdNS-TB38】

構造物名：タービン建物
標高：EL20.600m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



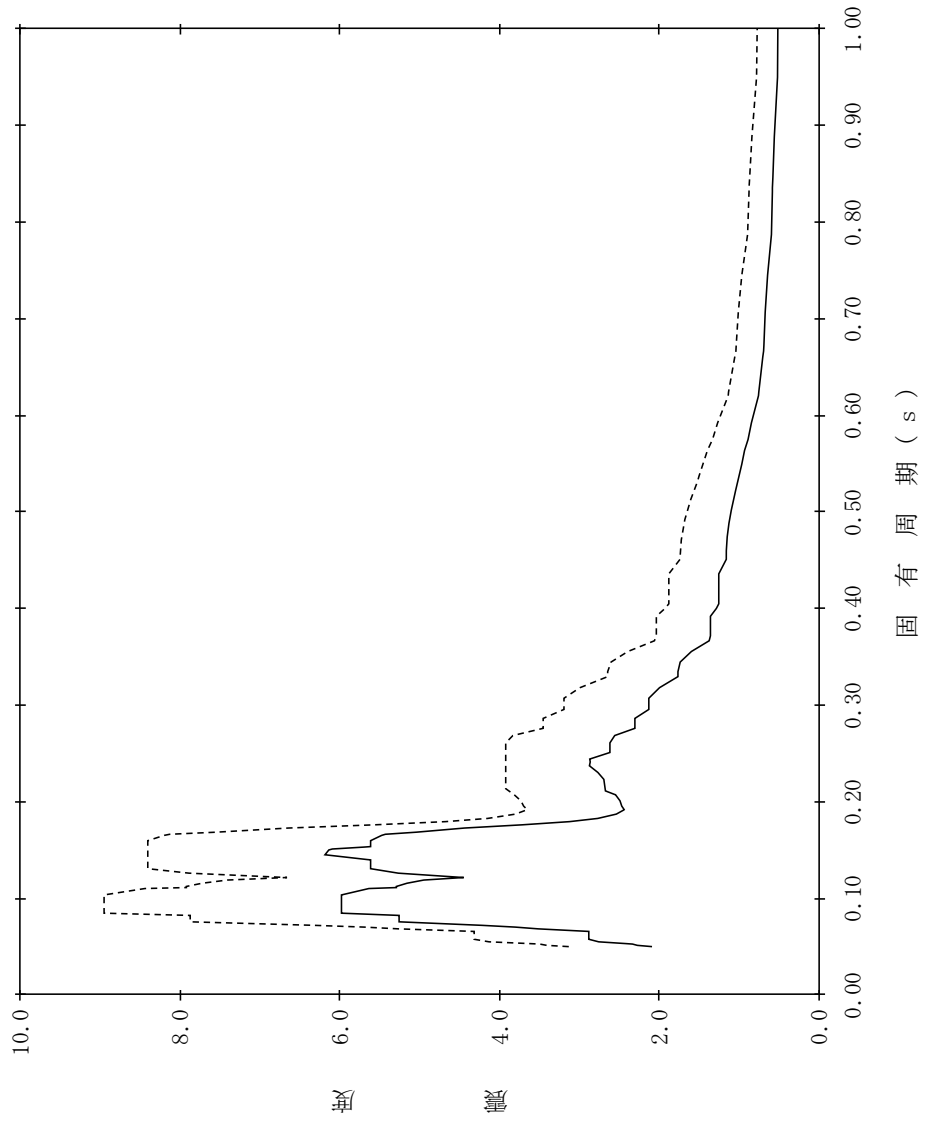
【NS2-TB-SdNS-TB39】

構造物名：タービン建物
標高：EL20.600m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



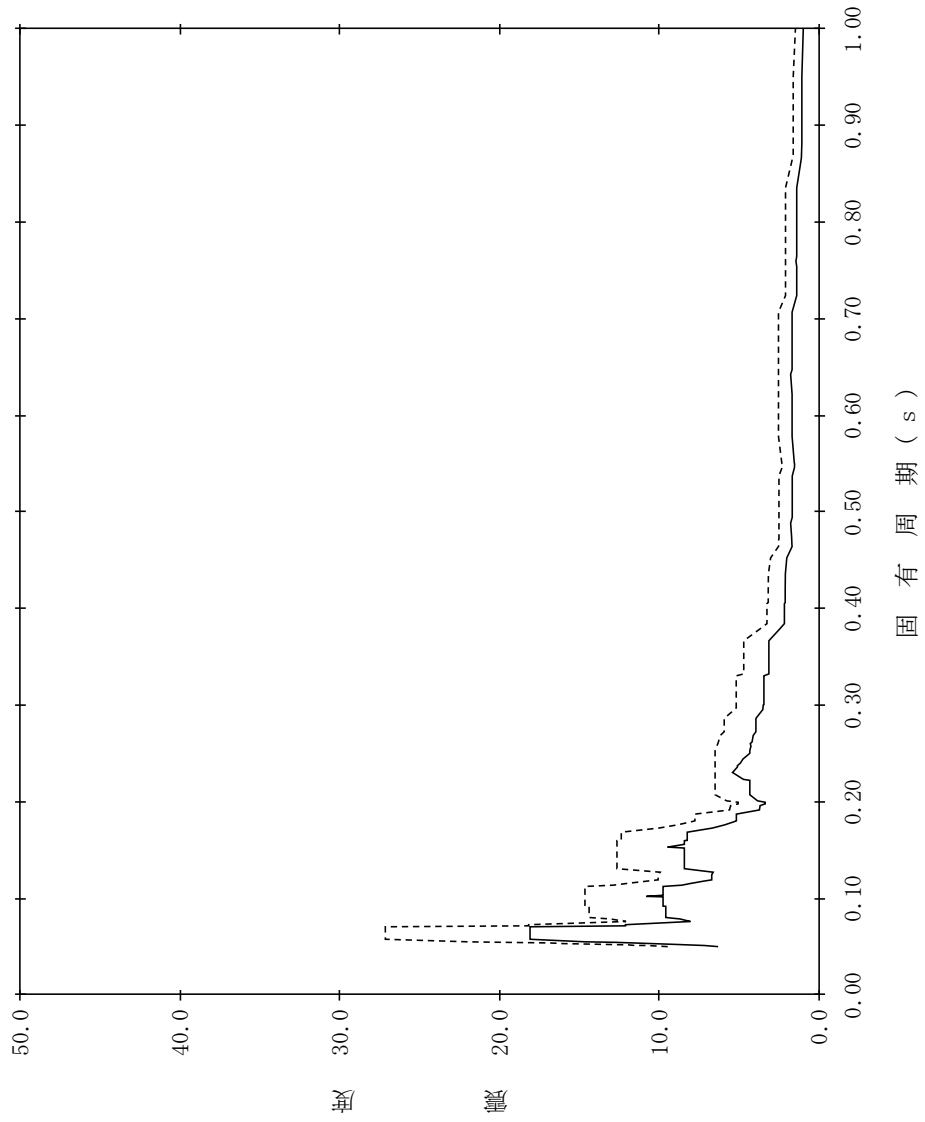
【NS2-TB-SdNS-TB40】

構造物名：タービン建物
標高：EL20.600m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



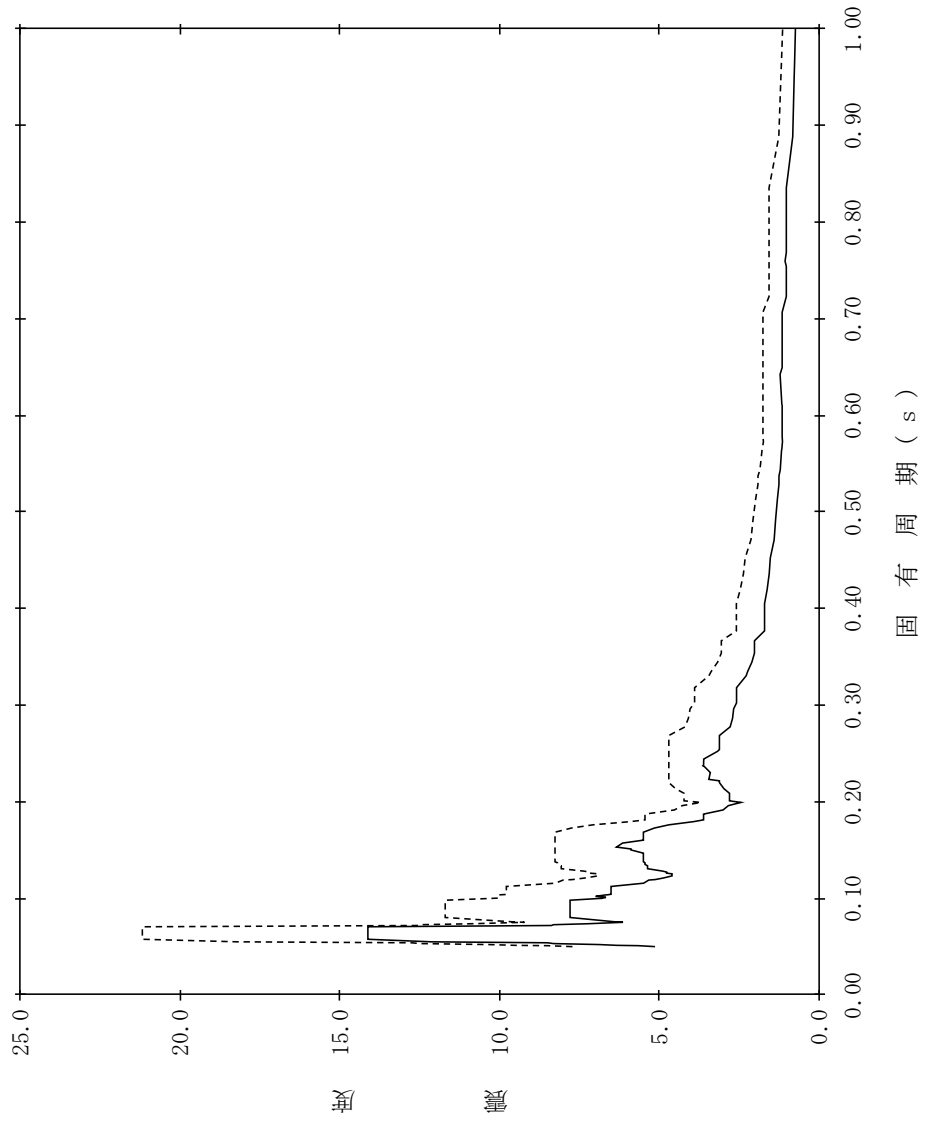
【NS2-TB-SdNS-TB41】

構造物名：タービン建物
標高：EL12.500m
減衰定数：0.5%
波形式：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



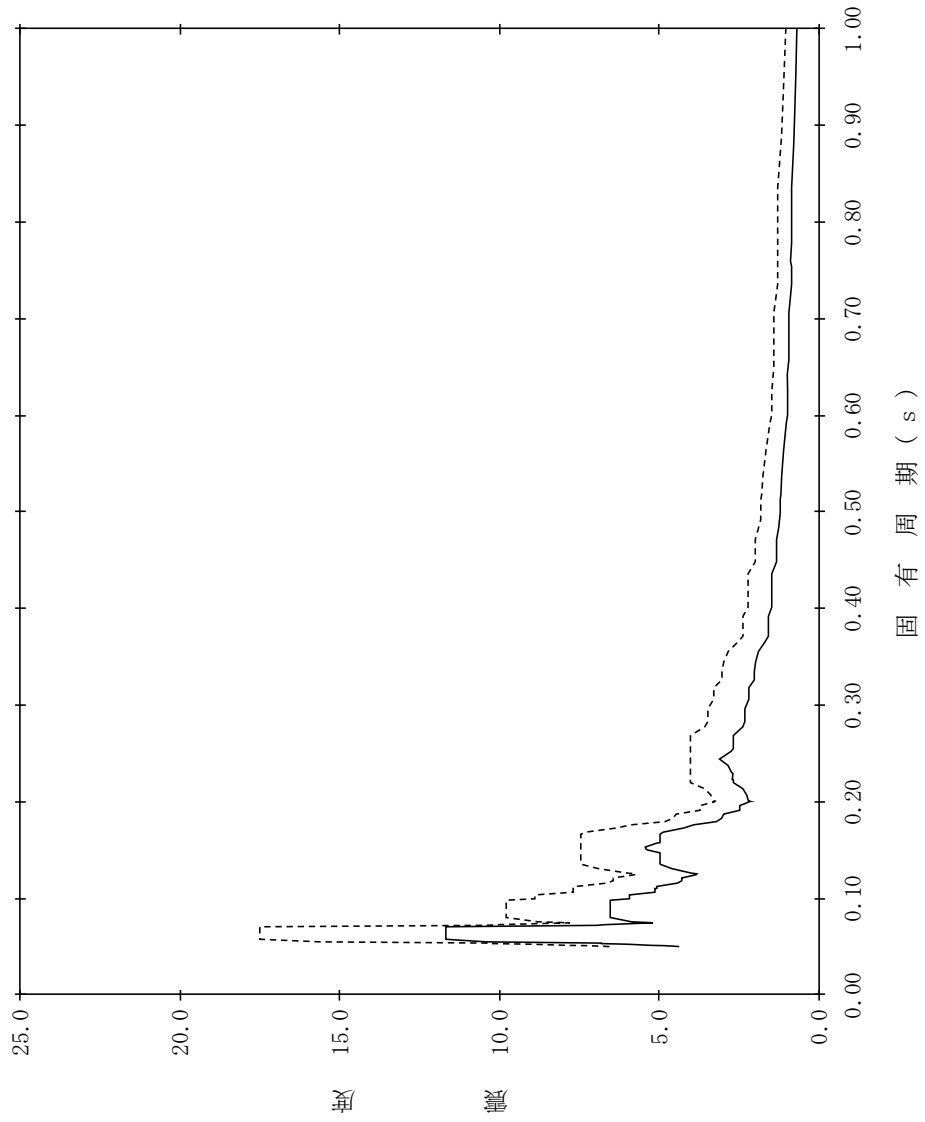
【NS2-TB-SdNS-TB42】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



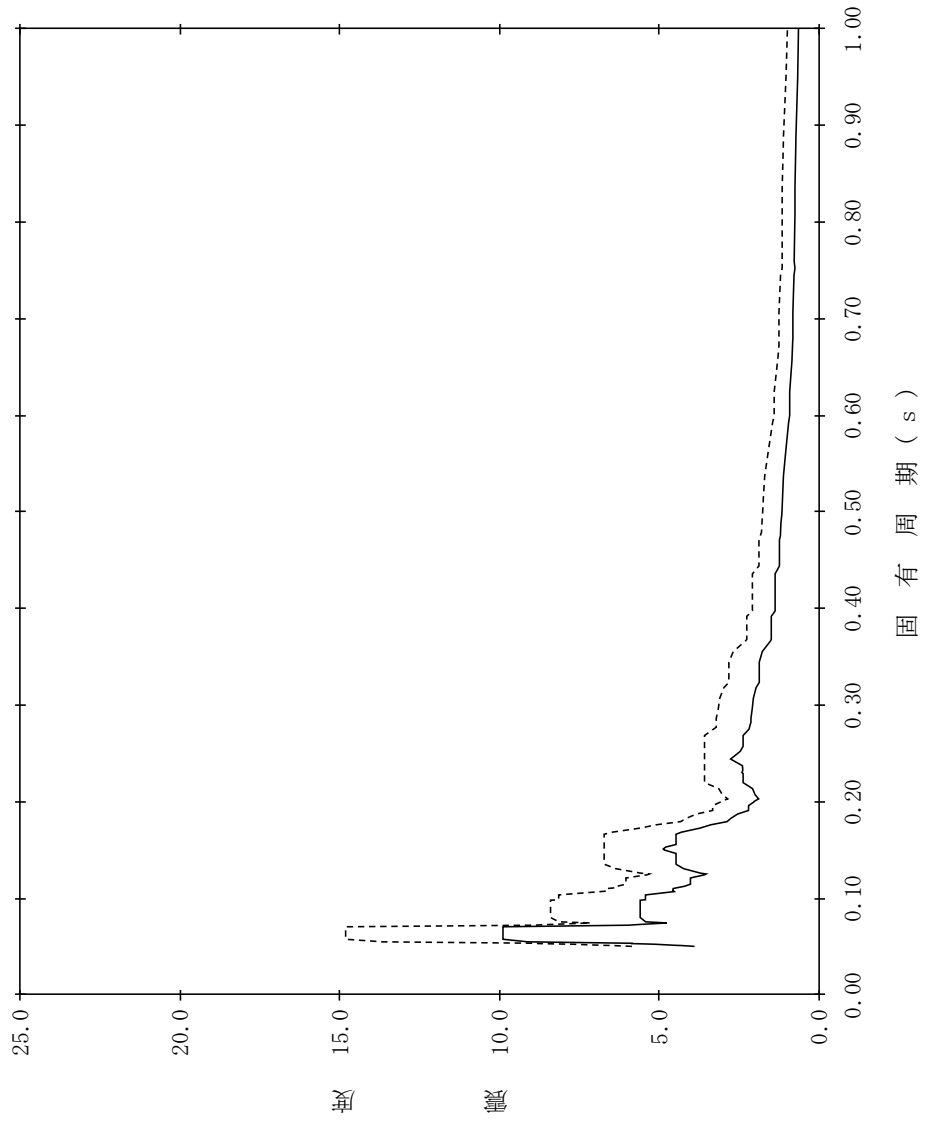
【NS2-TB-SdNS-TB43】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



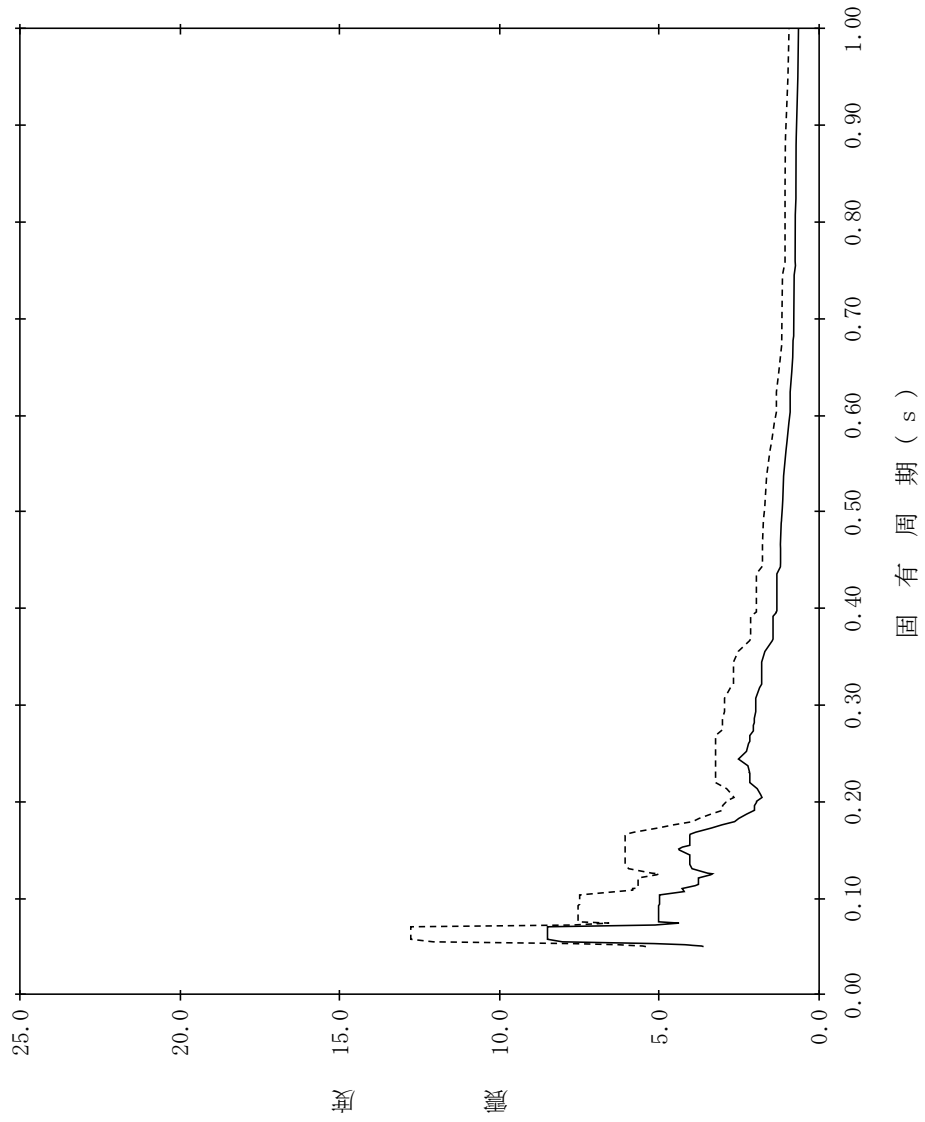
【NS2-TB-SdNS-TB44】

構造物名：タービン建物
標高：EL12.500m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



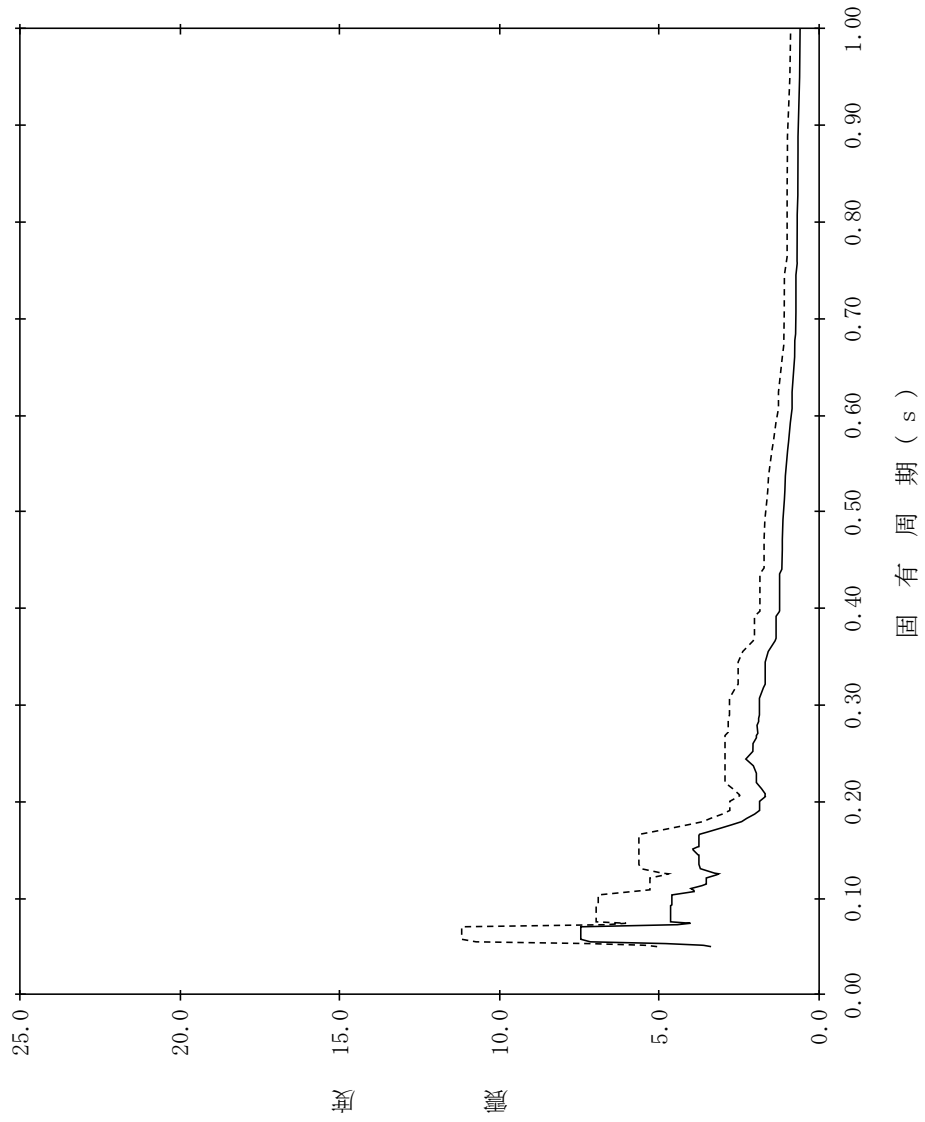
【NS2-TB-SdNS-TB45】

構造物名：タービン建物
標高：EL12.500m
減衰定数：2.5%
波形式：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



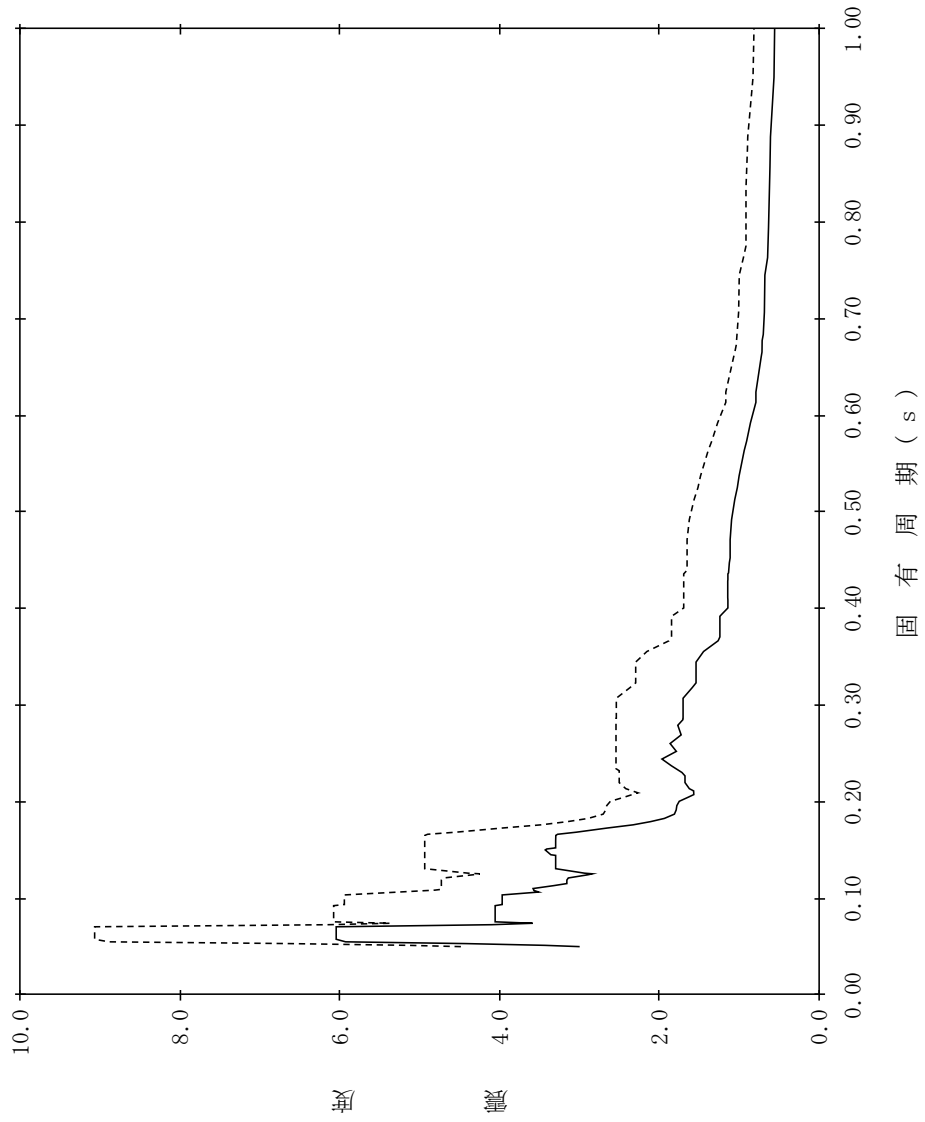
【NS2-TB-SdNS-TB46】

構造物名：タービン建物
標高：EL12.500m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



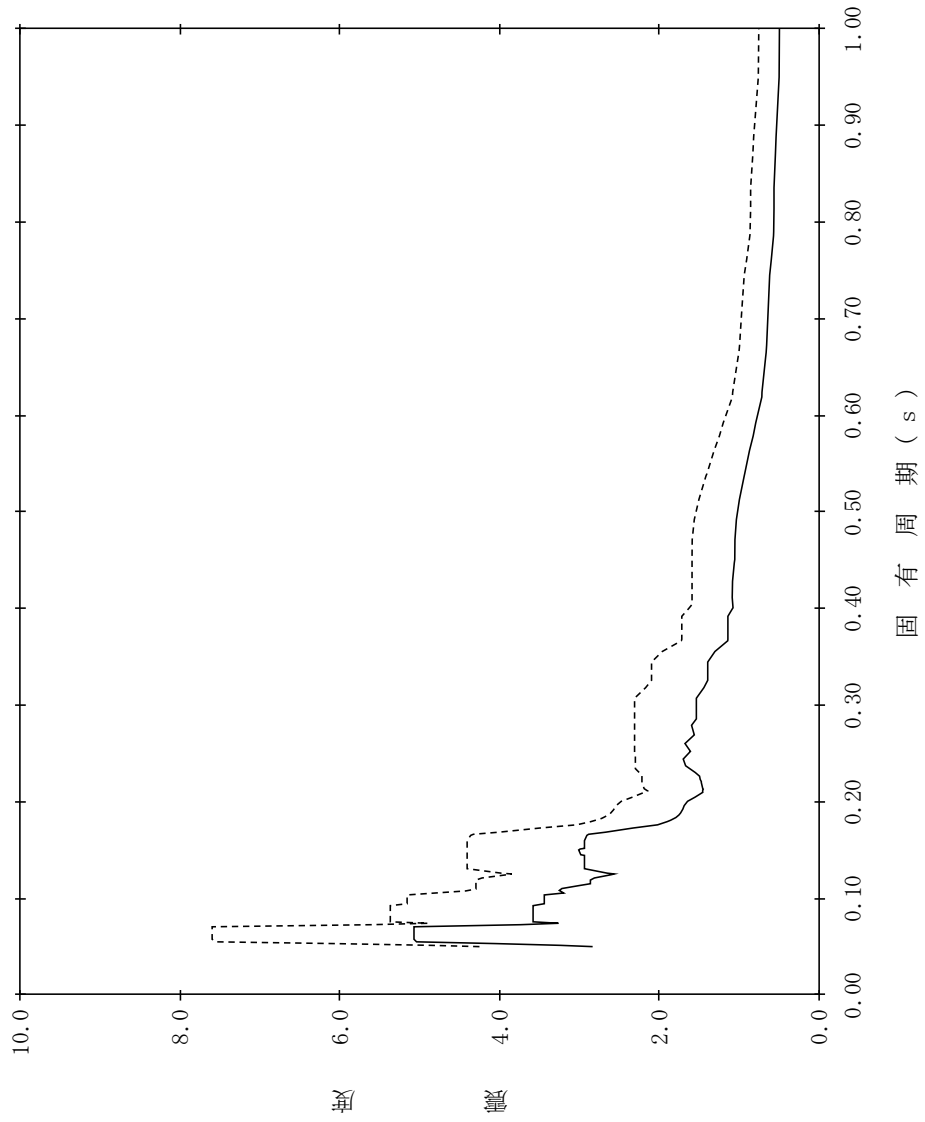
【NS2-TB-SdNS-TB47】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



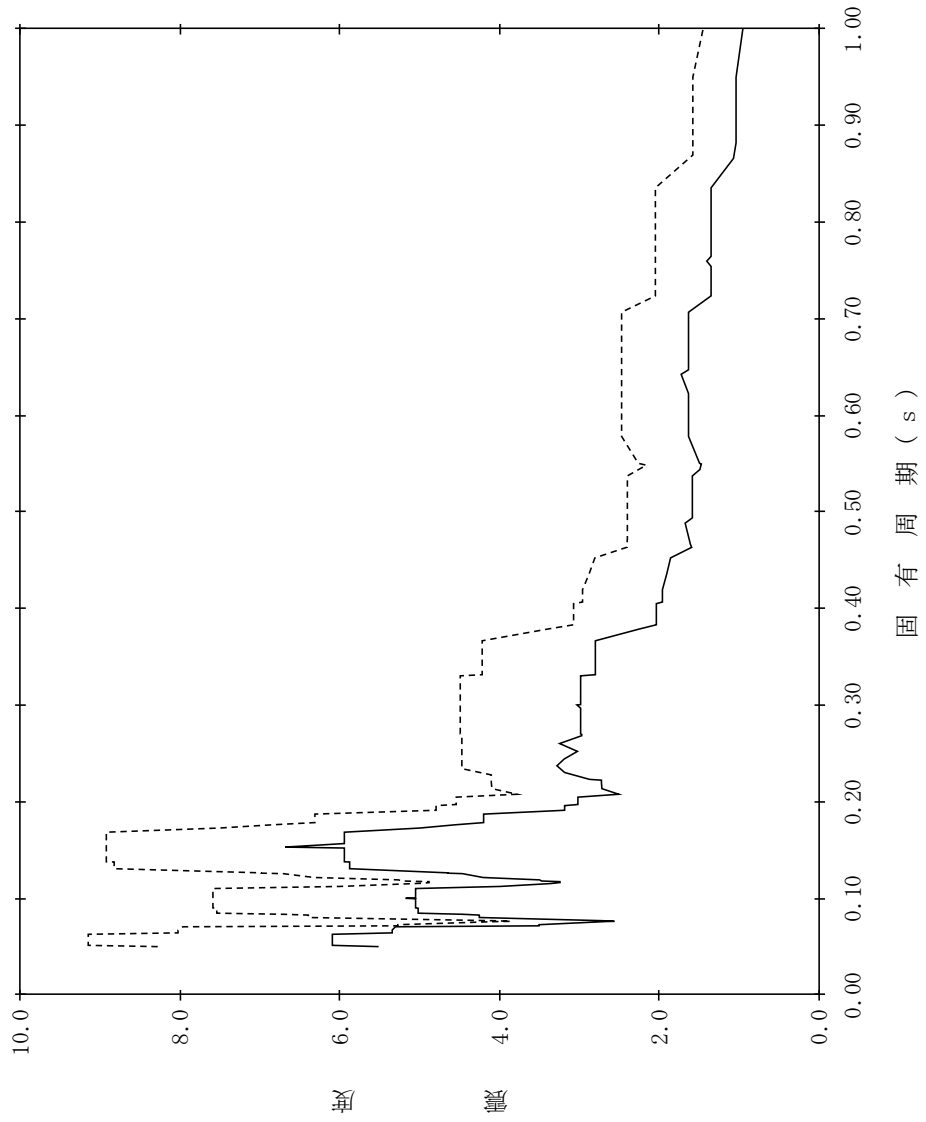
【NS2-TB-SdNS-TB48】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



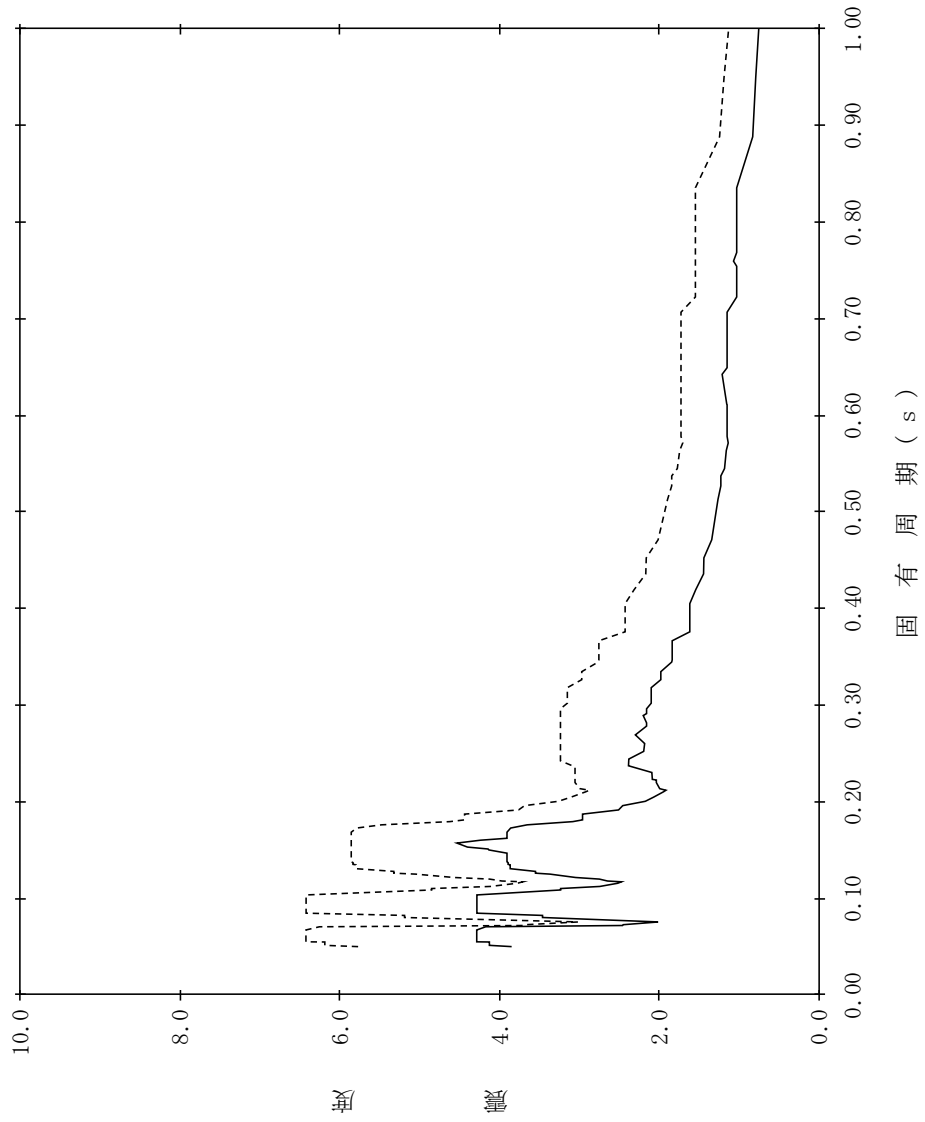
【NS2-TB-SdNS-TB49】

構造物名：タービン建物
 標高：EL9.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



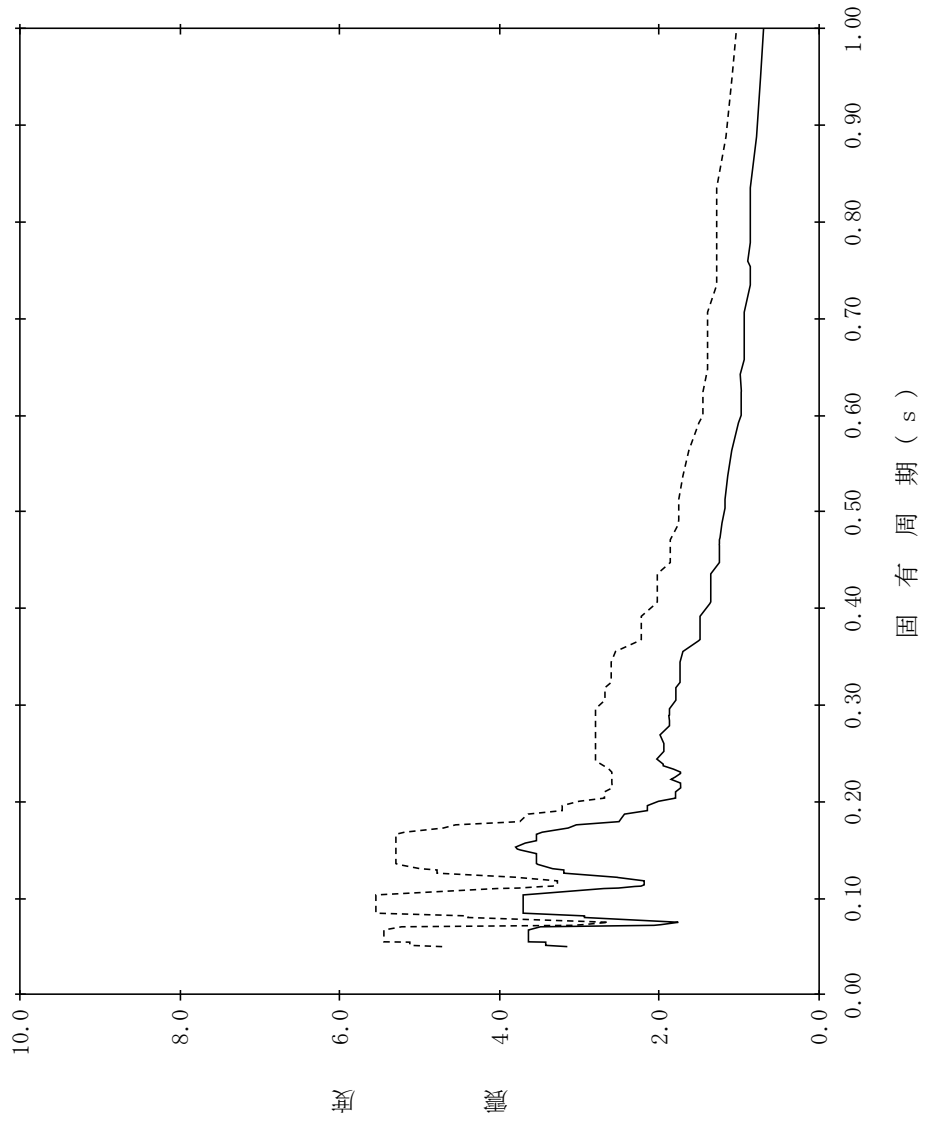
【NS2-TB-SdNS-TB50】

構造物名：タービン建物
 標高：EL9.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



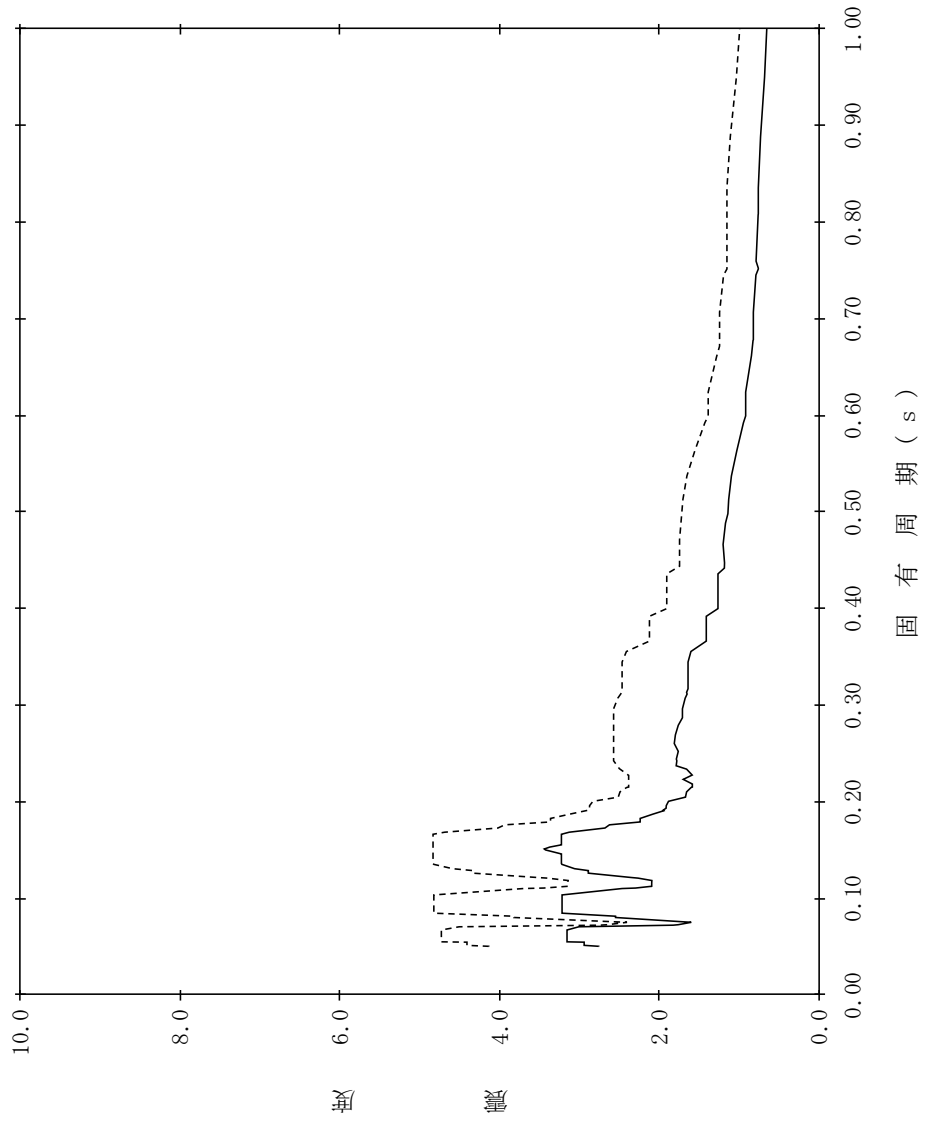
【NS2-TB-SdNS-TB51】

構造物名：タービン建物
 標高：EL9.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



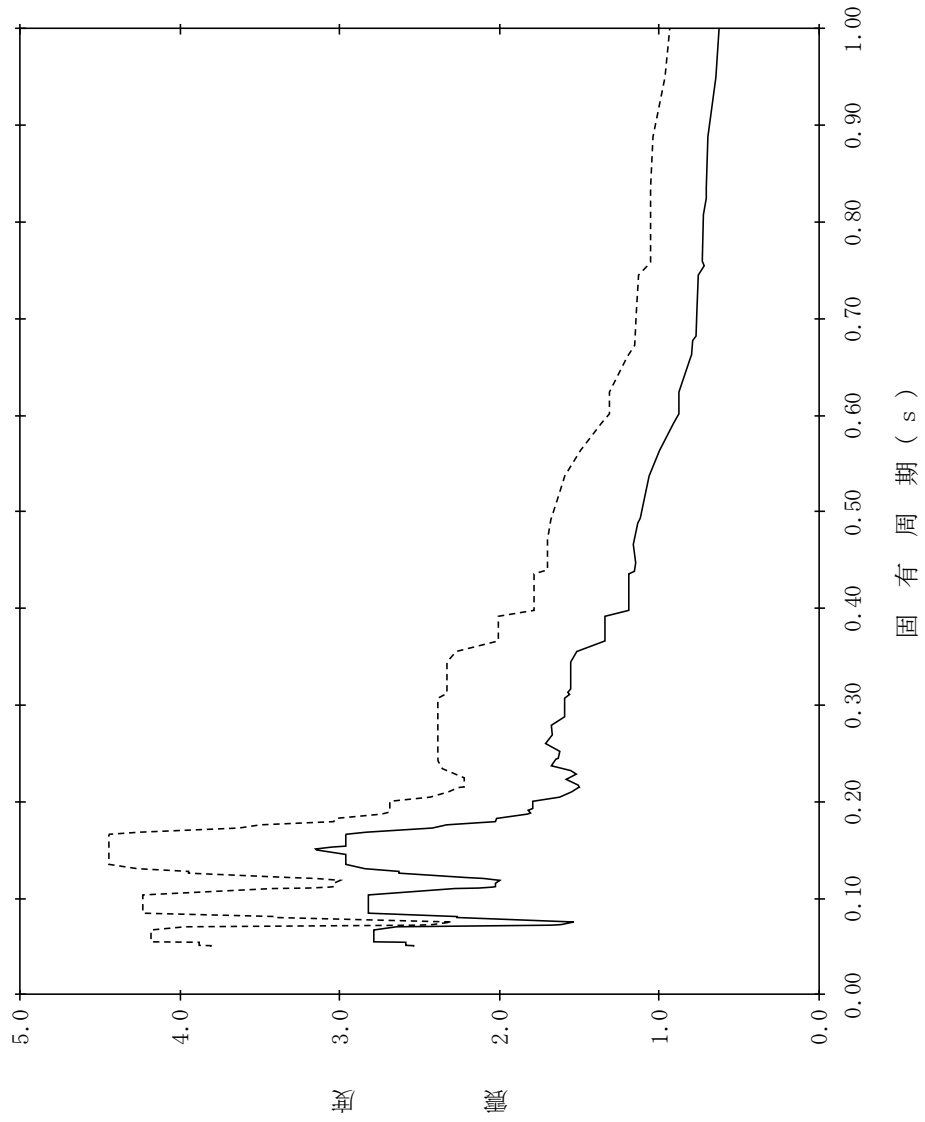
【NS2-TB-SdNS-TB52】

構造物名：タービン建物
 標高：EL9.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



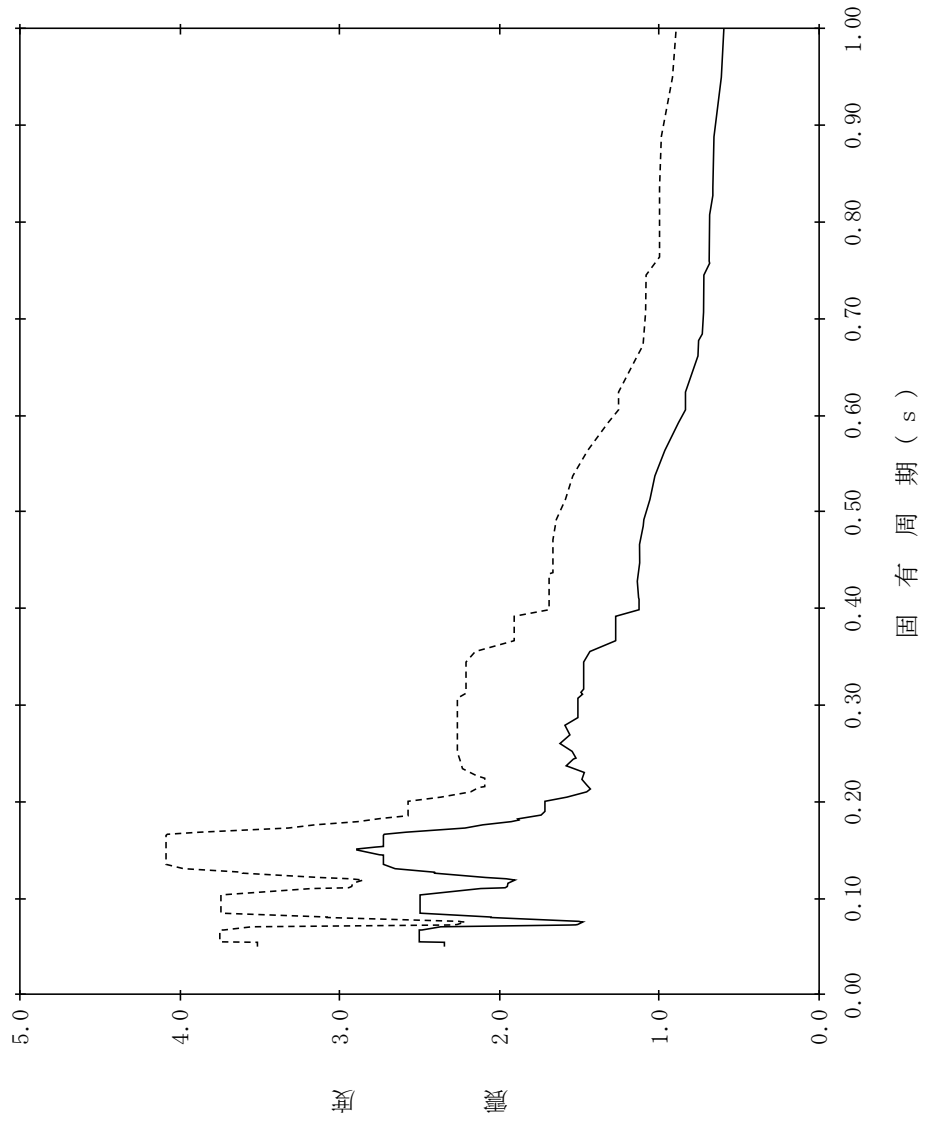
【NS2-TB-SdNS-TB53】

構造物名：タービン建物
 標高：EL9.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



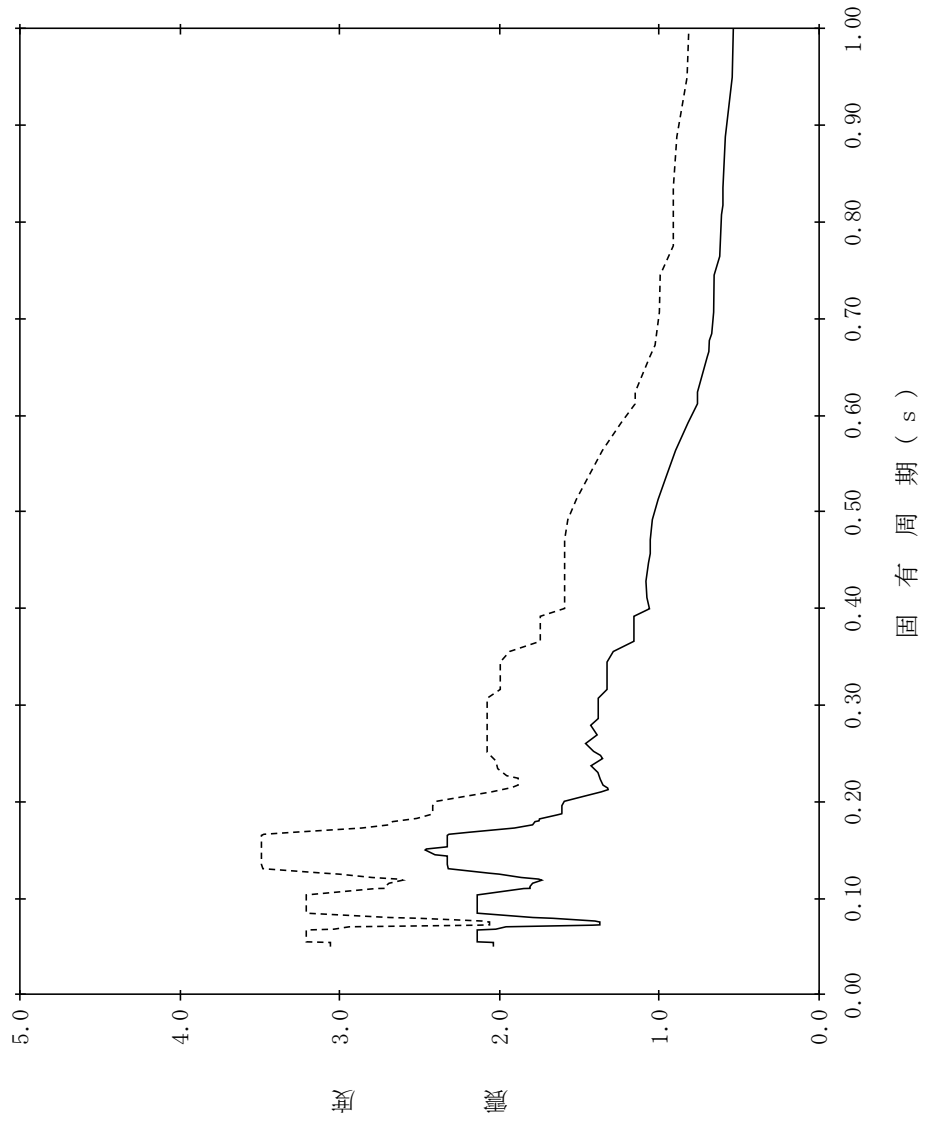
【NS2-TB-SdNS-TB54】

構造物名：タービン建物
標高：EL9.000m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



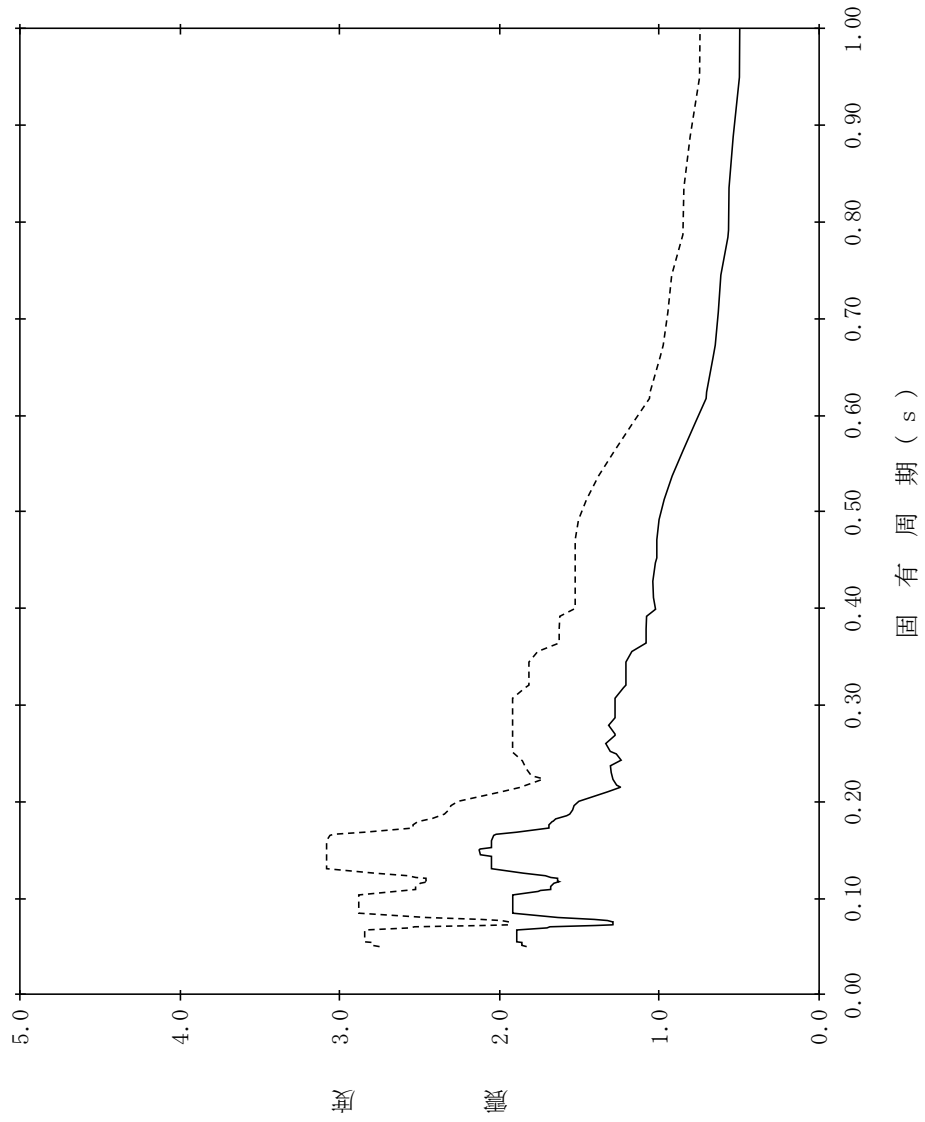
【NS2-TB-SdNS-TB55】

構造物名：タービン建物
 標高：EL9.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



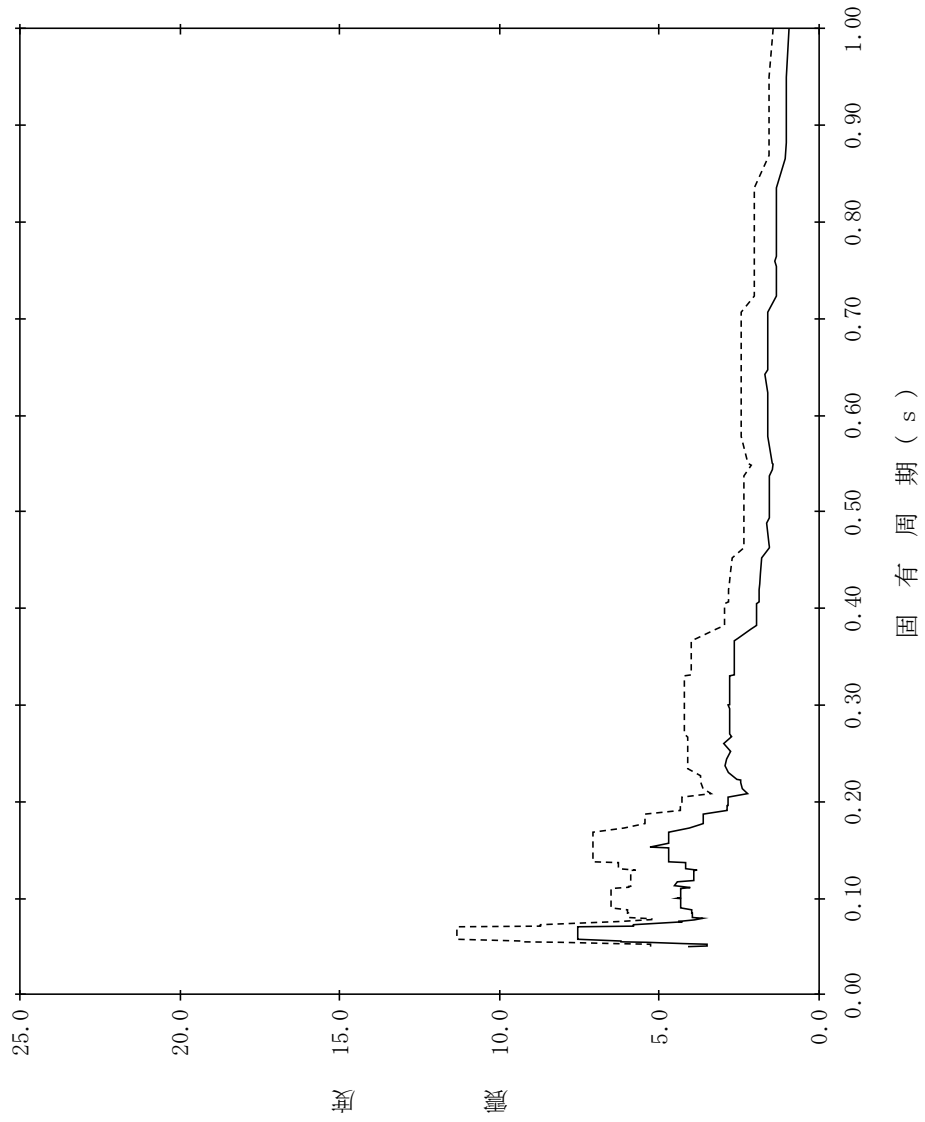
【NS2-TB-SdNS-TB56】

構造物名：タービン建物
 標高：EL9.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



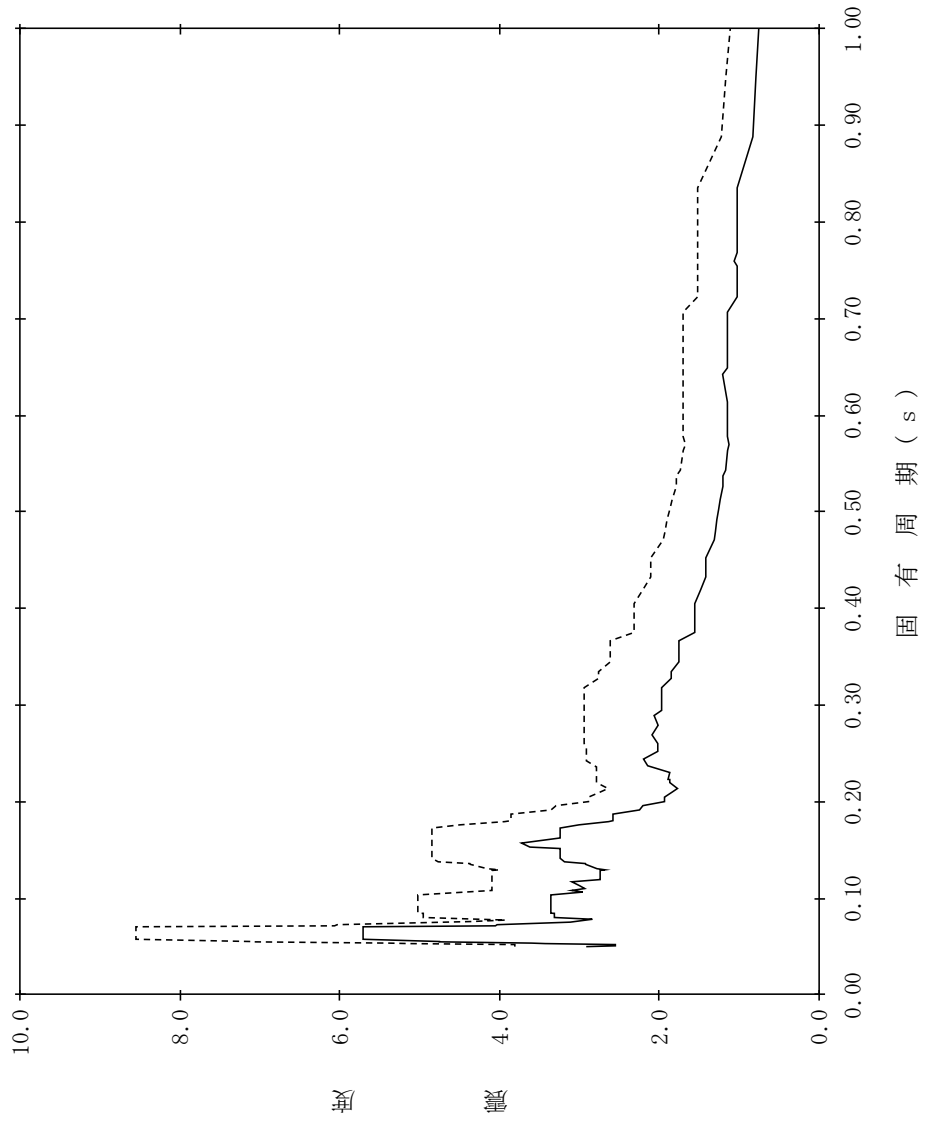
【NS2-TB-SdNS-TB57】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



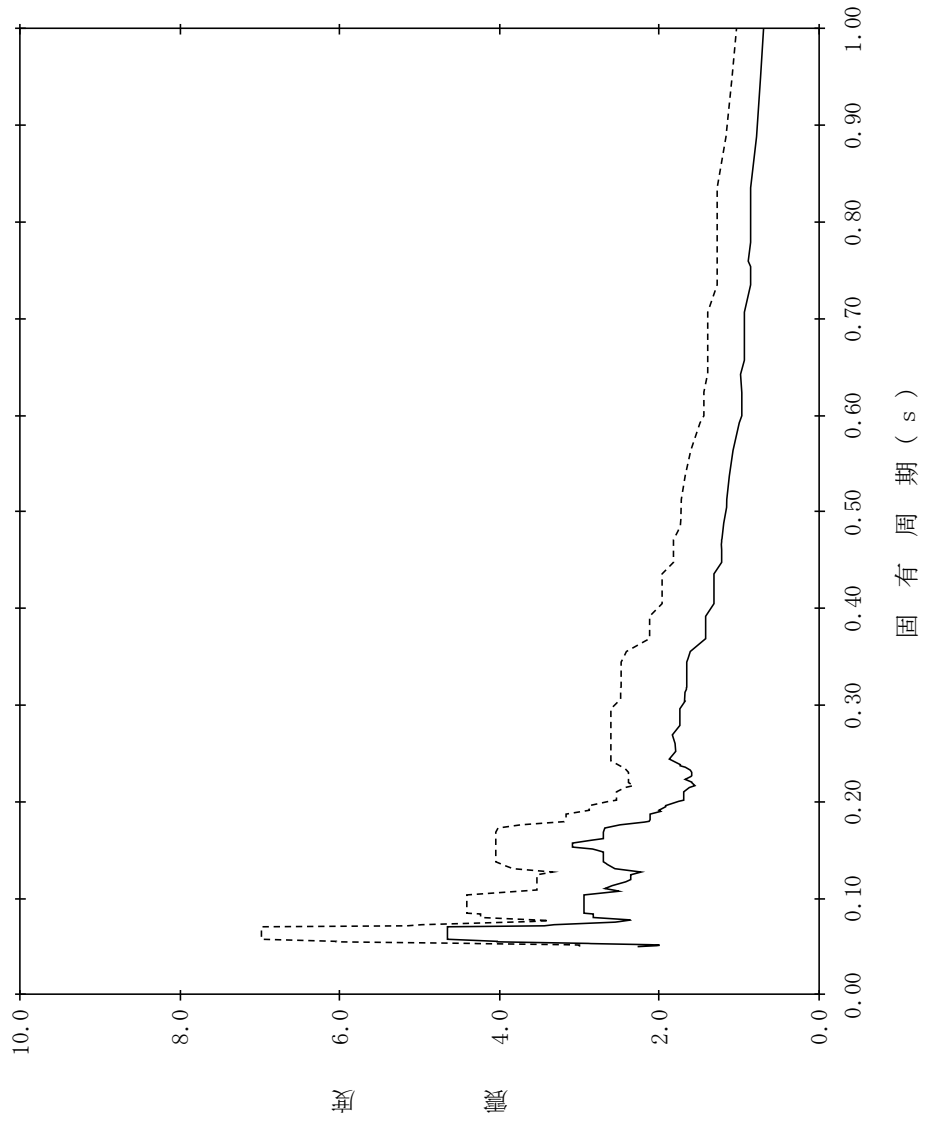
【NS2-TB-SdNS-TB58】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



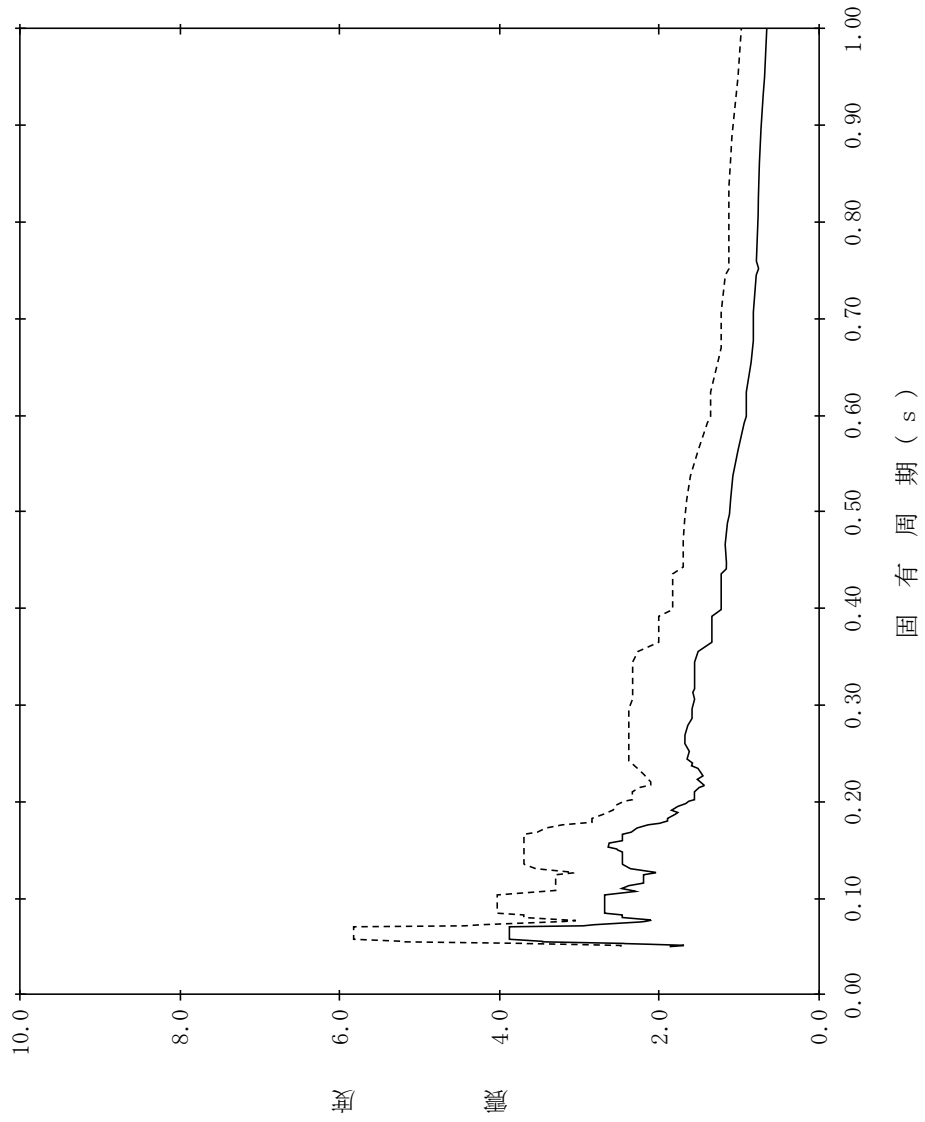
【NS2-TB-SdNS-TB59】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



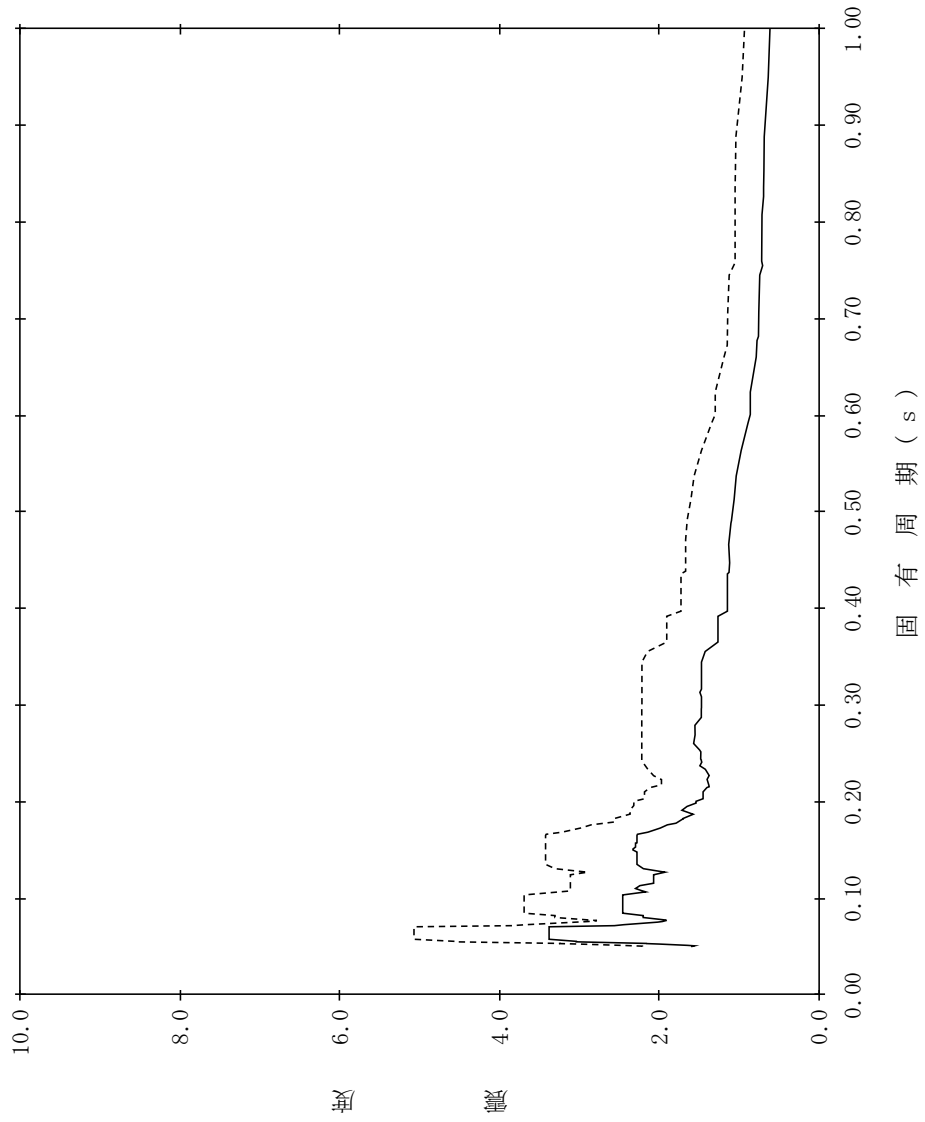
【NS2-TB-SdNS-TB60】

構造物名：タービン建物
標高：EL5.500m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
設計用床応答スペクトル I (NS方向)
設計用床応答スペクトル II (NS方向)



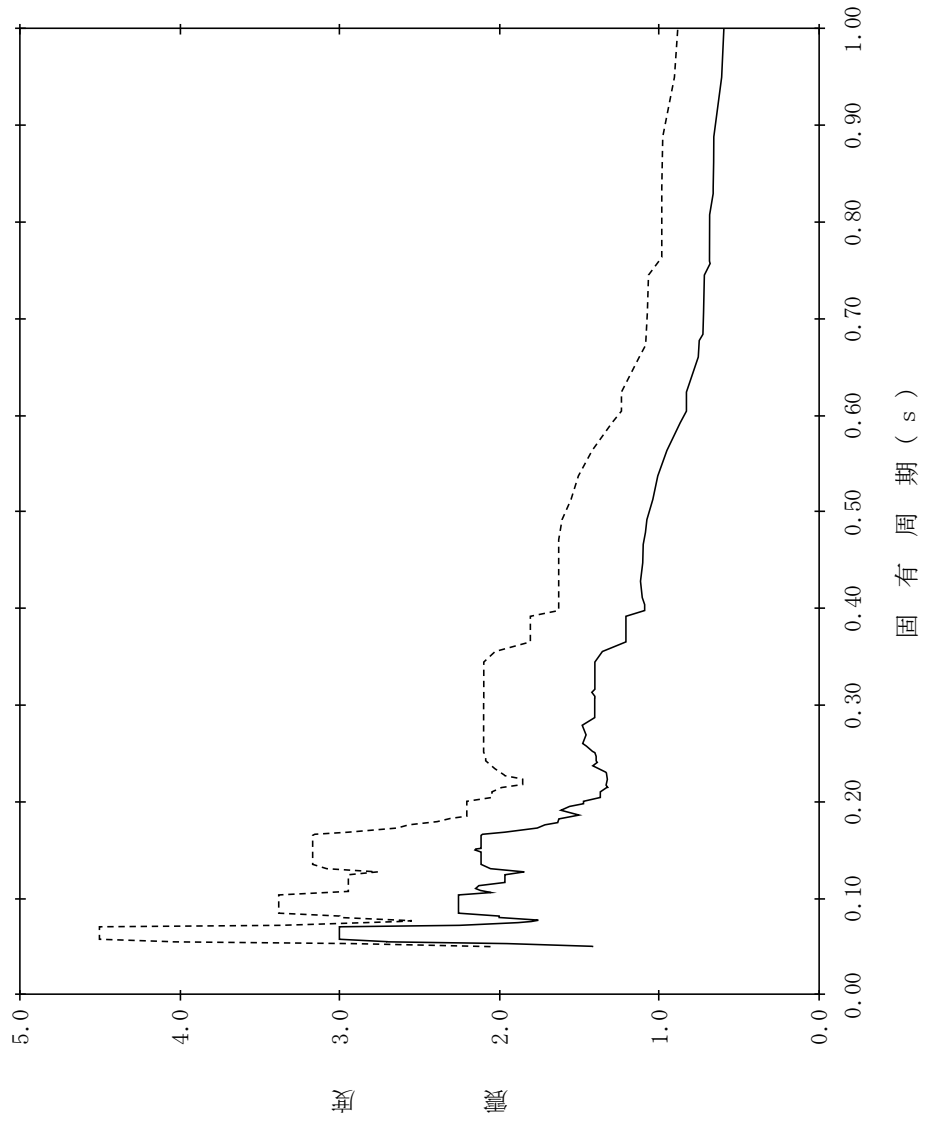
【NS2-TB-SdNS-TB61】

構造物名：タービン建物
標高：EL5.500m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



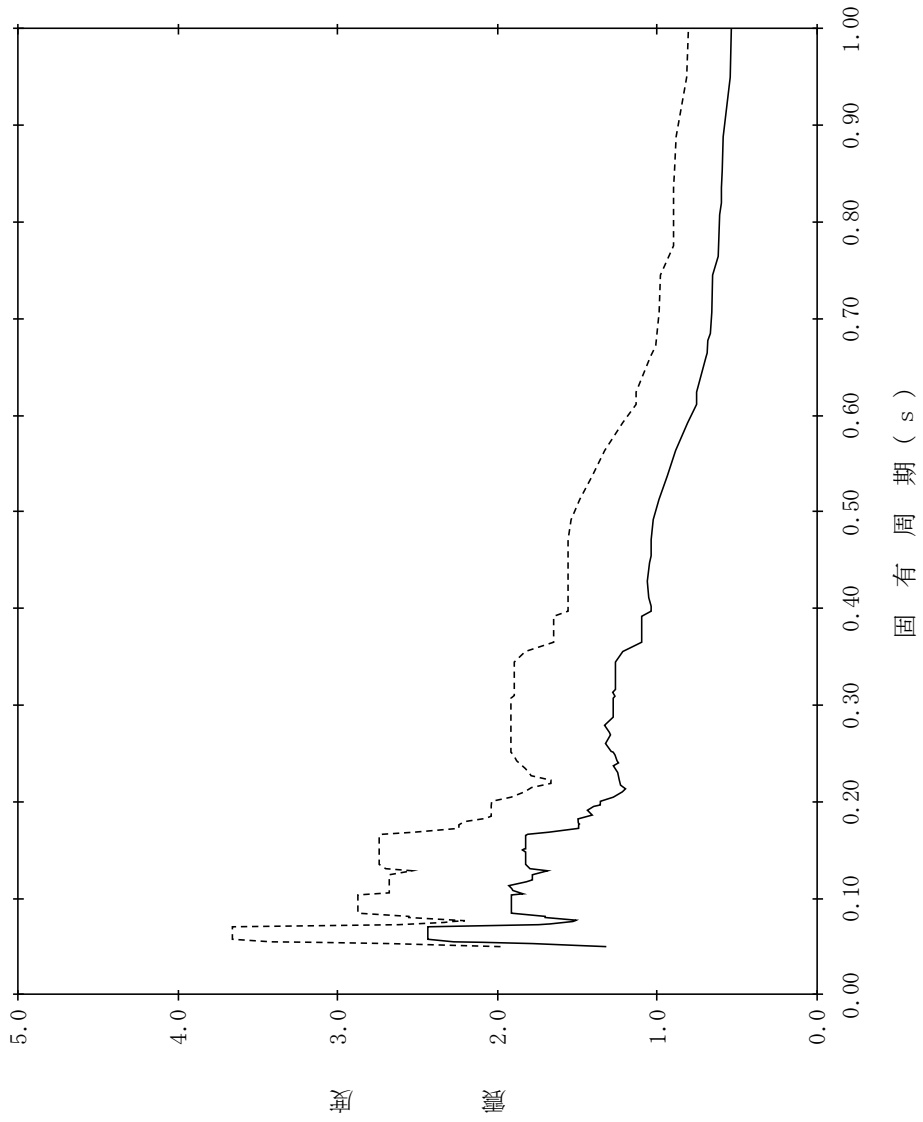
【NS2-TB-SdNS-TB62】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



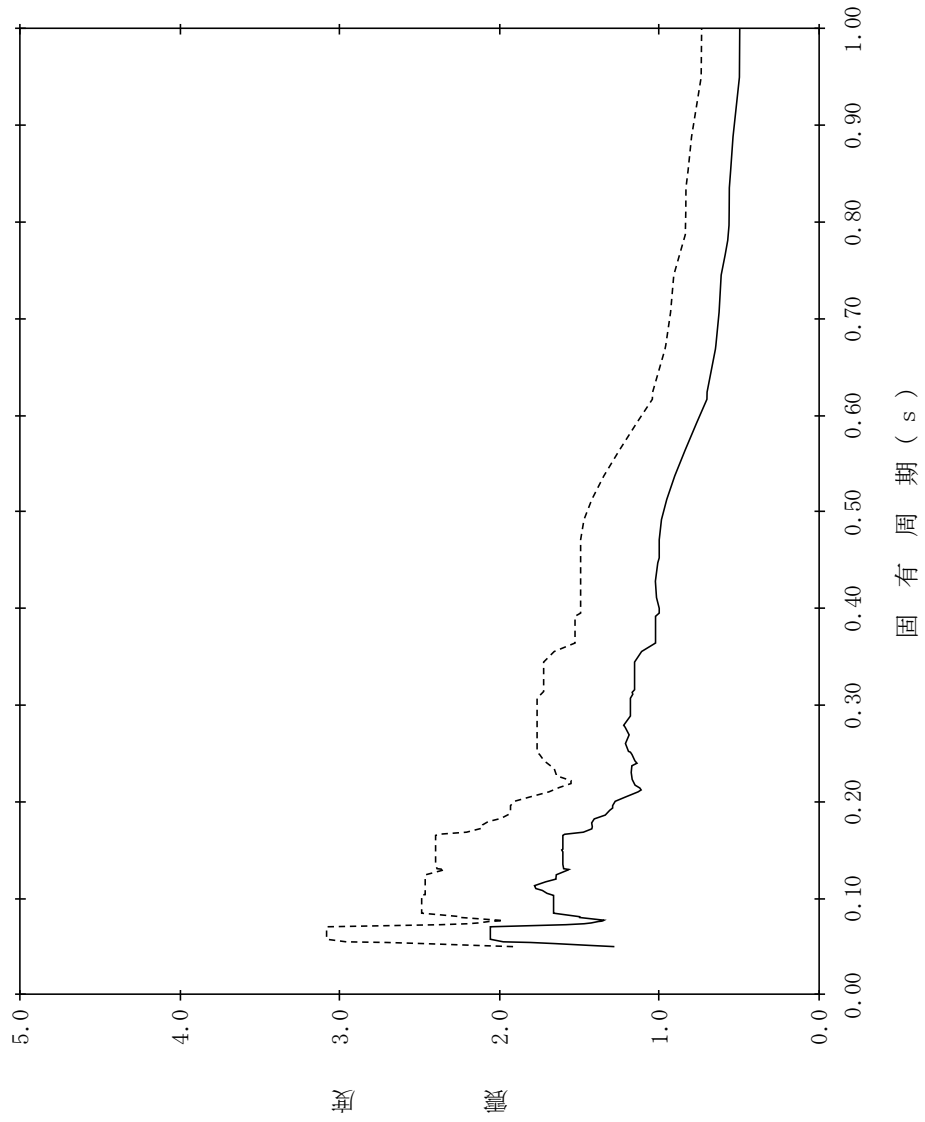
【NS2-TB-SdNS-TB63】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



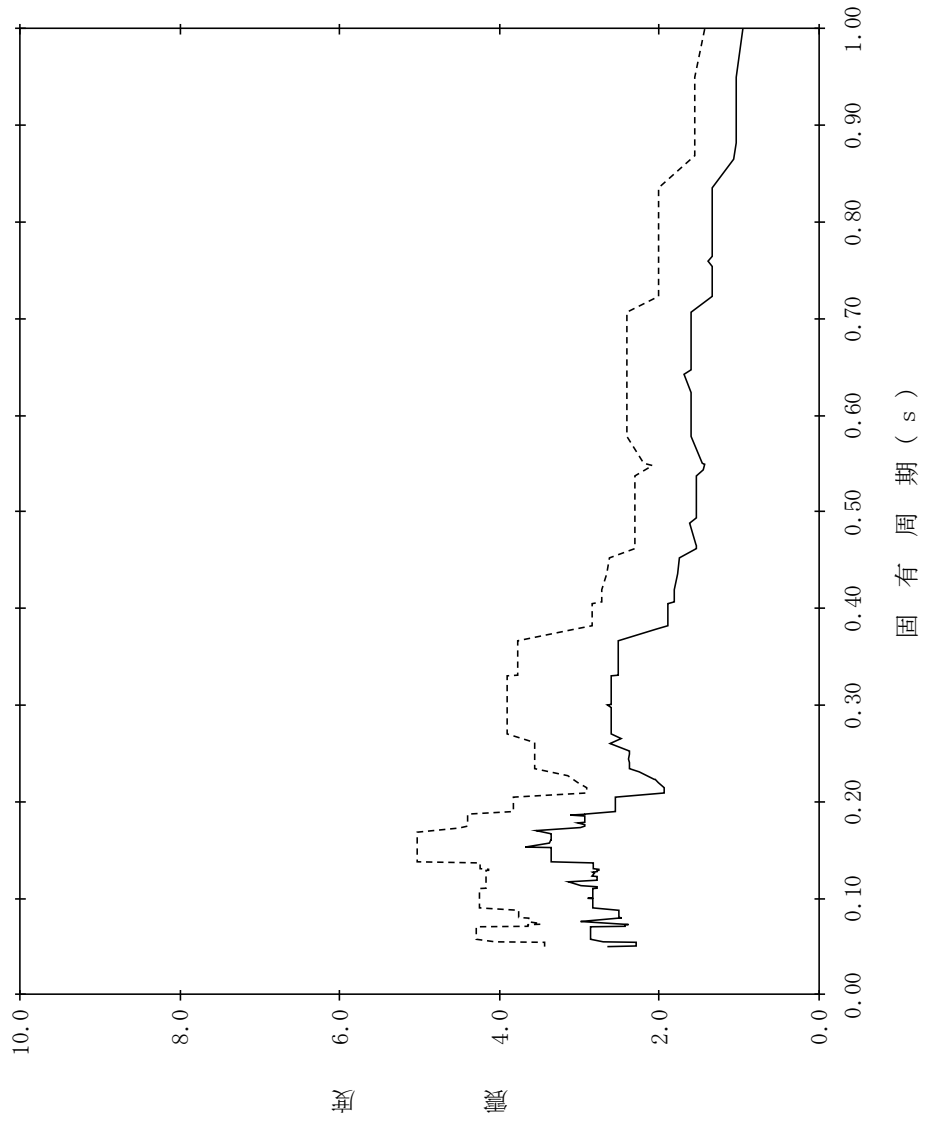
【NS2-TB-SdNS-TB64】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



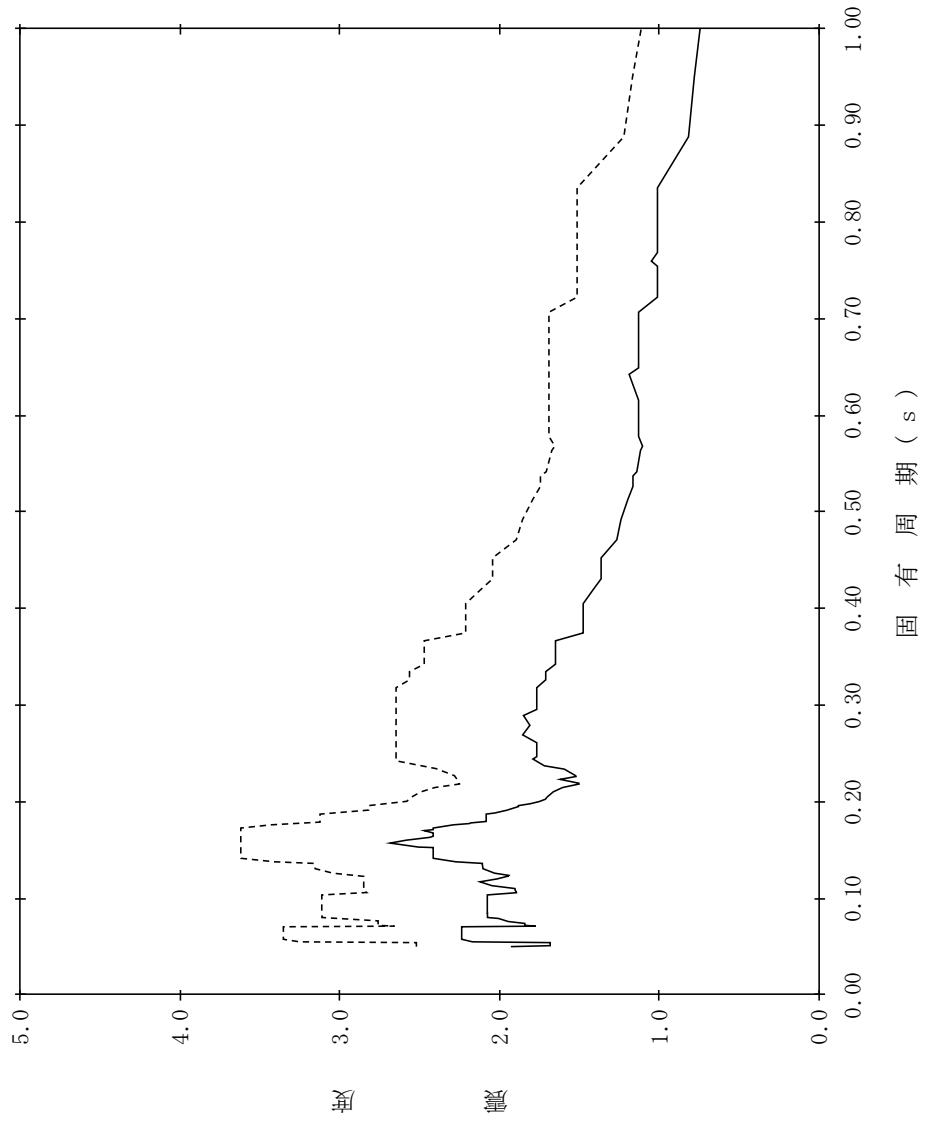
【NS2-TB-SdNS-TB65】

構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



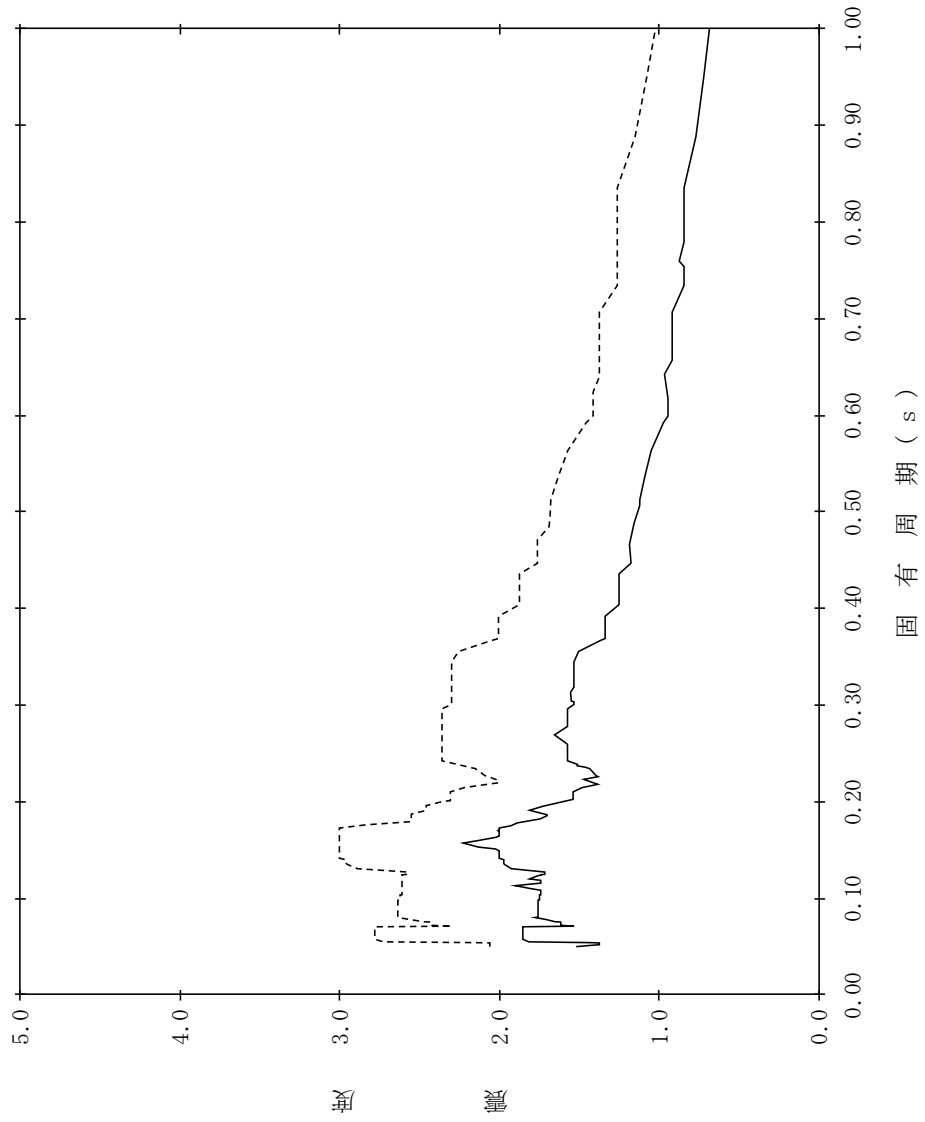
【NS2-TB-SdNS-TB66】

構造物名：タービン建物
 標高：EL2.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



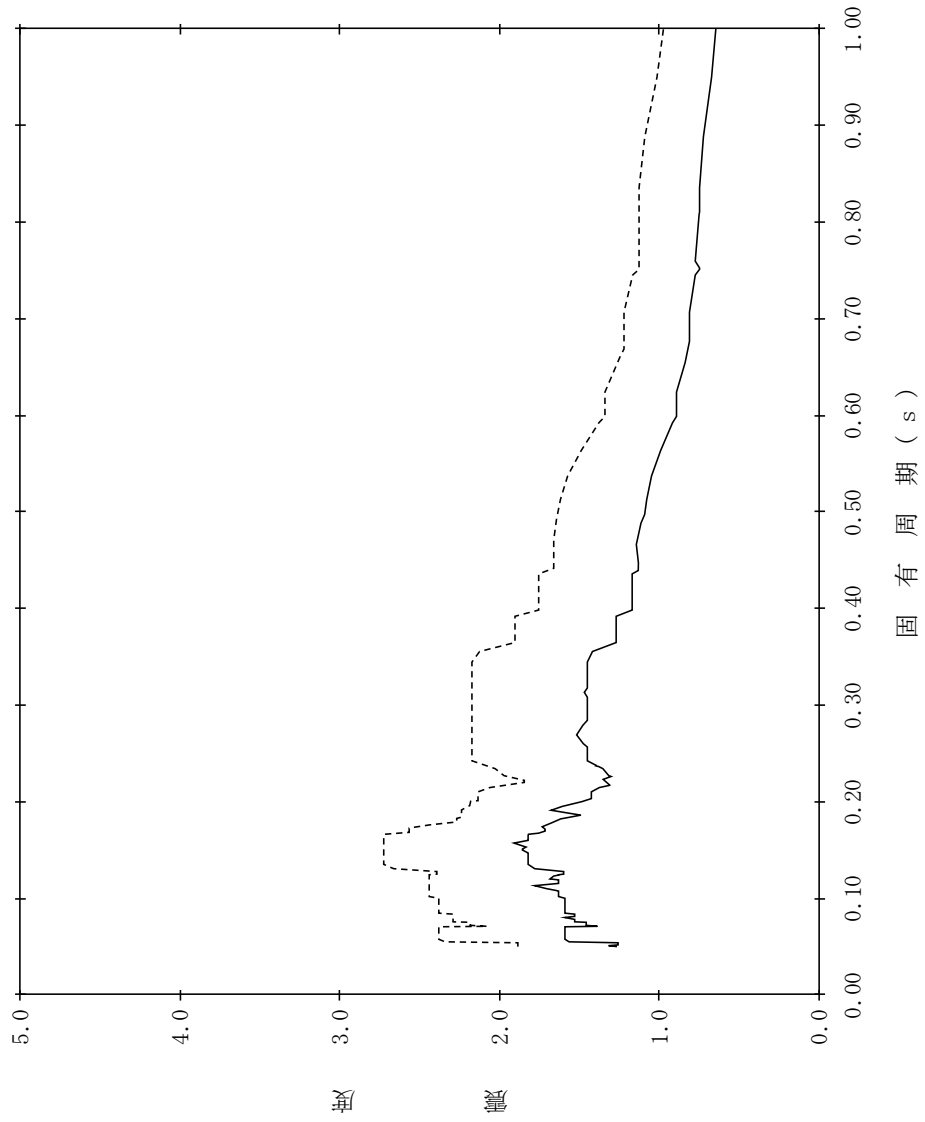
【NS2-TB-SdNS-TB67】

構造物名：タービン建物
 標高：EL2.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SdNS-TB68】

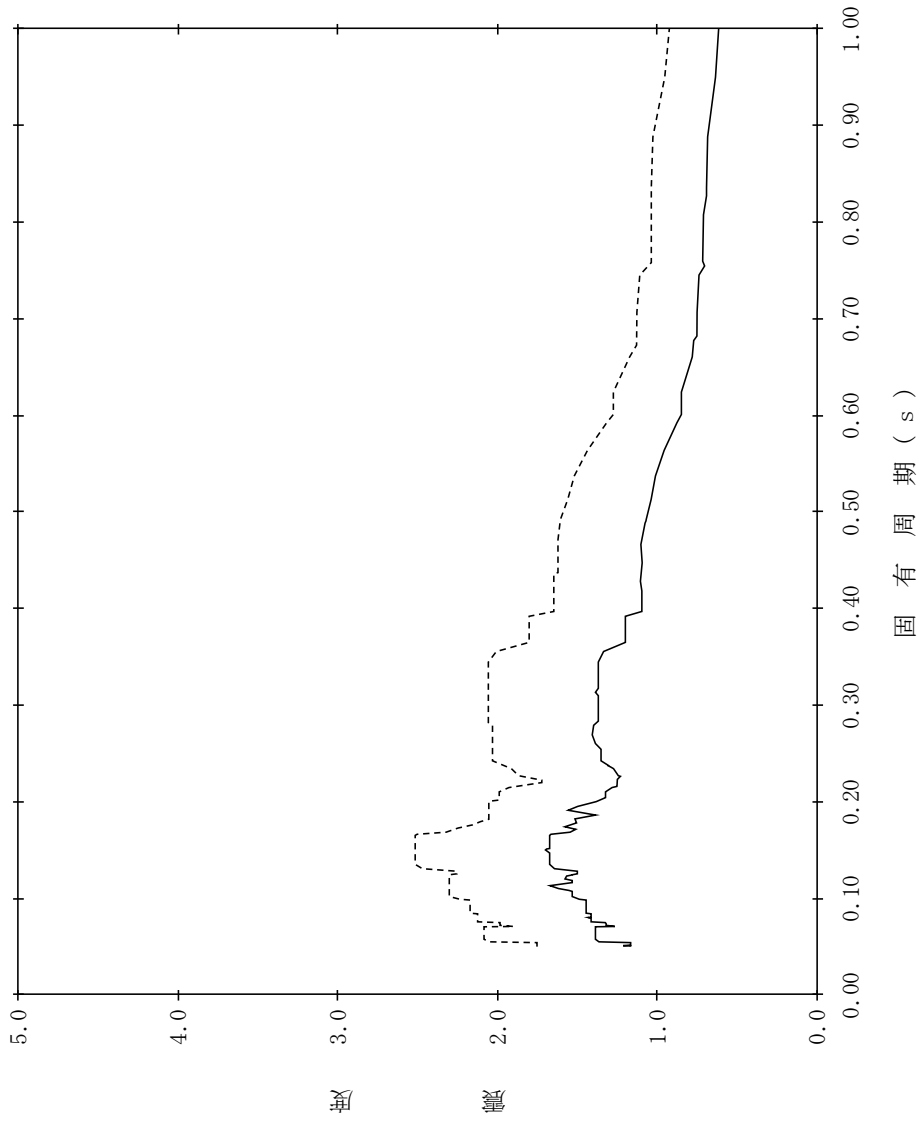
構造物名：タービン建物
 標高：EL2.000m
 減衰定数：2.0%
 波形式：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SdNS-TB69】

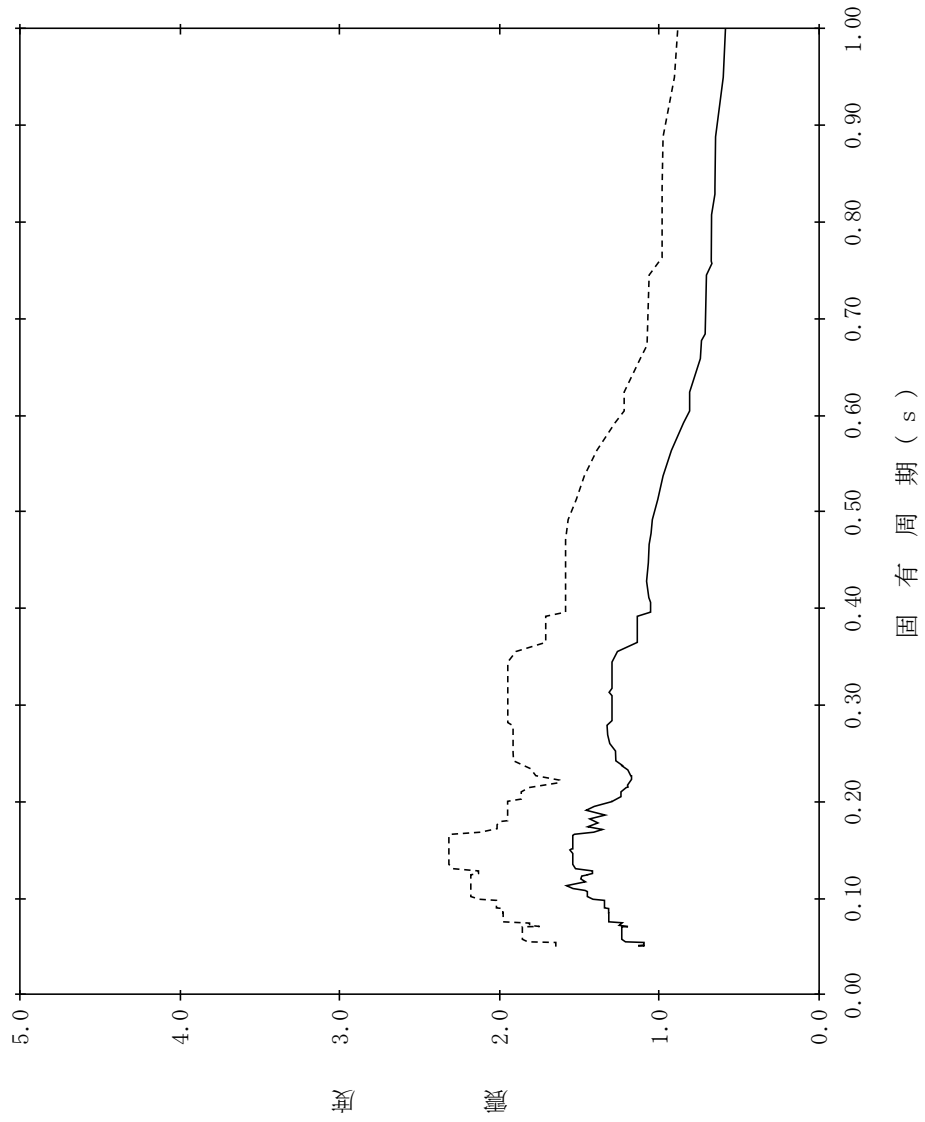
構造物名：タービン建物
標高：EL. 000m
減衰定数：2.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SdNS-TB70】

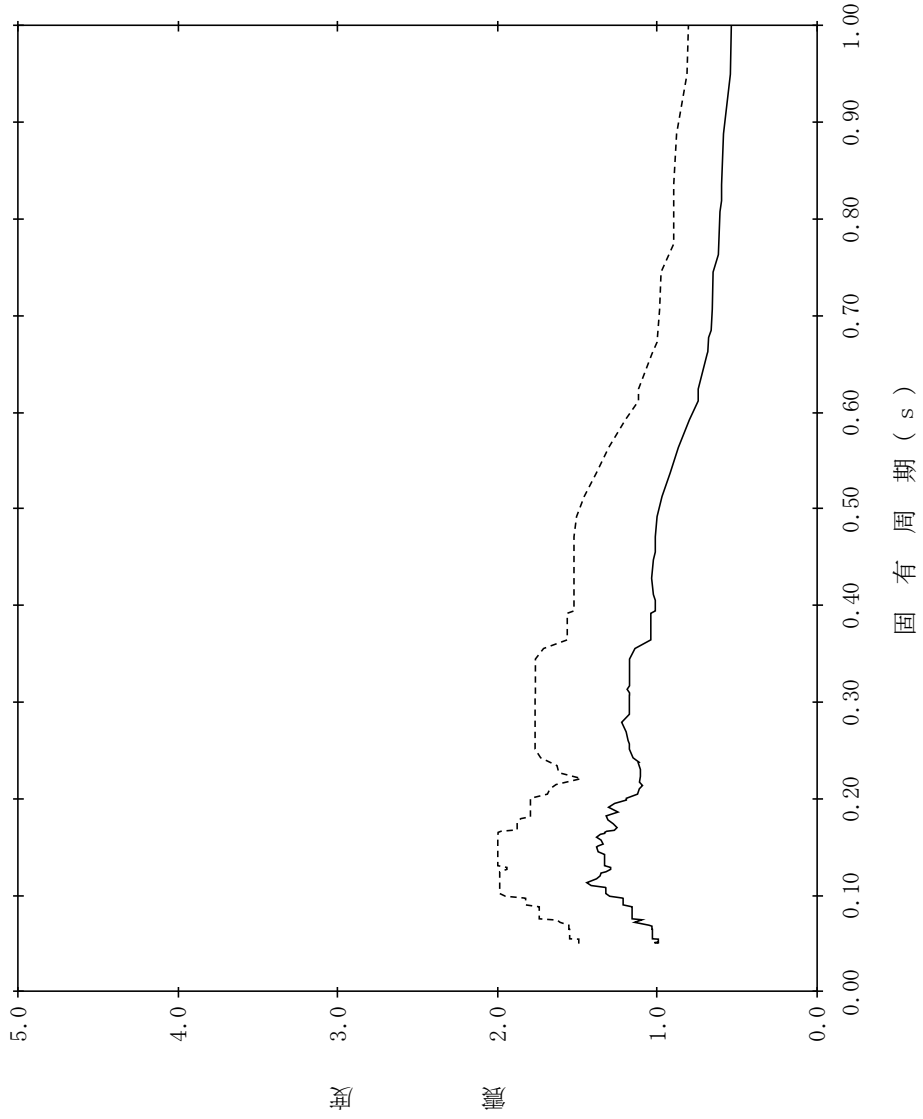
構造物名：タービン建物
 標高：EL2.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SdNS-TB71】

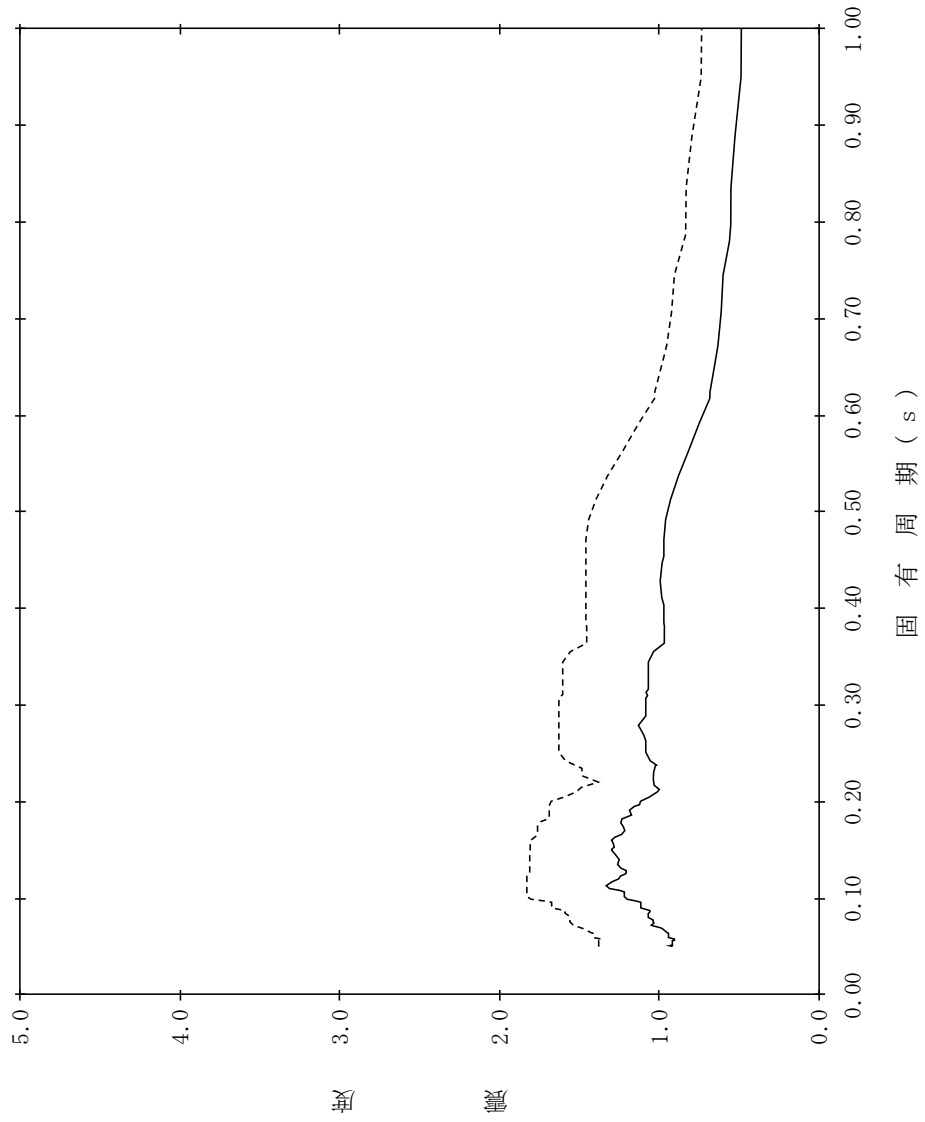
構造物名：タービン建物
標高：EL. 000m
減衰定数：4.0%

—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



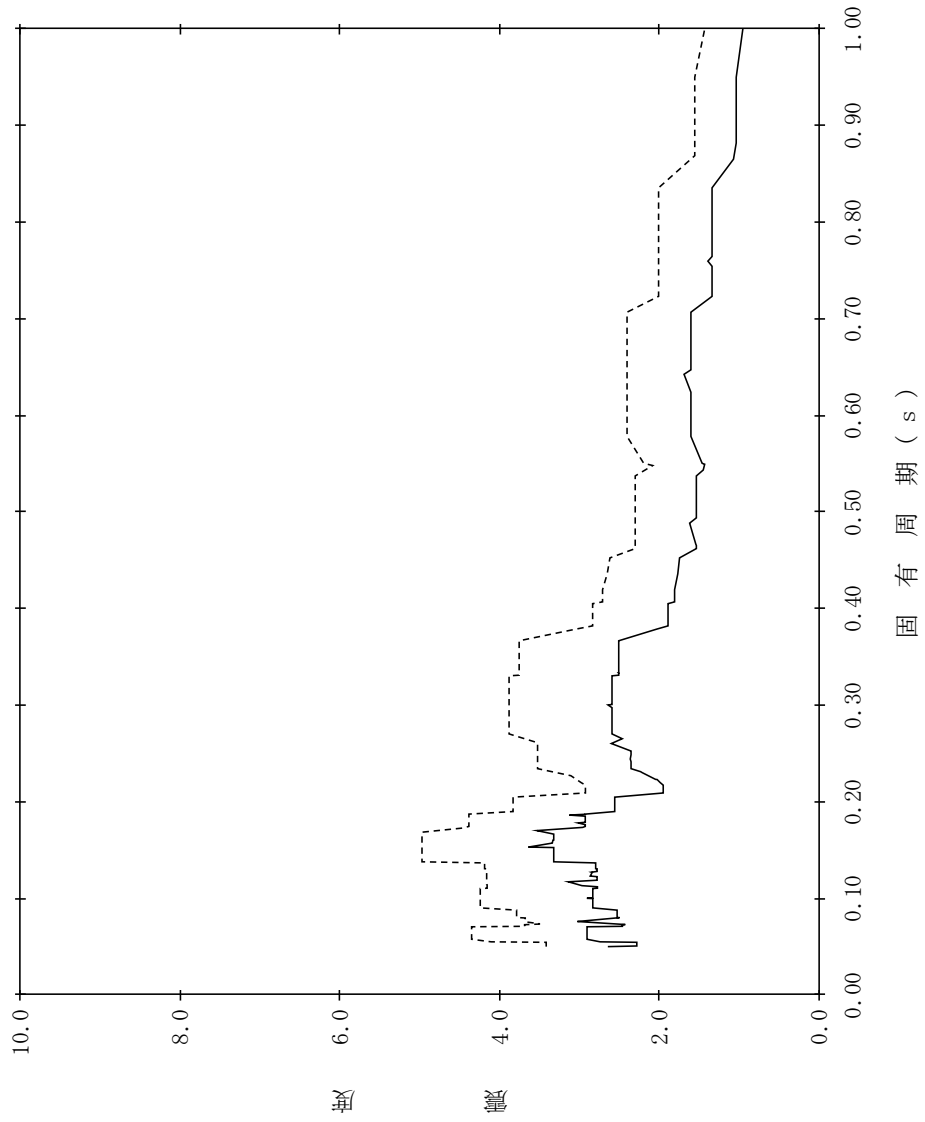
【NS2-TB-SdNS-TB72】

構造物名：タービン建物
 標高：EL2.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



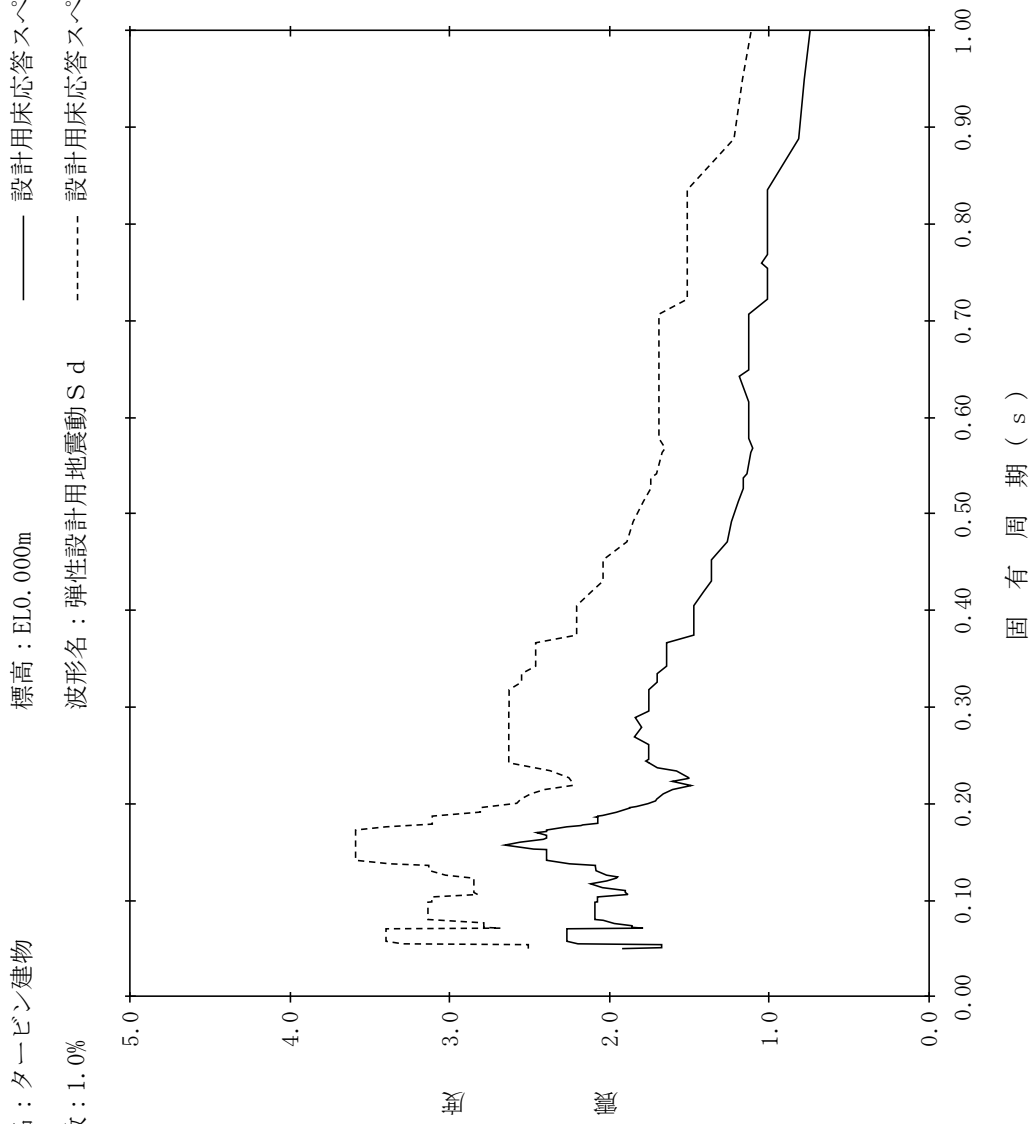
【NS2-TB-SdNS-TB73】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



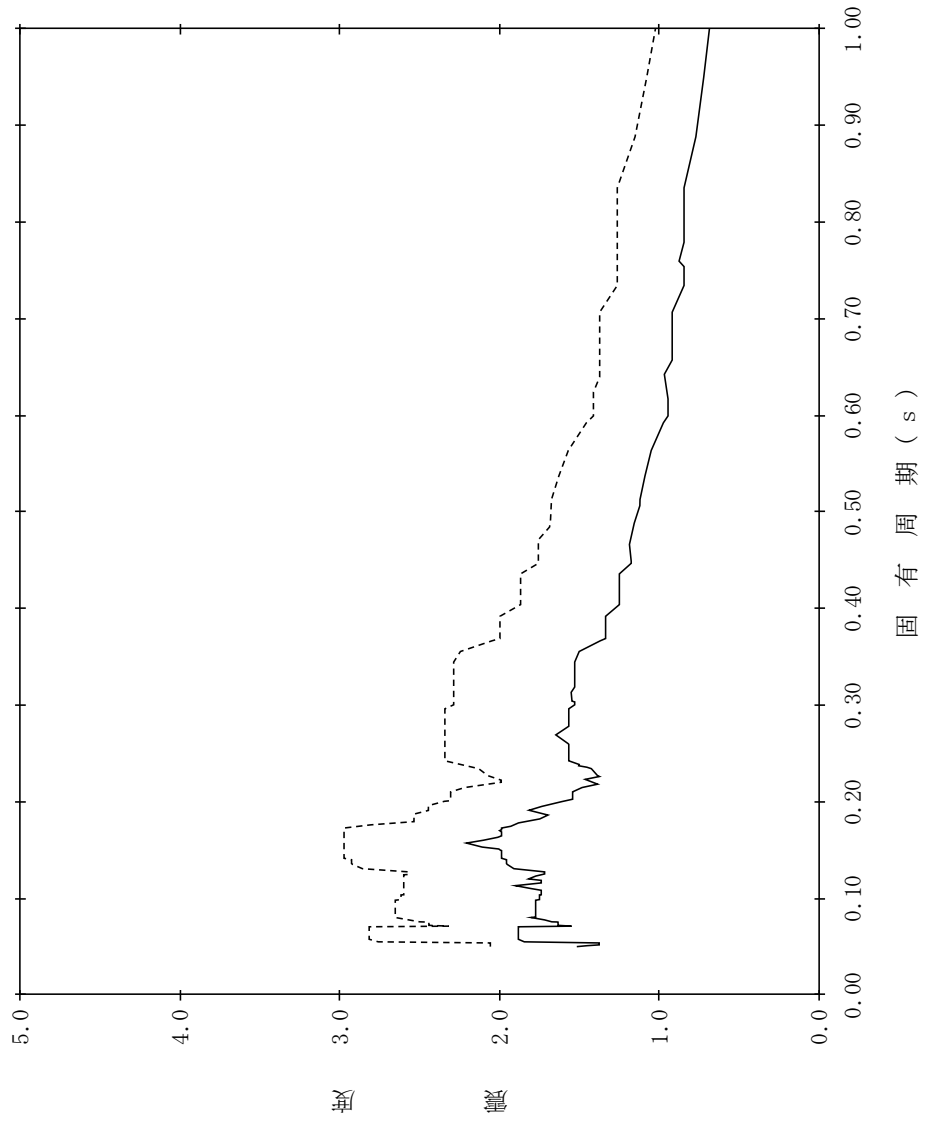
【NS2-TB-SdNS-TB74】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：1.0%



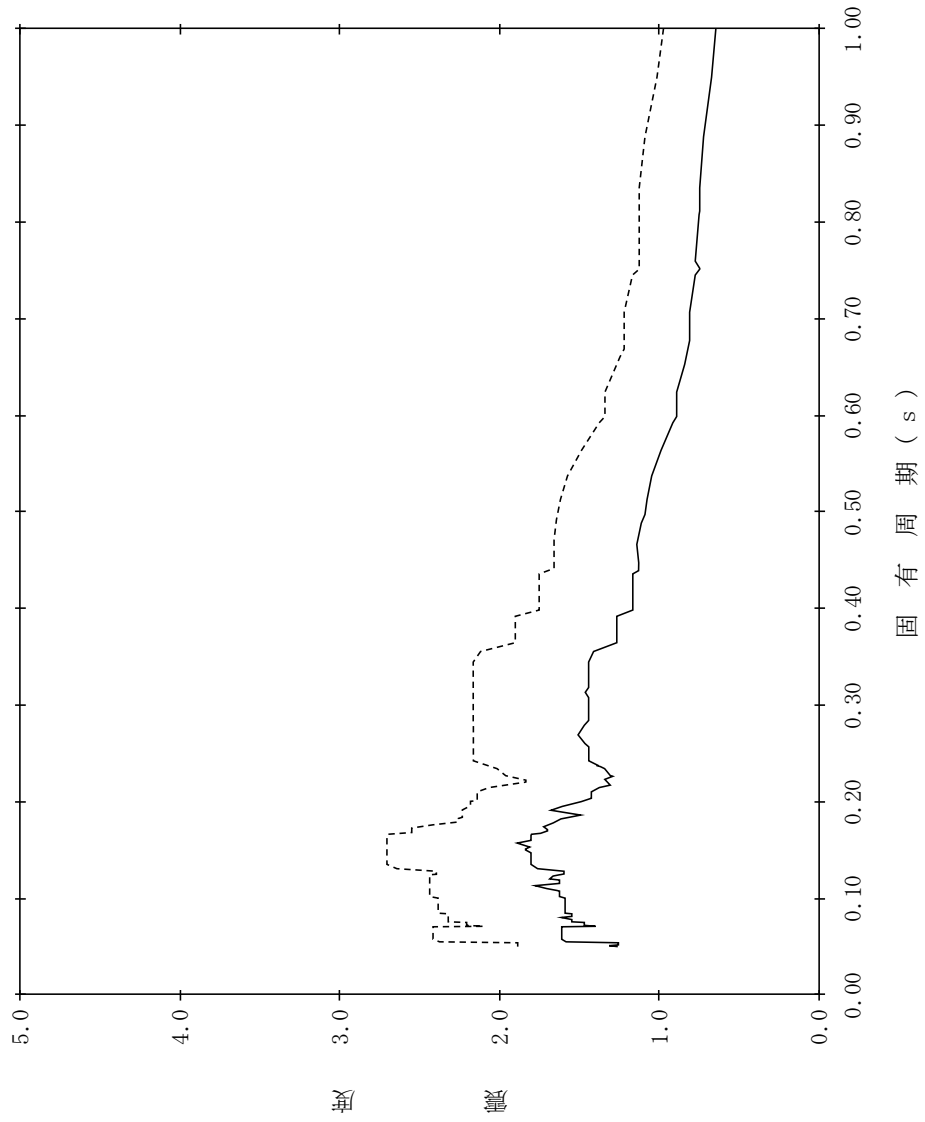
【NS2-TB-SdNS-TB75】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SdNS-TB76】

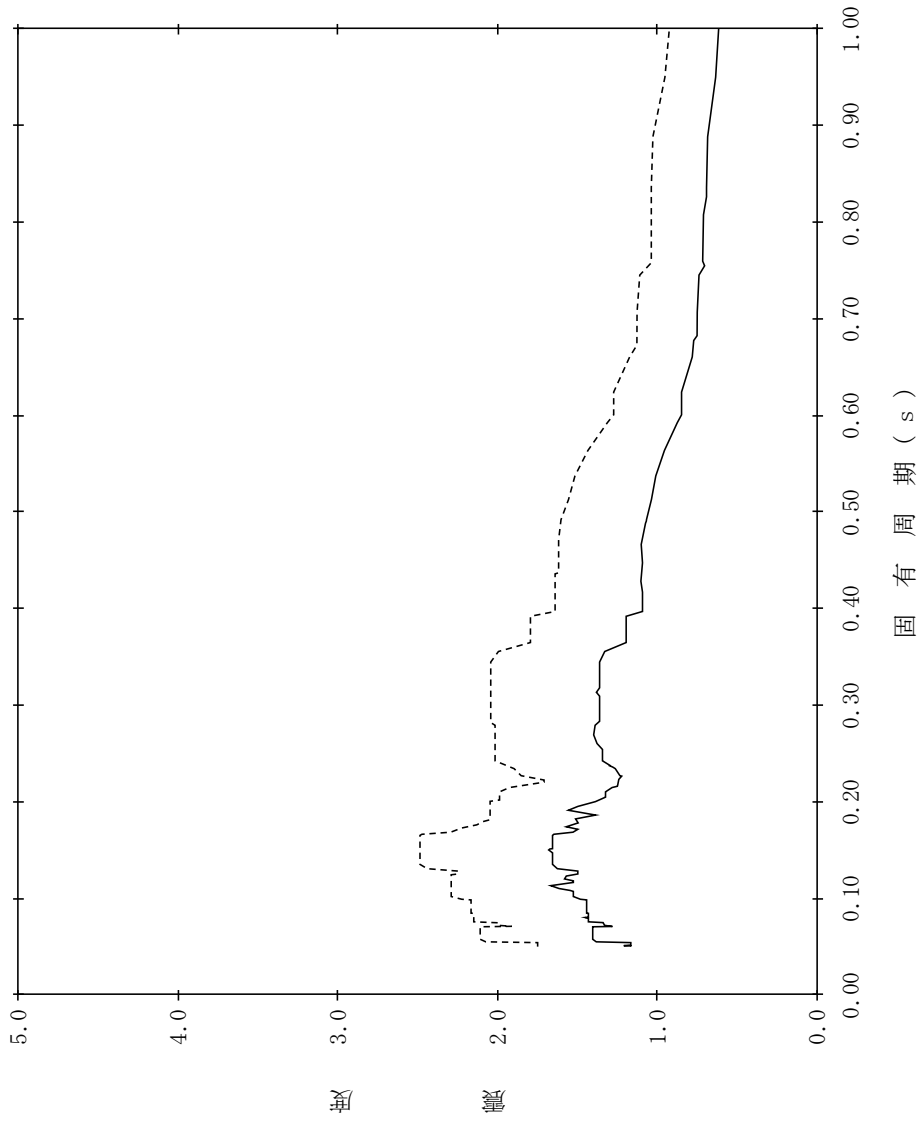
構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SdNS-TB77】

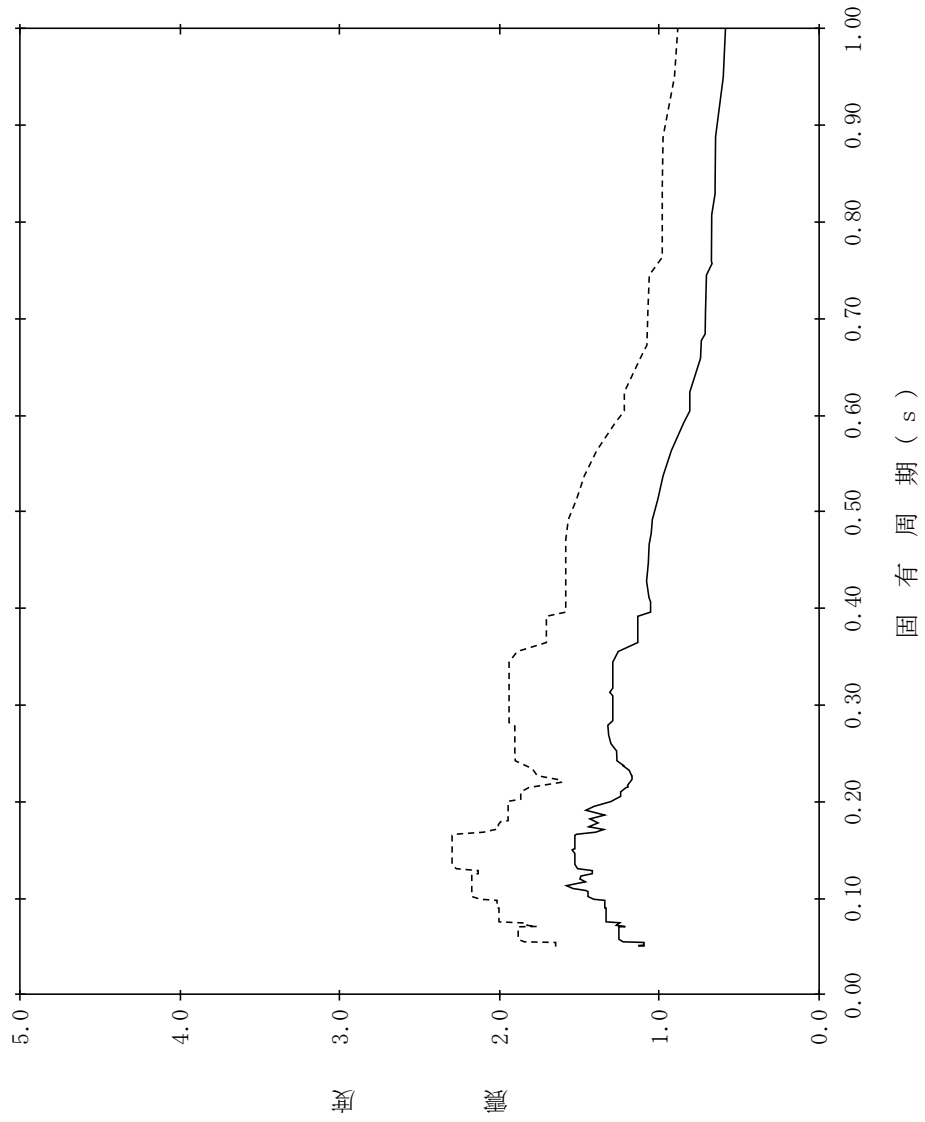
構造物名：タービン建物
標高：EL0.000m
減衰定数：2.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



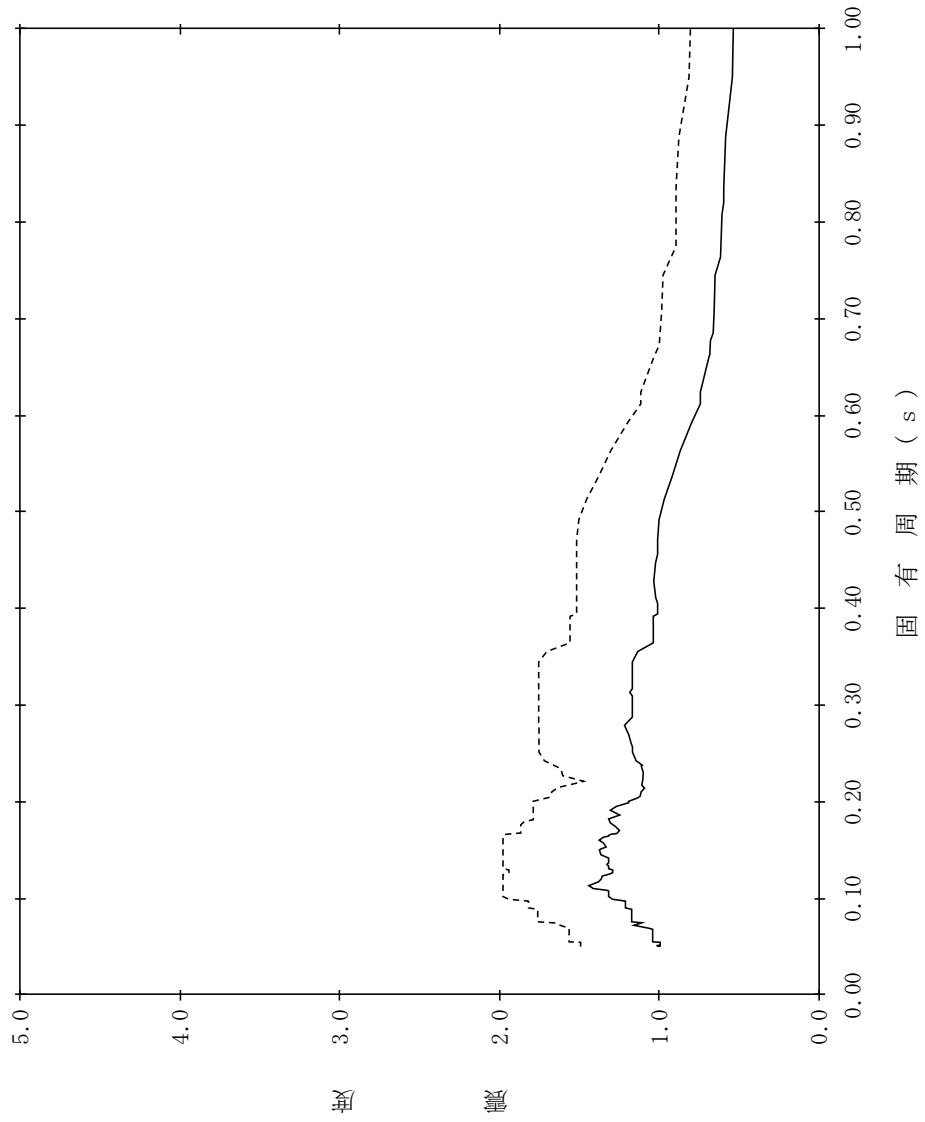
【NS2-TB-SdNS-TB78】

構造物名：タービン建物
標高：EL0.000m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



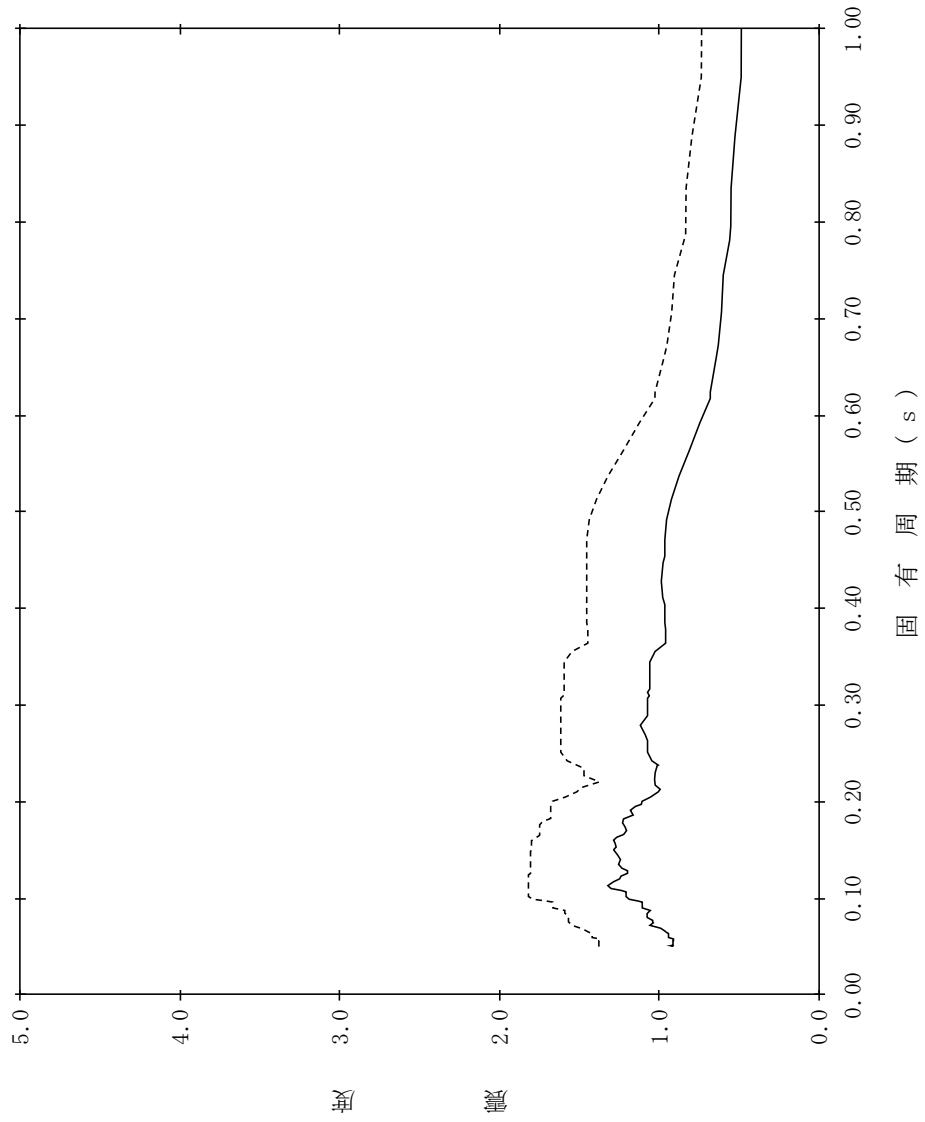
【NS2-TB-SdNS-TB79】

構造物名：タービン建物
標高：EL0.000m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



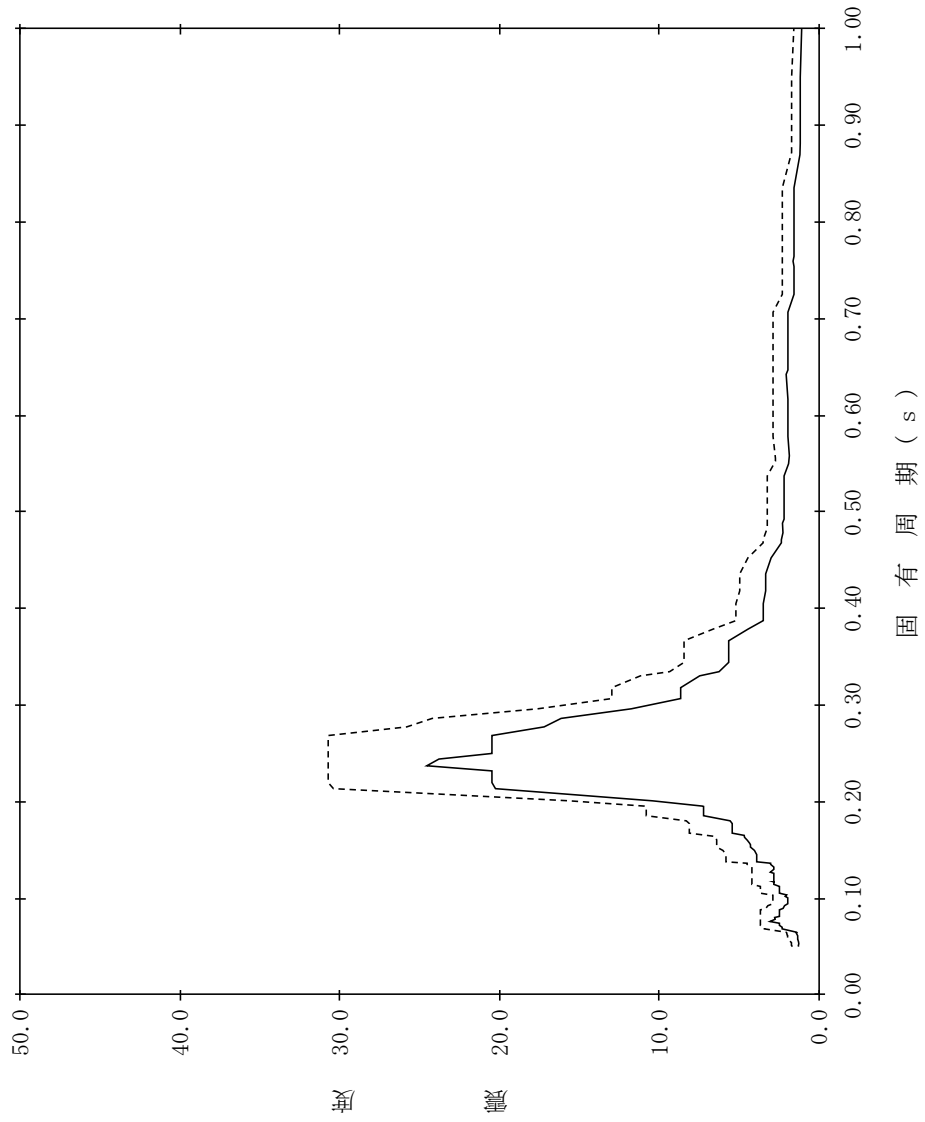
【NS2-TB-SdNS-TB80】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



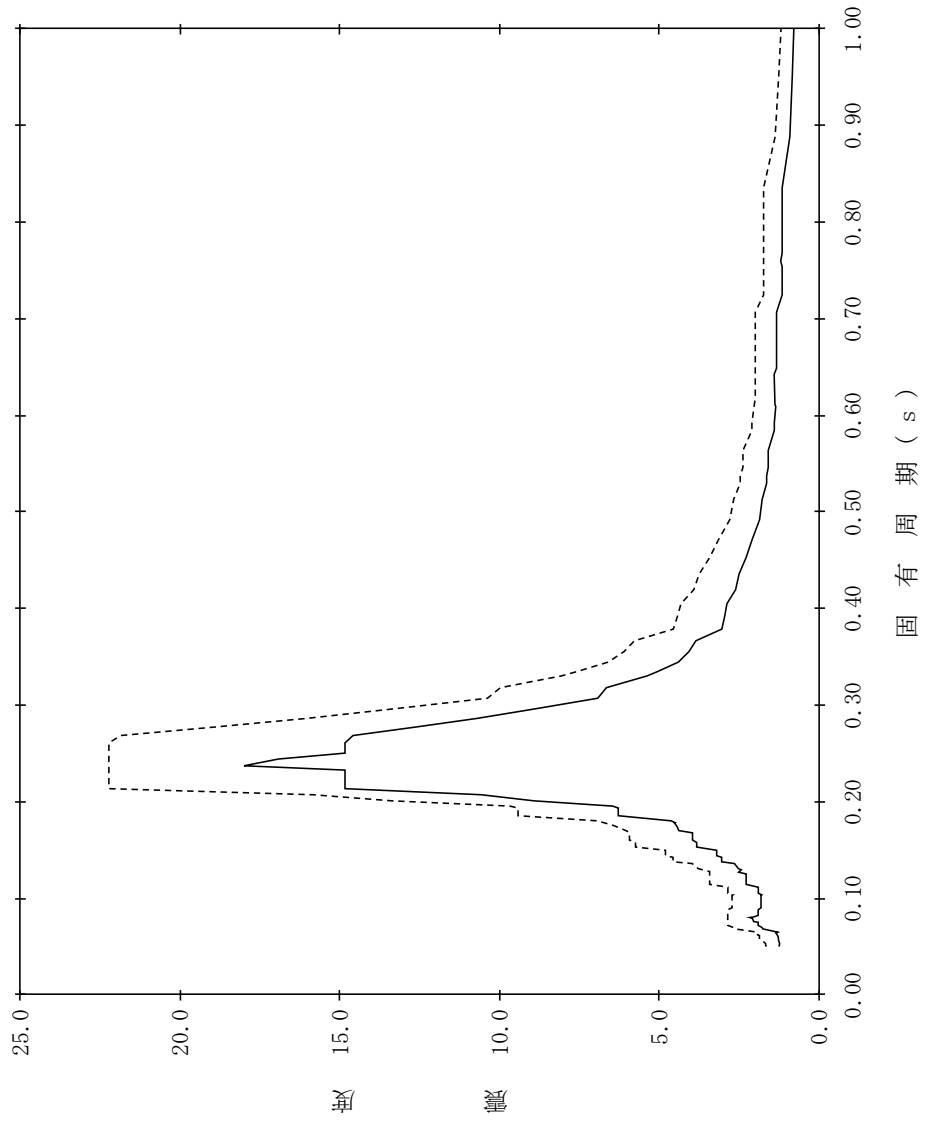
【NS2-TB-SdNS-TG81】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL20.480m
減衰定数：0.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



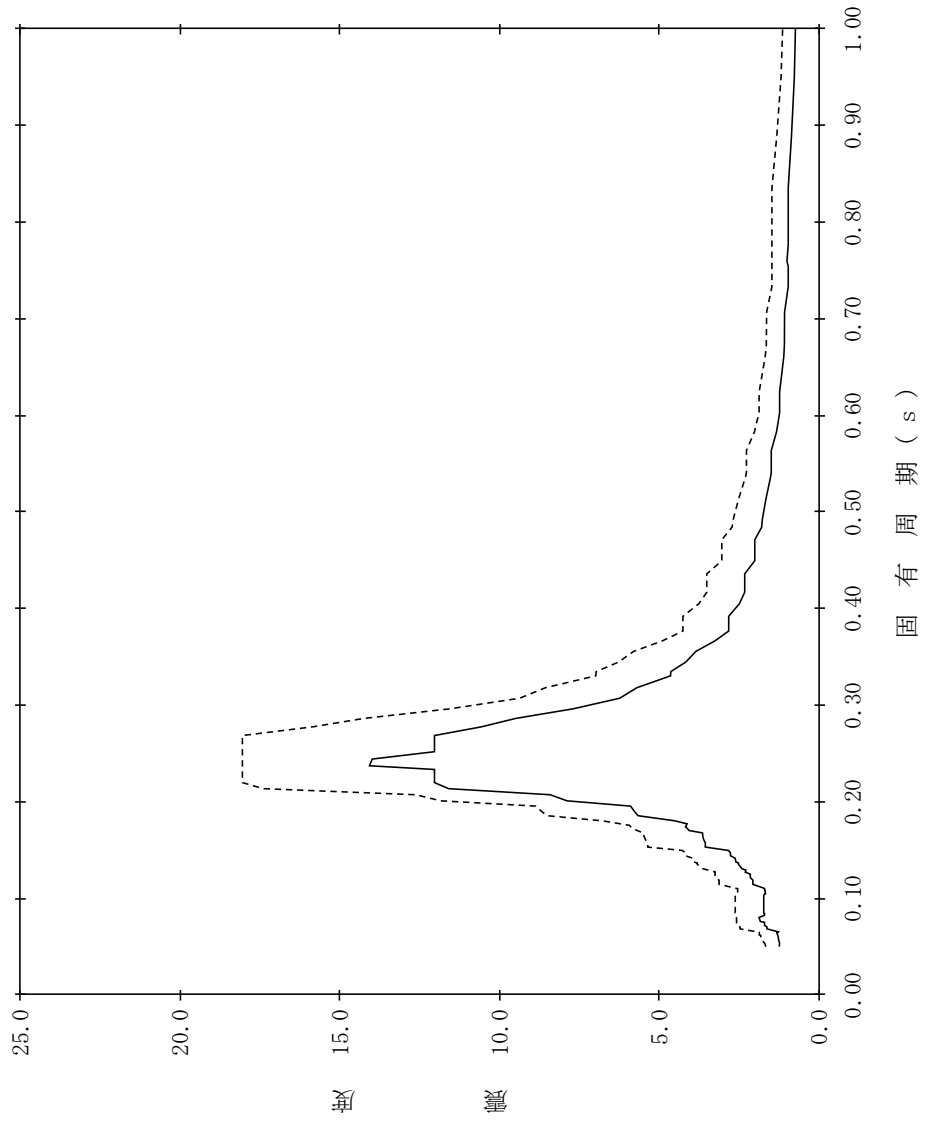
【NS2-TB-SdNS-TG82】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL20.480m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



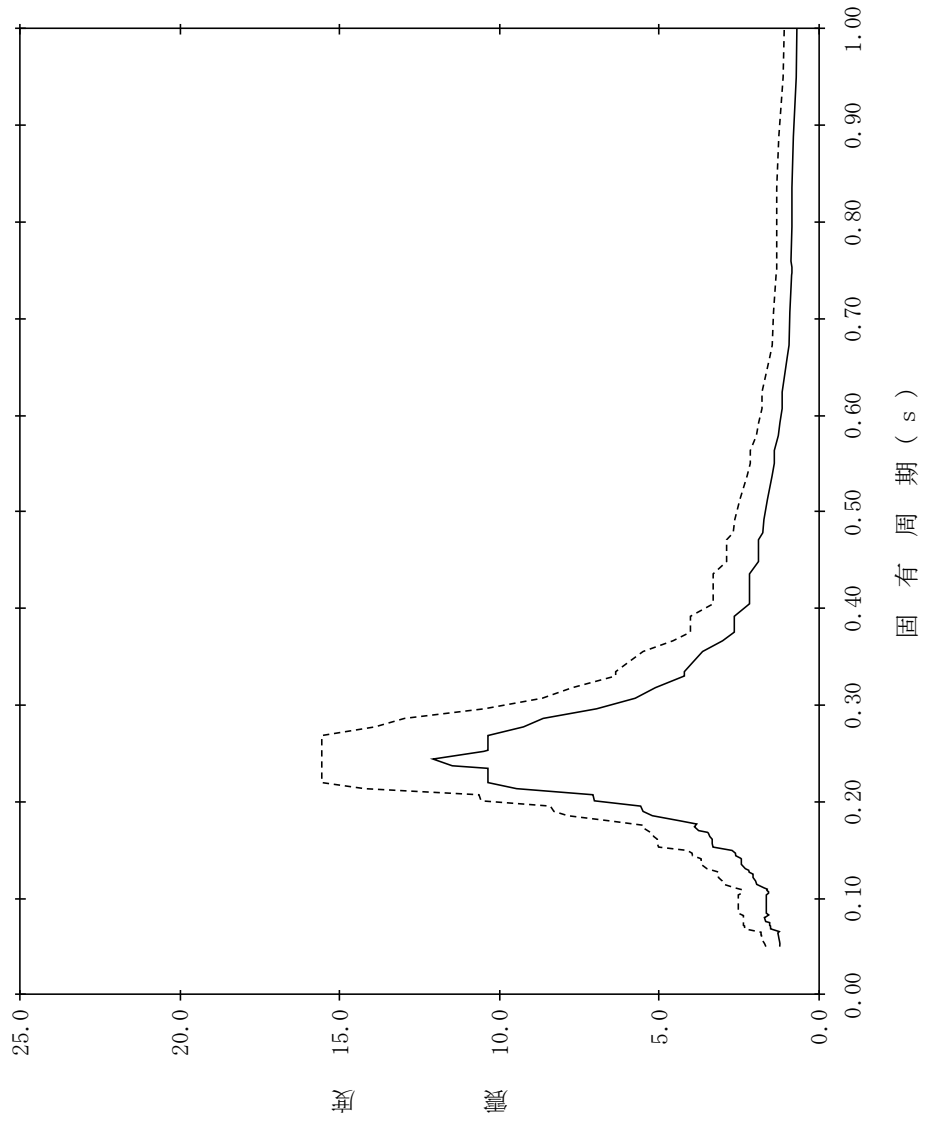
【NS2-TB-SdNS-T683】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL20.480m
減衰定数：1.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



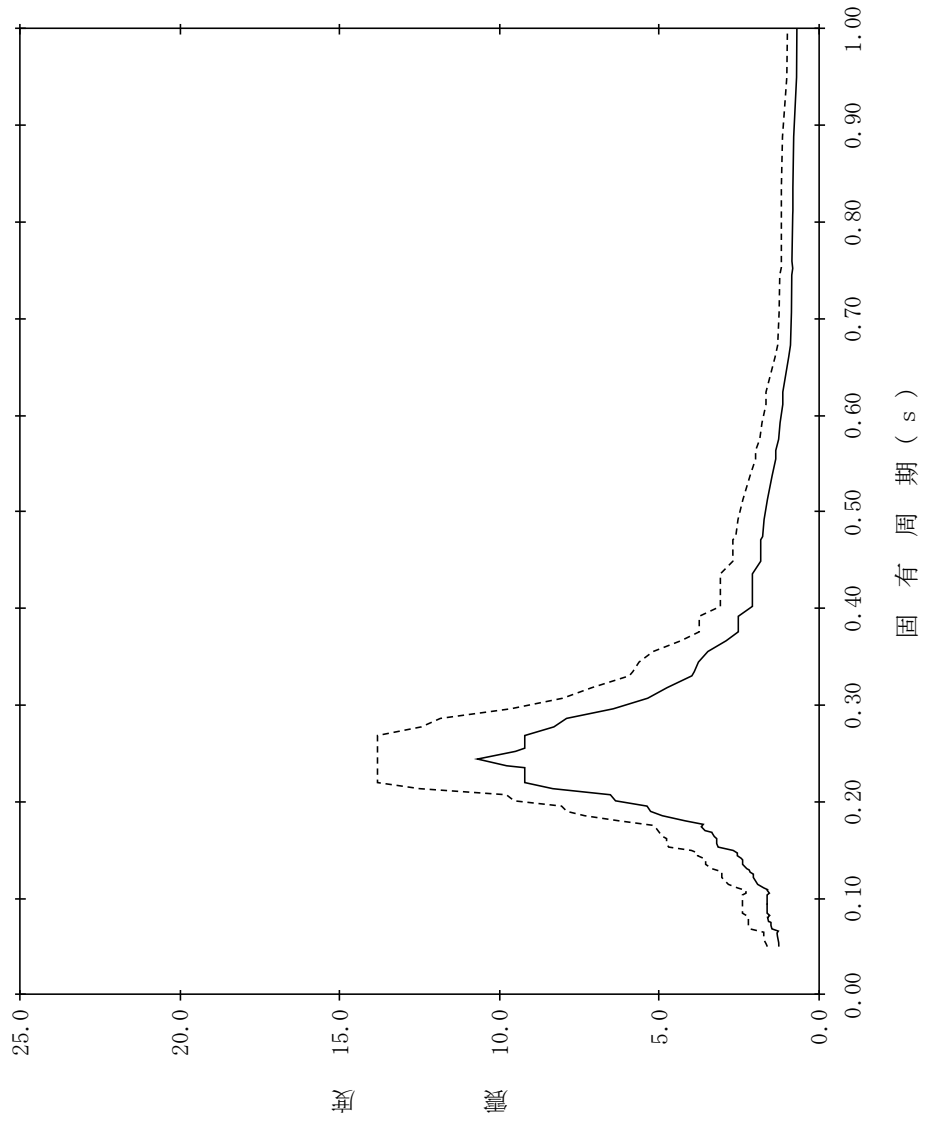
【NS2-TB-SdNS-TG84】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



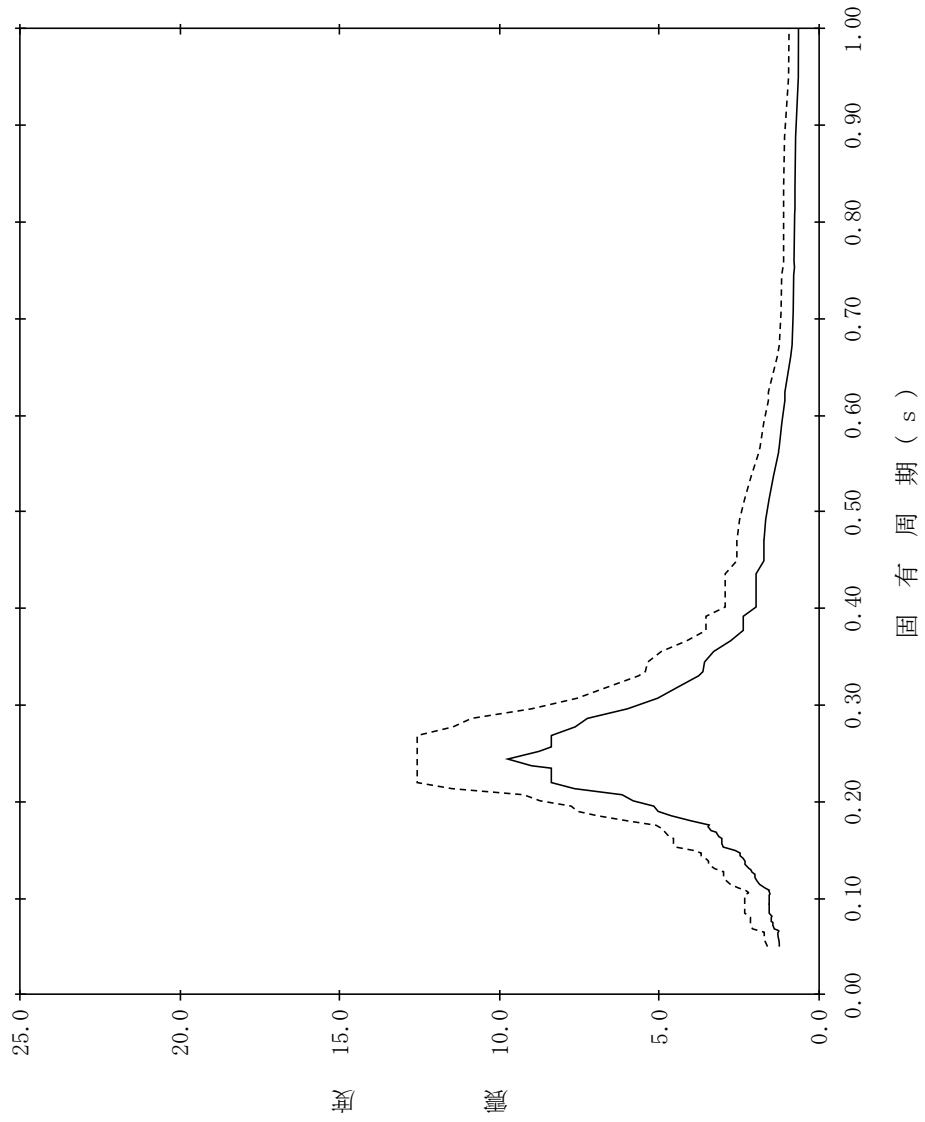
【NS2-TB-SdNS-TG85】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



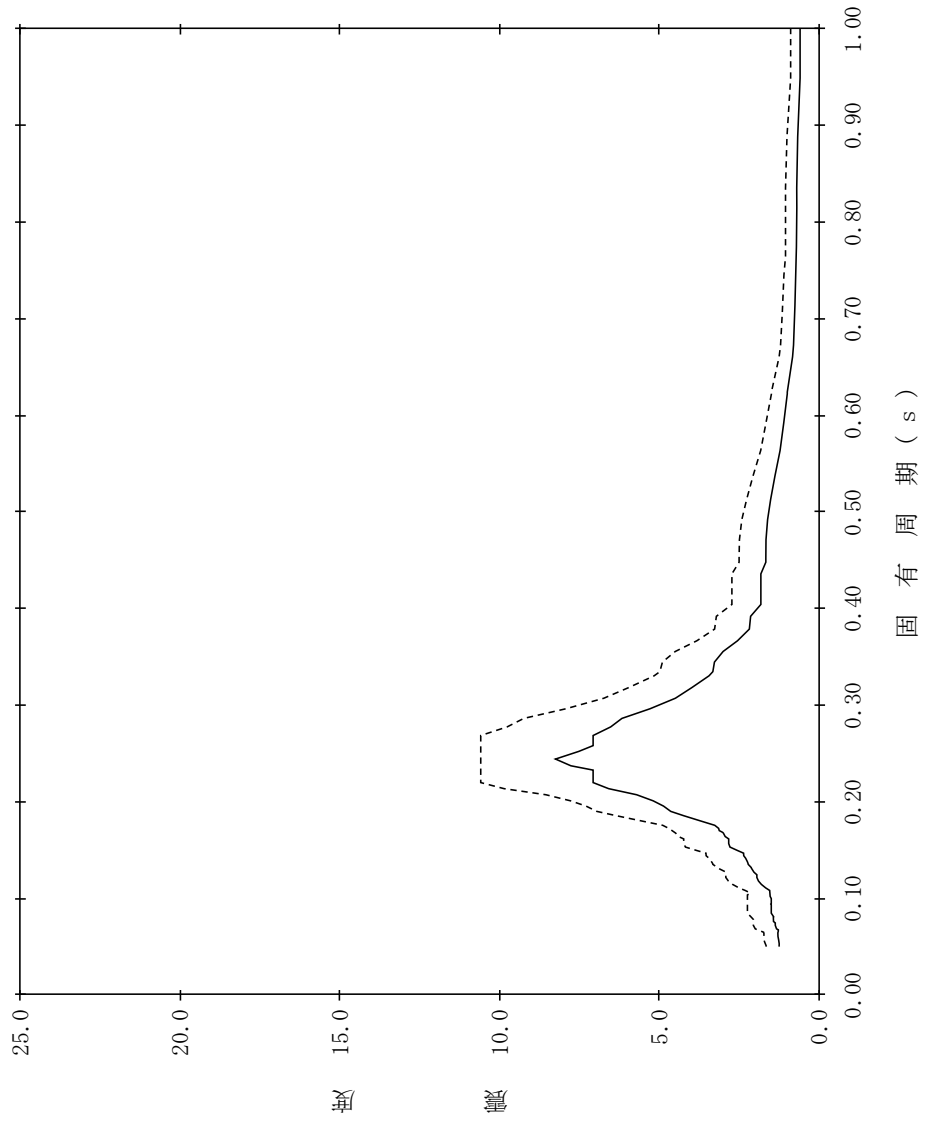
【NS2-TB-SdNS-TG86】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



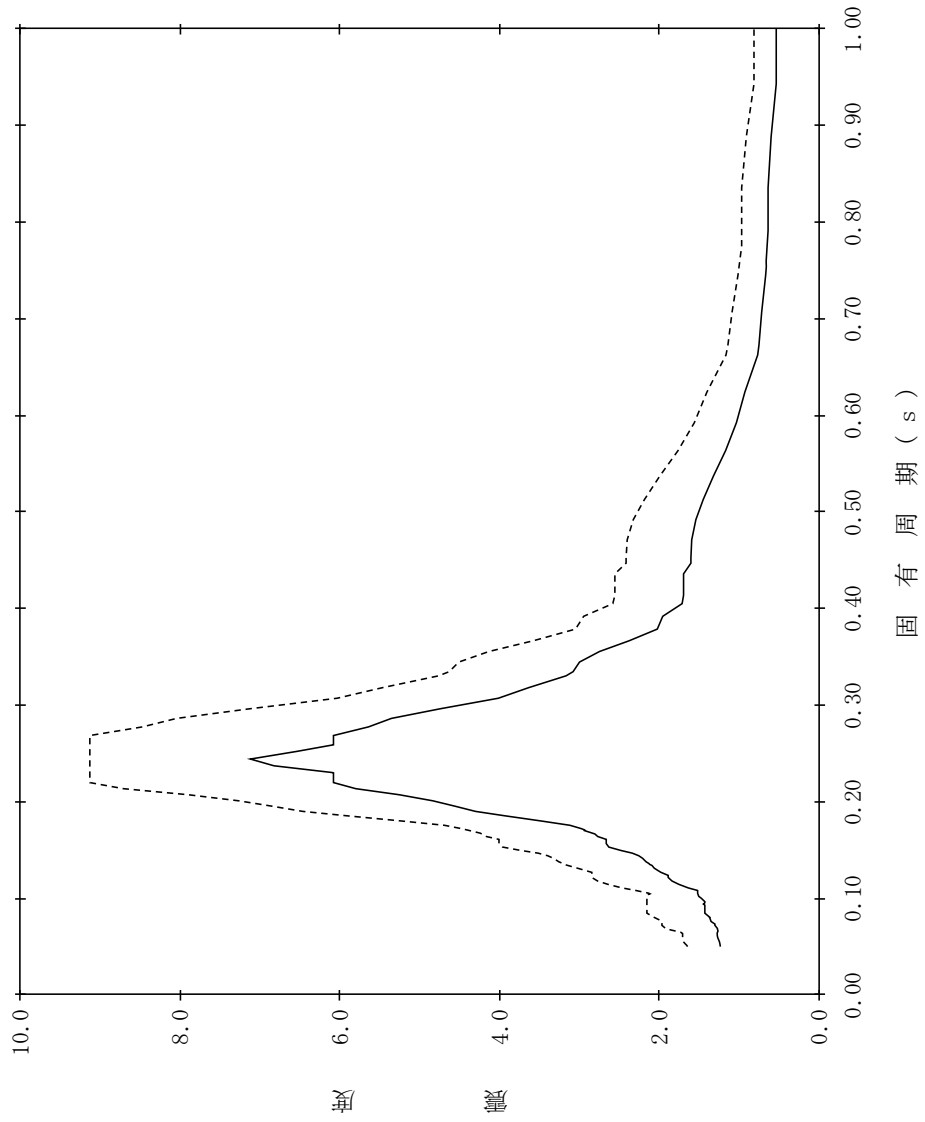
【NS2-TB-SdNS-TG87】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



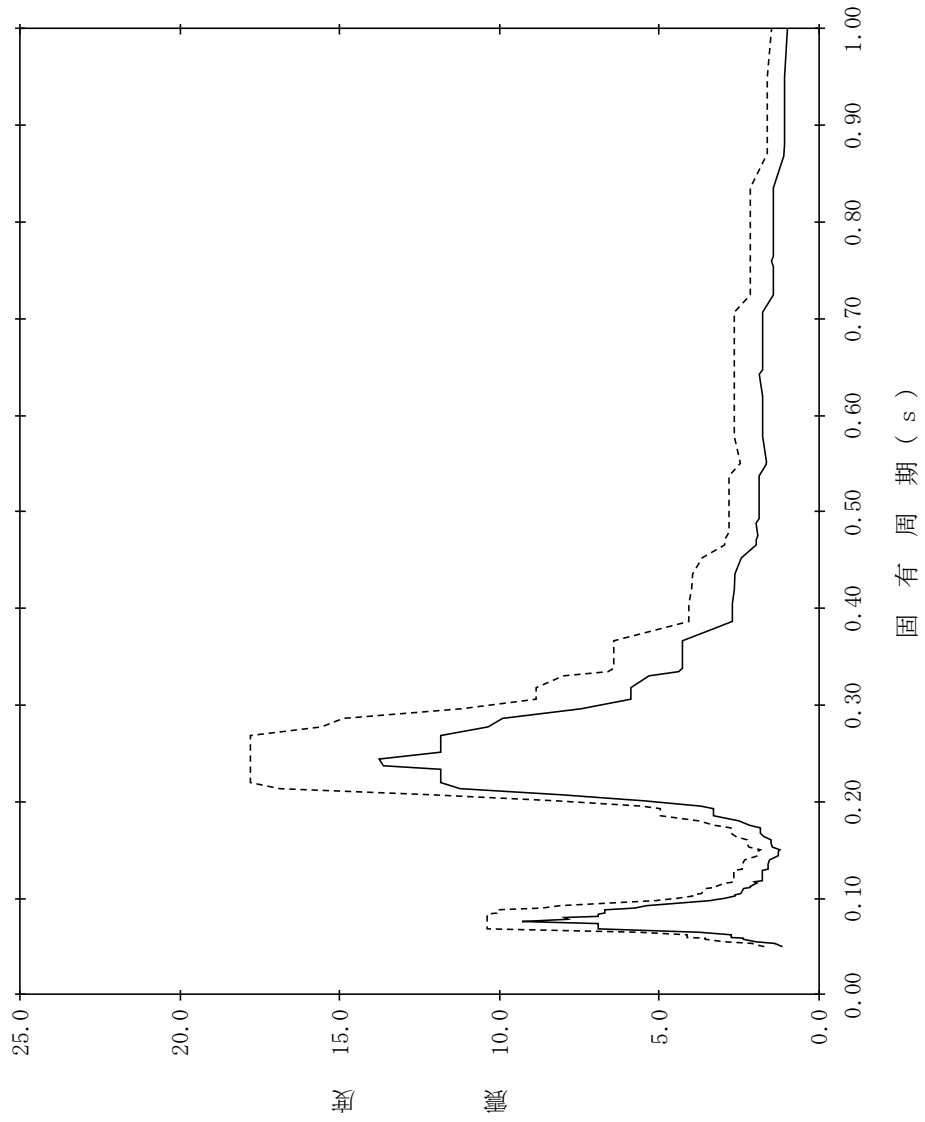
【NS2-TB-SdNS-T688】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



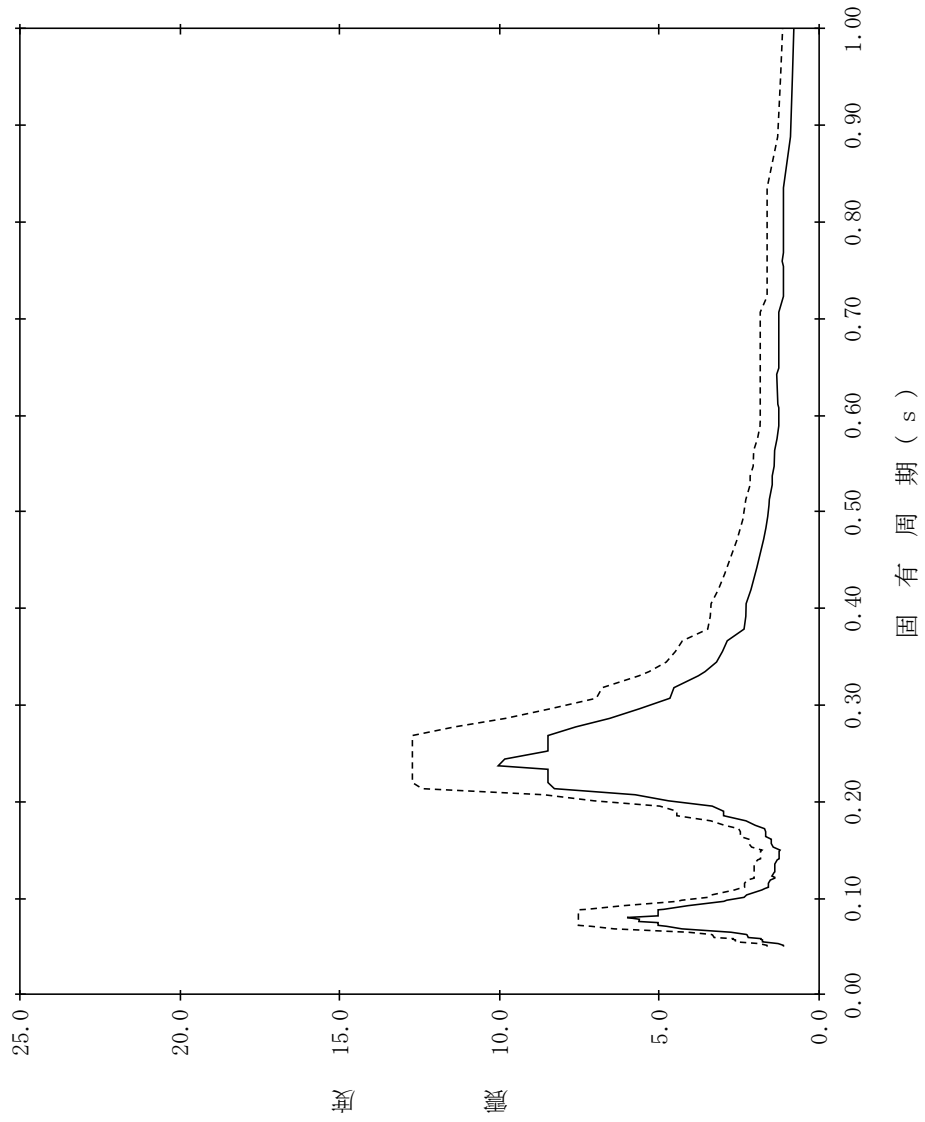
【NS2-TB-SdNS-TG89】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL13.000m
減衰定数：0.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



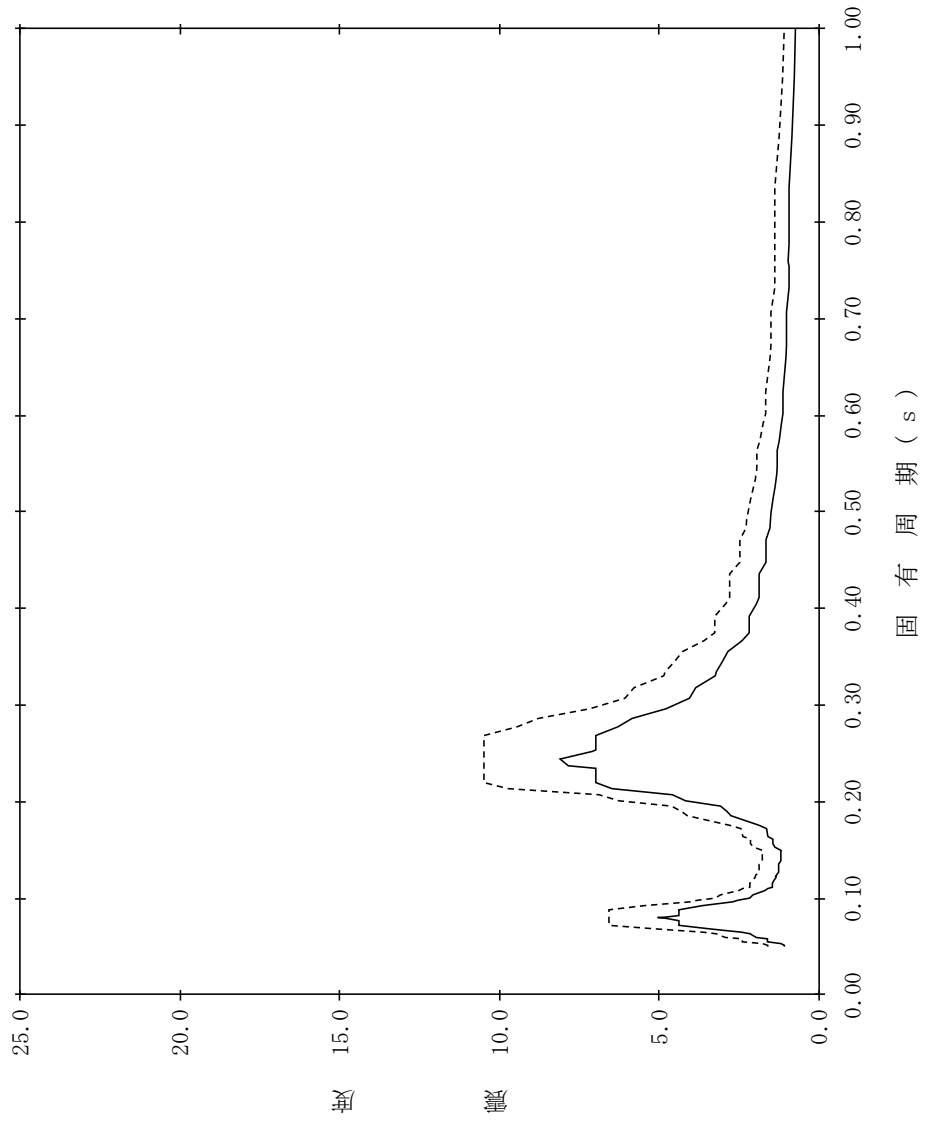
【NS2-TB-SdNS-TG90】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL13.000m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



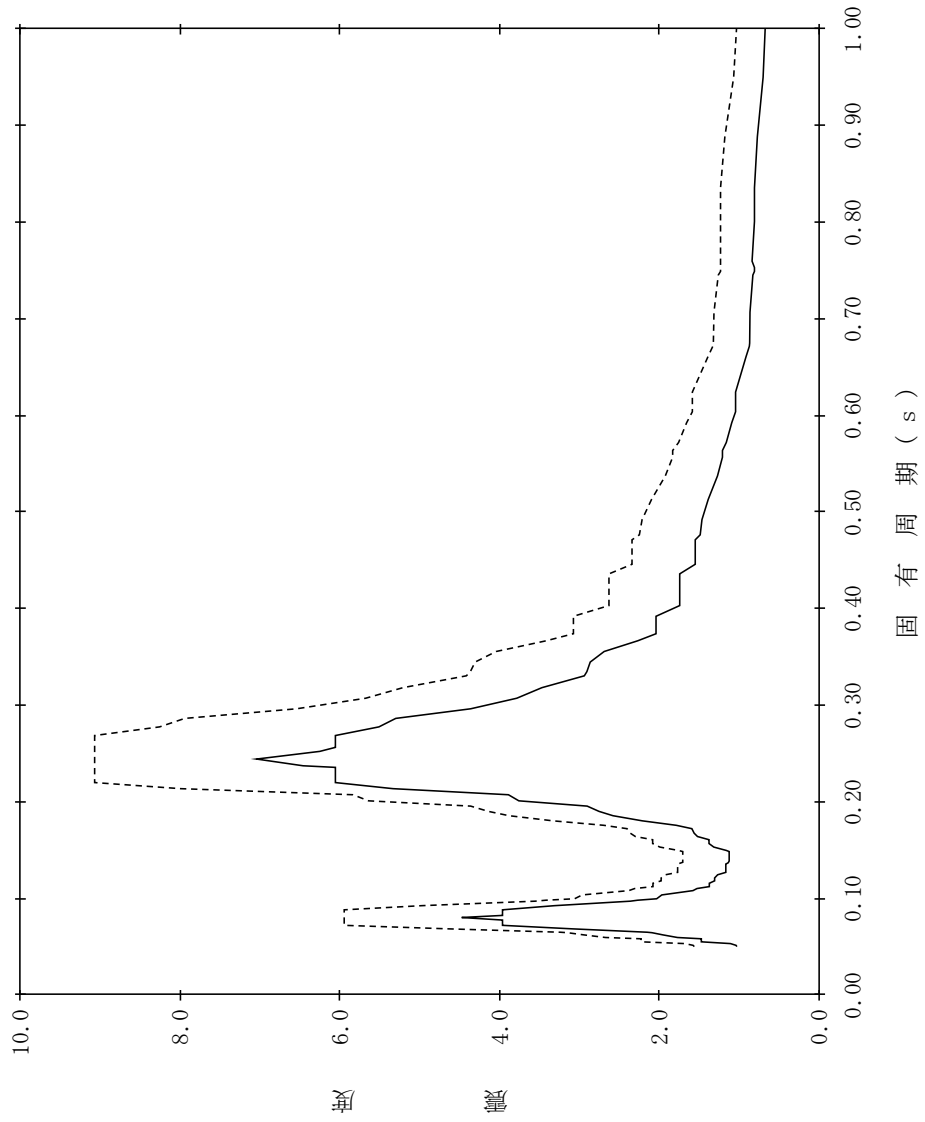
【NS2-TB-SdNS-TG91】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL13.000m
減衰定数：1.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



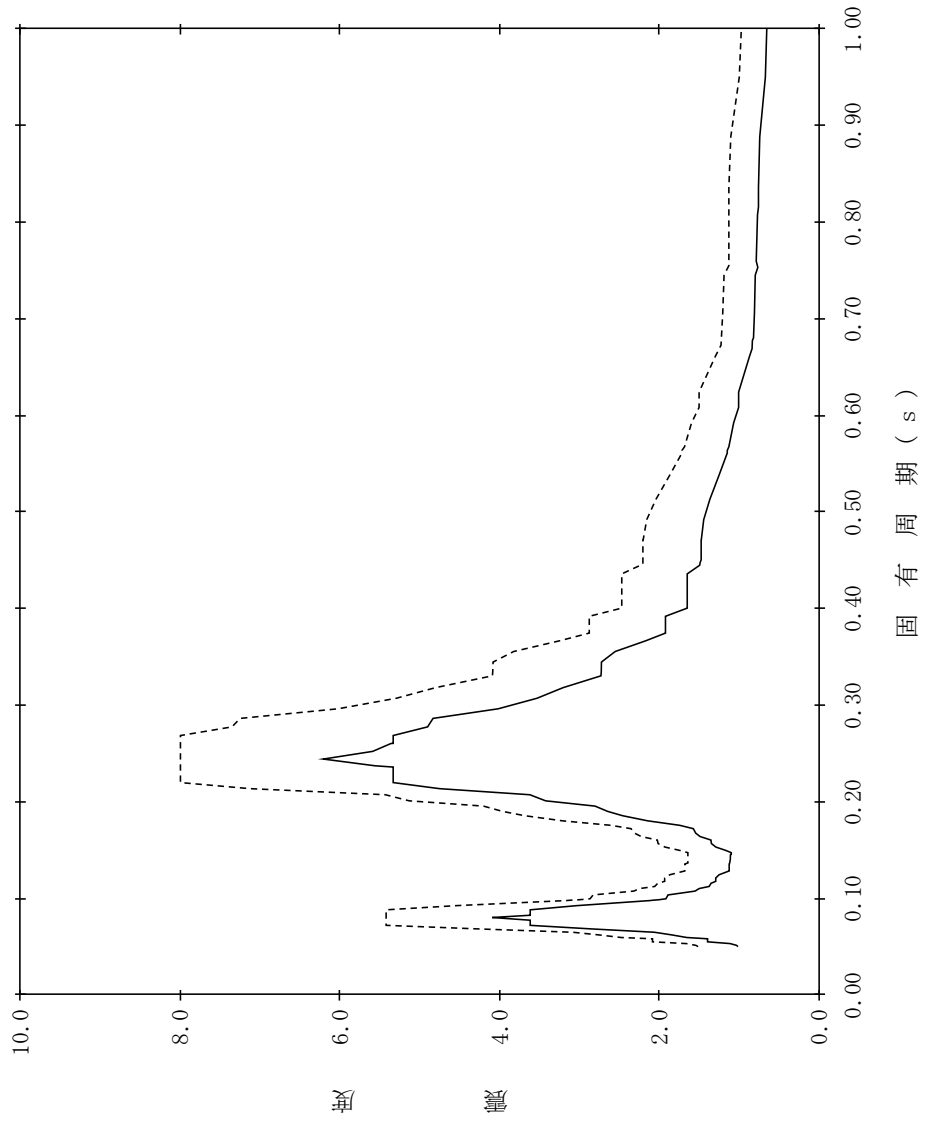
【NS2-TB-SdNS-TG92】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL13.000m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



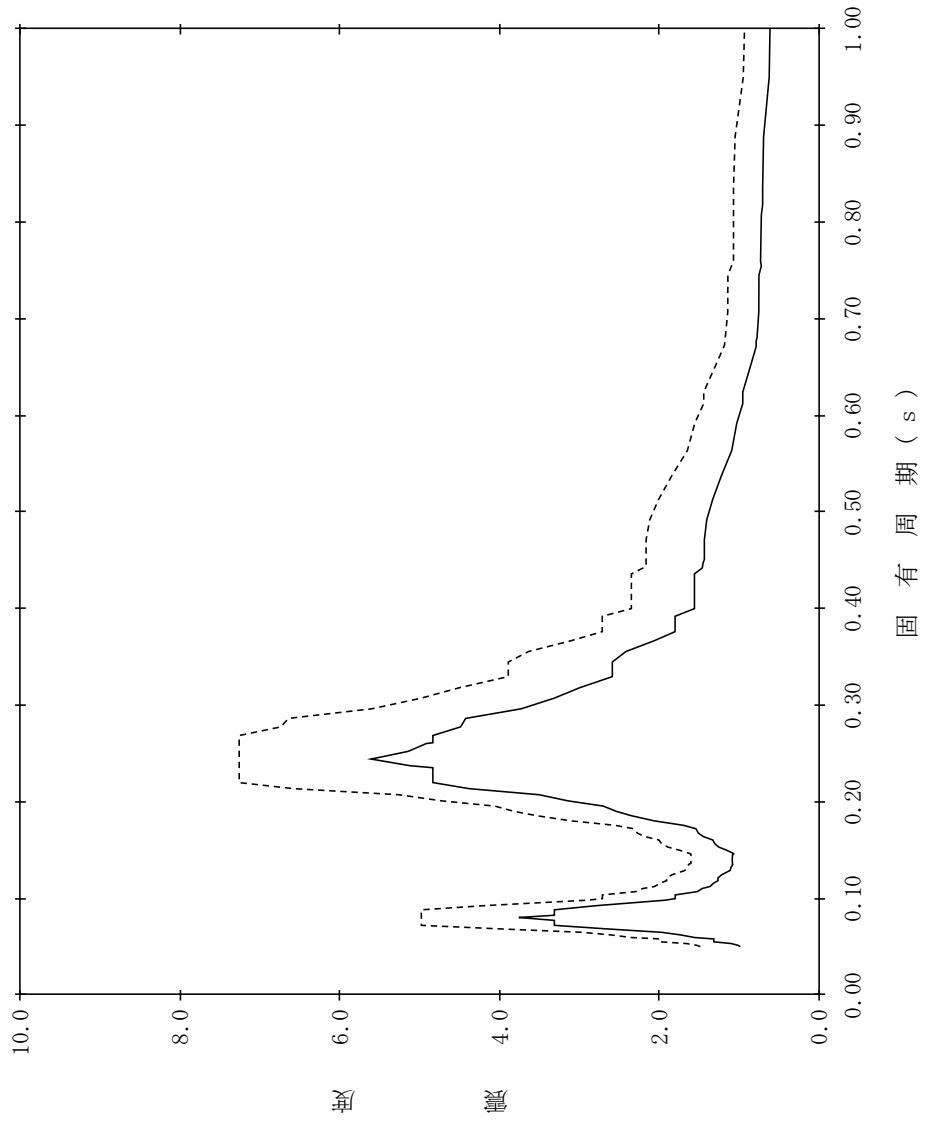
【NS2-TB-SdNS-TG93】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



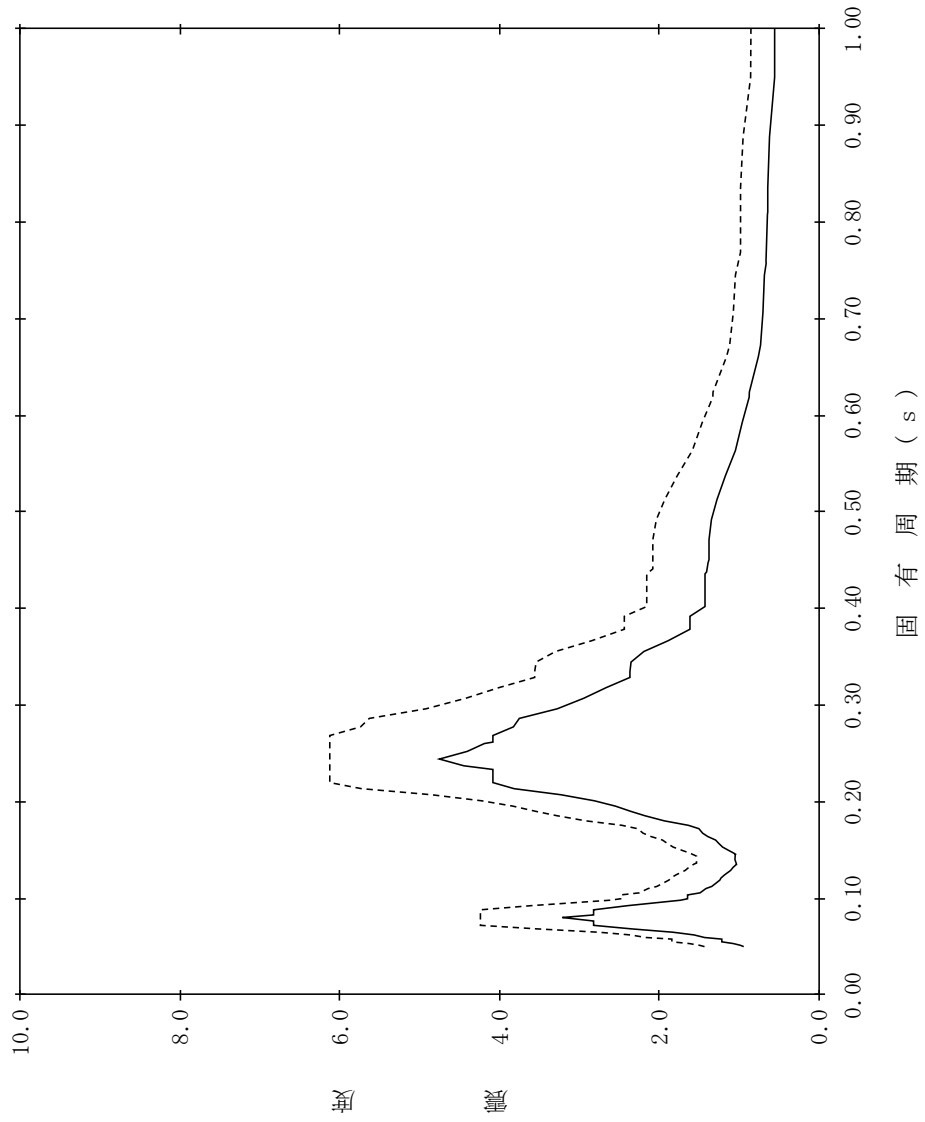
【NS2-TB-SdNS-TG94】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



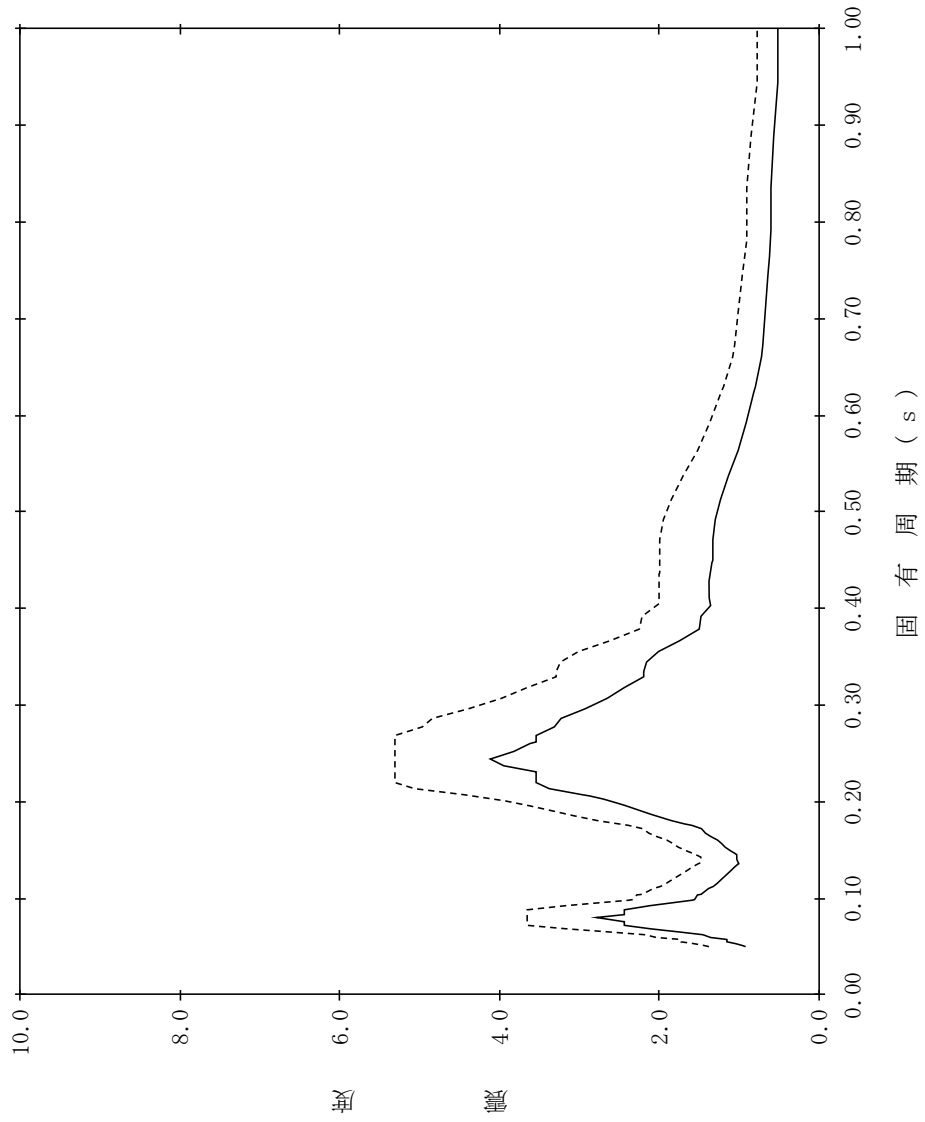
【NS2-TB-SdNS-TG95】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



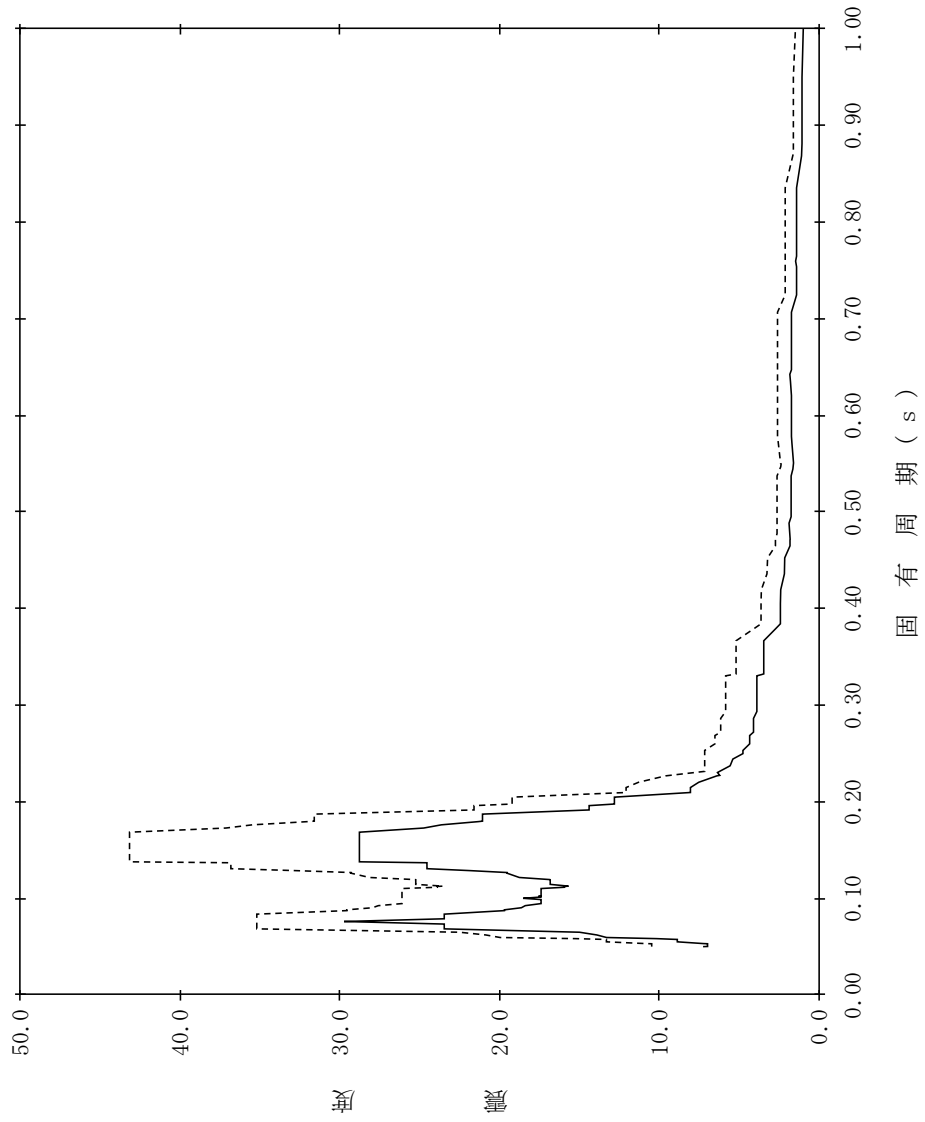
【NS2-TB-SdNS-TG96】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL13.000m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



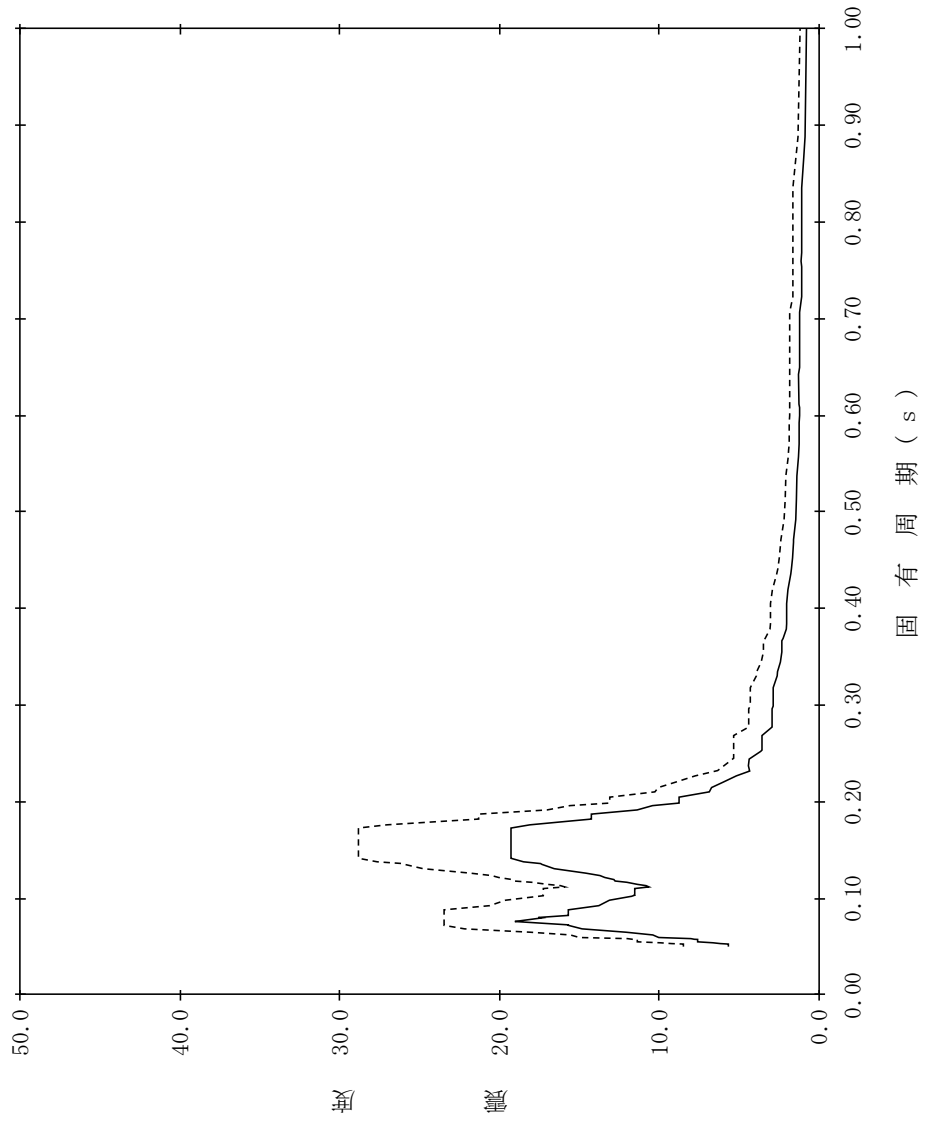
【NS2-TB-SdEW-TB1】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



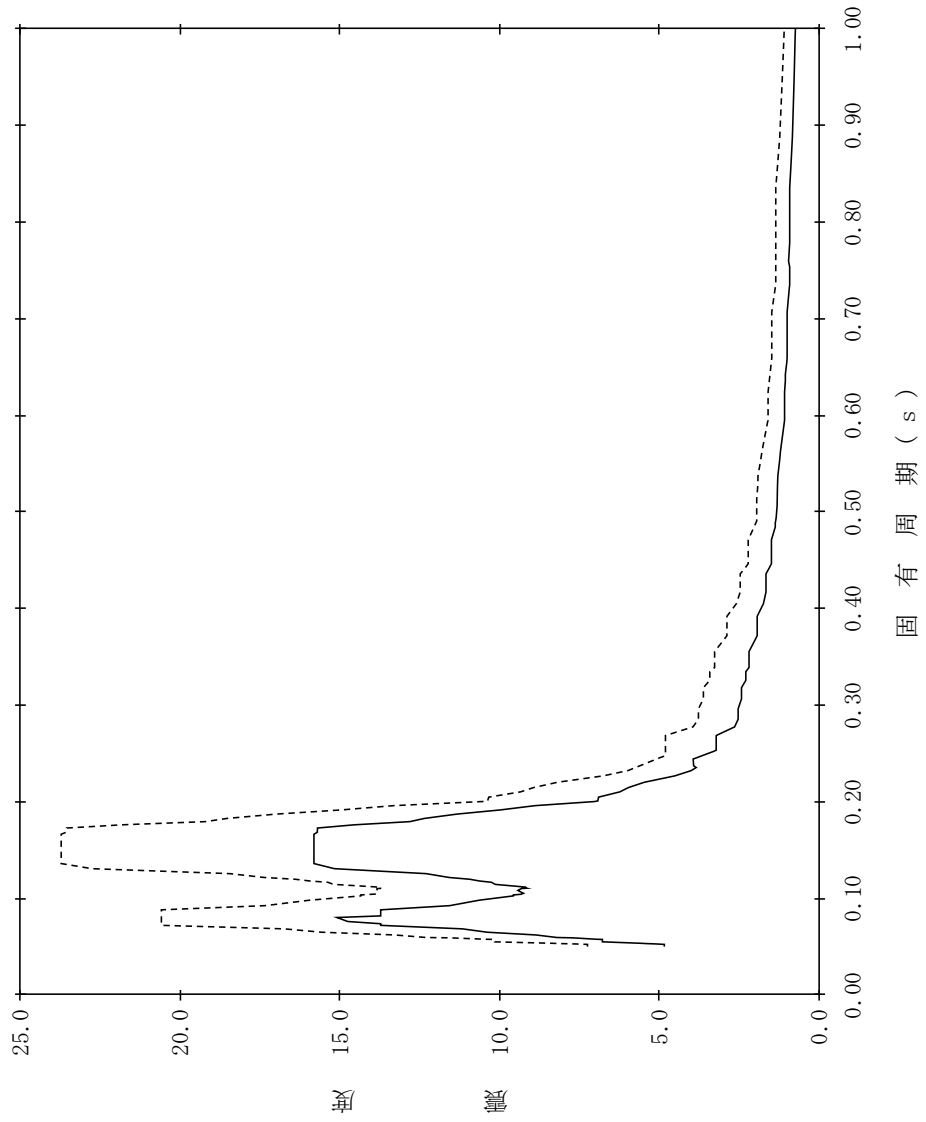
【NS2-TB-SdEW-TB2】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



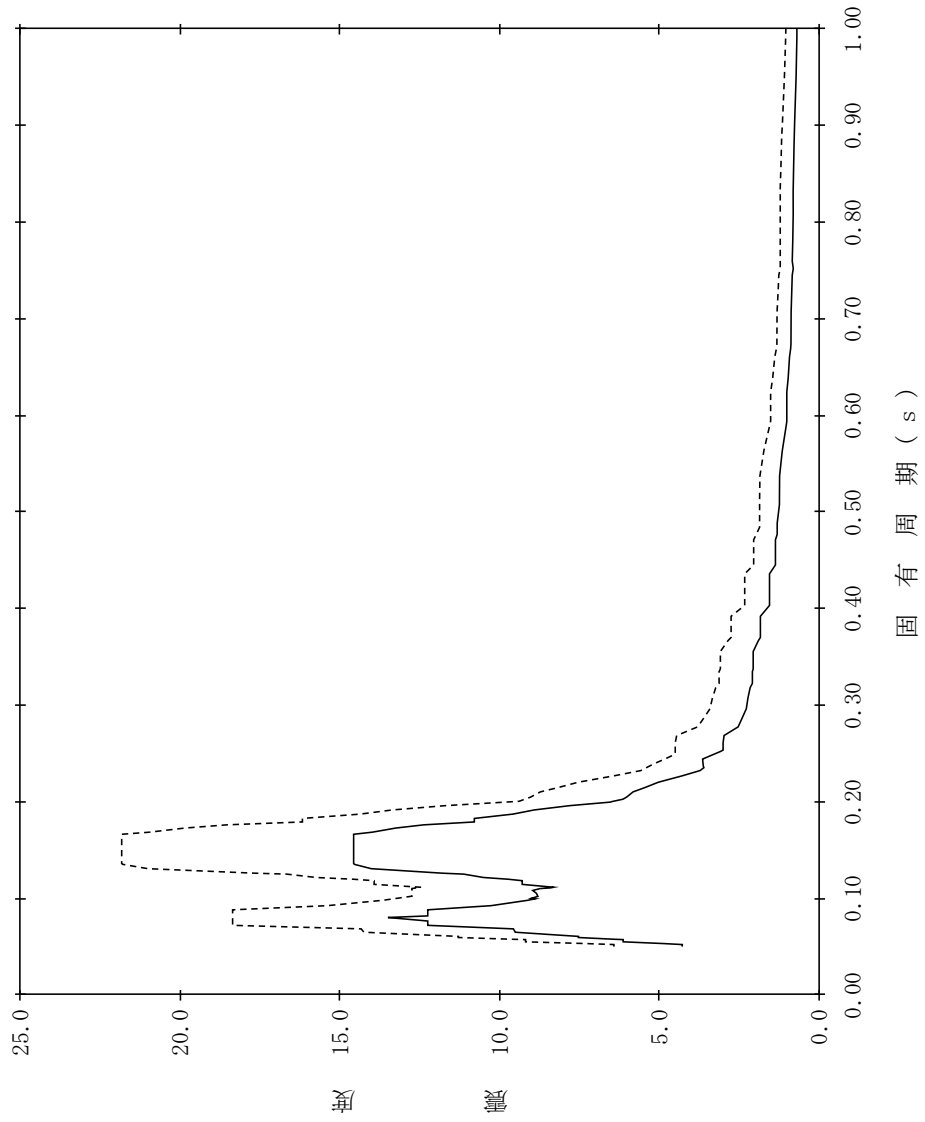
【NS2-TB-SdEW-TB3】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



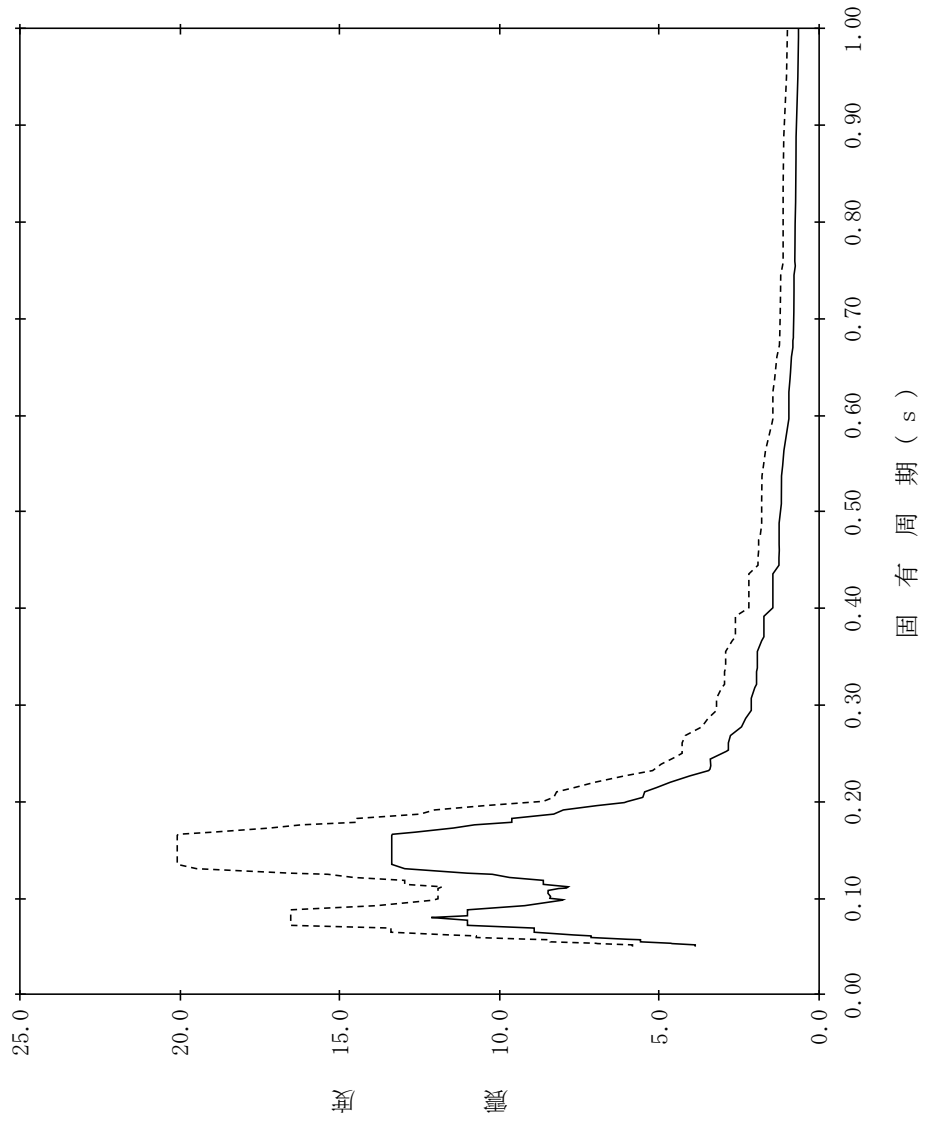
【NS2-TB-SdEW-TB4】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



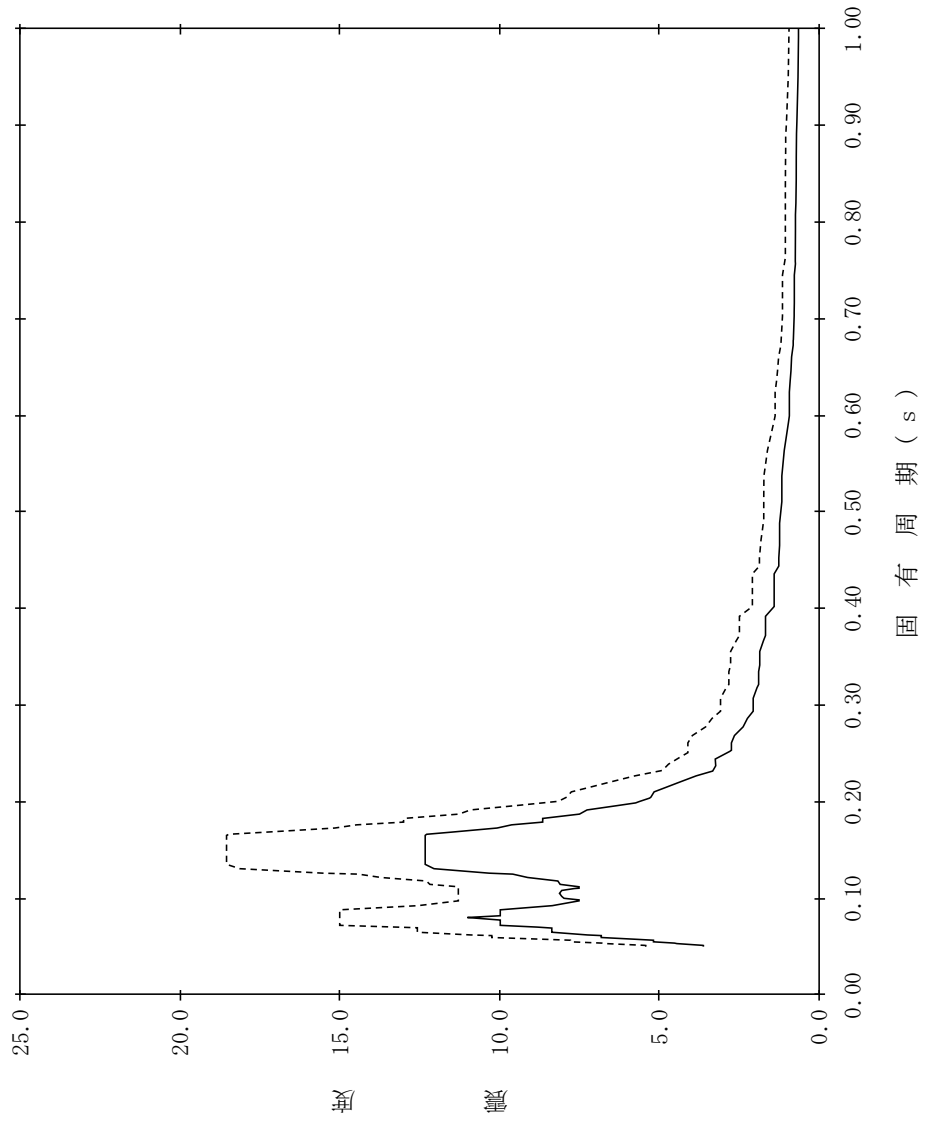
【NS2-TB-SdEW-TB5】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



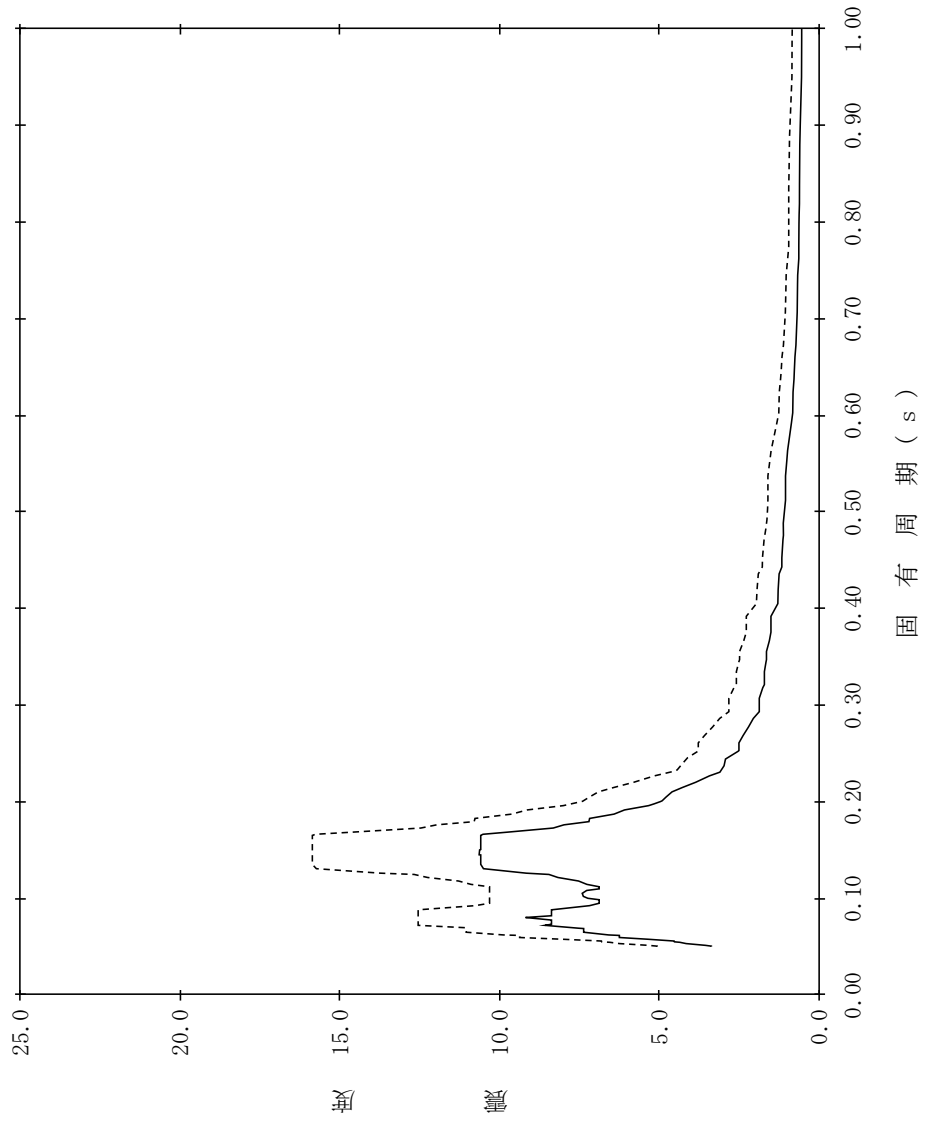
【NS2-TB-SdEW-TB6】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



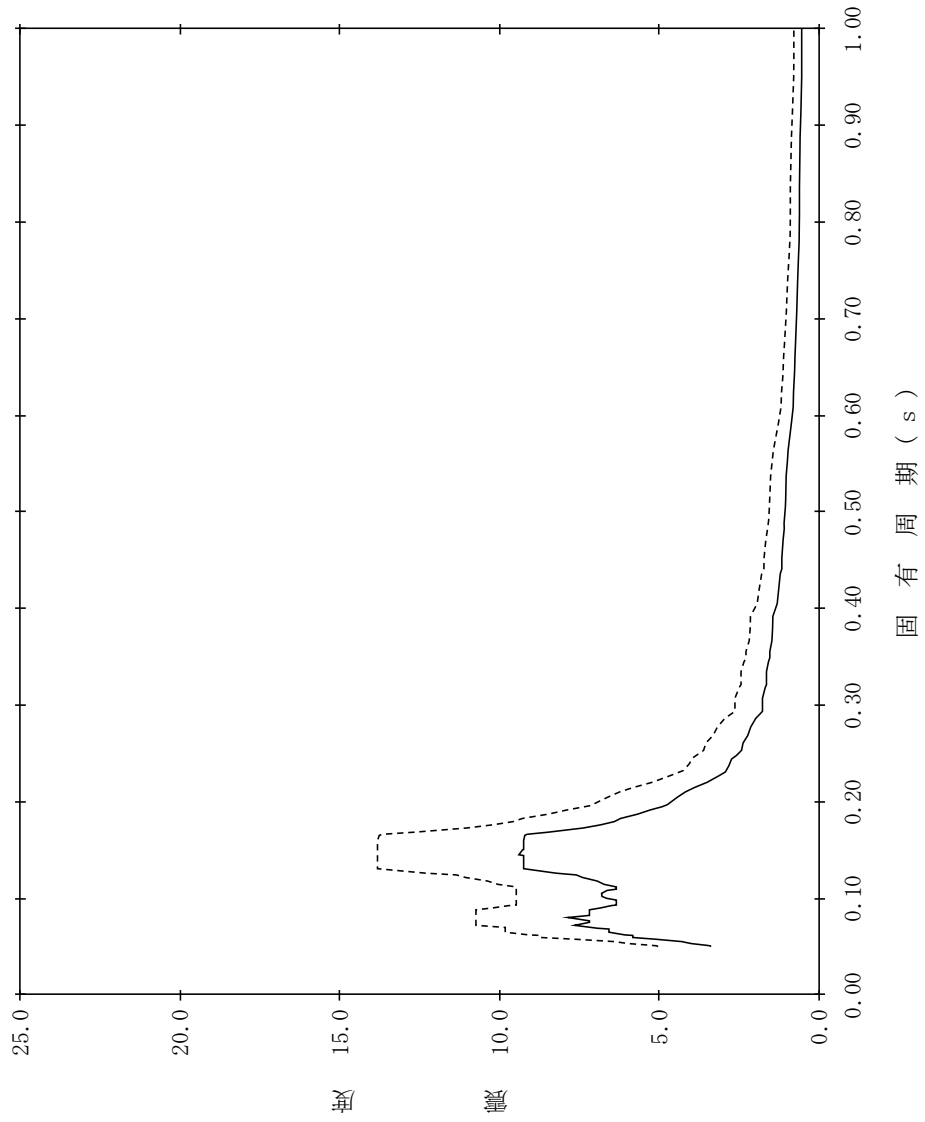
【NS2-TB-SdEW-TB7】

構造物名：タービン建物
標高：EL41.600m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



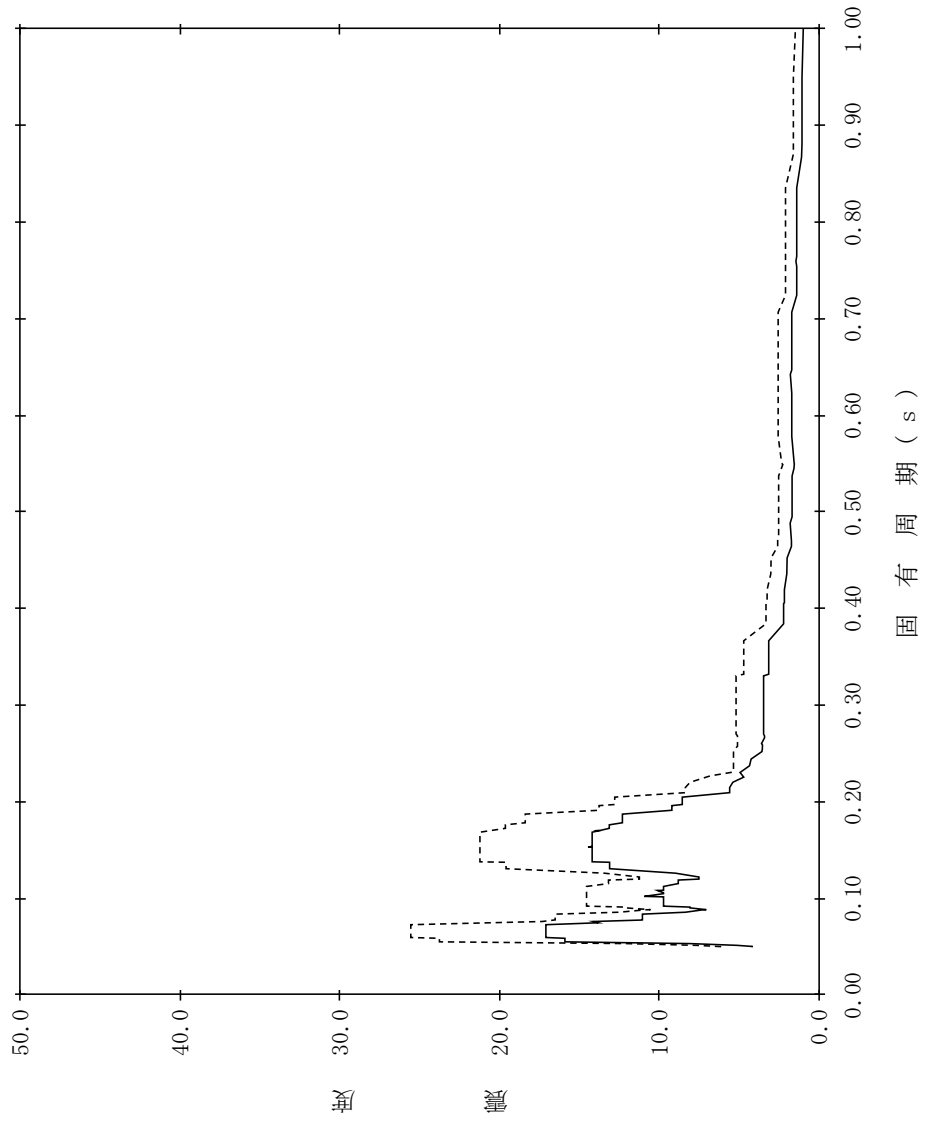
【NS2-TB-SdEW-TB8】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



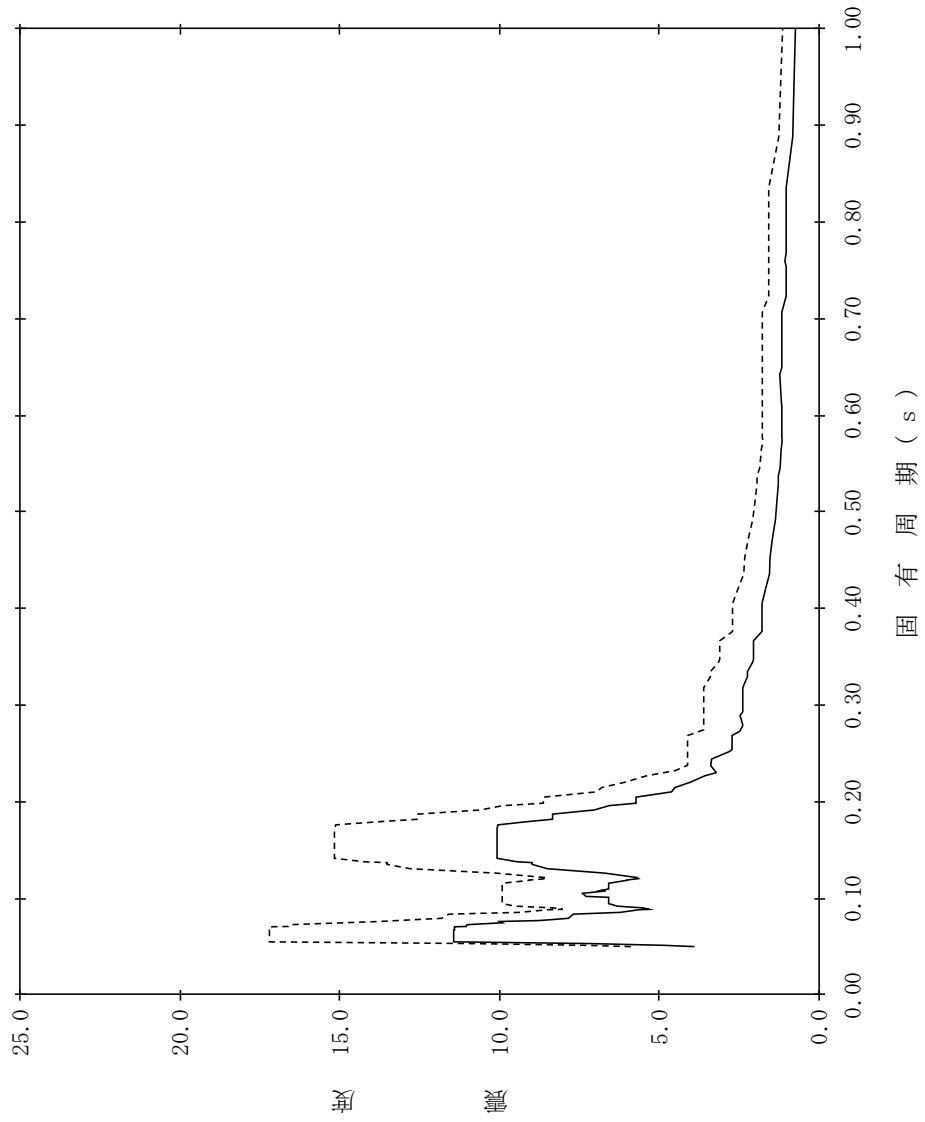
【NS2-TB-SdEW-TB9】

構造物名：タービン建物
標高：EL33.700m
減衰定数：0.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



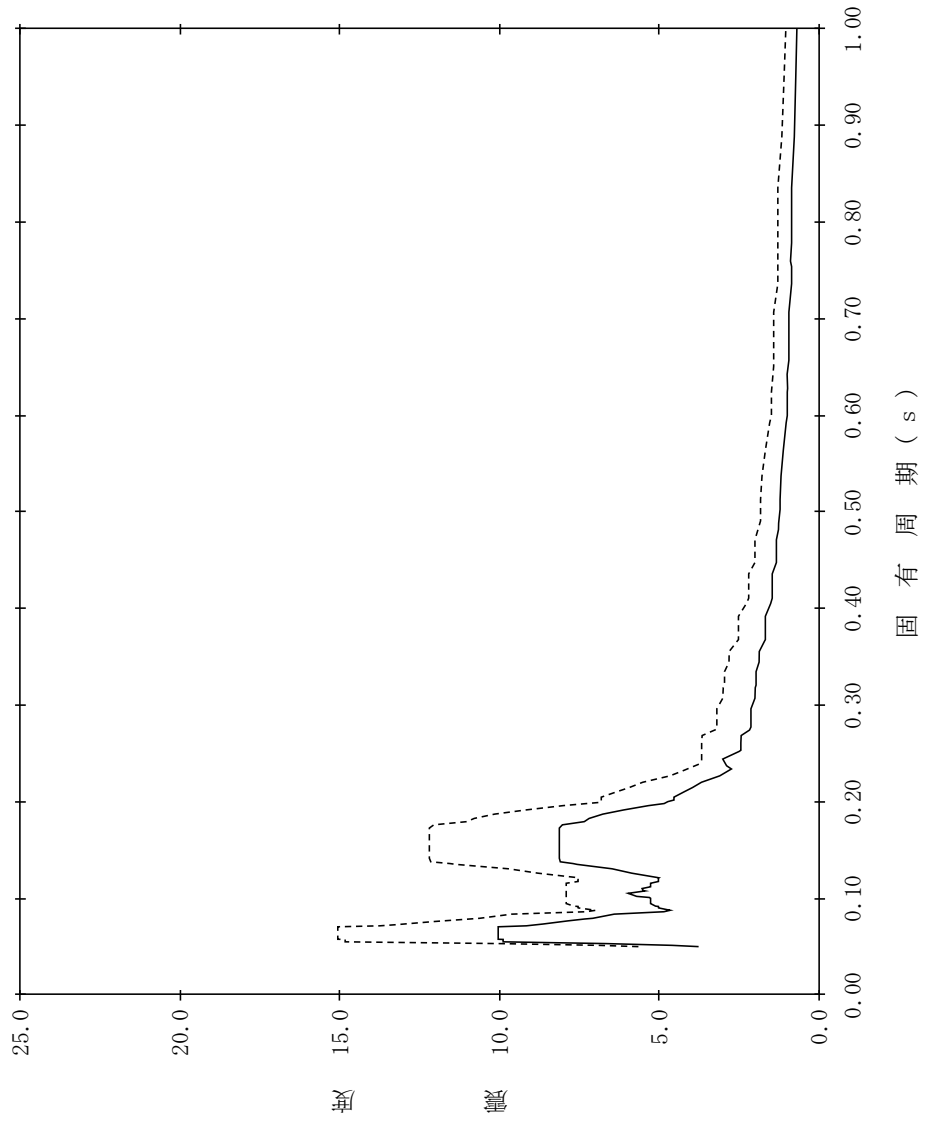
【NS2-TB-SdEW-TB10】

構造物名：タービン建物
標高：EL33.700m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



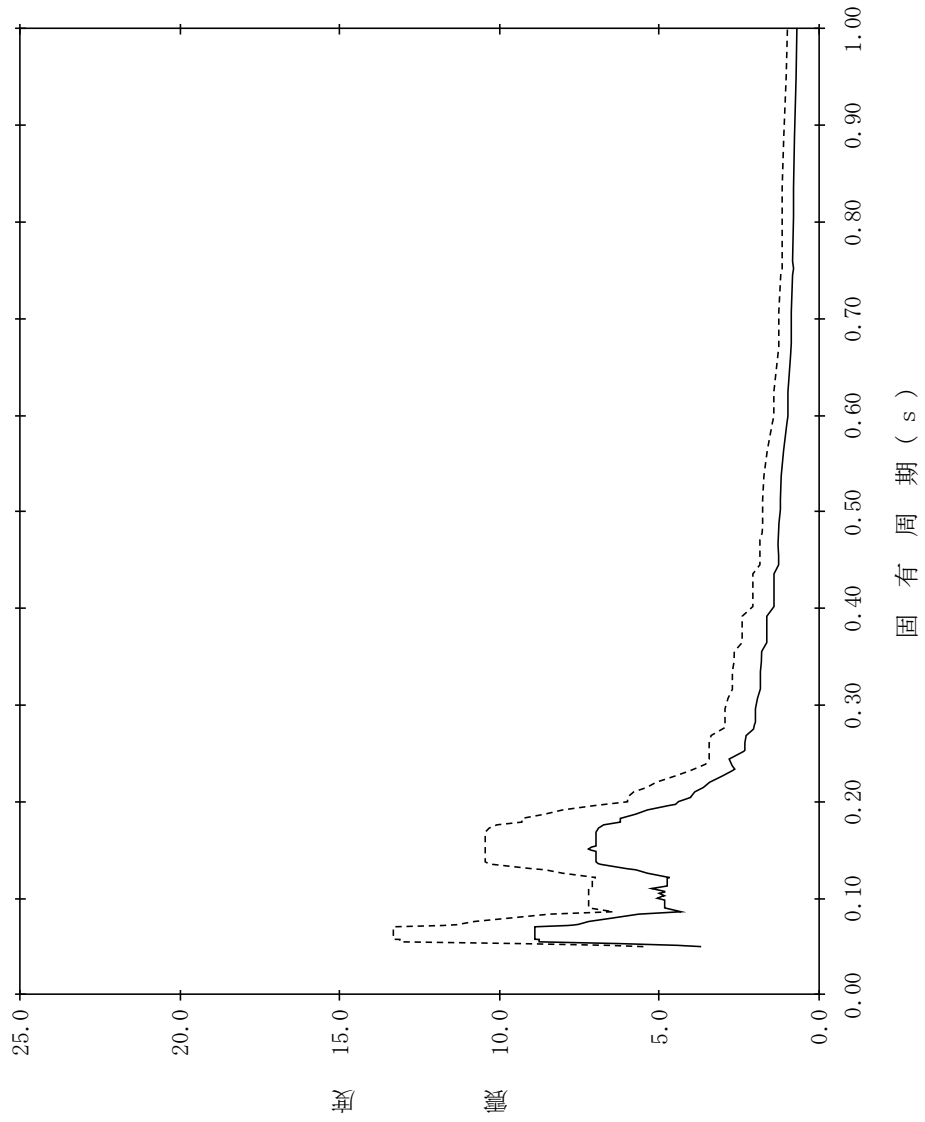
【NS2-TB-SdEW-TB11】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-TB-SdEW-TB12】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

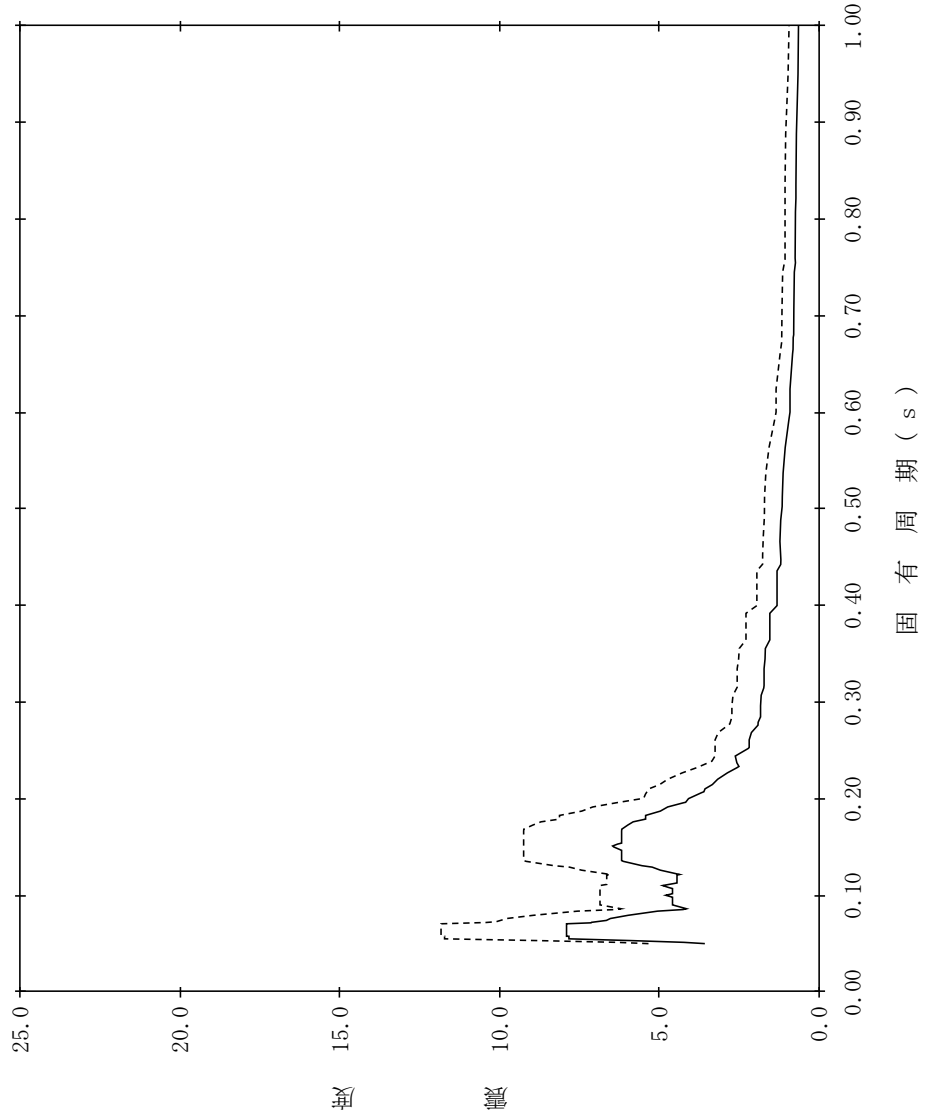


【NS2-TB-SdEW-TB13】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：2.5%

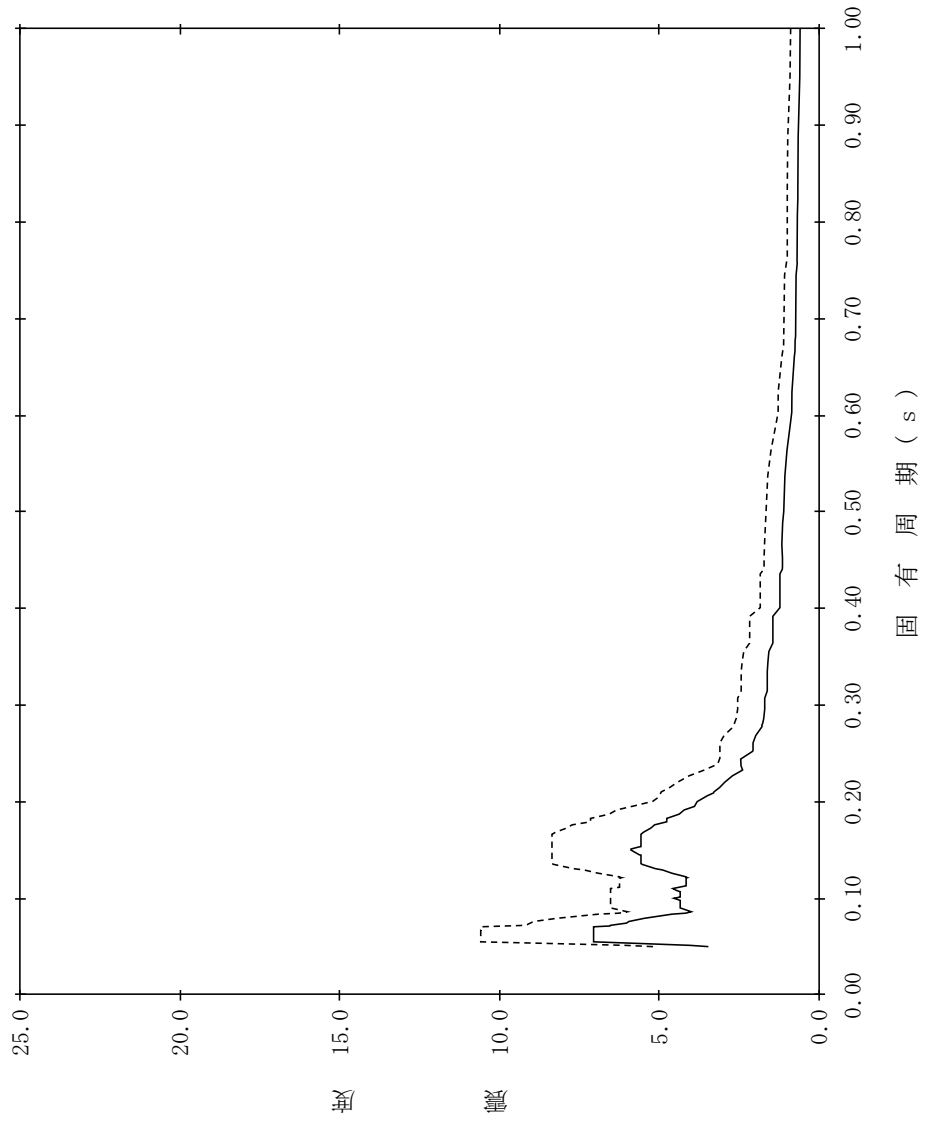
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)

- - - - - 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



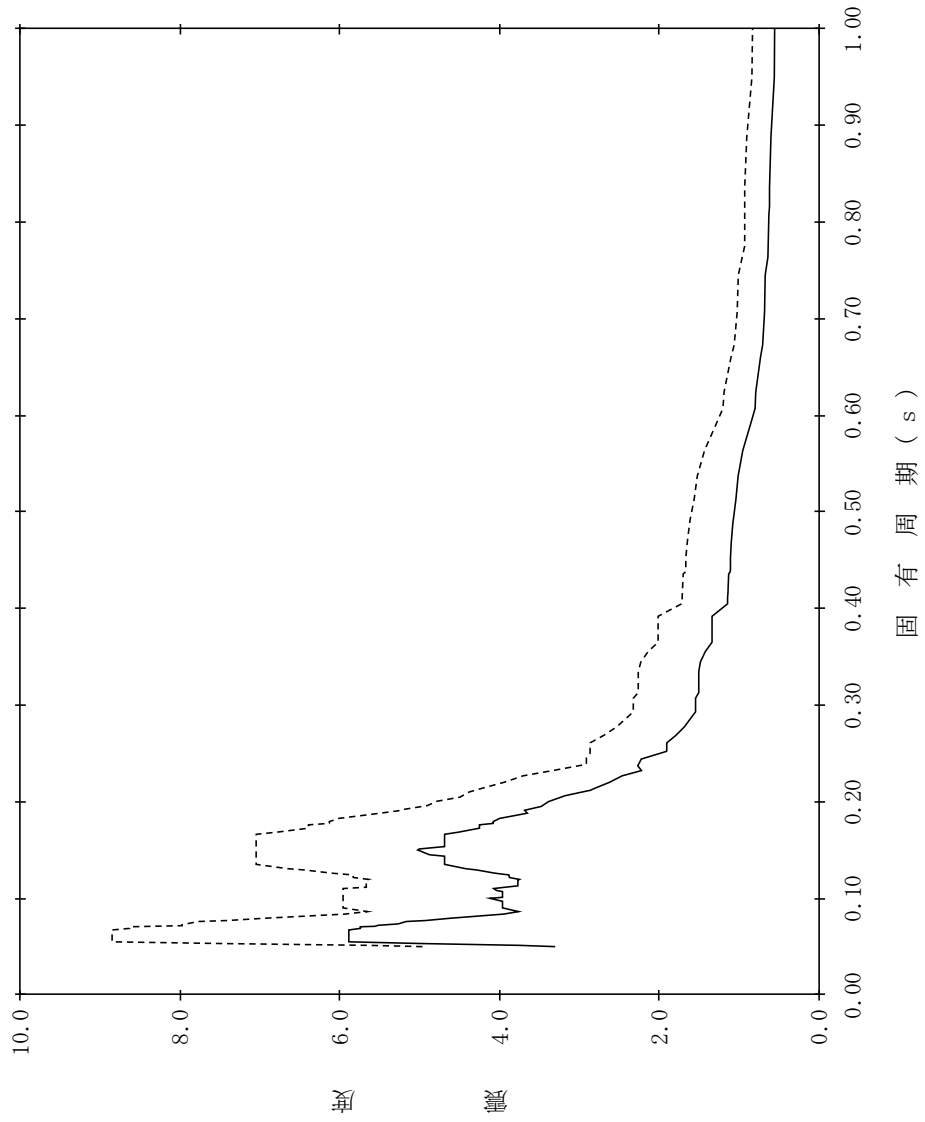
【NS2-TB-SdEW-TB14】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



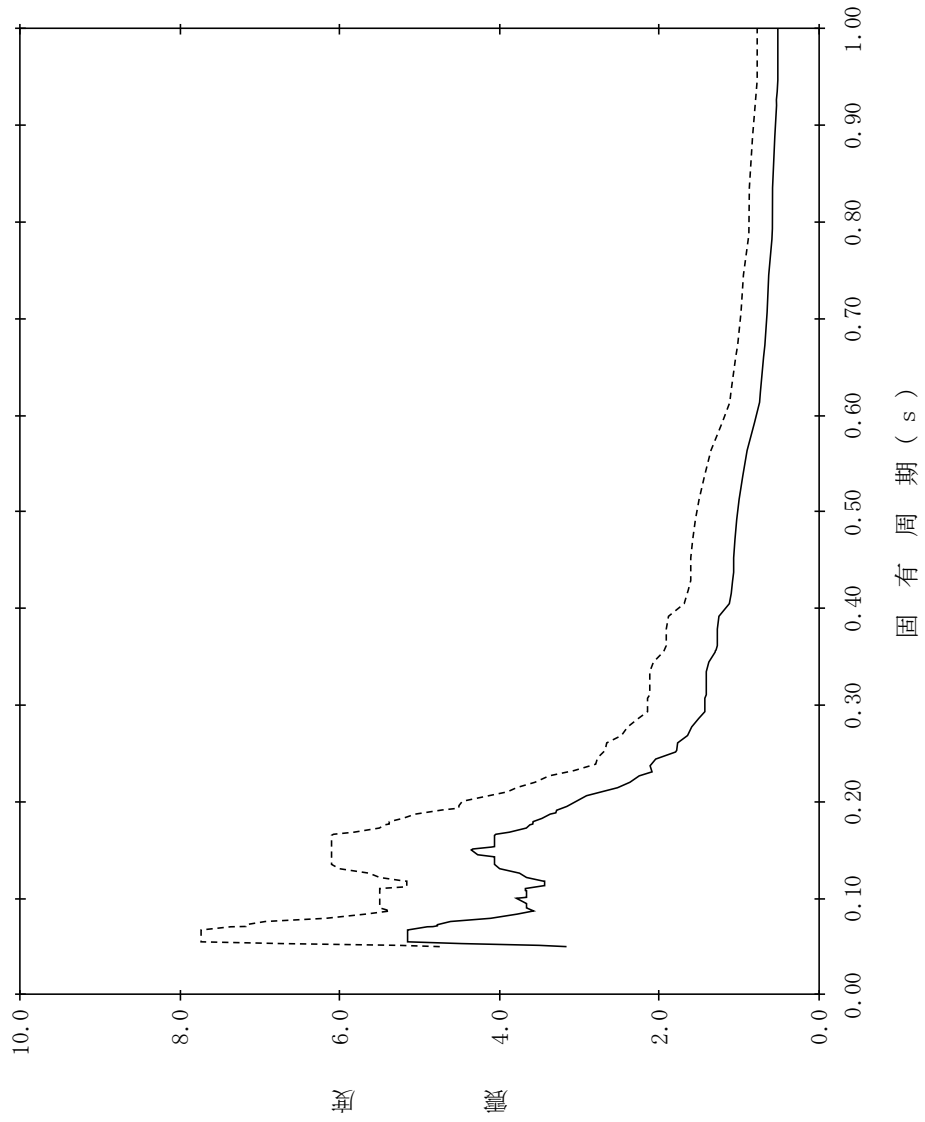
【NS2-TB-SdEW-TB15】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



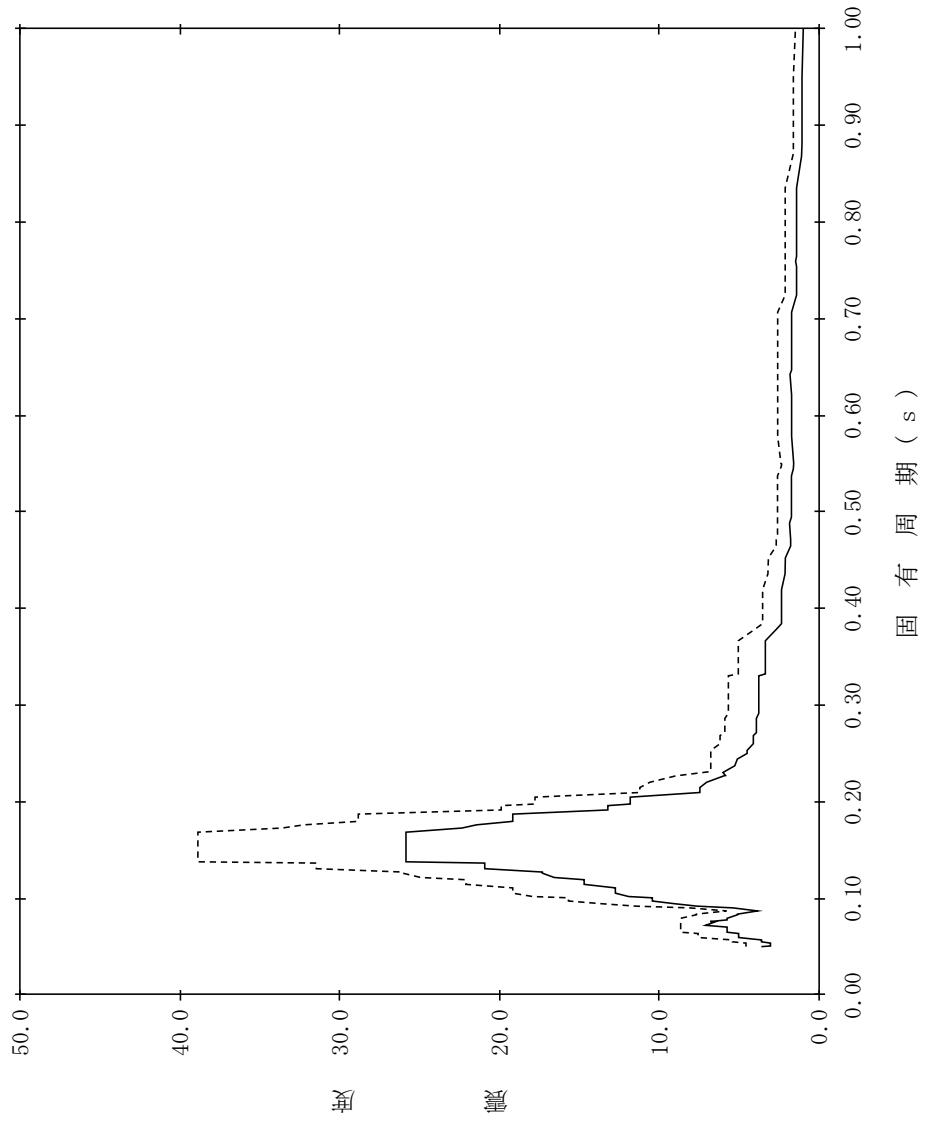
【NS2-TB-SdEW-TB16】

構造物名：タービン建物
標高：EL33.700m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



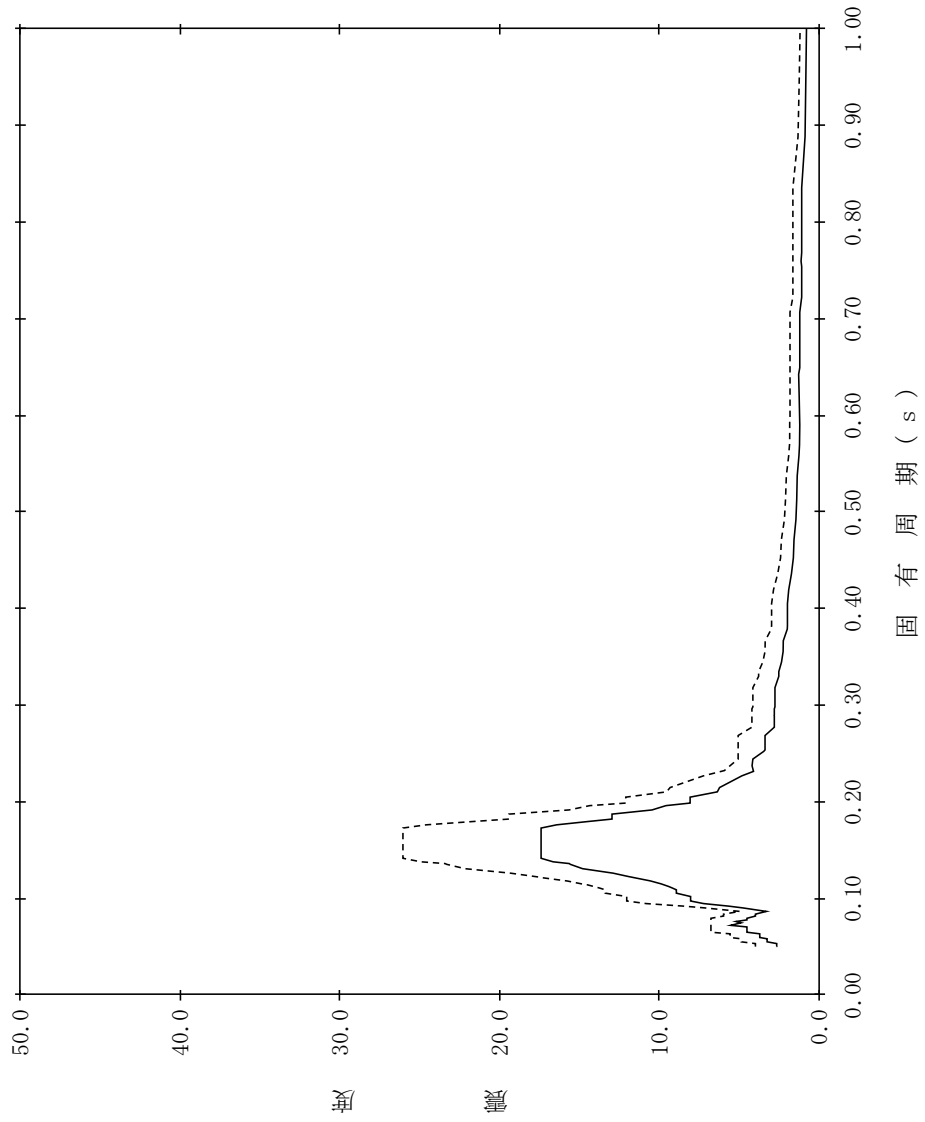
【NS2-TB-SdEW-TB17】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



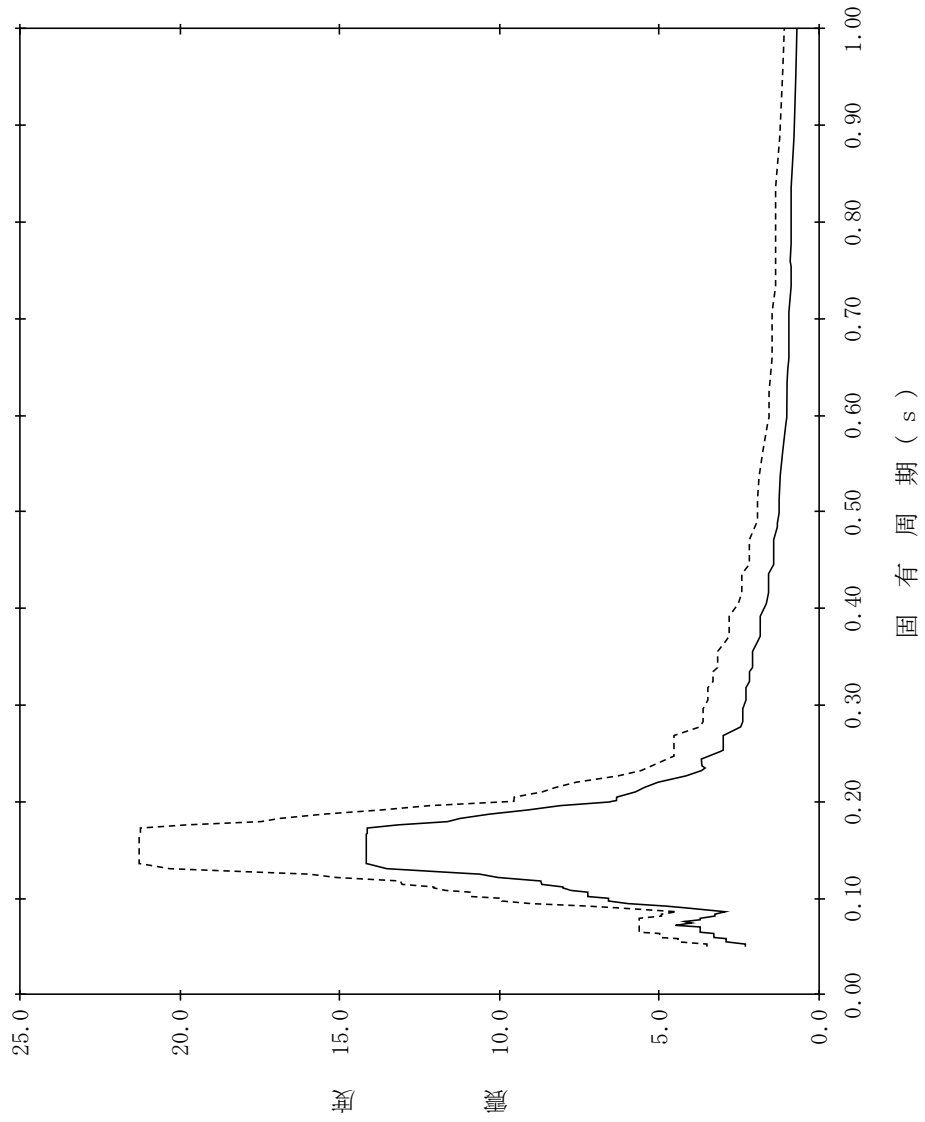
【NS2-TB-SdEW-TB18】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 トル I (EW方向)
 トル II (EW方向)



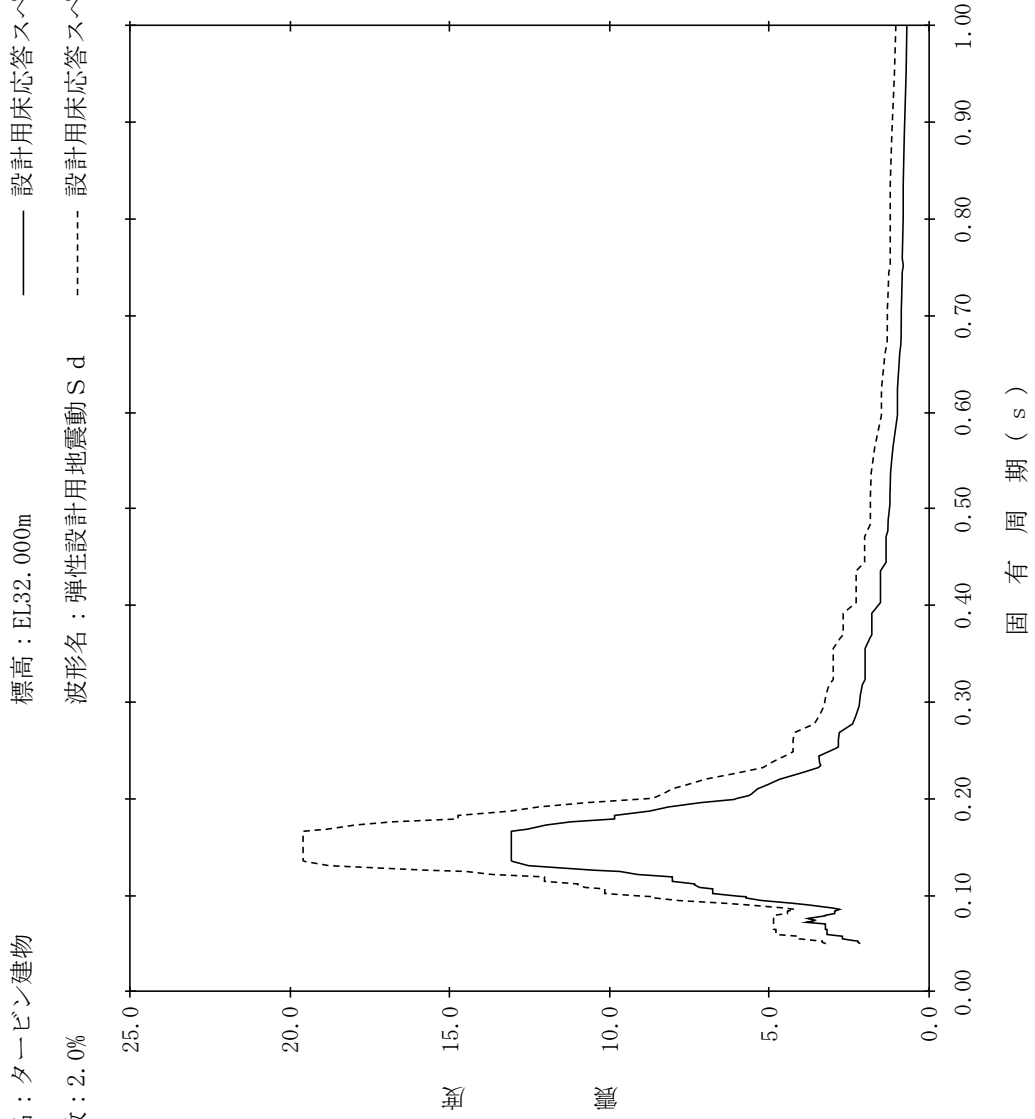
【NS2-TB-SdEW-TB19】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



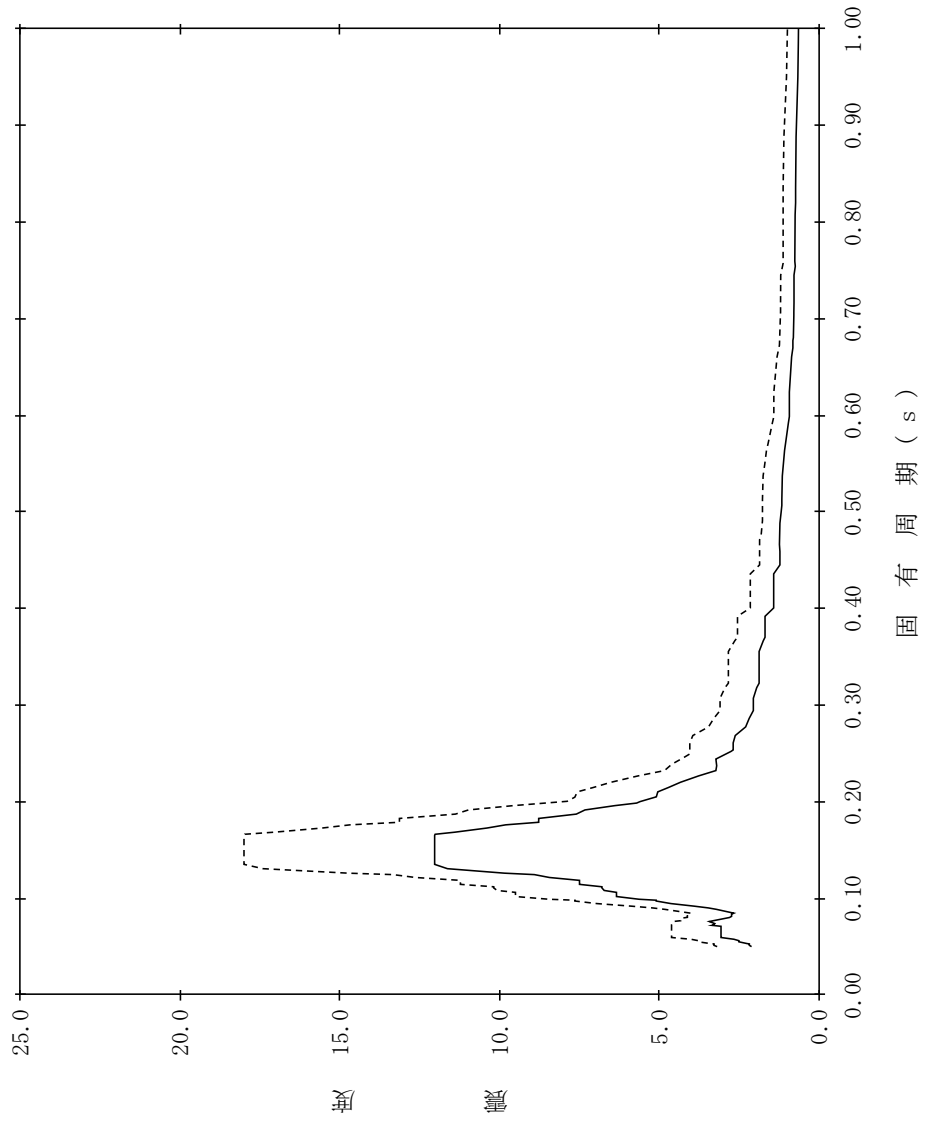
【NS2-TB-SdEW-TB20】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：2.0%



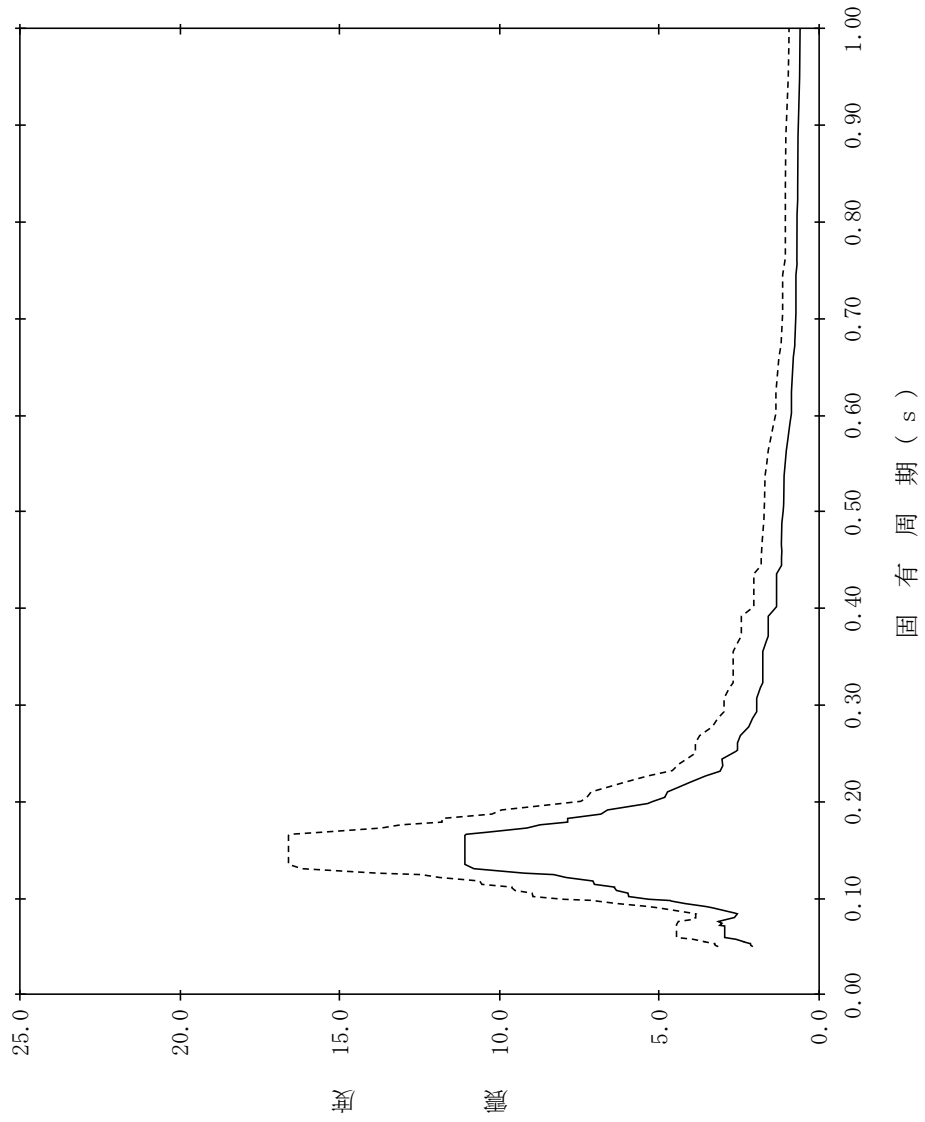
【NS2-TB-SdEW-TB21】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



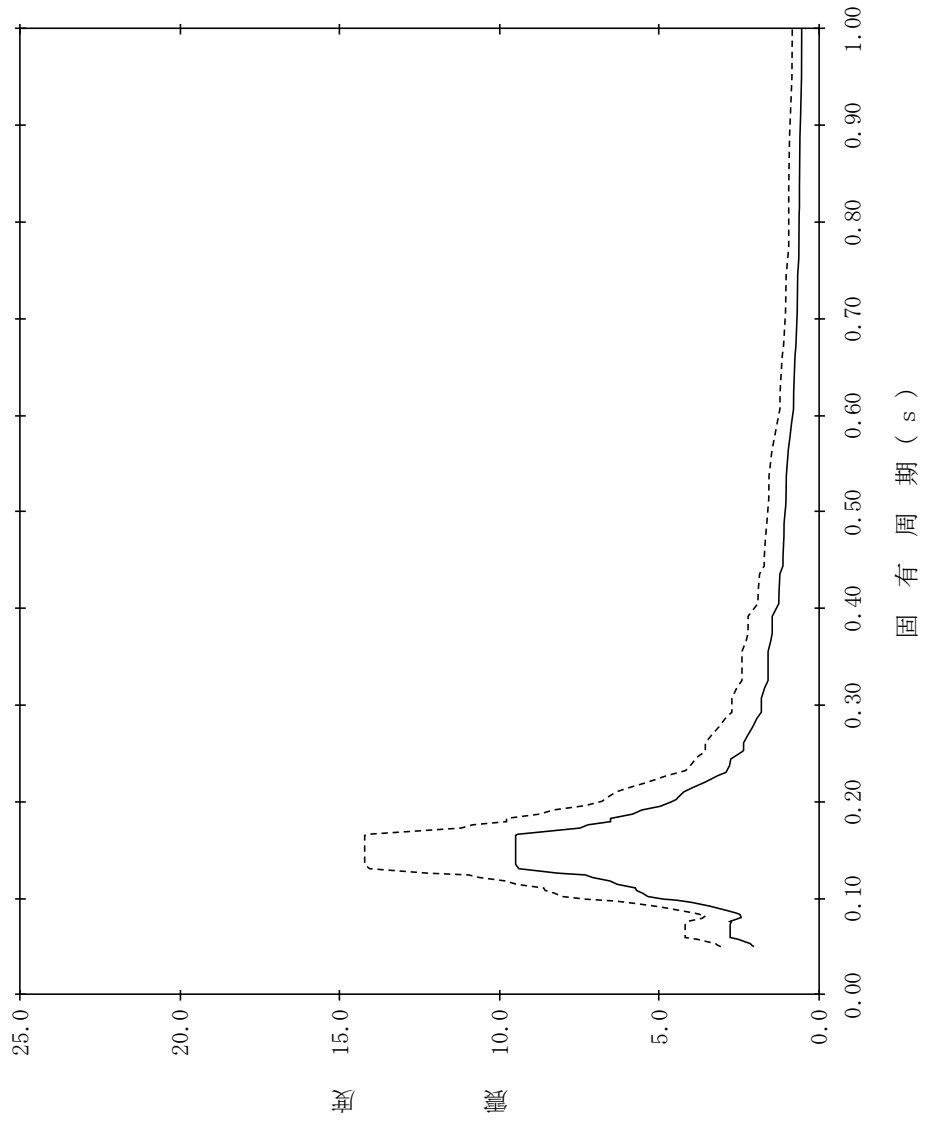
【NS2-TB-SdEW-TB22】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



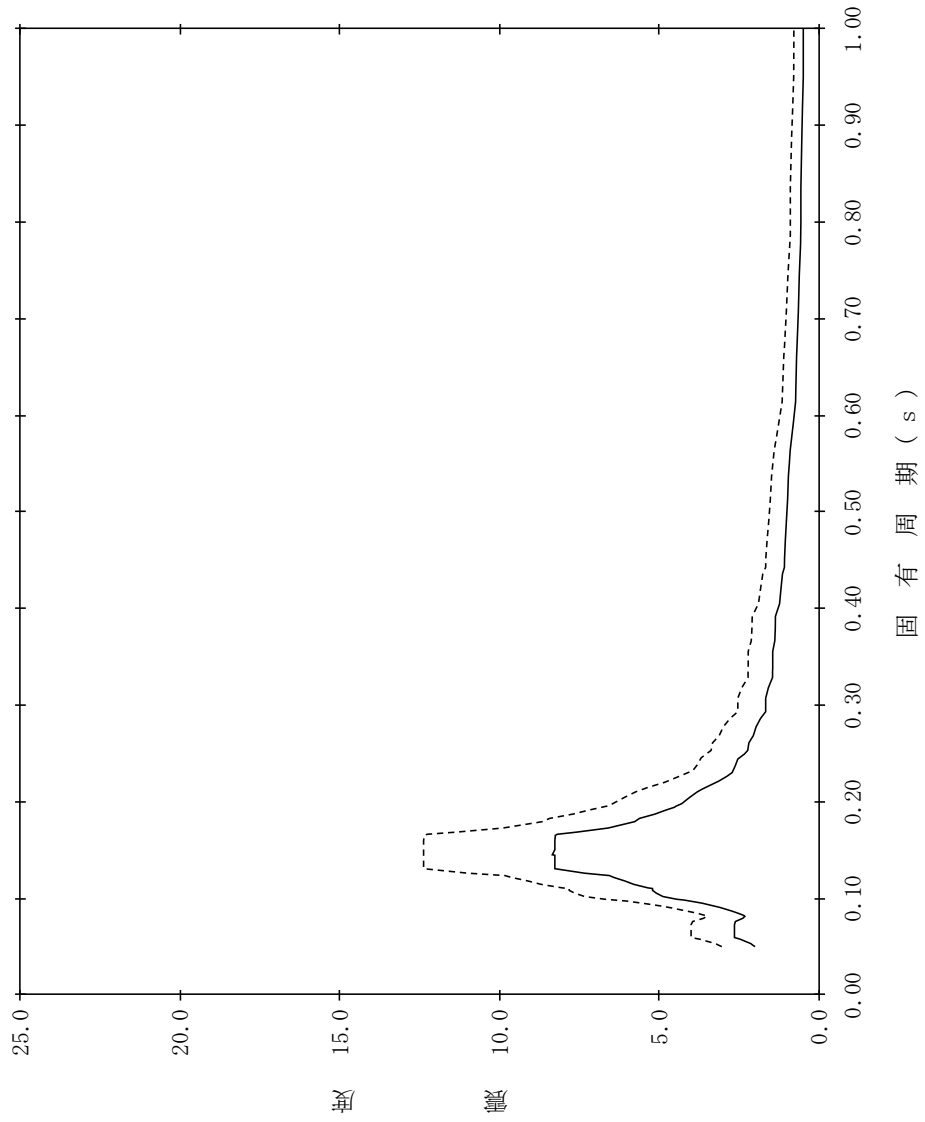
【NS2-TB-SdEW-TB23】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



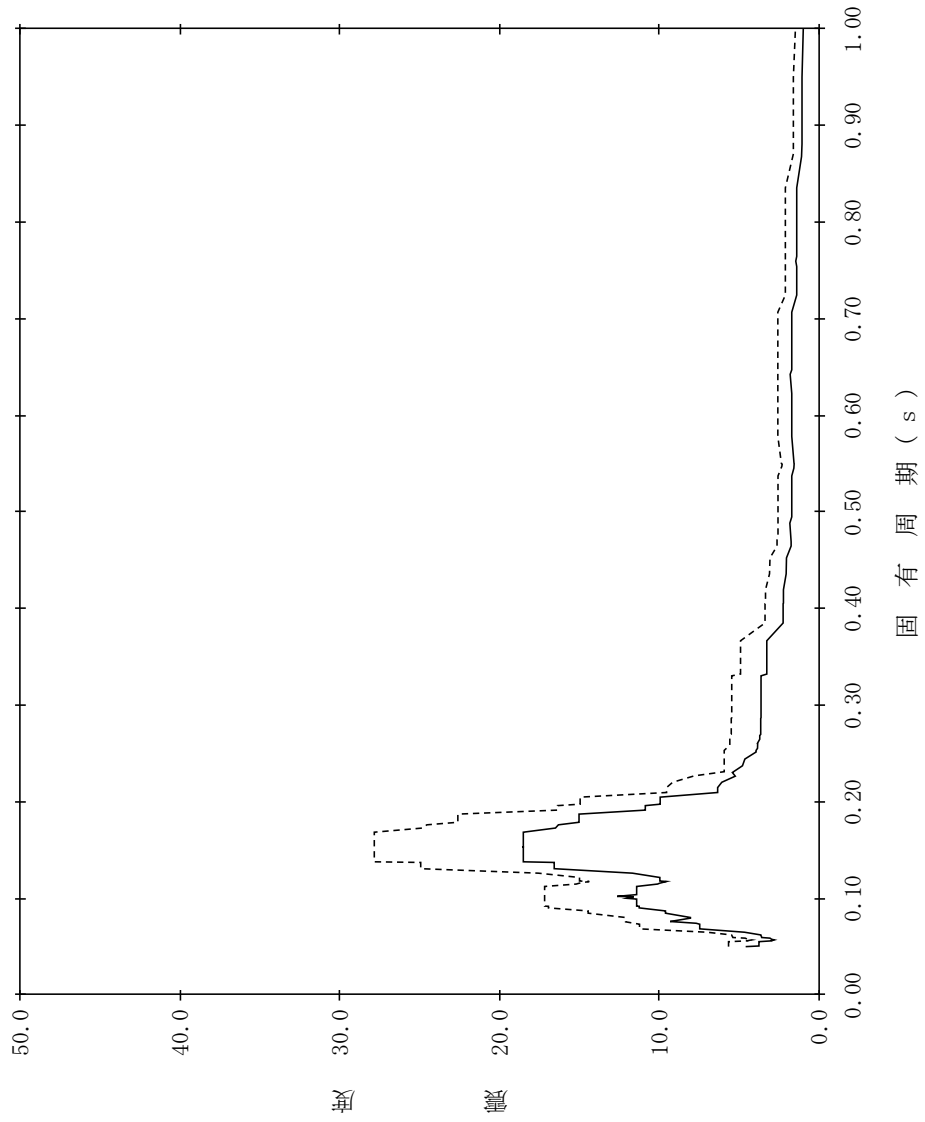
【NS2-TB-SdEW-TB24】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



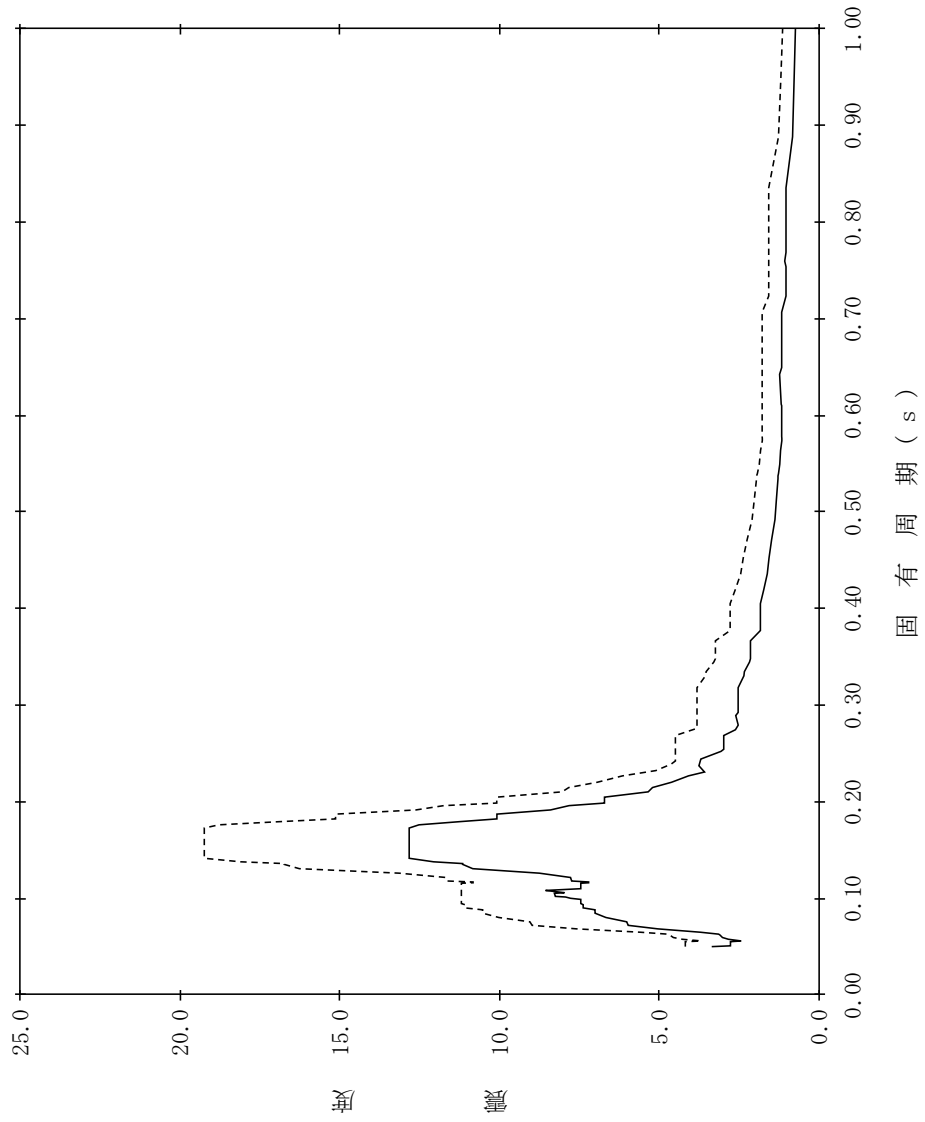
【NS2-TB-SdEW-TB25】

構造物名：タービン建物
標高：EL30.550m
減衰定数：0.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



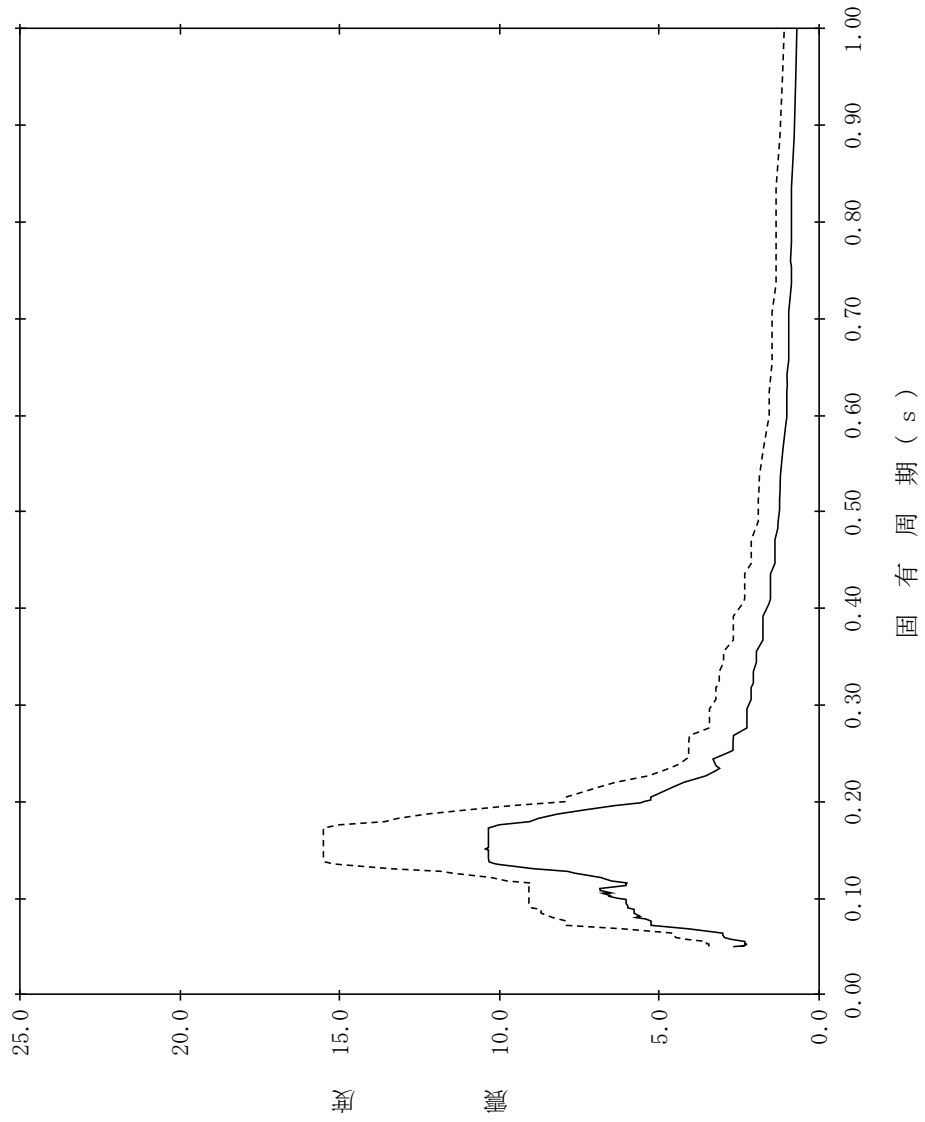
【NS2-TB-SdEW-TB26】

構造物名：タービン建物
 標高：EL30.550m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



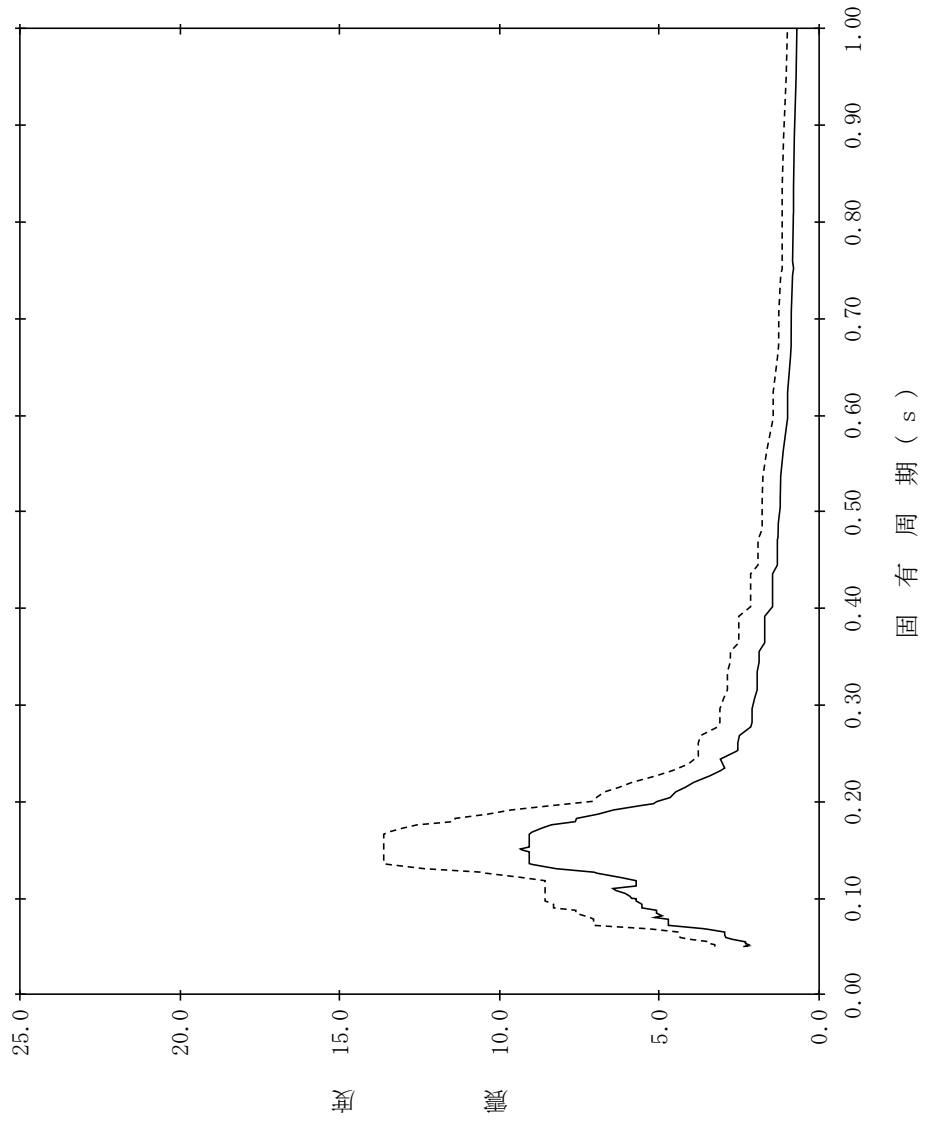
【NS2-TB-SdEW-TB27】

構造物名：タービン建物
 標高：EL30.550m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



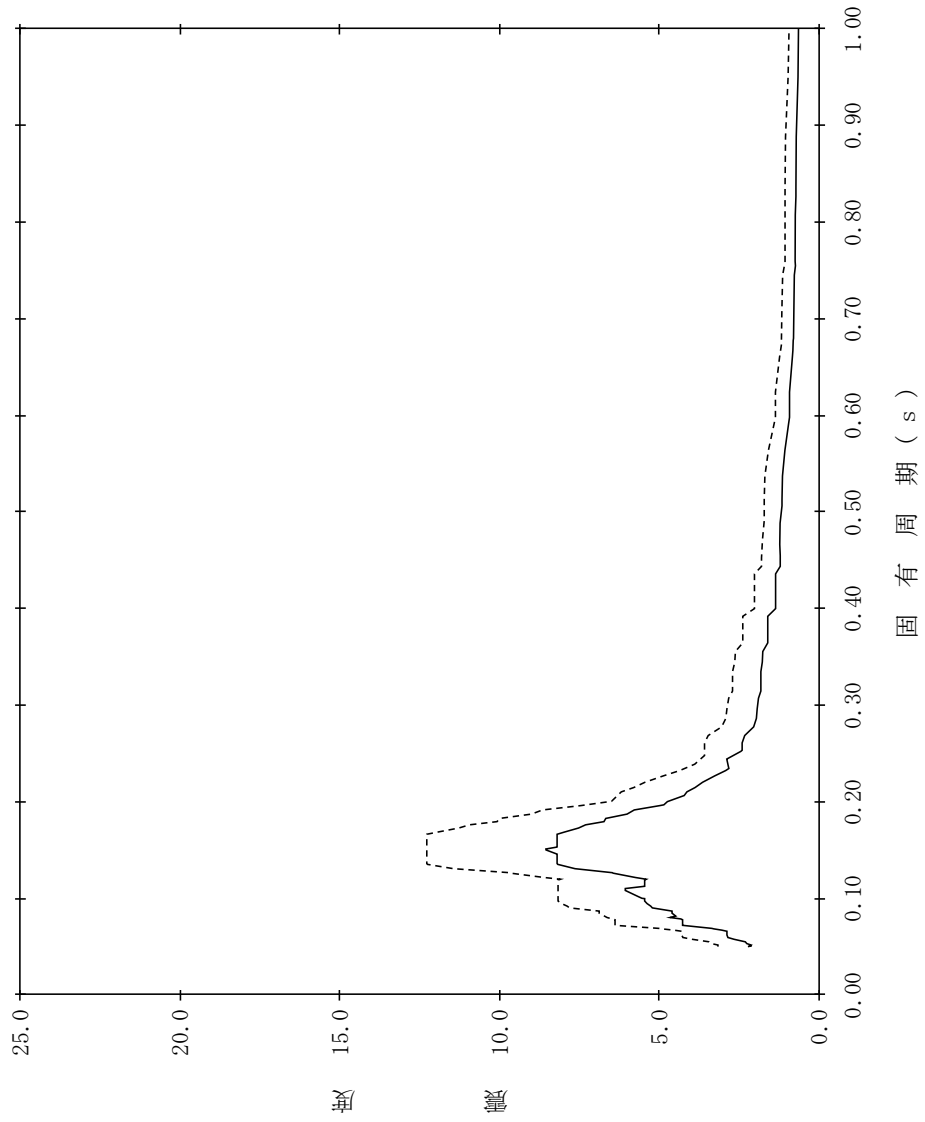
【NS2-TB-SdEW-TB28】

構造物名：タービン建物
標高：EL30.550m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



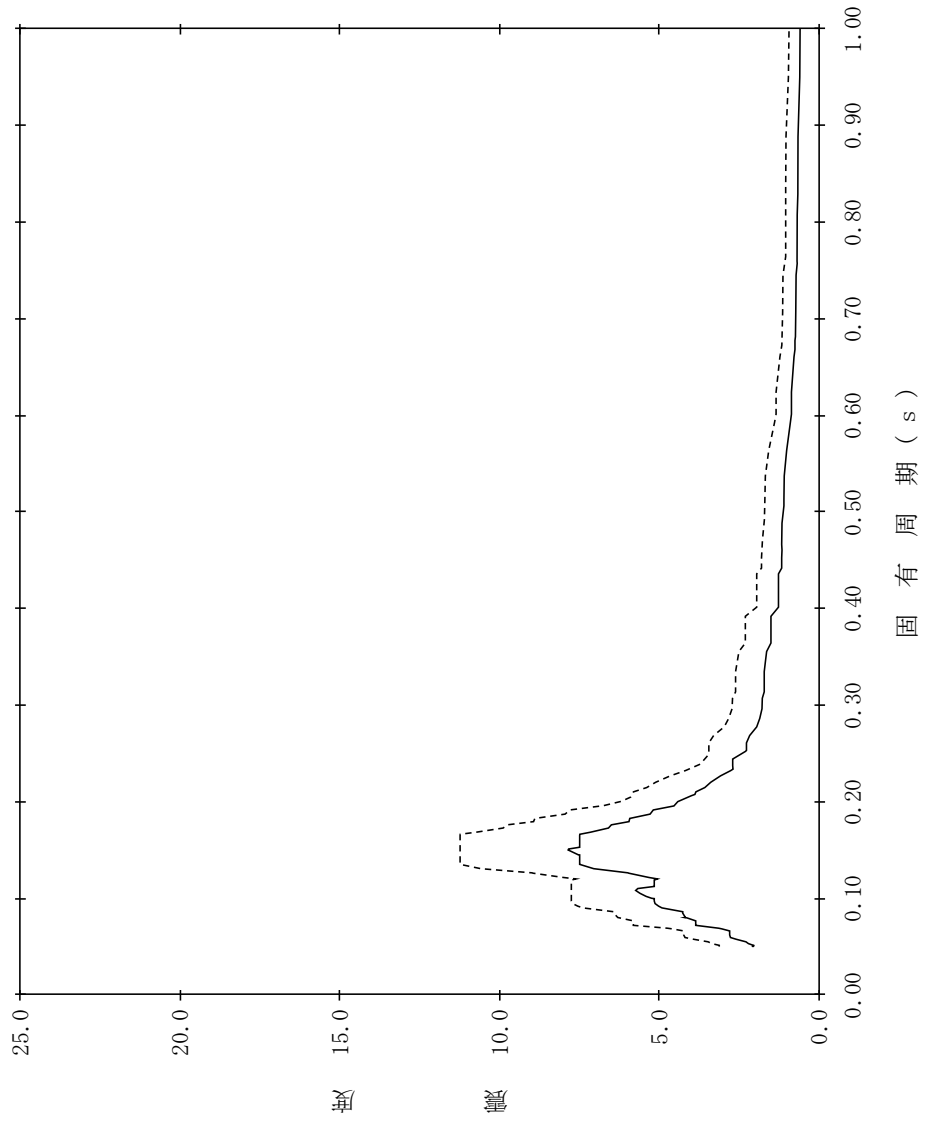
【NS2-TB-SdEW-TB29】

構造物名：タービン建物
 標高：EL30.550m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



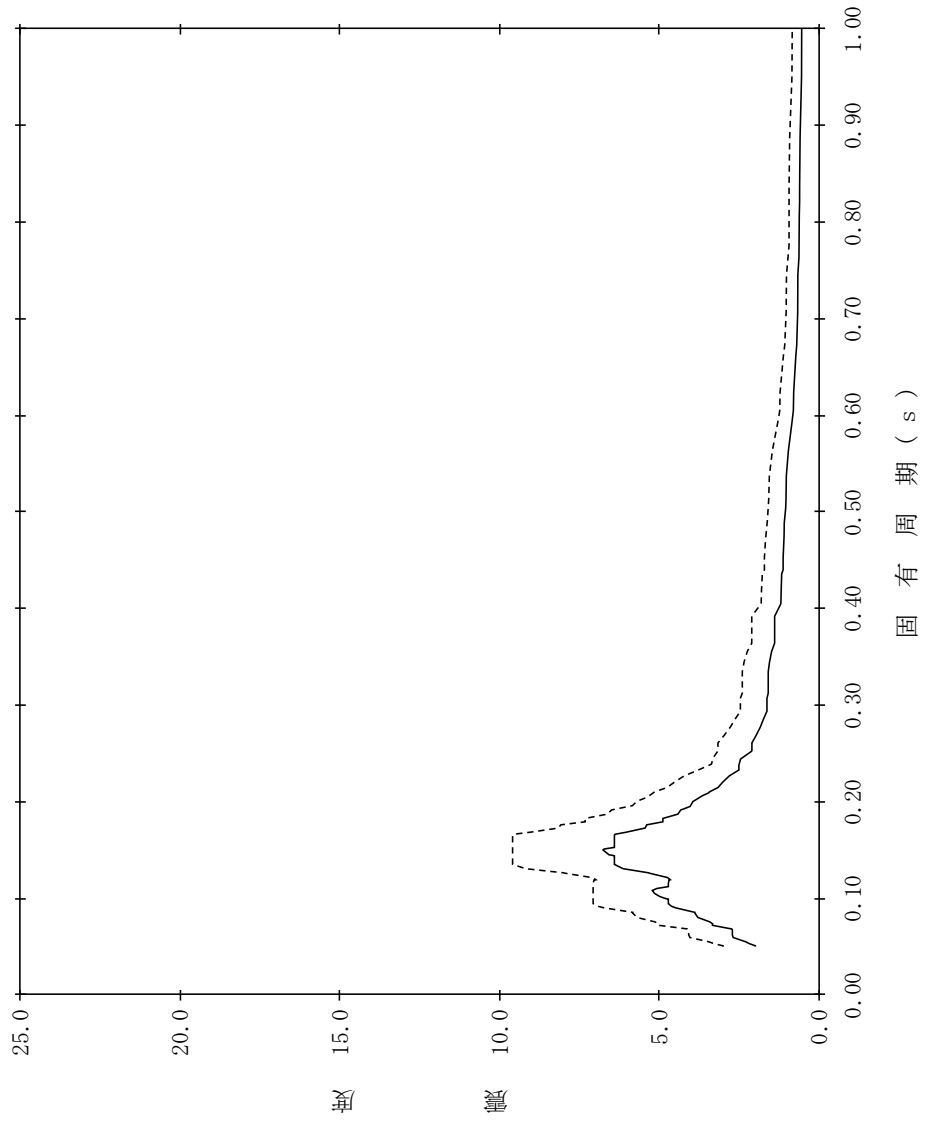
【NS2-TB-SdEW-TB30】

構造物名：タービン建物
 標高：EL30.550m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



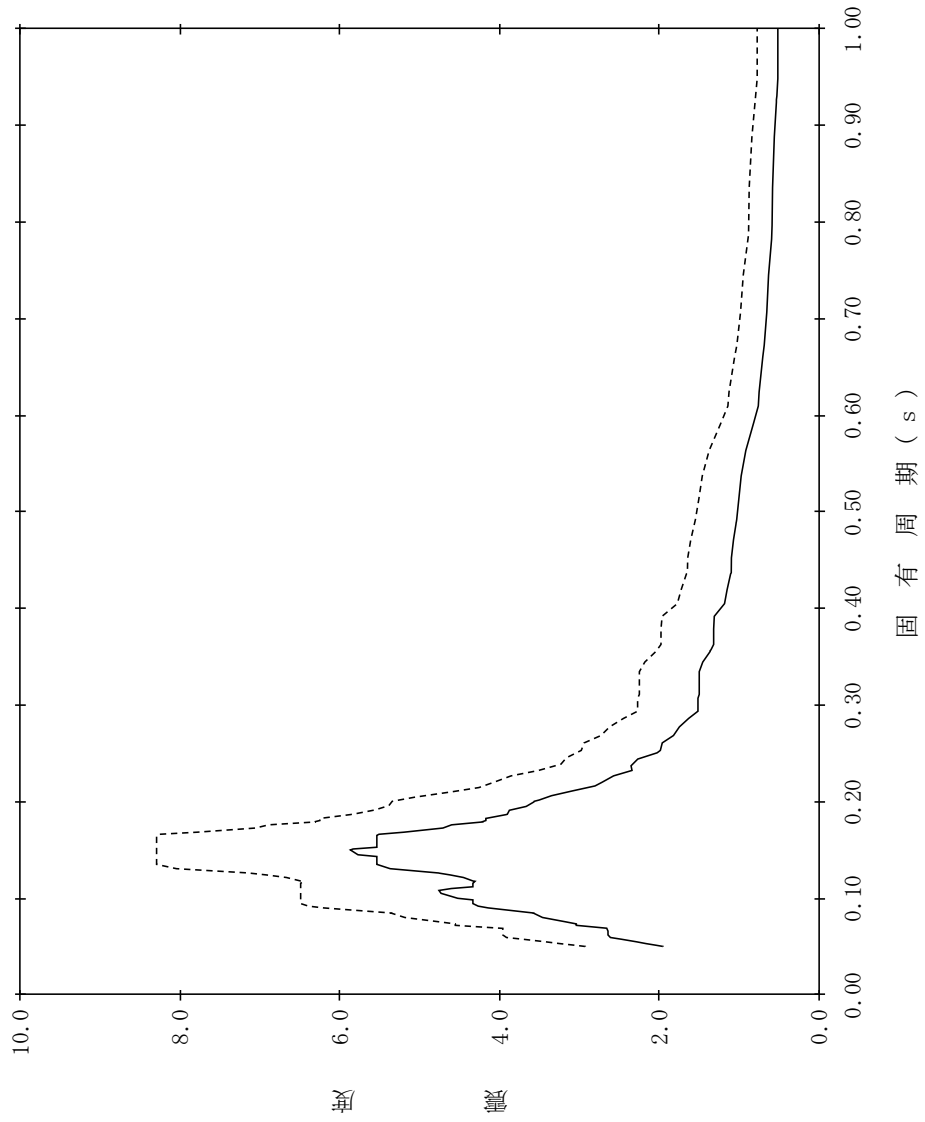
【NS2-TB-SdEW-TB31】

構造物名：タービン建物
標高：EL30.550m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



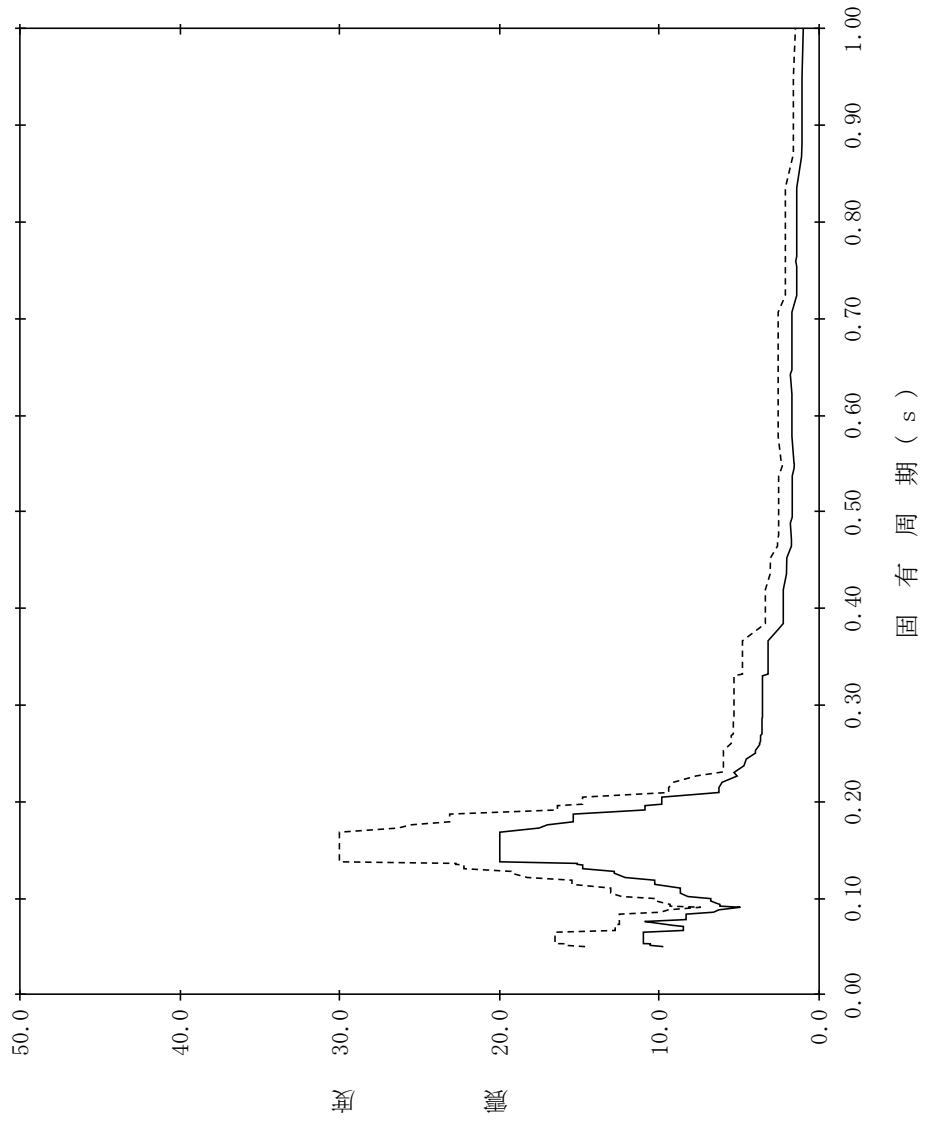
【NS2-TB-SdEW-TB32】

構造物名：タービン建物
標高：EL30.550m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



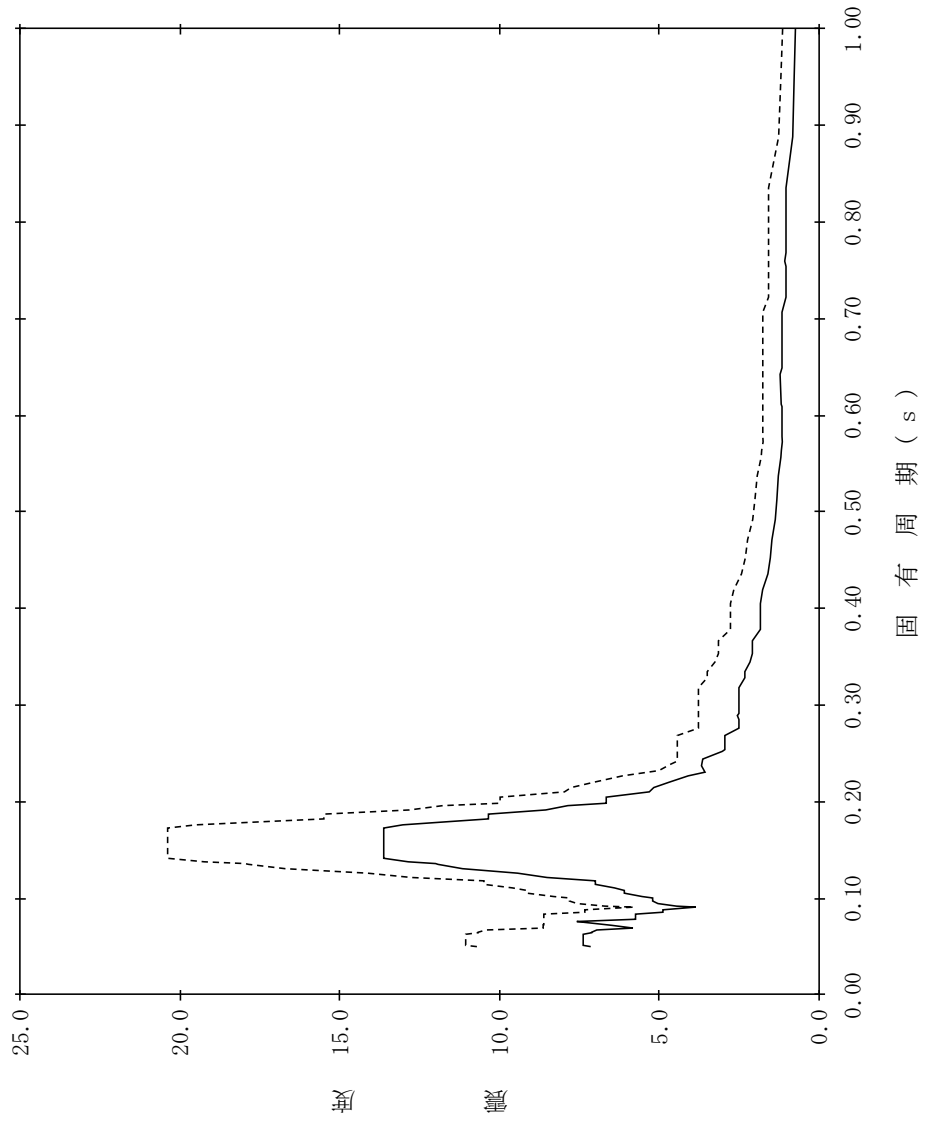
【NS2-TB-SdEW-TB33】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



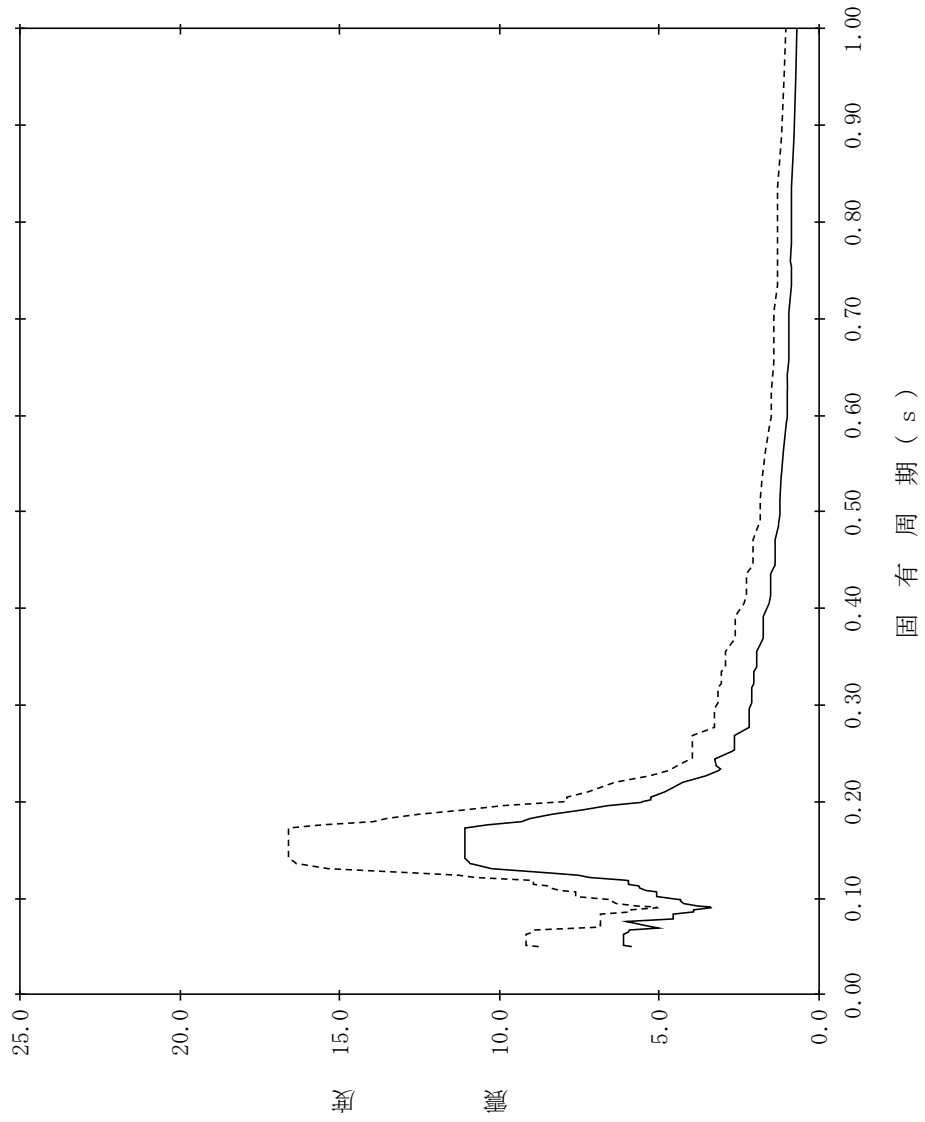
【NS2-TB-SdEW-TB34】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



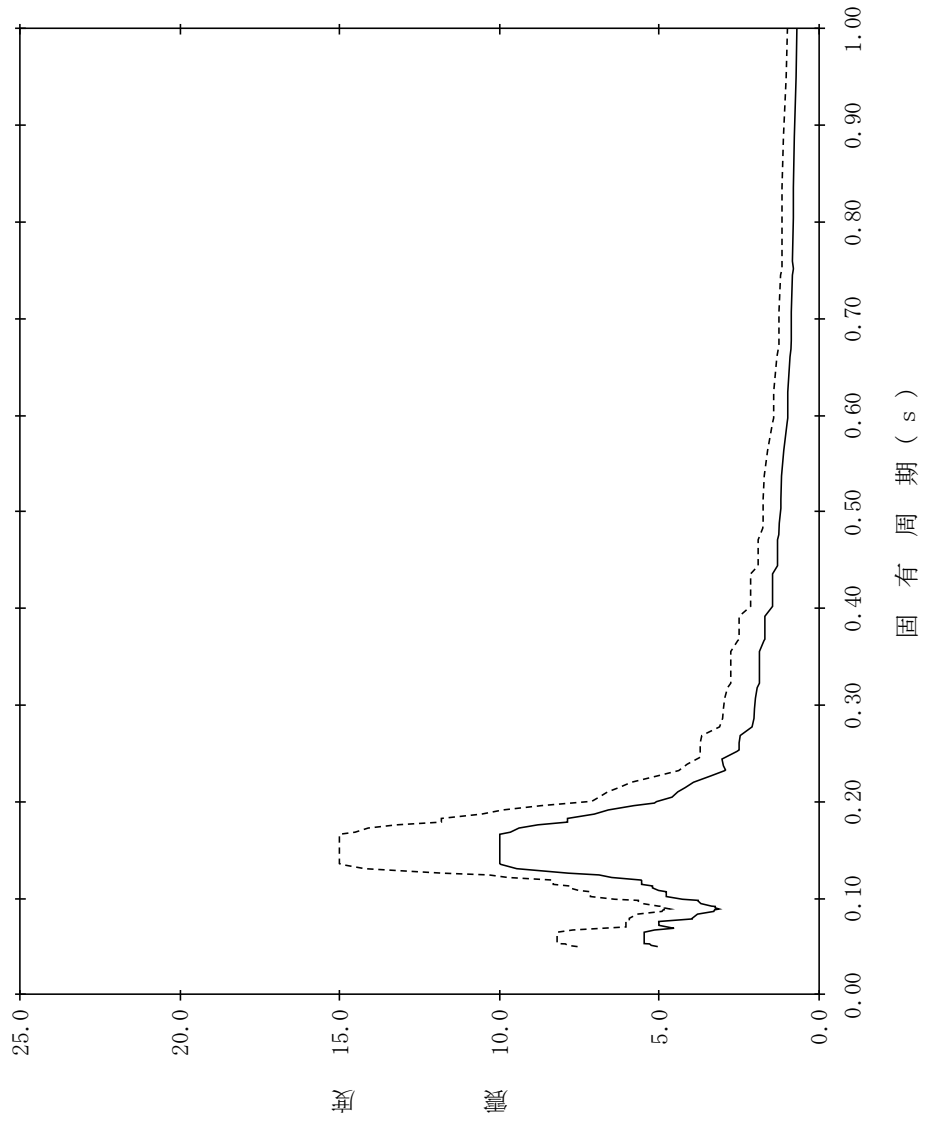
【NS2-TB-SdEW-TB35】

構造物名：タービン建物
標高：EL20.600m
減衰定数：1.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



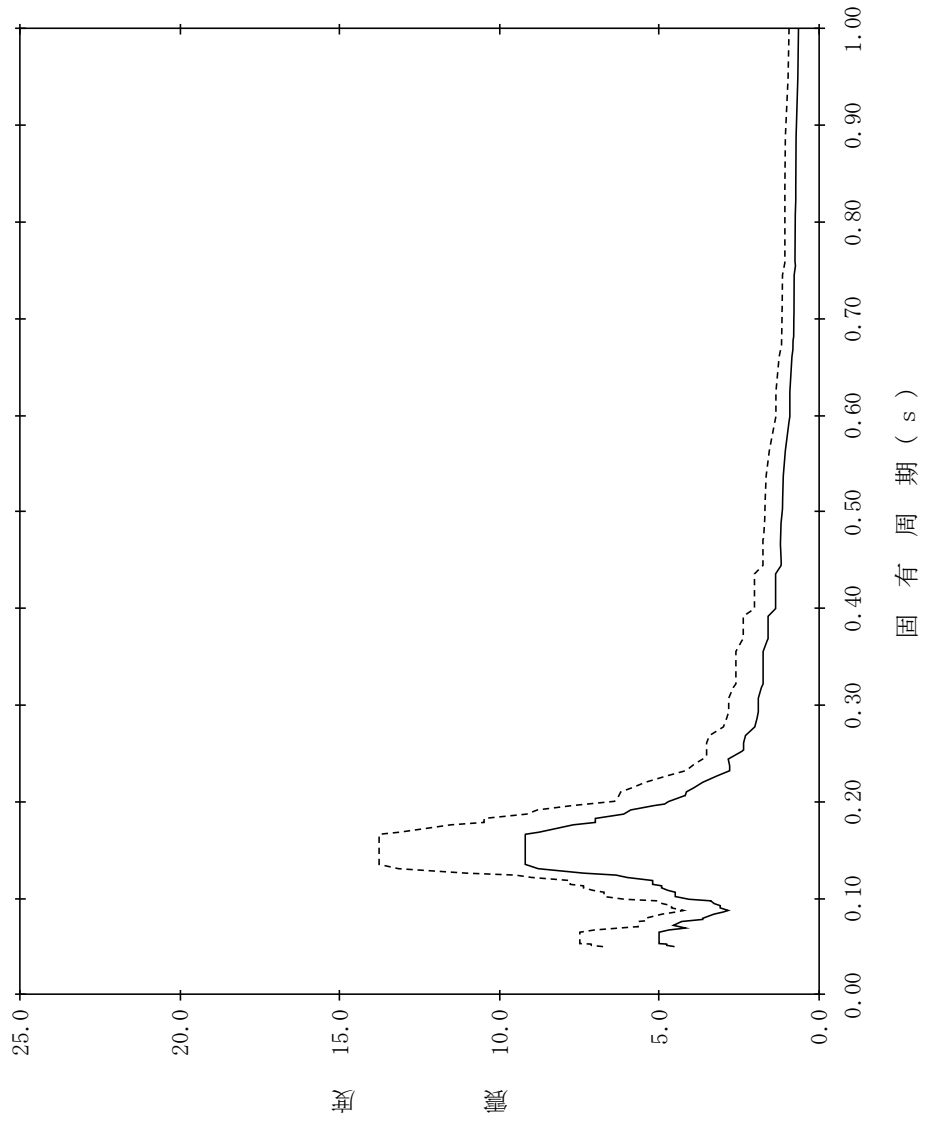
【NS2-TB-SdEW-TB36】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



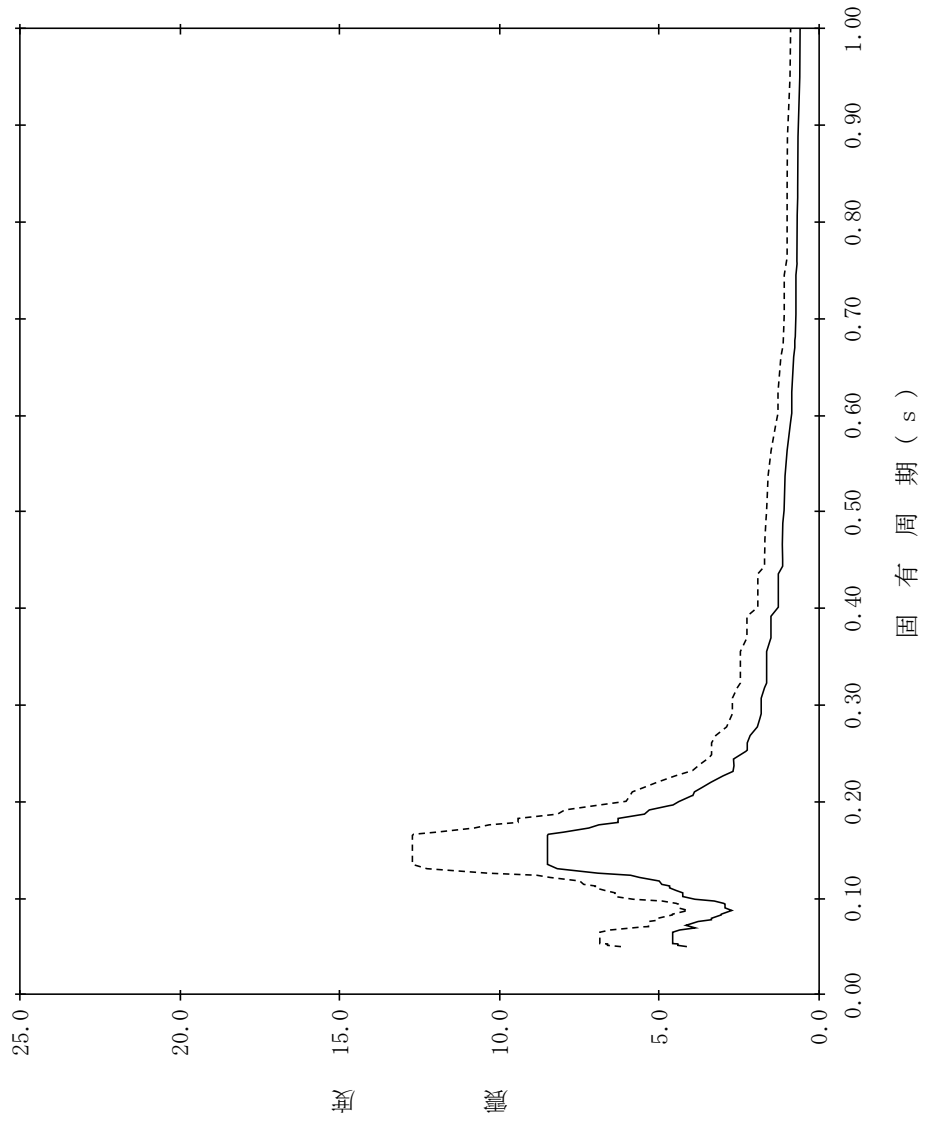
【NS2-TB-SdEW-TB37】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



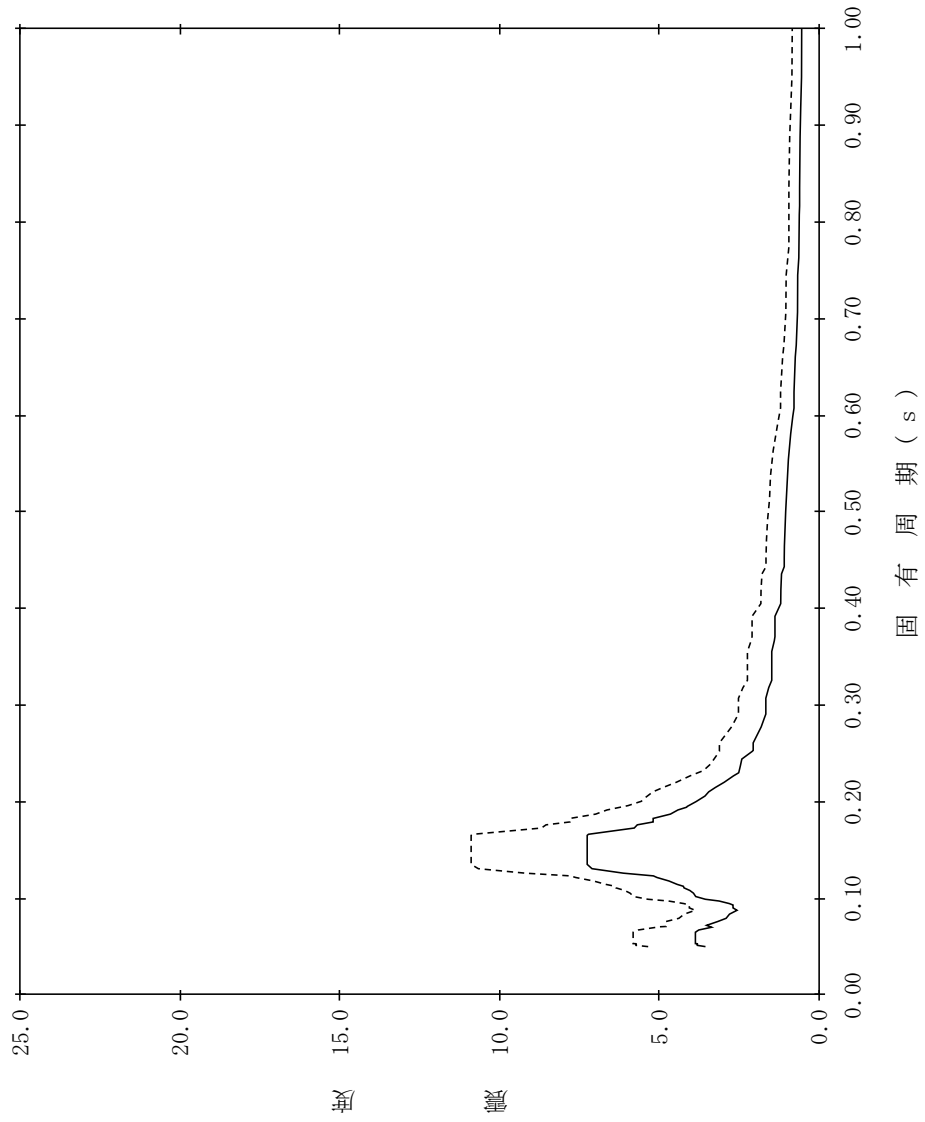
【NS2-TB-SdEW-TB38】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



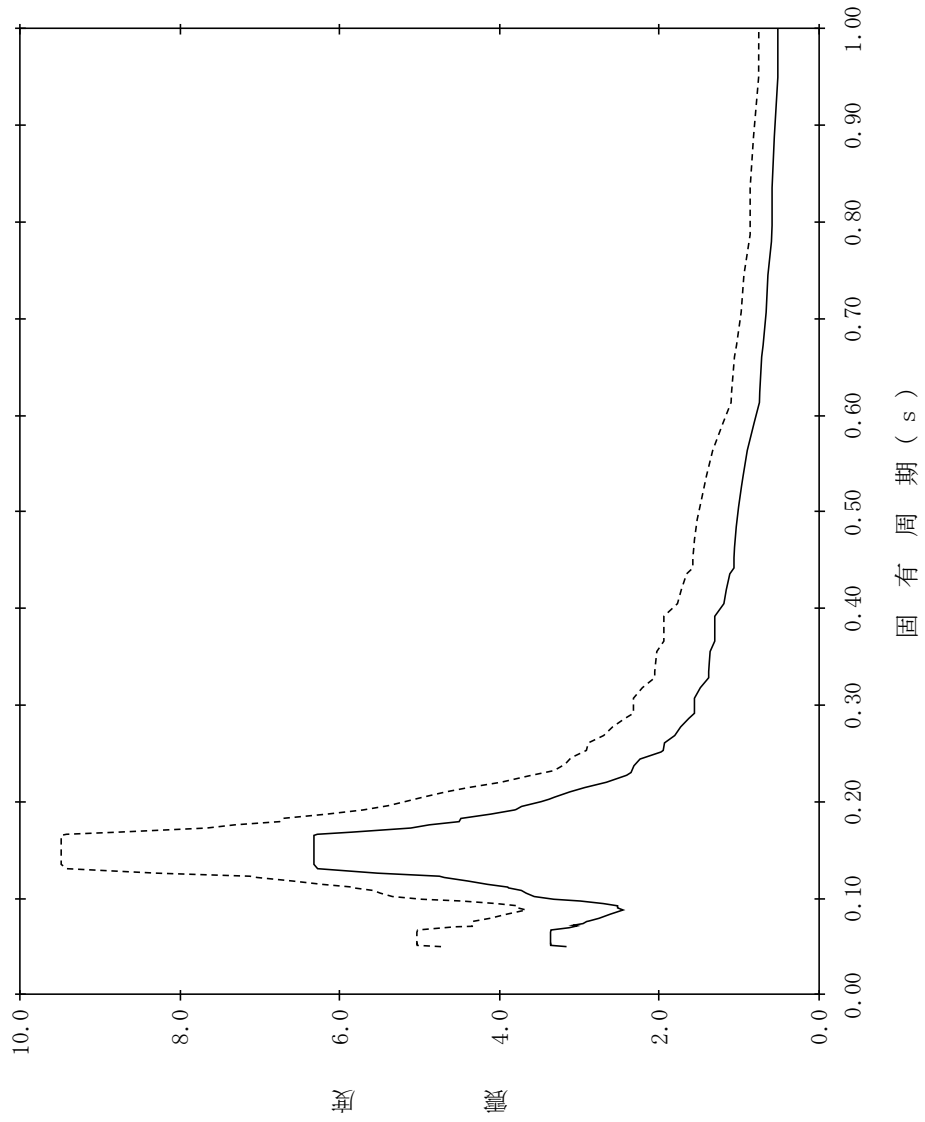
【NS2-TB-SdEW-TB39】

構造物名：タービン建物
減衰定数：4.0%
標高：EL20.600m
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



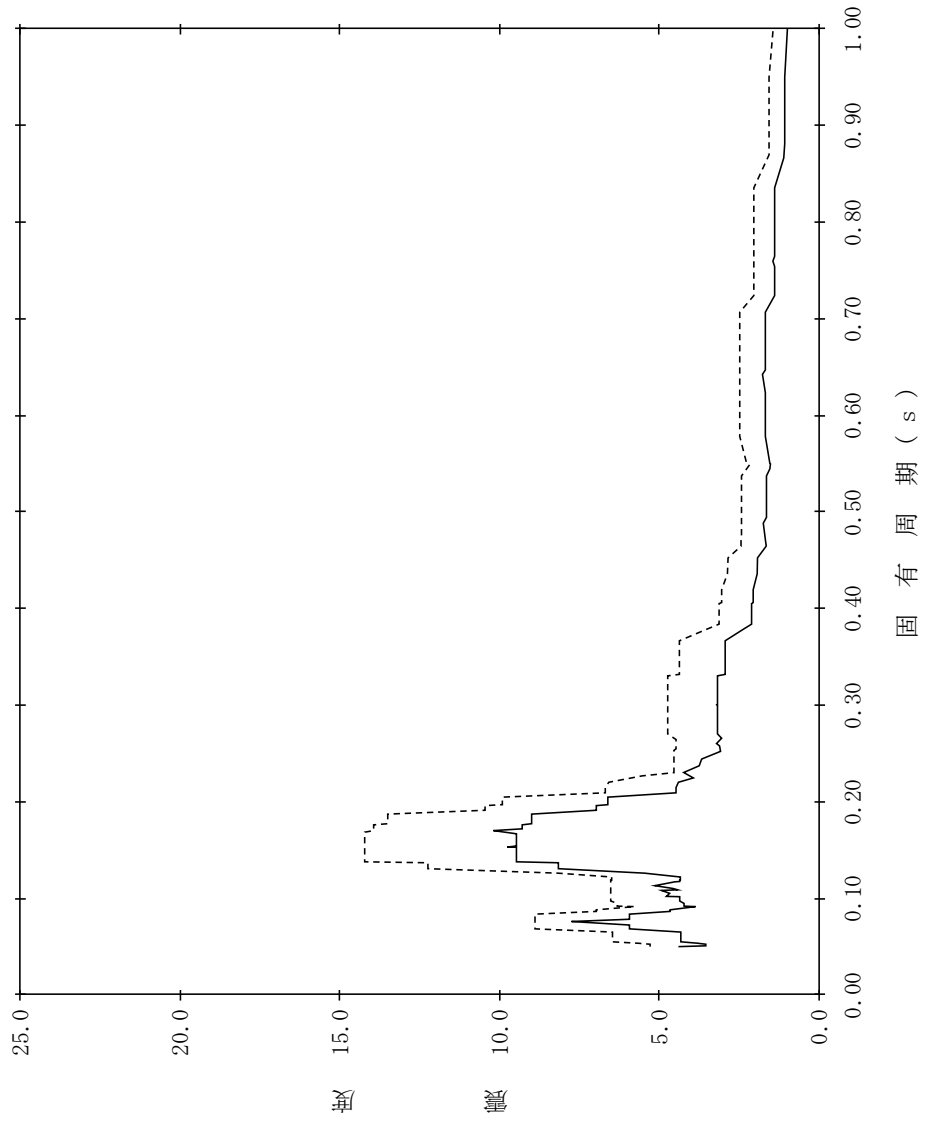
【NS2-TB-SdEW-TB40】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



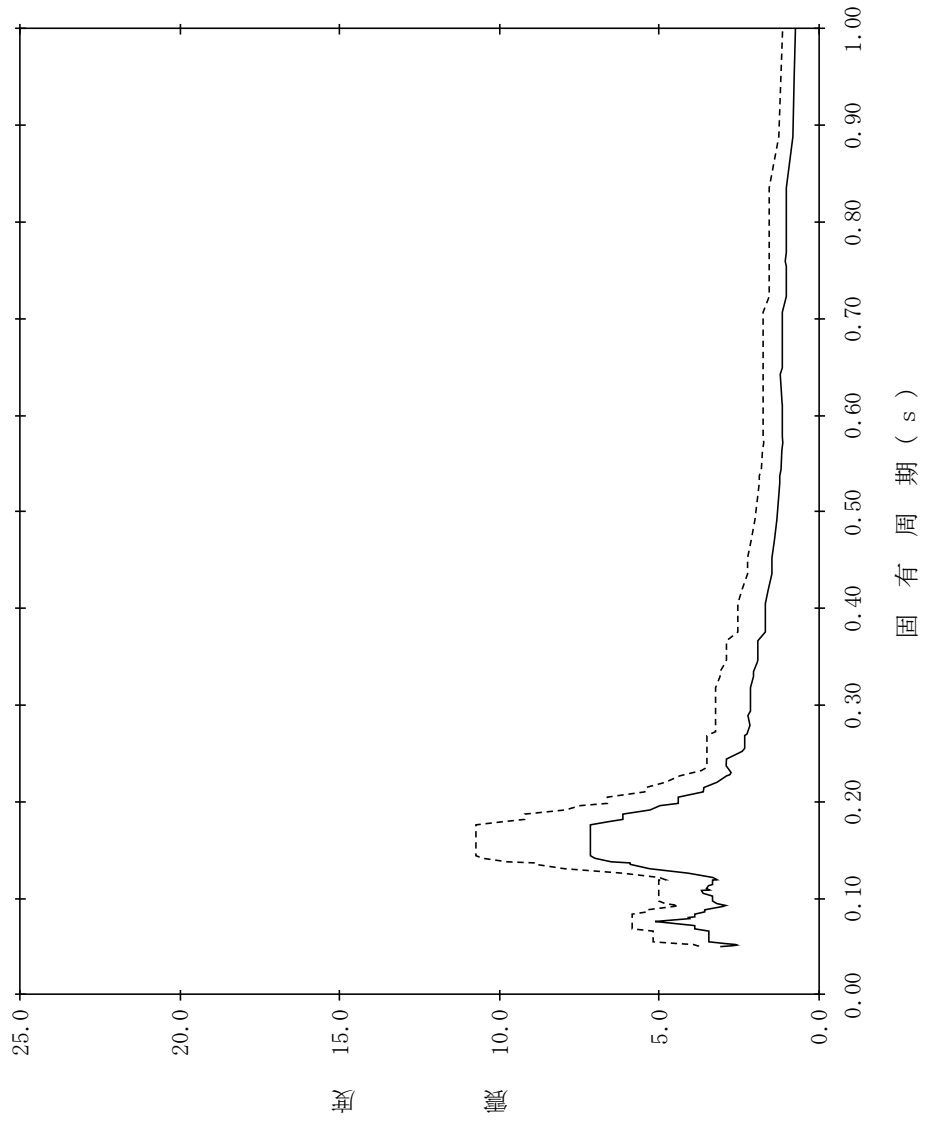
【NS2-TB-SdEW-TB41】

構造物名：タービン建物
標高：EL12.500m
減衰定数：0.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



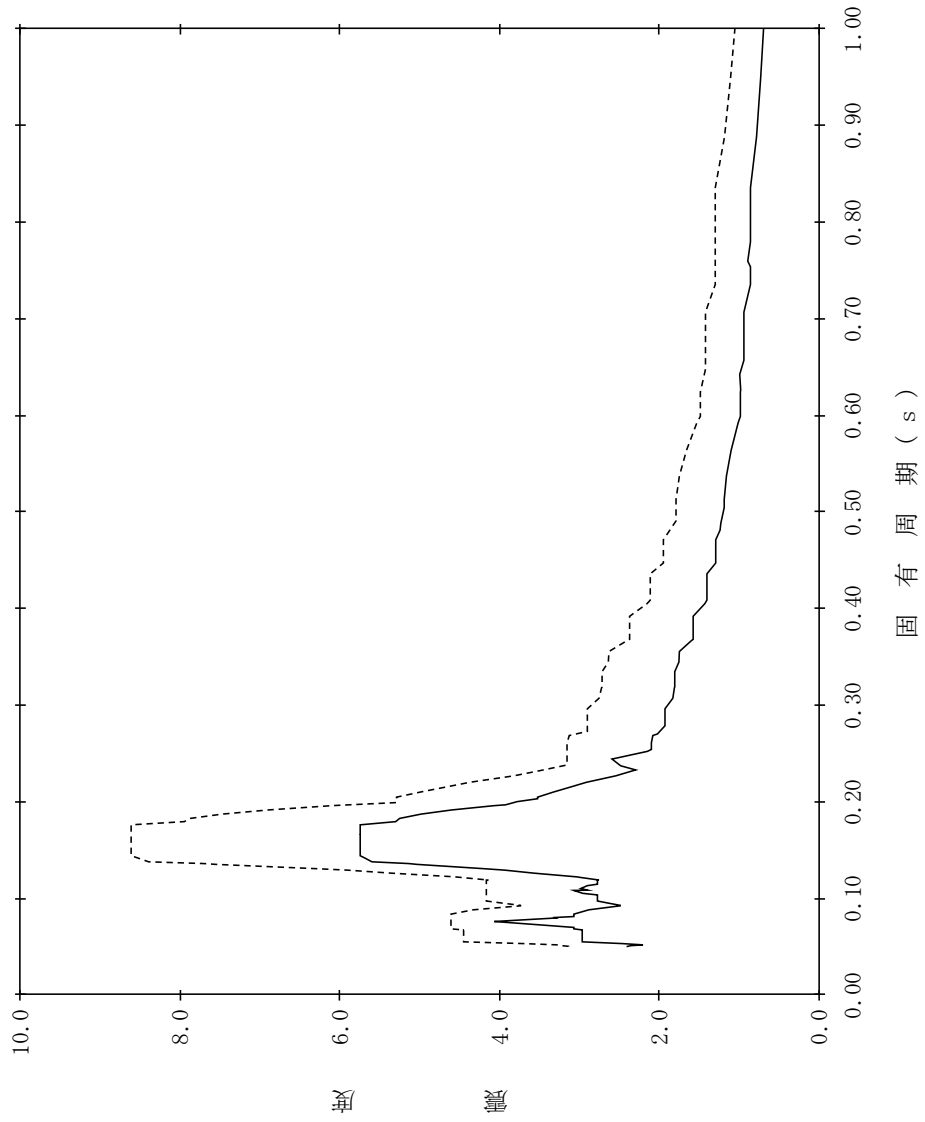
【NS2-TB-SdEW-TB42】

構造物名：タービン建物
減衰定数：1.0%
標高：EL12.500m
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



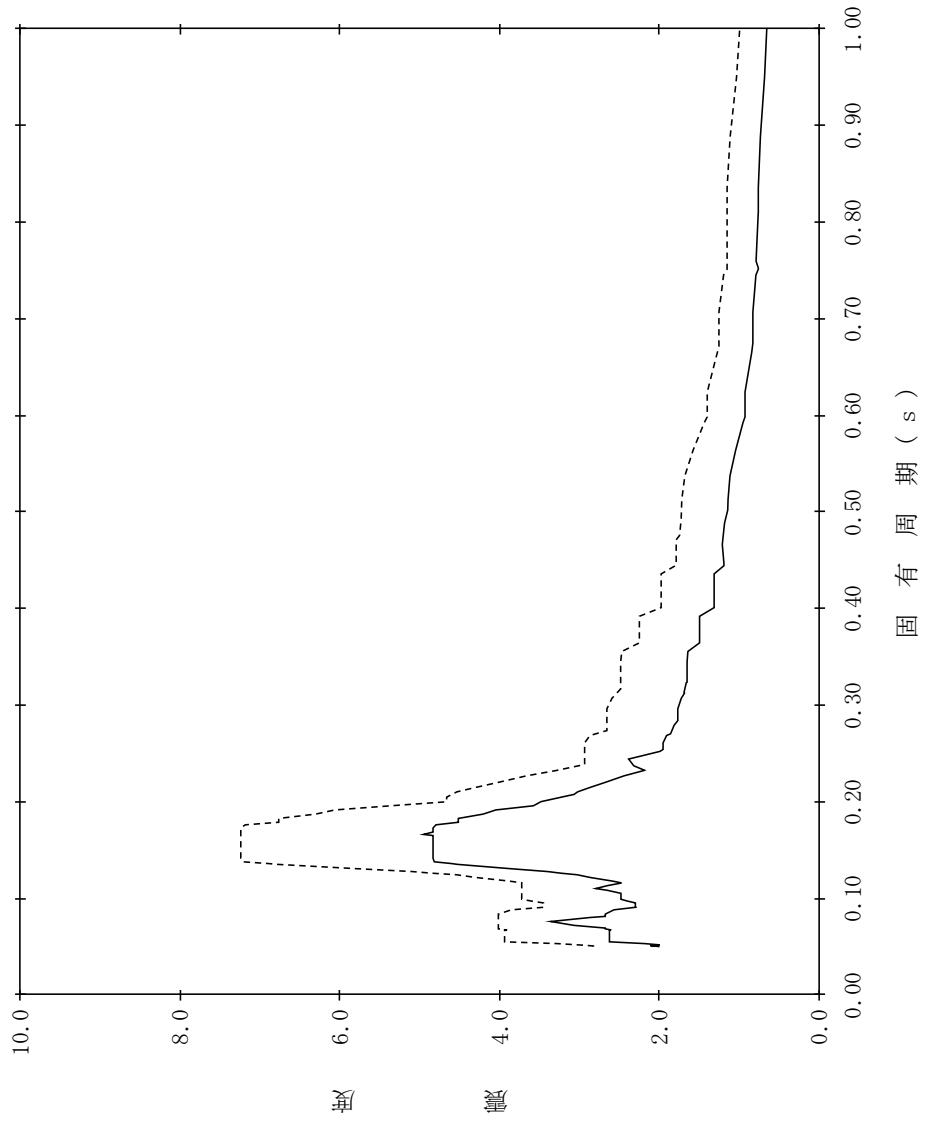
【NS2-TB-SdEW-TB43】

構造物名：タービン建物
標高：EL12.500m
減衰定数：1.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



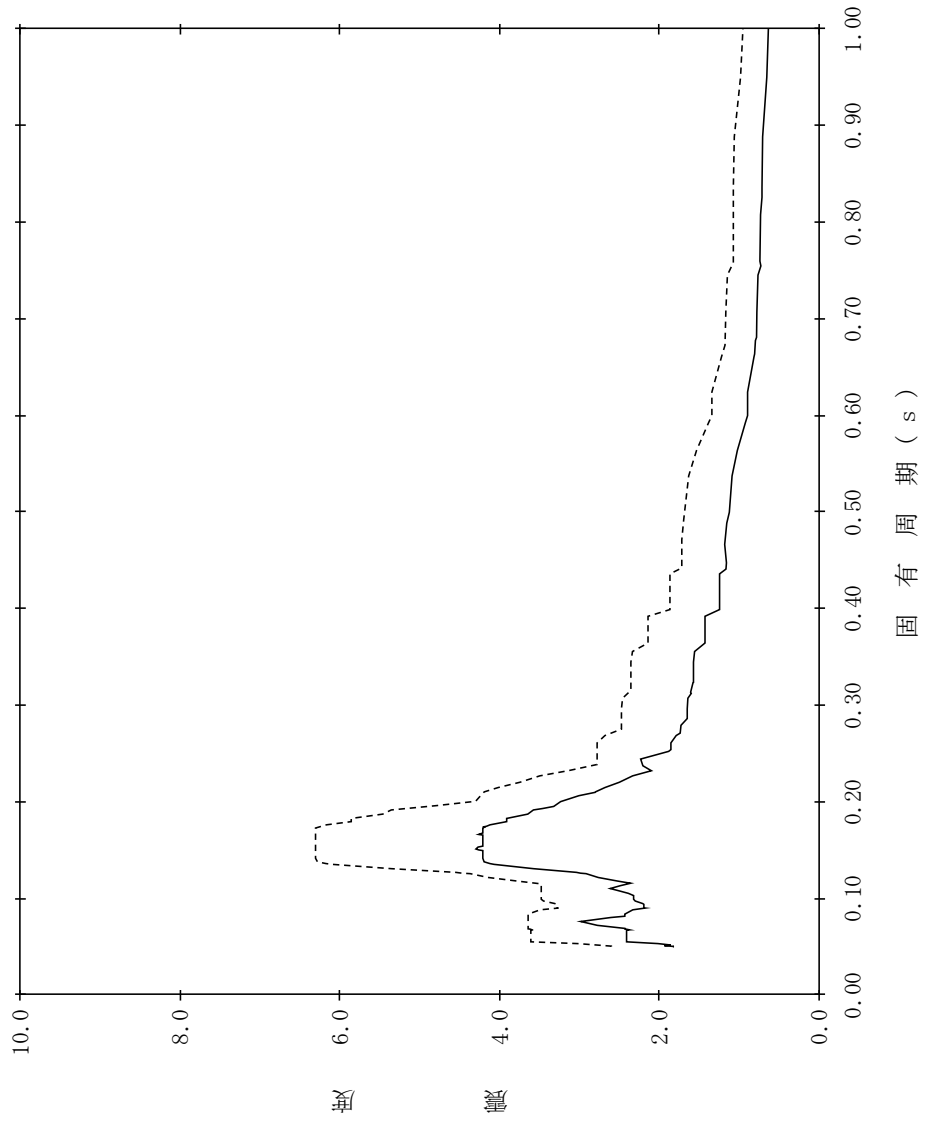
【NS2-TB-SdEW-TB44】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



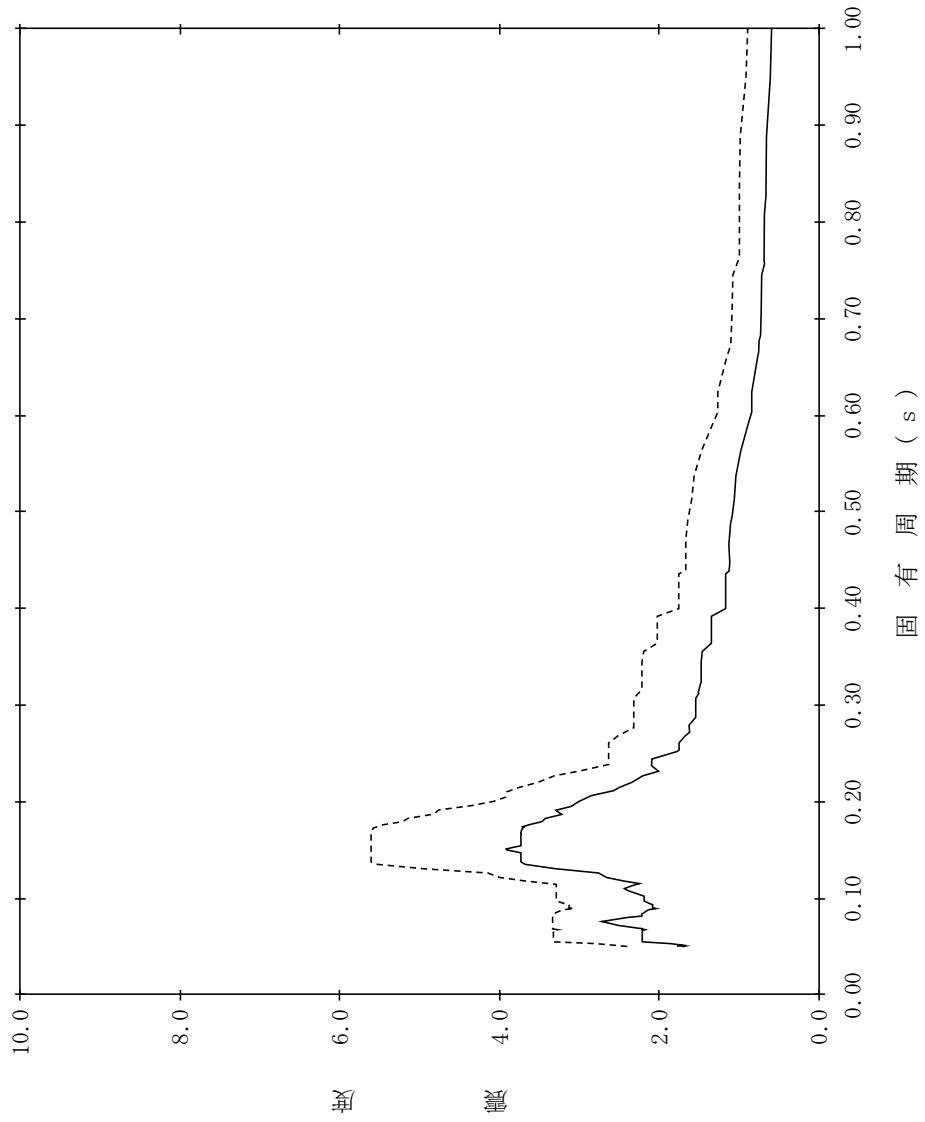
【NS2-TB-SdEW-TB45】

構造物名：タービン建物
標高：EL12.500m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



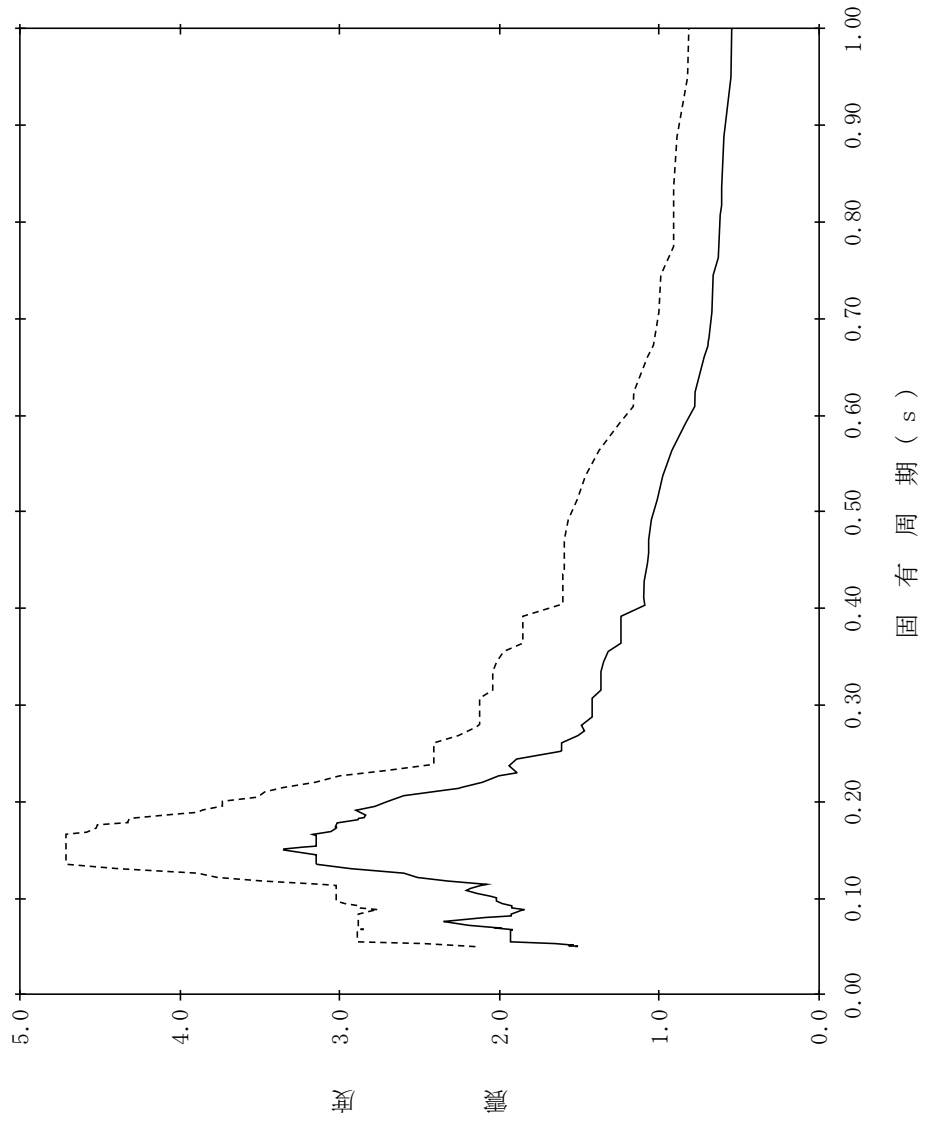
【NS2-TB-SdEW-TB46】

構造物名：タービン建物
標高：EL12.500m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



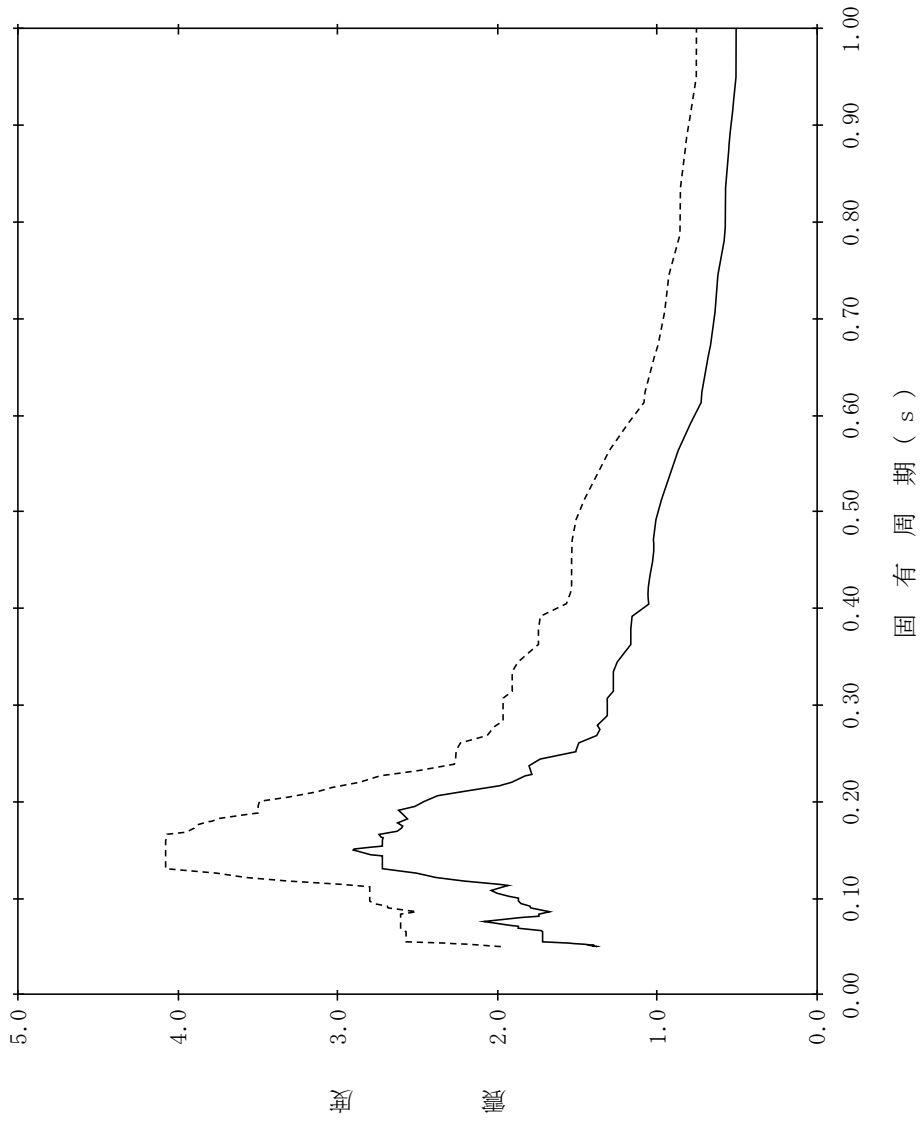
【NS2-TB-SdEW-TB47】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



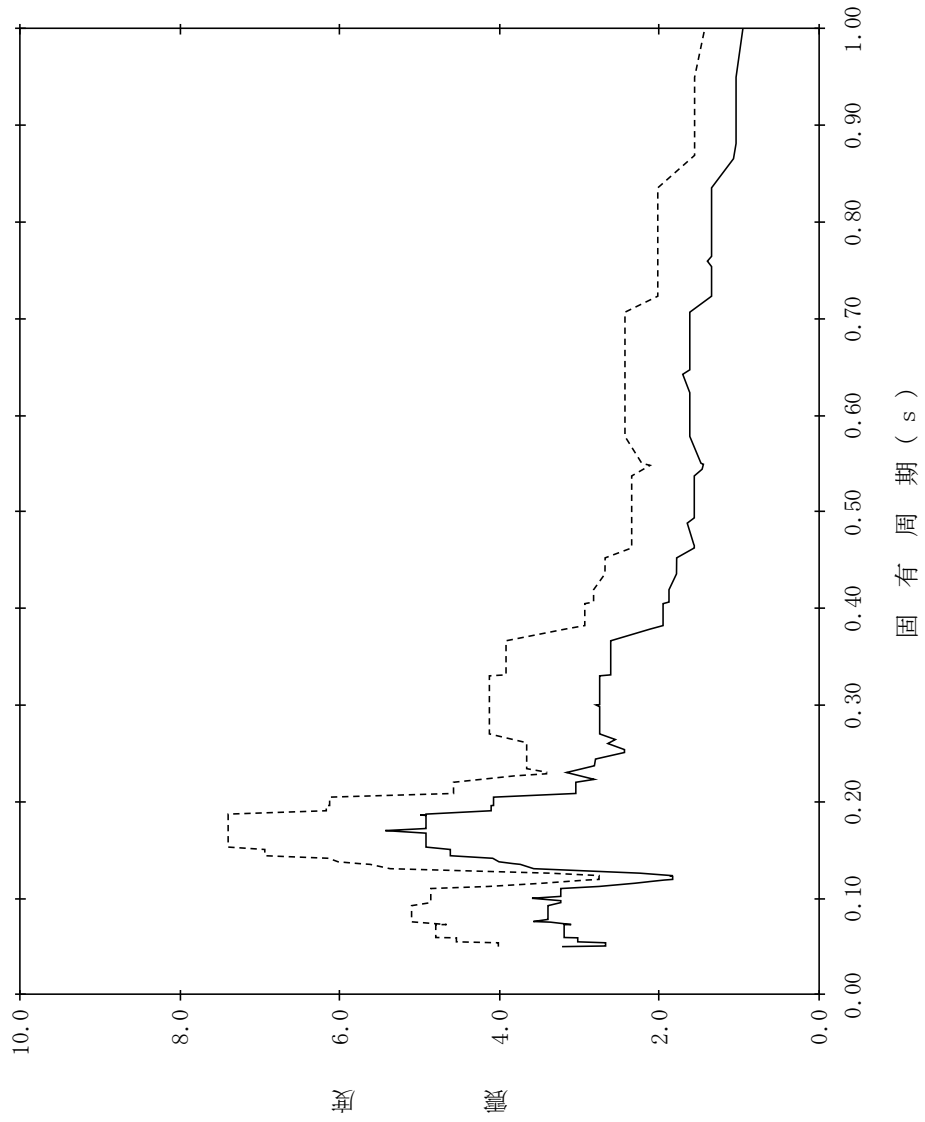
【NS2-TB-SdEW-TB48】

構造物名：タービン建物
標高：EL12.500m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
設計用床応答スペクトル I (EW方向)
設計用床応答スペクトル II (EW方向)



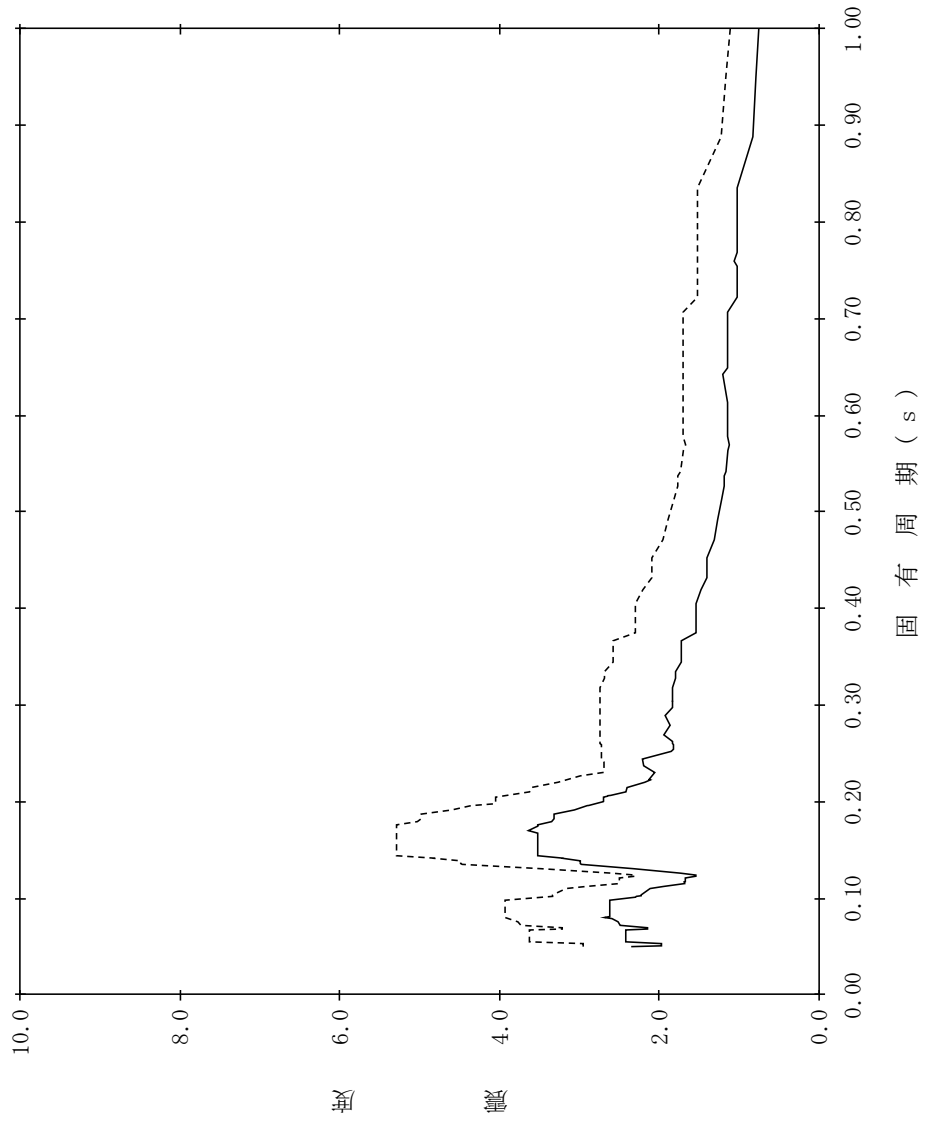
【NS2-TB-SdEW-TB49】

構造物名：タービン建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



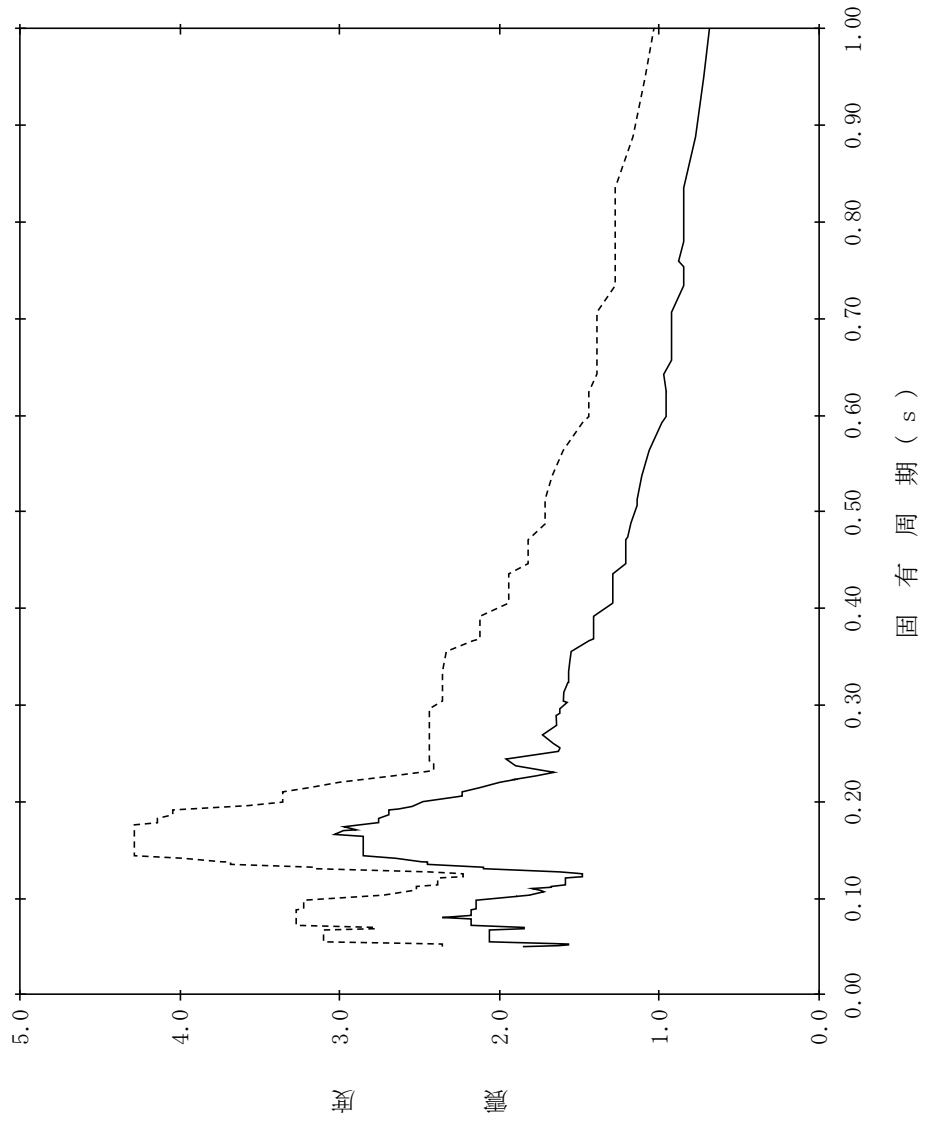
【NS2-TB-SdEW-TB50】

構造物名：タービン建物
標高：EL8.800m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



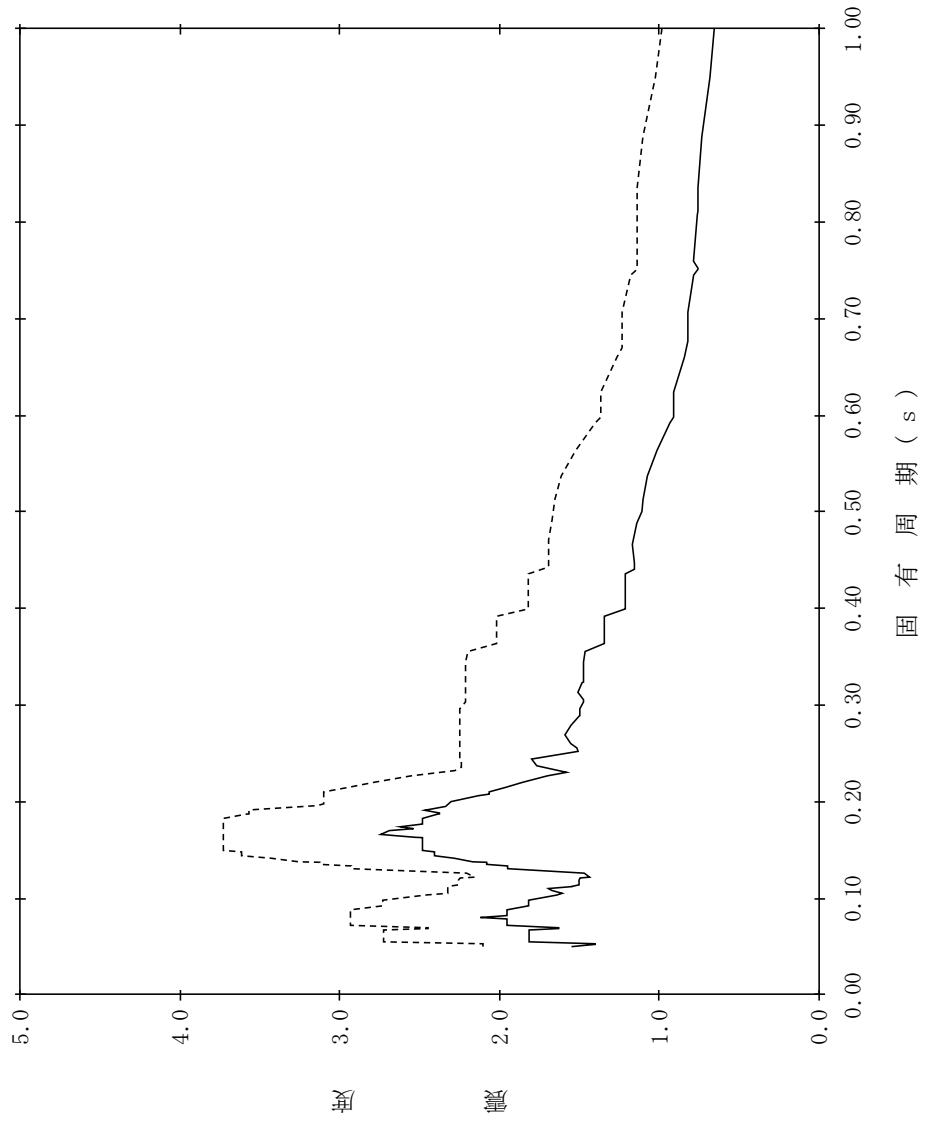
【NS2-TB-SdEW-TB51】

構造物名：タービン建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



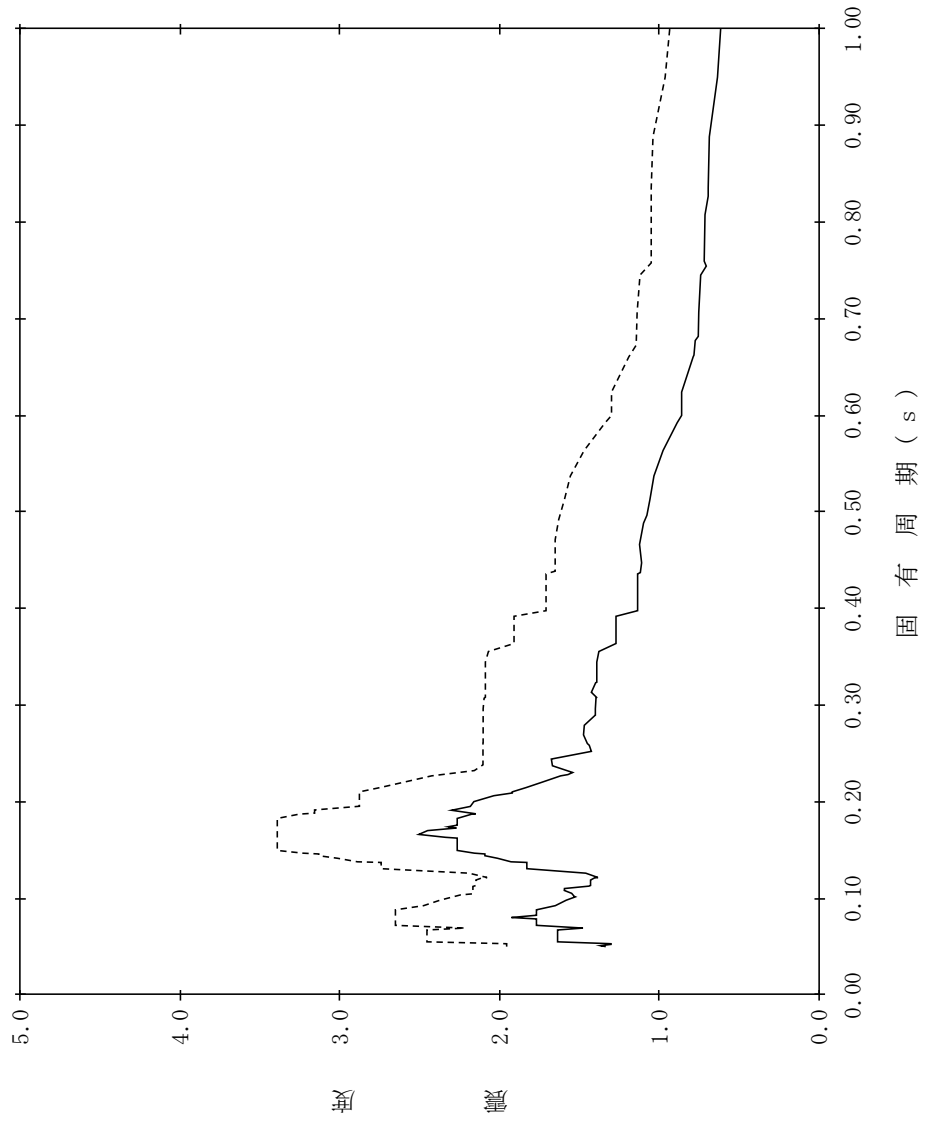
【NS2-TB-SdEW-TB52】

構造物名：タービン建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



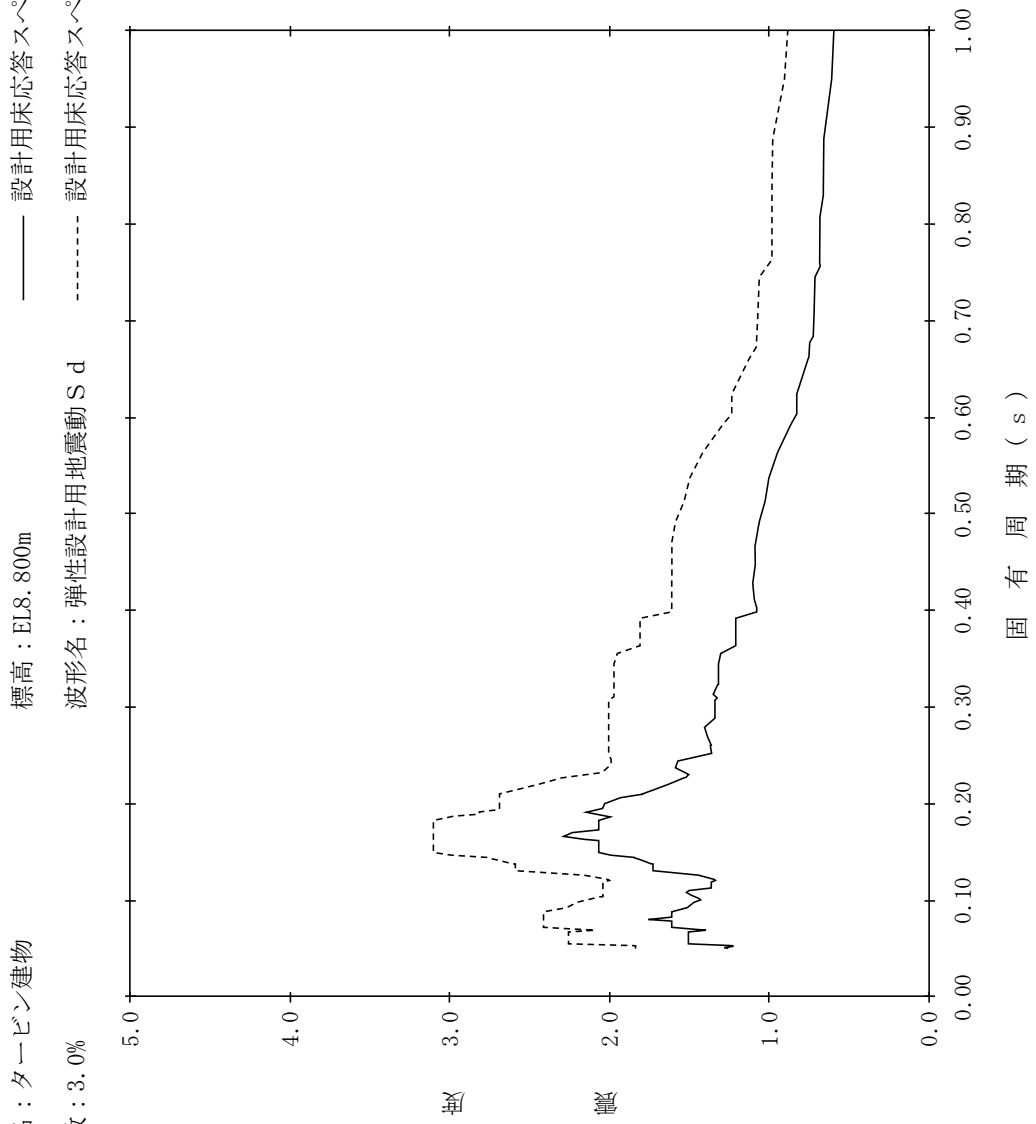
【NS2-TB-SdEW-TB53】

構造物名：タービン建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



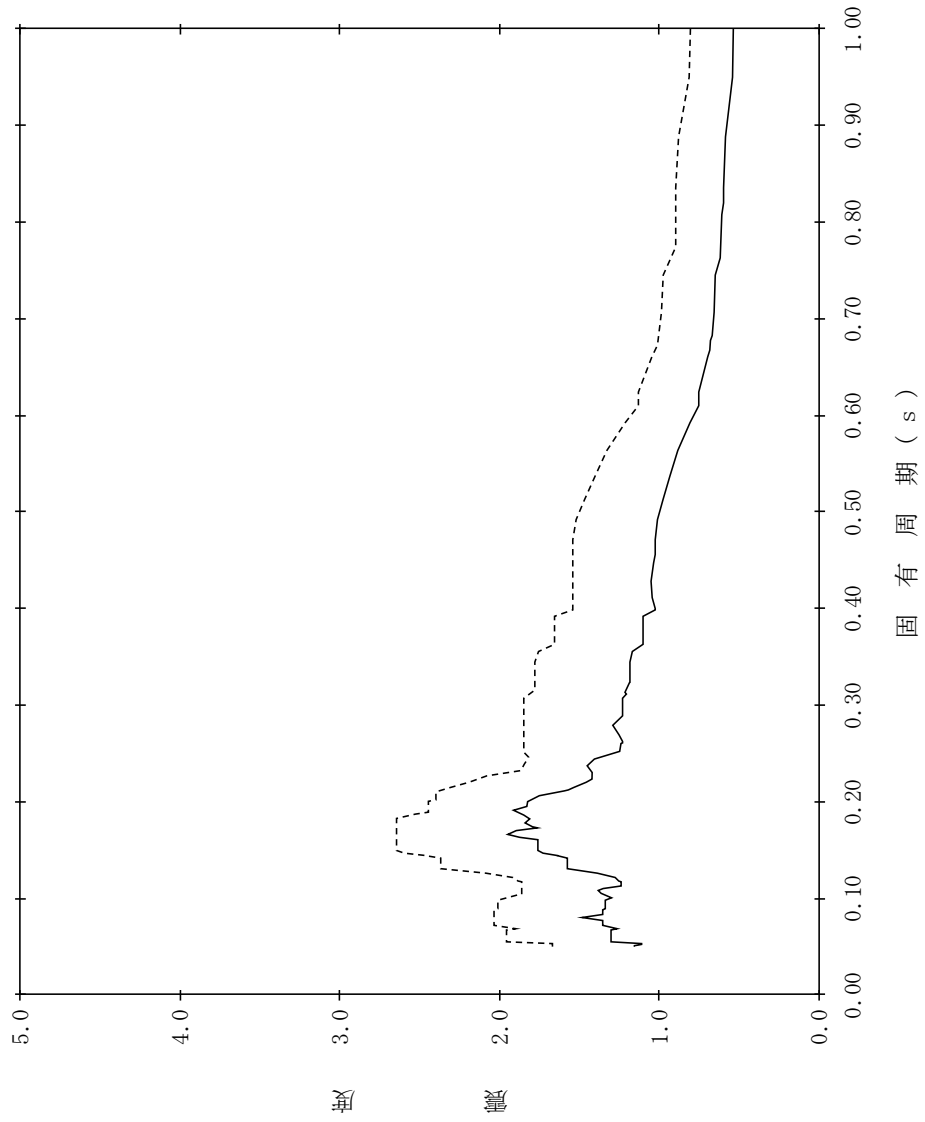
【NS2-TB-SdEW-TB54】

構造物名：タービン建物
 標高：EL8.800m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：3.0%



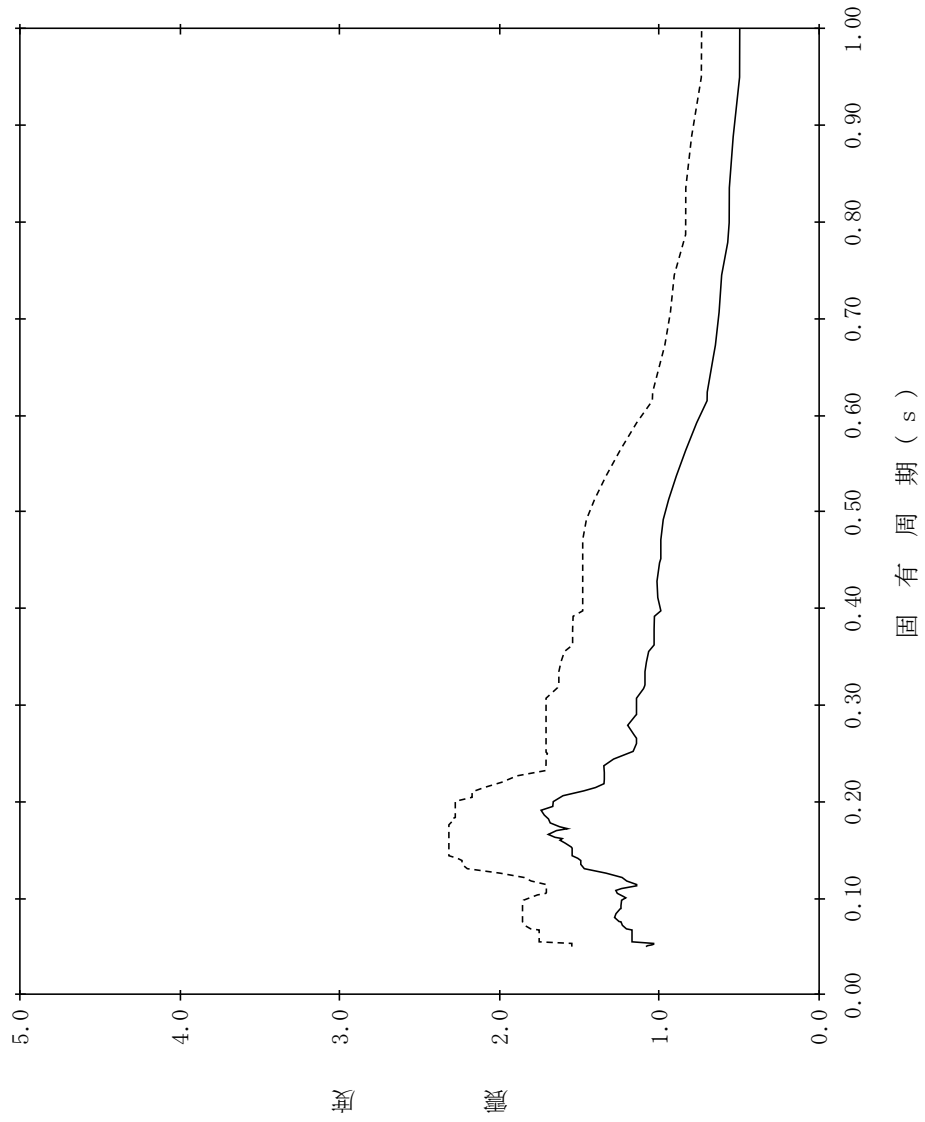
【NS2-TB-SdEW-TB55】

構造物名：タービン建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



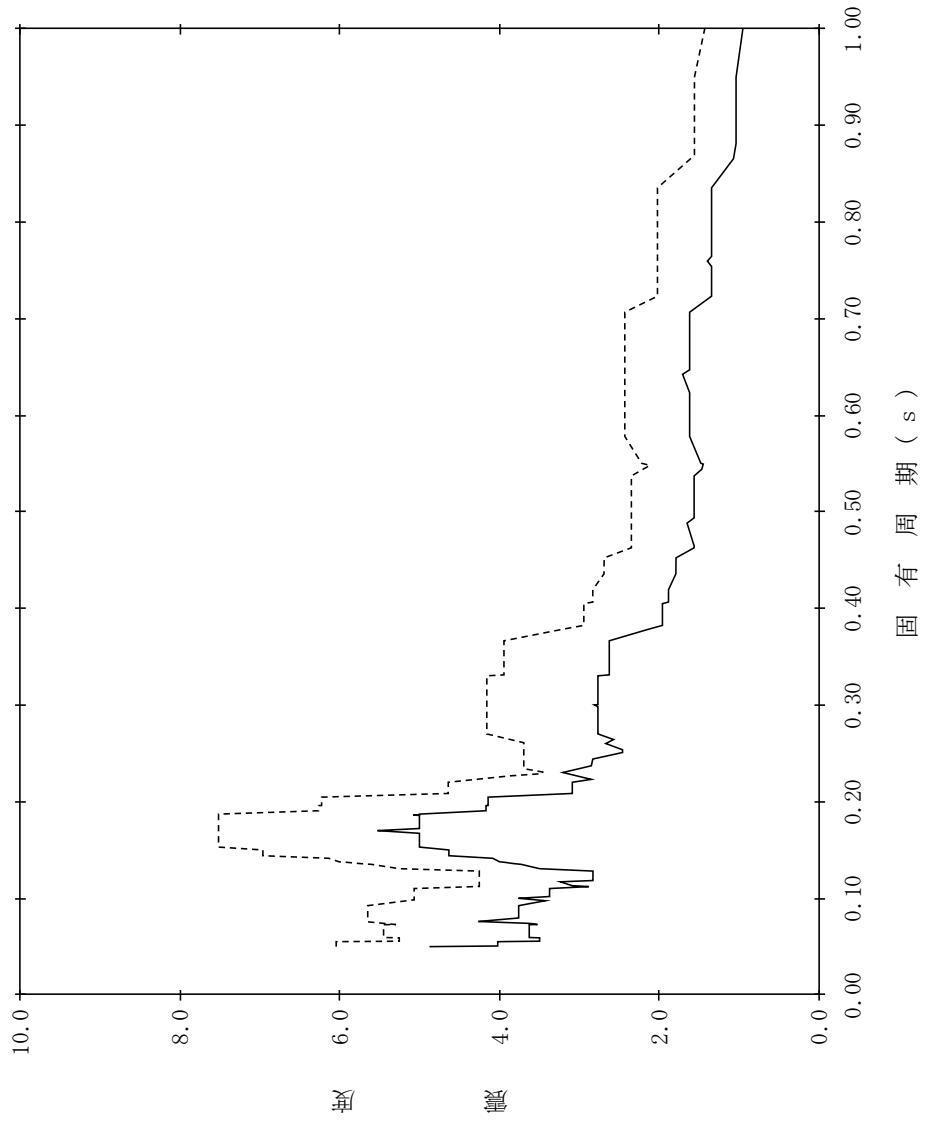
【NS2-TB-SdEW-TB56】

構造物名：タービン建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



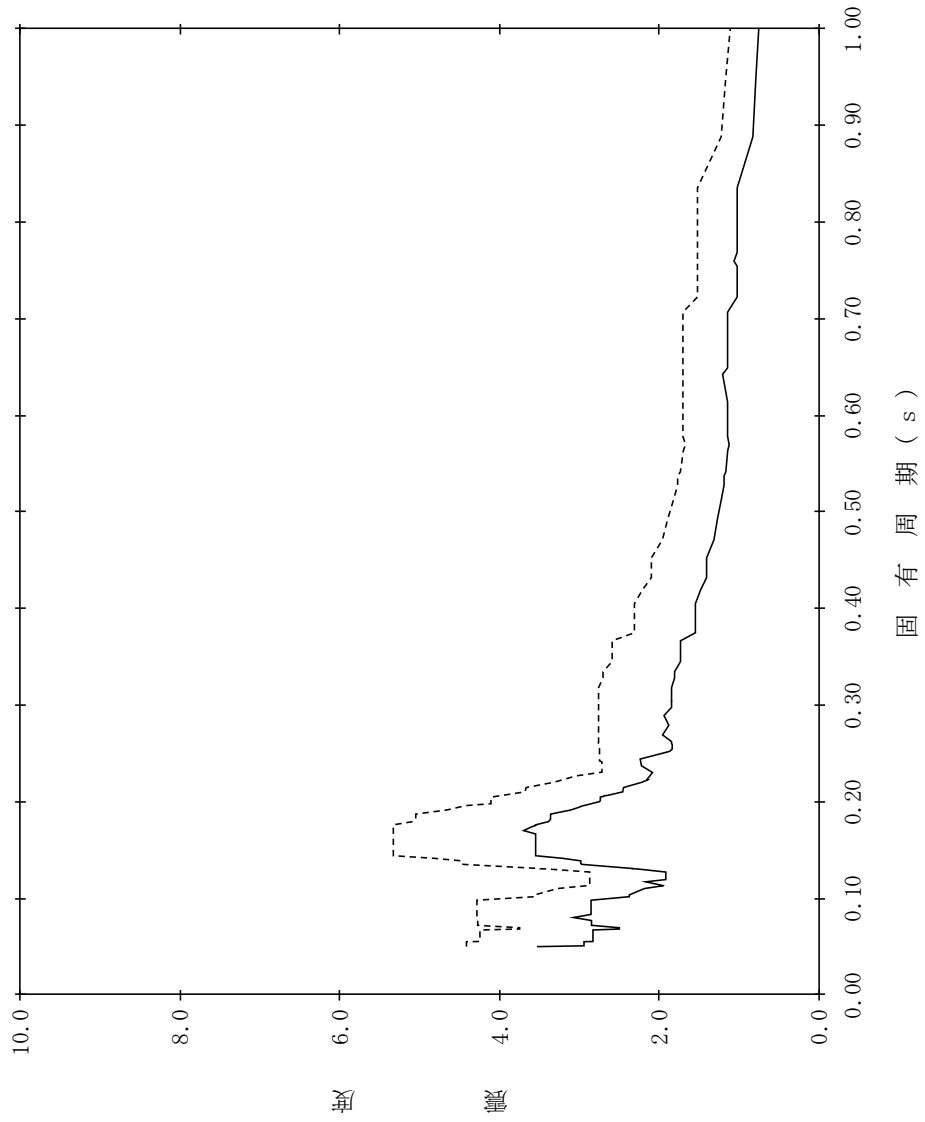
【NS2-TB-SdEW-TB57】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-TB-SdEW-TB58】

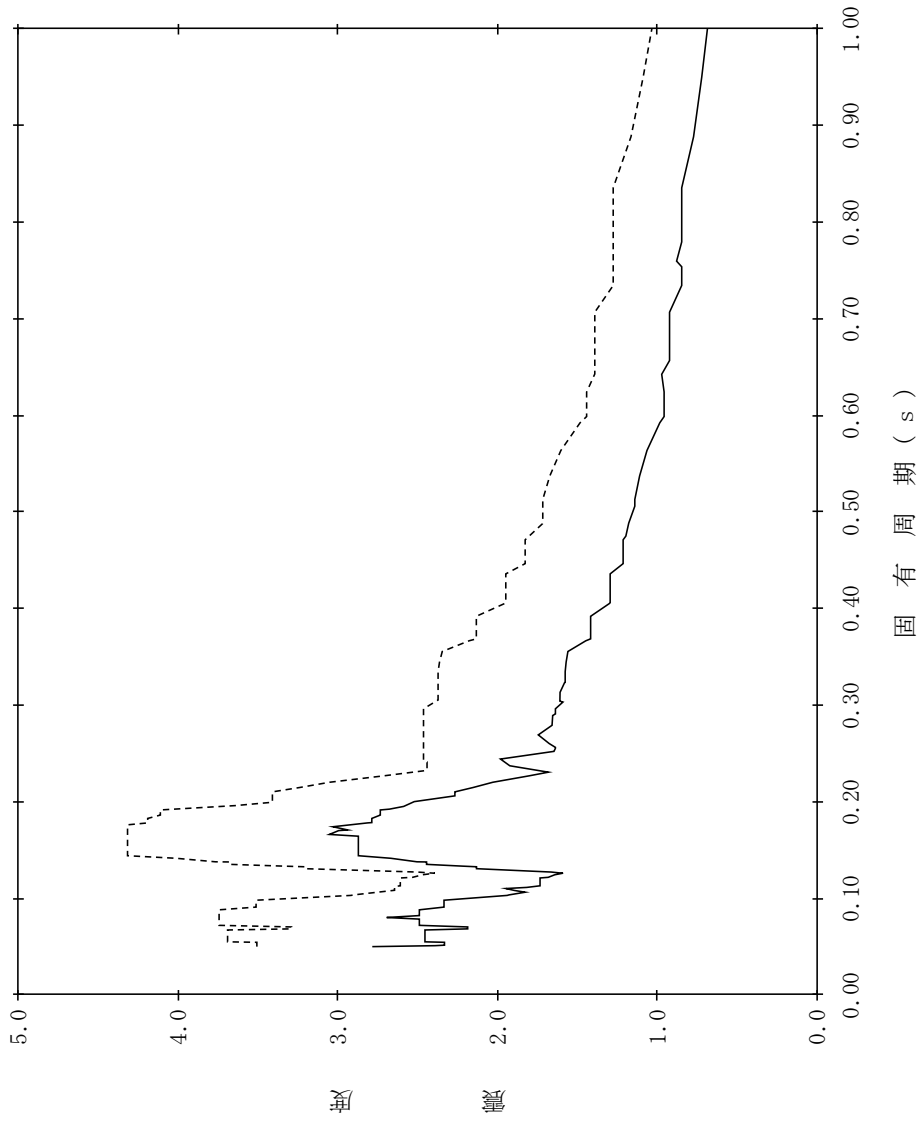
構造物名：タービン建物
標高：EL5.500m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-TB-SdEW-TB59】

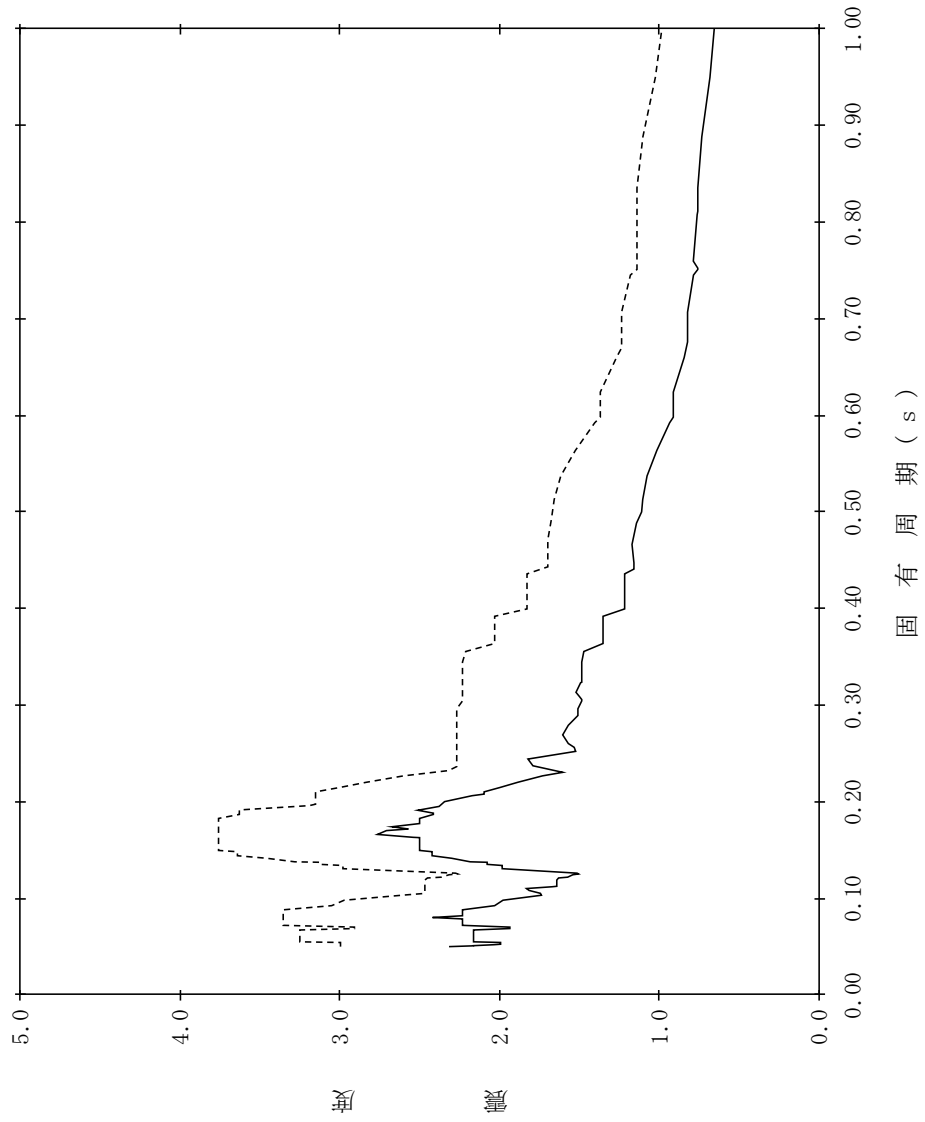
構造物名：タービン建物
標高：EL5.500m
減衰定数：1.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



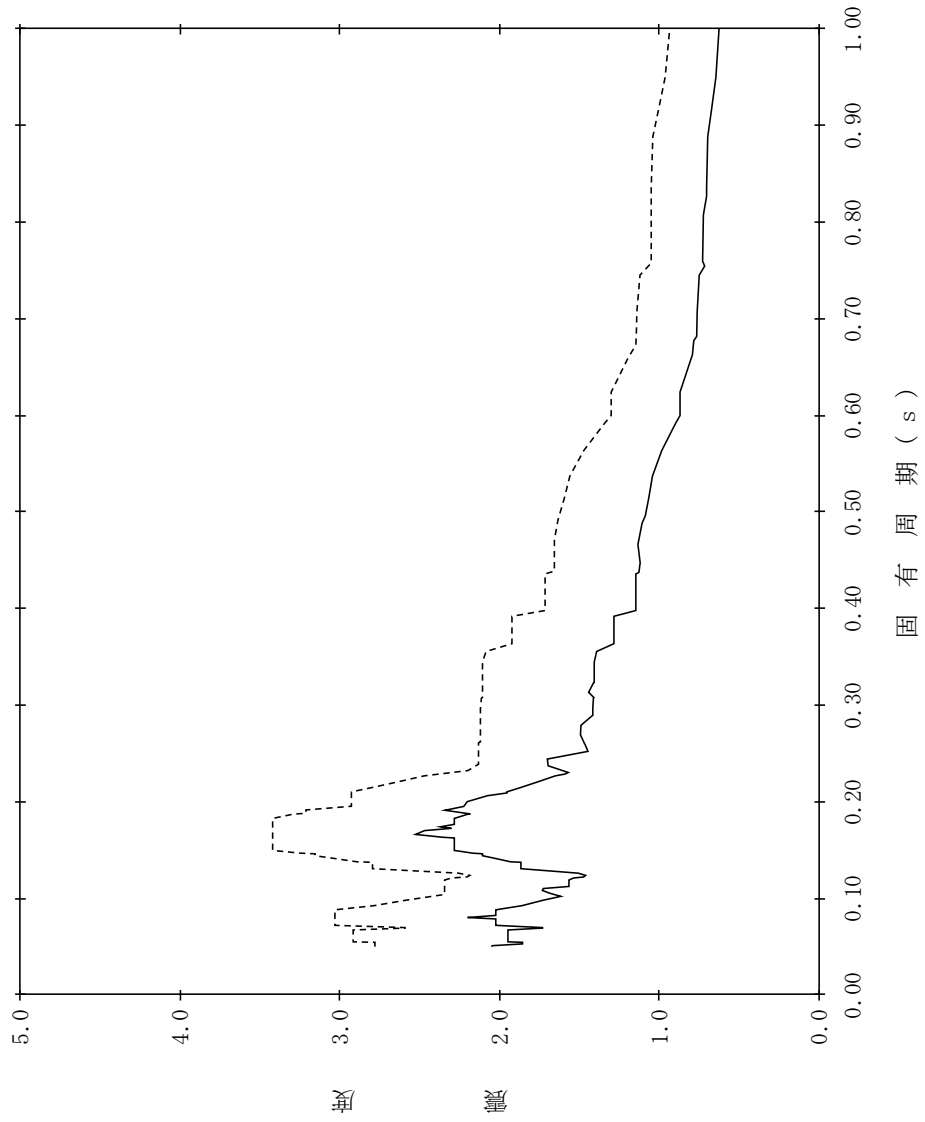
【NS2-TB-SdEW-TB60】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



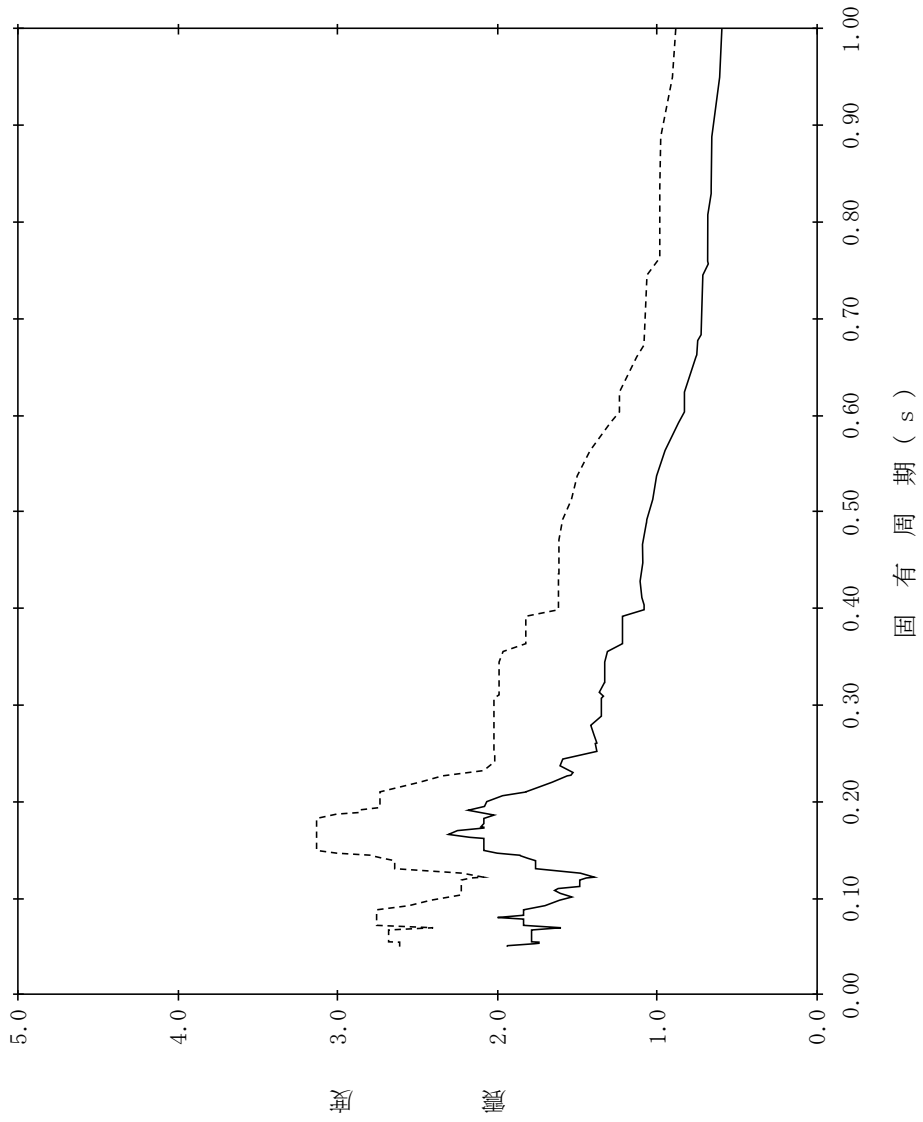
【NS2-TB-SdEW-TB61】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



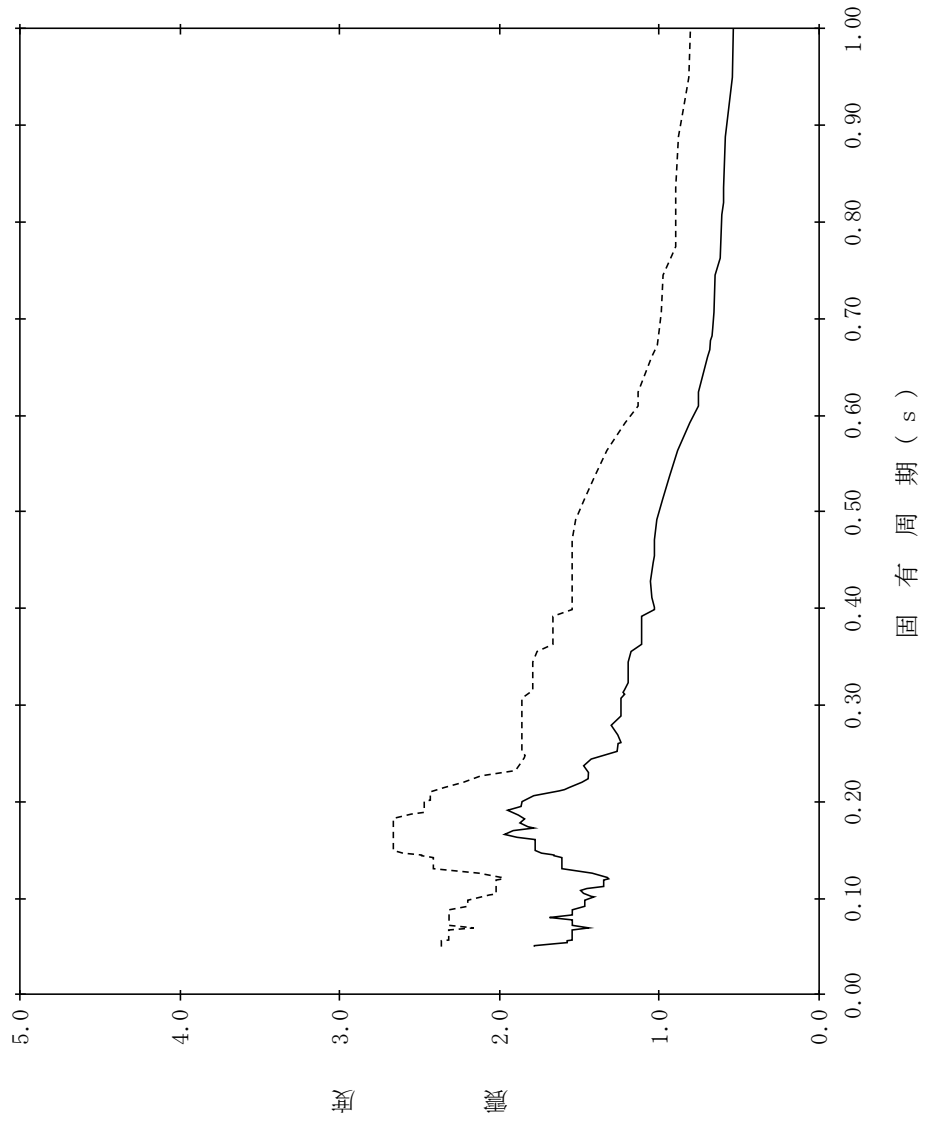
【NS2-TB-SdEW-TB62】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



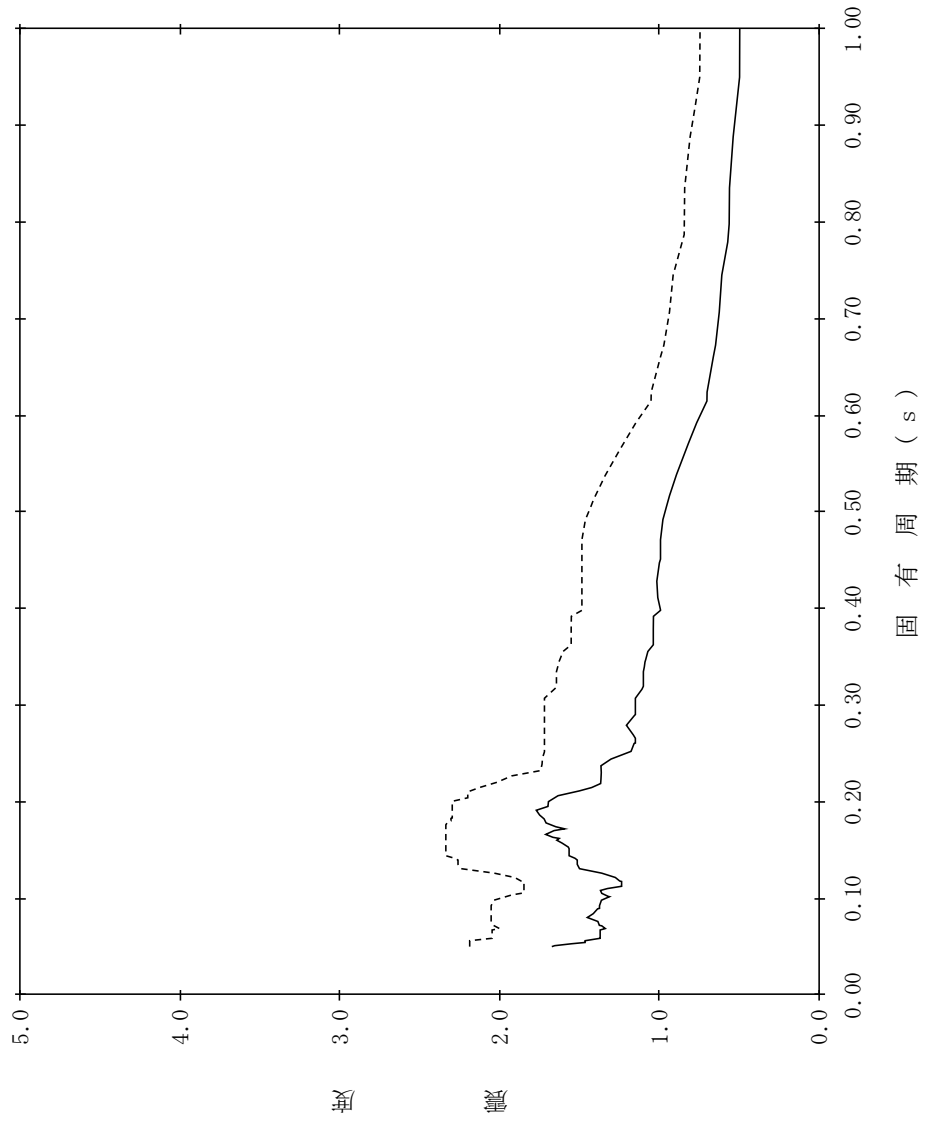
【NS2-TB-SdEW-TB63】

構造物名：タービン建物
標高：EL5.500m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



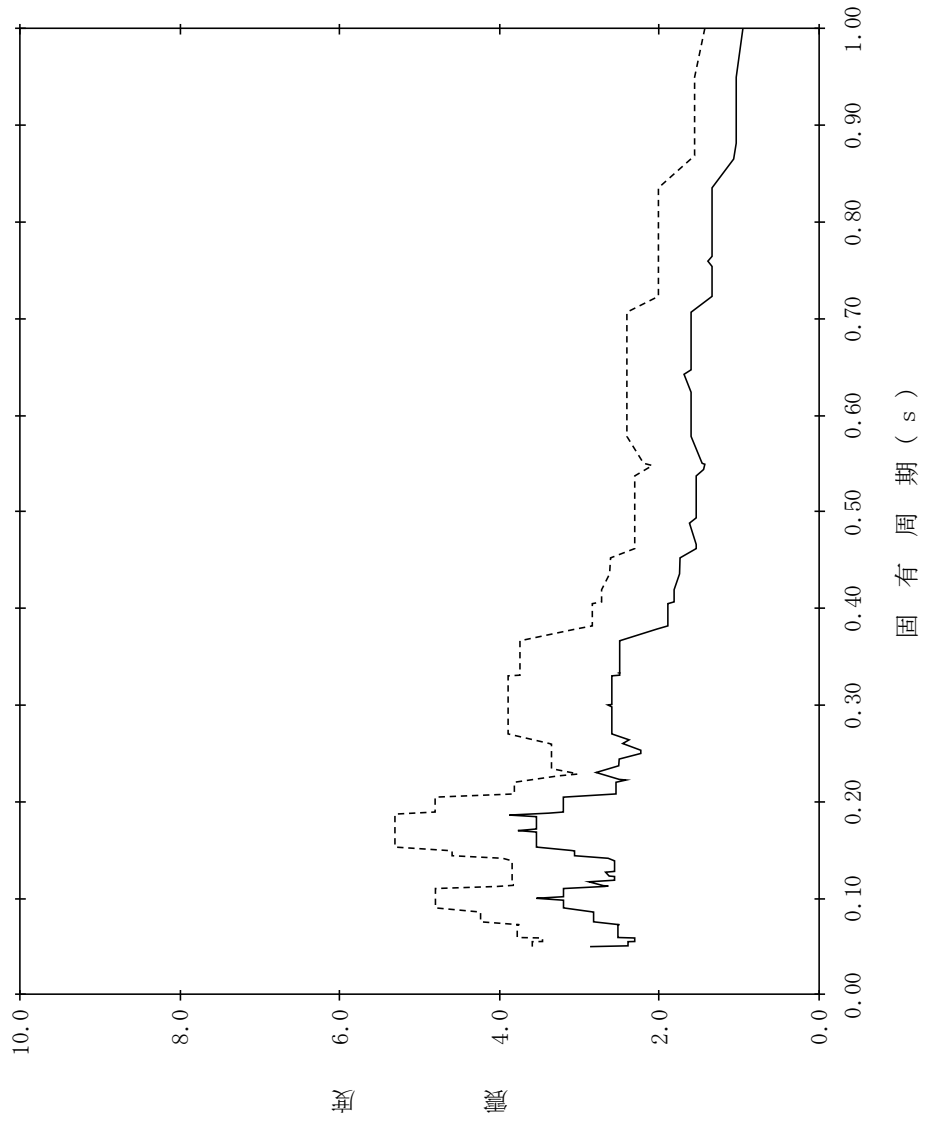
【NS2-TB-SdEW-TB64】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



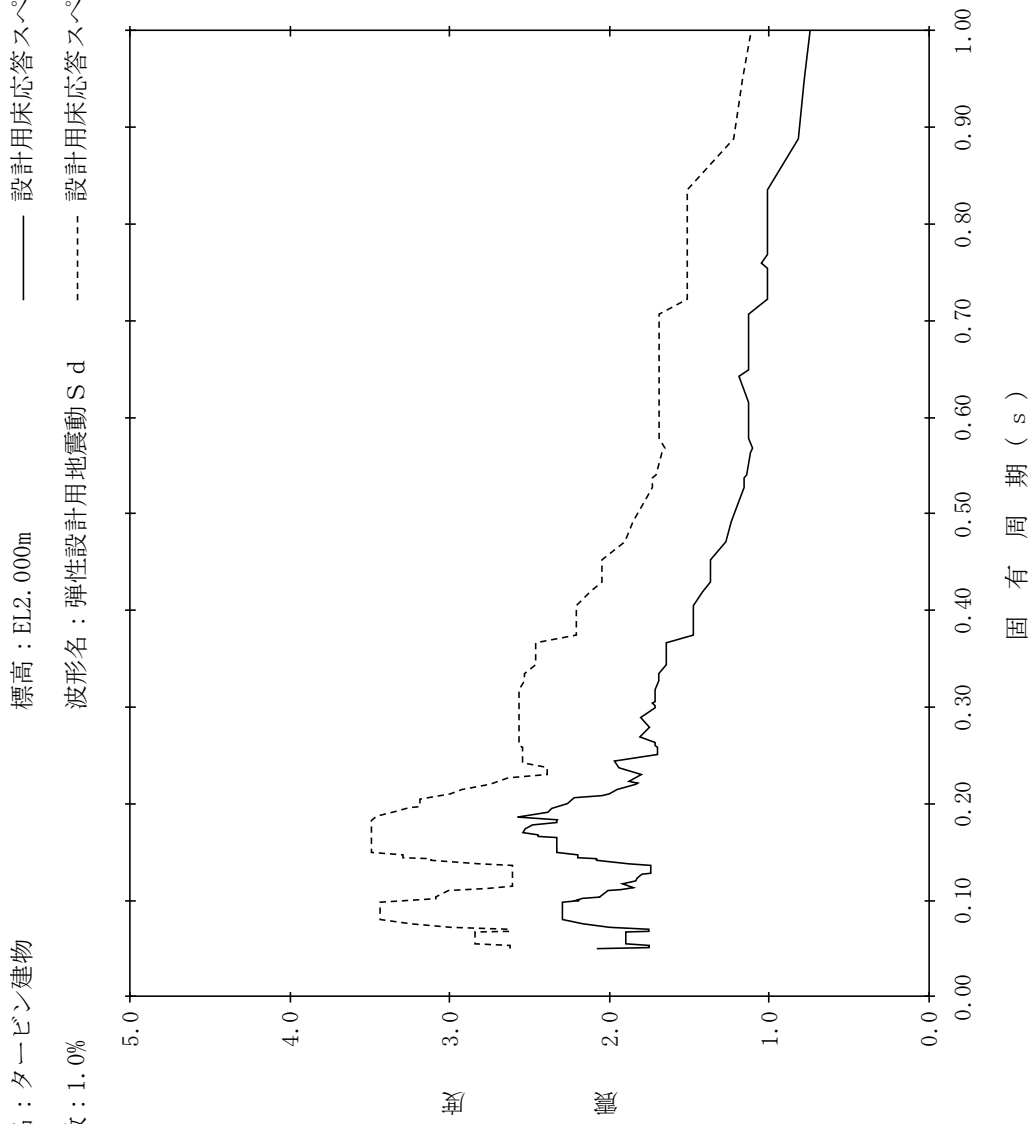
【NS2-TB-SdEW-TB65】

構造物名：タービン建物
 標高：EL2.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-TB-SdEW-TB66】

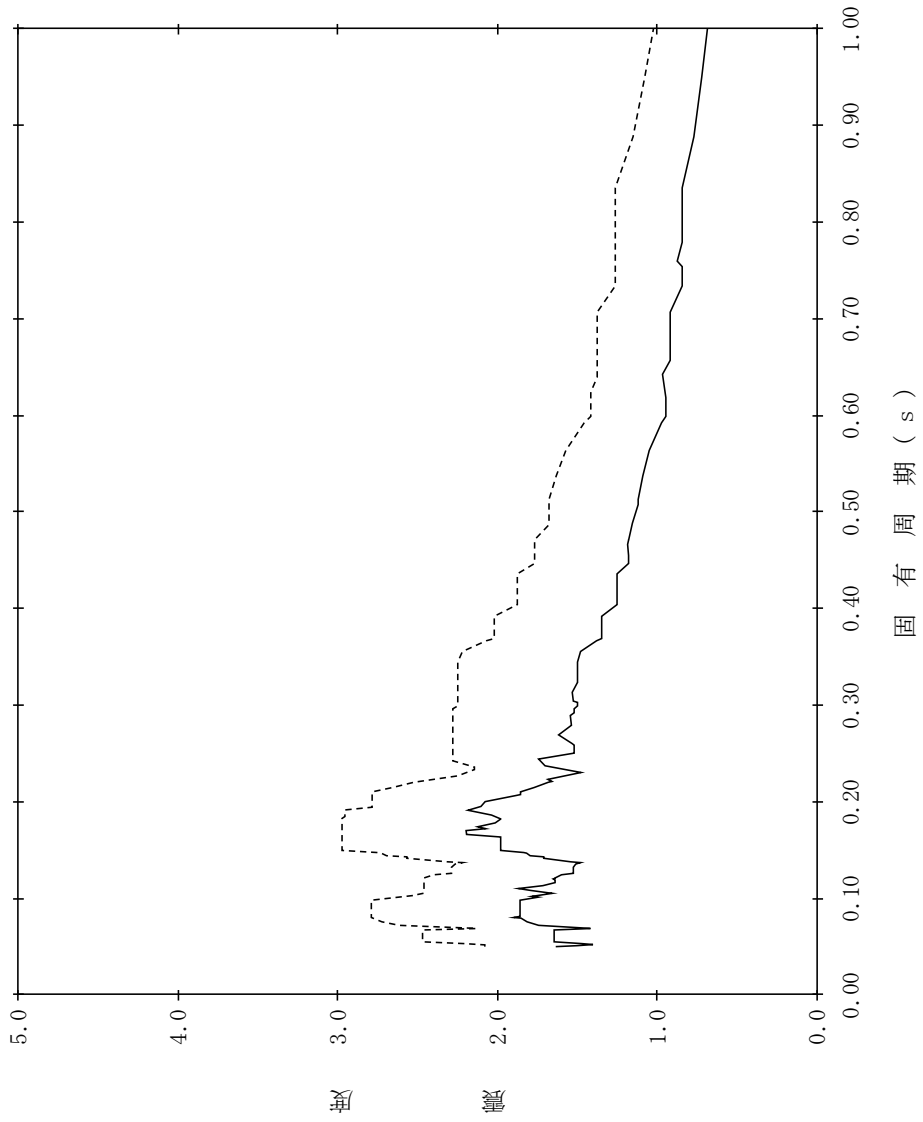
構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：1.0%



【NS2-TB-SdEW-TB67】

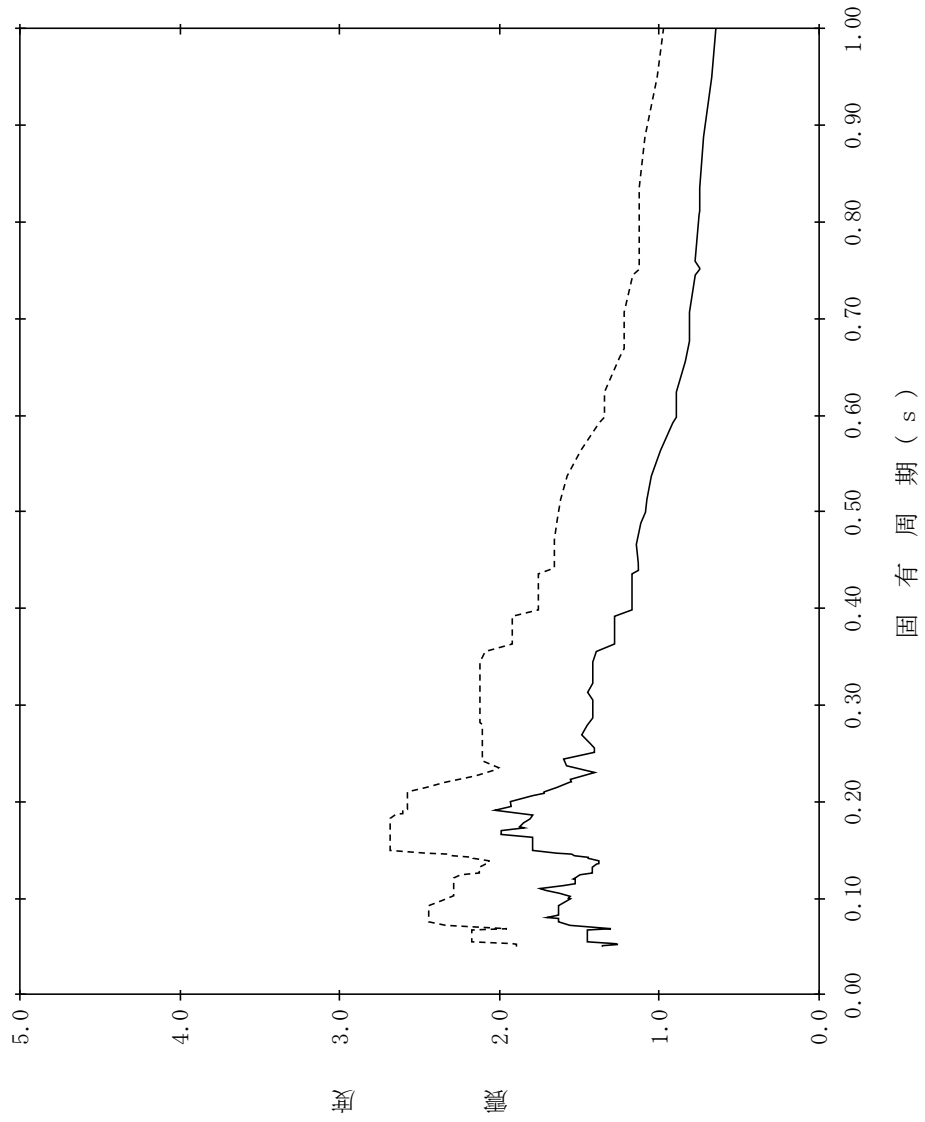
構造物名：タービン建物
標高：EL. 000m
減衰定数：1.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



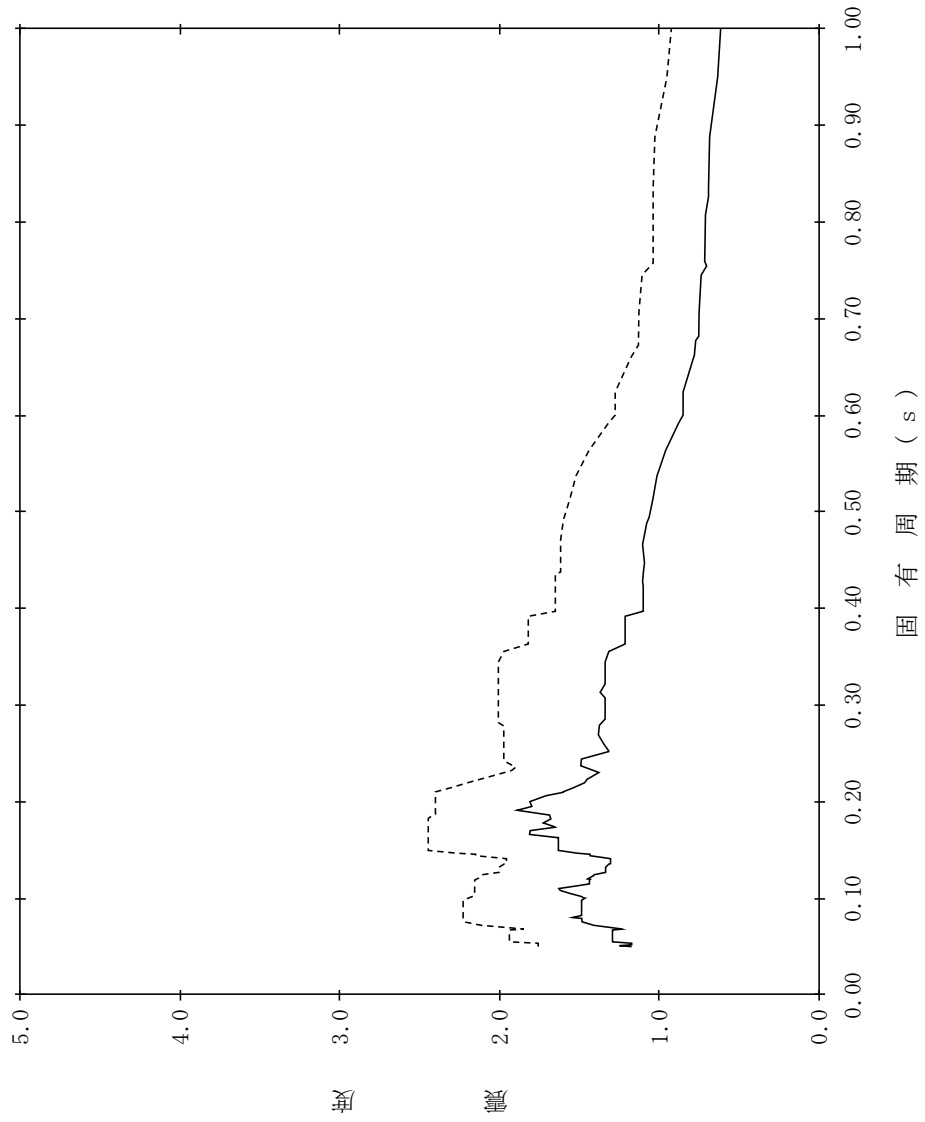
【NS2-TB-SdEW-TB68】

構造物名：タービン建物
 標高：EL.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



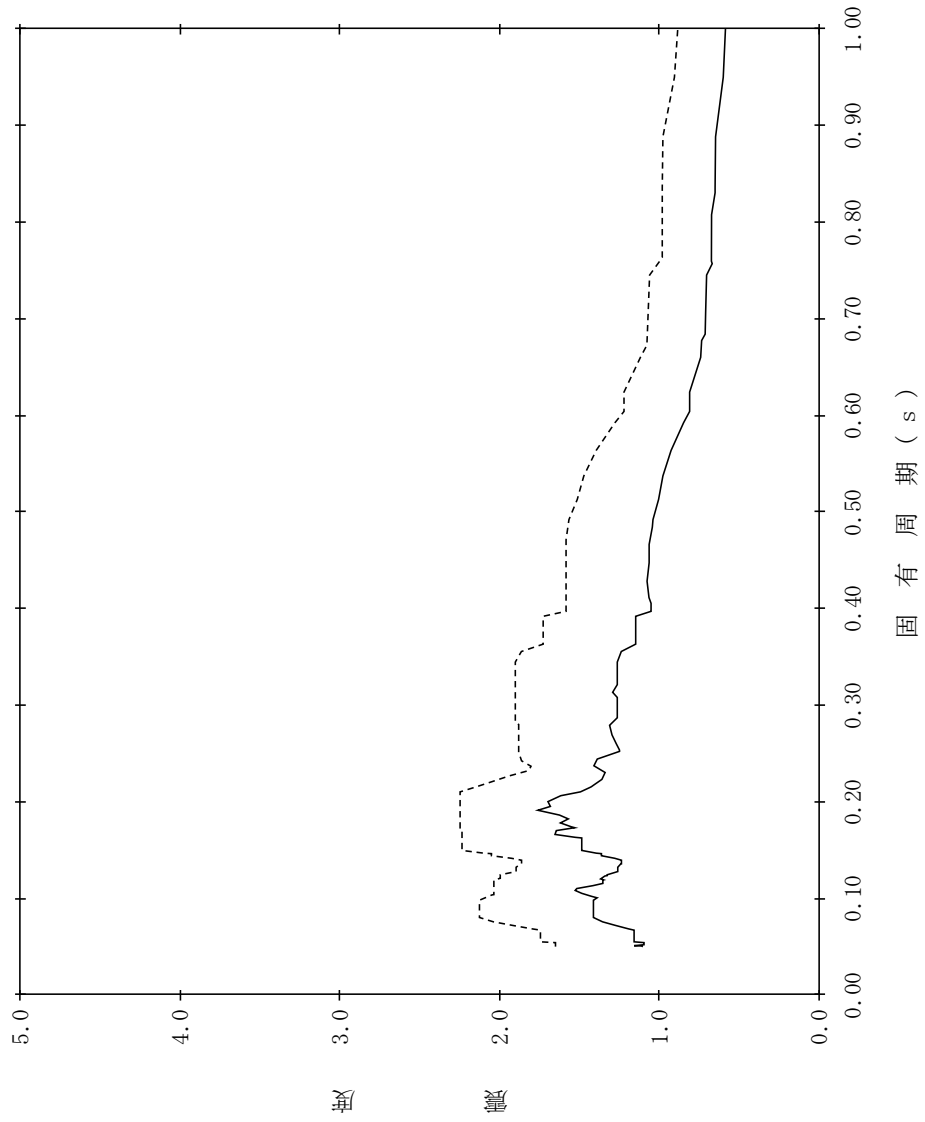
【NS2-TB-SdEW-TB69】

構造物名：タービン建物
 標高：EL.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



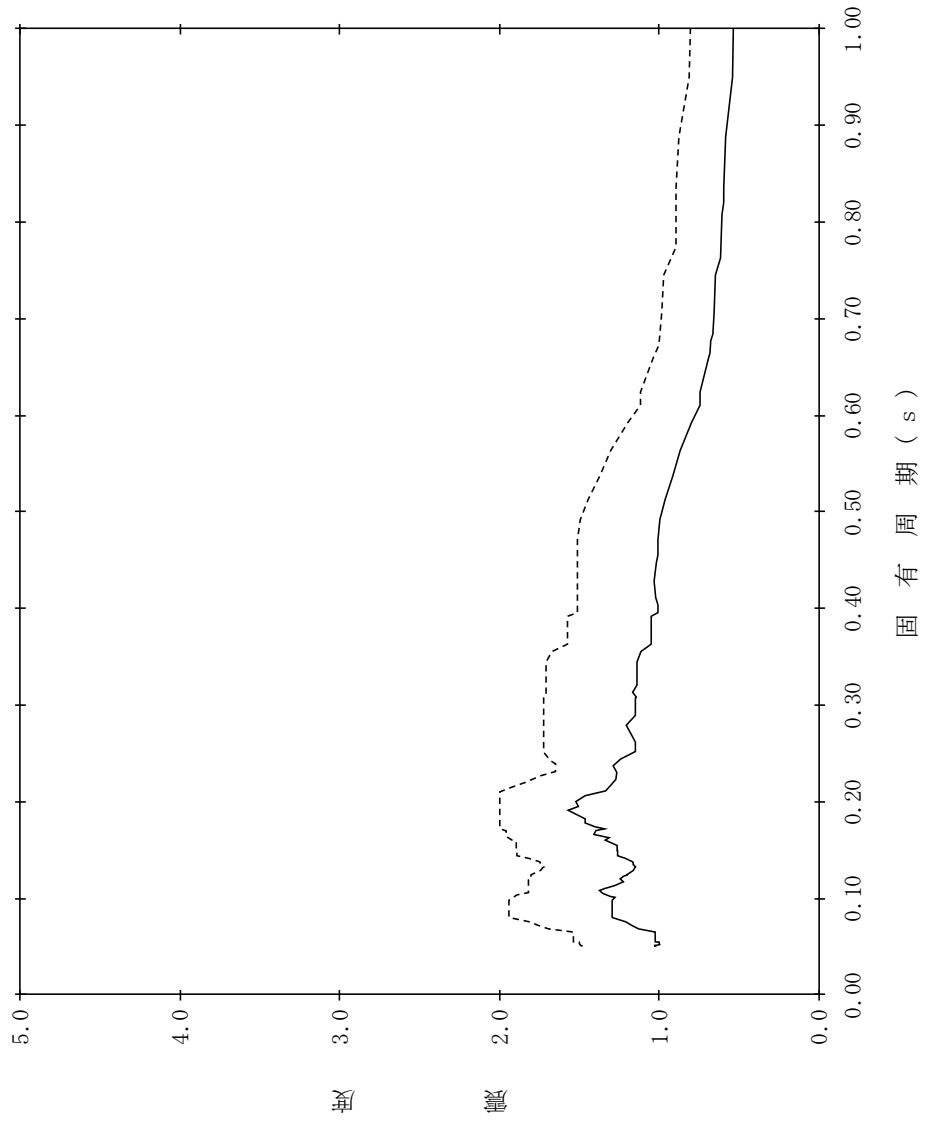
【NS2-TB-SdEW-TB70】

構造物名：タービン建物
 標高：EL2.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



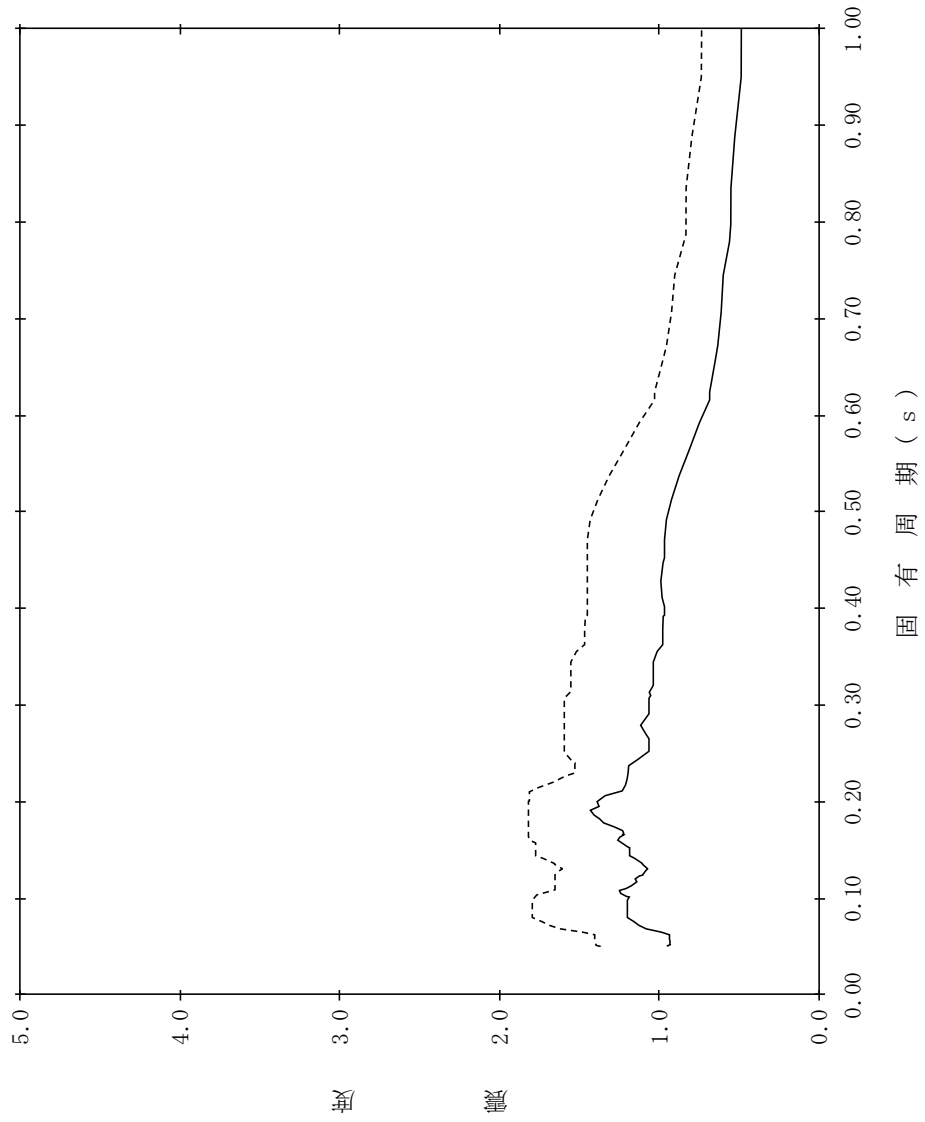
【NS2-TB-SdEW-TB71】

構造物名：タービン建物
標高：EL. 000m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



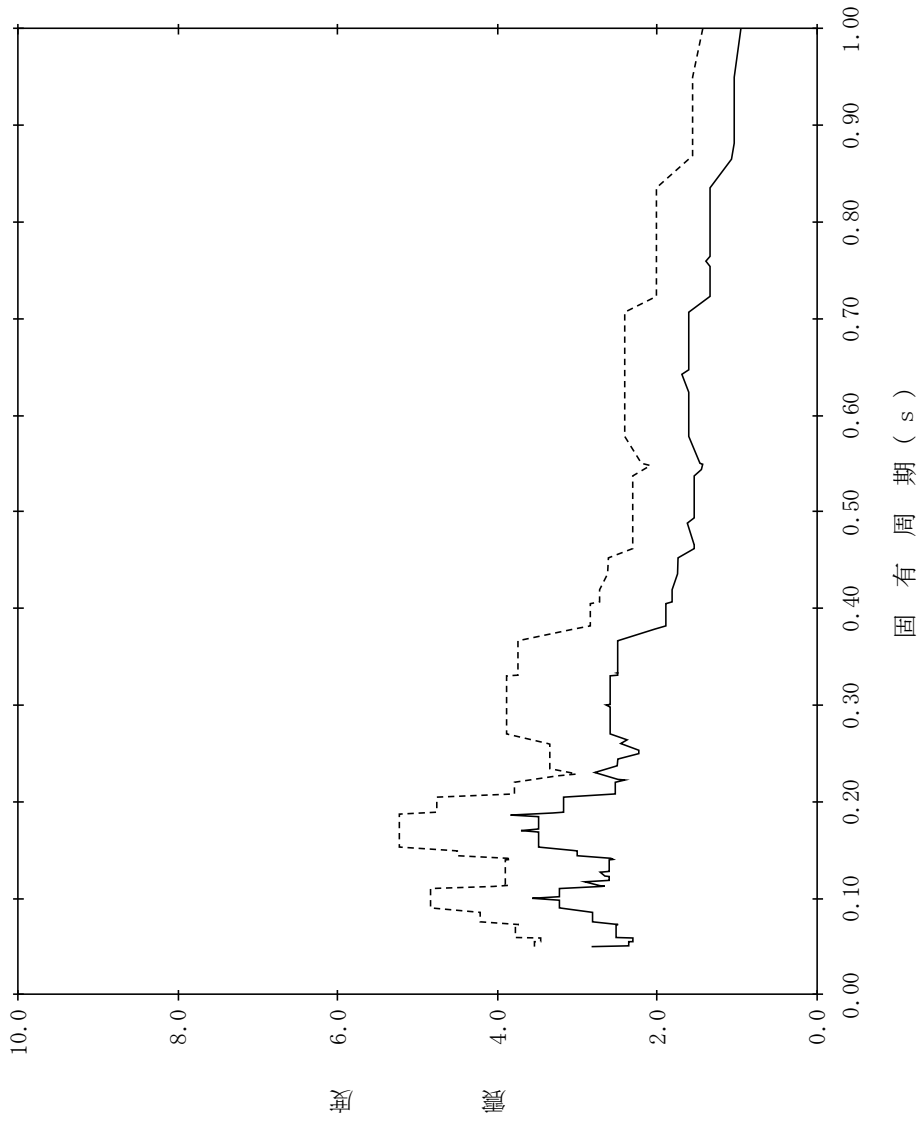
【NS2-TB-SdEW-TB72】

構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



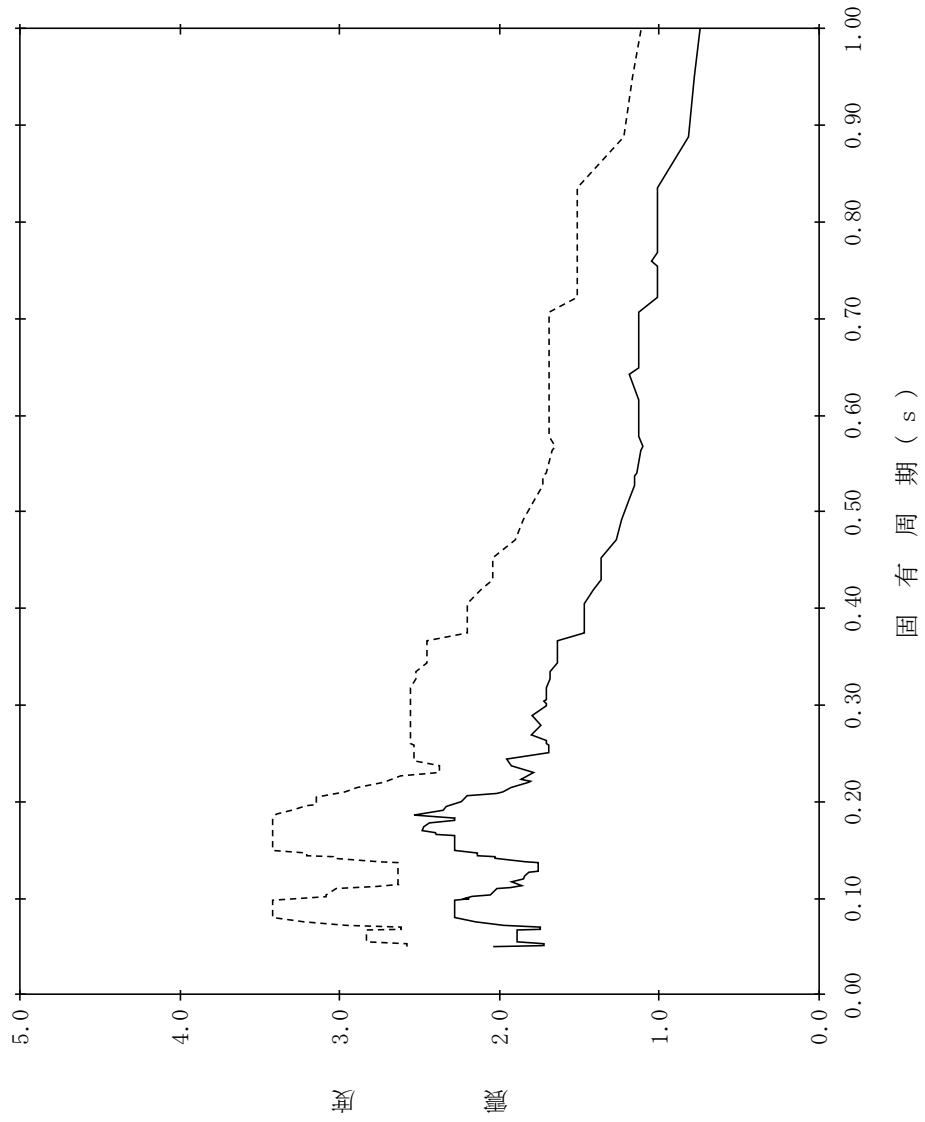
【NS2-TB-SdEW-TB73】

構造物名：タービン建物
標高：EL0.000m
減衰定数：0.5%
波形式：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



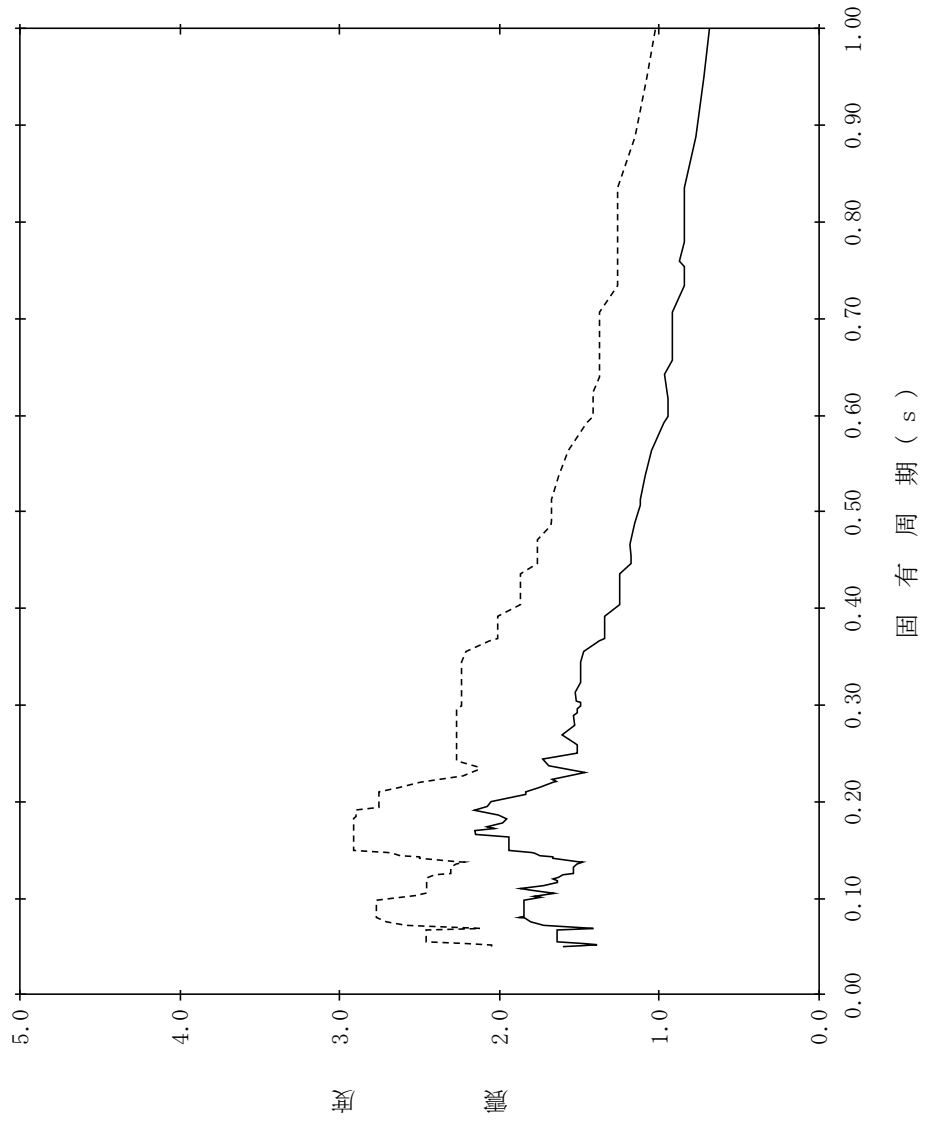
【NS2-TB-SdEW-TB74】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



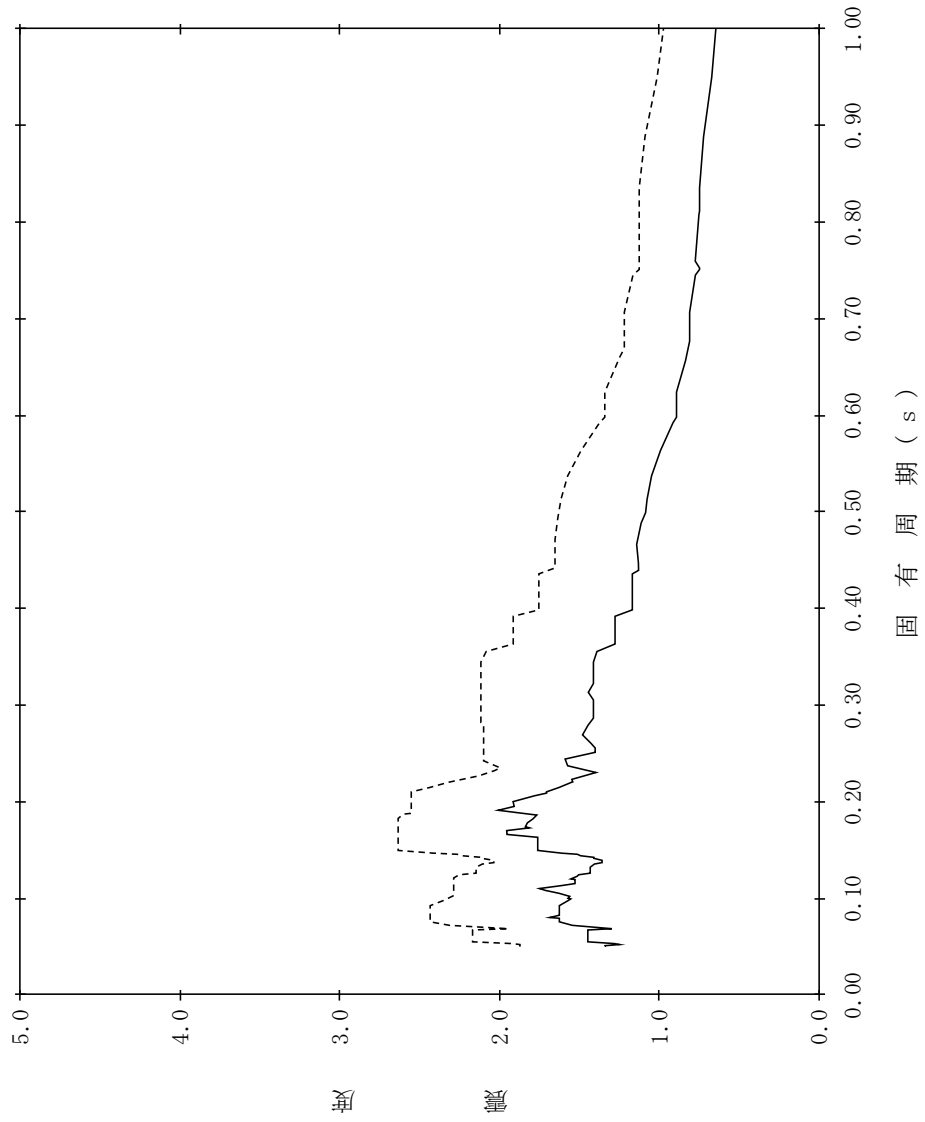
【NS2-TB-SdEW-TB75】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



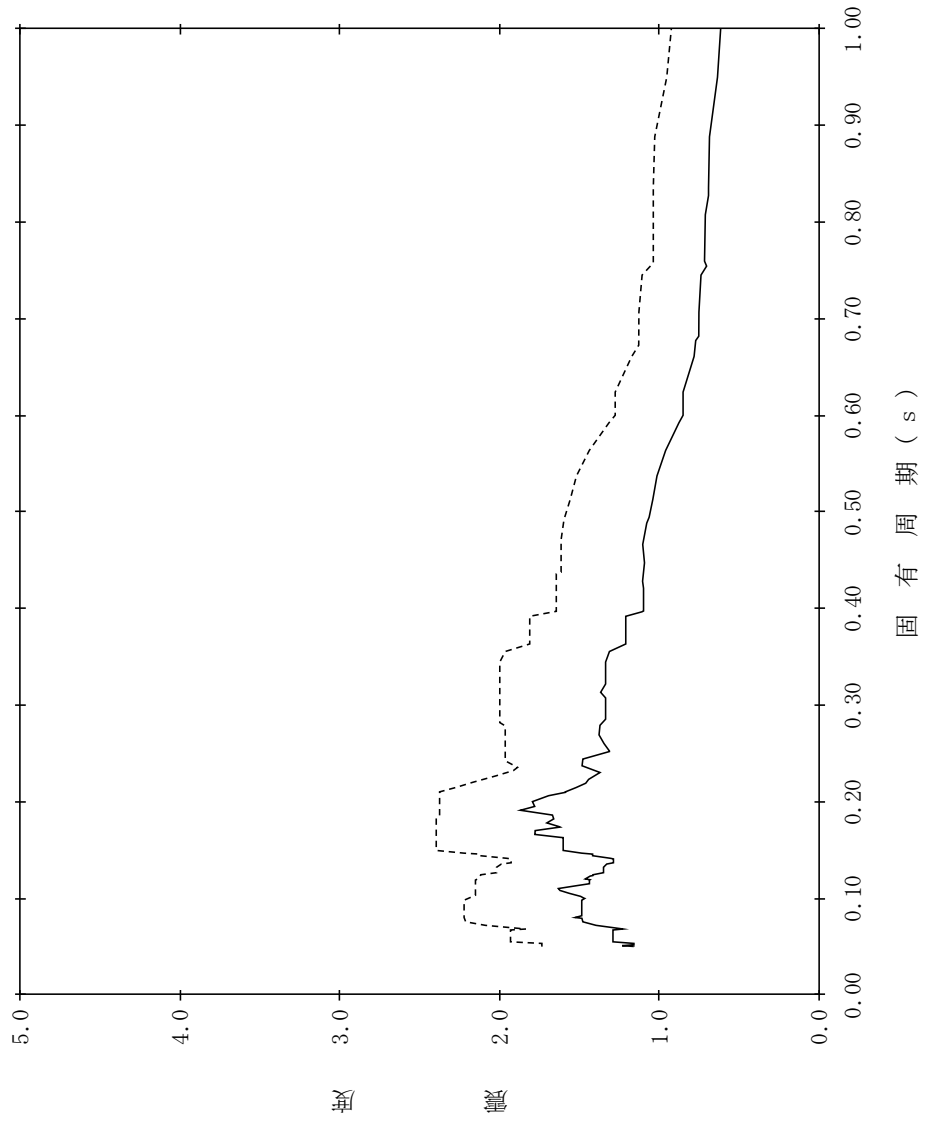
【NS2-TB-SdEW-TB76】

構造物名：タービン建物
標高：EL0.000m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



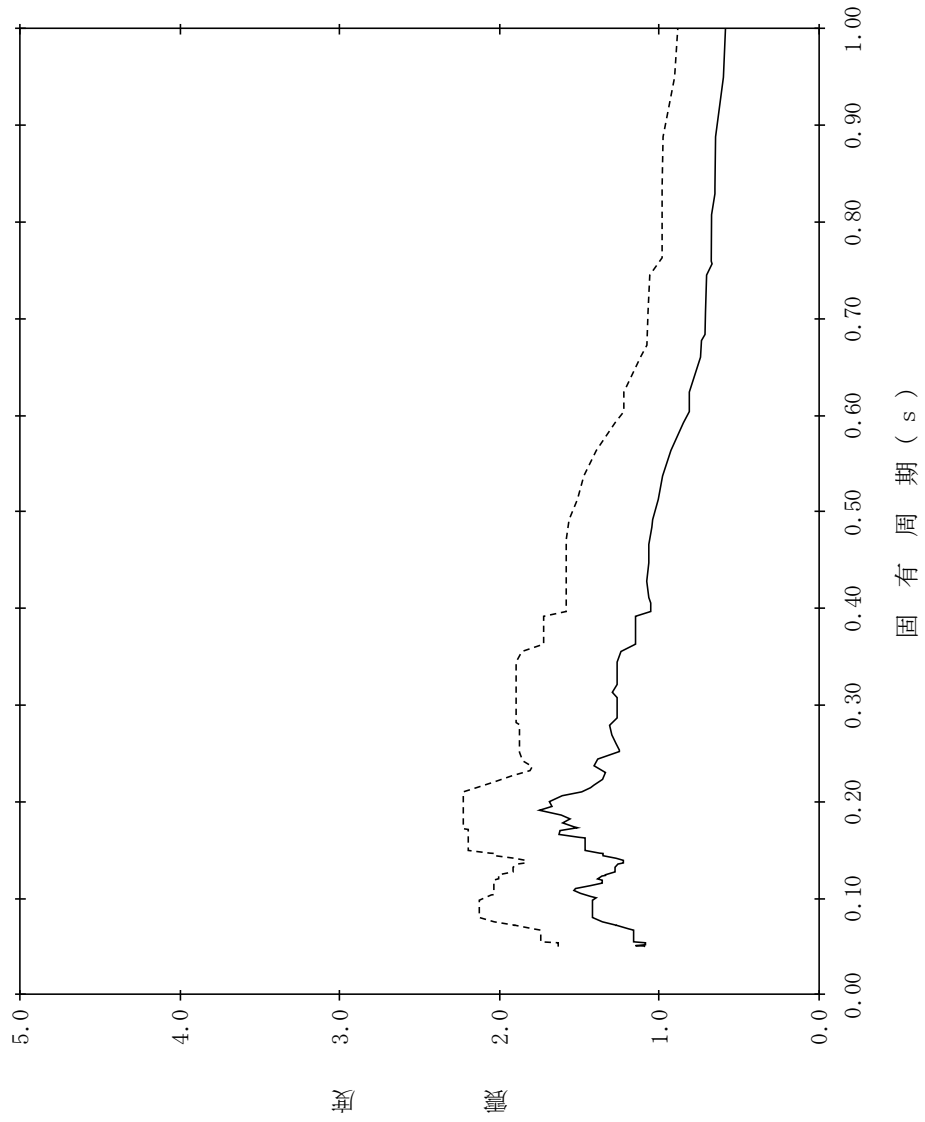
【NS2-TB-SdEW-TB77】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



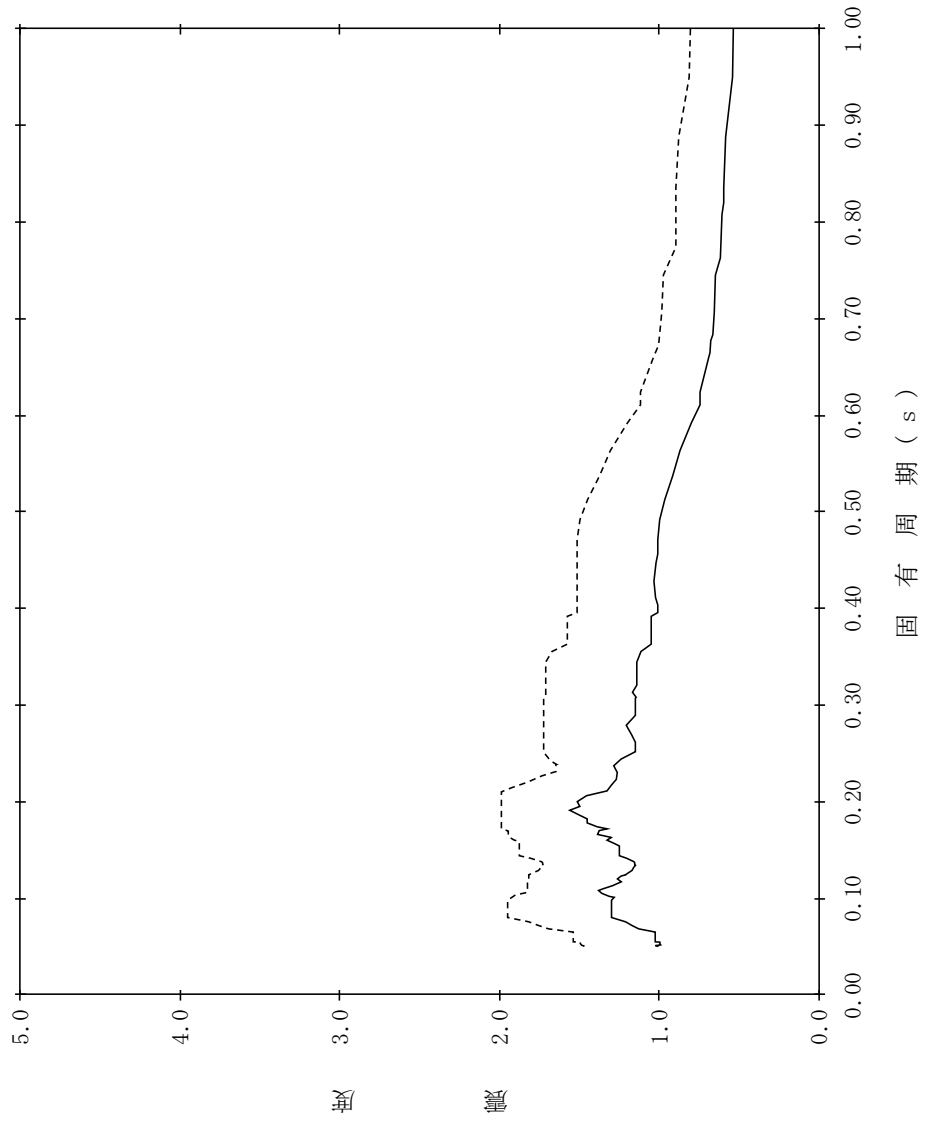
【NS2-TB-SdEW-TB78】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



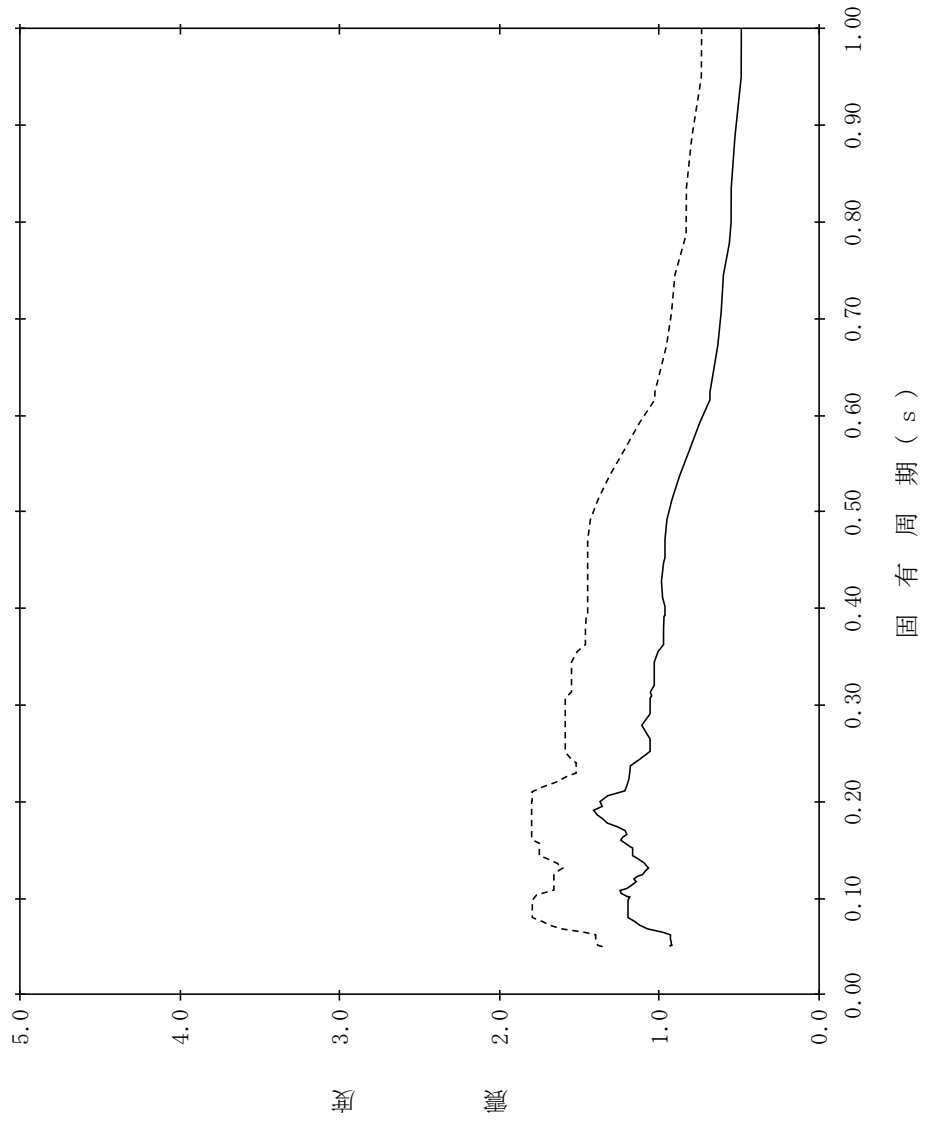
【NS2-TB-SdEW-TB79】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



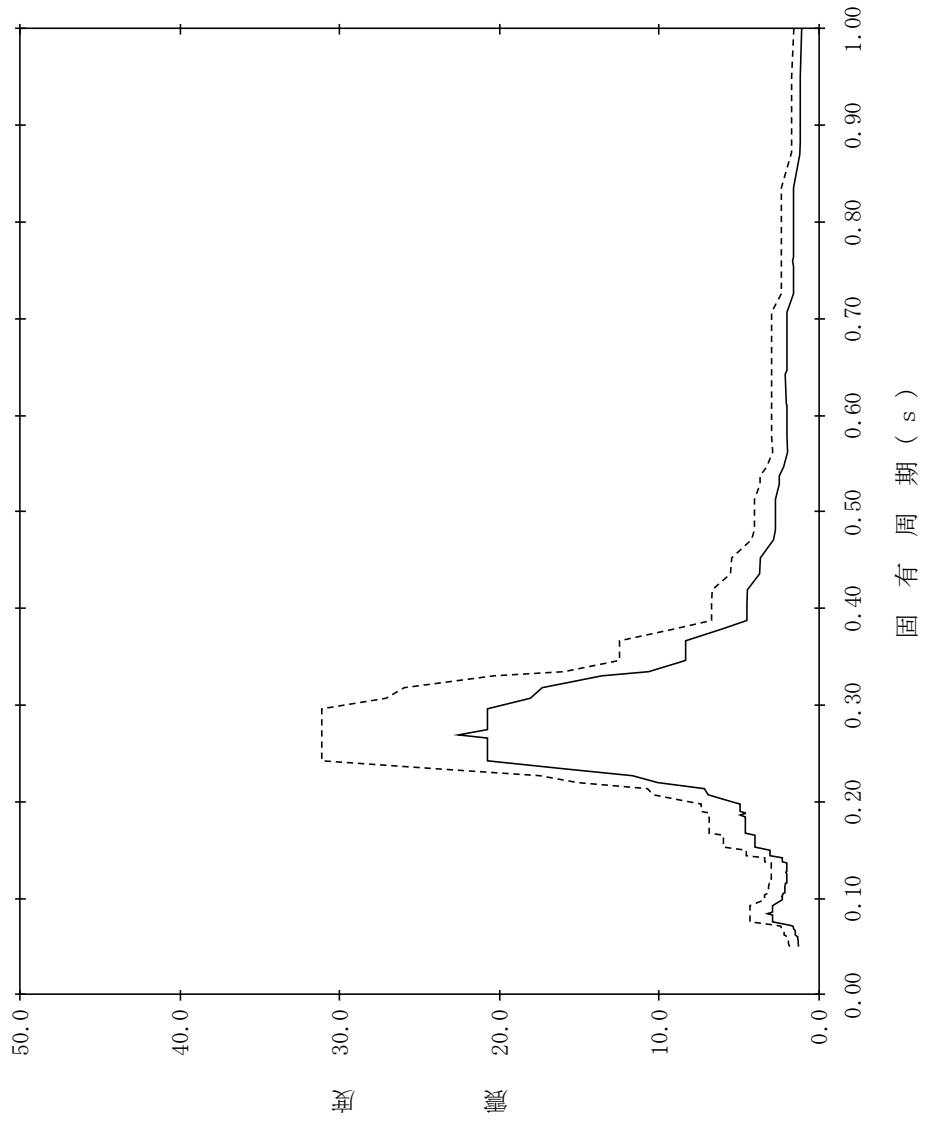
【NS2-TB-SdEW-TB80】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



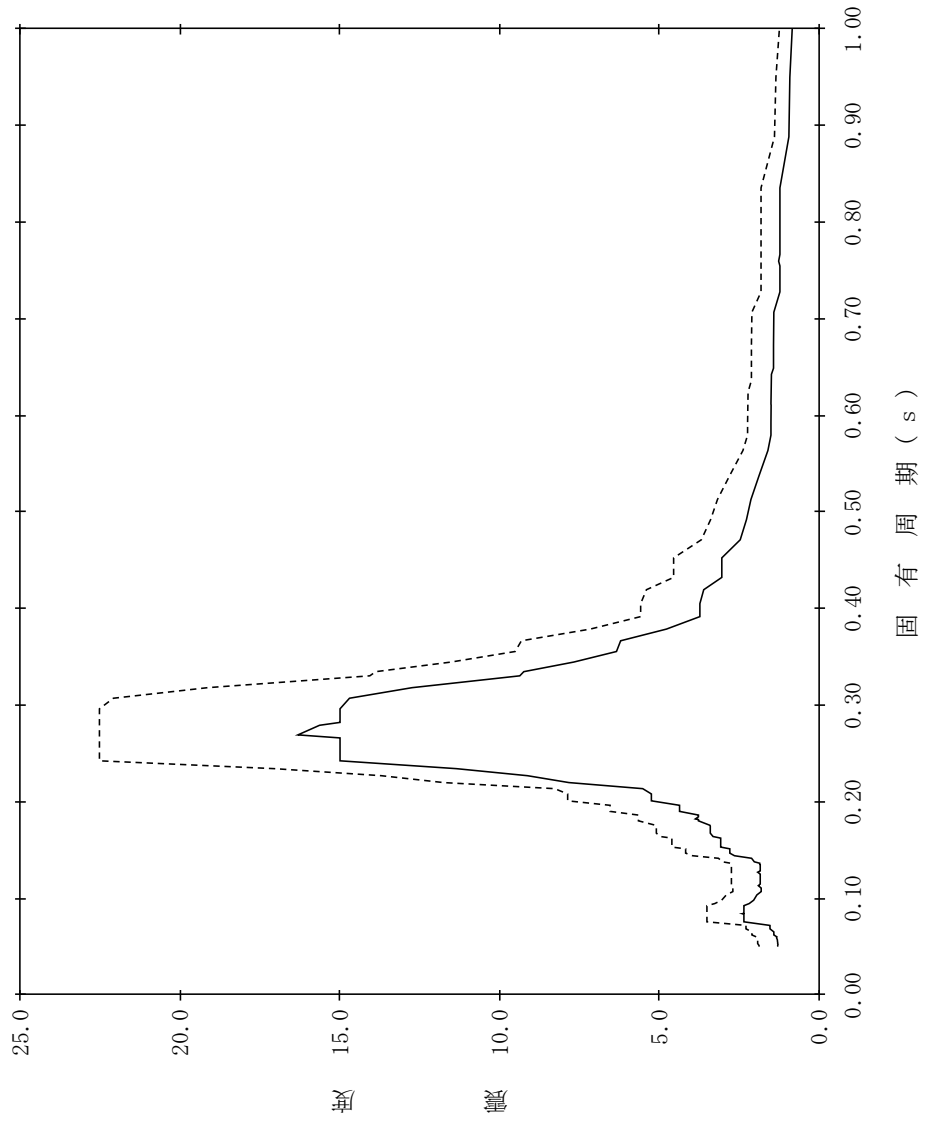
【NS2-TB-SdEW-TG81】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



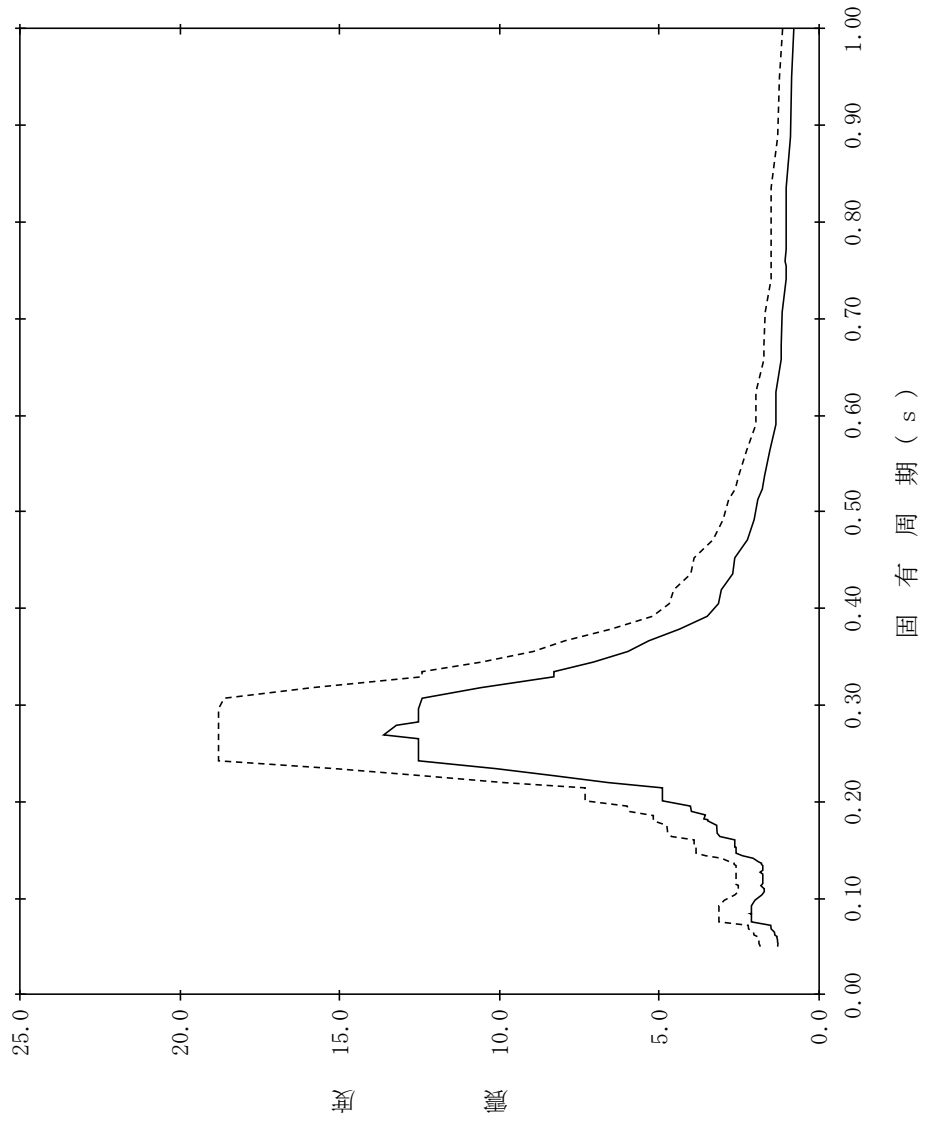
【NS2-TB-SdEW-TG82】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL20.480m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



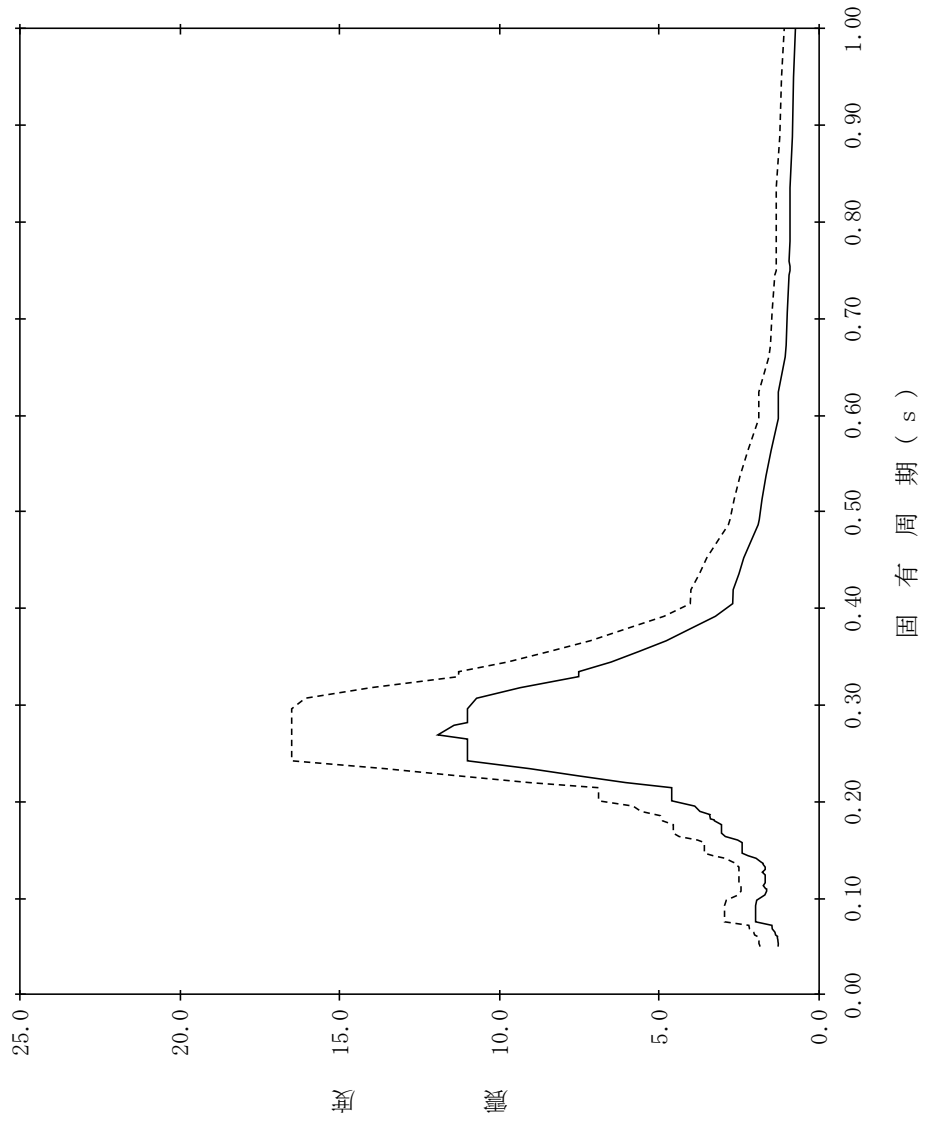
【NS2-TB-SdEW-TG83】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



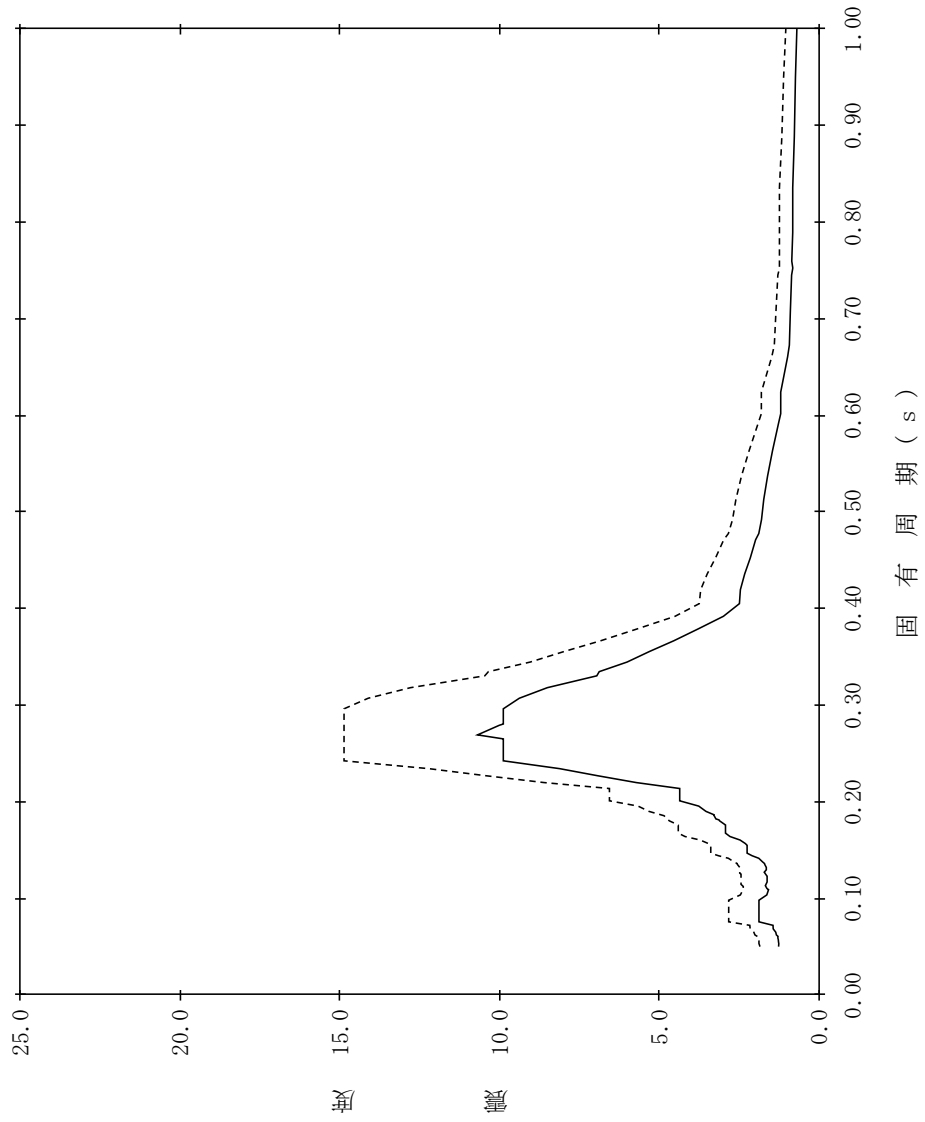
【NS2-TB-SdEW-TG84】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



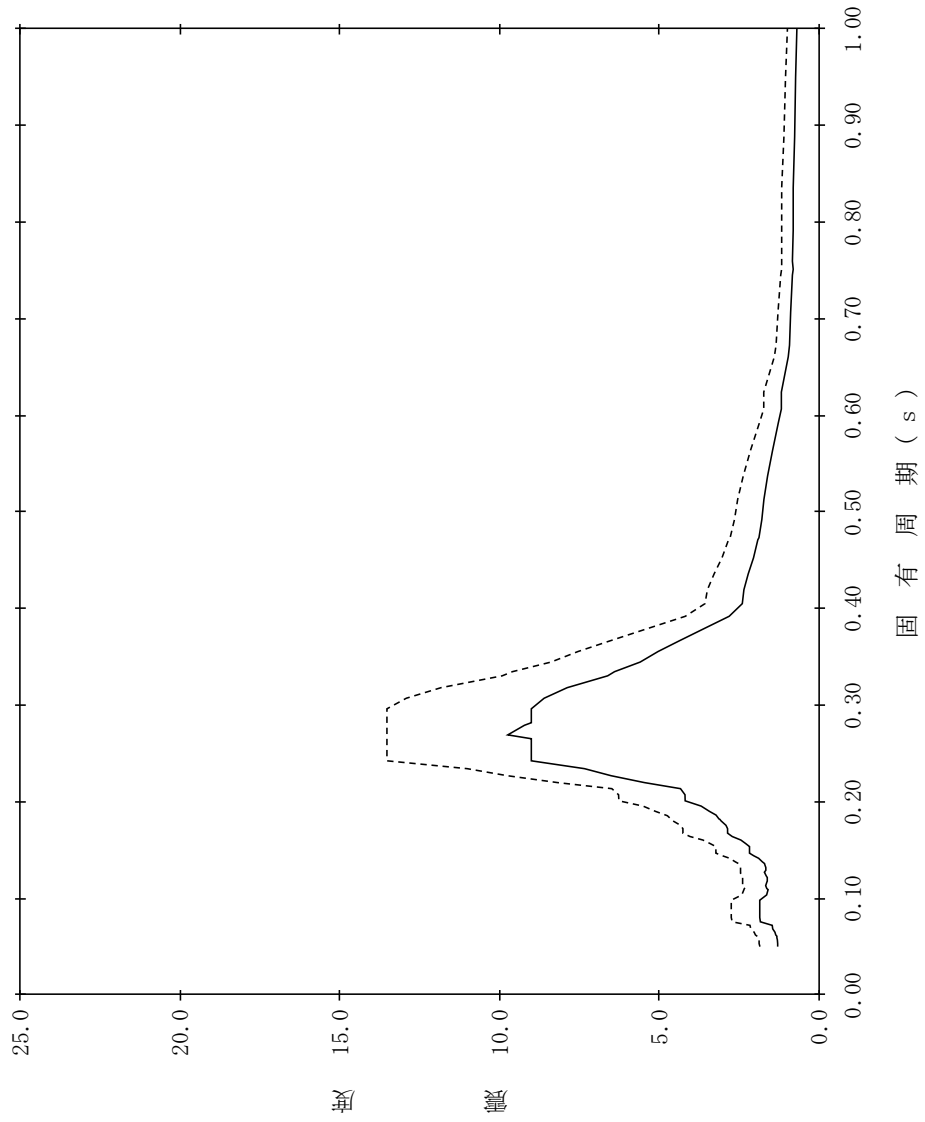
【NS2-TB-SdEW-TG85】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL20.480m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



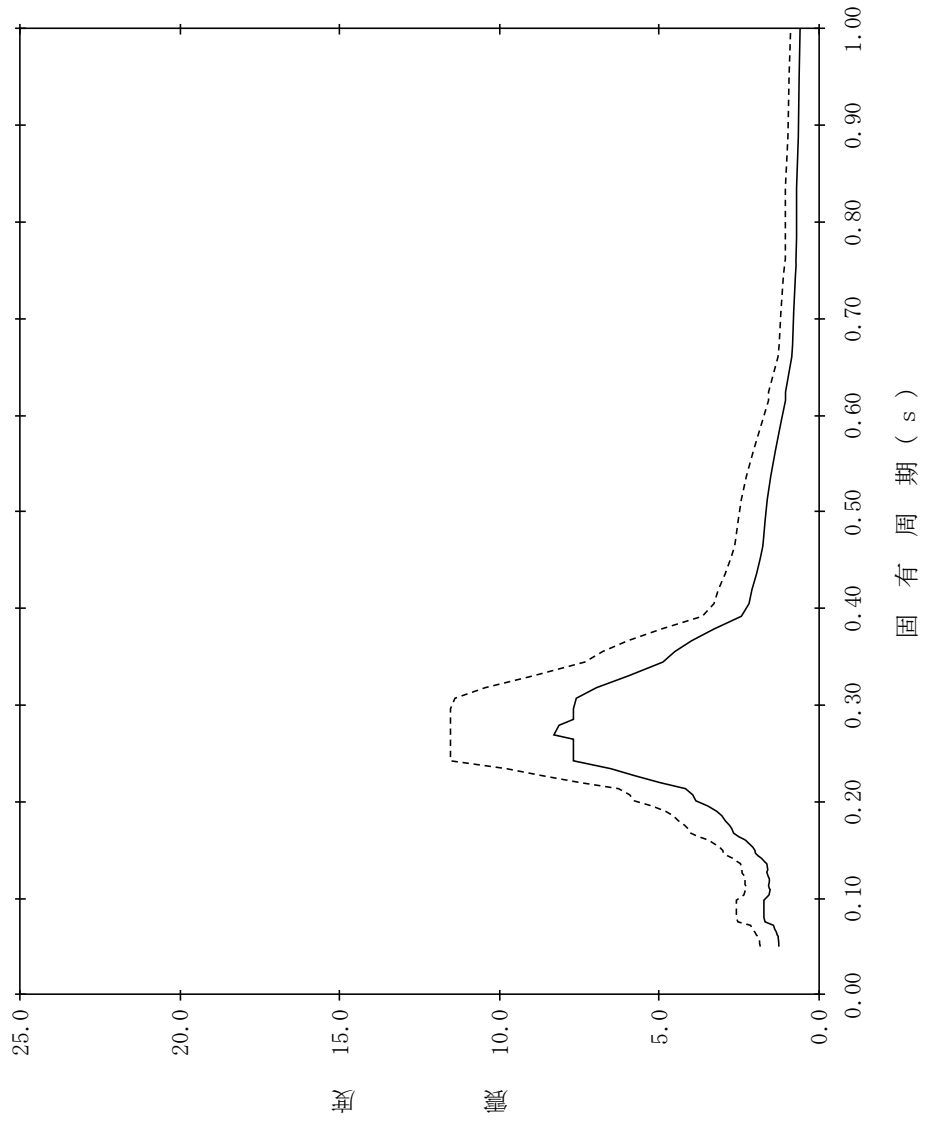
【NS2-TB-SdEW-TG86】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



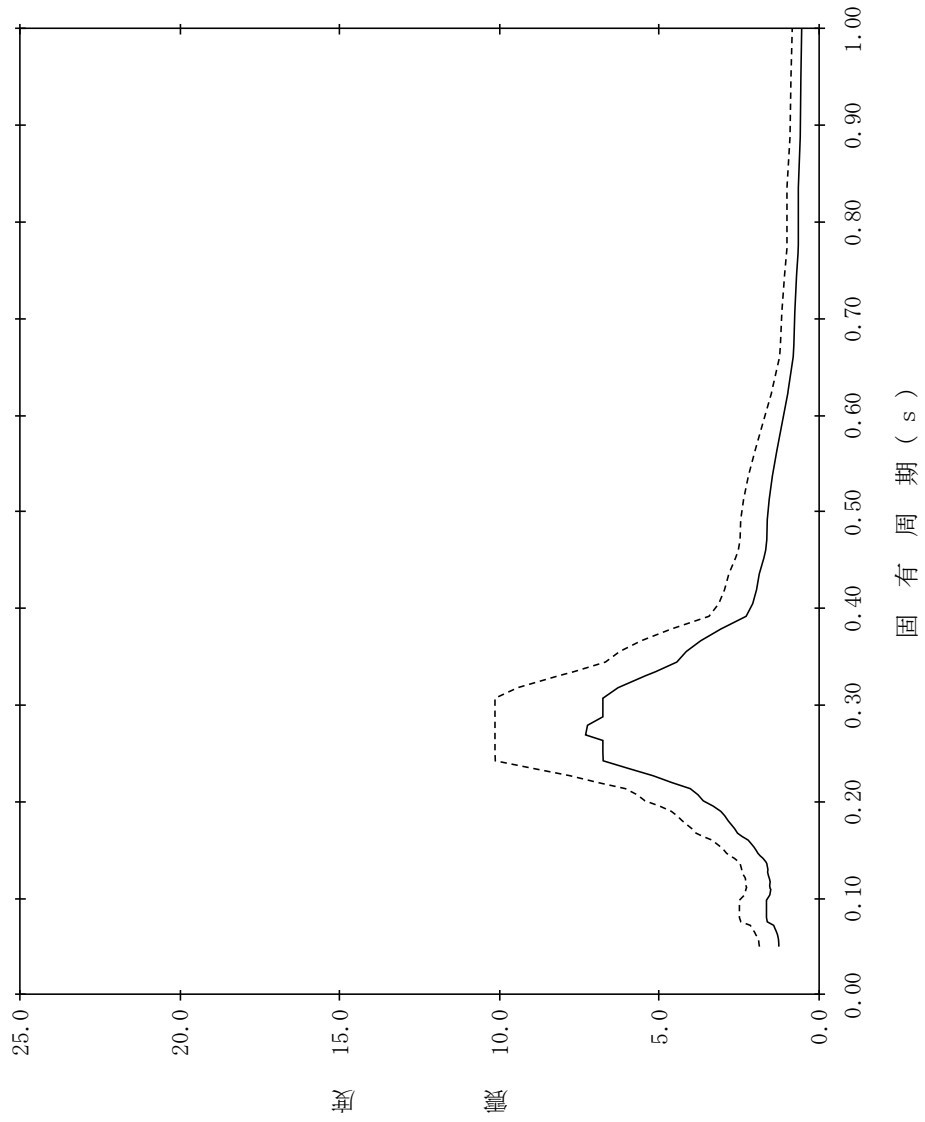
【NS2-TB-SdEW-TG87】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



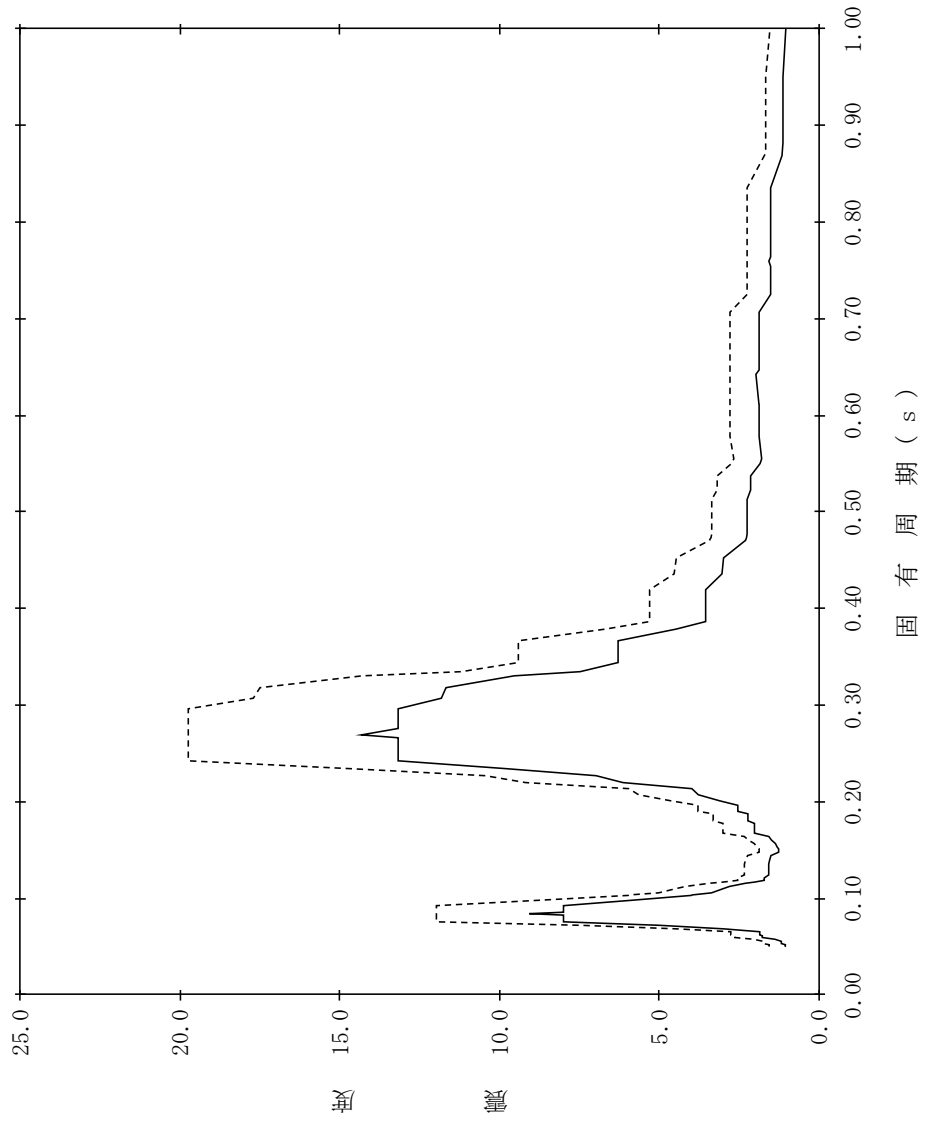
【NS2-TB-SdEW-TG88】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL20.480m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



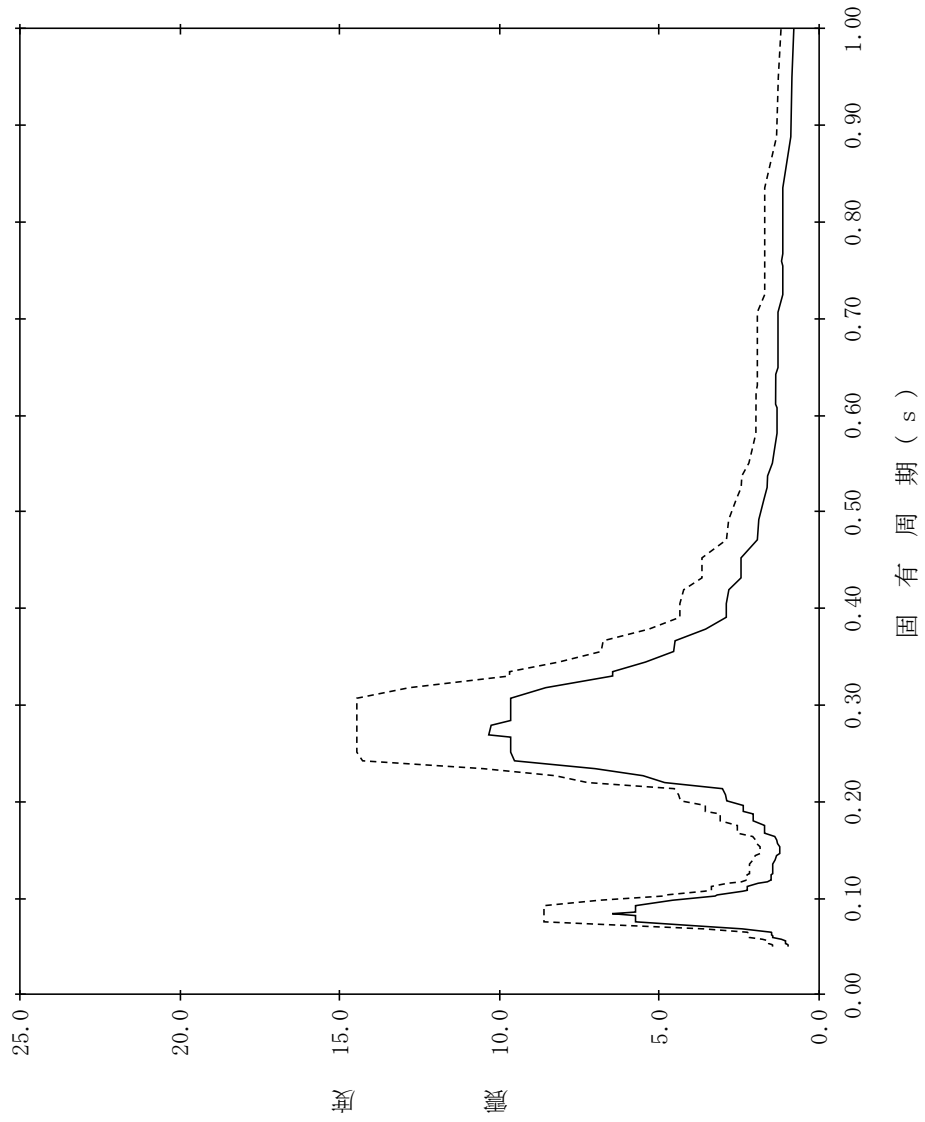
【NS2-TB-SdEW-TG89】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL13.000m
減衰定数：0.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



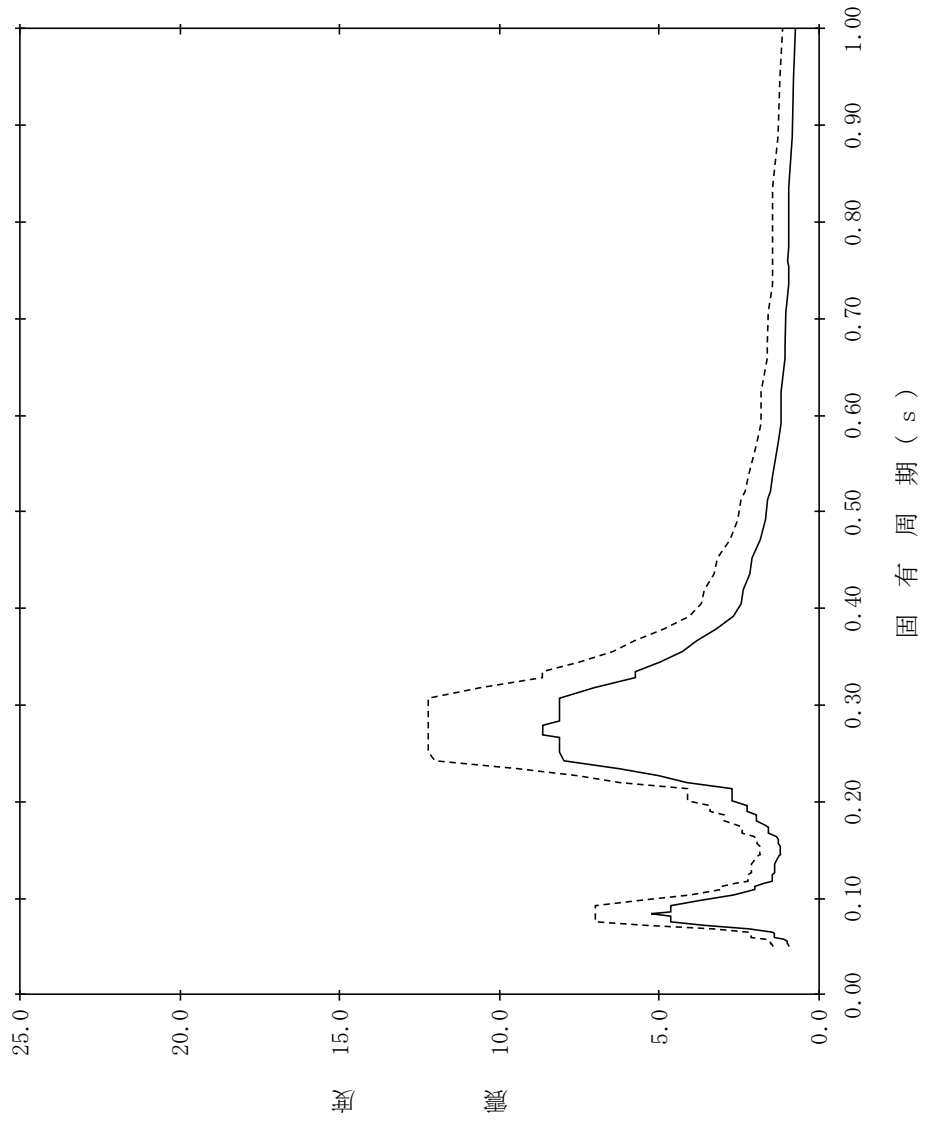
【NS2-TB-SdEW-TG90】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



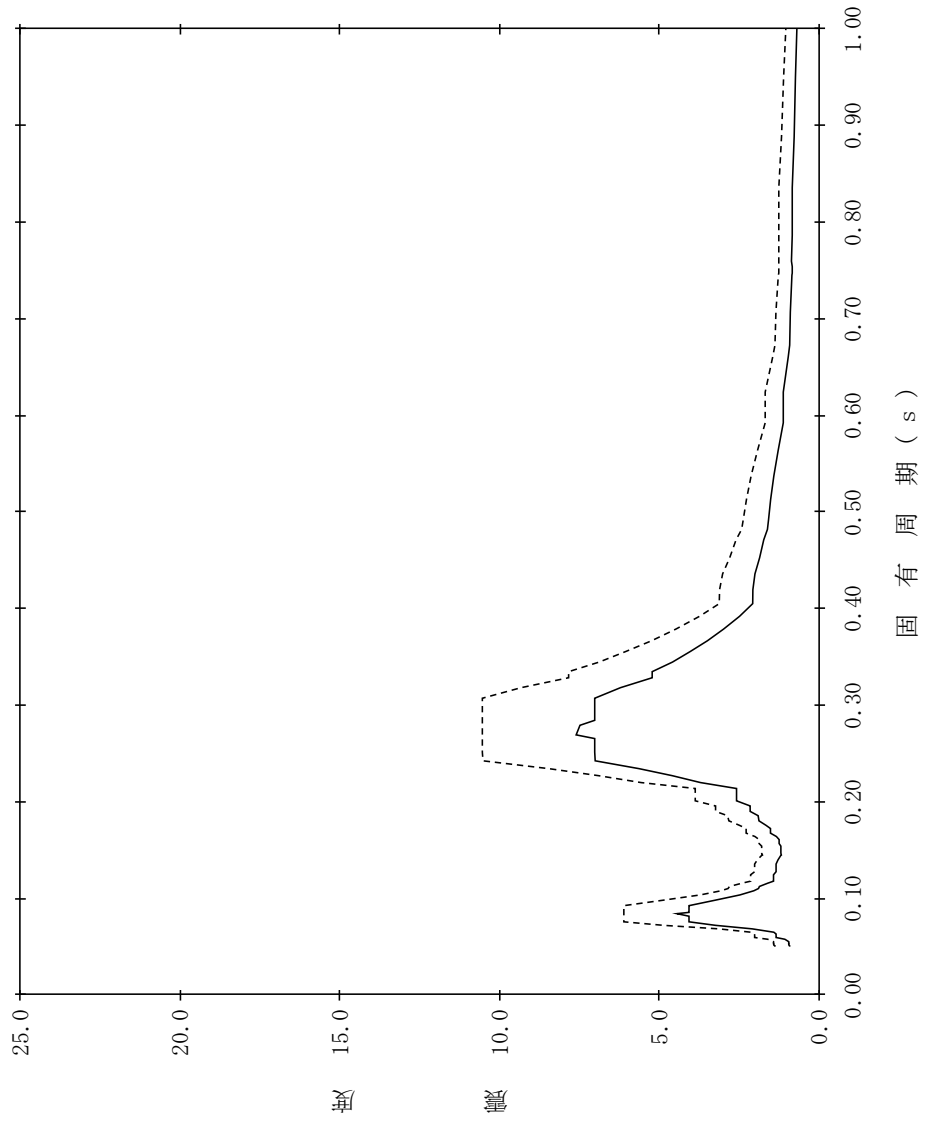
【NS2-TB-SdEW-TG91】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL13.000m
減衰定数：1.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



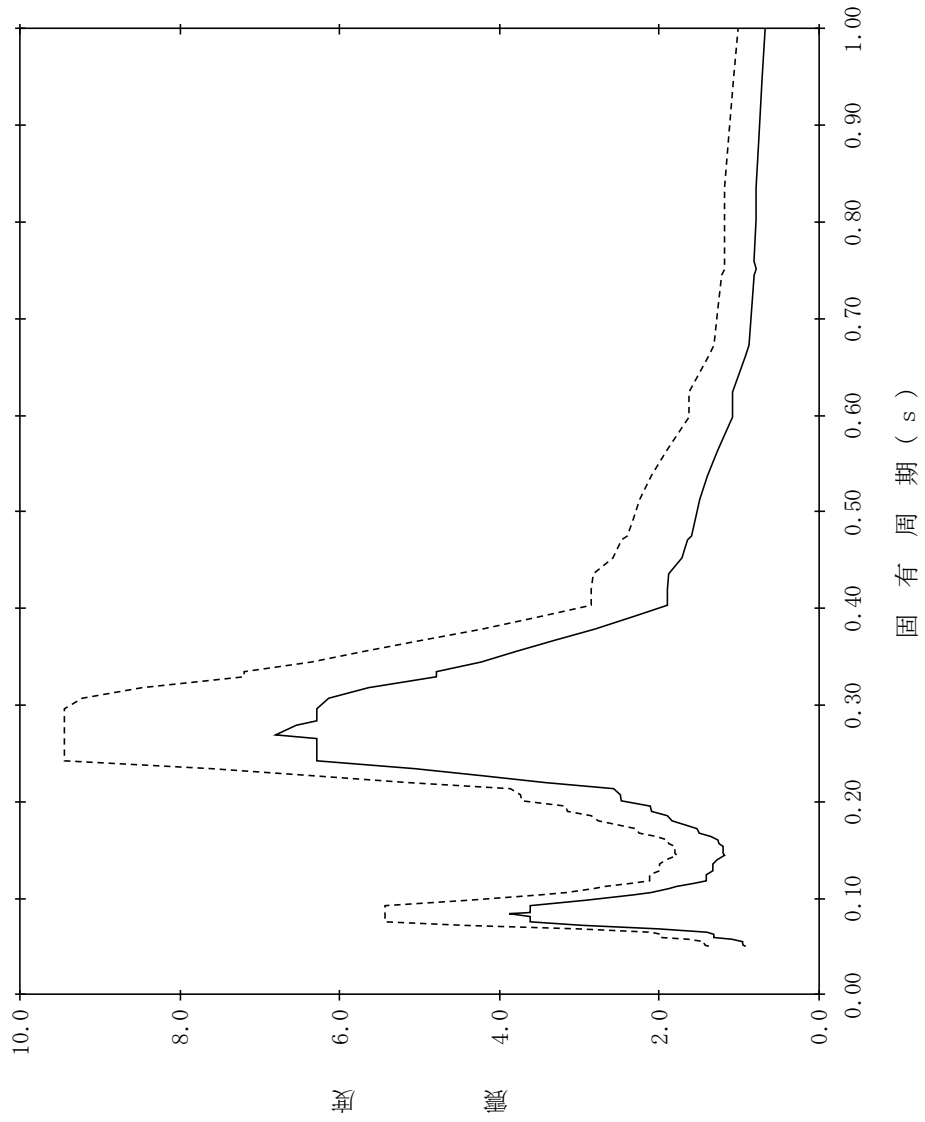
【NS2-TB-SdEW-TG92】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL13.000m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



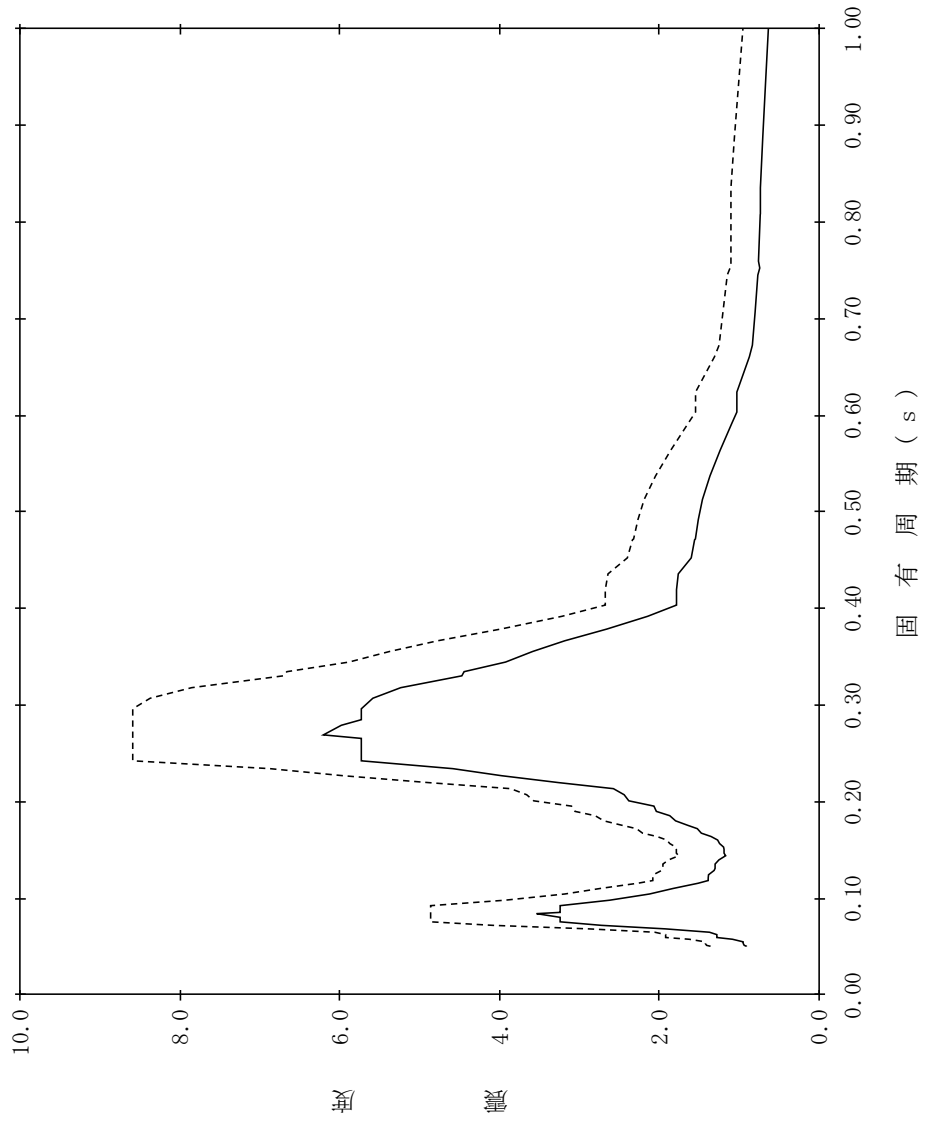
【NS2-TB-SdEW-TG93】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL13.000m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



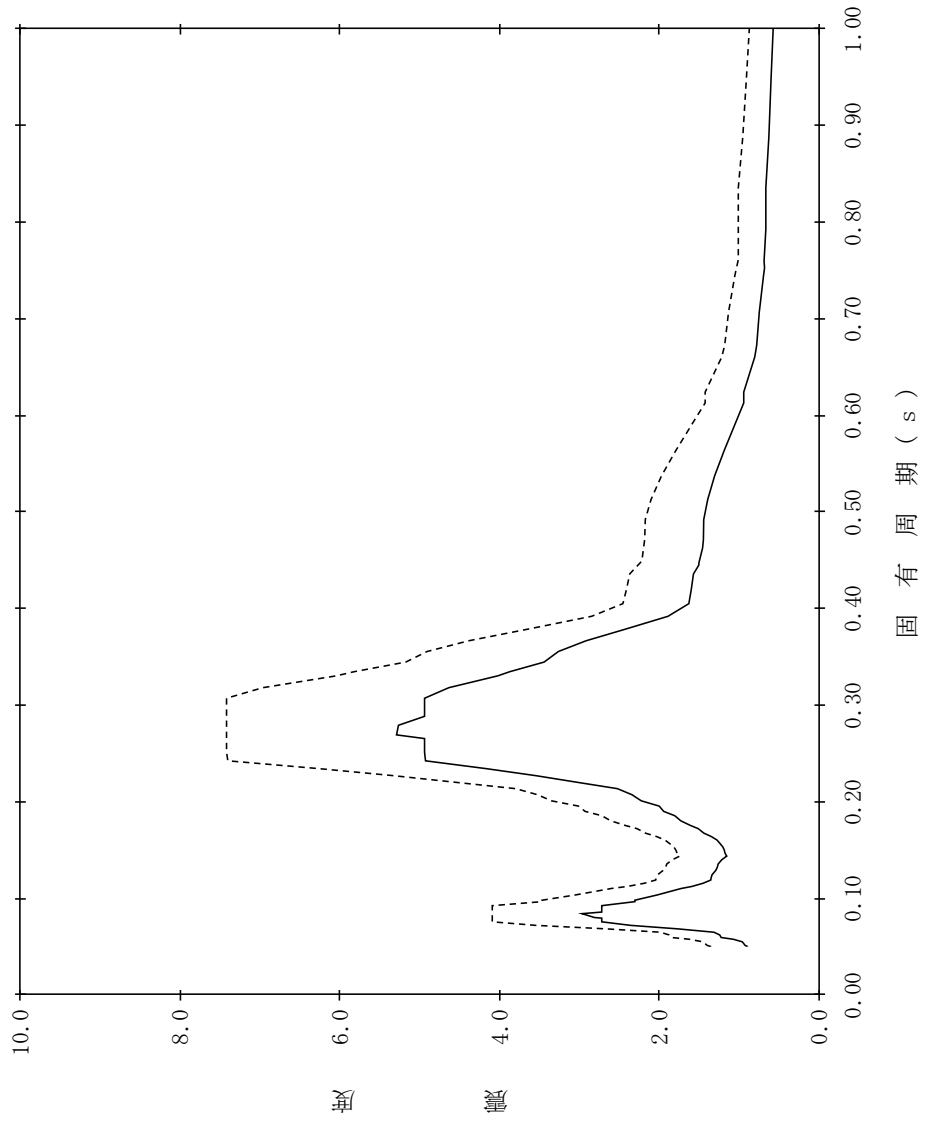
【NS2-TB-SdEW-TG94】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL13.000m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



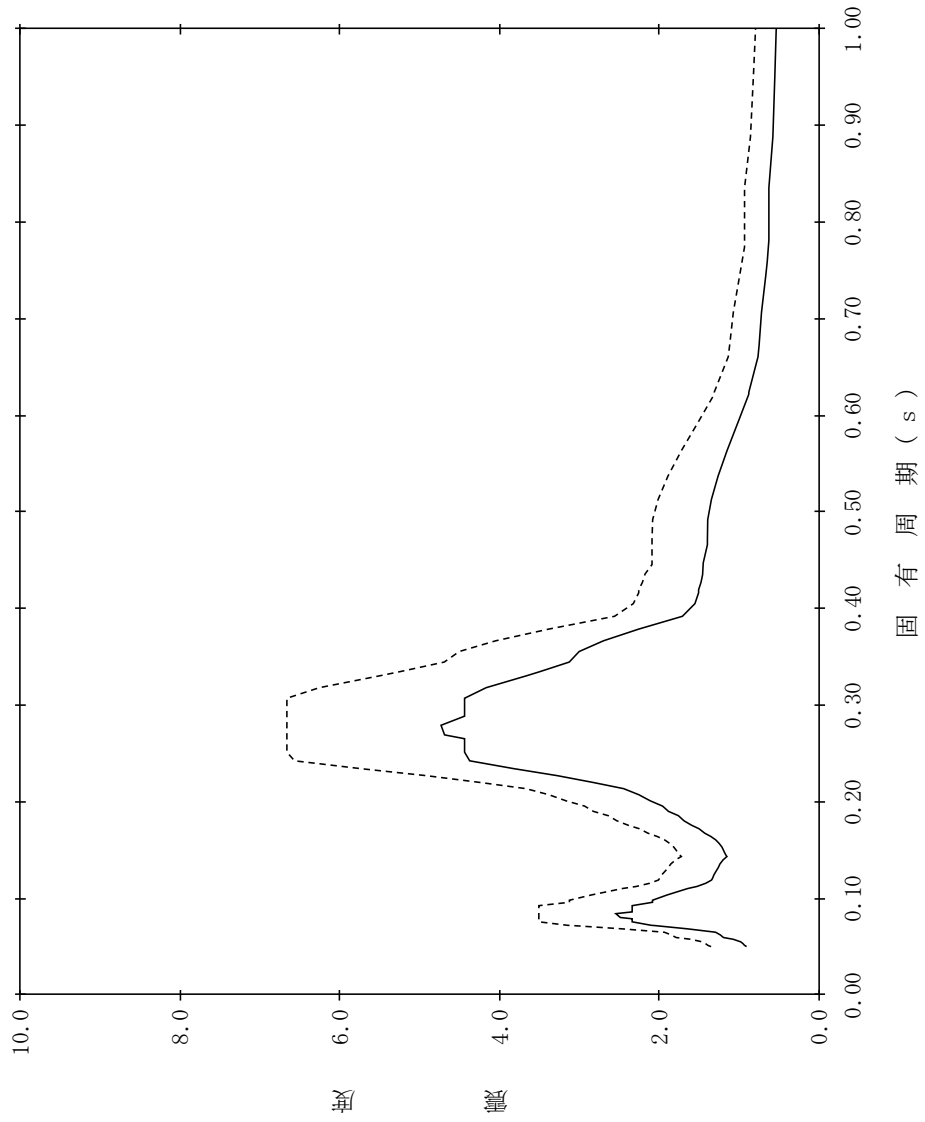
【NS2-TB-SdEW-TG95】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



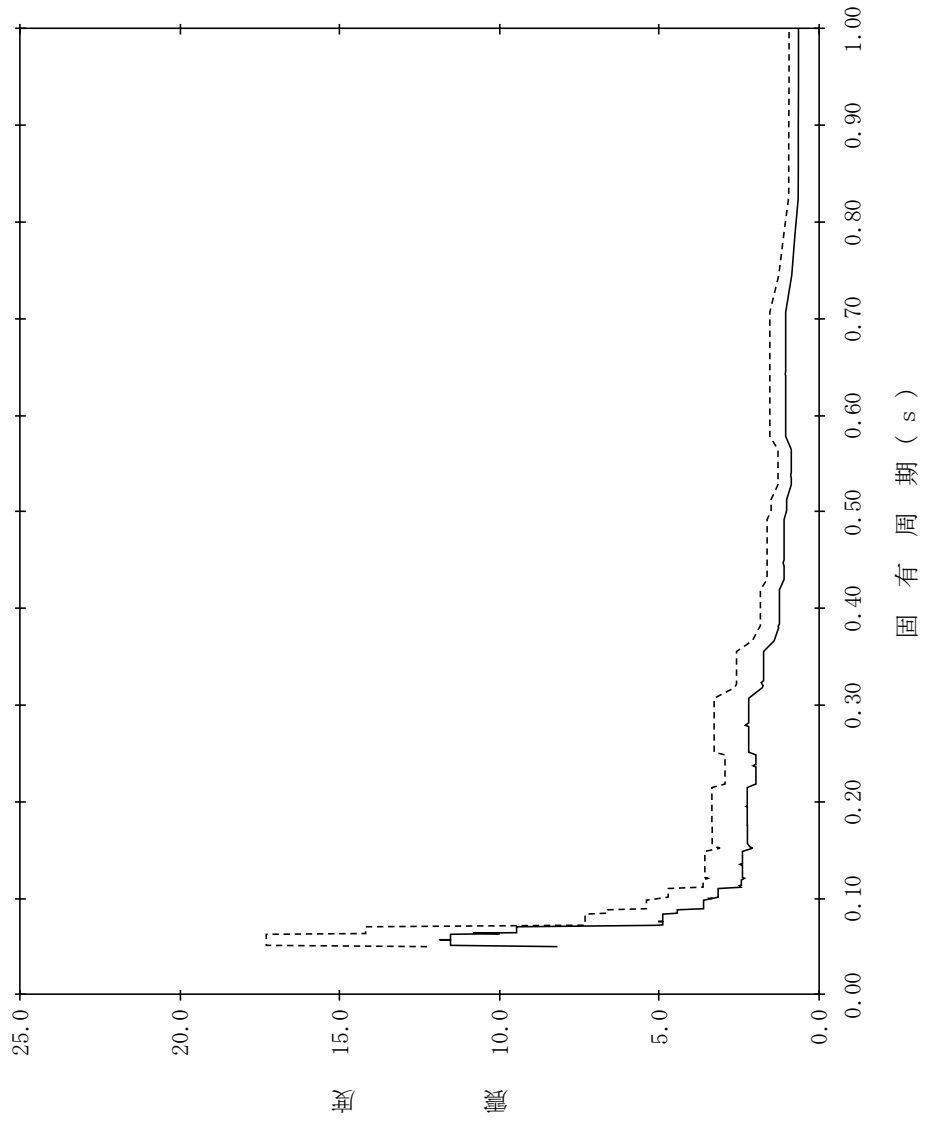
【NS2-TB-SdEW-TG96】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



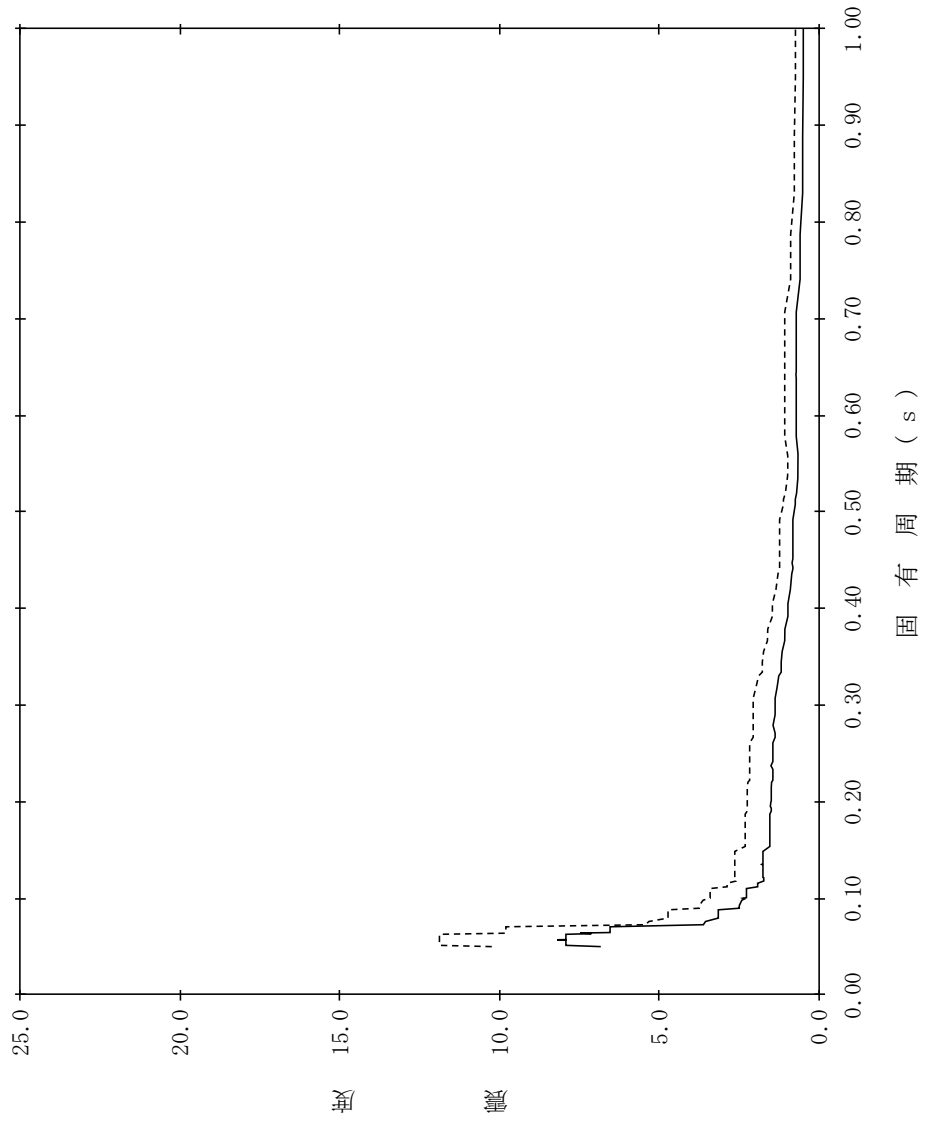
【NS2-TB-SdV-TB1】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



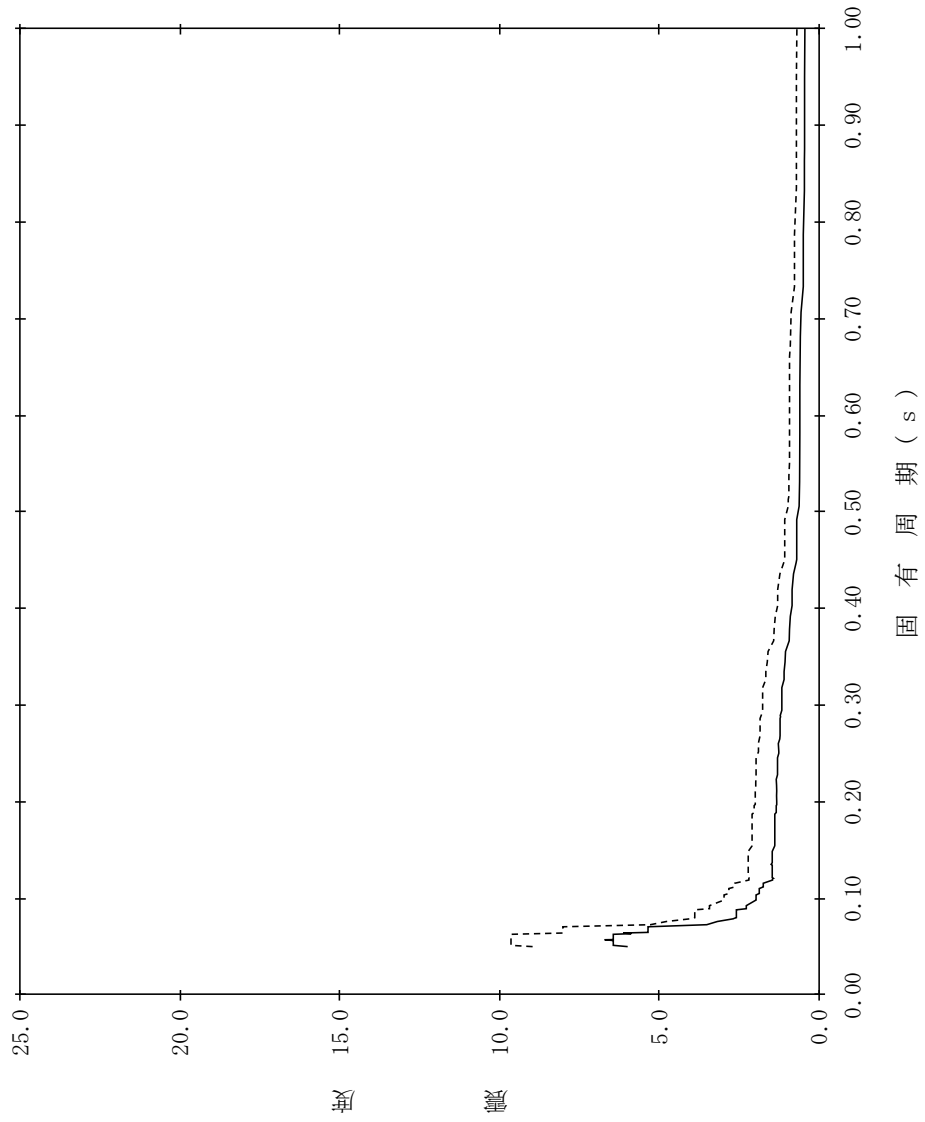
【NS2-TB-SdV-TB2】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



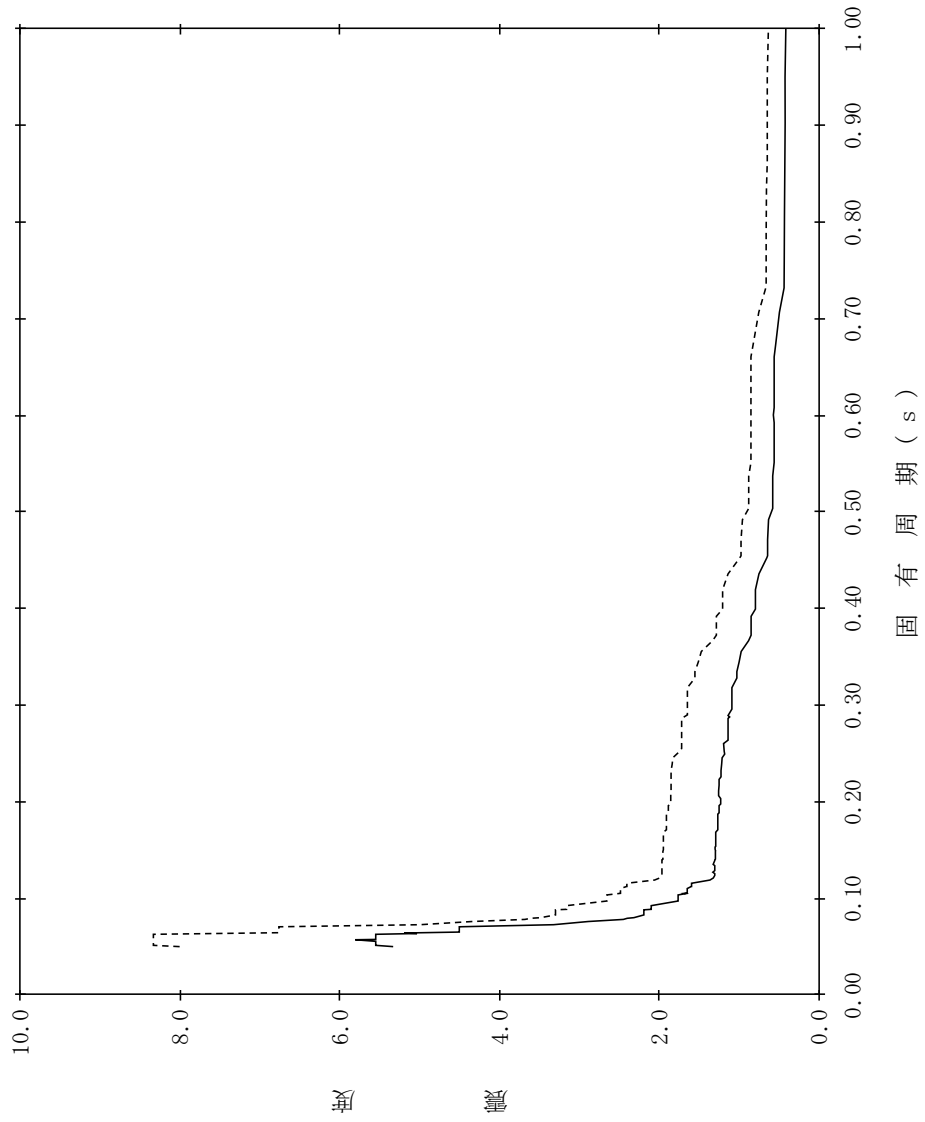
【NS2-TB-SdV-TB3】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



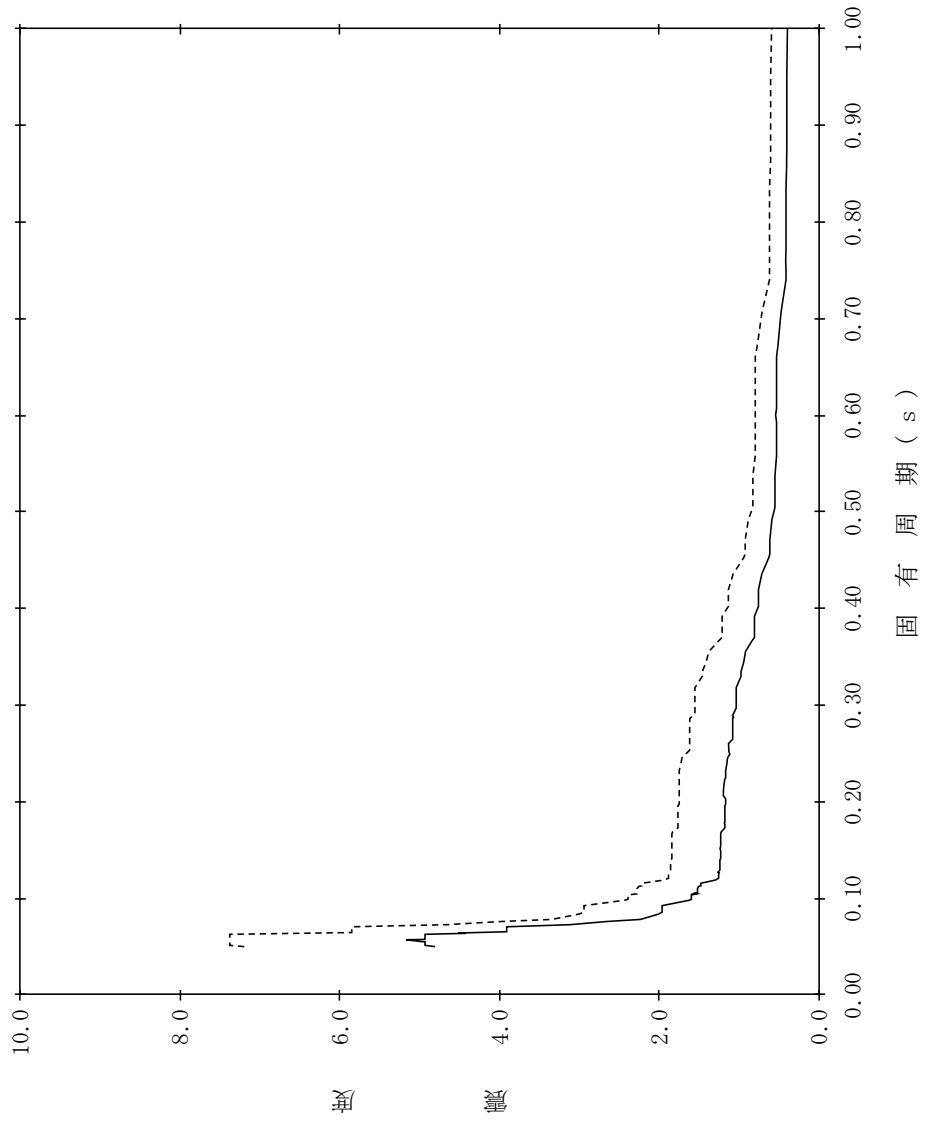
【NS2-TB-SdV-TB4】

構造物名：タービン建物
標高：EL41.600m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



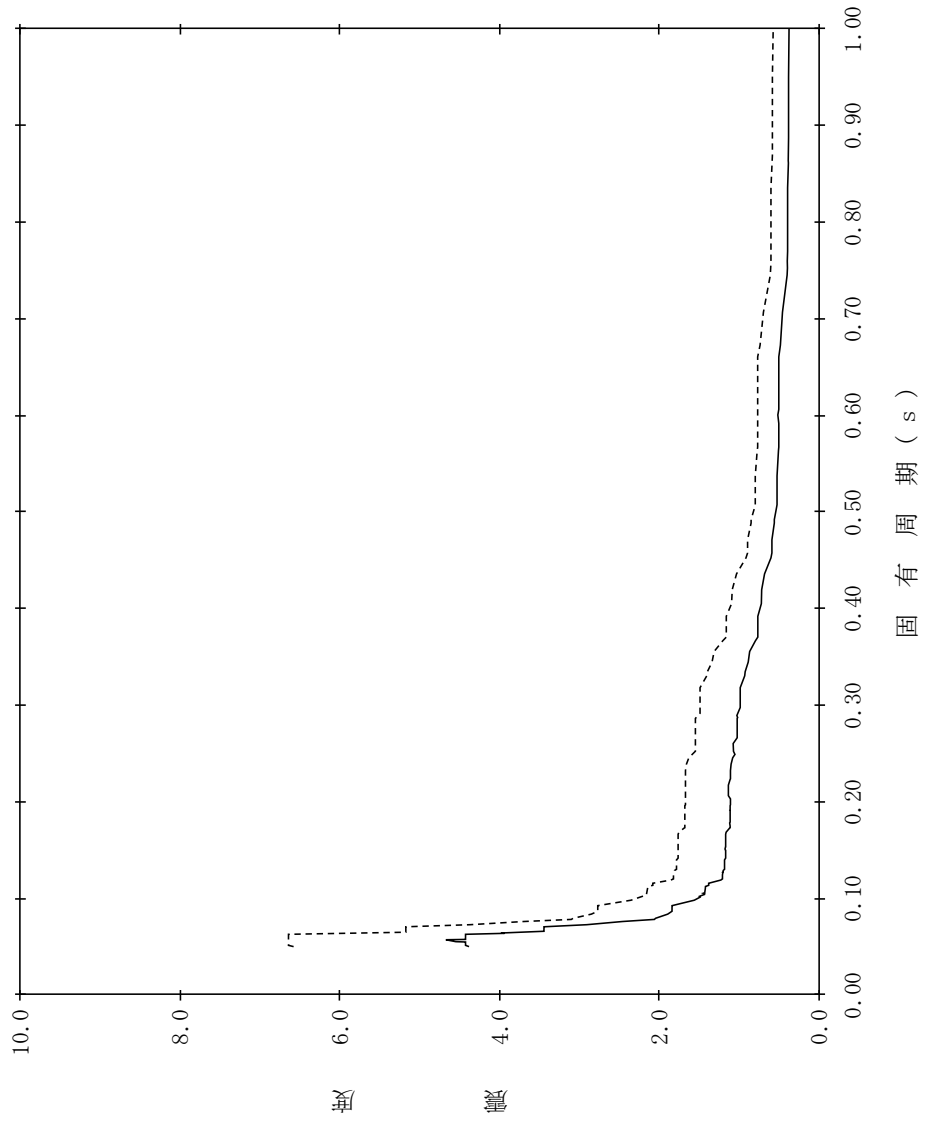
【NS2-TB-SdV-TB5】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



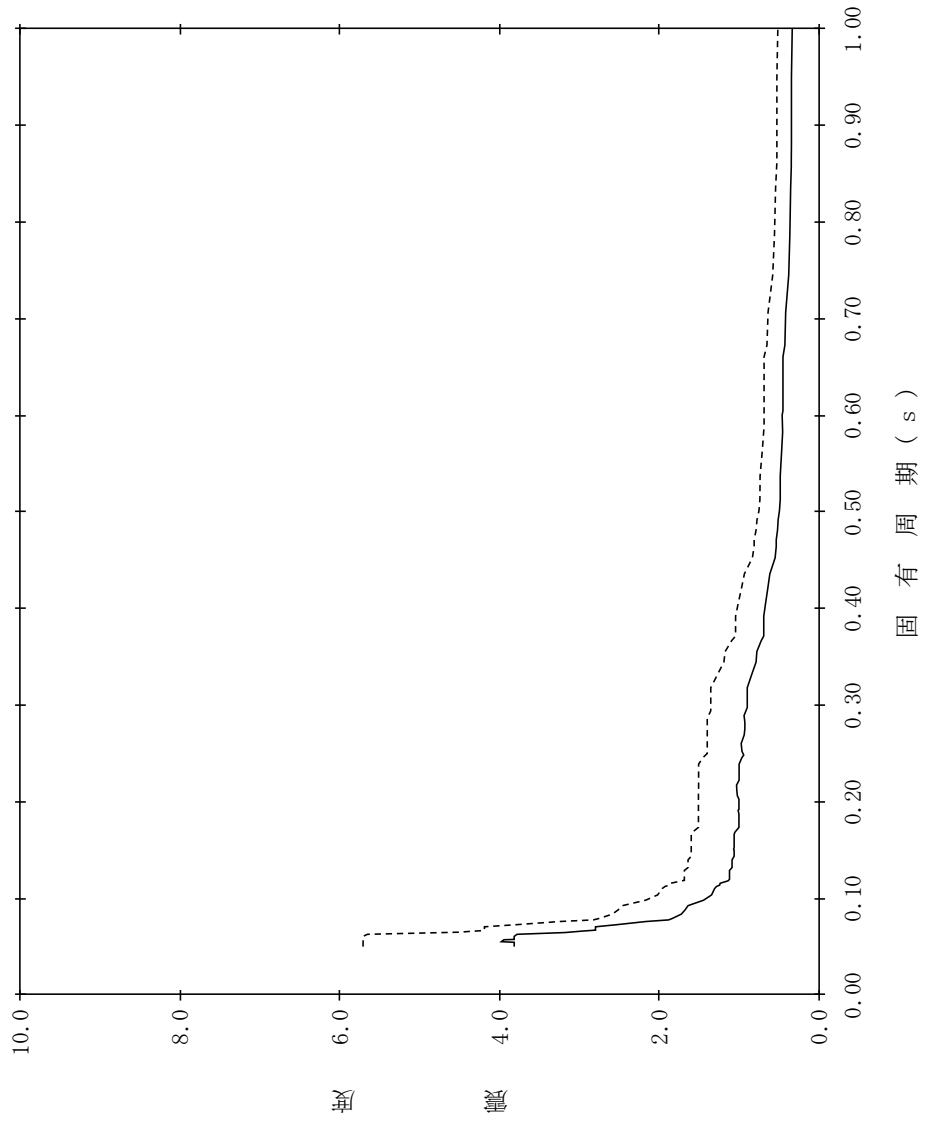
【NS2-TB-SdV-TB6】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



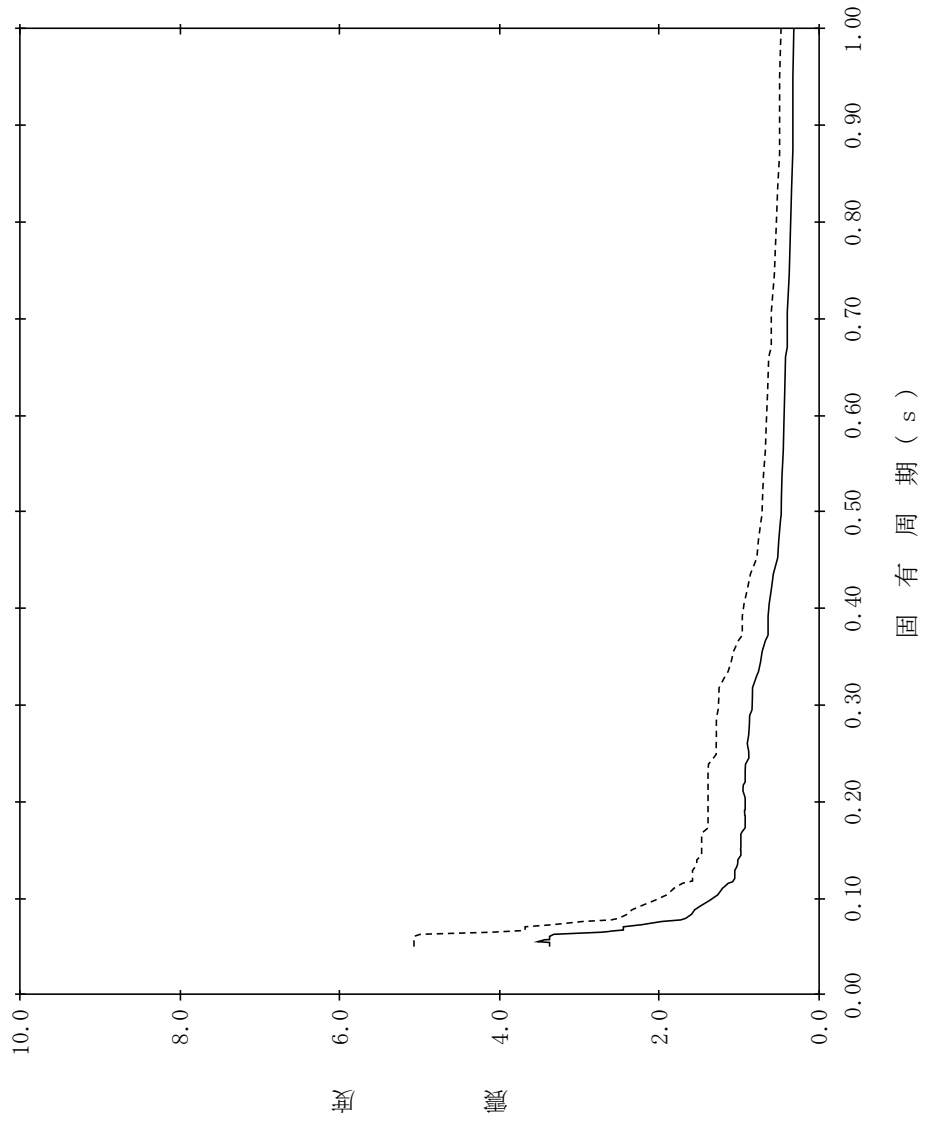
【NS2-TB-SdV-TB7】

構造物名：タービン建物
標高：EL41.600m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



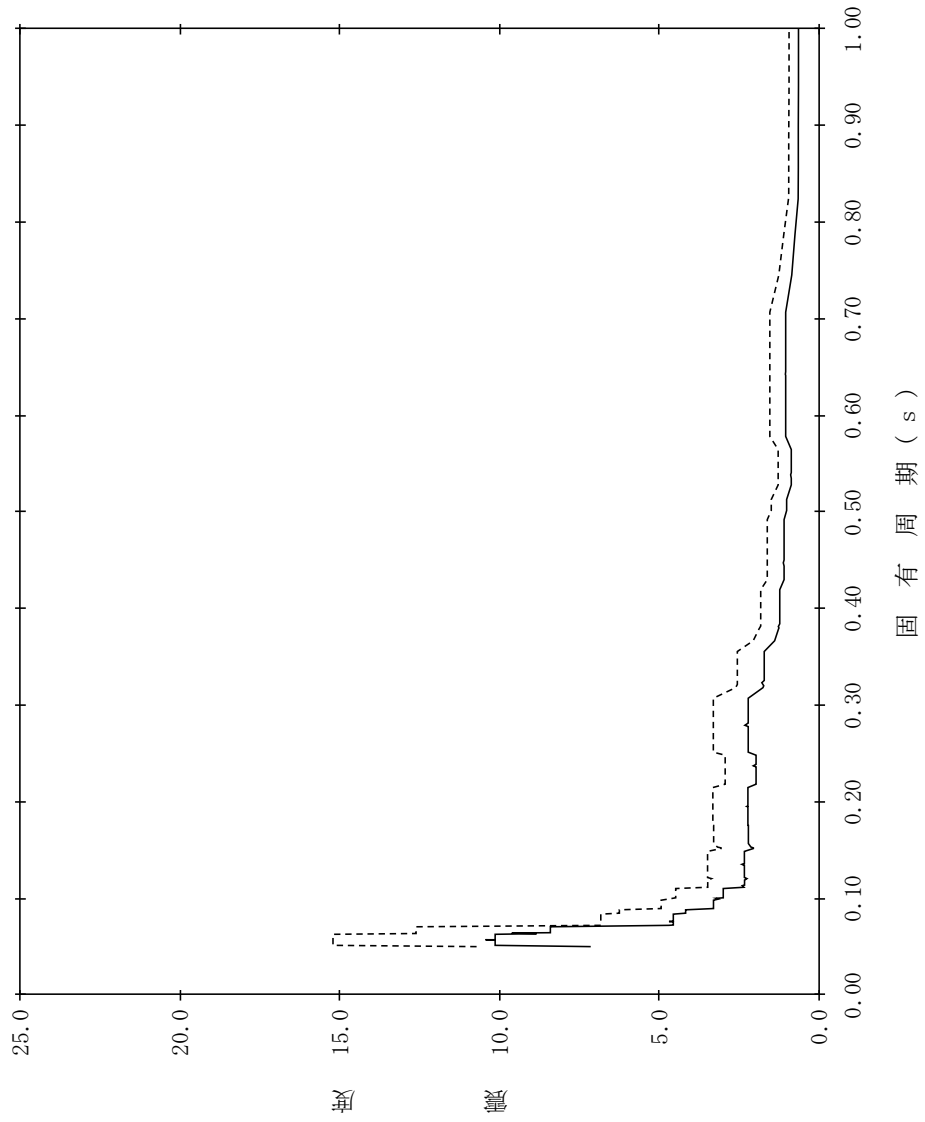
【NS2-TB-SdV-TB8】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



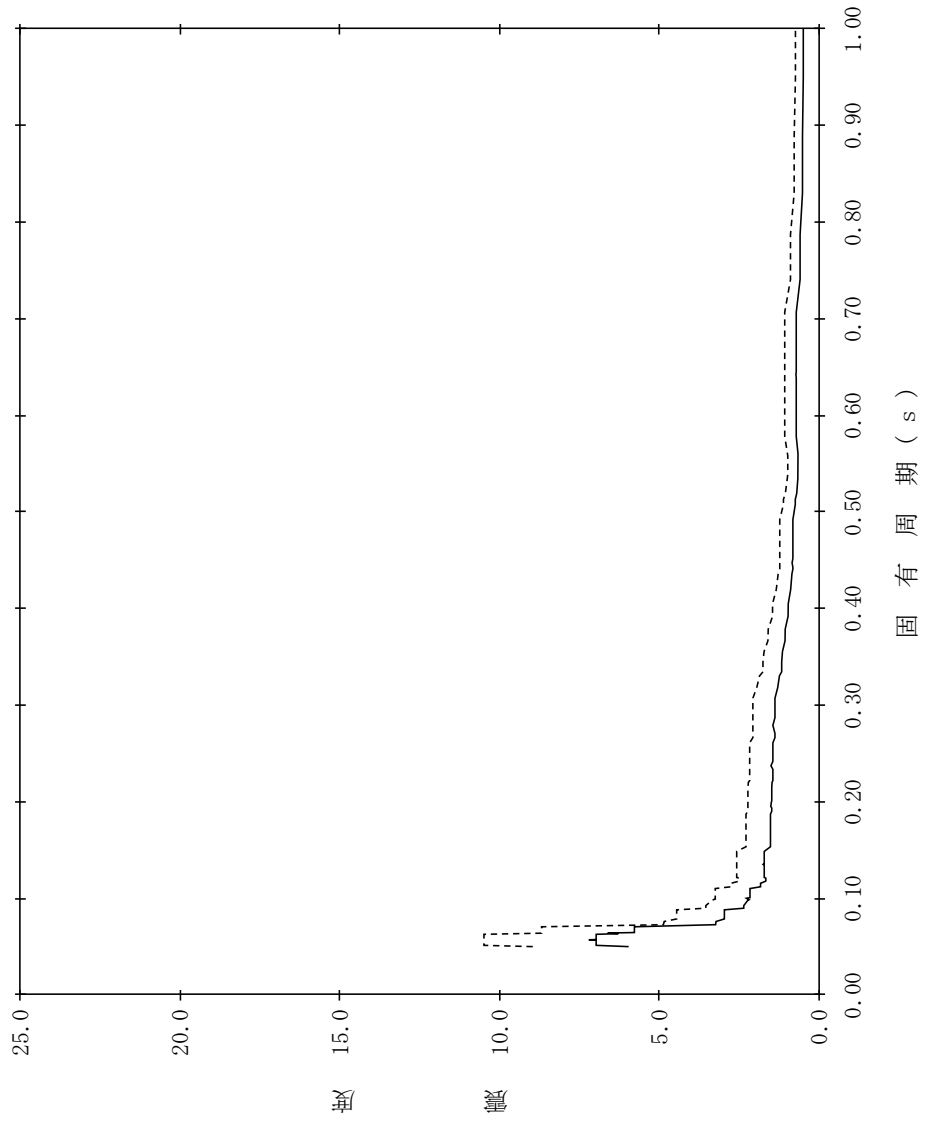
【NS2-TB-SdV-TB9】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



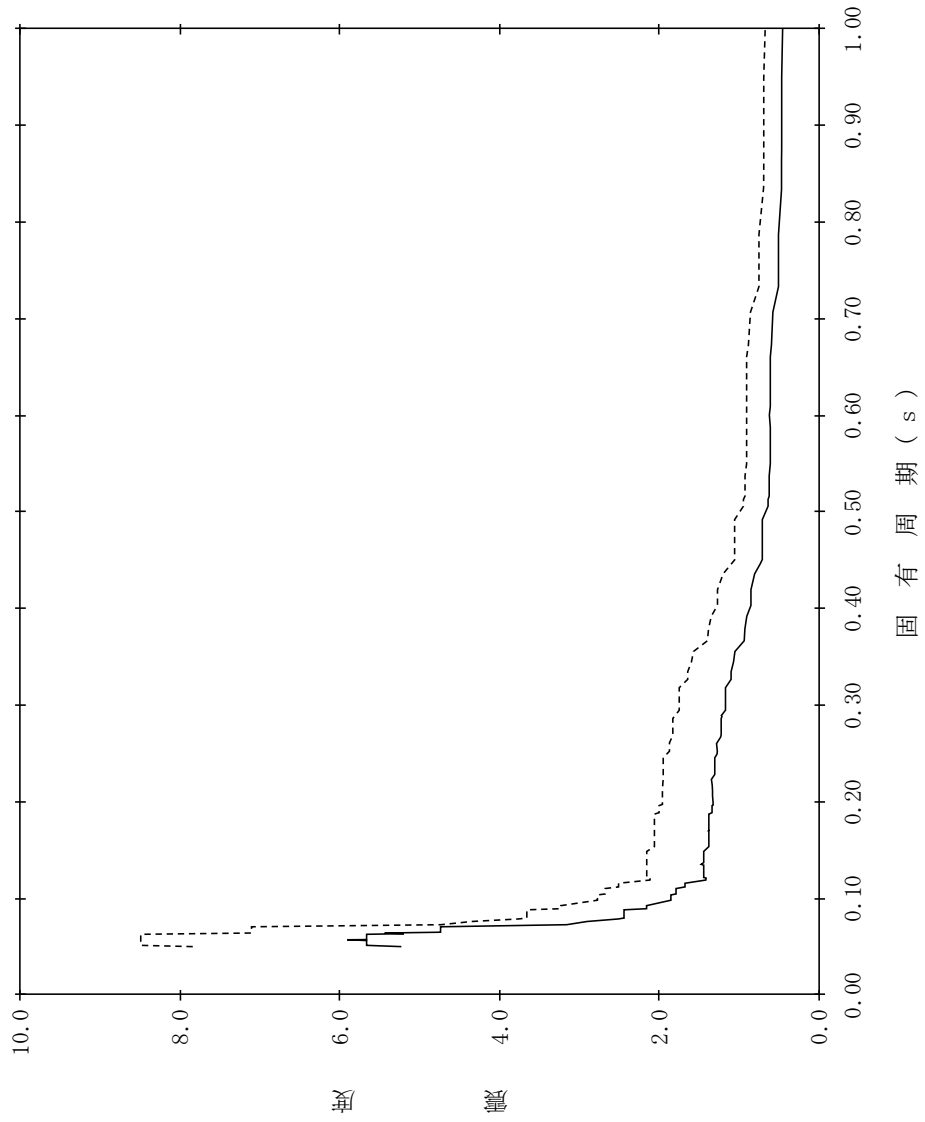
【NS2-TB-SdV-TB10】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



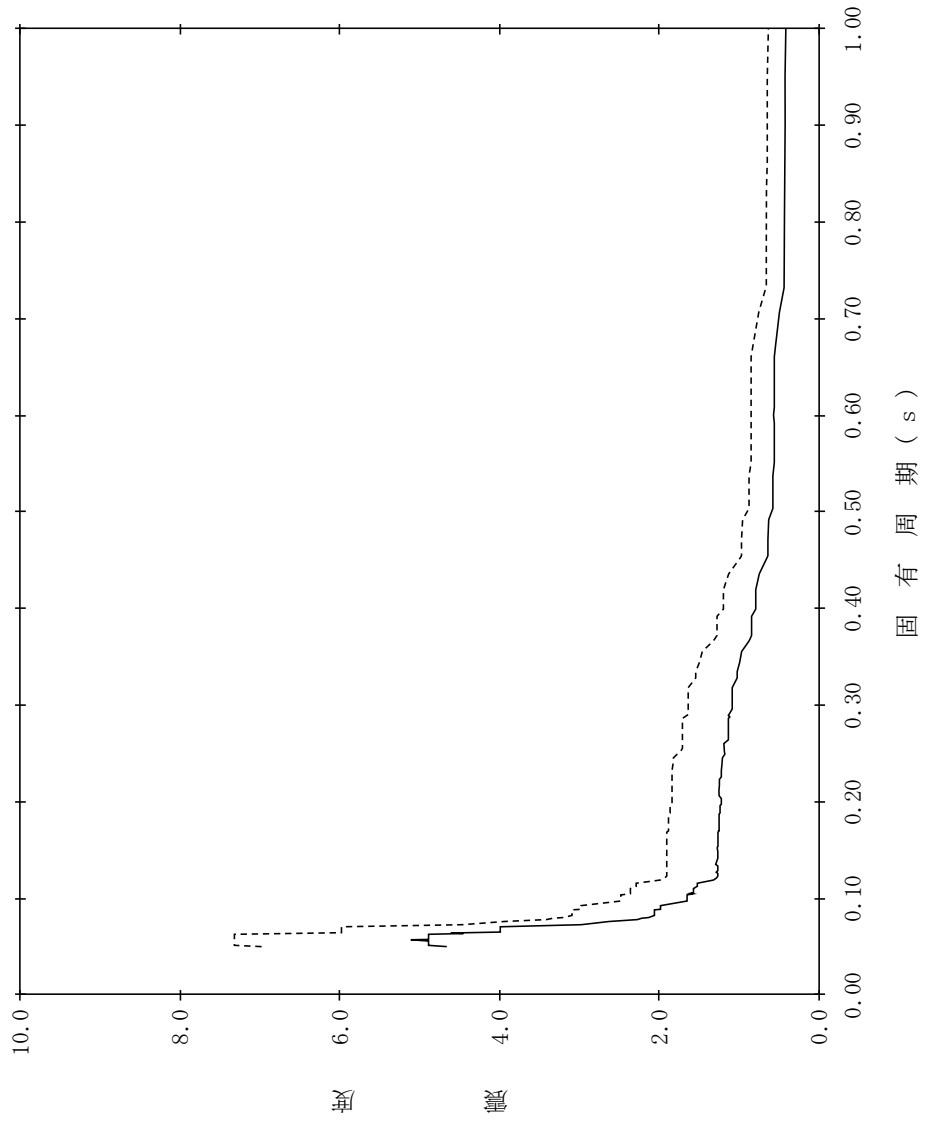
【NS2-TB-SdV-TB11】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



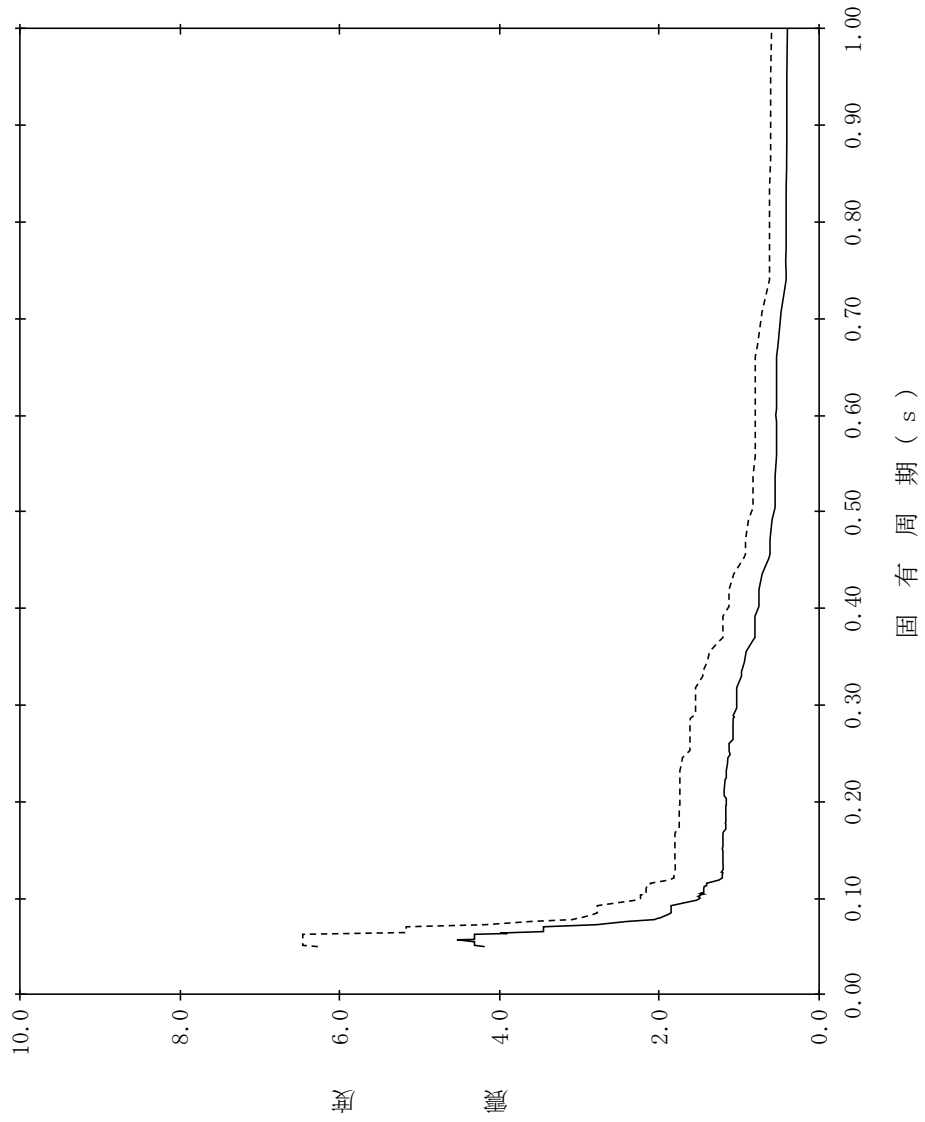
【NS2-TB-SdV-TB12】

構造物名：タービン建物
標高：EL32.000m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



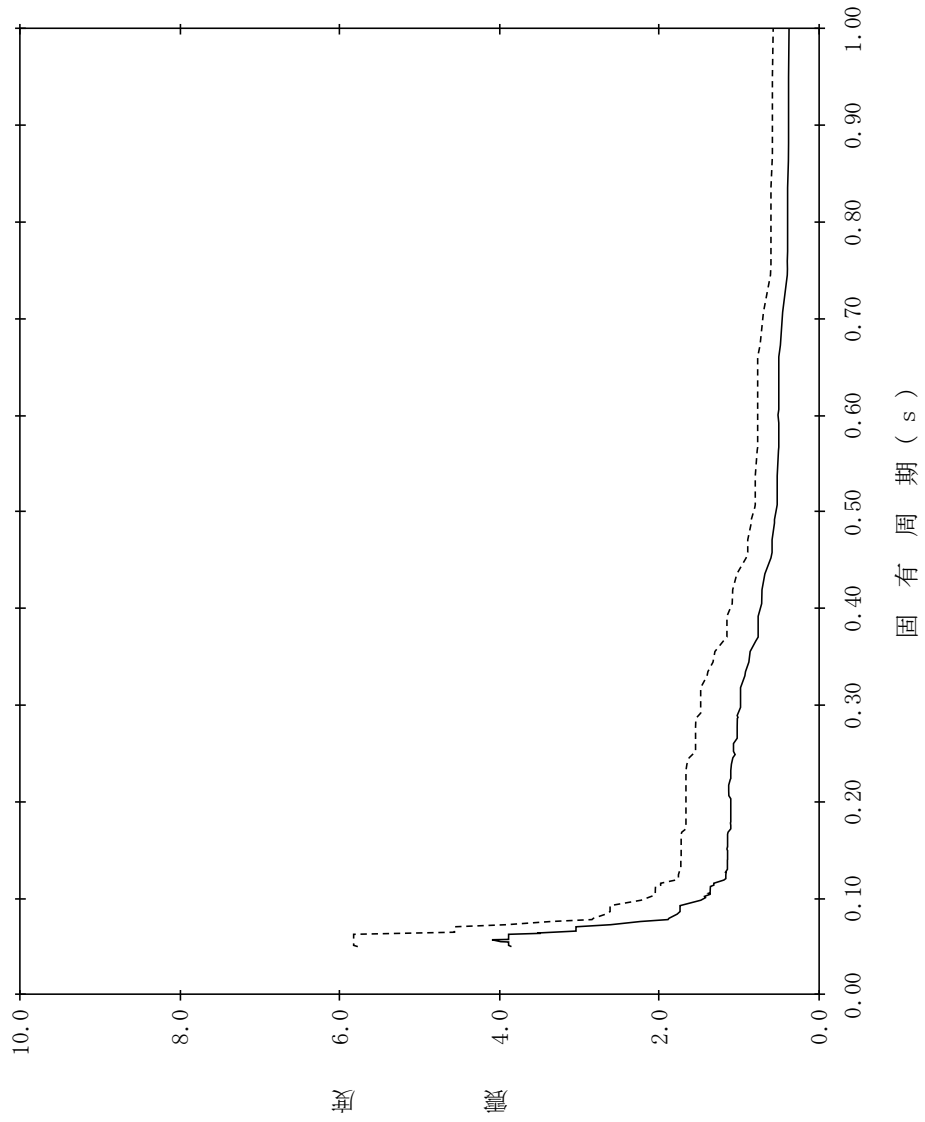
【NS2-TB-SdV-TB13】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



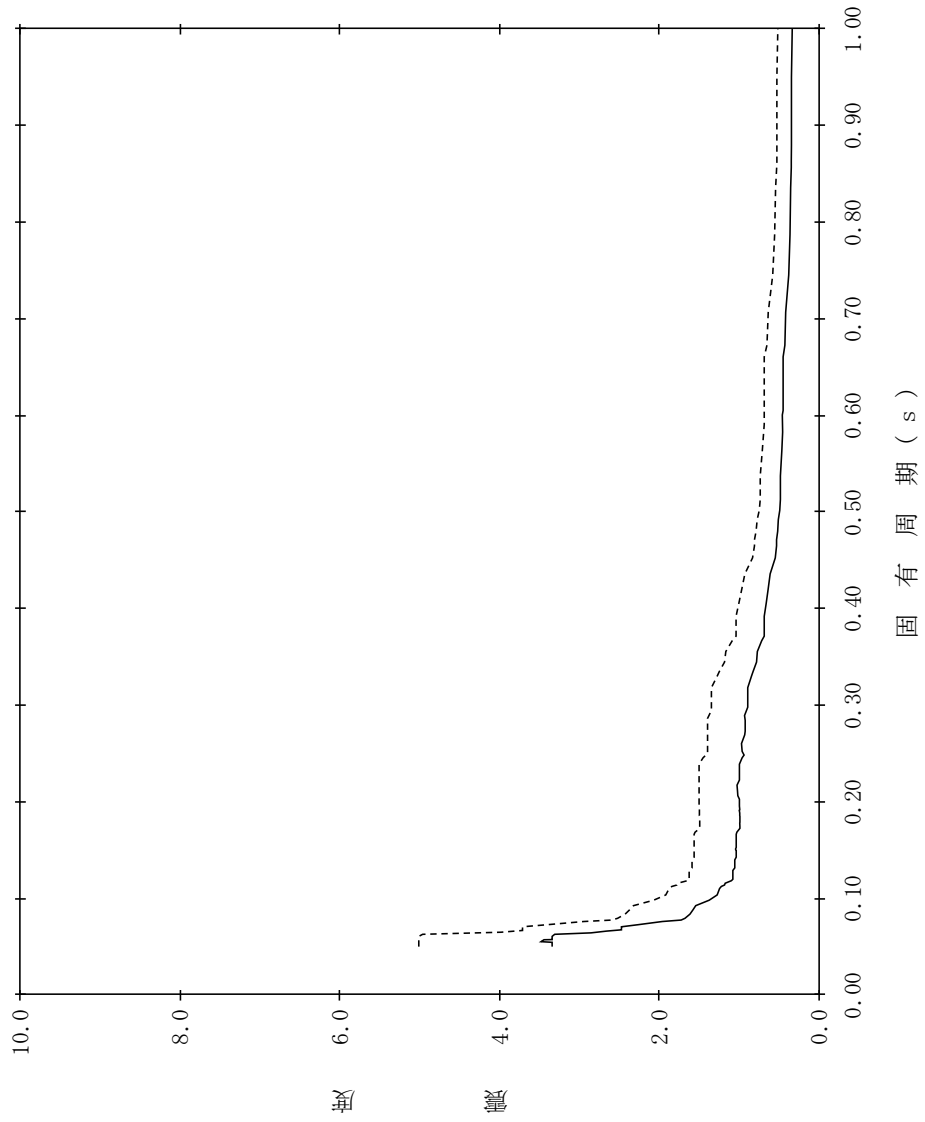
【NS2-TB-SdV-TB14】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



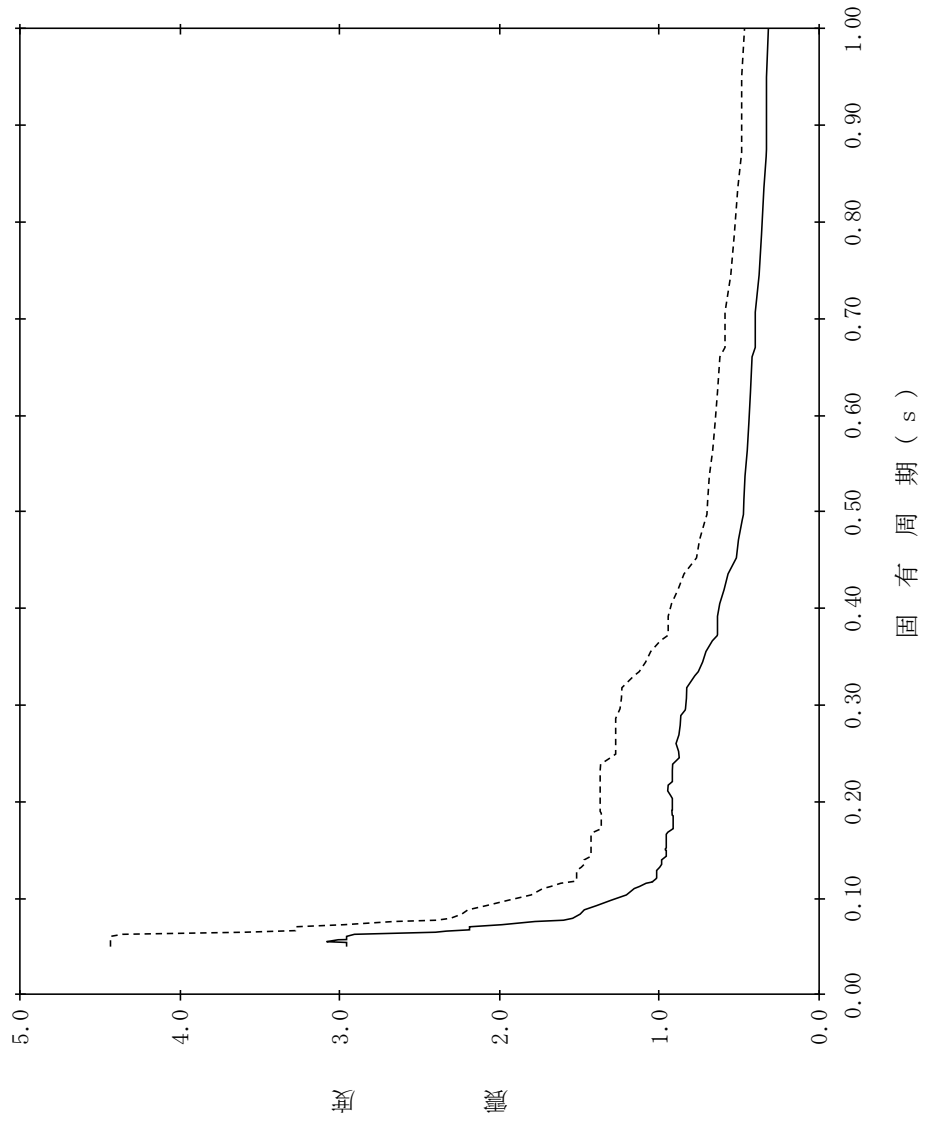
【NS2-TB-SdV-TB15】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



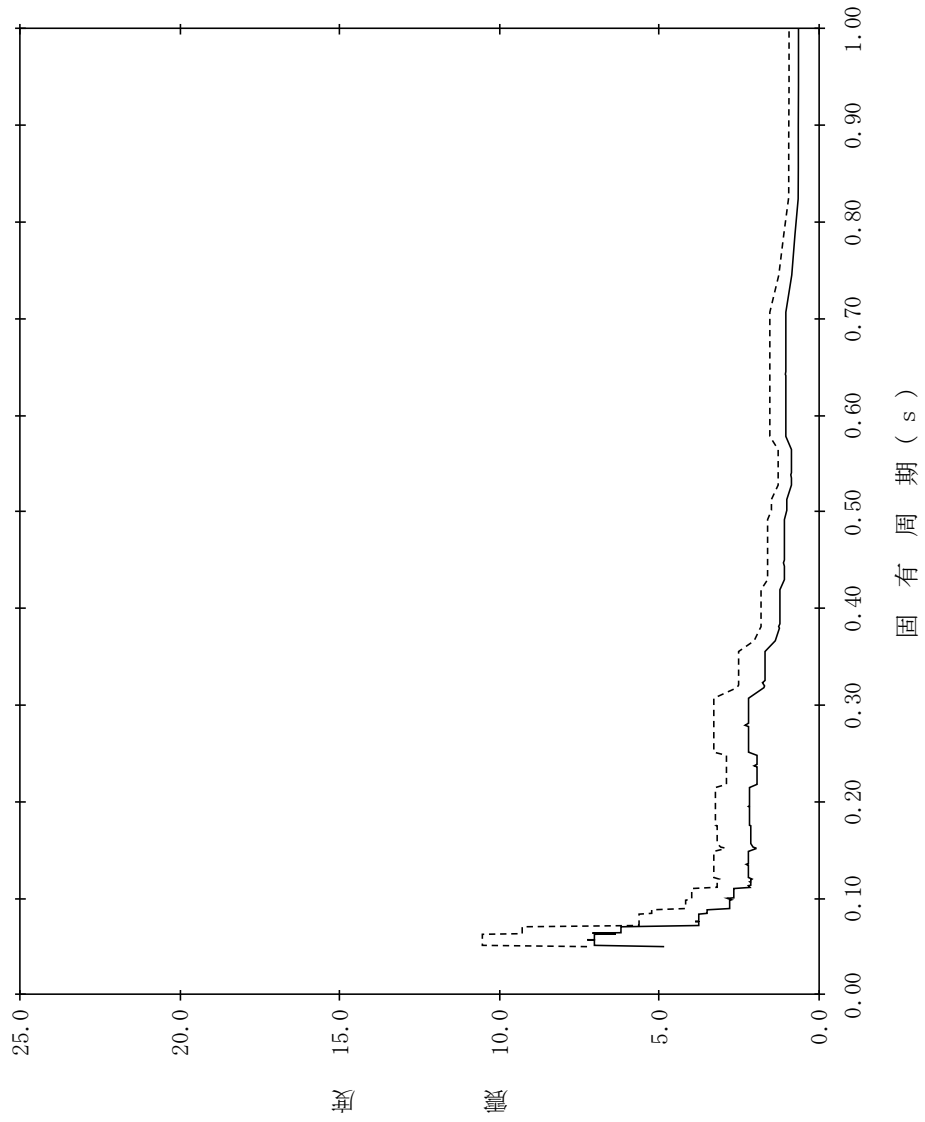
【NS2-TB-SdV-TB16】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



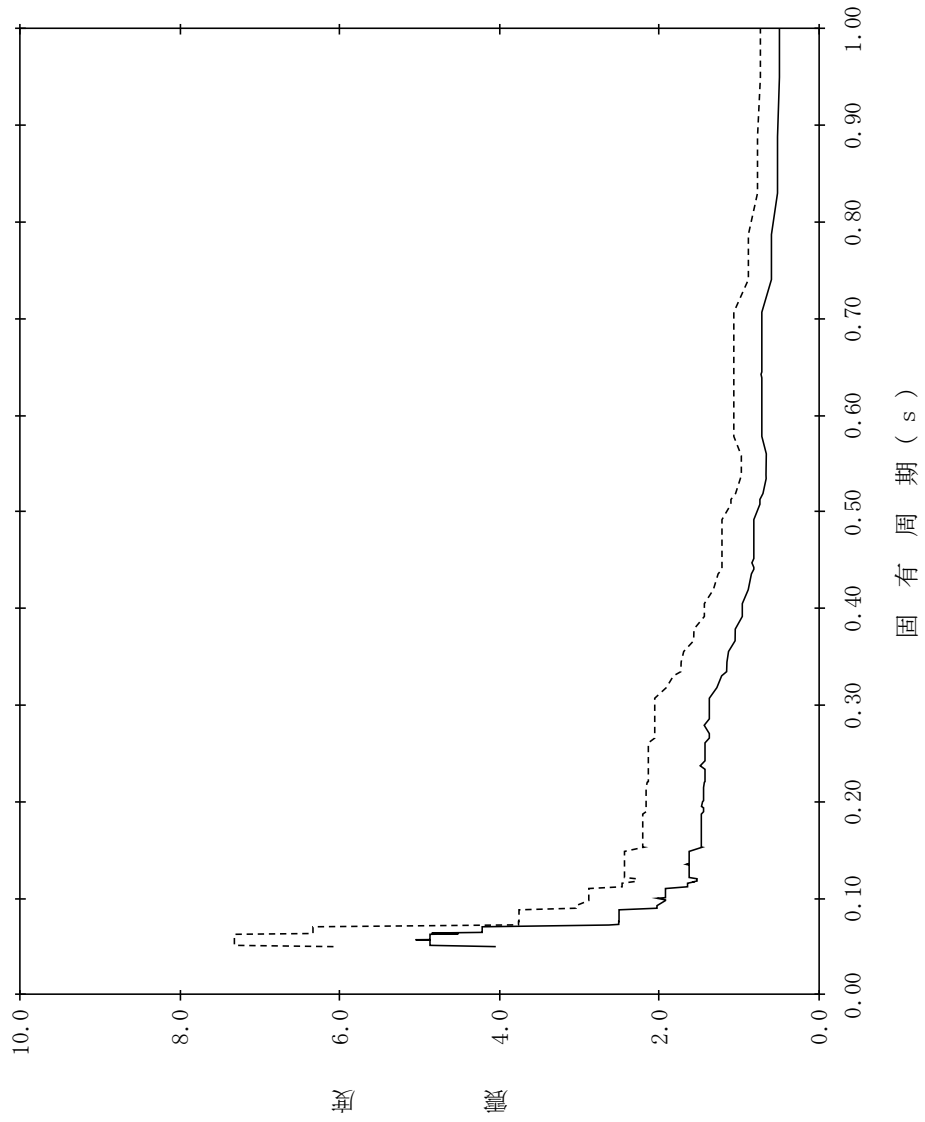
【NS2-TB-SdV-TB17】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SdV-TB18】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

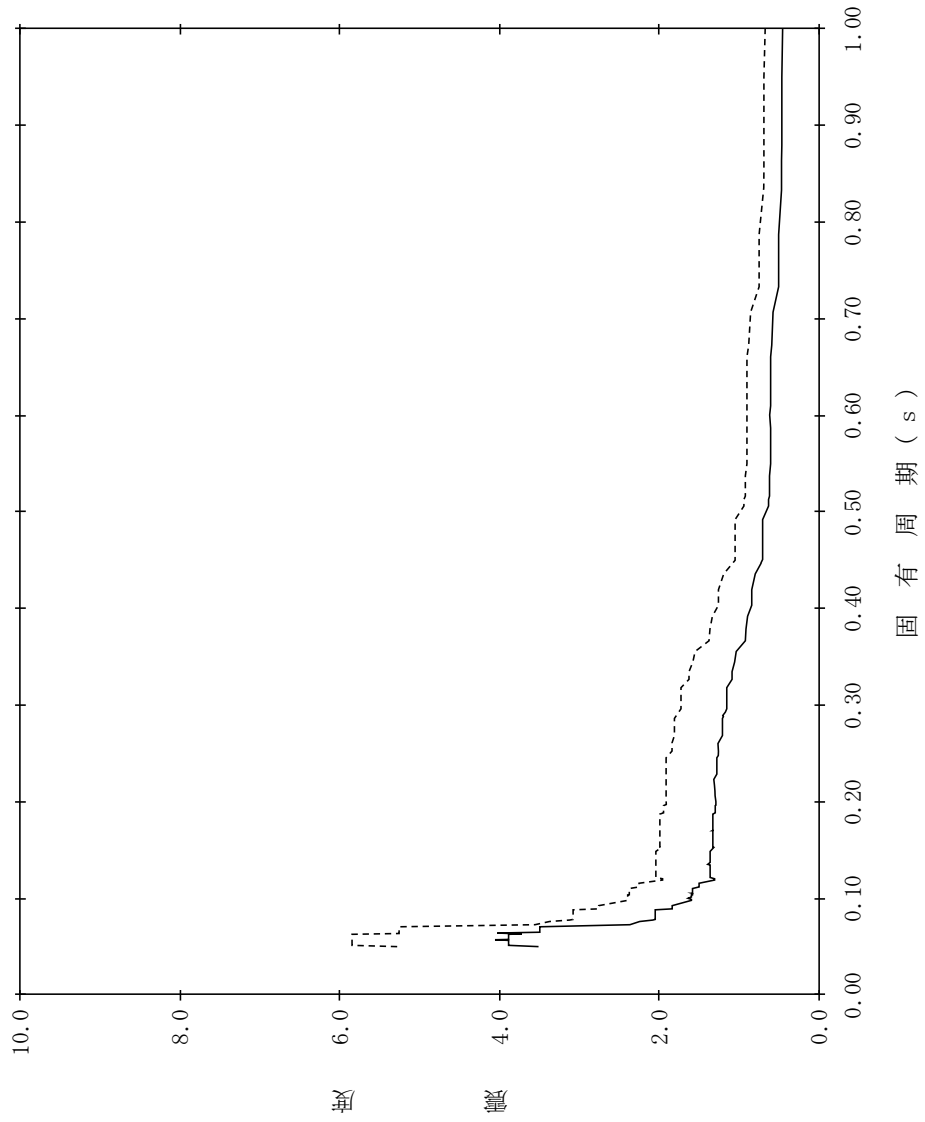


【NS2-TB-SdV-TB19】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：1.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

- - - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

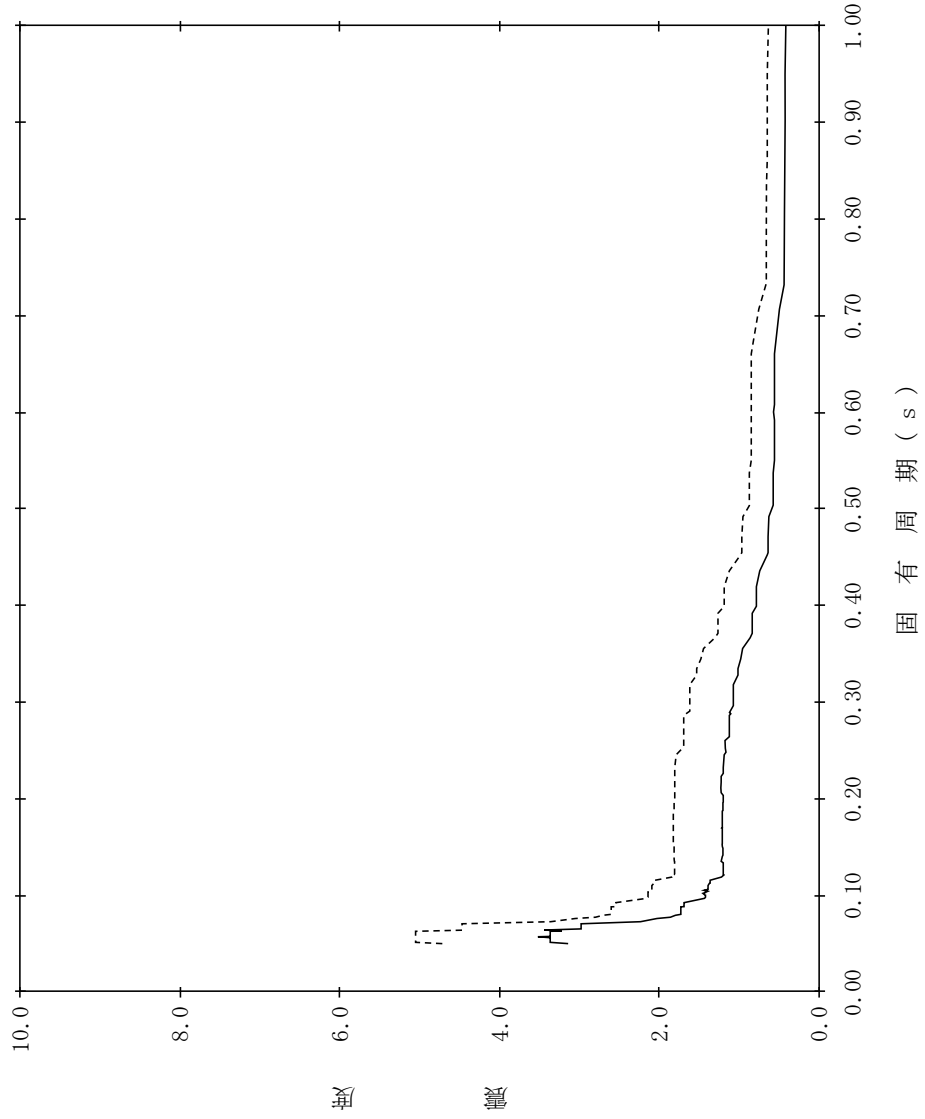


【NS2-TB-SdV-TB20】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 減衰定数：2.0%

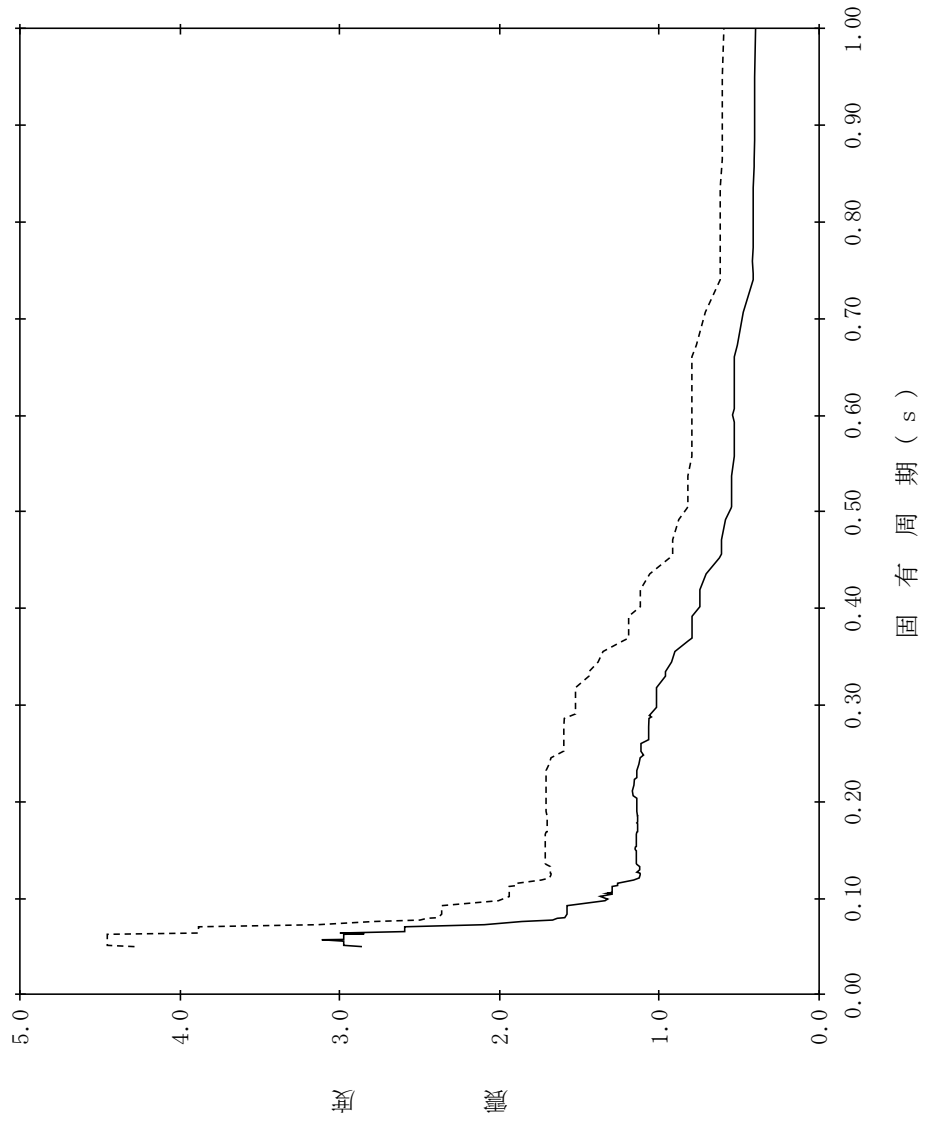
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

- - - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



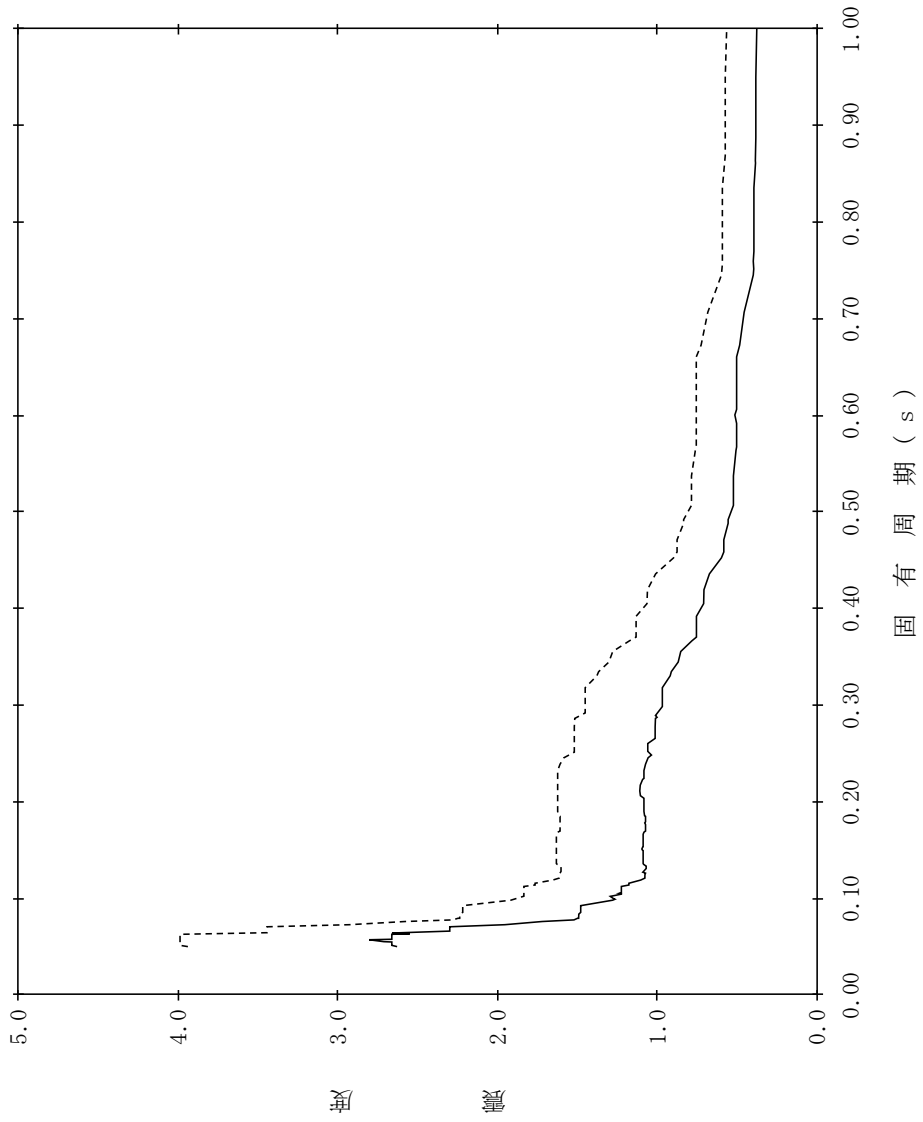
【NS2-TB-SdV-TB21】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



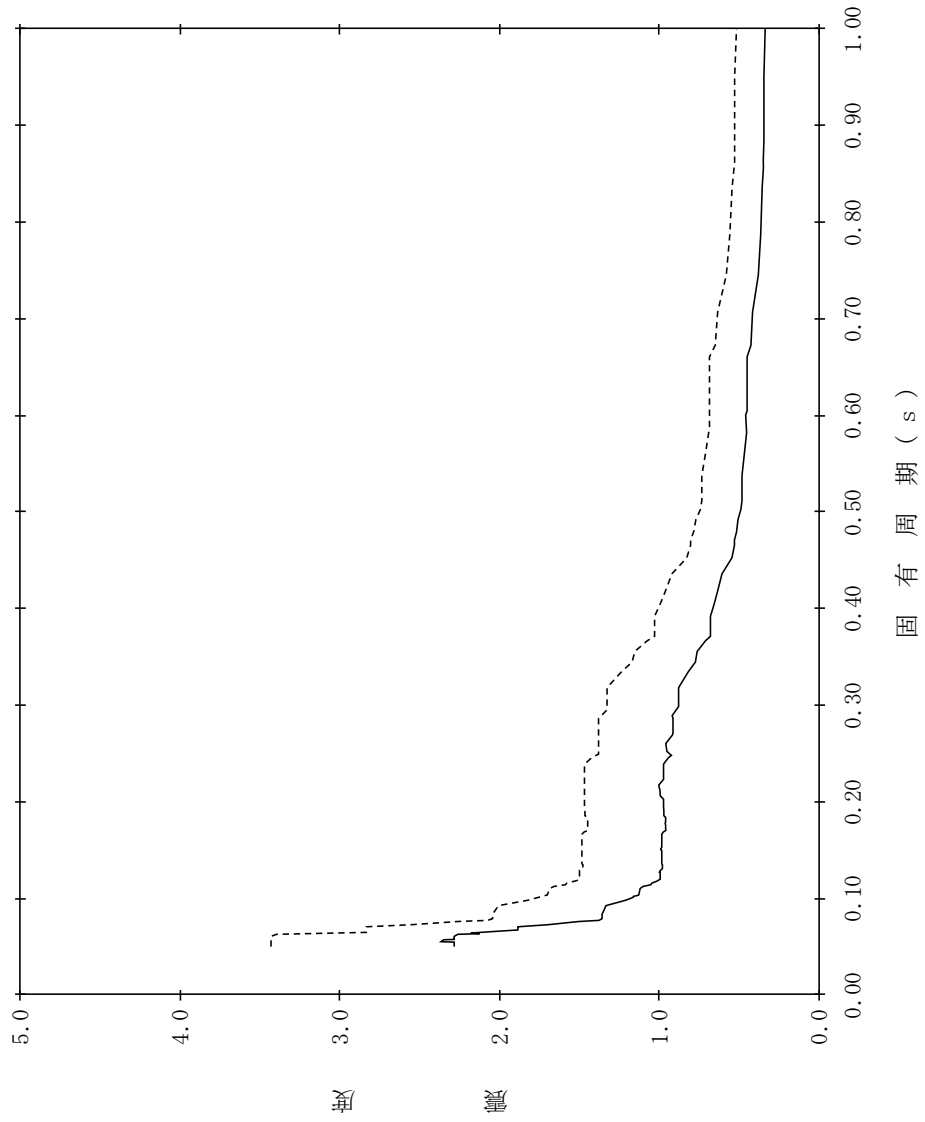
【NS2-TB-SdV-TB22】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



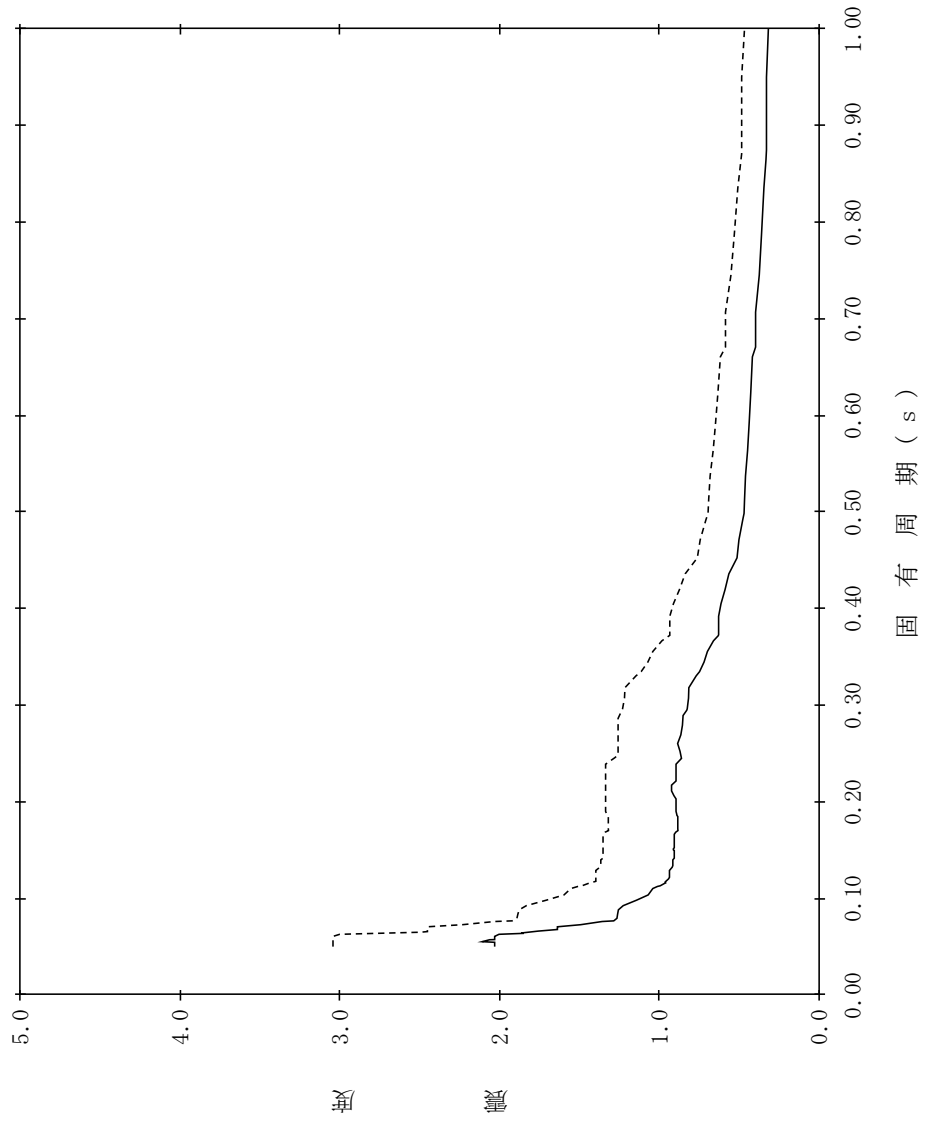
【NS2-TB-SdV-TB23】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



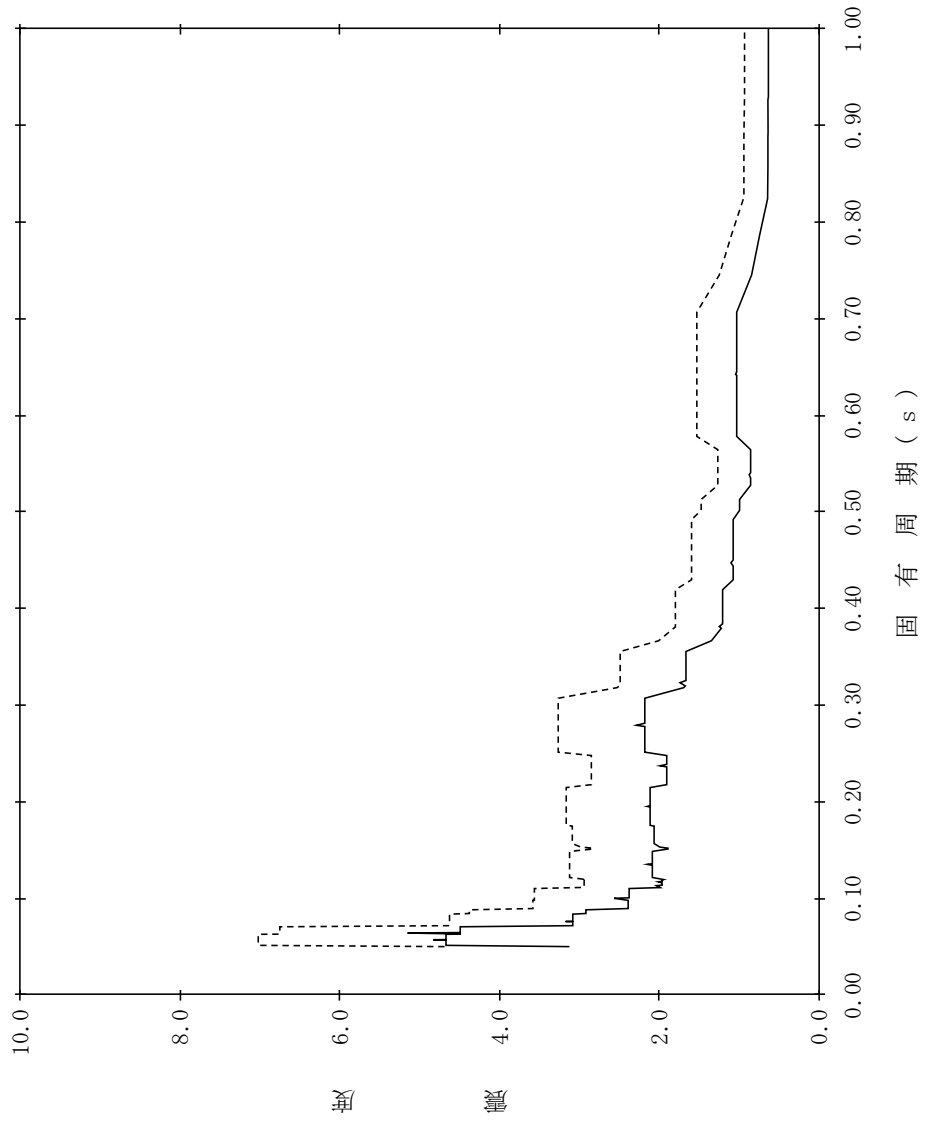
【NS2-TB-SdV-TB24】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



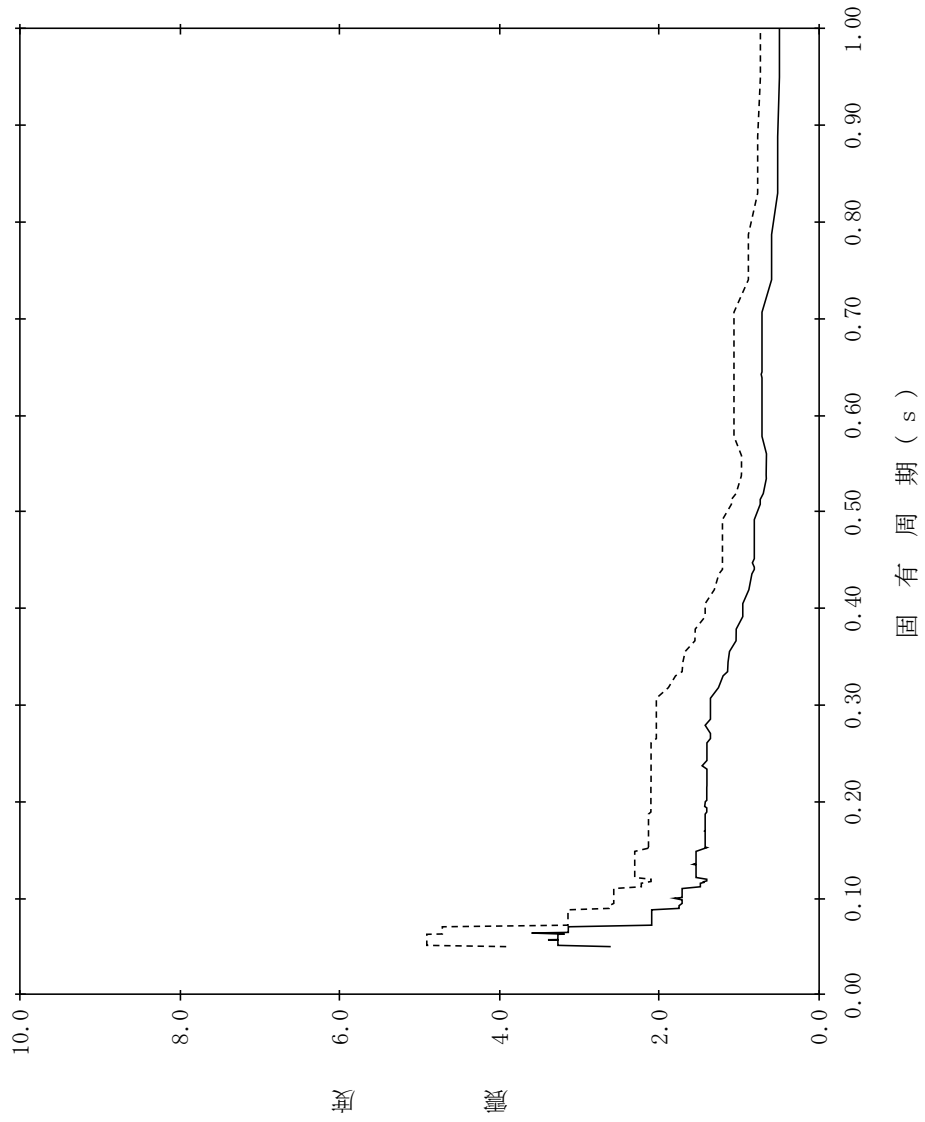
【NS2-TB-SdV-TB25】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



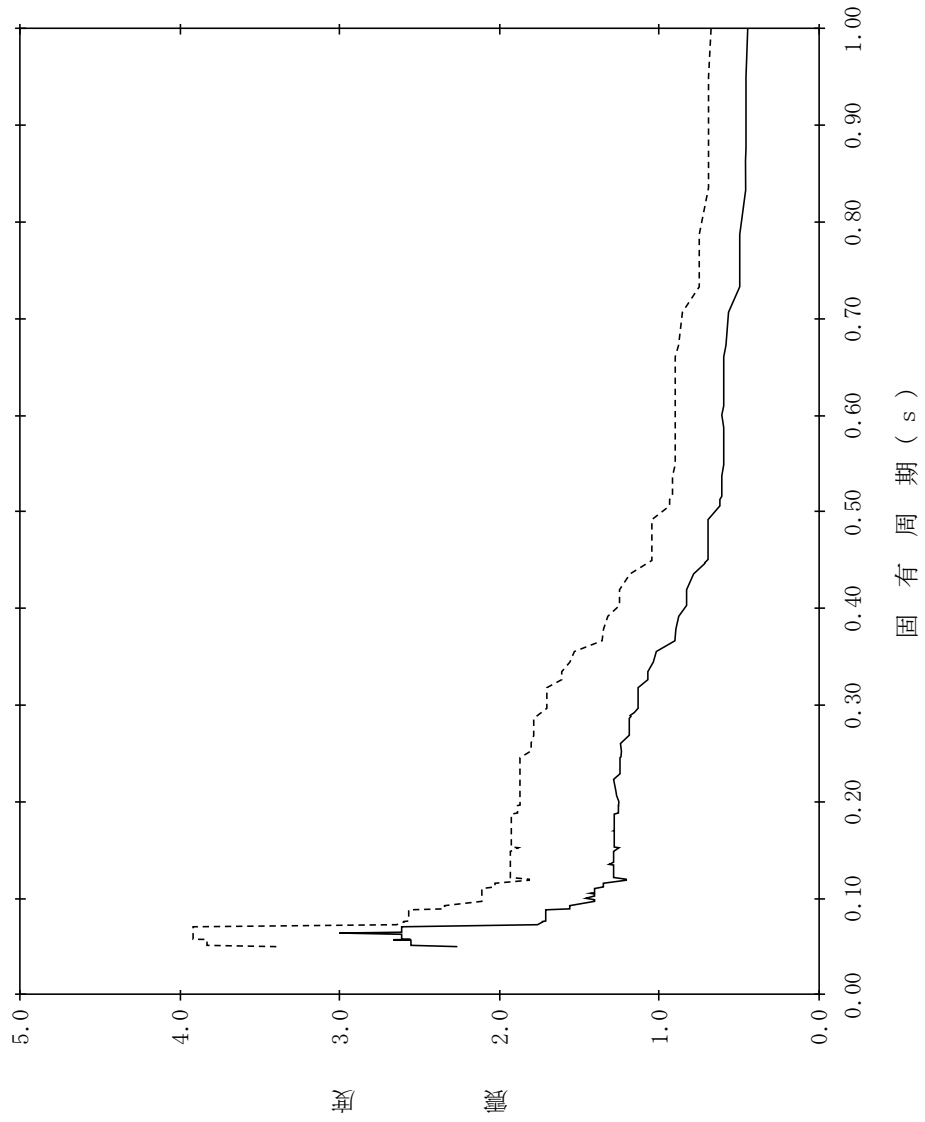
【NS2-TB-SdV-TB26】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SdV-TB27】

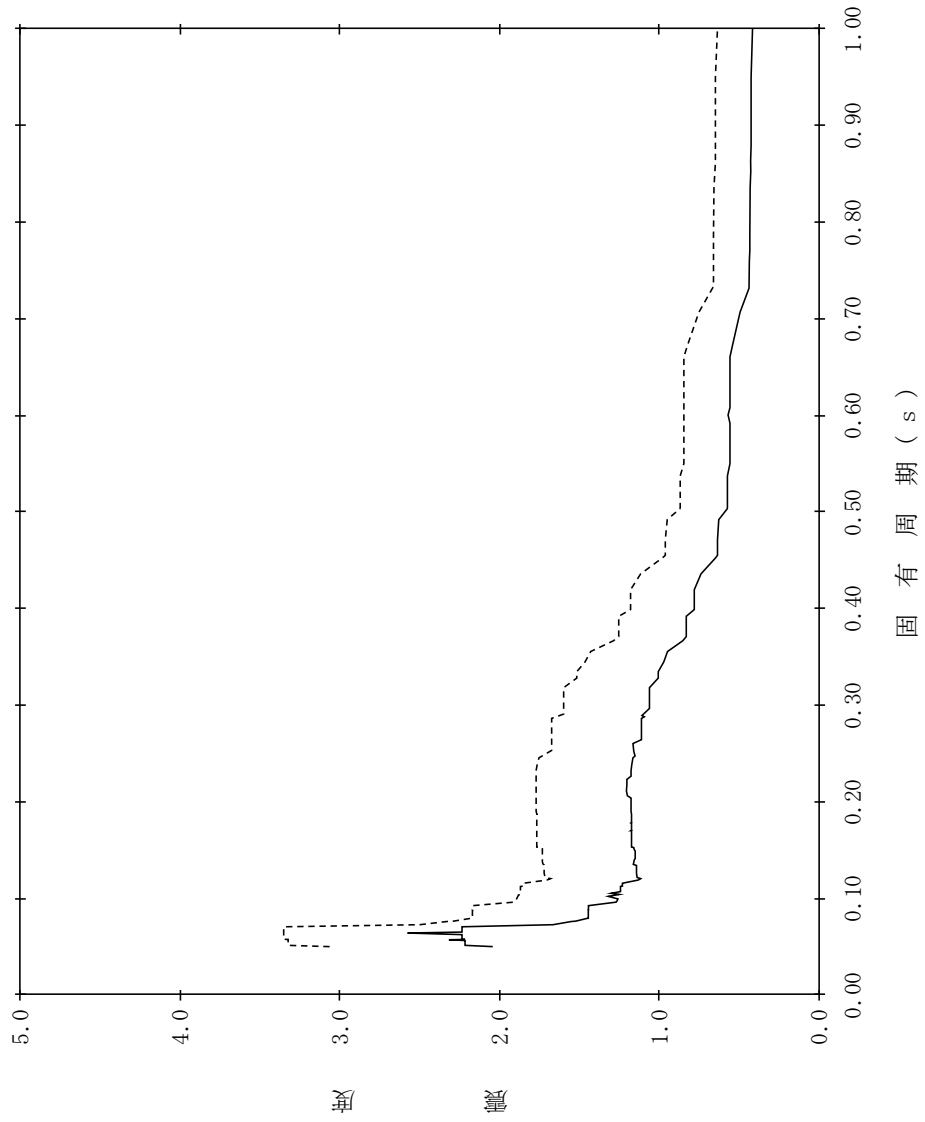
構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SdV-TB28】

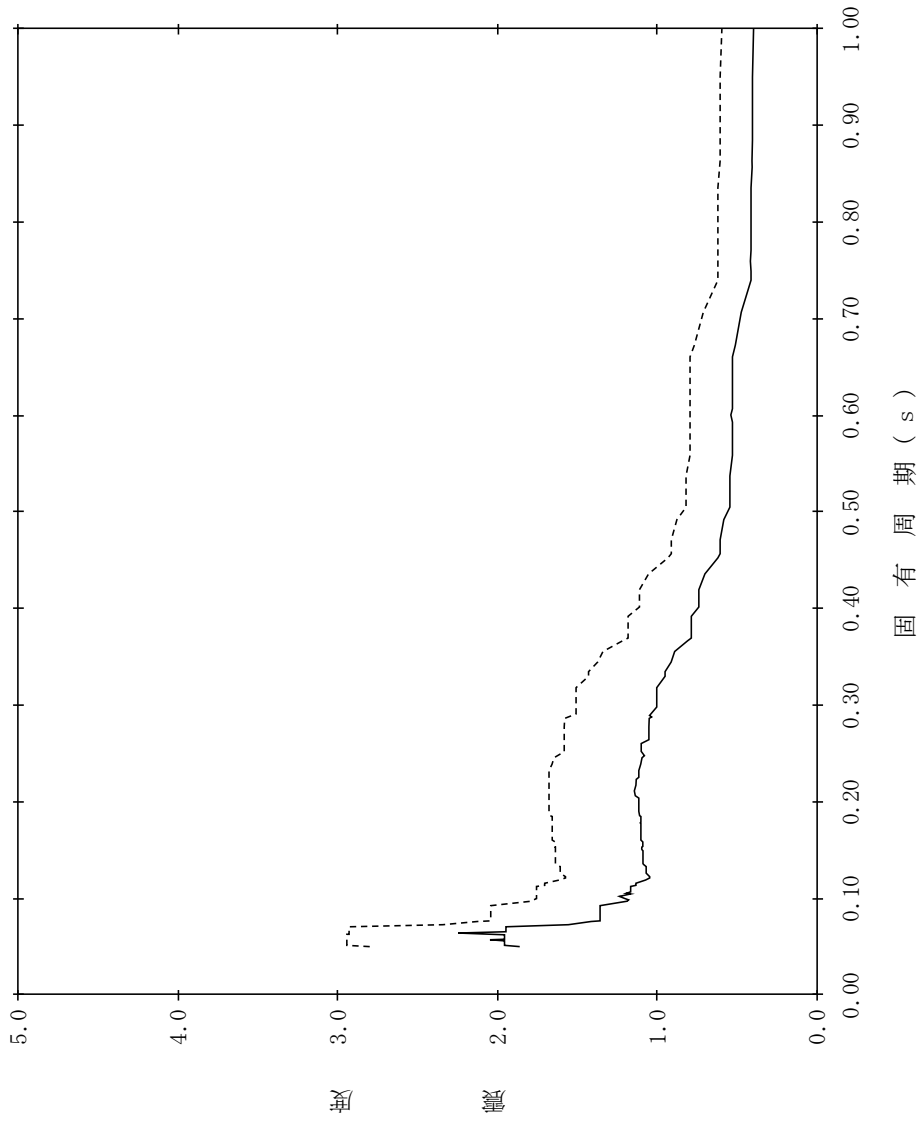
構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：2.0%

— 設計用床応答スペクトルⅠ (鉛直方向)
 - - - 設計用床応答スペクトルⅡ (鉛直方向)



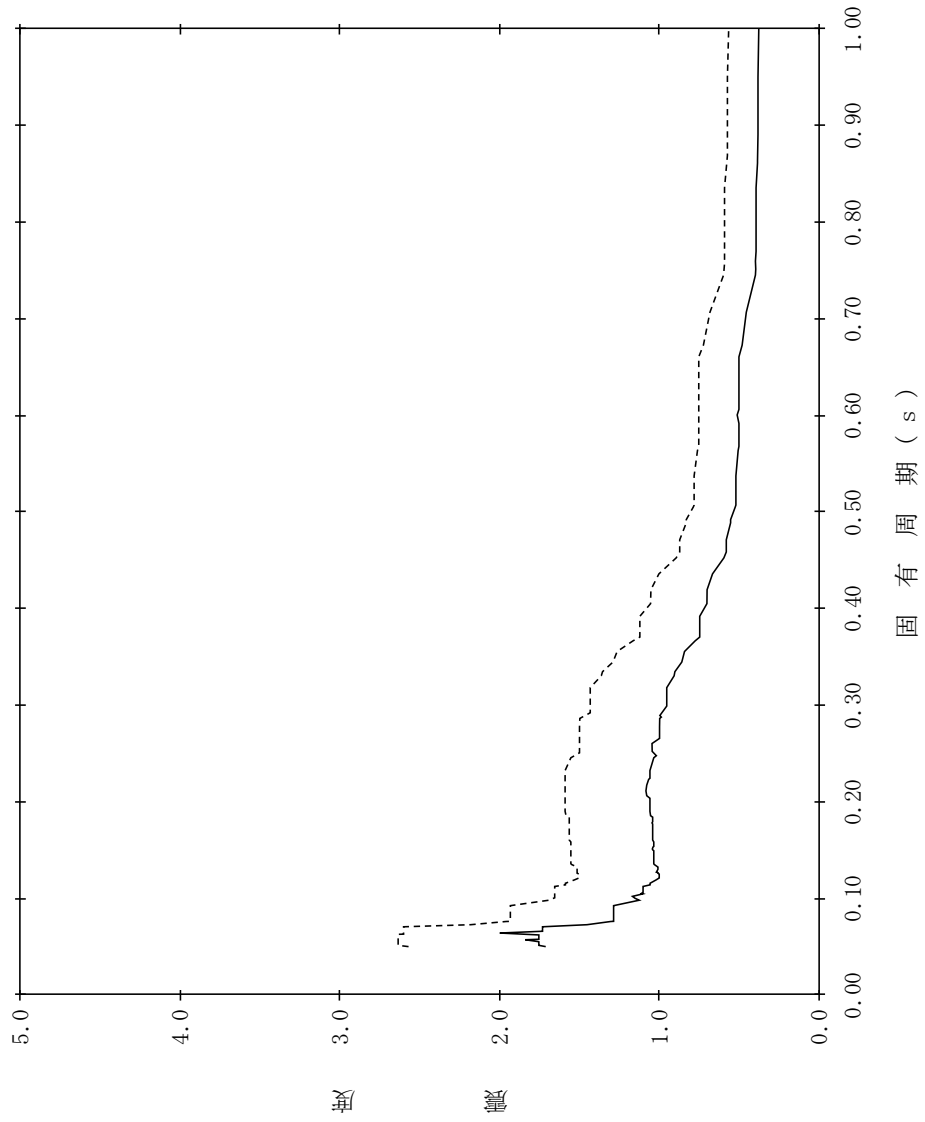
【NS2-TB-SdV-TB29】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



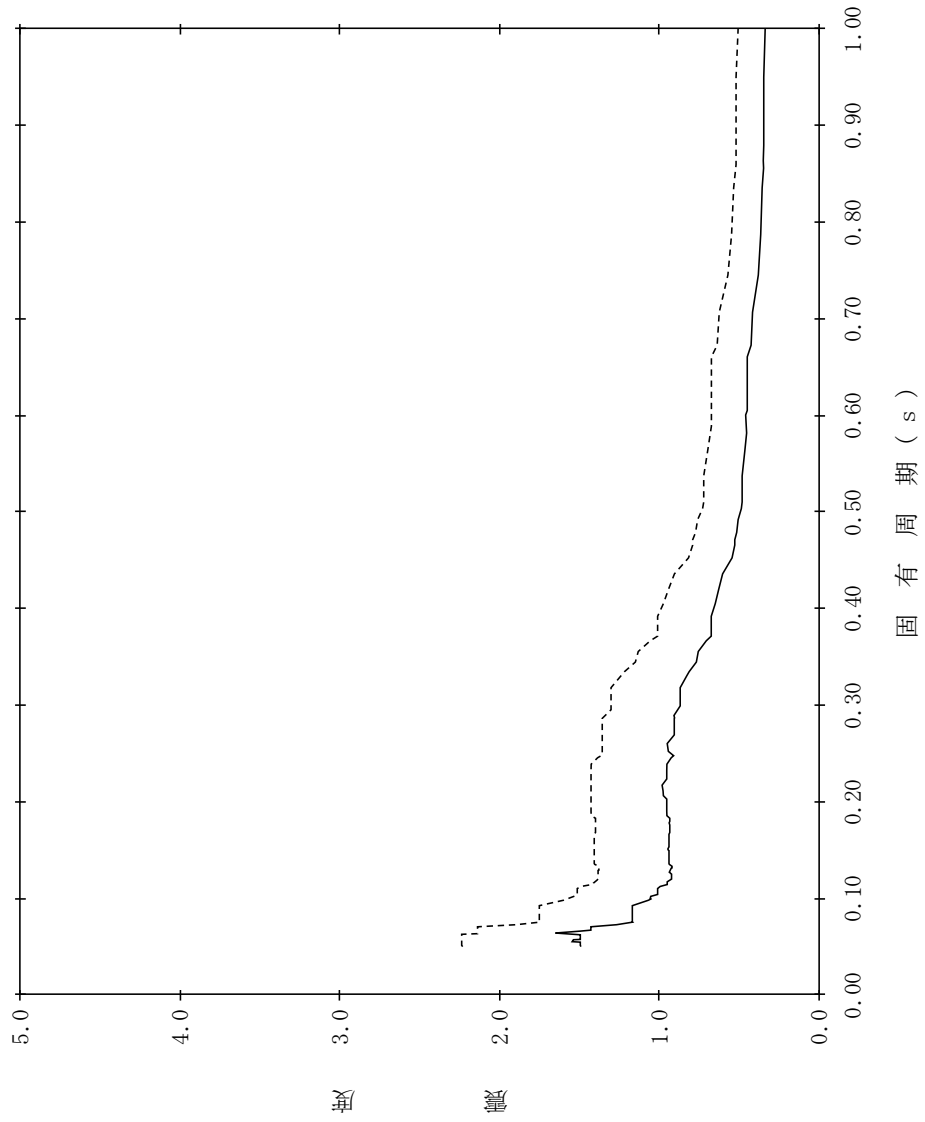
【NS2-TB-SdV-TB30】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



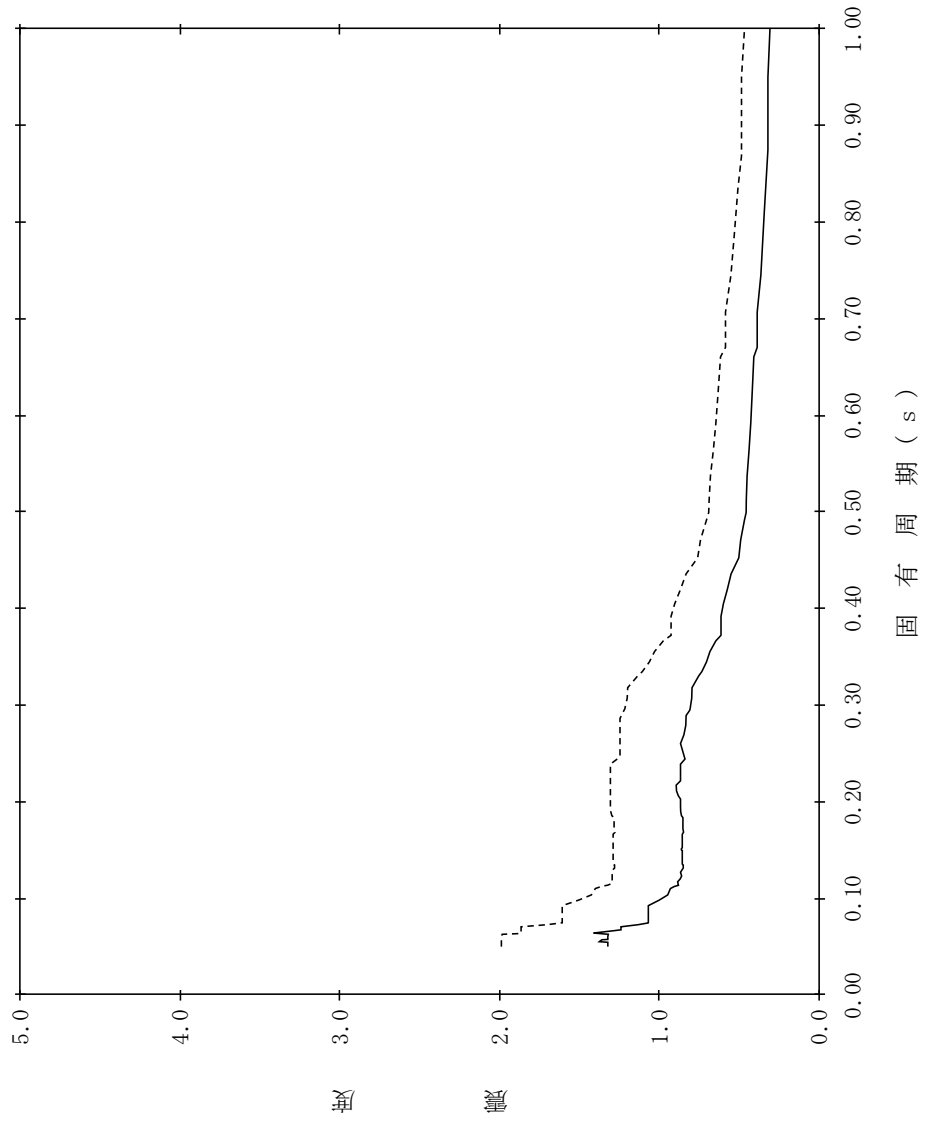
【NS2-TB-SdV-TB31】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



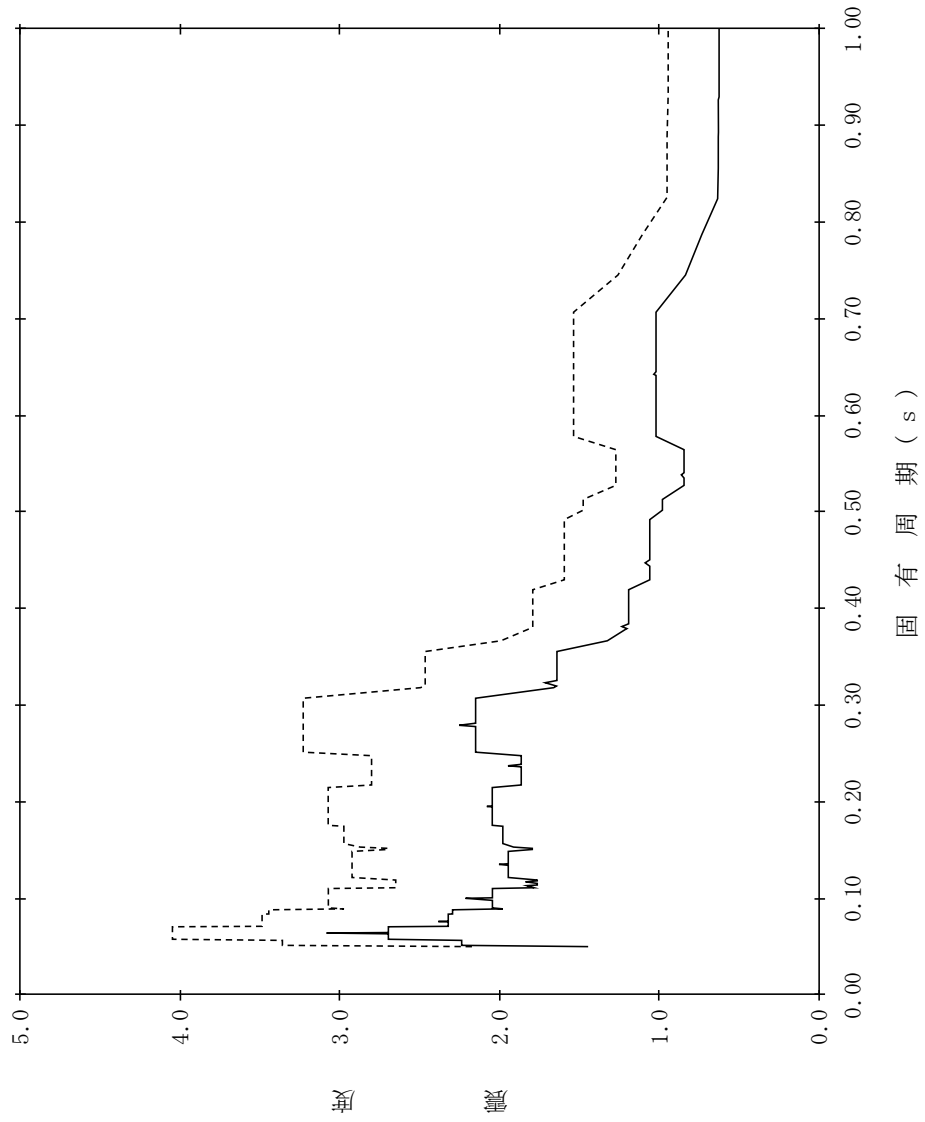
【NS2-TB-SdV-TB32】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



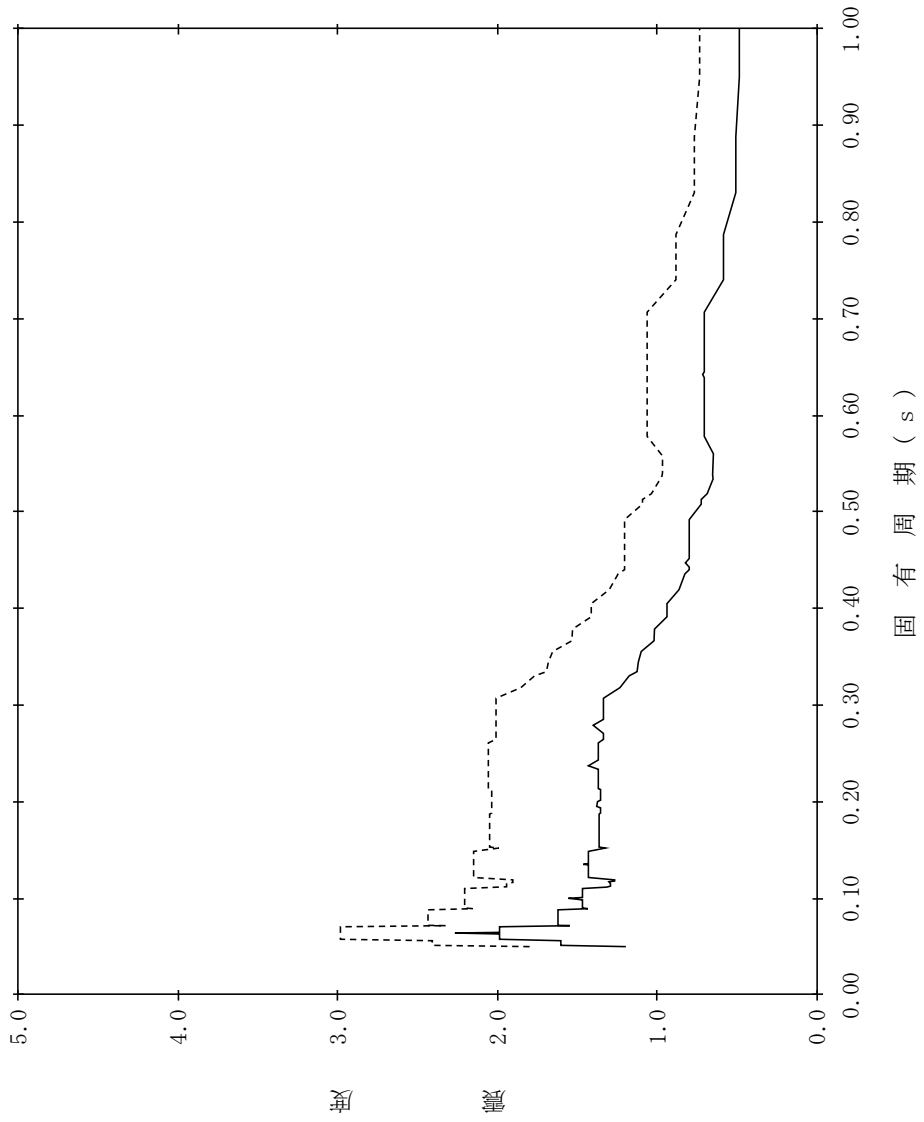
【NS2-TB-SdV-TB33】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



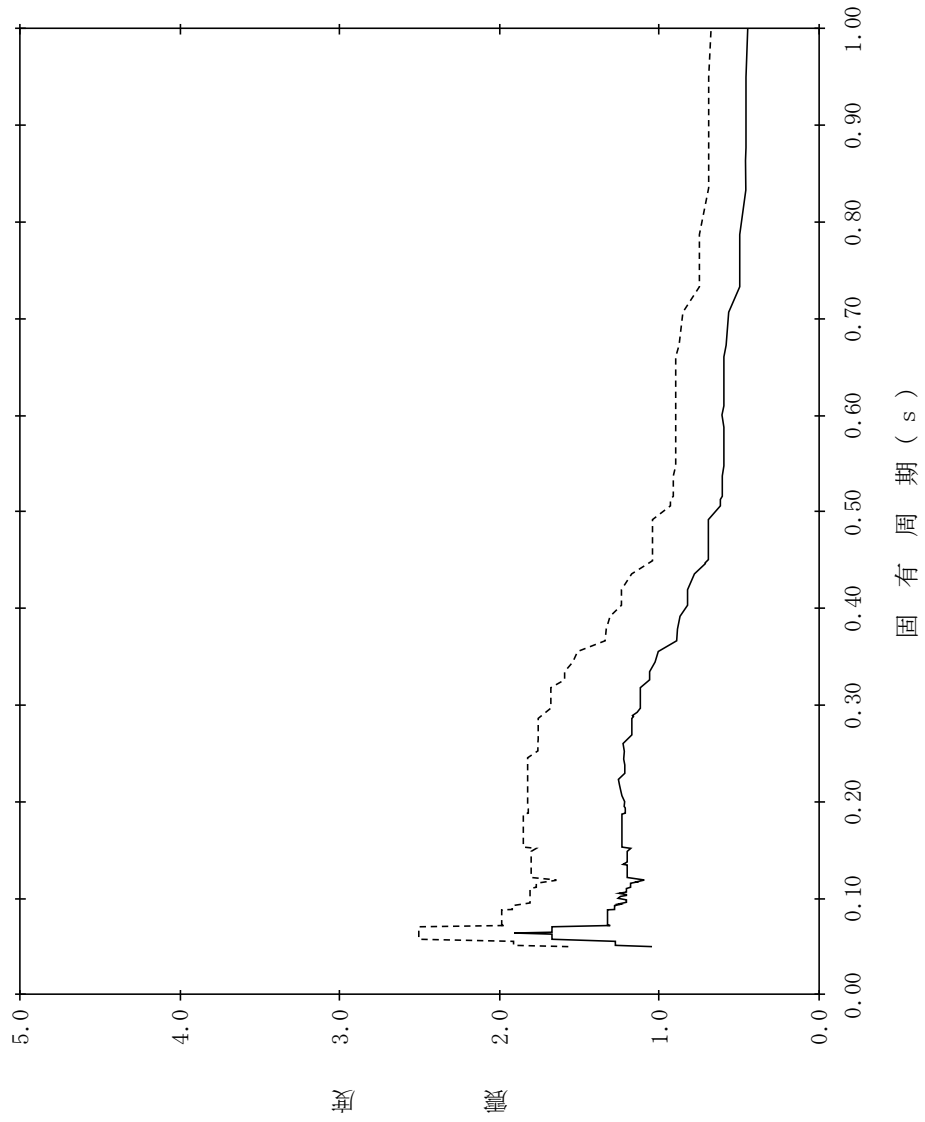
【NS2-TB-SdV-TB34】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



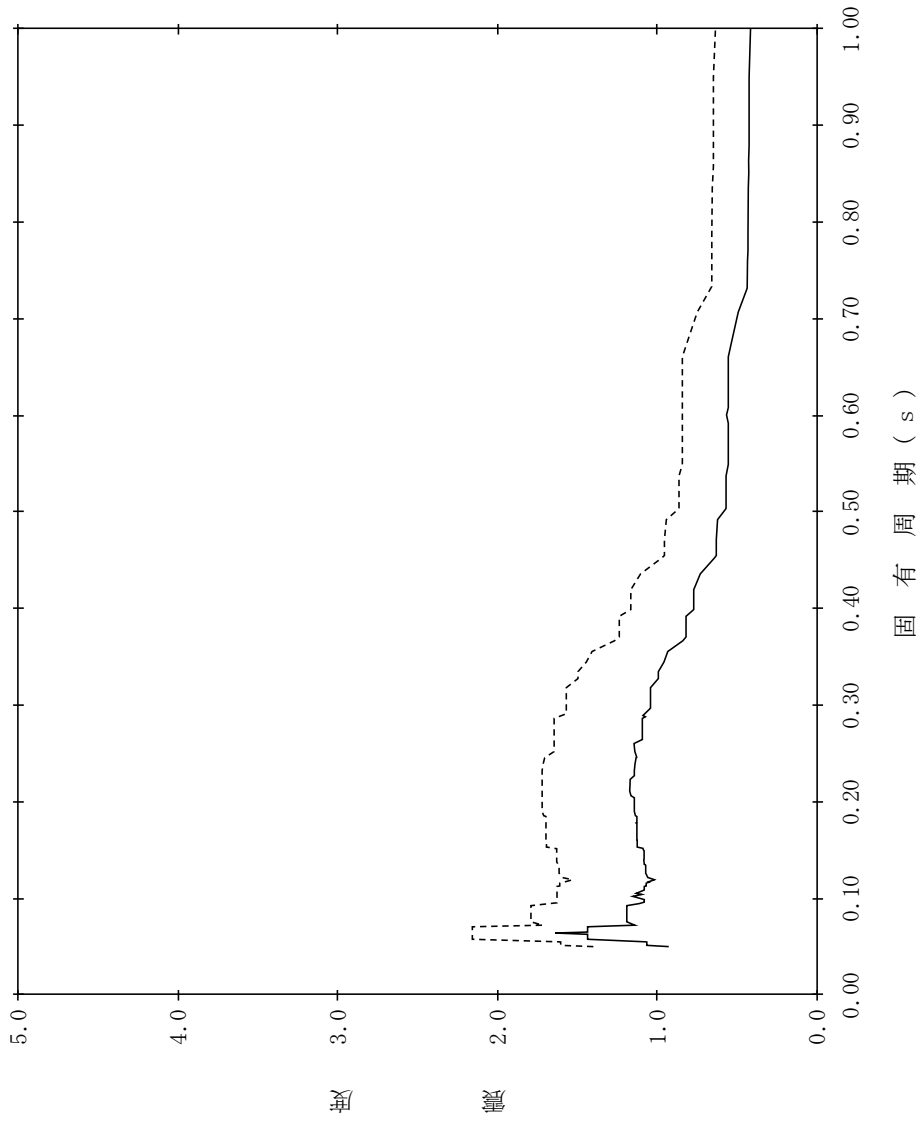
【NS2-TB-SdV-TB35】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



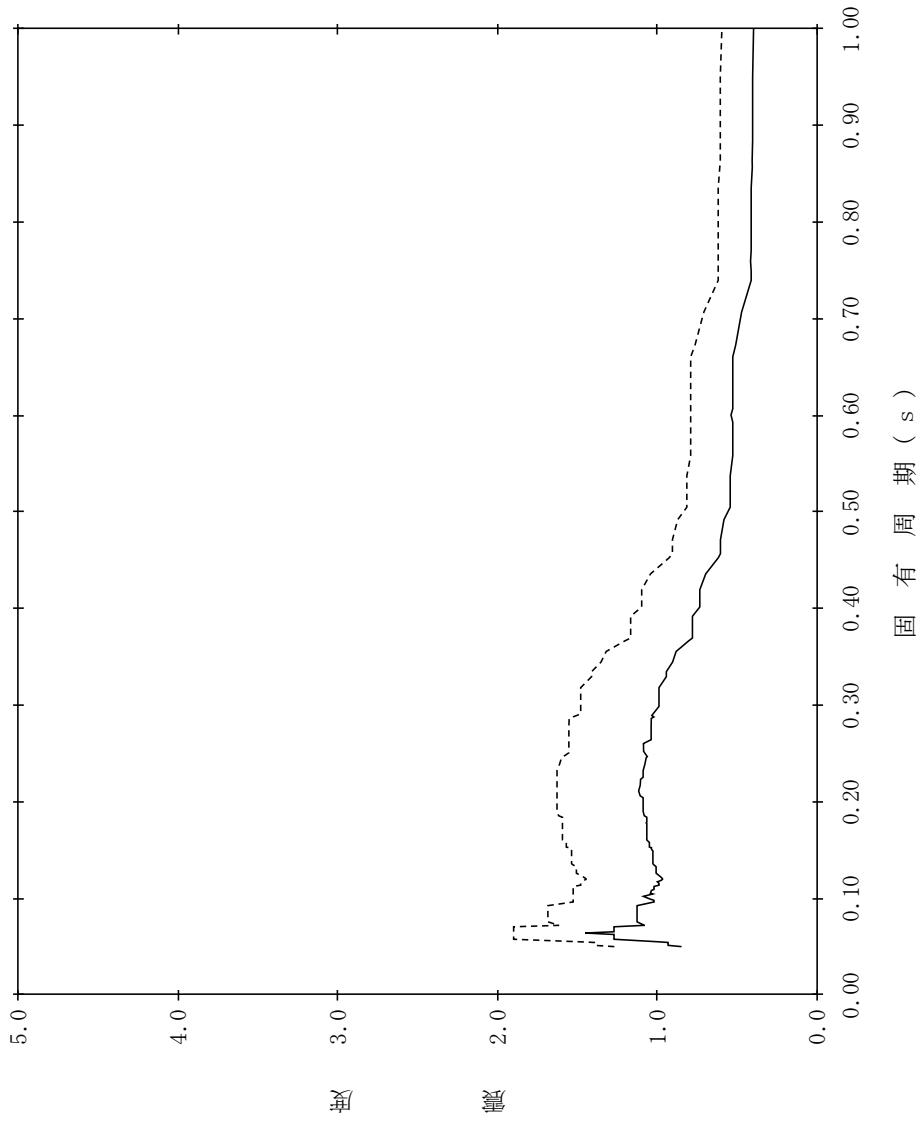
【NS2-TB-SdV-TB36】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



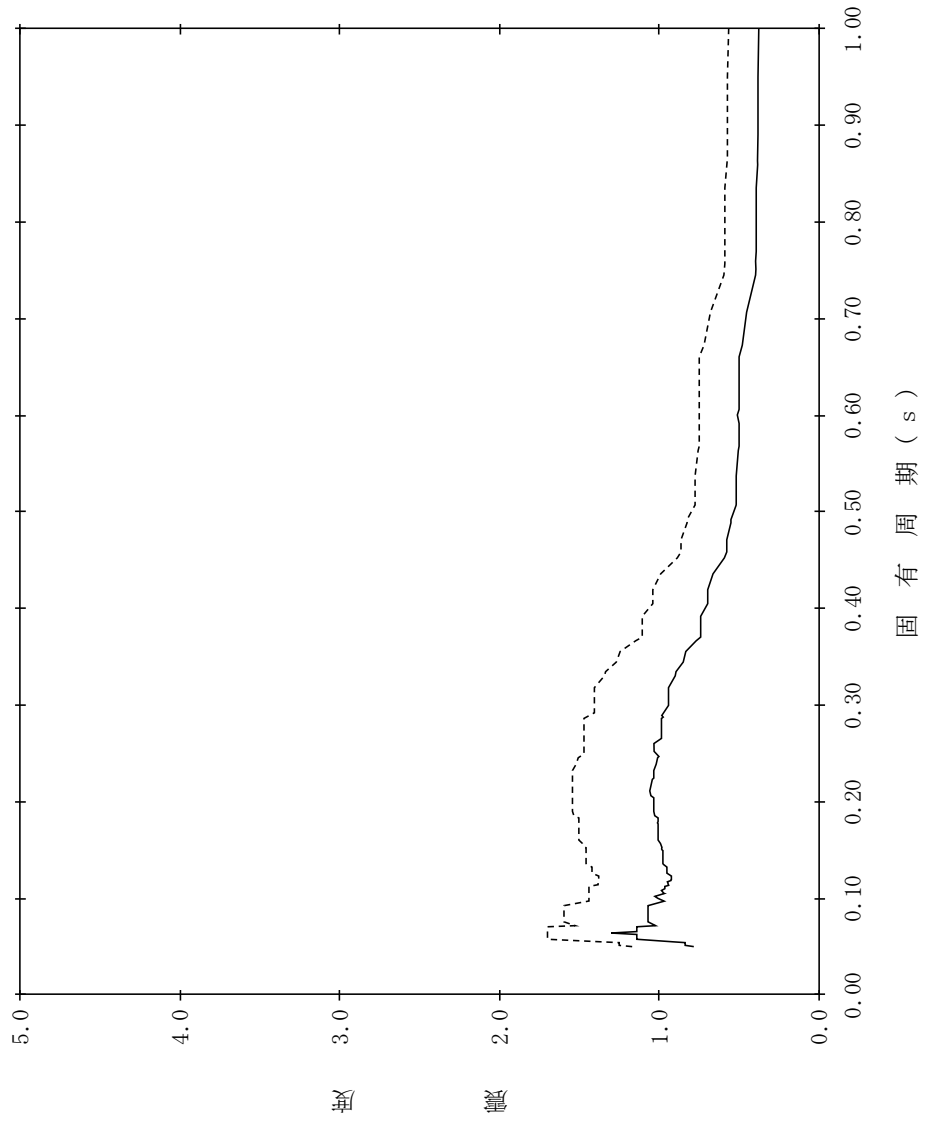
【NS2-TB-SdV-TB37】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



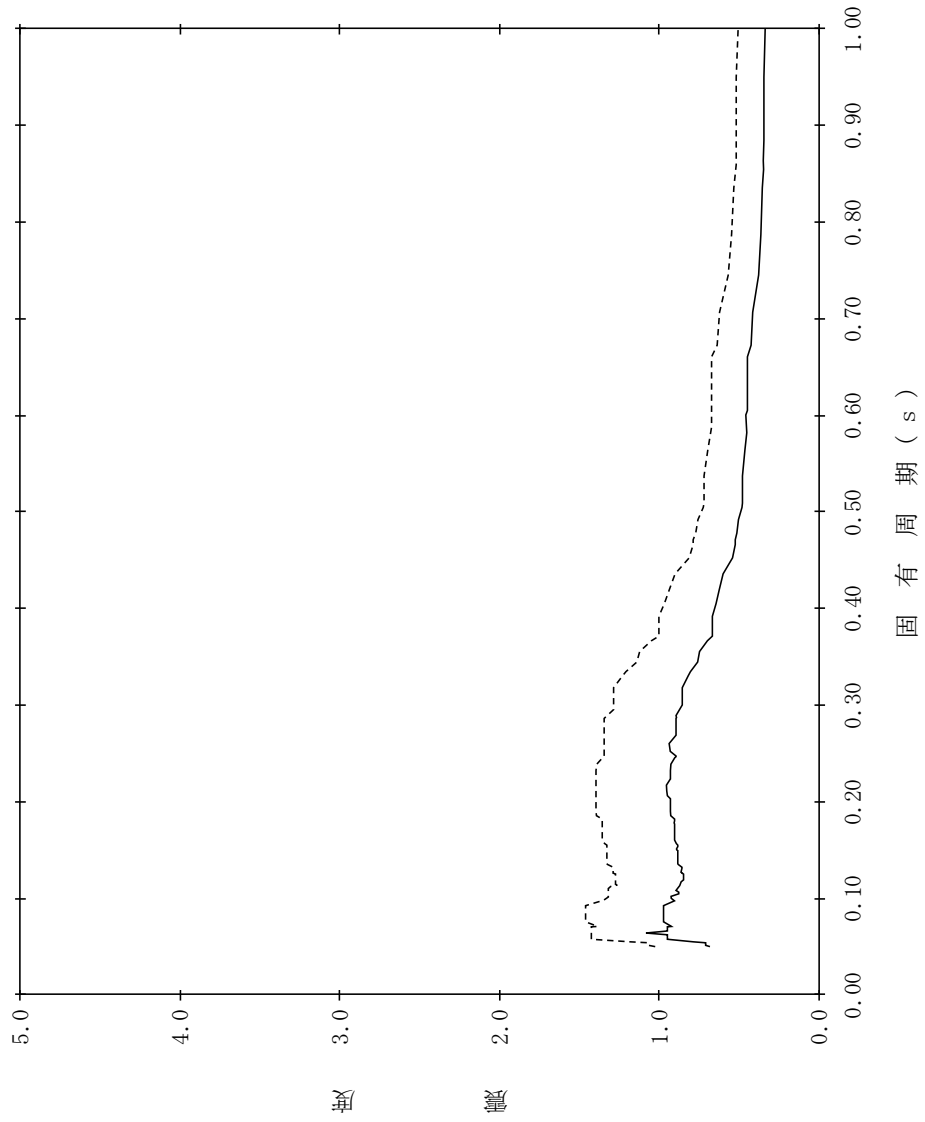
【NS2-TB-SdV-TB38】

構造物名：タービン建物
標高：EL5.500m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



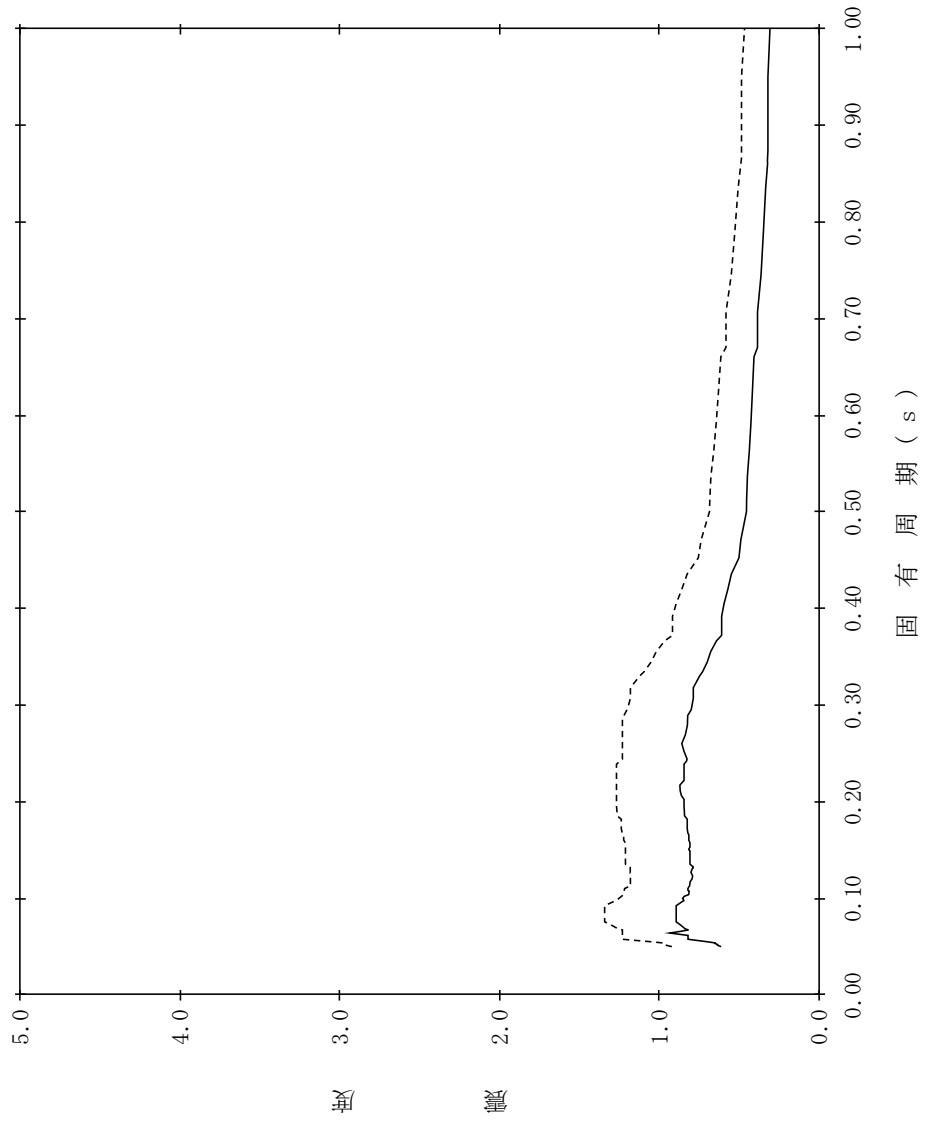
【NS2-TB-SdV-TB39】

構造物名：タービン建物
標高：EL5.500m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



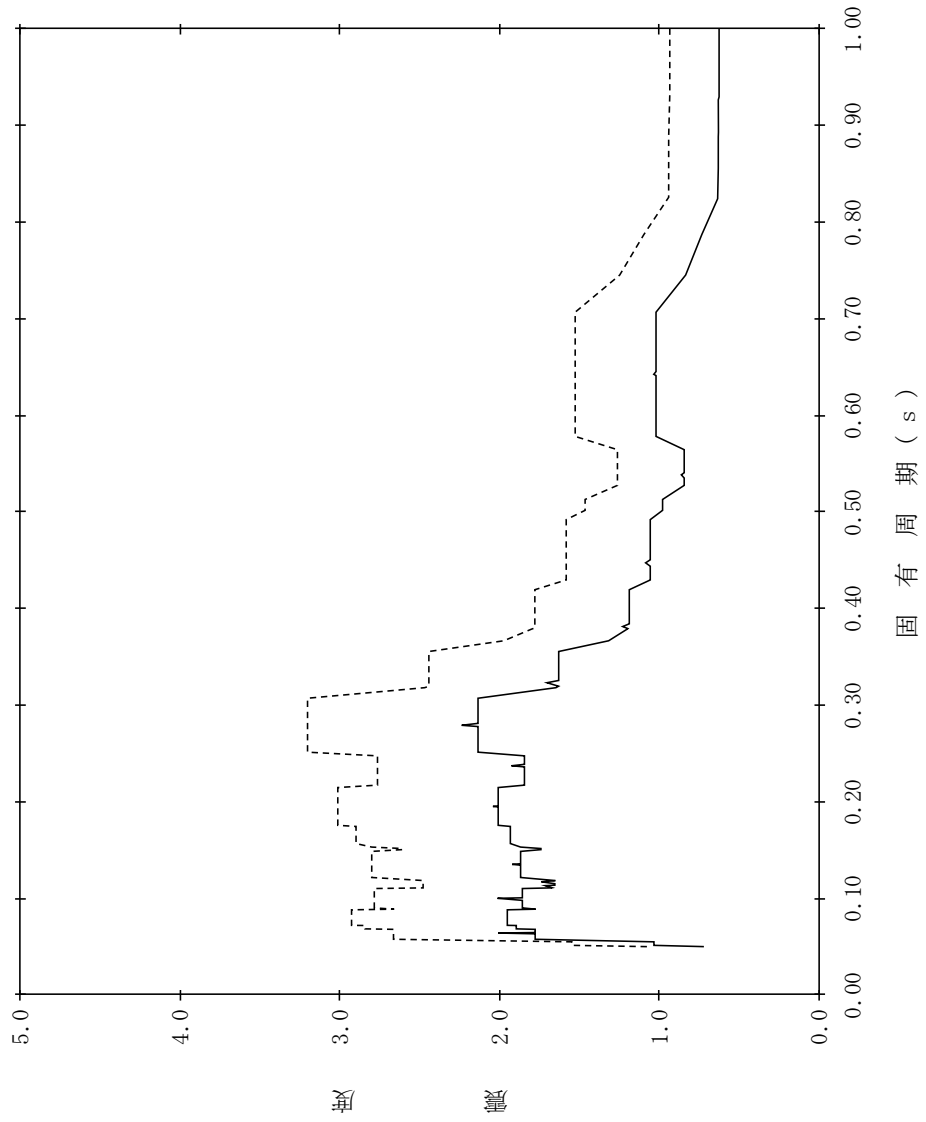
【NS2-TB-SdV-TB40】

構造物名：タービン建物
標高：EL5.500m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



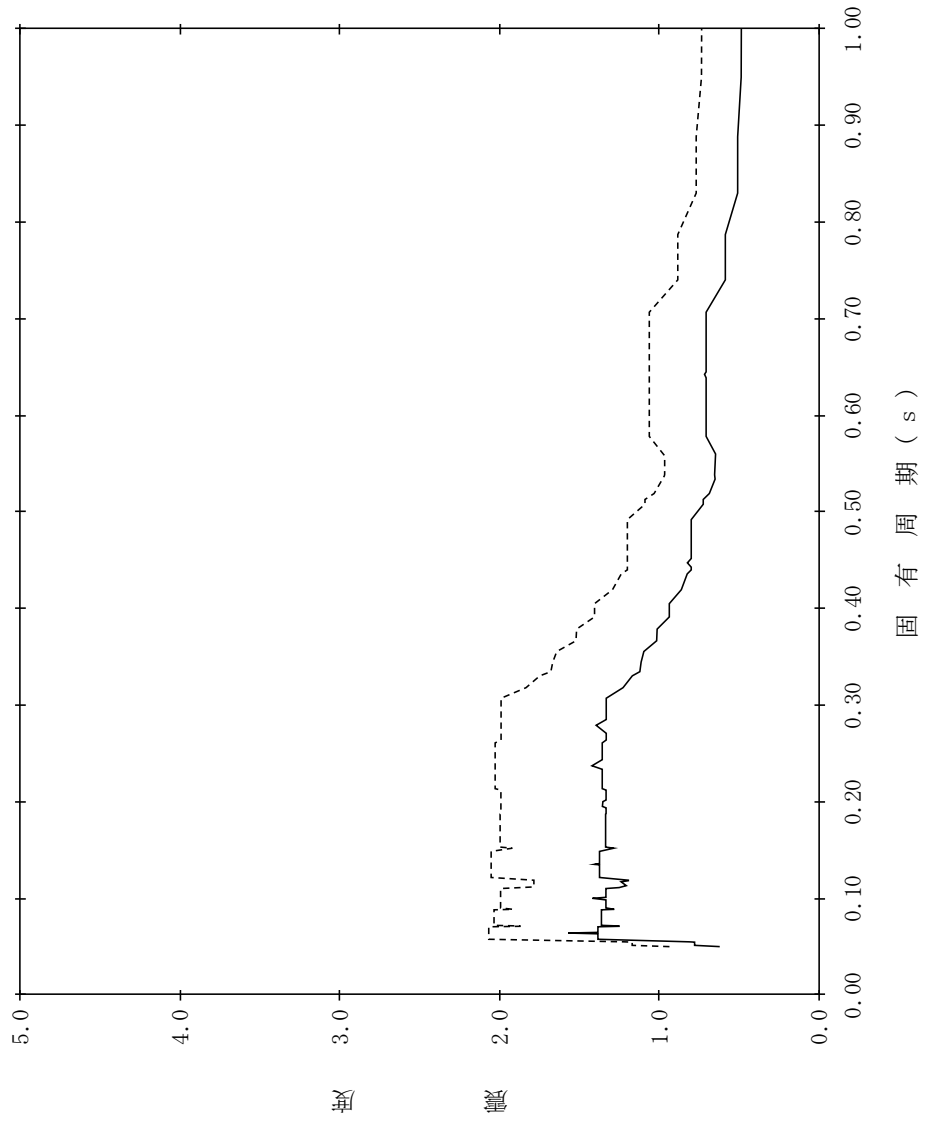
【NS2-TB-SdV-TB41】

構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 減衰定数：0.5%
 波形式：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



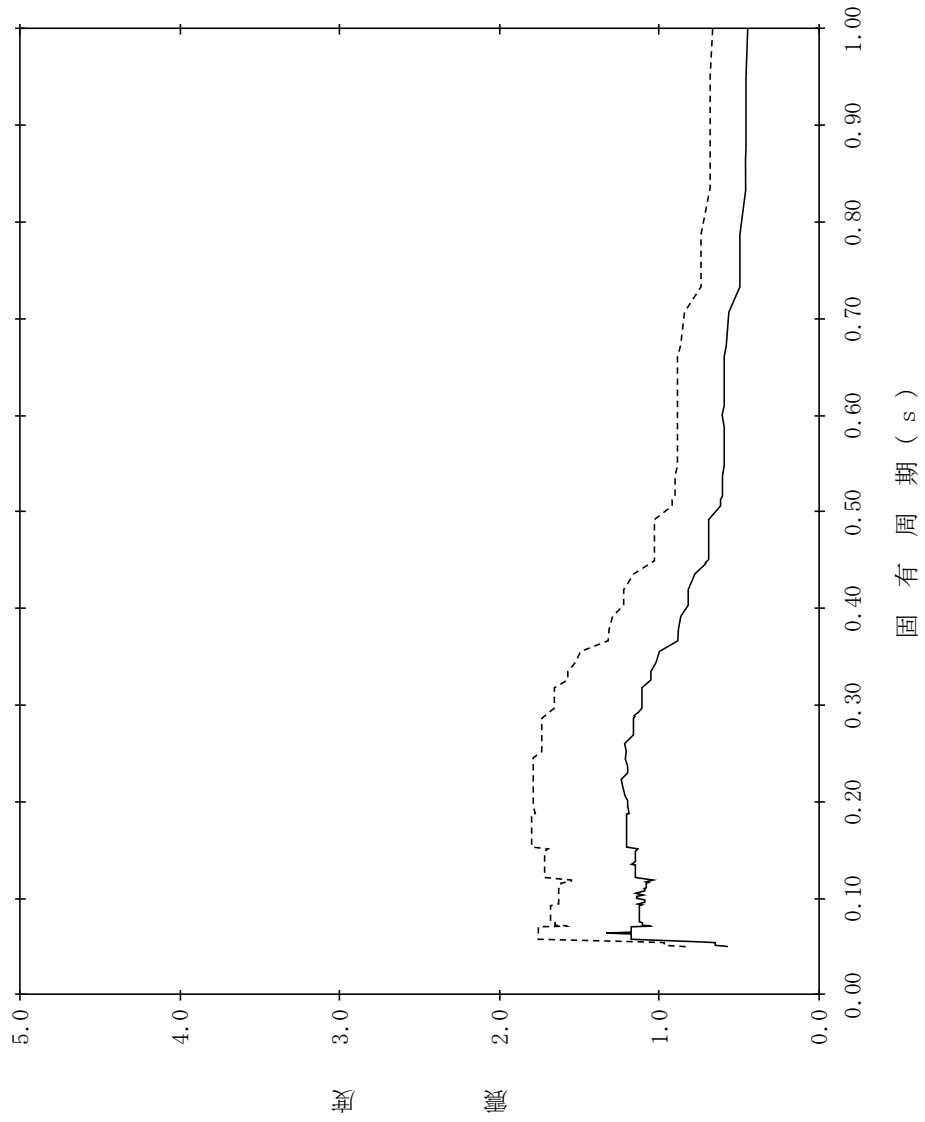
【NS2-TB-SdV-TB42】

構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SdV-TB43】

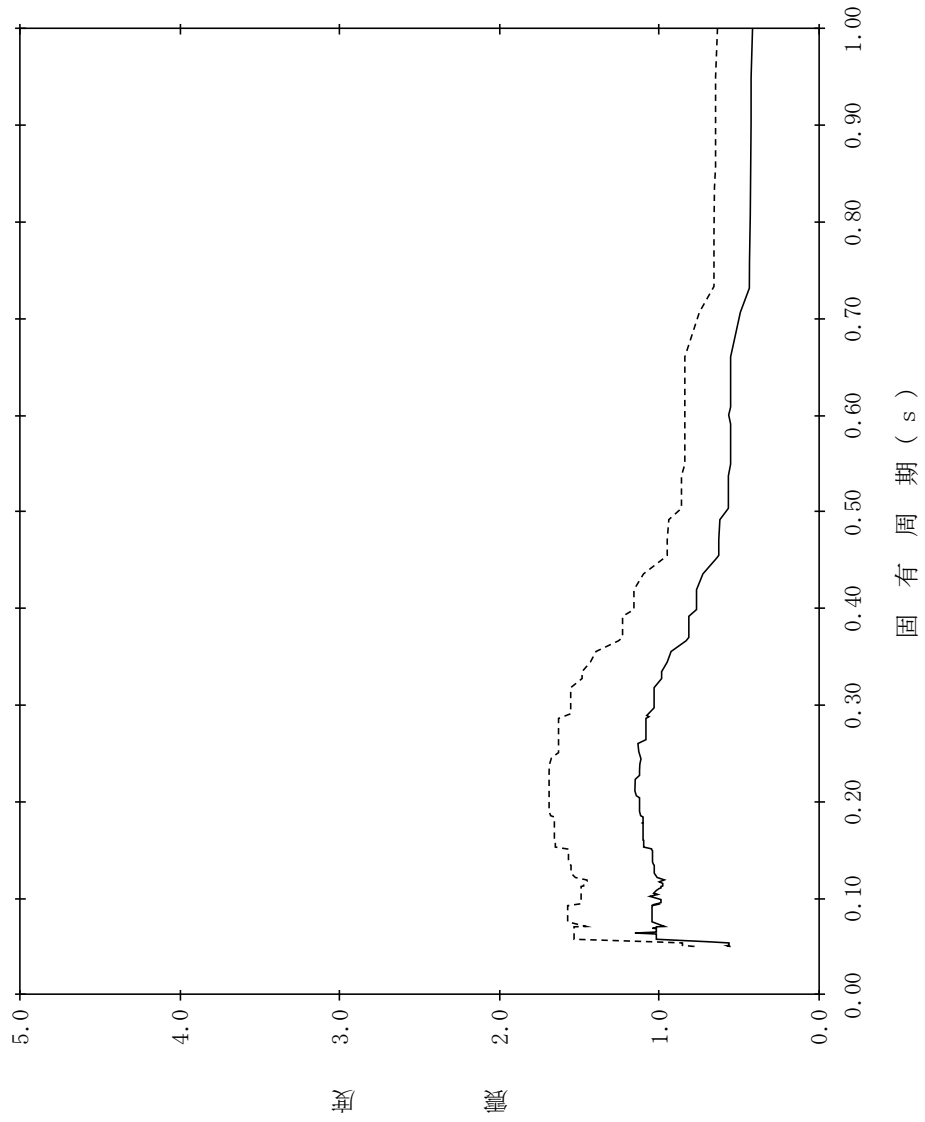
構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SdV-TB44】

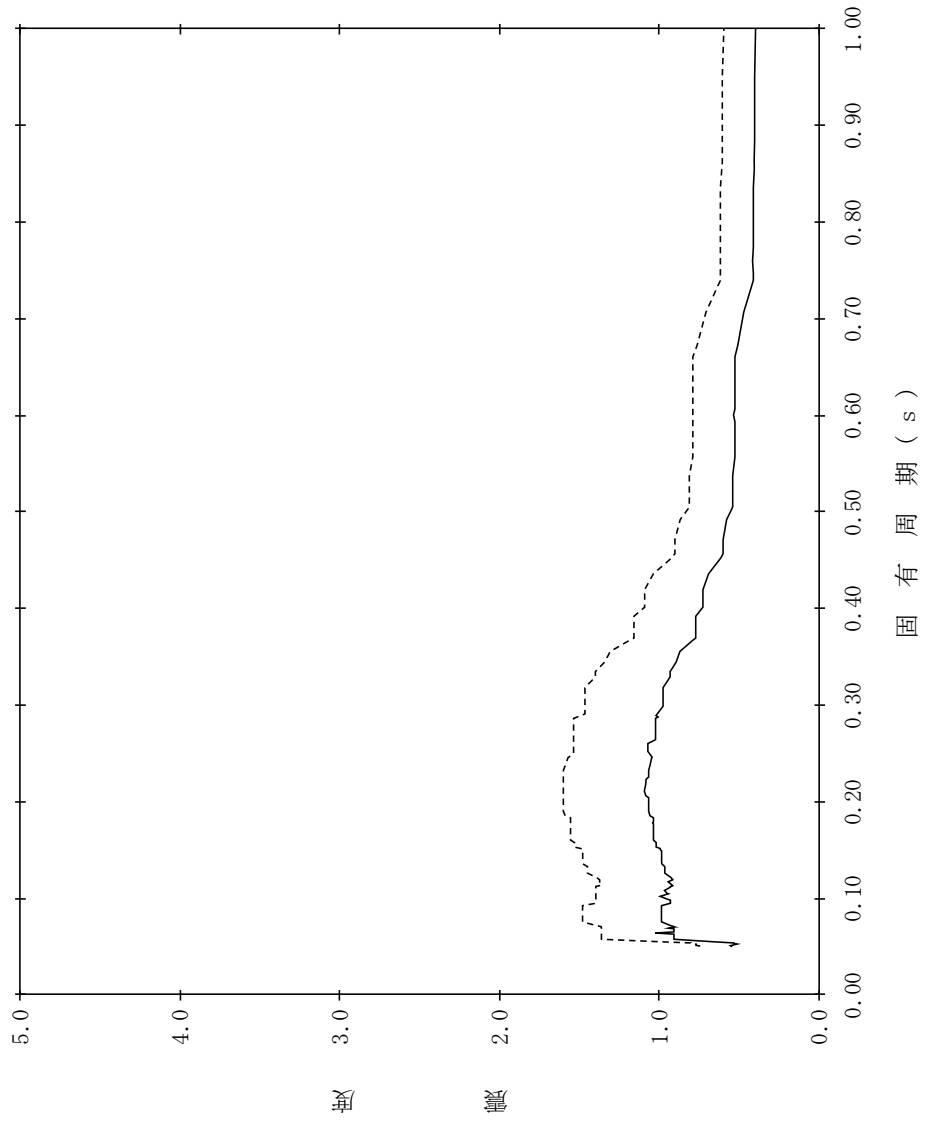
構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 減衰定数：2.0%

— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



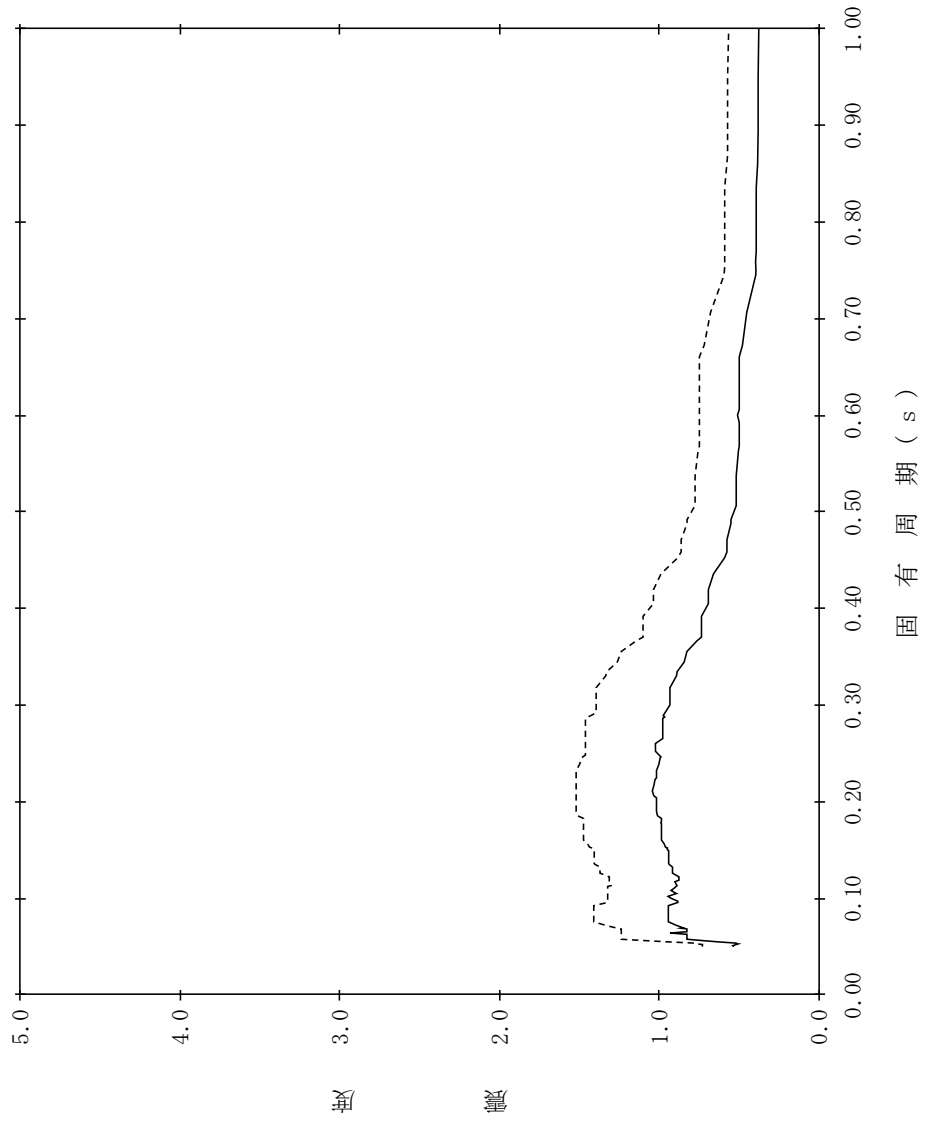
【NS2-TB-SdV-TB45】

構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



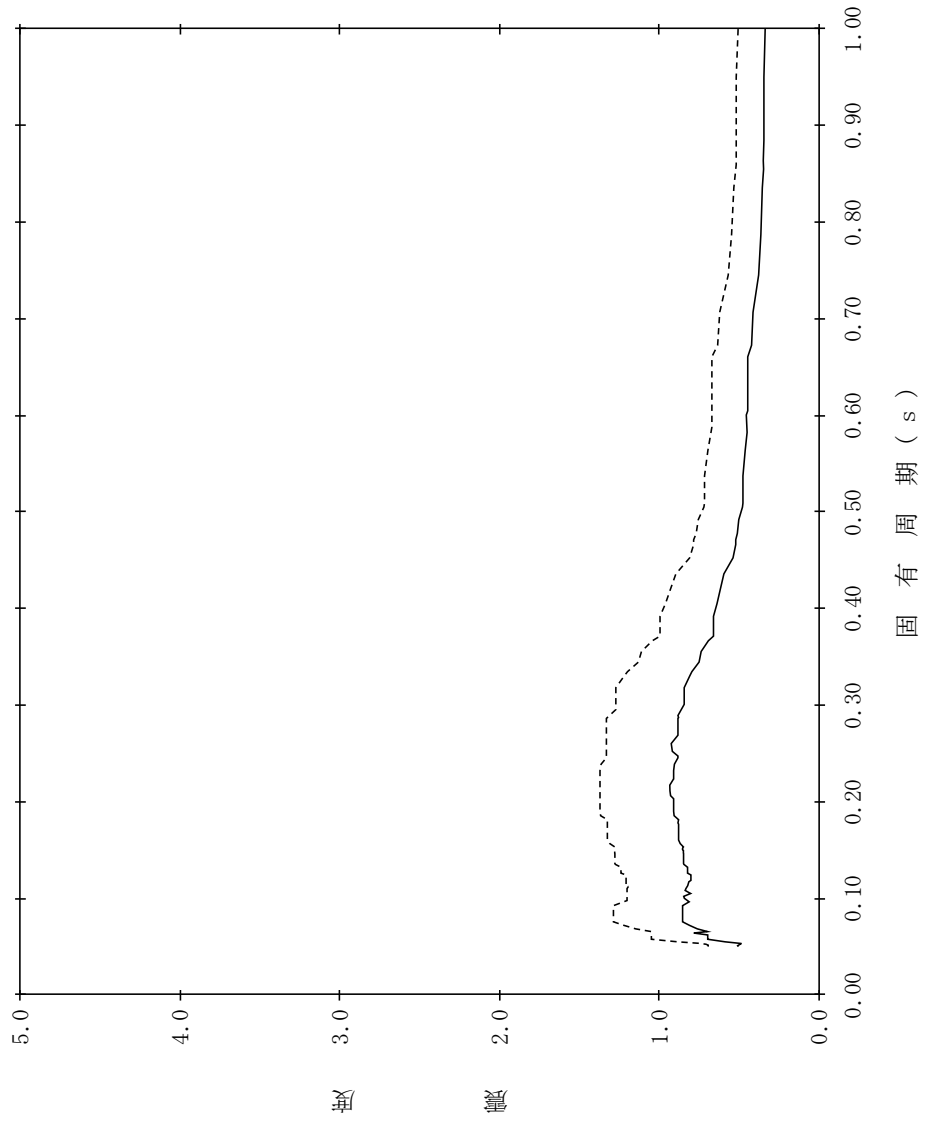
【NS2-TB-SdV-TB46】

構造物名：タービン建物
標高：EL. 000m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



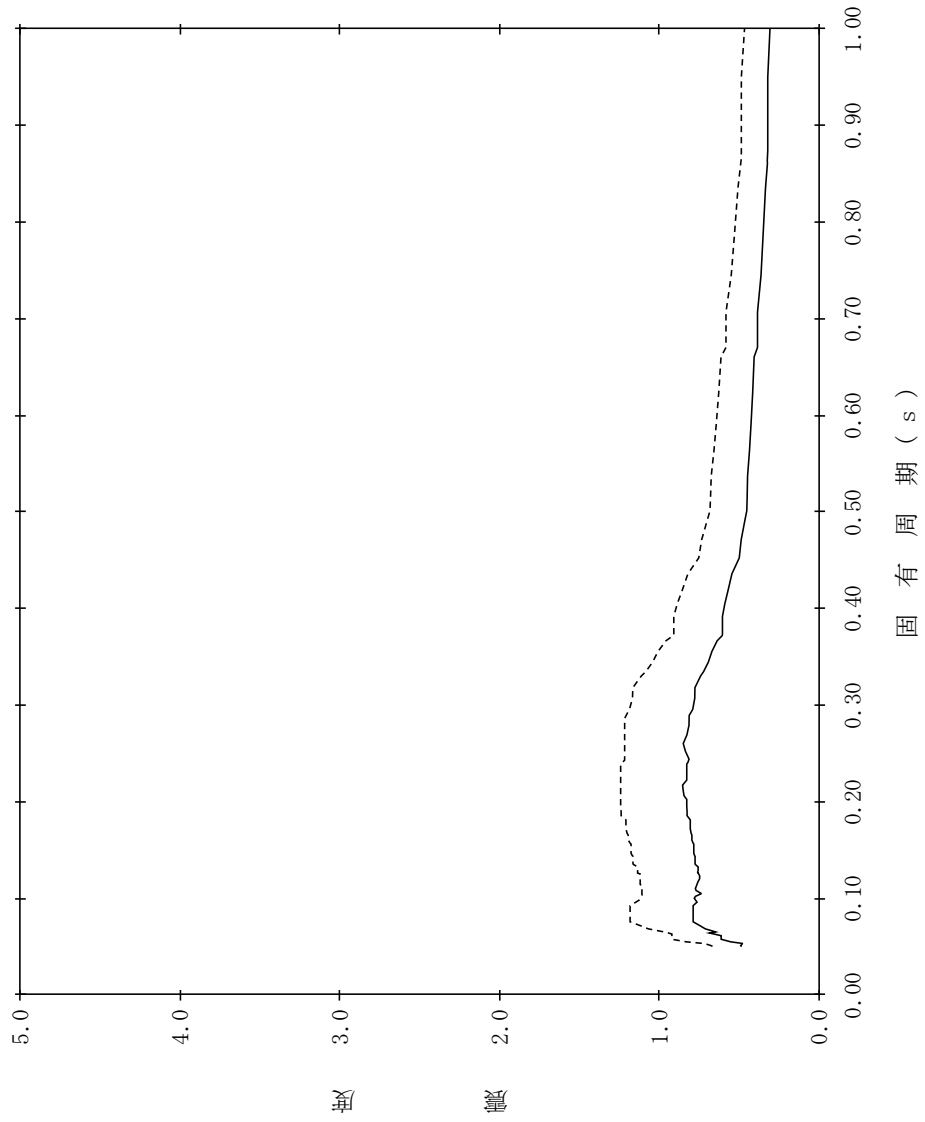
【NS2-TB-SdV-TB47】

構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



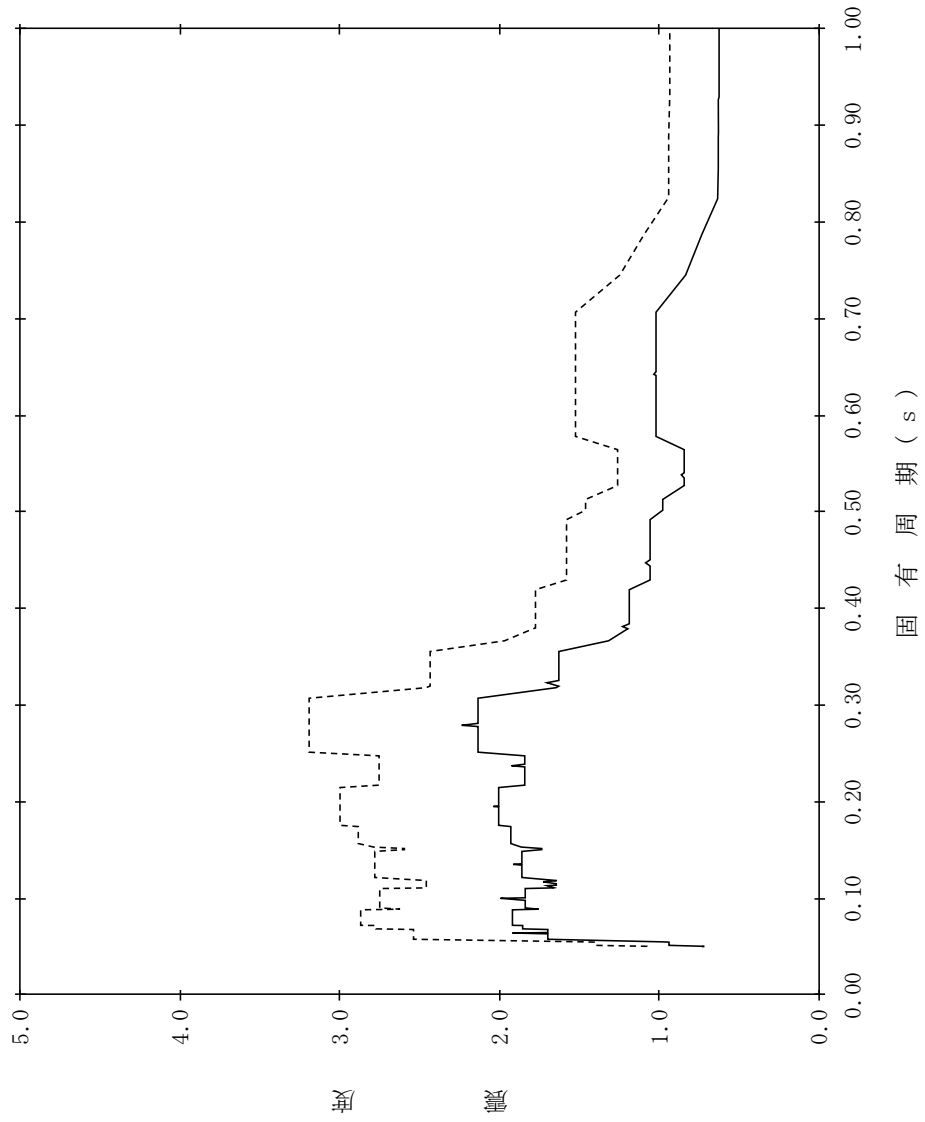
【NS2-TB-SdV-TB48】

構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



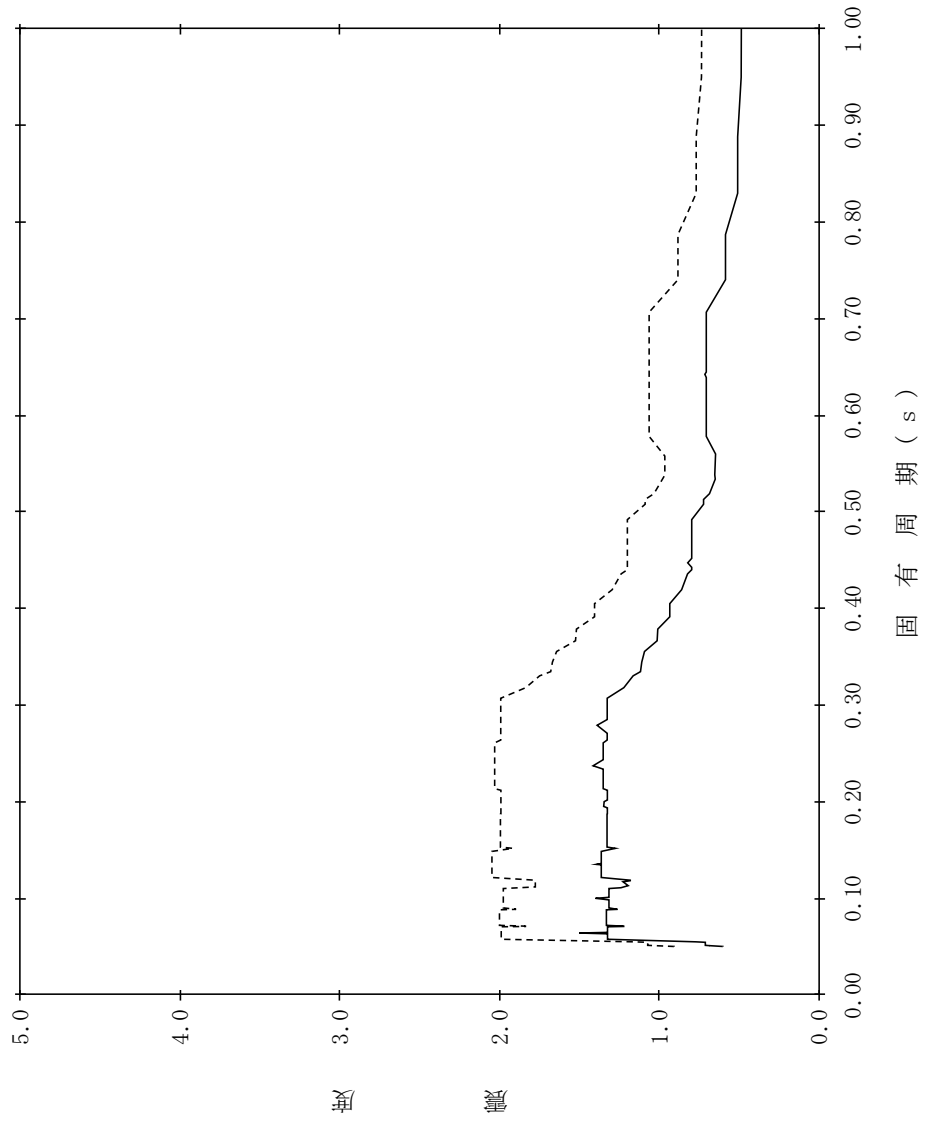
【NS2-TB-SdV-TB49】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



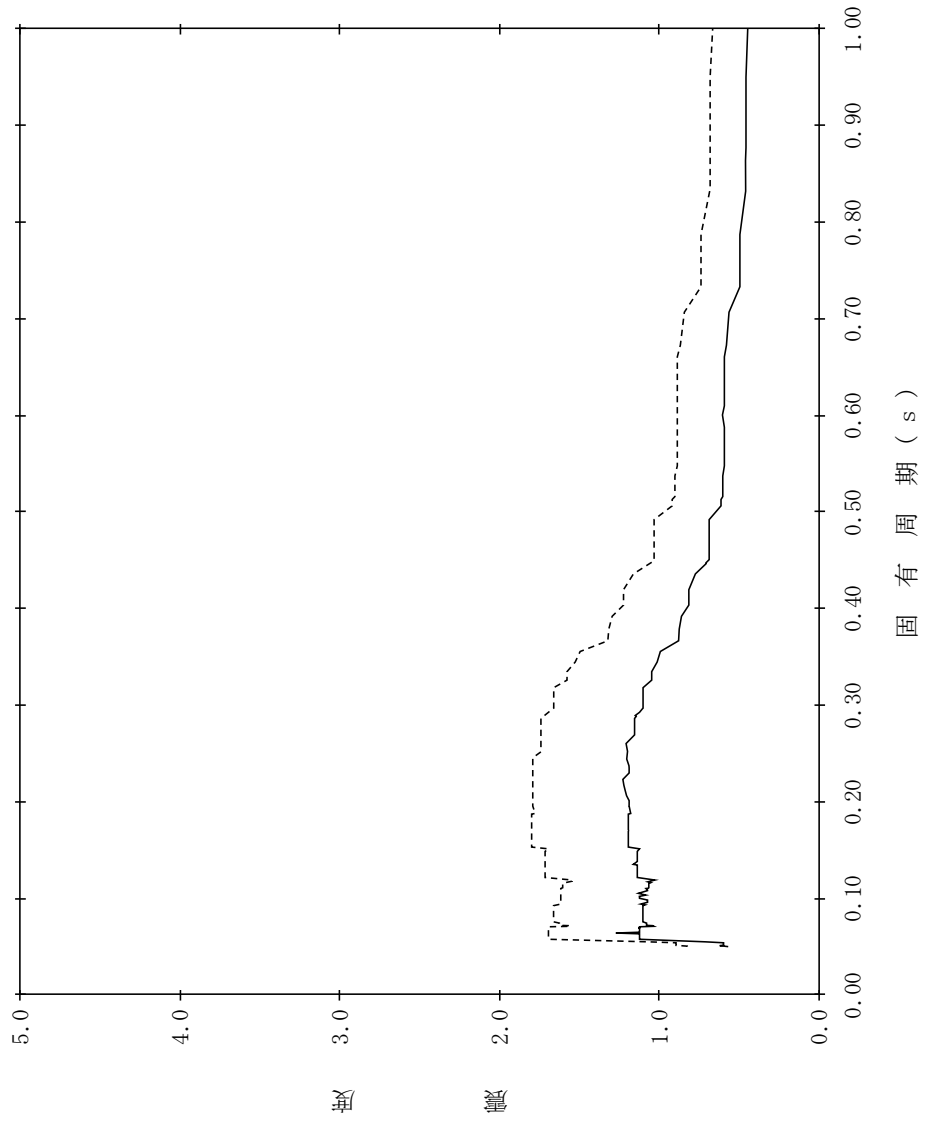
【NS2-TB-SdV-TB50】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



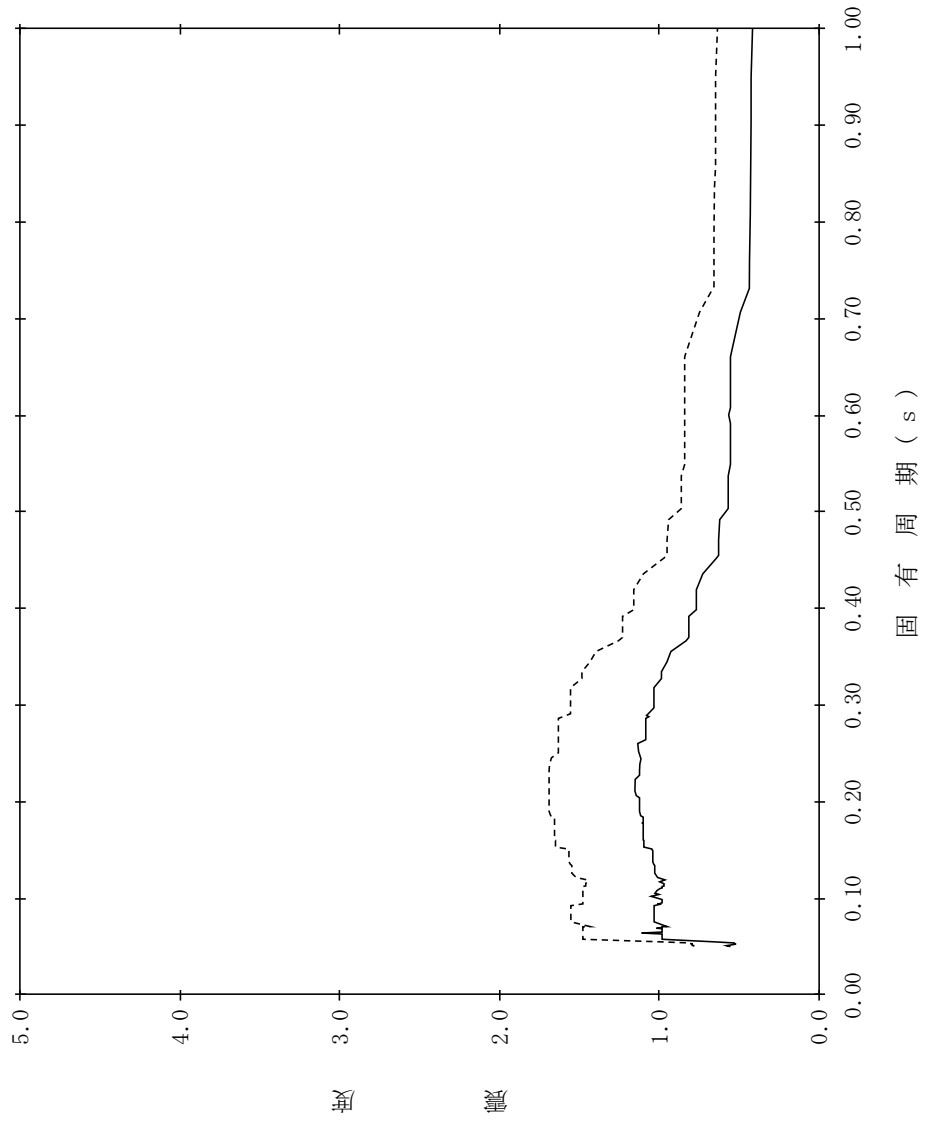
【NS2-TB-SdV-TB51】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



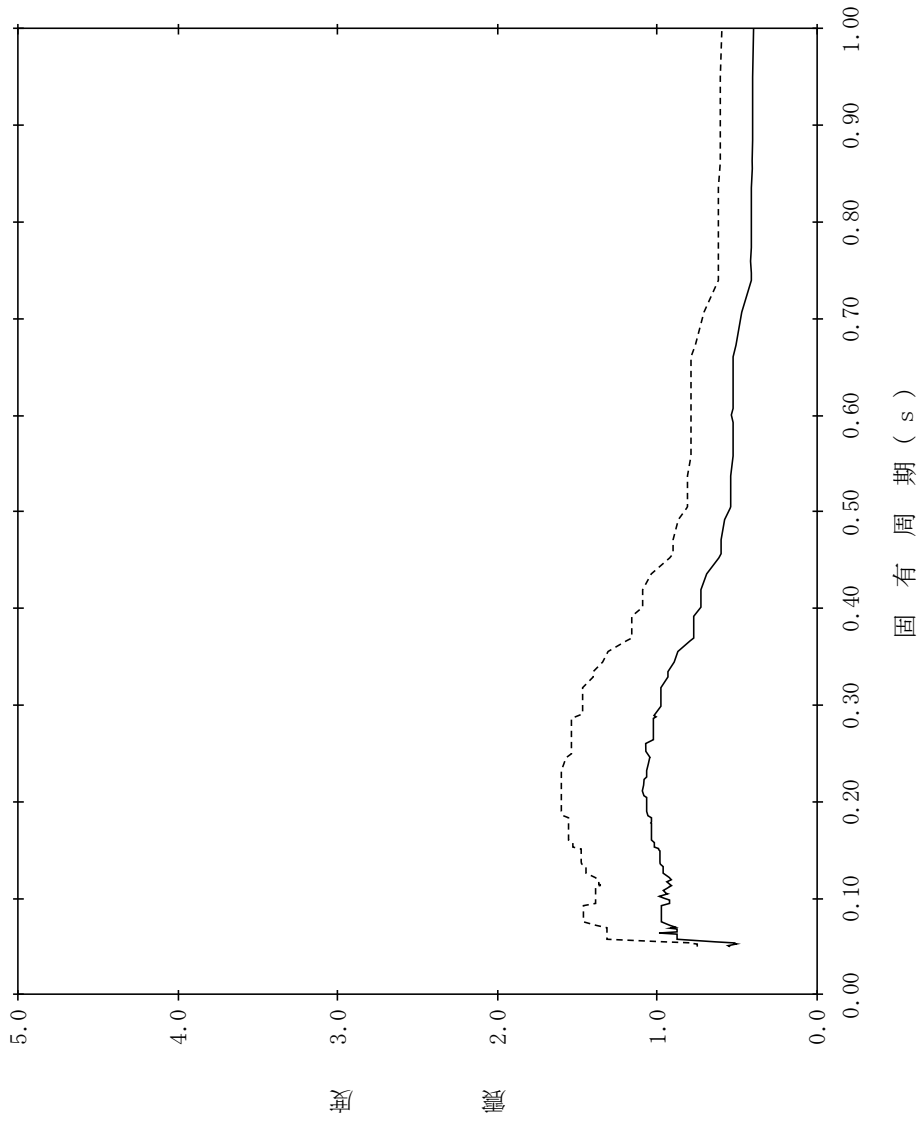
【NS2-TB-SdV-TB52】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



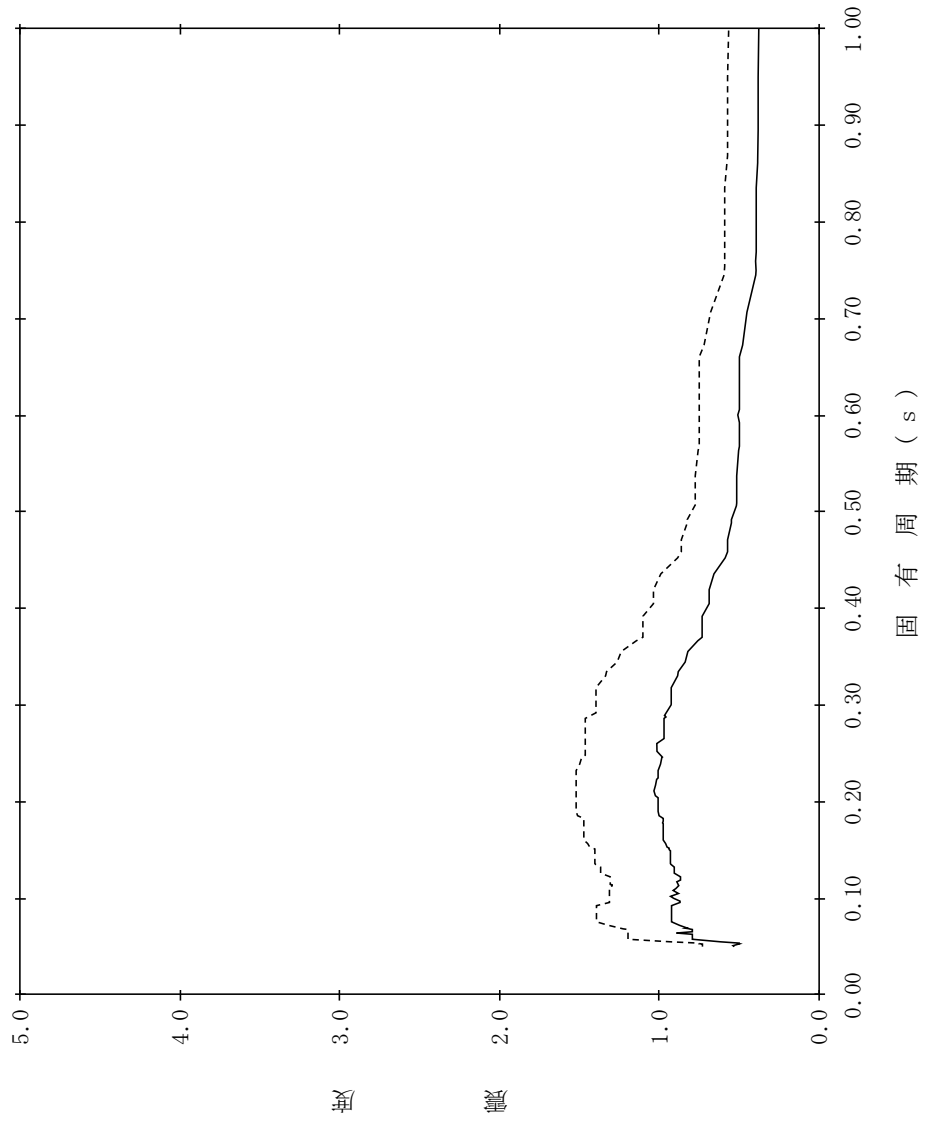
【NS2-TB-SdV-TB53】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



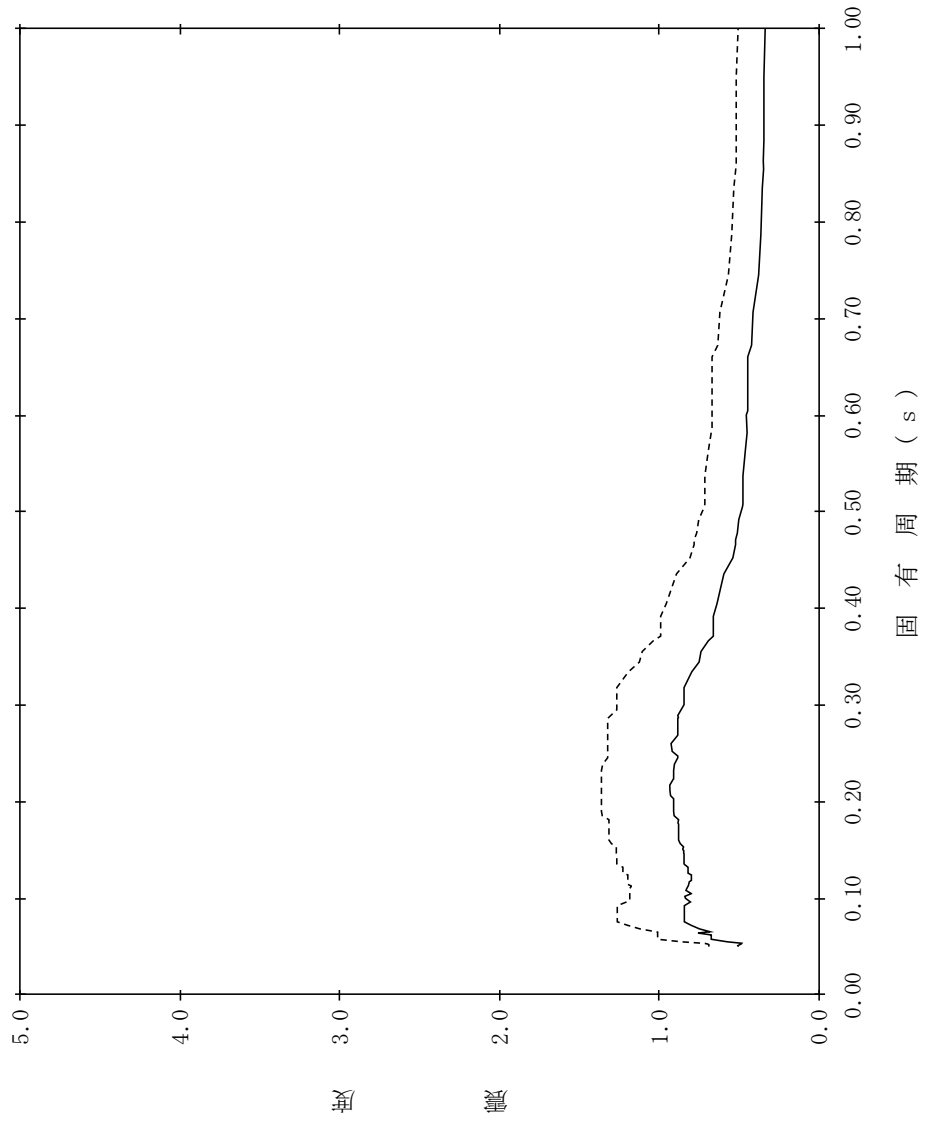
【NS2-TB-SdV-TB54】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



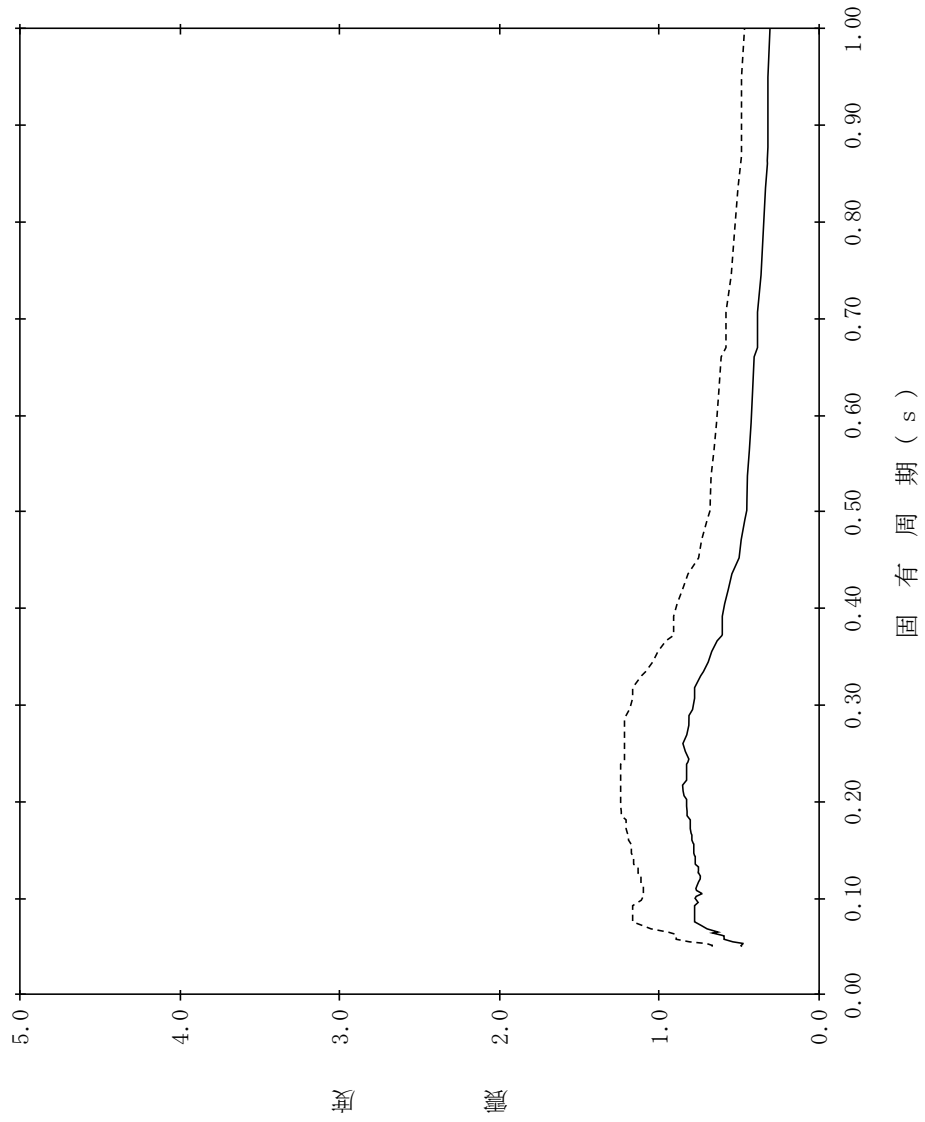
【NS2-TB-SdV-TB55】

構造物名：タービン建物
標高：EL0.000m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



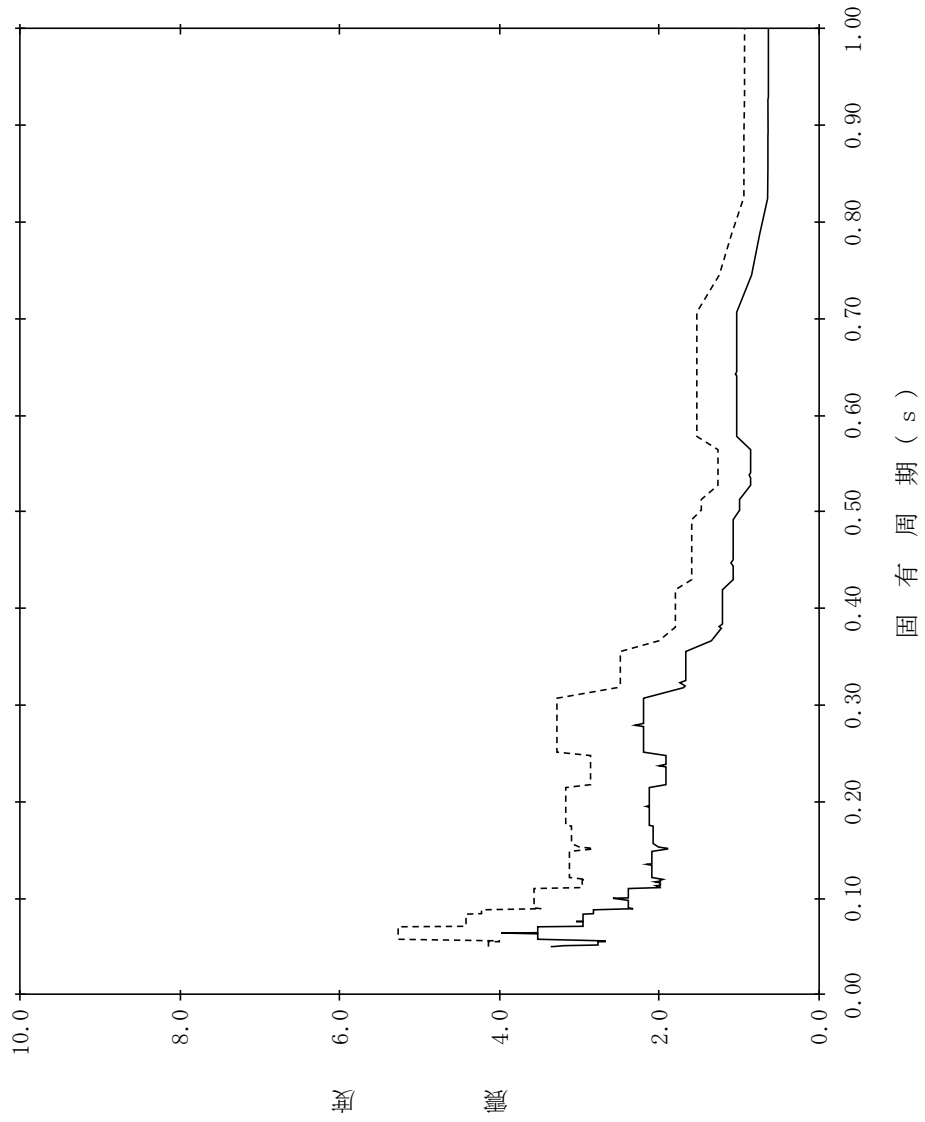
【NS2-TB-SdV-TB56】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



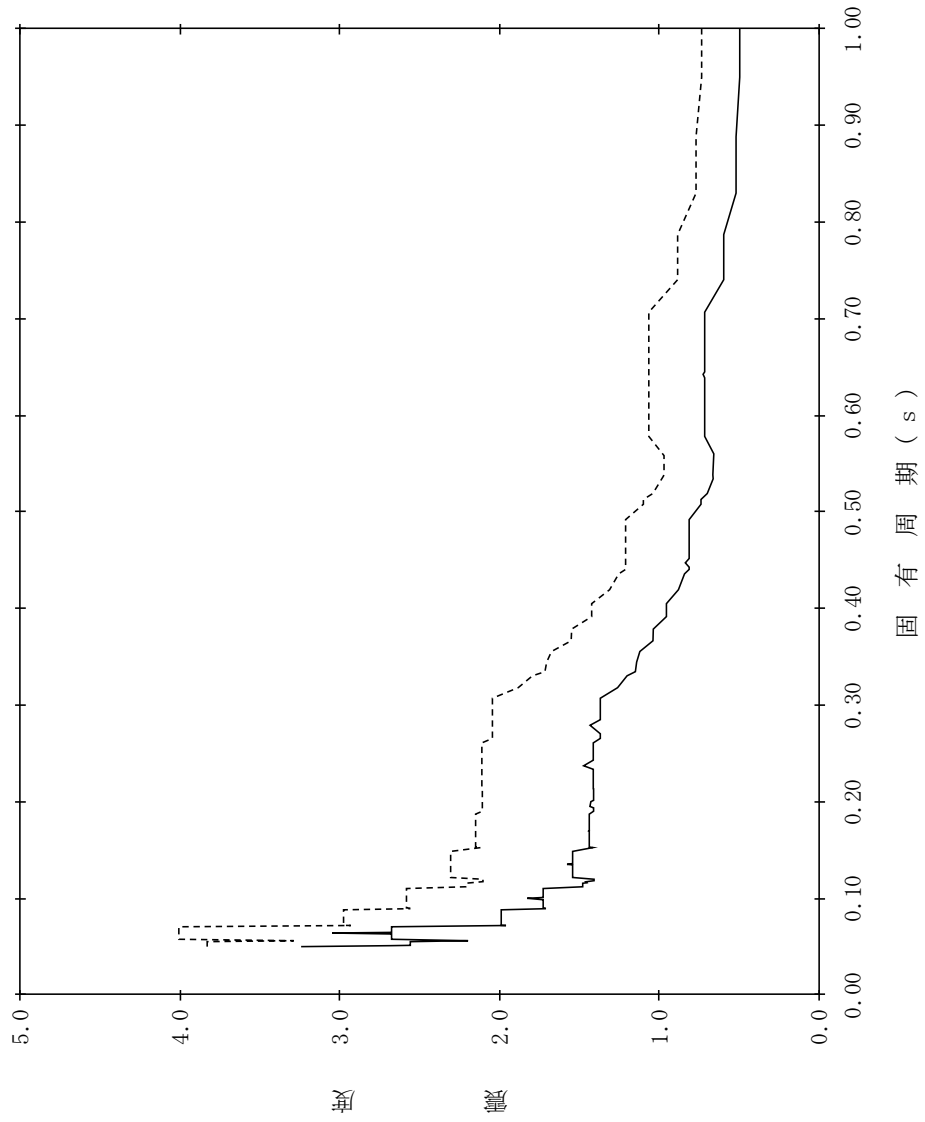
【NS2-TB-SdV-TG57】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



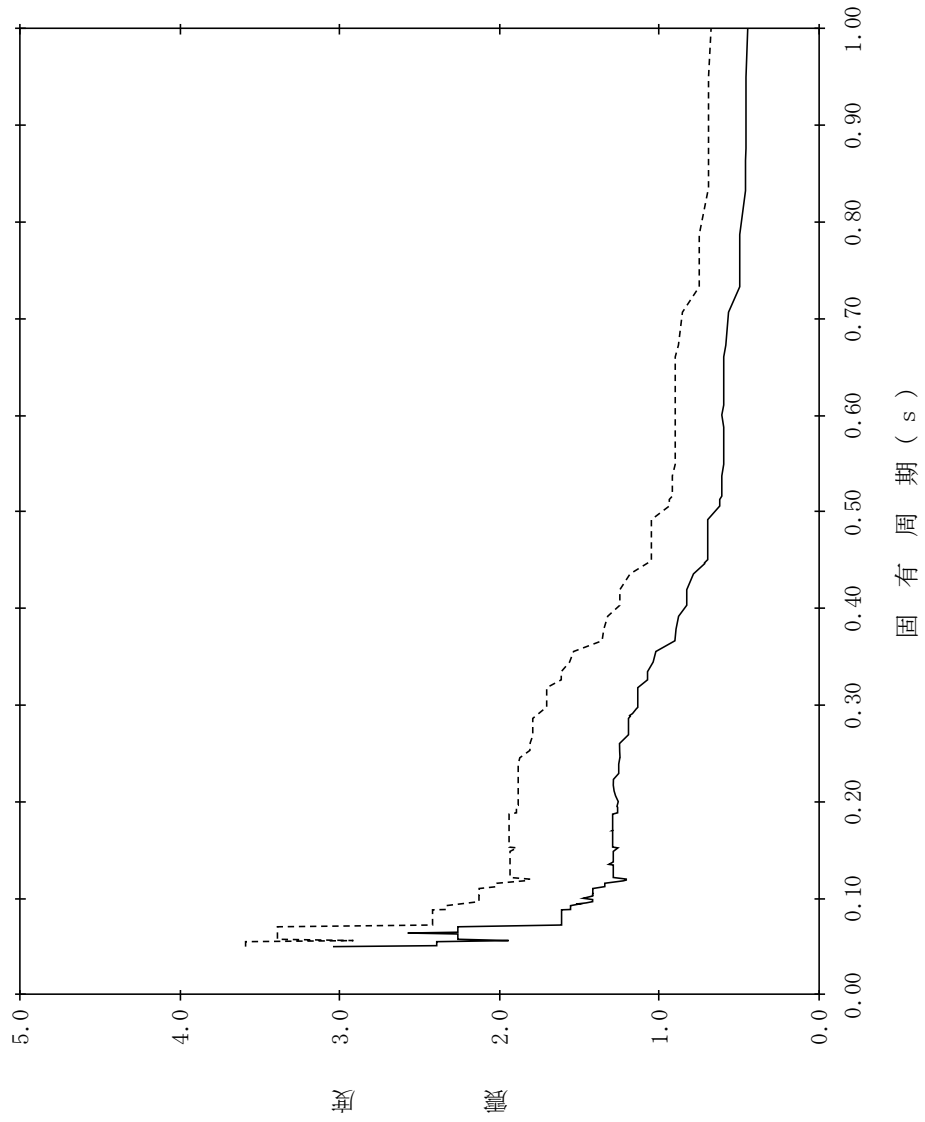
【NS2-TB-SdV-TG58】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



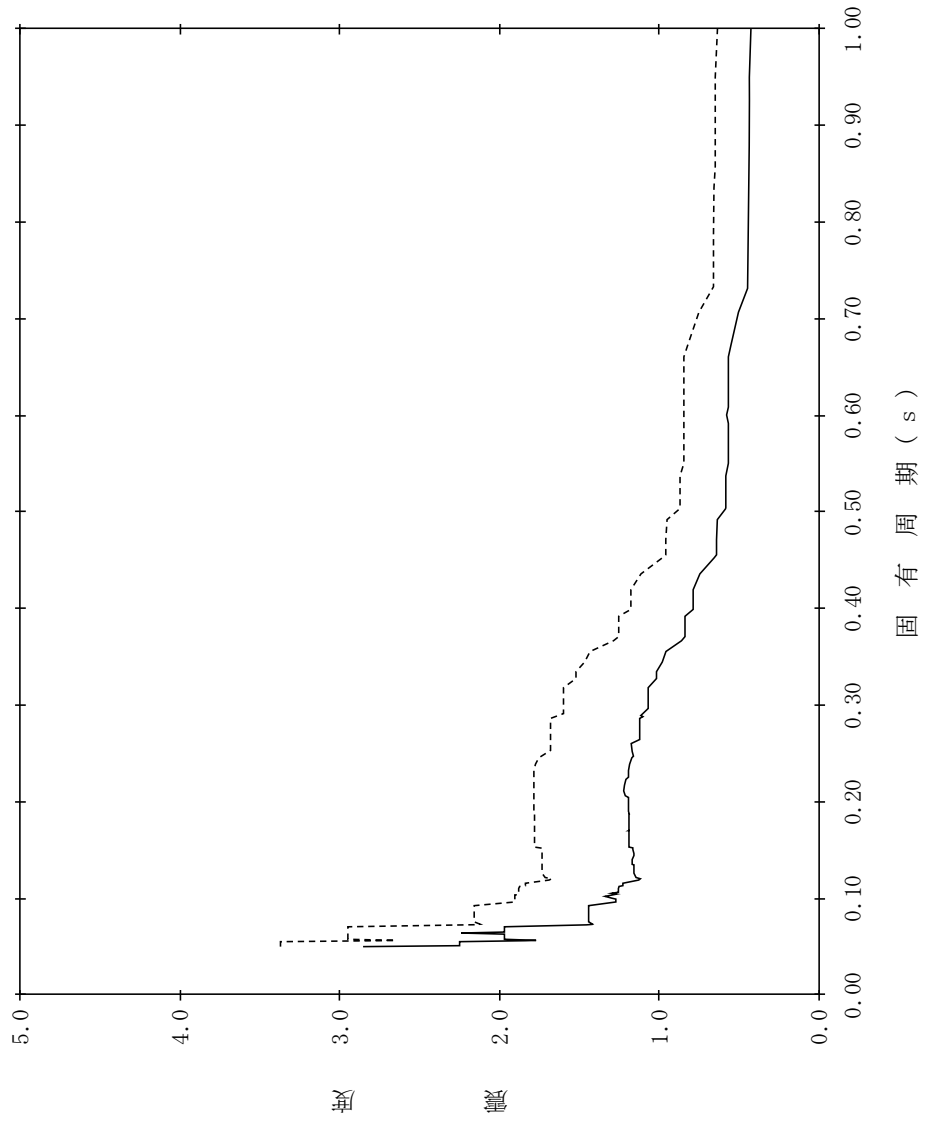
【NS2-TB-SdV-TG59】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



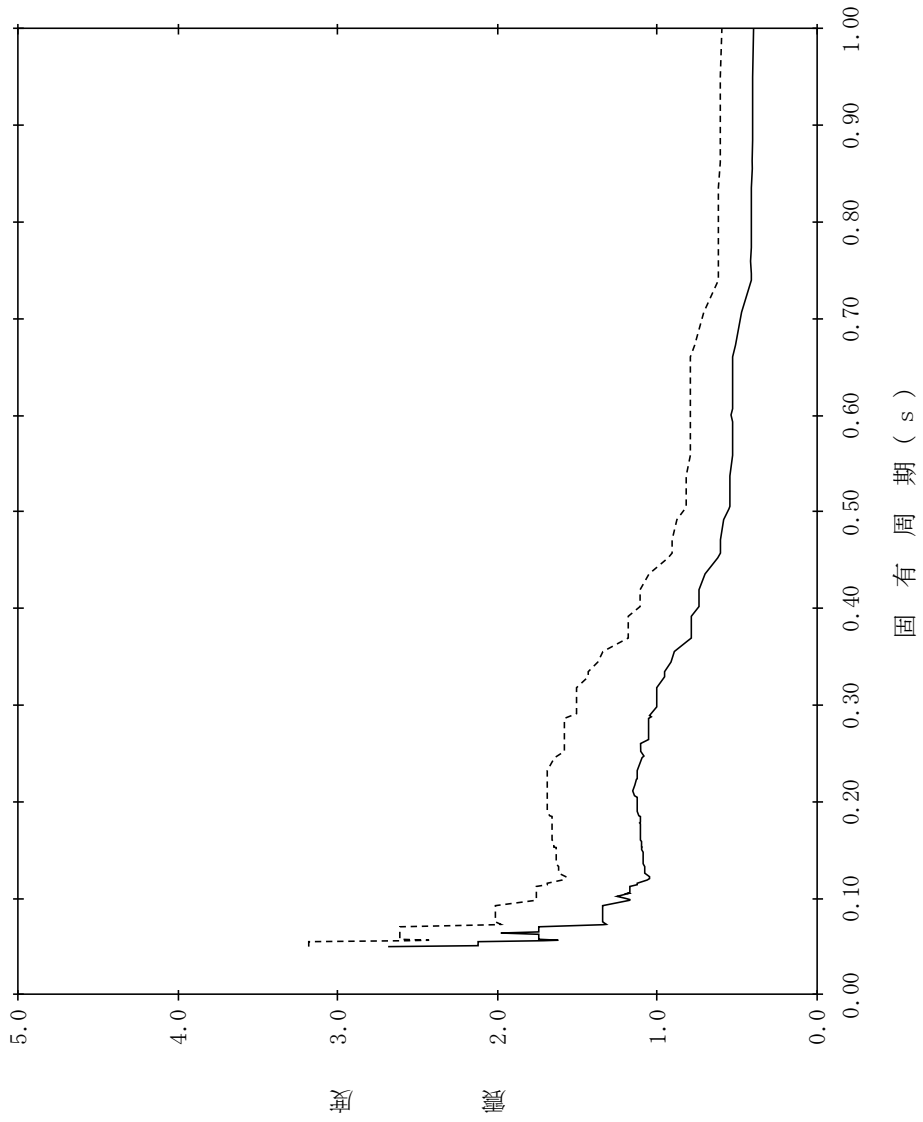
【NS2-TB-SdV-TG60】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



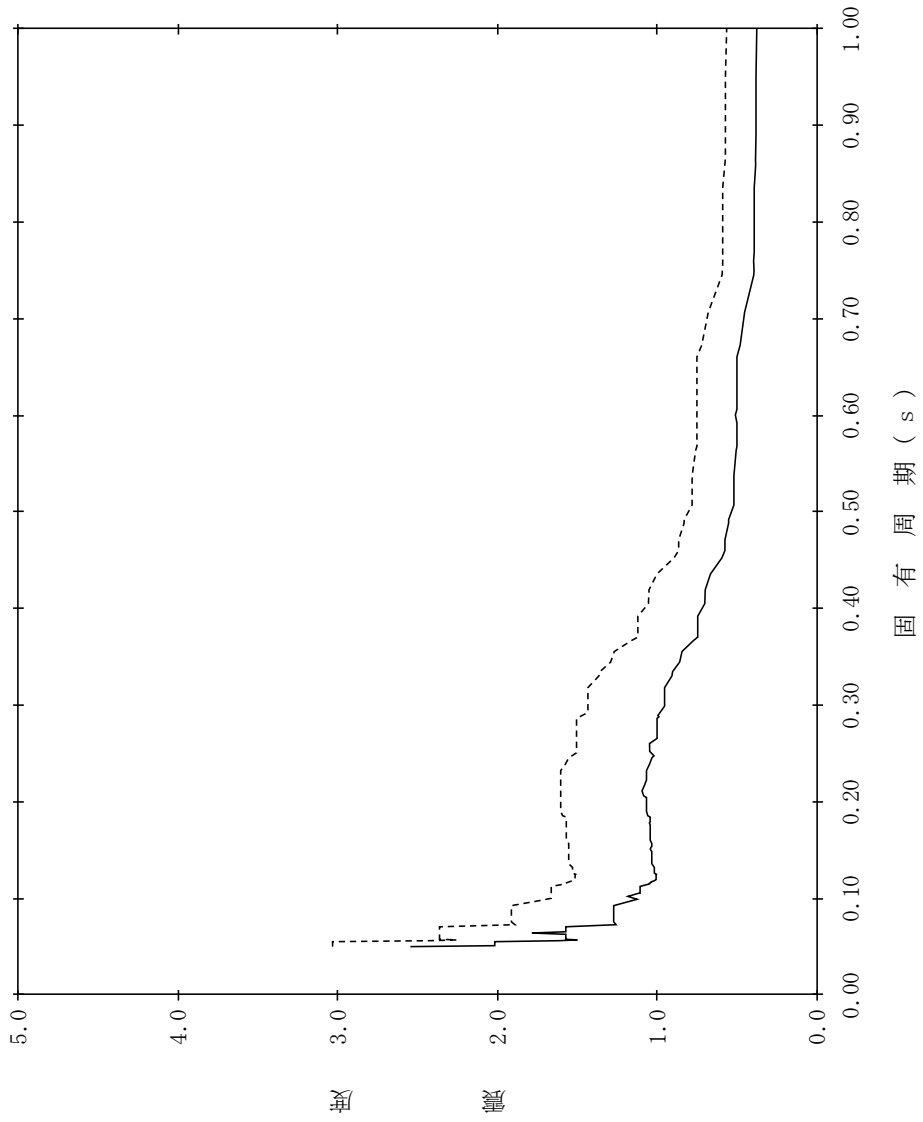
【NS2-TB-SdV-TG61】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



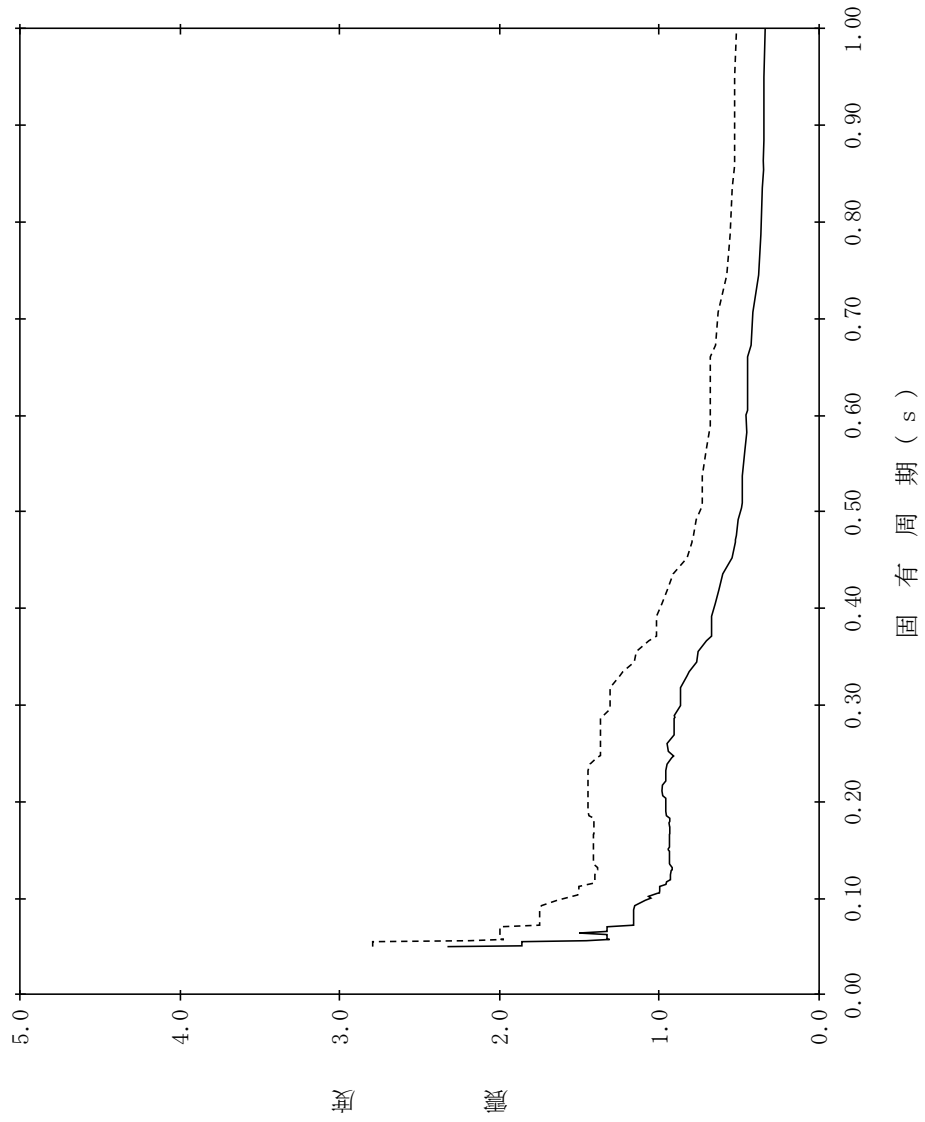
【NS2-TB-SdV-TG62】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



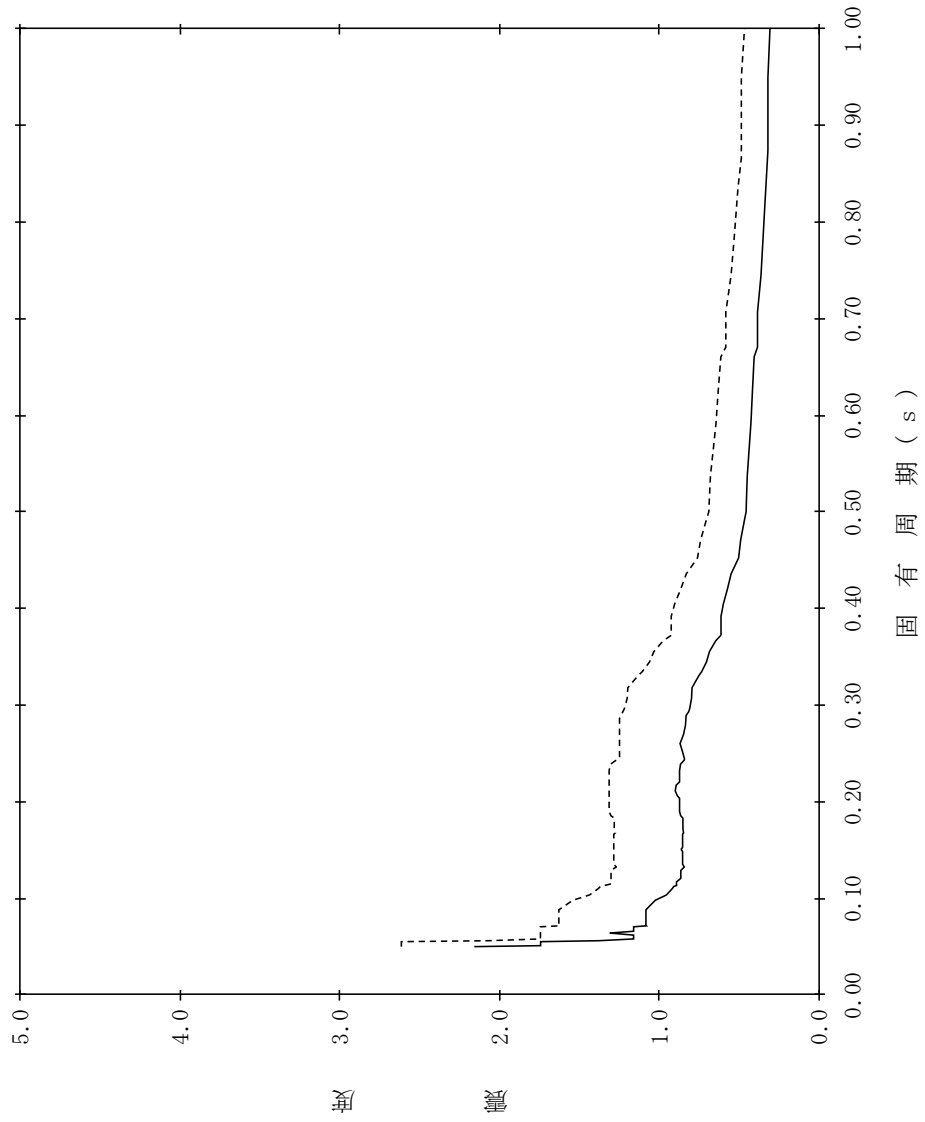
【NS2-TB-SdV-TG63】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



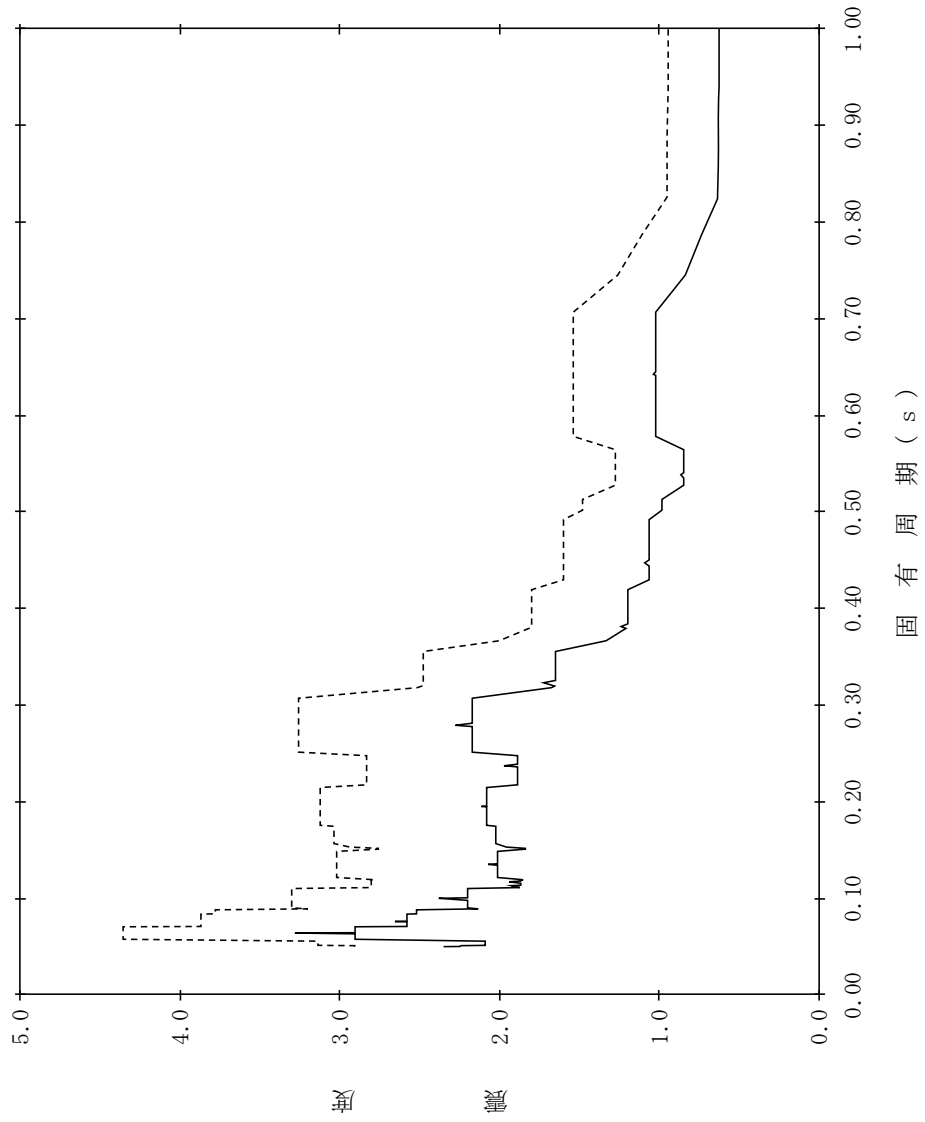
【NS2-TB-SdV-TG64】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



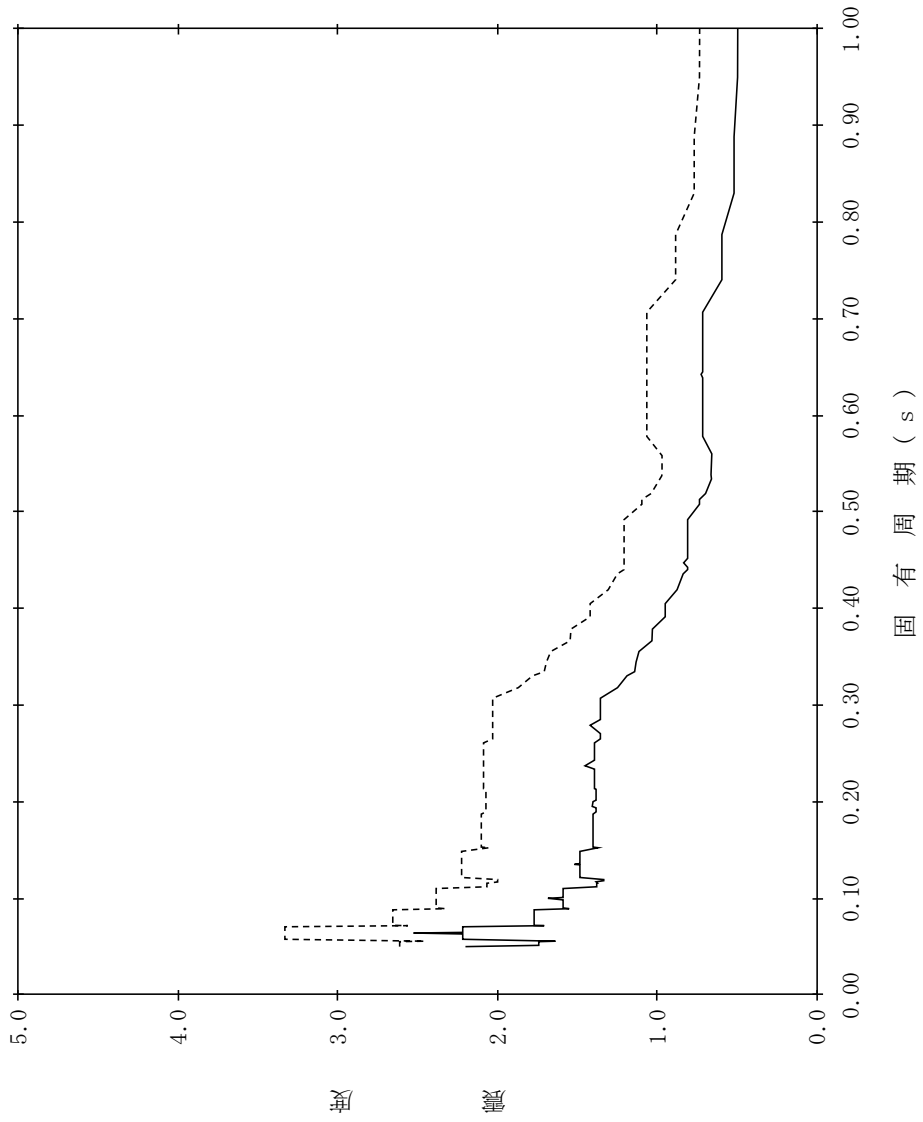
【NS2-TB-SdV-TG65】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SdV-TG66】

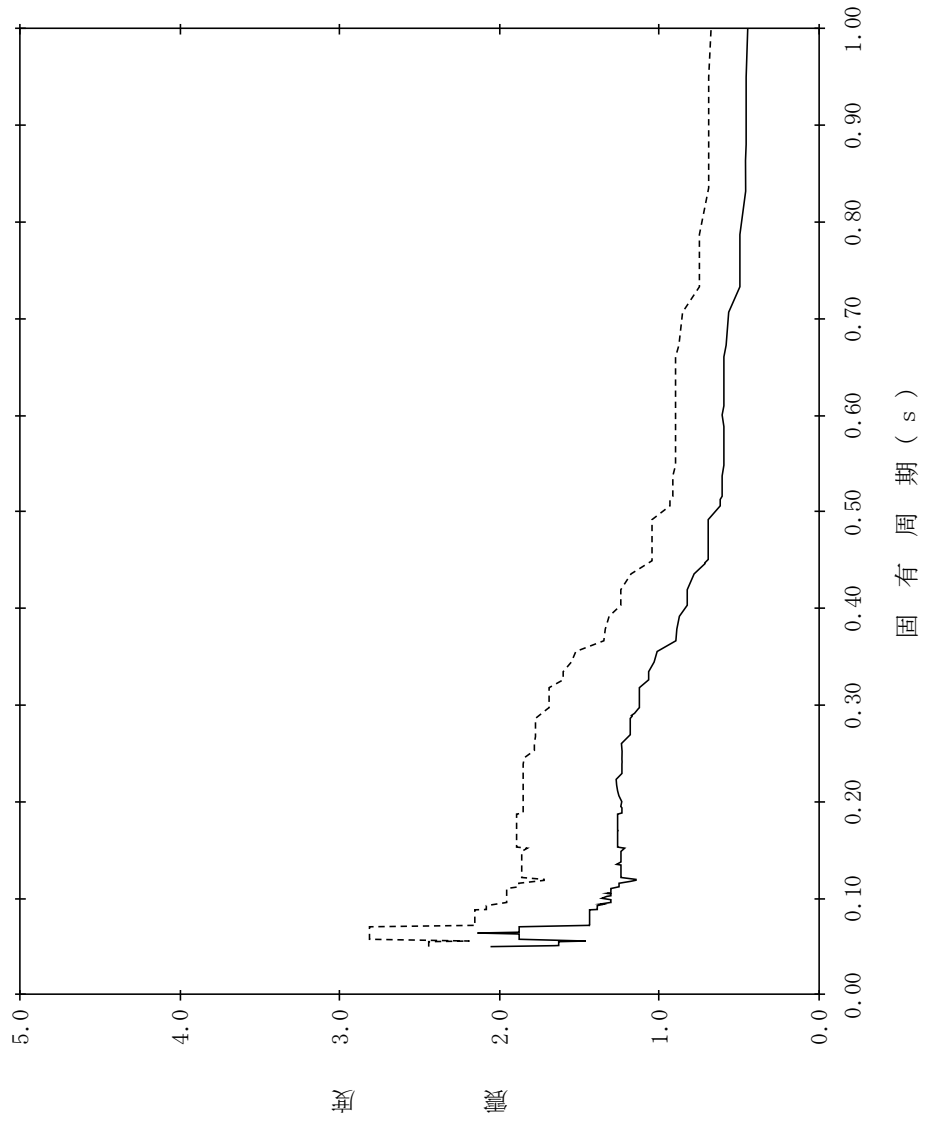
構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SdV-TG67】

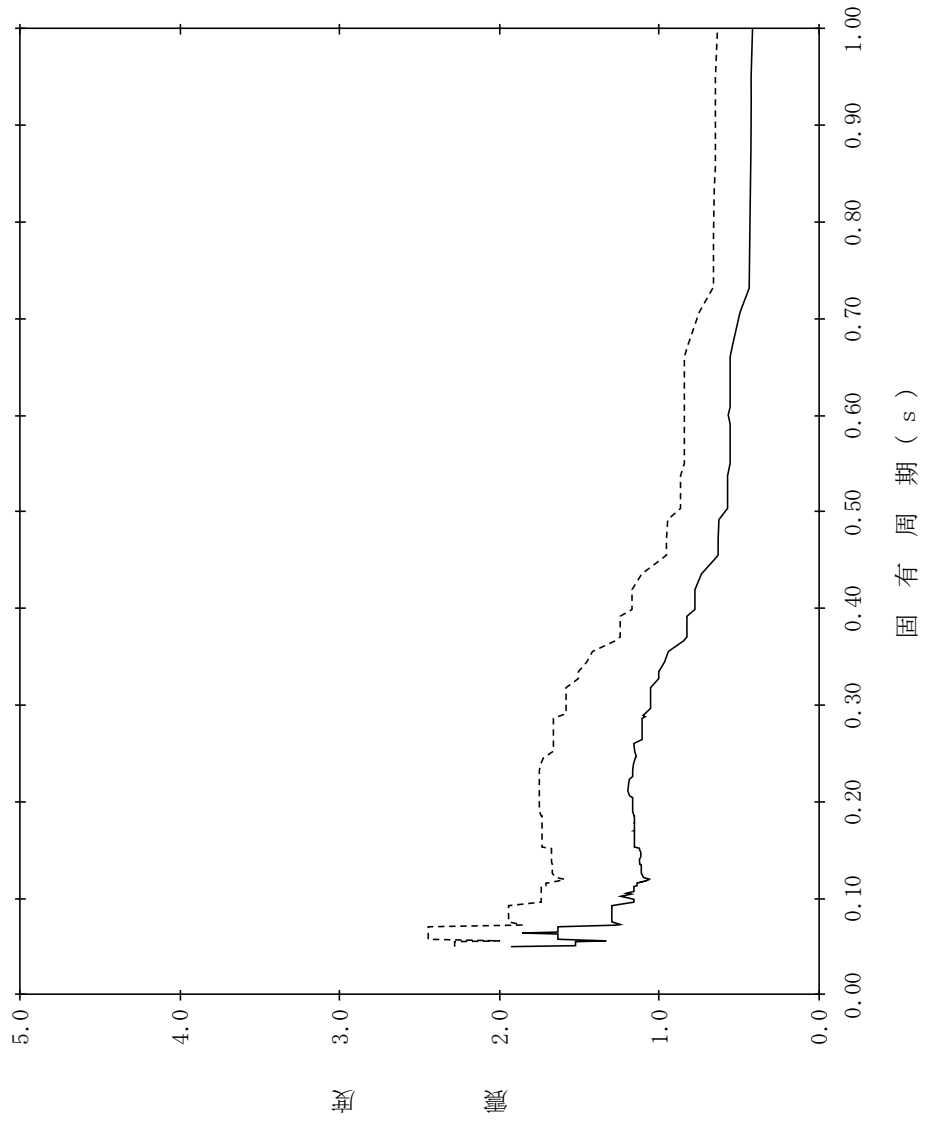
構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：1.5%

— 設計用床応答スペクトルⅠ (鉛直方向)
 - - - 設計用床応答スペクトルⅡ (鉛直方向)



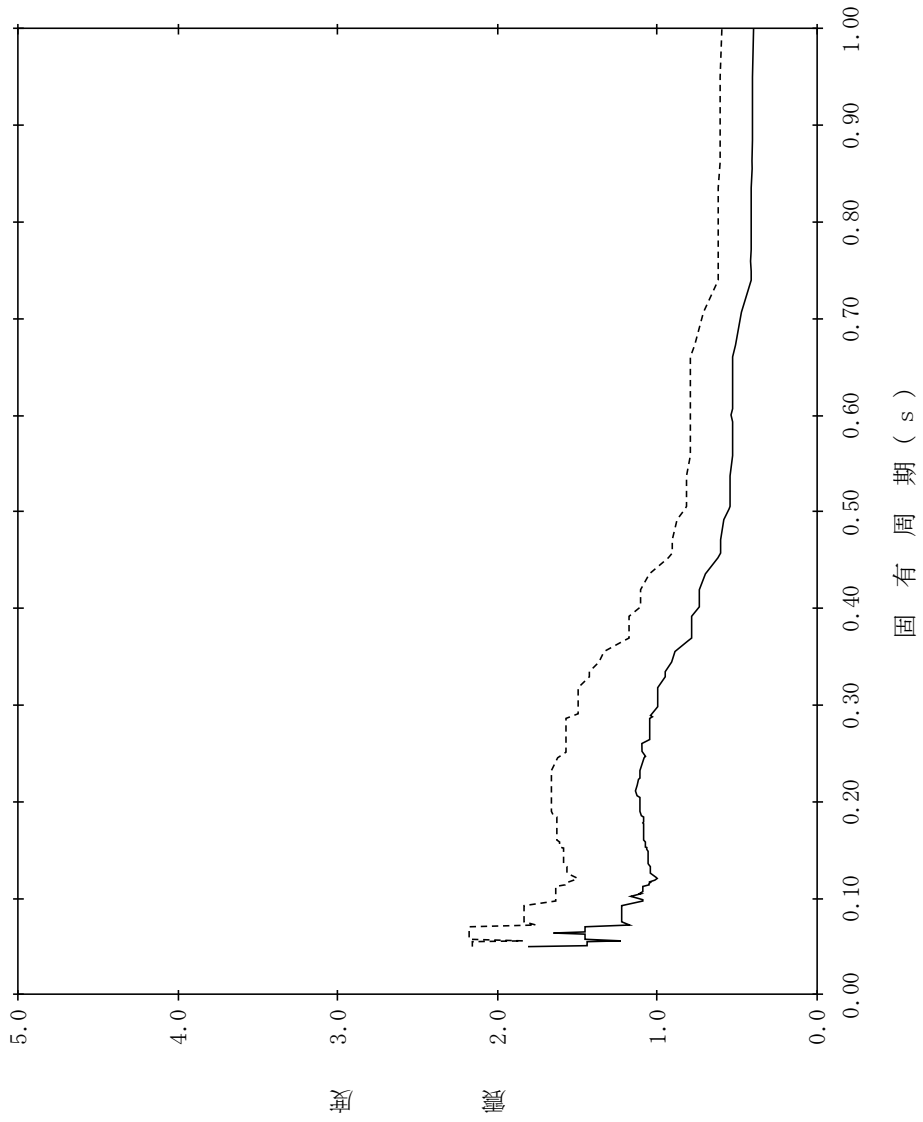
【NS2-TB-SdV-TG68】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



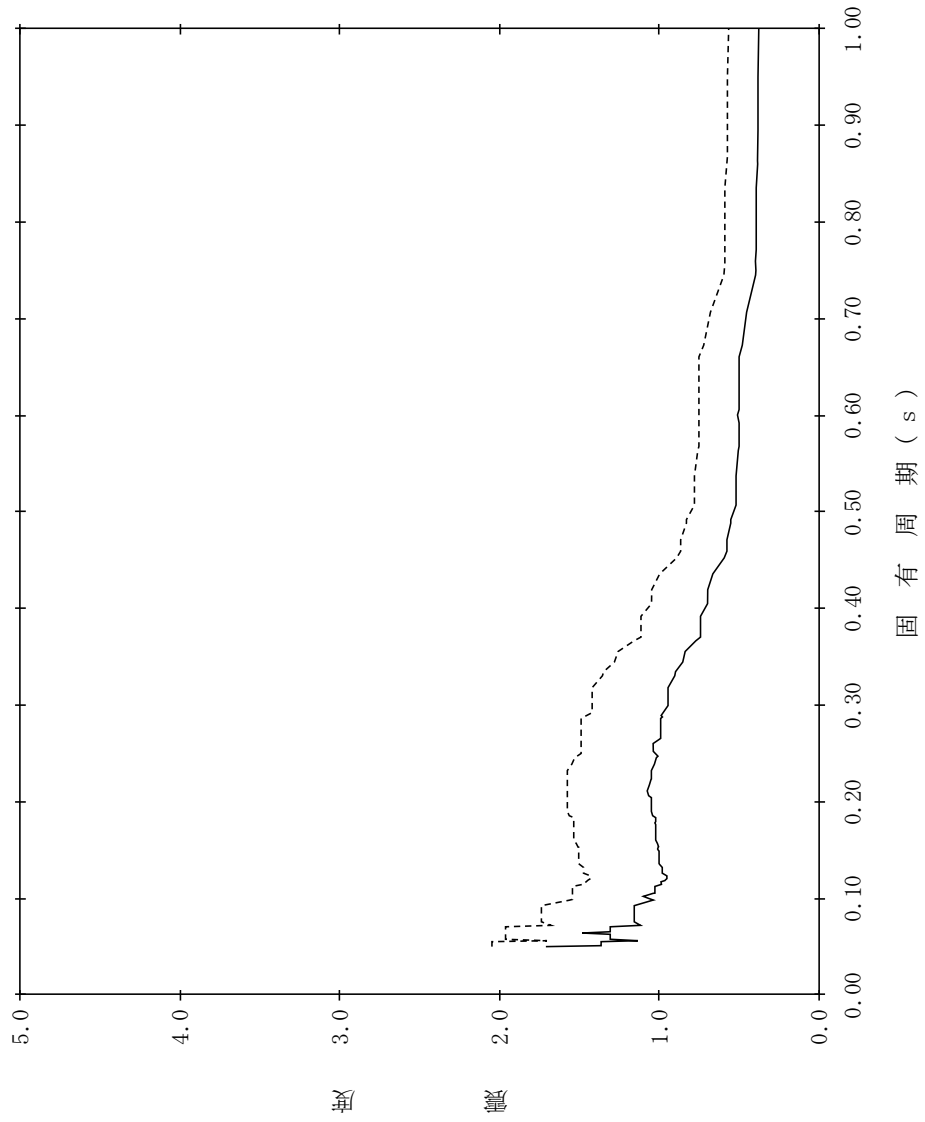
【NS2-TB-SdV-TG69】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



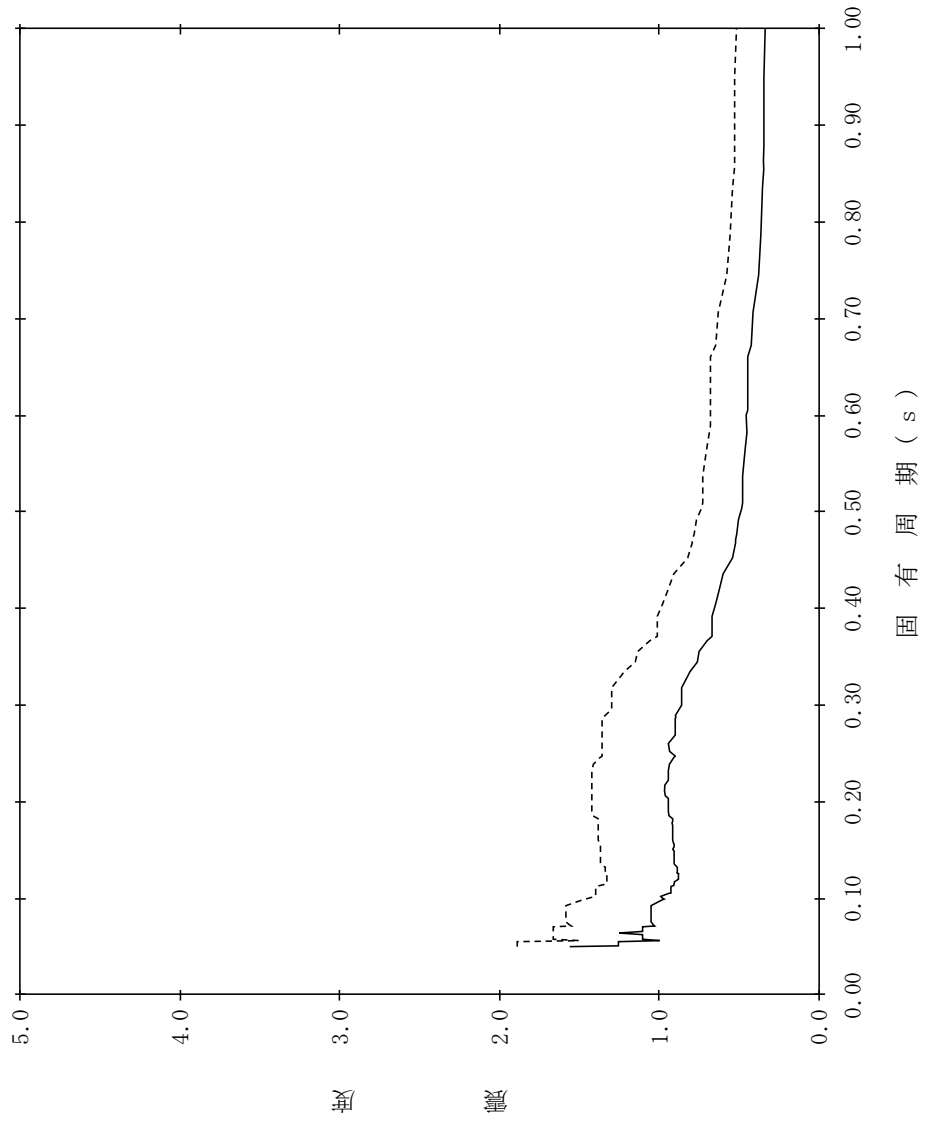
【NS2-TB-SdV-TG70】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SdV-TG71】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SdV-TG72】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

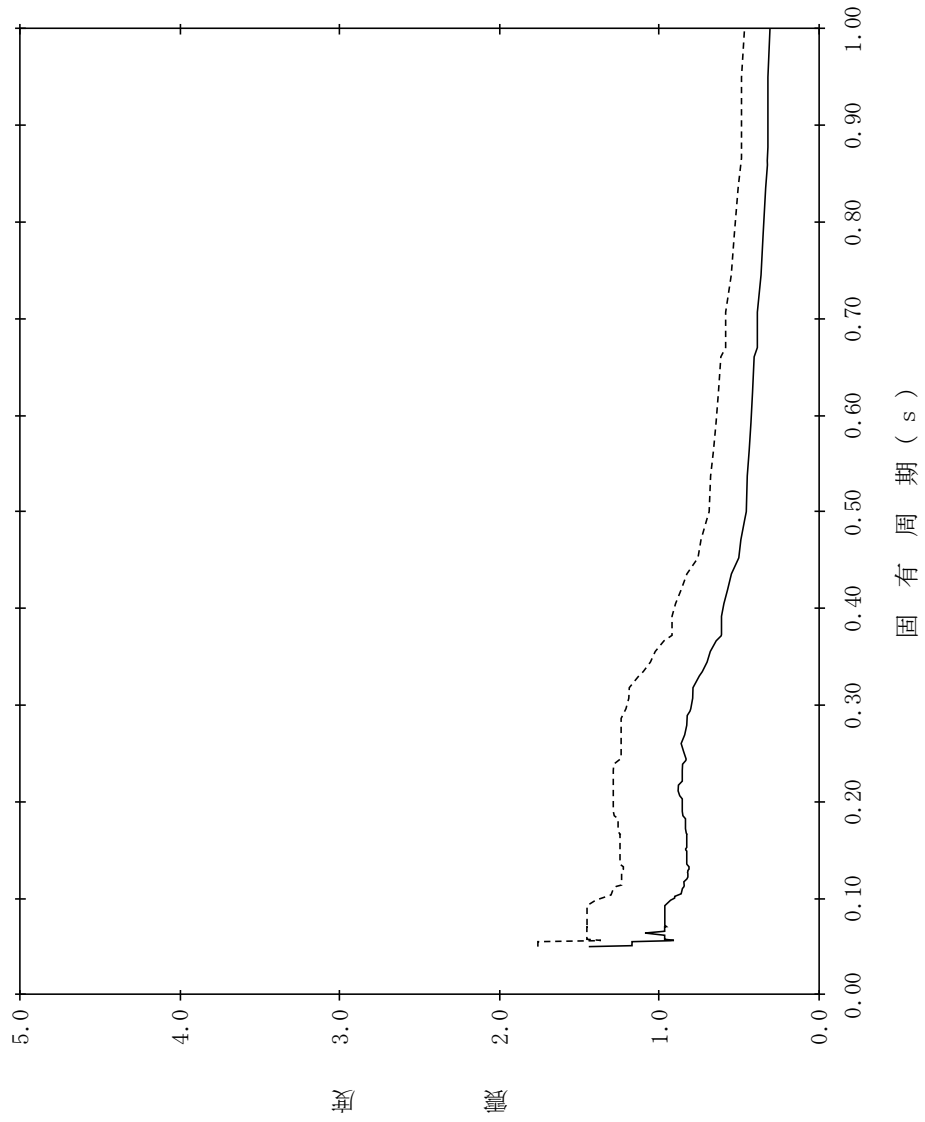


表 4.2-5 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (廃棄物処理建物) (1/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数 (%)	図番
S d	廃棄物処理建物	NS 方向	1	42.000	0.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 1
					1.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 2
					1.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 3
					2.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 4
					2.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 5
					3.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 6
					4.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 7
					5.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 8
			2	37.500	0.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 9
					1.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 10
					1.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 11
					2.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 12
					2.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 13
					3.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 14
					4.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 15
					5.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 16
			3	32.000	0.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 17
					1.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 18
					1.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 19
					2.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 20
					2.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 21
					3.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 22
					4.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 23
					5.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 24
			4	26.700	0.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 25
					1.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 26
					1.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 27
					2.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 28
					2.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 29
					3.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 30
					4.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 31
					5.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 32
			5	22.100	0.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 33
					1.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 34
					1.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 35
					2.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 36
					2.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 37
					3.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 38
					4.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 39
					5.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 40
			6	16.900	0.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 41
					1.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 42
					1.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 43
					2.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 44
					2.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 45
					3.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 46
					4.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 47
					5.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 48

表 4.2-5 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (廃棄物処理建物) (2/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	廃棄物処理建物	NS 方向	7	15.300	0.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 49
					1.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 50
					1.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 51
					2.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 52
					2.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 53
					3.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 54
					4.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 55
			5.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 56		
			8	12.300	0.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 57
					1.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 58
					1.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 59
					2.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 60
					2.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 61
					3.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 62
					4.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 63
			5.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 64		
			9	8.800	0.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 65
					1.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 66
					1.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 67
					2.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 68
					2.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 69
					3.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 70
					4.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 71
			5.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 72		
			10	3.000	0.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 73
					1.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 74
					1.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 75
					2.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 76
					2.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 77
					3.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 78
					4.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 79
			5.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 80		
			11	0.000	0.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 81
					1.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 82
					1.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 83
2.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 84					
2.5	NS2 - RwB - SdNS - RwB 85					
3.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 86					
4.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 87					
5.0	NS2 - RwB - SdNS - RwB 88					

表 4.2-5 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (廃棄物処理建物) (3/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番	
S d	廃棄物処理建物	EW 方向	1	42.000	0.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB	1
					1.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	2
					1.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB	3
					2.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	4
					2.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB	5
					3.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	6
					4.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	7
					5.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	8
			2	37.500	0.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB	9
					1.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	10
					1.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB	11
					2.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	12
					2.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB	13
					3.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	14
					4.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	15
					5.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	16
			3	32.000	0.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB	17
					1.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	18
					1.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB	19
					2.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	20
					2.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB	21
					3.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	22
					4.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	23
					5.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	24
			4	26.700	0.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB	25
					1.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	26
					1.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB	27
					2.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	28
					2.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB	29
					3.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	30
					4.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	31
					5.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	32
			5	22.100	0.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB	33
					1.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	34
					1.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB	35
					2.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	36
					2.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB	37
					3.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	38
					4.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	39
					5.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	40
			6	16.900	0.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB	41
					1.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	42
					1.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB	43
					2.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	44
					2.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB	45
					3.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	46
					4.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	47
					5.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB	48

表 4.2-5 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (廃棄物処理建物) (4/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数 (%)	図番
S d	廃棄物処理建物	EW 方向	7	15.300	0.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB 49
					1.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 50
					1.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB 51
					2.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 52
					2.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB 53
					3.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 54
					4.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 55
					5.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 56
			8	12.300	0.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB 57
					1.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 58
					1.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB 59
					2.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 60
					2.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB 61
					3.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 62
					4.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 63
					5.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 64
			9	8.800	0.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB 65
					1.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 66
					1.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB 67
					2.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 68
					2.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB 69
					3.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 70
					4.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 71
					5.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 72
			10	3.000	0.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB 73
					1.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 74
					1.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB 75
					2.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 76
					2.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB 77
					3.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 78
					4.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 79
					5.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 80
			11	0.000	0.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB 81
					1.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 82
					1.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB 83
2.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 84					
2.5	NS2 - RwB - SdEW - RwB 85					
3.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 86					
4.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 87					
5.0	NS2 - RwB - SdEW - RwB 88					

表 4.2-5 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (廃棄物処理建物) (5/6)

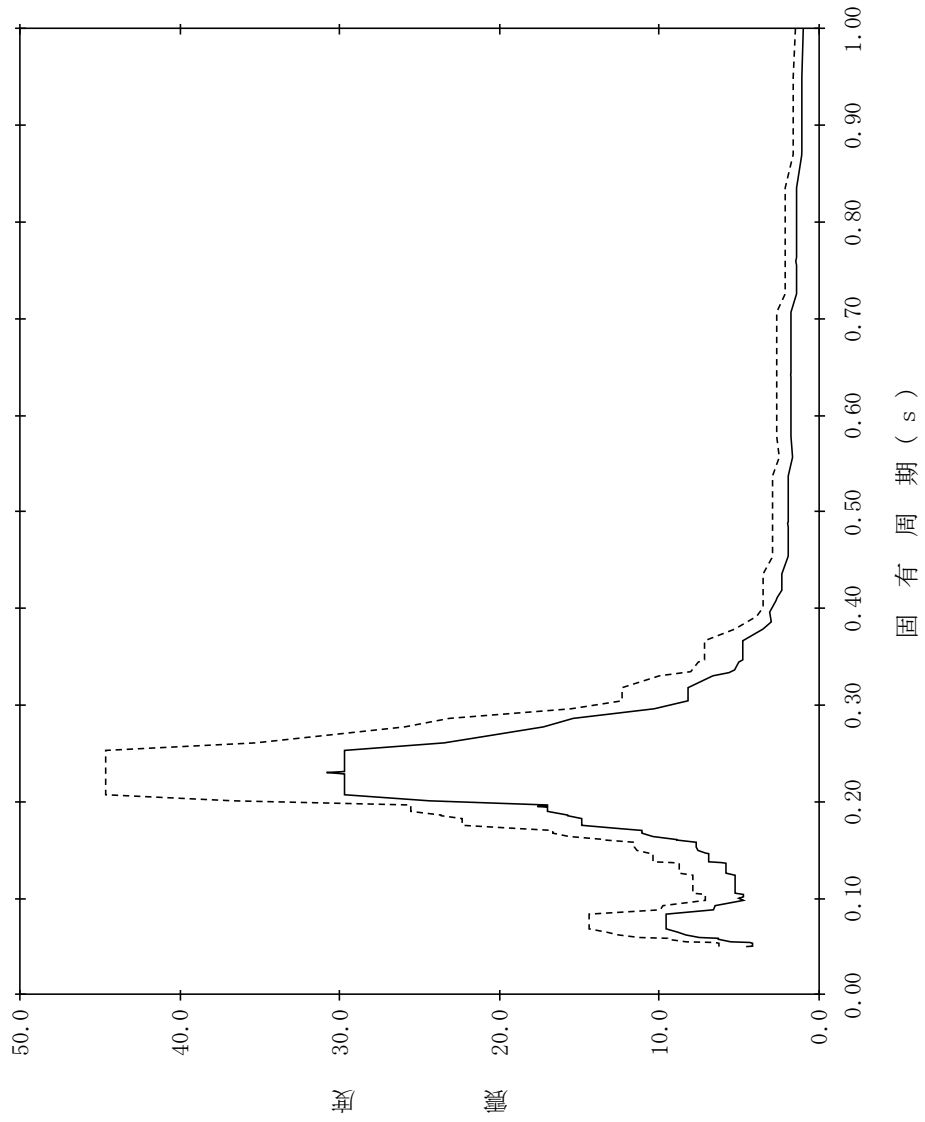
地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	廃棄物処理建物	鉛直 方向	1	42.000	0.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 1
					1.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 2
					1.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 3
					2.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 4
					2.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 5
					3.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 6
					4.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 7
					5.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 8
			2	37.500	0.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 9
					1.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 10
					1.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 11
					2.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 12
					2.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 13
					3.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 14
					4.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 15
					5.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 16
			3	32.000	0.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 17
					1.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 18
					1.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 19
					2.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 20
					2.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 21
					3.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 22
					4.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 23
					5.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 24
			4	26.700	0.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 25
					1.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 26
					1.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 27
					2.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 28
					2.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 29
					3.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 30
					4.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 31
					5.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 32
			5	22.100	0.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 33
					1.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 34
					1.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 35
					2.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 36
					2.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 37
					3.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 38
					4.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 39
					5.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 40
			6	16.900	0.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 41
					1.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 42
					1.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 43
					2.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 44
					2.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 45
					3.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 46
					4.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 47
					5.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 48

表 4.2-5 設計用床応答スペクトル (S d) 一覧表 (廃棄物処理建物) (6/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S d	廃棄物処理建物	鉛直 方向	7	15.300	0.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 49
					1.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 50
					1.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 51
					2.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 52
					2.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 53
					3.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 54
					4.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 55
					5.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 56
			8	12.300	0.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 57
					1.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 58
					1.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 59
					2.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 60
					2.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 61
					3.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 62
					4.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 63
					5.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 64
			9	8.800	0.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 65
					1.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 66
					1.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 67
					2.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 68
					2.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 69
					3.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 70
					4.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 71
					5.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 72
			10	3.000	0.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 73
					1.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 74
					1.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 75
					2.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 76
					2.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 77
					3.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 78
					4.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 79
					5.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 80
			11	0.000	0.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 81
					1.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 82
					1.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 83
					2.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 84
					2.5	NS2 - RwB - SdV - RwB 85
					3.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 86
					4.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 87
					5.0	NS2 - RwB - SdV - RwB 88

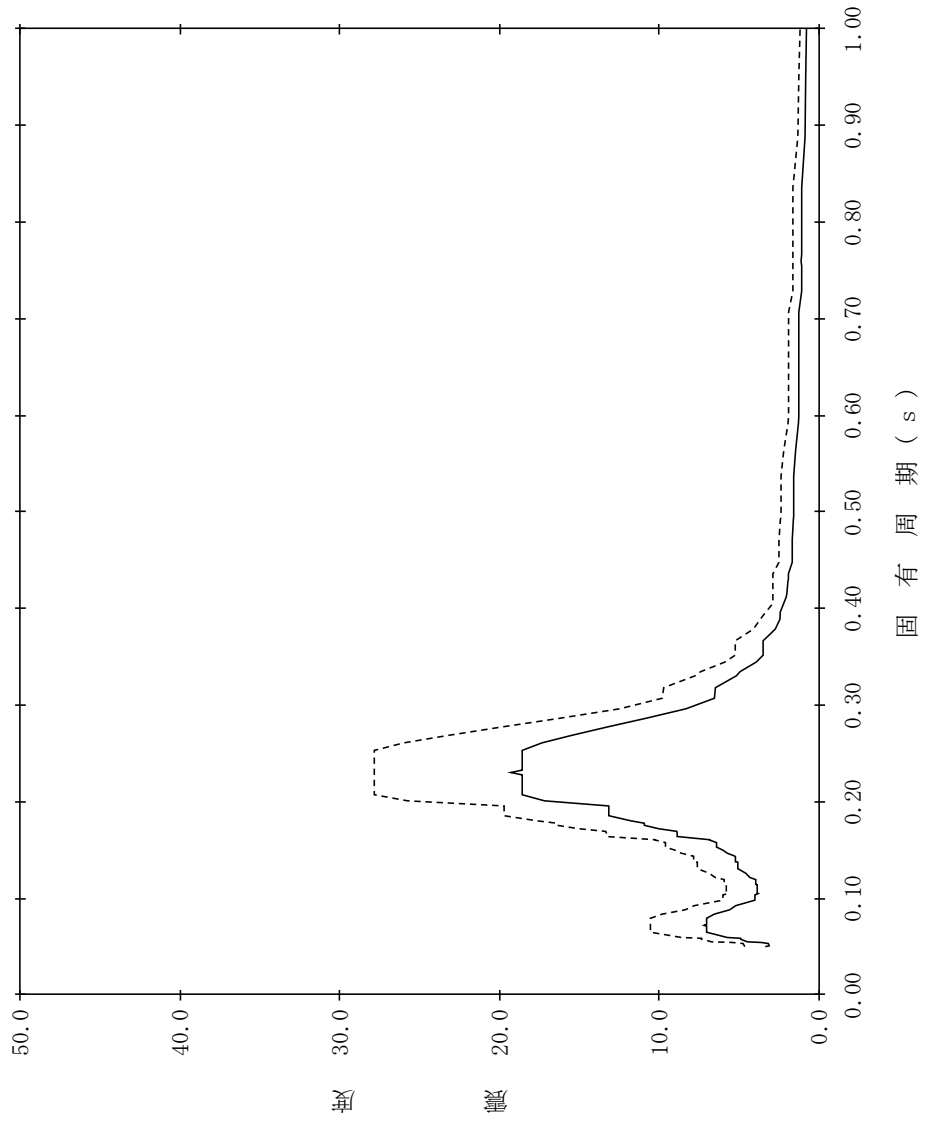
【NS2-RwB-SdNS-RwB1】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



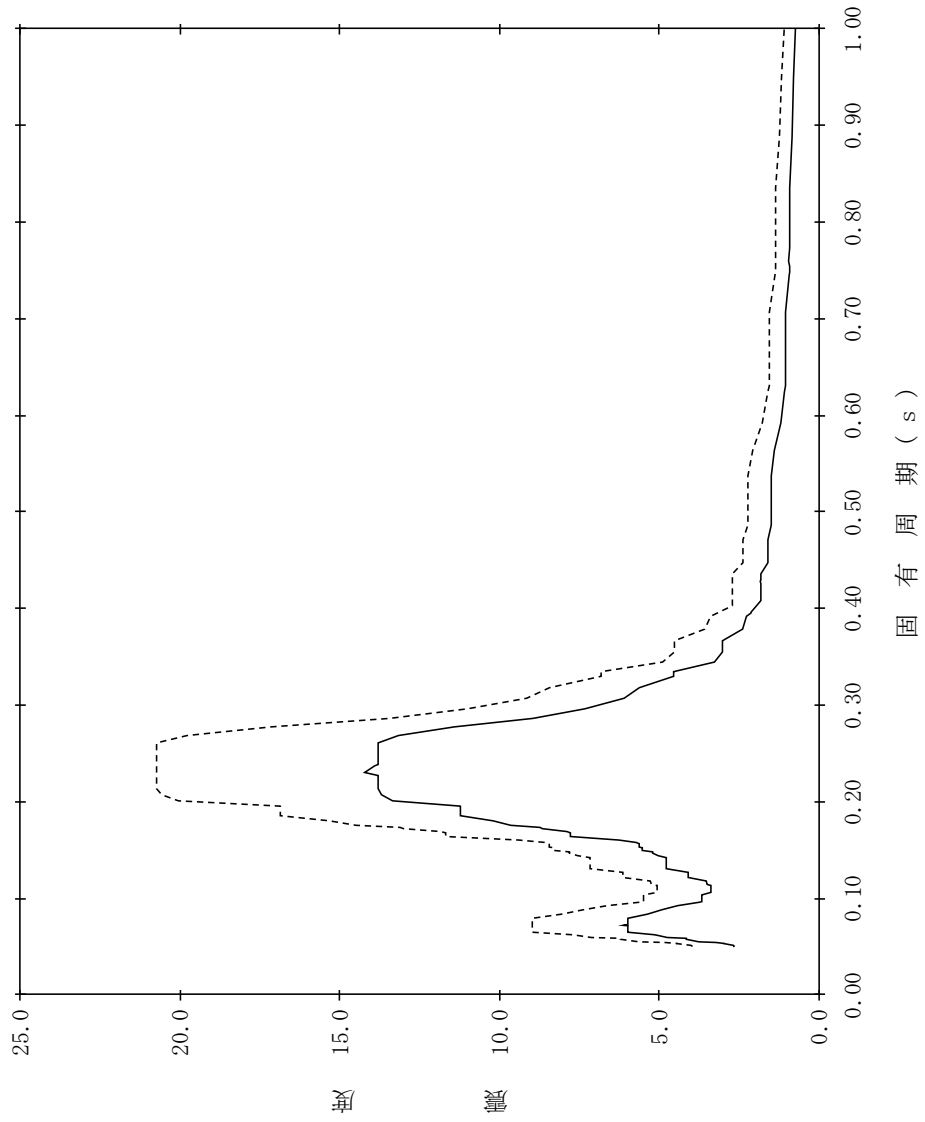
【NS2-RwB-SdNS-RwB2】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



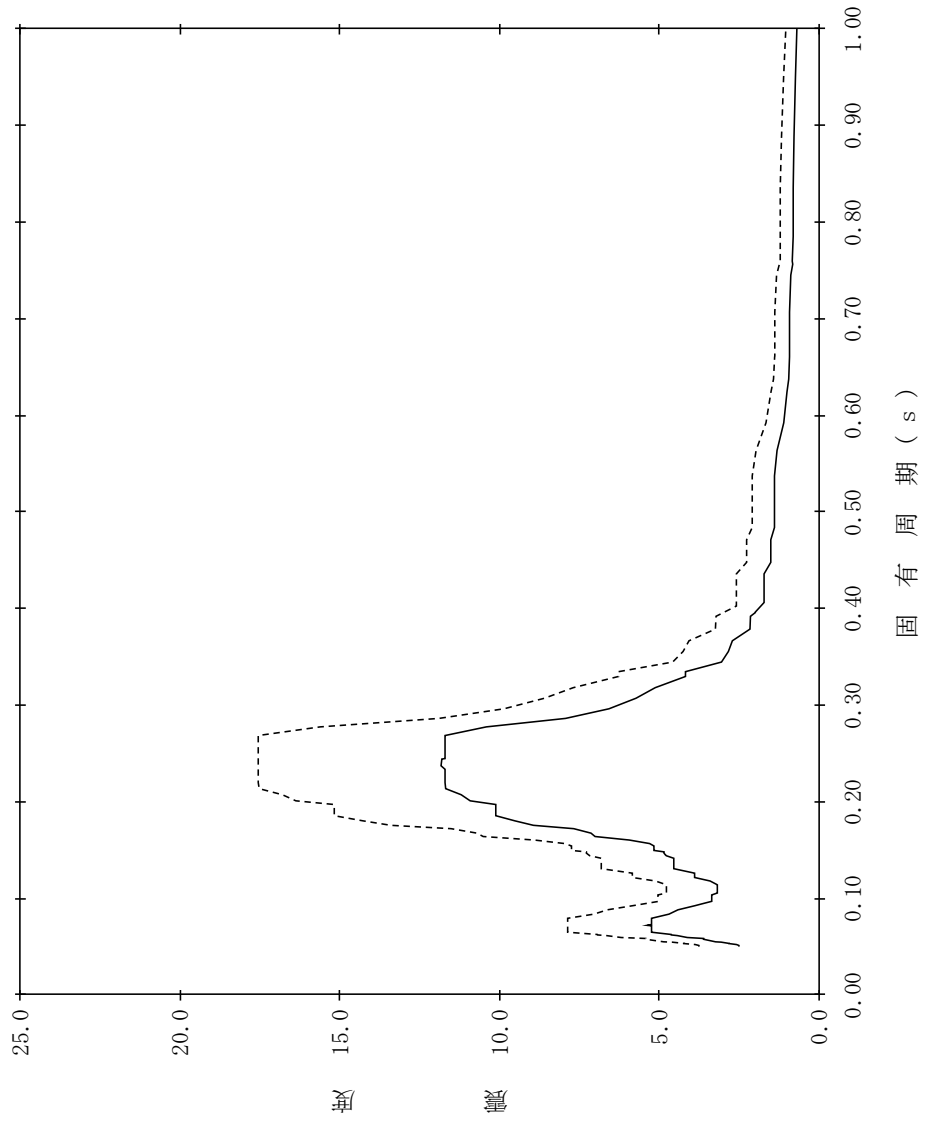
【NS2-RwB-SdNS-RwB3】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



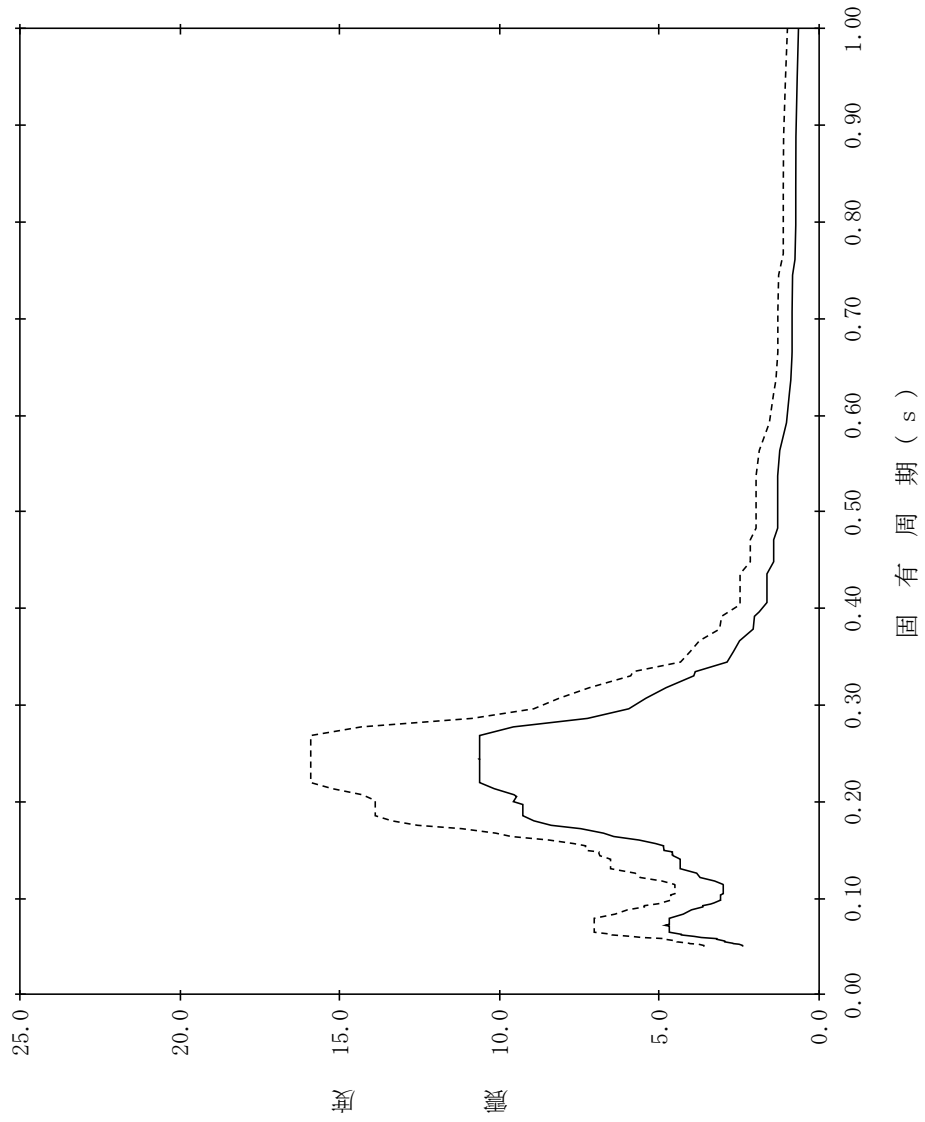
【NS2-RwB-SdNS-RwB4】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



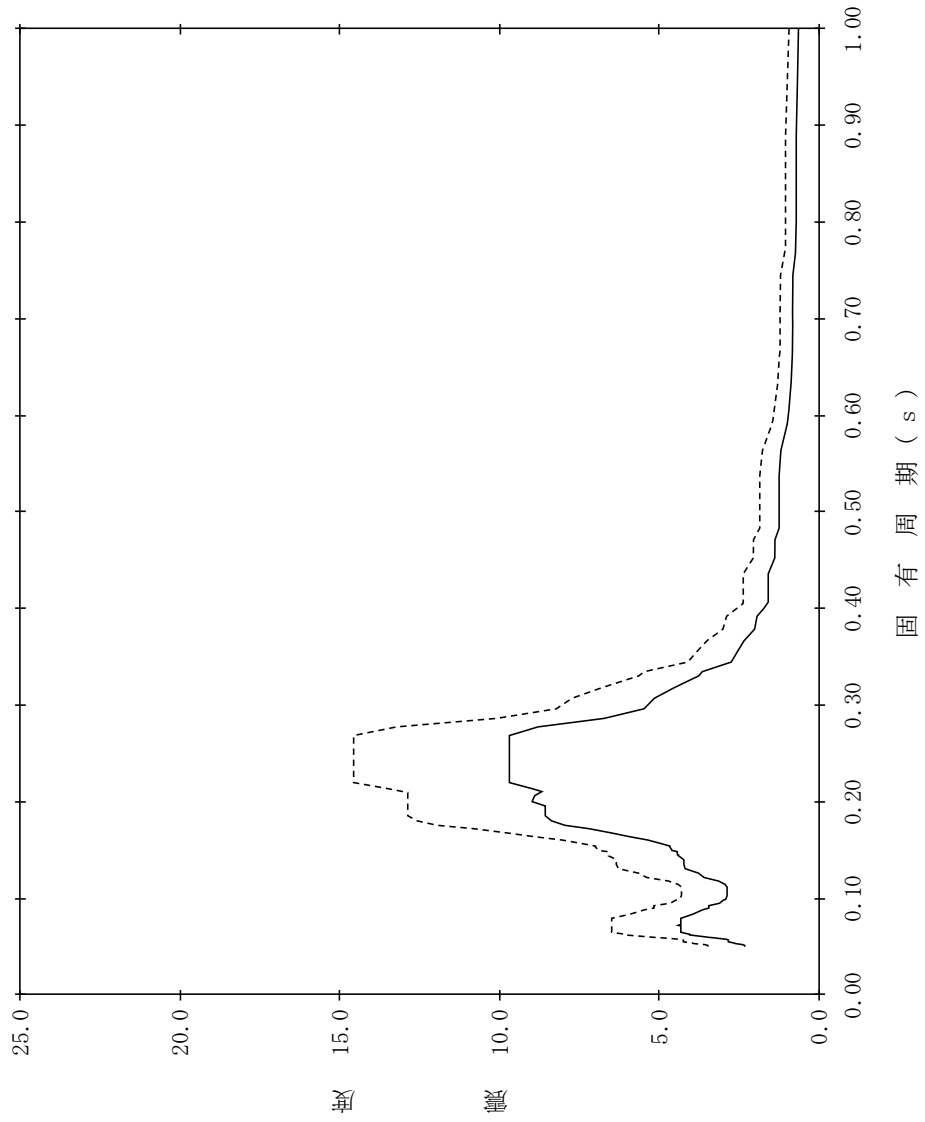
【NS2-RwB-SdNS-RwB5】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



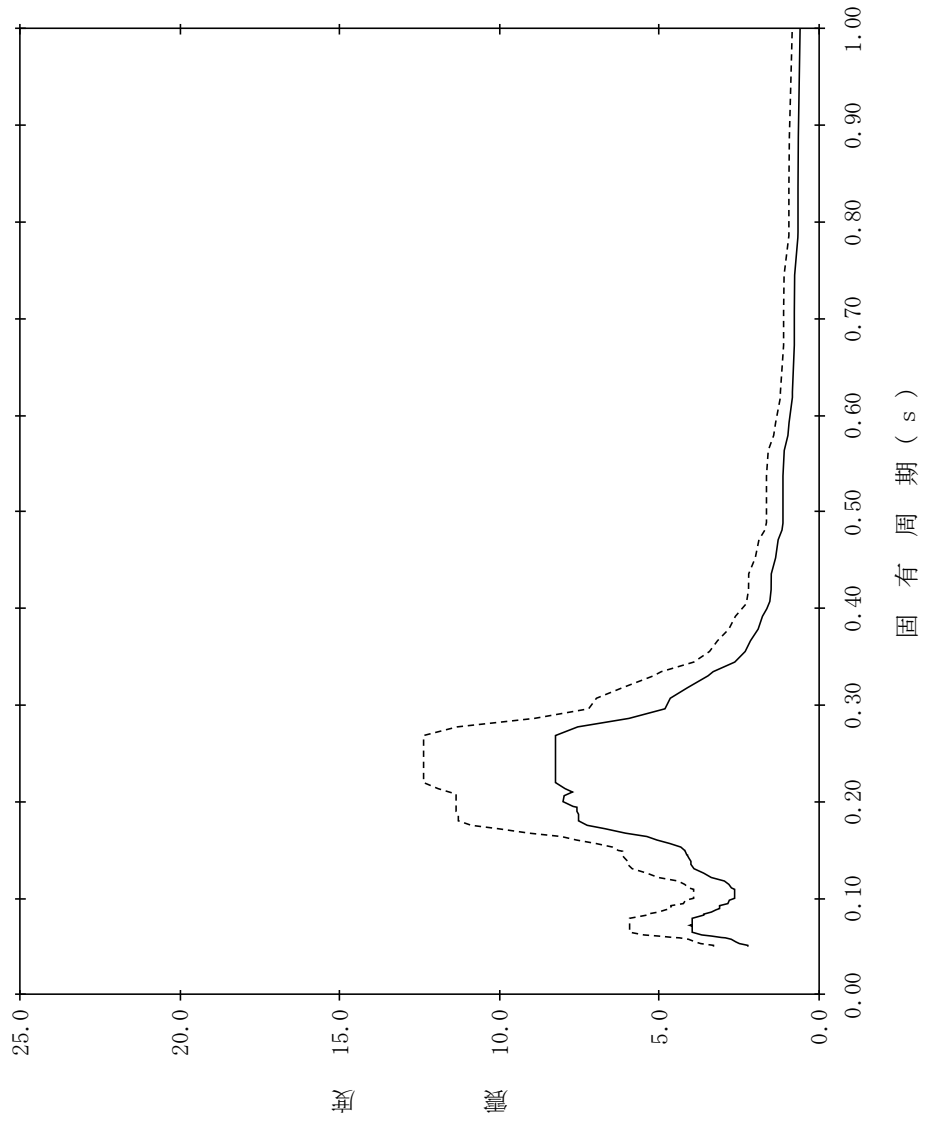
【NS2-RwB-SdNS-RwB6】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



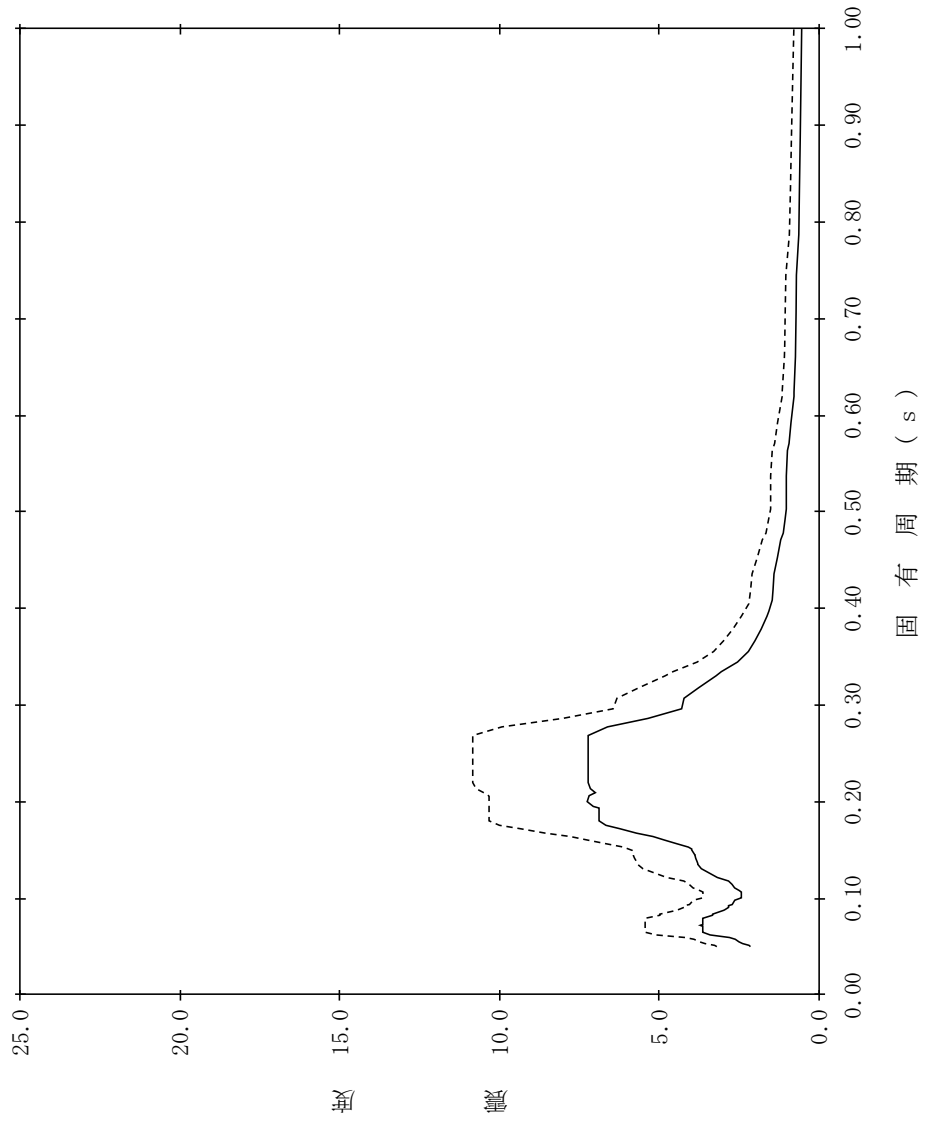
【NS2-RwB-SdNS-RwB7】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



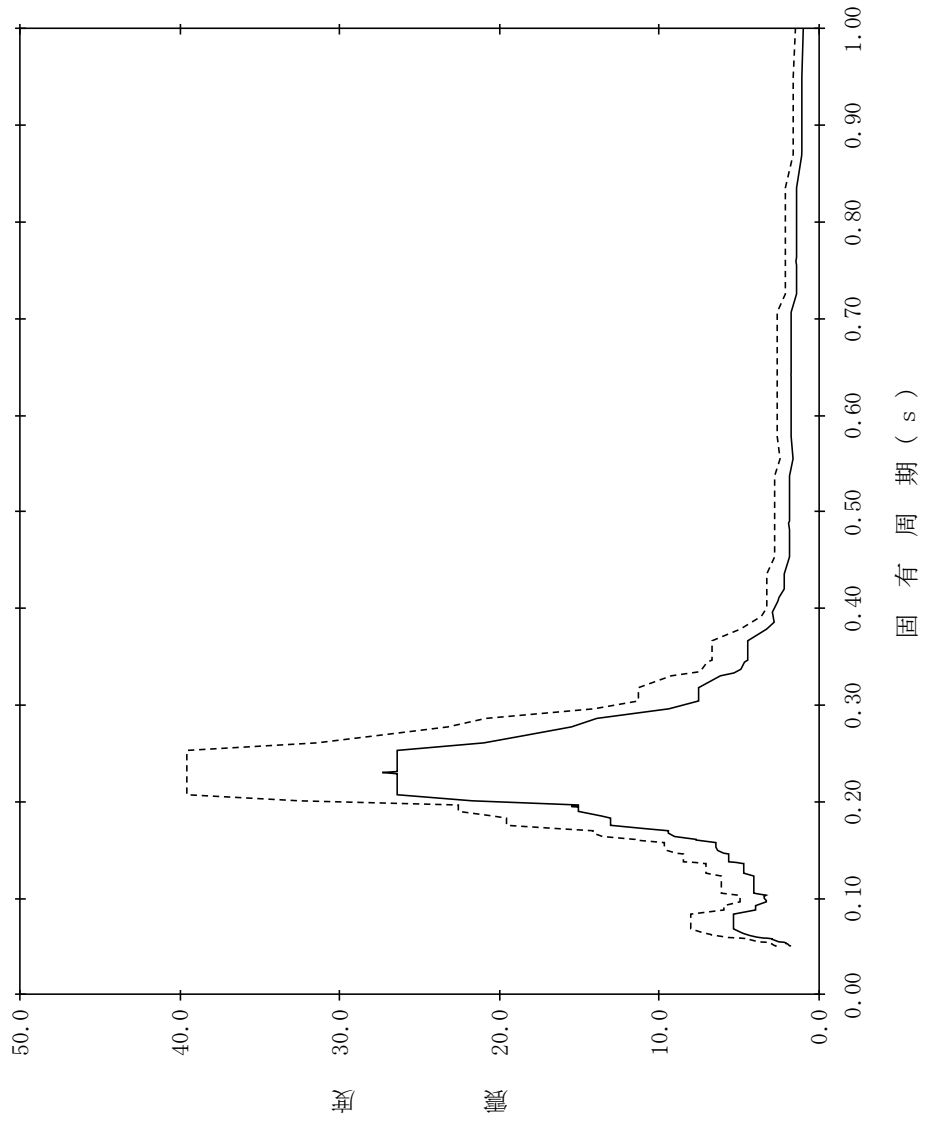
【NS2-RwB-SdNS-RwB8】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



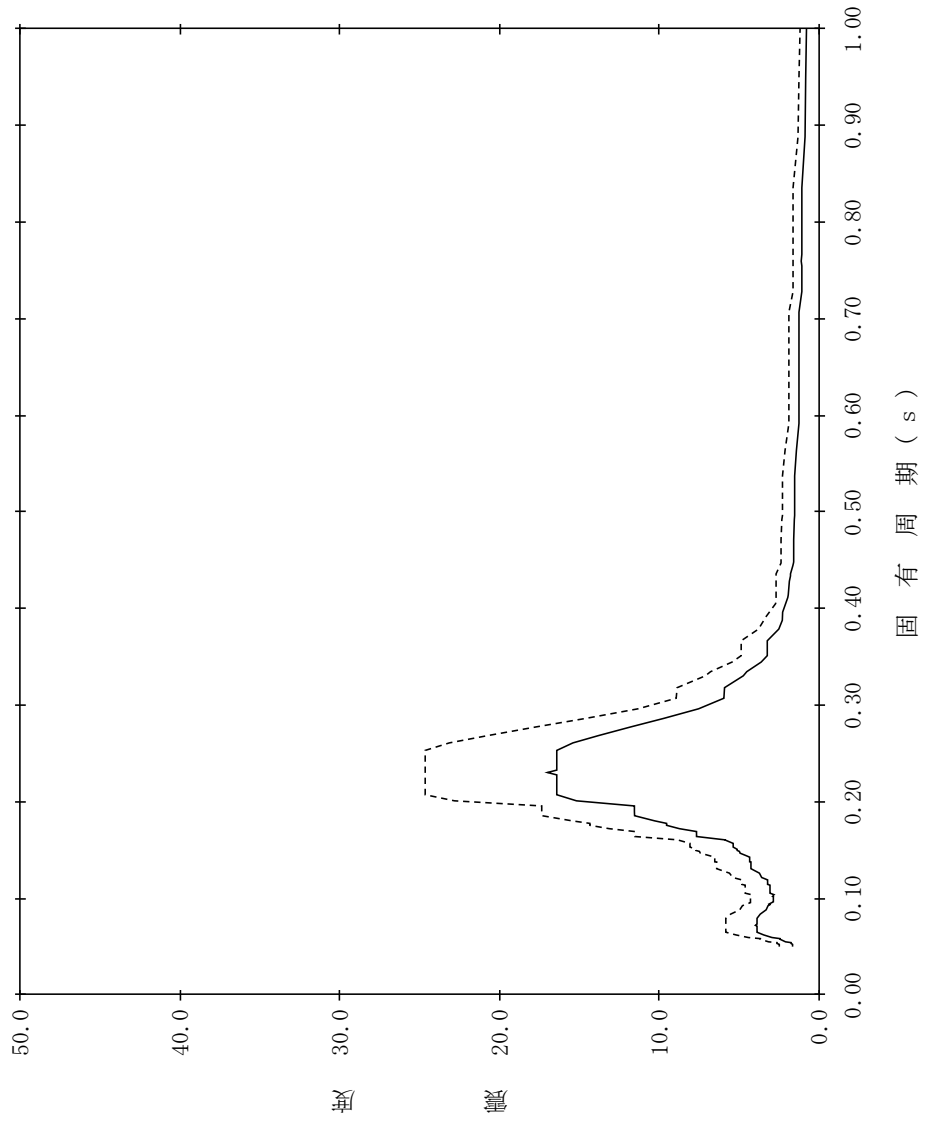
【NS2-RwB-SdNS-RwB9】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



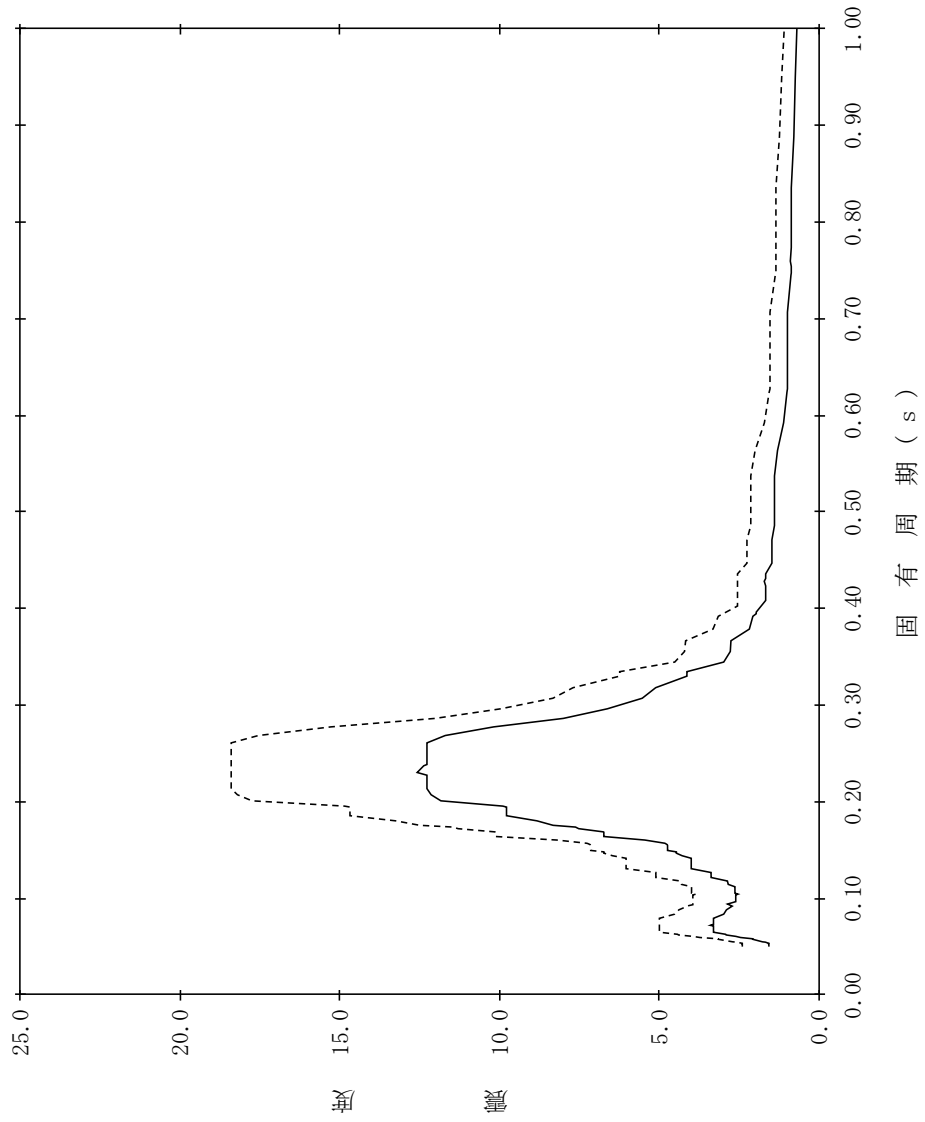
【NS2-RwB-SdNS-RwB10】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL37.500m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



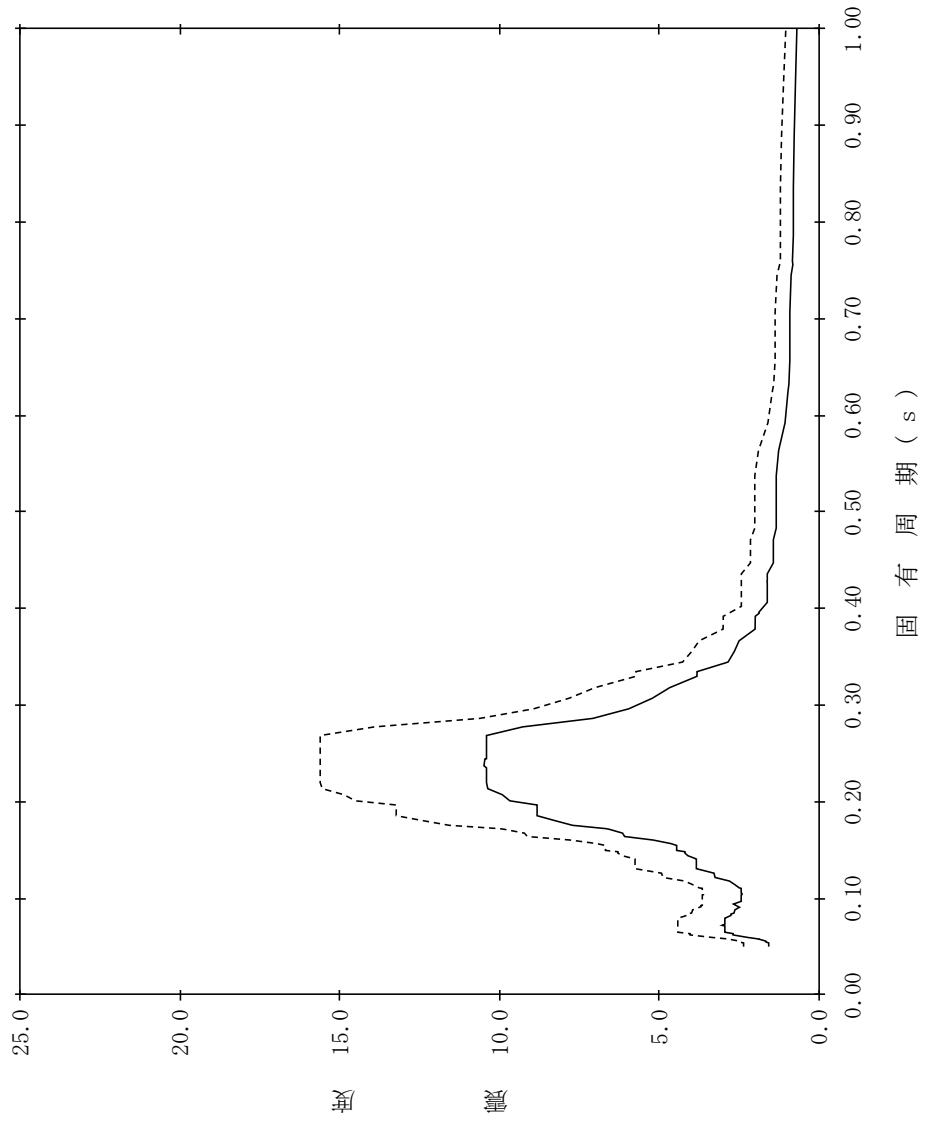
【NS2-RwB-SdNS-RwB11】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



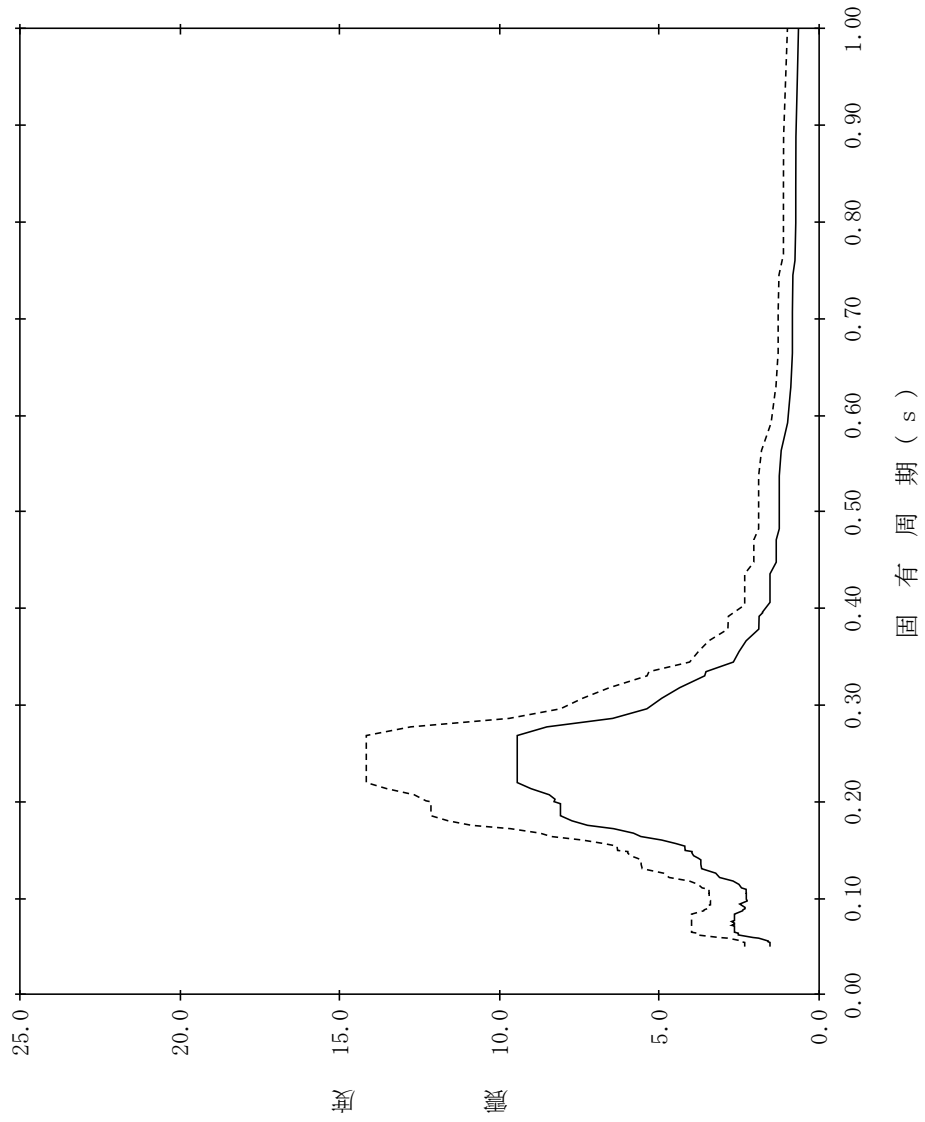
【NS2-RwB-SdNS-RwB12】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



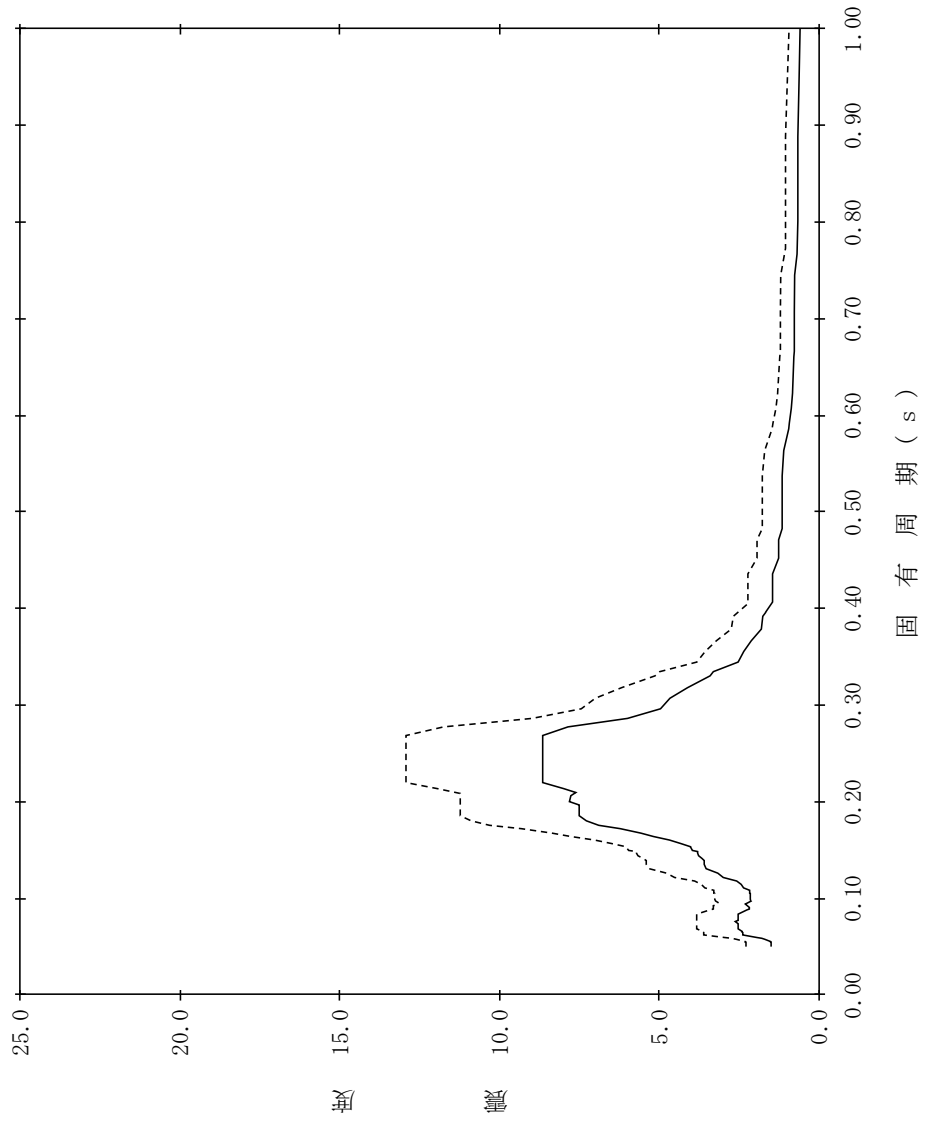
【NS2-RwB-SdNS-RwB13】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



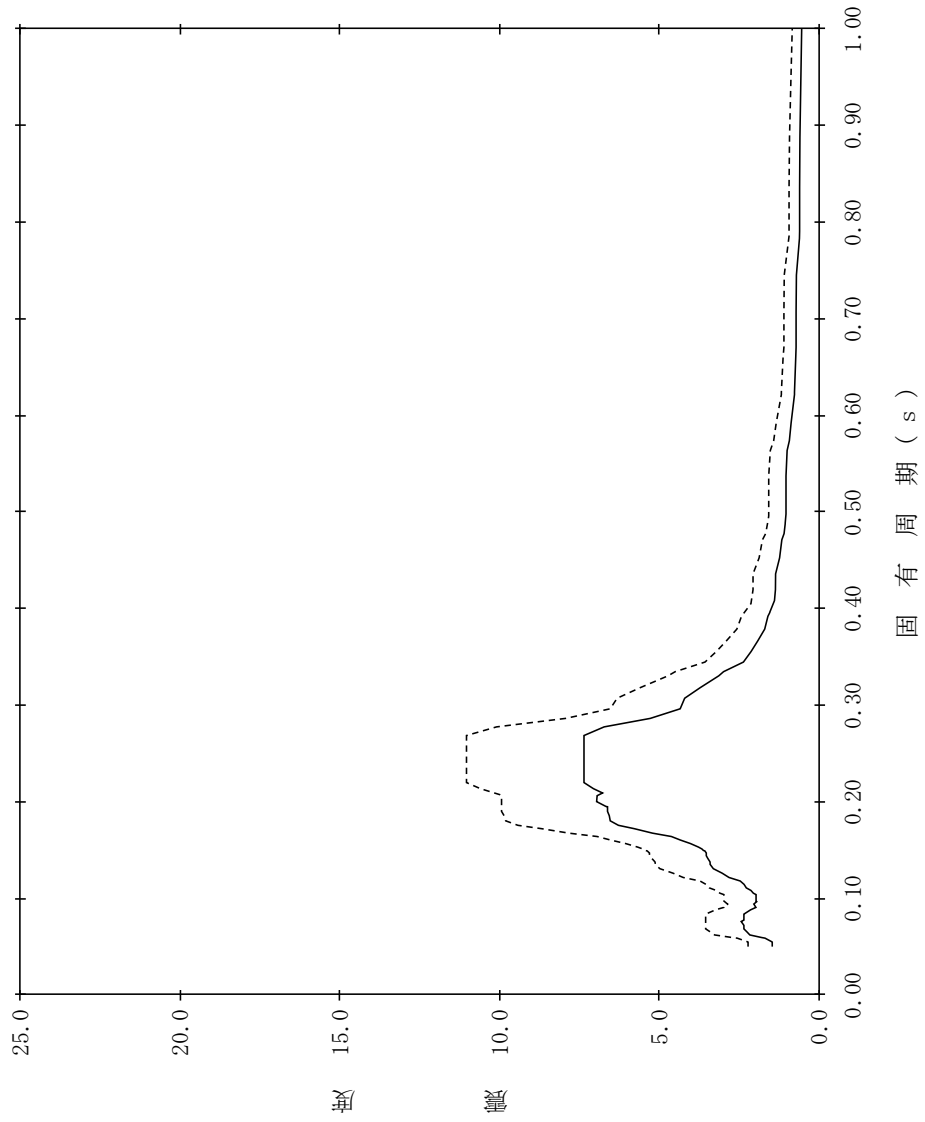
【NS2-RwB-SdNS-RwB14】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



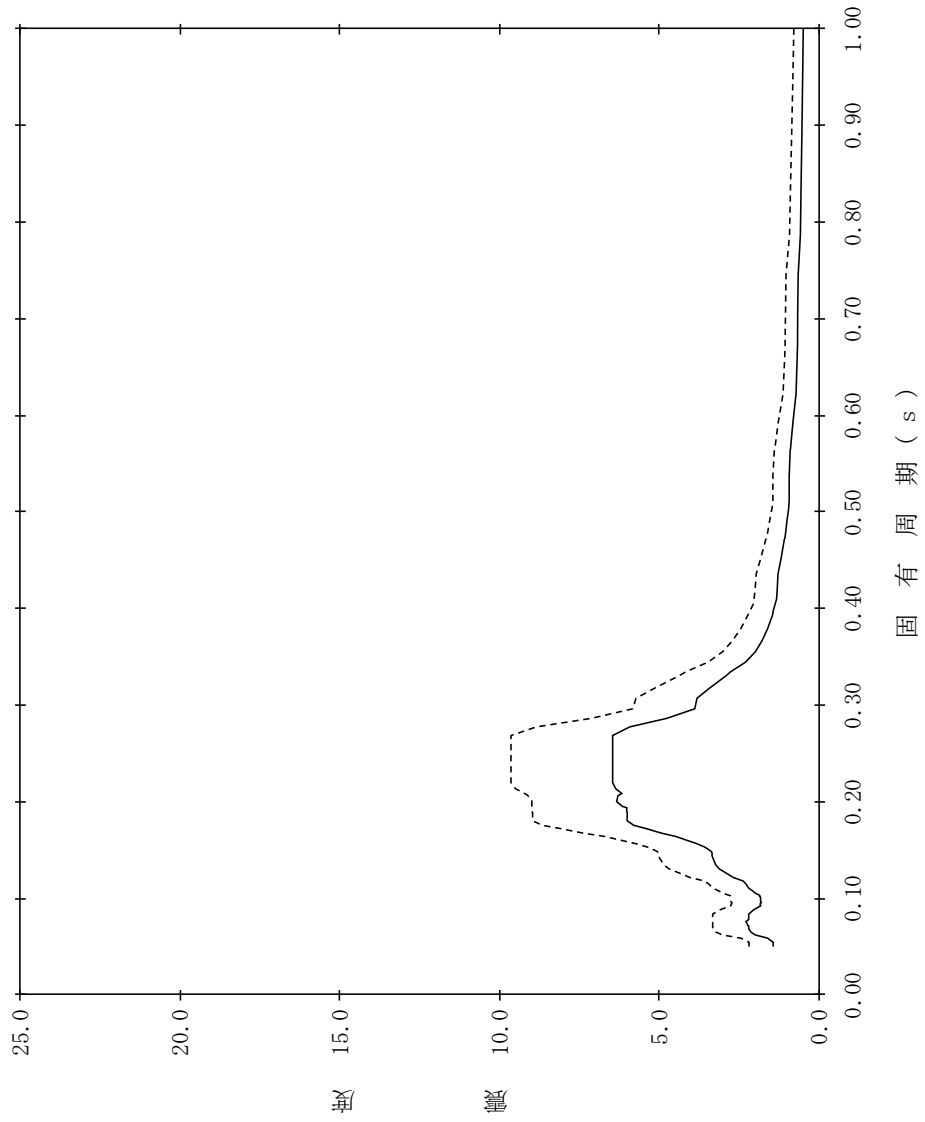
【NS2-RwB-SdNS-RwB15】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



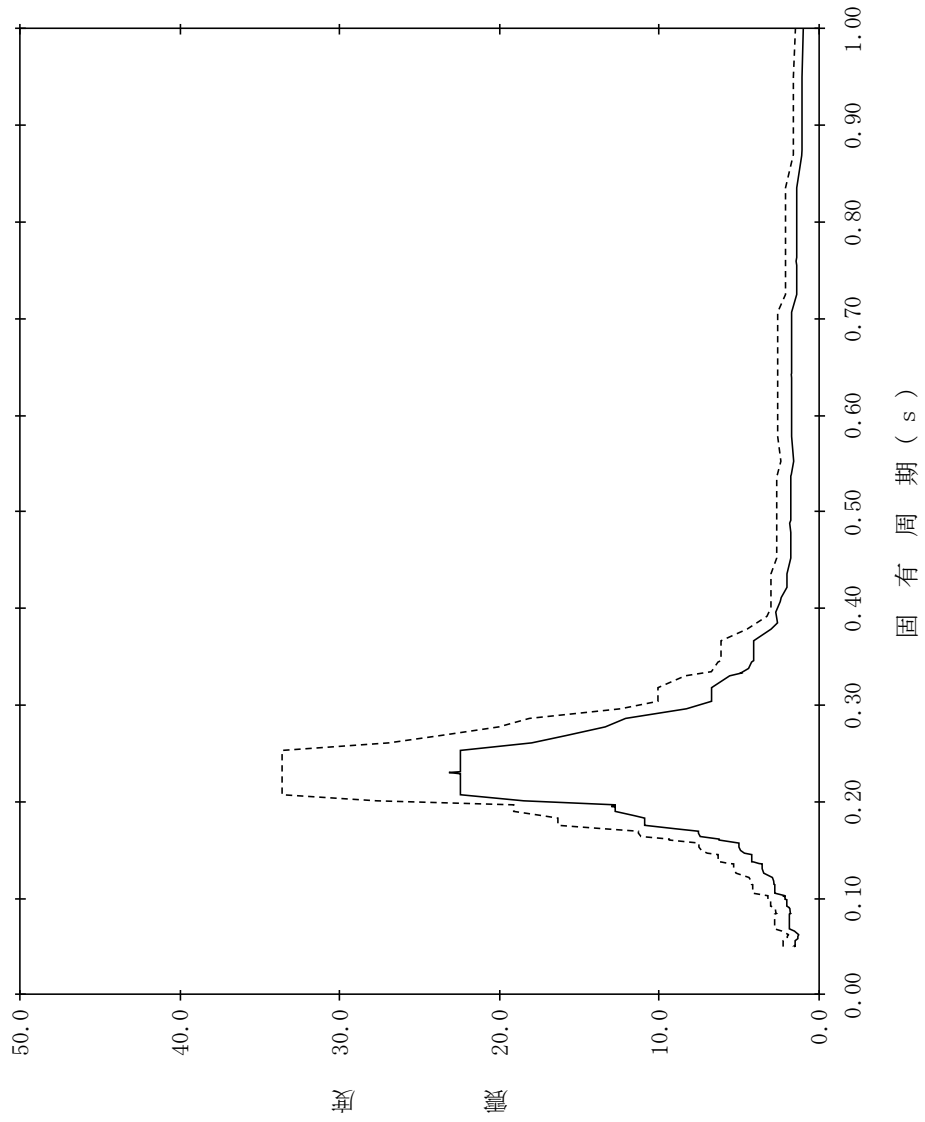
【NS2-RwB-SdNS-RwB16】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



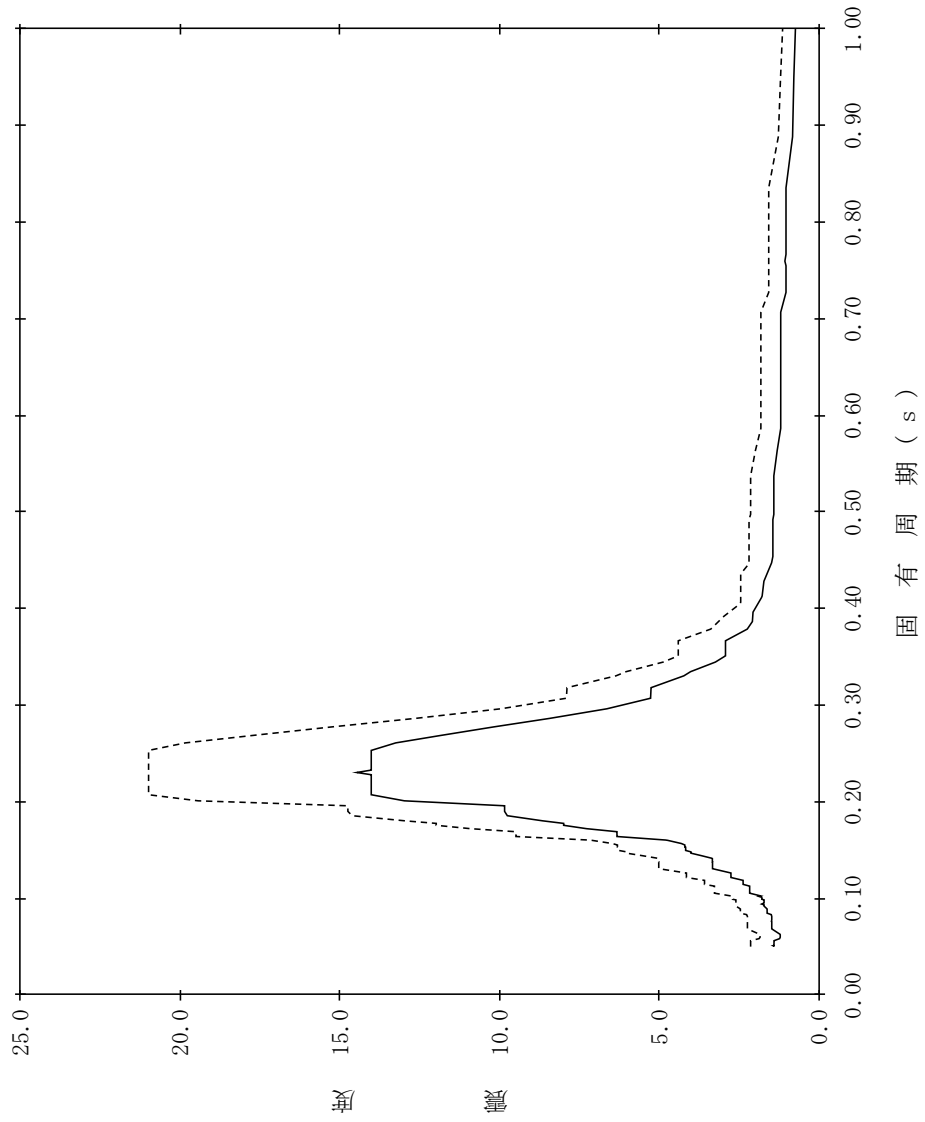
【NS2-RwB-SdNS-RwB17】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



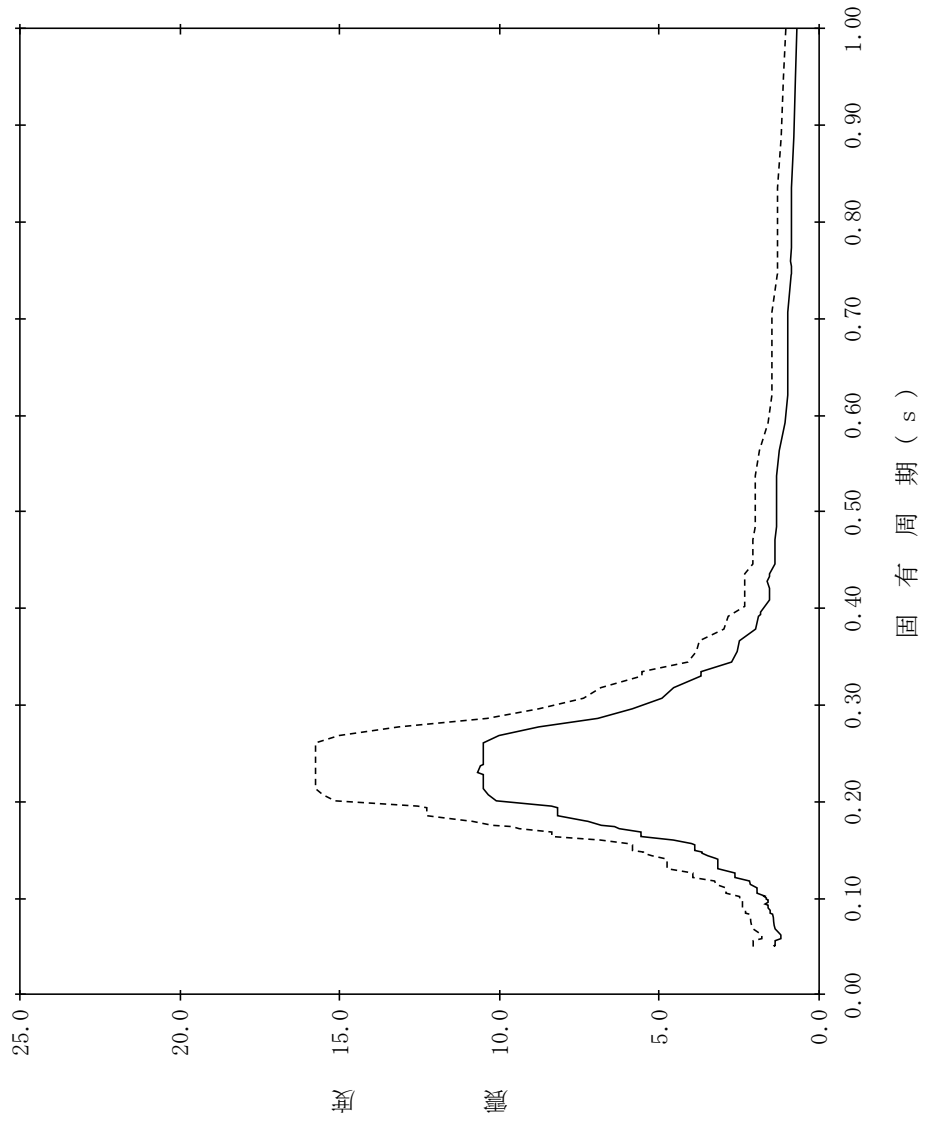
【NS2-RwB-SdNS-RwB18】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



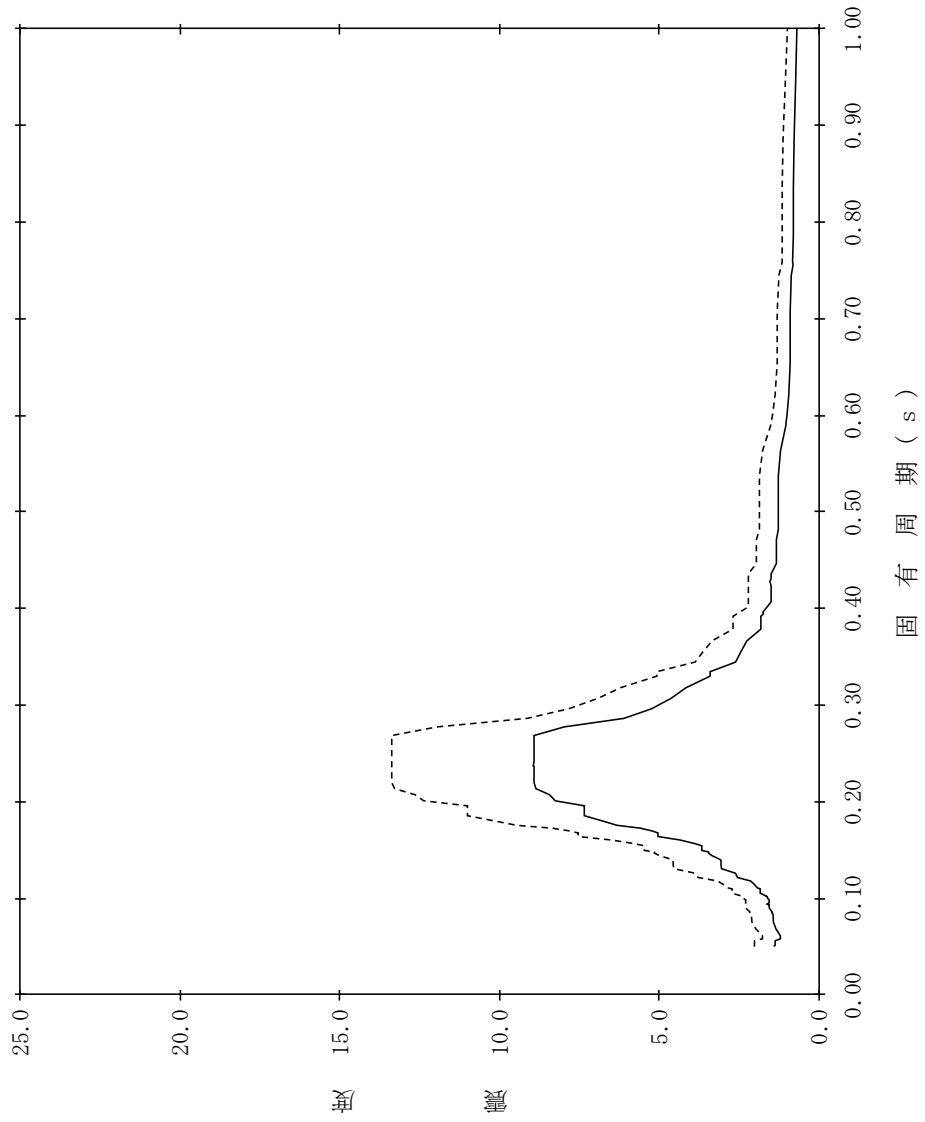
【NS2-RwB-SdNS-RwB19】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL32.000m
減衰定数：1.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



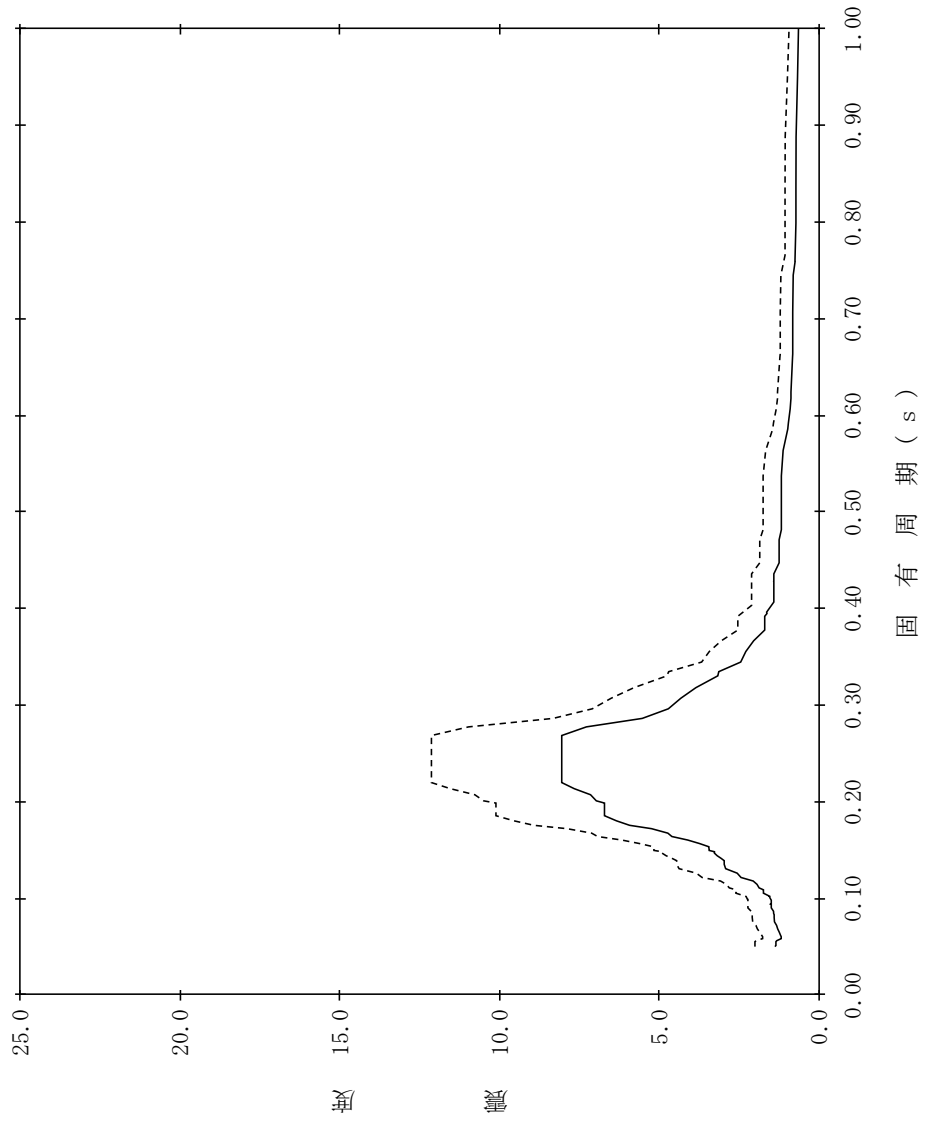
【NS2-RwB-SdNS-RwB20】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



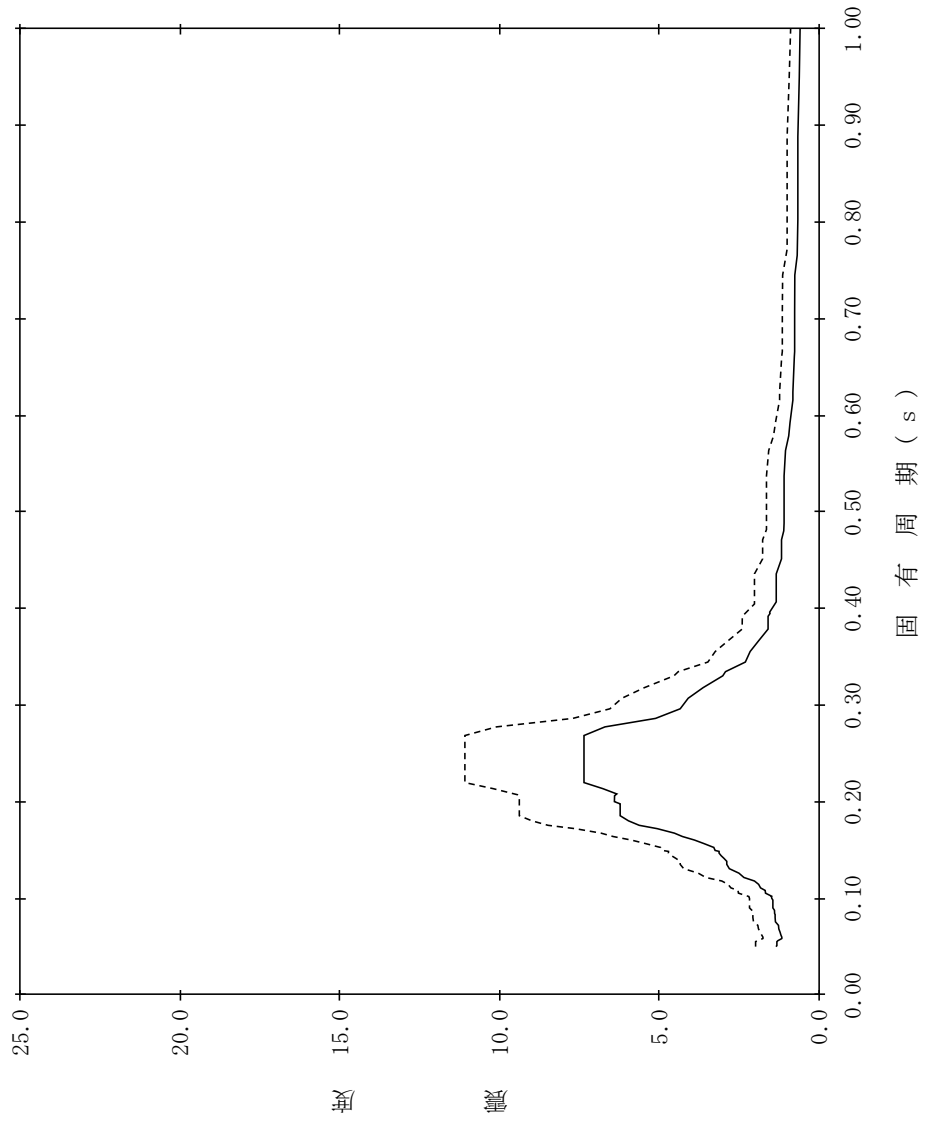
【NS2-RwB-SdNS-RwB21】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



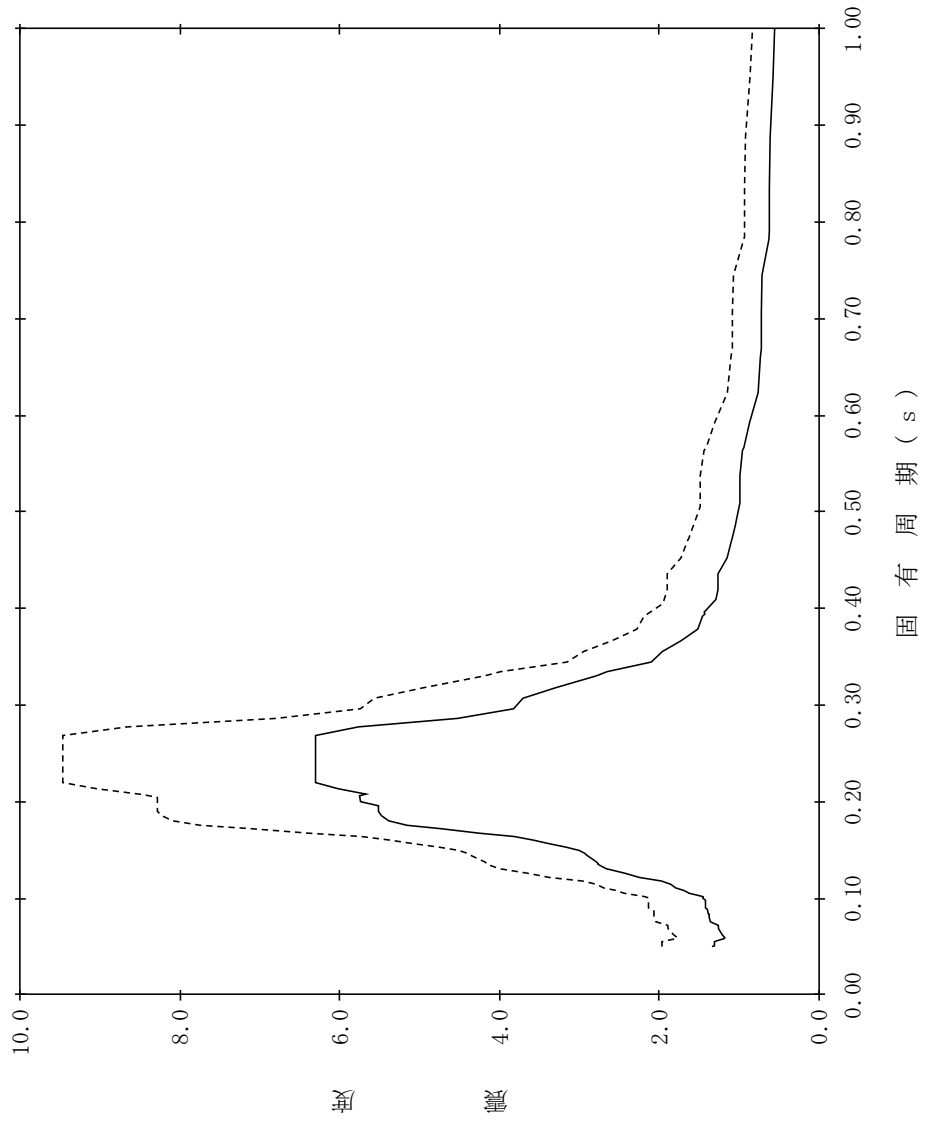
【NS2-RwB-SdNS-RwB22】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



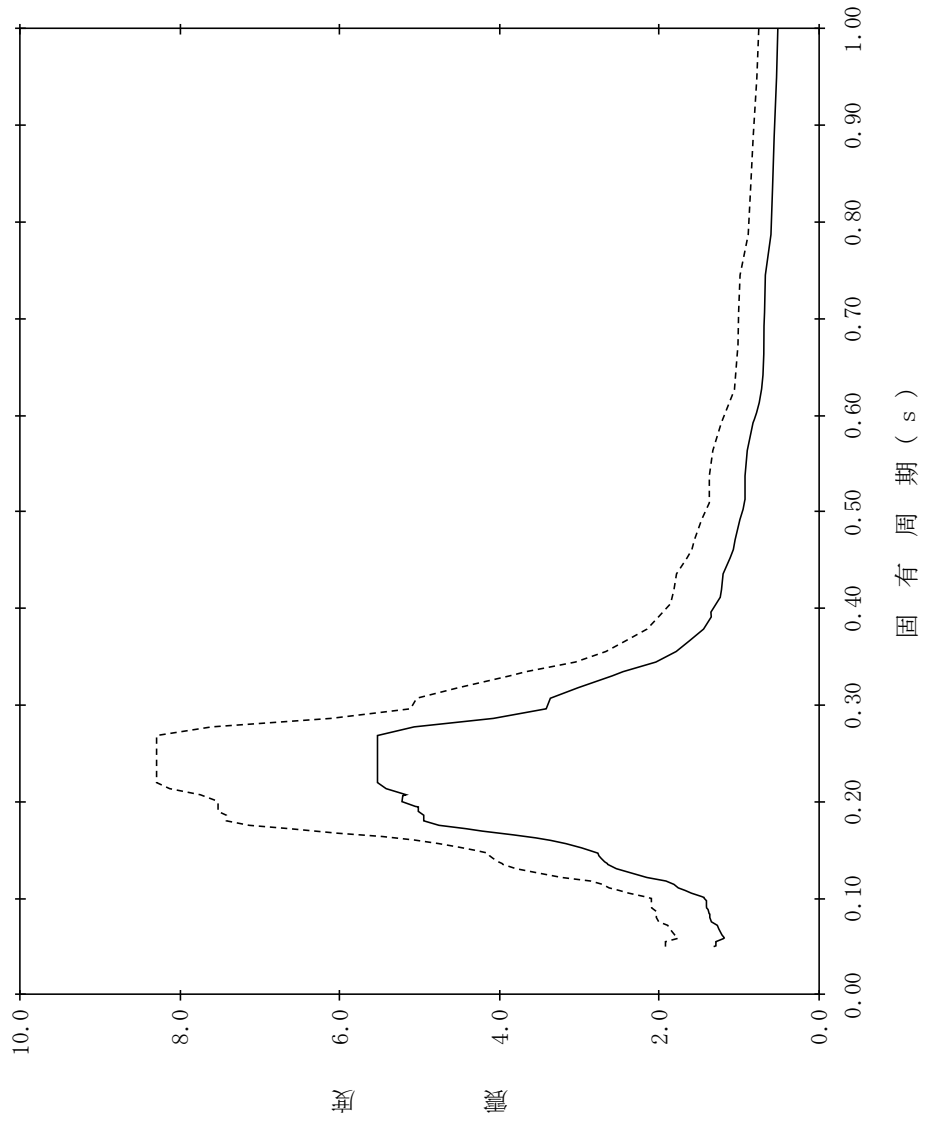
【NS2-RwB-SdNS-RwB23】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



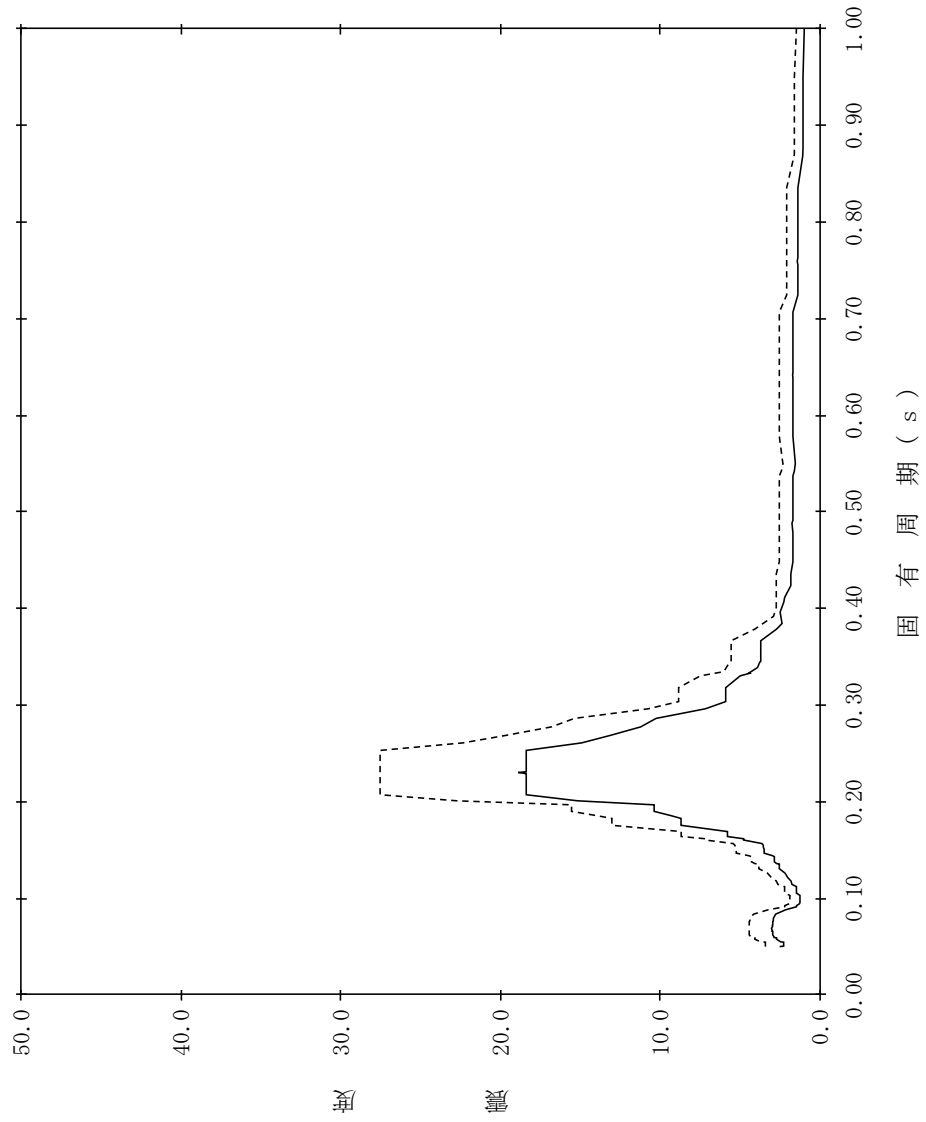
【NS2-RwB-SdNS-RwB24】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



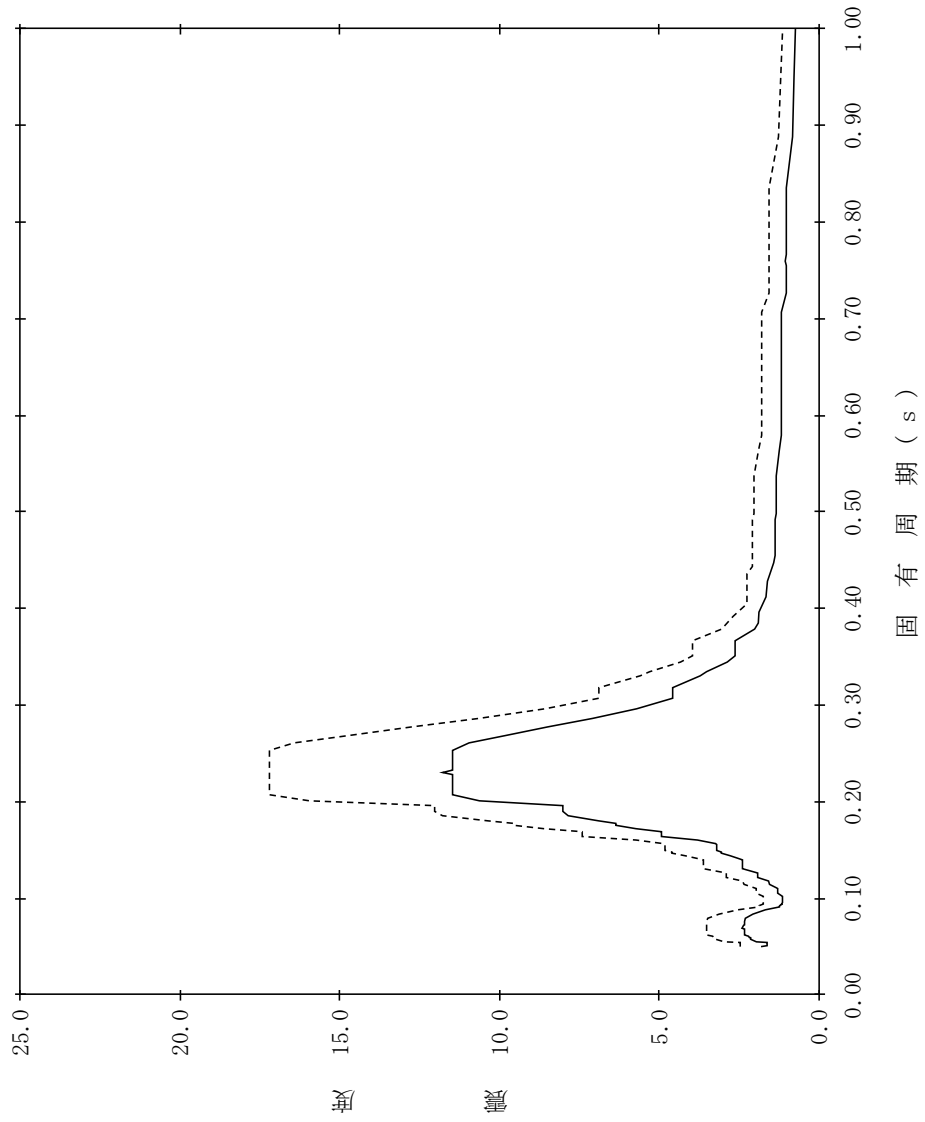
【NS2-RwB-SdNS-RwB25】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



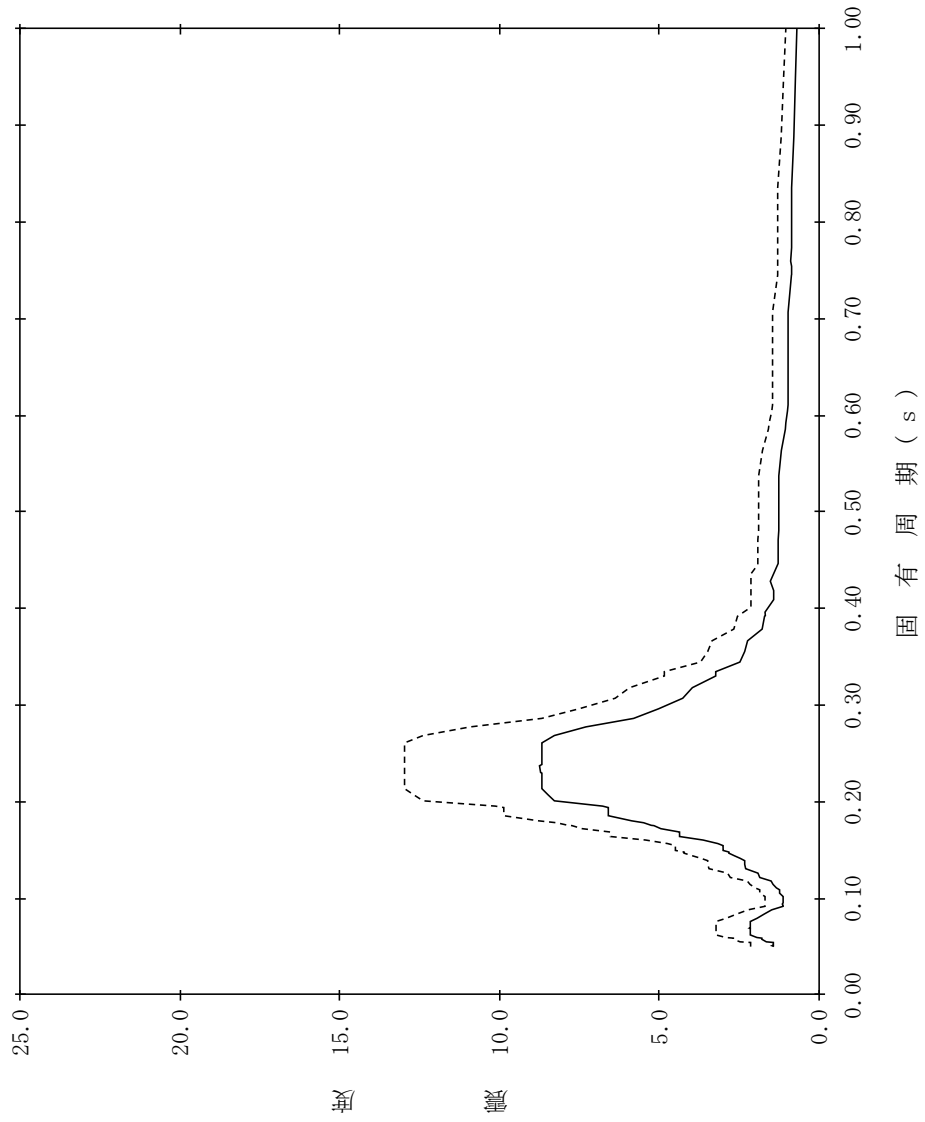
【NS2-RwB-SdNS-RwB26】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



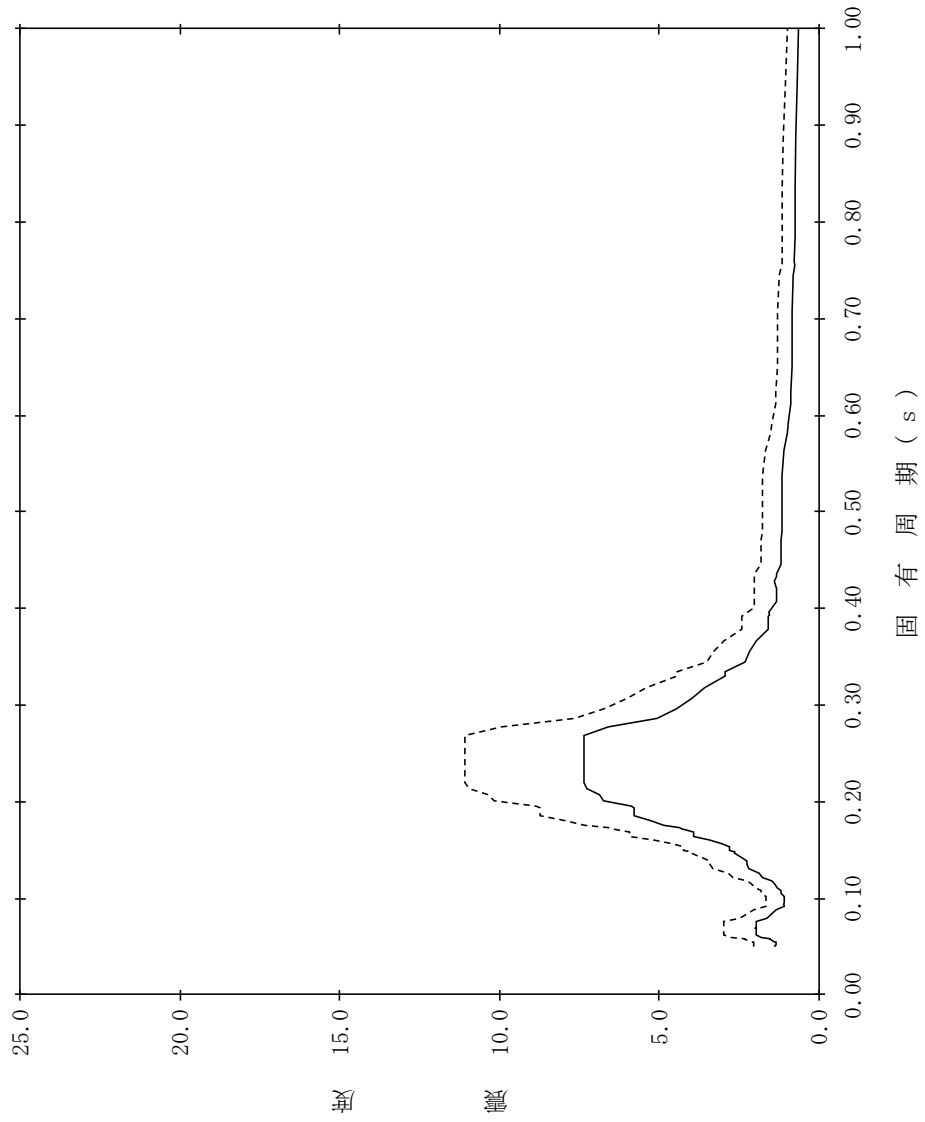
【NS2-RwB-SdNS-RwB27】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



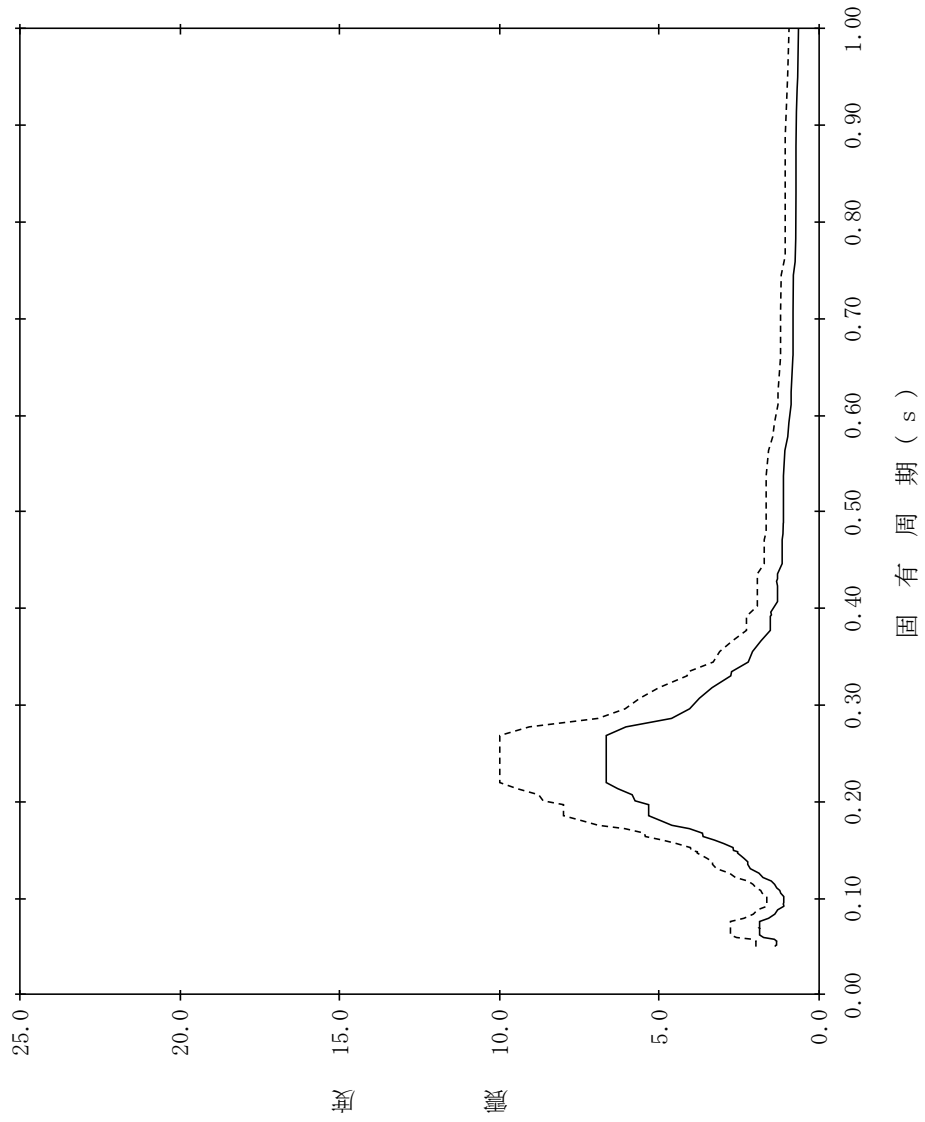
【NS2-RwB-SdNS-RwB28】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



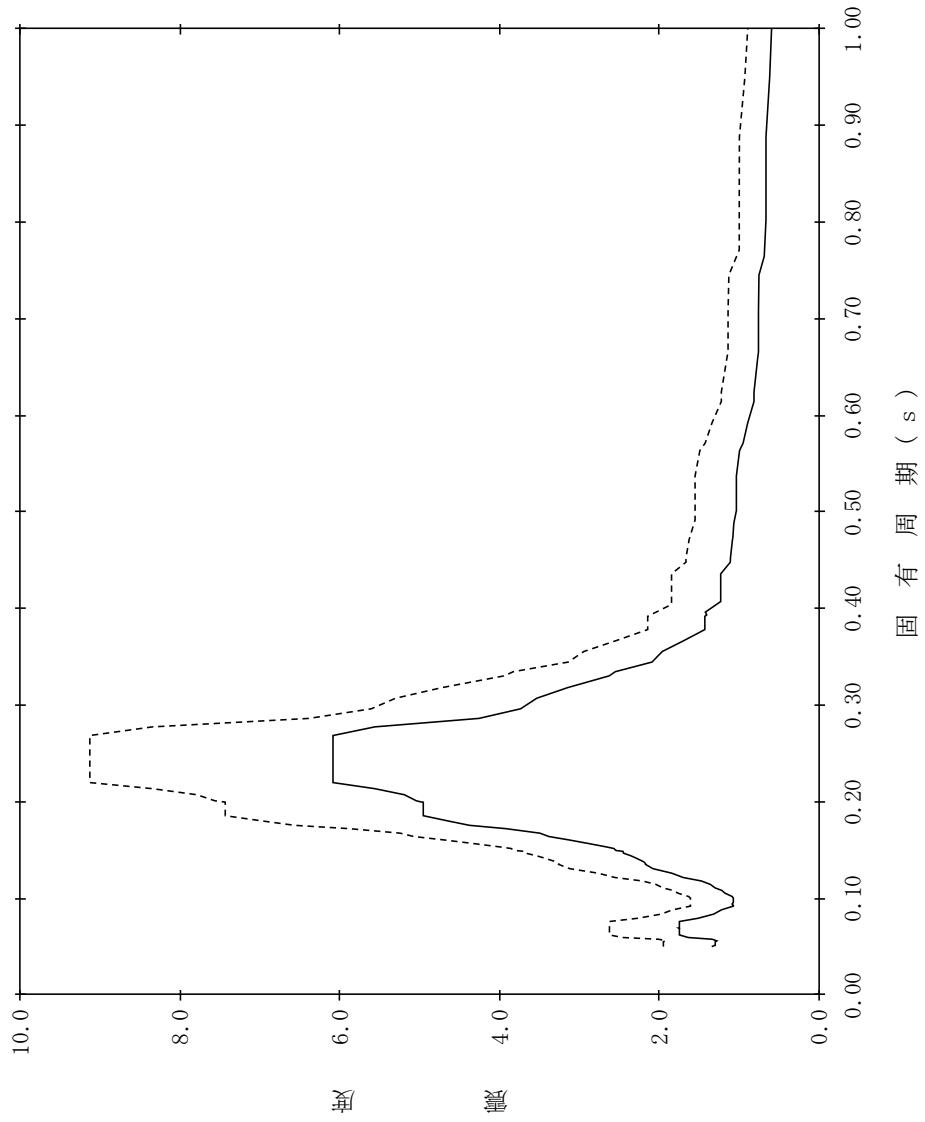
【NS2-RwB-SdNS-RwB29】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



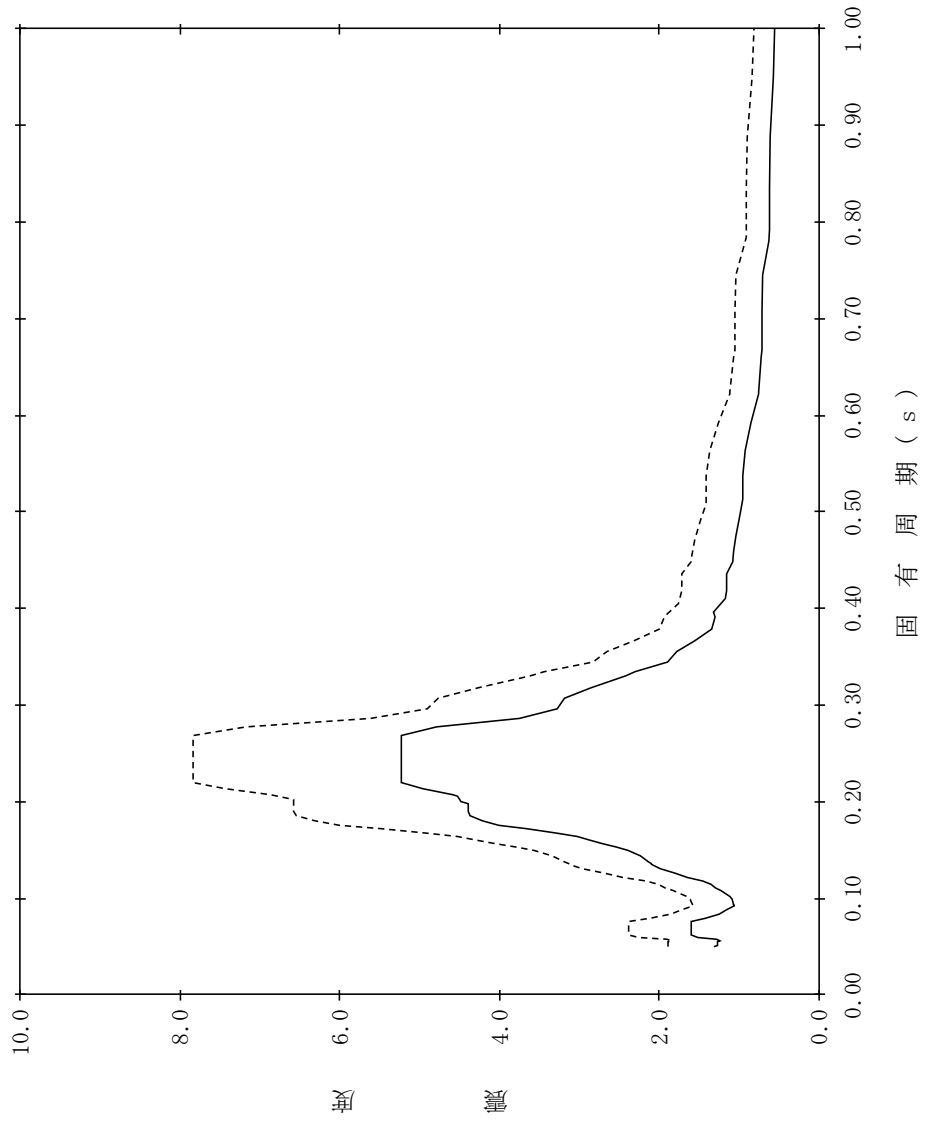
【NS2-RwB-SdNS-RwB30】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



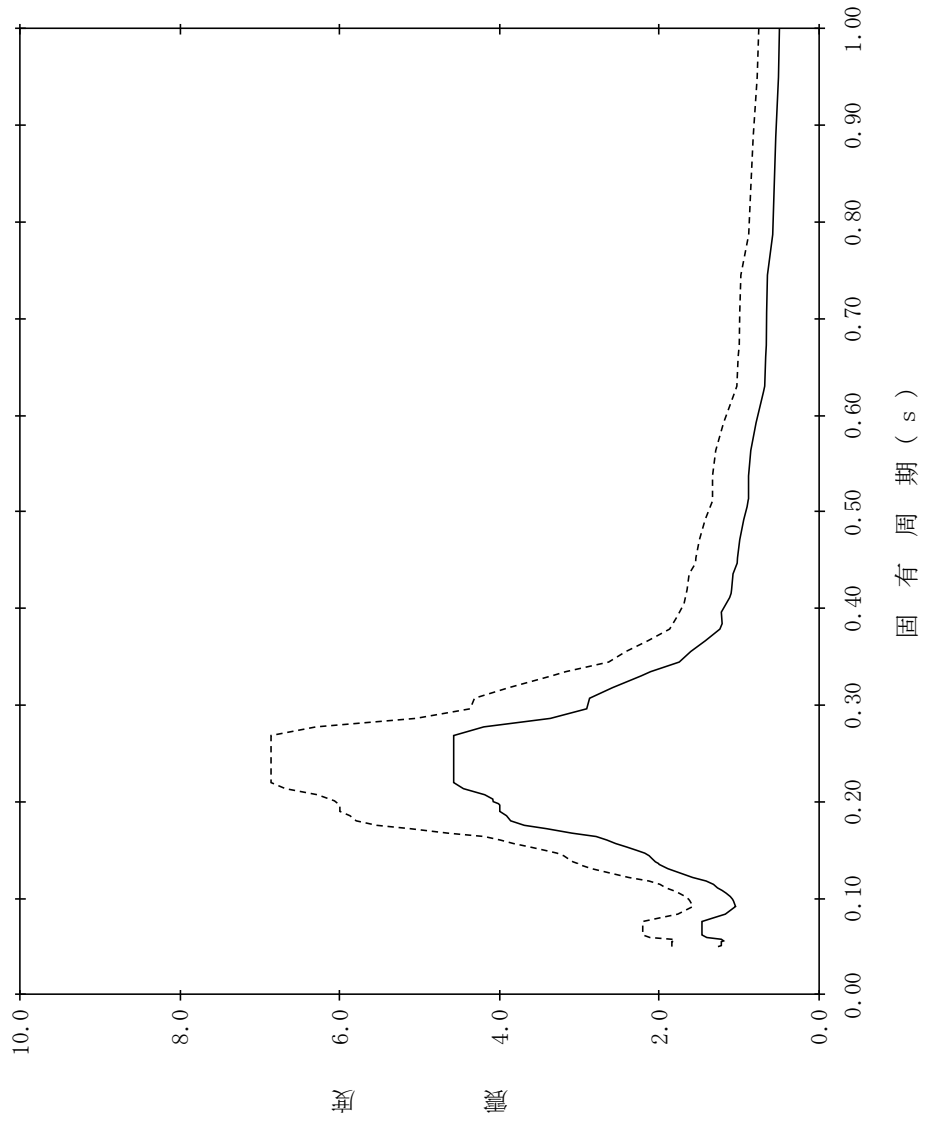
【NS2-RwB-SdNS-RwB31】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL26.700m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



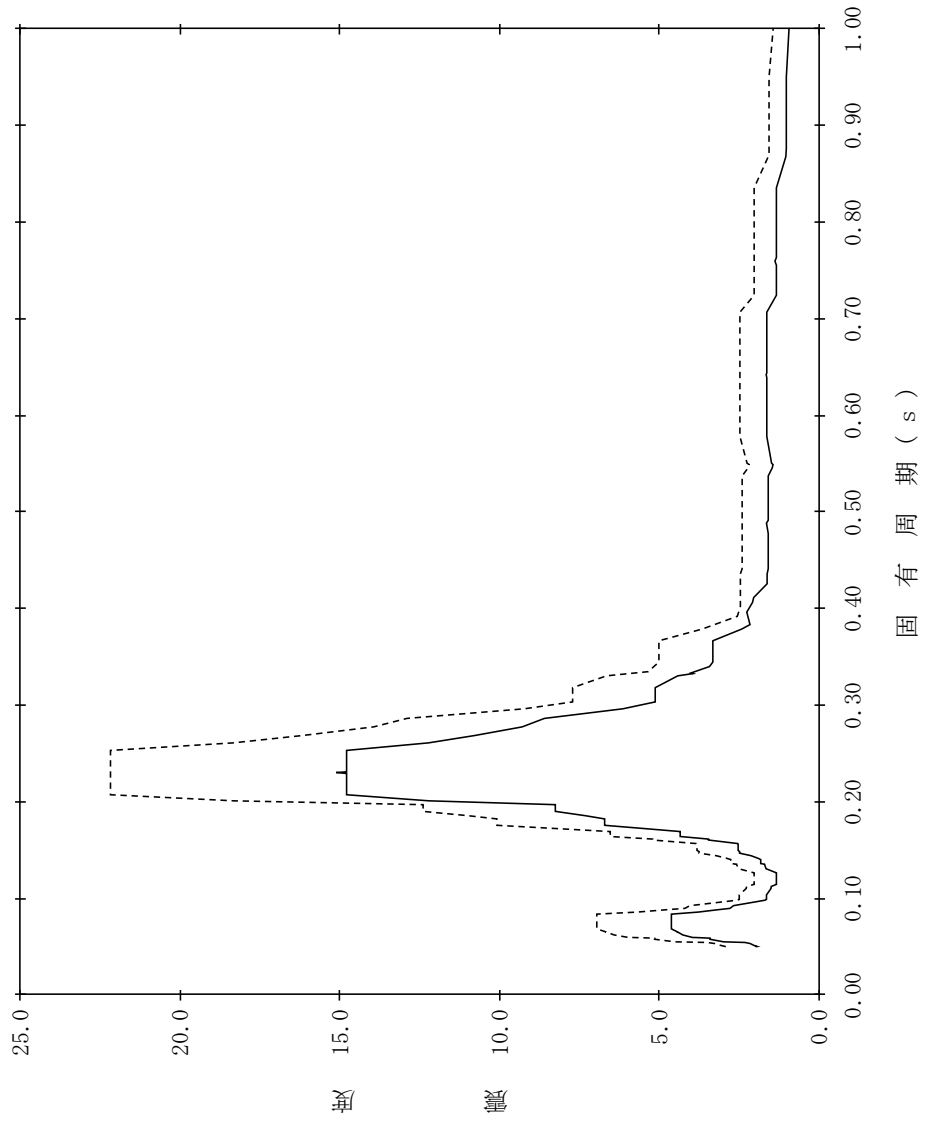
【NS2-RwB-SdNS-RwB32】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



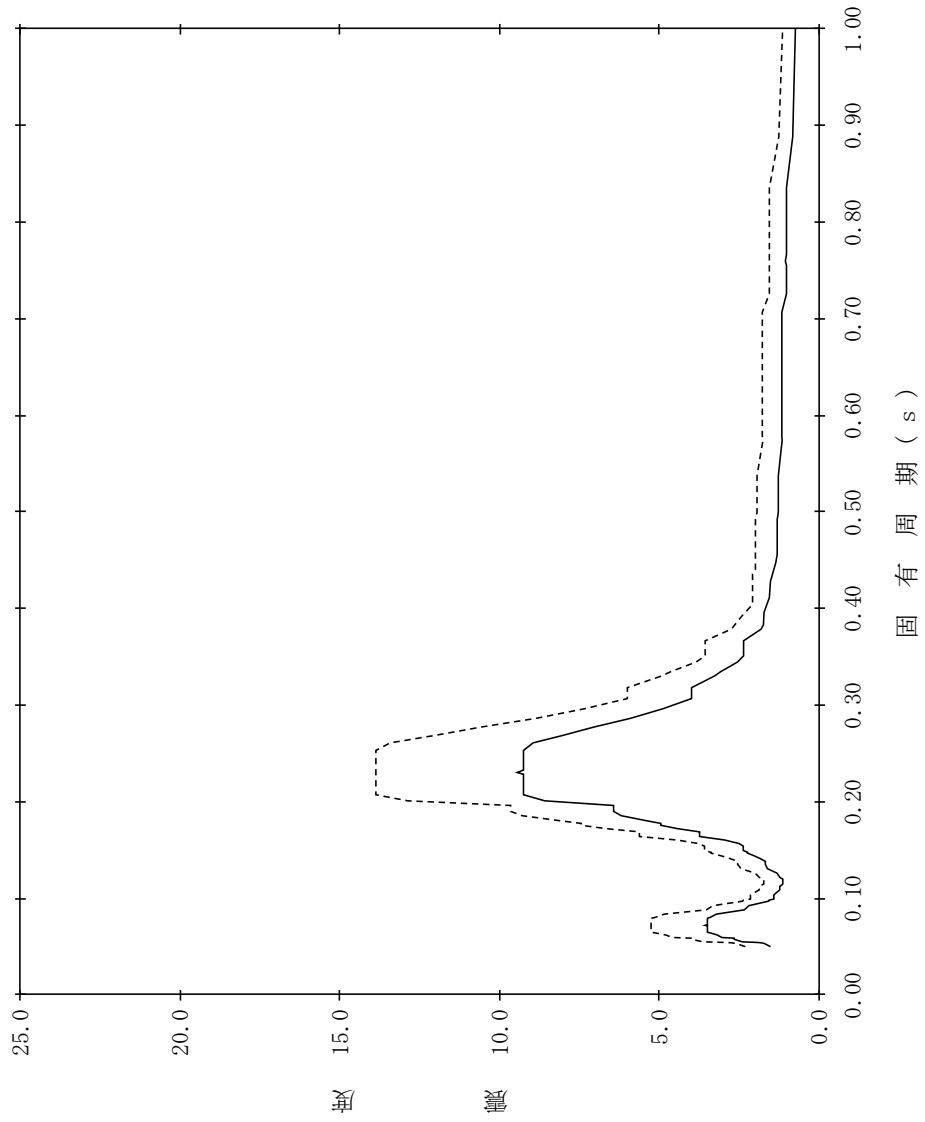
【NS2-RwB-SdNS-RwB33】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



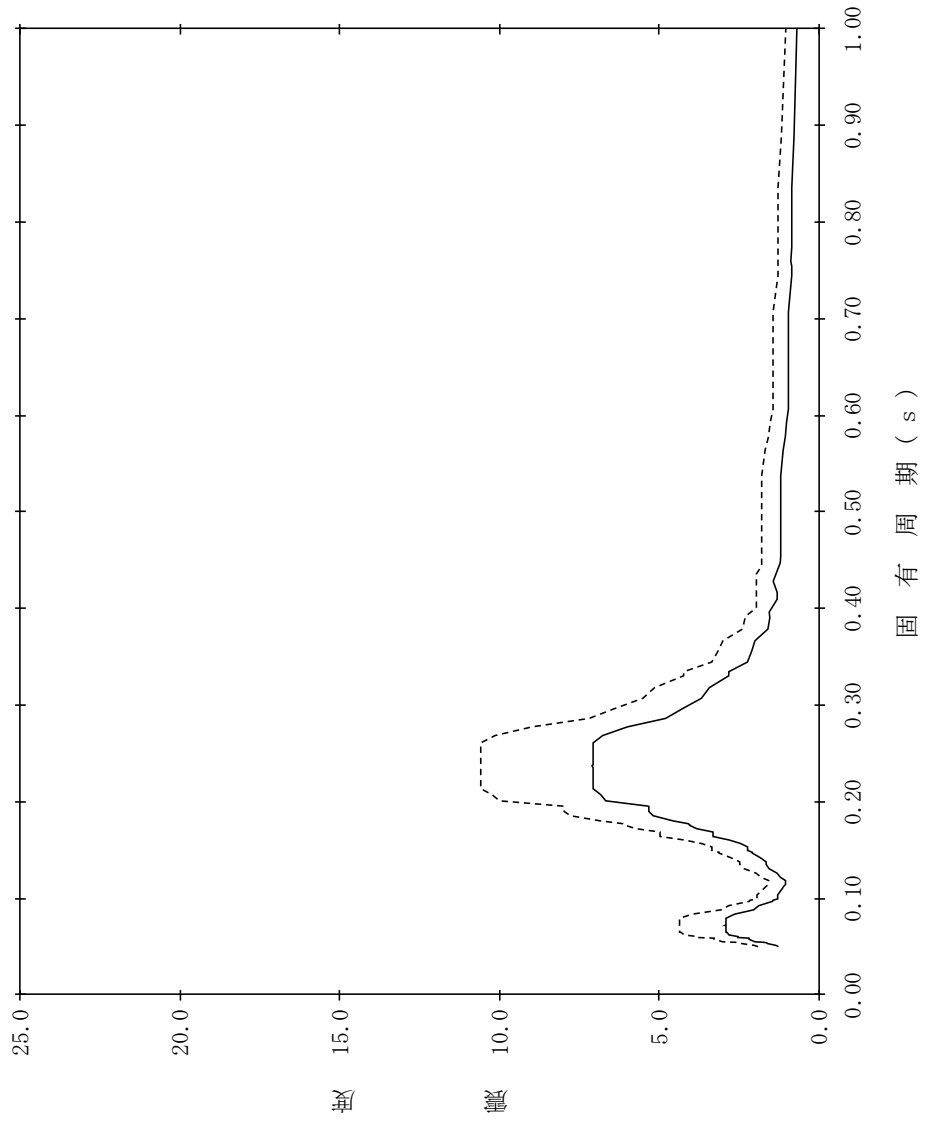
【NS2-RwB-SdNS-RwB34】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



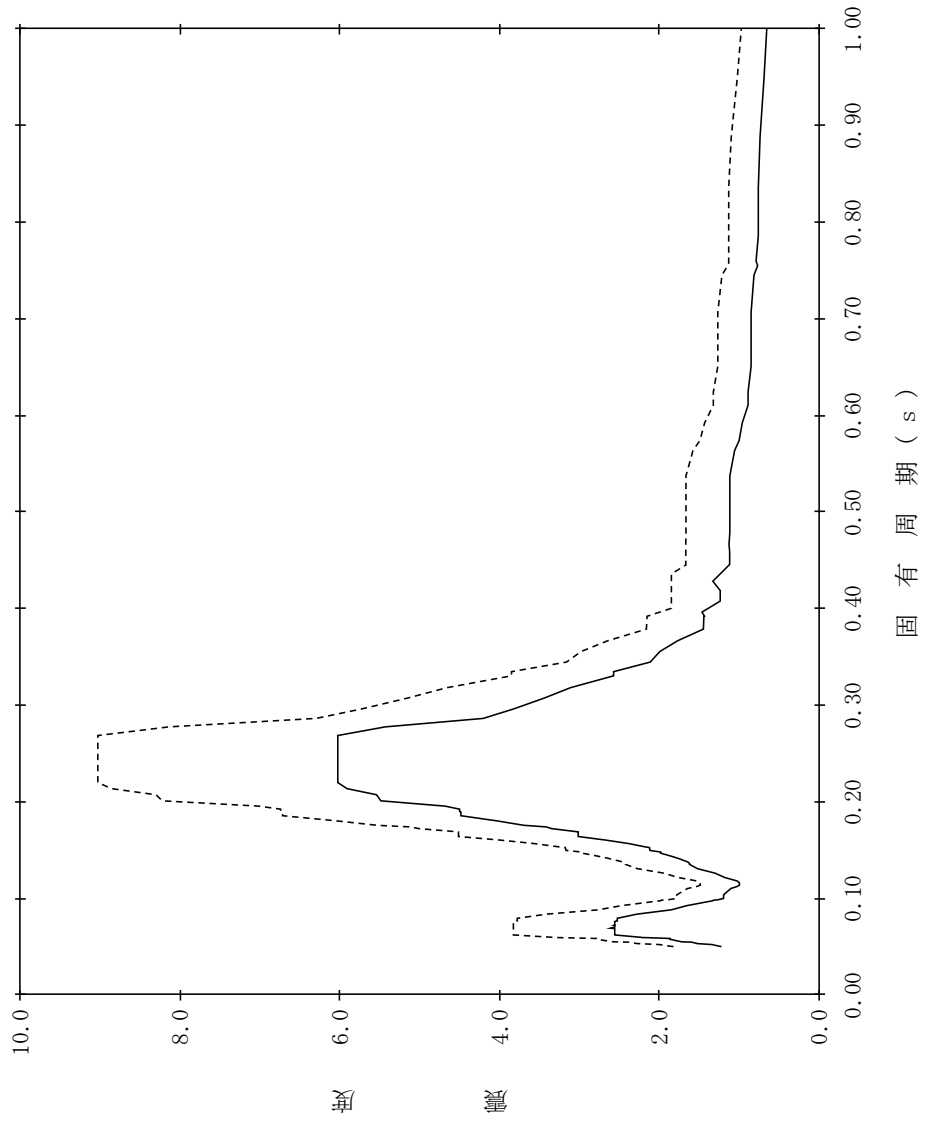
【NS2-RwB-SdNS-RwB35】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



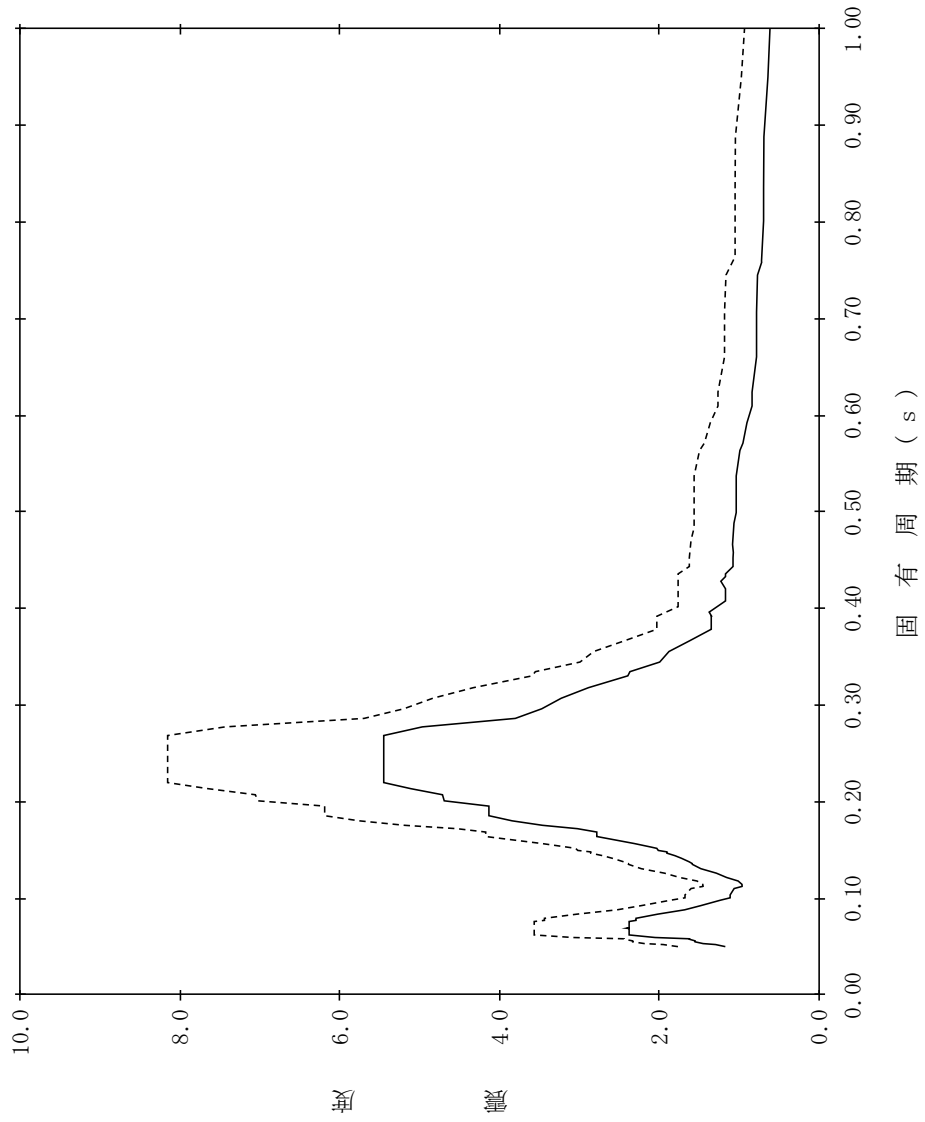
【NS2-RwB-SdNS-RwB36】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



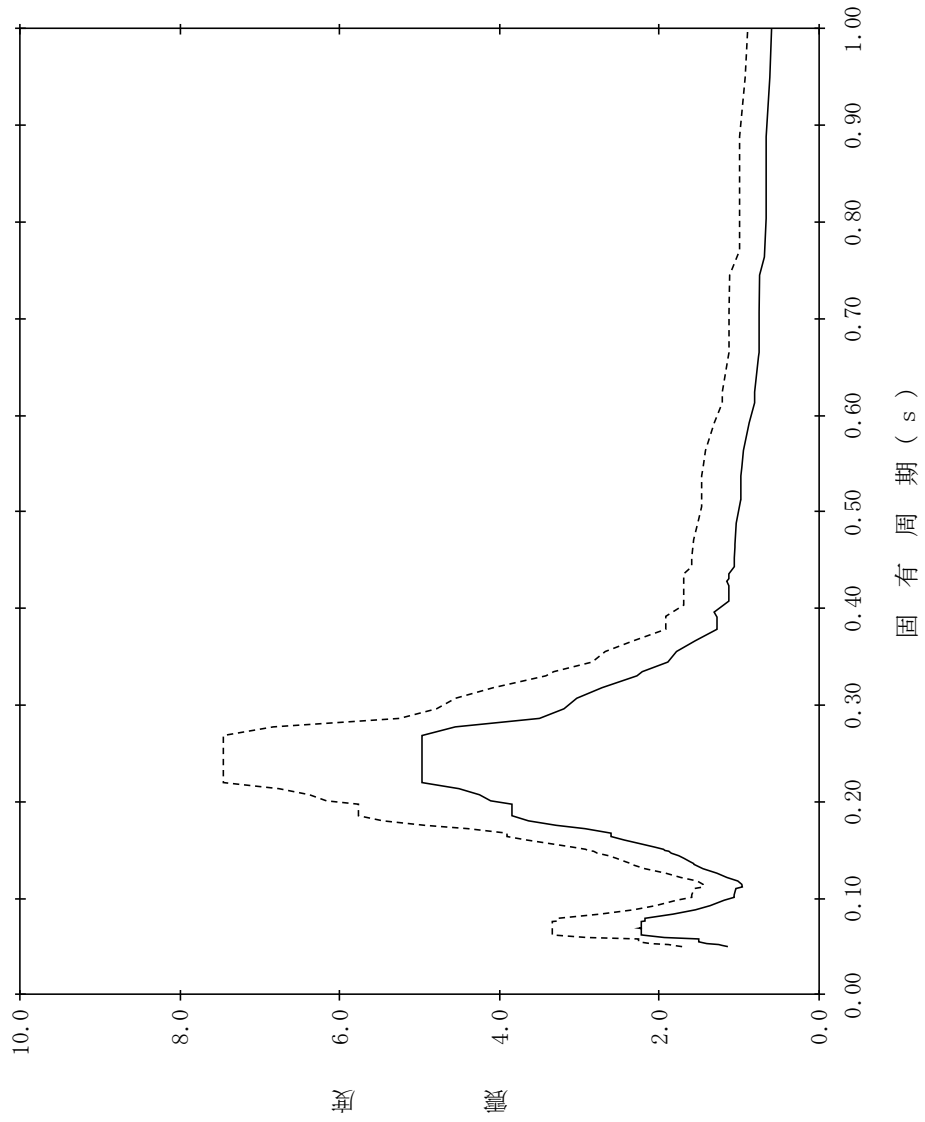
【NS2-RwB-SdNS-RwB37】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



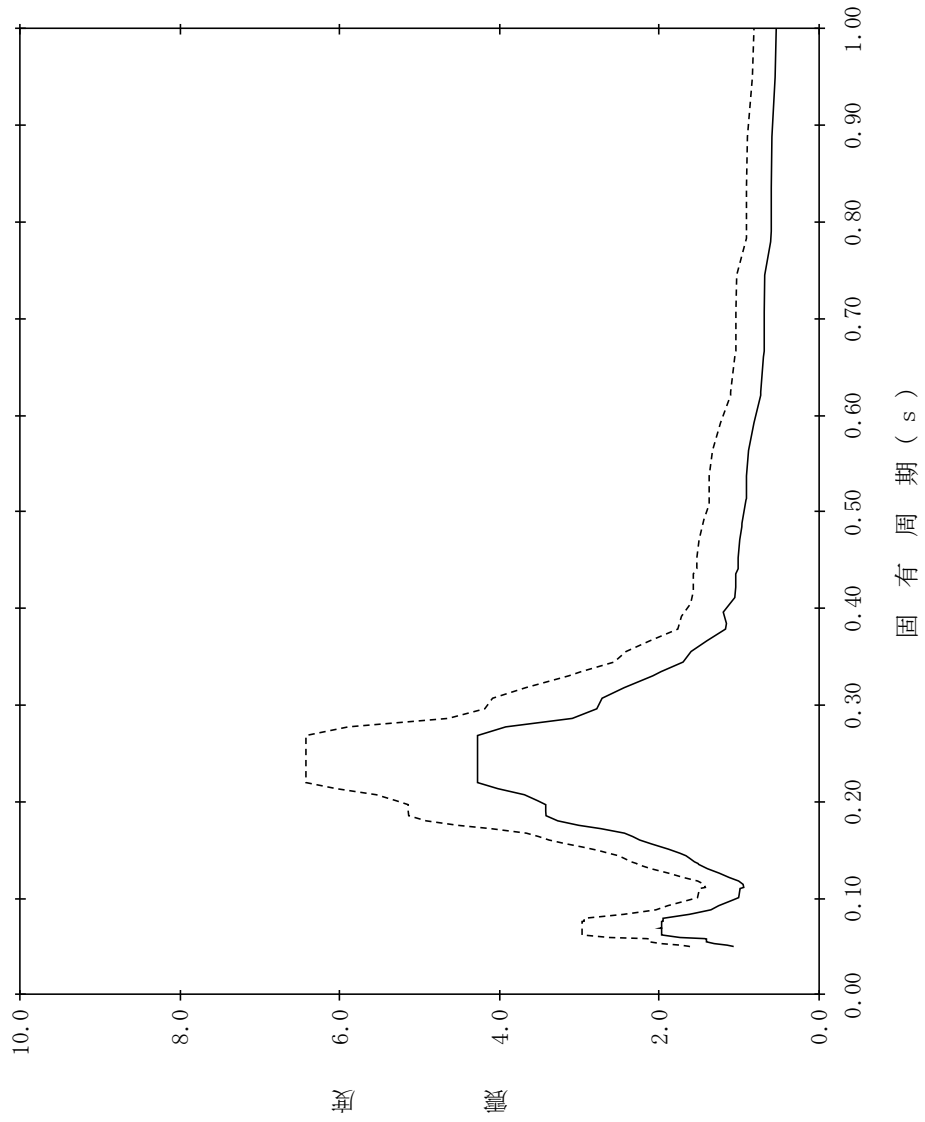
【NS2-RwB-SdNS-RwB38】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



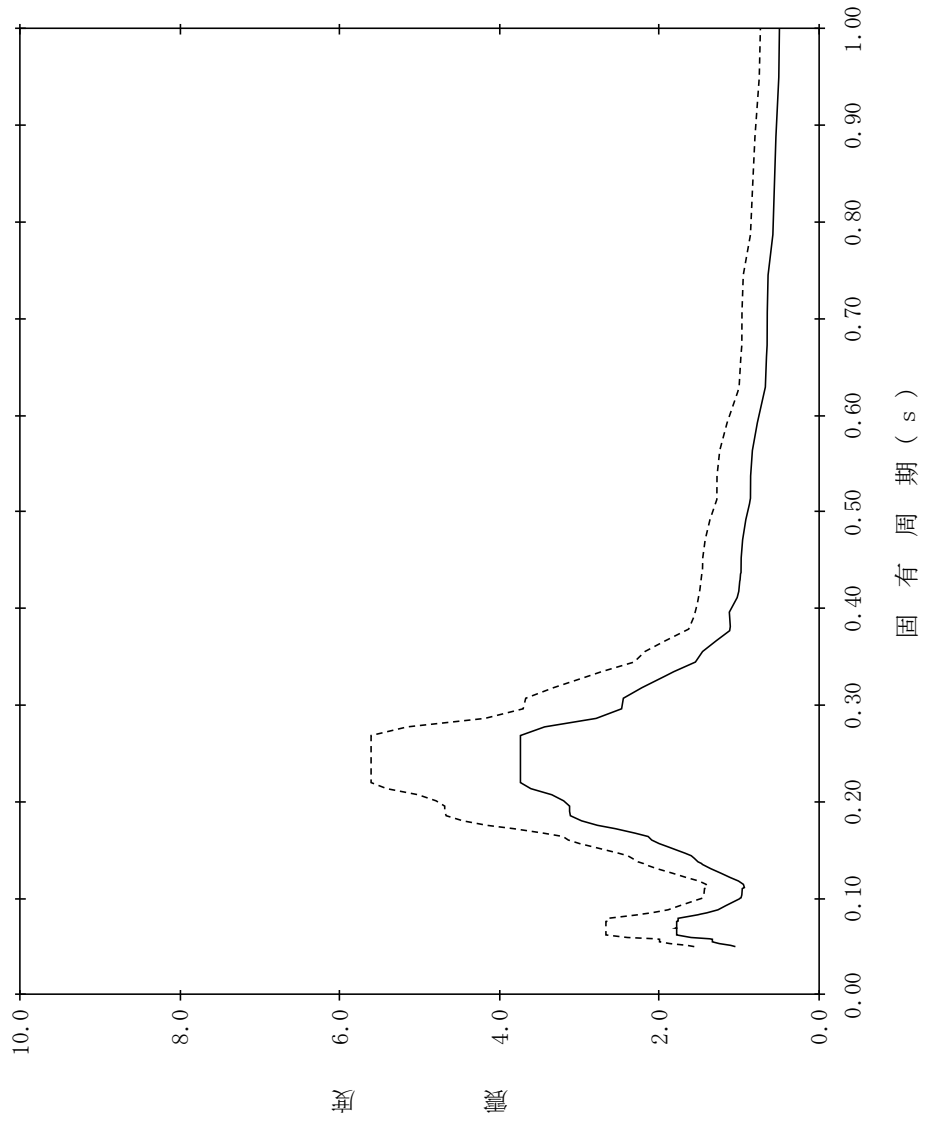
【NS2-RwB-SdNS-RwB39】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



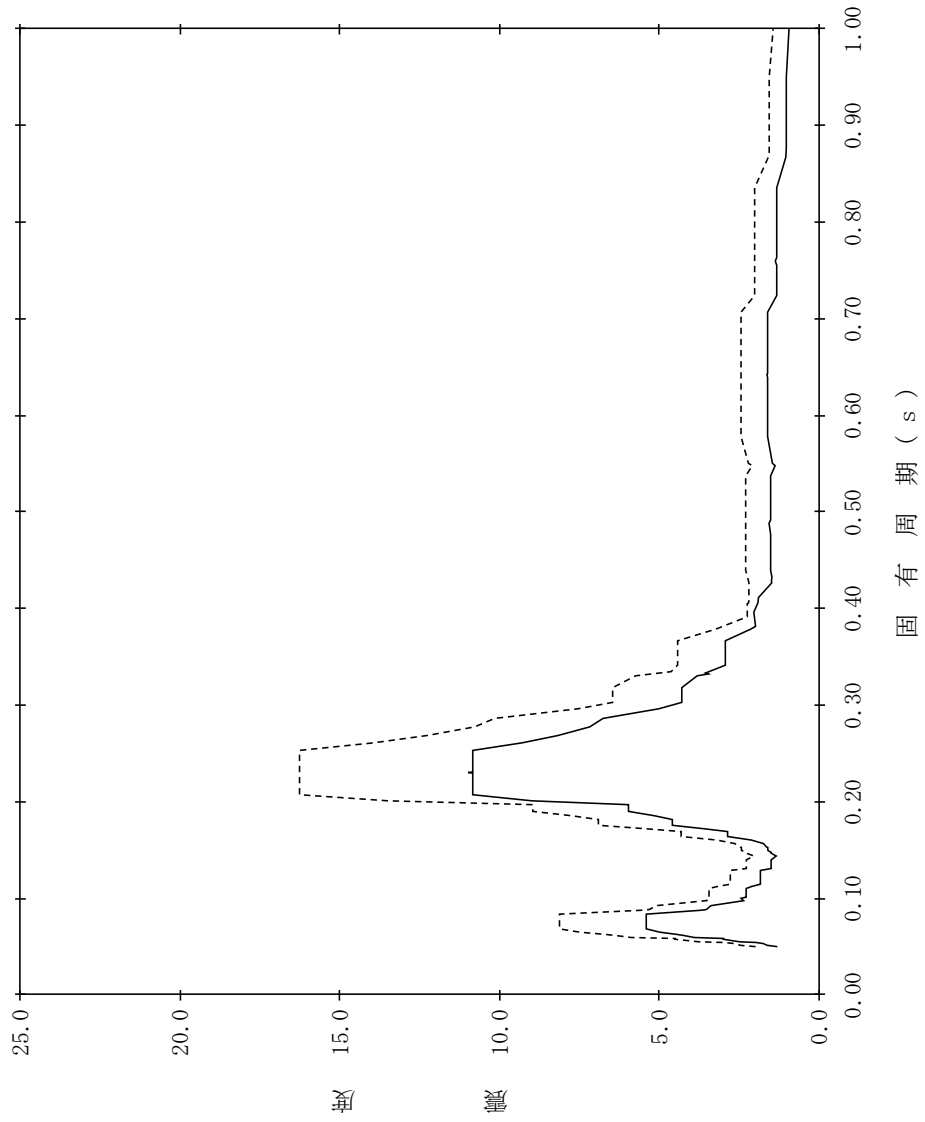
【NS2-RwB-SdNS-RwB40】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



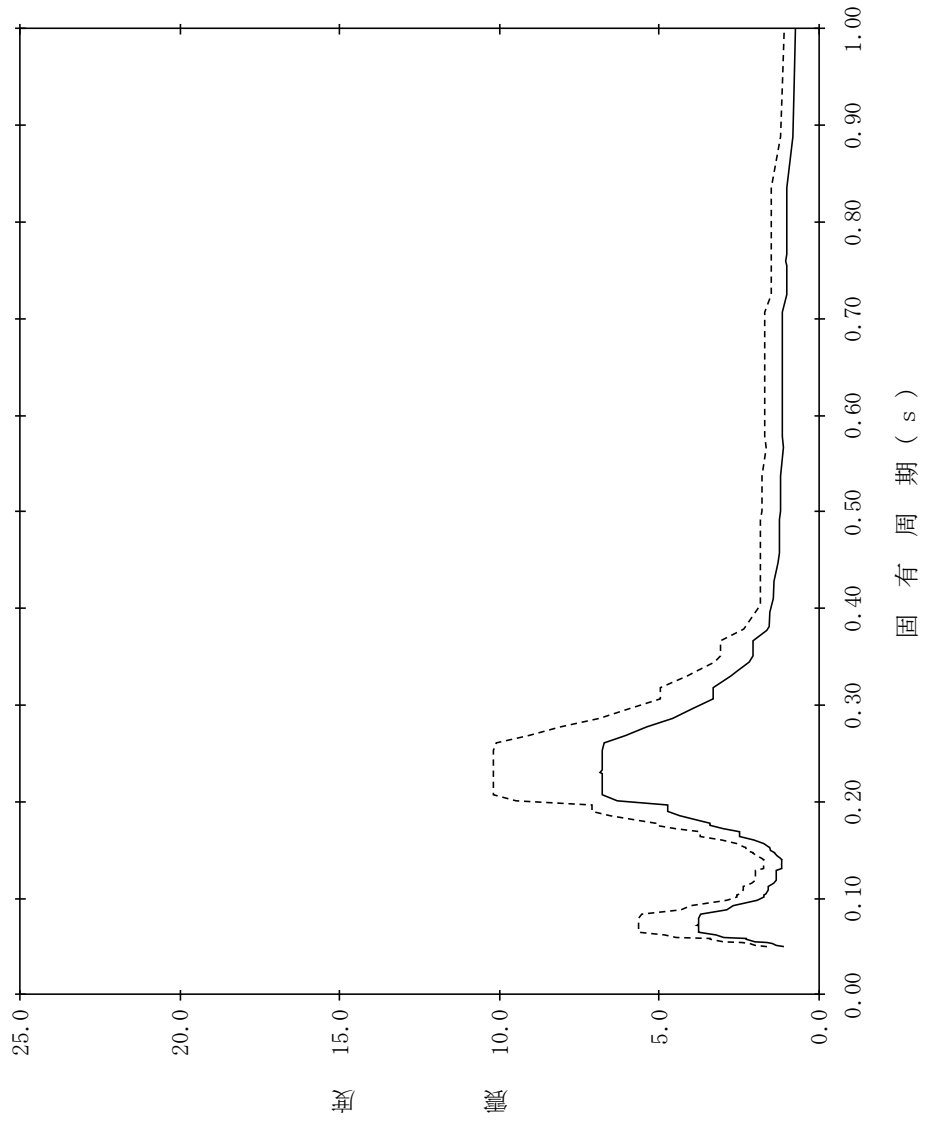
【NS2-RwB-SdNS-RwB41】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



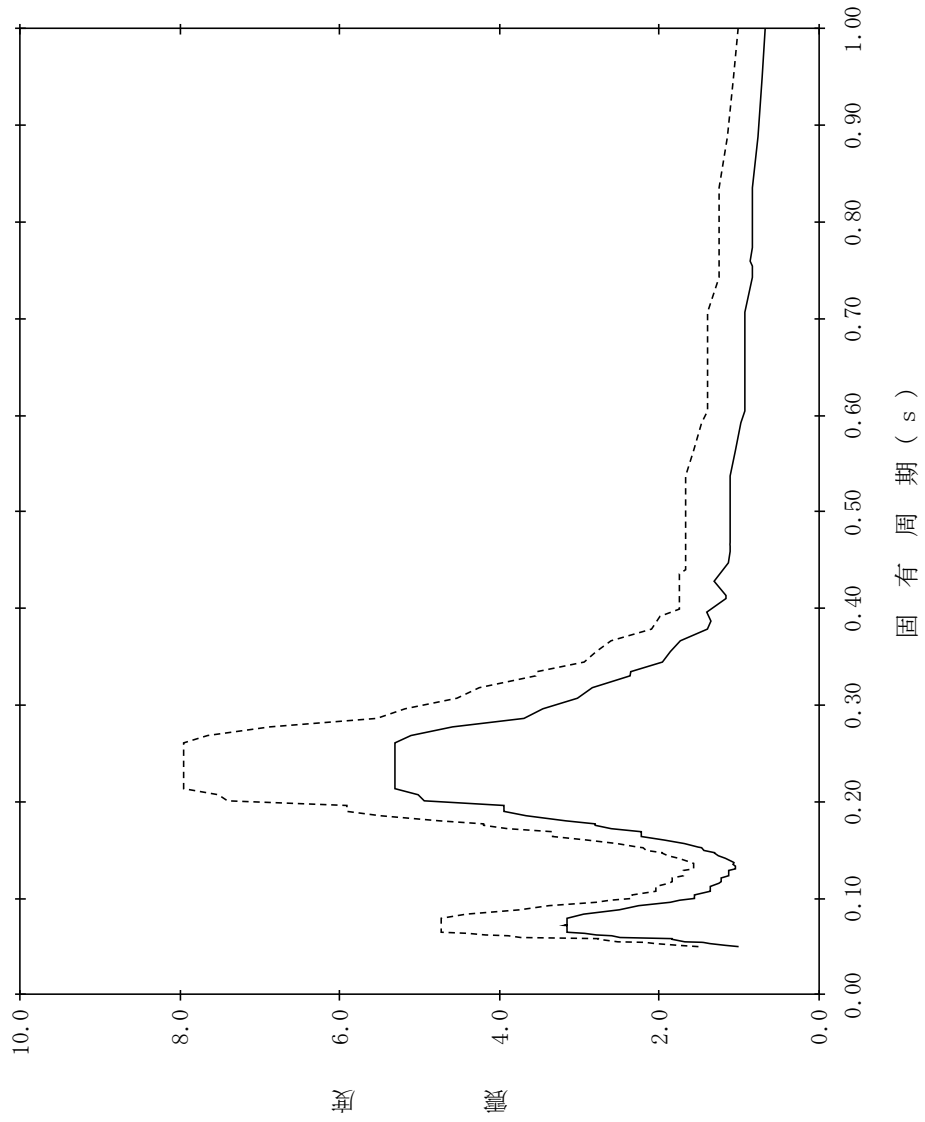
【NS2-RwB-SdNS-RwB42】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



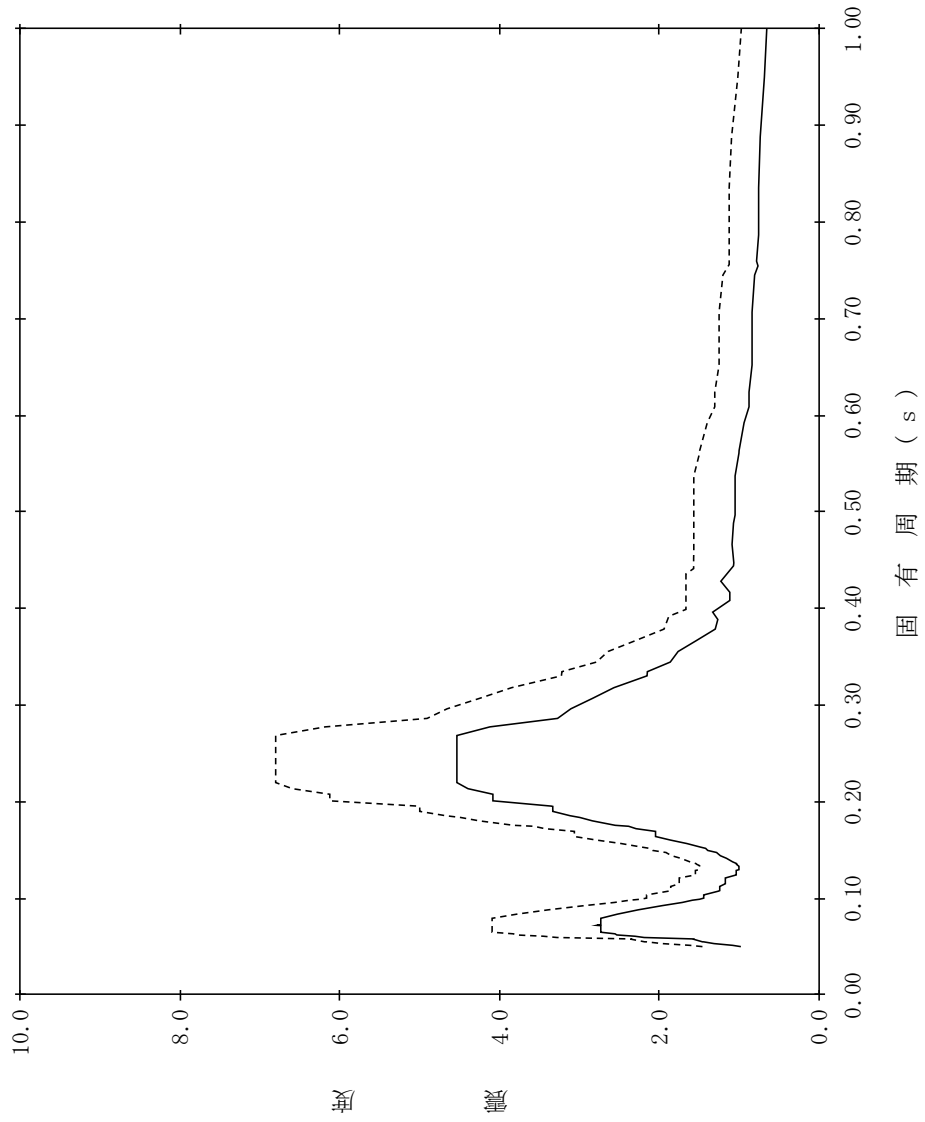
【NS2-RwB-SdNS-RwB43】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



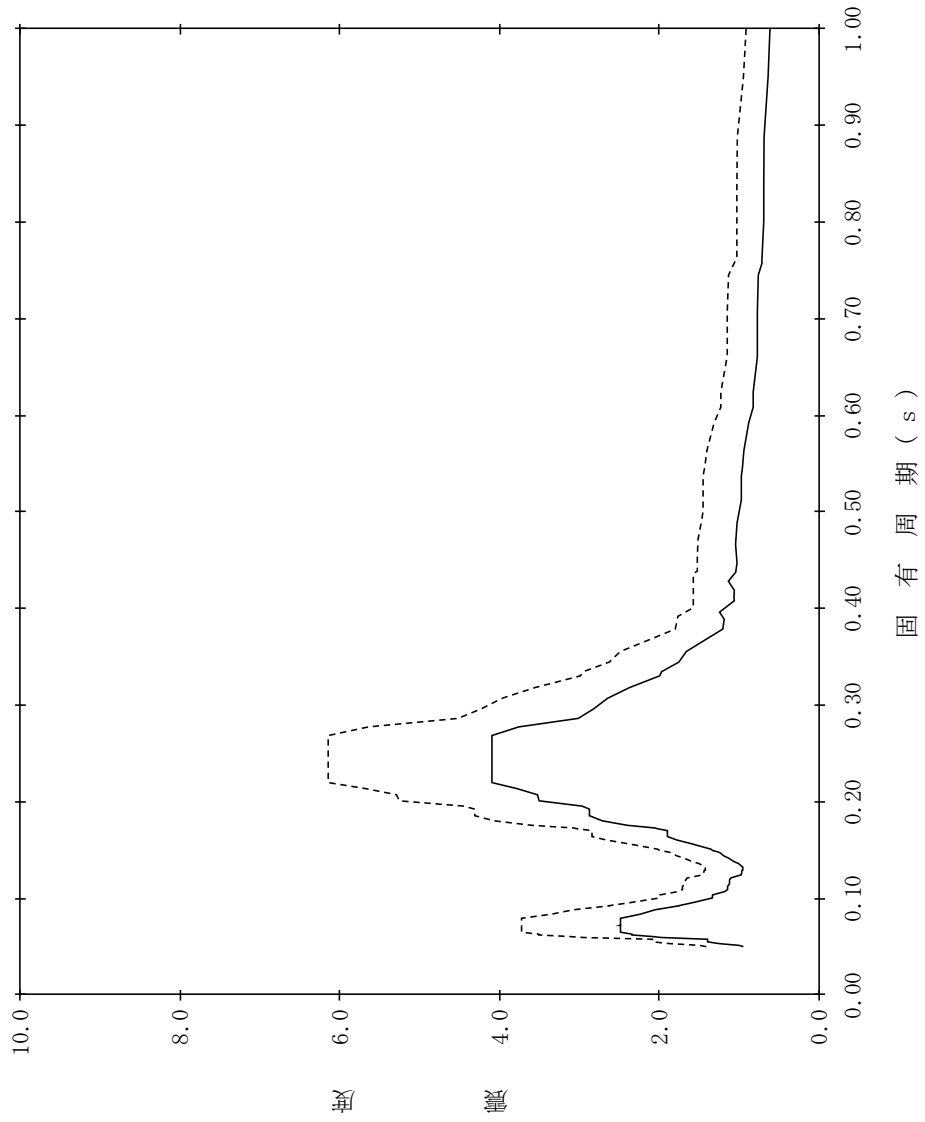
【NS2-RwB-SdNS-RwB44】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



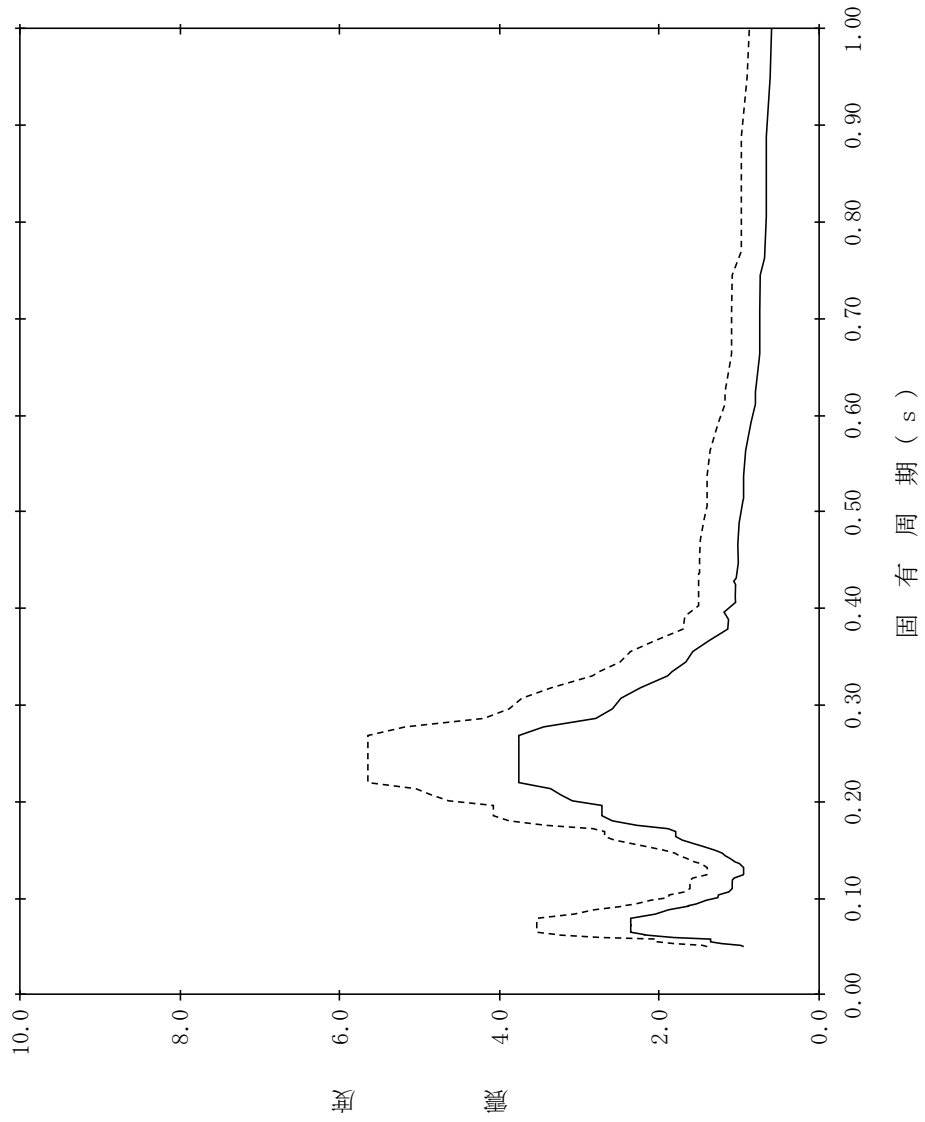
【NS2-RwB-SdNS-RwB45】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL16.900m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



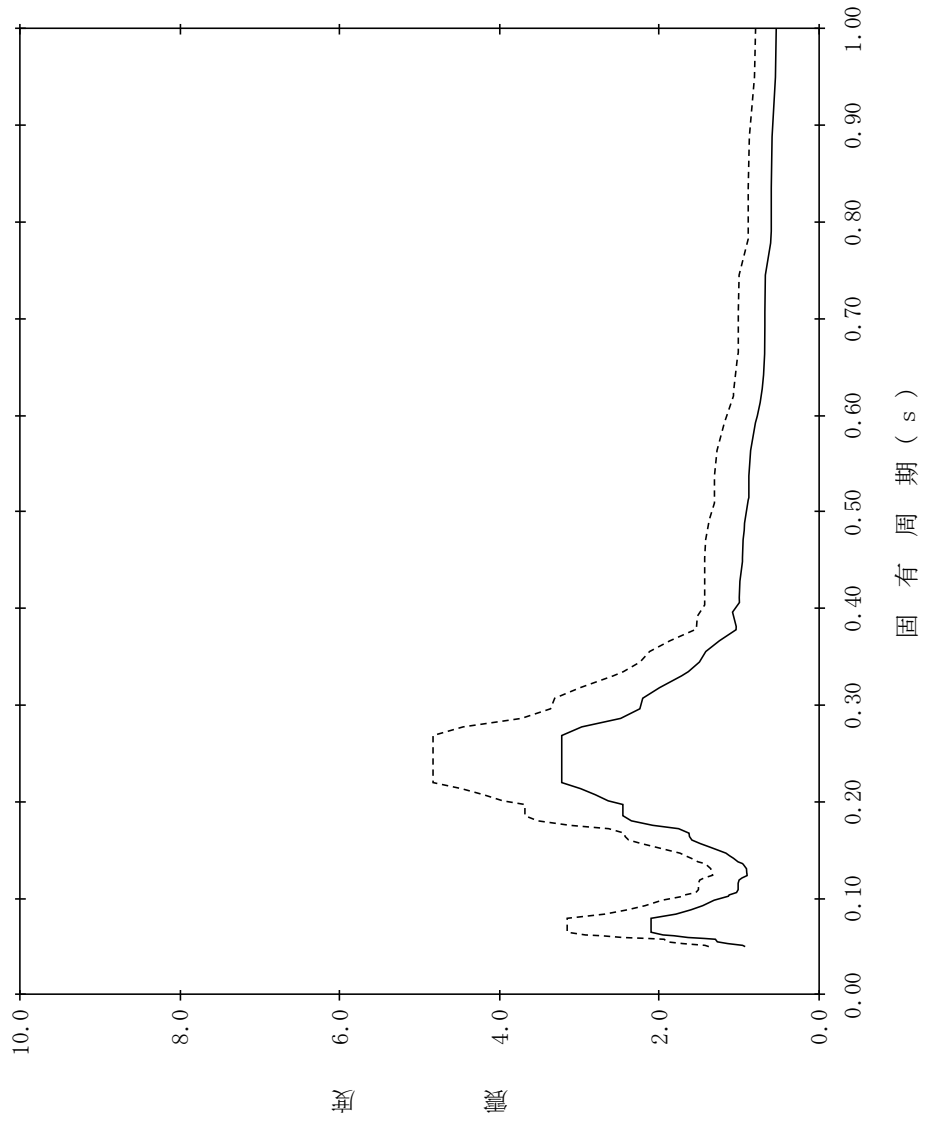
【NS2-RwB-SdNS-RwB46】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



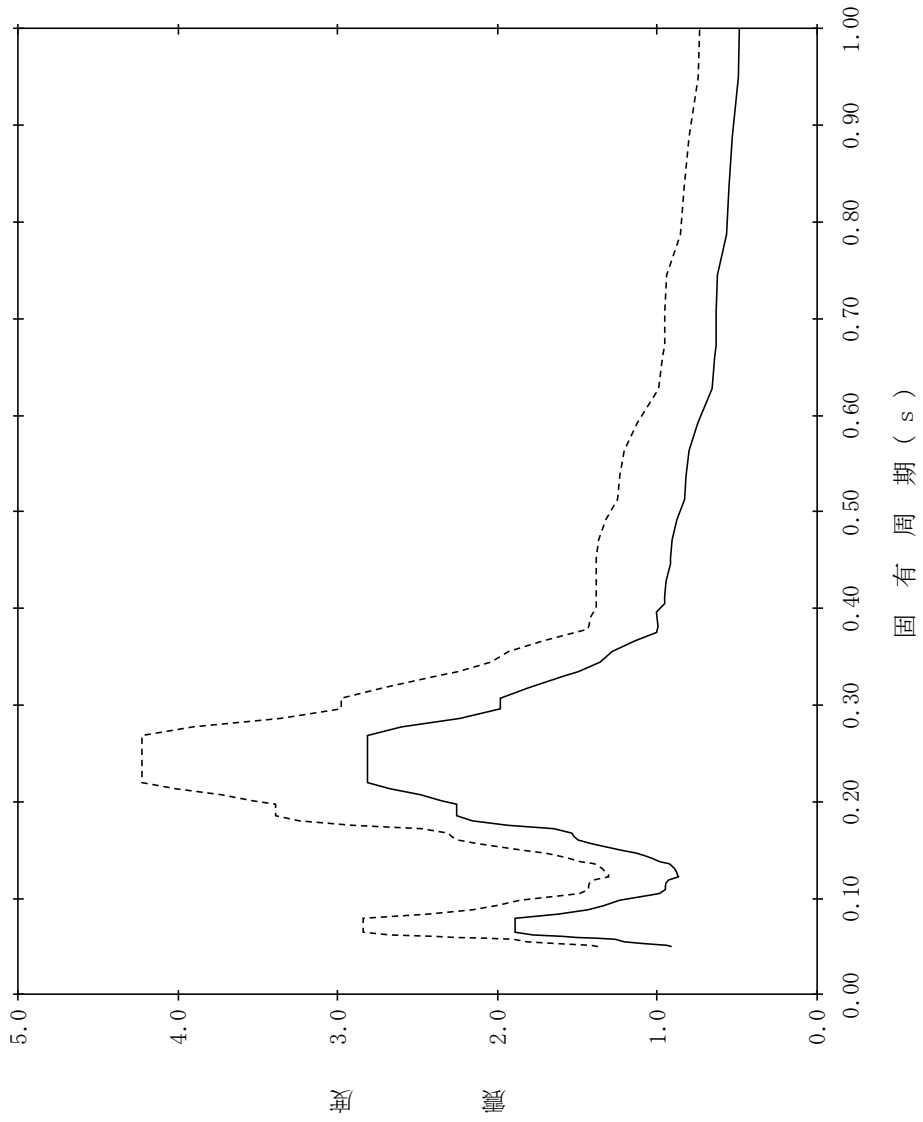
【NS2-RwB-SdNS-RwB47】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



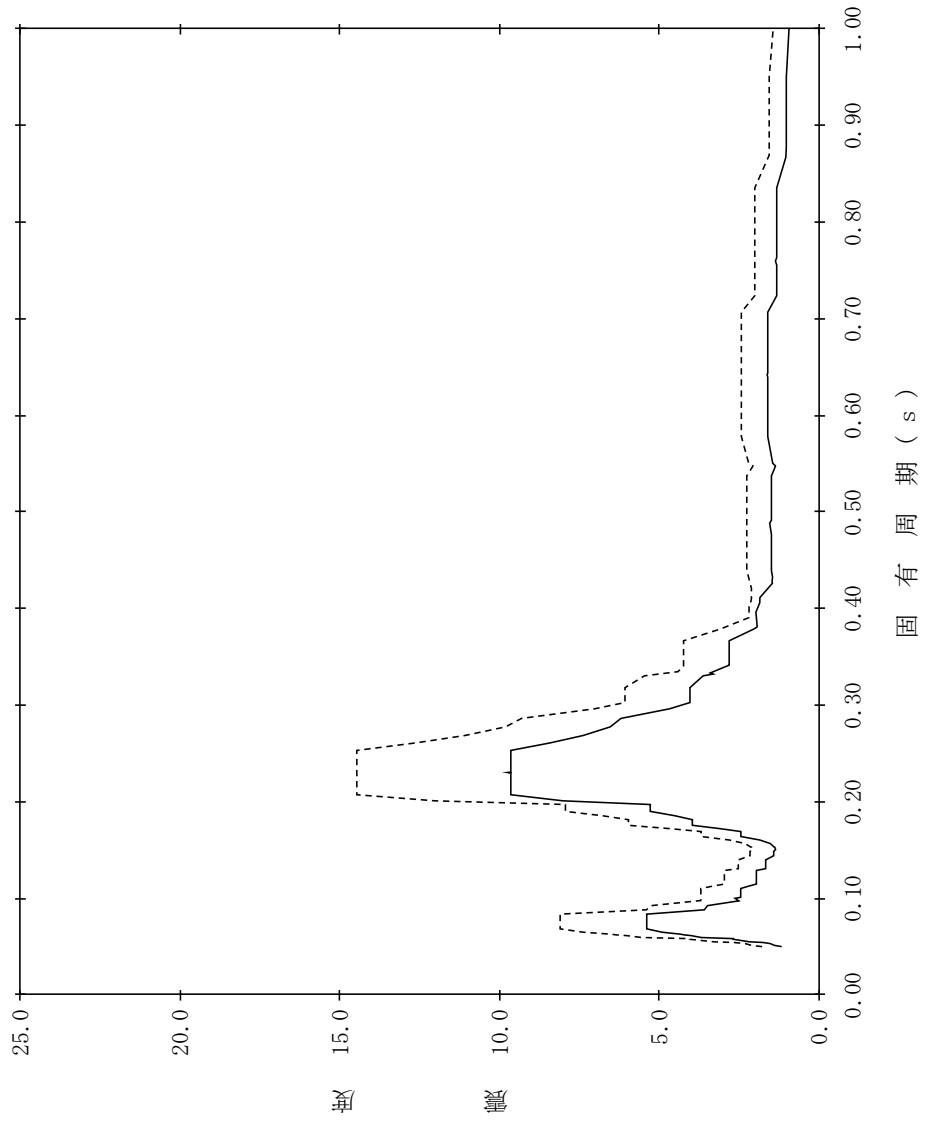
【NS2-RwB-SdNS-RwB48】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



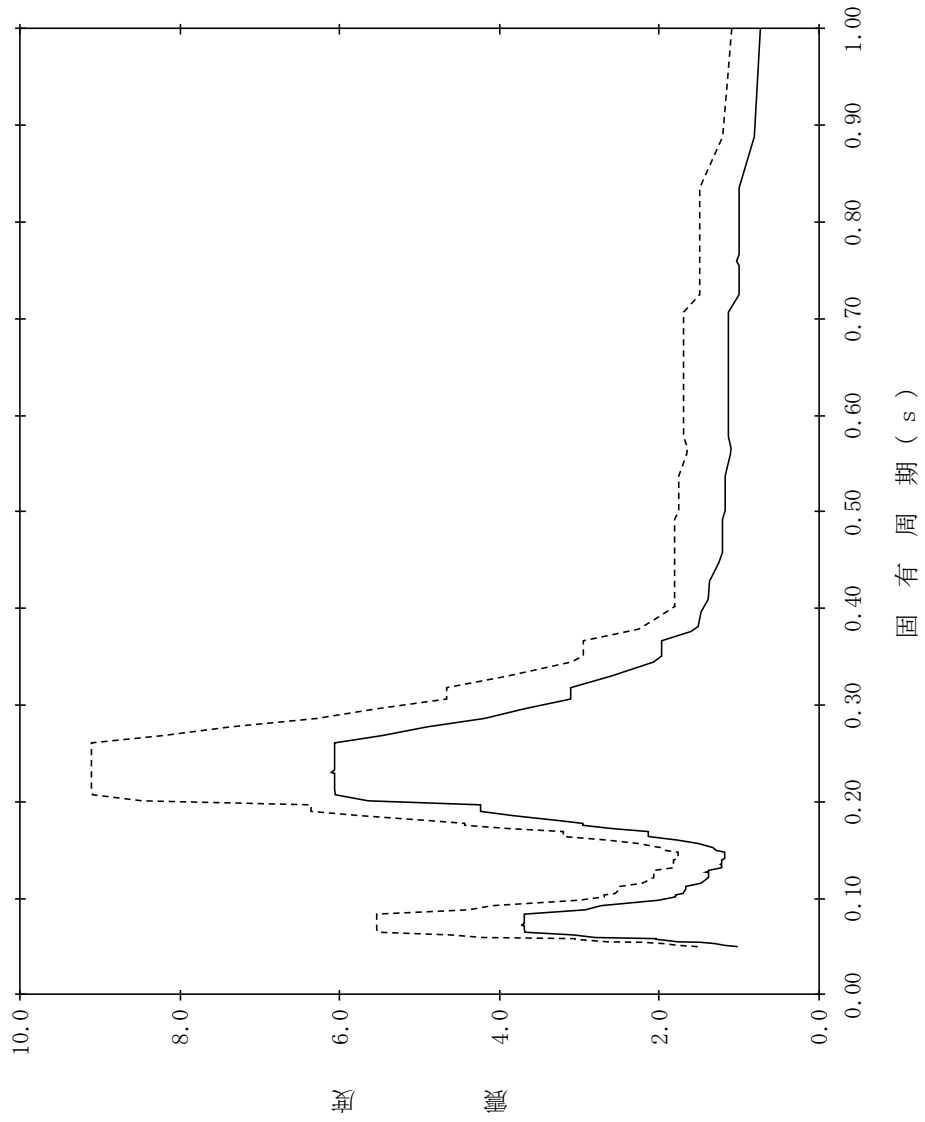
【NS2-RwB-SdNS-RwB49】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



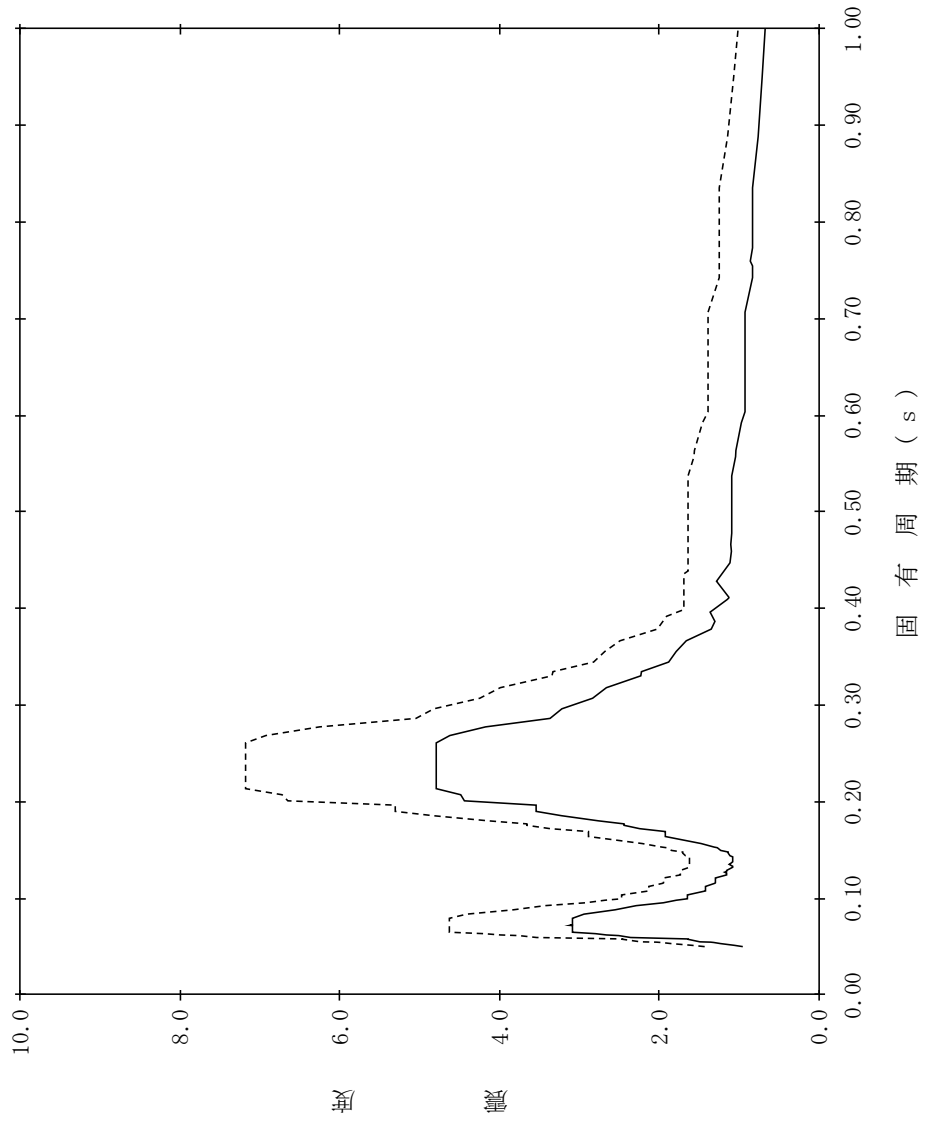
【NS2-RwB-SdNS-RwB50】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



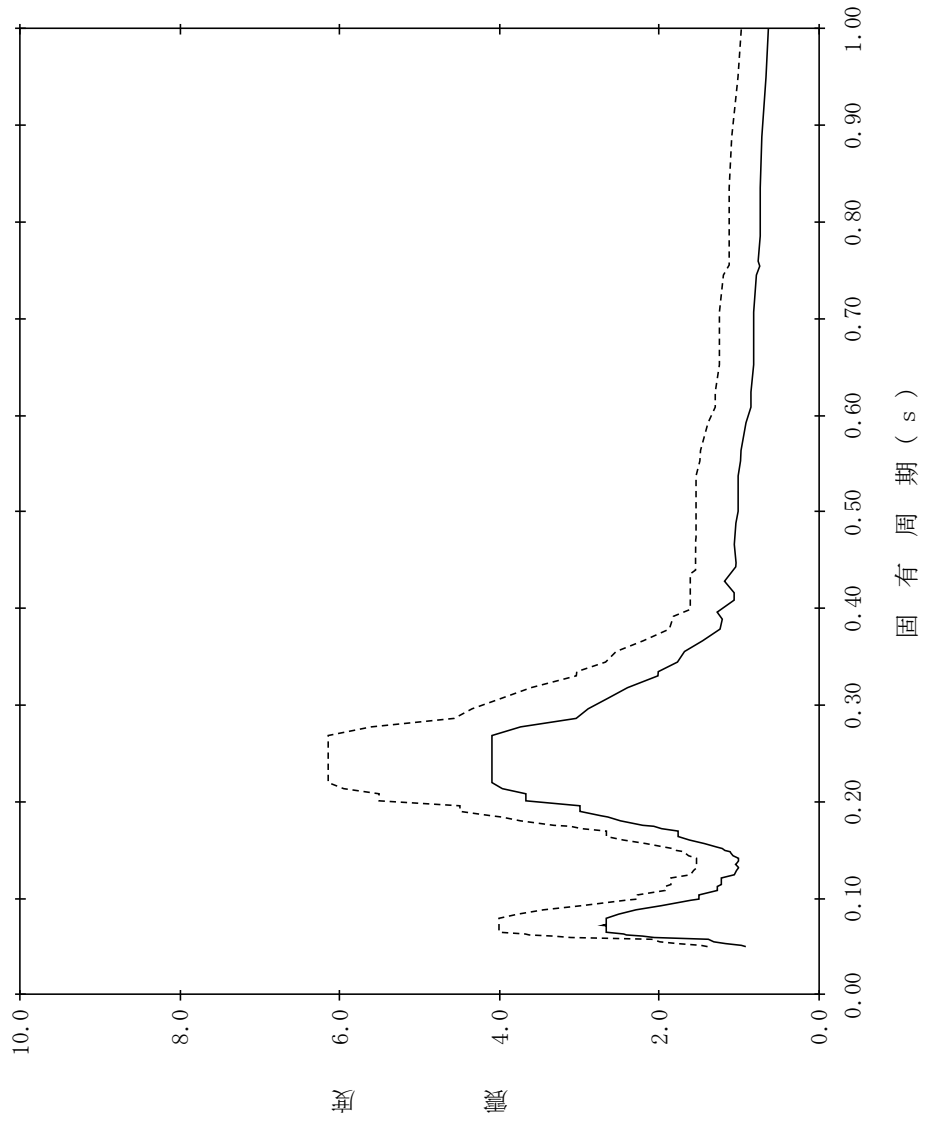
【NS2-RwB-SdNS-RwB51】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



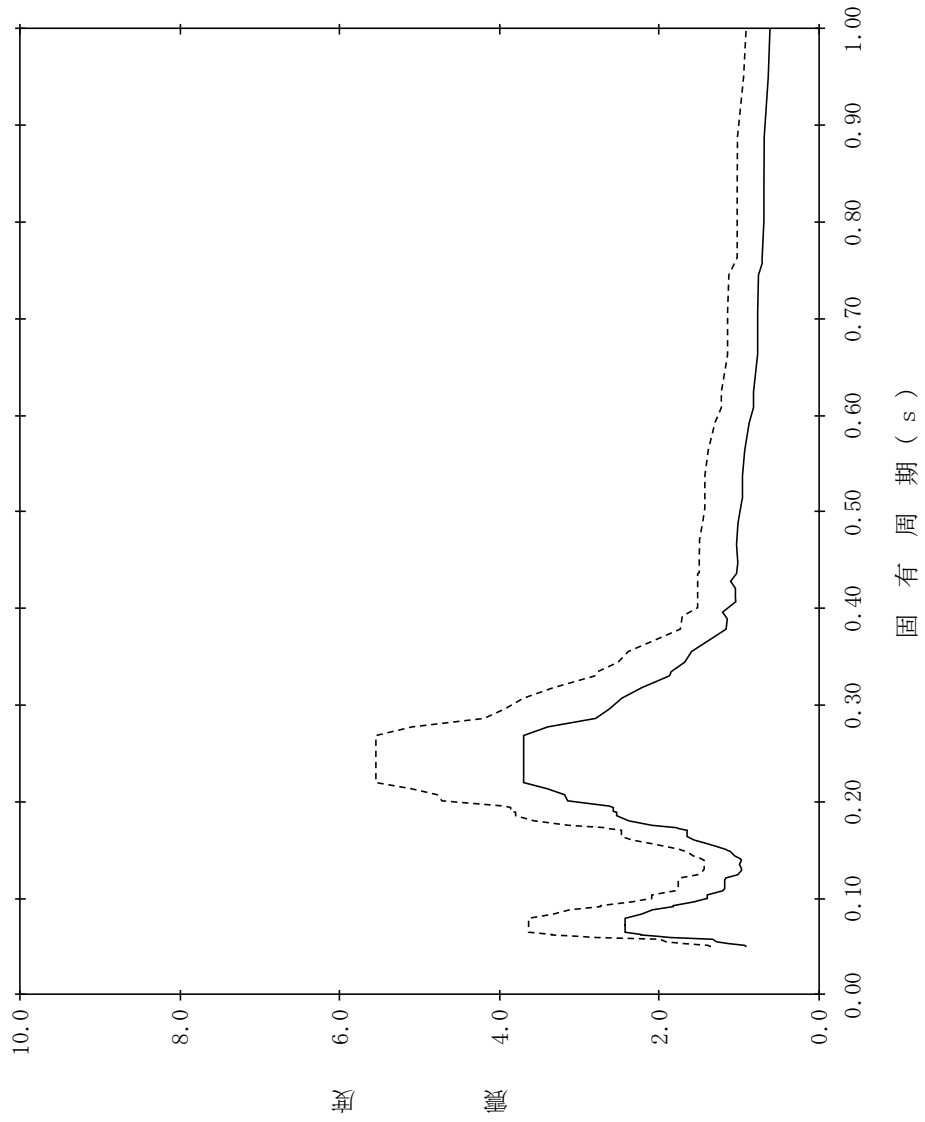
【NS2-RwB-SdNS-RwB52】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



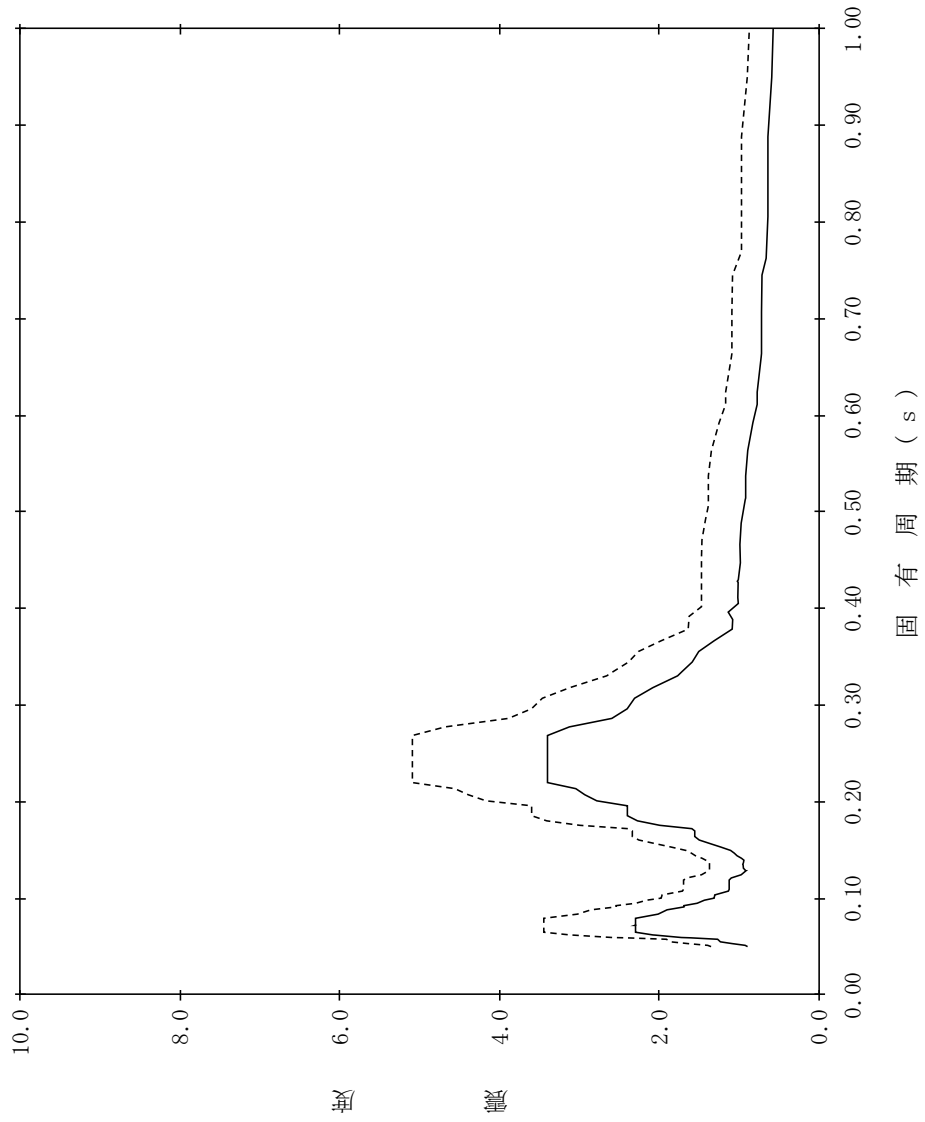
【NS2-RwB-SdNS-RwB53】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



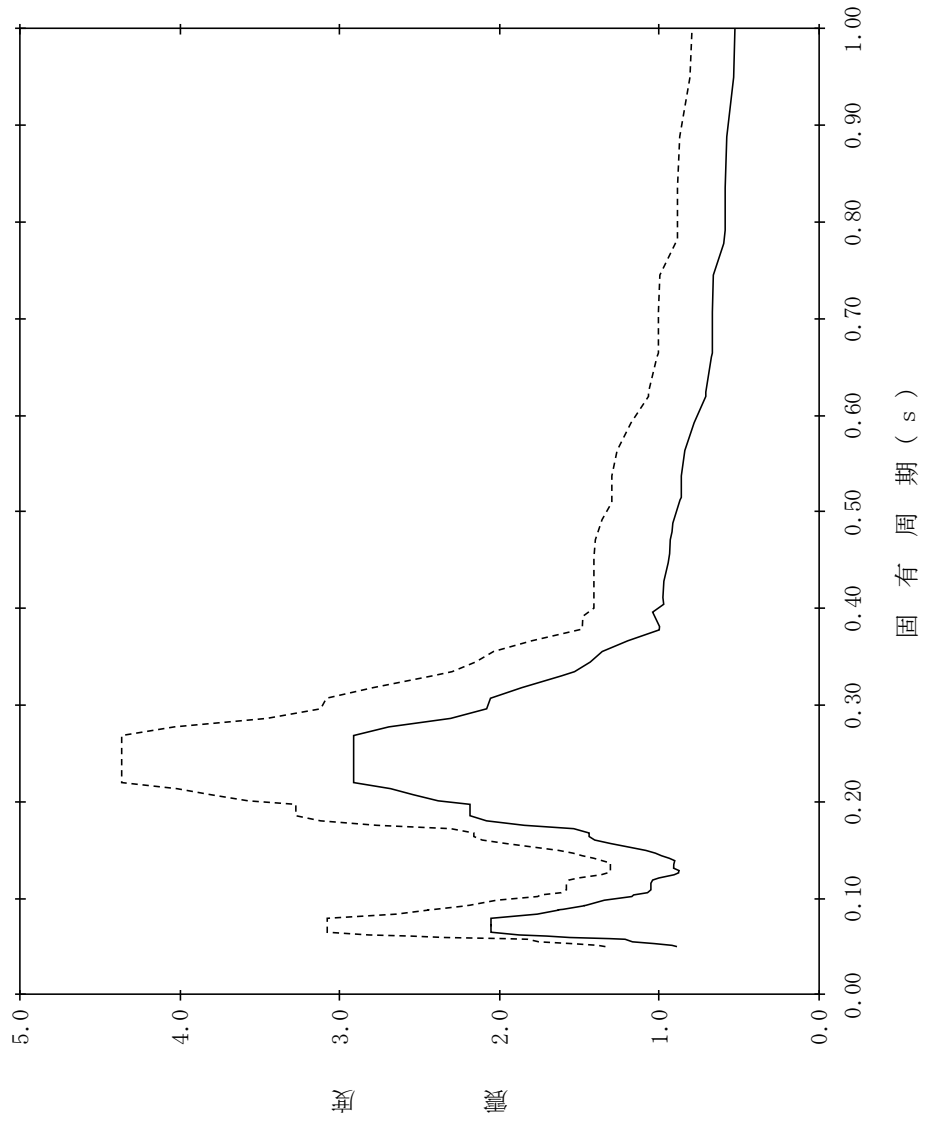
【NS2-RwB-SdNS-RwB54】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



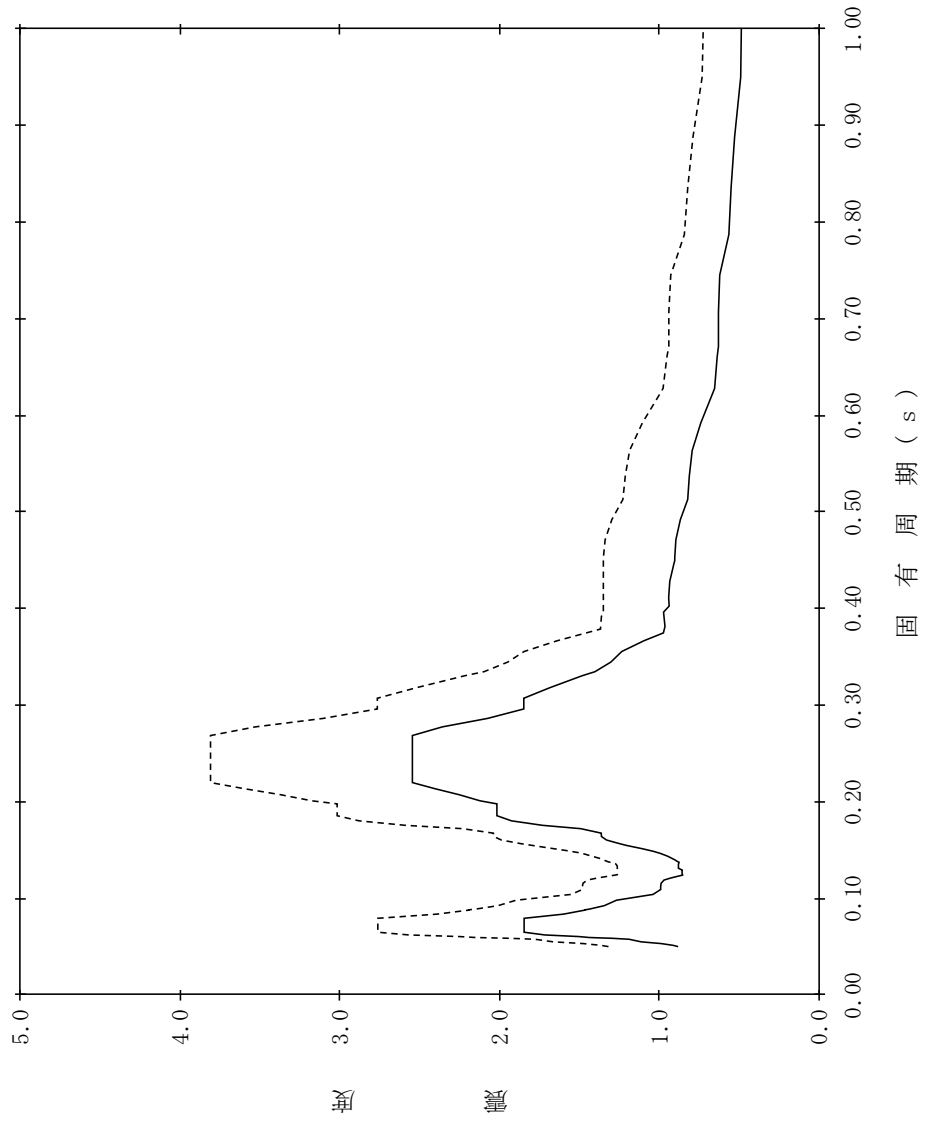
【NS2-RwB-SdNS-RwB55】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



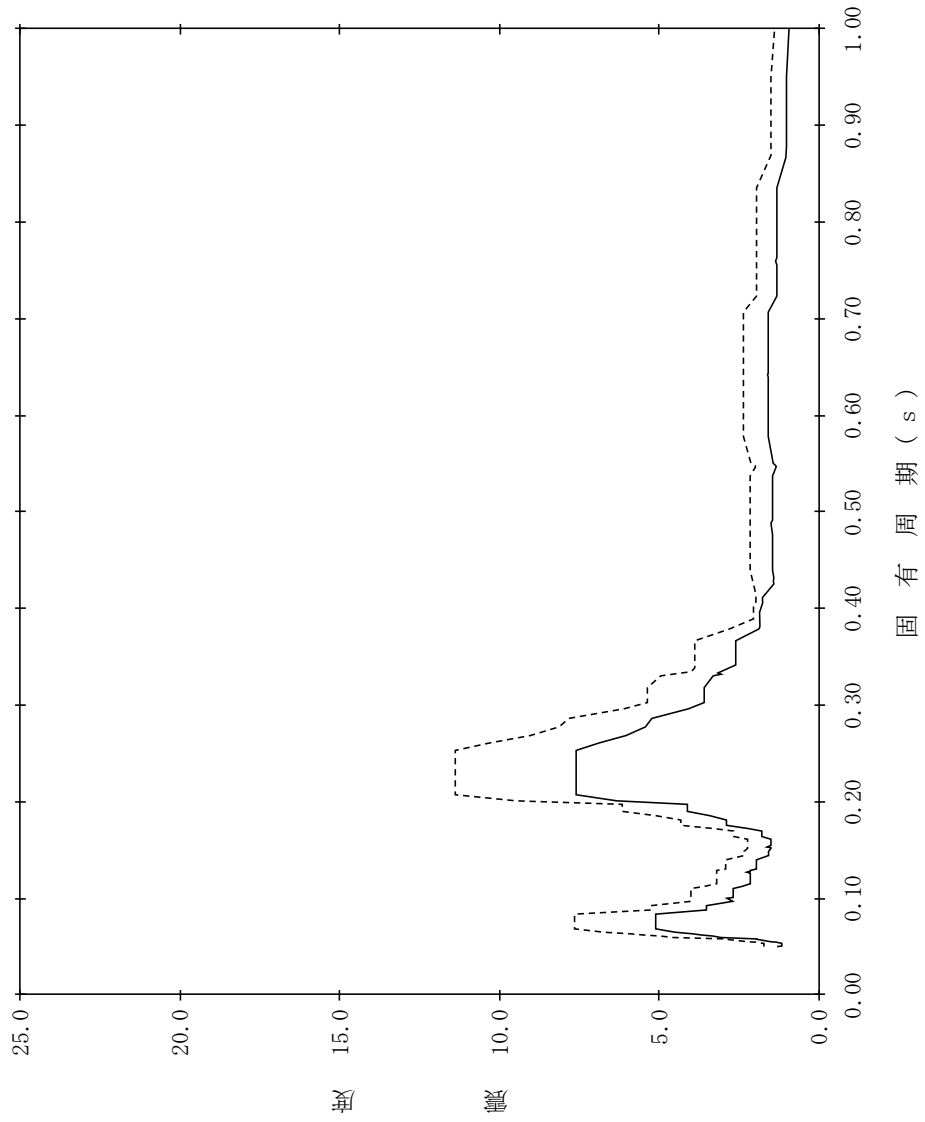
【NS2-RwB-SdNS-RwB56】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



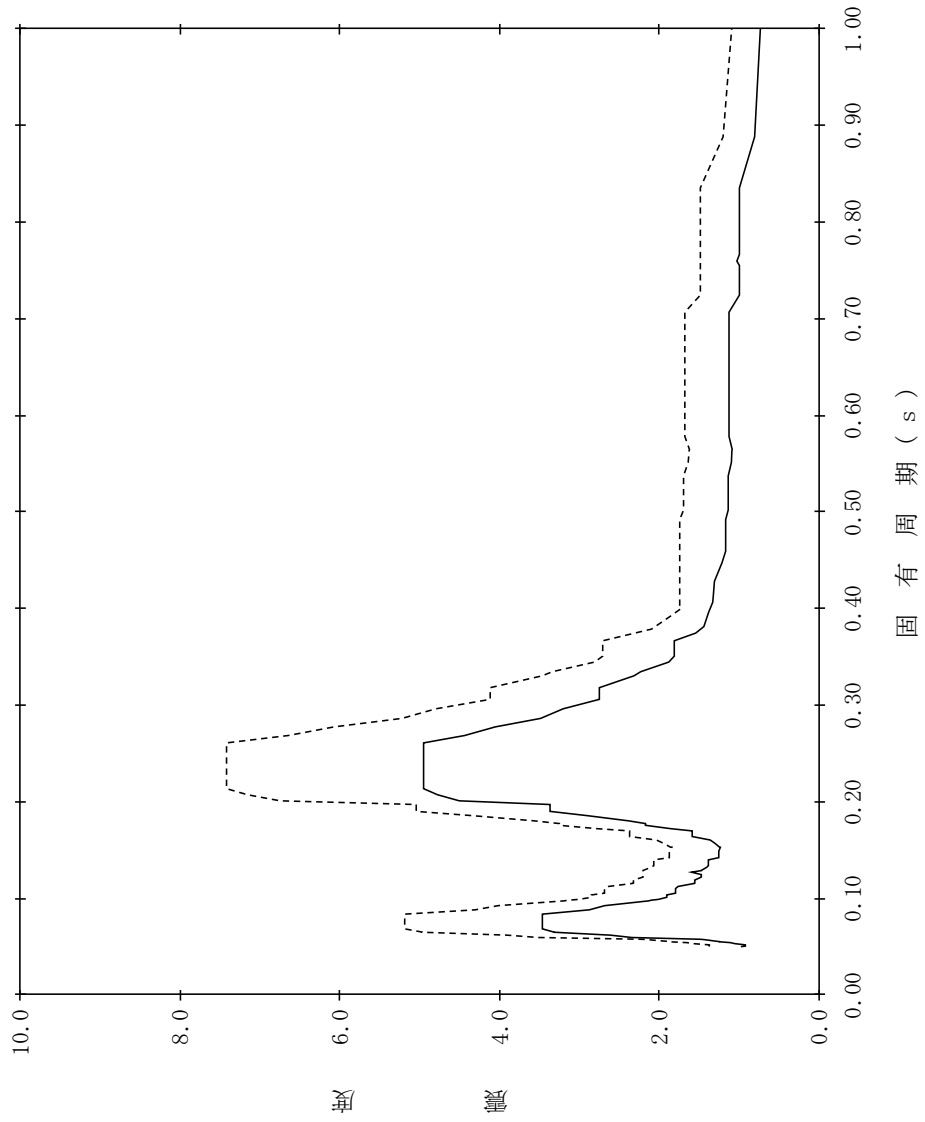
【NS2-RwB-SdNS-RwB57】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



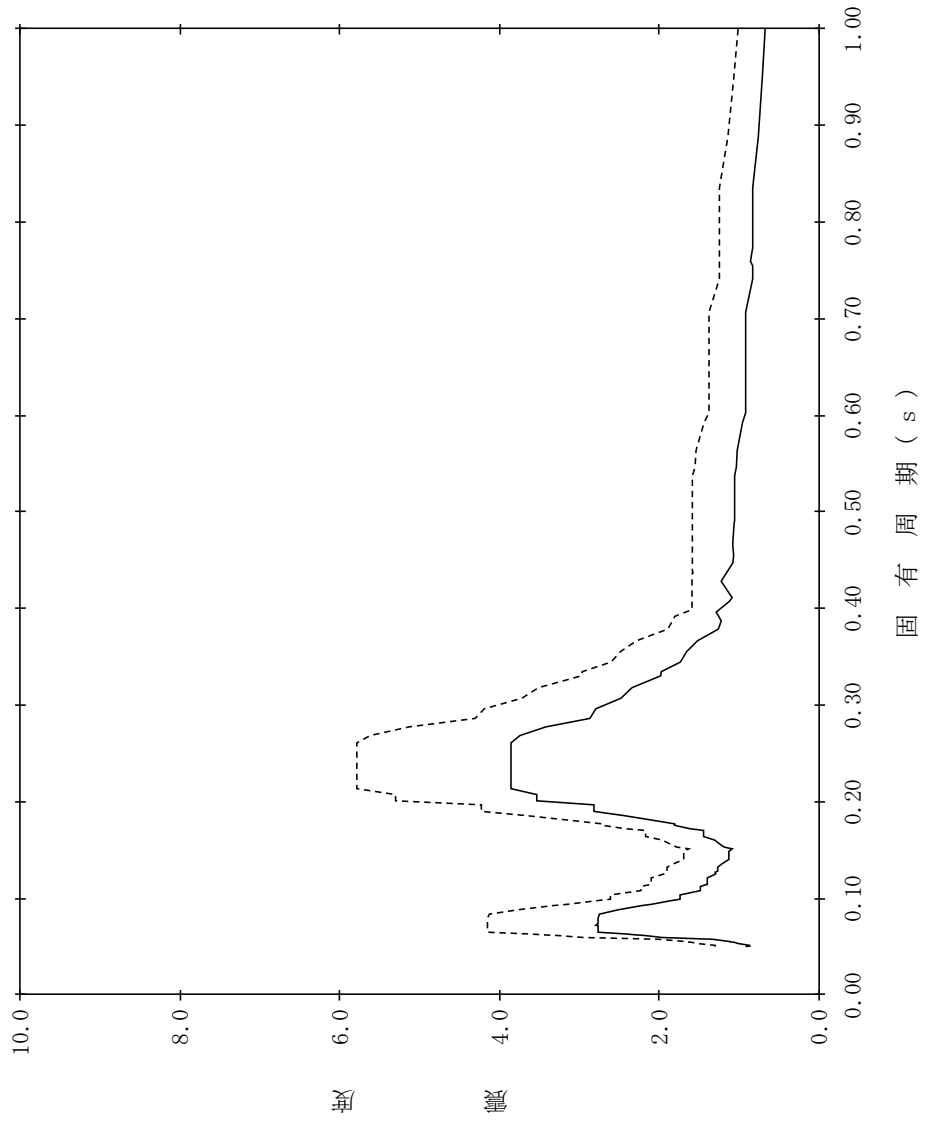
【NS2-RwB-SdNS-RwB58】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



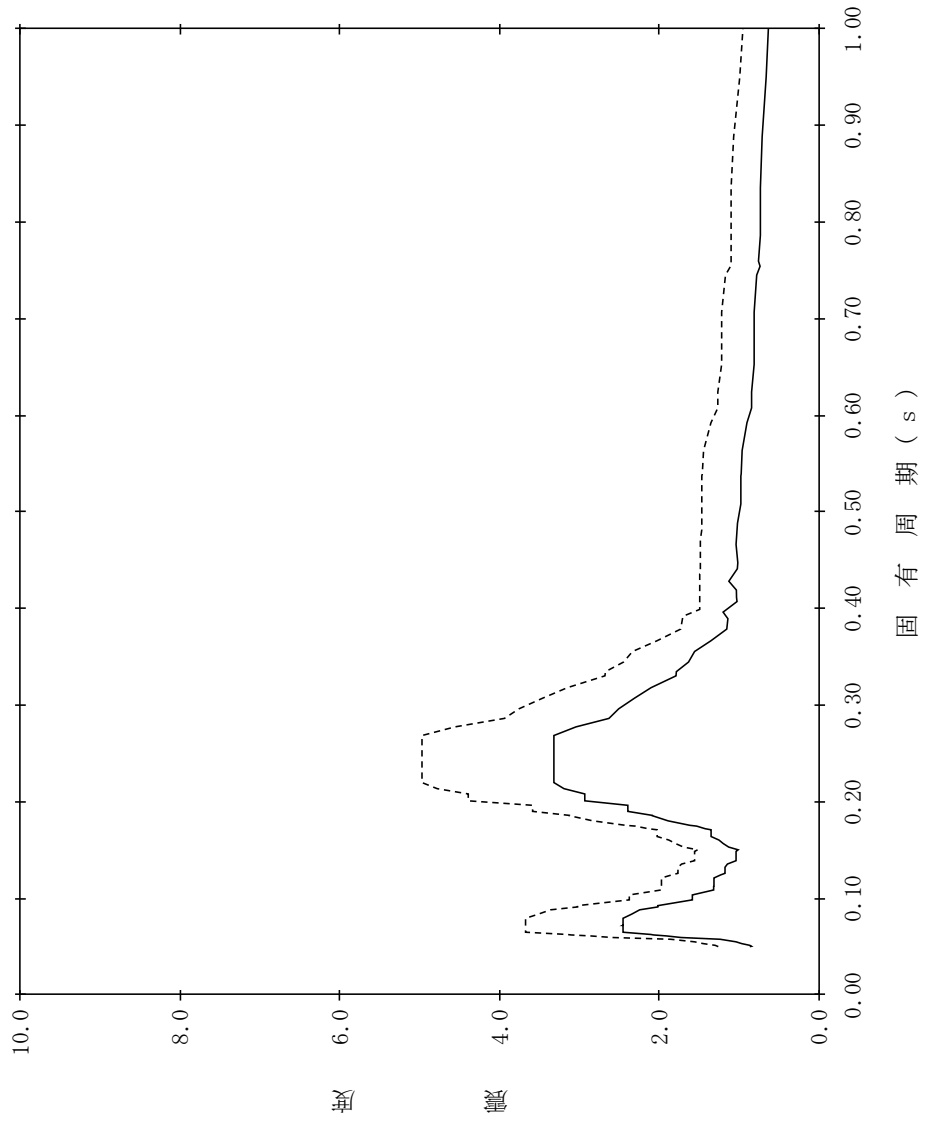
【NS2-RwB-SdNS-RwB59】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL12.300m
減衰定数：1.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



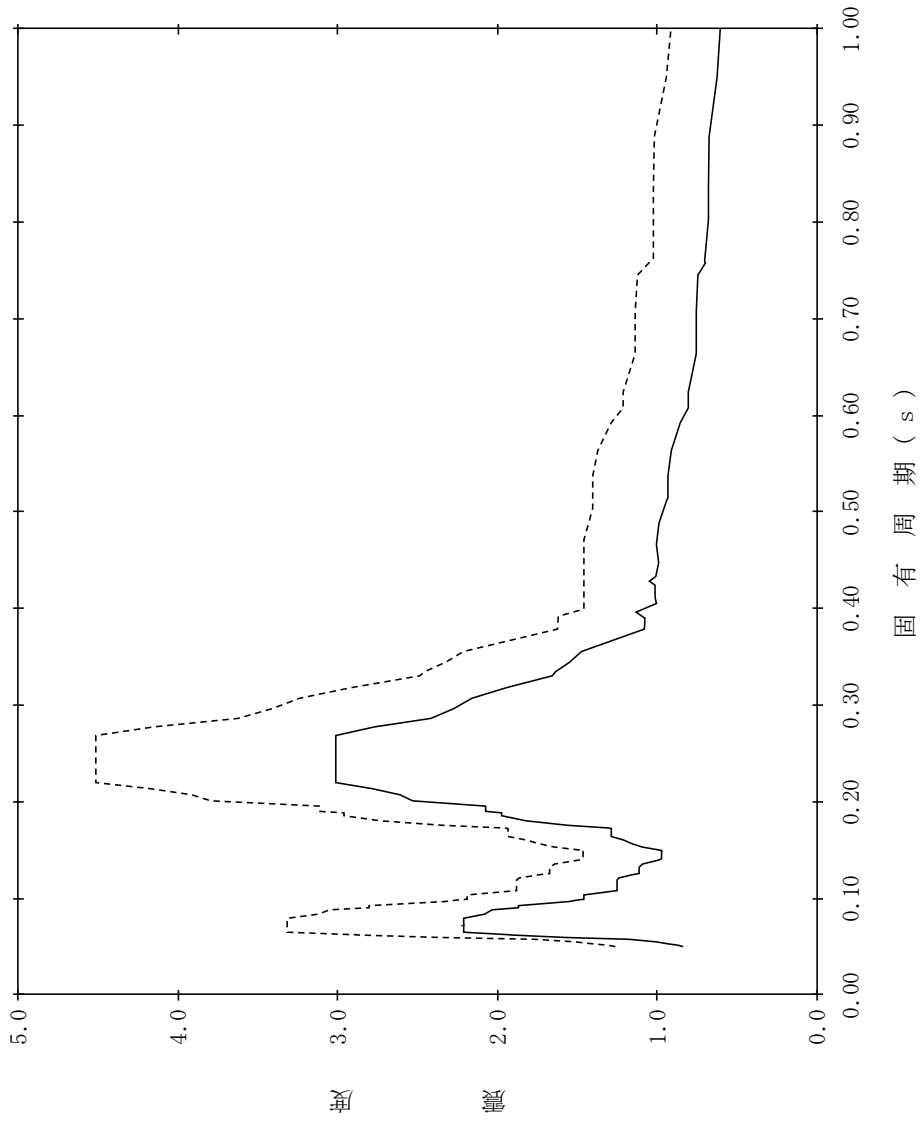
【NS2-RwB-SdNS-RwB60】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



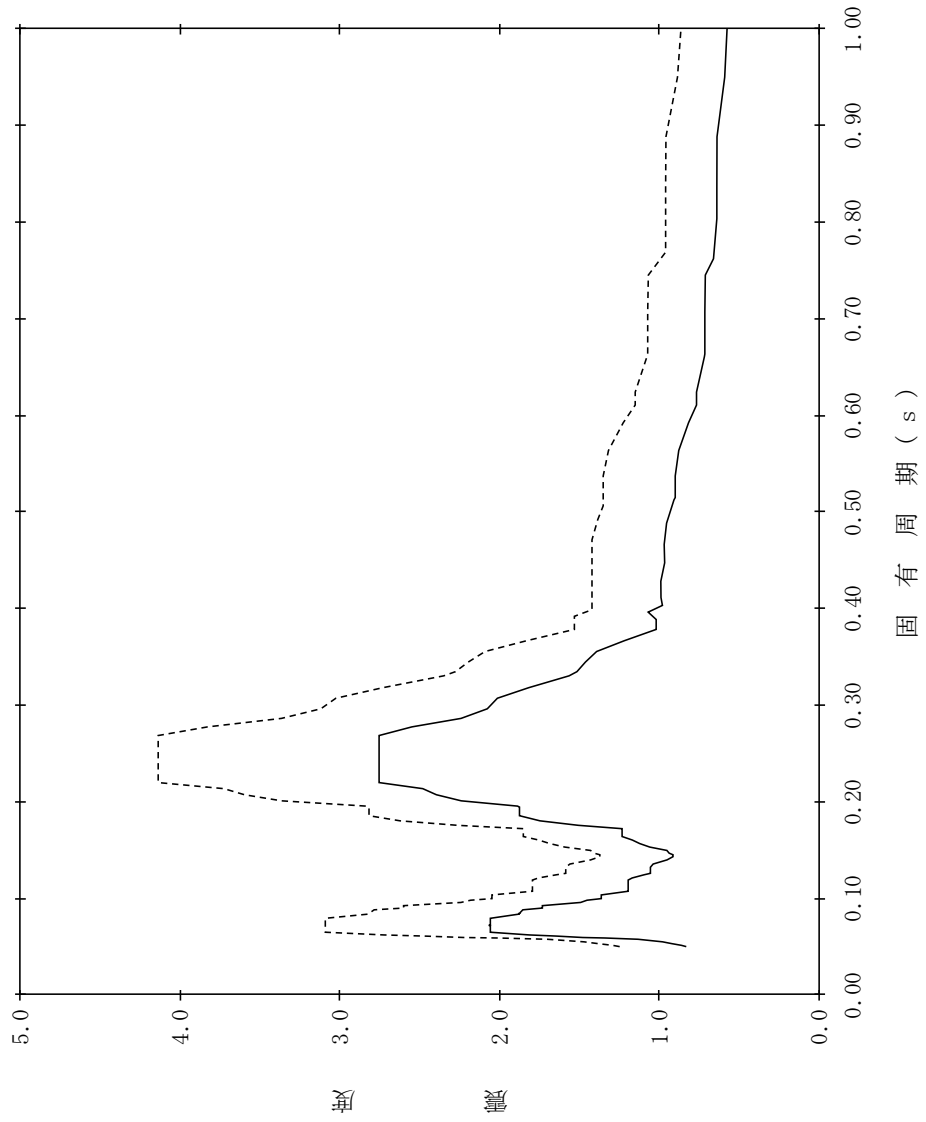
【NS2-RwB-SdNS-RwB61】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL12.300m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



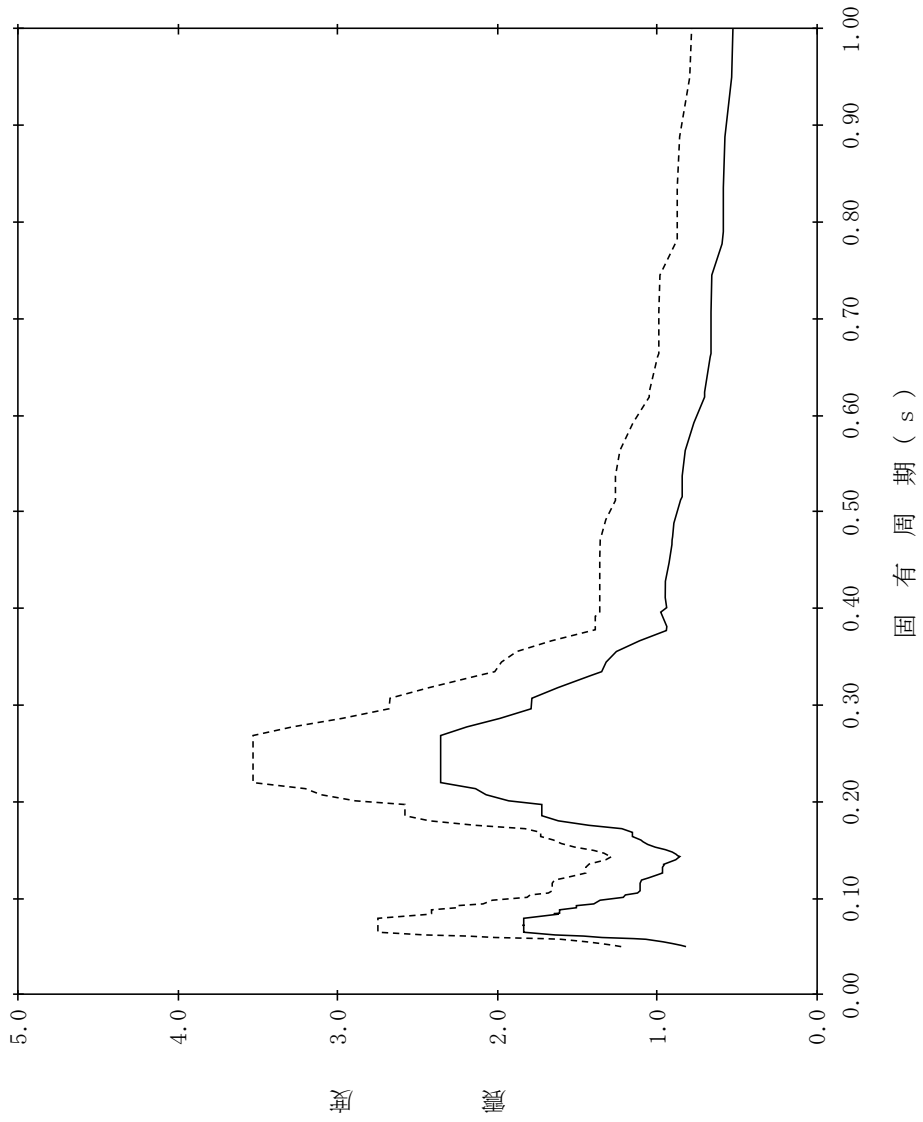
【NS2-RwB-SdNS-RwB62】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



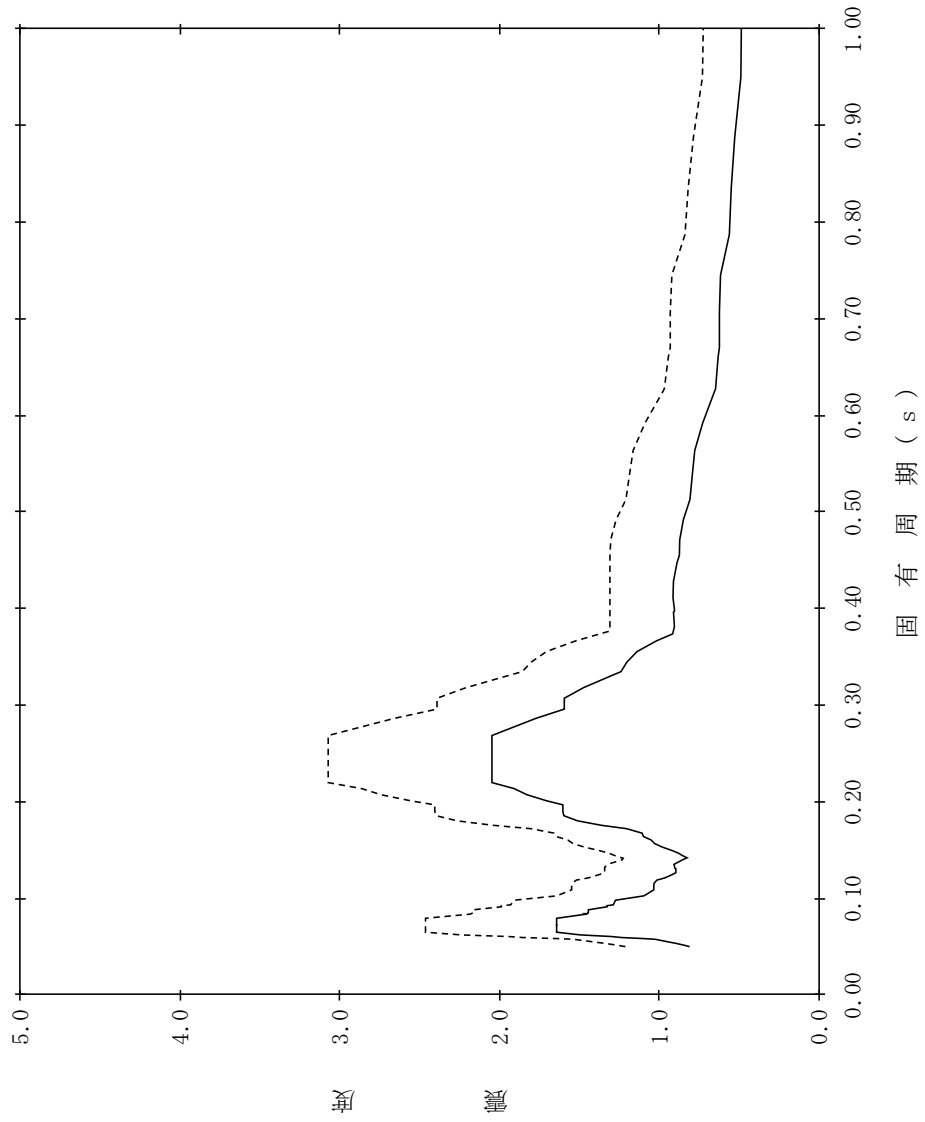
【NS2-RwB-SdNS-RwB63】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



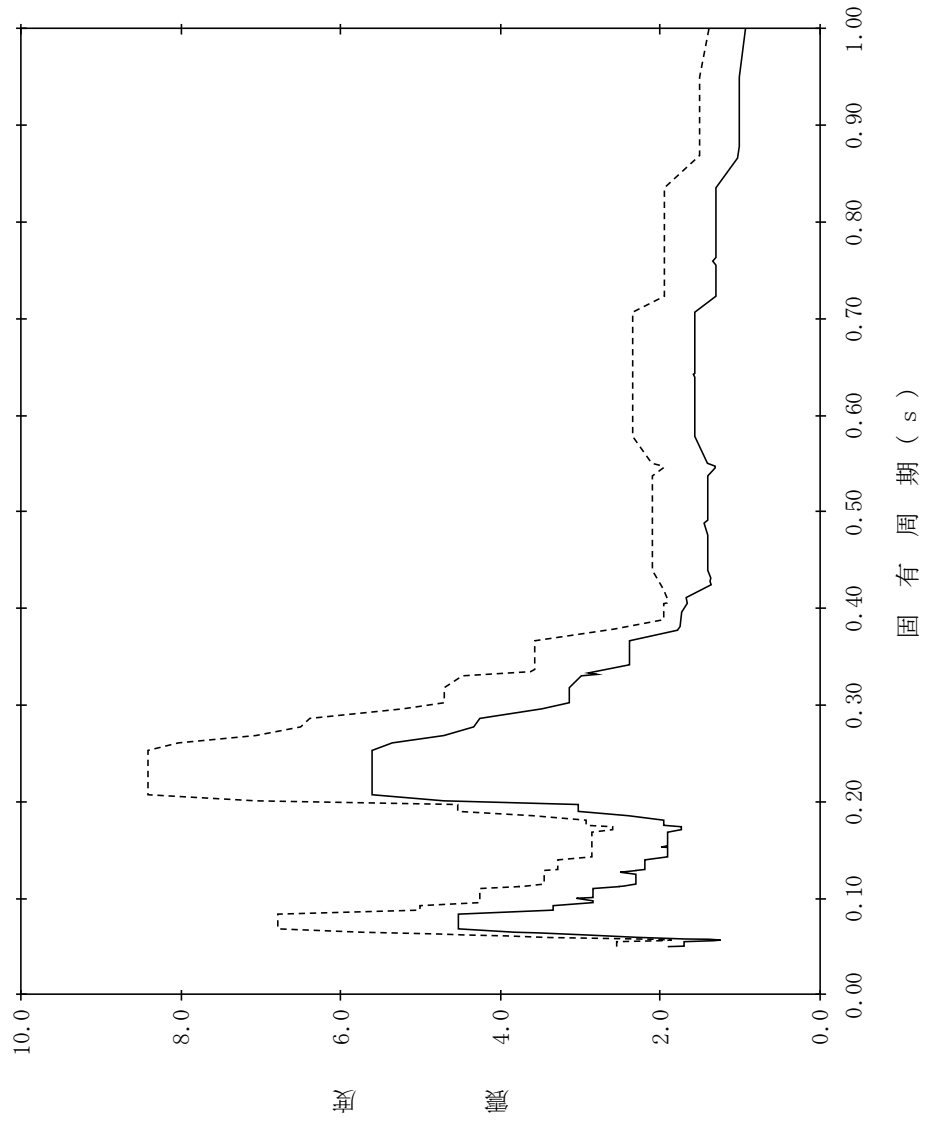
【NS2-RwB-SdNS-RwB64】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



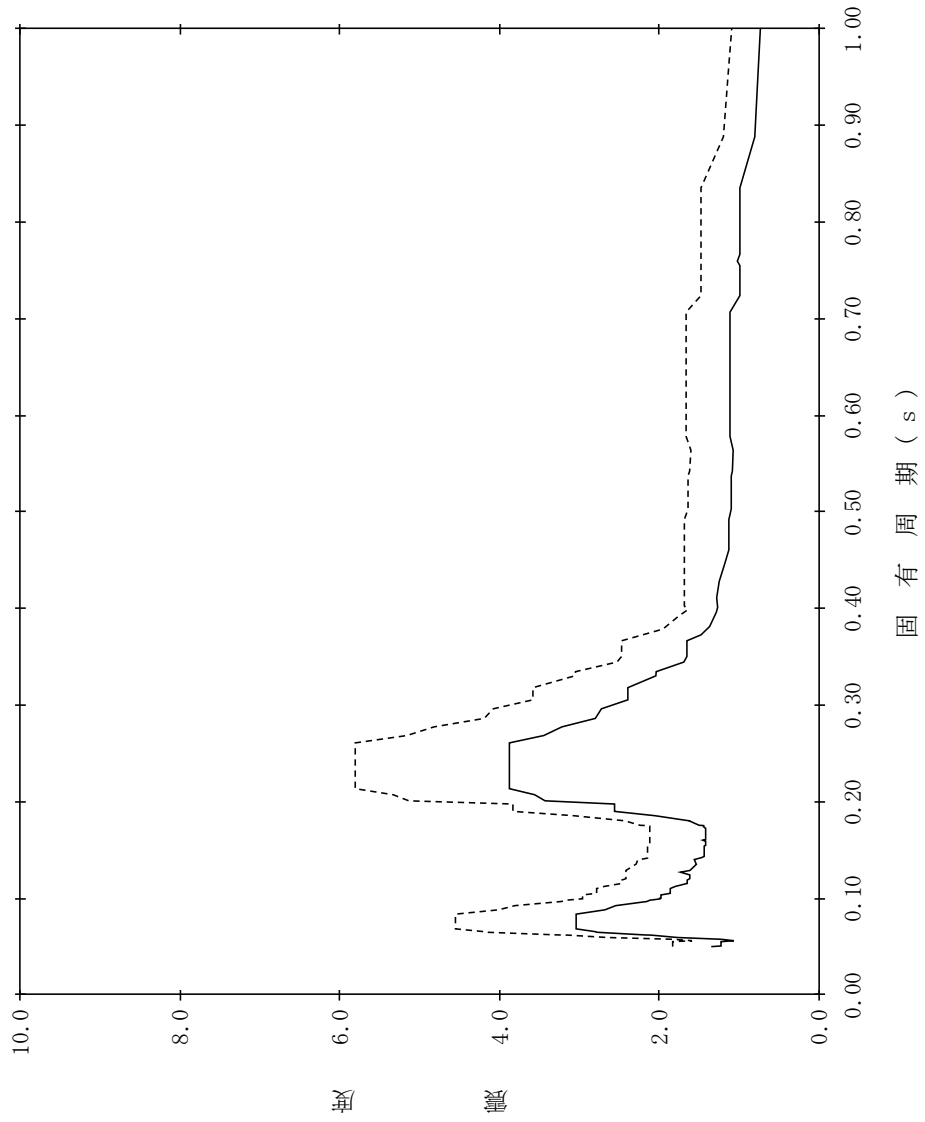
【NS2-RwB-SdNS-RwB65】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

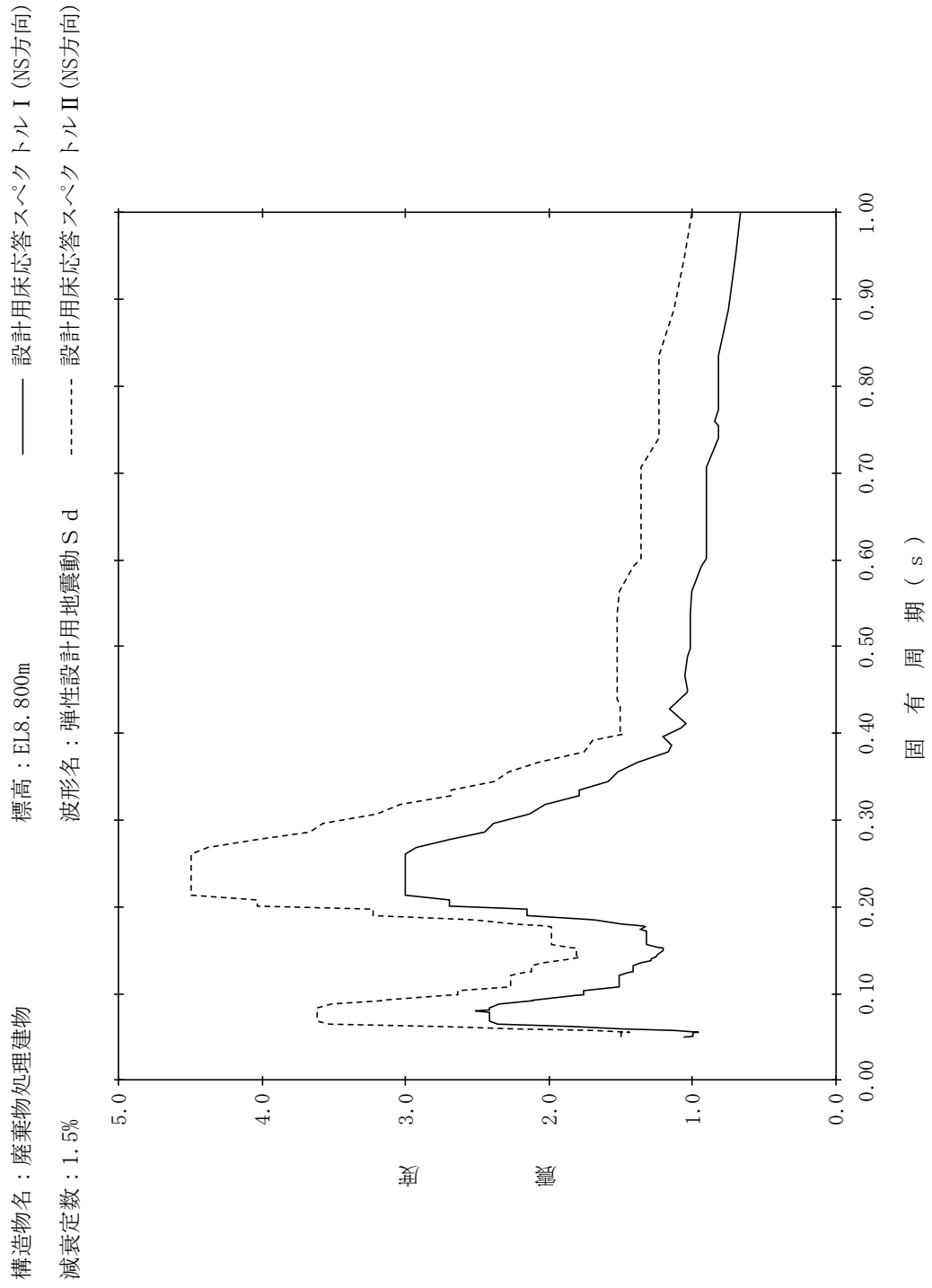


【NS2-RwB-SdNS-RwB66】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

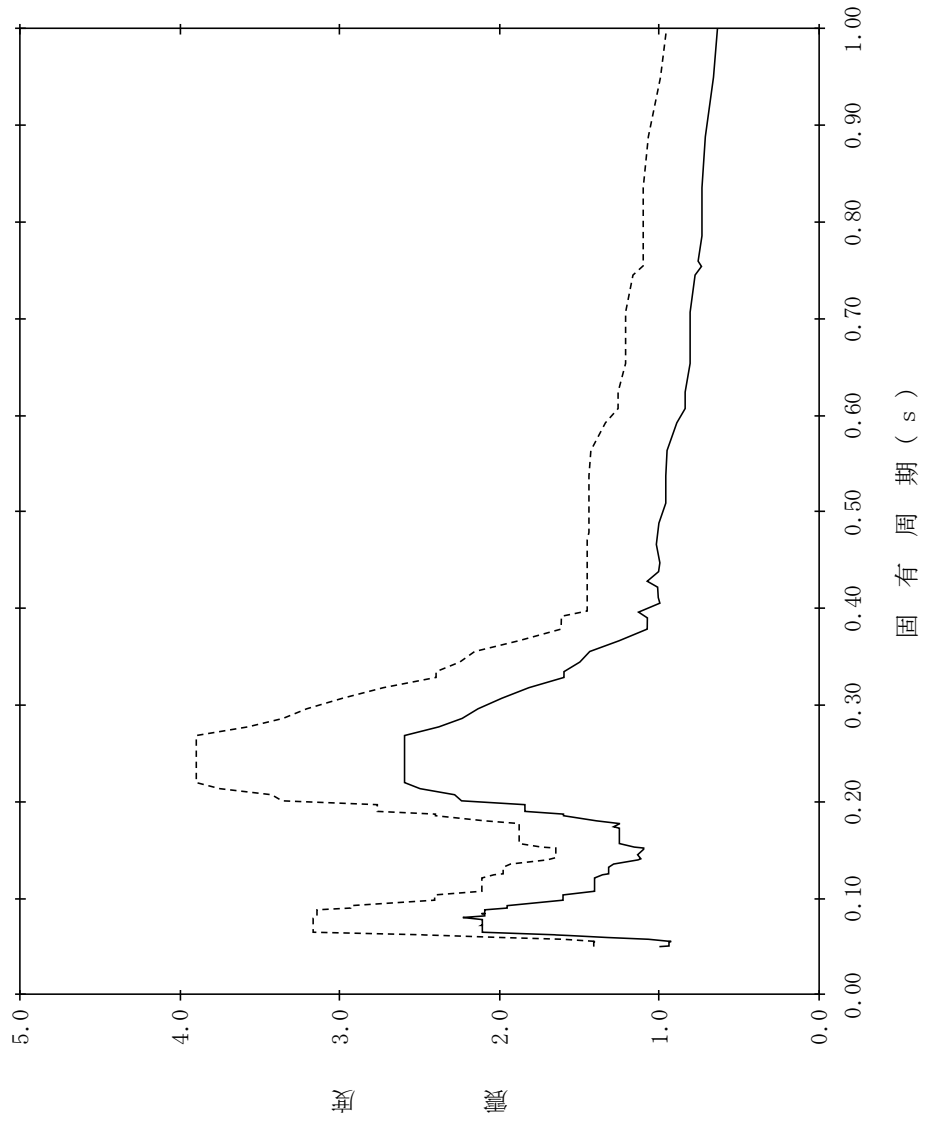


【NS2-RwB-SdNS-RwB67】



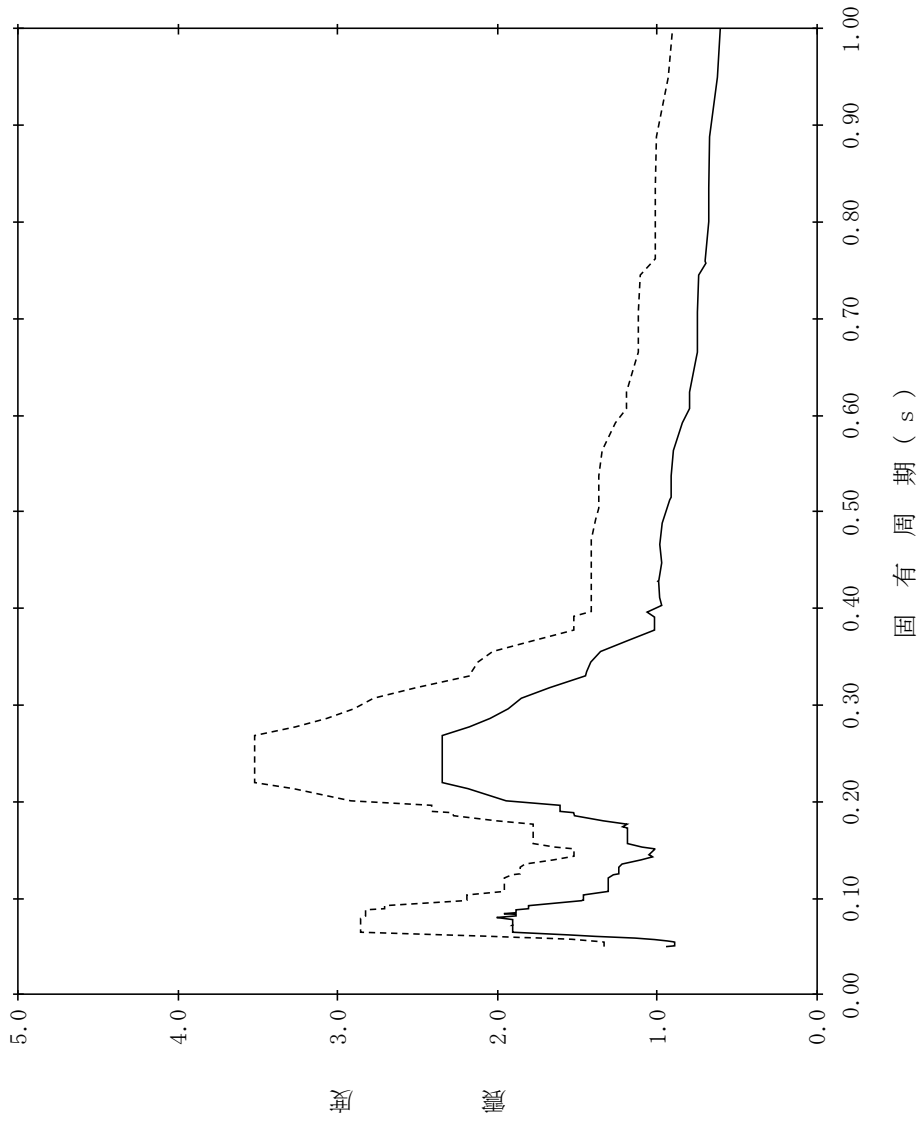
【NS2-RwB-SdNS-RwB68】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



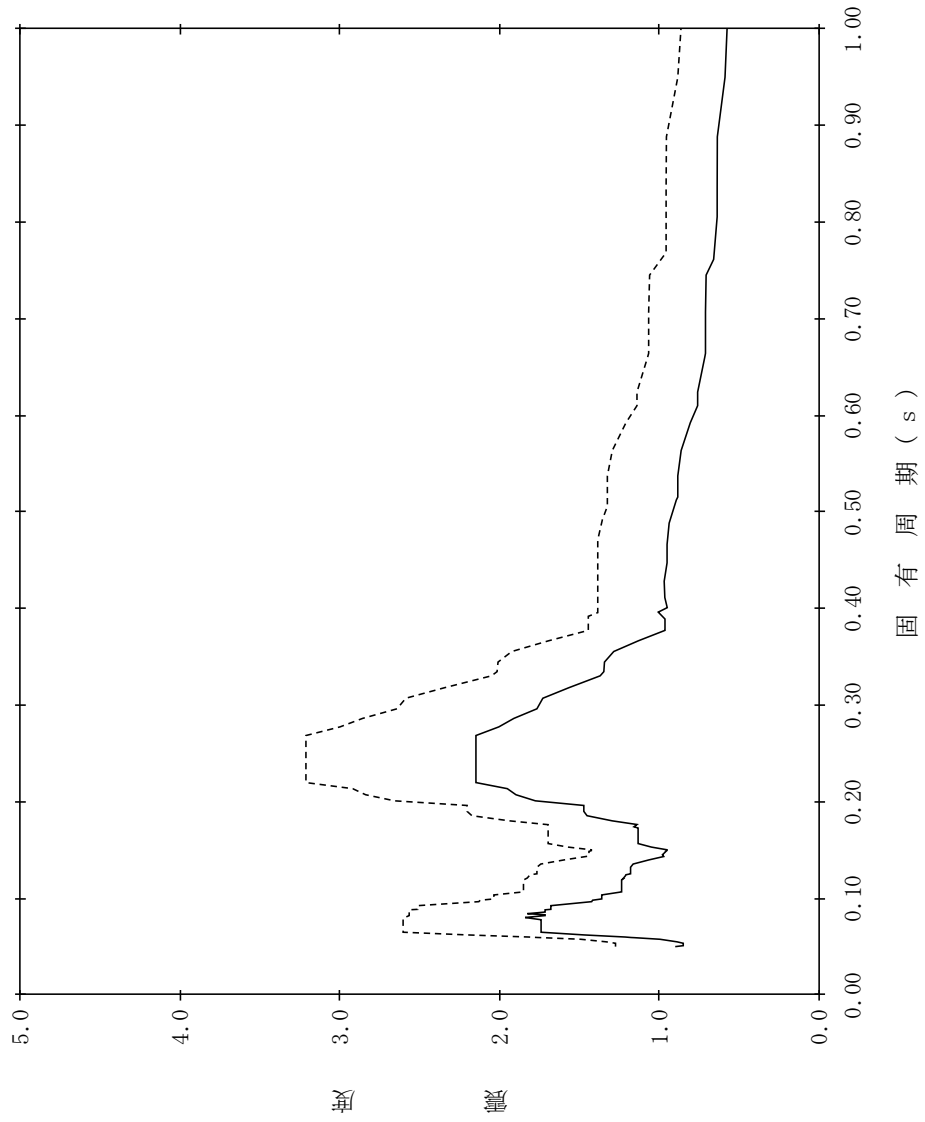
【NS2-RwB-SdNS-RwB69】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



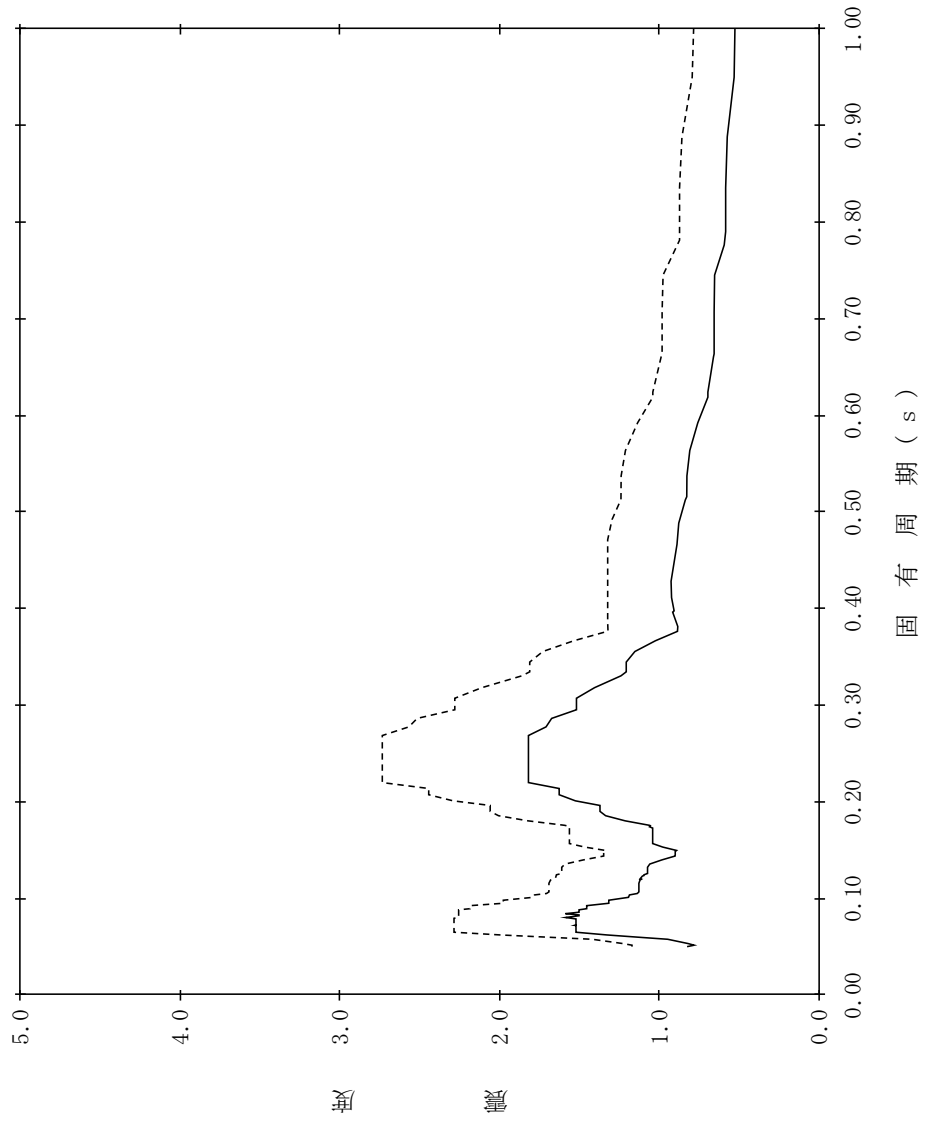
【NS2-RwB-SdNS-RwB70】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



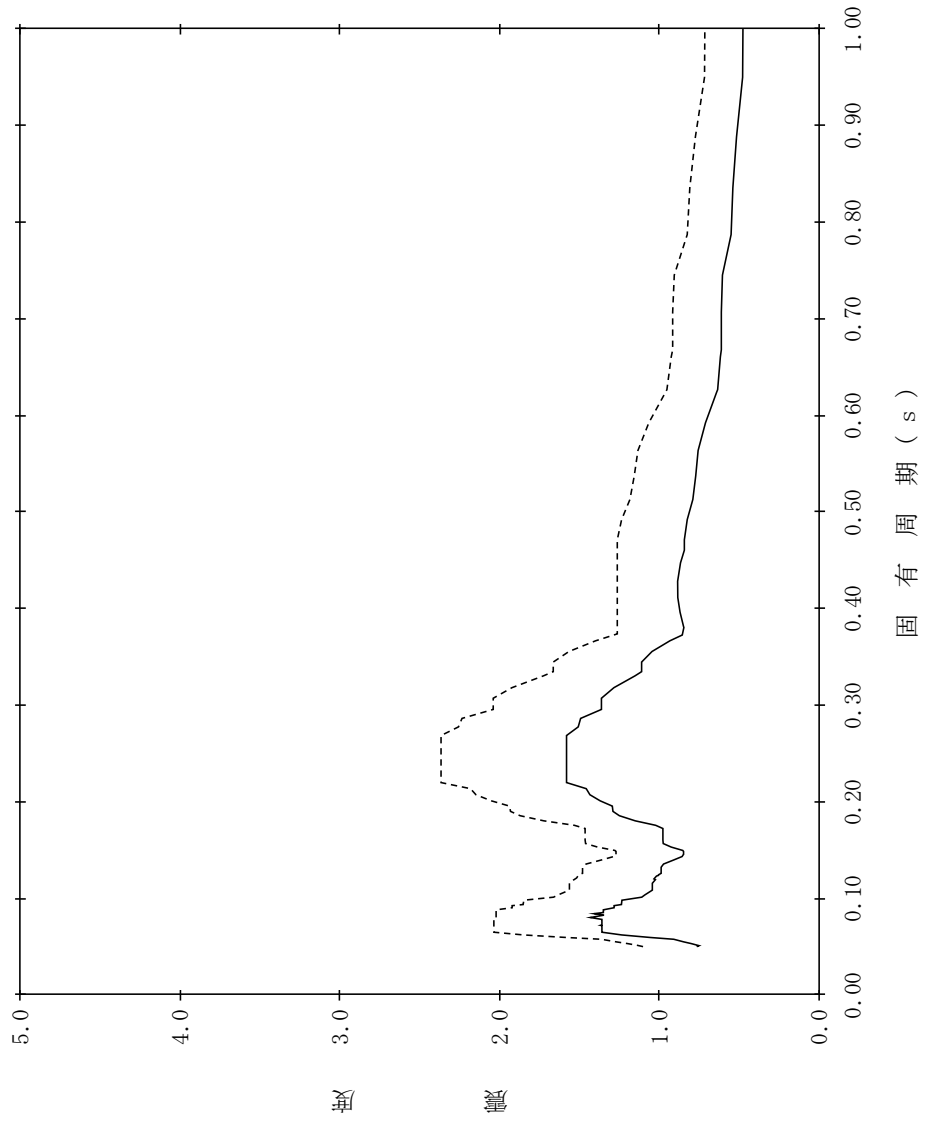
【NS2-RwB-SdNS-RwB71】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



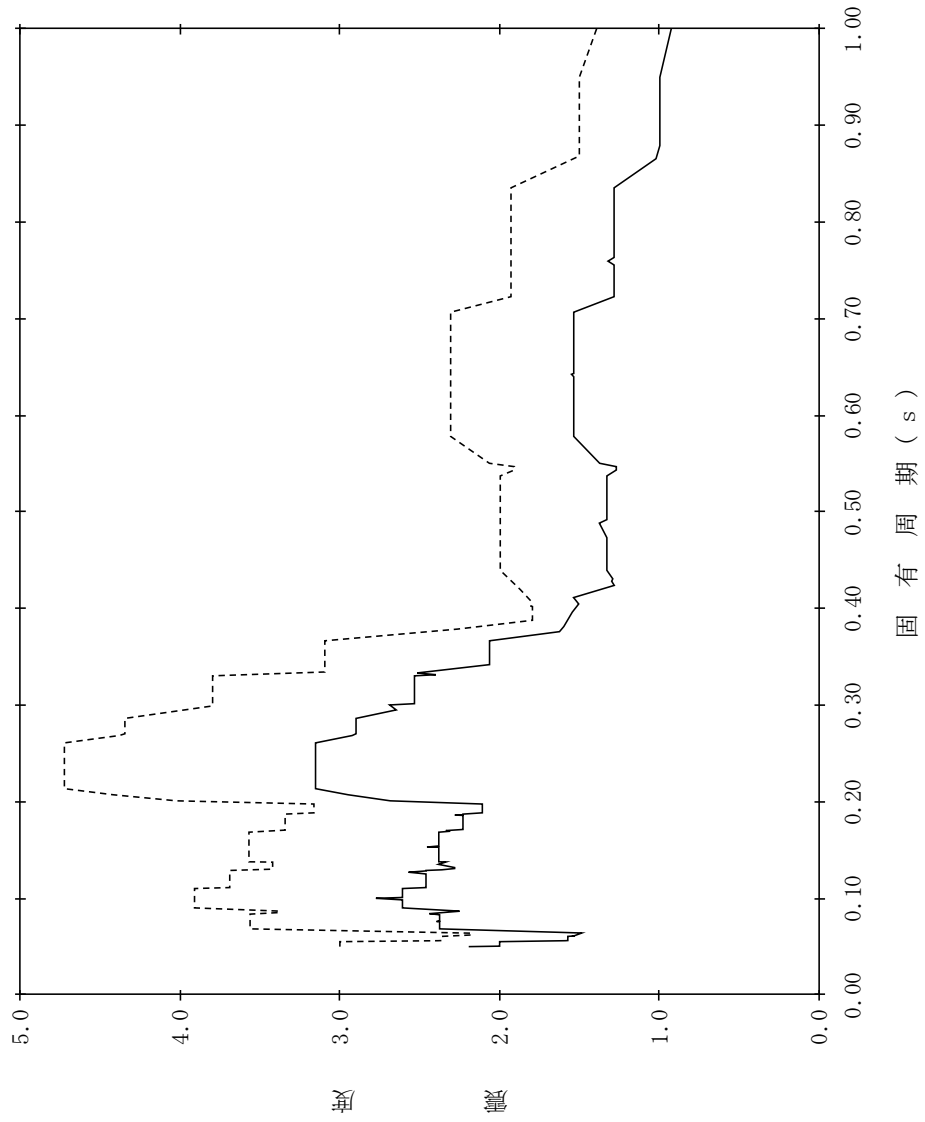
【NS2-RwB-SdNS-RwB72】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



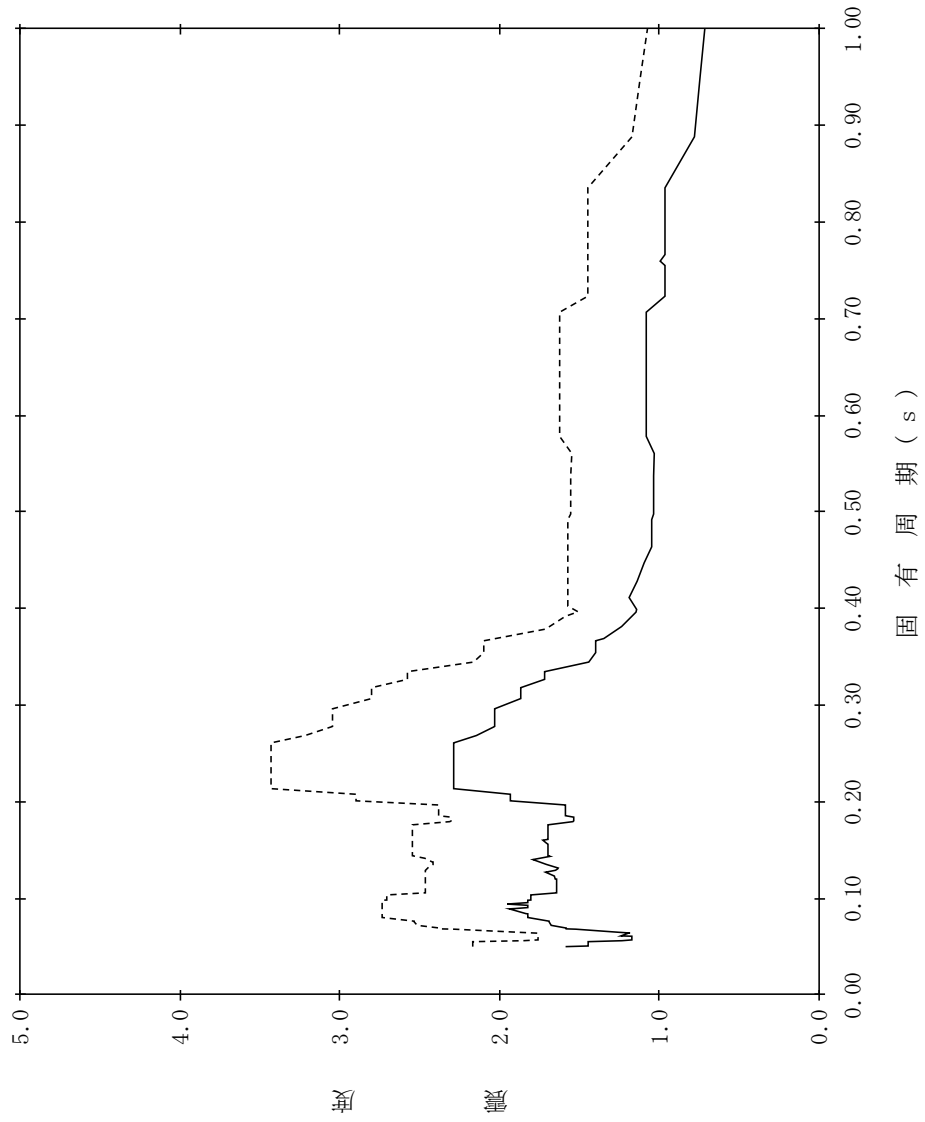
【NS2-RwB-SdNS-RwB73】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-RwB-SdNS-RwB74】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

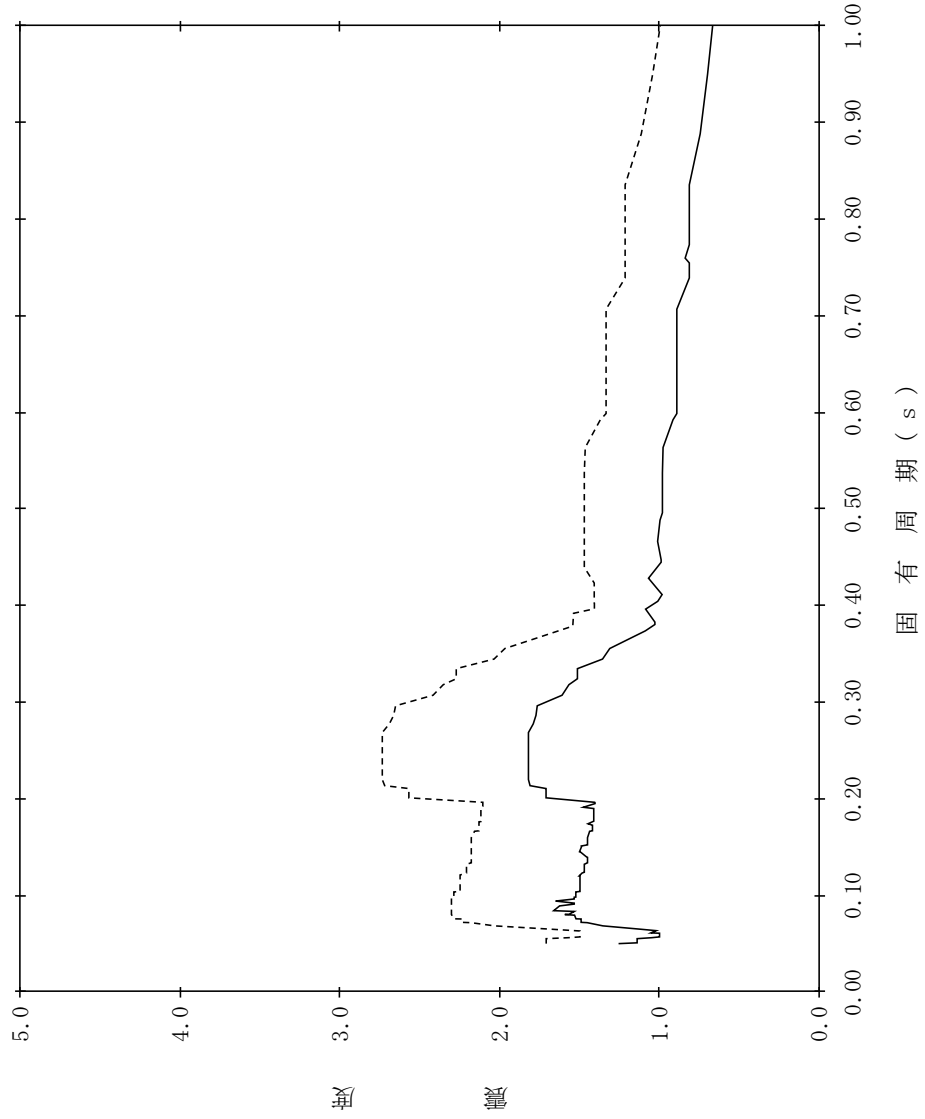


【NS2-RwB-SdNS-RwB75】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL3.000m
減衰定数：1.5%

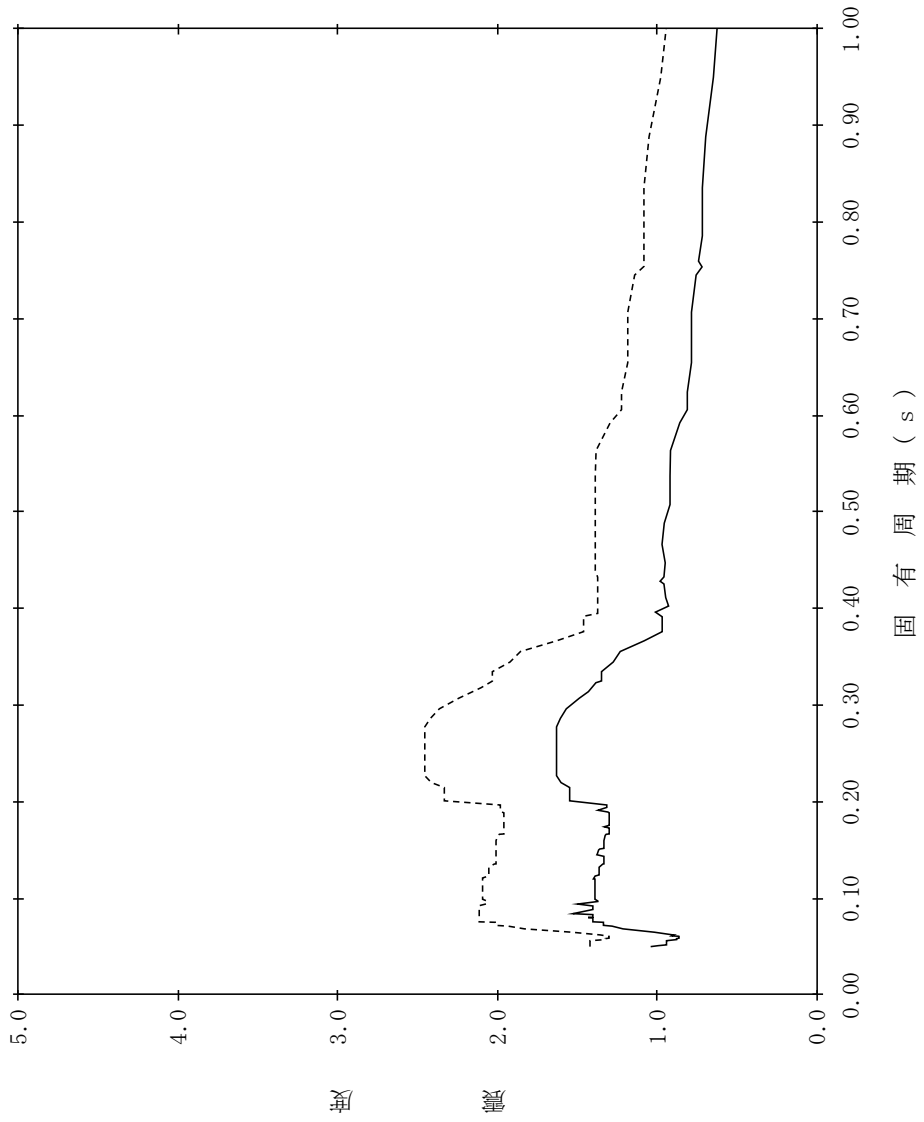
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-RwB-SdNS-RwB76】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

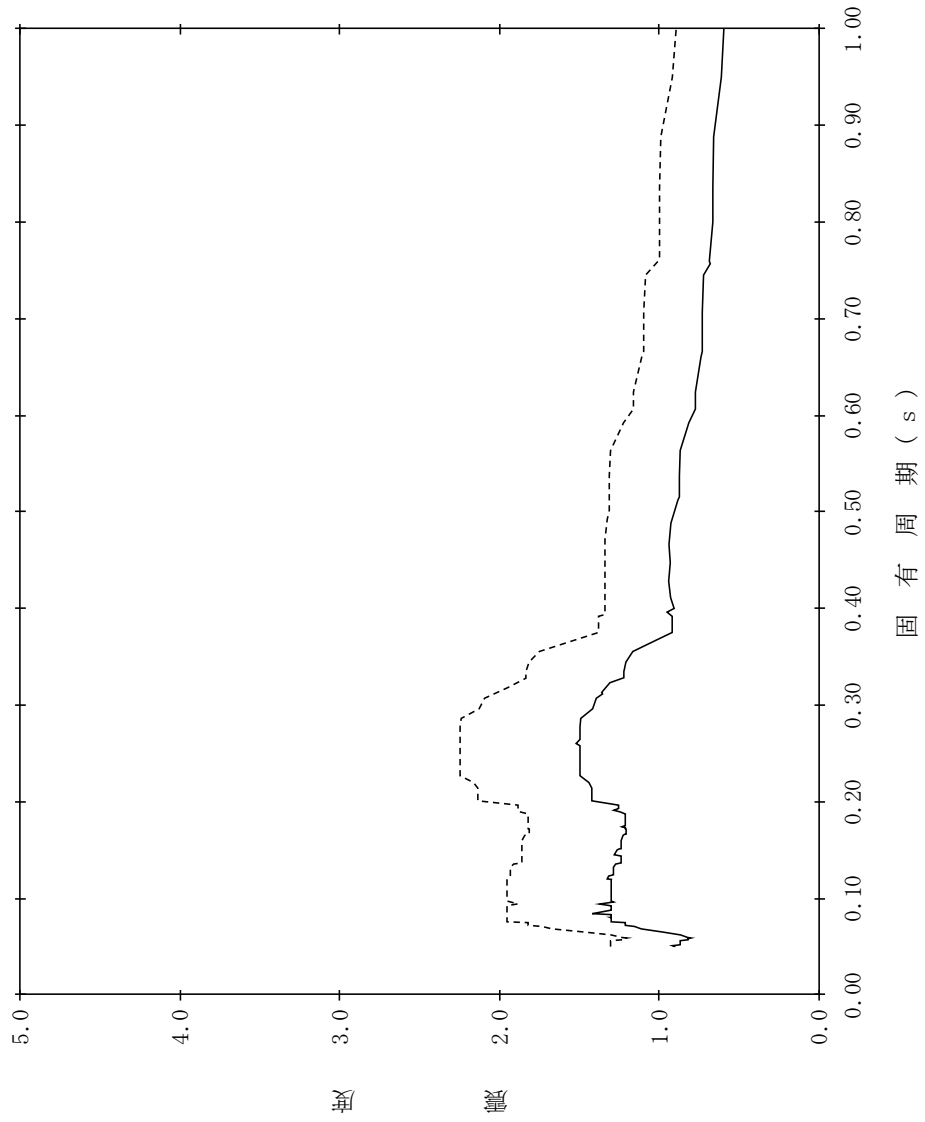


【NS2-RwB-SdNS-RwB77】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL3.000m
減衰定数：2.5%

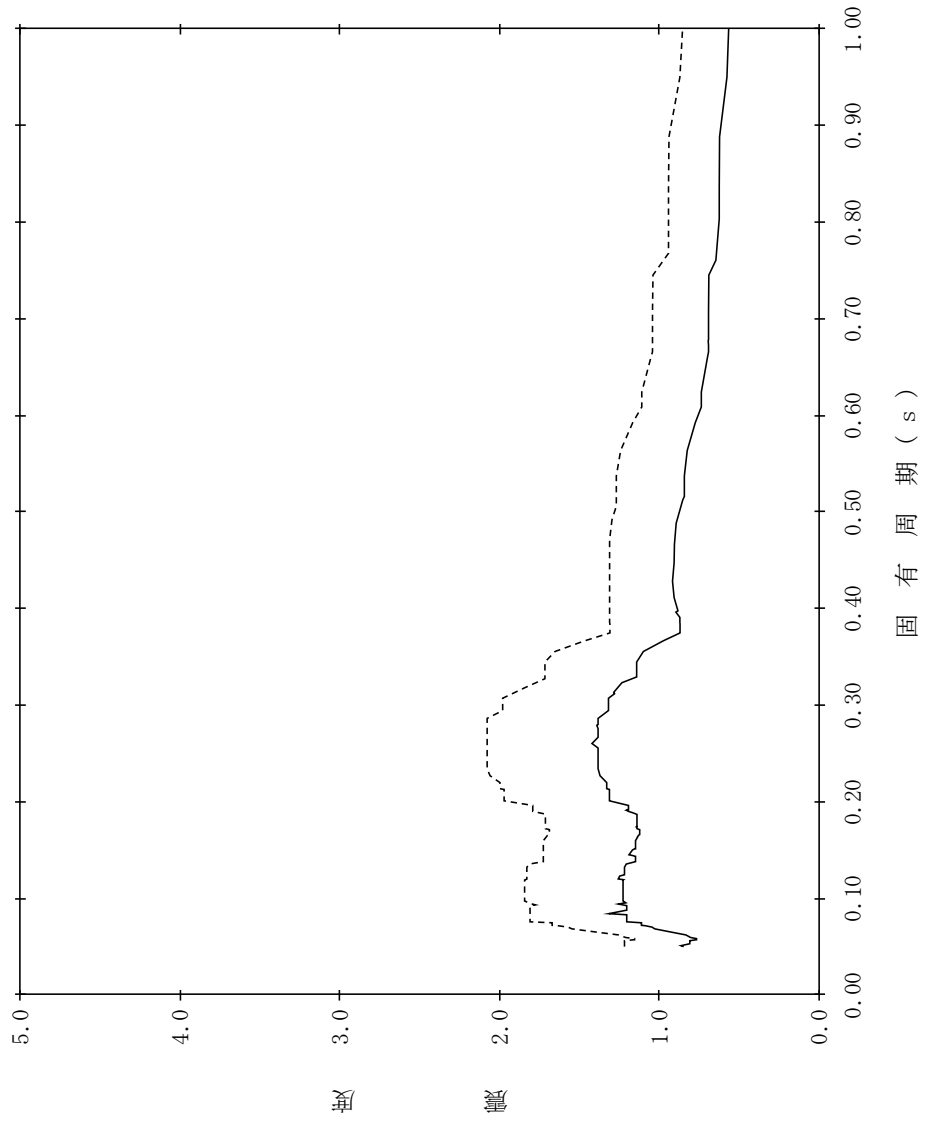
—— 設計用床応答スペクトルⅠ (NS方向)

- - - - 設計用床応答スペクトルⅡ (NS方向)



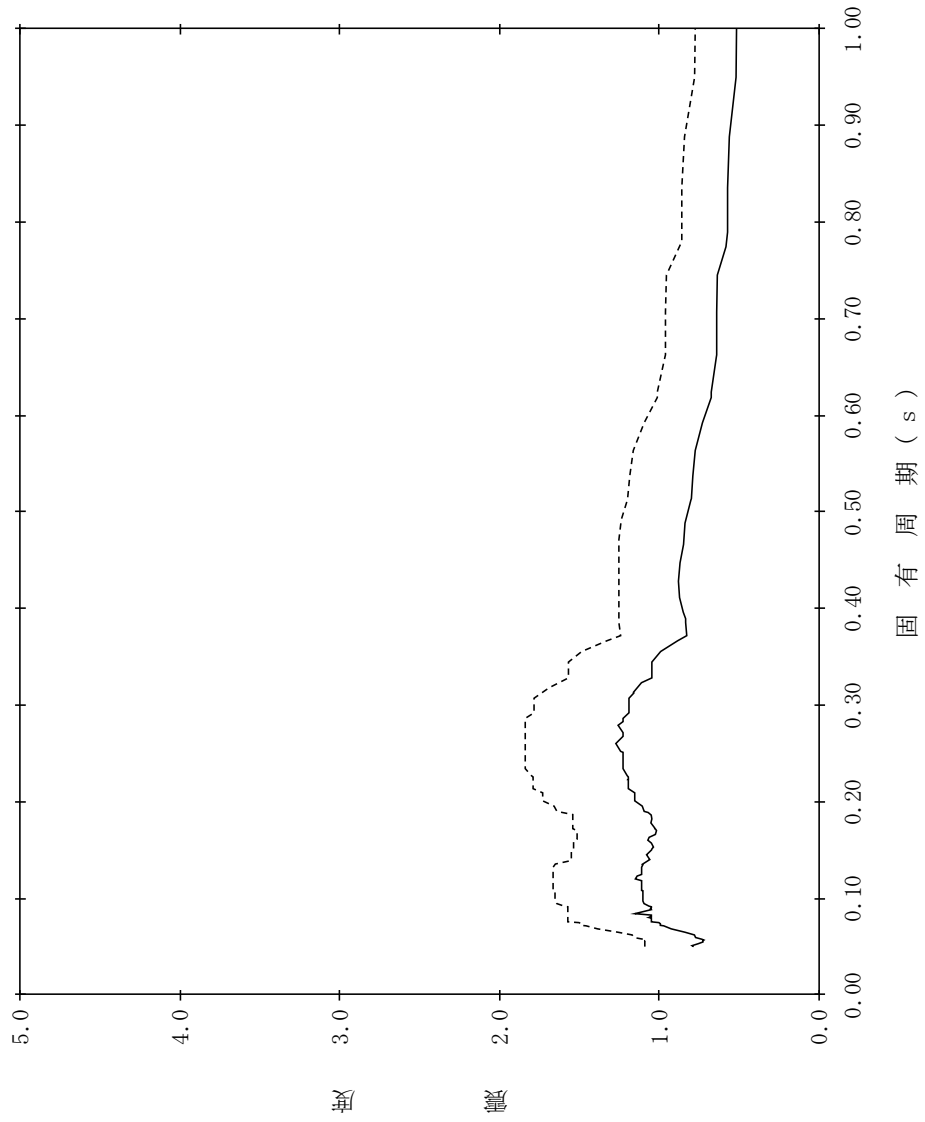
【NS2-RwB-SdNS-RwB78】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



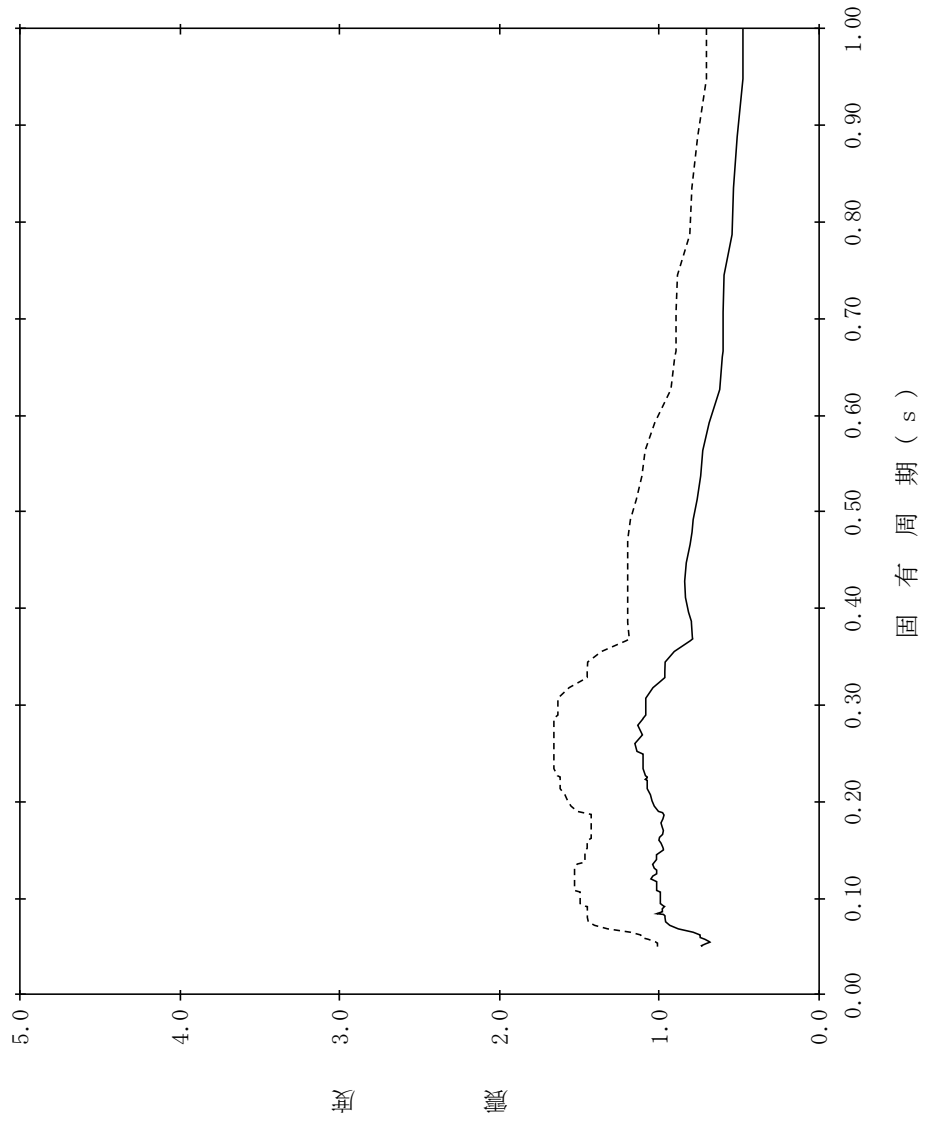
【NS2-RwB-SdNS-RwB79】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



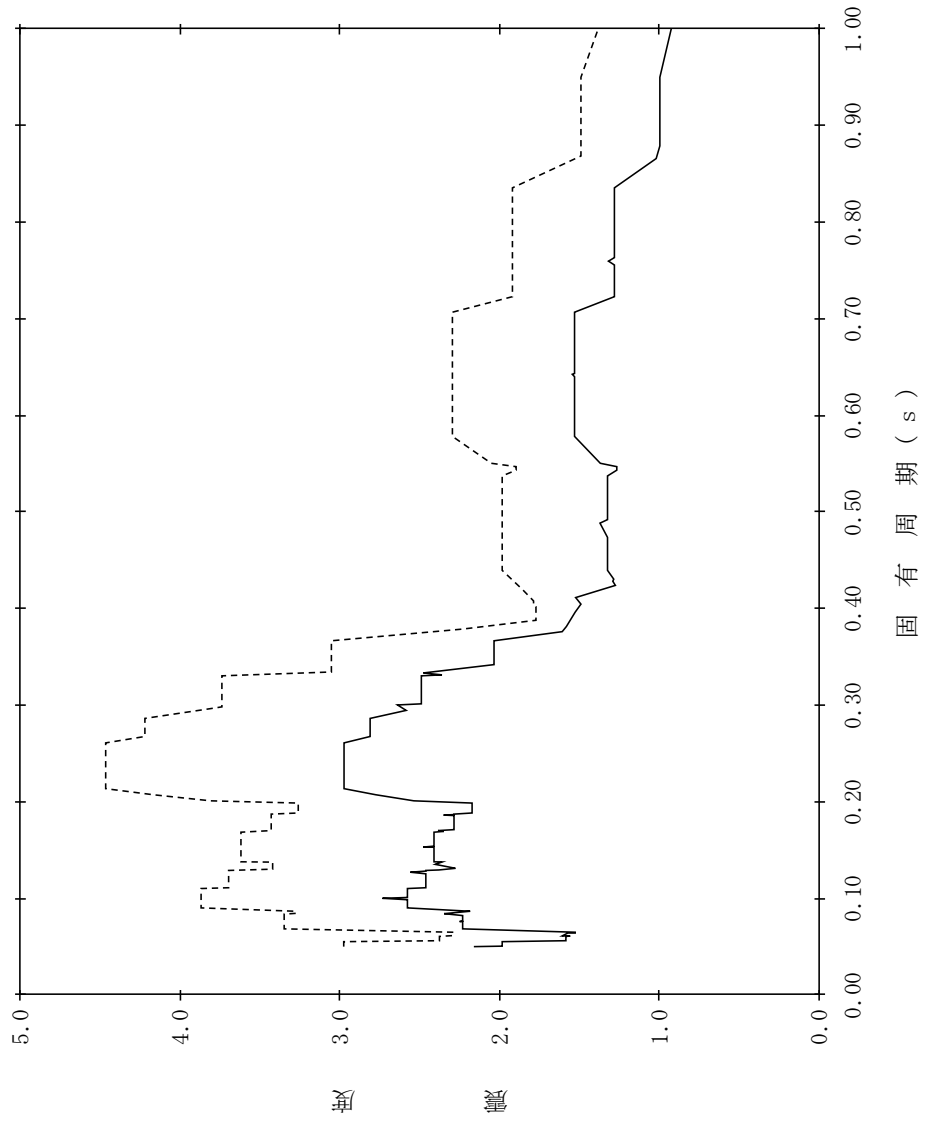
【NS2-RwB-SdNS-RwB80】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



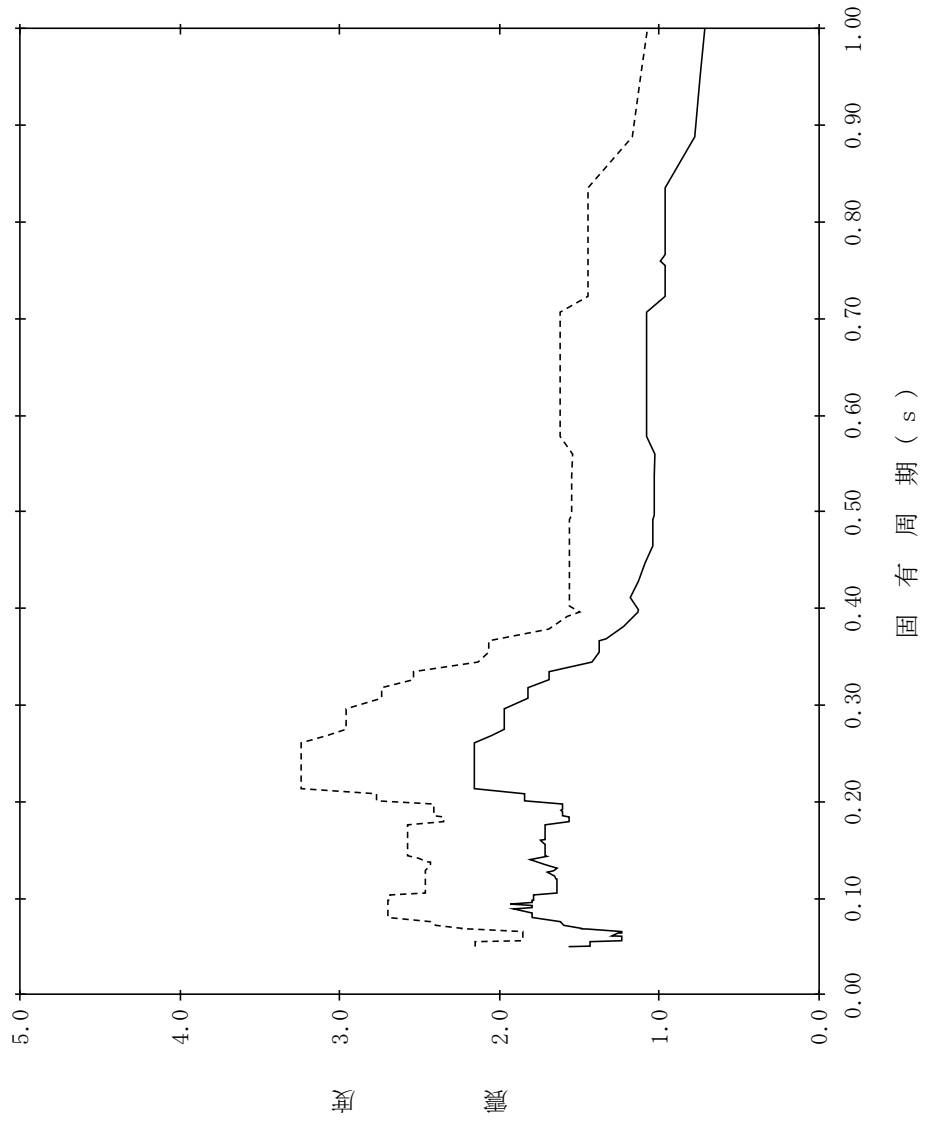
【NS2-RwB-SdNS-RwB81】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



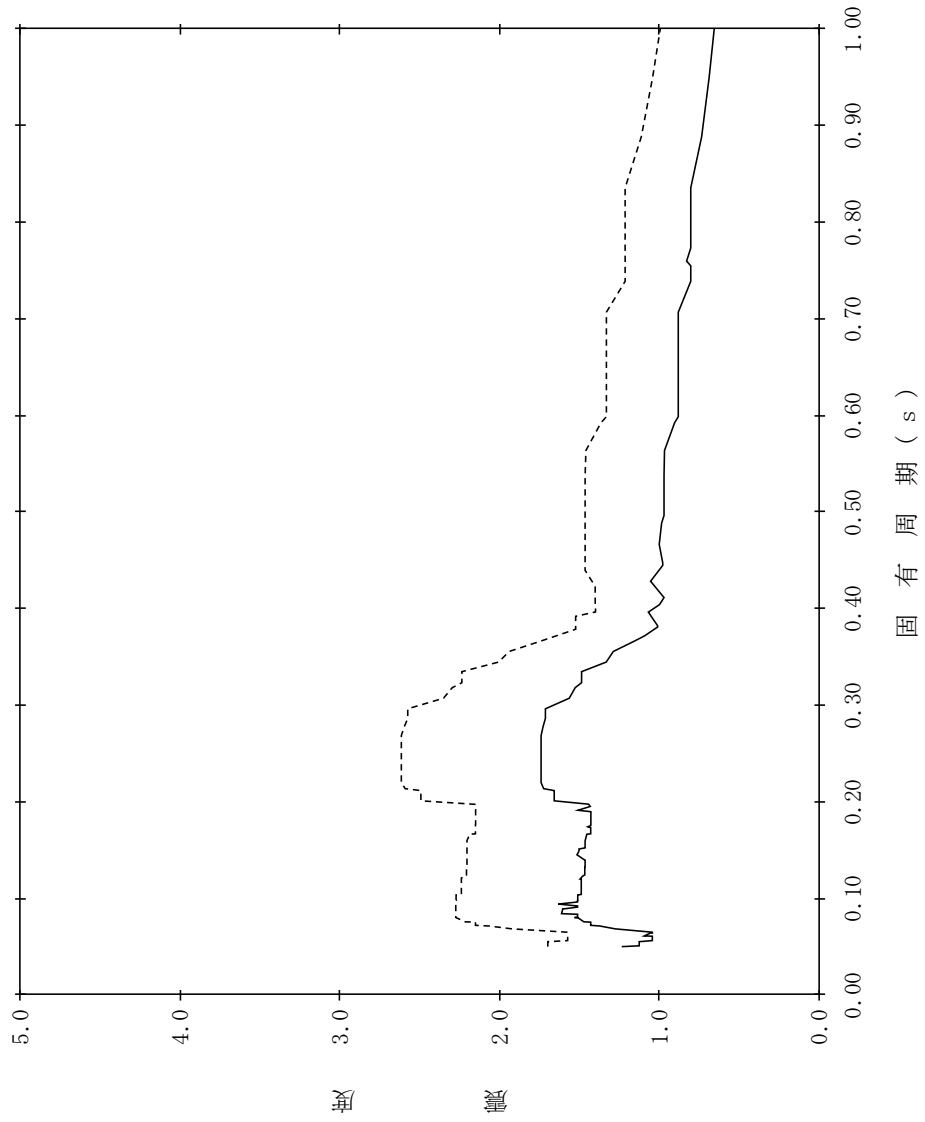
【NS2-RwB-SdNS-RwB82】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



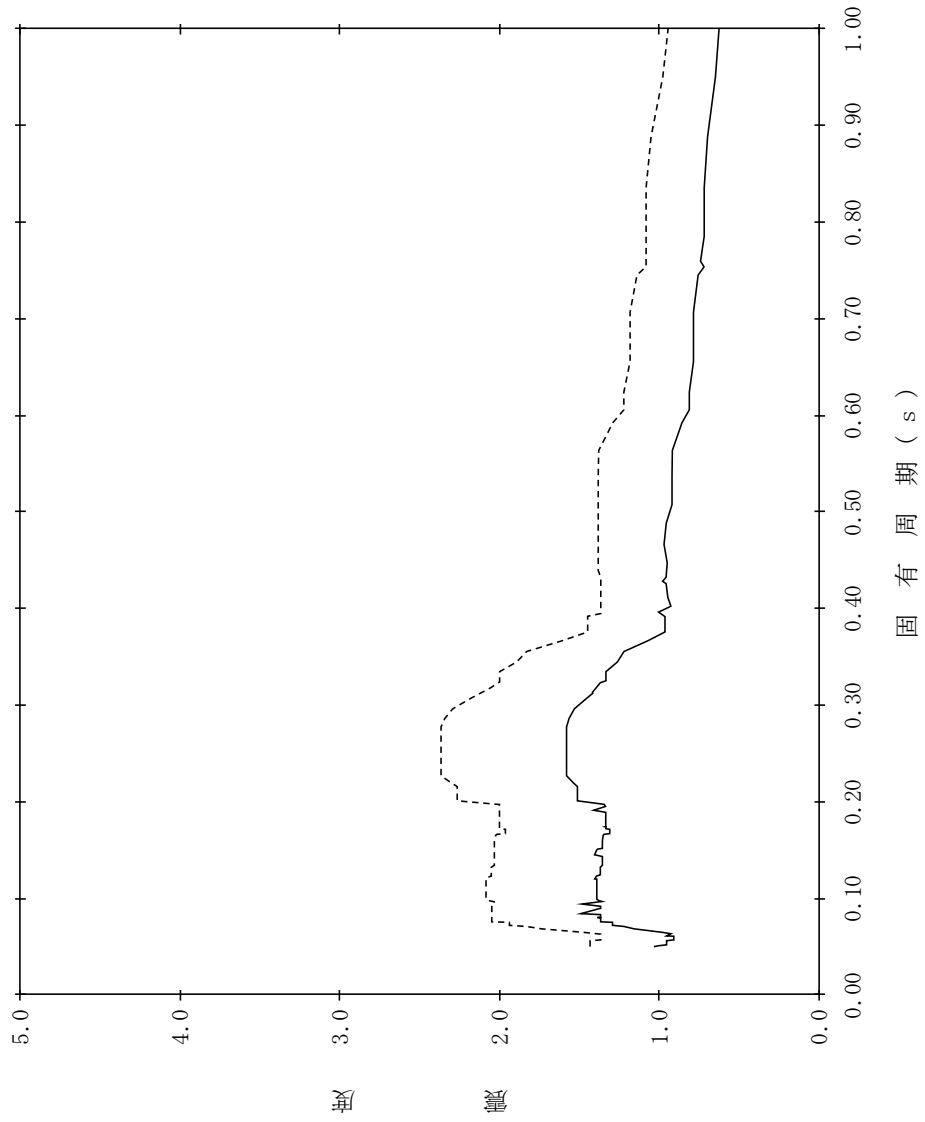
【NS2-RwB-SdNS-RwB83】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL0.000m
減衰定数：1.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



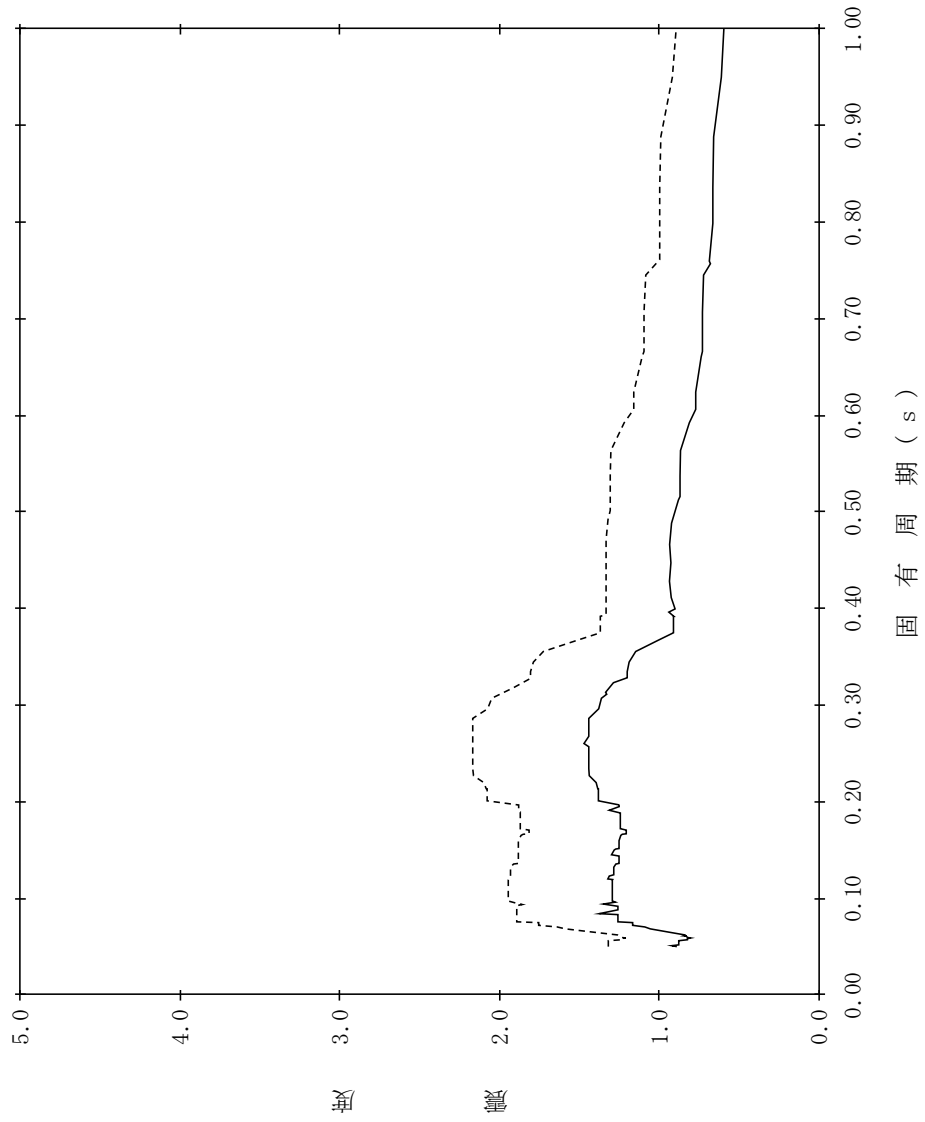
【NS2-RwB-SdNS-RwB84】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



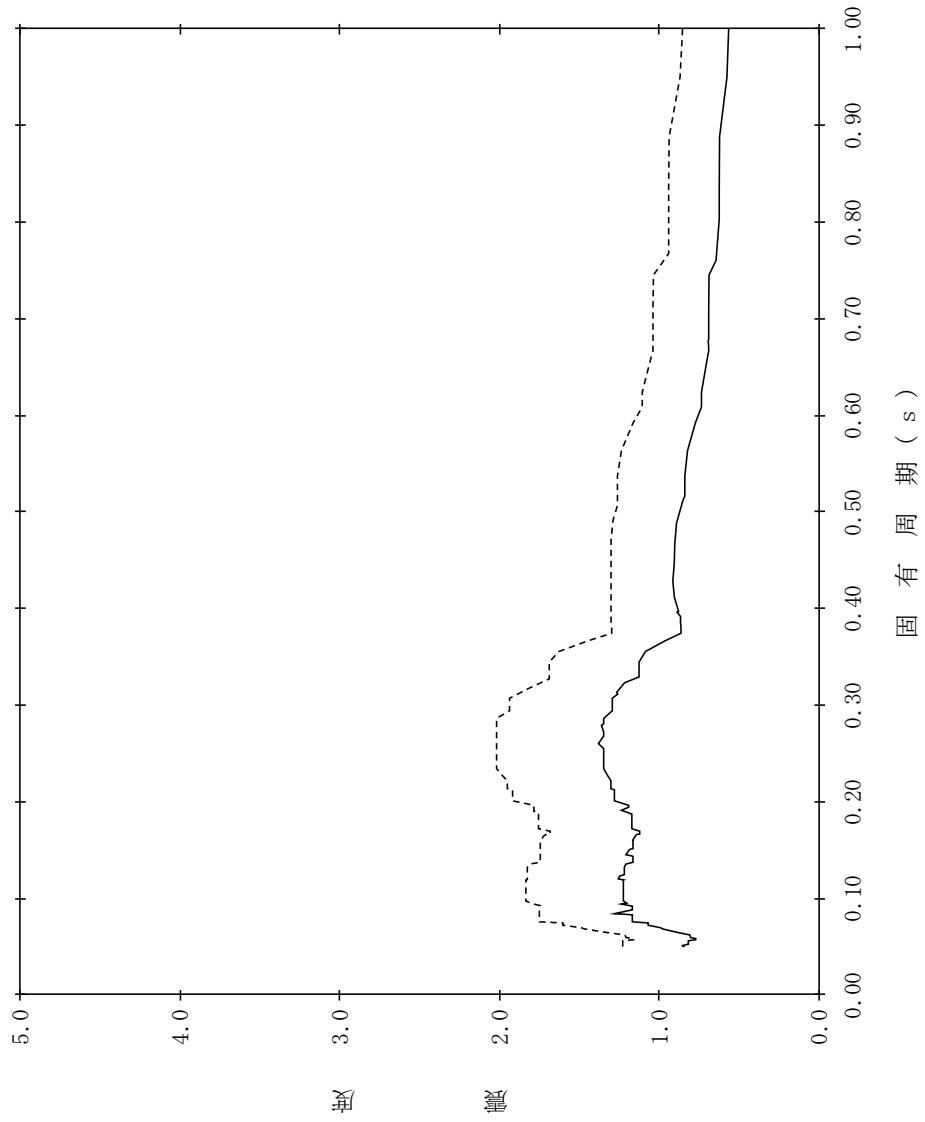
【NS2-RwB-SdNS-RwB85】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



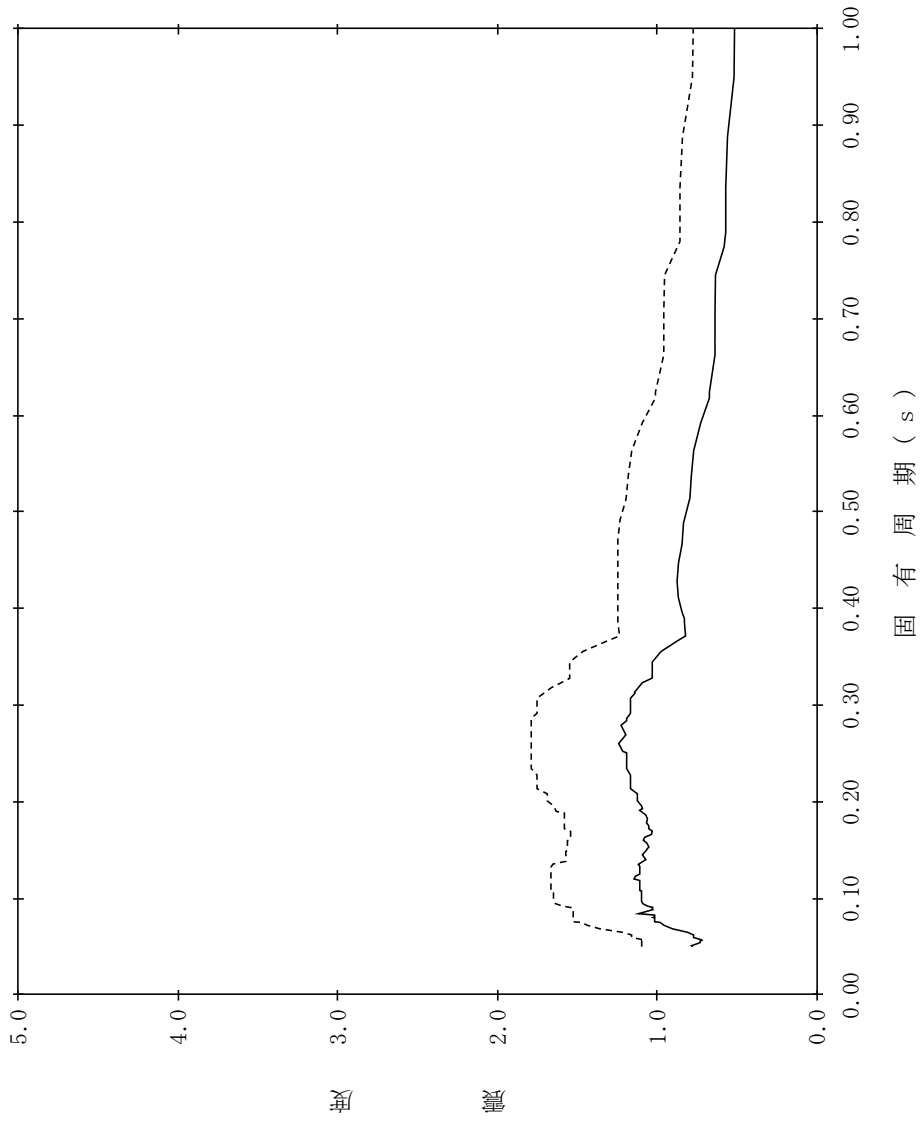
【NS2-RwB-SdNS-RwB86】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



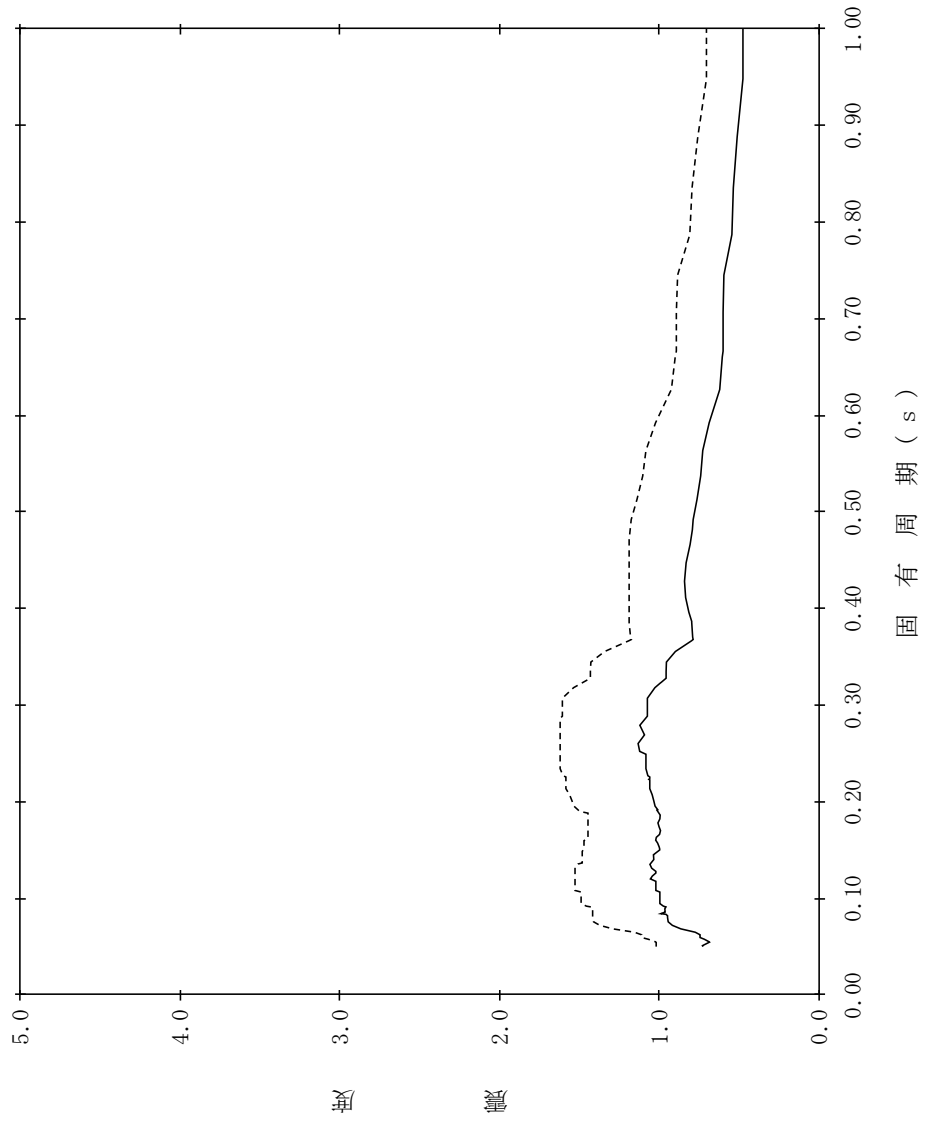
【NS2-RwB-SdNS-RwB87】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



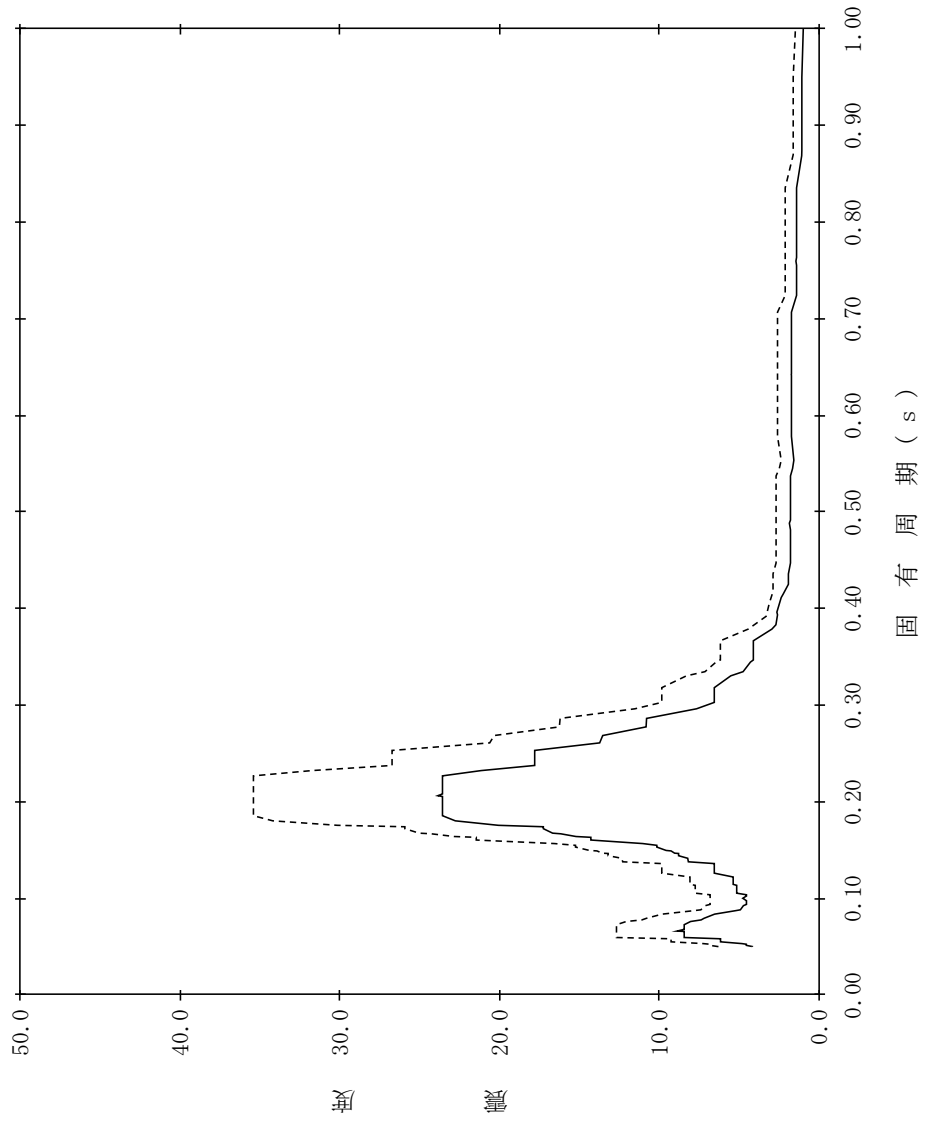
【NS2-RwB-SdNS-RwB88】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



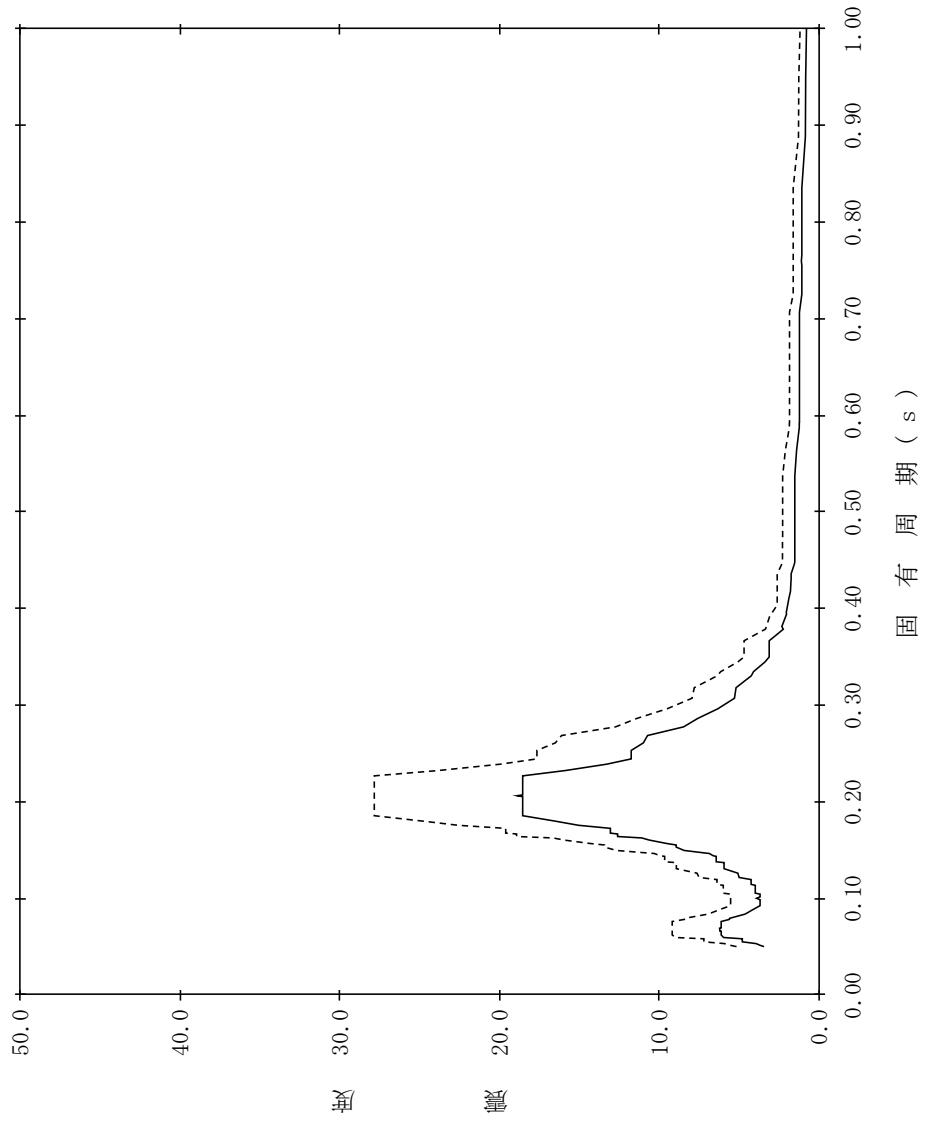
【NS2-RwB-SdEW-RwB1】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL42.000m
減衰定数：0.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



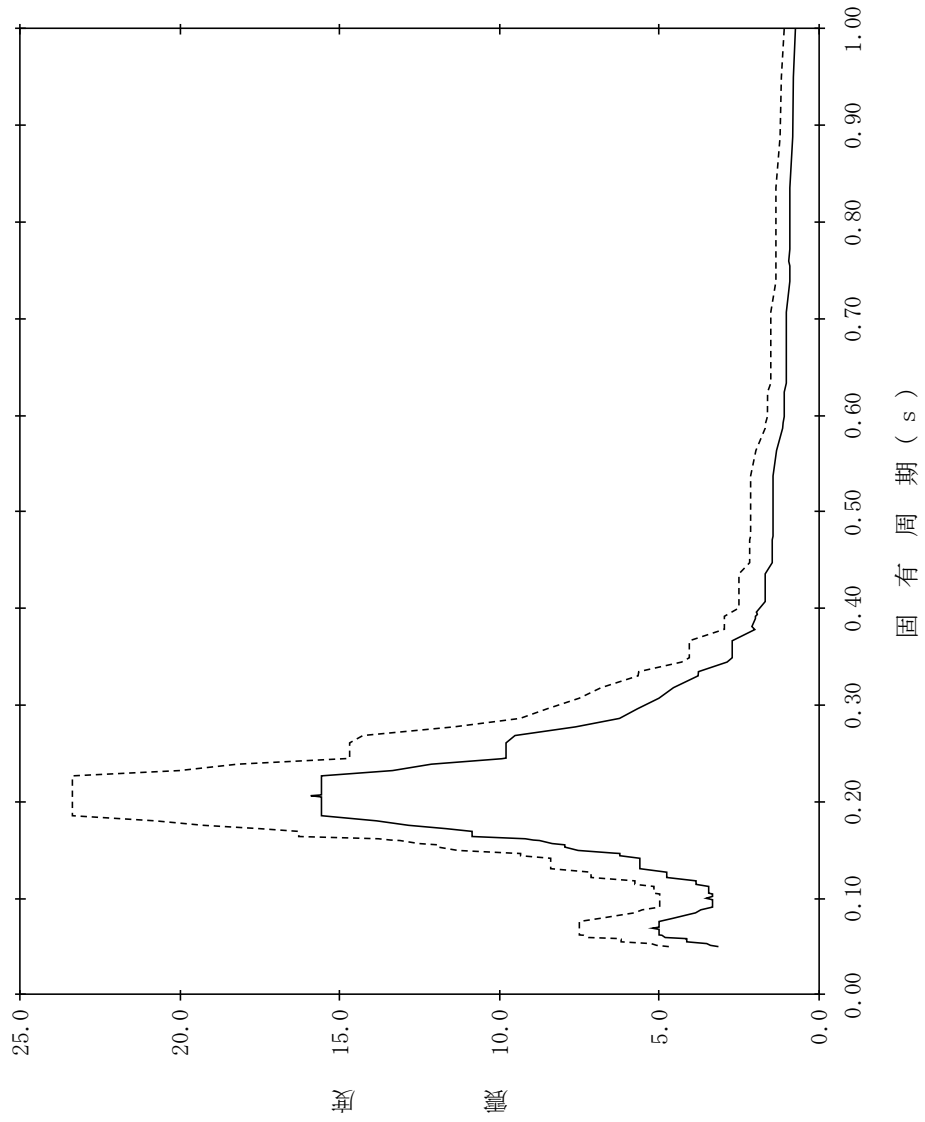
【NS2-RwB-SdEW-RwB2】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



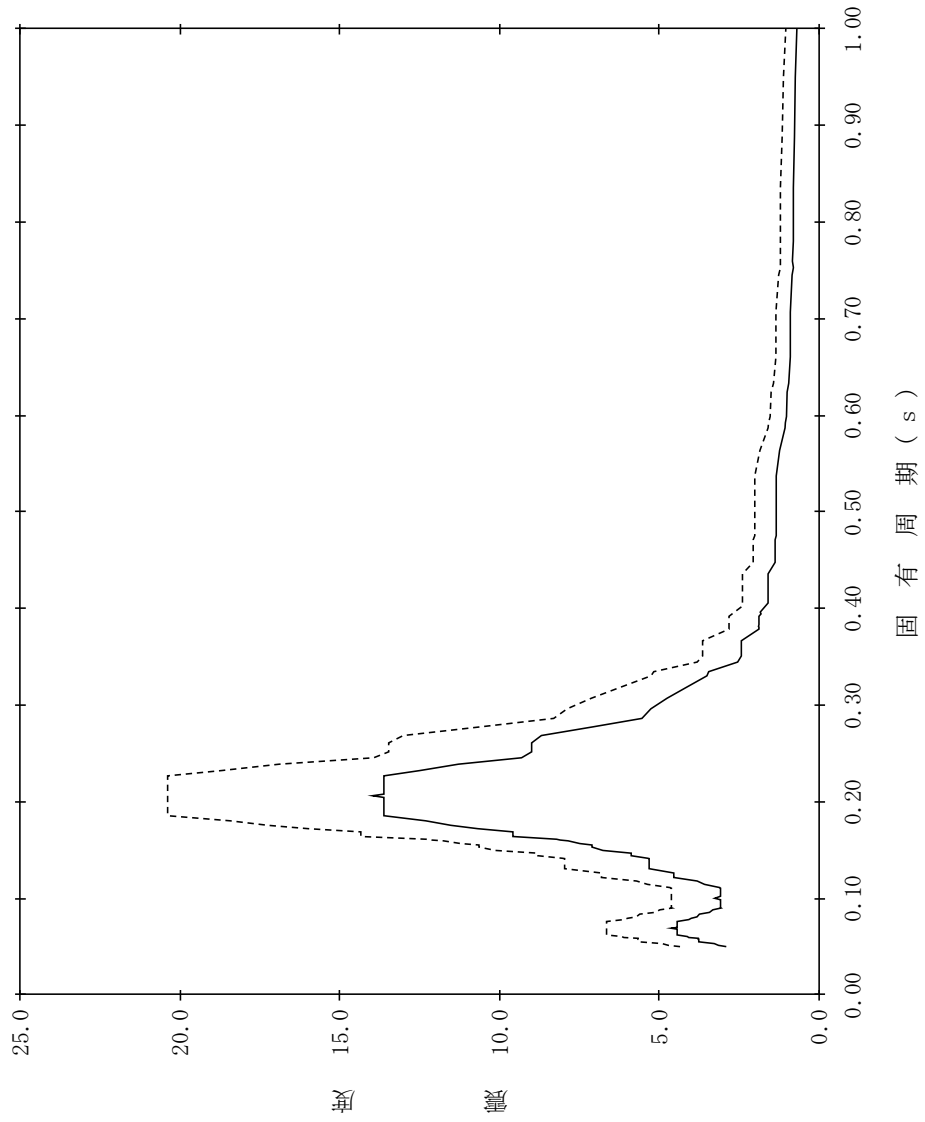
【NS2-RwB-SdEW-RwB3】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



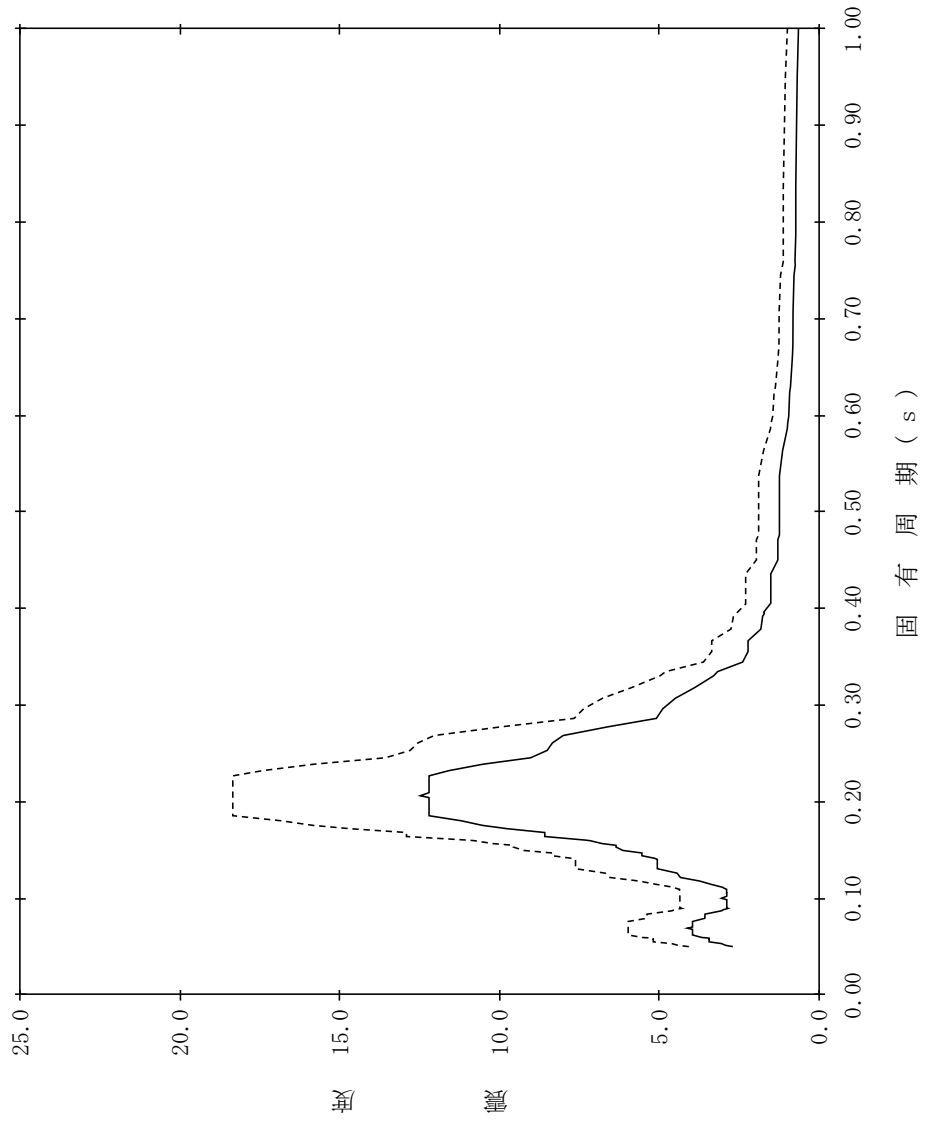
【NS2-RwB-SdEW-RwB4】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



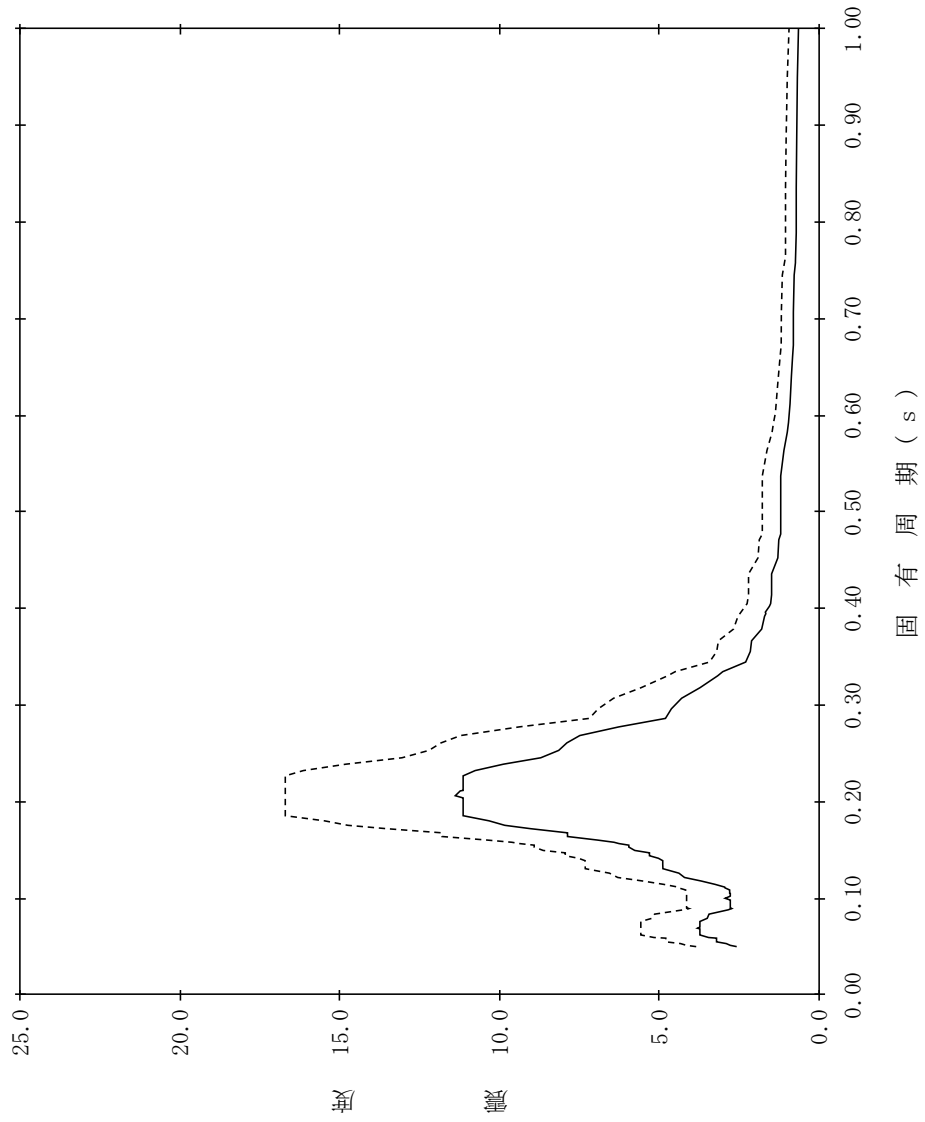
【NS2-RwB-SdEW-RwB5】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



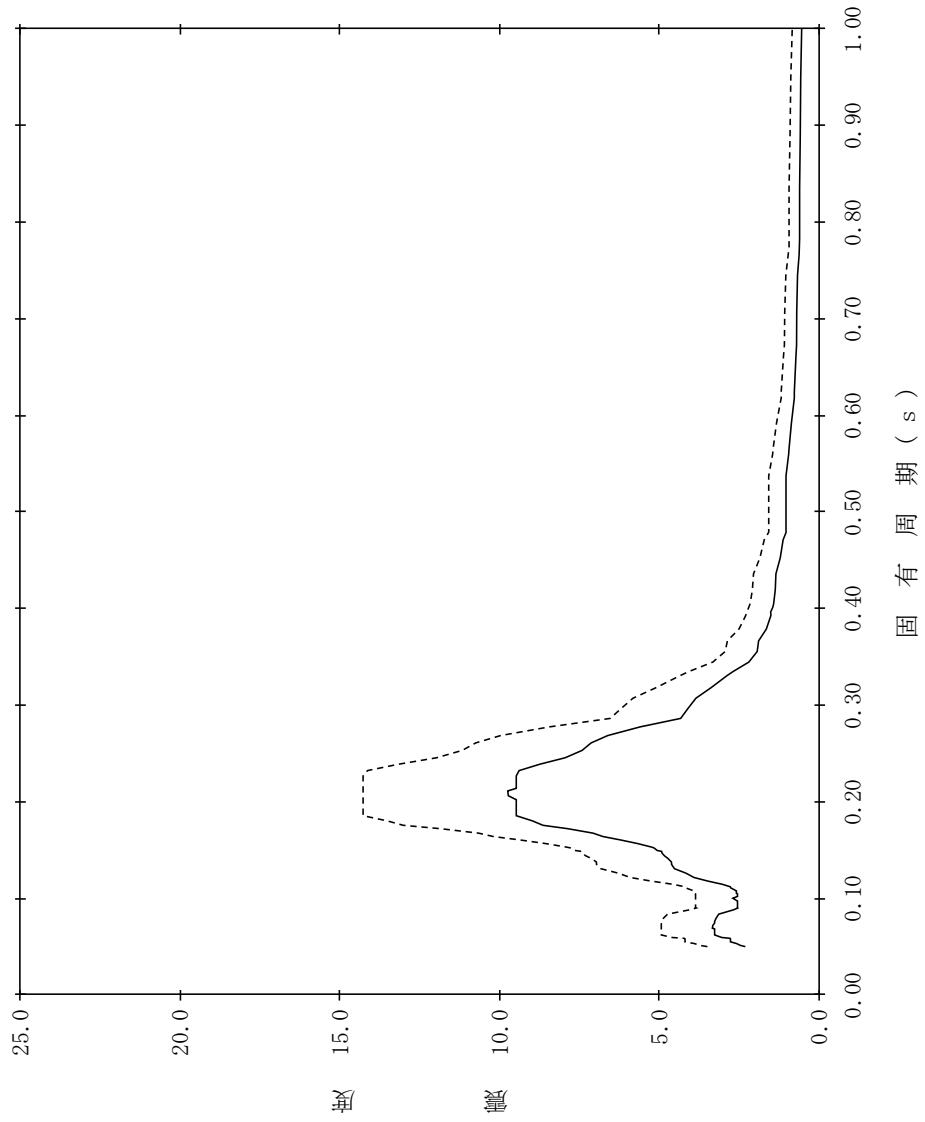
【NS2-RwB-SdEW-RwB6】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



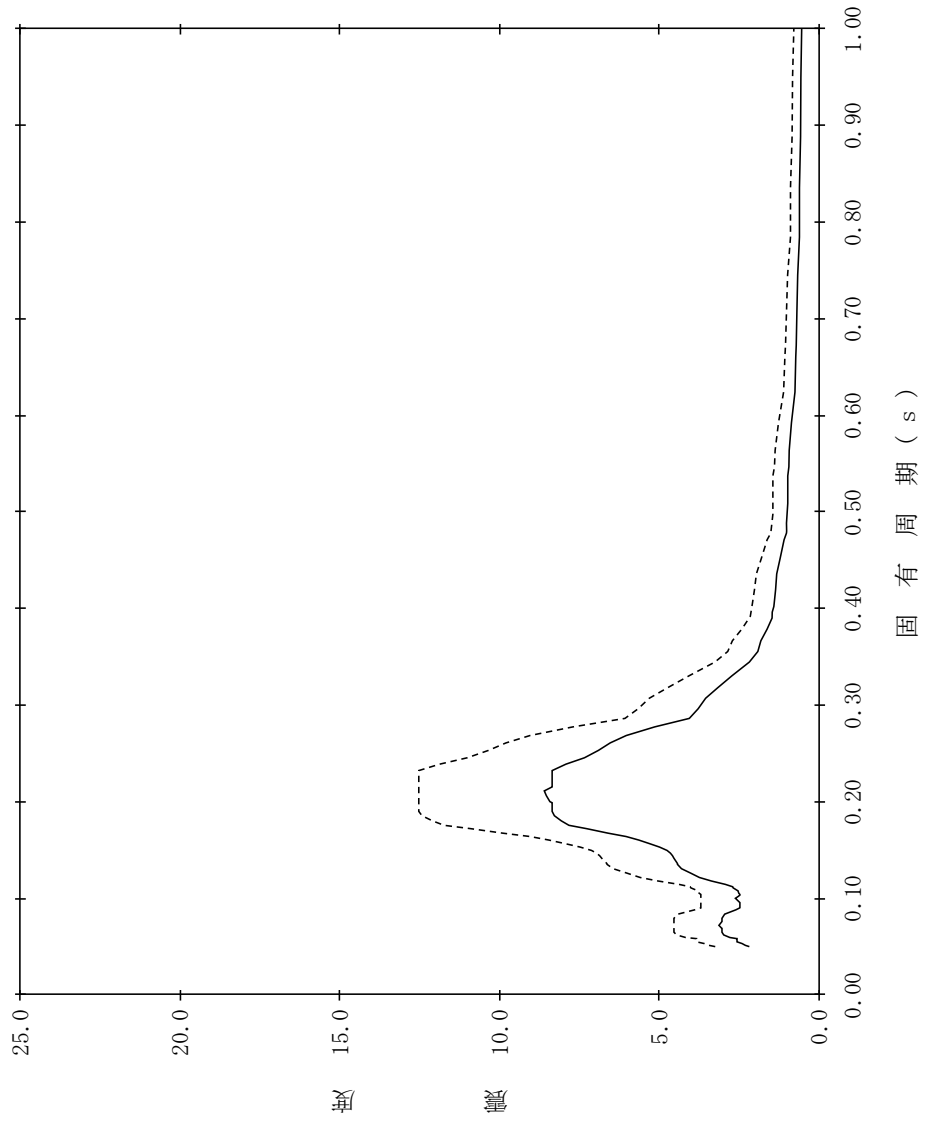
【NS2-RwB-SdEW-RwB7】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



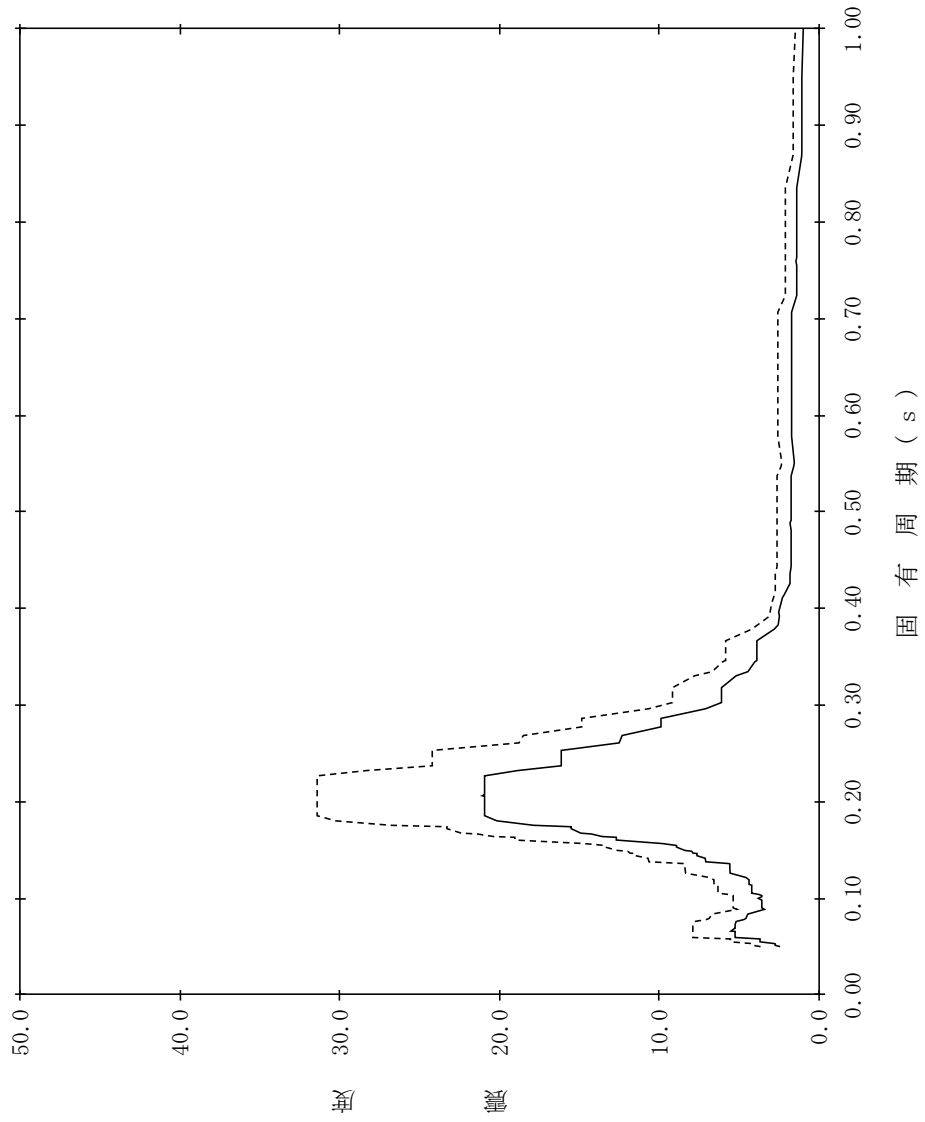
【NS2-RwB-SdEW-RwB8】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



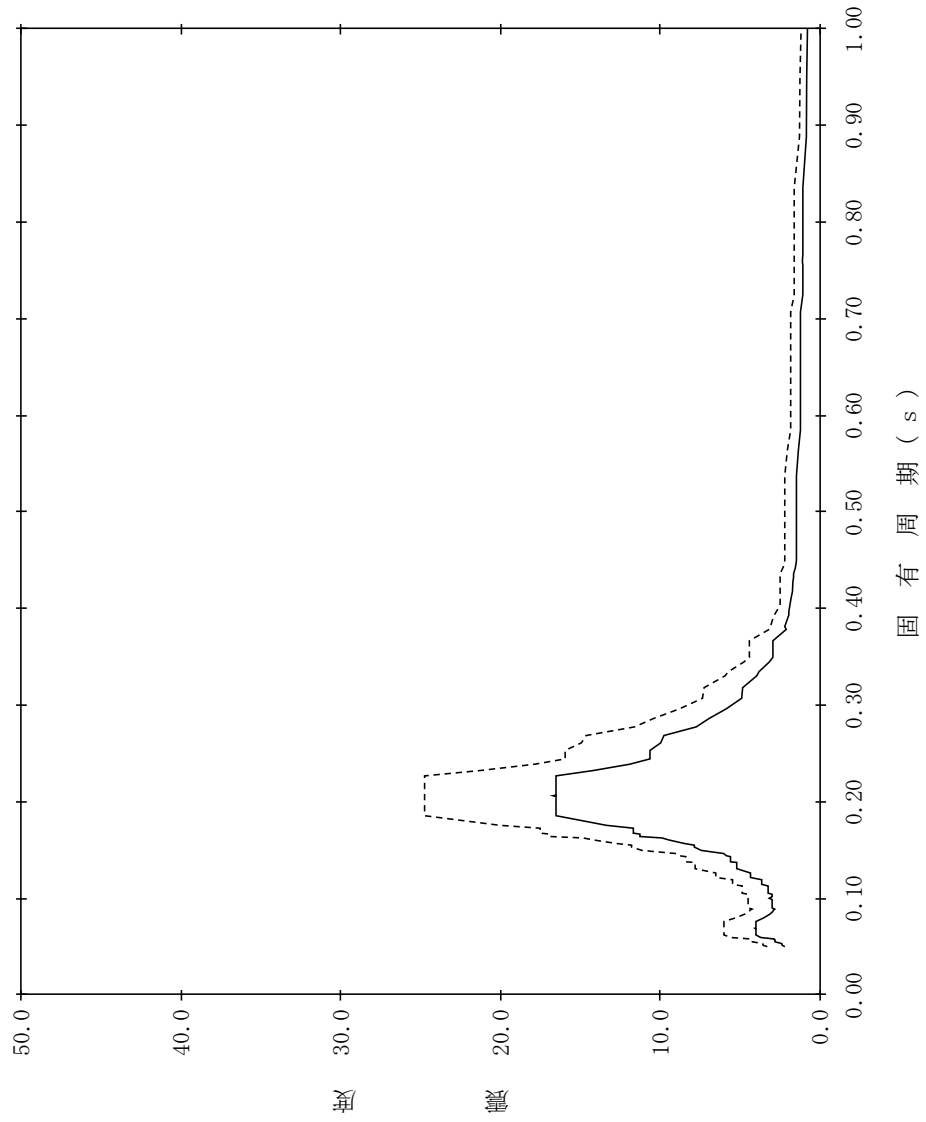
【NS2-RwB-SdEW-RwB9】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



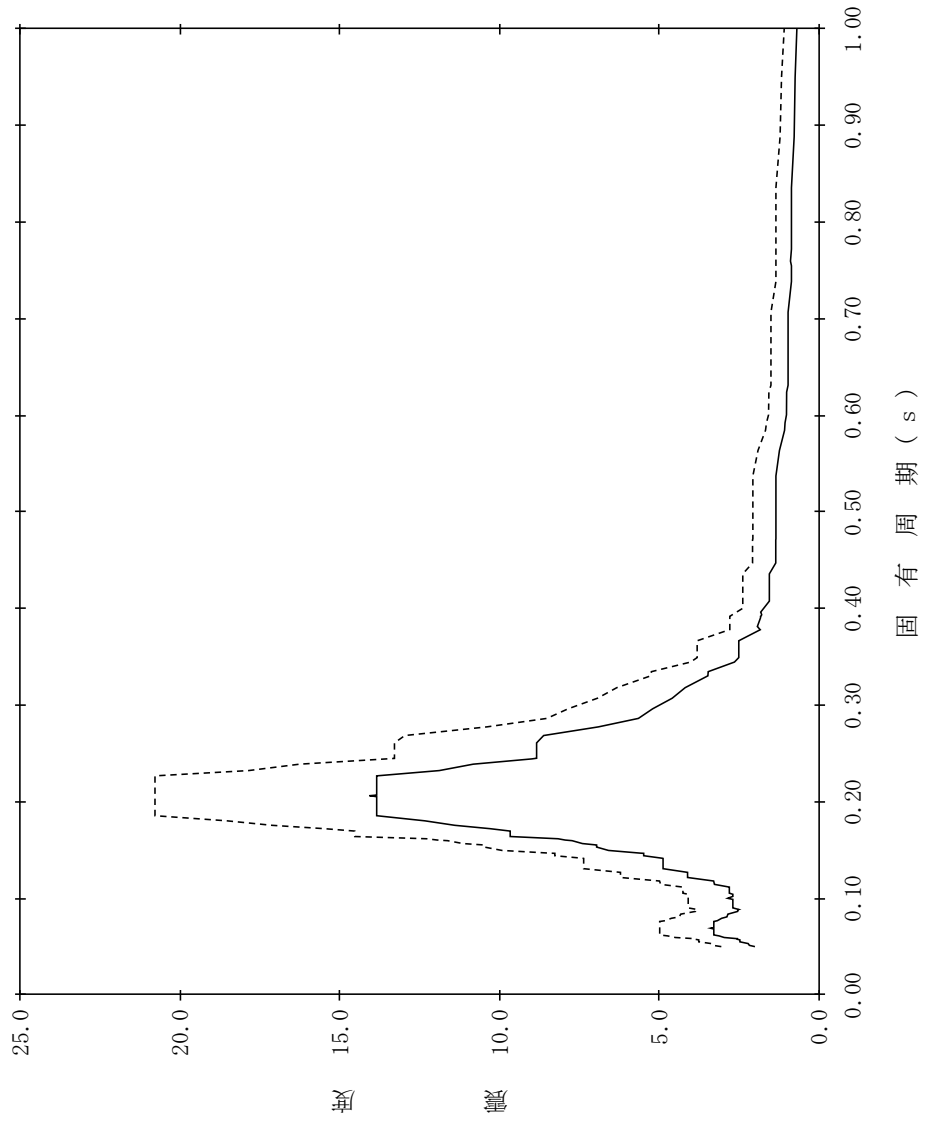
【NS2-RwB-SdEW-RwB10】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



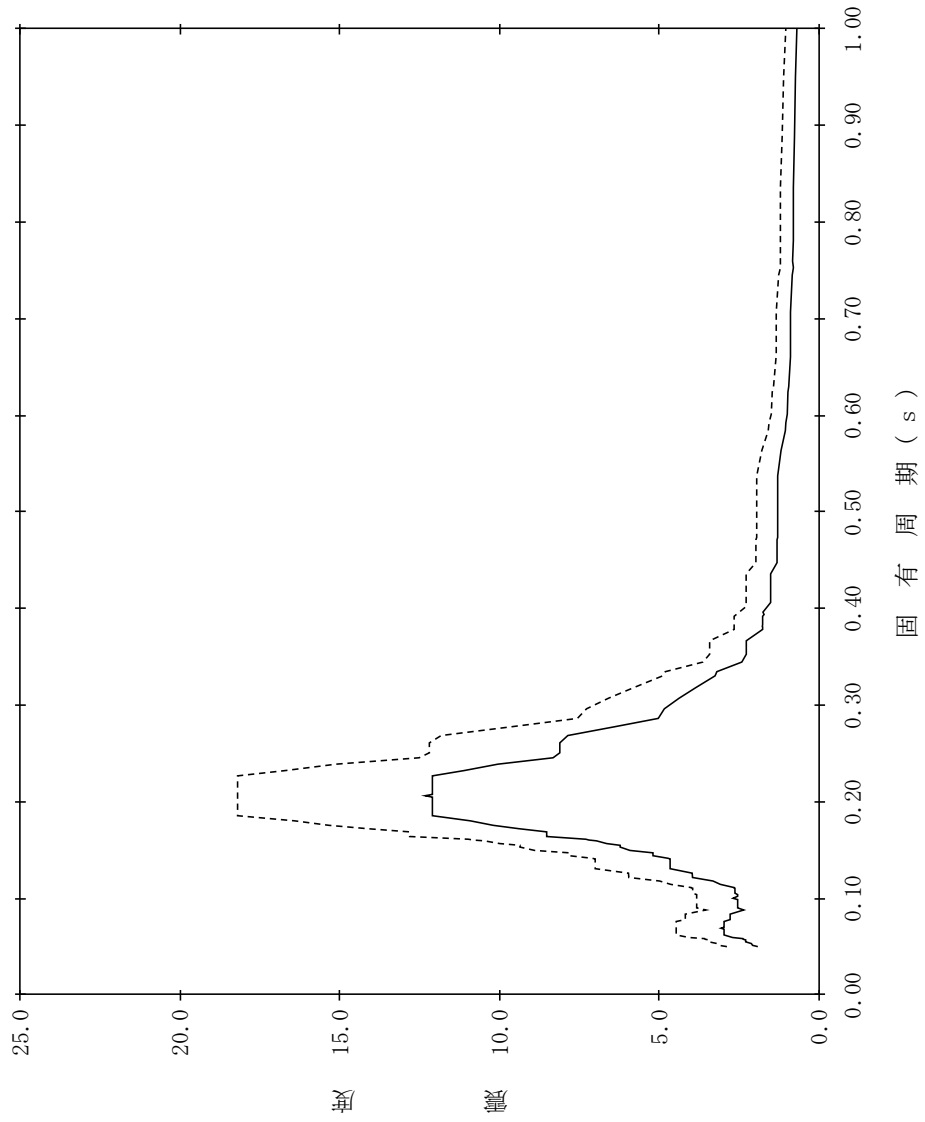
【NS2-RwB-SdEW-RwB11】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



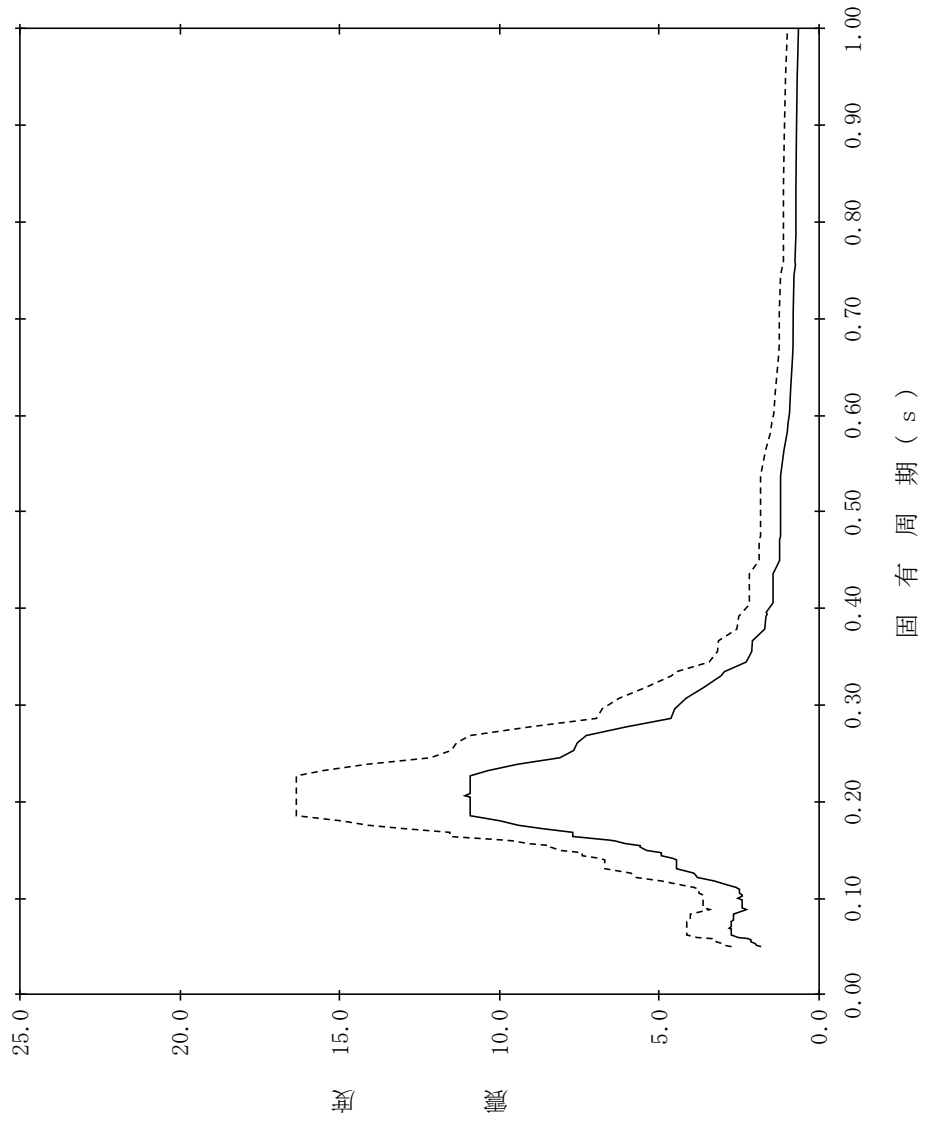
【NS2-RwB-SdEW-RwB12】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL37.500m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



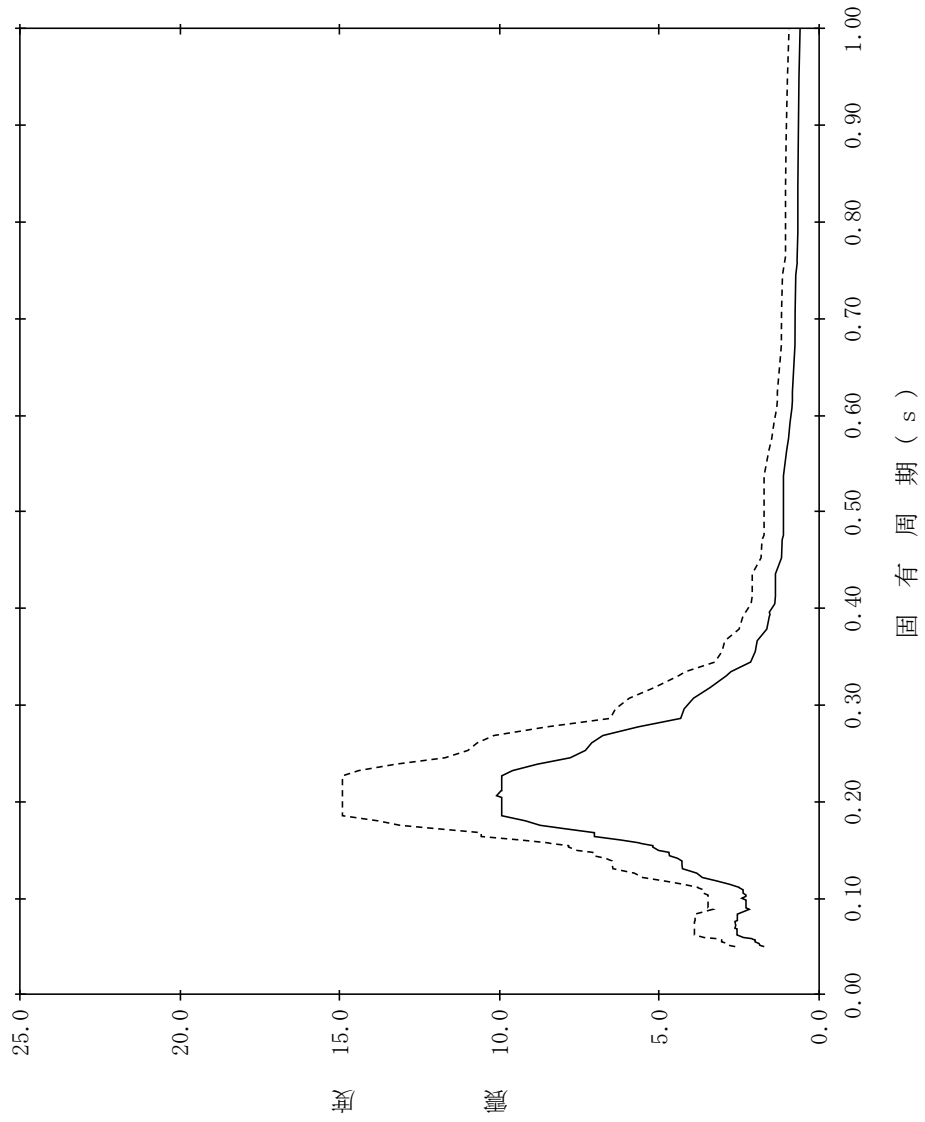
【NS2-RwB-SdEW-RwB13】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



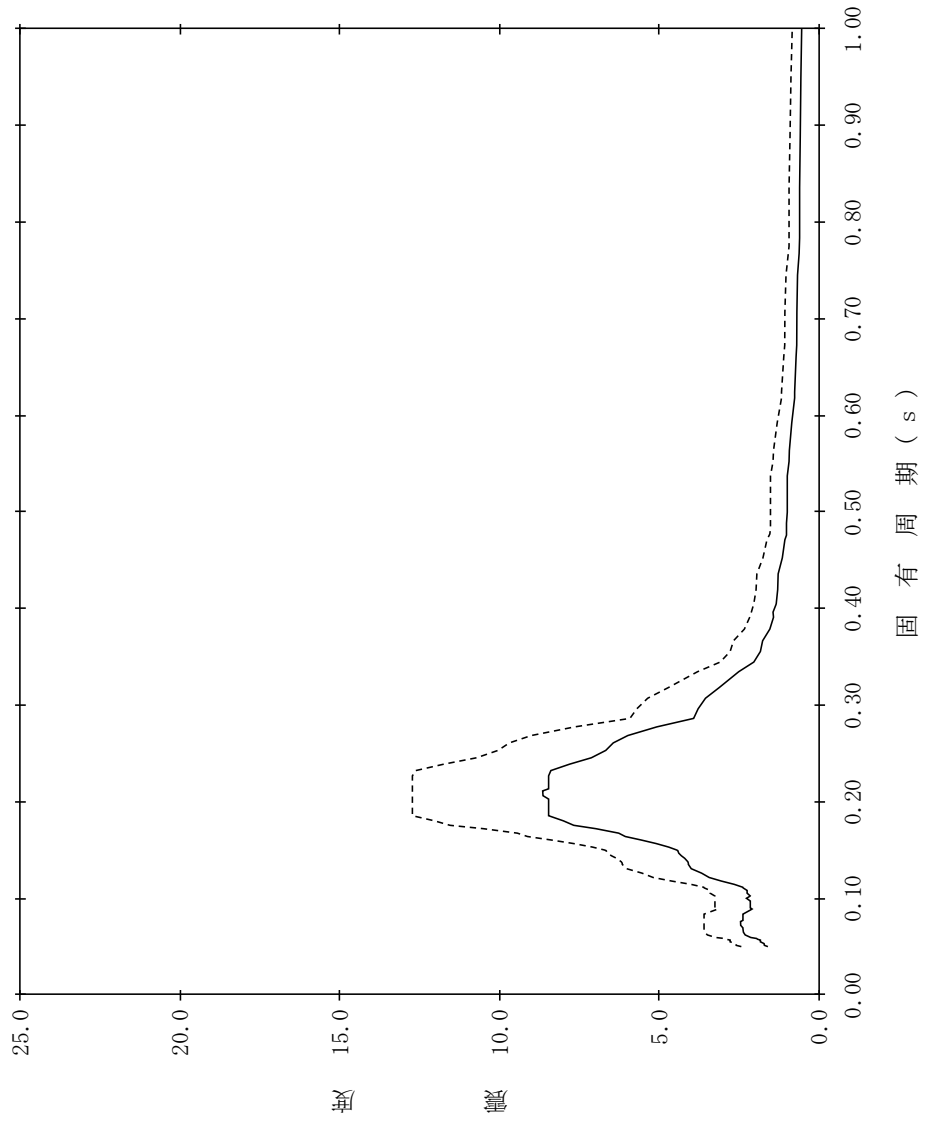
【NS2-RwB-SdEW-RwB14】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



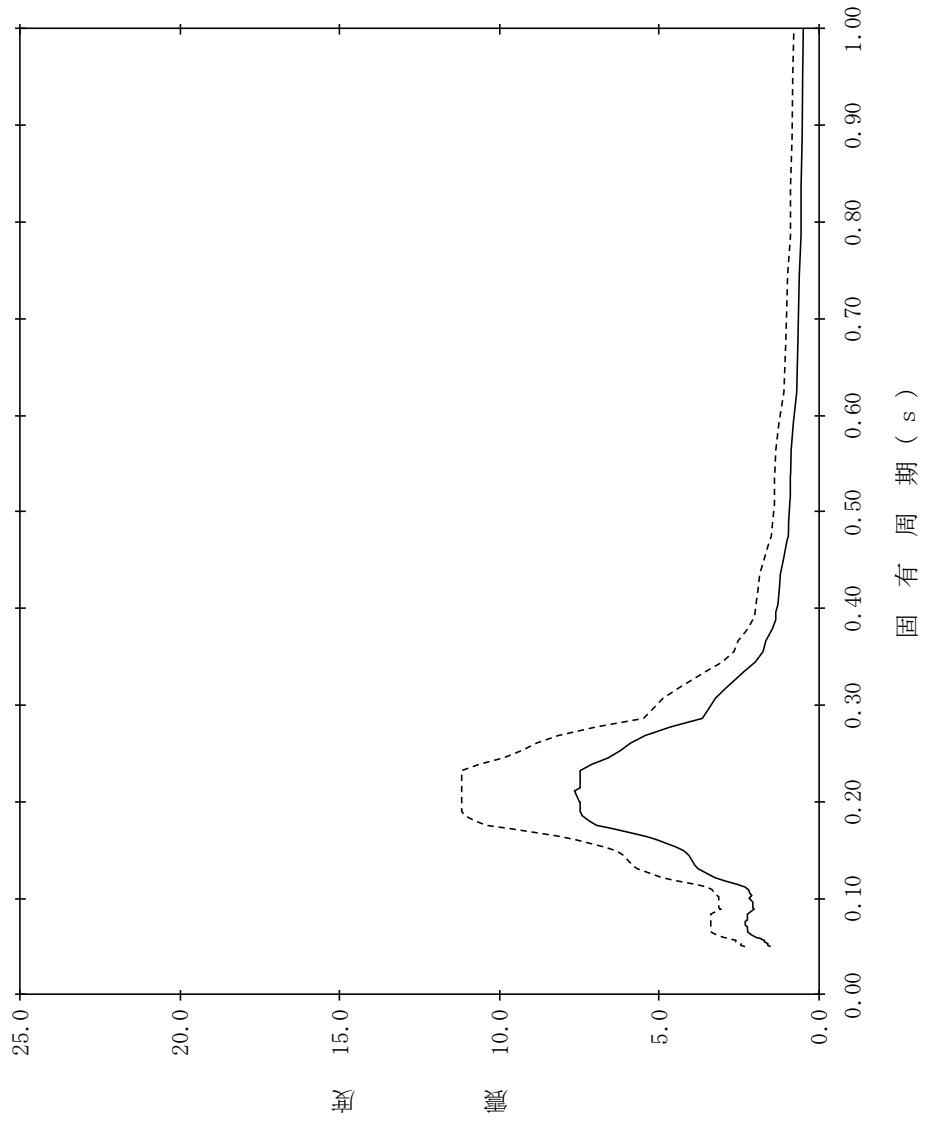
【NS2-RwB-SdEW-RwB15】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



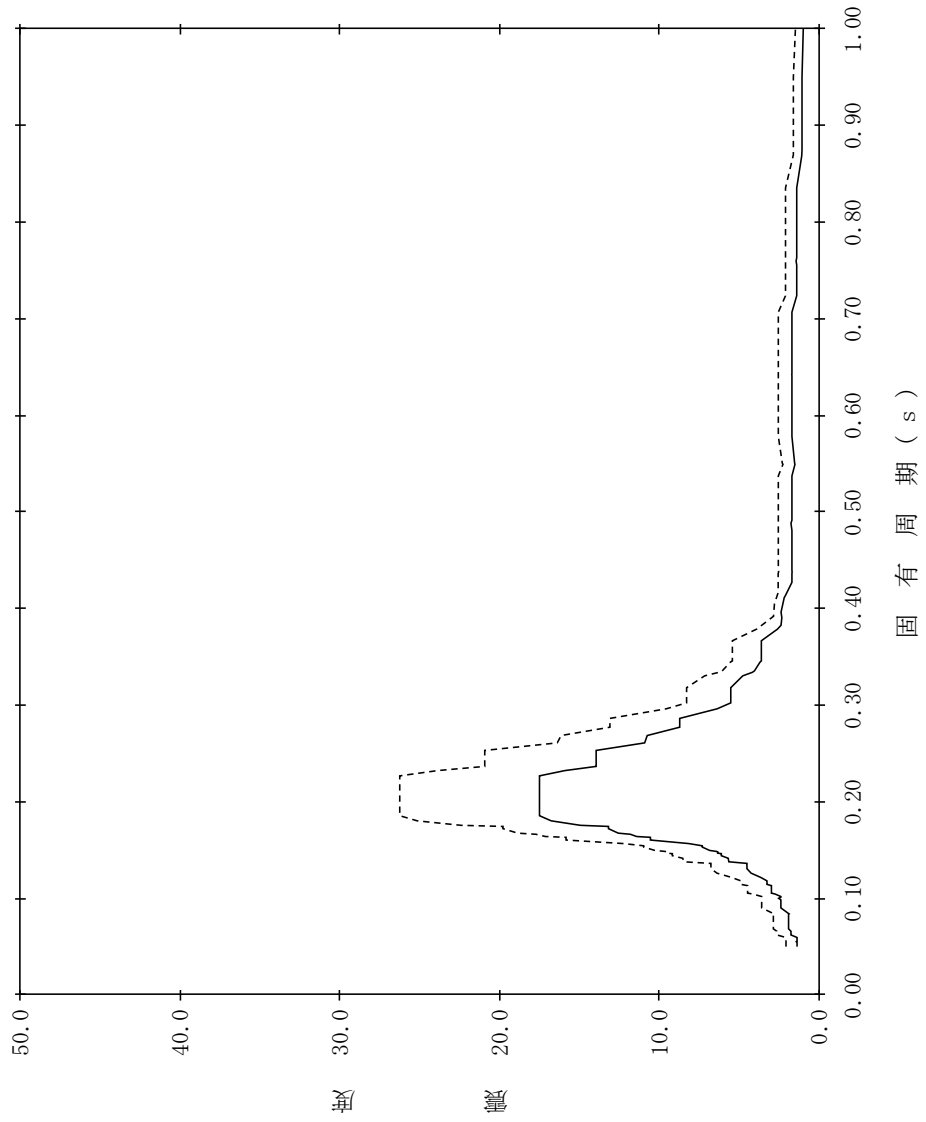
【NS2-RwB-SdEW-RwB16】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



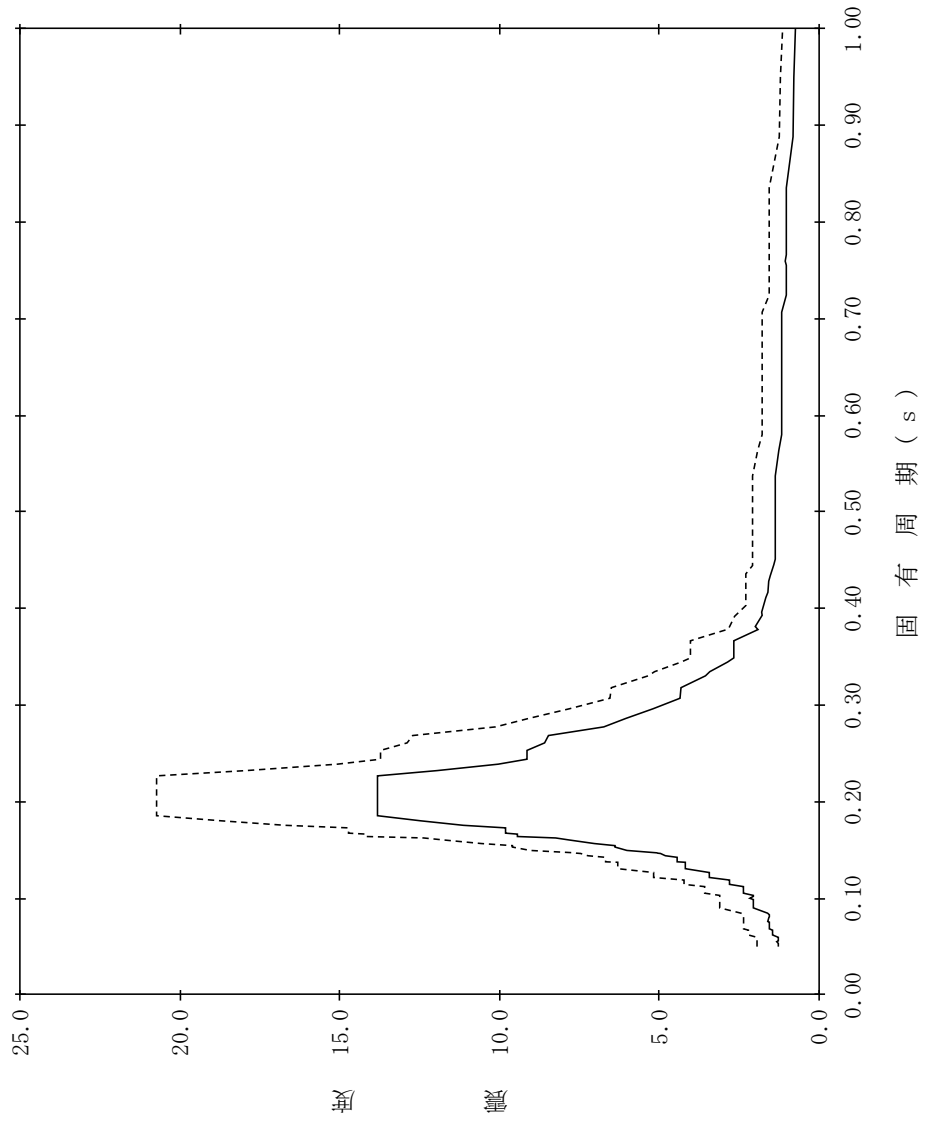
【NS2-RwB-SdEW-RwB17】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



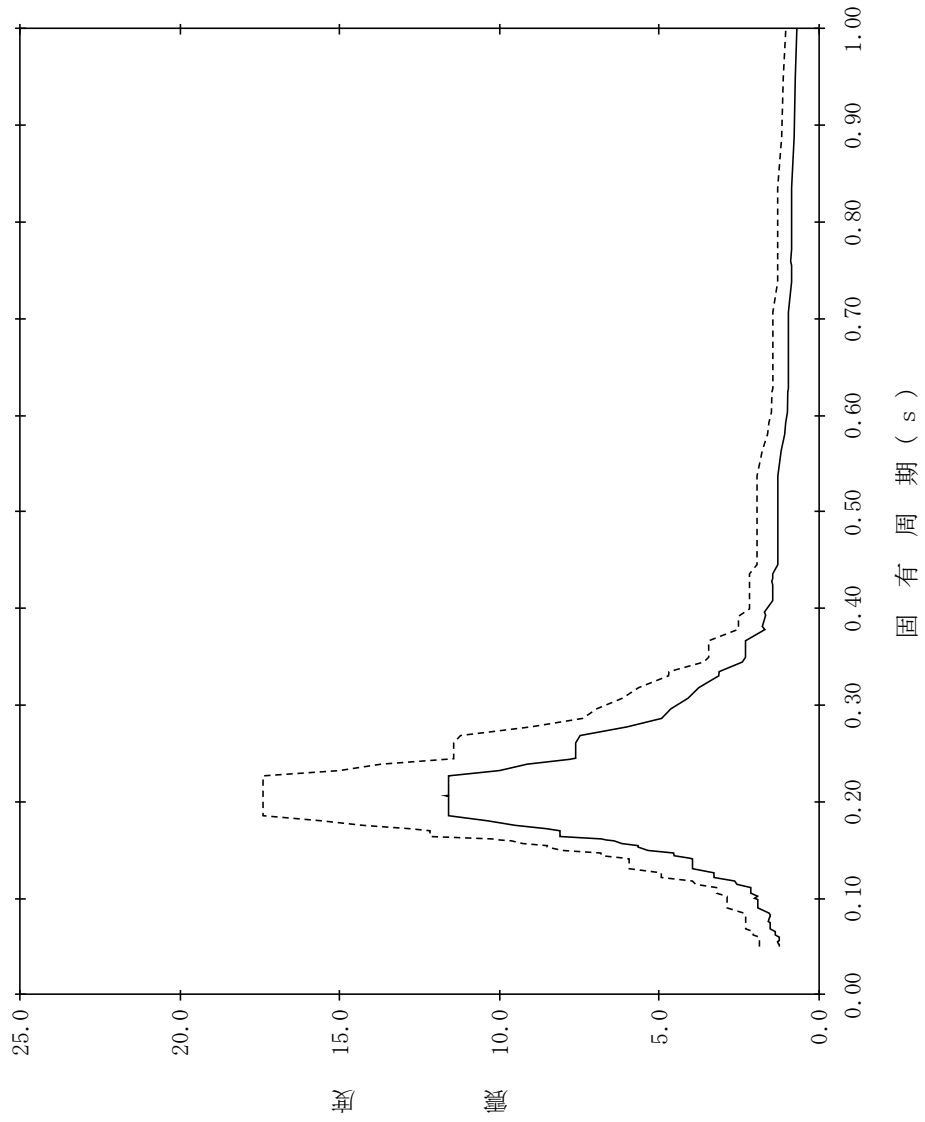
【NS2-RwB-SdEW-RwB18】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



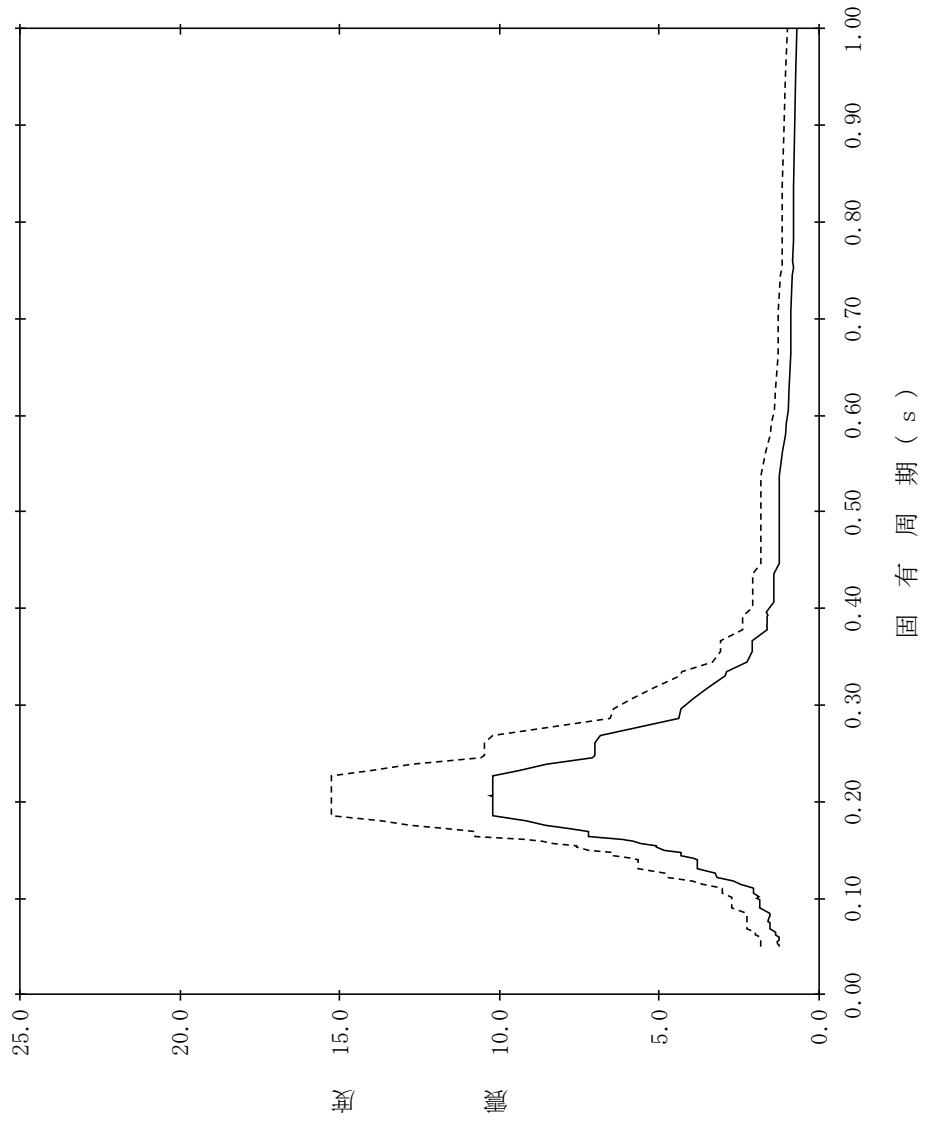
【NS2-RwB-SdEW-RwB19】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



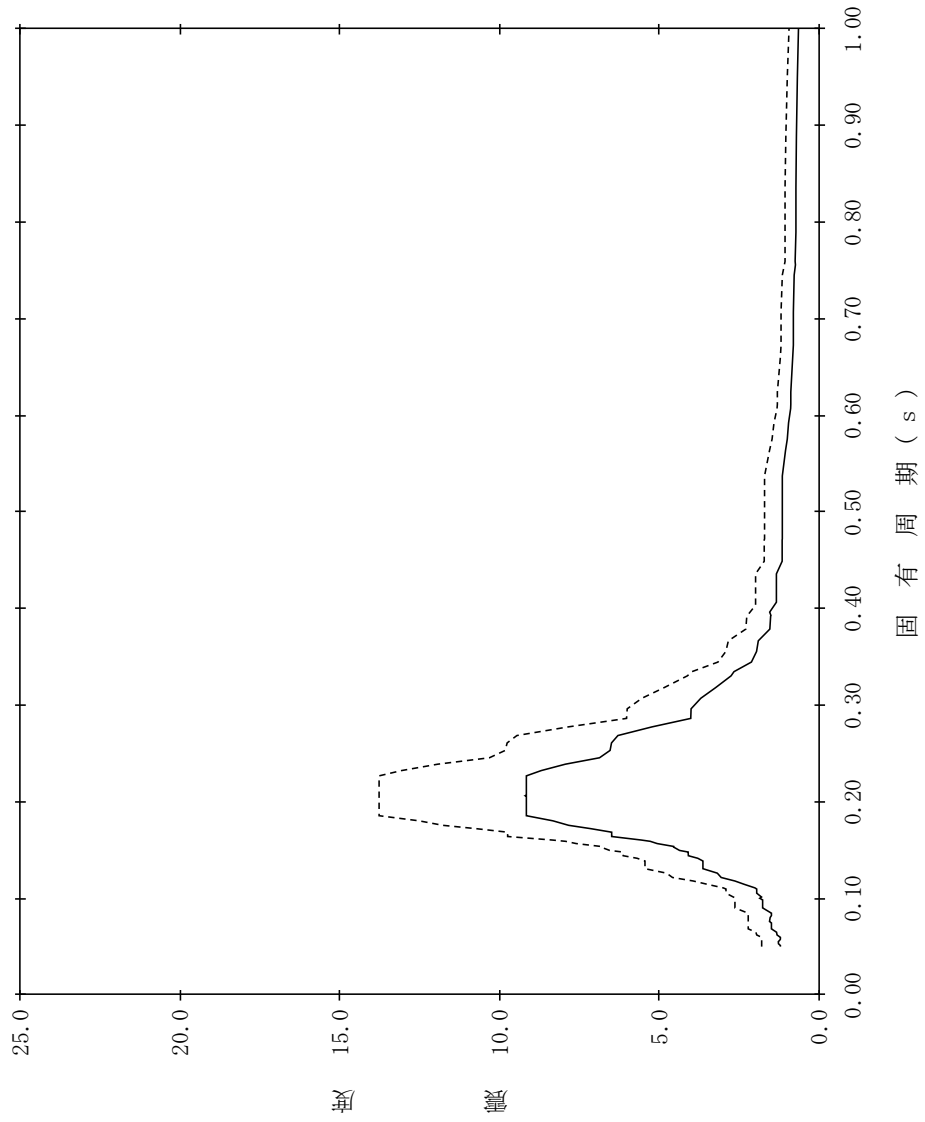
【NS2-RwB-SdEW-RwB20】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



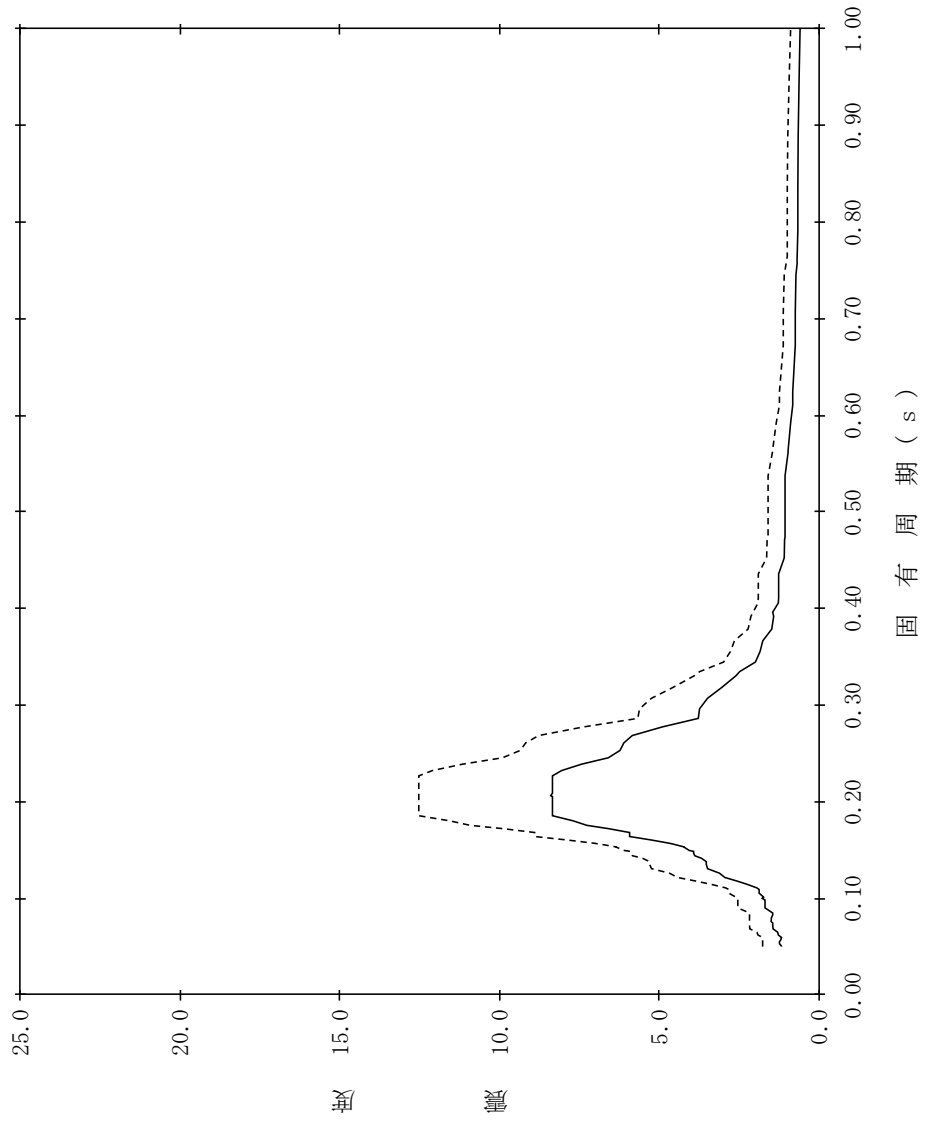
【NS2-RwB-SdEW-RwB21】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



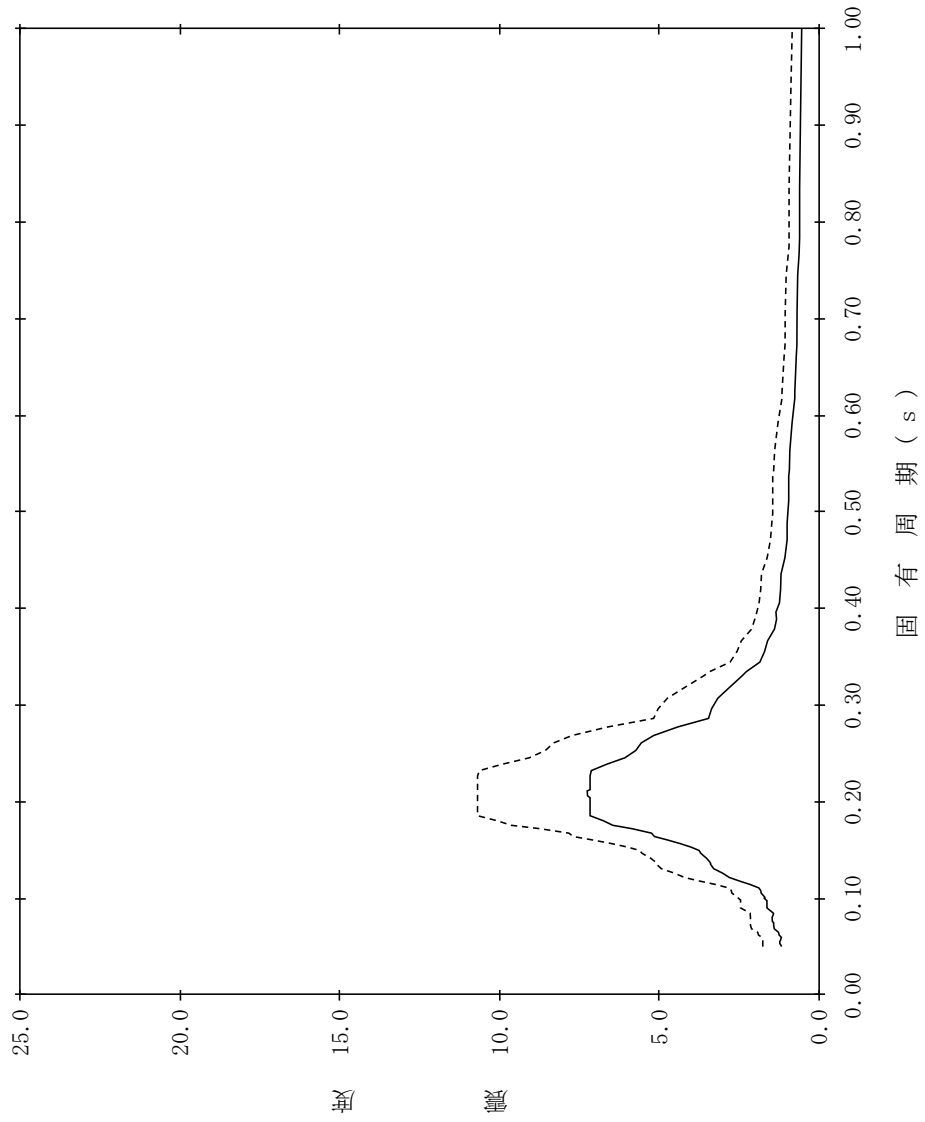
【NS2-RwB-SdEW-RwB22】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL32.000m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



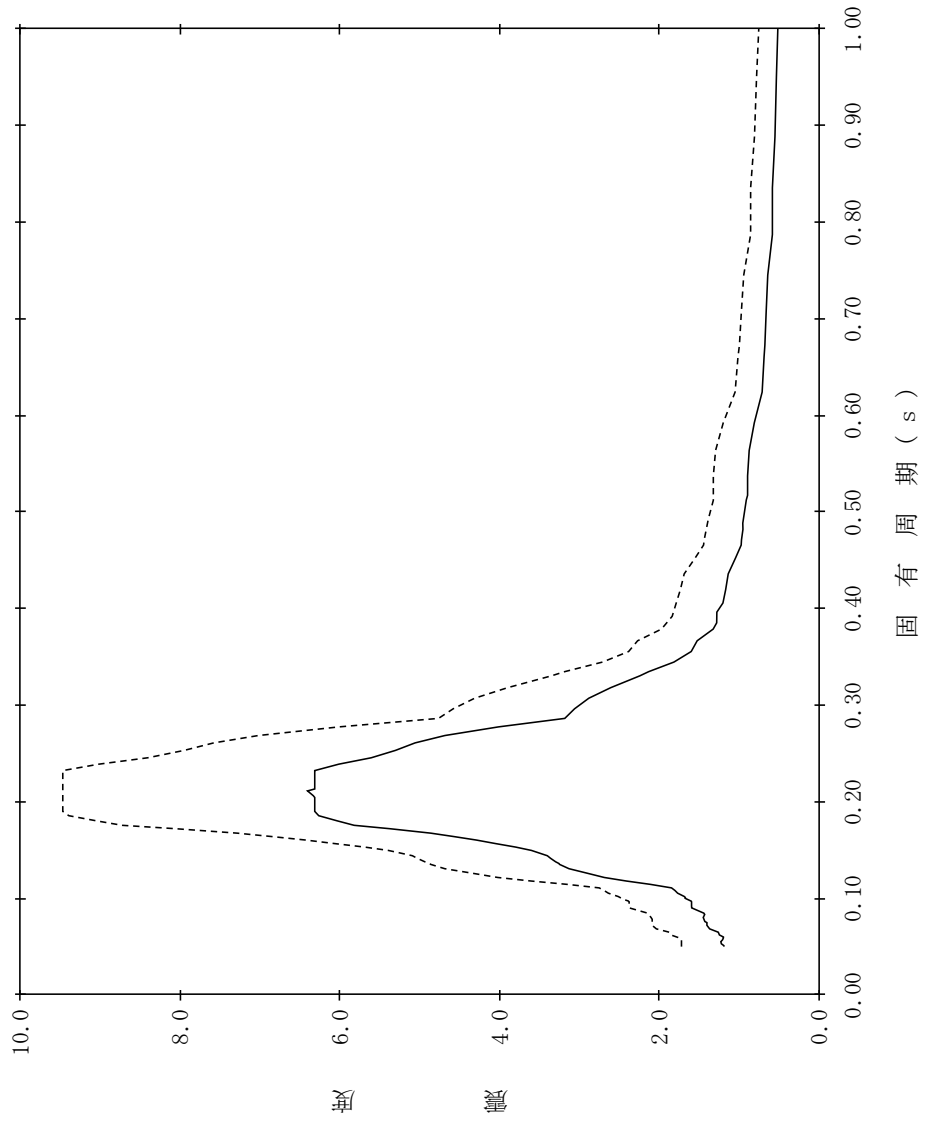
【NS2-RwB-SdEW-RwB23】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL32.000m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



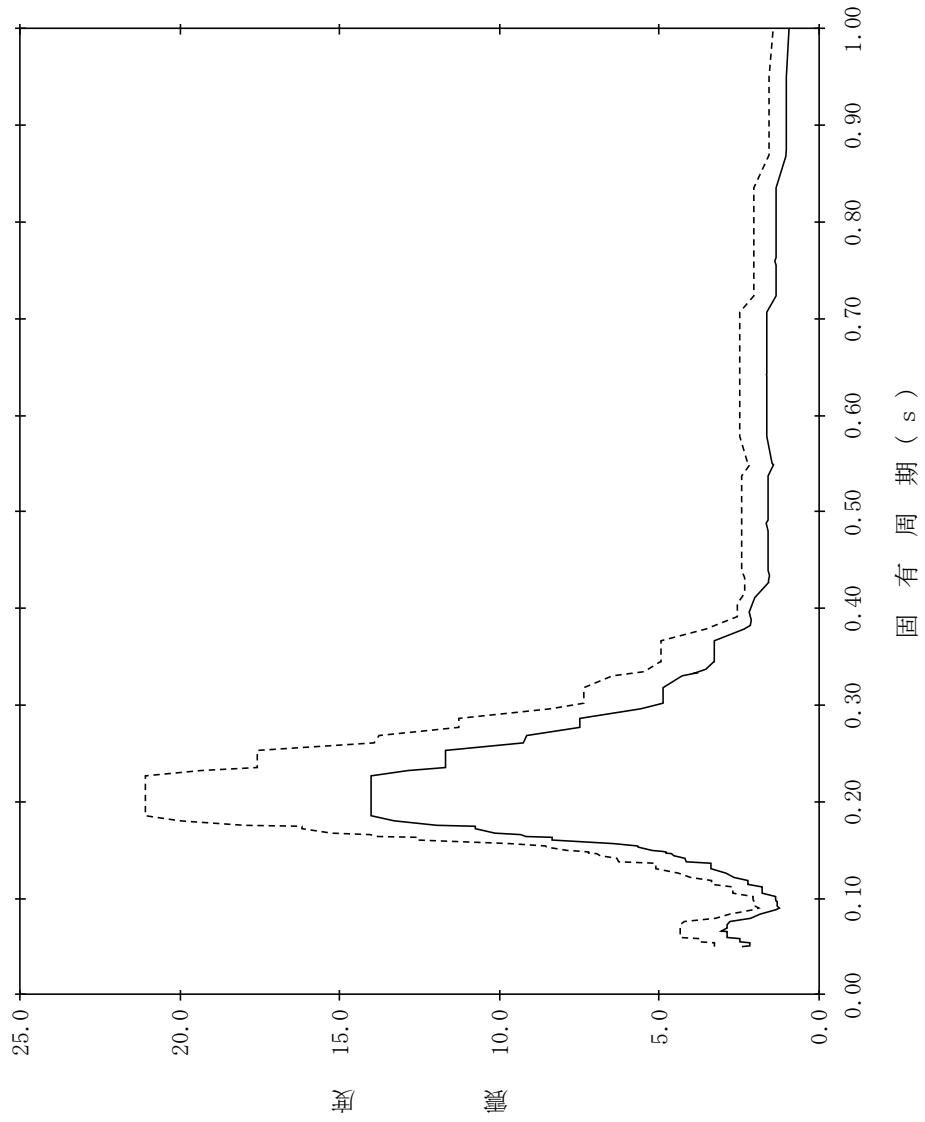
【NS2-RwB-SdEW-RwB24】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



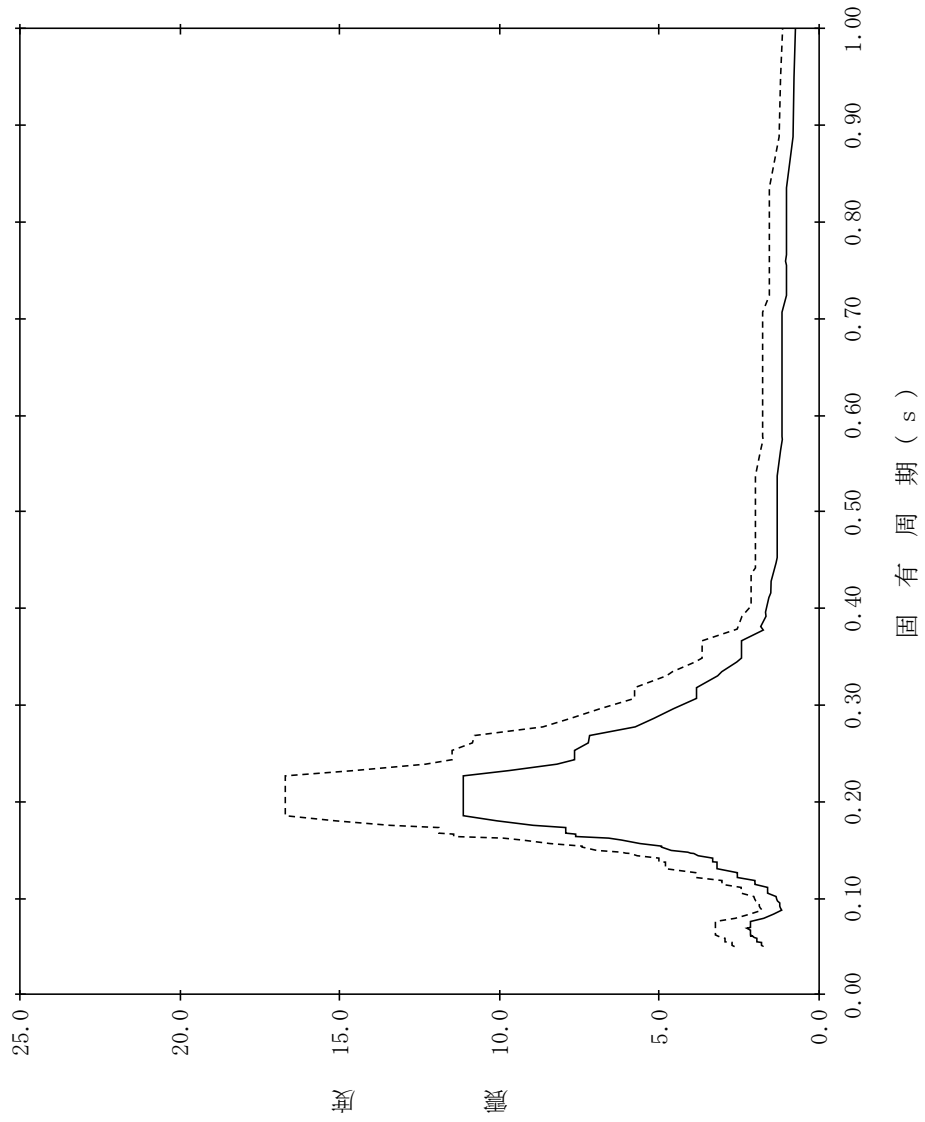
【NS2-RwB-SdEW-RwB25】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



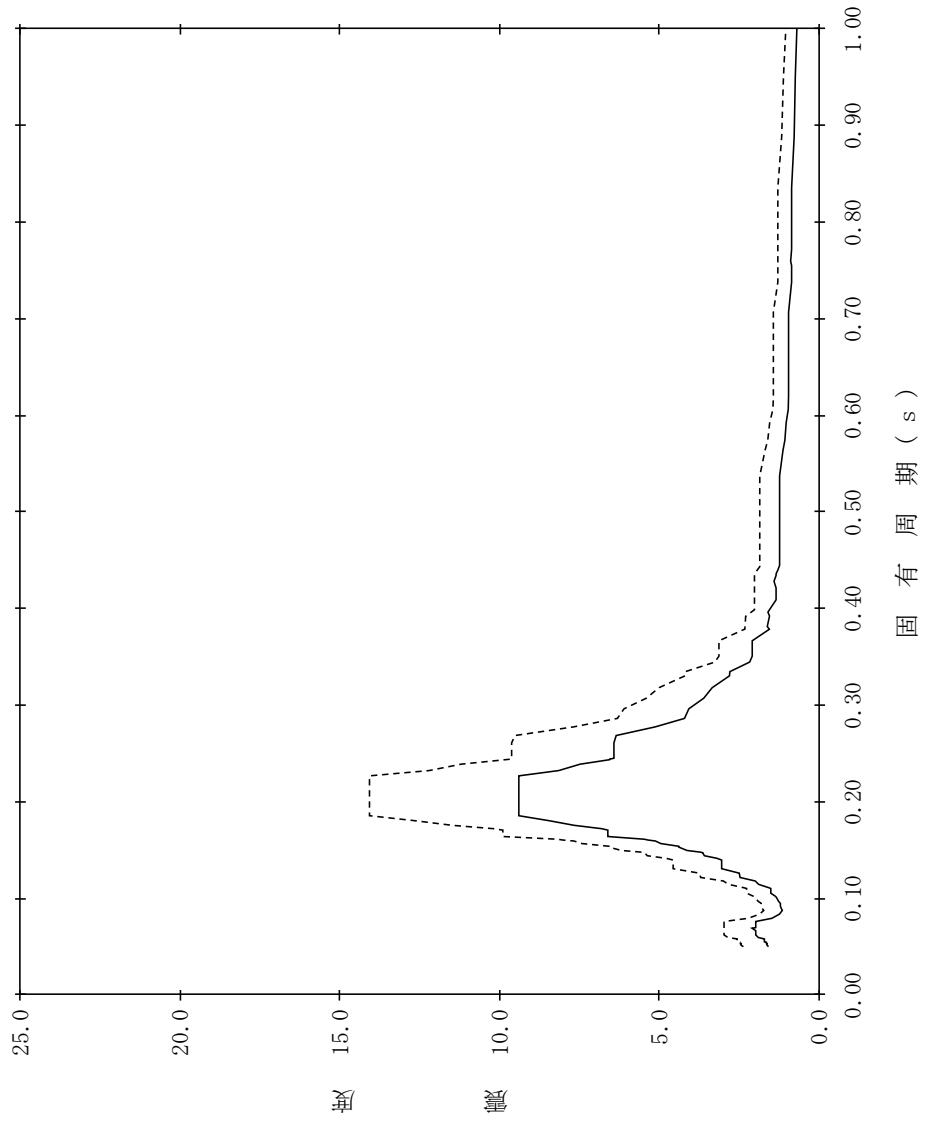
【NS2-RwB-SdEW-RwB26】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



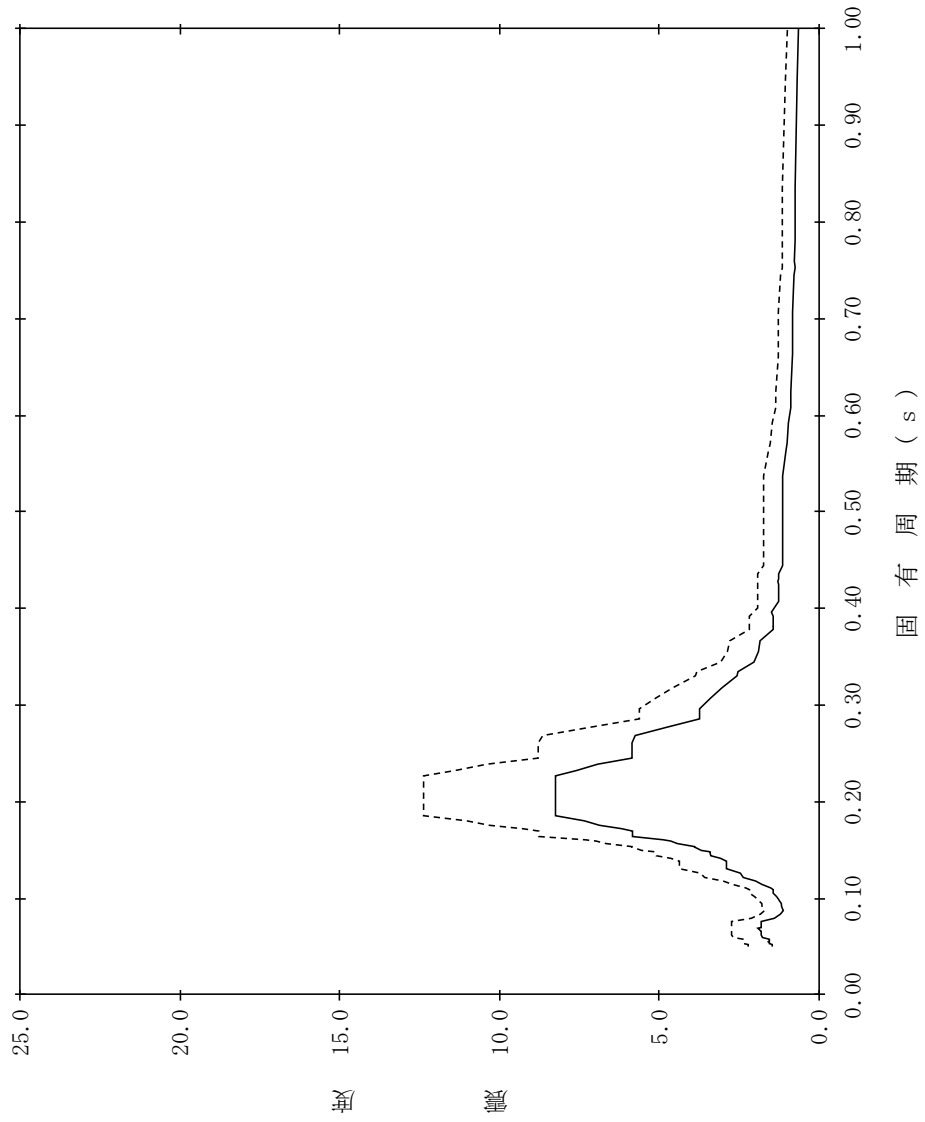
【NS2-RwB-SdEW-RwB27】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



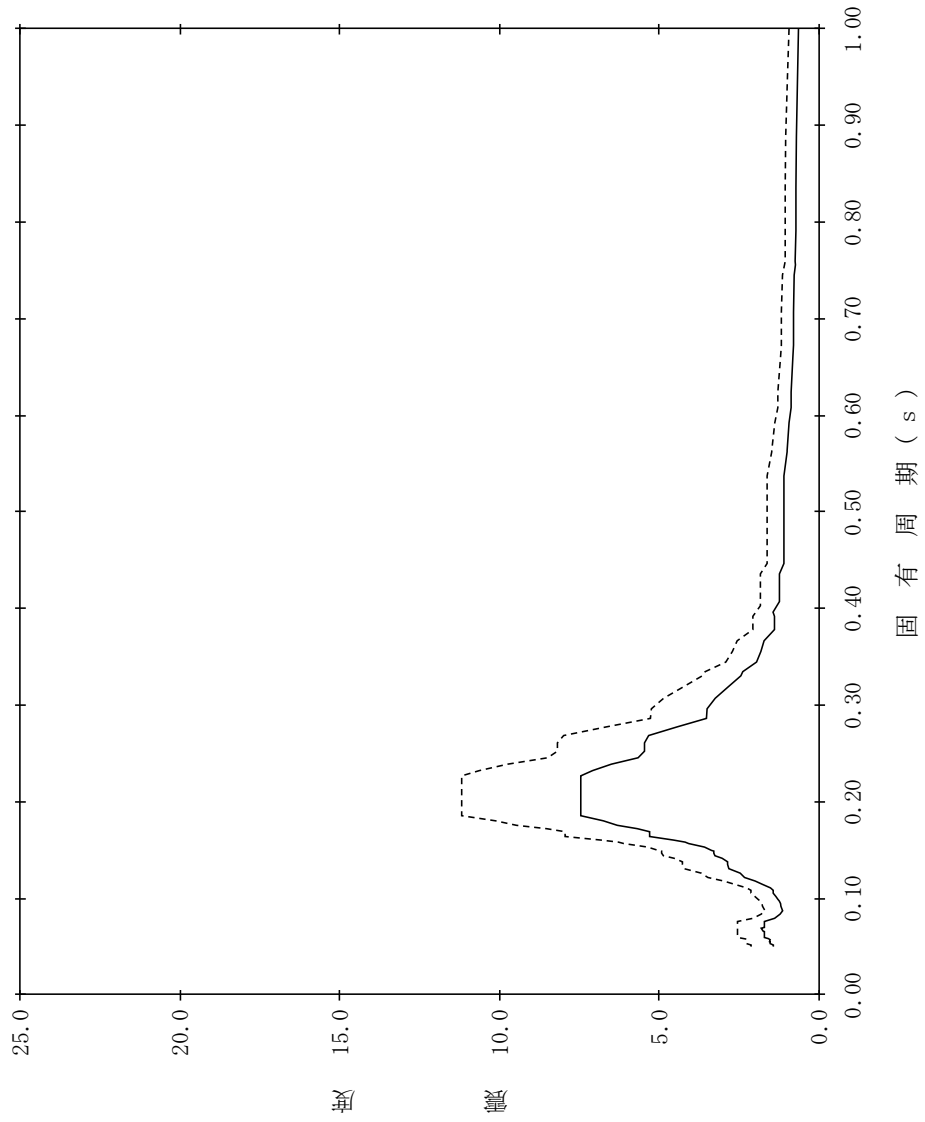
【NS2-RwB-SdEW-RwB28】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



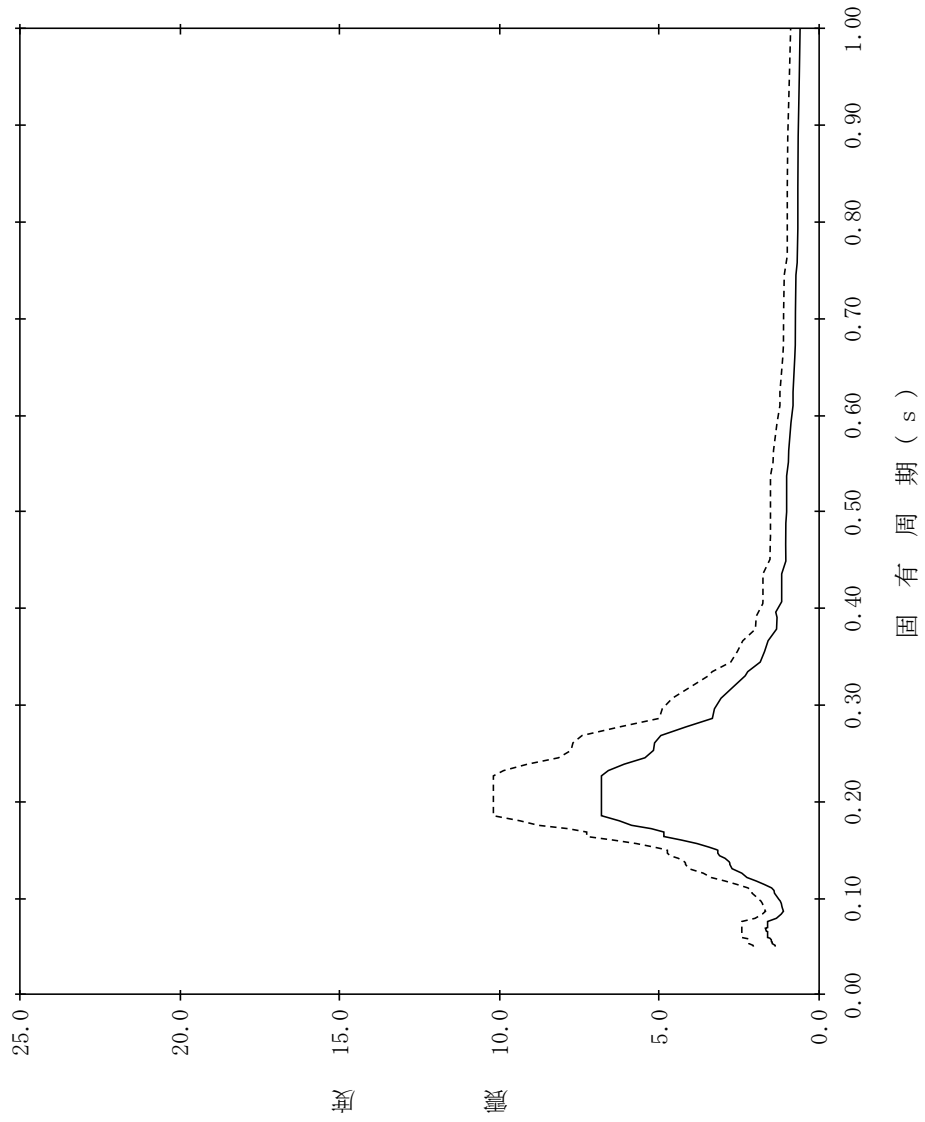
【NS2-RwB-SdEW-RwB29】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



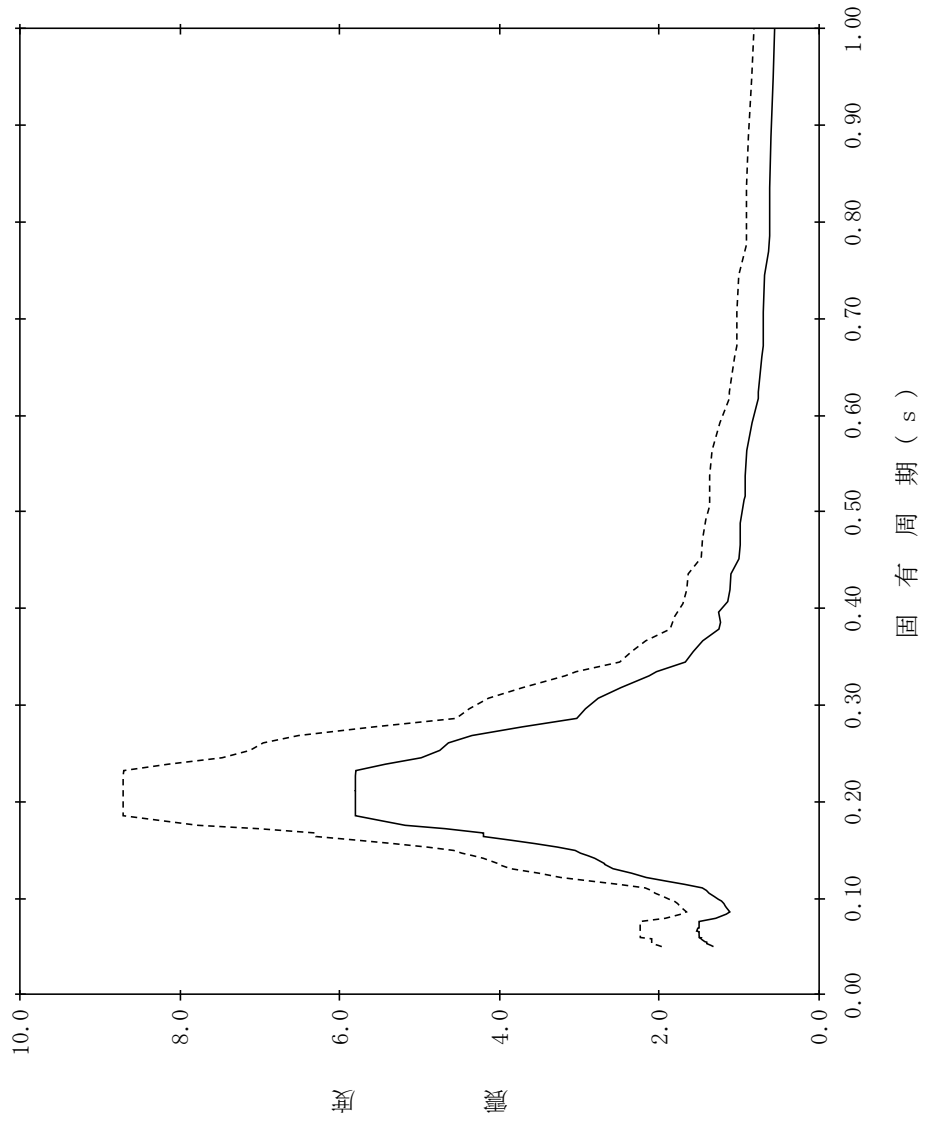
【NS2-RwB-SdEW-RwB30】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



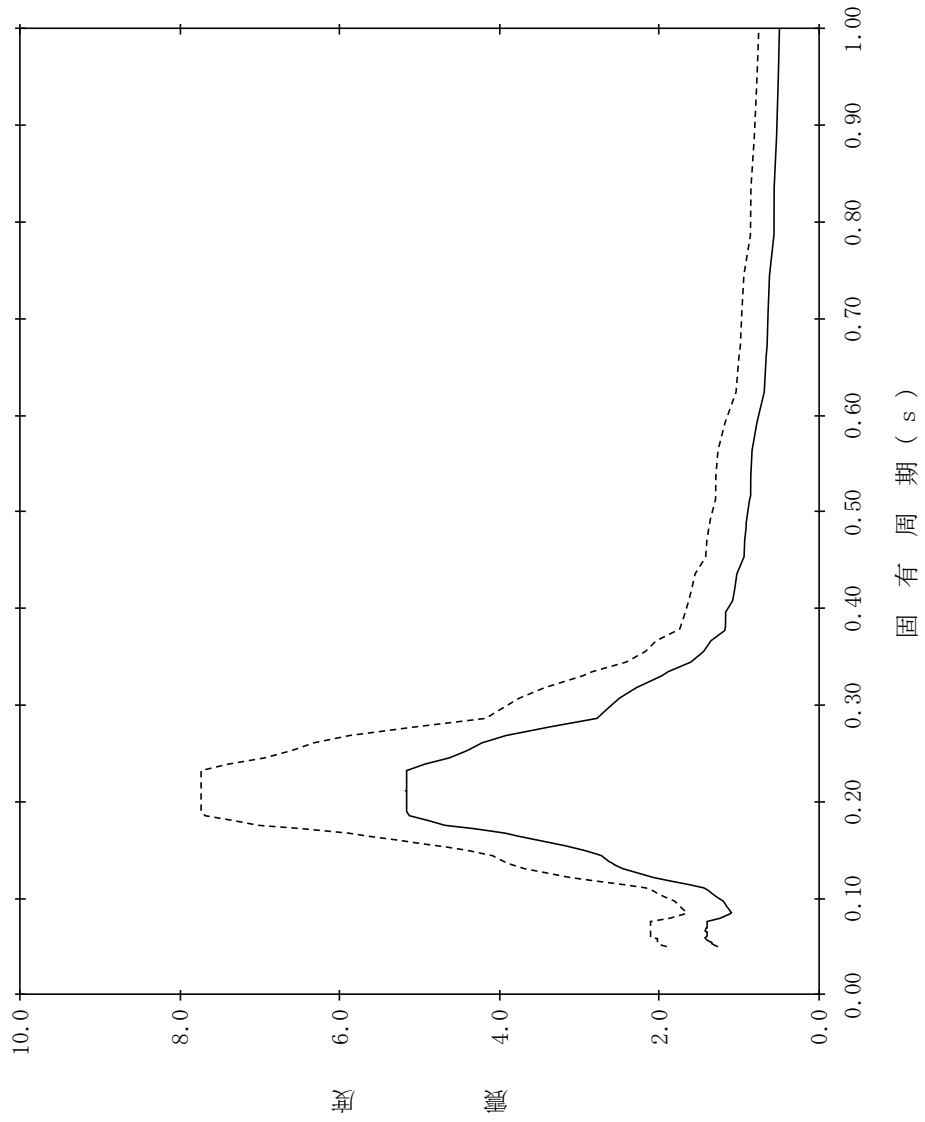
【NS2-RwB-SdEW-RwB31】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL26.700m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



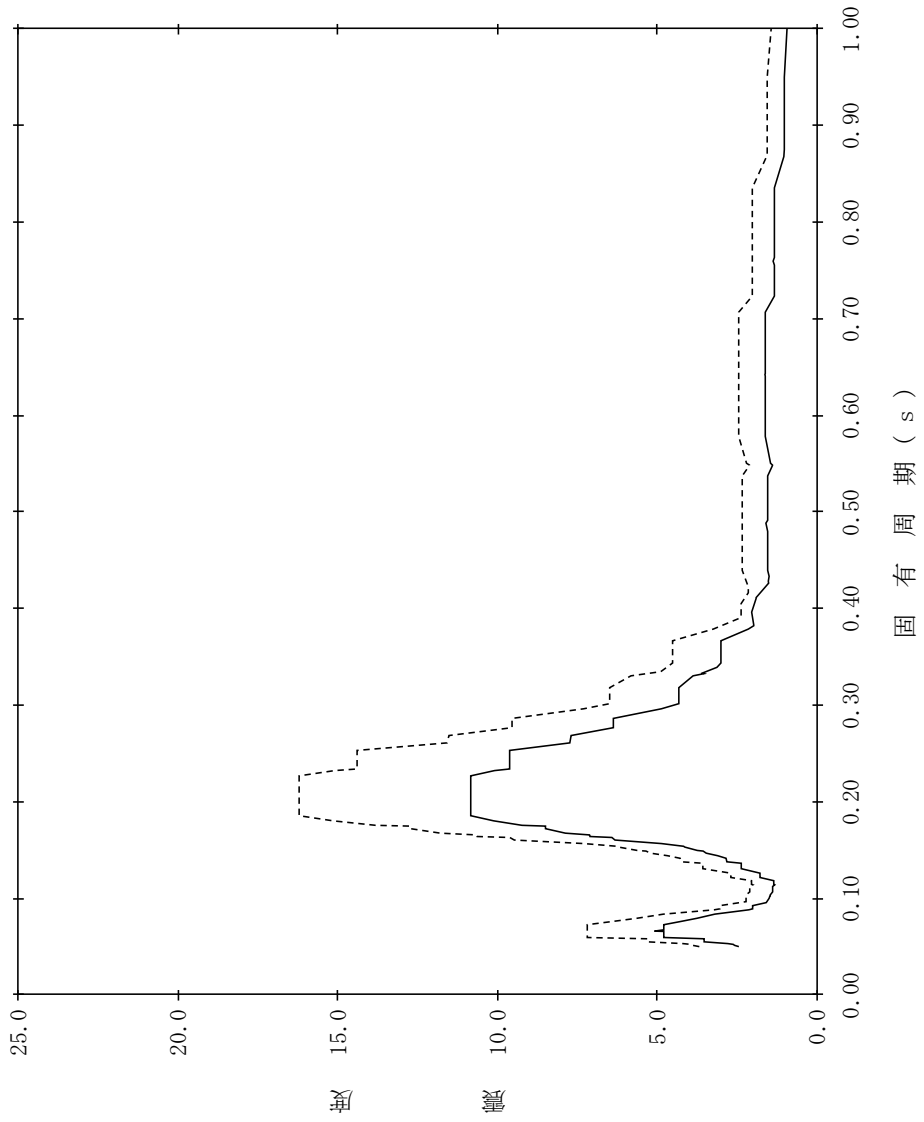
【NS2-RwB-SdEW-RwB32】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



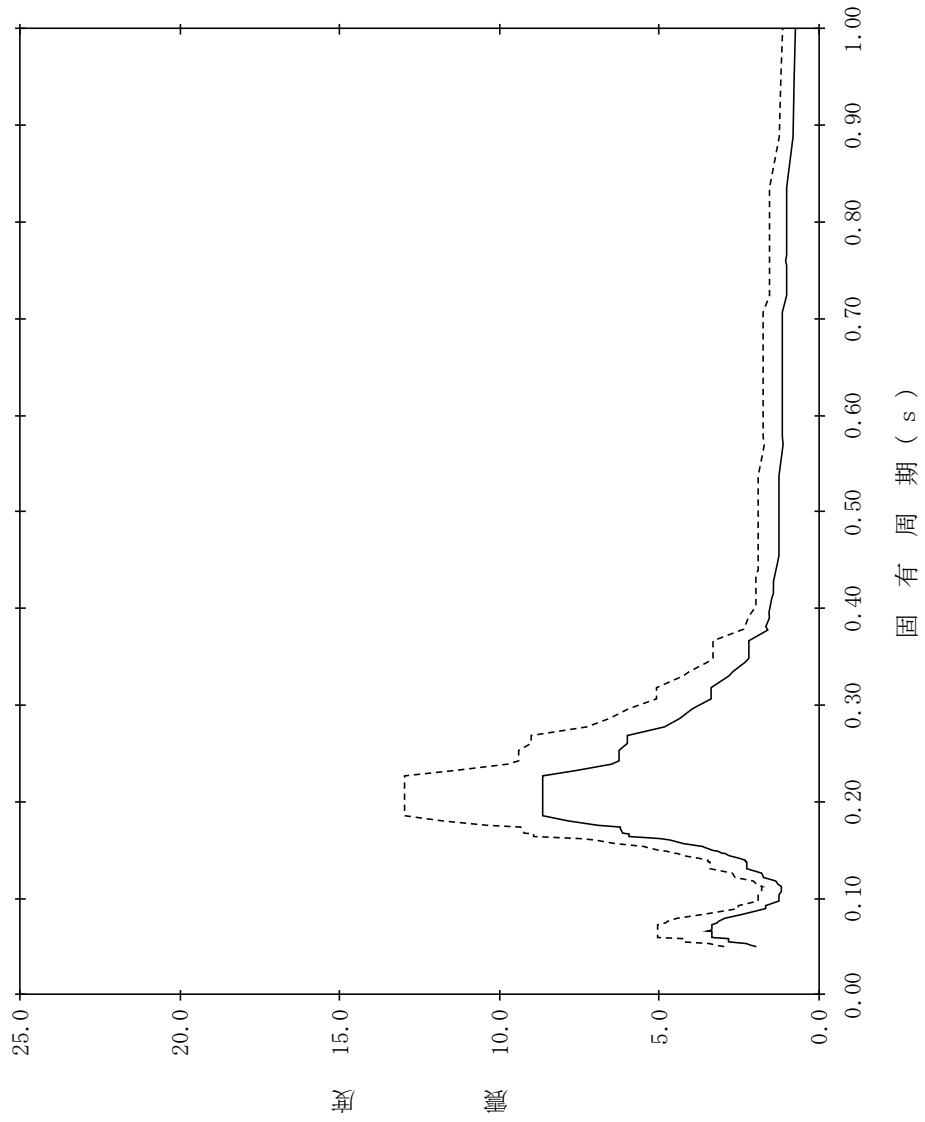
【NS2-RwB-SdEW-RwB33】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



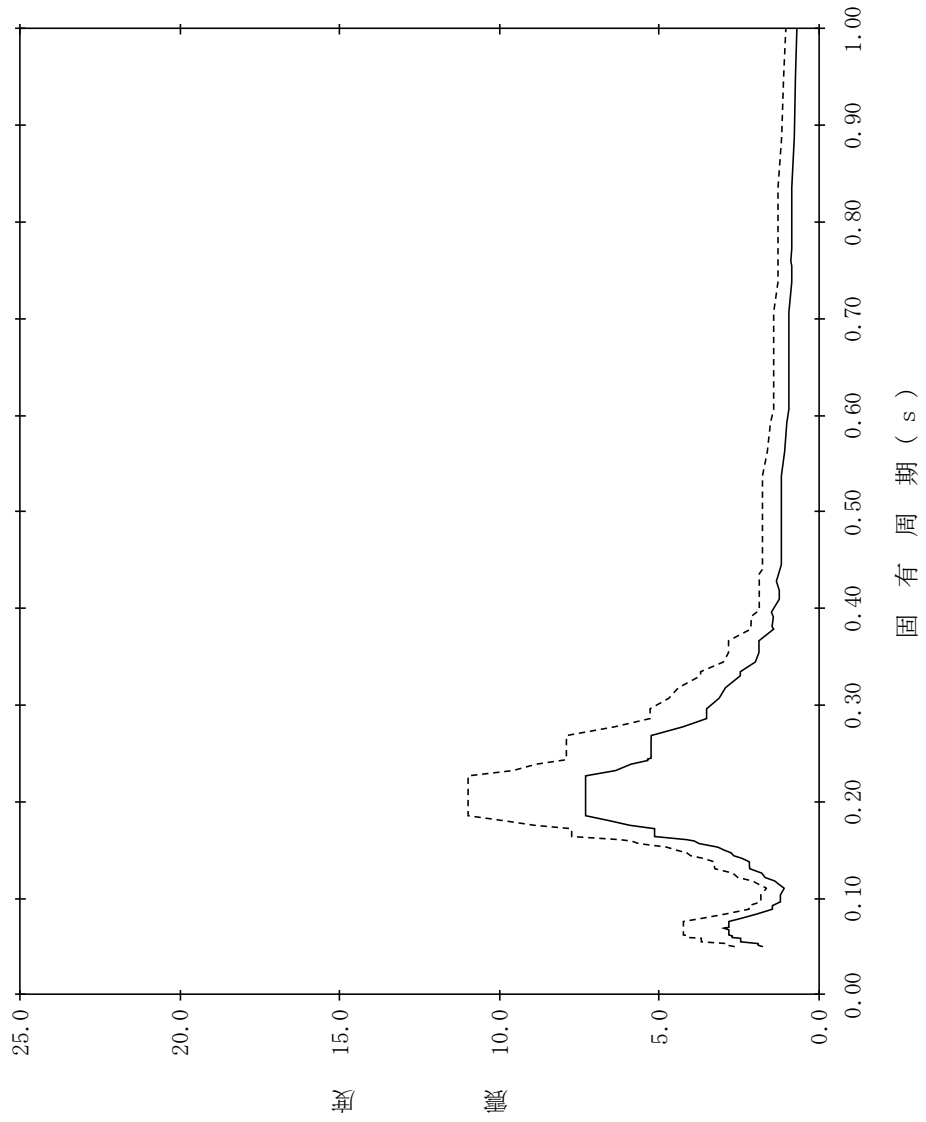
【NS2-RwB-SdEW-RwB34】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



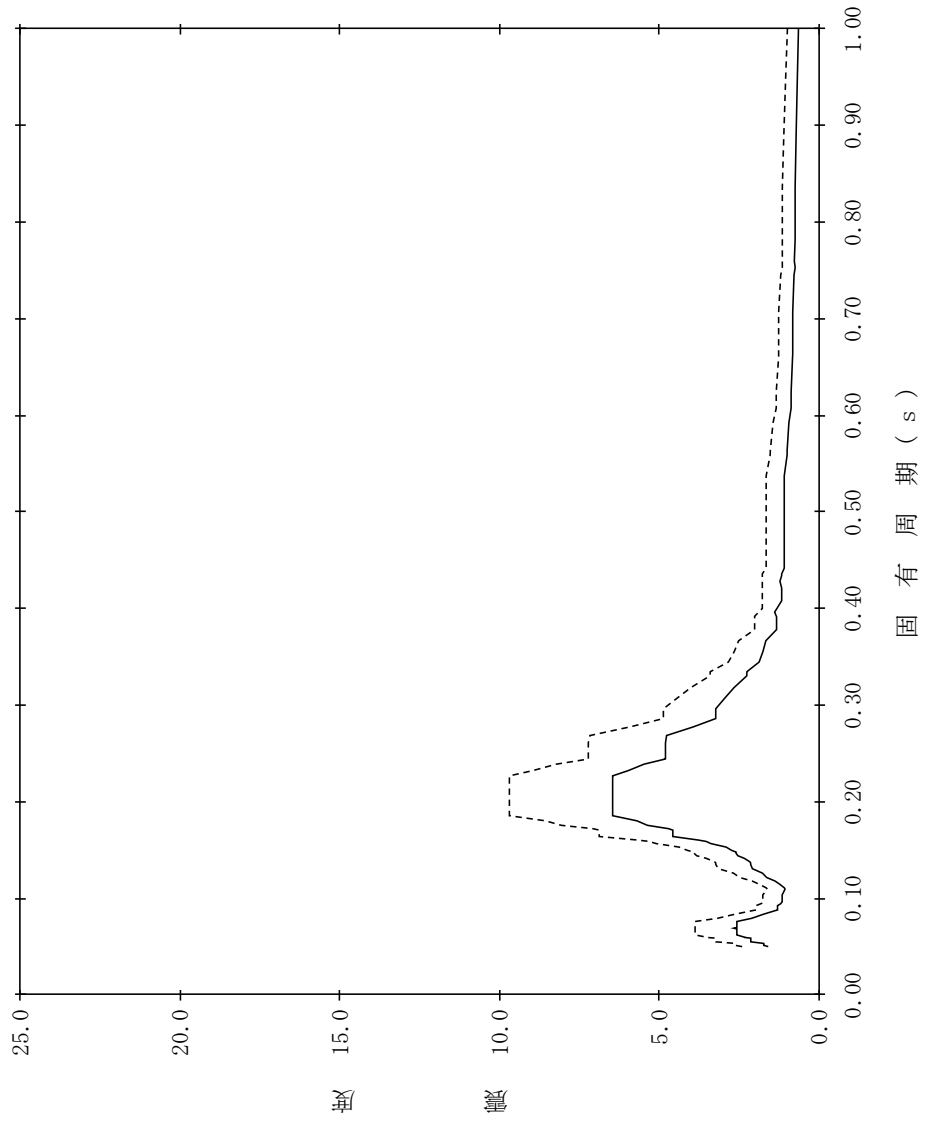
【NS2-RwB-SdEW-RwB35】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



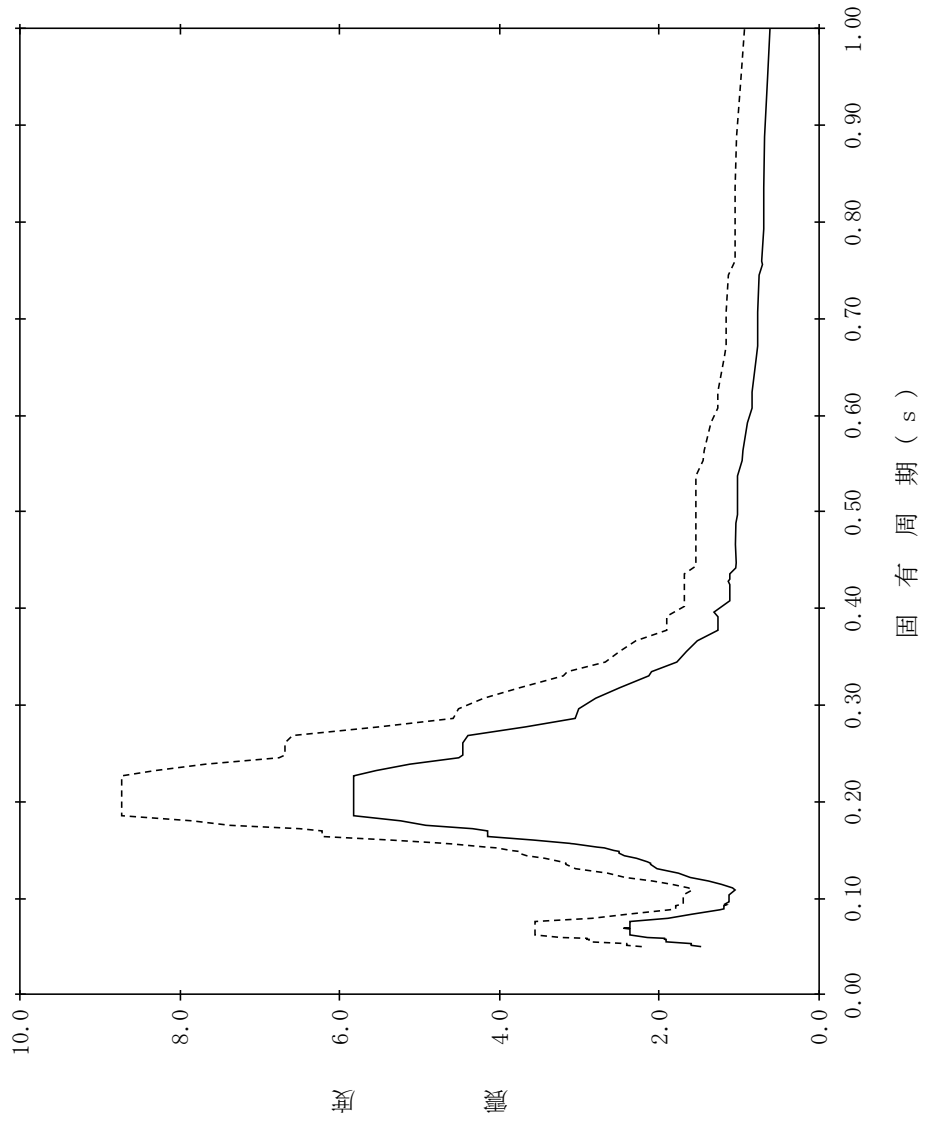
【NS2-RwB-SdEW-RwB36】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



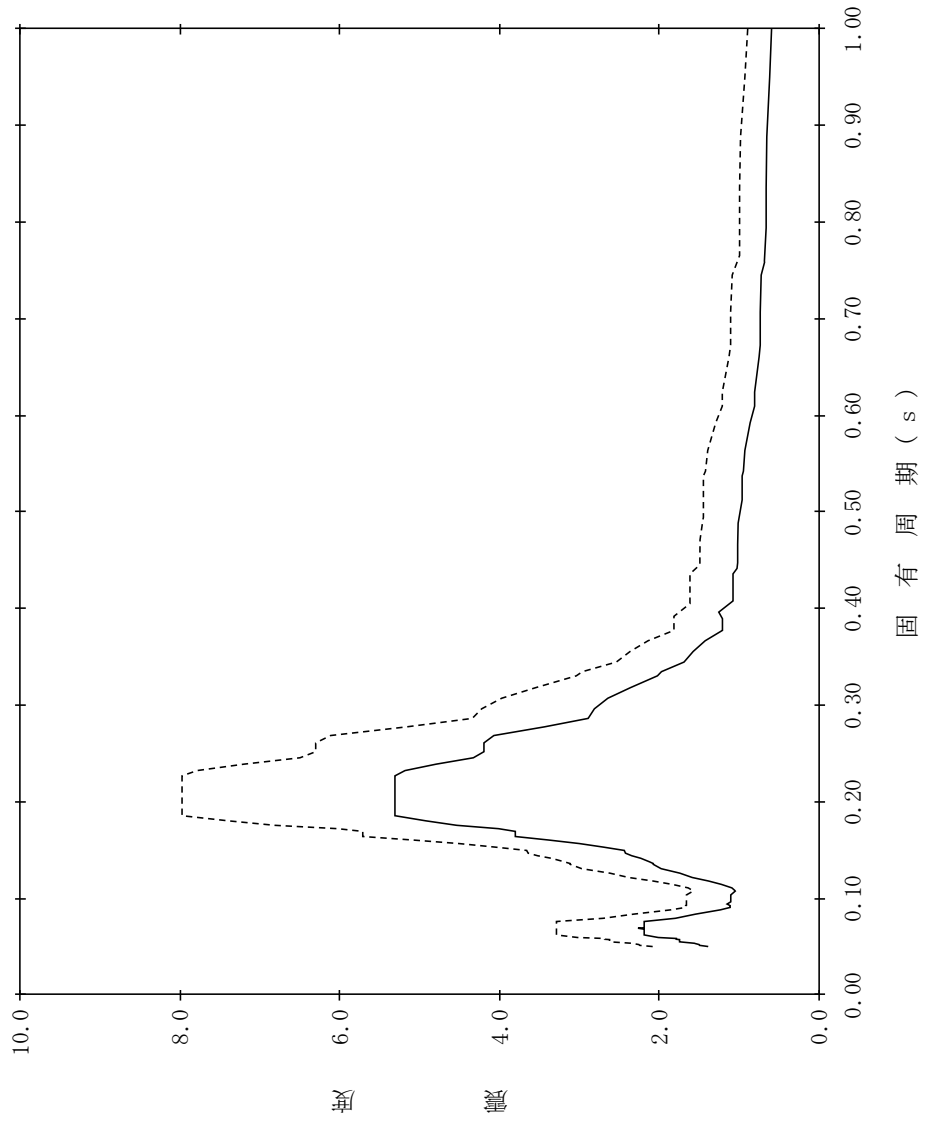
【NS2-RwB-SdEW-RwB37】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



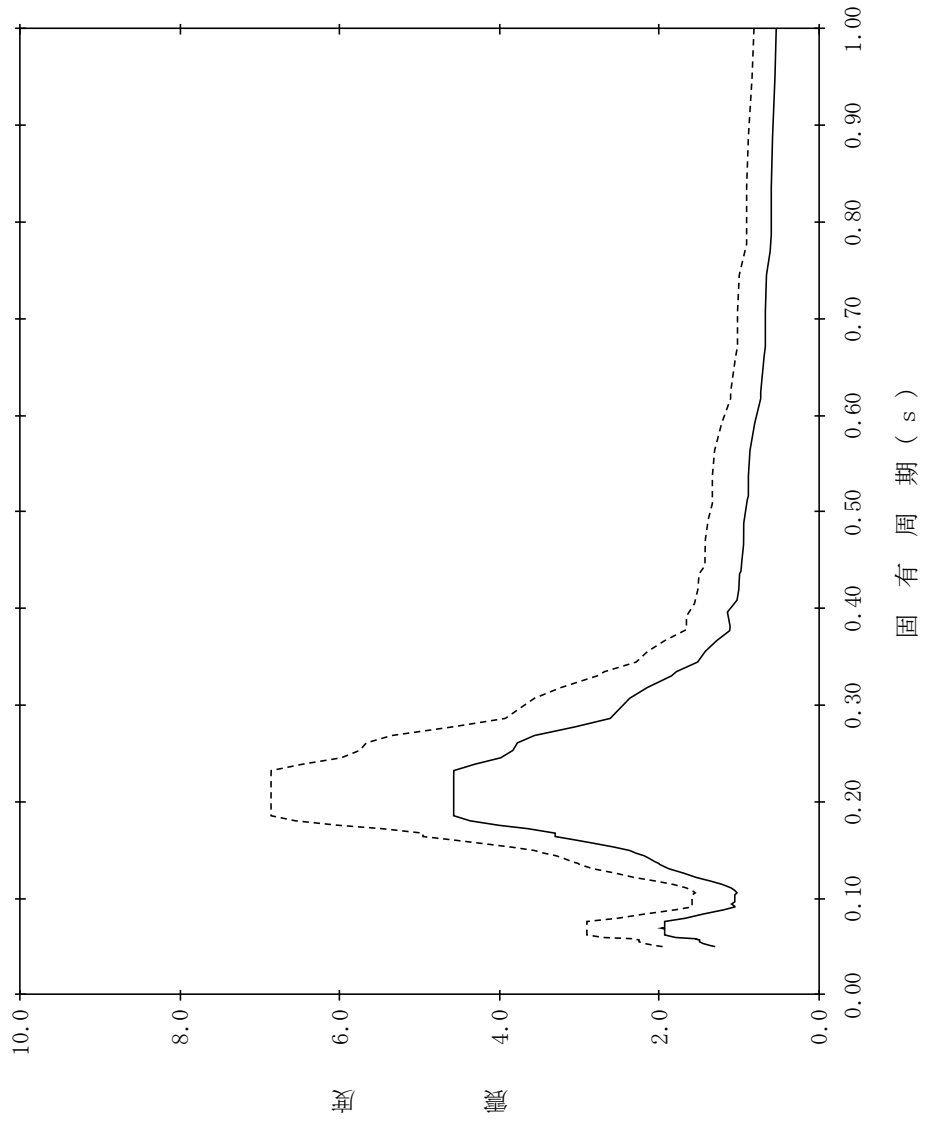
【NS2-RwB-SdEW-RwB38】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



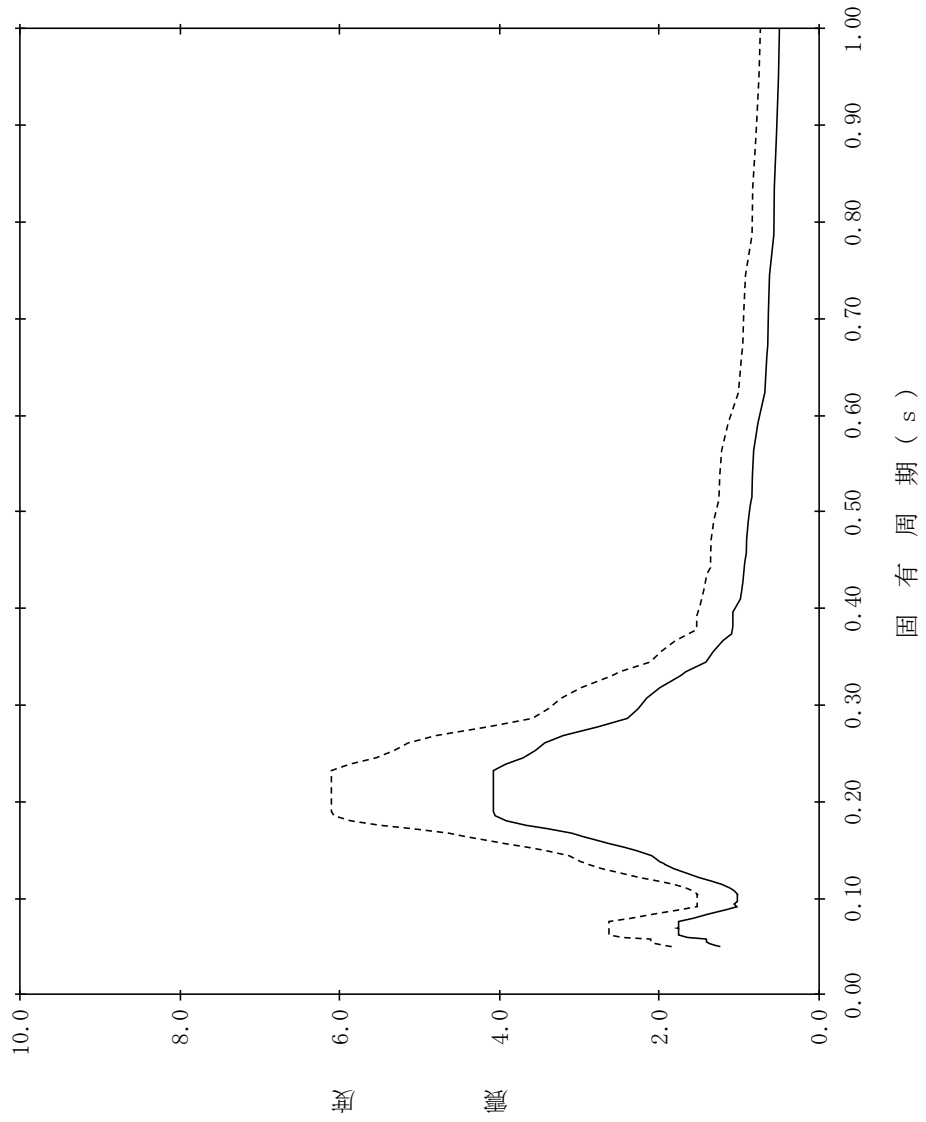
【NS2-RwB-SdEW-RwB39】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL22.100m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



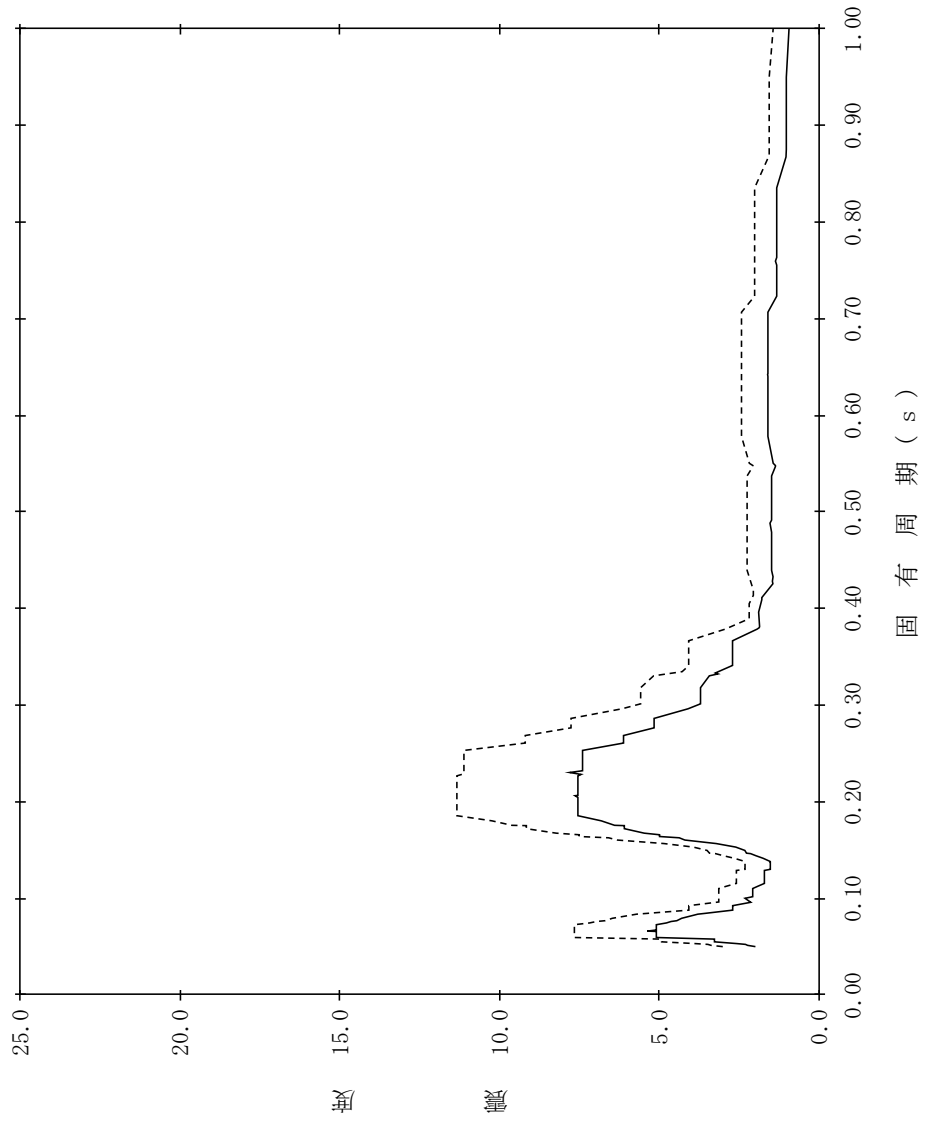
【NS2-RwB-SdEW-RwB40】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



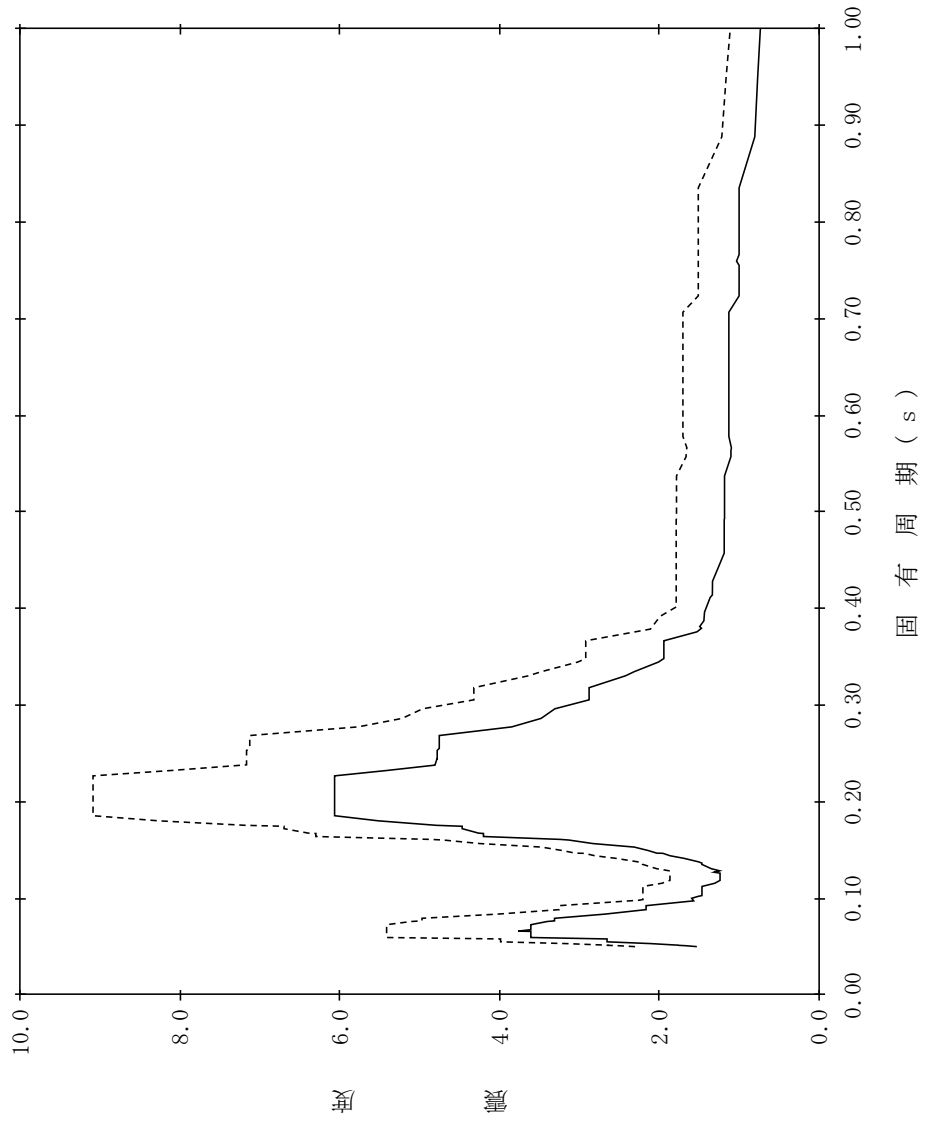
【NS2-RwB-SdEW-RwB41】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-RwB-SdEW-RwB42】

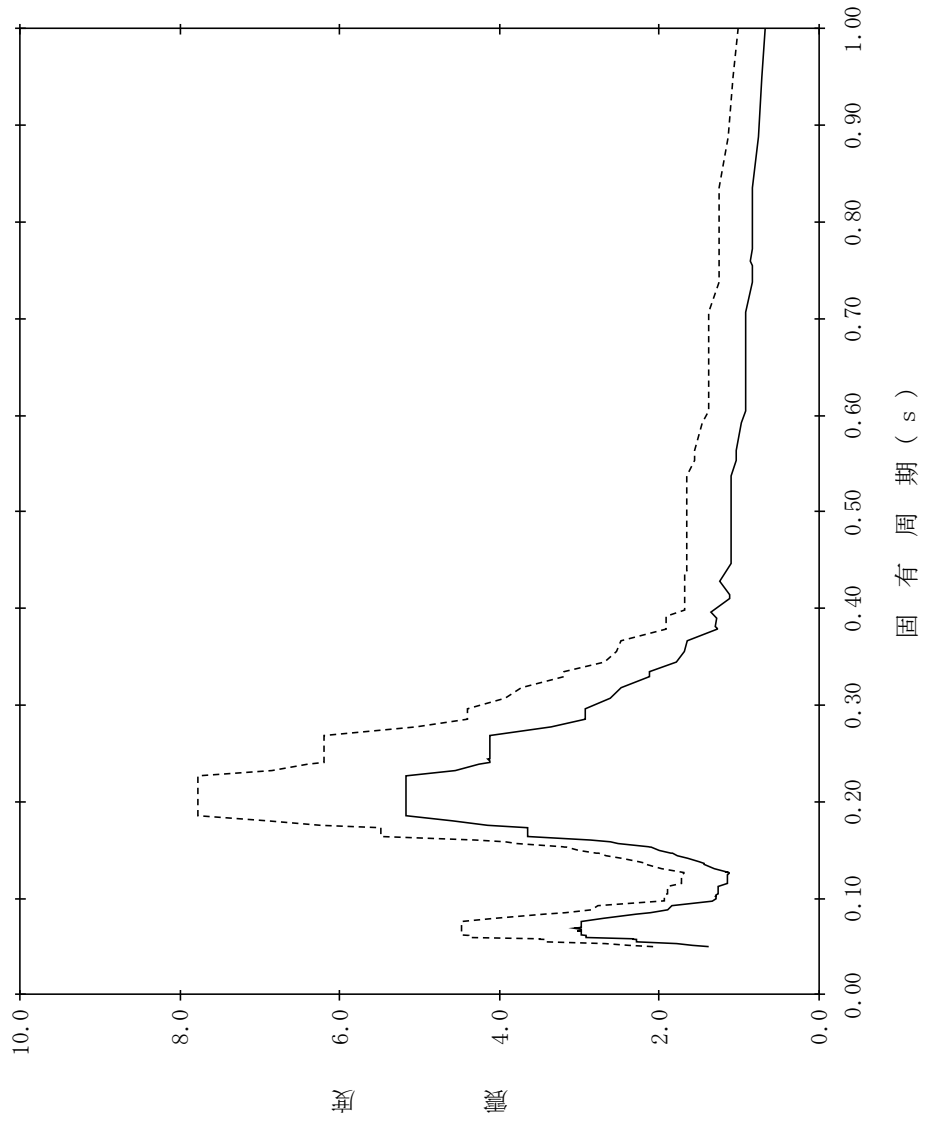
構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-RwB-SdEW-RwB43】

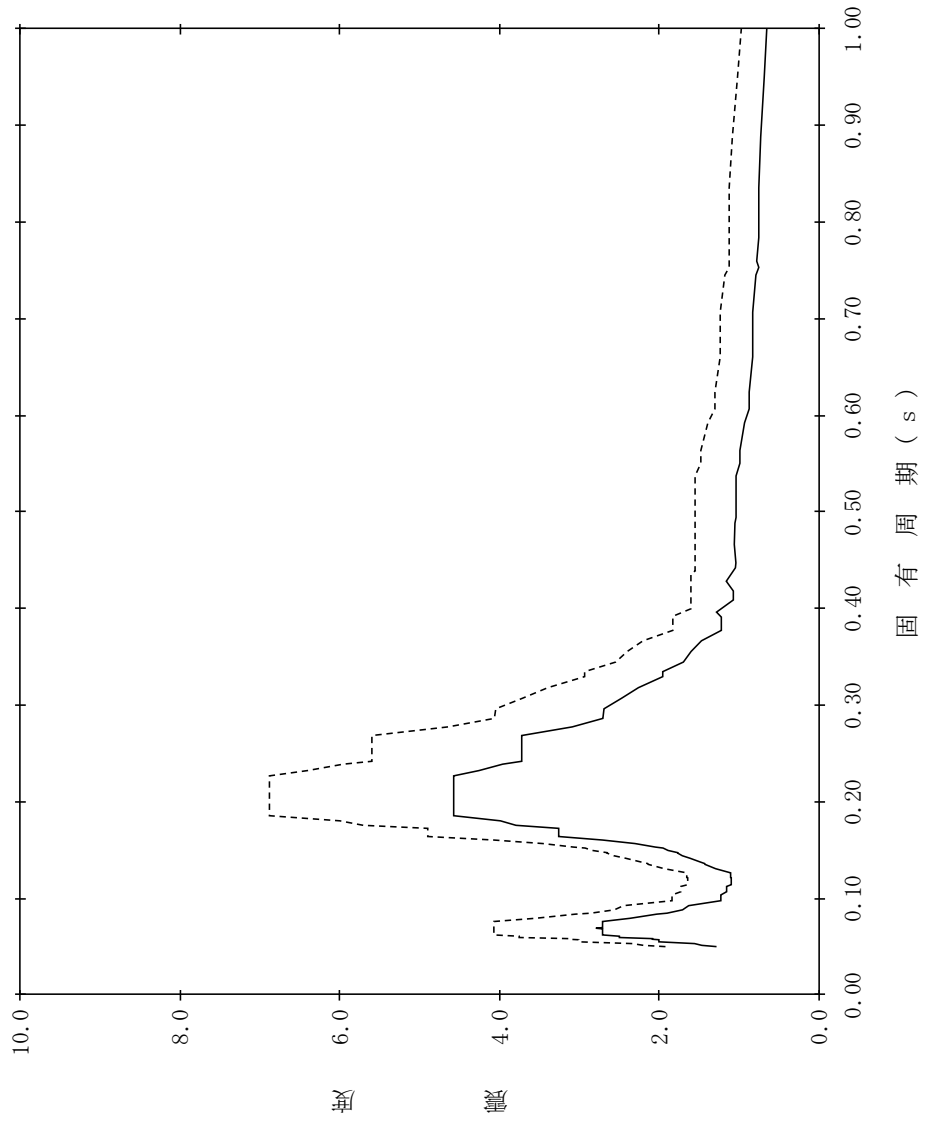
構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL16.900m
減衰定数：1.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



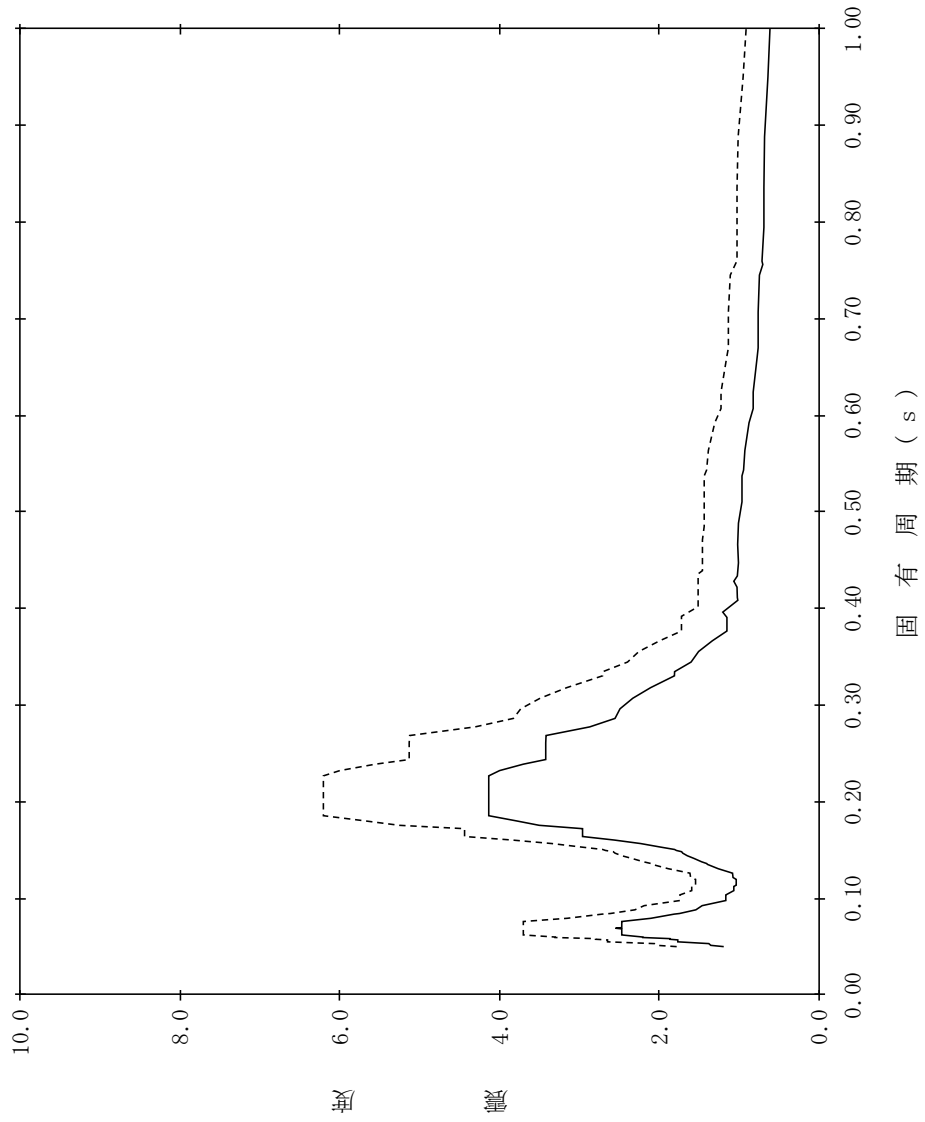
【NS2-RwB-SdEW-RwB44】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL16.900m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



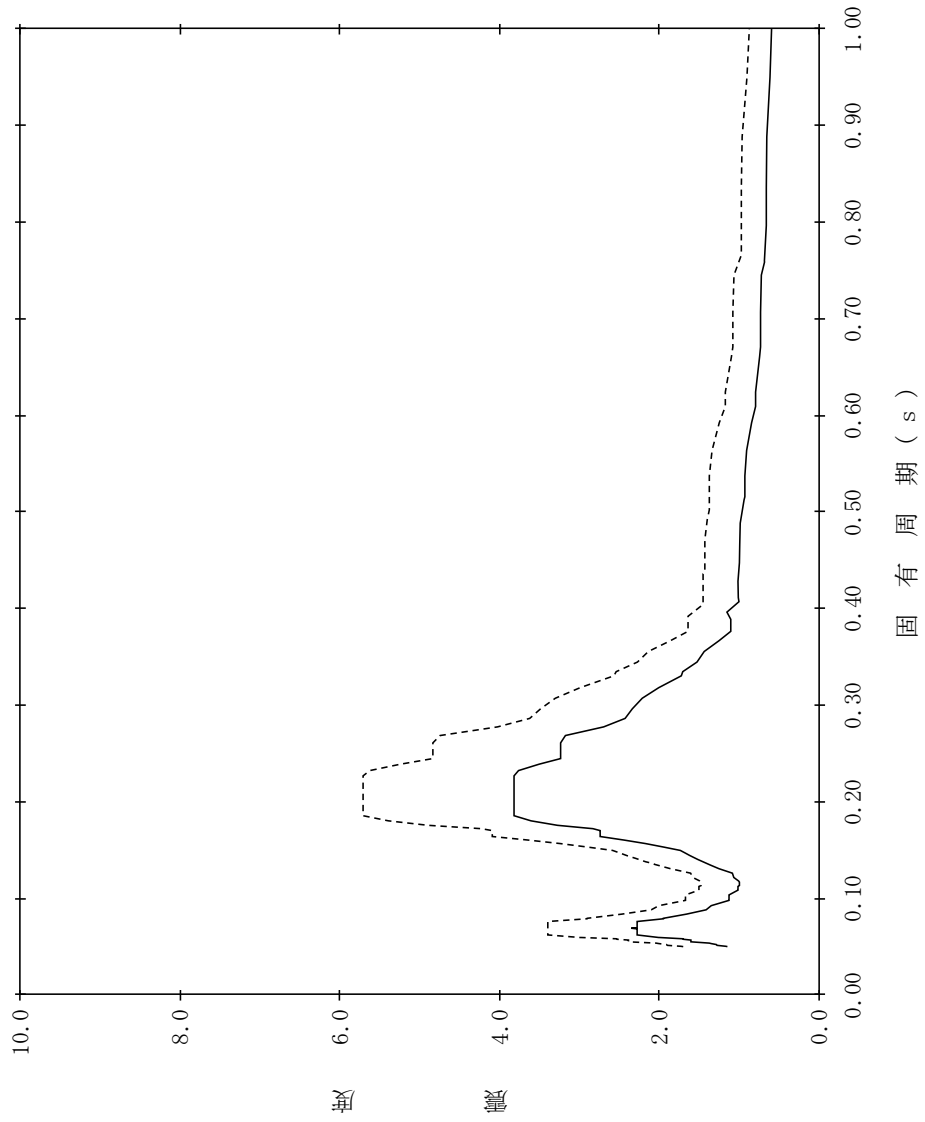
【NS2-RwB-SdEW-RwB45】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL16.900m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



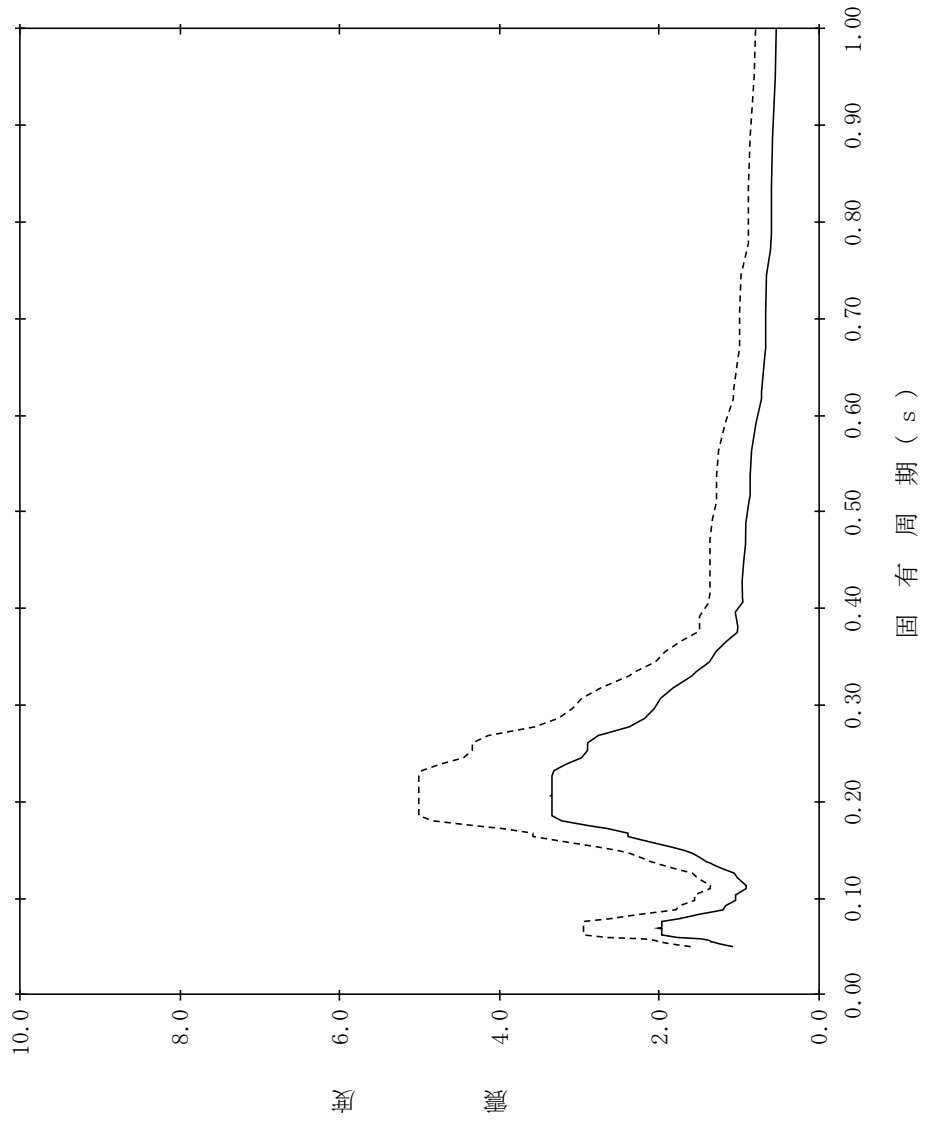
【NS2-RwB-SdEW-RwB46】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



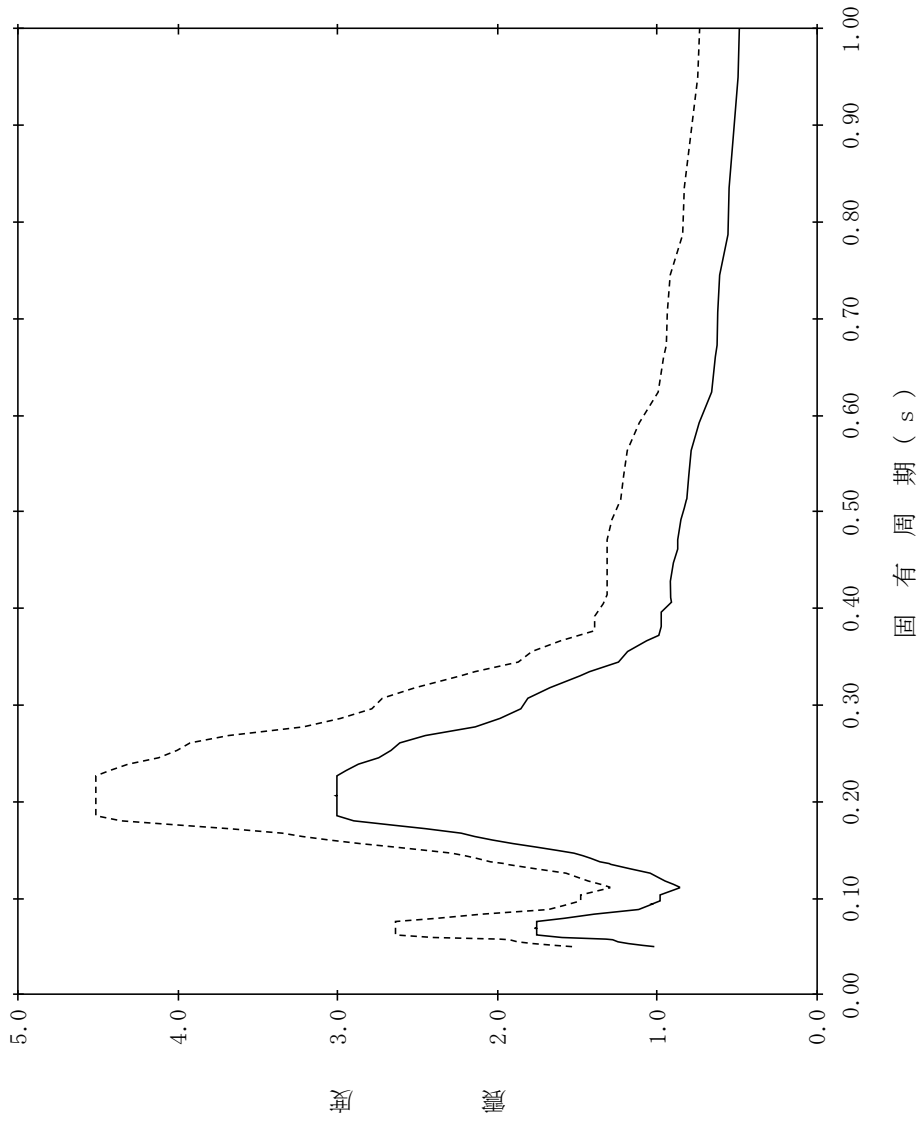
【NS2-RwB-SdEW-RwB47】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL16.900m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



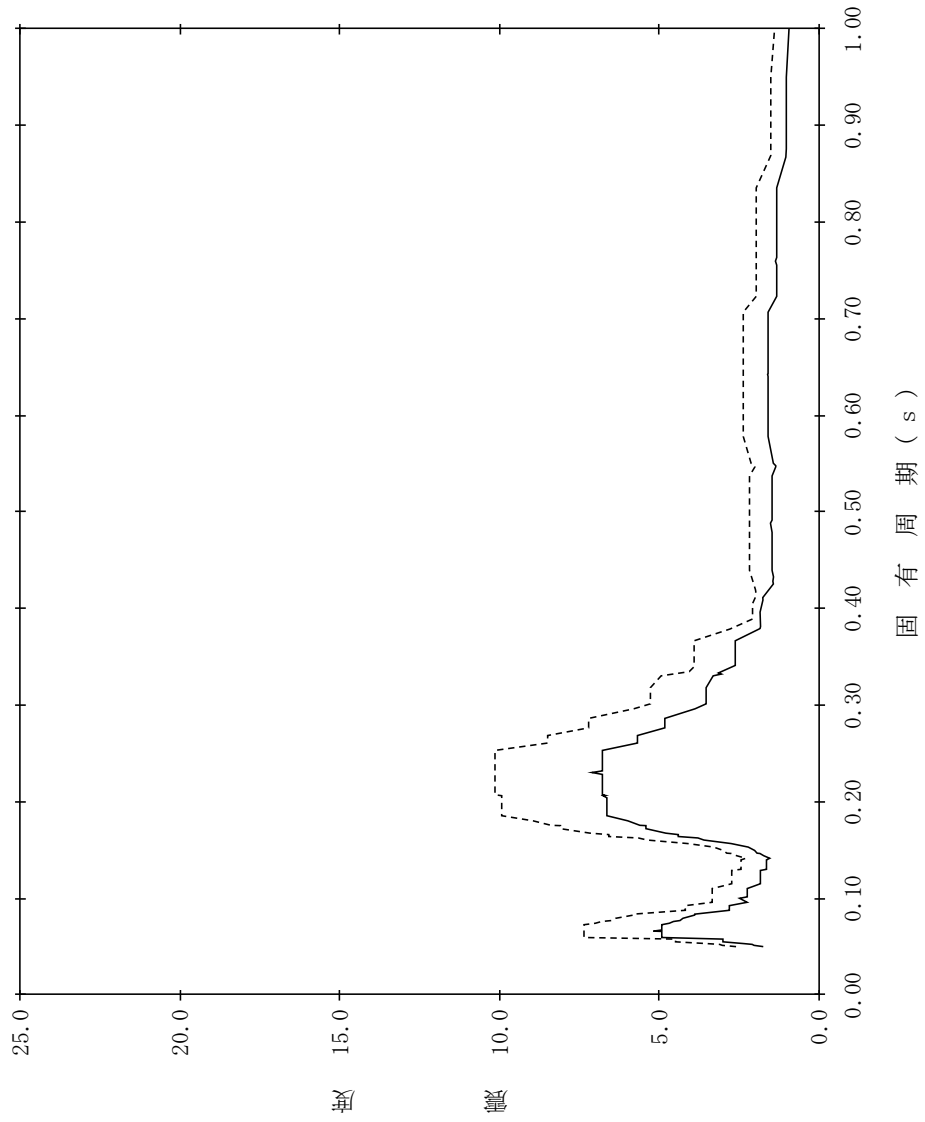
【NS2-RwB-SdEW-RwB48】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



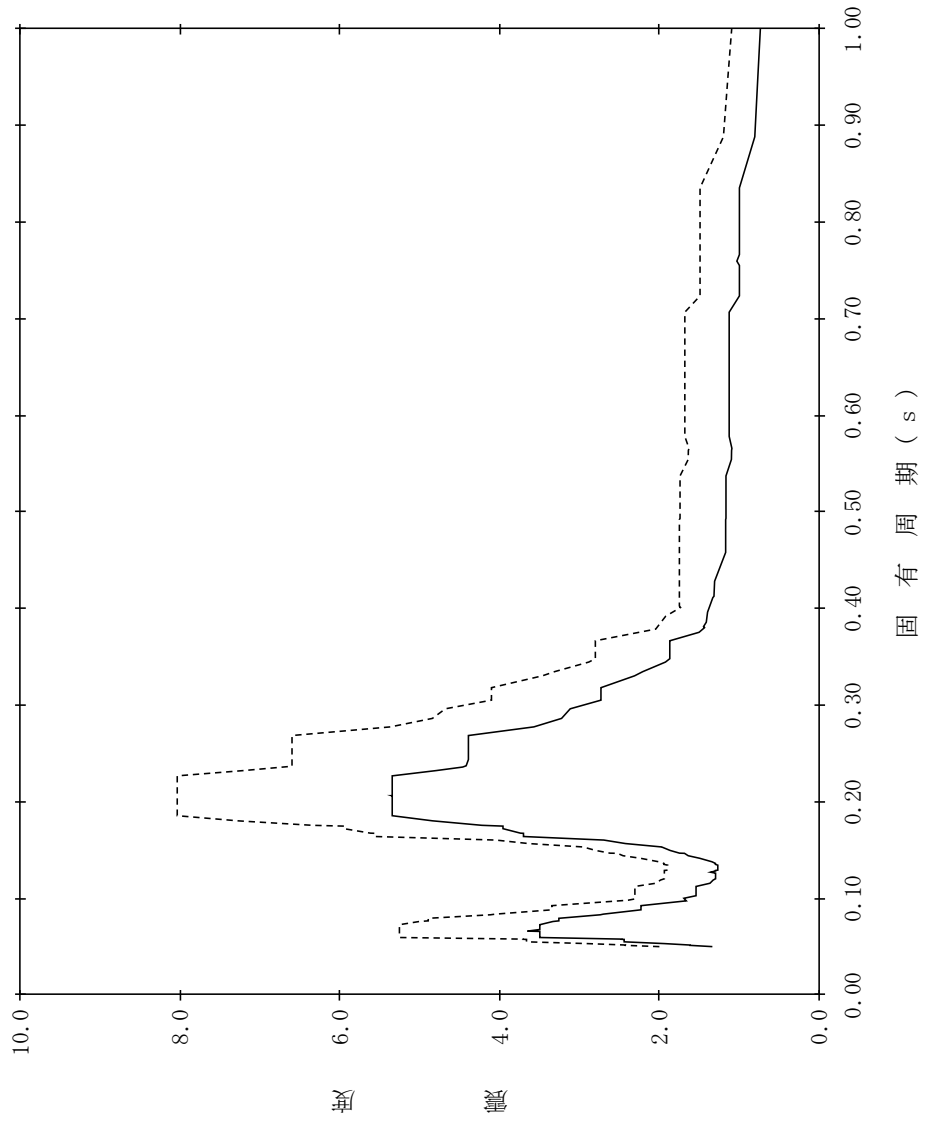
【NS2-RwB-SdEW-RwB49】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



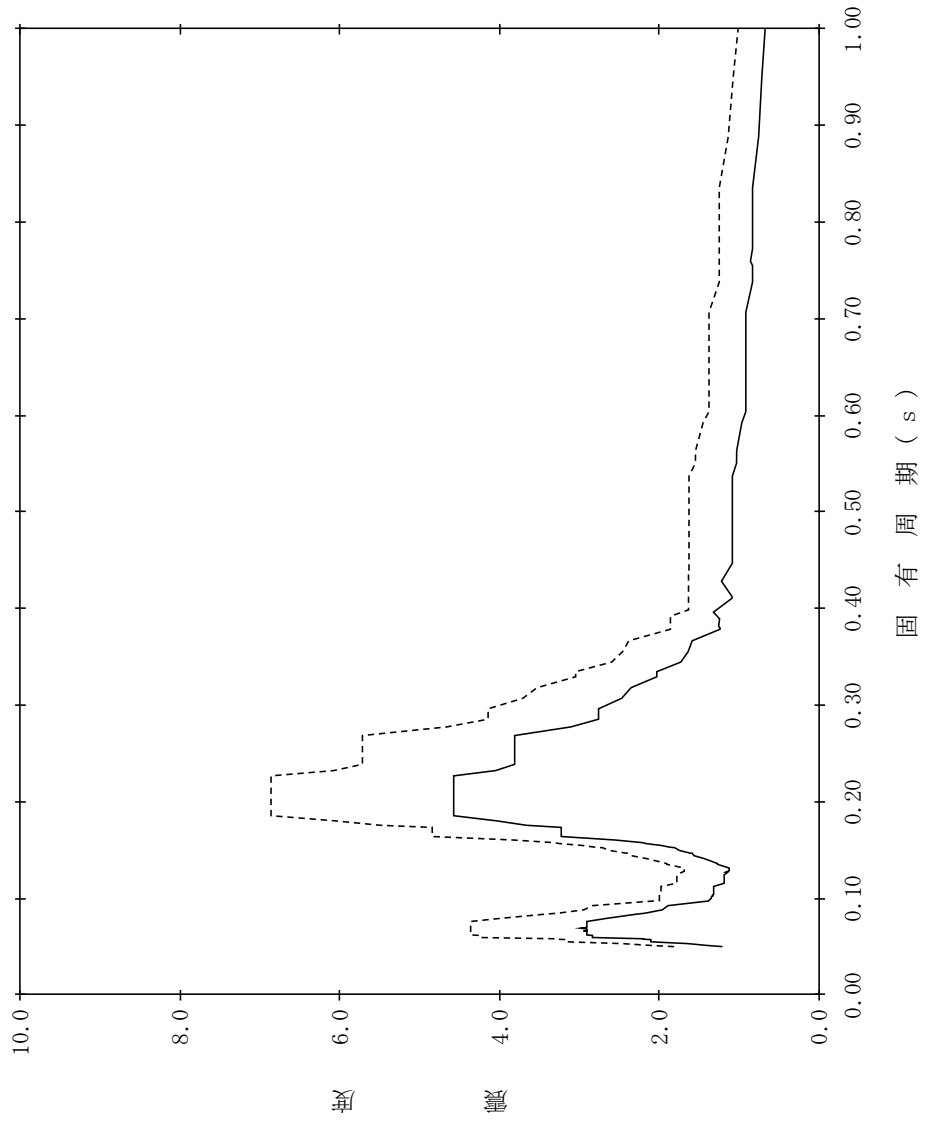
【NS2-RwB-SdEW-RwB50】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL15.300m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



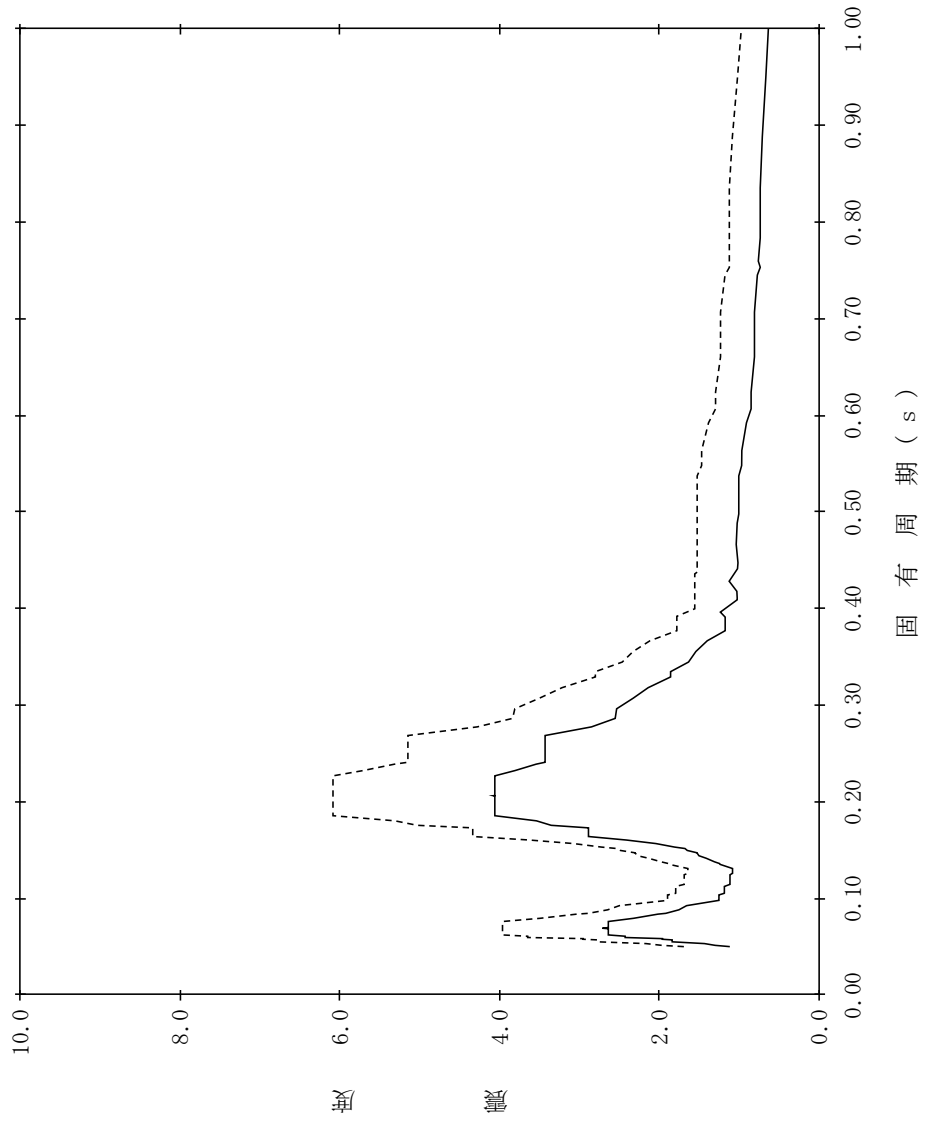
【NS2-RwB-SdEW-RwB51】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



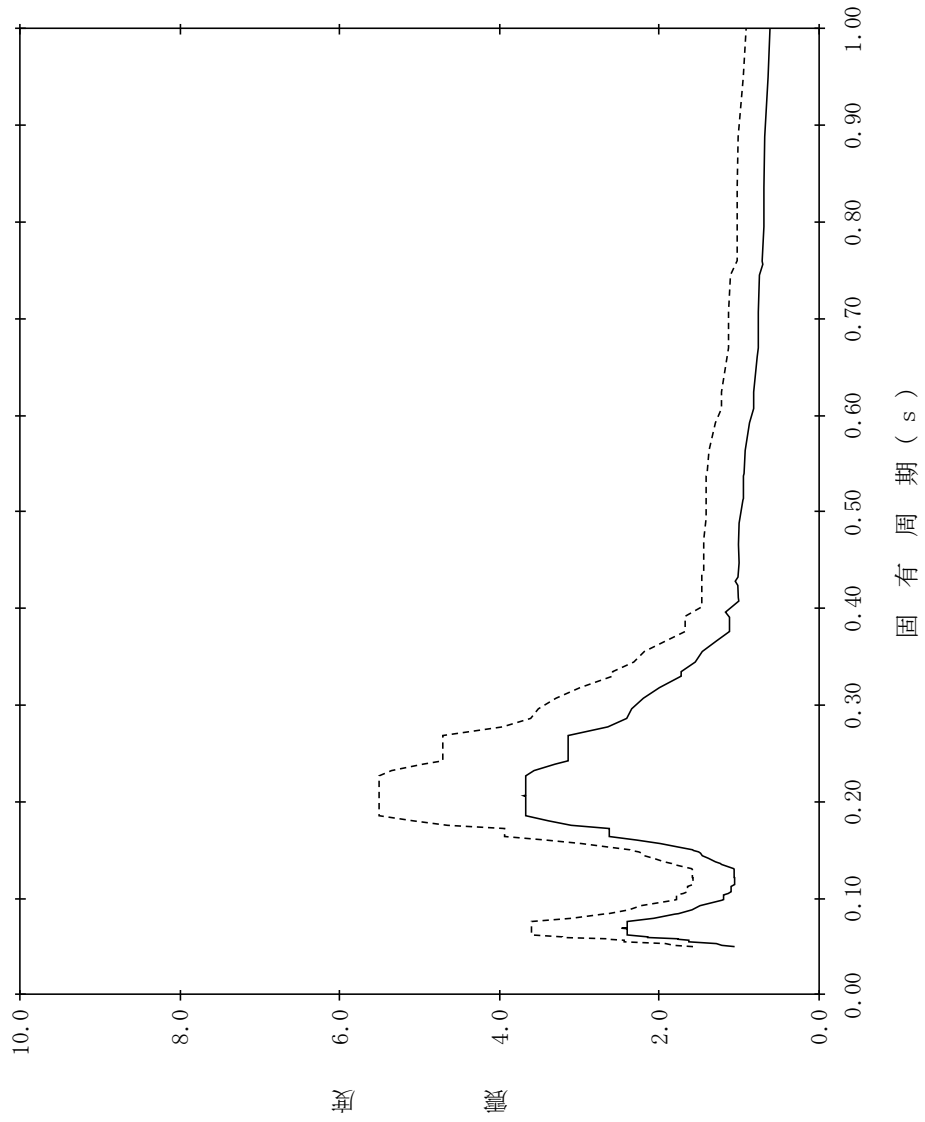
【NS2-RwB-SdEW-RwB52】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL15.300m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



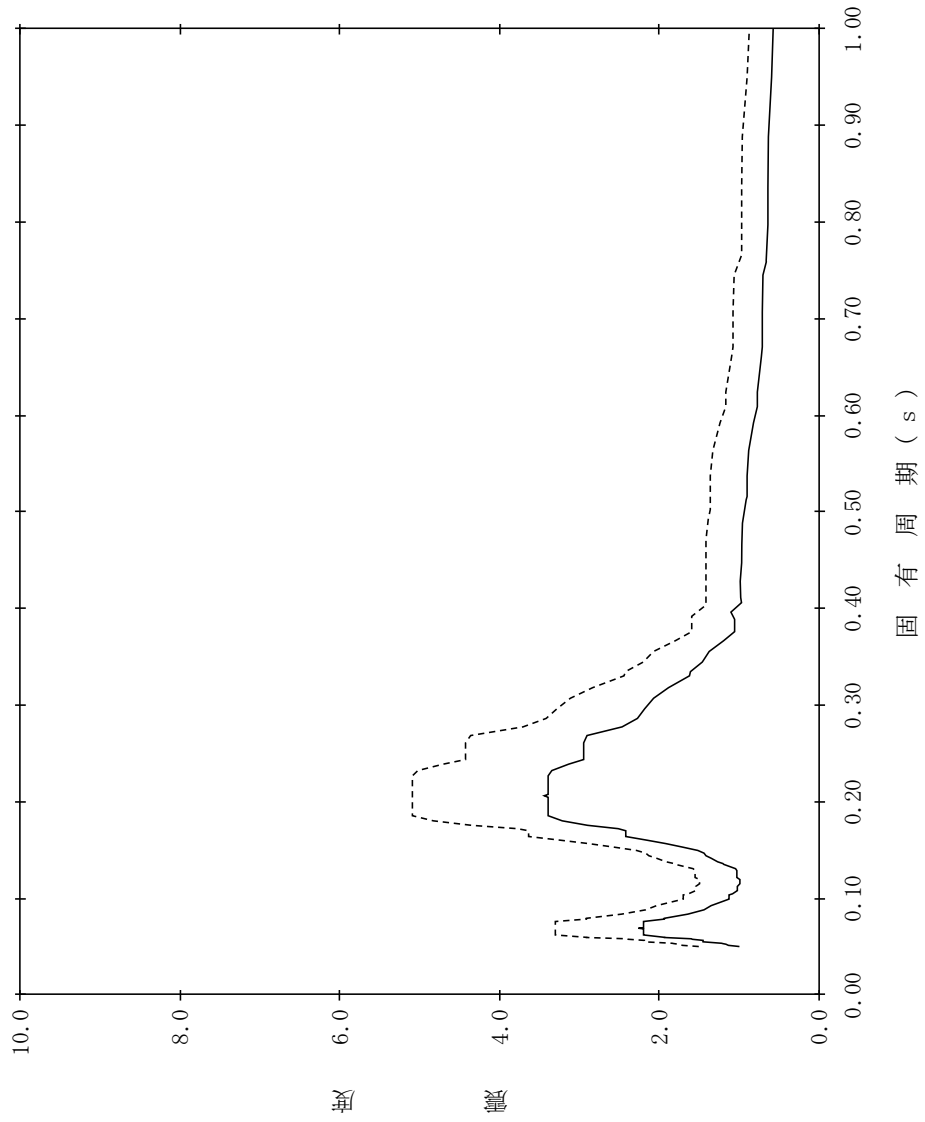
【NS2-RwB-SdEW-RwB53】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL15.300m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



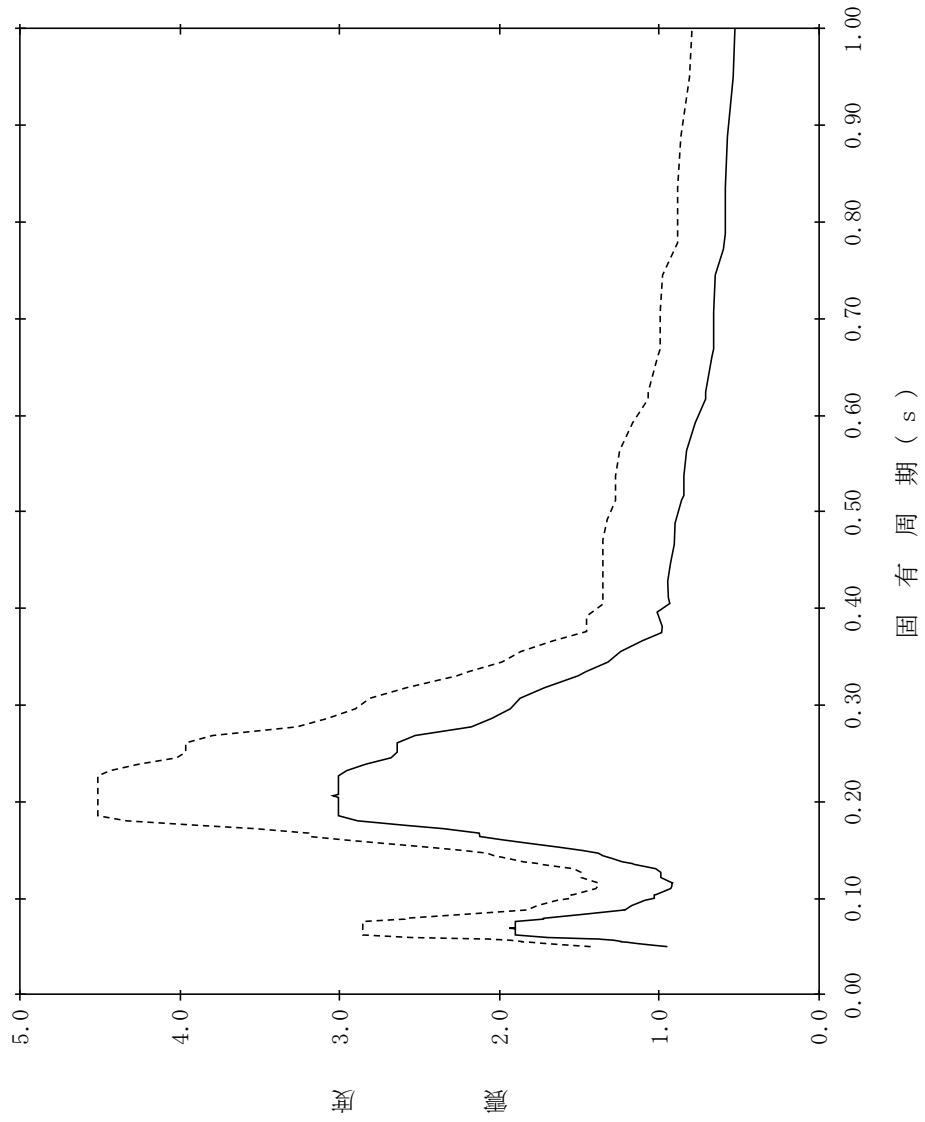
【NS2-RwB-SdEW-RwB54】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



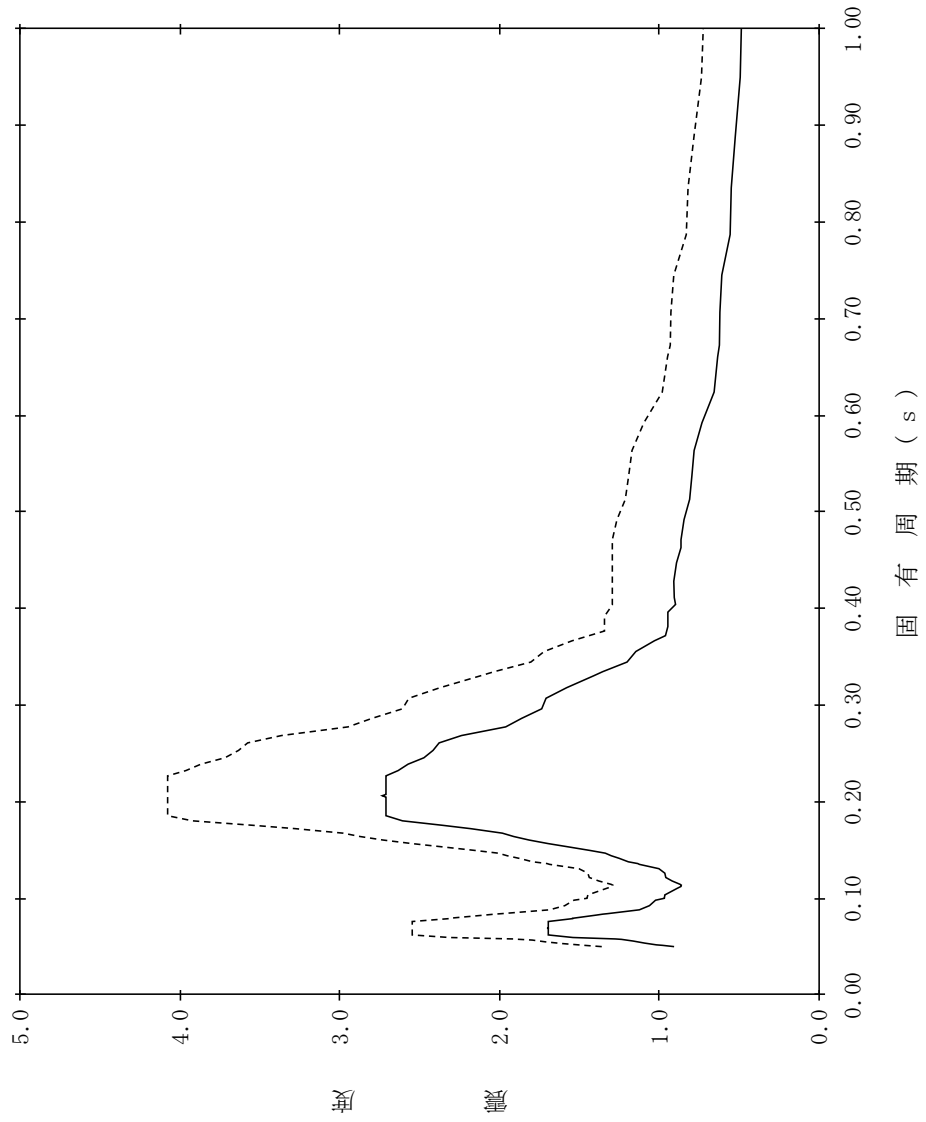
【NS2-RwB-SdEW-RwB55】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL15.300m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



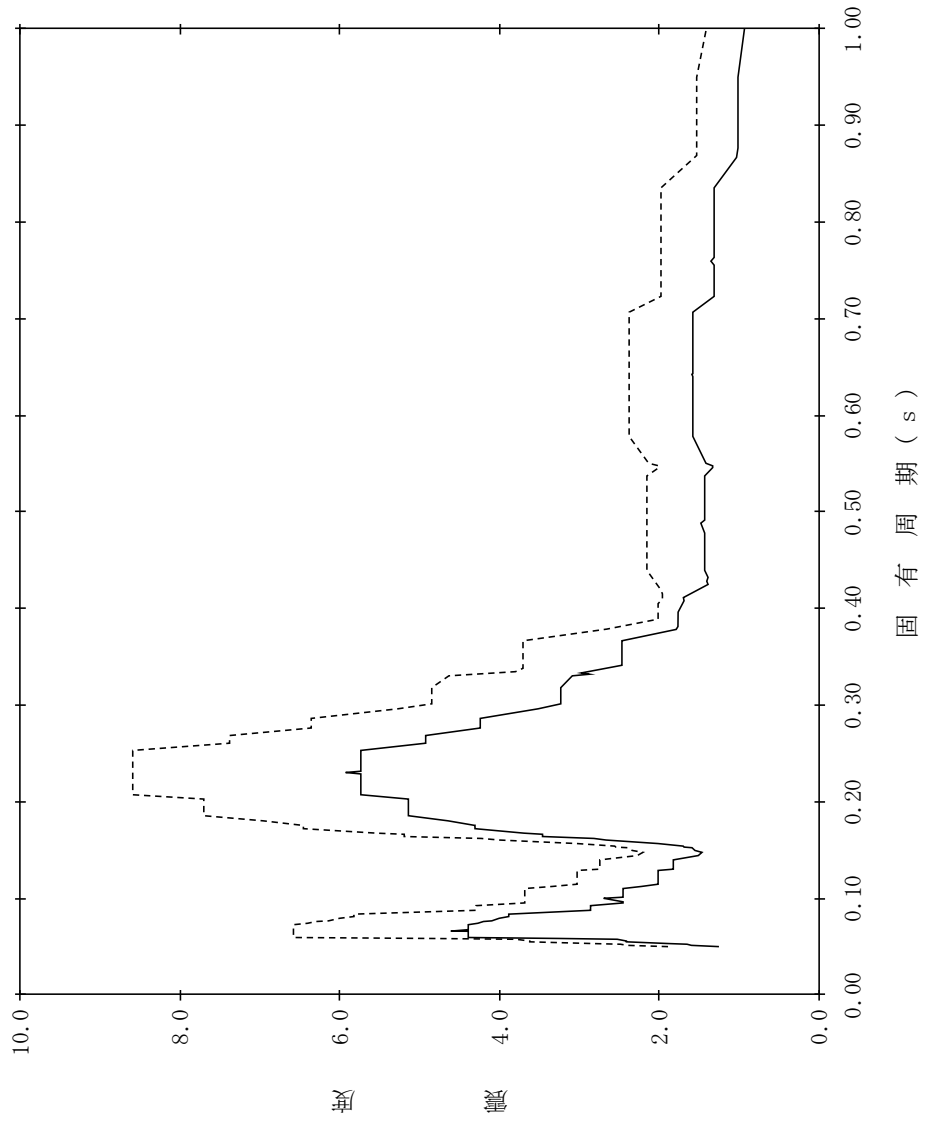
【NS2-RwB-SdEW-RwB56】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



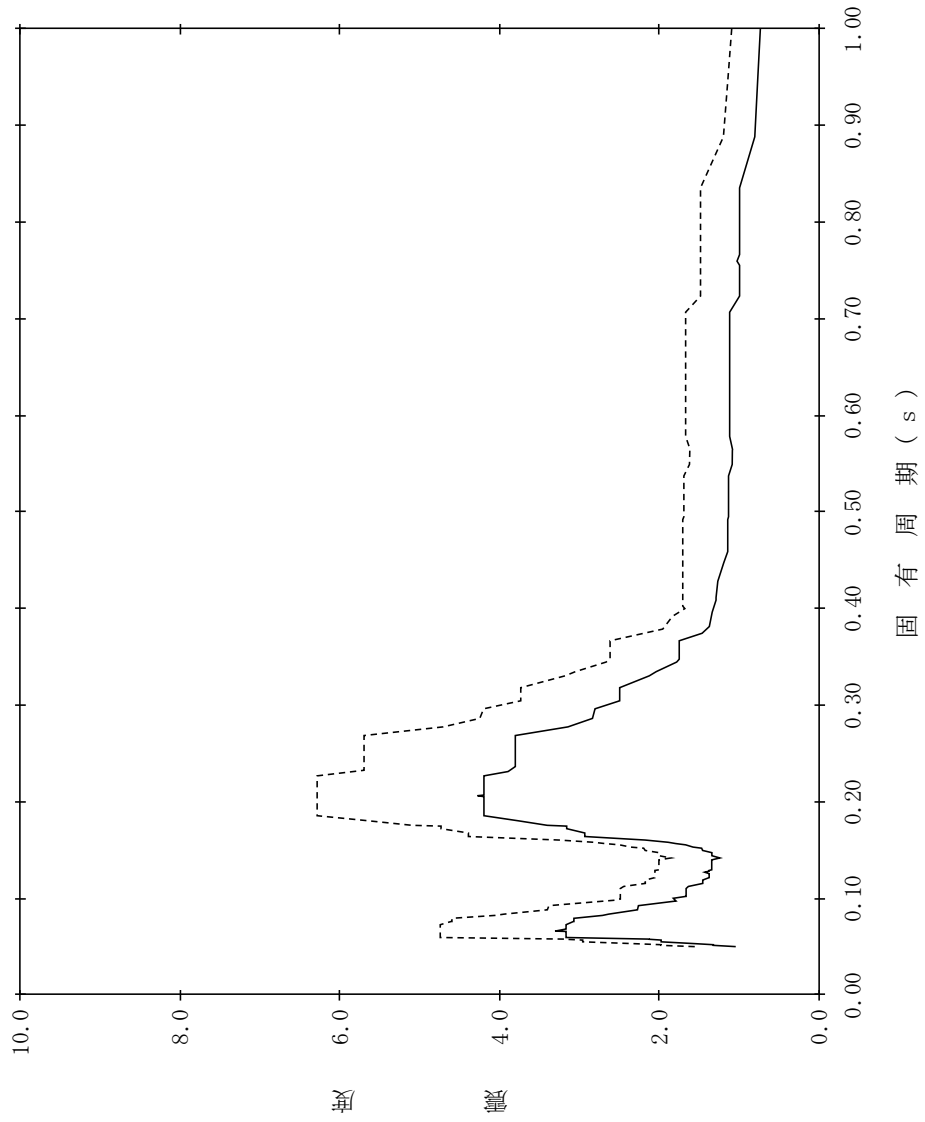
【NS2-RwB-SdEW-RwB57】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



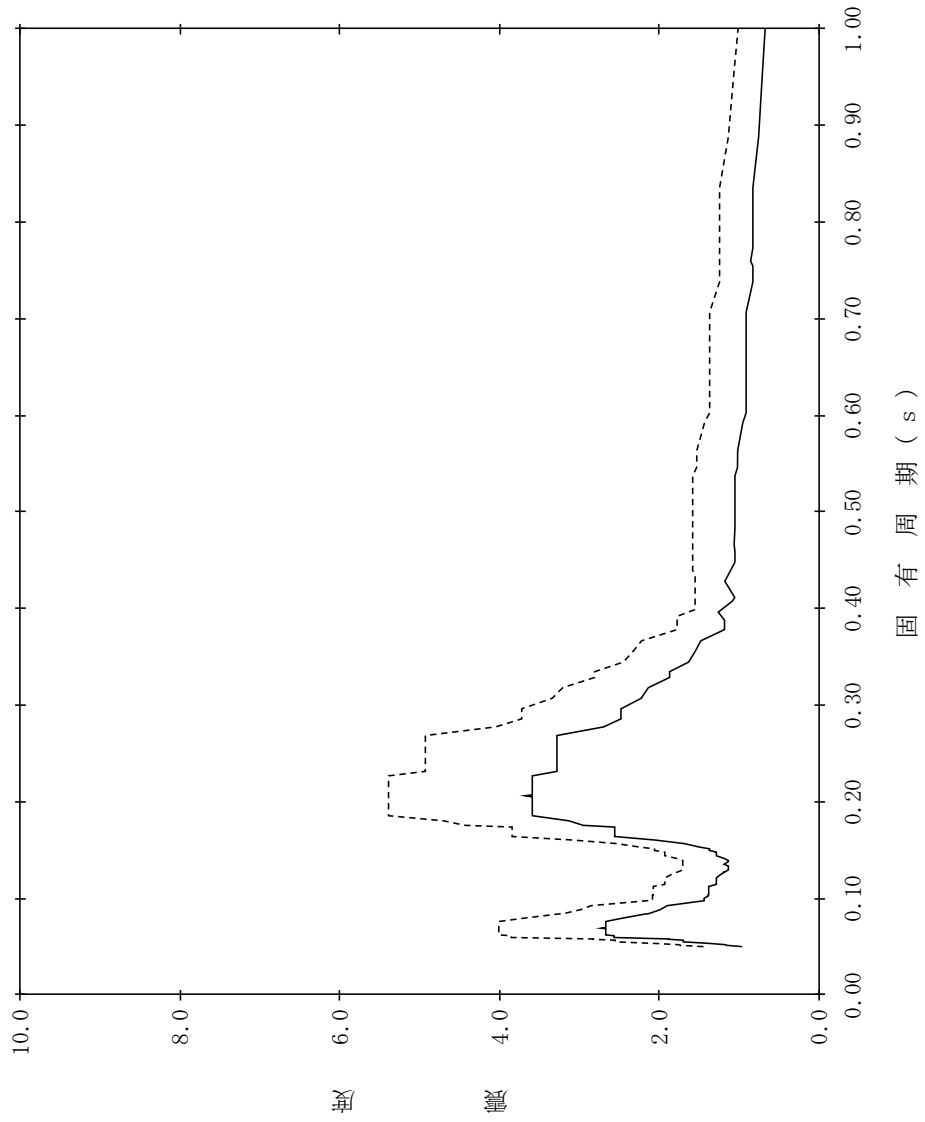
【NS2-RwB-SdEW-RwB58】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



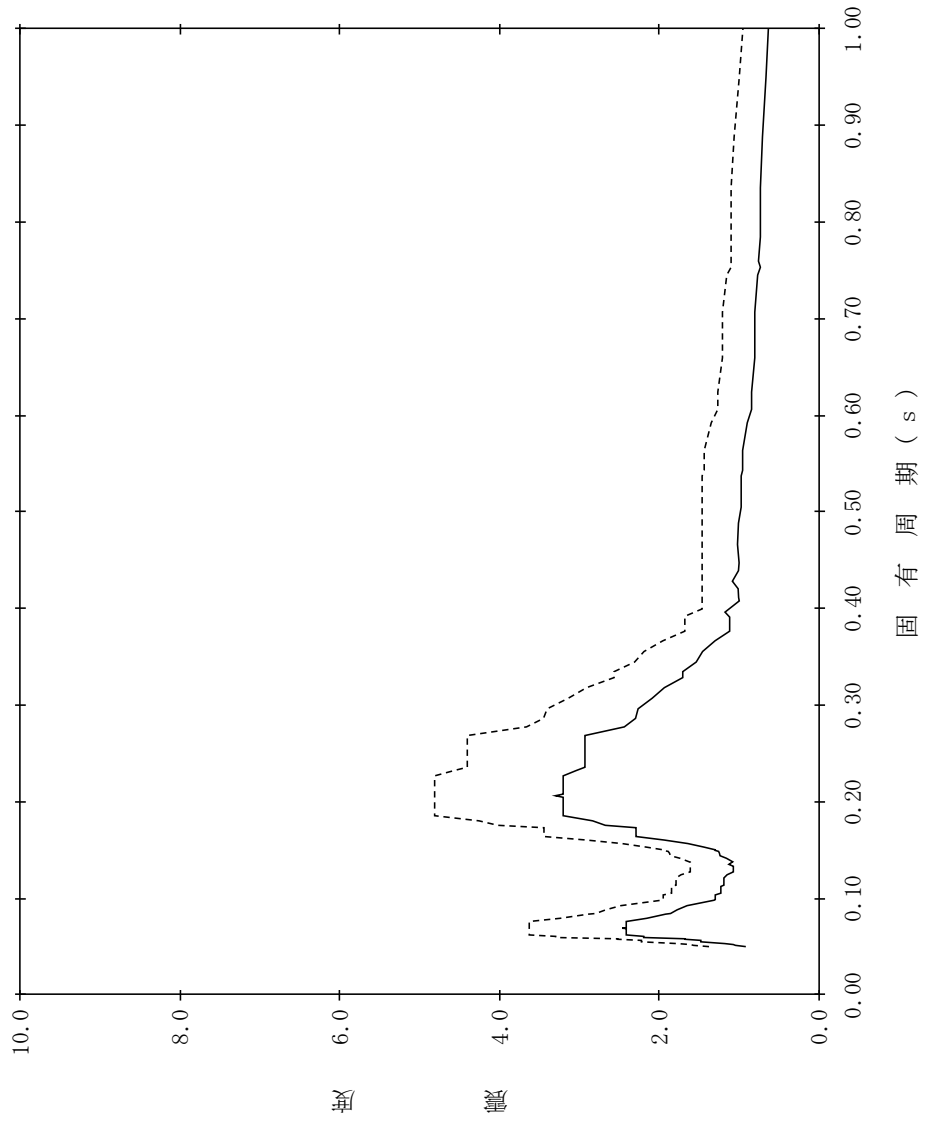
【NS2-RwB-SdEW-RwB59】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



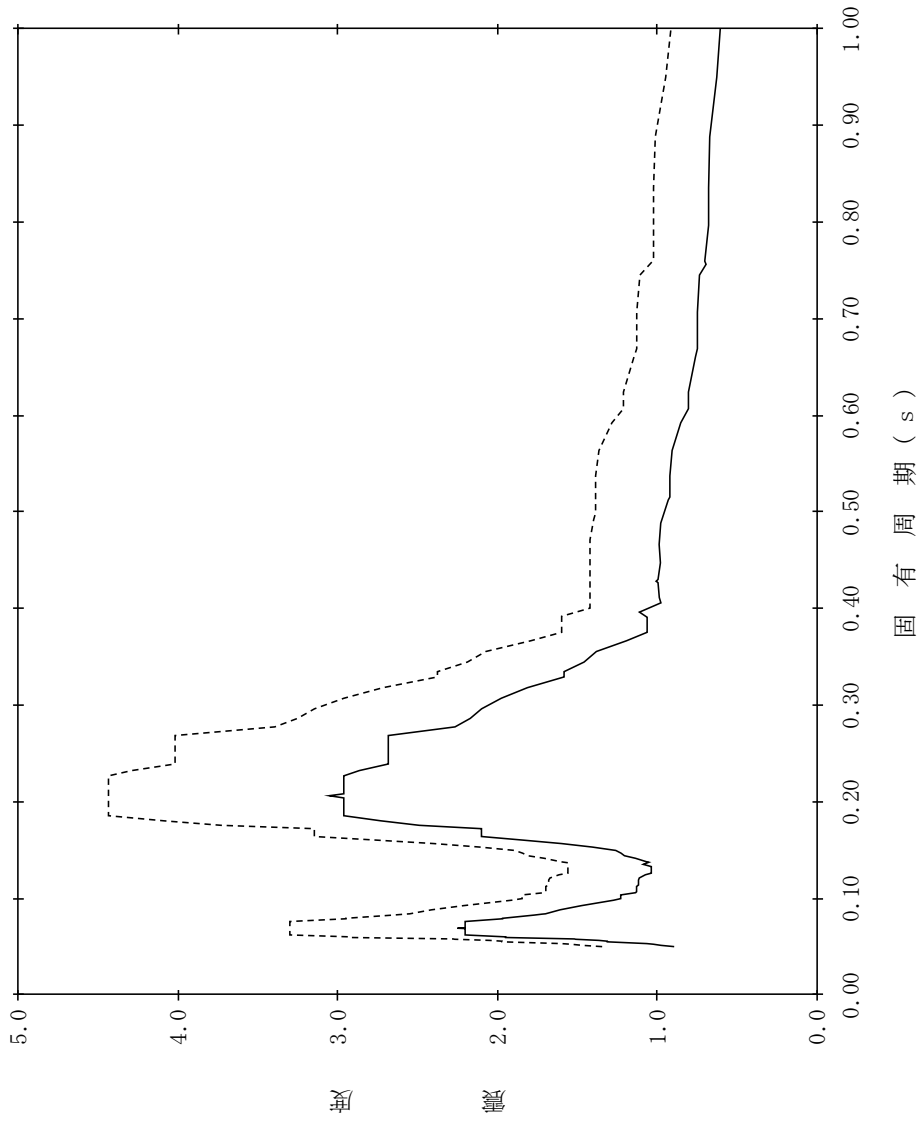
【NS2-RwB-SdEW-RwB60】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



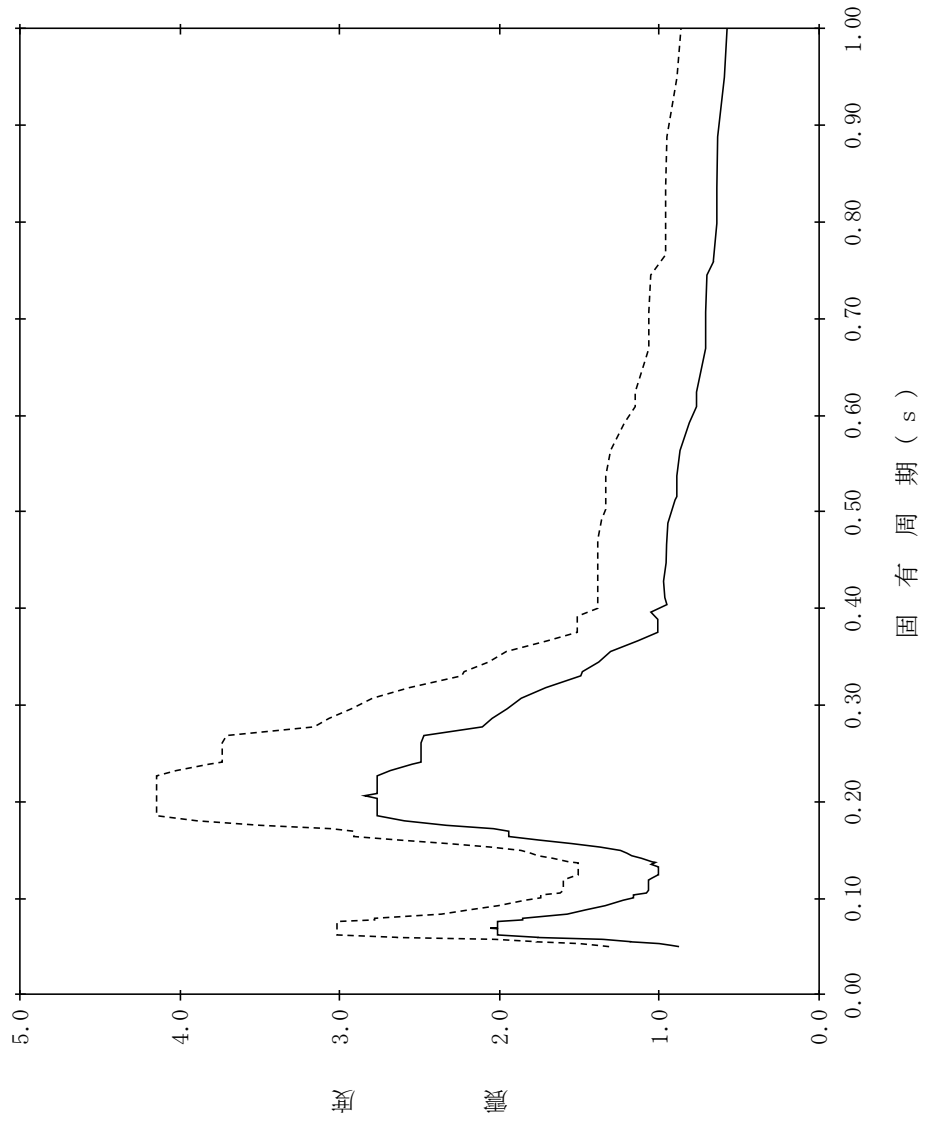
【NS2-RwB-SdEW-RwB61】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL12.300m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
設計用床応答スペクトル I (EW方向)
設計用床応答スペクトル II (EW方向)



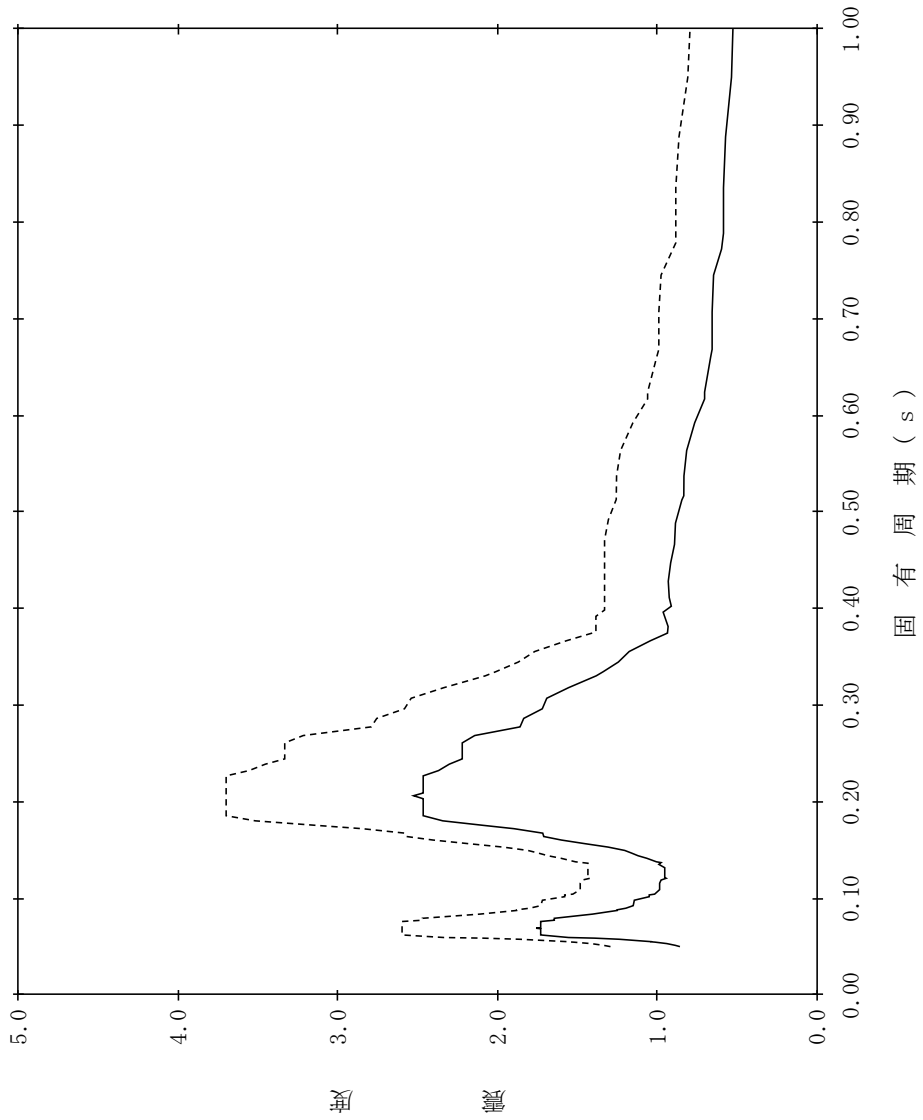
【NS2-RwB-SdEW-RwB62】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



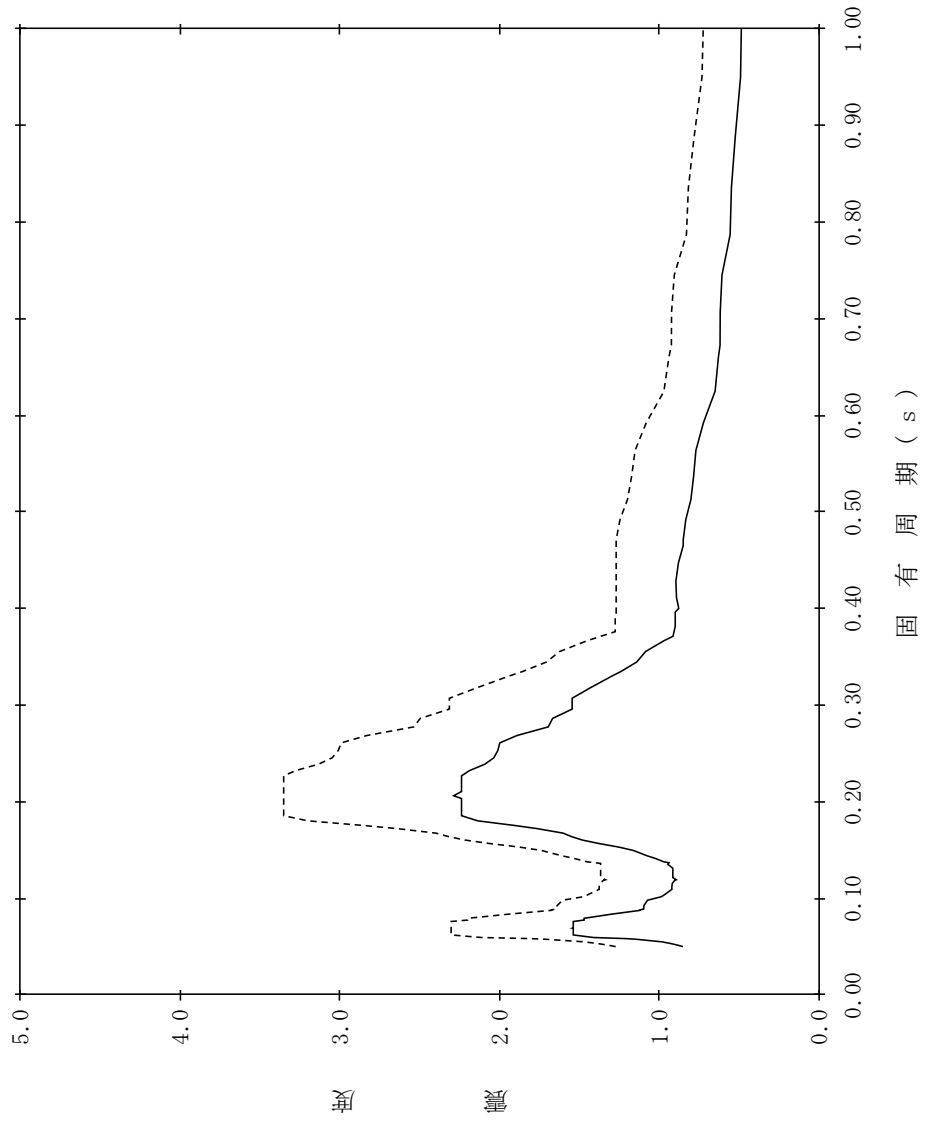
【NS2-RwB-SdEW-RwB63】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



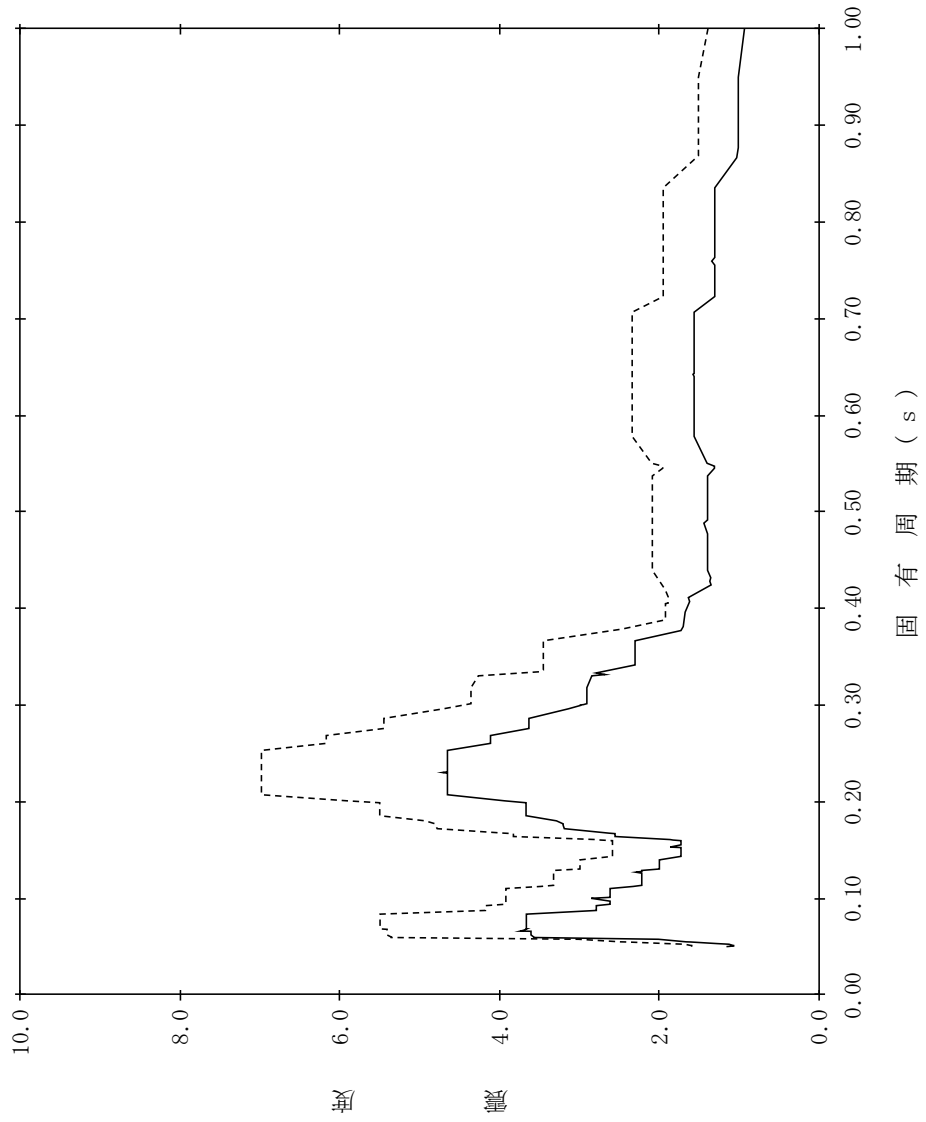
【NS2-RwB-SdEW-RwB64】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

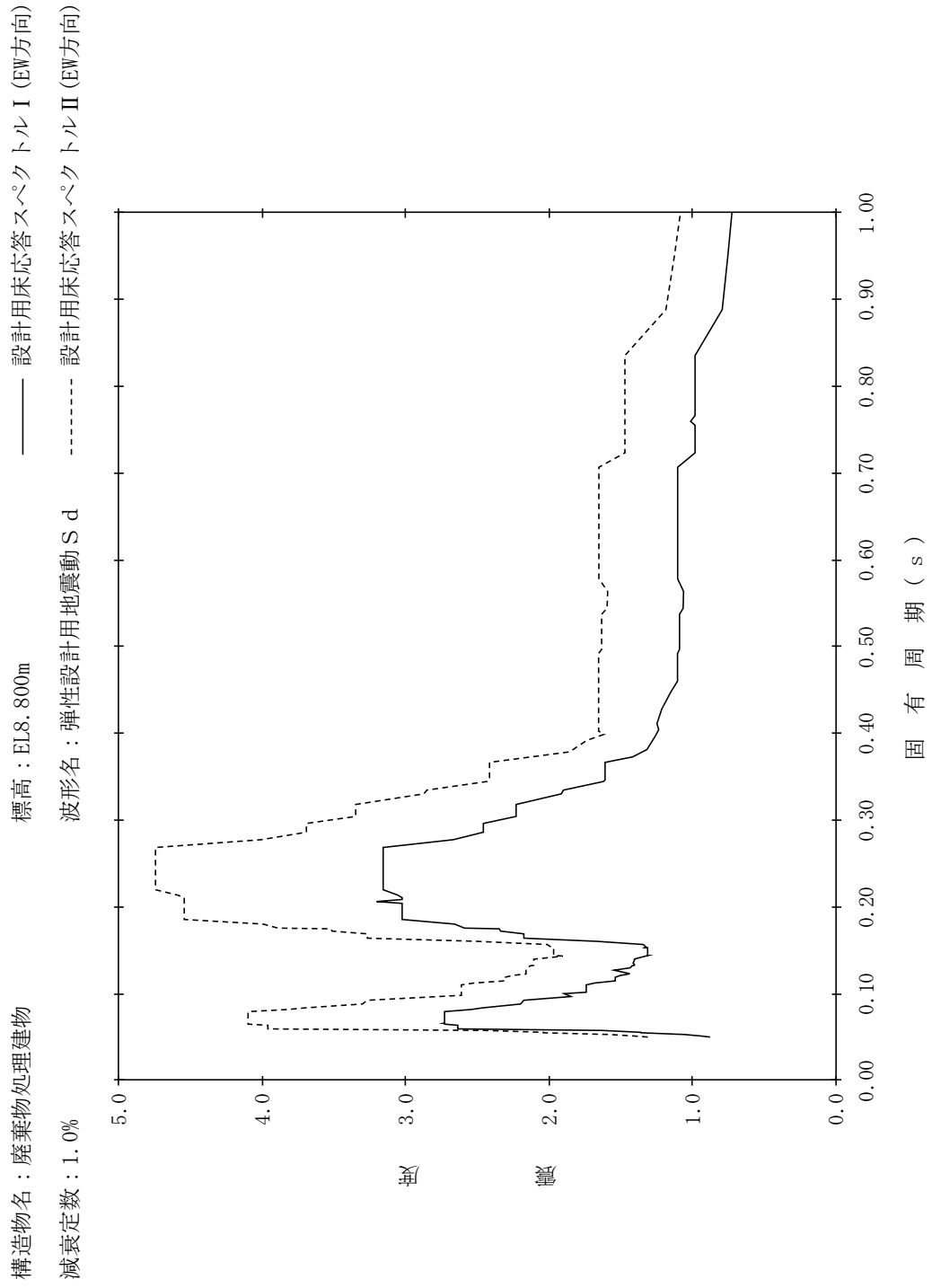


【NS2-RwB-SdEW-RwB65】

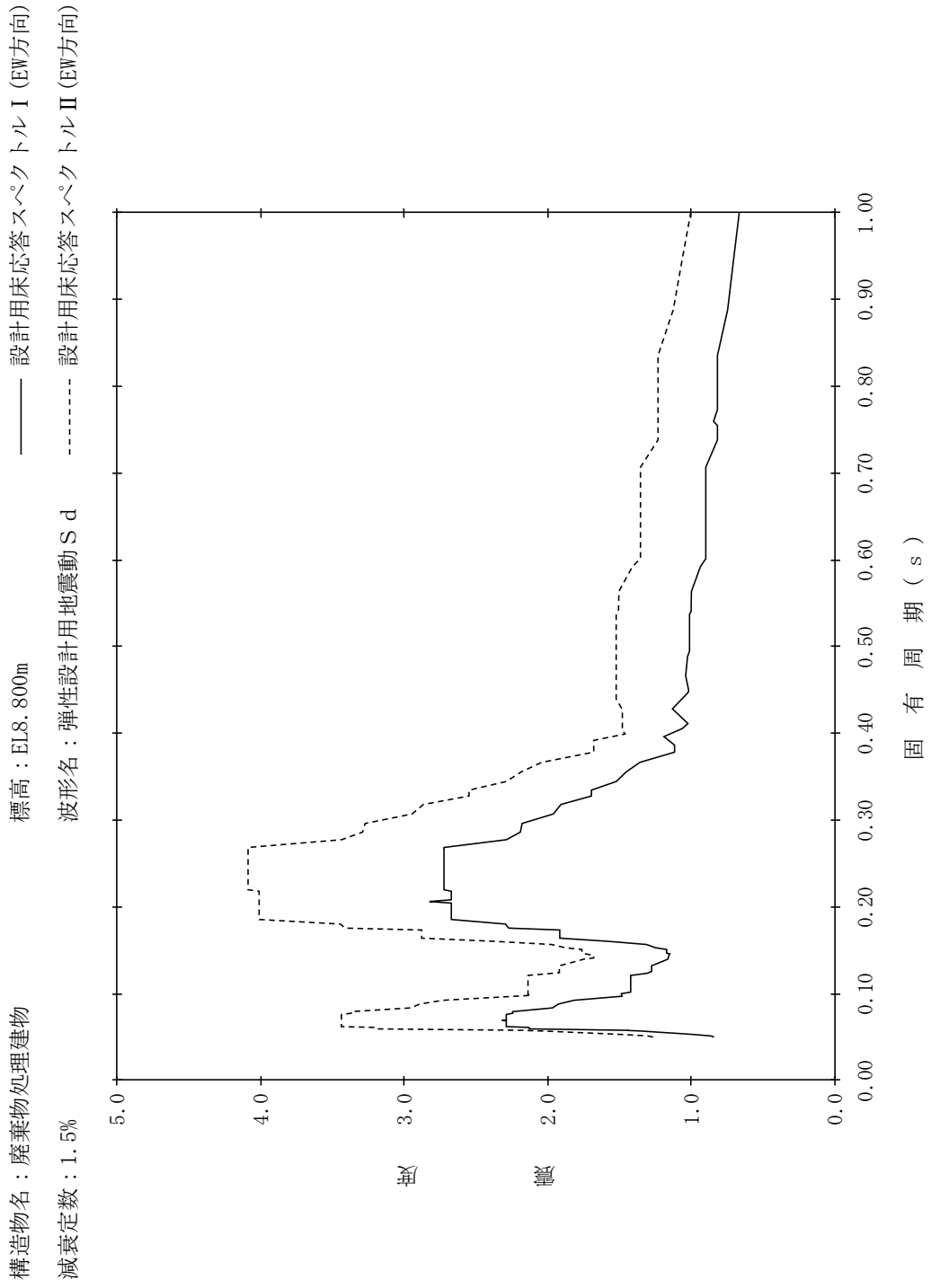
構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-RwB-SdEW-RwB66】

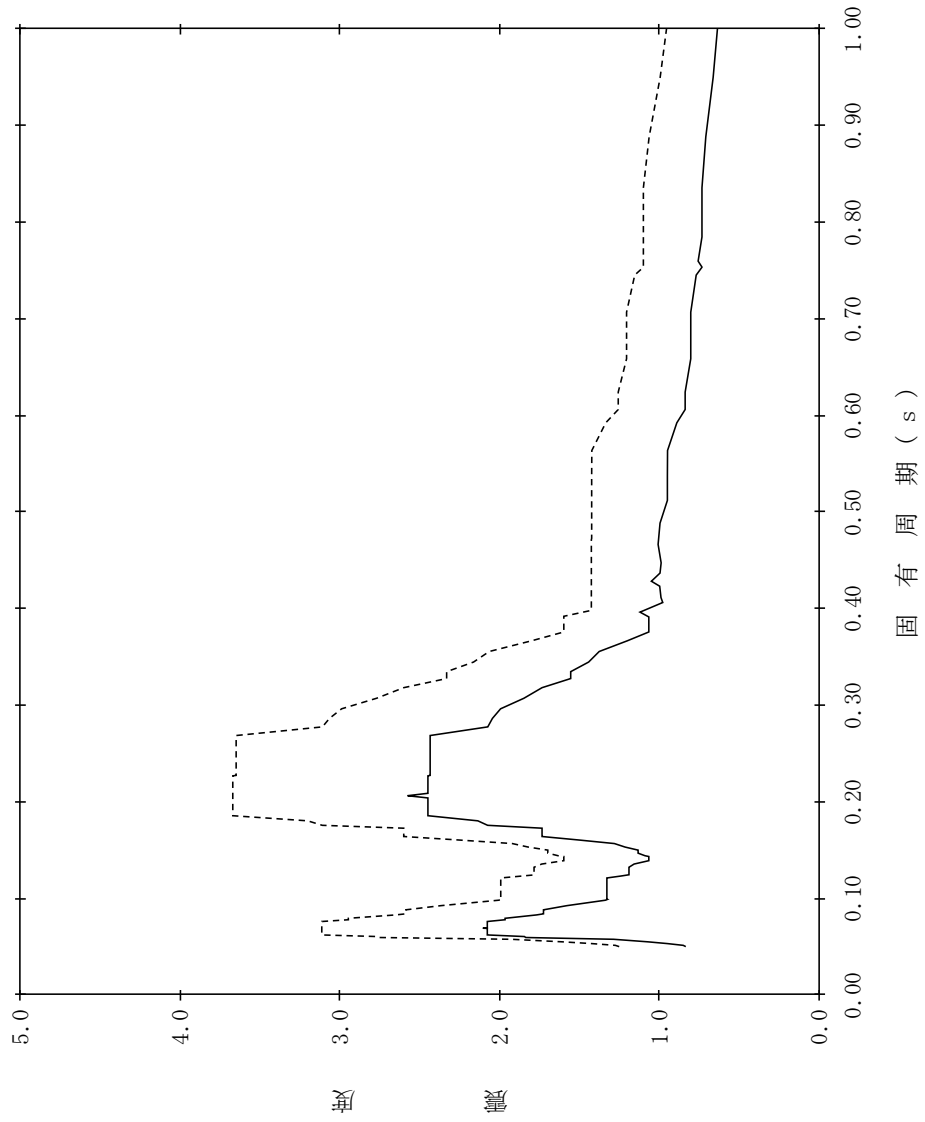


【NS2-RwB-SdEW-RwB67】



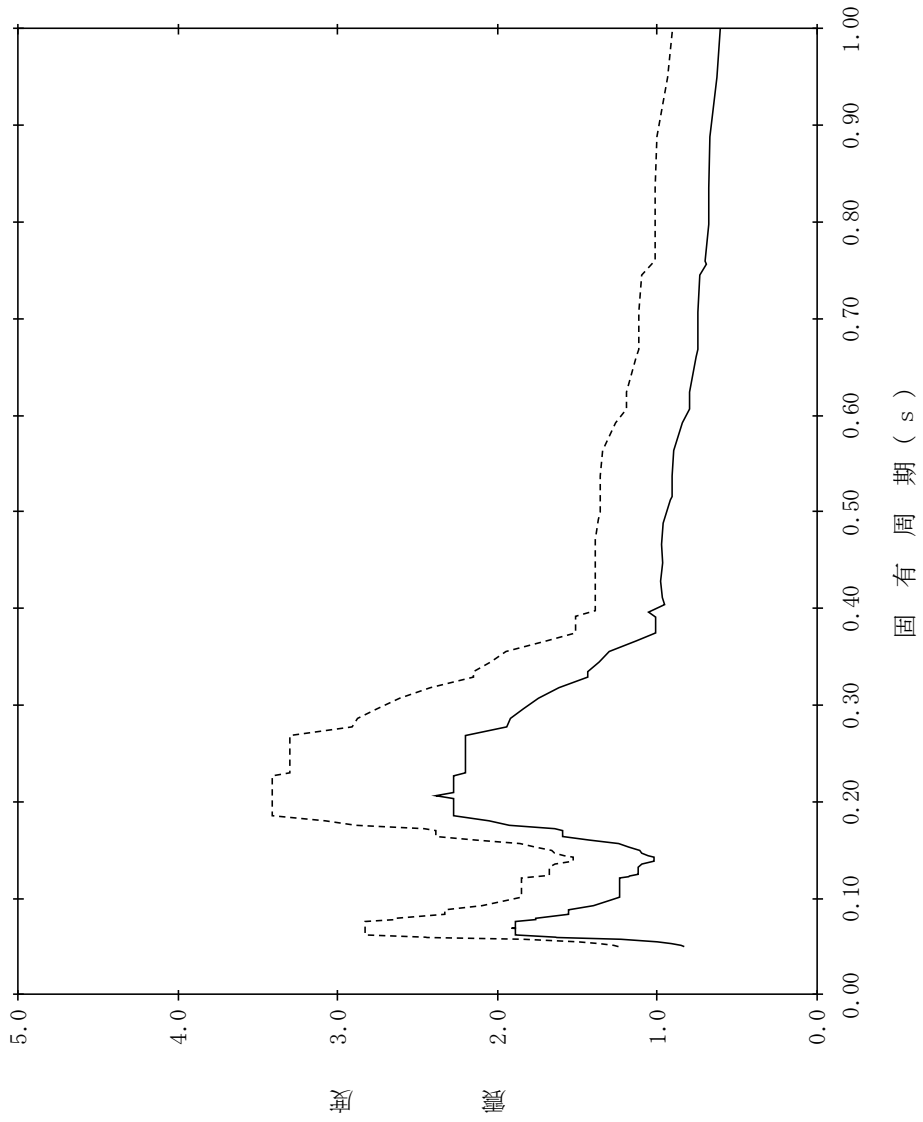
【NS2-RwB-SdEW-RwB68】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



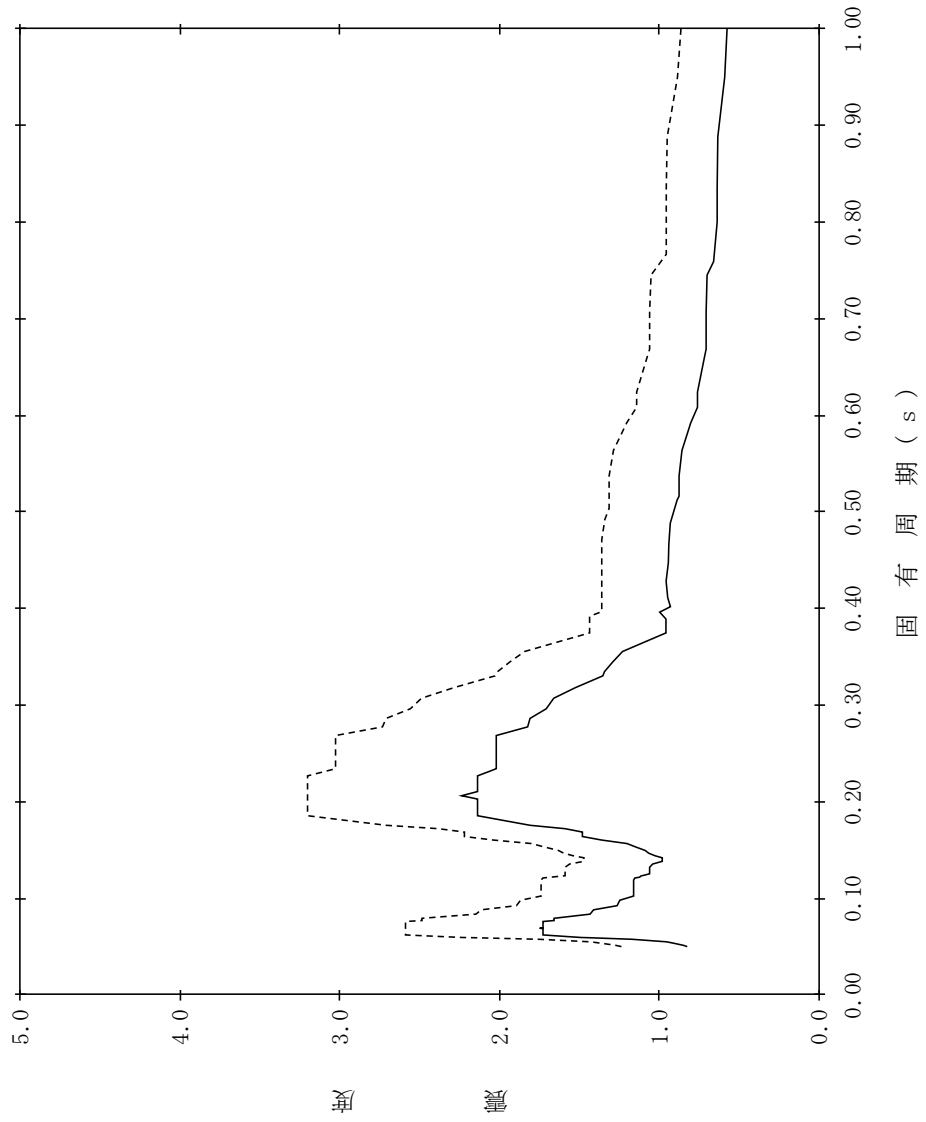
【NS2-RwB-SdEW-RwB69】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



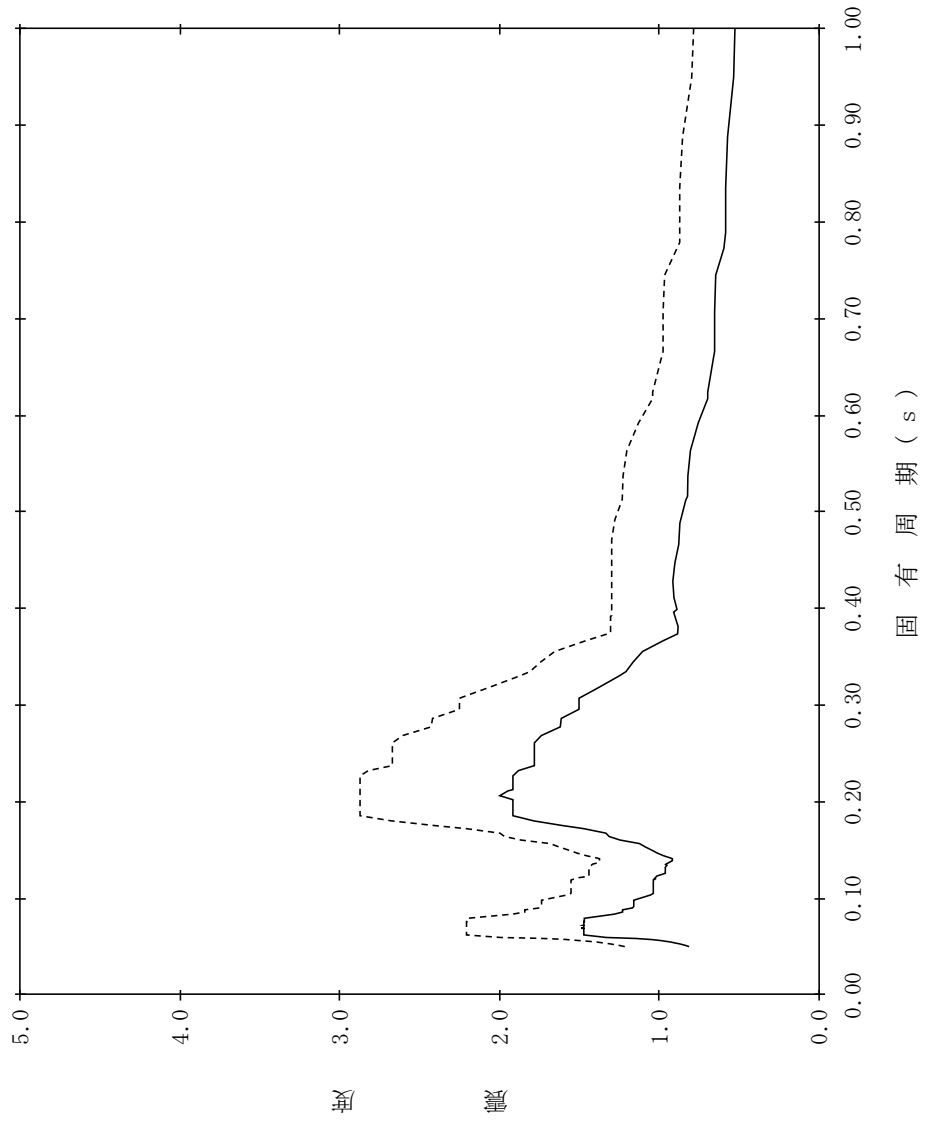
【NS2-RwB-SdEW-RwB70】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



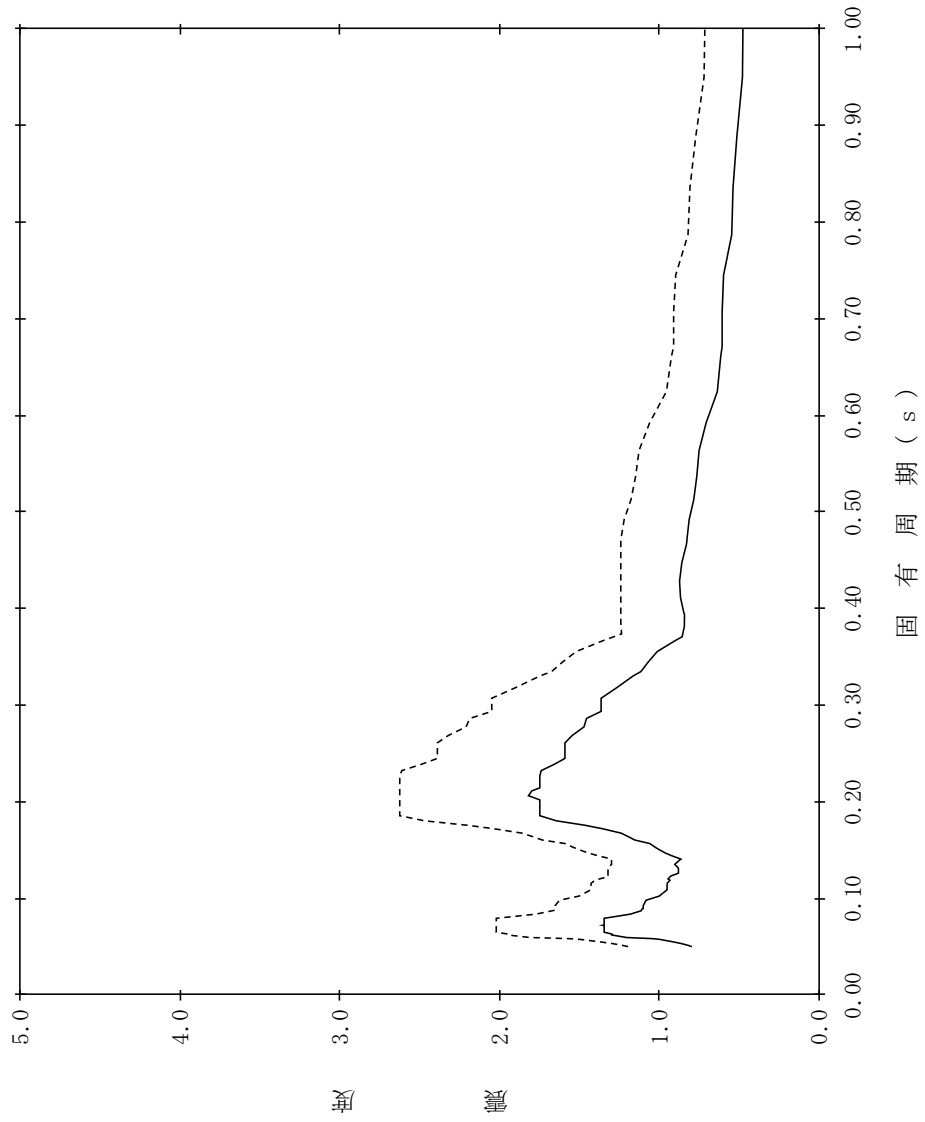
【NS2-RwB-SdEW-RwB71】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



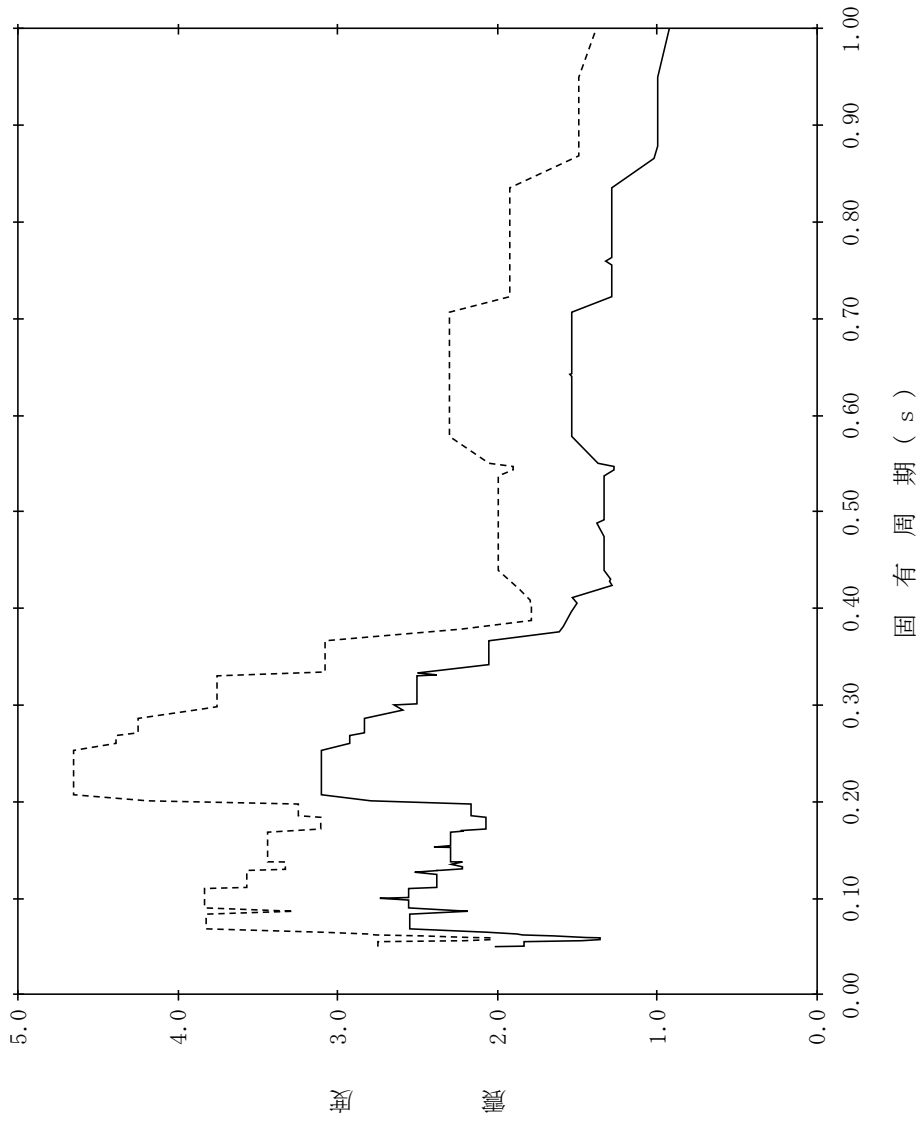
【NS2-RwB-SdEW-RwB72】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL8.800m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



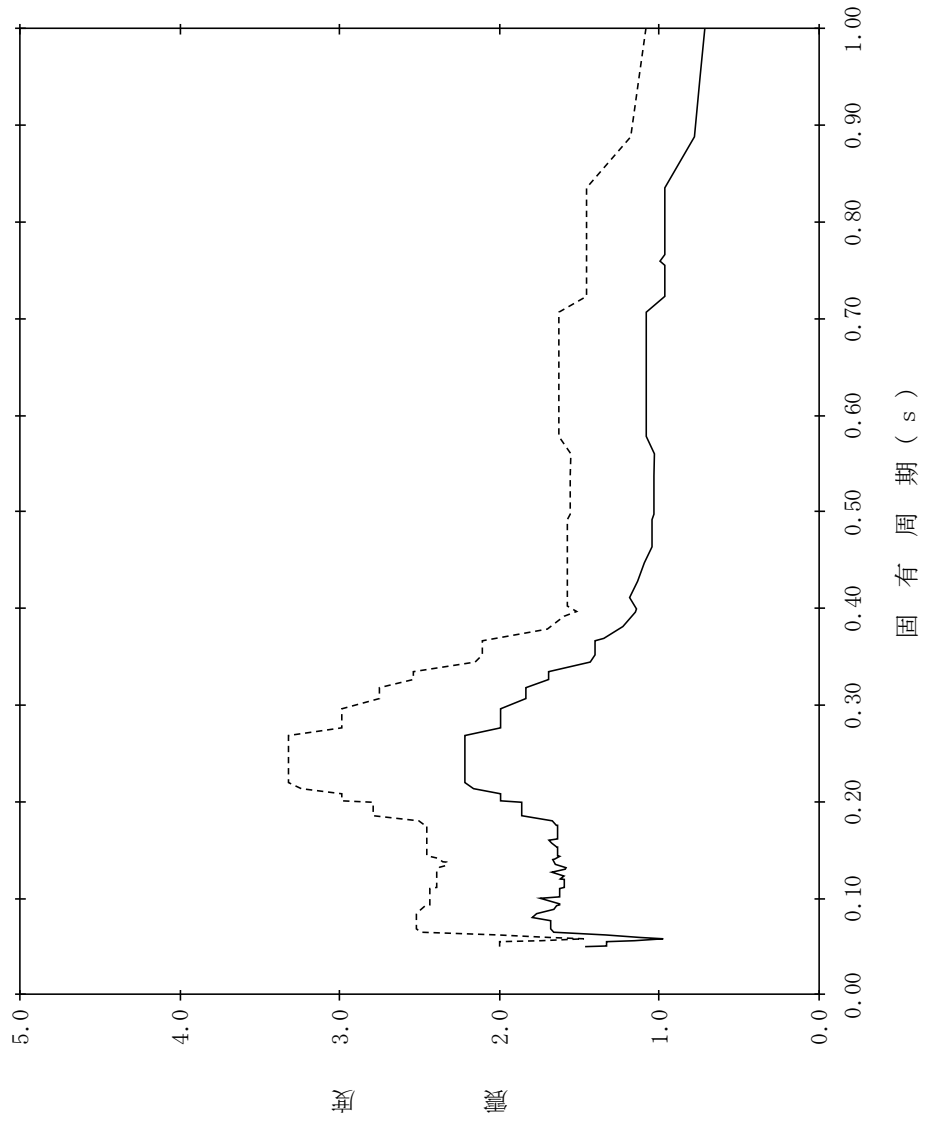
【NS2-RwB-SdEW-RwB73】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-RwB-SdEW-RwB74】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

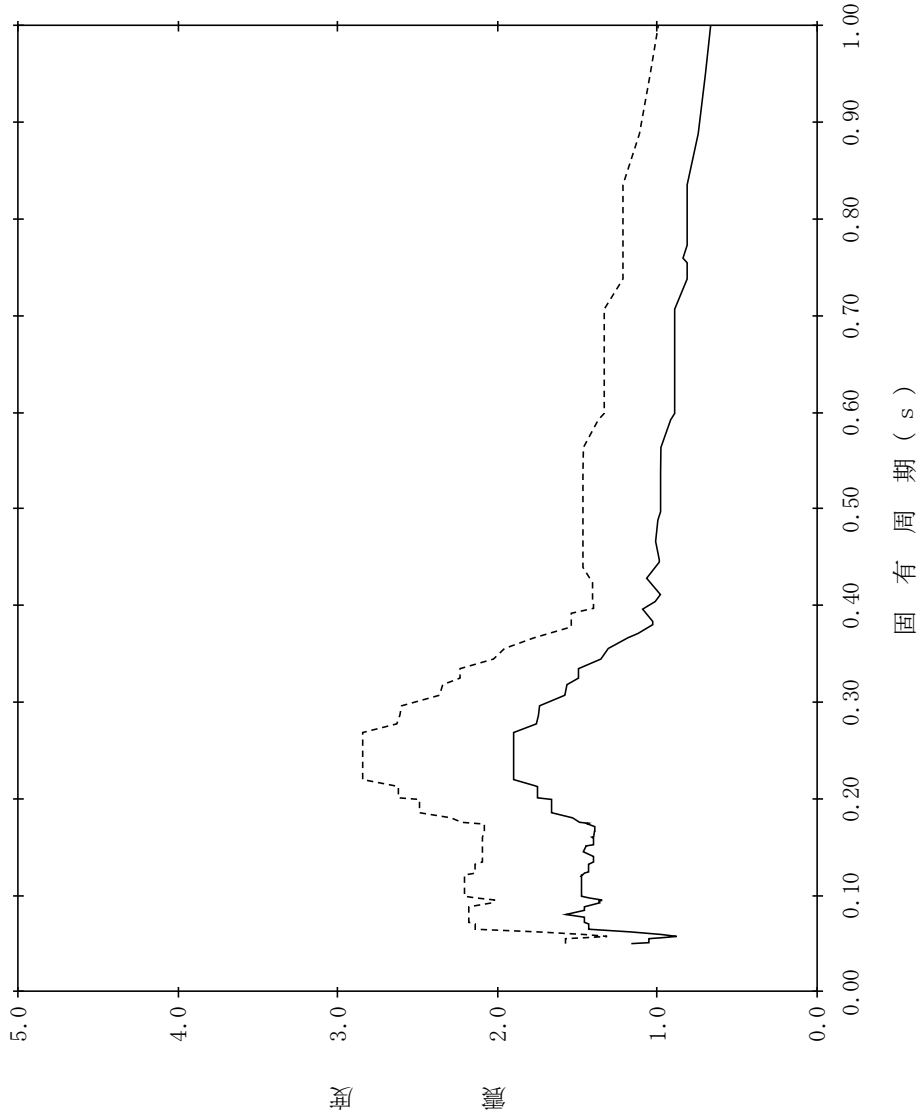


【NS2-RwB-SdEW-RwB75】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL3.000m
減衰定数：1.5%

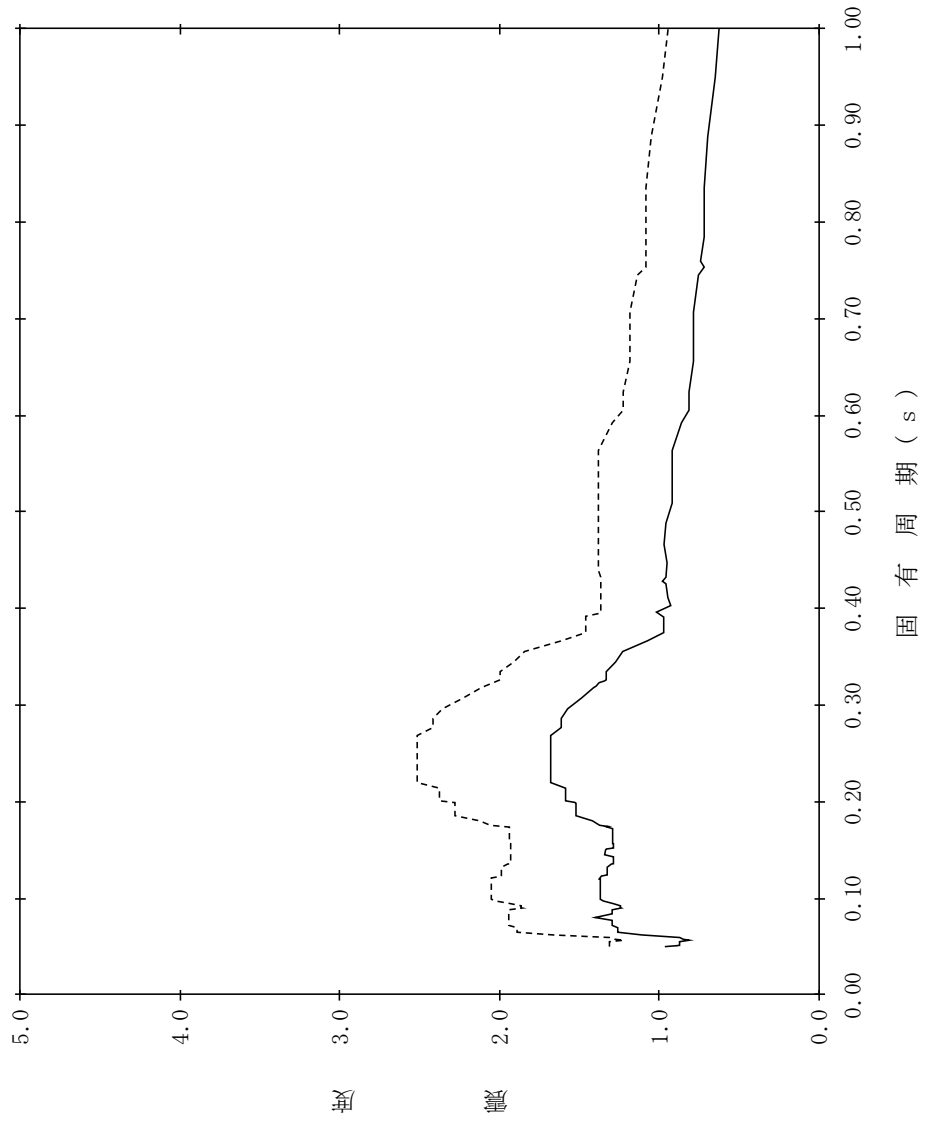
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

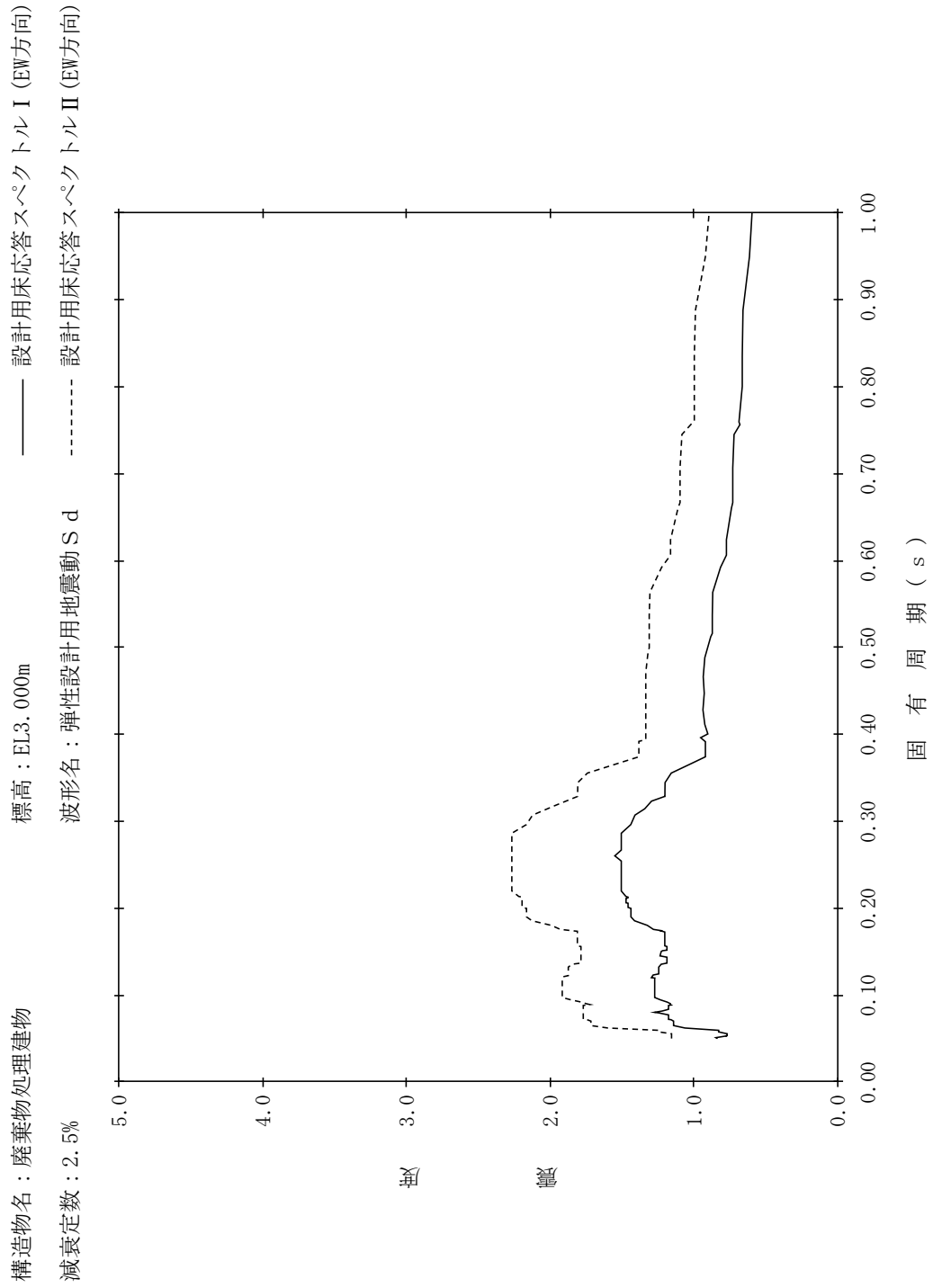


【NS2-RwB-SdEW-RwB76】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

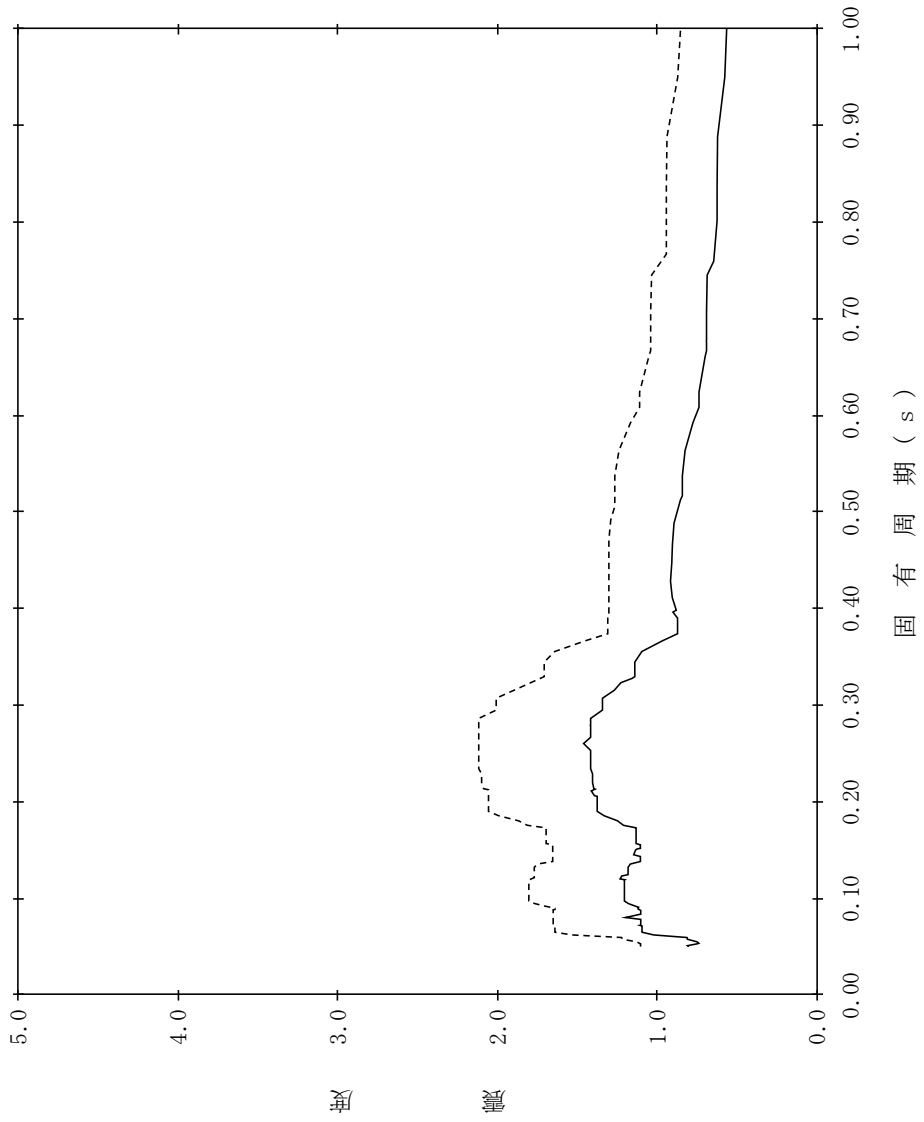


【NS2-RwB-SdEW-RwB77】



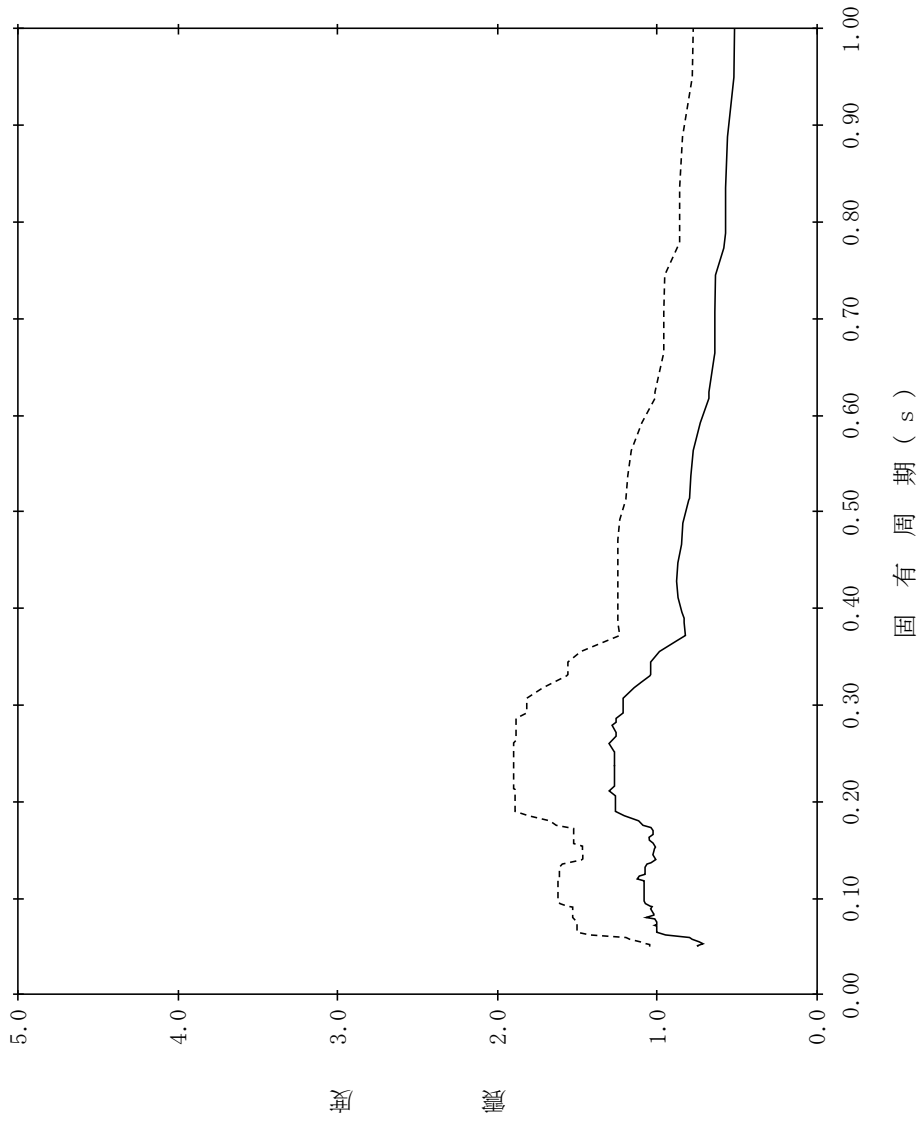
【NS2-RwB-SdEW-RwB78】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL3.000m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



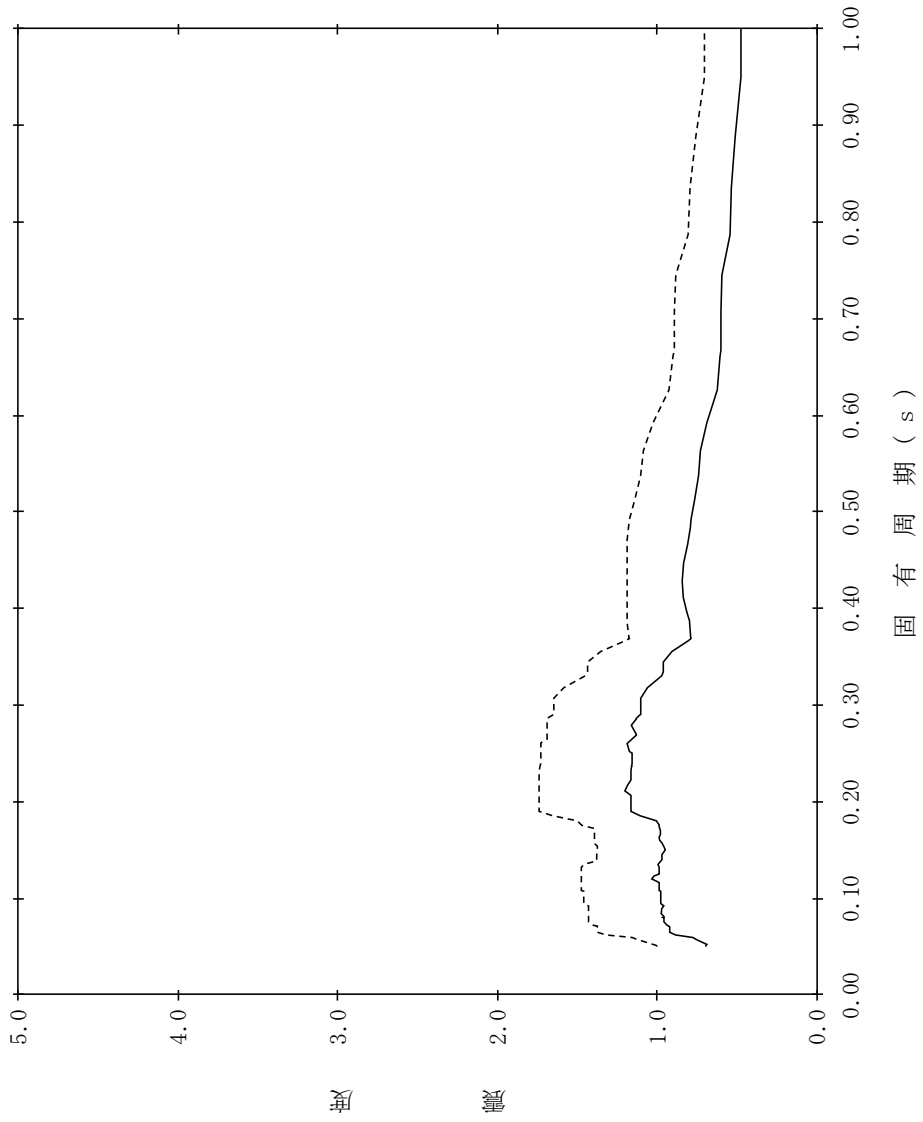
【NS2-RwB-SdEW-RwB79】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



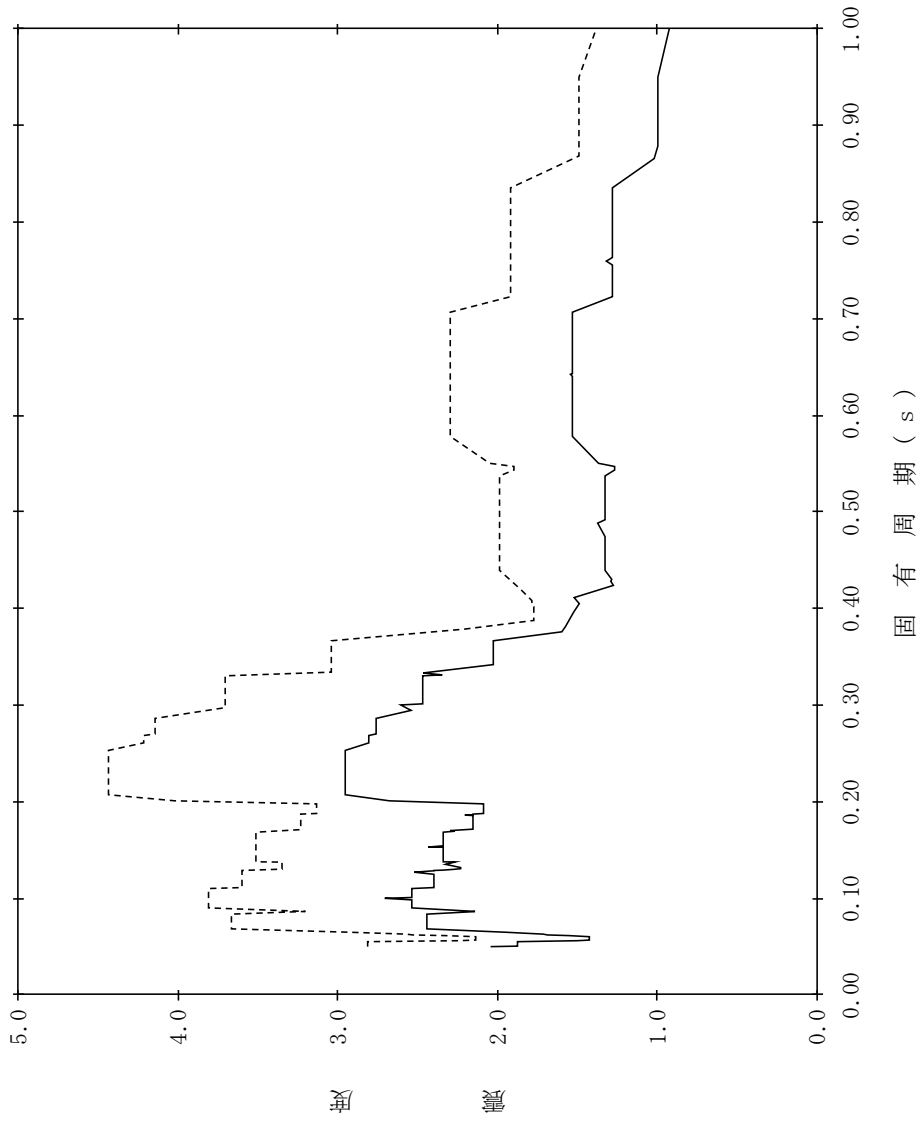
【NS2-RwB-SdEW-RwB80】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



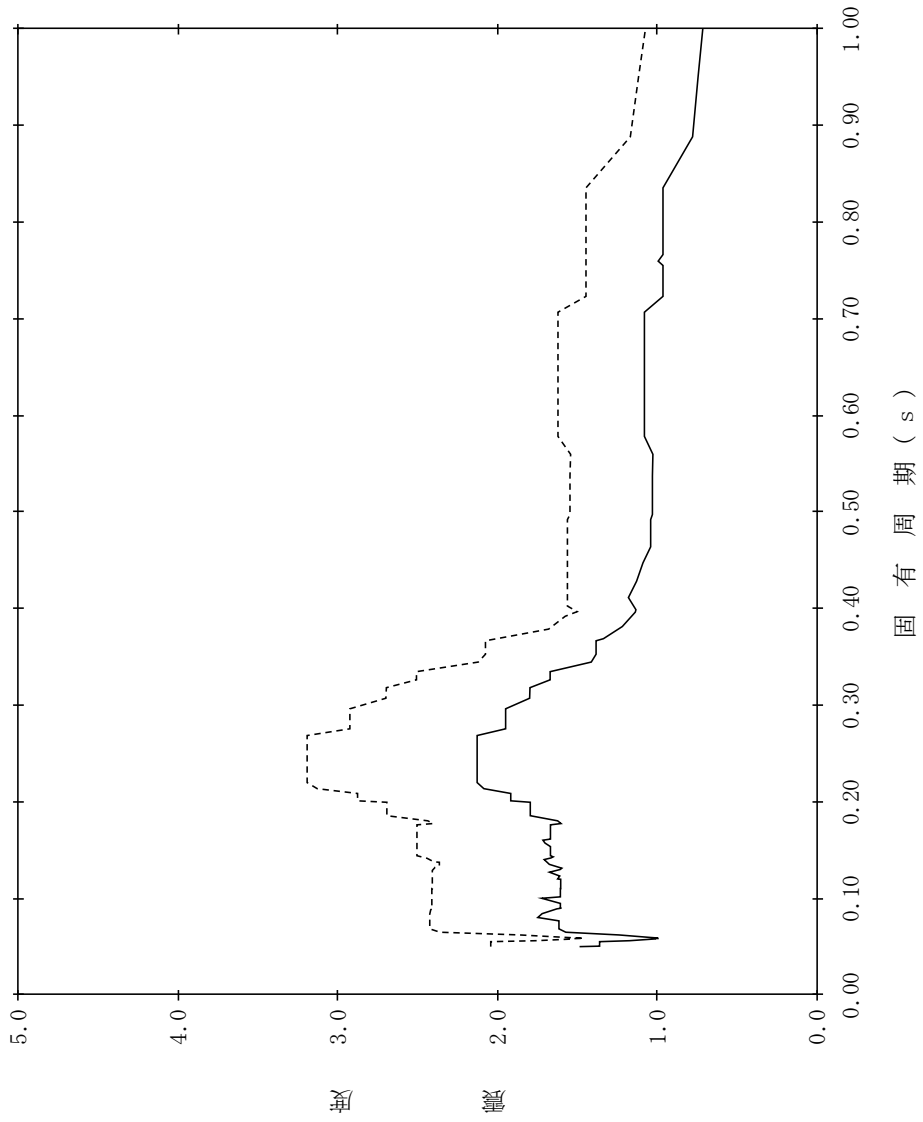
【NS2-RwB-SdEW-RwB81】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



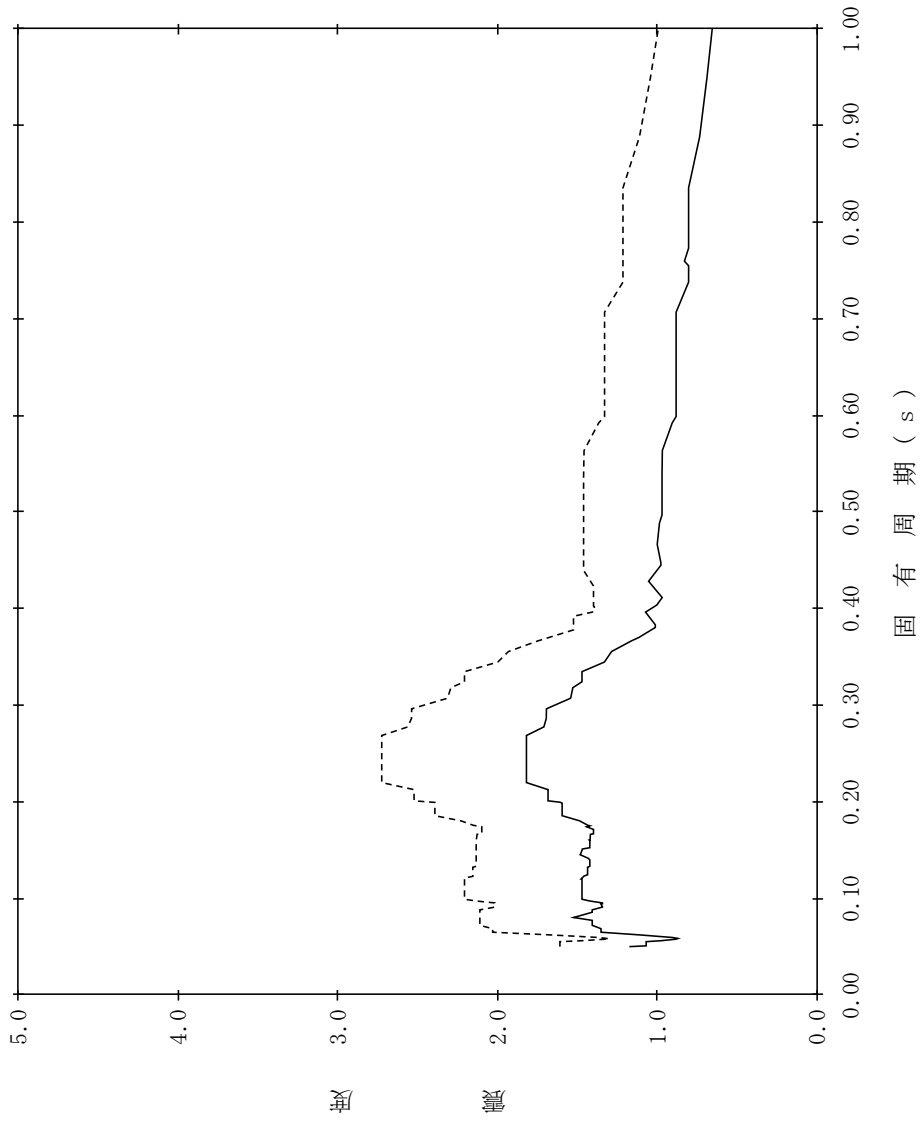
【NS2-RwB-SdEW-RwB82】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



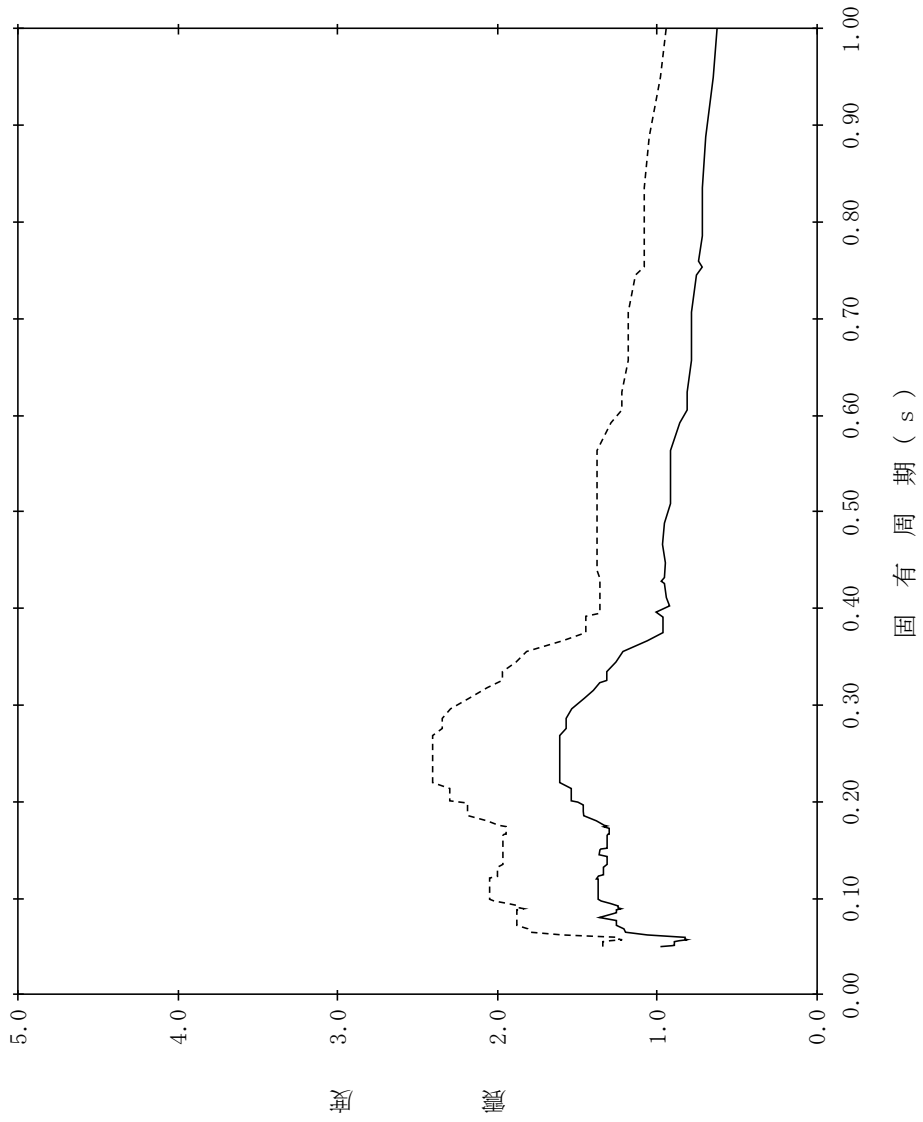
【NS2-RwB-SdEW-RwB83】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

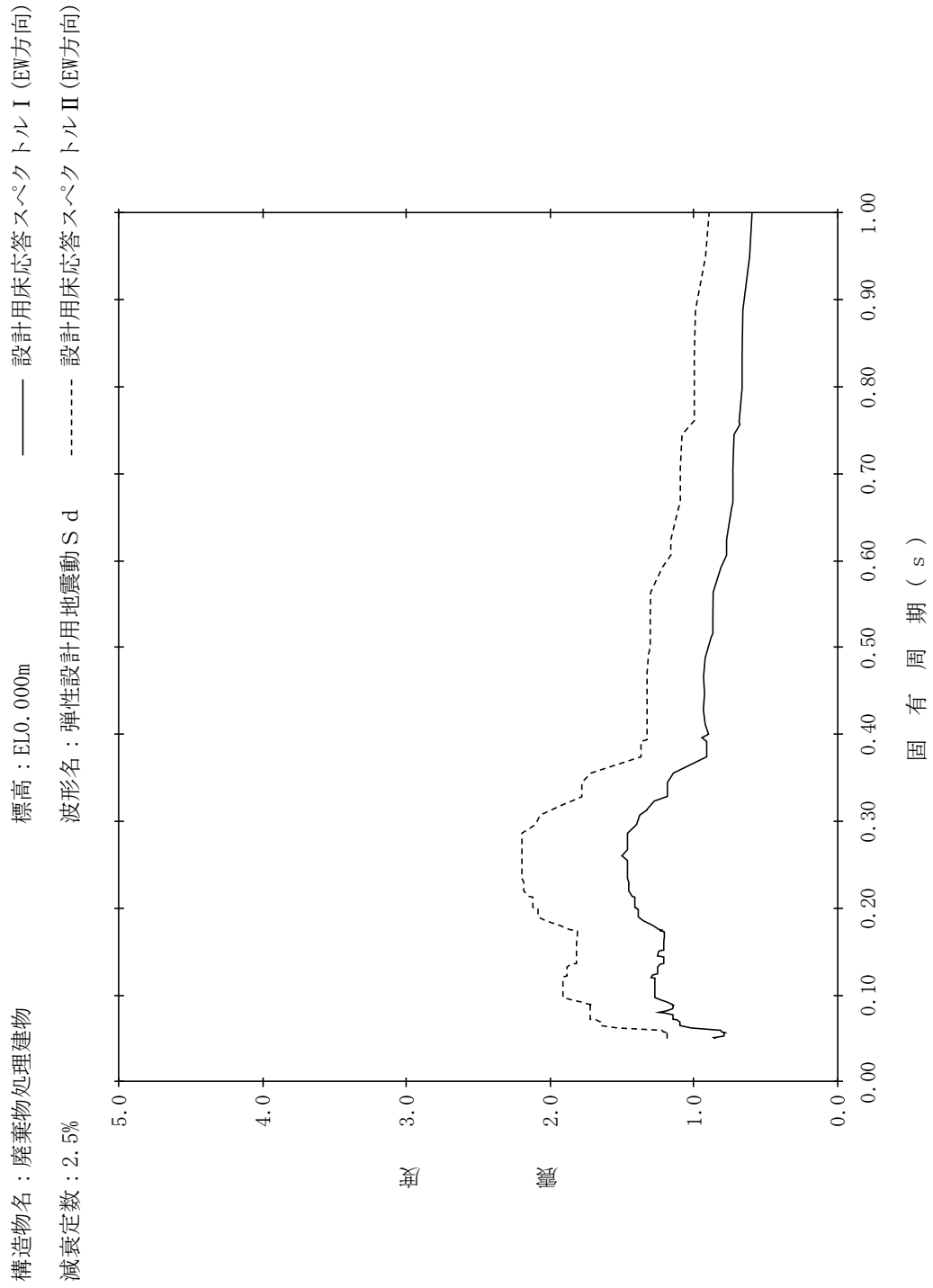


【NS2-RwB-SdEW-RwB84】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

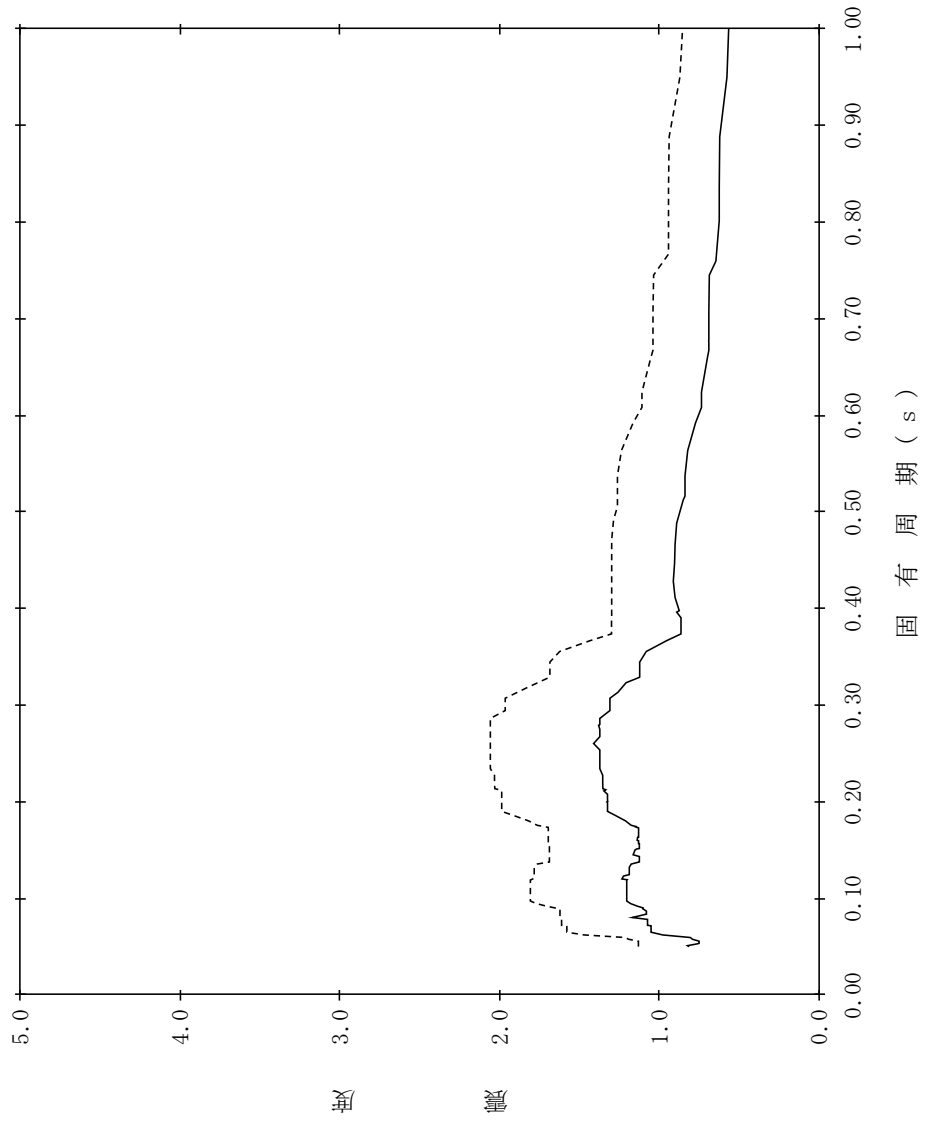


【NS2-RwB-SdEW-RwB85】

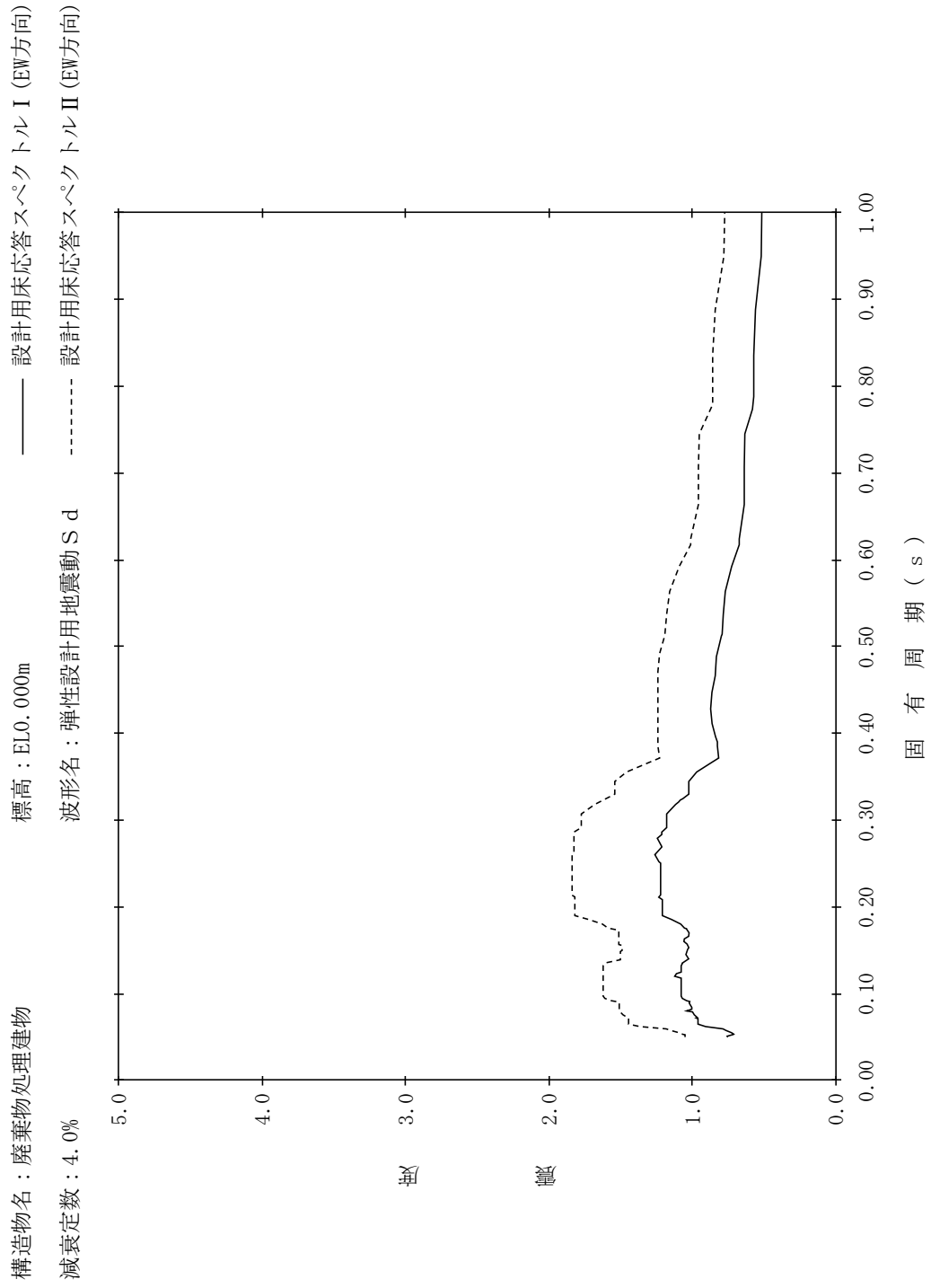


【NS2-RwB-SdEW-RwB86】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

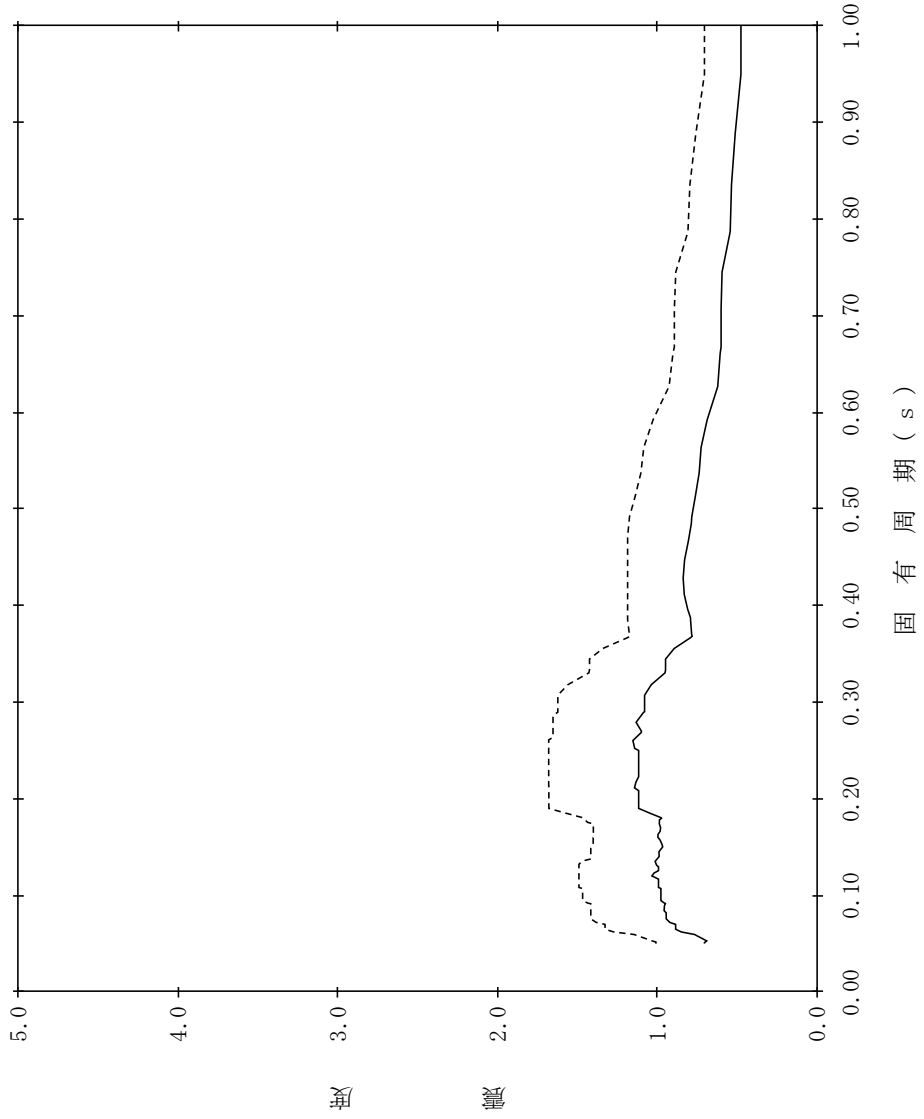


【NS2-RwB-SdEW-RwB87】



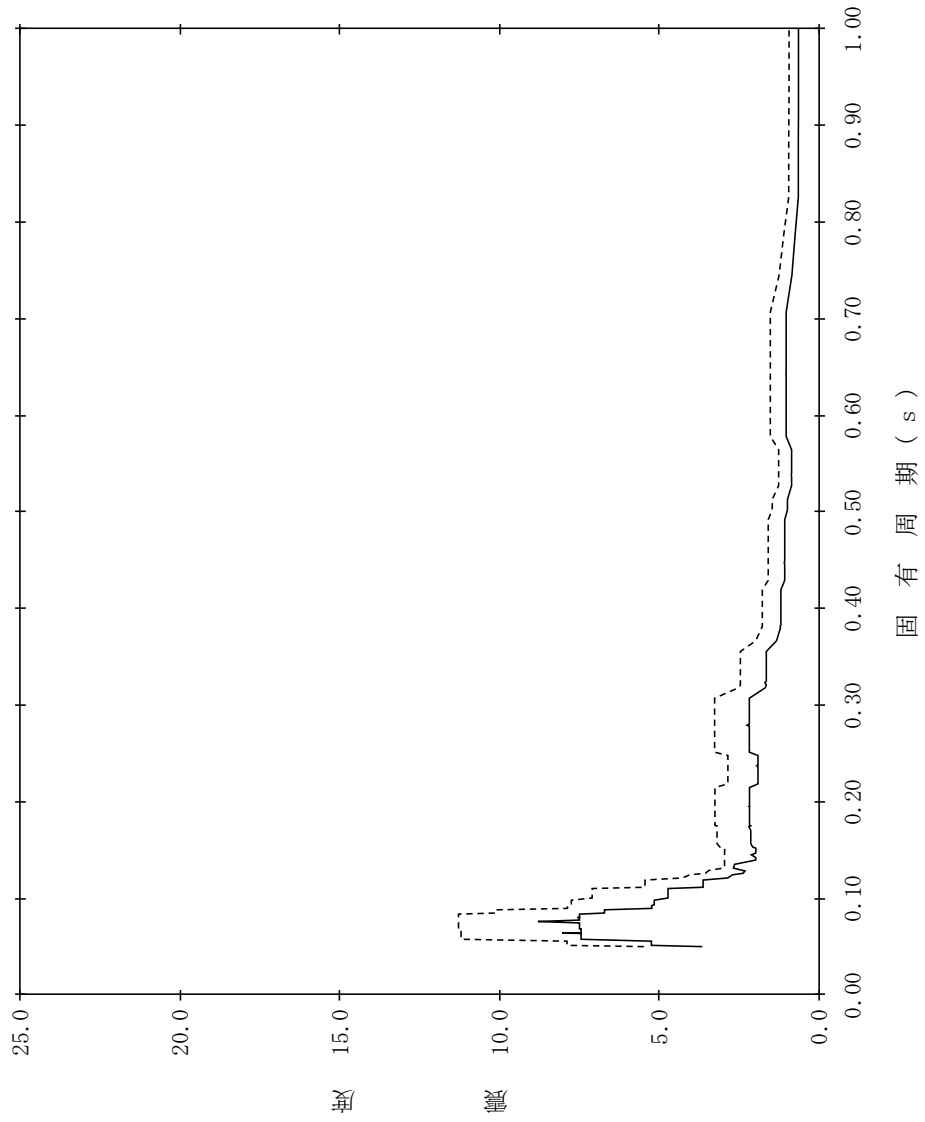
【NS2-RwB-SdEW-RwB88】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



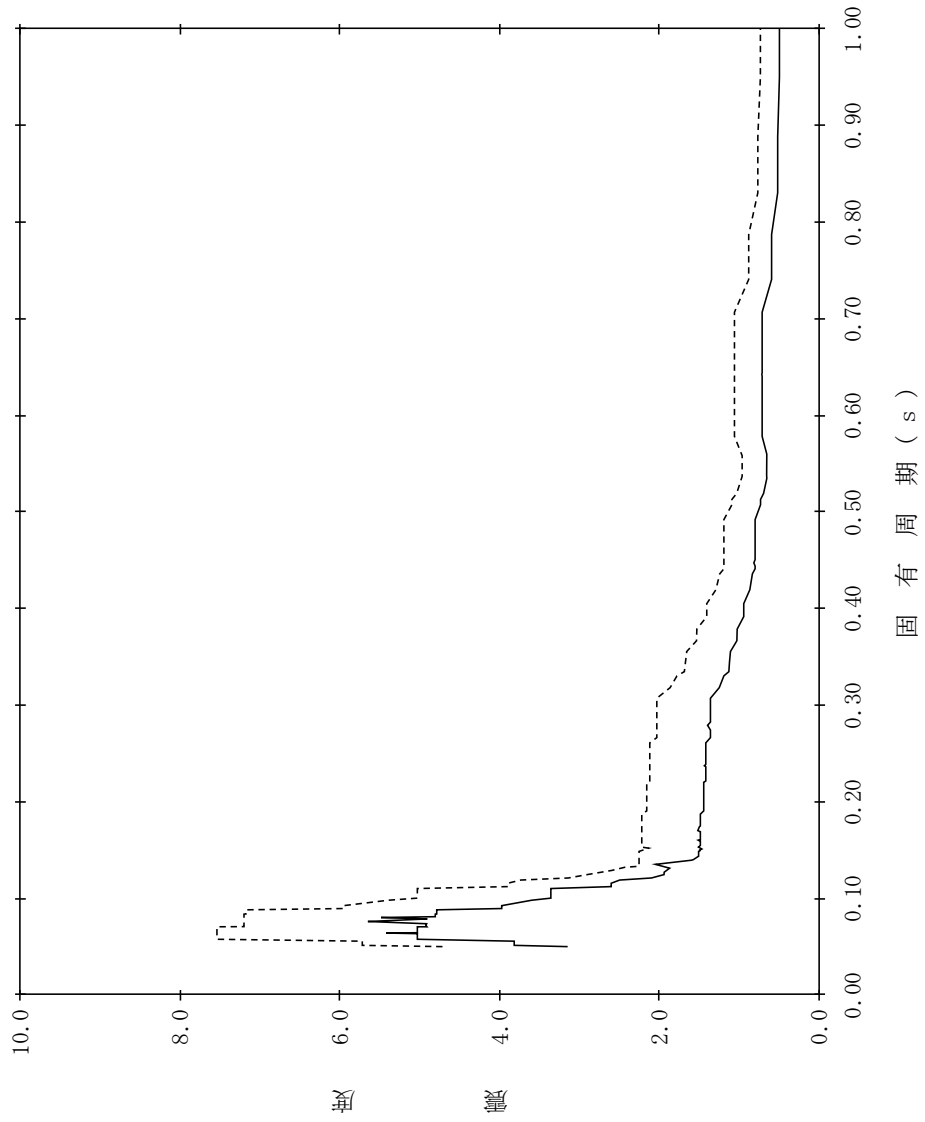
【NS2-RwB-SdV-RwB1】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



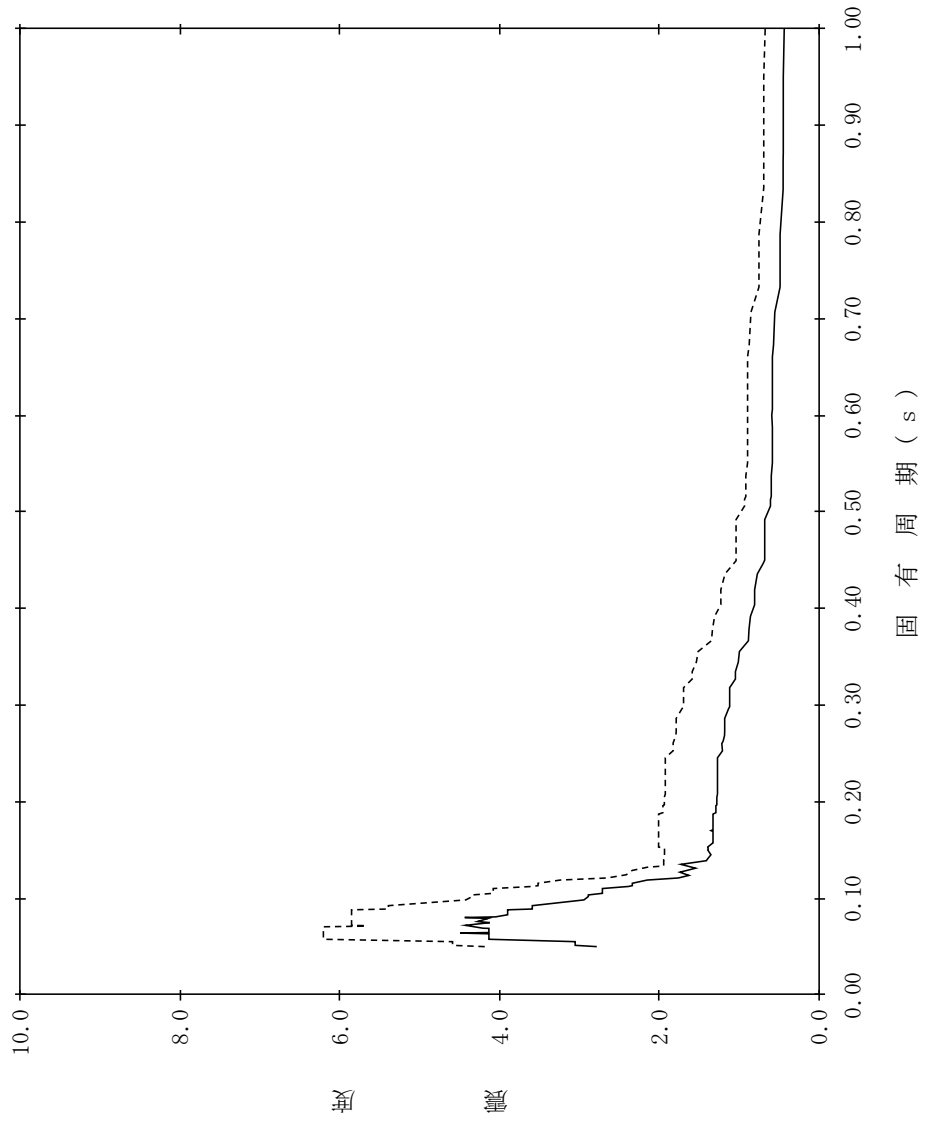
【NS2-RwB-SdV-RwB2】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



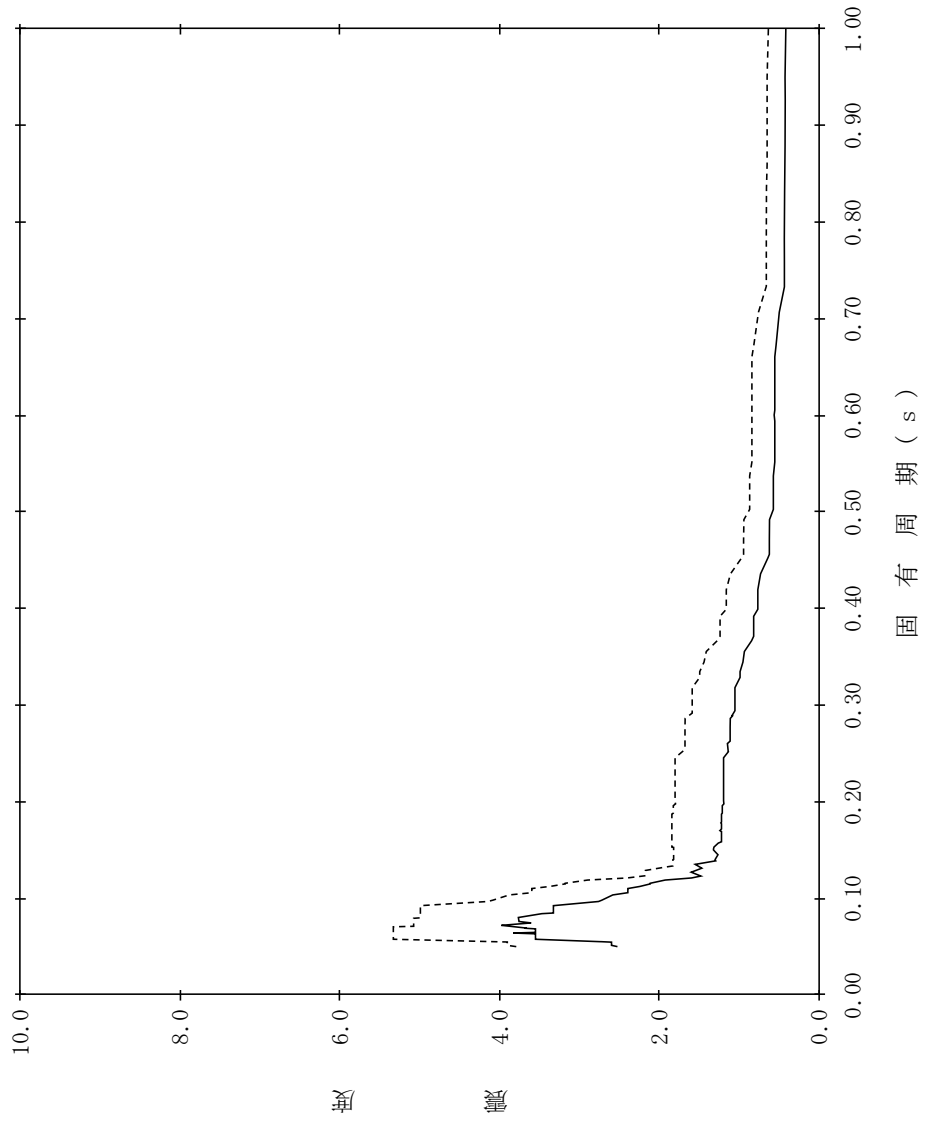
【NS2-RwB-SdV-RwB3】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



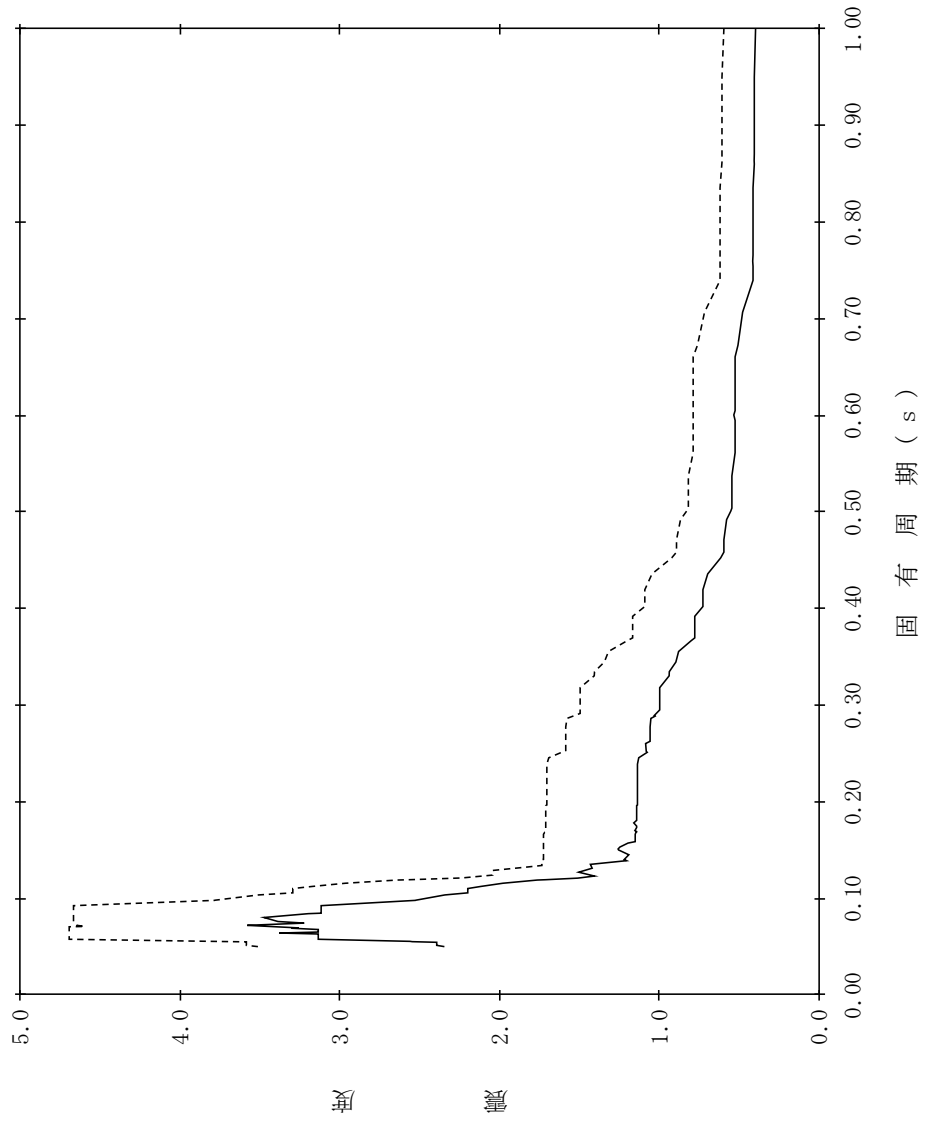
【NS2-RwB-SdV-RwB4】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



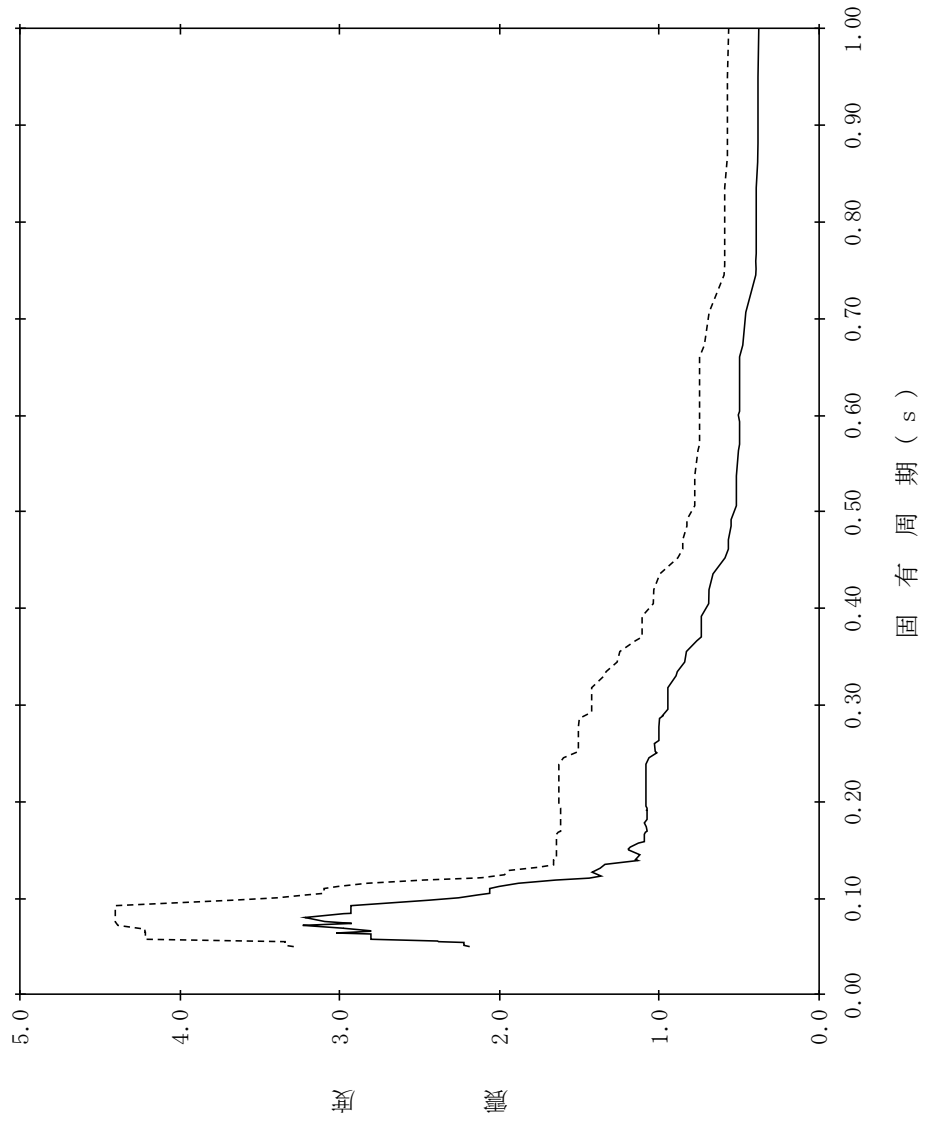
【NS2-RwB-SdV-RwB5】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



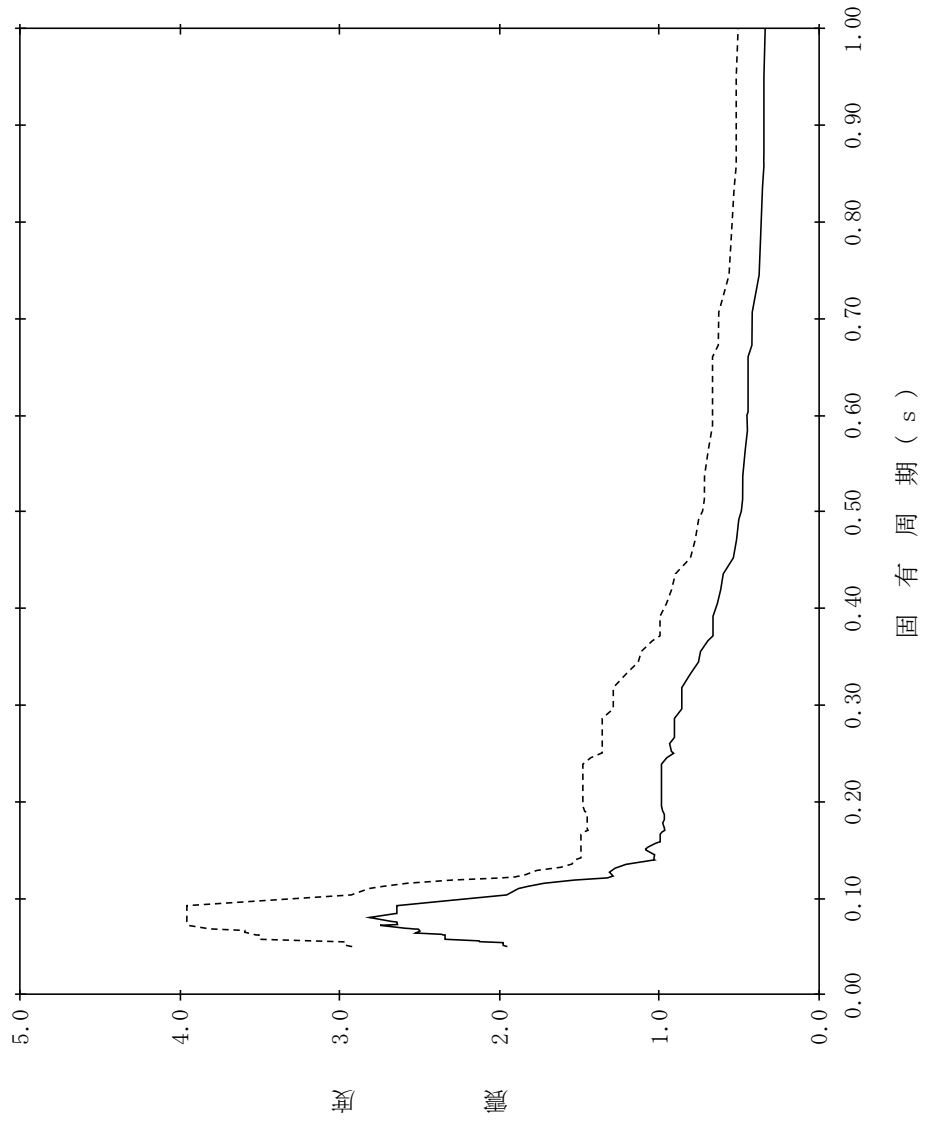
【NS2-RwB-SdV-RwB6】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



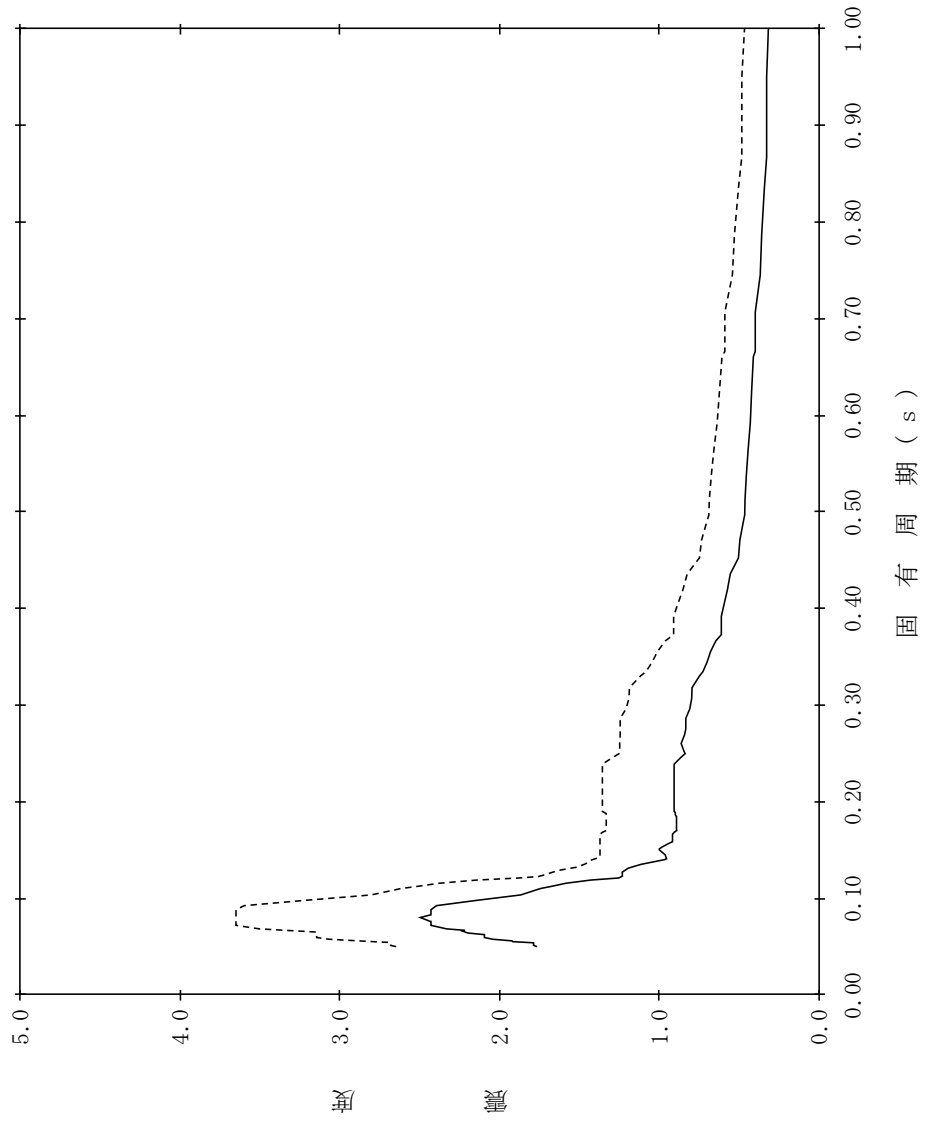
【NS2-RwB-SdV-RwB7】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



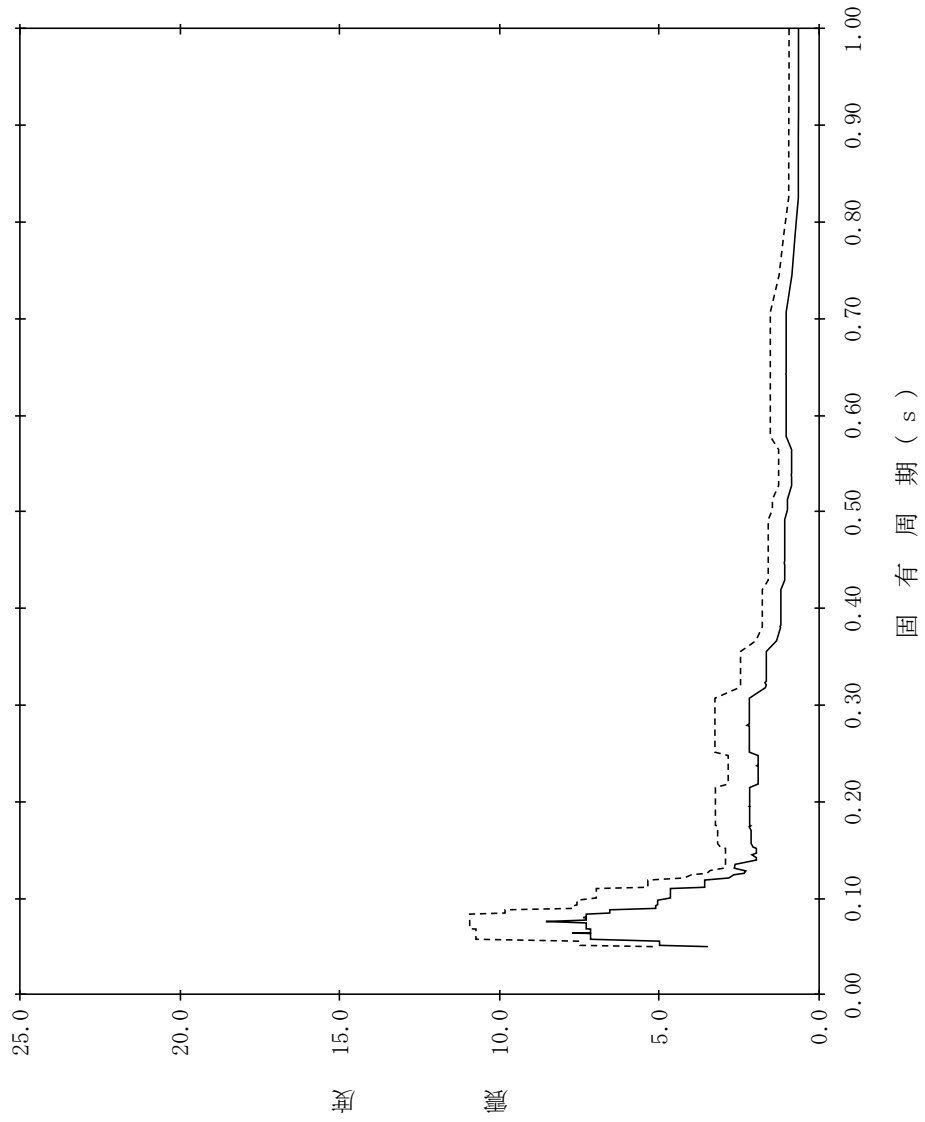
【NS2-RwB-SdV-RwB8】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL42.000m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RwB-SdV-RwB9】

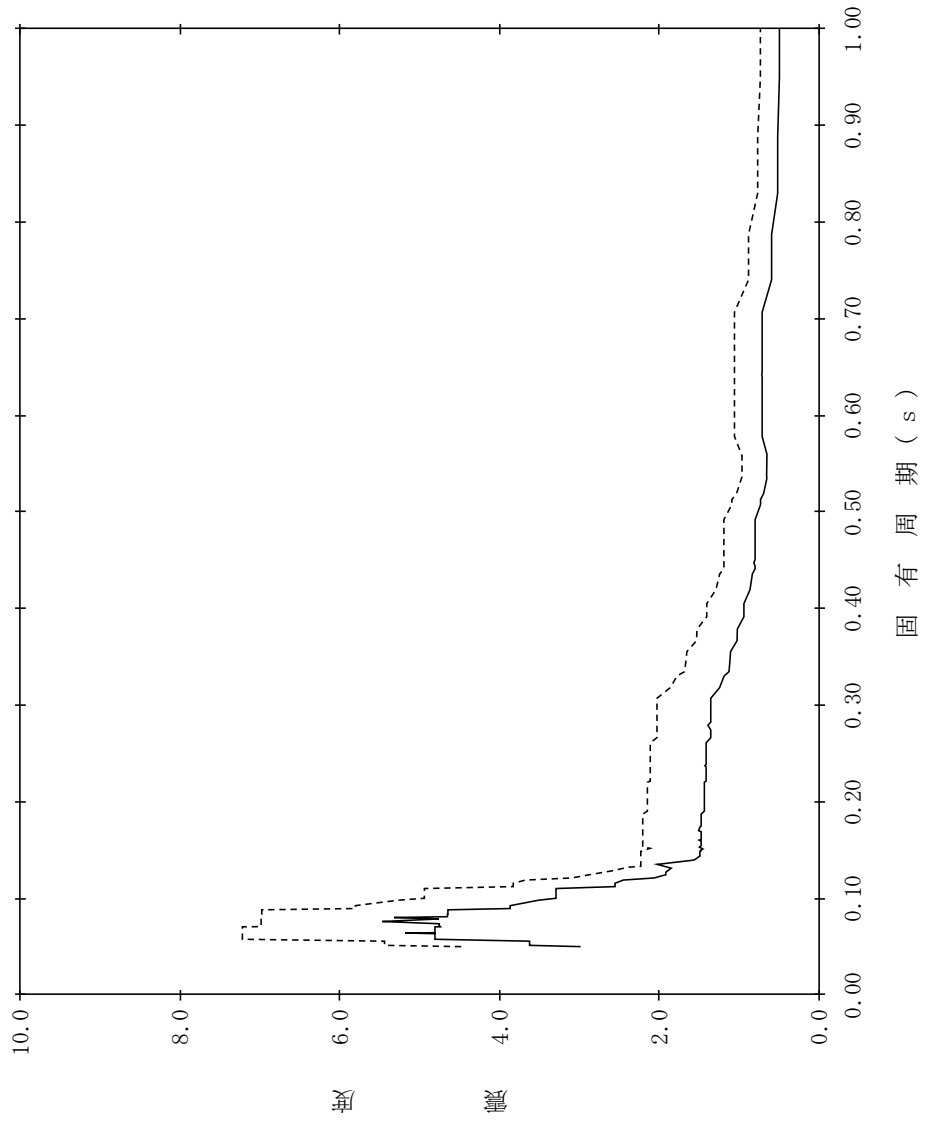
構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RwB-SdV-RwB10】

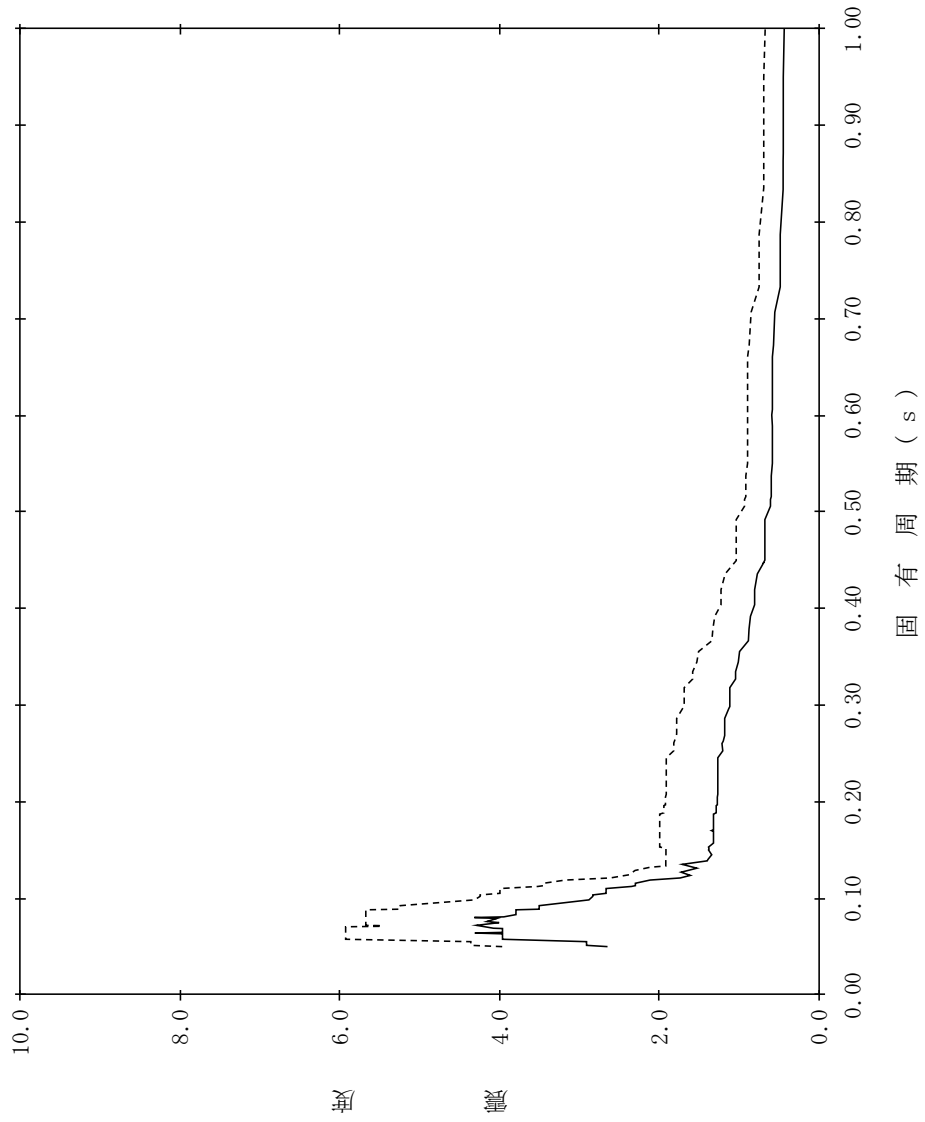
構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL37.500m
減衰定数：1.0%

—— 設計用床応答スペクトルⅠ (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトルⅡ (鉛直方向)



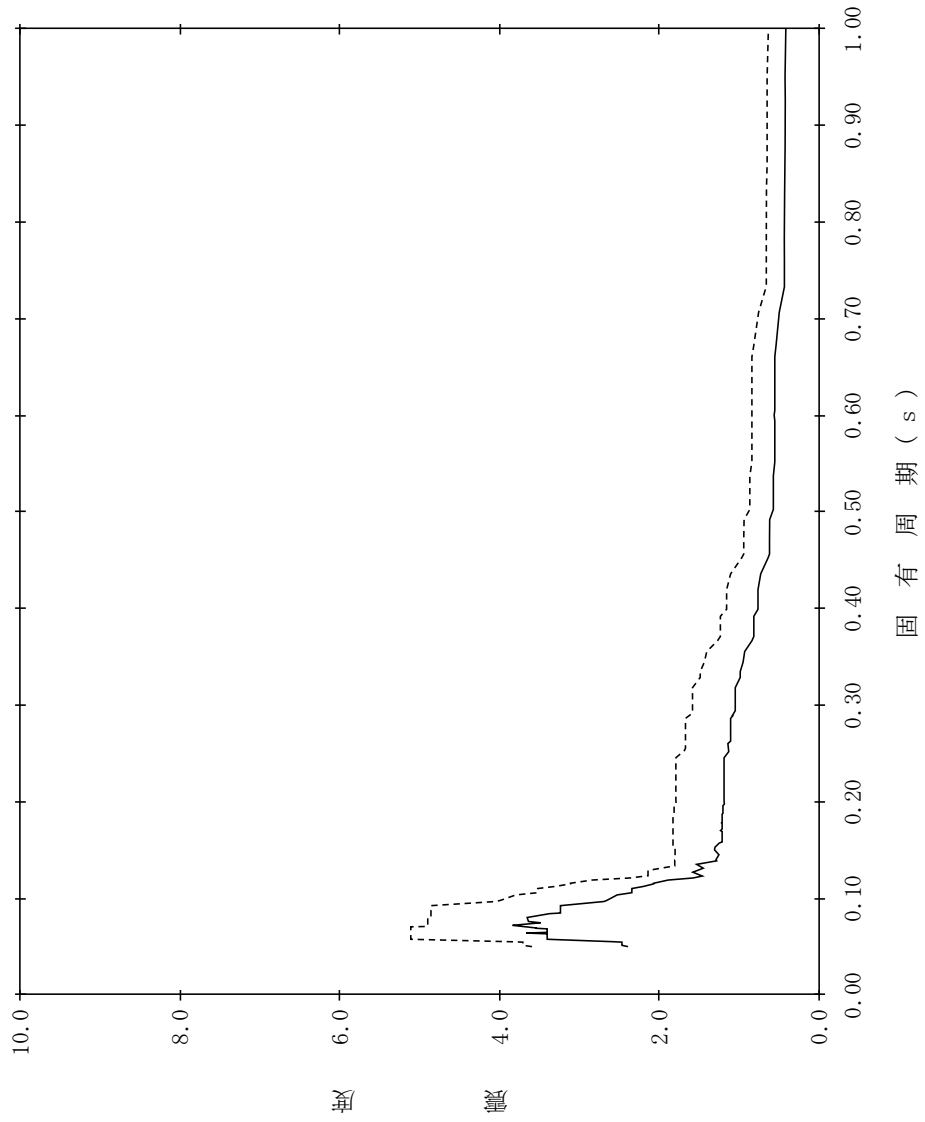
【NS2-RwB-SdV-RwB11】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RwB-SdV-RwB12】

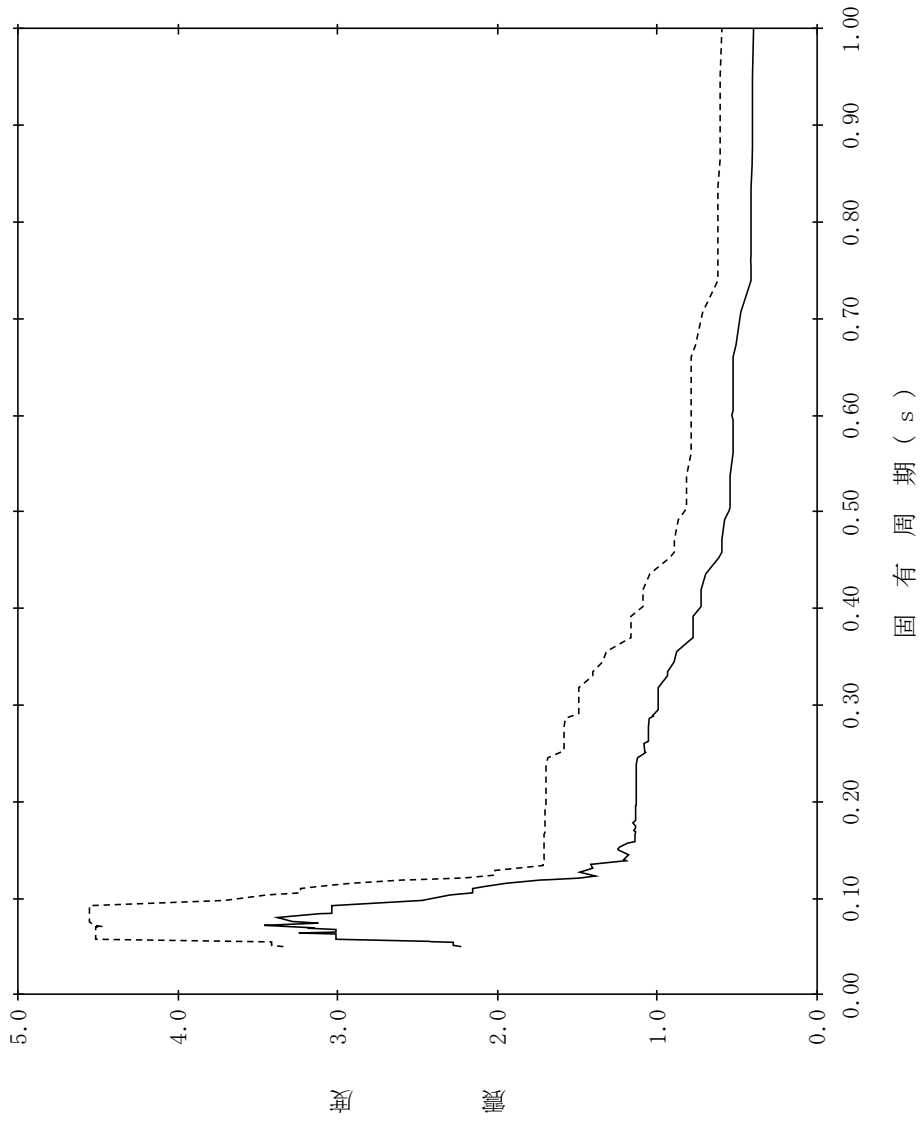
構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL37.500m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RwB-SdV-RwB13】

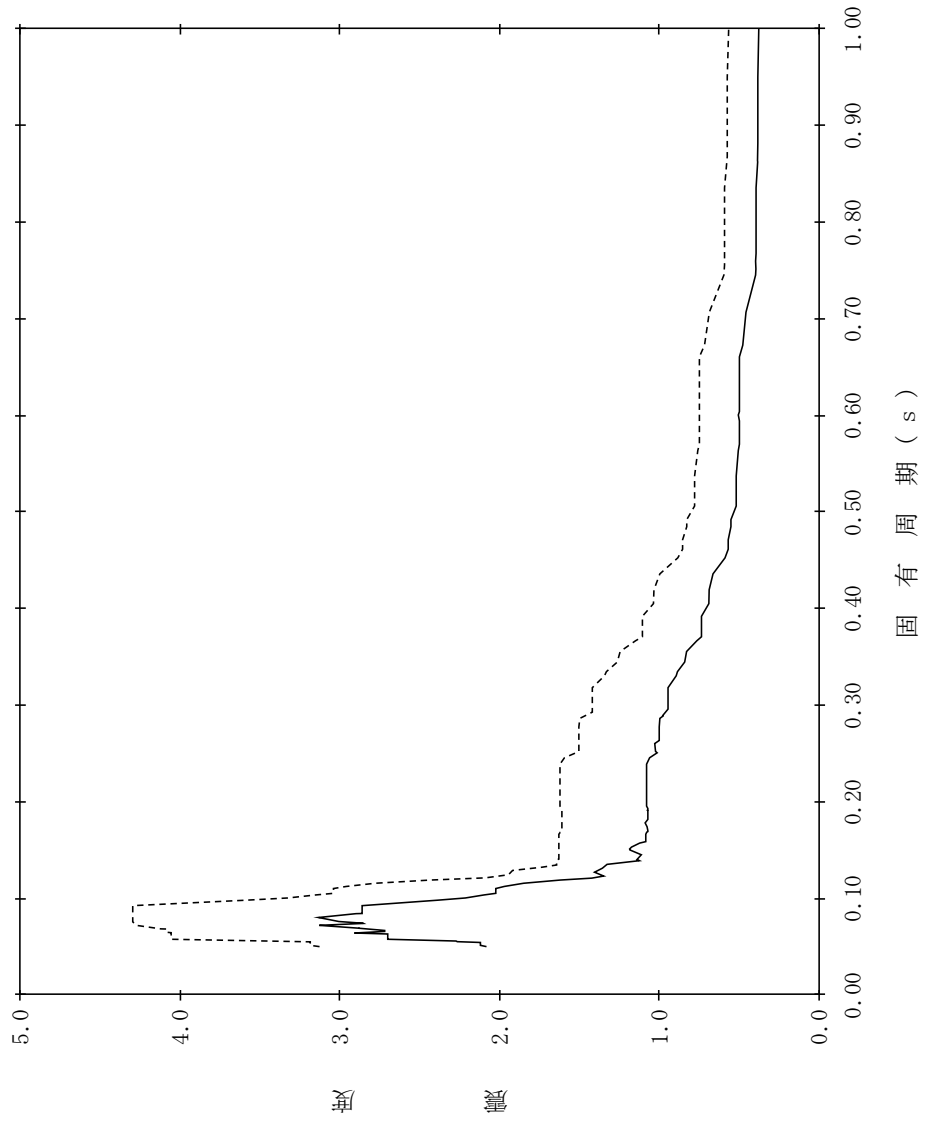
構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL37.500m
減衰定数：2.5%

—— 設計用床応答スペクトルⅠ（鉛直方向）
----- 設計用床応答スペクトルⅡ（鉛直方向）



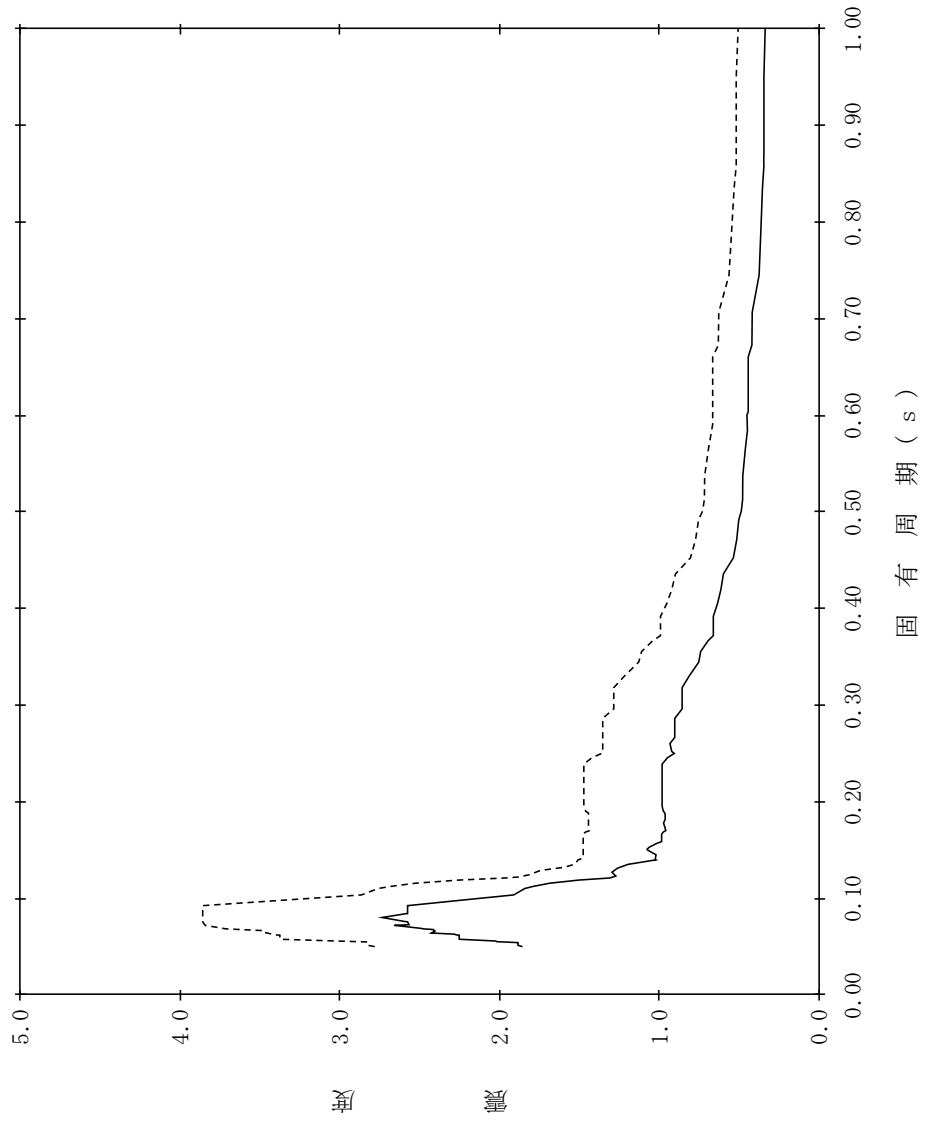
【NS2-RwB-SdV-RwB14】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



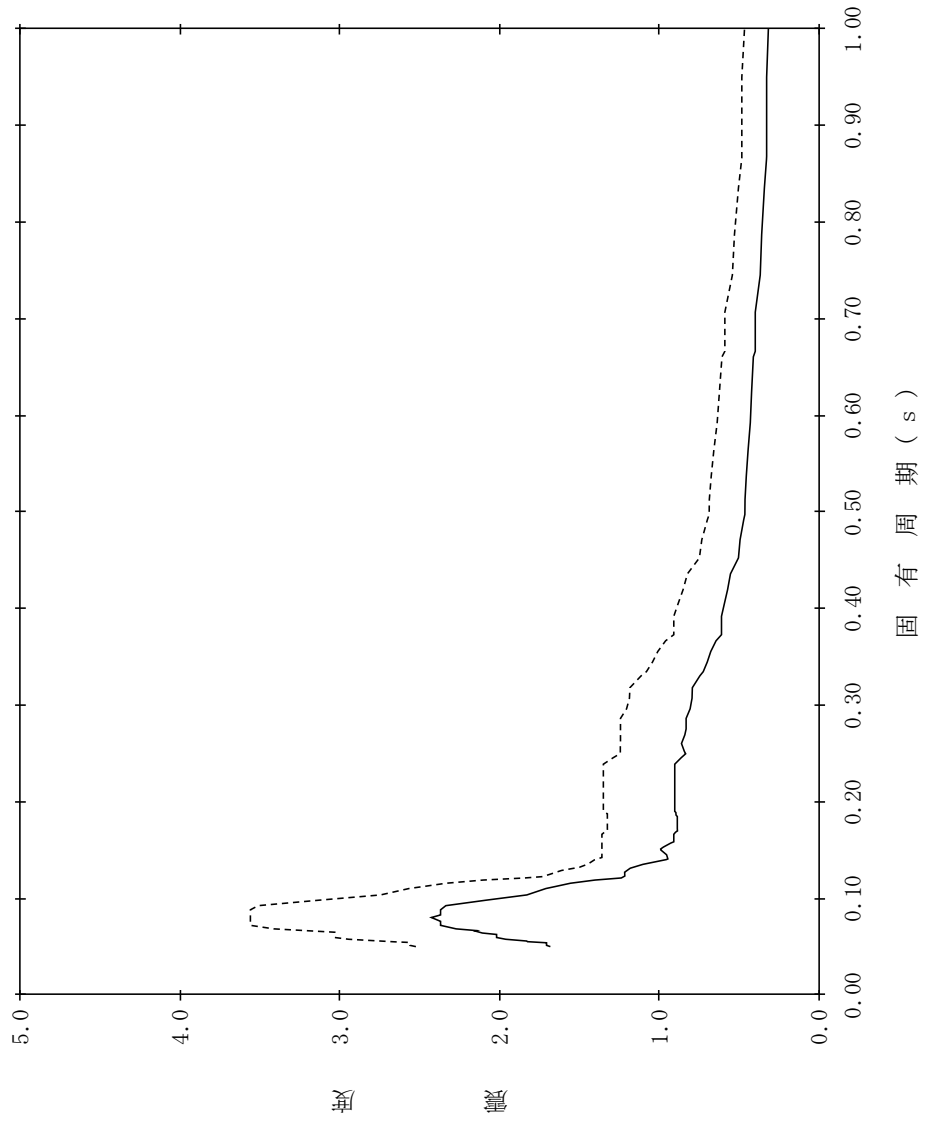
【NS2-RwB-SdV-RwB15】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



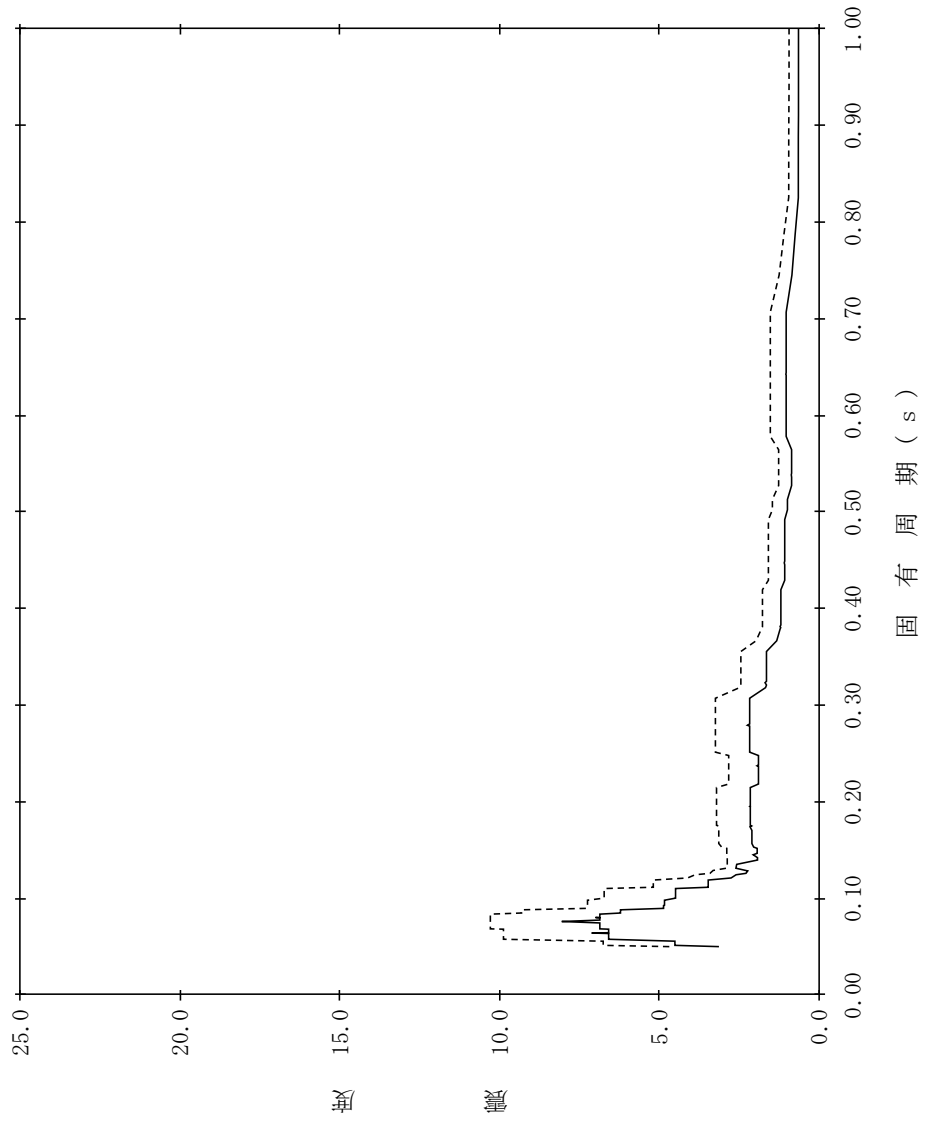
【NS2-RwB-SdV-RwB16】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



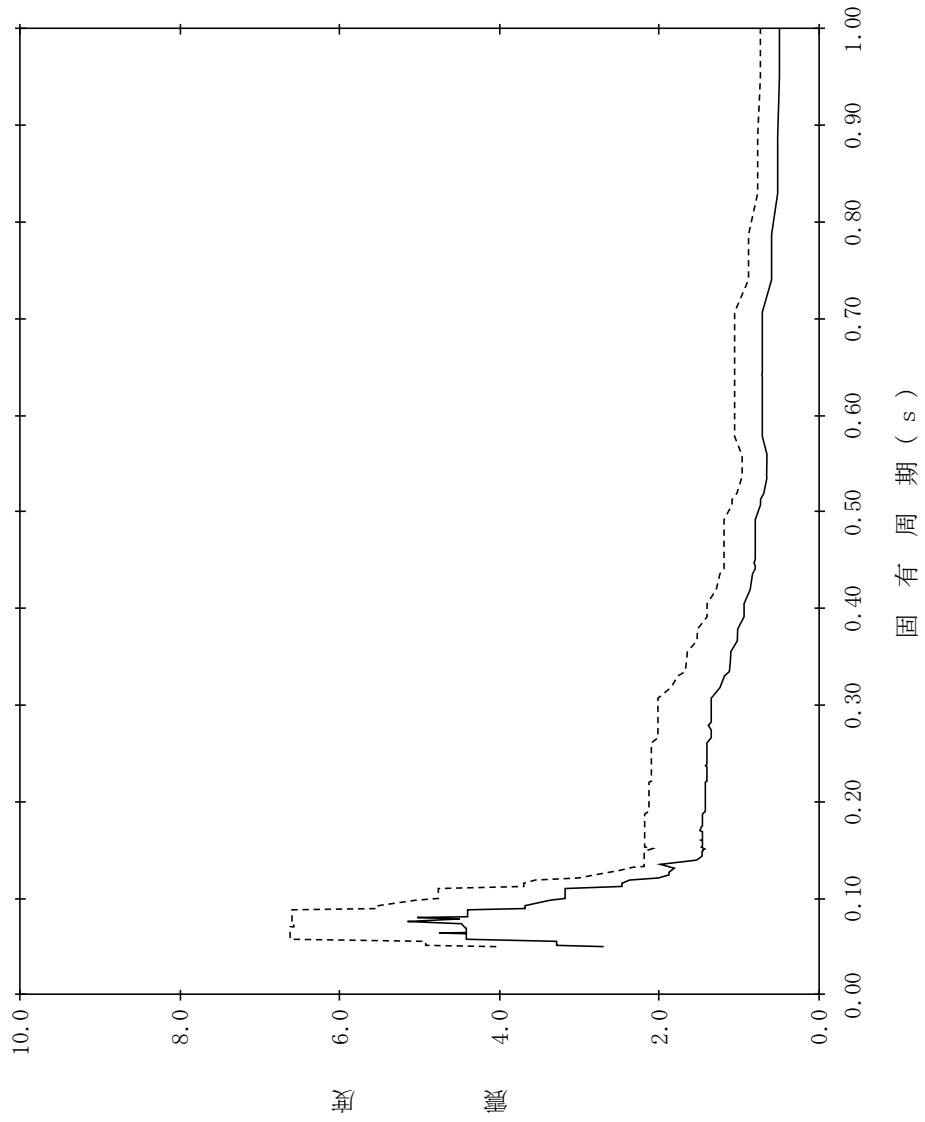
【NS2-RwB-SdV-RwB17】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



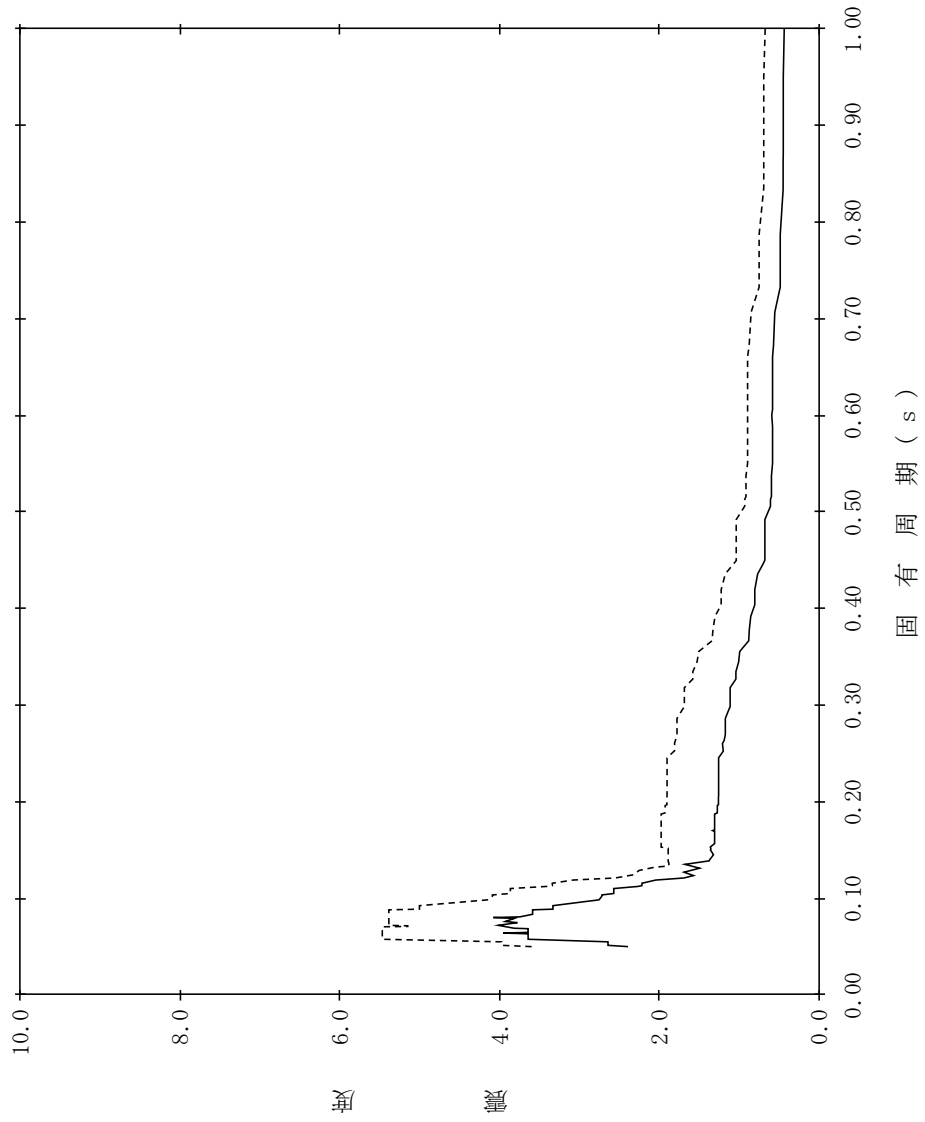
【NS2-RwB-SdV-RwB18】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL32.000m
減衰定数：1.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



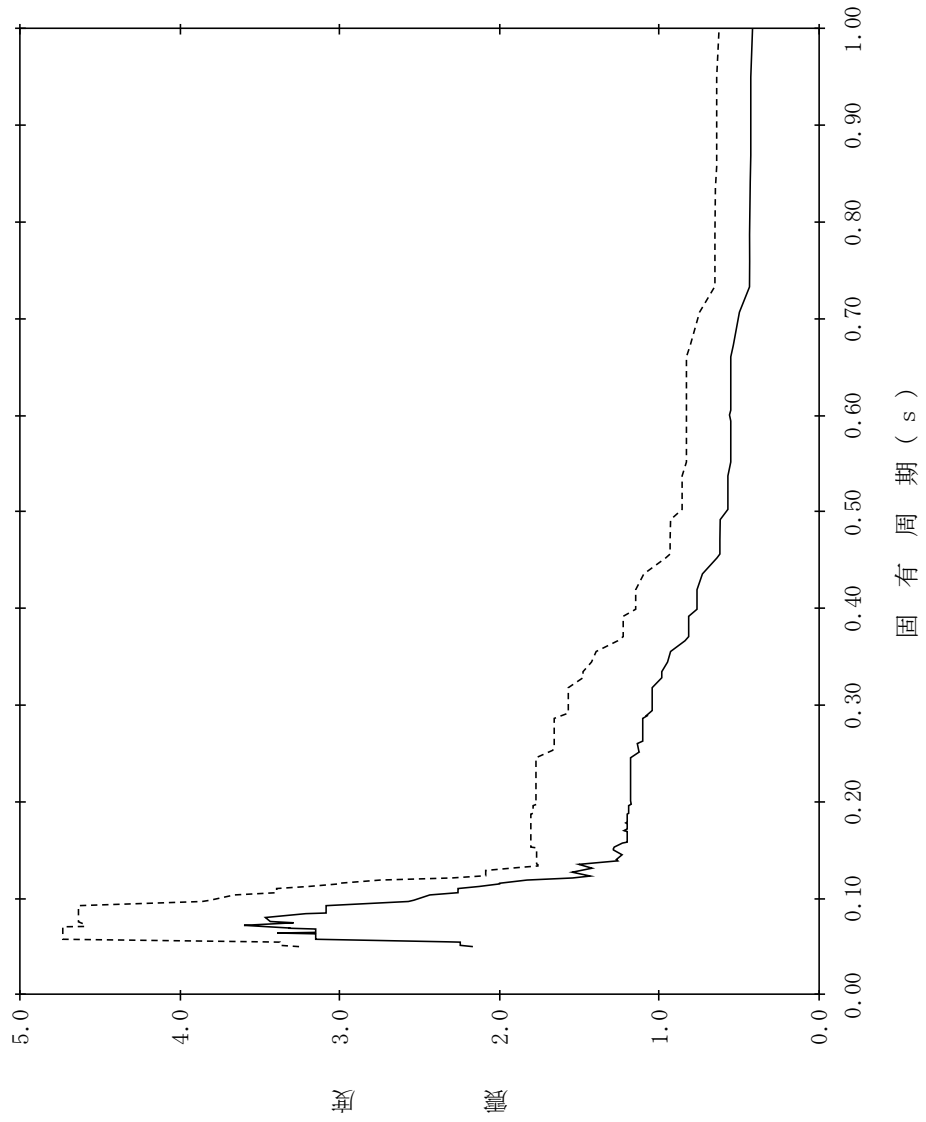
【NS2-RwB-SdV-RwB19】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL32.000m
減衰定数：1.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



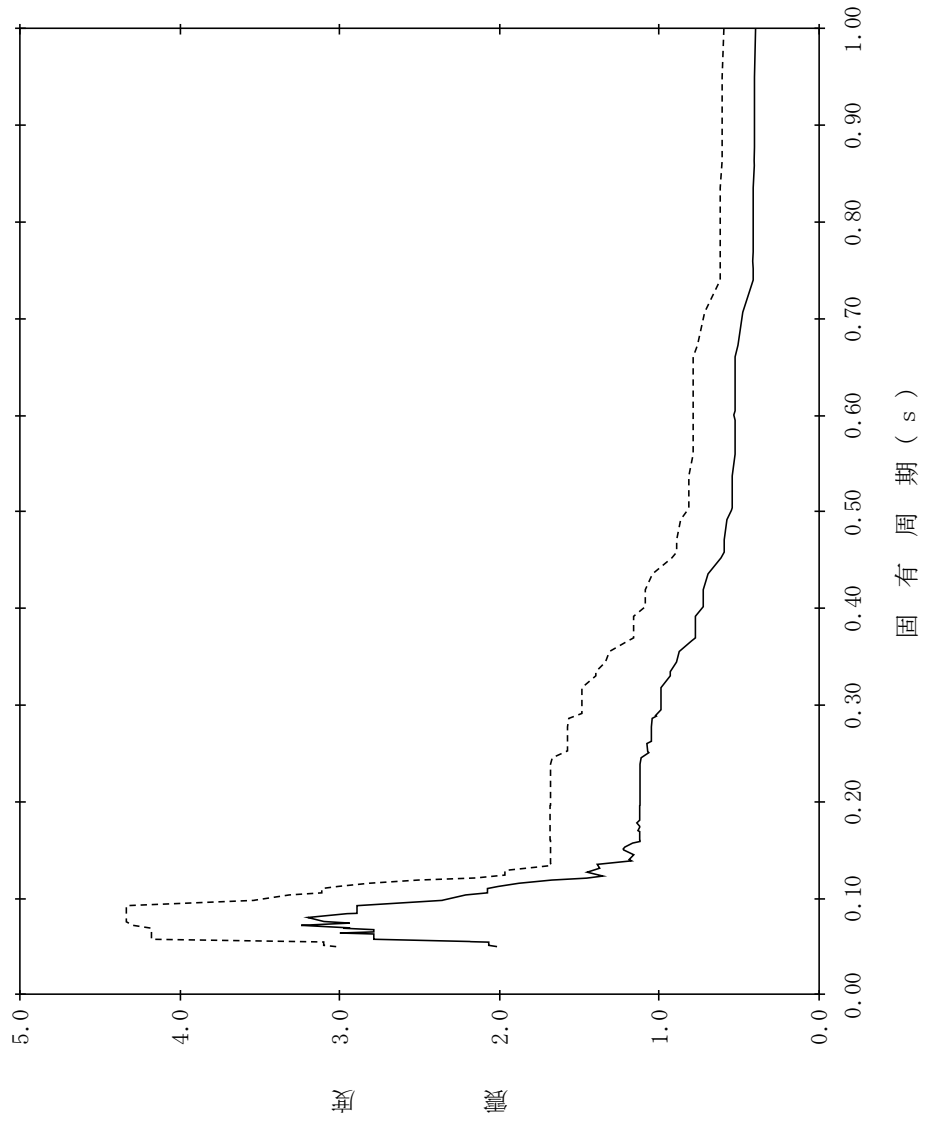
【NS2-RwB-SdV-RwB20】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



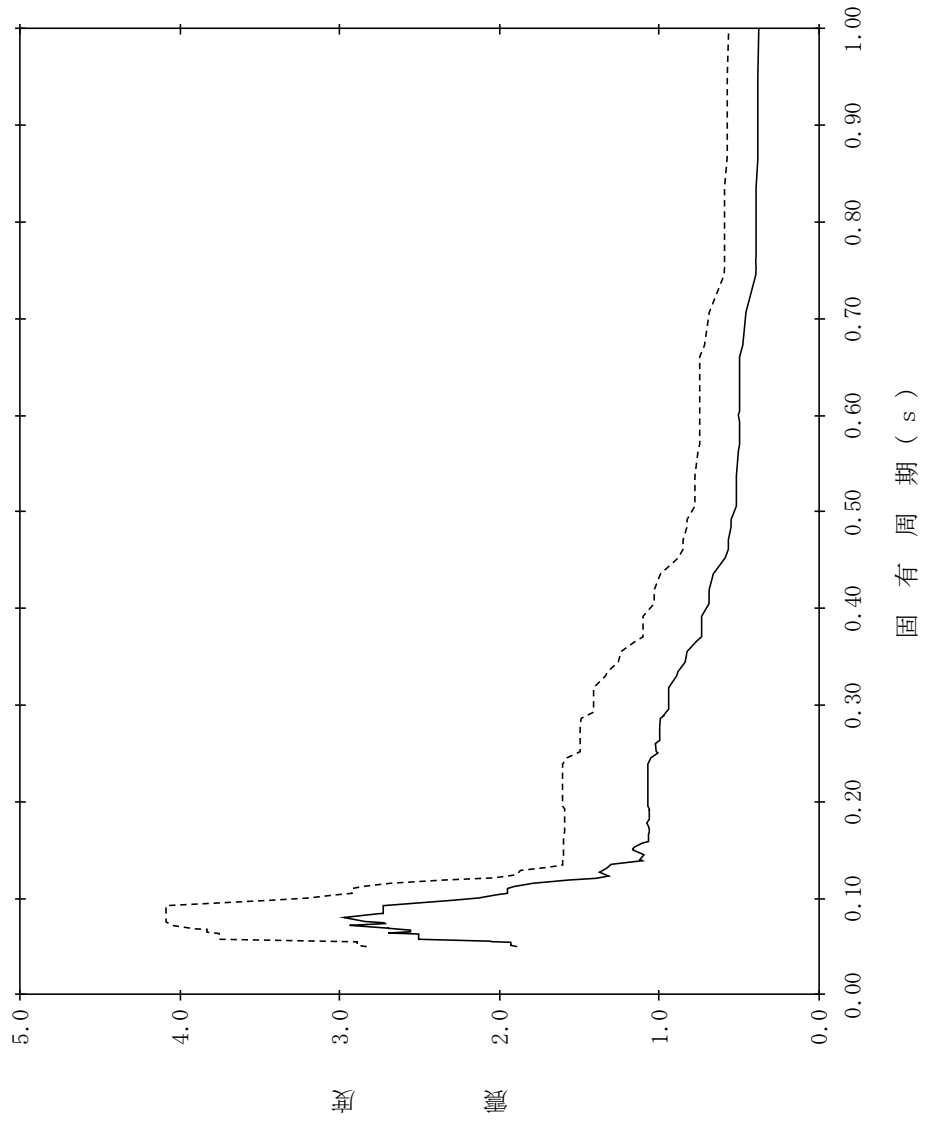
【NS2-RwB-SdV-RwB21】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



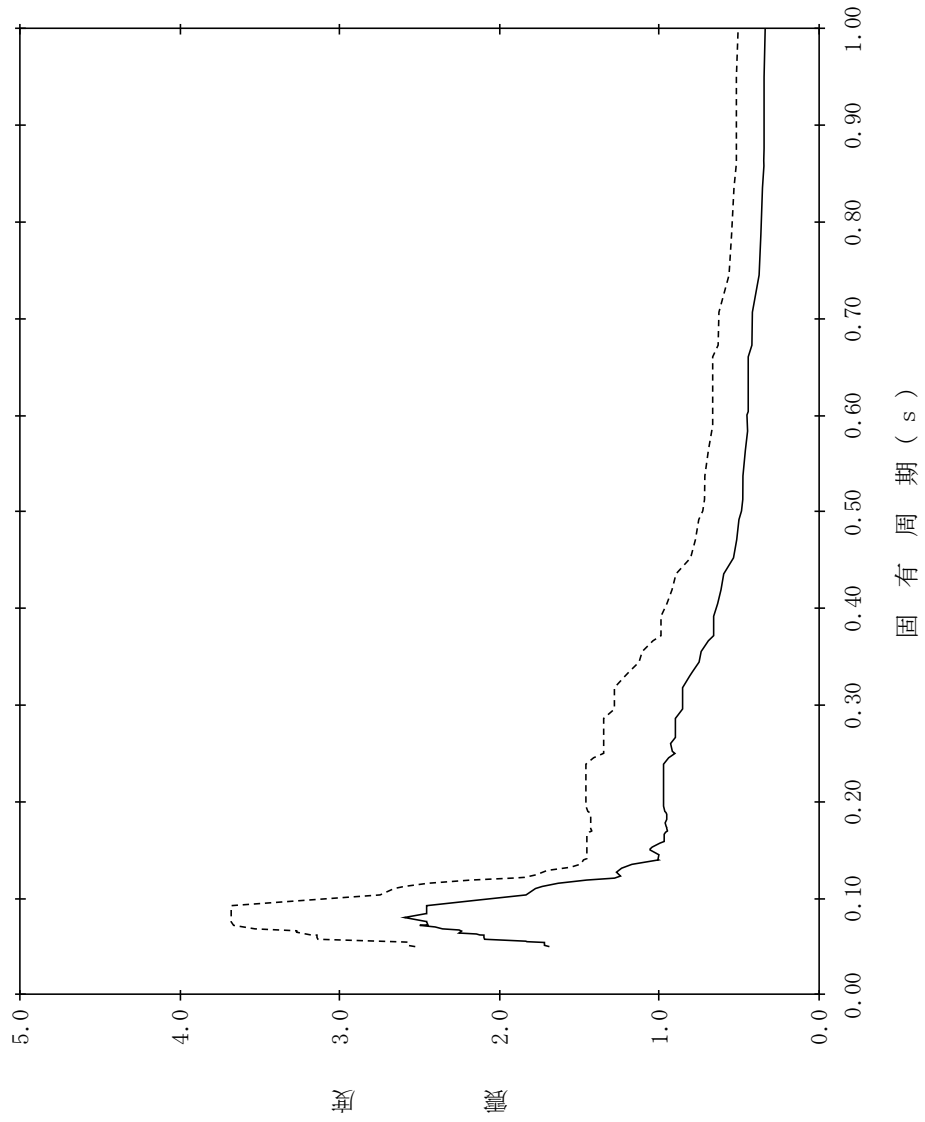
【NS2-RwB-SdV-RwB22】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



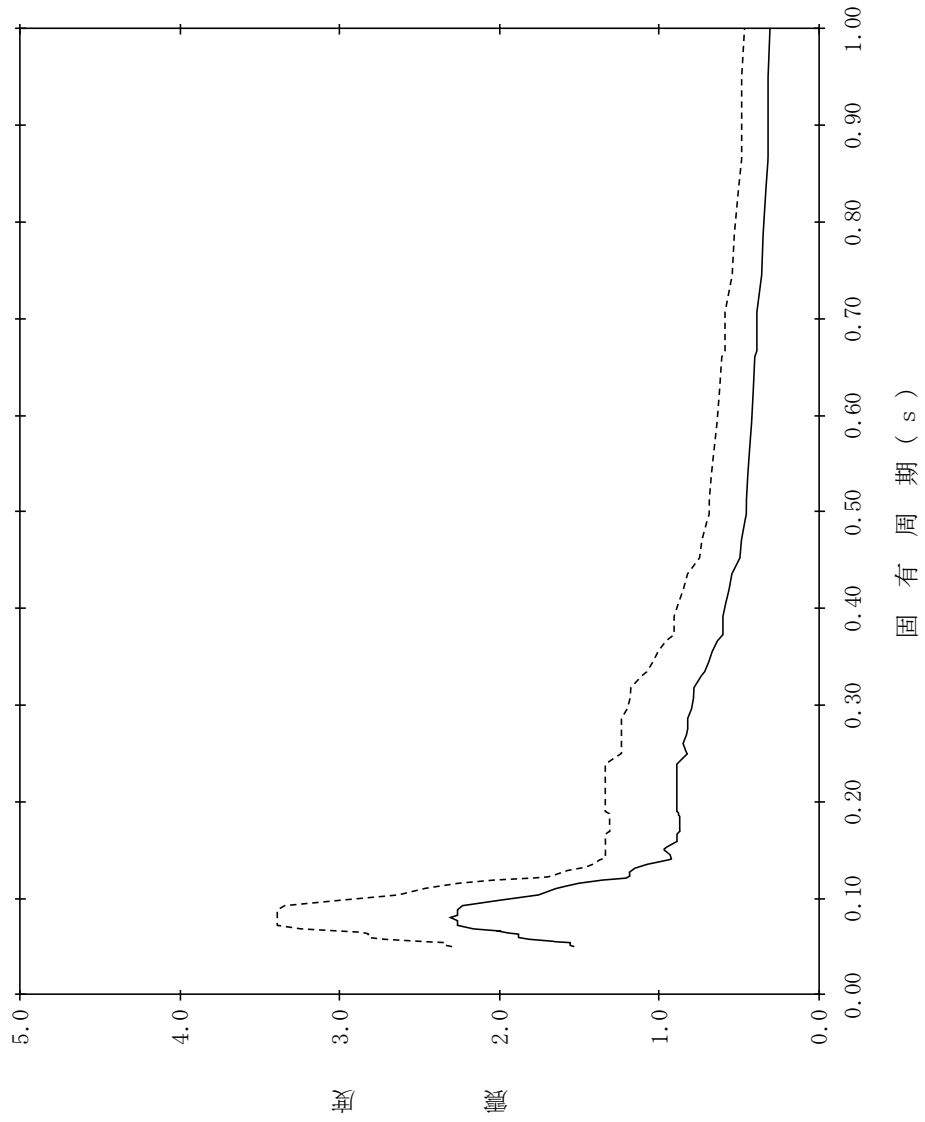
【NS2-RwB-SdV-RwB23】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL32.000m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



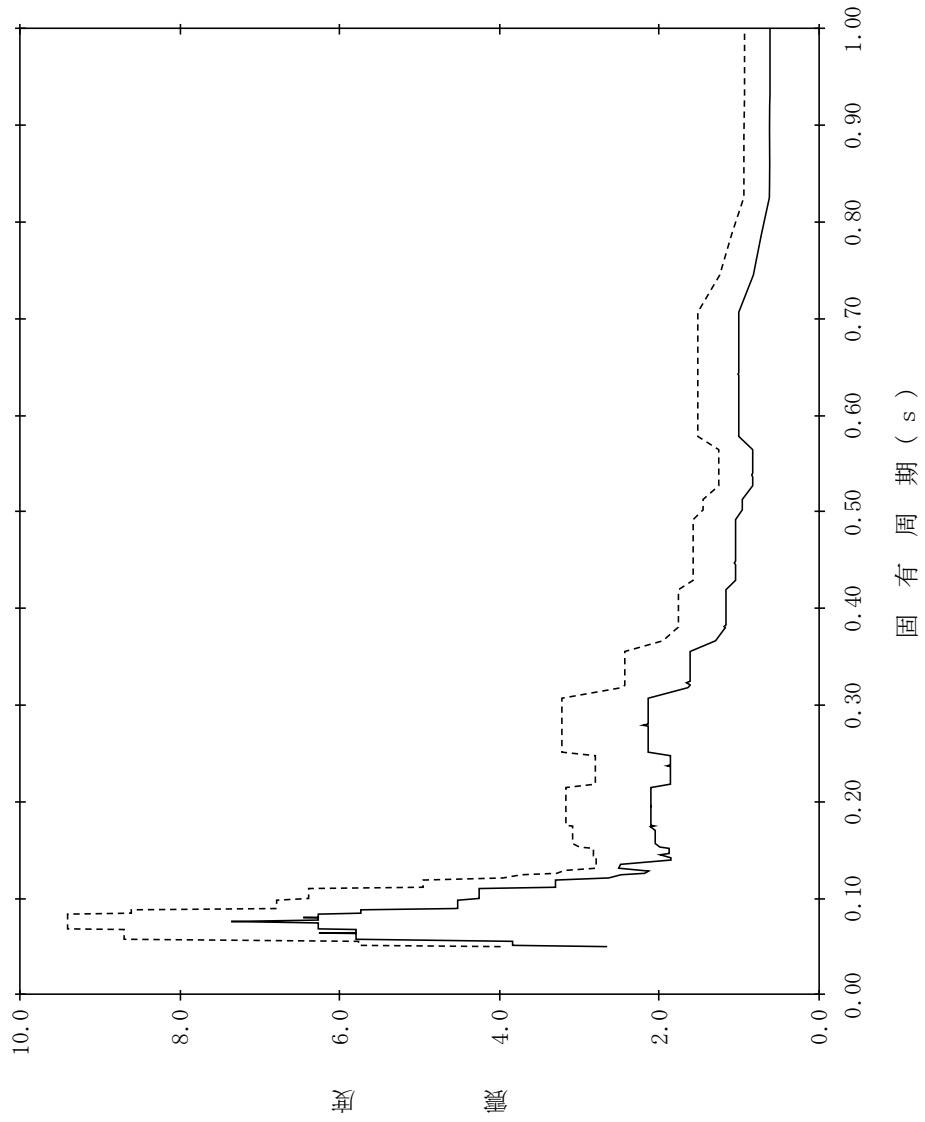
【NS2-RwB-SdV-RwB24】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



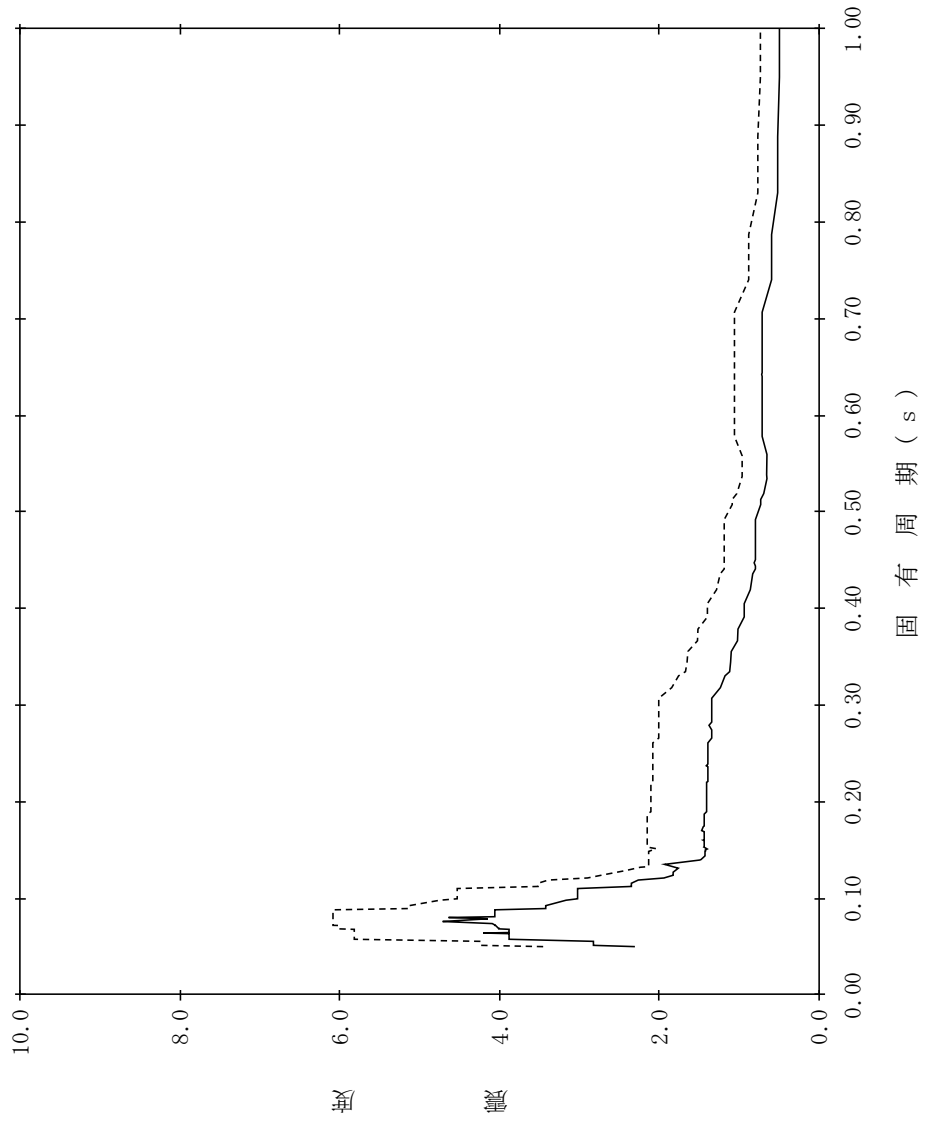
【NS2-RwB-SdV-RwB25】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



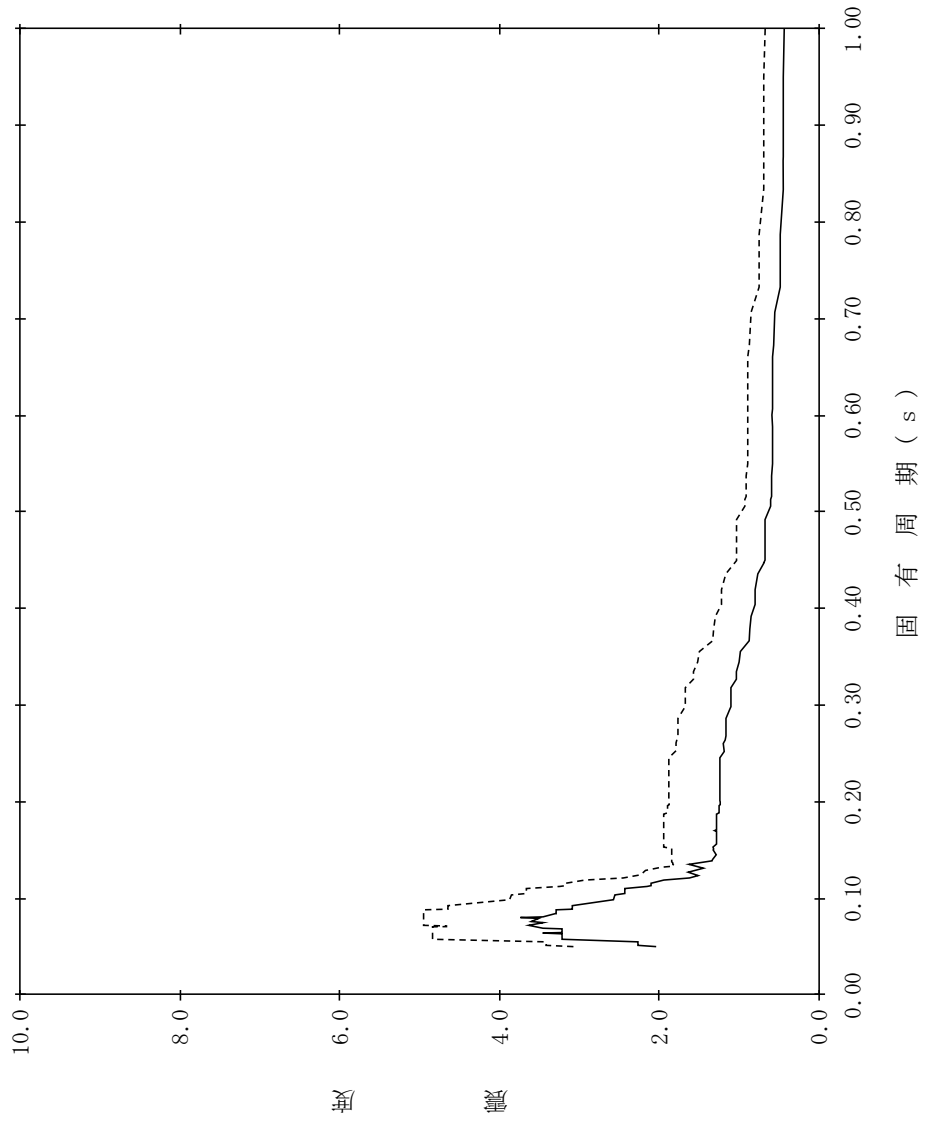
【NS2-RwB-SdV-RwB26】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



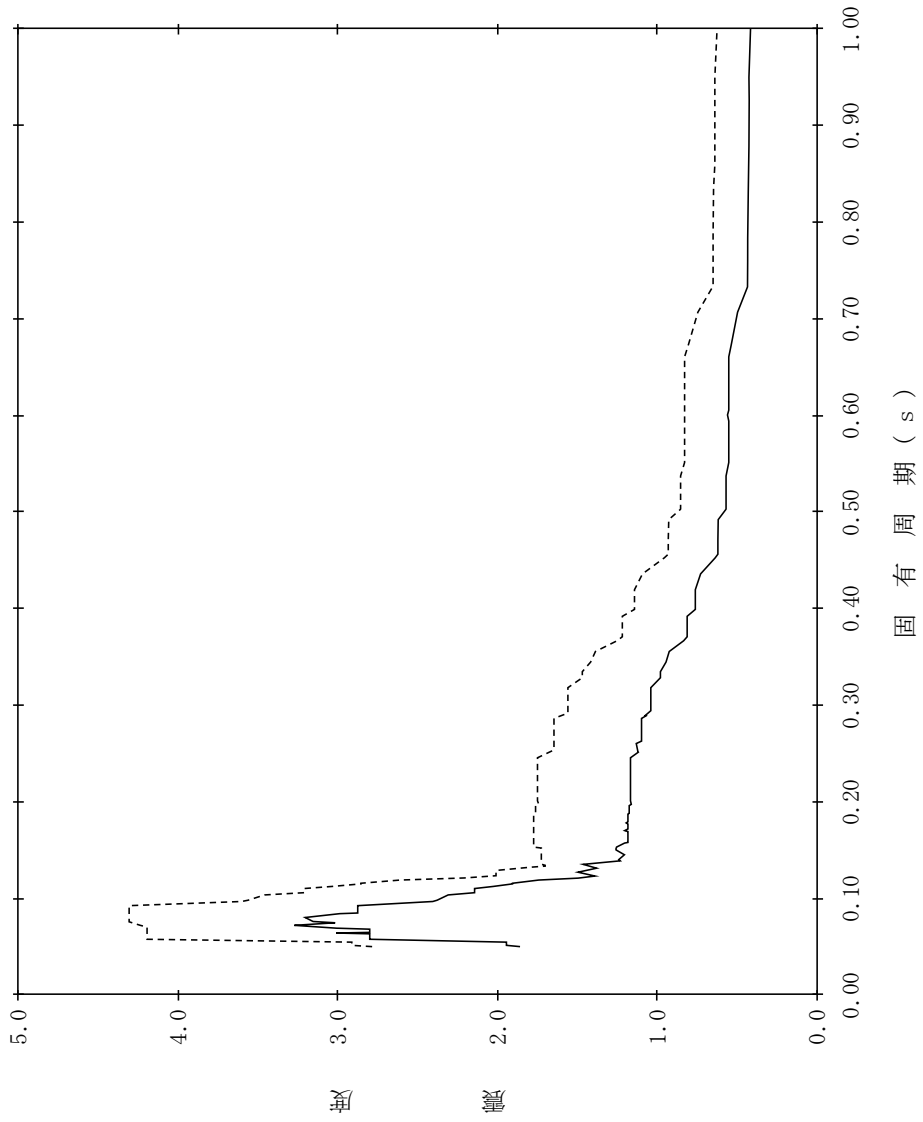
【NS2-RwB-SdV-RwB27】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL26.700m
減衰定数：1.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



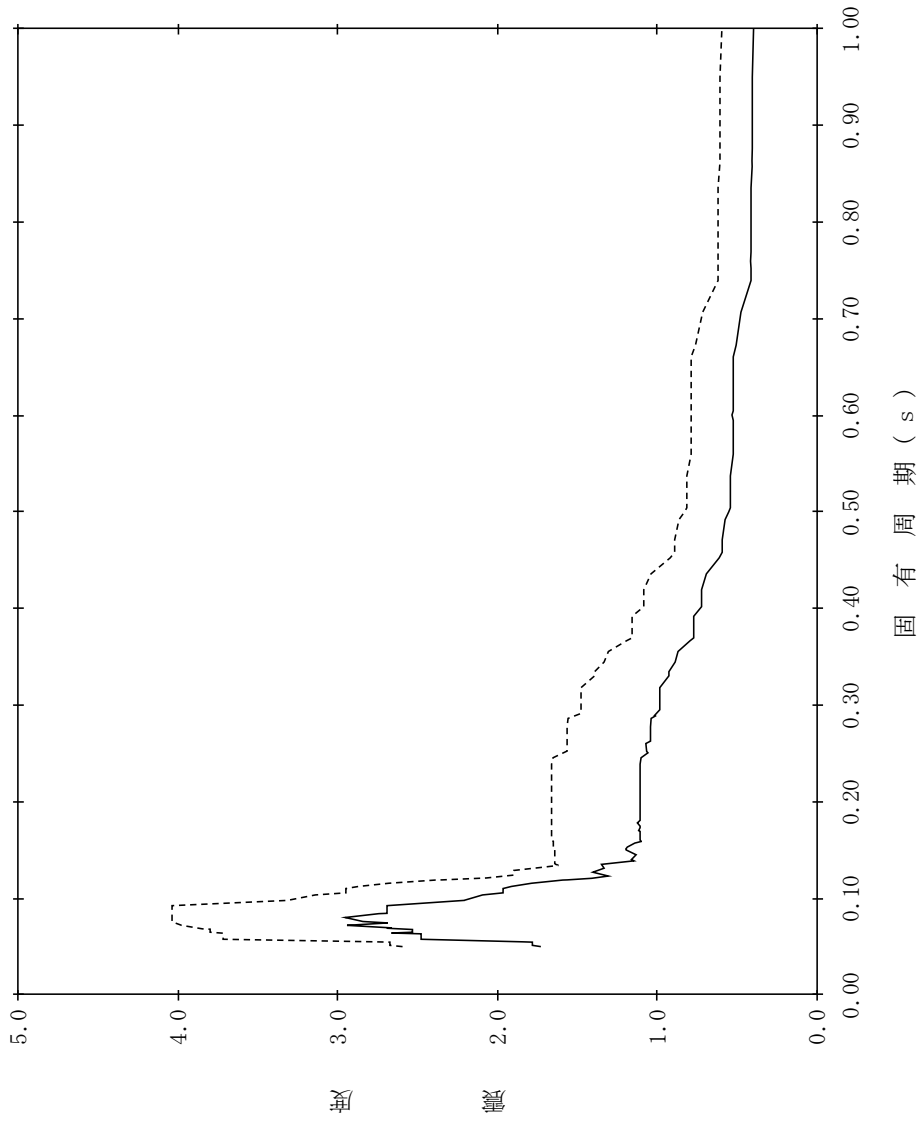
【NS2-RwB-SdV-RwB28】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL26.700m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



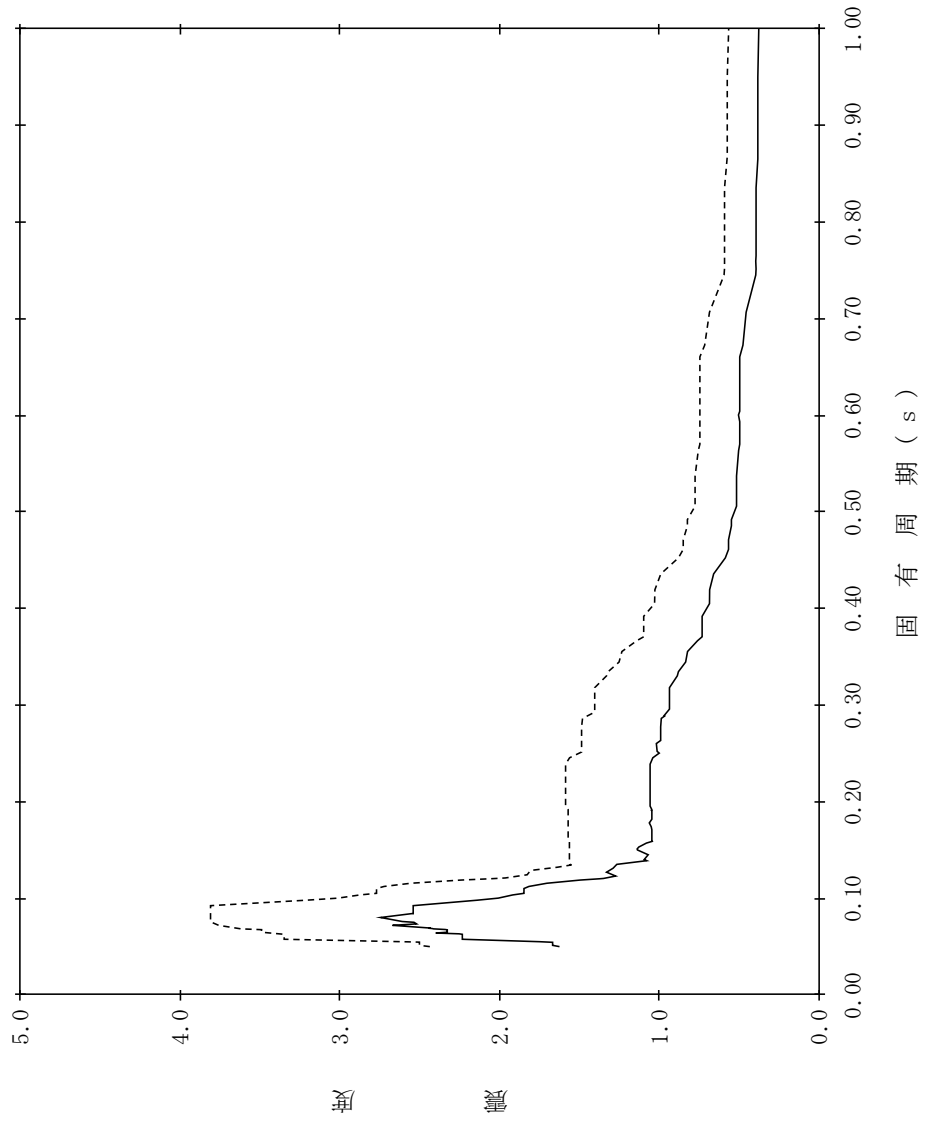
【NS2-RwB-SdV-RwB29】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL26.700m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



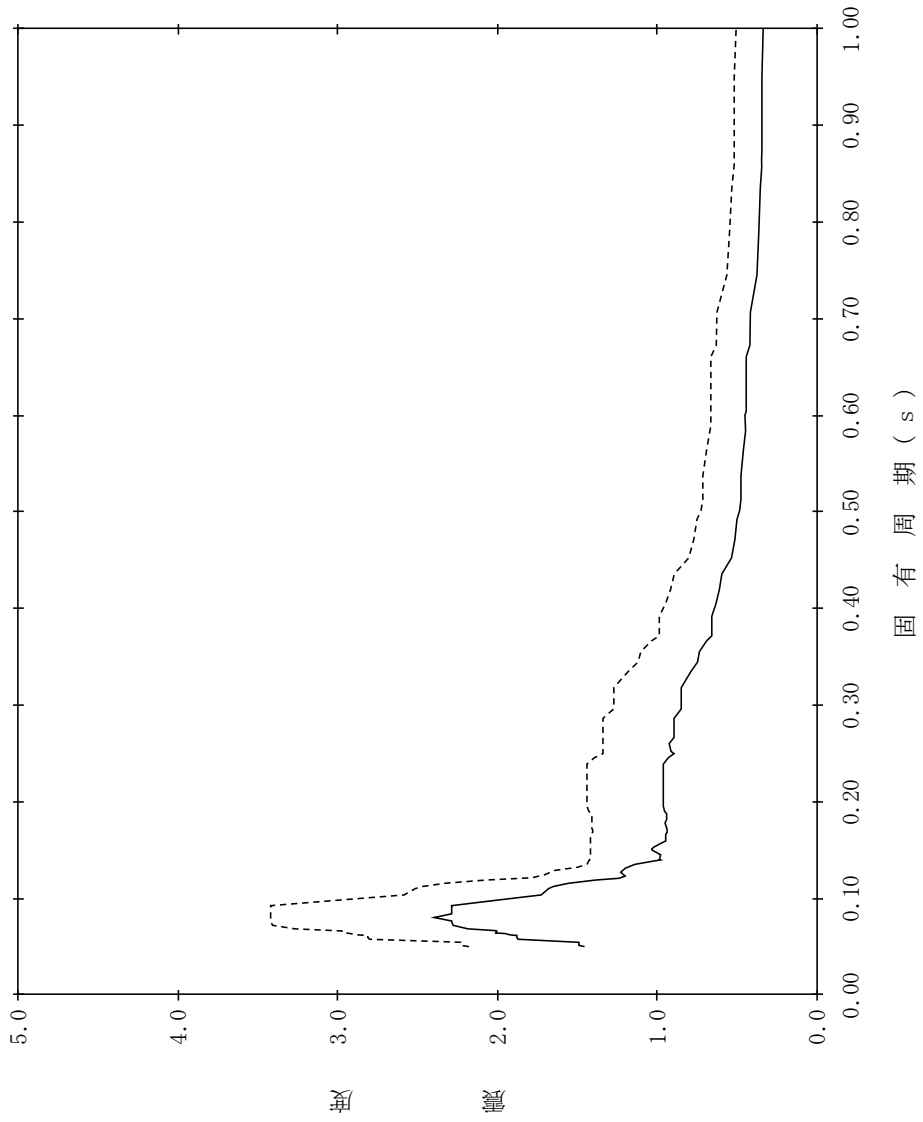
【NS2-RwB-SdV-RwB30】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



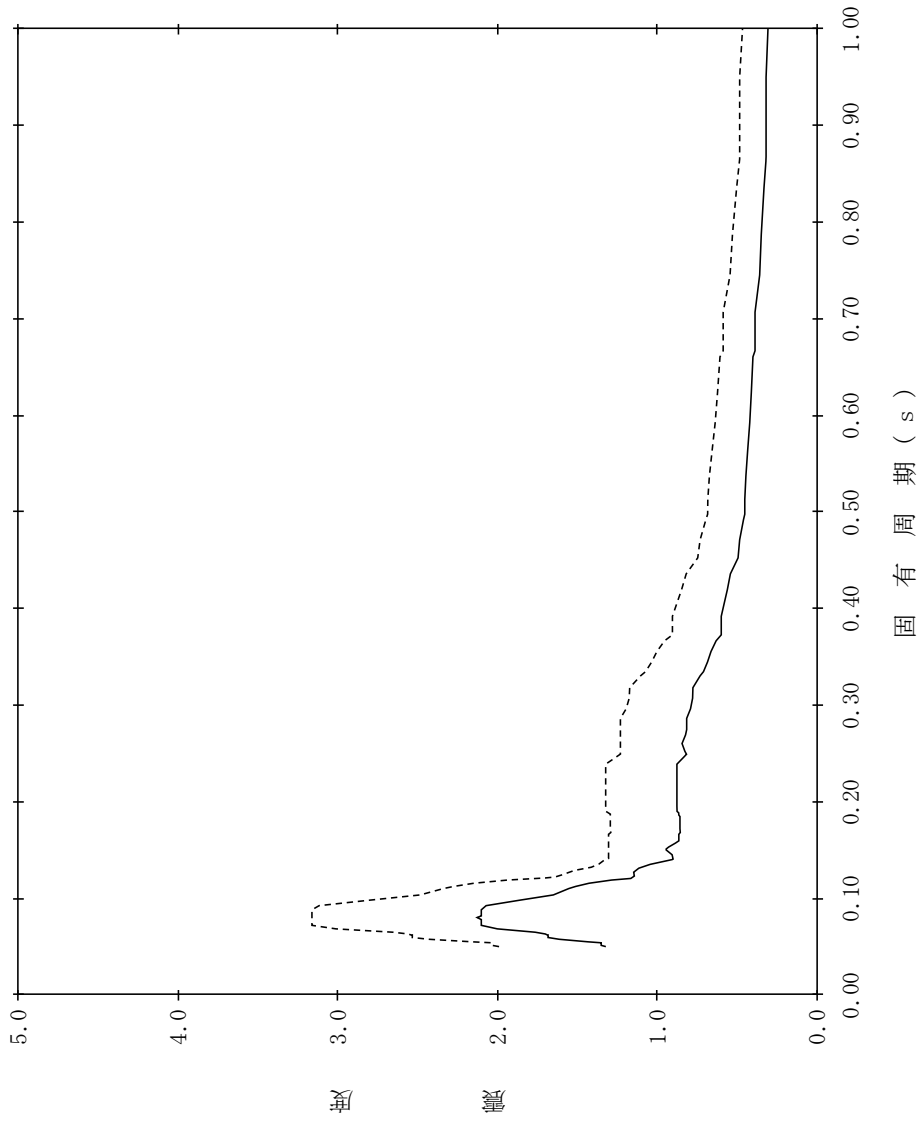
【NS2-RwB-SdV-RwB31】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL26.700m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



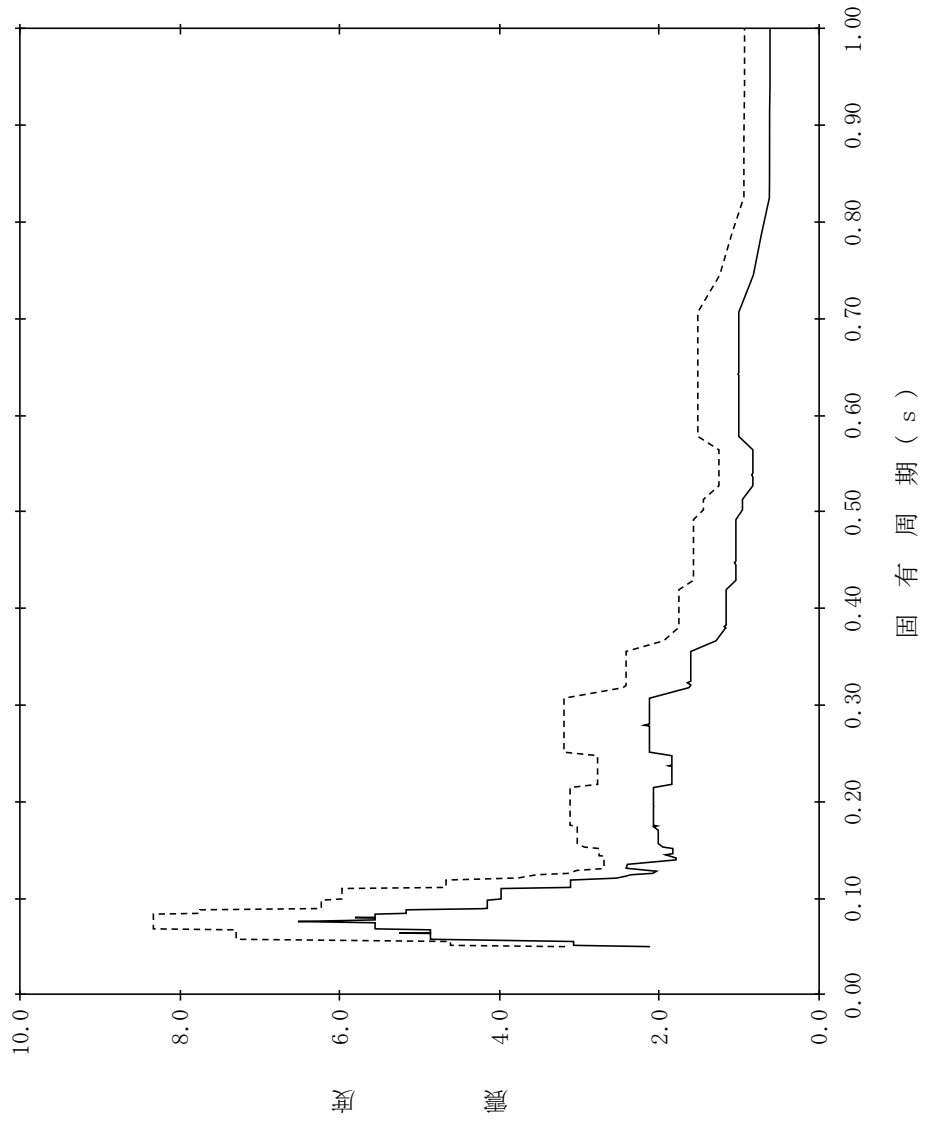
【NS2-RwB-SdV-RwB32】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL26.700m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



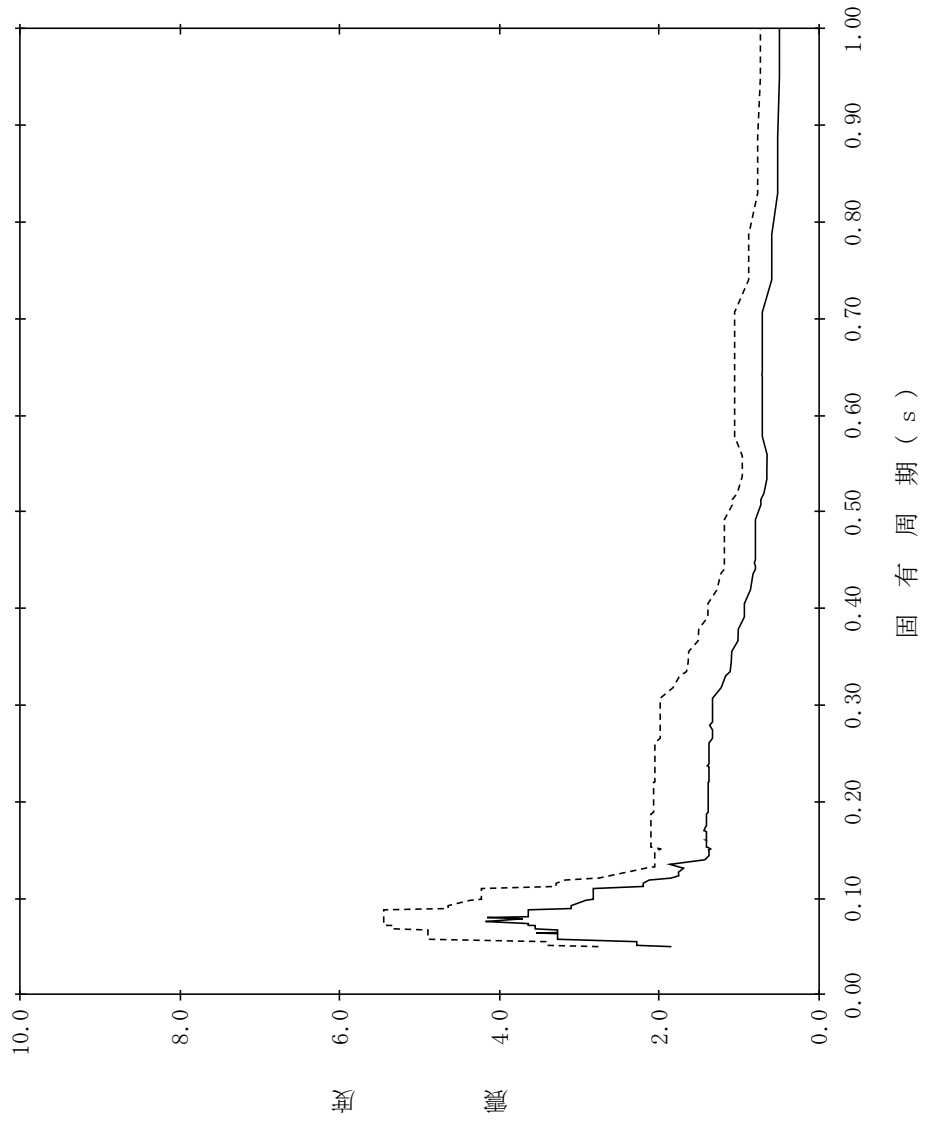
【NS2-RwB-SdV-RwB33】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



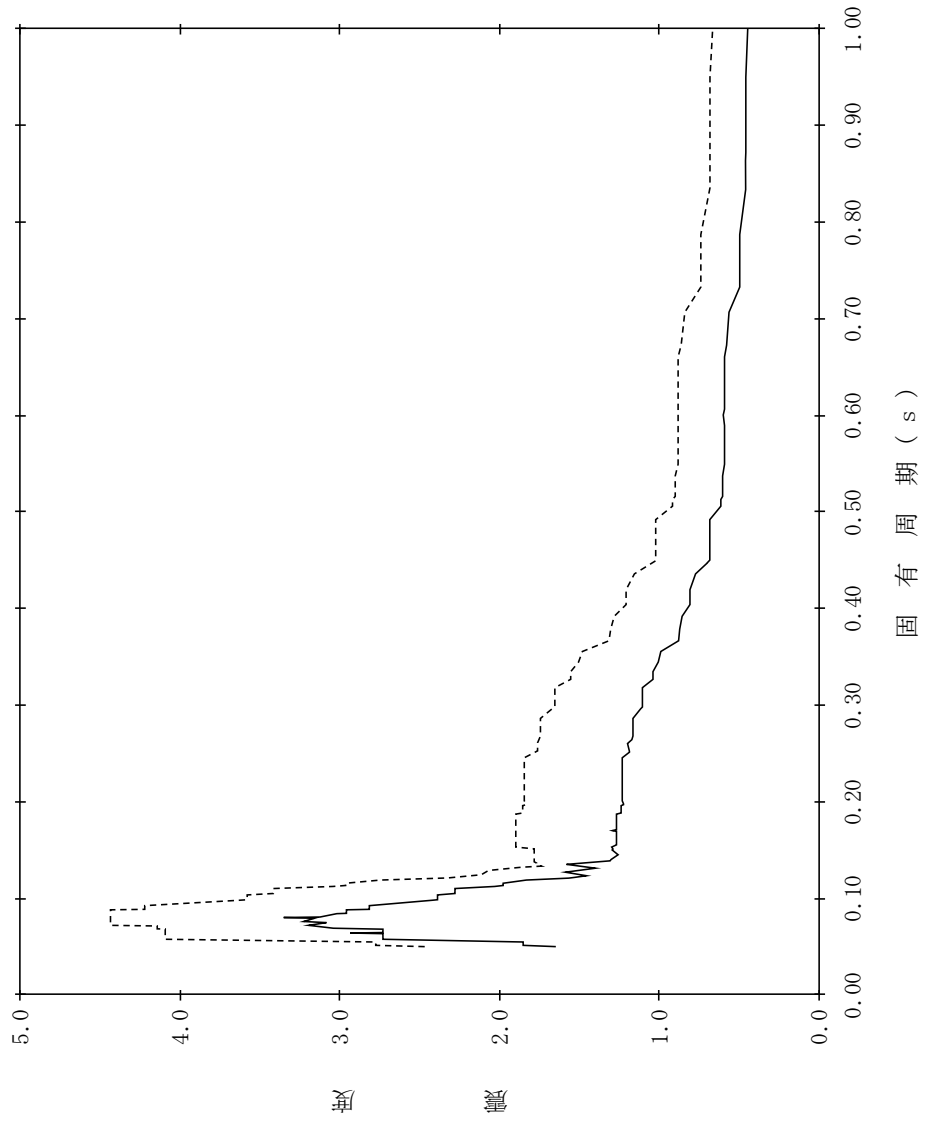
【NS2-RwB-SdV-RwB34】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



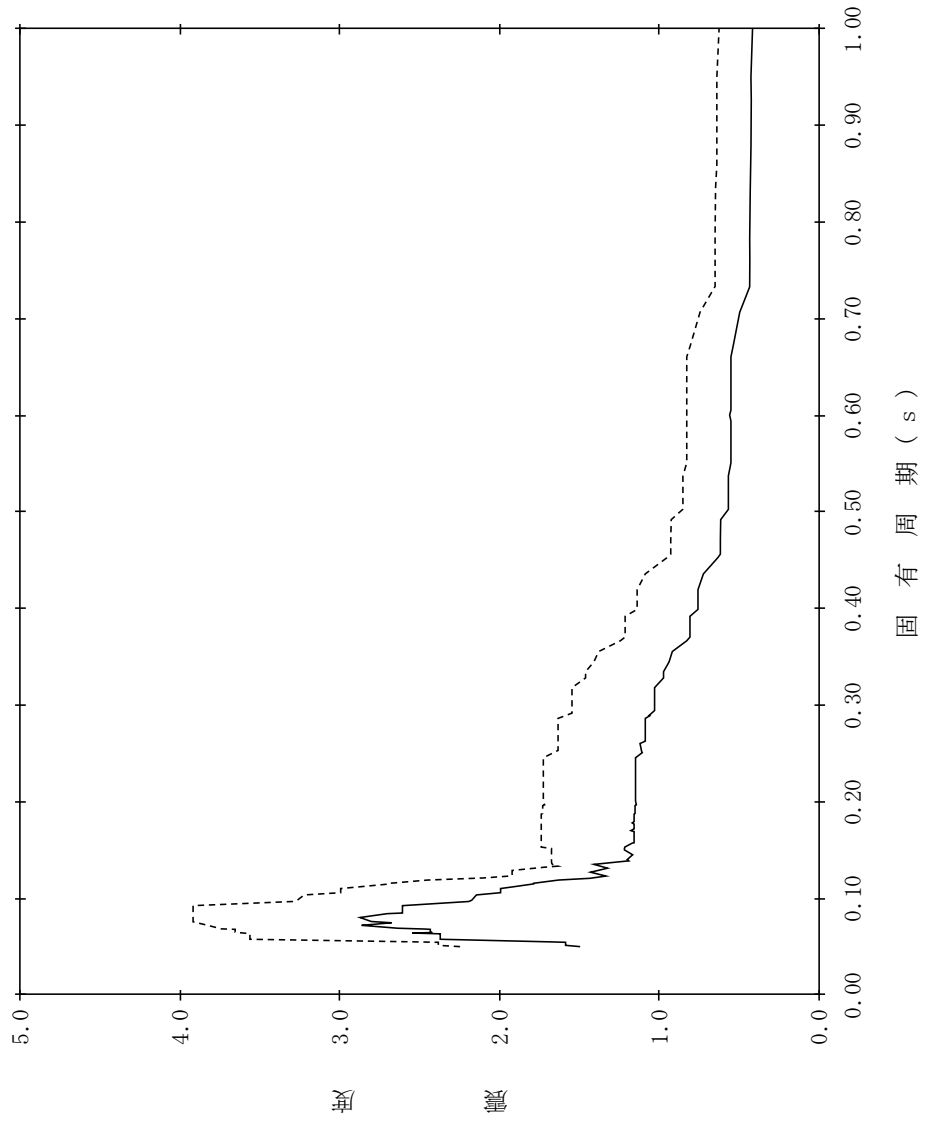
【NS2-RwB-SdV-RwB35】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL22.100m
減衰定数：1.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



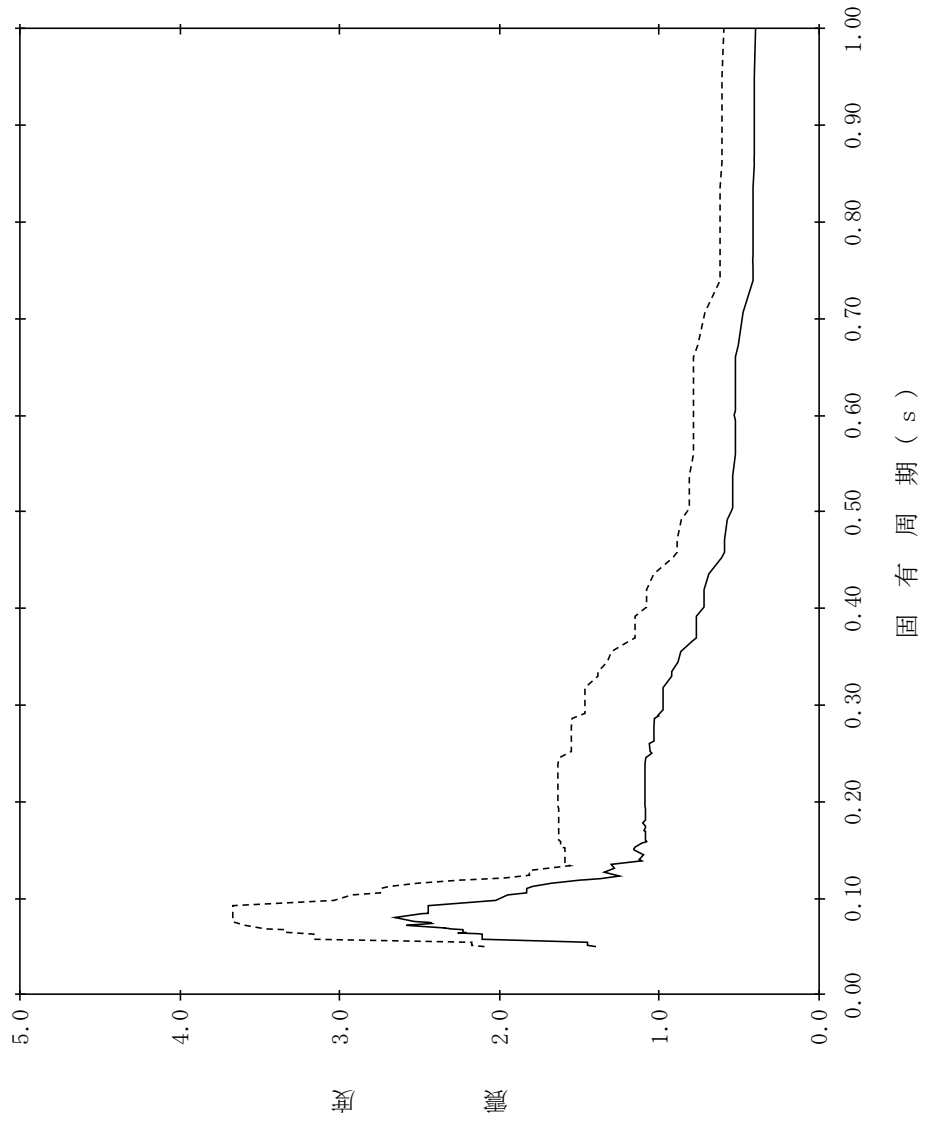
【NS2-RwB-SdV-RwB36】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL22.100m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



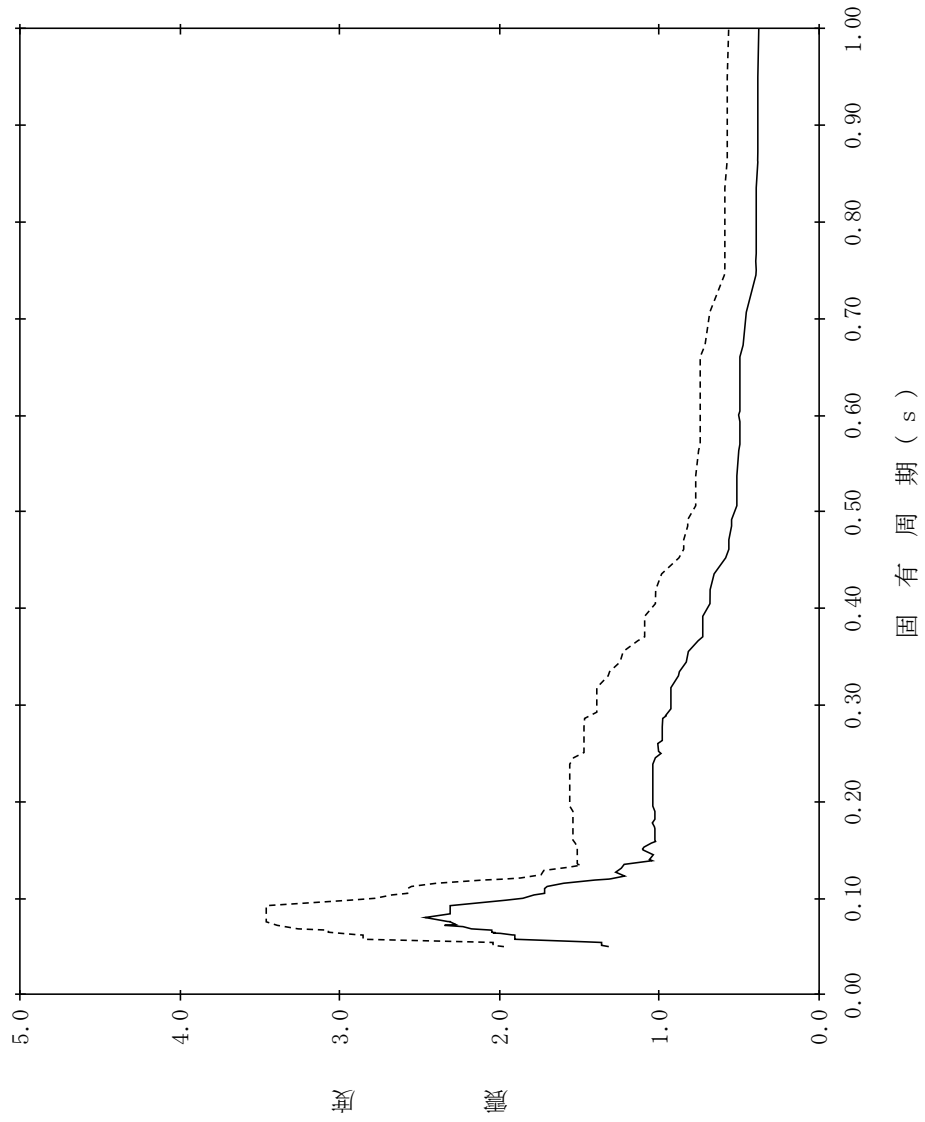
【NS2-RwB-SdV-RwB37】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



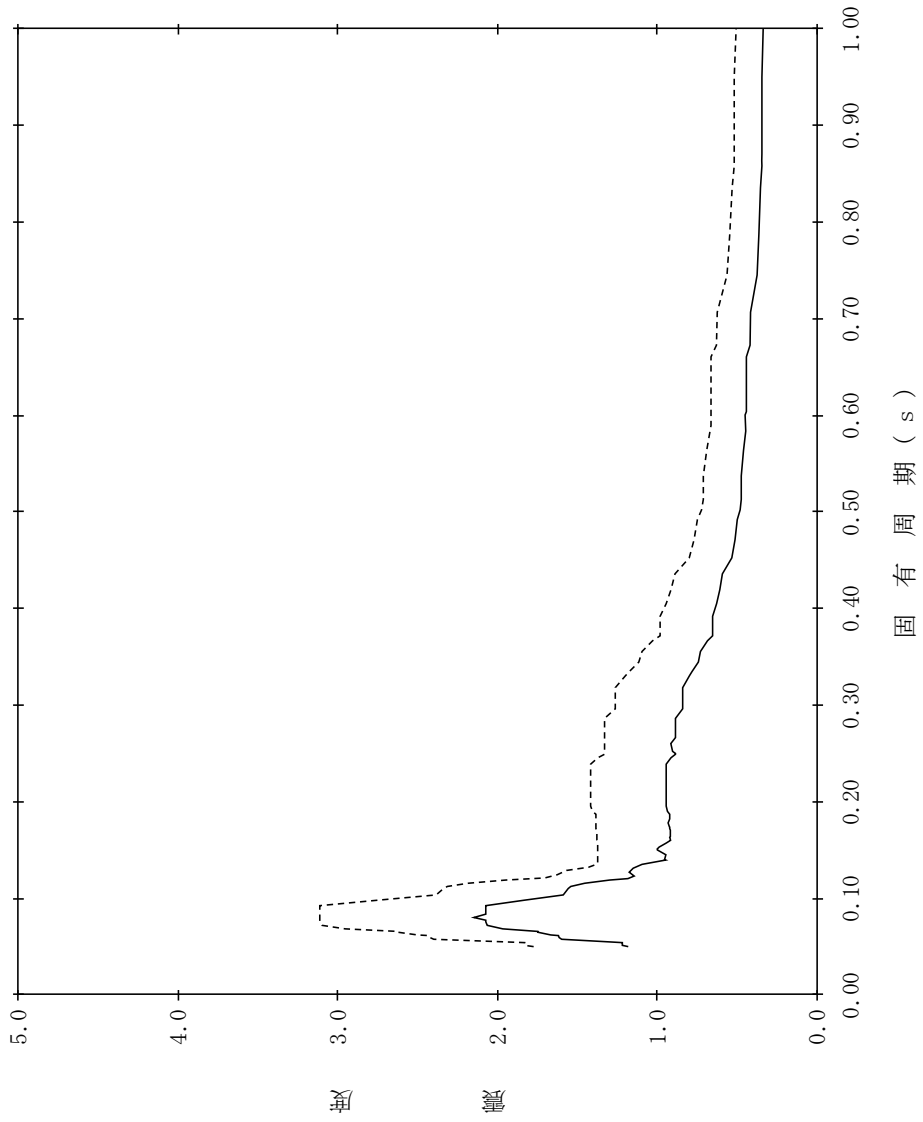
【NS2-RwB-SdV-RwB38】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL22.100m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



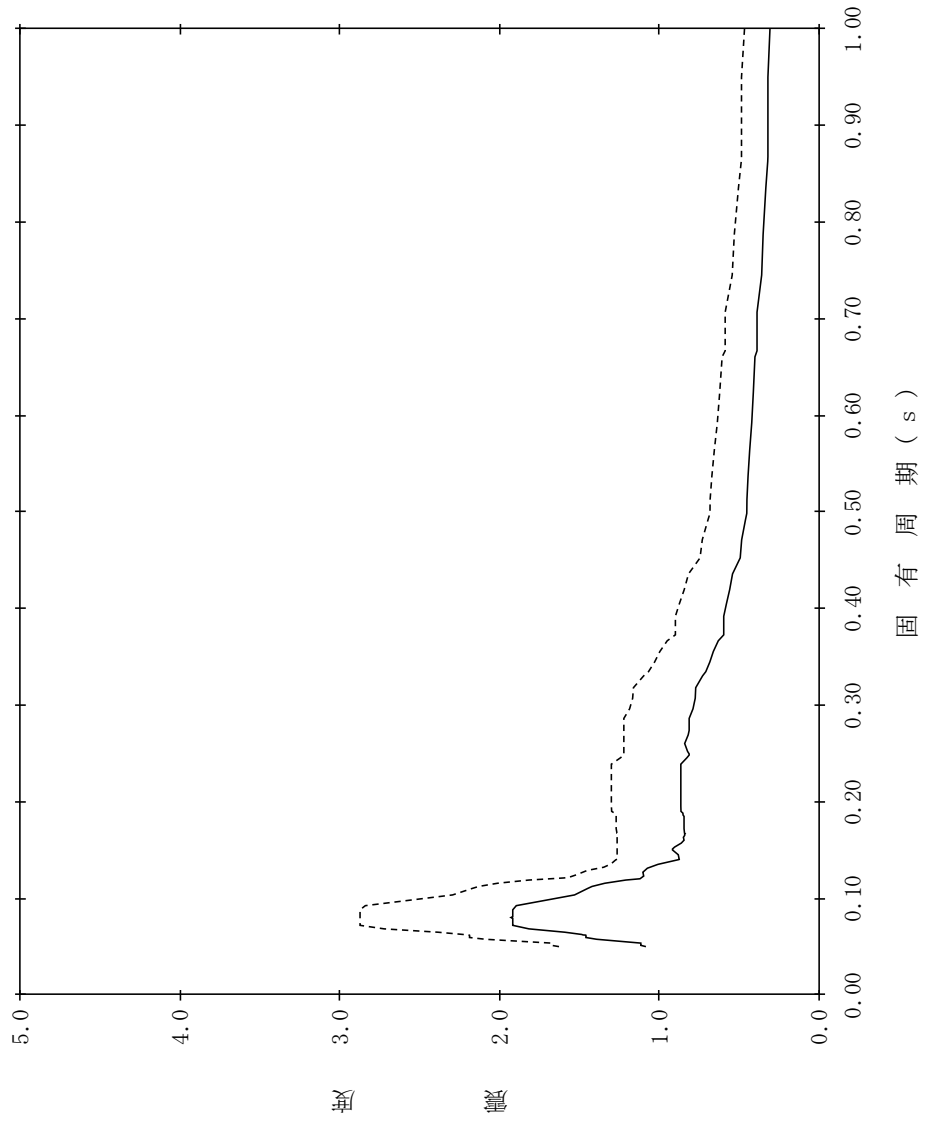
【NS2-RwB-SdV-RwB39】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL22.100m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



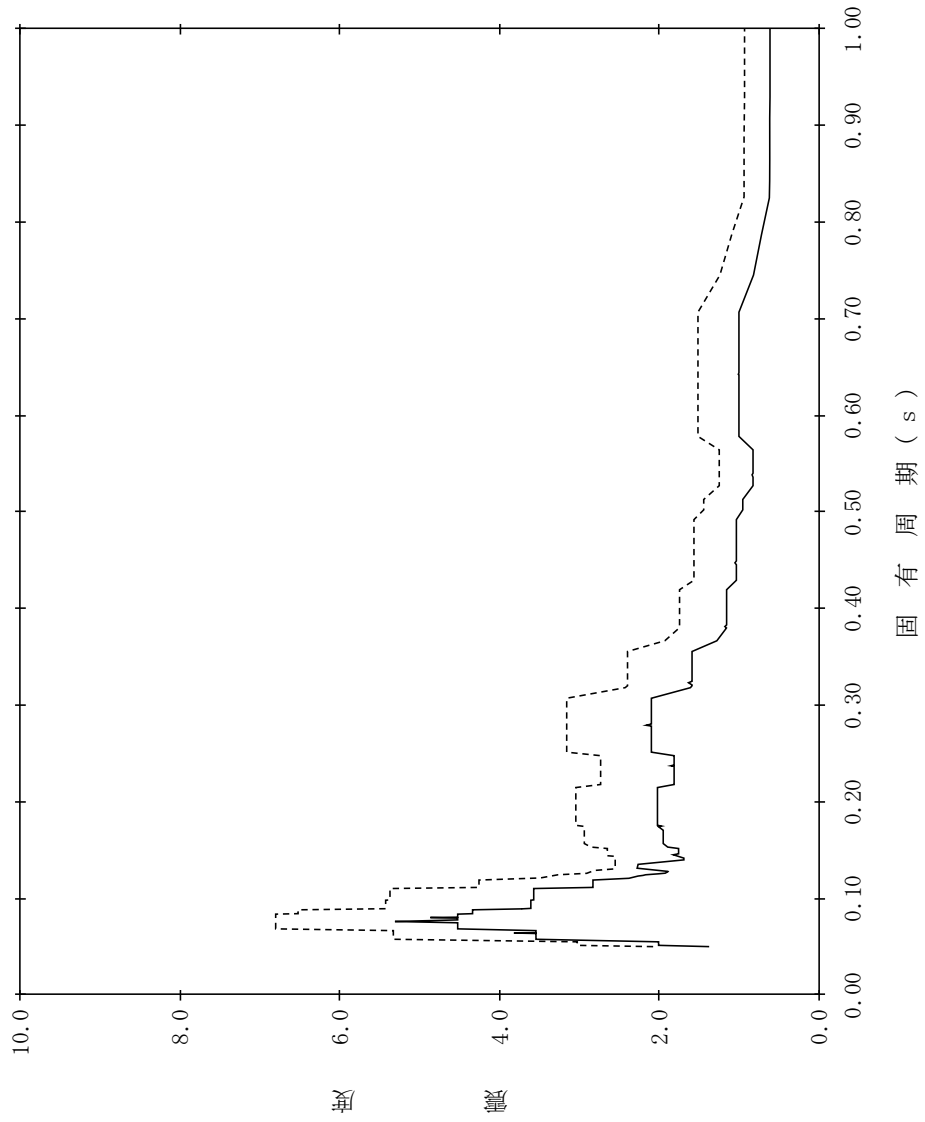
【NS2-RwB-SdV-RwB40】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



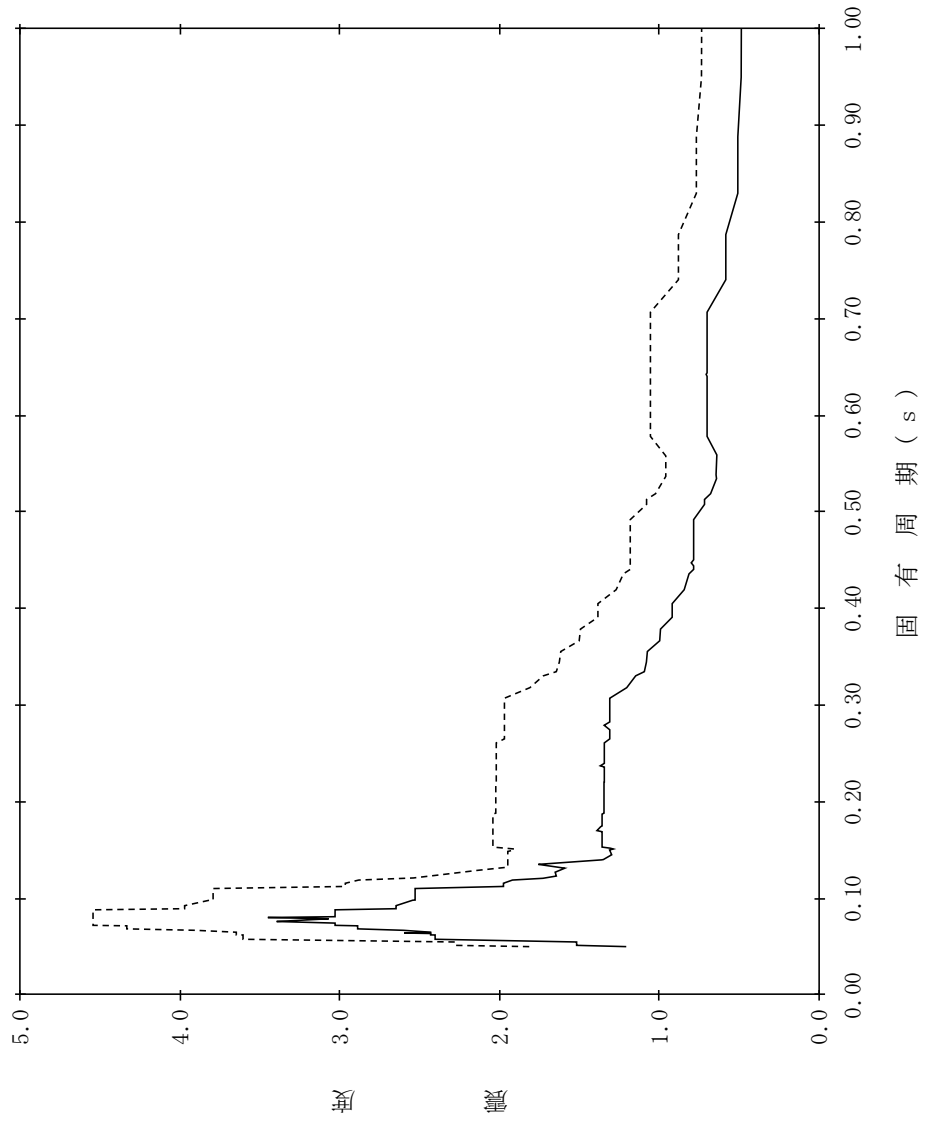
【NS2-RwB-SdV-RwB41】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



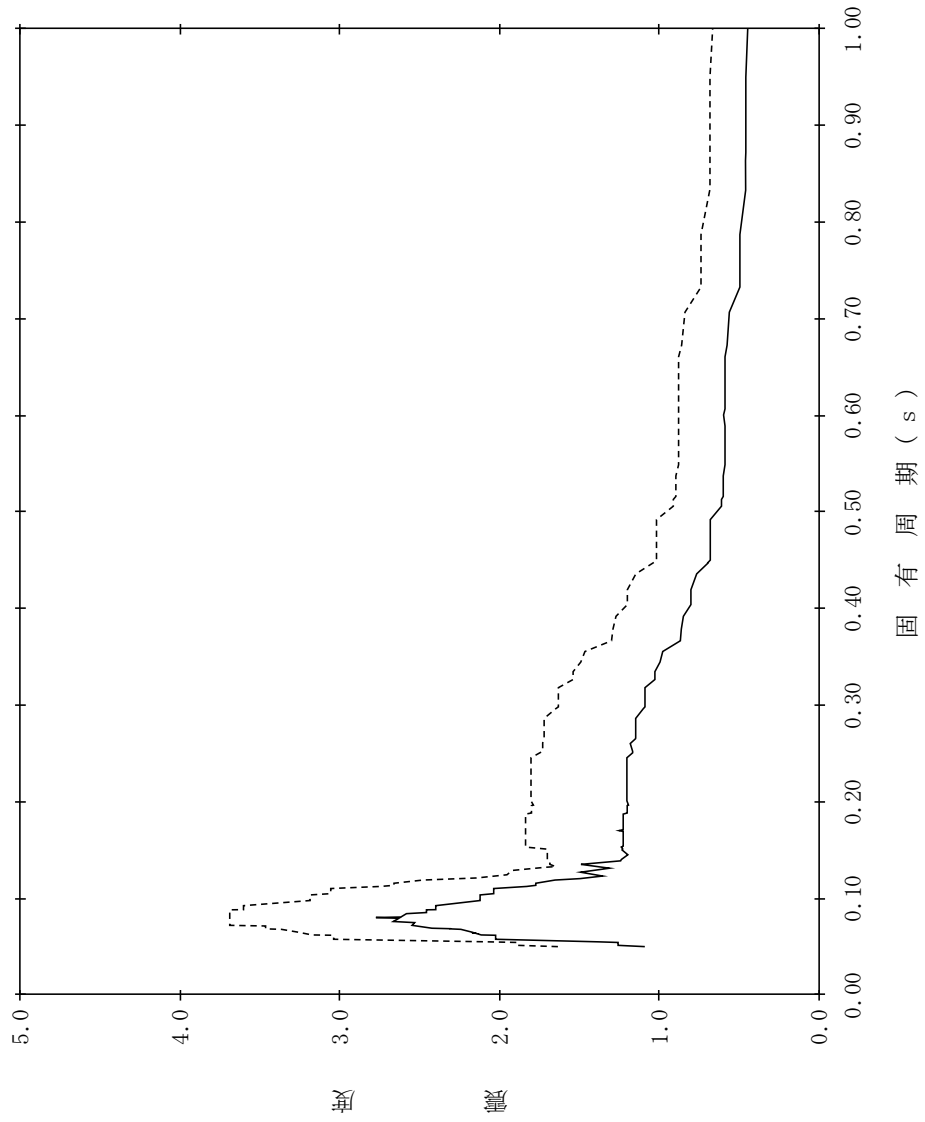
【NS2-RwB-SdV-RwB42】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



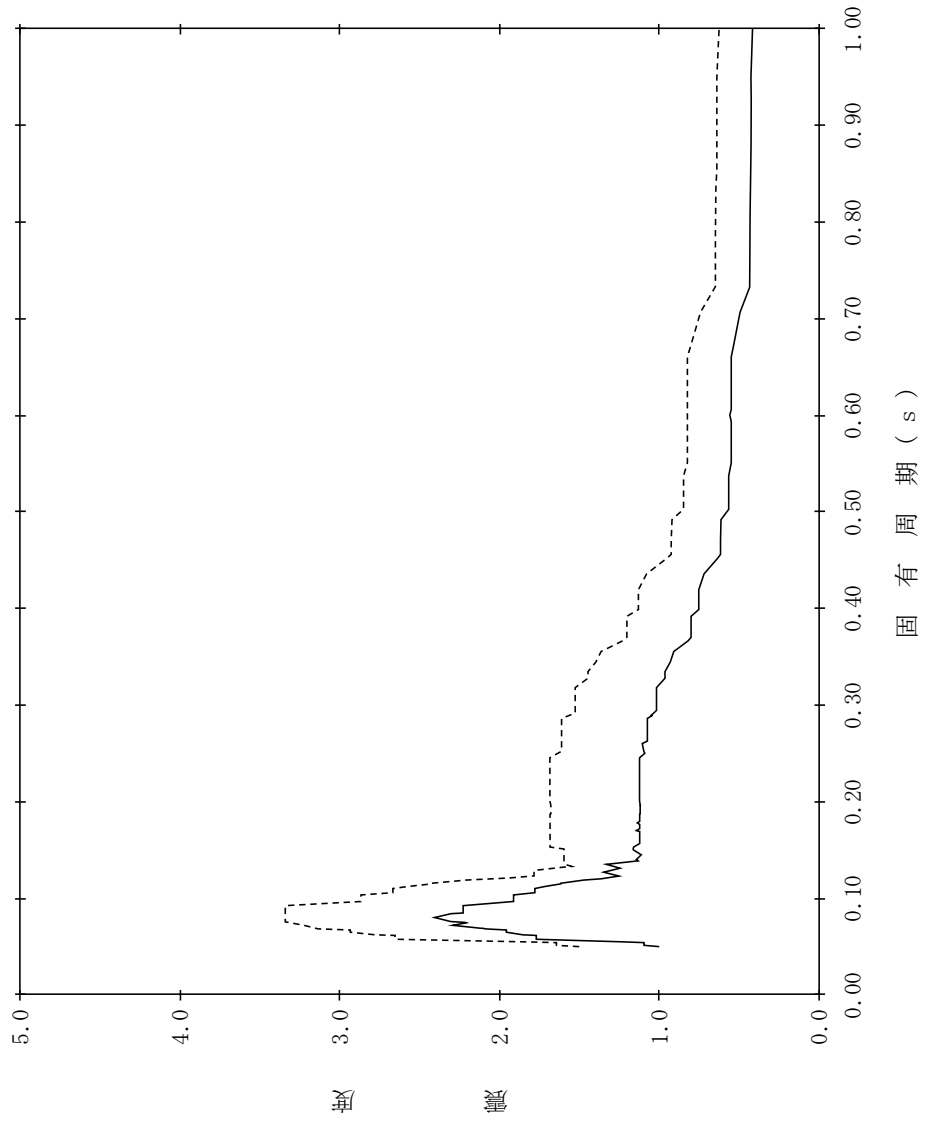
【NS2-RwB-SdV-RwB43】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



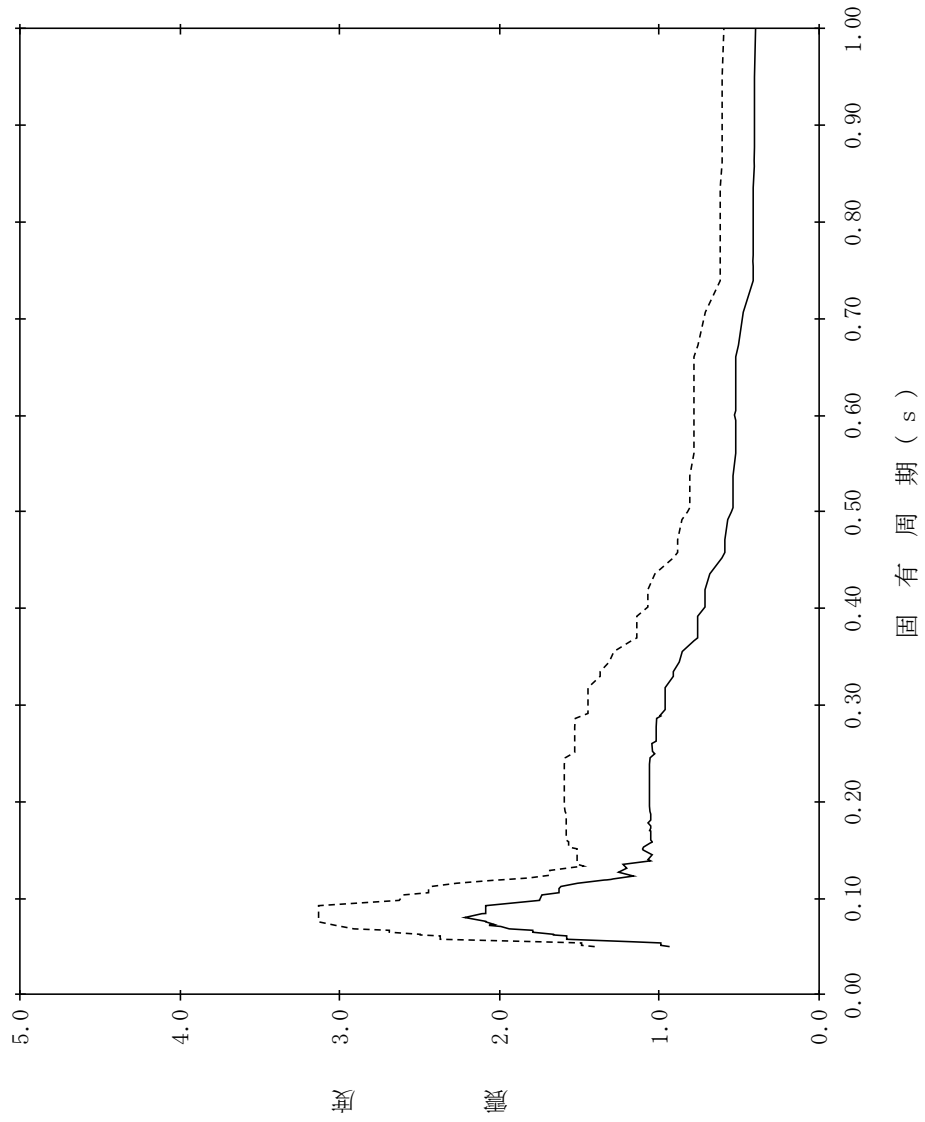
【NS2-RwB-SdV-RwB44】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL16.900m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



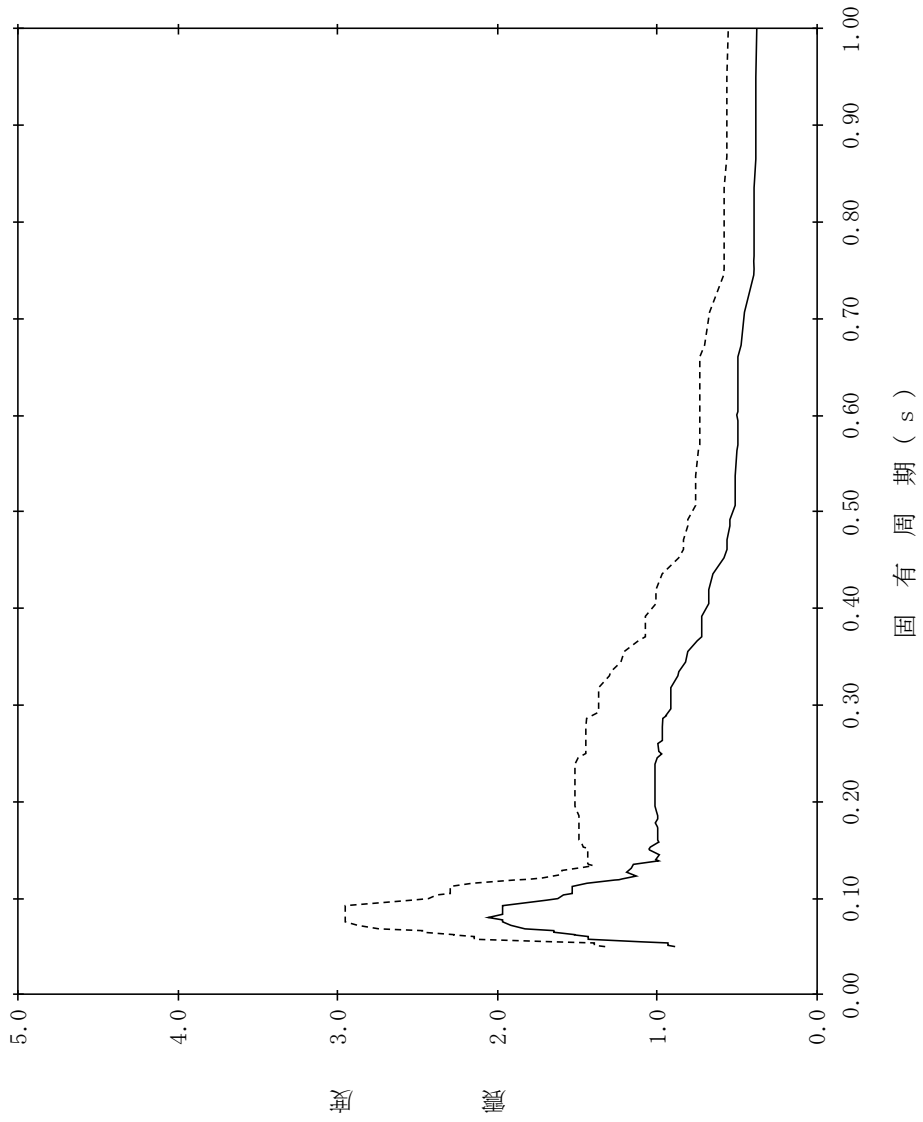
【NS2-RwB-SdV-RwB45】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



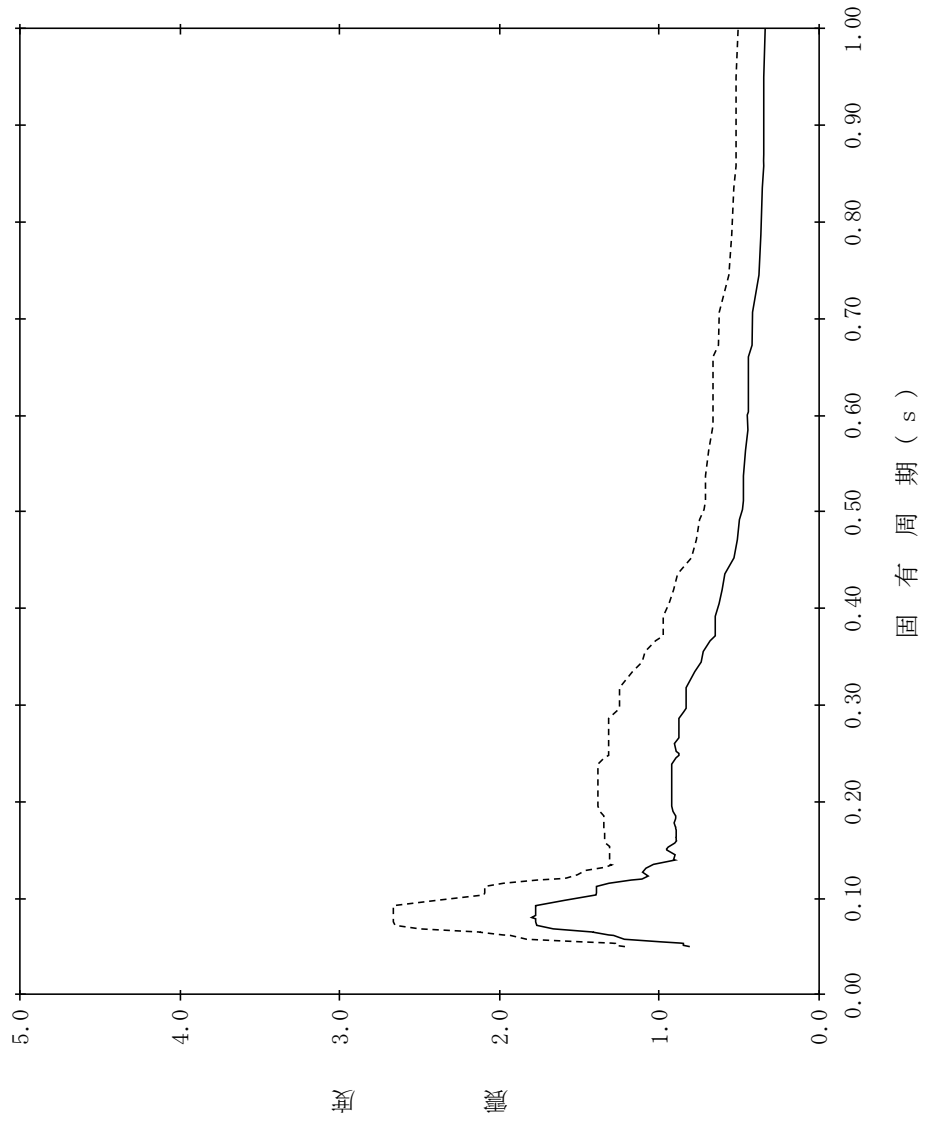
【NS2-RwB-SdV-RwB46】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



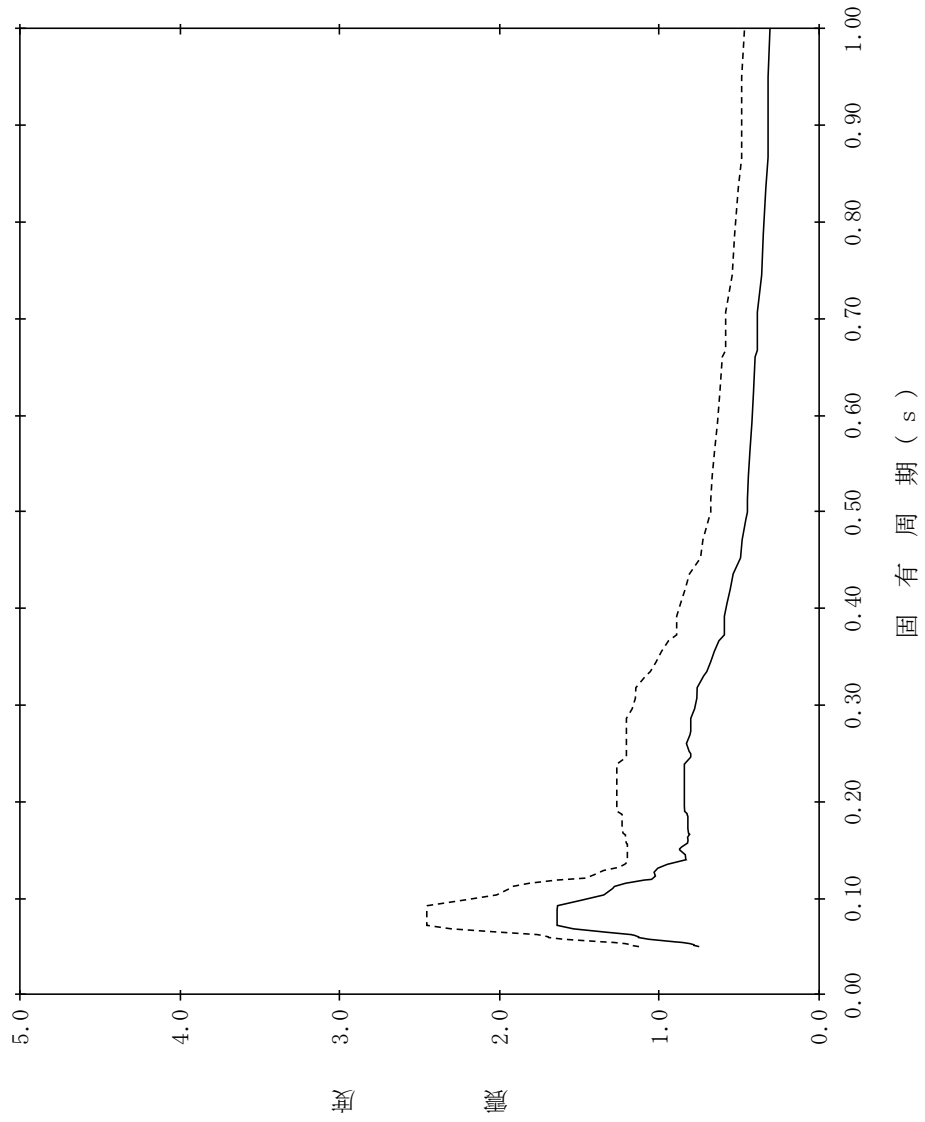
【NS2-RwB-SdV-RwB47】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



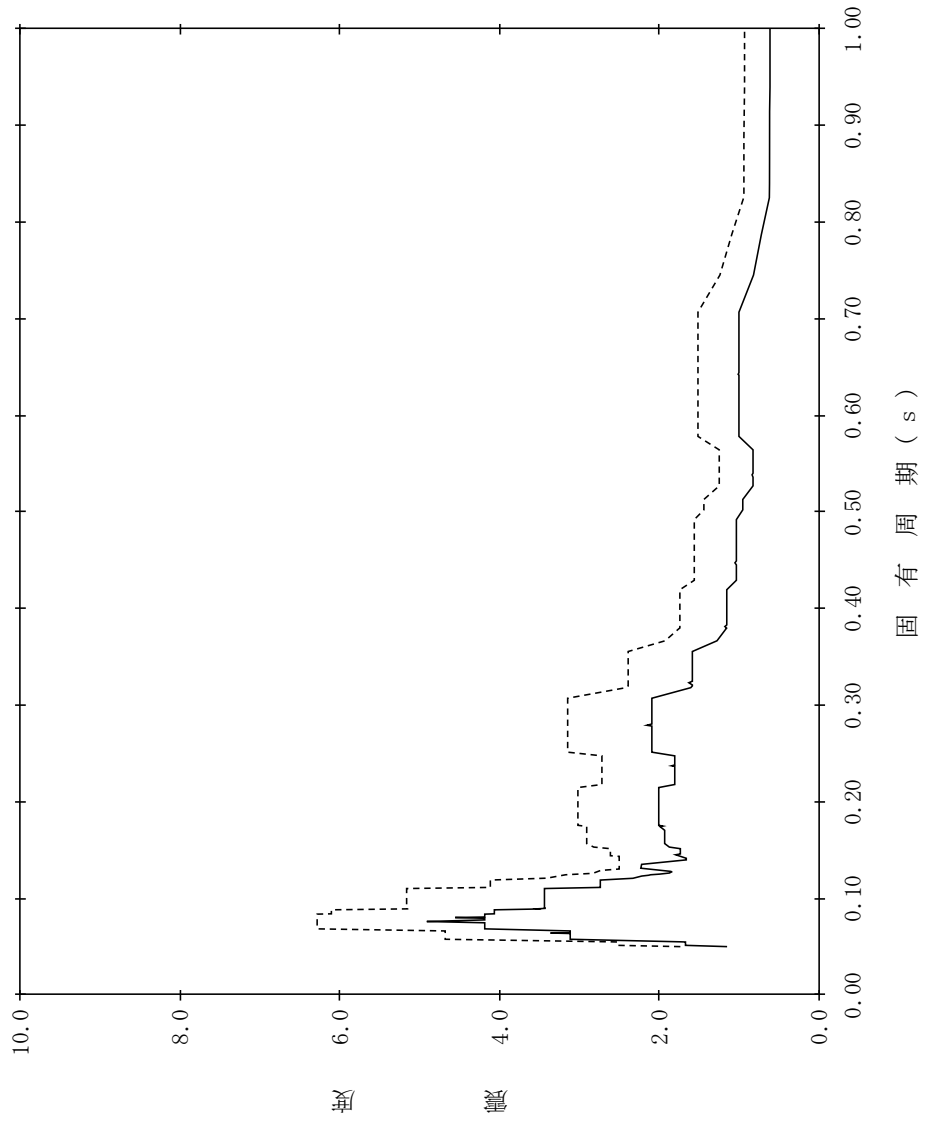
【NS2-RwB-SdV-RwB48】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL16.900m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



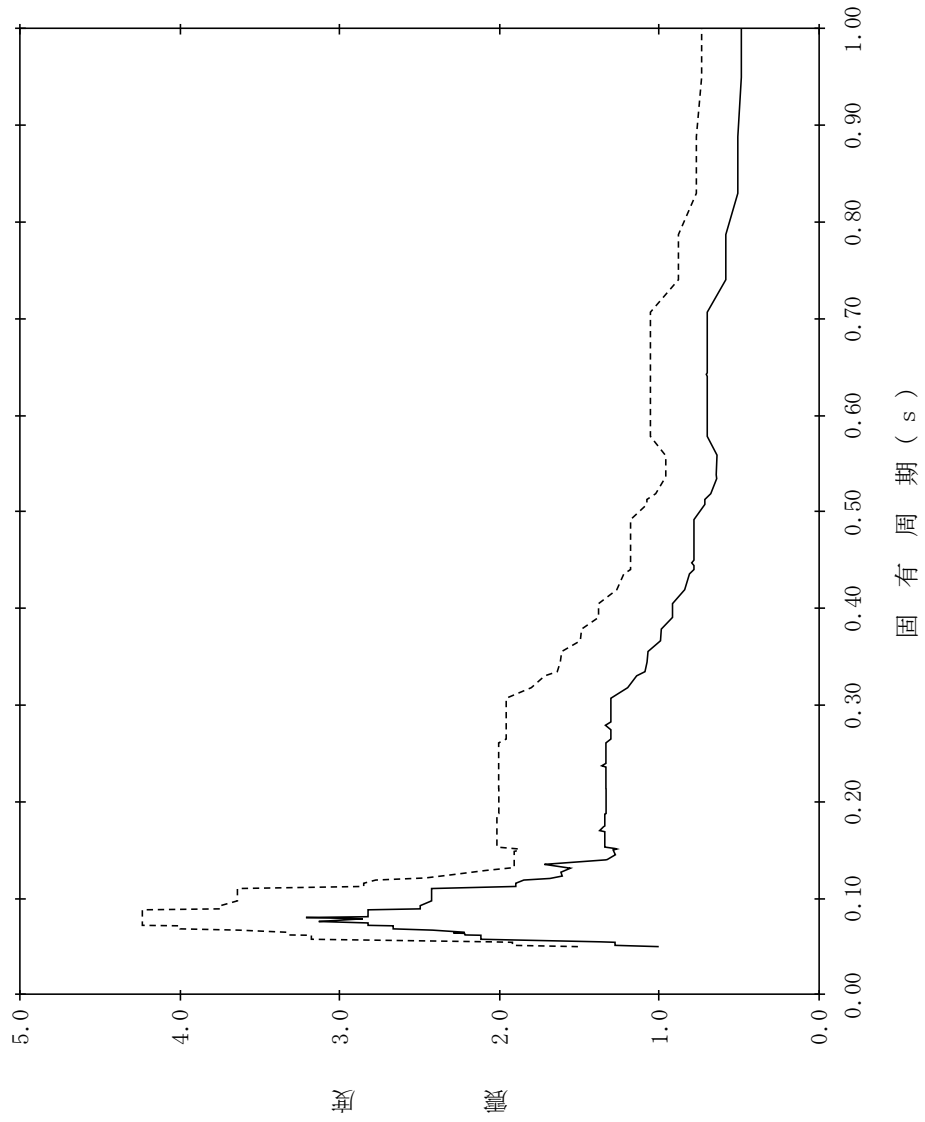
【NS2-RwB-SdV-RwB49】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RwB-SdV-RwB50】

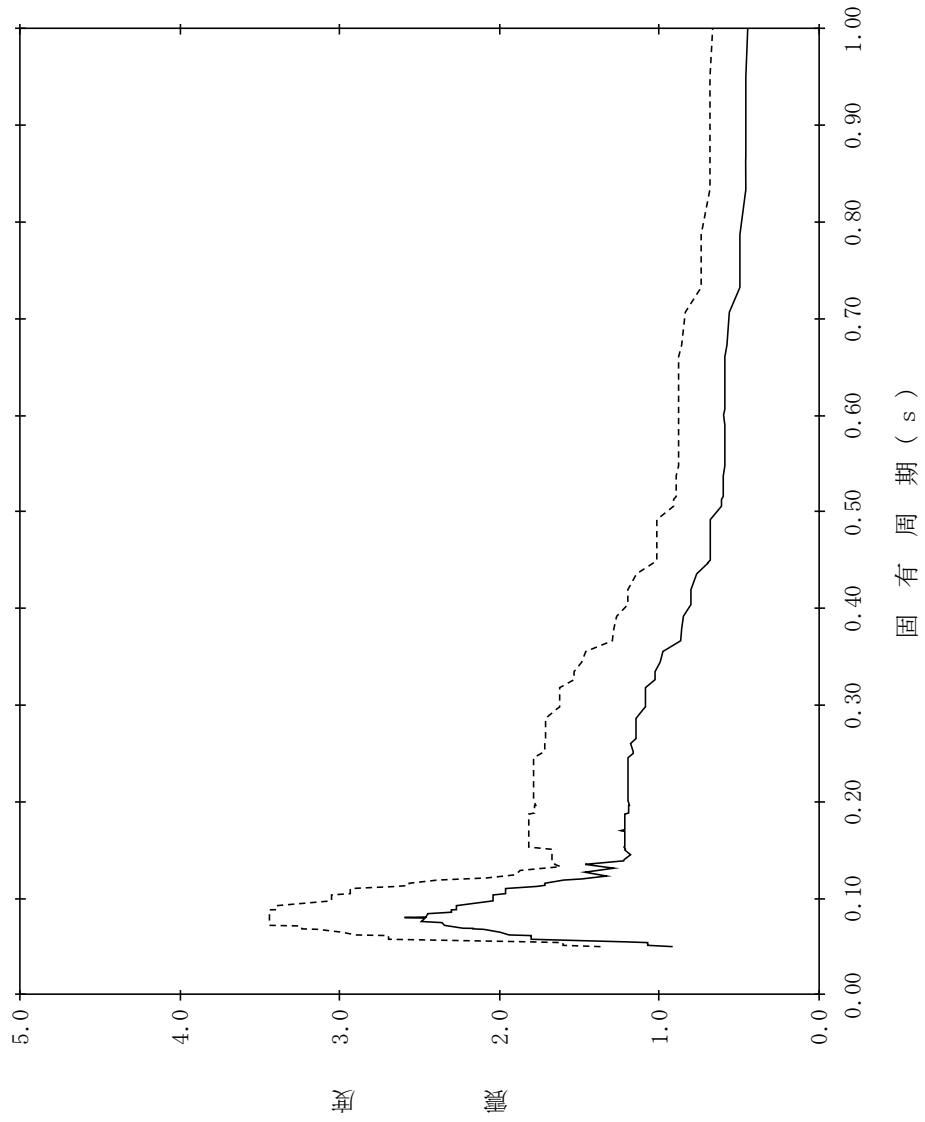
構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RwB-SdV-RwB51】

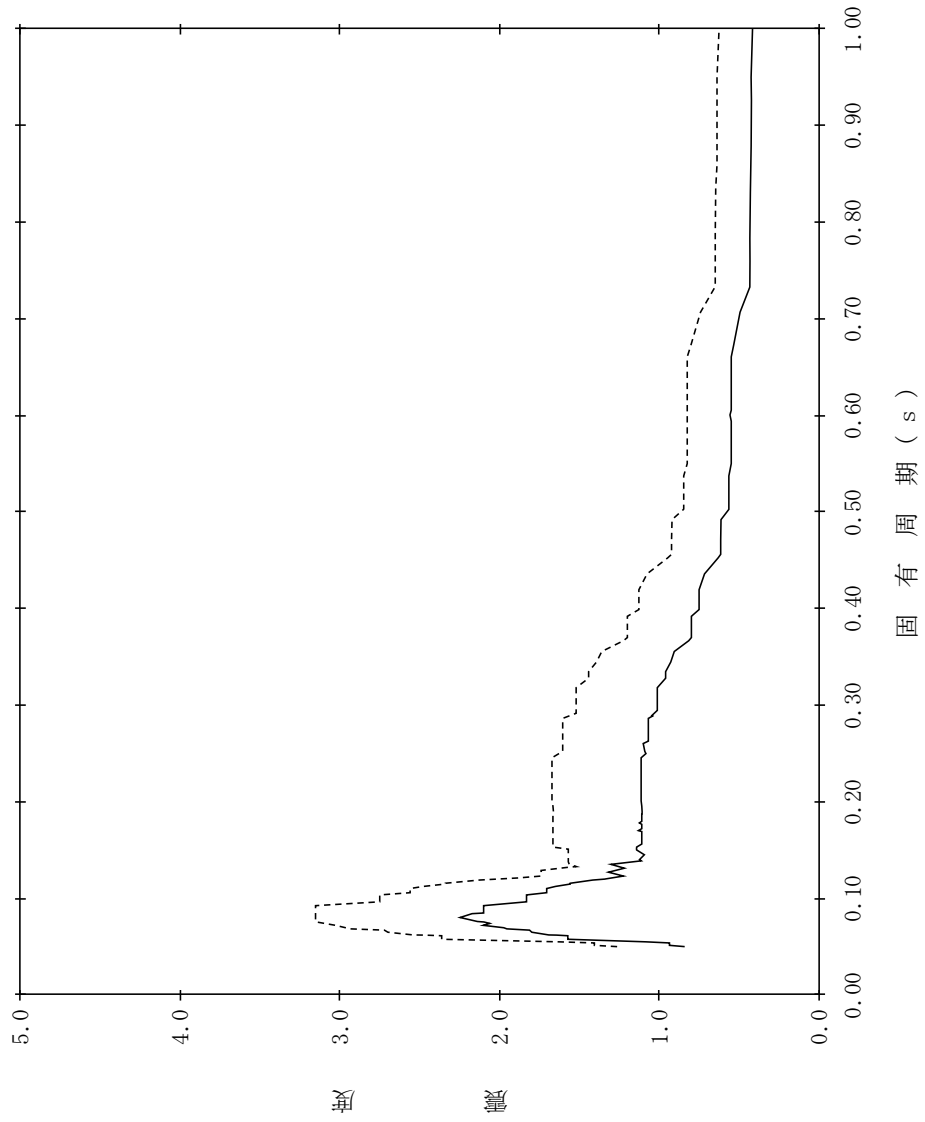
構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL15.300m
減衰定数：1.5%

—— 設計用床応答スペクトルⅠ (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトルⅡ (鉛直方向)



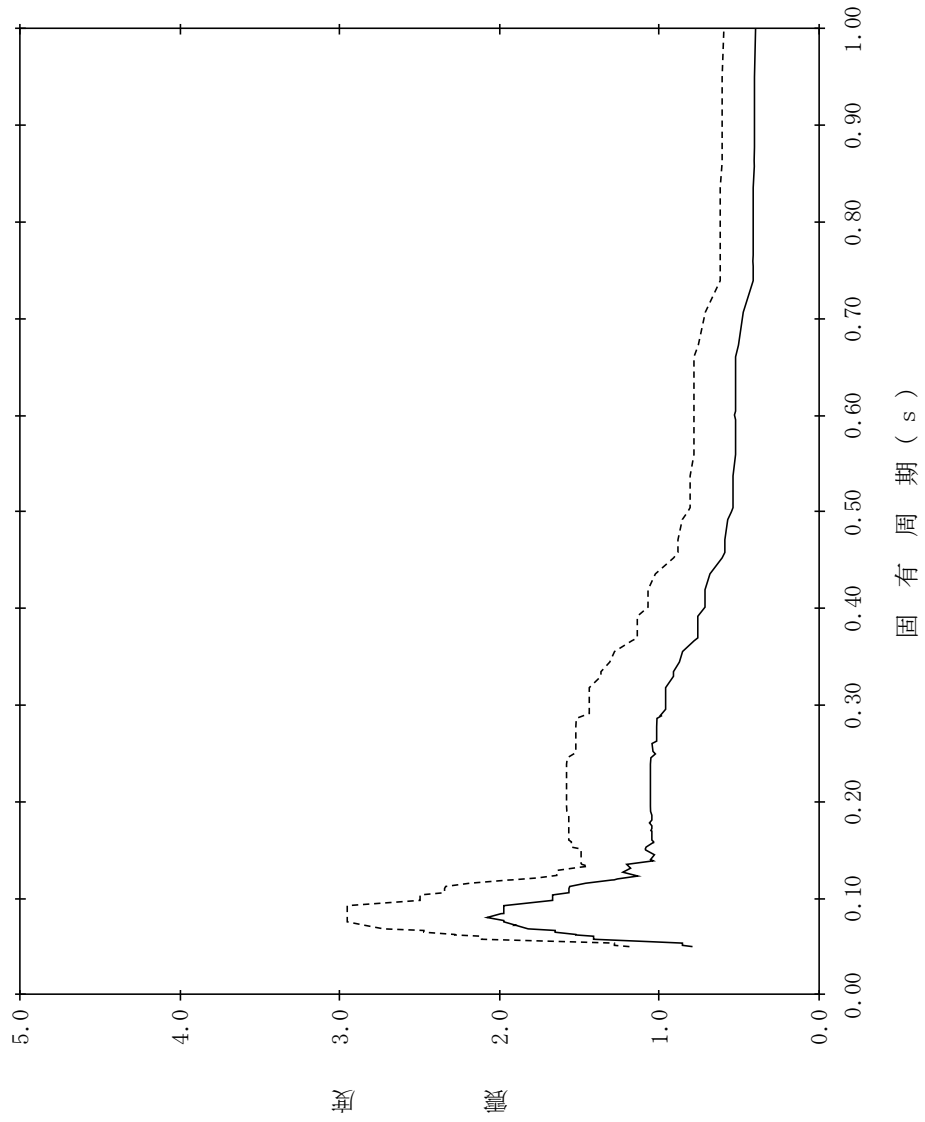
【NS2-RwB-SdV-RwB52】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



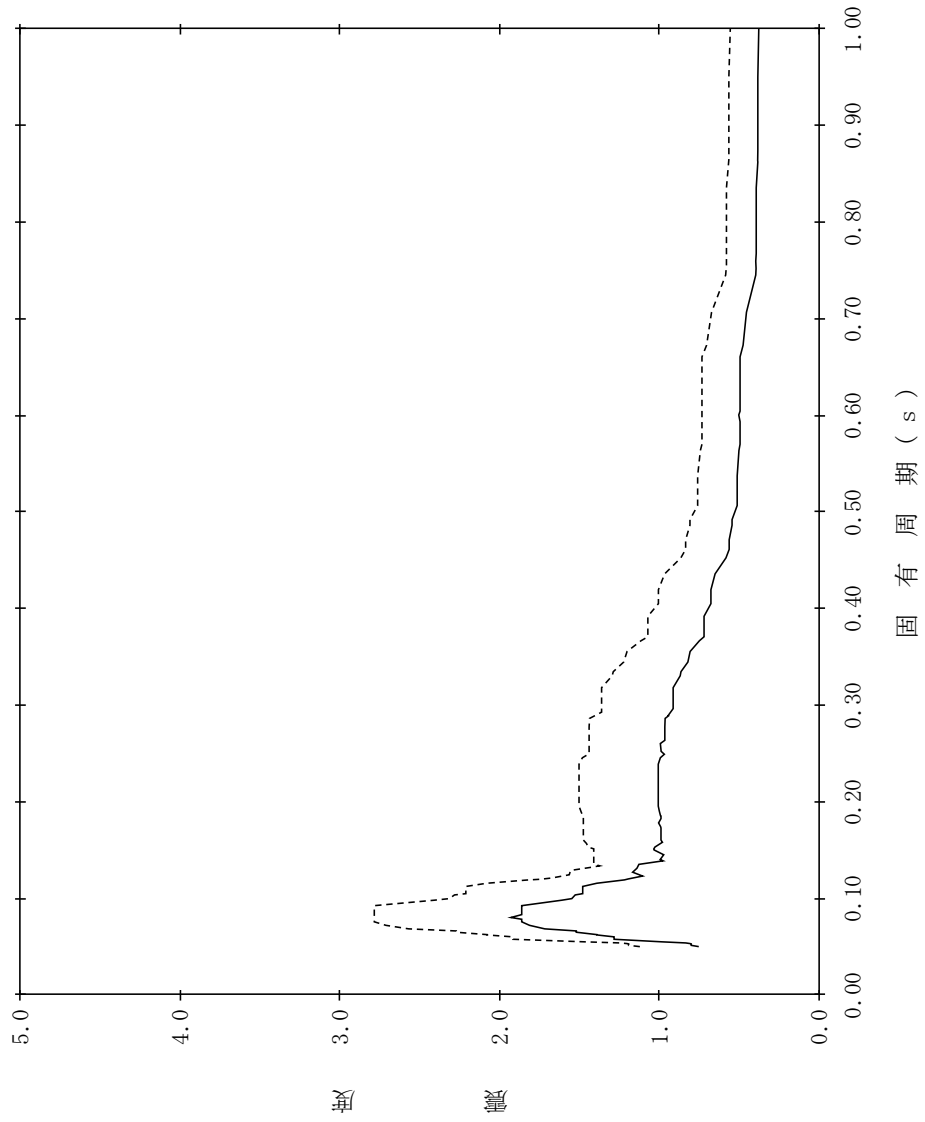
【NS2-RwB-SdV-RwB53】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



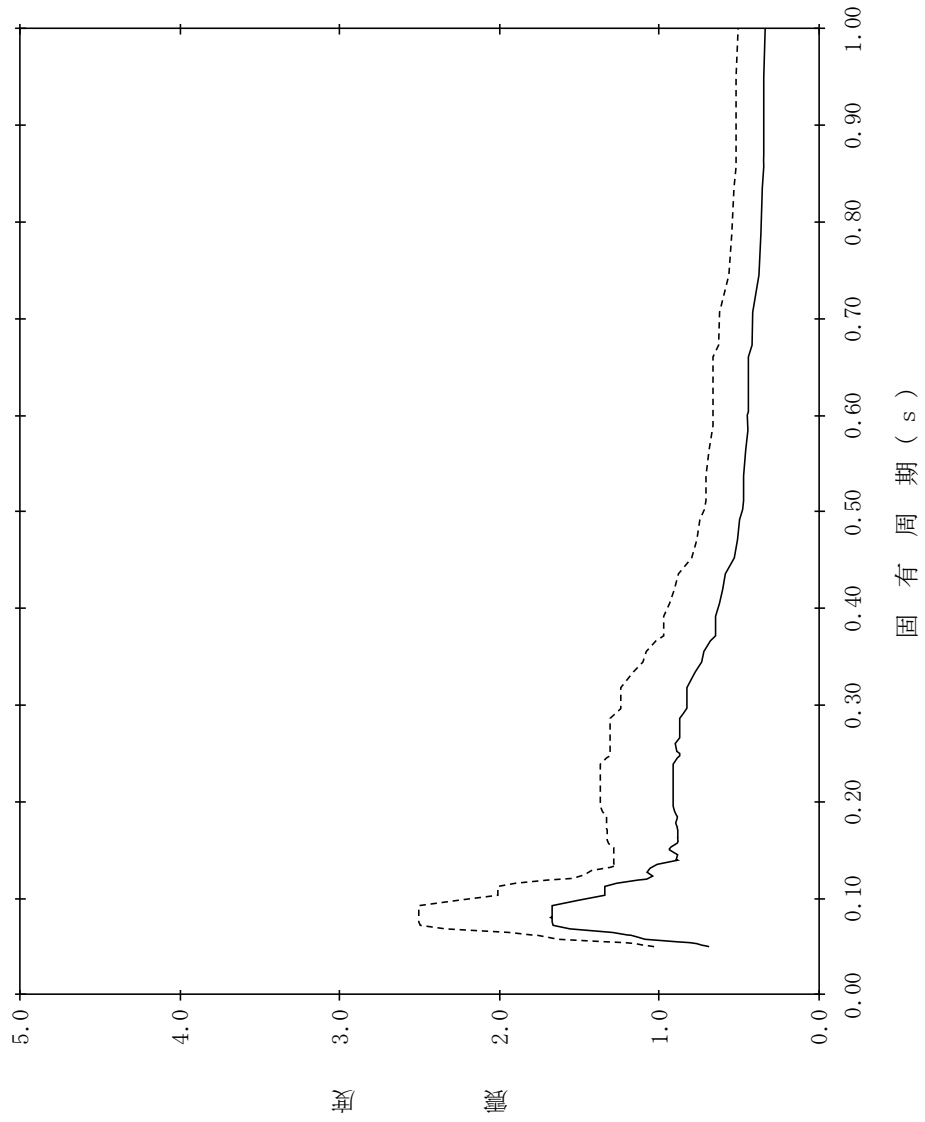
【NS2-RwB-SdV-RwB54】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



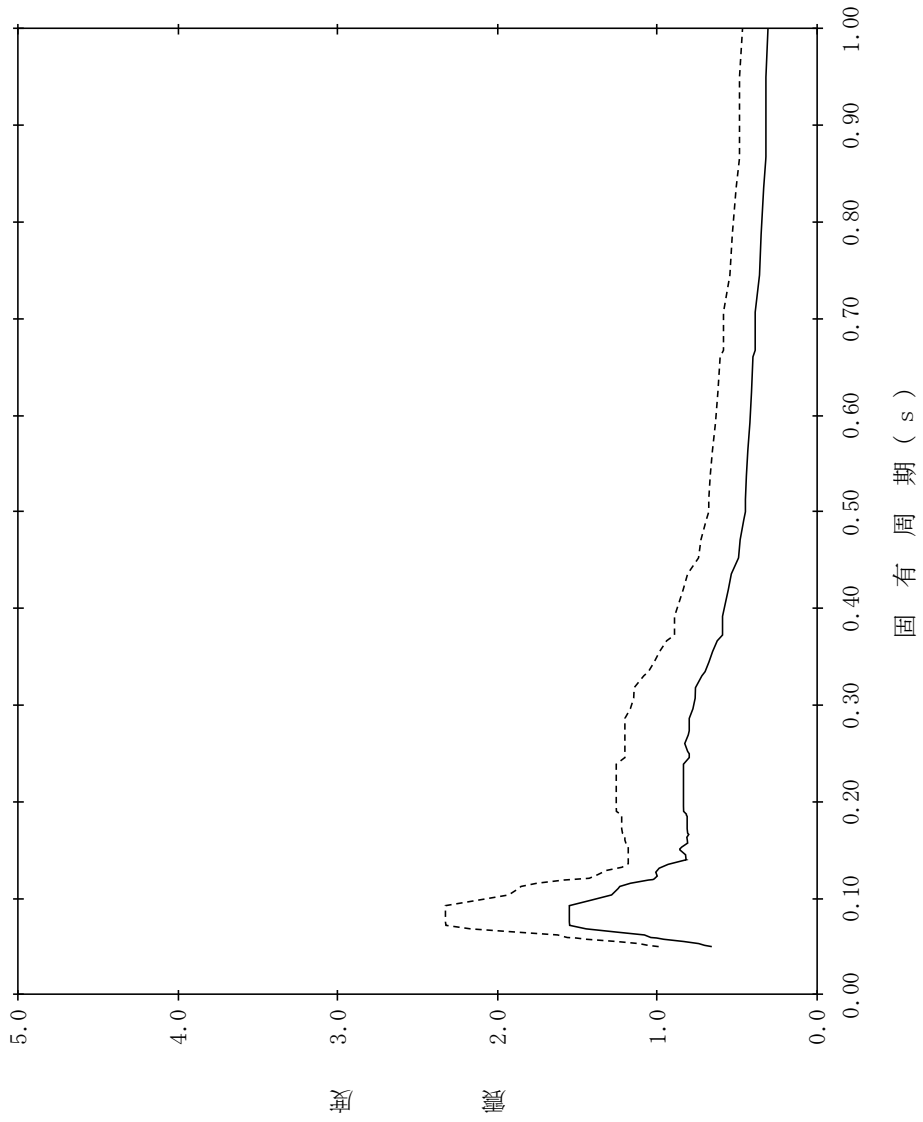
【NS2-RwB-SdV-RwB55】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL15.300m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



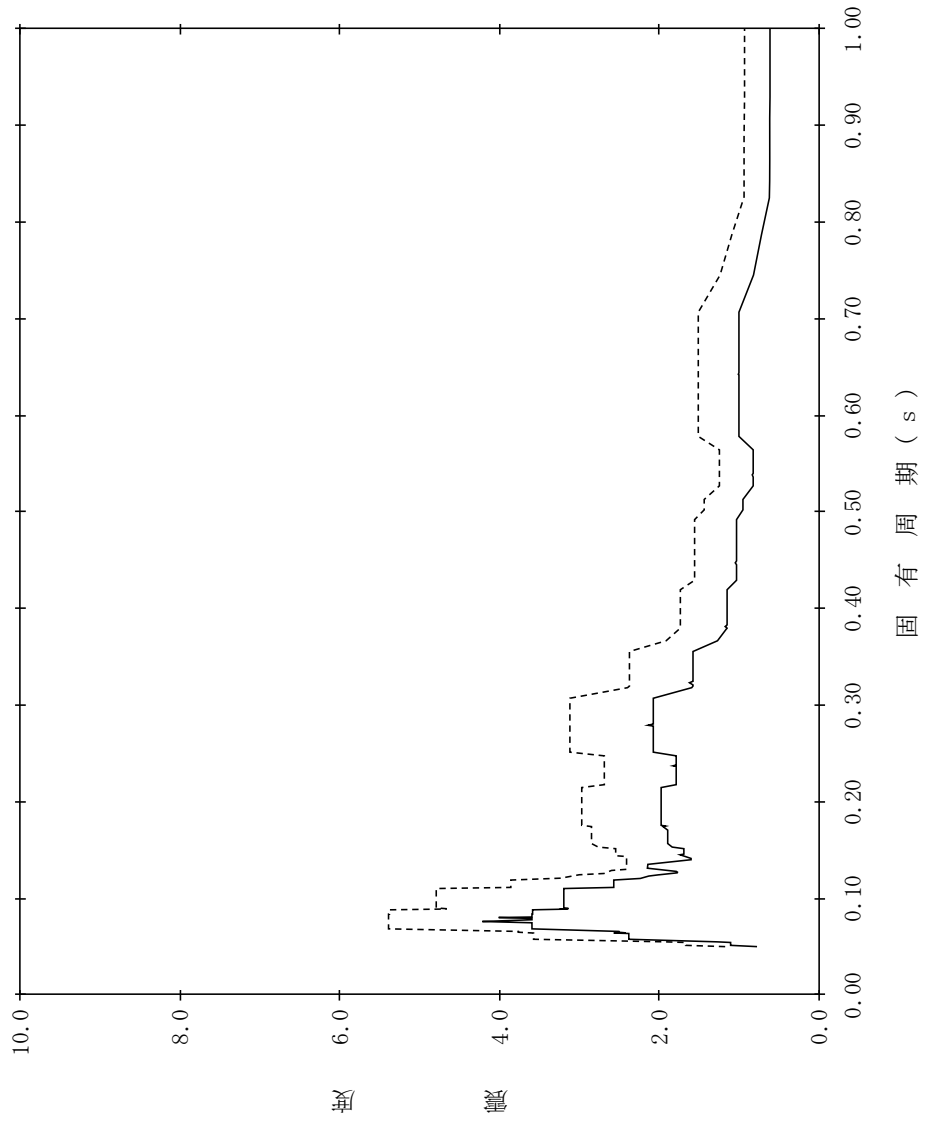
【NS2-RwB-SdV-RwB56】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



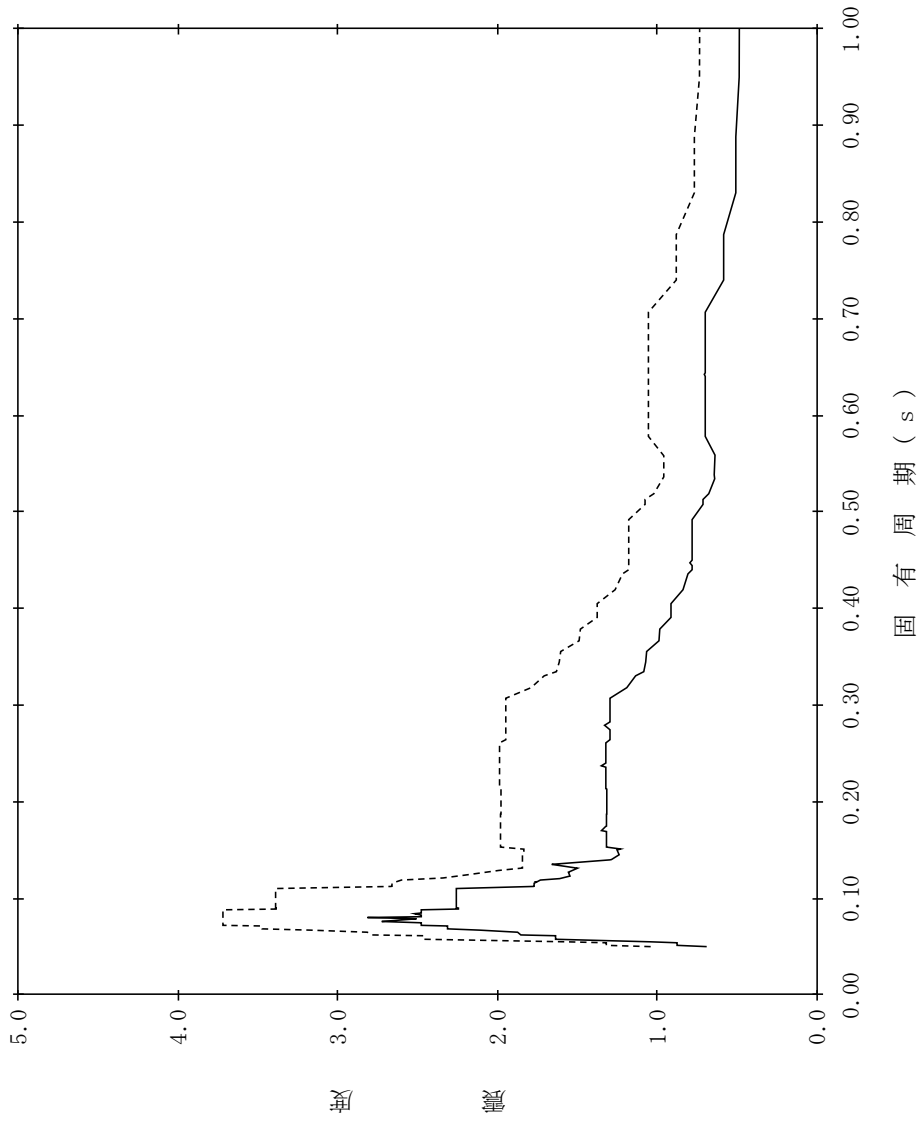
【NS2-RwB-SdV-RwB57】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



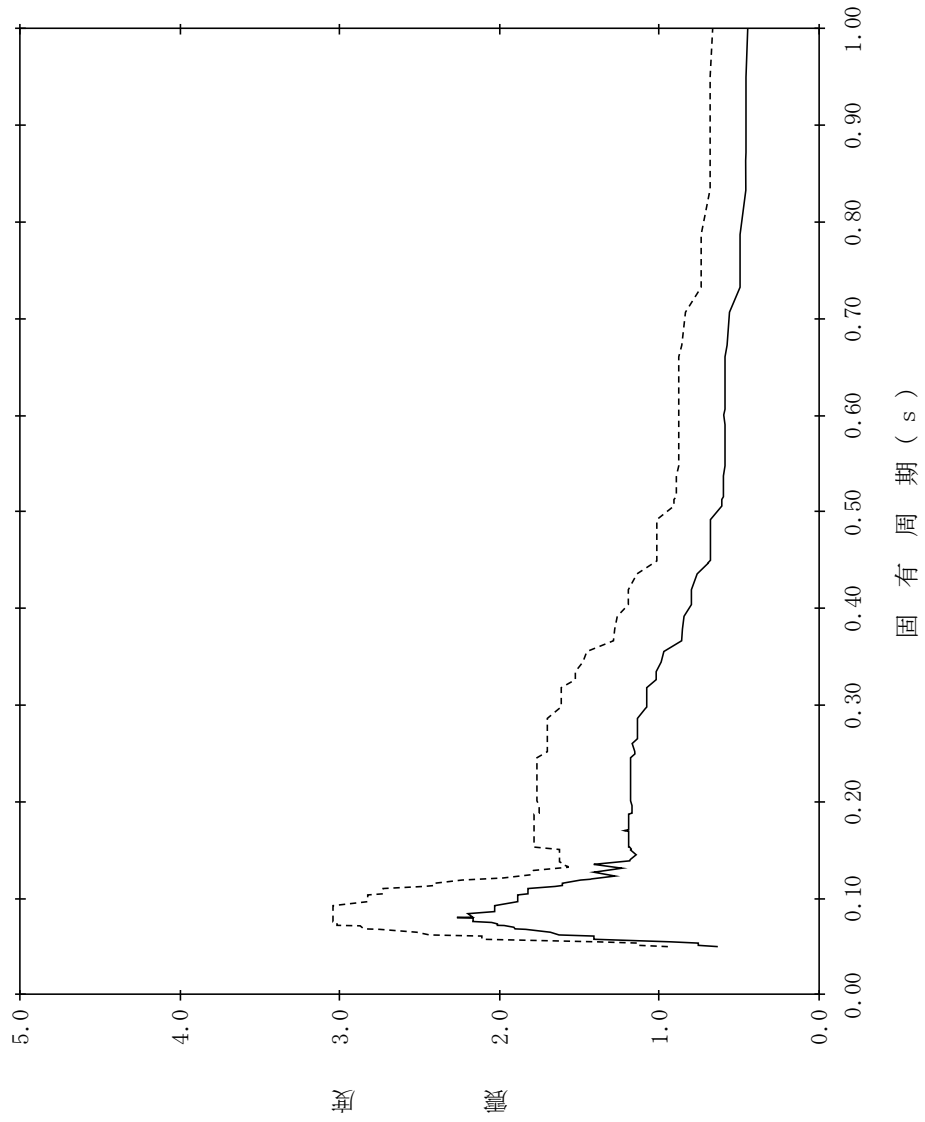
【NS2-RwB-SdV-RwB58】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL12.300m
減衰定数：1.0%
—— 設計用床応答スペクトルⅠ（鉛直方向）
----- 設計用床応答スペクトルⅡ（鉛直方向）



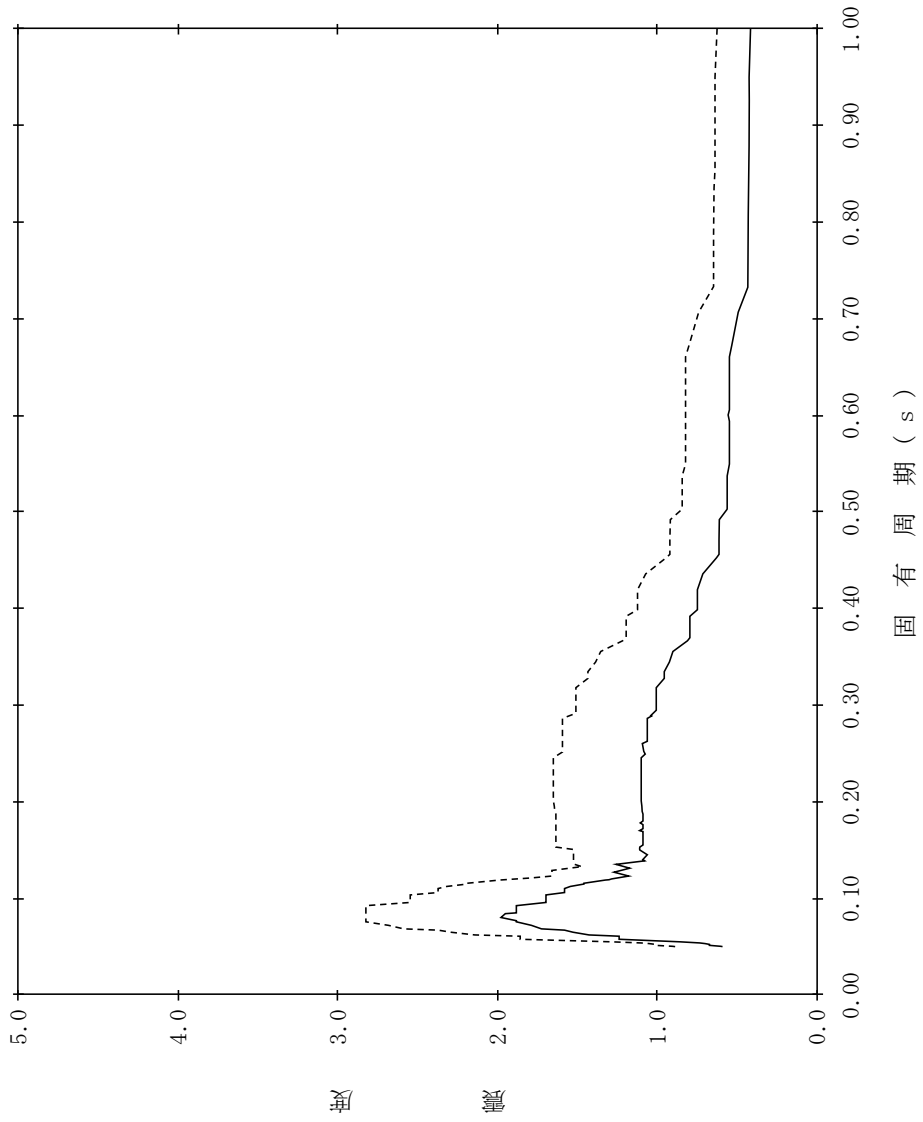
【NS2-RwB-SdV-RwB59】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



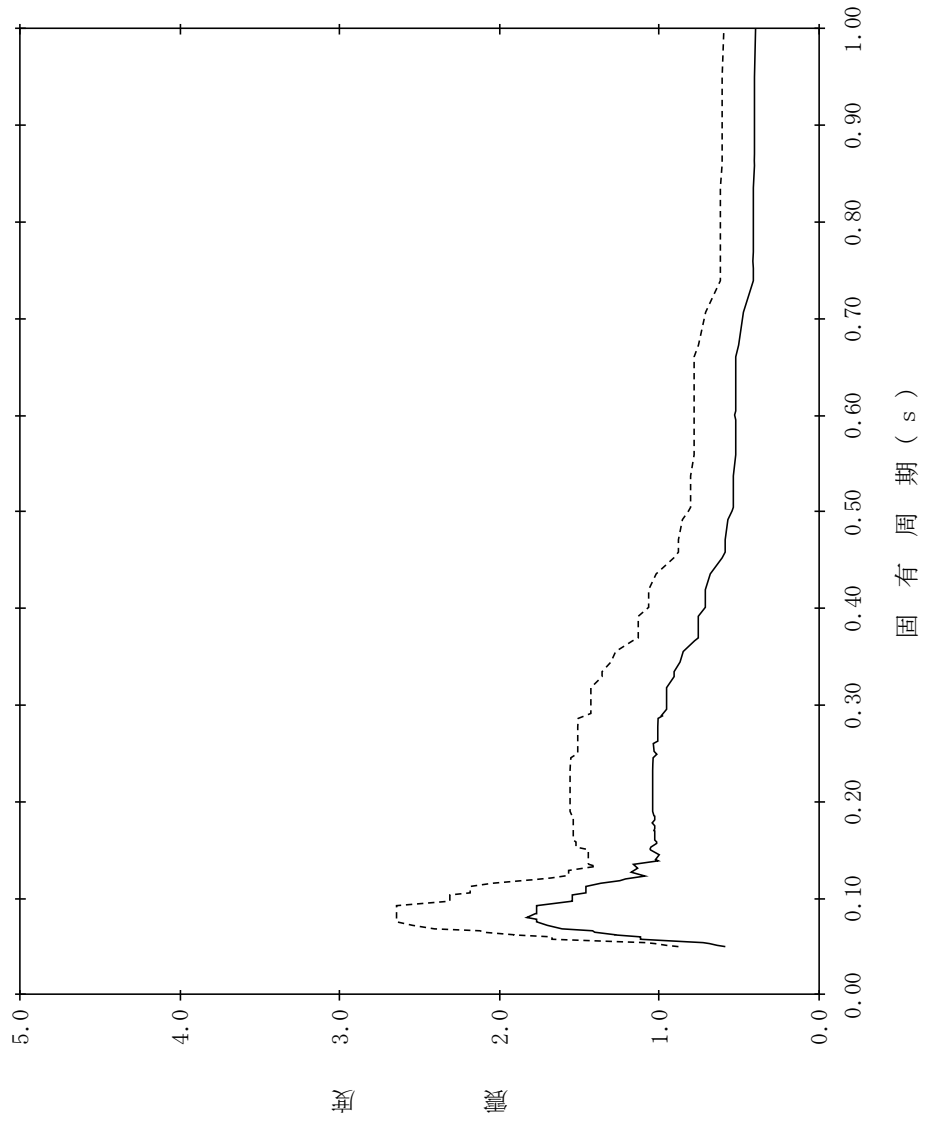
【NS2-RwB-SdV-RwB60】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL12.300m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



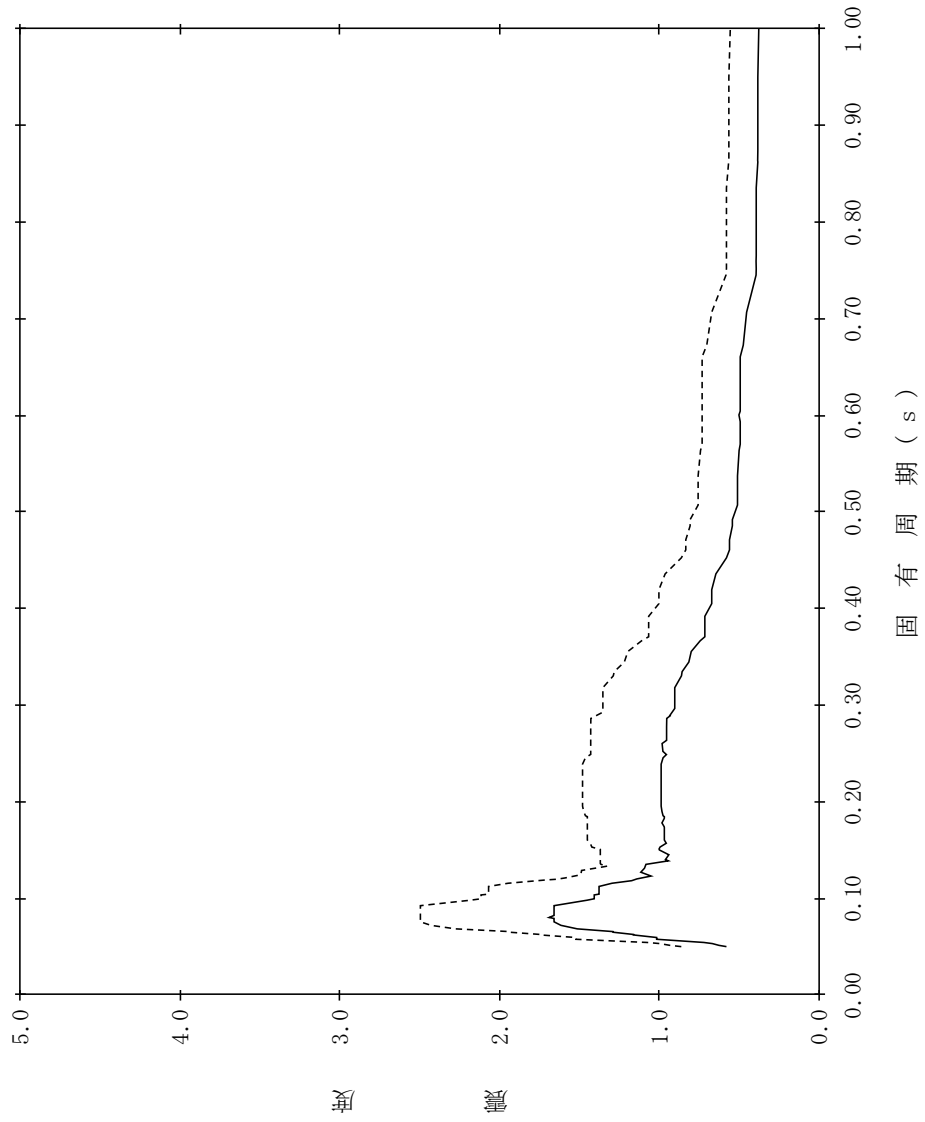
【NS2-RwB-SdV-RwB61】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



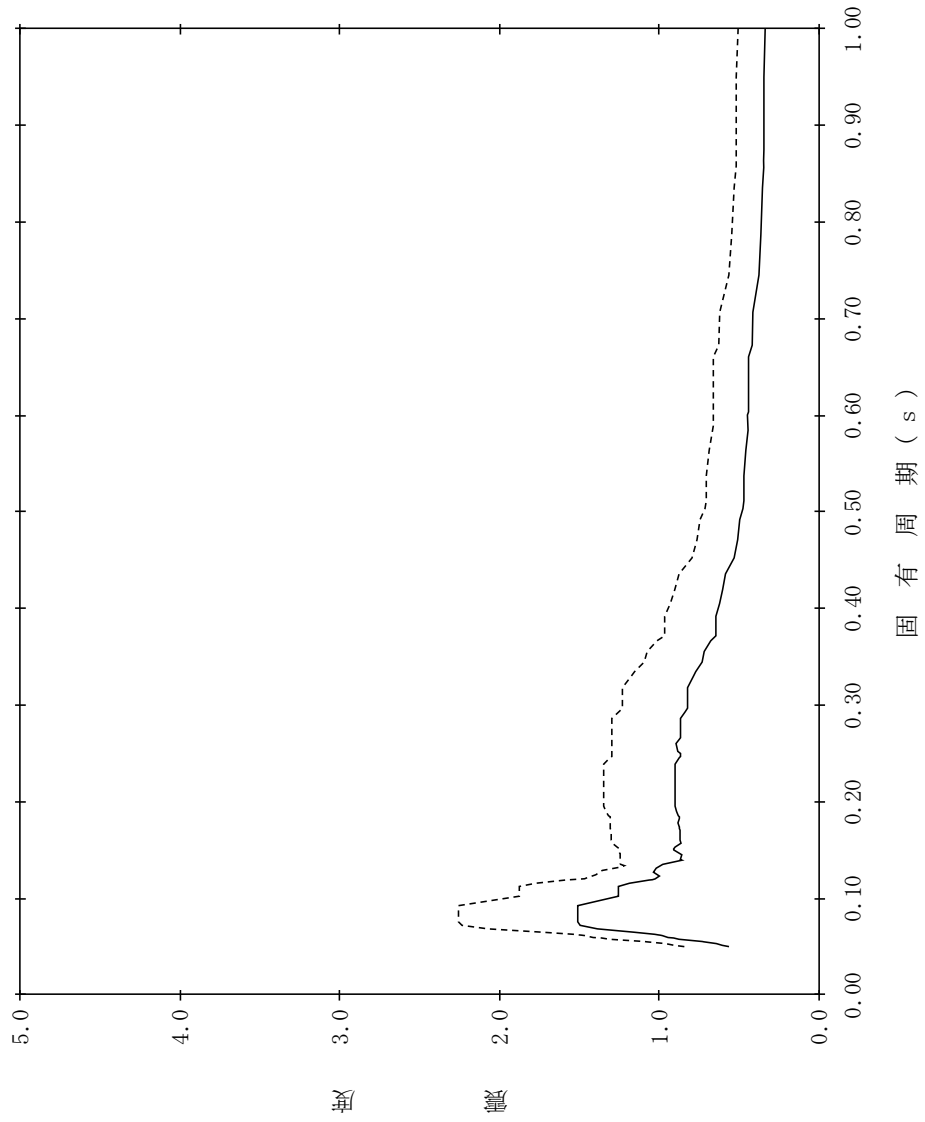
【NS2-RwB-SdV-RwB62】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL12.300m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



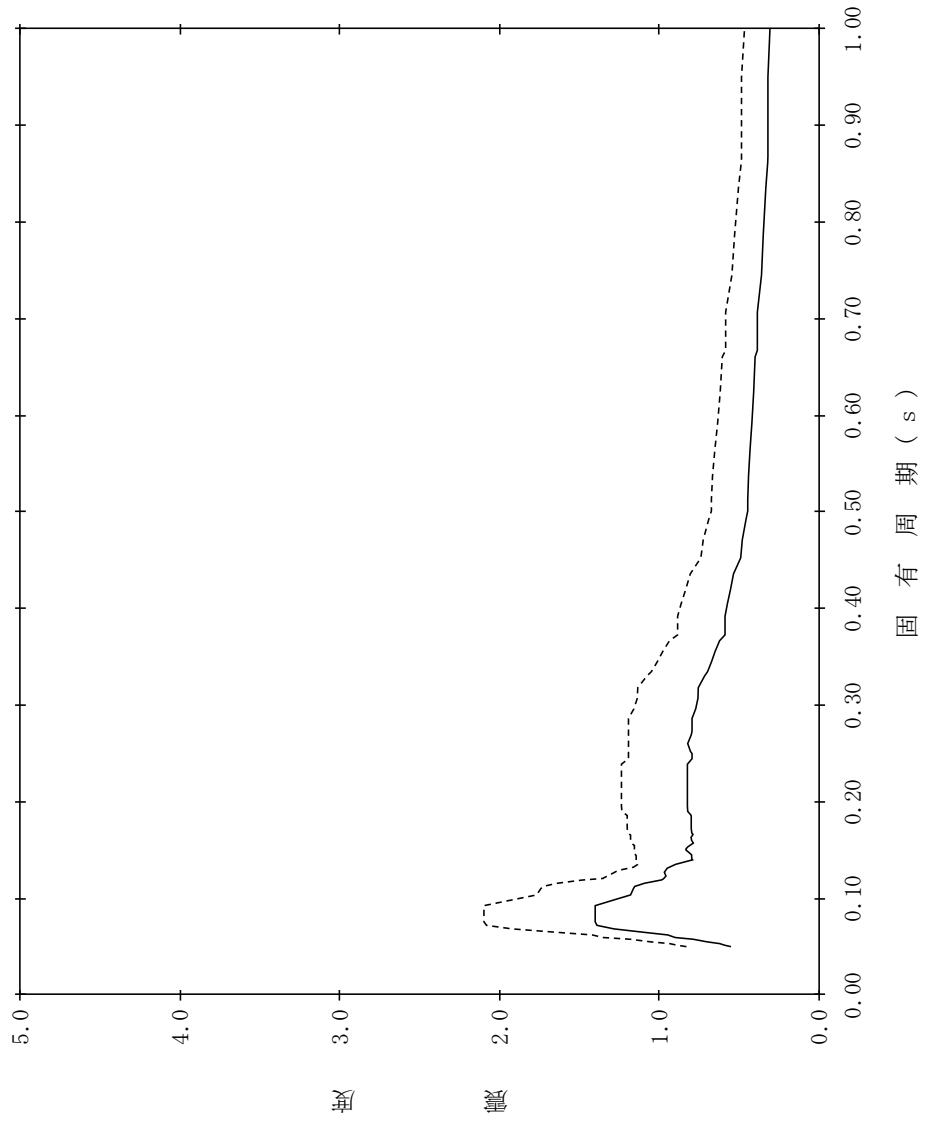
【NS2-RwB-SdV-RwB63】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



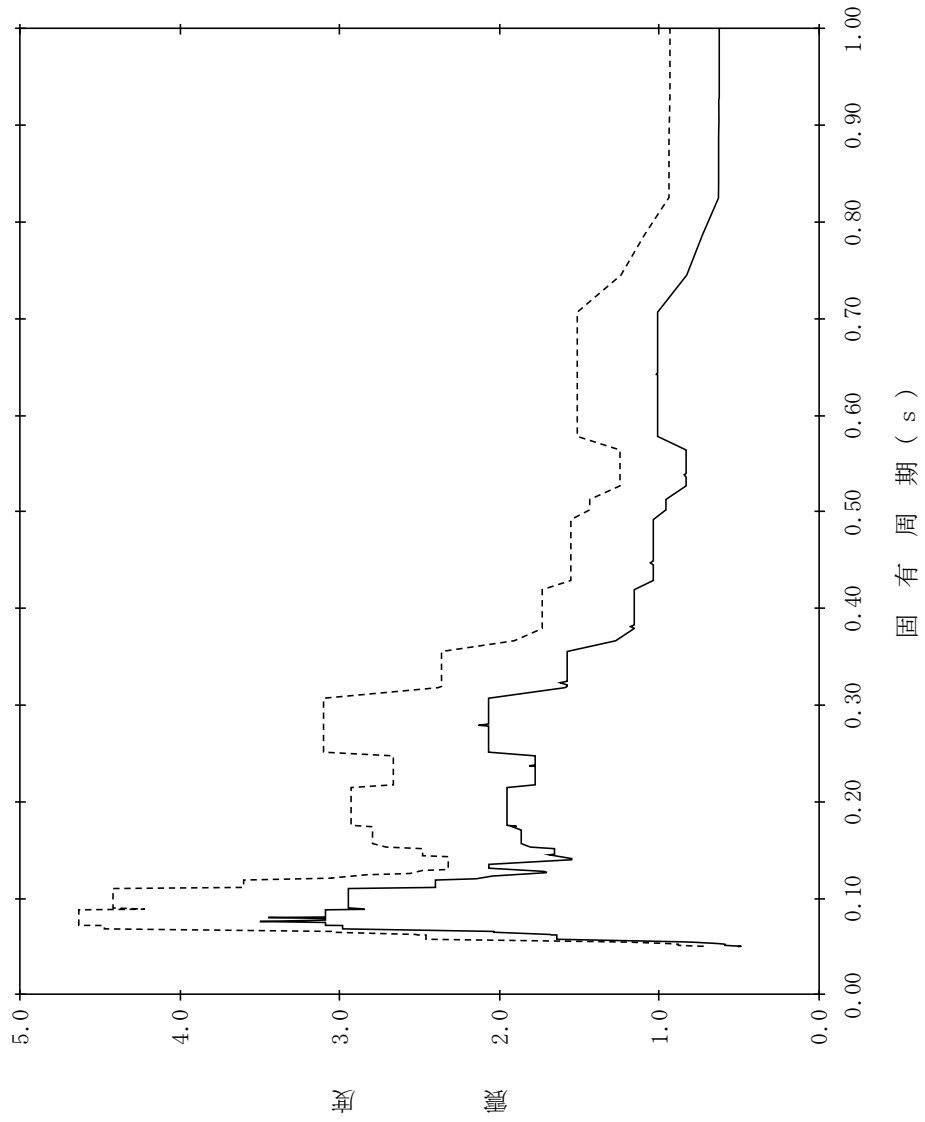
【NS2-RwB-SdV-RwB64】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL12.300m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



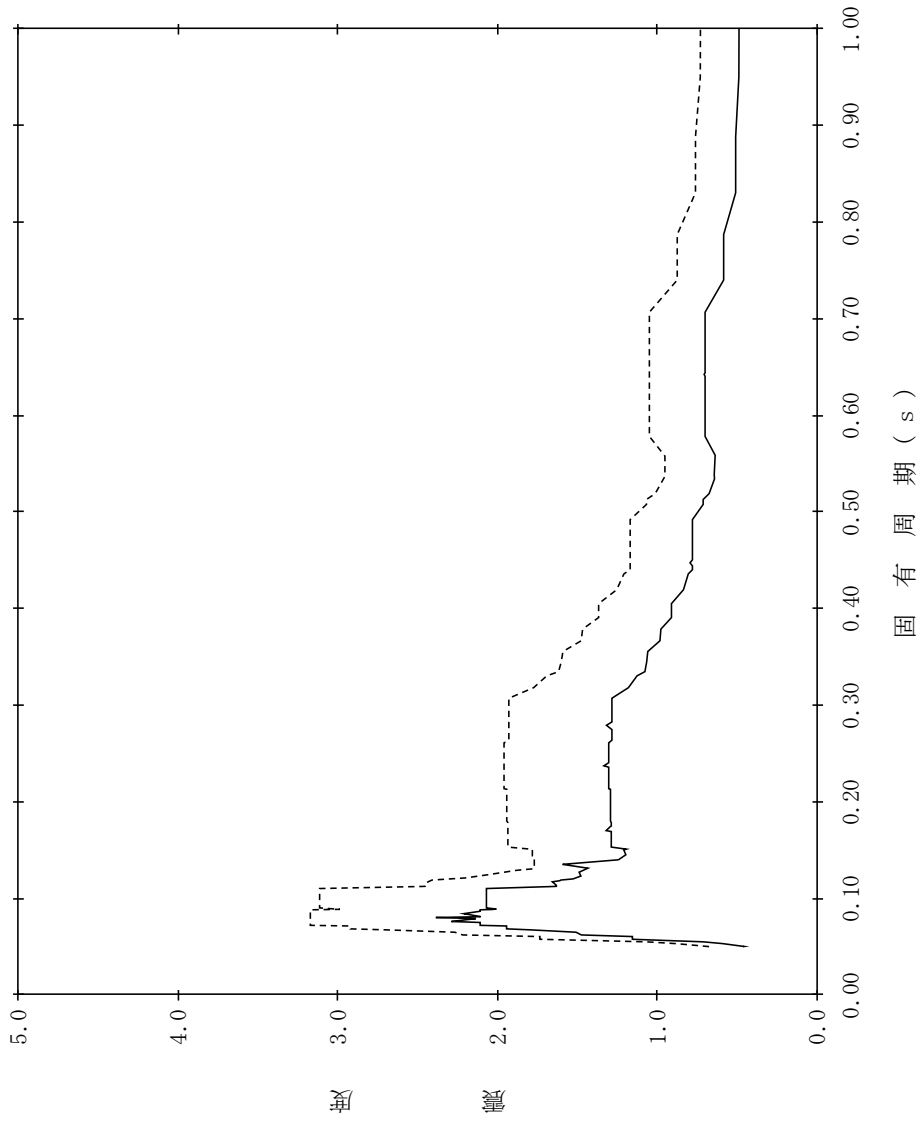
【NS2-RwB-SdV-RwB65】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



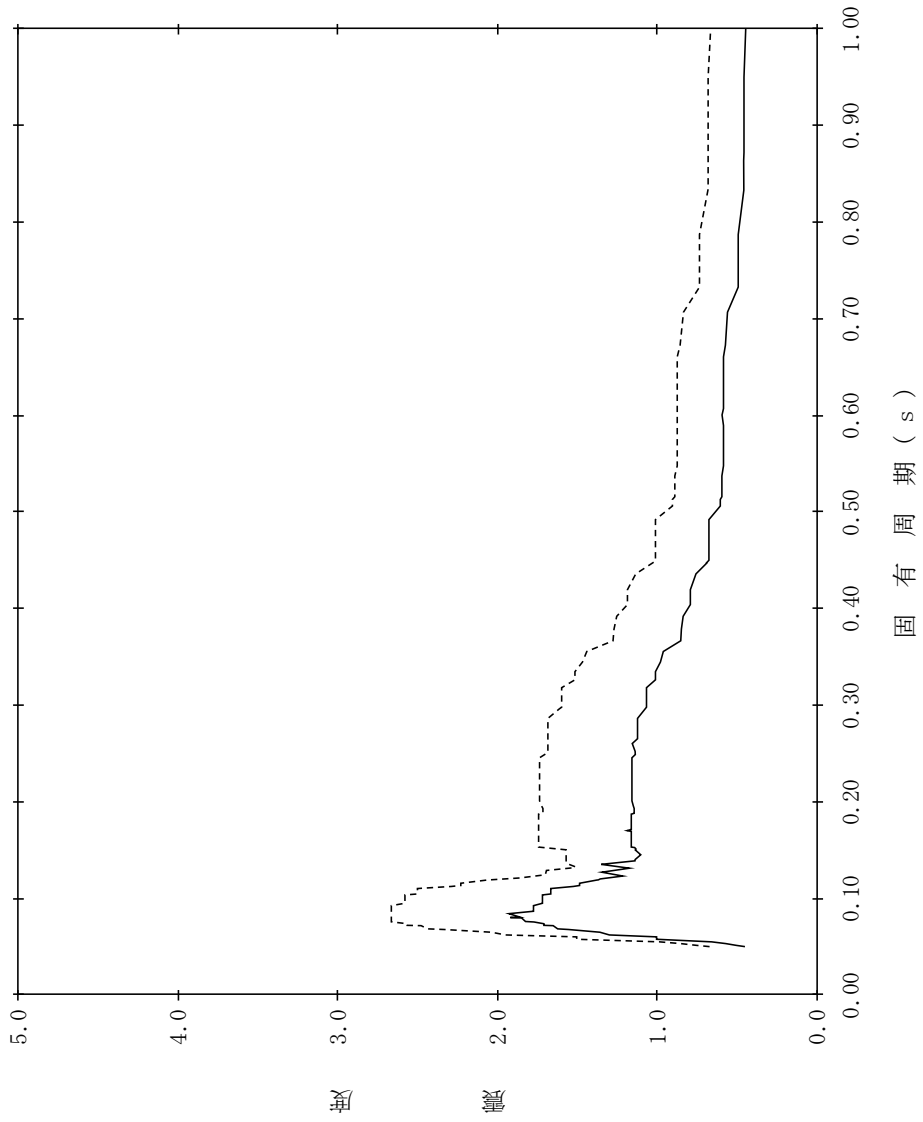
【NS2-RwB-SdV-RwB66】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



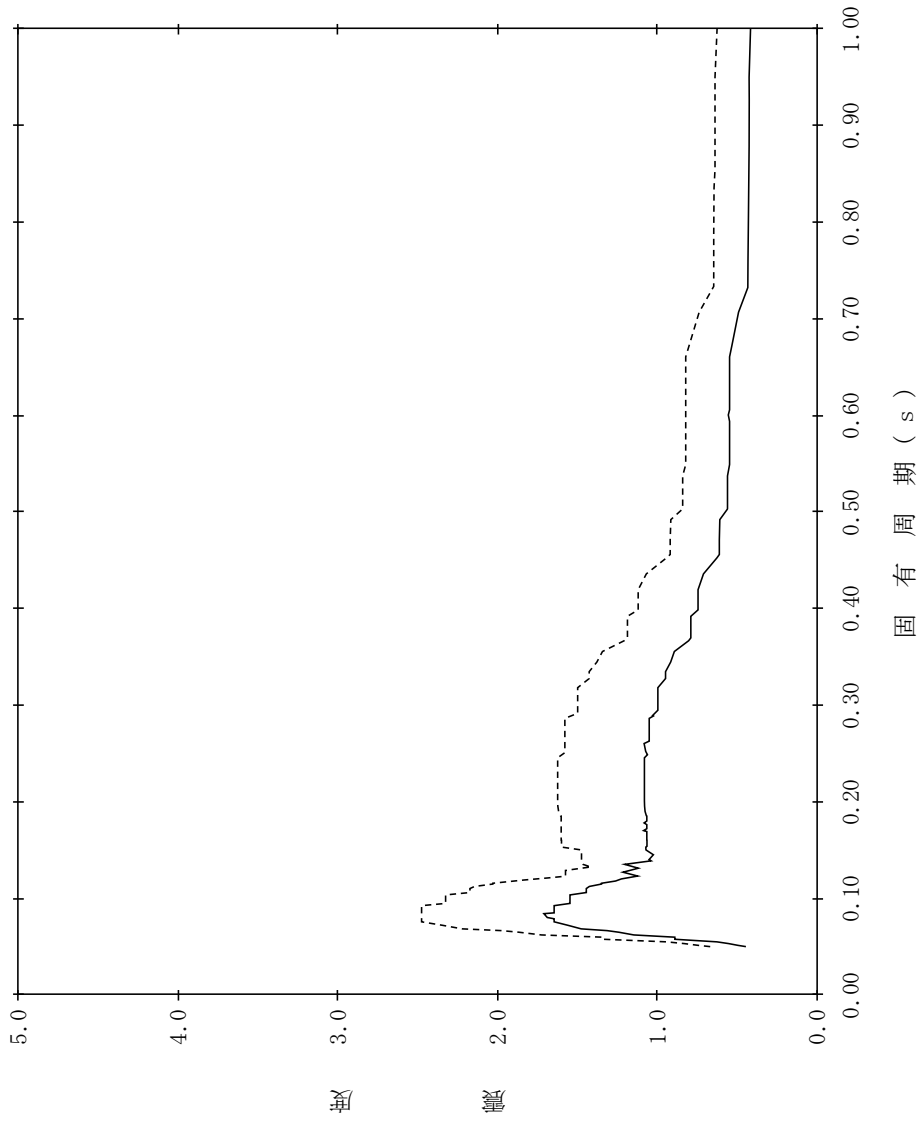
【NS2-RwB-SdV-RwB67】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



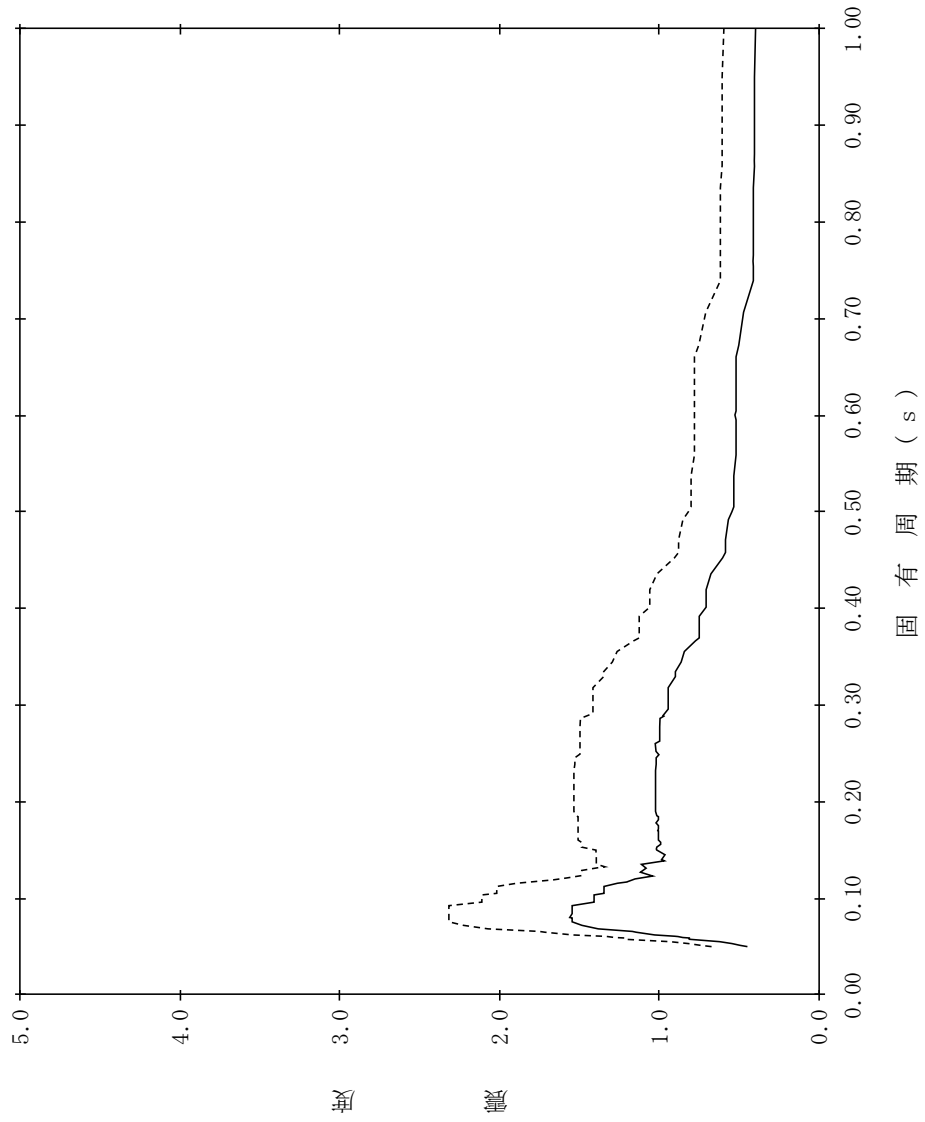
【NS2-RwB-SdV-RwB68】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL8.800m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



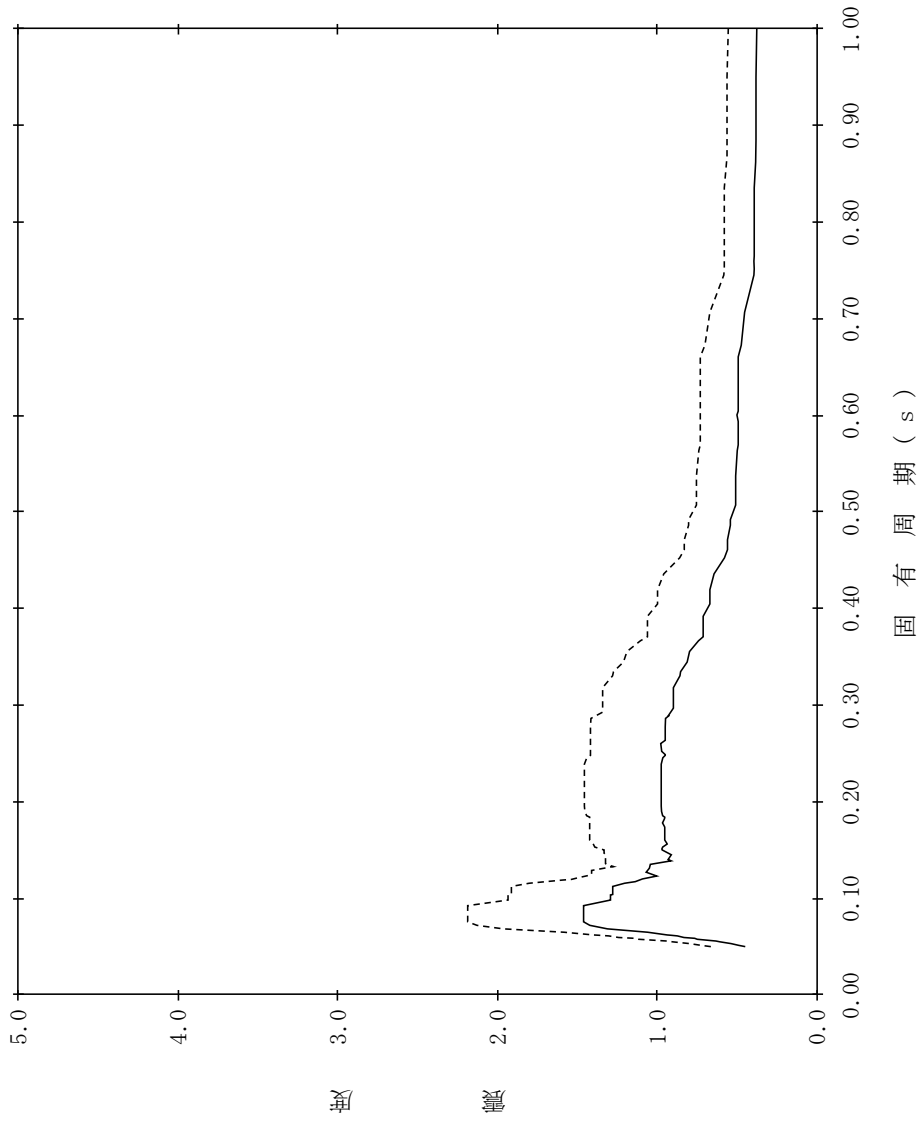
【NS2-RwB-SdV-RwB69】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL8.800m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



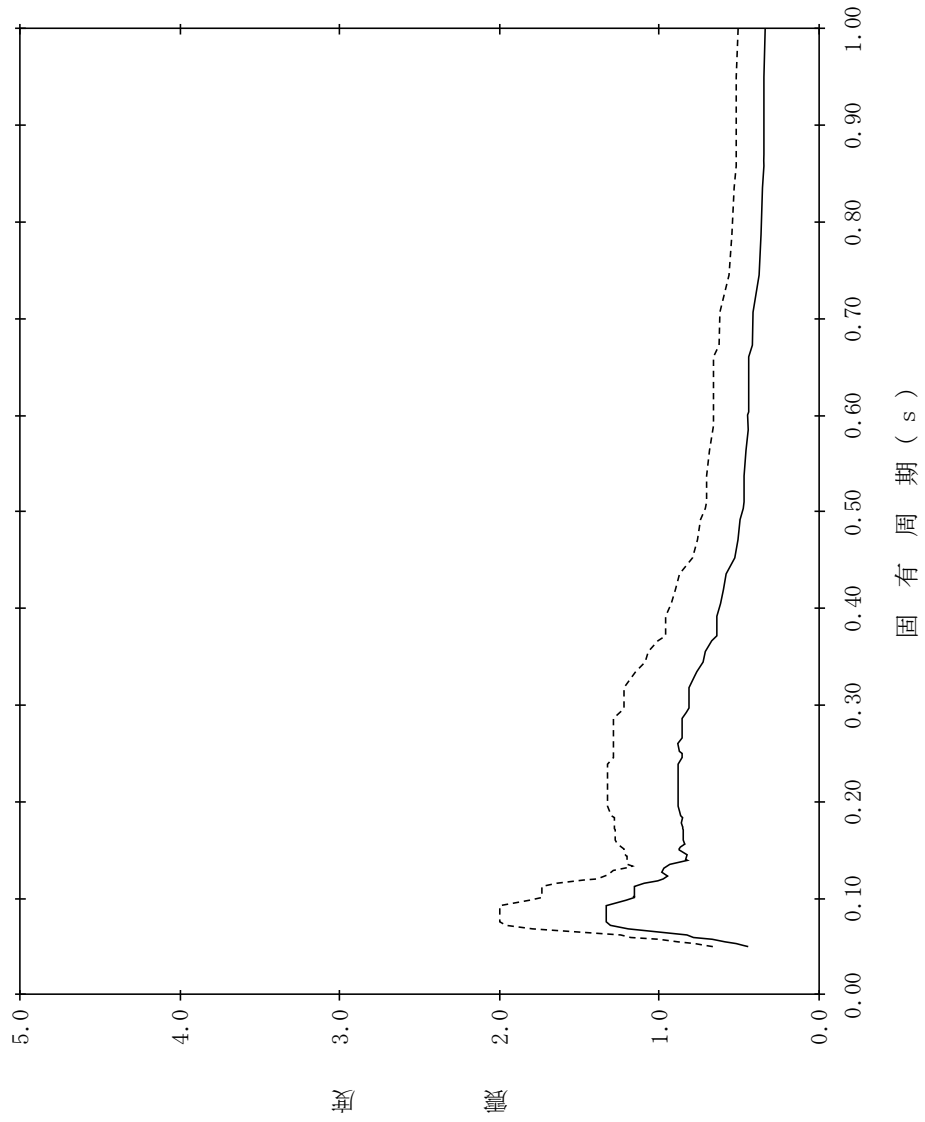
【NS2-RwB-SdV-RwB70】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



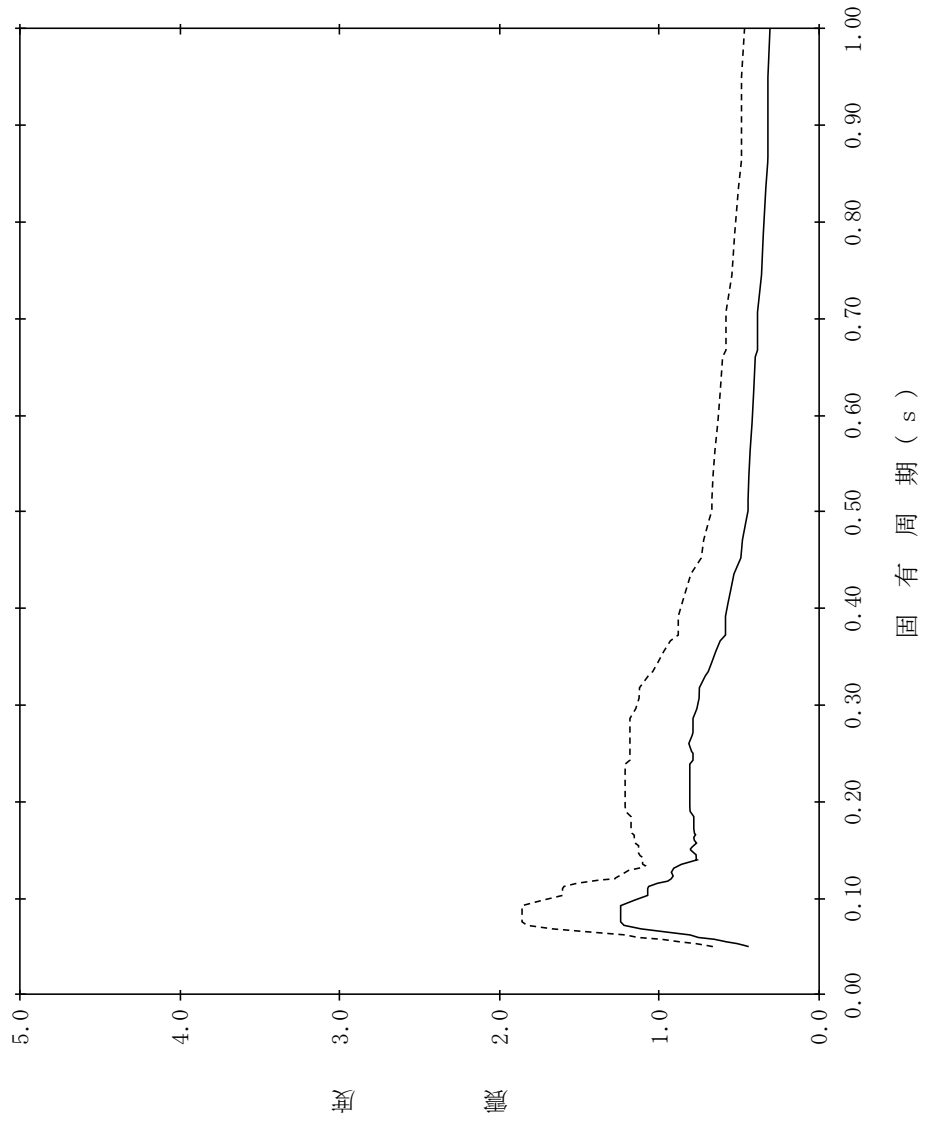
【NS2-RwB-SdV-RwB71】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



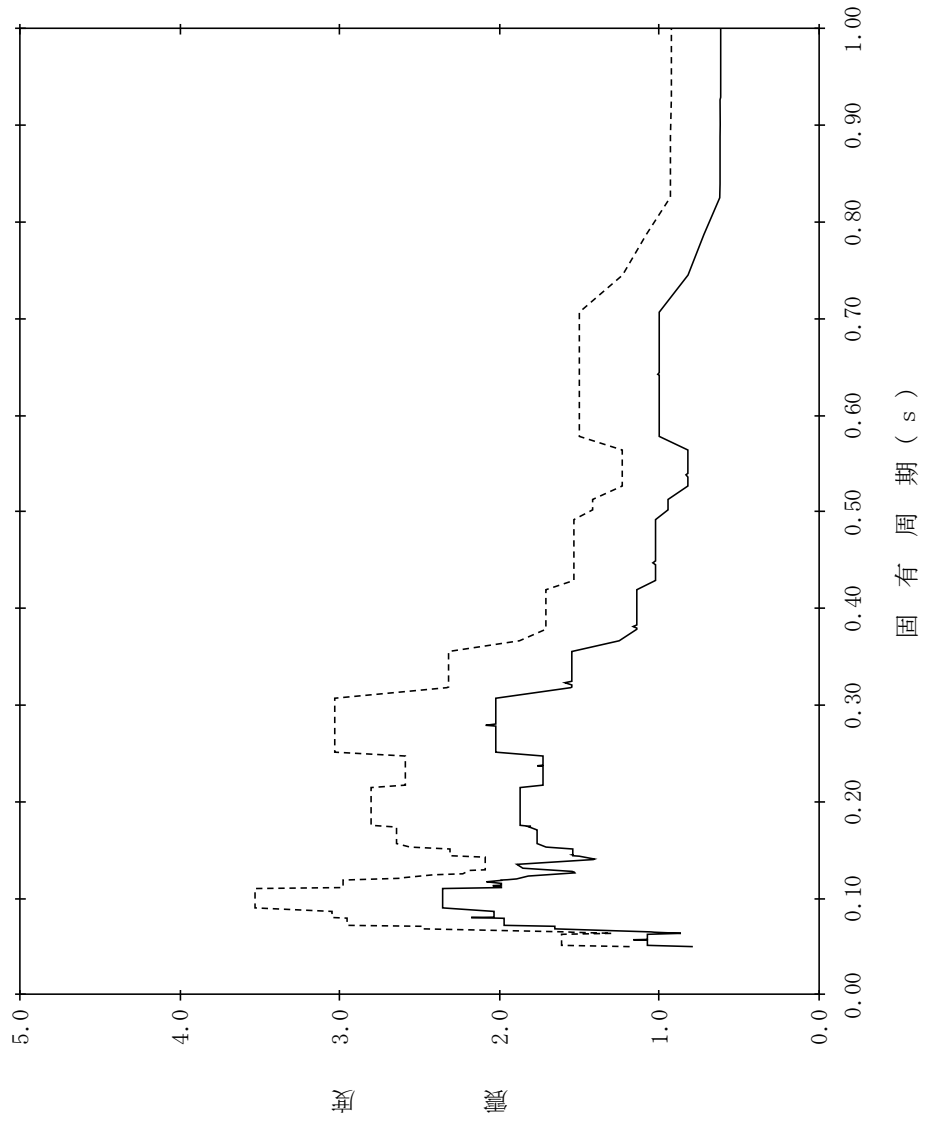
【NS2-RwB-SdV-RwB72】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL8.800m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



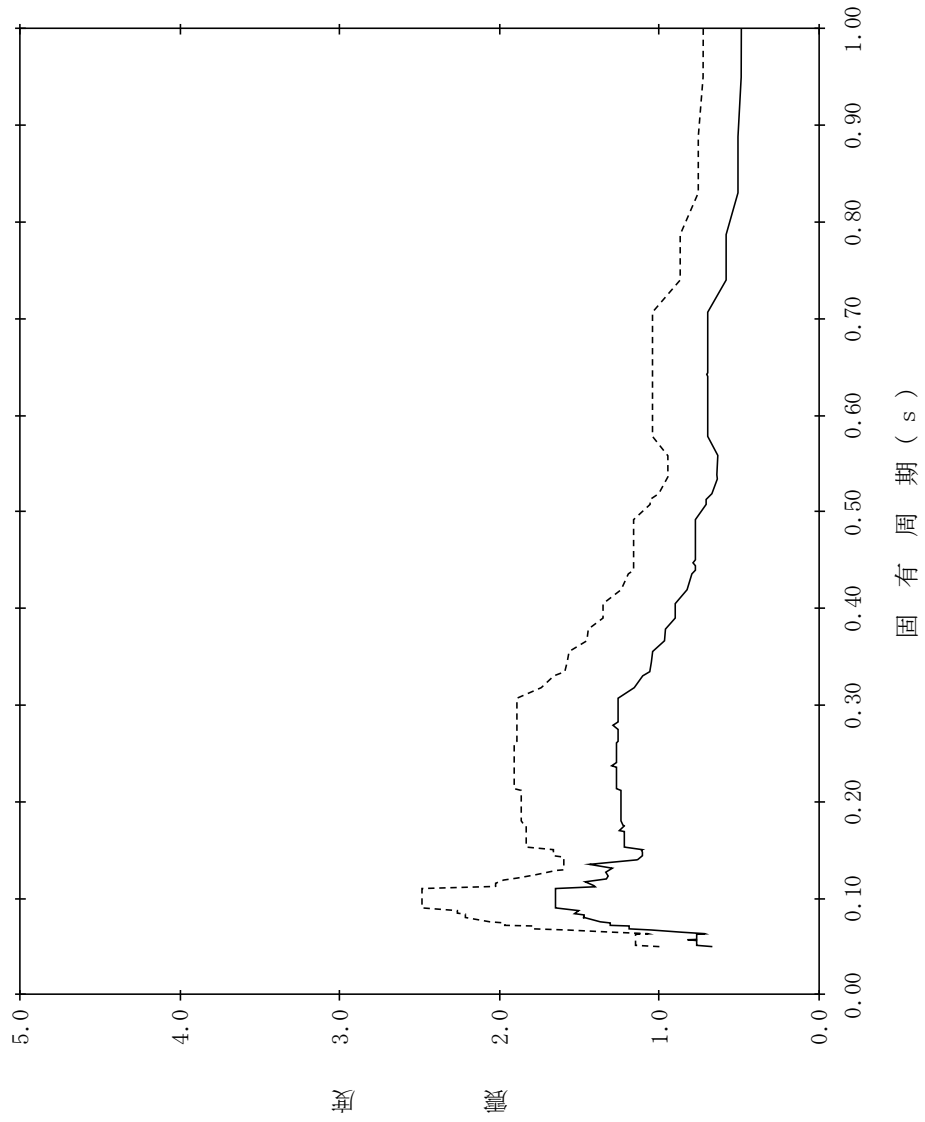
【NS2-RwB-SdV-RwB73】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



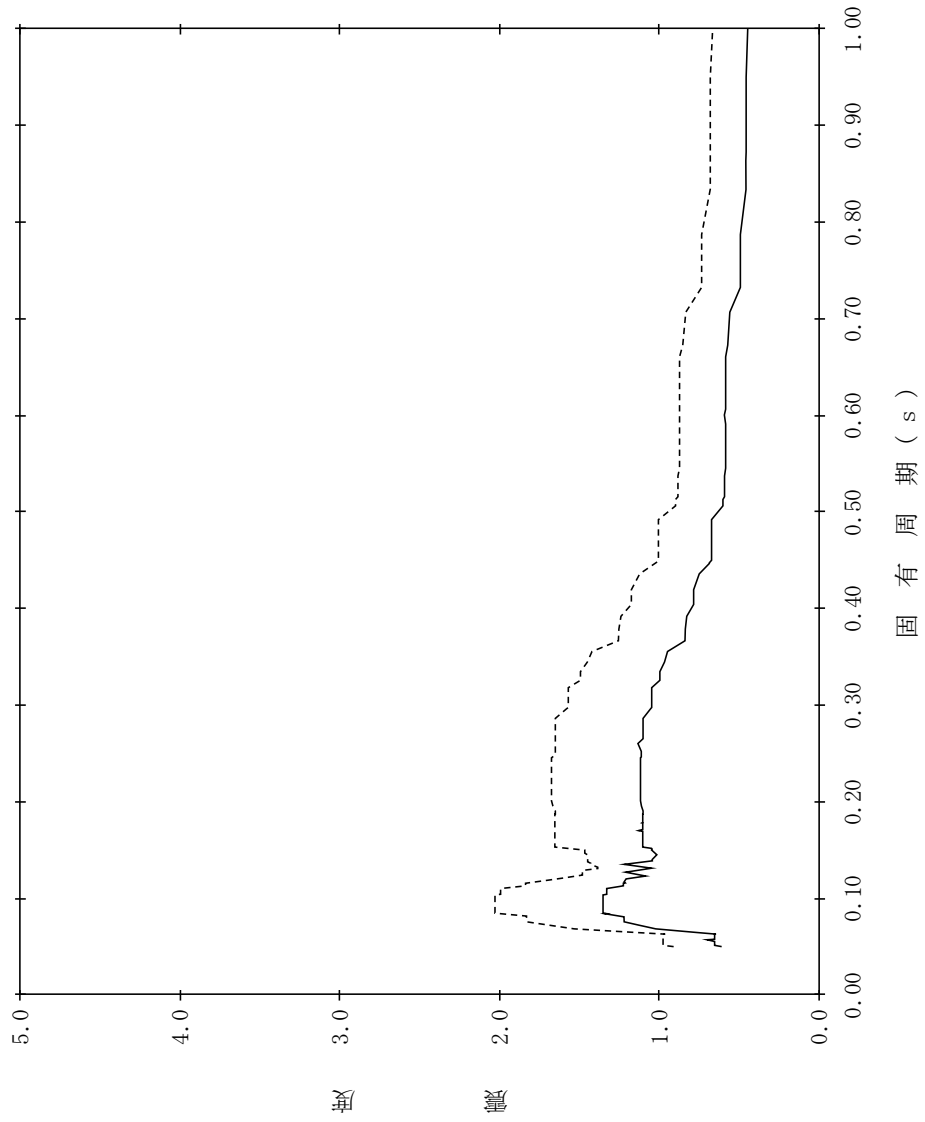
【NS2-RwB-SdV-RwB74】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



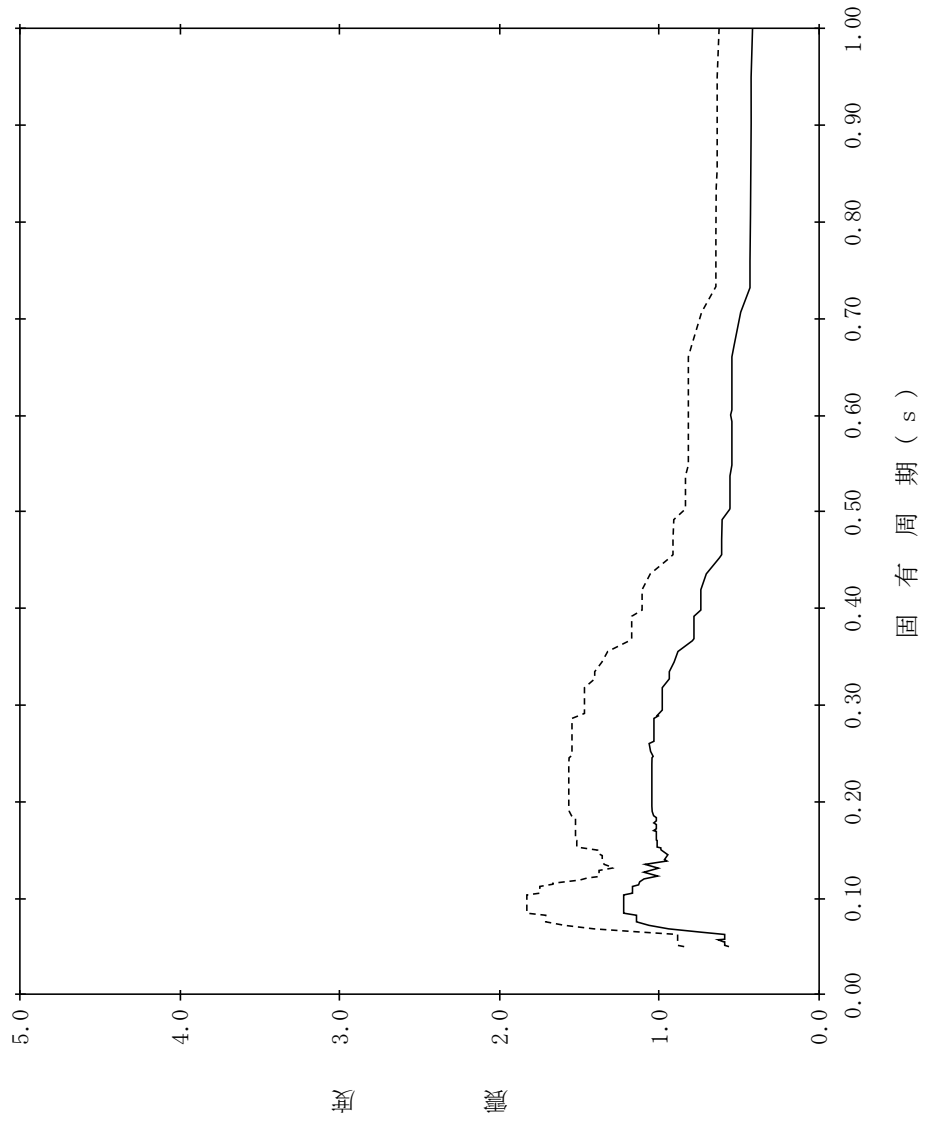
【NS2-RwB-SdV-RwB75】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL3.000m
減衰定数：1.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



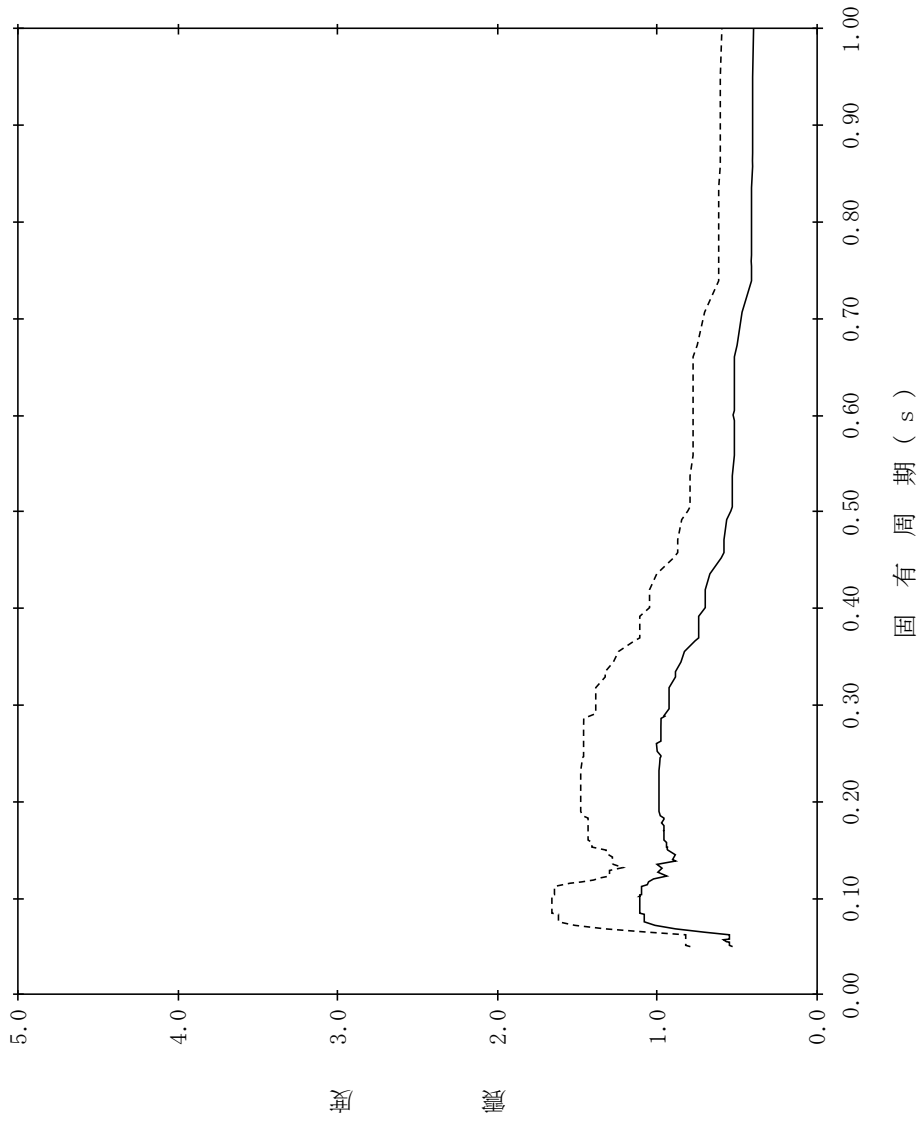
【NS2-RwB-SdV-RwB76】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL3.000m
減衰定数：2.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



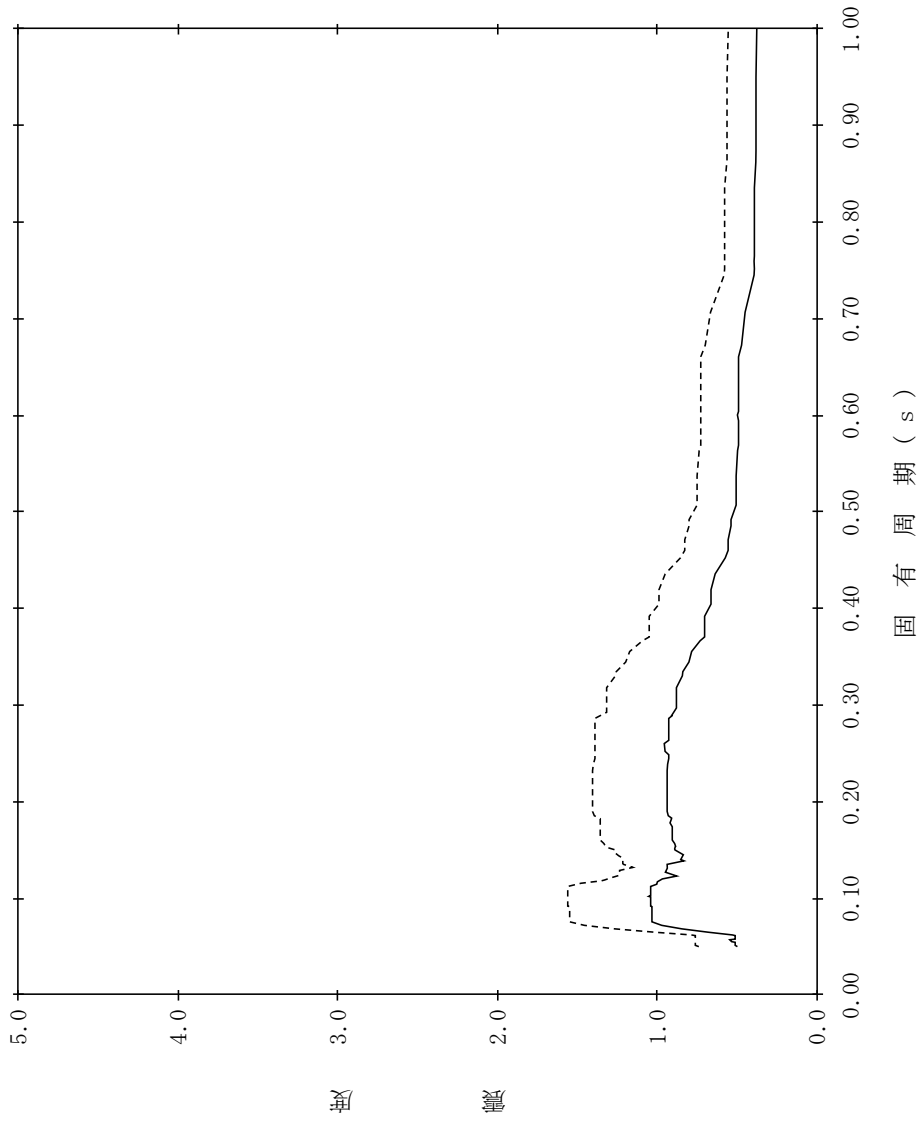
【NS2-RwB-SdV-RwB77】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL3.000m
減衰定数：2.5%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



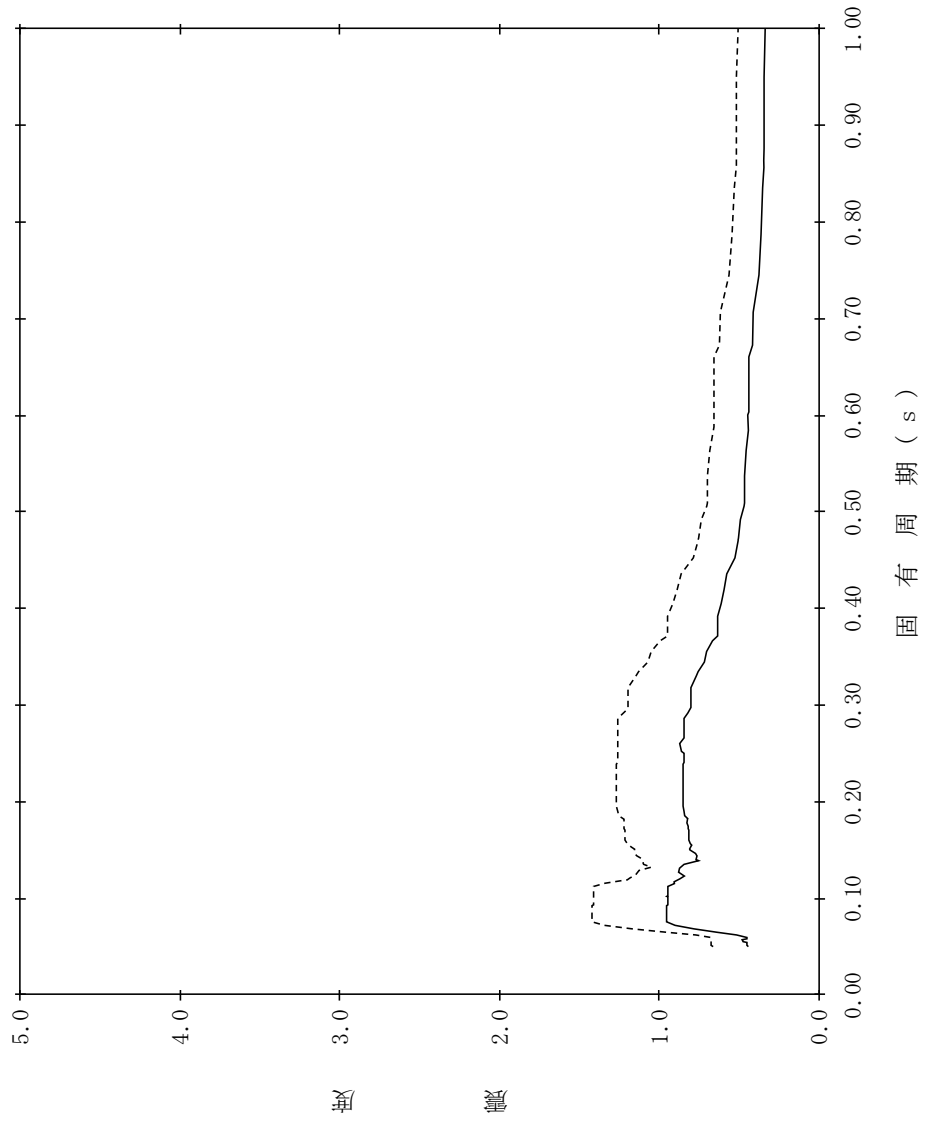
【NS2-RwB-SdV-RwB78】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL3.000m
減衰定数：3.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



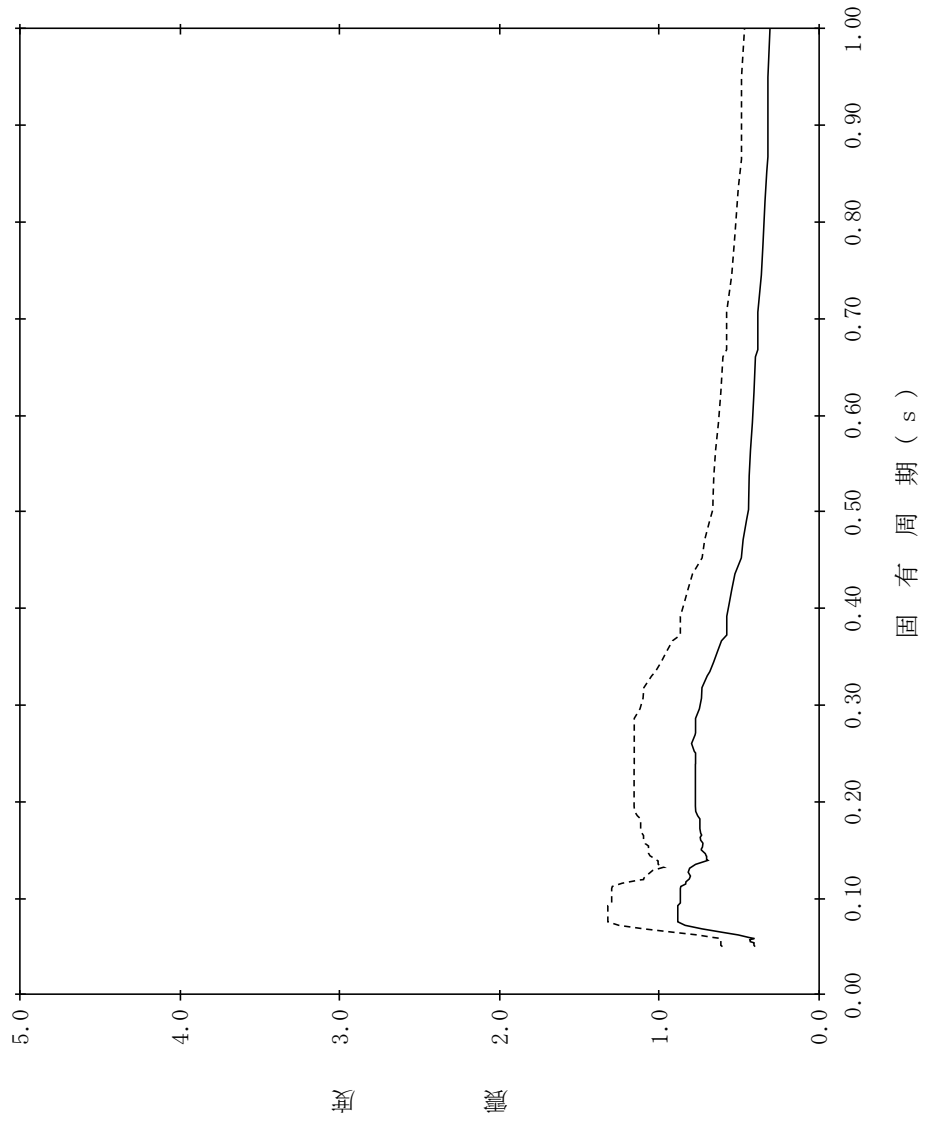
【NS2-RwB-SdV-RwB79】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL3.000m
減衰定数：4.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



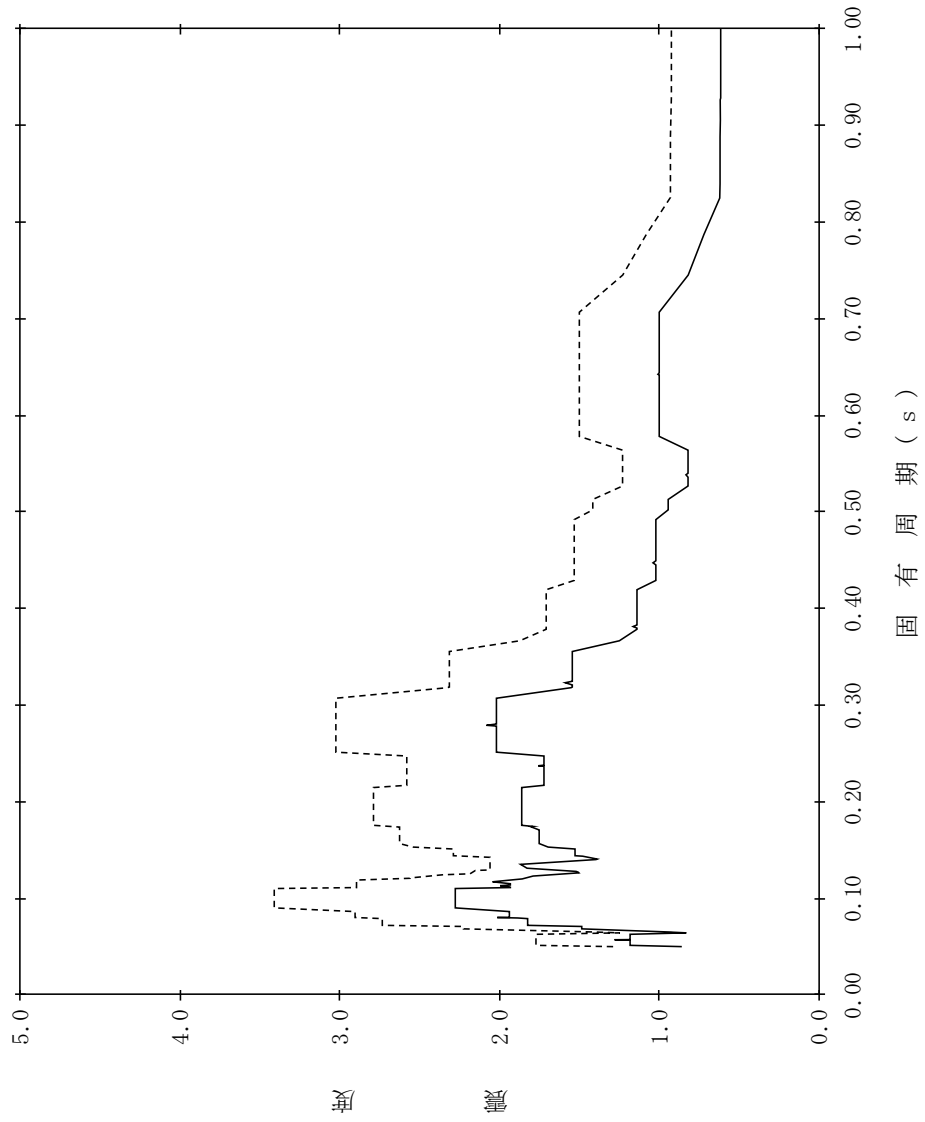
【NS2-RwB-SdV-RwB80】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL3.000m
減衰定数：5.0%
波形名：弾性設計用地震動 S d
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



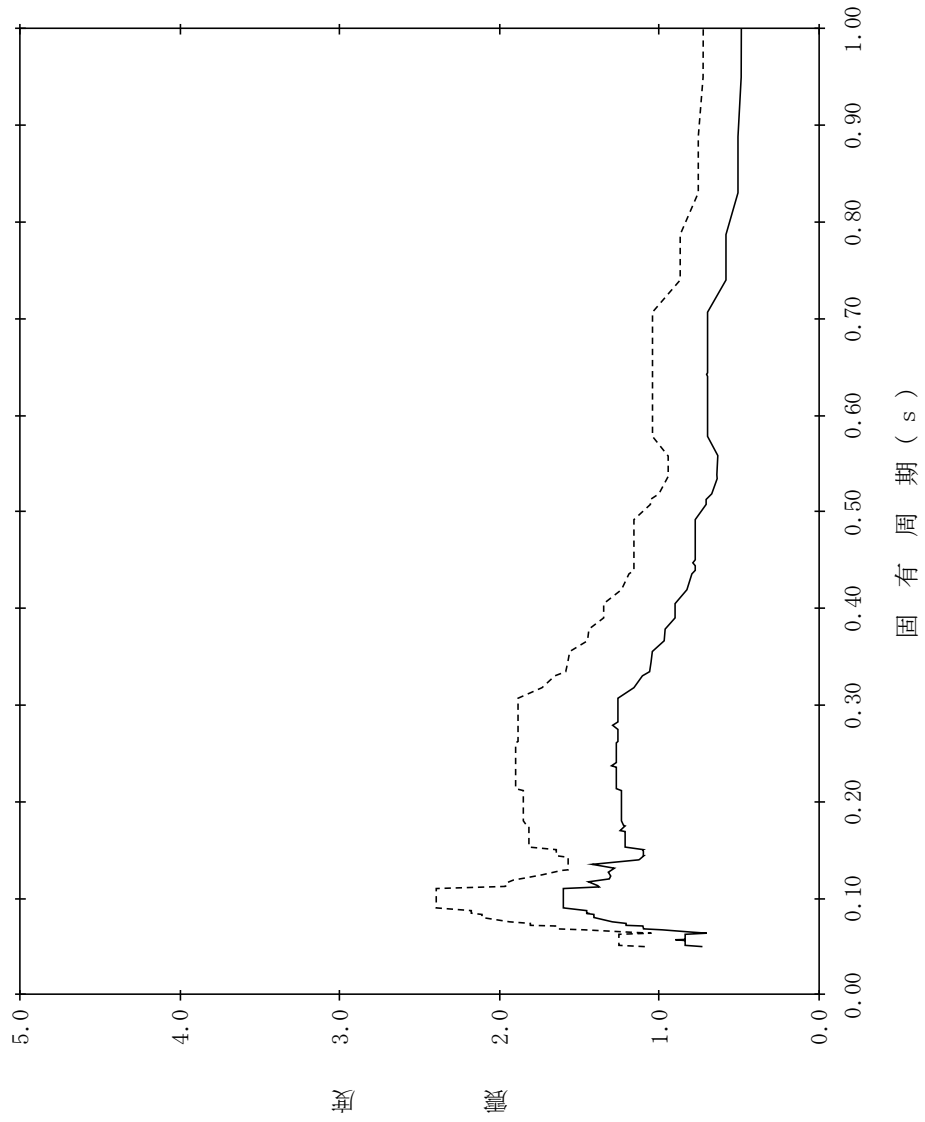
【NS2-RwB-SdV-RwB81】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



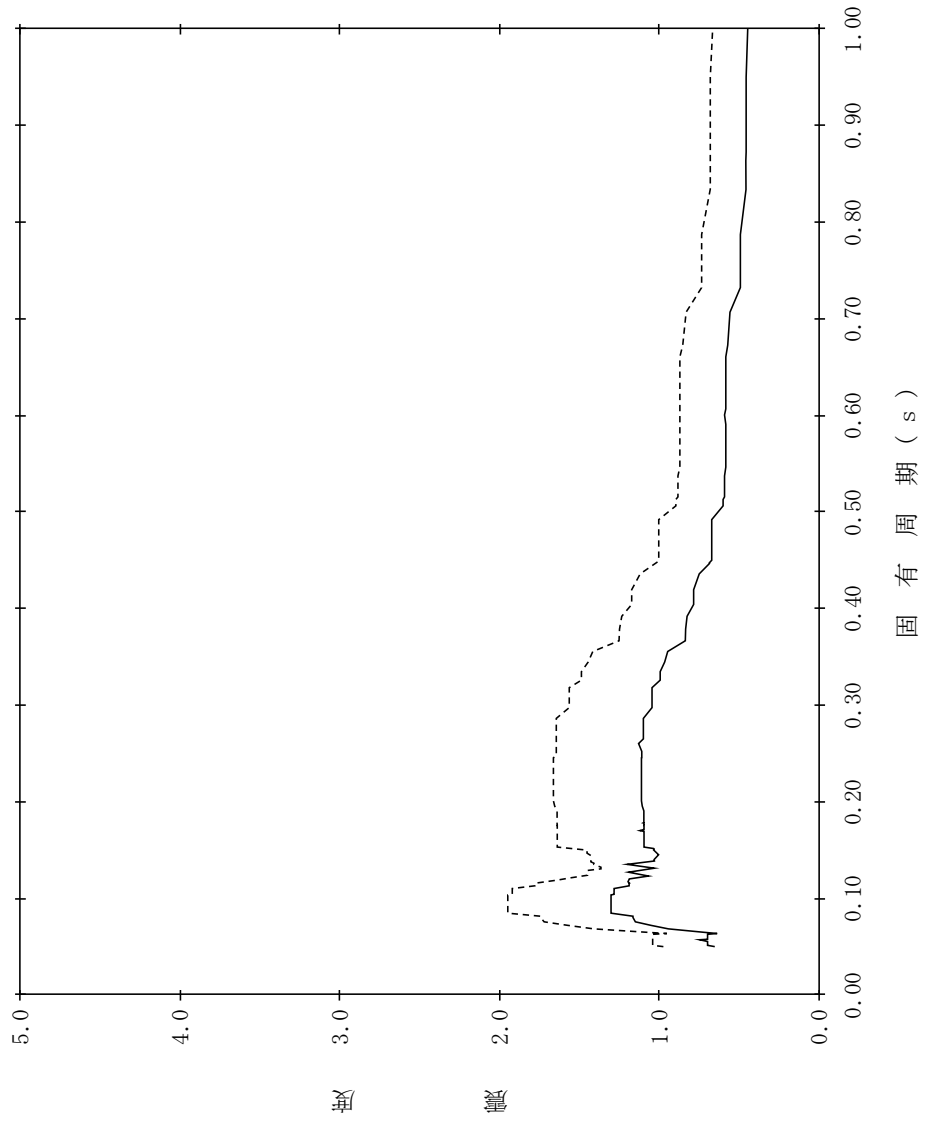
【NS2-RwB-SdV-RwB82】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



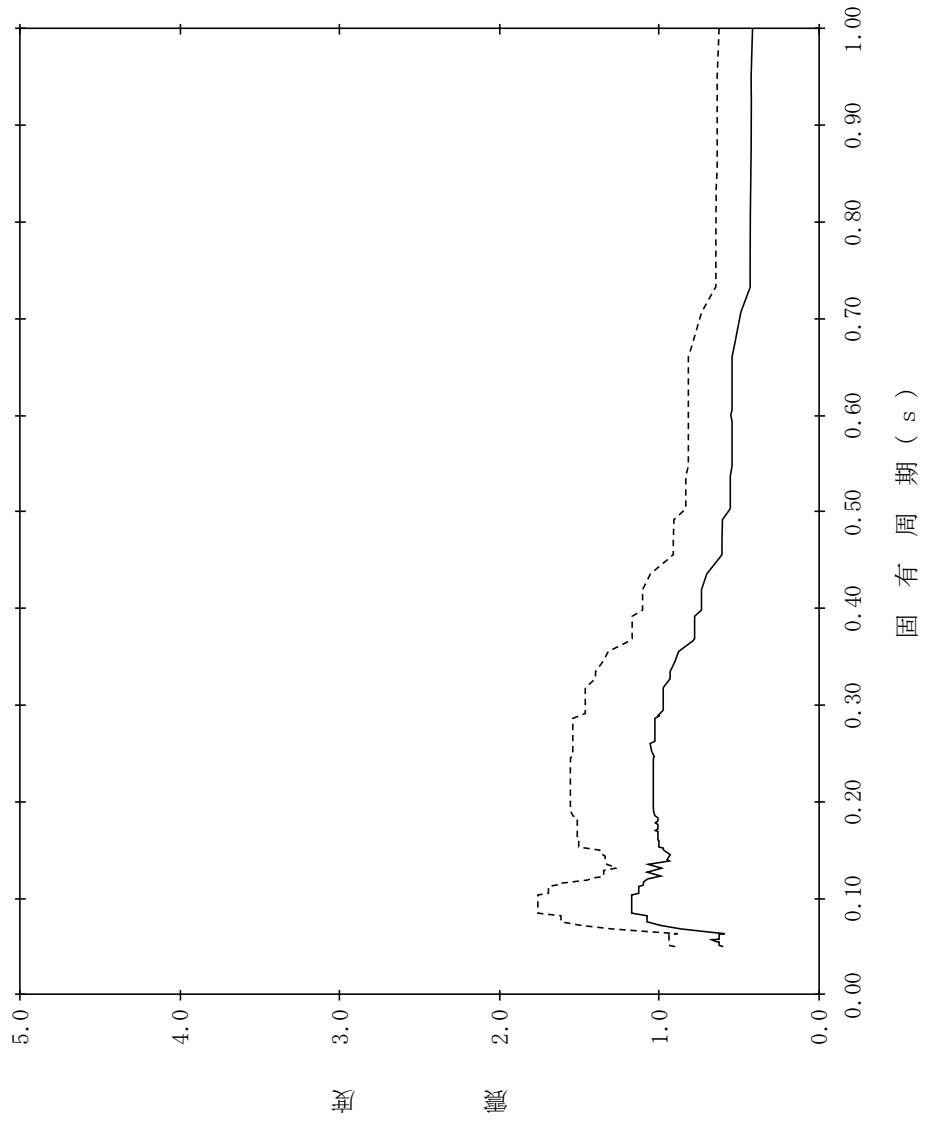
【NS2-RwB-SdV-RwB83】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



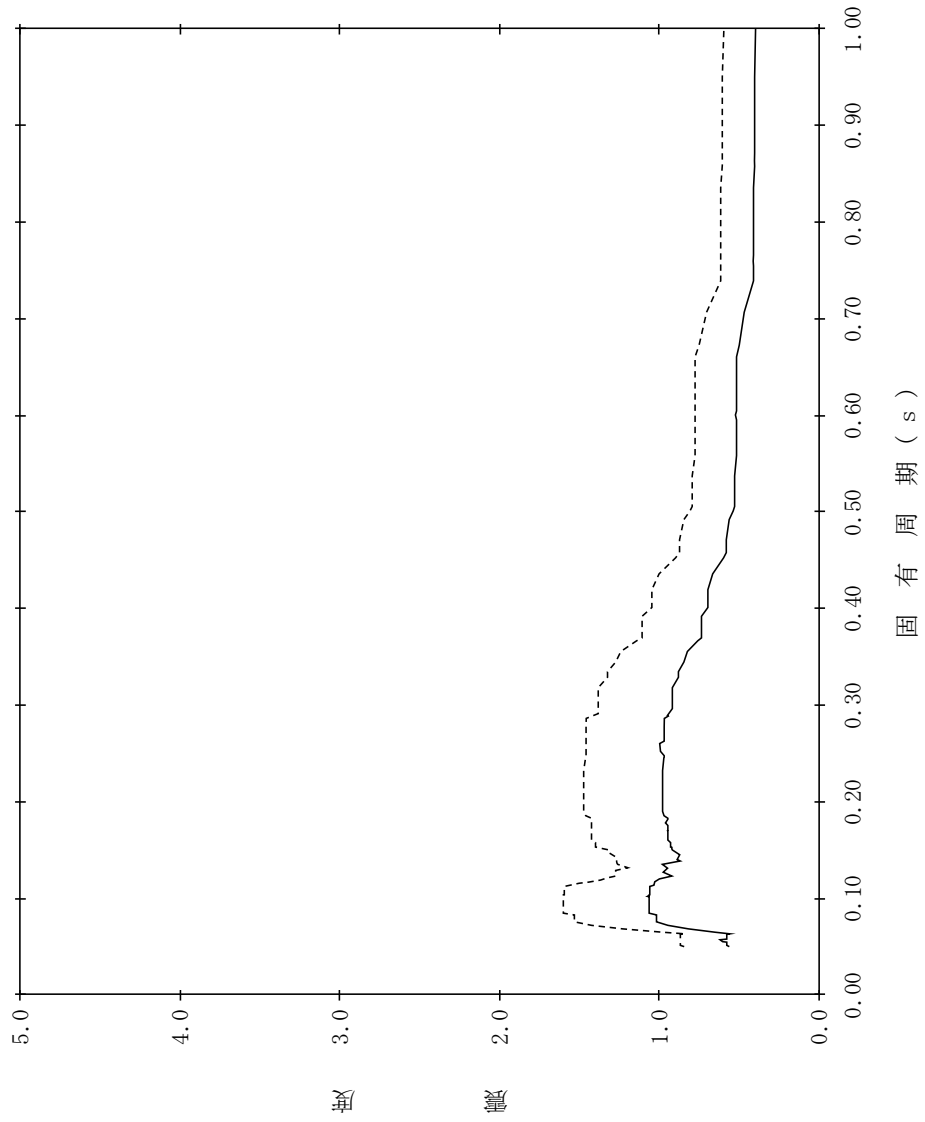
【NS2-RwB-SdV-RwB84】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



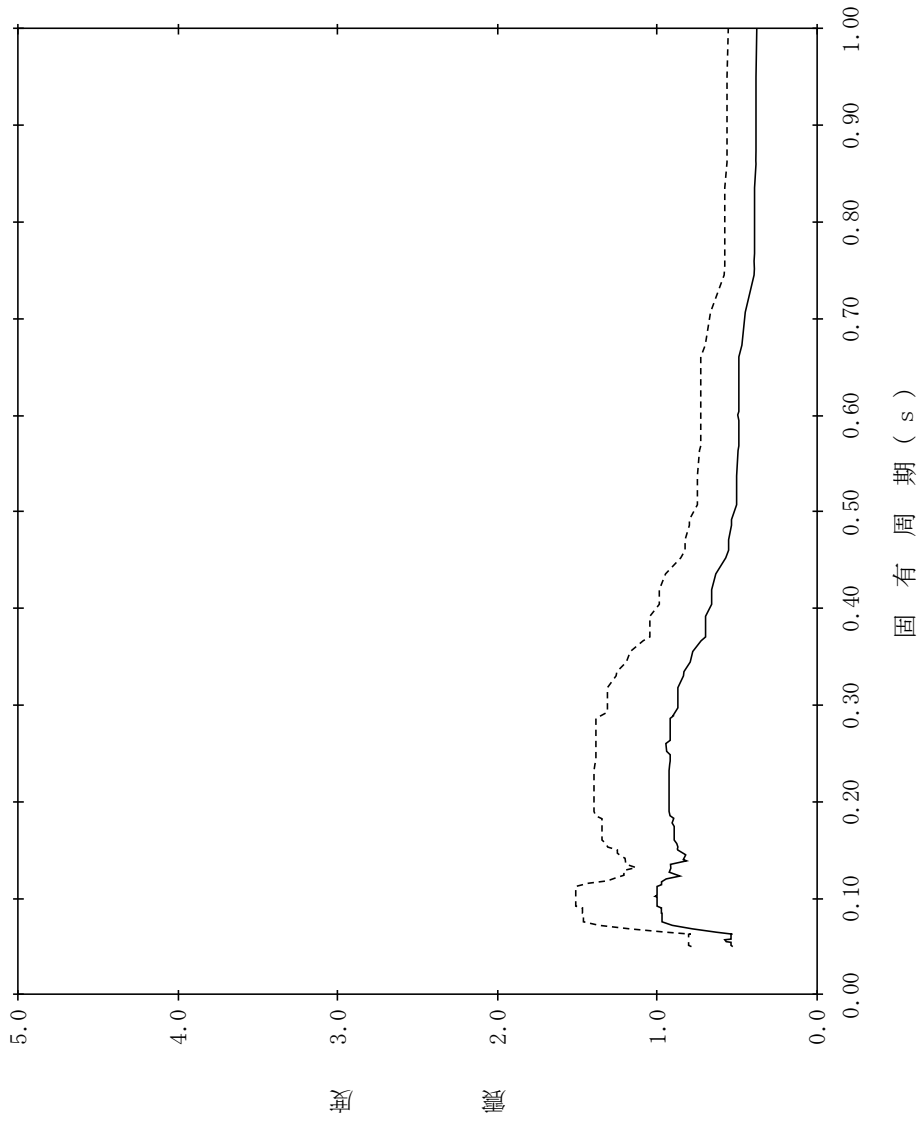
【NS2-RwB-SdV-RwB85】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



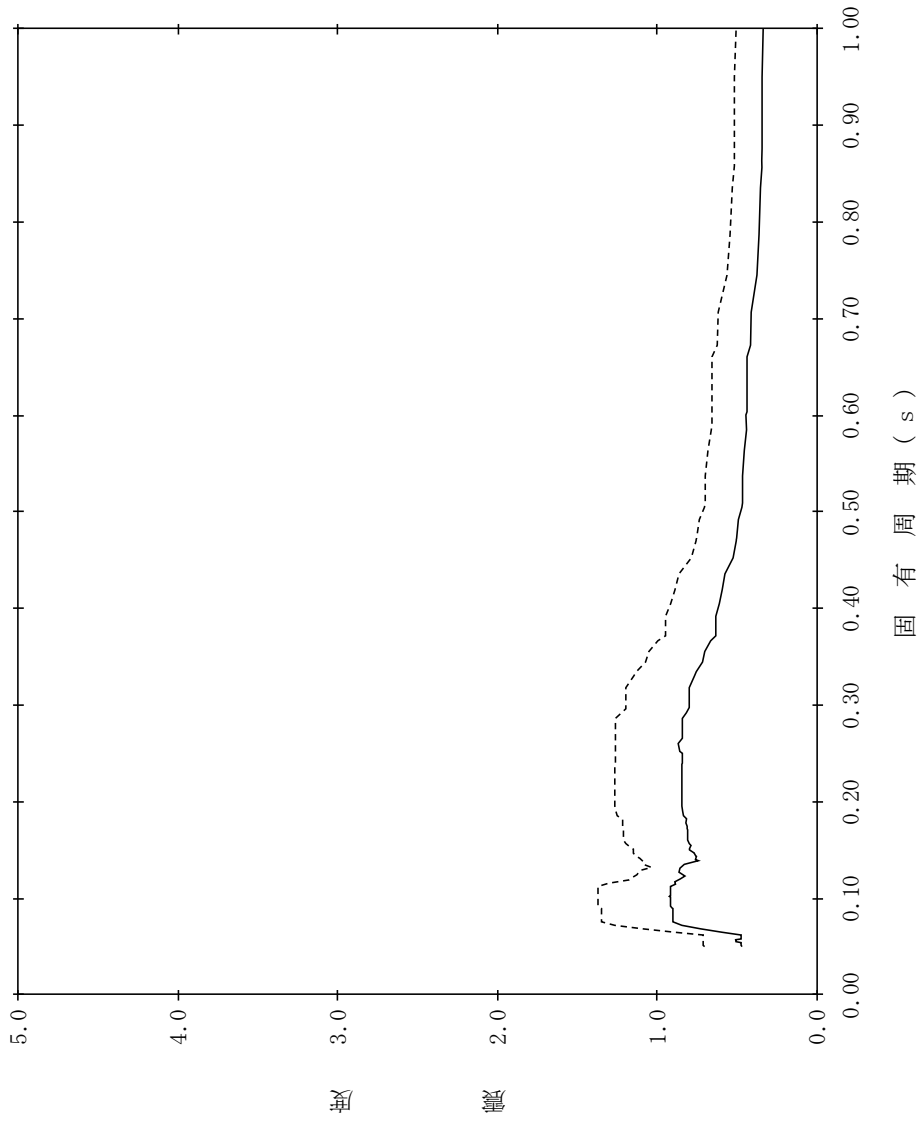
【NS2-RwB-SdV-RwB86】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RwB-SdV-RwB87】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RwB-SdV-RwB88】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：弾性設計用地震動 S d
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

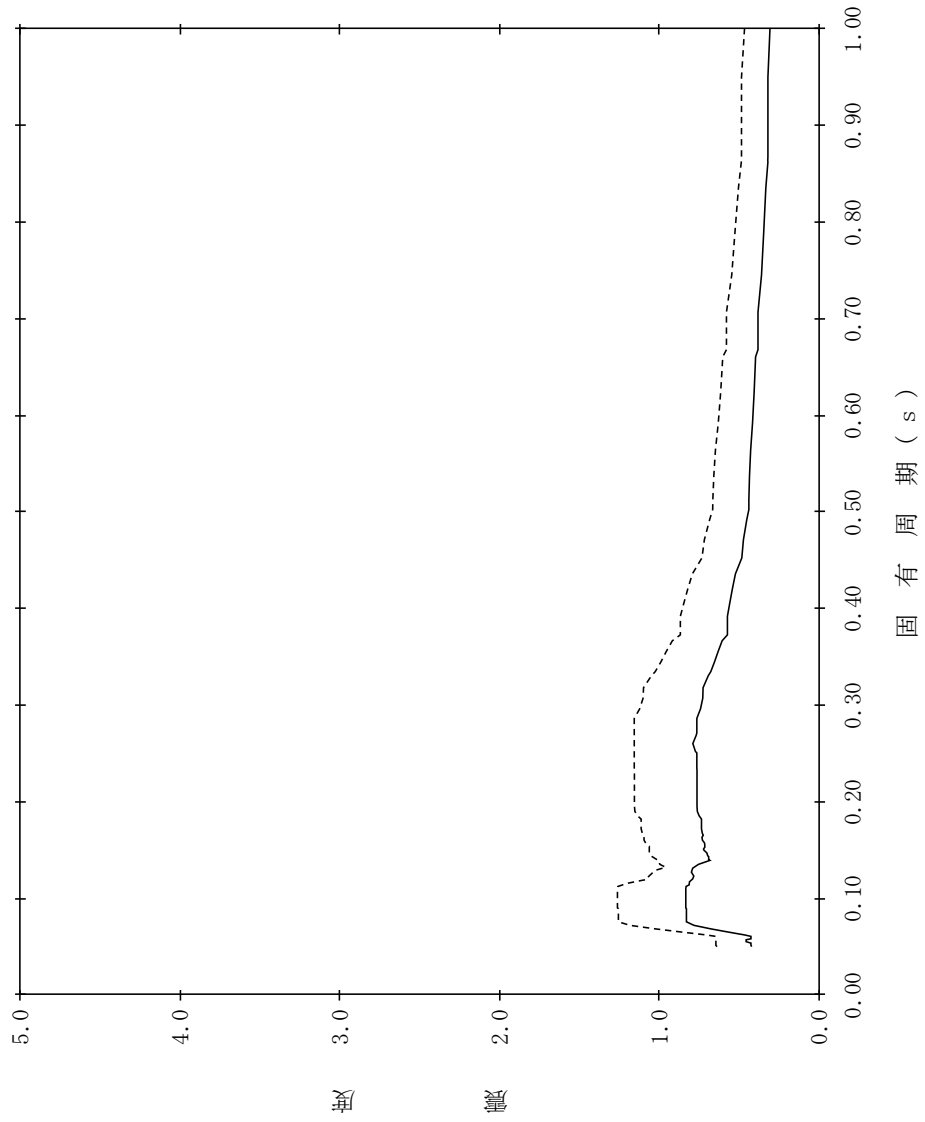


表 4.3-1 設計用震度 (S s) (原子炉建物) (1/2)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.0$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
					S s		鉛直方向	S s		鉛直方向
NS方向	EW方向	NS方向	EW方向	NS方向	EW方向					
原子炉建物	6, 20	3, 17	7	63.500	2.70	2.76	1.63	3.69	4.14	2.21
	7, 21	4, 18, 22	8	51.700	1.89	2.00	1.48	2.70	2.93	2.04
	8, 14, 22, 28	5, 11, 19, 23	9, 17	42.800	1.35	1.46	1.51	1.92	2.10	2.06
	1, 9, 15, 23, 29	6, 12, 20, 24, 29	1, 10, 18	34.800	1.06	1.17	1.49	1.56	1.73	1.98
	2, 10, 16, 24, 30	7, 13, 21, 25, 30	2, 11, 19	30.500	1.17	1.46	1.44	1.74	1.95	1.94
	10, 16, 24	13, 21	11, 19	30.500 (燃料プール)	1.08	1.20	1.44	1.55	1.77	1.94
	3, 11, 17, 25, 31	8, 14, 26, 31	3, 12, 20	23.800	1.02	0.98	1.28	1.44	1.43	1.73
	4, 12, 18, 26, 32	1, 9, 15, 27, 32	4, 13, 21	15.300	0.92	0.87	0.97	1.32	1.29	1.31
	19	16	22	10.100	0.96	0.98	0.70	1.44	1.44	1.05
	5, 13, 27, 33	2, 10, 28, 33	5, 14	8.800	0.86	0.88	0.64	1.25	1.29	0.96
	34	34	6, 15, 23	1.300	0.74	0.81	0.58	1.07	1.17	0.87
	35	35	16	-4.700	0.73	0.80	0.55	1.04	1.16	0.83

表 4.3-1 設計用震度 (S s) (原子炉建物) (2/2)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.2$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
					NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
原子炉建物	6, 20	3, 17	7	63.500	3.23	3.31	1.95	4.43	4.97	2.66
	7, 21	4, 18, 22	8	51.700	2.27	2.40	1.77	3.24	3.51	2.46
	8, 14, 22, 28	5, 11, 19, 23	9, 17	42.800	1.62	1.75	1.81	2.31	2.52	2.46
	1, 9, 15, 23, 29	6, 12, 20, 24, 29	1, 10, 18	34.800	1.27	1.41	1.79	1.88	2.07	2.39
	2, 10, 16, 24, 30	7, 13, 21, 25, 30	2, 11, 19	30.500	1.40	1.75	1.73	2.09	2.33	2.31
	10, 16, 24	13, 21	11, 19	30.500 (燃料プール)	1.30	1.44	1.73	1.86	2.13	2.31
	3, 11, 17, 25, 31	8, 14, 26, 31	3, 12, 20	23.800	1.23	1.17	1.54	1.73	1.71	2.07
	4, 12, 18, 26, 32	1, 9, 15, 27, 32	4, 13, 21	15.300	1.10	1.04	1.16	1.59	1.55	1.58
	19	16	22	10.100	1.15	1.18	0.84	1.73	1.74	1.25
	5, 13, 27, 33	2, 10, 28, 33	5, 14	8.800	1.03	1.06	0.77	1.49	1.56	1.16
	34	34	6, 15, 23	1.300	0.89	0.98	0.70	1.28	1.41	1.05
	35	35	16	-4.700	0.88	0.96	0.66	1.25	1.38	0.99

表 4.3-2 設計用震度 (S s) (原子炉格納容器内) (1/11)

構造物名	質点番号			標高 EL.(m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.0$					
	設計用震度 I				設計用震度 II					
	NS方向	EW方向	鉛直方向		NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
原子炉格納容器	41	42	29	39.400	1.43	2.05	0.89	1.98	2.30	1.29
	42	43	30	37.060	1.32	1.77	0.89	1.82	2.16	1.29
	43	44	31	34.758	1.22	1.63	0.88	1.71	2.03	1.28
	44	45	32	33.141	1.15	1.56	0.87	1.68	1.94	1.26
	45	46	33	29.392	1.07	1.82	0.86	1.53	1.70	1.25
	46	47	34	27.907	1.01	1.98	0.85	1.52	1.65	1.23
	47	48	35	22.932	1.09	1.13	0.81	1.58	1.44	1.19
	48	49	36	19.878	1.07	1.13	0.79	1.50	1.35	1.14
	49	50	37	16.825	0.99	0.98	0.76	1.44	1.32	1.11
	50	51	38	13.700	0.95	0.88	0.73	1.34	1.17	1.10
	51	52	39	11.900	0.92	0.83	0.72	1.29	1.25	1.08

表 4.3-2 設計用震度 (S s) (原子炉格納容器内) (2/11)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665 \text{m/s}^2$) $\times 1.2$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
	NS方向	EW方向	鉛直方向		NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
原子炉格納容器	41	42	29	39.400	1.71	2.46	1.07	2.37	2.76	1.55
	42	43	30	37.060	1.59	2.12	1.07	2.18	2.60	1.55
	43	44	31	34.758	1.46	1.95	1.06	2.06	2.43	1.53
	44	45	32	33.141	1.38	1.87	1.05	2.01	2.33	1.52
	45	46	33	29.392	1.29	2.19	1.03	1.85	2.04	1.49
	46	47	34	27.907	1.22	2.38	1.01	1.83	1.97	1.47
	47	48	35	22.932	1.31	1.36	0.97	1.89	1.74	1.43
	48	49	36	19.878	1.28	1.36	0.94	1.80	1.61	1.38
	49	50	37	16.825	1.18	1.18	0.92	1.73	1.58	1.34
	50	51	38	13.700	1.14	1.06	0.88	1.61	1.41	1.31
	51	52	39	11.900	1.10	1.00	0.86	1.55	1.50	1.29

表 4.3-2 設計用震度 (S s) (原子炉格納容器内) (3/11)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.0$					
	設計用震度 I				設計用震度 II					
	NS方向	EW方向	鉛直方向		NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
ガンマ線遮蔽壁	53				NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
		54	41	29.962	2.50	2.25	1.34	3.14	3.15	1.89
	54	55	42	26.981	2.19	2.17	1.29	2.72	2.94	1.83
	55	56	43	24.000	1.80	1.95	1.20	2.31	2.58	1.71
	56	57	44	21.500	1.51	1.65	1.11	1.94	2.30	1.58
	57	58	45	19.000	1.16	1.39	0.95	1.64	1.85	1.32
原子炉圧力容器 ベデスタル	58	59	46	15.944	1.00	1.14	0.82	1.47	1.65	1.14
	59	60	47	13.022	0.94	1.03	0.77	1.35	1.52	1.11

表 4.3-2 設計用震度 (S s) (原子炉格納容器内) (4/11)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.2$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
					NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
ガンマ線遮蔽壁	53	54	41	29.962	3.00	2.70	1.61	3.77	3.78	2.27
	54	55	42	26.981	2.62	2.60	1.55	3.26	3.53	2.19
	55	56	43	24.000	2.16	2.33	1.44	2.78	3.09	2.04
	56	57	44	21.500	1.81	1.98	1.33	2.33	2.75	1.88
	57	58	45	19.000	1.40	1.67	1.14	1.97	2.22	1.59
	58	59	46	15.944	1.20	1.37	0.98	1.77	1.98	1.37
	59	60	47	13.022	1.13	1.24	0.92	1.62	1.82	1.32
原子炉圧力容器 ペグスタル										

表 4.3-2 設計用震度 (S s) (原子炉格納容器内) (5/11)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665 \text{m/s}^2$) $\times 1.0$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
					S s			S s		
					NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
	61	62	49	37.494	5.24	5.36	1.13	6.57	7.01	1.58
	62	63	50	36.586	4.99	5.07	1.13	6.24	6.62	1.56
	63	64	51	35.678	4.73	4.78	1.13	5.91	6.21	1.56
	64	65	52	33.993	4.25	4.24	1.13	5.30	5.48	1.56
	65	66	53	32.567	3.83	3.76	1.12	4.76	4.82	1.56
	66	67	54	31.557	3.55	3.41	1.11	4.43	4.34	1.55
	67	68	55	30.369	3.23	3.00	1.10	4.11	3.87	1.53
	68	69	56	30.218	3.19	2.94	1.10	4.07	3.84	1.52
	69	70	57	29.181	2.98	2.66	1.09	3.86	3.62	1.50
	70	71	58	28.249	2.79	2.42	1.07	3.66	3.42	1.49
	71	72	59	27.317	2.61	2.22	1.06	3.47	3.21	1.47
	72	73	60	26.687	2.48	2.11	1.05	3.32	3.06	1.46
	73	74	61	25.414	2.26	1.93	1.03	3.02	2.85	1.44
	74	75	62	25.131	2.21	1.89	1.03	2.96	2.81	1.43
	75	76	63	24.419	2.09	1.81	1.02	2.78	2.69	1.41
	76	77	64	23.707	1.97	1.73	1.00	2.60	2.55	1.40
	77	78	65	22.995	1.85	1.65	0.99	2.46	2.42	1.38
	78	79	66	22.283	1.73	1.56	0.98	2.33	2.28	1.37
	79	80	67	21.064	1.53	1.41	0.95	2.10	2.04	1.32
	80	81	68	20.892	1.50	1.39	0.95	2.06	2.01	1.32
	81	82	69	20.214	1.39	1.31	0.94	1.94	1.91	1.31
	82	83	70	19.196	1.33	1.27	0.91	1.82	1.80	1.28
	83	84	71	18.250	1.25	1.26	0.90	1.73	1.79	1.25

原子炉压力容器

表 4.3-2 設計用震度 (S s) (原子炉格納容器内) (6/11)

構造物名	質点番号			標高 EL(m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.2$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
	NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	
原子炉压力容器	61	62	49	37.494	6.29	6.43	1.36	7.88	8.40	1.88
	62	63	50	36.586	5.99	6.08	1.36	7.49	7.94	1.88
	63	64	51	35.678	5.68	5.73	1.36	7.08	7.46	1.88
	64	65	52	33.993	5.10	5.09	1.35	6.36	6.57	1.88
	65	66	53	32.567	4.60	4.52	1.35	5.70	5.78	1.86
	66	67	54	31.557	4.26	4.09	1.33	5.31	5.19	1.85
	67	68	55	30.369	3.88	3.59	1.32	4.94	4.65	1.83
	68	69	56	30.218	3.83	3.53	1.32	4.89	4.61	1.83
	69	70	57	29.181	3.57	3.19	1.30	4.64	4.34	1.80
	70	71	58	28.249	3.35	2.91	1.29	4.40	4.10	1.79
	71	72	59	27.317	3.13	2.66	1.27	4.16	3.84	1.77
	72	73	60	26.687	2.98	2.53	1.26	3.98	3.68	1.76
	73	74	61	25.414	2.71	2.31	1.24	3.63	3.42	1.73
	74	75	62	25.131	2.65	2.27	1.23	3.54	3.38	1.71
	75	76	63	24.419	2.51	2.18	1.22	3.33	3.23	1.70
	76	77	64	23.707	2.36	2.08	1.20	3.12	3.06	1.68
	77	78	65	22.995	2.22	1.98	1.19	2.96	2.91	1.65
	78	79	66	22.283	2.08	1.87	1.17	2.79	2.75	1.64
	79	80	67	21.064	1.83	1.70	1.14	2.52	2.45	1.59
	80	81	68	20.892	1.80	1.67	1.14	2.48	2.42	1.59
	81	82	69	20.214	1.67	1.57	1.12	2.33	2.28	1.56
	82	83	70	19.196	1.60	1.52	1.10	2.18	2.16	1.53
	83	84	71	18.250	1.50	1.51	1.08	2.07	2.15	1.50

表 4.3-2 設計用震度 (S s) (原子炉格納容器内) (7/11)

構造物名	質点番号			標高 EL(m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.2$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
	NS方向	EW方向	鉛直方向		NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
炉心シュラウド	88	89	73	31.557	3.04	2.95	1.40	4.28	4.37	1.89
	89	90	74	30.369	2.64	2.61	1.40	3.57	3.60	1.89
	90	91	75	29.181	2.35	2.39	1.39	3.12	3.09	1.88
	91	92	76	28.249	2.23	2.21	1.38	2.96	2.85	1.86
	92	93	77	27.317	2.11	2.03	1.37	2.82	2.61	1.85
	93	94	78	26.687	2.03	1.92	1.37	2.73	2.46	1.83
	94	95	79	25.414	1.89	1.82	1.35	2.55	2.31	1.80
	95	96	80	25.843	1.95	1.86	1.35	2.61	2.34	1.82
	96	97	81	25.414	1.89	1.82	1.35	2.55	2.31	1.80
	97	98	82	25.131	1.86	1.80	1.34	2.51	2.30	1.80
	98	99	83	24.419	1.79	1.75	1.32	2.42	2.30	1.77
	99	100	84	23.707	1.73	1.70	1.30	2.34	2.31	1.74
	100	101	85	22.995	1.72	1.65	1.28	2.34	2.33	1.71
	101	102	86	22.283	1.70	1.60	1.26	2.34	2.31	1.67
	102	103	87	21.064	1.70	1.52	1.22	2.30	2.28	1.62
	103	104	88	21.571	1.72	1.57	1.22	2.34	2.34	1.62
	104	105	89	21.064	1.70	1.52	1.22	2.30	2.28	1.62
	105	106	90	20.892	1.71	1.51	1.21	2.30	2.27	1.62
106	107	91	20.214	1.64	1.51	1.19	2.25	2.22	1.59	
107	108	92	19.196	1.60	1.52	1.15	2.18	2.16	1.56	

表 4.3-2 設計用震度 (S s) (原子炉格納容器内) (8/11)

構造物名	質点番号			標高 EL(m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.0$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
	S s		S s		S s		S s			
NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向		
燃料集合体	113	114	94	25.843	1.62	1.55	1.35	2.18	1.95	1.92
	114	115	95	25.131	1.91	2.78	1.34	2.82	2.88	1.91
	115	116	96	24.419	2.48	3.83	1.33	3.69	3.98	1.89
	116	117	97	23.707	2.61	4.10	1.32	3.89	4.43	1.88
	117	118	98	22.995	2.32	3.45	1.30	3.44	3.89	1.86
	118	119	99	22.283	1.73	2.21	1.29	2.49	2.61	1.83
	119	120	100	21.571	1.43	1.31	1.27	1.95	1.95	1.80

表 4.3-2 設計用震度 (S s) (原子炉格納容器内) (9/11)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.2$					
	設計用震度 I				設計用震度 II			設計用震度 II		
	NS方向	EW方向	鉛直方向		NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
制御棒駆動機構 ハウジング (内側)	127	128	107	17.499	1.45	2.04	1.12	2.09	2.06	1.56
	128	129	108	16.508	1.41	1.54	1.10	2.01	2.18	1.53
	129	130	109	15.644	1.57	1.75	1.10	2.27	2.34	1.53
	130	131	110	14.781	1.78	2.36	1.11	2.55	3.14	1.53
	131	132	111	13.917	1.81	2.67	1.11	2.66	3.60	1.55
	132	133	112	13.054	1.95	2.67	1.11	2.63	3.68	1.55
制御棒駆動機構 ハウジング (外側)	108	109	93	17.442 (水平) 17.419 (鉛直)	1.45	1.52	1.09	2.04	2.16	1.52
	109	110	113	16.345	2.01	2.88	1.10	2.79	3.86	1.52
	110	111	114	15.248	3.49	5.65	1.10	4.82	7.70	1.53
	111	112	115	14.151	3.41	5.44	1.11	4.58	7.44	1.53
	112	113	116	13.054	1.92	2.64	1.11	2.60	3.63	1.53

表 4.3-2 設計用震度 (S s) (原子炉格納容器内) (10/11)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.0$					
	設計用震度 I				設計用震度 II			設計用震度 II		
	NS方向	EW方向	鉛直方向		NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
原子炉压力容器 下鏡	85	86	71	18.250	1.25	1.26	0.90	1.73	1.79	1.25
	86	87	93		1.21	1.27	0.91	1.70	1.80	1.26
	87	88	108		1.17	1.28	0.92	1.68	1.82	1.28

表 4.3-2 設計用震度 (S s) (原子炉格納容器内) (11/11)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.2$					
	設計用震度 I				設計用震度 II			設計用震度 II		
	NS方向	EW方向	鉛直方向		NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
原子炉压力容器 下鏡	85	86	71	18.250	1.50	1.51	1.08	2.07	2.15	1.50
	86	87	93		1.45	1.52	1.09	2.04	2.16	1.52
	87	88	108		1.41	1.54	1.10	2.01	2.18	1.53

表 4.3-3 設計用震度 (S s) (制御室建物) (1/2)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.0$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
					S s		鉛直方向	S s		鉛直方向
NS方向	EW方向	NS方向	EW方向	鉛直方向						
制御室建物	1	1	1	22.050	1.40	2.03	1.00	2.10	3.03	1.49
	2	2	2	16.900	1.27	1.96	0.88	1.89	2.84	1.32
	3	3	3	12.800	1.02	1.43	0.78	1.47	2.01	1.16
	4,7	4	4	8.800	0.88	1.01	0.66	1.32	1.52	0.99
	5	5	5	1.600	0.72	0.81	0.59	1.08	1.22	0.80
	6	6	6	0.100	0.71	0.81	0.59	1.07	1.22	0.80

表 4.3-3 設計用震度 (S s) (制御室建物) (2/2)

構造物名	震点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.2$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
					NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
制御室建物	1	1	1	22.050	1.68	2.43	1.19	2.52	3.65	1.77
	2	2	2	16.900	1.53	2.36	1.06	2.27	3.41	1.58
	3	3	3	12.800	1.23	1.71	0.93	1.76	2.42	1.40
	4,7	4	4	8.800	1.05	1.21	0.79	1.58	1.82	1.19
	5	5	5	1.600	0.86	0.97	0.71	1.29	1.46	0.96
	6	6	6	0.100	0.85	0.97	0.71	1.28	1.46	0.96

表 4.3-4 設計用震度(S s)(タービン建物) (1/2)

構造物名	質点番号			標高 EL(m)	震度($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.0$								
					設計用震度 I			設計用震度 II					
					NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
タービン建物	5, 7, 13, 22, 28	1, 8, 14	1	41.600	3.30	3.19	1.48	4.88	4.49	2.16			
	1, 6, 8	19	—	33.700	2.36	1.77	1.48	3.26	2.66	2.16			
	9, 18, 24	2, 9	2	32.000	2.47	2.24	1.24	3.56	3.36	1.83			
	14, 23, 29	15	—	30.550	4.13	1.72	1.24	5.96	2.46	1.83			
	2, 10, 15, 19, 25, 30	3, 5, 10, 16, 20	3	20.600	2.23	1.69	0.90	3.17	2.54	1.32			
	3, 11, 16, 20, 26, 31	4, 11, 17, 21	4	12.500	1.61	1.34	0.72	2.19	1.92	1.07			
	4	6	—	9.000(NS) 8.800(EW)	1.09	1.16	0.72	1.64	1.70	1.07			
	12, 17, 21, 27	7, 12, 13, 18, 22	5	5.500	1.28	1.21	0.60	1.82	1.82	0.89			
	34	25	8	2.000	0.98	0.96	0.56	1.46	1.43	0.83			
	35	26	9	0.000	0.98	0.96	0.56	1.46	1.43	0.83			
蒸気タービンの基礎	32	23	6	20.480	1.83	1.63	1.28	2.60	2.33	1.74			
	33	24	7	13.000	1.43	1.71	0.90	2.00	2.15	1.23			

表 4.3-4 設計用震度 (S s) (タービン建物) (2/2)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.2$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
					NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
タービン建物	5, 7, 13, 22, 28	1, 8, 14	1	41.600	3.96	3.83	1.77	5.85	5.37	2.60
	1, 6, 8	19	—	33.700	2.83	2.13	1.77	3.90	3.20	2.60
	9, 18, 24	2, 9	2	32.000	2.97	2.69	1.49	4.26	4.04	2.19
	14, 23, 29	15	—	30.550	4.95	2.06	1.49	7.14	2.96	2.19
	2, 10, 15, 19, 25, 30	3, 5, 10, 16, 20	3	20.600	2.67	2.03	1.08	3.80	3.05	1.59
	3, 11, 16, 20, 26, 31	4, 11, 17, 21	4	12.500	1.93	1.61	0.87	2.63	2.31	1.28
	4	6	—	9.000(NS) 8.800(EW)	1.31	1.39	0.87	1.97	2.04	1.28
	12, 17, 21, 27	7, 12, 13, 18, 22	5	5.500	1.53	1.45	0.72	2.18	2.18	1.05
	34	25	8	2.000	1.18	1.16	0.68	1.74	1.71	0.99
	35	26	9	0.000	1.17	1.15	0.67	1.74	1.70	0.99
蒸気タービンの基礎	32	23	6	20.480	2.19	1.96	1.54	3.11	2.78	2.10
	33	24	7	13.000	1.71	2.05	1.07	2.40	2.58	1.49

表 4.3-5 設計用震度 (S s) (廃棄物処理建物) (1/2)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665 \text{m/s}^2$) $\times 1.0$					
	設計用震度 I				設計用震度 II					
	NS方向	EW方向	鉛直方向		NS方向	EW方向	鉛直方向			
廃棄物処理建物	1	1	1	42.000	1.87	1.84	1.07	2.79	2.75	1.52
	2	2	2	37.500	1.42	1.50	1.02	2.13	2.24	1.46
	3	3	3	32.000	1.29	1.25	0.97	1.92	1.85	1.46
	4	4	4	26.700	1.19	1.21	0.96	1.73	1.82	1.44
	5	5	5	22.100	1.10	1.05	0.92	1.62	1.56	1.38
	6	6	6	16.900	1.07	1.01	0.81	1.56	1.47	1.22
	7	7	7	15.300	1.05	1.10	0.77	1.53	1.65	1.16
	8	8	8	12.300	1.03	0.96	0.70	1.49	1.40	1.05
	9	9	9	8.800	1.02	0.95	0.64	1.46	1.37	0.93
	10	10	10	3.000	0.81	0.84	0.57	1.16	1.20	0.78
	11	11	11	0.000	0.80	0.83	0.56	1.14	1.19	0.77

表 4.3-5 設計用震度 (S s) (廃棄物処理建物) (2/2)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.2$							
					設計用震度 I			設計用震度 II				
					S s		S s		S s		S s	
NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	
廃棄物処理建物	1	1	1	42.000	2.24	2.21	1.29	3.35	3.29	1.82	3.29	1.82
	2	2	2	37.500	1.70	1.80	1.22	2.55	2.69	1.76	2.69	1.76
	3	3	3	32.000	1.55	1.50	1.16	2.30	2.21	1.74	2.21	1.74
	4	4	4	26.700	1.42	1.45	1.15	2.06	2.18	1.73	2.18	1.73
	5	5	5	22.100	1.31	1.26	1.10	1.95	1.88	1.65	1.88	1.65
	6	6	6	16.900	1.29	1.22	0.97	1.88	1.77	1.46	1.77	1.46
	7	7	7	15.300	1.26	1.31	0.92	1.85	1.97	1.38	1.97	1.38
	8	8	8	12.300	1.24	1.15	0.84	1.79	1.67	1.26	1.67	1.26
	9	9	9	8.800	1.23	1.13	0.77	1.74	1.64	1.11	1.64	1.11
	10	10	10	3.000	0.97	1.01	0.68	1.38	1.44	0.93	1.44	0.93
	11	11	11	0.000	0.96	0.99	0.67	1.38	1.43	0.92	1.43	0.92

表 4.3-6 設計用震度 (S s) (緊急時対策所) (1/2)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.0$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
	S s				S s					
	NS方向	EW方向	鉛直方向		NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
緊急時対策所	1	1	1	56.600	1.52	1.61	0.81	2.28	2.42	1.17
	2	2	2	50.250	1.22	1.20	0.81	1.83	1.80	1.16
	3	3	3	48.250	1.19	1.17	0.81	1.79	1.76	1.14

表 4.3-6 設計用震度 (S s) (緊急時対策所) (2/2)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.2$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
					S s			S s		
NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向		
緊急時対策所	1	1	1	56.600	1.83	1.93	0.97	2.75	2.90	1.41
	2	2	2	50.250	1.47	1.44	0.97	2.21	2.16	1.38
	3	3	3	48.250	1.43	1.40	0.97	2.15	2.10	1.37

表 4.3-7 設計用震度 (S s) (ガスタービン発電機建物) (1/2)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665 \text{m/s}^2$) $\times 1.0$					
					設計用震度 I S s			設計用震度 II S s		
	NS方向	EW方向	鉛直方向		NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
ガスタービン発電機建物	1	1	1	61.500	2.03	2.11	0.92	3.05	3.11	1.22
	2	2	2	54.500	1.33	1.43	0.69	1.97	2.15	1.02
	3	3	3	47.500	0.95	0.96	0.61	1.43	1.40	0.92
	4	4	4	44.000	0.91	0.95	0.59	1.35	1.38	0.89

表 4.3-7 設計用震度(S s)(ガスタービン発電機建物) (2/2)

構造物名	質点番号			標高 EL (m)	震度 ($\times 9.80665\text{m/s}^2$) $\times 1.2$					
					設計用震度 I			設計用震度 II		
	NS方向	EW方向	鉛直方向		NS方向	EW方向	鉛直方向	NS方向	EW方向	鉛直方向
ガスタービン発電機建物	1	1	1	61.500	2.44	2.54	1.11	3.66	3.72	1.47
	2	2	2	54.500	1.60	1.72	0.83	2.36	2.57	1.23
	3	3	3	47.500	1.14	1.16	0.73	1.71	1.68	1.10
	4	4	4	44.000	1.09	1.14	0.71	1.62	1.67	1.05

表 4.4-1 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (原子炉建物) (1/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S _s	原子炉建物	NS 方向	6, 20	63.500	0.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 1
					1.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 2
					1.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 3
					2.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 4
					2.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 5
					3.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 6
					4.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 7
					5.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 8
			7, 21	51.700	0.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 9
					1.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 10
					1.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 11
					2.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 12
					2.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 13
					3.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 14
					4.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 15
					5.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 16
			8, 14, 22, 28	42.800	0.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 17
					1.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 18
					1.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 19
					2.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 20
					2.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 21
					3.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 22
					4.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 23
					5.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 24
			1, 9, 15, 23, 29	34.800	0.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 25
					1.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 26
					1.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 27
					2.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 28
					2.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 29
					3.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 30
					4.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 31
					5.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 32
			2, 10, 16, 24, 30	30.500	0.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 33
					1.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 34
					1.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 35
					2.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 36
					2.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 37
					3.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 38
					4.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 39
					5.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 40
			10, 16, 24	30.500 (燃料プール)	0.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 41
					1.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 42
					1.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 43
					2.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 44
					2.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 45
					3.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 46
					4.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 47
					5.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 48

表 4.4-1 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (原子炉建物) (2/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S _s	原子炉建物	NS 方向	3, 11, 17, 25, 31	23.800	0.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 49
					1.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 50
					1.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 51
					2.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 52
					2.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 53
					3.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 54
					4.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 55
			5.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 56		
			4, 12, 18, 26, 32	15.300	0.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 57
					1.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 58
					1.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 59
					2.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 60
					2.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 61
					3.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 62
					4.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 63
			5.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 64		
			19	10.100	0.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 65
					1.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 66
					1.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 67
					2.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 68
					2.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 69
					3.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 70
					4.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 71
			5.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 72		
			5, 13, 27, 33	8.800	0.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 73
					1.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 74
					1.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 75
					2.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 76
					2.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 77
					3.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 78
					4.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 79
			5.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 80		
			34	1.300	0.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 81
					1.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 82
					1.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 83
					2.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 84
					2.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 85
					3.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 86
					4.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 87
			5.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 88		
			35	-4.700	0.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 89
					1.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 90
					1.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 91
					2.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 92
					2.5	NS2 - RB - S _s NS - RB 93
3.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 94					
4.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 95					
5.0	NS2 - RB - S _s NS - RB 96					

表 4.4-1 設計用床応答スペクトル (S s) 一覧表 (原子炉建物) (3/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S s	原子炉建物	EW 方向	3, 17	63.500	0.5	NS2 - RB - SsEW - RB 1
					1.0	NS2 - RB - SsEW - RB 2
					1.5	NS2 - RB - SsEW - RB 3
					2.0	NS2 - RB - SsEW - RB 4
					2.5	NS2 - RB - SsEW - RB 5
					3.0	NS2 - RB - SsEW - RB 6
					4.0	NS2 - RB - SsEW - RB 7
					5.0	NS2 - RB - SsEW - RB 8
			4, 18, 22	51.700	0.5	NS2 - RB - SsEW - RB 9
					1.0	NS2 - RB - SsEW - RB 10
					1.5	NS2 - RB - SsEW - RB 11
					2.0	NS2 - RB - SsEW - RB 12
					2.5	NS2 - RB - SsEW - RB 13
					3.0	NS2 - RB - SsEW - RB 14
					4.0	NS2 - RB - SsEW - RB 15
					5.0	NS2 - RB - SsEW - RB 16
			5, 11, 19, 23	42.800	0.5	NS2 - RB - SsEW - RB 17
					1.0	NS2 - RB - SsEW - RB 18
					1.5	NS2 - RB - SsEW - RB 19
					2.0	NS2 - RB - SsEW - RB 20
					2.5	NS2 - RB - SsEW - RB 21
					3.0	NS2 - RB - SsEW - RB 22
					4.0	NS2 - RB - SsEW - RB 23
					5.0	NS2 - RB - SsEW - RB 24
			6, 12, 20, 24, 29	34.800	0.5	NS2 - RB - SsEW - RB 25
					1.0	NS2 - RB - SsEW - RB 26
					1.5	NS2 - RB - SsEW - RB 27
					2.0	NS2 - RB - SsEW - RB 28
					2.5	NS2 - RB - SsEW - RB 29
					3.0	NS2 - RB - SsEW - RB 30
					4.0	NS2 - RB - SsEW - RB 31
					5.0	NS2 - RB - SsEW - RB 32
			7, 13, 21, 25, 30	30.500	0.5	NS2 - RB - SsEW - RB 33
					1.0	NS2 - RB - SsEW - RB 34
					1.5	NS2 - RB - SsEW - RB 35
					2.0	NS2 - RB - SsEW - RB 36
					2.5	NS2 - RB - SsEW - RB 37
					3.0	NS2 - RB - SsEW - RB 38
					4.0	NS2 - RB - SsEW - RB 39
					5.0	NS2 - RB - SsEW - RB 40
			13, 21	30.500 (燃料プール)	0.5	NS2 - RB - SsEW - RB 41
					1.0	NS2 - RB - SsEW - RB 42
					1.5	NS2 - RB - SsEW - RB 43
					2.0	NS2 - RB - SsEW - RB 44
					2.5	NS2 - RB - SsEW - RB 45
					3.0	NS2 - RB - SsEW - RB 46
					4.0	NS2 - RB - SsEW - RB 47
					5.0	NS2 - RB - SsEW - RB 48

表 4.4-1 設計用床応答スペクトル (S s) 一覧表 (原子炉建物) (4/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL (m)	減衰定数 (%)	図番
S s	原子炉建物	EW 方向	8, 14, 26, 31	23.800	0.5	NS2 - RB - SsEW - RB 49
					1.0	NS2 - RB - SsEW - RB 50
					1.5	NS2 - RB - SsEW - RB 51
					2.0	NS2 - RB - SsEW - RB 52
					2.5	NS2 - RB - SsEW - RB 53
					3.0	NS2 - RB - SsEW - RB 54
					4.0	NS2 - RB - SsEW - RB 55
			5.0	NS2 - RB - SsEW - RB 56		
			1, 9, 15, 27, 32	15.300	0.5	NS2 - RB - SsEW - RB 57
					1.0	NS2 - RB - SsEW - RB 58
					1.5	NS2 - RB - SsEW - RB 59
					2.0	NS2 - RB - SsEW - RB 60
					2.5	NS2 - RB - SsEW - RB 61
					3.0	NS2 - RB - SsEW - RB 62
					4.0	NS2 - RB - SsEW - RB 63
			5.0	NS2 - RB - SsEW - RB 64		
			16	10.100	0.5	NS2 - RB - SsEW - RB 65
					1.0	NS2 - RB - SsEW - RB 66
					1.5	NS2 - RB - SsEW - RB 67
					2.0	NS2 - RB - SsEW - RB 68
					2.5	NS2 - RB - SsEW - RB 69
					3.0	NS2 - RB - SsEW - RB 70
					4.0	NS2 - RB - SsEW - RB 71
			5.0	NS2 - RB - SsEW - RB 72		
			2, 10, 28, 33	8.800	0.5	NS2 - RB - SsEW - RB 73
					1.0	NS2 - RB - SsEW - RB 74
					1.5	NS2 - RB - SsEW - RB 75
					2.0	NS2 - RB - SsEW - RB 76
					2.5	NS2 - RB - SsEW - RB 77
					3.0	NS2 - RB - SsEW - RB 78
					4.0	NS2 - RB - SsEW - RB 79
			5.0	NS2 - RB - SsEW - RB 80		
			34	1.300	0.5	NS2 - RB - SsEW - RB 81
					1.0	NS2 - RB - SsEW - RB 82
					1.5	NS2 - RB - SsEW - RB 83
					2.0	NS2 - RB - SsEW - RB 84
					2.5	NS2 - RB - SsEW - RB 85
					3.0	NS2 - RB - SsEW - RB 86
					4.0	NS2 - RB - SsEW - RB 87
			5.0	NS2 - RB - SsEW - RB 88		
			35	-4.700	0.5	NS2 - RB - SsEW - RB 89
					1.0	NS2 - RB - SsEW - RB 90
					1.5	NS2 - RB - SsEW - RB 91
					2.0	NS2 - RB - SsEW - RB 92
					2.5	NS2 - RB - SsEW - RB 93
					3.0	NS2 - RB - SsEW - RB 94
					4.0	NS2 - RB - SsEW - RB 95
			5.0	NS2 - RB - SsEW - RB 96		

表 4.4-1 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (原子炉建物) (5/6)

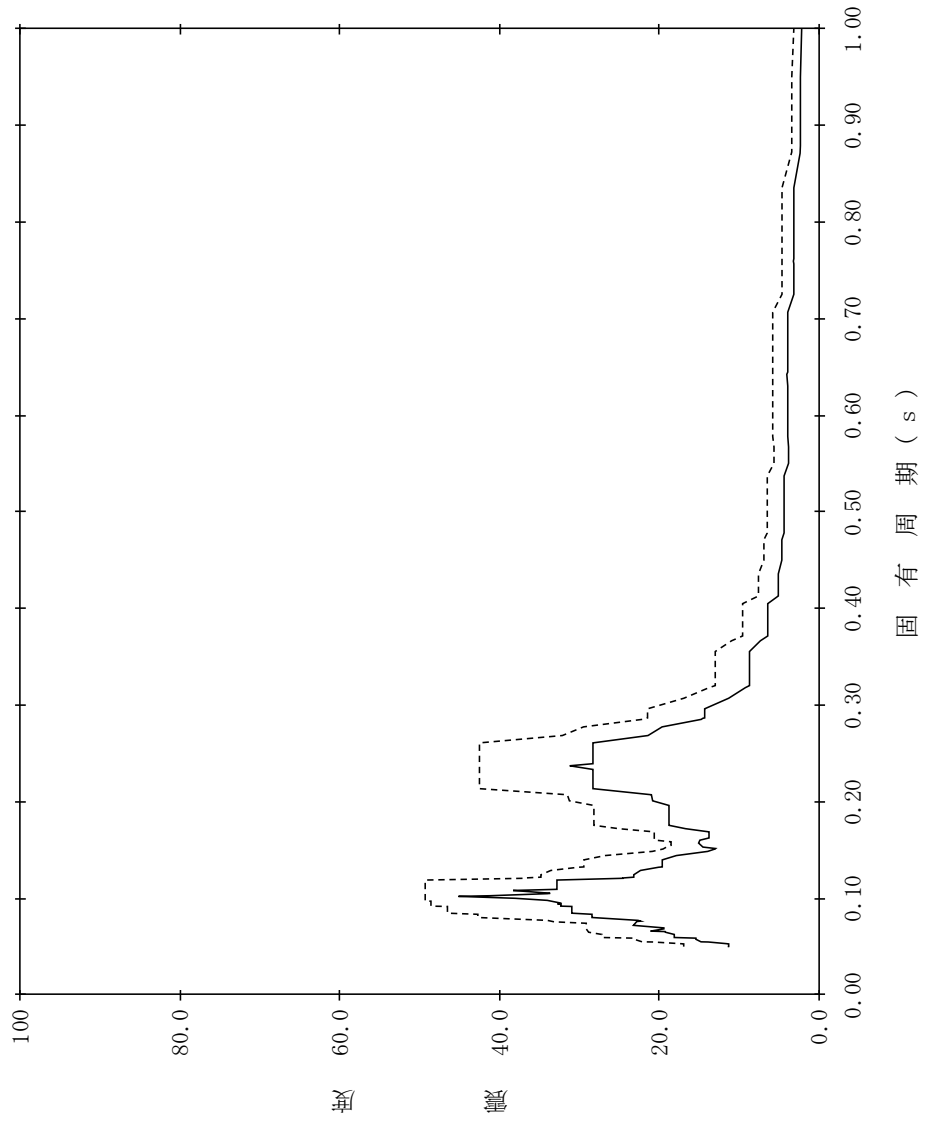
地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S _s	原子炉建物	鉛直 方向	7	63.500	0.5	NS2 - RB - S _s V - RB 1
					1.0	NS2 - RB - S _s V - RB 2
					1.5	NS2 - RB - S _s V - RB 3
					2.0	NS2 - RB - S _s V - RB 4
					2.5	NS2 - RB - S _s V - RB 5
					3.0	NS2 - RB - S _s V - RB 6
					4.0	NS2 - RB - S _s V - RB 7
			8	51.700	5.0	NS2 - RB - S _s V - RB 8
					0.5	NS2 - RB - S _s V - RB 9
					1.0	NS2 - RB - S _s V - RB 10
					1.5	NS2 - RB - S _s V - RB 11
					2.0	NS2 - RB - S _s V - RB 12
					2.5	NS2 - RB - S _s V - RB 13
					3.0	NS2 - RB - S _s V - RB 14
			9, 17	42.800	4.0	NS2 - RB - S _s V - RB 15
					5.0	NS2 - RB - S _s V - RB 16
					0.5	NS2 - RB - S _s V - RB 17
					1.0	NS2 - RB - S _s V - RB 18
					1.5	NS2 - RB - S _s V - RB 19
					2.0	NS2 - RB - S _s V - RB 20
					2.5	NS2 - RB - S _s V - RB 21
			1, 10, 18	34.800	3.0	NS2 - RB - S _s V - RB 22
					4.0	NS2 - RB - S _s V - RB 23
					5.0	NS2 - RB - S _s V - RB 24
					0.5	NS2 - RB - S _s V - RB 25
					1.0	NS2 - RB - S _s V - RB 26
					1.5	NS2 - RB - S _s V - RB 27
					2.0	NS2 - RB - S _s V - RB 28
			2, 11, 19	30.500	2.5	NS2 - RB - S _s V - RB 29
					3.0	NS2 - RB - S _s V - RB 30
					4.0	NS2 - RB - S _s V - RB 31
					5.0	NS2 - RB - S _s V - RB 32
					0.5	NS2 - RB - S _s V - RB 33
					1.0	NS2 - RB - S _s V - RB 34
					1.5	NS2 - RB - S _s V - RB 35
			11, 19	30.500 (燃料プール)	2.0	NS2 - RB - S _s V - RB 36
					2.5	NS2 - RB - S _s V - RB 37
					3.0	NS2 - RB - S _s V - RB 38
					4.0	NS2 - RB - S _s V - RB 39
					5.0	NS2 - RB - S _s V - RB 40
					0.5	NS2 - RB - S _s V - RB 41
					1.0	NS2 - RB - S _s V - RB 42
					1.5	NS2 - RB - S _s V - RB 43
					2.0	NS2 - RB - S _s V - RB 44
					2.5	NS2 - RB - S _s V - RB 45
					3.0	NS2 - RB - S _s V - RB 46
					4.0	NS2 - RB - S _s V - RB 47
					5.0	NS2 - RB - S _s V - RB 48

表 4.4-1 設計用床応答スペクトル (S s) 一覧表 (原子炉建物) (6/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数 (%)	図番
S s	原子炉建物	鉛直方向	3, 12, 20	23.800	0.5	NS2 - RB - SsV - RB 49
					1.0	NS2 - RB - SsV - RB 50
					1.5	NS2 - RB - SsV - RB 51
					2.0	NS2 - RB - SsV - RB 52
					2.5	NS2 - RB - SsV - RB 53
					3.0	NS2 - RB - SsV - RB 54
					4.0	NS2 - RB - SsV - RB 55
					5.0	NS2 - RB - SsV - RB 56
			4, 13, 21	15.300	0.5	NS2 - RB - SsV - RB 57
					1.0	NS2 - RB - SsV - RB 58
					1.5	NS2 - RB - SsV - RB 59
					2.0	NS2 - RB - SsV - RB 60
					2.5	NS2 - RB - SsV - RB 61
					3.0	NS2 - RB - SsV - RB 62
					4.0	NS2 - RB - SsV - RB 63
					5.0	NS2 - RB - SsV - RB 64
			22	10.100	0.5	NS2 - RB - SsV - RB 65
					1.0	NS2 - RB - SsV - RB 66
					1.5	NS2 - RB - SsV - RB 67
					2.0	NS2 - RB - SsV - RB 68
					2.5	NS2 - RB - SsV - RB 69
					3.0	NS2 - RB - SsV - RB 70
					4.0	NS2 - RB - SsV - RB 71
					5.0	NS2 - RB - SsV - RB 72
			5, 14	8.800	0.5	NS2 - RB - SsV - RB 73
					1.0	NS2 - RB - SsV - RB 74
					1.5	NS2 - RB - SsV - RB 75
					2.0	NS2 - RB - SsV - RB 76
					2.5	NS2 - RB - SsV - RB 77
					3.0	NS2 - RB - SsV - RB 78
					4.0	NS2 - RB - SsV - RB 79
					5.0	NS2 - RB - SsV - RB 80
			6, 15, 23	1.300	0.5	NS2 - RB - SsV - RB 81
					1.0	NS2 - RB - SsV - RB 82
					1.5	NS2 - RB - SsV - RB 83
					2.0	NS2 - RB - SsV - RB 84
					2.5	NS2 - RB - SsV - RB 85
					3.0	NS2 - RB - SsV - RB 86
					4.0	NS2 - RB - SsV - RB 87
					5.0	NS2 - RB - SsV - RB 88
			16	-4.700	0.5	NS2 - RB - SsV - RB 89
					1.0	NS2 - RB - SsV - RB 90
					1.5	NS2 - RB - SsV - RB 91
					2.0	NS2 - RB - SsV - RB 92
					2.5	NS2 - RB - SsV - RB 93
					3.0	NS2 - RB - SsV - RB 94
					4.0	NS2 - RB - SsV - RB 95
					5.0	NS2 - RB - SsV - RB 96

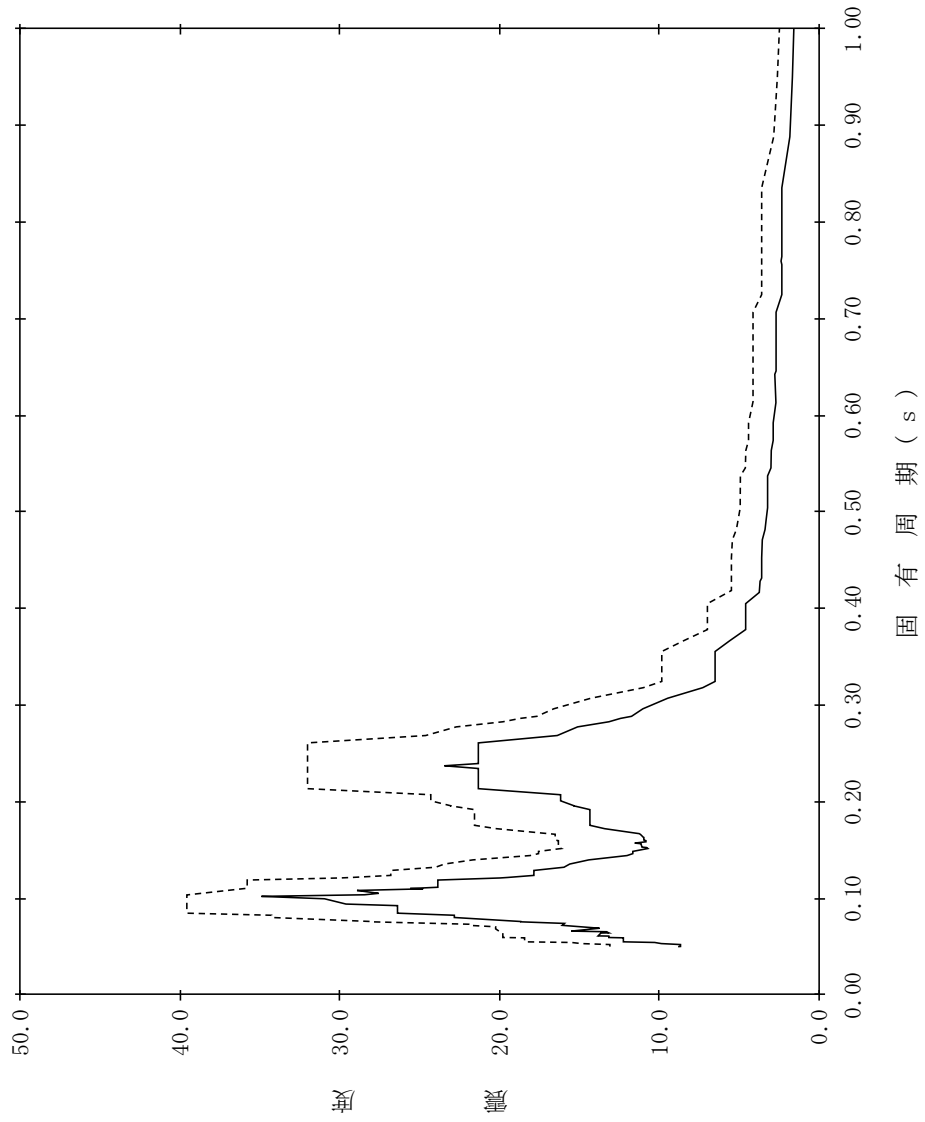
【NS2-RB-SsNS-RB1】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



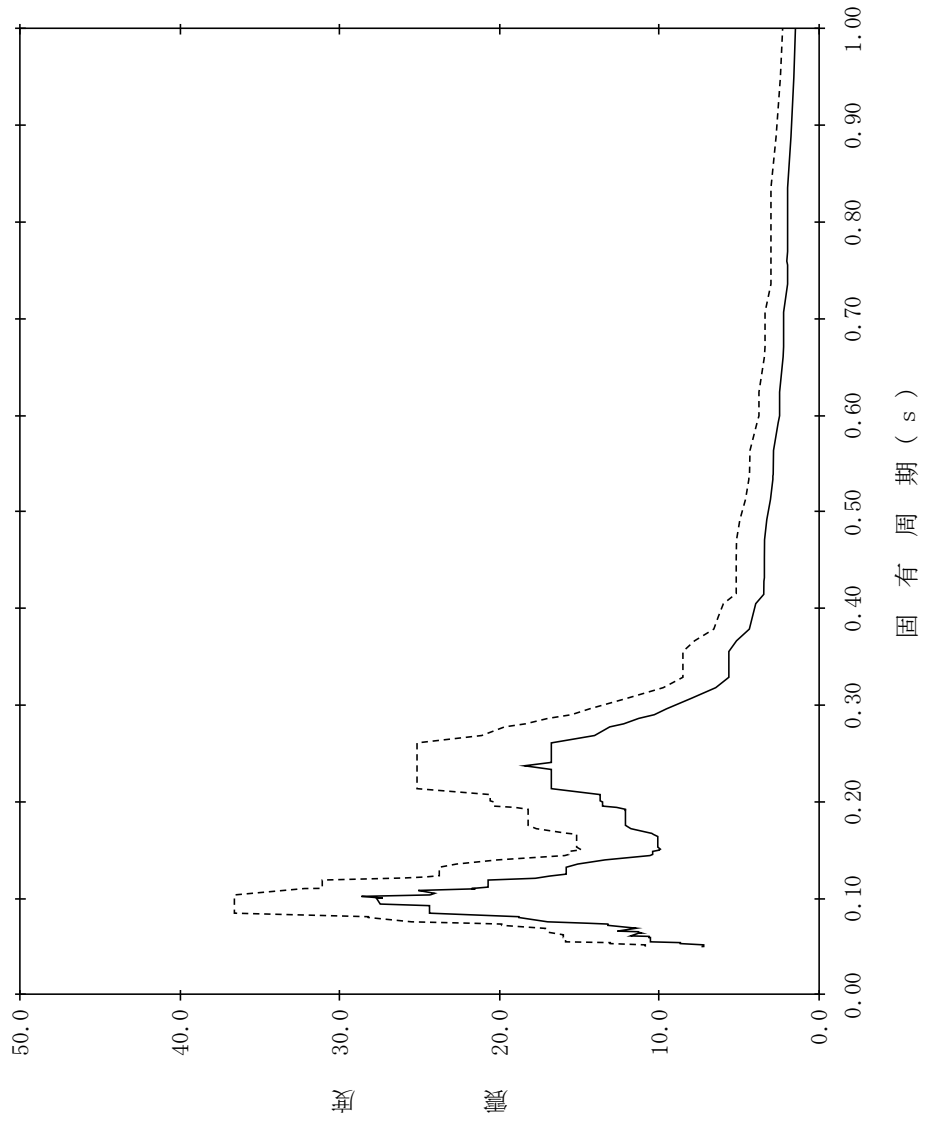
【NS2-RB-SsNS-RB2】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



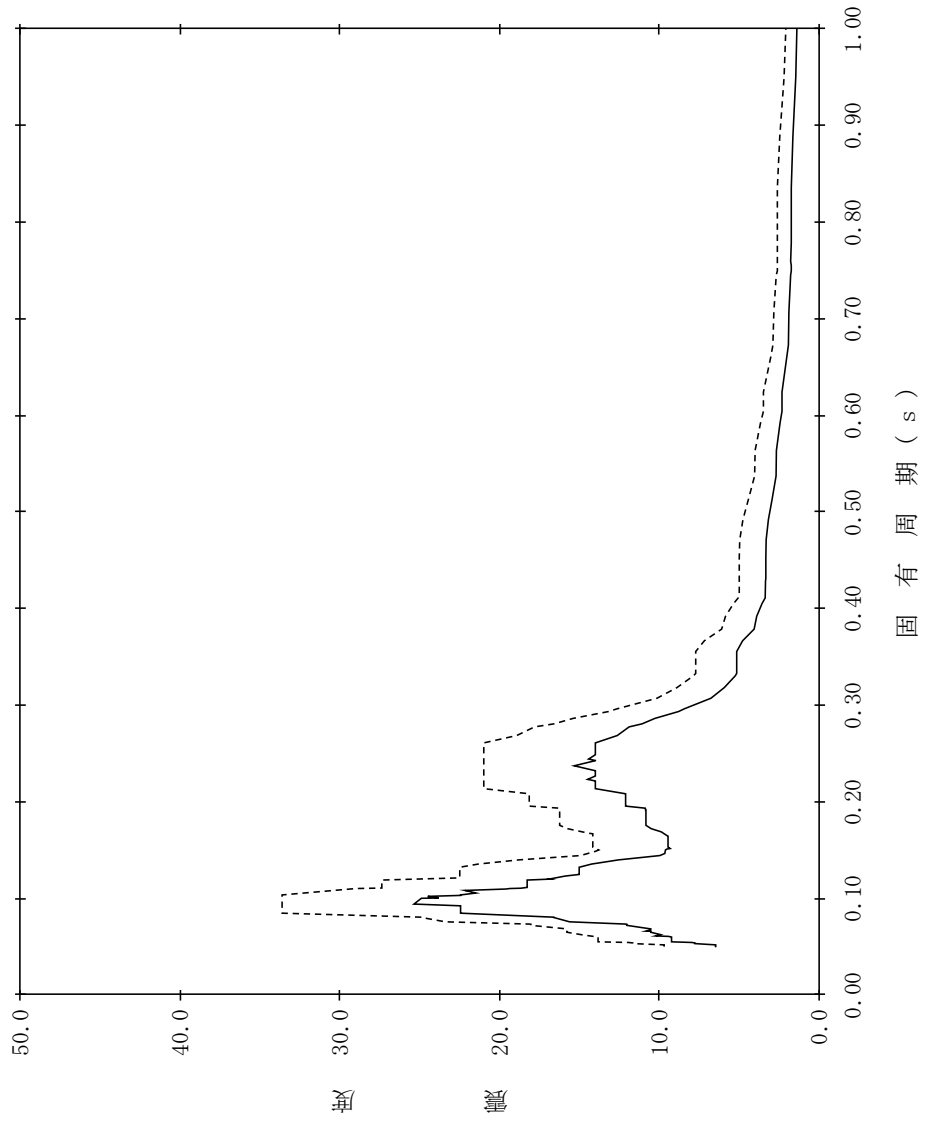
【NS2-RB-SsNS-RB3】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



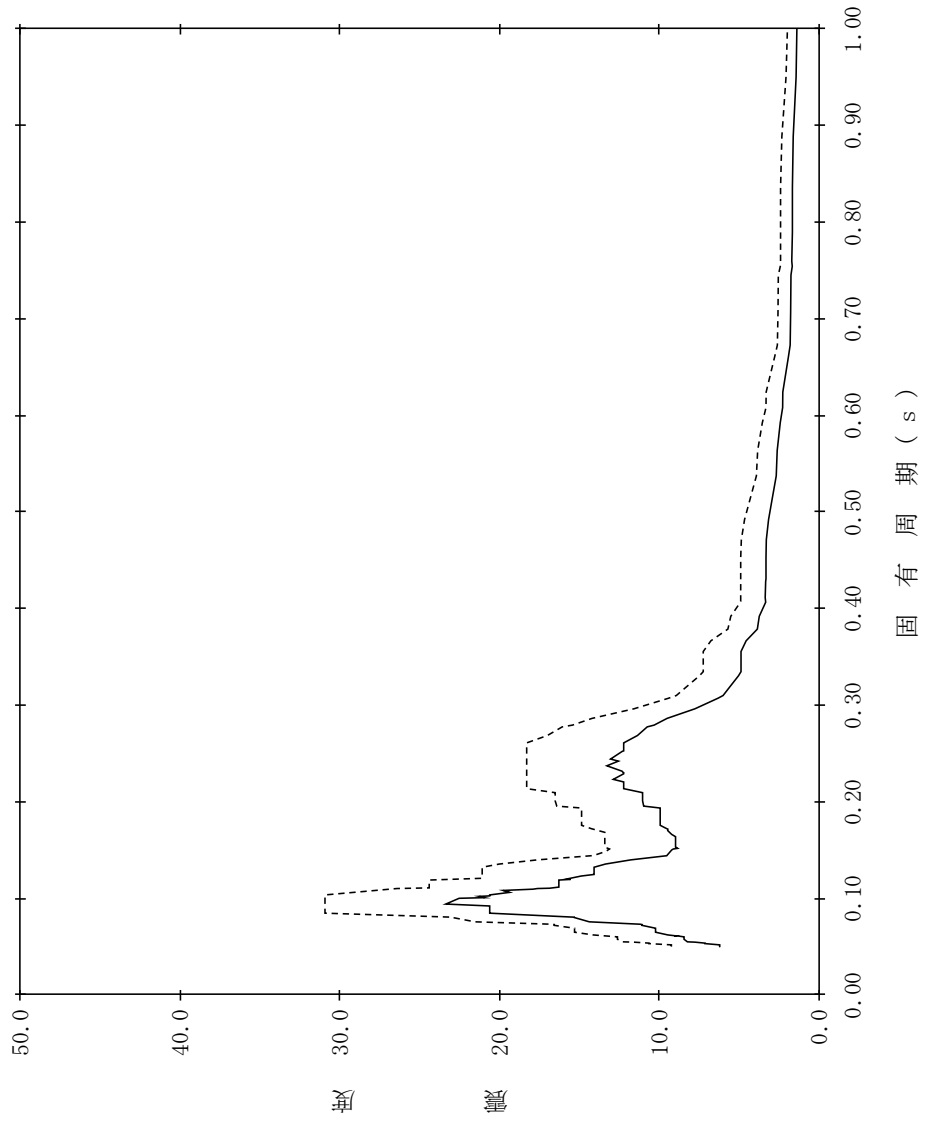
【NS2-RB-SsNS-RB4】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



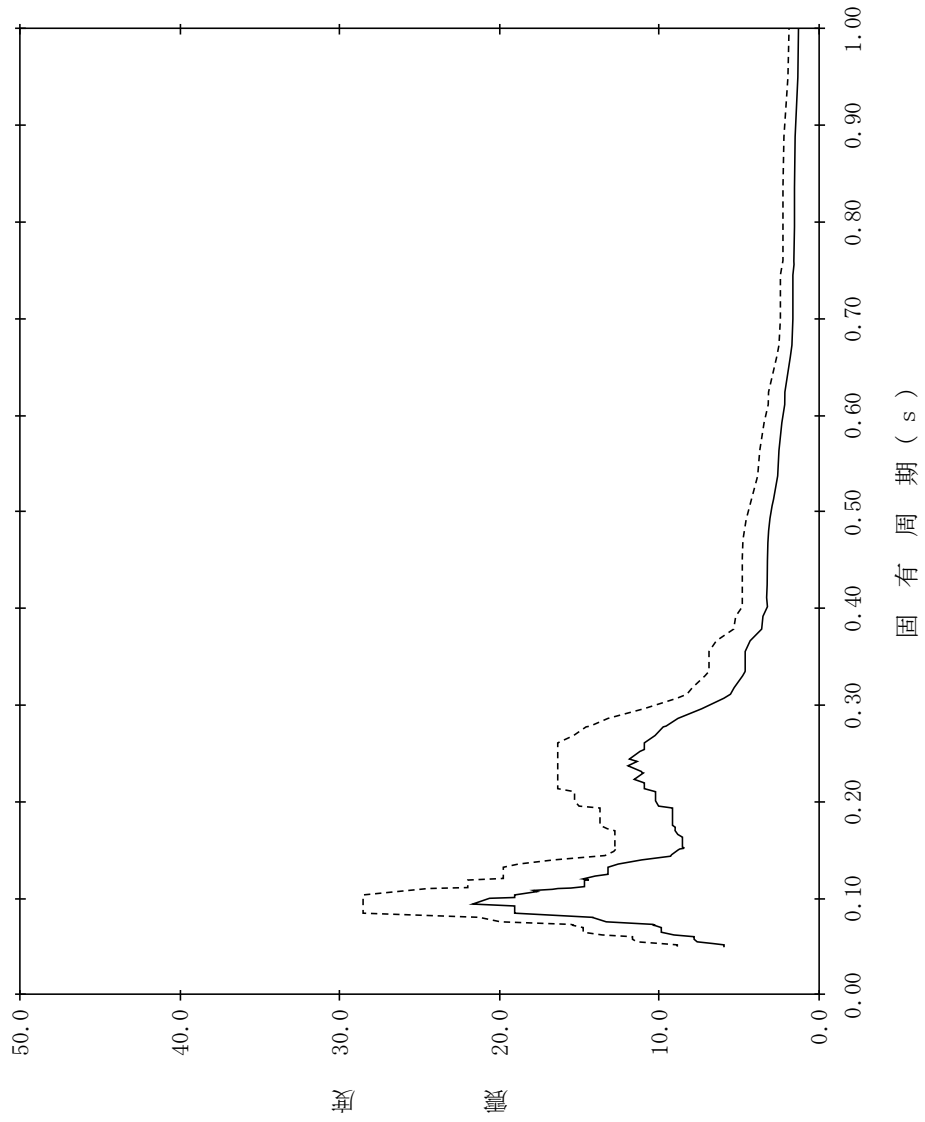
【NS2-RB-SsNS-RB5】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



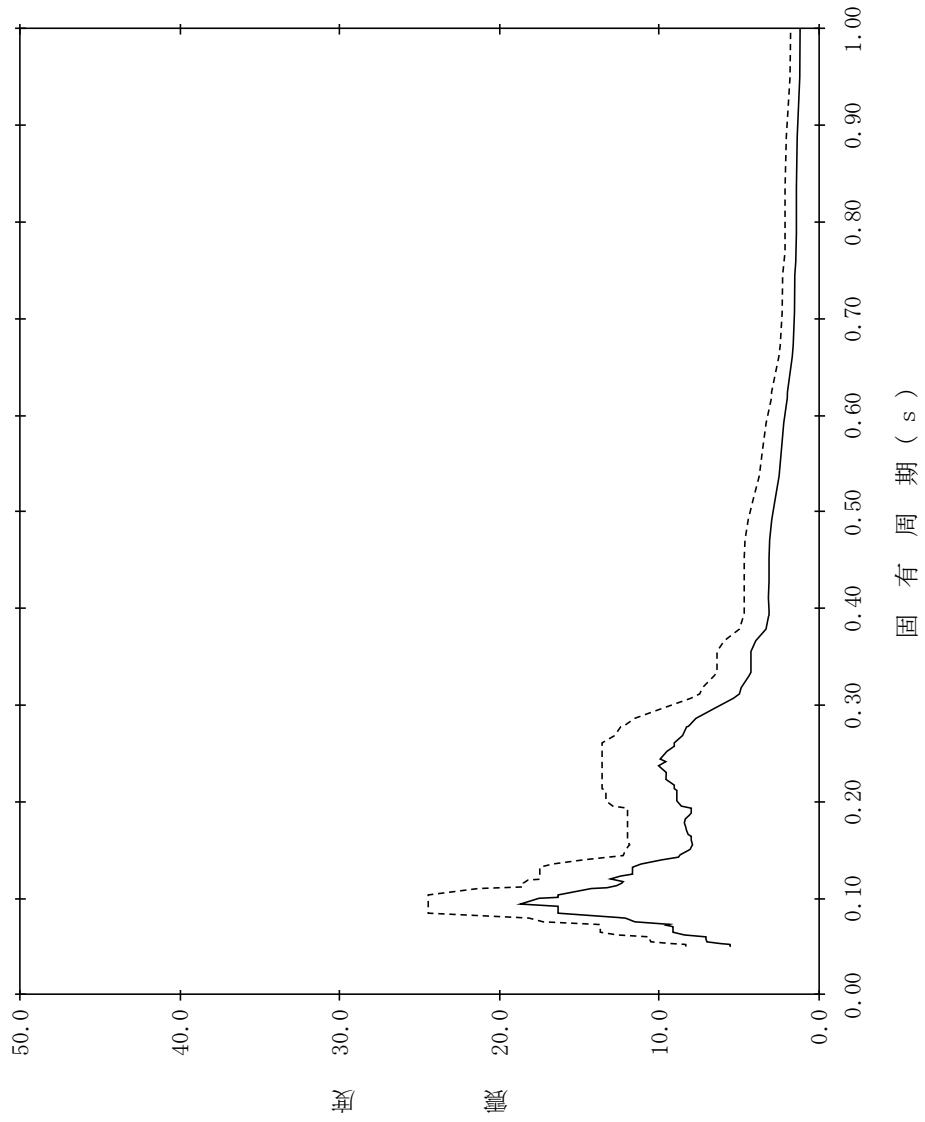
【NS2-RB-SsNS-RB6】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



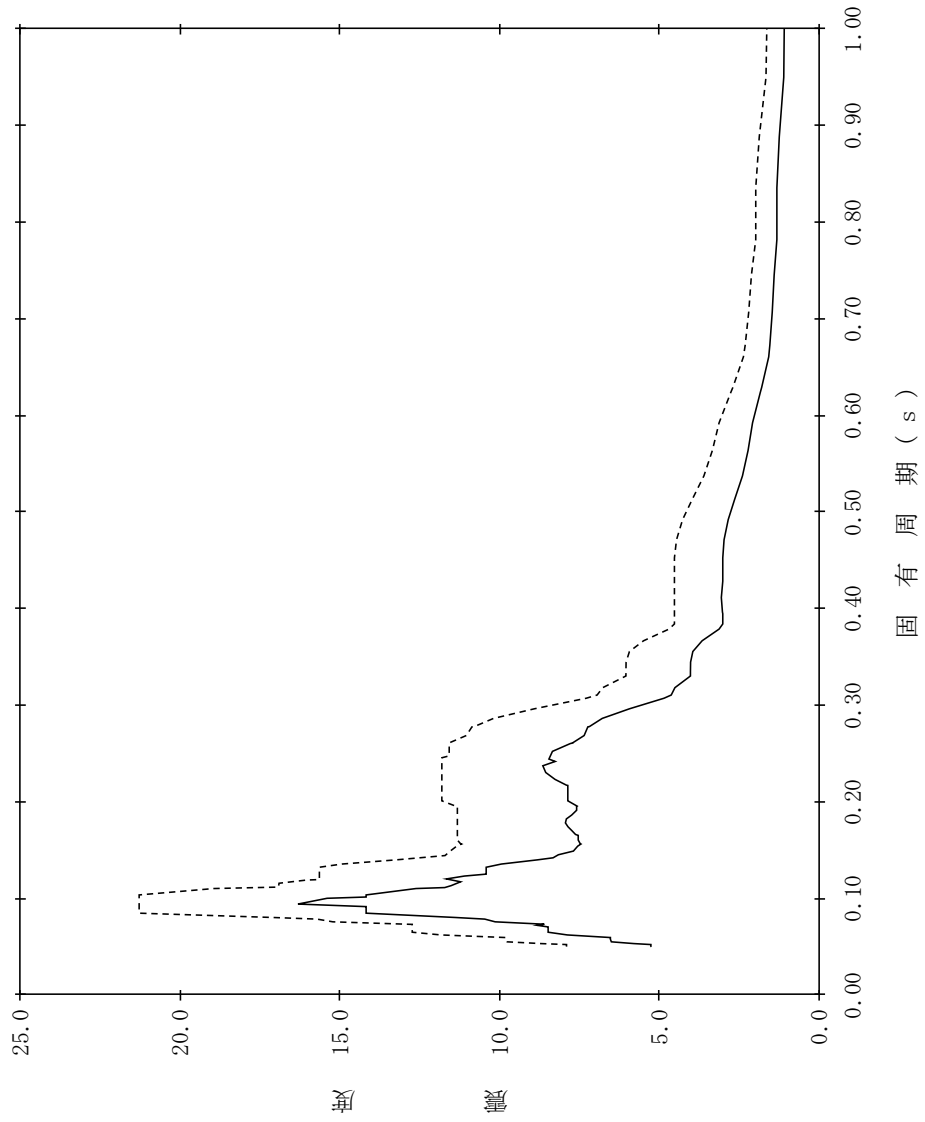
【NS2-RB-SsNS-RB7】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

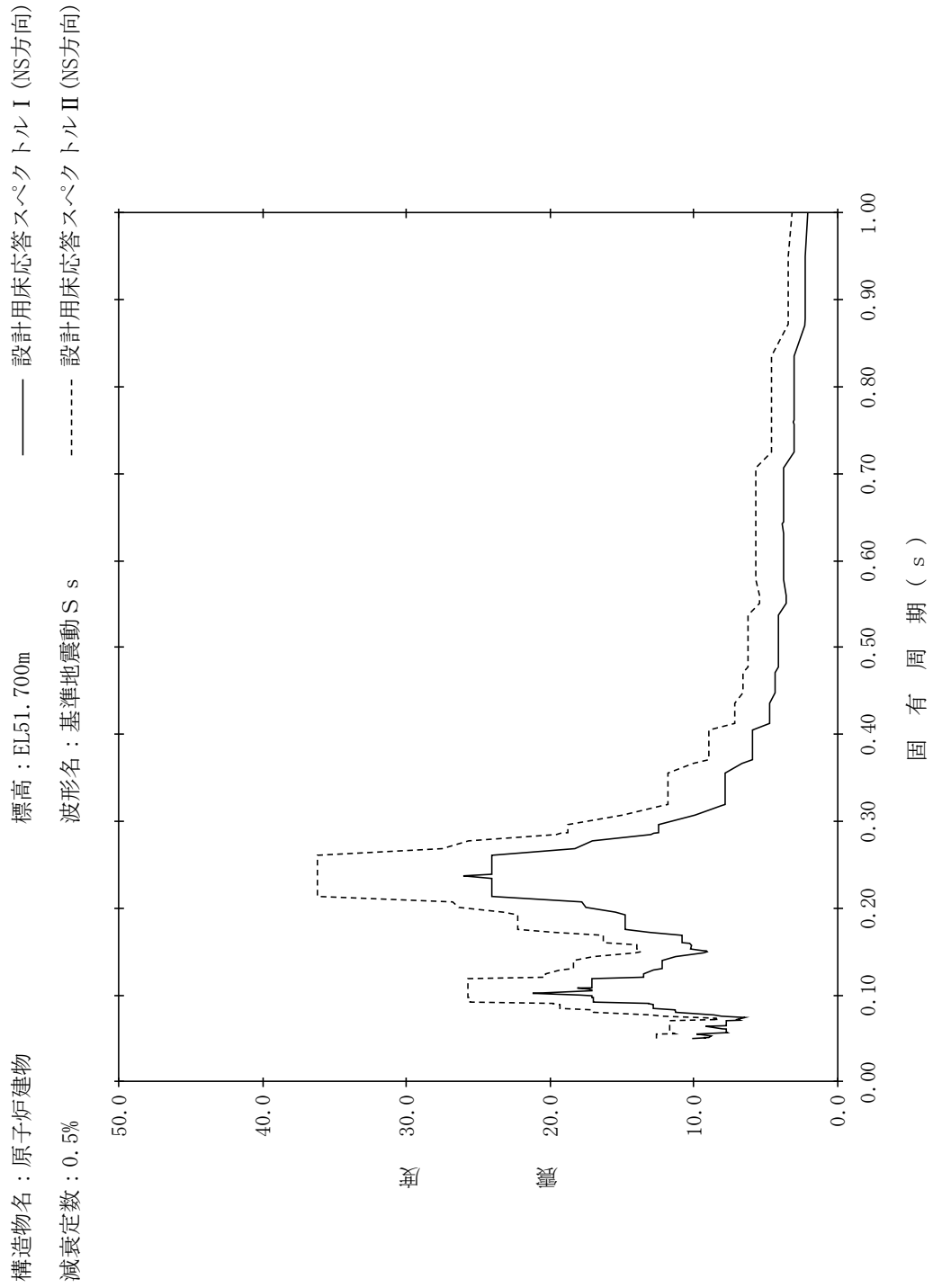


【NS2-RB-SsNS-RB8】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

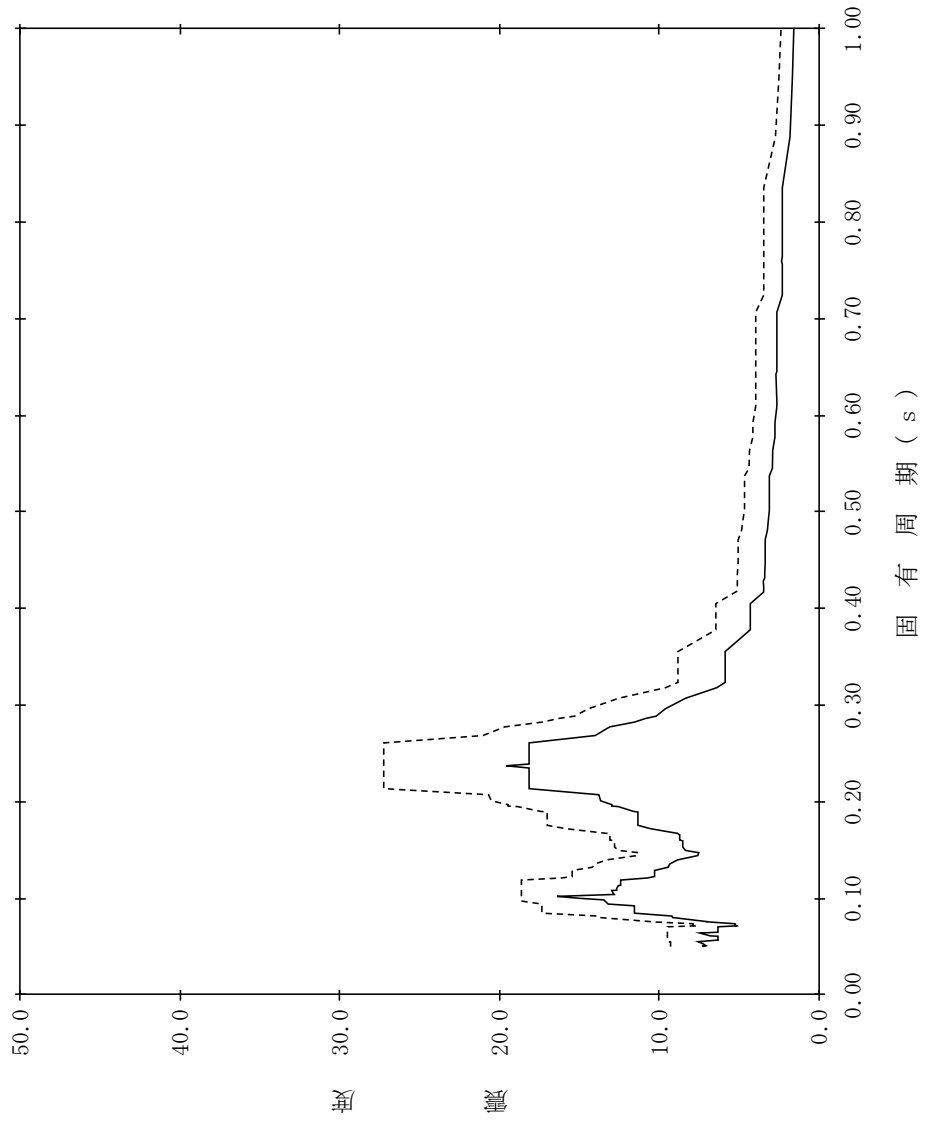


【NS2-RB-SsNS-RB9】



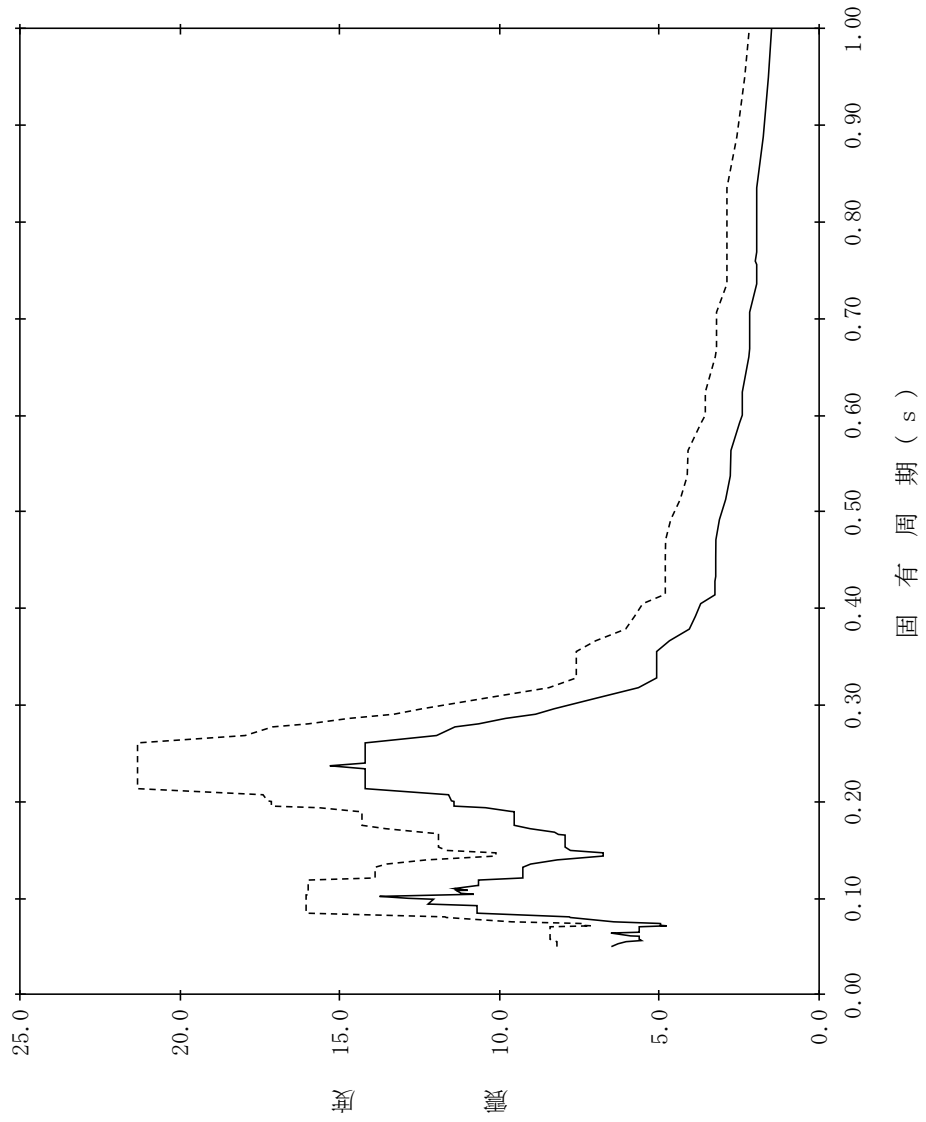
【NS2-RB-SsNS-RB10】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



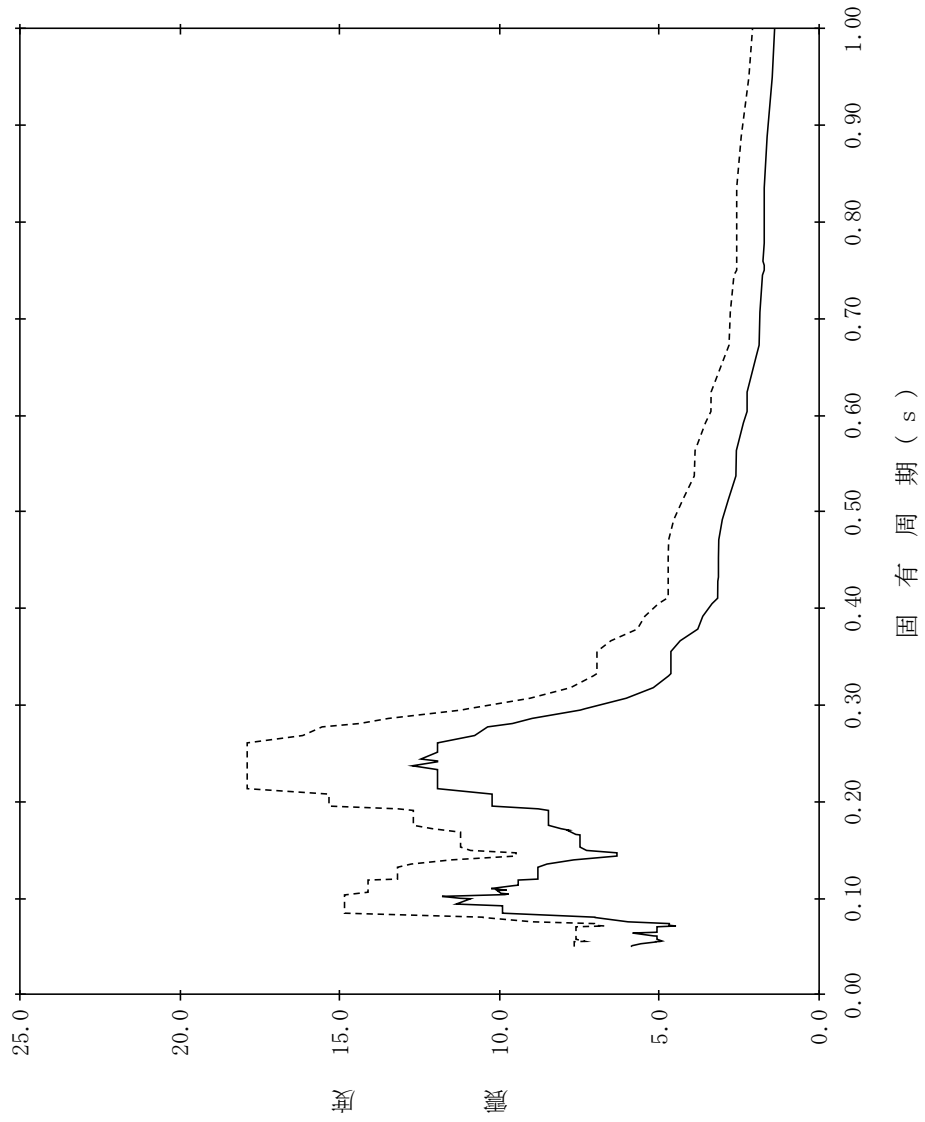
【NS2-RB-SsNS-RB11】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



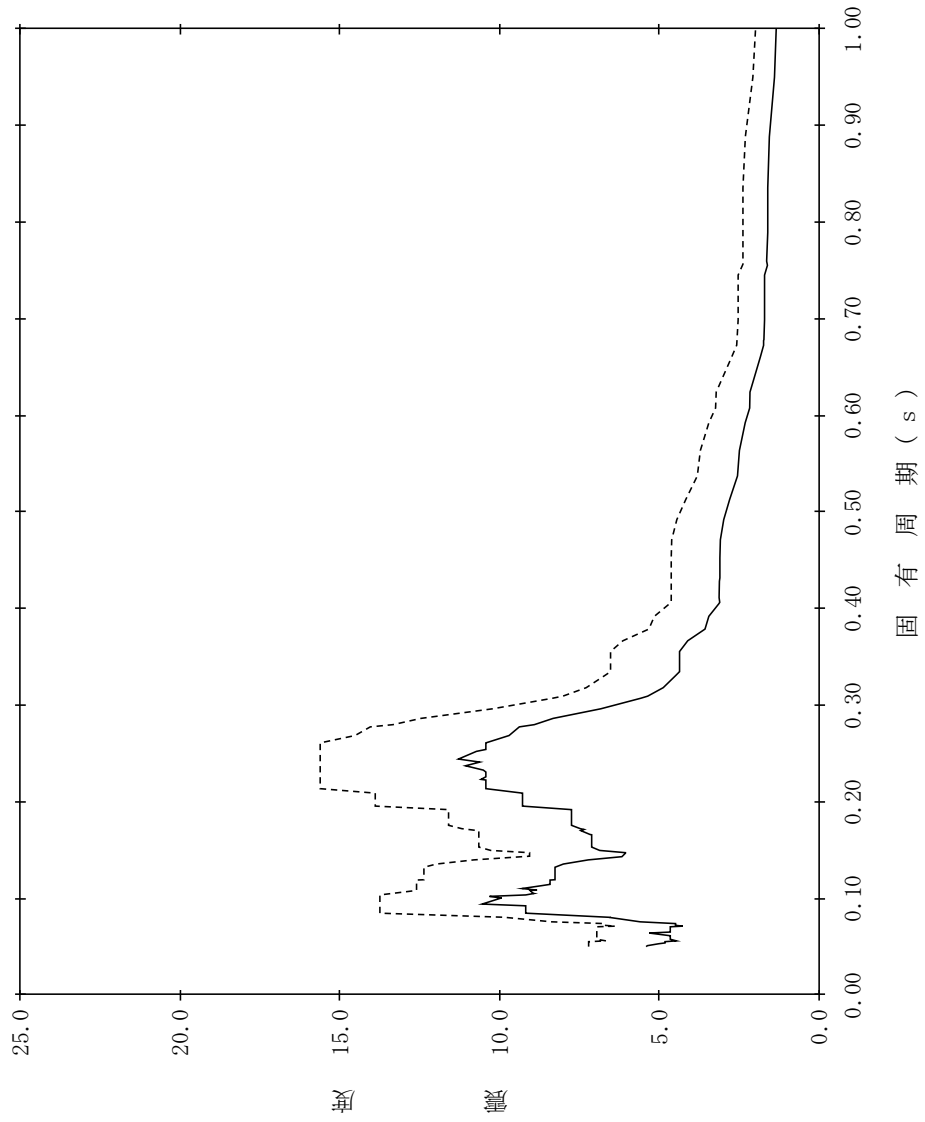
【NS2-RB-SsNS-RB12】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



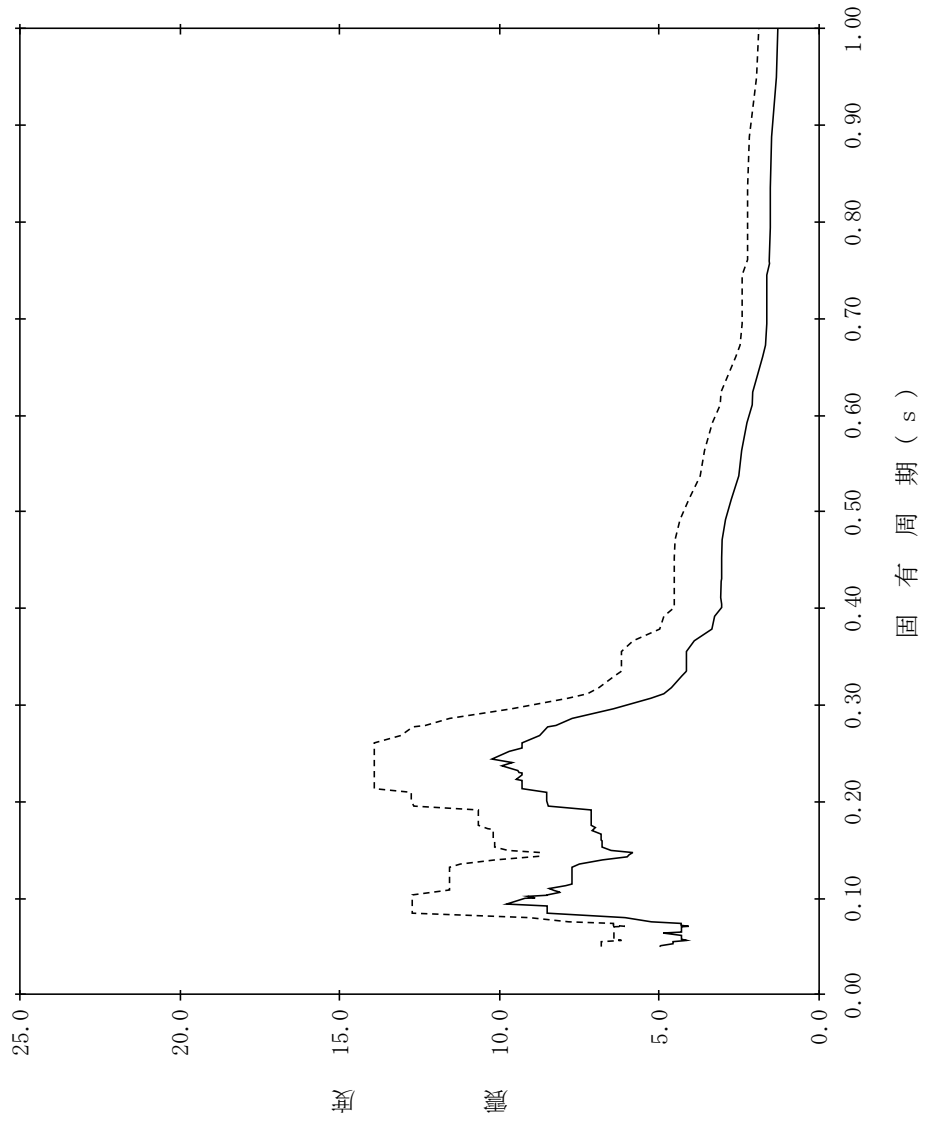
【NS2-RB-SsNS-RB13】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



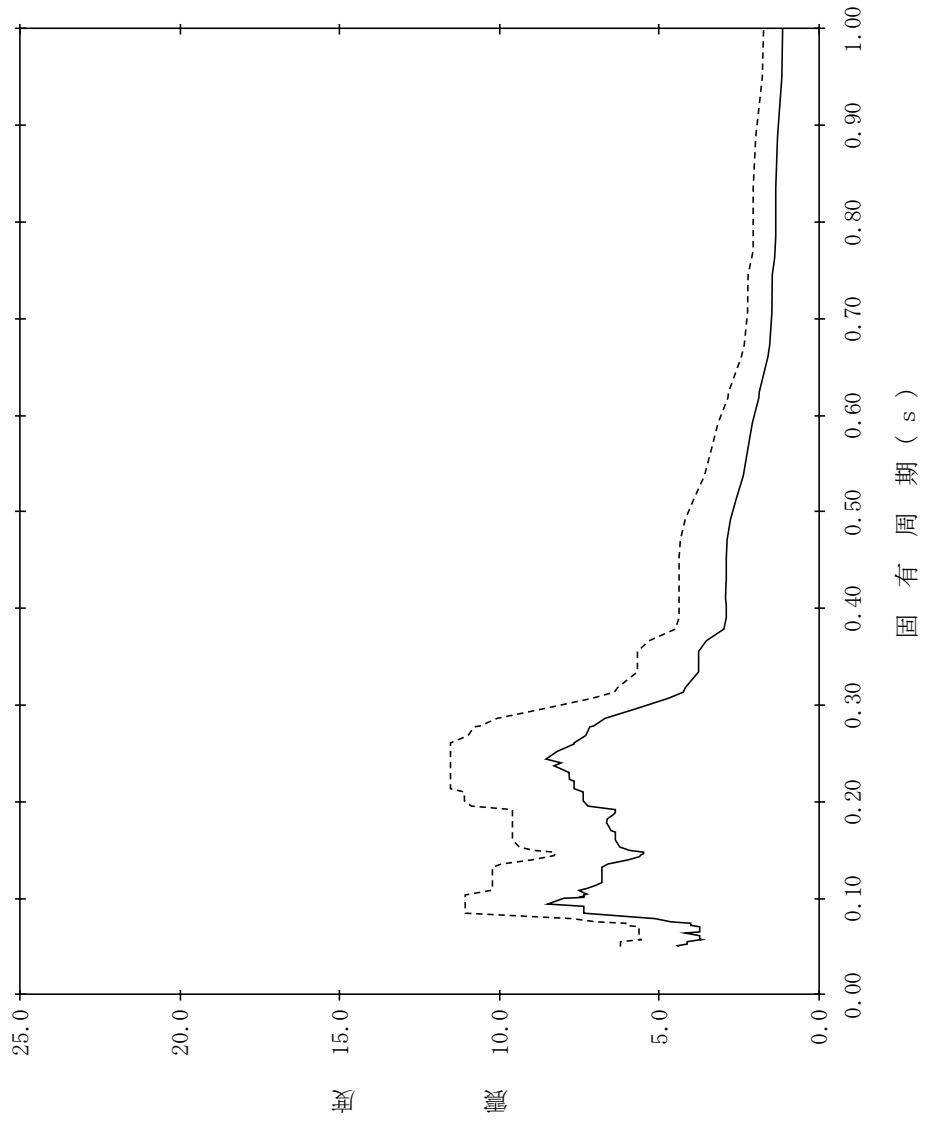
【NS2-RB-SsNS-RB14】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



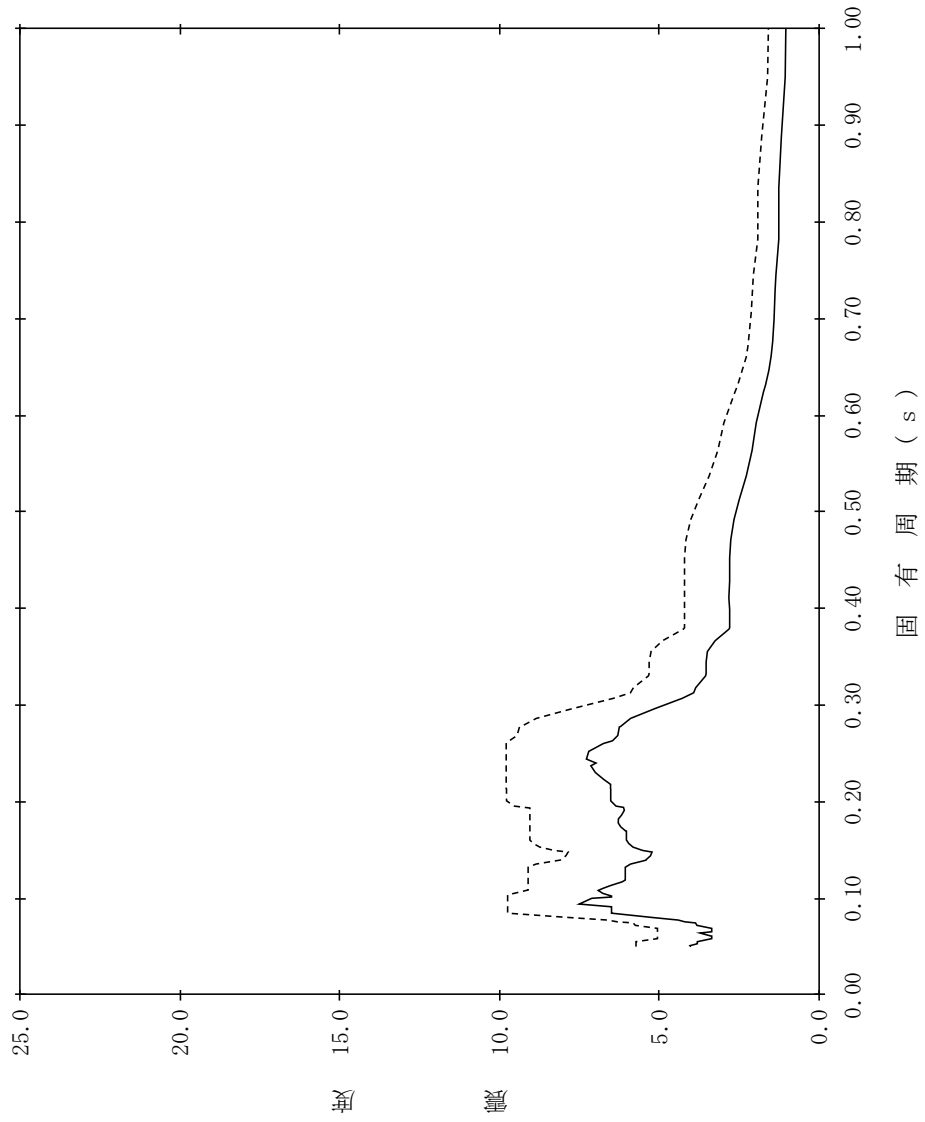
【NS2-RB-SsNS-RB15】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



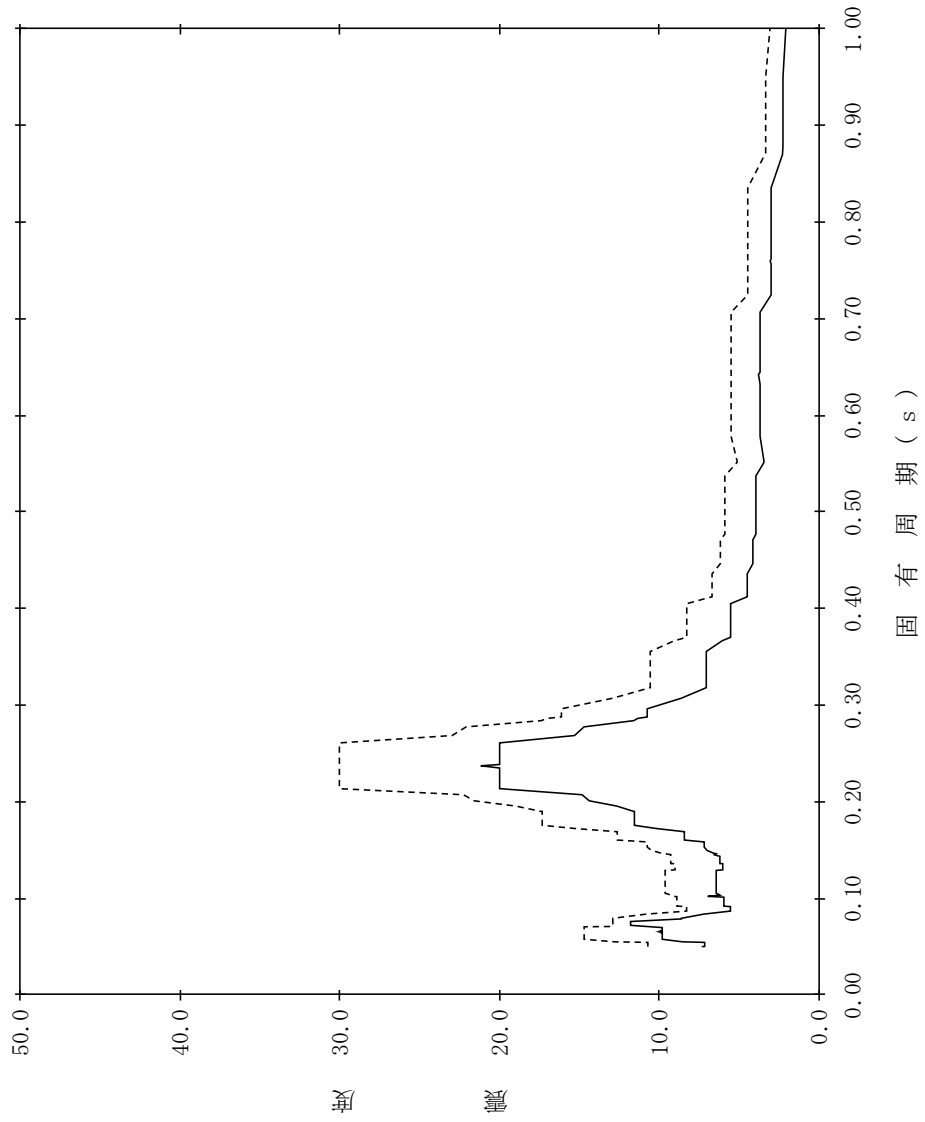
【NS2-RB-SsNS-RB16】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

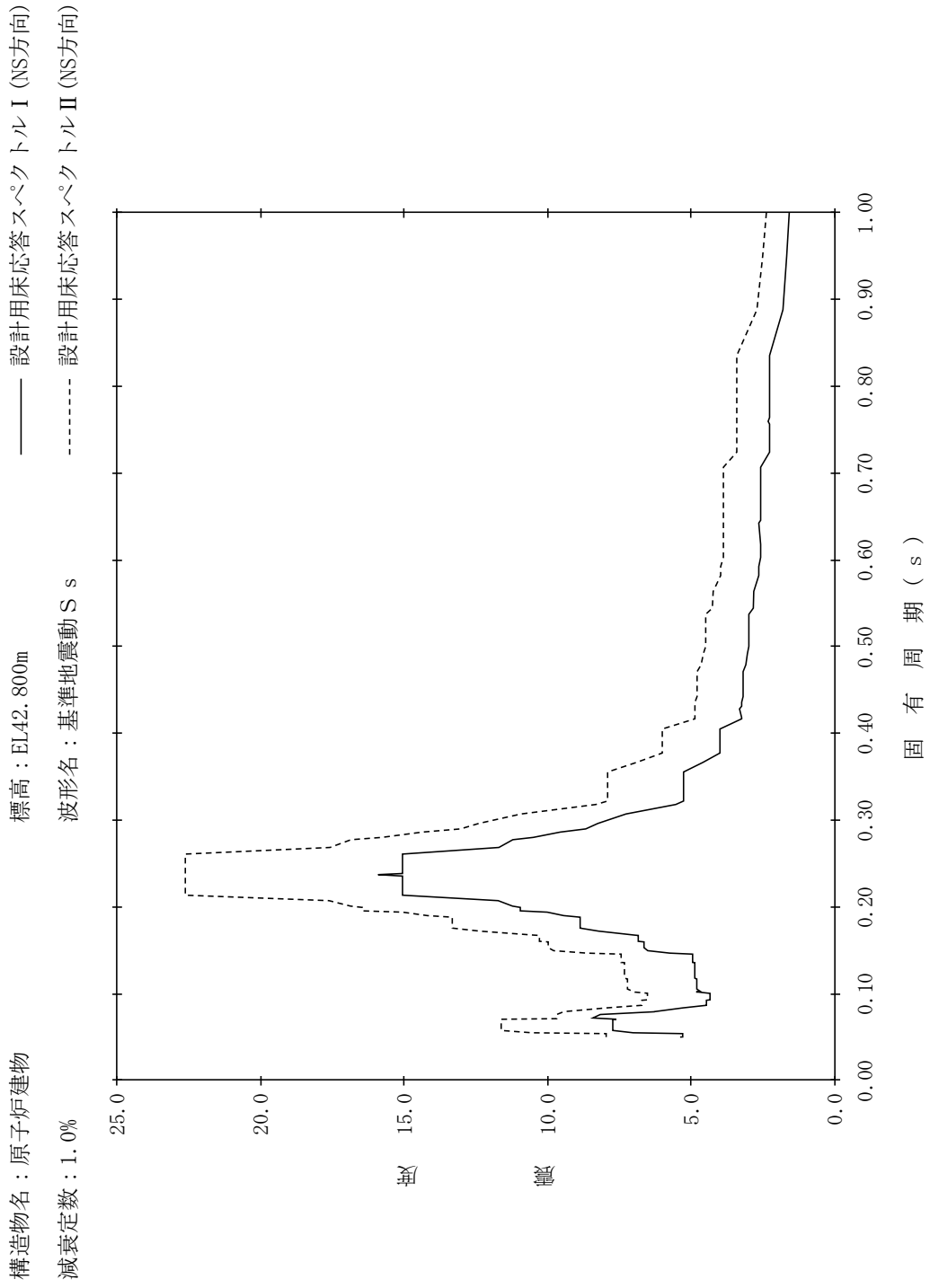


【NS2-RB-SsNS-RB17】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

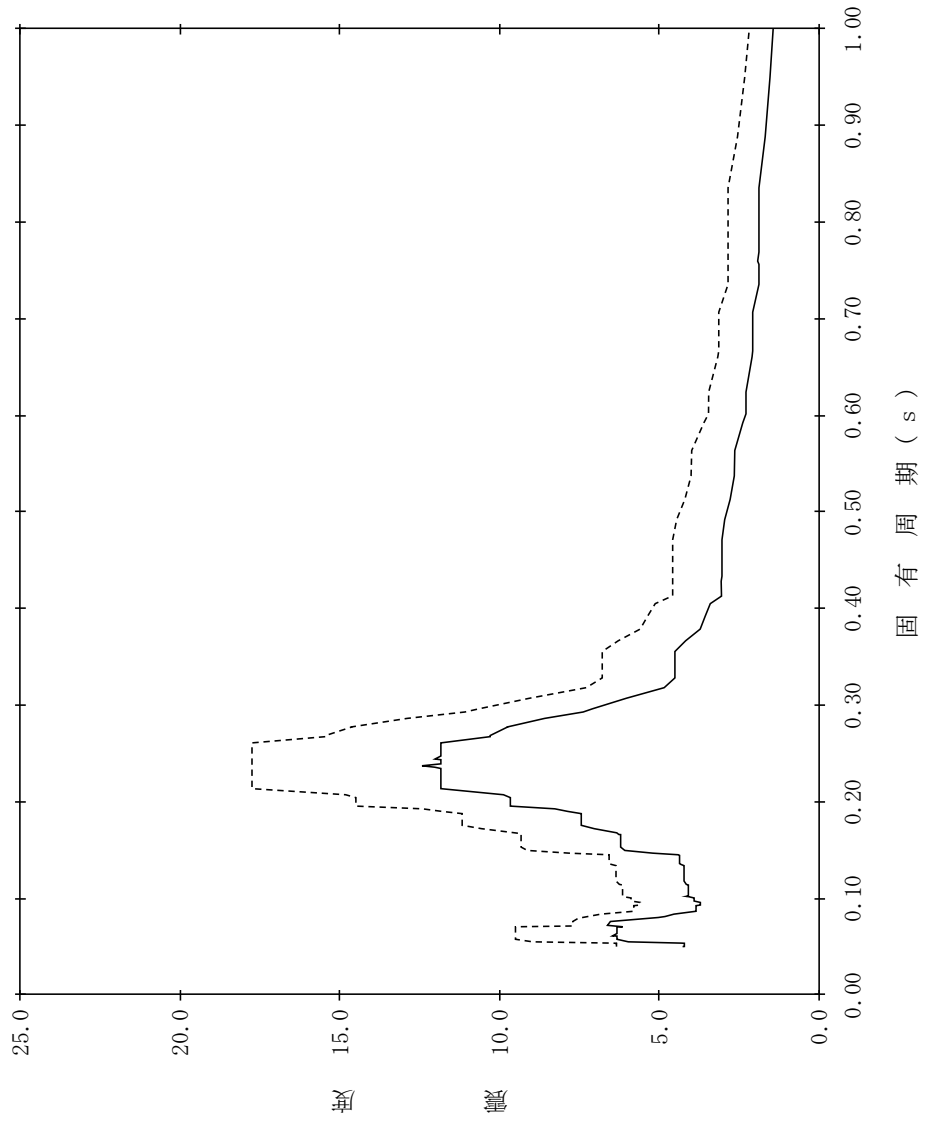


【NS2-RB-SsNS-RB18】

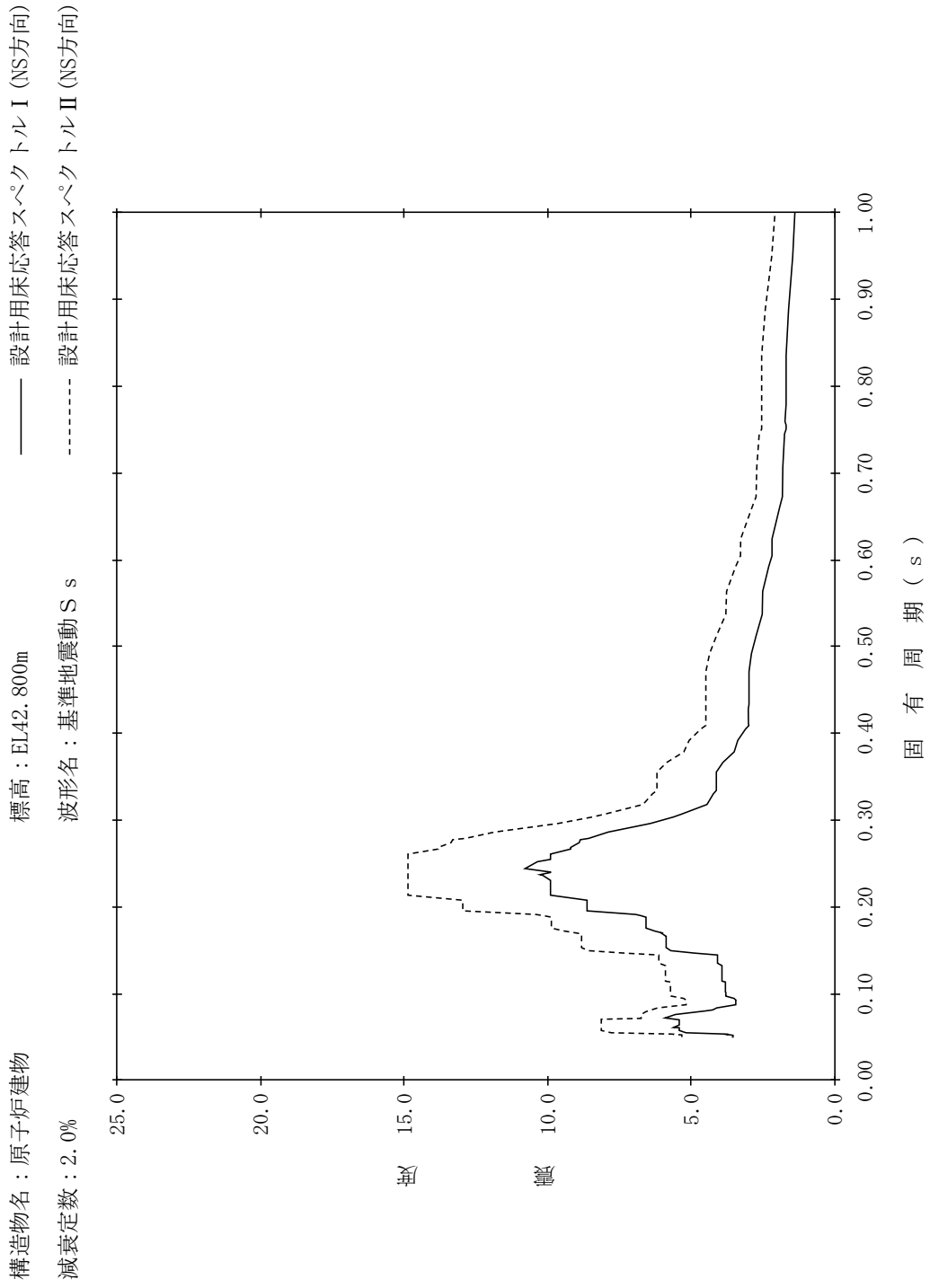


【NS2-RB-SsNS-RB19】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

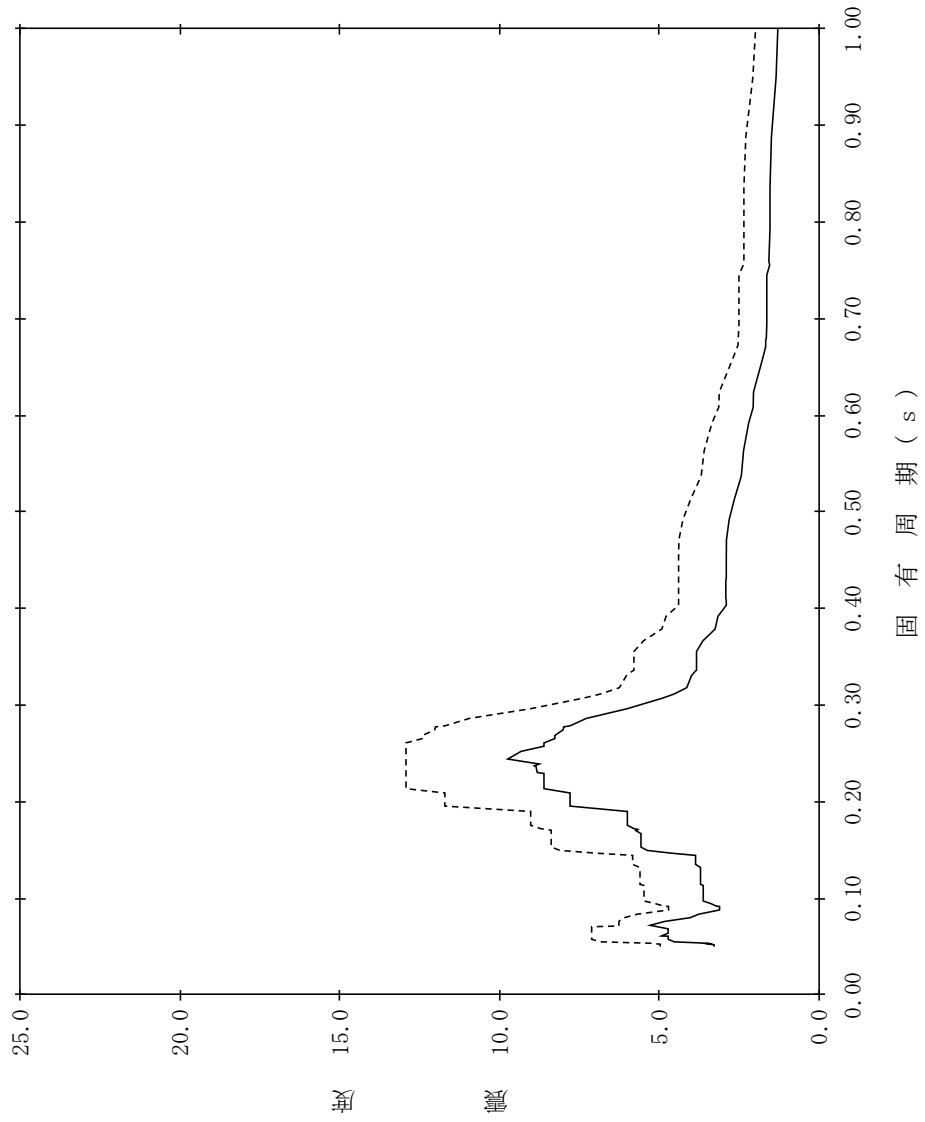


【NS2-RB-SsNS-RB20】



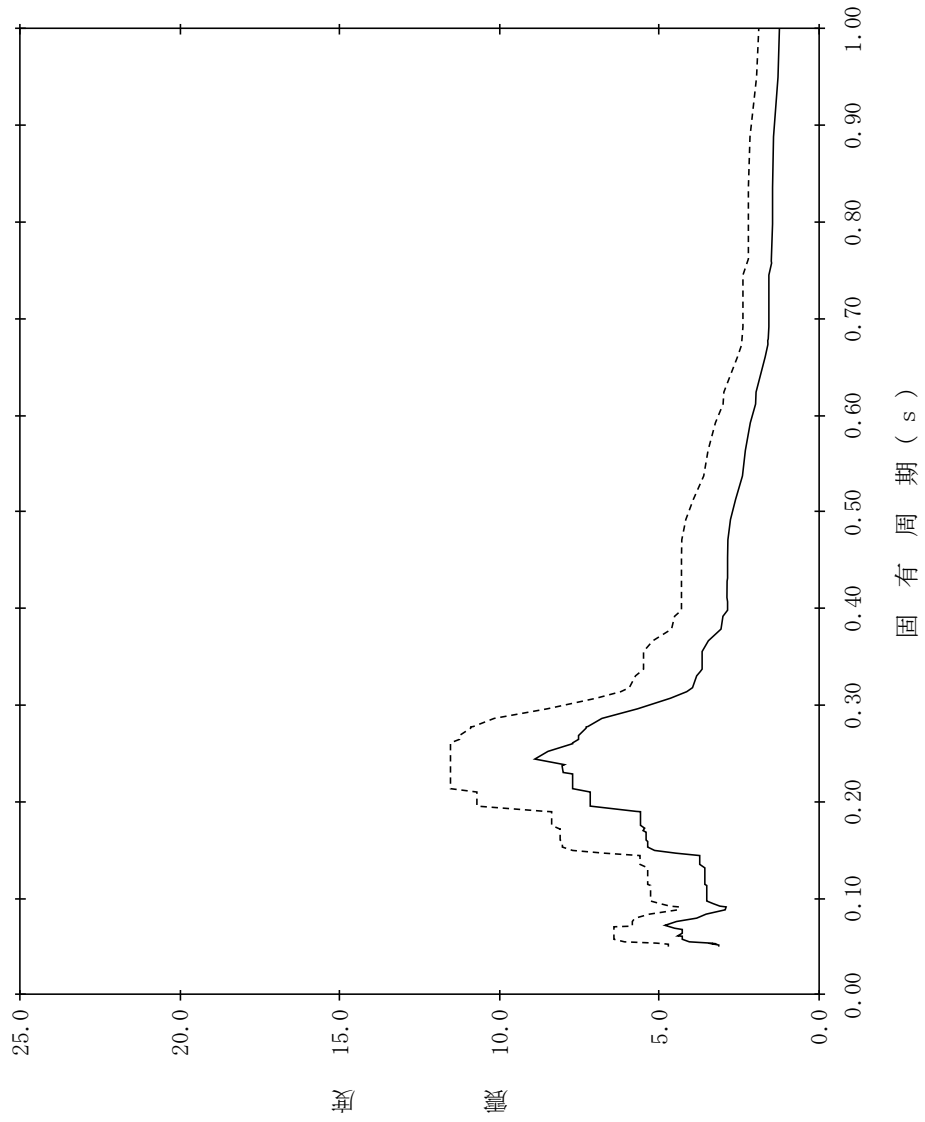
【NS2-RB-SsNS-RB21】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



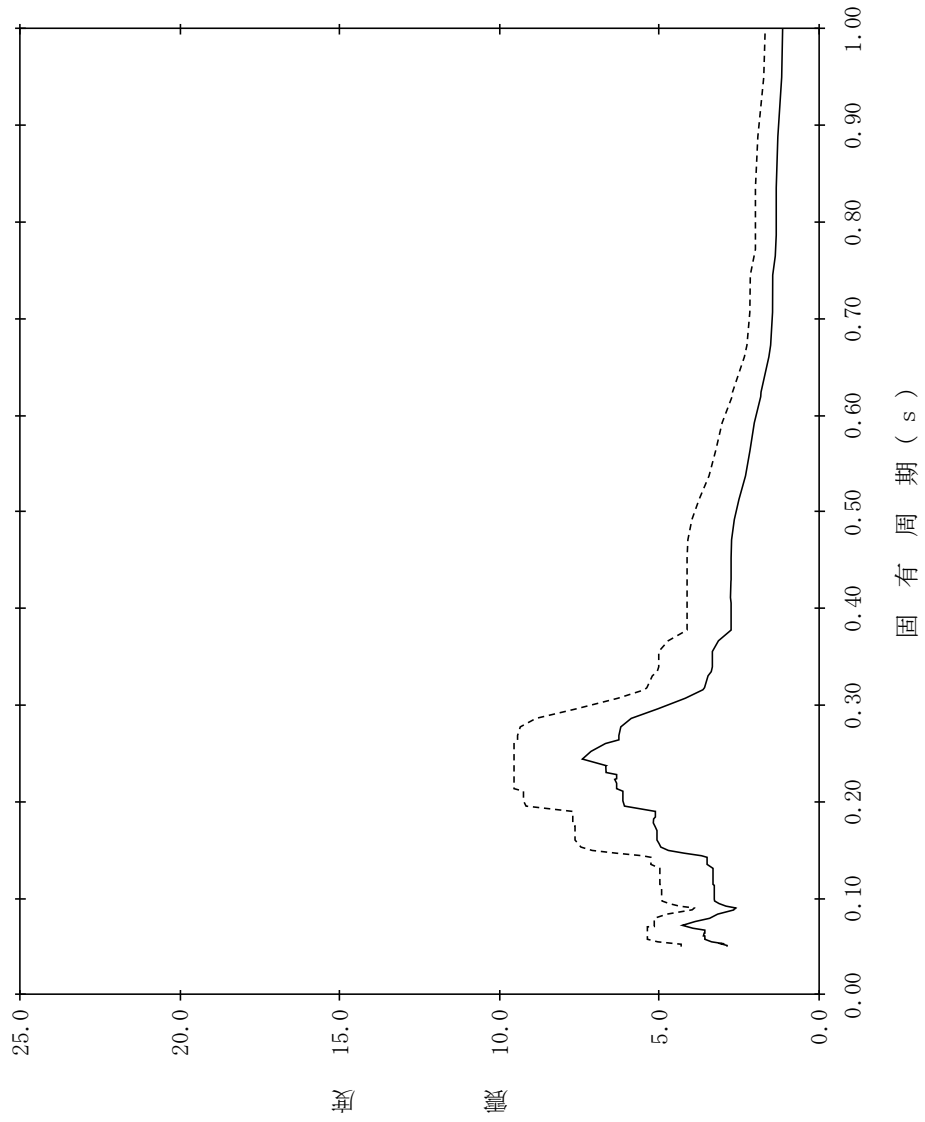
【NS2-RB-SsNS-RB22】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



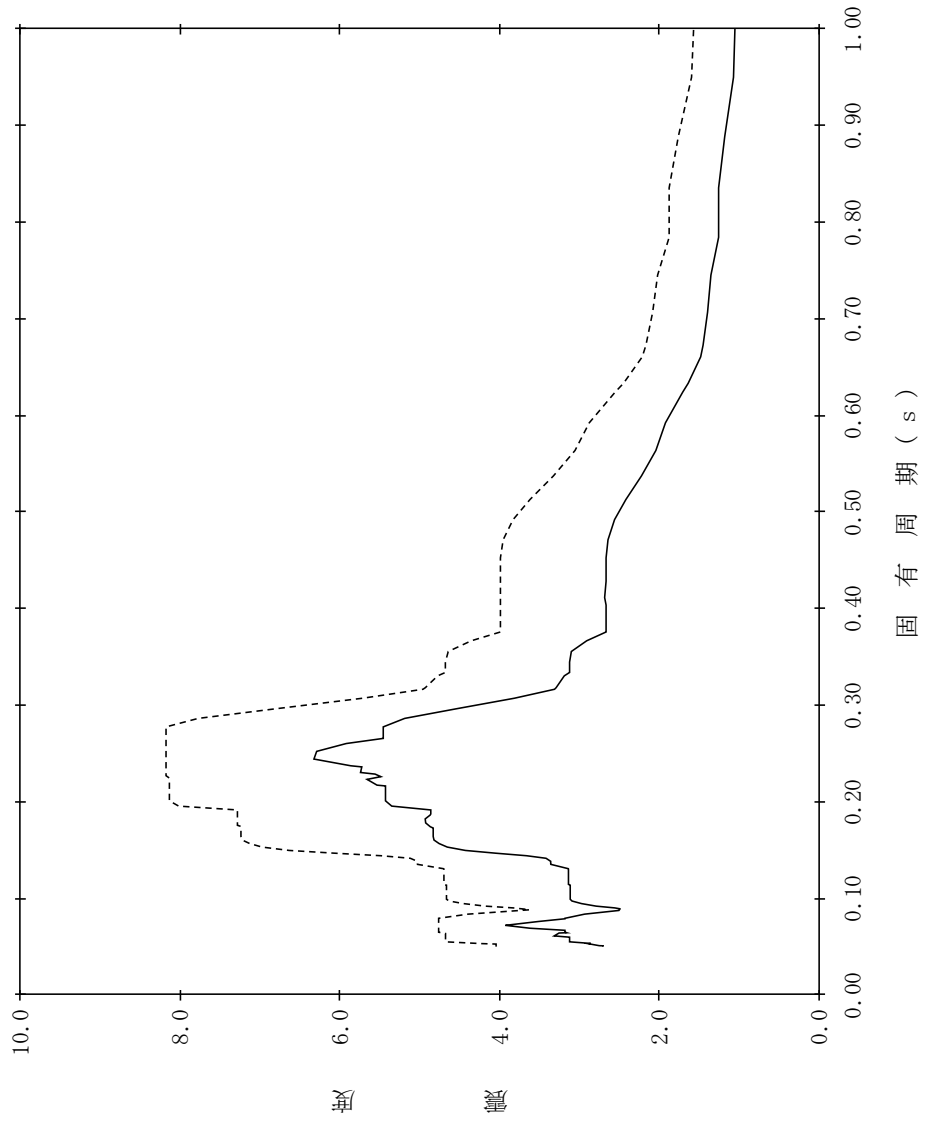
【NS2-RB-SsNS-RB23】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

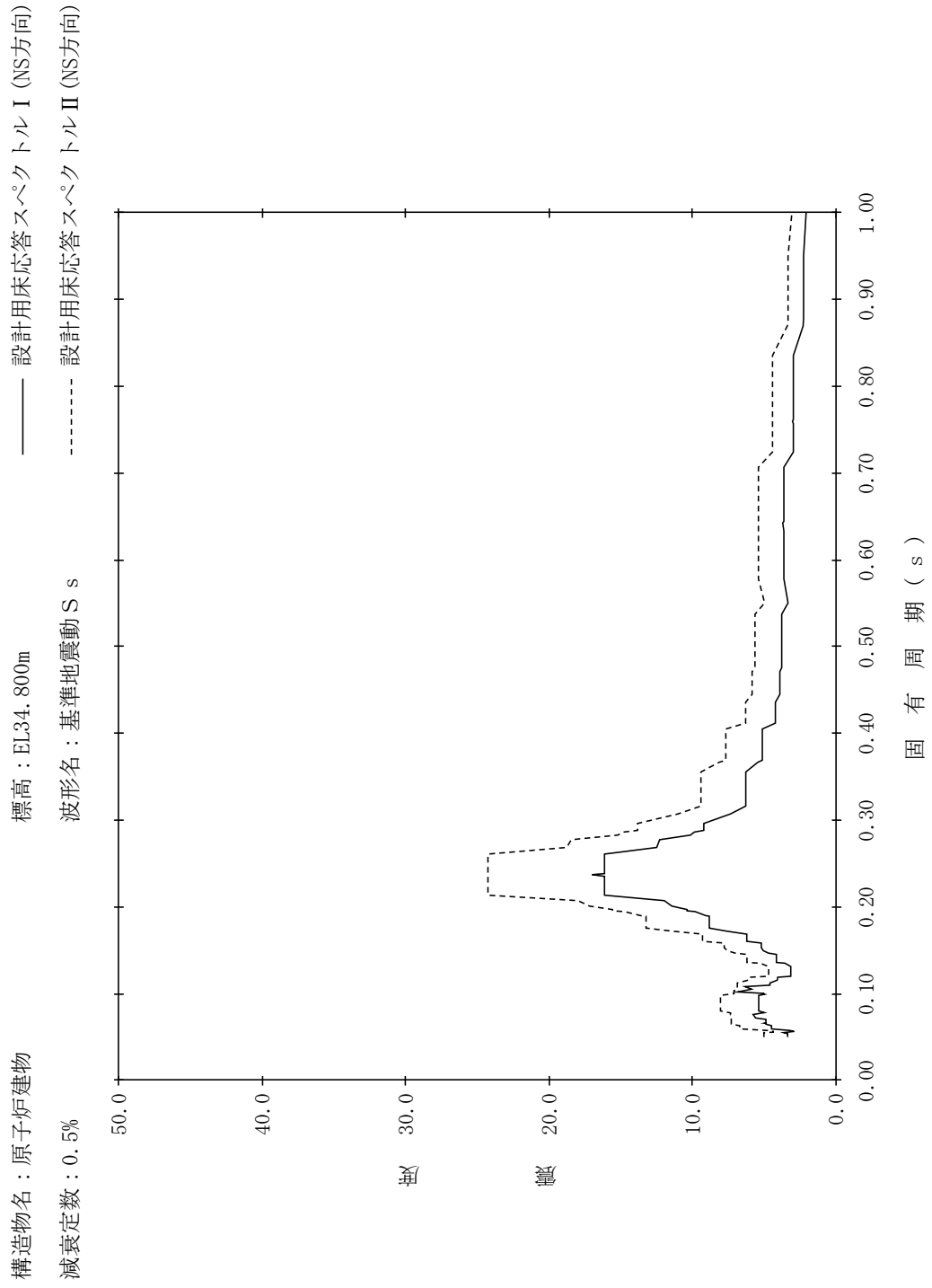


【NS2-RB-SsNS-RB24】

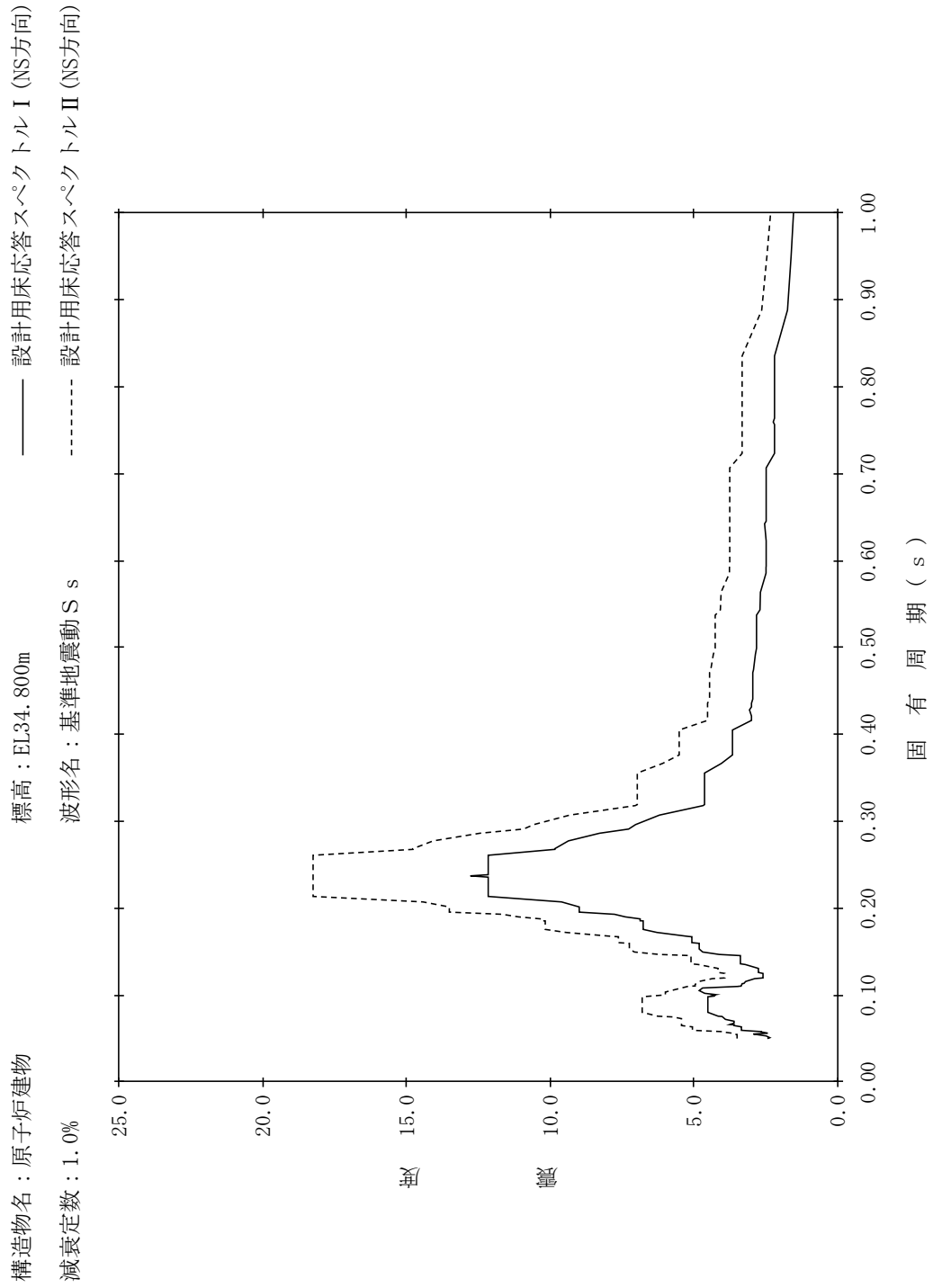
構造物名：原子炉建物
標高：EL42.800m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (NS方向)
設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-RB-SsNS-RB25】

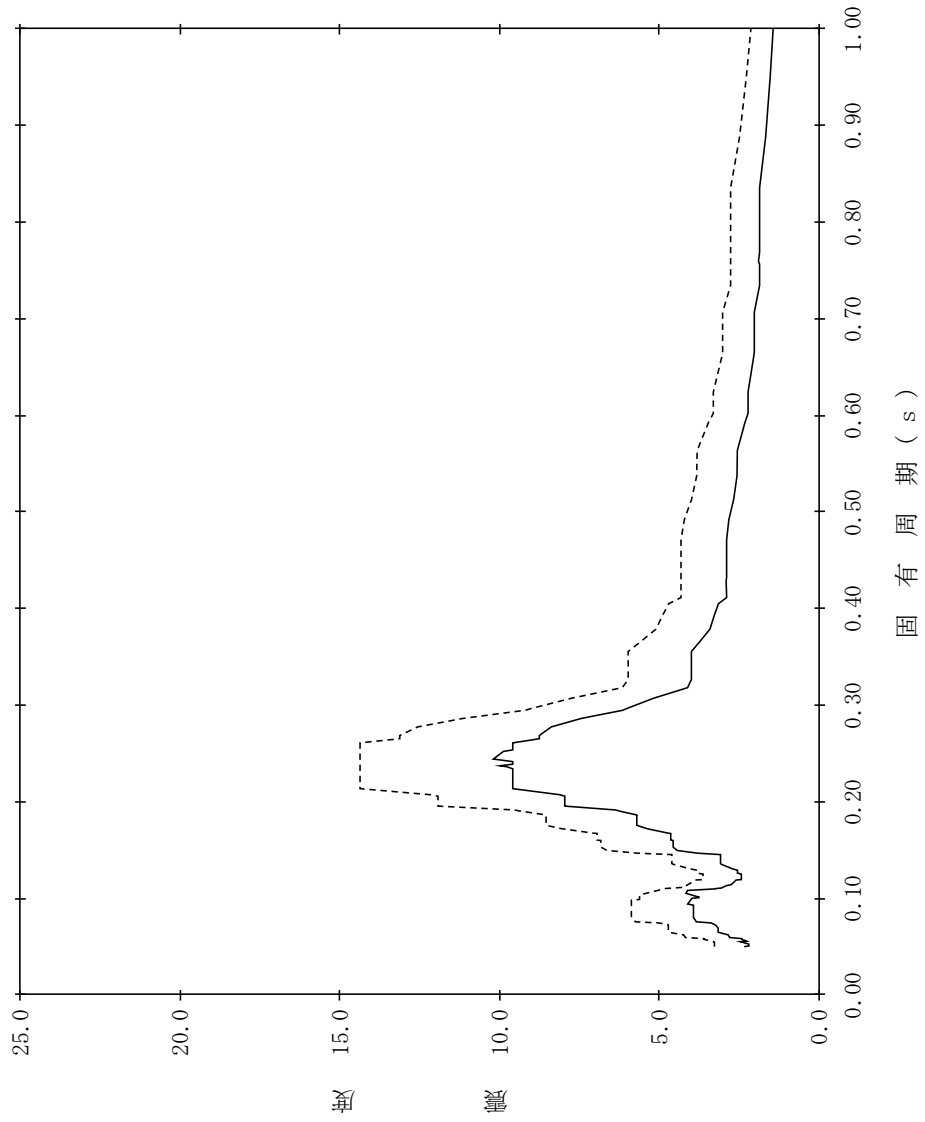


【NS2-RB-SsNS-RB26】

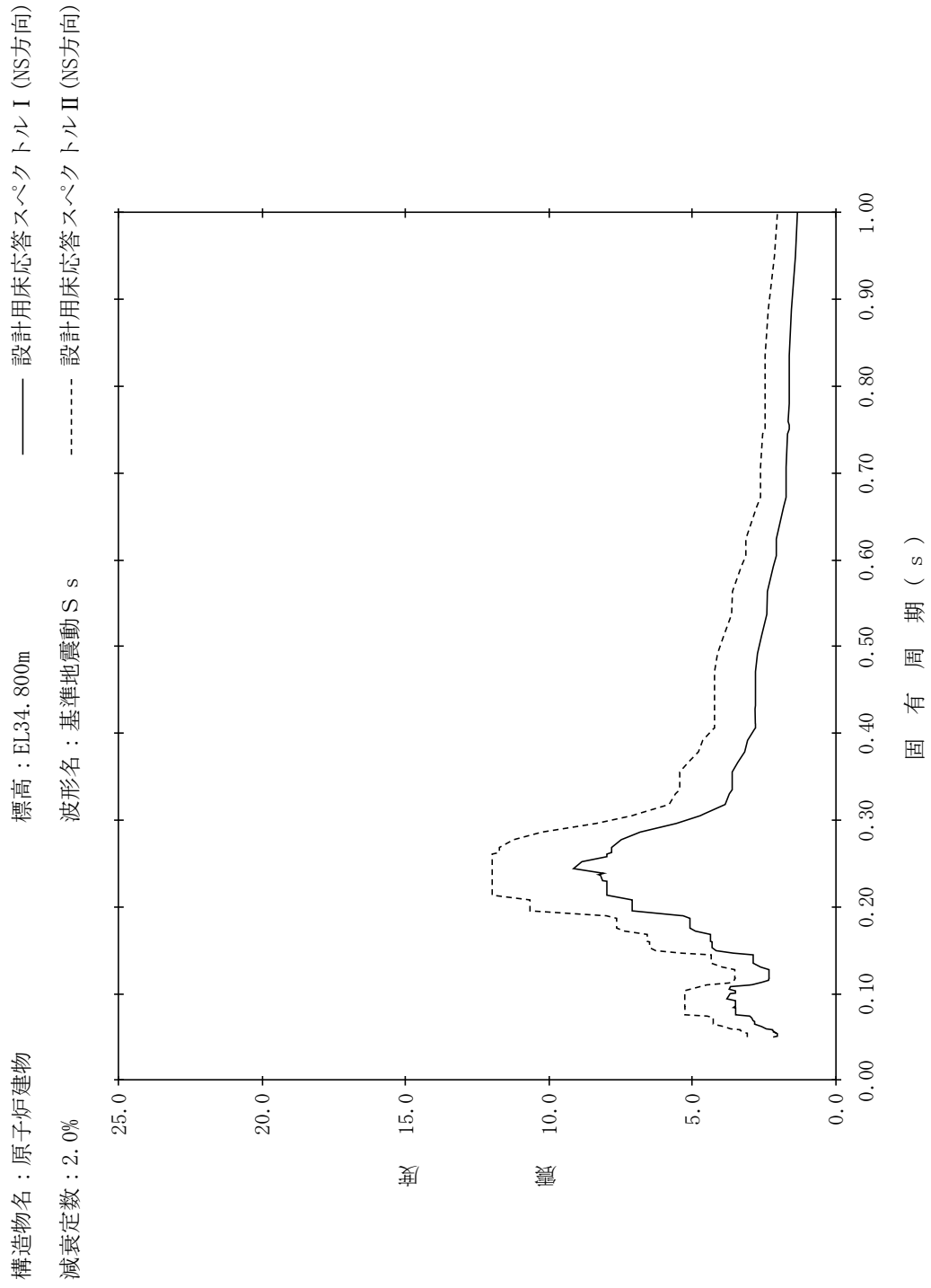


【NS2-RB-SsNS-RB27】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

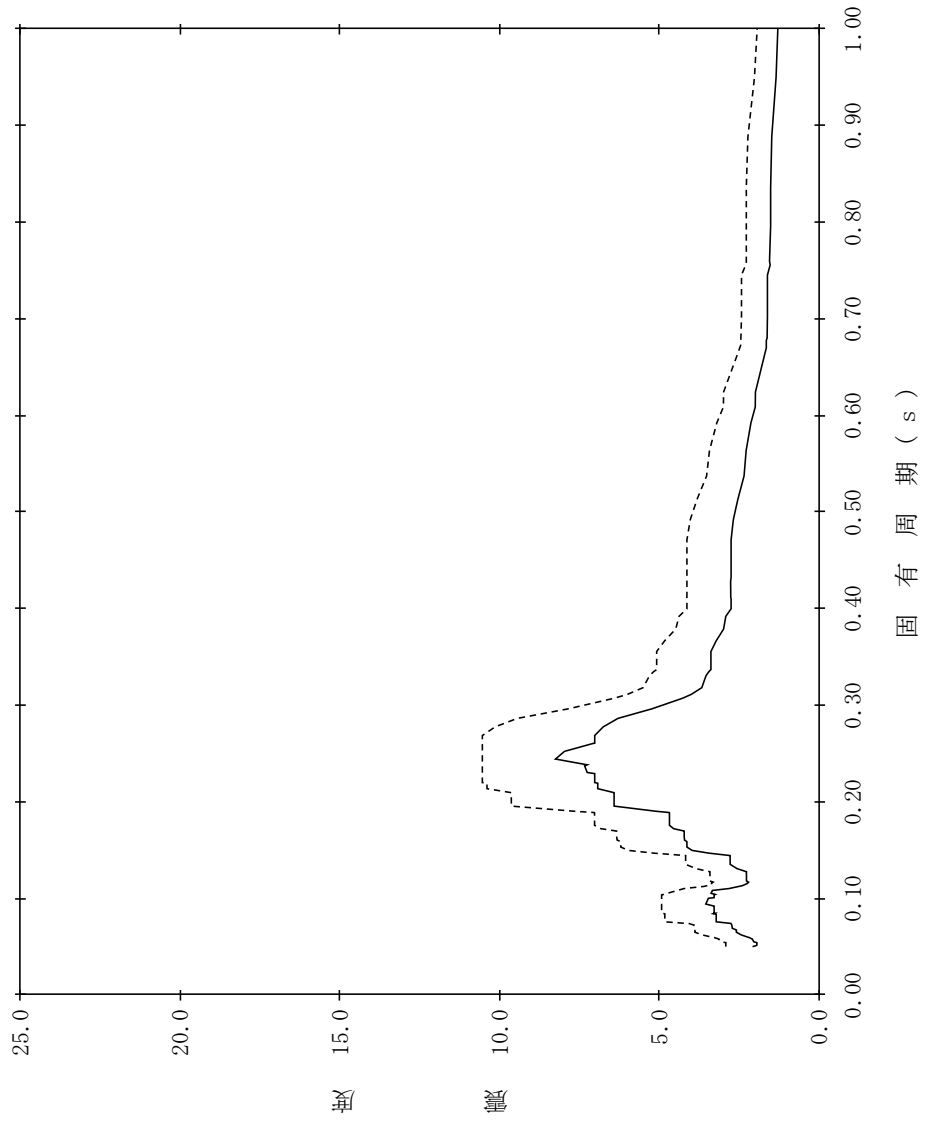


【NS2-RB-SsNS-RB28】

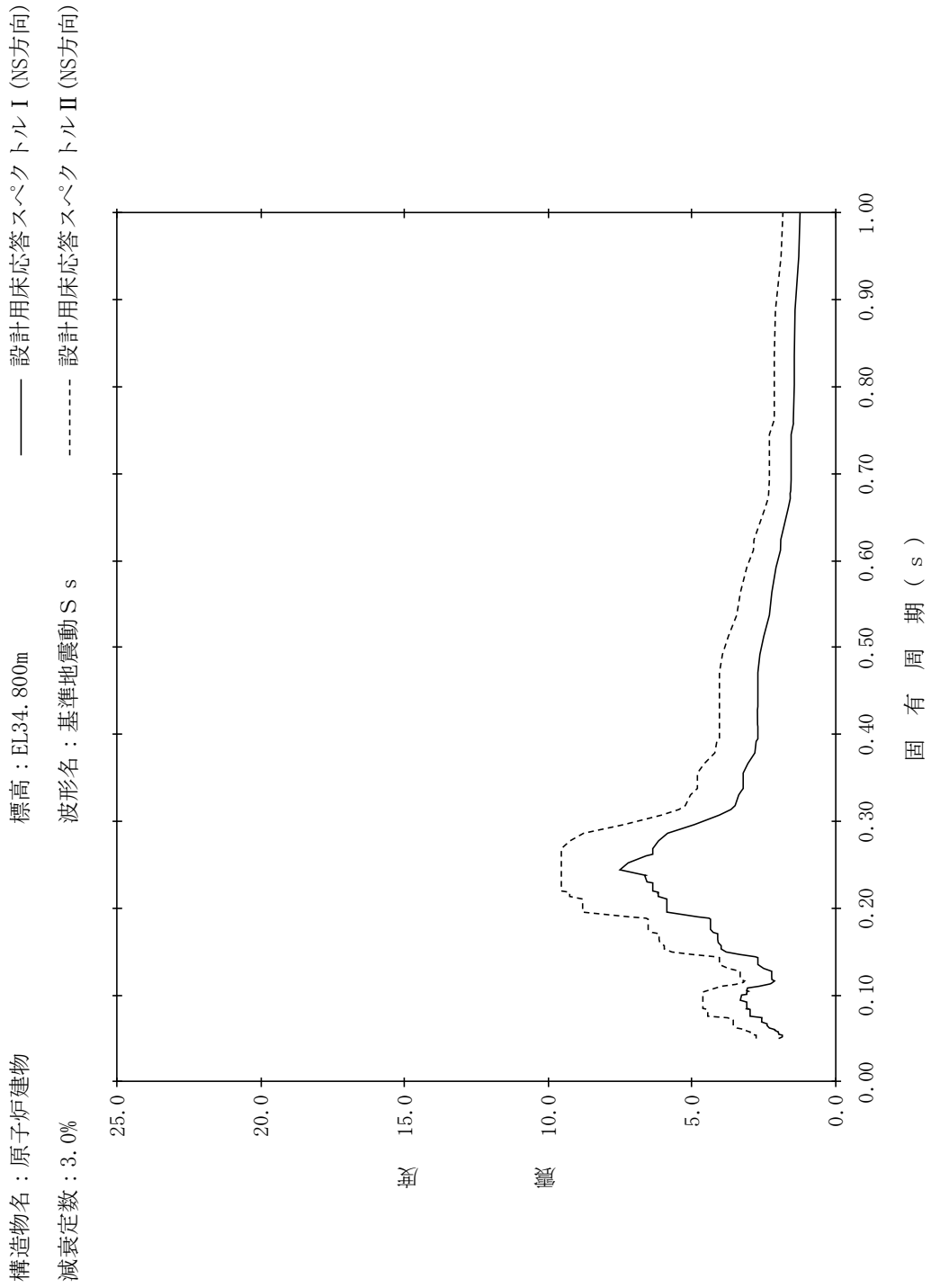


【NS2-RB-SsNS-RB29】

構造物名：原子炉建物
標高：EL34.800m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

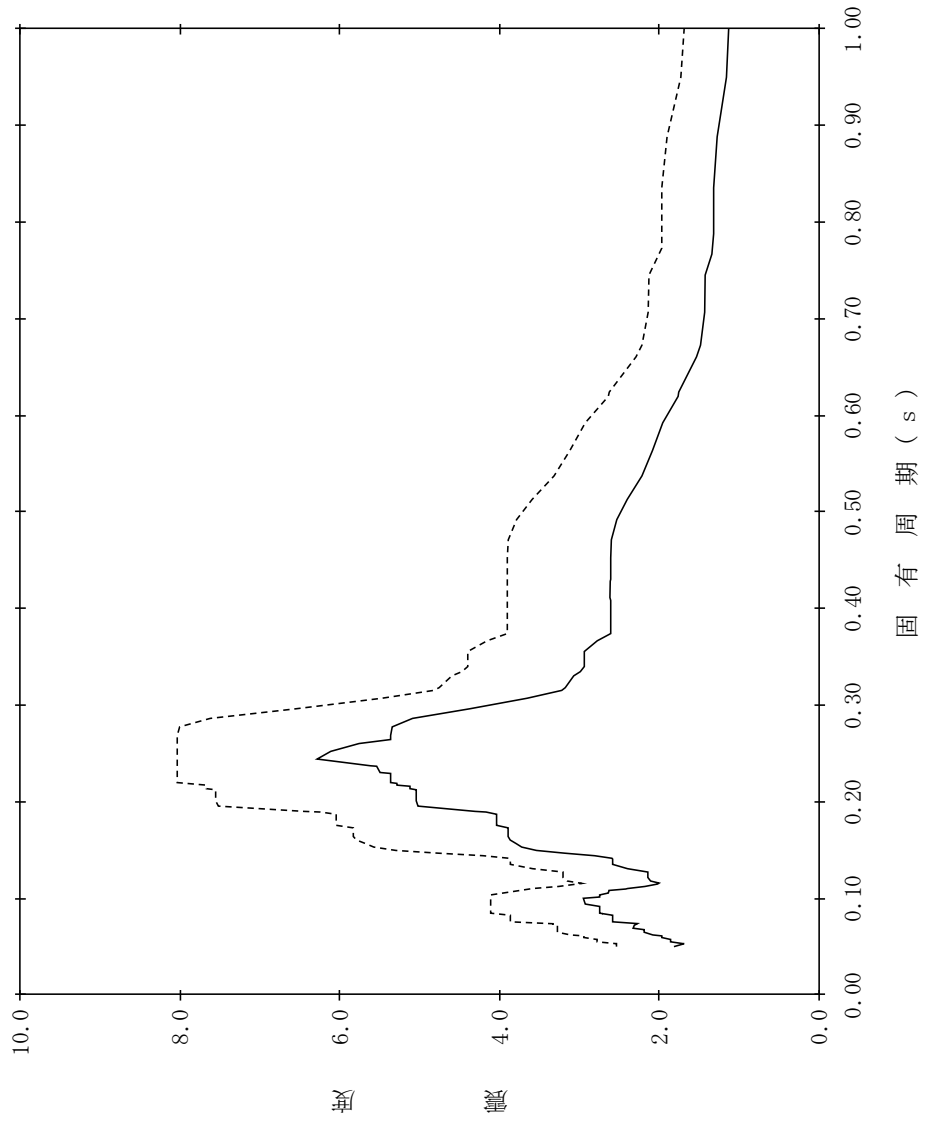


【NS2-RB-SsNS-RB30】



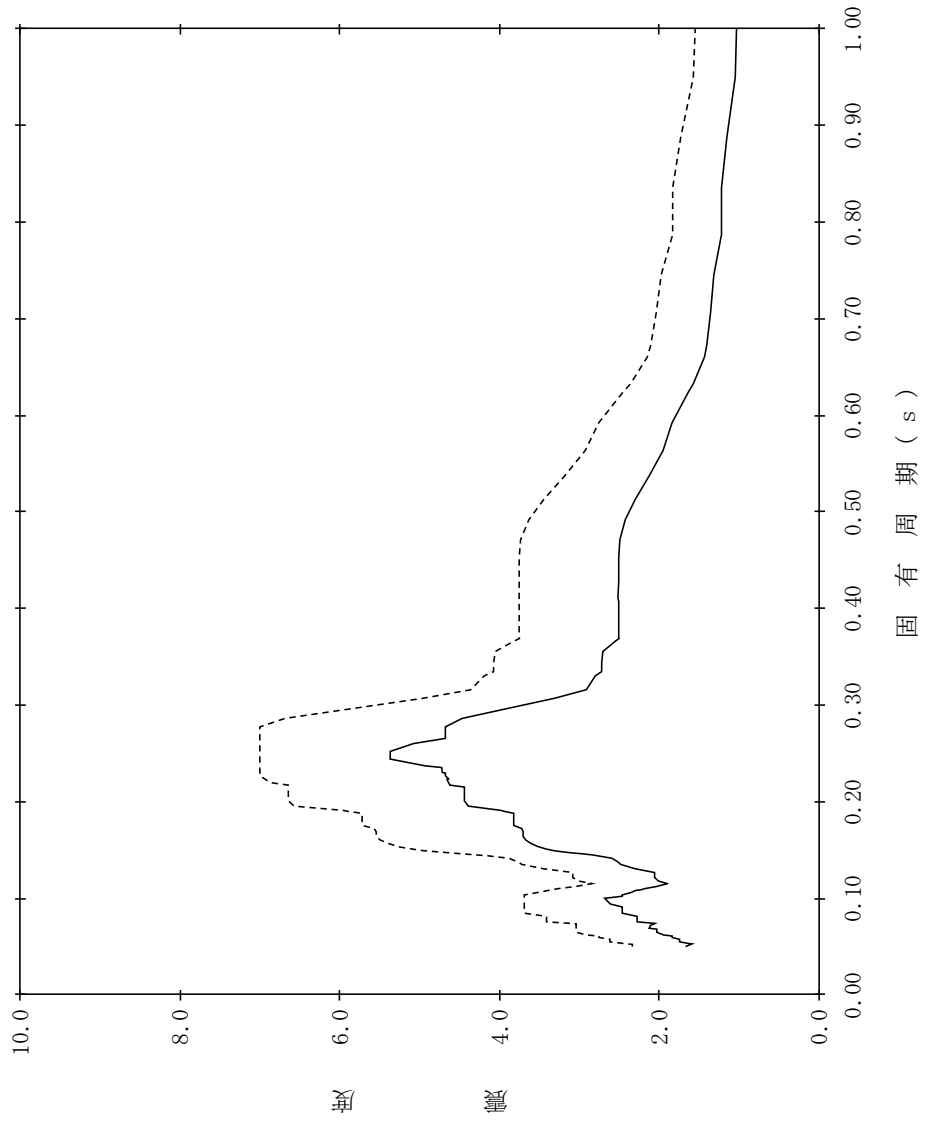
【NS2-RB-SsNS-RB31】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

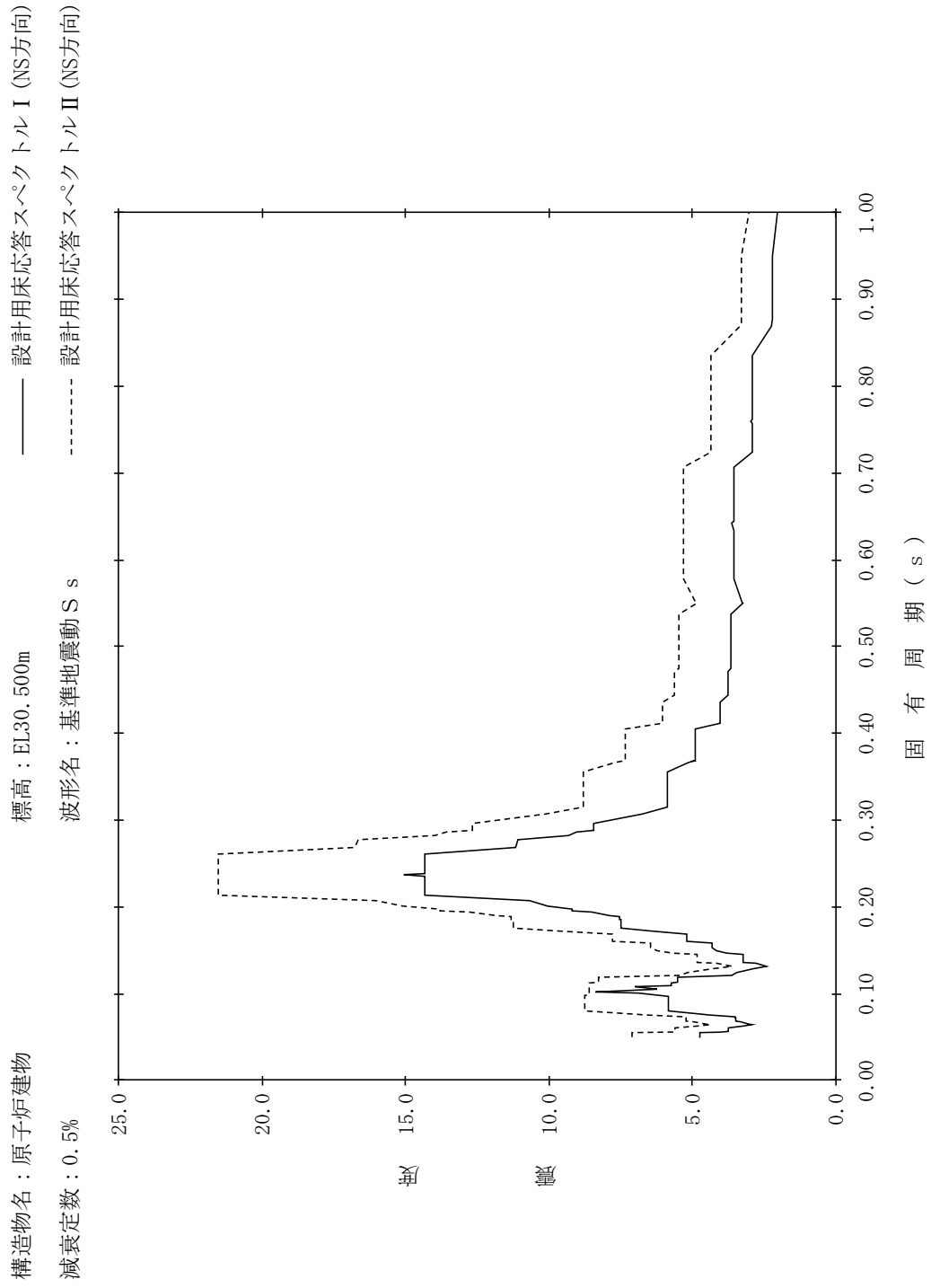


【NS2-RB-SsNS-RB32】

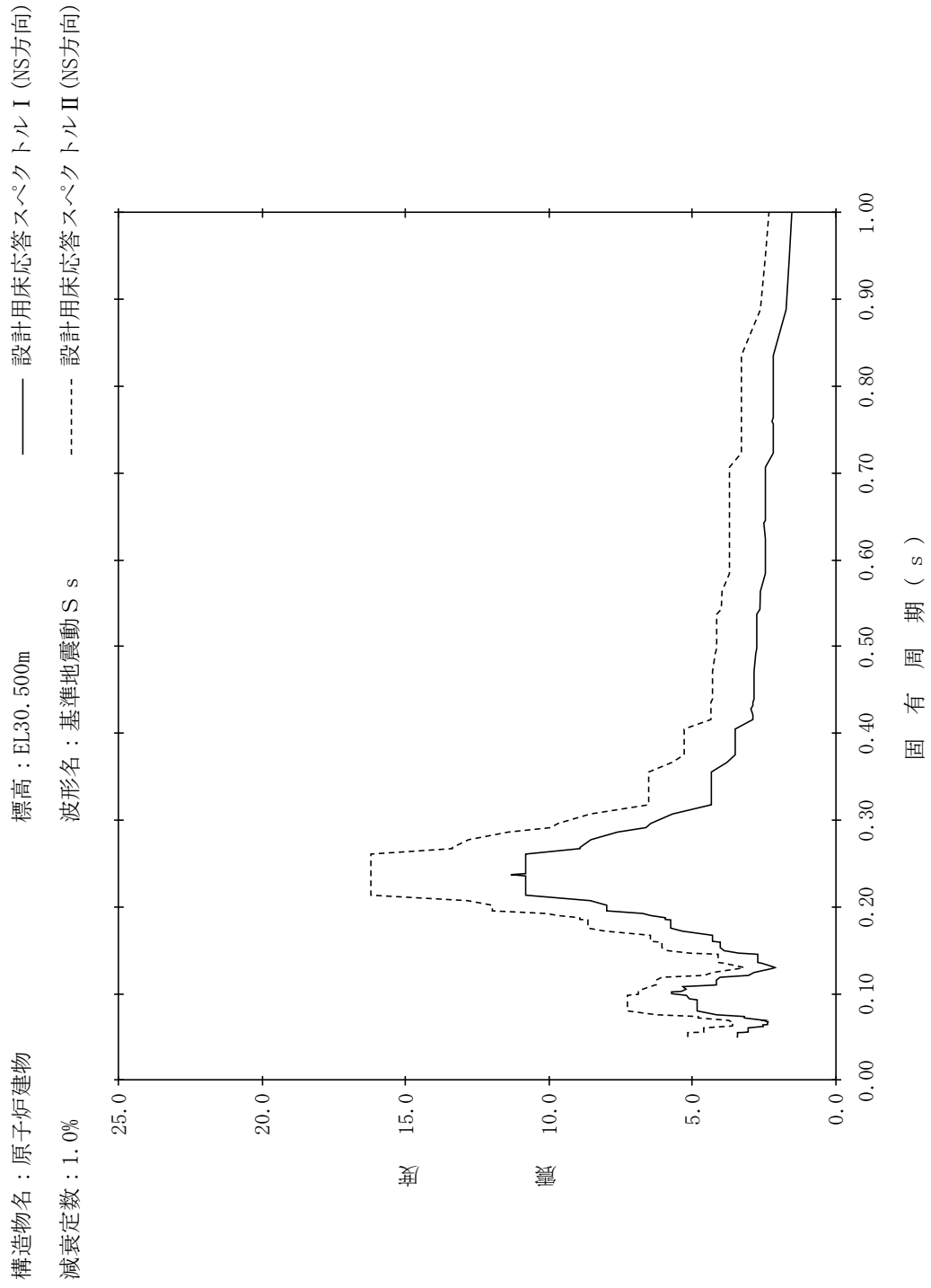
構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-RB-SsNS-RB33】

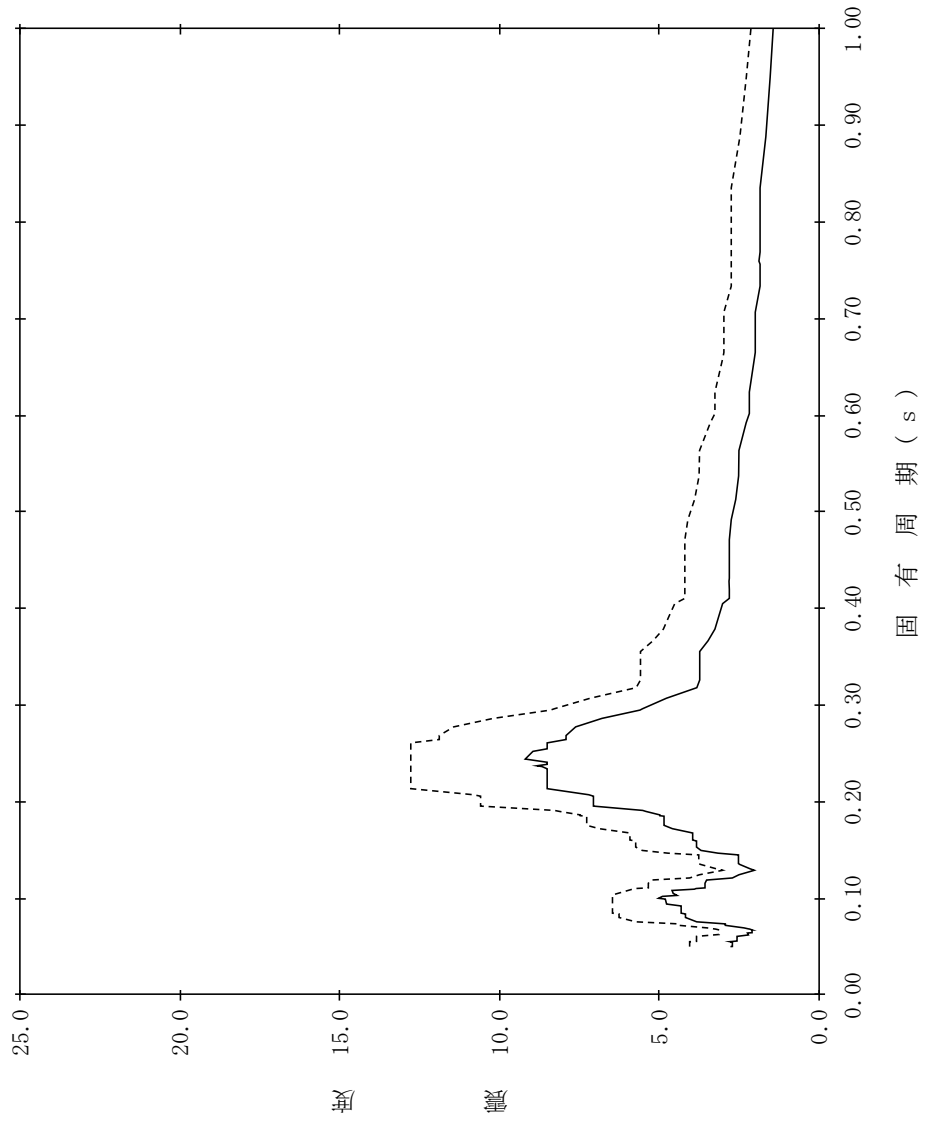


【NS2-RB-SsNS-RB34】



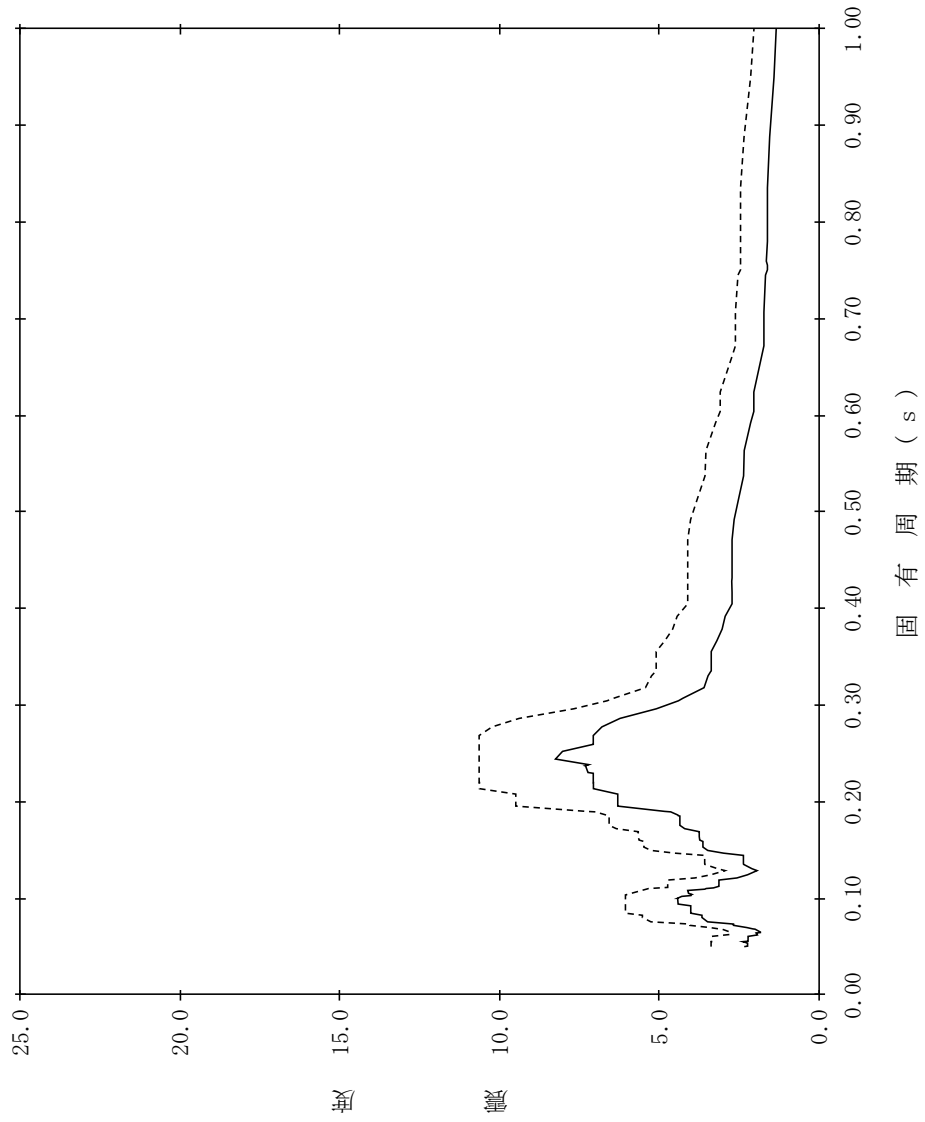
【NS2-RB-SsNS-RB35】

構造物名：原子炉建物
減衰定数：1.5%
標高：EL30.500m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



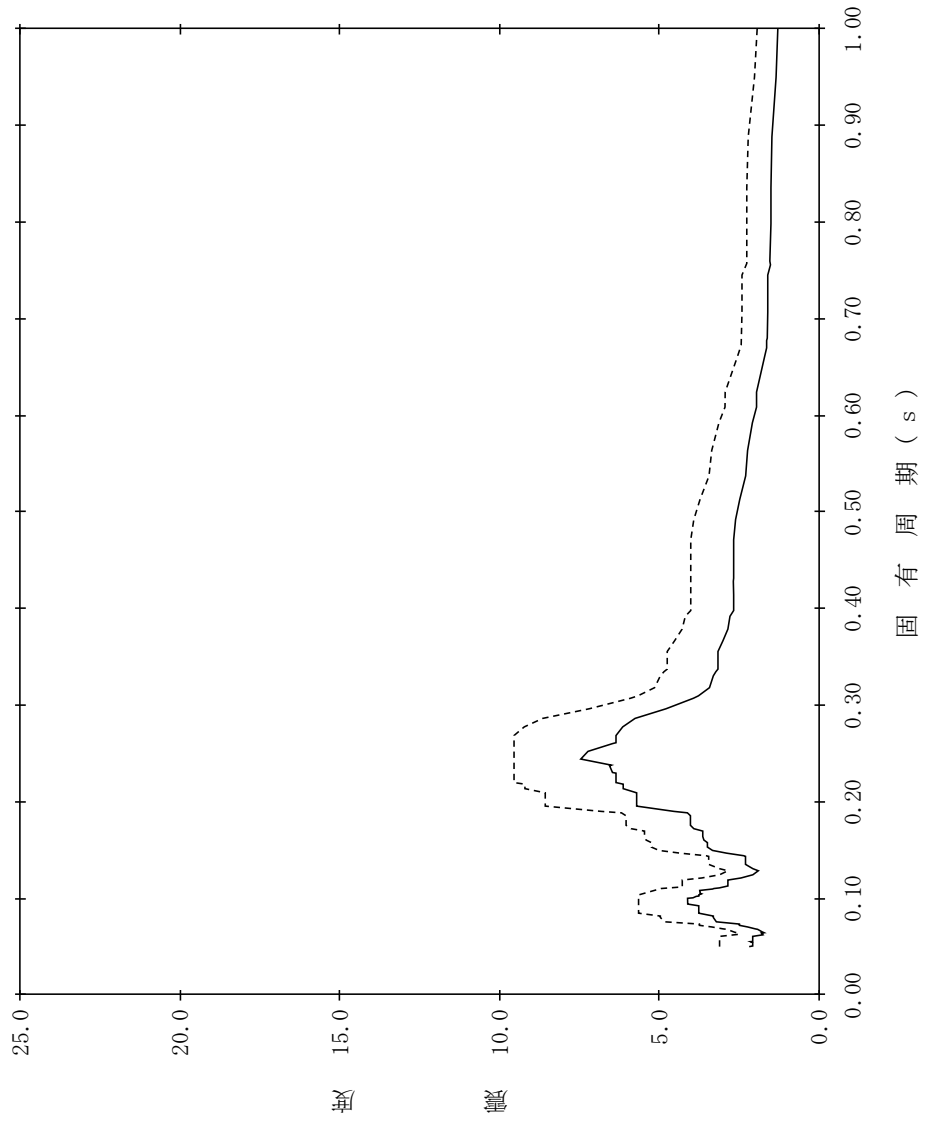
【NS2-RB-SsNS-RB36】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



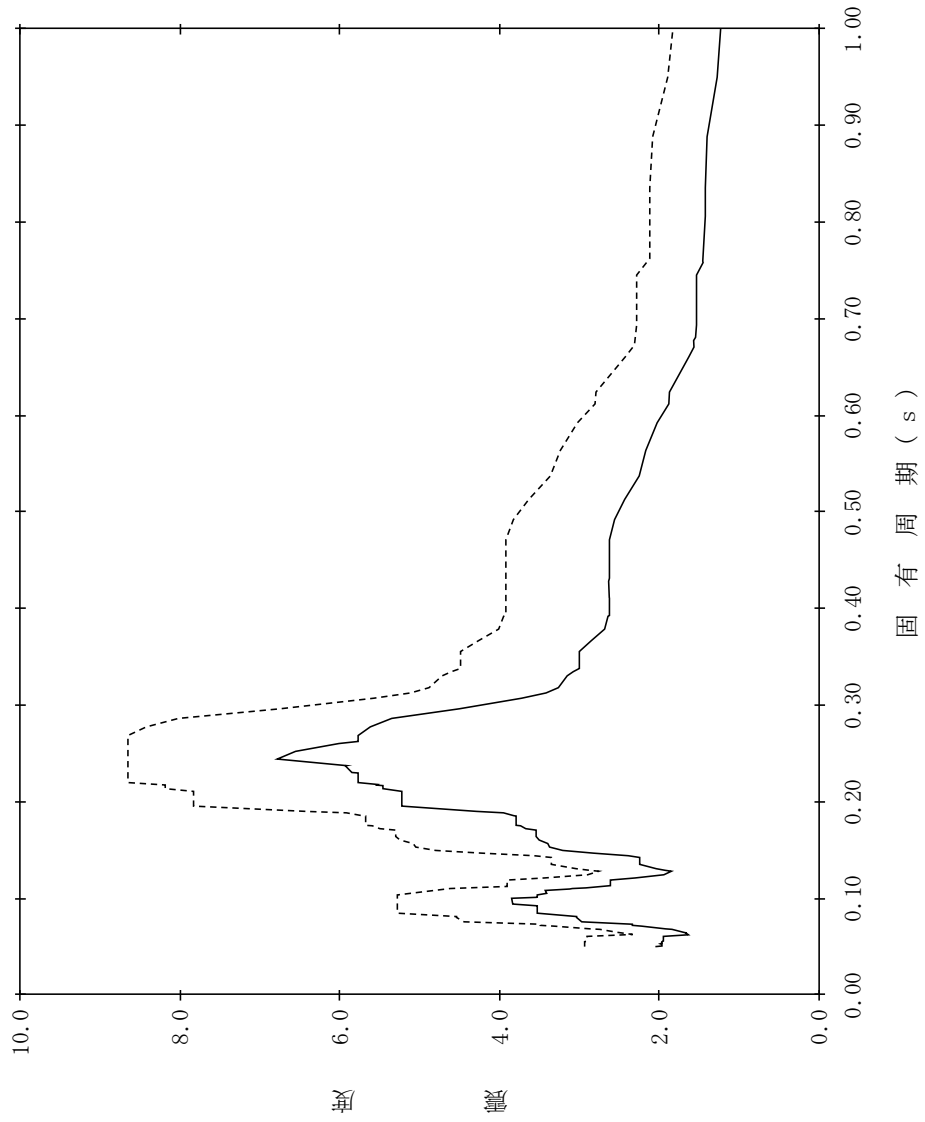
【NS2-RB-SsNS-RB37】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



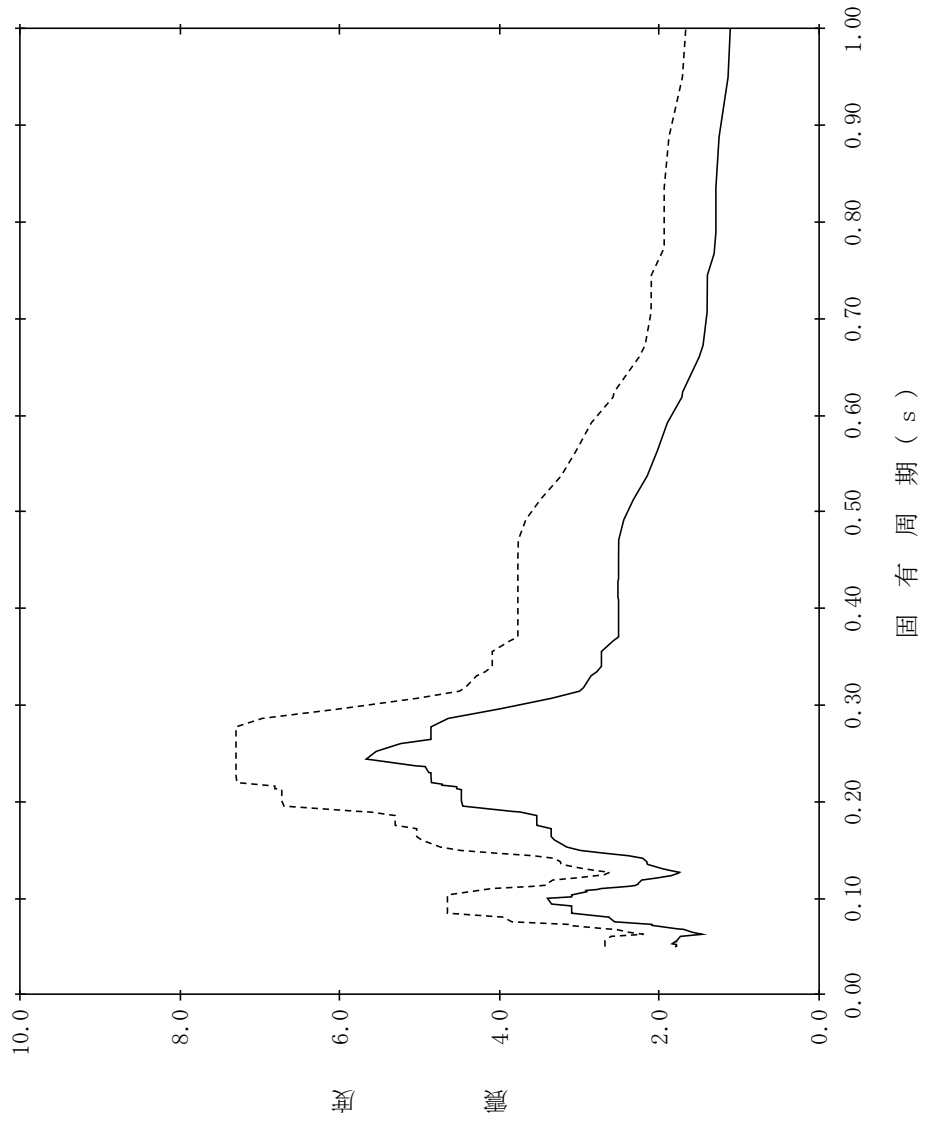
【NS2-RB-SsNS-RB38】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



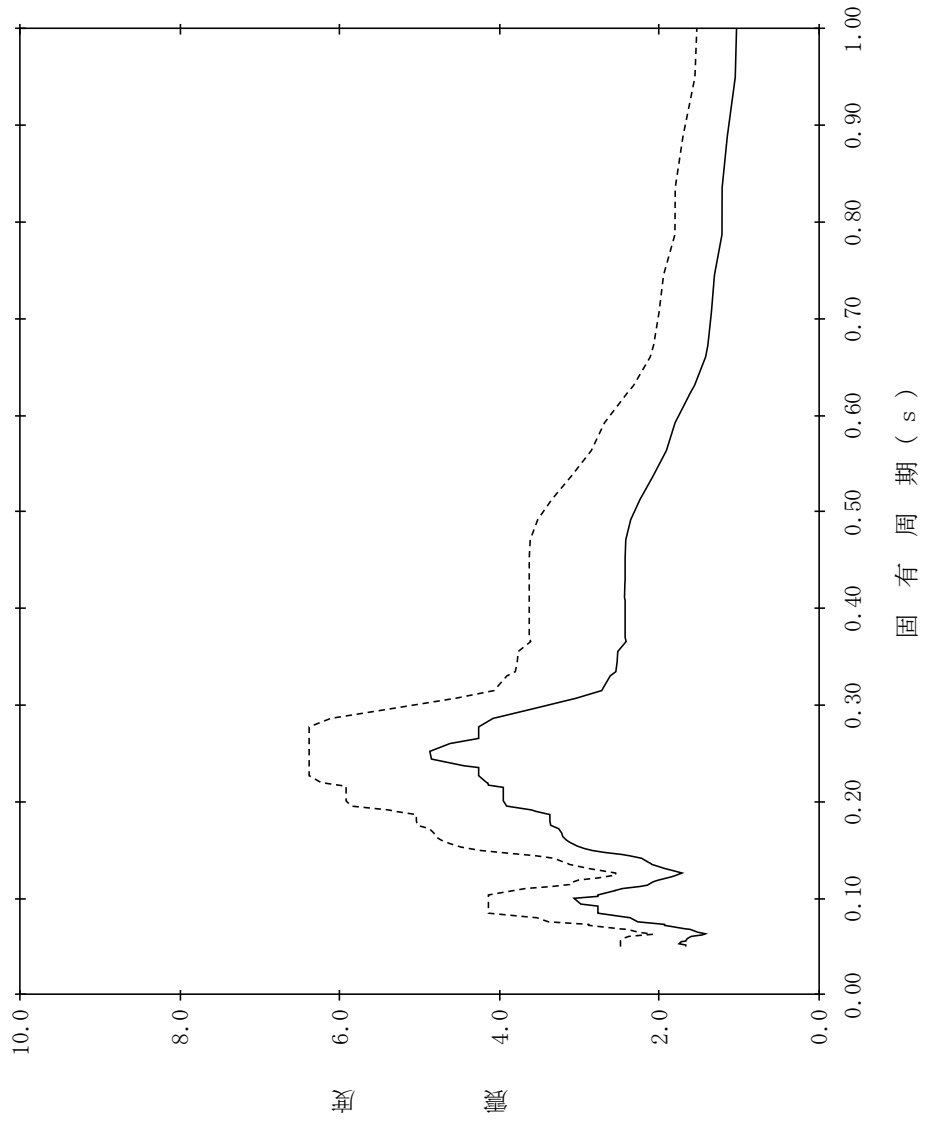
【NS2-RB-SsNS-RB39】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



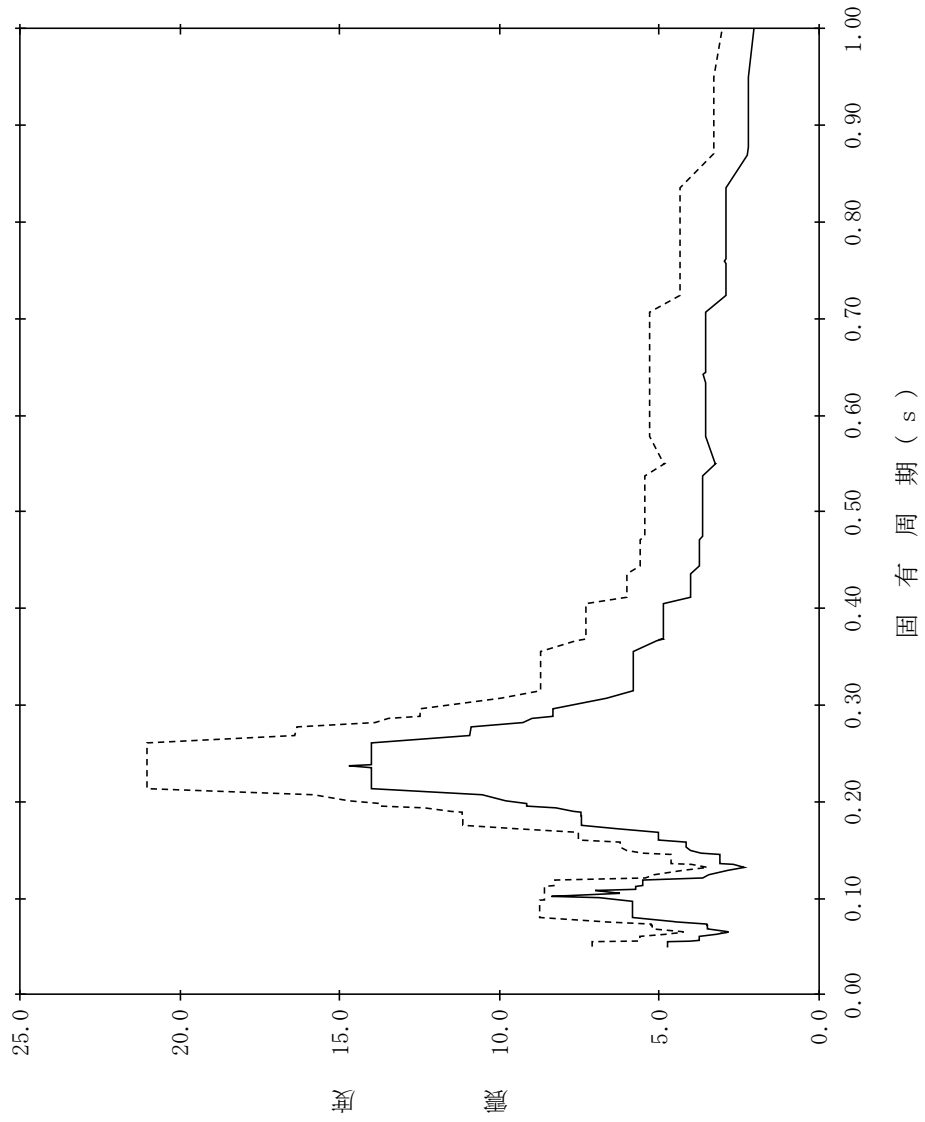
【NS2-RB-SsNS-RB40】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



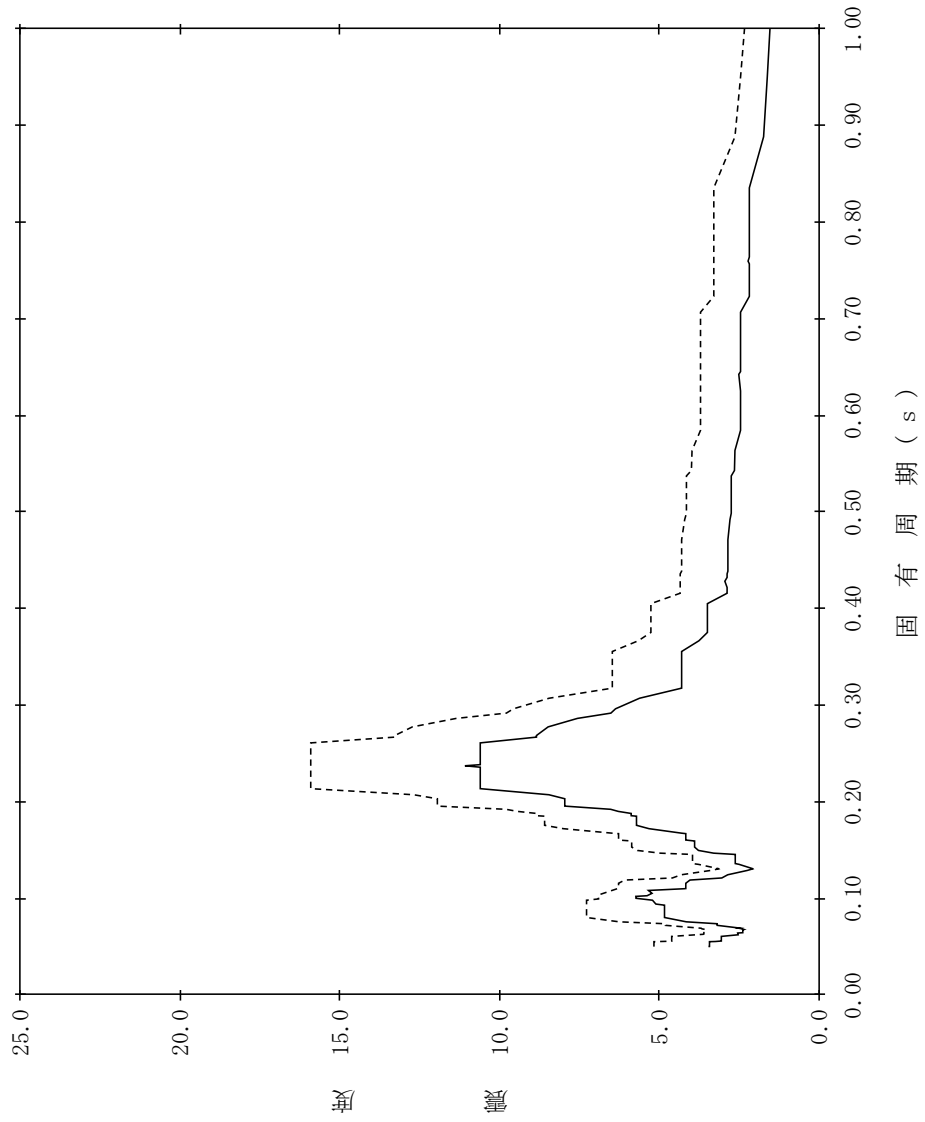
【NS2-RB-SsNS-RB41】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 減衰定数：0.5%
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



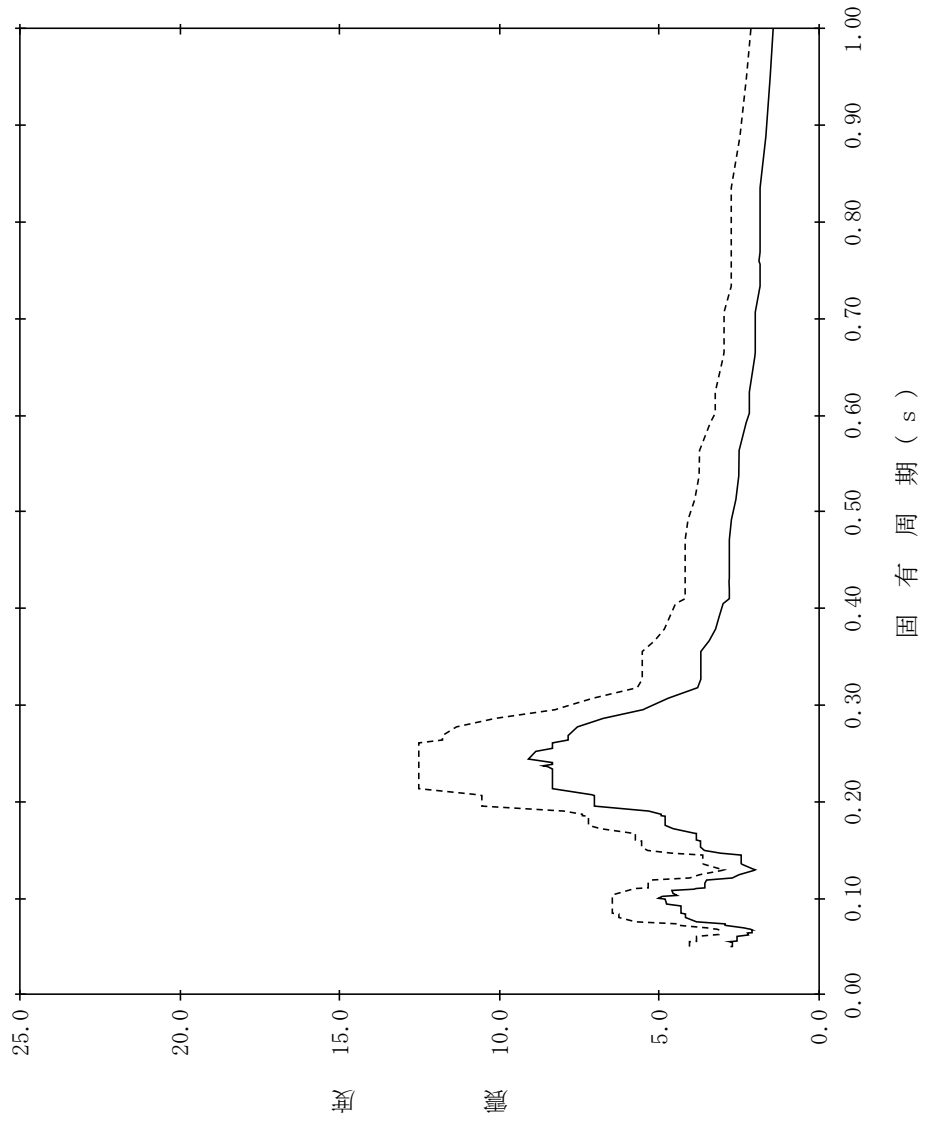
【NS2-RB-SsNS-RB42】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



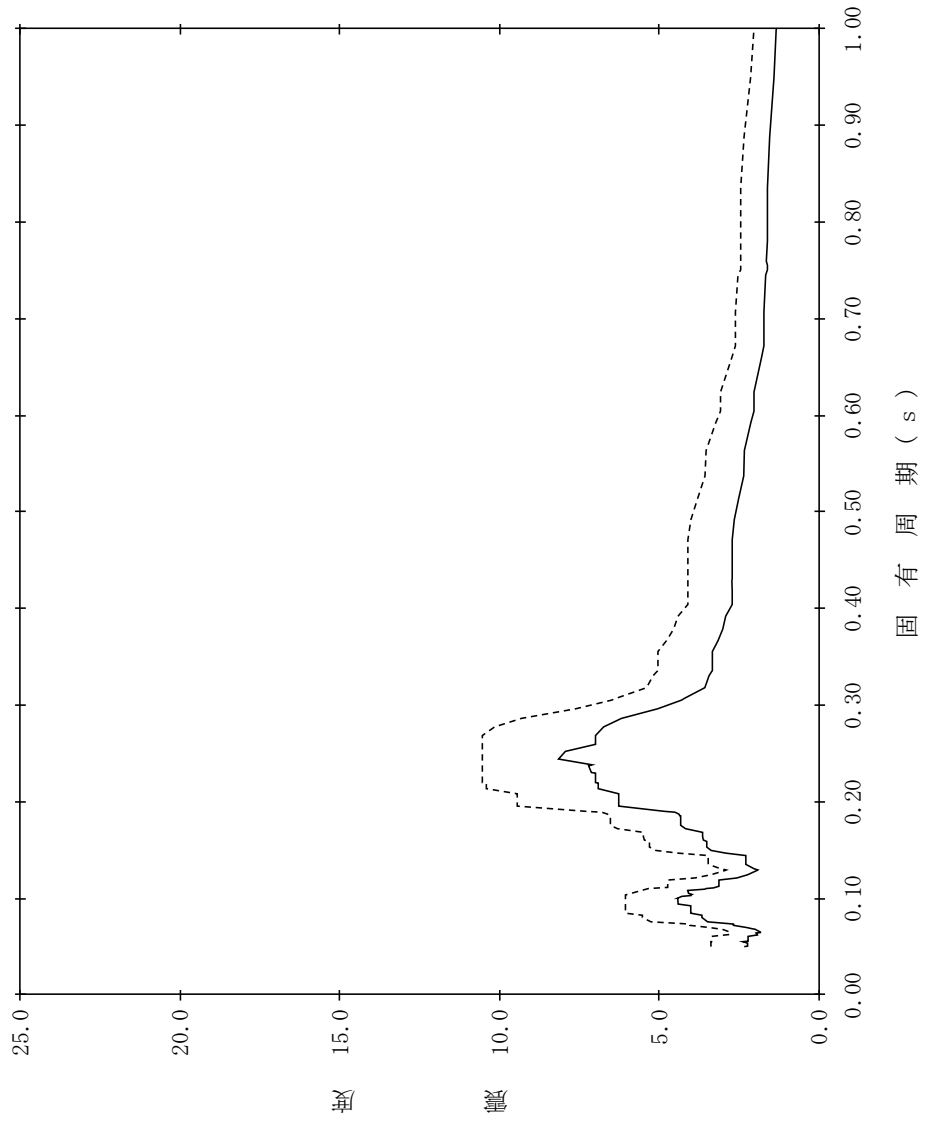
【NS2-RB-SsNS-RB43】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



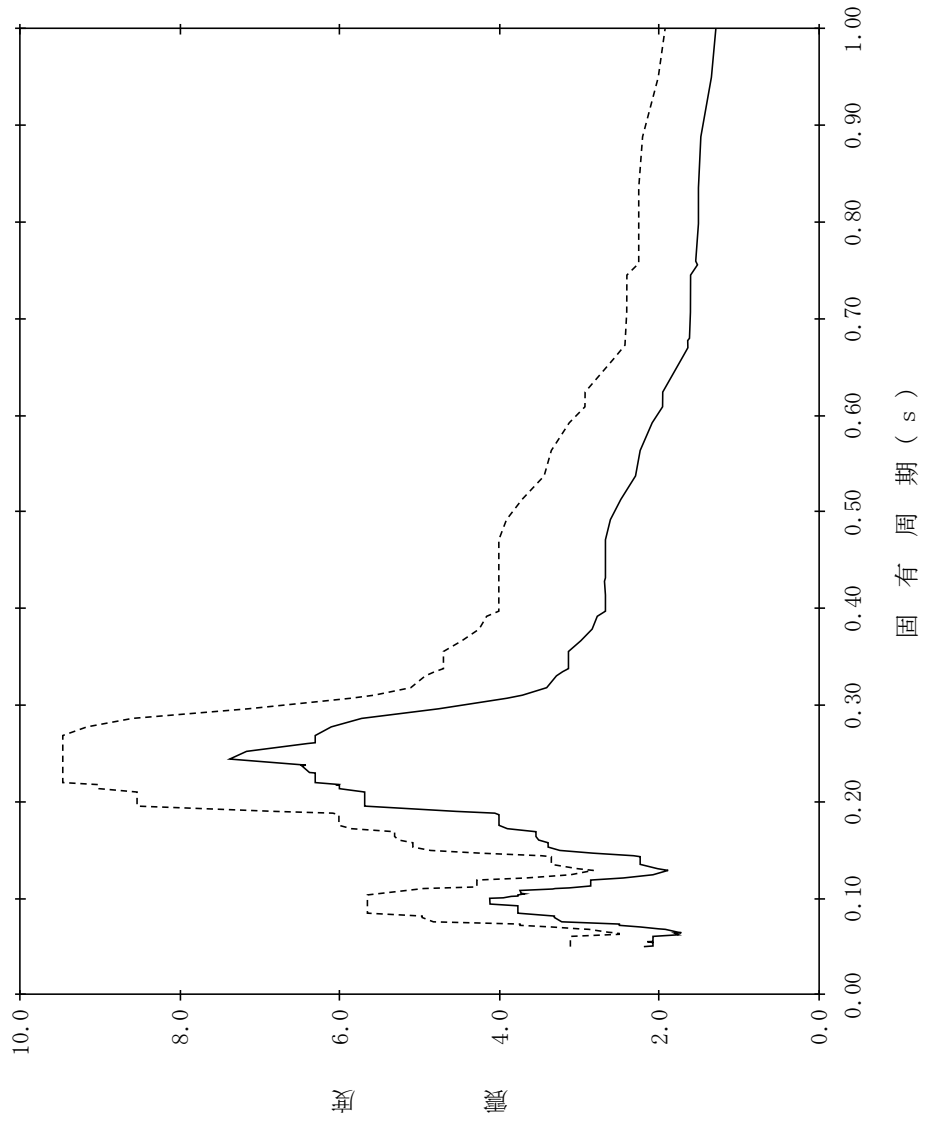
【NS2-RB-SsNS-RB44】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



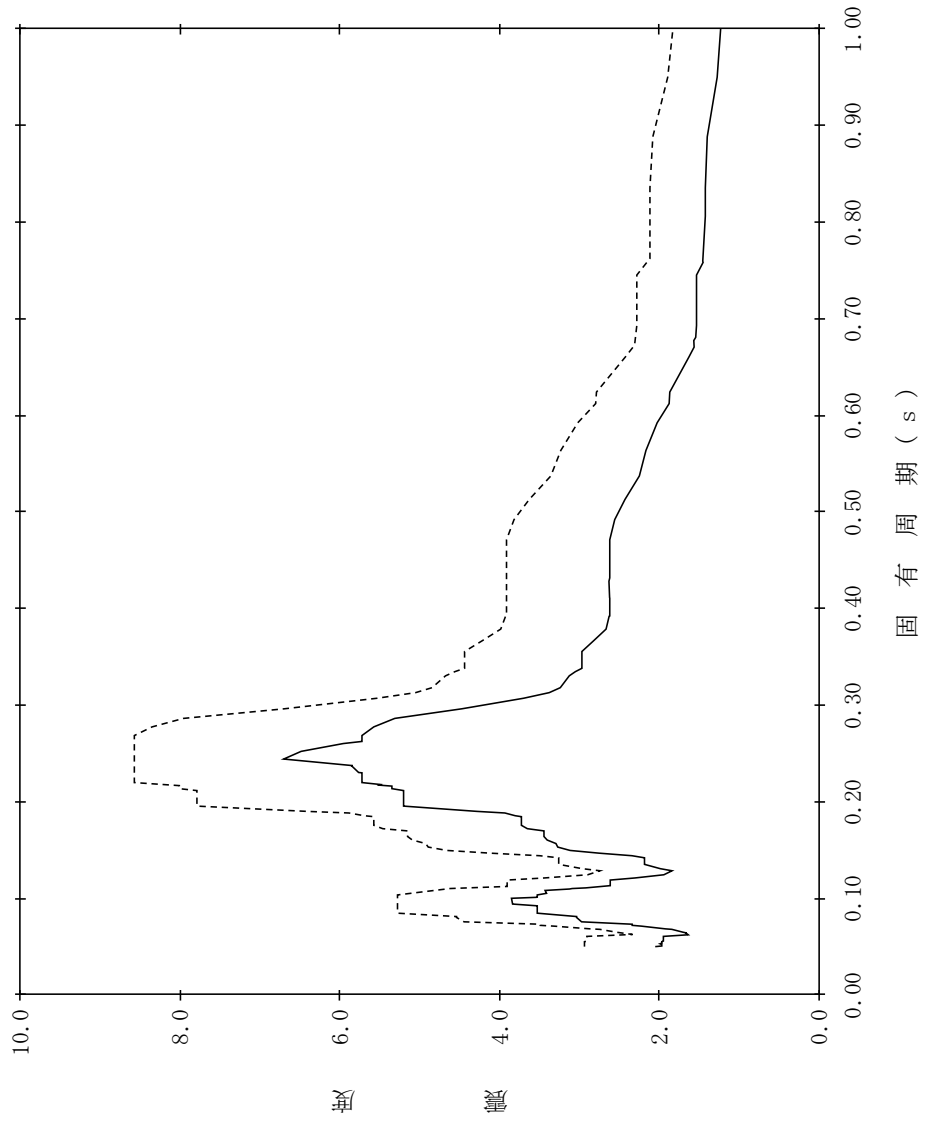
【NS2-RB-SsNS-RB45】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s



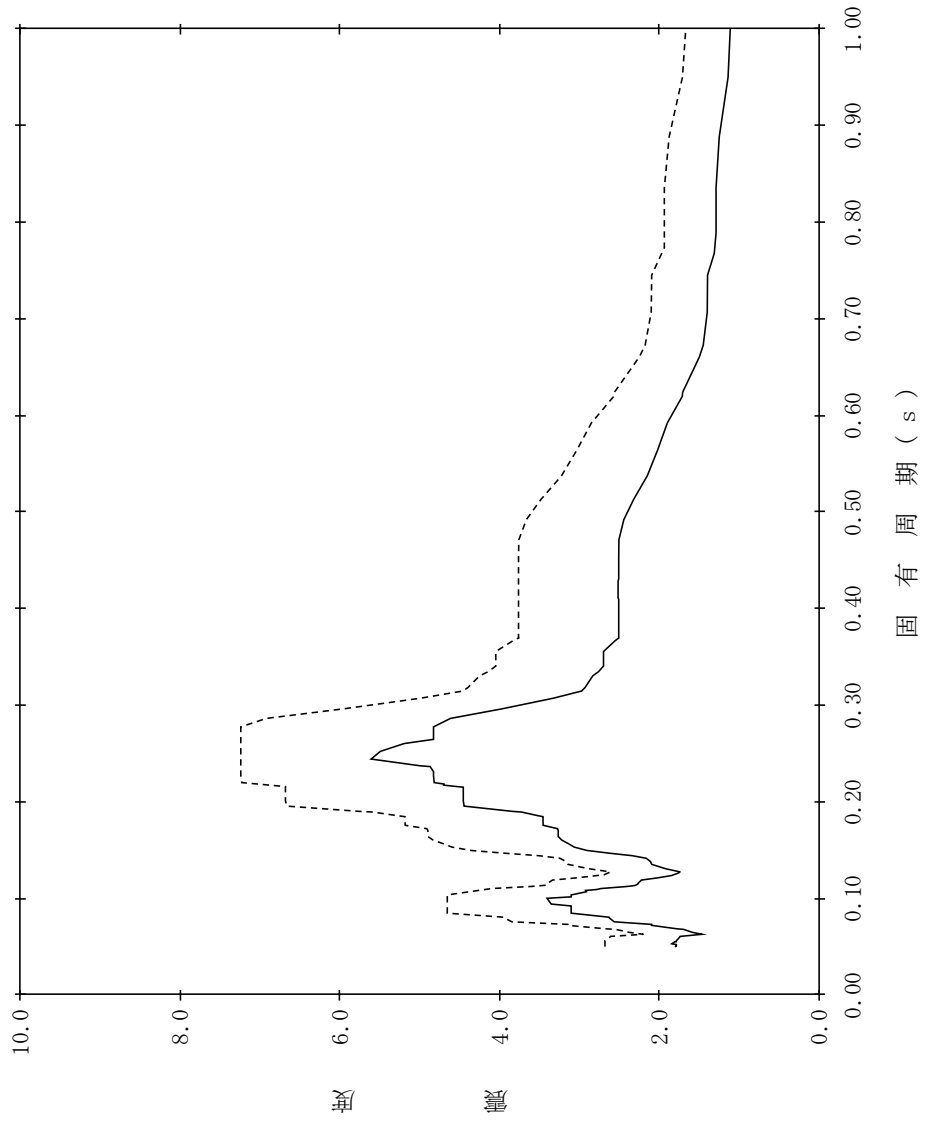
【NS2-RB-SsNS-RB46】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



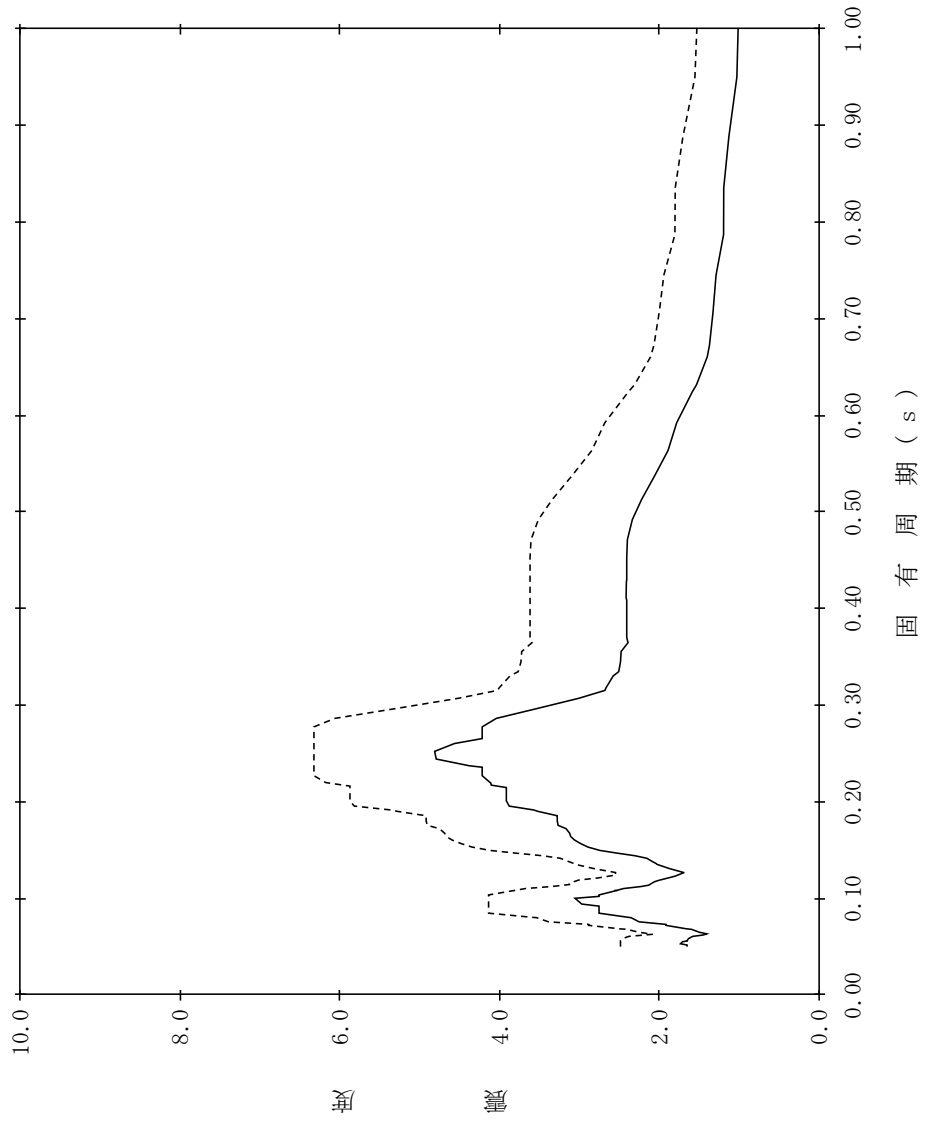
【NS2-RB-SsNS-RB47】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



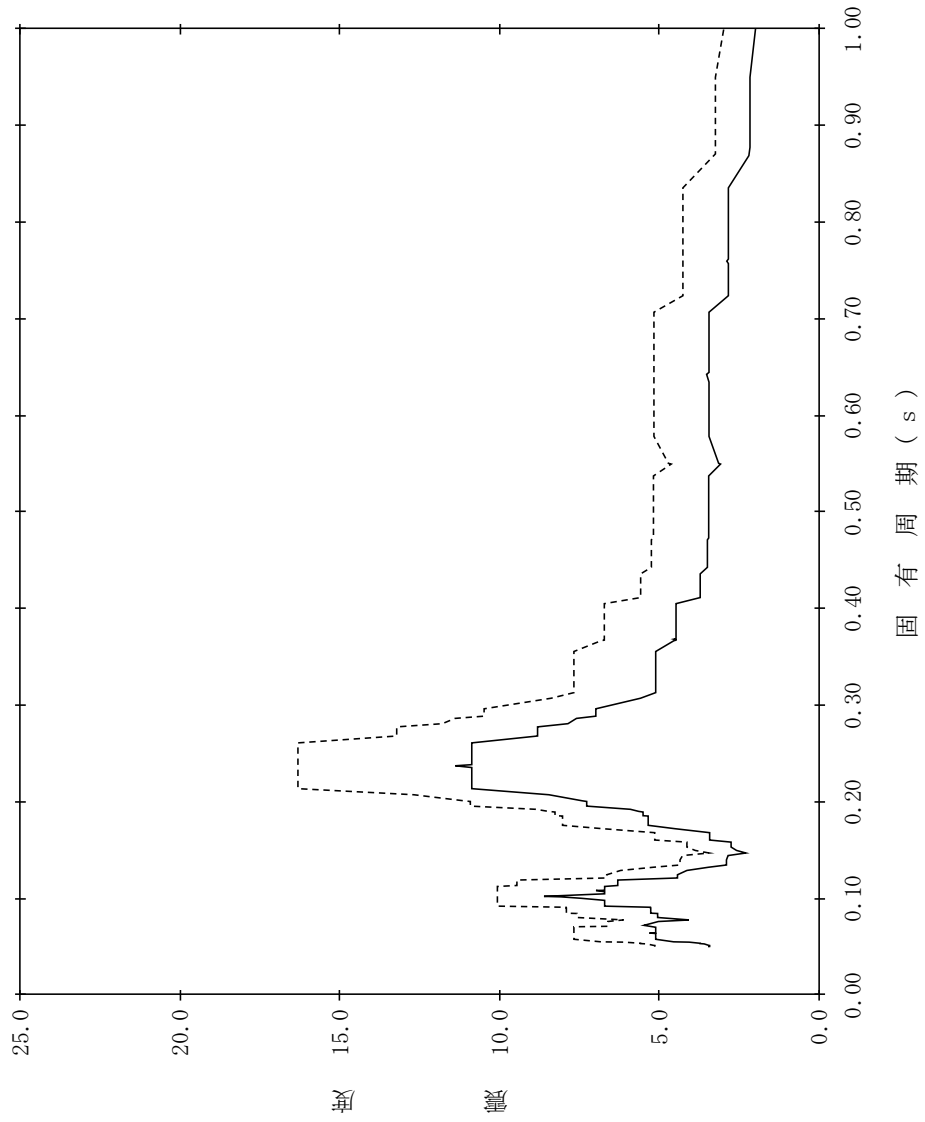
【NS2-RB-SsNS-RB48】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：5.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



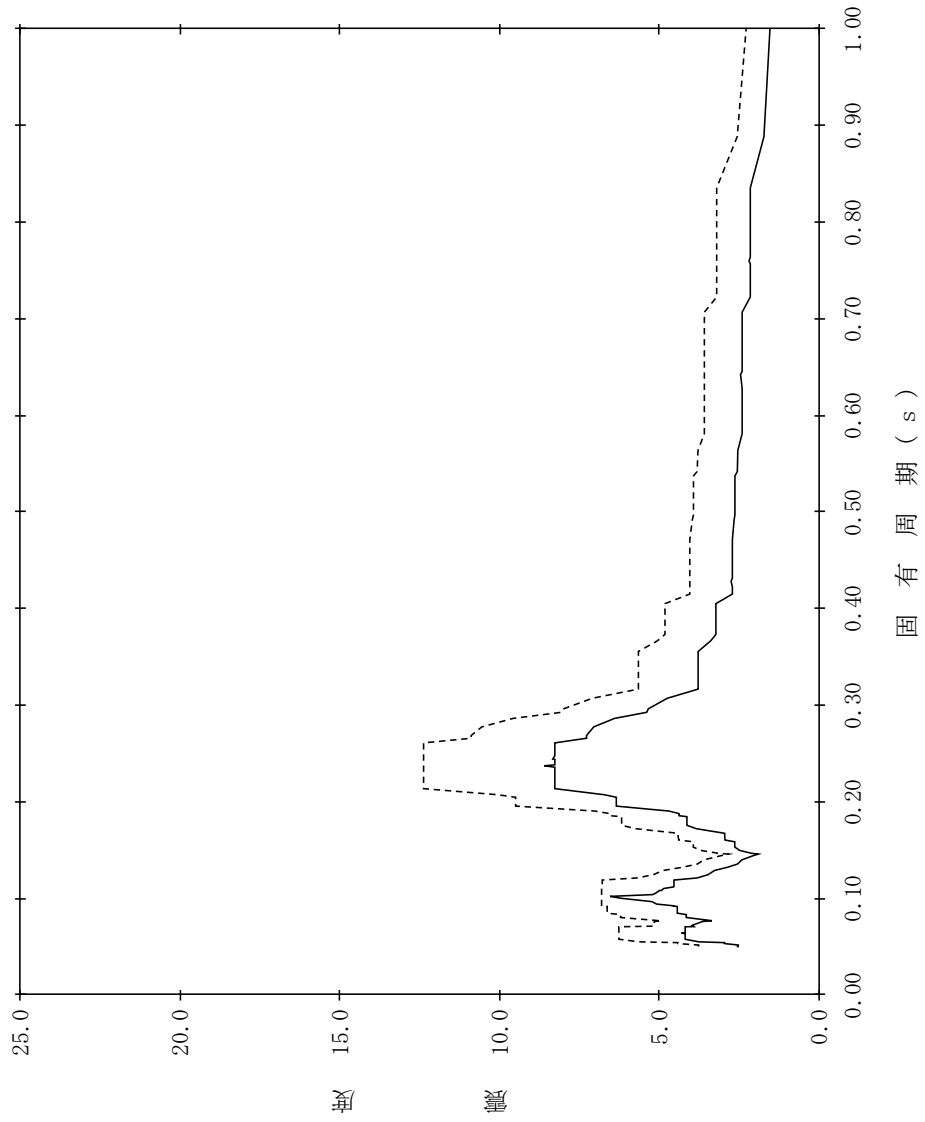
【NS2-RB-SsNS-RB49】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



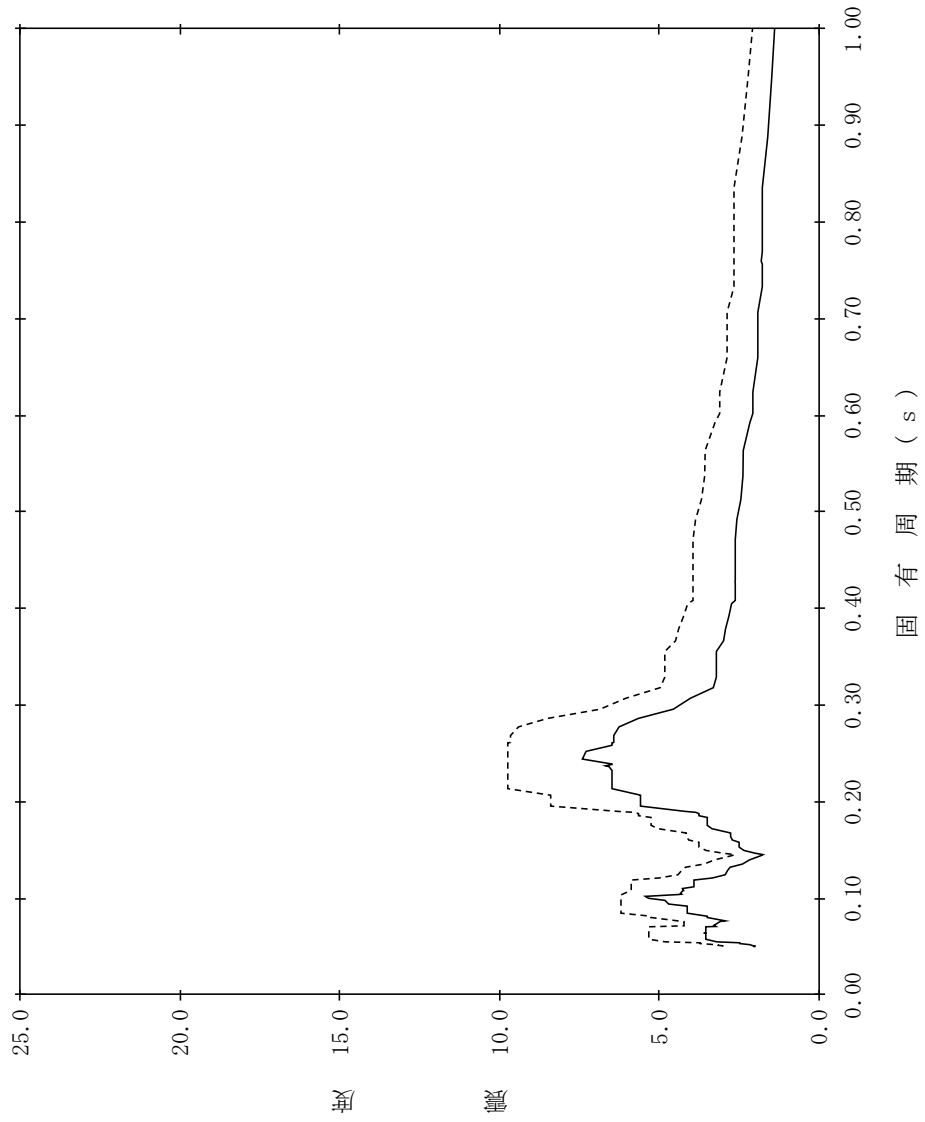
【NS2-RB-SsNS-RB50】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



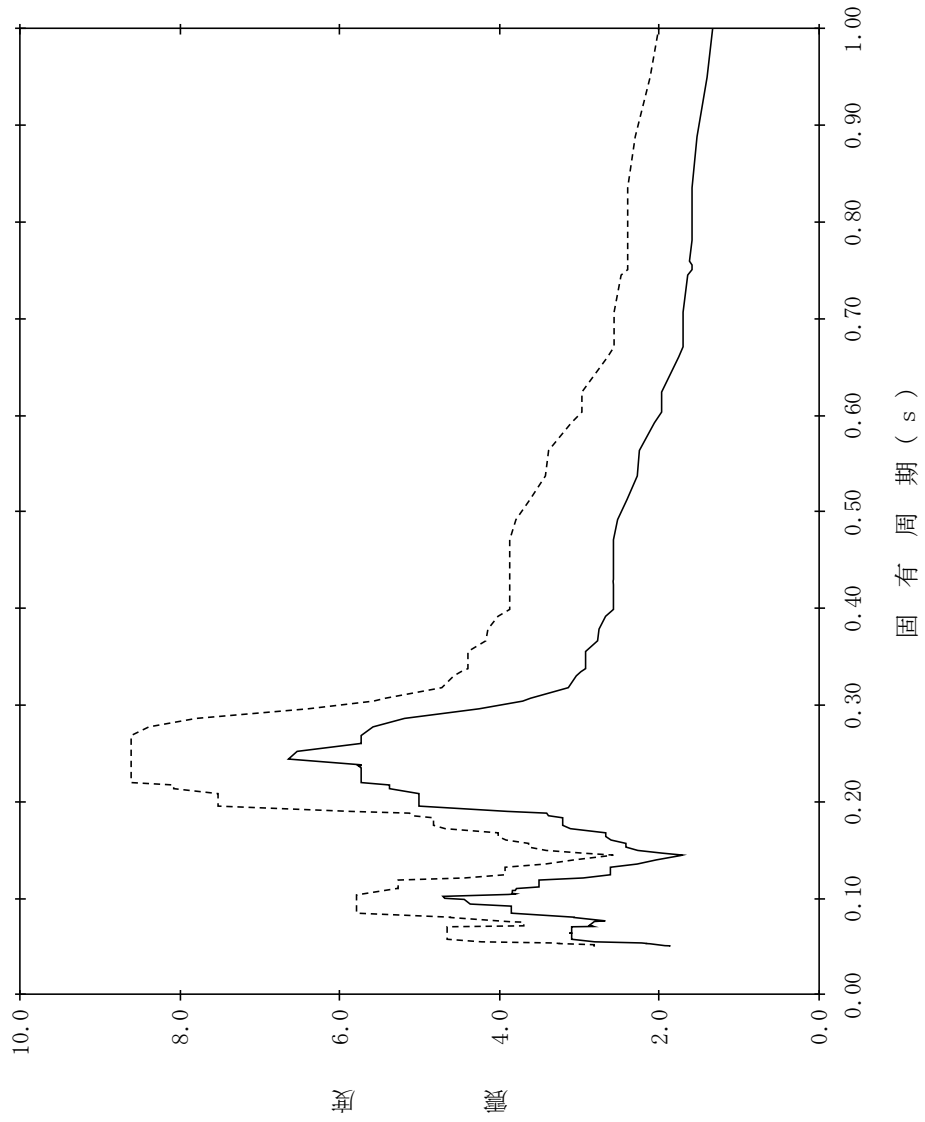
【NS2-RB-SsNS-RB51】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

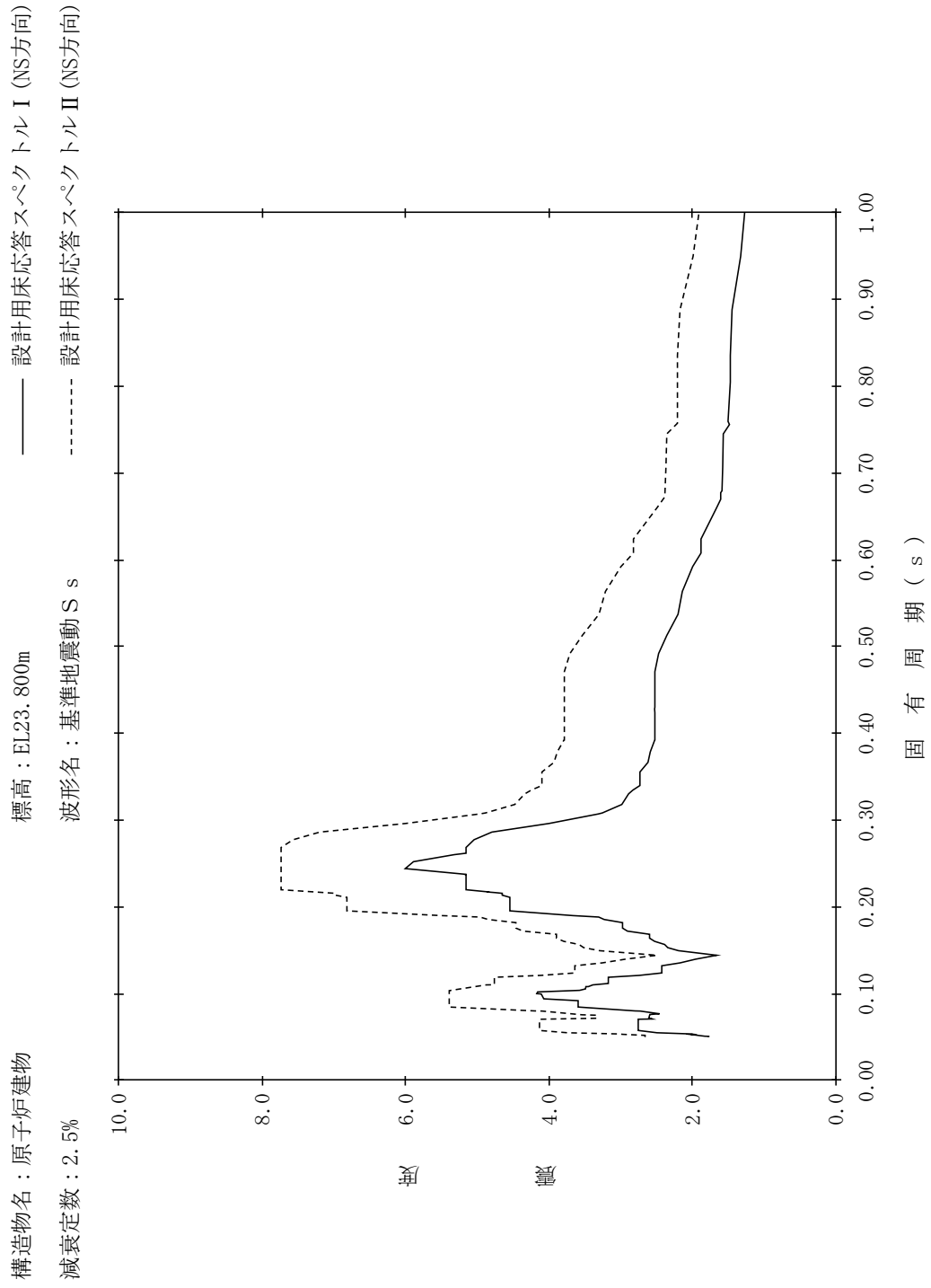


【NS2-RB-SsNS-RB52】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

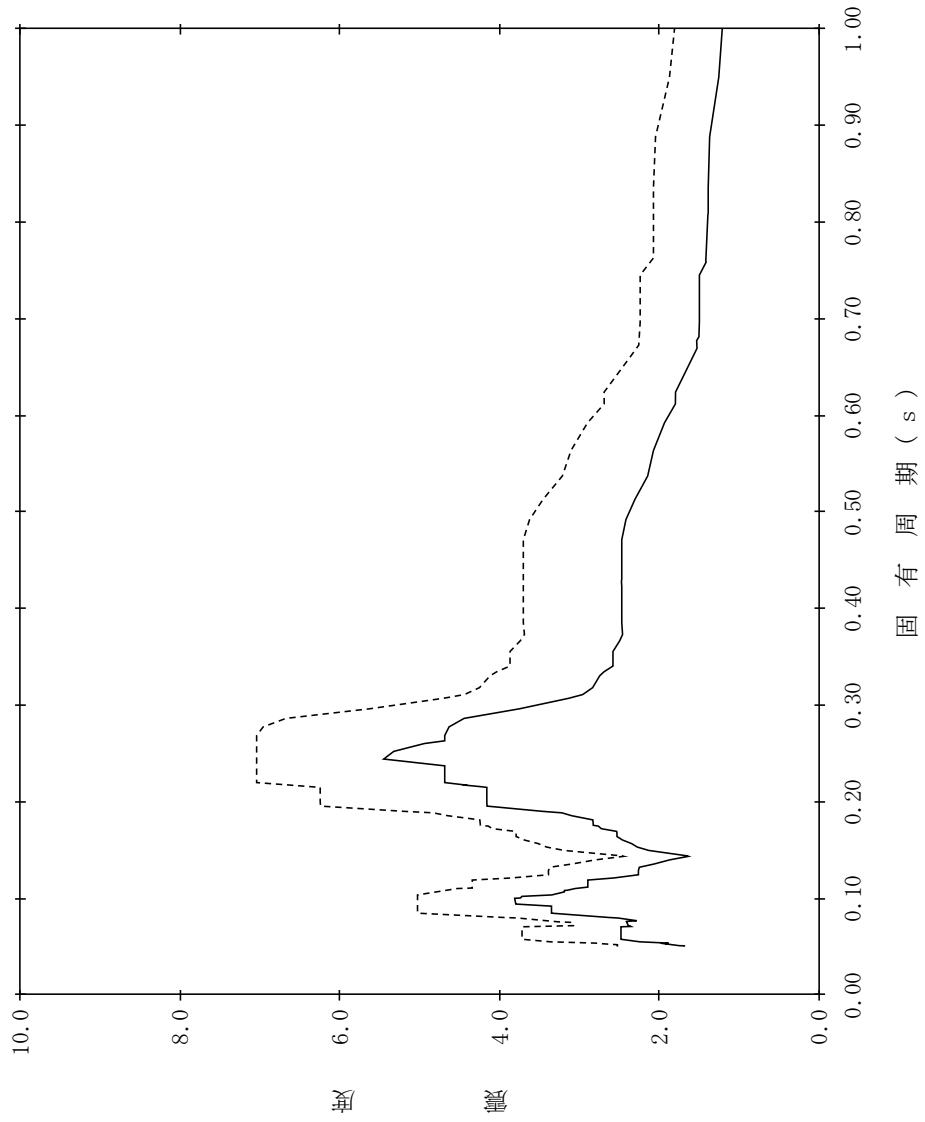


【NS2-RB-SsNS-RB53】



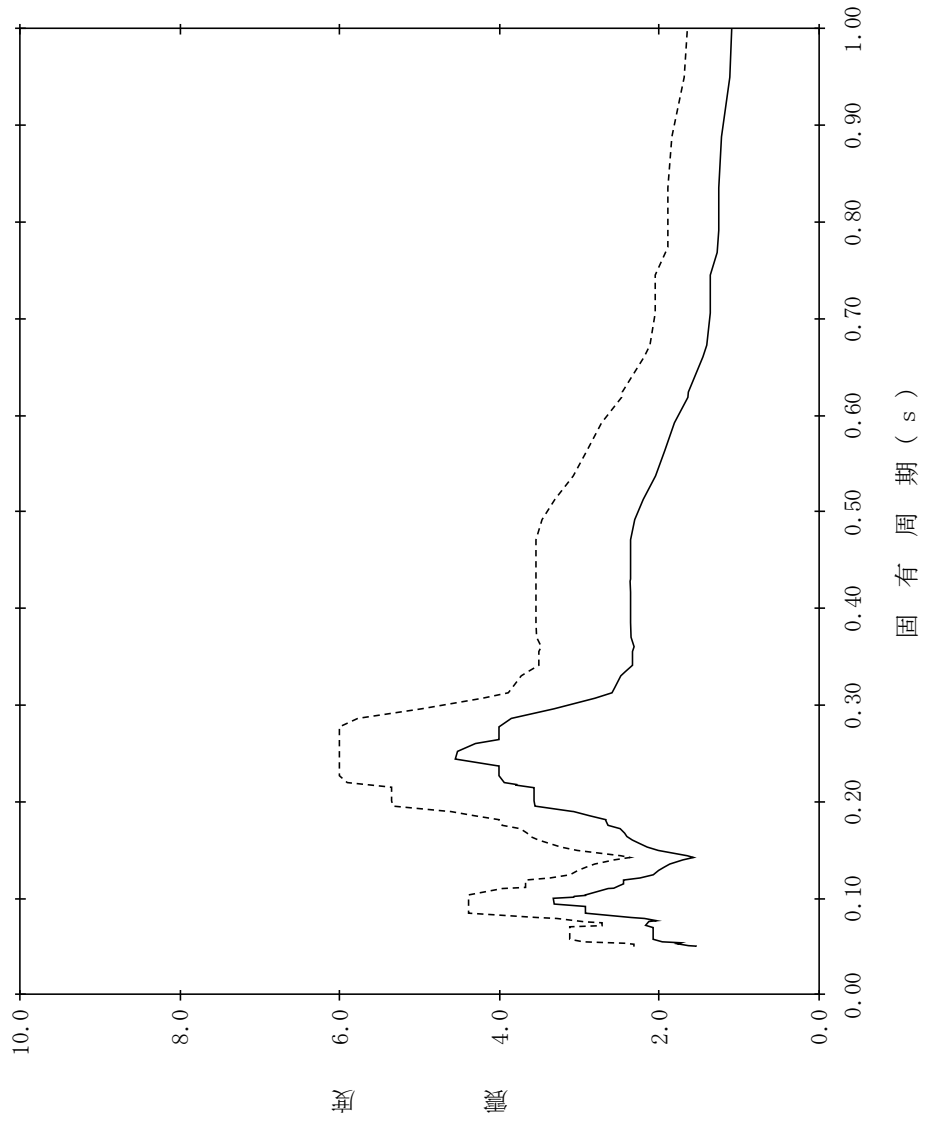
【NS2-RB-SsNS-RB54】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



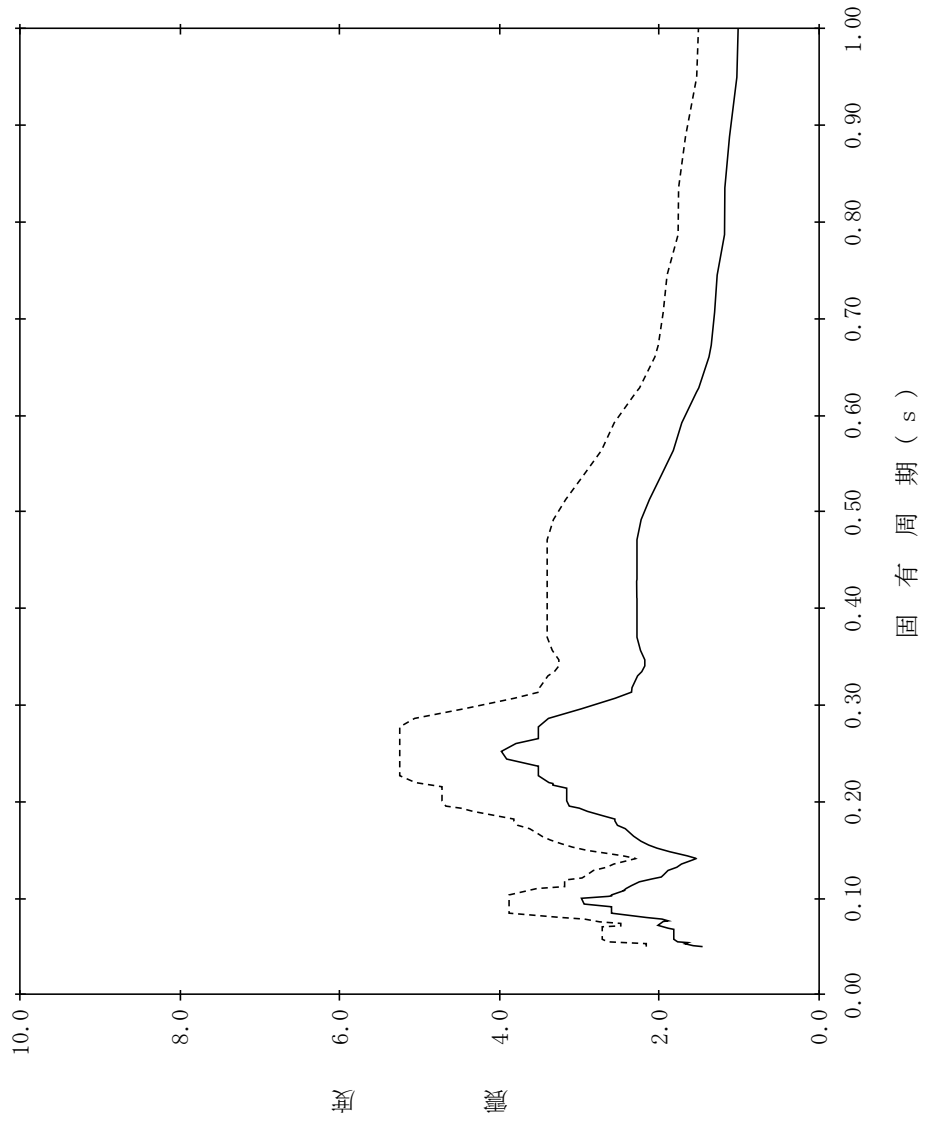
【NS2-RB-SsNS-RB55】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

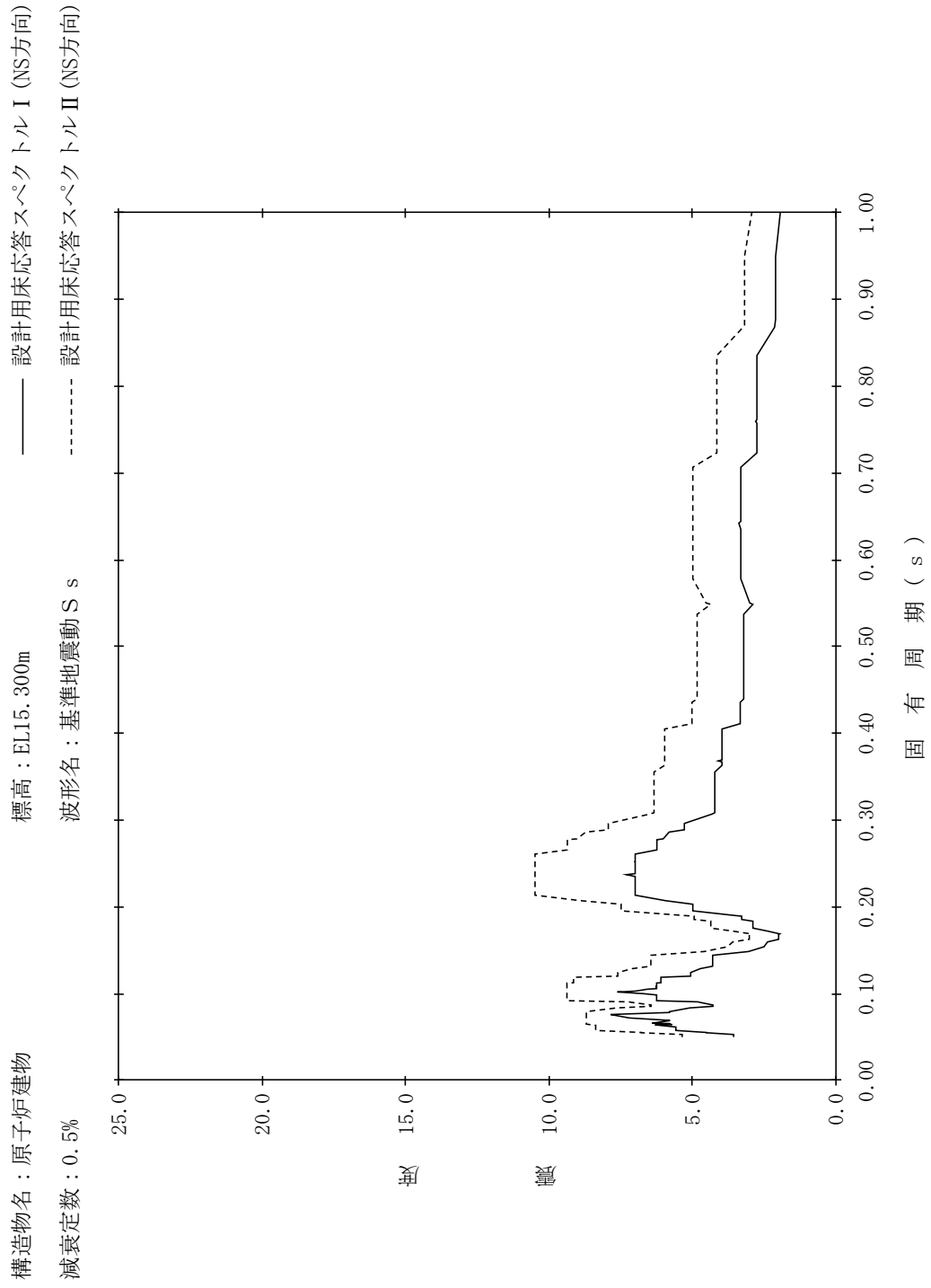


【NS2-RB-SsNS-RB56】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

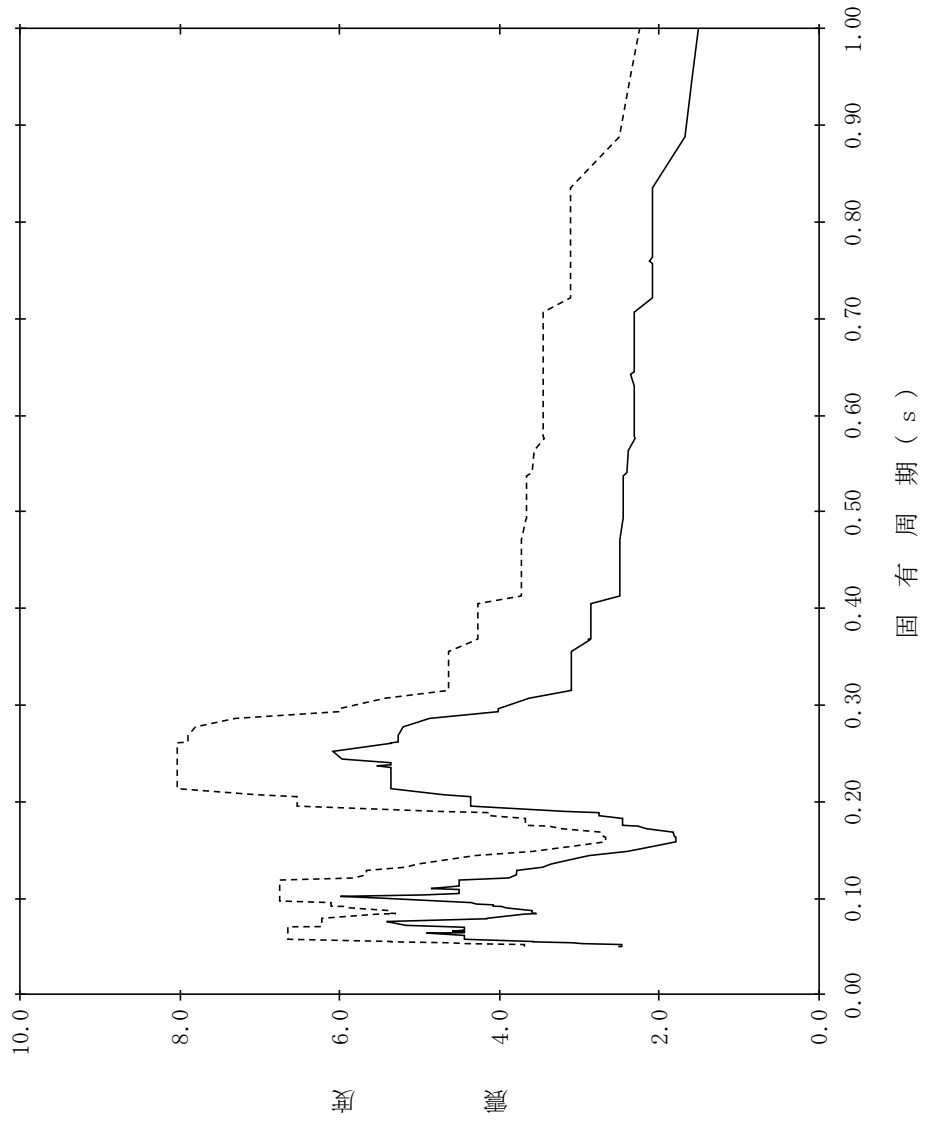


【NS2-RB-SsNS-RB57】



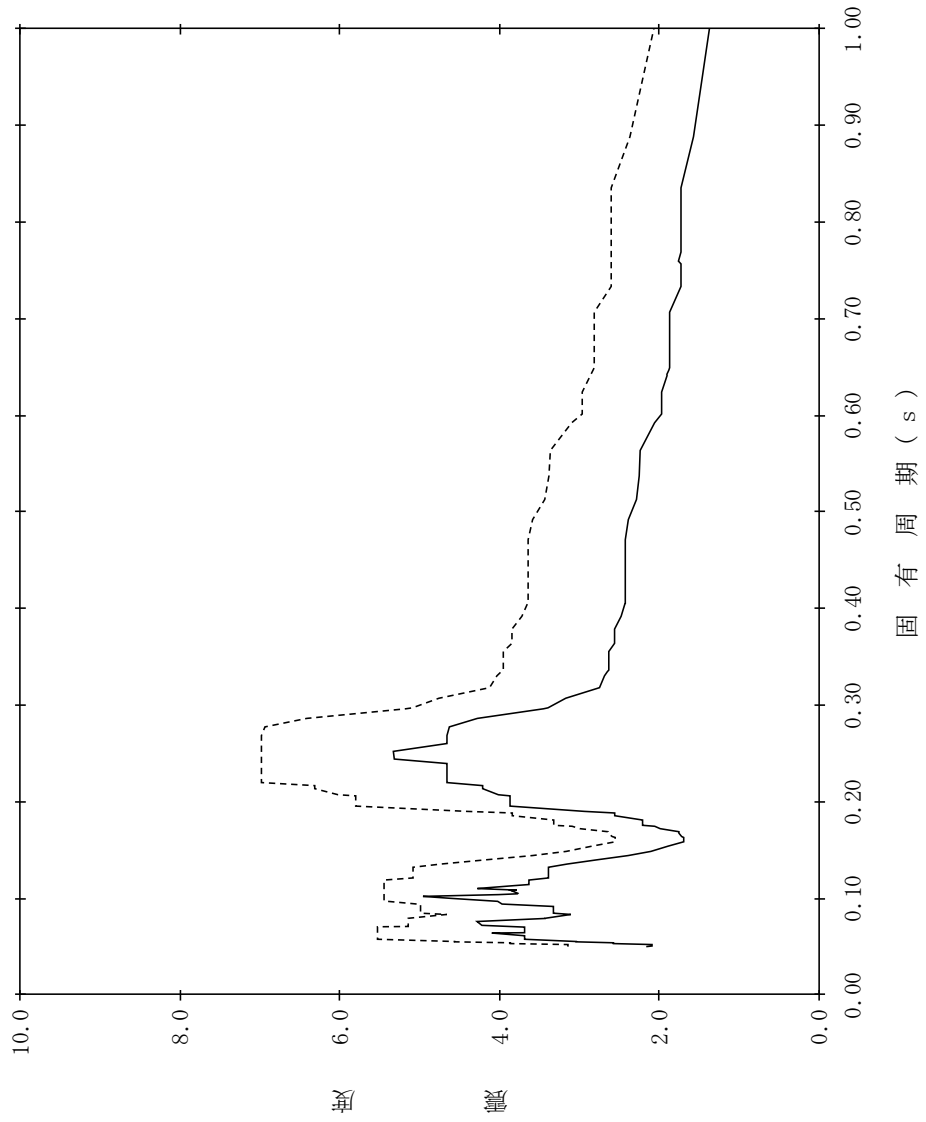
【NS2-RB-SsNS-RB58】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



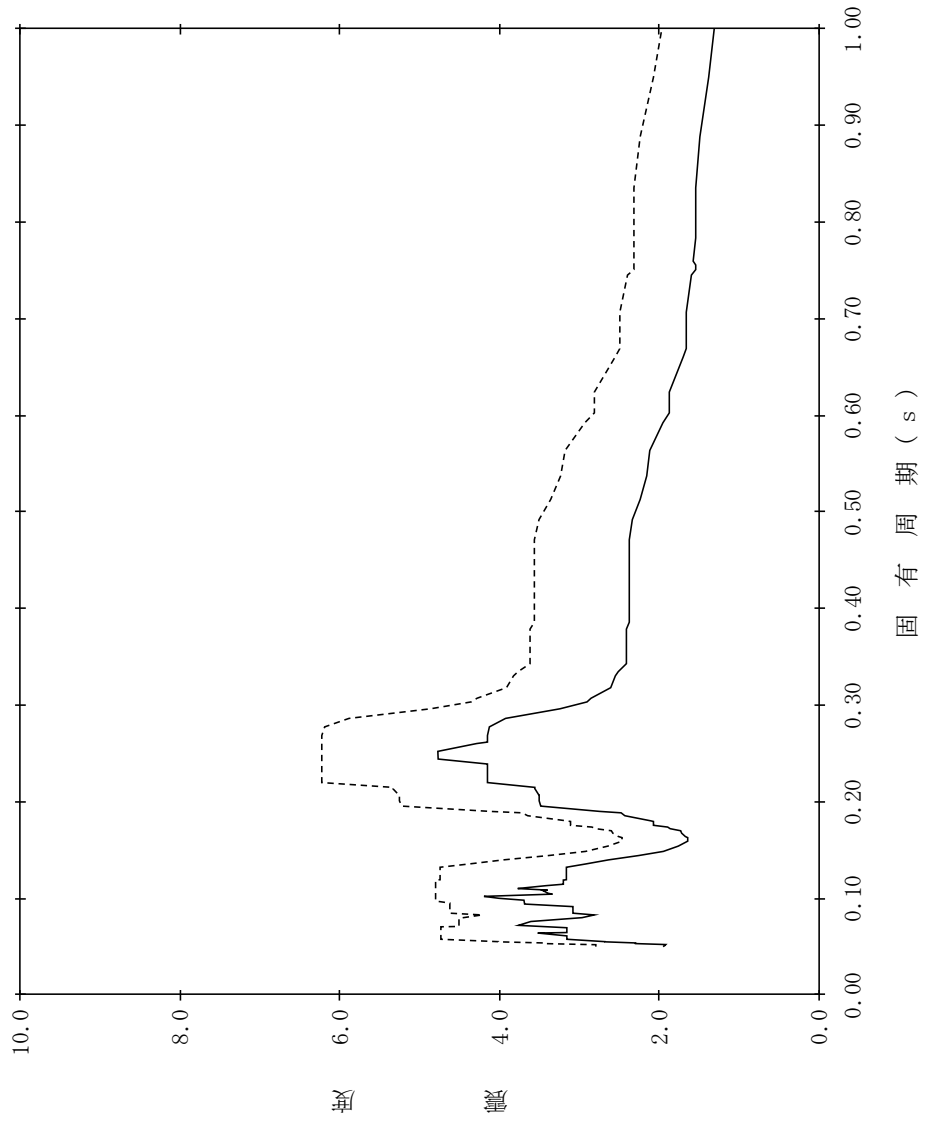
【NS2-RB-SsNS-RB59】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

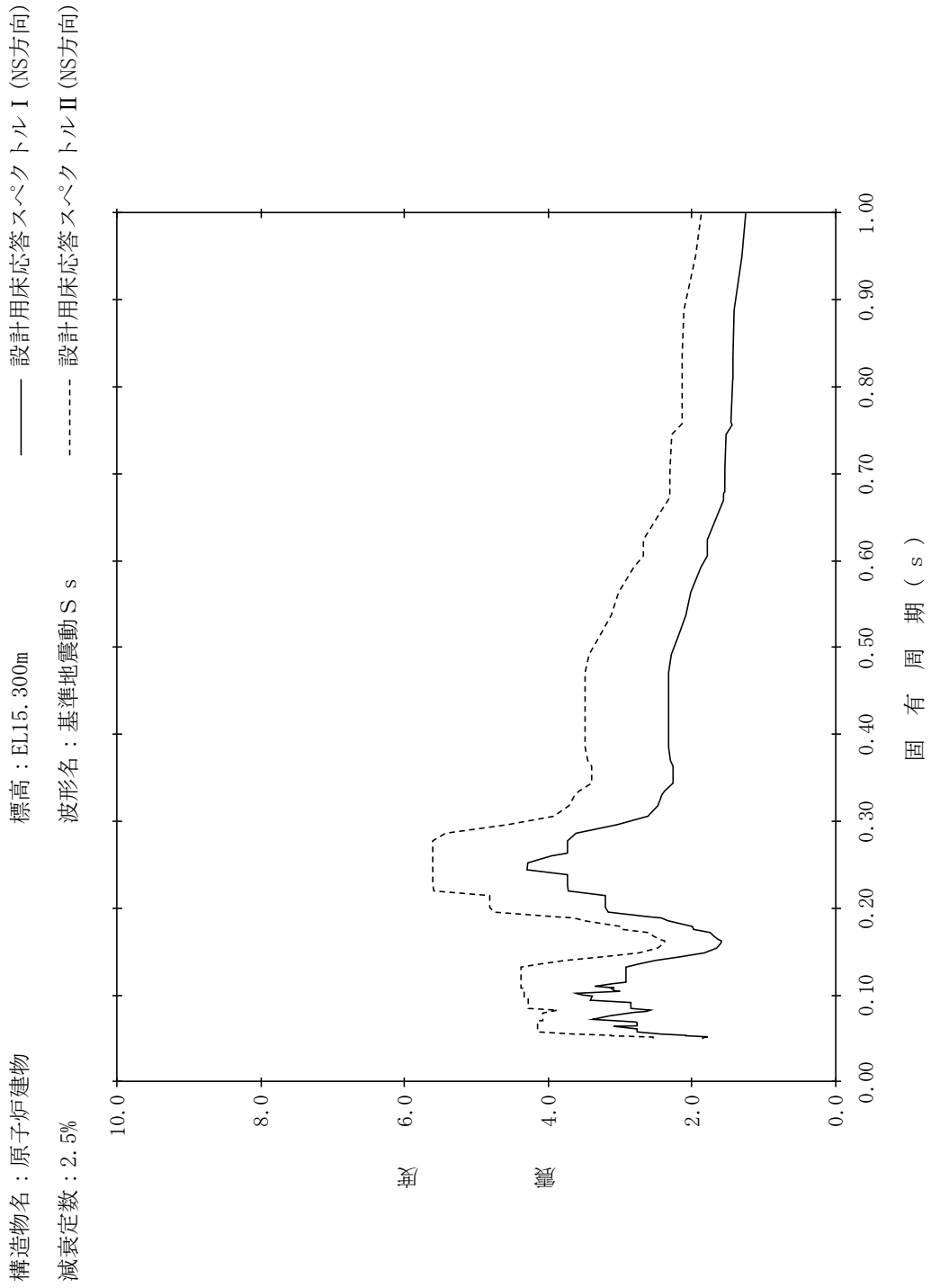


【NS2-RB-SsNS-RB60】

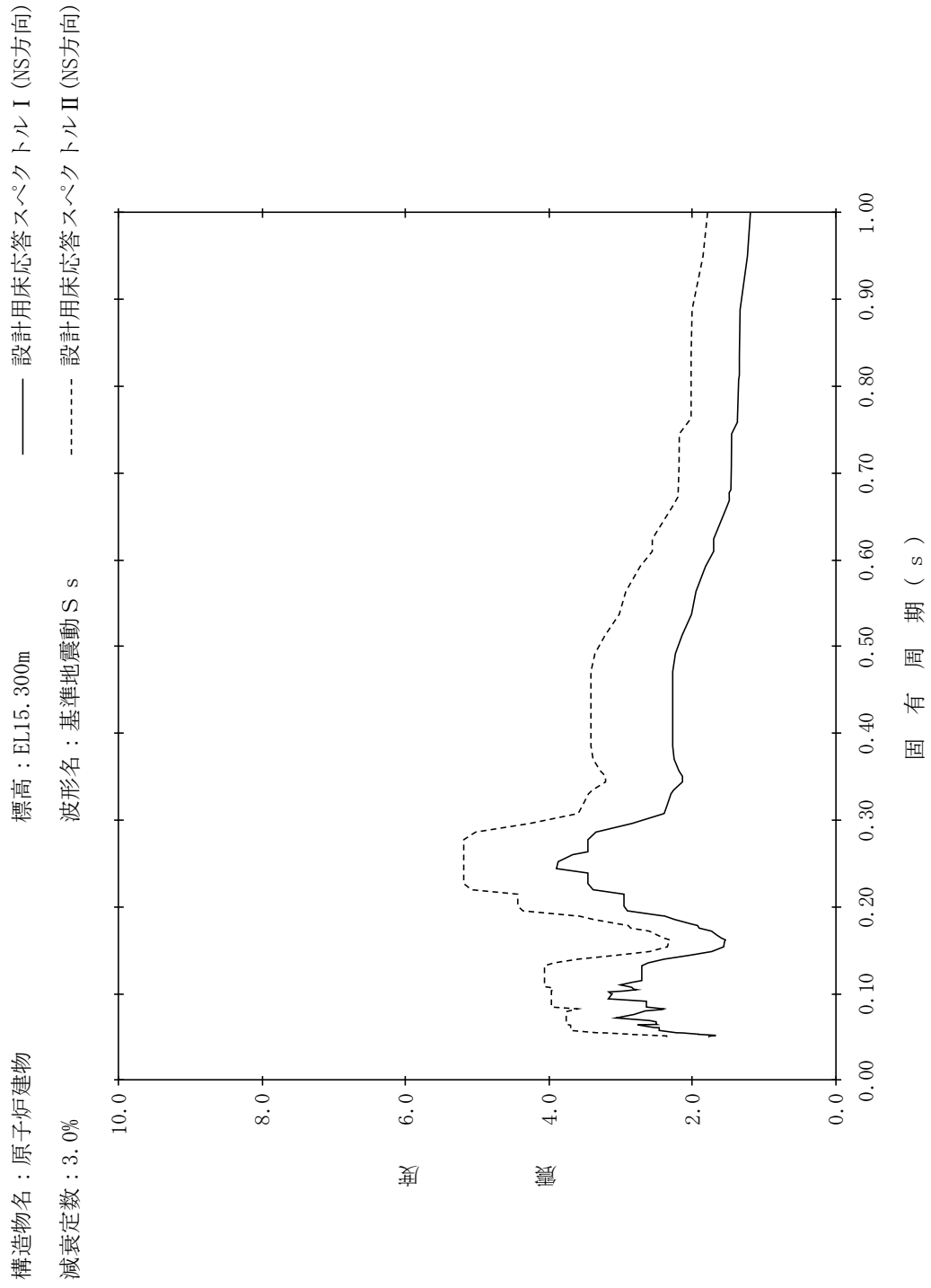
構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-RB-SsNS-RB61】

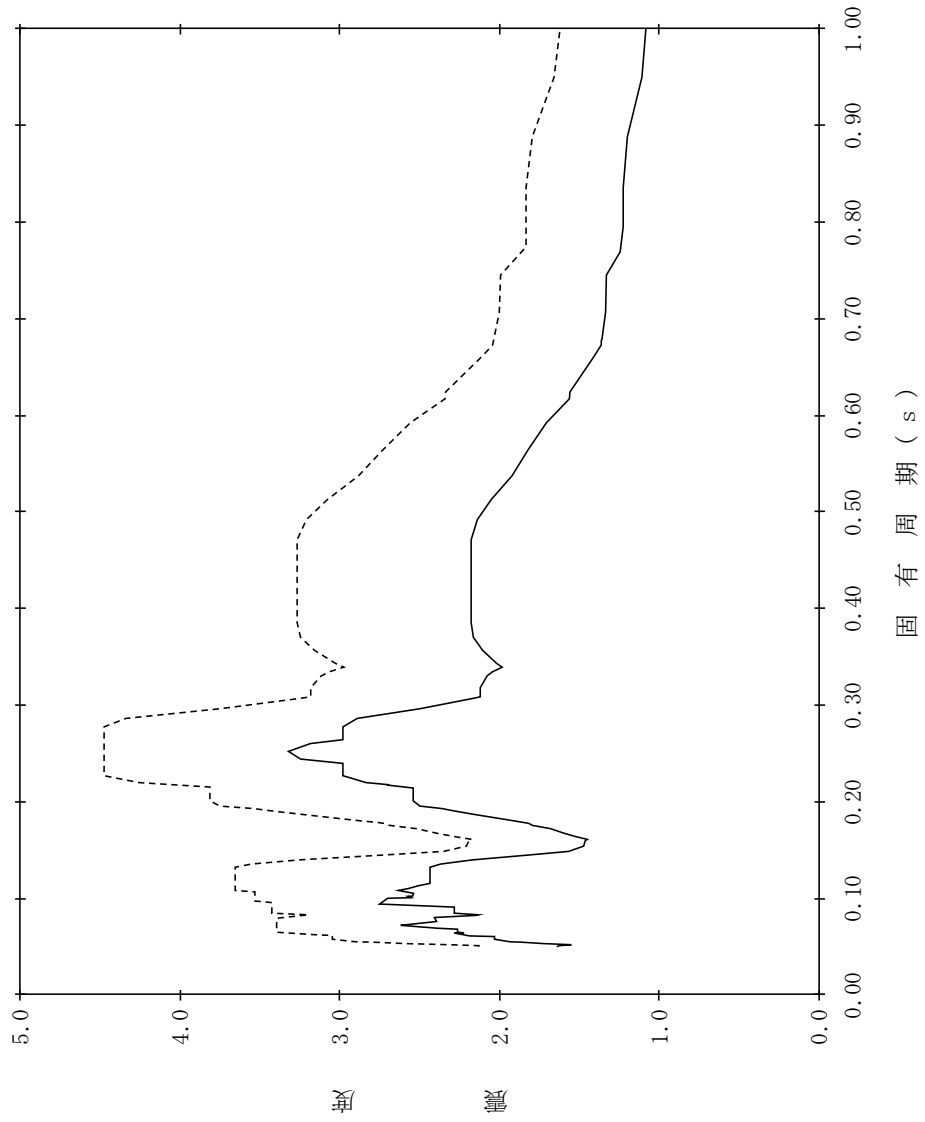


【NS2-RB-SsNS-RB62】



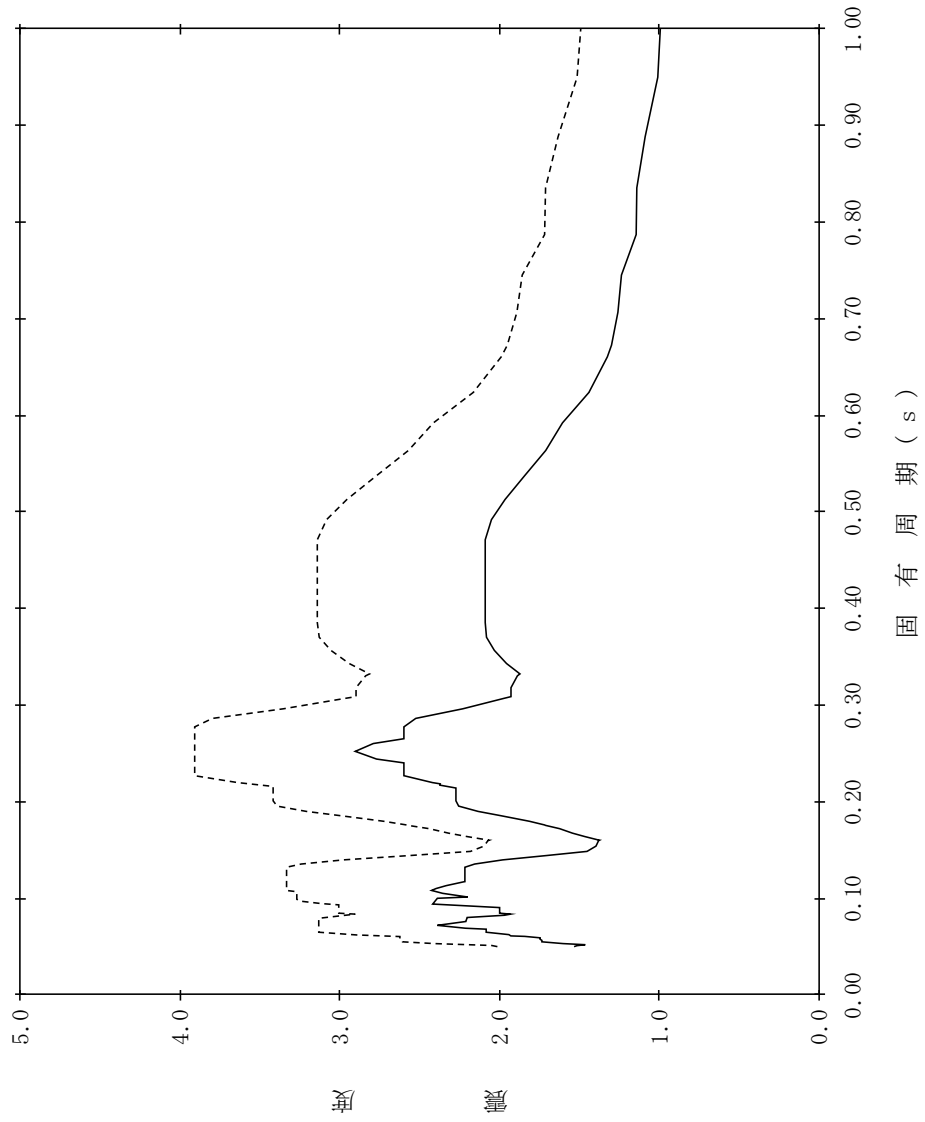
【NS2-RB-SsNS-RB63】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



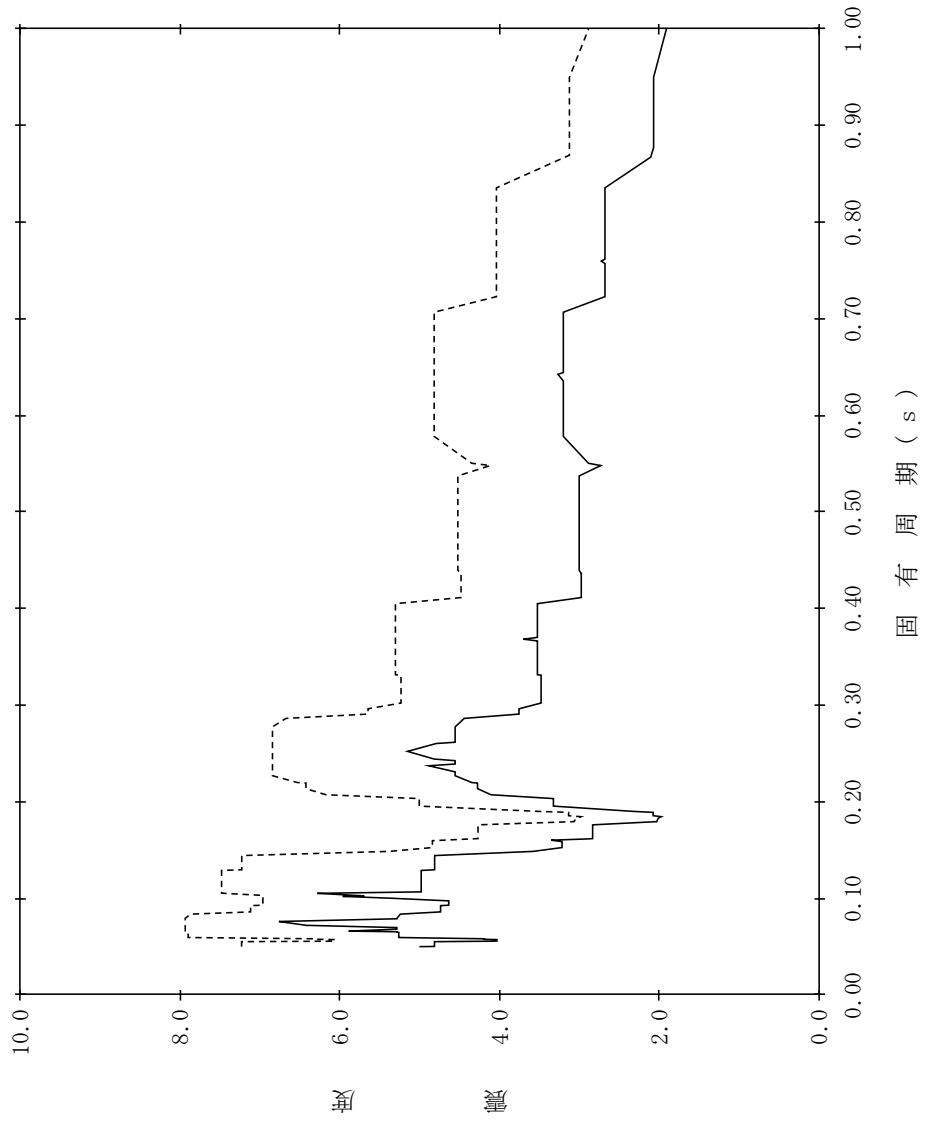
【NS2-RB-SsNS-RB64】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



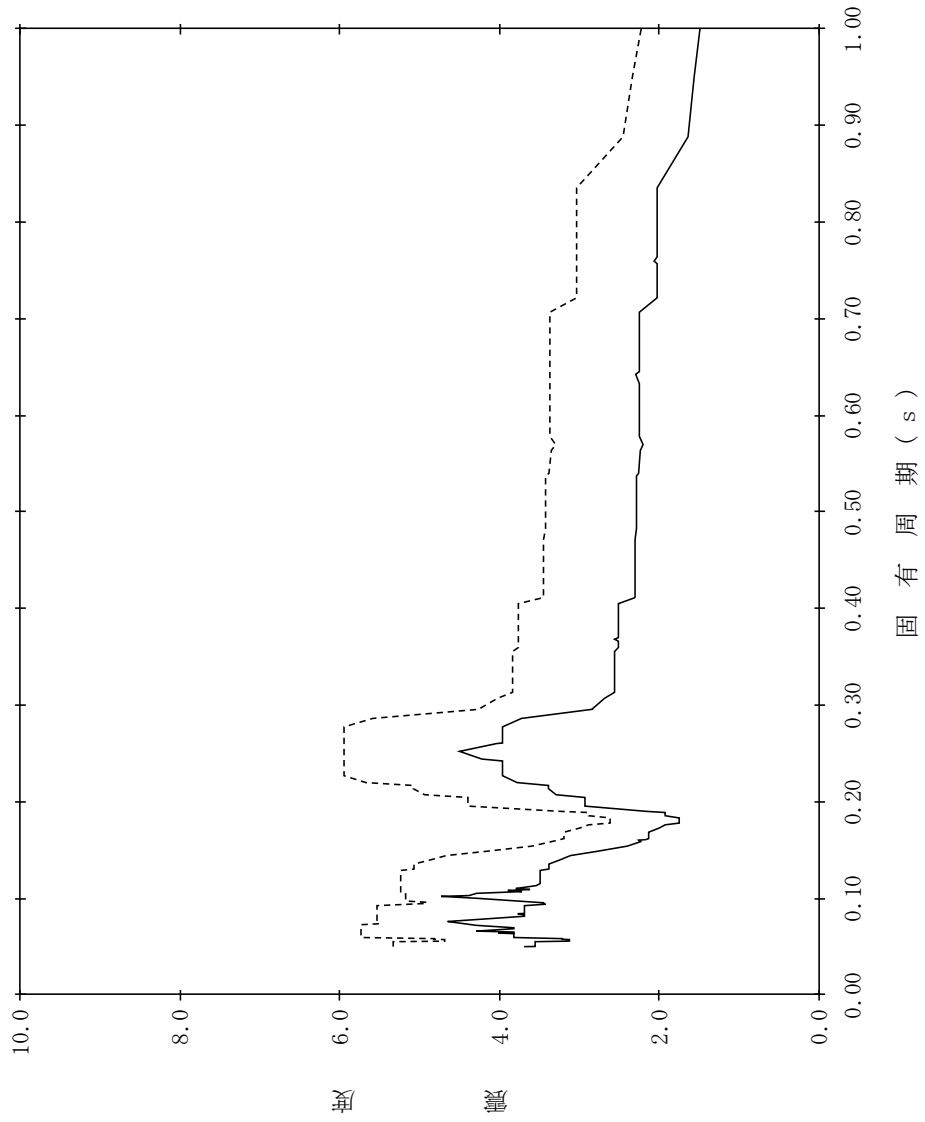
【NS2-RB-SsNS-RB65】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



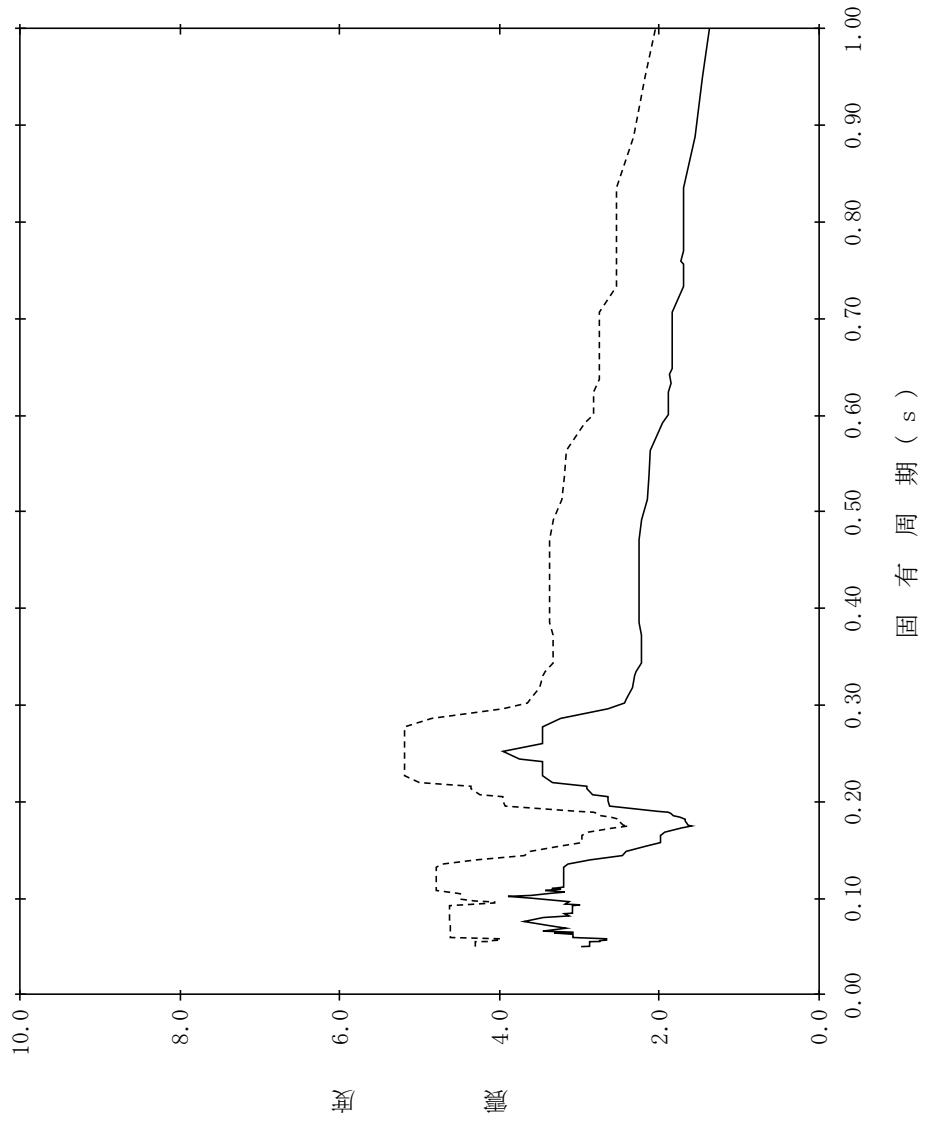
【NS2-RB-SsNS-RB66】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



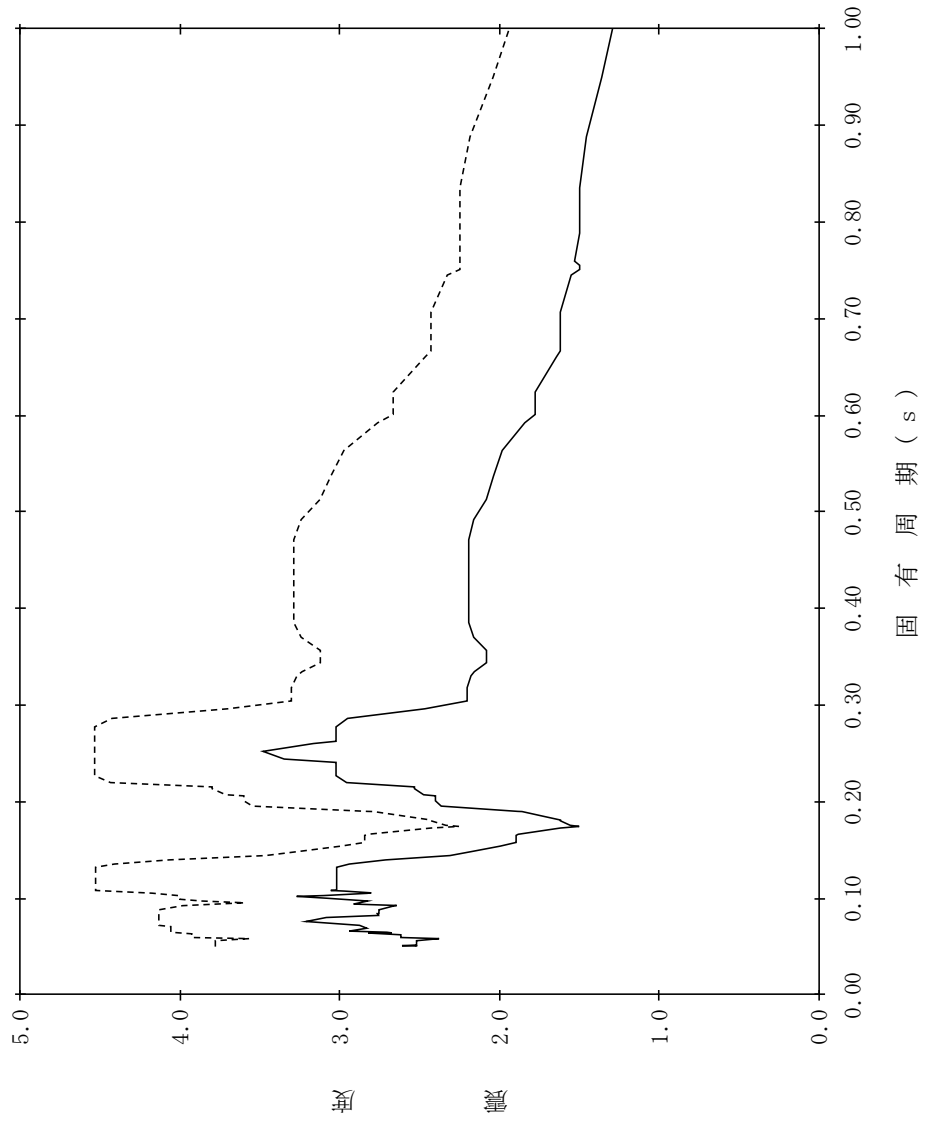
【NS2-RB-SsNS-RB67】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



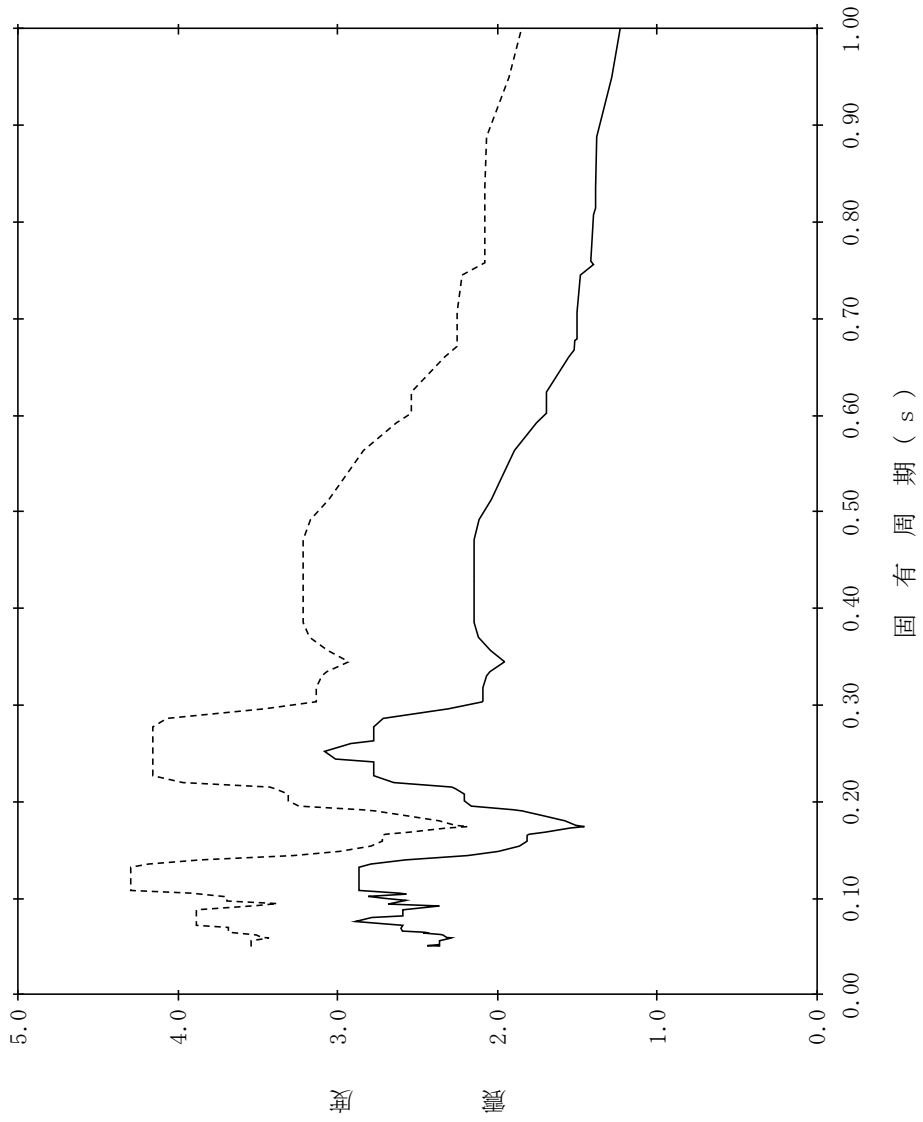
【NS2-RB-SsNS-RB68】

構造物名：原子炉建物
標高：EL10.100m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (NS方向)
設計用床応答スペクトル II (NS方向)



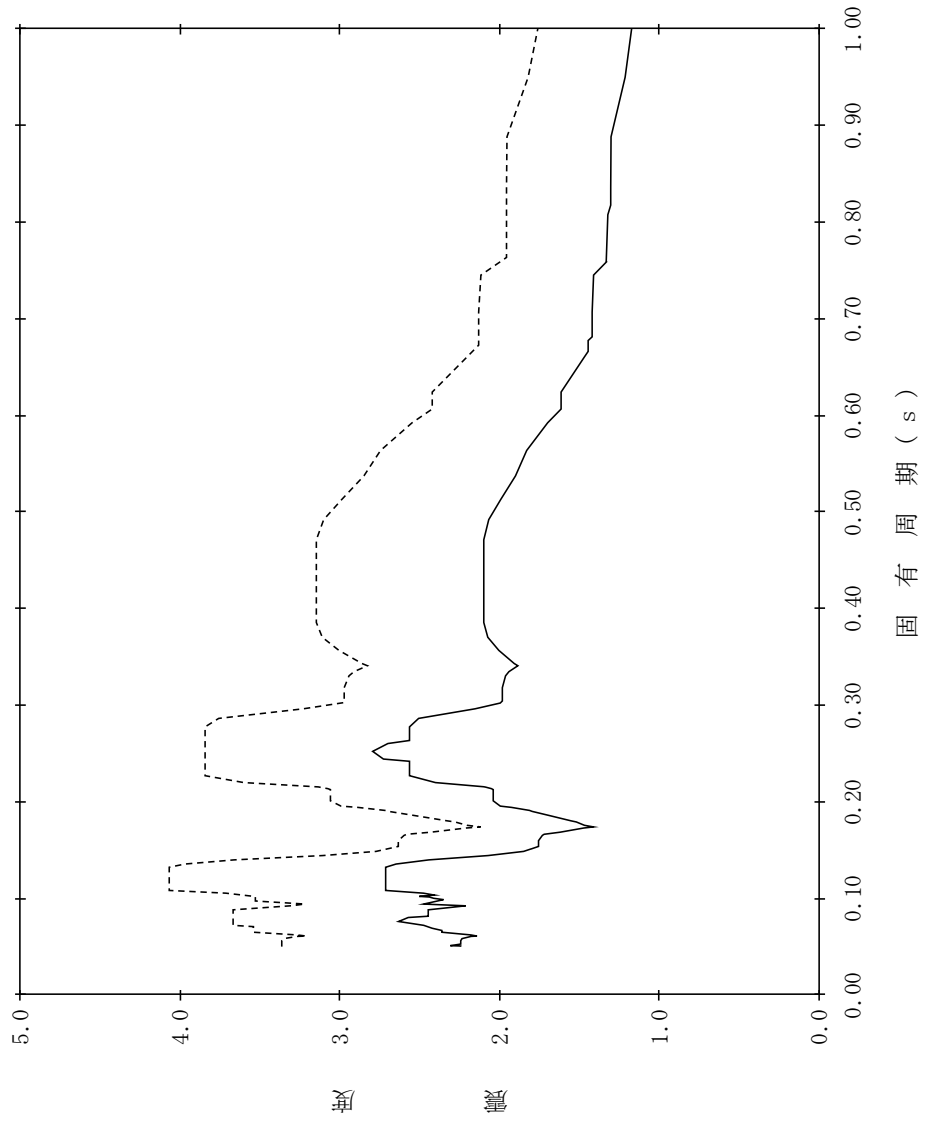
【NS2-RB-SsNS-RB69】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



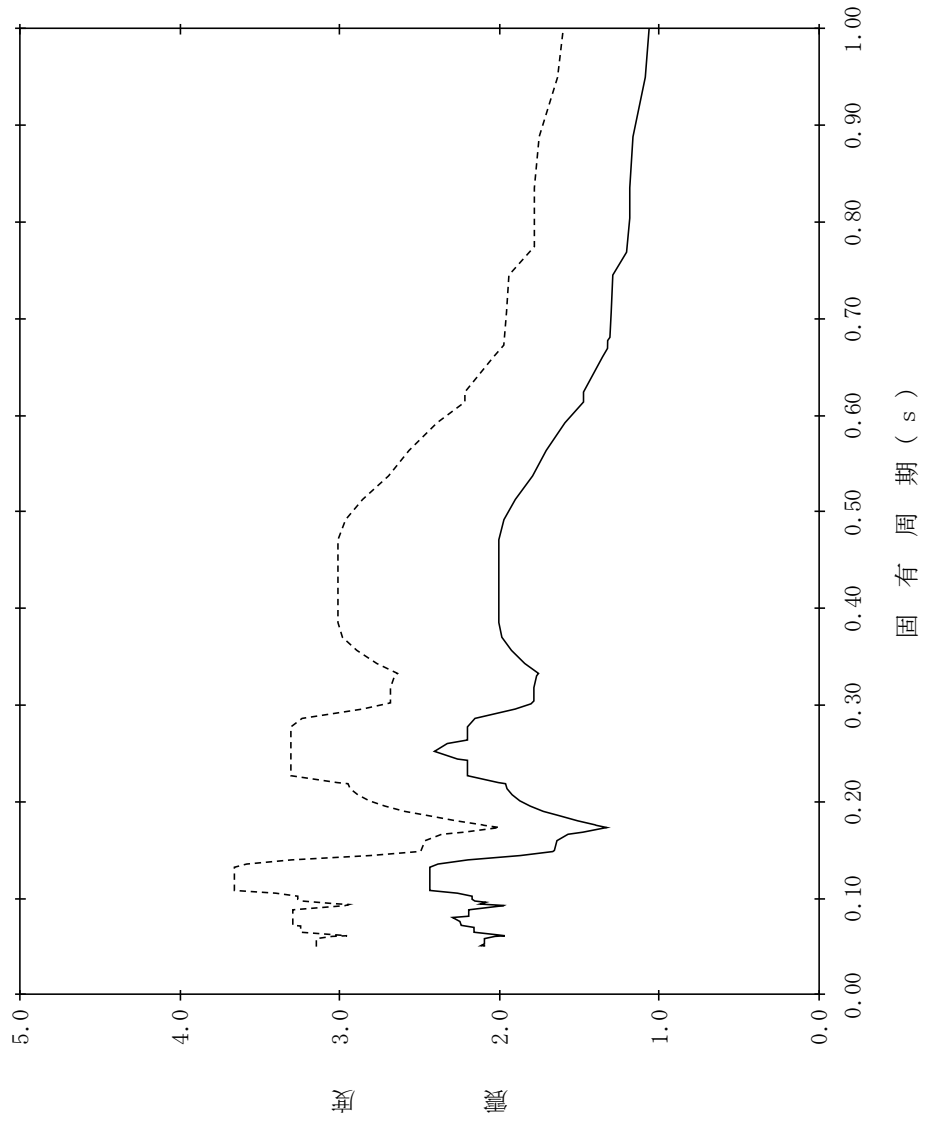
【NS2-RB-SsNS-RB70】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



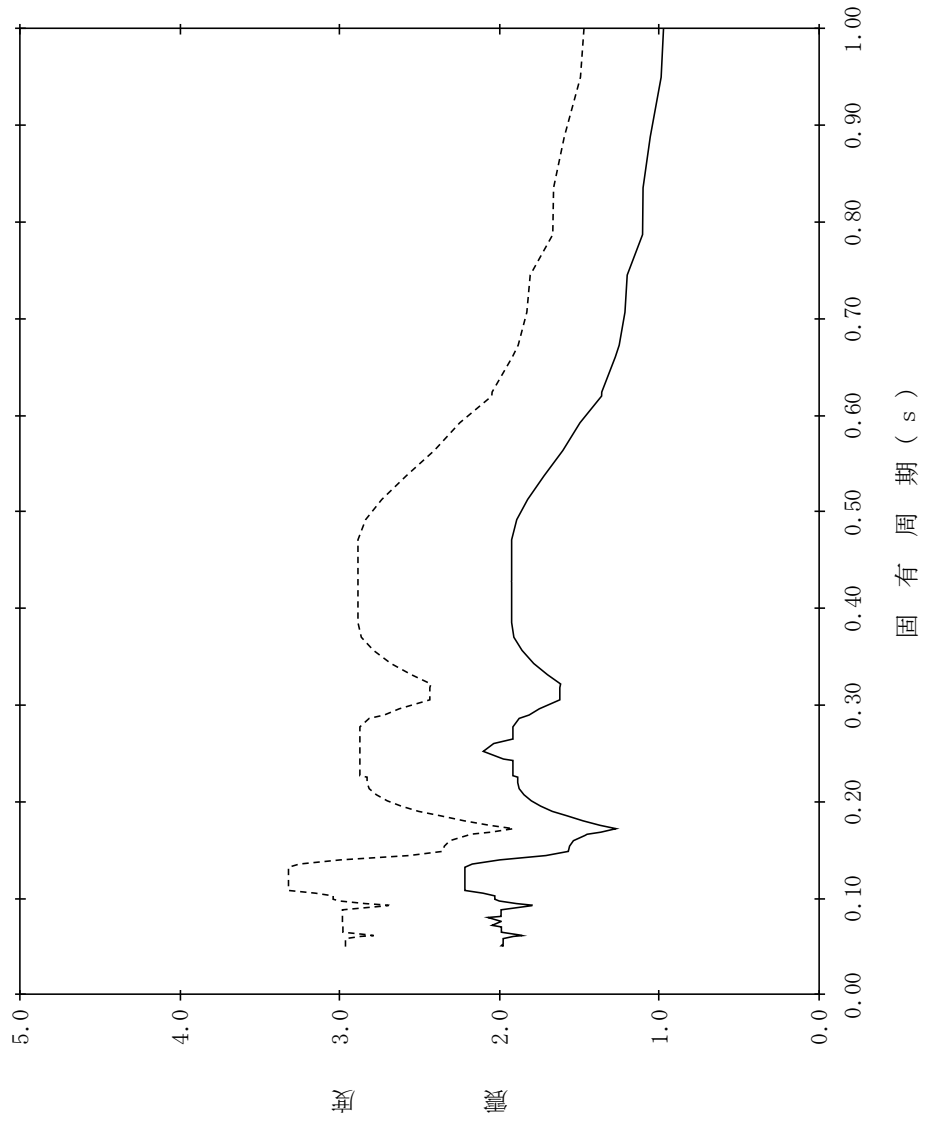
【NS2-RB-SsNS-RB71】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



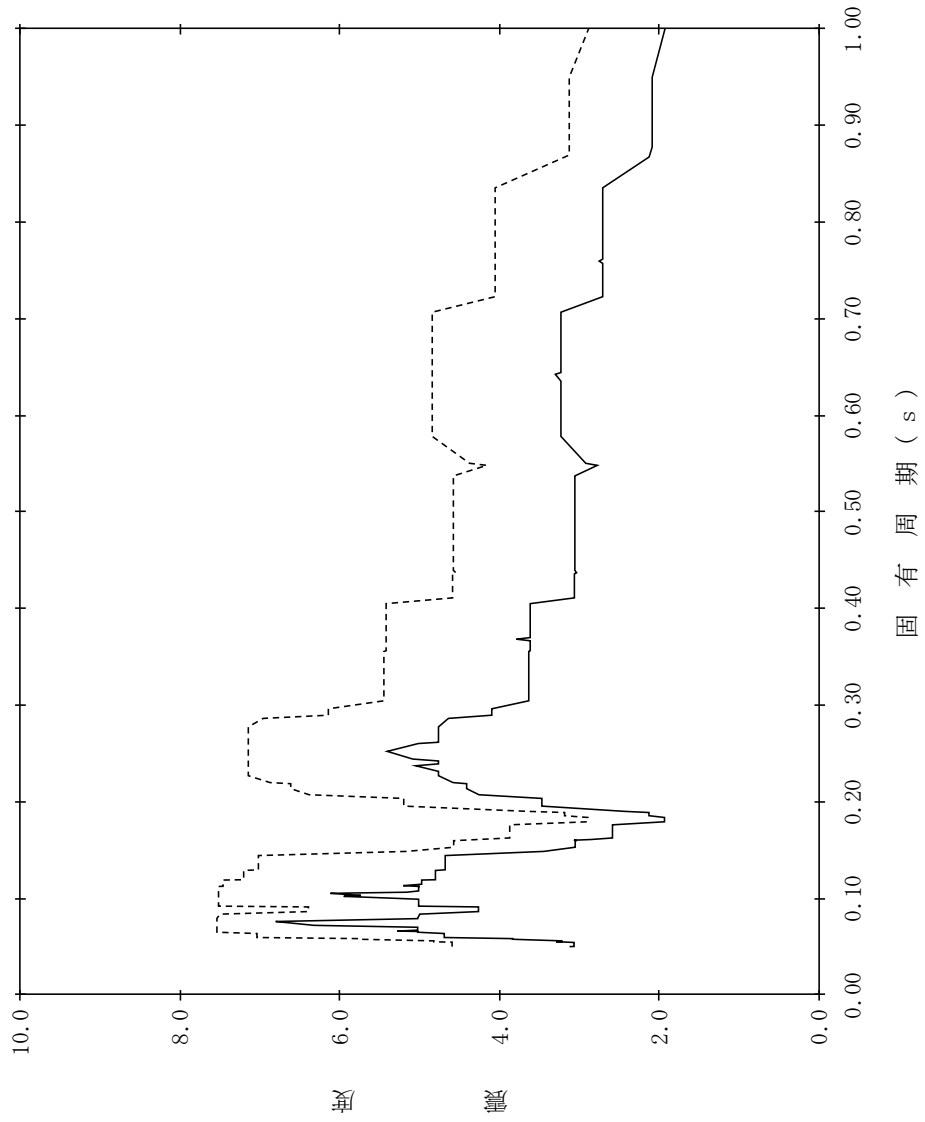
【NS2-RB-SsNS-RB72】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



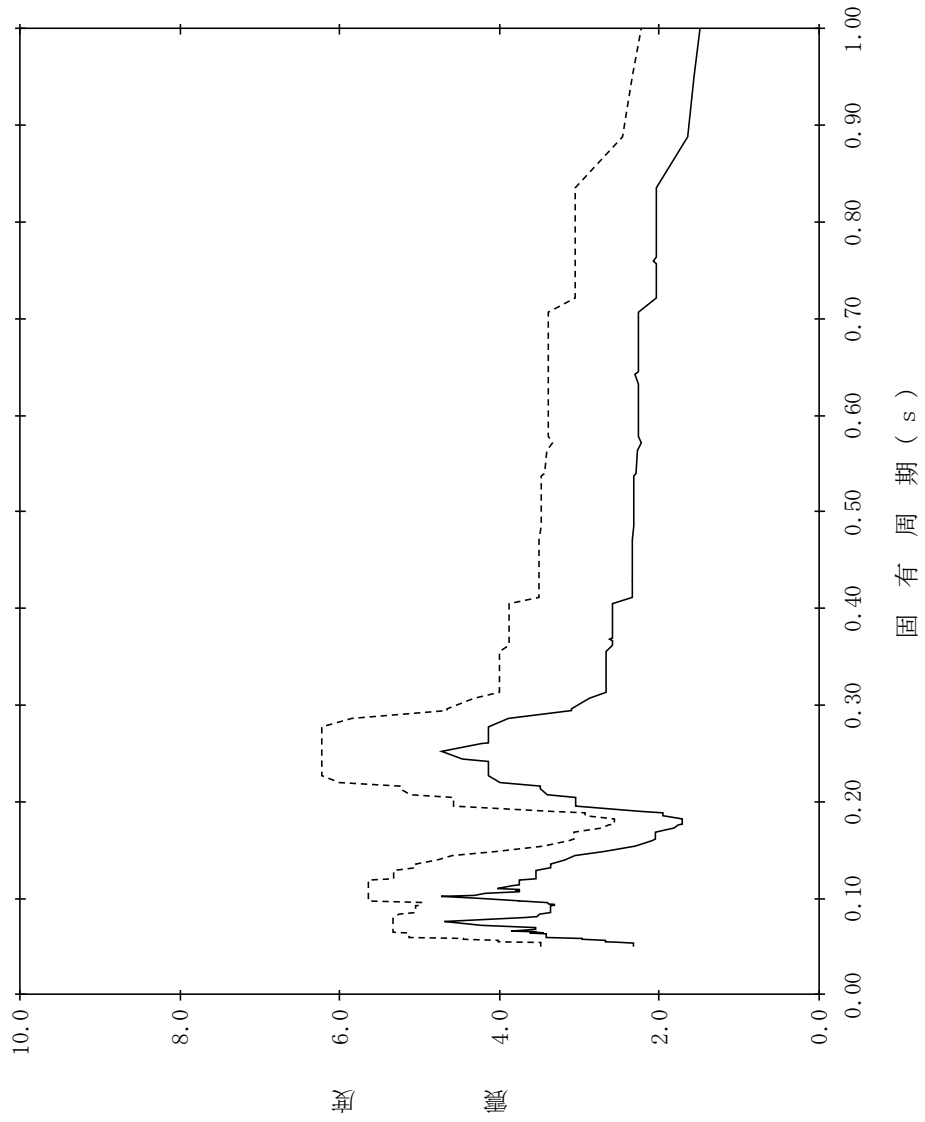
【NS2-RB-SsNS-RB73】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

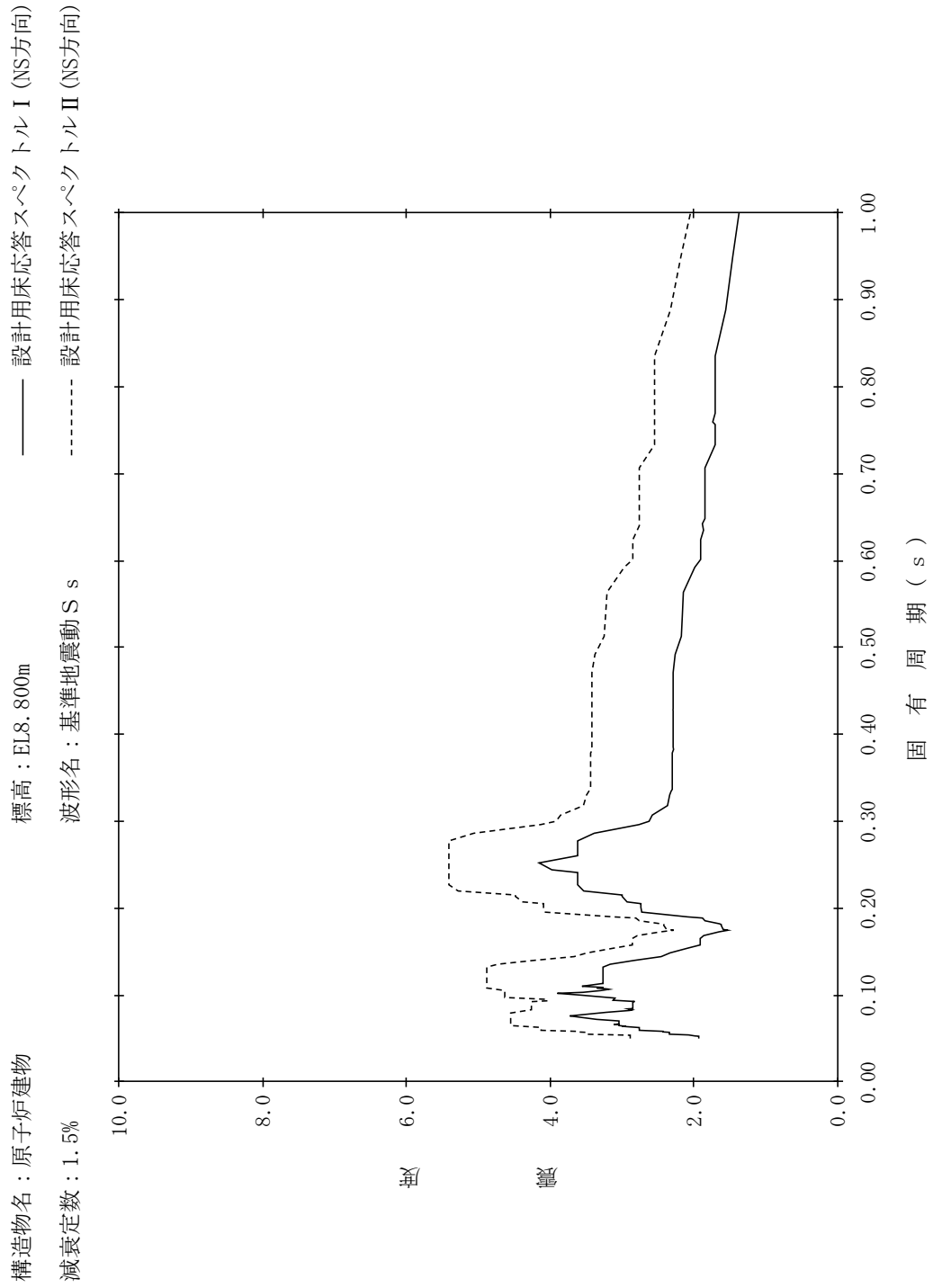


【NS2-RB-SsNS-RB74】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

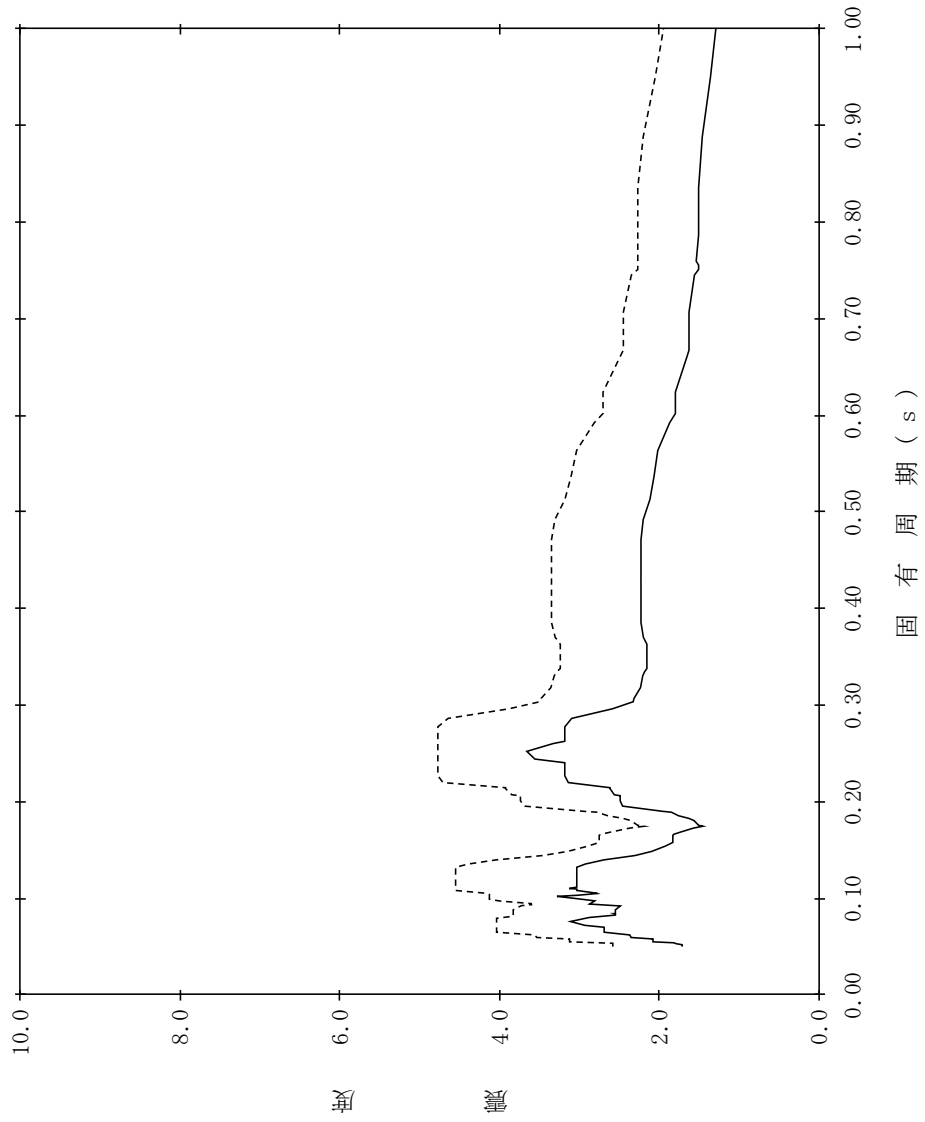


【NS2-RB-SsNS-RB75】

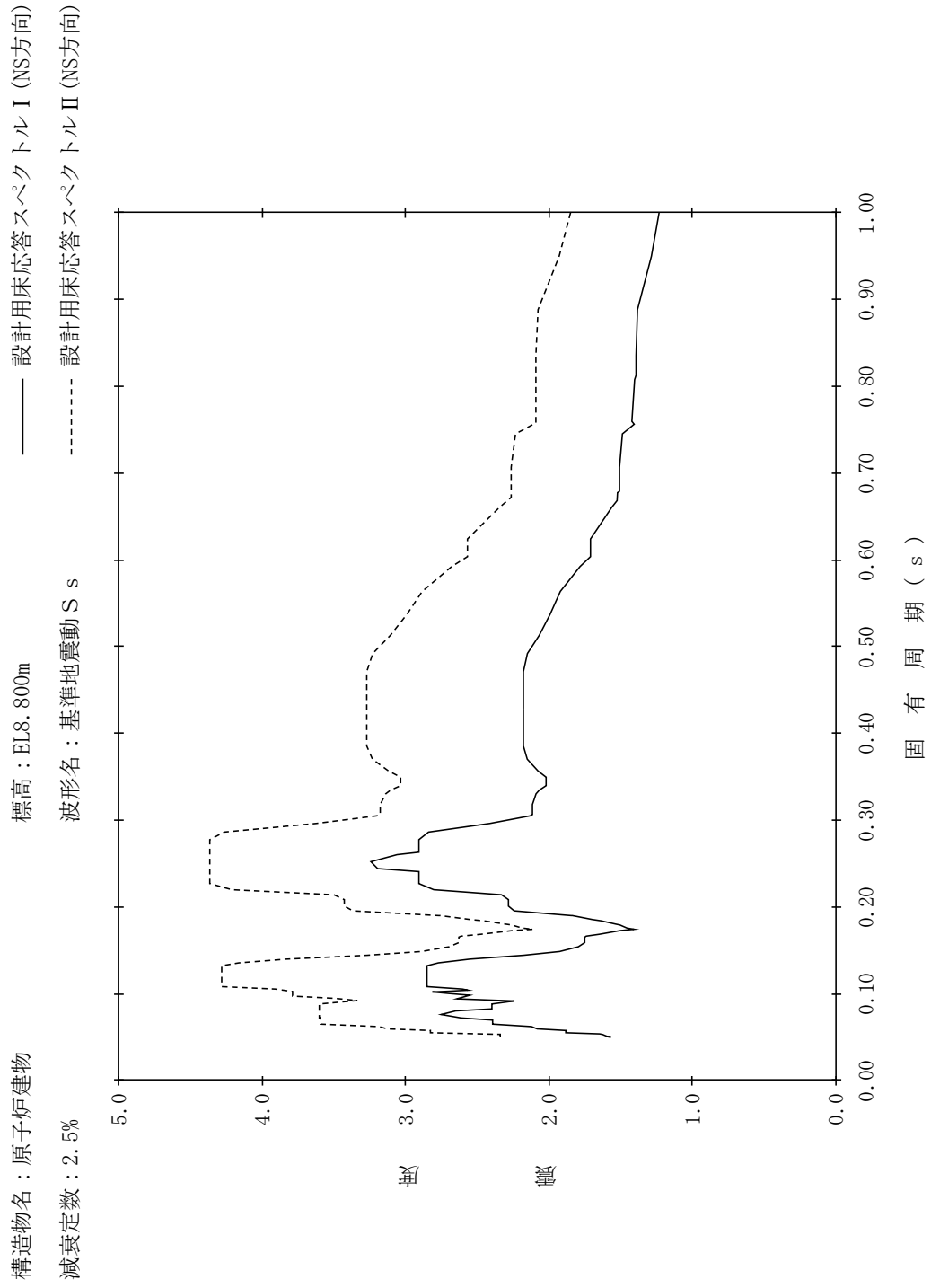


【NS2-RB-SsNS-RB76】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

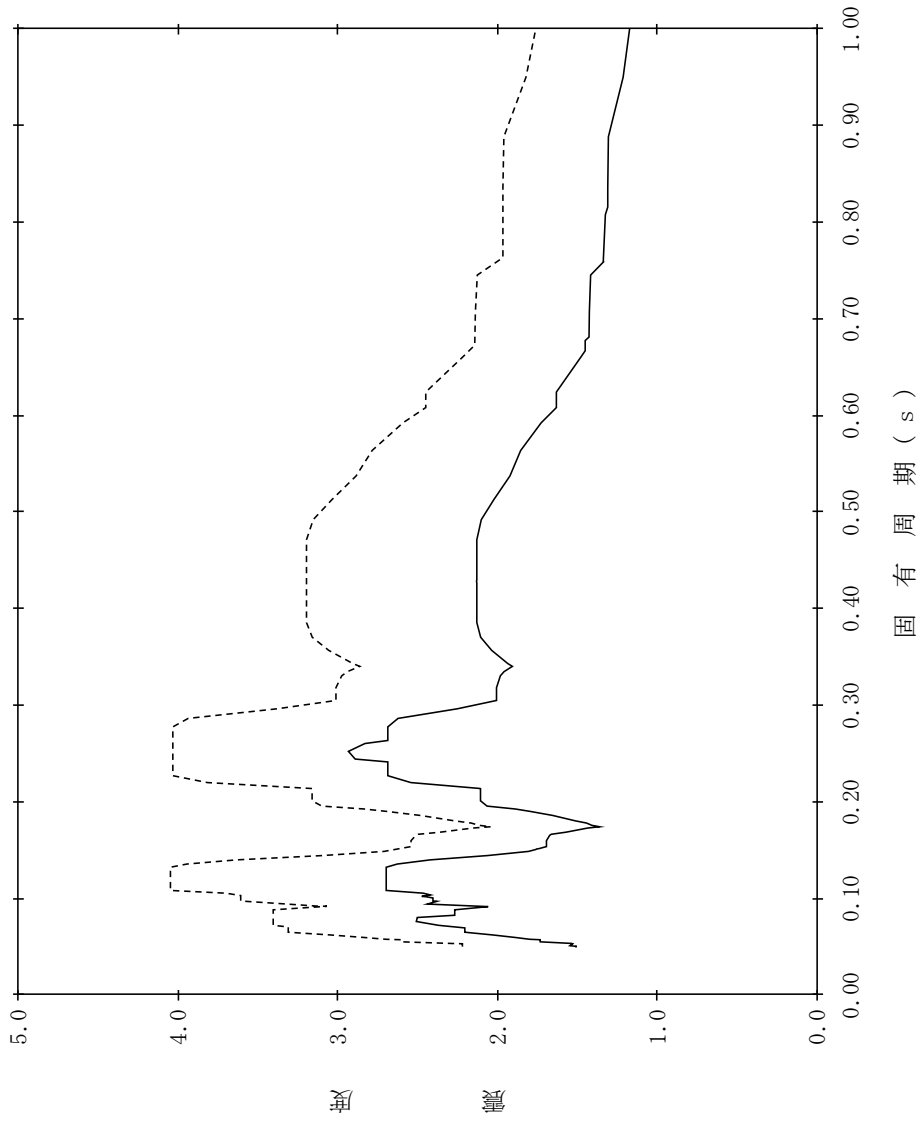


【NS2-RB-SsNS-RB77】



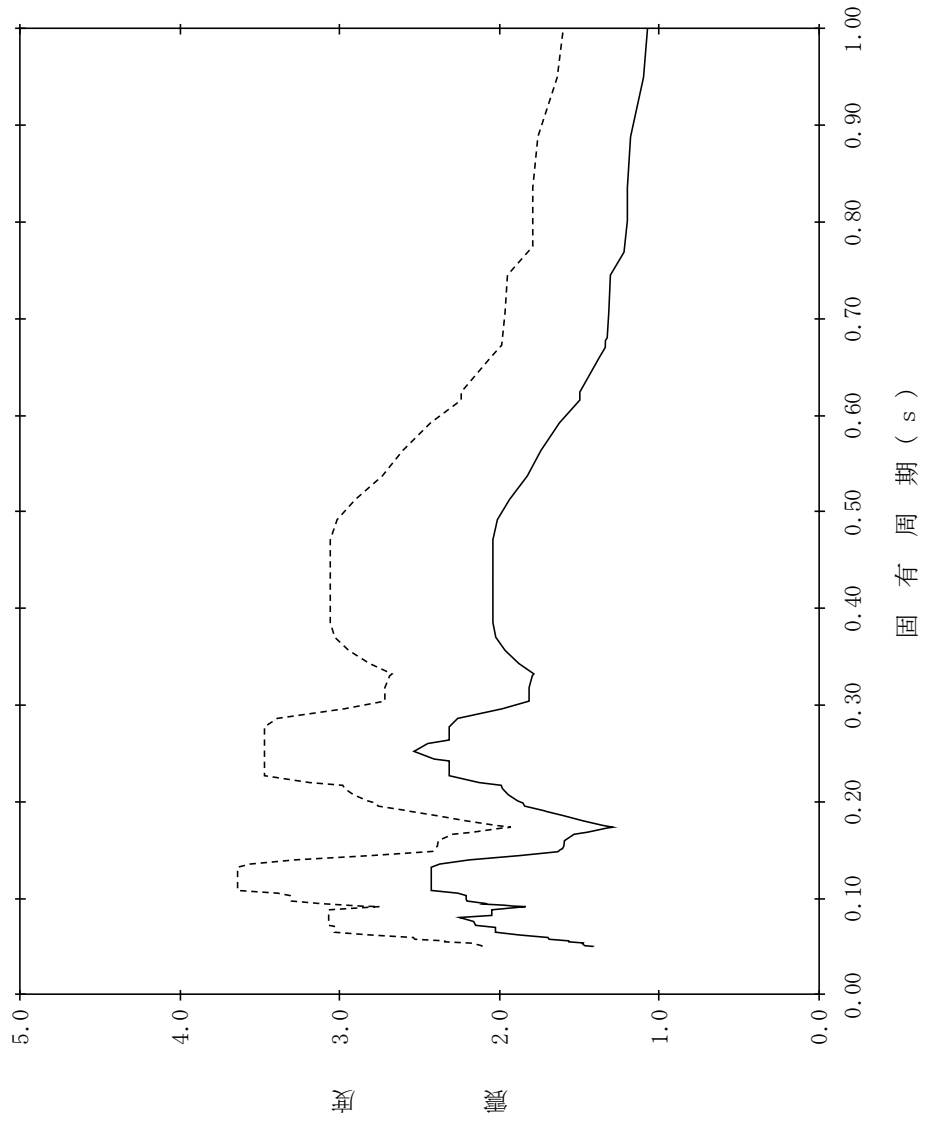
【NS2-RB-SsNS-RB78】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



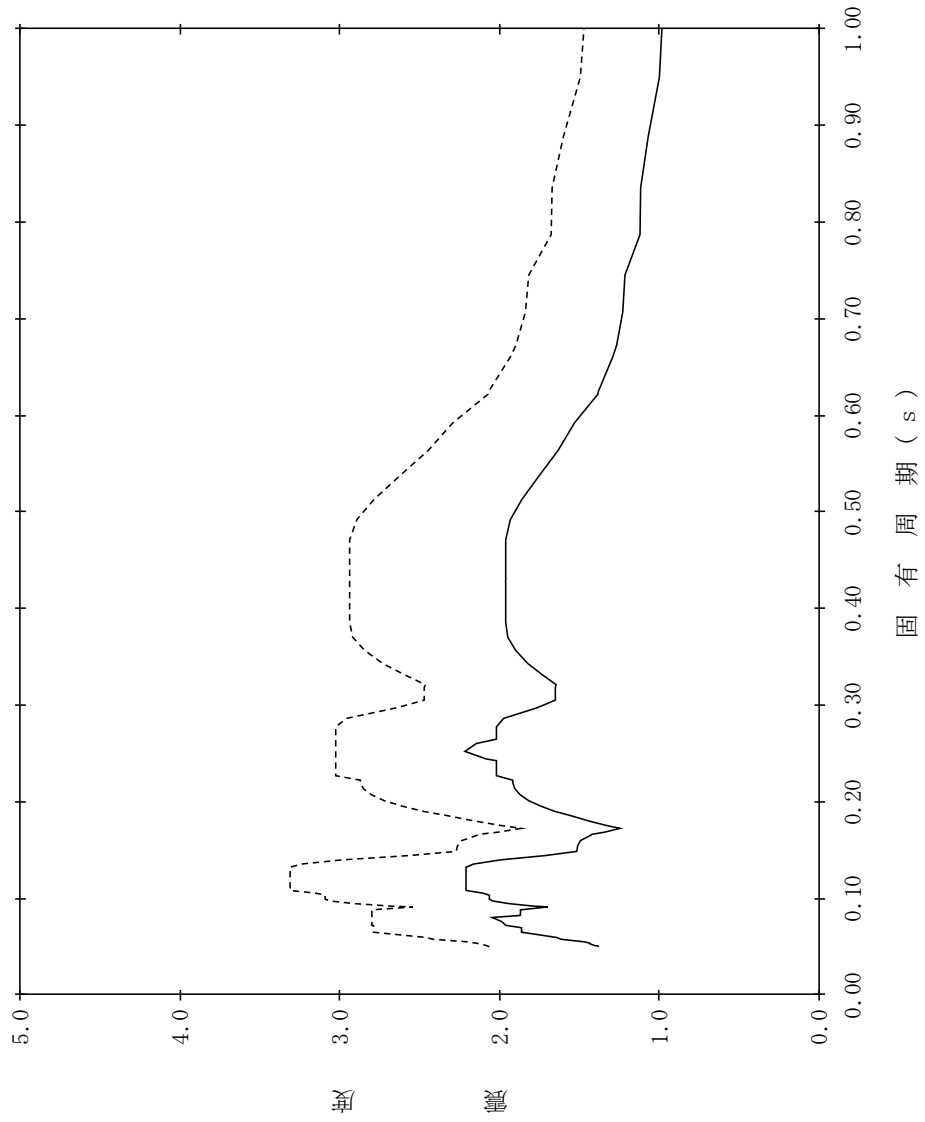
【NS2-RB-SsNS-RB79】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

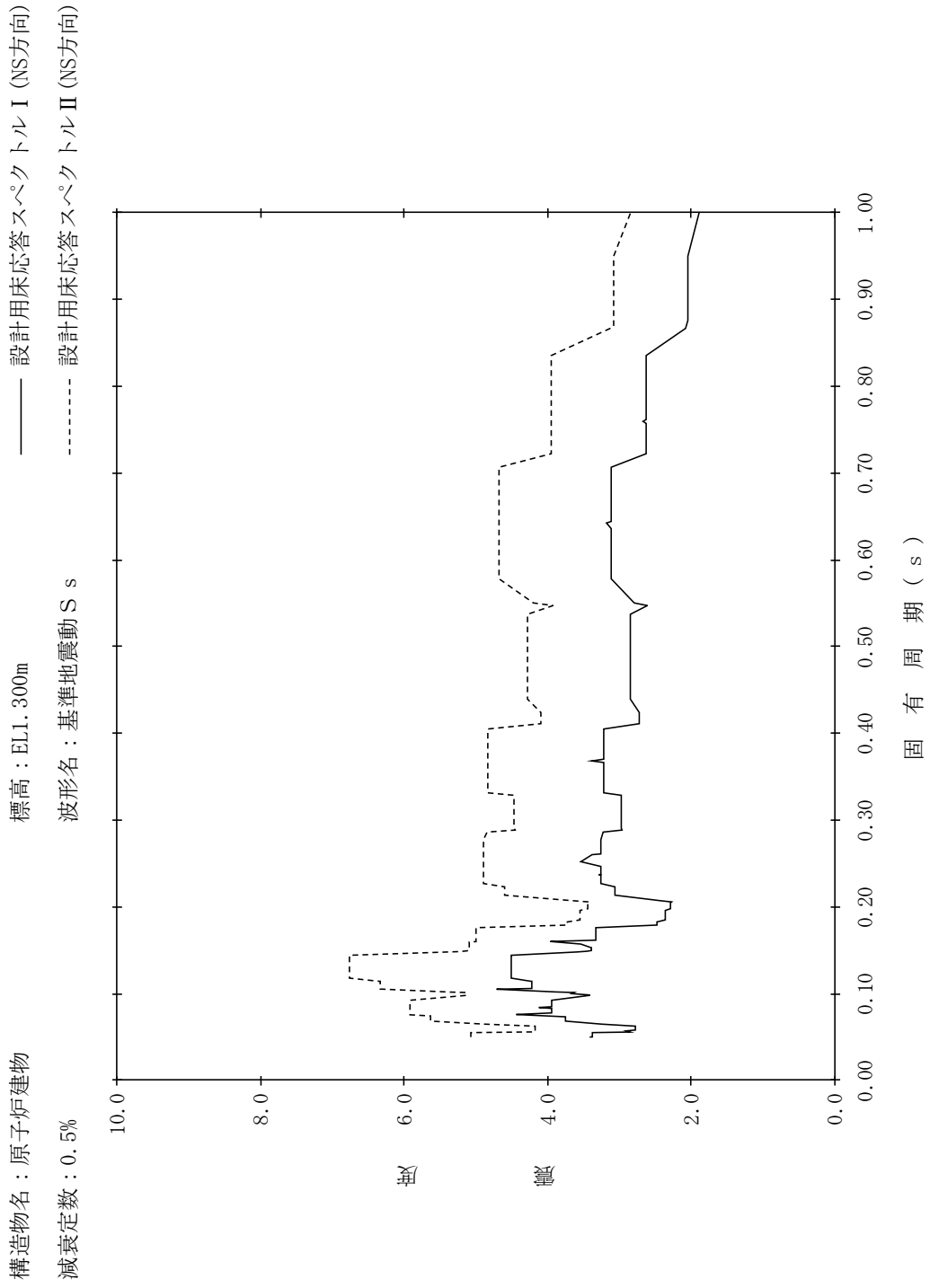


【NS2-RB-SsNS-RB80】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

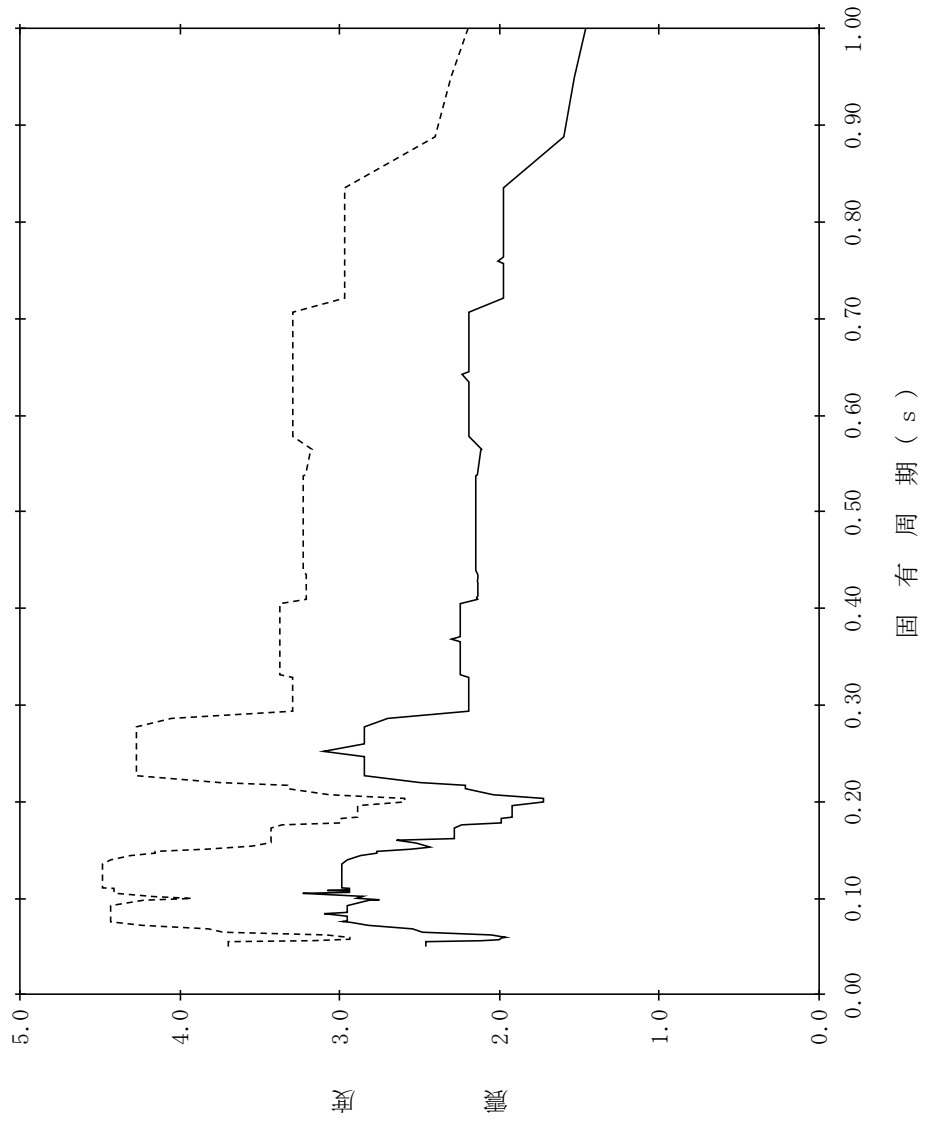


【NS2-RB-SsNS-RB81】



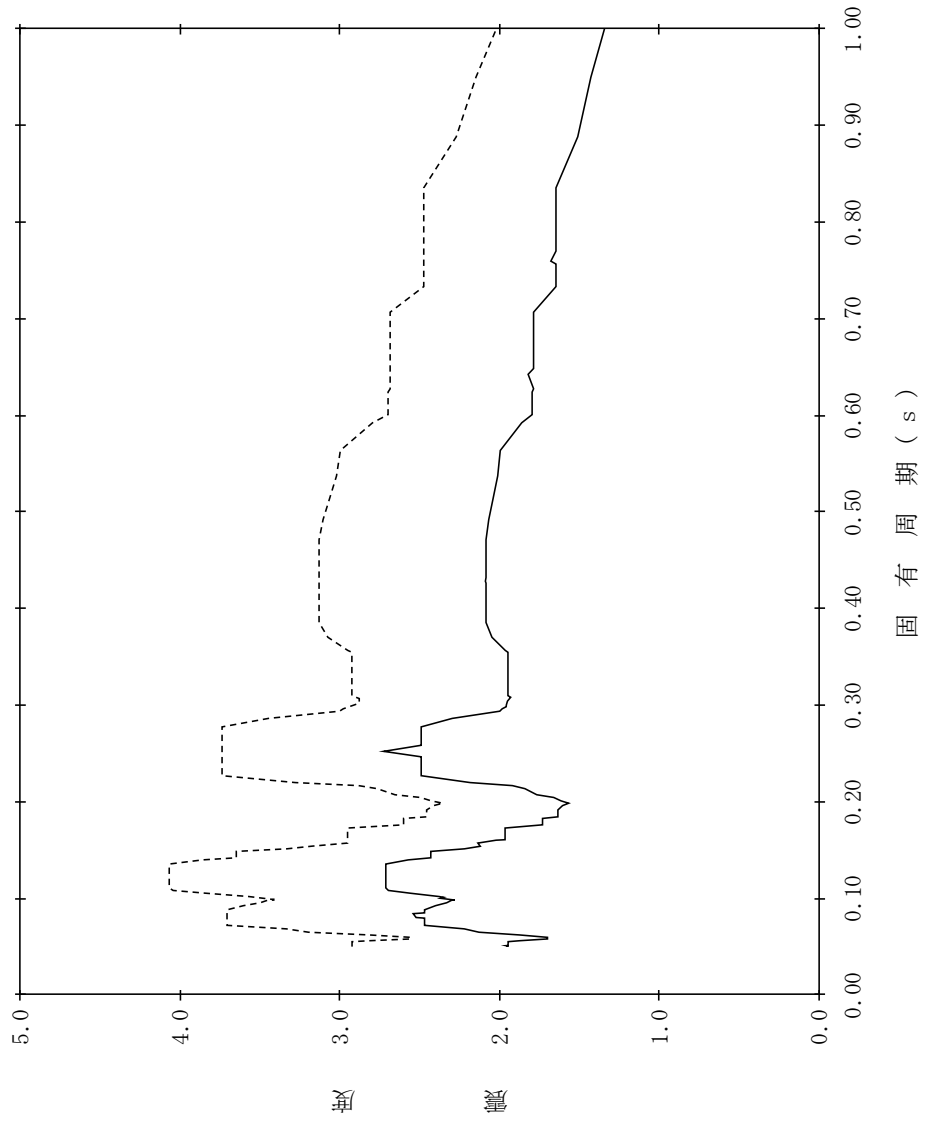
【NS2-RB-SsNS-RB82】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

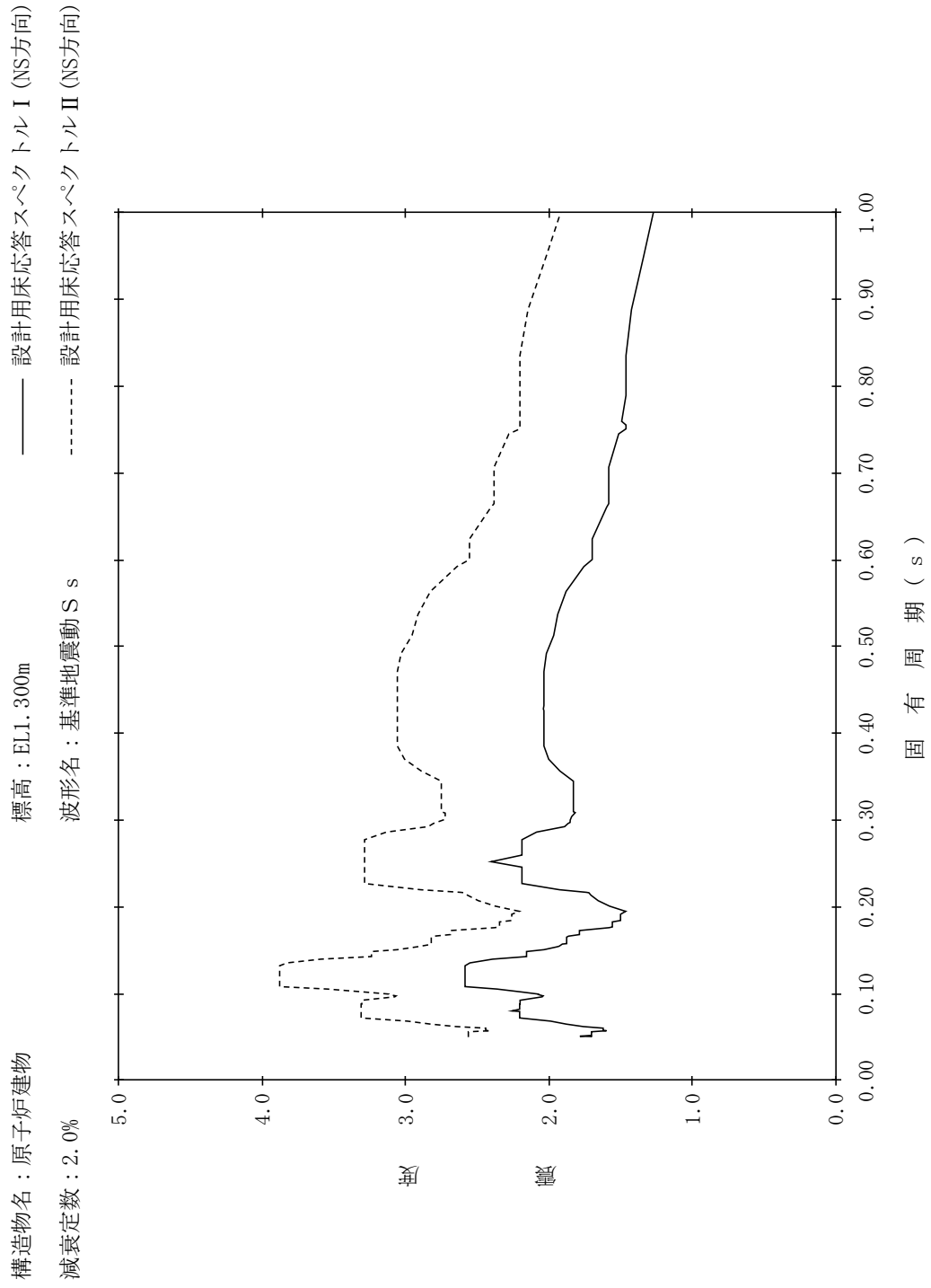


【NS2-RB-SsNS-RB83】

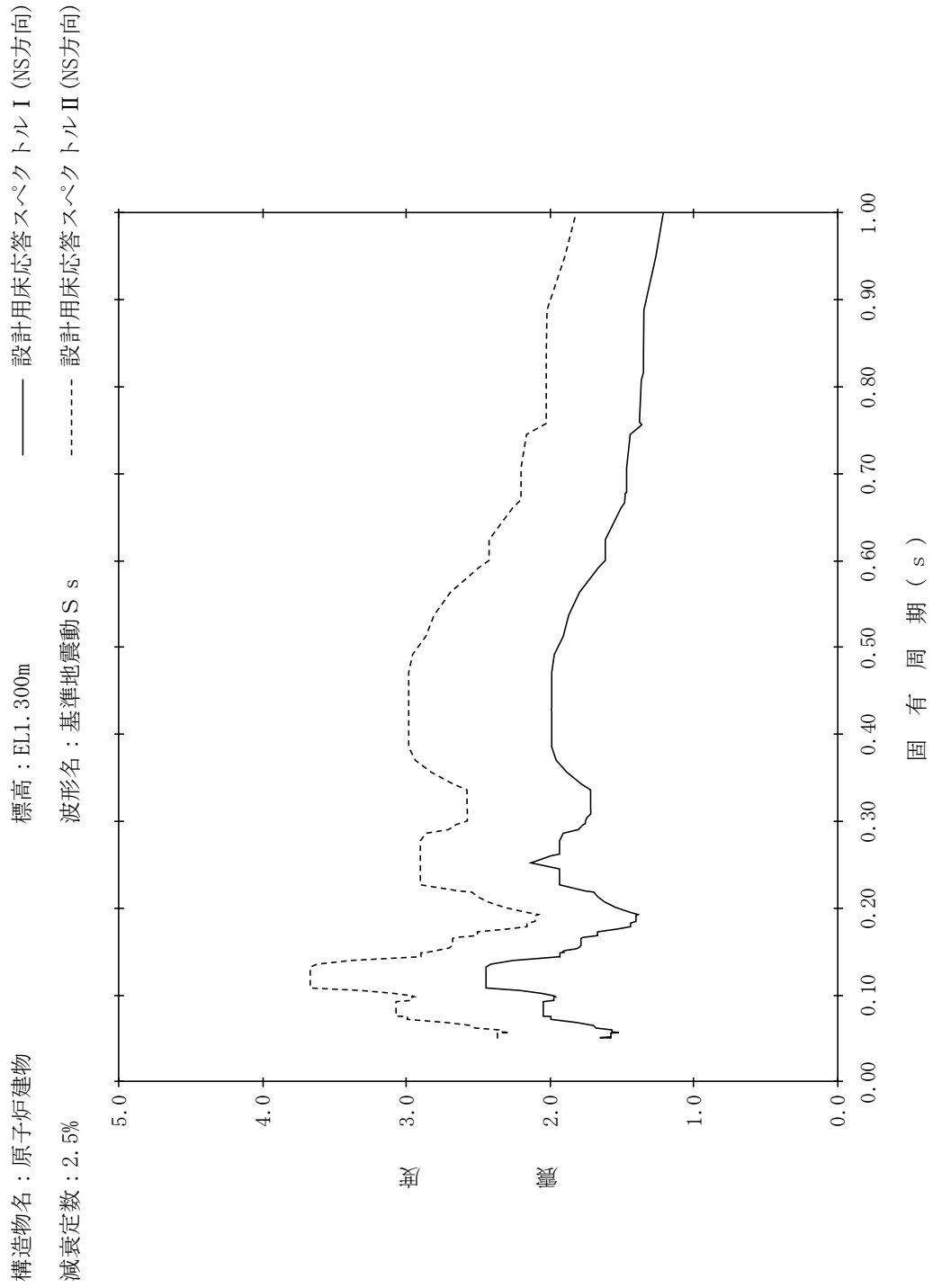
構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-RB-SsNS-RB84】

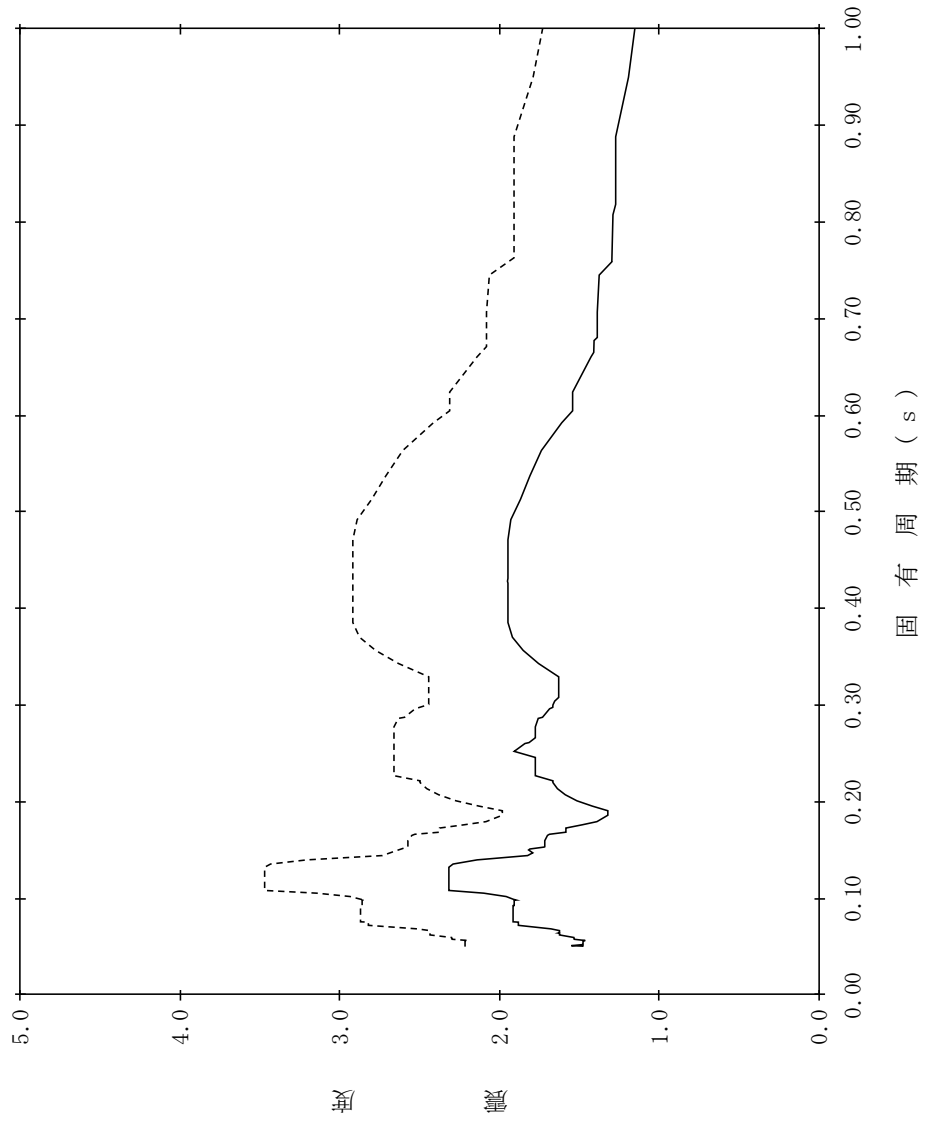


【NS2-RB-SsNS-RB85】

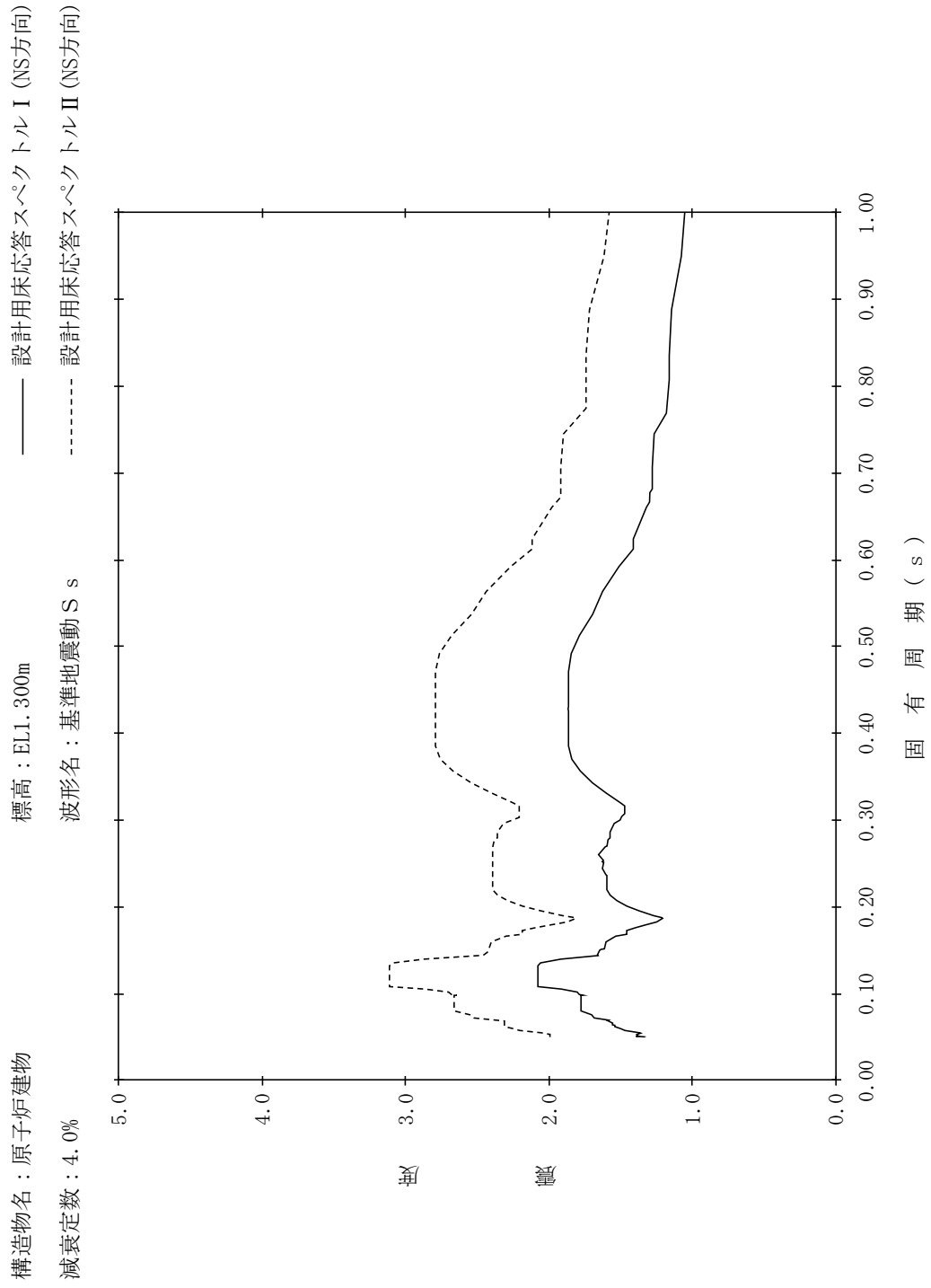


【NS2-RB-SsNS-RB86】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

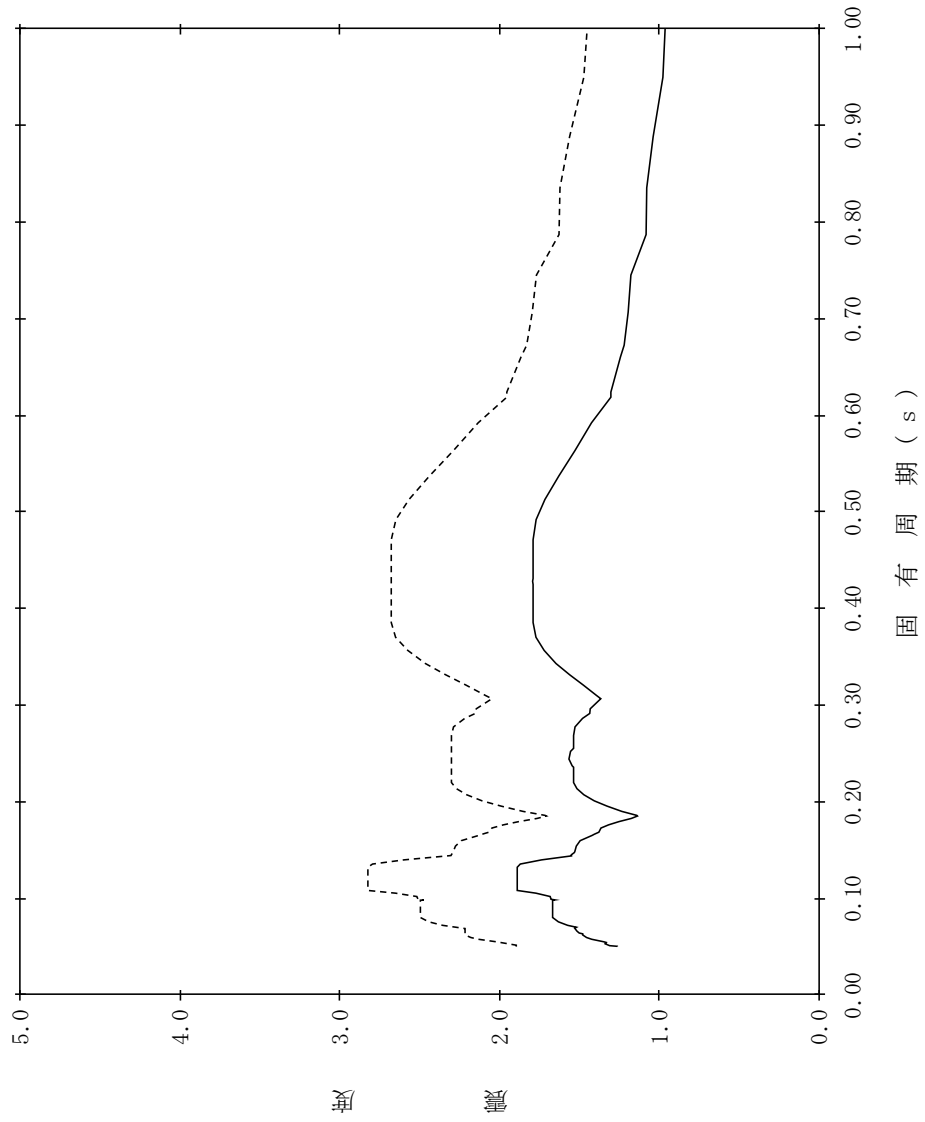


【NS2-RB-SsNS-RB87】

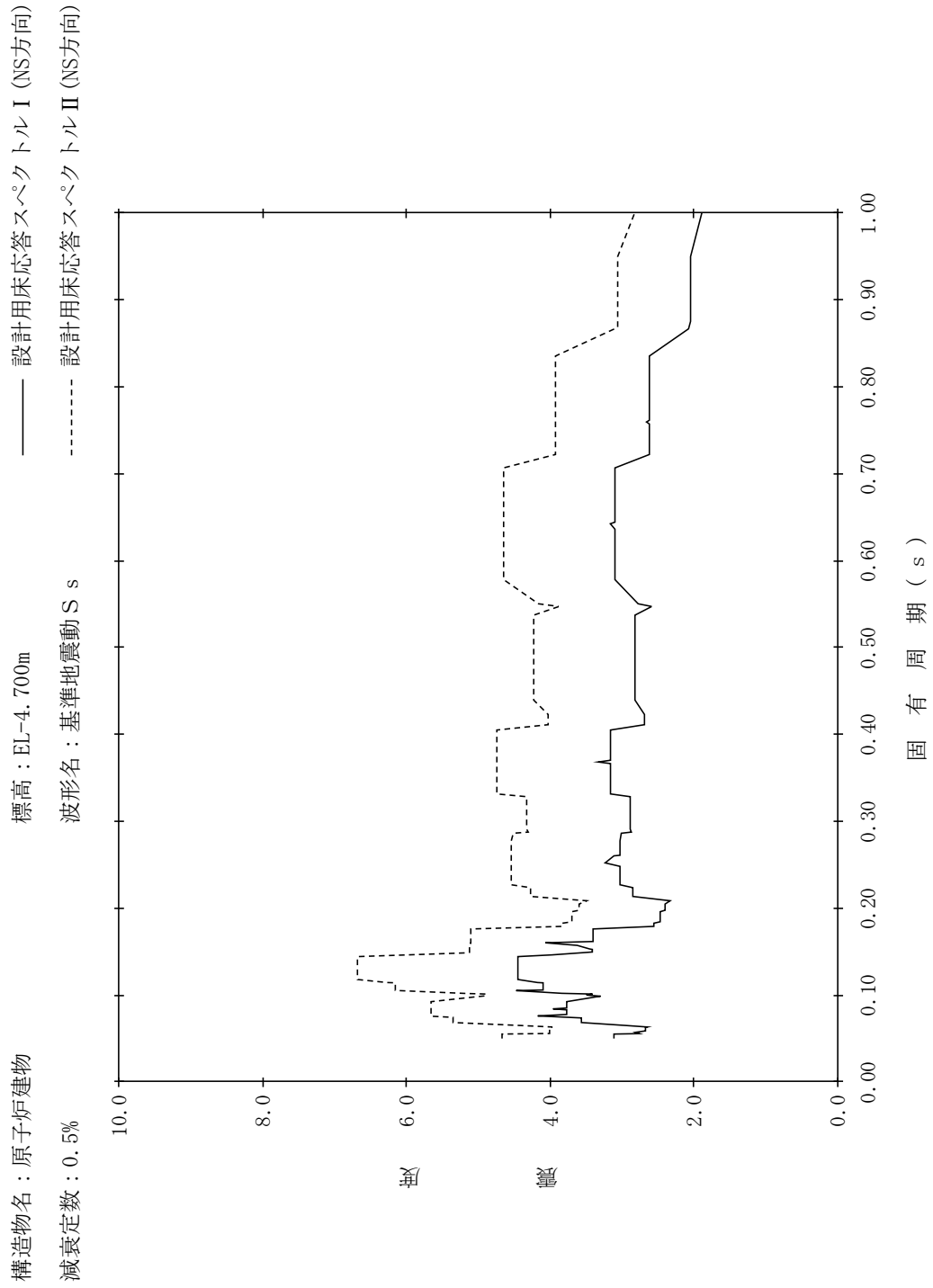


【NS2-RB-SsNS-RB88】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

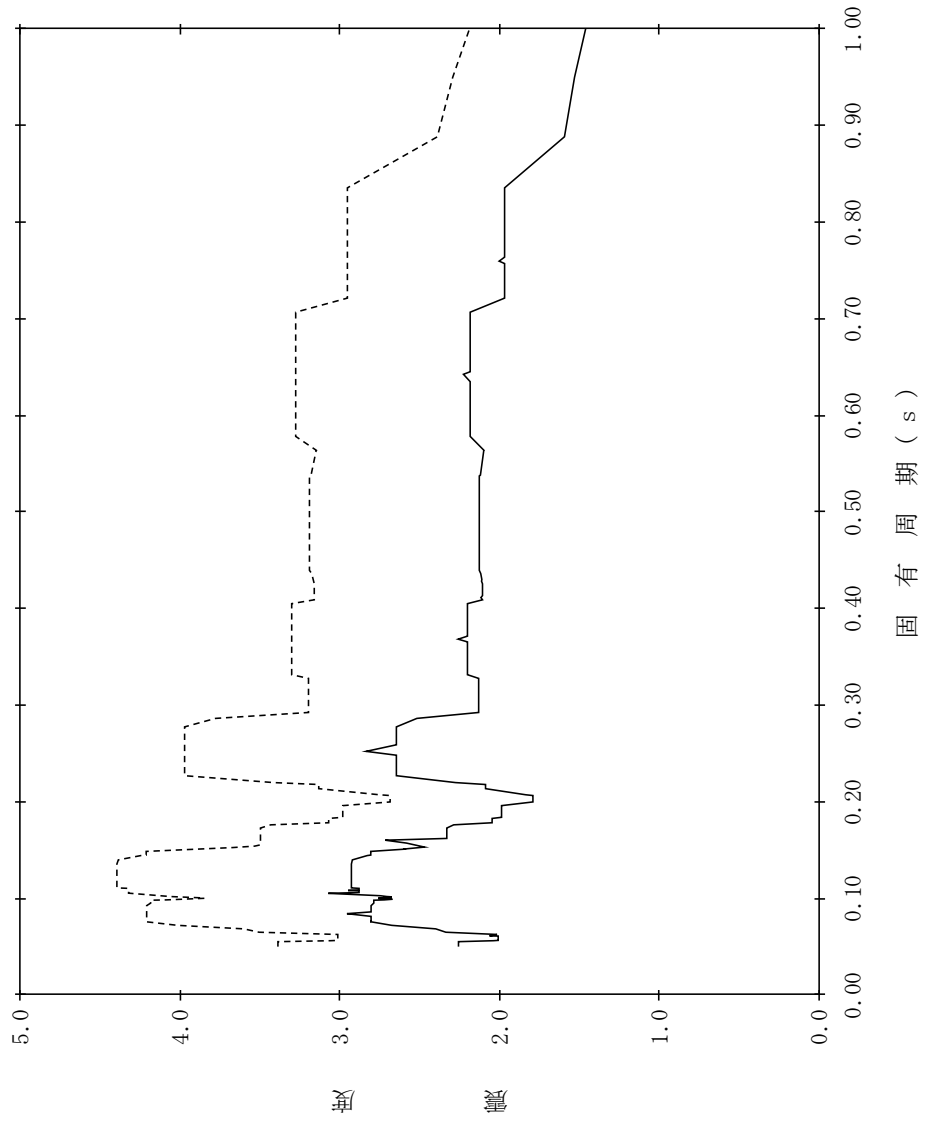


【NS2-RB-SsNS-RB89】



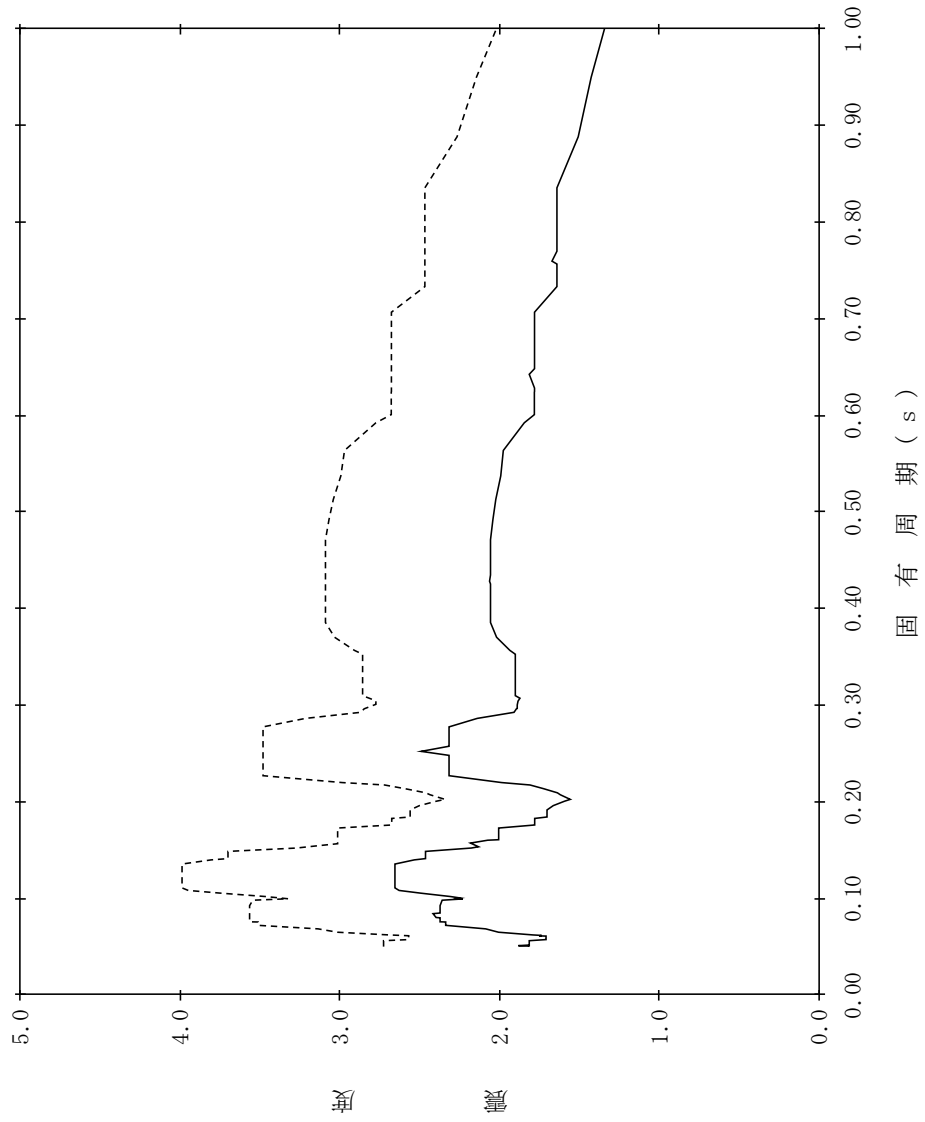
【NS2-RB-SsNS-RB90】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

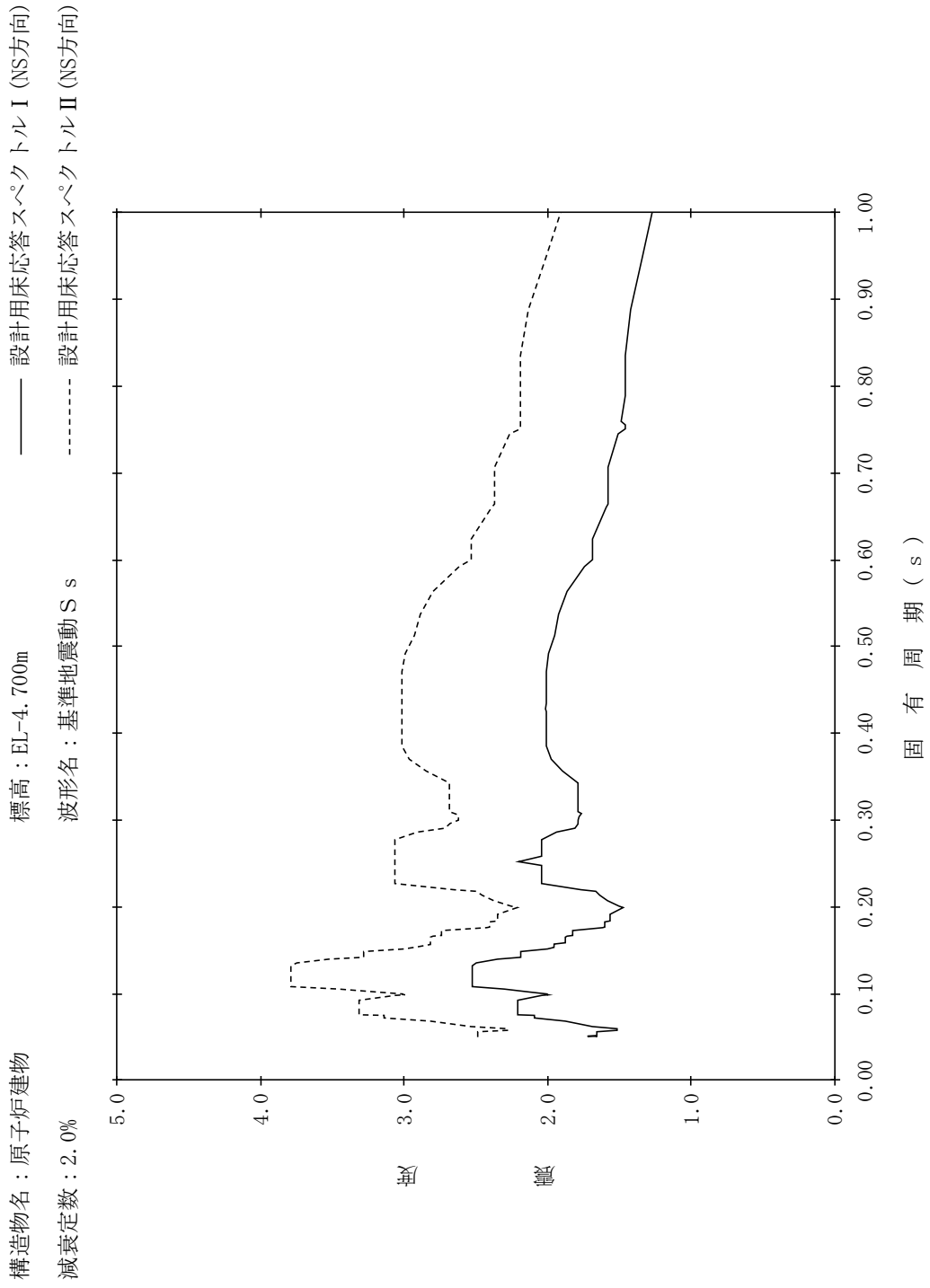


【NS2-RB-SsNS-RB91】

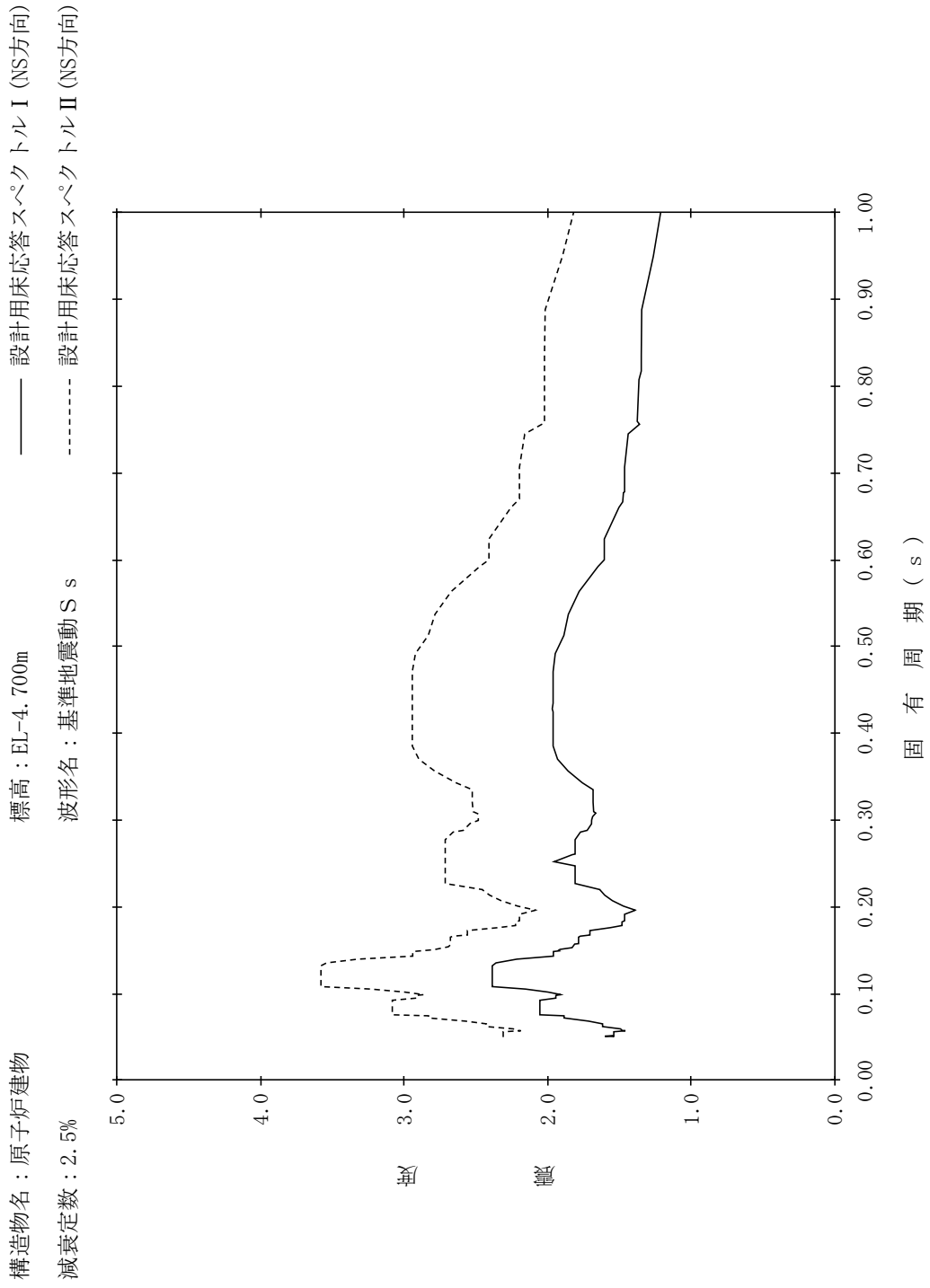
構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：1.5%
 波形式：標準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



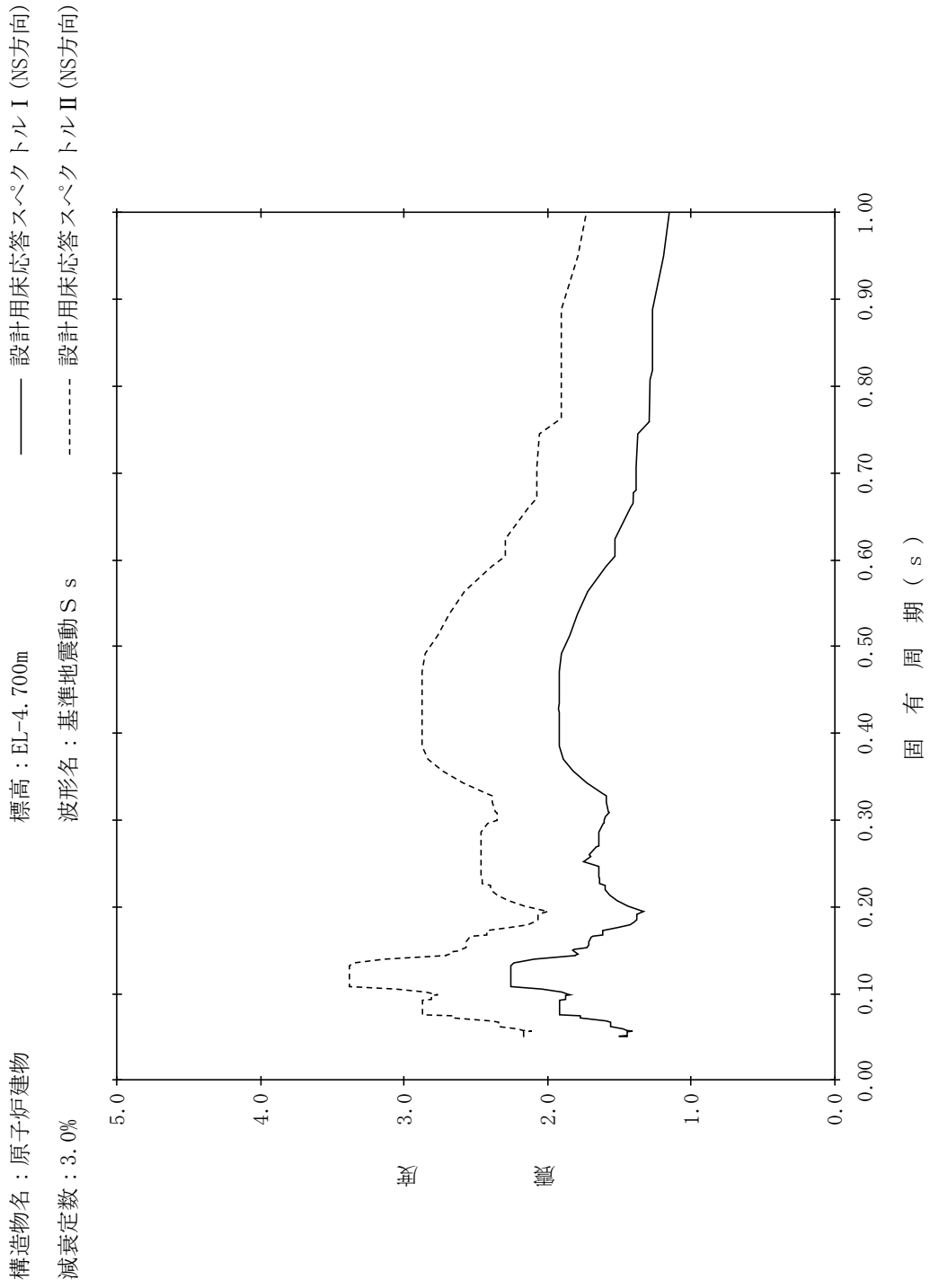
【NS2-RB-SsNS-RB92】



【NS2-RB-SsNS-RB93】

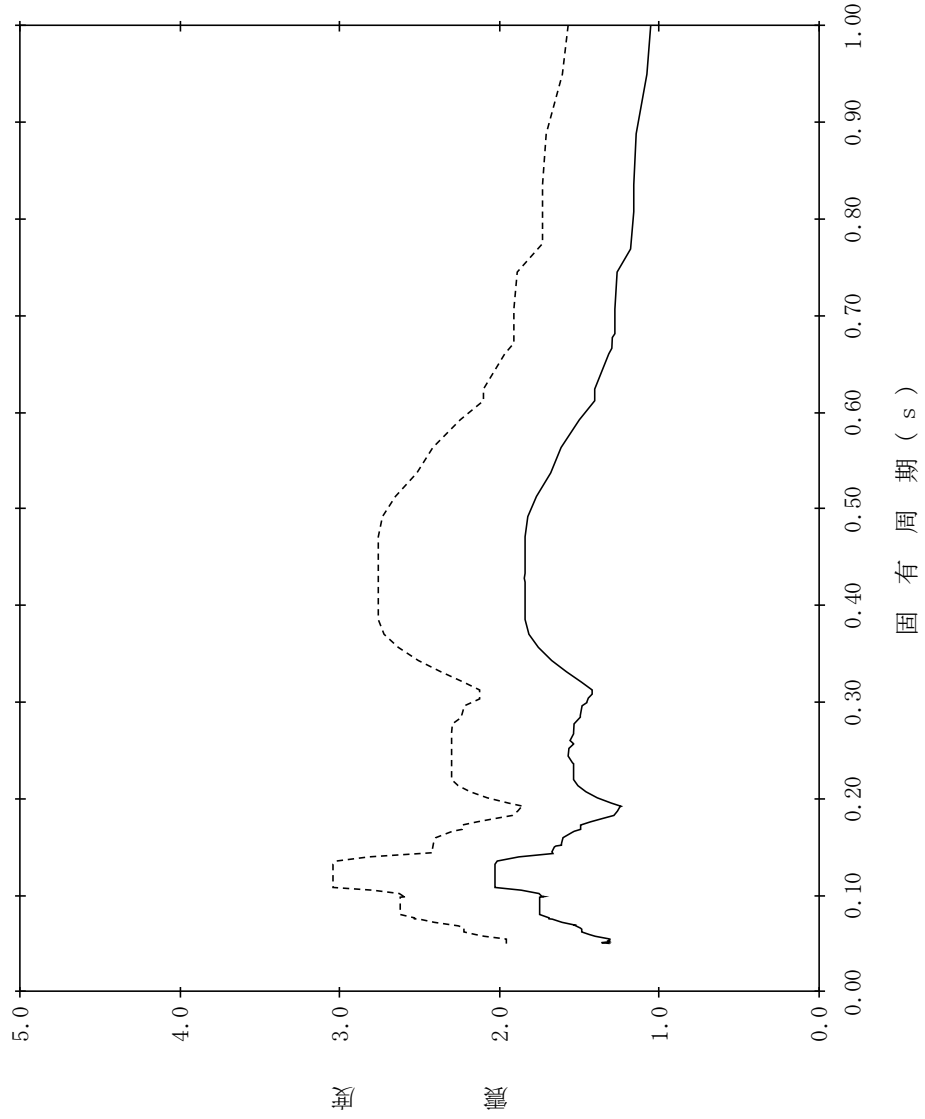


【NS2-RB-SsNS-RB94】



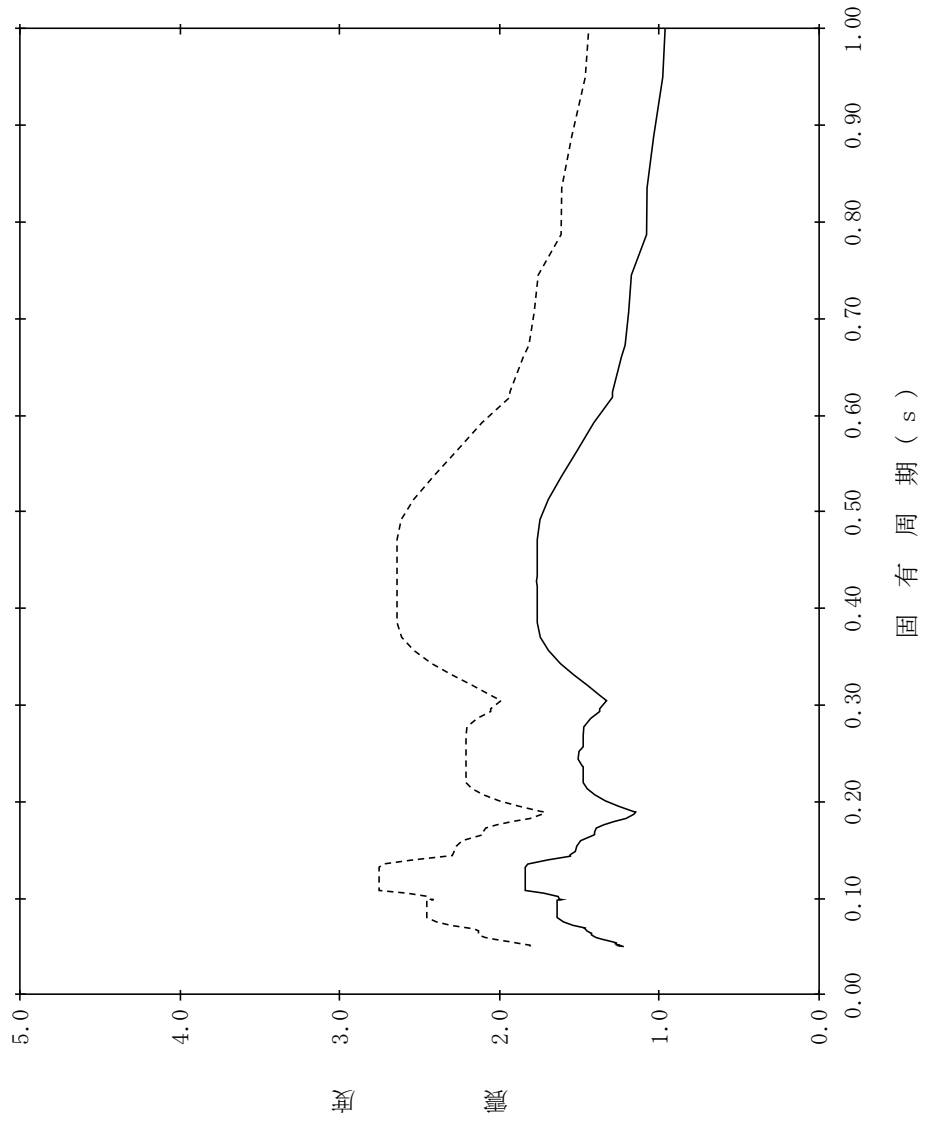
【NS2-RB-SsNS-RB95】

構造物名：原子炉建物
標高：EL-4.700m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

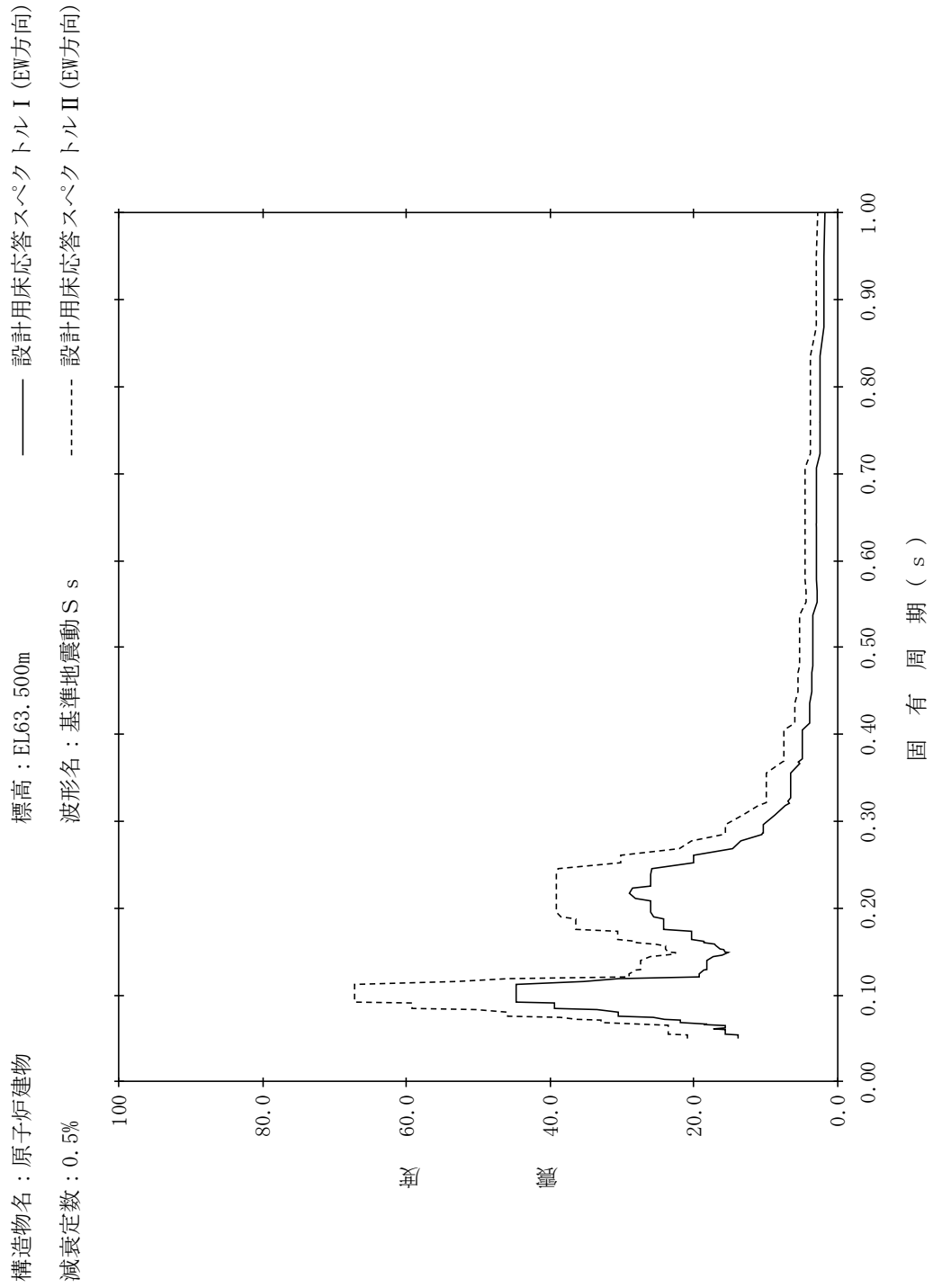


【NS2-RB-SsNS-RB96】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

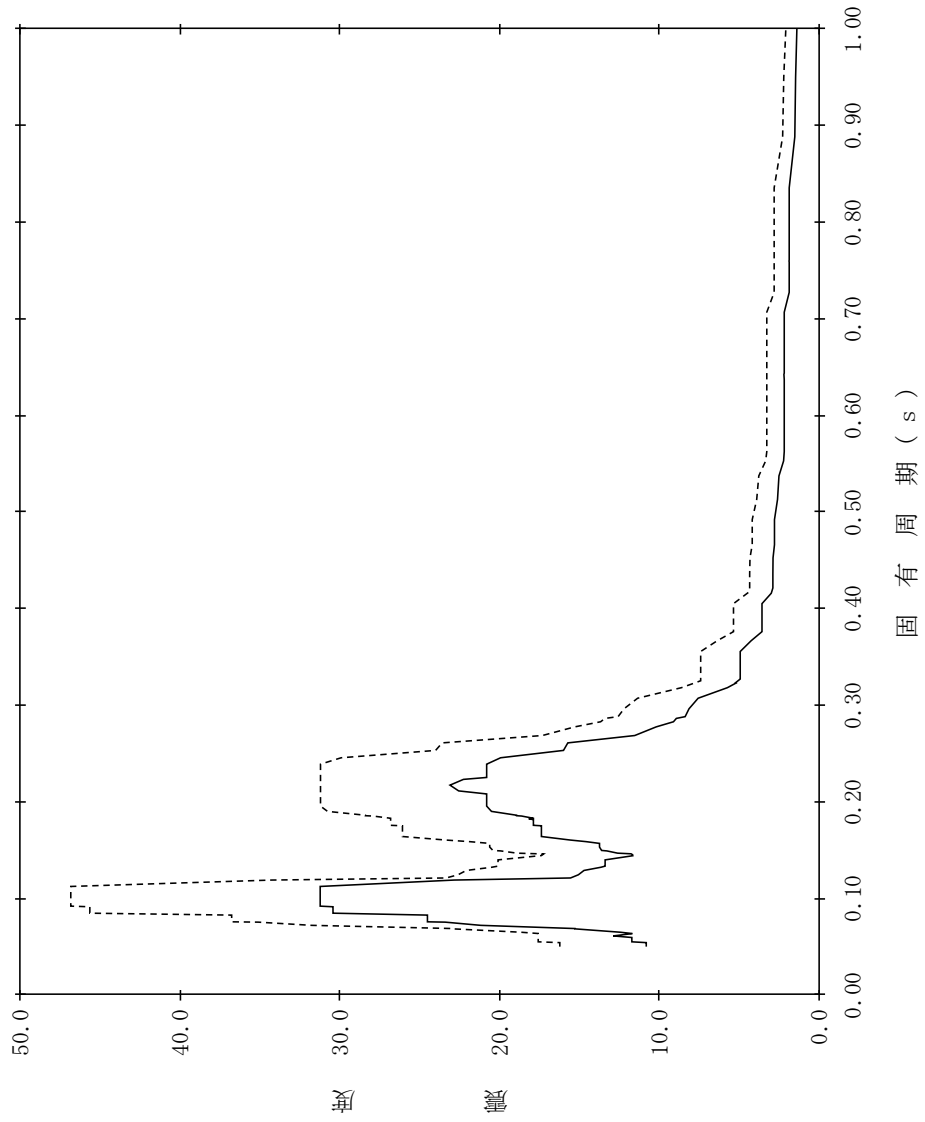


【NS2-RB-SsEW-RB1】



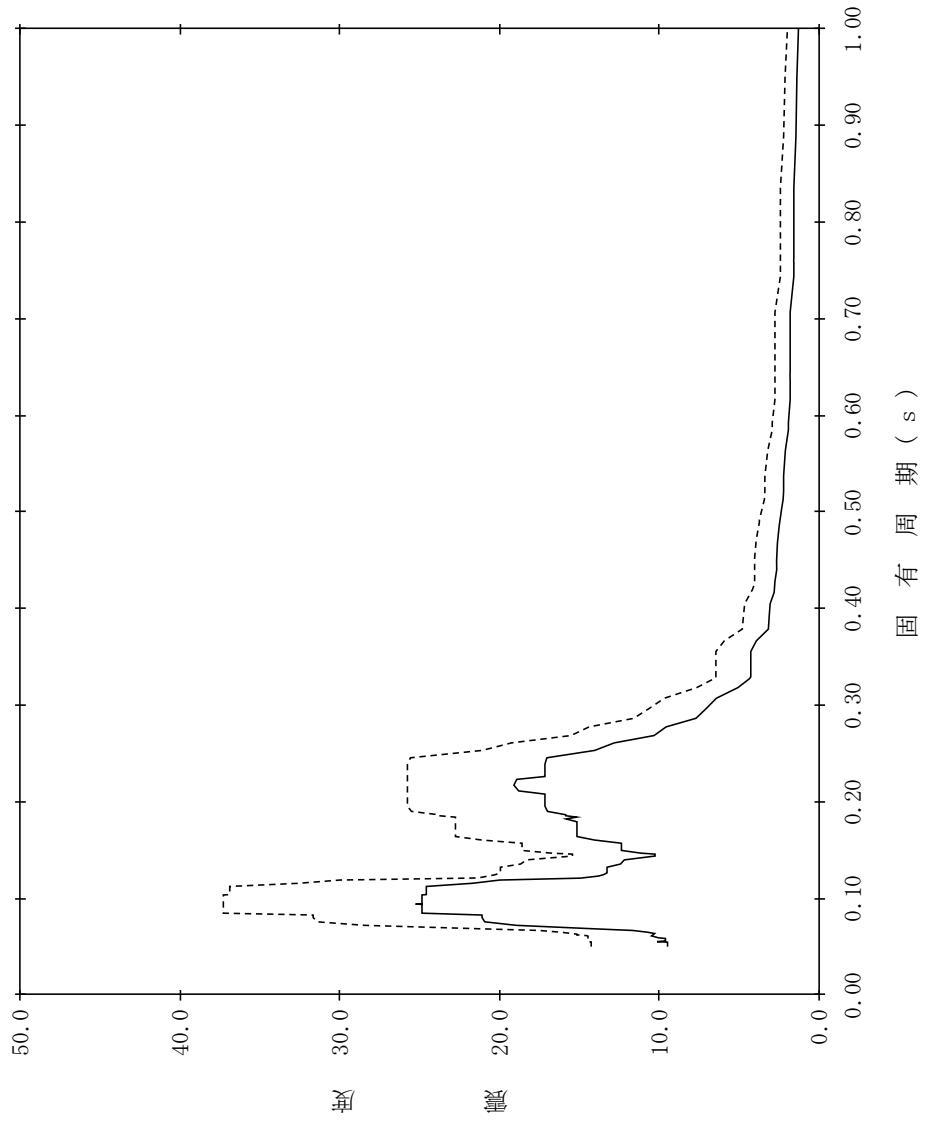
【NS2-RB-SsEW-RB2】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



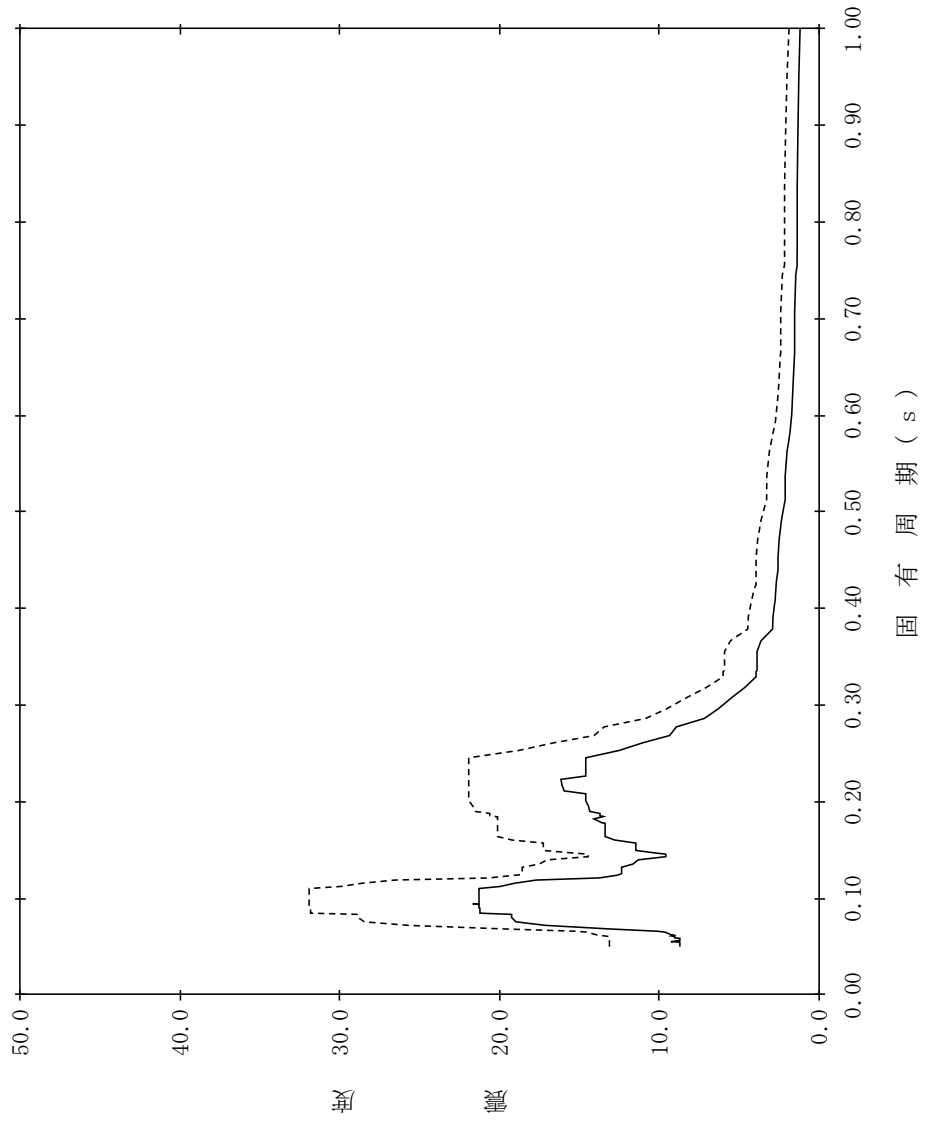
【NS2-RB-SsEW-RB3】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



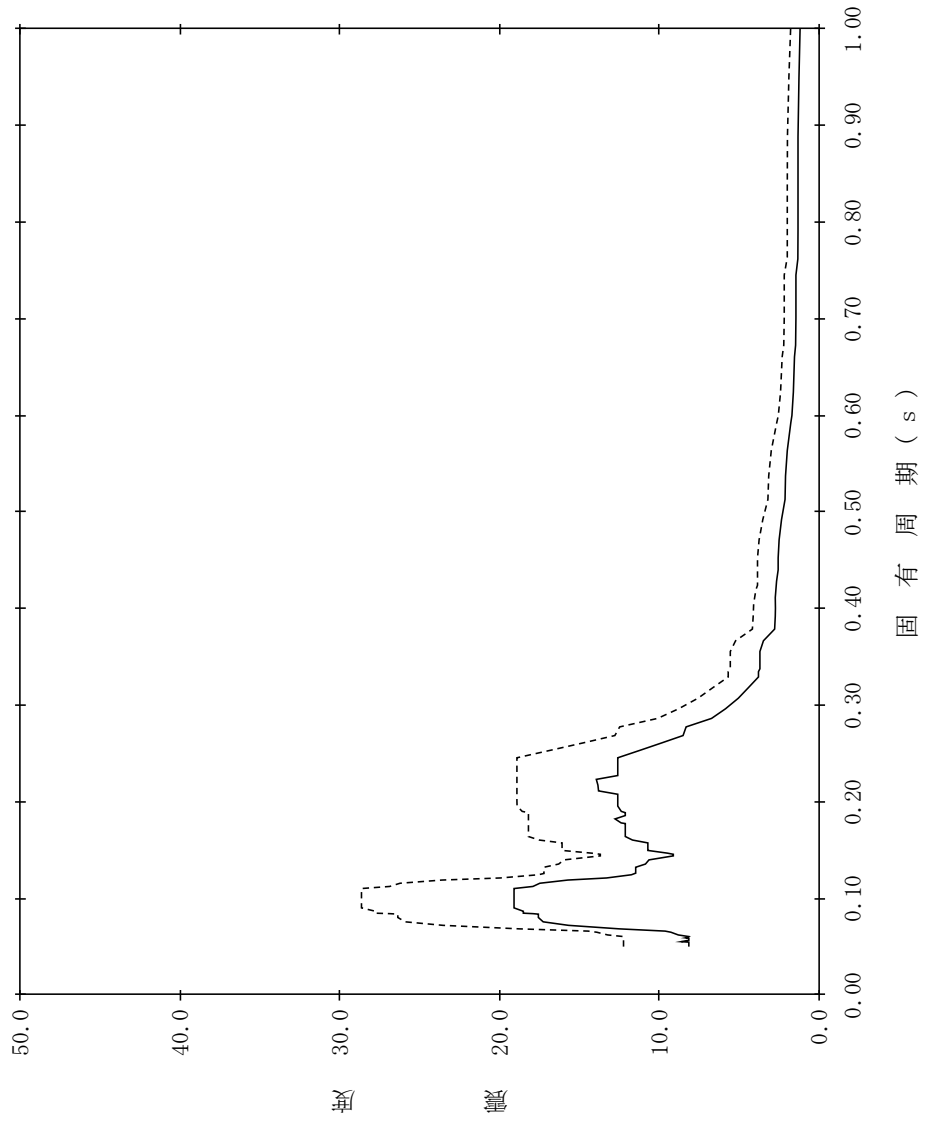
【NS2-RB-SsEW-RB4】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



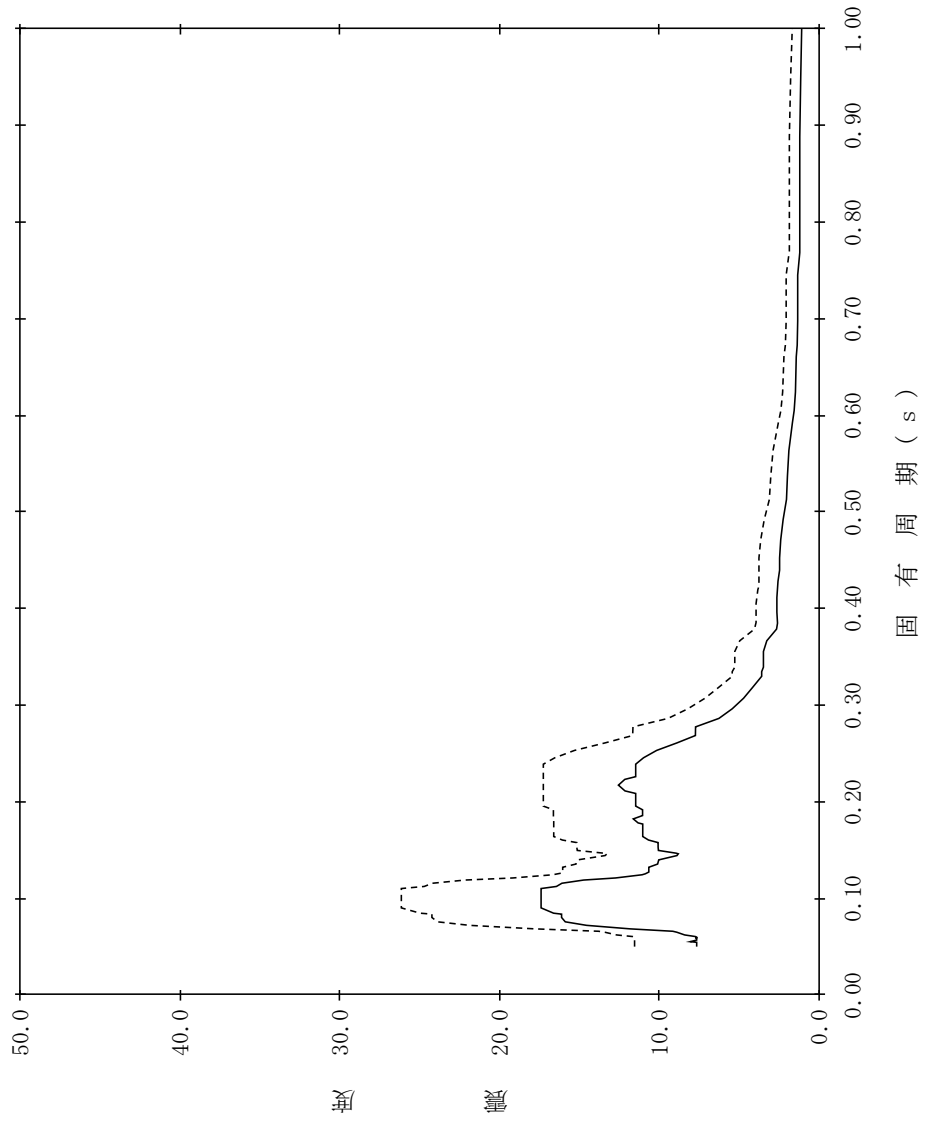
【NS2-RB-SsEW-RB5】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



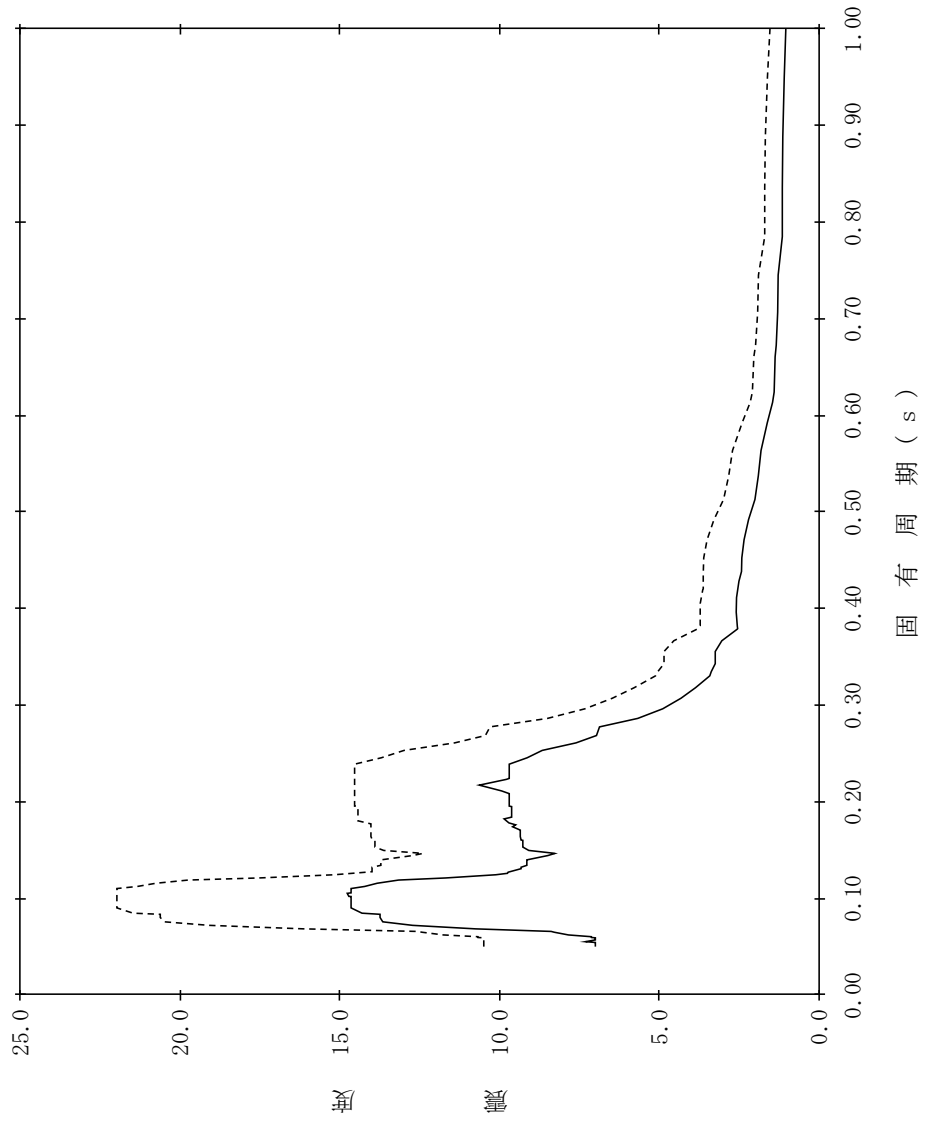
【NS2-RB-SsEW-RB6】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

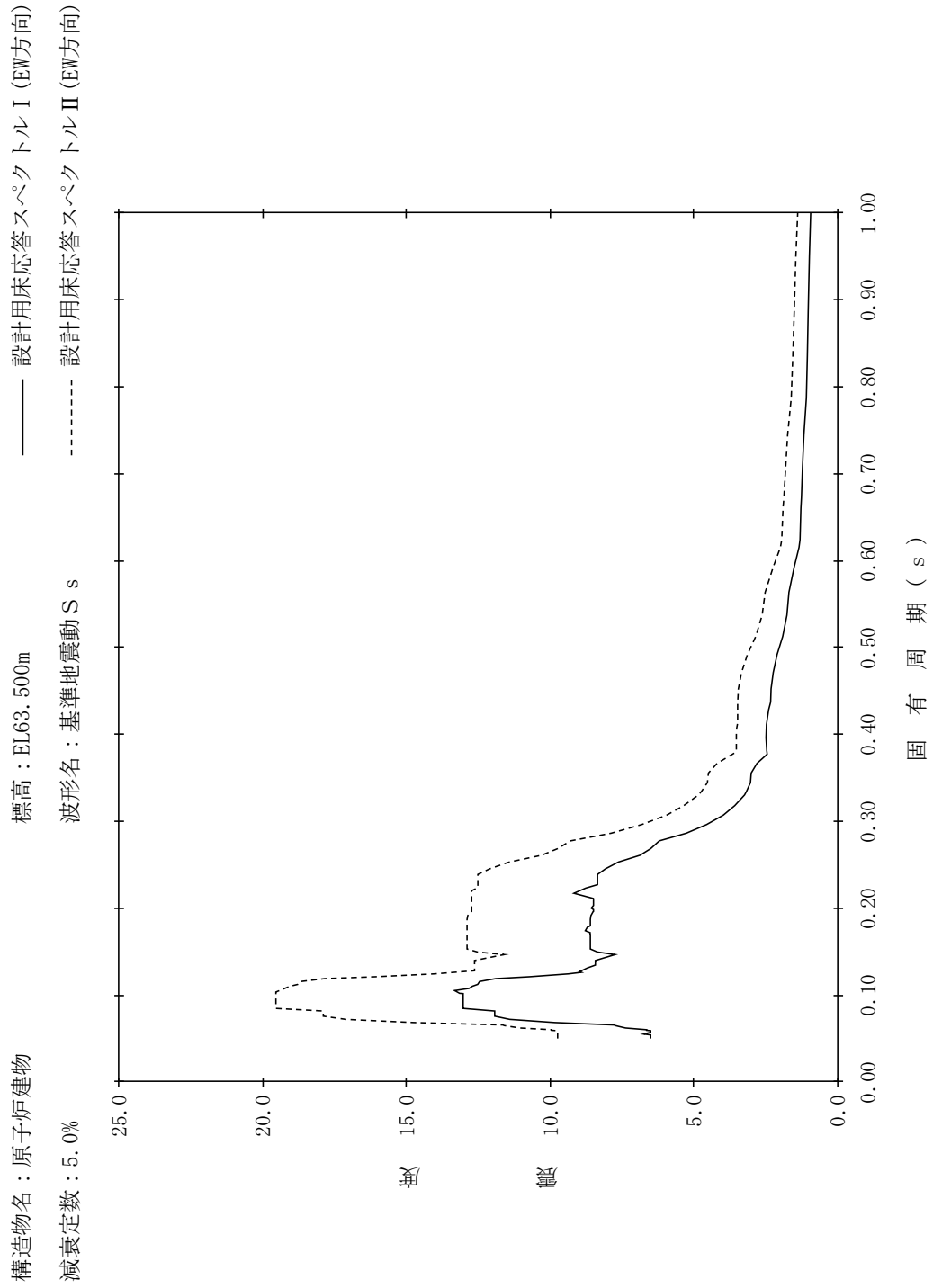


【NS2-RB-SsEW-RB7】

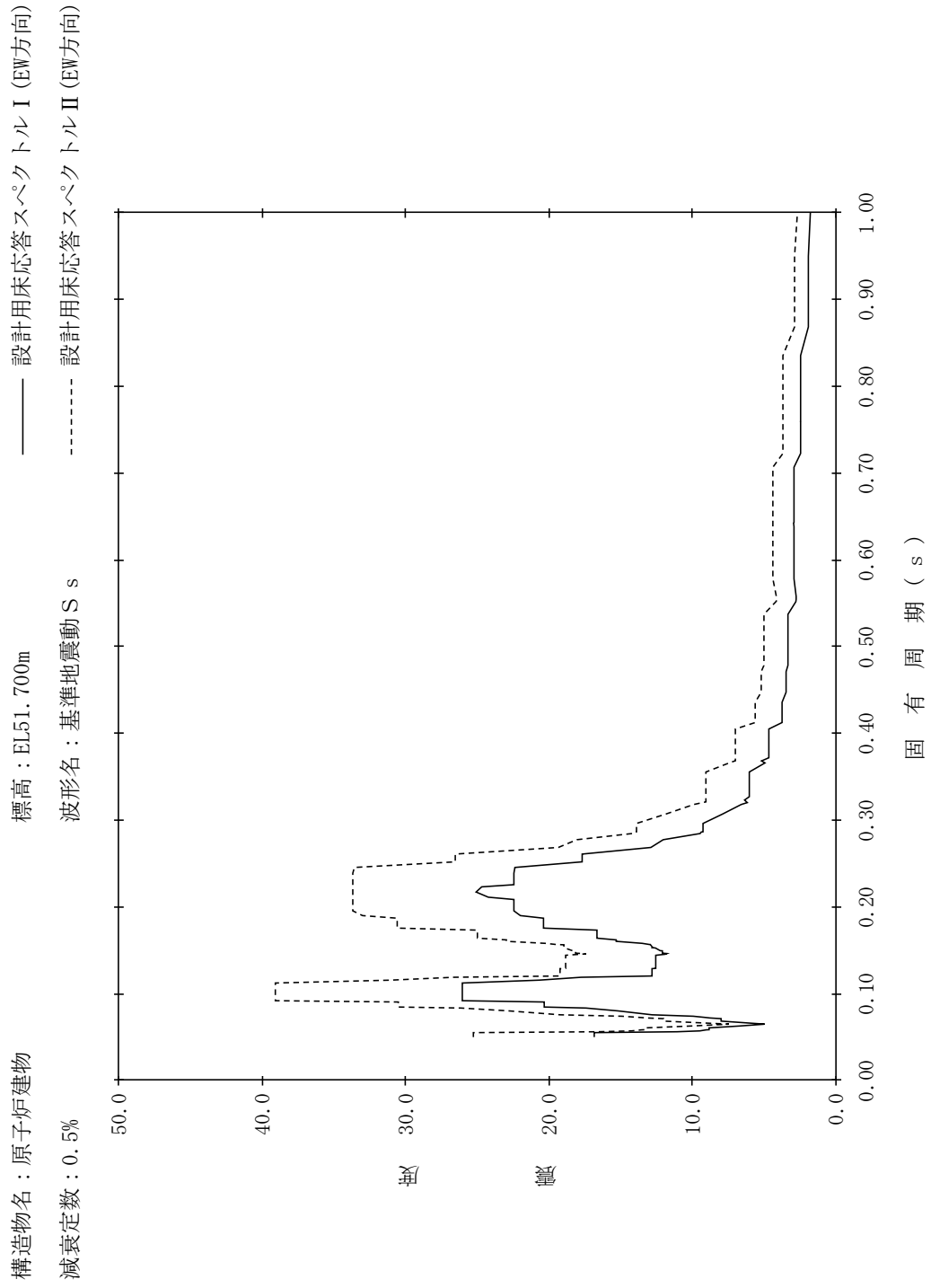
構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



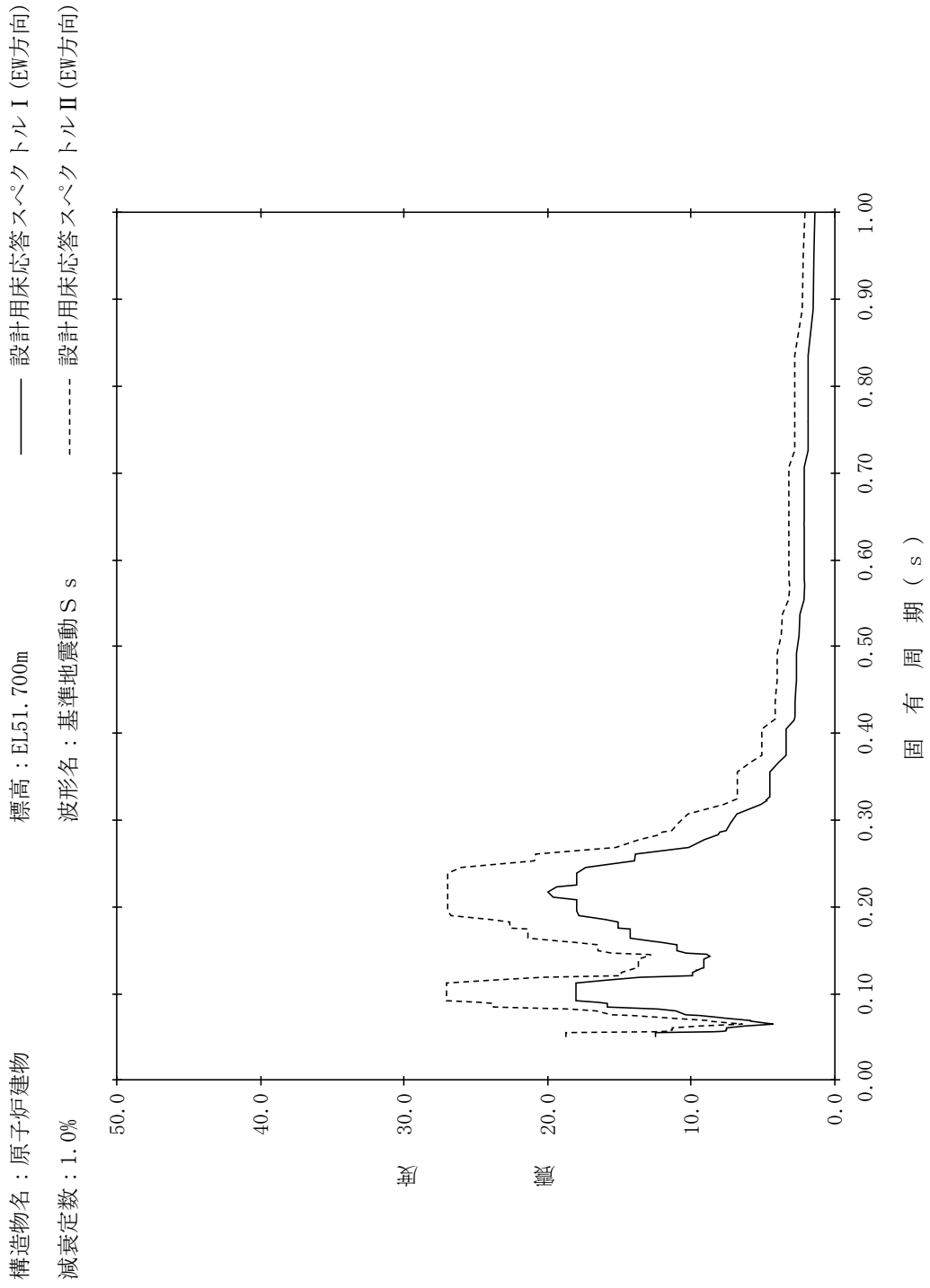
【NS2-RB-SsEW-RB8】



【NS2-RB-SsEW-RB9】

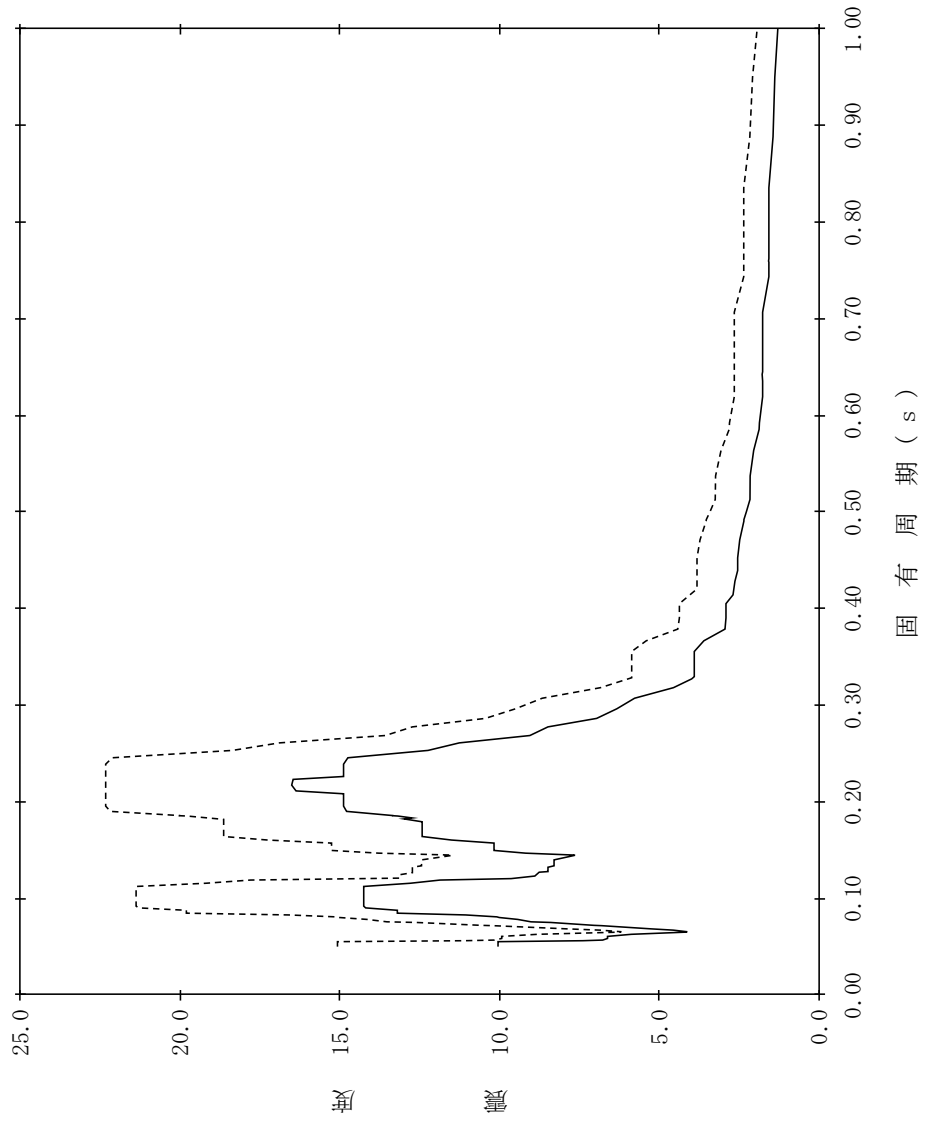


【NS2-RB-SsEW-RB10】

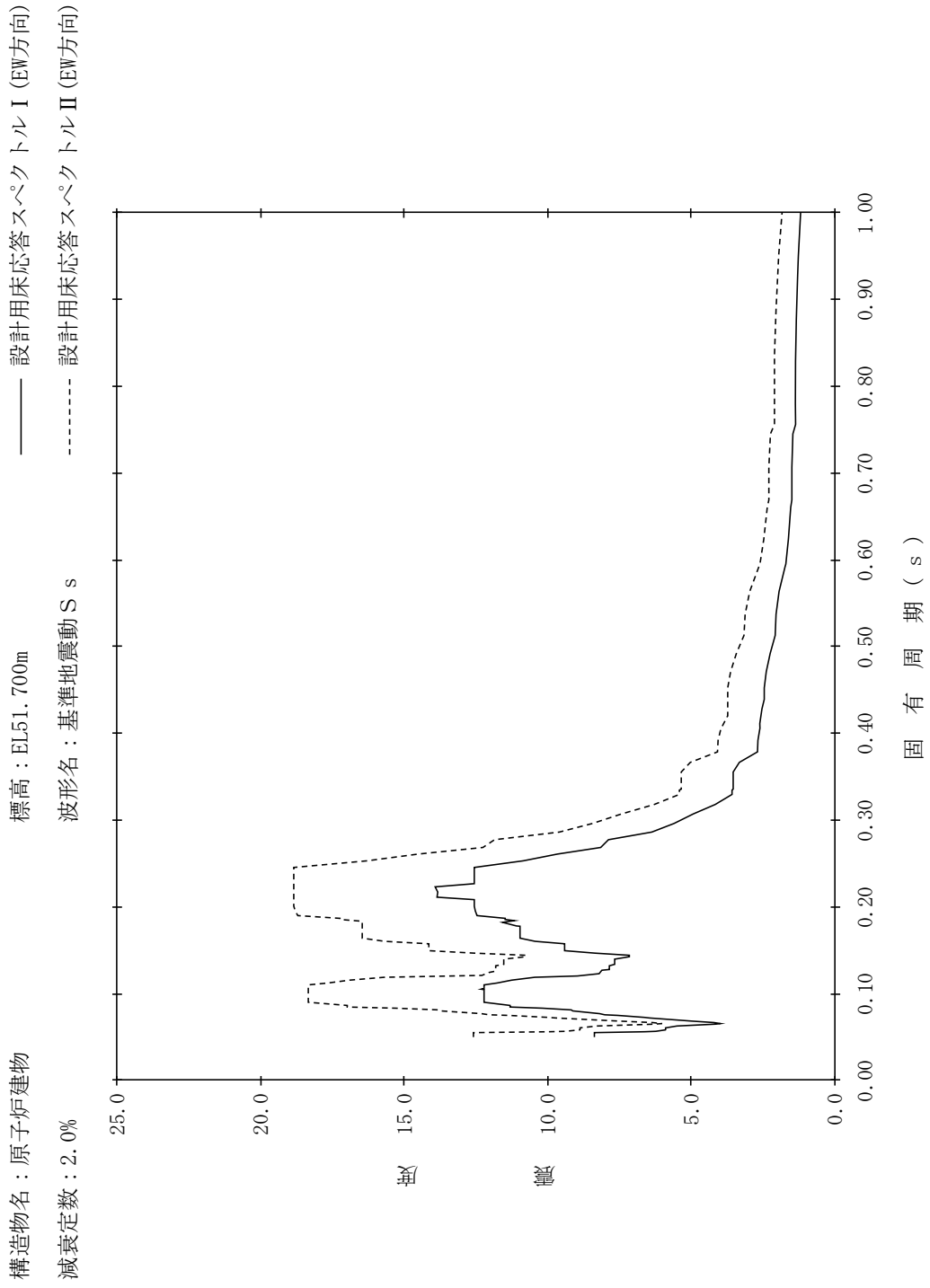


【NS2-RB-SsEW-RB11】

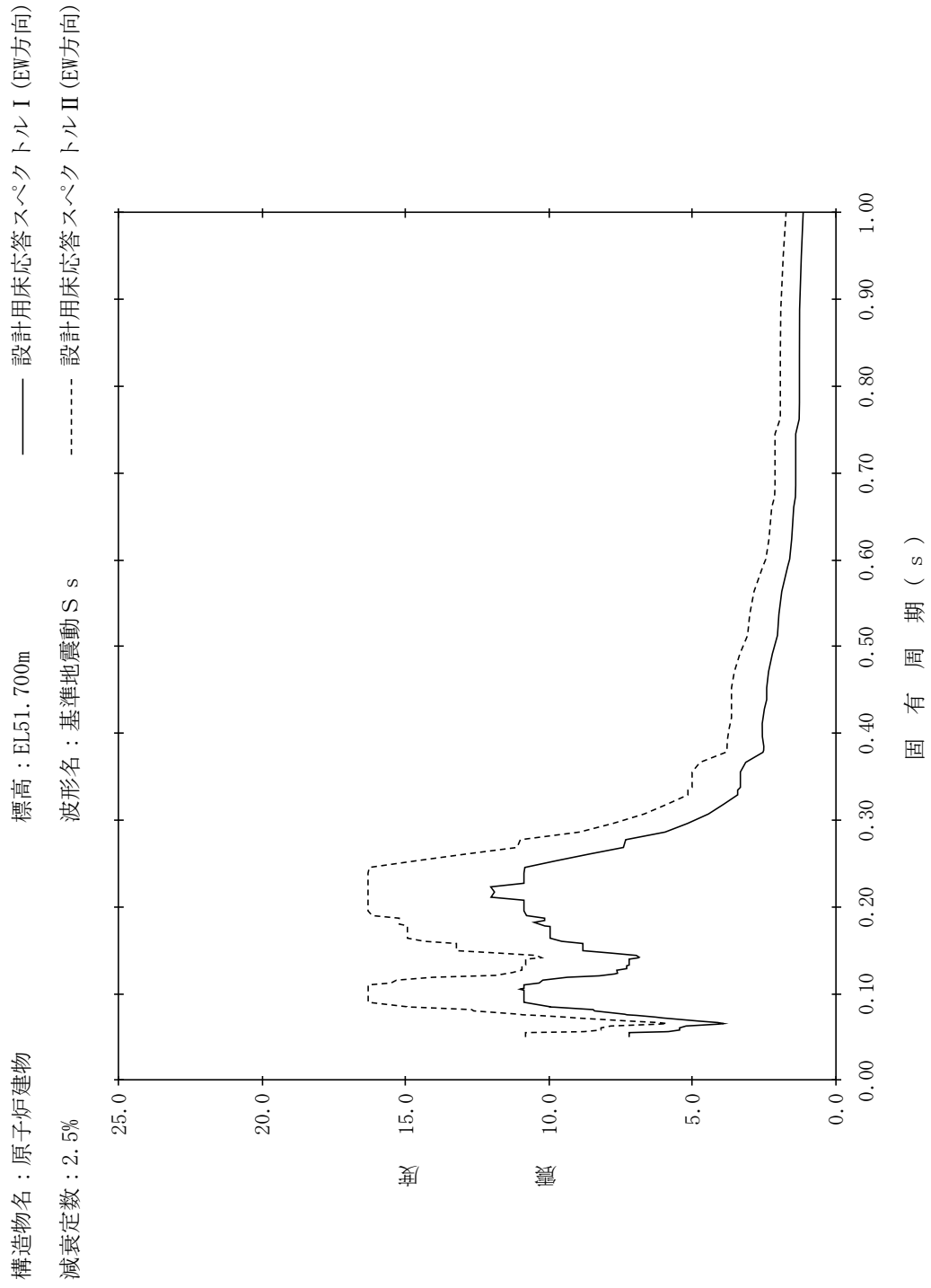
構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



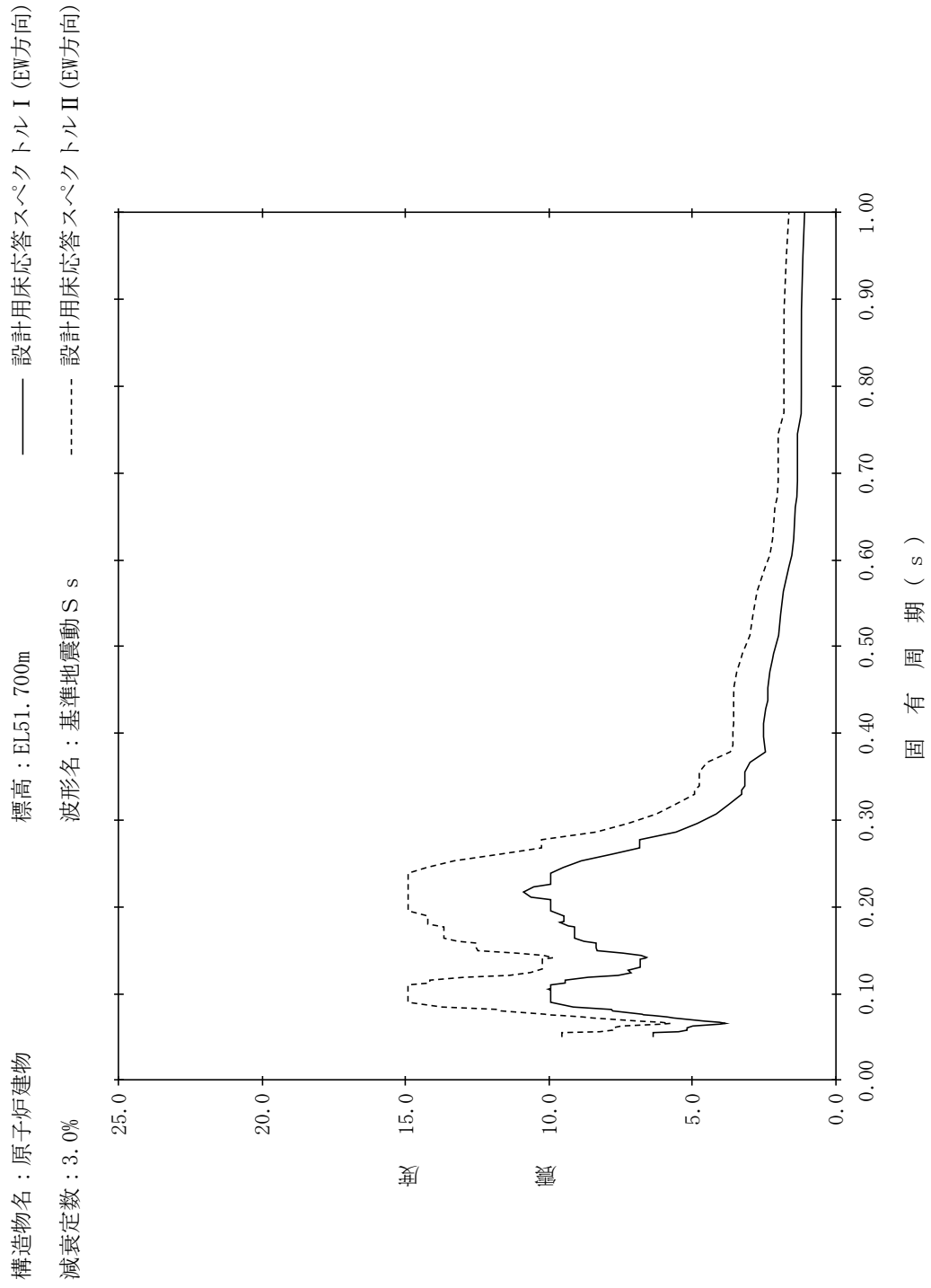
【NS2-RB-SsEW-RB12】



【NS2-RB-SsEW-RB13】

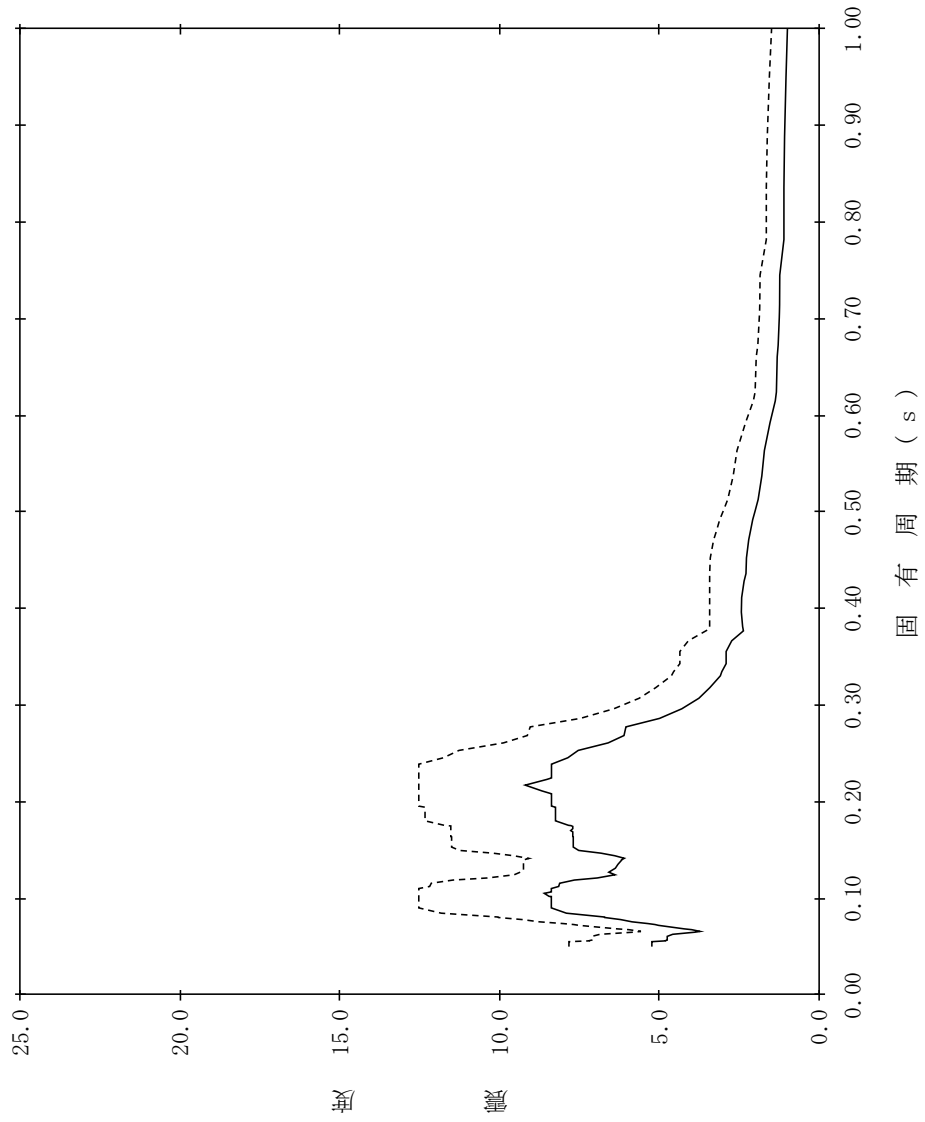


【NS2-RB-SsEW-RB14】



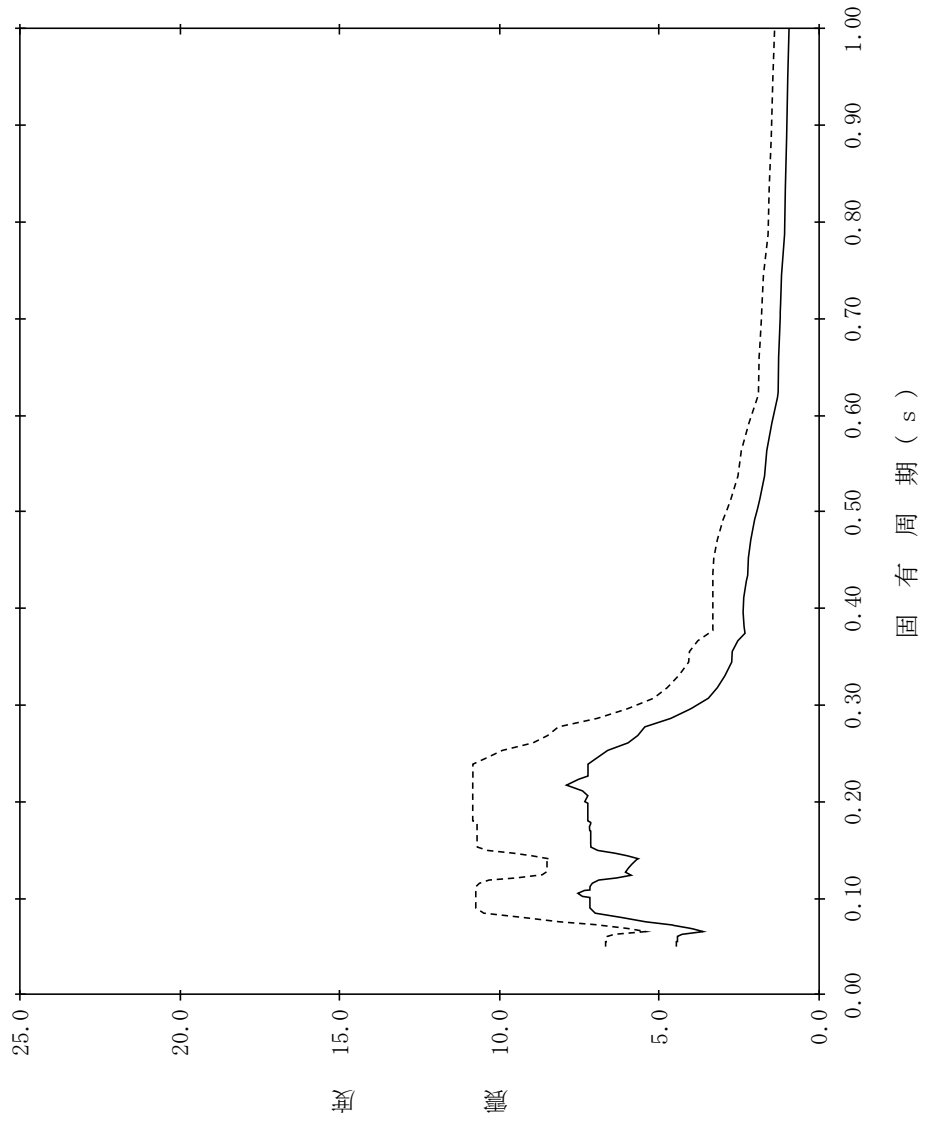
【NS2-RB-SsEW-RB15】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



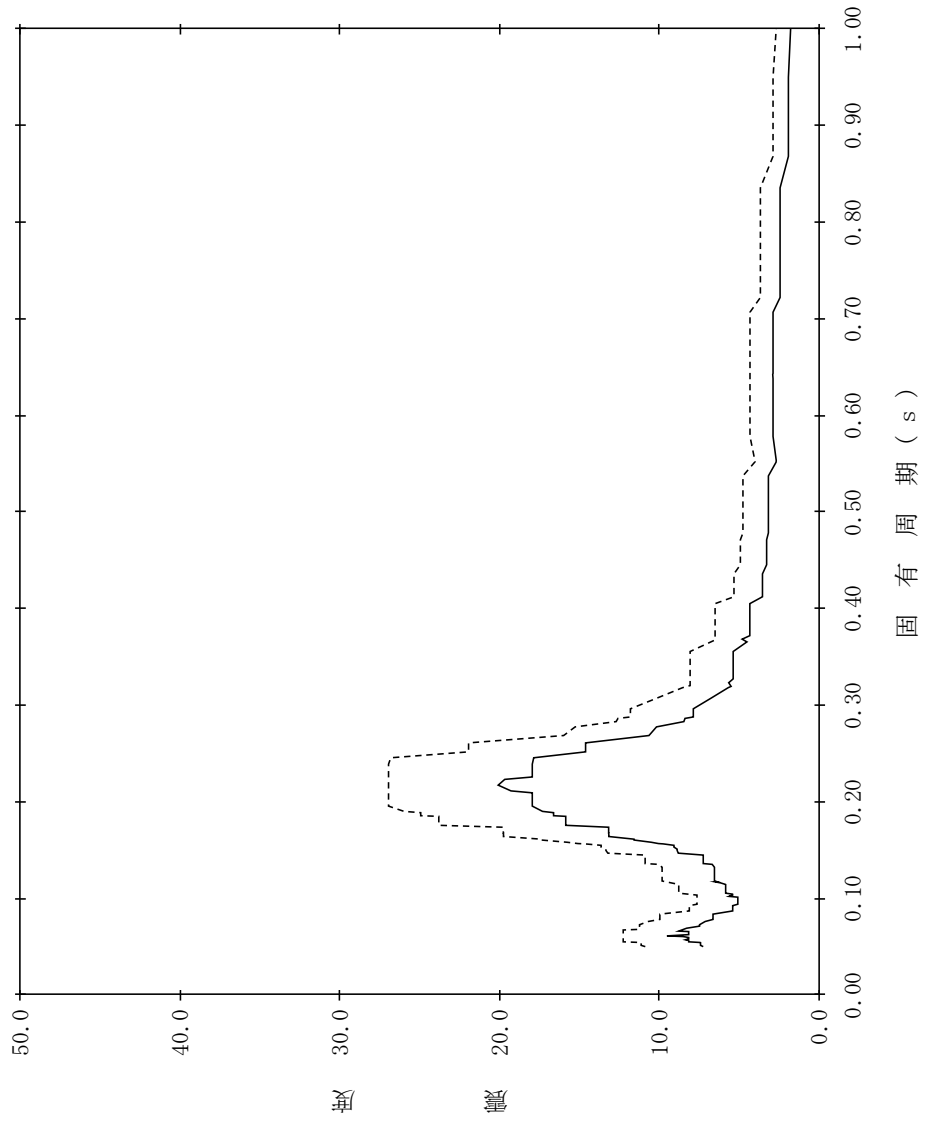
【NS2-RB-SsEW-RB16】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



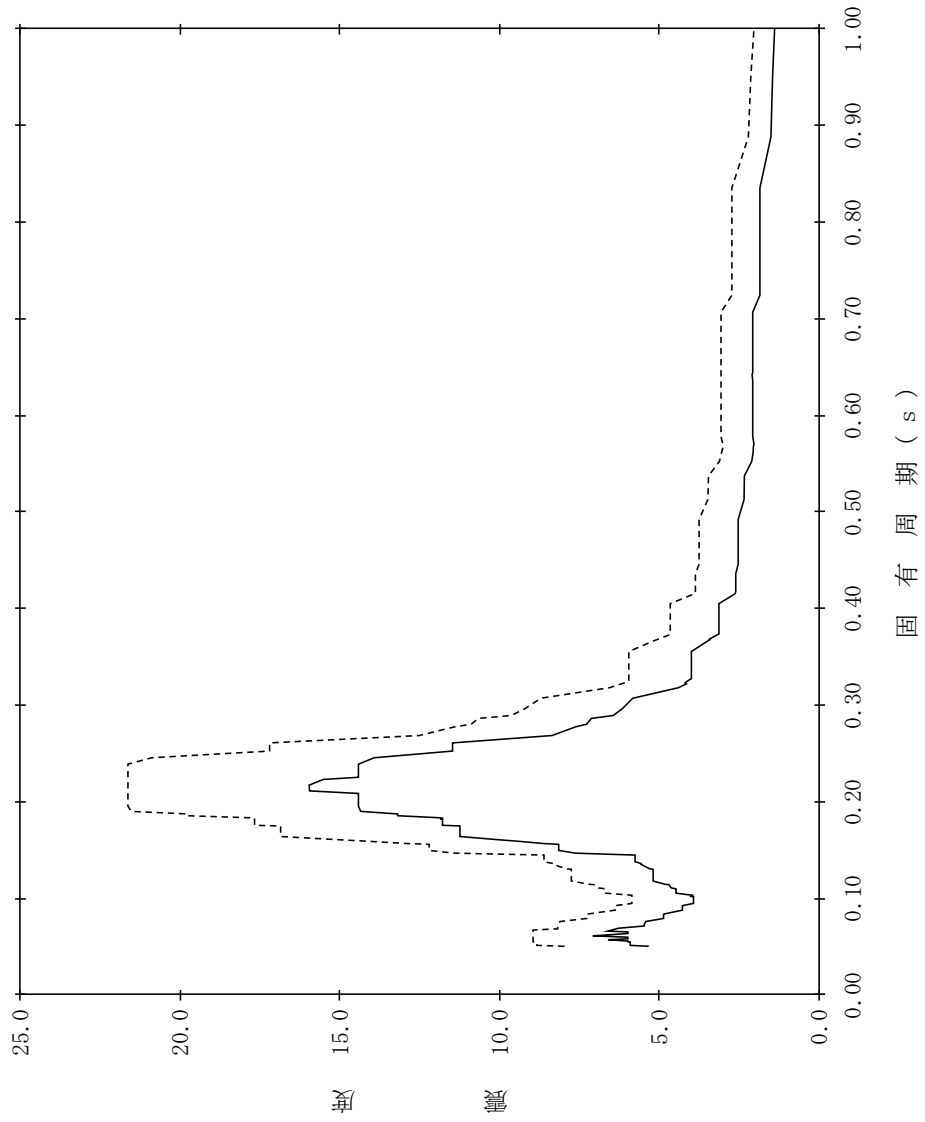
【NS2-RB-SsEW-RB17】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

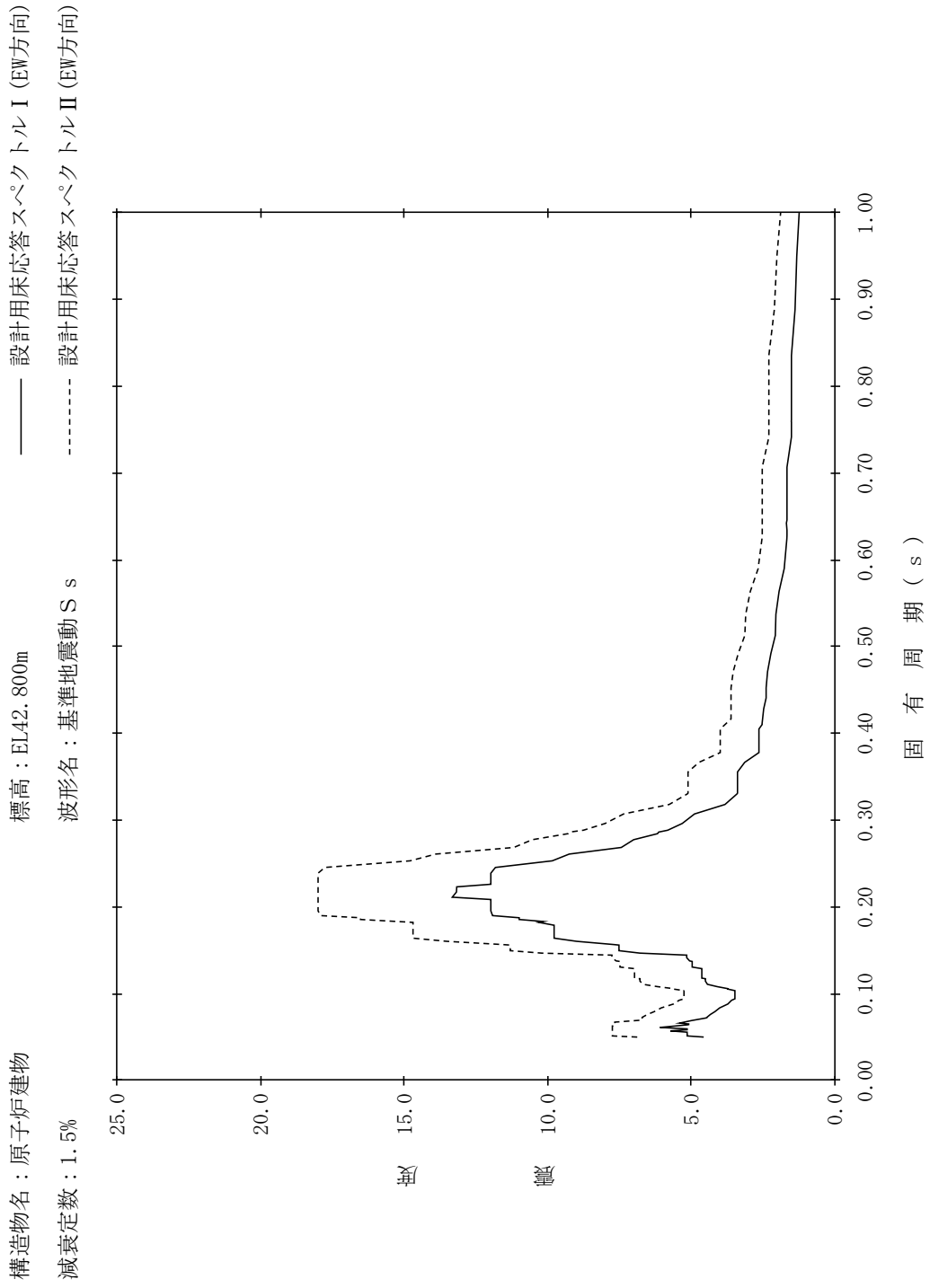


【NS2-RB-SsEW-RB18】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

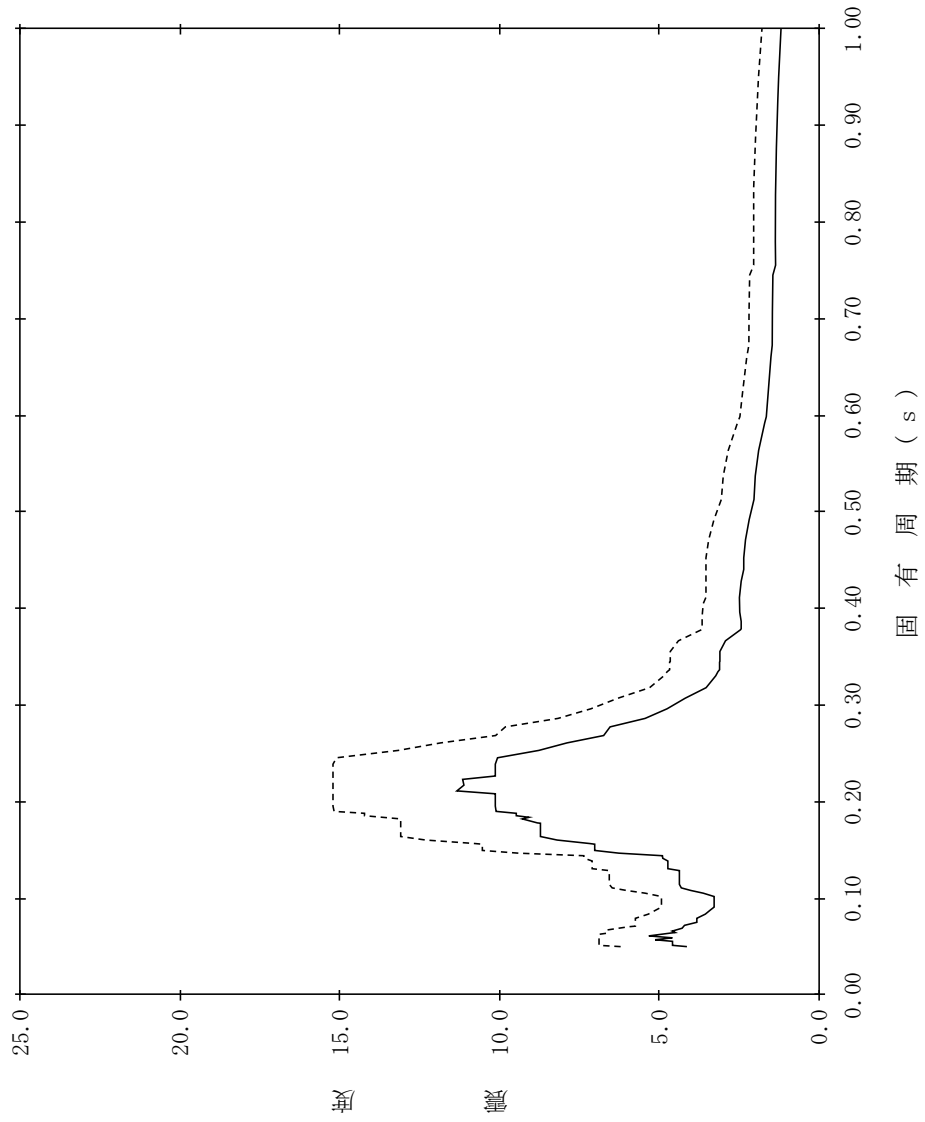


【NS2-RB-SsEW-RB19】

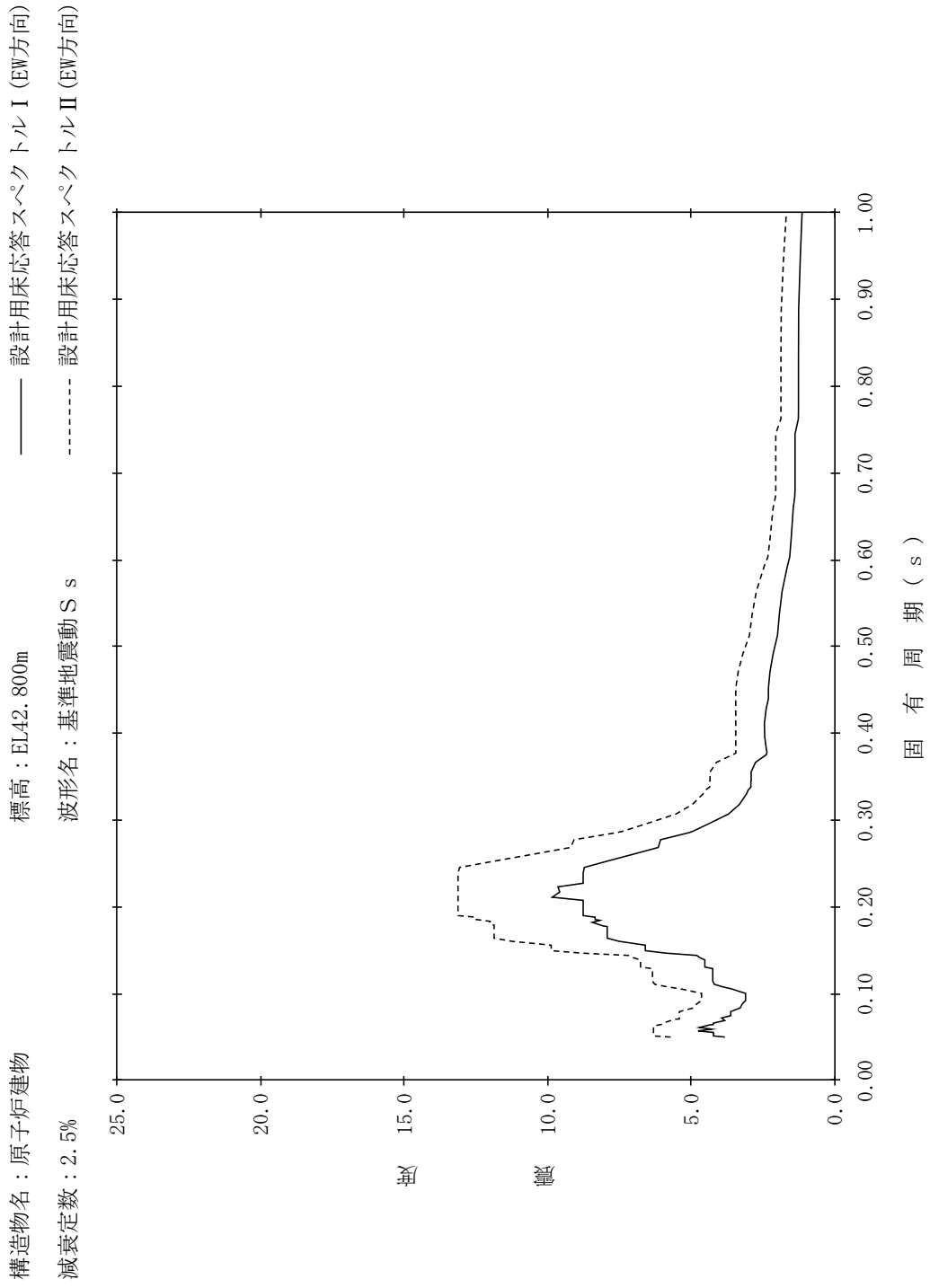


【NS2-RB-SsEW-RB20】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

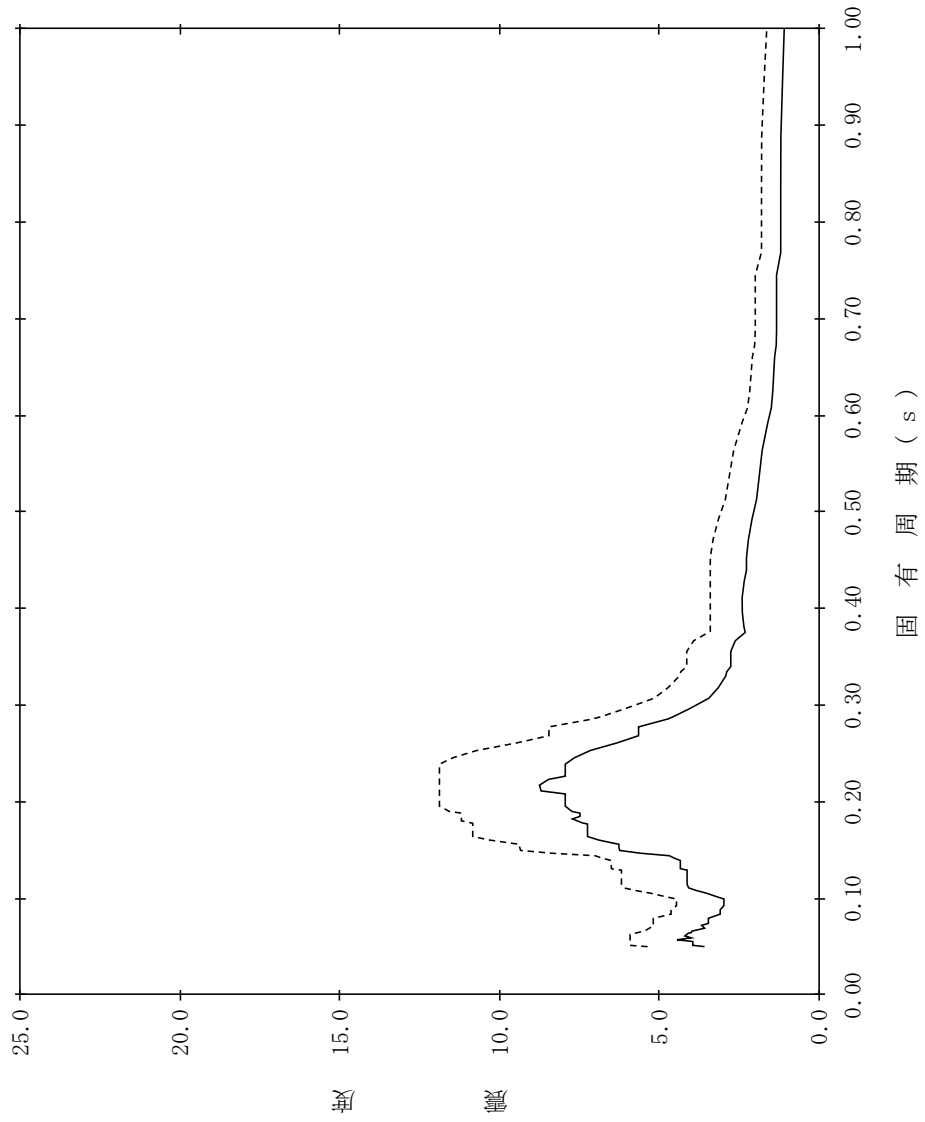


【NS2-RB-SsEW-RB21】



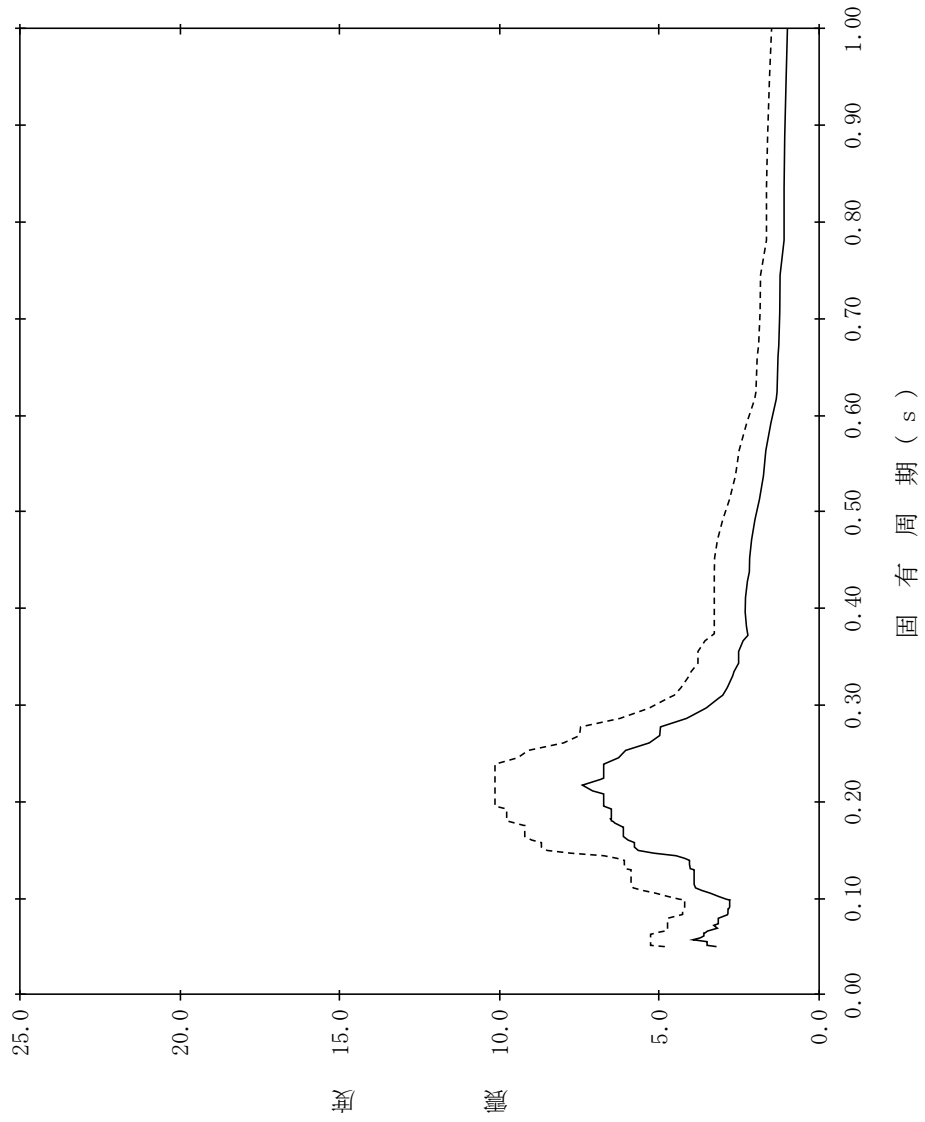
【NS2-RB-SsEW-RB22】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



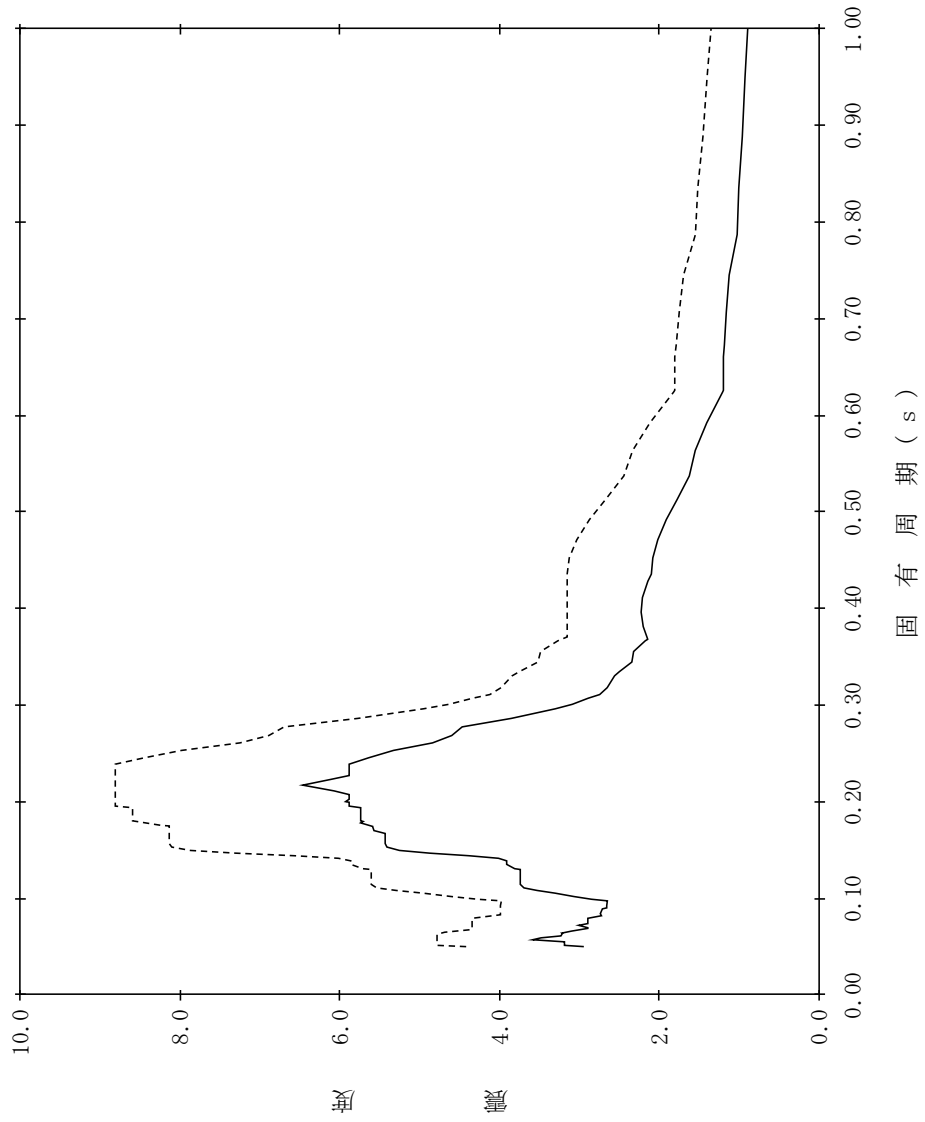
【NS2-RB-SsEW-RB23】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



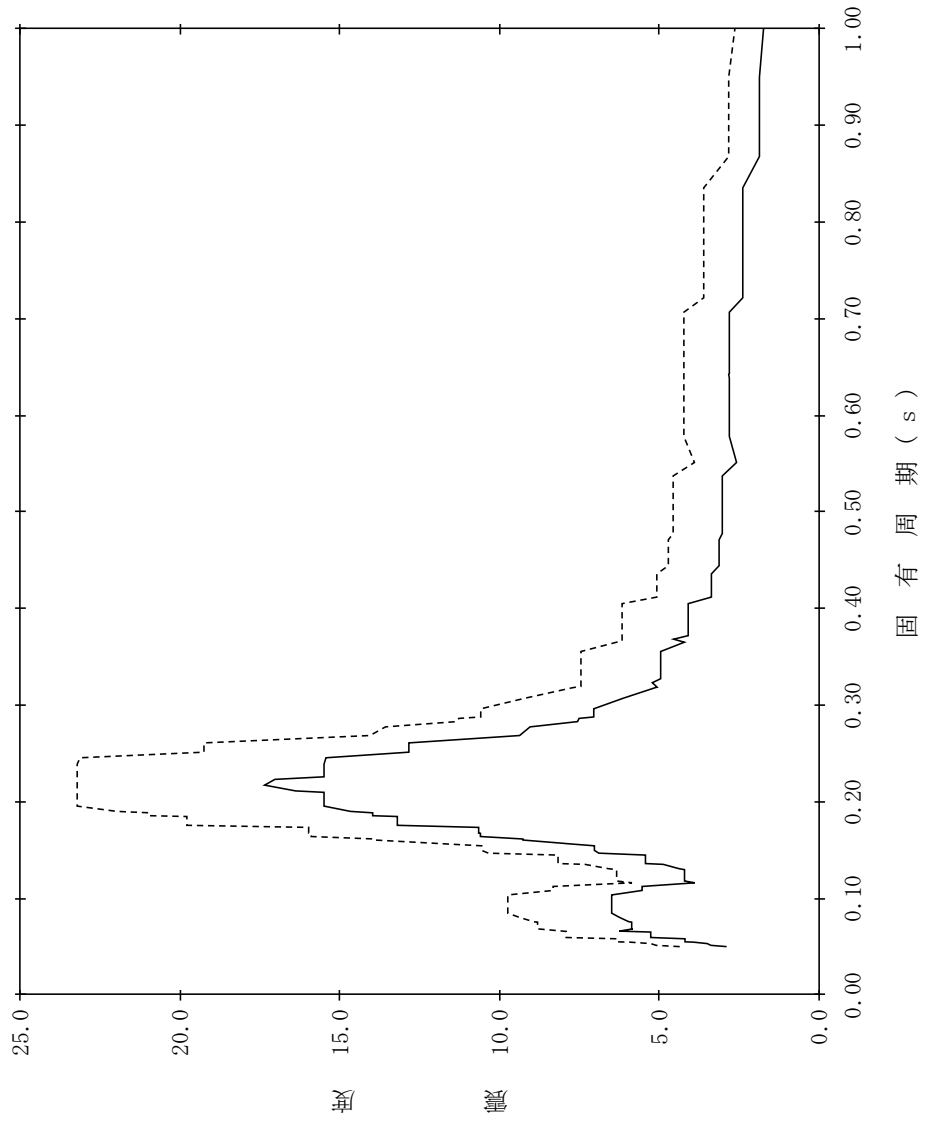
【NS2-RB-SsEW-RB24】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



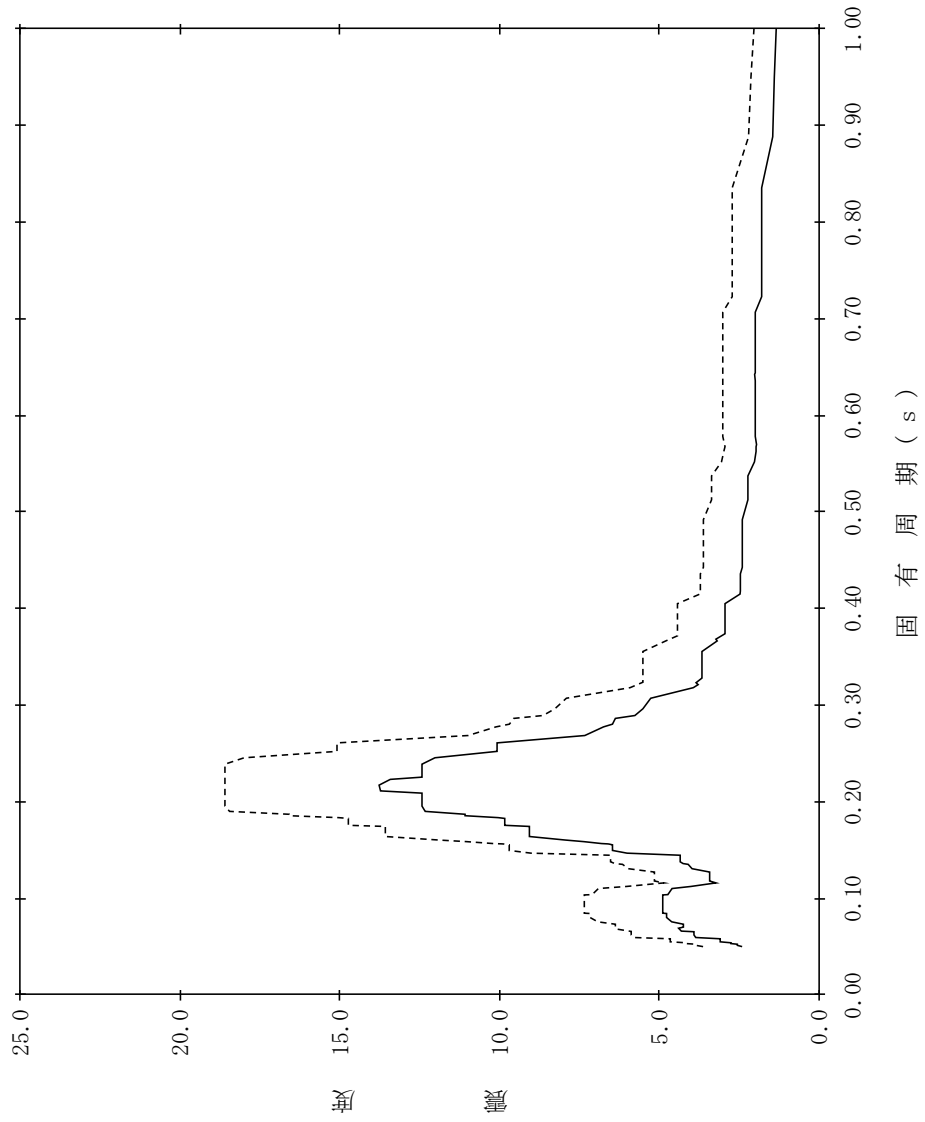
【NS2-RB-SsEW-RB25】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

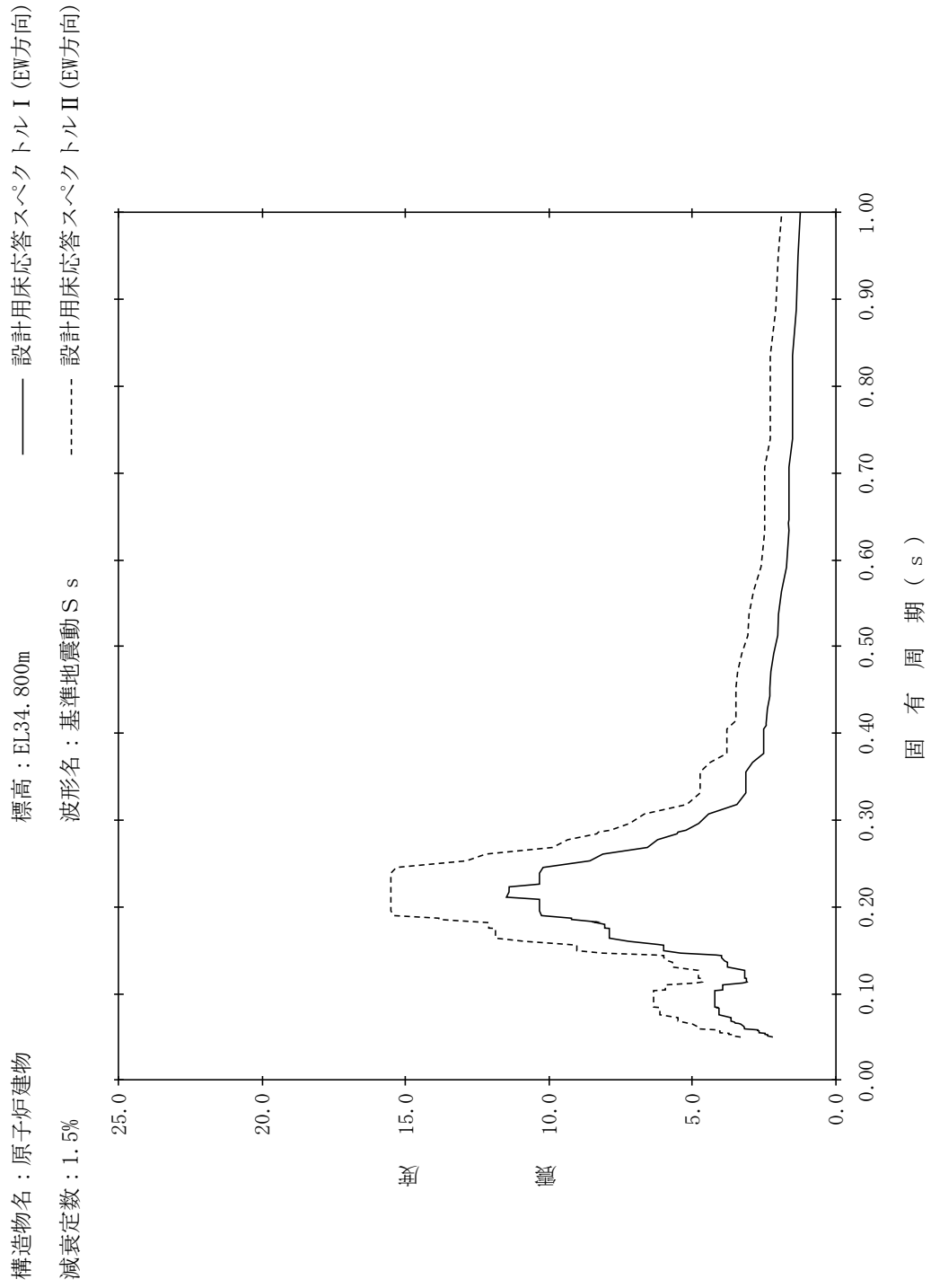


【NS2-RB-SsEW-RB26】

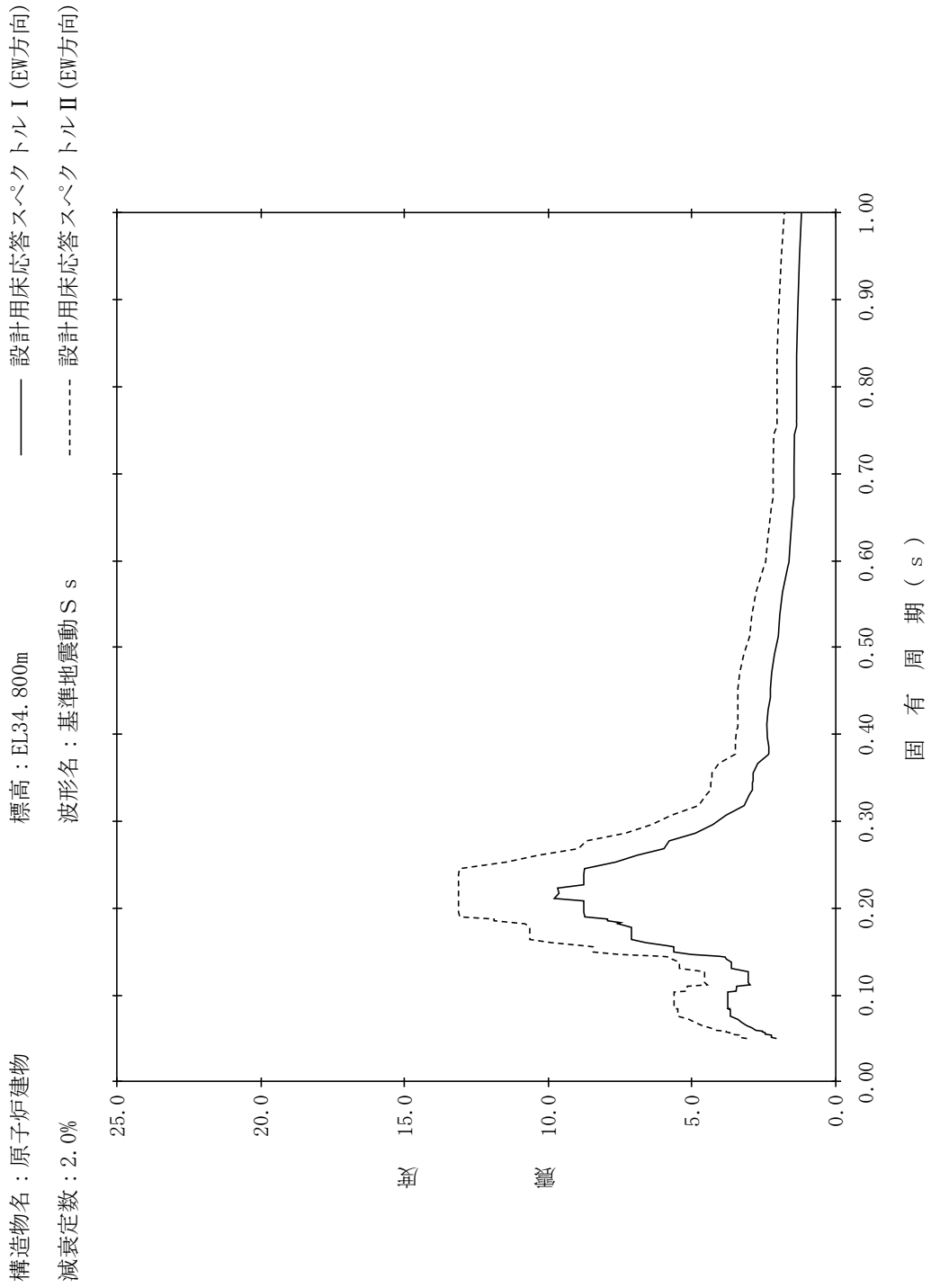
構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



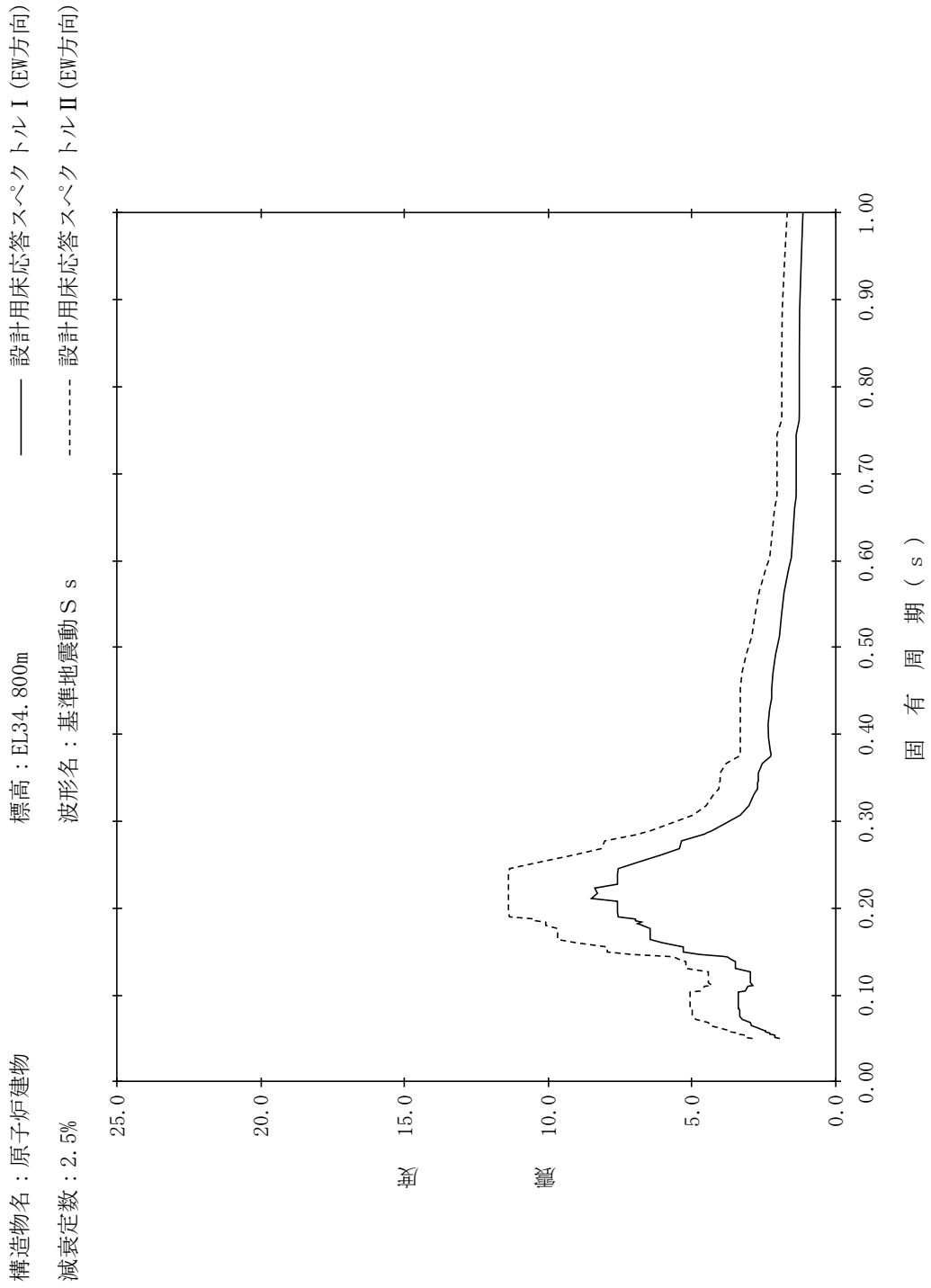
【NS2-RB-SsEW-RB27】



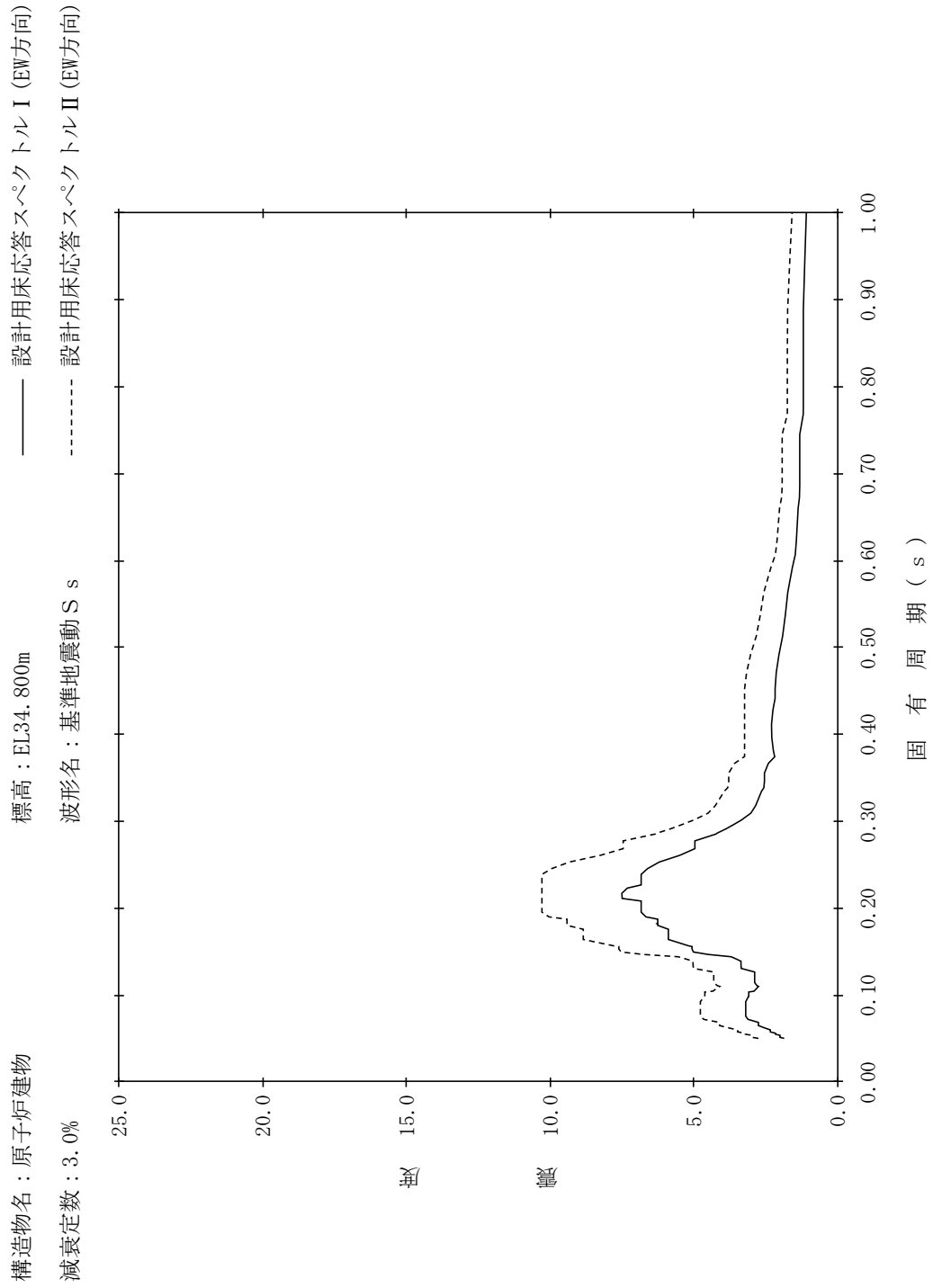
【NS2-RB-SsEW-RB28】



【NS2-RB-SsEW-RB29】

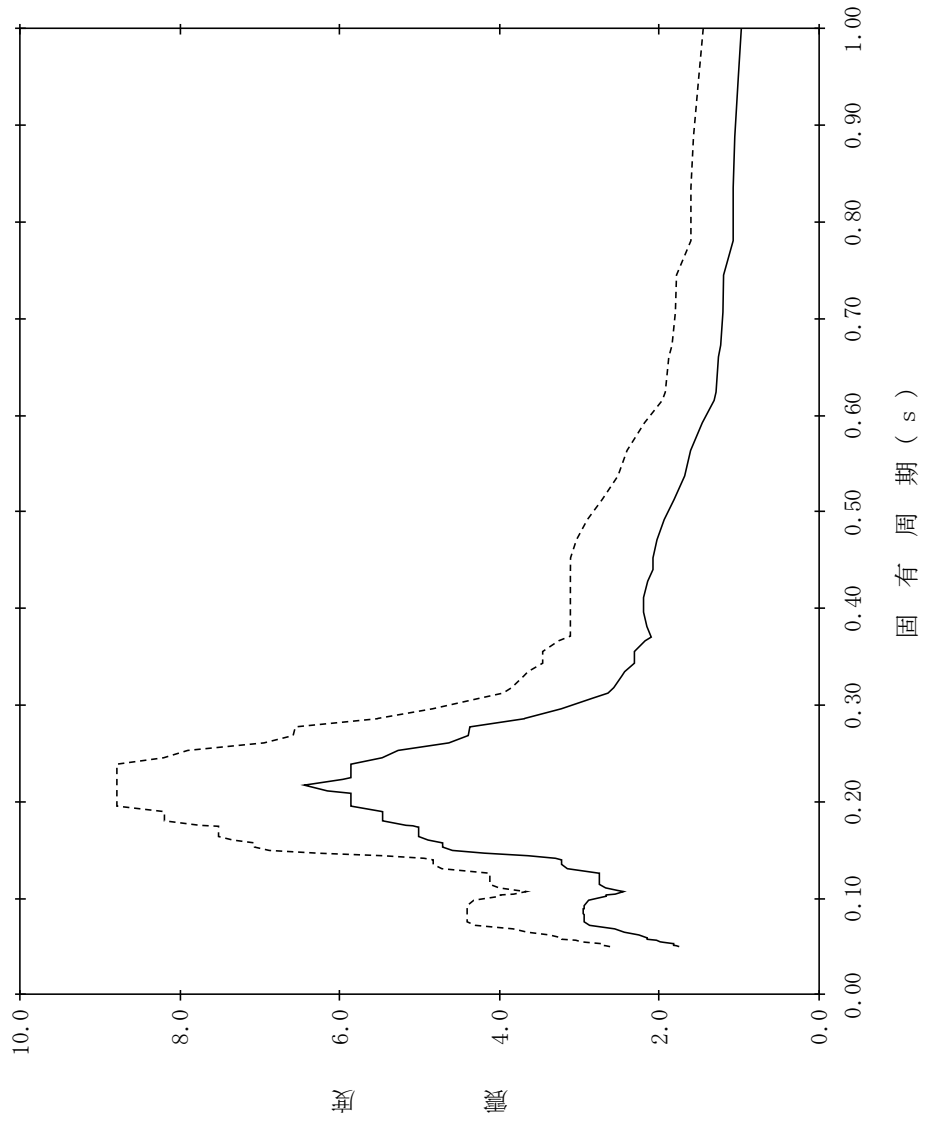


【NS2-RB-SsEW-RB30】



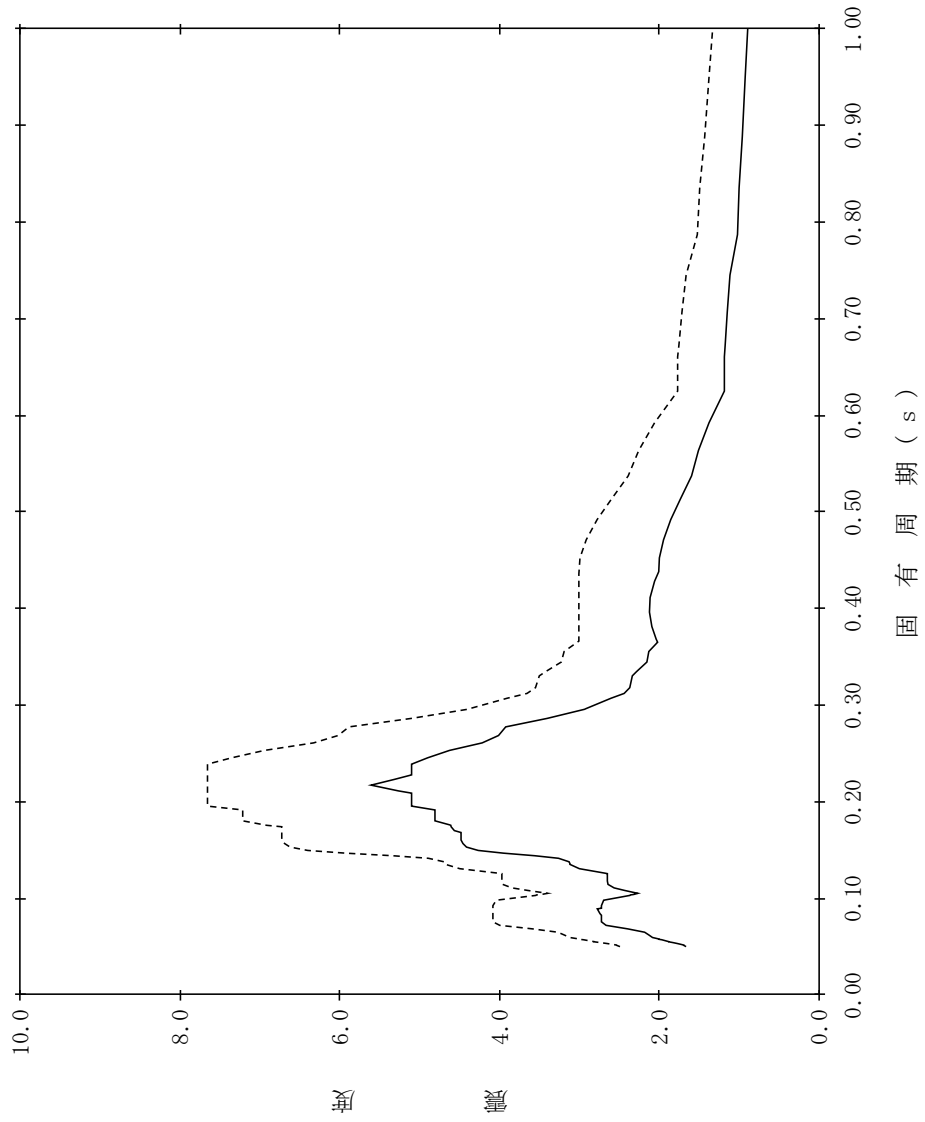
【NS2-RB-SsEW-RB31】

構造物名：原子炉建物
標高：EL34.800m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

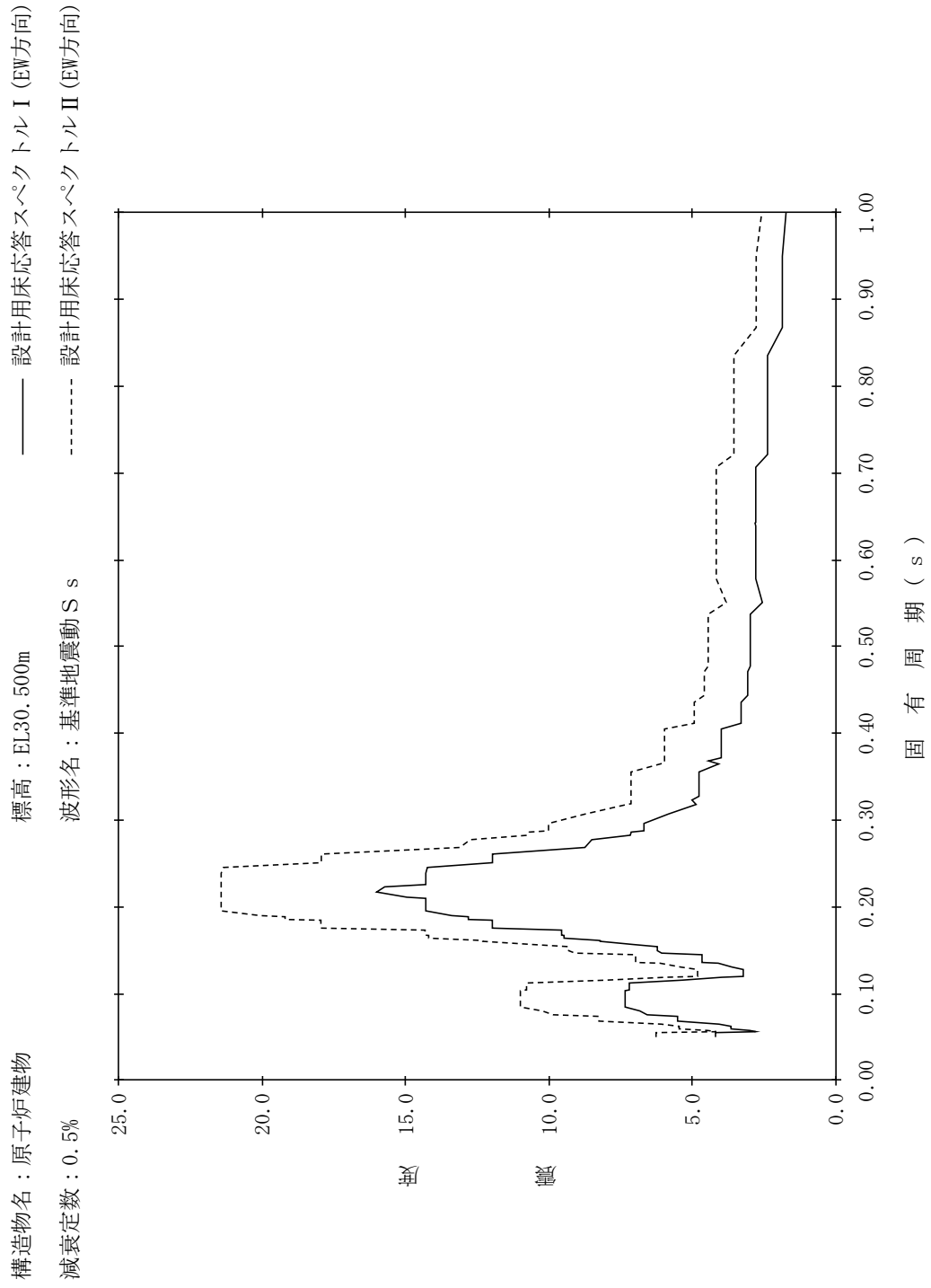


【NS2-RB-SsEW-RB32】

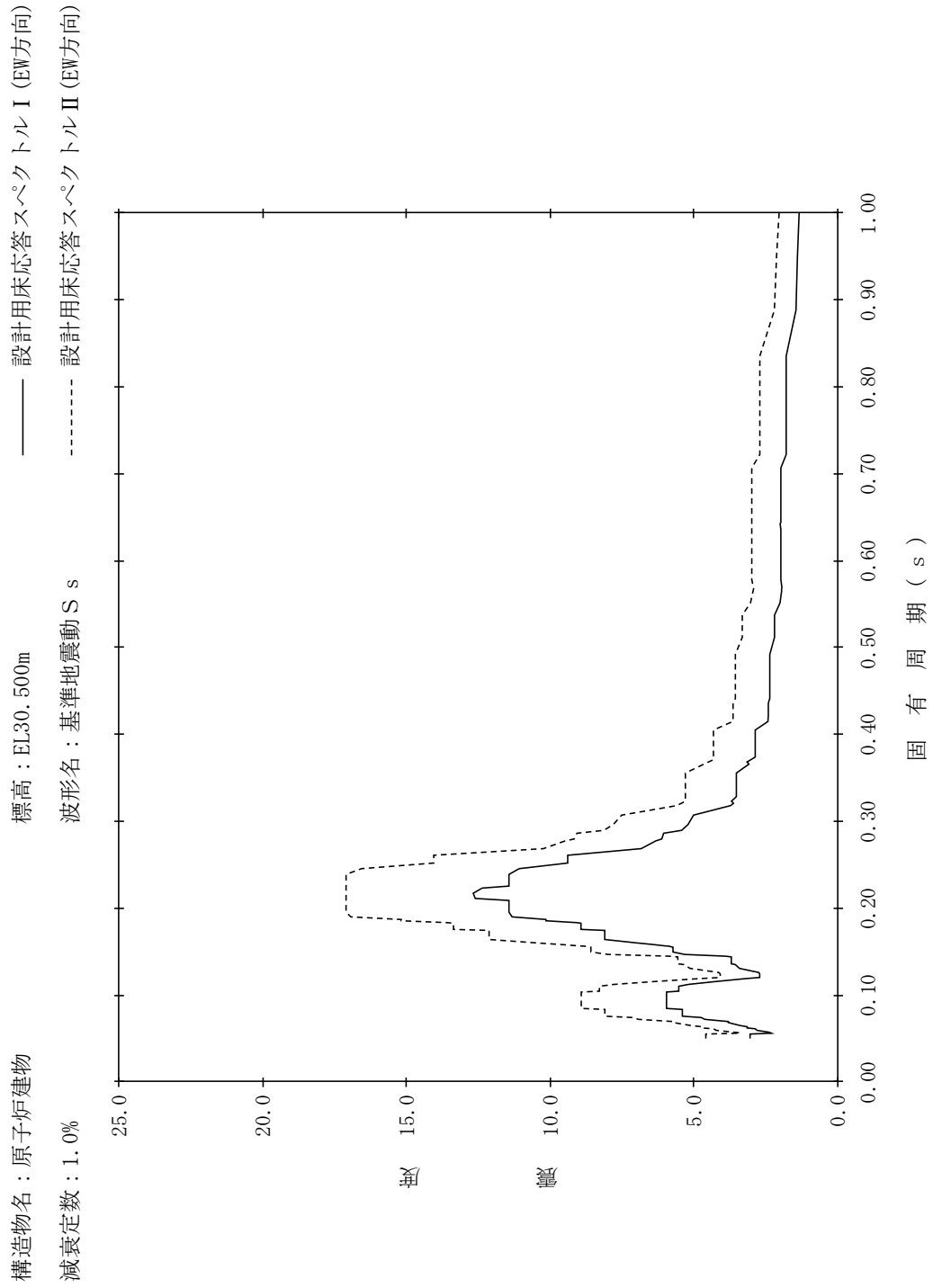
構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-RB-SsEW-RB33】

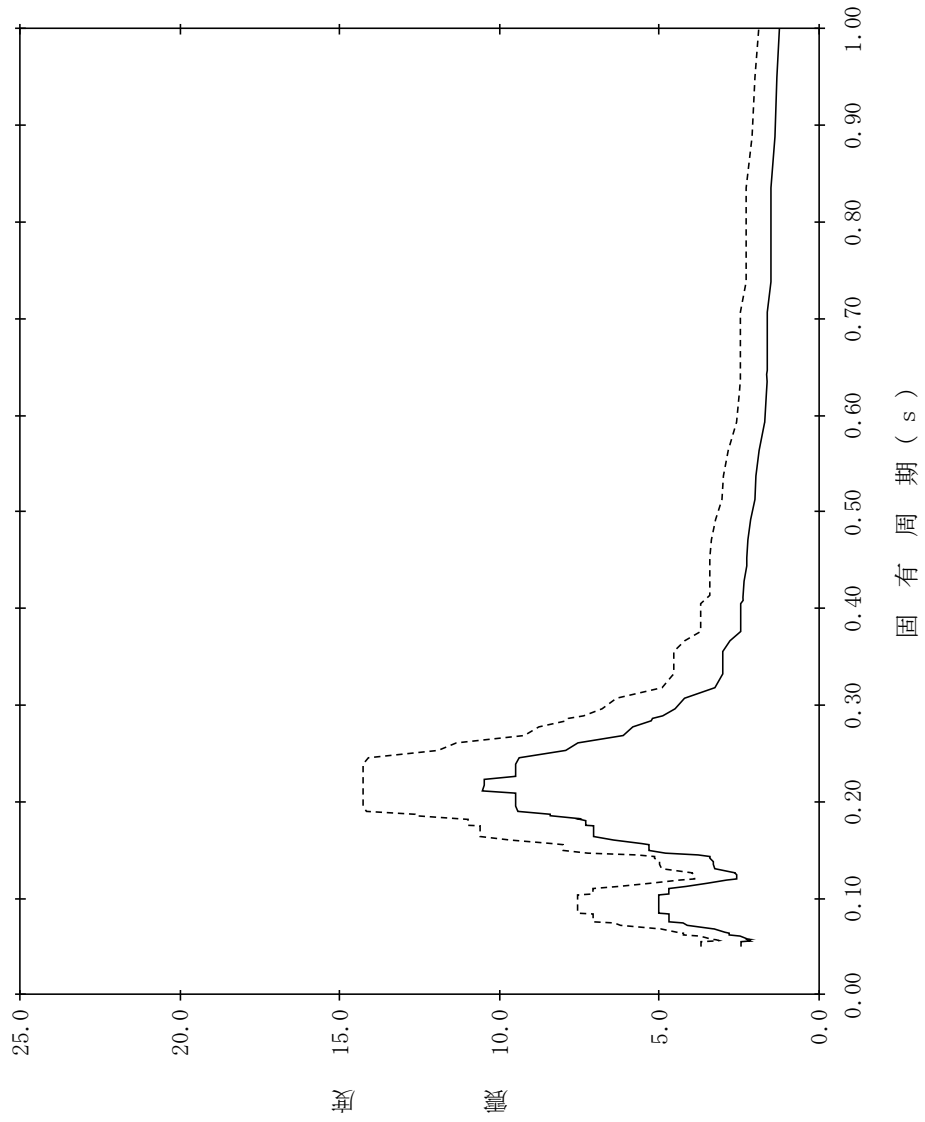


【NS2-RB-SsEW-RB34】

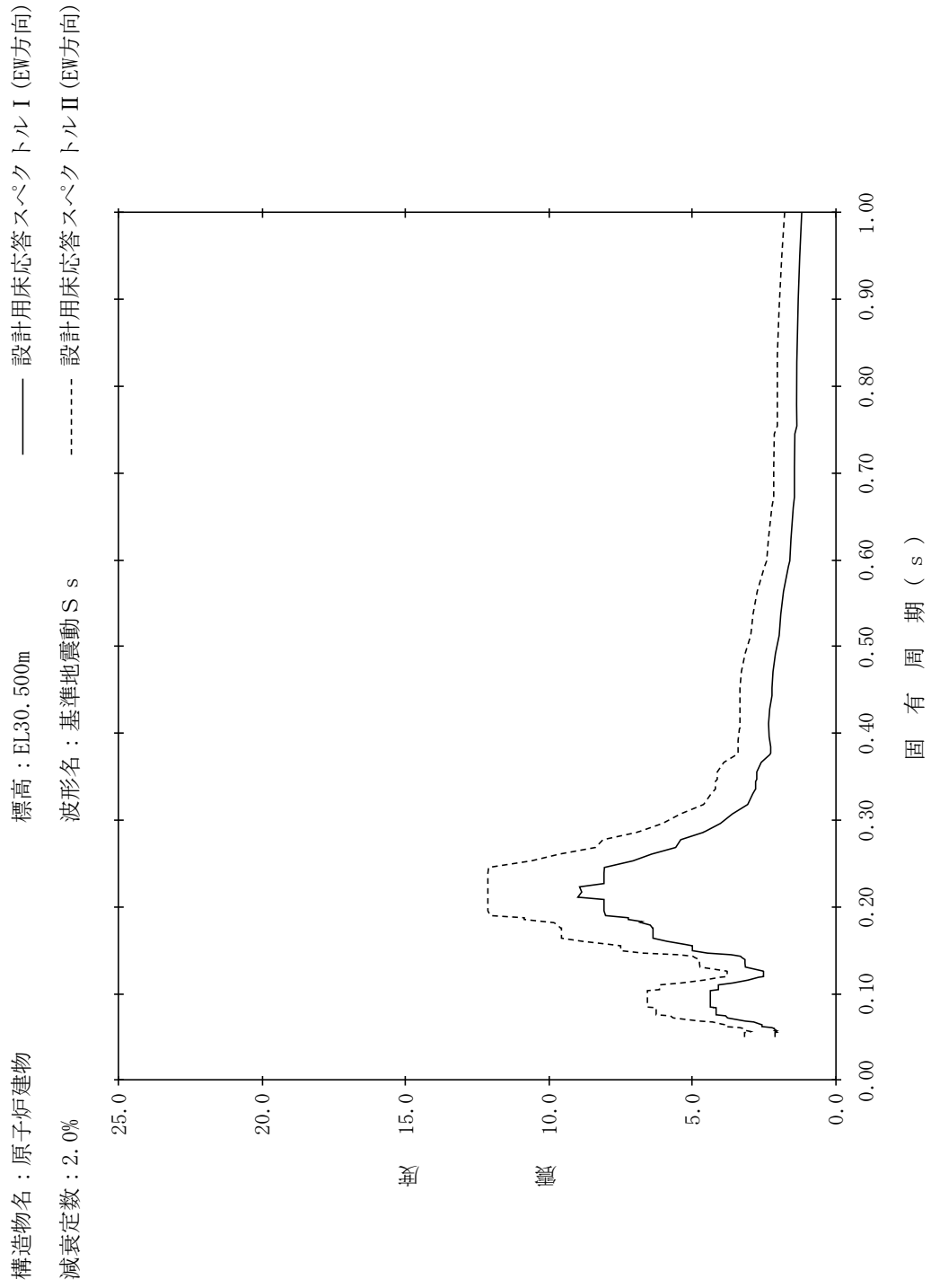


【NS2-RB-SsEW-RB35】

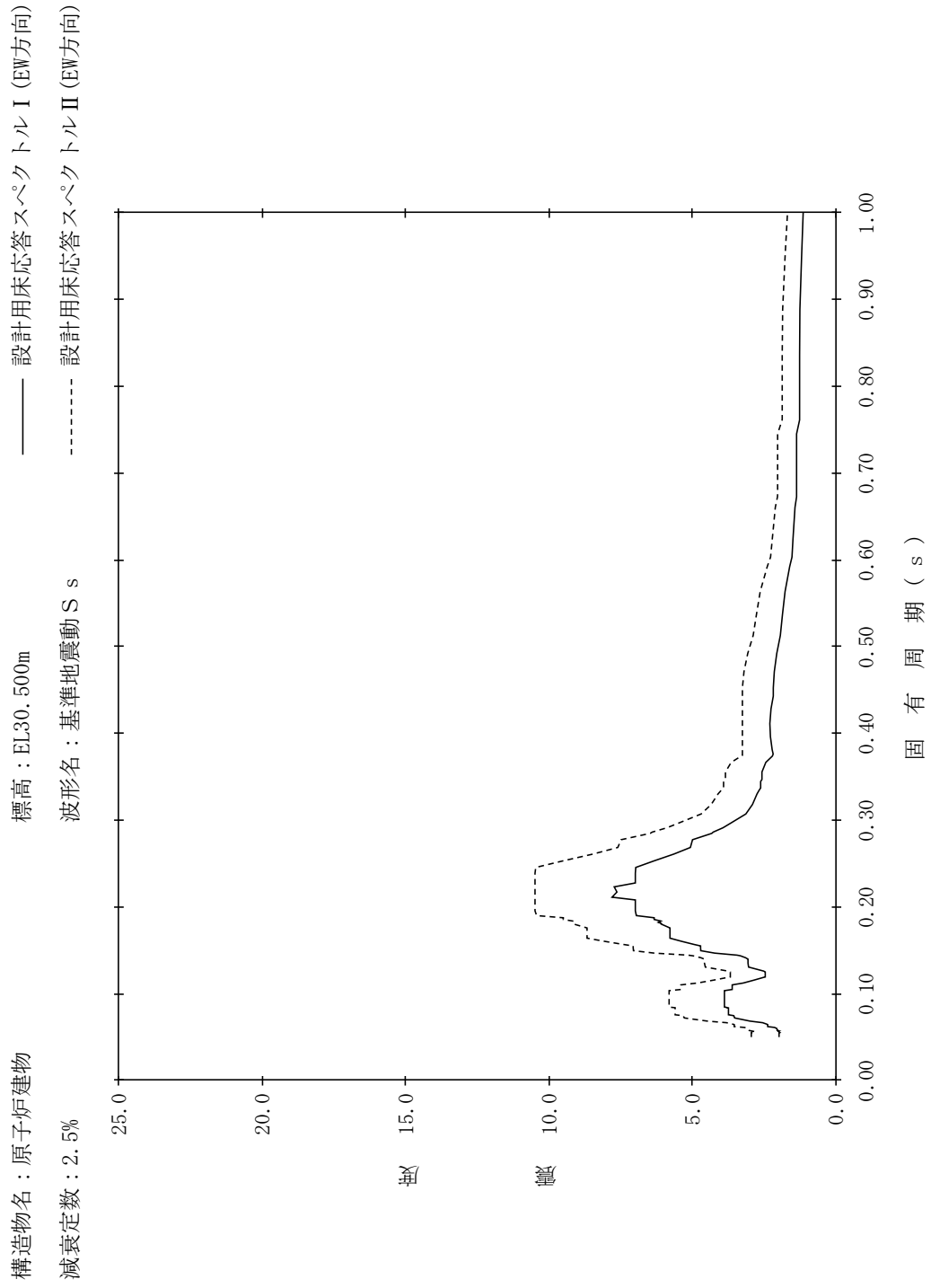
構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-RB-SsEW-RB36】

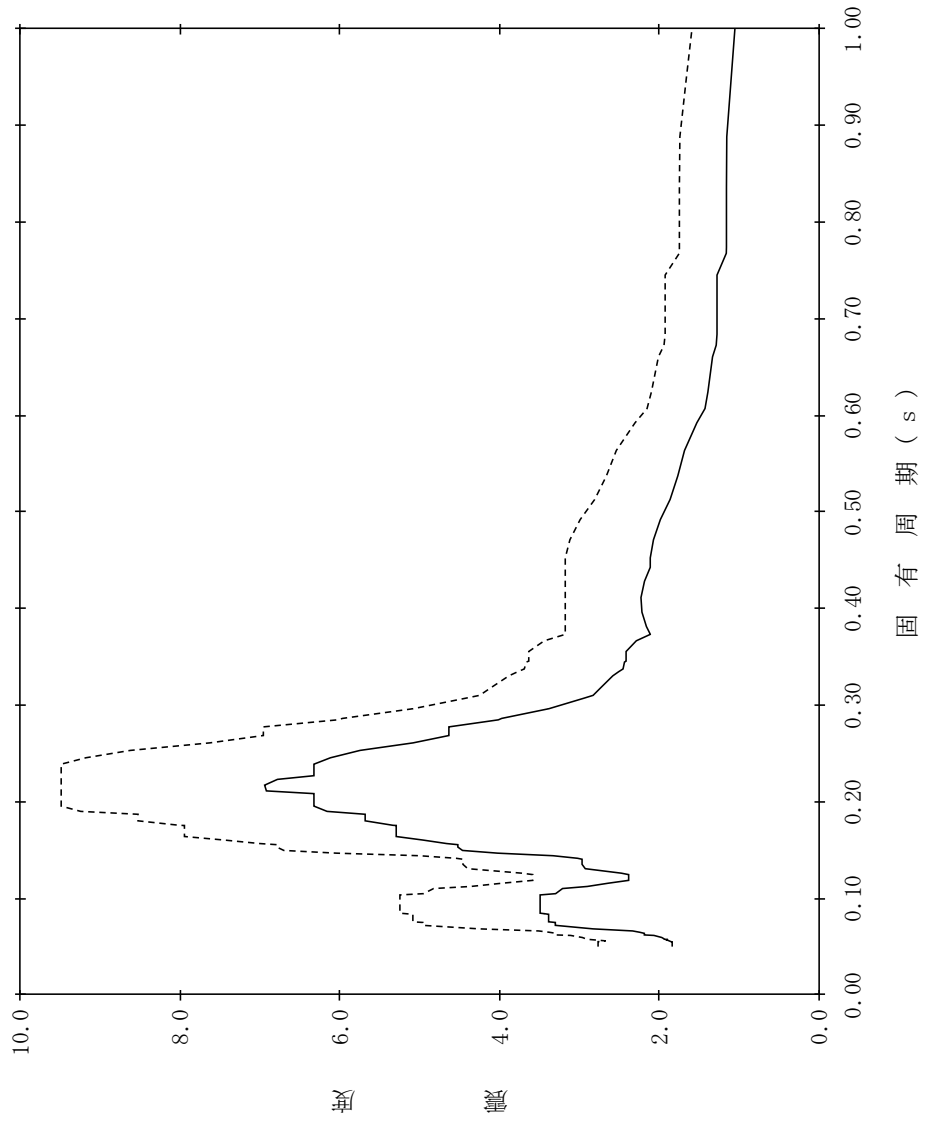


【NS2-RB-SsEW-RB37】



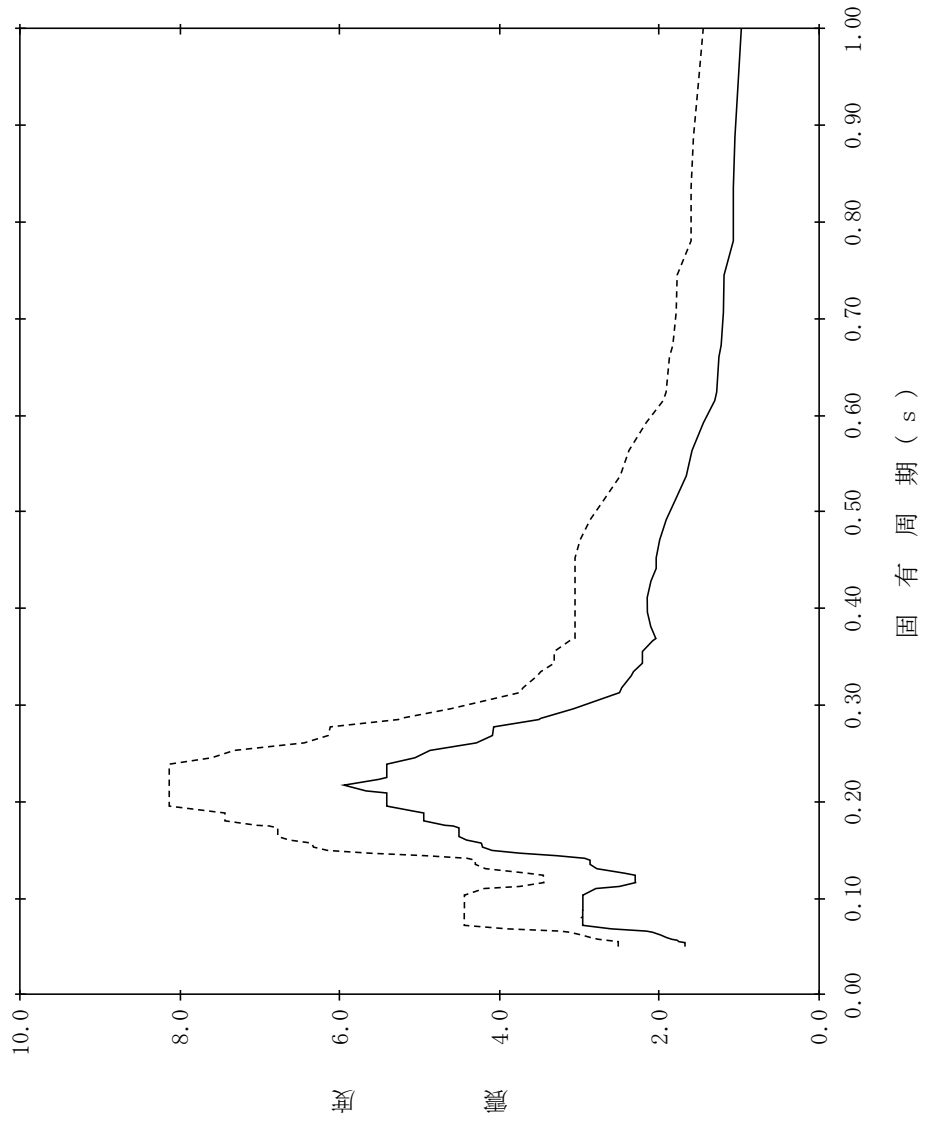
【NS2-RB-SsEW-RB38】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



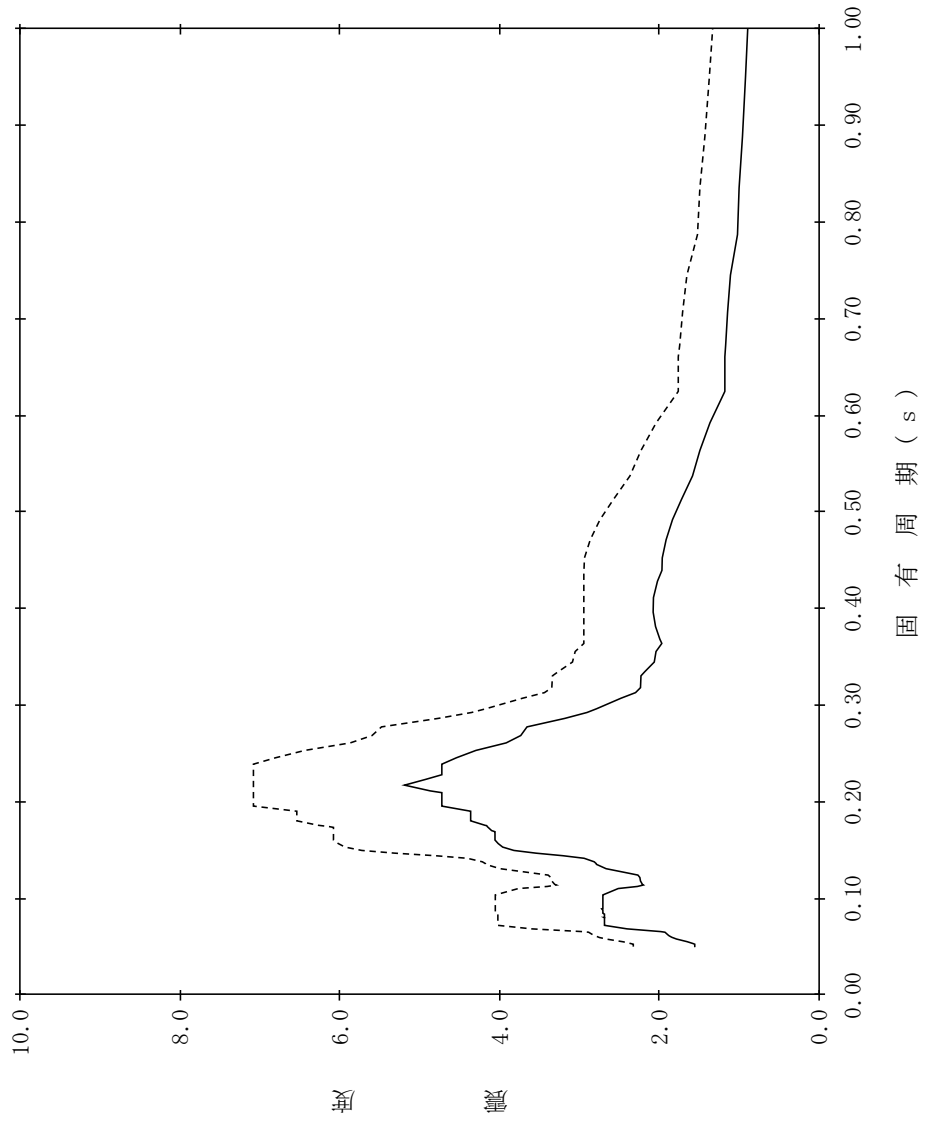
【NS2-RB-SsEW-RB39】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



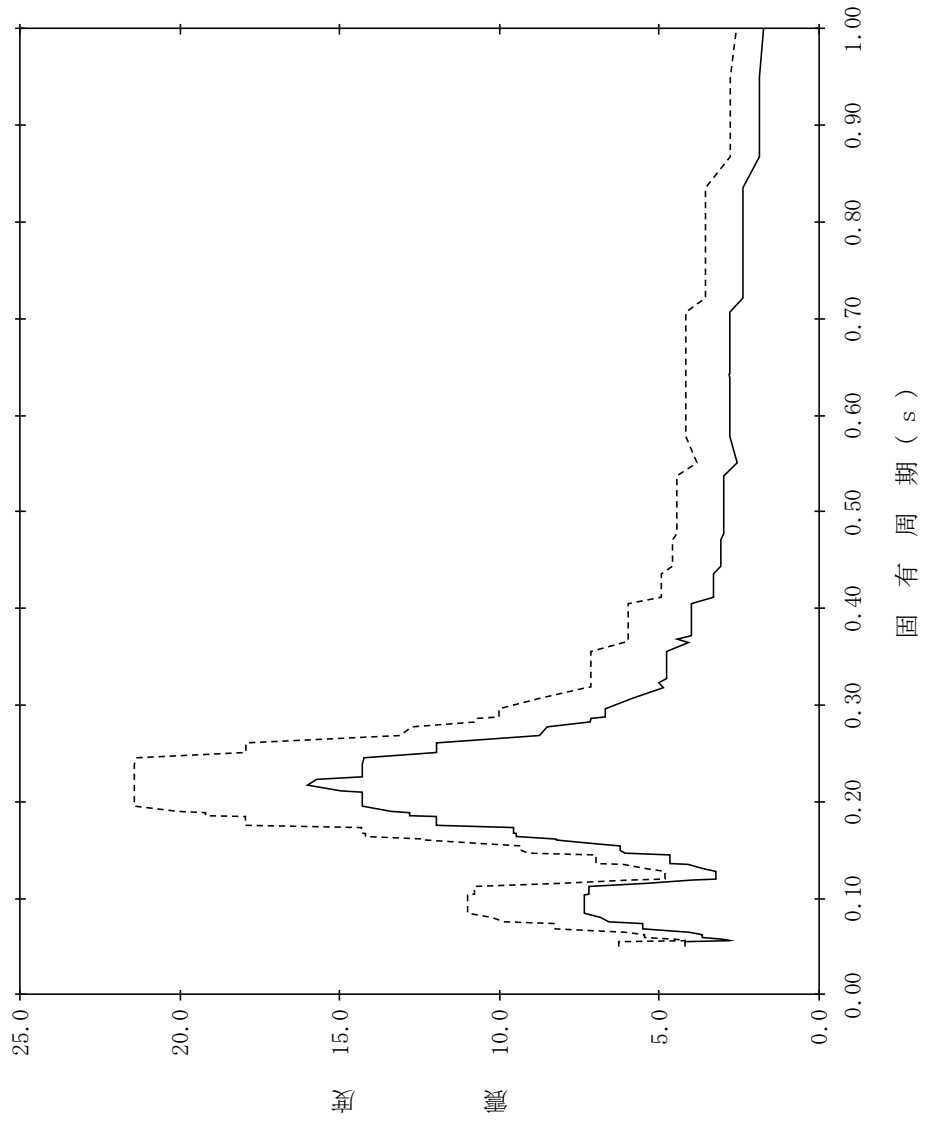
【NS2-RB-SsEW-RB40】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

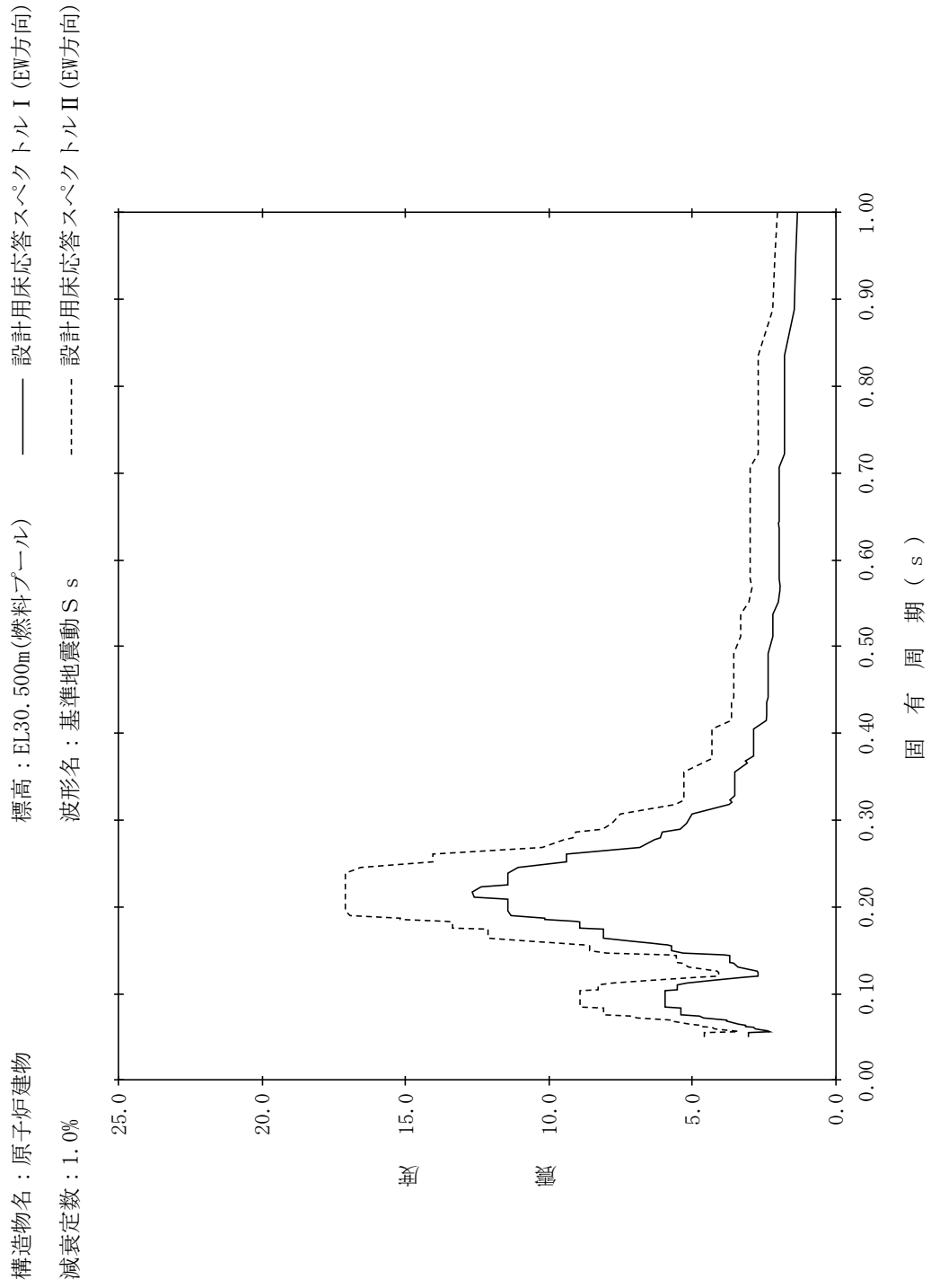


【NS2-RB-SsEW-RB41】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 減衰定数：0.5%
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

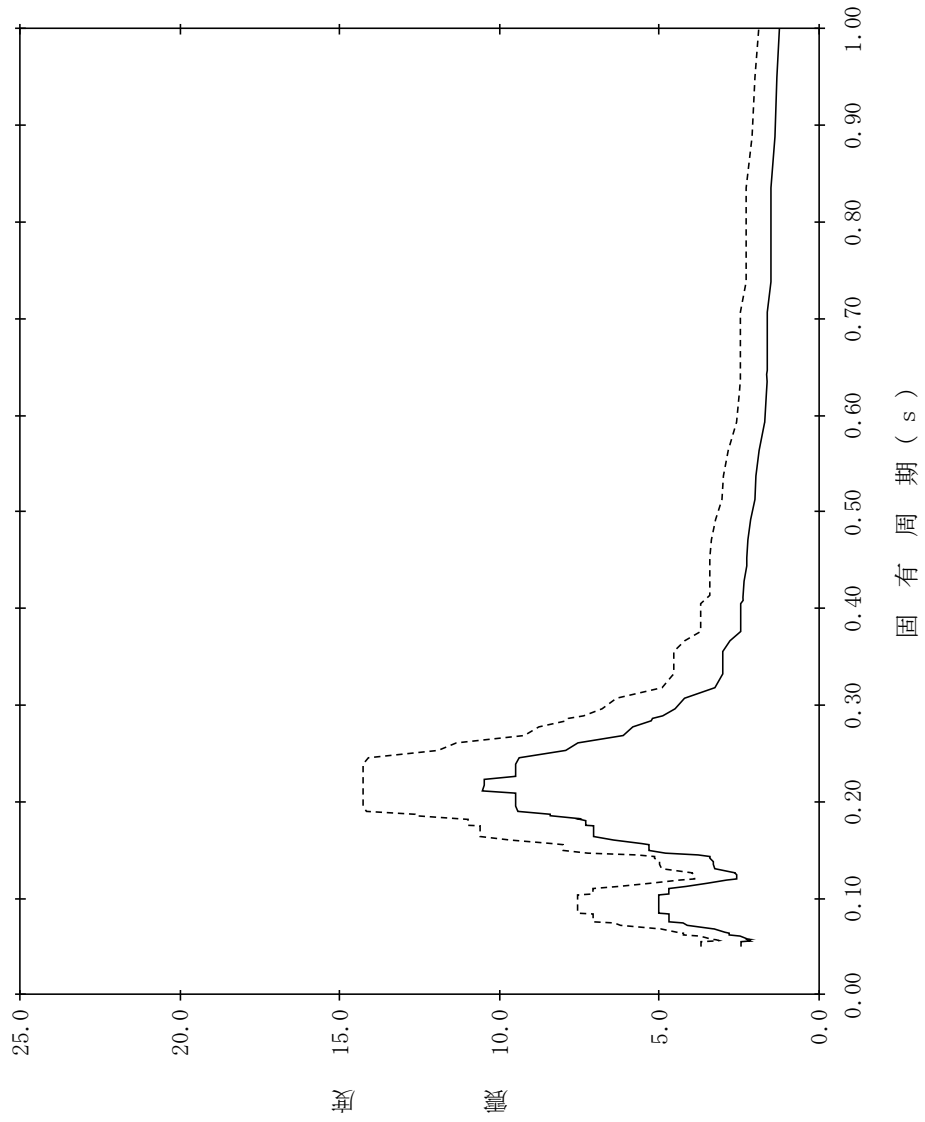


【NS2-RB-SsEW-RB42】



【NS2-RB-SsEW-RB43】

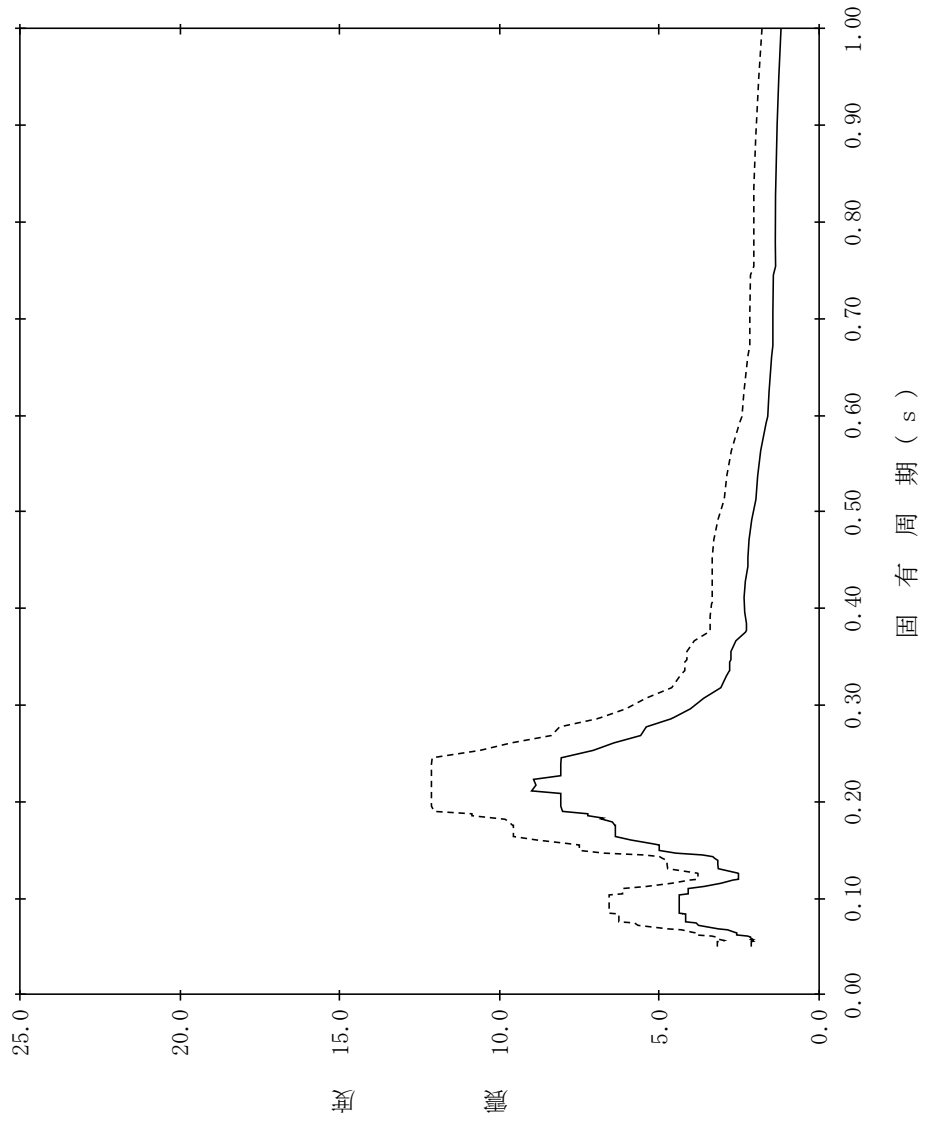
構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-RB-SsEW-RB44】

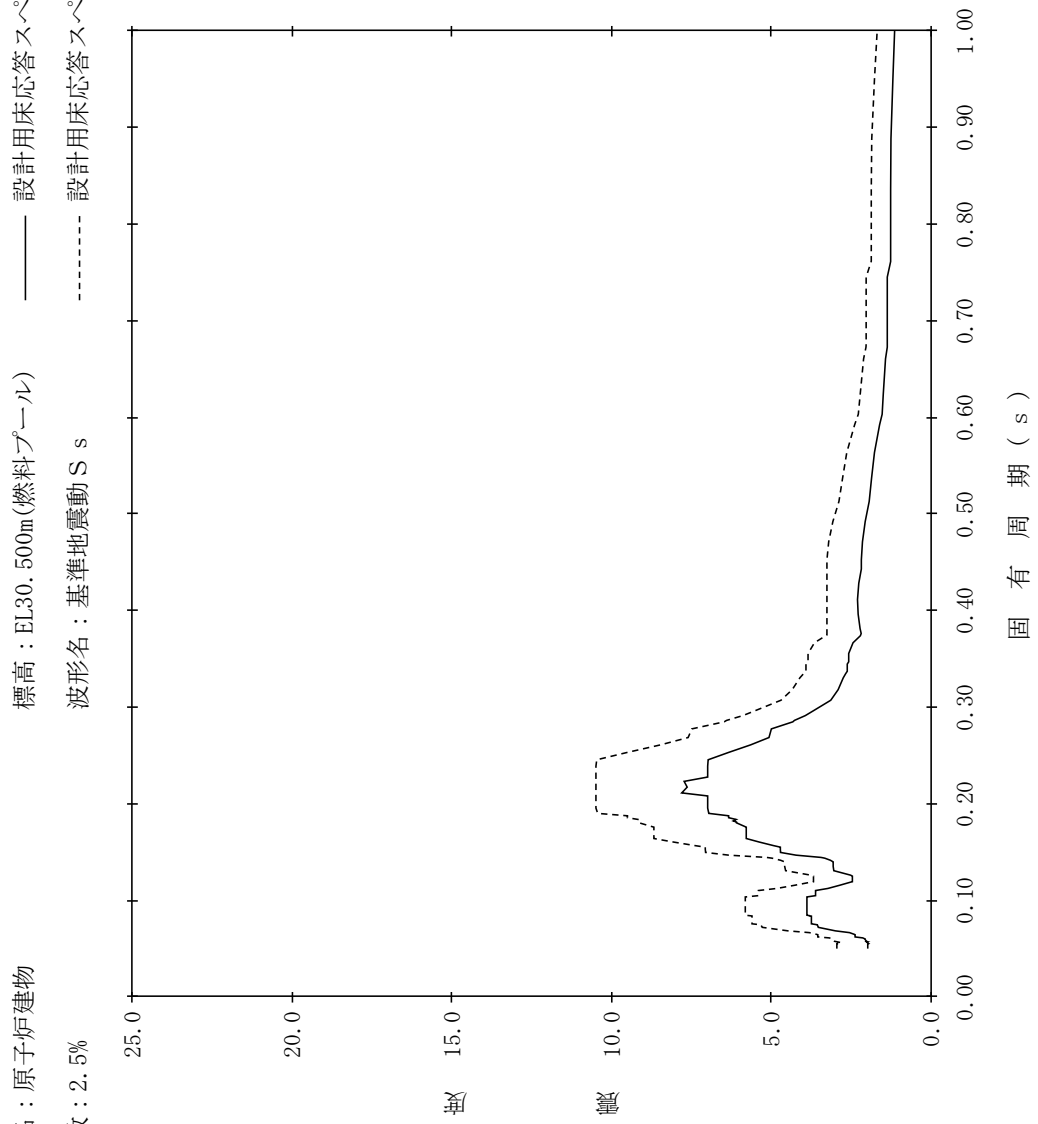
構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：2.0%

— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 - - - 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



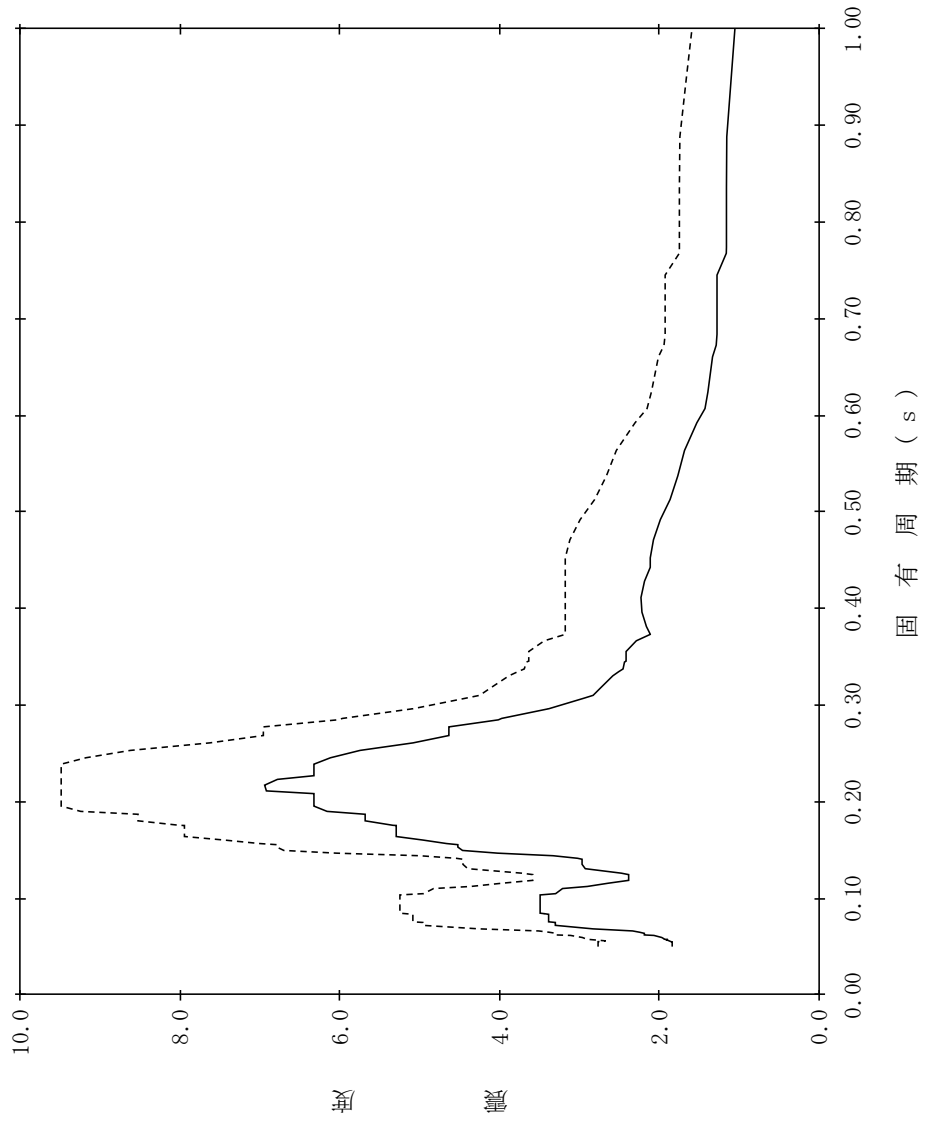
【NS2-RB-SsEW-RB45】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s



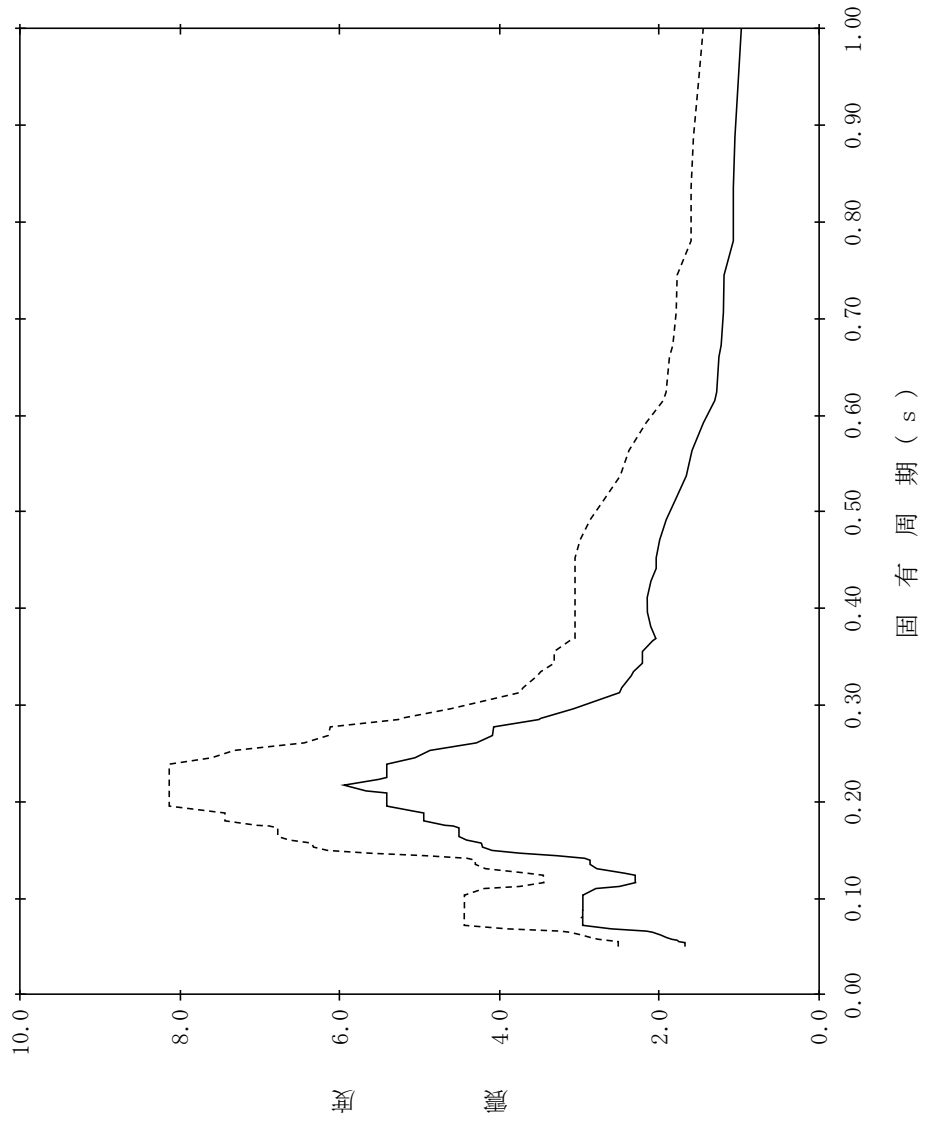
【NS2-RB-SsEW-RB46】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



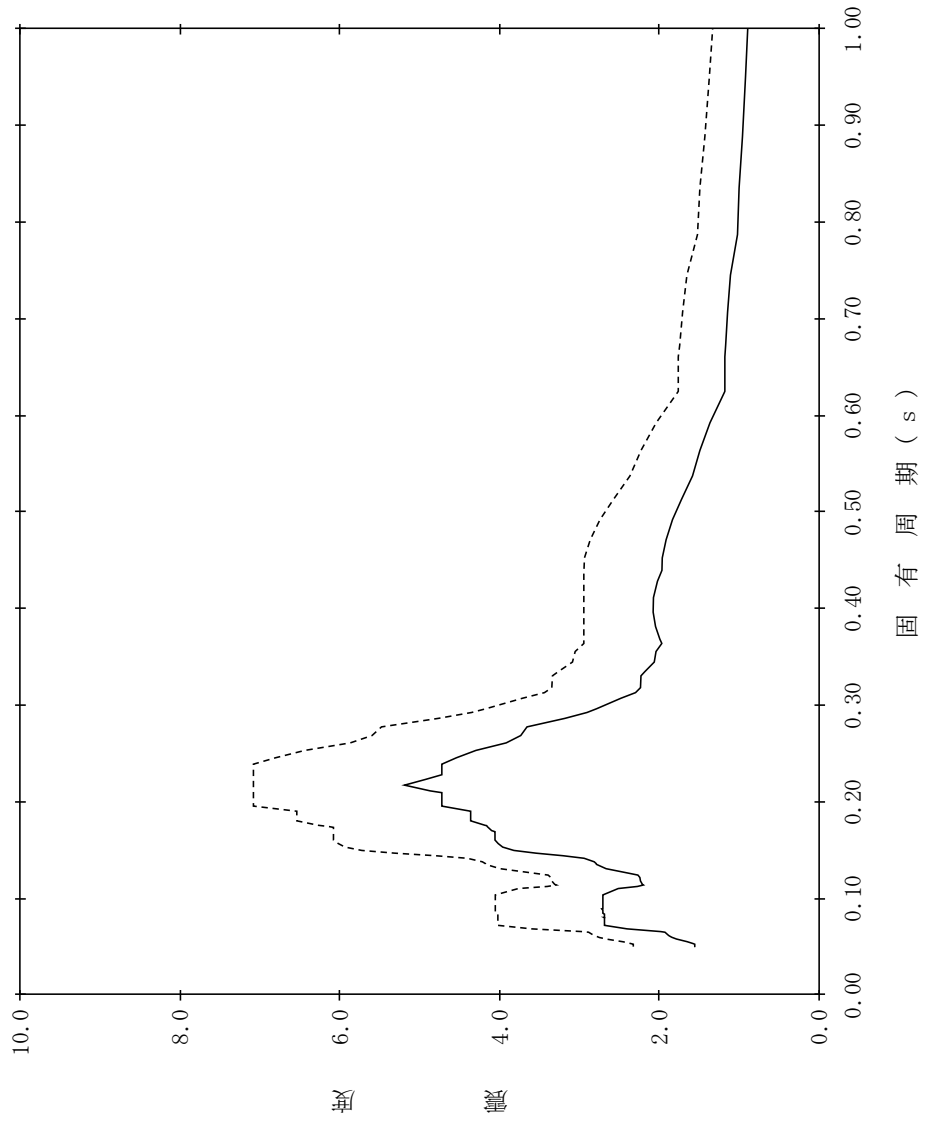
【NS2-RB-SsEW-RB47】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：4.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



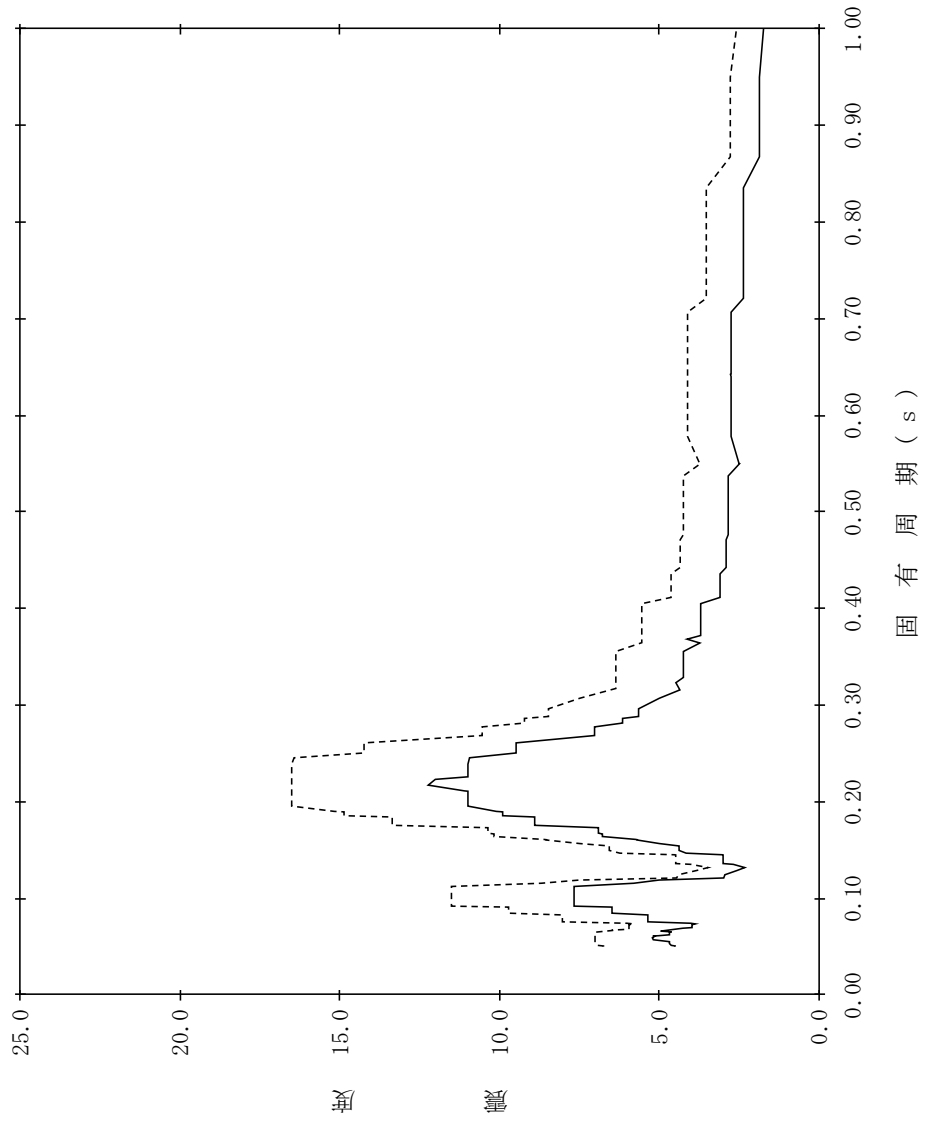
【NS2-RB-SsEW-RB48】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

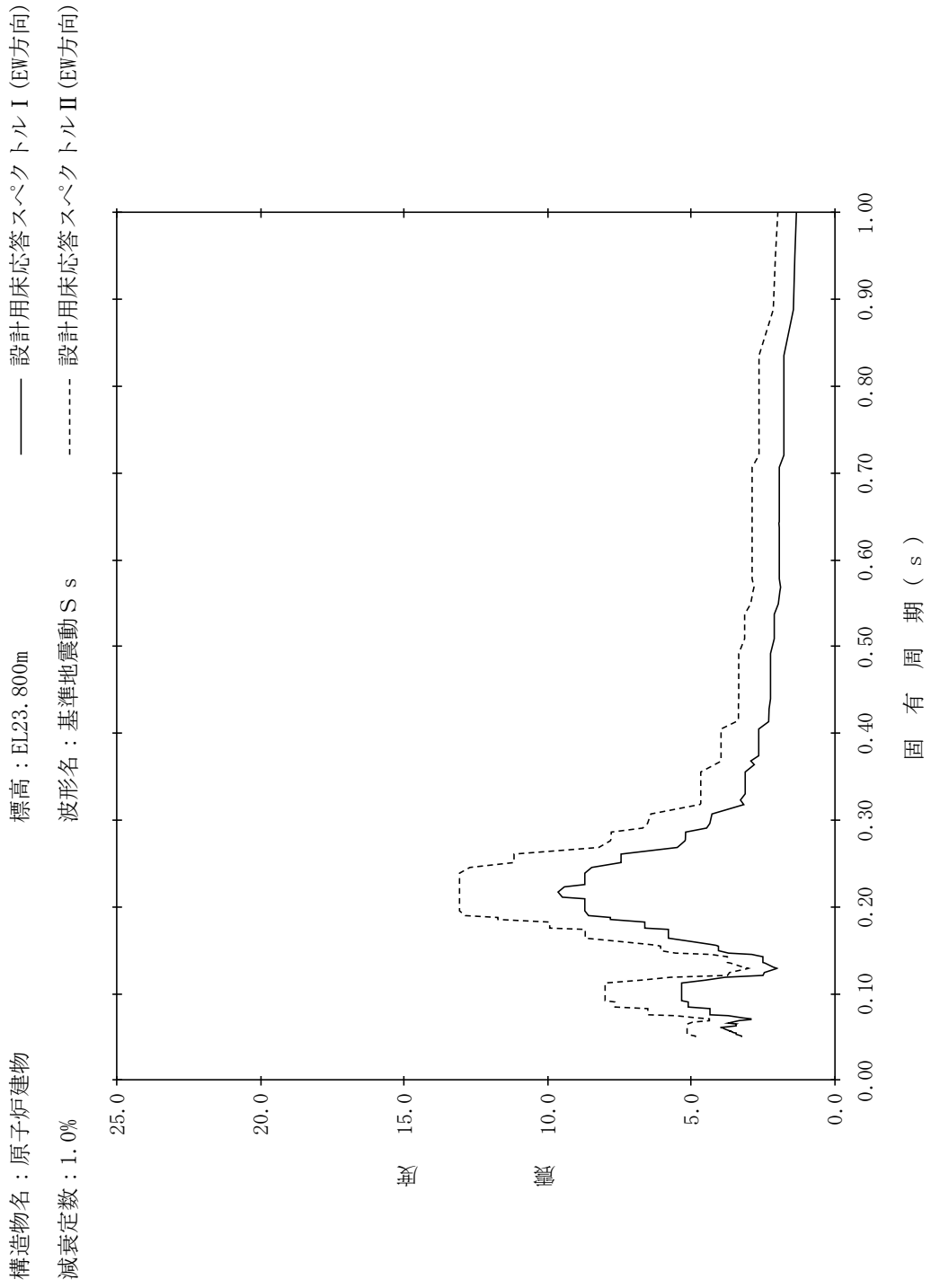


【NS2-RB-SsEW-RB49】

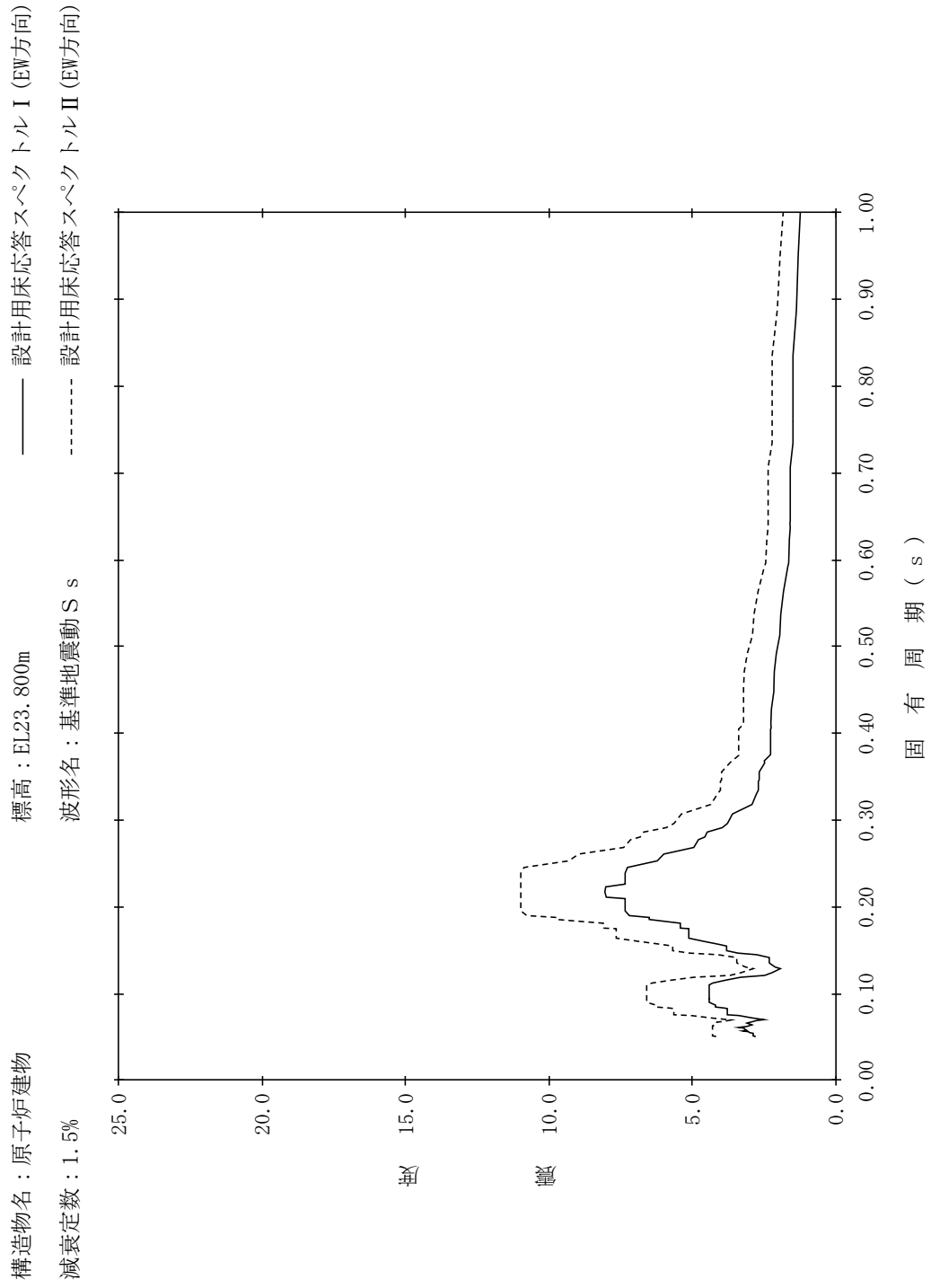
構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-RB-SsEW-RB50】

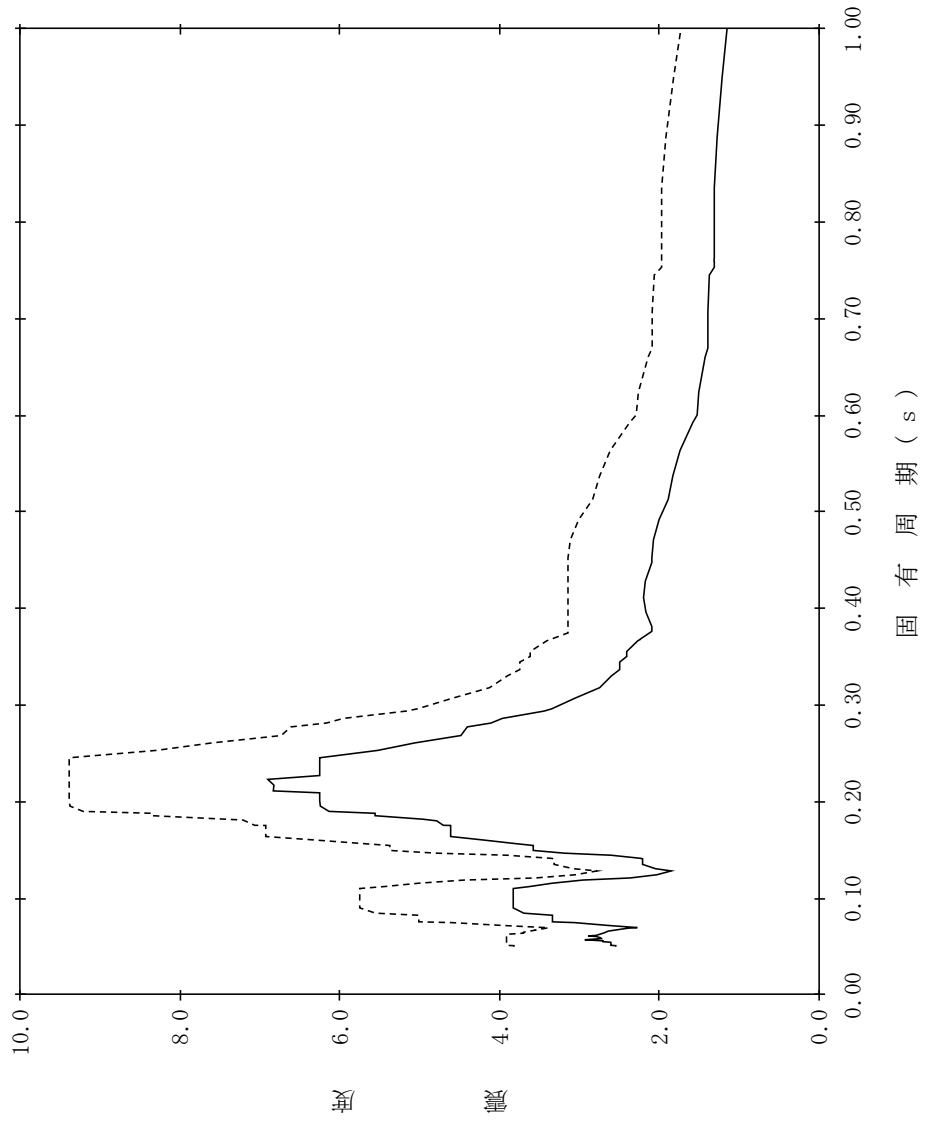


【NS2-RB-SsEW-RB51】



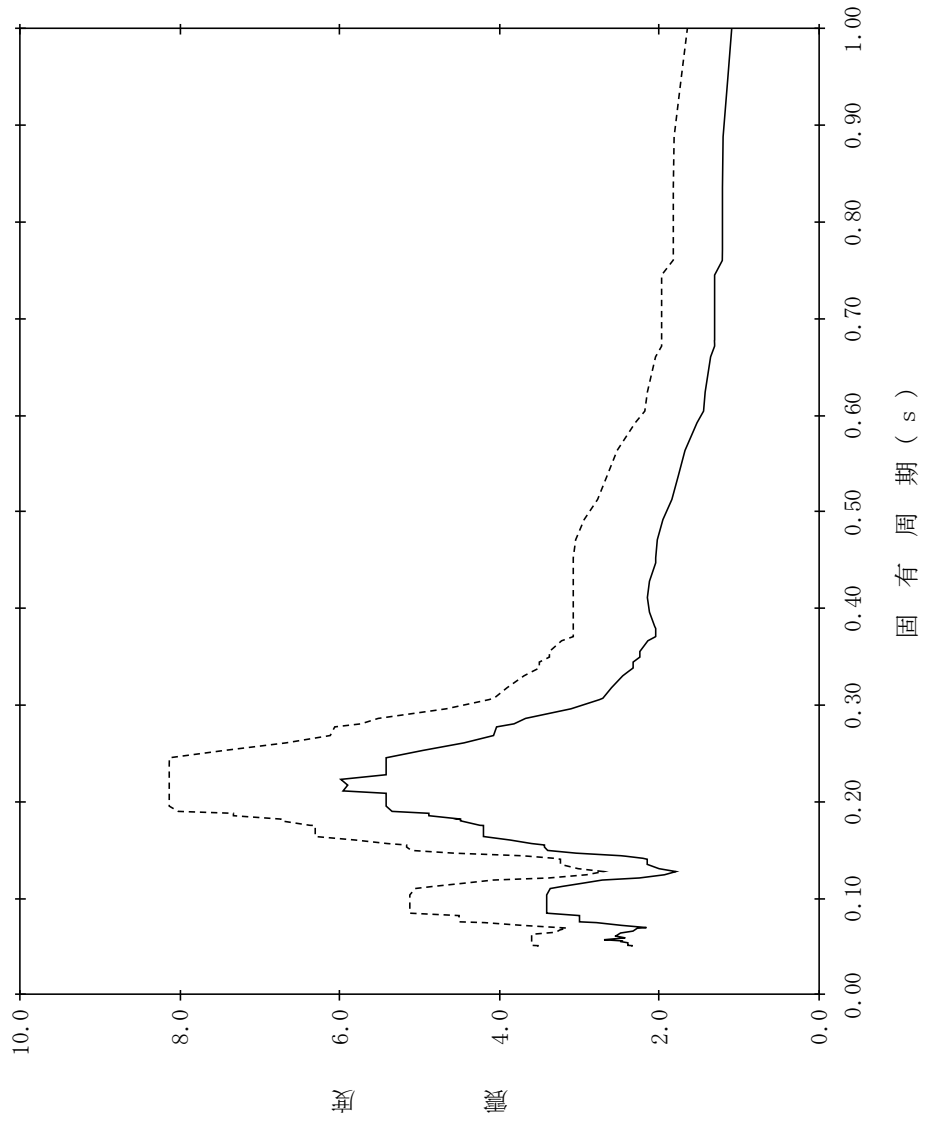
【NS2-RB-SsEW-RB52】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



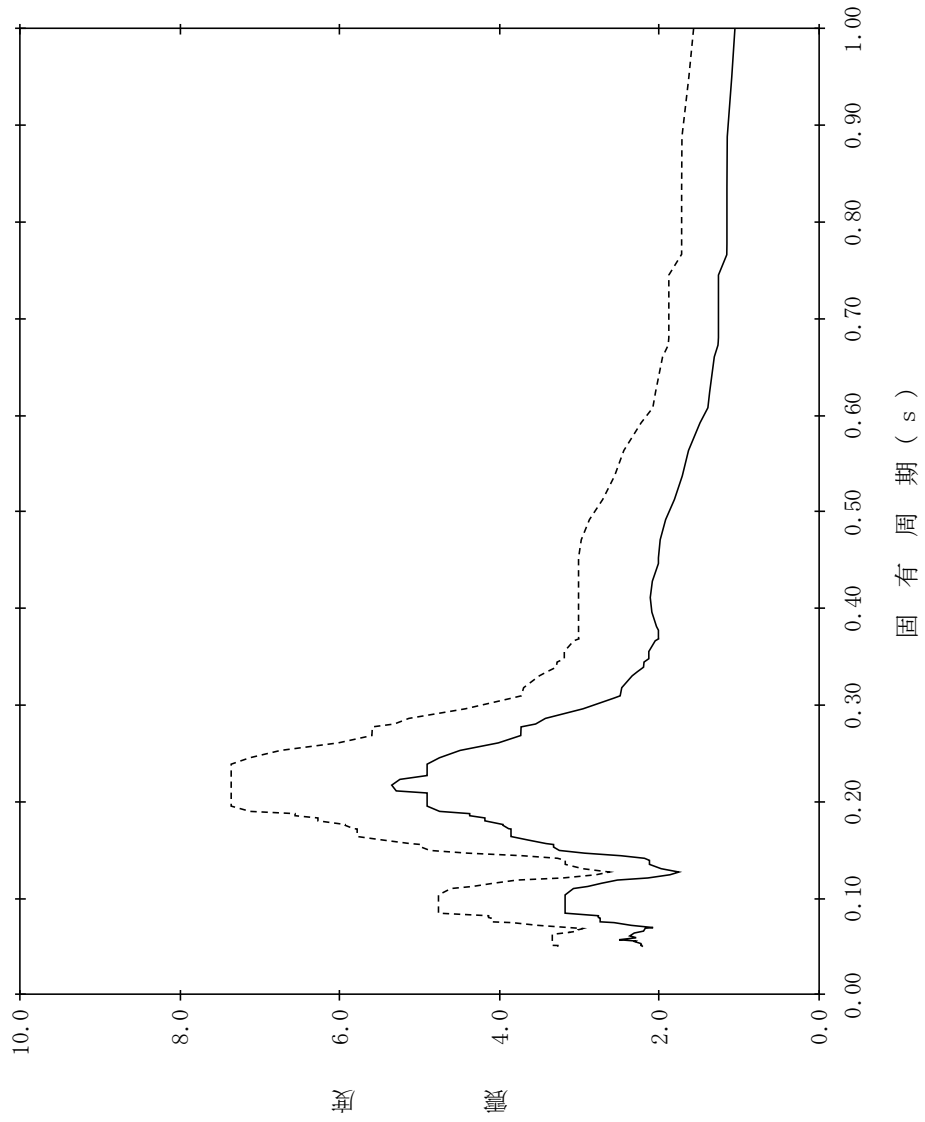
【NS2-RB-SsEW-RB53】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



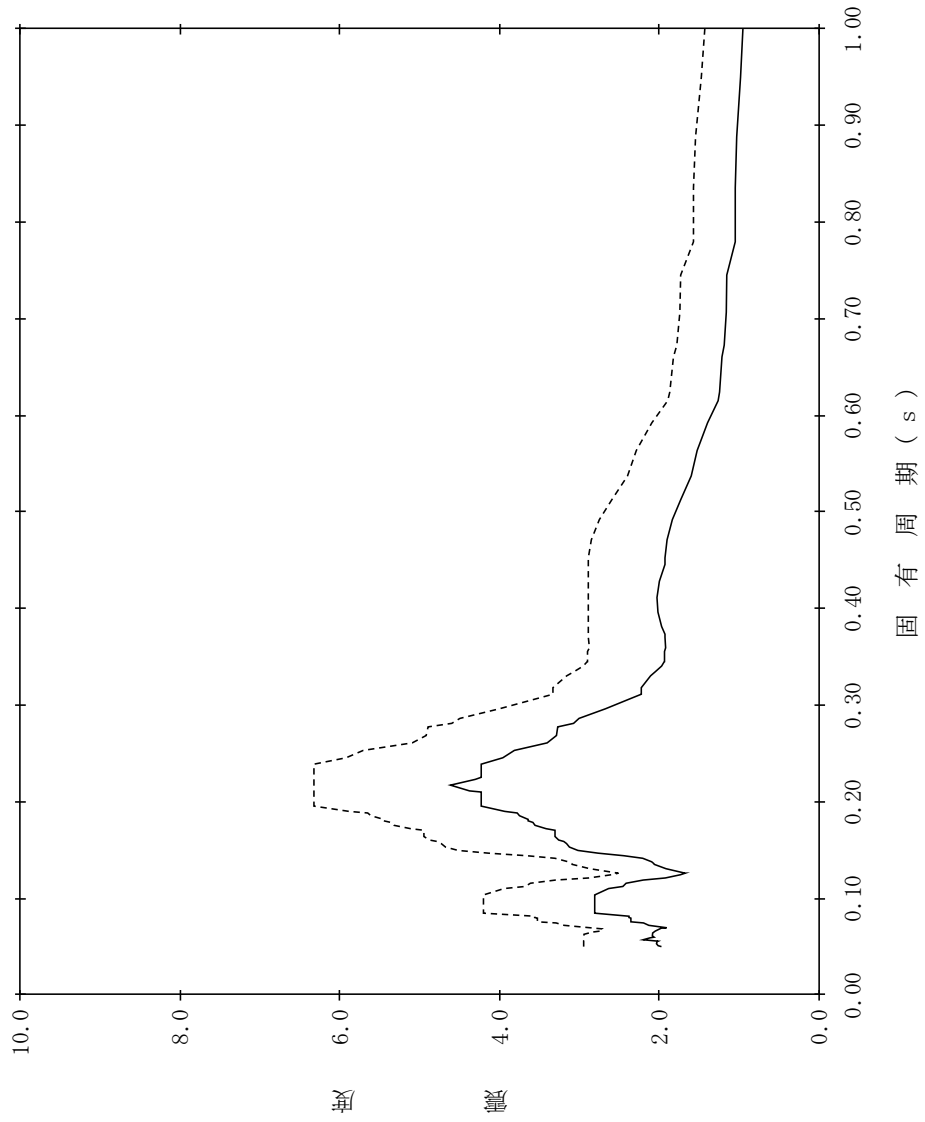
【NS2-RB-SsEW-RB54】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

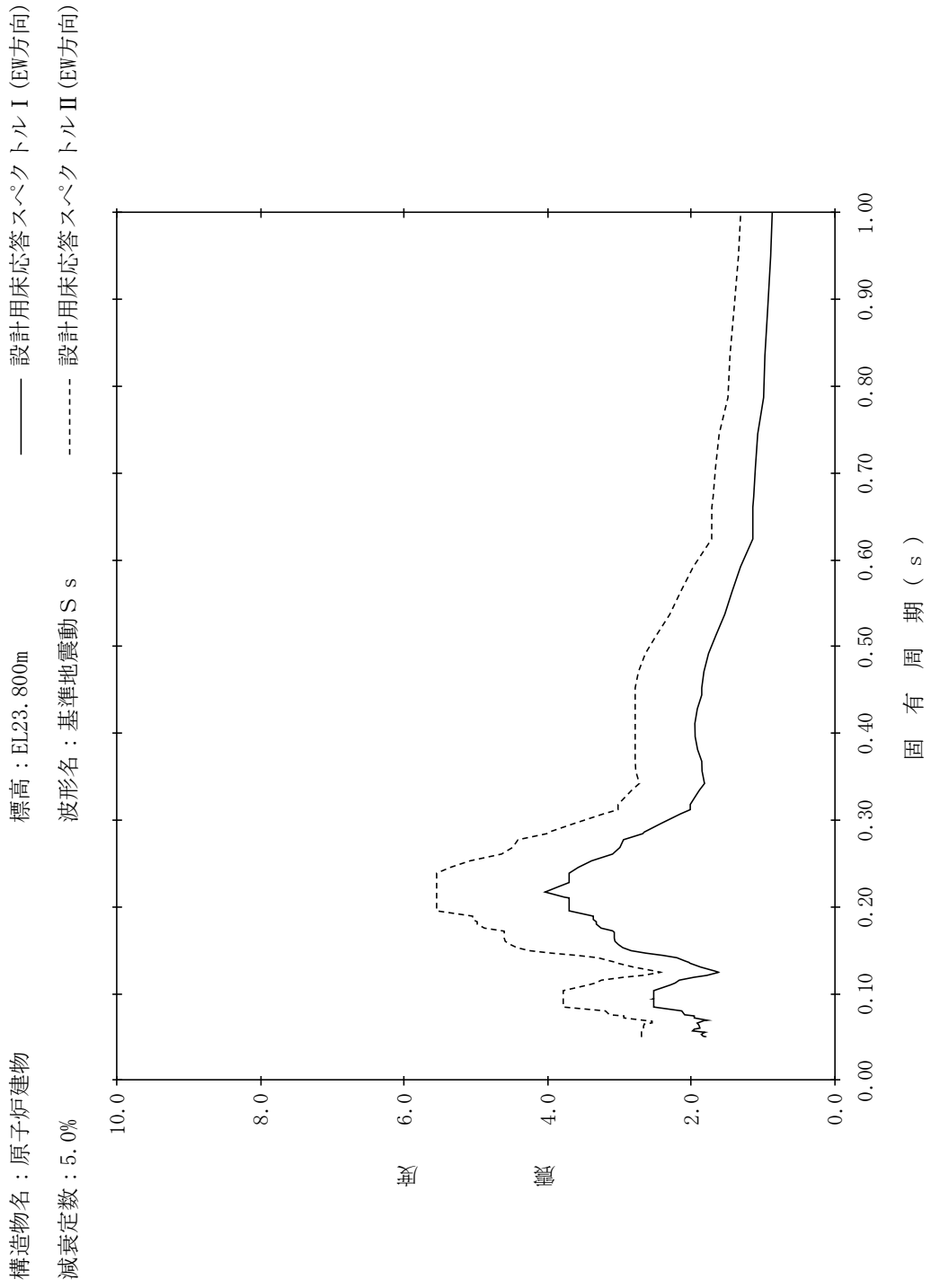


【NS2-RB-SsEW-RB55】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

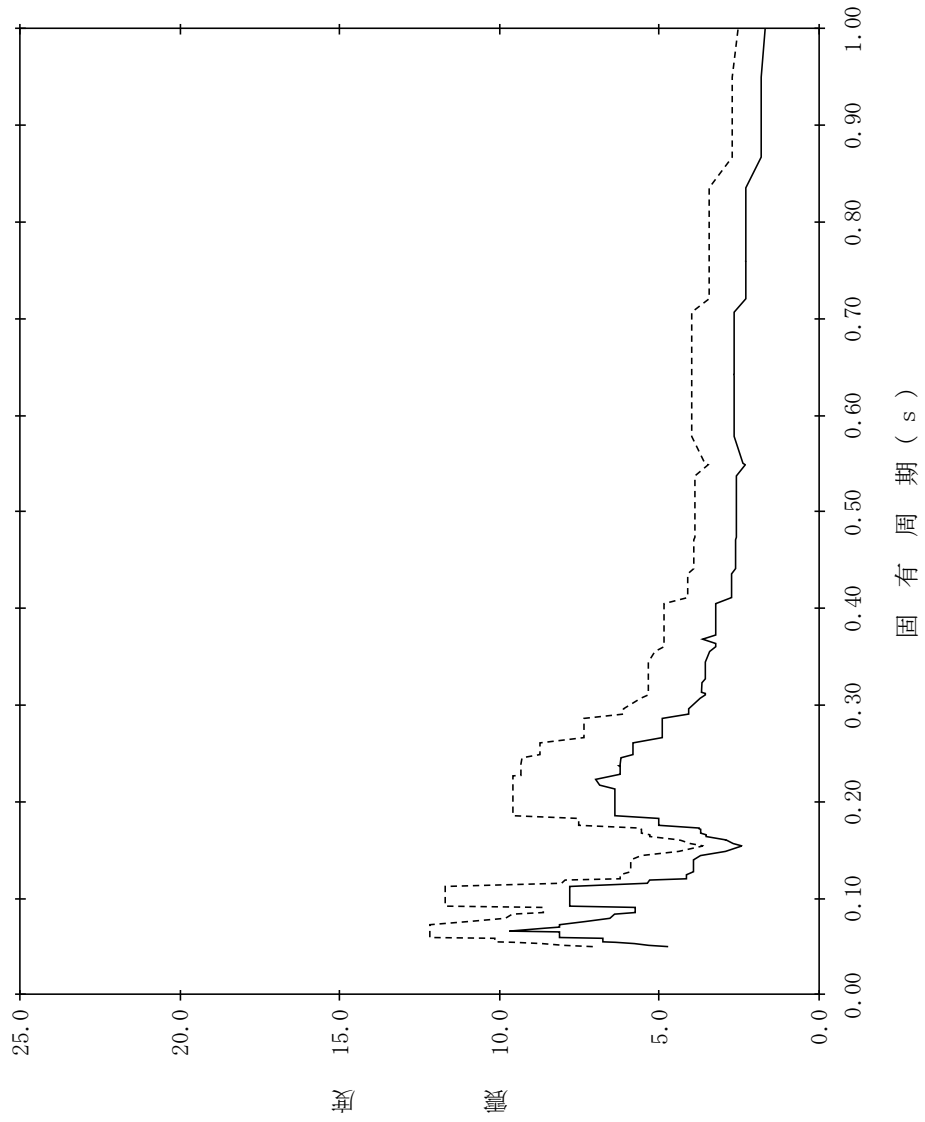


【NS2-RB-SsEW-RB56】

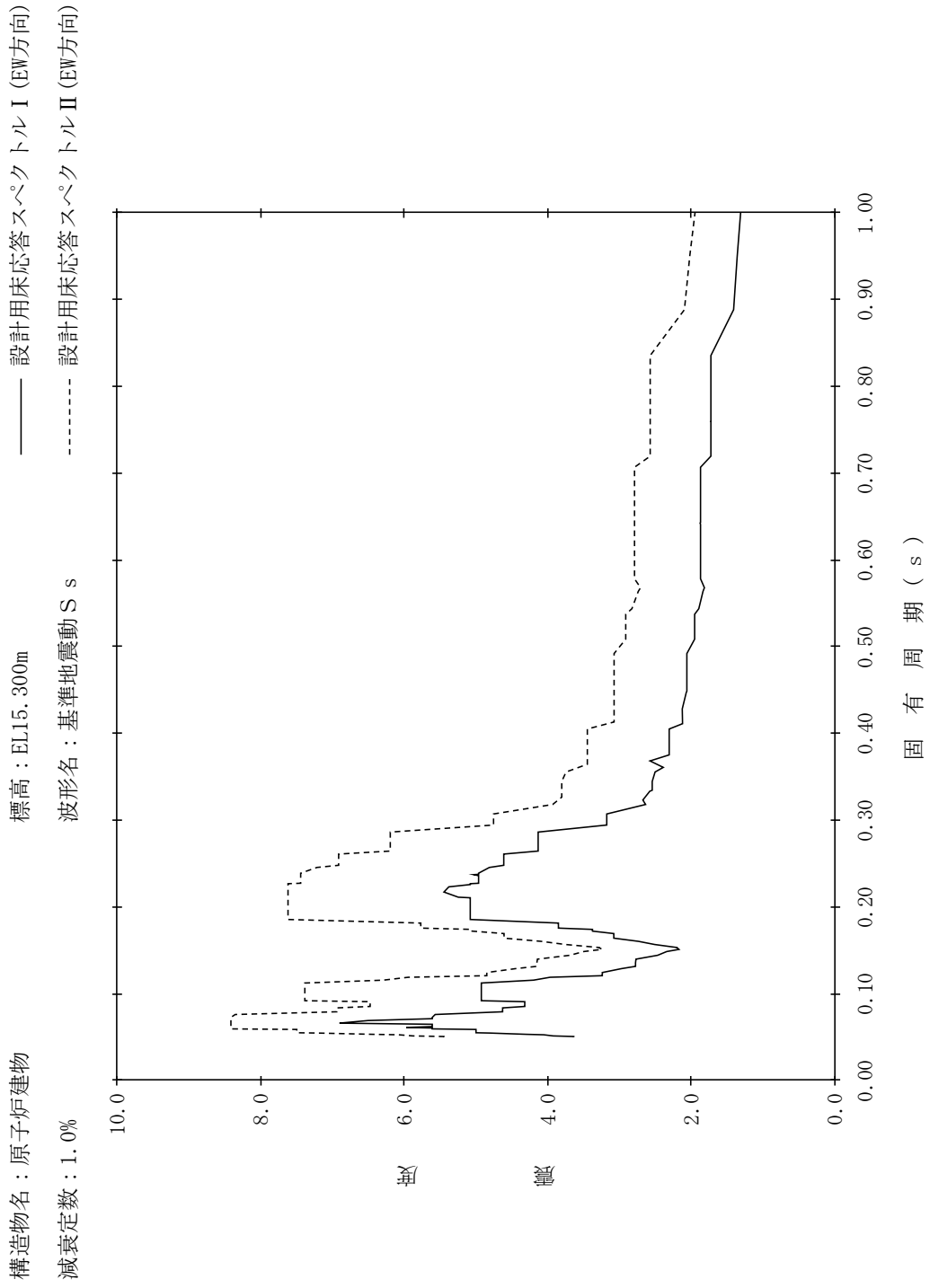


【NS2-RB-SsEW-RB57】

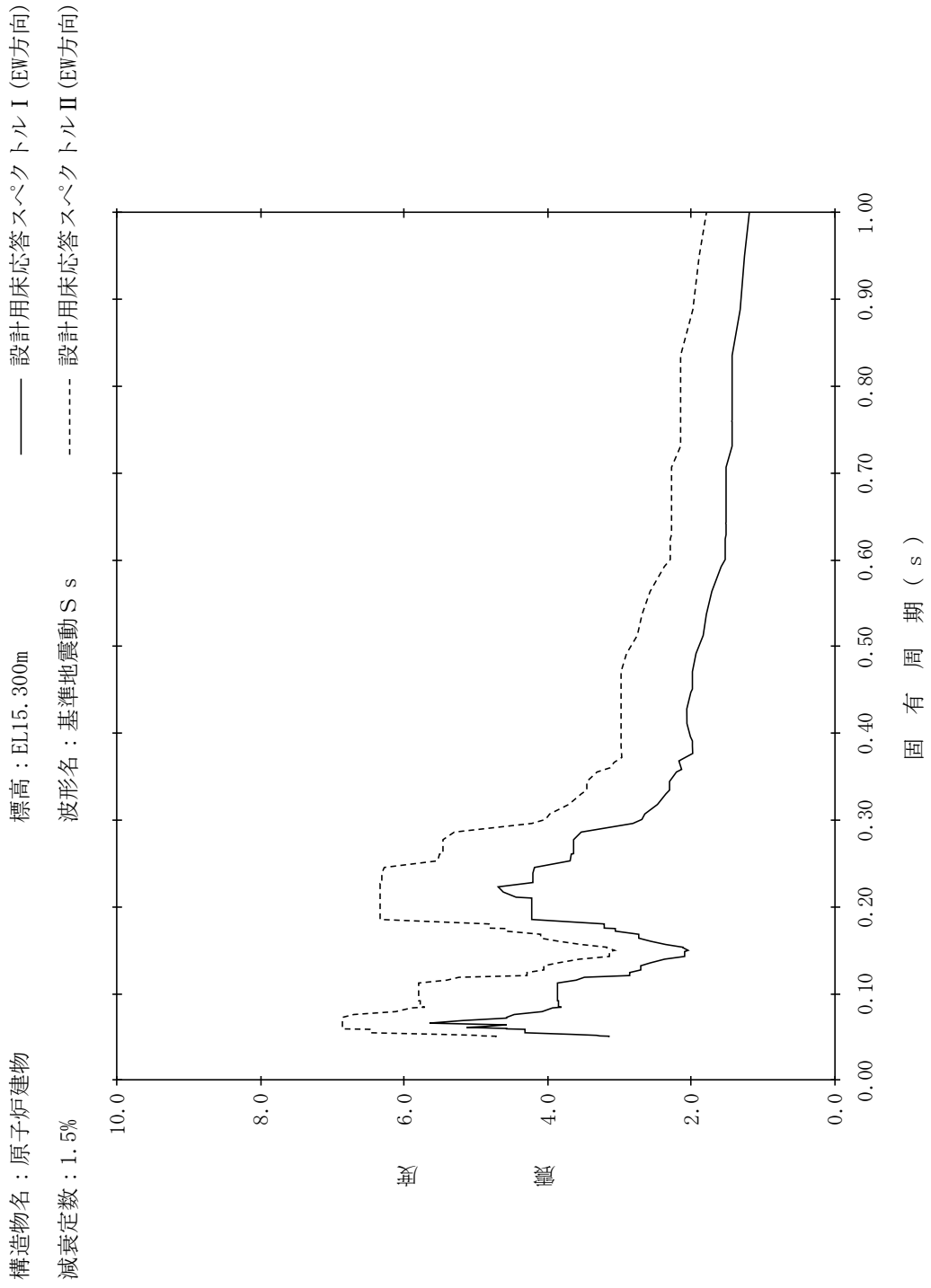
構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-RB-SsEW-RB58】

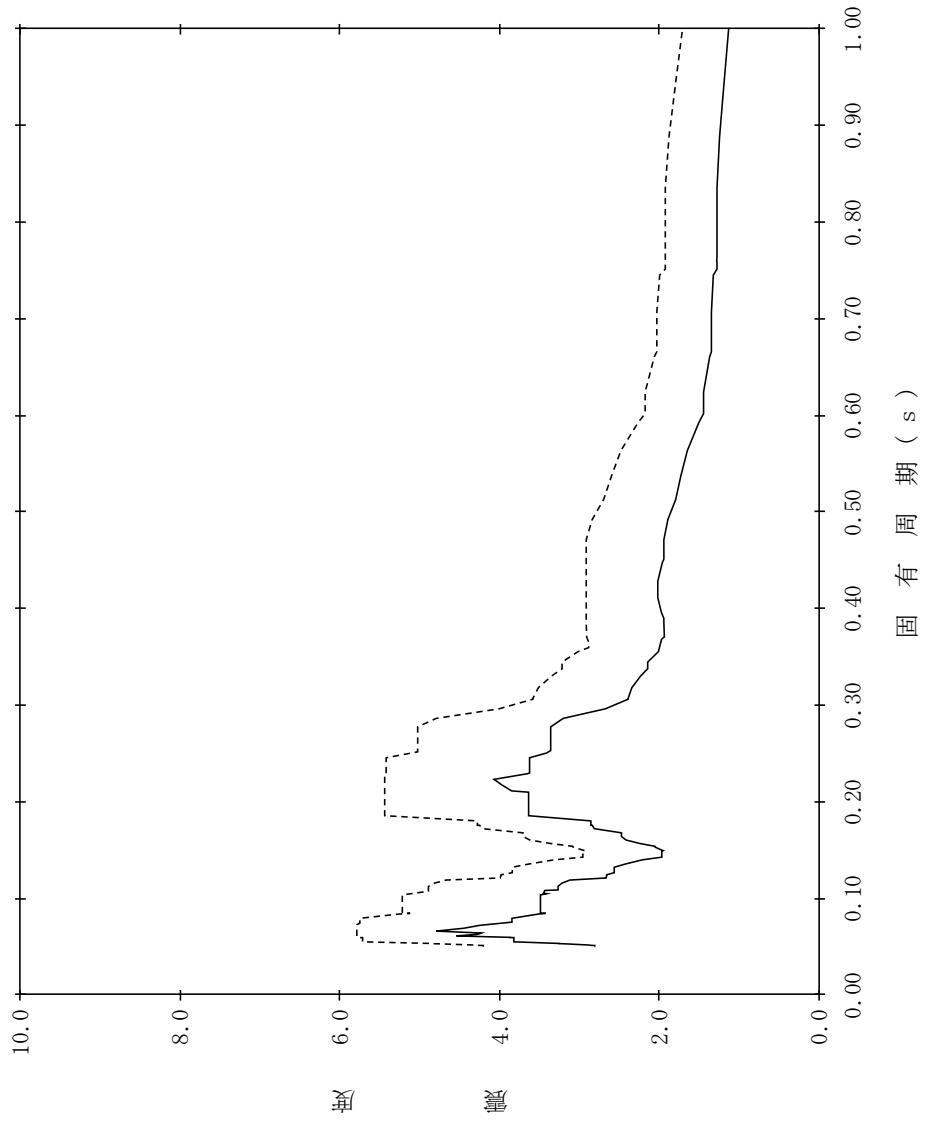


【NS2-RB-SsEW-RB59】



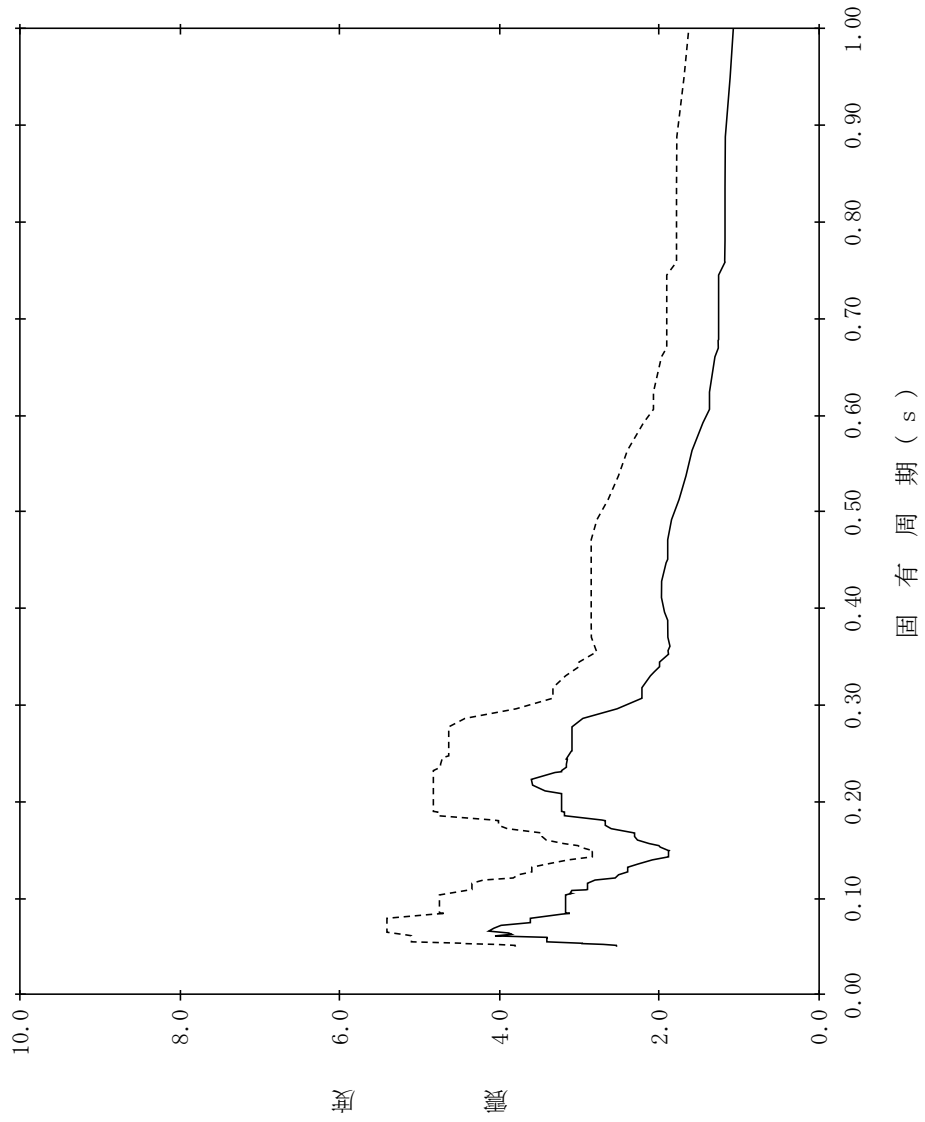
【NS2-RB-SsEW-RB60】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



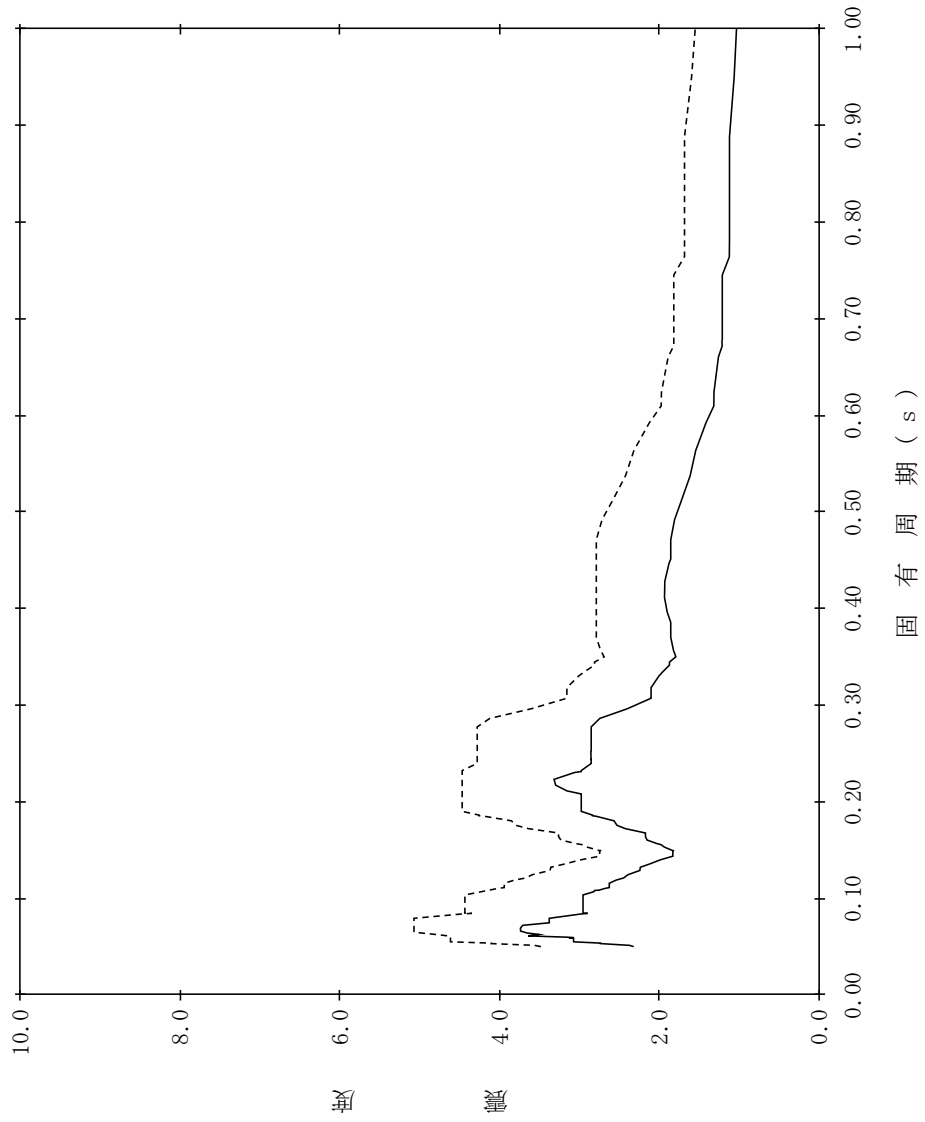
【NS2-RB-SsEW-RB61】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



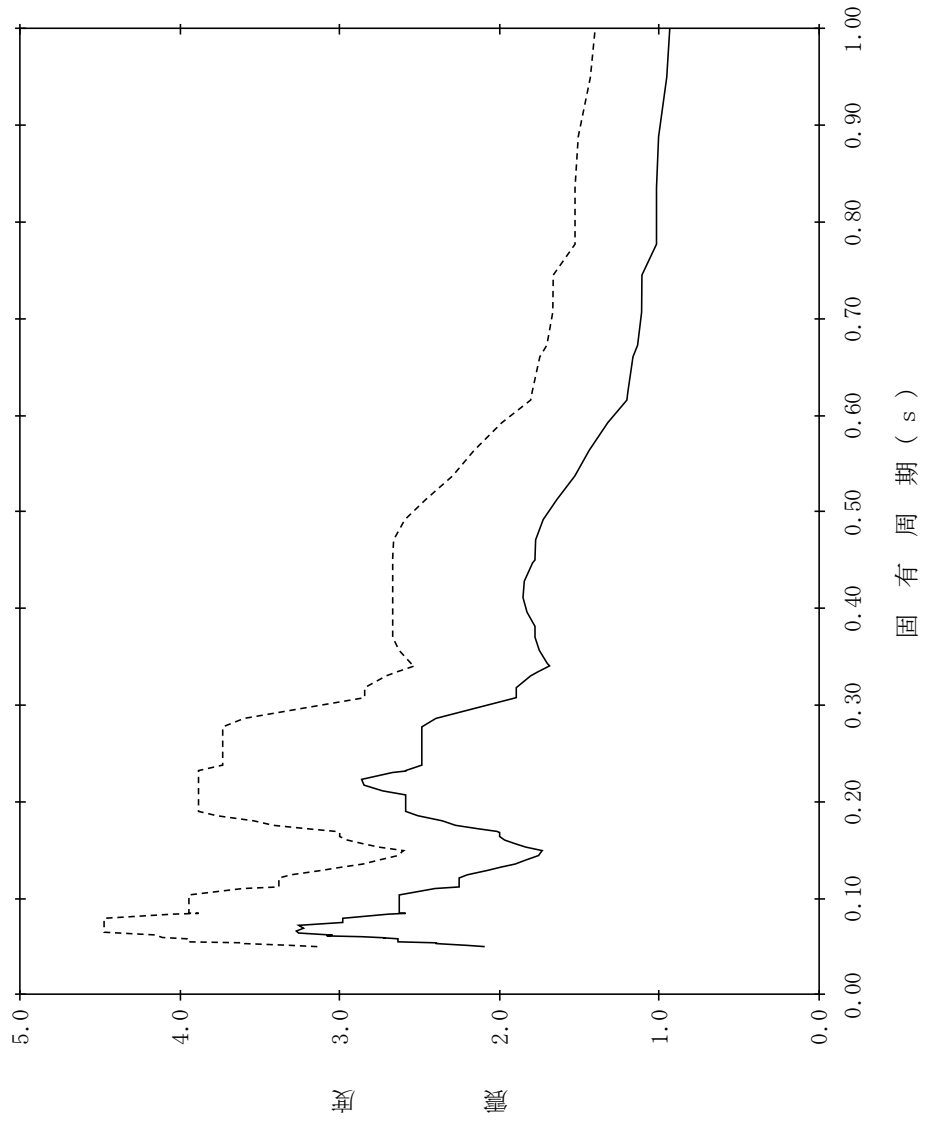
【NS2-RB-SsEW-RB62】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



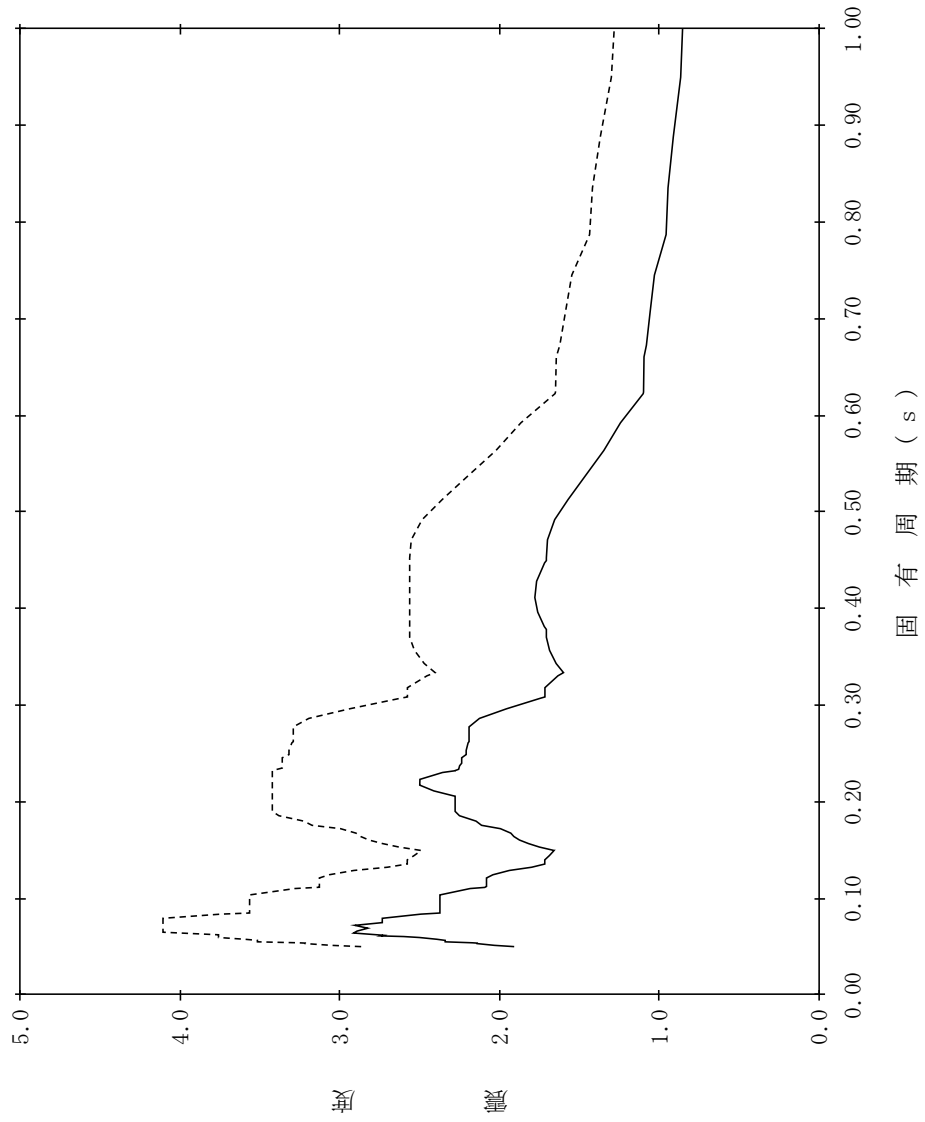
【NS2-RB-SsEW-RB63】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

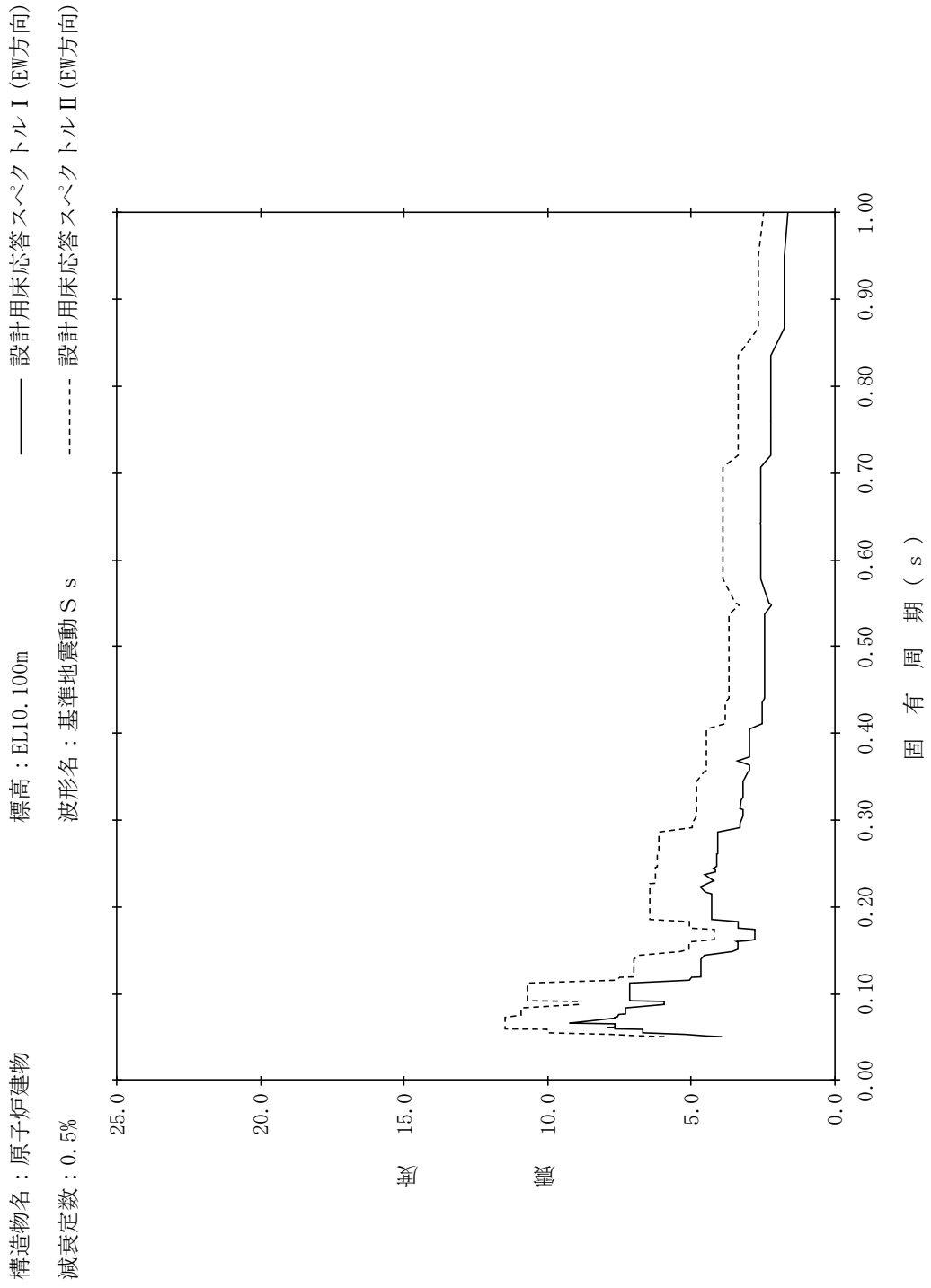


【NS2-RB-SsEW-RB64】

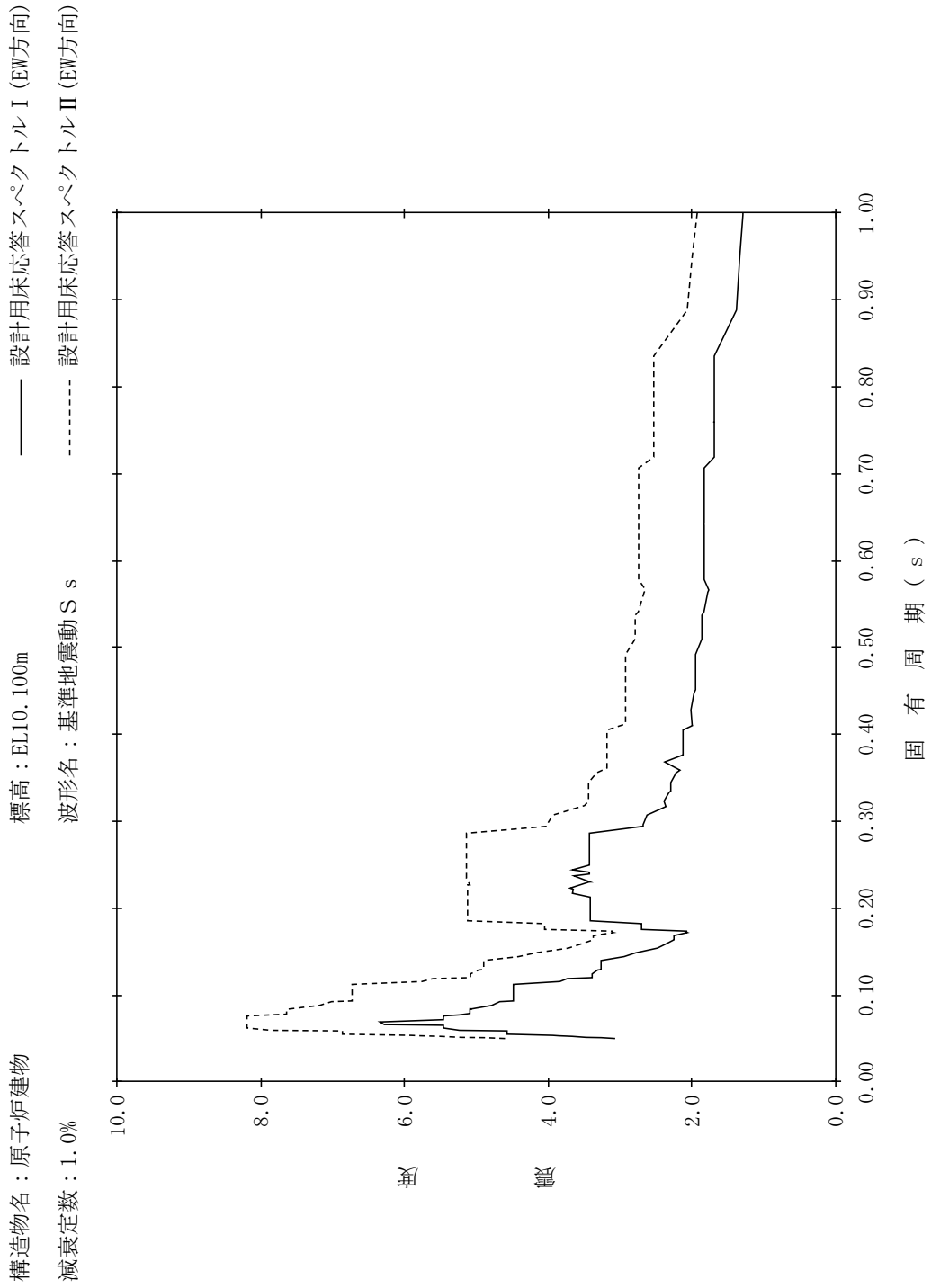
構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



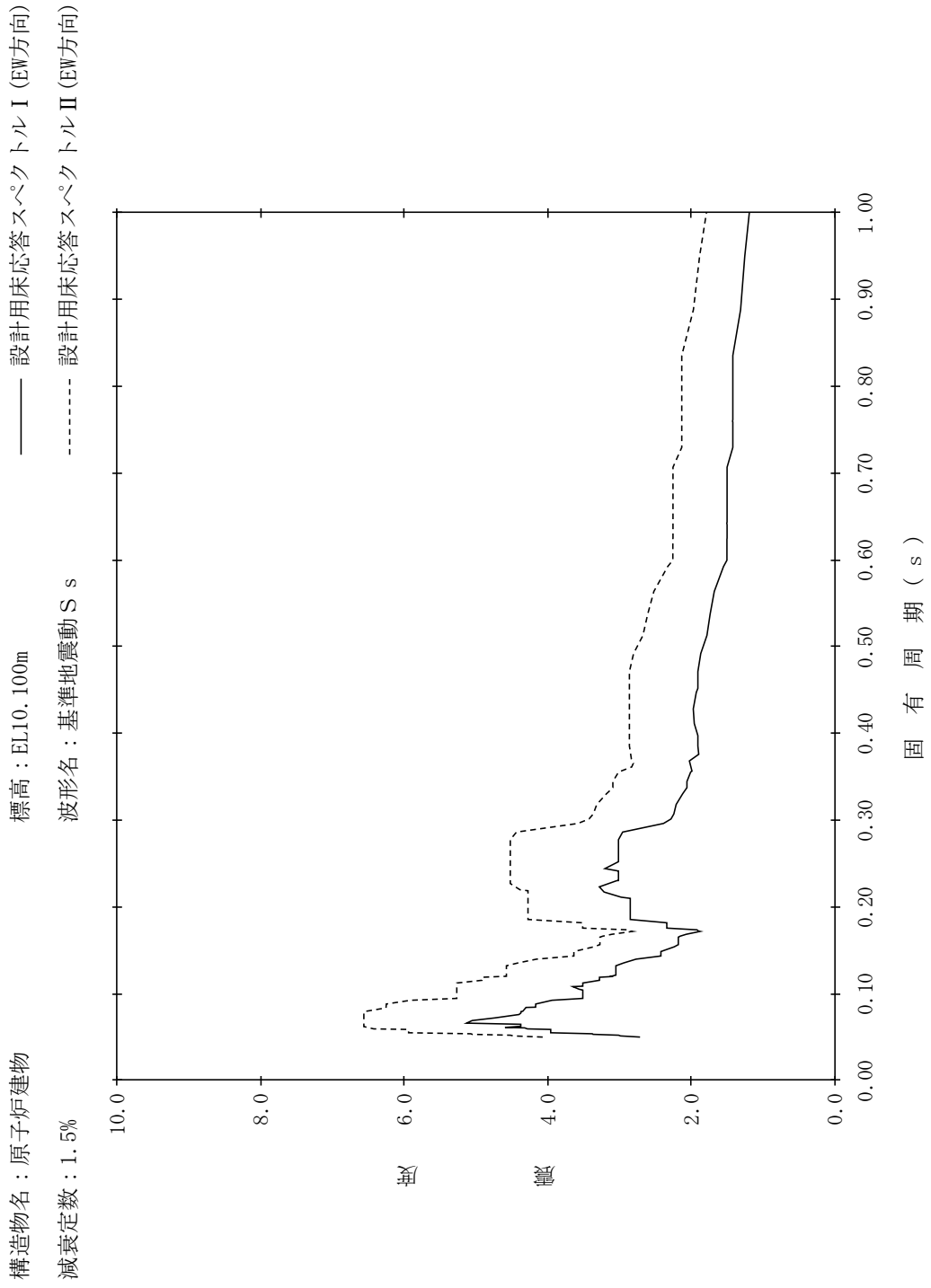
【NS2-RB-SsEW-RB65】



【NS2-RB-SsEW-RB66】

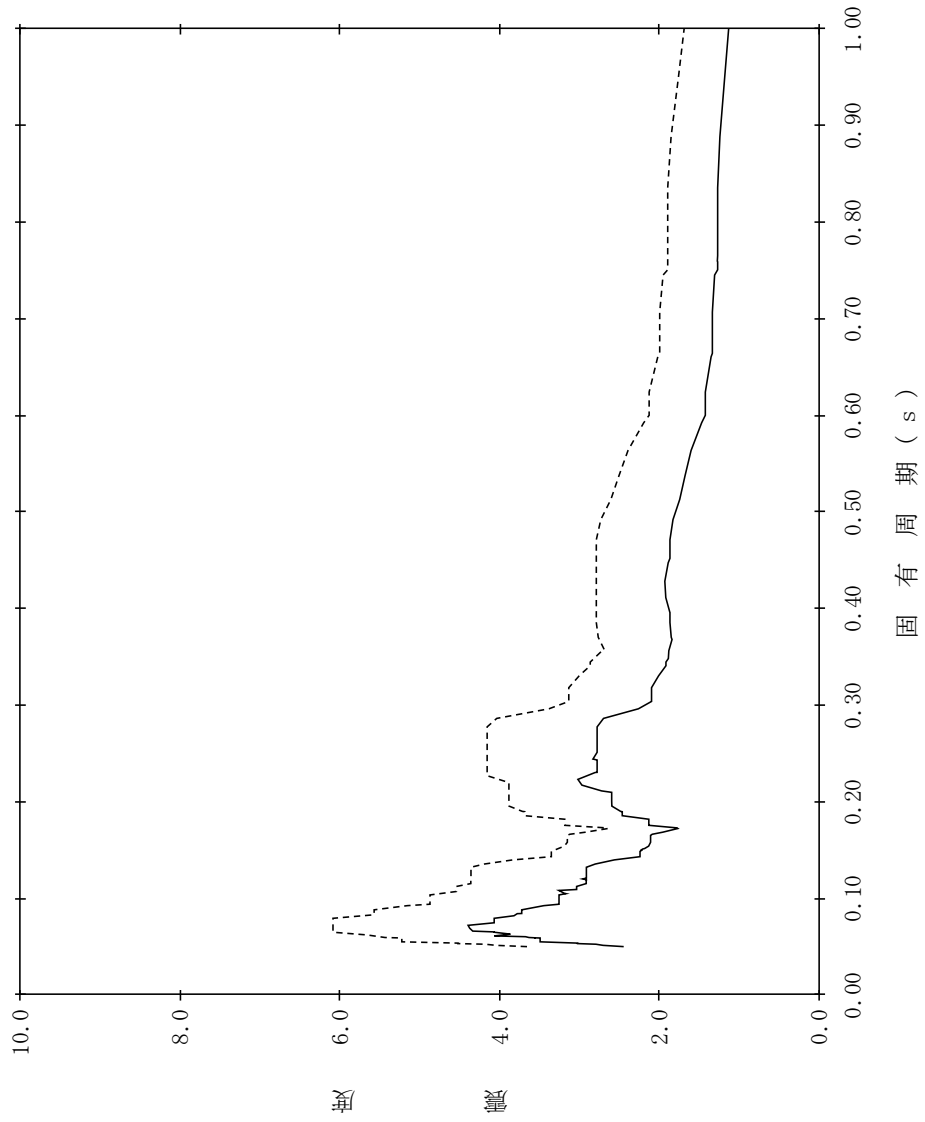


【NS2-RB-SsEW-RB67】

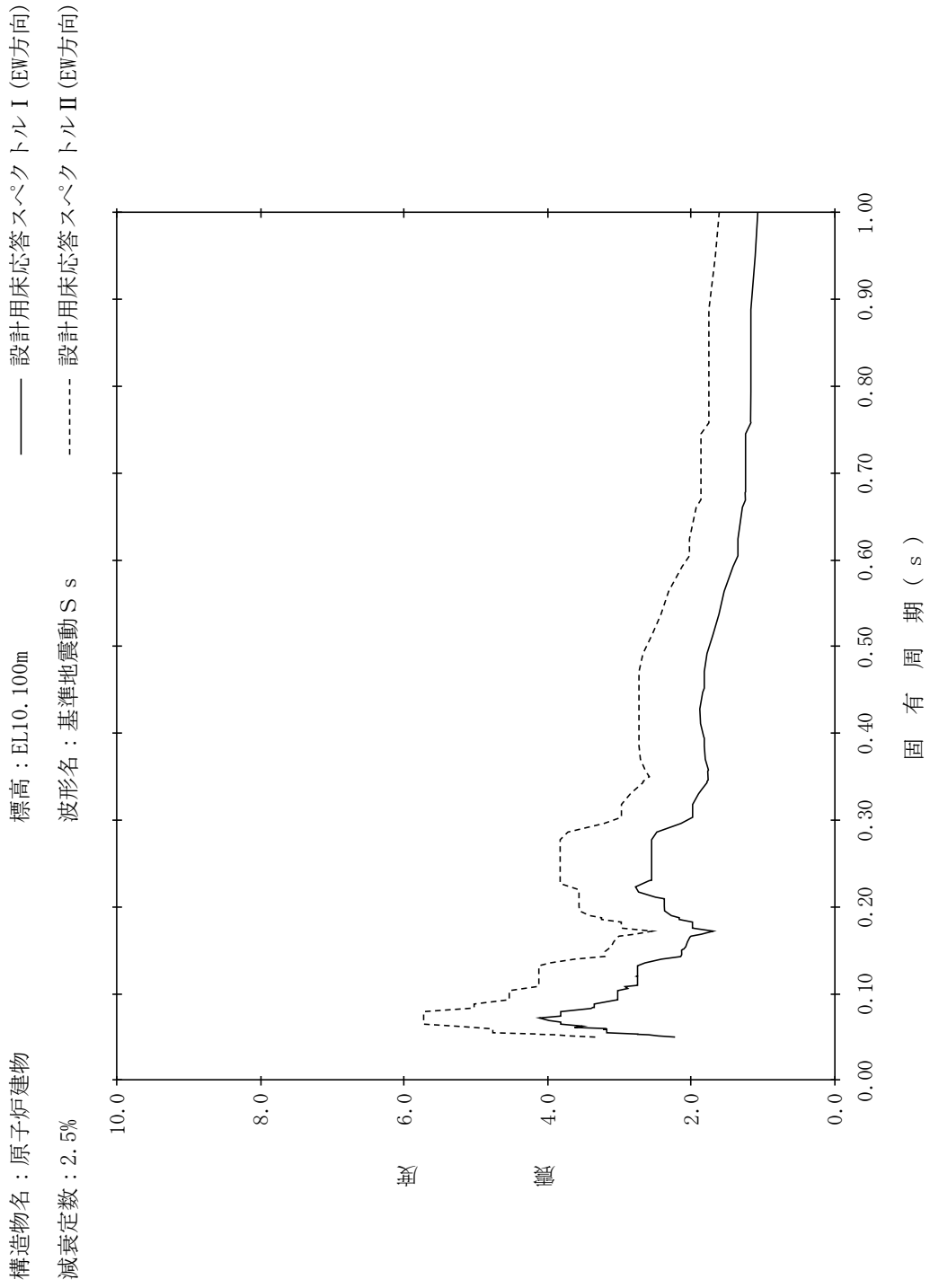


【NS2-RB-SsEW-RB68】

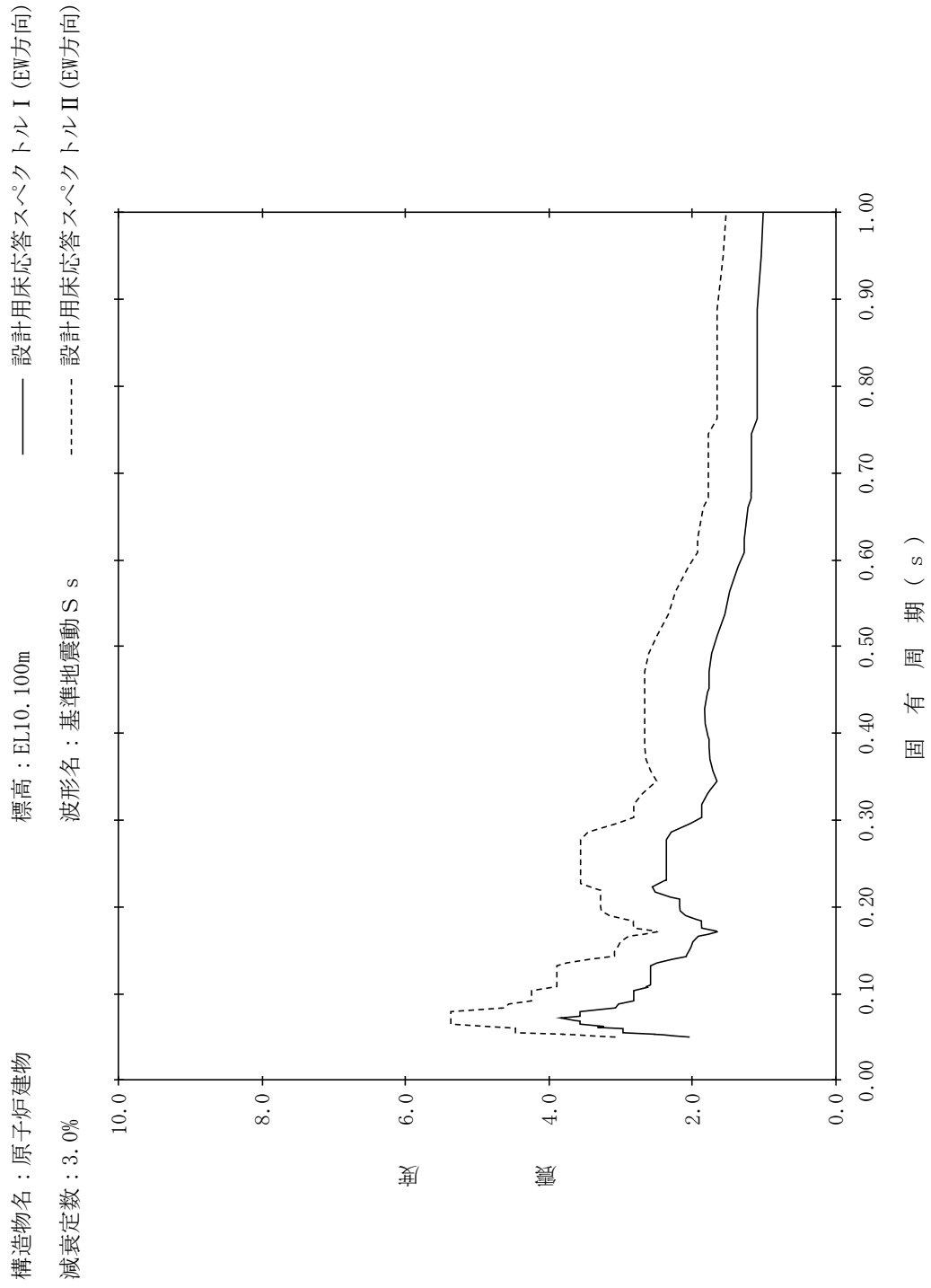
構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



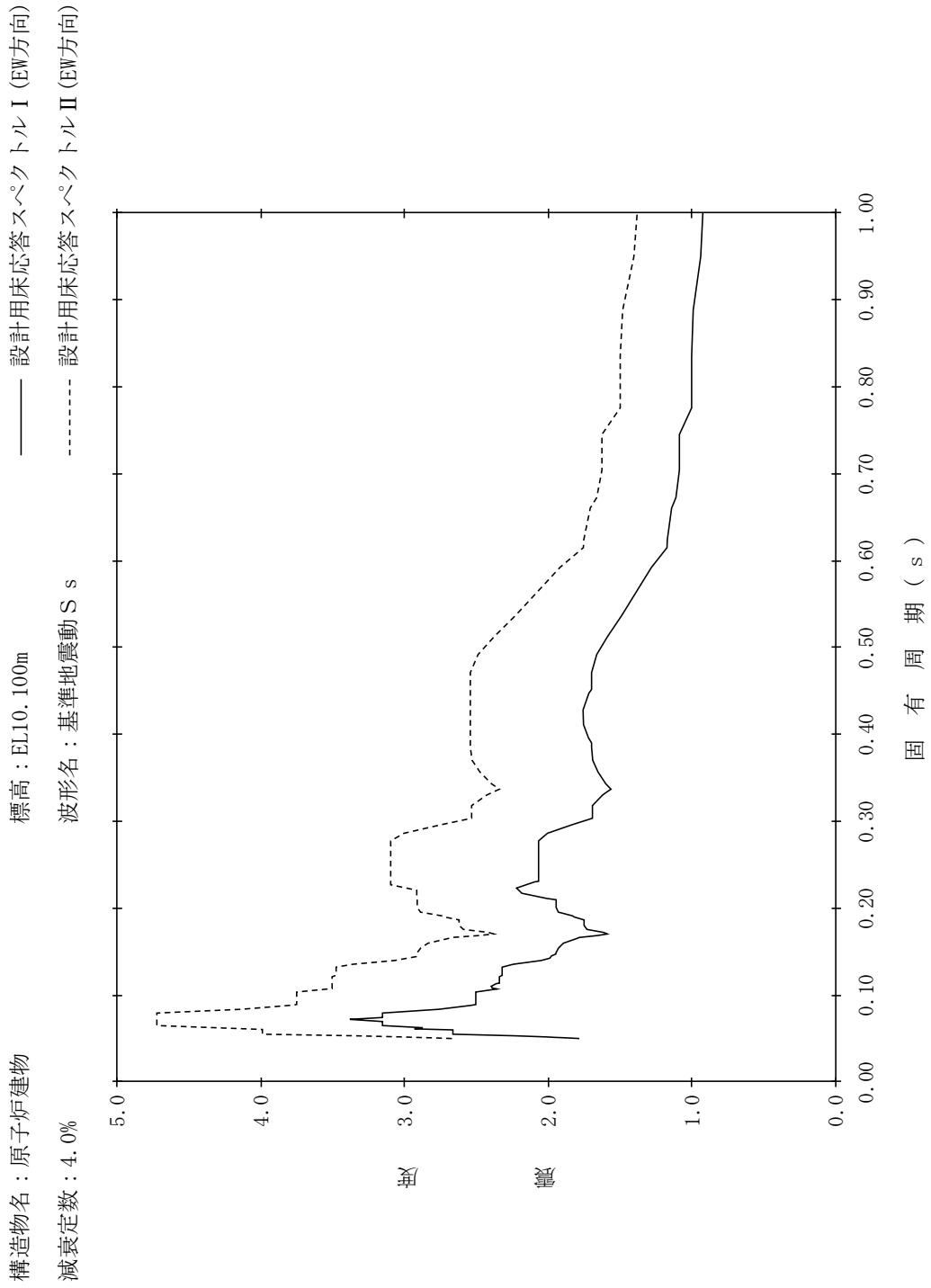
【NS2-RB-SsEW-RB69】



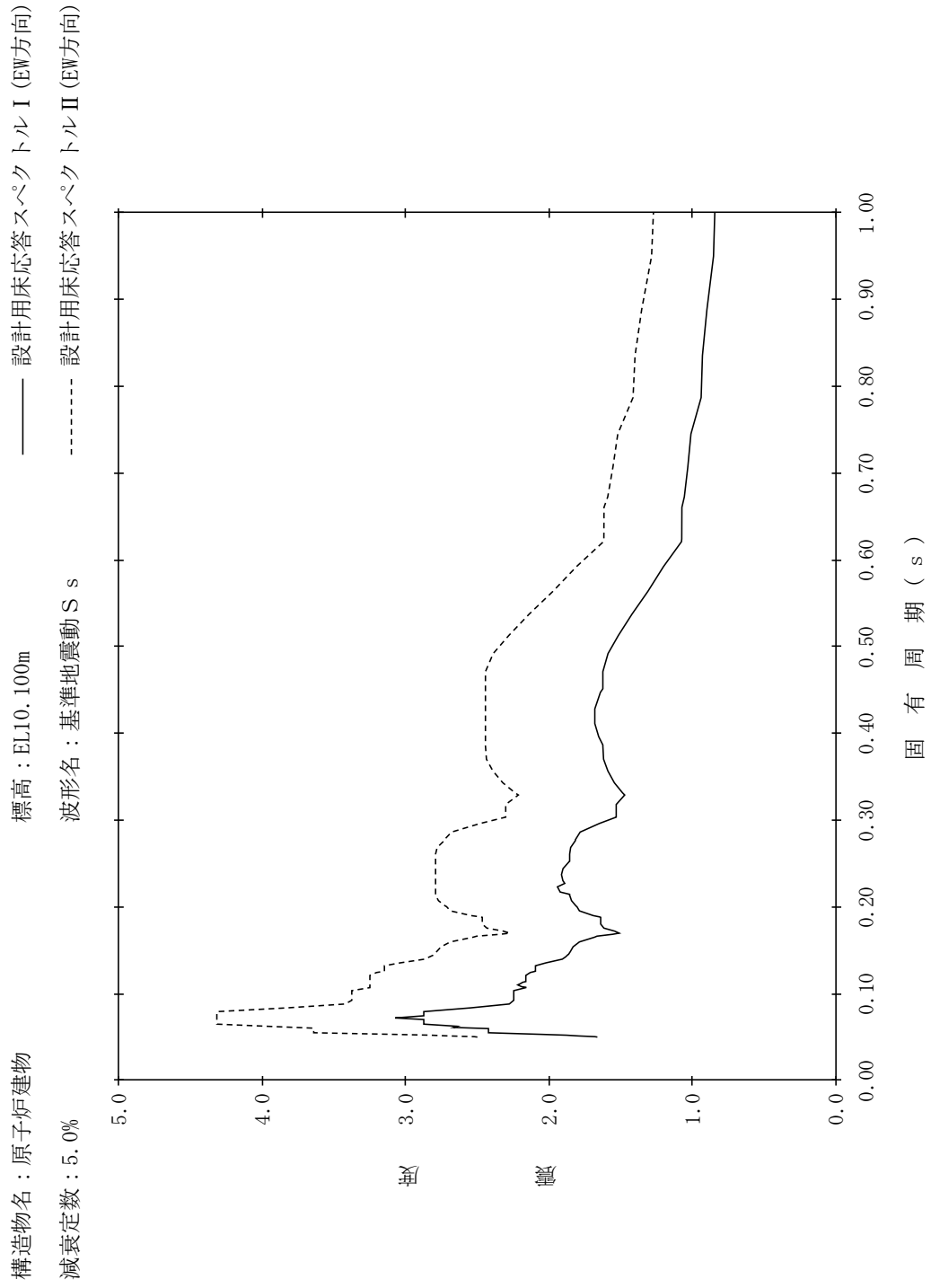
【NS2-RB-SsEW-RB70】



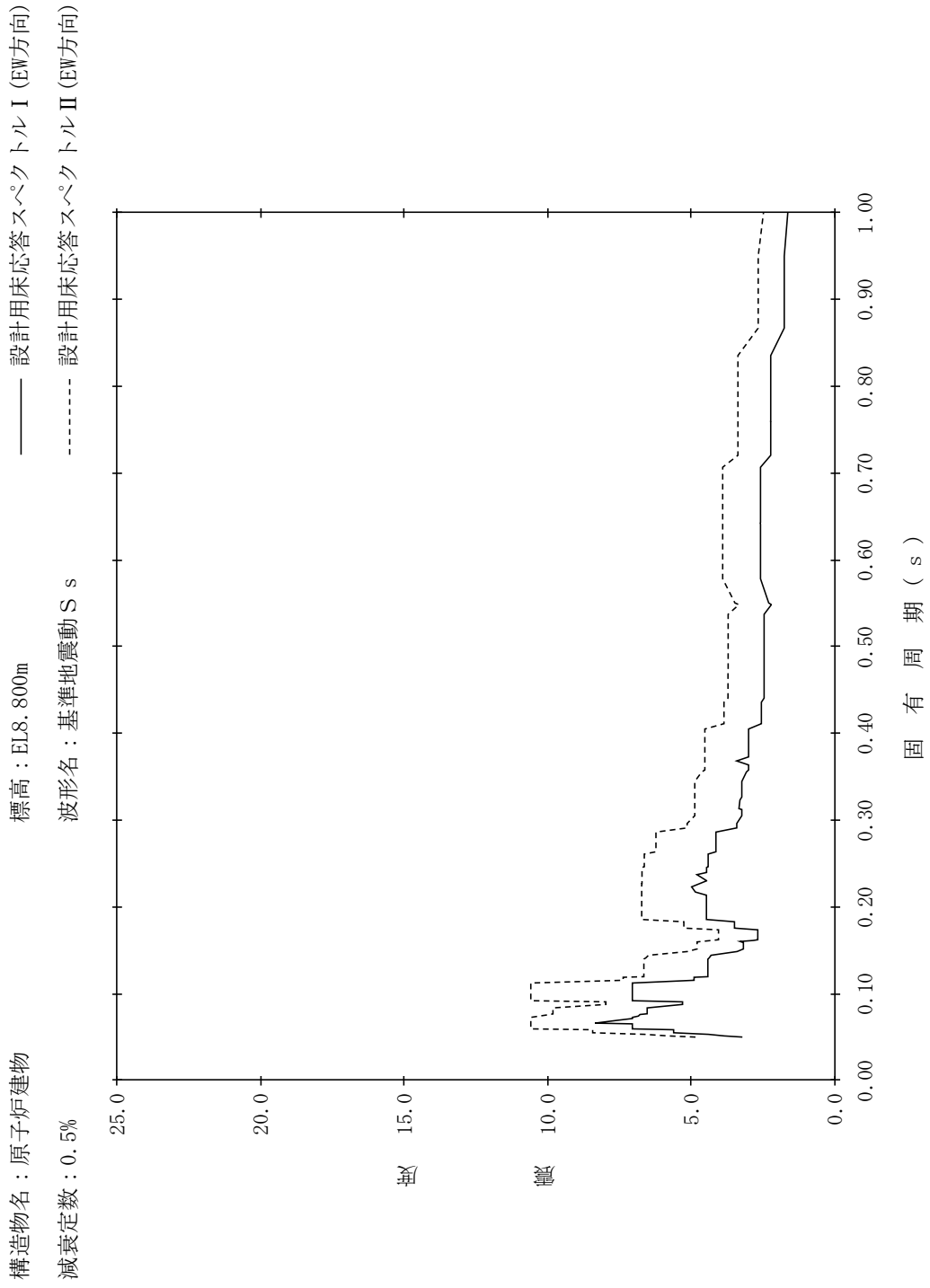
【NS2-RB-SsEW-RB71】



【NS2-RB-SsEW-RB72】

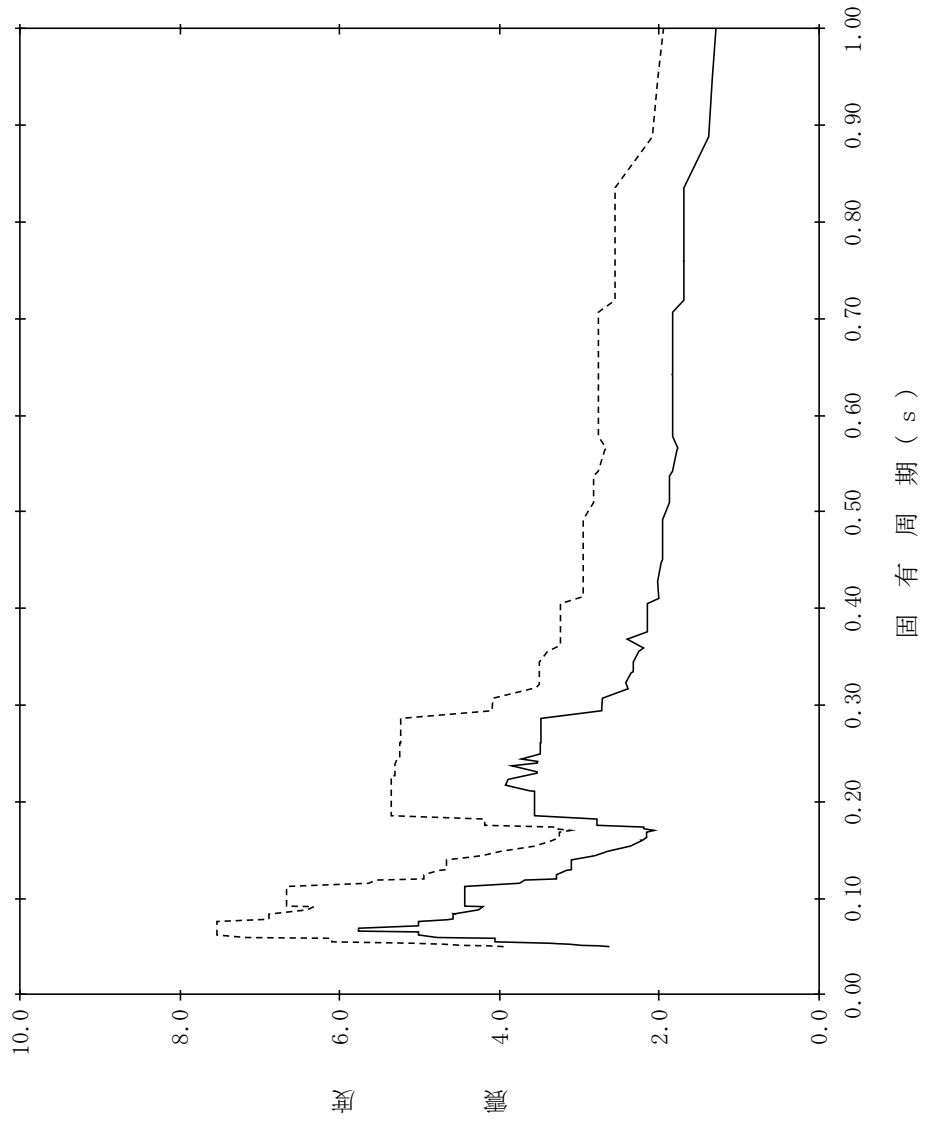


【NS2-RB-SsEW-RB73】

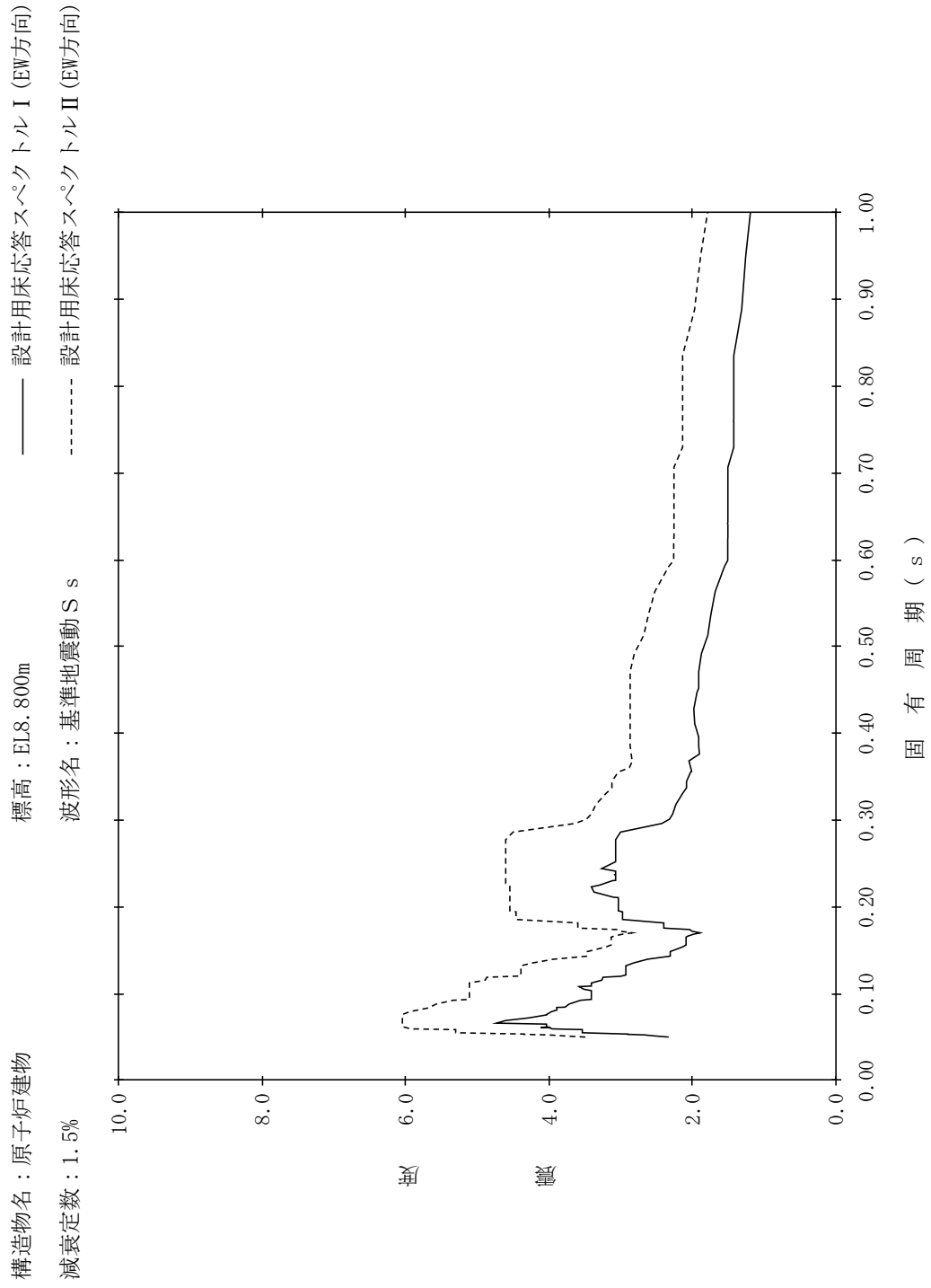


【NS2-RB-SsEW-RB74】

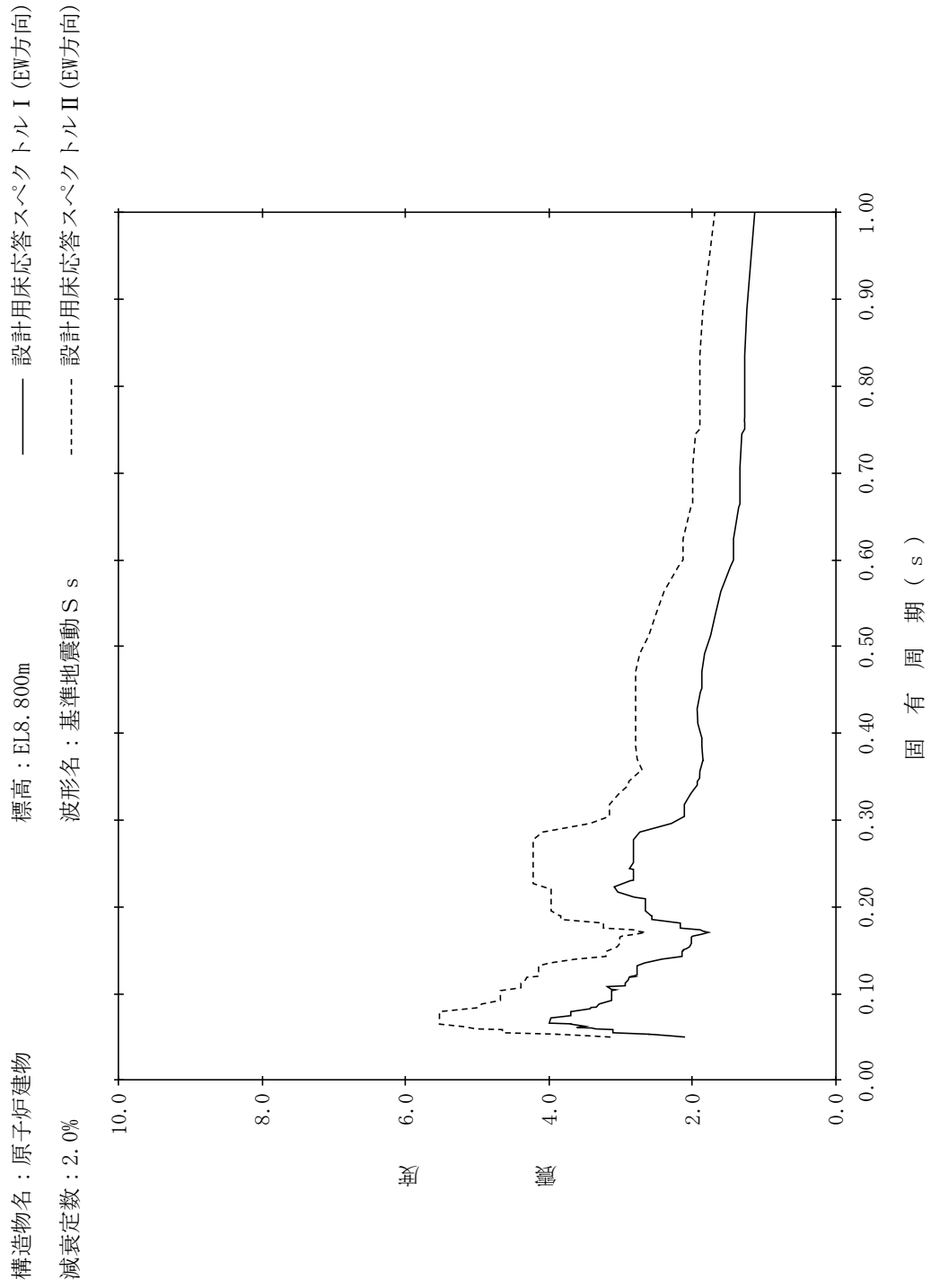
構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-RB-SsEW-RB75】

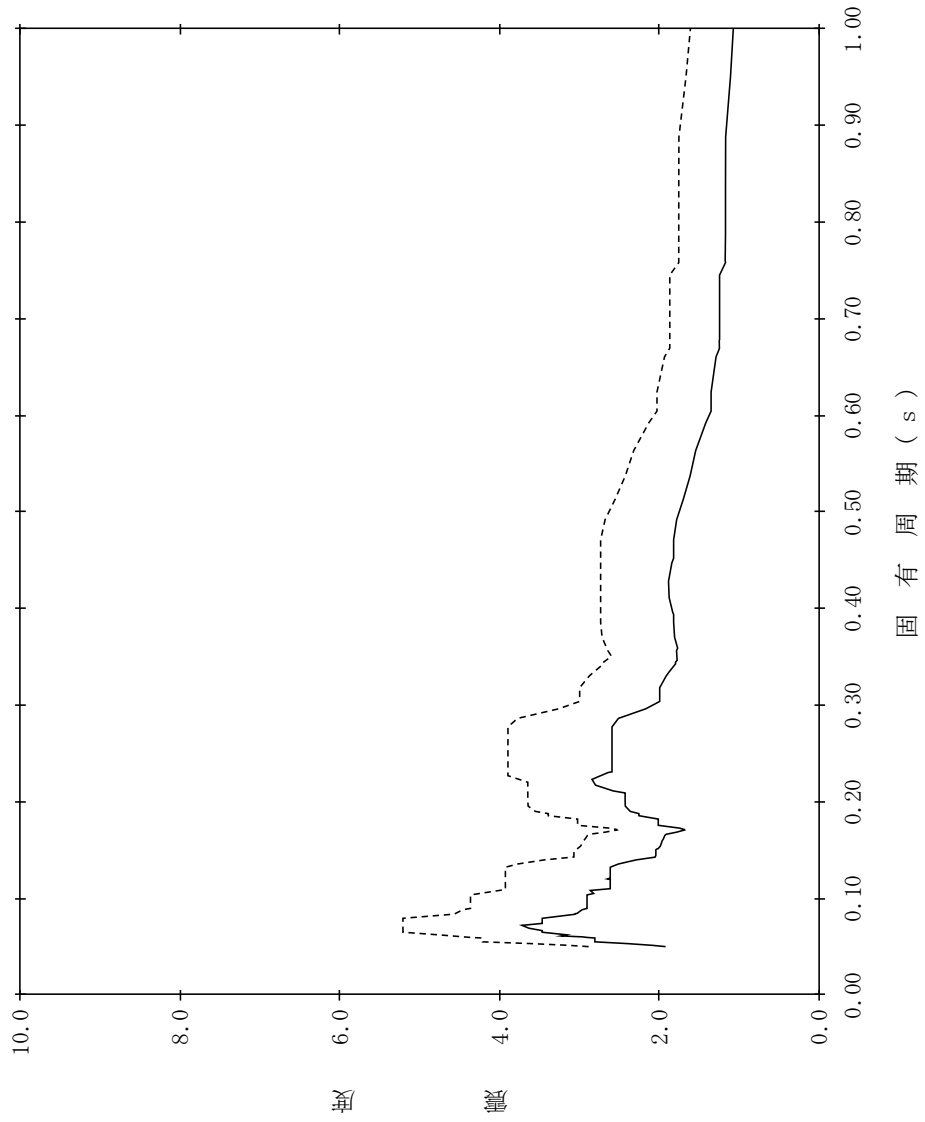


【NS2-RB-SsEW-RB76】



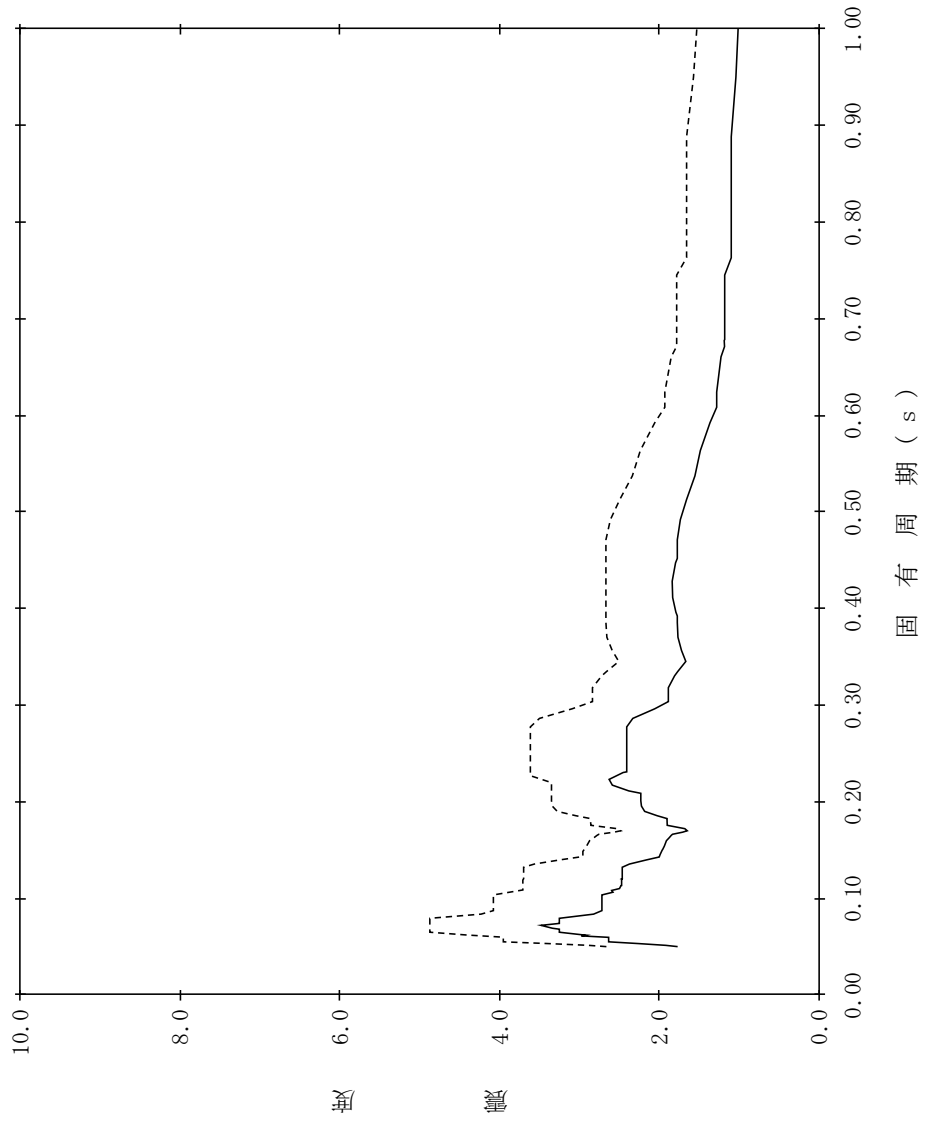
【NS2-RB-SsEW-RB77】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



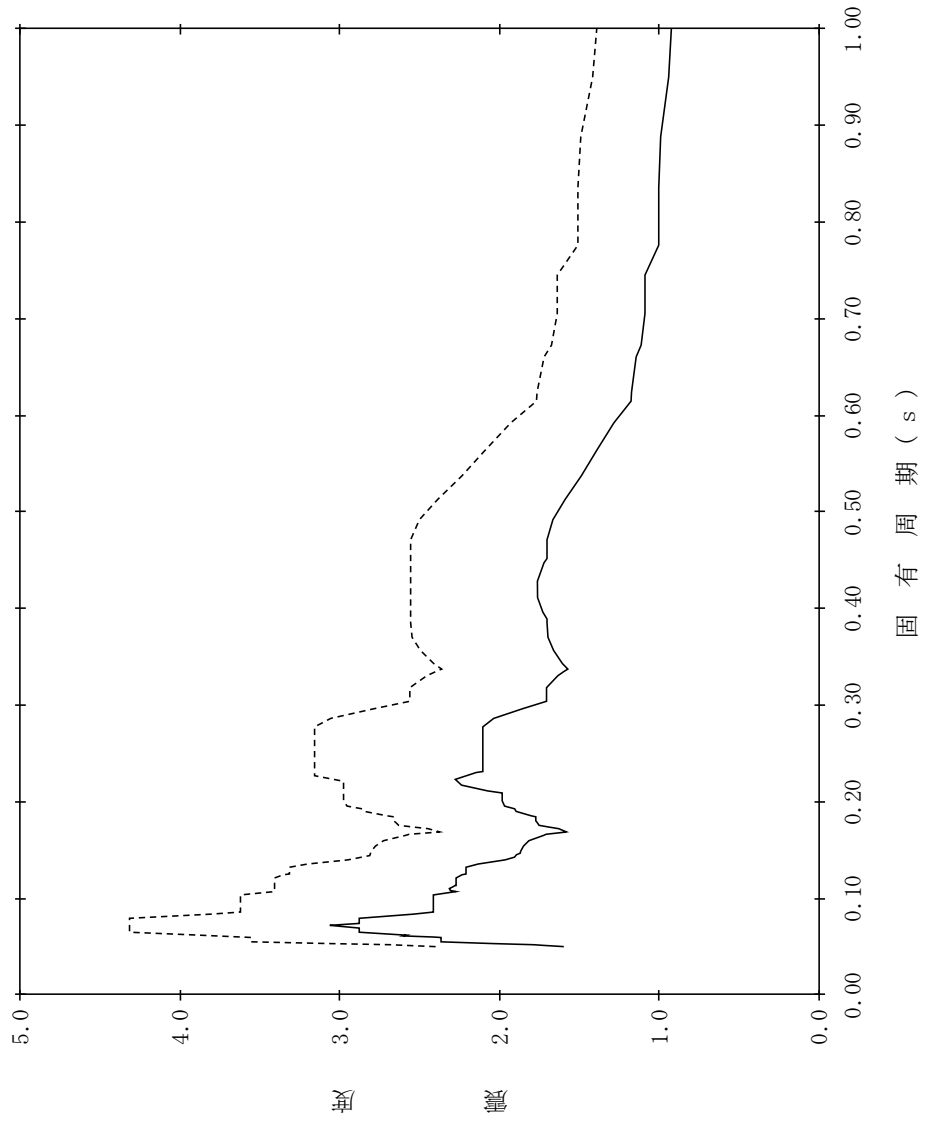
【NS2-RB-SsEW-RB78】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



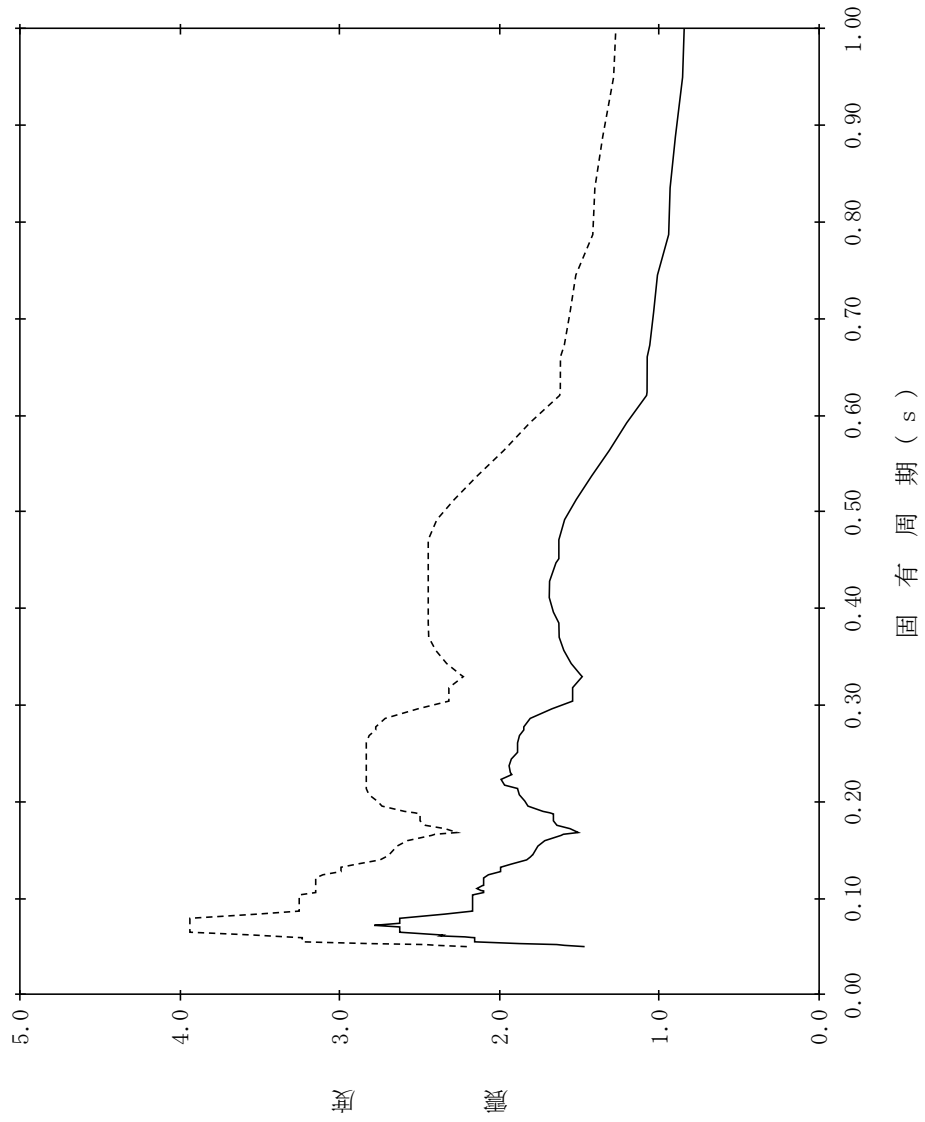
【NS2-RB-SsEW-RB79】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

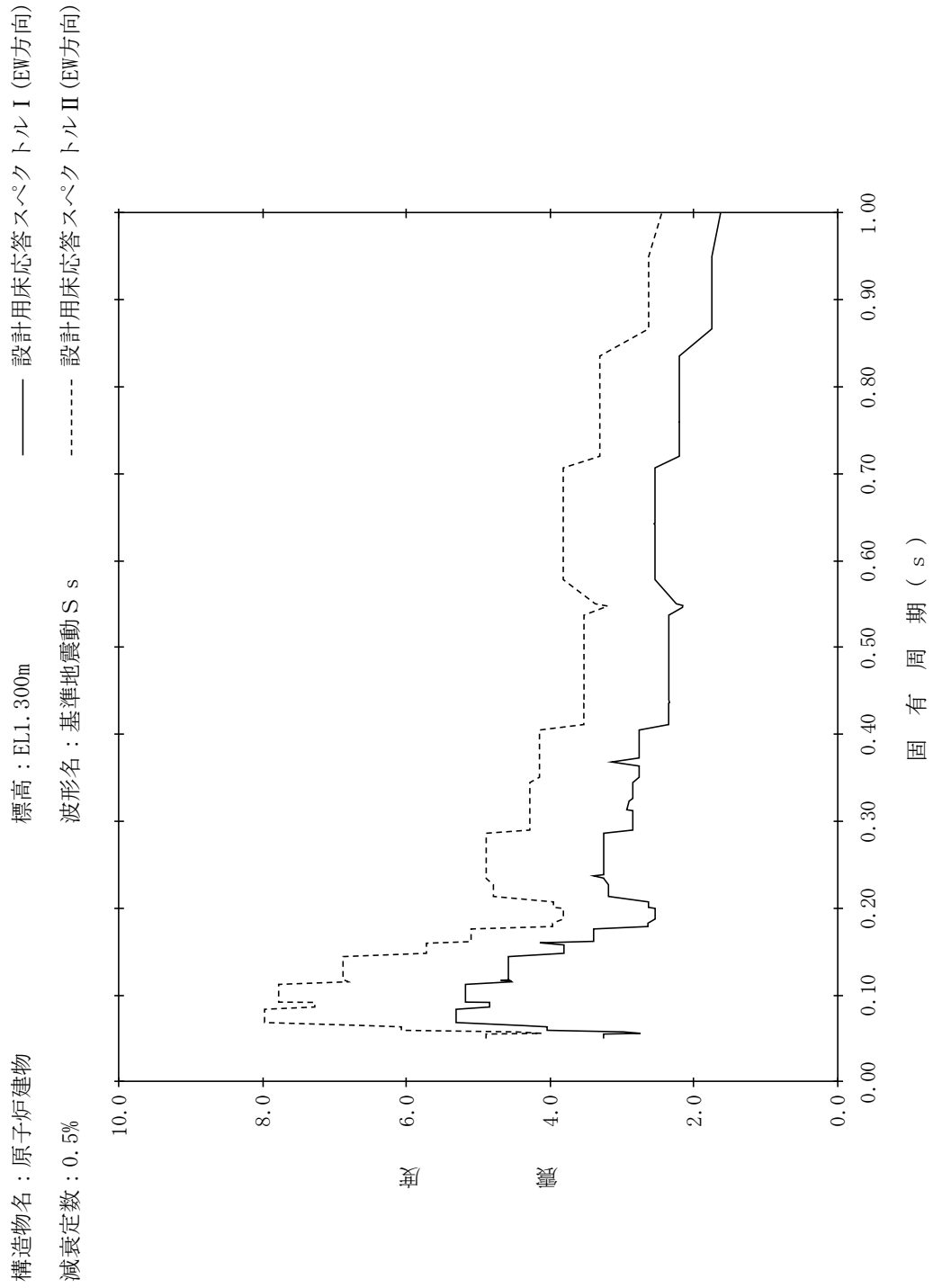


【NS2-RB-SsEW-RB80】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

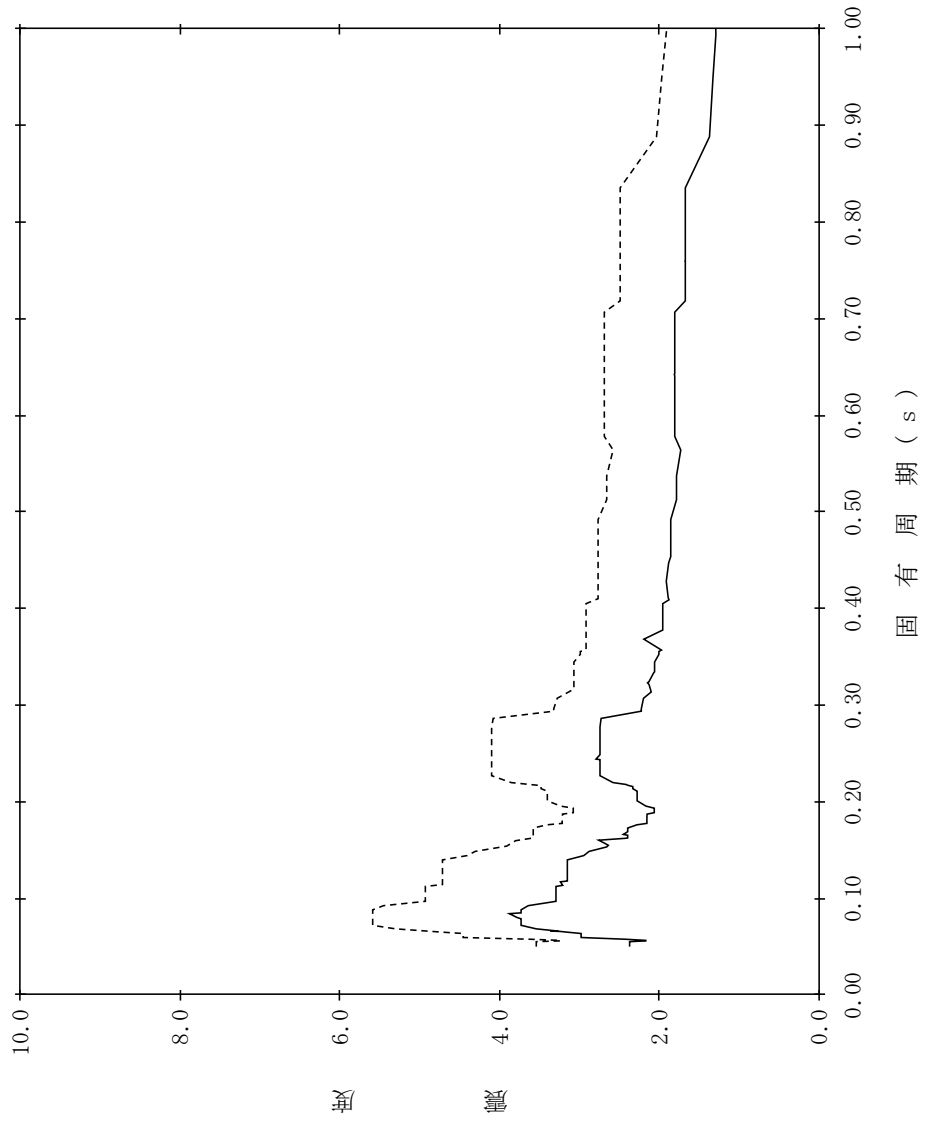


【NS2-RB-SsEW-RB81】

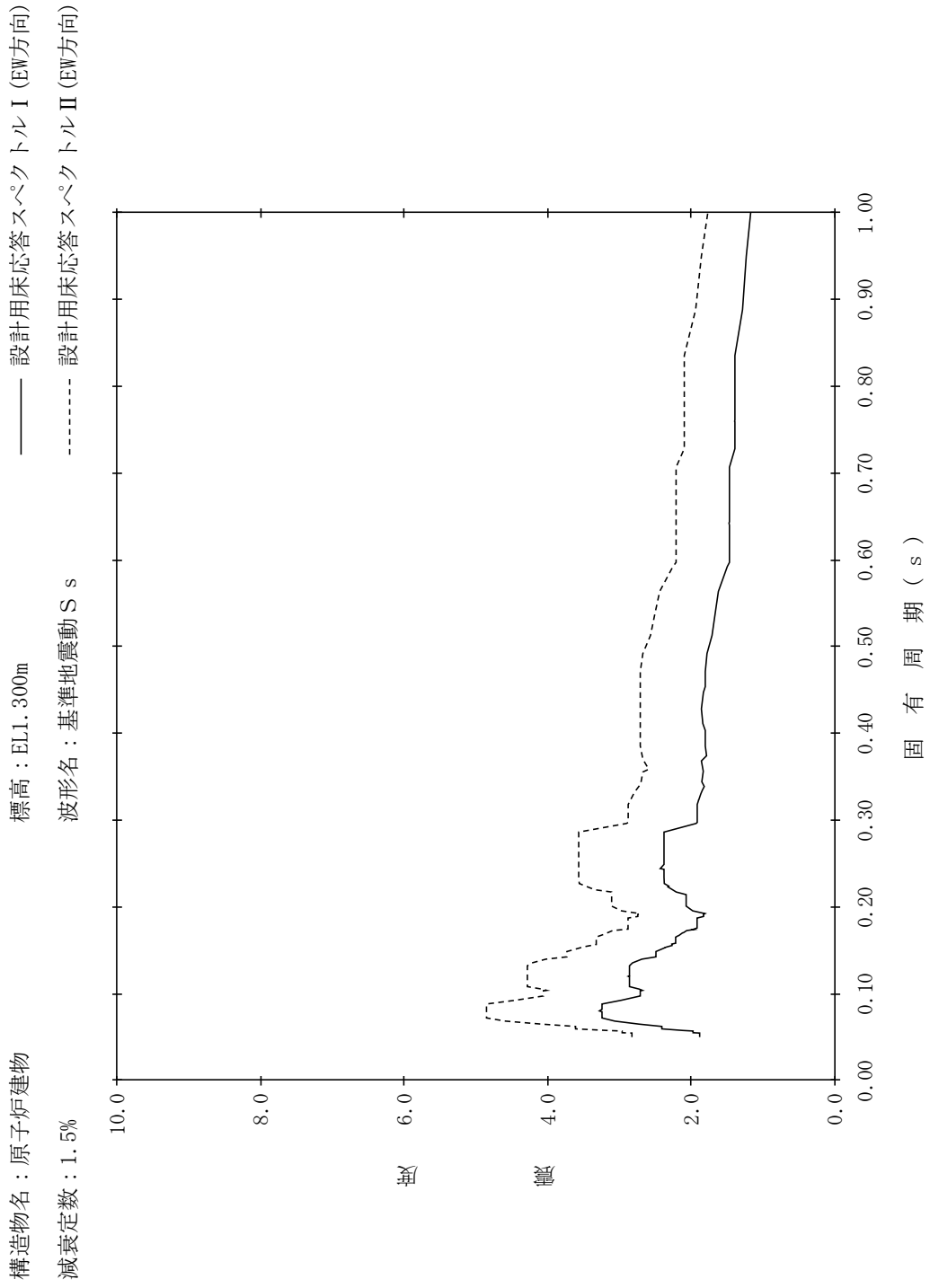


【NS2-RB-SsEW-RB82】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

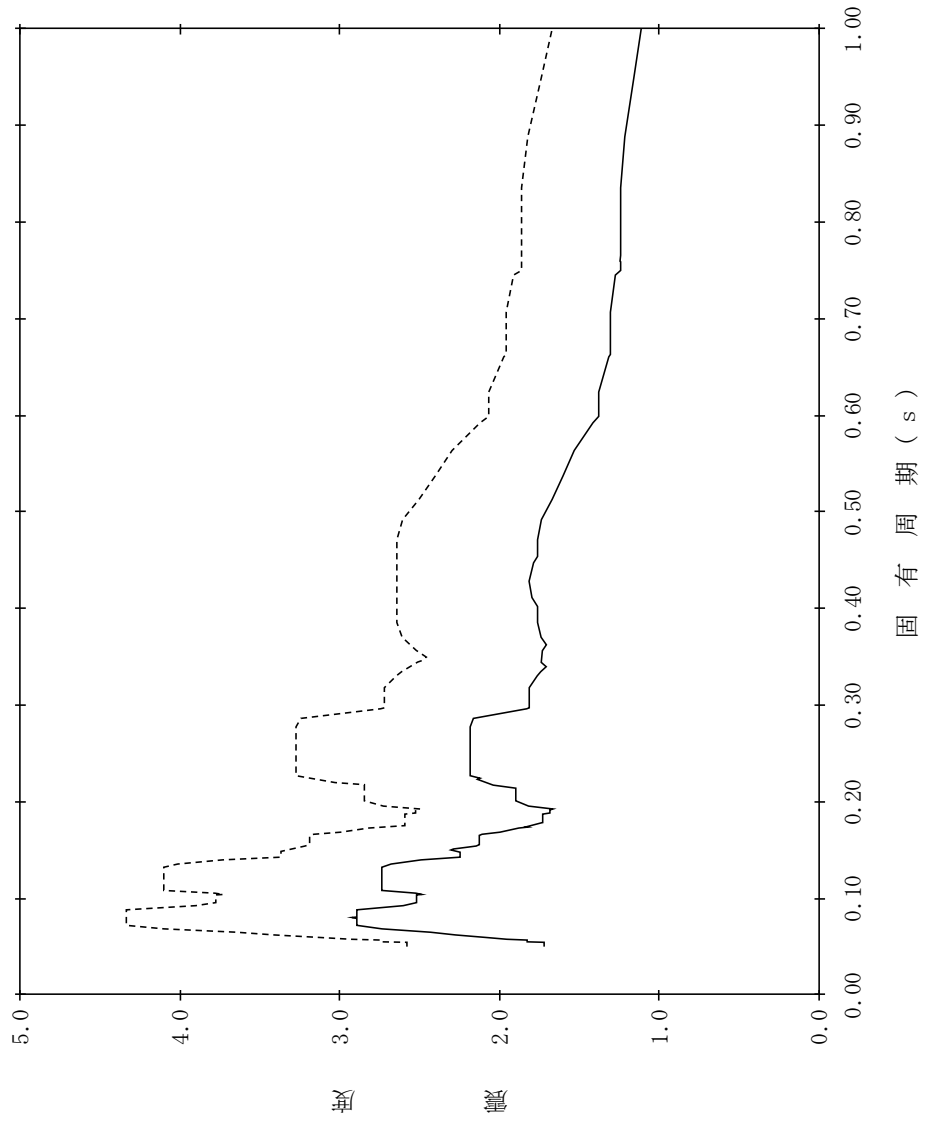


【NS2-RB-SsEW-RB83】

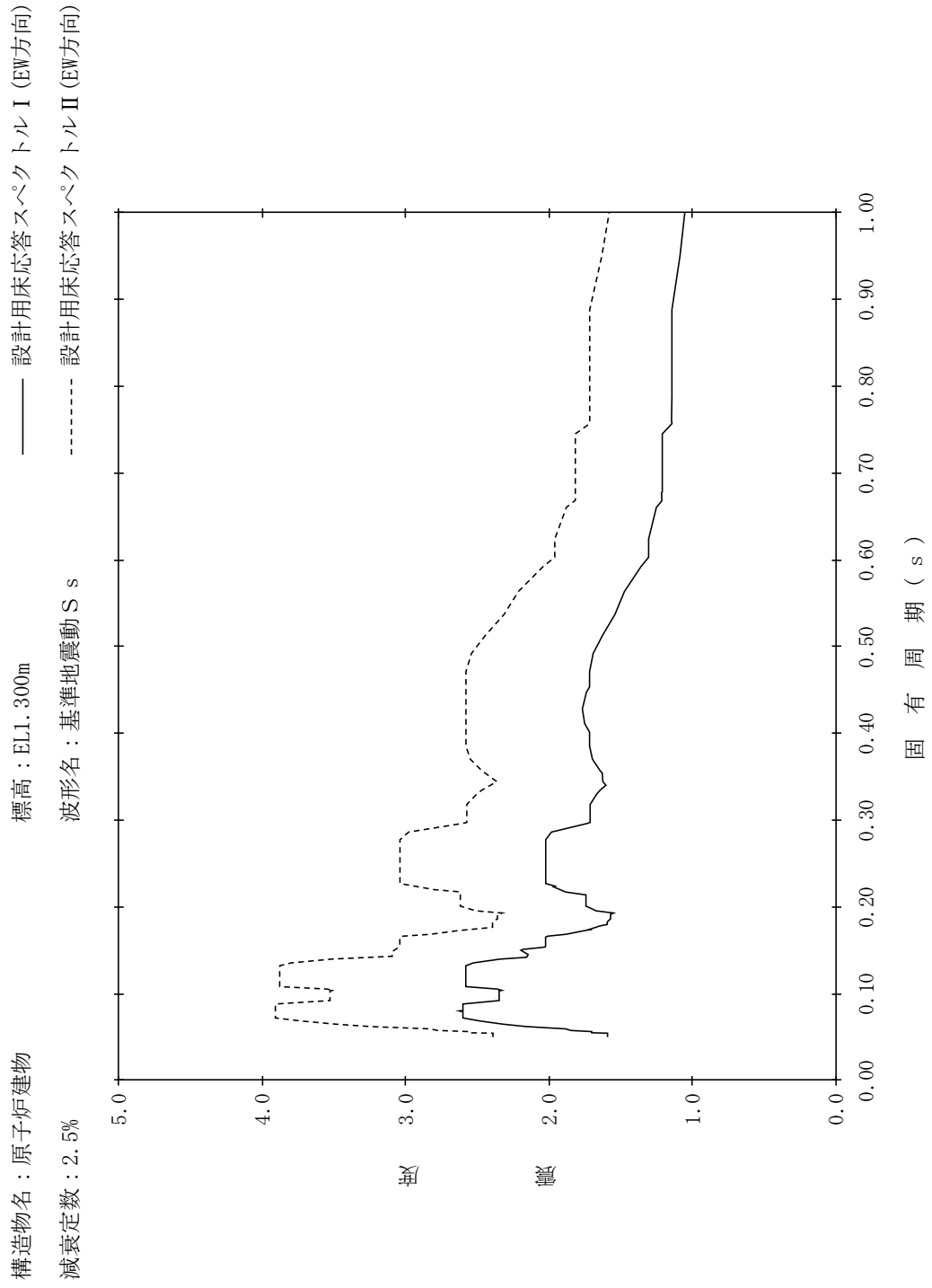


【NS2-RB-SsEW-RB84】

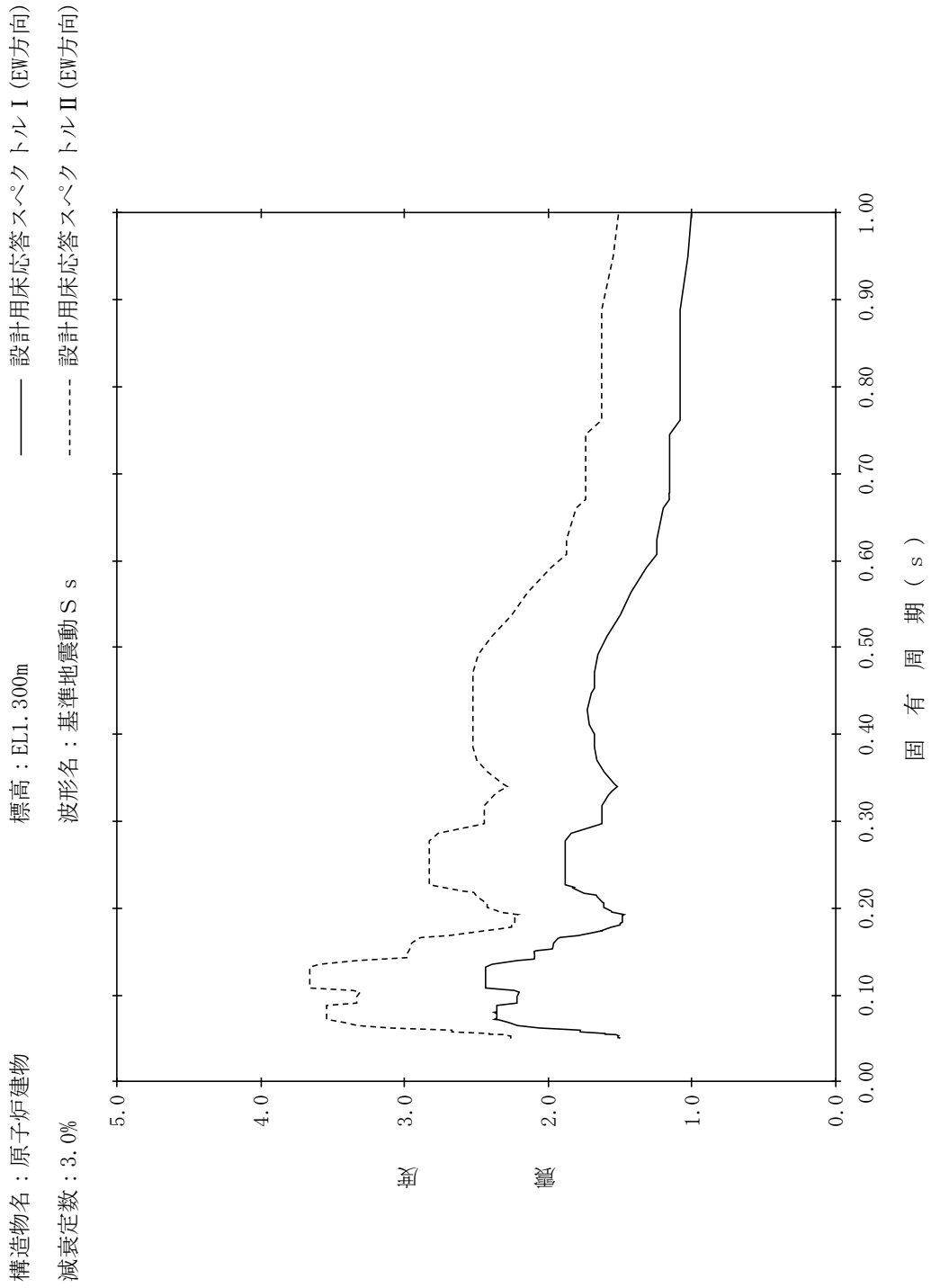
構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



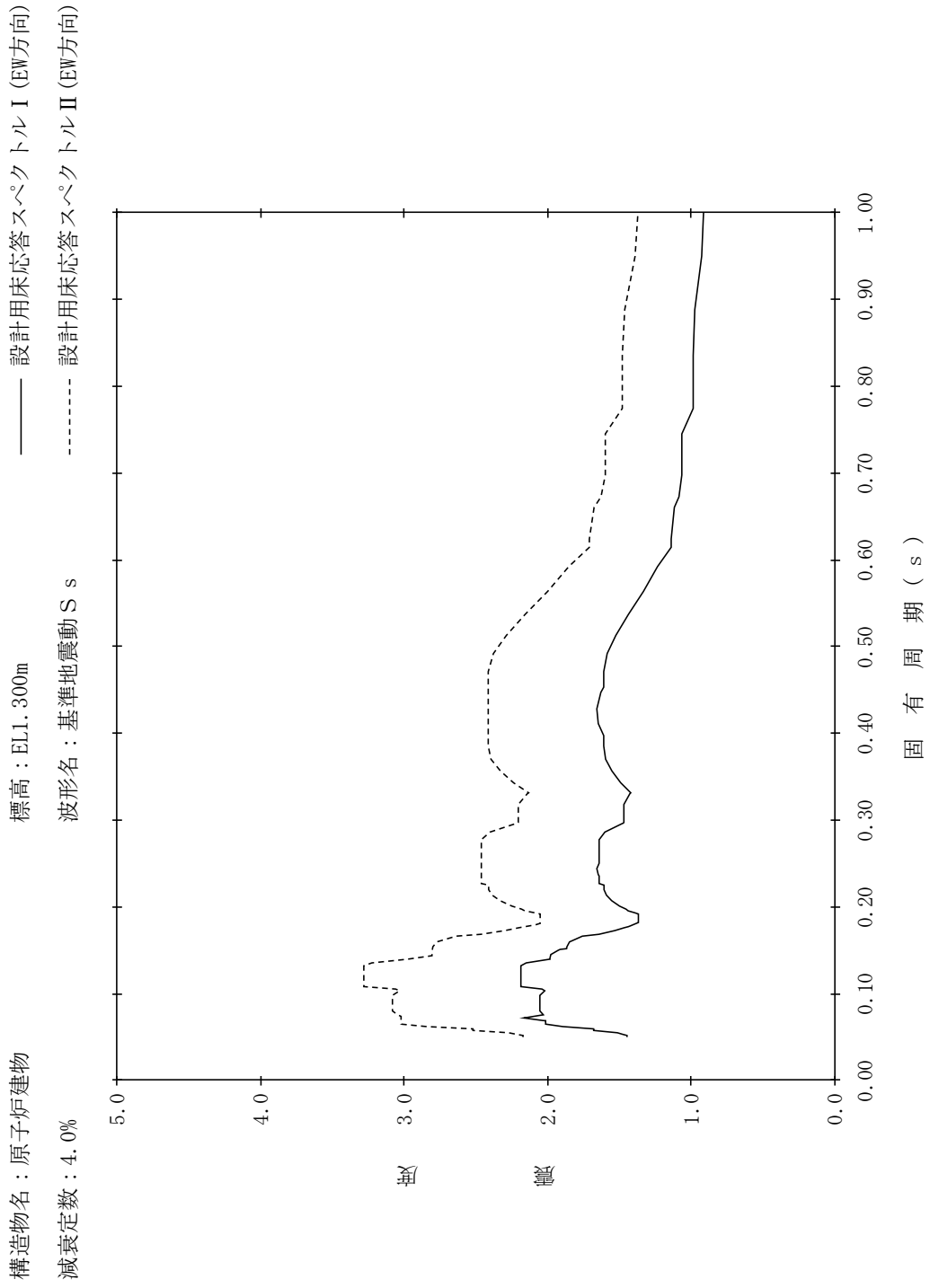
【NS2-RB-SsEW-RB85】



【NS2-RB-SsEW-RB86】

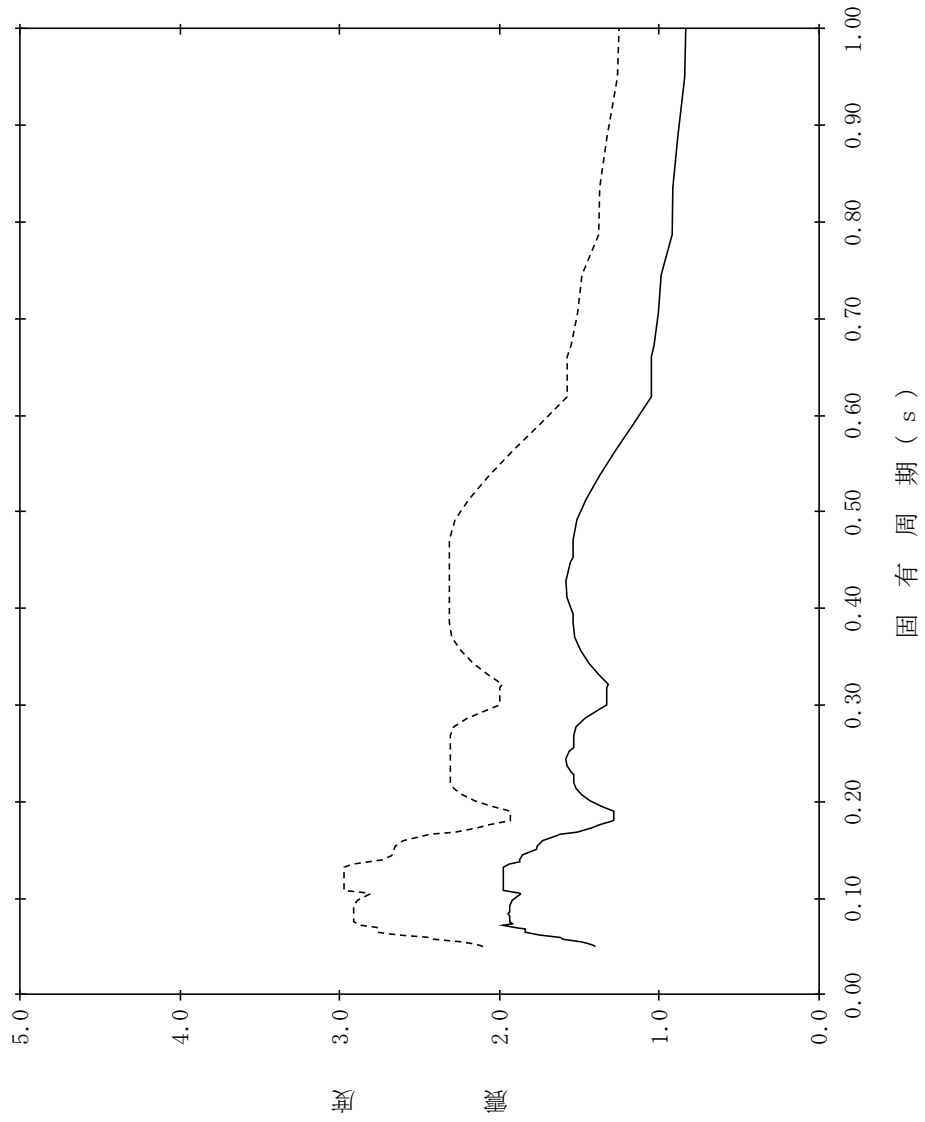


【NS2-RB-SsEW-RB87】

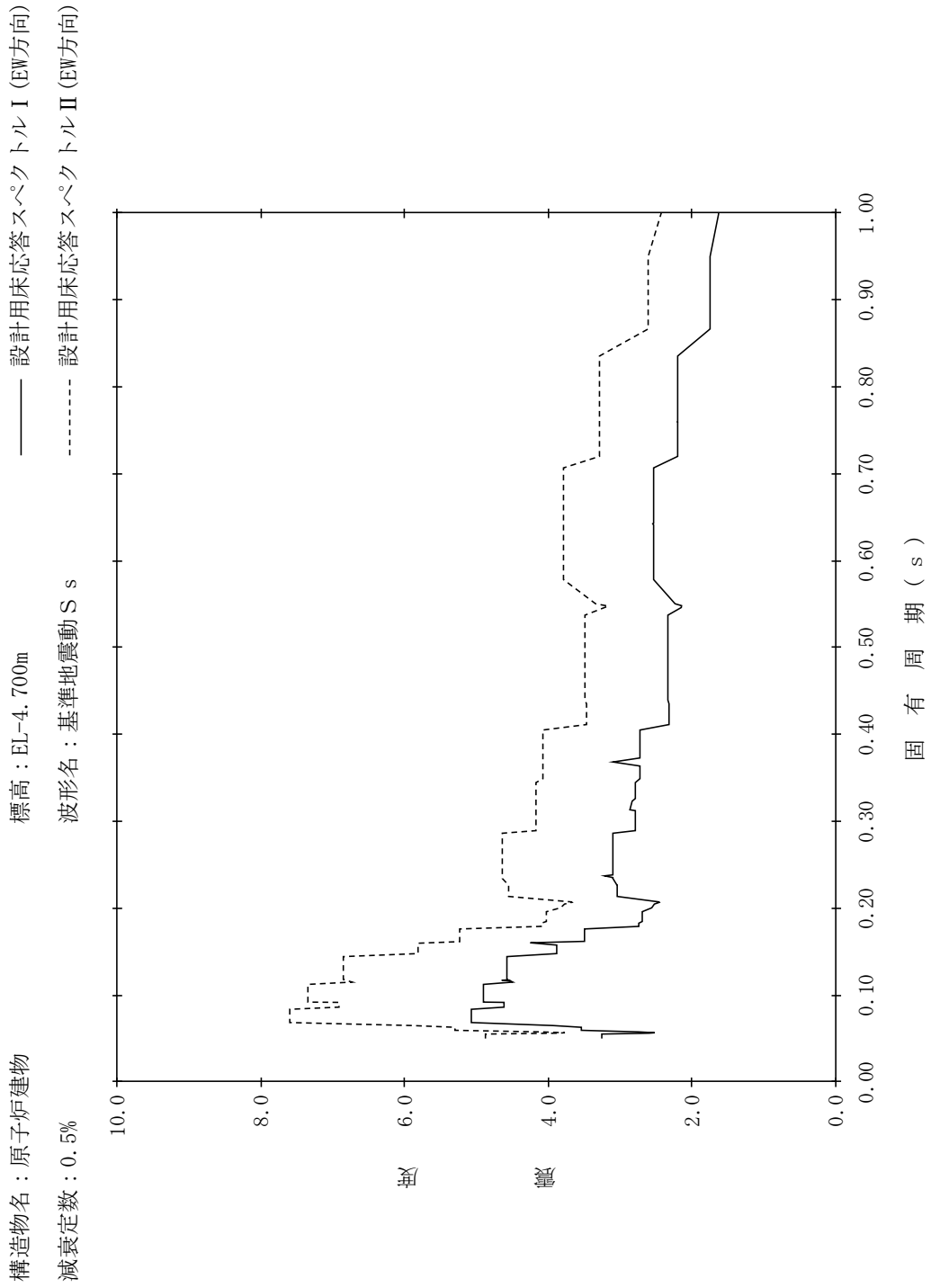


【NS2-RB-SsEW-RB88】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

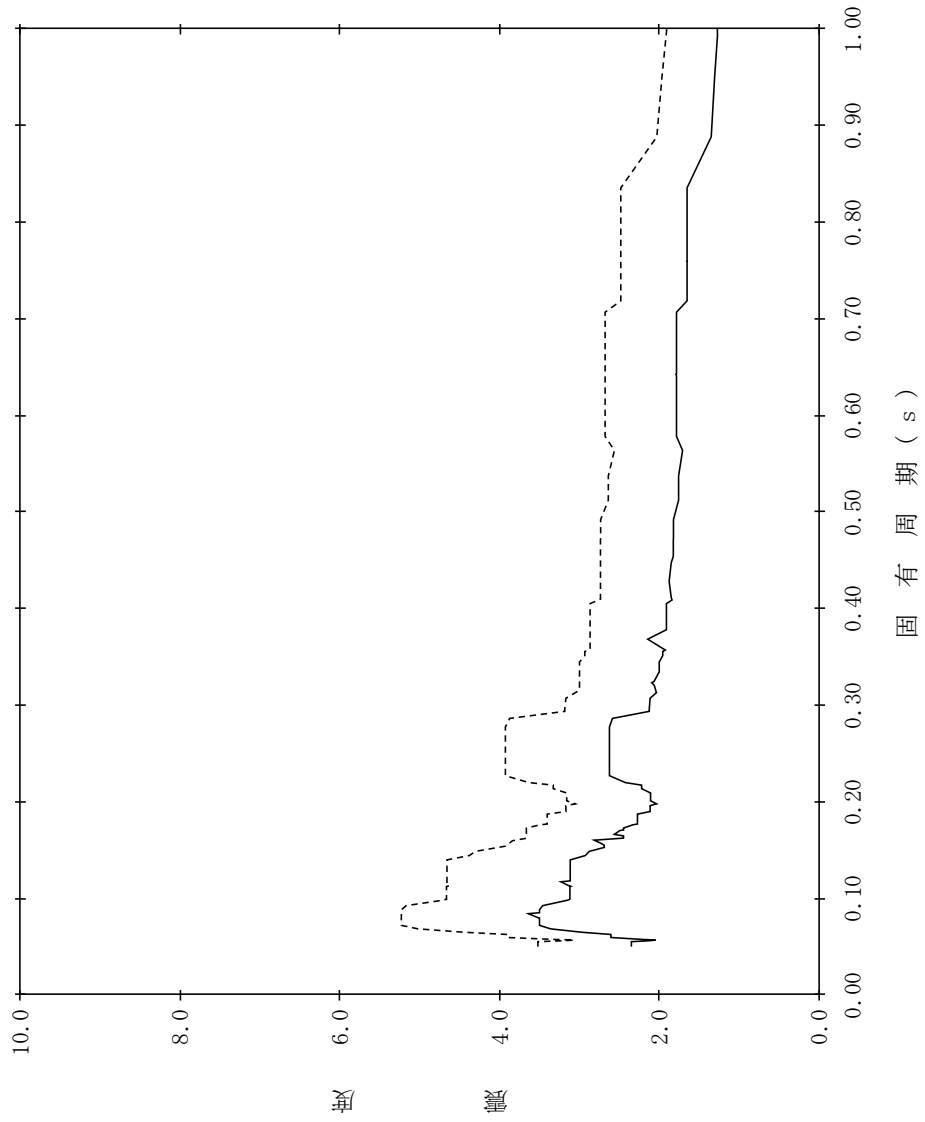


【NS2-RB-SsEW-RB89】



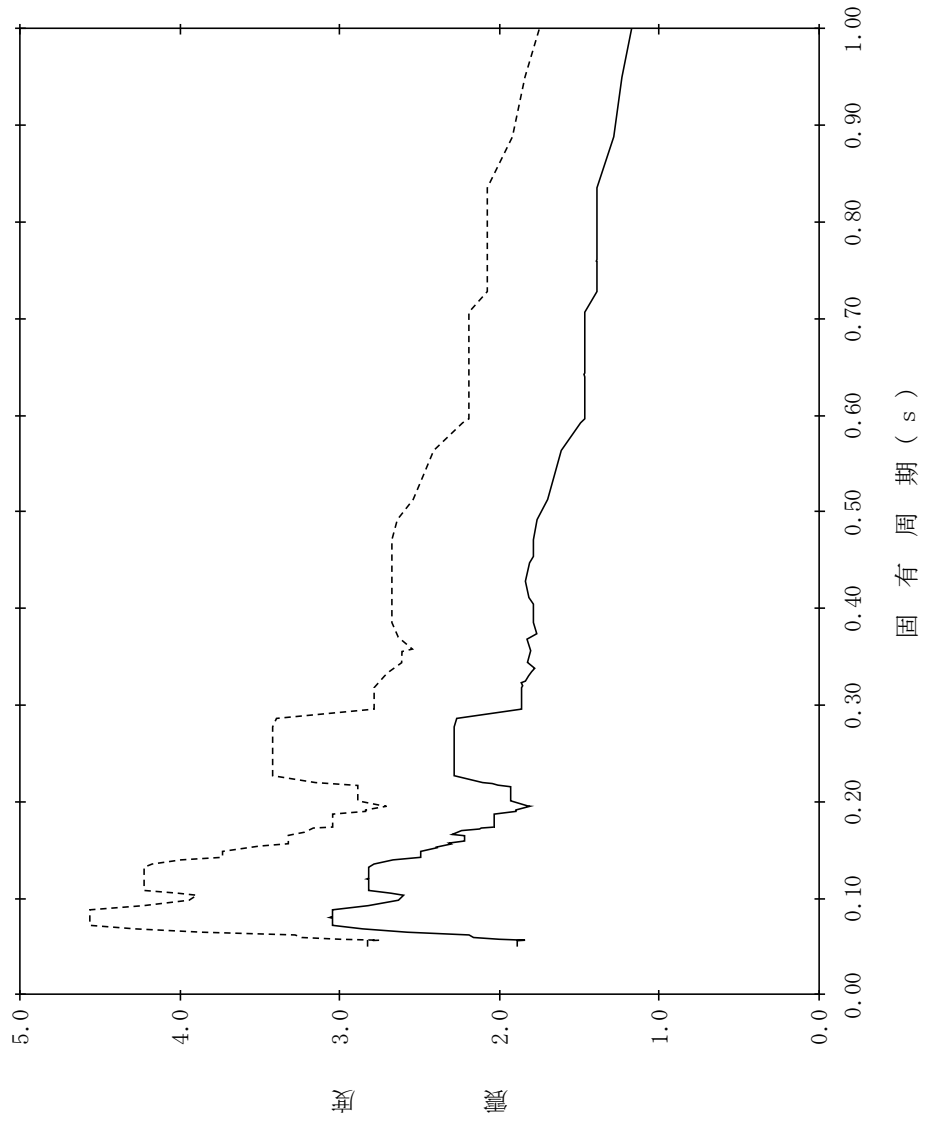
【NS2-RB-SsEW-RB90】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

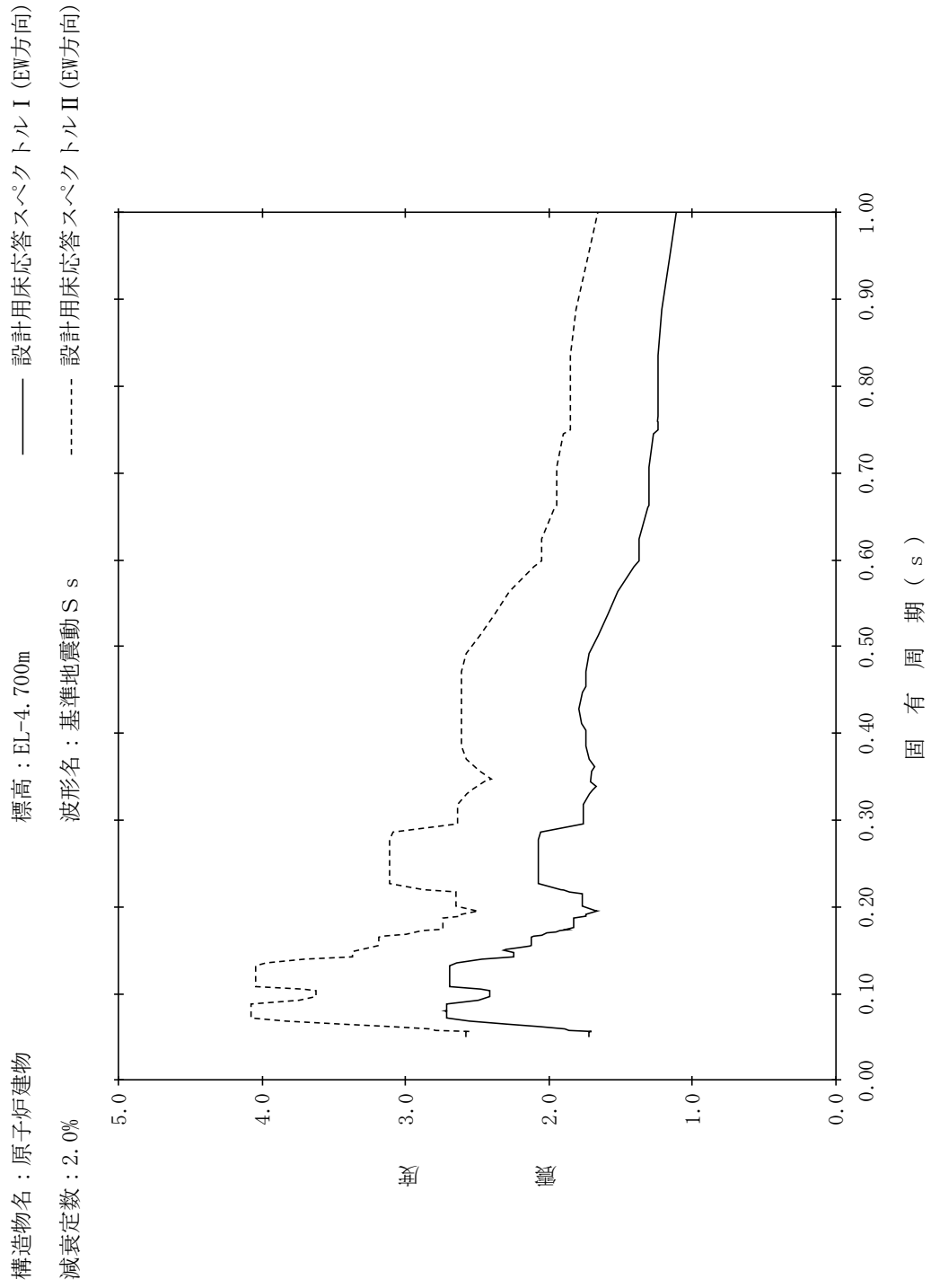


【NS2-RB-SsEW-RB91】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

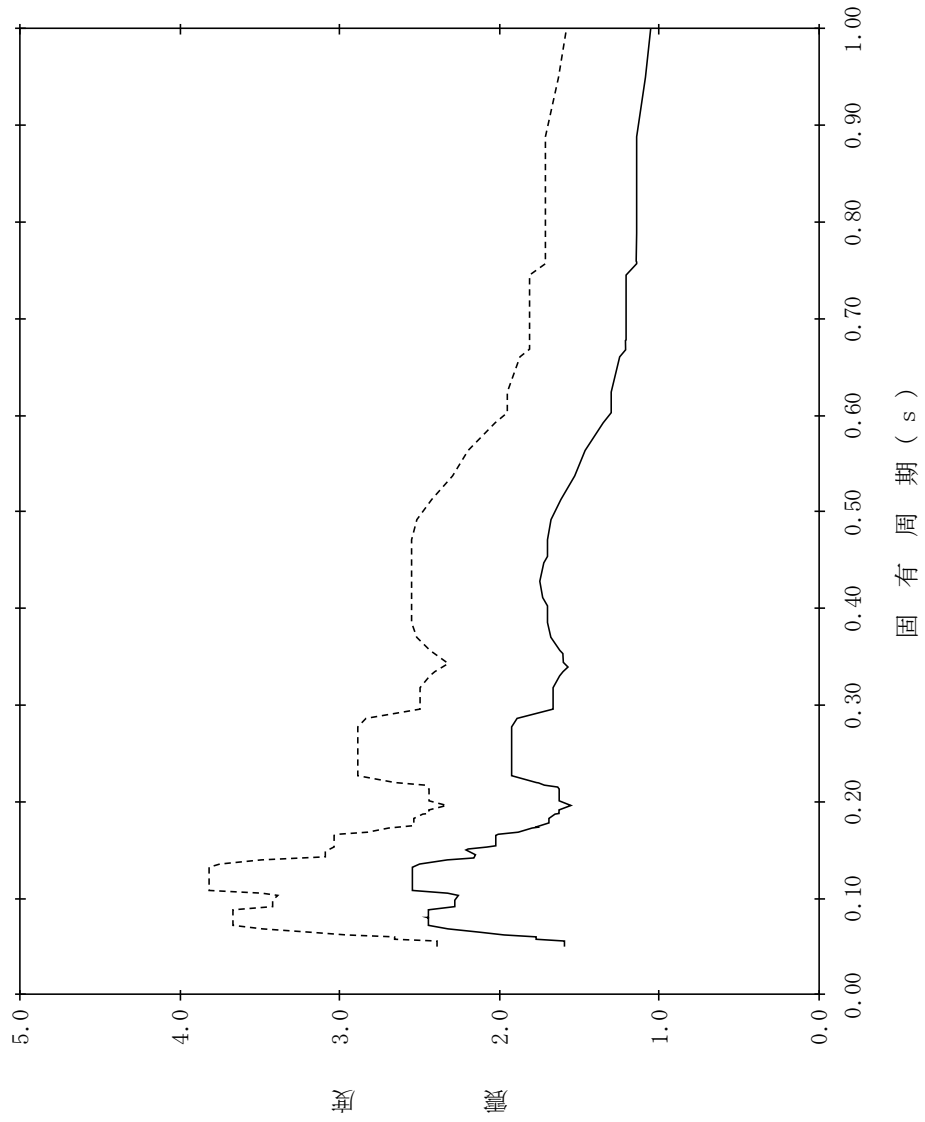


【NS2-RB-SsEW-RB92】



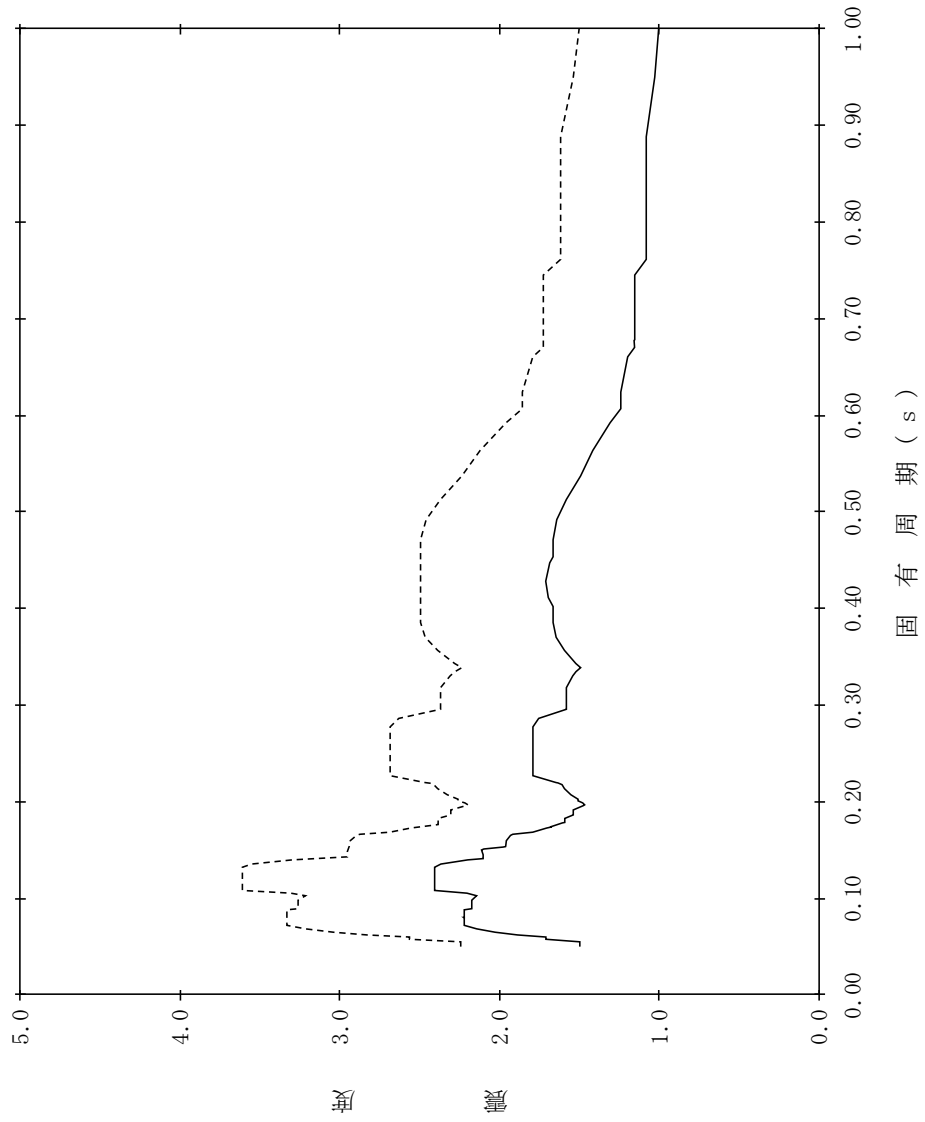
【NS2-RB-SsEW-RB93】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：2.5%
 波形式：標準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



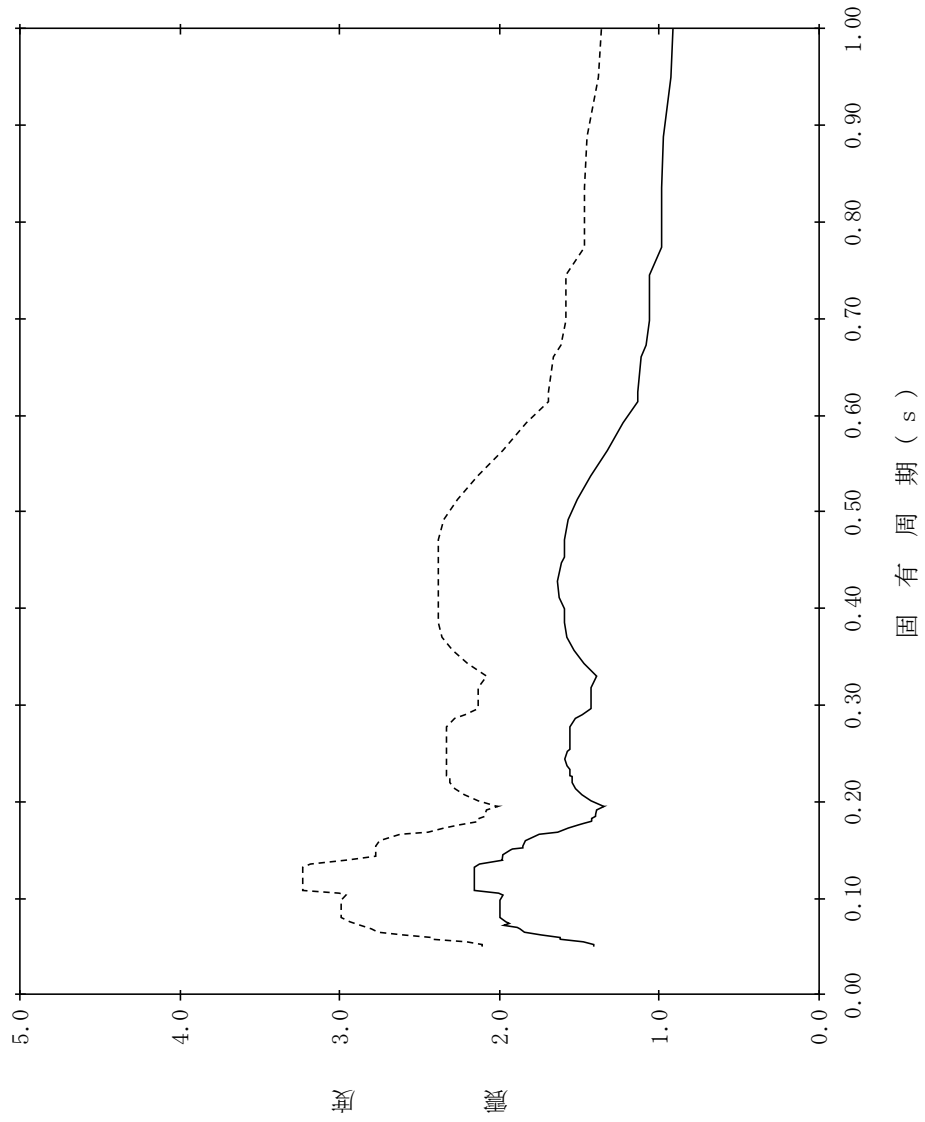
【NS2-RB-SsEW-RB94】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



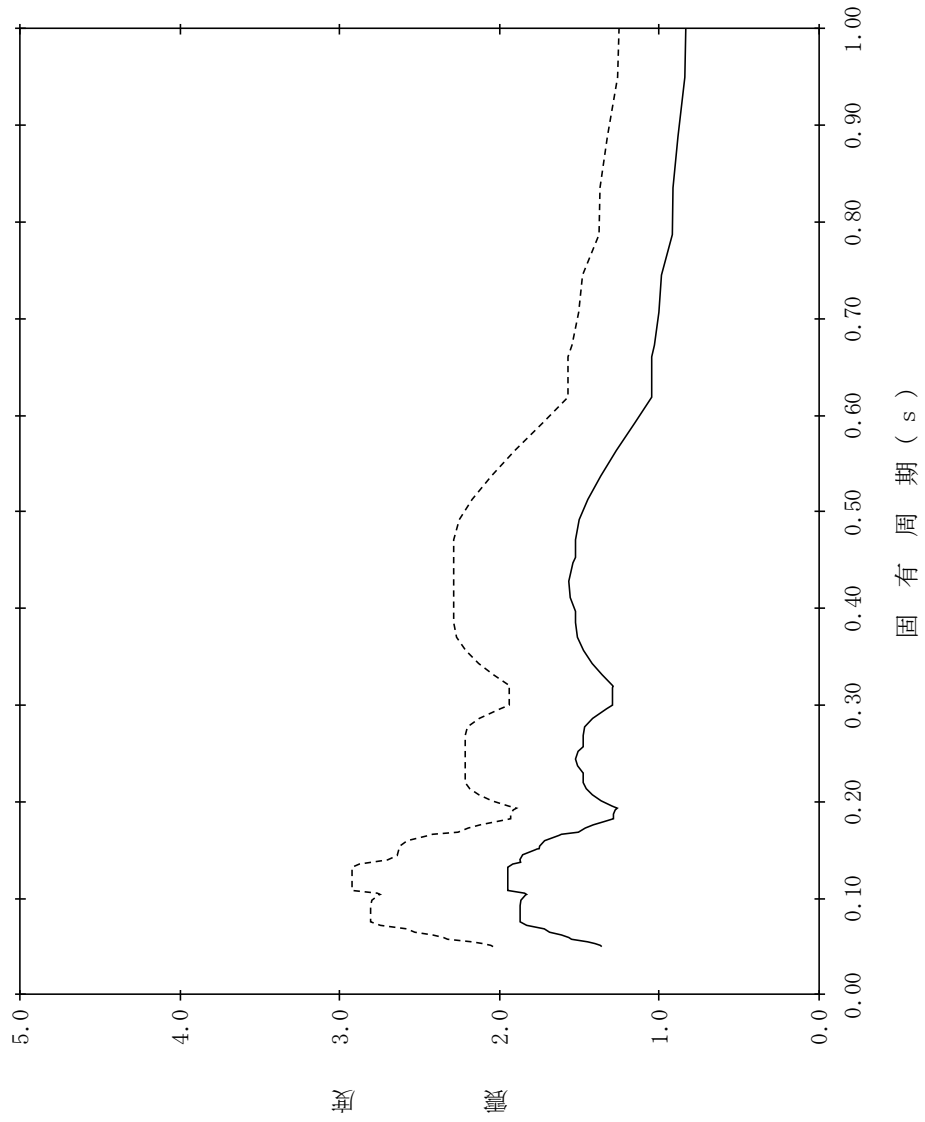
【NS2-RB-SsEW-RB95】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

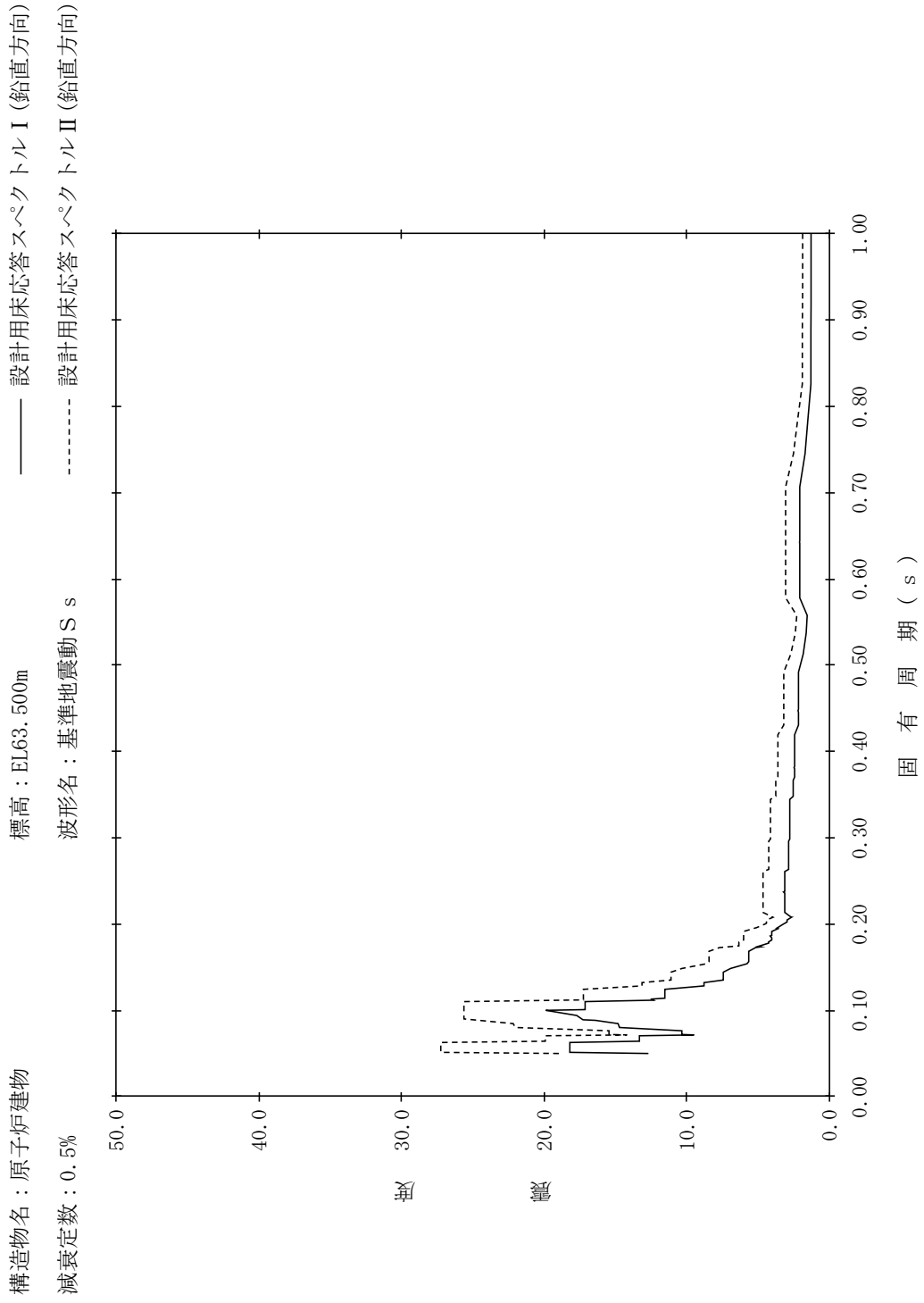


【NS2-RB-SsEW-RB96】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

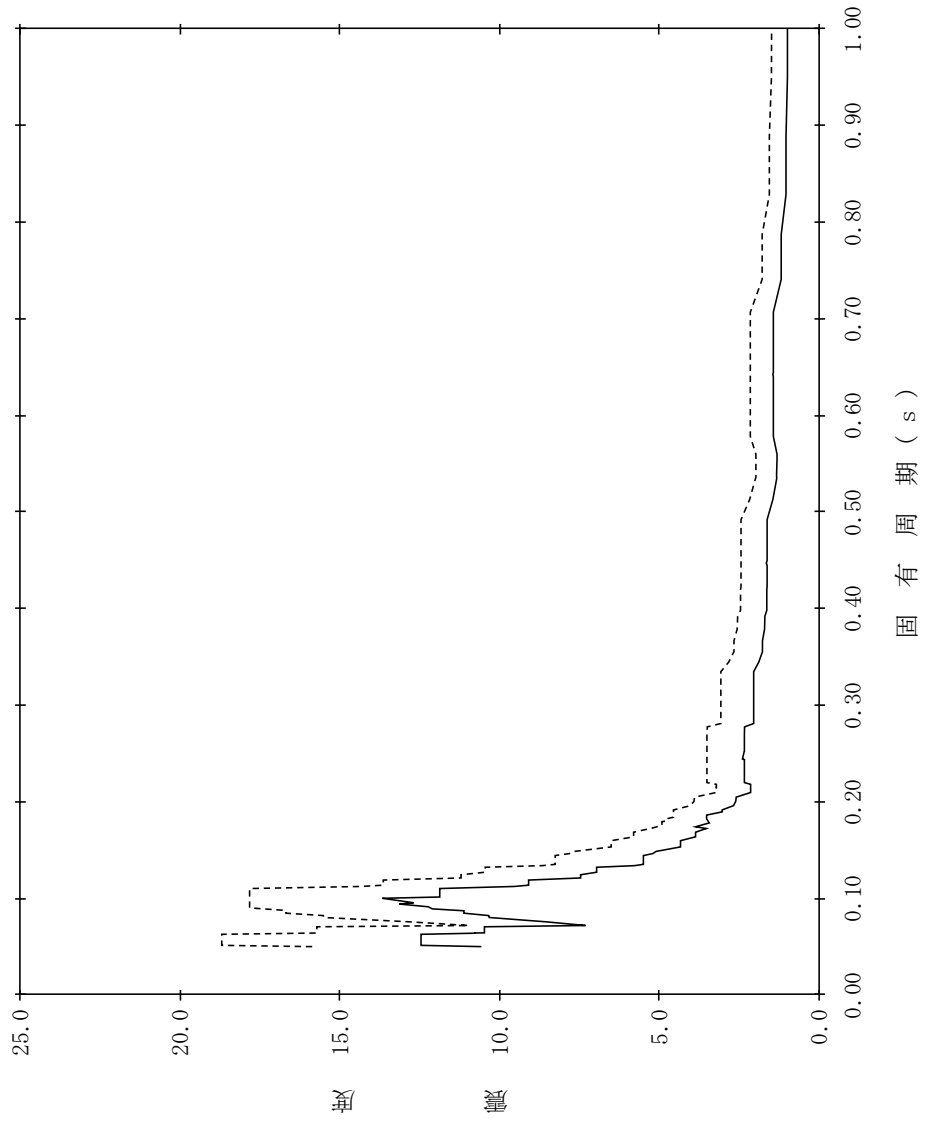


【NS2-RB-SsV-RB1】



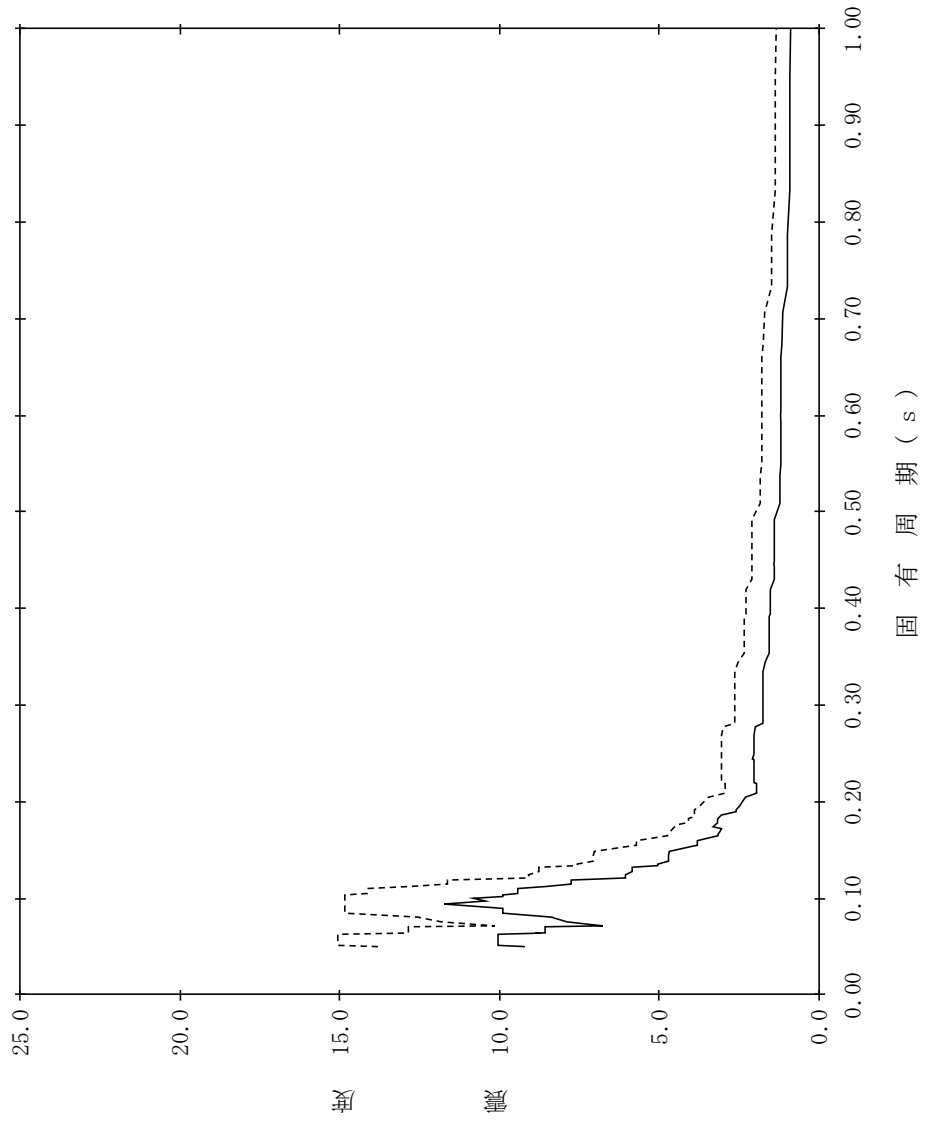
【NS2-RB-SsV-RB2】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



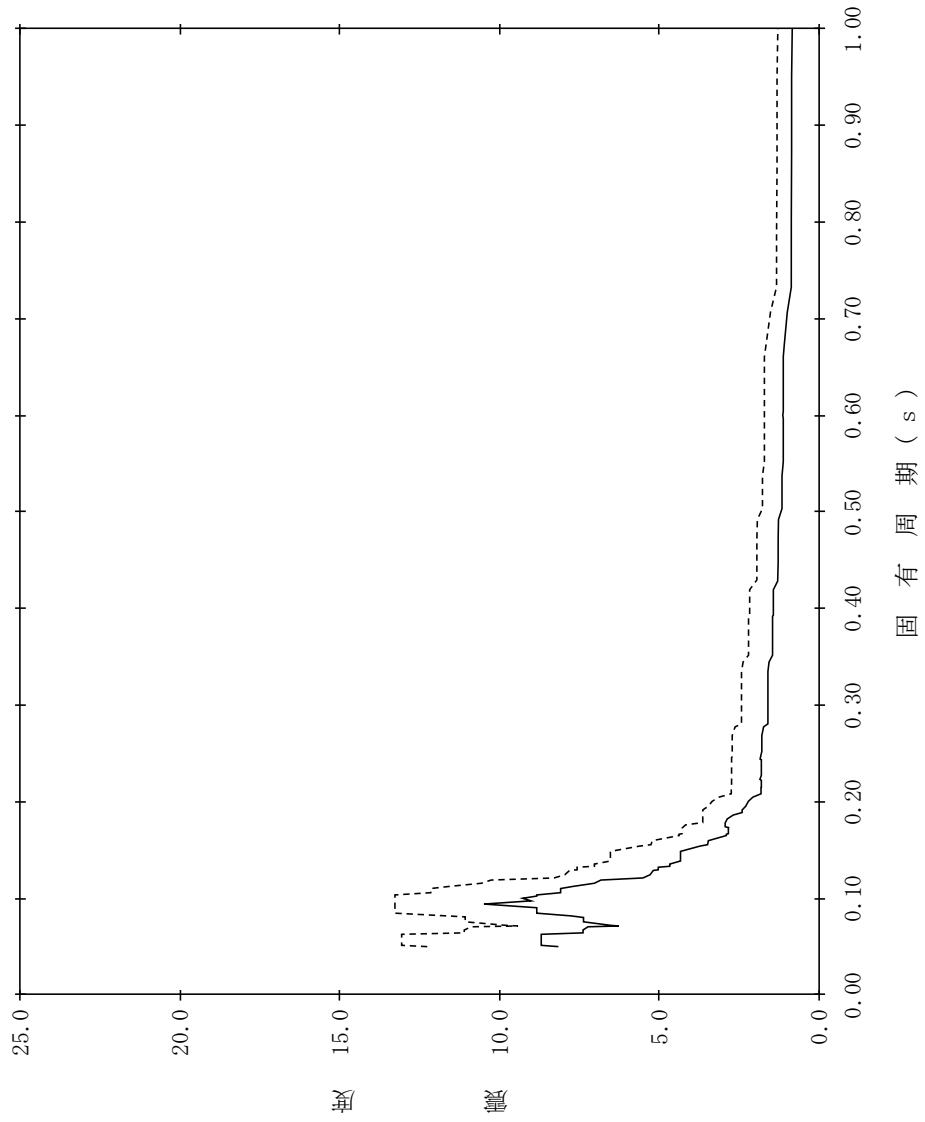
【NS2-RB-SsV-RB3】

構造物名：原子炉建物
標高：EL63.500m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

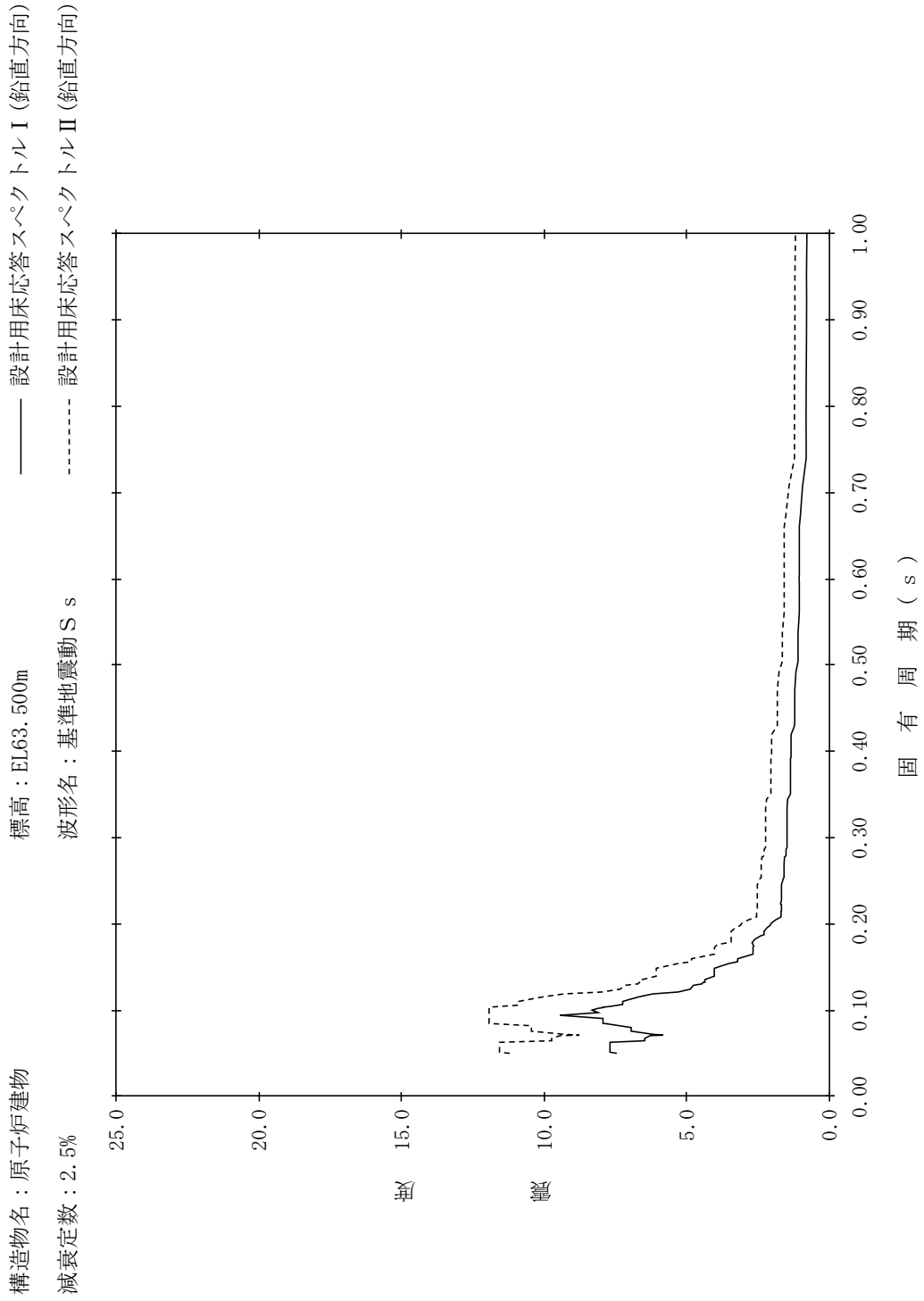


【NS2-RB-SsV-RB4】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

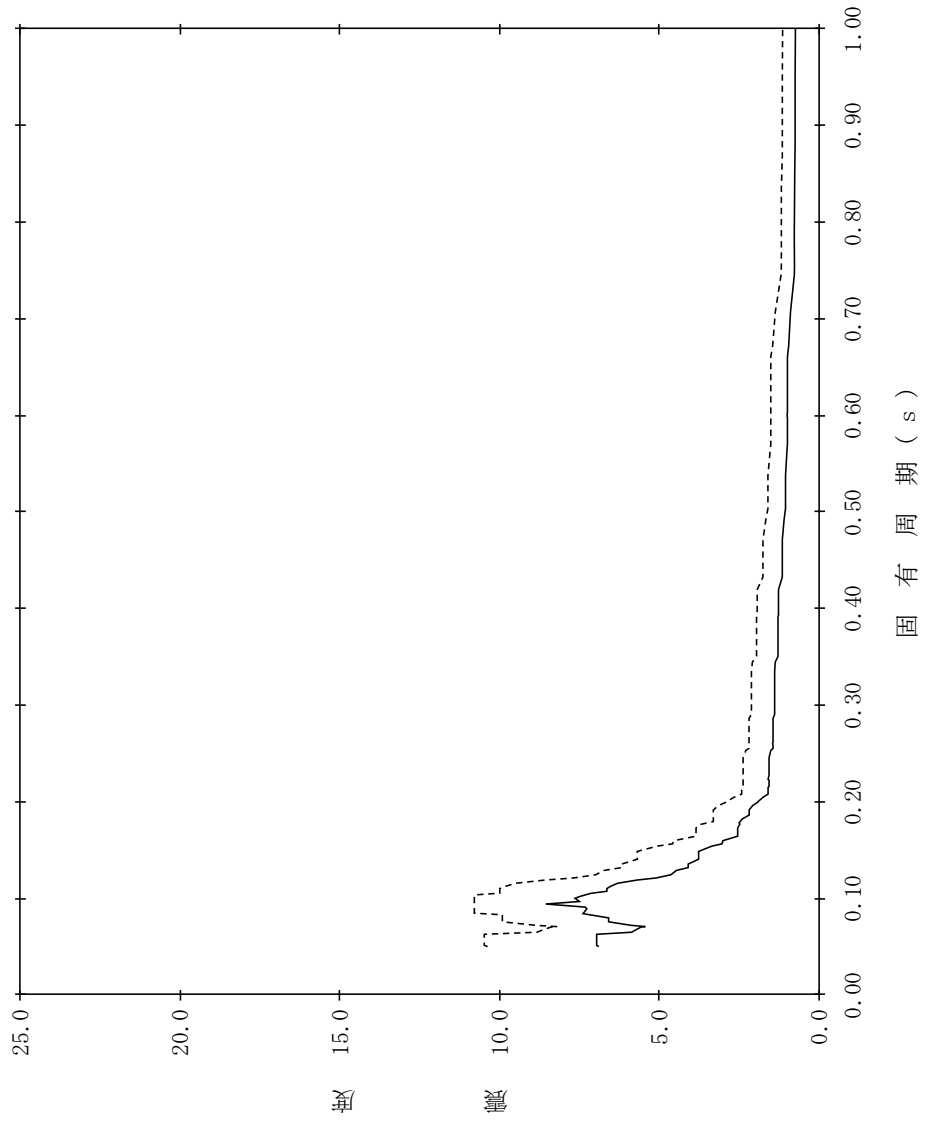


【NS2-RB-SsV-RB5】



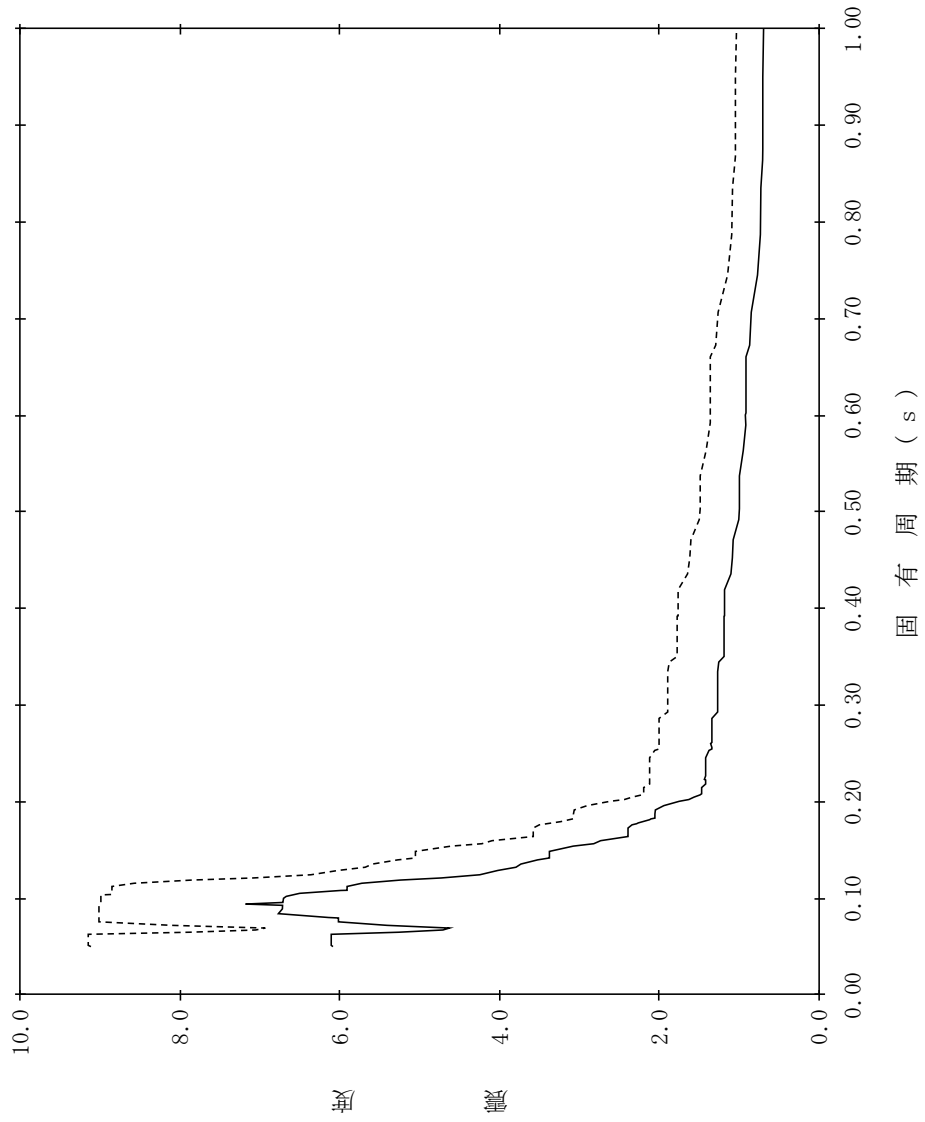
【NS2-RB-SsV-RB6】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



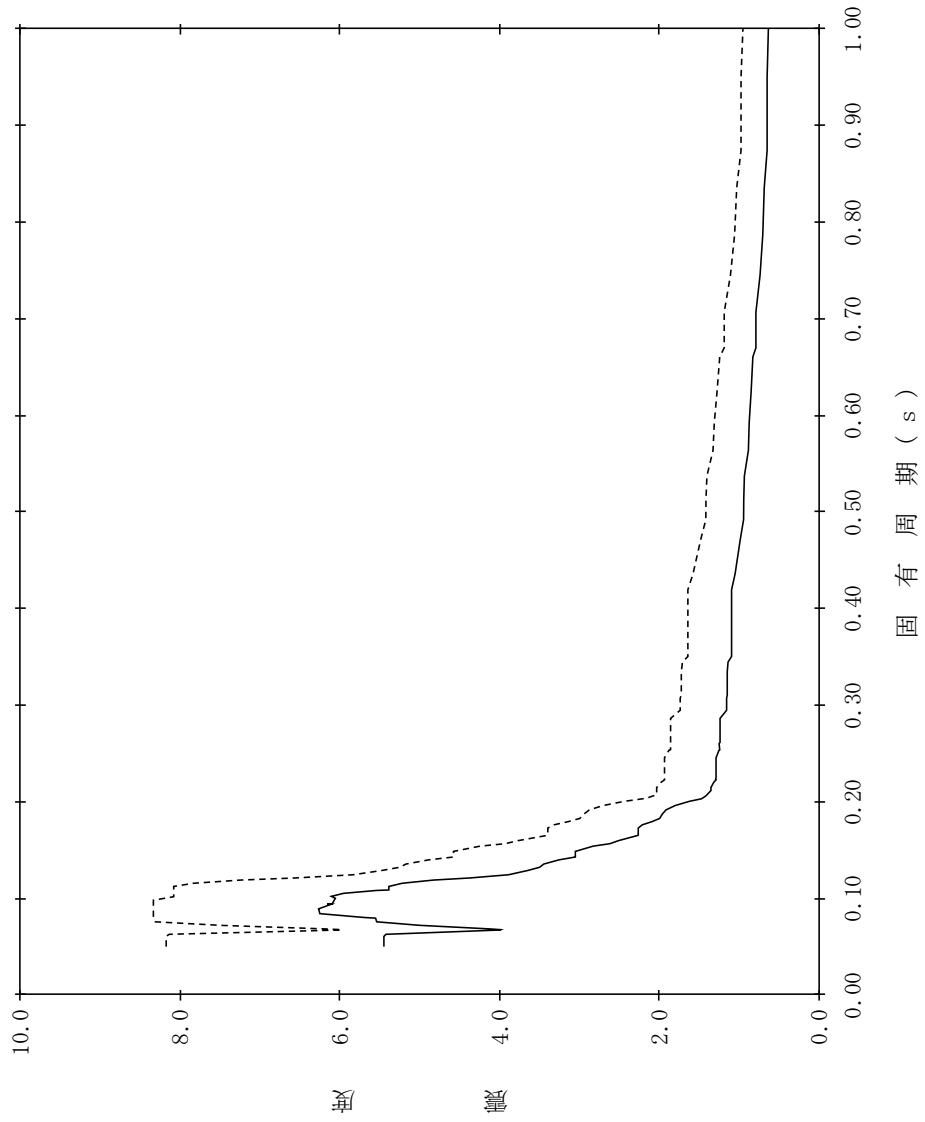
【NS2-RB-SsV-RB7】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

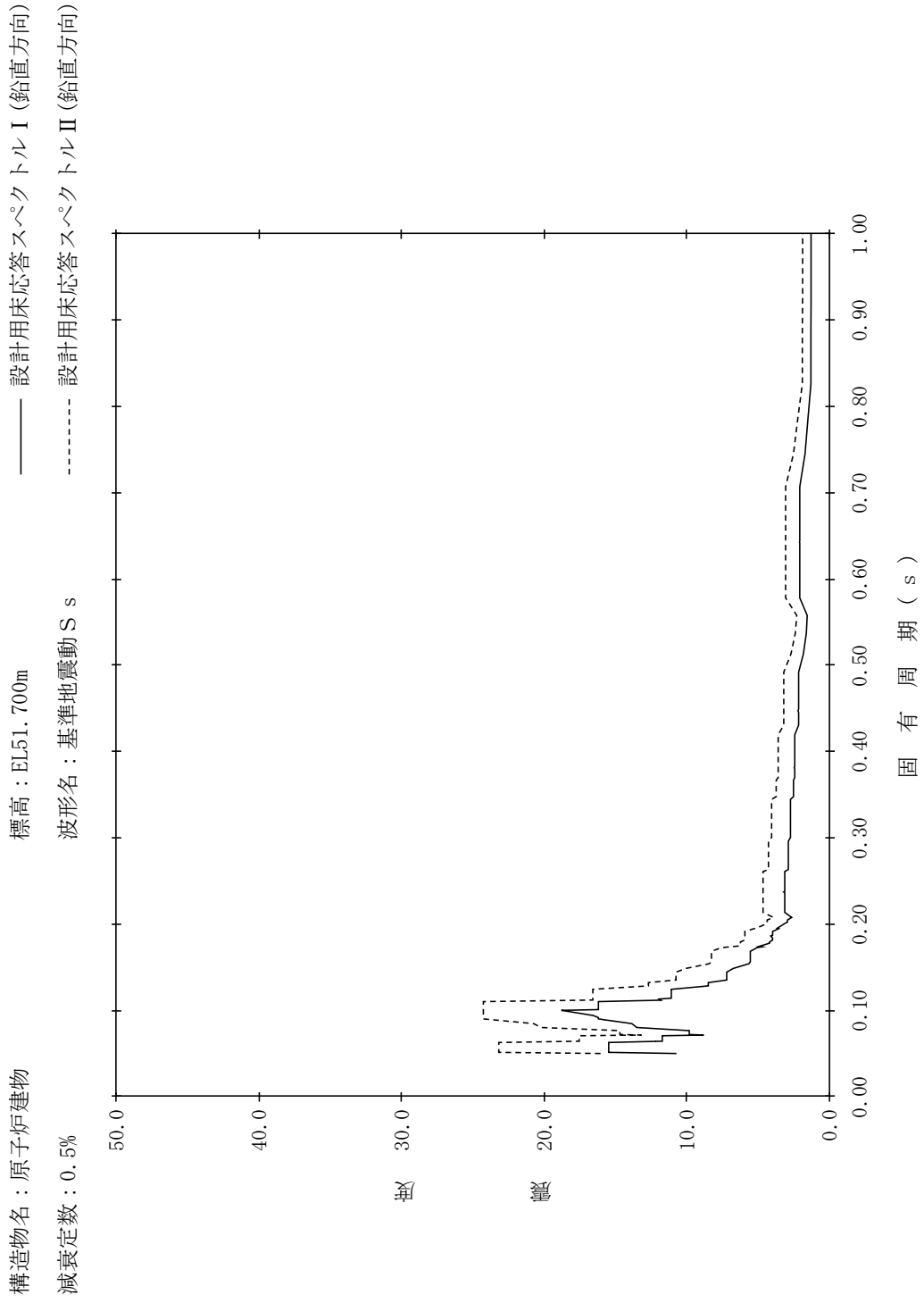


【NS2-RB-SsV-RB8】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL63.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

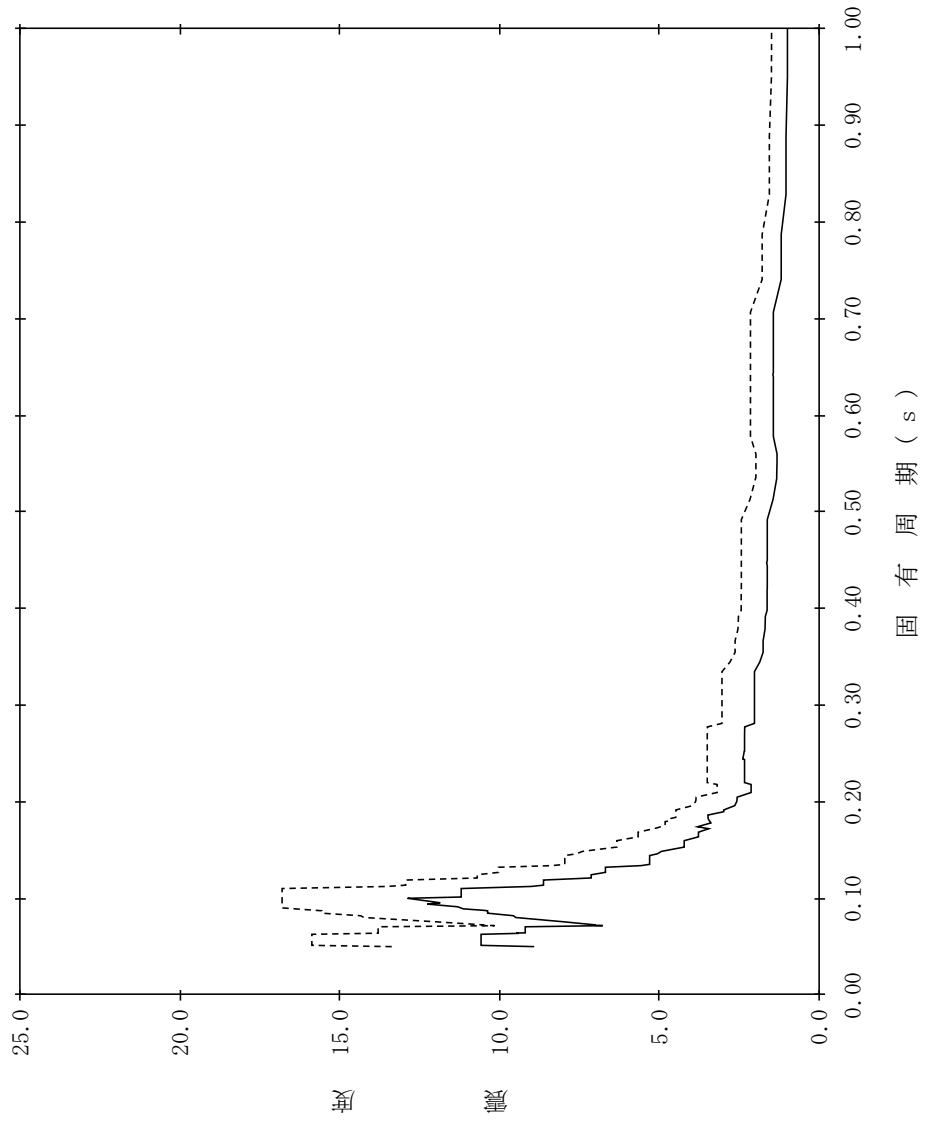


【NS2-RB-SsV-RB9】

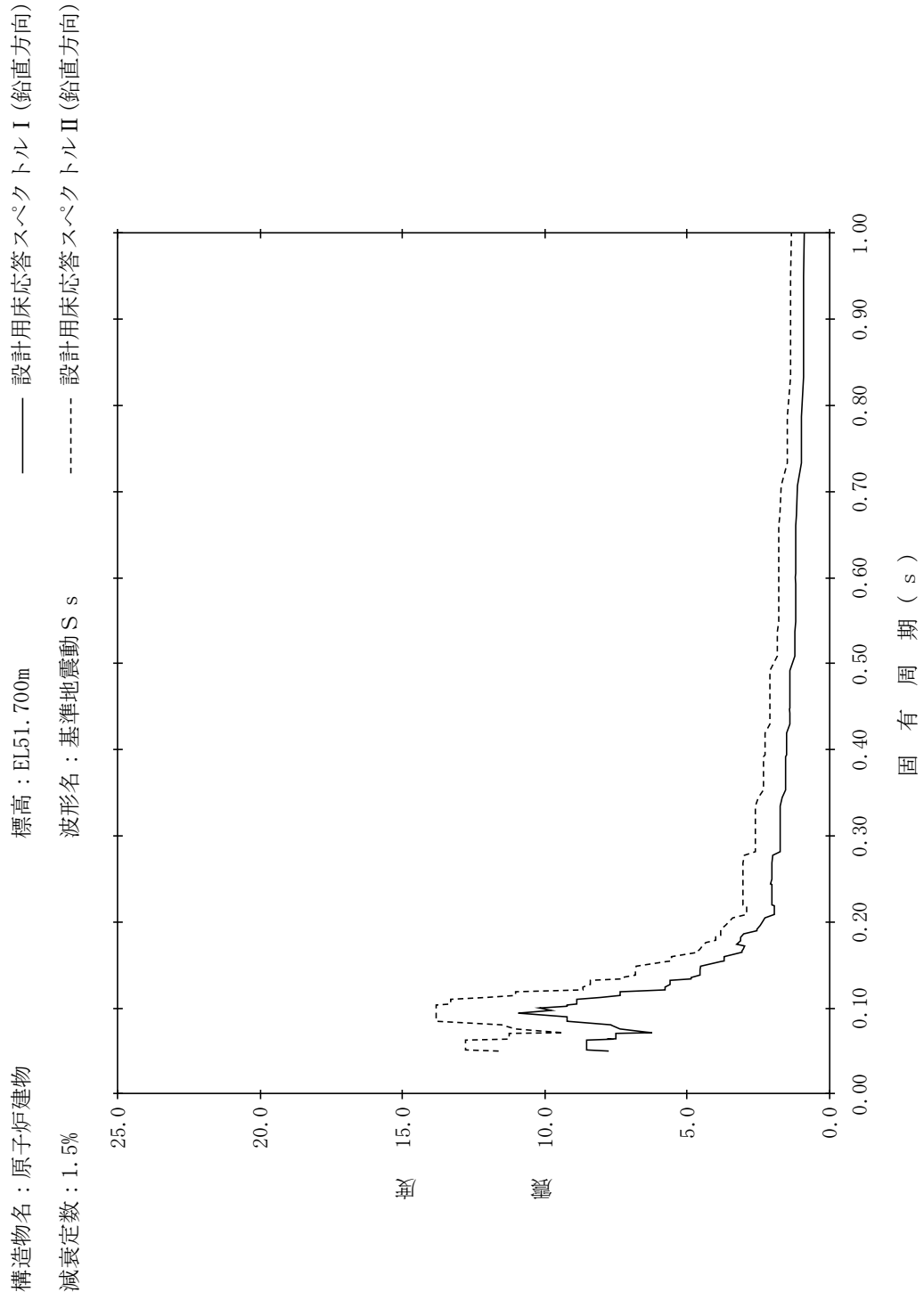


【NS2-RB-SsV-RB10】

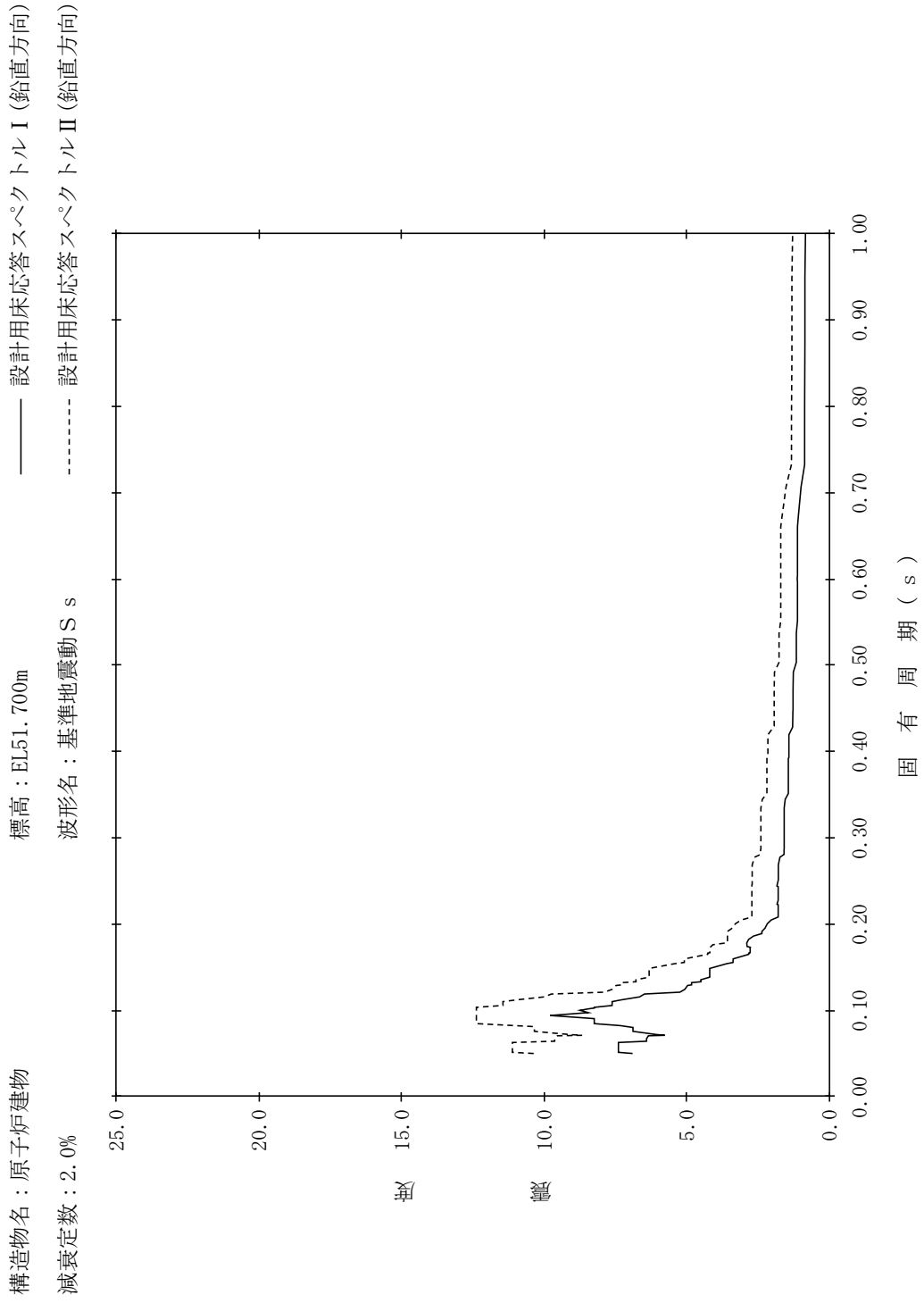
構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



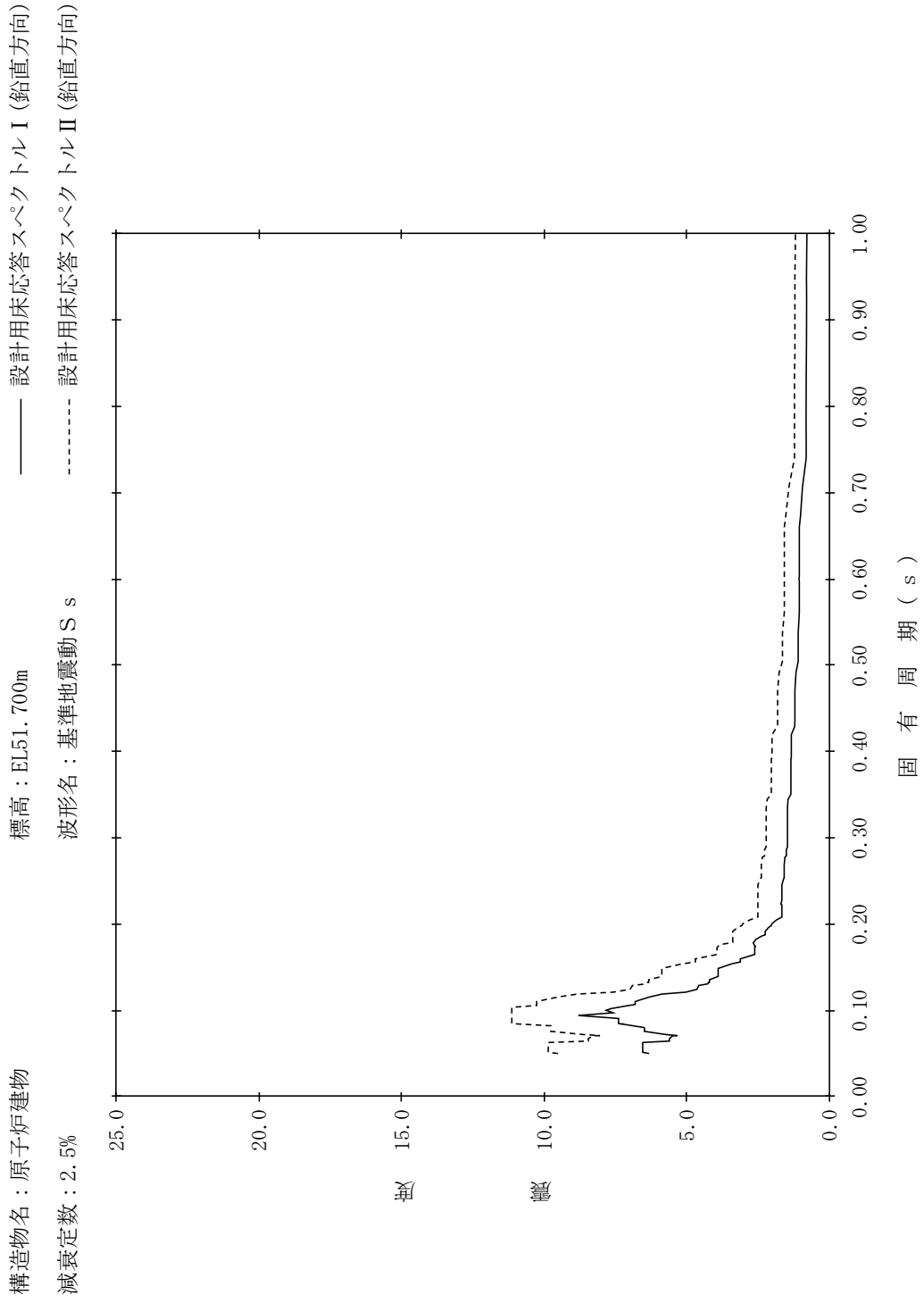
【NS2-RB-SsV-RB11】



【NS2-RB-SsV-RB12】

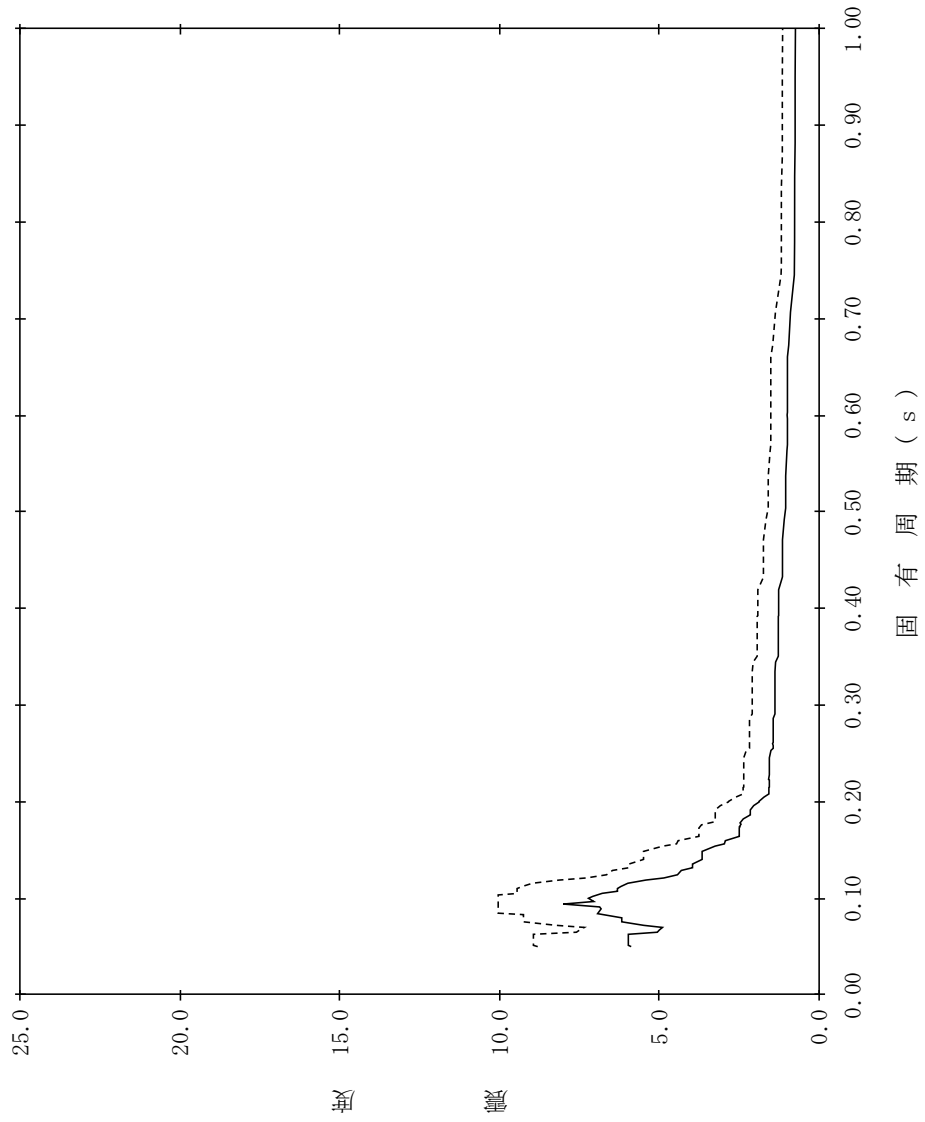


【NS2-RB-SsV-RB13】



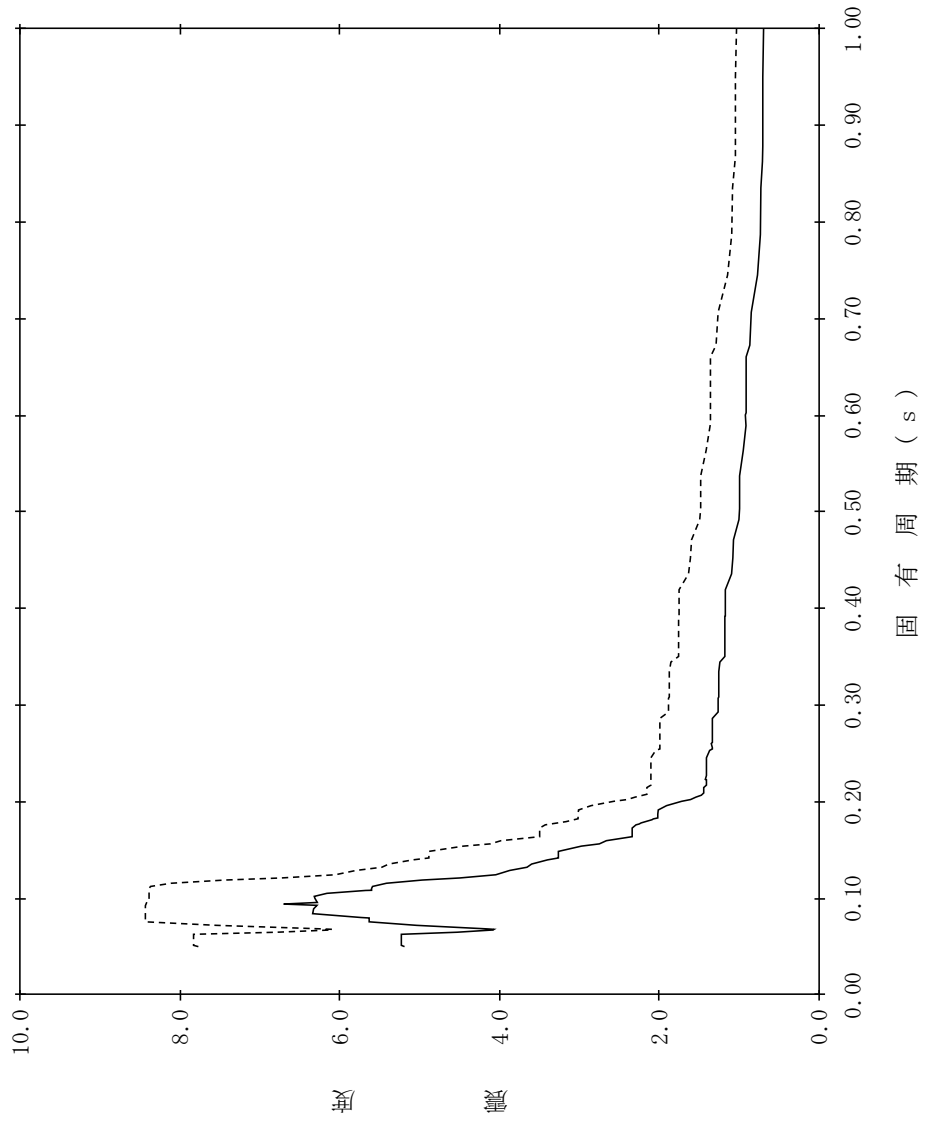
【NS2-RB-SsV-RB14】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



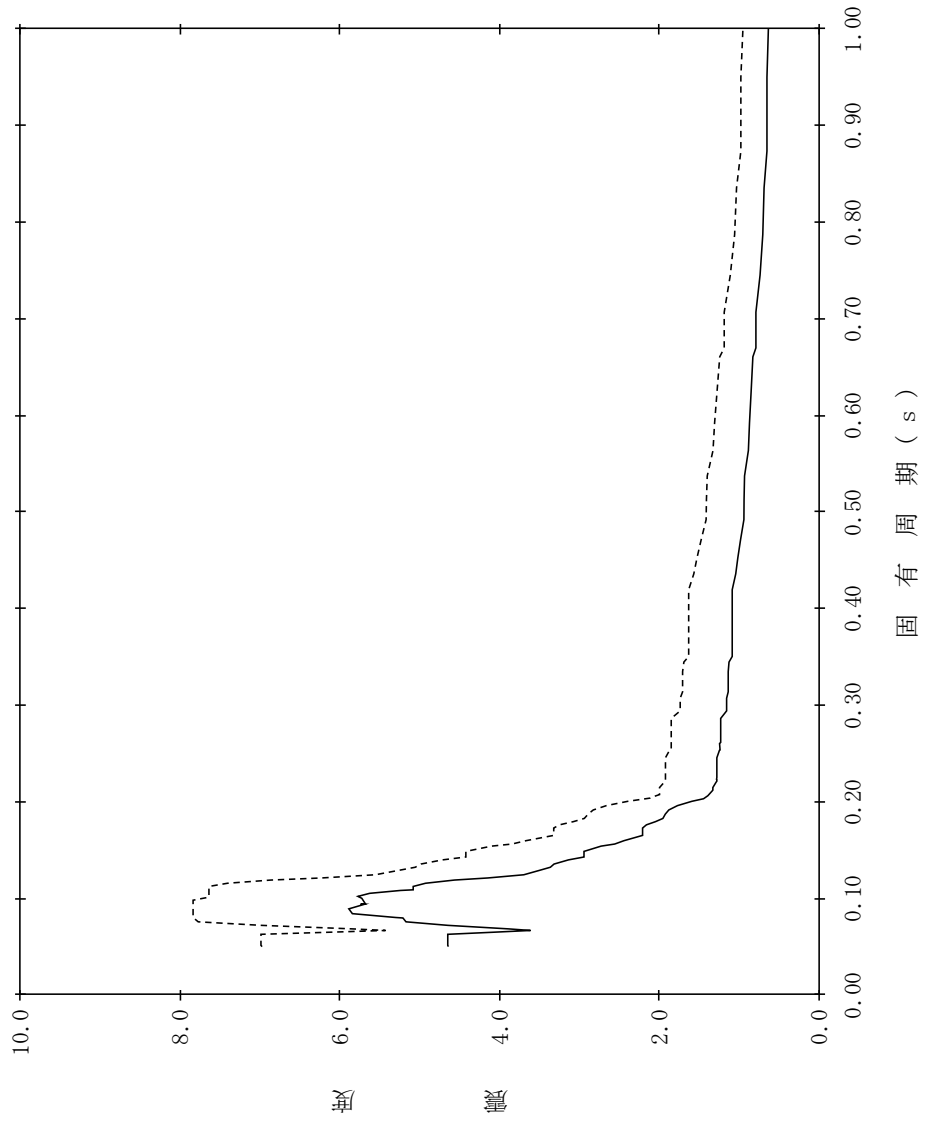
【NS2-RB-SsV-RB15】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

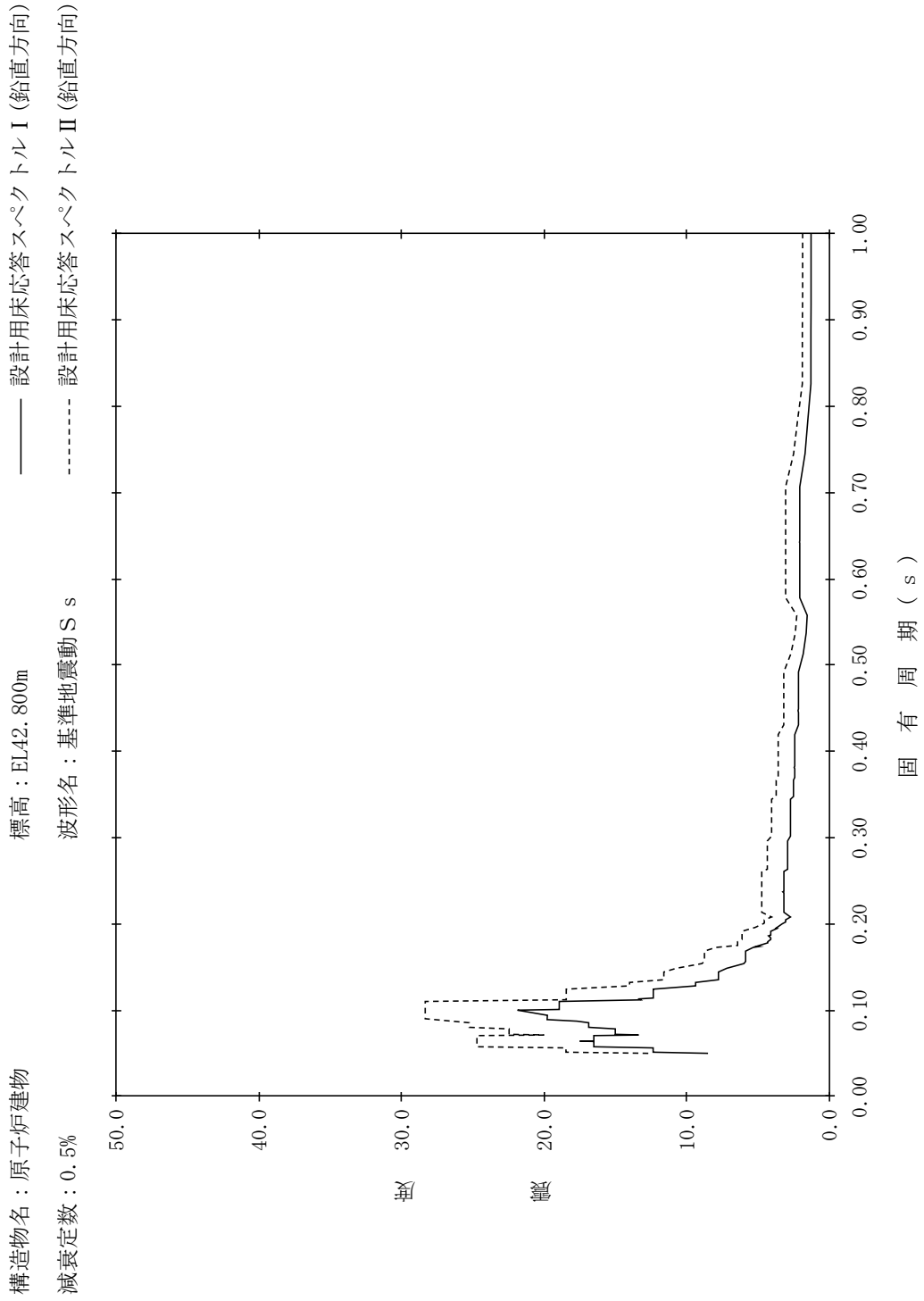


【NS2-RB-SsV-RB16】

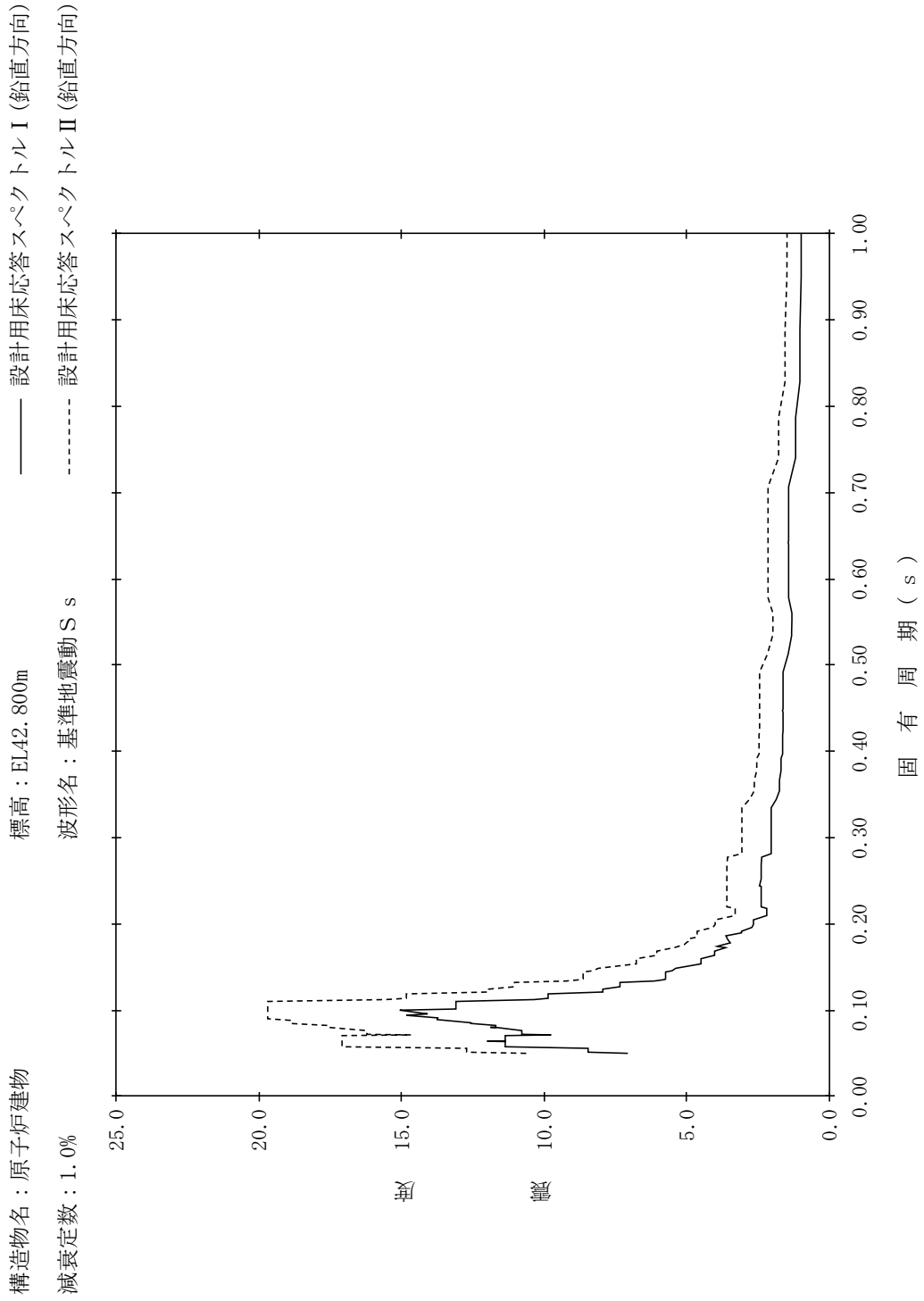
構造物名：原子炉建物
 標高：EL51.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



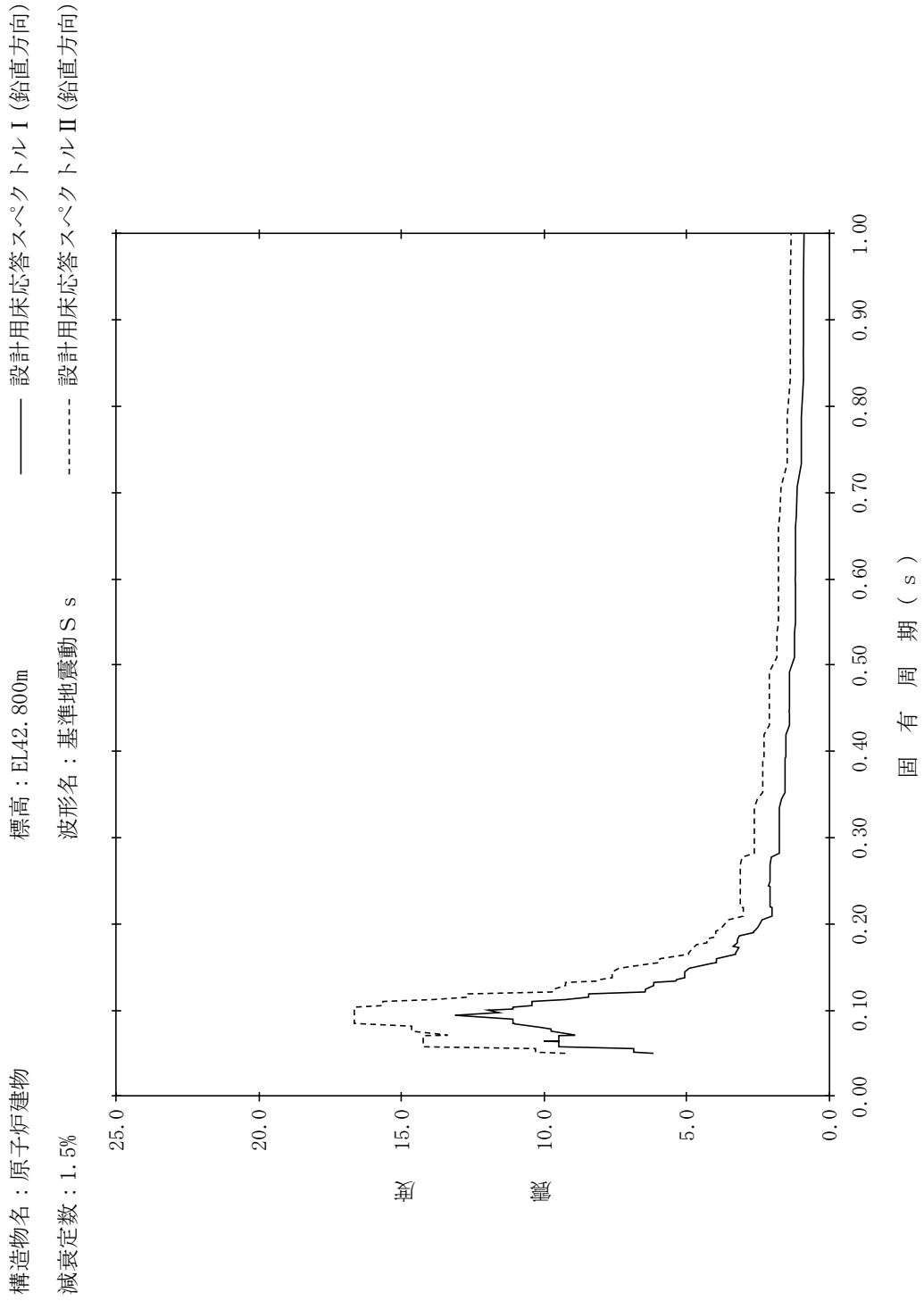
【NS2-RB-SsV-RB17】



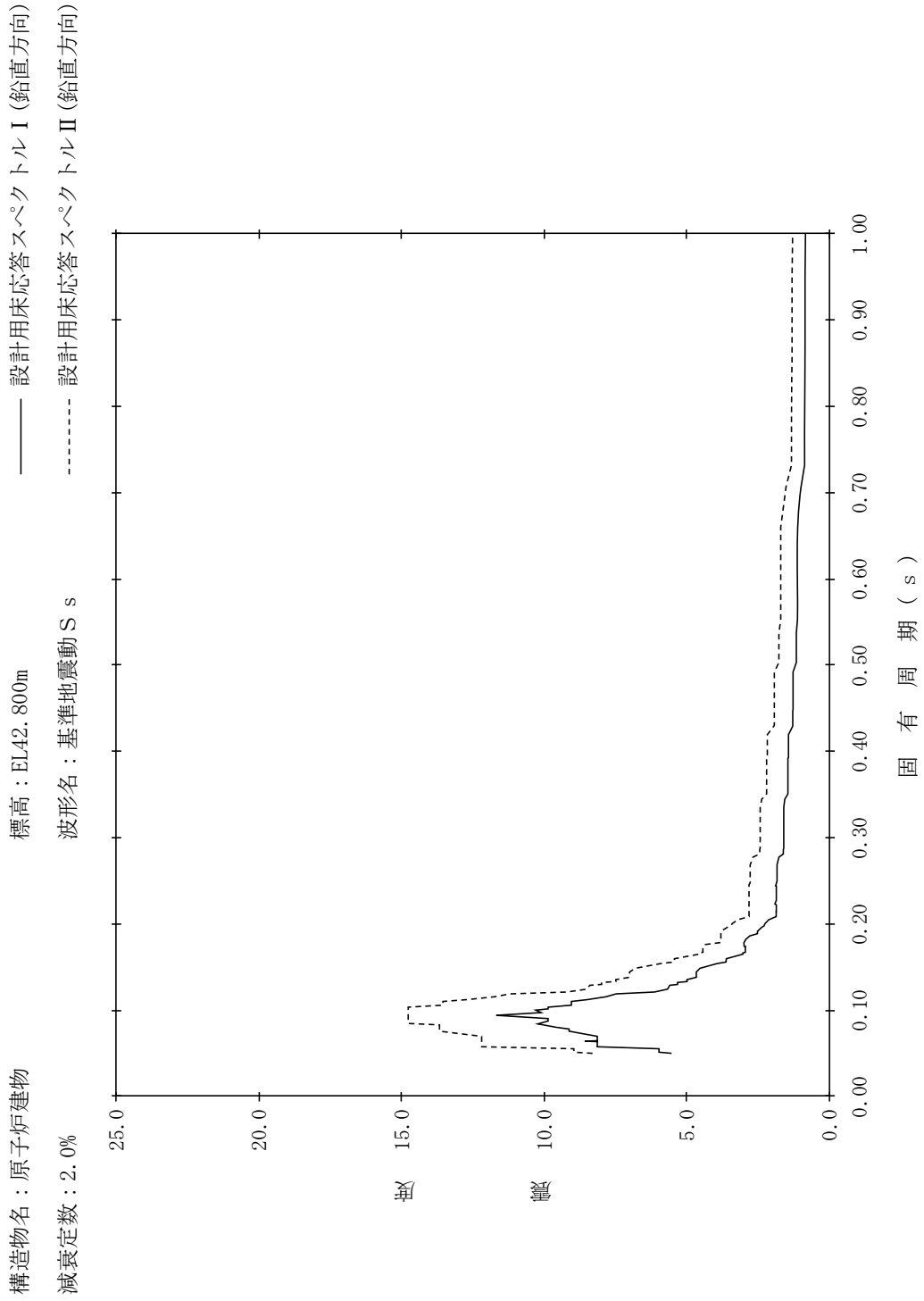
【NS2-RB-SsV-RB18】



【NS2-RB-SsV-RB19】

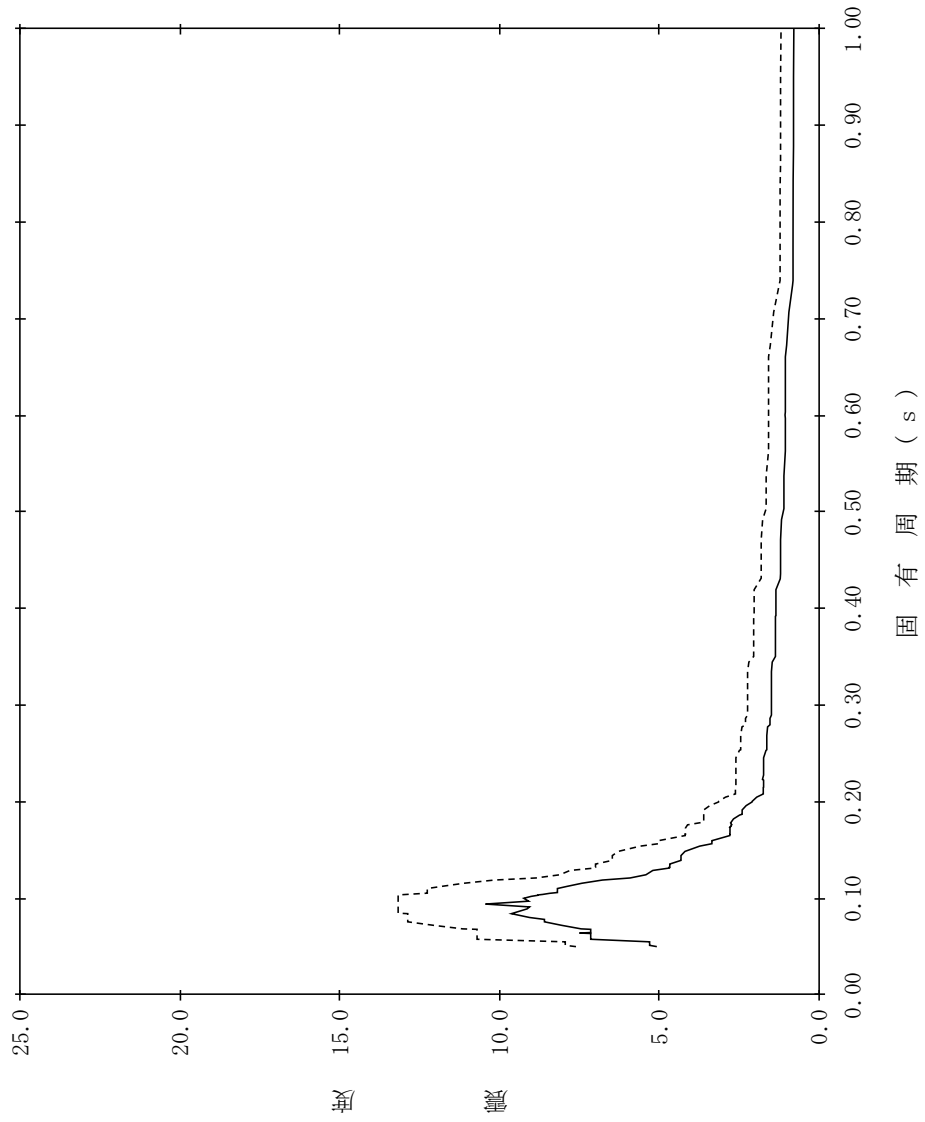


【NS2-RB-SsV-RB20】



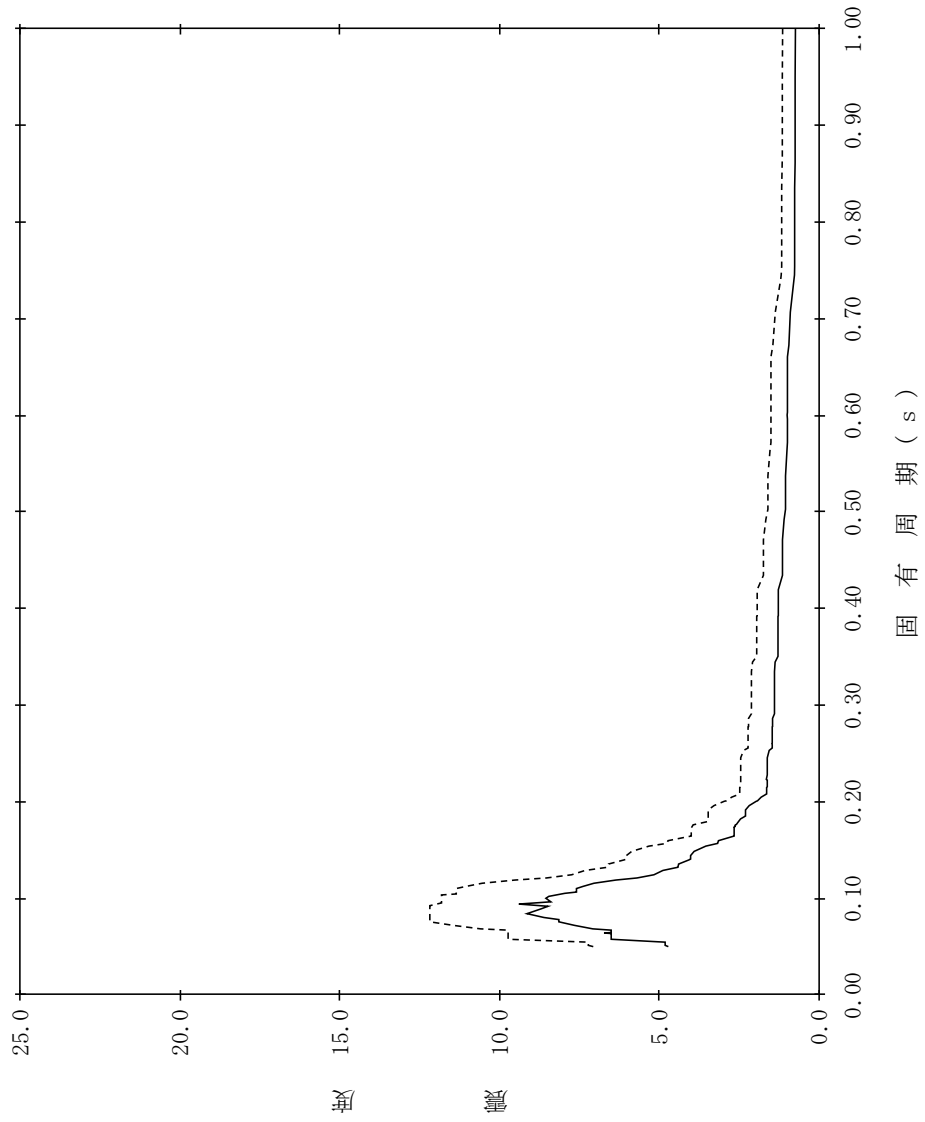
【NS2-RB-SsV-RB21】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

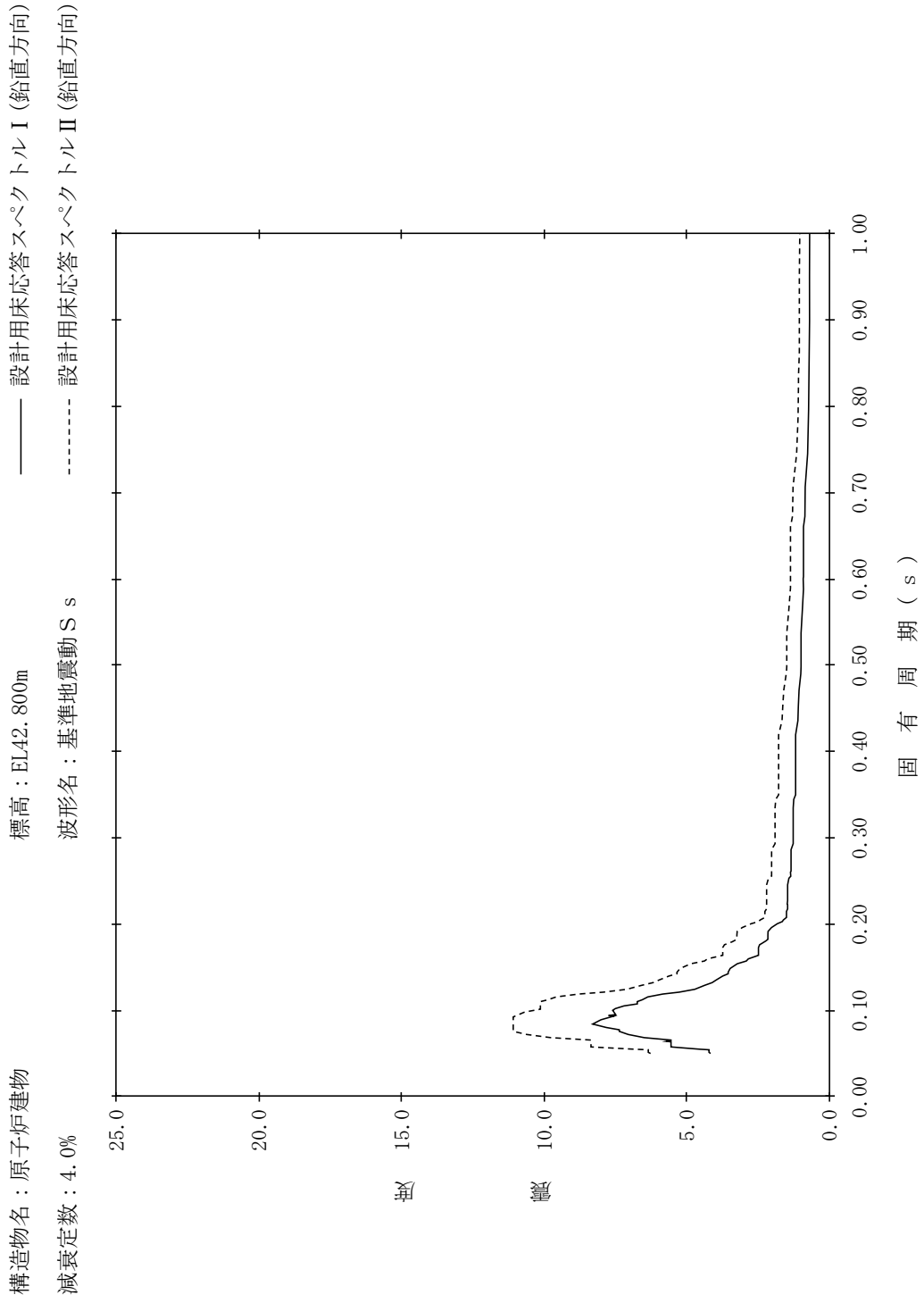


【NS2-RB-SsV-RB22】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

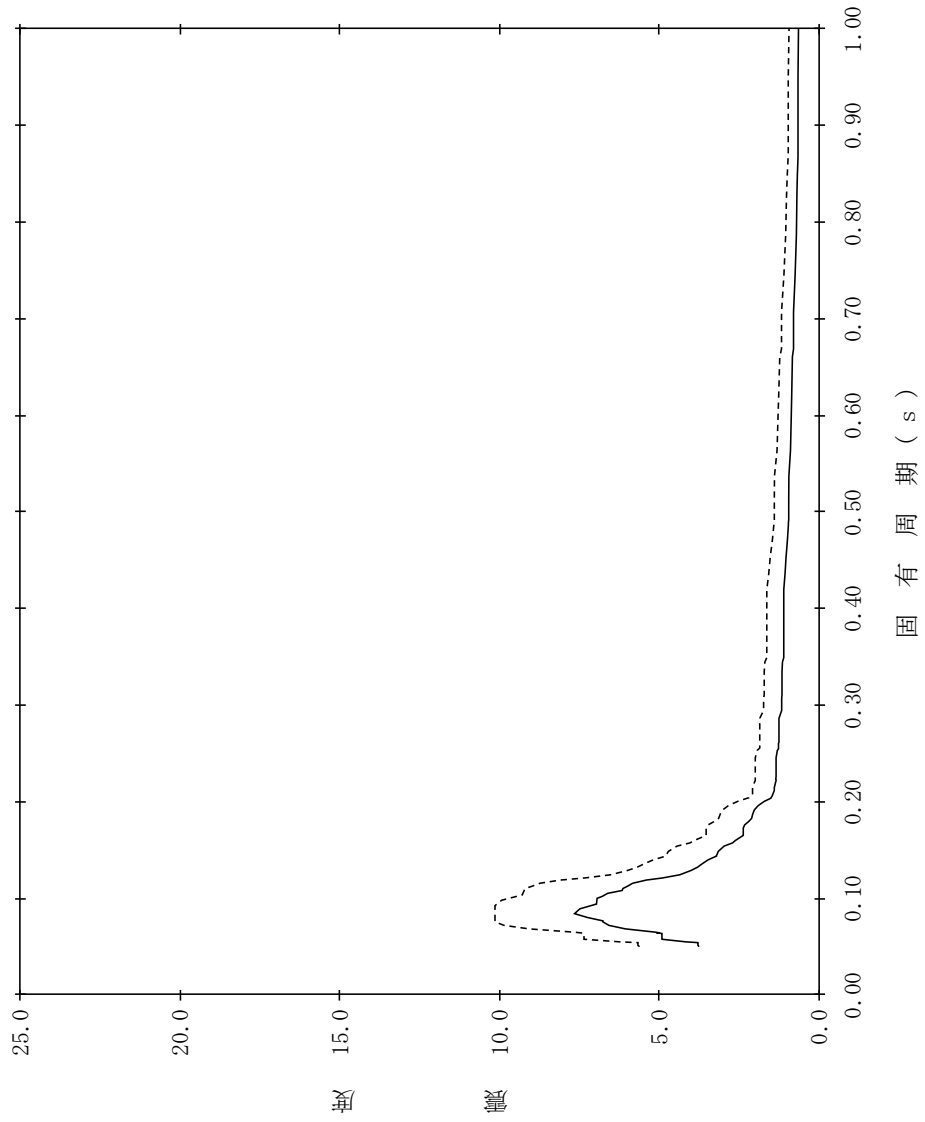


【NS2-RB-SsV-RB23】



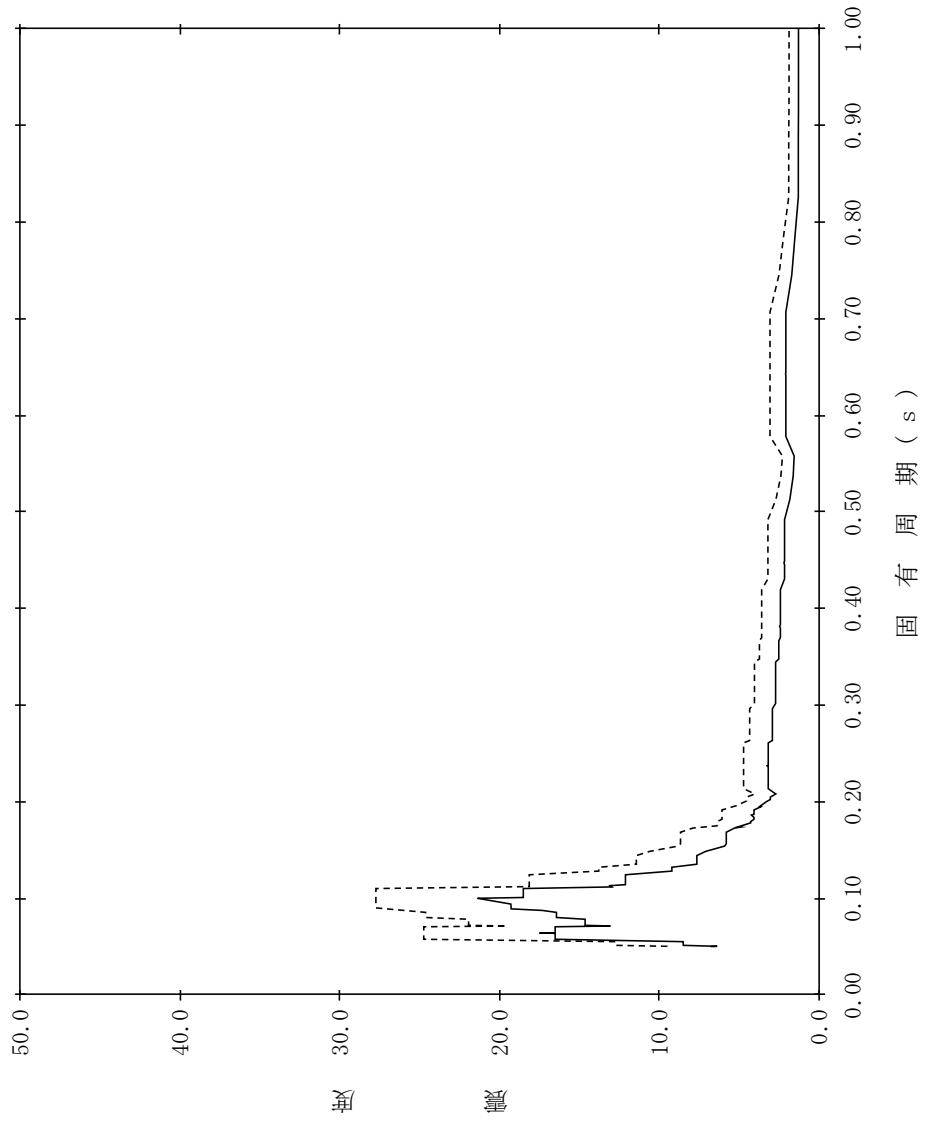
【NS2-RB-SsV-RB24】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL42.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

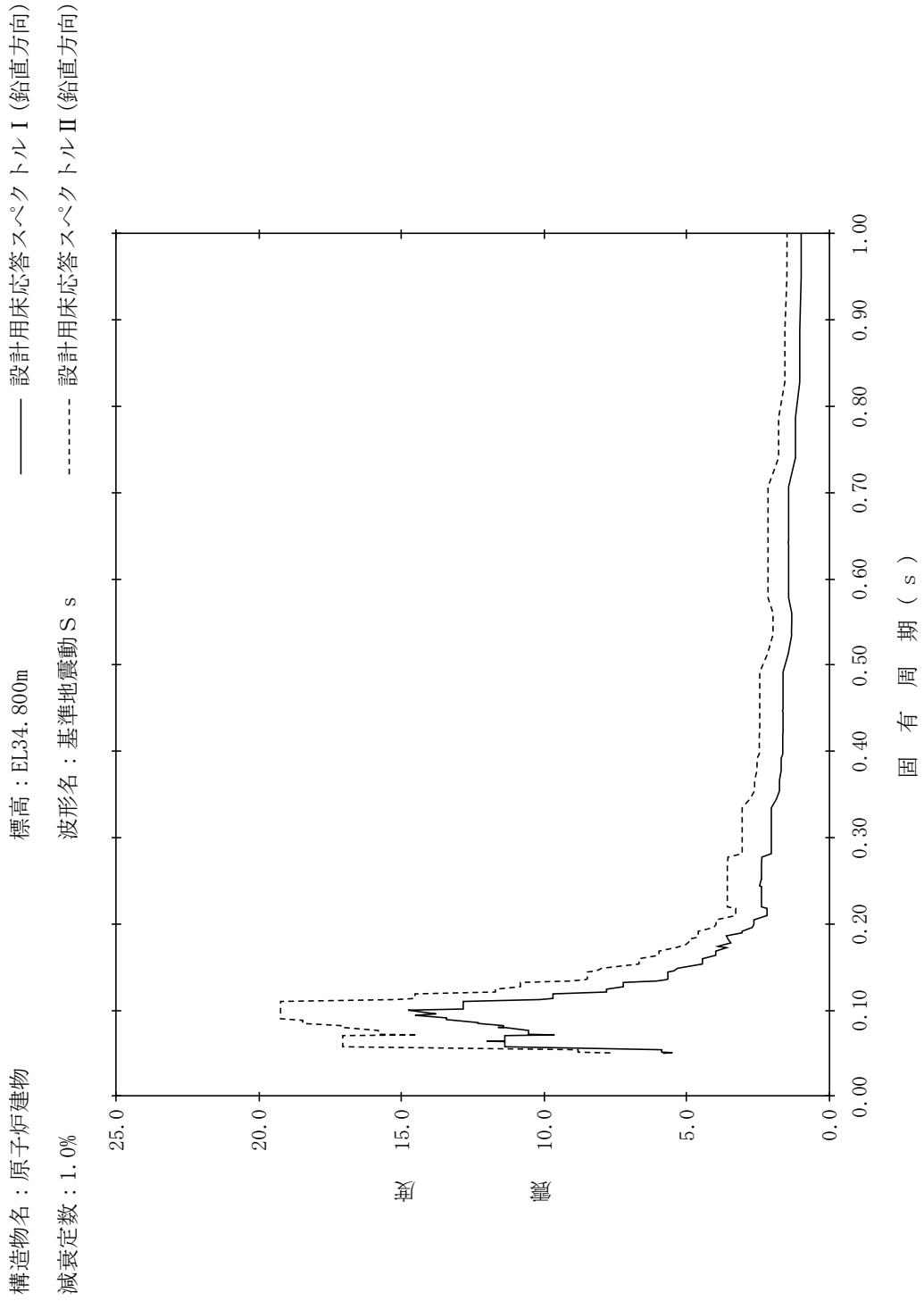


【NS2-RB-SsV-RB25】

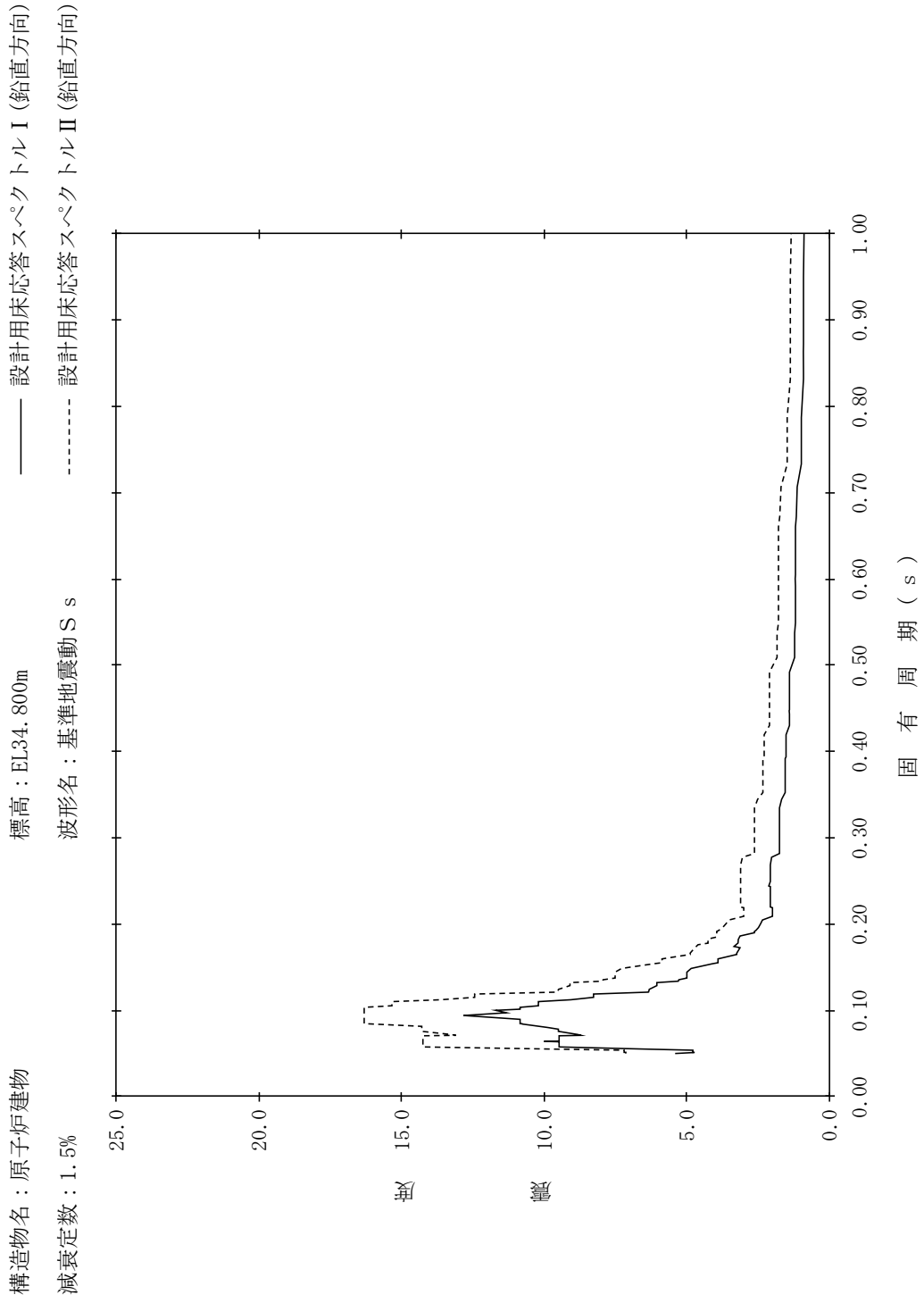
構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



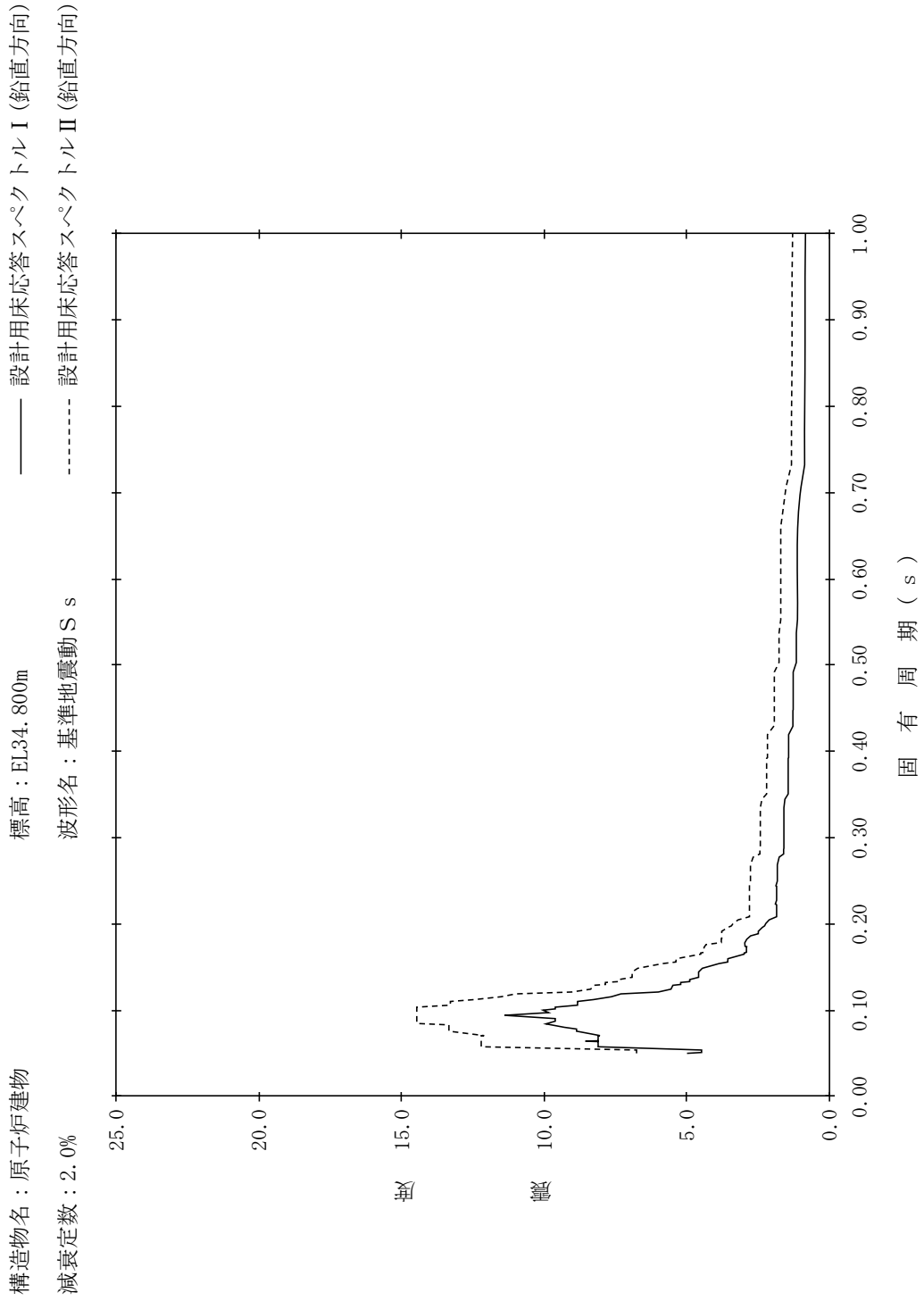
【NS2-RB-SsV-RB26】



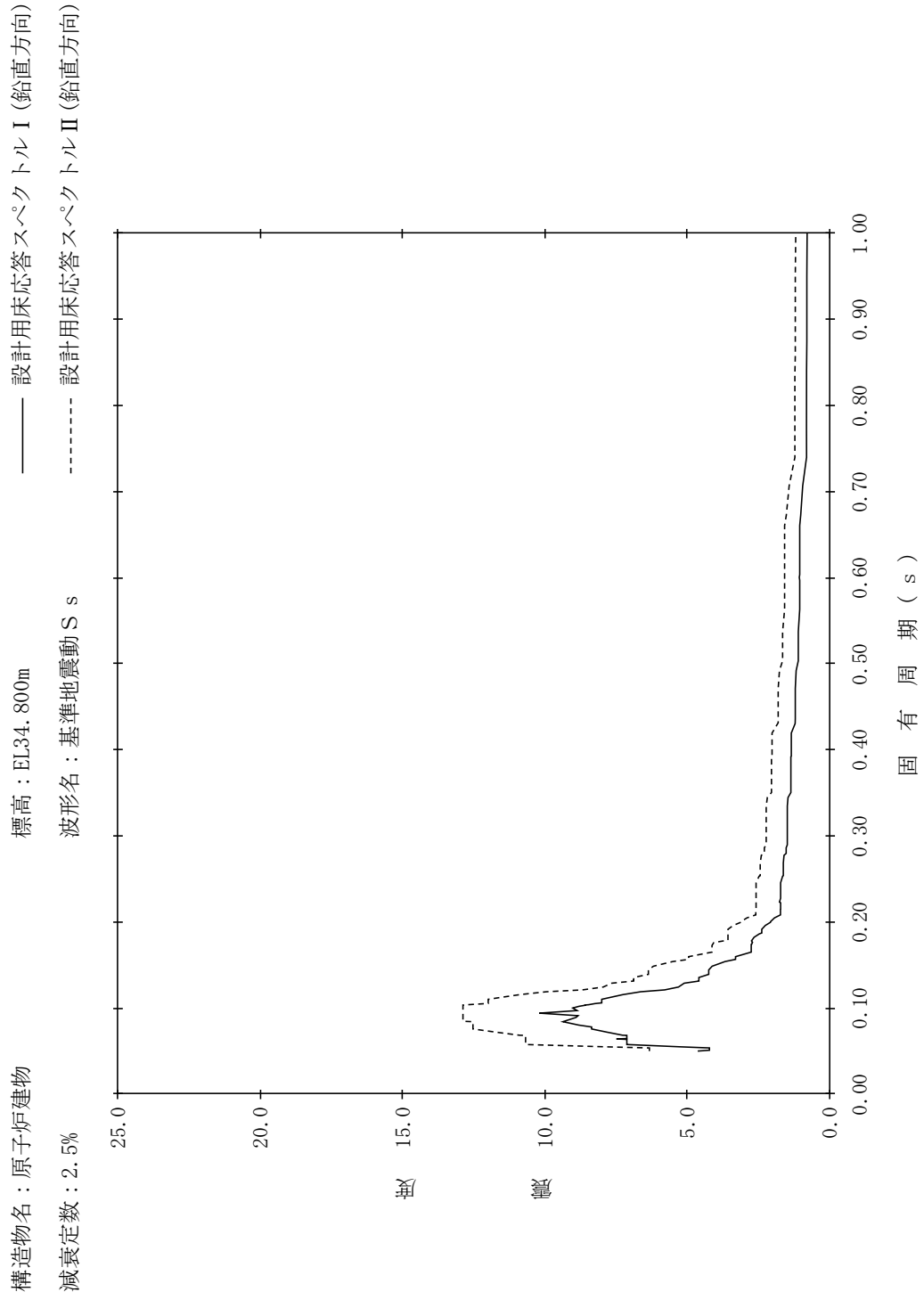
【NS2-RB-SsV-RB27】



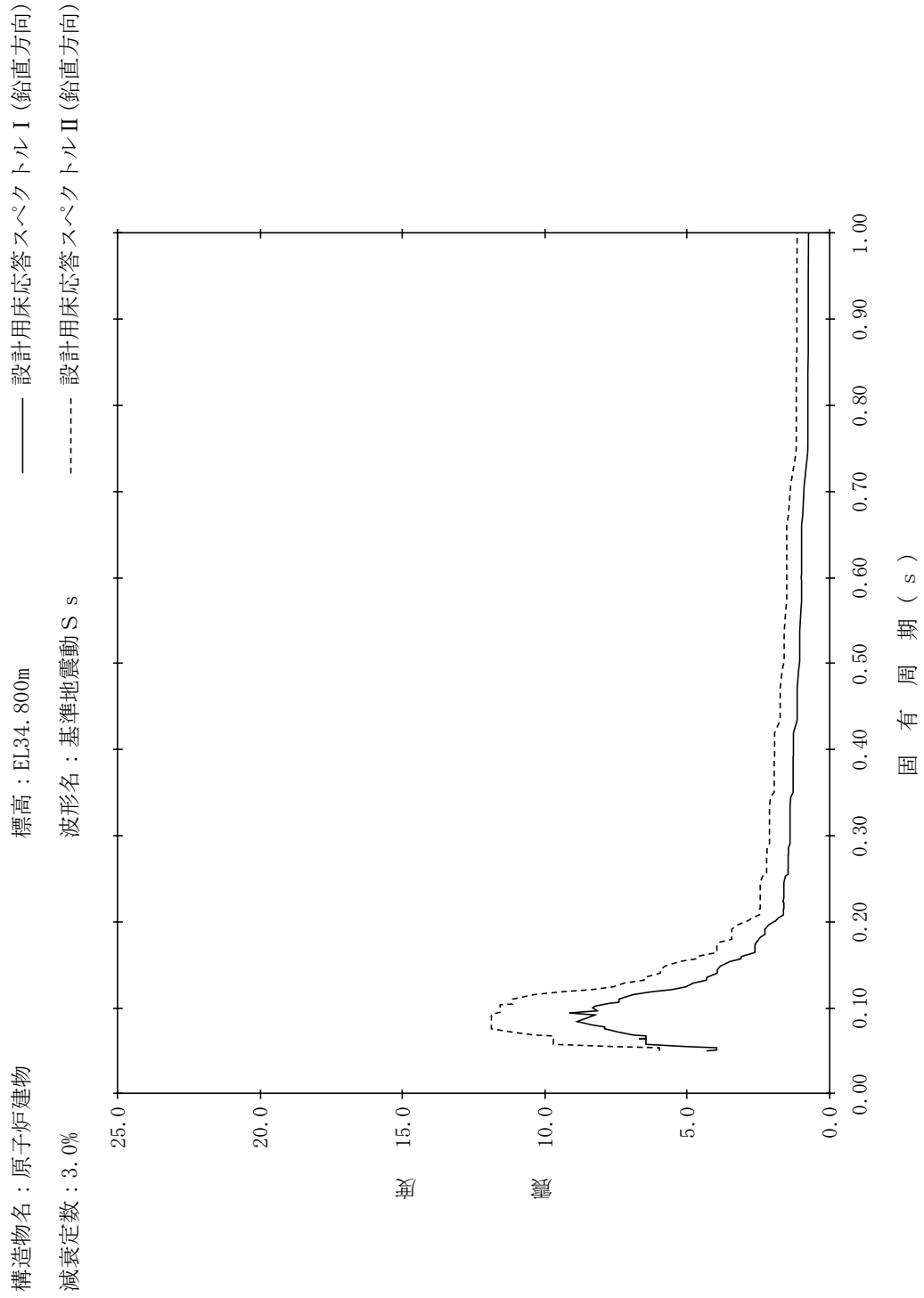
【NS2-RB-SsV-RB28】



【NS2-RB-SsV-RB29】

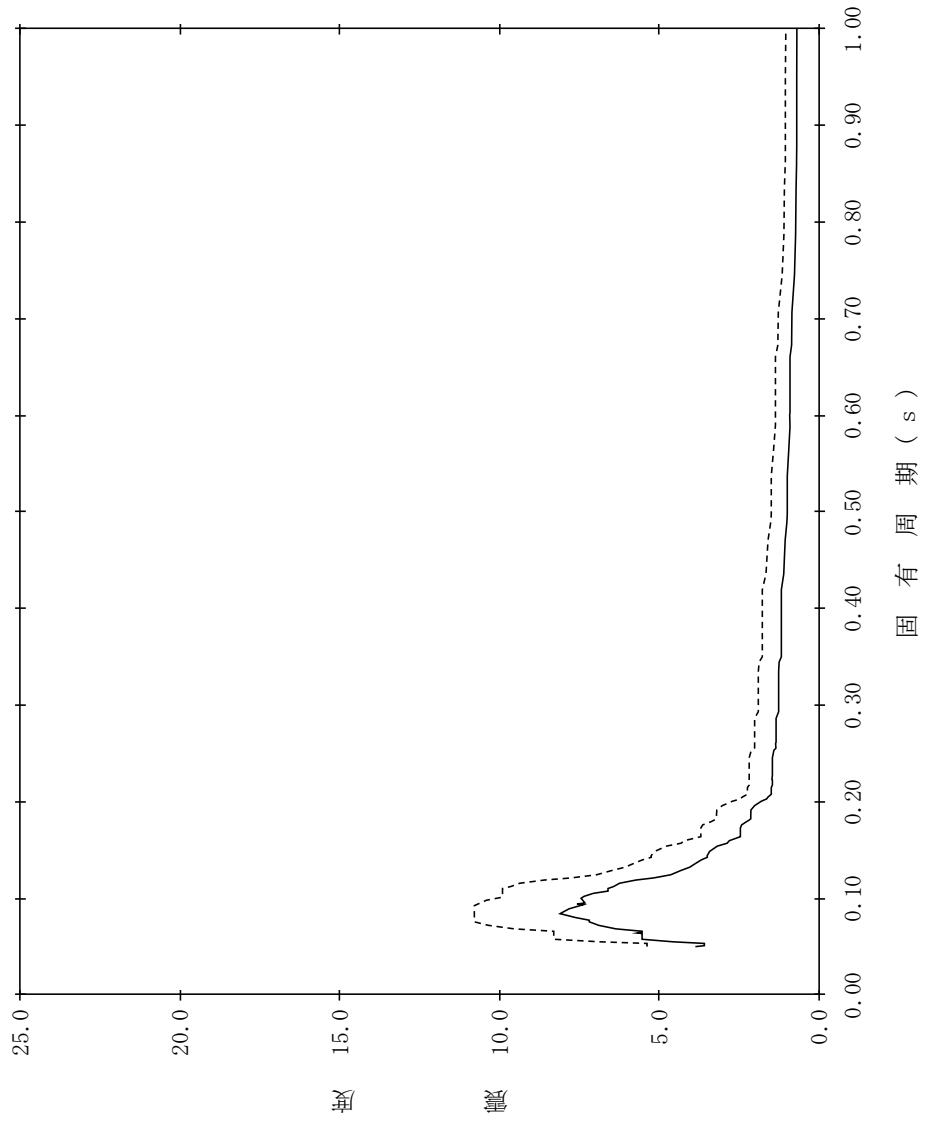


【NS2-RB-SsV-RB30】



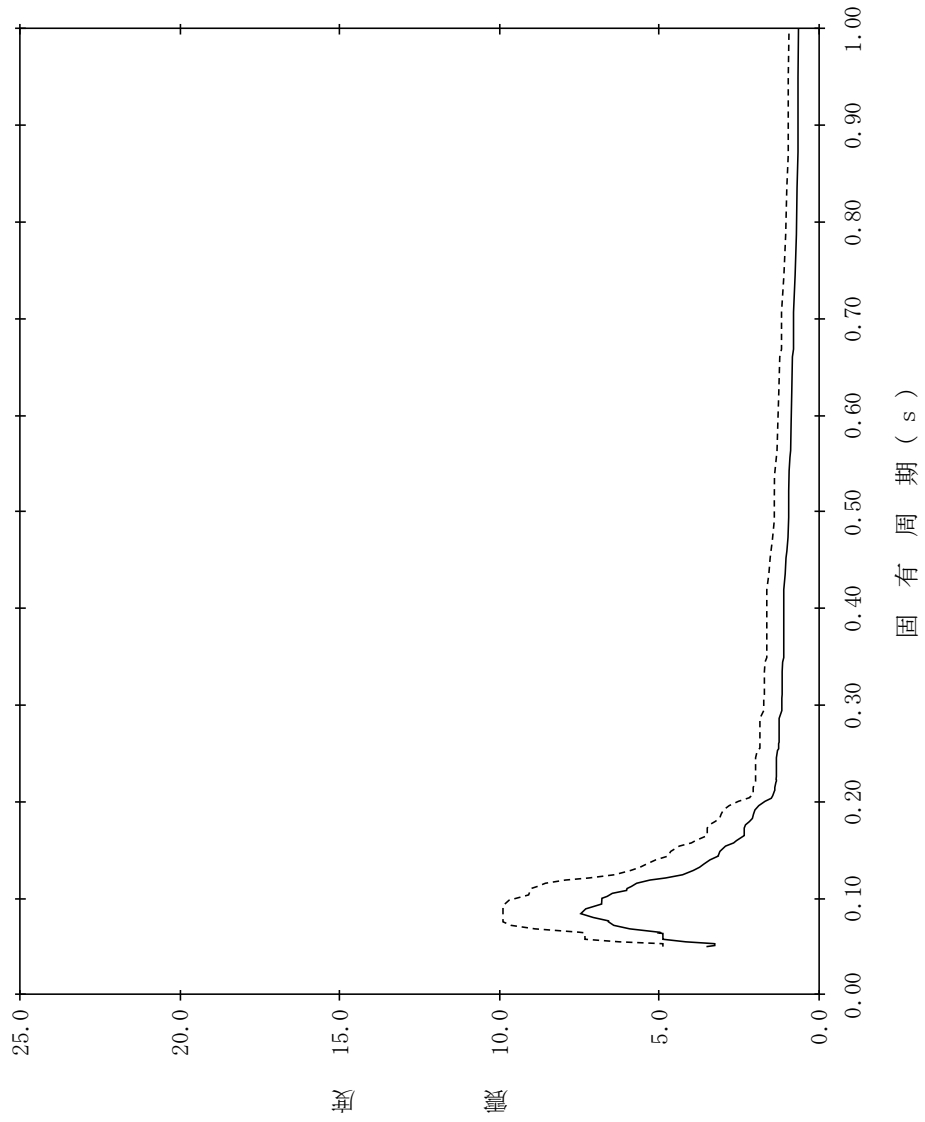
【NS2-RB-SsV-RB31】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

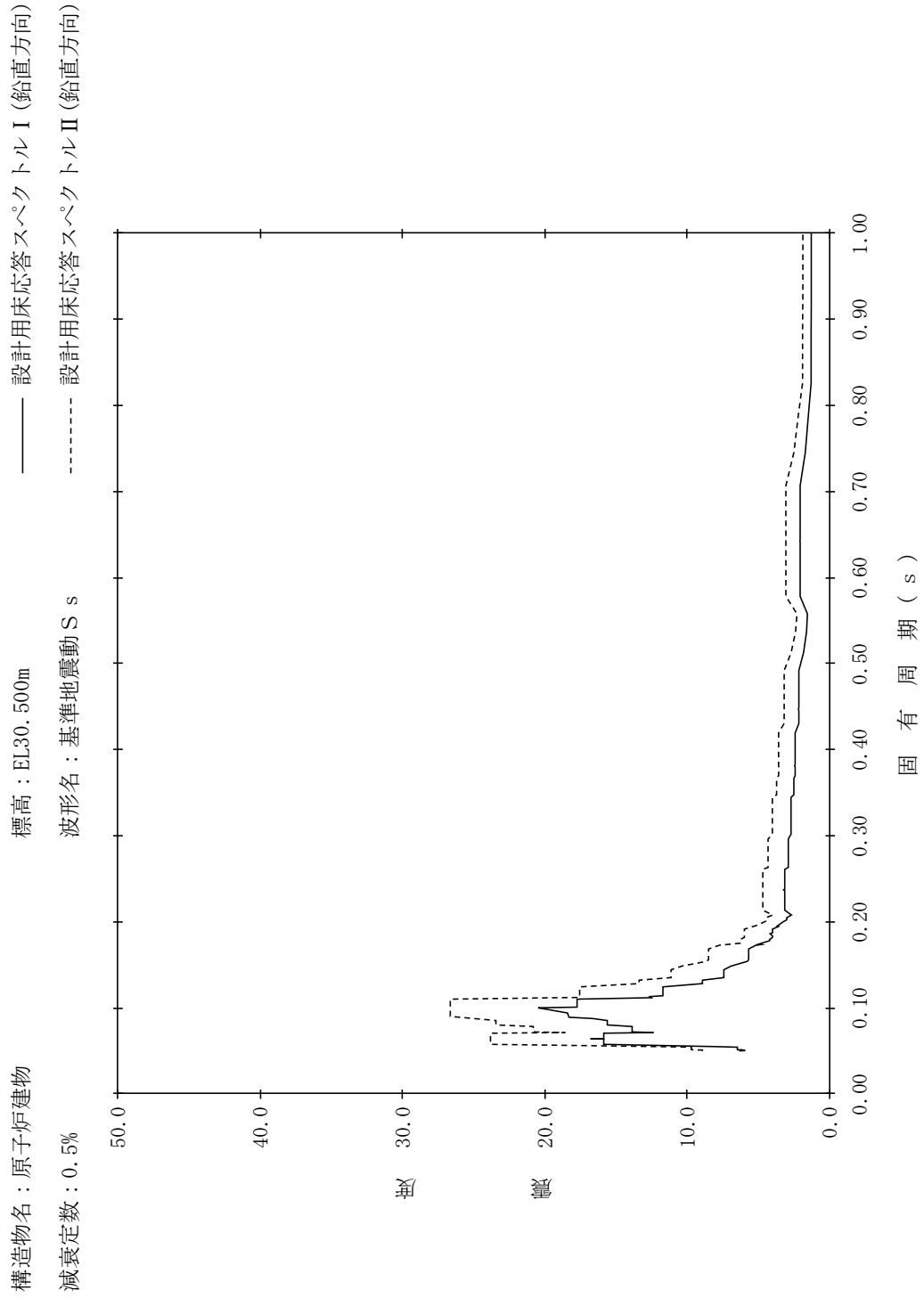


【NS2-RB-SsV-RB32】

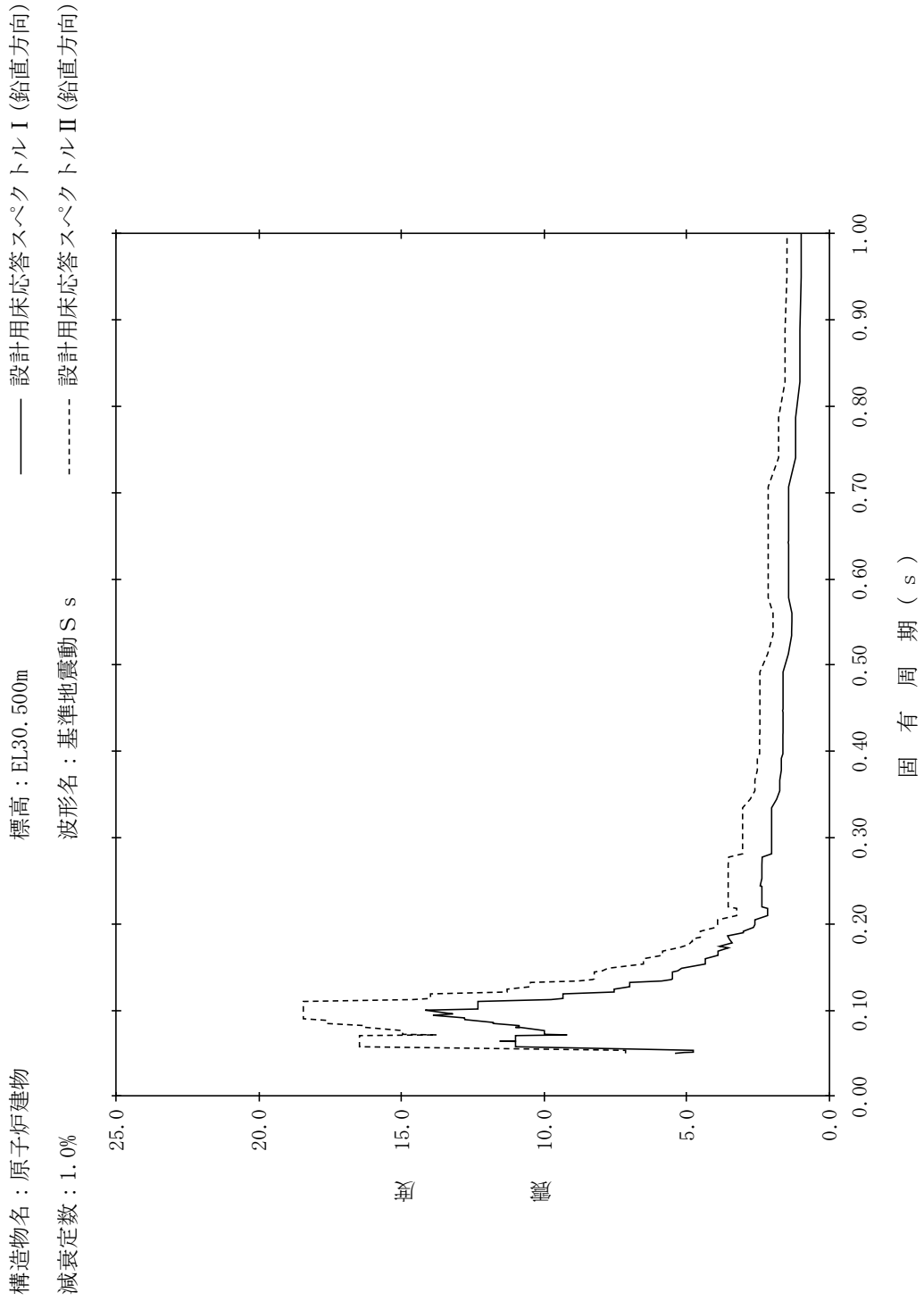
構造物名：原子炉建物
 標高：EL34.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



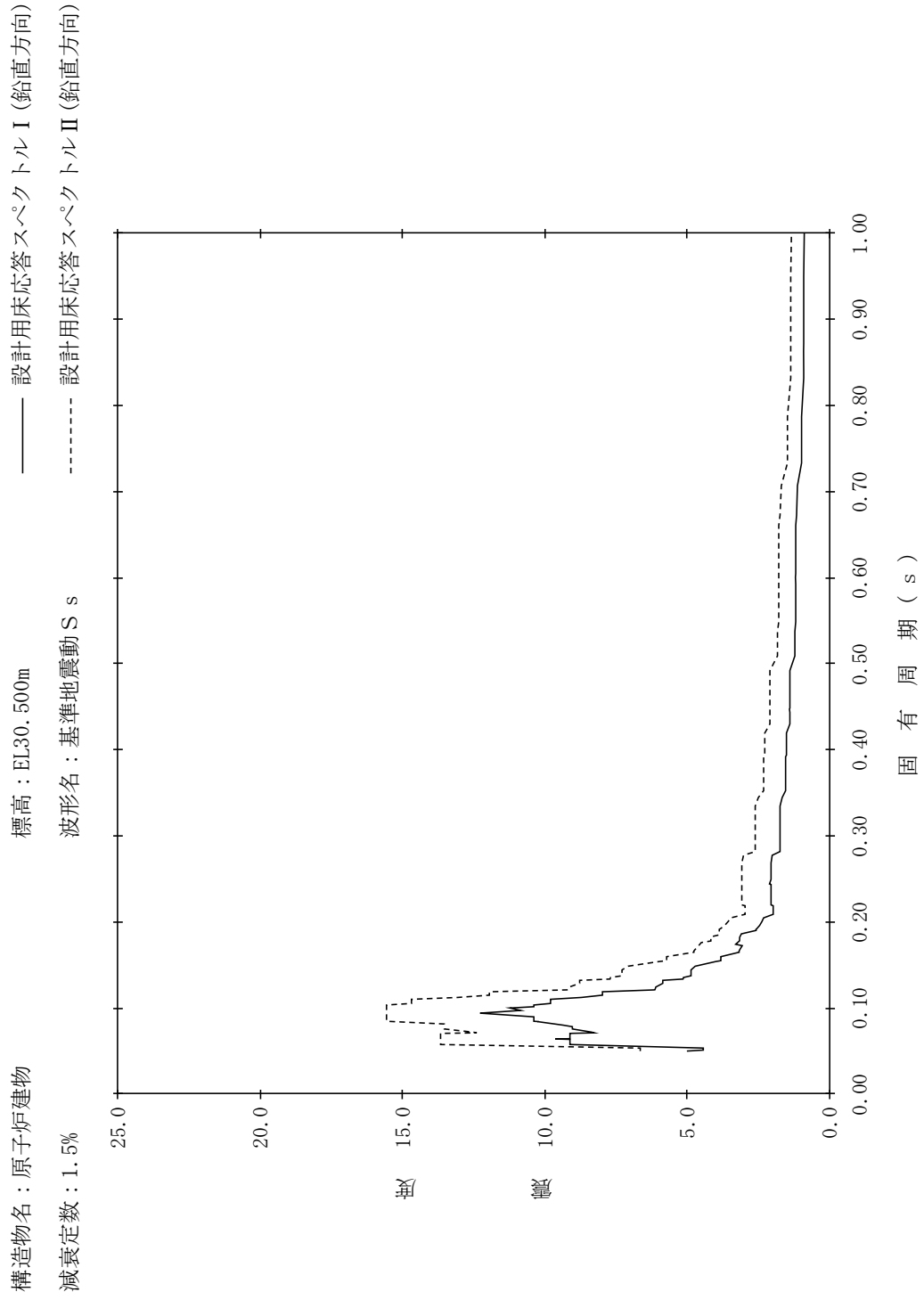
【NS2-RB-SsV-RB33】



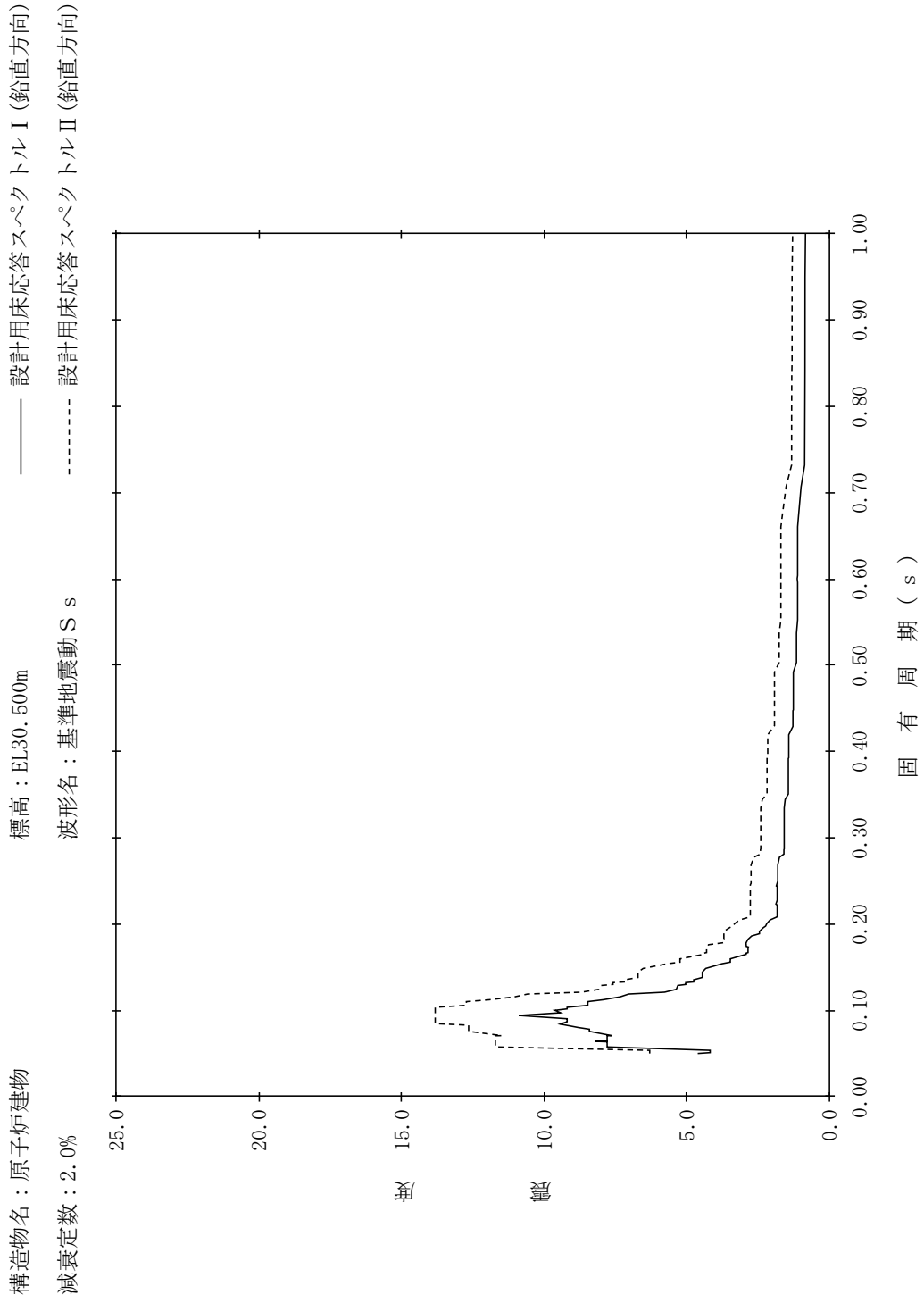
【NS2-RB-SsV-RB34】



【NS2-RB-SsV-RB35】

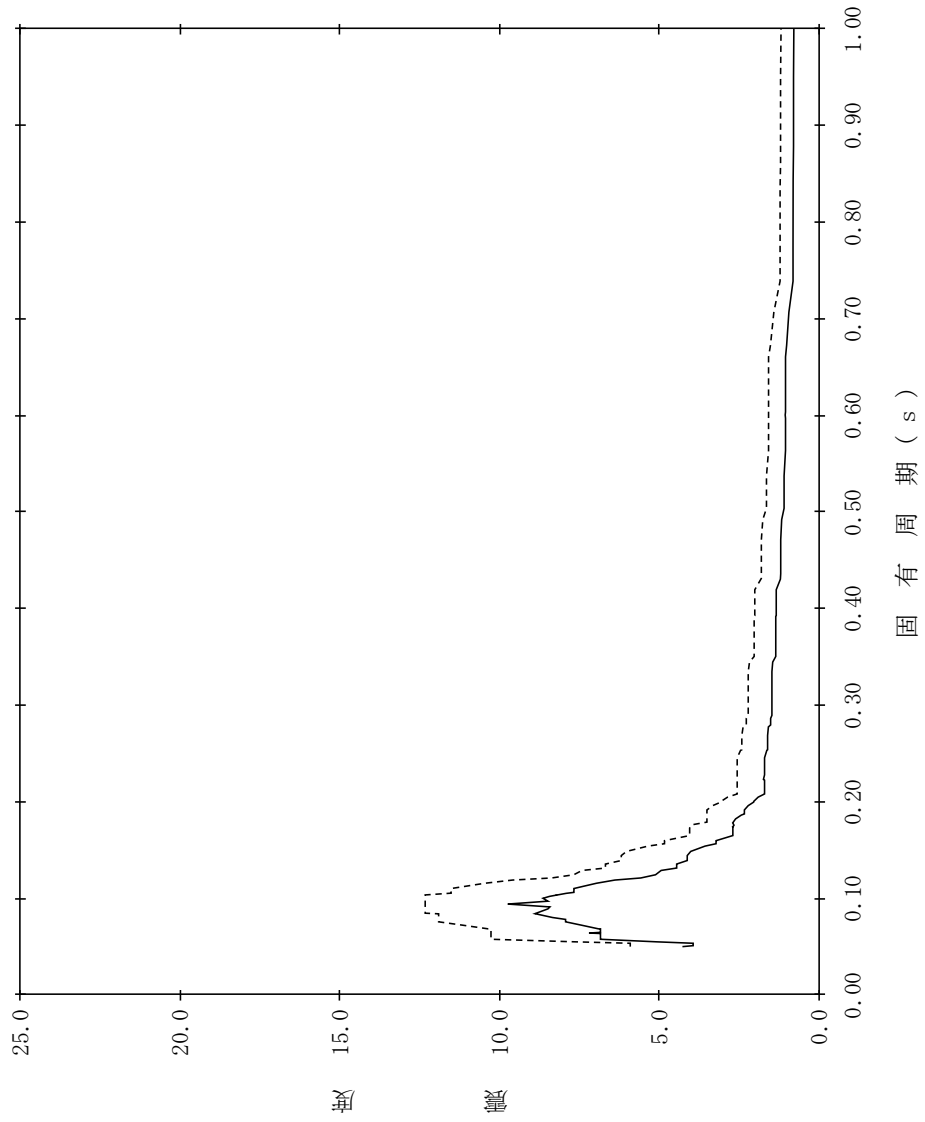


【NS2-RB-SsV-RB36】



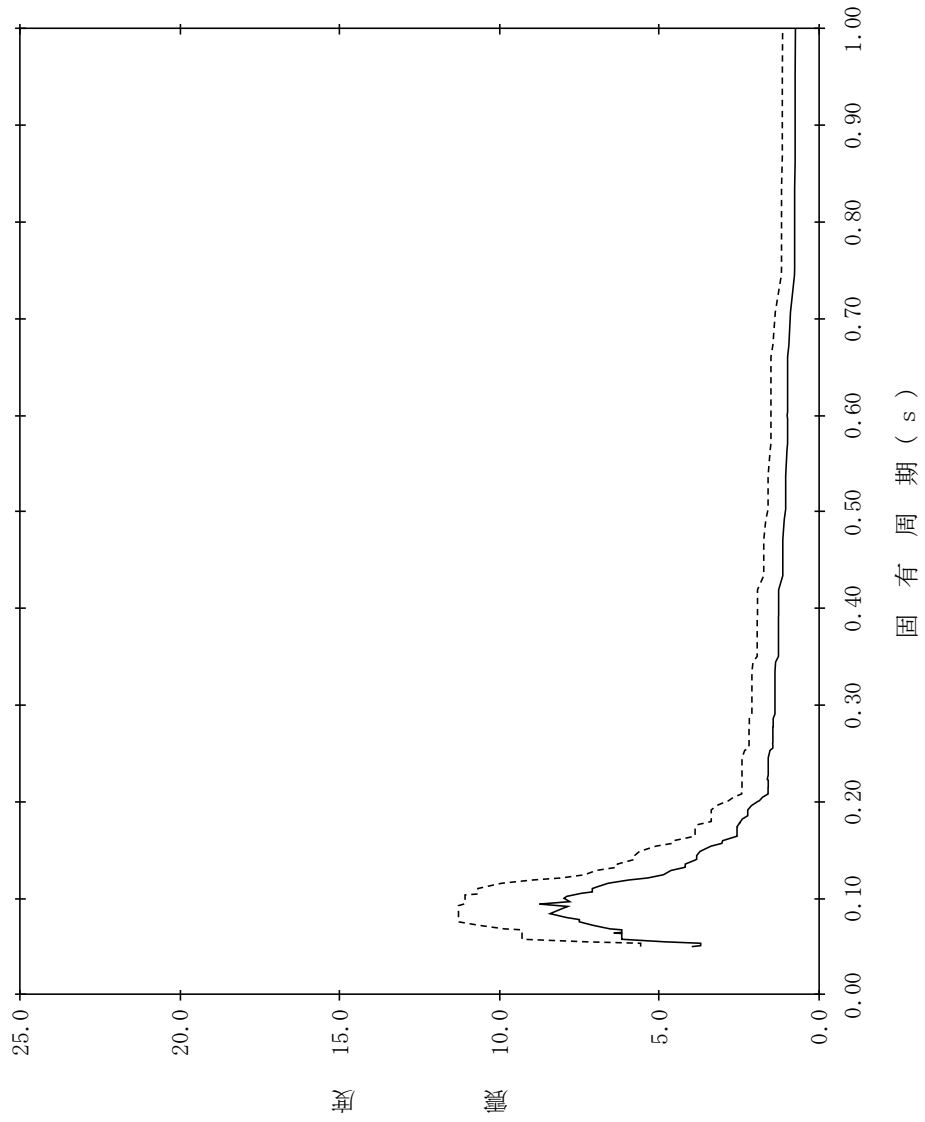
【NS2-RB-SsV-RB37】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



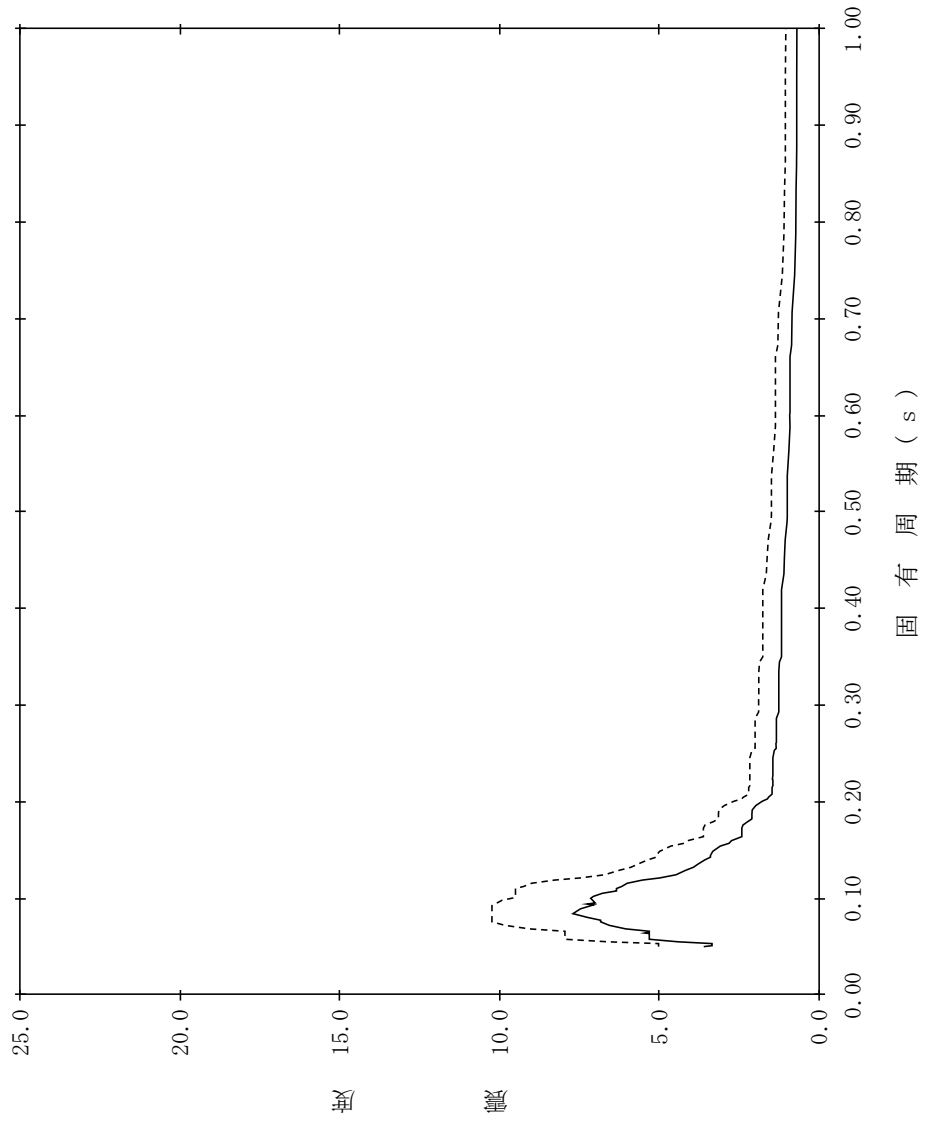
【NS2-RB-SsV-RB38】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



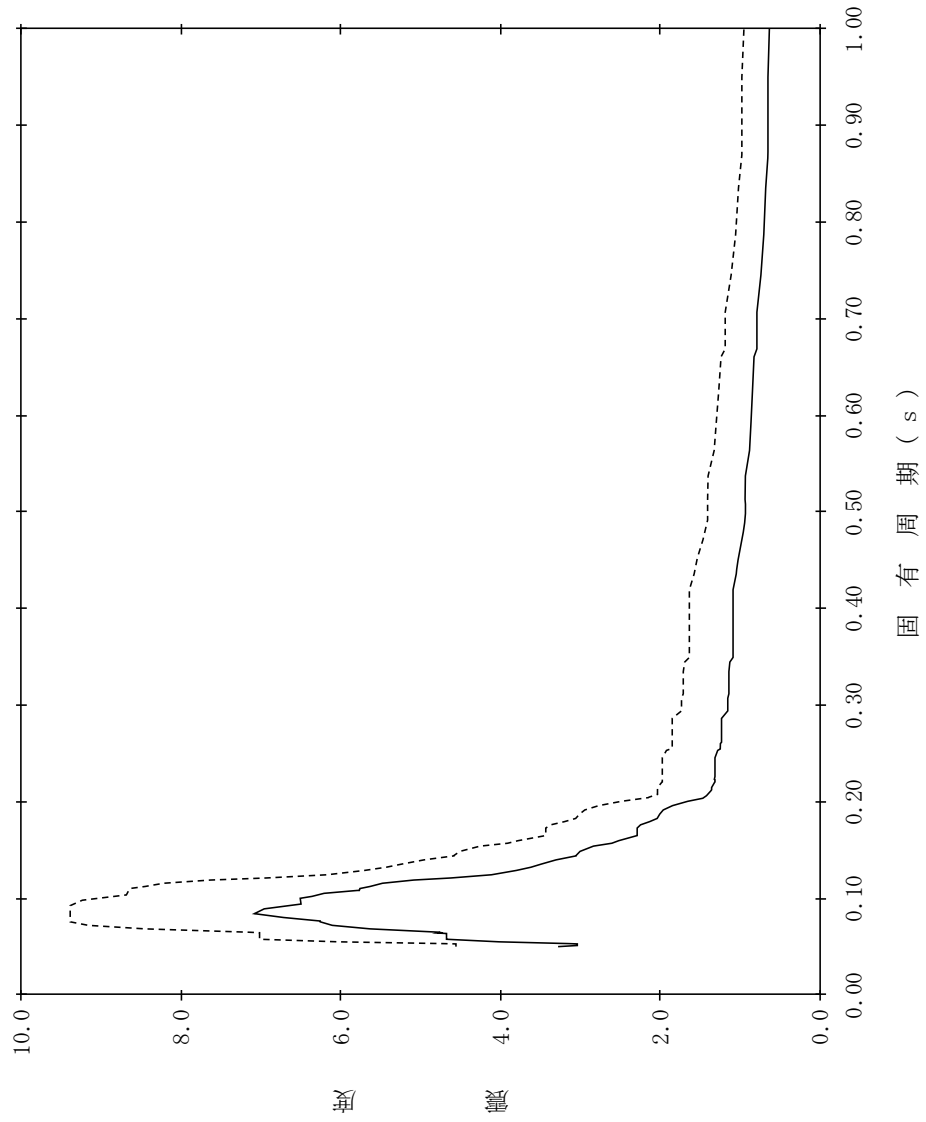
【NS2-RB-SsV-RB39】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RB-SsV-RB40】

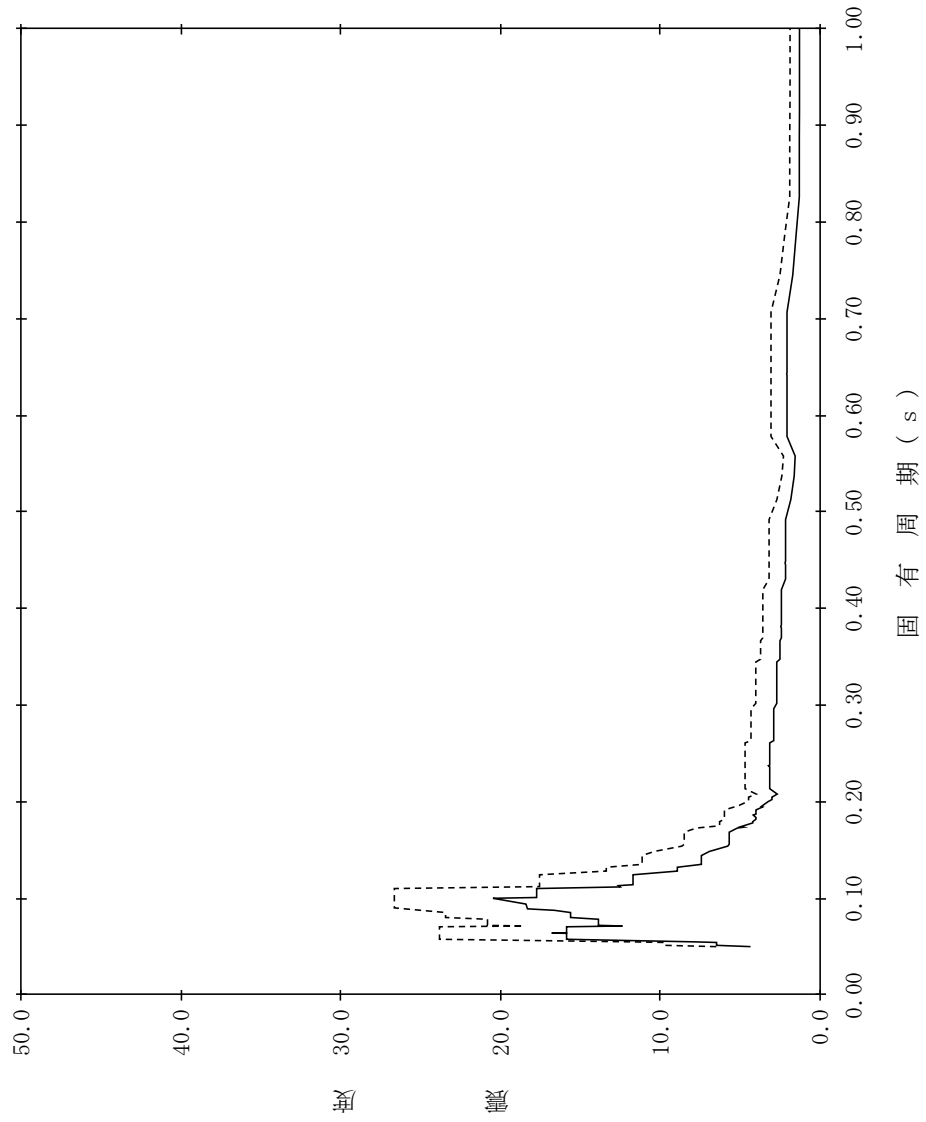
構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RB-SsV-RB41】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：0.5%

設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

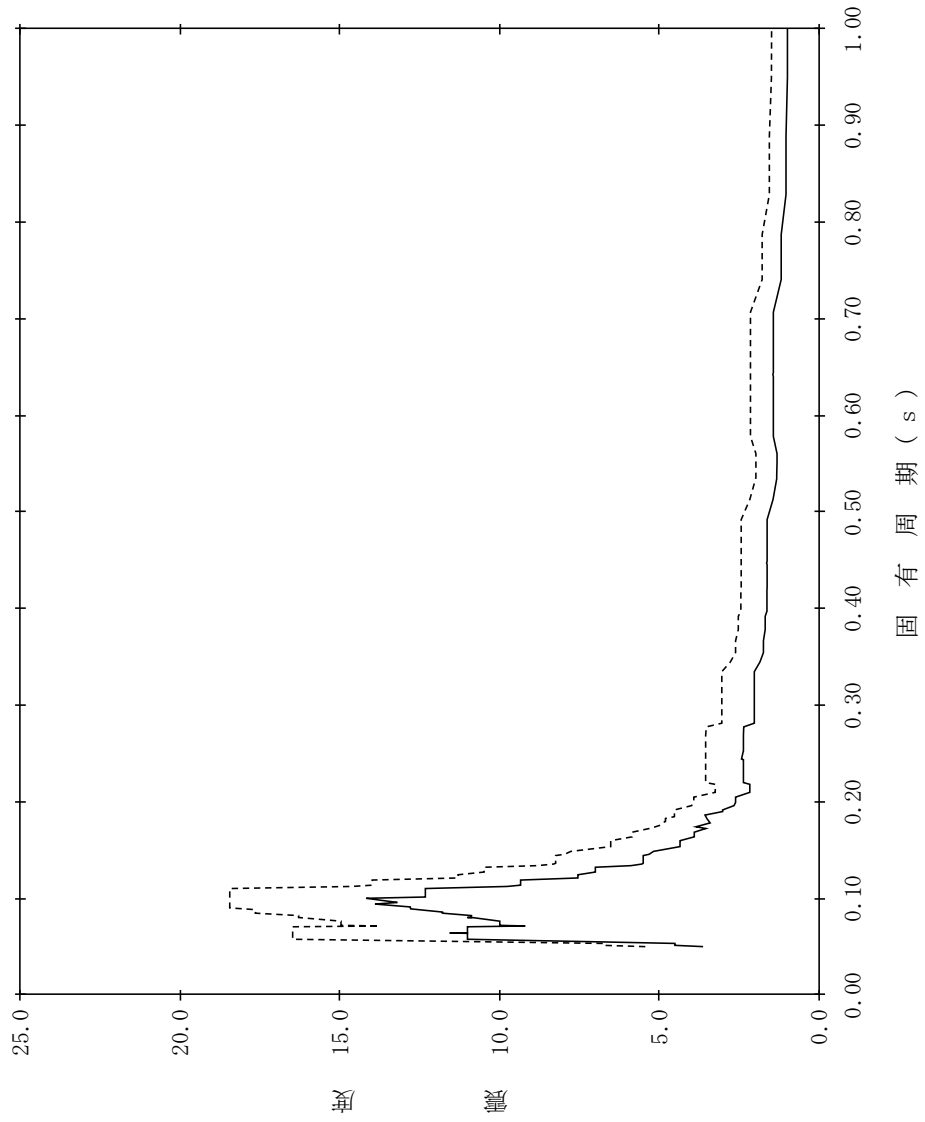


【NS2-RB-SsV-RB42】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：1.0%

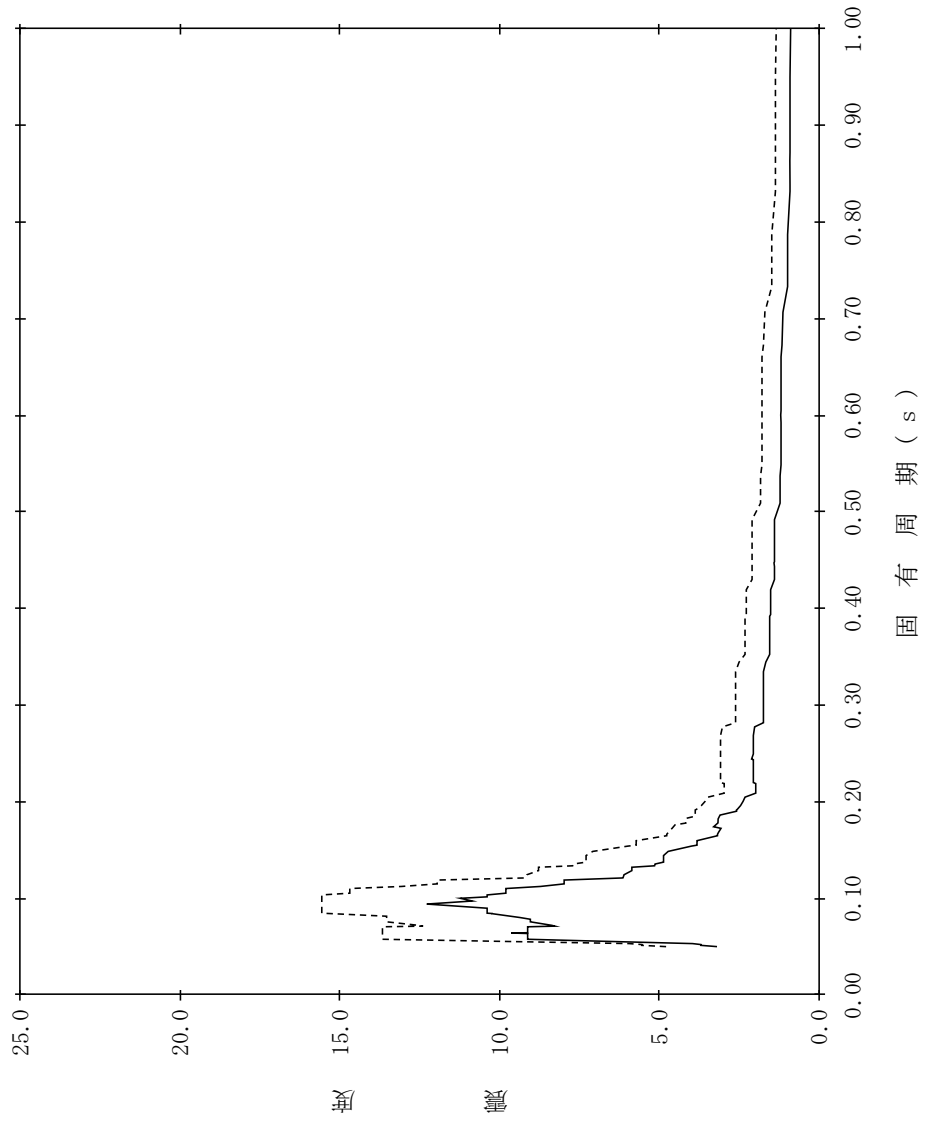
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



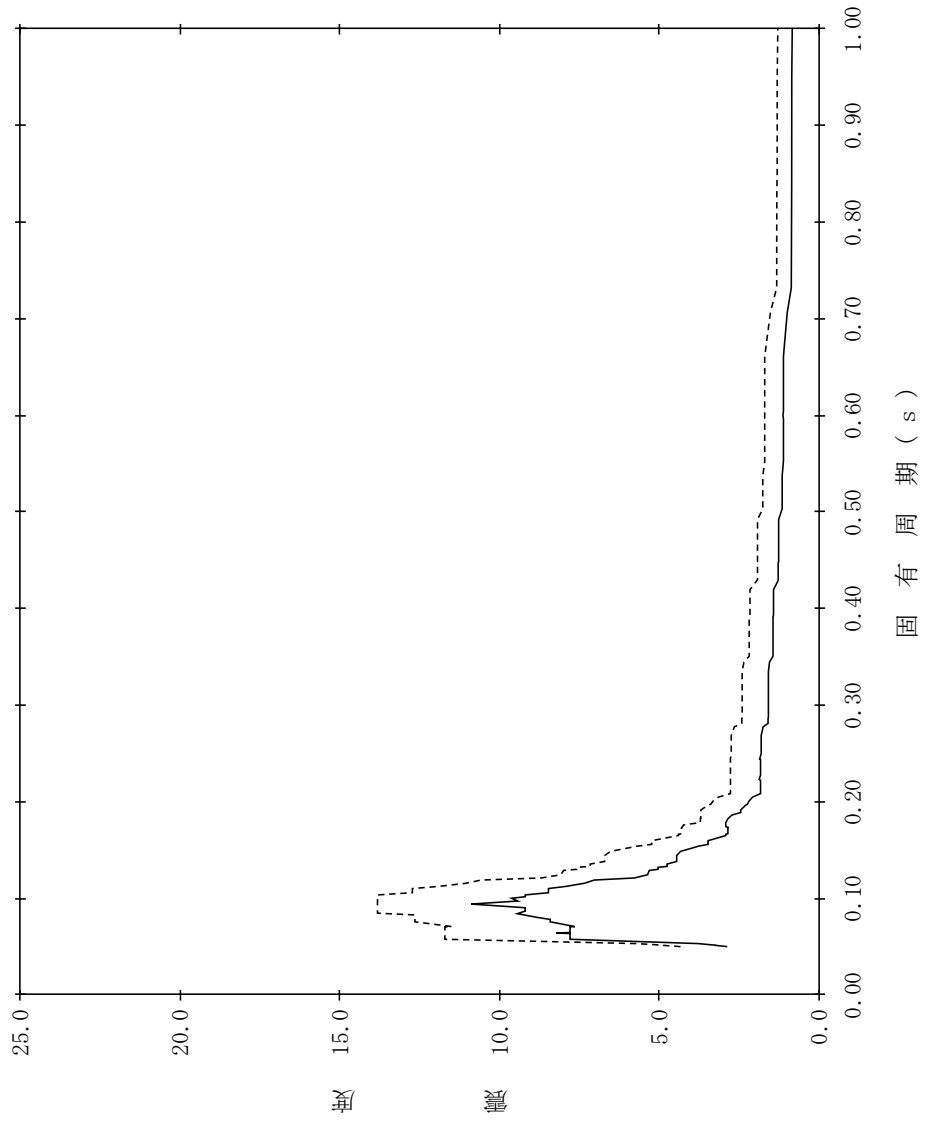
【NS2-RB-SsV-RB43】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RB-SsV-RB44】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：2.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)

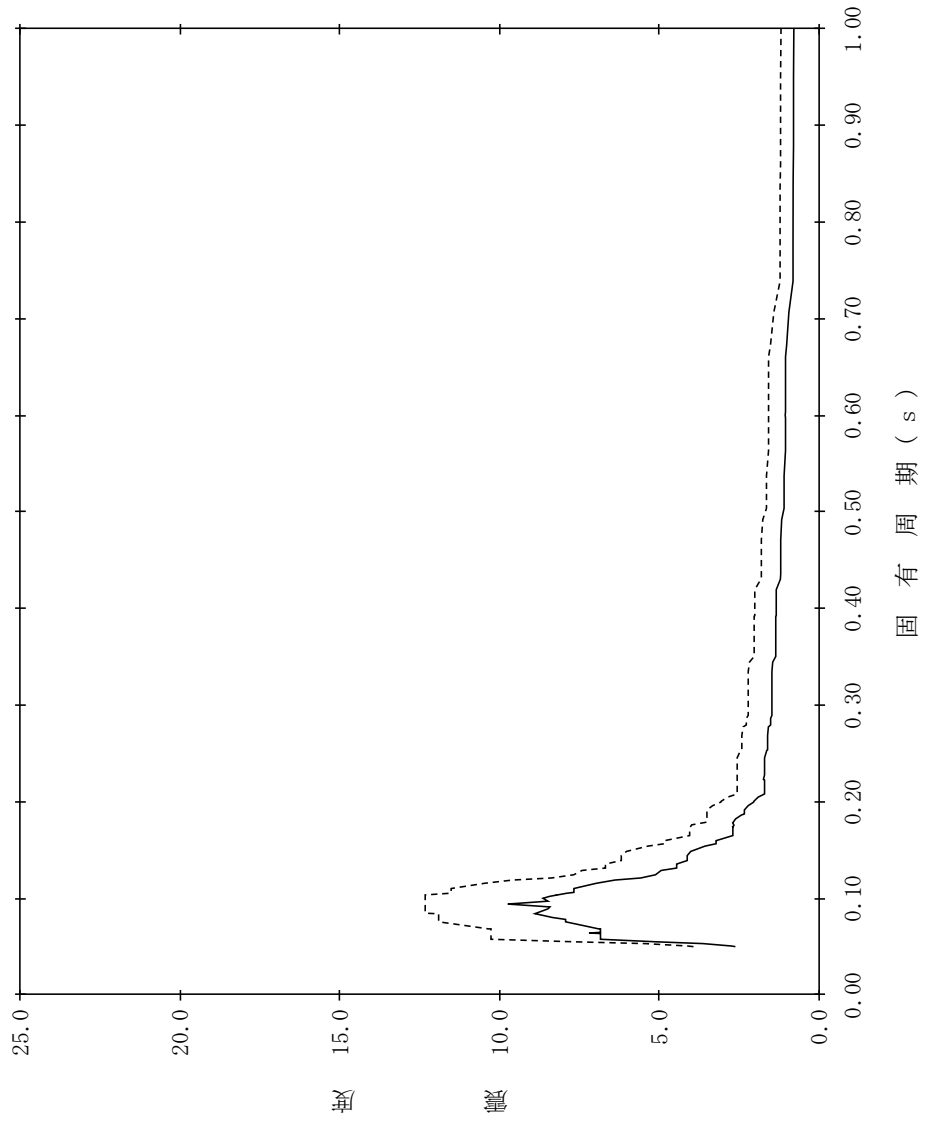


【NS2-RB-SsV-RB45】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：2.5%

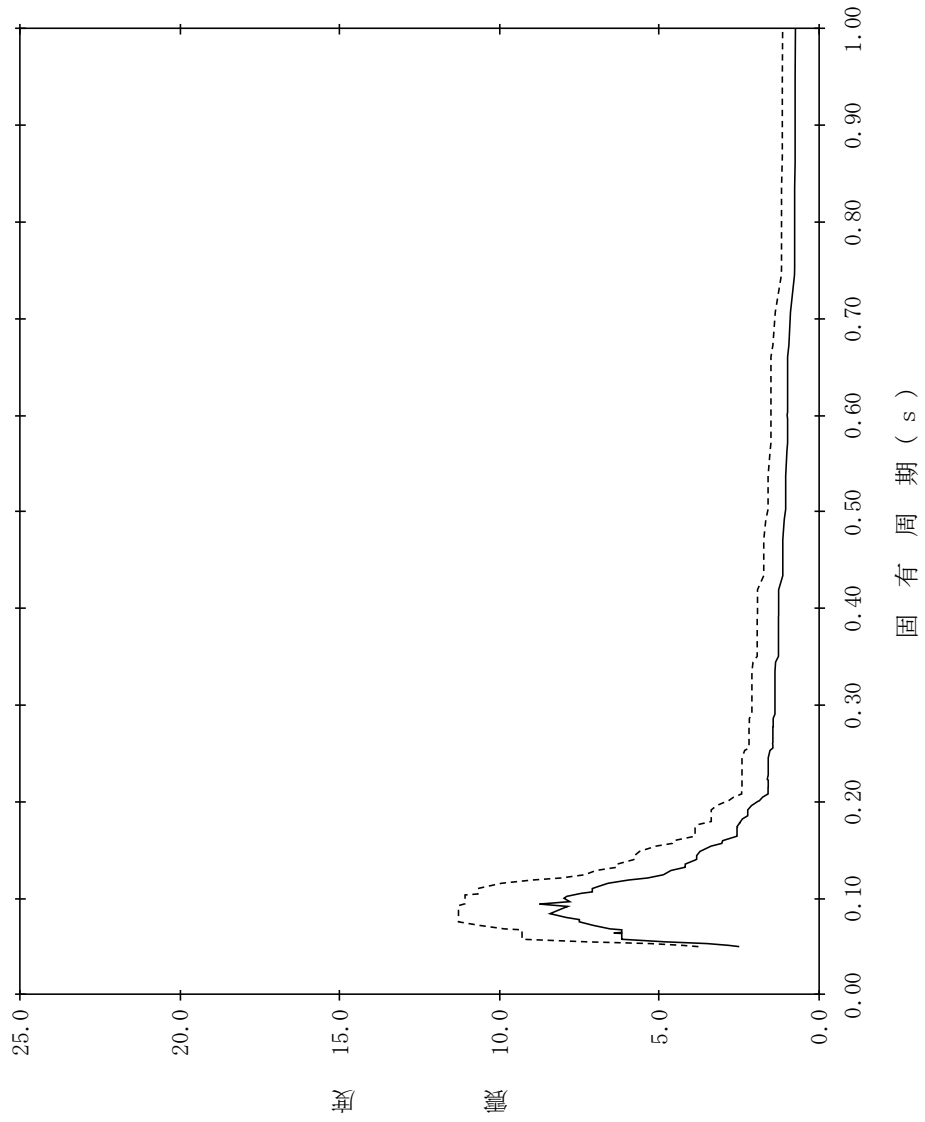
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



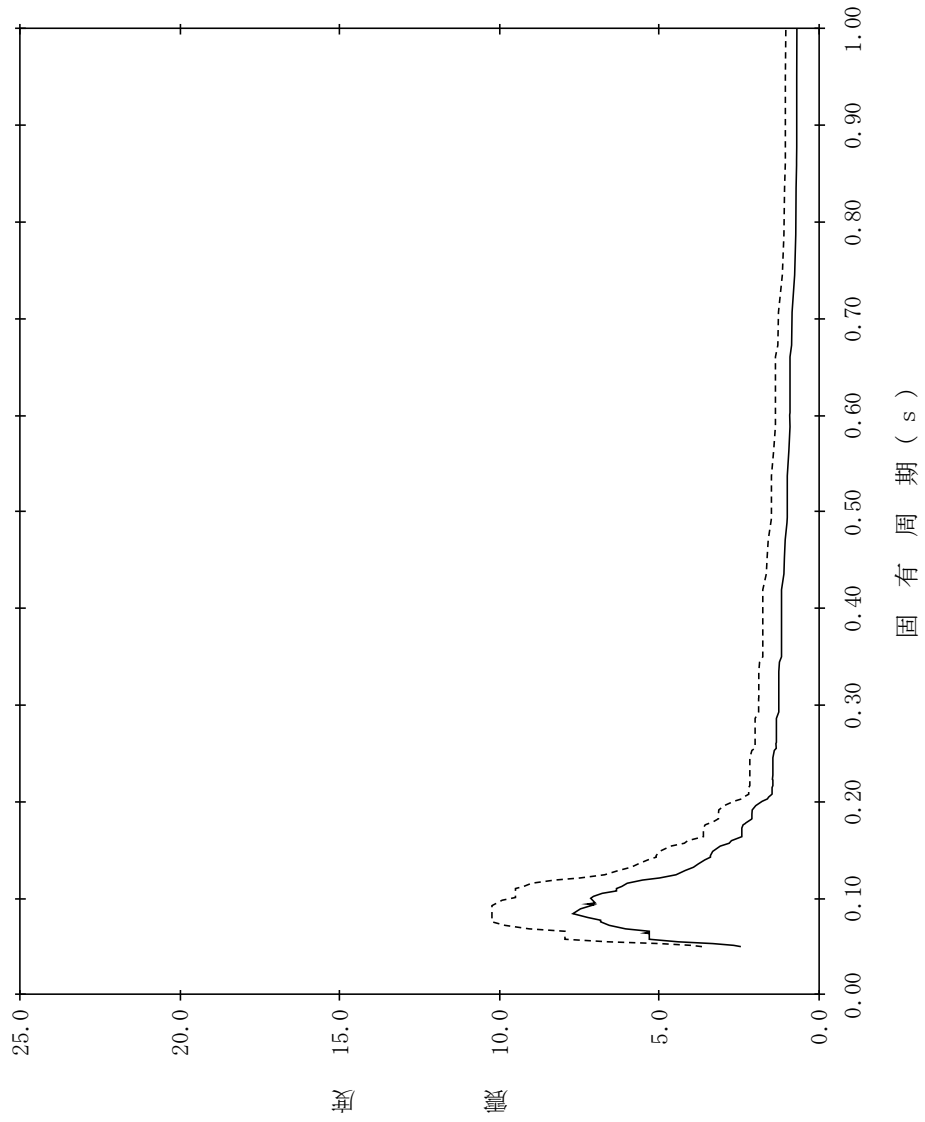
【NS2-RB-SsV-RB46】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：3.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



【NS2-RB-SsV-RB47】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール) 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：4.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)

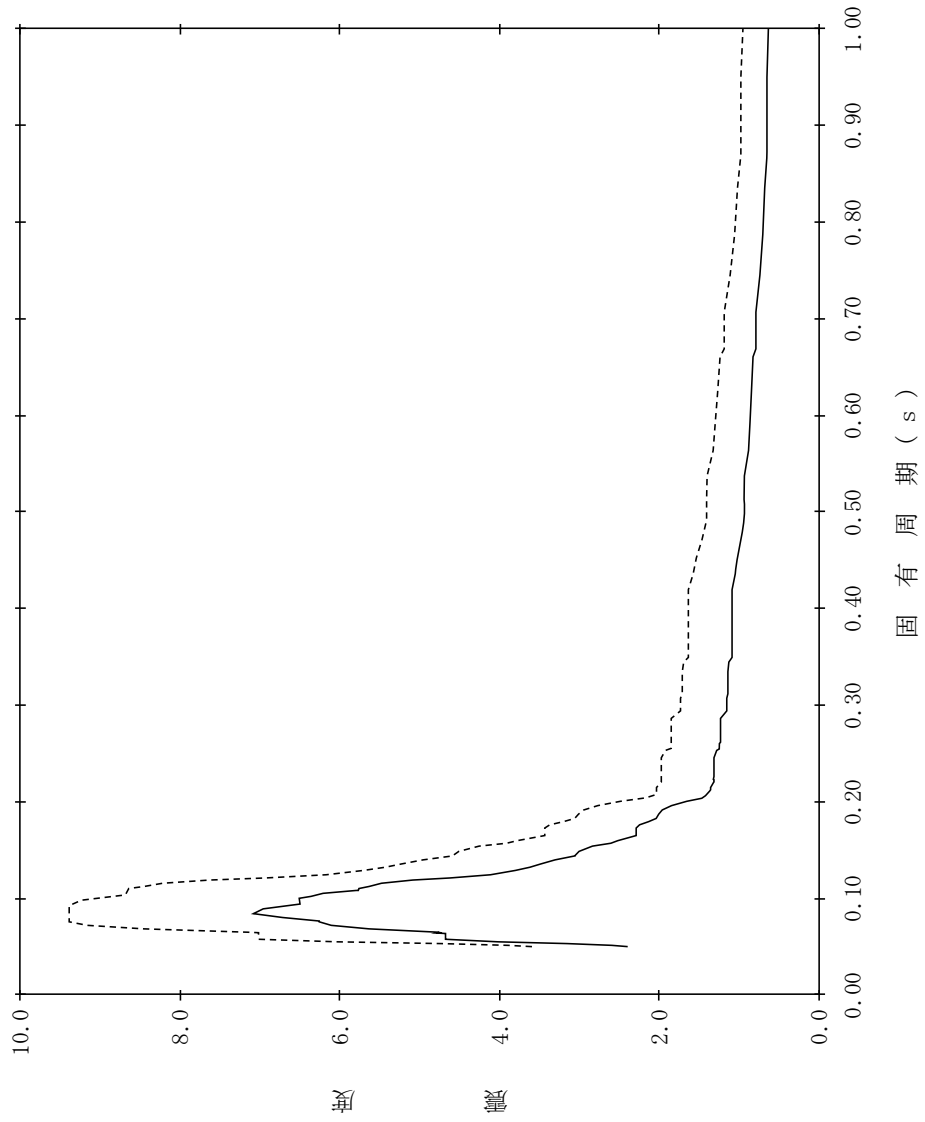


【NS2-RB-SsV-RB48】

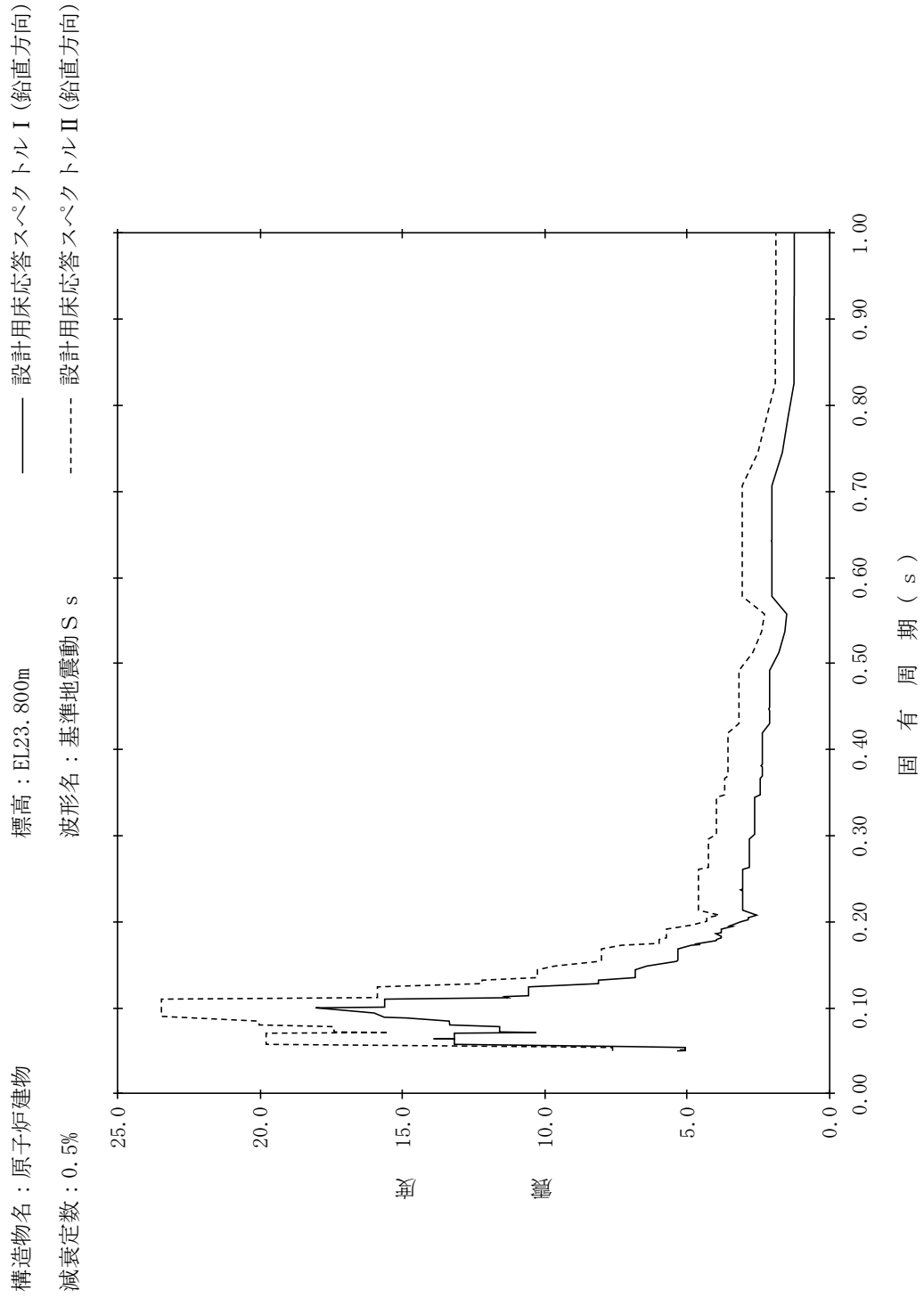
構造物名：原子炉建物
 標高：EL30.500m(燃料プール)
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：5.0%

—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

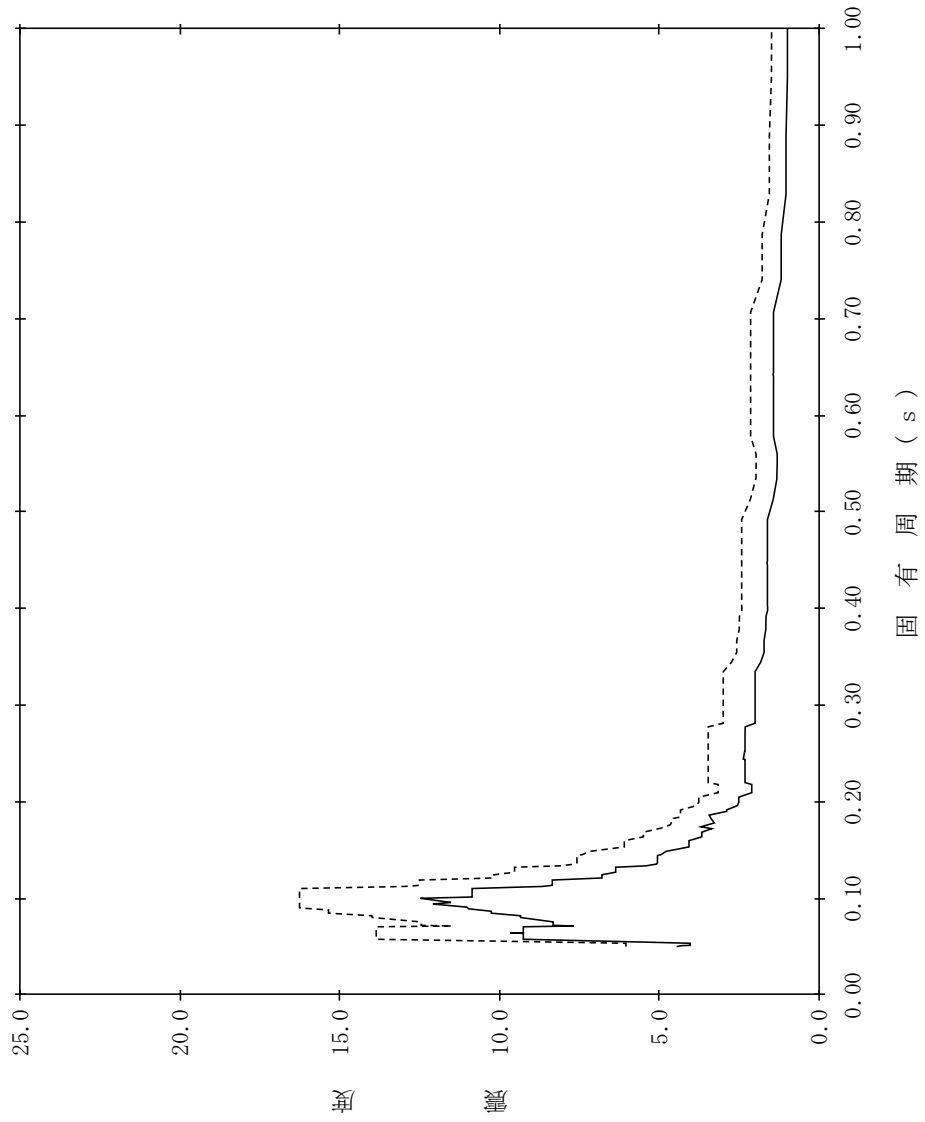


【NS2-RB-SsV-RB49】



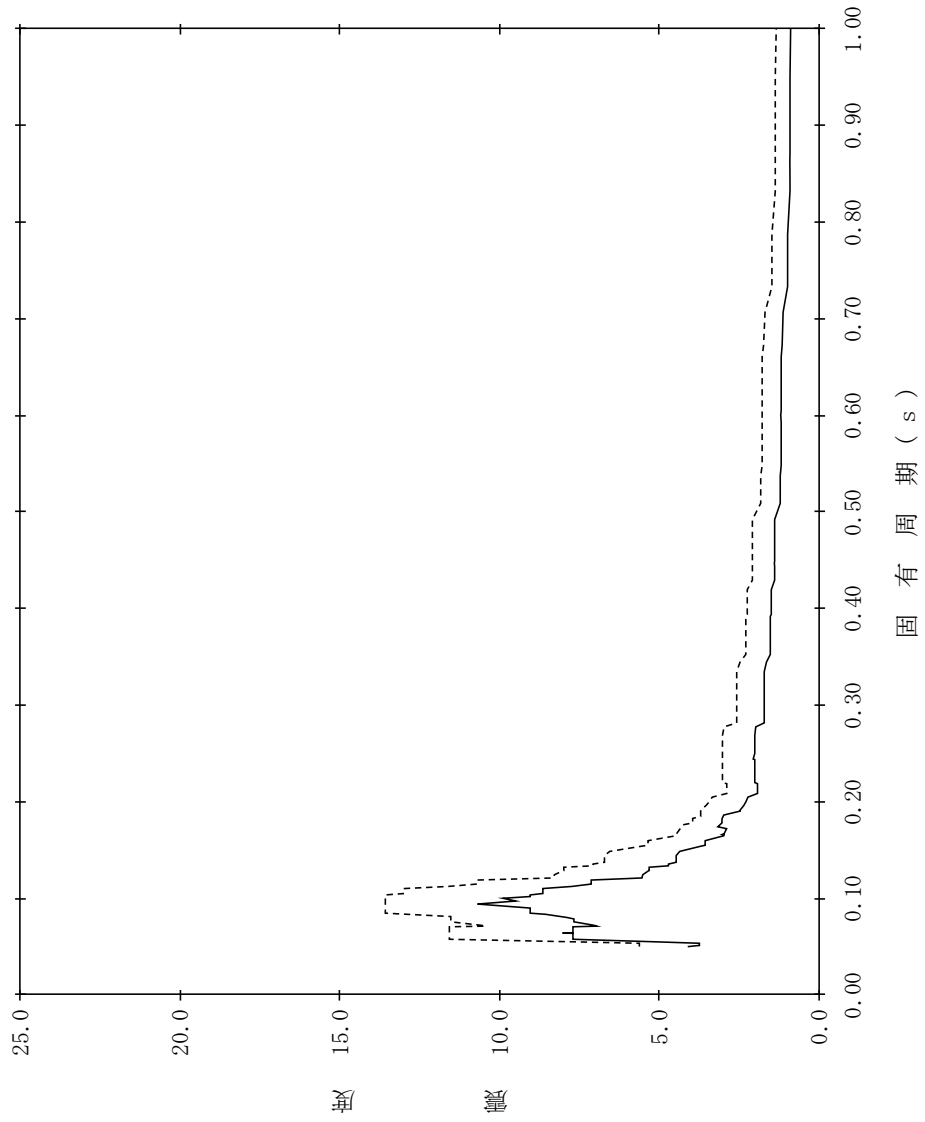
【NS2-RB-SsV-RB50】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



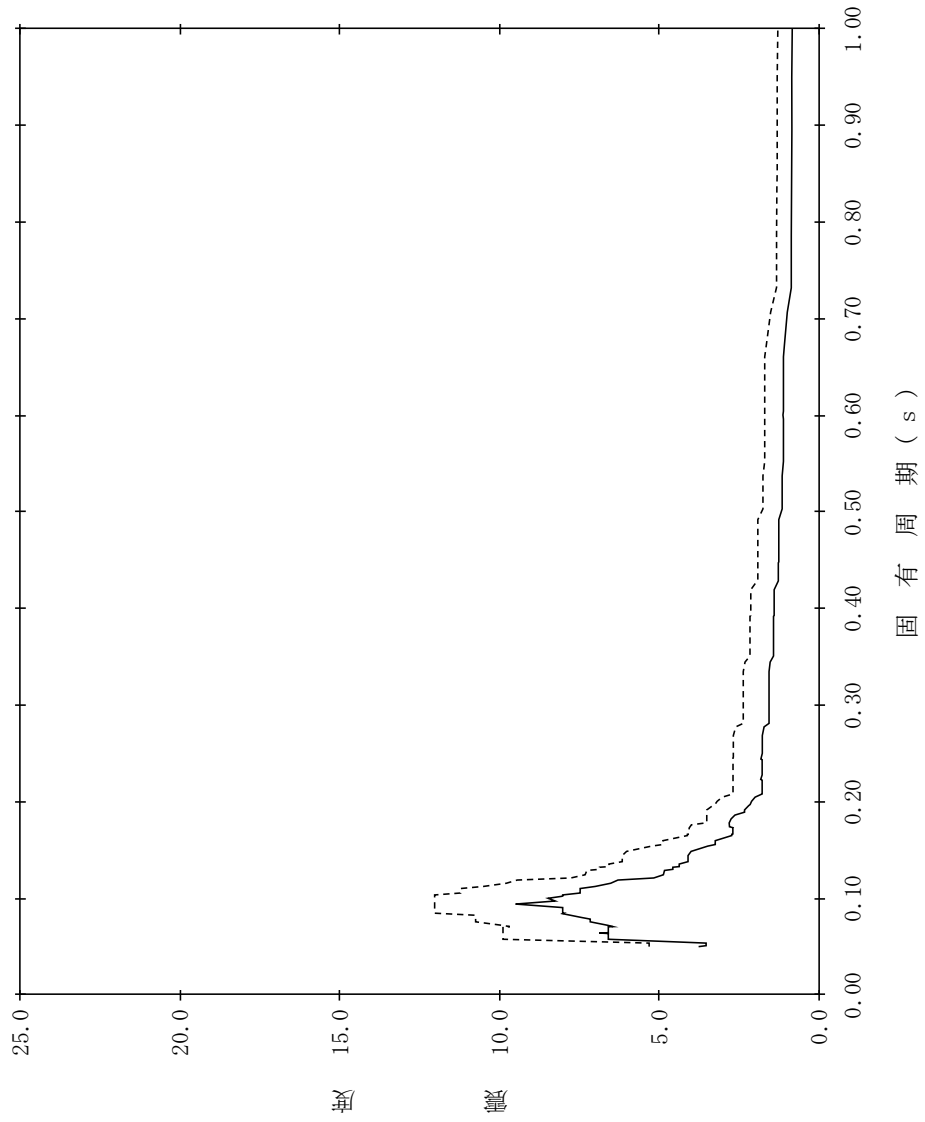
【NS2-RB-SsV-RB51】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

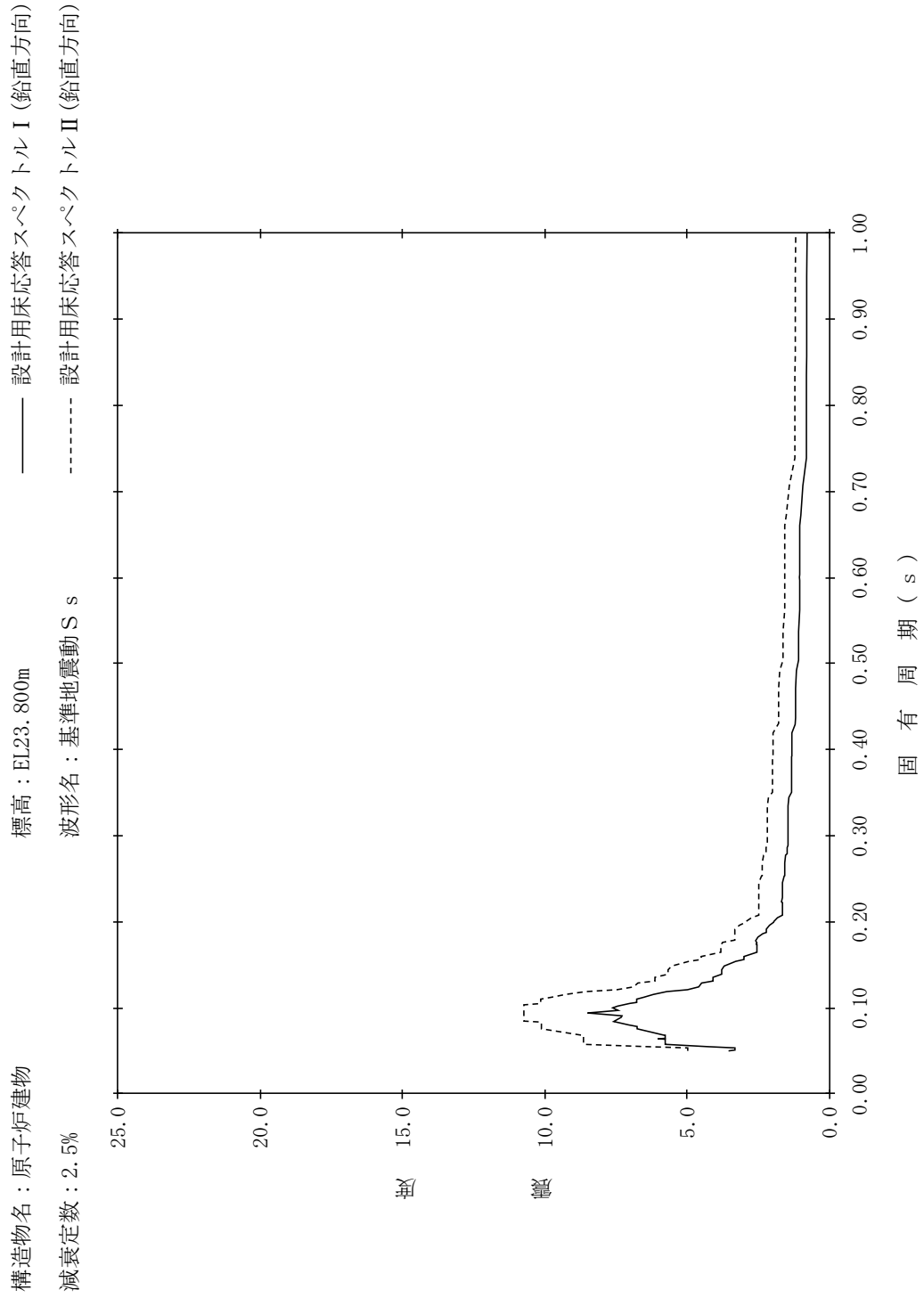


【NS2-RB-SsV-RB52】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

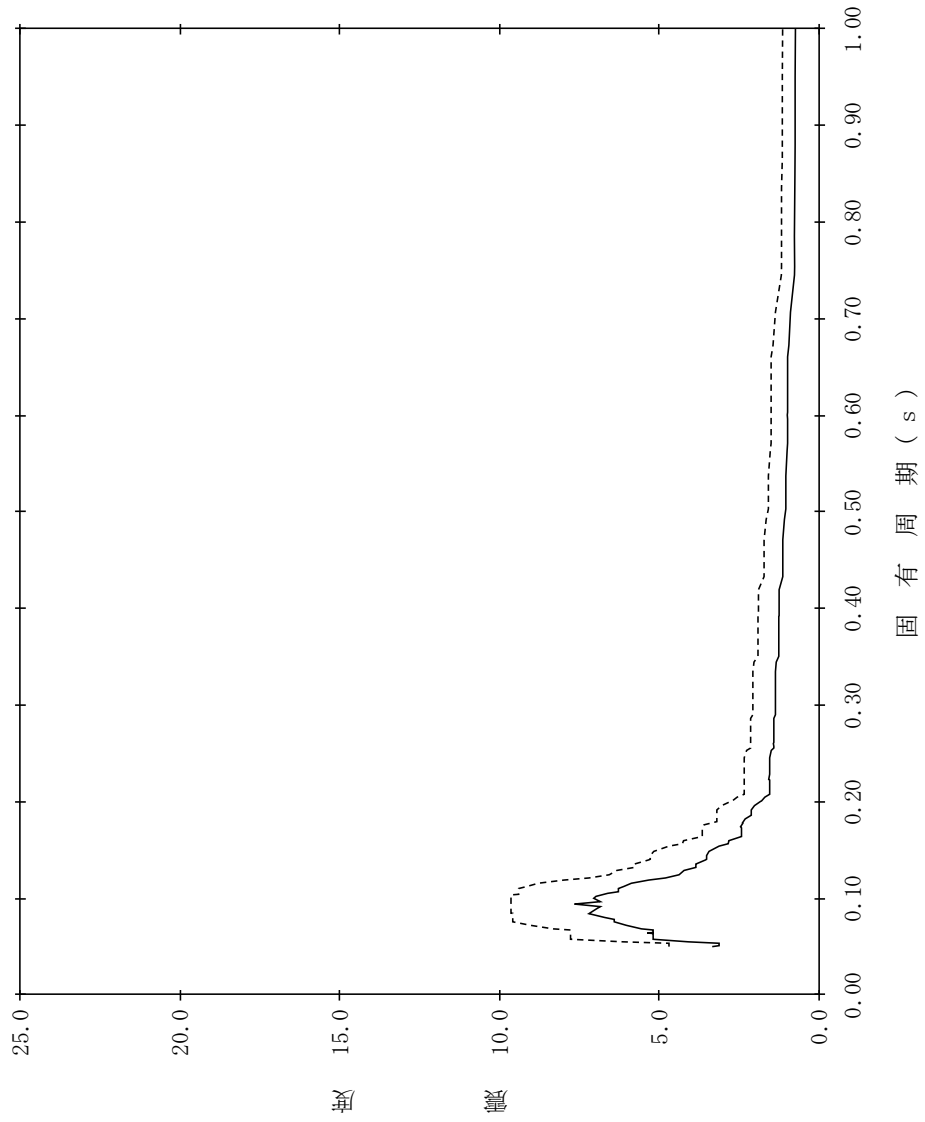


【NS2-RB-SsV-RB53】



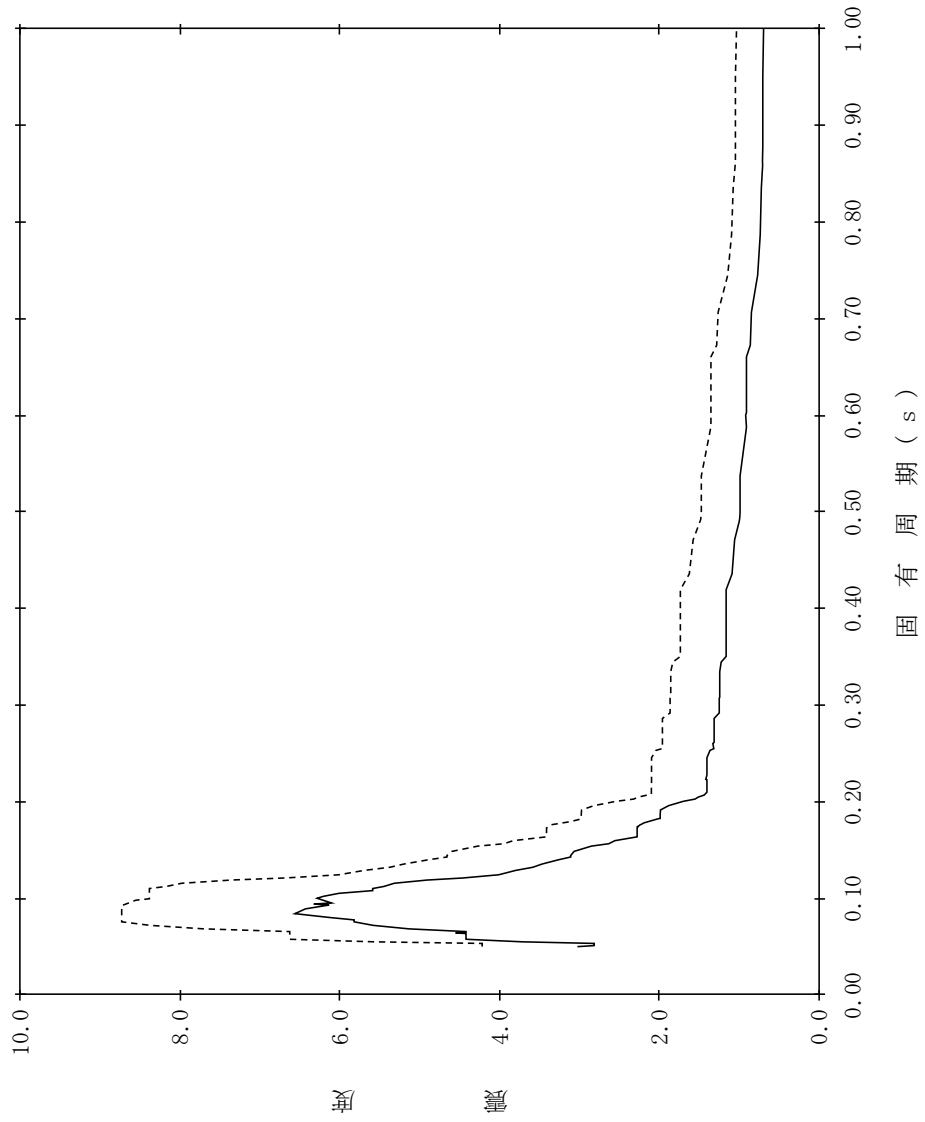
【NS2-RB-SsV-RB54】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



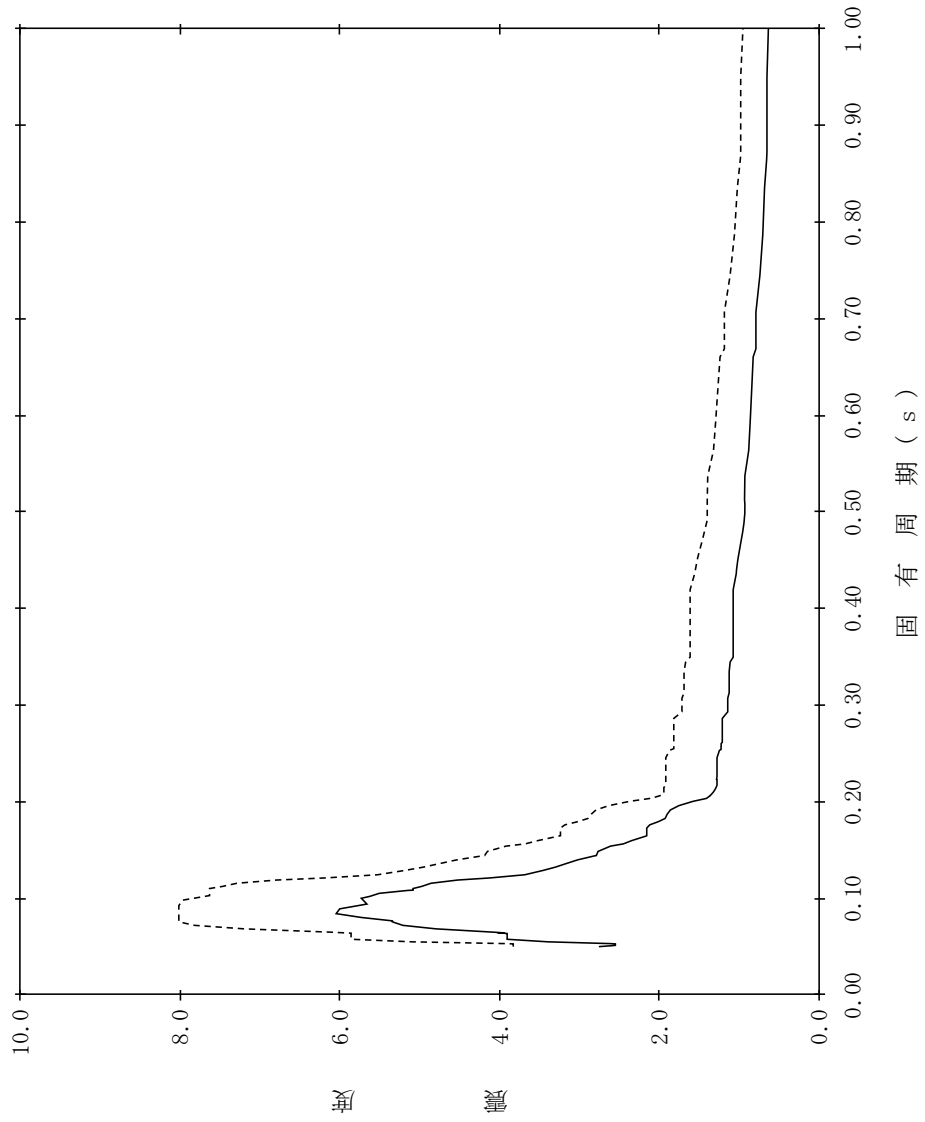
【NS2-RB-SsV-RB55】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

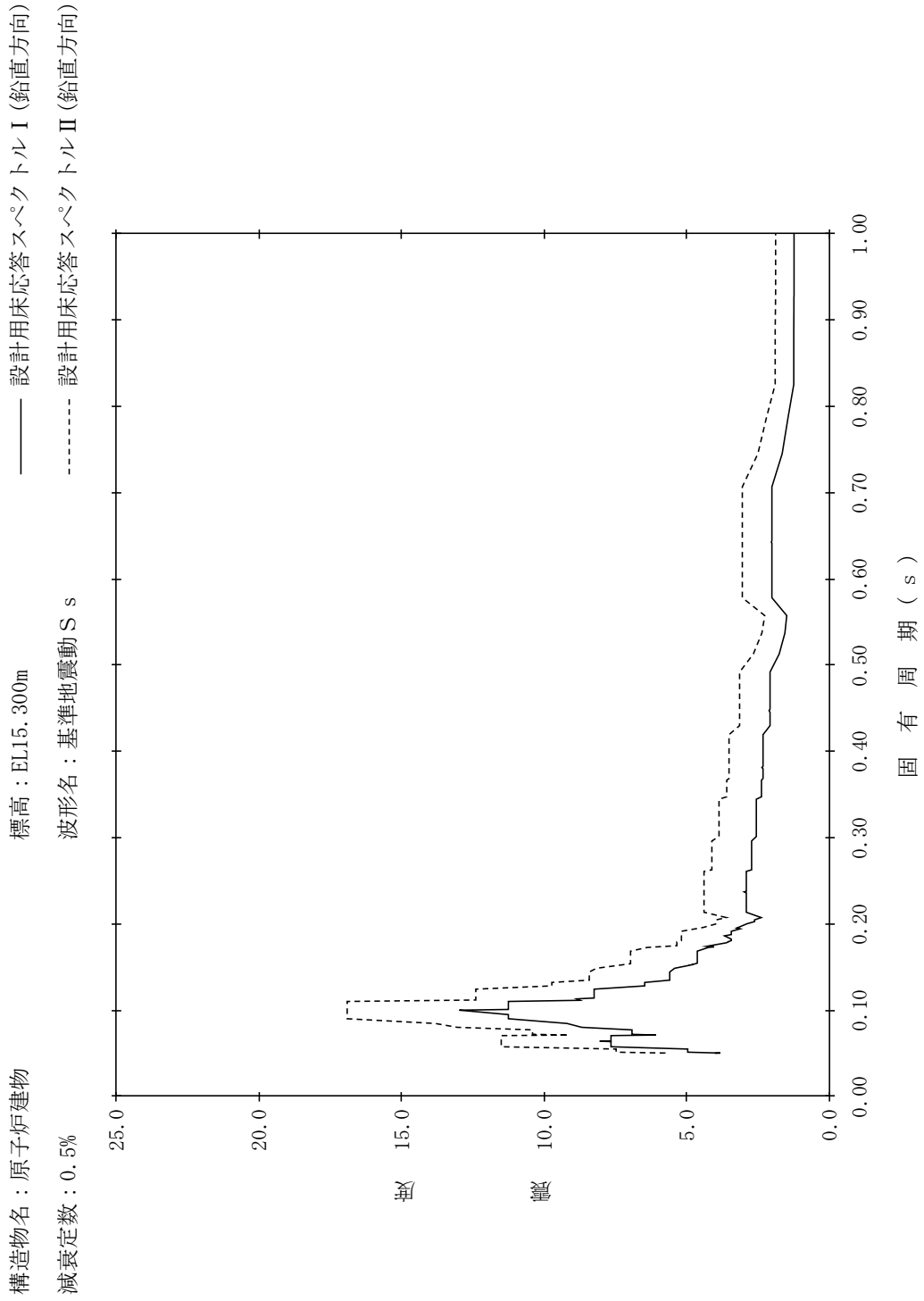


【NS2-RB-SsV-RB56】

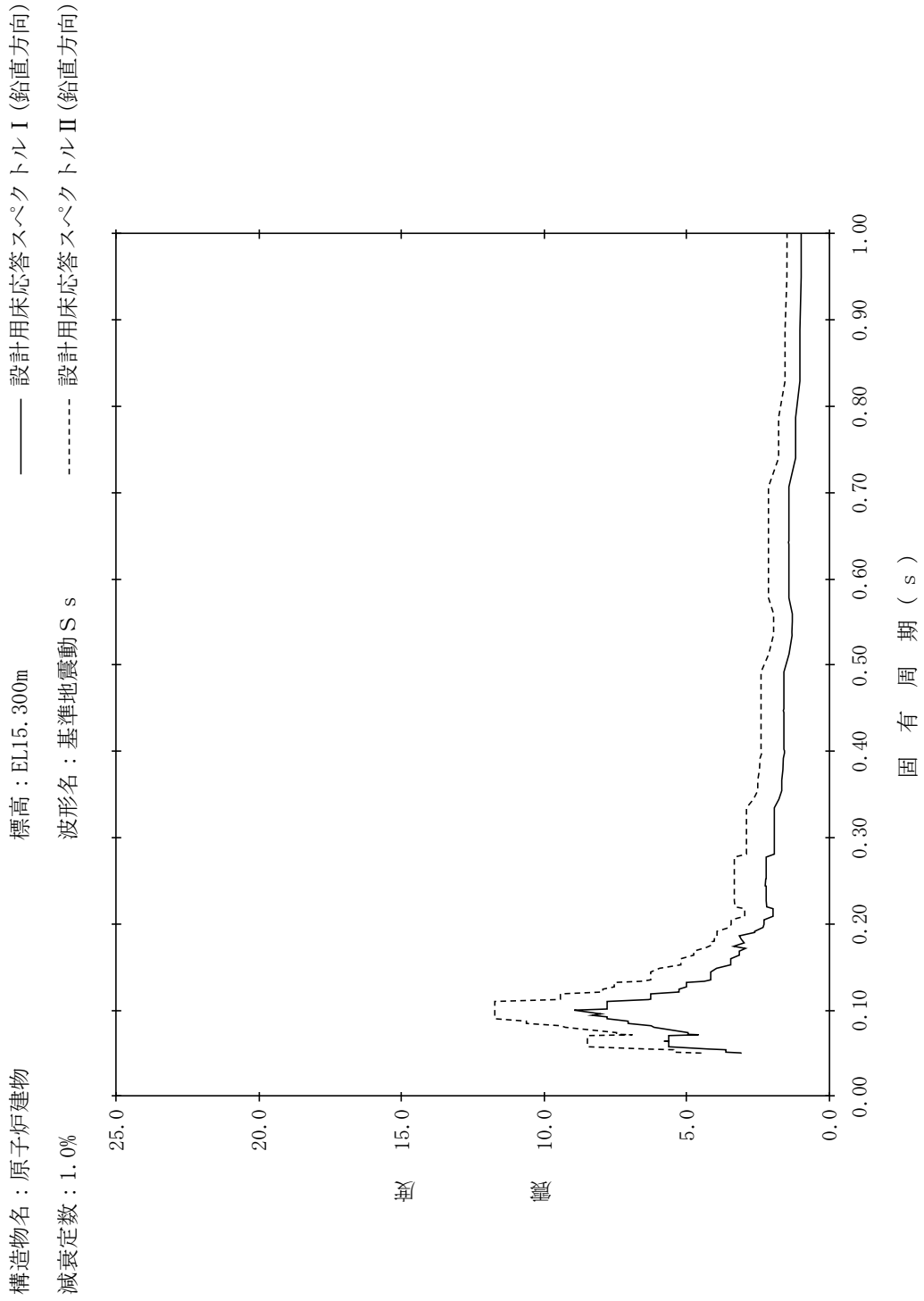
構造物名：原子炉建物
 標高：EL23.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RB-SsV-RB57】

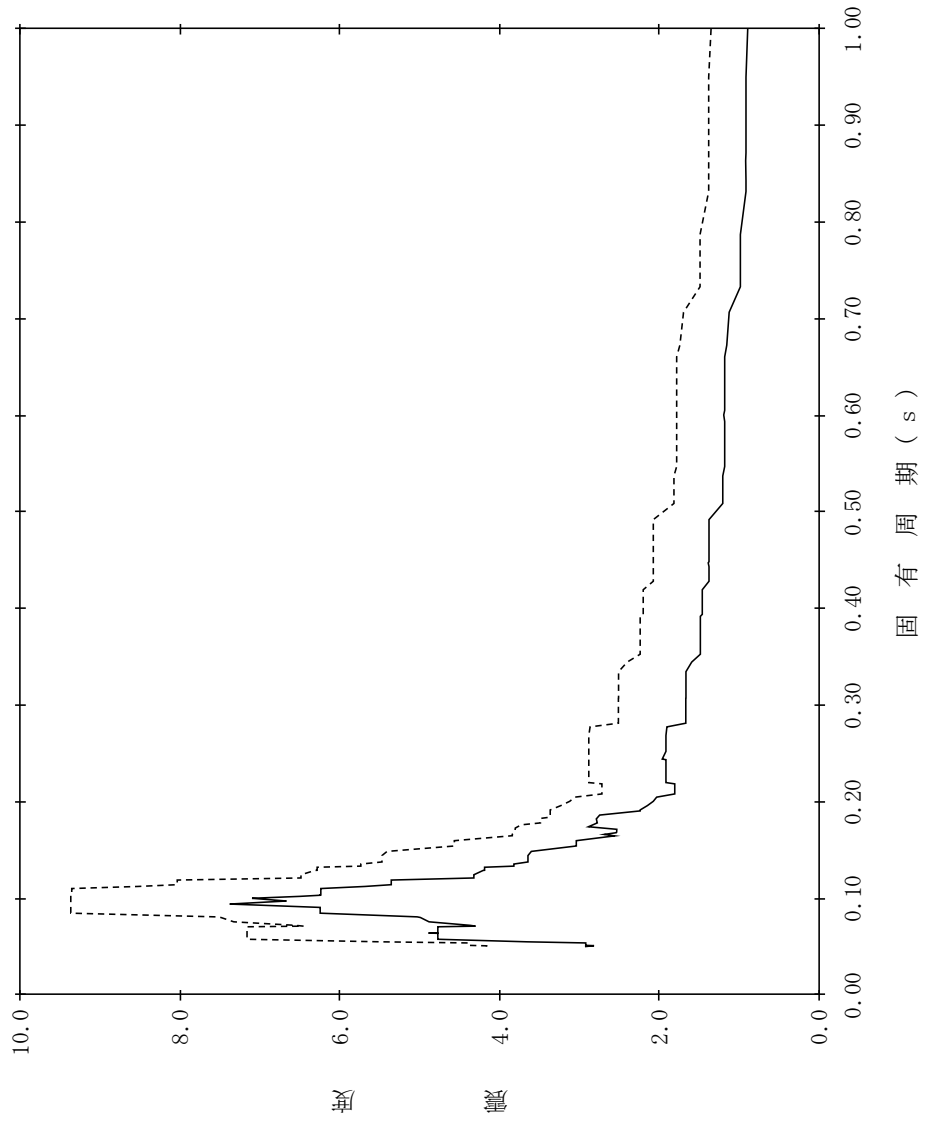


【NS2-RB-SsV-RB58】



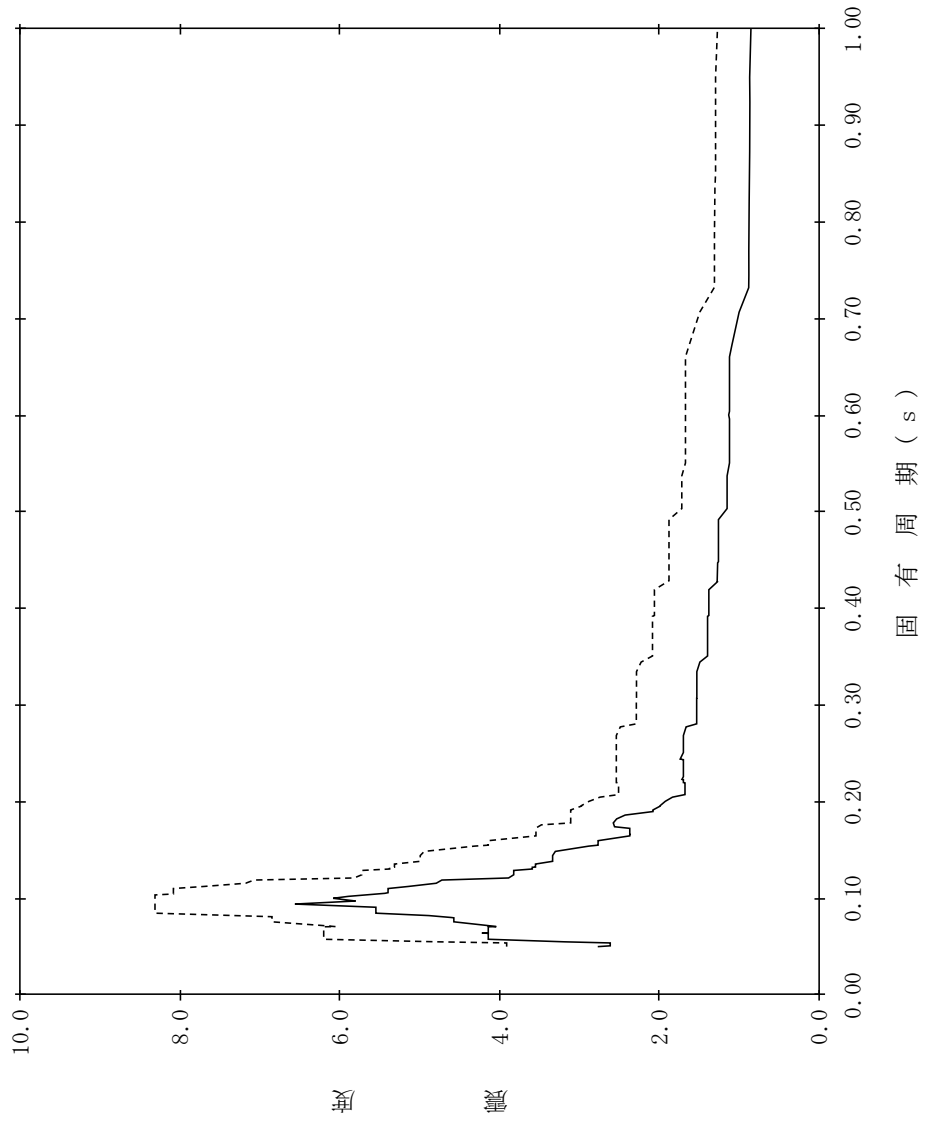
【NS2-RB-SsV-RB59】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

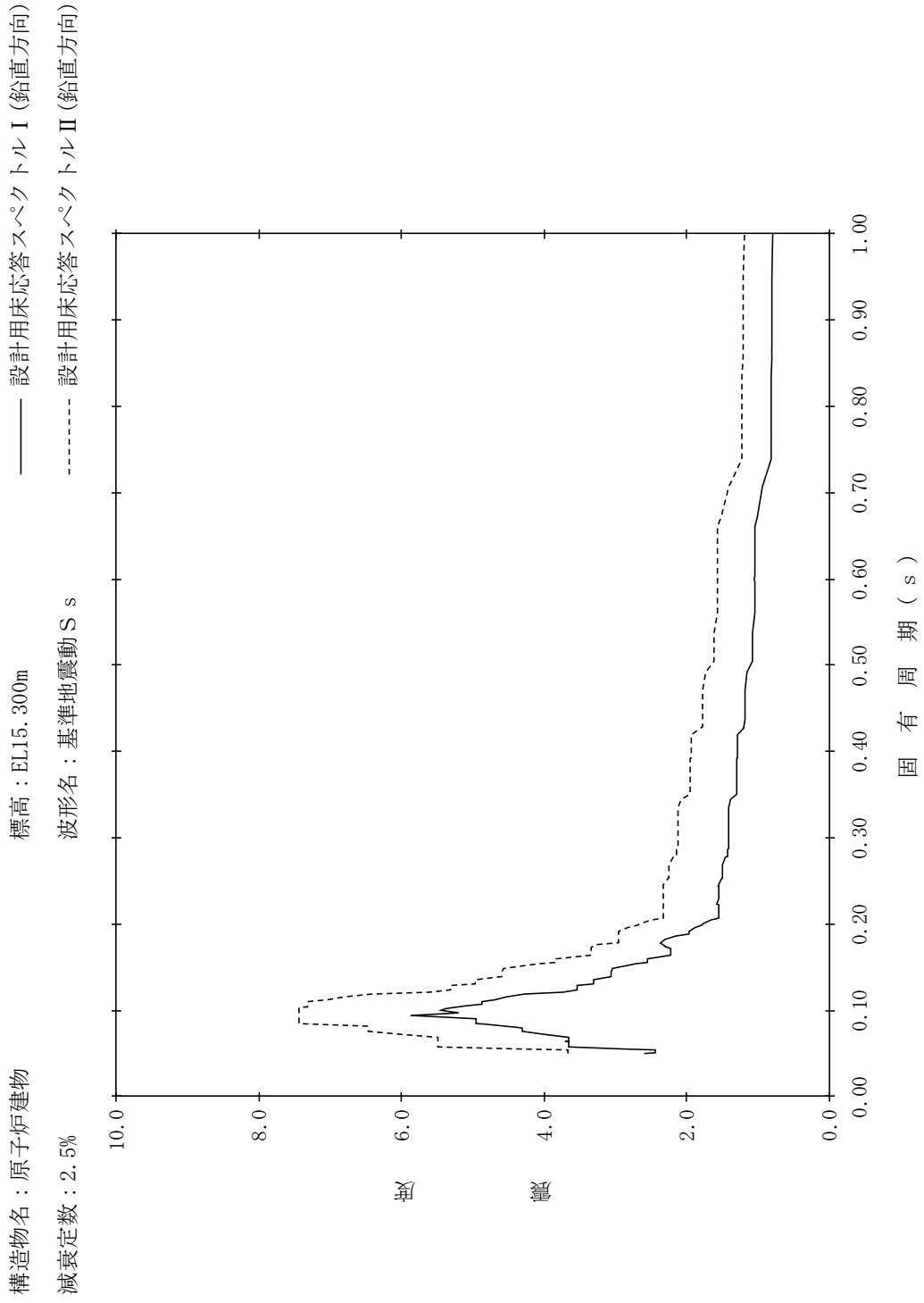


【NS2-RB-SsV-RB60】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

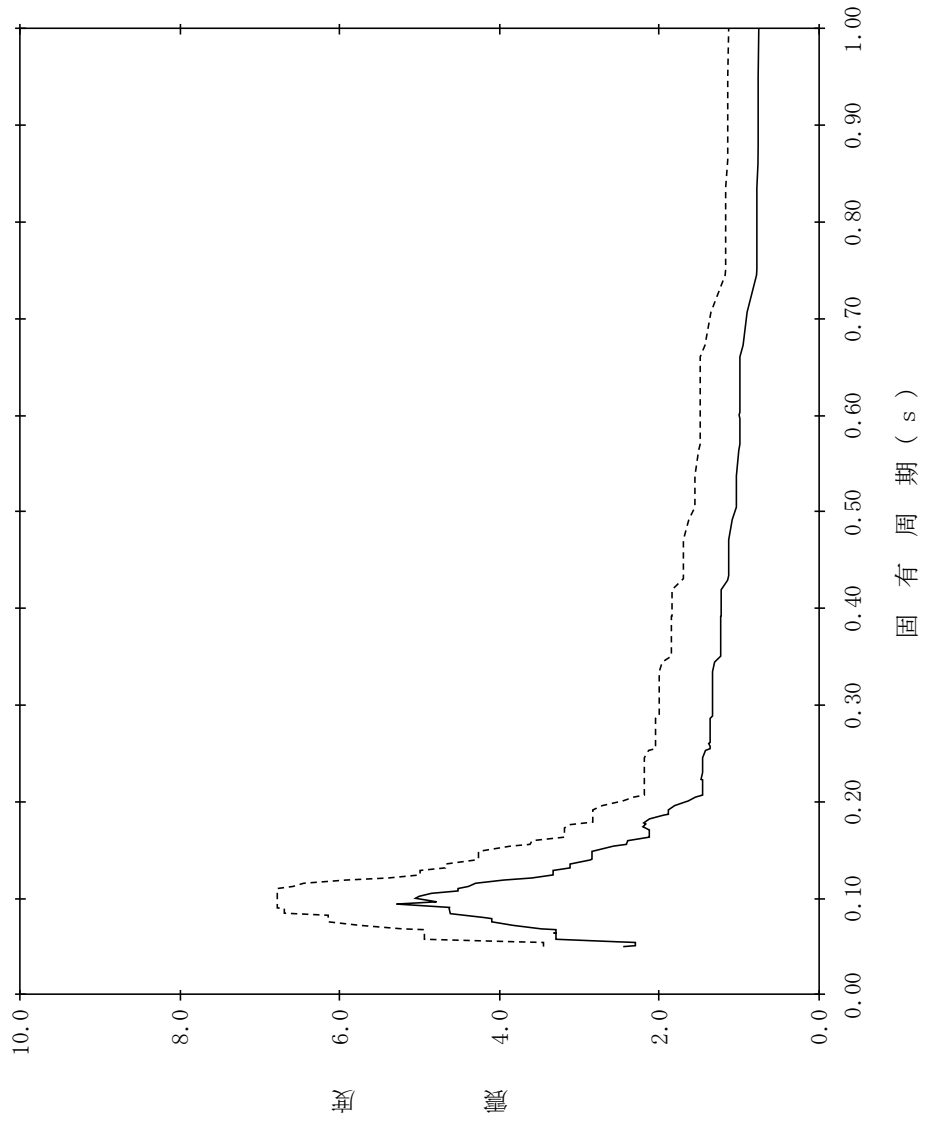


【NS2-RB-SsV-RB61】

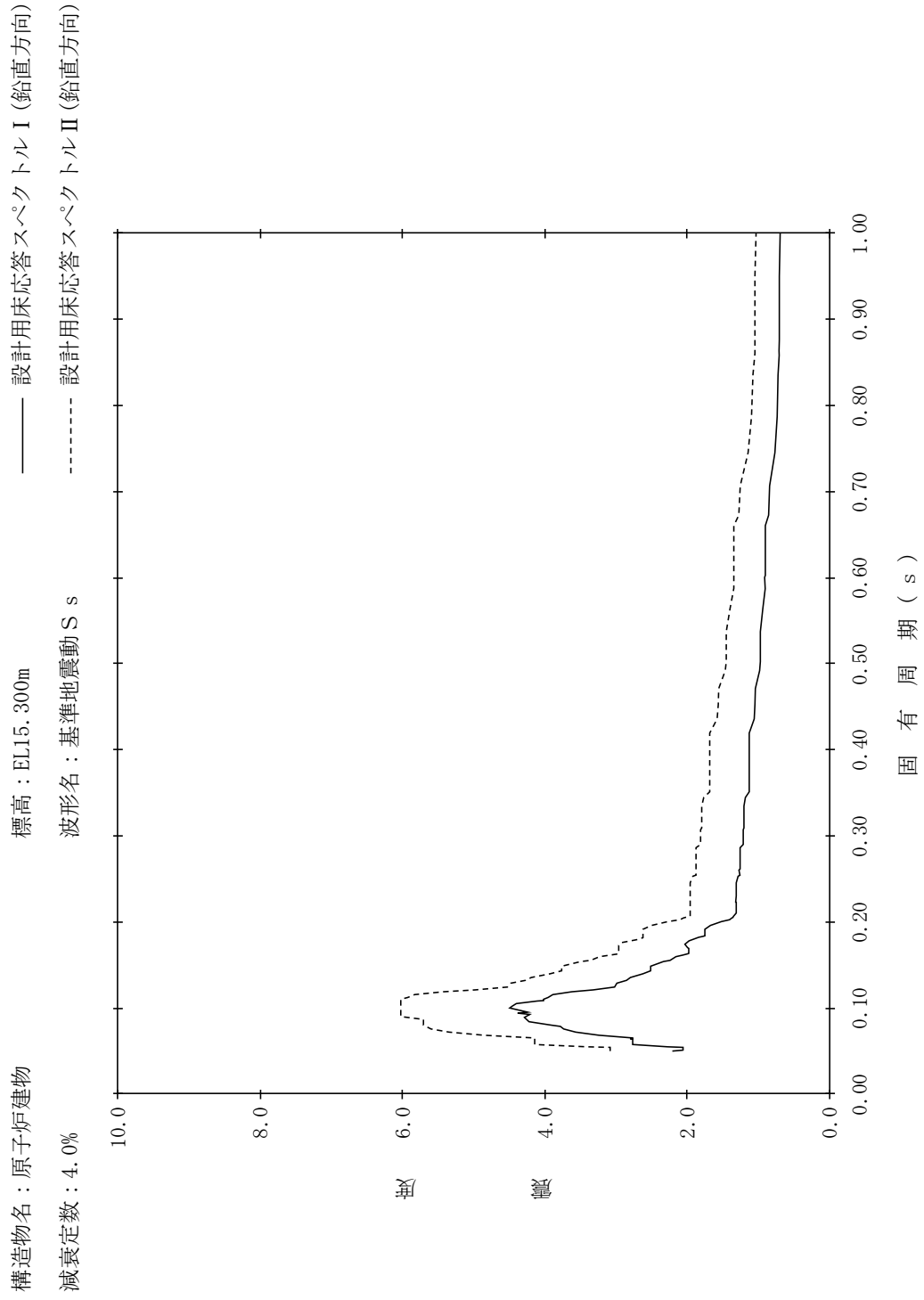


【NS2-RB-SsV-RB62】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

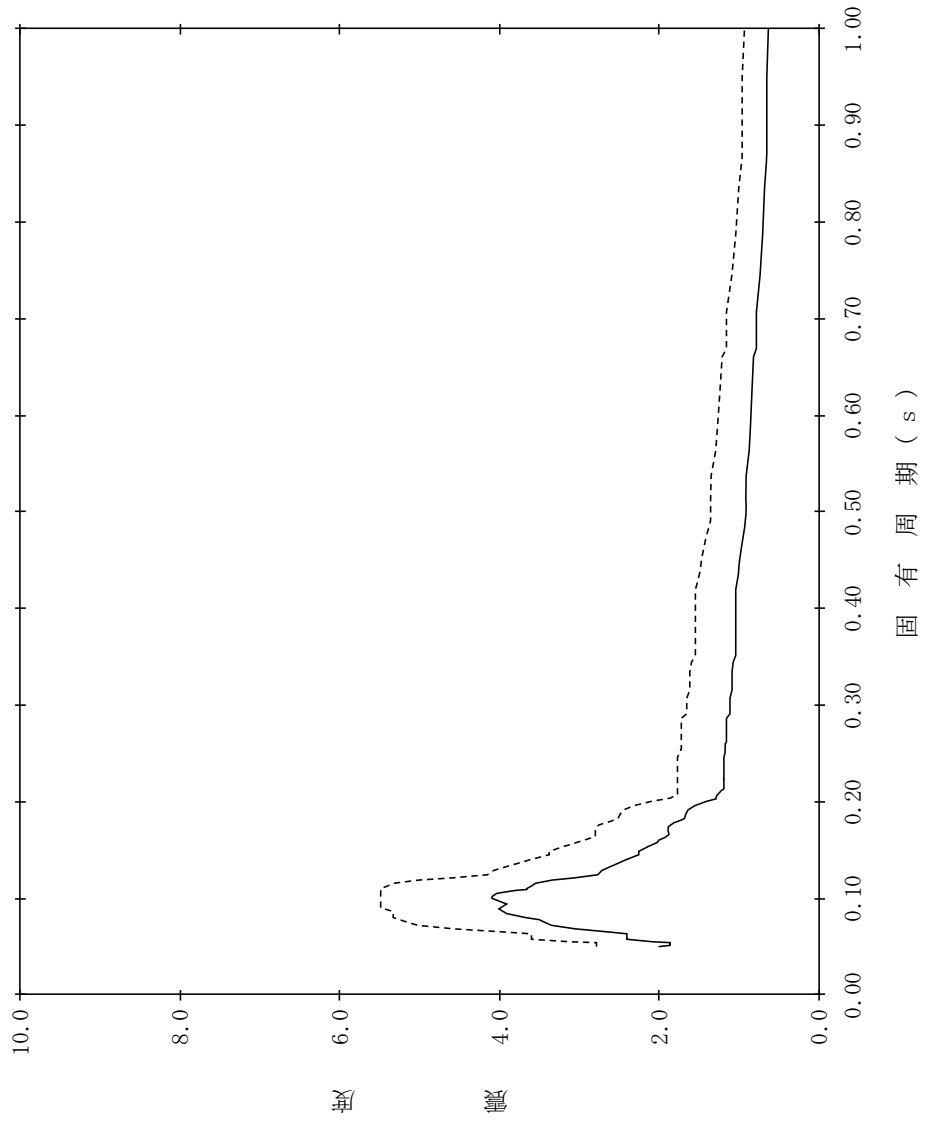


【NS2-RB-SsV-RB63】

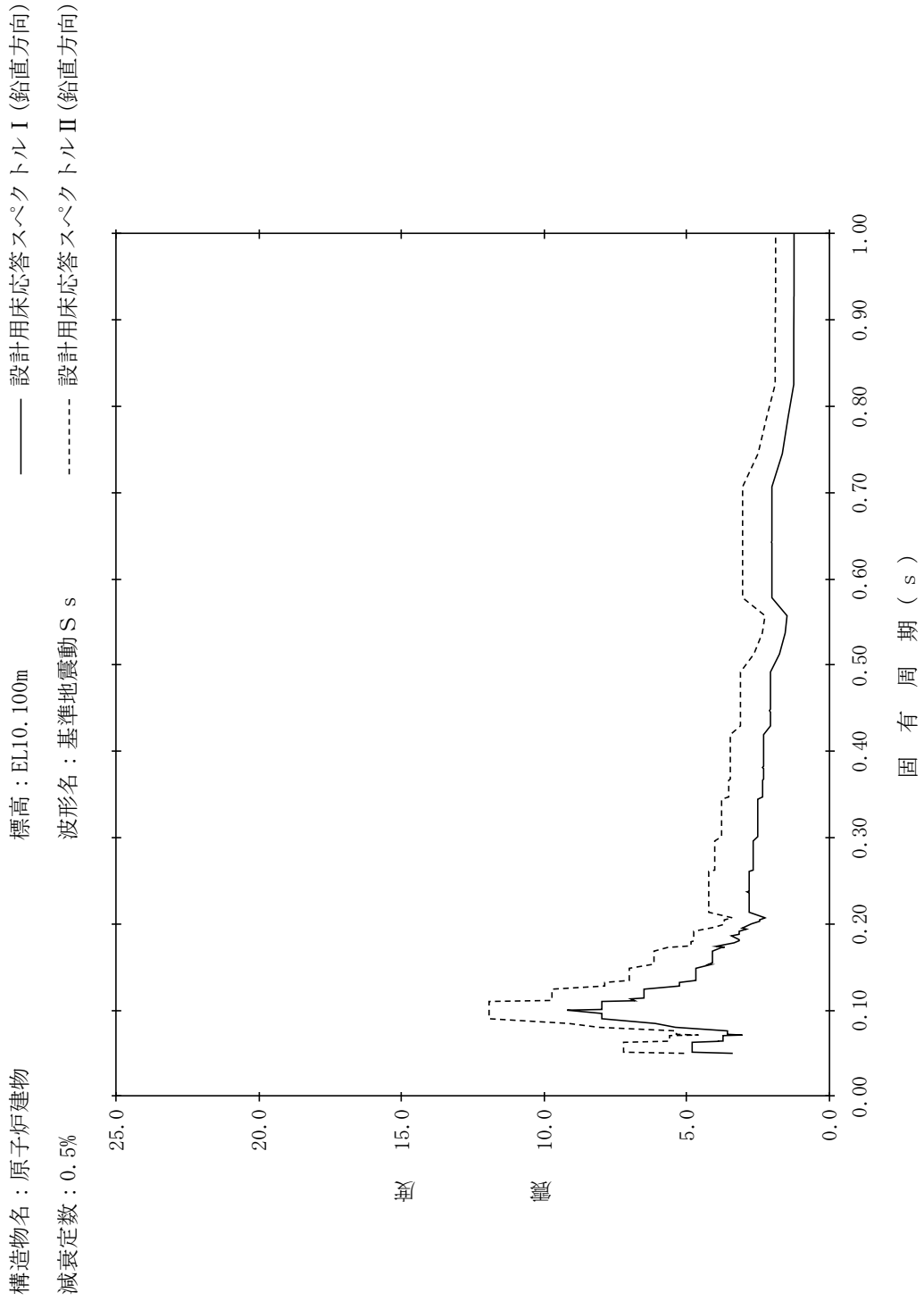


【NS2-RB-SsV-RB64】

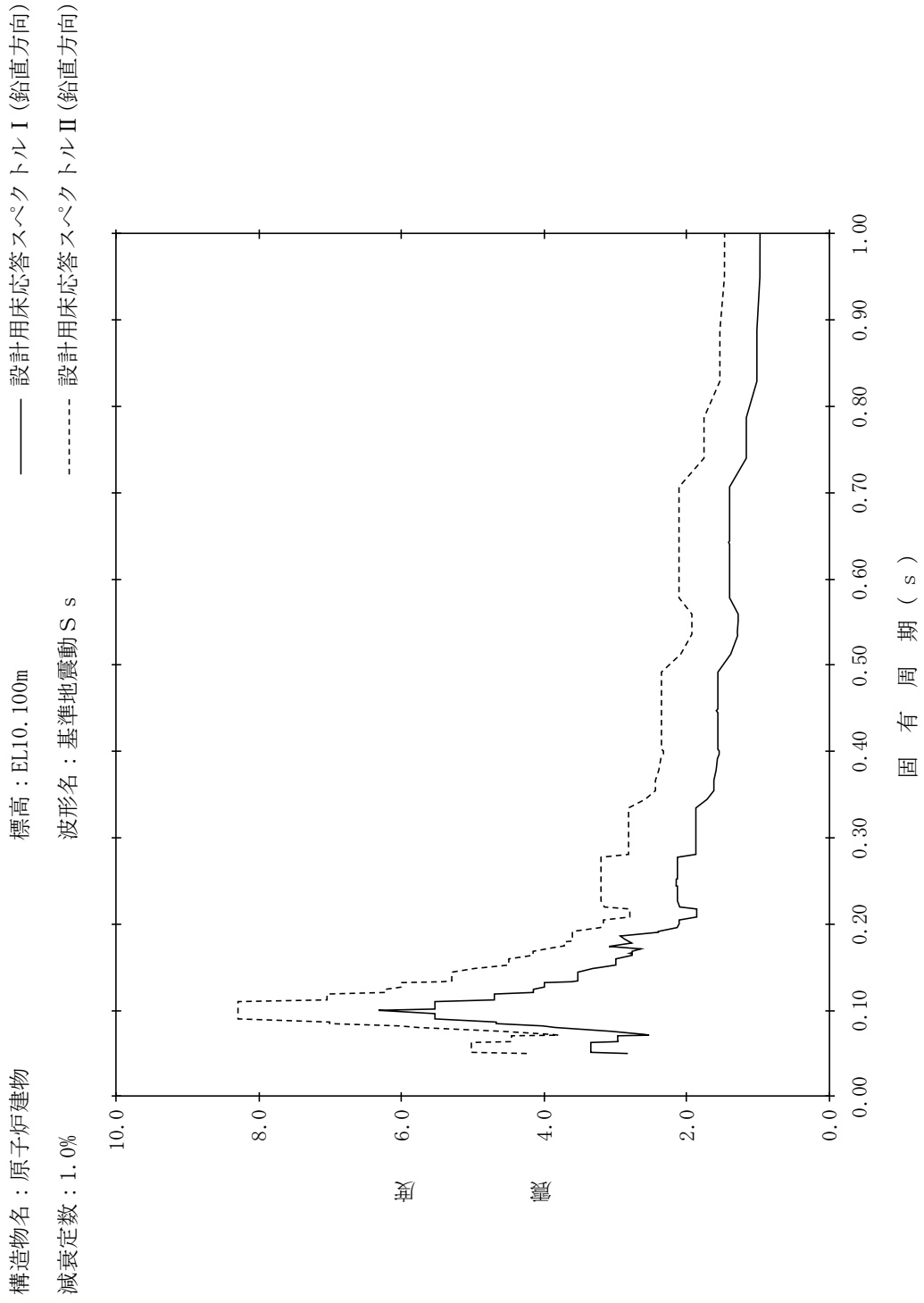
構造物名：原子炉建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



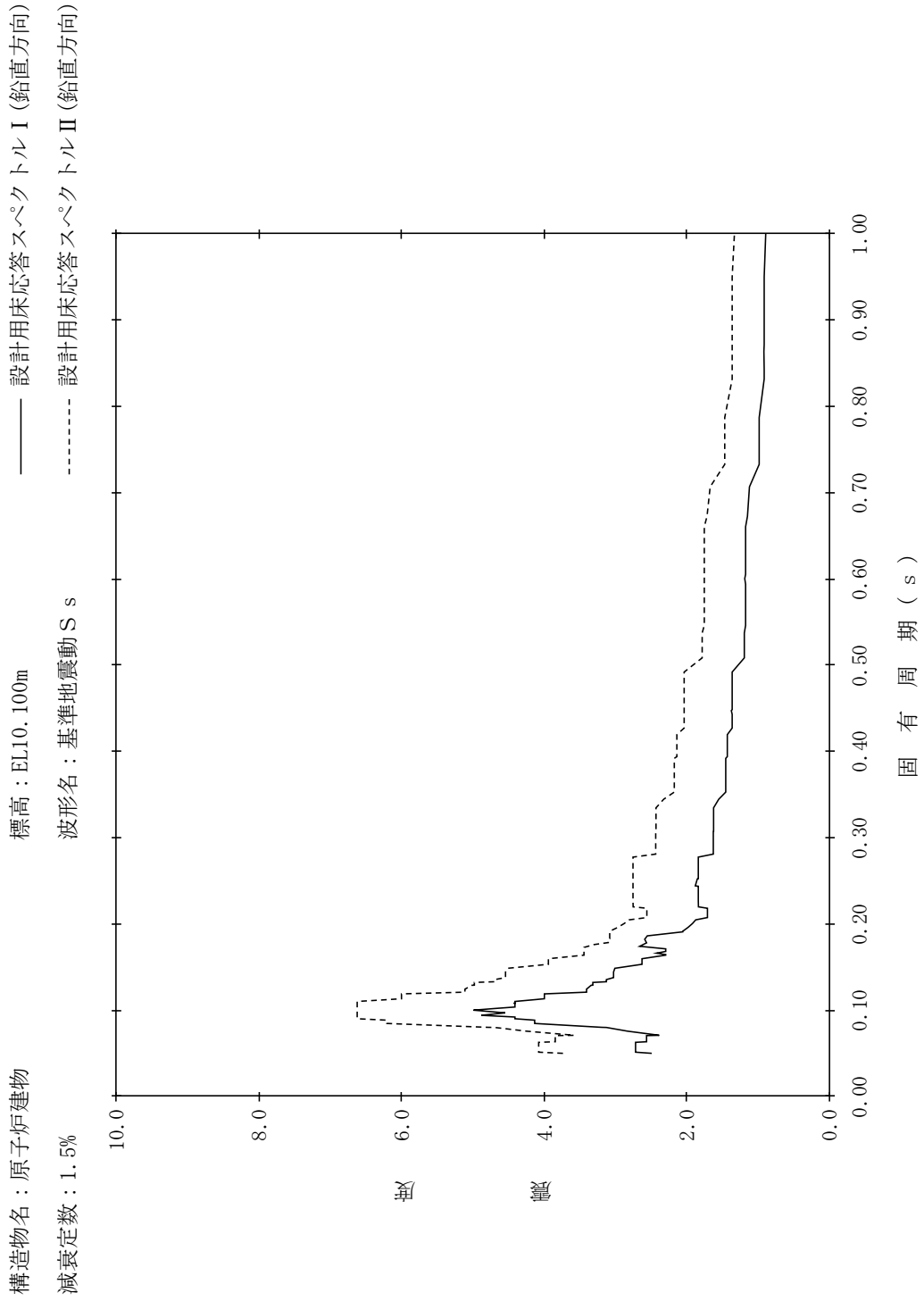
【NS2-RB-SsV-RB65】



【NS2-RB-SsV-RB66】

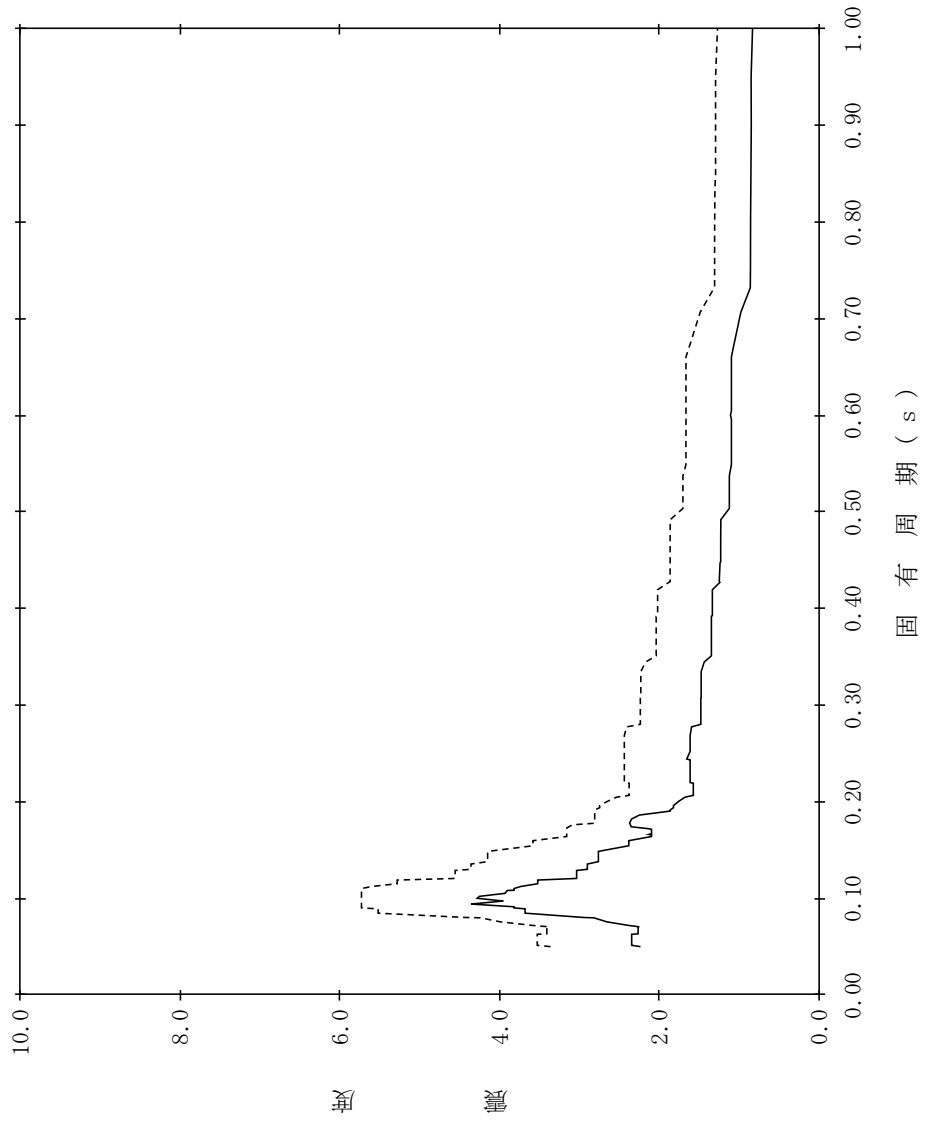


【NS2-RB-SsV-RB67】

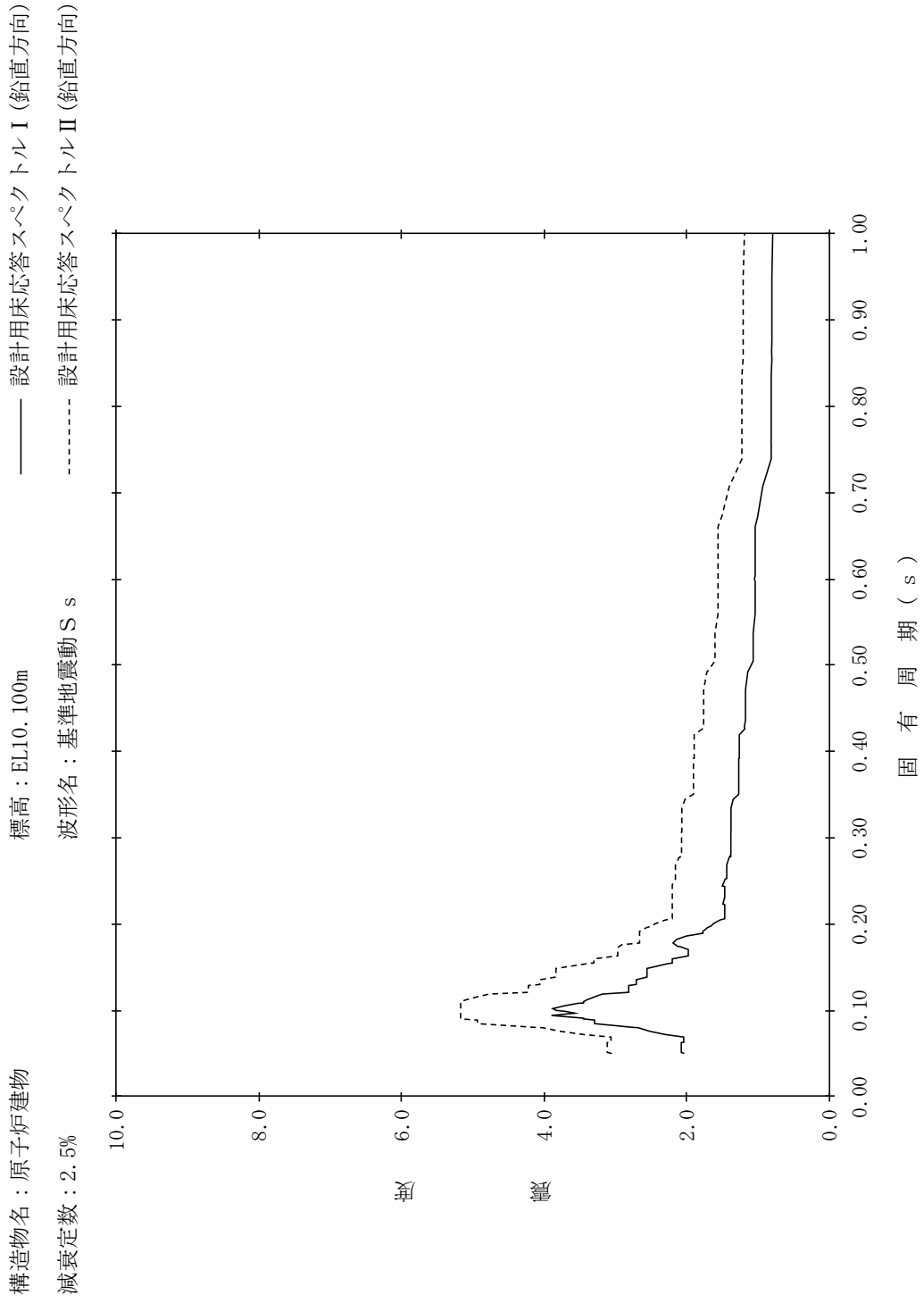


【NS2-RB-SsV-RB68】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

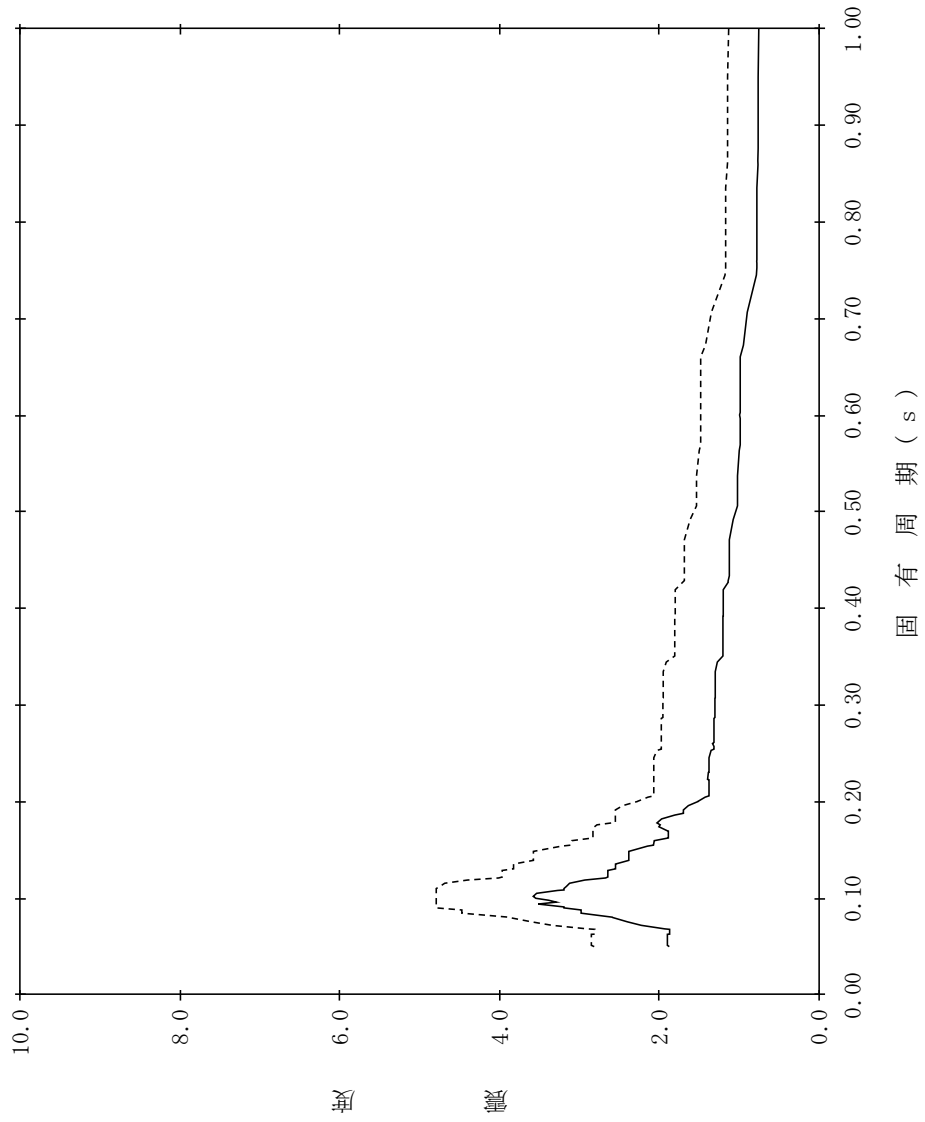


【NS2-RB-SsV-RB69】



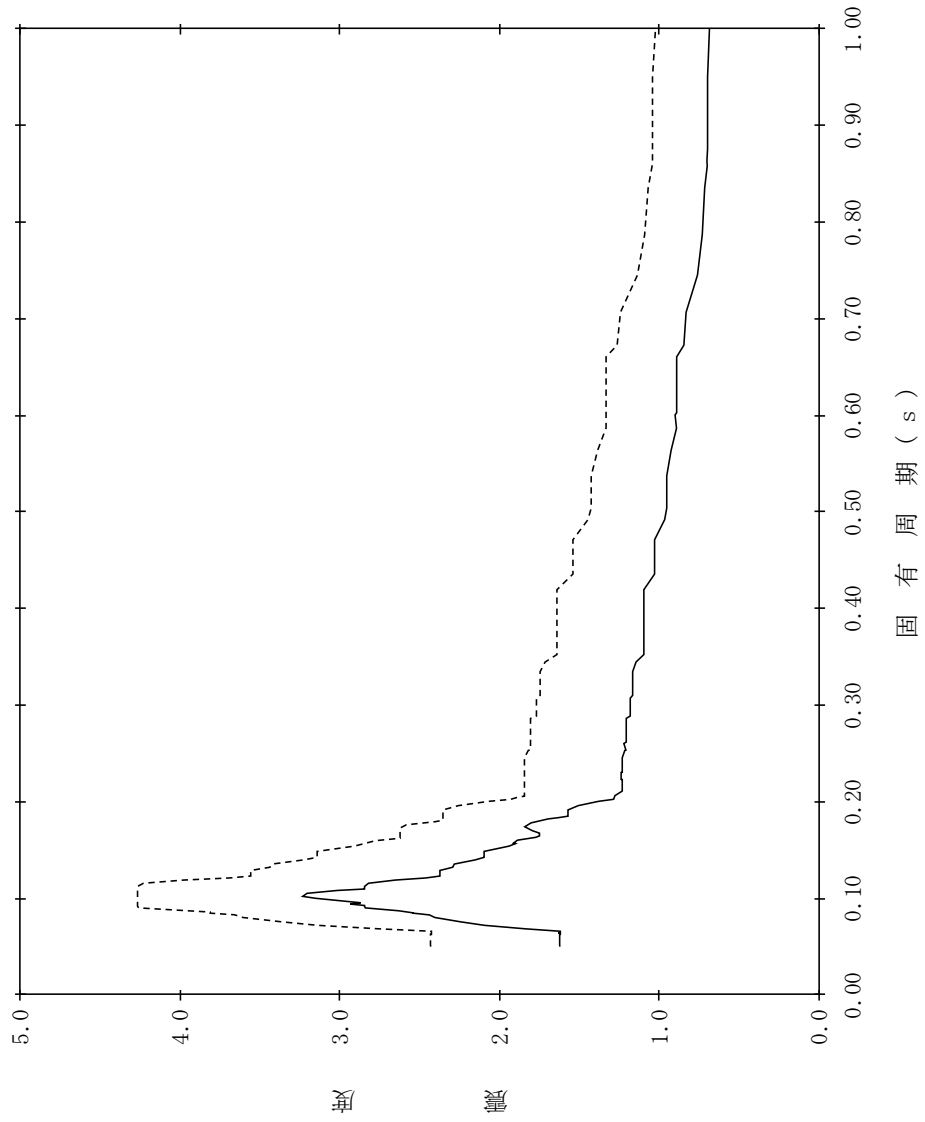
【NS2-RB-SsV-RB70】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

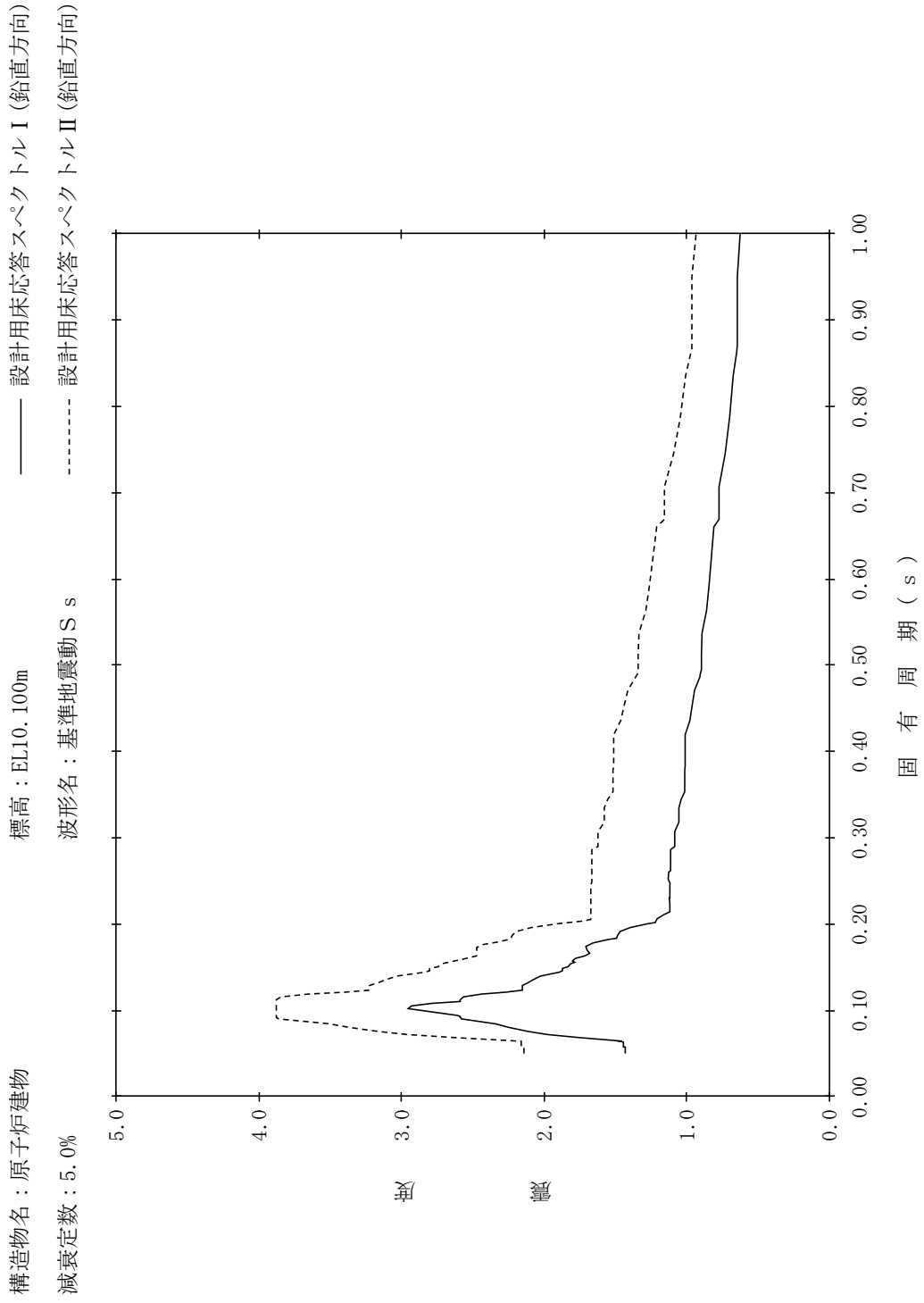


【NS2-RB-SsV-RB71】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL10.100m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

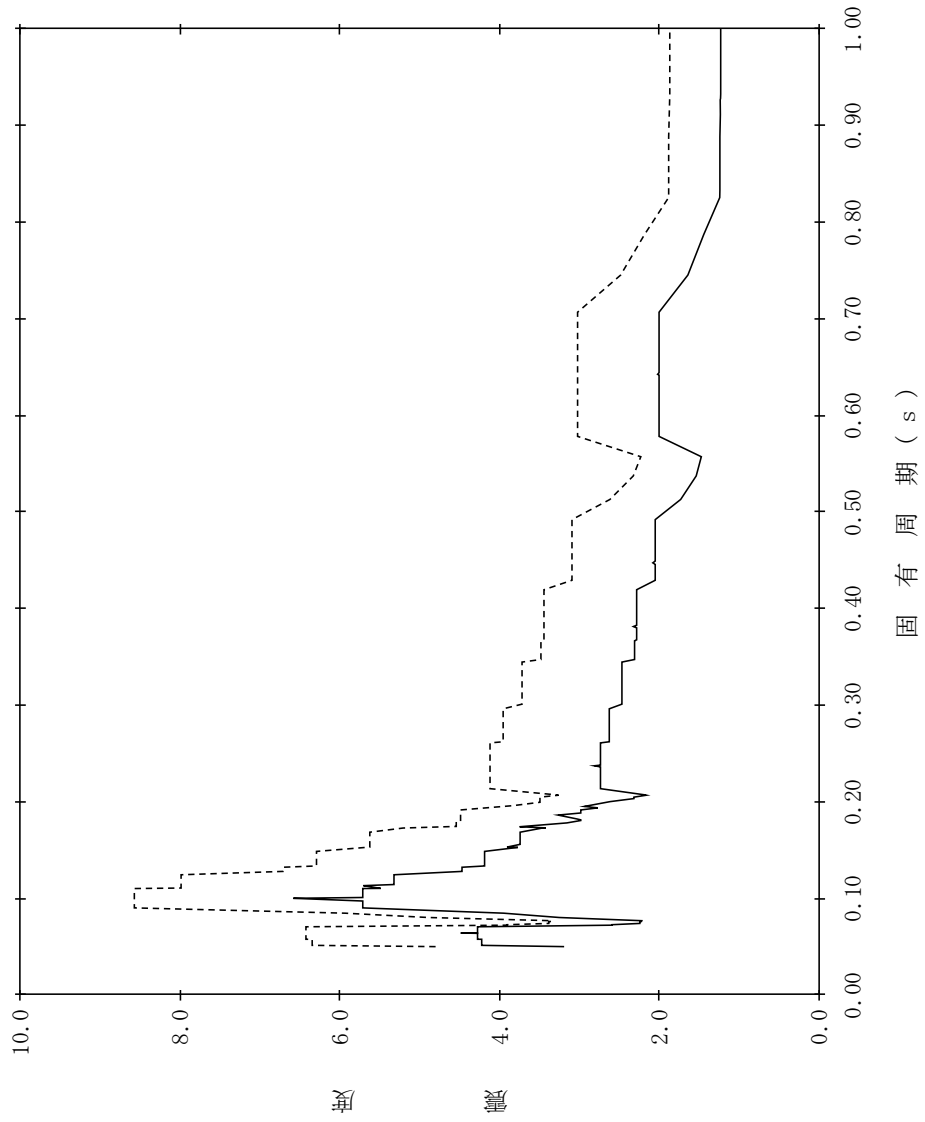


【NS2-RB-SsV-RB72】



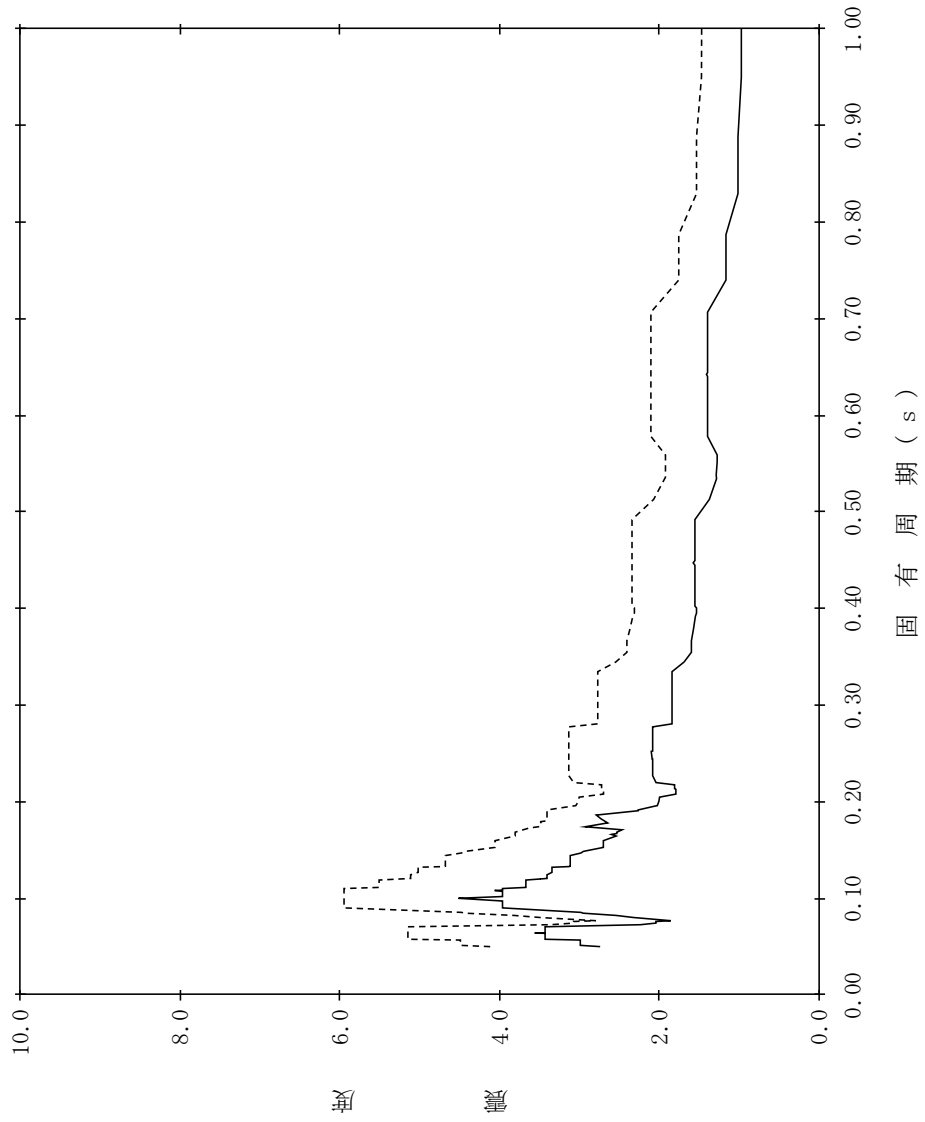
【NS2-RB-SsV-RB73】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

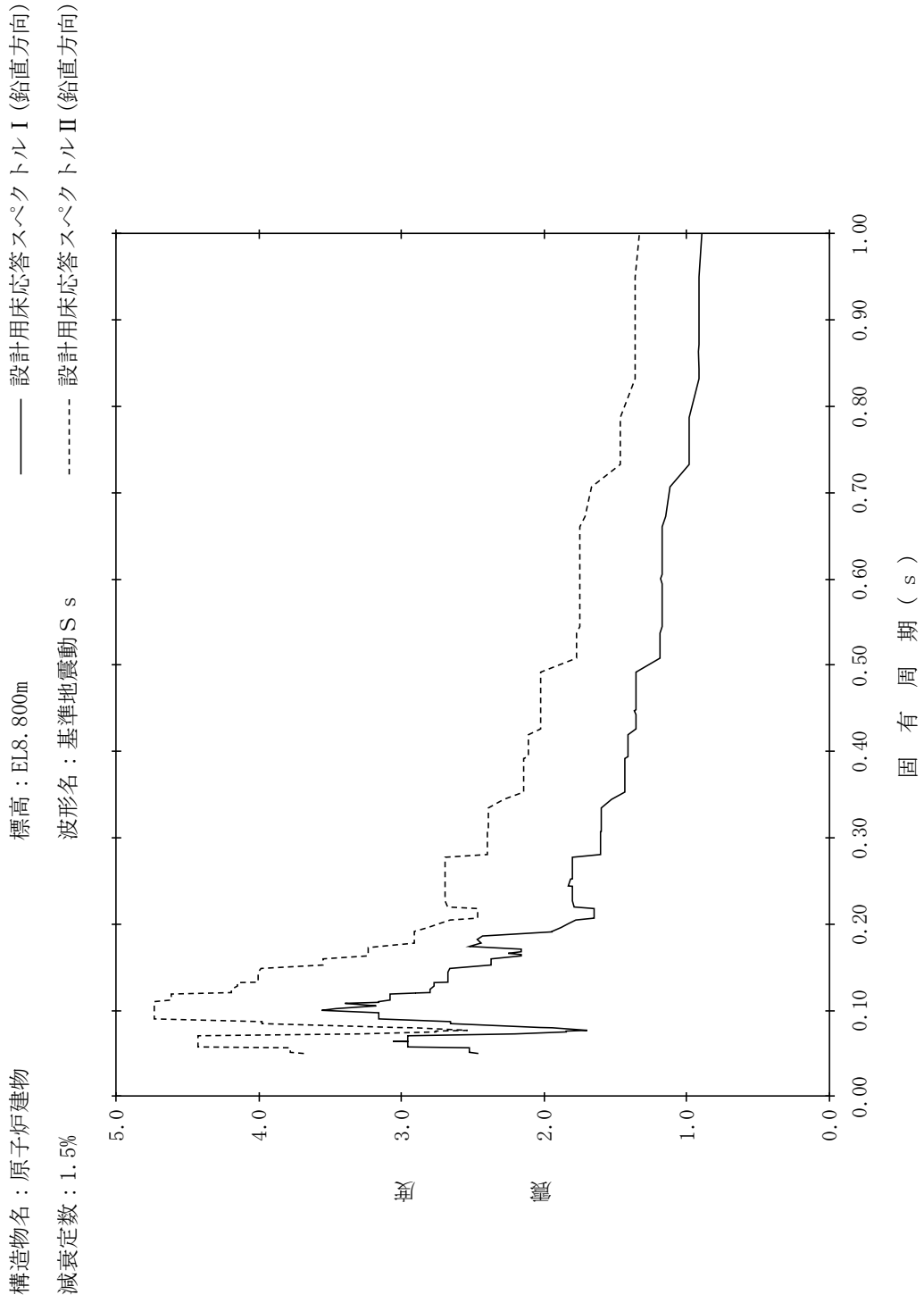


【NS2-RB-SsV-RB74】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

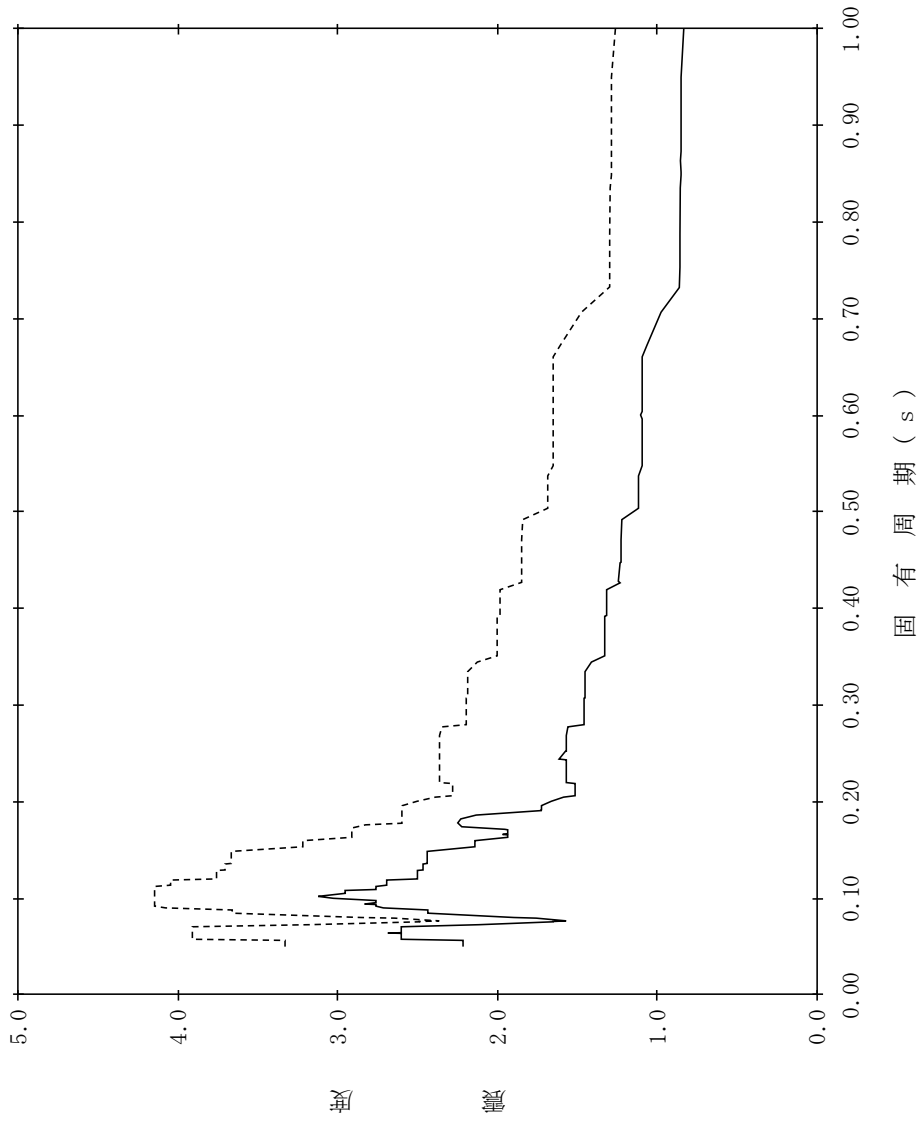


【NS2-RB-SsV-RB75】

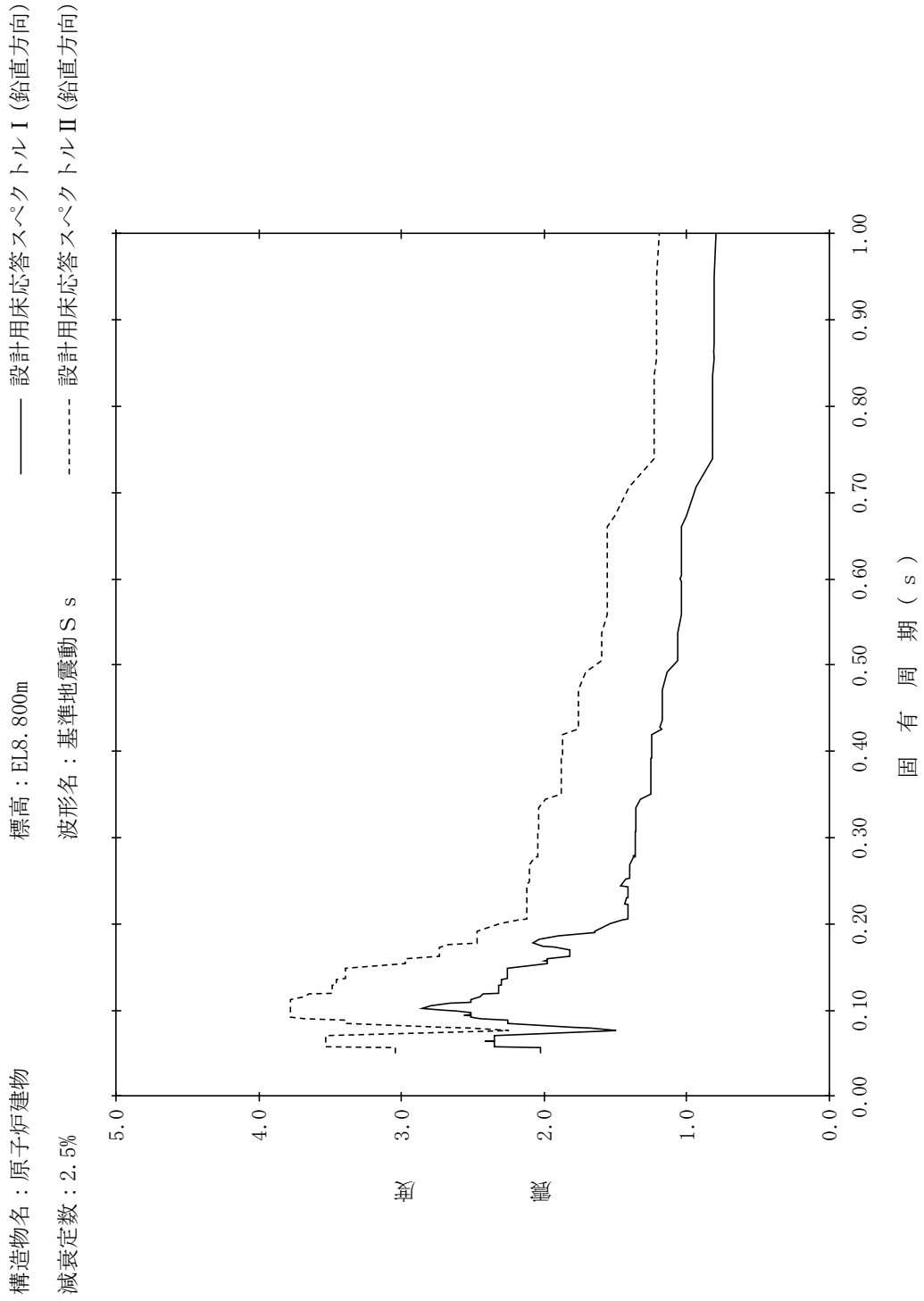


【NS2-RB-SsV-RB76】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

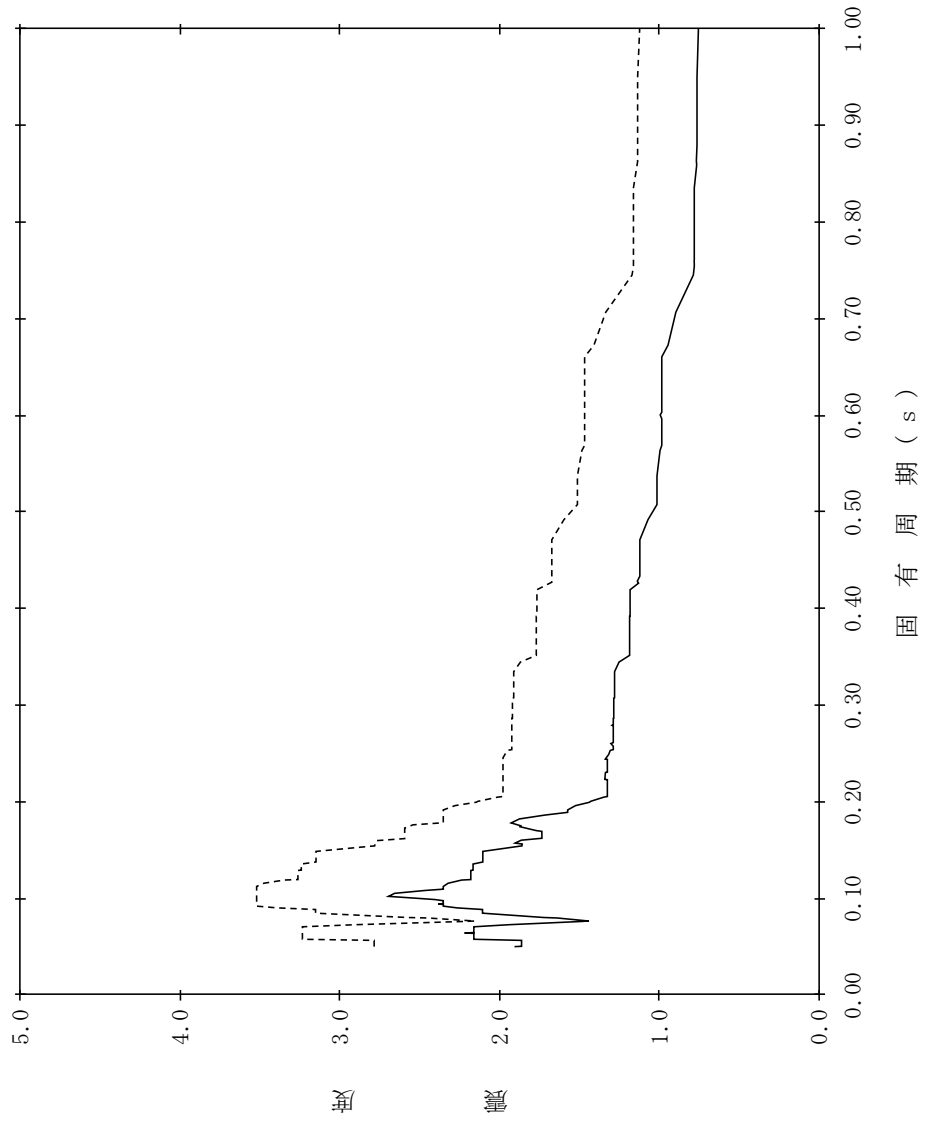


【NS2-RB-SsV-RB77】



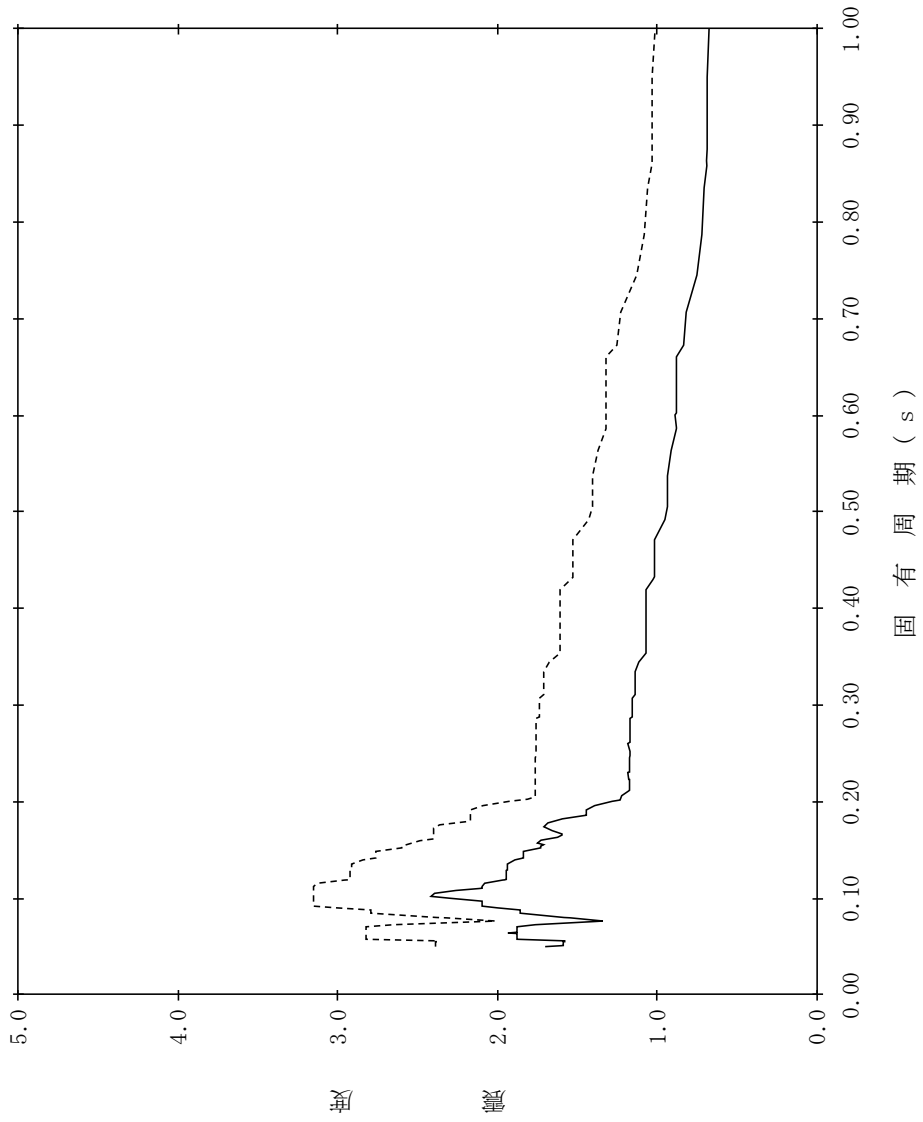
【NS2-RB-SsV-RB78】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



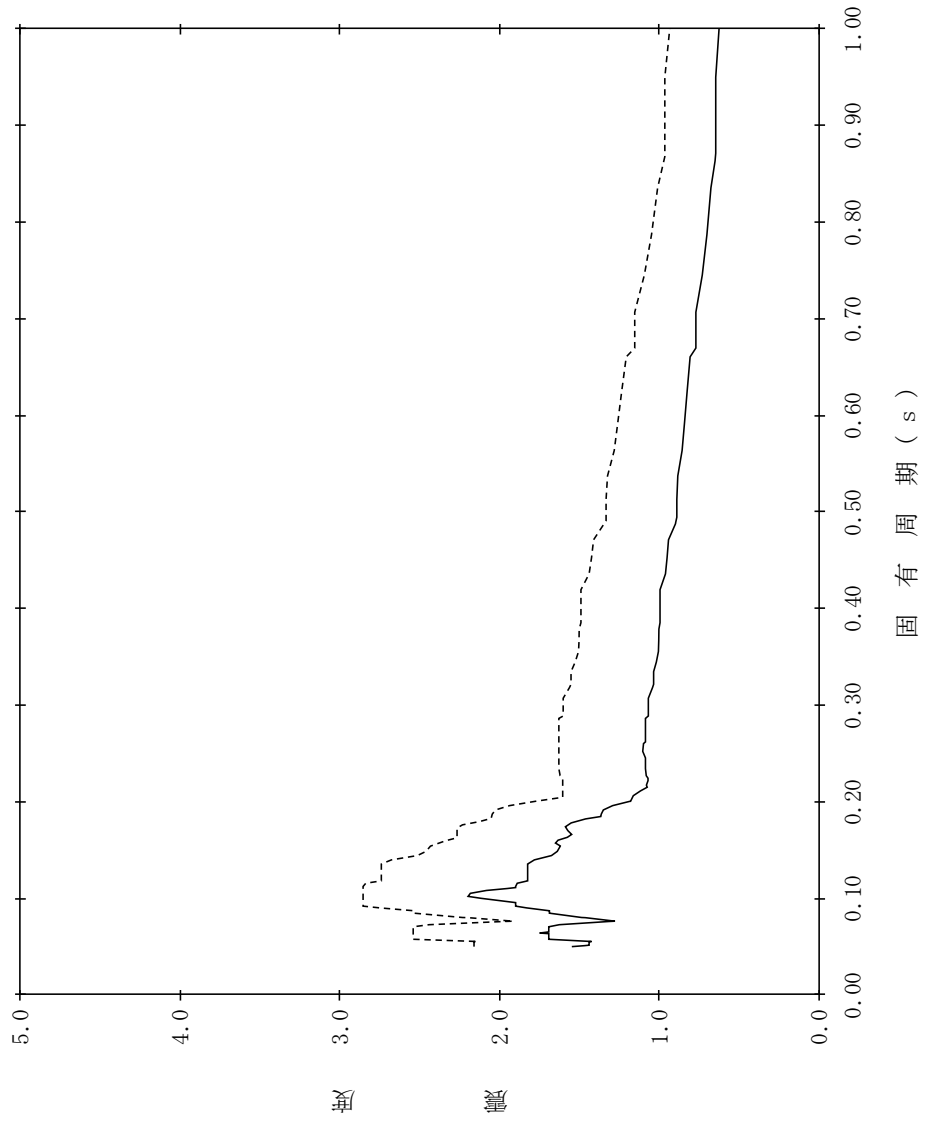
【NS2-RB-SsV-RB79】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



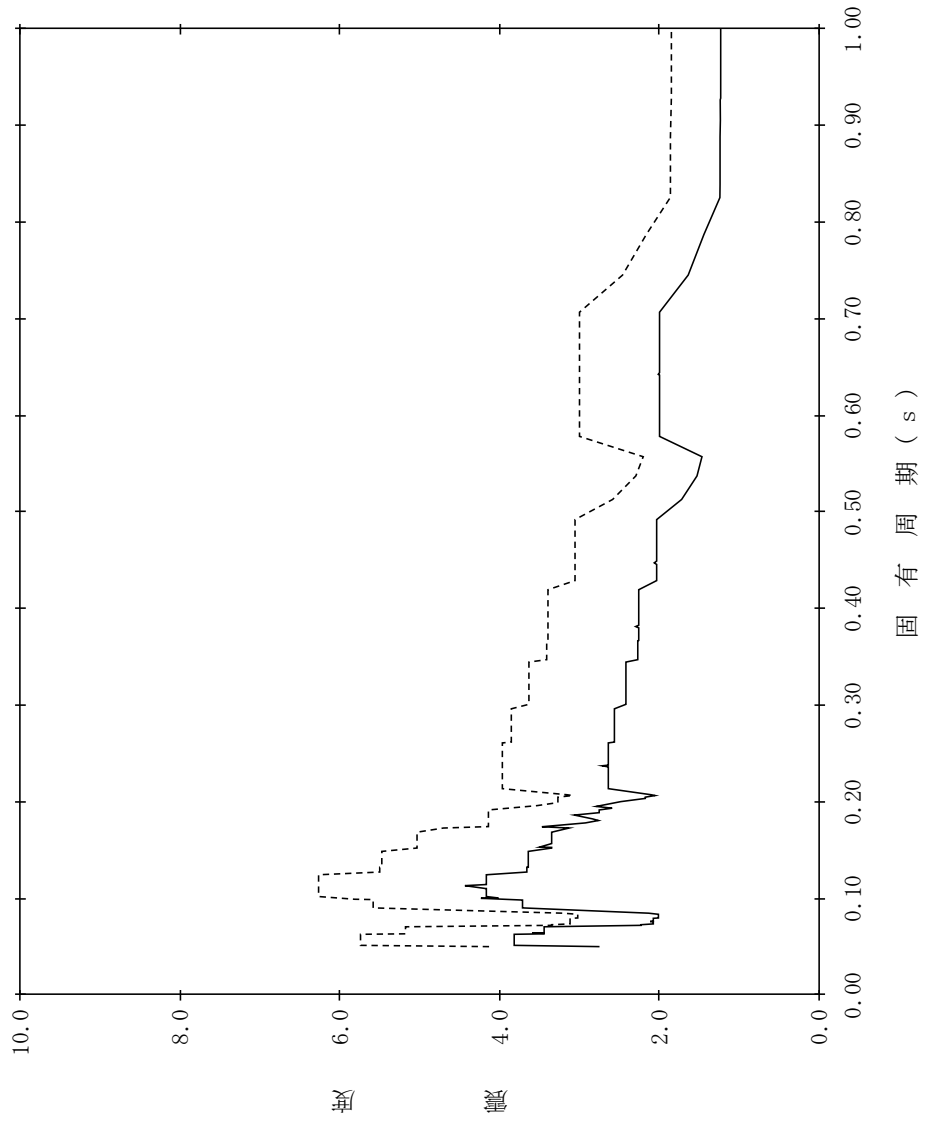
【NS2-RB-SsV-RB80】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



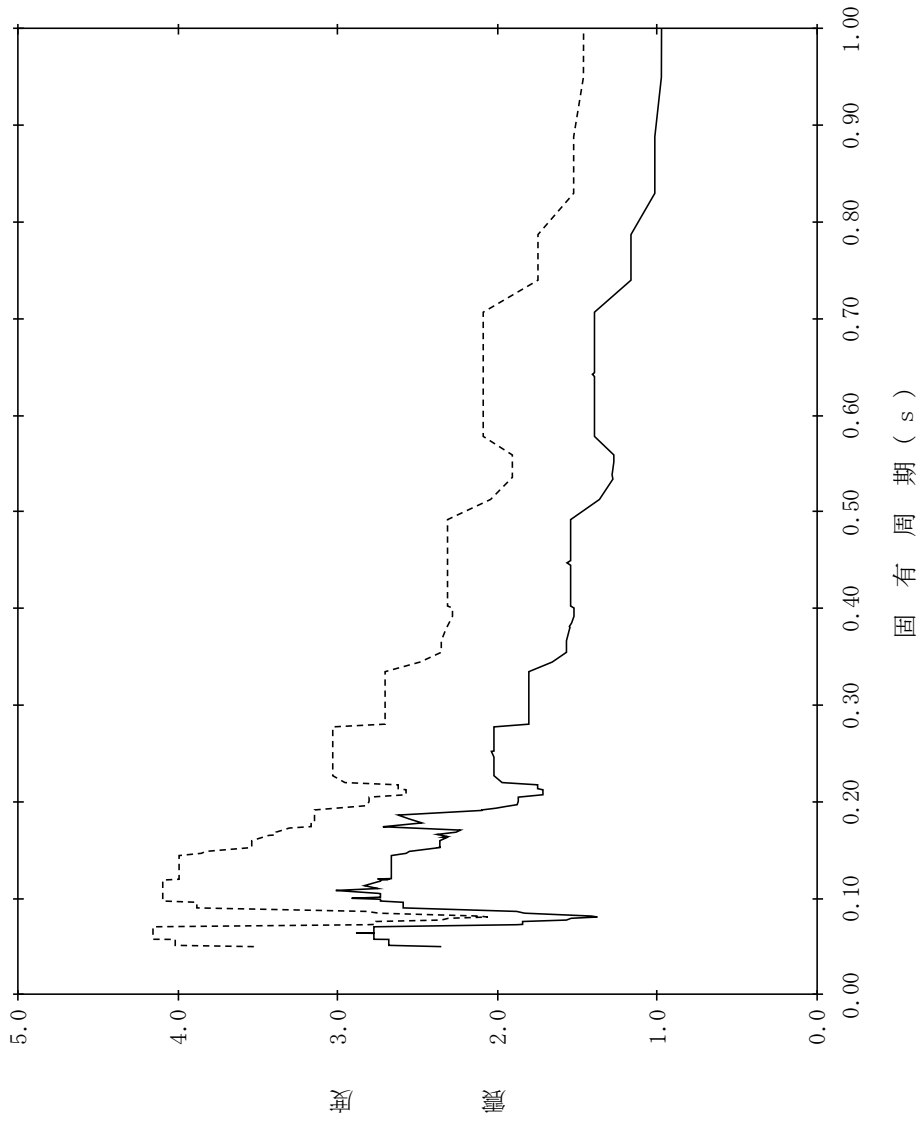
【NS2-RB-SsV-RB81】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

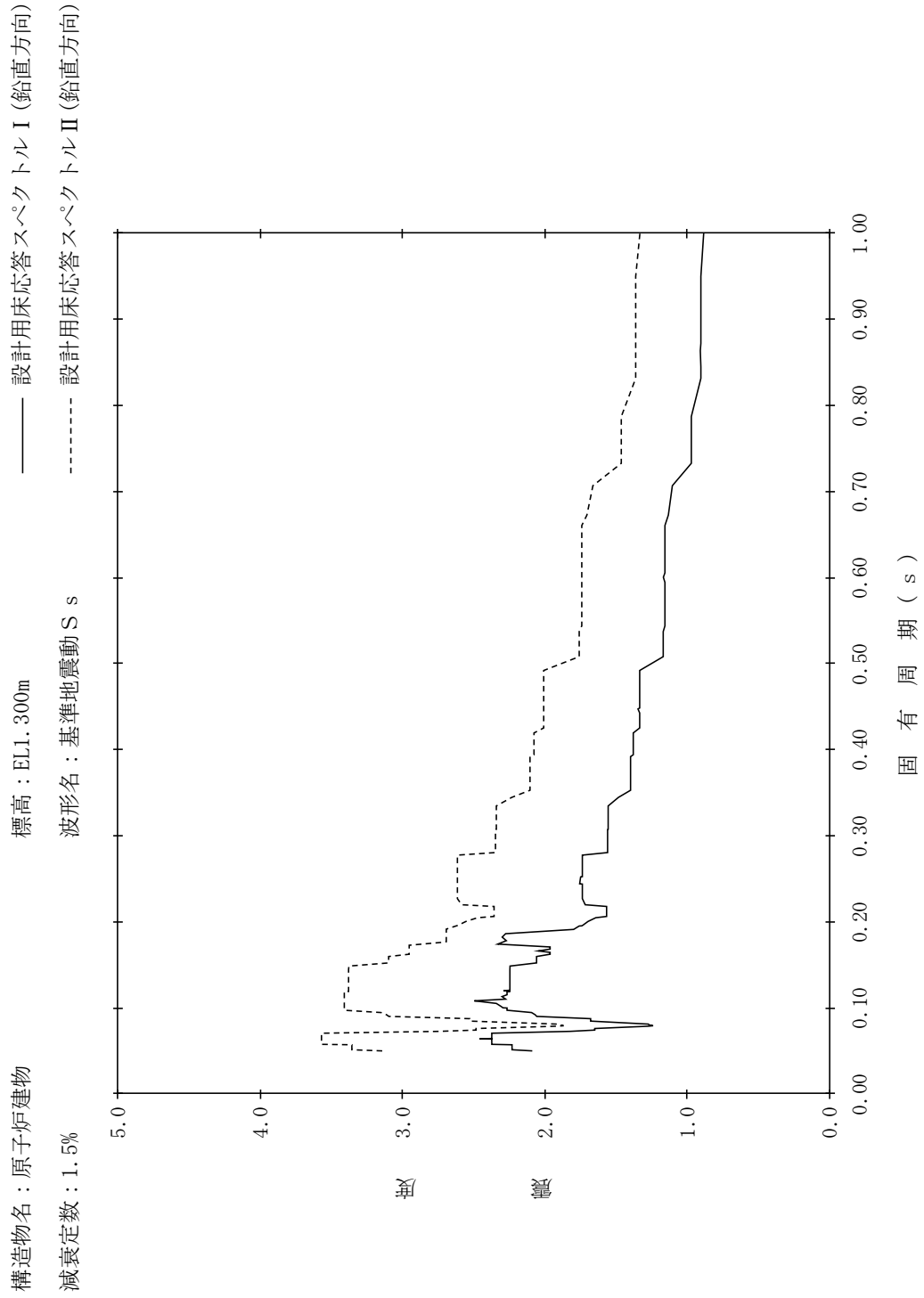


【NS2-RB-SsV-RB82】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：1.0%
 波形式：標準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

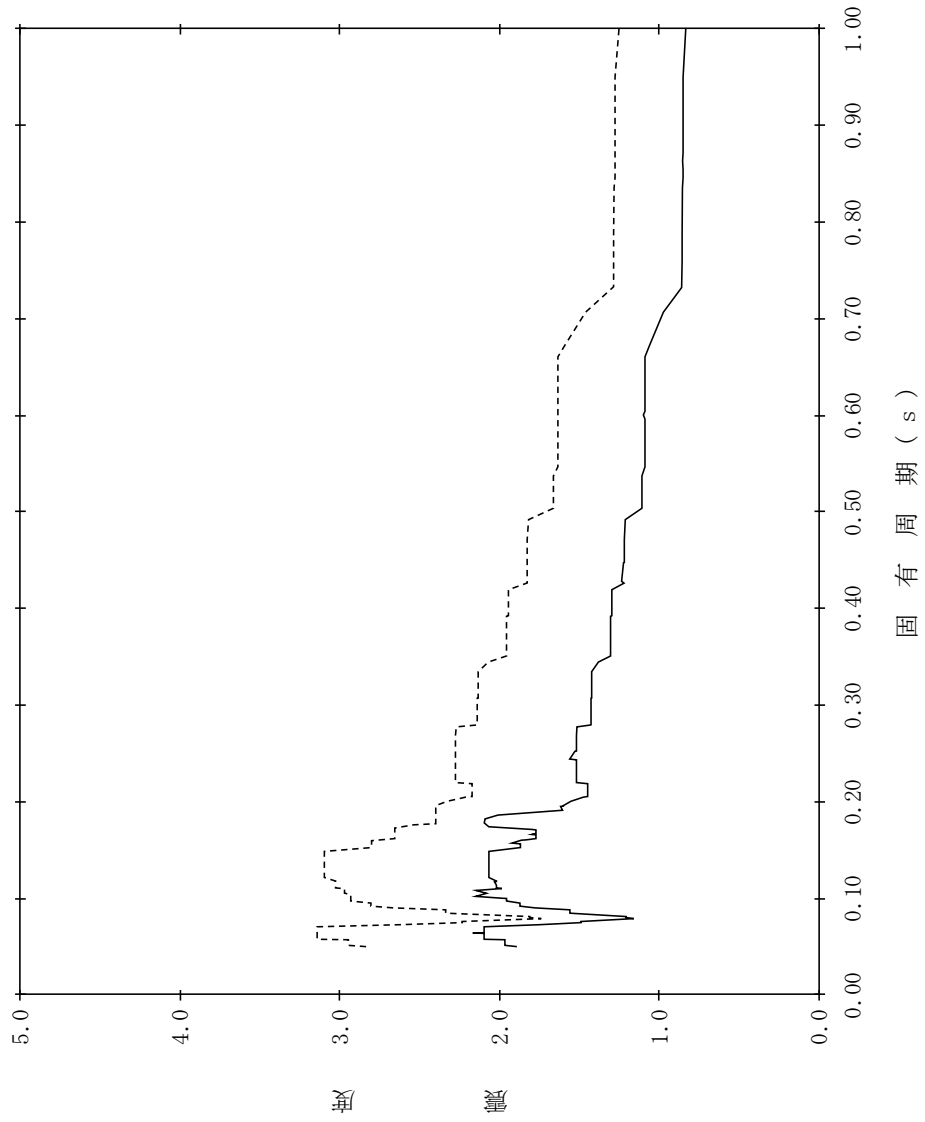


【NS2-RB-SsV-RB83】

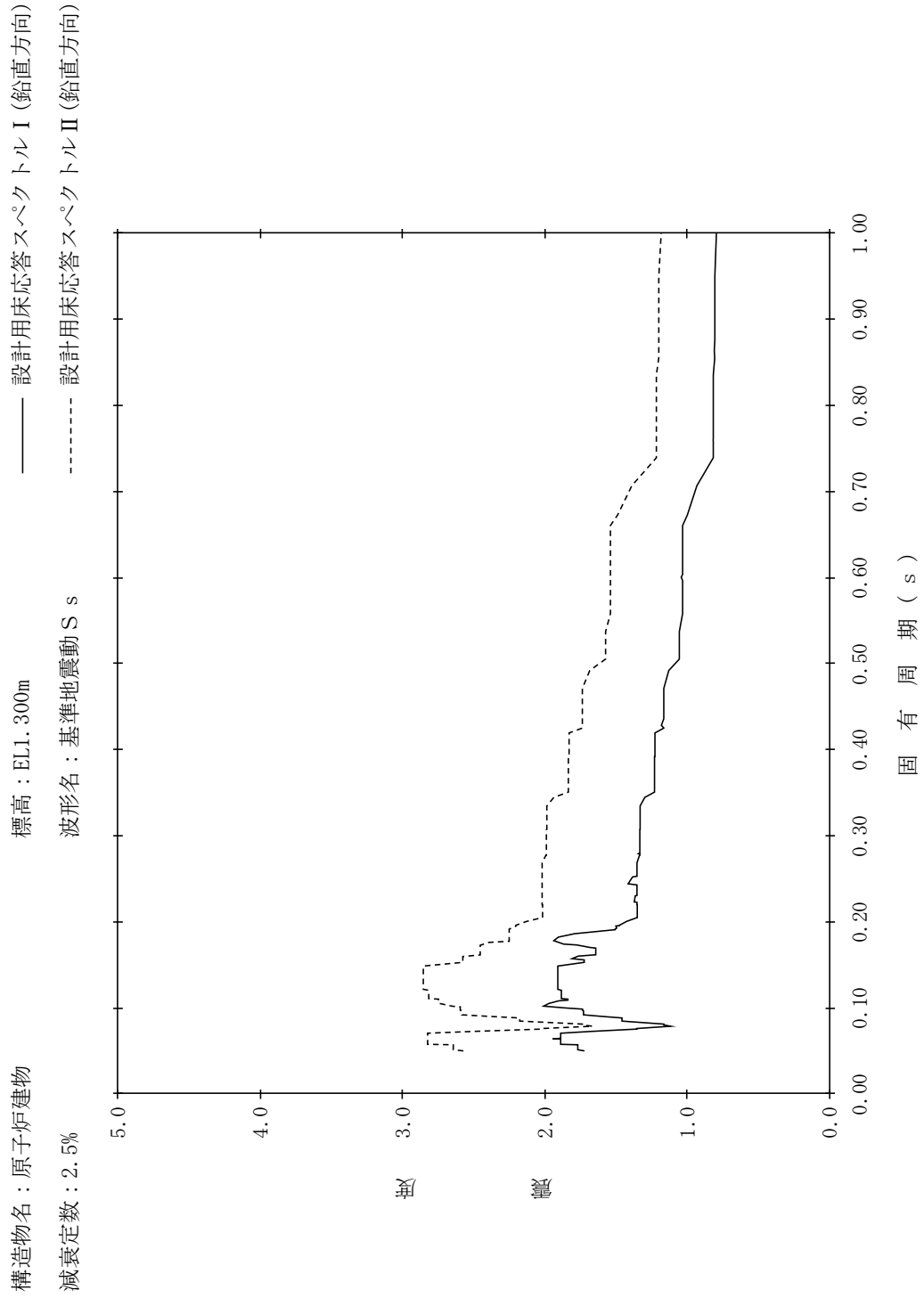


【NS2-RB-SsV-RB84】

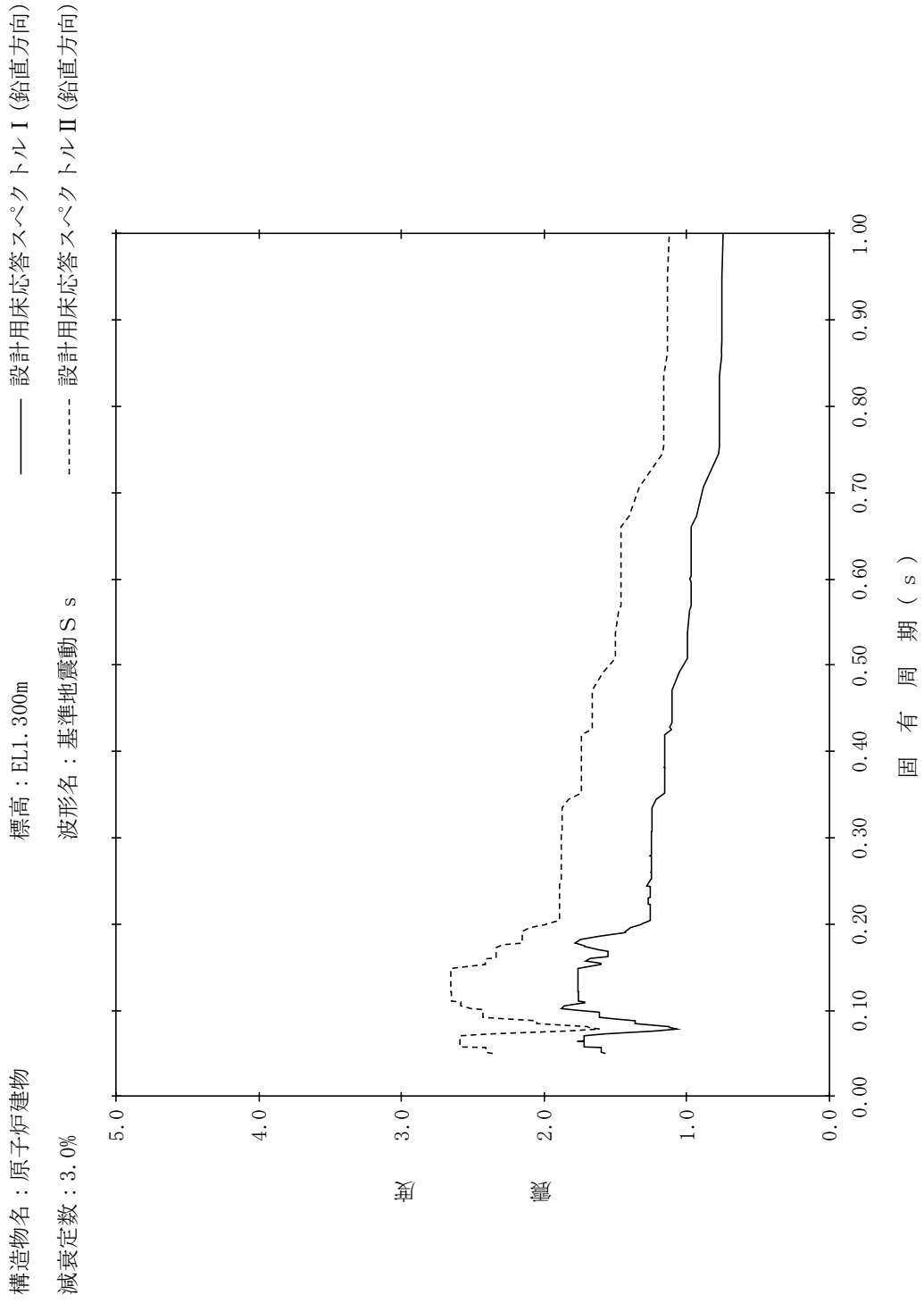
構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



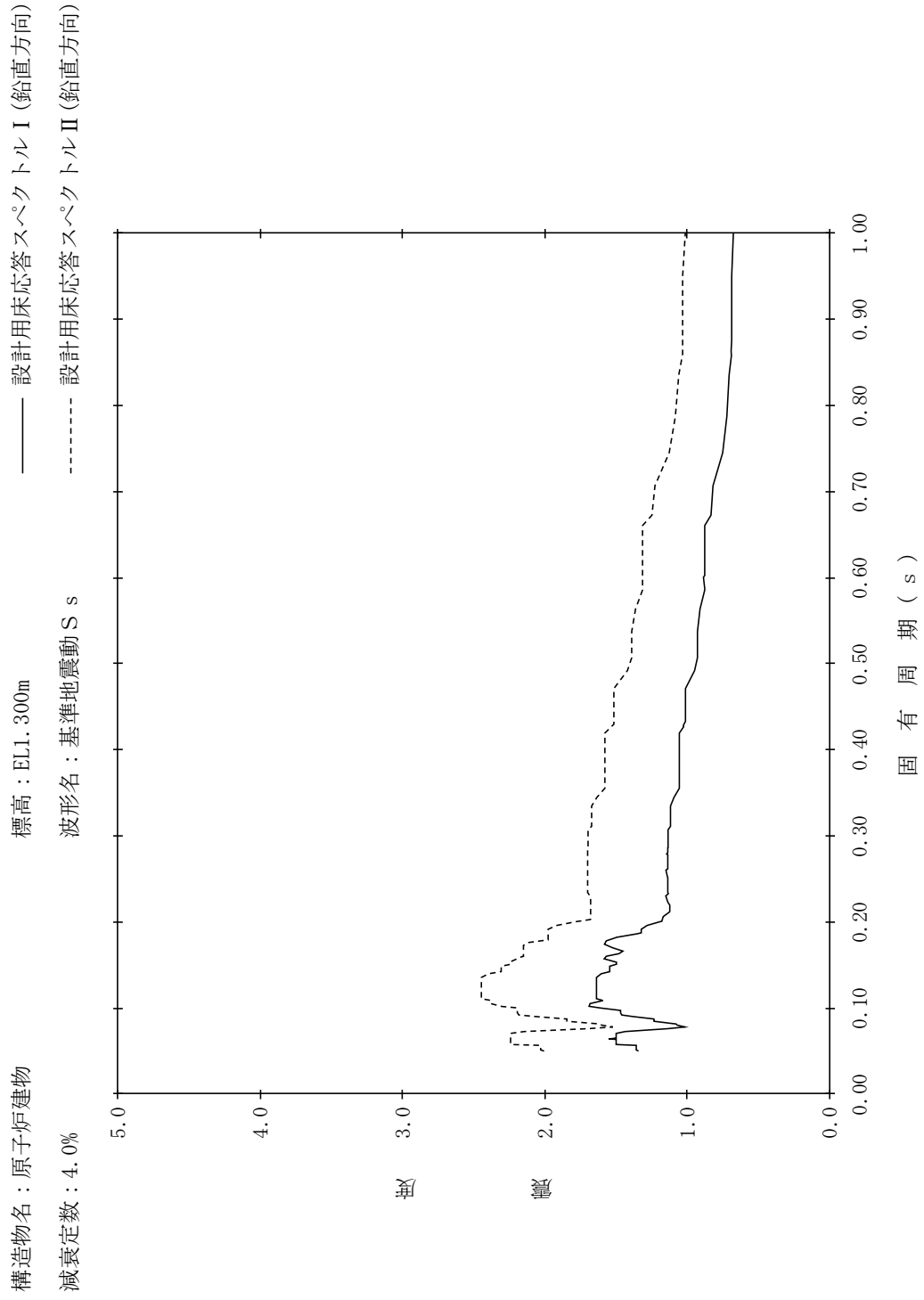
【NS2-RB-SsV-RB85】



【NS2-RB-SsV-RB86】

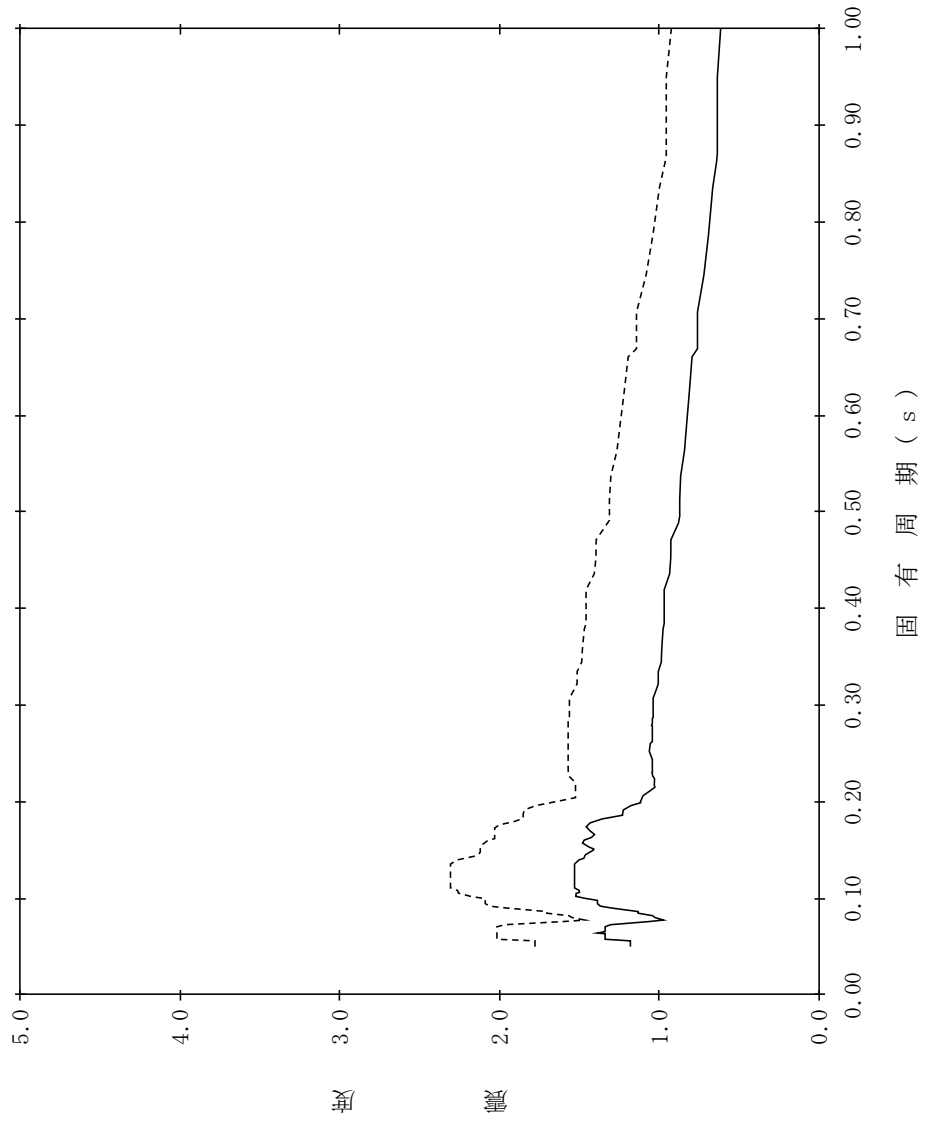


【NS2-RB-SsV-RB87】



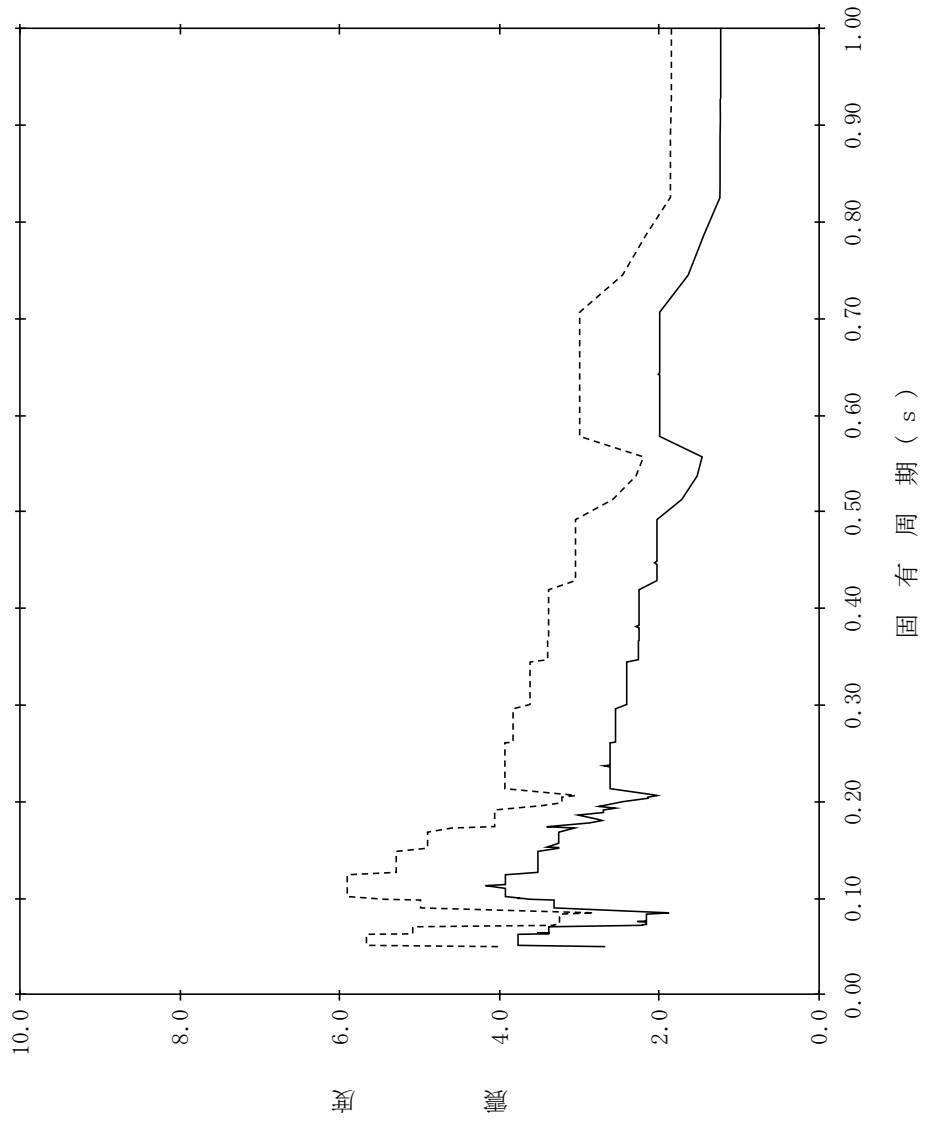
【NS2-RB-SsV-RB88】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL1.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



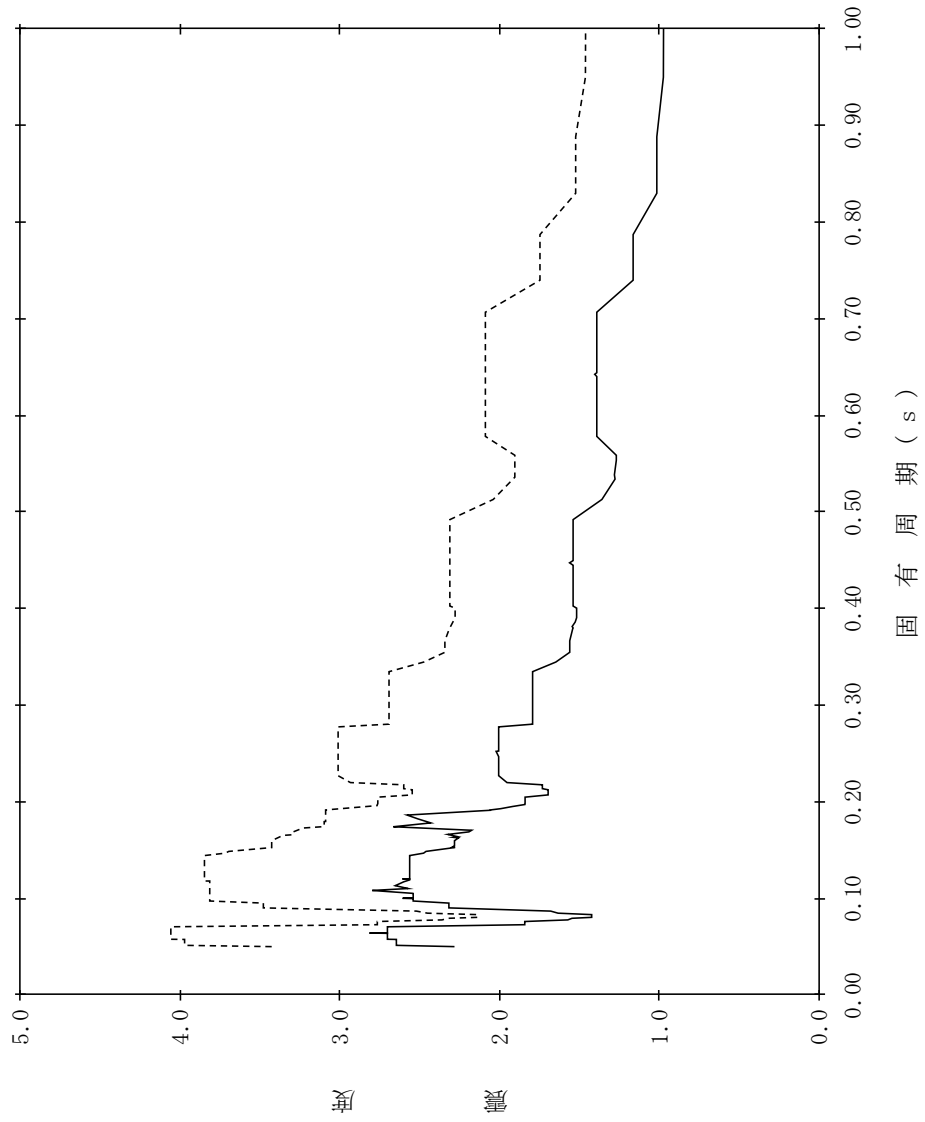
【NS2-RB-SsV-RB89】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



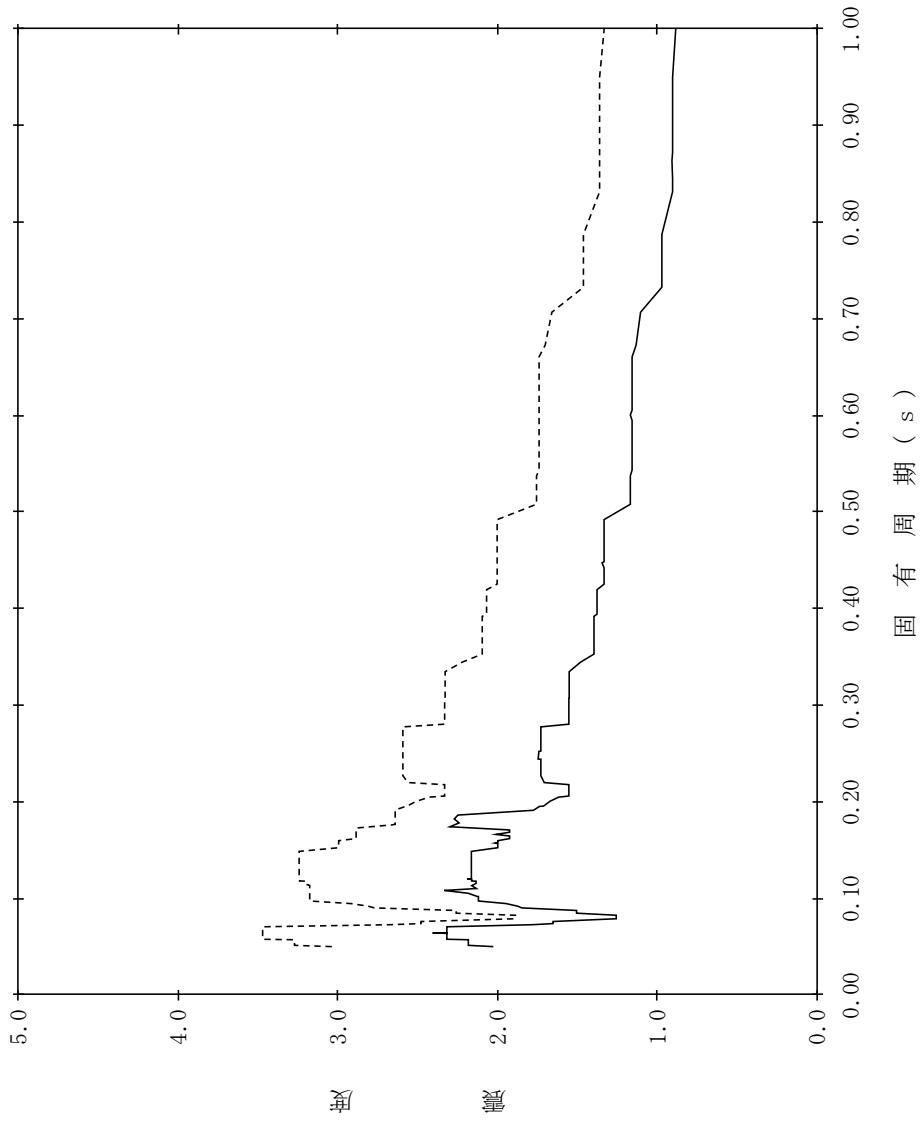
【NS2-RB-SsV-RB90】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

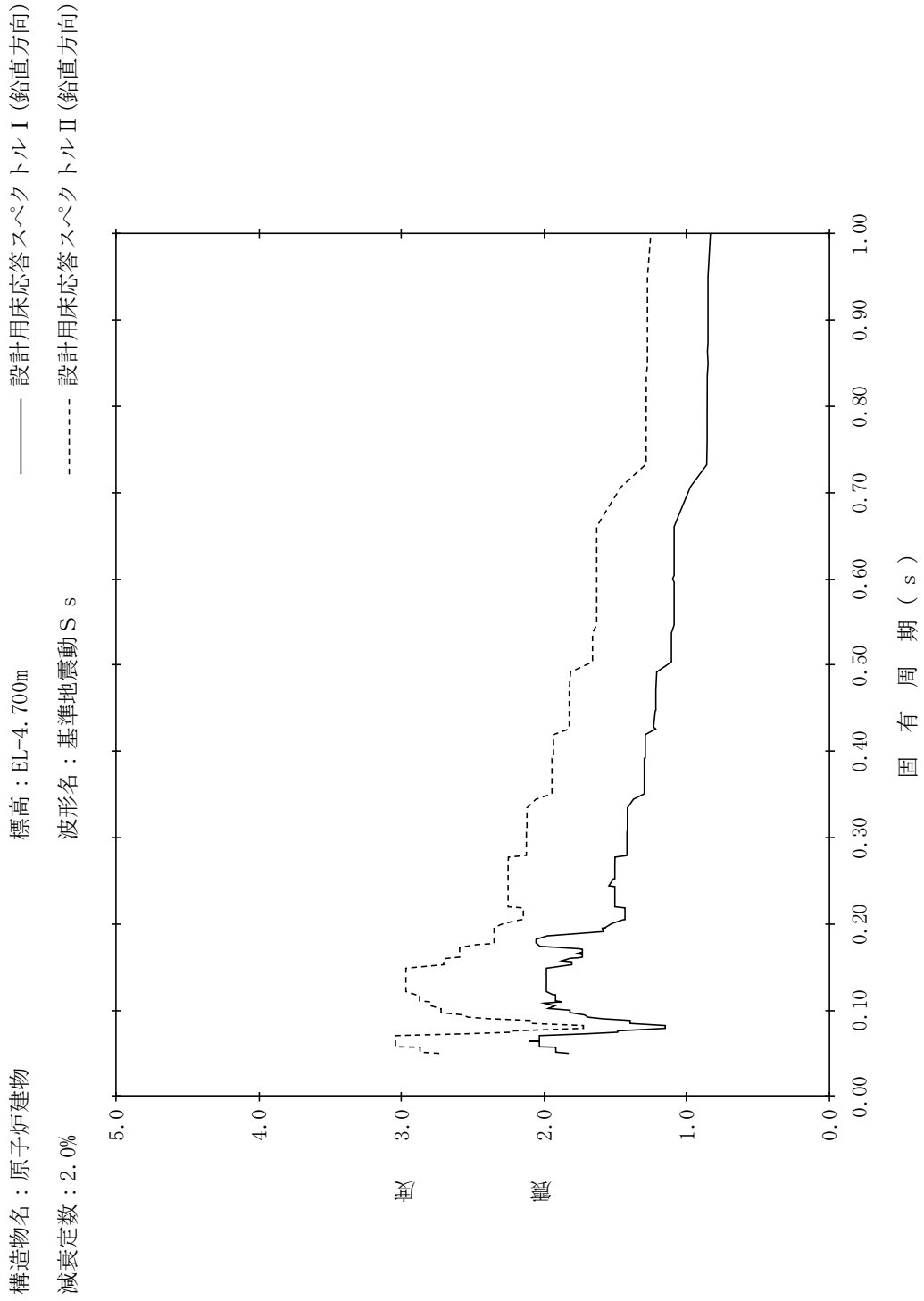


【NS2-RB-SsV-RB91】

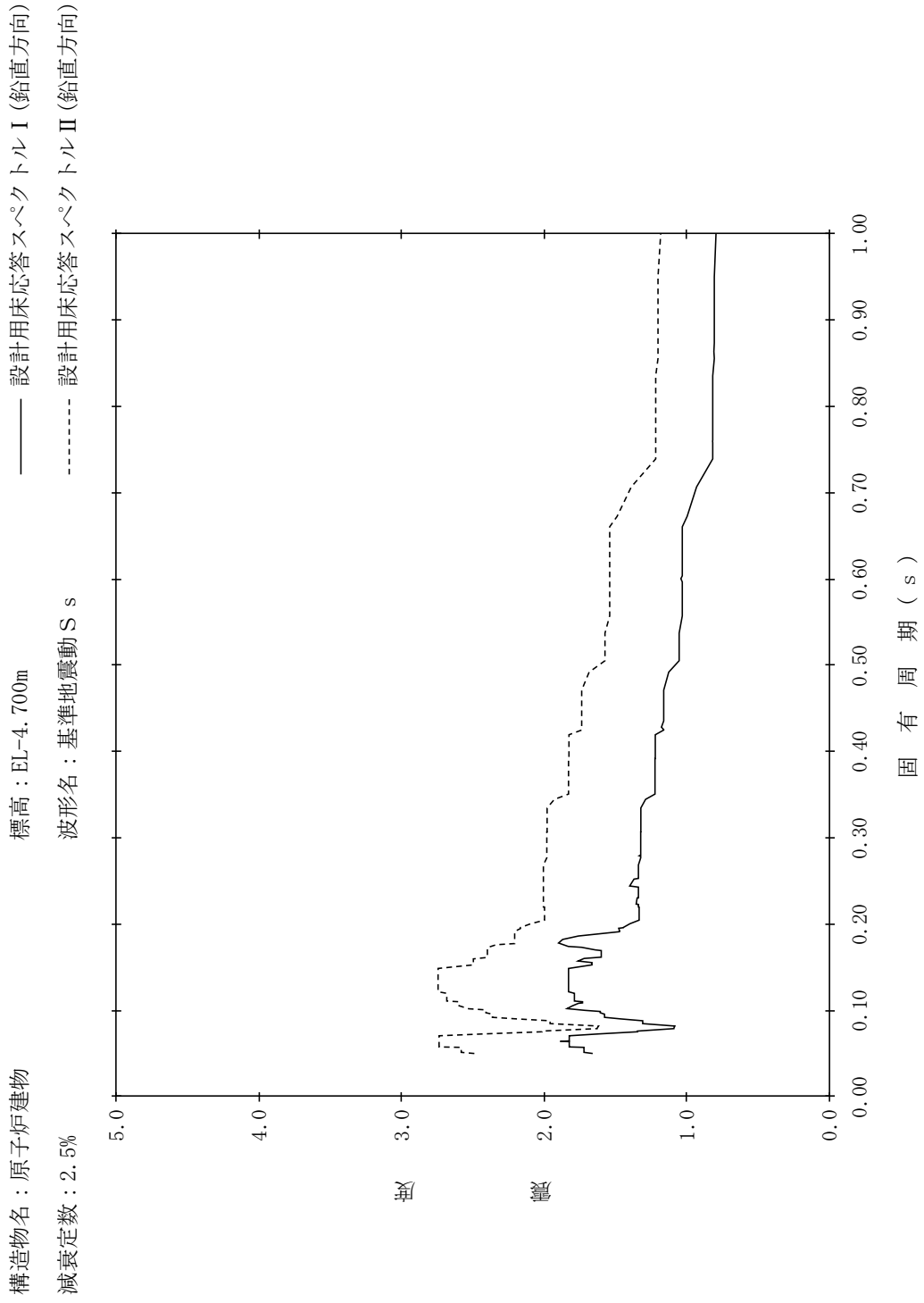
構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RB-SsV-RB92】

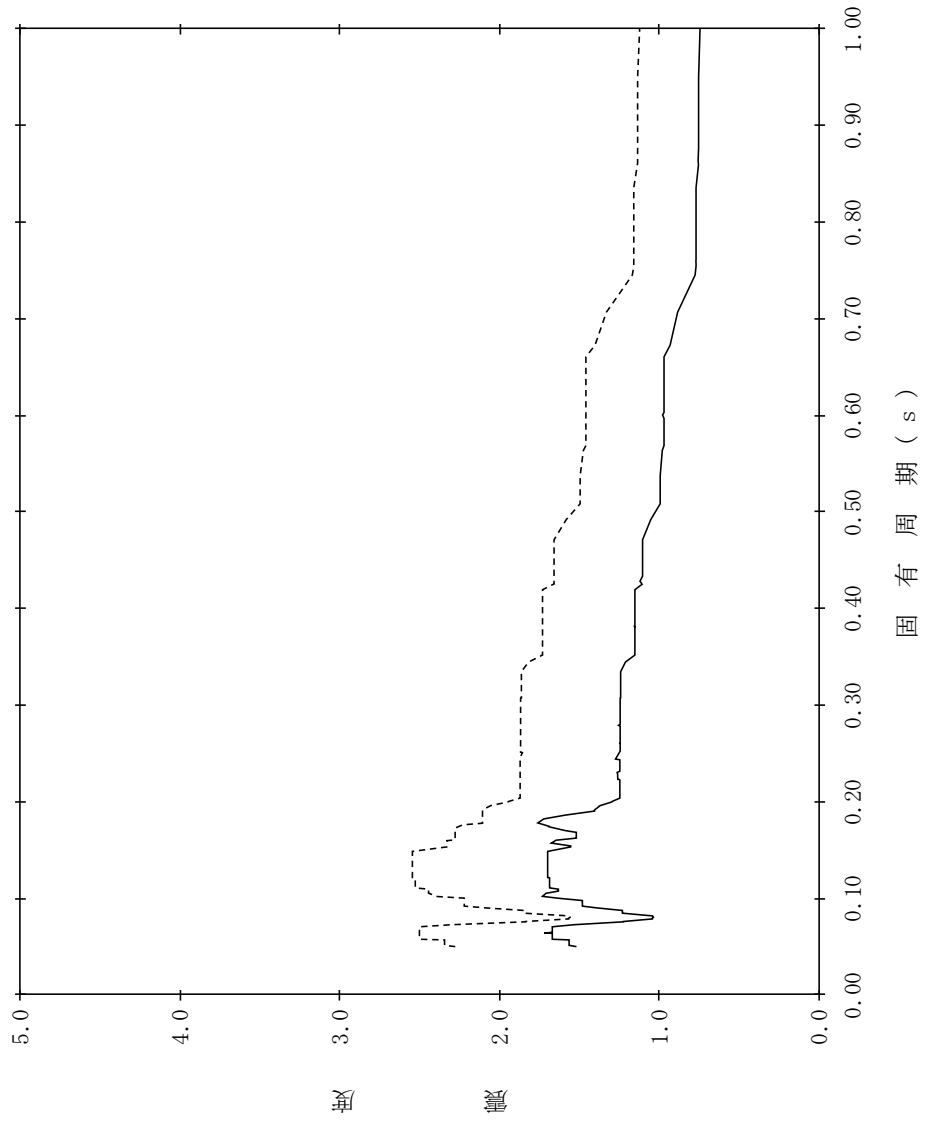


【NS2-RB-SsV-RB93】



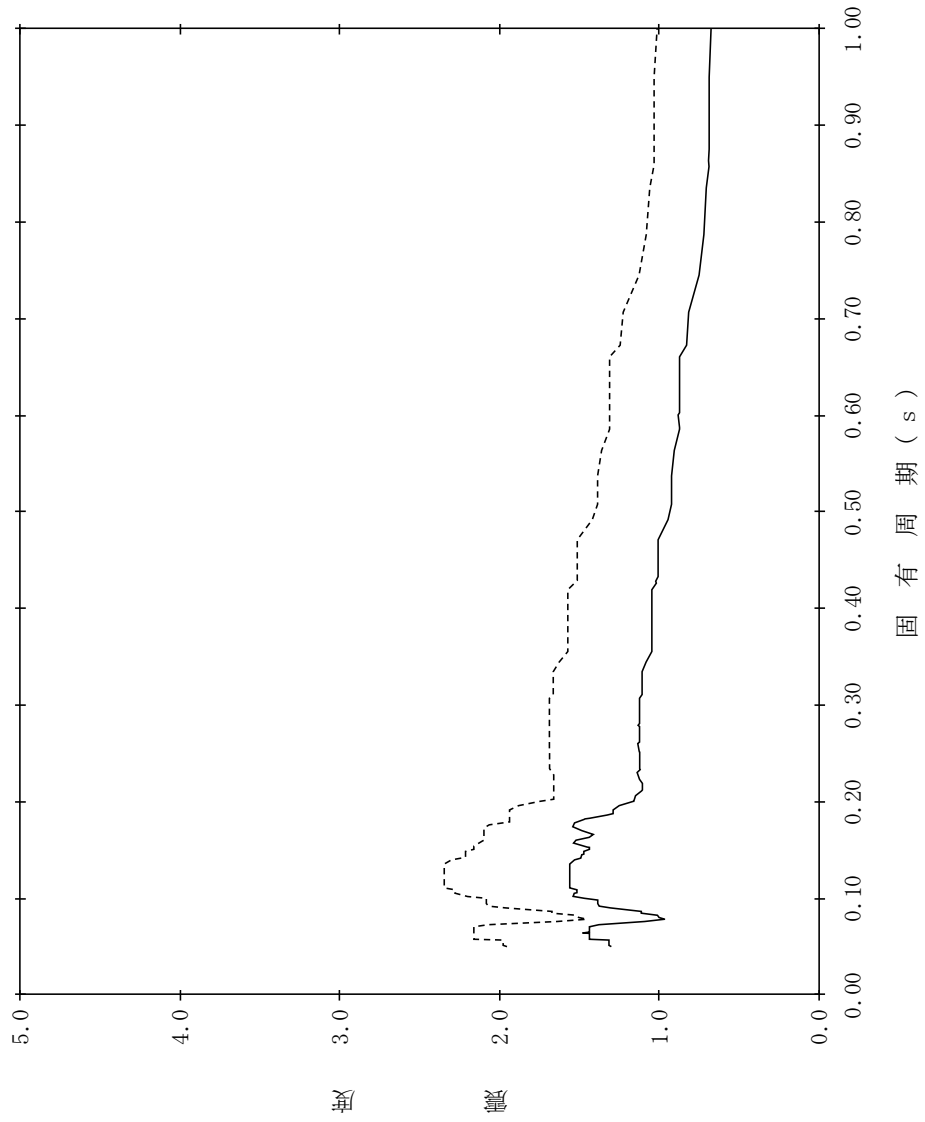
【NS2-RB-SsV-RB94】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RB-SsV-RB95】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RB-SsV-RB96】

構造物名：原子炉建物
 標高：EL-4.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

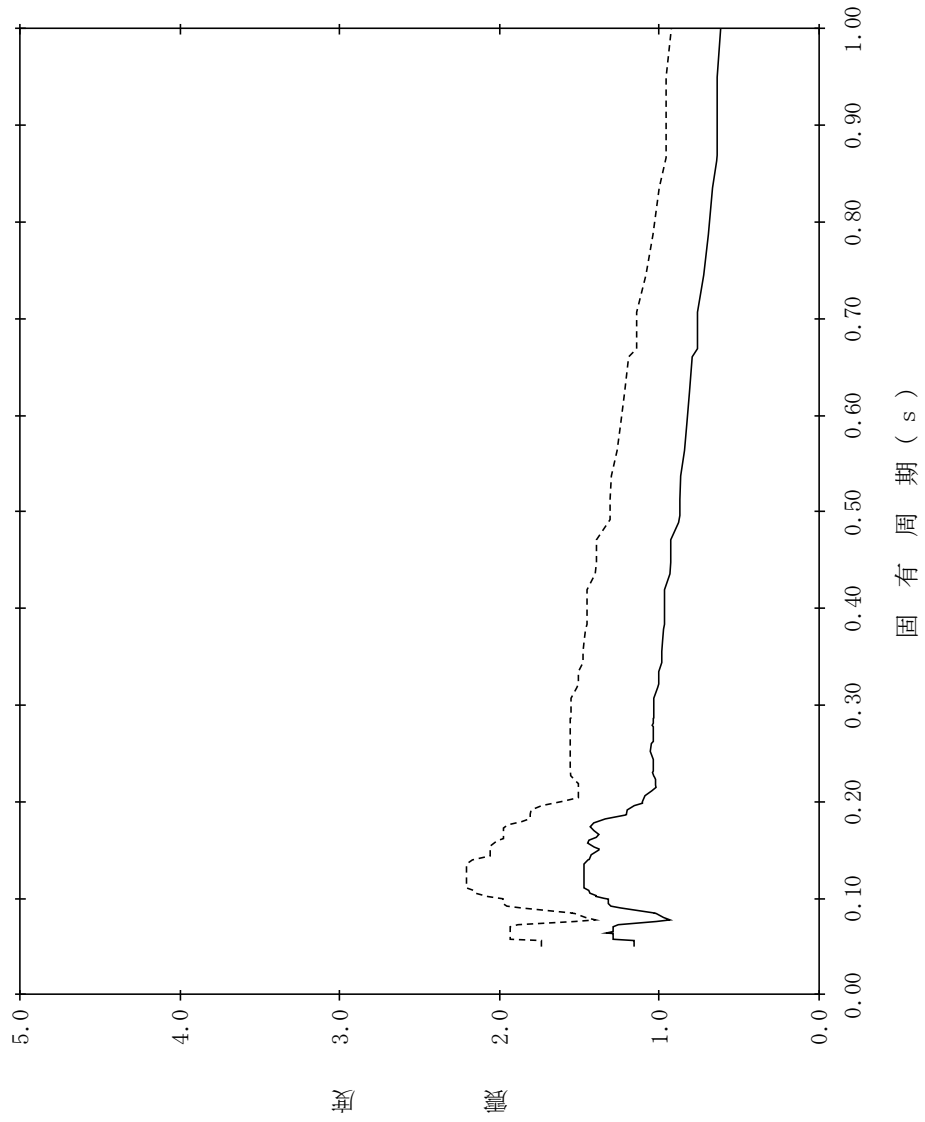


表 4.4-2 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (原子炉格納容器内) (1/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S _s	原子炉格納容器	NS 方向	41	39.400	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 1
					1.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 2
					1.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 3
					2.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 4
					2.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 5
					3.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 6
					4.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 7
					5.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 8
			42	37.060	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 9
					1.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 10
					1.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 11
					2.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 12
					2.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 13
					3.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 14
					4.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 15
					5.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 16
			43	34.758	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 17
					1.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 18
					1.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 19
					2.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 20
					2.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 21
					3.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 22
					4.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 23
					5.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 24
			44	33.141	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 25
					1.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 26
					1.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 27
					2.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 28
					2.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 29
					3.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 30
					4.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 31
					5.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 32
			45	29.392	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 33
					1.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 34
					1.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 35
					2.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 36
					2.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 37
					3.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 38
					4.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 39
					5.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 40
			46	27.907	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 41
					1.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 42
					1.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 43
					2.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 44
					2.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 45
					3.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 46
					4.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 47
					5.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 48

表 4.4-2 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (原子炉格納容器内) (2/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S _s	原子炉格納容器	NS 方向	47	22.932	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 49
					1.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 50
					1.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 51
					2.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 52
					2.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 53
					3.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 54
					4.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 55
			5.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 56		
			48	19.878	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 57
					1.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 58
					1.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 59
					2.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 60
					2.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 61
					3.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 62
					4.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 63
			5.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 64		
			49	16.825	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 65
					1.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 66
					1.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 67
					2.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 68
					2.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 69
					3.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 70
					4.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 71
			5.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 72		
			50	13.700	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 73
					1.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 74
					1.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 75
					2.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 76
					2.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 77
					3.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 78
					4.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 79
			5.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 80		
			51	11.900	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 81
					1.0	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 82
					1.5	NS2 - PCV - S _s NS - PCV 83
	2.0				NS2 - PCV - S _s NS - PCV 84	
	2.5				NS2 - PCV - S _s NS - PCV 85	
	3.0				NS2 - PCV - S _s NS - PCV 86	
	4.0				NS2 - PCV - S _s NS - PCV 87	
	5.0		NS2 - PCV - S _s NS - PCV 88			
	ガンマ線遮蔽壁		29.962	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 89	
				1.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 90	
				1.5	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 91	
				2.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 92	
				2.5	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 93	
3.0		NS2 - PCV - S _s NS - GSW 94				
4.0		NS2 - PCV - S _s NS - GSW 95				
5.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 96					

表 4.4-2 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (原子炉格納容器内) (3/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S _s	ガンマ線遮蔽壁	NS 方向	54	26.981	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 97
					1.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 98
					1.5	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 99
					2.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 100
					2.5	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 101
					3.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 102
					4.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 103
			5.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 104		
			55	24.000	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 105
					1.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 106
					1.5	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 107
					2.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 108
					2.5	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 109
					3.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 110
					4.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 111
			5.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 112		
			56	21.500	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 113
					1.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 114
					1.5	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 115
					2.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 116
					2.5	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 117
	3.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 118				
	4.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 119				
	5.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 120				
	57	19.000	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 121		
			1.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 122		
			1.5	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 123		
			2.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 124		
			2.5	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 125		
			3.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 126		
			4.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 127		
	5.0	NS2 - PCV - S _s NS - GSW 128				
	原子炉圧力容器 ペデスタル	58	15.944	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - PED 129	
				1.0	NS2 - PCV - S _s NS - PED 130	
				1.5	NS2 - PCV - S _s NS - PED 131	
2.0				NS2 - PCV - S _s NS - PED 132		
2.5				NS2 - PCV - S _s NS - PED 133		
3.0				NS2 - PCV - S _s NS - PED 134		
4.0				NS2 - PCV - S _s NS - PED 135		
5.0		NS2 - PCV - S _s NS - PED 136				
59		13.022	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - PED 137		
			1.0	NS2 - PCV - S _s NS - PED 138		
			1.5	NS2 - PCV - S _s NS - PED 139		
			2.0	NS2 - PCV - S _s NS - PED 140		
			2.5	NS2 - PCV - S _s NS - PED 141		
			3.0	NS2 - PCV - S _s NS - PED 142		
	4.0		NS2 - PCV - S _s NS - PED 143			
5.0	NS2 - PCV - S _s NS - PED 144					

表 4.4-2 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (原子炉格納容器内) (4/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S s	原子炉压力容器	NS 方向	65	32.567	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 145
					1.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 146
					1.5	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 147
					2.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 148
					2.5	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 149
					3.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 150
					4.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 151
			69	29.181	5.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 152
					0.5	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 153
					1.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 154
					1.5	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 155
					2.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 156
					2.5	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 157
					3.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 158
			71	27.317	4.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 159
					5.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 160
					0.5	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 161
					1.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 162
					1.5	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 163
					2.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 164
2.5	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 165					
76	23.707	3.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 166			
		4.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 167			
		5.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 168			
		0.5	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 169			
		1.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 170			
		1.5	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 171			
		2.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 172			
83	18.250	2.5	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 173			
		3.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 174			
		4.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 175			
		5.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 176			
		0.5	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 177			
		1.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 178			
		1.5	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 179			
2.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 180					
2.5	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 181					
3.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 182					
4.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 183					
5.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 184					

表 4.4-2 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (原子炉格納容器内) (5/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S _s	炉心シュラウド (上部格子板)	NS 方向	113	25.843	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - SHD 185
					1.0	NS2 - PCV - S _s NS - SHD 186
					1.5	NS2 - PCV - S _s NS - SHD 187
					2.0	NS2 - PCV - S _s NS - SHD 188
					2.5	NS2 - PCV - S _s NS - SHD 189
					3.0	NS2 - PCV - S _s NS - SHD 190
					4.0	NS2 - PCV - S _s NS - SHD 191
	5.0		NS2 - PCV - S _s NS - SHD 192			
	炉心シュラウド (炉心支持板)		119	21.571	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - SHD 193
					1.0	NS2 - PCV - S _s NS - SHD 194
					1.5	NS2 - PCV - S _s NS - SHD 195
					2.0	NS2 - PCV - S _s NS - SHD 196
					2.5	NS2 - PCV - S _s NS - SHD 197
					3.0	NS2 - PCV - S _s NS - SHD 198
					4.0	NS2 - PCV - S _s NS - SHD 199
	5.0		NS2 - PCV - S _s NS - SHD 200			
	原子炉圧力容器 下鏡		85, 86, 87	18.250~16.508	0.5	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 201
					1.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 202
					1.5	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 203
					2.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 204
					2.5	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 205
3.0		NS2 - PCV - S _s NS - RPV 206				
4.0		NS2 - PCV - S _s NS - RPV 207				
5.0	NS2 - PCV - S _s NS - RPV 208					

表 4.4-2 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (原子炉格納容器内) (6/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S _s	原子炉格納容器	EW 方向	42	39.400	0.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 1
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 2
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 3
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 4
					2.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 5
					3.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 6
					4.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 7
					5.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 8
			43	37.060	0.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 9
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 10
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 11
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 12
					2.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 13
					3.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 14
					4.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 15
					5.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 16
			44	34.758	0.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 17
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 18
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 19
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 20
					2.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 21
					3.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 22
					4.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 23
					5.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 24
			45	33.141	0.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 25
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 26
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 27
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 28
					2.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 29
					3.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 30
					4.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 31
					5.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 32
			46	29.392	0.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 33
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 34
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 35
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 36
					2.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 37
					3.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 38
					4.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 39
					5.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 40
			47	27.907	0.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 41
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 42
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 43
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 44
					2.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 45
					3.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 46
					4.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 47
					5.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 48

表 4.4-2 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (原子炉格納容器内) (7/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数 (%)	図番
S _s	原子炉格納容器	EW 方向	48	22.932	0.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 49
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 50
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 51
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 52
					2.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 53
					3.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 54
					4.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 55
					5.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 56
			49	19.878	0.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 57
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 58
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 59
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 60
					2.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 61
					3.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 62
					4.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 63
					5.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 64
			50	16.825	0.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 65
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 66
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 67
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 68
					2.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 69
					3.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 70
					4.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 71
					5.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 72
			51	13.700	0.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 73
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 74
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 75
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 76
					2.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 77
					3.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 78
					4.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 79
					5.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 80
			52	11.900	0.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 81
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 82
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - PCV 83
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - PCV 84
	2.5				NS2 - PCV - SsEW - PCV 85	
	3.0				NS2 - PCV - SsEW - PCV 86	
	4.0				NS2 - PCV - SsEW - PCV 87	
	5.0				NS2 - PCV - SsEW - PCV 88	
	ガンマ線遮蔽壁		29.962	0.5	NS2 - PCV - SsEW - GSW 89	
				1.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 90	
				1.5	NS2 - PCV - SsEW - GSW 91	
				2.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 92	
				2.5	NS2 - PCV - SsEW - GSW 93	
				3.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 94	
				4.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 95	
				5.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 96	

表 4.4-2 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (原子炉格納容器内) (8/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数 (%)	図番
S _s	ガンマ線遮蔽壁	EW 方向	55	26.981	0.5	NS2 - PCV - SsEW - GSW 97
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 98
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - GSW 99
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 100
					2.5	NS2 - PCV - SsEW - GSW 101
					3.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 102
					4.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 103
					5.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 104
			56	24.000	0.5	NS2 - PCV - SsEW - GSW 105
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 106
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - GSW 107
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 108
					2.5	NS2 - PCV - SsEW - GSW 109
					3.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 110
					4.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 111
					5.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 112
			57	21.500	0.5	NS2 - PCV - SsEW - GSW 113
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 114
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - GSW 115
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 116
					2.5	NS2 - PCV - SsEW - GSW 117
					3.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 118
					4.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 119
					5.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 120
	58	19.000	0.5	NS2 - PCV - SsEW - GSW 121		
			1.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 122		
			1.5	NS2 - PCV - SsEW - GSW 123		
			2.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 124		
			2.5	NS2 - PCV - SsEW - GSW 125		
			3.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 126		
			4.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 127		
			5.0	NS2 - PCV - SsEW - GSW 128		
	原子炉圧力容器 ペDESTAL	59	15.944	0.5	NS2 - PCV - SsEW - PED 129	
				1.0	NS2 - PCV - SsEW - PED 130	
				1.5	NS2 - PCV - SsEW - PED 131	
				2.0	NS2 - PCV - SsEW - PED 132	
				2.5	NS2 - PCV - SsEW - PED 133	
				3.0	NS2 - PCV - SsEW - PED 134	
				4.0	NS2 - PCV - SsEW - PED 135	
				5.0	NS2 - PCV - SsEW - PED 136	
60		13.022	0.5	NS2 - PCV - SsEW - PED 137		
			1.0	NS2 - PCV - SsEW - PED 138		
			1.5	NS2 - PCV - SsEW - PED 139		
			2.0	NS2 - PCV - SsEW - PED 140		
			2.5	NS2 - PCV - SsEW - PED 141		
			3.0	NS2 - PCV - SsEW - PED 142		
			4.0	NS2 - PCV - SsEW - PED 143		
			5.0	NS2 - PCV - SsEW - PED 144		

表 4.4-2 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (原子炉格納容器内) (9/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S s	原子炉压力容器	EW 方向	66	32.567	0.5	NS2 - PCV - SsEW - RPV 145
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 146
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - RPV 147
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 148
					2.5	NS2 - PCV - SsEW - RPV 149
					3.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 150
					4.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 151
					5.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 152
			70	29.181	0.5	NS2 - PCV - SsEW - RPV 153
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 154
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - RPV 155
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 156
					2.5	NS2 - PCV - SsEW - RPV 157
					3.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 158
					4.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 159
					5.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 160
			72	27.317	0.5	NS2 - PCV - SsEW - RPV 161
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 162
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - RPV 163
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 164
					2.5	NS2 - PCV - SsEW - RPV 165
					3.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 166
					4.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 167
					5.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 168
			77	23.707	0.5	NS2 - PCV - SsEW - RPV 169
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 170
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - RPV 171
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 172
					2.5	NS2 - PCV - SsEW - RPV 173
					3.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 174
					4.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 175
					5.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 176
84	18.250	0.5	NS2 - PCV - SsEW - RPV 177			
		1.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 178			
		1.5	NS2 - PCV - SsEW - RPV 179			
		2.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 180			
		2.5	NS2 - PCV - SsEW - RPV 181			
		3.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 182			
		4.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 183			
		5.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 184			

表 4.4-2 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (原子炉格納容器内) (10/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S _s	炉心シュラウド (上部格子板)	EW 方向	114	25.843	0.5	NS2 - PCV - SsEW - SHD 185
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - SHD 186
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - SHD 187
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - SHD 188
					2.5	NS2 - PCV - SsEW - SHD 189
					3.0	NS2 - PCV - SsEW - SHD 190
					4.0	NS2 - PCV - SsEW - SHD 191
					5.0	NS2 - PCV - SsEW - SHD 192
	炉心シュラウド (炉心支持板)		120	21.571	0.5	NS2 - PCV - SsEW - SHD 193
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - SHD 194
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - SHD 195
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - SHD 196
					2.5	NS2 - PCV - SsEW - SHD 197
					3.0	NS2 - PCV - SsEW - SHD 198
					4.0	NS2 - PCV - SsEW - SHD 199
					5.0	NS2 - PCV - SsEW - SHD 200
	原子炉圧力容器 下鏡		86, 87, 88	18.250~16.508	0.5	NS2 - PCV - SsEW - RPV 201
					1.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 202
					1.5	NS2 - PCV - SsEW - RPV 203
					2.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 204
					2.5	NS2 - PCV - SsEW - RPV 205
					3.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 206
					4.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 207
					5.0	NS2 - PCV - SsEW - RPV 208

表 4.4-2 設計用床応答スペクトル (S s) 一覧表 (原子炉格納容器内) (11/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S s	原子炉格納容器	鉛直方向	29	39.400	0.5	NS2 - PCV - SsV - PCV 1
					1.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 2
					1.5	NS2 - PCV - SsV - PCV 3
					2.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 4
					2.5	NS2 - PCV - SsV - PCV 5
					3.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 6
					4.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 7
			30	37.060	5.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 8
					0.5	NS2 - PCV - SsV - PCV 9
					1.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 10
					1.5	NS2 - PCV - SsV - PCV 11
					2.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 12
					2.5	NS2 - PCV - SsV - PCV 13
					3.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 14
			31	34.758	4.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 15
					5.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 16
					0.5	NS2 - PCV - SsV - PCV 17
					1.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 18
					1.5	NS2 - PCV - SsV - PCV 19
					2.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 20
					2.5	NS2 - PCV - SsV - PCV 21
			32	33.141	3.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 22
					4.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 23
					5.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 24
					0.5	NS2 - PCV - SsV - PCV 25
					1.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 26
					1.5	NS2 - PCV - SsV - PCV 27
					2.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 28
			33	29.392	2.5	NS2 - PCV - SsV - PCV 29
					3.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 30
					4.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 31
					5.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 32
					0.5	NS2 - PCV - SsV - PCV 33
					1.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 34
					1.5	NS2 - PCV - SsV - PCV 35
			34	27.907	2.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 36
					2.5	NS2 - PCV - SsV - PCV 37
					3.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 38
					4.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 39
					5.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 40
					0.5	NS2 - PCV - SsV - PCV 41
					1.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 42
					1.5	NS2 - PCV - SsV - PCV 43
					2.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 44
					2.5	NS2 - PCV - SsV - PCV 45
					3.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 46
					4.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 47
					5.0	NS2 - PCV - SsV - PCV 48

表 4.4-2 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (原子炉格納容器内) (12/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数 (%)	図番
S _s	原子炉格納容器	鉛直方向	35	22.932	0.5	NS2 - PCV - S _s V - PCV 49
					1.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 50
					1.5	NS2 - PCV - S _s V - PCV 51
					2.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 52
					2.5	NS2 - PCV - S _s V - PCV 53
					3.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 54
					4.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 55
			5.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 56		
			36	19.878	0.5	NS2 - PCV - S _s V - PCV 57
					1.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 58
					1.5	NS2 - PCV - S _s V - PCV 59
					2.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 60
					2.5	NS2 - PCV - S _s V - PCV 61
					3.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 62
					4.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 63
			5.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 64		
			37	16.825	0.5	NS2 - PCV - S _s V - PCV 65
					1.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 66
					1.5	NS2 - PCV - S _s V - PCV 67
					2.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 68
					2.5	NS2 - PCV - S _s V - PCV 69
					3.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 70
					4.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 71
			5.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 72		
			38	13.700	0.5	NS2 - PCV - S _s V - PCV 73
					1.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 74
					1.5	NS2 - PCV - S _s V - PCV 75
					2.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 76
					2.5	NS2 - PCV - S _s V - PCV 77
					3.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 78
					4.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 79
			5.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 80		
			39	11.900	0.5	NS2 - PCV - S _s V - PCV 81
					1.0	NS2 - PCV - S _s V - PCV 82
					1.5	NS2 - PCV - S _s V - PCV 83
	2.0				NS2 - PCV - S _s V - PCV 84	
	2.5				NS2 - PCV - S _s V - PCV 85	
	3.0				NS2 - PCV - S _s V - PCV 86	
	4.0				NS2 - PCV - S _s V - PCV 87	
	5.0		NS2 - PCV - S _s V - PCV 88			
	41		29.962	0.5	NS2 - PCV - S _s V - GSW 89	
				1.0	NS2 - PCV - S _s V - GSW 90	
				1.5	NS2 - PCV - S _s V - GSW 91	
				2.0	NS2 - PCV - S _s V - GSW 92	
				2.5	NS2 - PCV - S _s V - GSW 93	
3.0		NS2 - PCV - S _s V - GSW 94				
4.0		NS2 - PCV - S _s V - GSW 95				
5.0	NS2 - PCV - S _s V - GSW 96					

表 4.4-2 設計用床応答スペクトル (S s) 一覧表 (原子炉格納容器内) (13/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数 (%)	図番
S s	ガンマ線遮蔽壁	鉛直方向	42	26.981	0.5	NS2 - PCV - SsV - GSW 97
					1.0	NS2 - PCV - SsV - GSW 98
					1.5	NS2 - PCV - SsV - GSW 99
					2.0	NS2 - PCV - SsV - GSW 100
					2.5	NS2 - PCV - SsV - GSW 101
					3.0	NS2 - PCV - SsV - GSW 102
					4.0	NS2 - PCV - SsV - GSW 103
					5.0	NS2 - PCV - SsV - GSW 104
			43	24.000	0.5	NS2 - PCV - SsV - GSW 105
					1.0	NS2 - PCV - SsV - GSW 106
					1.5	NS2 - PCV - SsV - GSW 107
					2.0	NS2 - PCV - SsV - GSW 108
					2.5	NS2 - PCV - SsV - GSW 109
					3.0	NS2 - PCV - SsV - GSW 110
					4.0	NS2 - PCV - SsV - GSW 111
					5.0	NS2 - PCV - SsV - GSW 112
			44	21.500	0.5	NS2 - PCV - SsV - GSW 113
					1.0	NS2 - PCV - SsV - GSW 114
					1.5	NS2 - PCV - SsV - GSW 115
					2.0	NS2 - PCV - SsV - GSW 116
					2.5	NS2 - PCV - SsV - GSW 117
					3.0	NS2 - PCV - SsV - GSW 118
					4.0	NS2 - PCV - SsV - GSW 119
					5.0	NS2 - PCV - SsV - GSW 120
	45	19.000	0.5	NS2 - PCV - SsV - GSW 121		
			1.0	NS2 - PCV - SsV - GSW 122		
			1.5	NS2 - PCV - SsV - GSW 123		
			2.0	NS2 - PCV - SsV - GSW 124		
			2.5	NS2 - PCV - SsV - GSW 125		
			3.0	NS2 - PCV - SsV - GSW 126		
			4.0	NS2 - PCV - SsV - GSW 127		
			5.0	NS2 - PCV - SsV - GSW 128		
	原子炉圧力容器 ペダスタル	46	15.944	0.5	NS2 - PCV - SsV - PED 129	
				1.0	NS2 - PCV - SsV - PED 130	
				1.5	NS2 - PCV - SsV - PED 131	
				2.0	NS2 - PCV - SsV - PED 132	
				2.5	NS2 - PCV - SsV - PED 133	
				3.0	NS2 - PCV - SsV - PED 134	
				4.0	NS2 - PCV - SsV - PED 135	
				5.0	NS2 - PCV - SsV - PED 136	
		47	13.022	0.5	NS2 - PCV - SsV - PED 137	
				1.0	NS2 - PCV - SsV - PED 138	
				1.5	NS2 - PCV - SsV - PED 139	
				2.0	NS2 - PCV - SsV - PED 140	
				2.5	NS2 - PCV - SsV - PED 141	
				3.0	NS2 - PCV - SsV - PED 142	
	4.0	NS2 - PCV - SsV - PED 143				
	5.0	NS2 - PCV - SsV - PED 144				

表 4.4-2 設計用床応答スペクトル (S s) 一覧表 (原子炉格納容器内) (14/15)

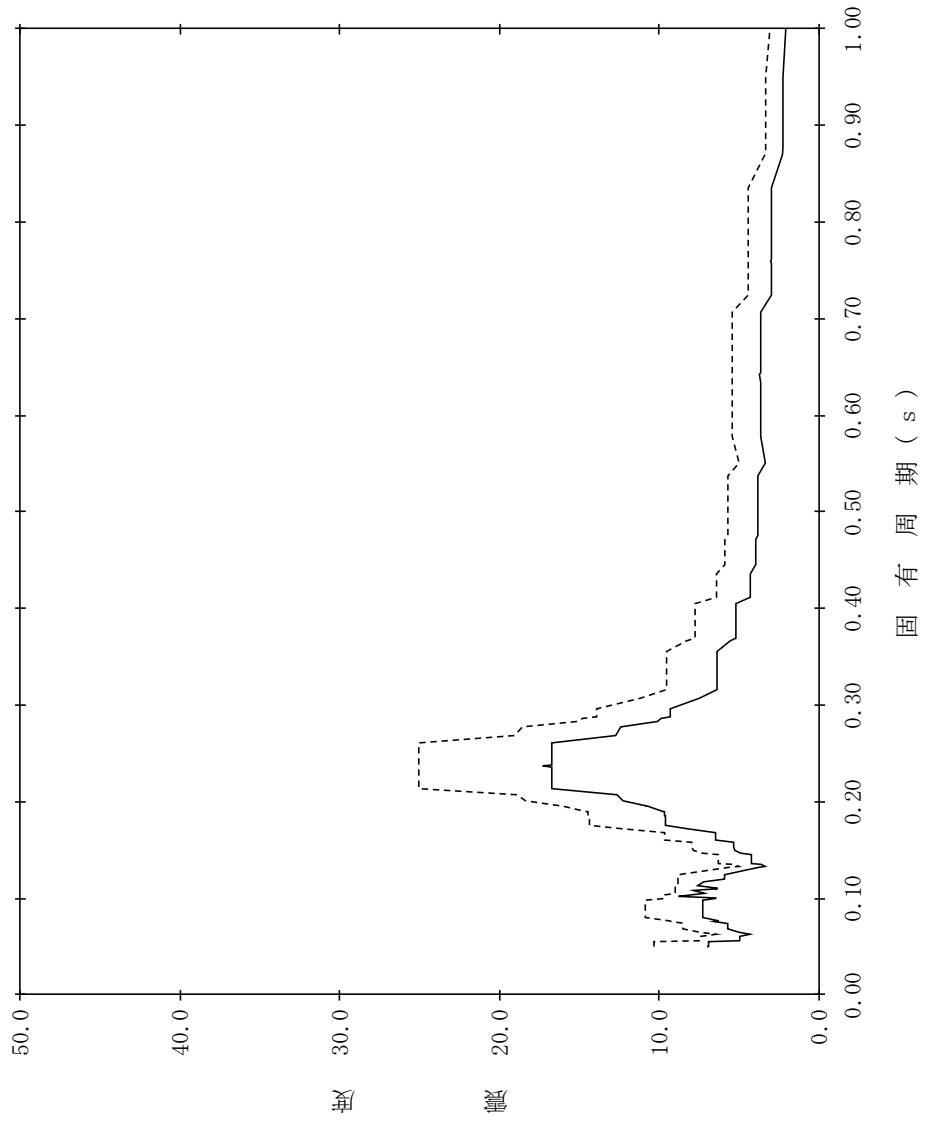
地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S s	原子炉压力容器	鉛直方向	53	32.567	0.5	NS2 - PCV - SsV - RPV 145
					1.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 146
					1.5	NS2 - PCV - SsV - RPV 147
					2.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 148
					2.5	NS2 - PCV - SsV - RPV 149
					3.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 150
					4.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 151
			5.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 152		
			57	29.181	0.5	NS2 - PCV - SsV - RPV 153
					1.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 154
					1.5	NS2 - PCV - SsV - RPV 155
					2.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 156
					2.5	NS2 - PCV - SsV - RPV 157
					3.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 158
					4.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 159
			5.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 160		
			59	27.317	0.5	NS2 - PCV - SsV - RPV 161
					1.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 162
					1.5	NS2 - PCV - SsV - RPV 163
					2.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 164
					2.5	NS2 - PCV - SsV - RPV 165
					3.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 166
					4.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 167
			5.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 168		
			64	23.707	0.5	NS2 - PCV - SsV - RPV 169
					1.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 170
					1.5	NS2 - PCV - SsV - RPV 171
					2.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 172
					2.5	NS2 - PCV - SsV - RPV 173
					3.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 174
					4.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 175
			5.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 176		
			71	18.250	0.5	NS2 - PCV - SsV - RPV 177
					1.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 178
					1.5	NS2 - PCV - SsV - RPV 179
2.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 180					
2.5	NS2 - PCV - SsV - RPV 181					
3.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 182					
4.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 183					
5.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 184					

表 4.4-2 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (原子炉格納容器内) (15/15)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S _s	炉心シュラウド (上部格子板)	鉛直 方向	80	25.843	0.5	NS2 - PCV - SsV - SHD 185
					1.0	NS2 - PCV - SsV - SHD 186
					1.5	NS2 - PCV - SsV - SHD 187
					2.0	NS2 - PCV - SsV - SHD 188
					2.5	NS2 - PCV - SsV - SHD 189
					3.0	NS2 - PCV - SsV - SHD 190
					4.0	NS2 - PCV - SsV - SHD 191
	5.0		NS2 - PCV - SsV - SHD 192			
	炉心シュラウド (炉心支持板)		88	21.571	0.5	NS2 - PCV - SsV - SHD 193
					1.0	NS2 - PCV - SsV - SHD 194
					1.5	NS2 - PCV - SsV - SHD 195
					2.0	NS2 - PCV - SsV - SHD 196
					2.5	NS2 - PCV - SsV - SHD 197
					3.0	NS2 - PCV - SsV - SHD 198
					4.0	NS2 - PCV - SsV - SHD 199
	5.0		NS2 - PCV - SsV - SHD 200			
	原子炉圧力容器 下鏡		71, 93, 108	18.250~16.508	0.5	NS2 - PCV - SsV - RPV 201
					1.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 202
					1.5	NS2 - PCV - SsV - RPV 203
					2.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 204
					2.5	NS2 - PCV - SsV - RPV 205
3.0		NS2 - PCV - SsV - RPV 206				
4.0		NS2 - PCV - SsV - RPV 207				
5.0	NS2 - PCV - SsV - RPV 208					

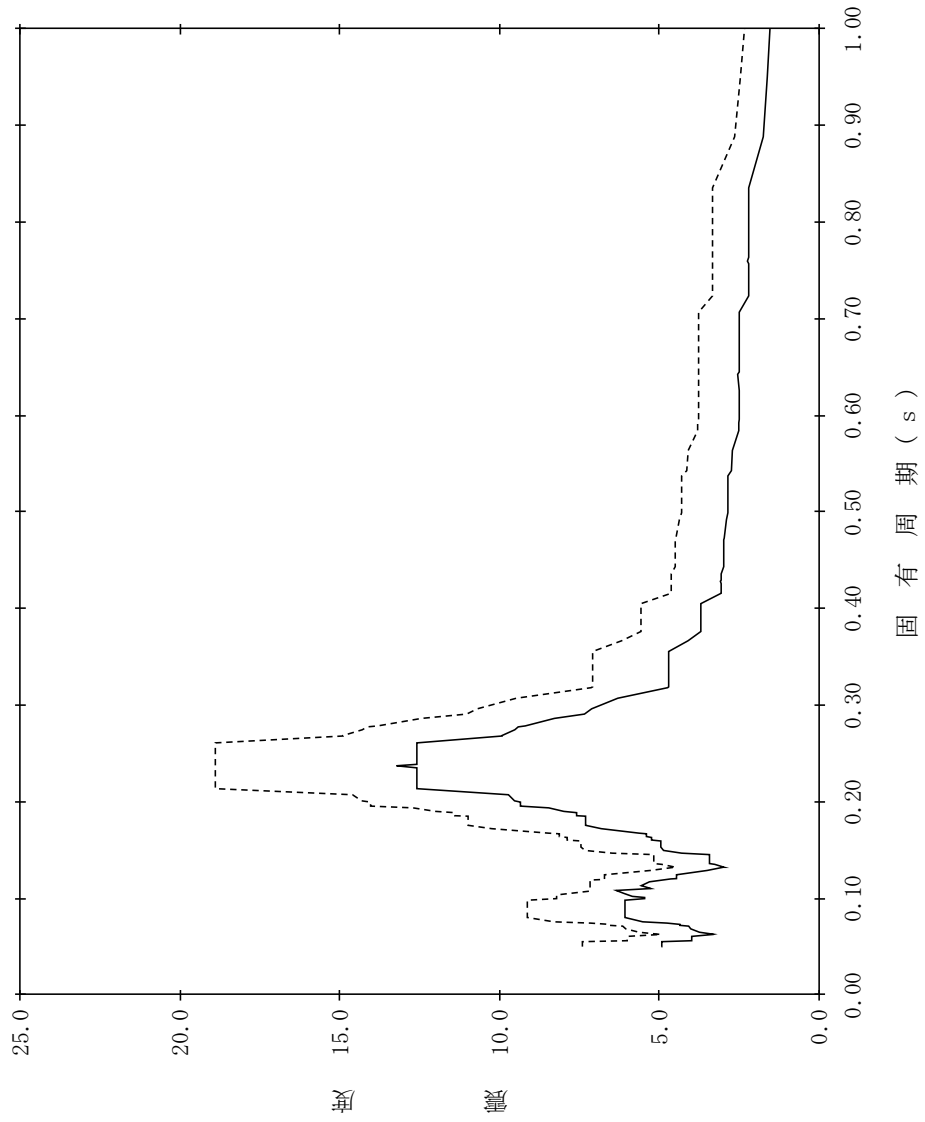
【NS2-PCV-SsNS-PCV1】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



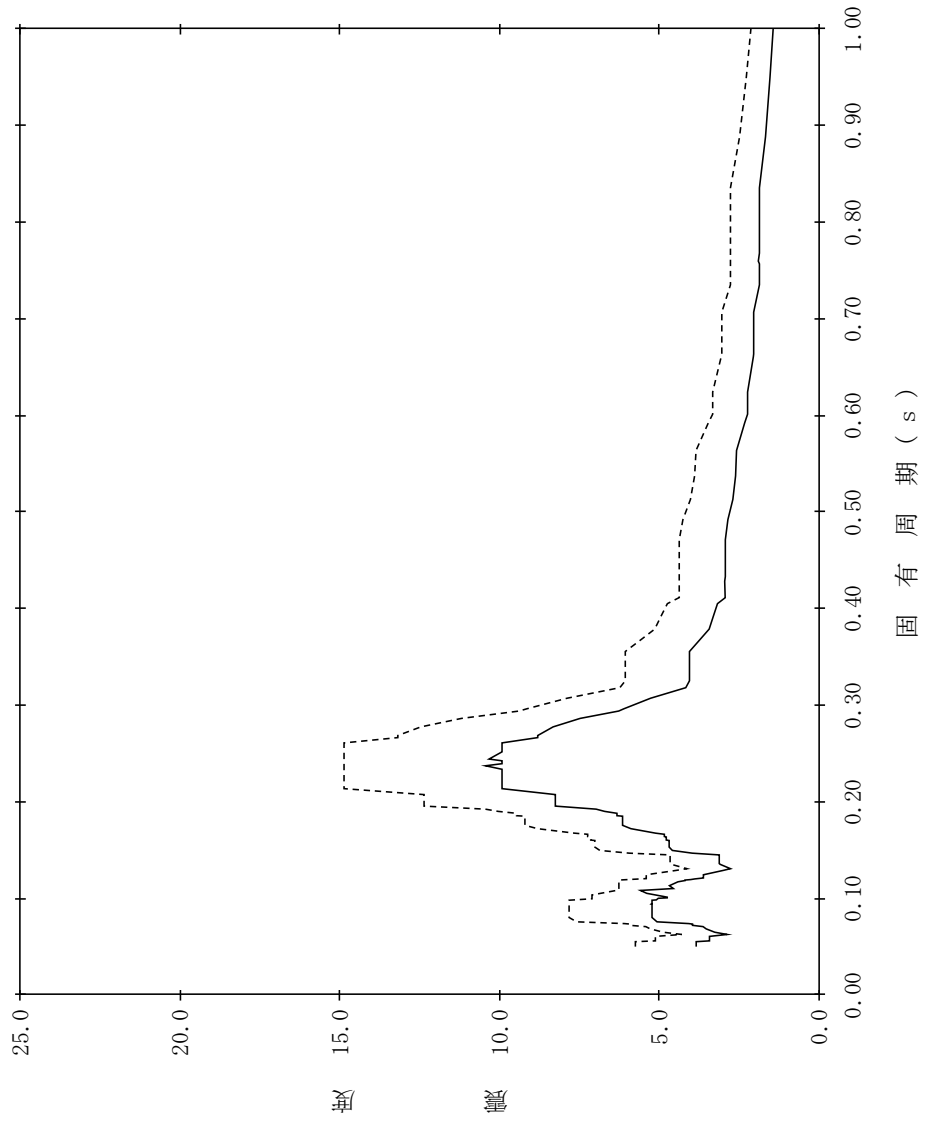
【NS2-PCV-SsNS-PCV2】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



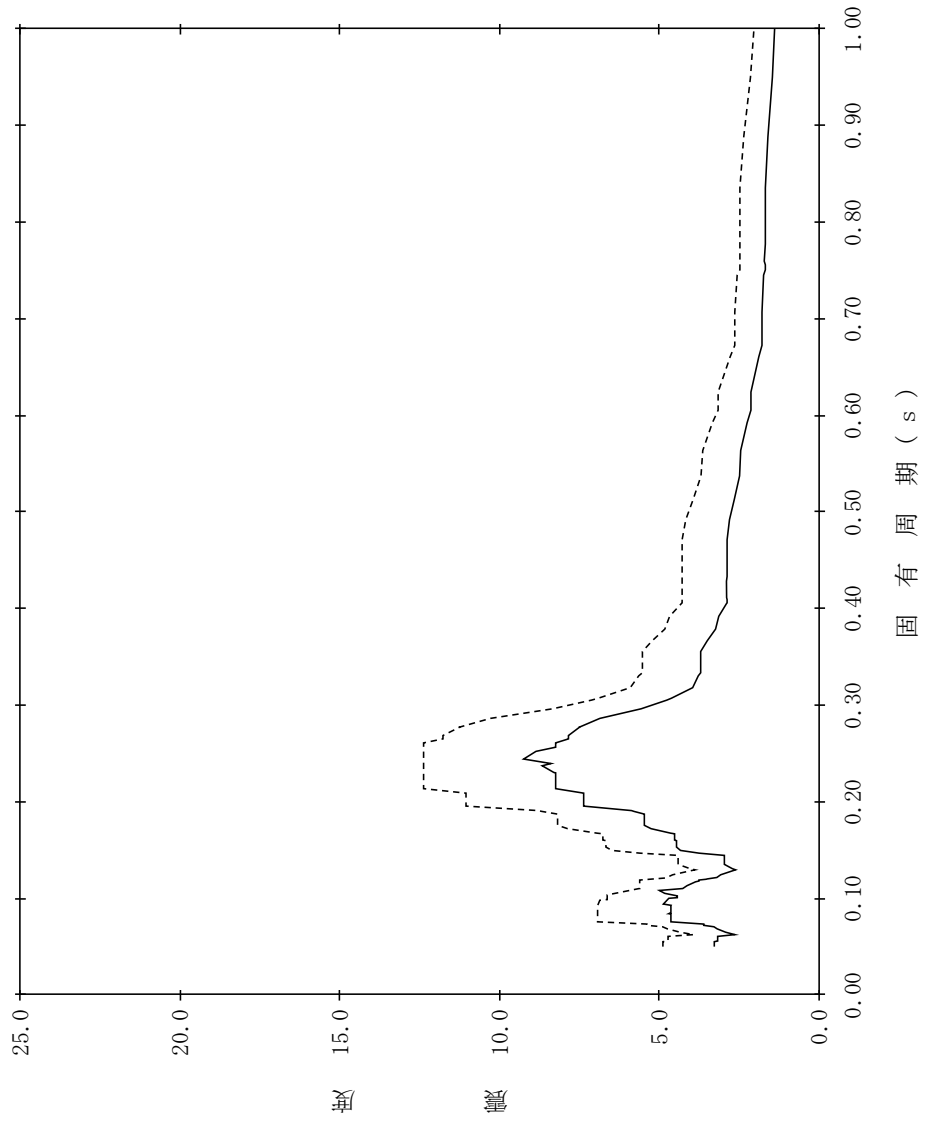
【NS2-PCV-SsNS-PCV3】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



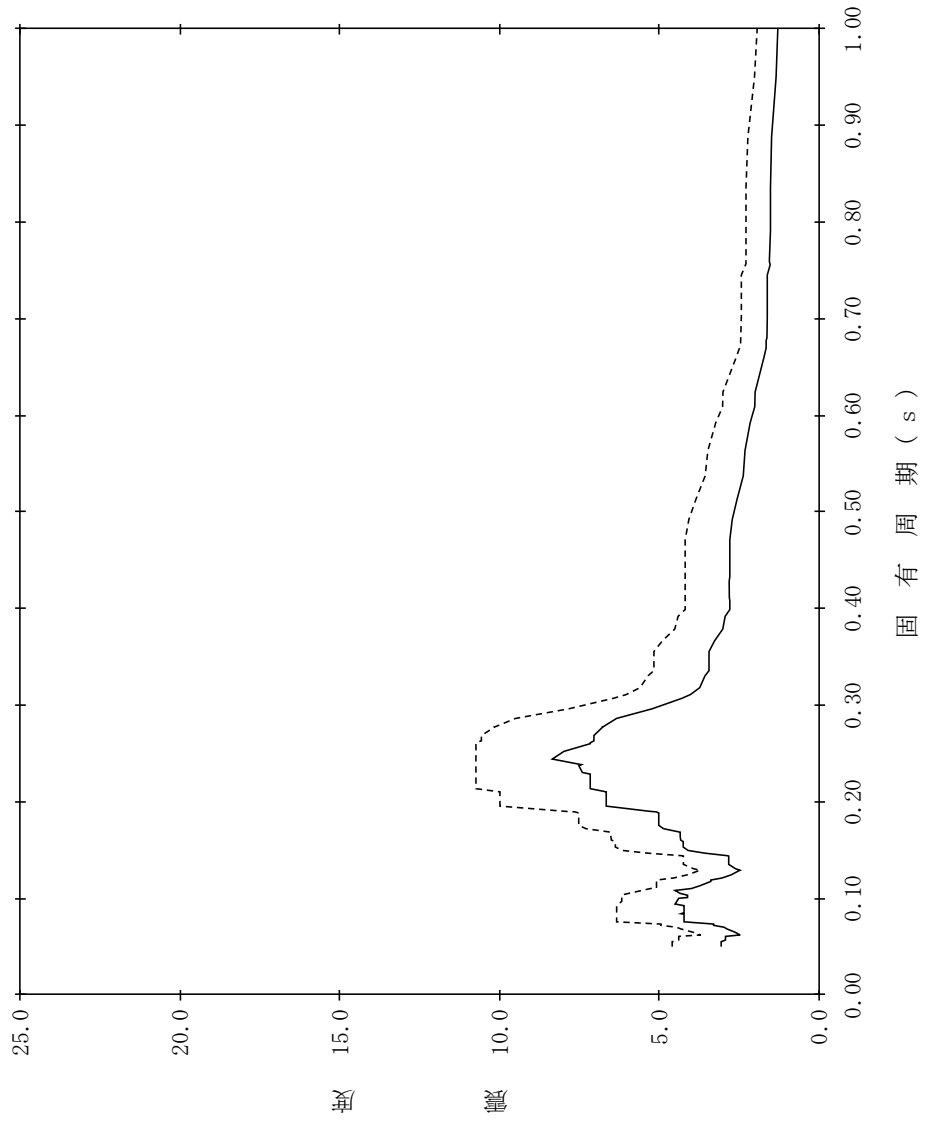
【NS2-PCV-SsNS-PCV4】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



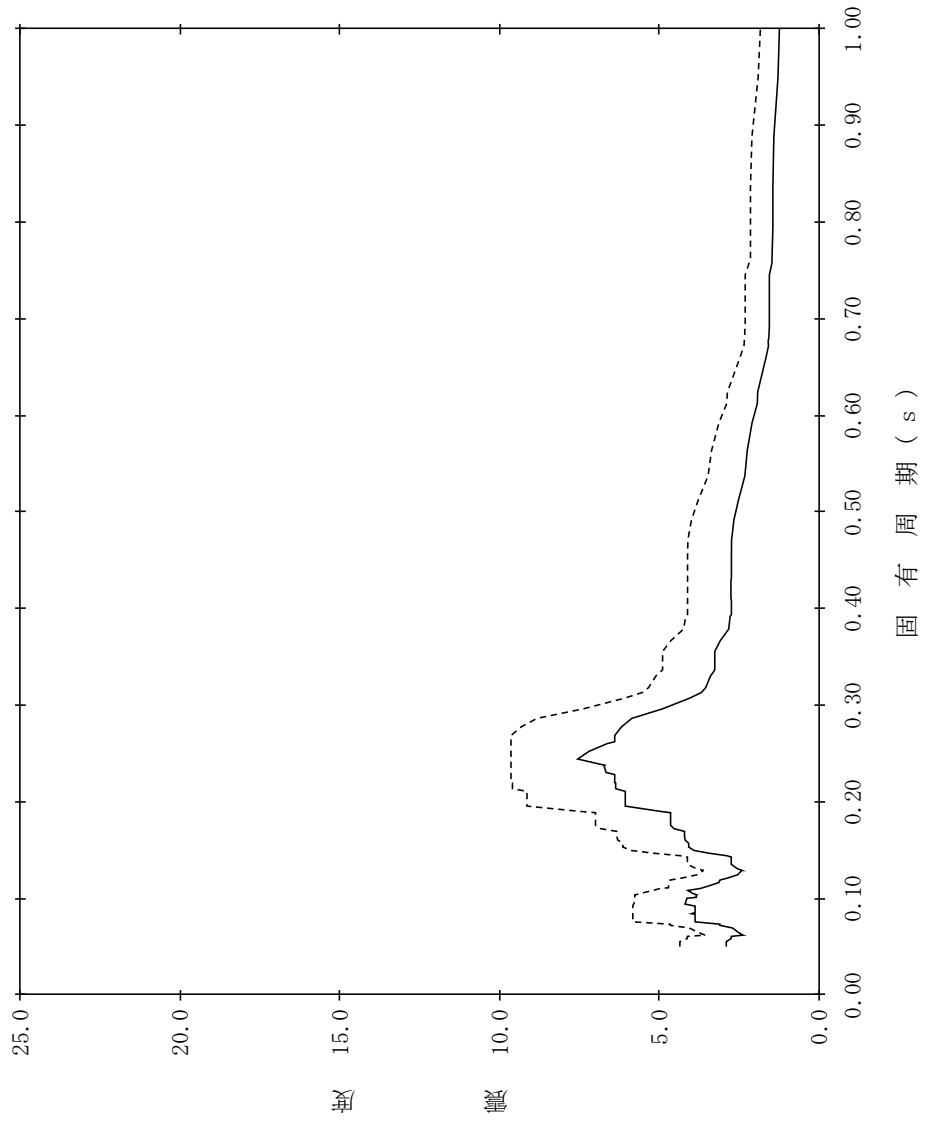
【NS2-PCV-SsNS-PCV5】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



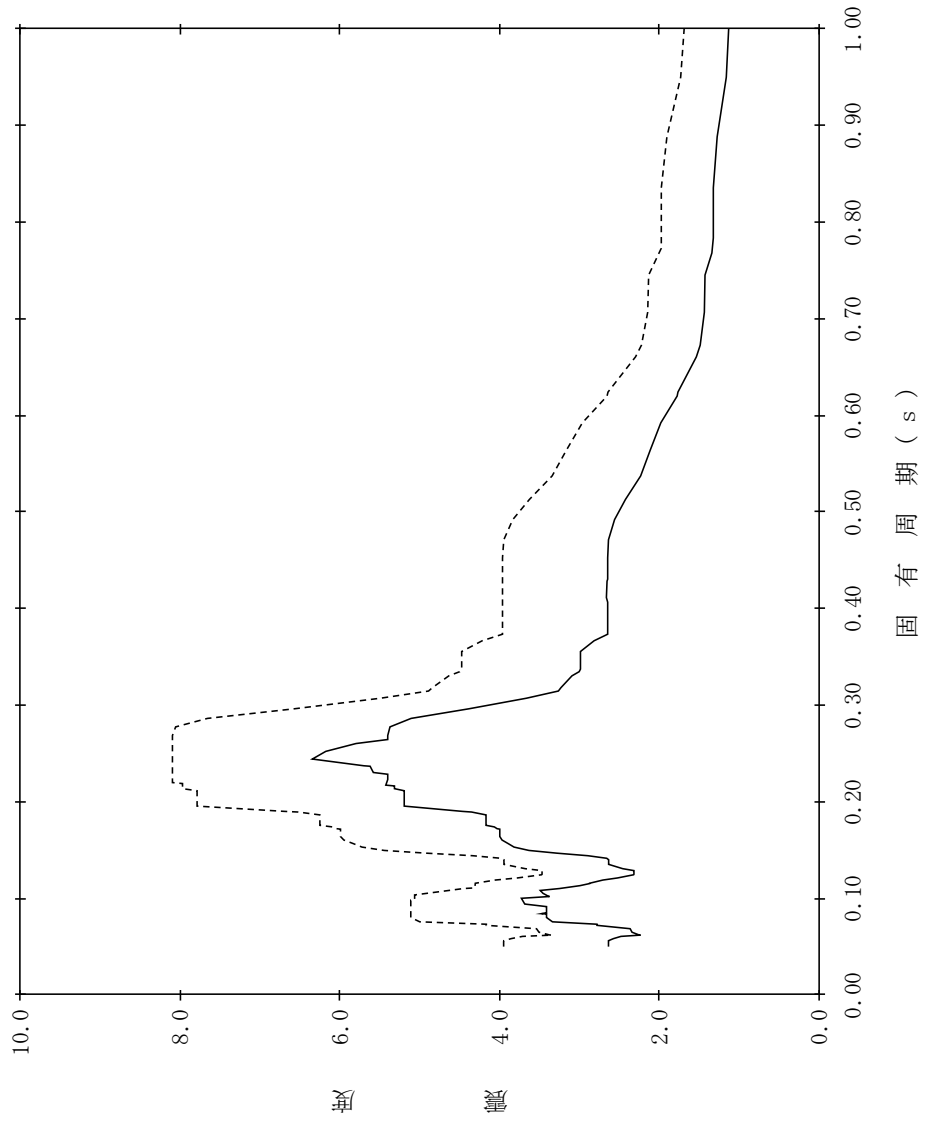
【NS2-PCV-SsNS-PCV6】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



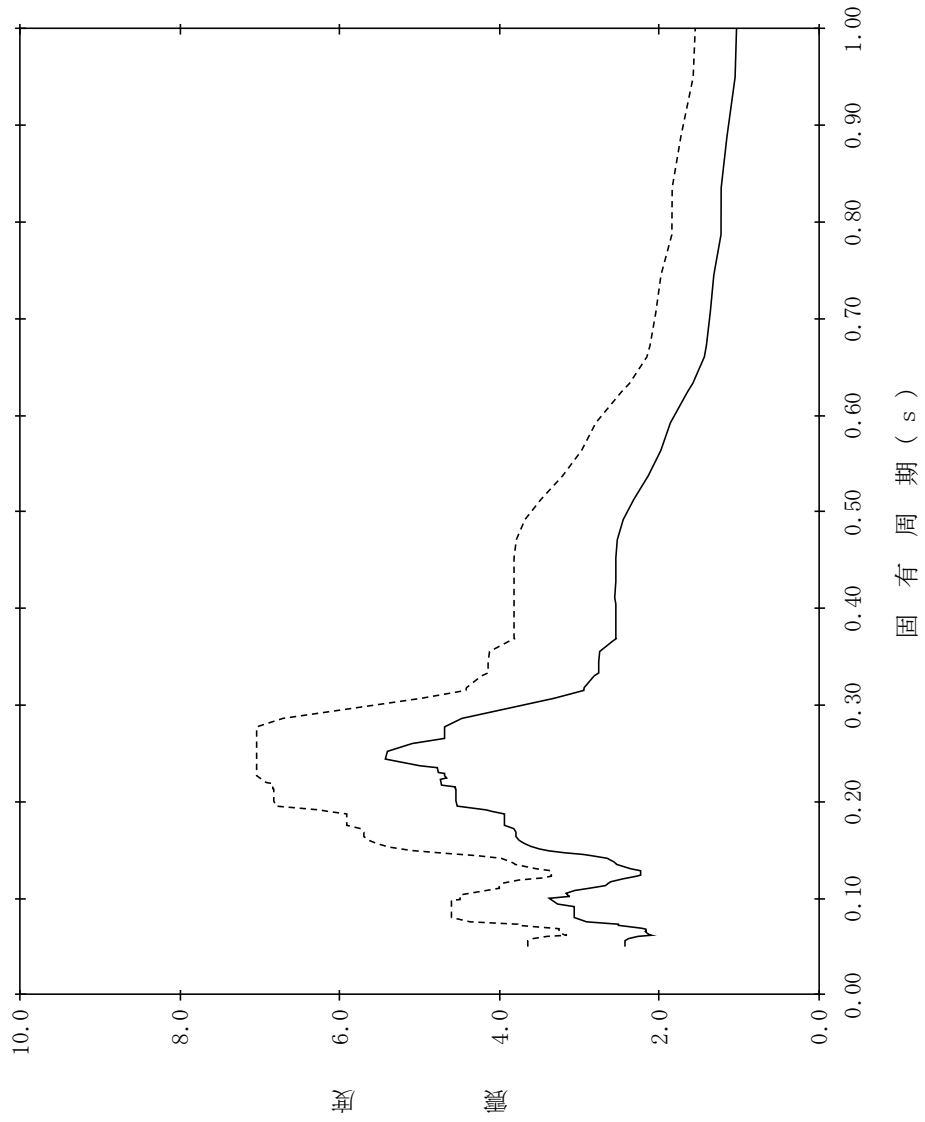
【NS2-PCV-SsNS-PCV7】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



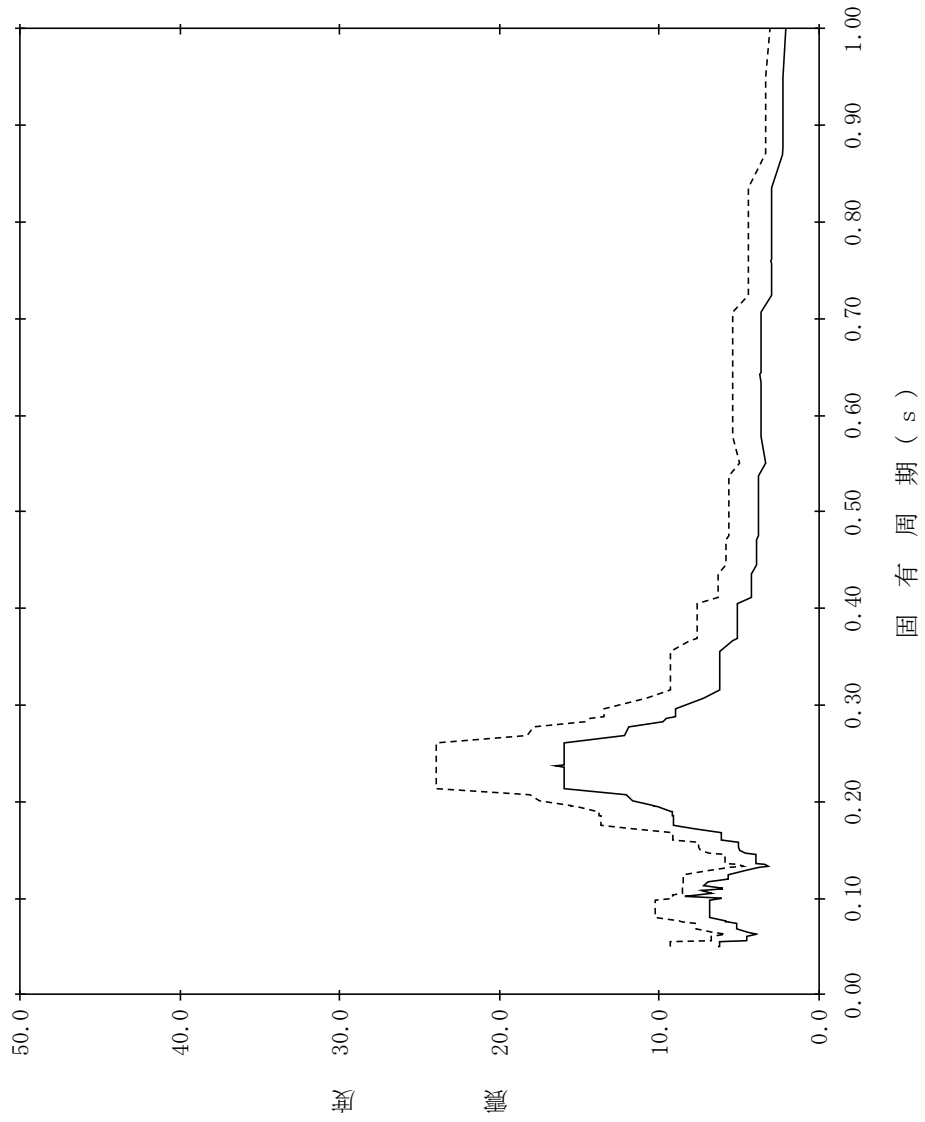
【NS2-PCV-SsNS-PCV8】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



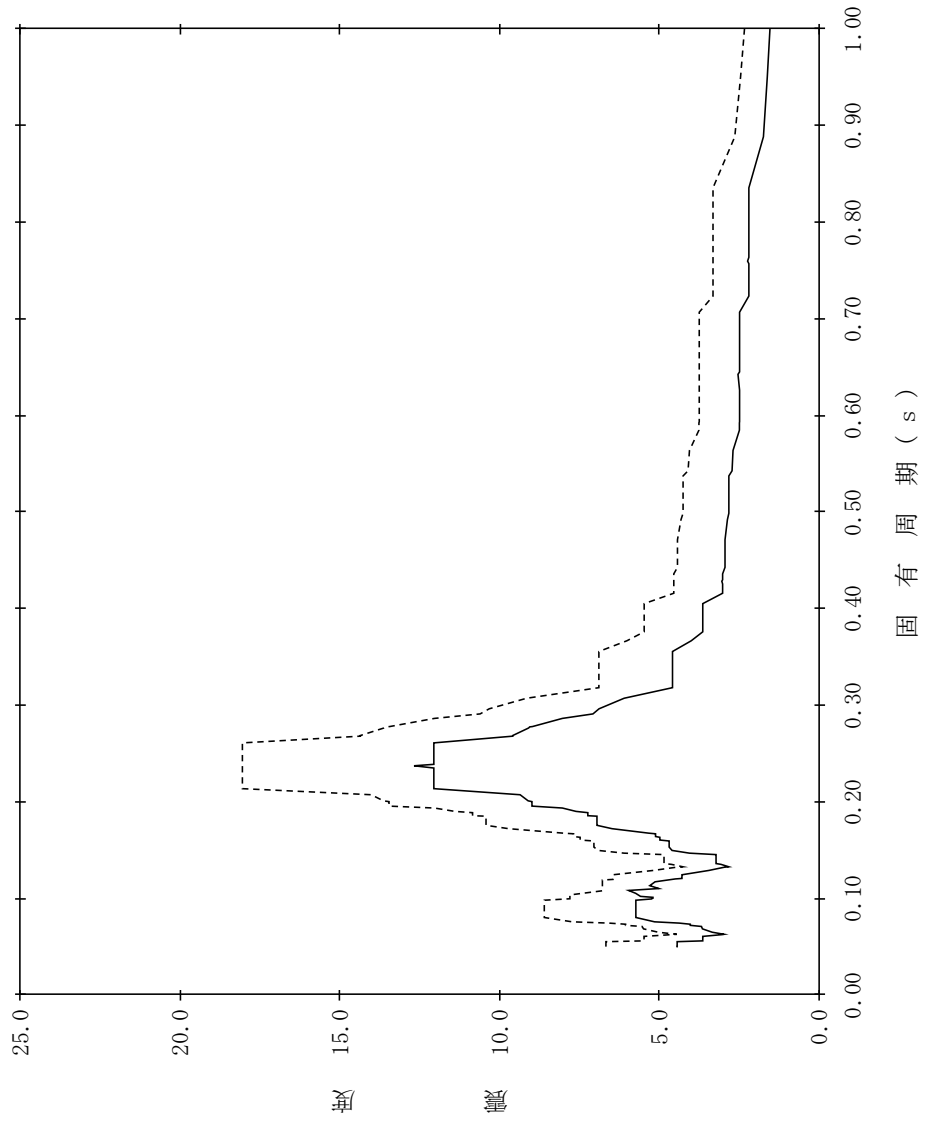
【NS2-PCV-SsNS-PCV9】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



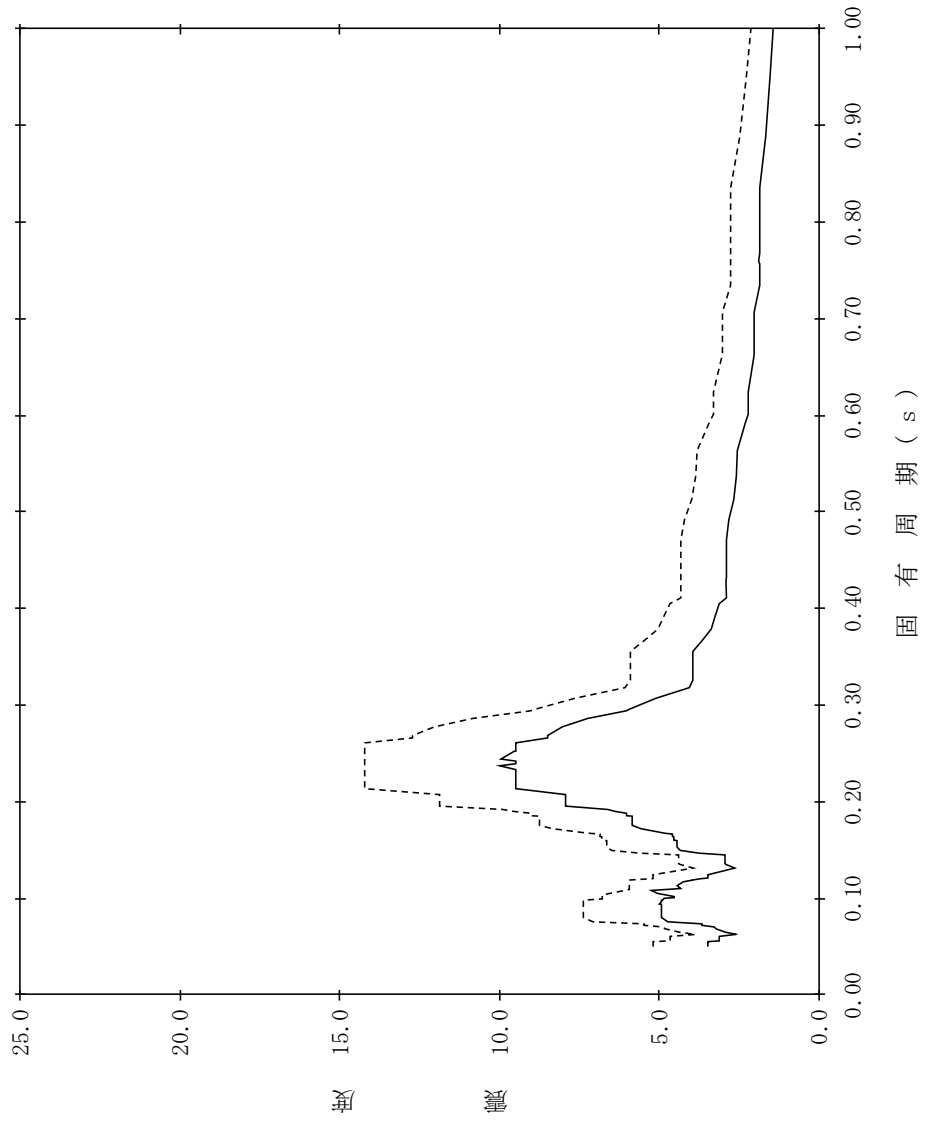
【NS2-PCV-SsNS-PCV10】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

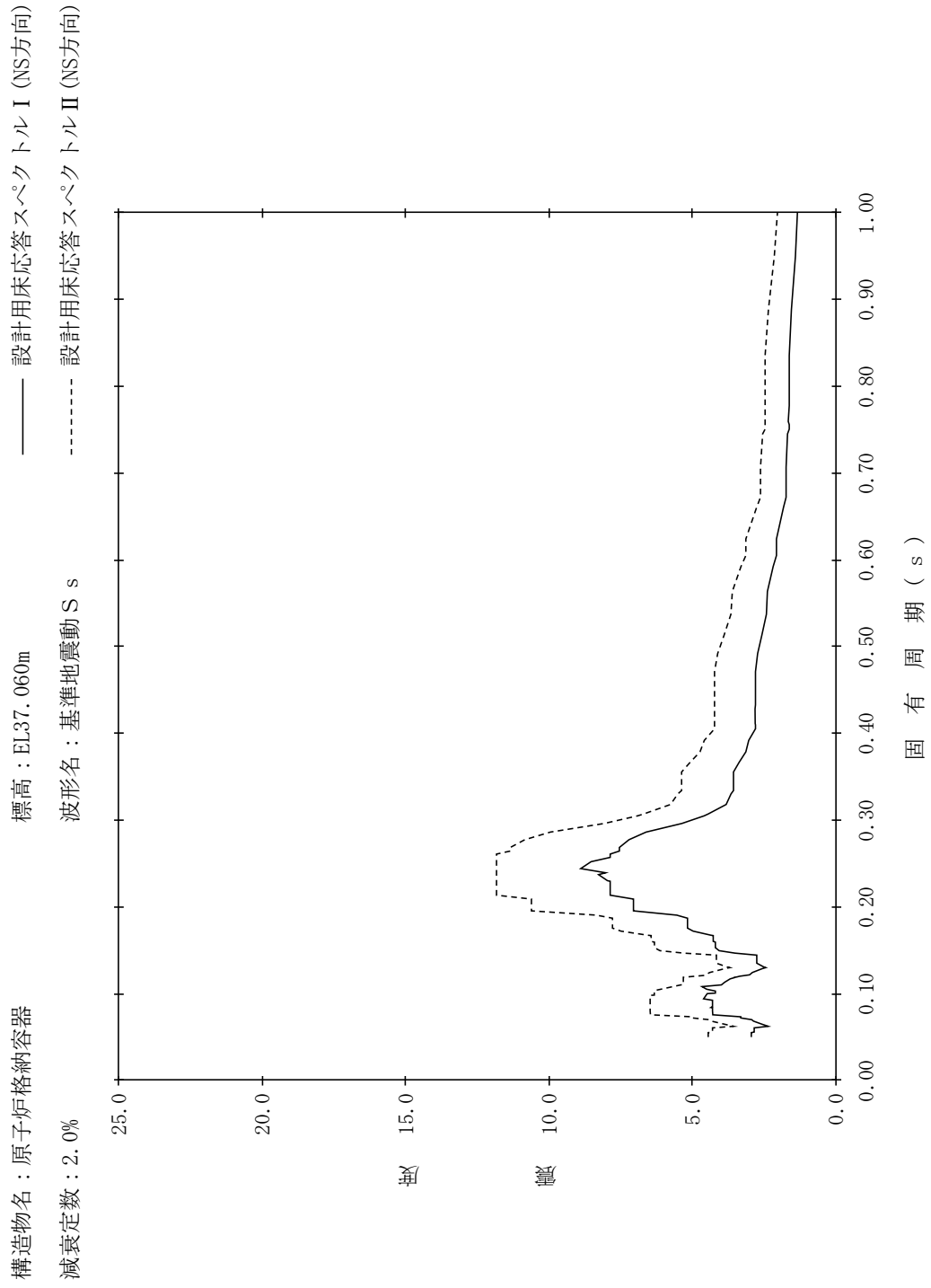


【NS2-PCV-SsNS-PCV11】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

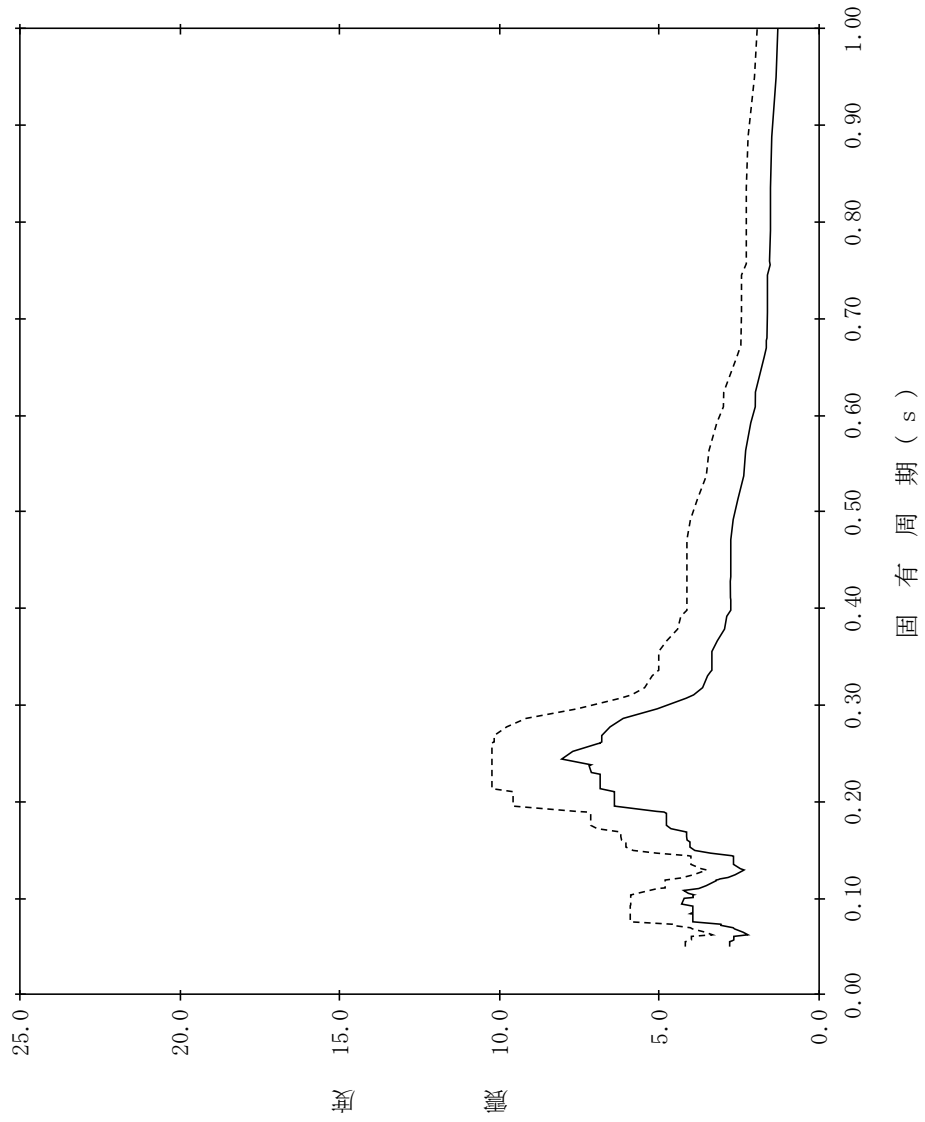


【NS2-PCV-SsNS-PCV12】



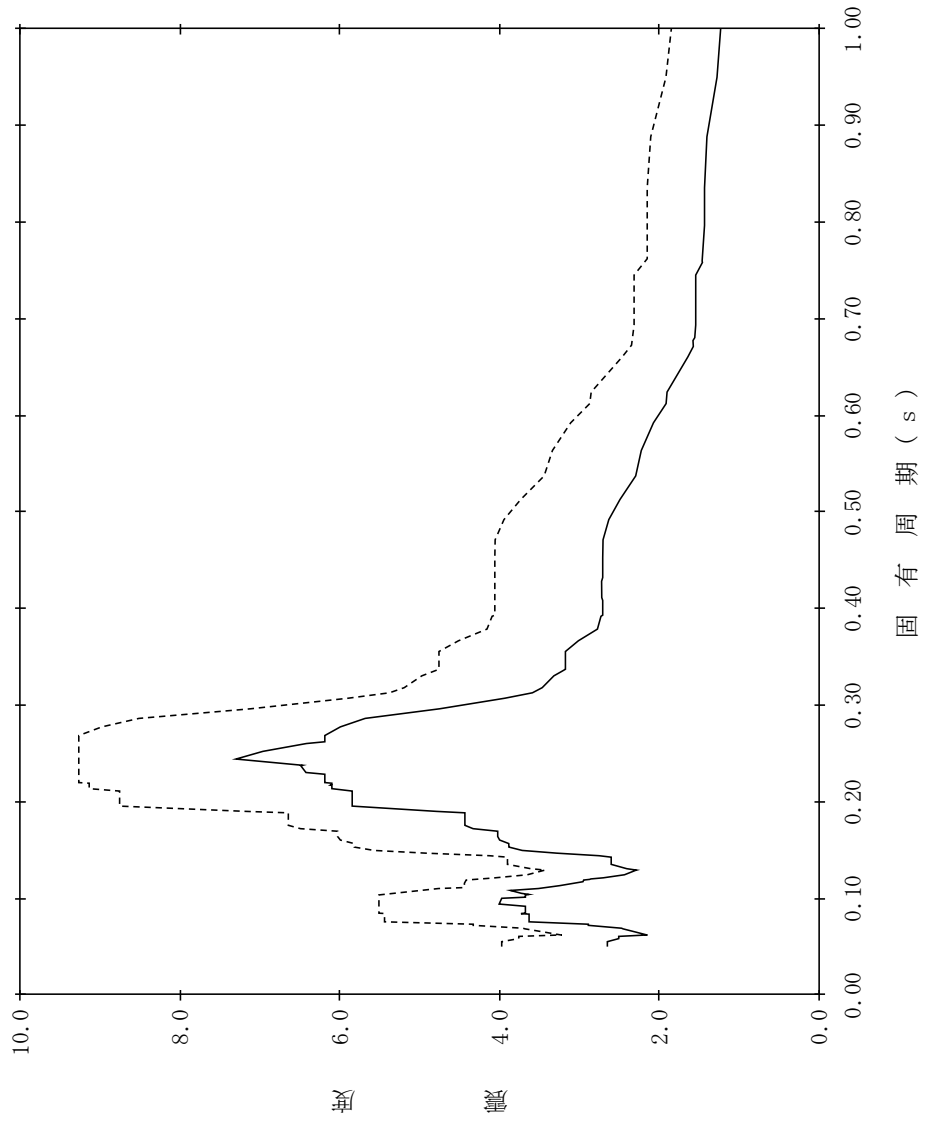
【NS2-PCV-SsNS-PCV13】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL37.060m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

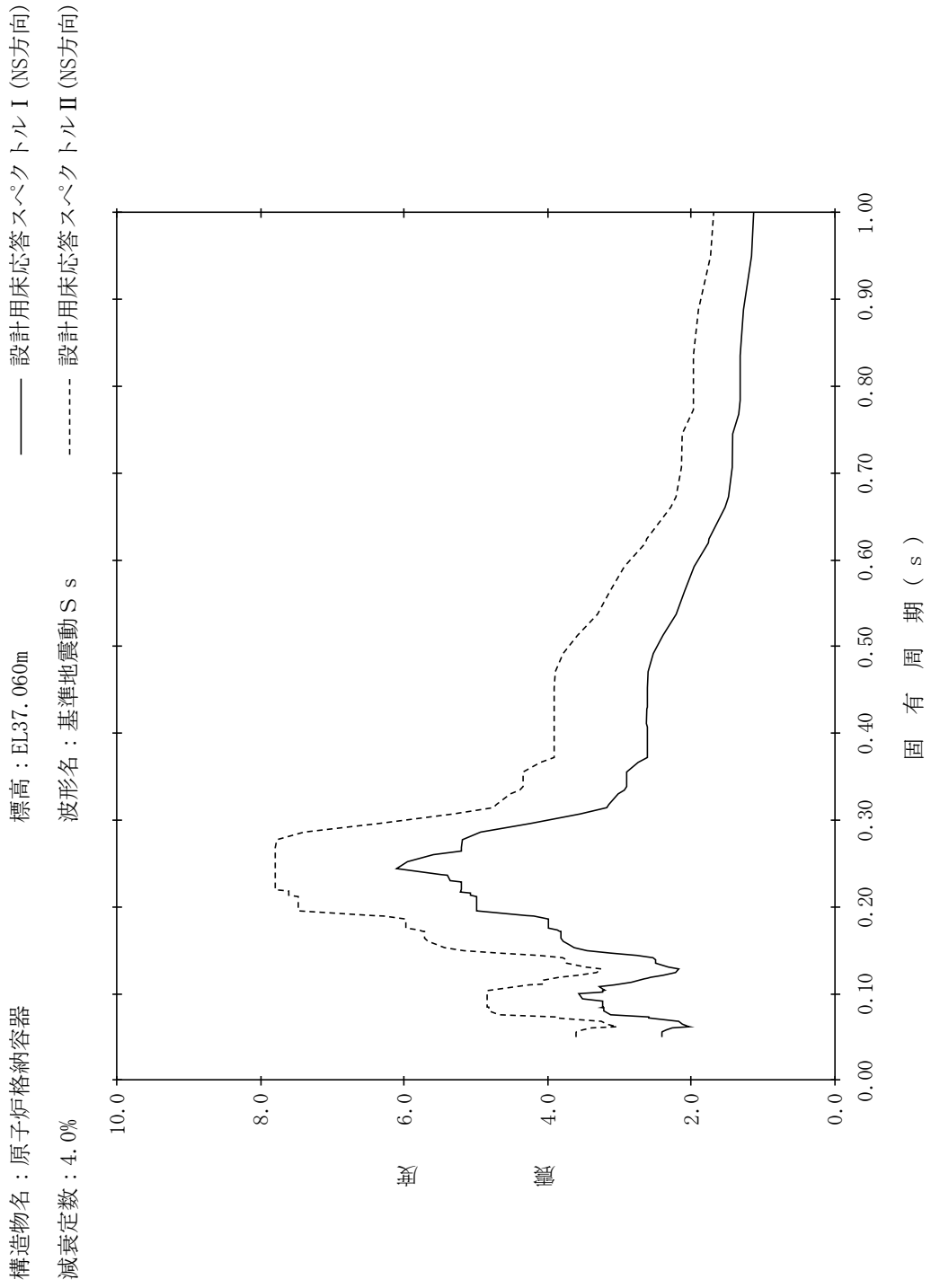


【NS2-PCV-SsNS-PCV14】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL37.060m
減衰定数：3.0%
波形式：標準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

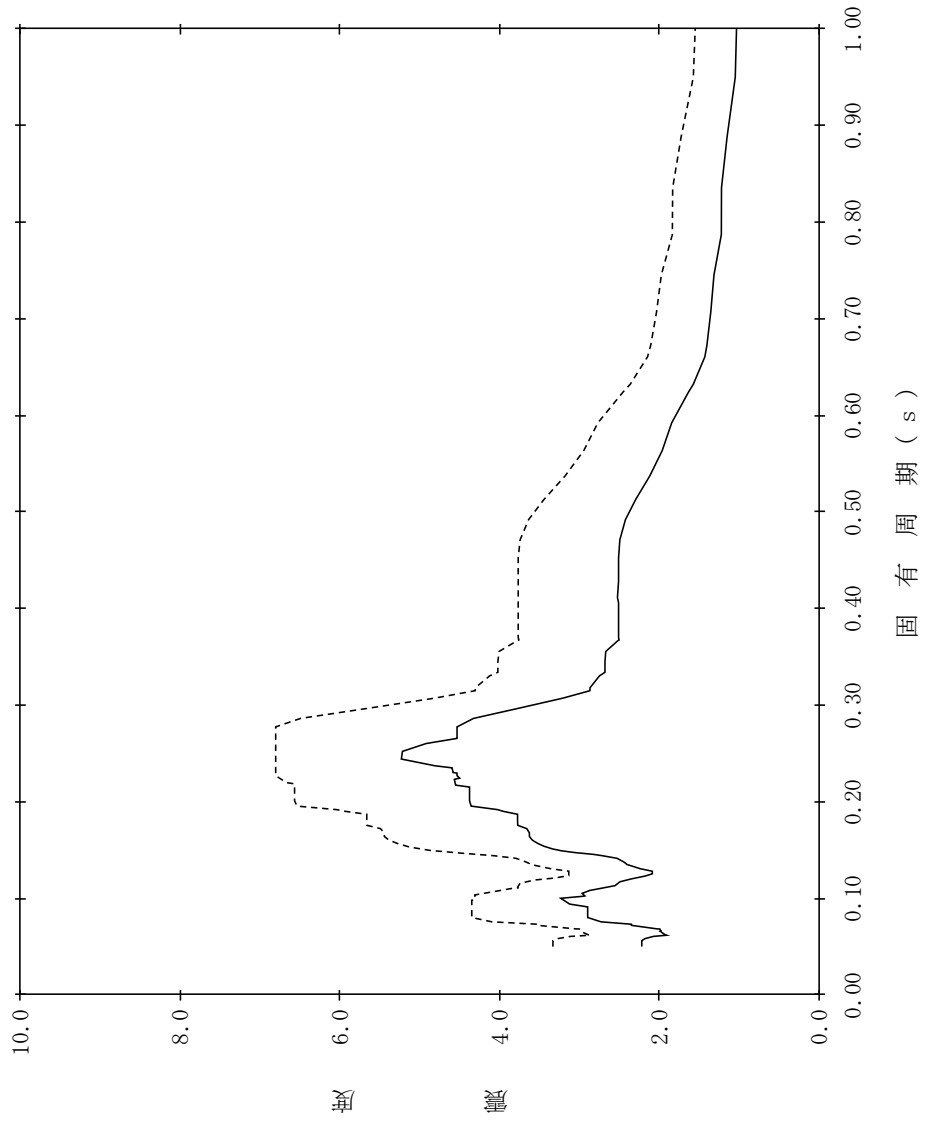


【NS2-PCV-SsNS-PCV15】

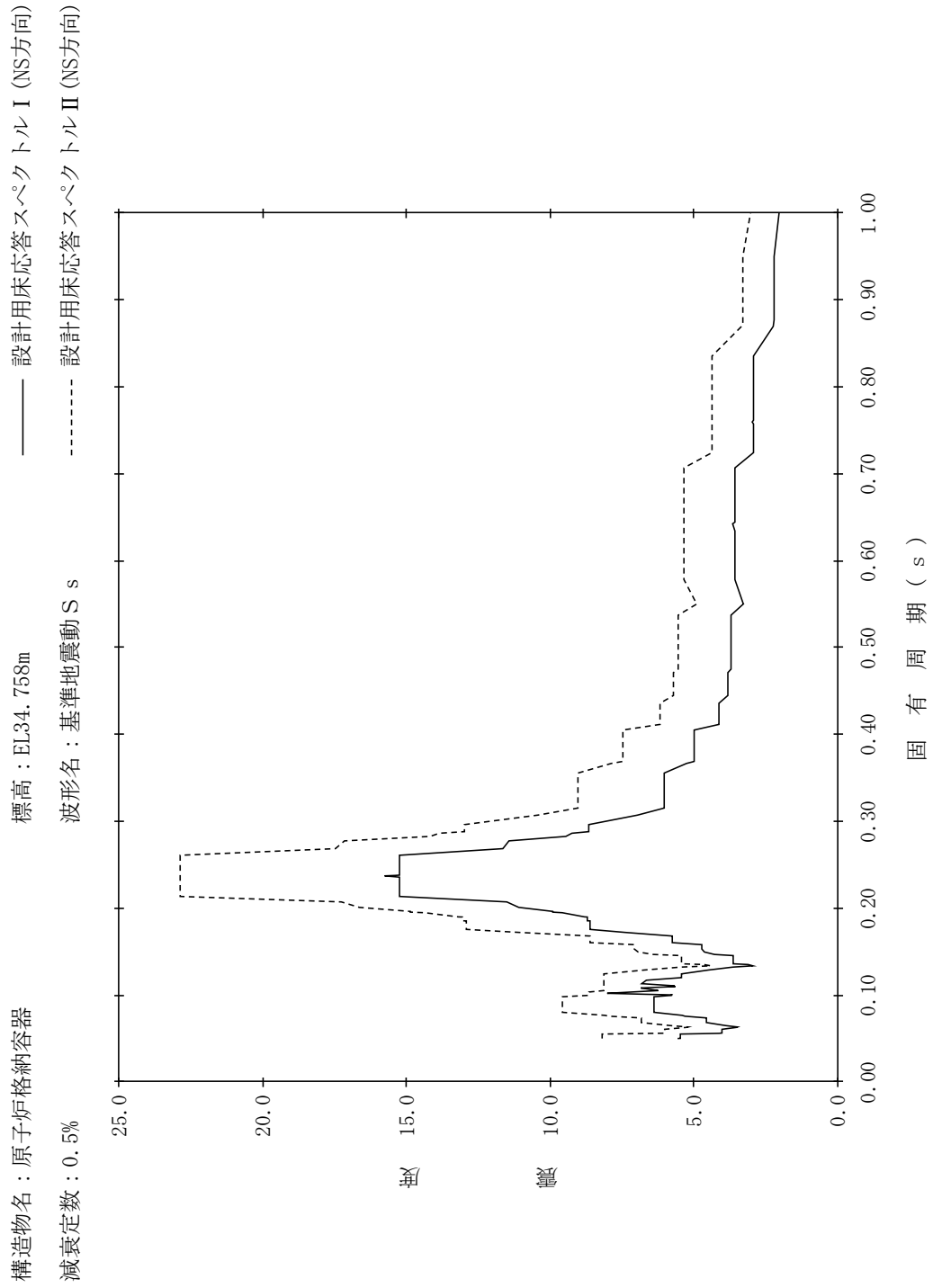


【NS2-PCV-SsNS-PCV16】

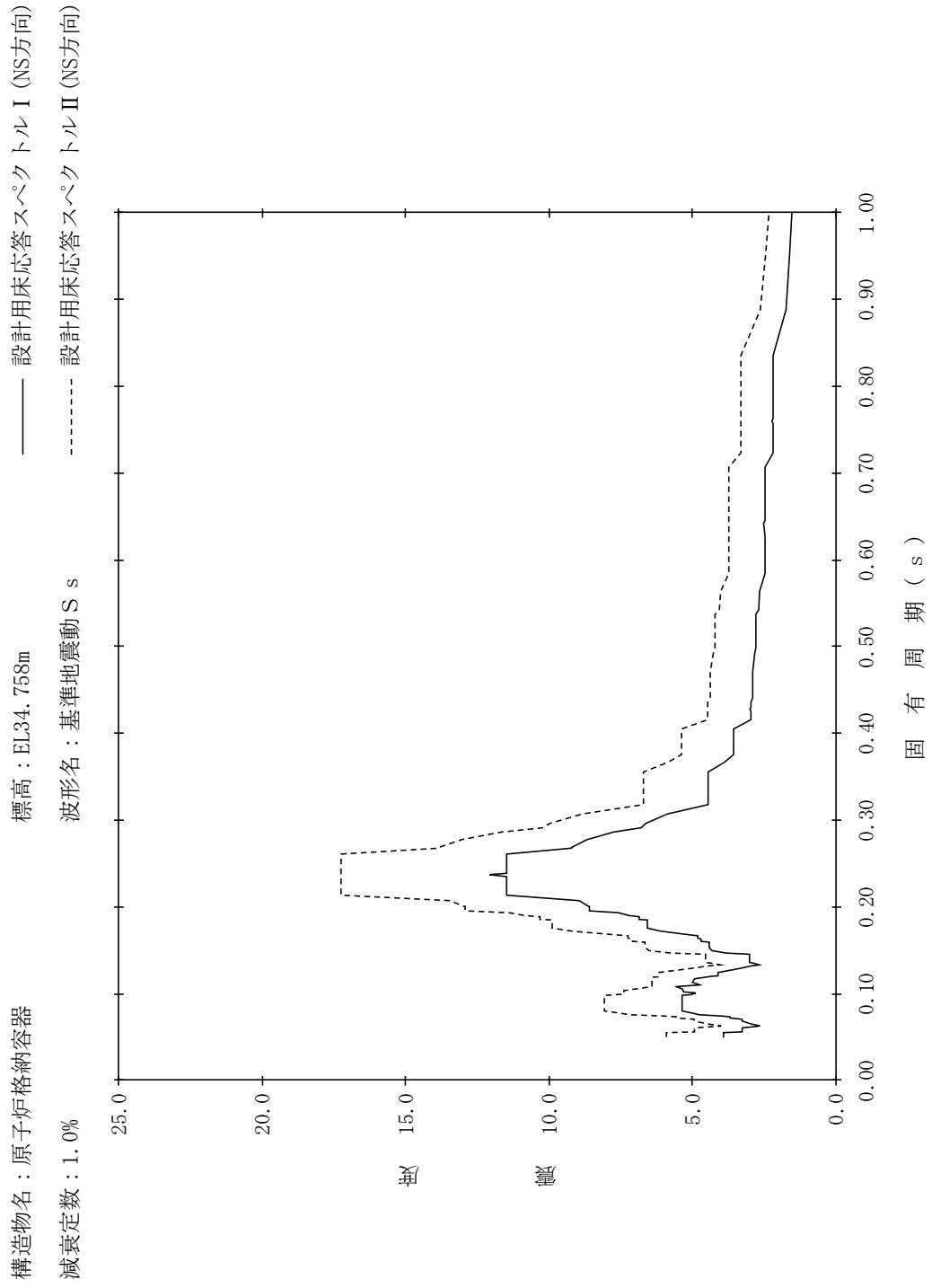
構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



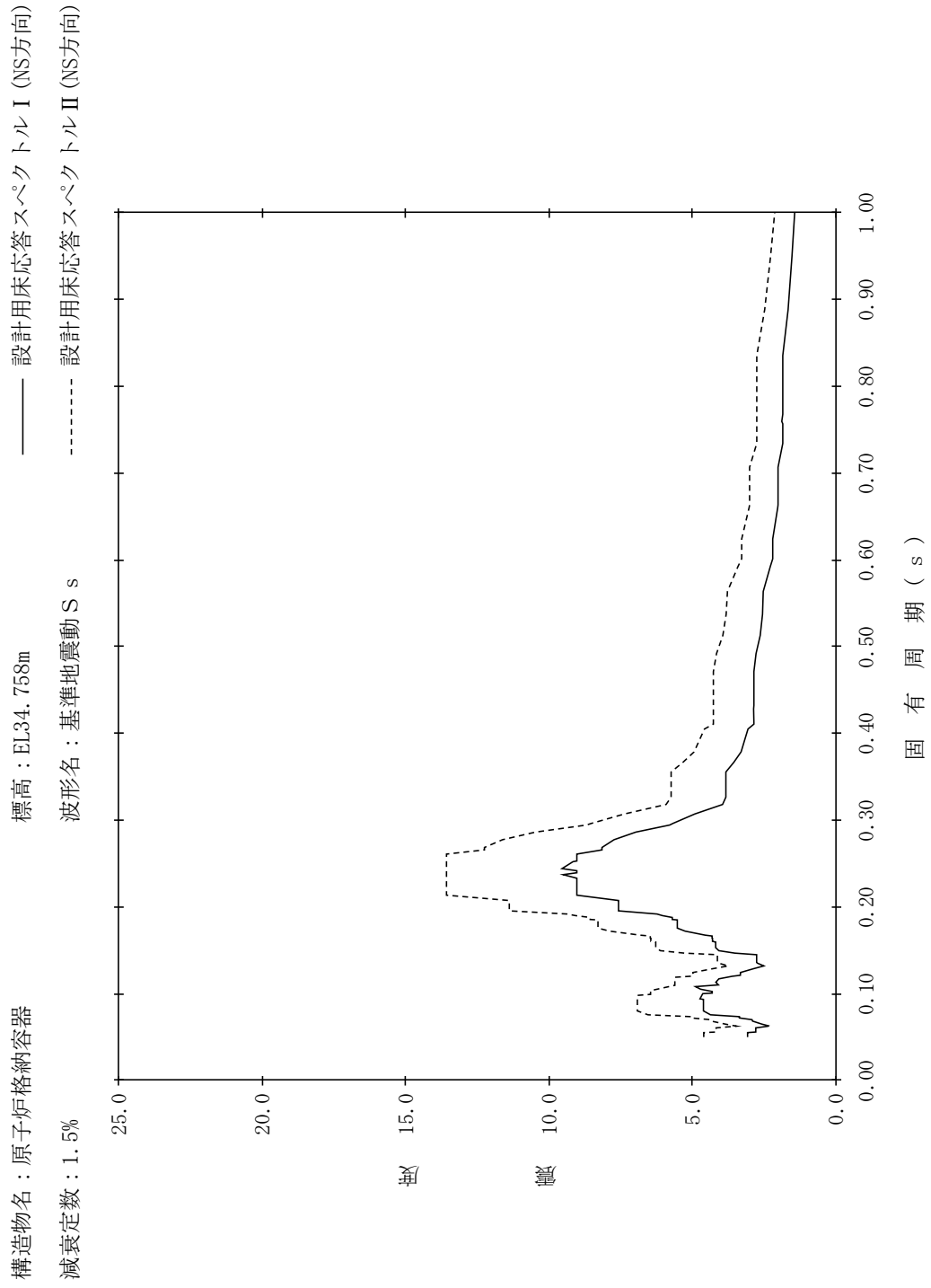
【NS2-PCV-SsNS-PCV17】



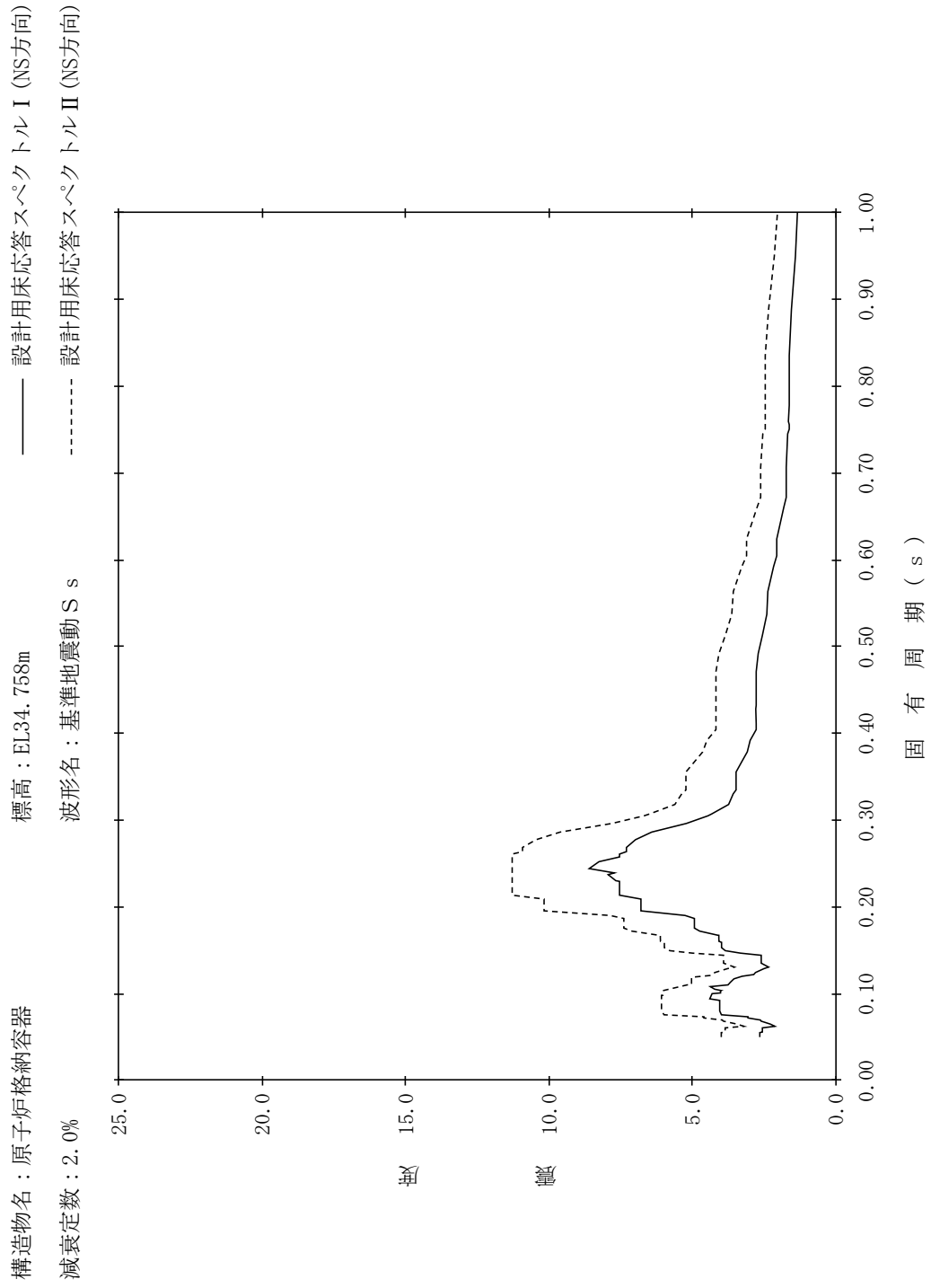
【NS2-PCV-SsNS-PCV18】



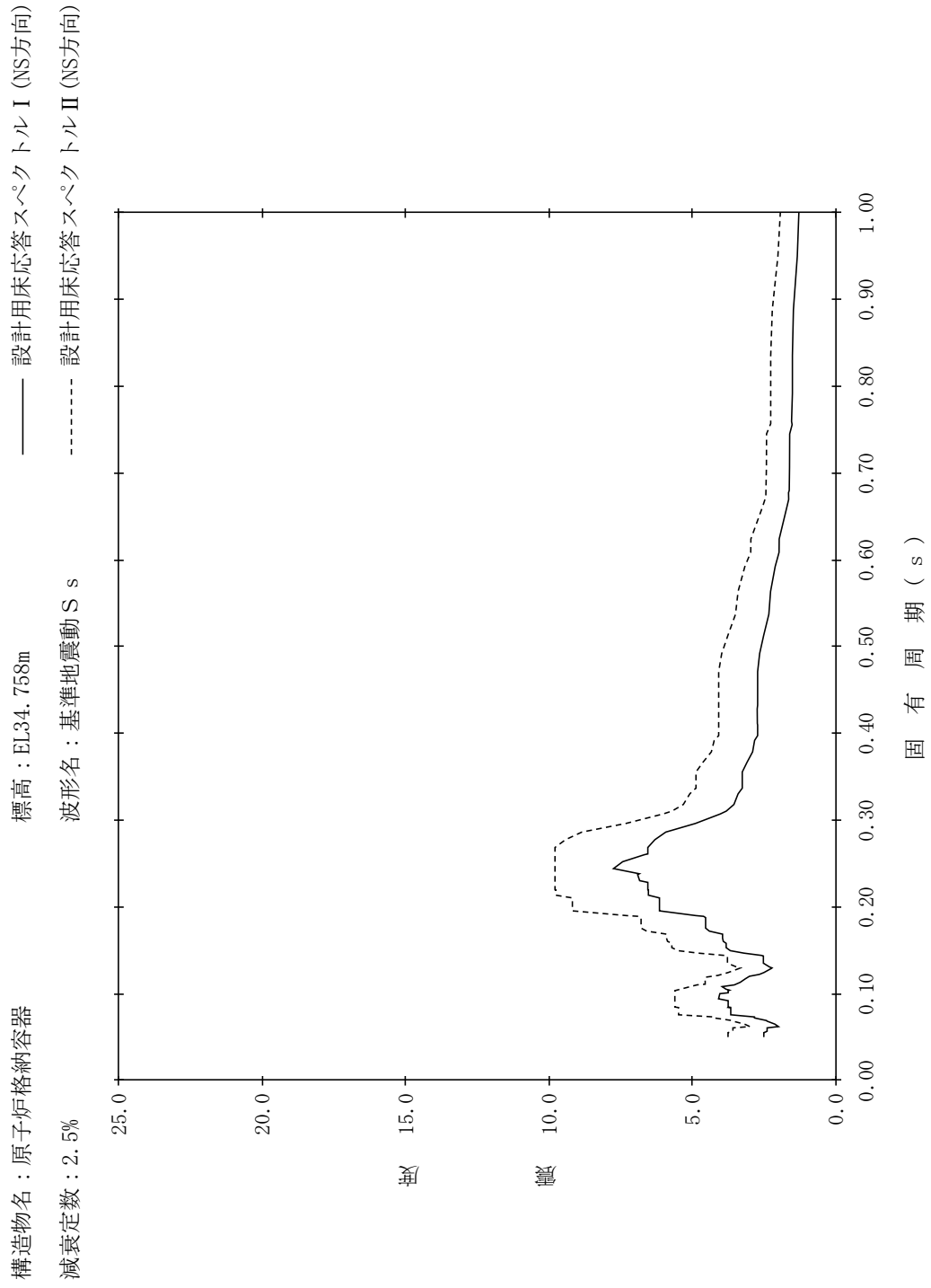
【NS2-PCV-SsNS-PCV19】



【NS2-PCV-SsNS-PCV20】

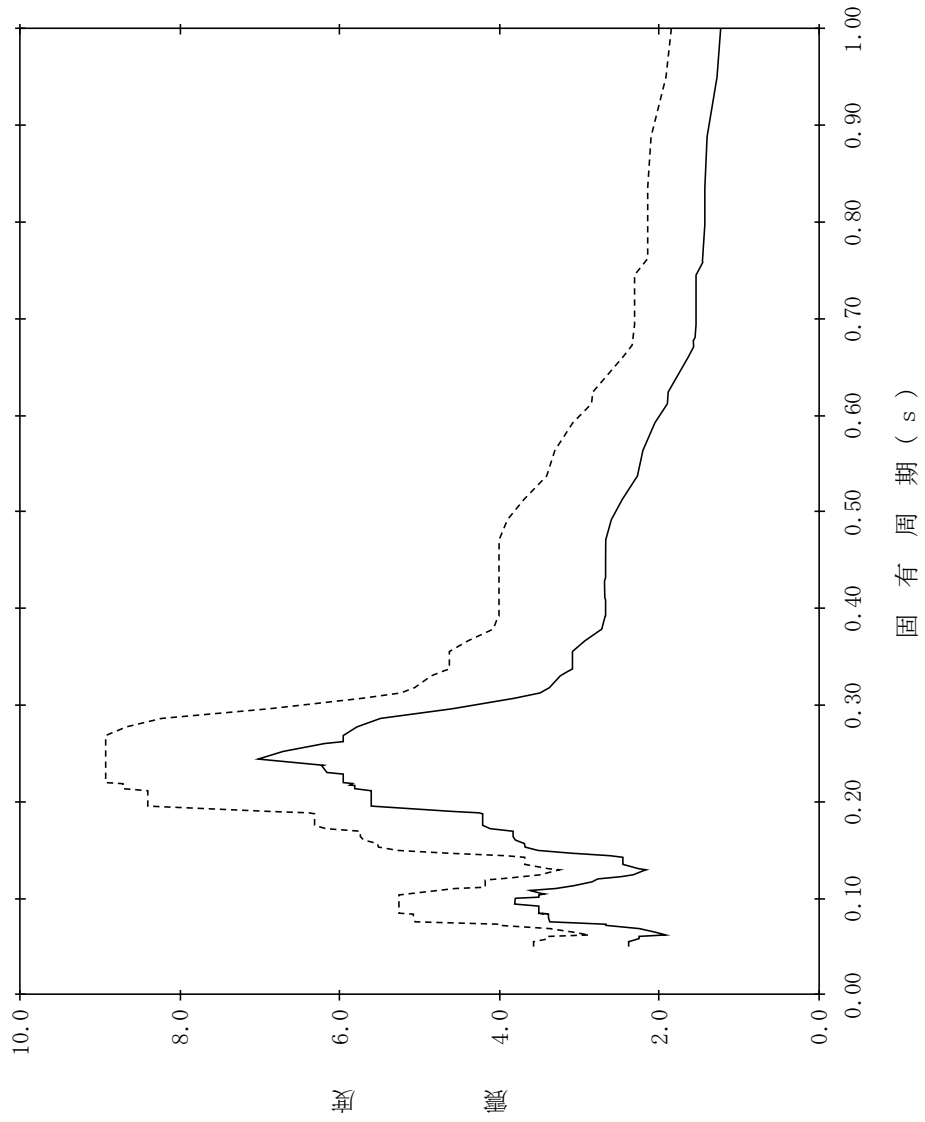


【NS2-PCV-SsNS-PCV21】



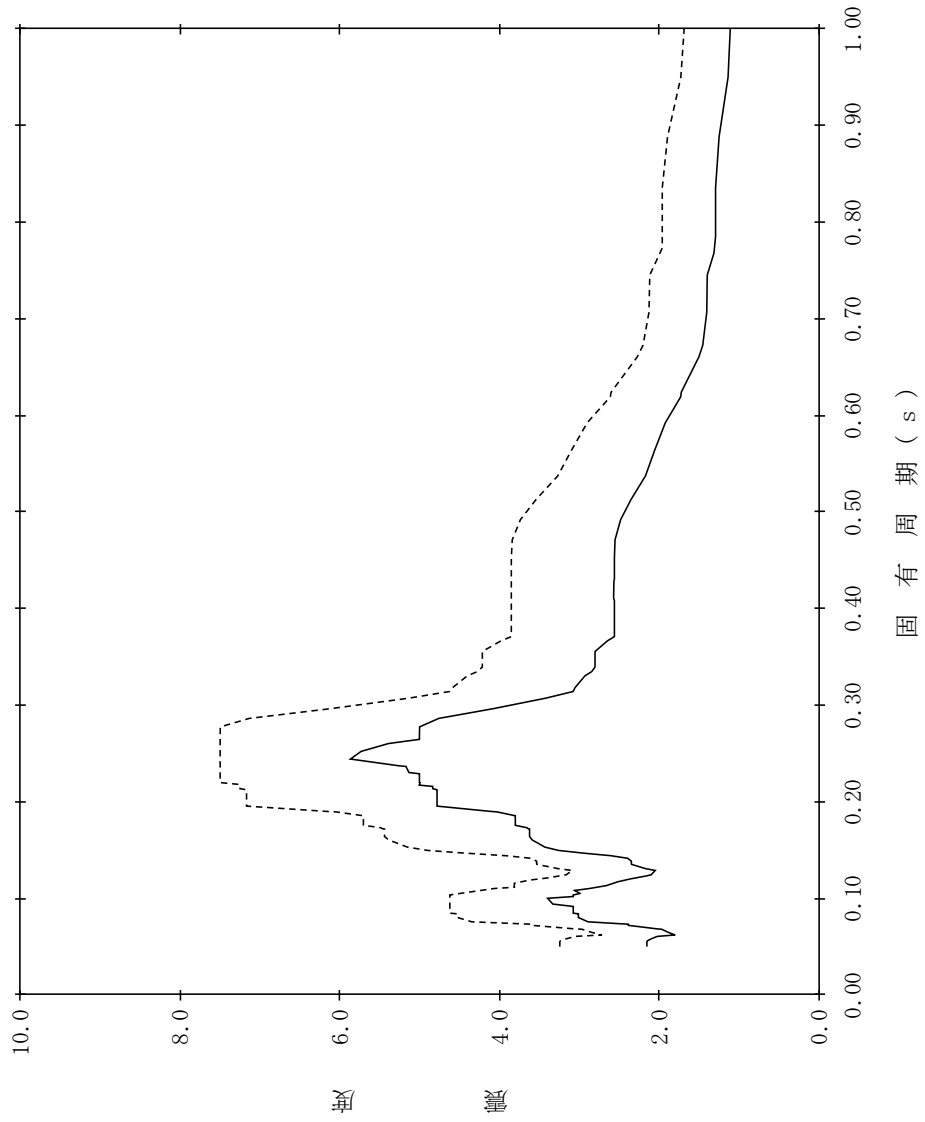
【NS2-PCV-SsNS-PCV22】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

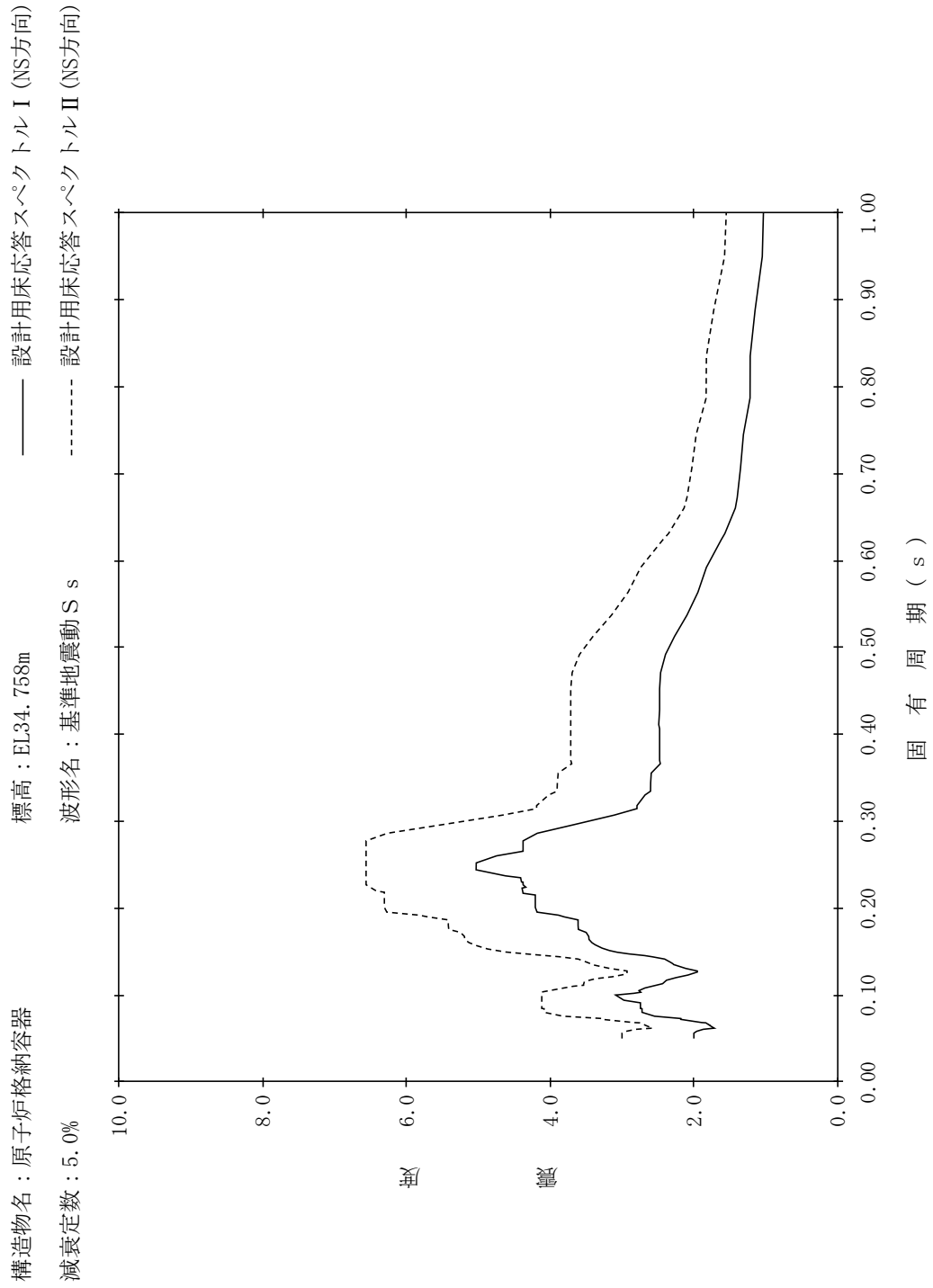


【NS2-PCV-SsNS-PCV23】

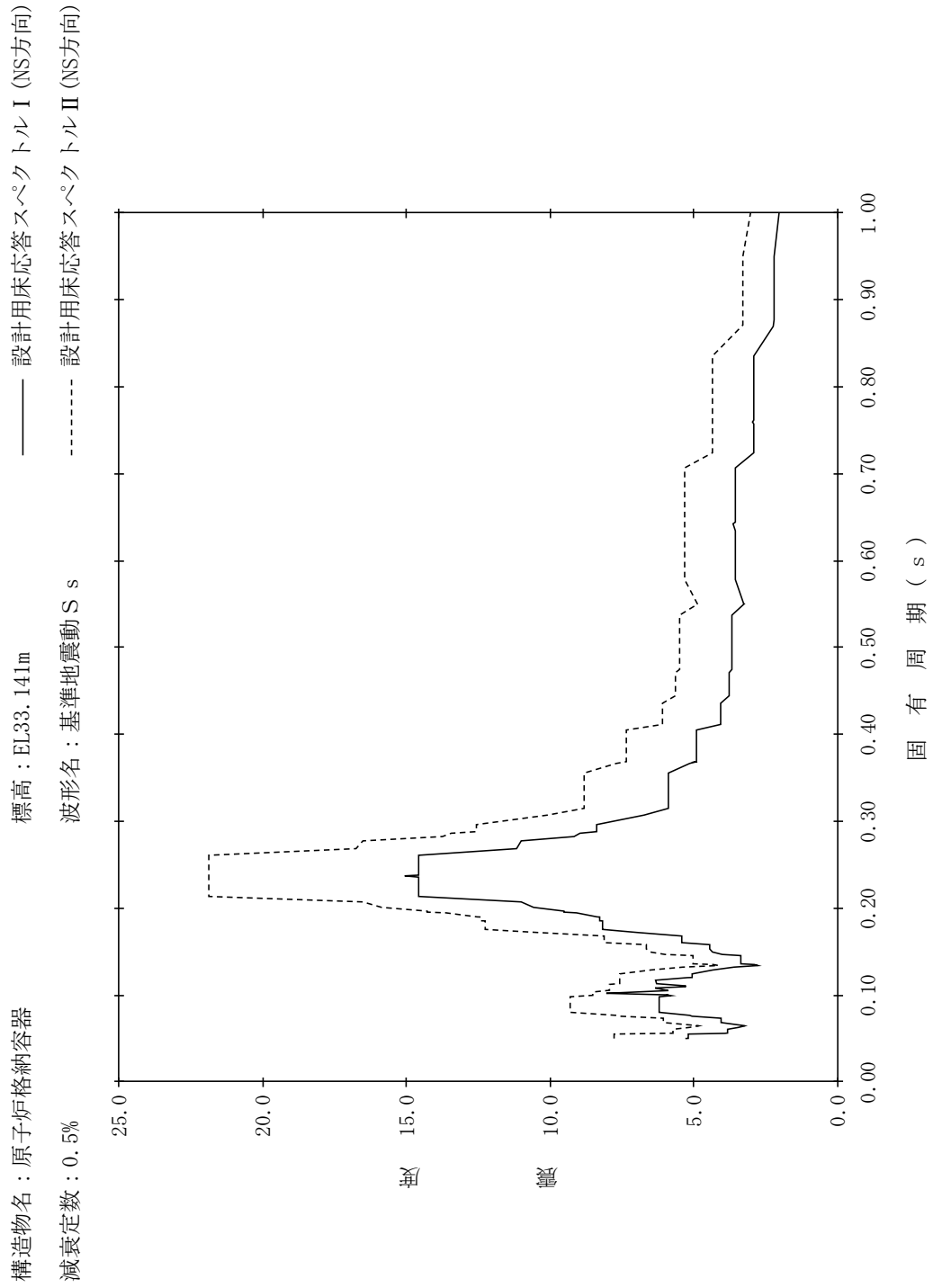
構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-PCV-SsNS-PCV24】

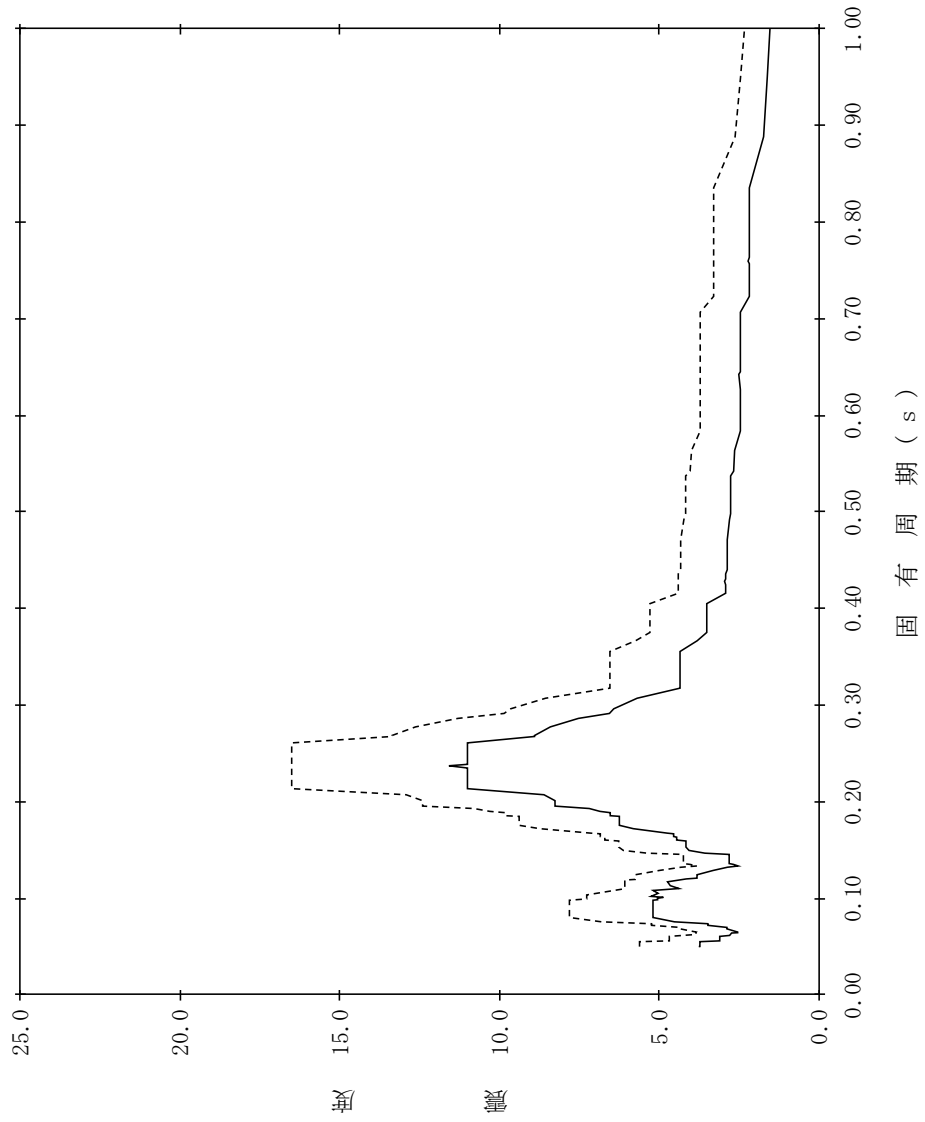


【NS2-PCV-SsNS-PCV25】

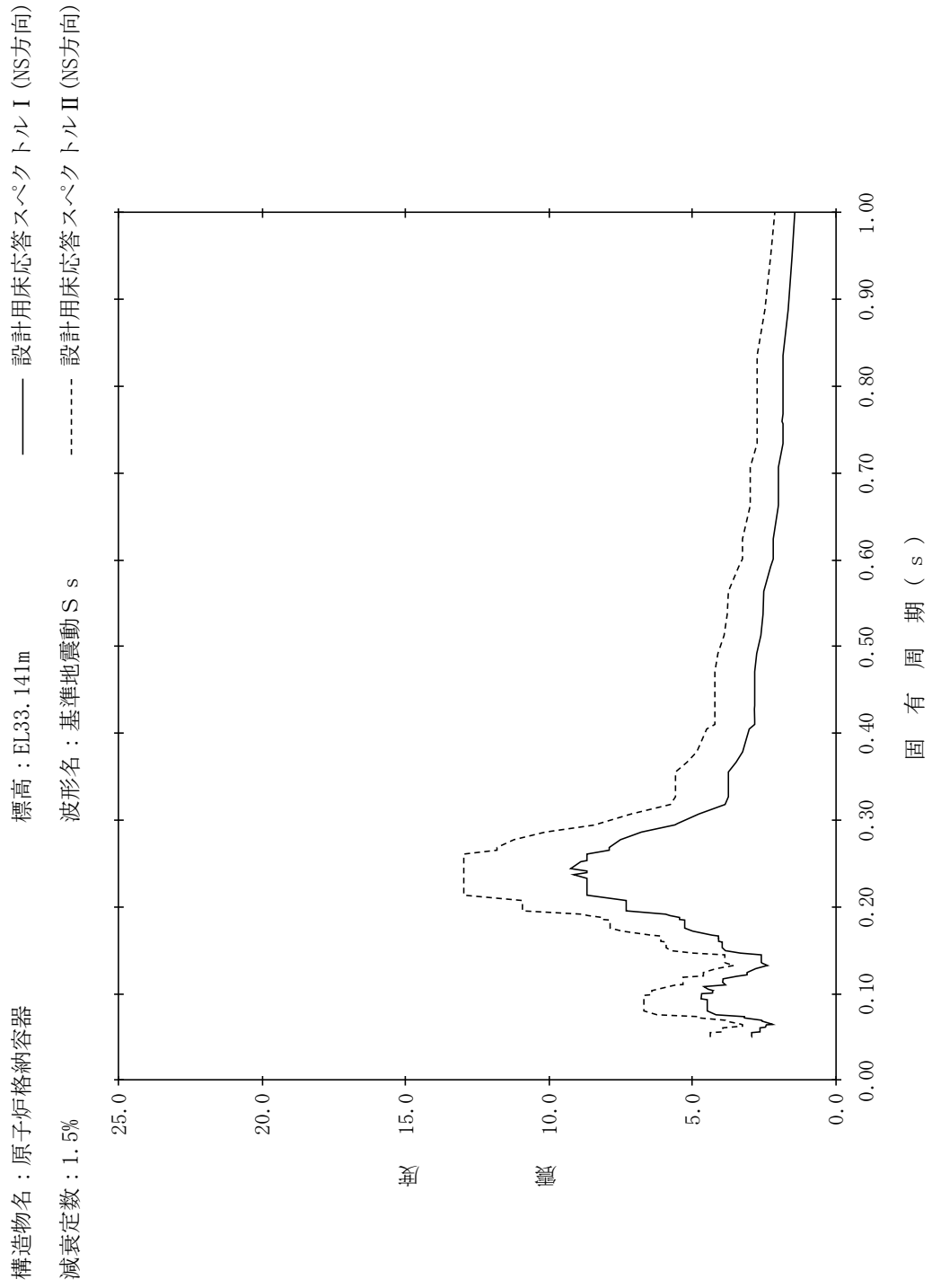


【NS2-PCV-SsNS-PCV26】

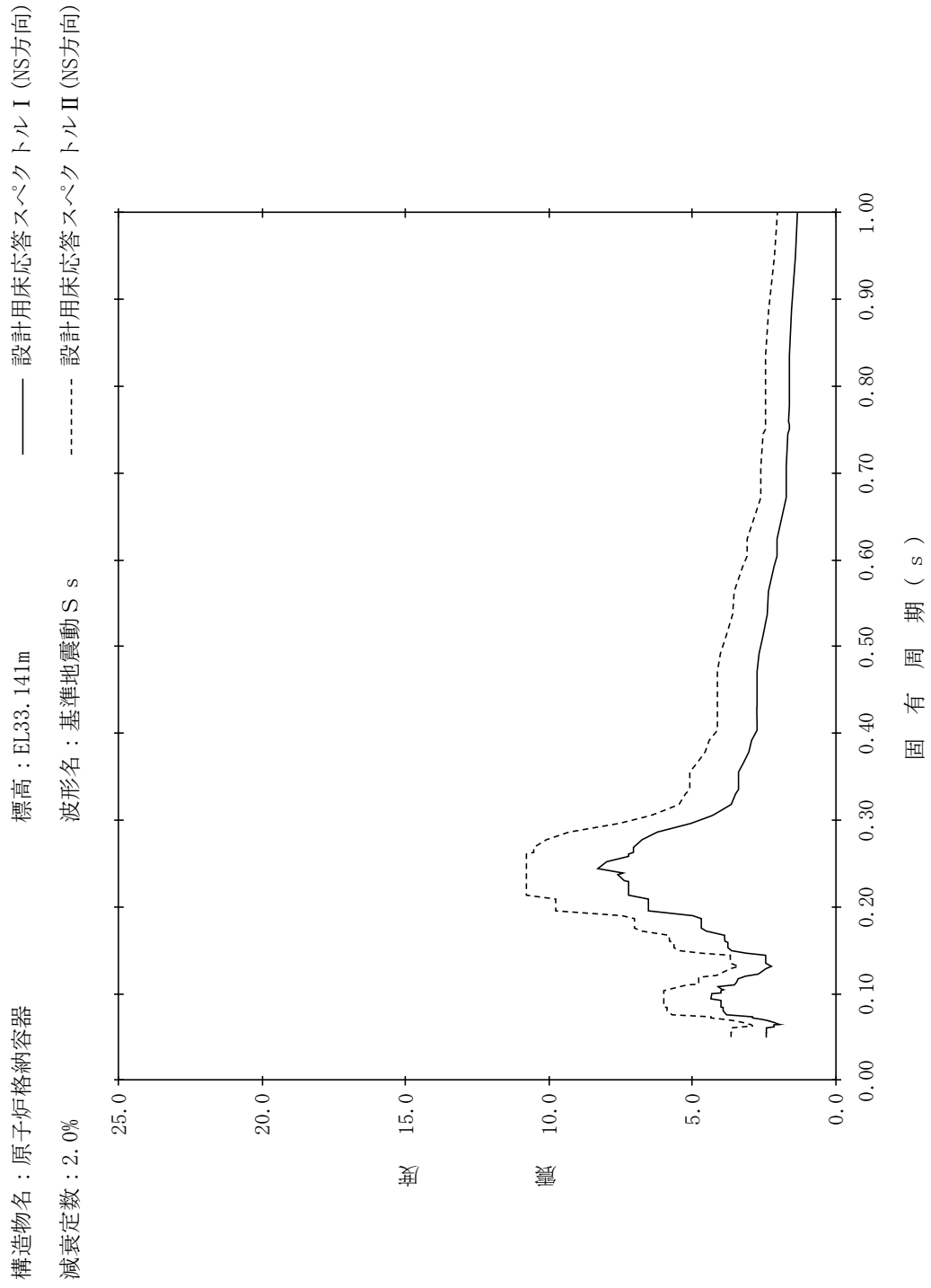
構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



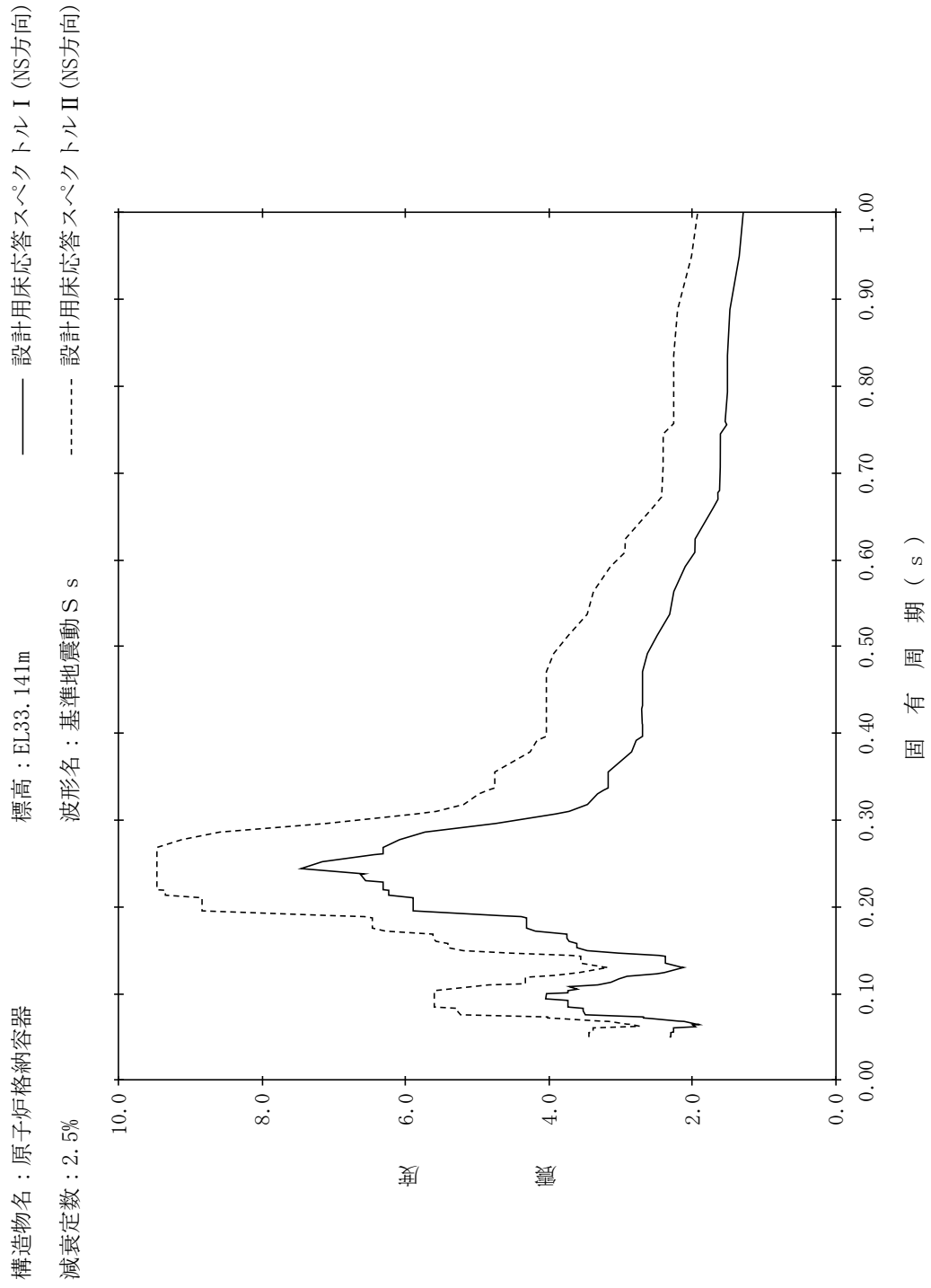
【NS2-PCV-SsNS-PCV27】



【NS2-PCV-SsNS-PCV28】

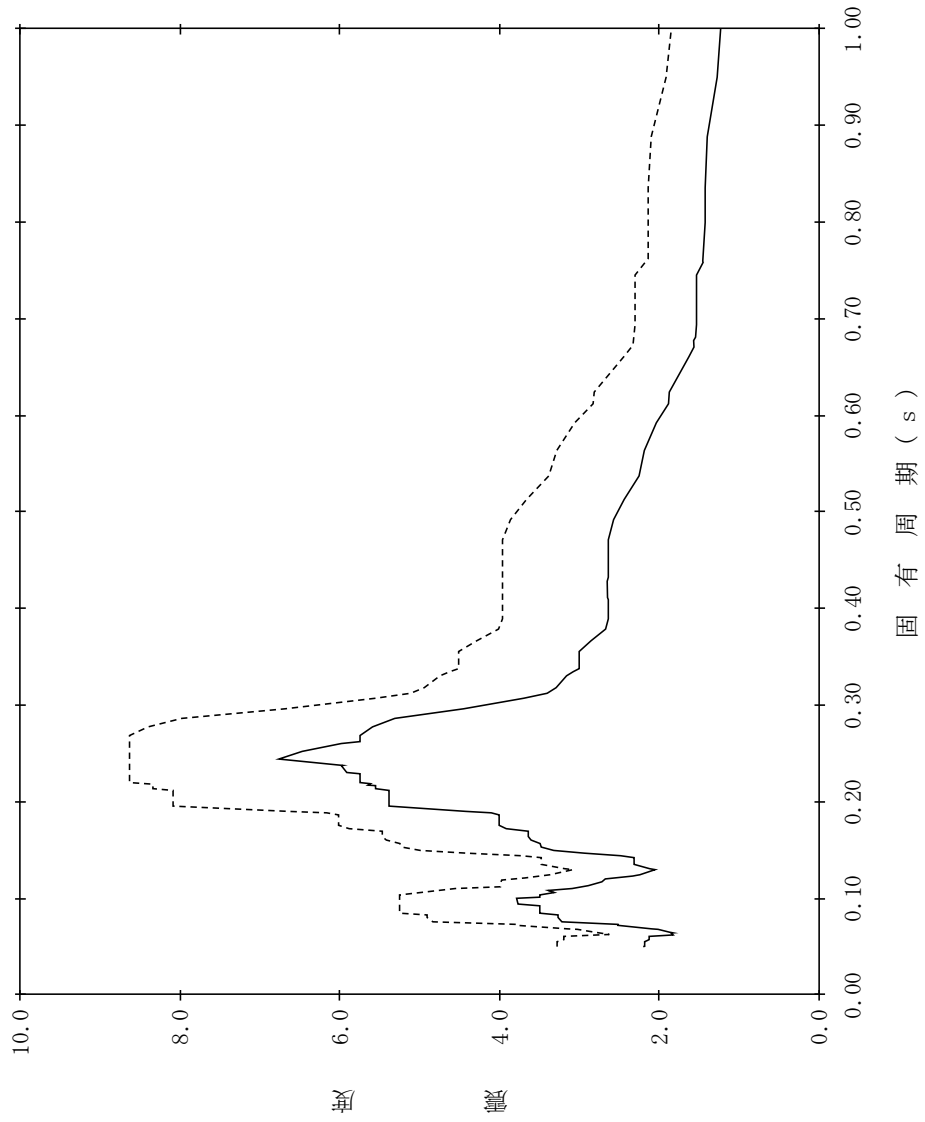


【NS2-PCV-SsNS-PCV29】



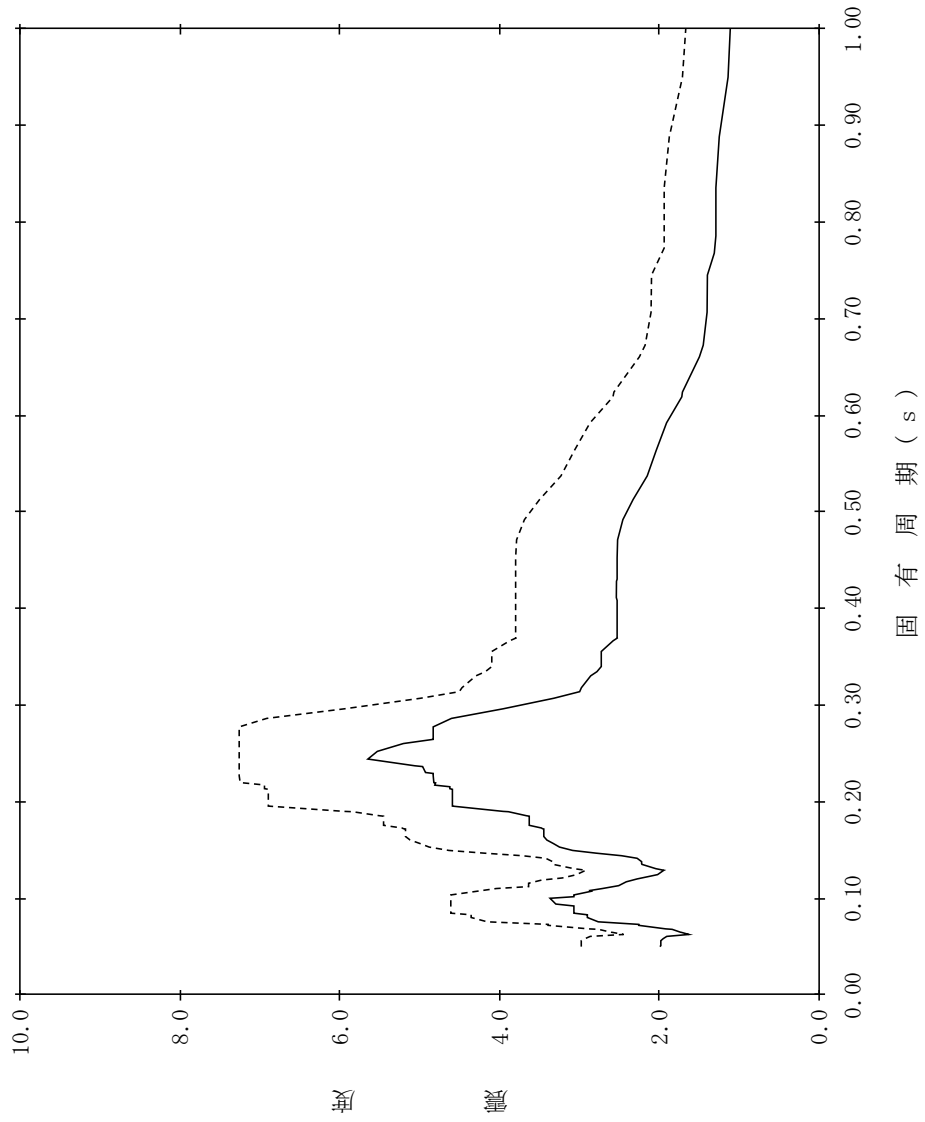
【NS2-PCV-SsNS-PCV30】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



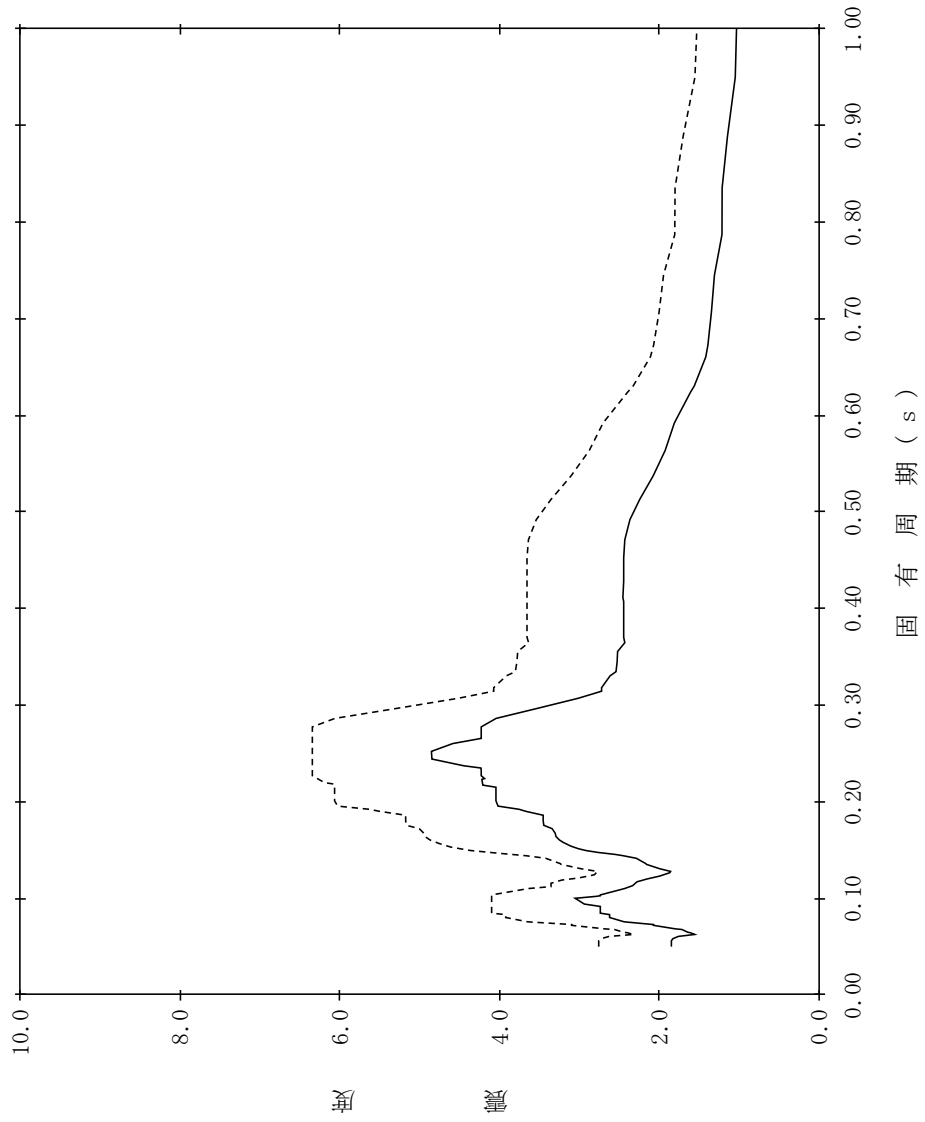
【NS2-PCV-SsNS-PCV31】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



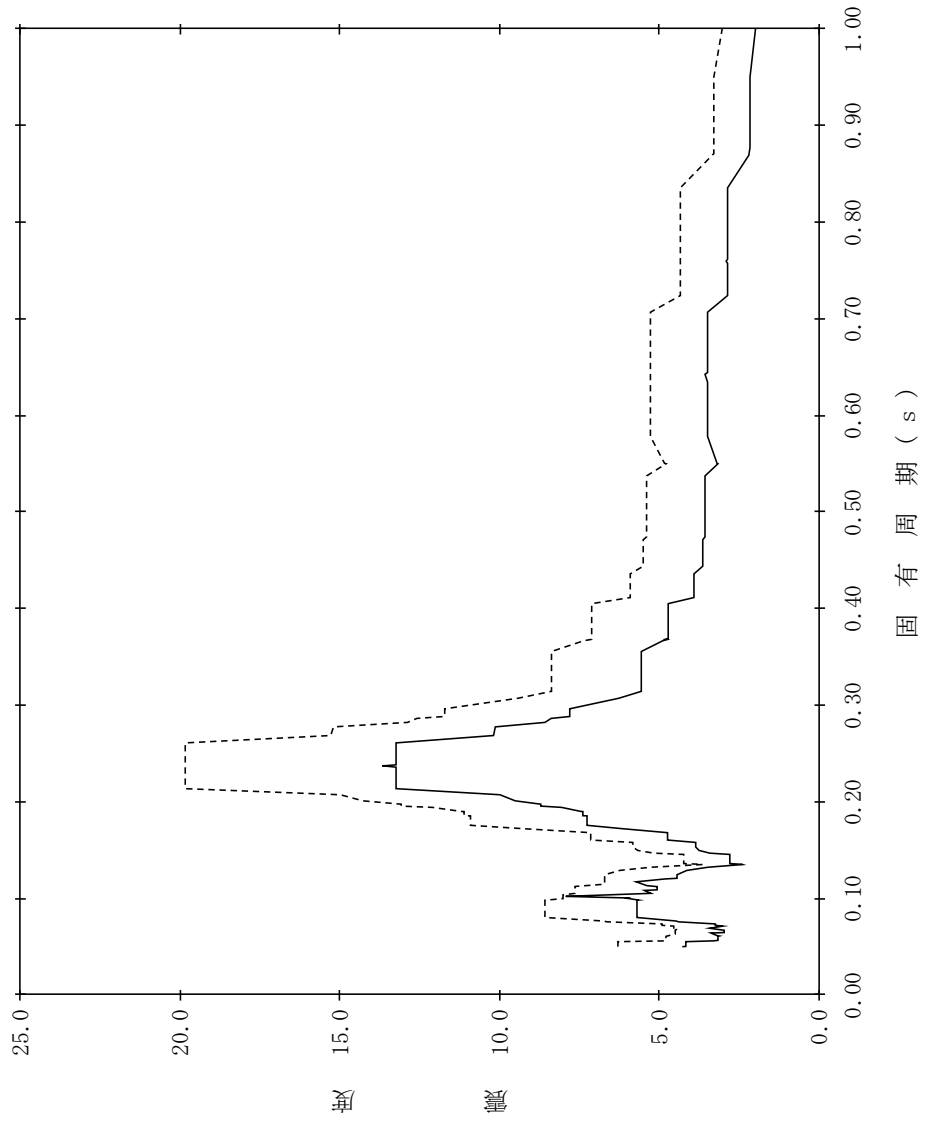
【NS2-PCV-SsNS-PCV32】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



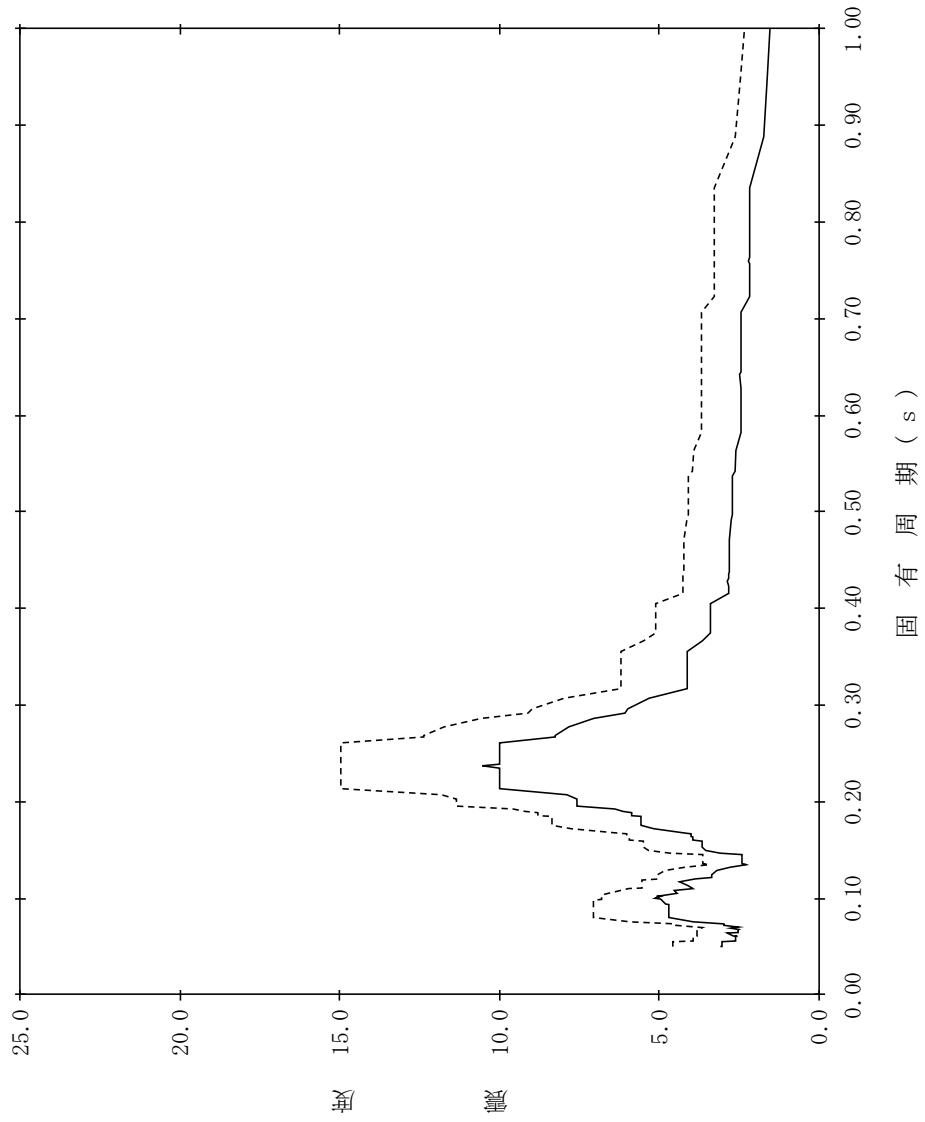
【NS2-PCV-SsNS-PCV33】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



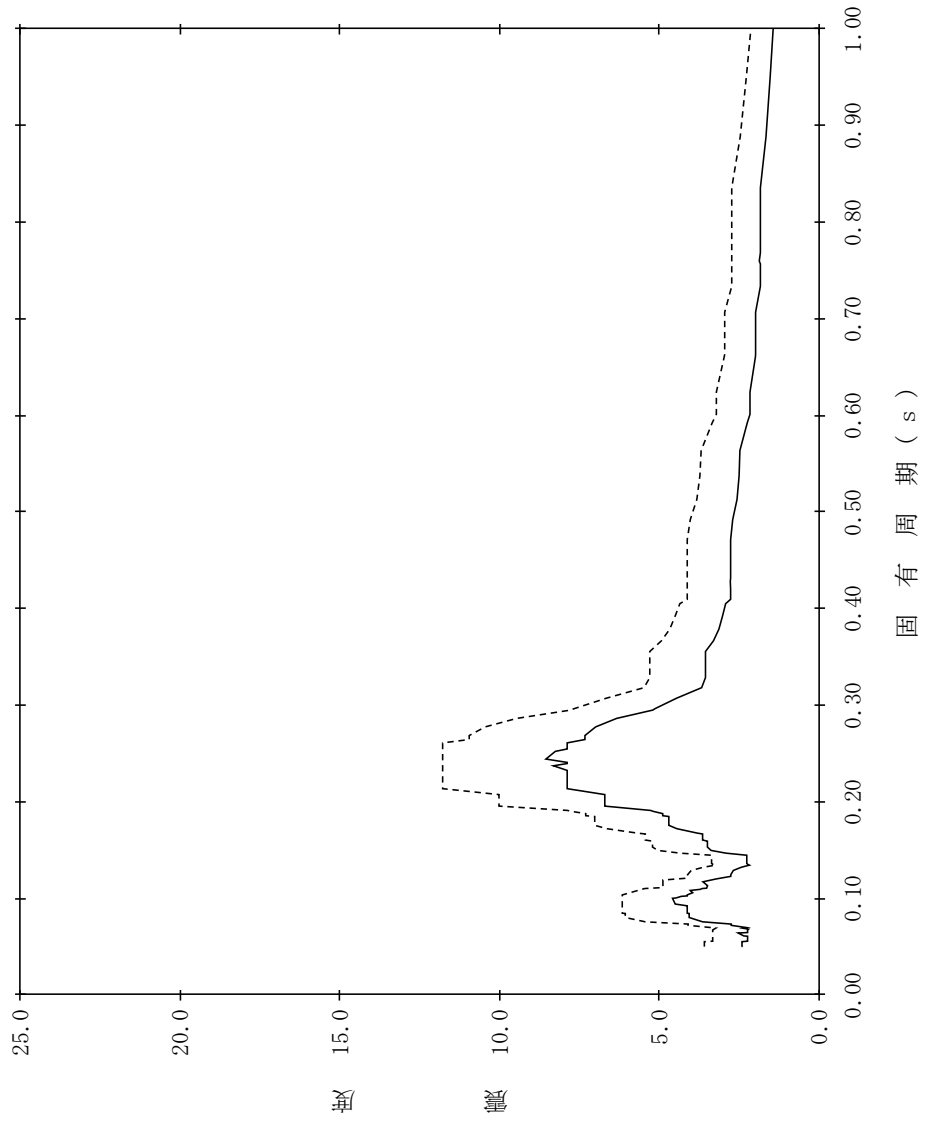
【NS2-PCV-SsNS-PCV34】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

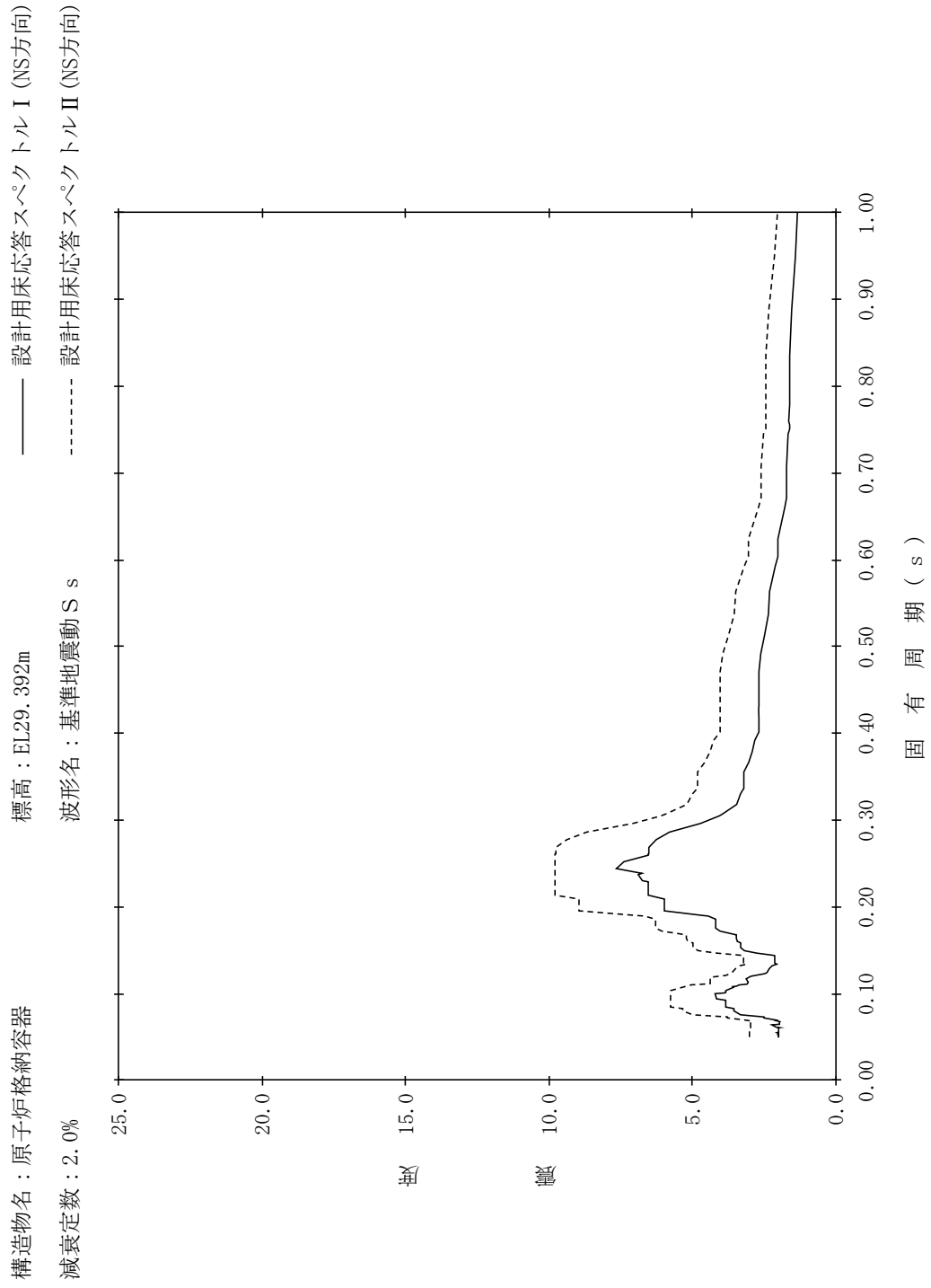


【NS2-PCV-SsNS-PCV35】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

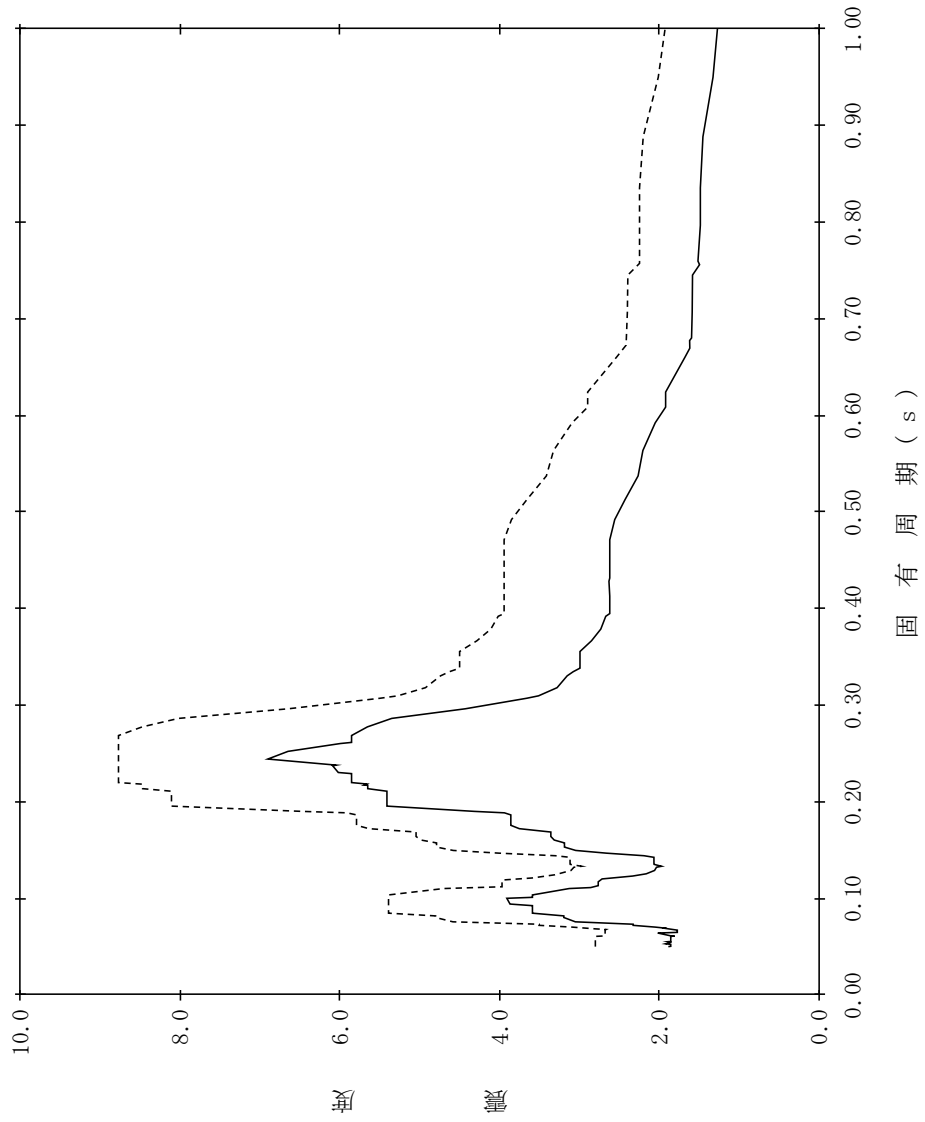


【NS2-PCV-SsNS-PCV36】



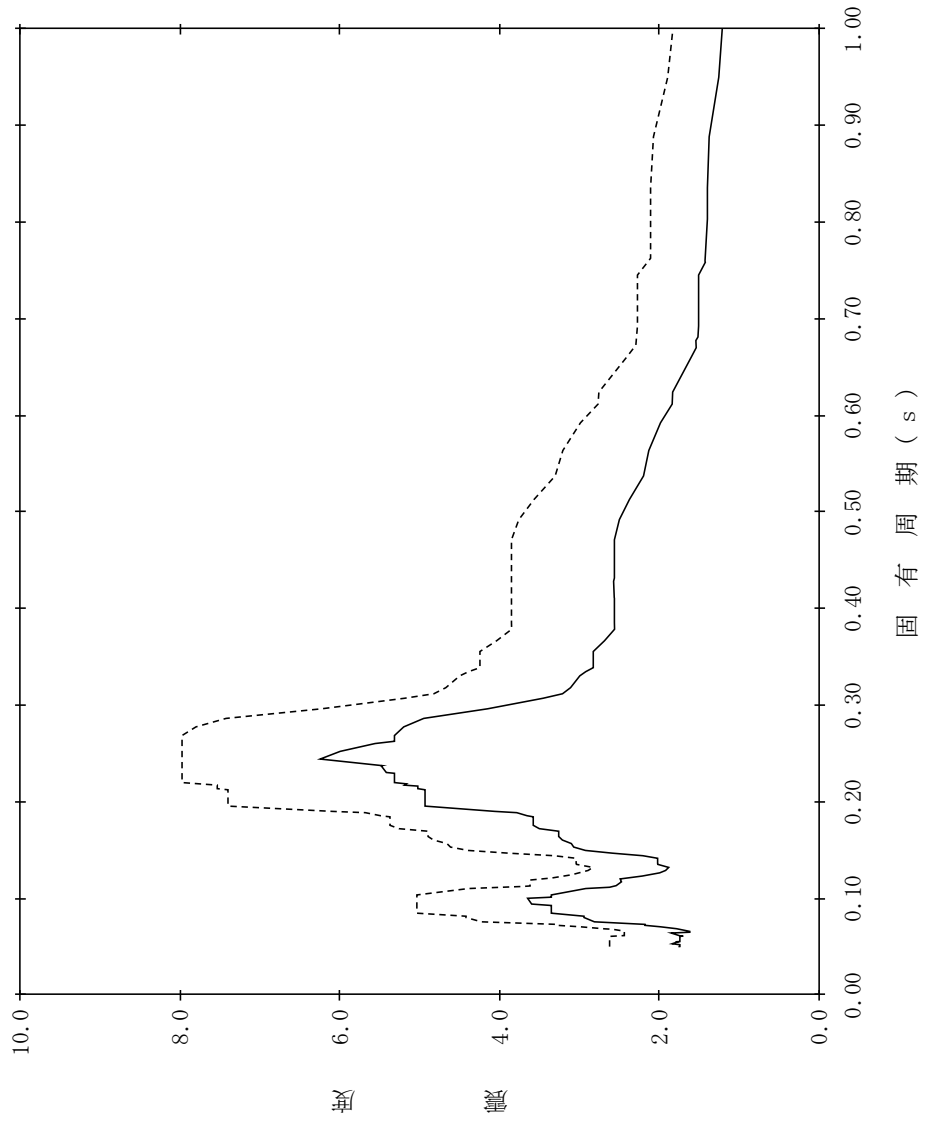
【NS2-PCV-SsNS-PCV37】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

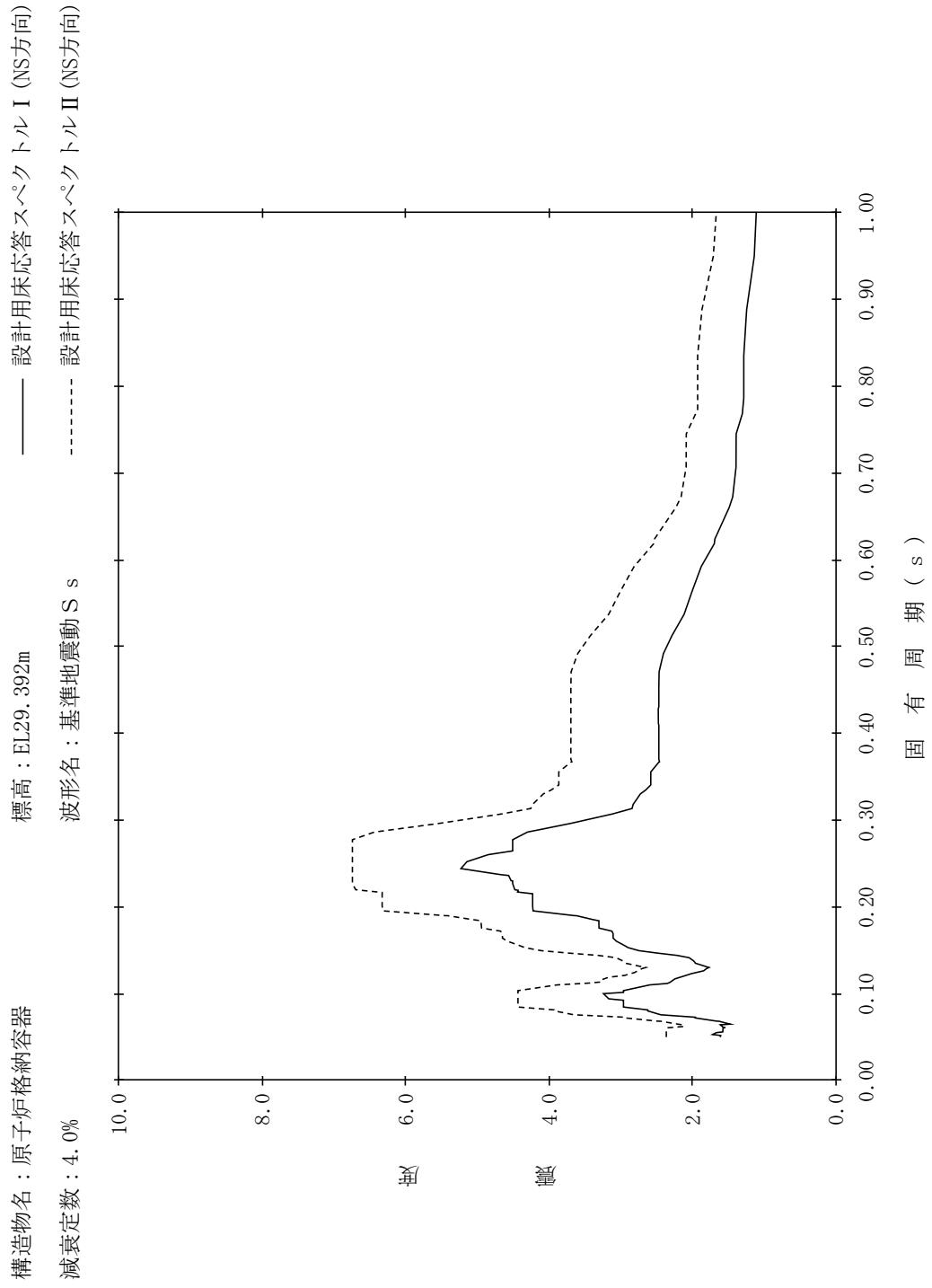


【NS2-PCV-SsNS-PCV38】

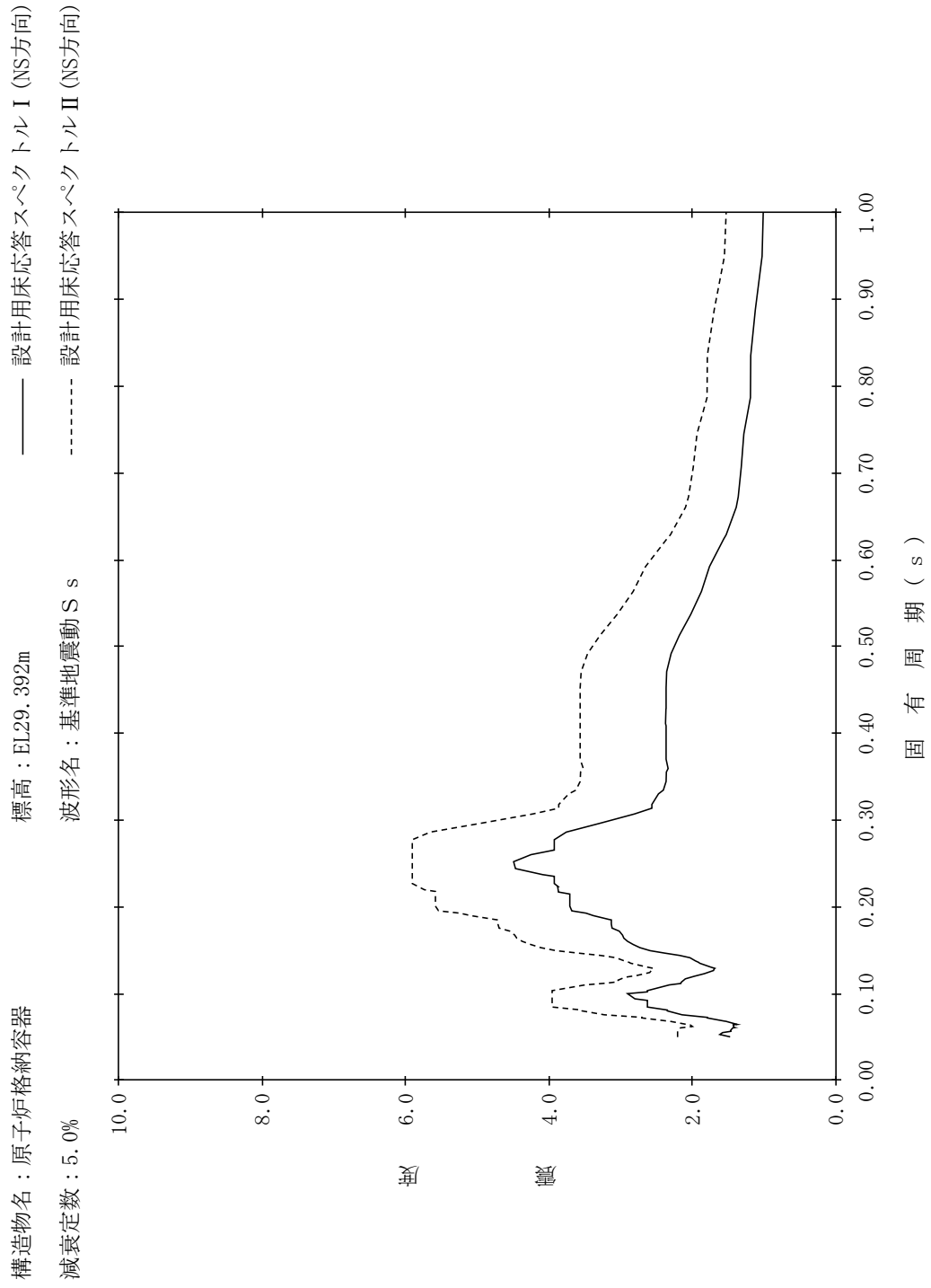
構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-PCV-SsNS-PCV39】

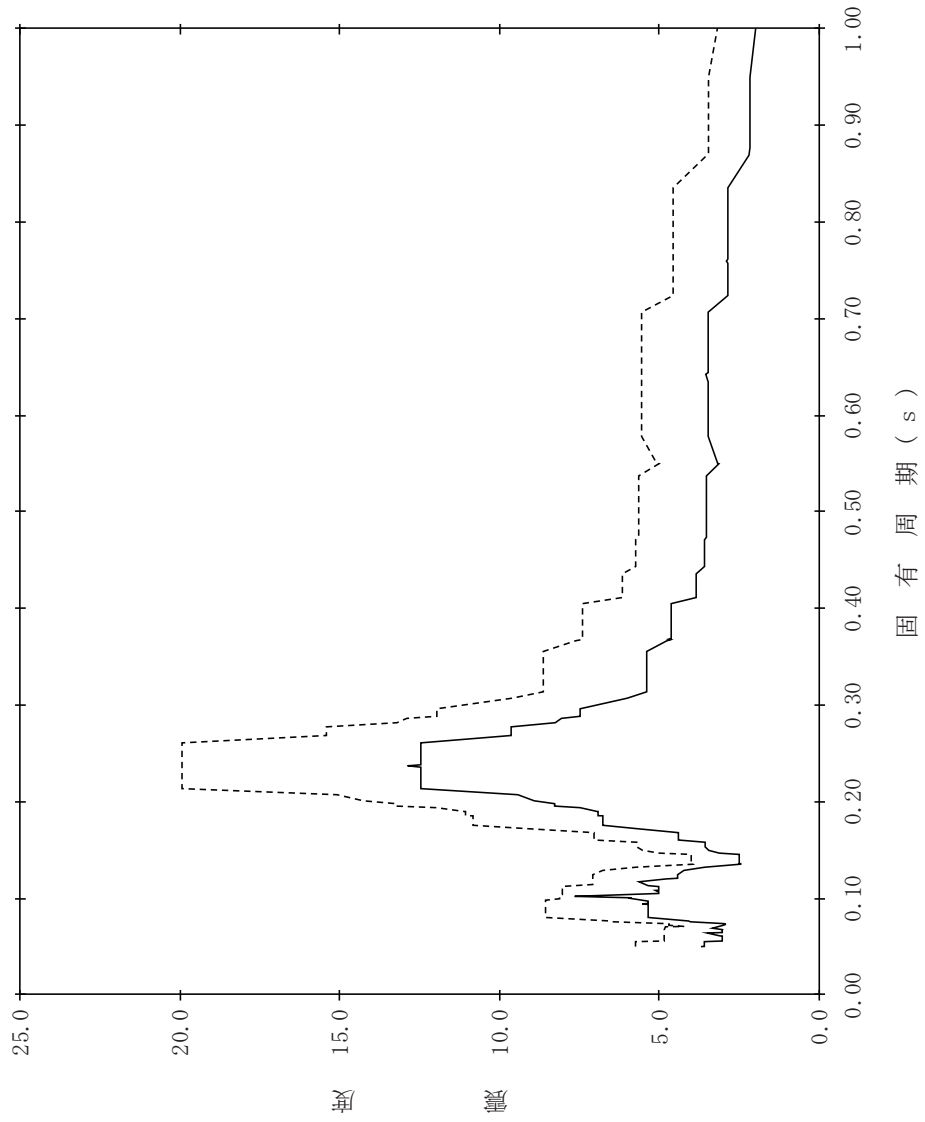


【NS2-PCV-SsNS-PCV40】



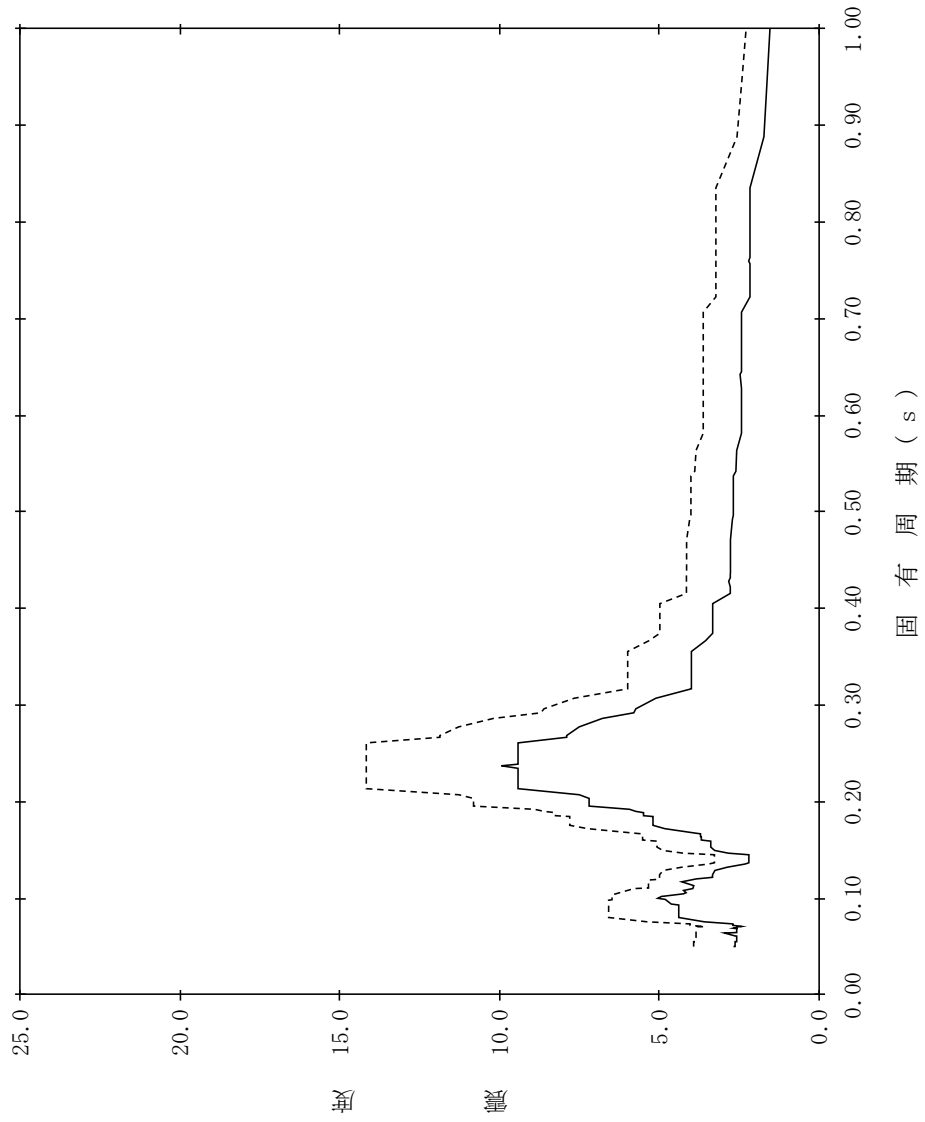
【NS2-PCV-SsNS-PCV41】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



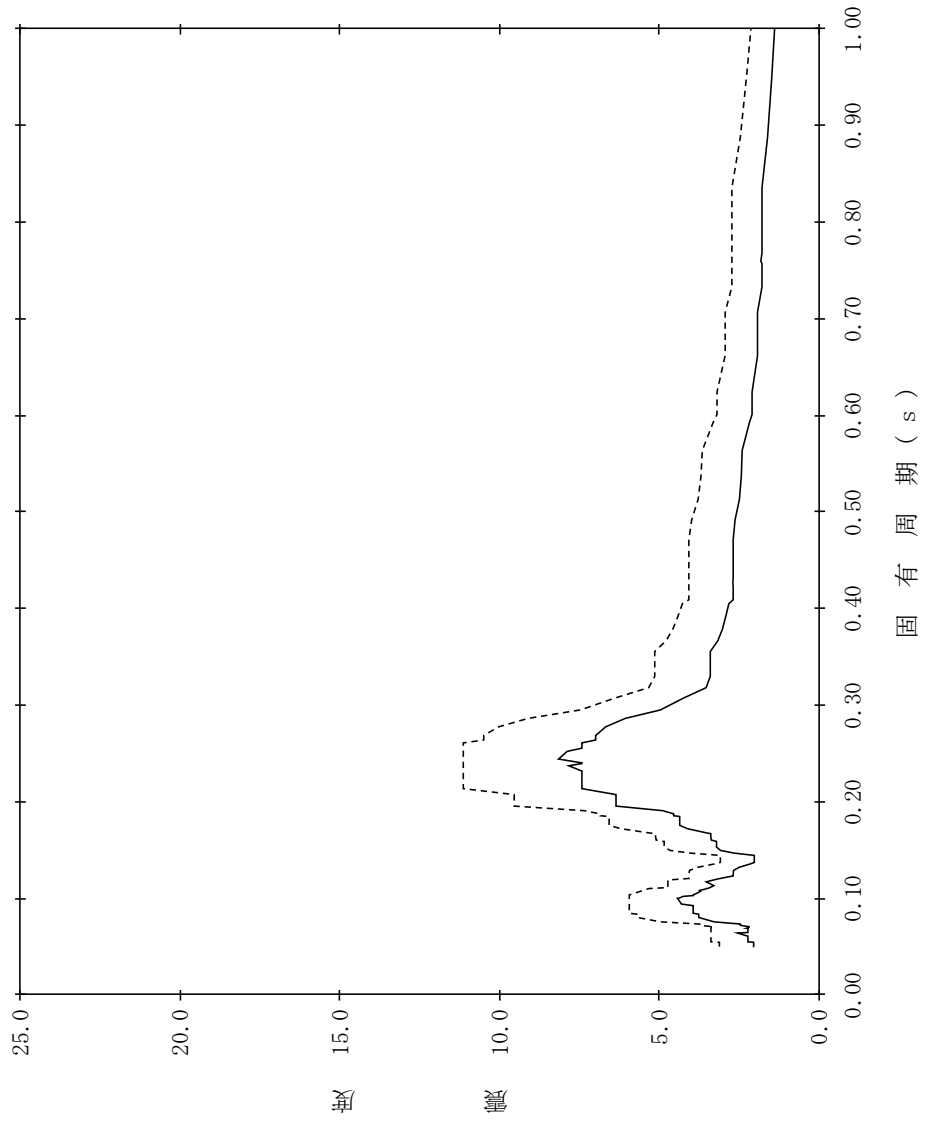
【NS2-PCV-SsNS-PCV42】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



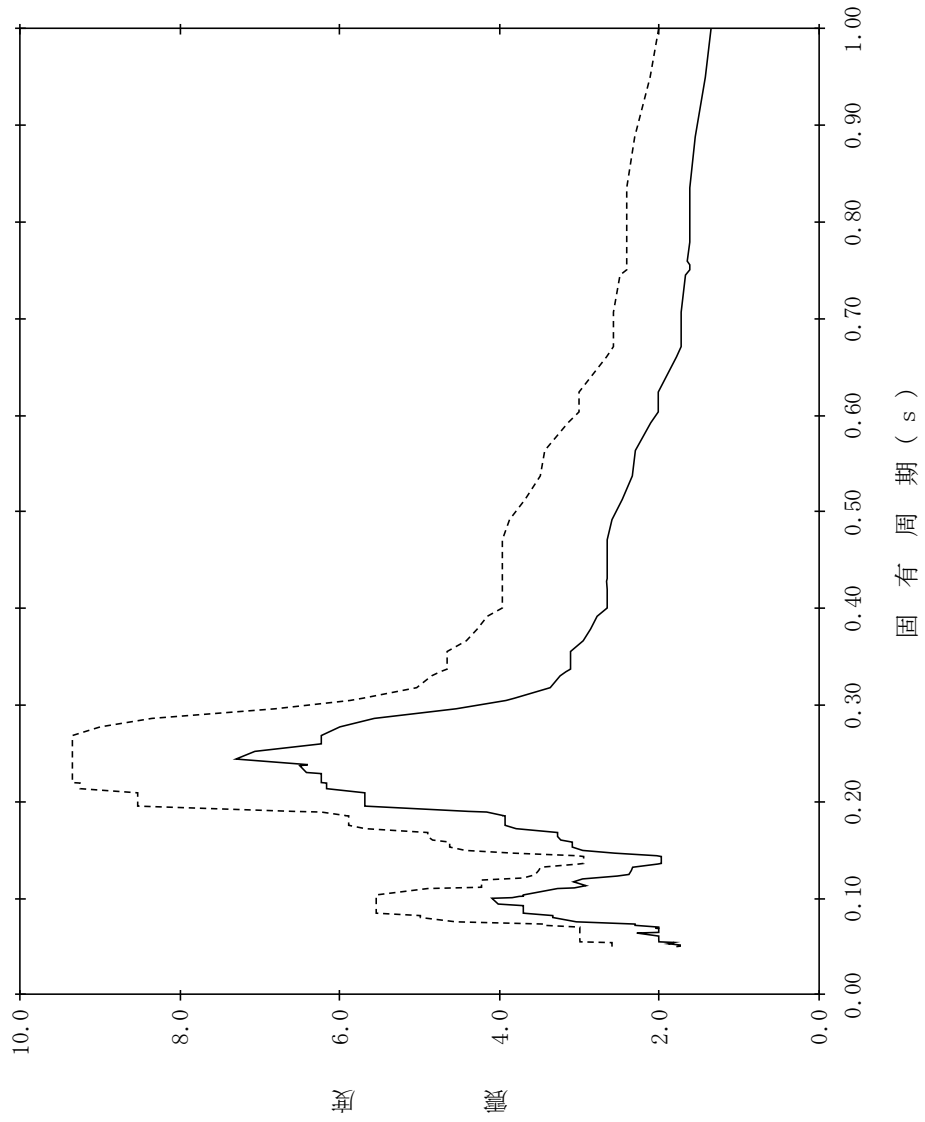
【NS2-PCV-SsNS-PCV43】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



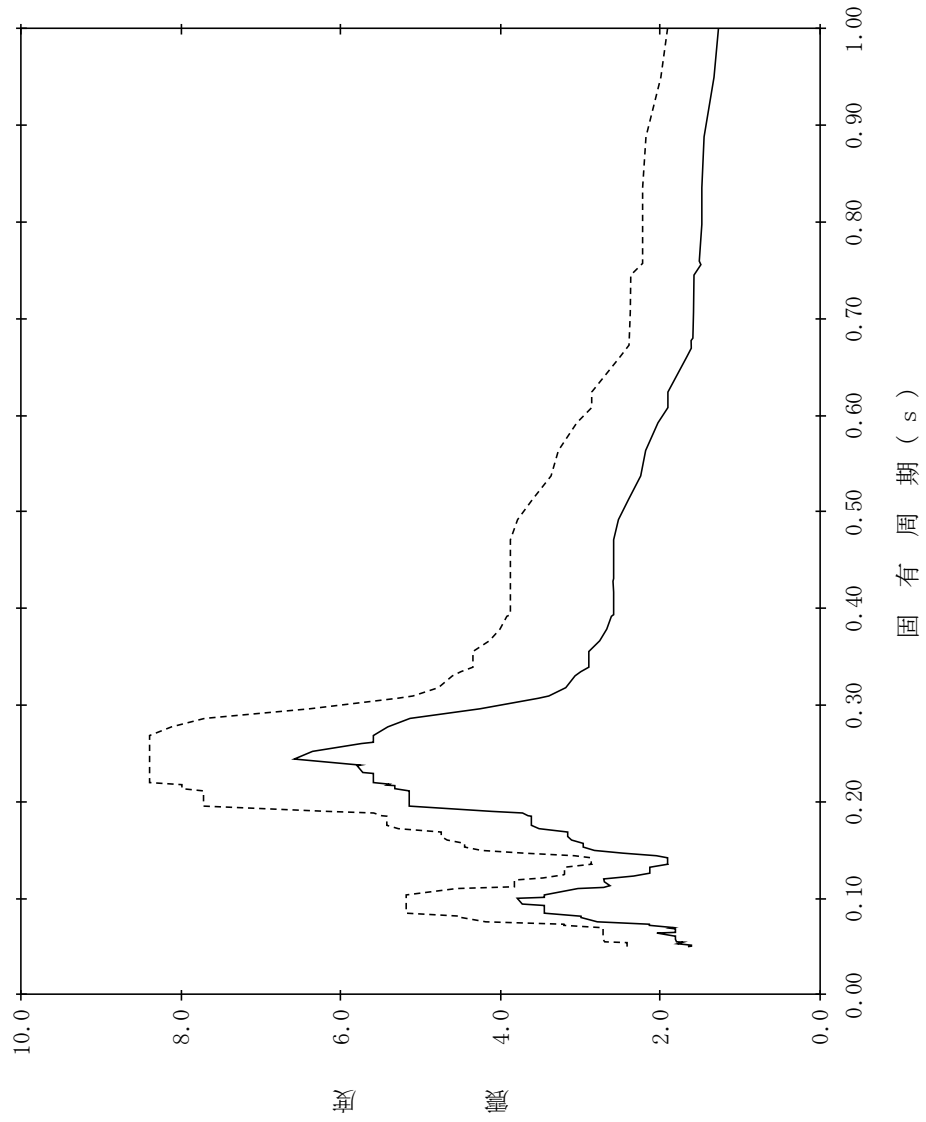
【NS2-PCV-SsNS-PCV44】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



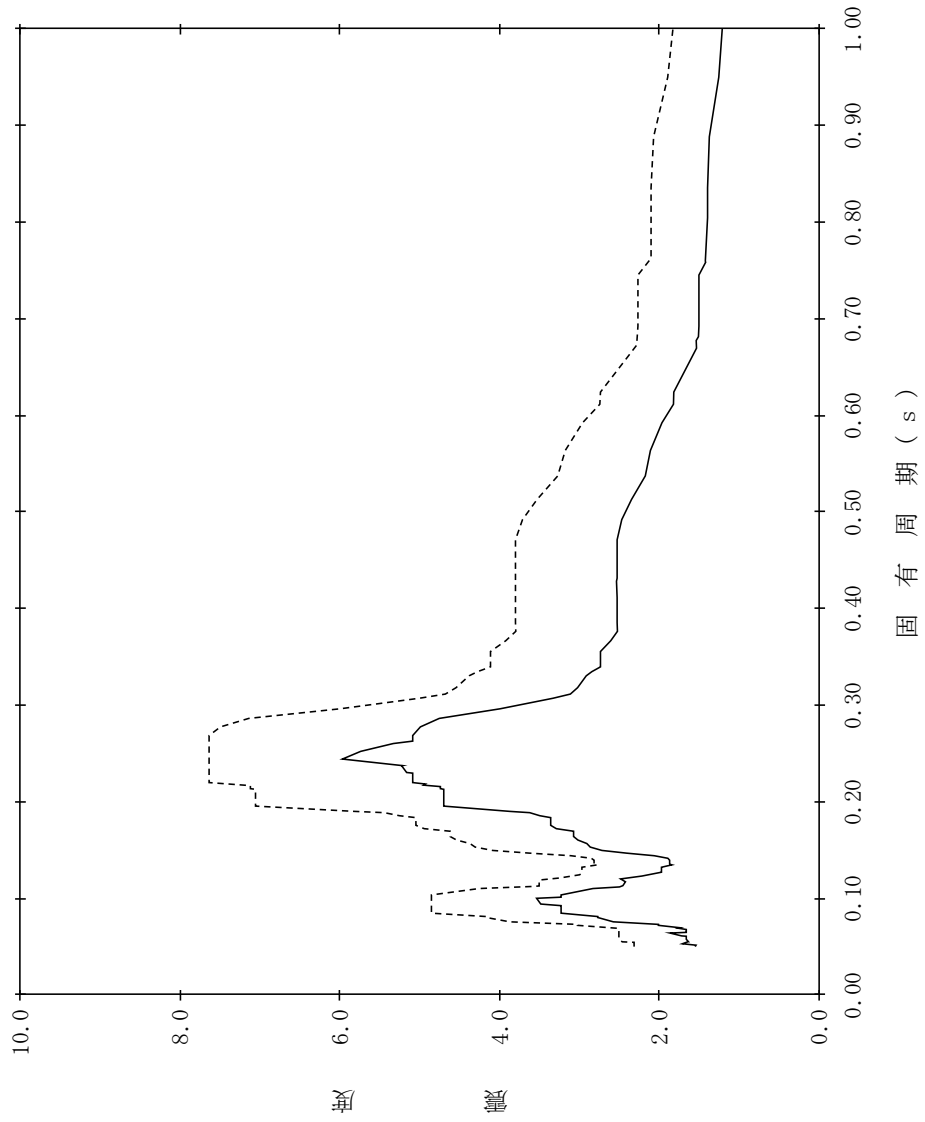
【NS2-PCV-SsNS-PCV45】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

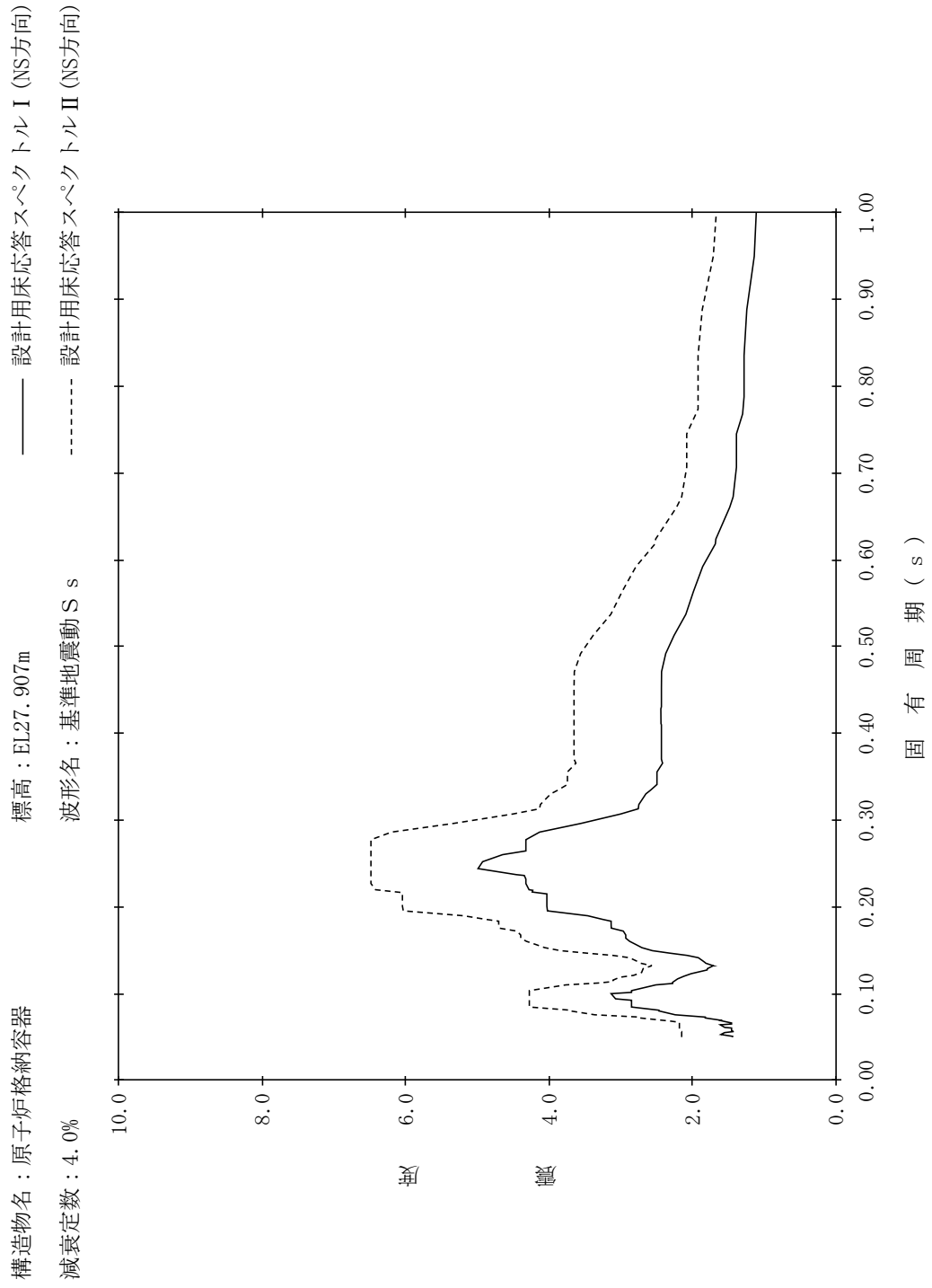


【NS2-PCV-SsNS-PCV46】

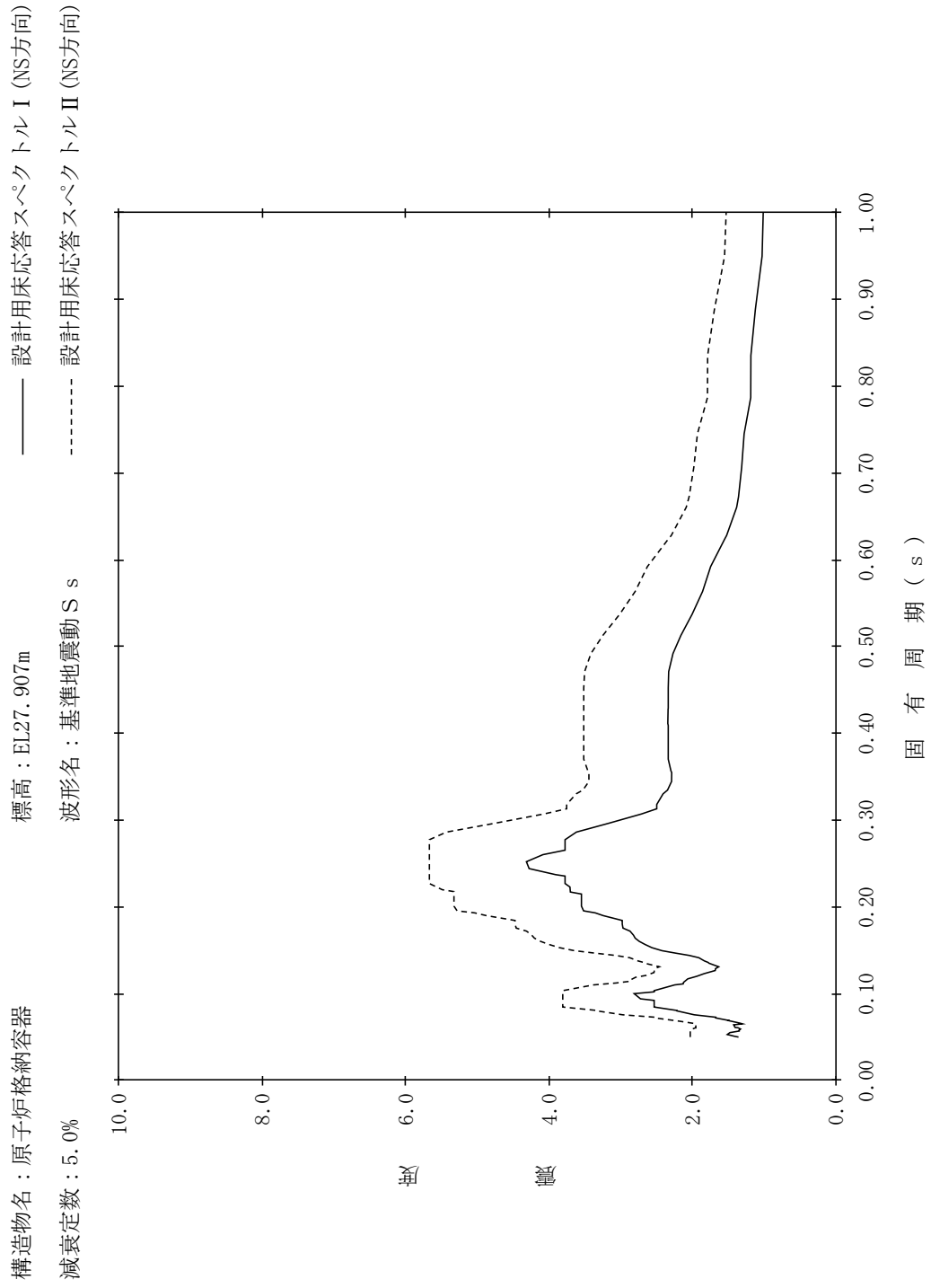
構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



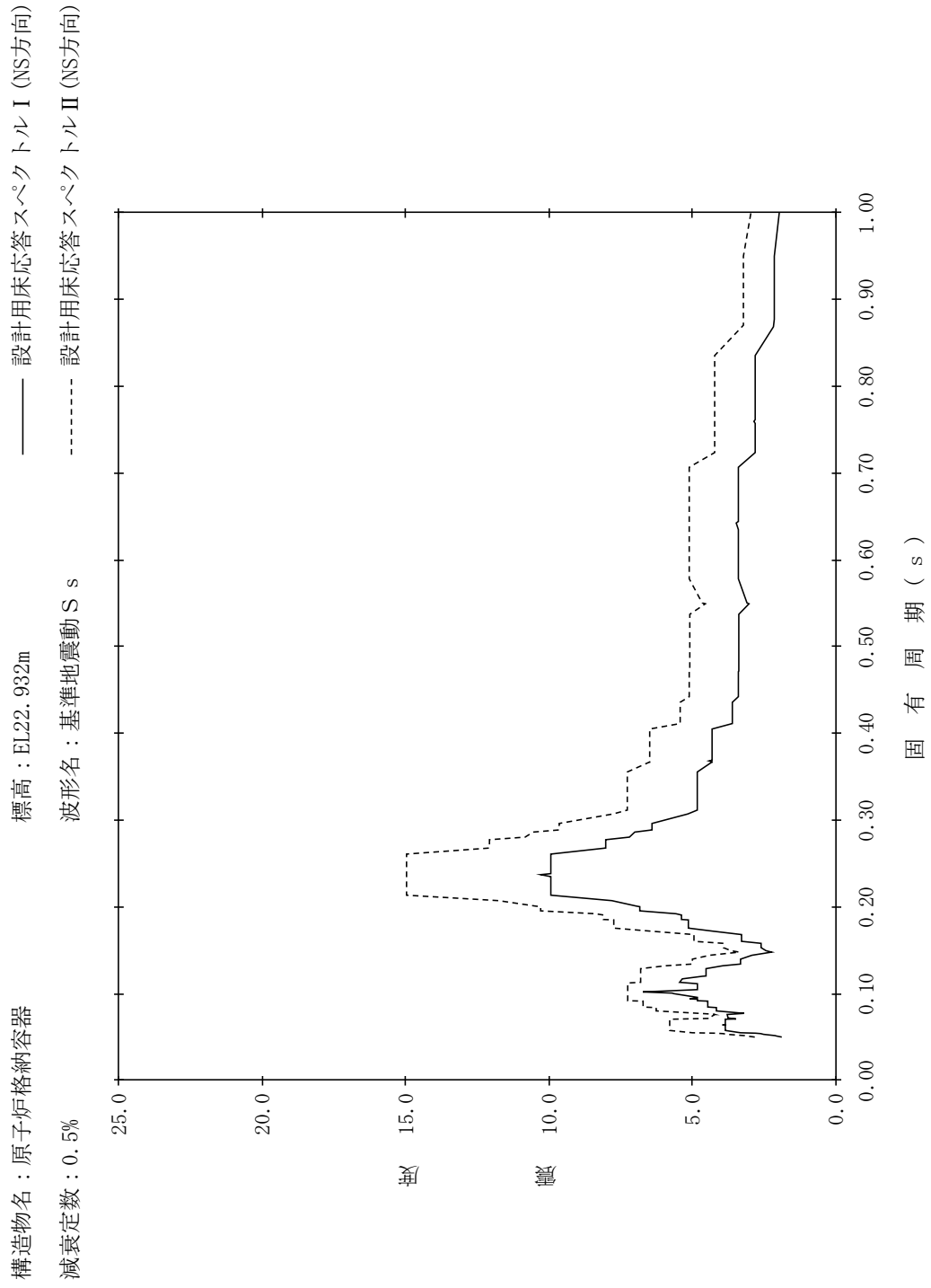
【NS2-PCV-SsNS-PCV47】



【NS2-PCV-SsNS-PCV48】

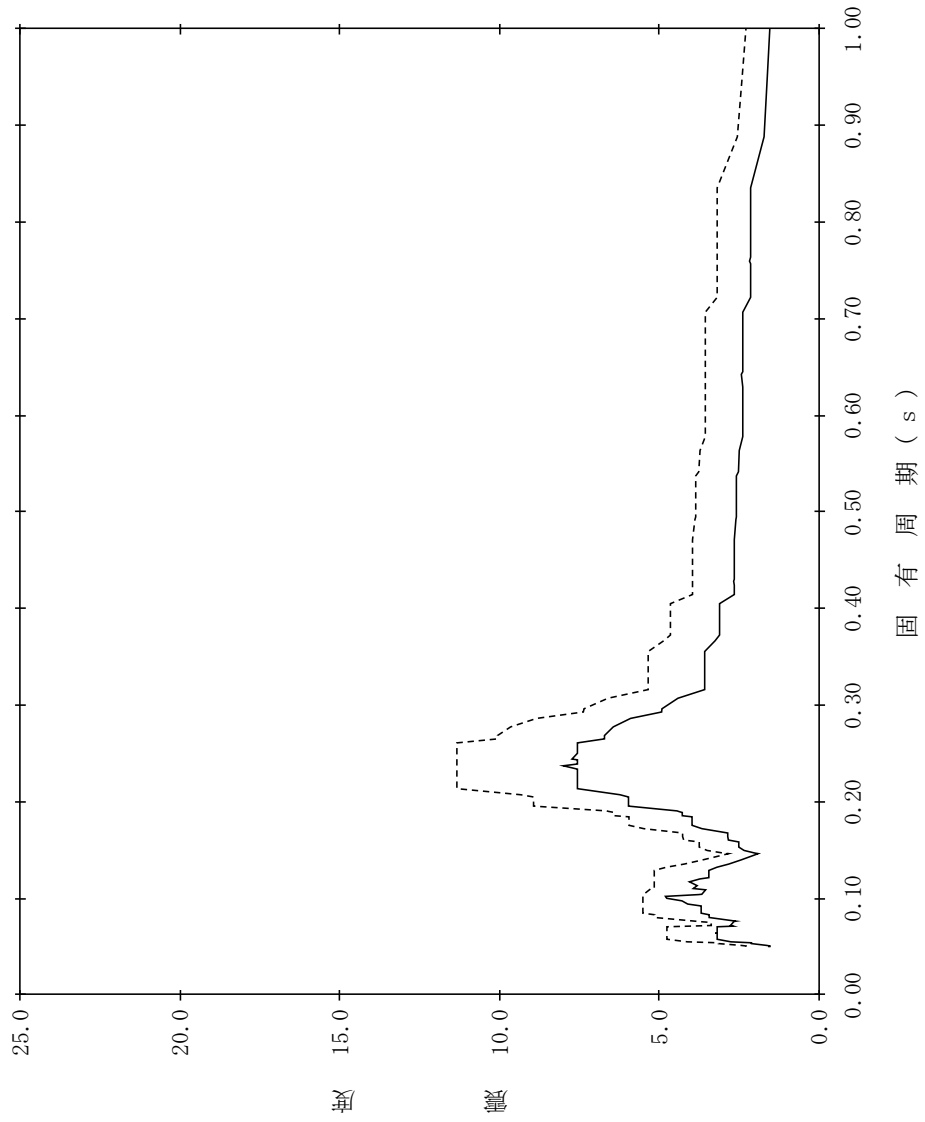


【NS2-PCV-SsNS-PCV49】



【NS2-PCV-SsNS-PCV50】

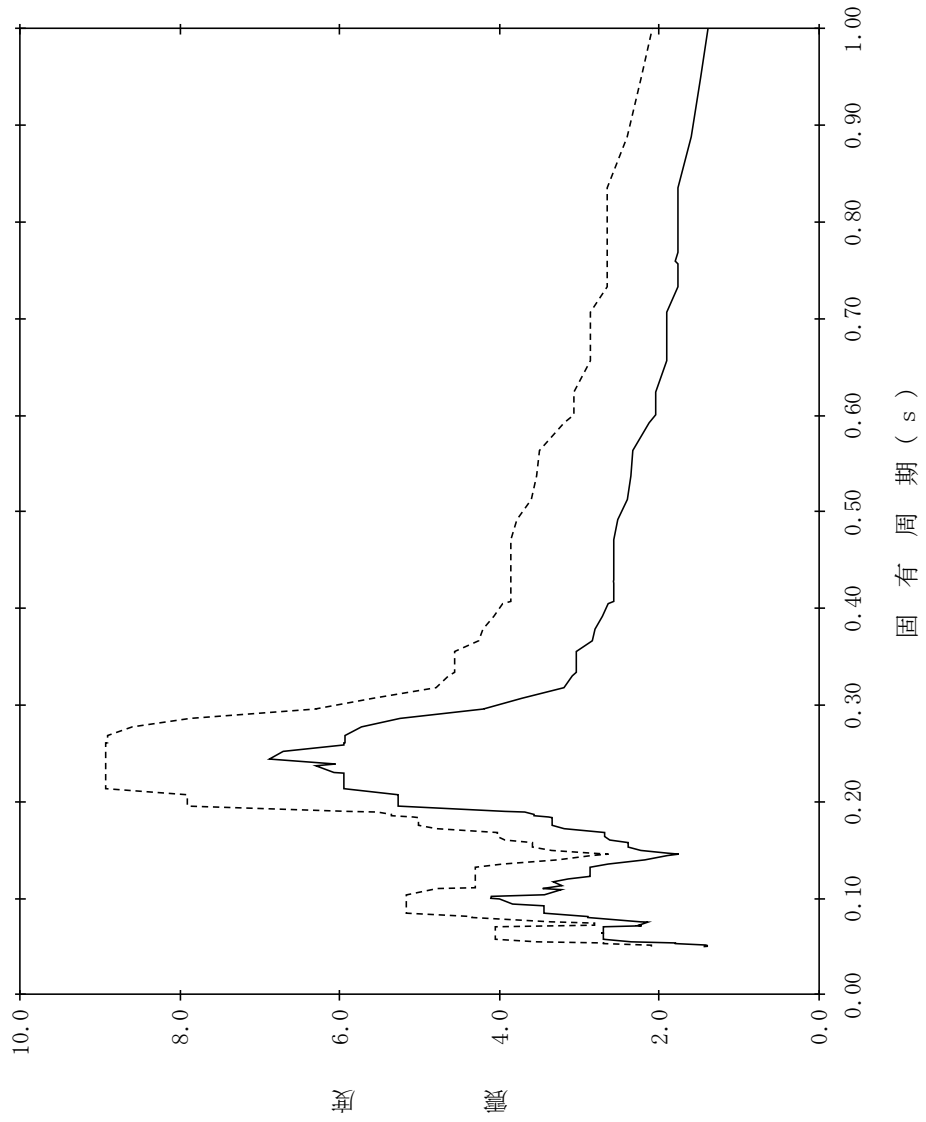
構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-PCV-SsNS-PCV51】

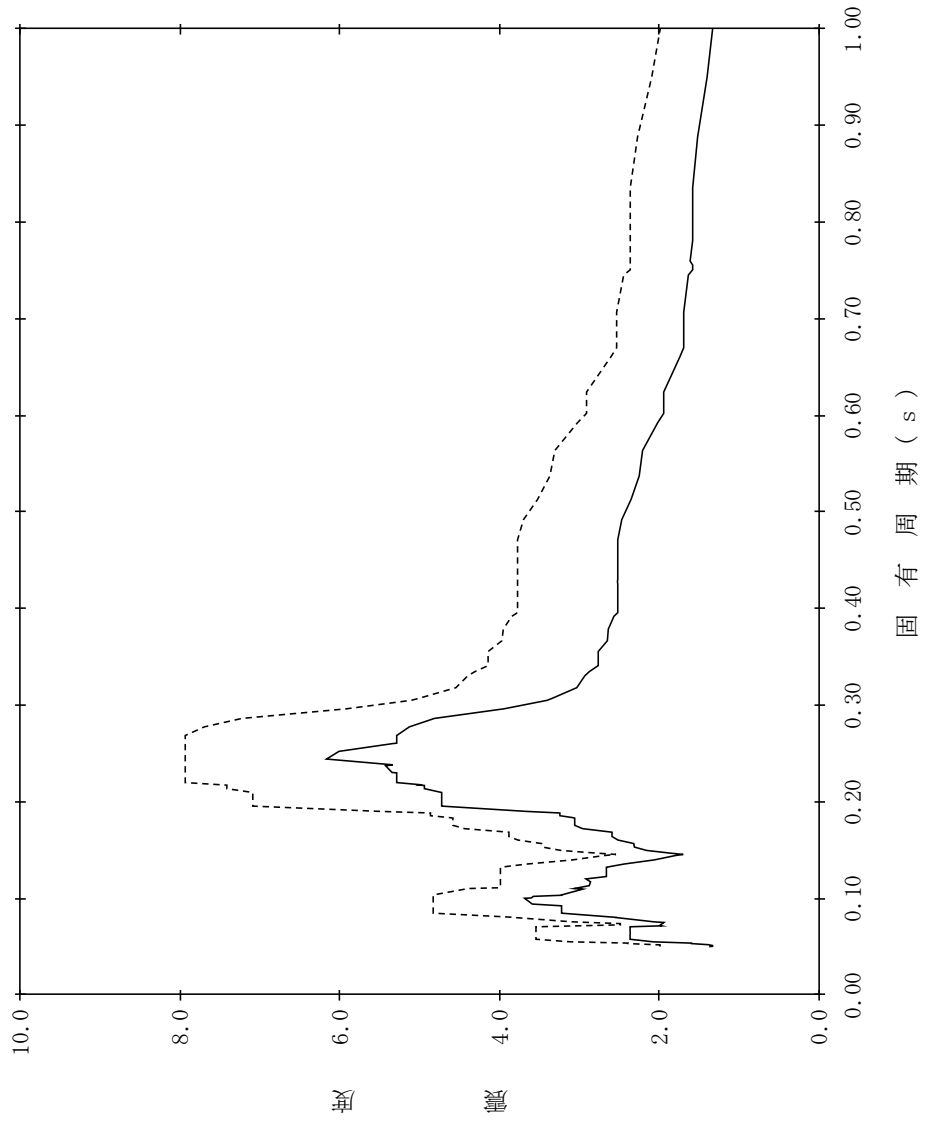
構造物名：原子炉格納容器
標高：EL22.932m
減衰定数：1.5%

—— 設計用床応答スペクトルⅠ (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトルⅡ (NS方向)



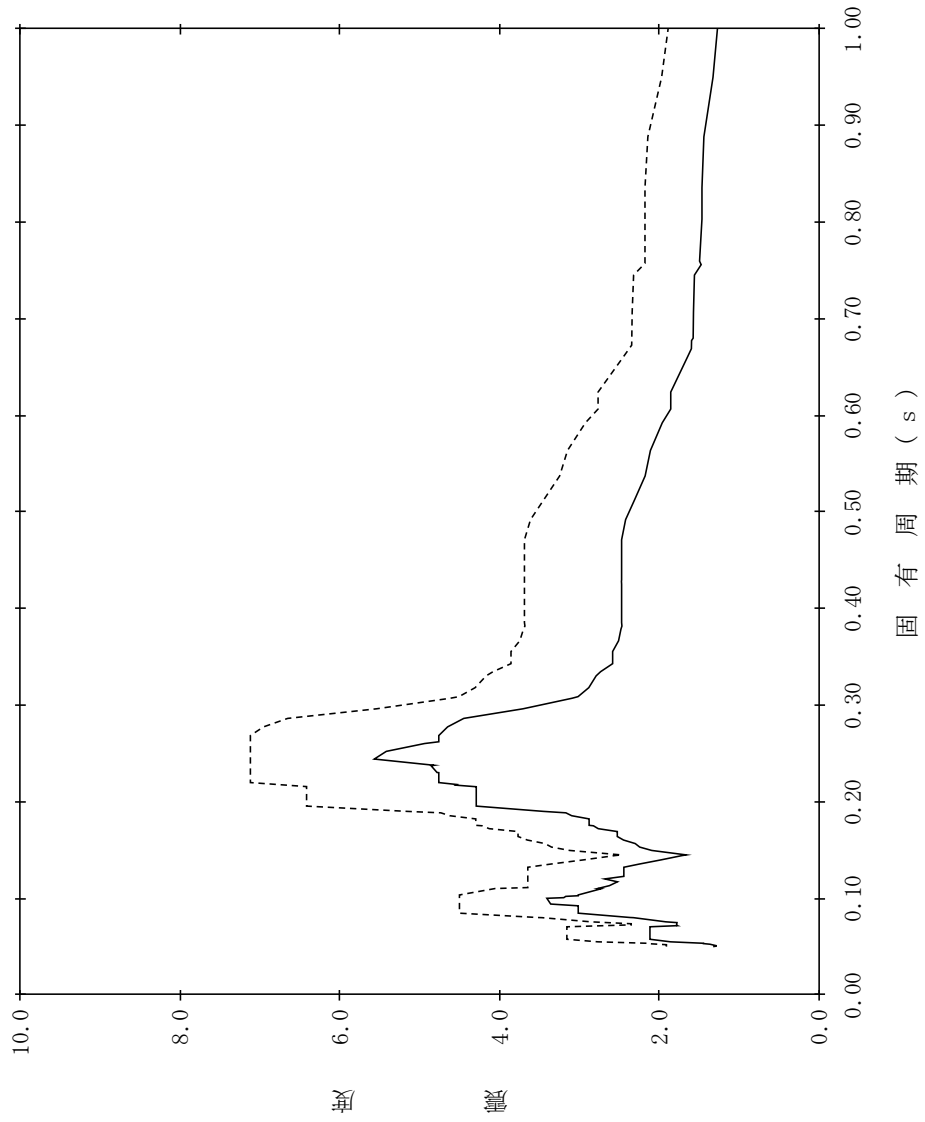
【NS2-PCV-SsNS-PCV52】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL22.932m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (NS方向)
設計用床応答スペクトル II (NS方向)



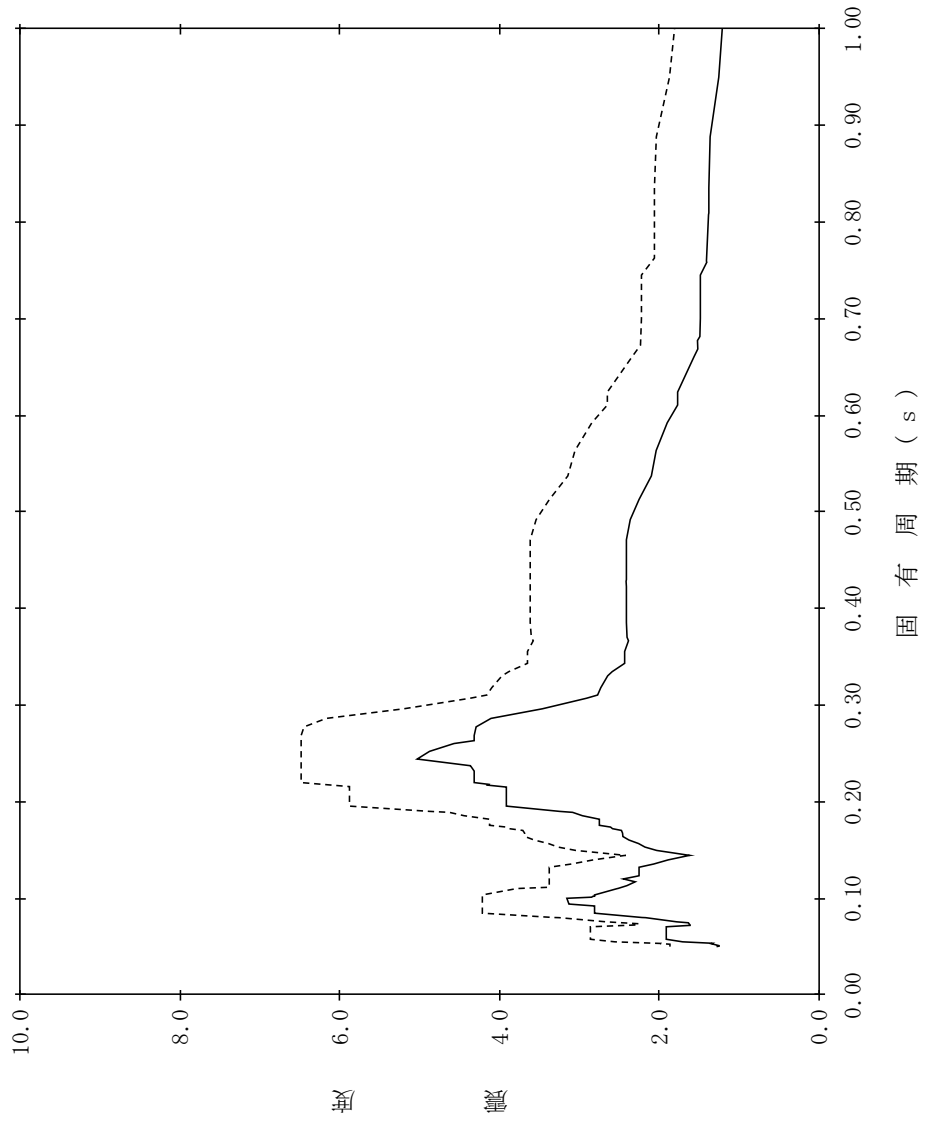
【NS2-PCV-SsNS-PCV53】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



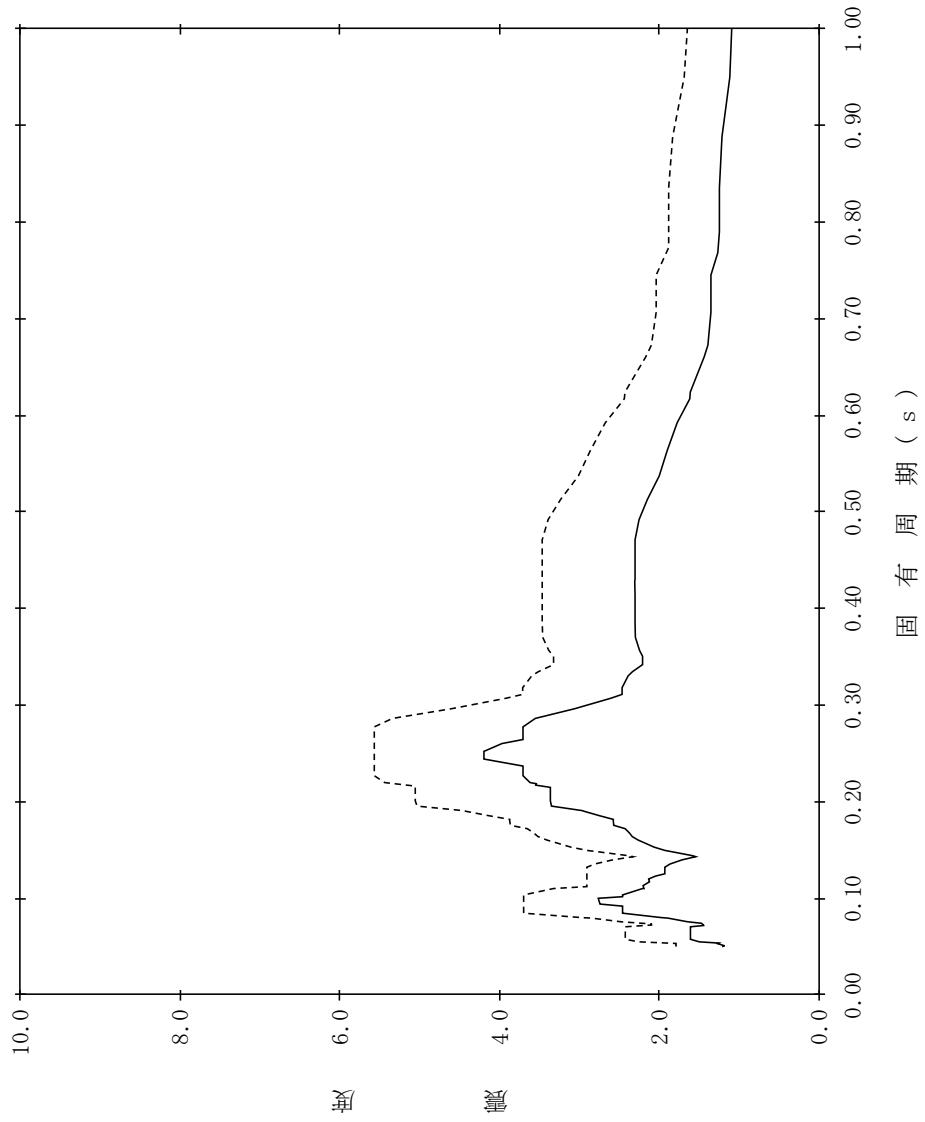
【NS2-PCV-SsNS-PCV54】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

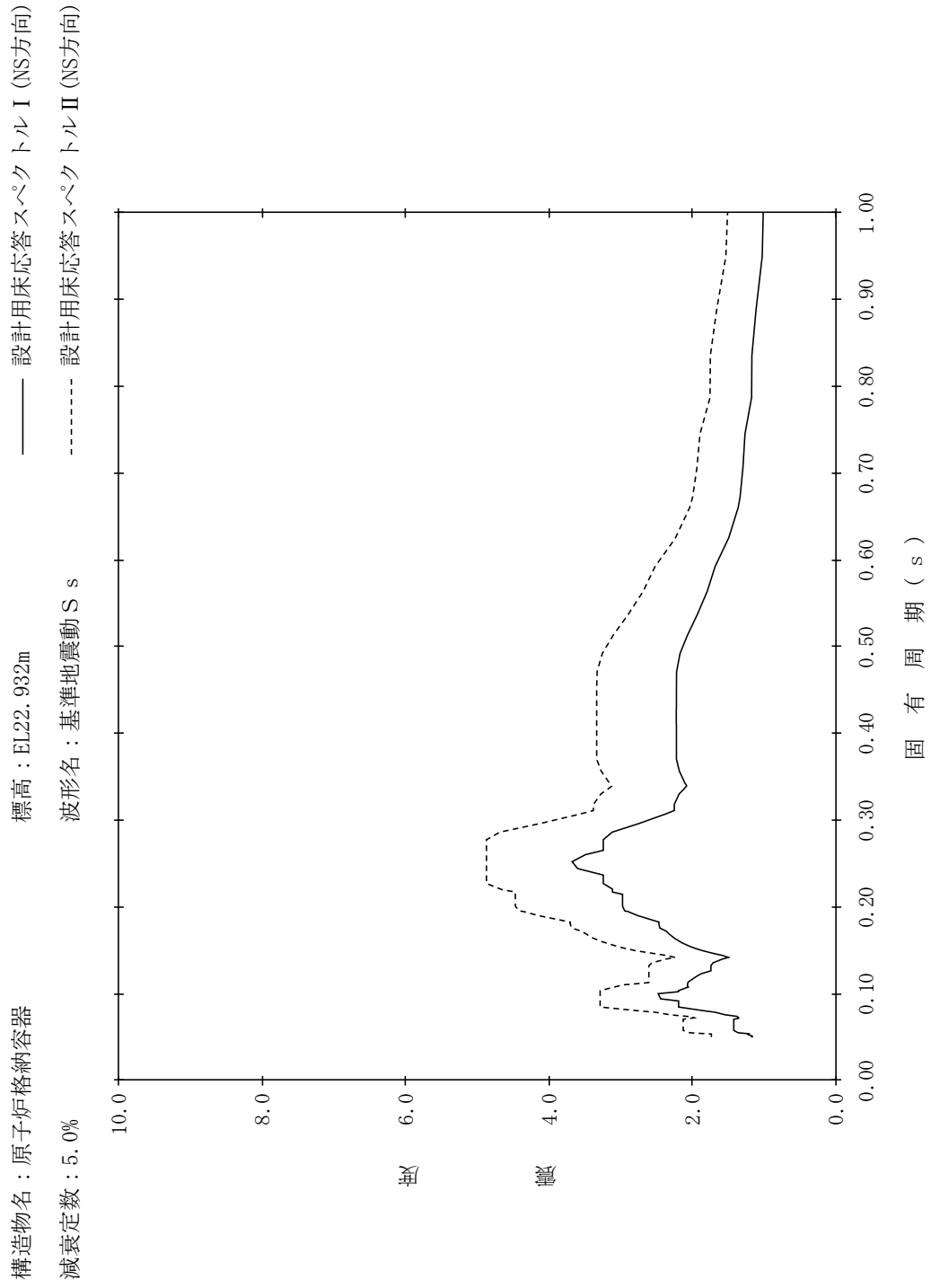


【NS2-PCV-SsNS-PCV55】

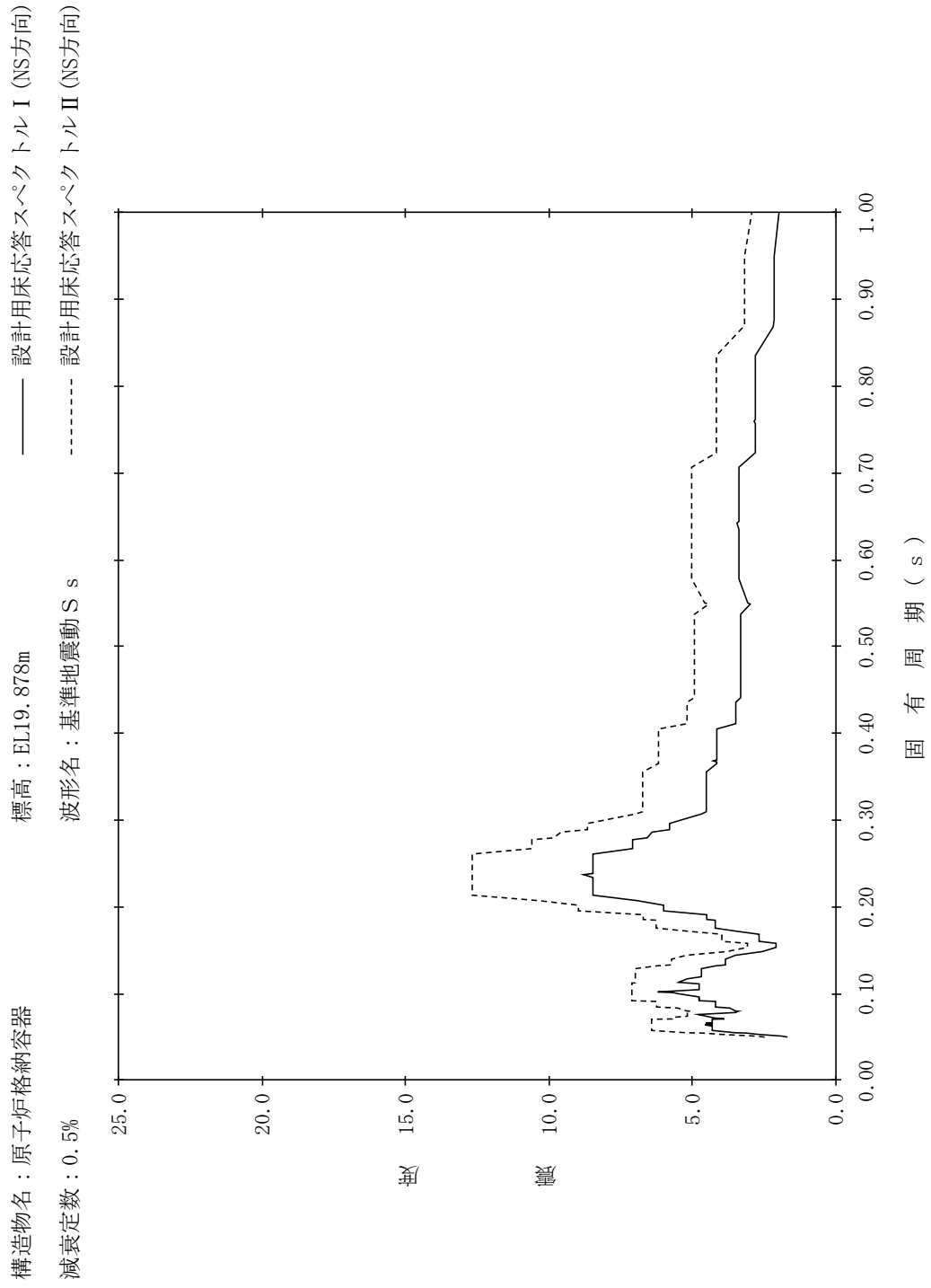
構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



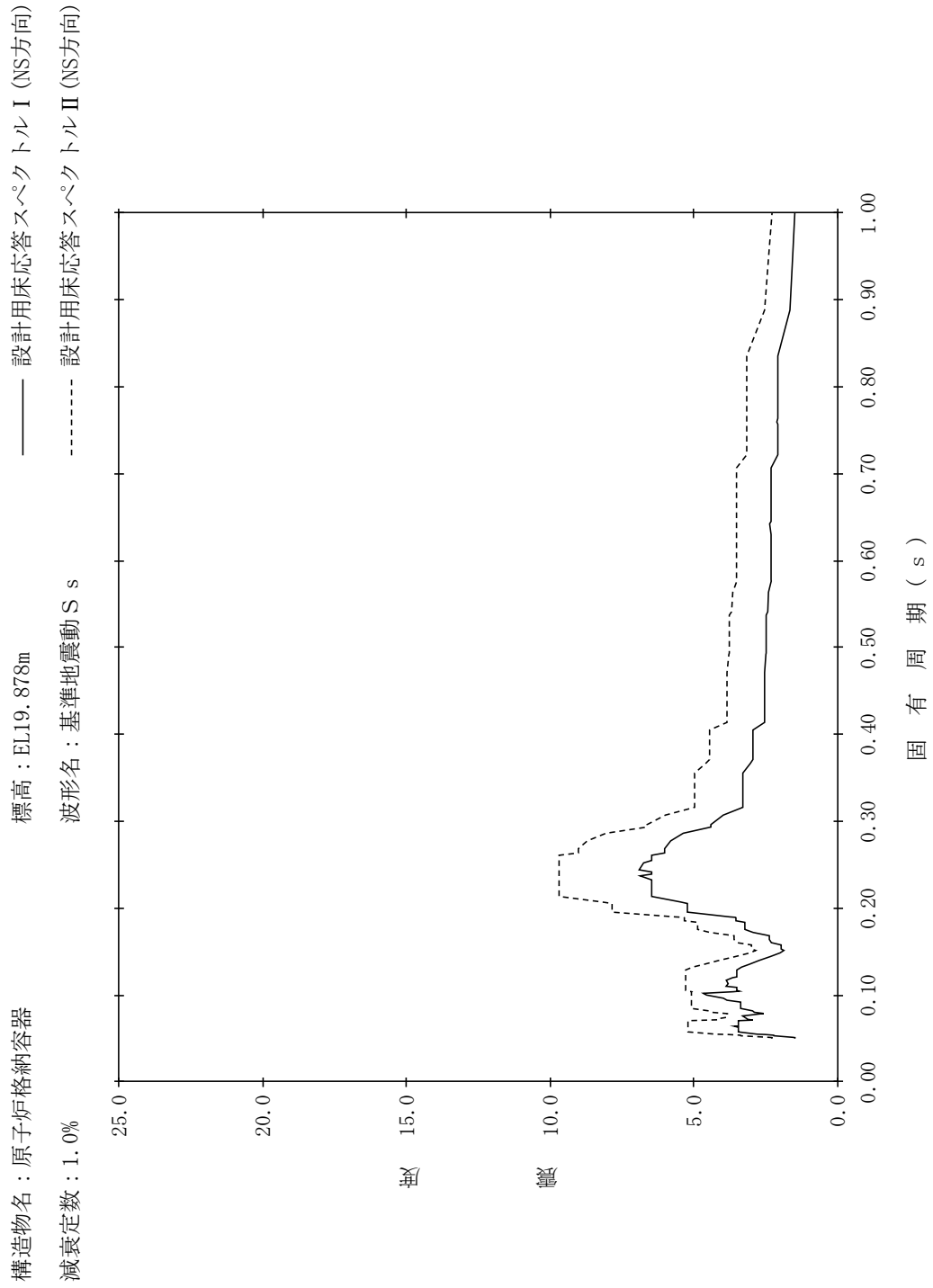
【NS2-PCV-SsNS-PCV56】



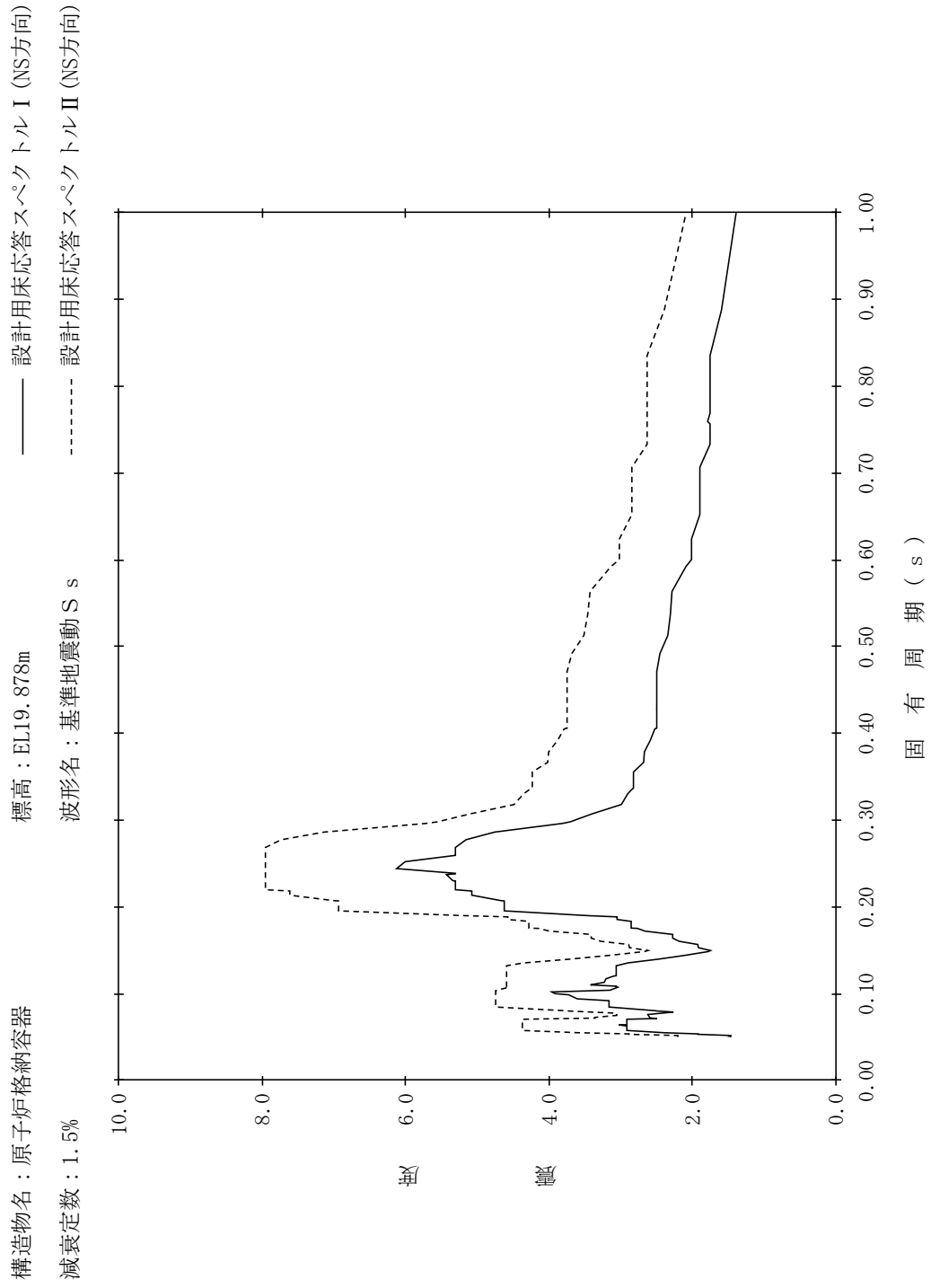
【NS2-PCV-SsNS-PCV57】



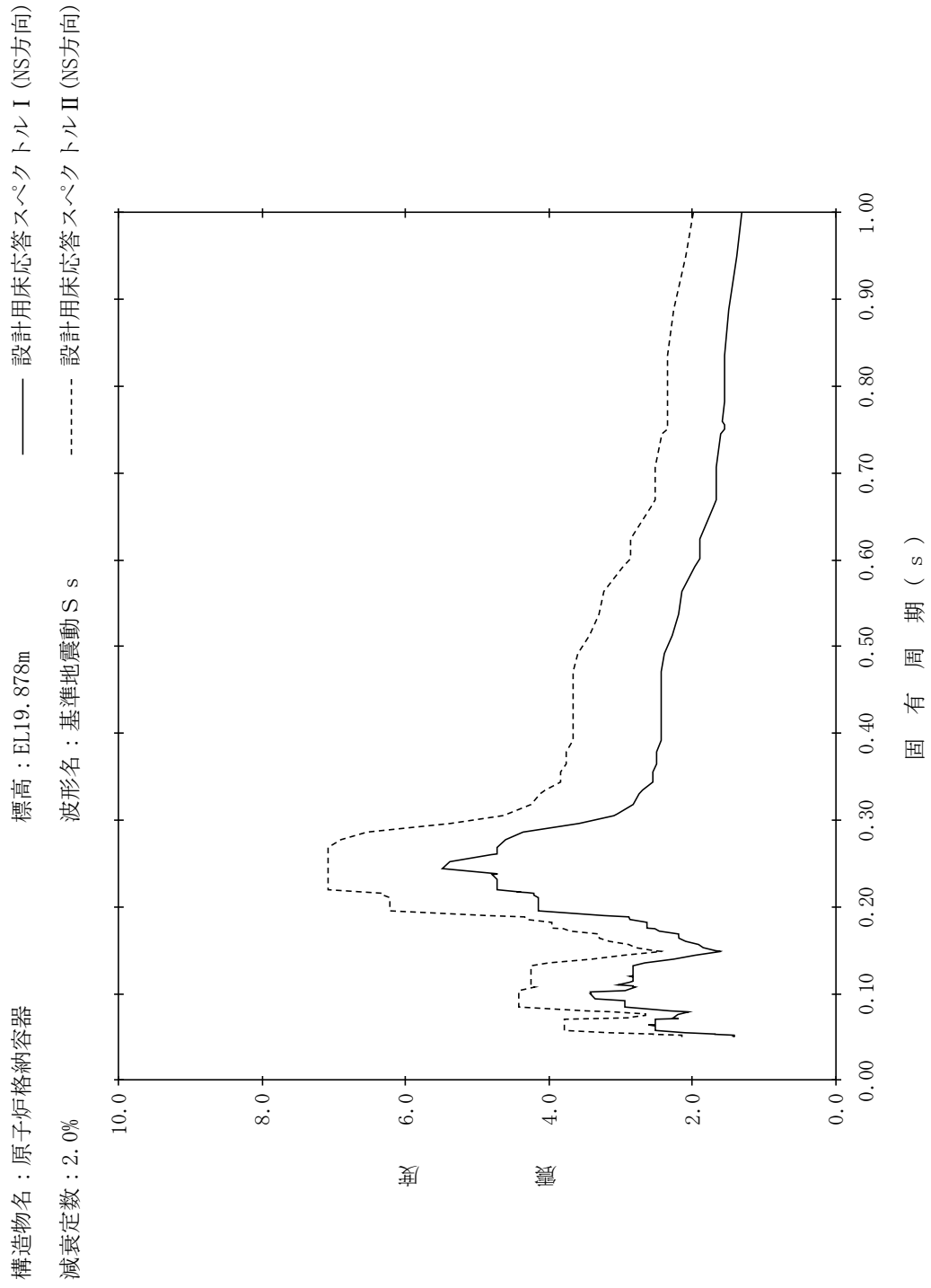
【NS2-PCV-SsNS-PCV58】



【NS2-PCV-SsNS-PCV59】

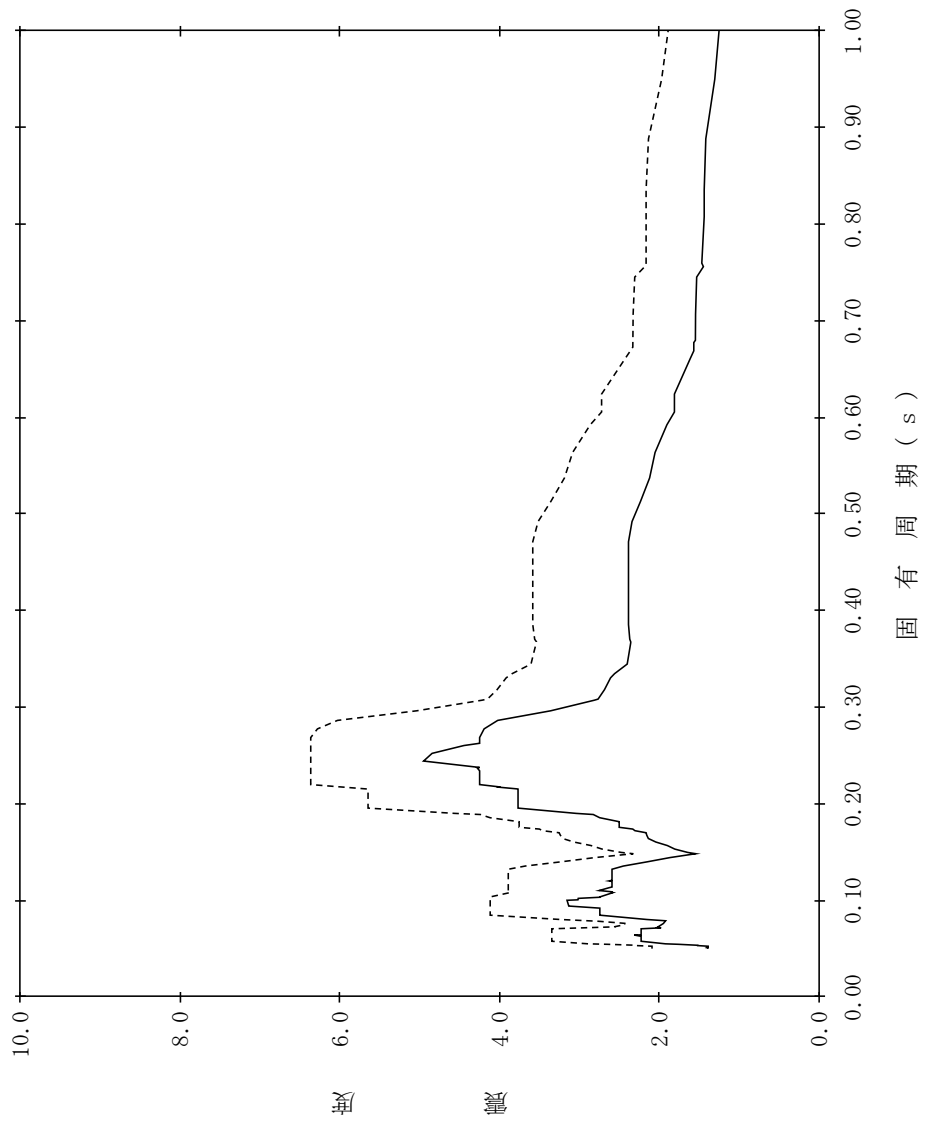


【NS2-PCV-SsNS-PCV60】



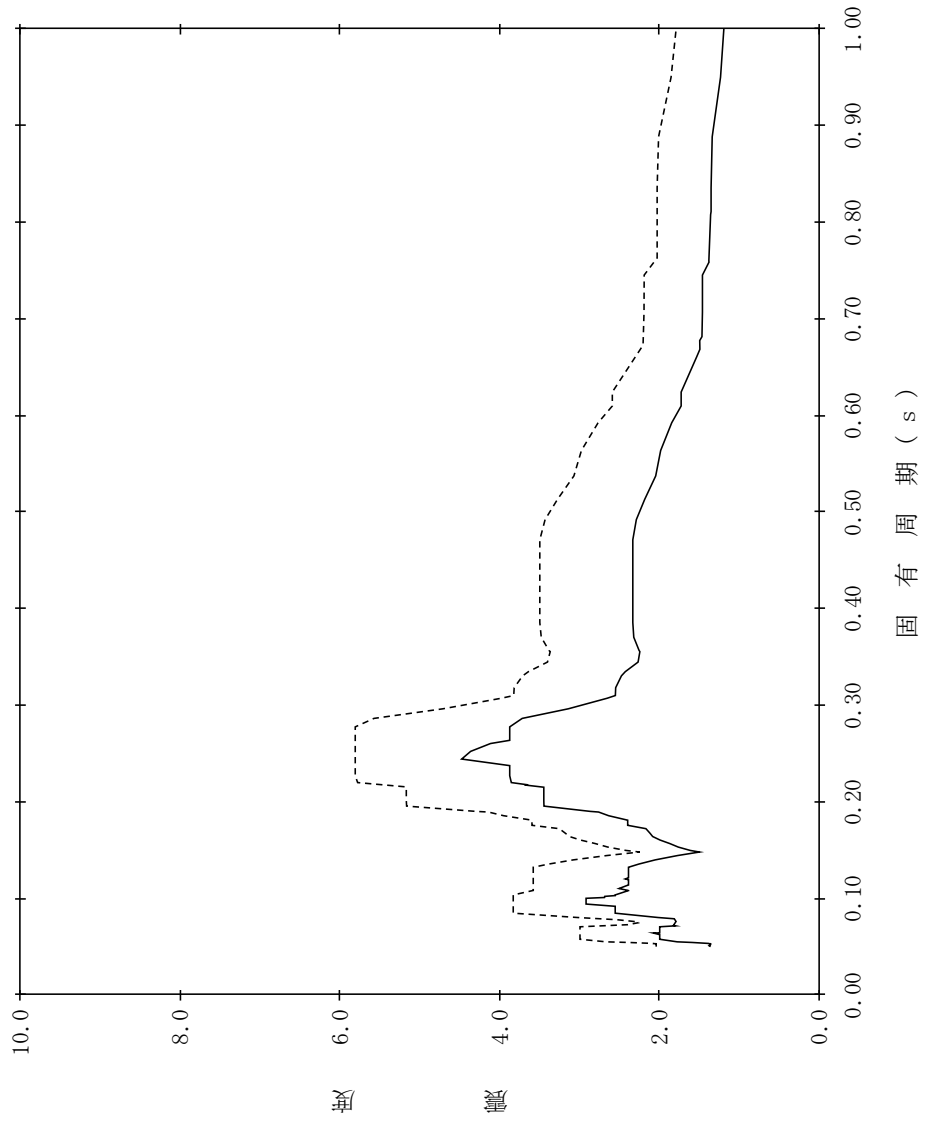
【NS2-PCV-SsNS-PCV61】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



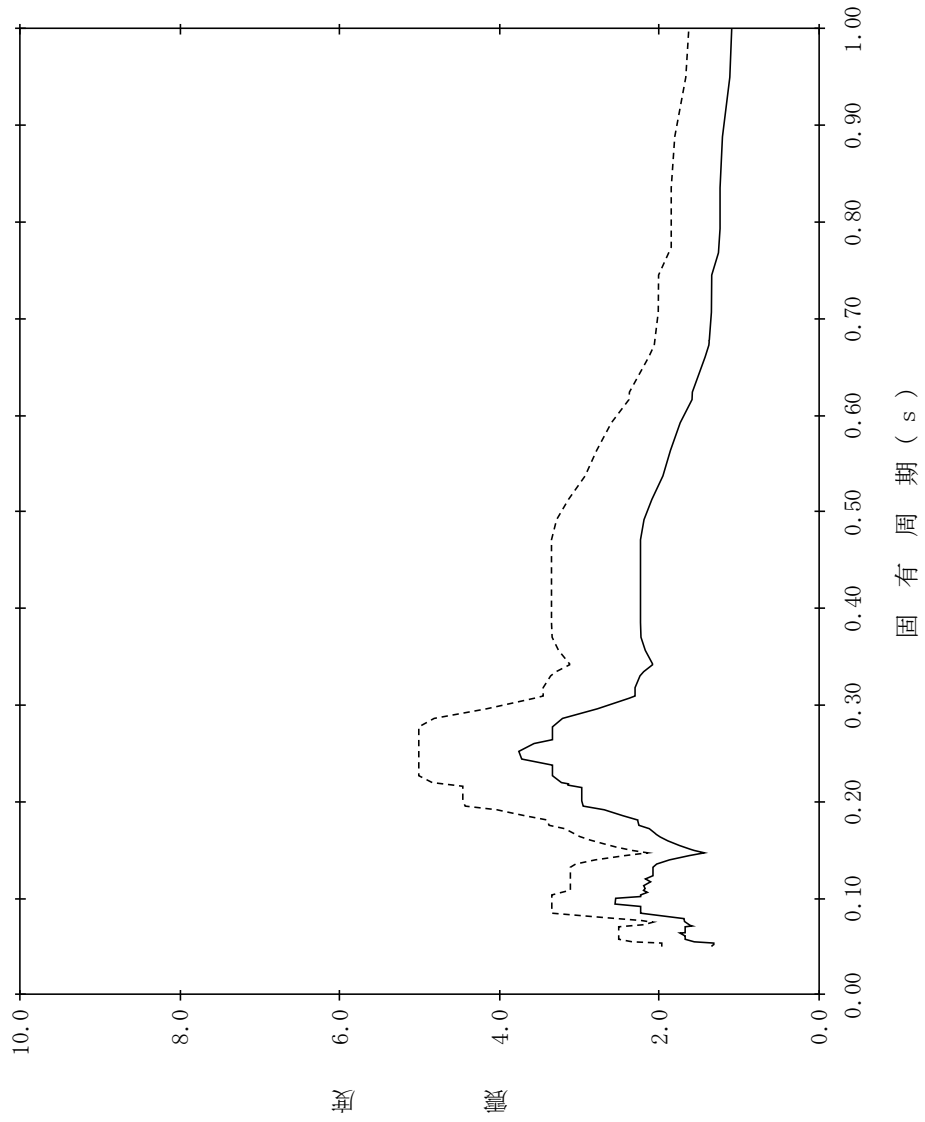
【NS2-PCV-SsNS-PCV62】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



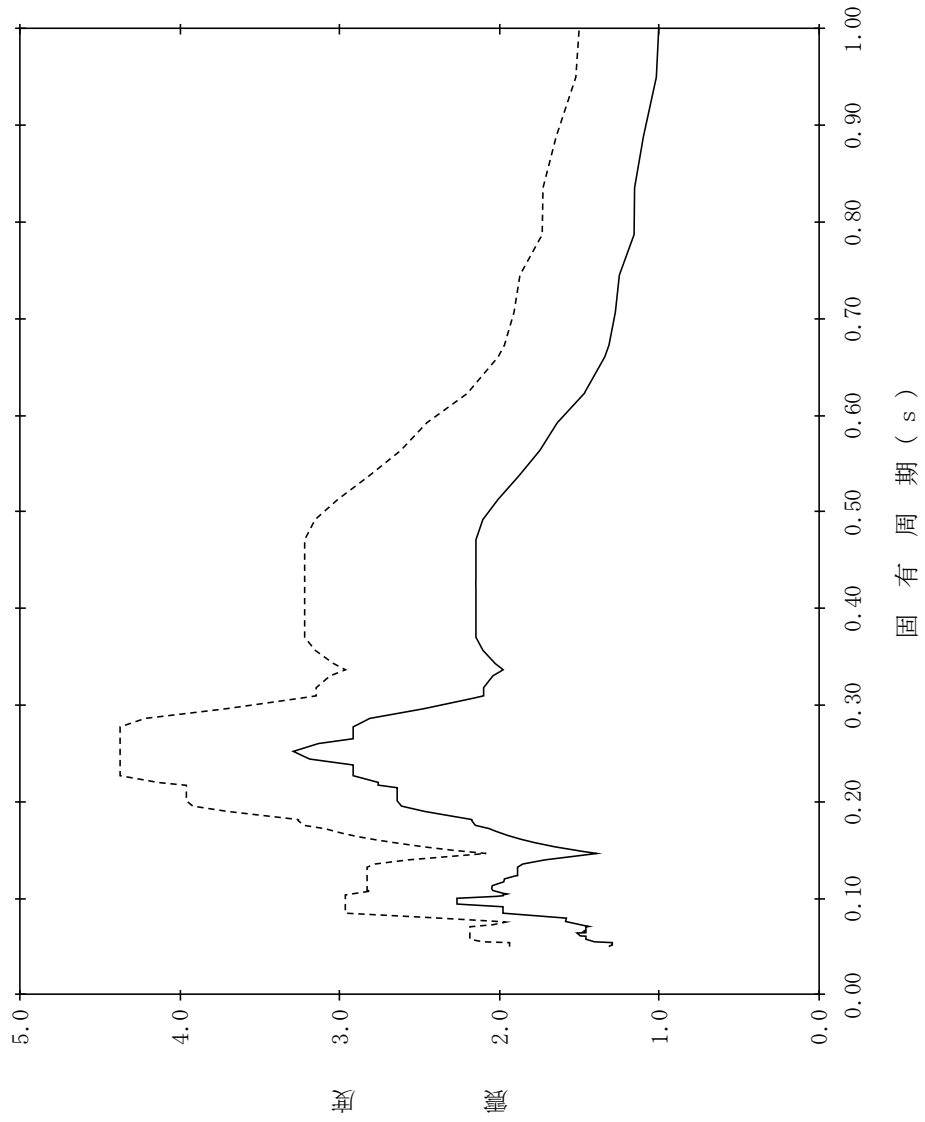
【NS2-PCV-SsNS-PCV63】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

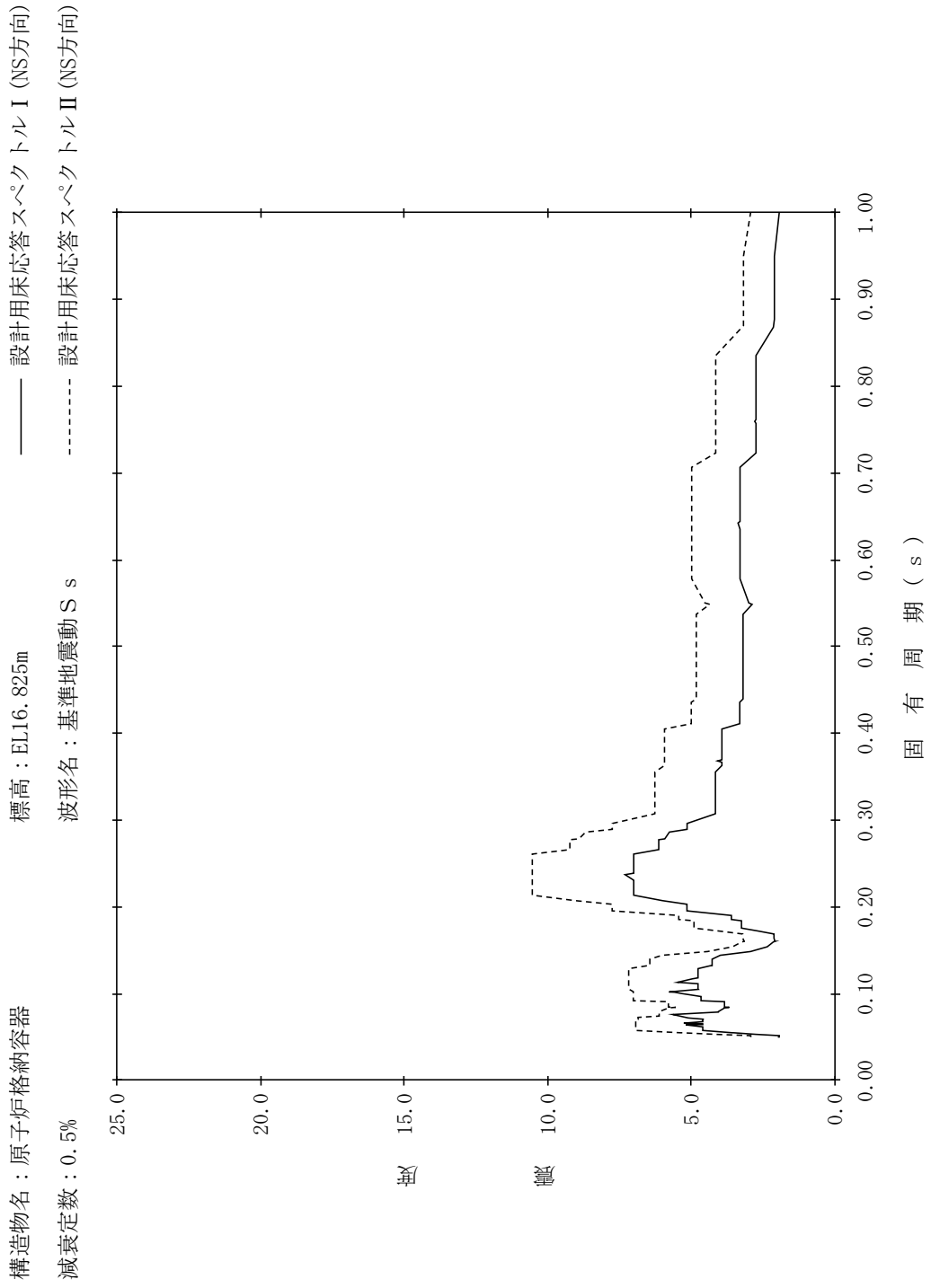


【NS2-PCV-SsNS-PCV64】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

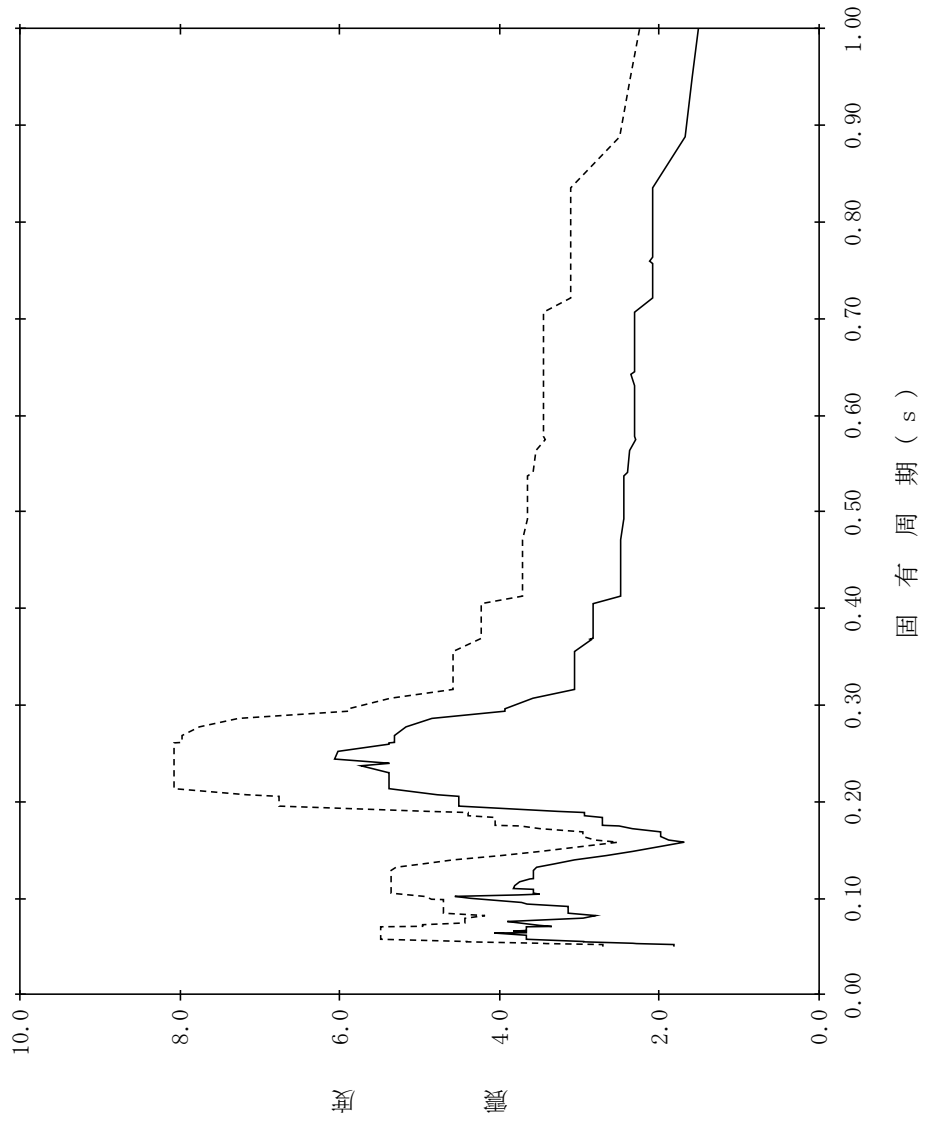


【NS2-PCV-SsNS-PCV65】



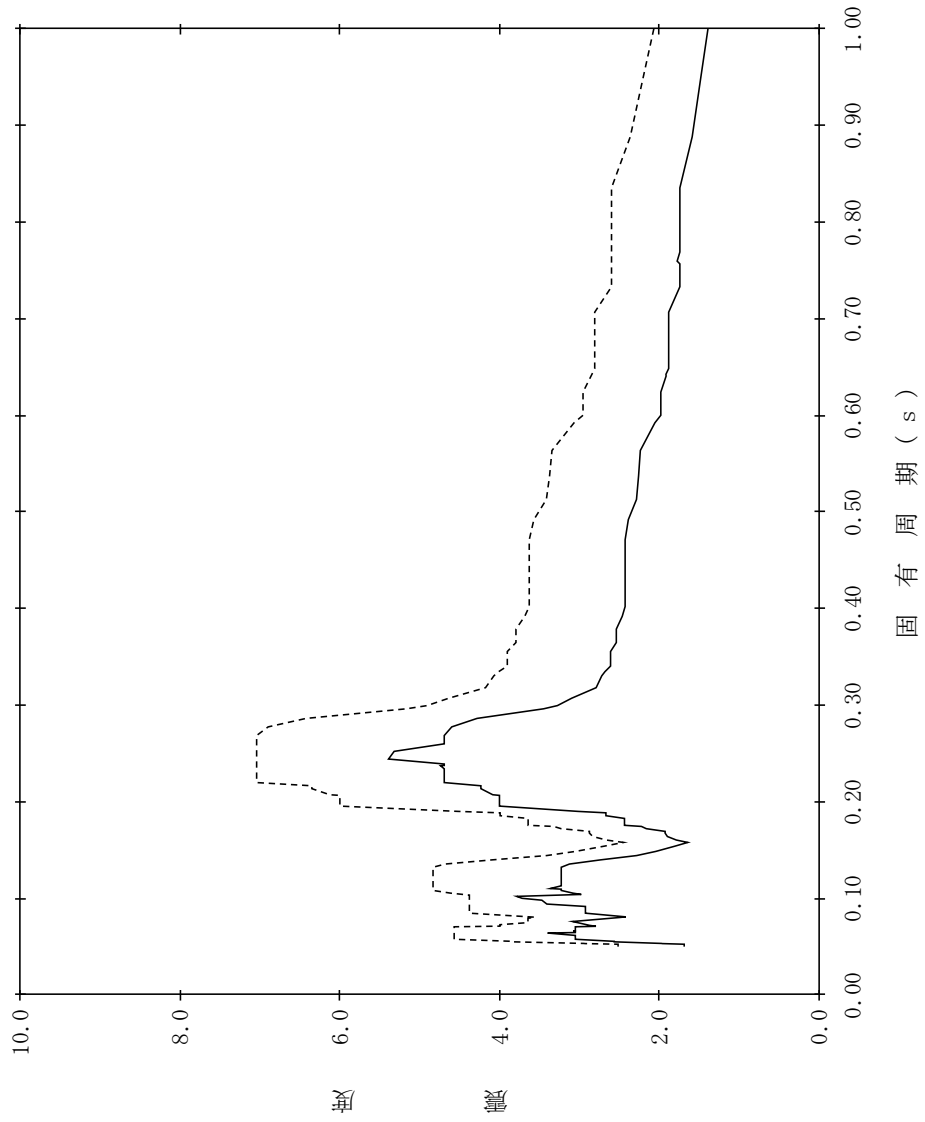
【NS2-PCV-SsNS-PCV66】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

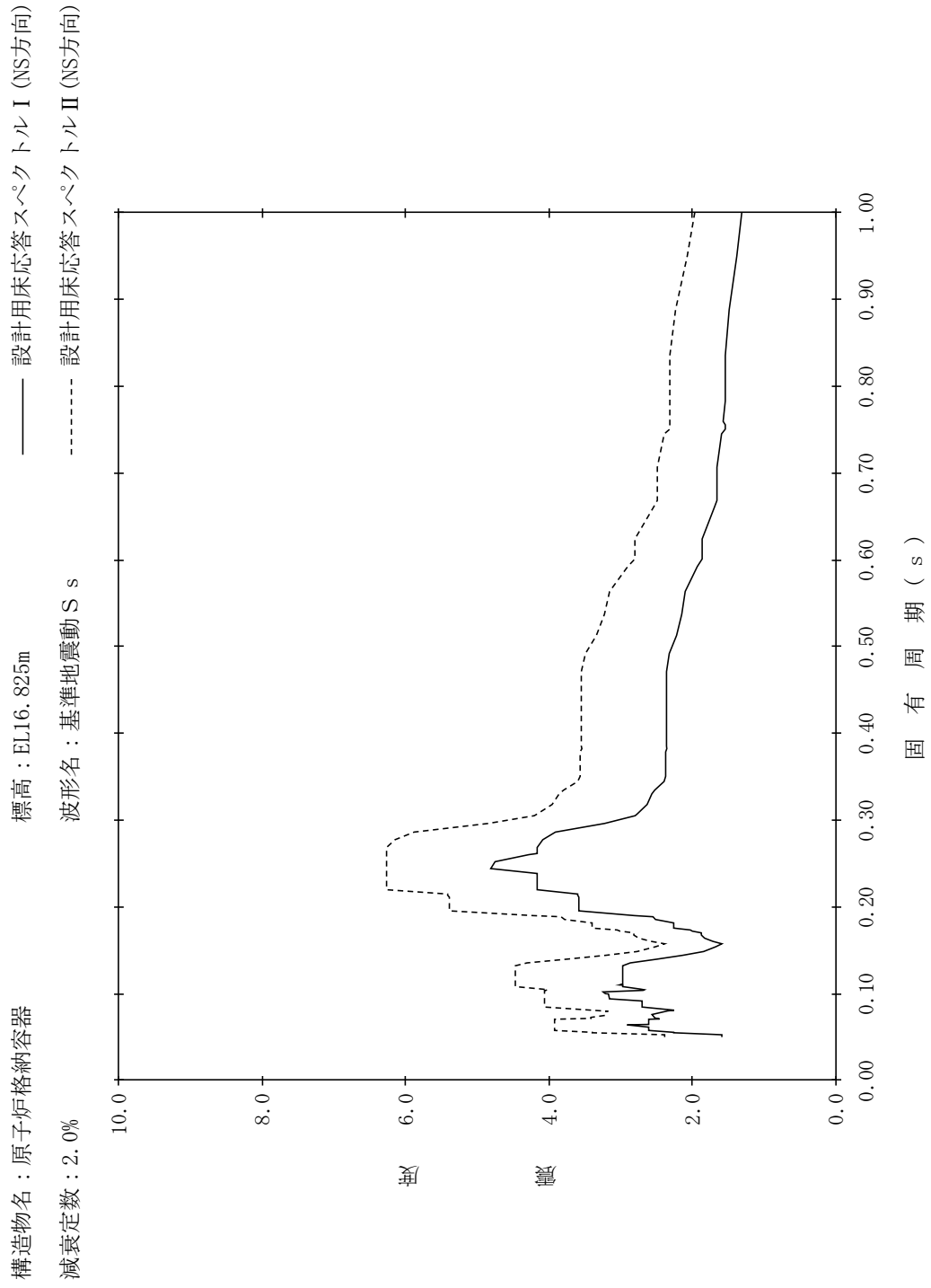


【NS2-PCV-SsNS-PCV67】

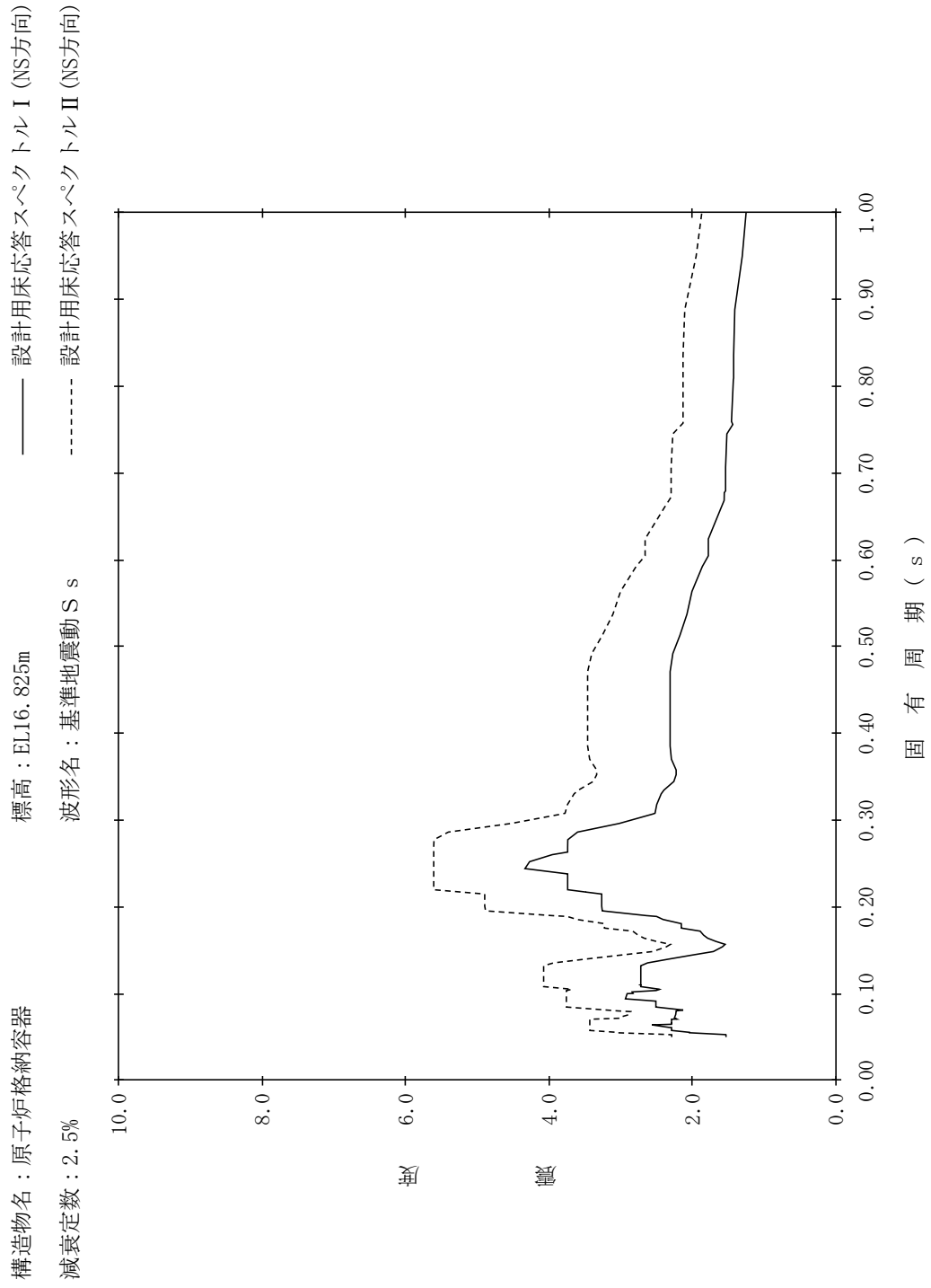
構造物名：原子炉格納容器
標高：EL16.825m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



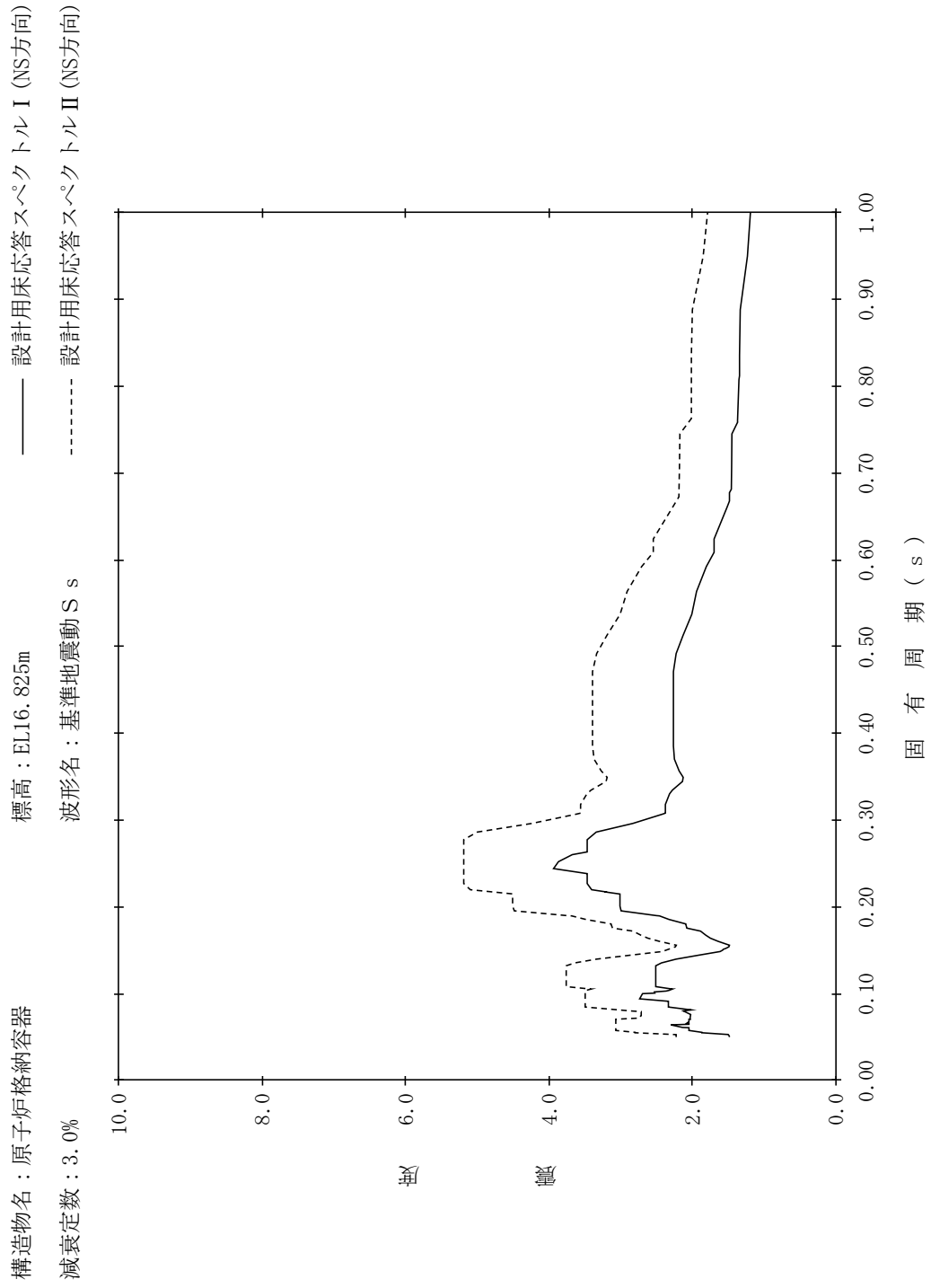
【NS2-PCV-SsNS-PCV68】



【NS2-PCV-SsNS-PCV69】

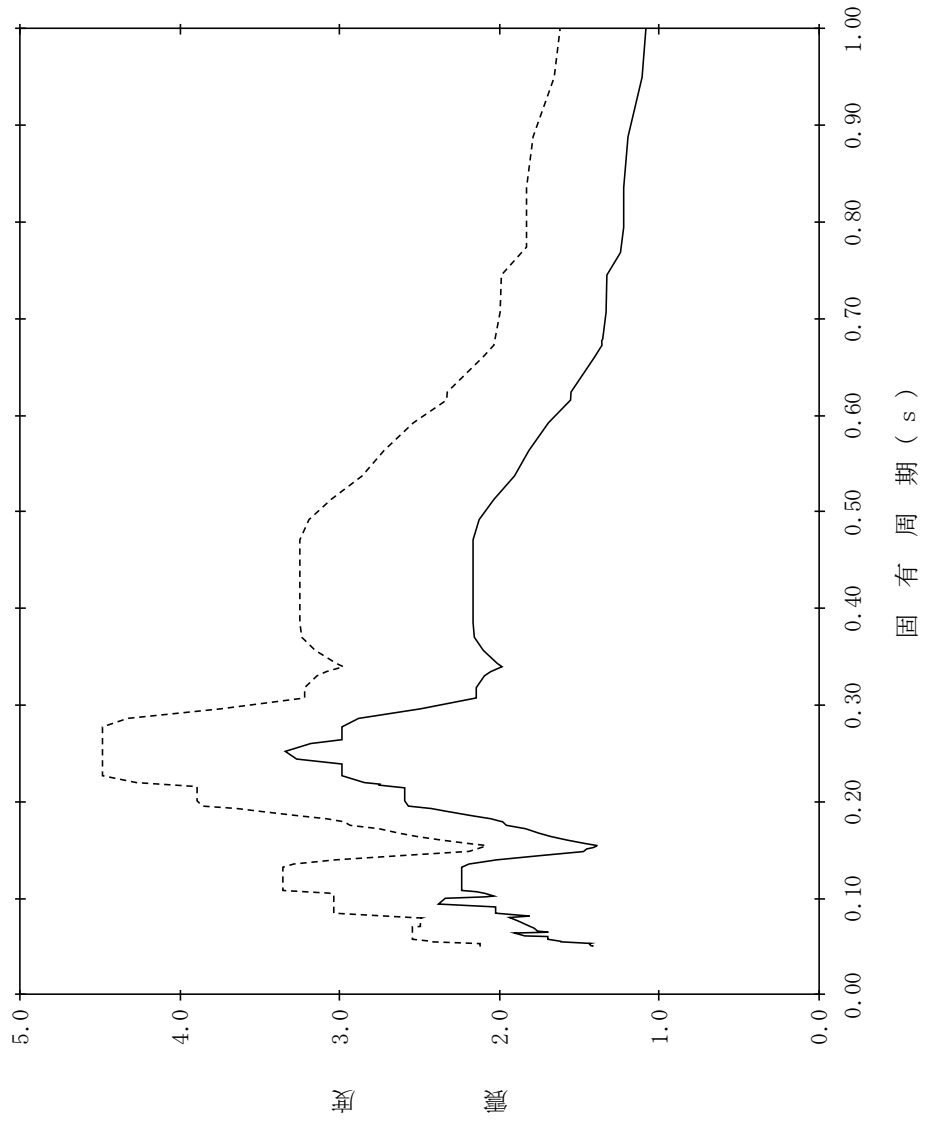


【NS2-PCV-SsNS-PCV70】



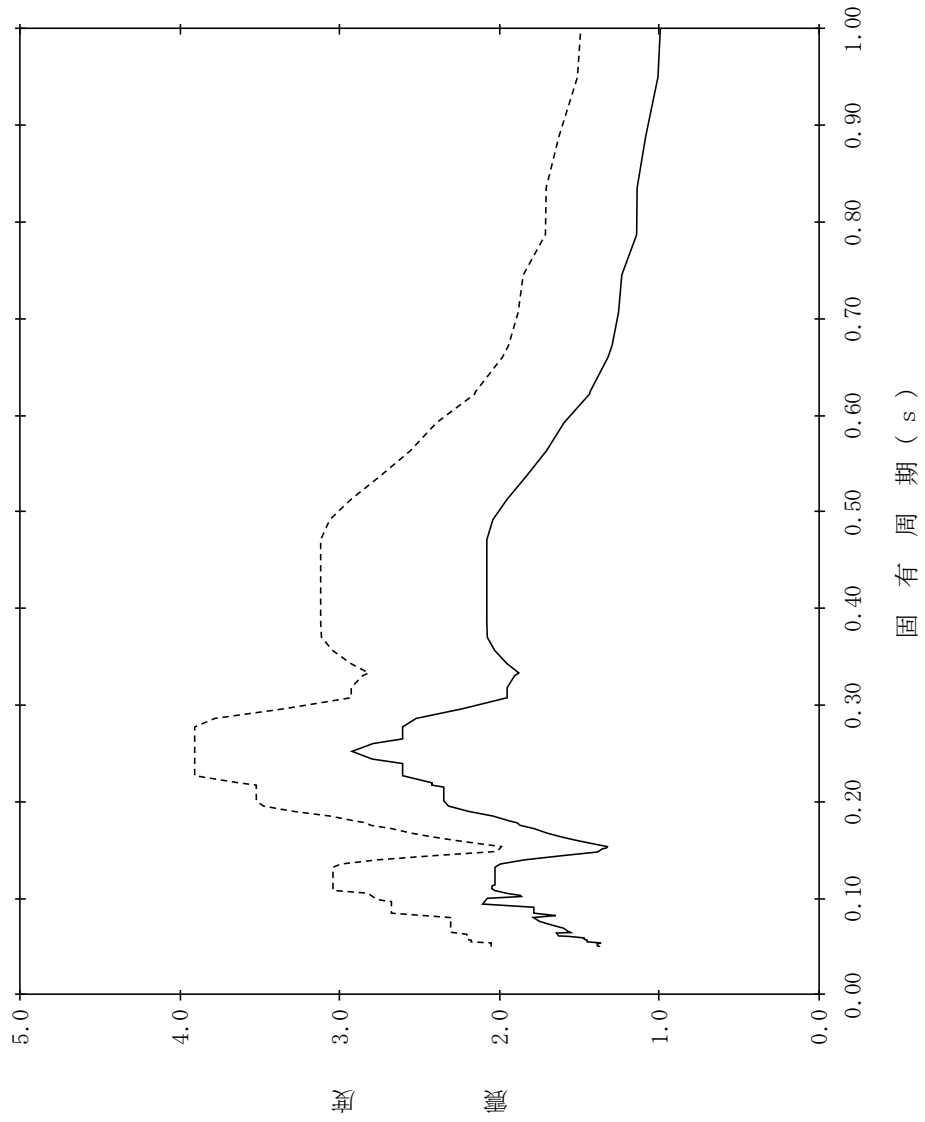
【NS2-PCV-SsNS-PCV71】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

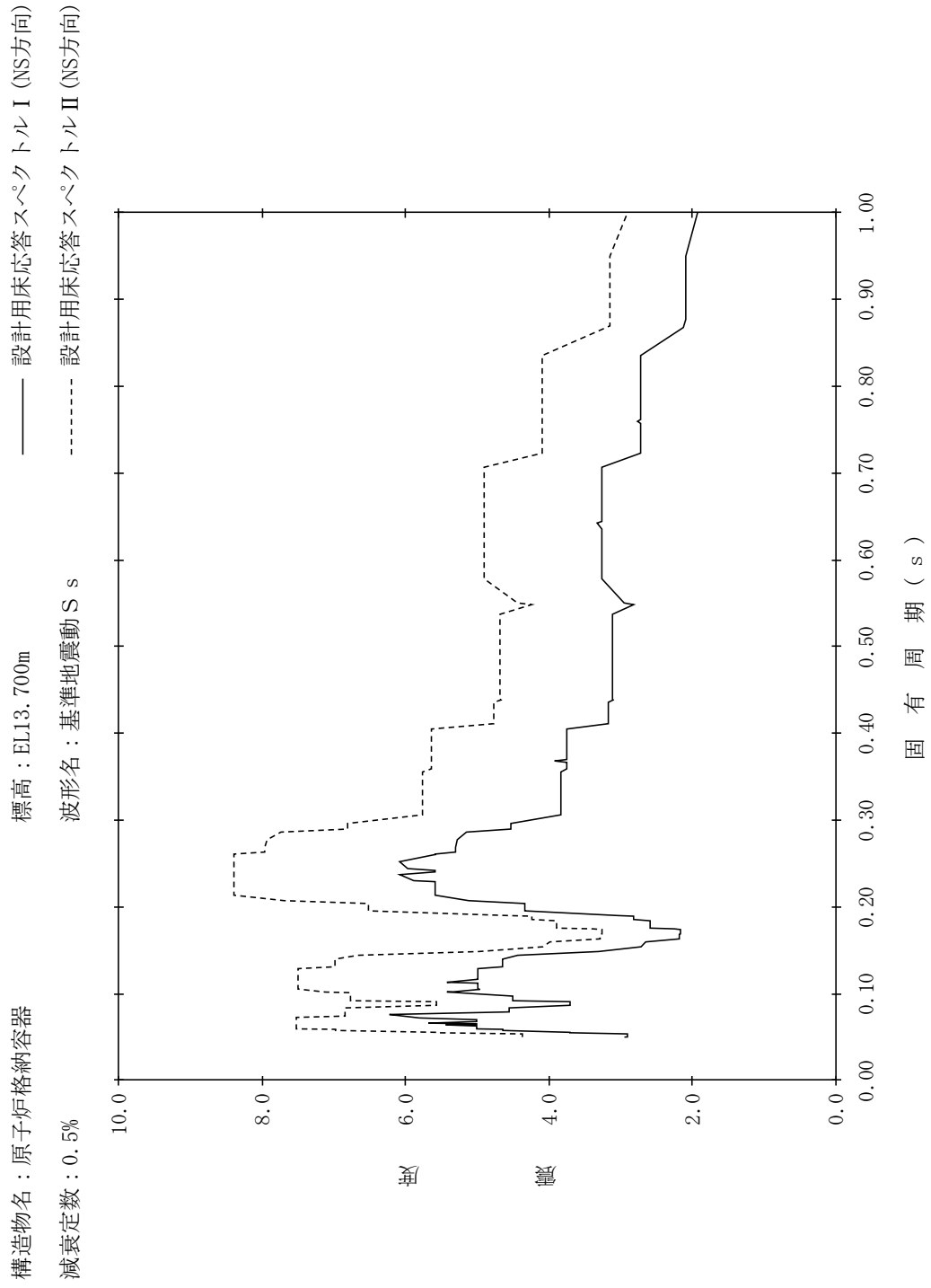


【NS2-PCV-SsNS-PCV72】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

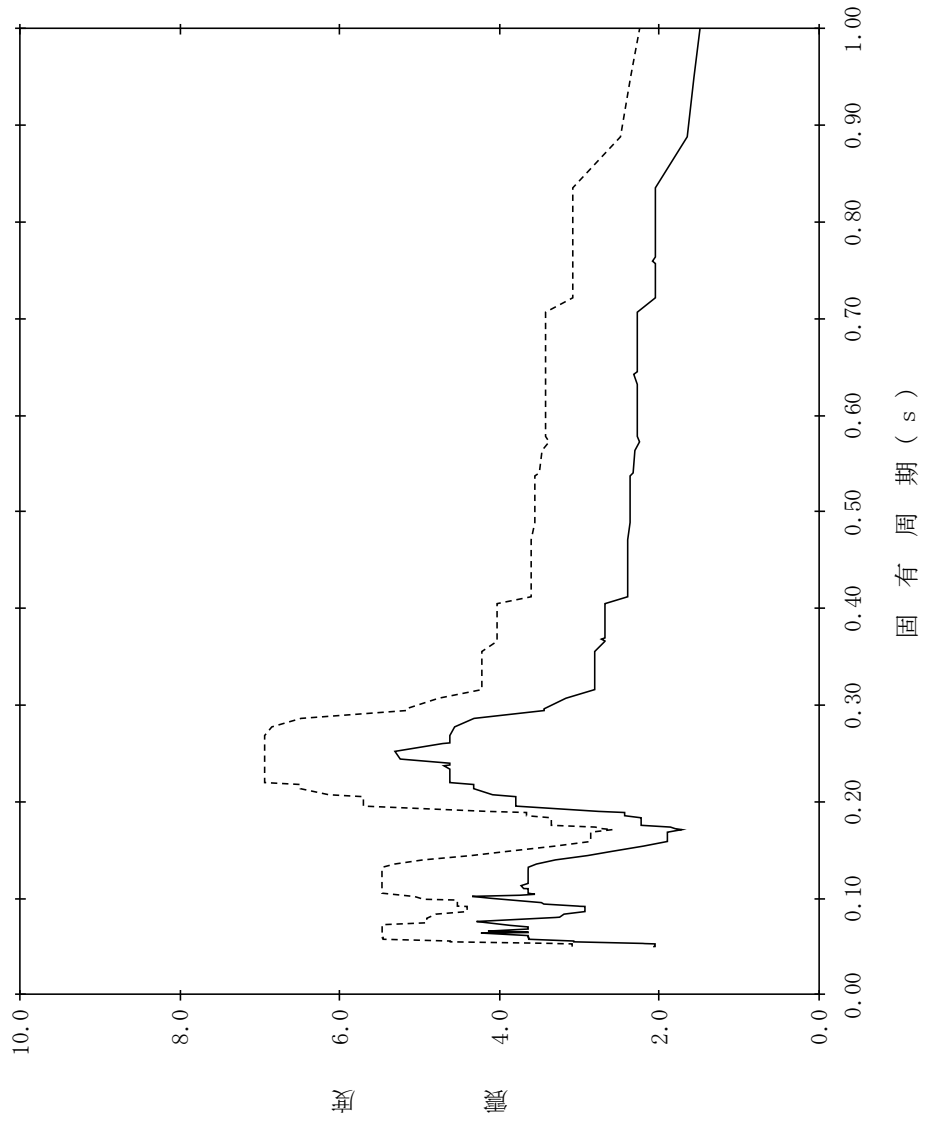


【NS2-PCV-SsNS-PCV73】

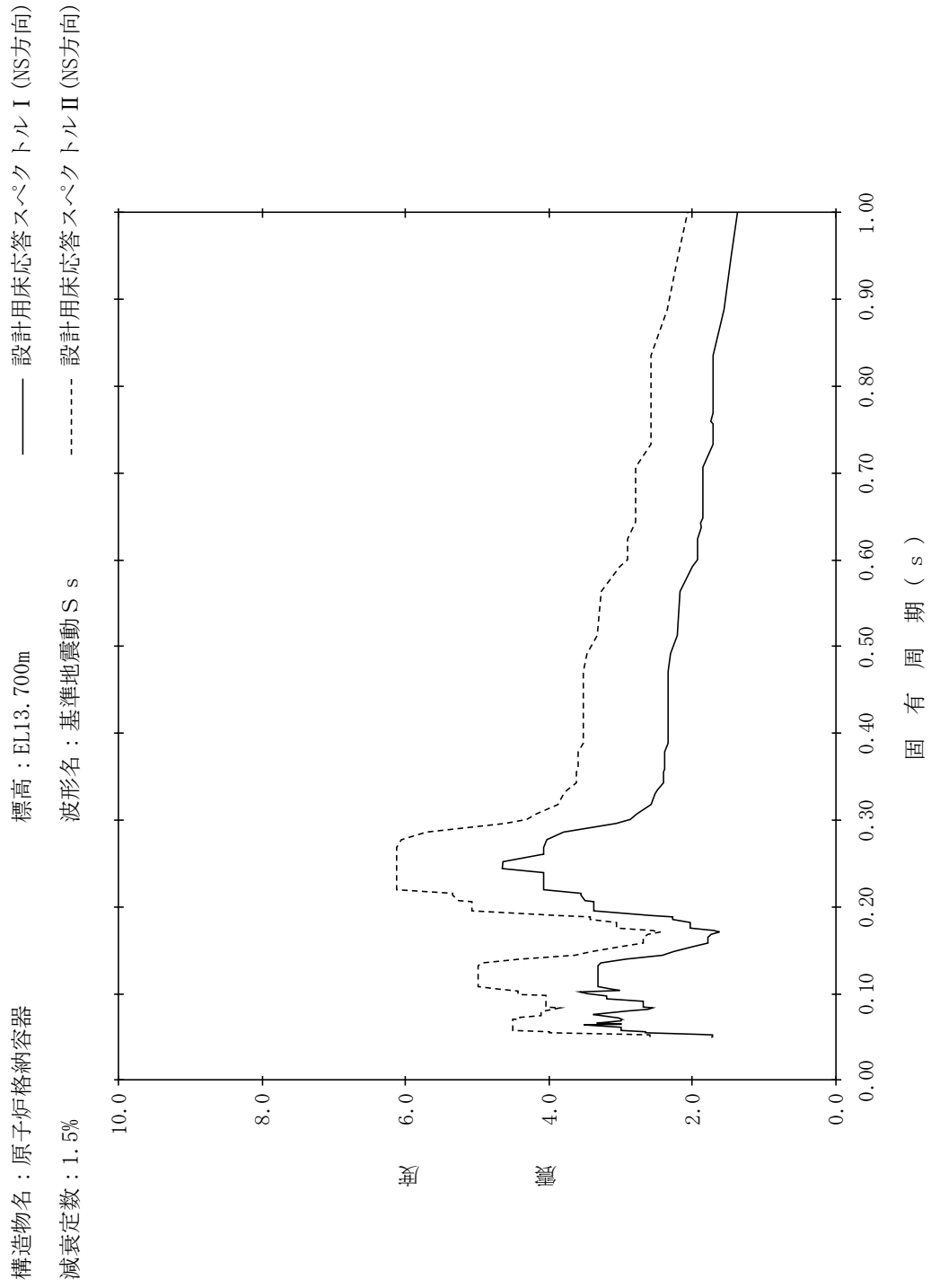


【NS2-PCV-SsNS-PCV74】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

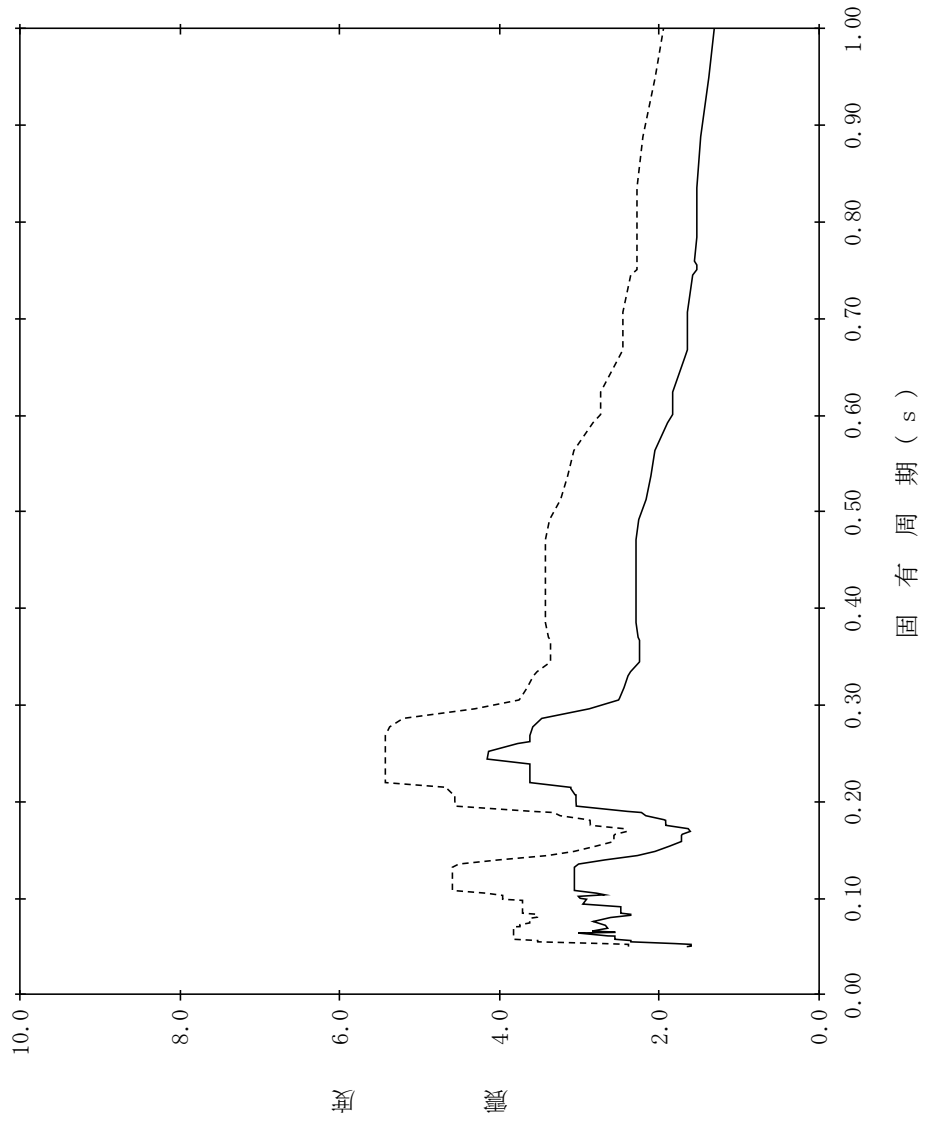


【NS2-PCV-SsNS-PCV75】

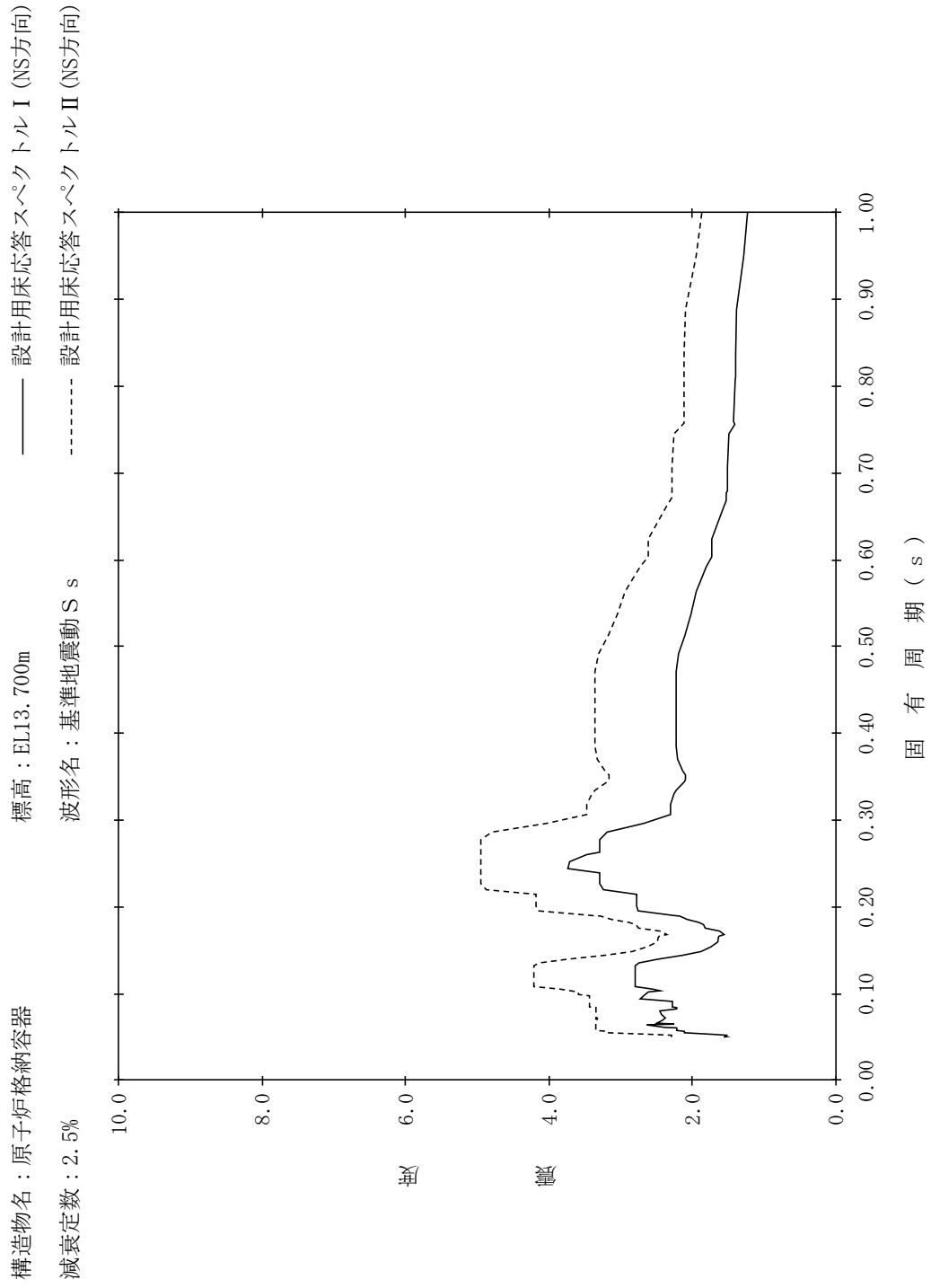


【NS2-PCV-SsNS-PCV76】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

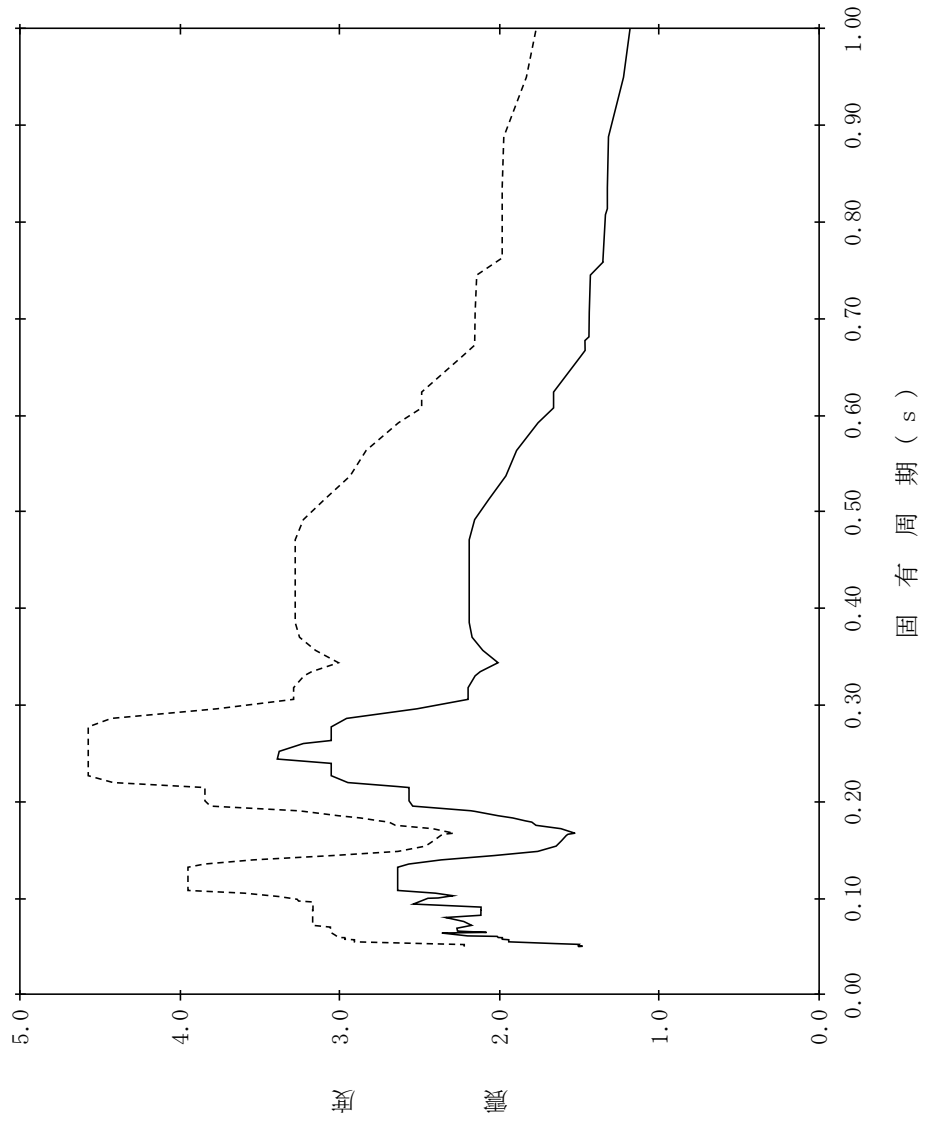


【NS2-PCV-SsNS-PCV77】



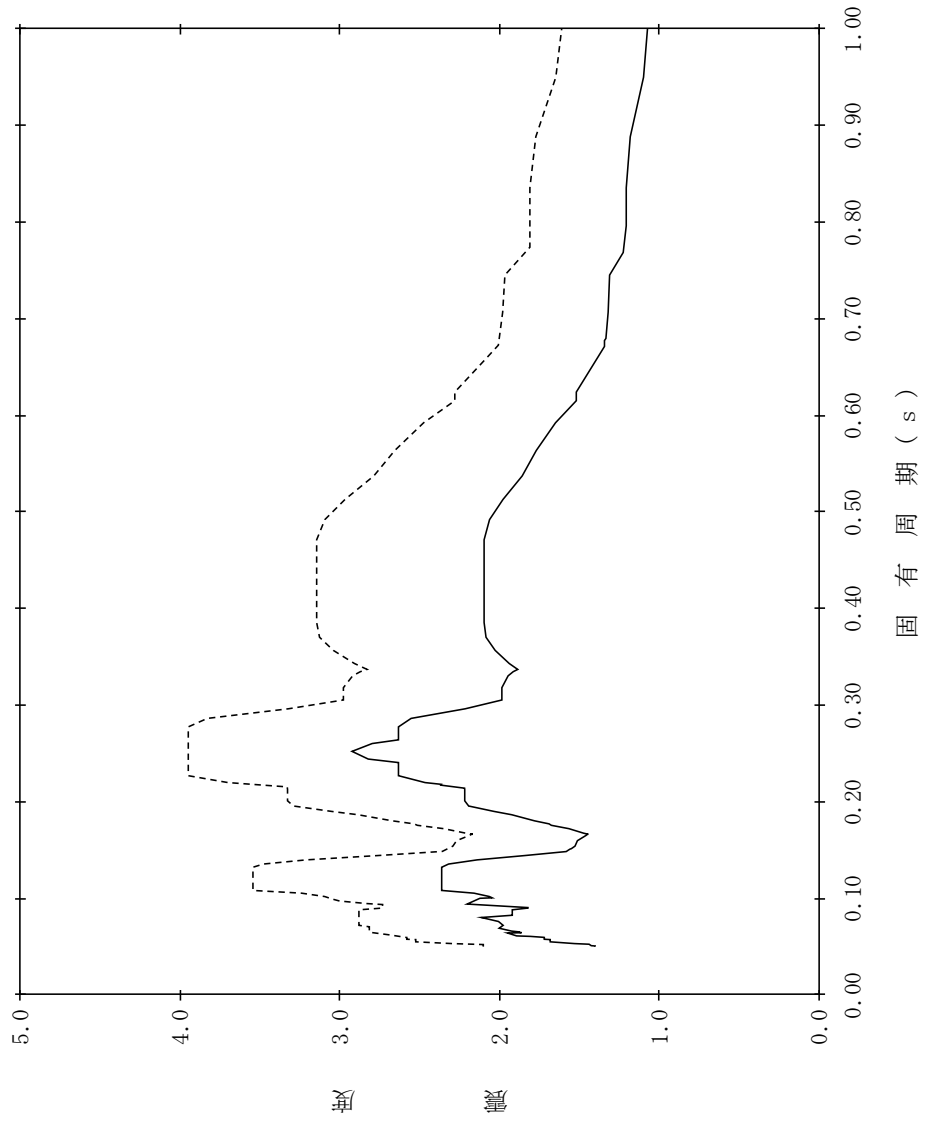
【NS2-PCV-SsNS-PCV78】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



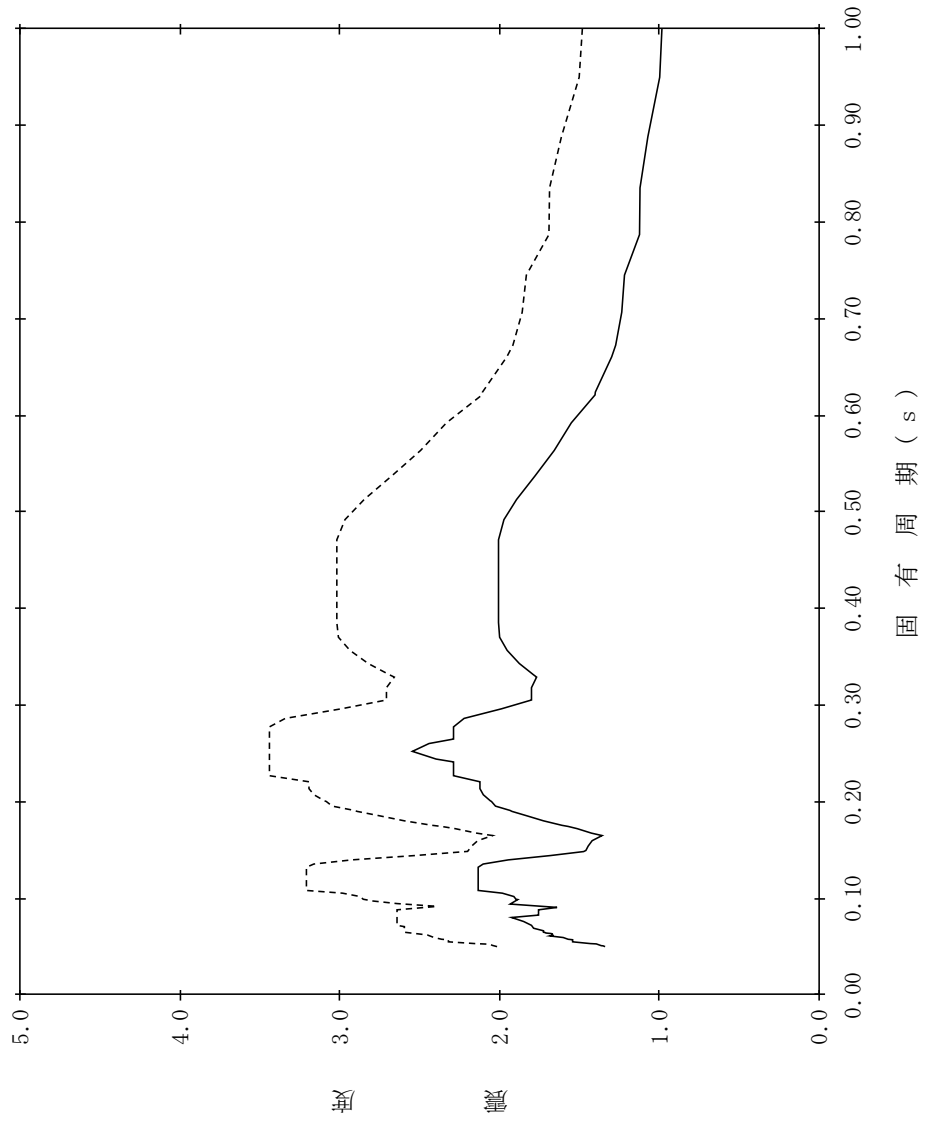
【NS2-PCV-SsNS-PCV79】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



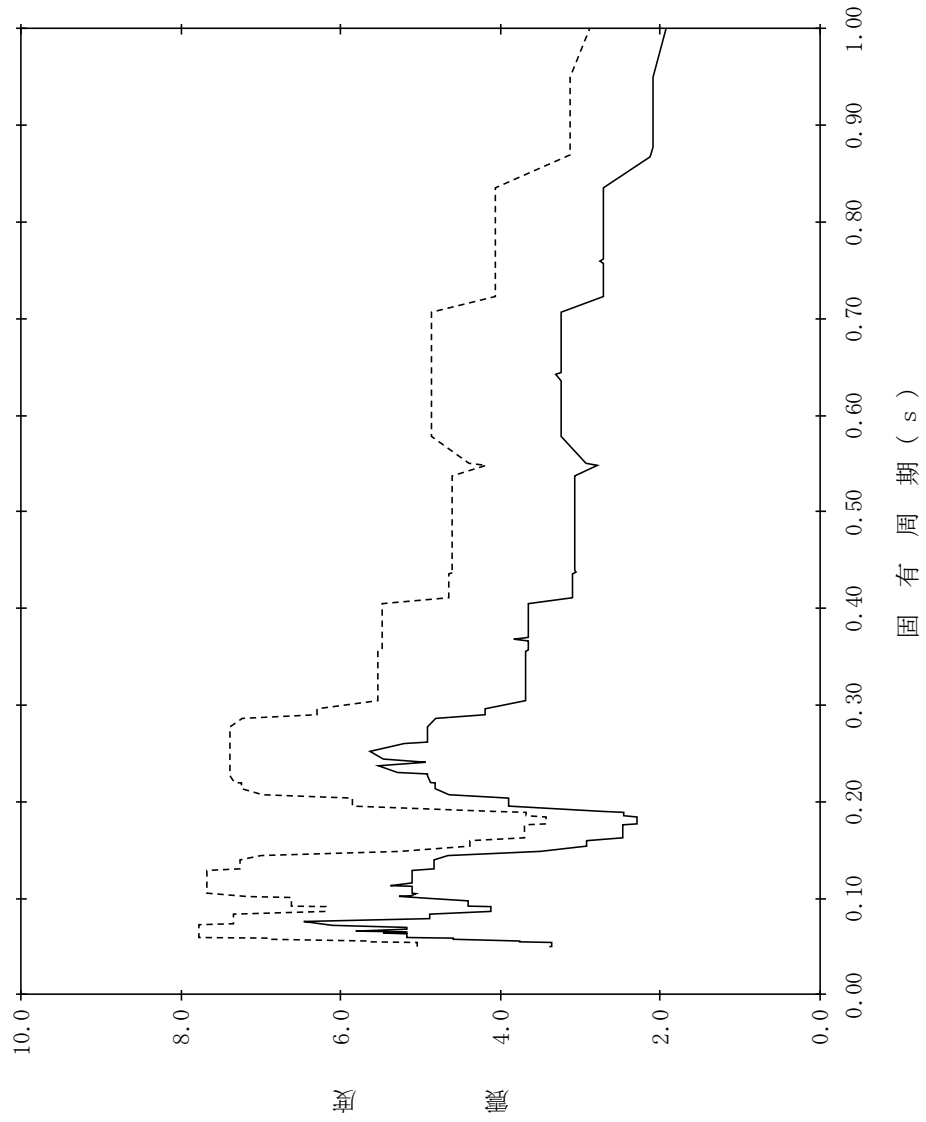
【NS2-PCV-SsNS-PCV80】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



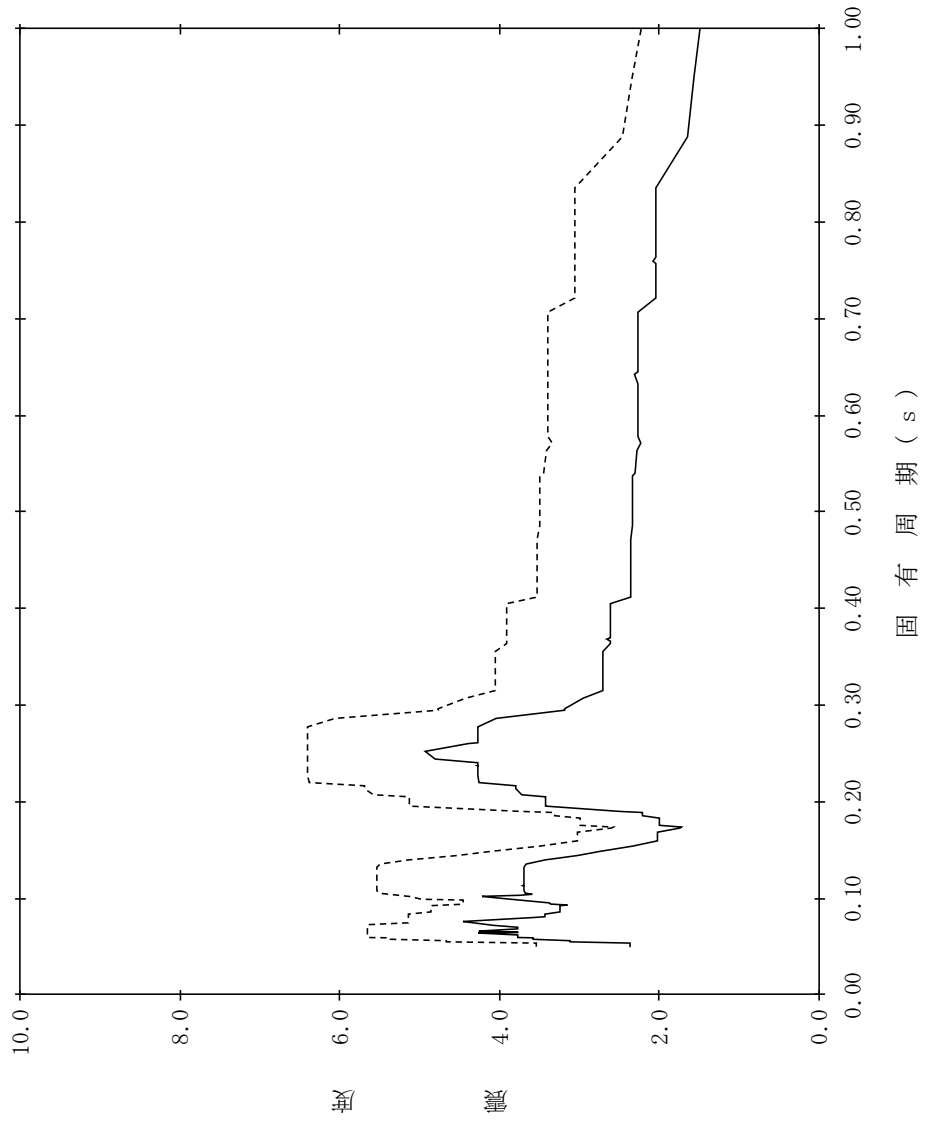
【NS2-PCV-SsNS-PCV81】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



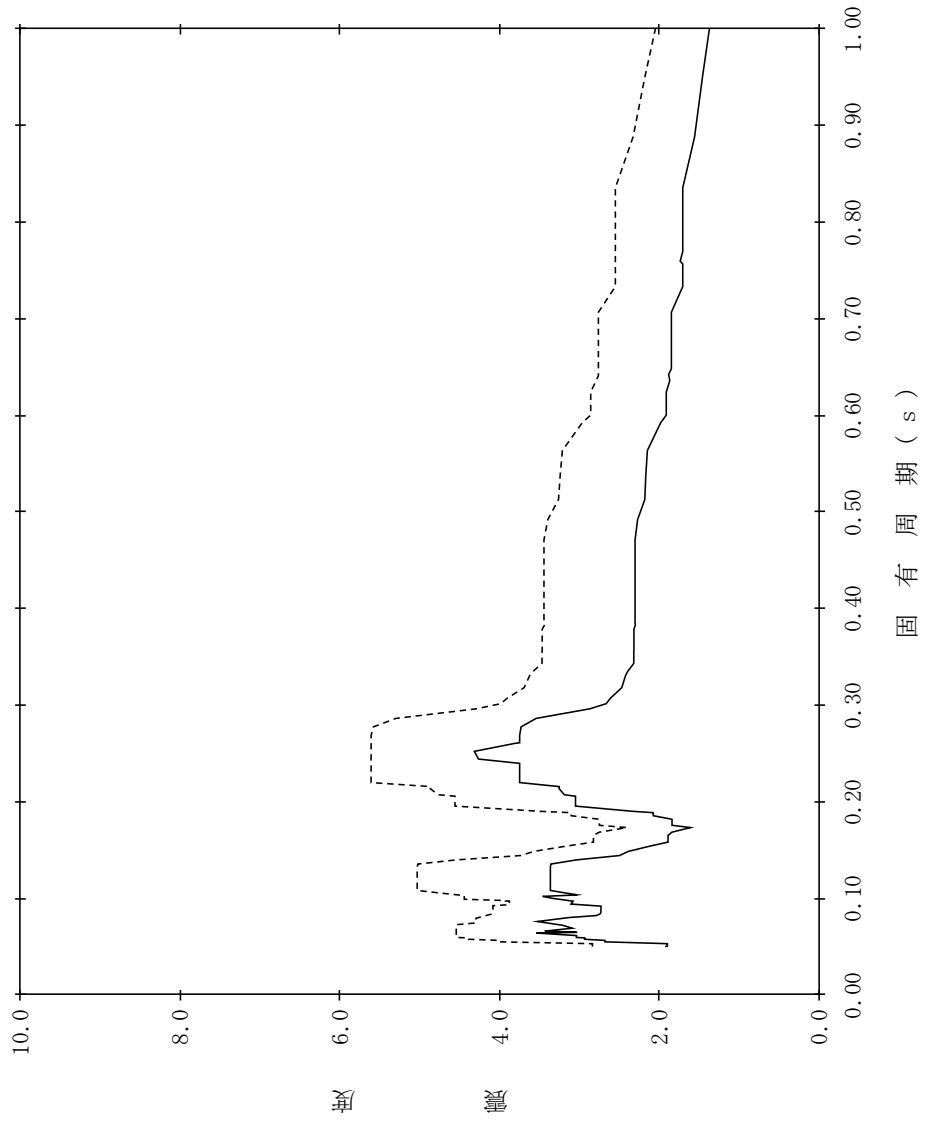
【NS2-PCV-SsNS-PCV82】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



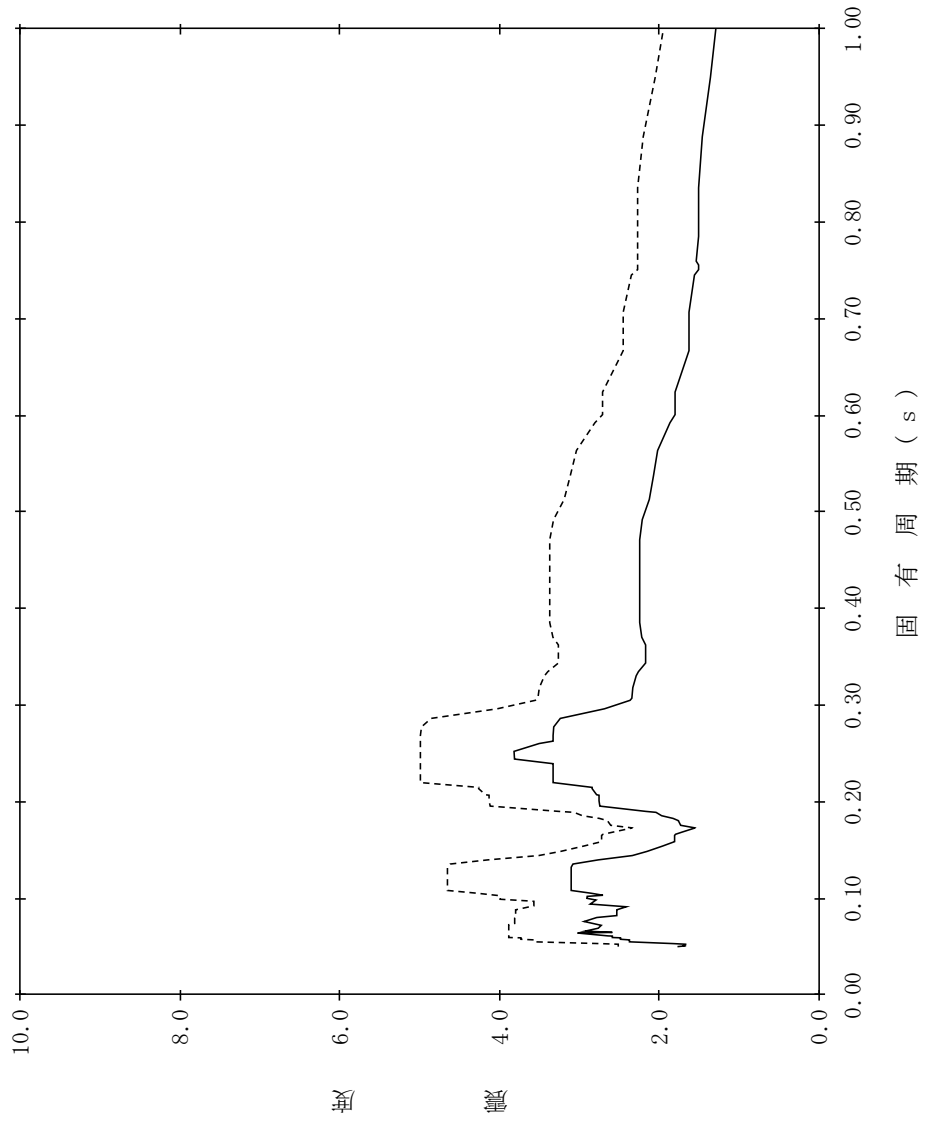
【NS2-PCV-SsNS-PCV83】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



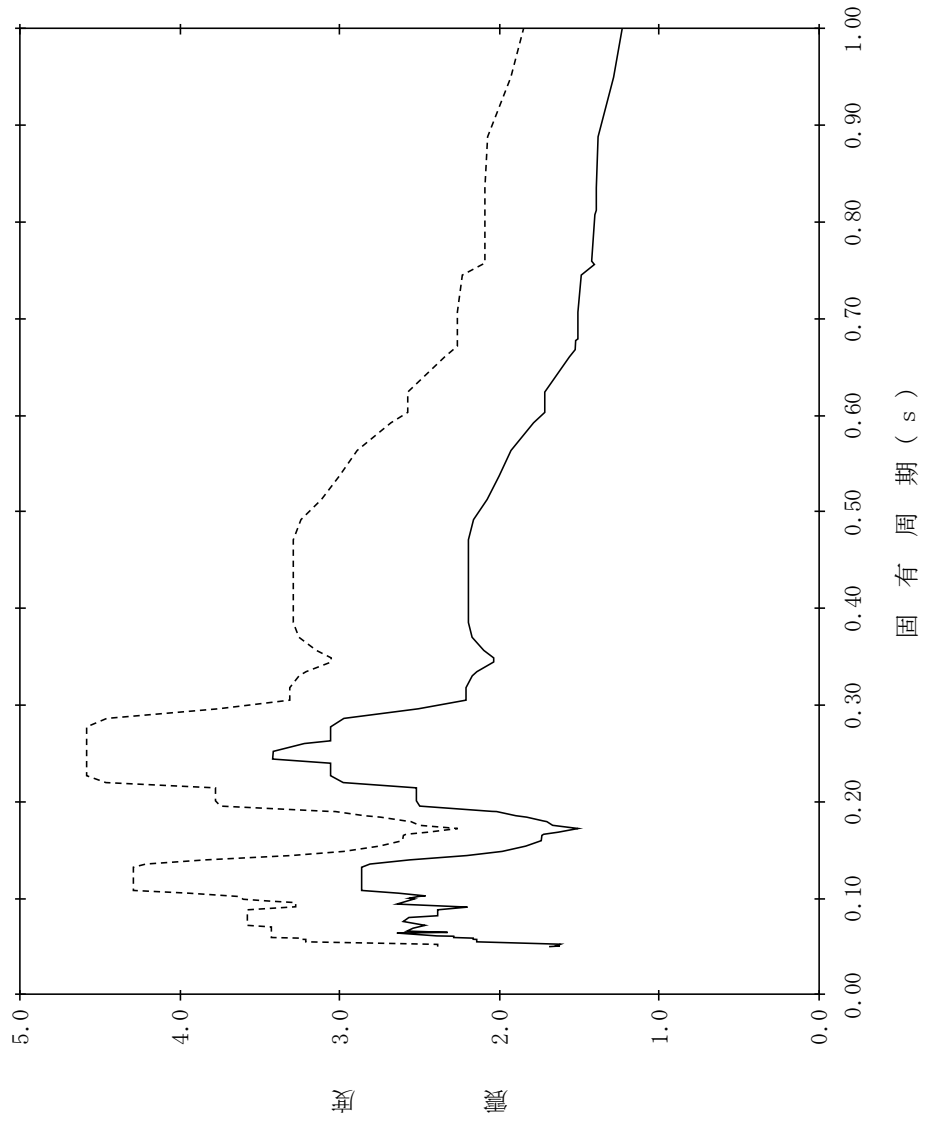
【NS2-PCV-SsNS-PCV84】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

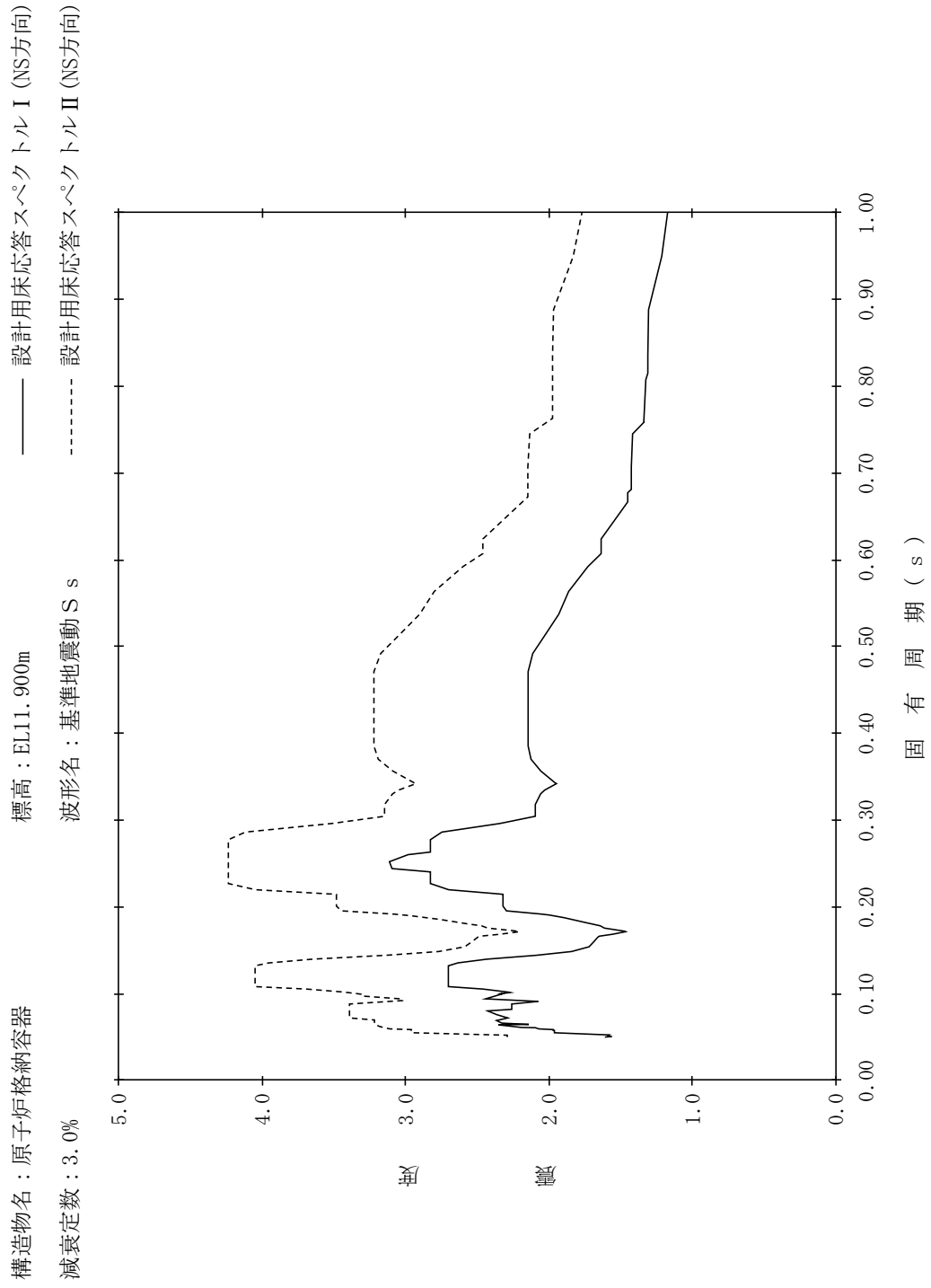


【NS2-PCV-SsNS-PCV85】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

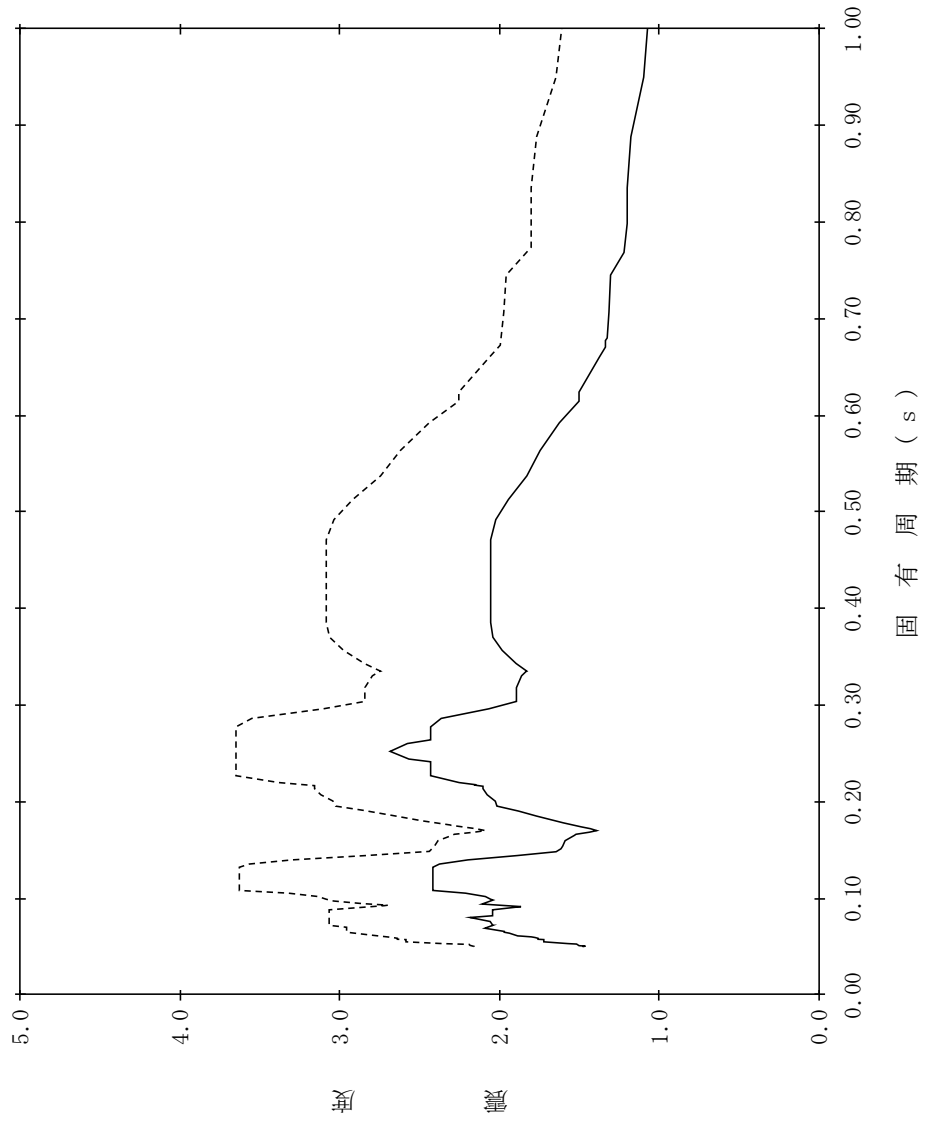


【NS2-PCV-SsNS-PCV86】



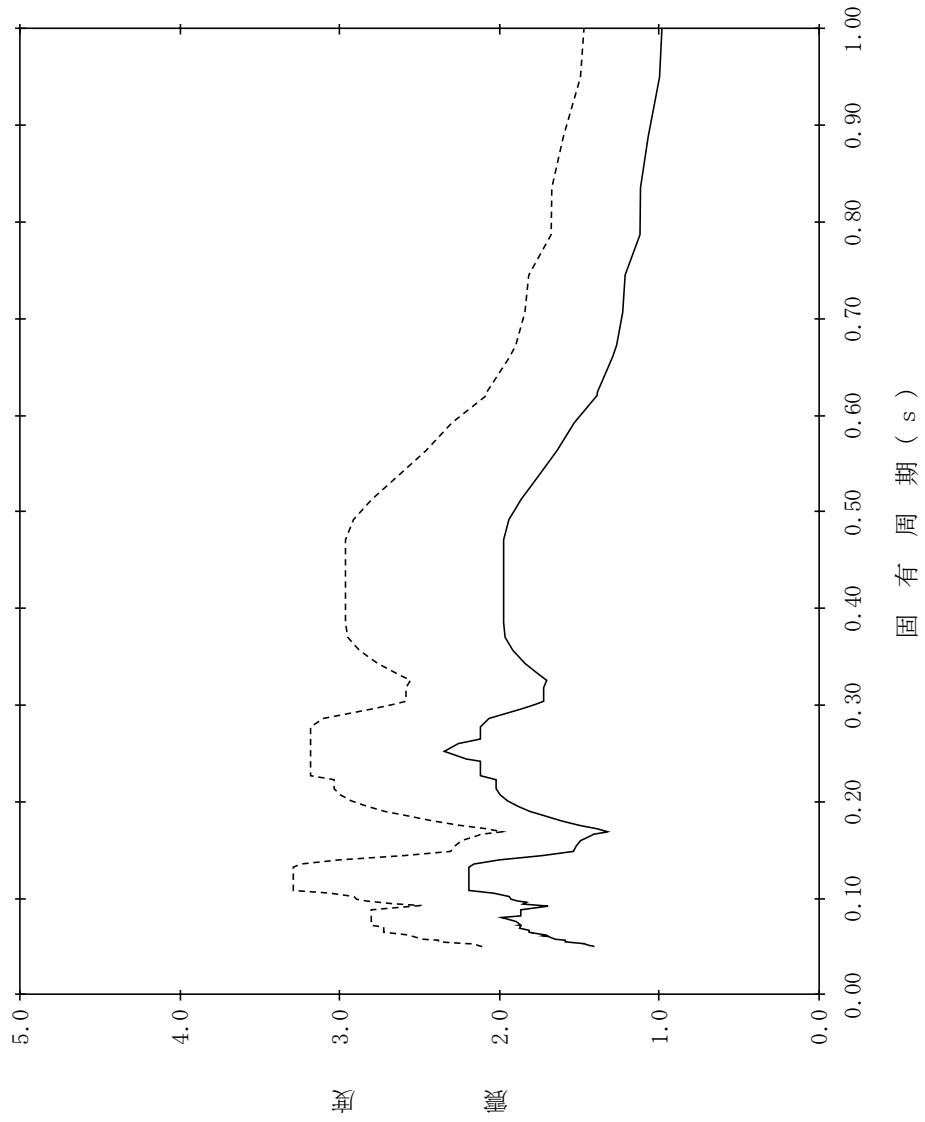
【NS2-PCV-SsNS-PCV87】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



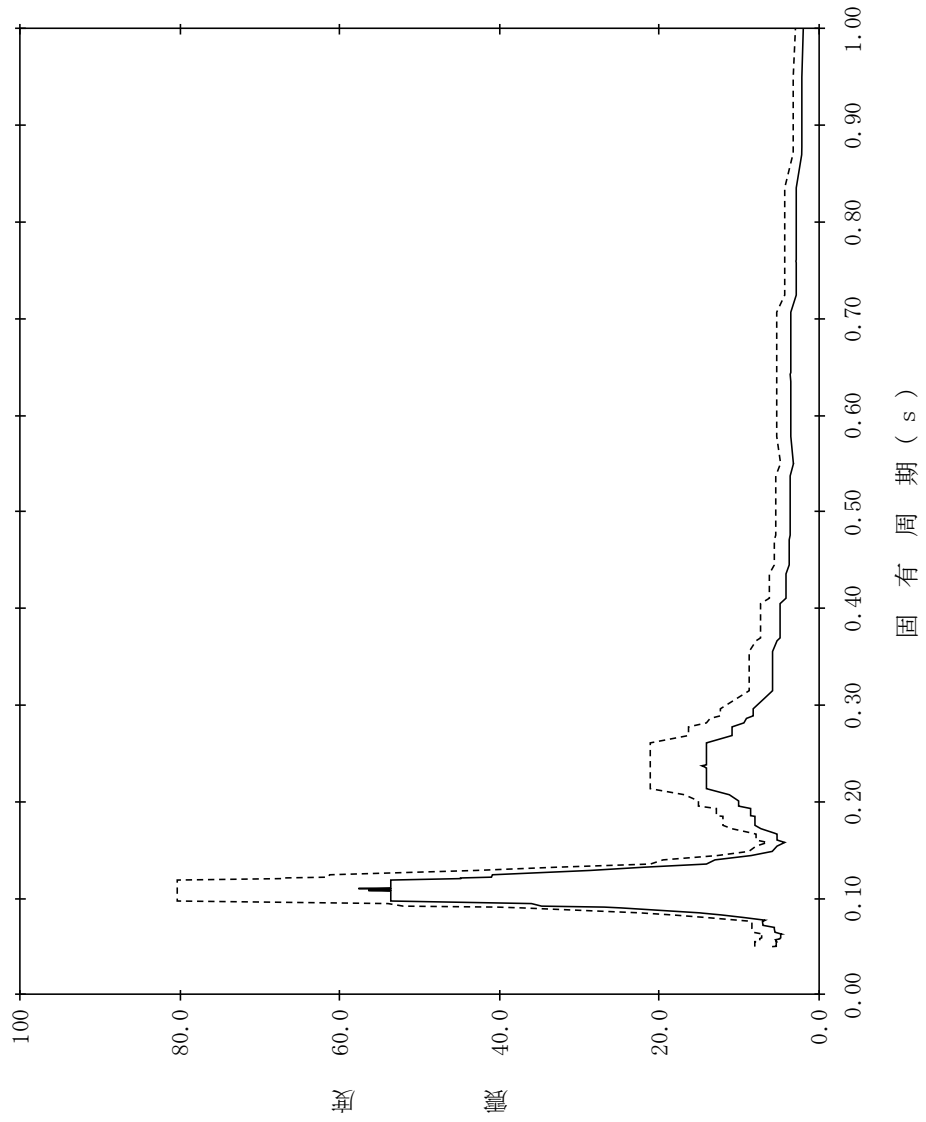
【NS2-PCV-SsNS-PCV88】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



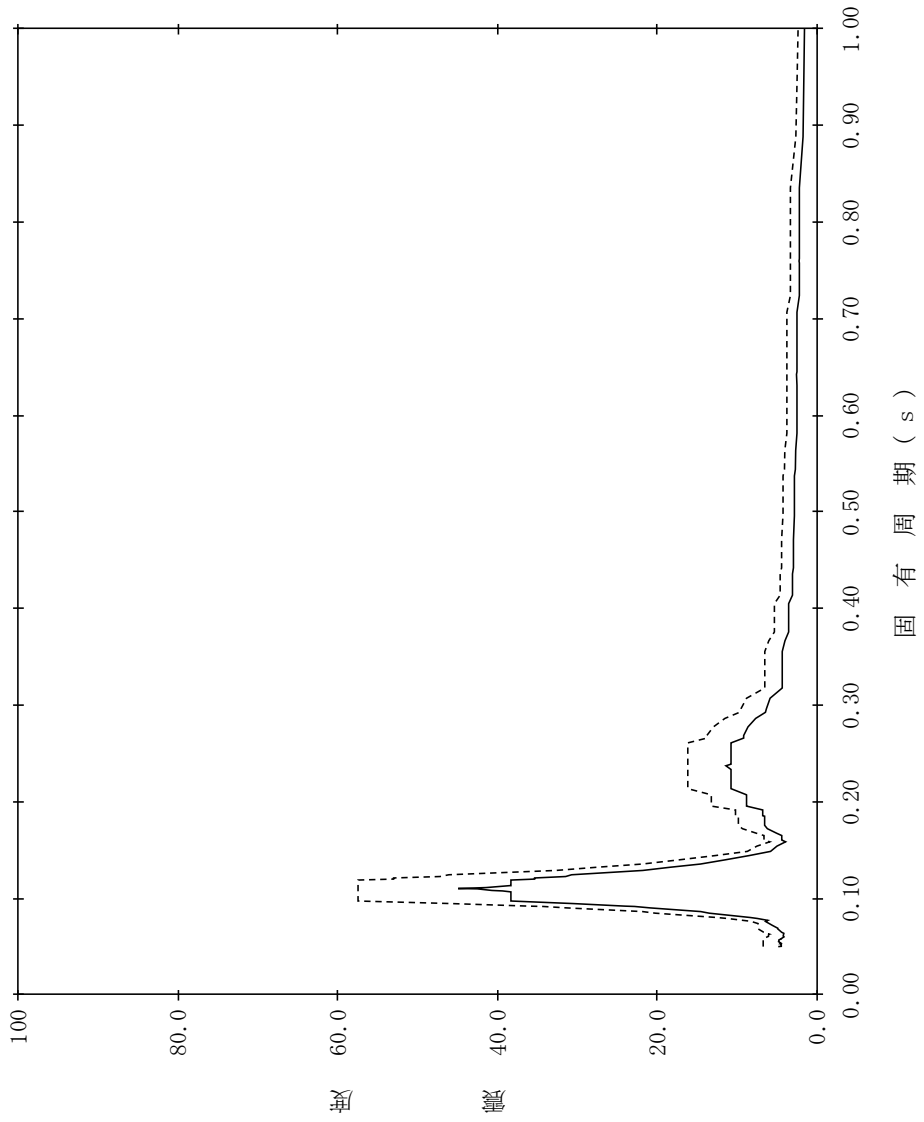
【NS2-PCV-SsNS-GSW89】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



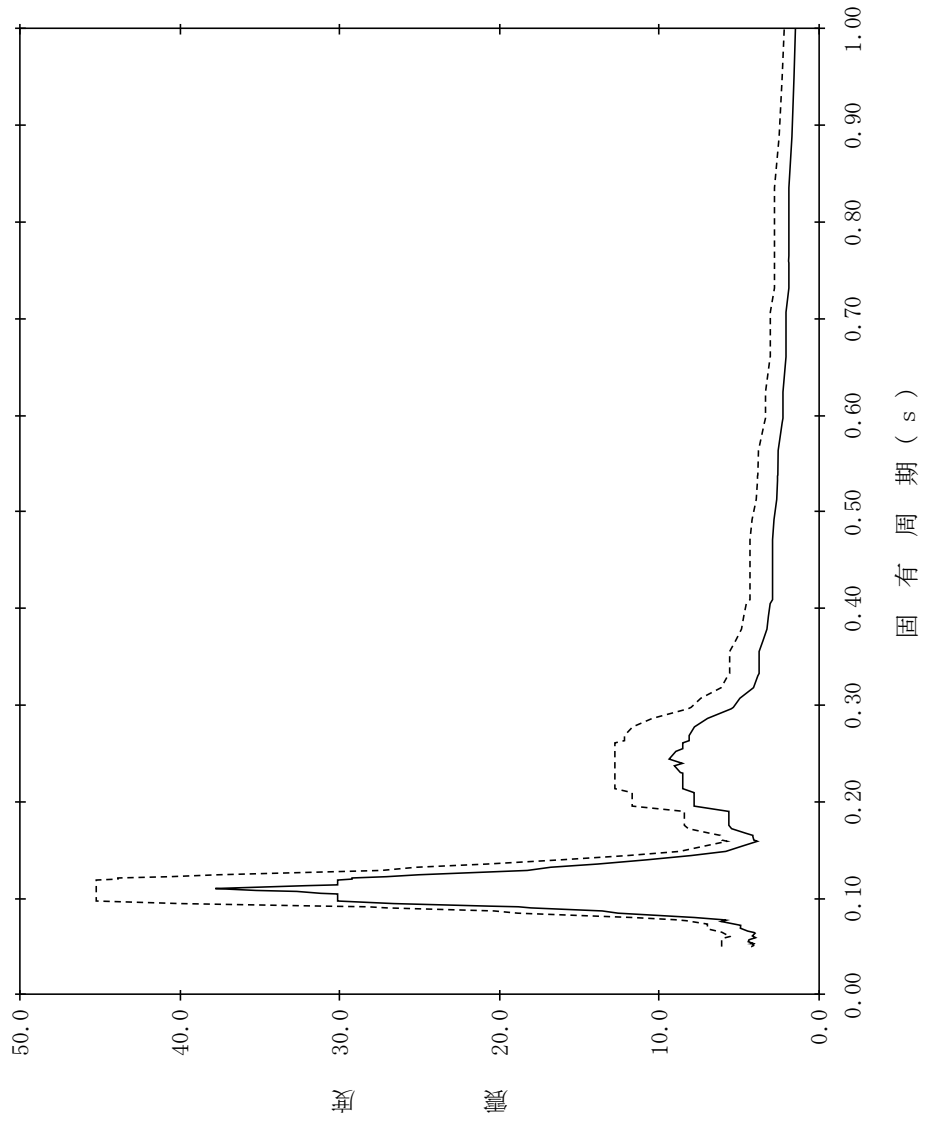
【NS2-PCV-SsNS-GSW90】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



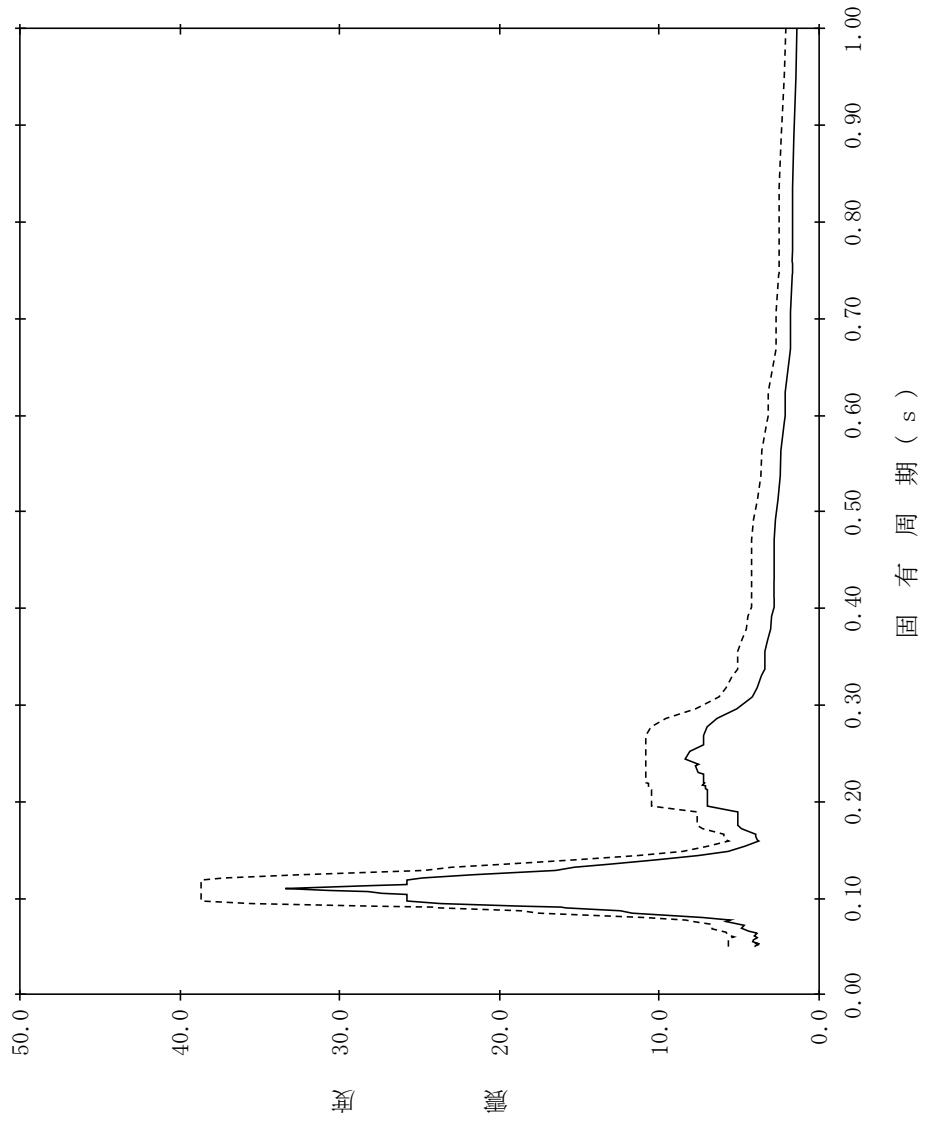
【NS2-PCV-SsNS-GSW91】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL29.962m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



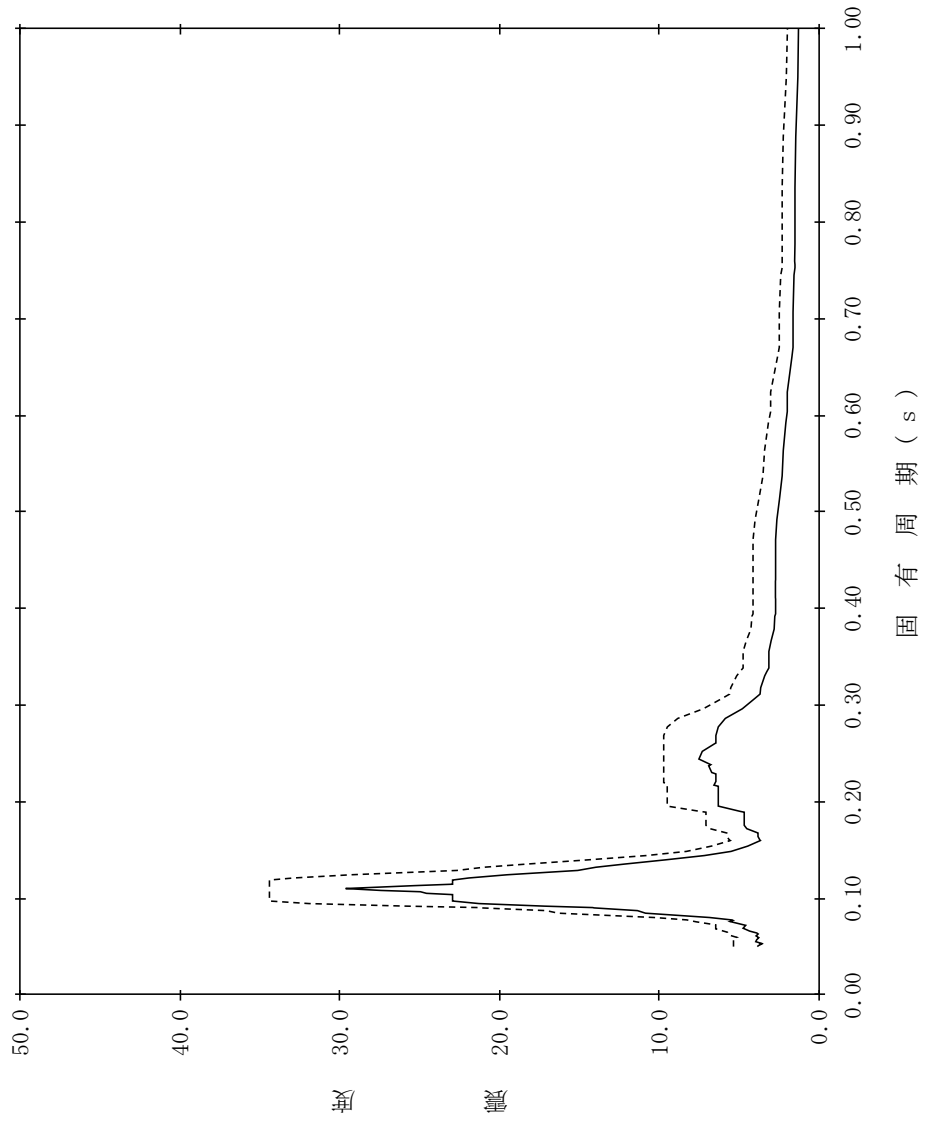
【NS2-PCV-SsNS-GSW92】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL29.962m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



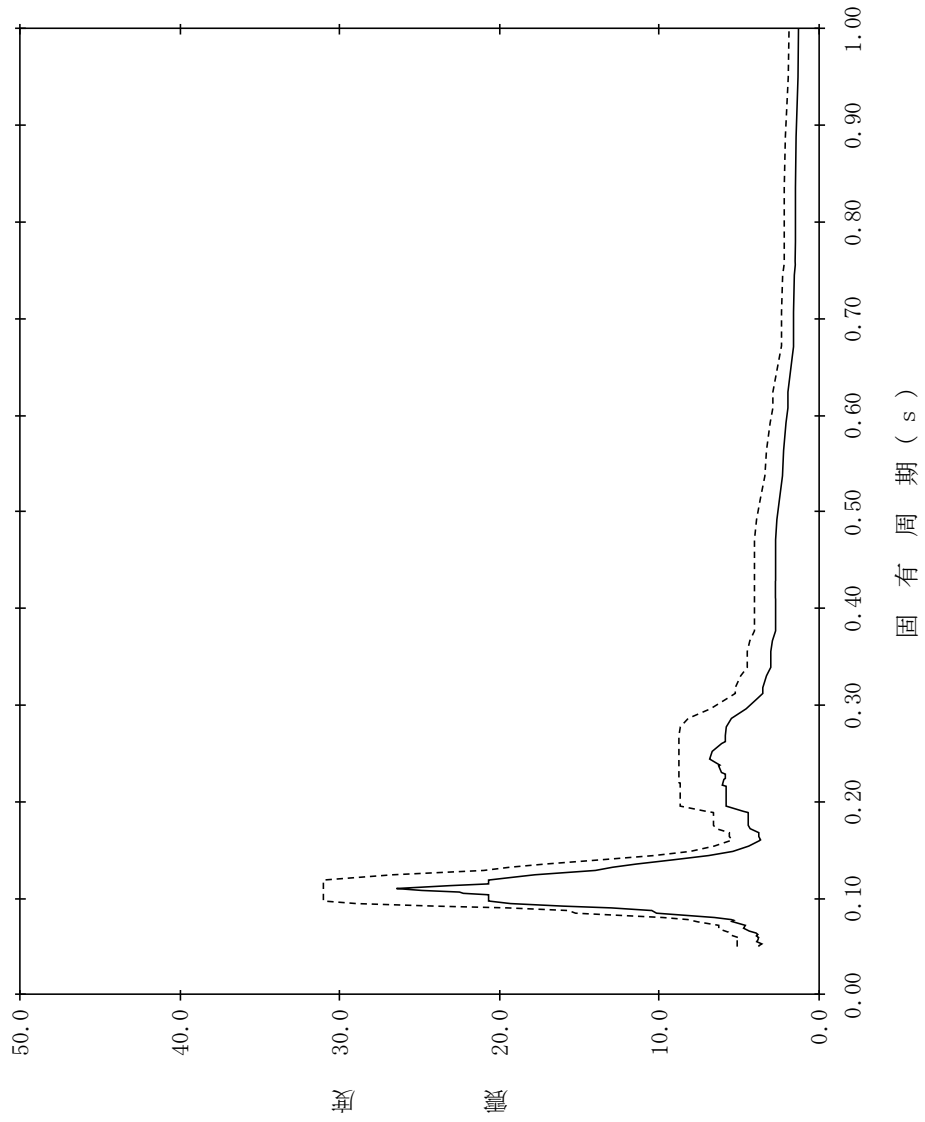
【NS2-PCV-SsNS-GSW93】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL29.962m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



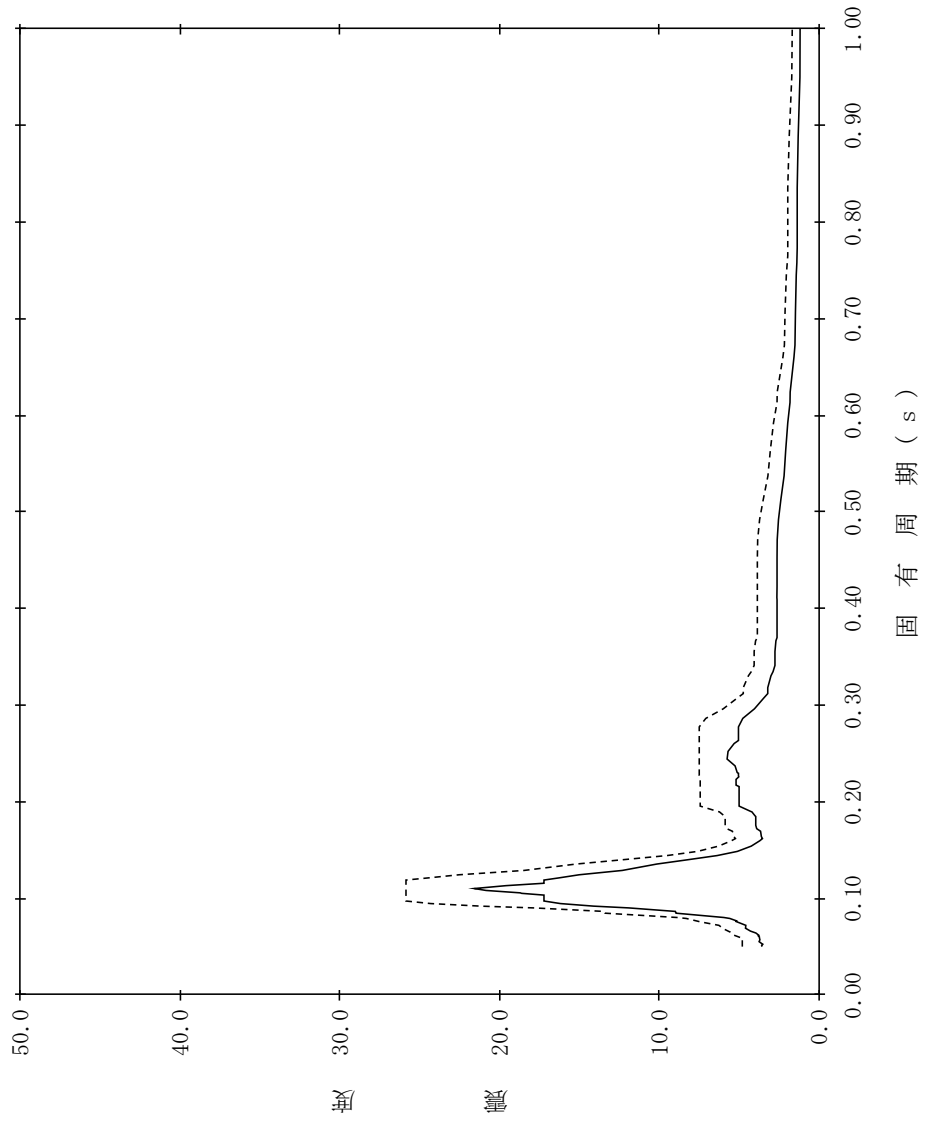
【NS2-PCV-SsNS-GSW94】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



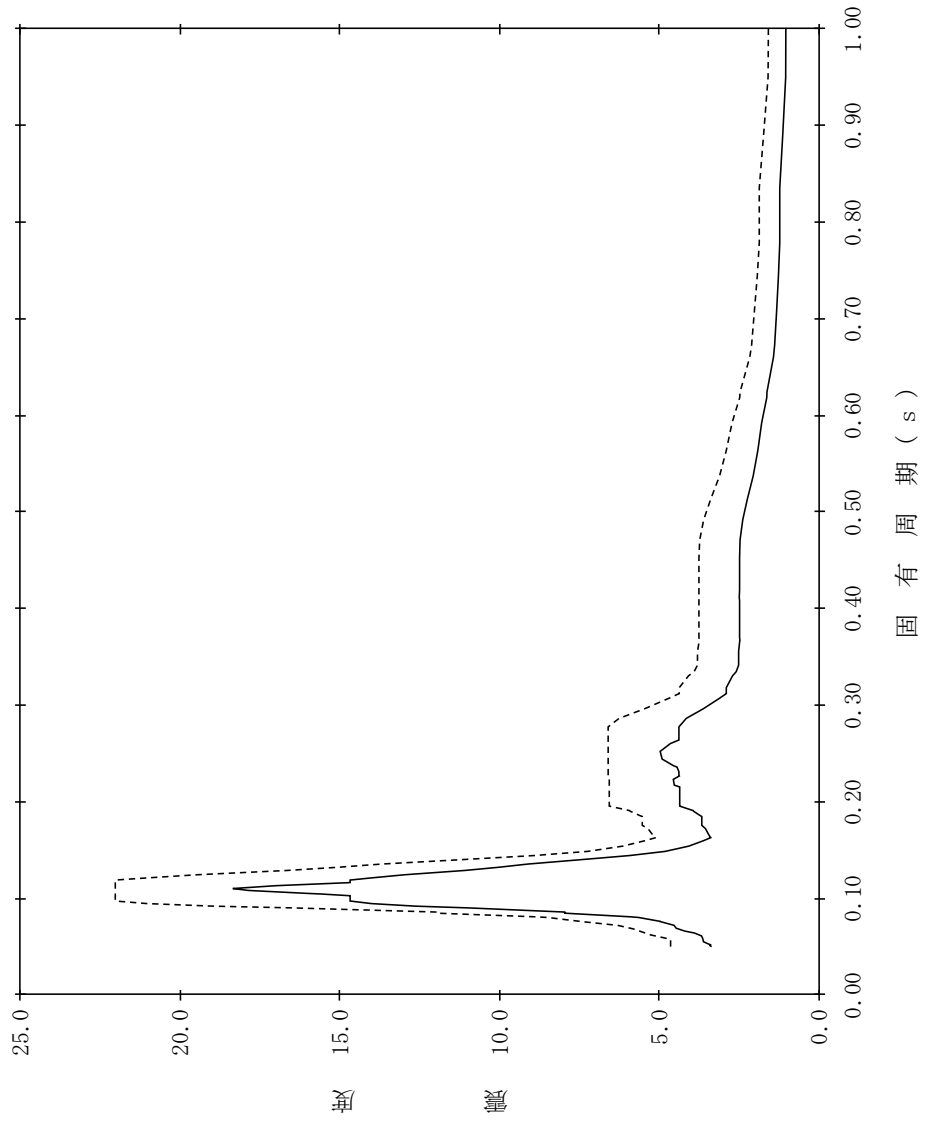
【NS2-PCV-SsNS-GSW95】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

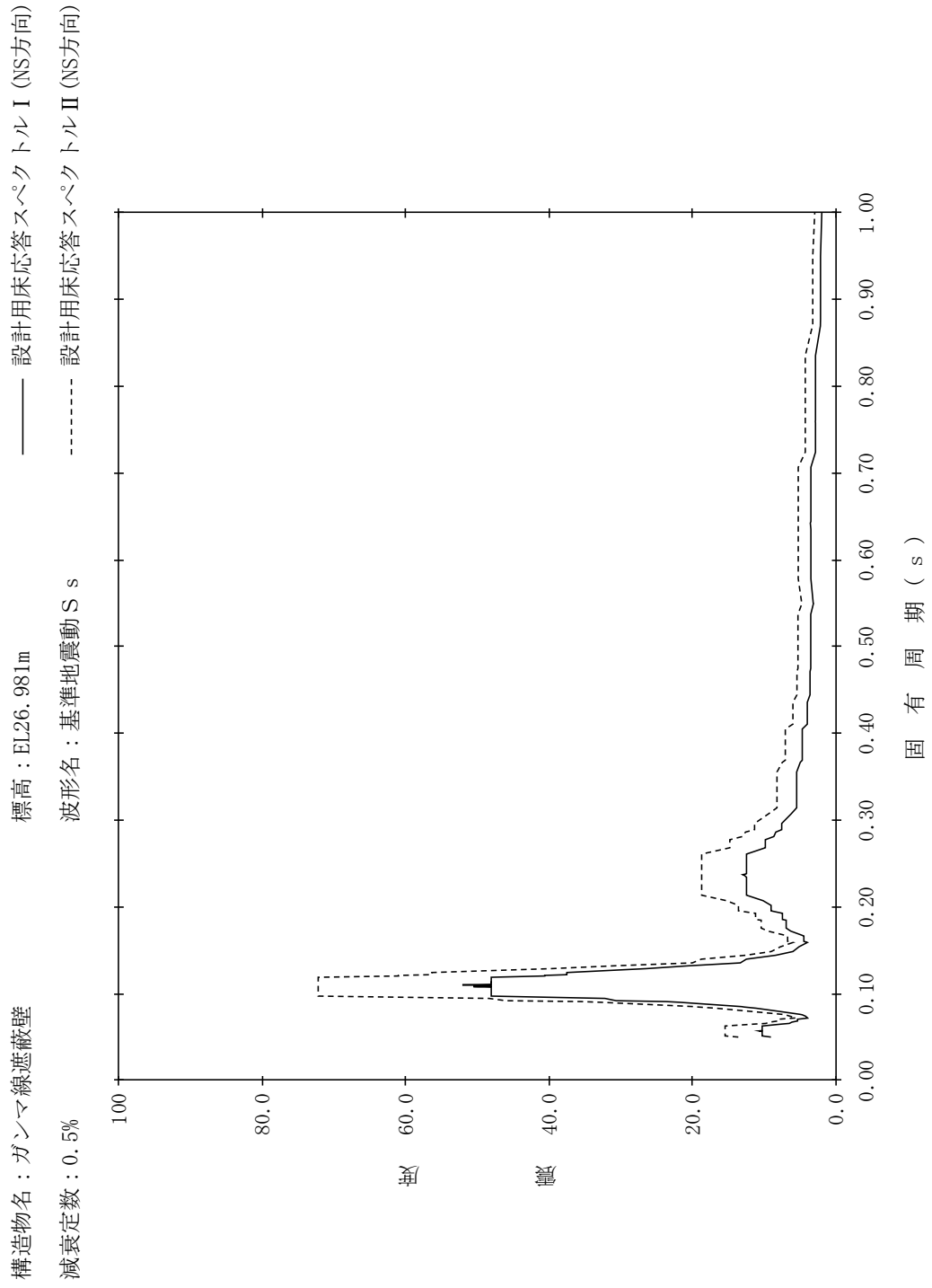


【NS2-PCV-SsNS-GSW96】

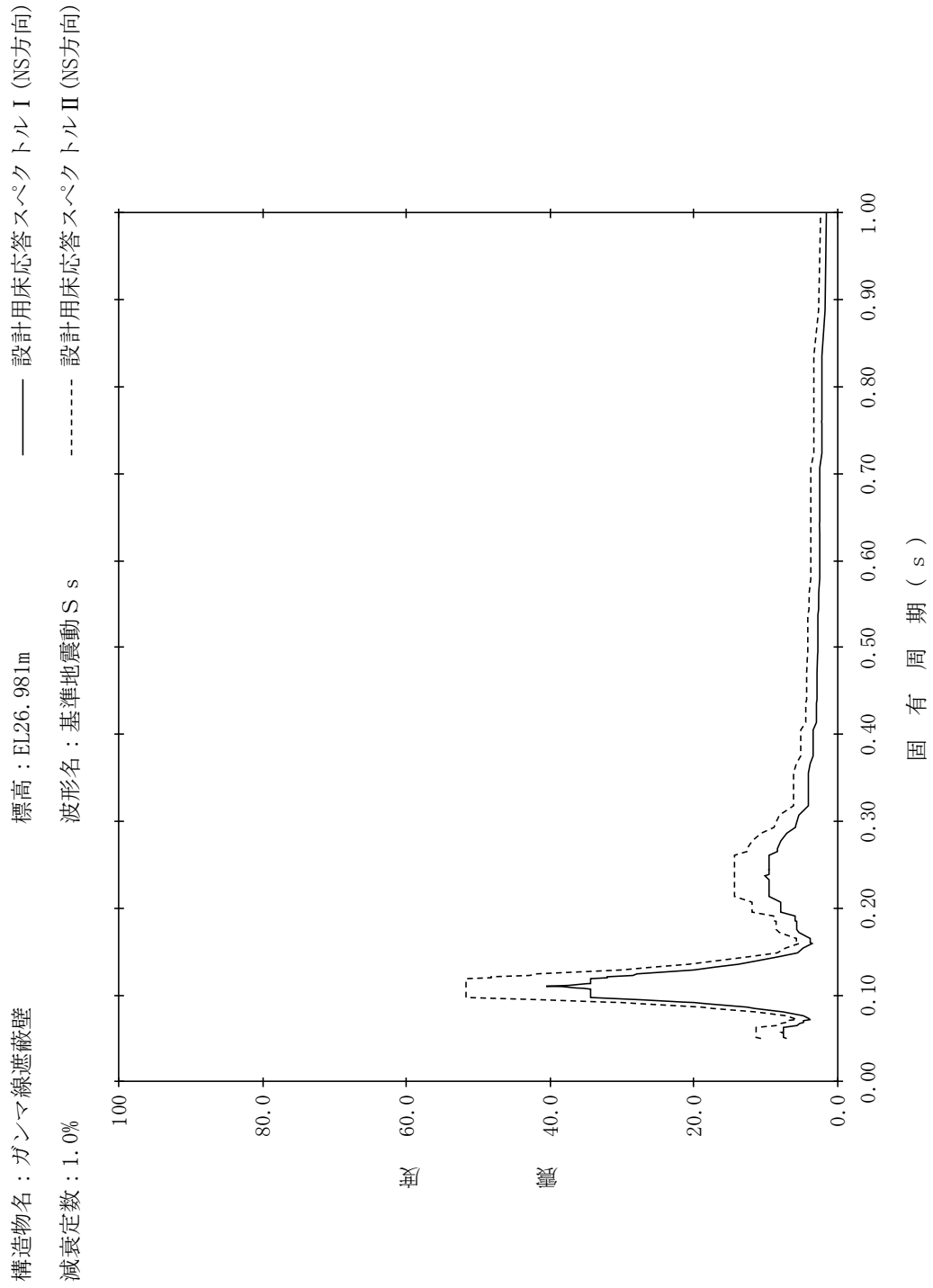
構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



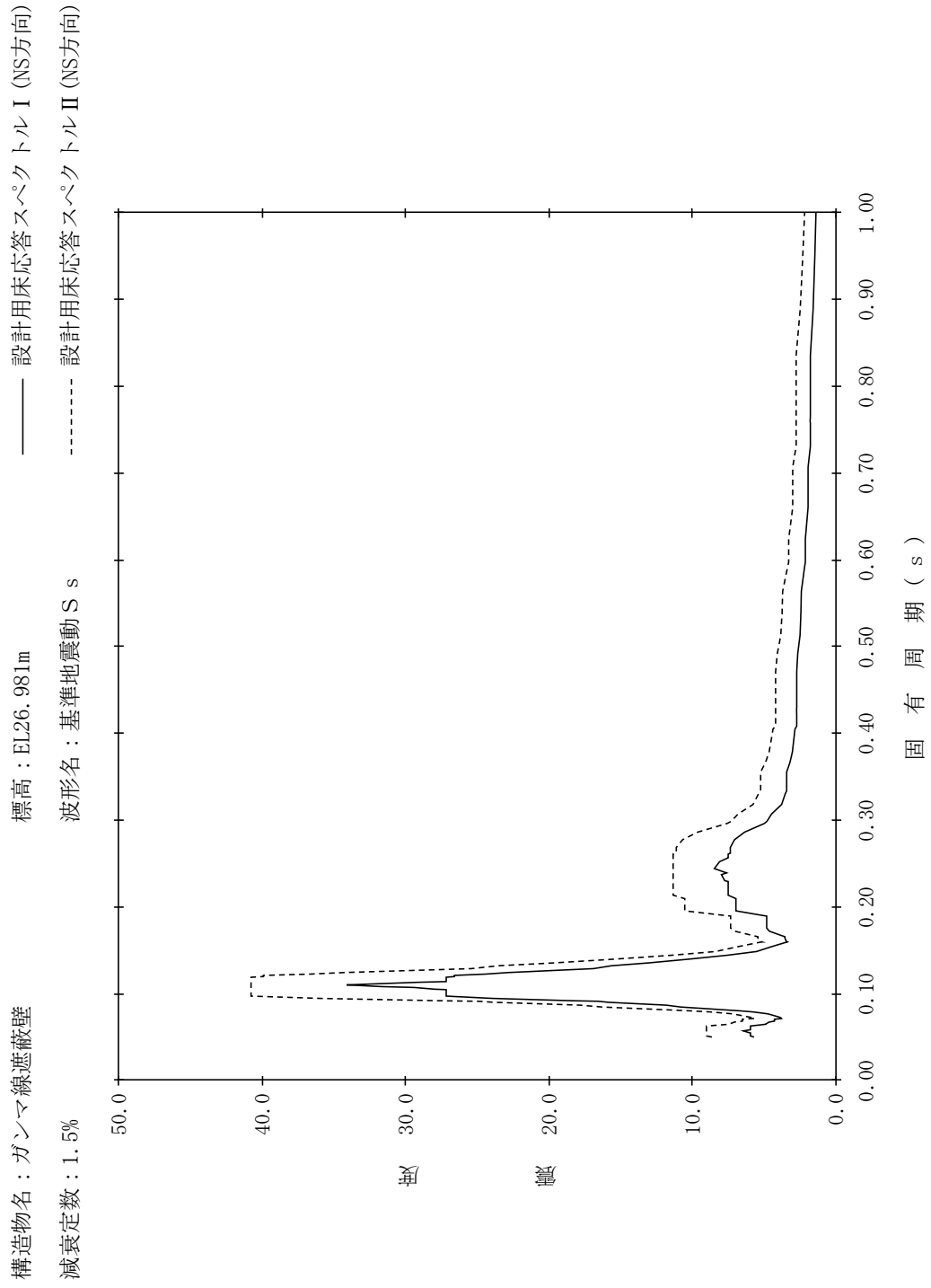
【NS2-PCV-SsNS-GSW97】



【NS2-PCV-SsNS-GSW98】

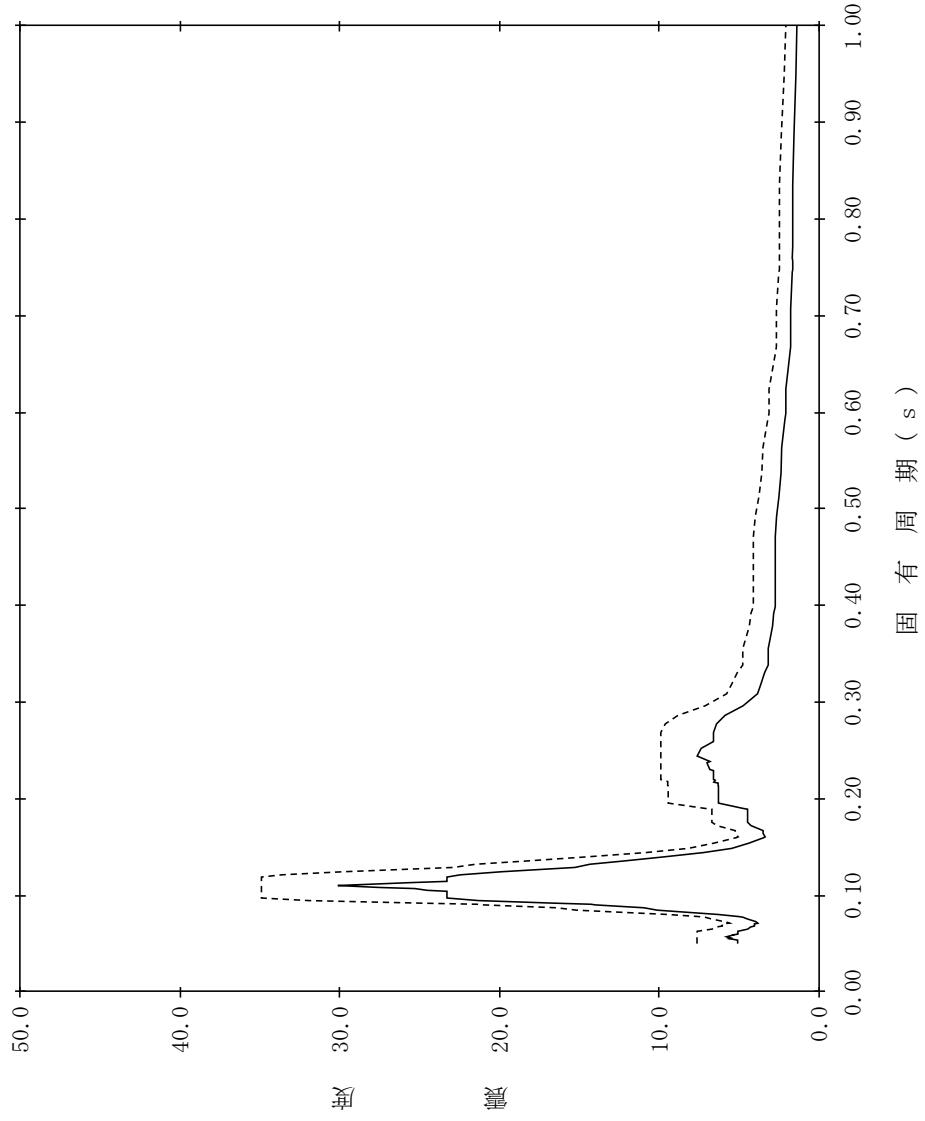


【NS2-PCV-SsNS-GSW99】



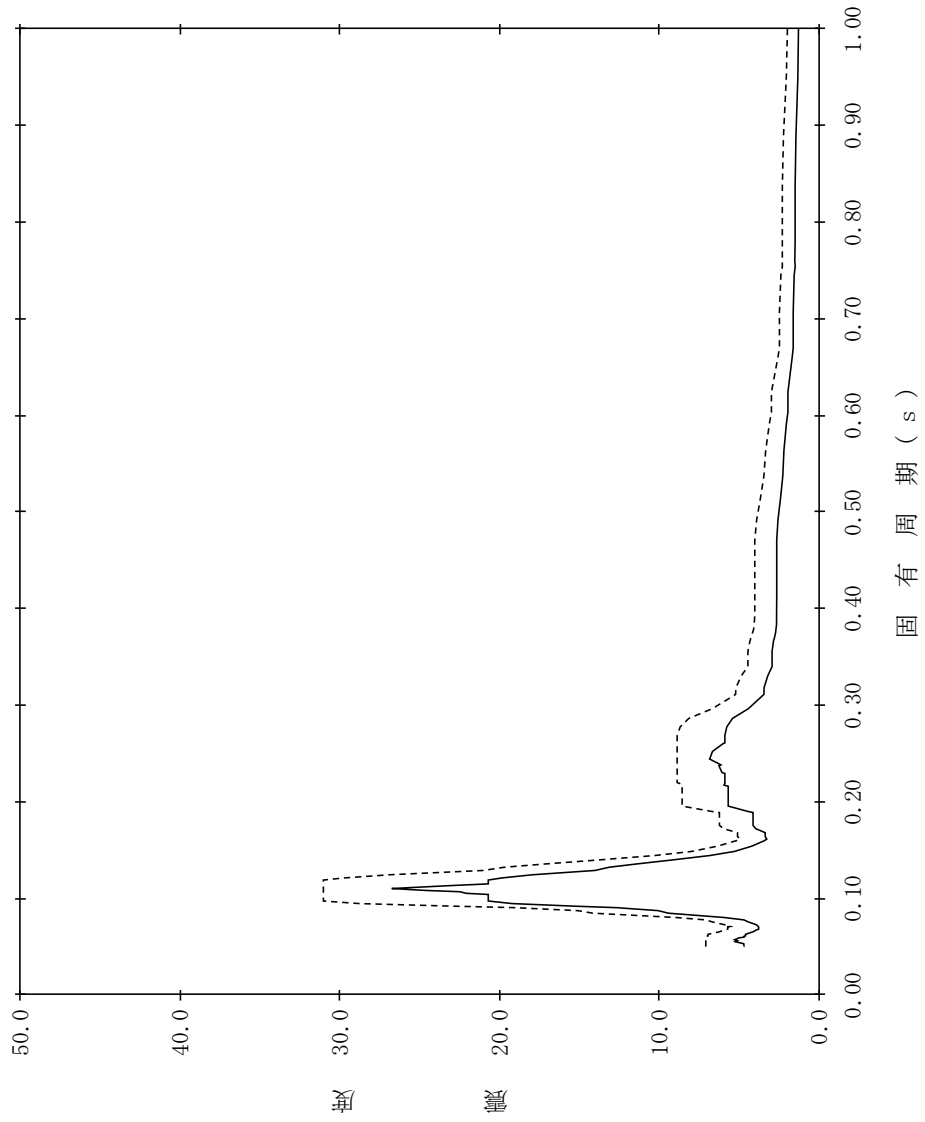
【NS2-PCV-SsNS-GSW100】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



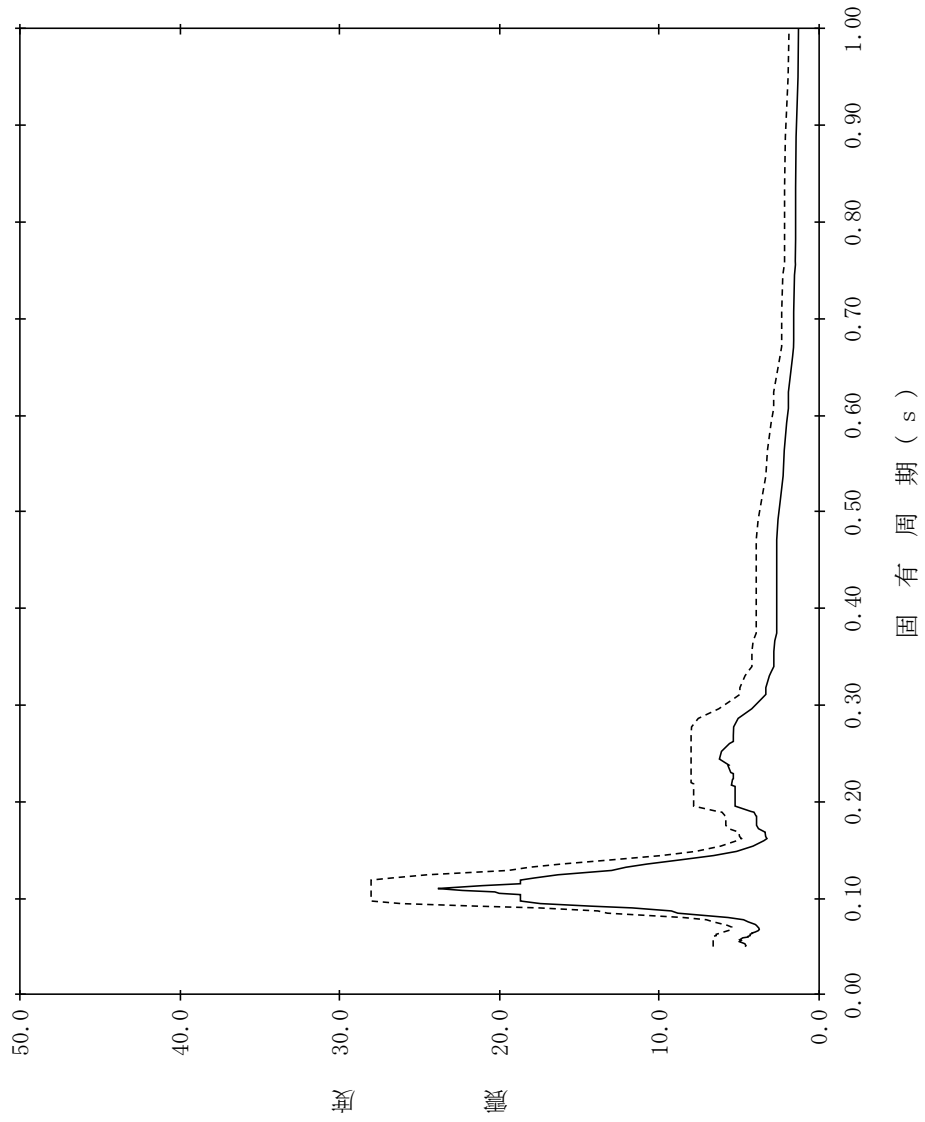
【NS2-PCV-SsNS-GSW101】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL26.981m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



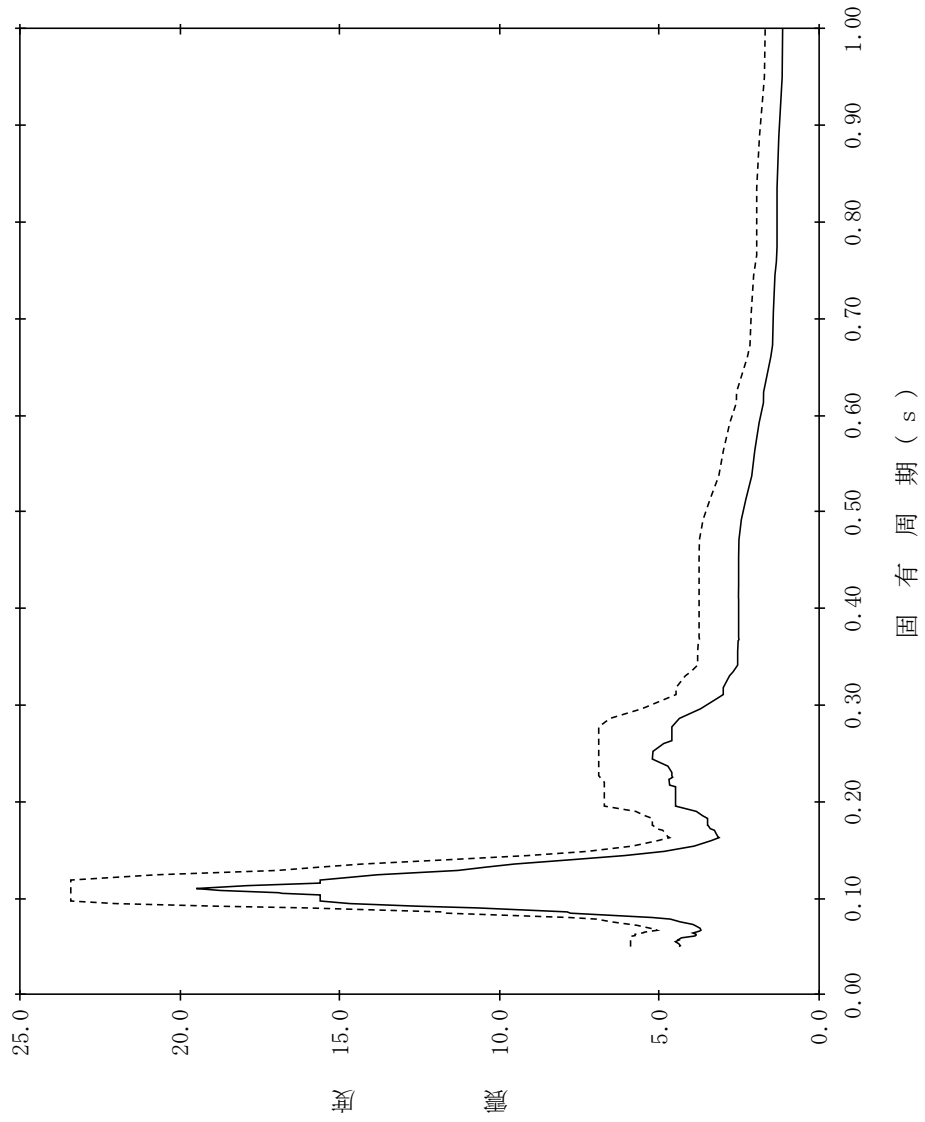
【NS2-PCV-SsNS-GSW102】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



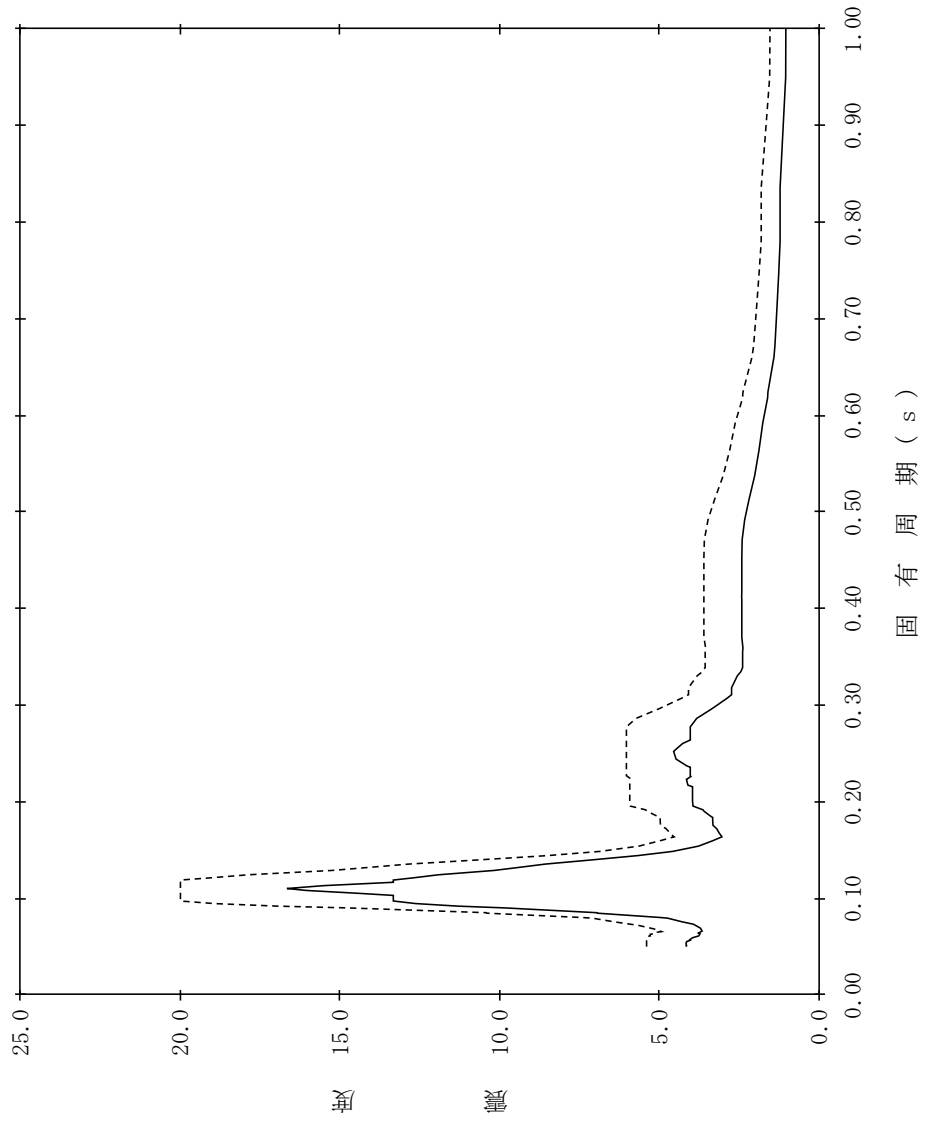
【NS2-PCV-SsNS-GSW103】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



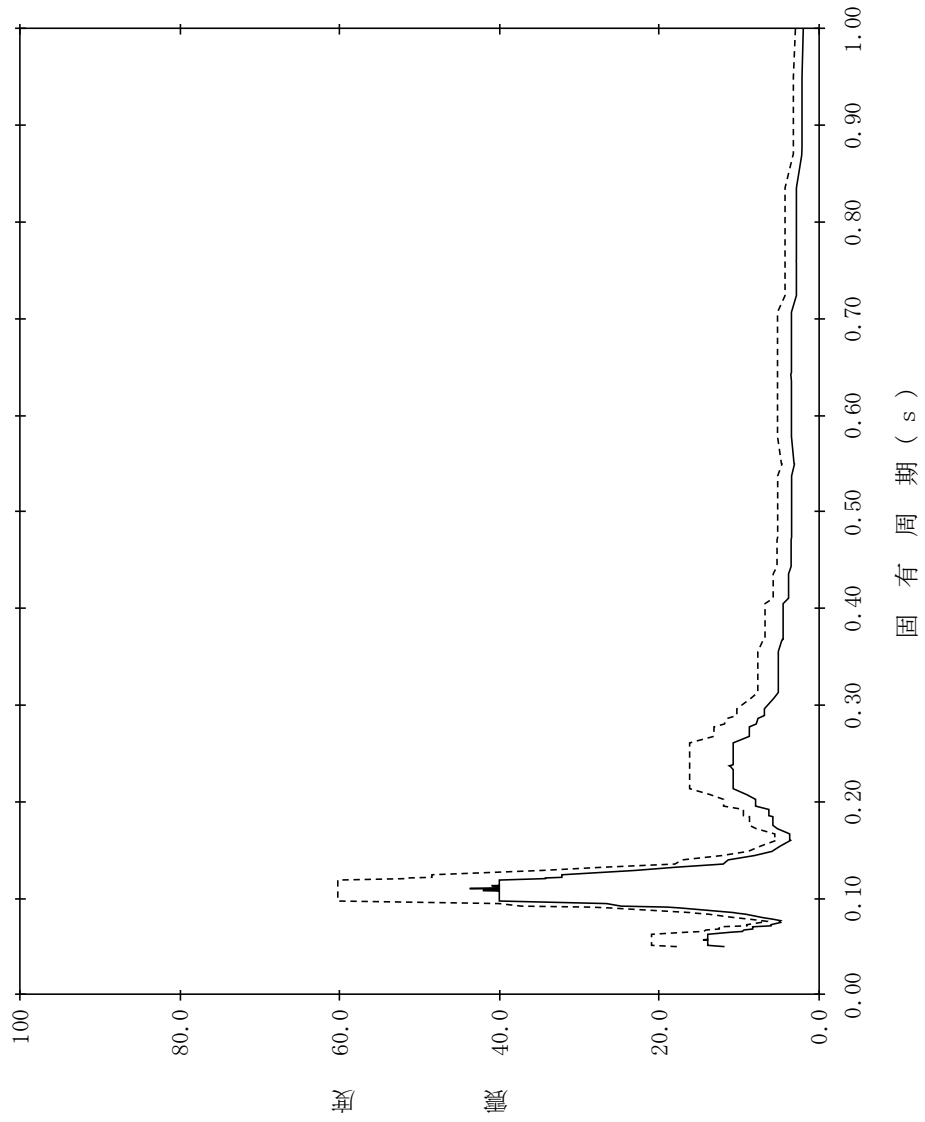
【NS2-PCV-SsNS-GSW104】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



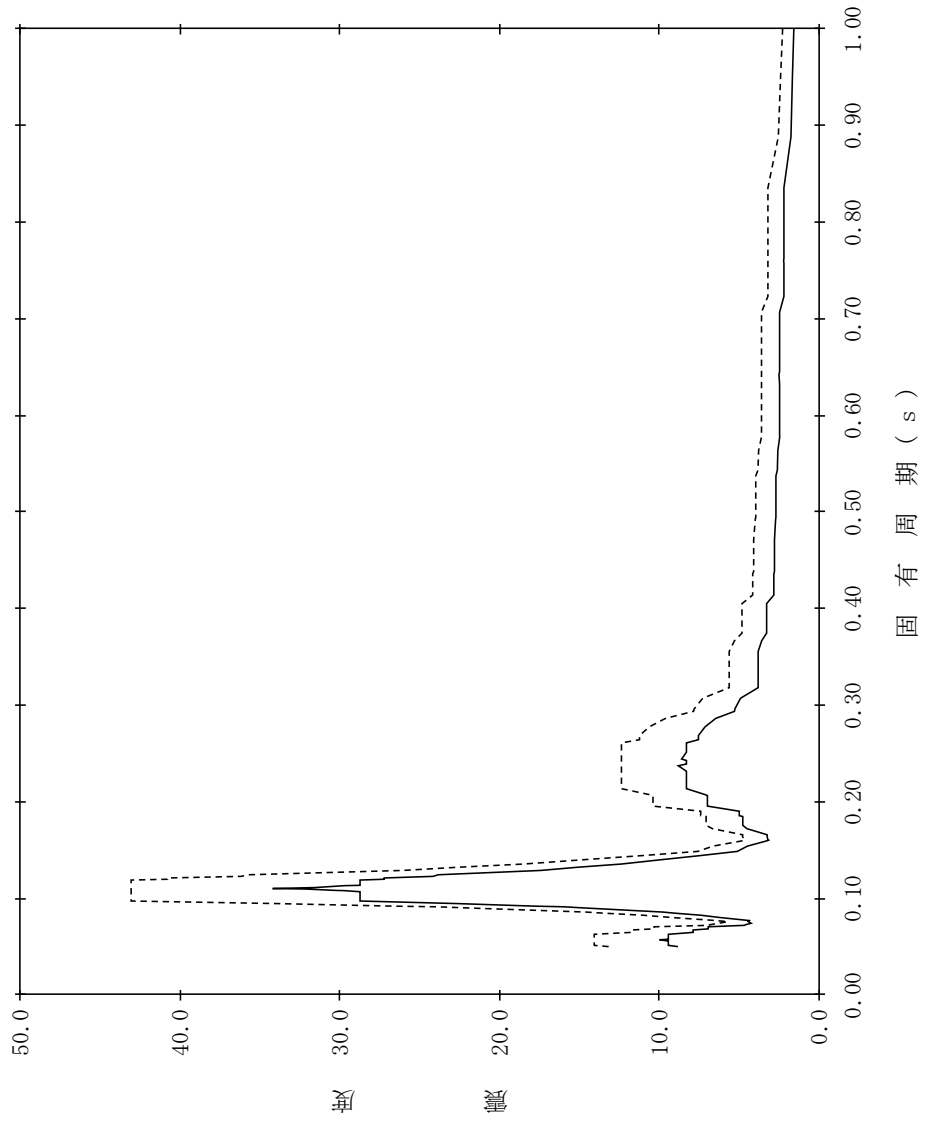
【NS2-PCV-SsNS-GSW105】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

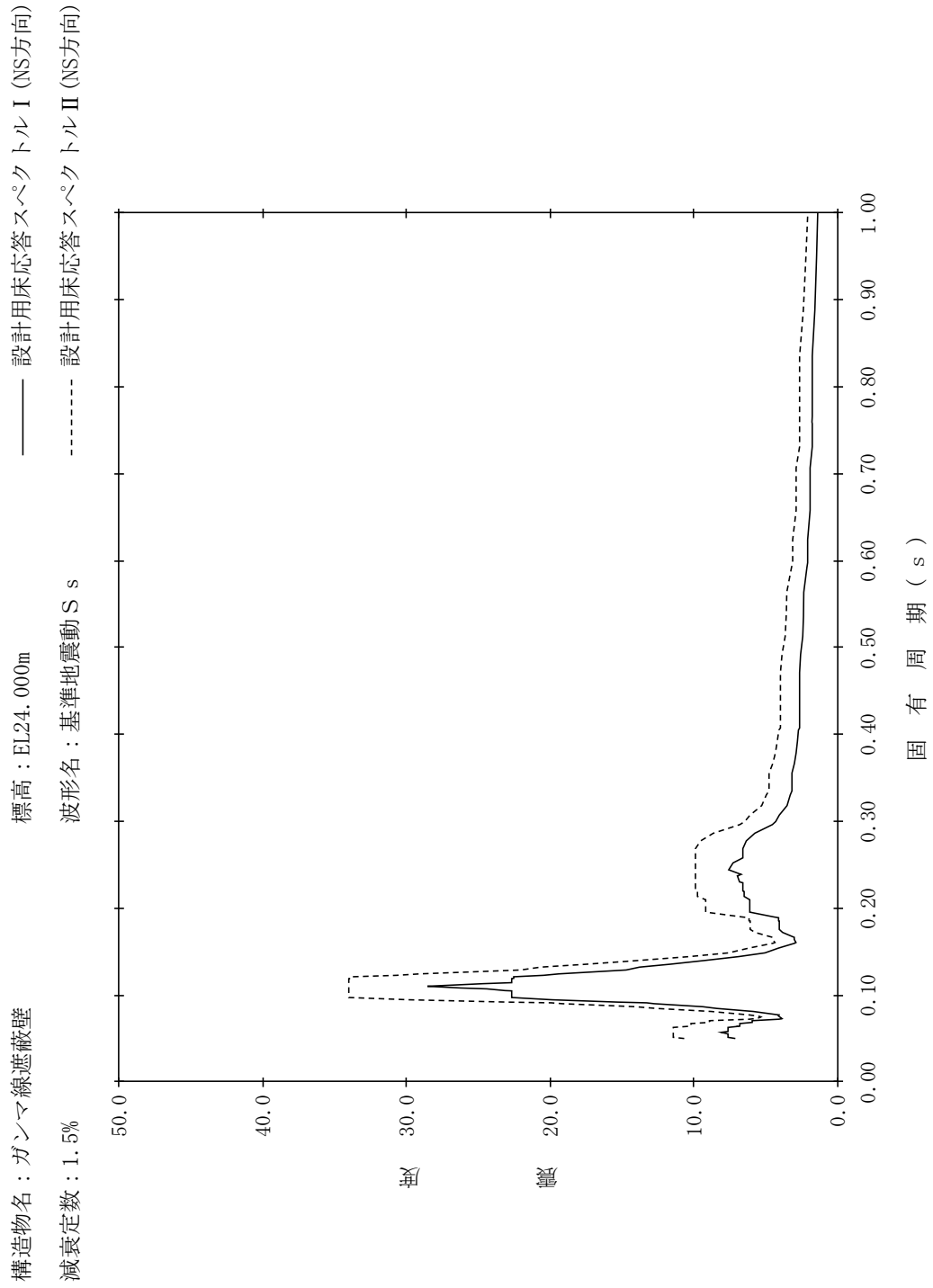


【NS2-PCV-SsNS-GSW106】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

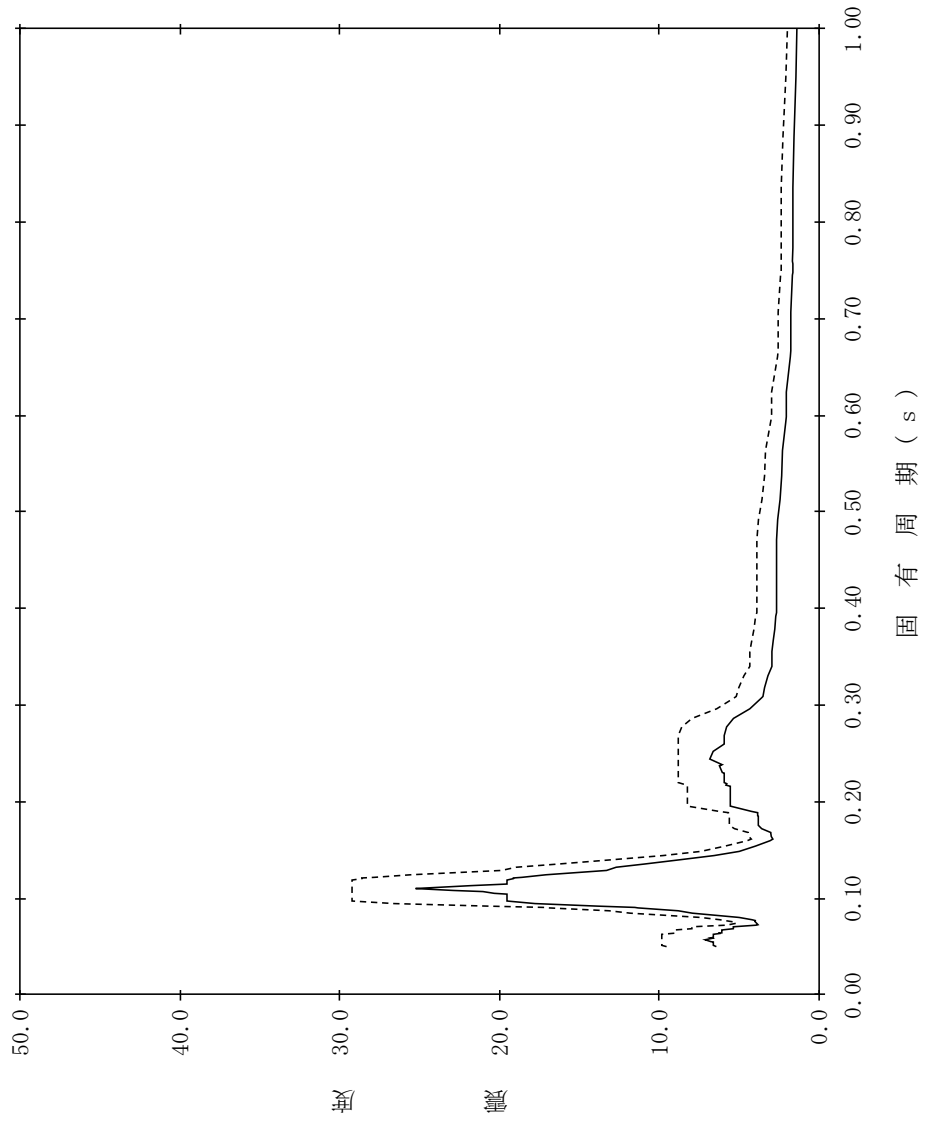


【NS2-PCV-SsNS-GSW107】



【NS2-PCV-SsNS-GSW108】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

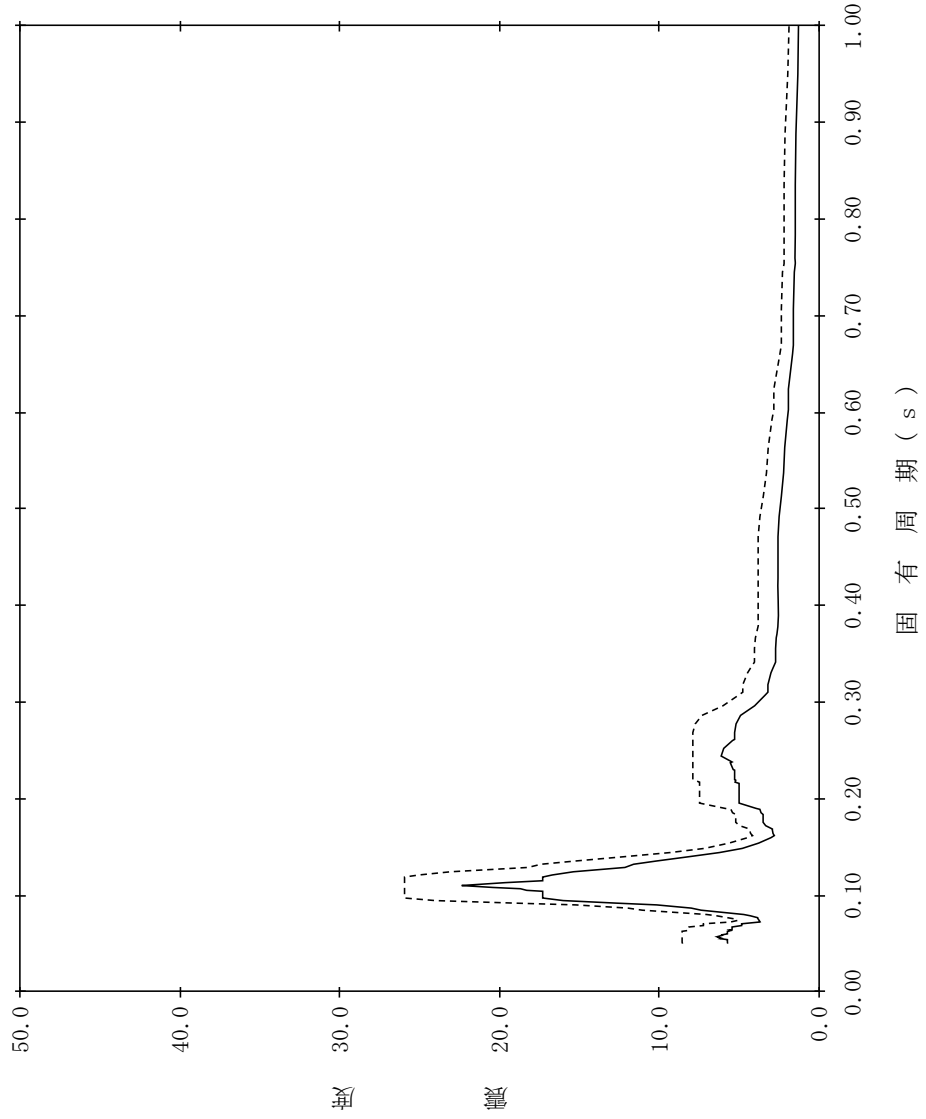


【NS2-PCV-SsNS-GSW109】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s

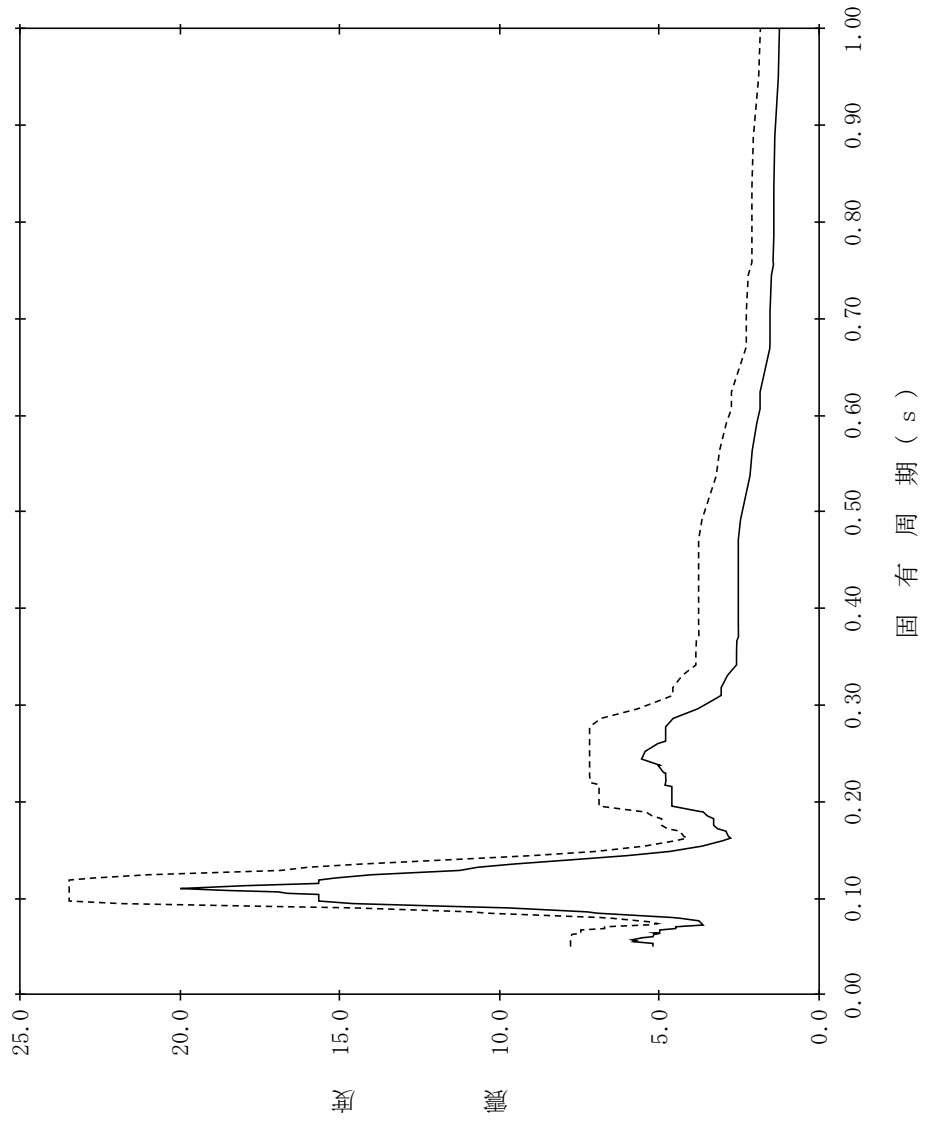
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)

----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



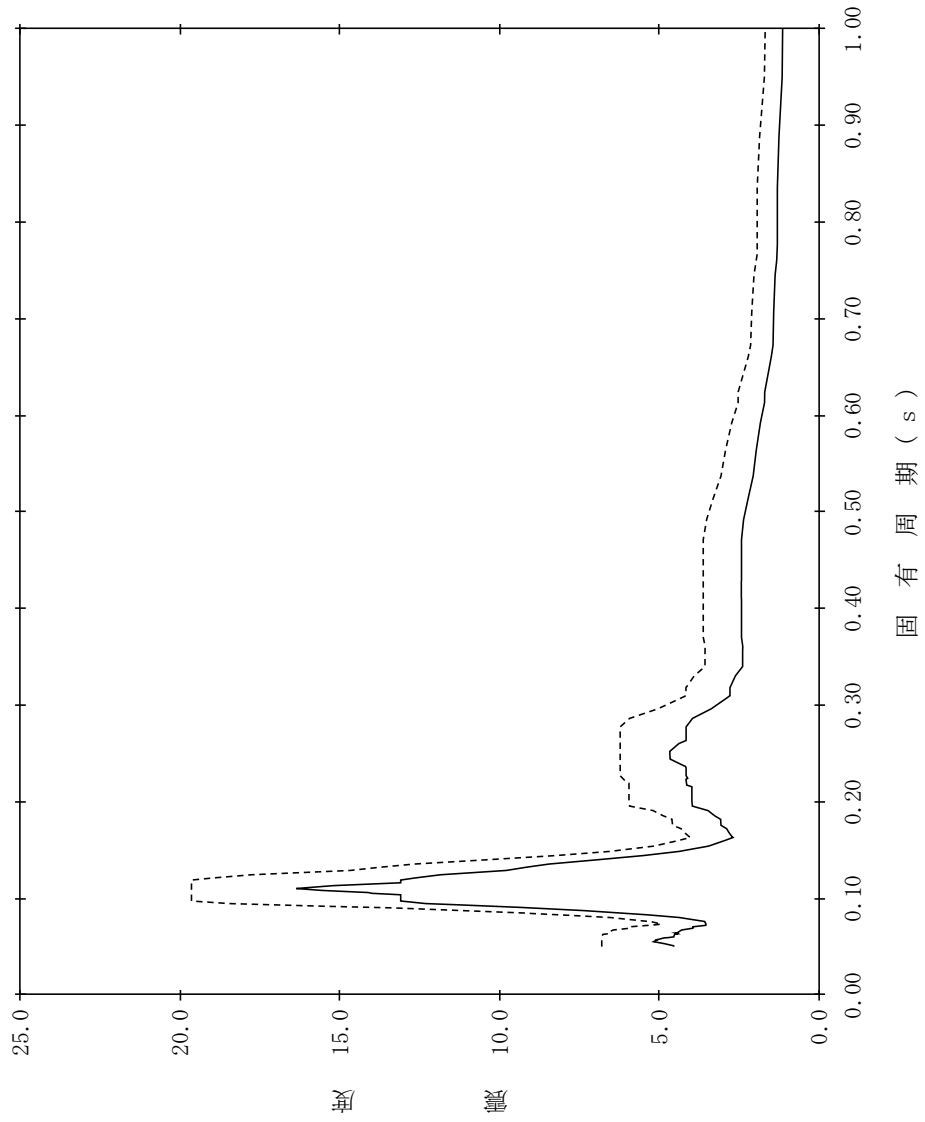
【NS2-PCV-SsNS-GSW110】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



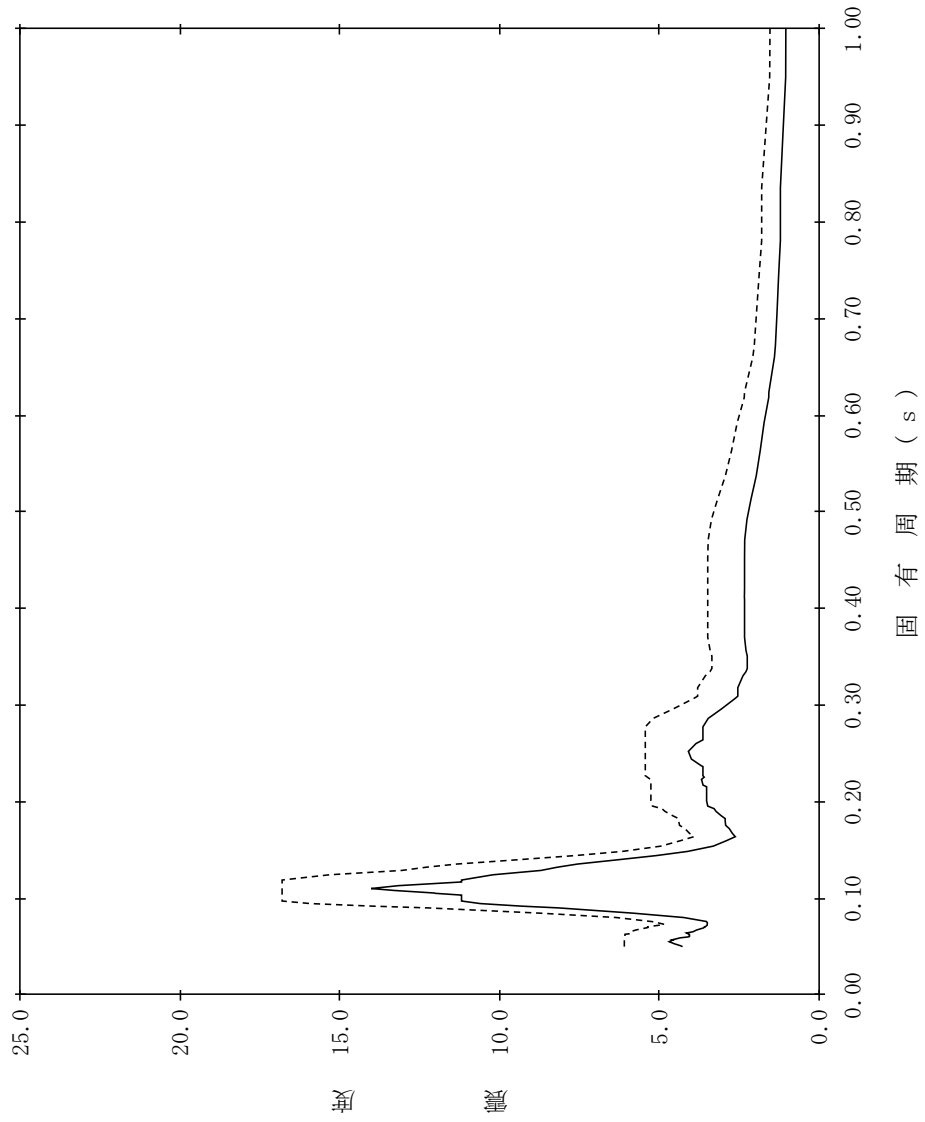
【NS2-PCV-SsNS-GSW111】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



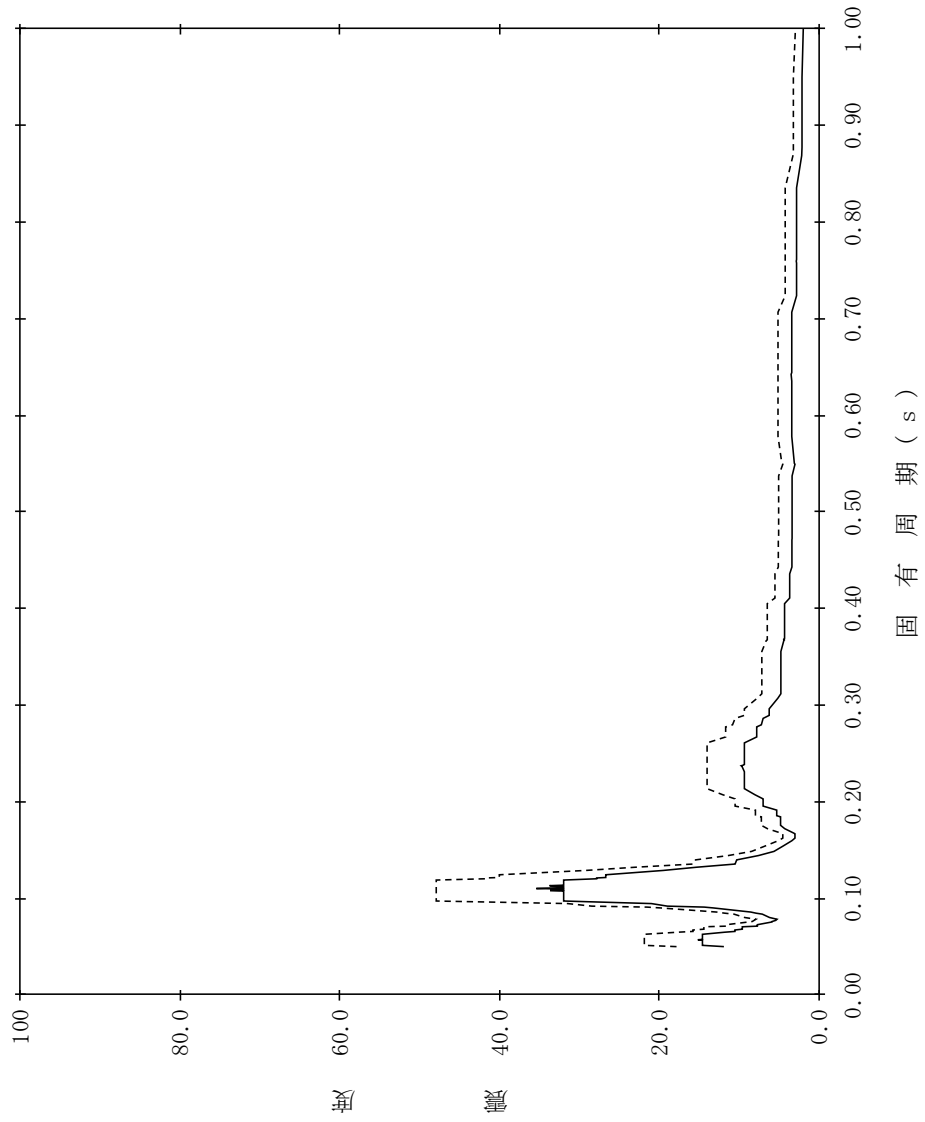
【NS2-PCV-SsNS-GSW112】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

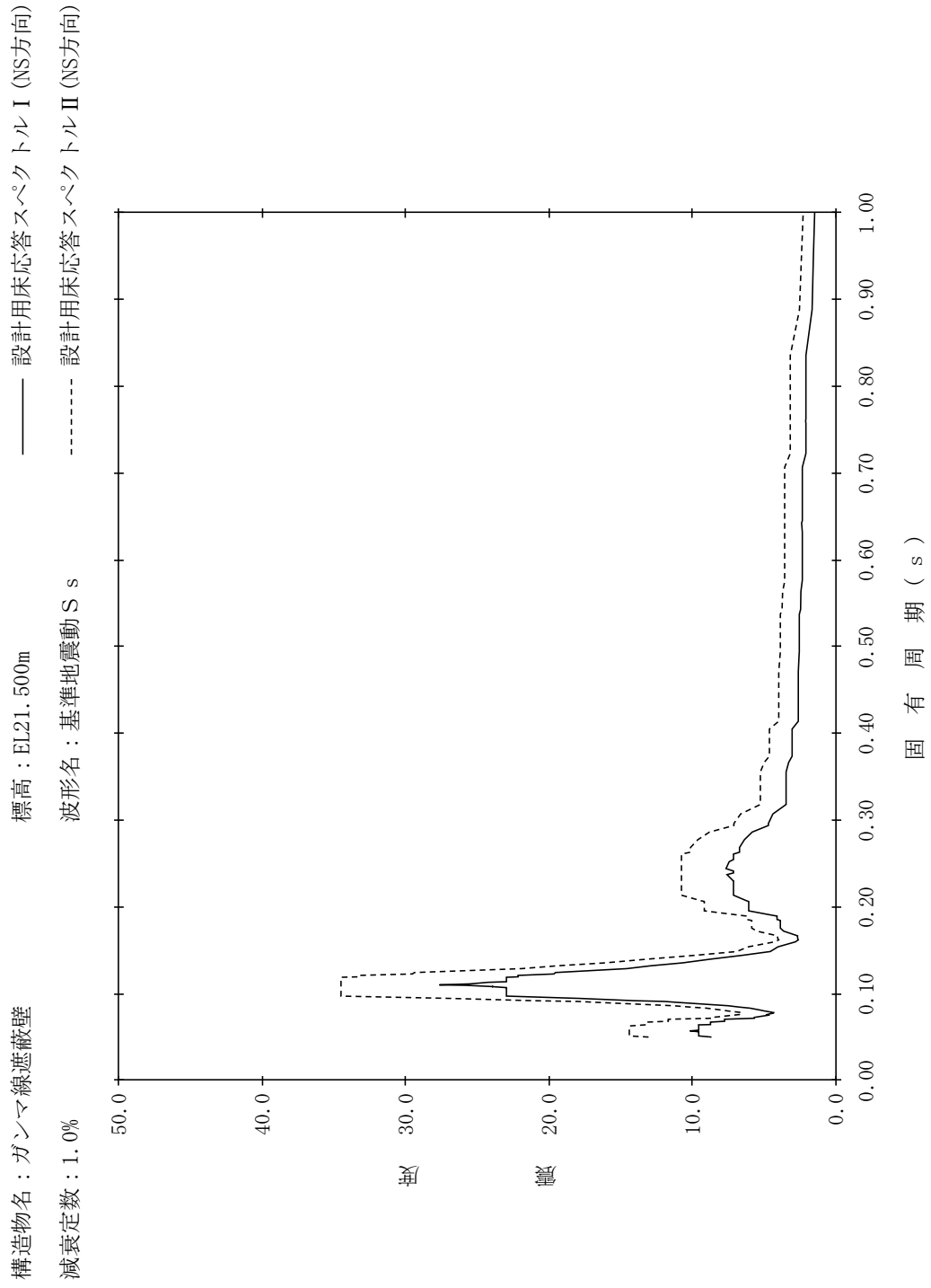


【NS2-PCV-SsNS-GSW113】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL1.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

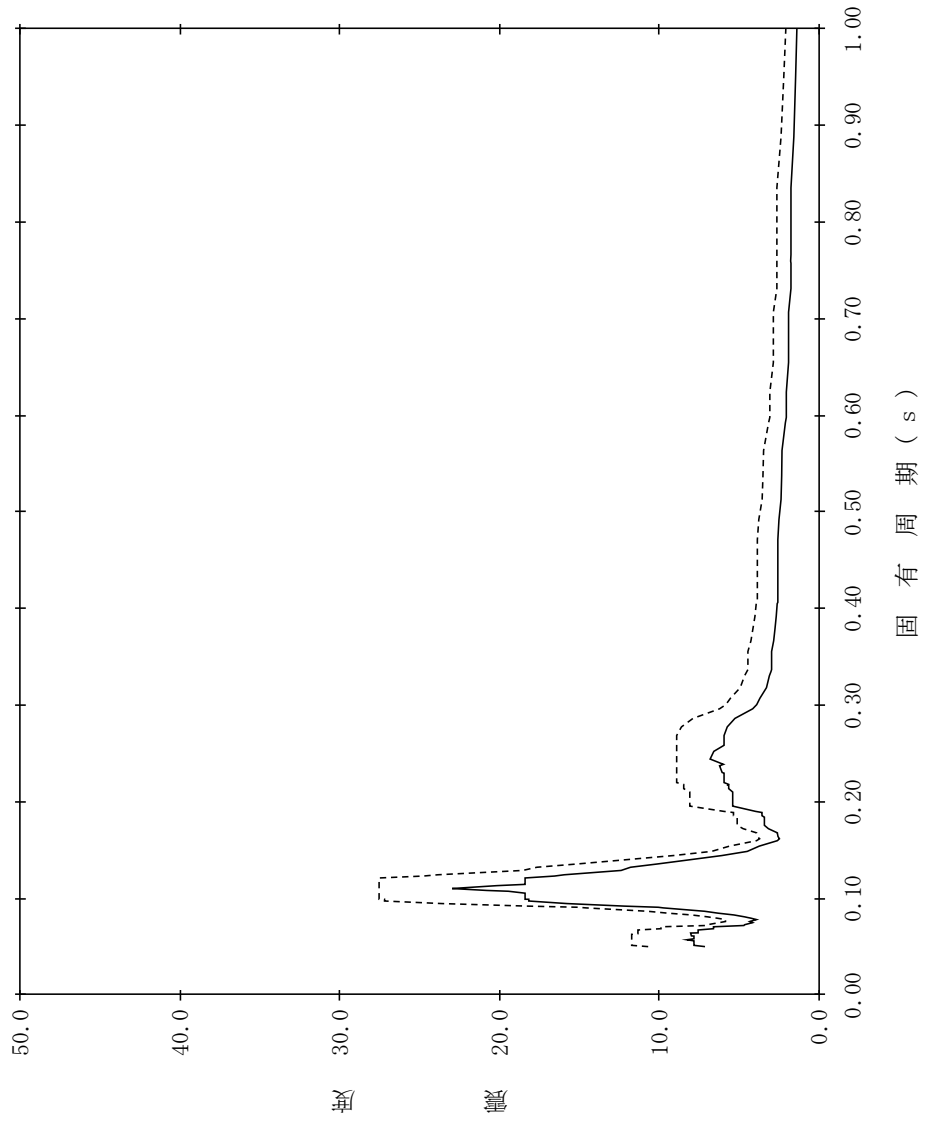


【NS2-PCV-SsNS-GSW114】



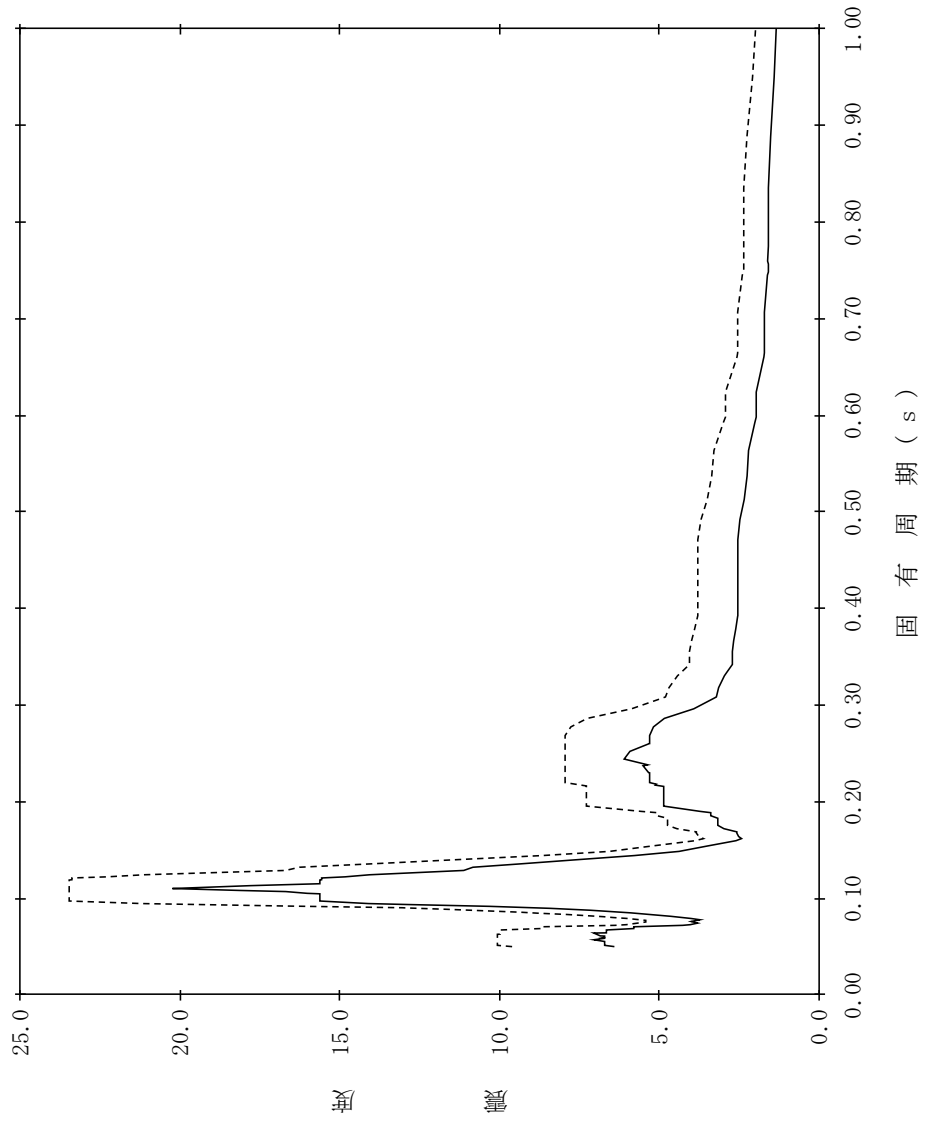
【NS2-PCV-SsNS-GSW115】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



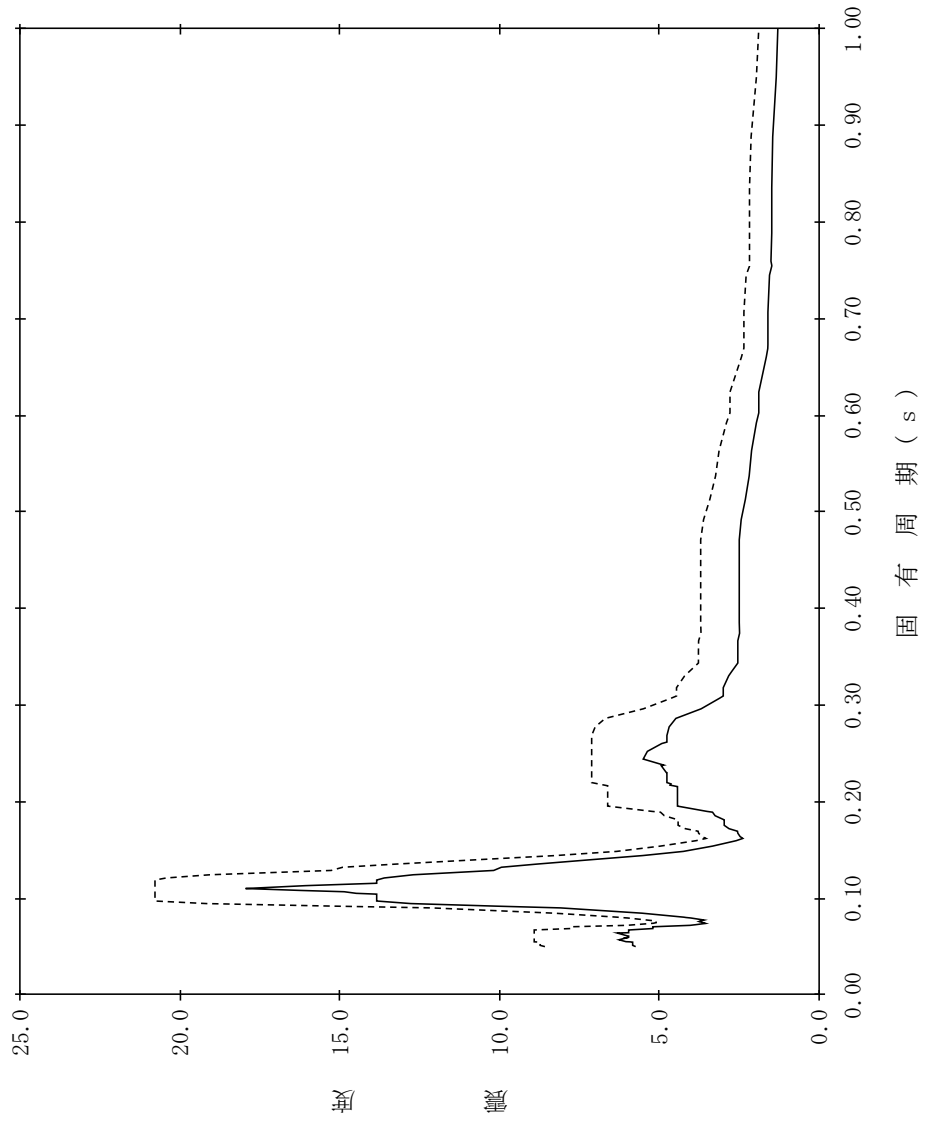
【NS2-PCV-SsNS-GSW116】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



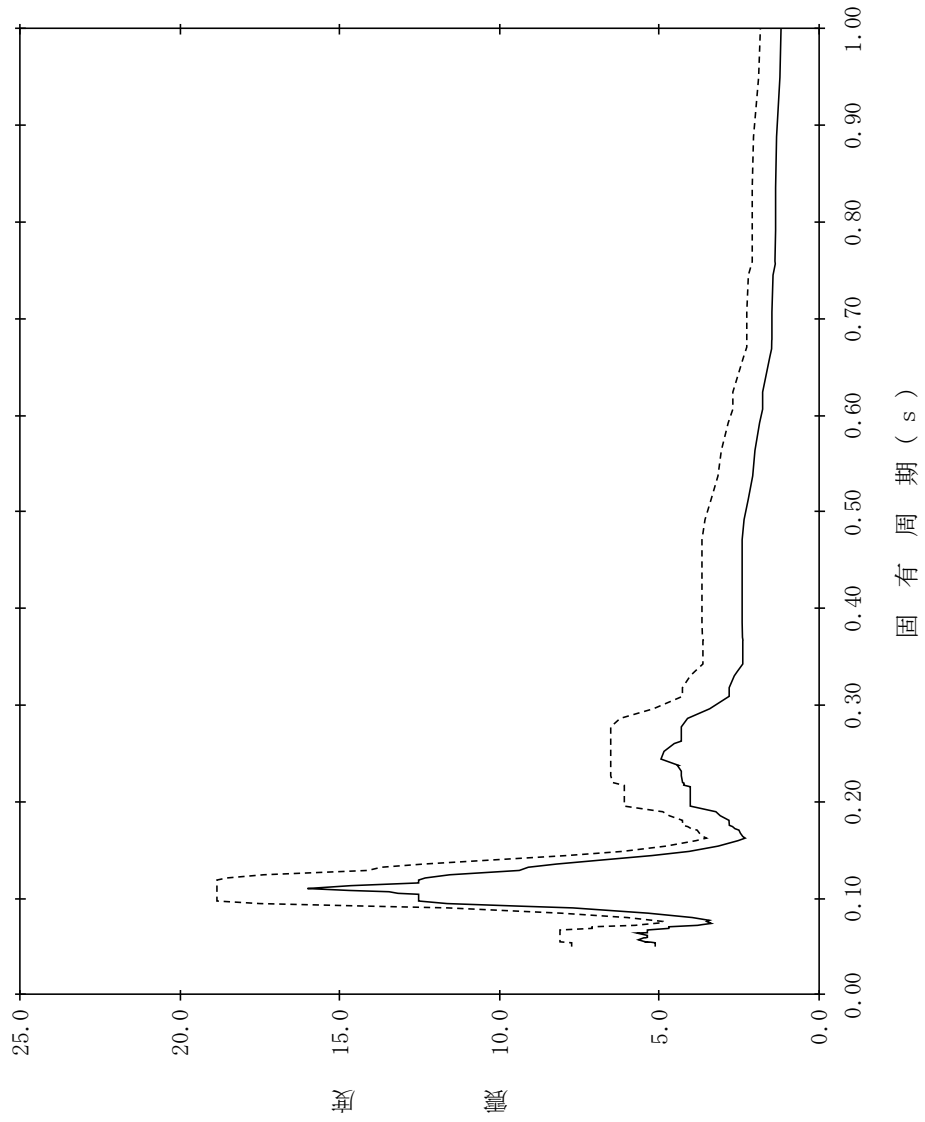
【NS2-PCV-SsNS-GSW117】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



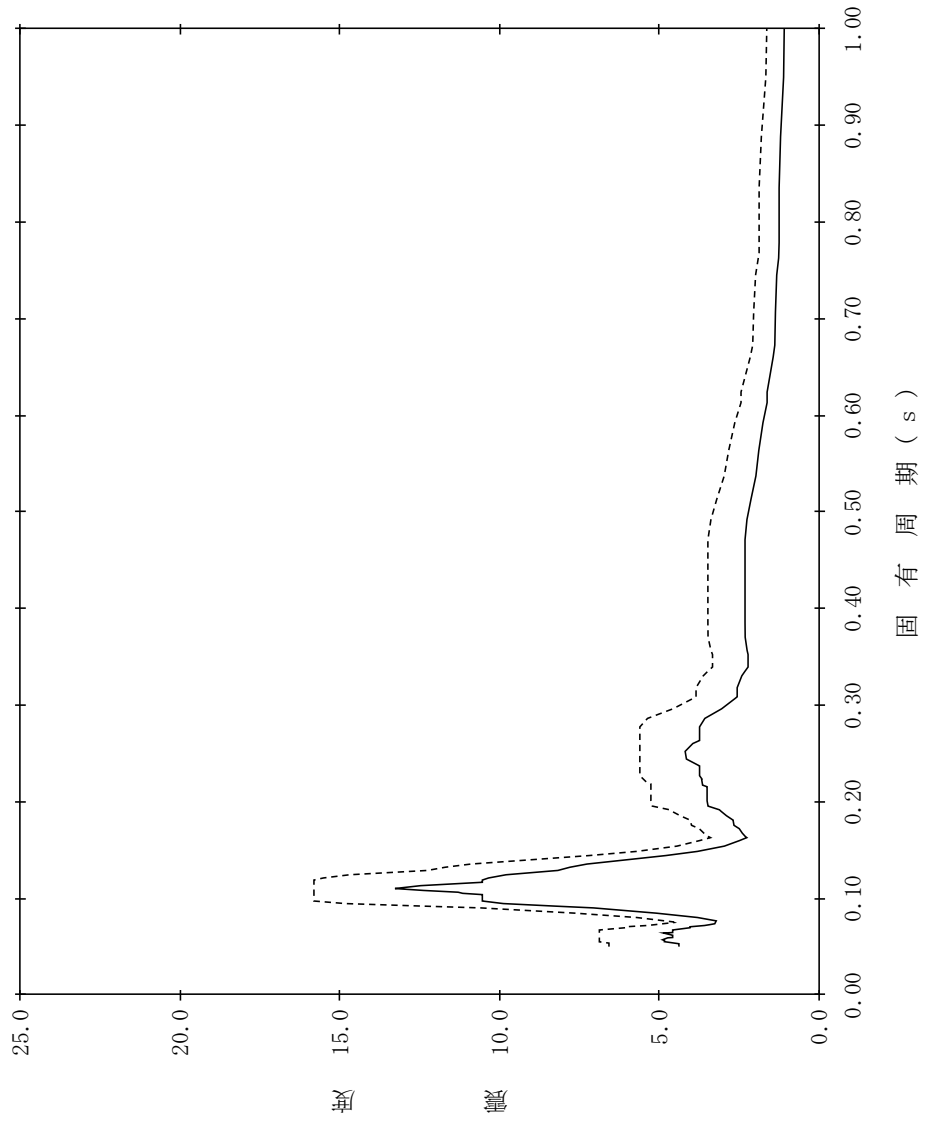
【NS2-PCV-SsNS-GSW118】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



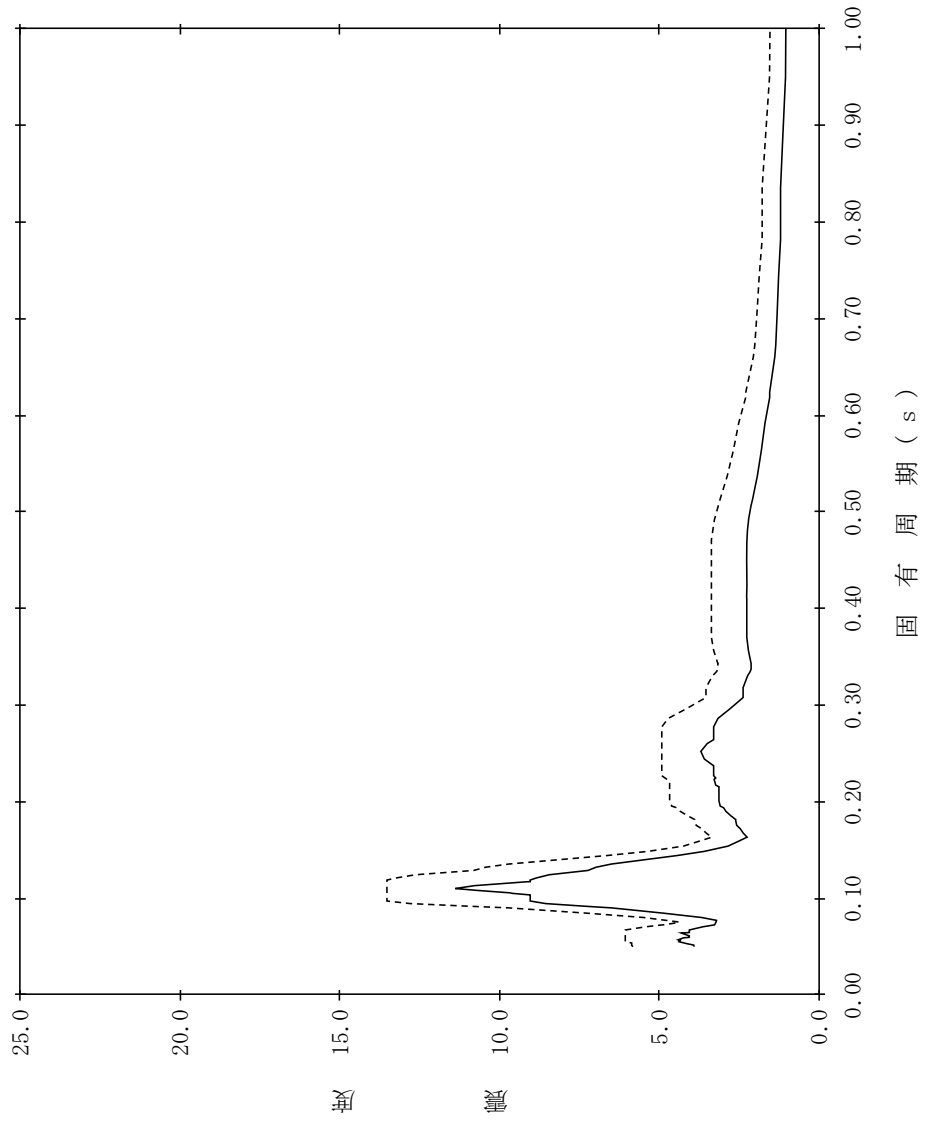
【NS2-PCV-SsNS-GSW119】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

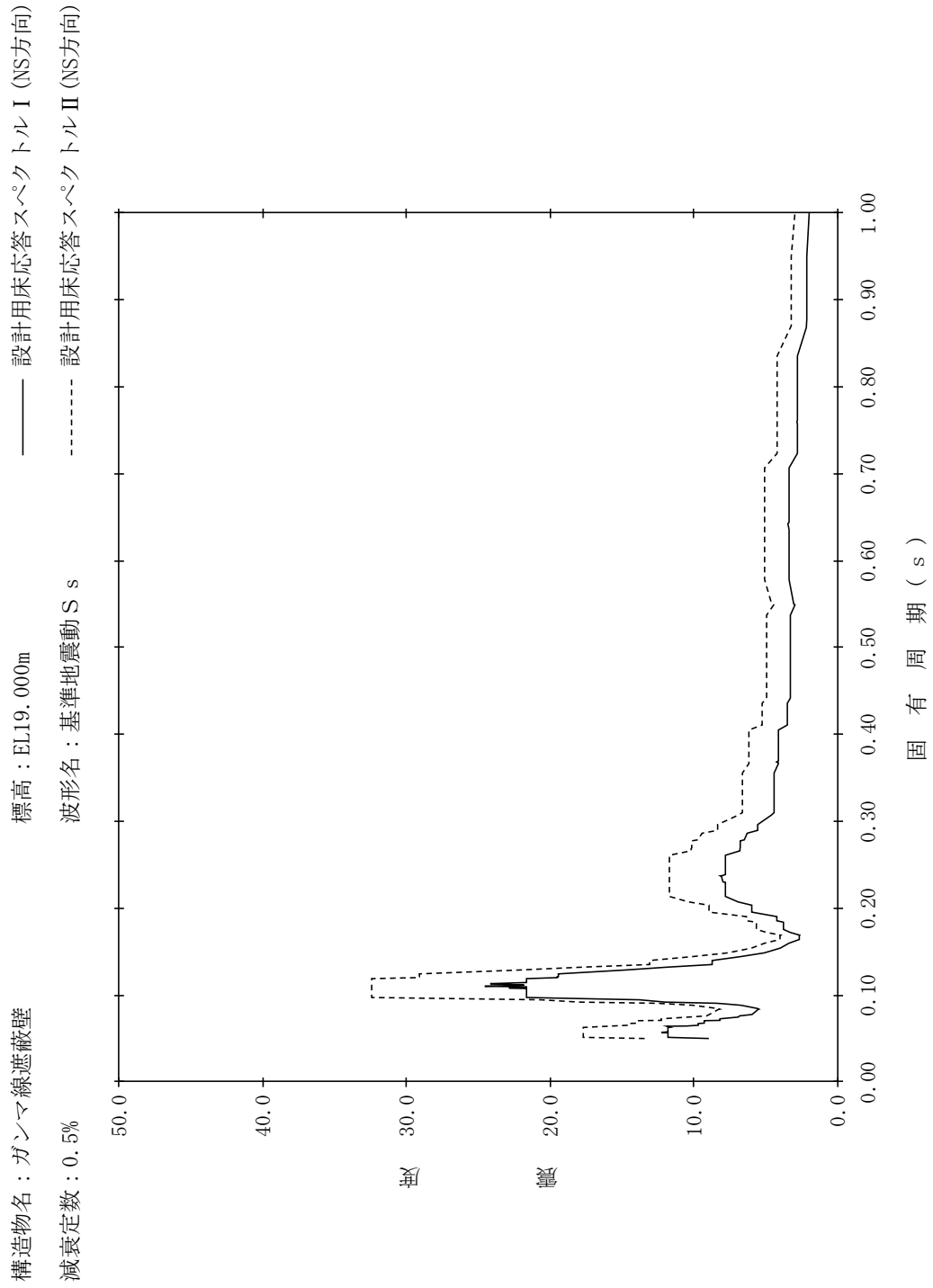


【NS2-PCV-SsNS-GSW120】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

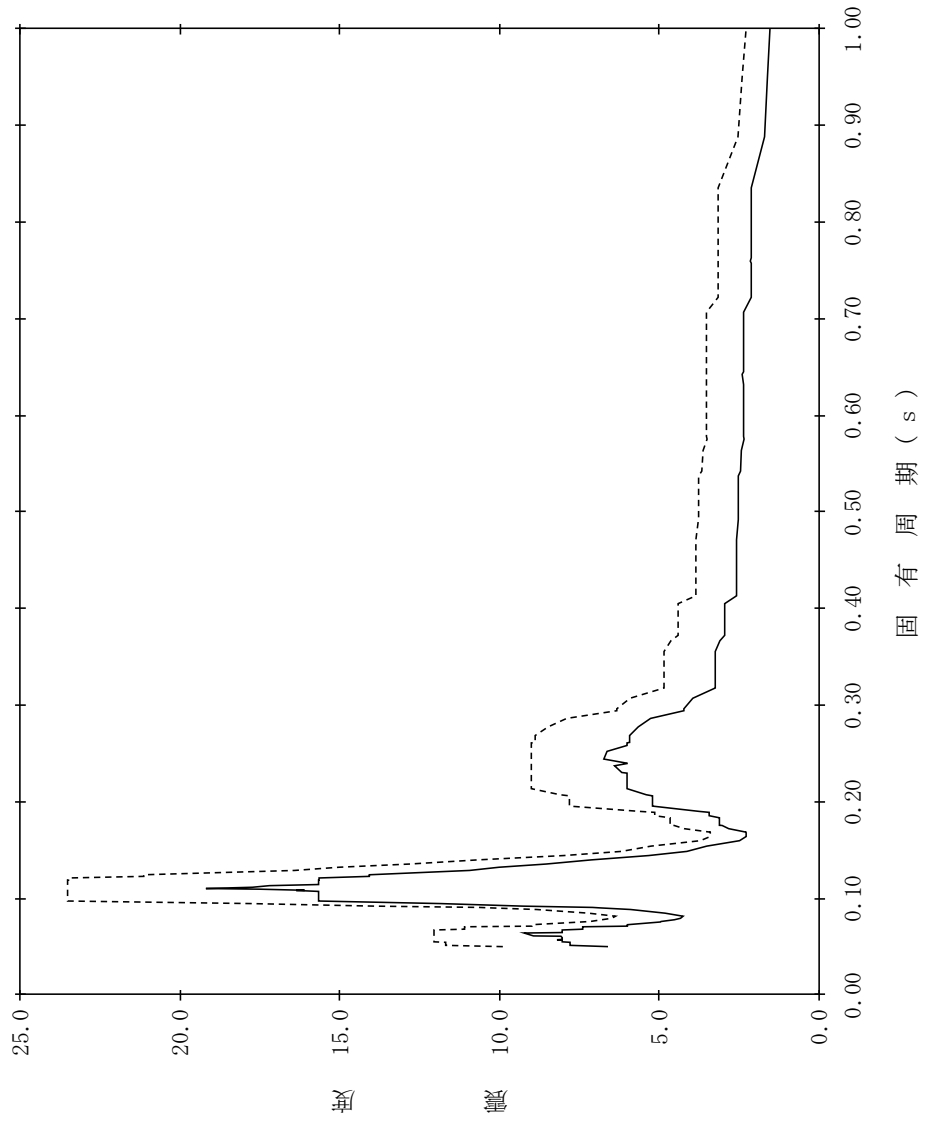


【NS2-PCV-SsNS-GSW121】



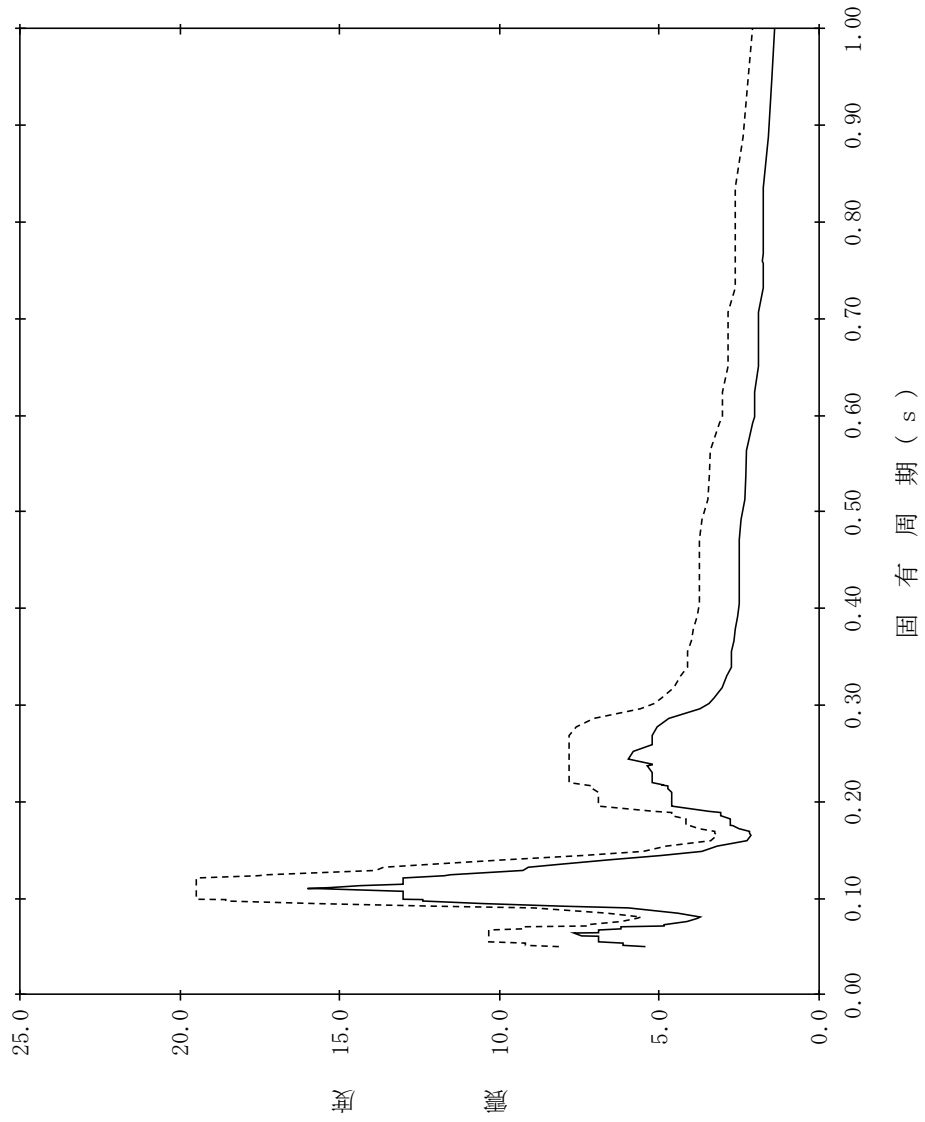
【NS2-PCV-SsNS-GSW122】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



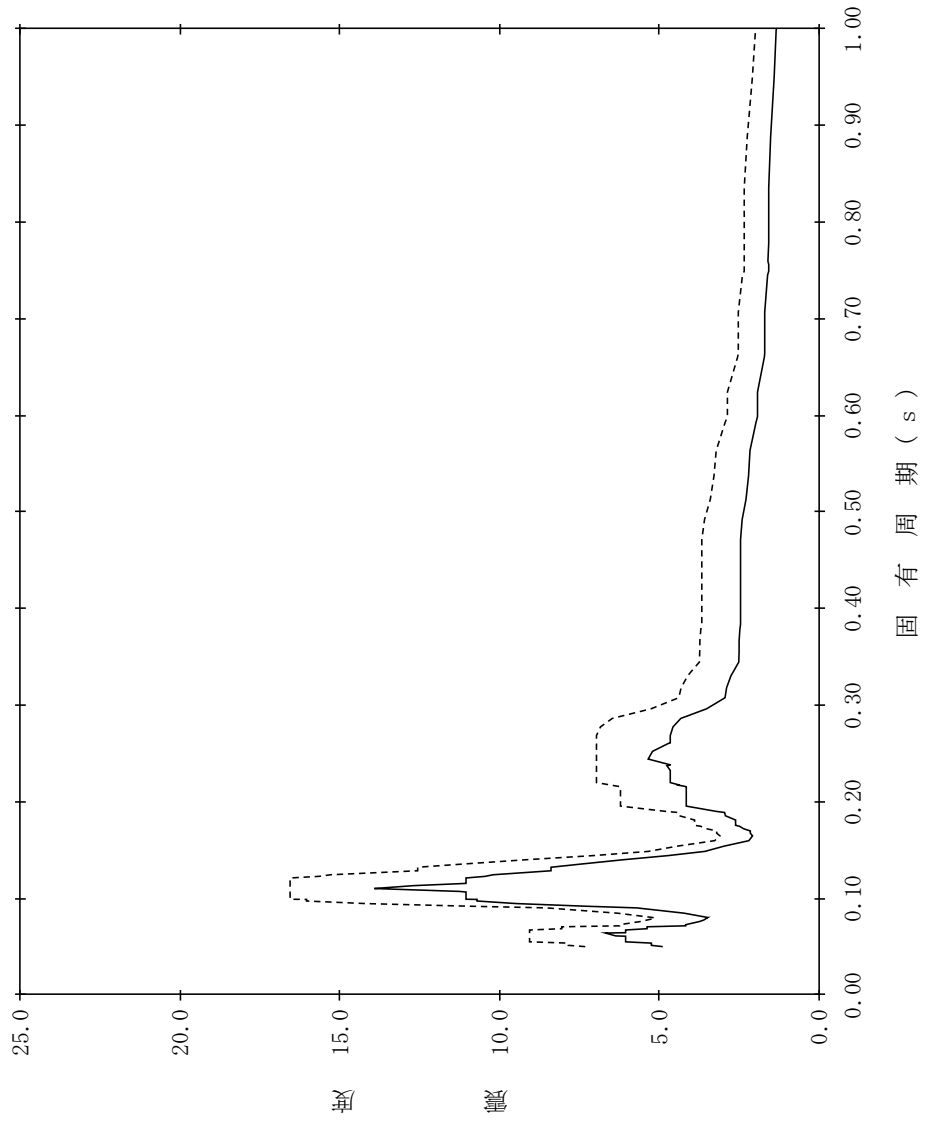
【NS2-PCV-SsNS-GSW123】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



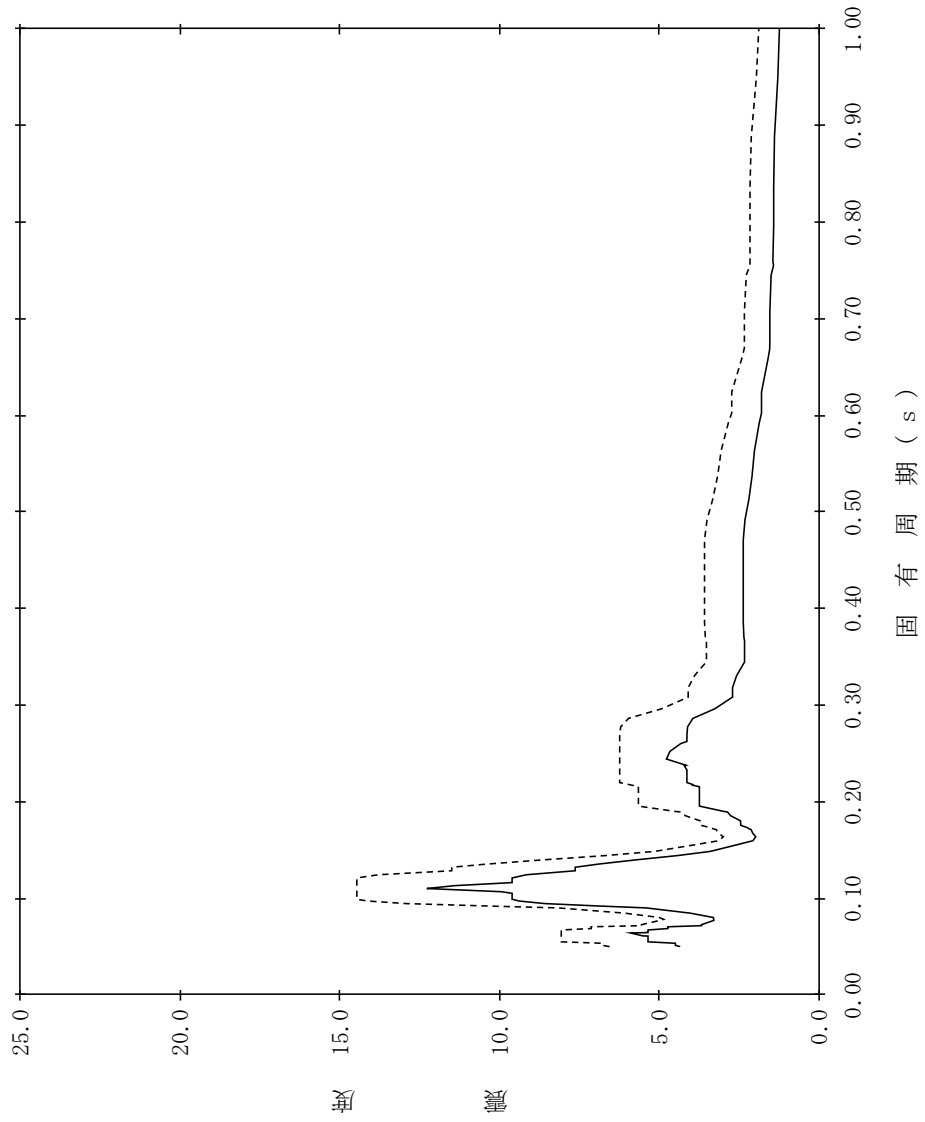
【NS2-PCV-SsNS-GSW124】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



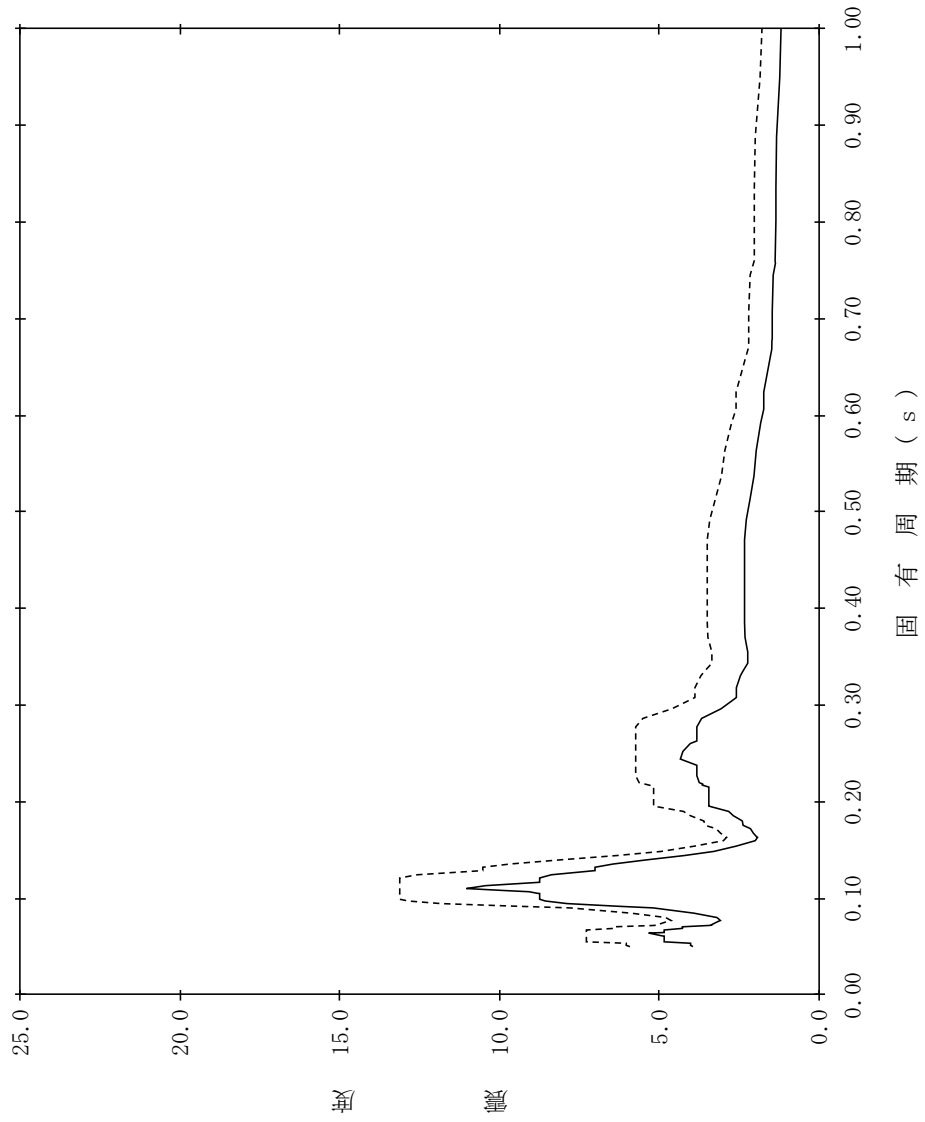
【NS2-PCV-SsNS-GSW125】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL19.000m
減衰定数：2.5%波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (NS方向)
設計用床応答スペクトル II (NS方向)



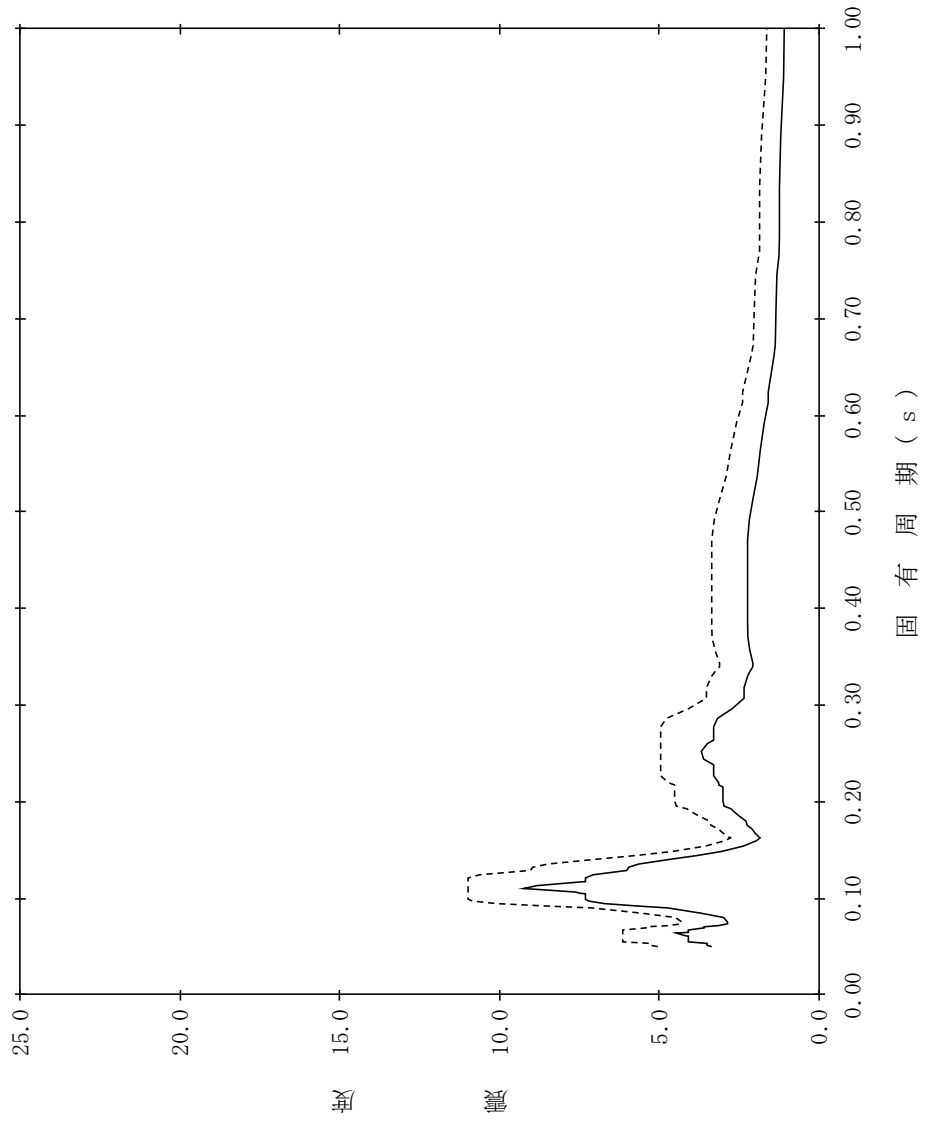
【NS2-PCV-SsNS-GSW126】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



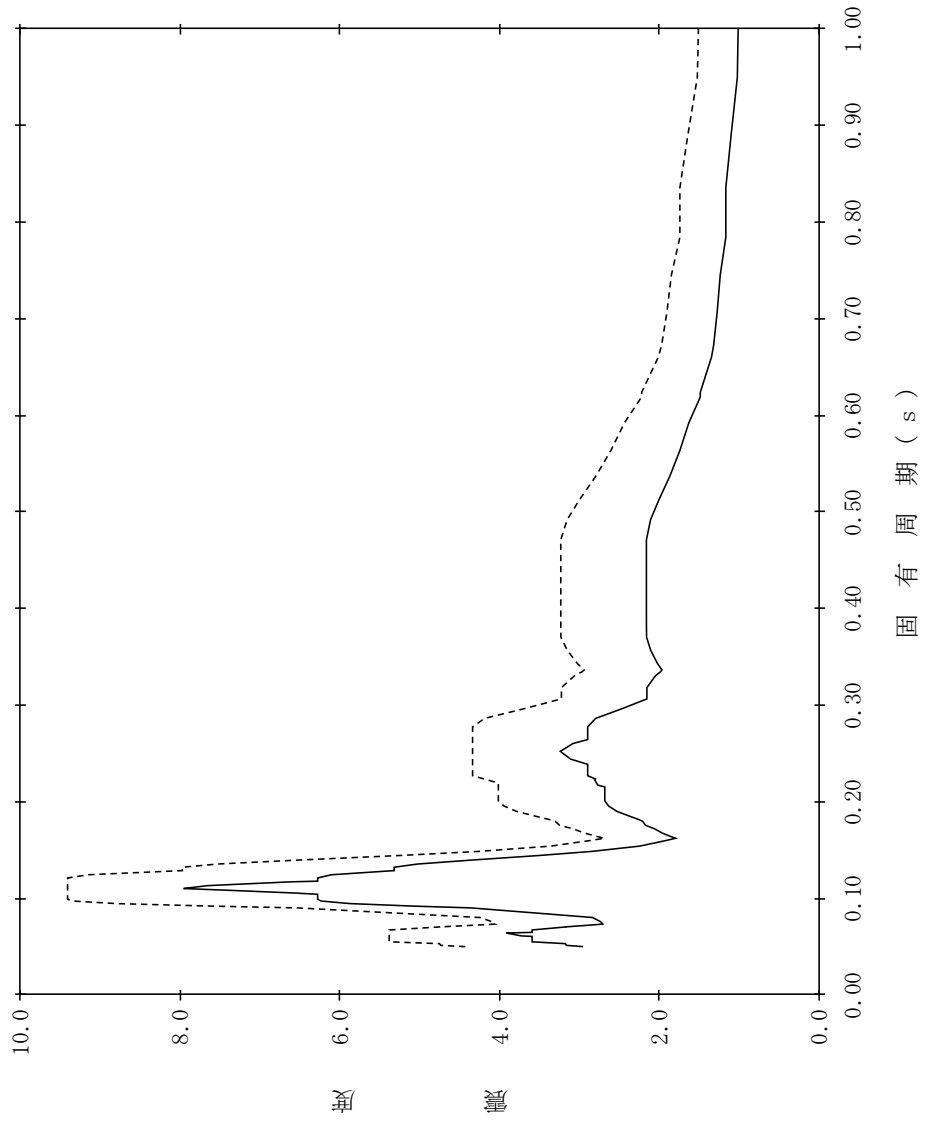
【NS2-PCV-SsNS-GSW127】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



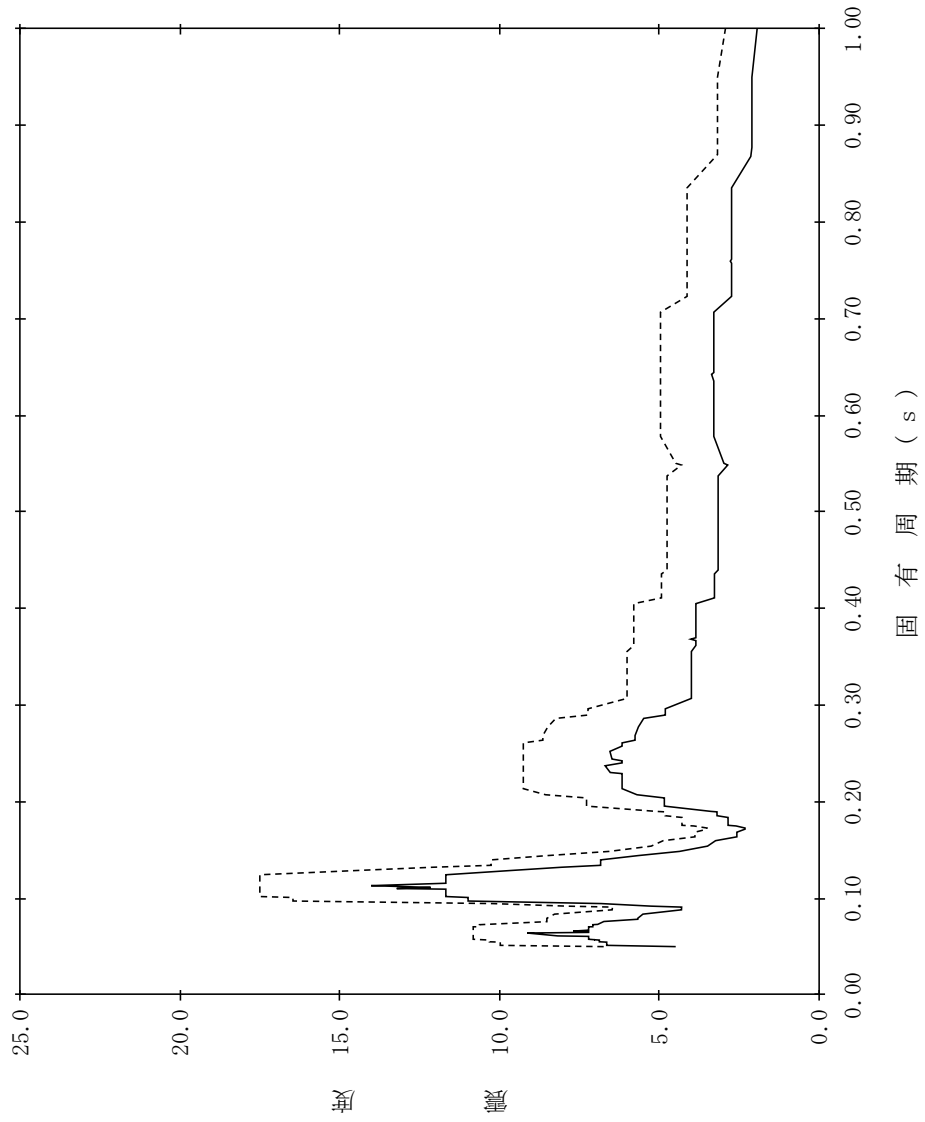
【NS2-PCV-SsNS-GSW128】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



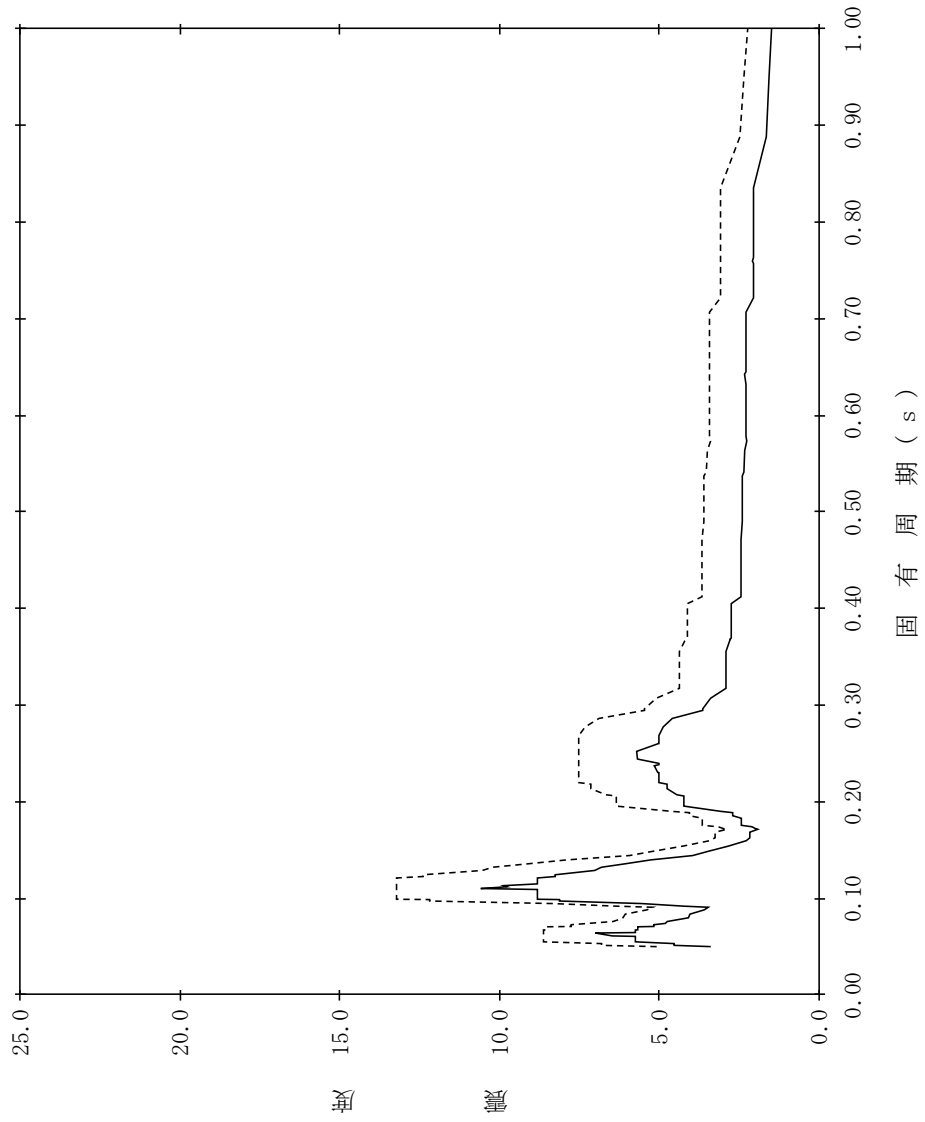
【NS2-PCV-SsNS-PED129】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



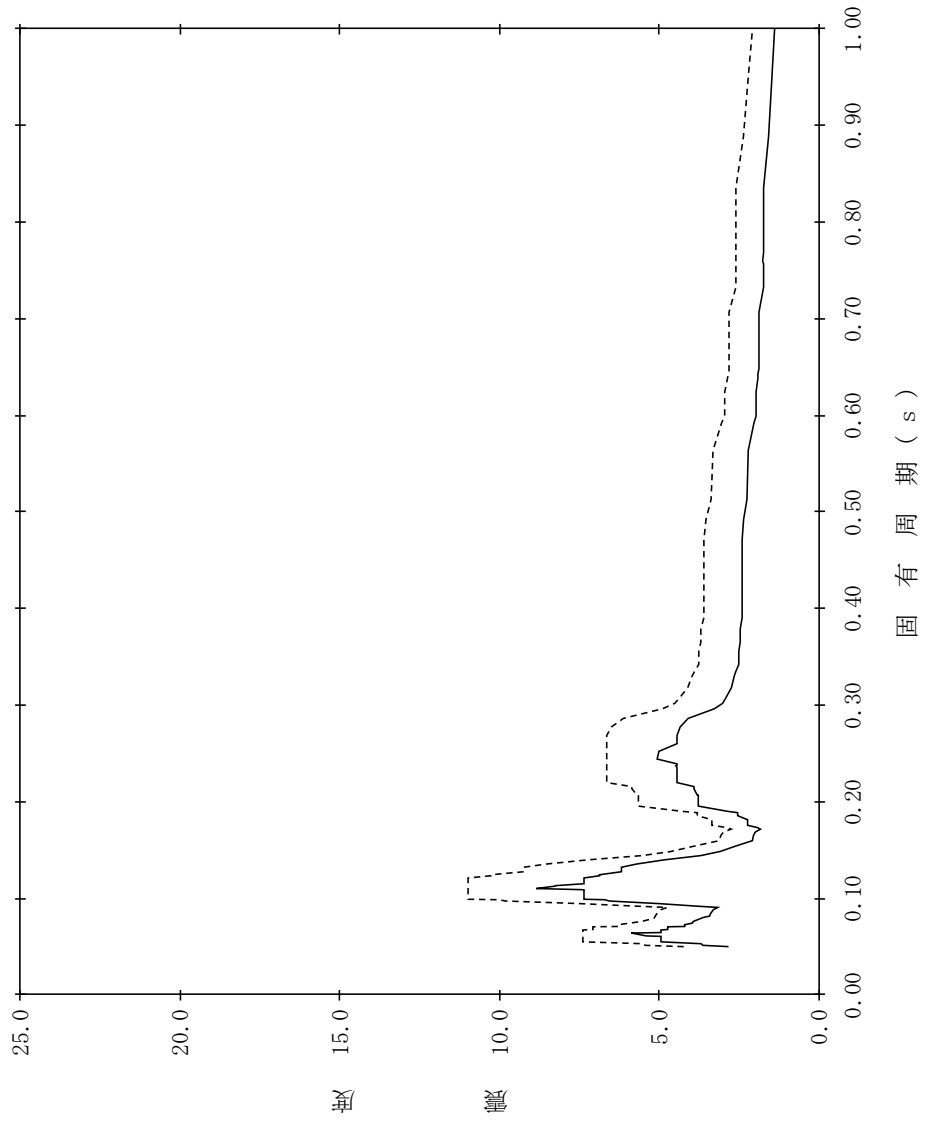
【NS2-PCV-SsNS-PEDI.30】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



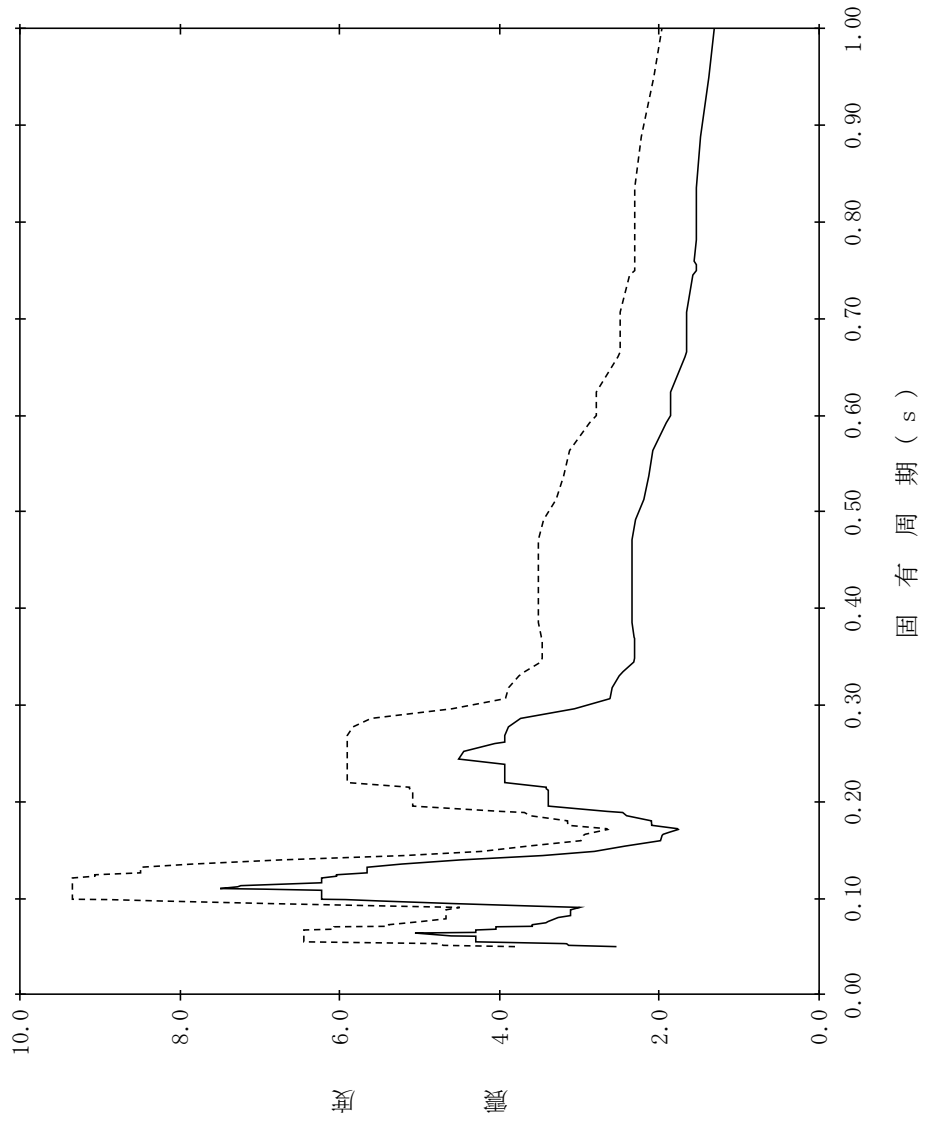
【NS2-PCV-SsNS-PEDI31】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



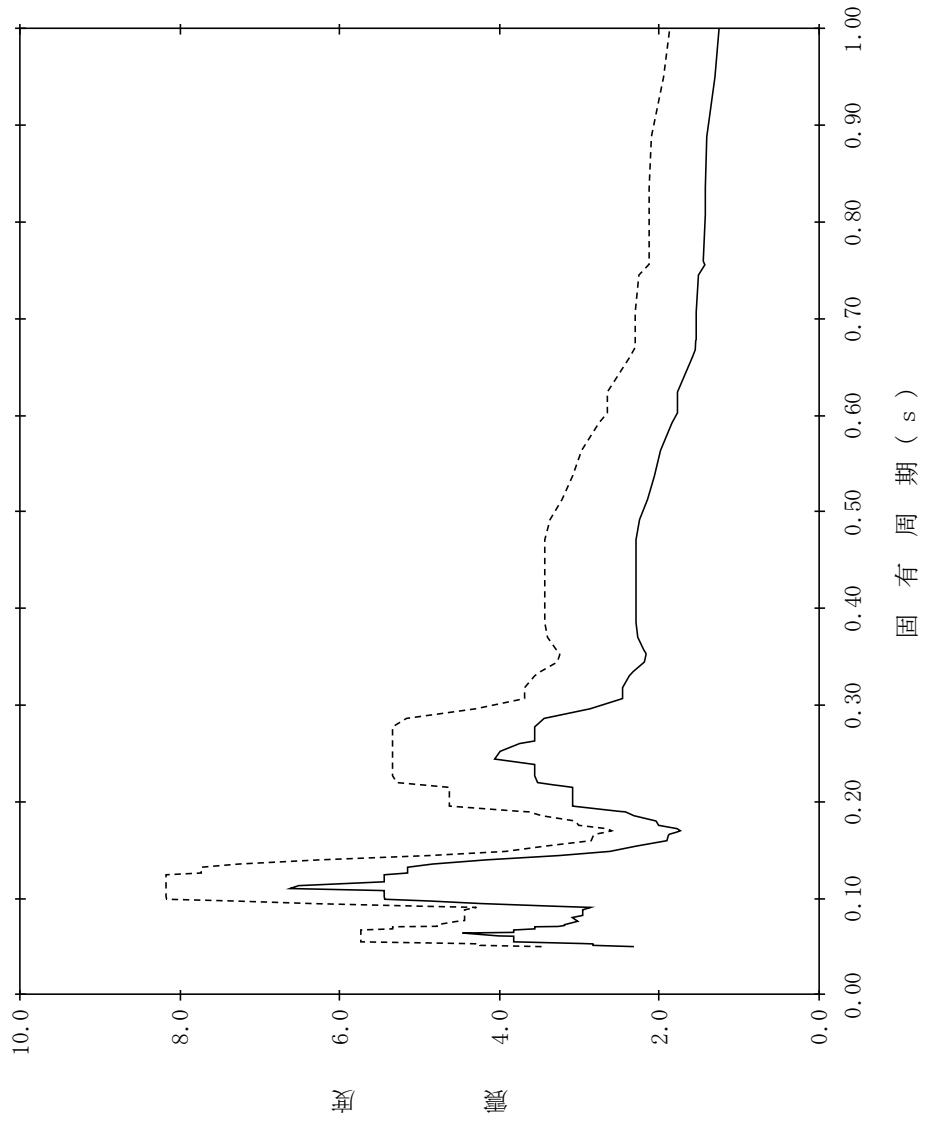
【NS2-PCV-SsNS-PEDI.32】

構造物名：原子炉圧力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



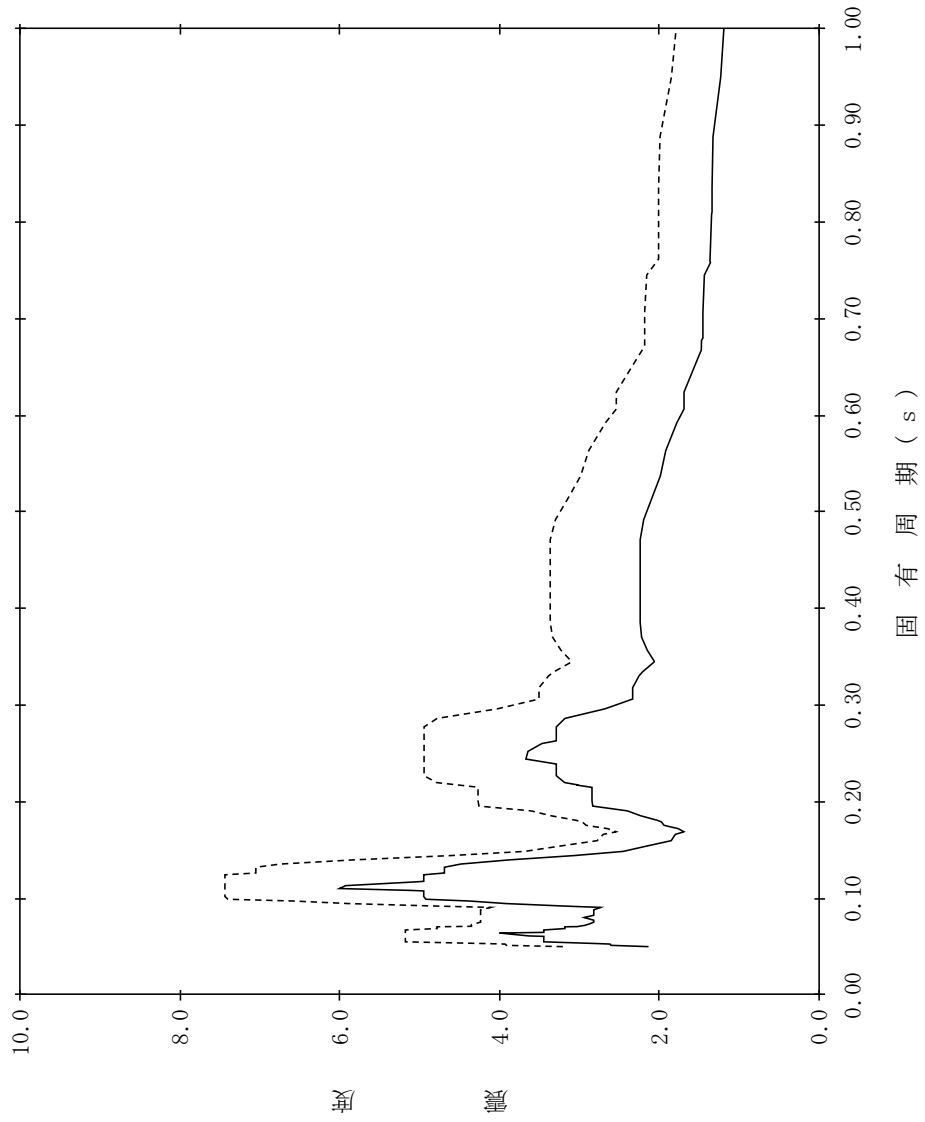
【NS2-PCV-SsNS-PEDI33】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



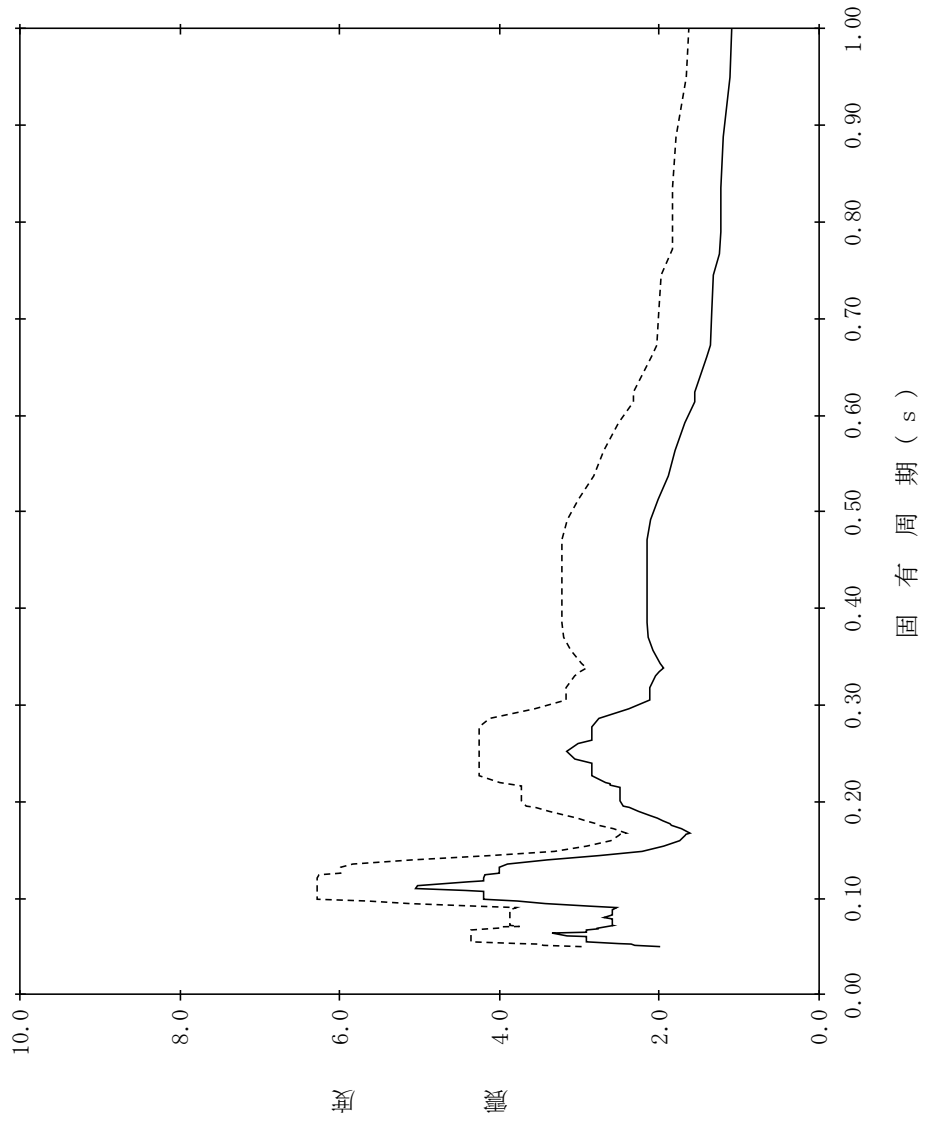
【NS2-PCV-SsNS-PEDI34】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



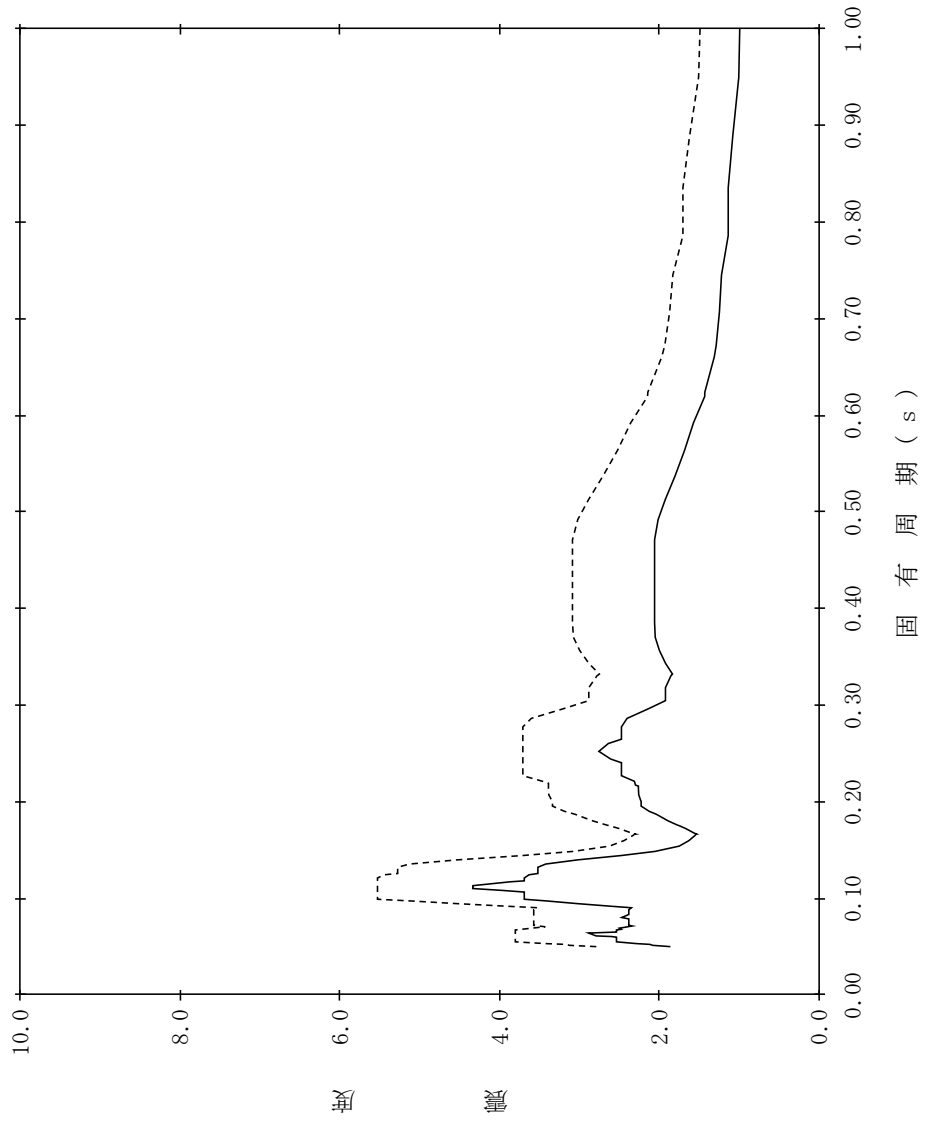
【NS2-PCV-SsNS-PEDI35】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



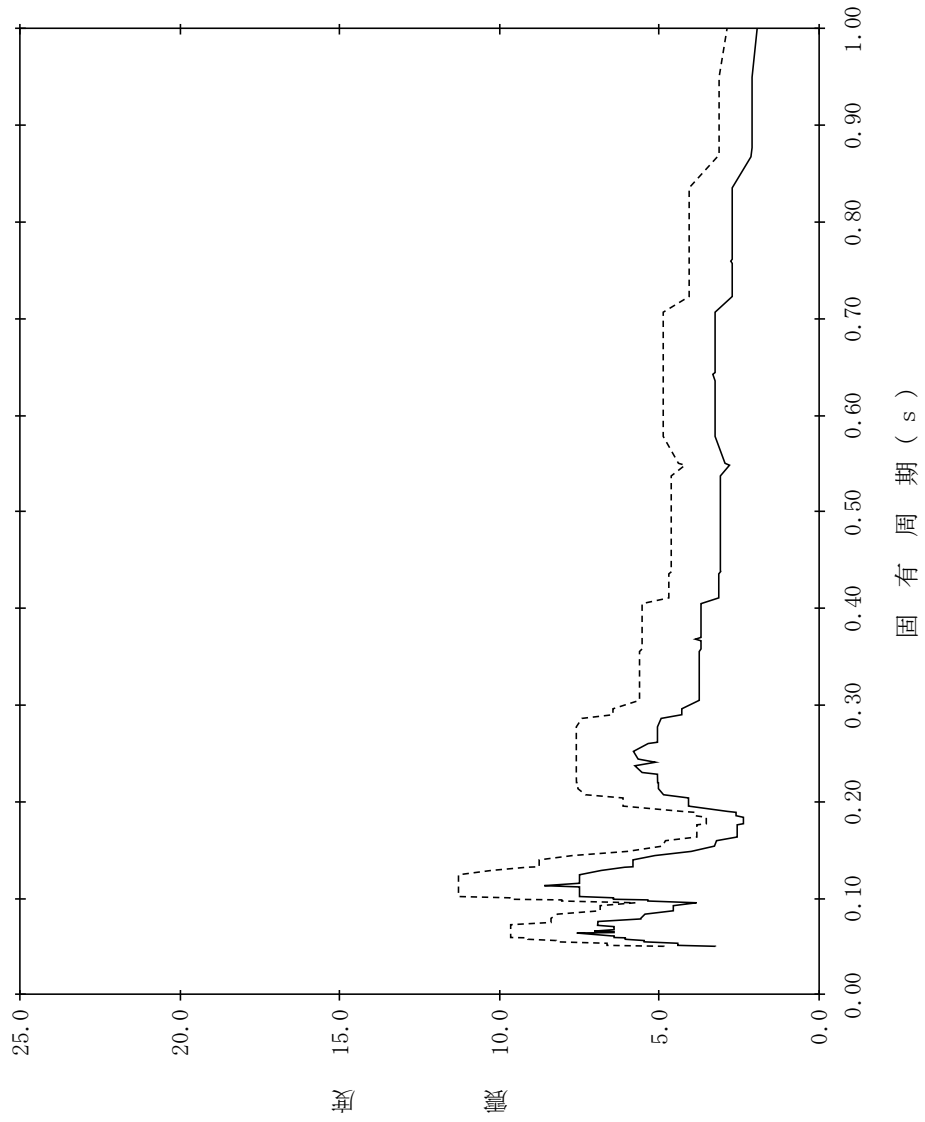
【NS2-PCV-SsNS-PEDI36】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



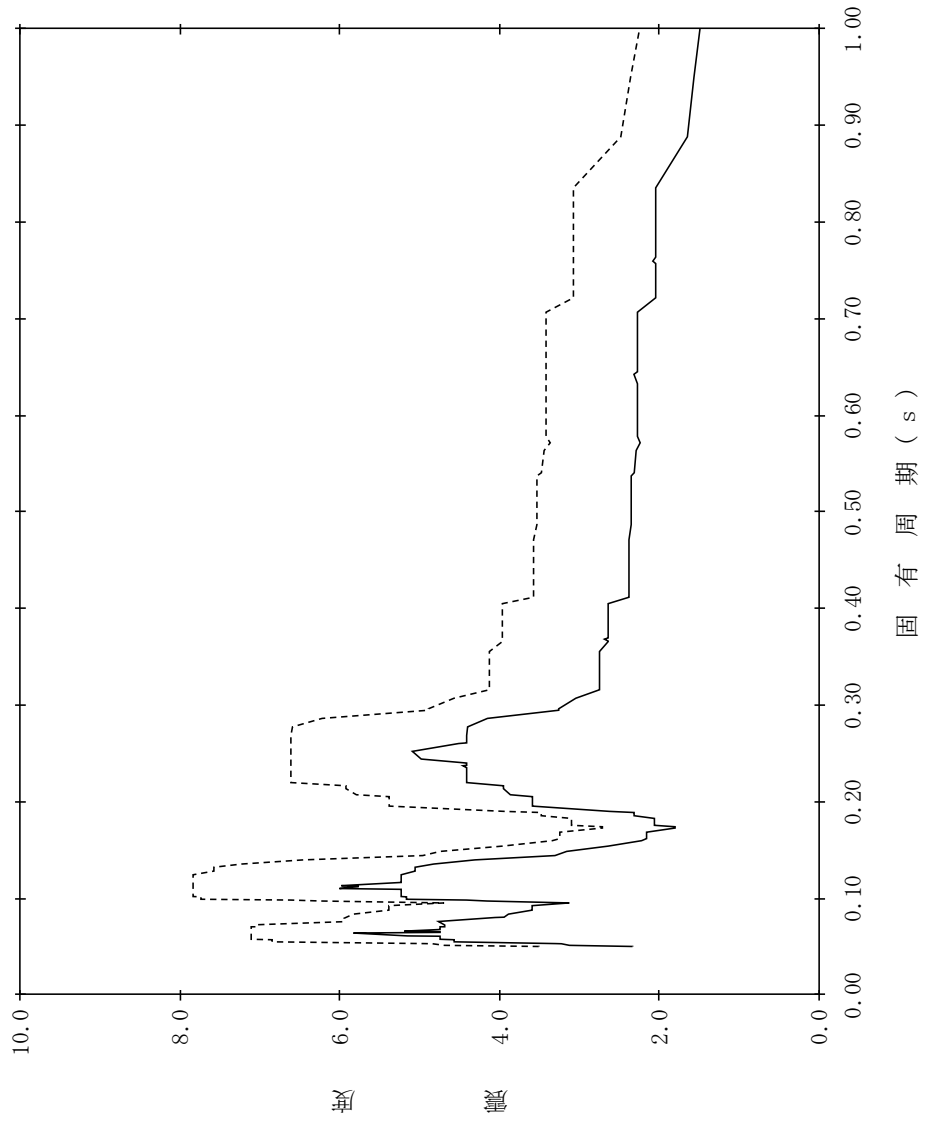
【NS2-PCV-SsNS-PEDI37】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



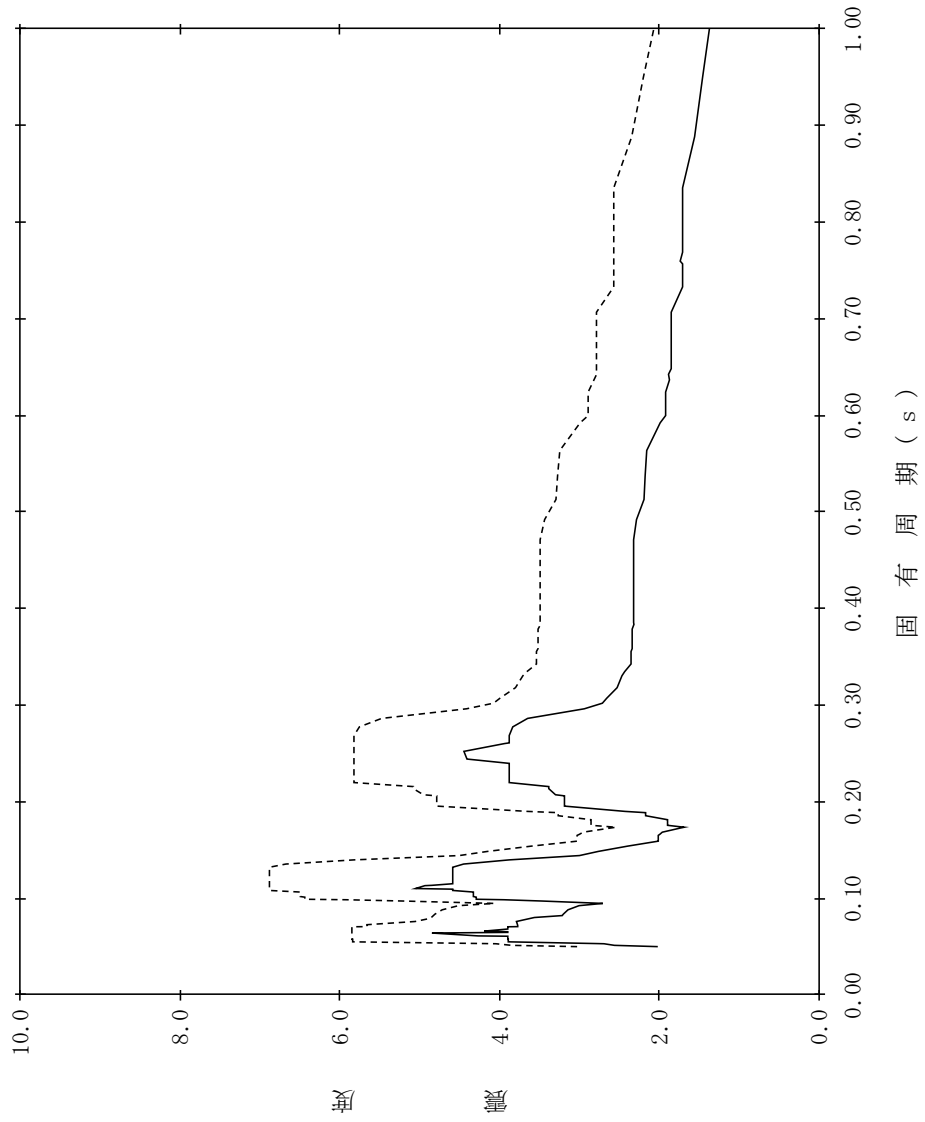
【NS2-PCV-SsNS-PED138】

構造物名：原子炉圧力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



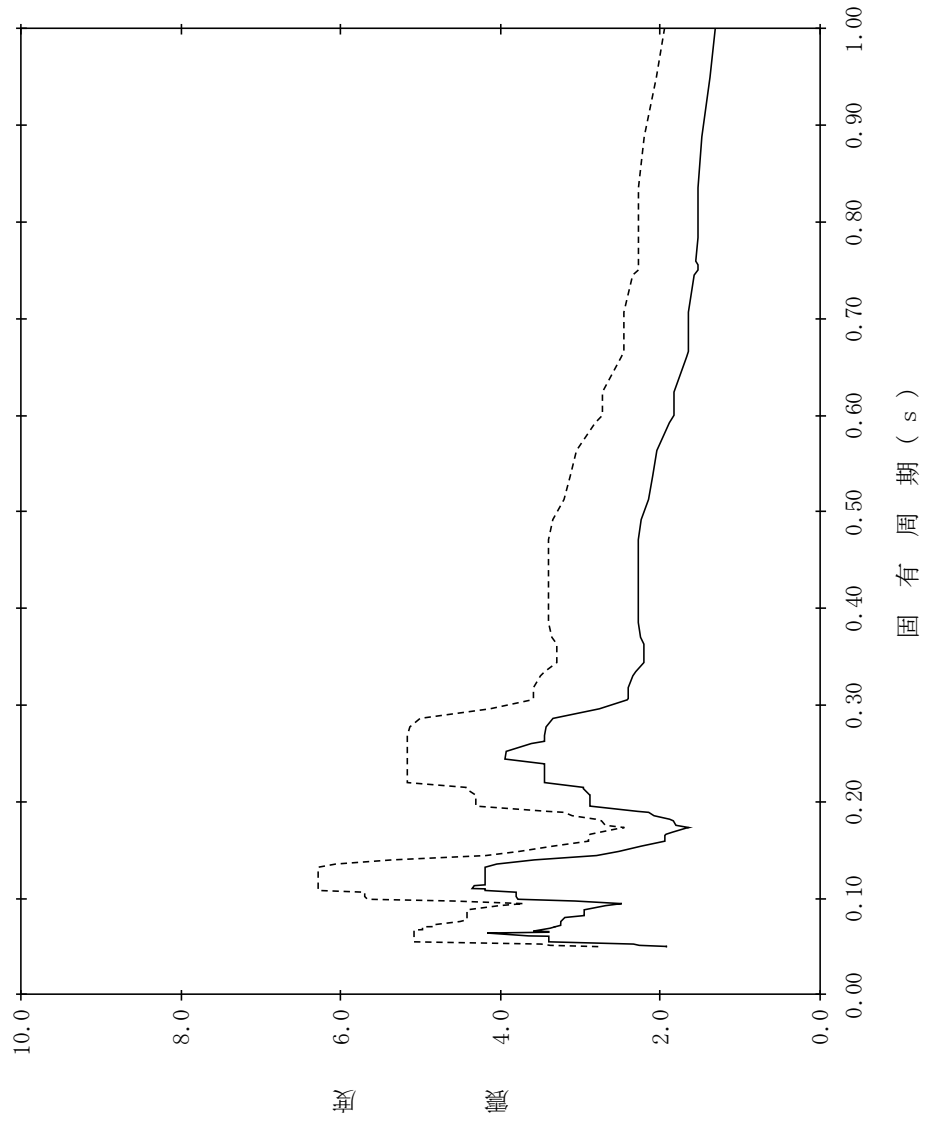
【NS2-PCV-SsNS-PED139】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



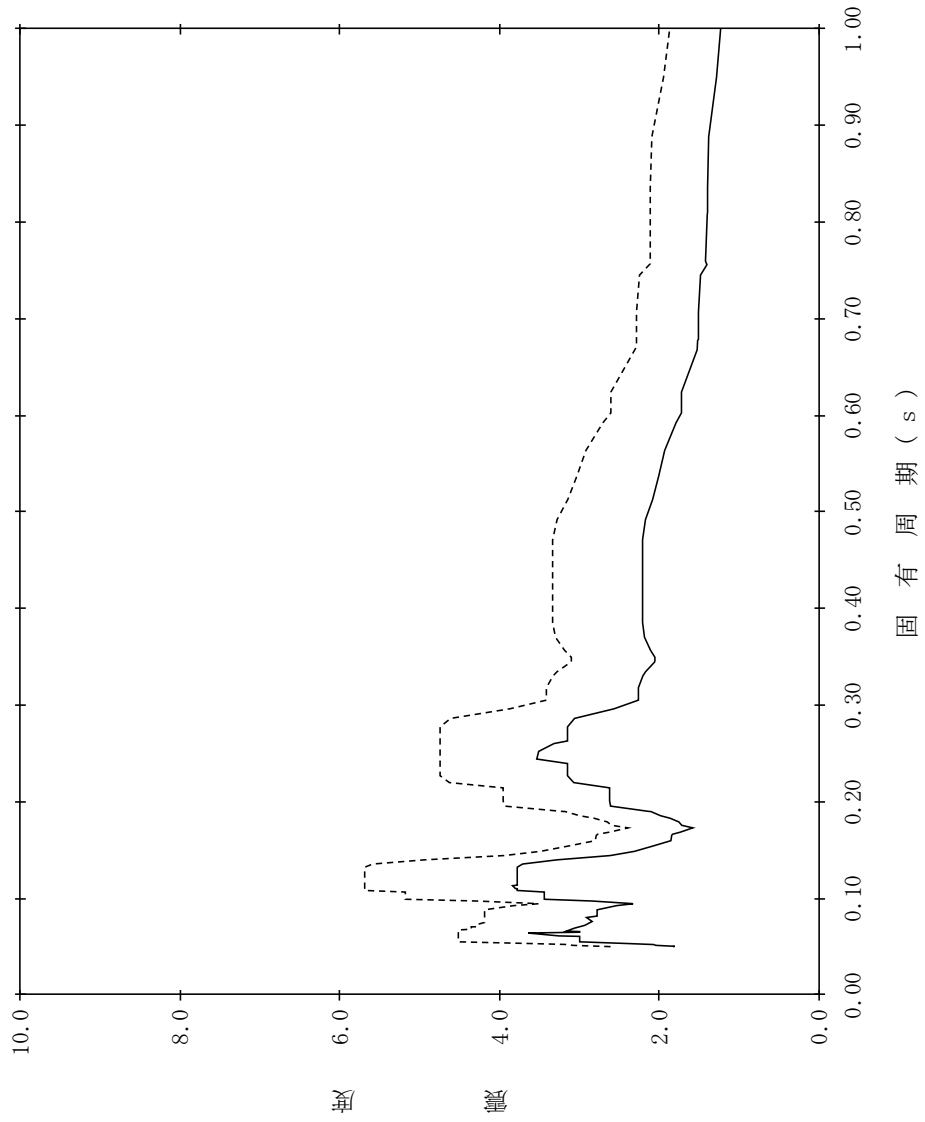
【NS2-PCV-SsNS-PED140】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



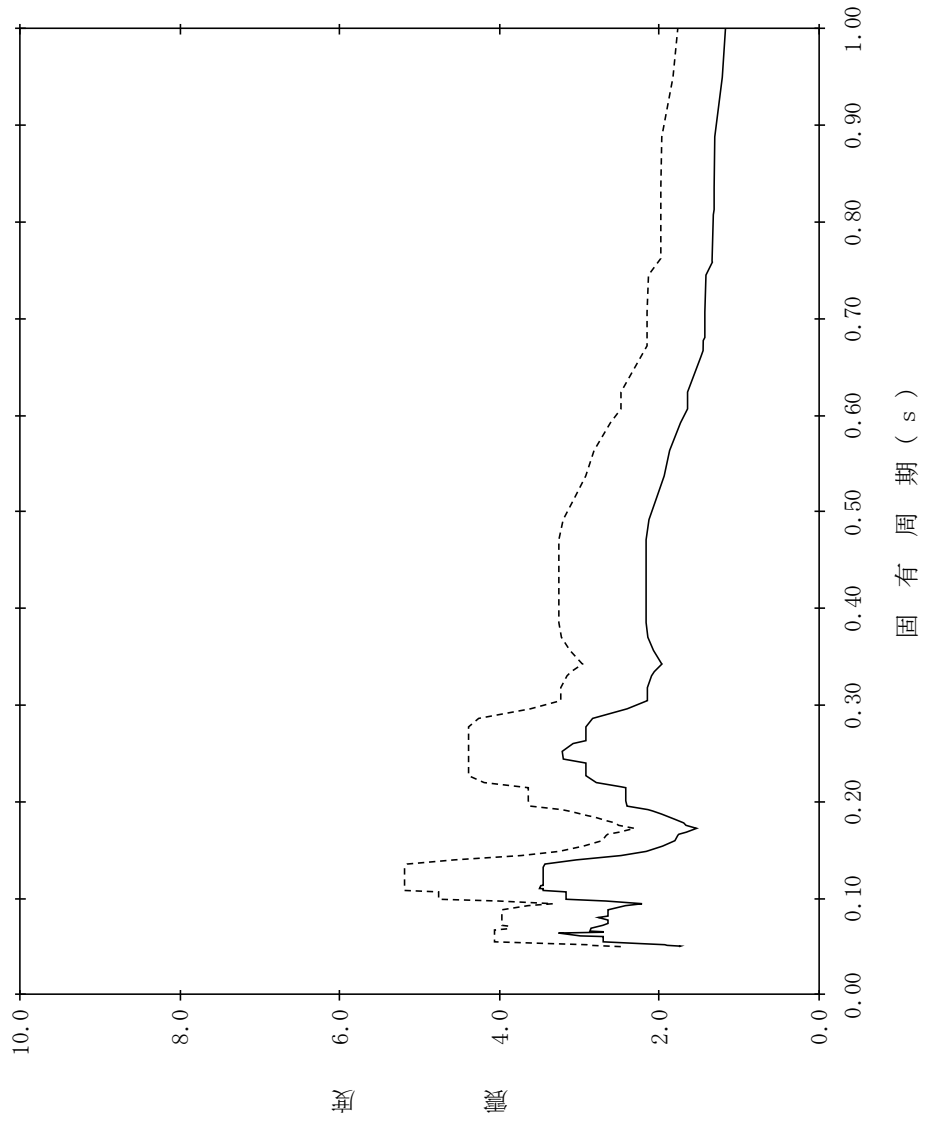
【NS2-PCV-SsNS-PED141】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



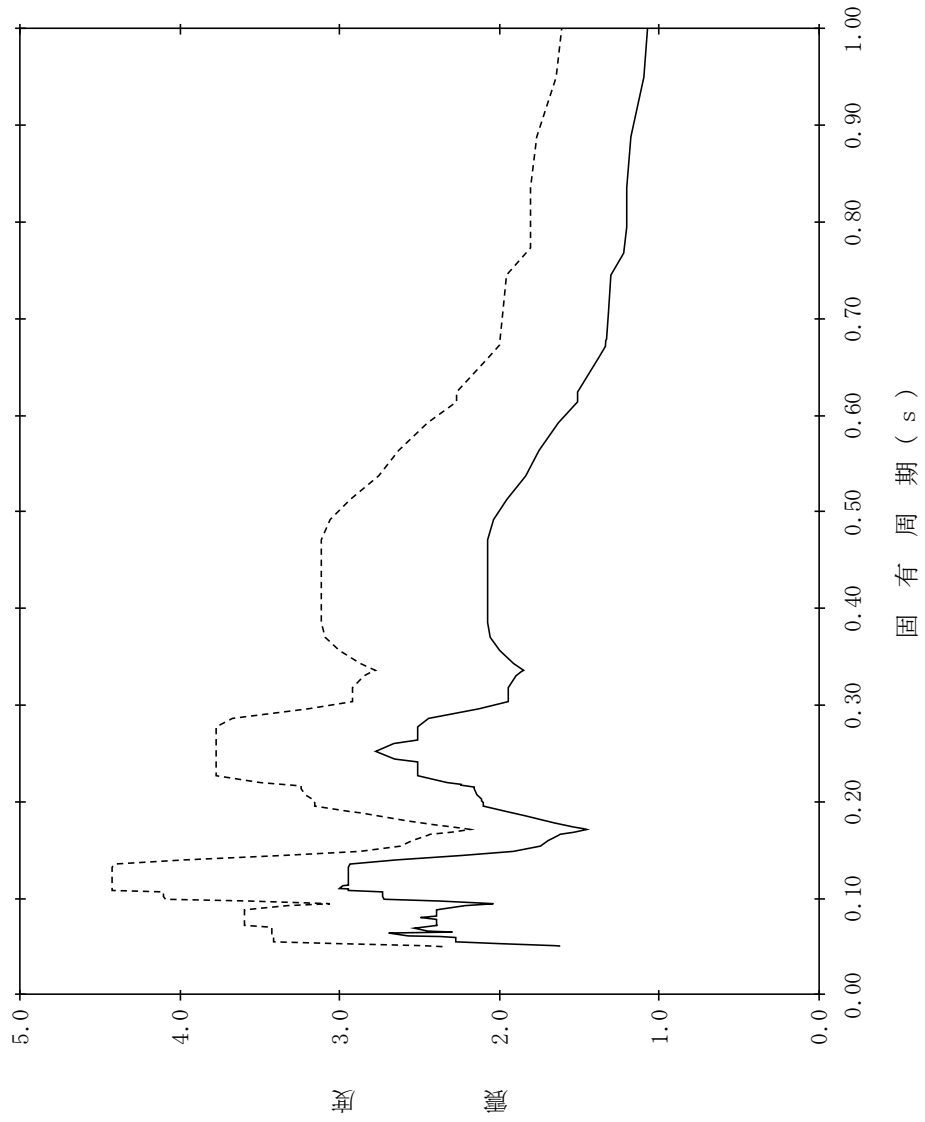
【NS2-PCV-SsNS-PED142】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



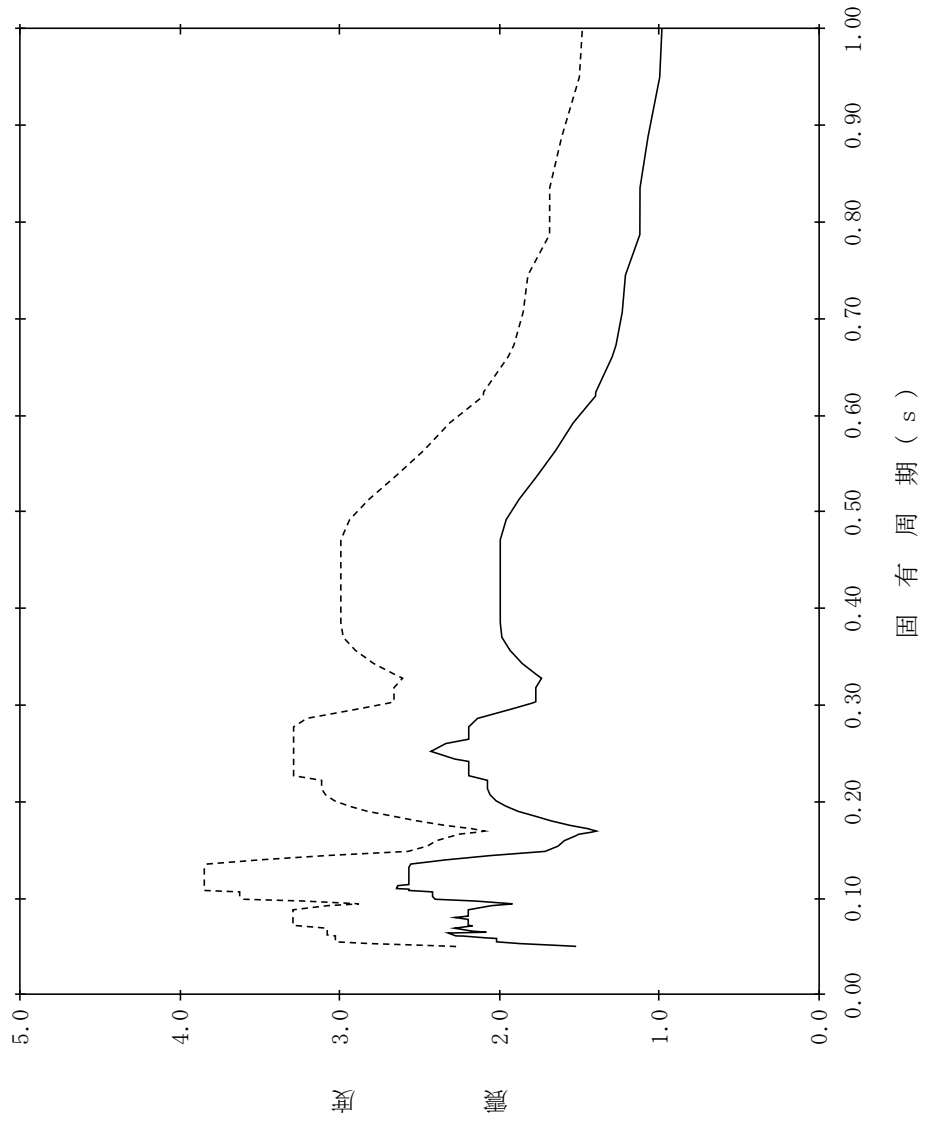
【NS2-PCV-SsNS-PED143】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



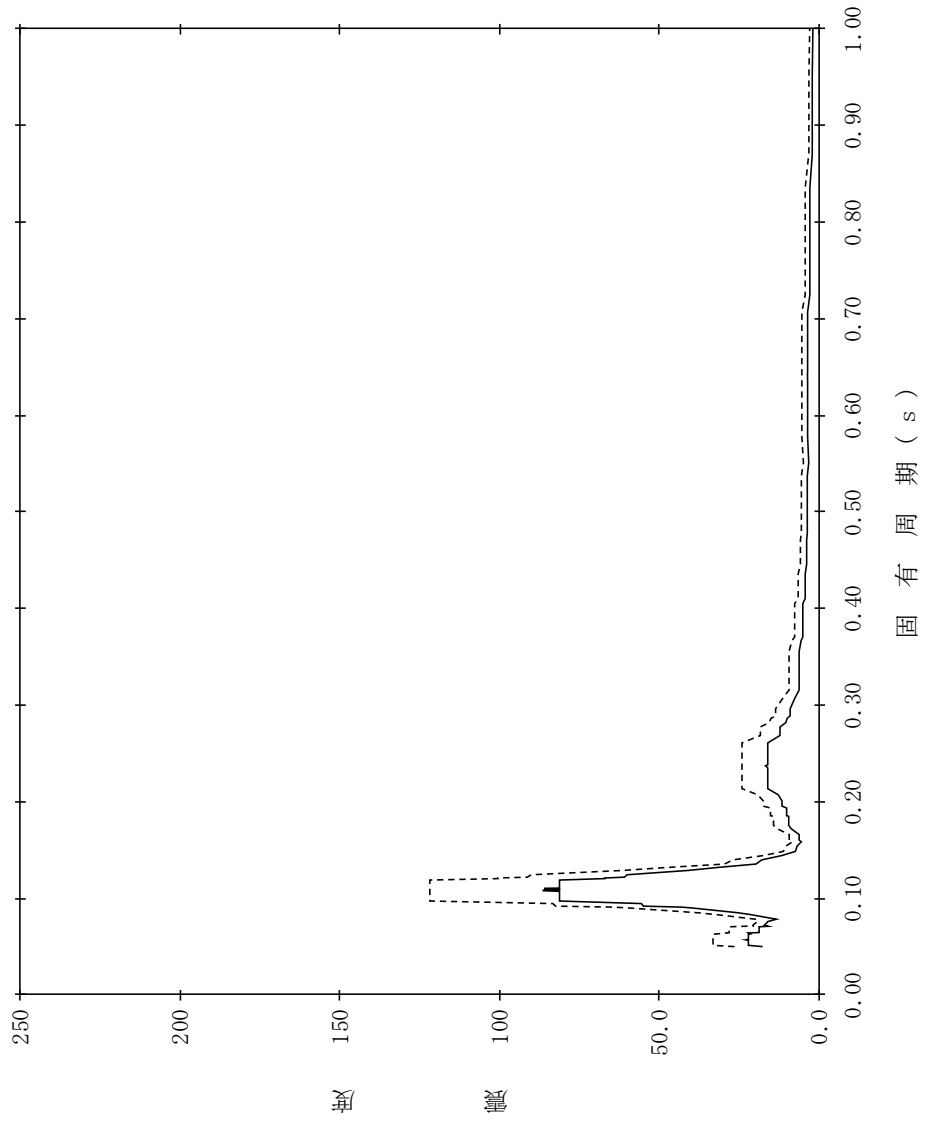
【NS2-PCV-SsNS-PED144】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



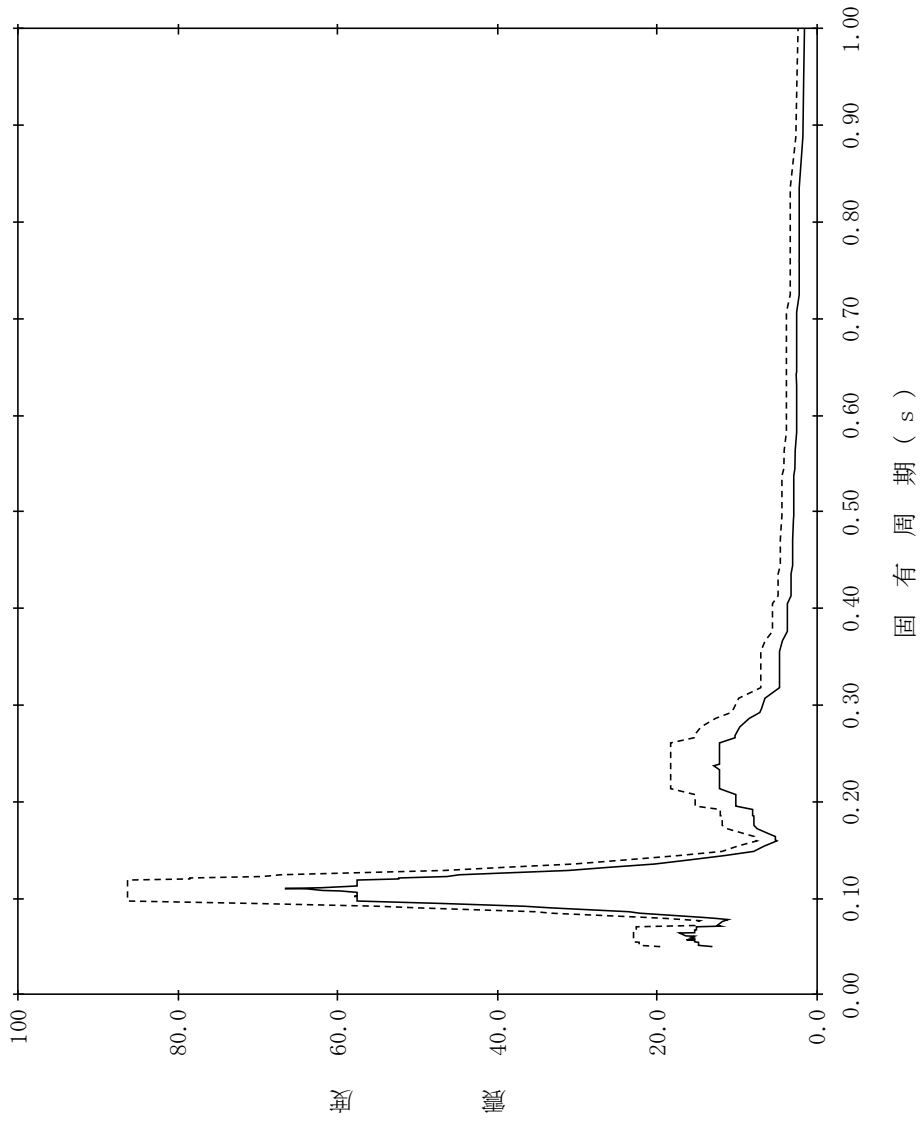
【NS2-PCV-SsNS-RPV145】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



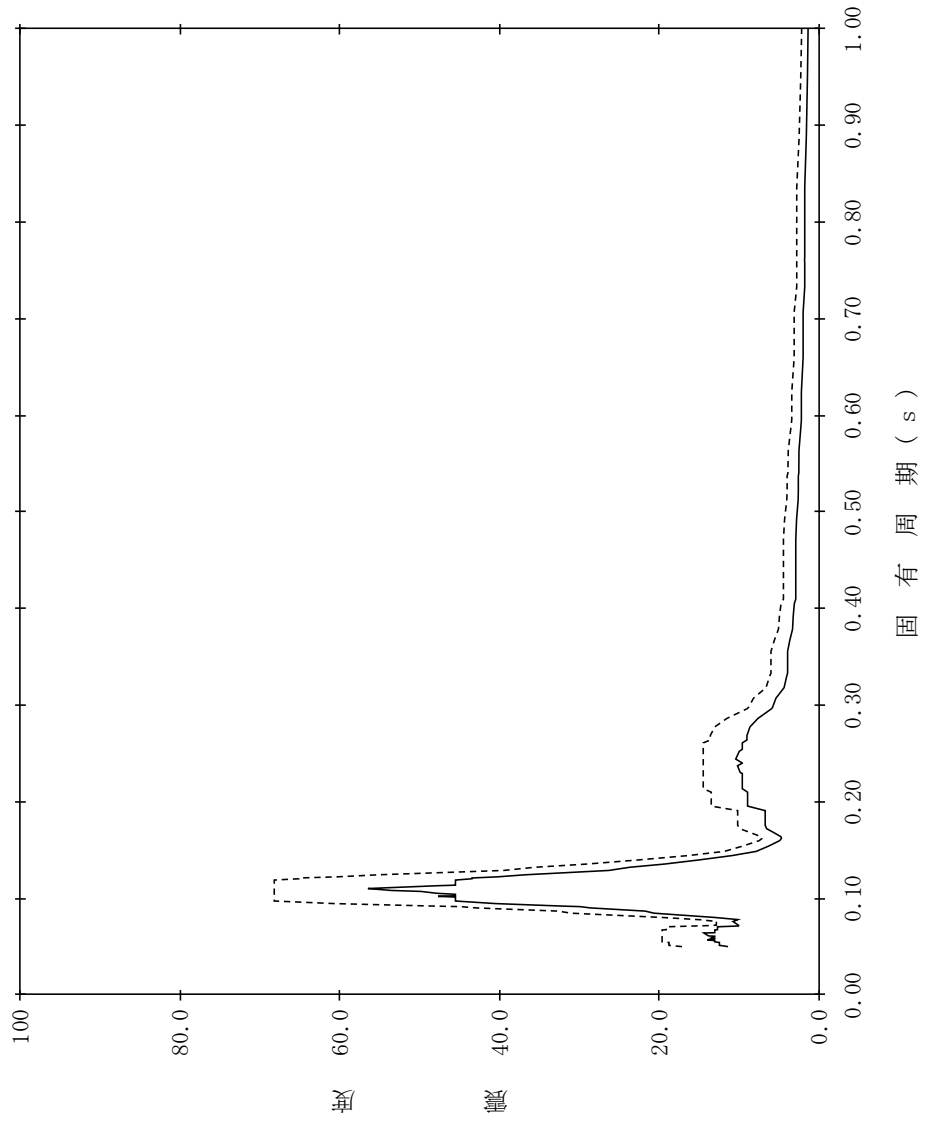
【NS2-PCV-SsNS-RPV146】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



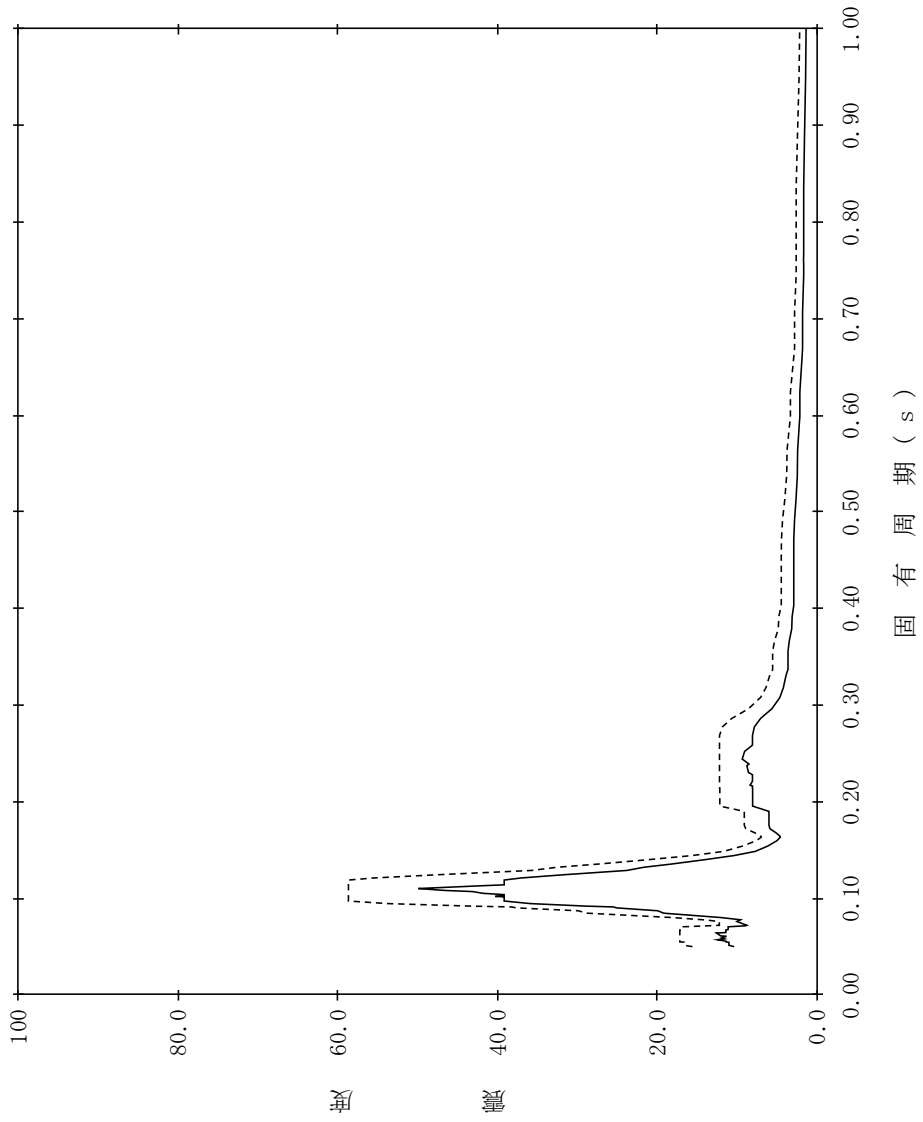
【NS2-PCV-SsNS-RPV147】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



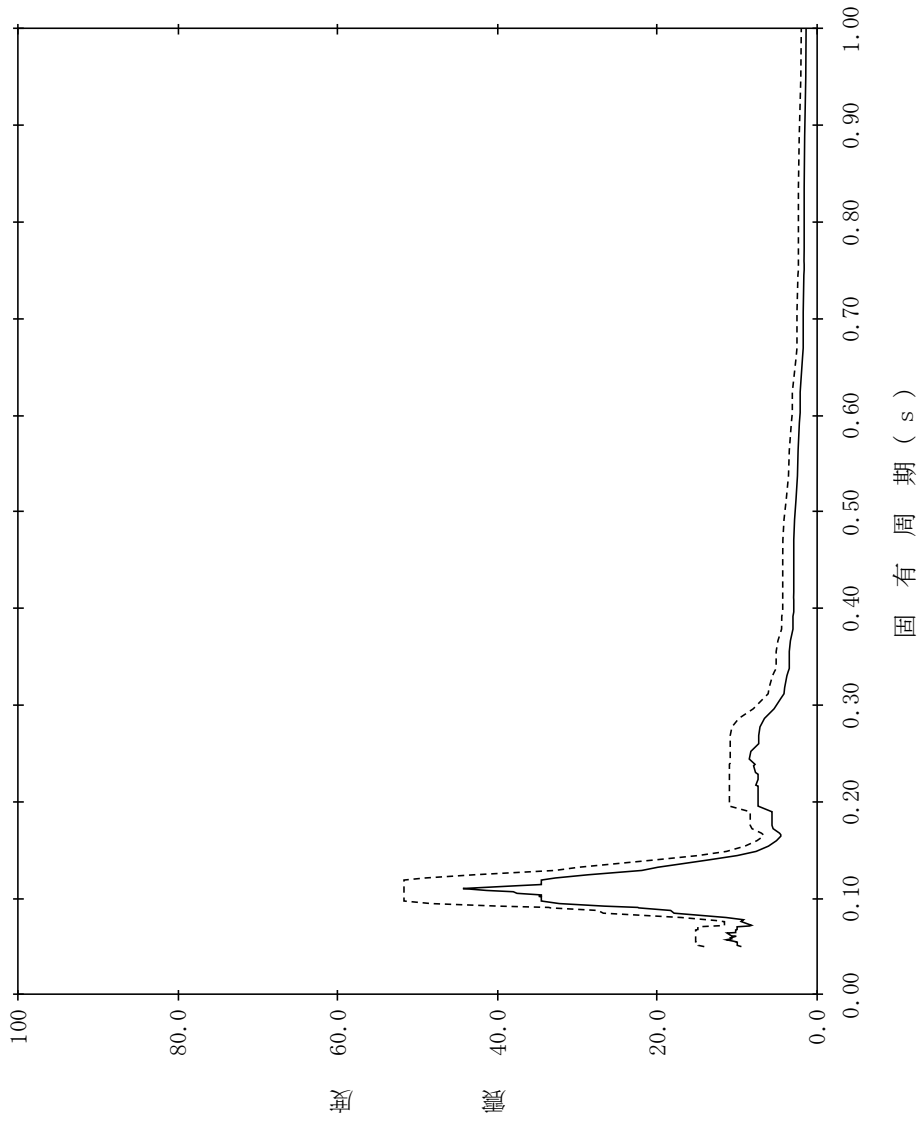
【NS2-PCV-SsNS-RPV148】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



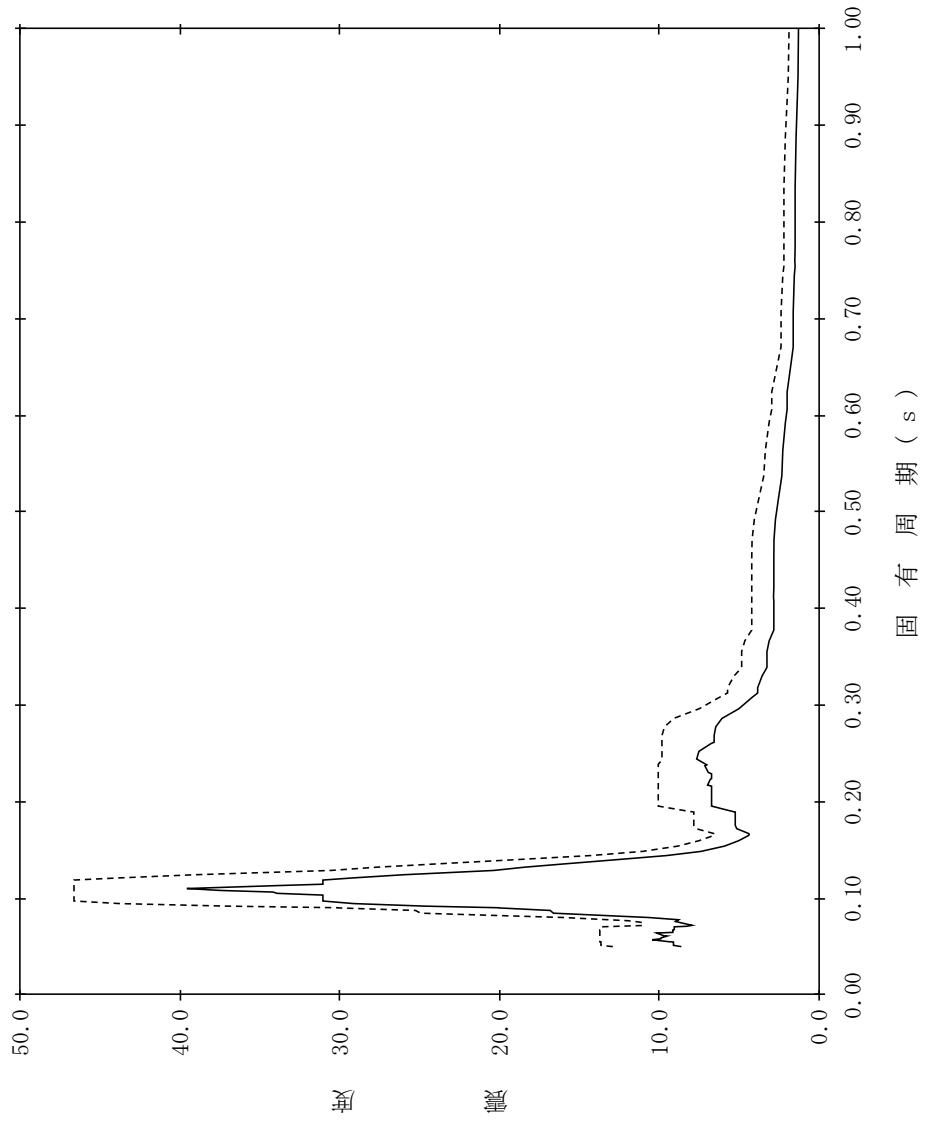
【NS2-PCV-SsNS-RPV149】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



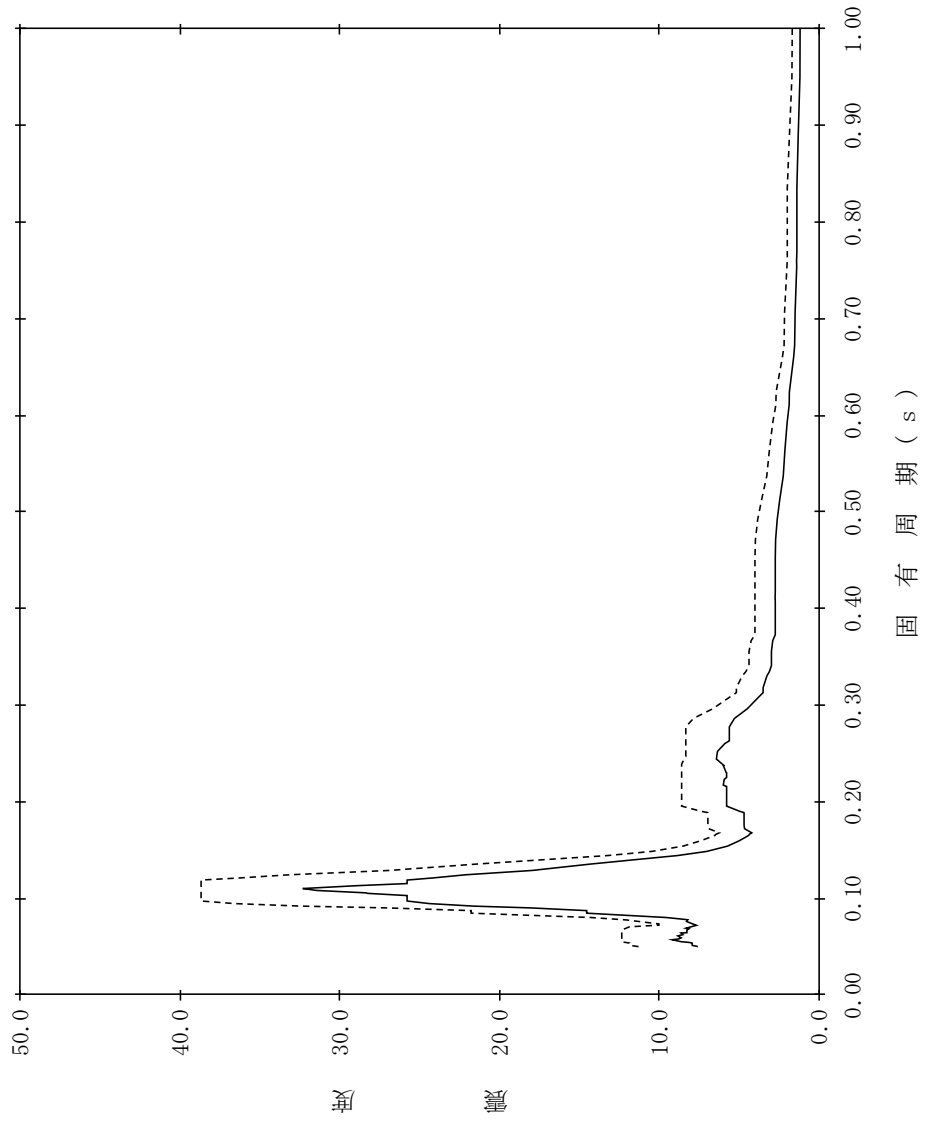
【NS2-PCV-SsNS-RPV150】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL32.567m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



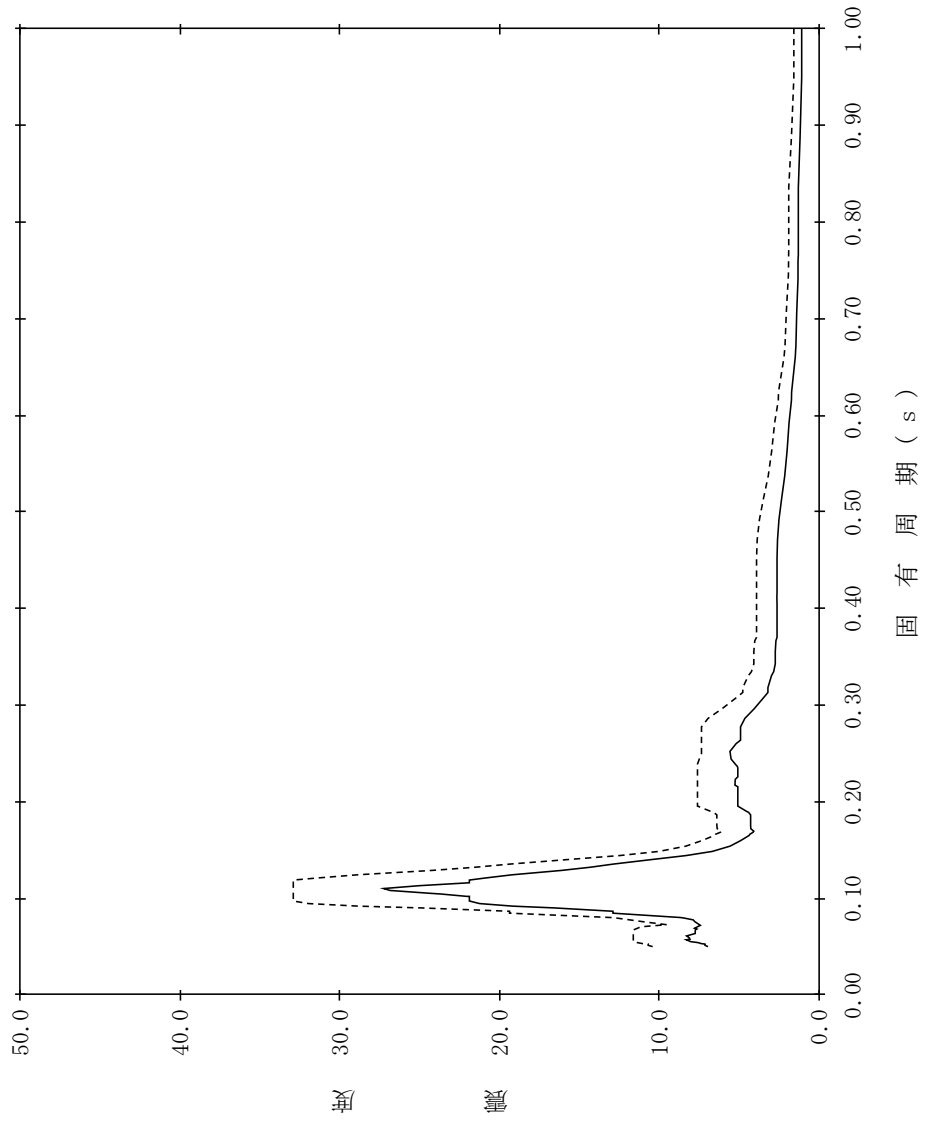
【NS2-PCV-SsNS-RPV151】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



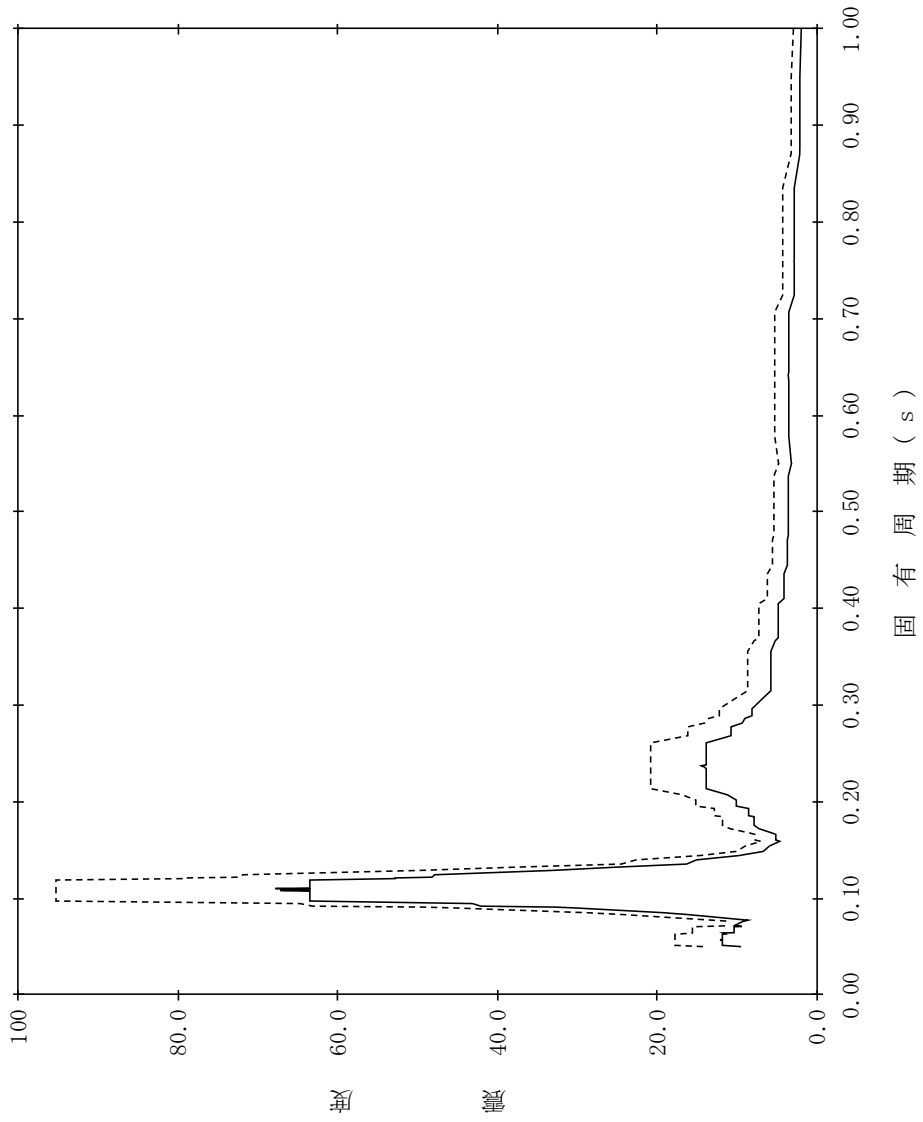
【NS2-PCV-SsNS-RPV152】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



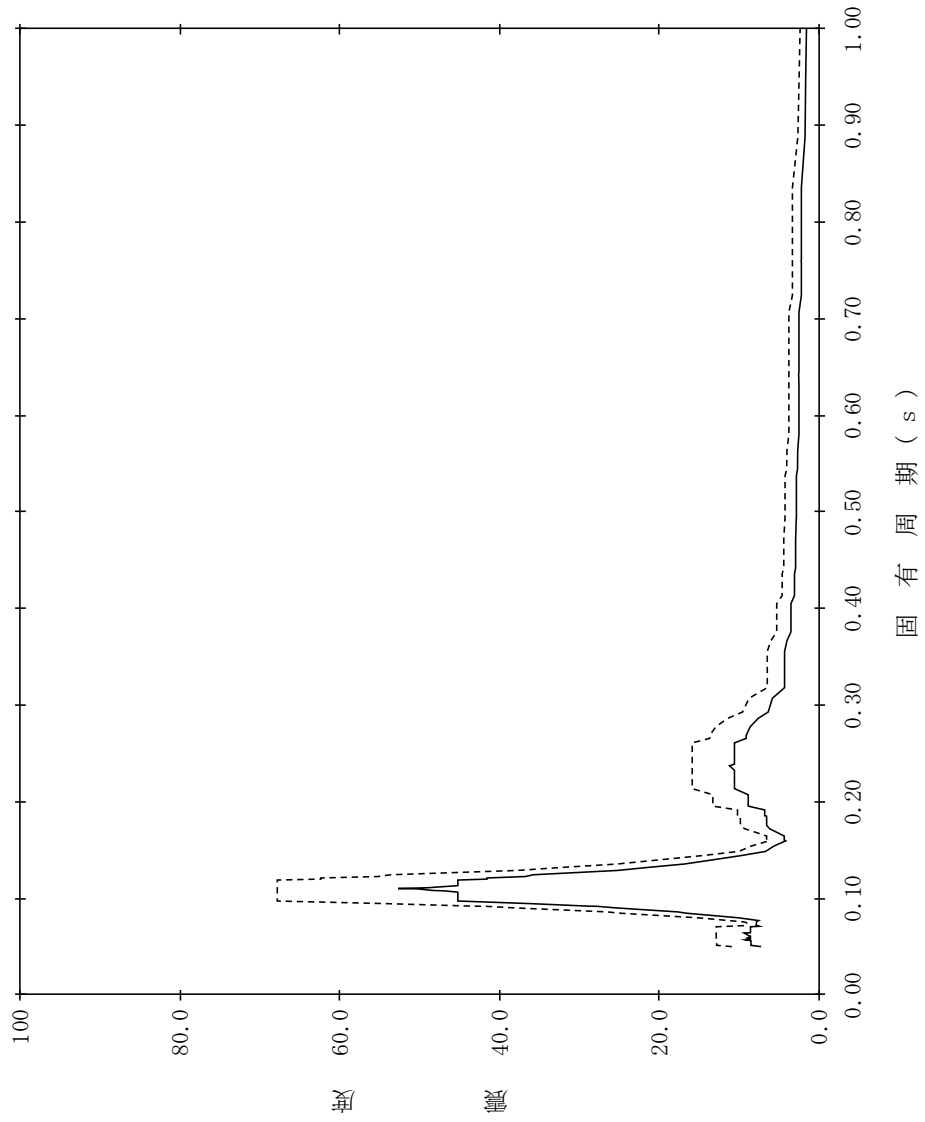
【NS2-PCV-SsNS-RPV153】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



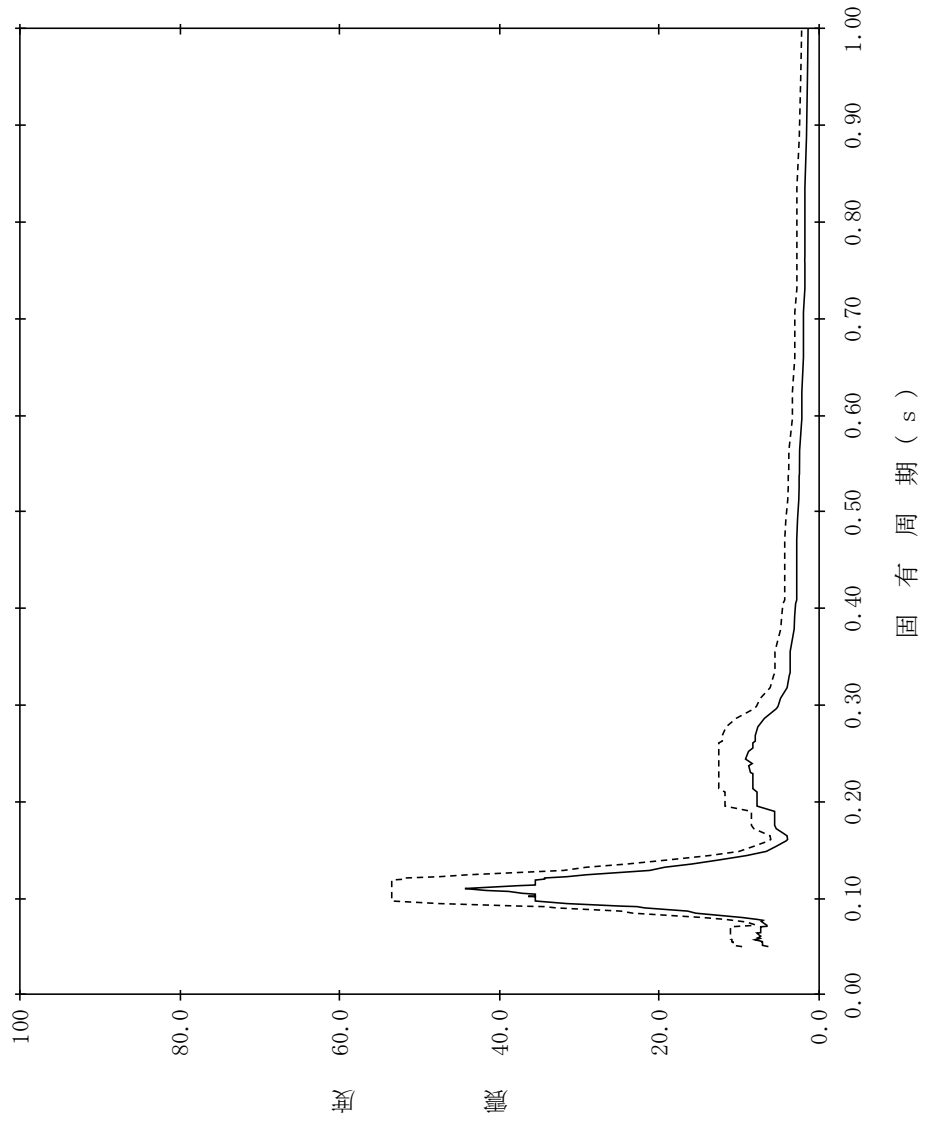
【NS2-PCV-SsNS-RPV154】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL29.181m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



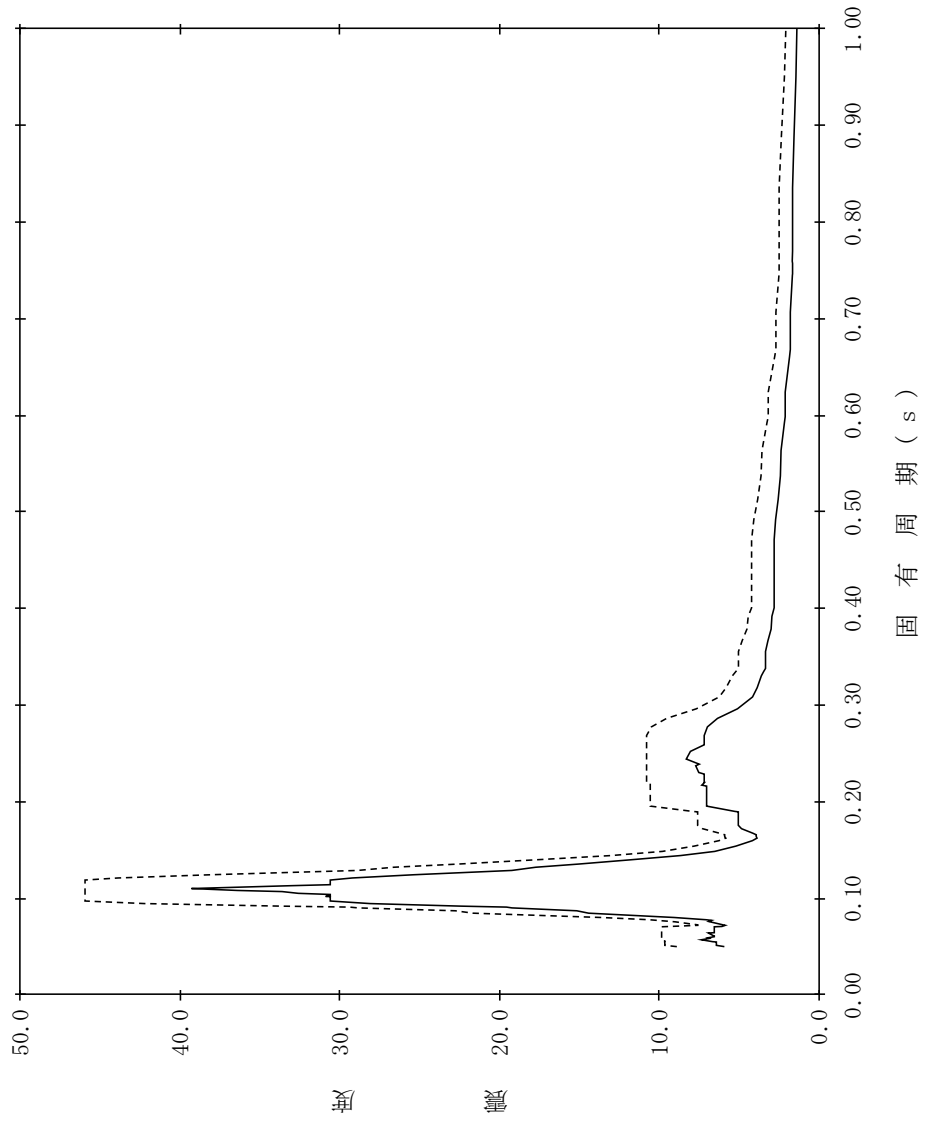
【NS2-PCV-SsNS-RPV155】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



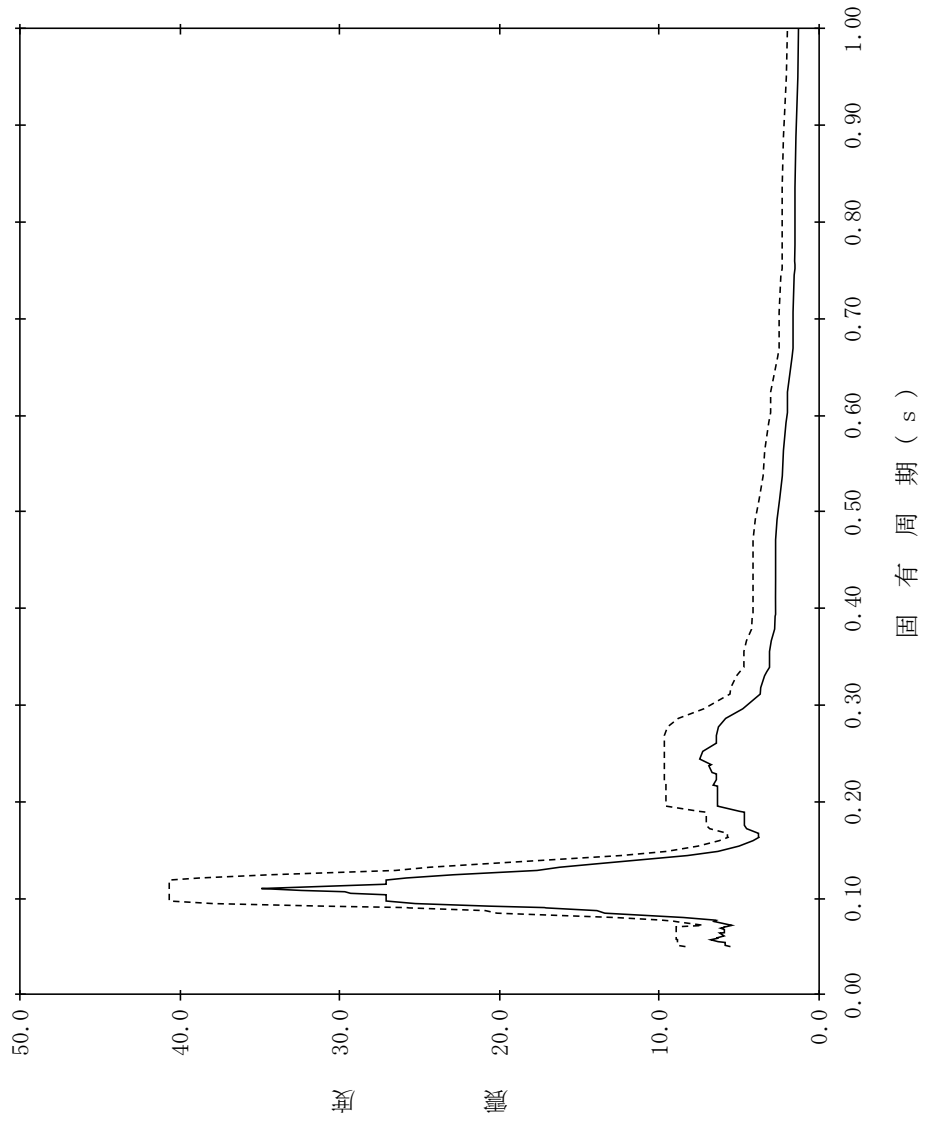
【NS2-PCV-SsNS-RPV156】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL29.181m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



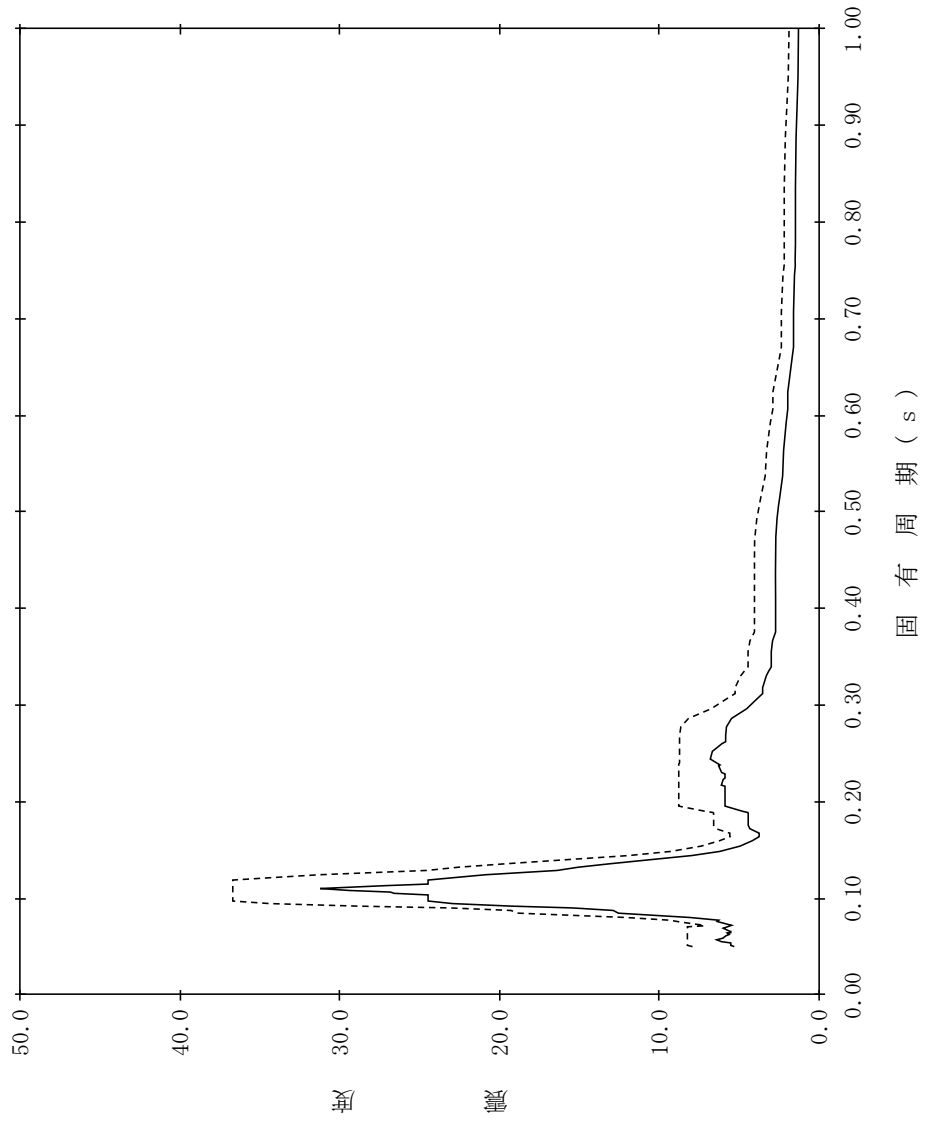
【NS2-PCV-SsNS-RPV157】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



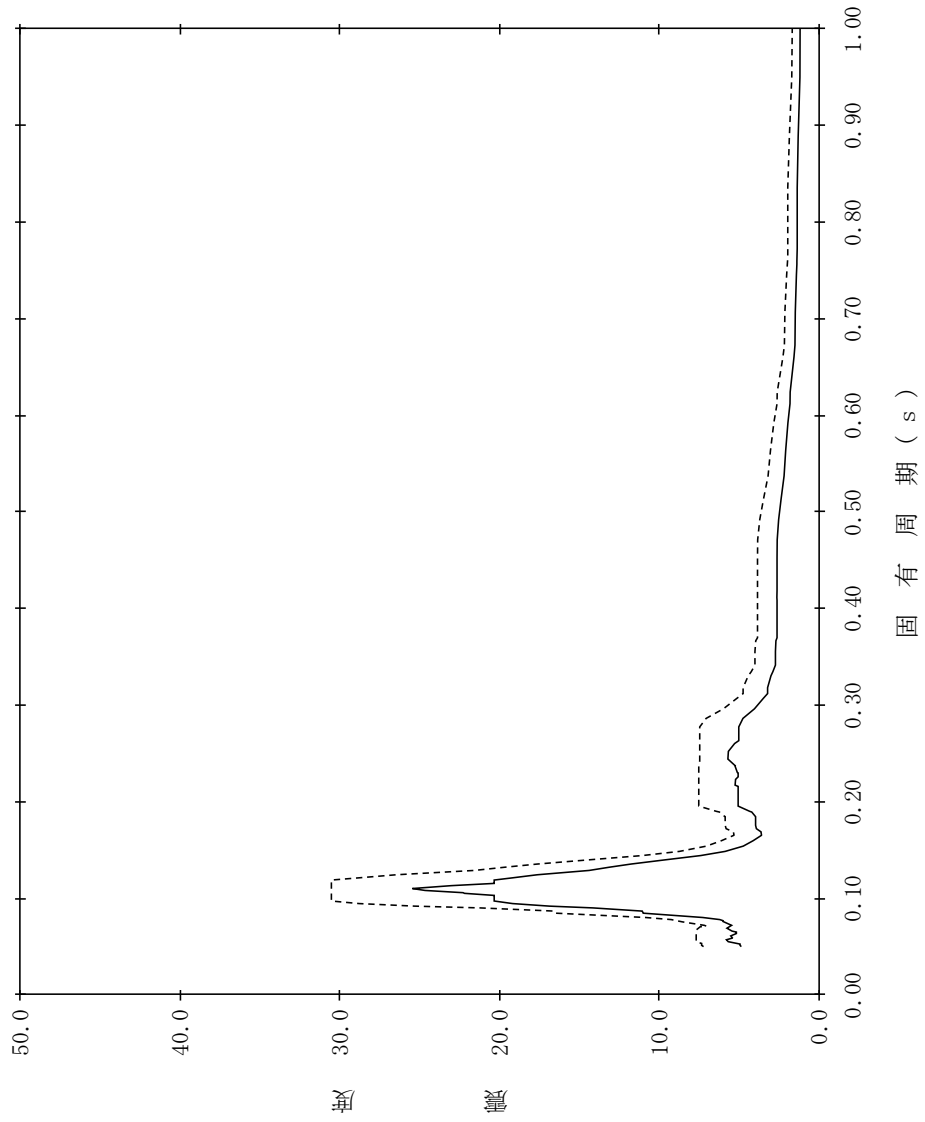
【NS2-PCV-SsNS-RPV158】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



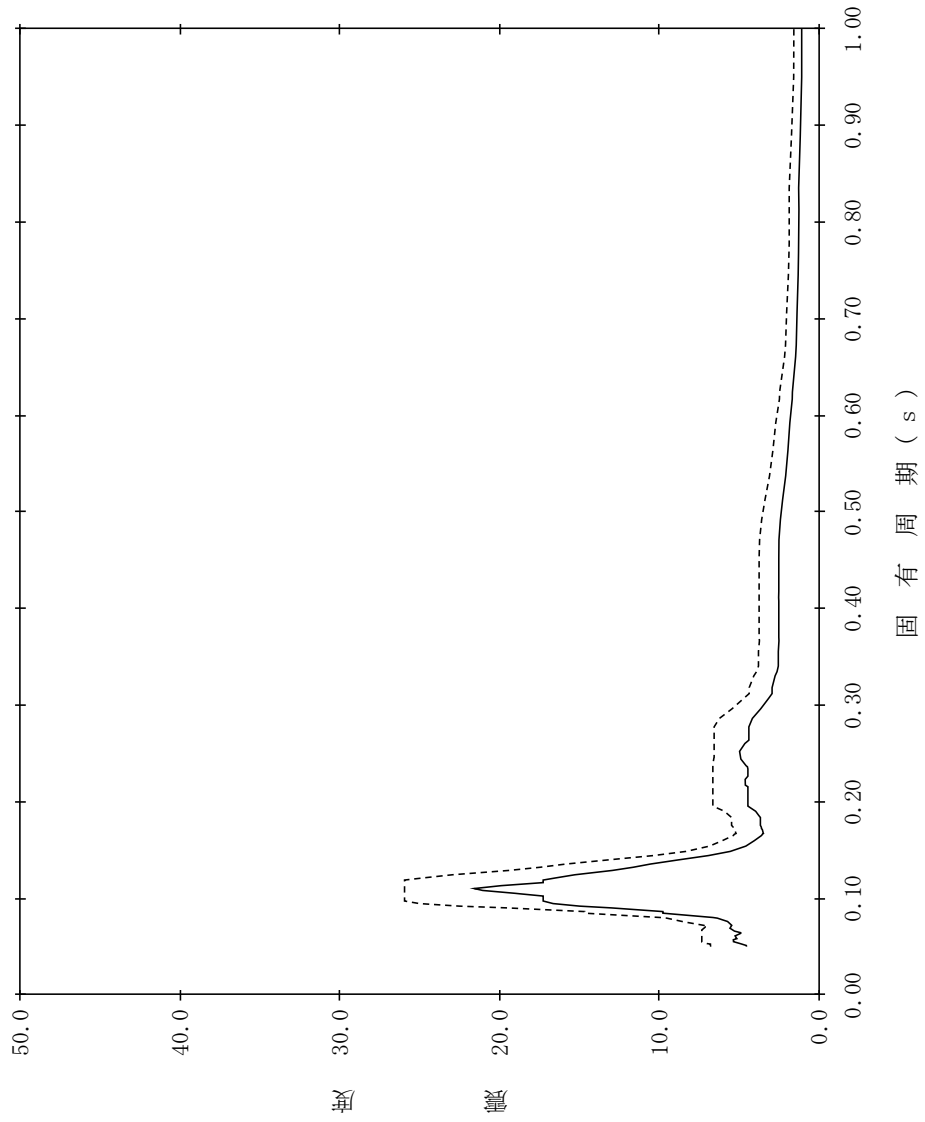
【NS2-PCV-SsNS-RPV159】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL29.181m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



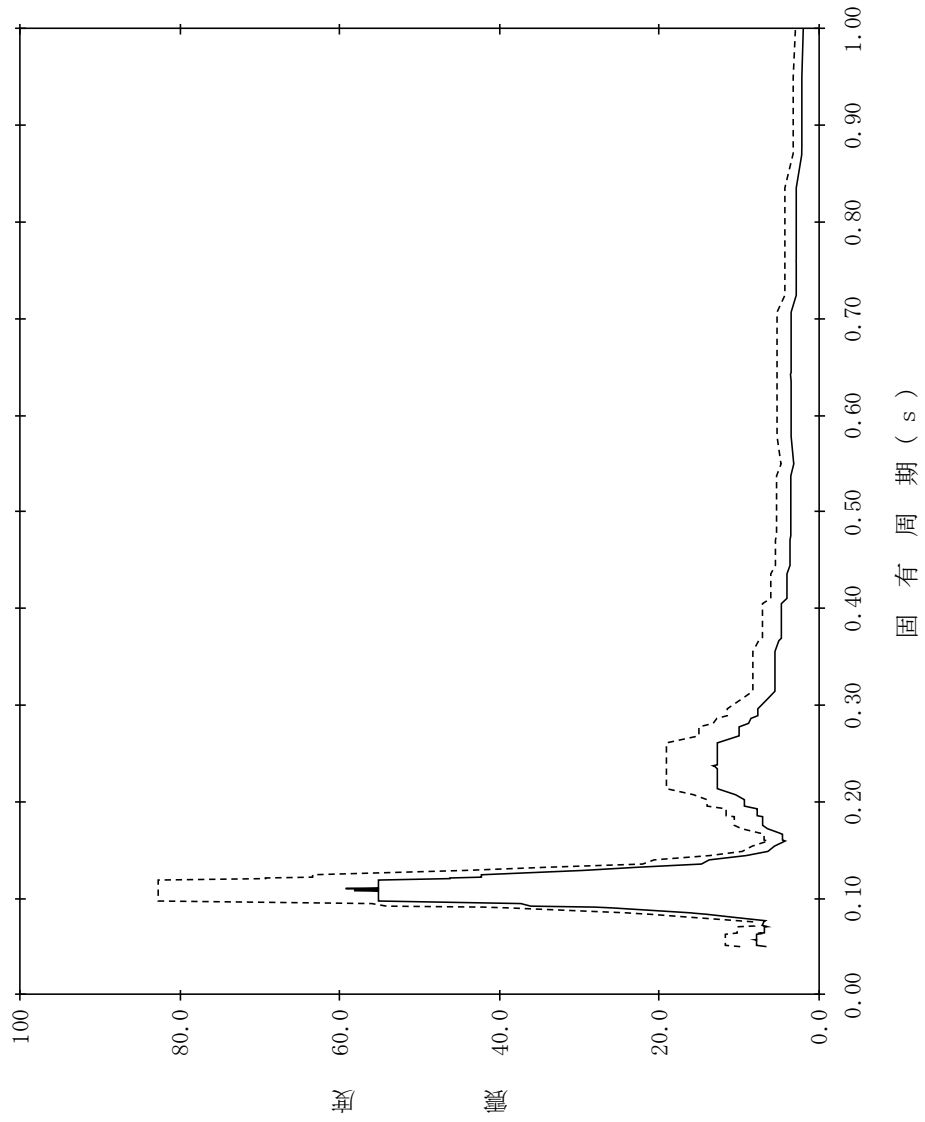
【NS2-PCV-SsNS-RPV160】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



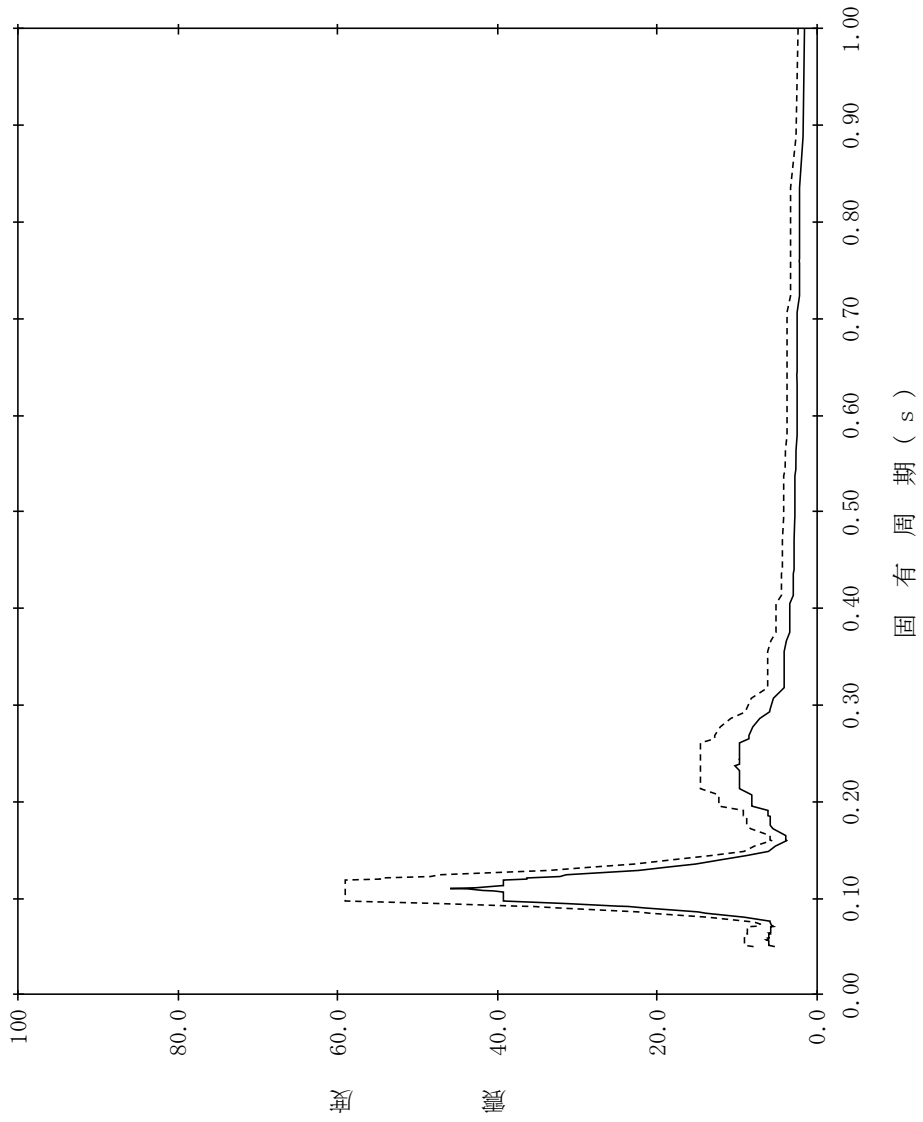
【NS2-PCV-SsNS-RPV161】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



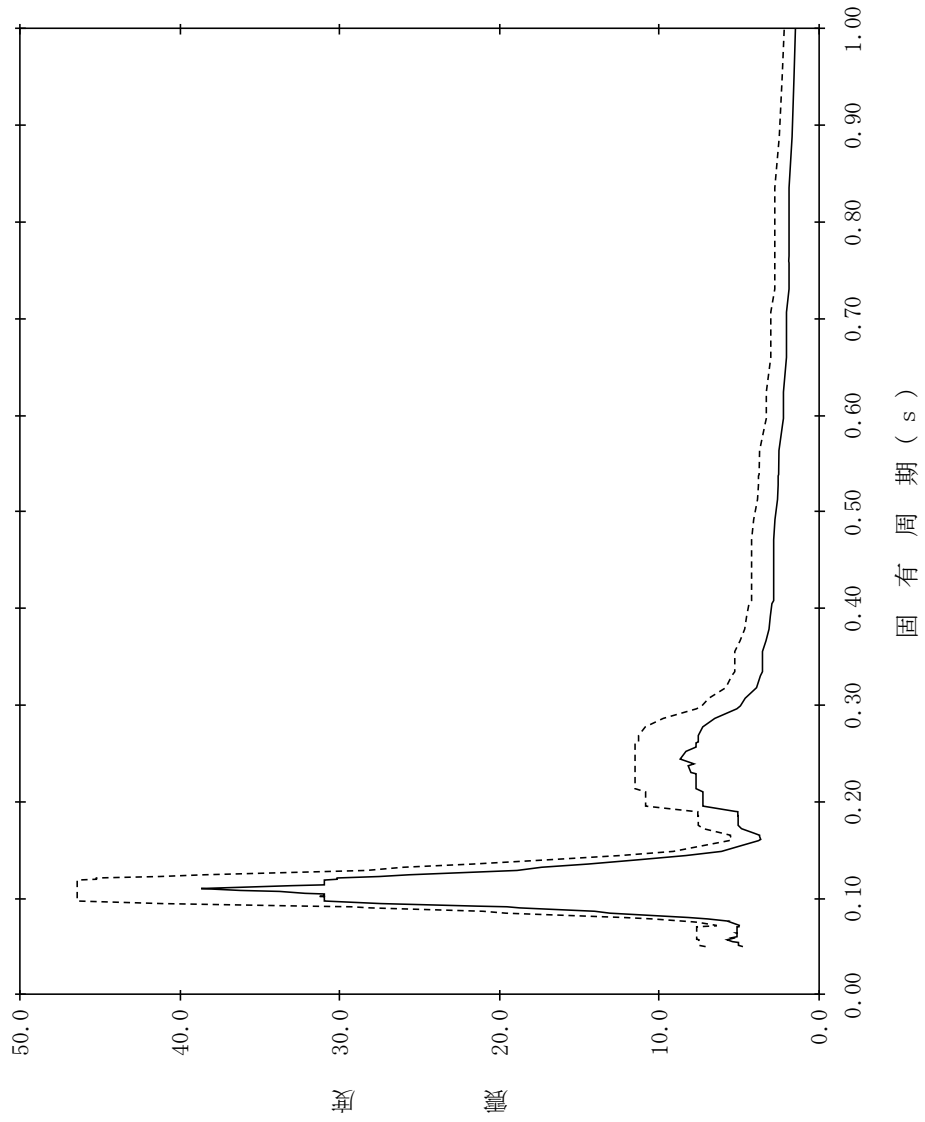
【NS2-PCV-SsNS-RPV162】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



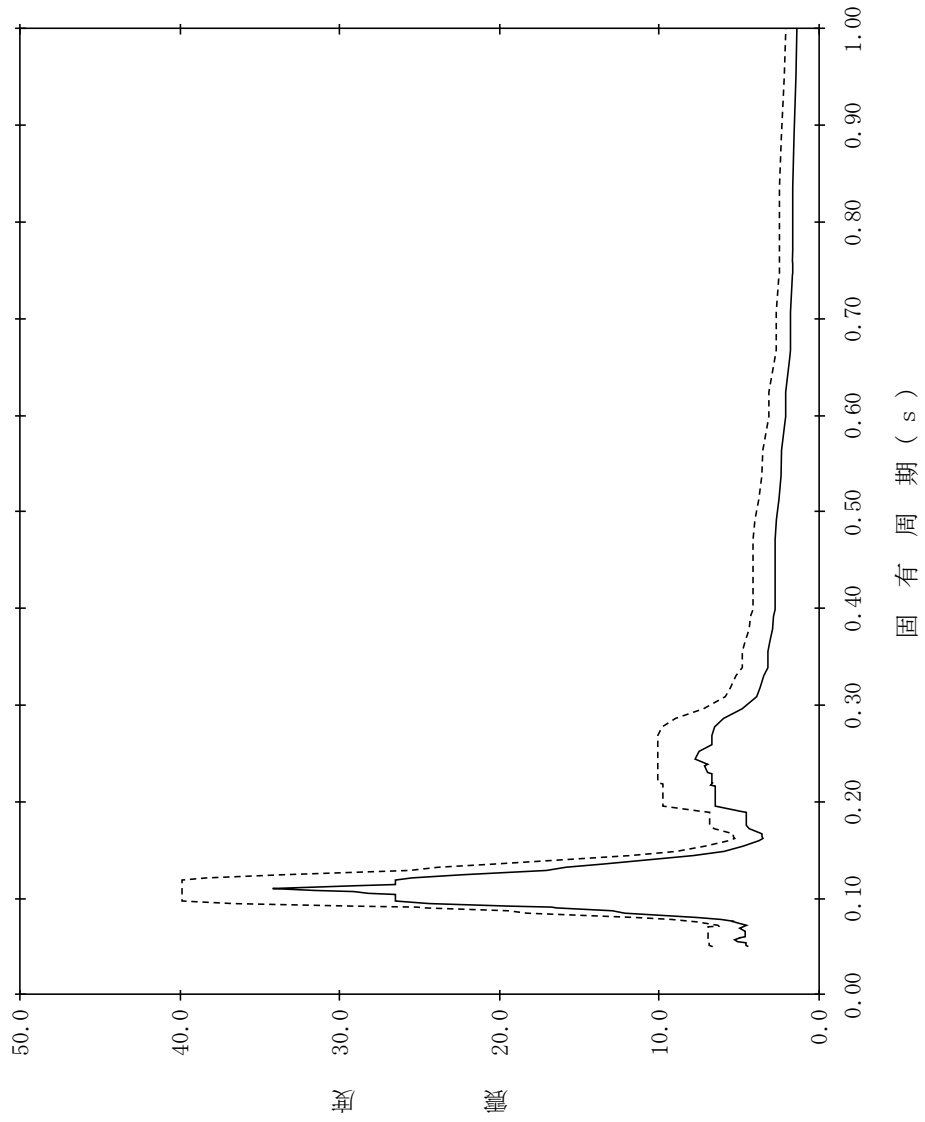
【NS2-PCV-SsNS-RPV163】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL27.317m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



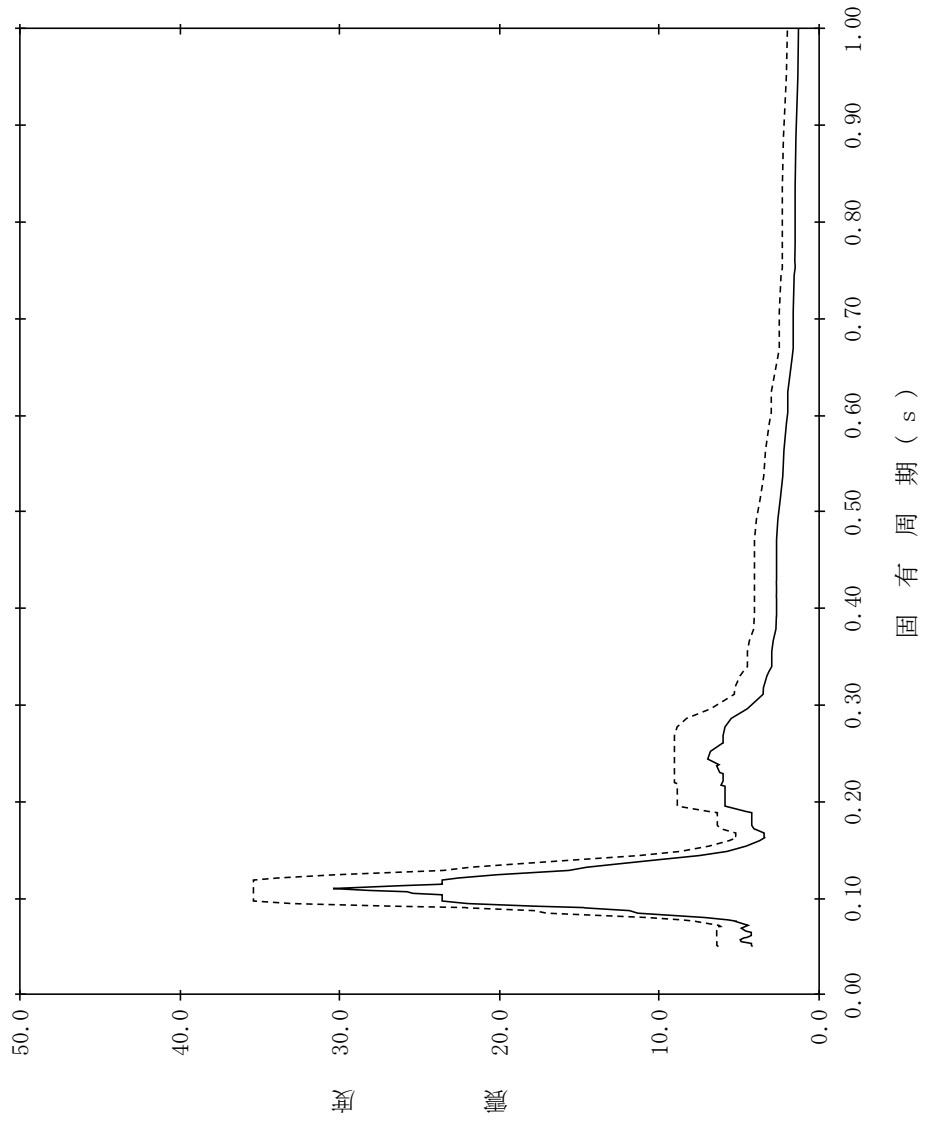
【NS2-PCV-SsNS-RPV164】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



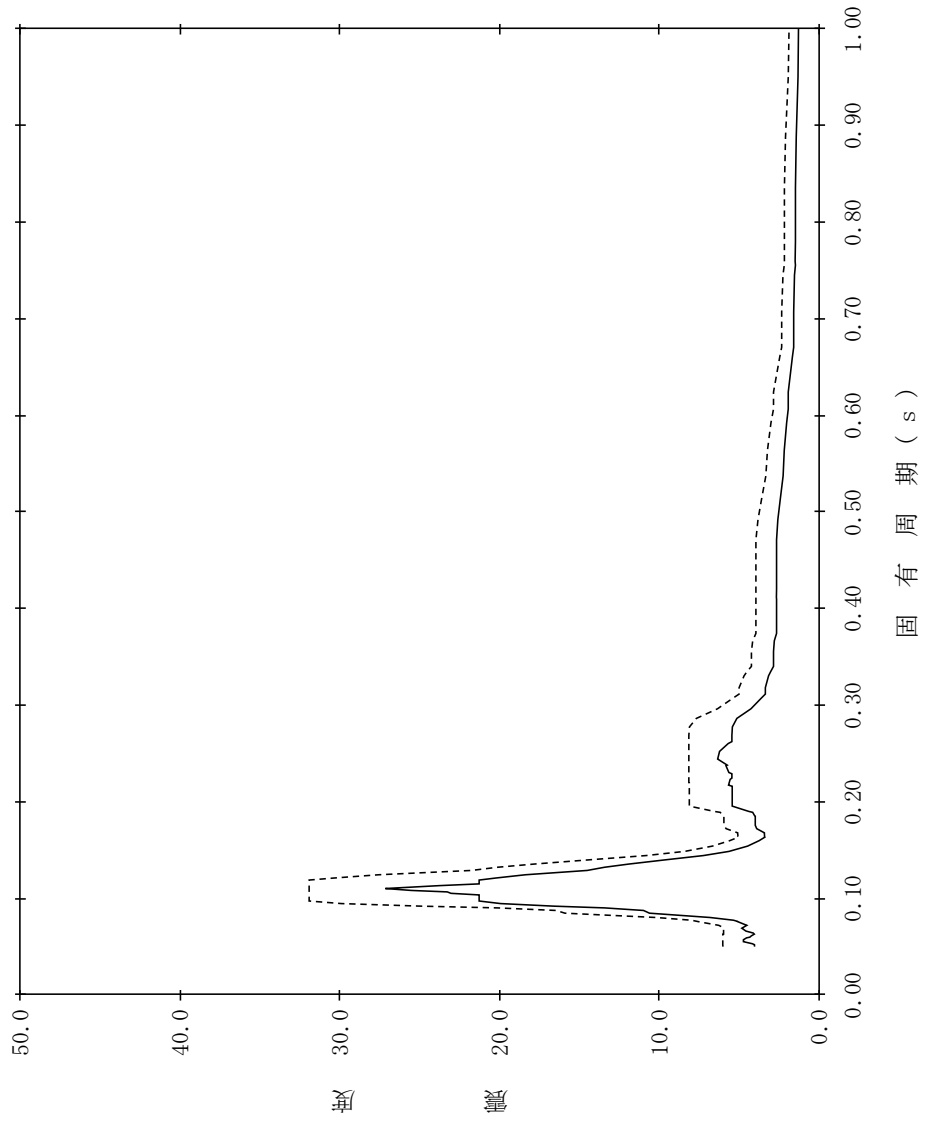
【NS2-PCV-SsNS-RPV165】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



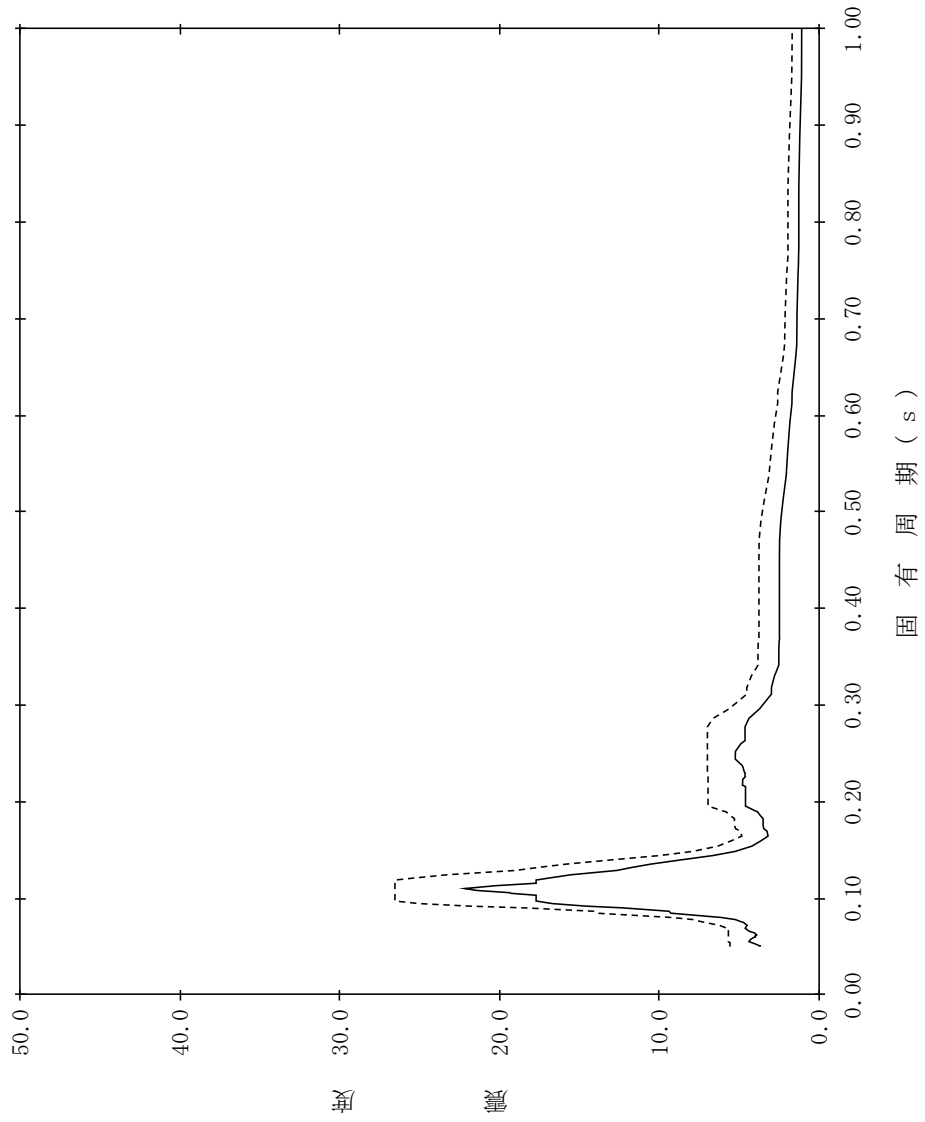
【NS2-PCV-SsNS-RPV166】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



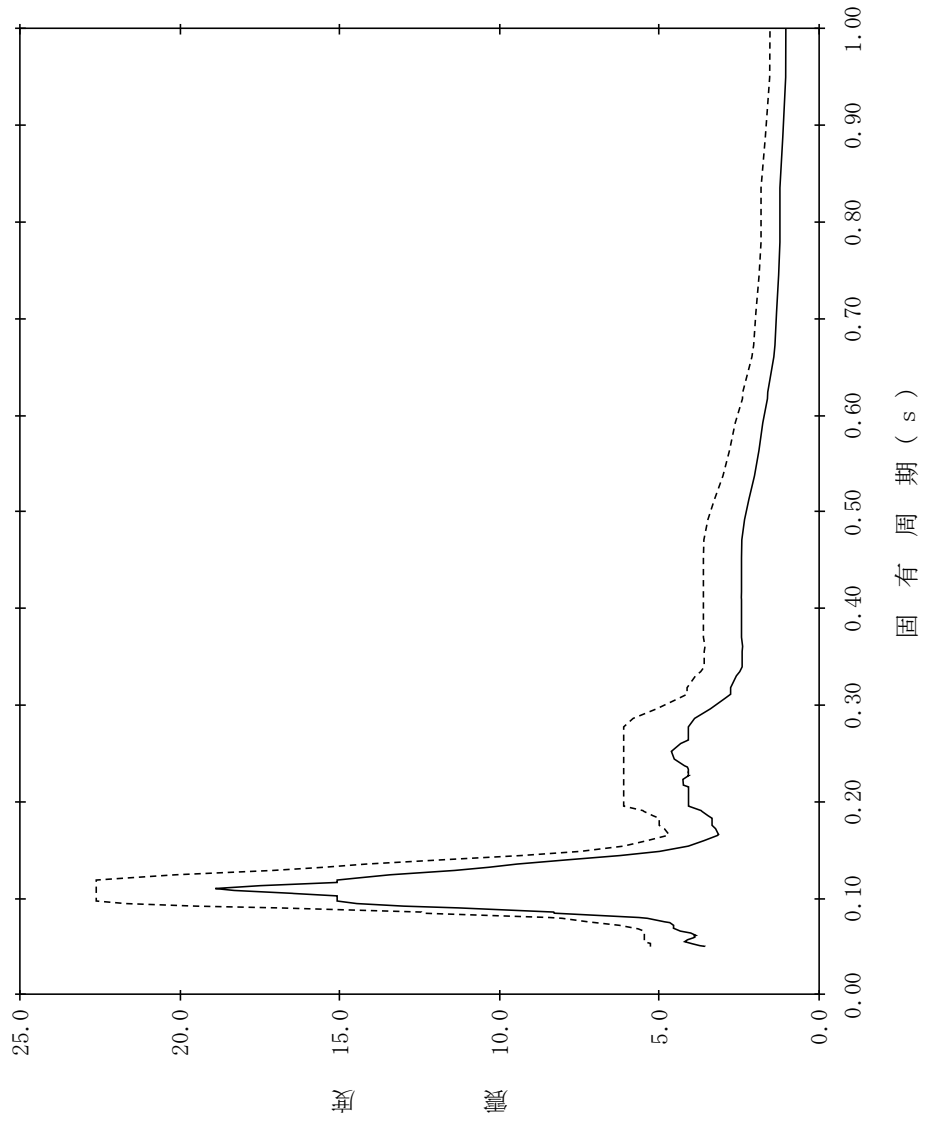
【NS2-PCV-SsNS-RPV167】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



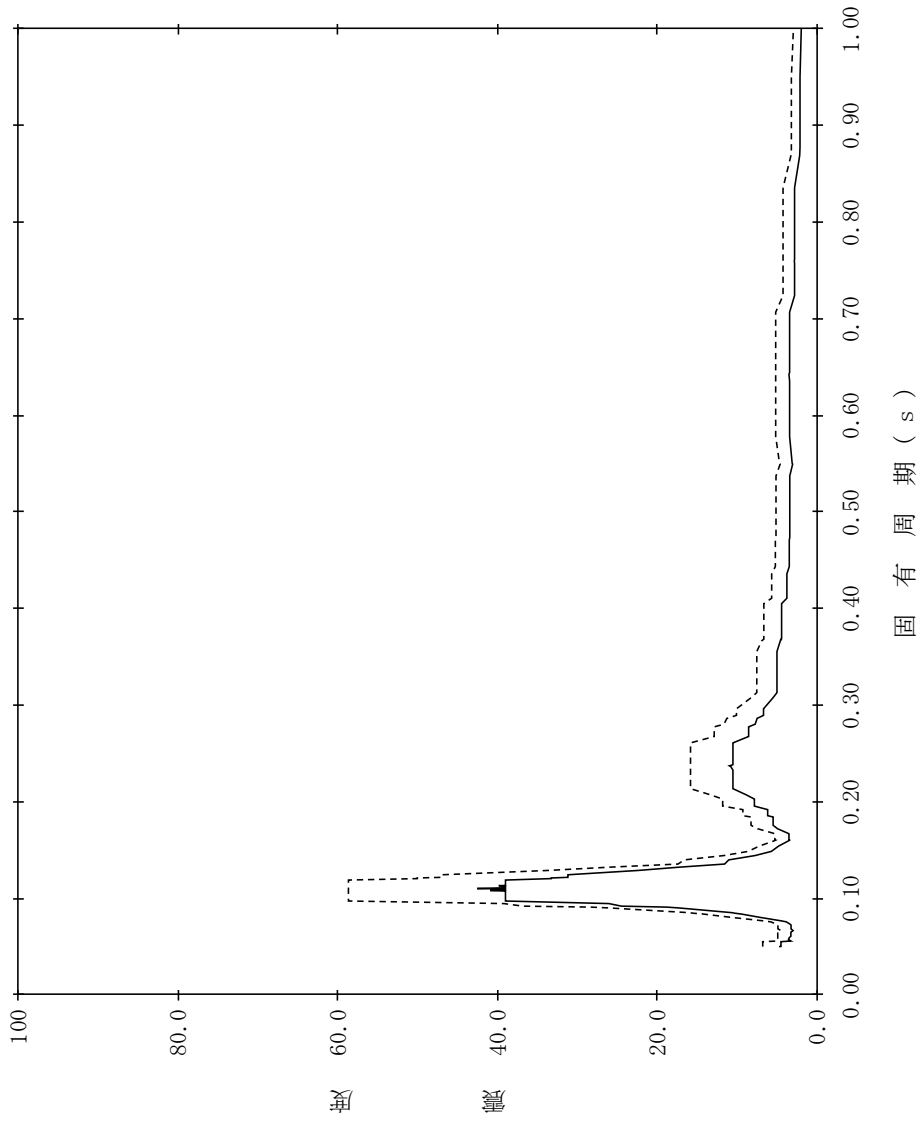
【NS2-PCV-SsNS-RPV168】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



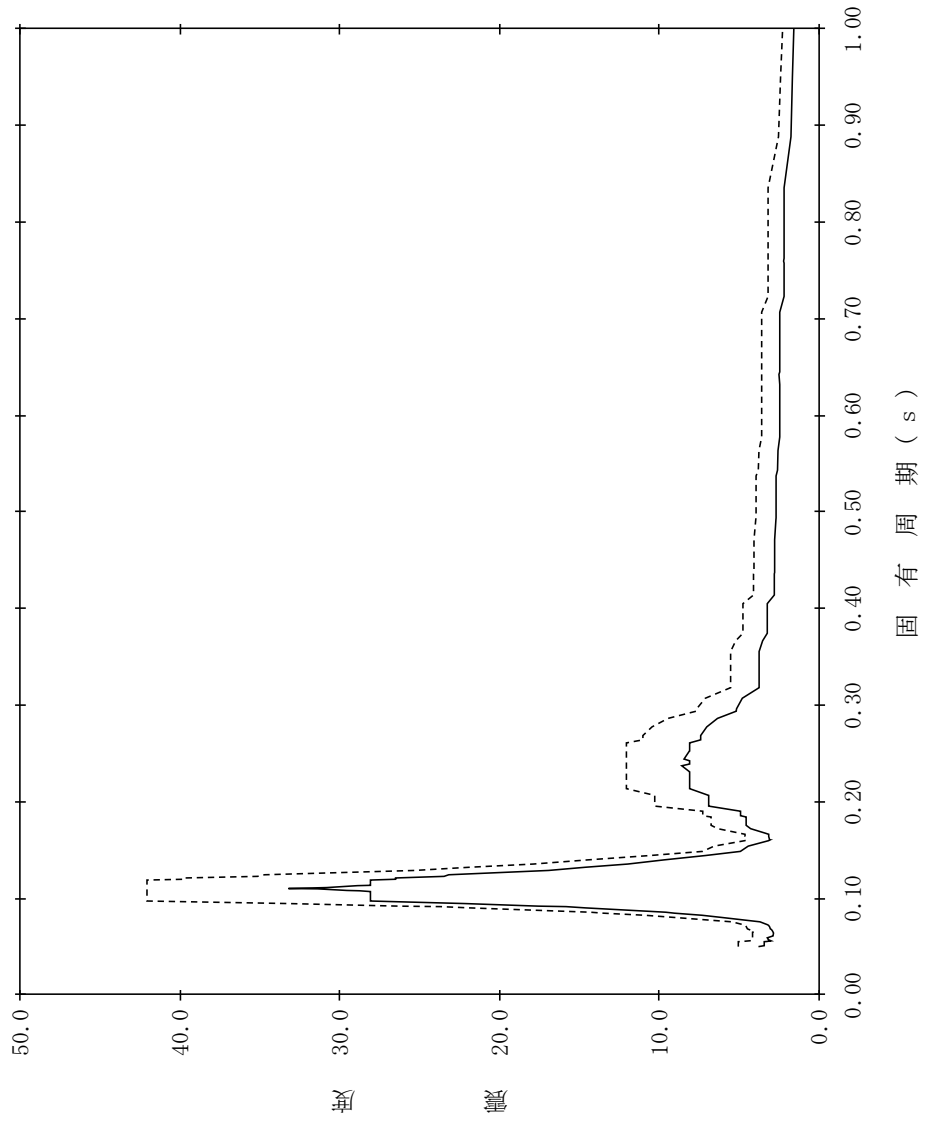
【NS2-PCV-SsNS-RPV169】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



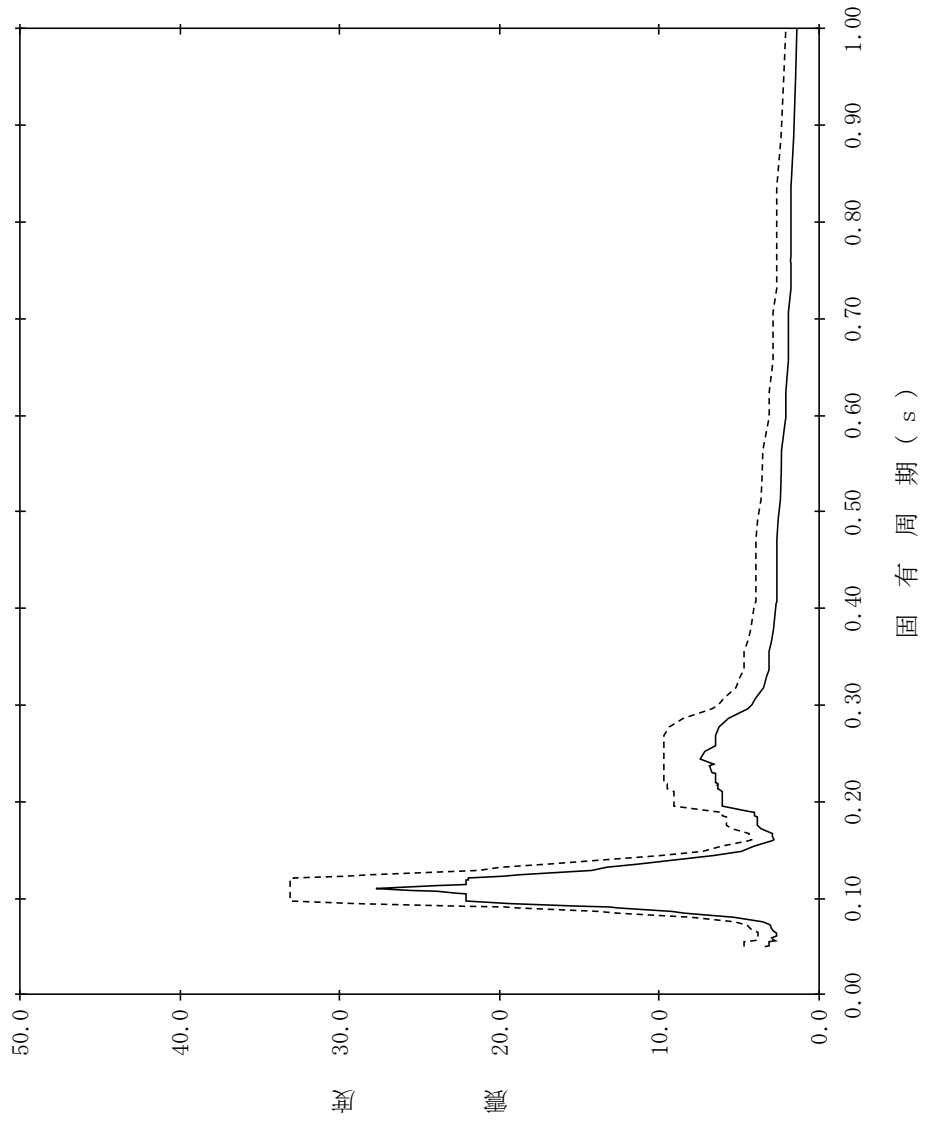
【NS2-PCV-SsNS-RPV170】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



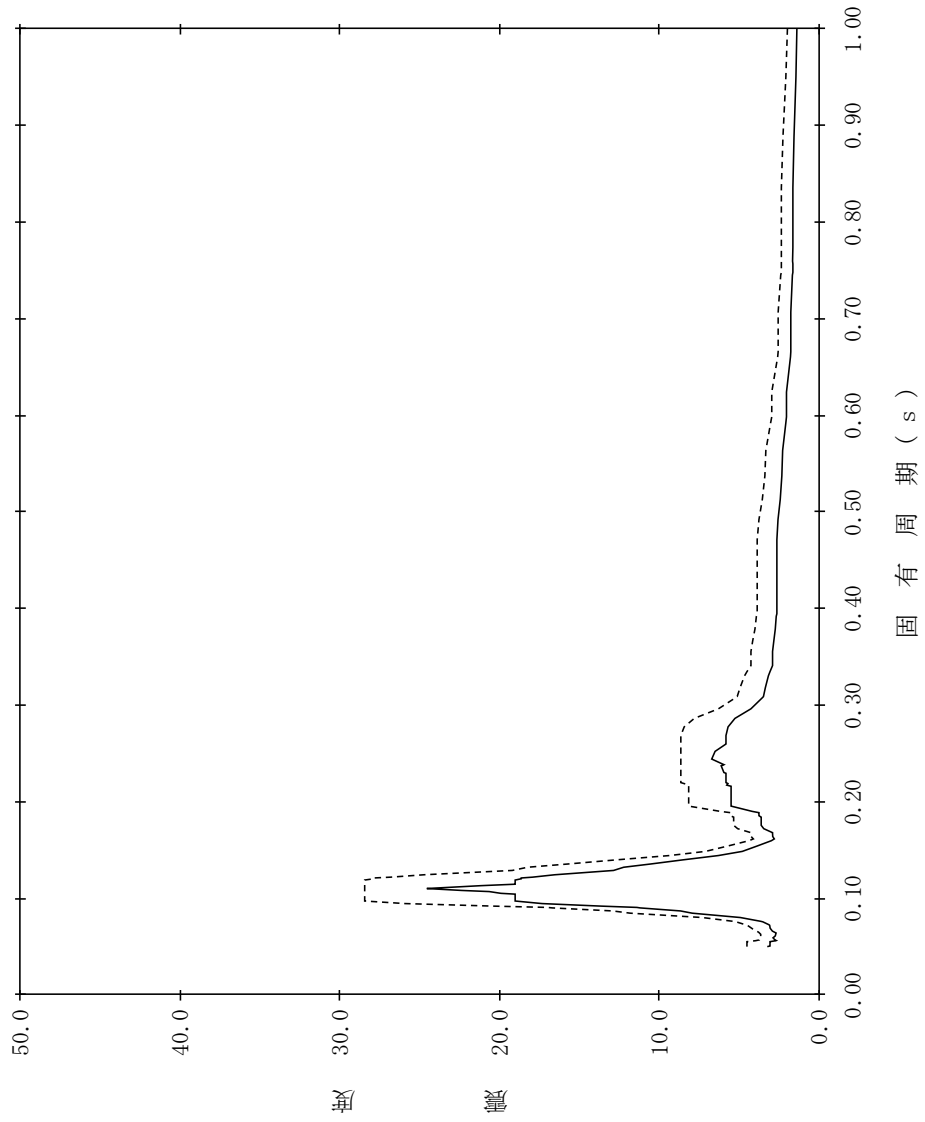
【NS2-PCV-SsNS-RPV171】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



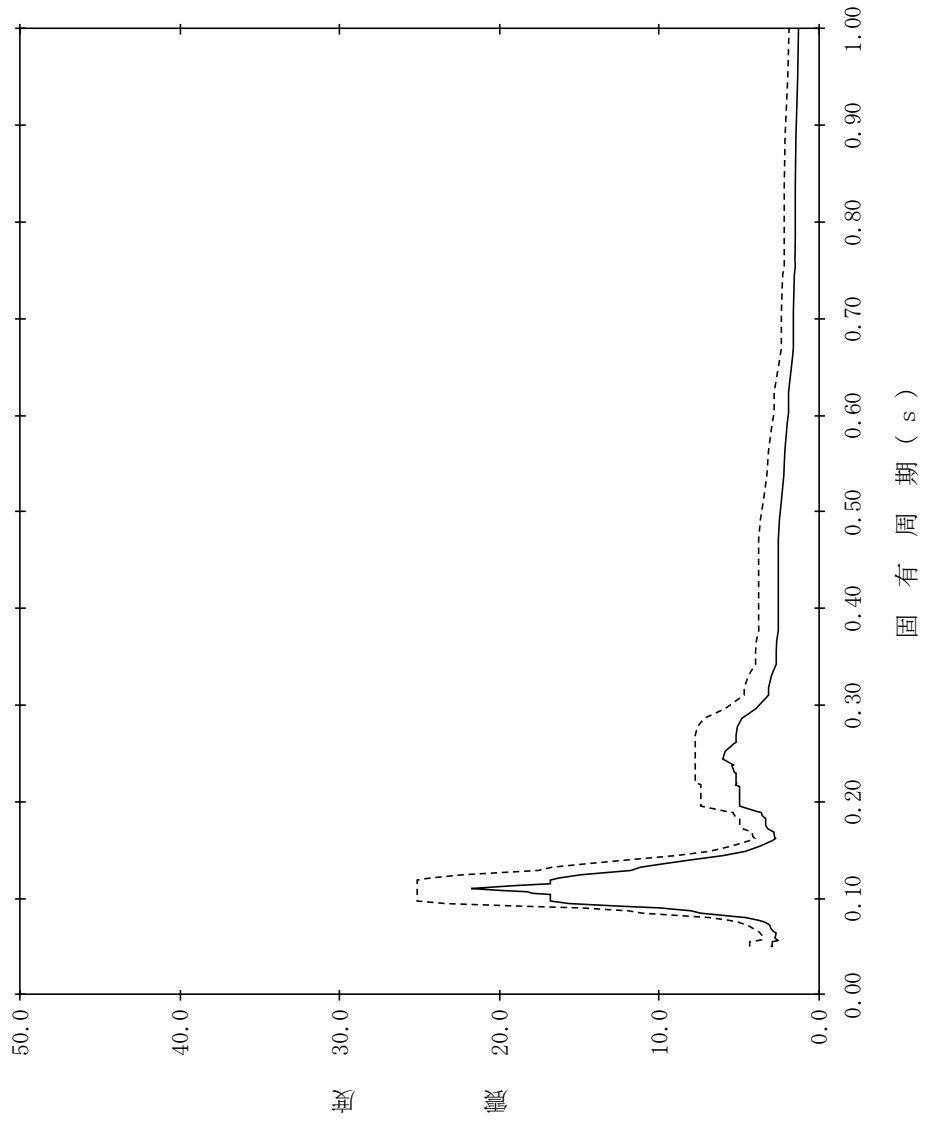
【NS2-PCV-SsNS-RPV172】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



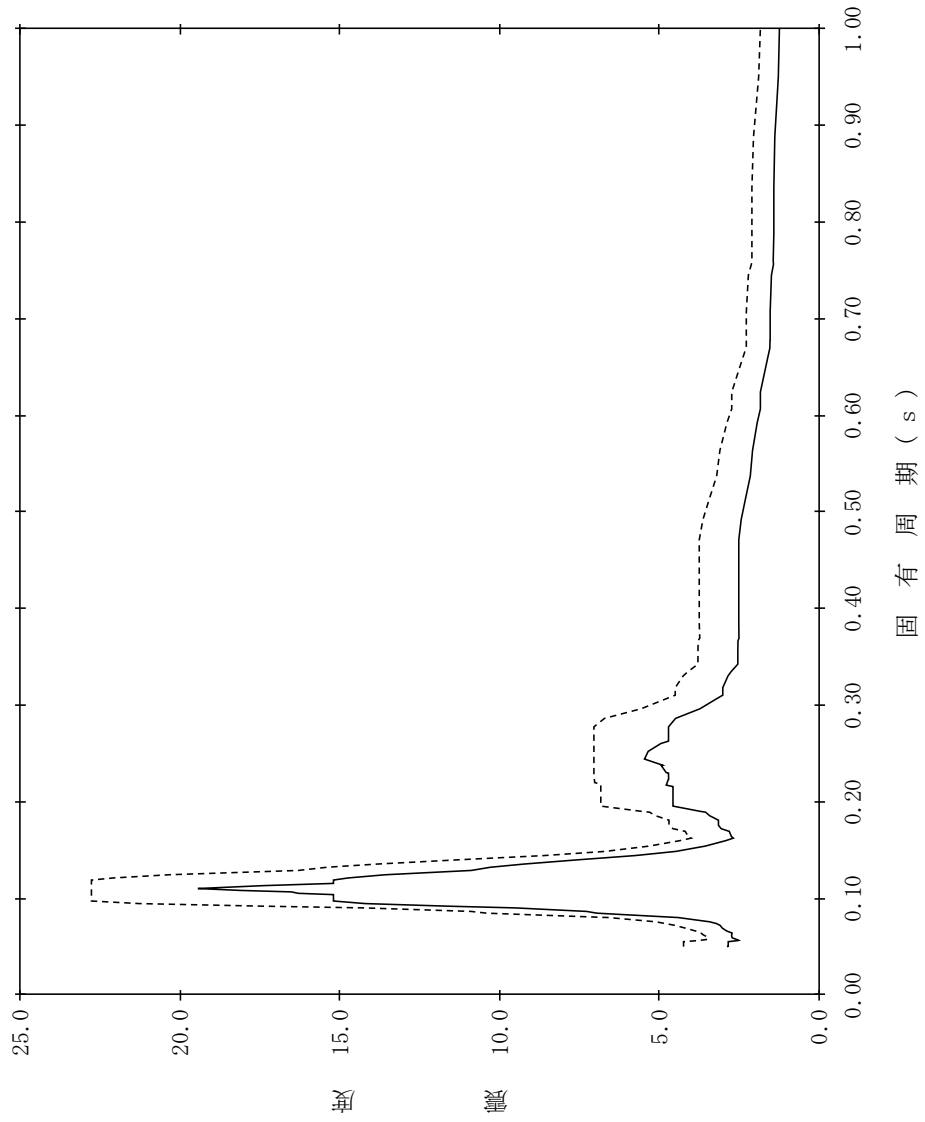
【NS2-PCV-SsNS-RPV173】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



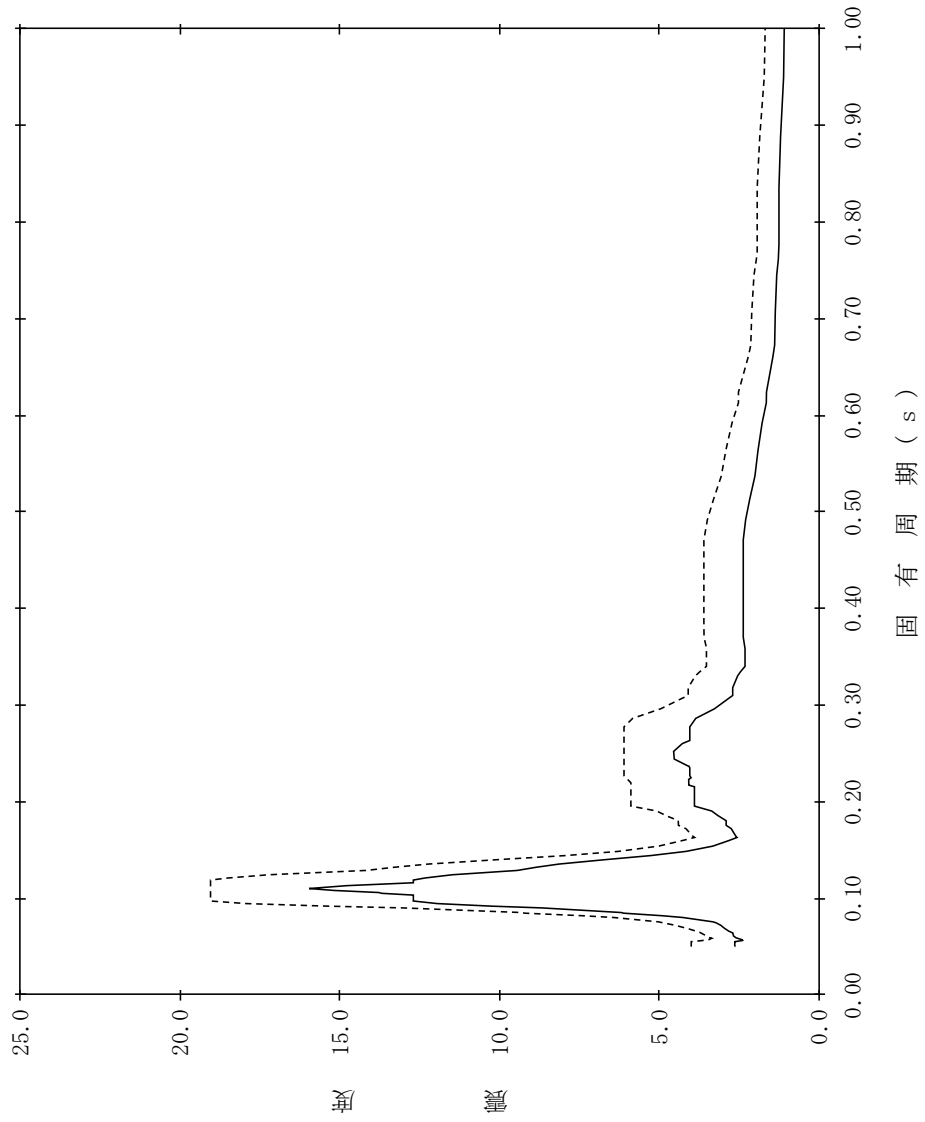
【NS2-PCV-SsNS-RPV174】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



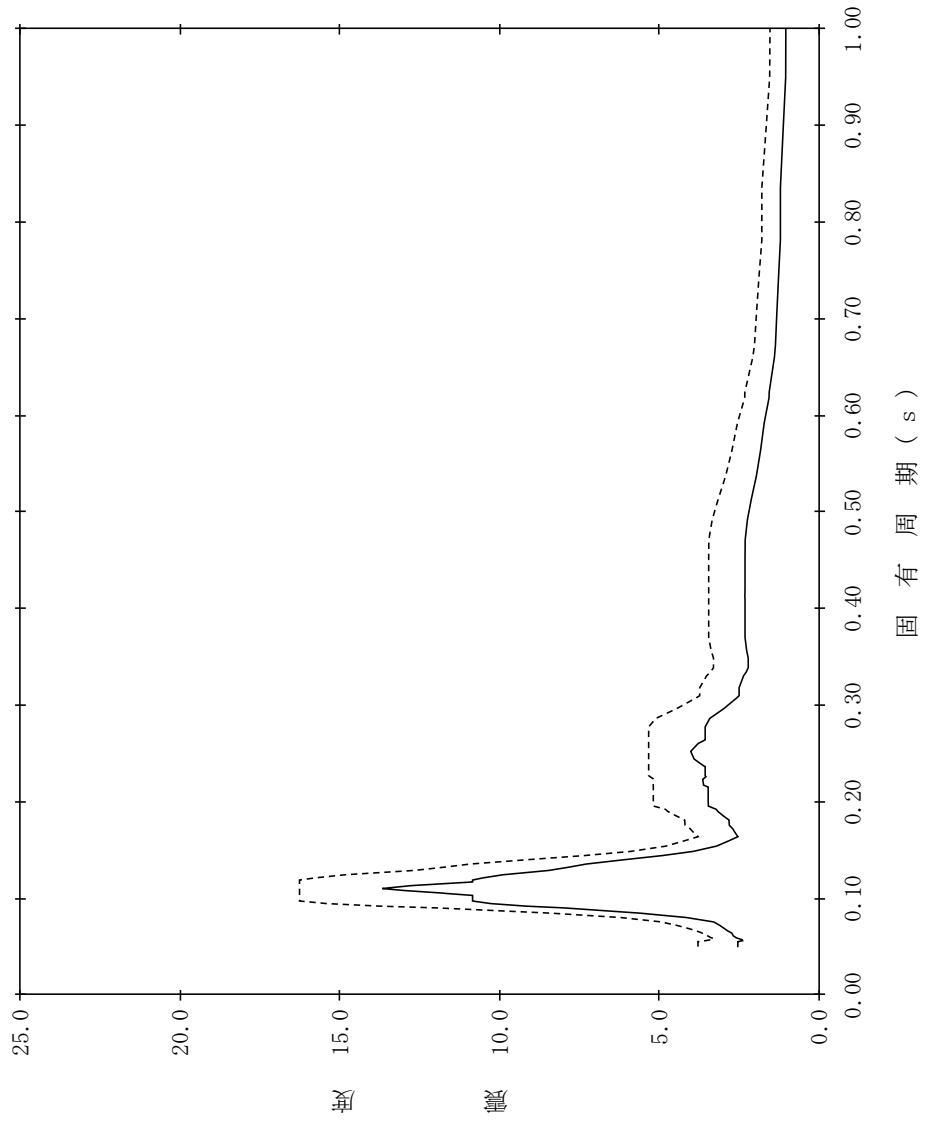
【NS2-PCV-SsNS-RPV175】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



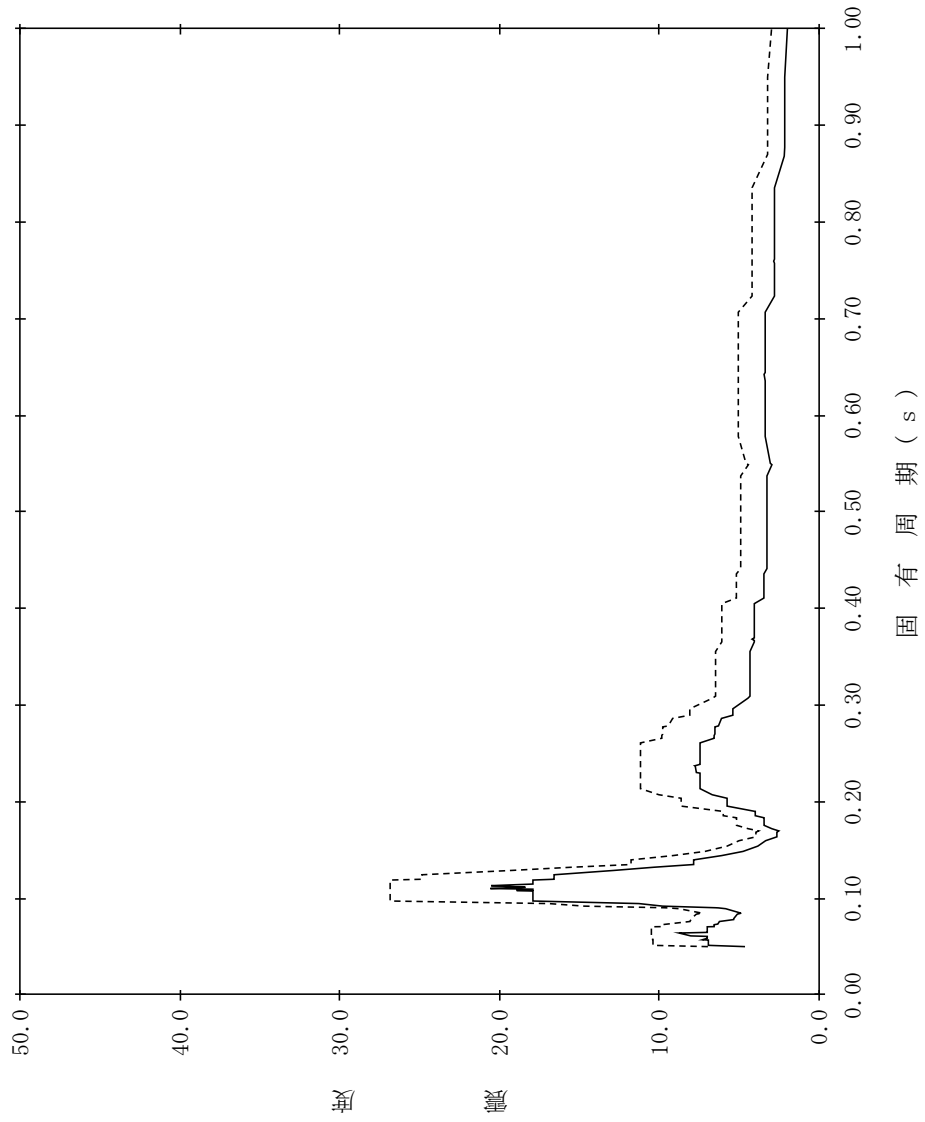
【NS2-PCV-SsNS-RPV176】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



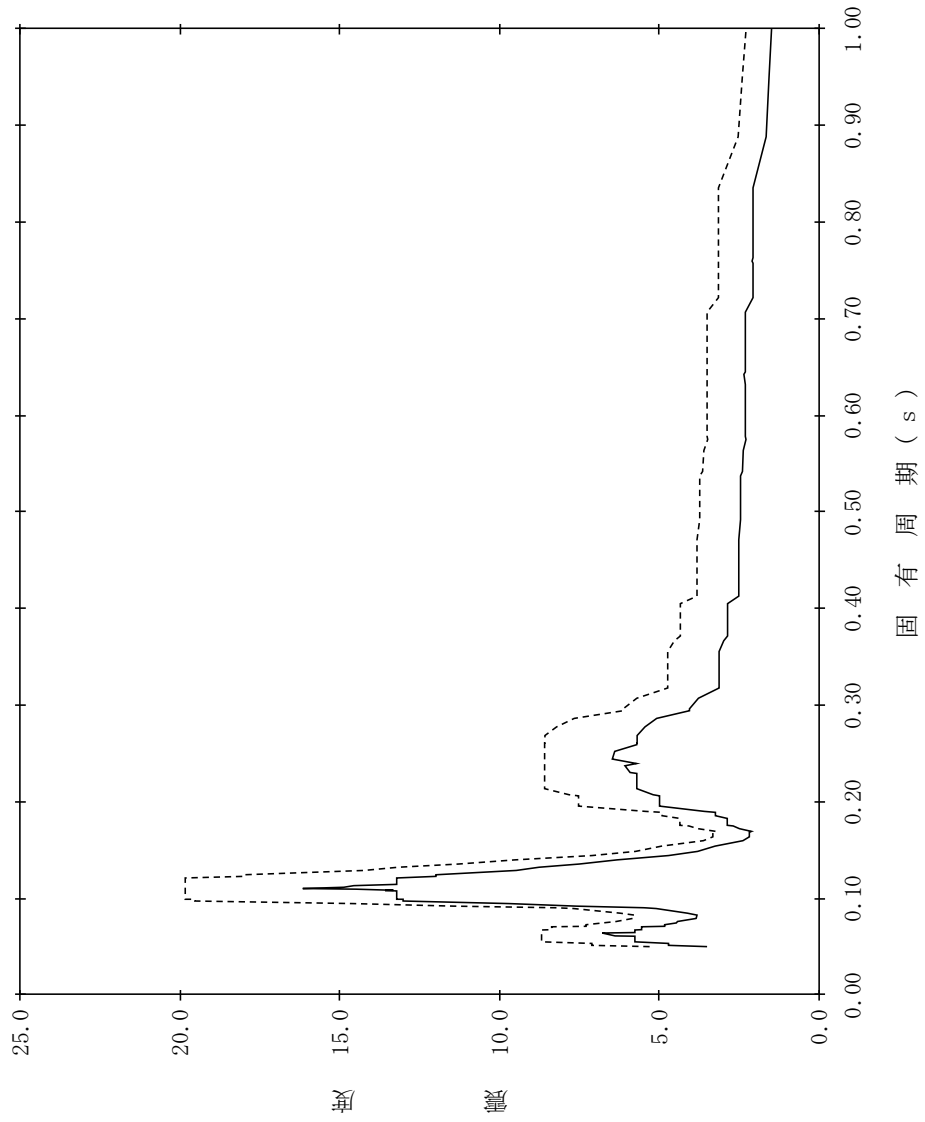
【NS2-PCV-SsNS-RPV177】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL18.250m
減衰定数：0.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



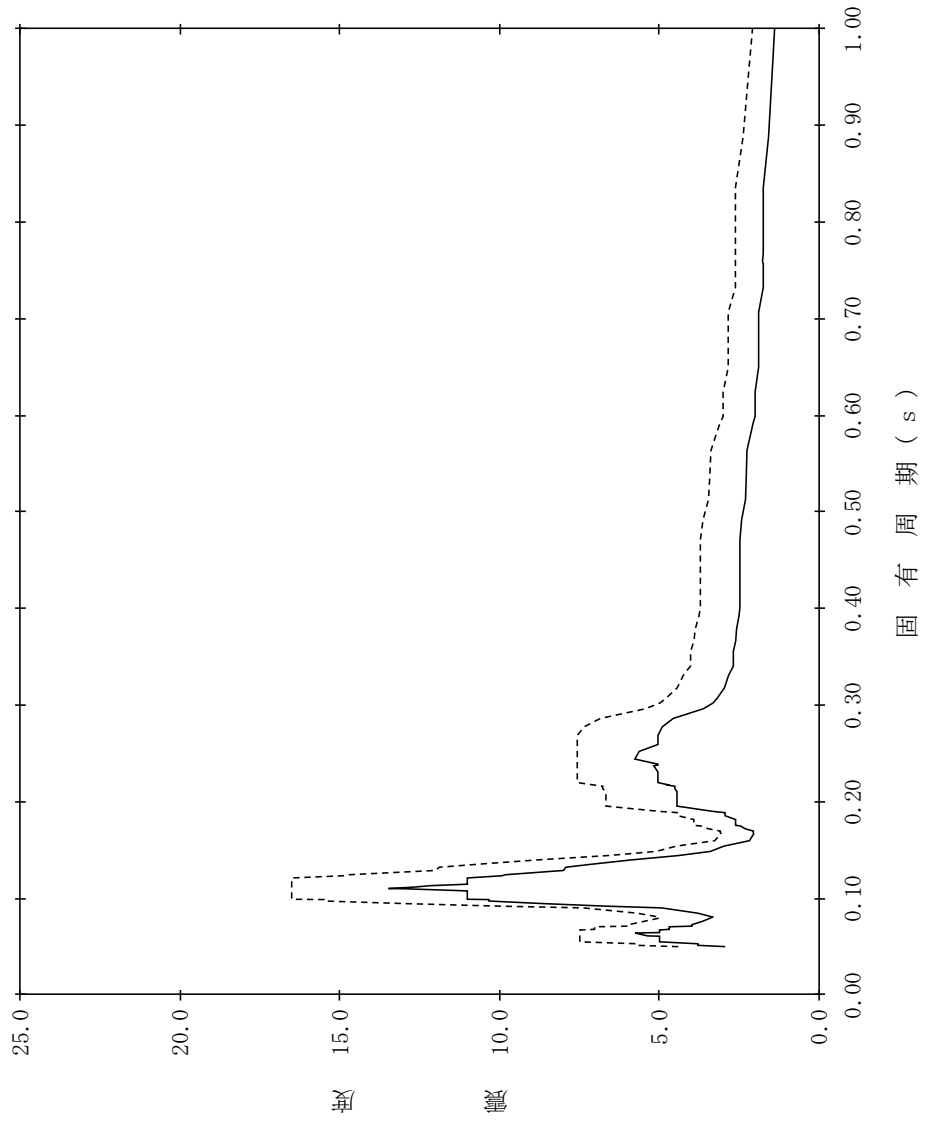
【NS2-PCV-SsNS-RPV178】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

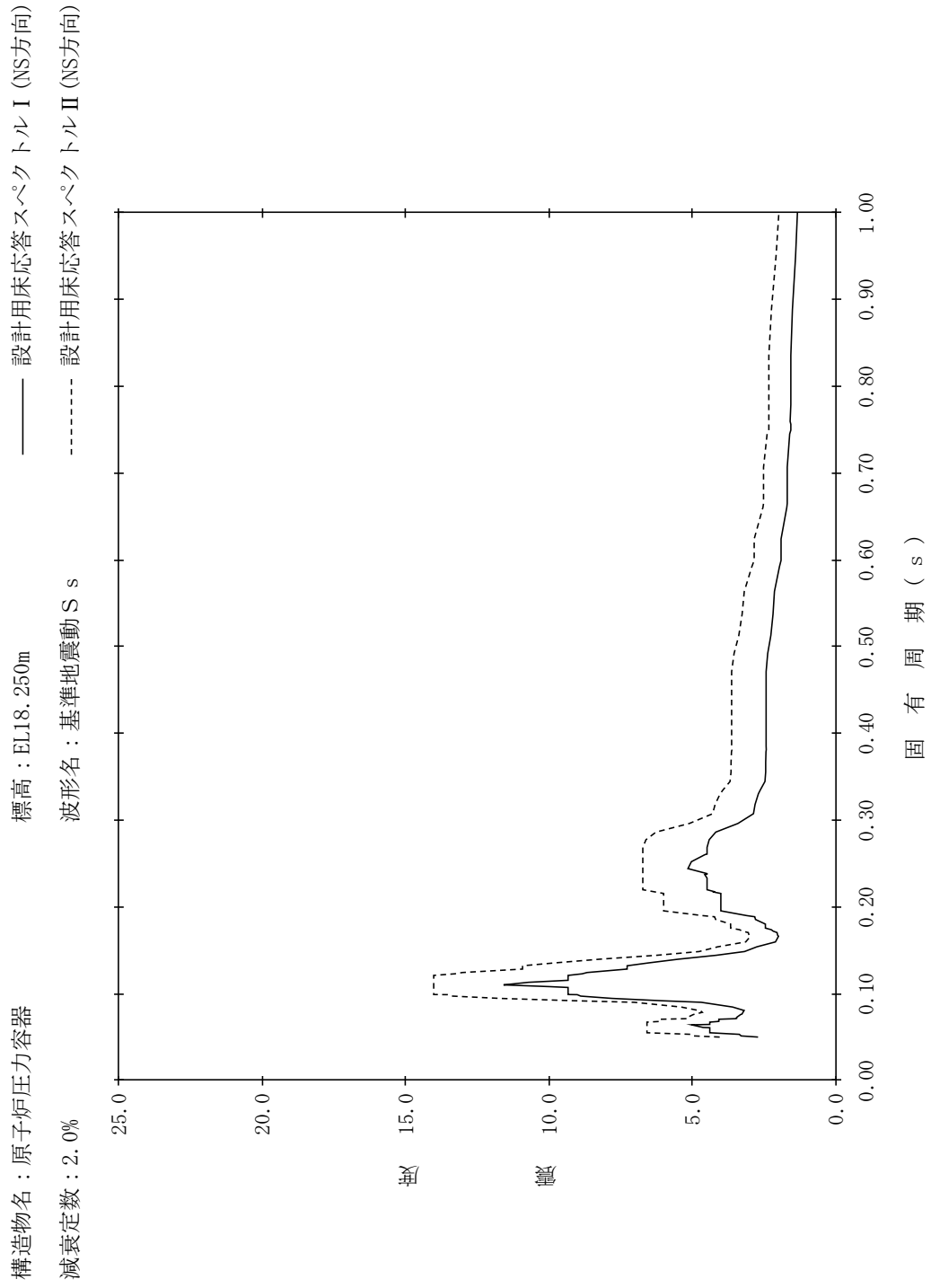


【NS2-PCV-SsNS-RPV179】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

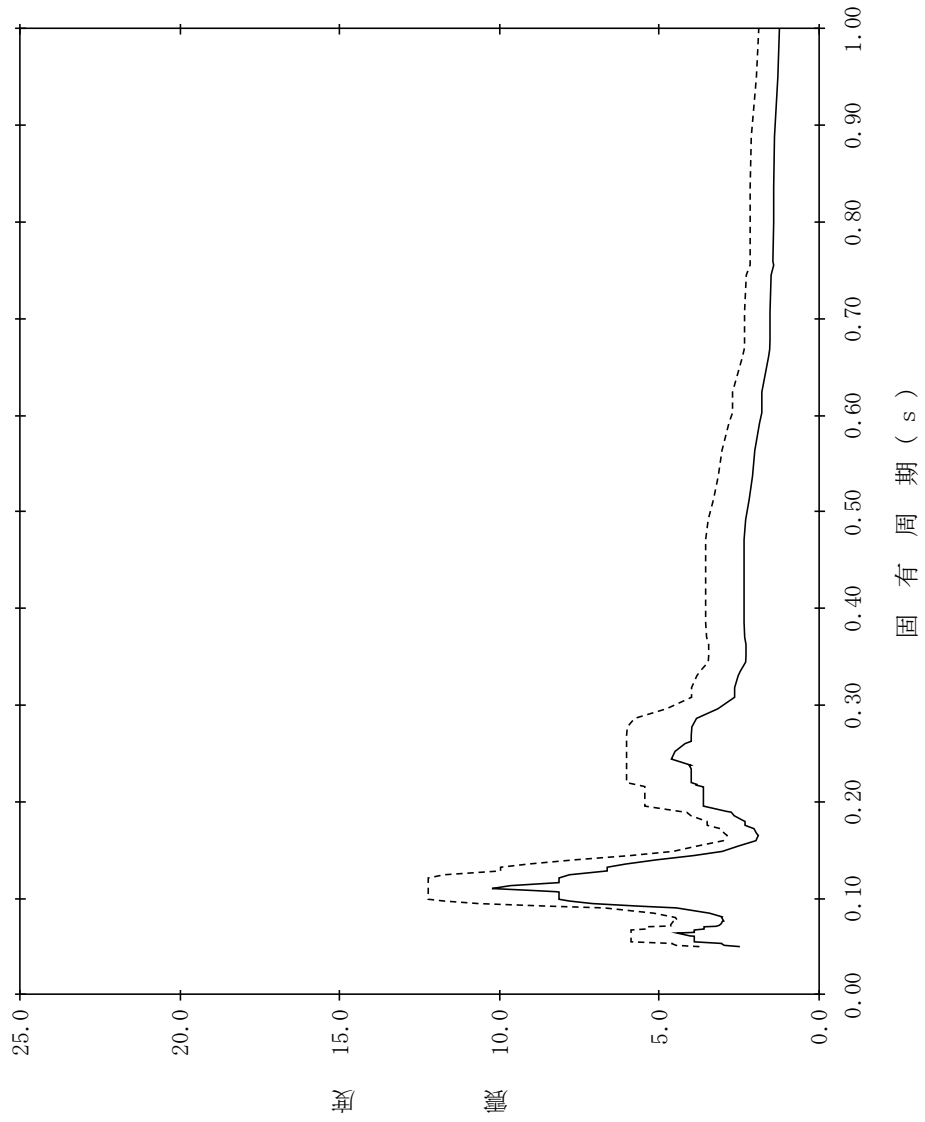


【NS2-PCV-SsNS-RPV180】



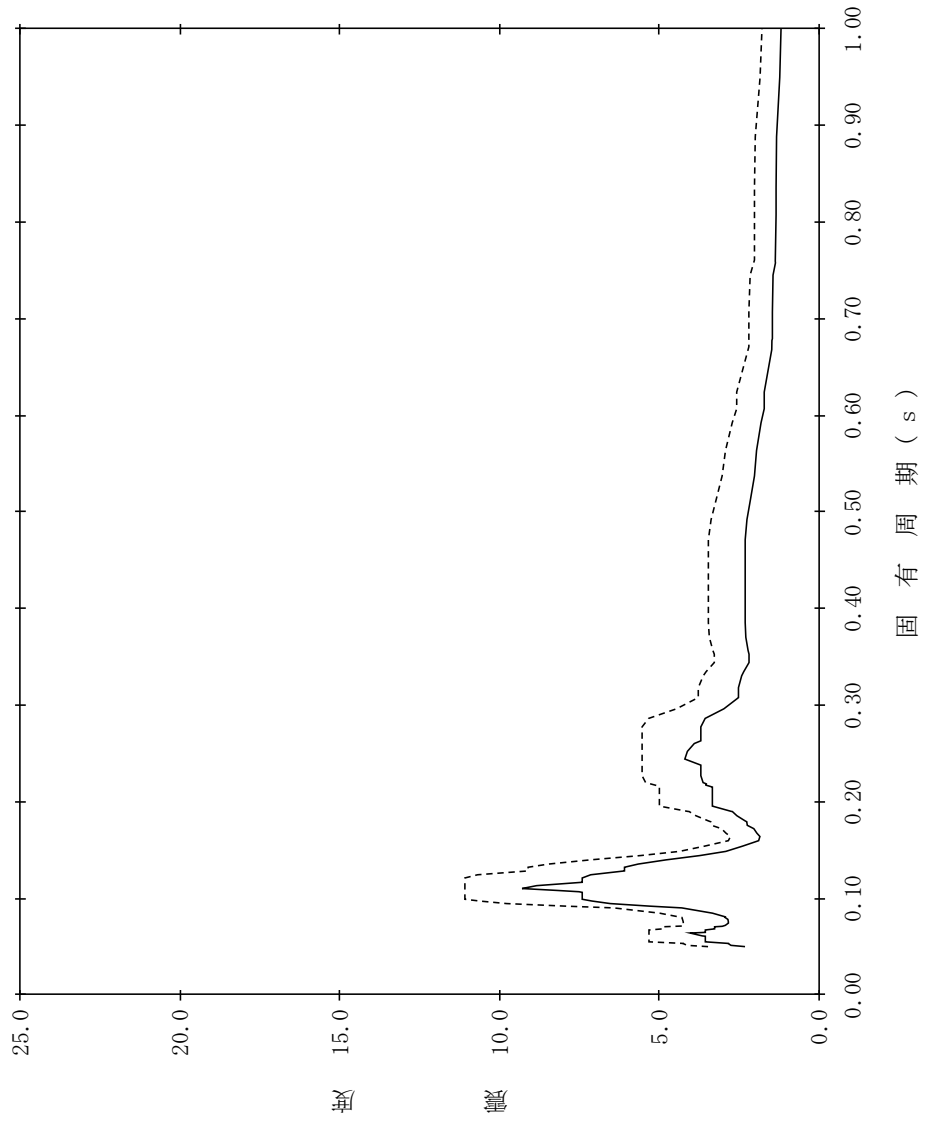
【NS2-PCV-SsNS-RPV181】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



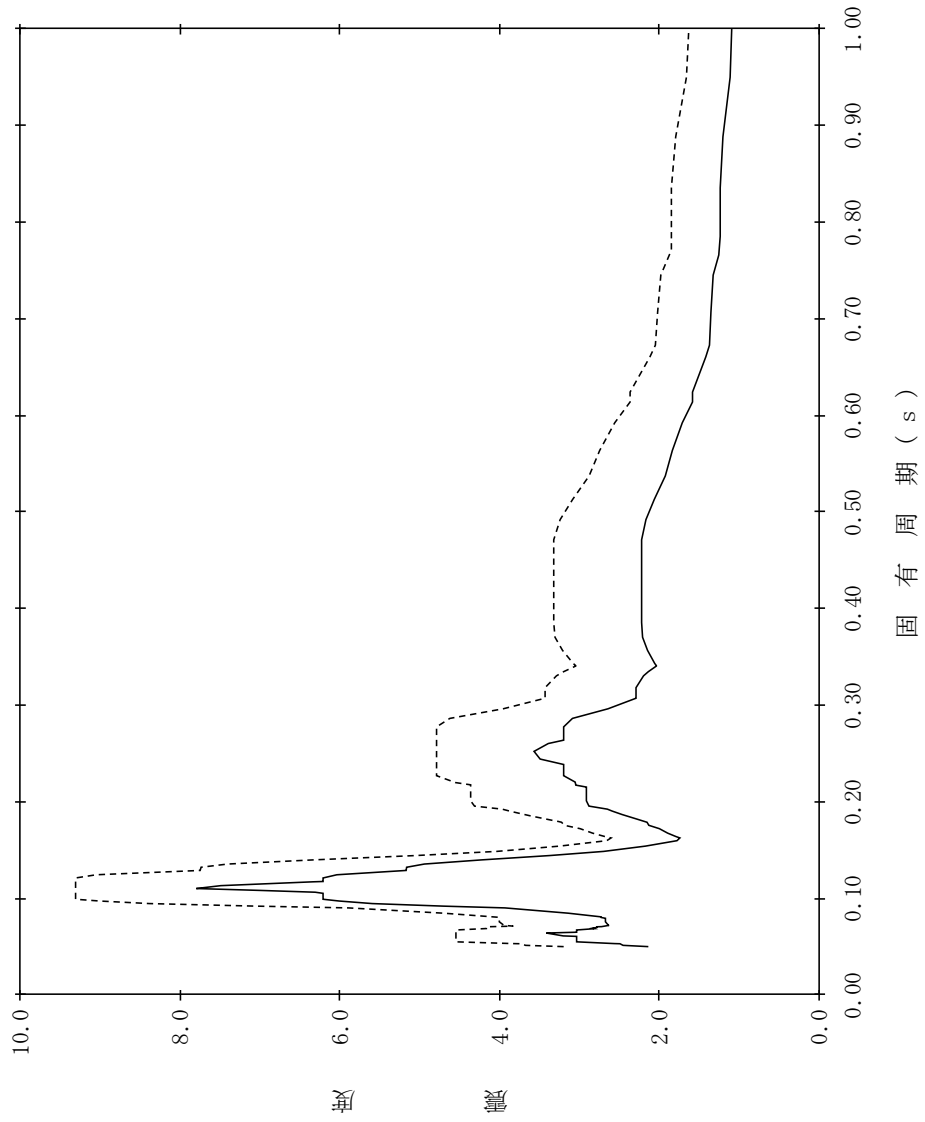
【NS2-PCV-SsNS-RPV182】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL18.250m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



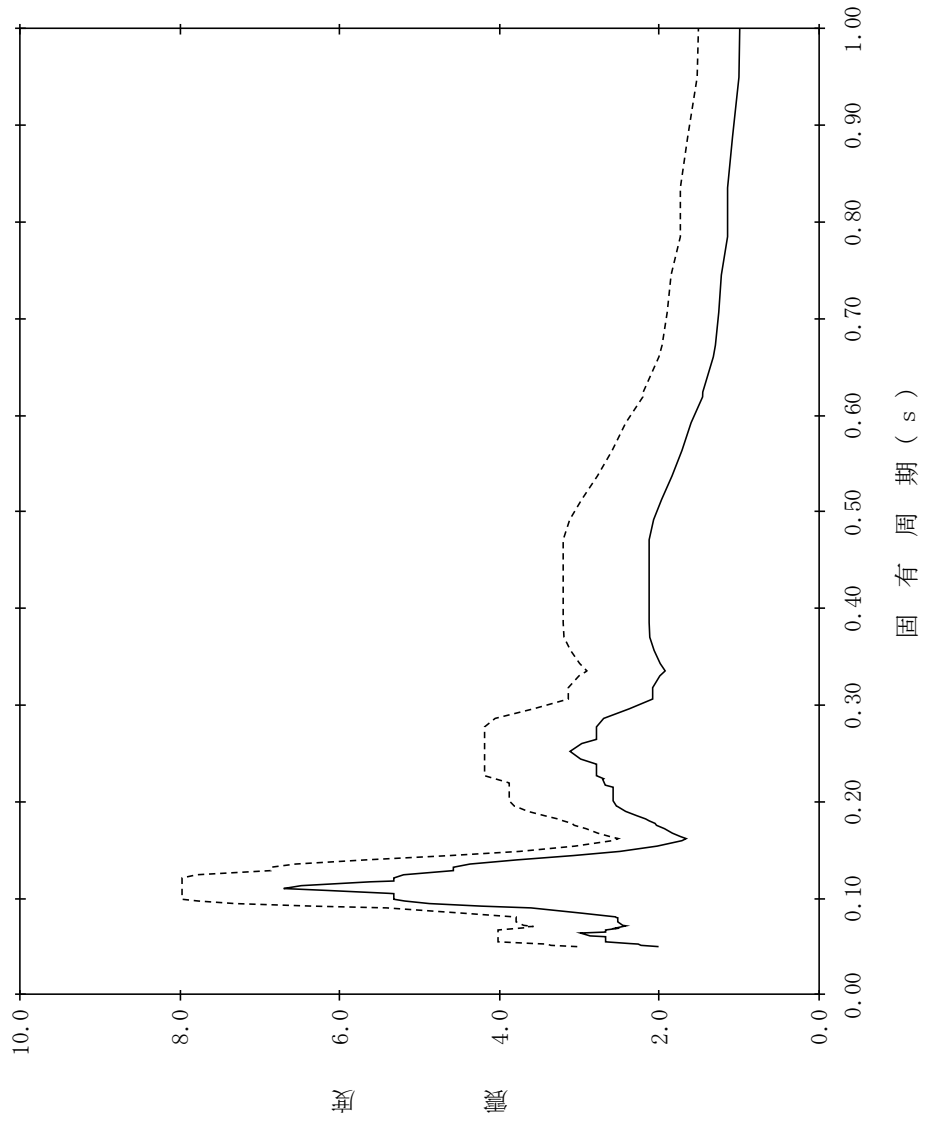
【NS2-PCV-SsNS-RPV183】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



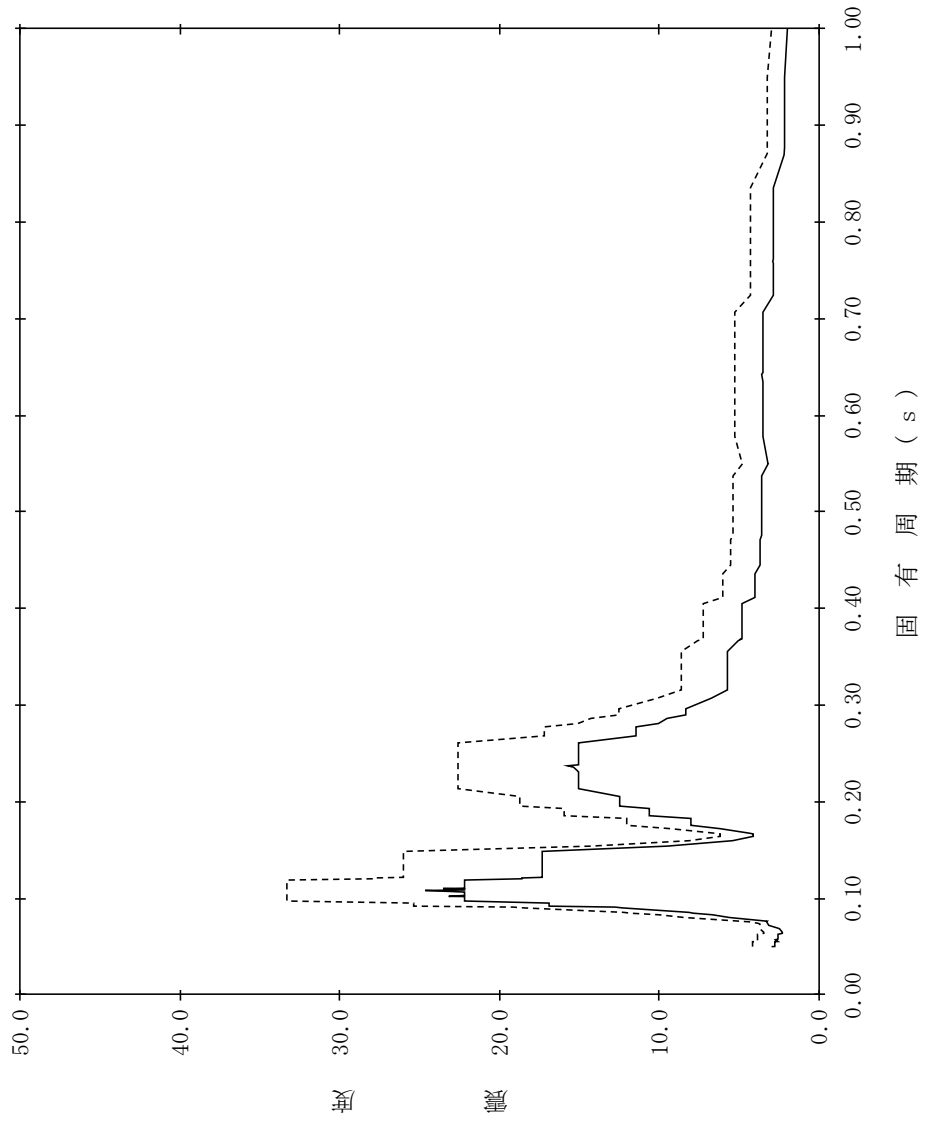
【NS2-PCV-SsNS-RPV184】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



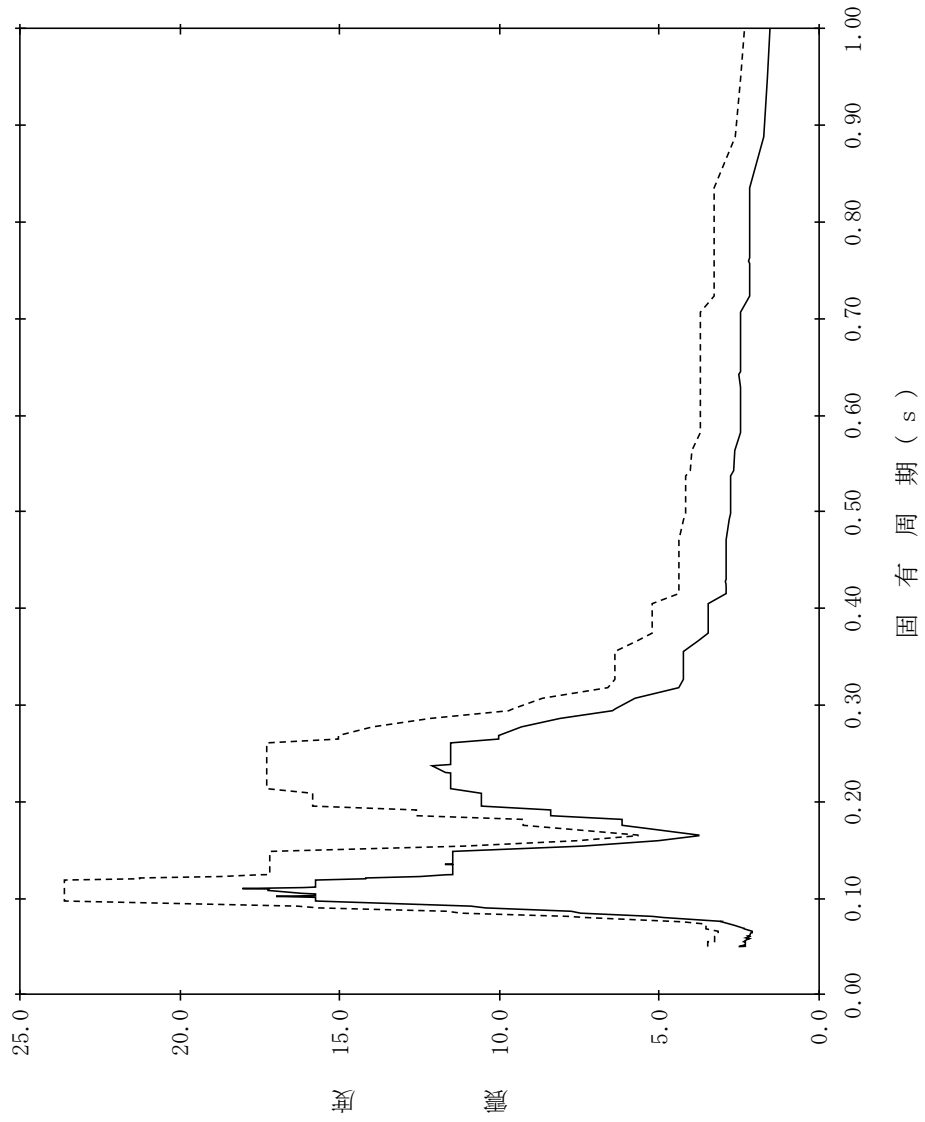
【NS2-PCV-SsNS-SHD185】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：0.5% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



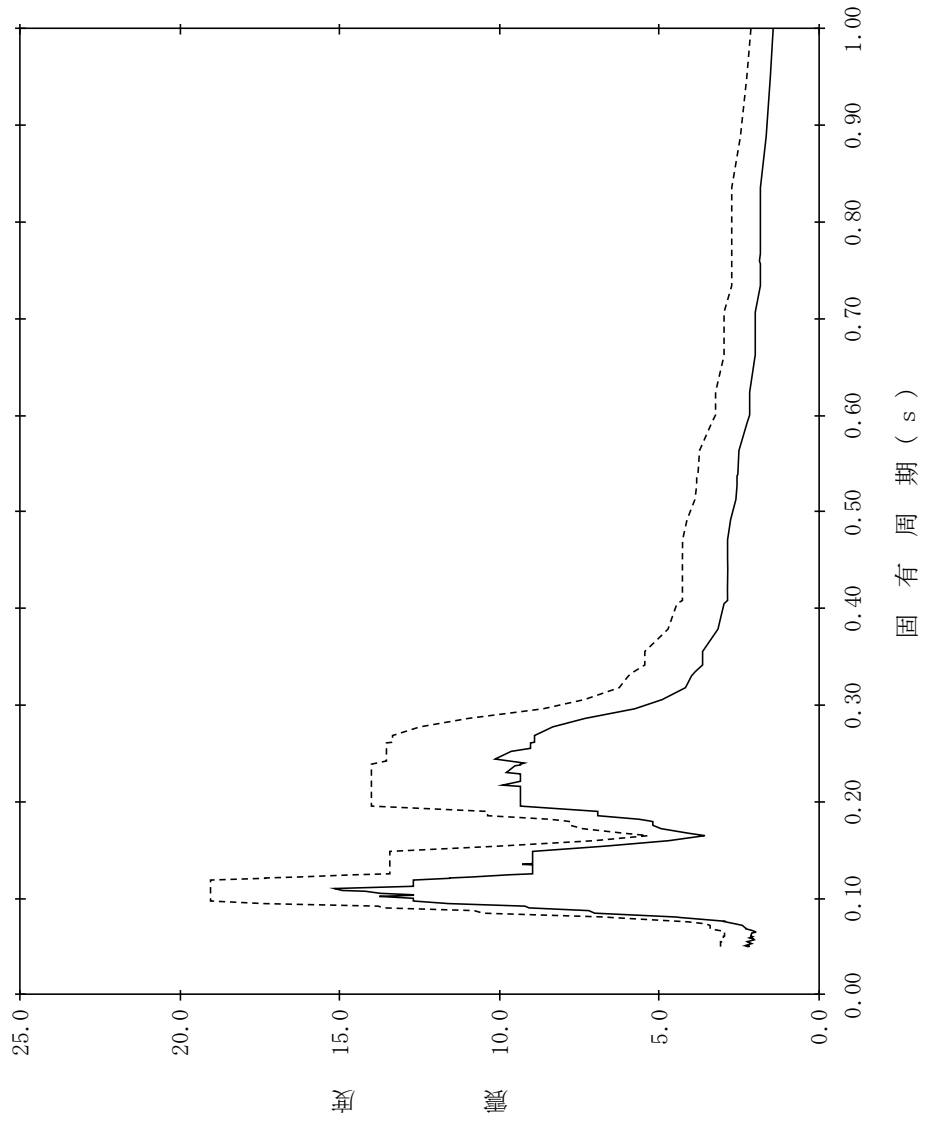
【NS2-PCV-SsNS-SHD186】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：1.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



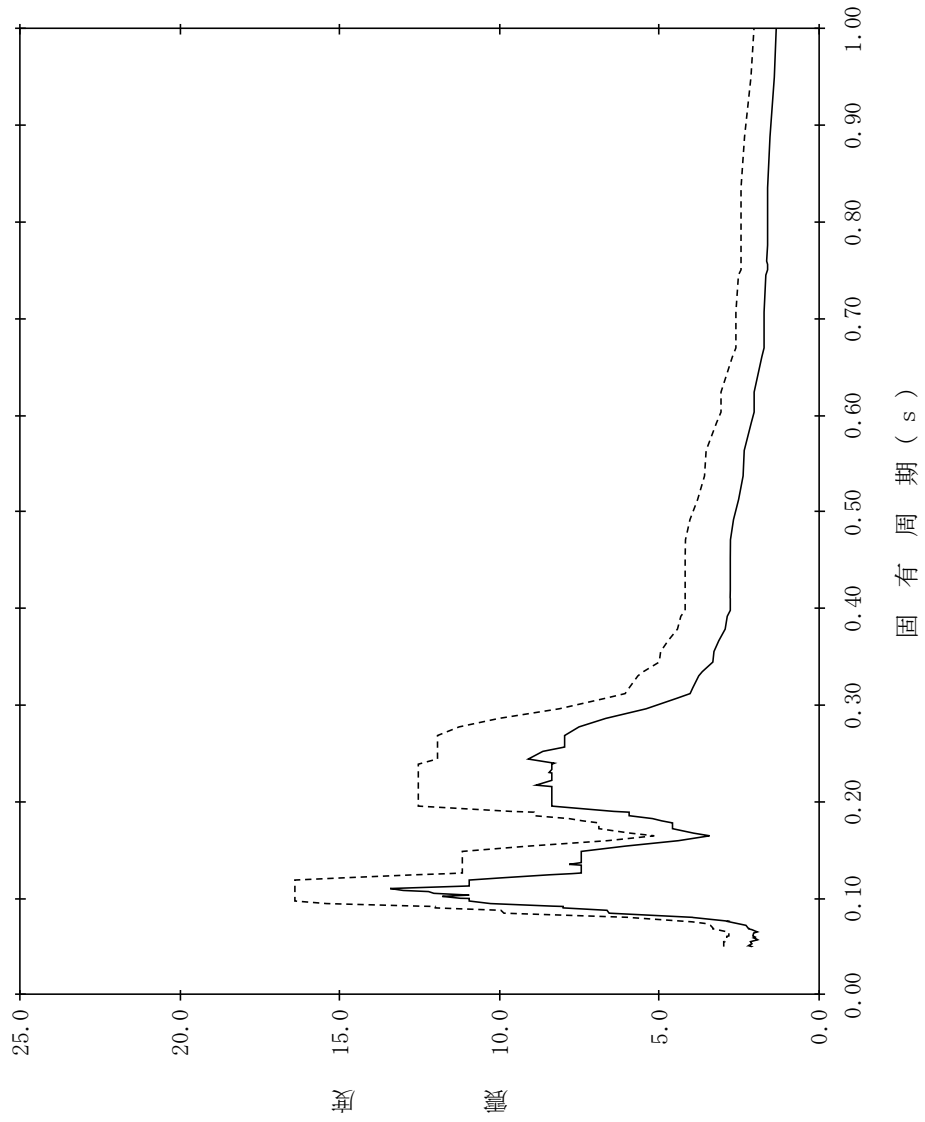
【NS2-PCV-SsNS-SHD187】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：1.5% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



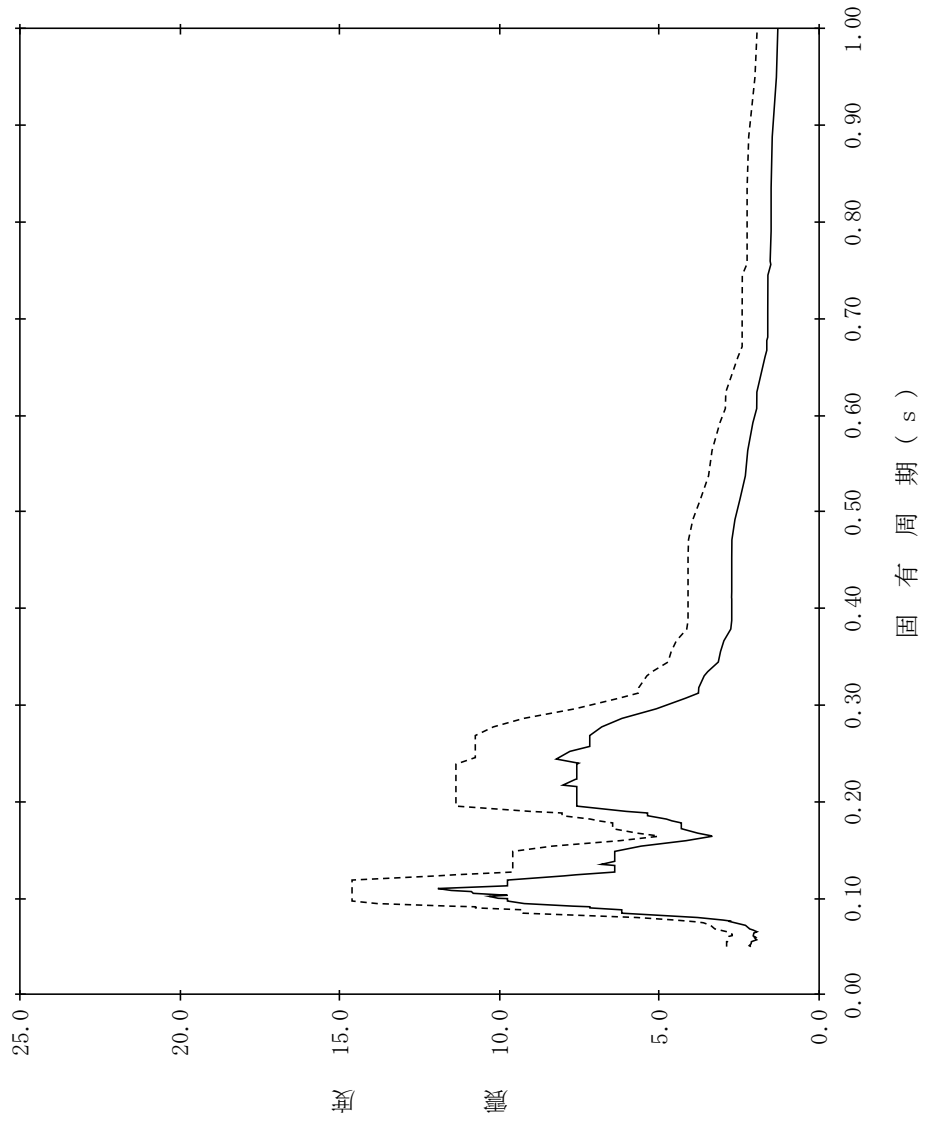
【NS2-PCV-SsNS-SHD188】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：2.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



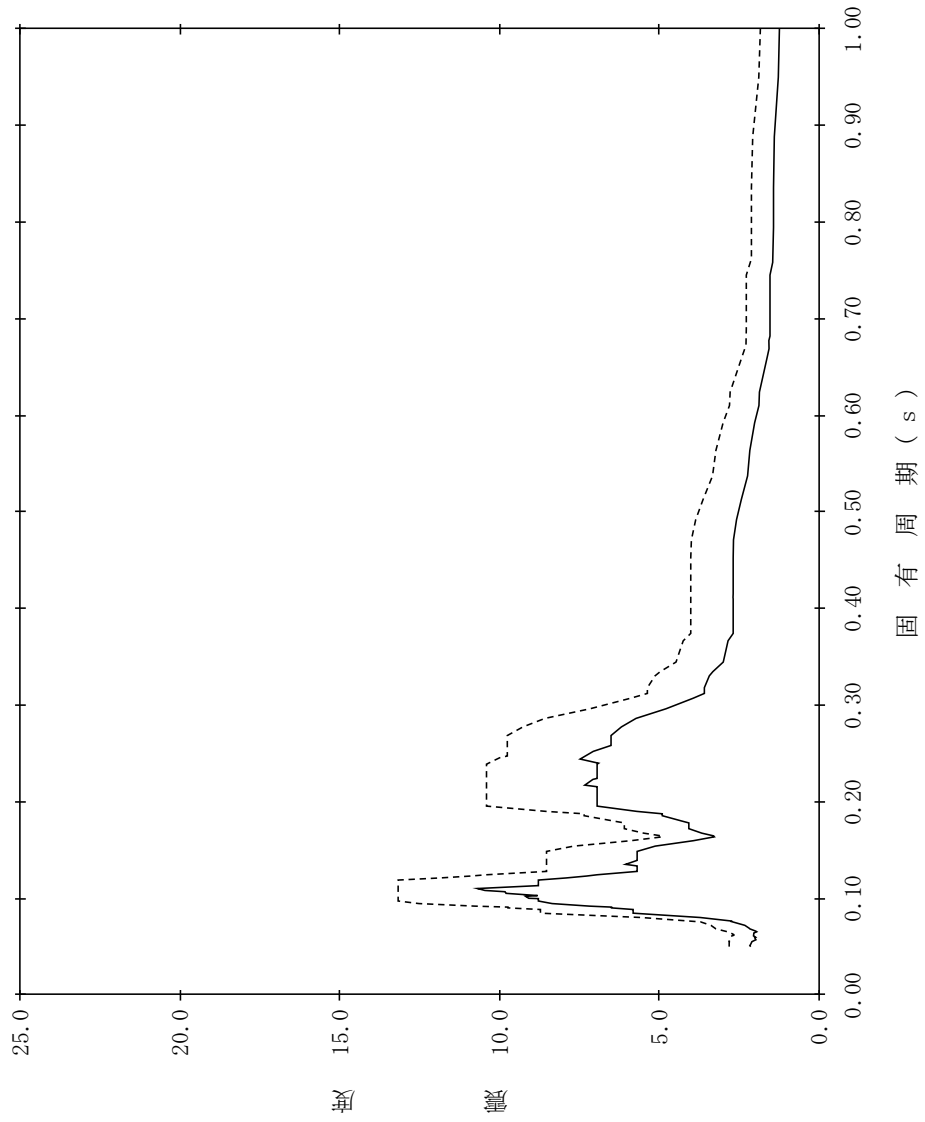
【NS2-PCV-SsNS-SHD189】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：2.5% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



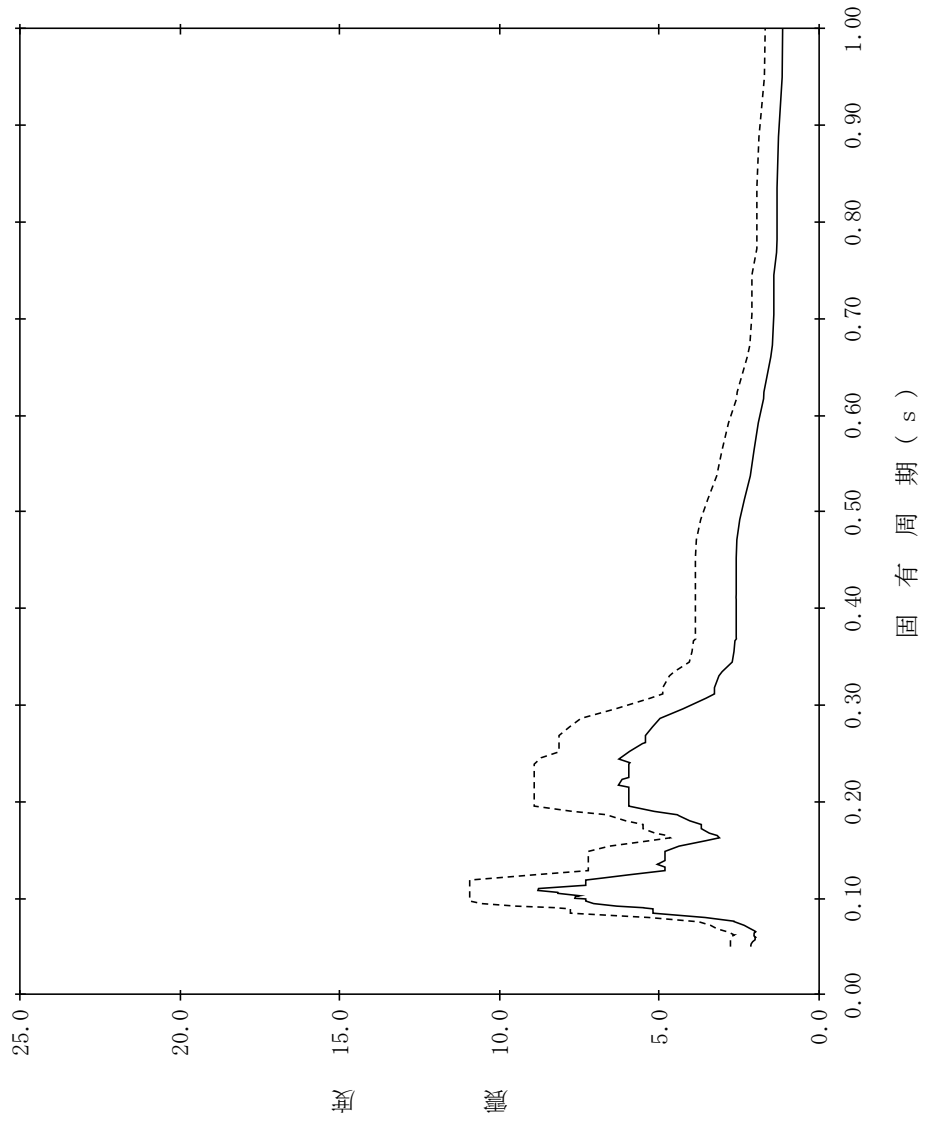
【NS2-PCV-SsNS-SHD190】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：3.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



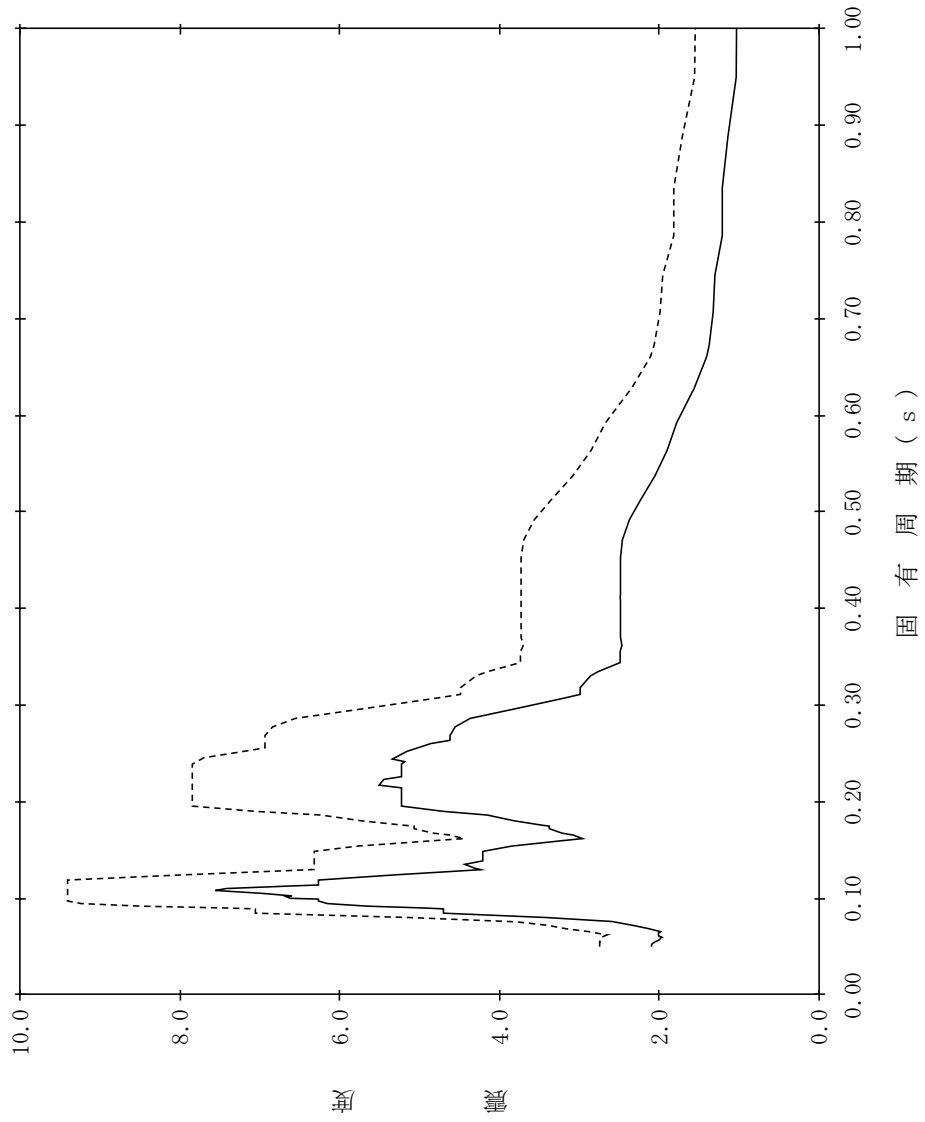
【NS2-PCV-SsNS-SHD191】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m ———— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：4.0% 波形名：基準地震動 S s - - - - - 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



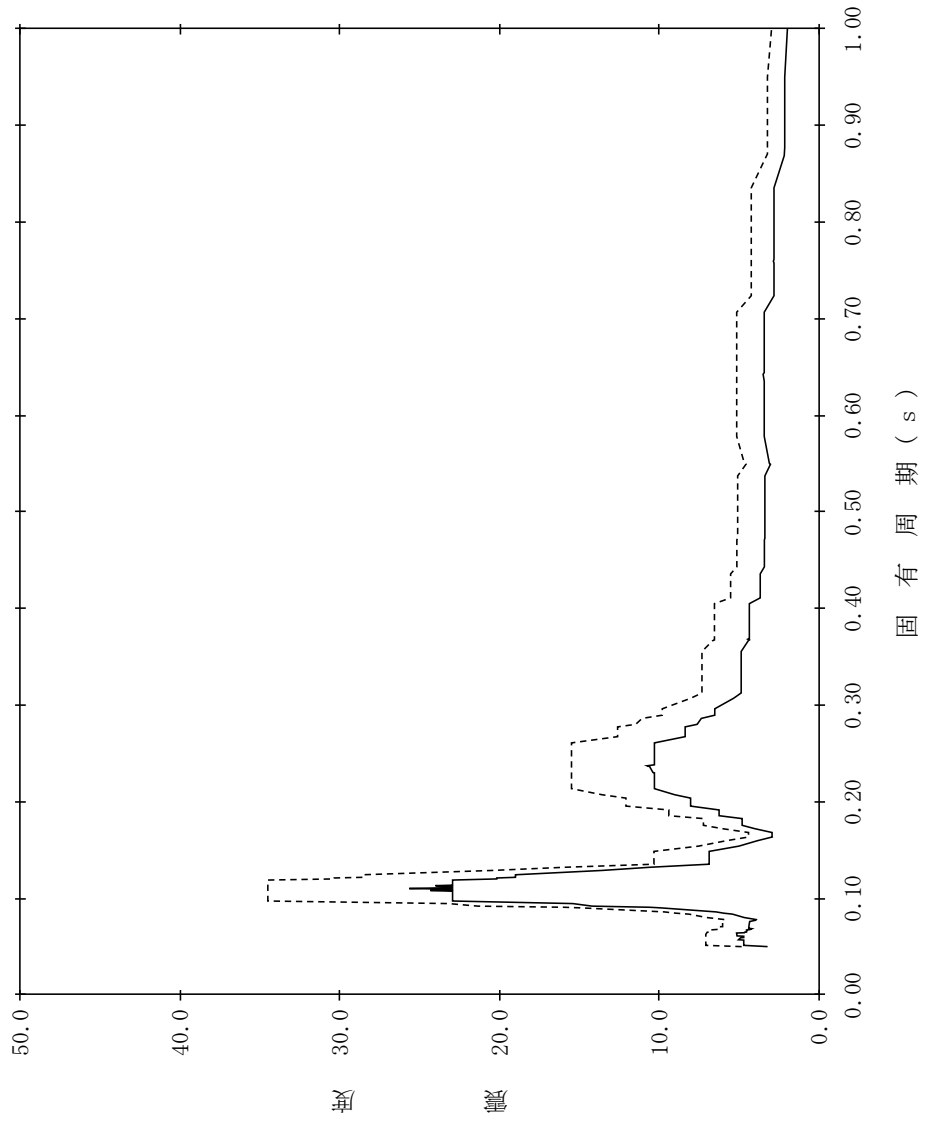
【NS2-PCV-SsNS-SHD192】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：5.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



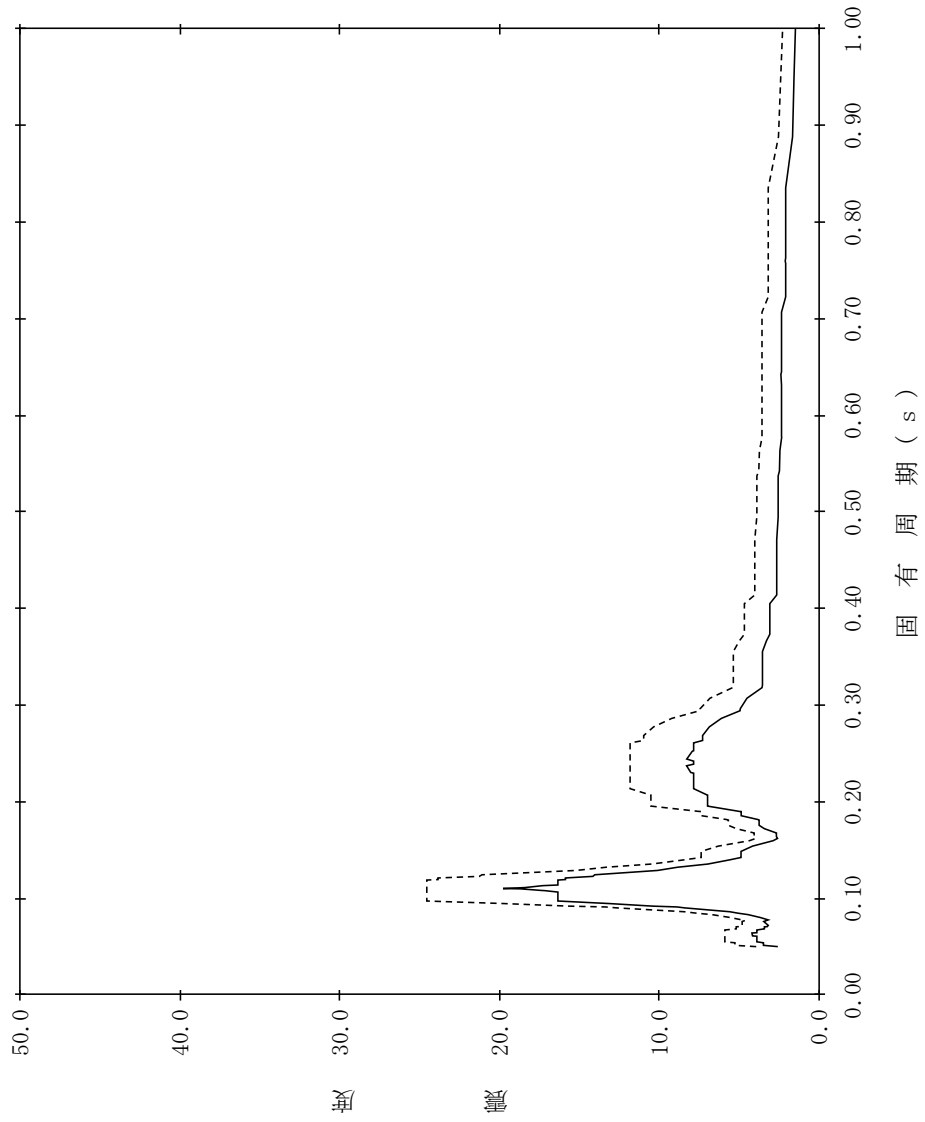
【NS2-PCV-SsNS-SHD193】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：0.5% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



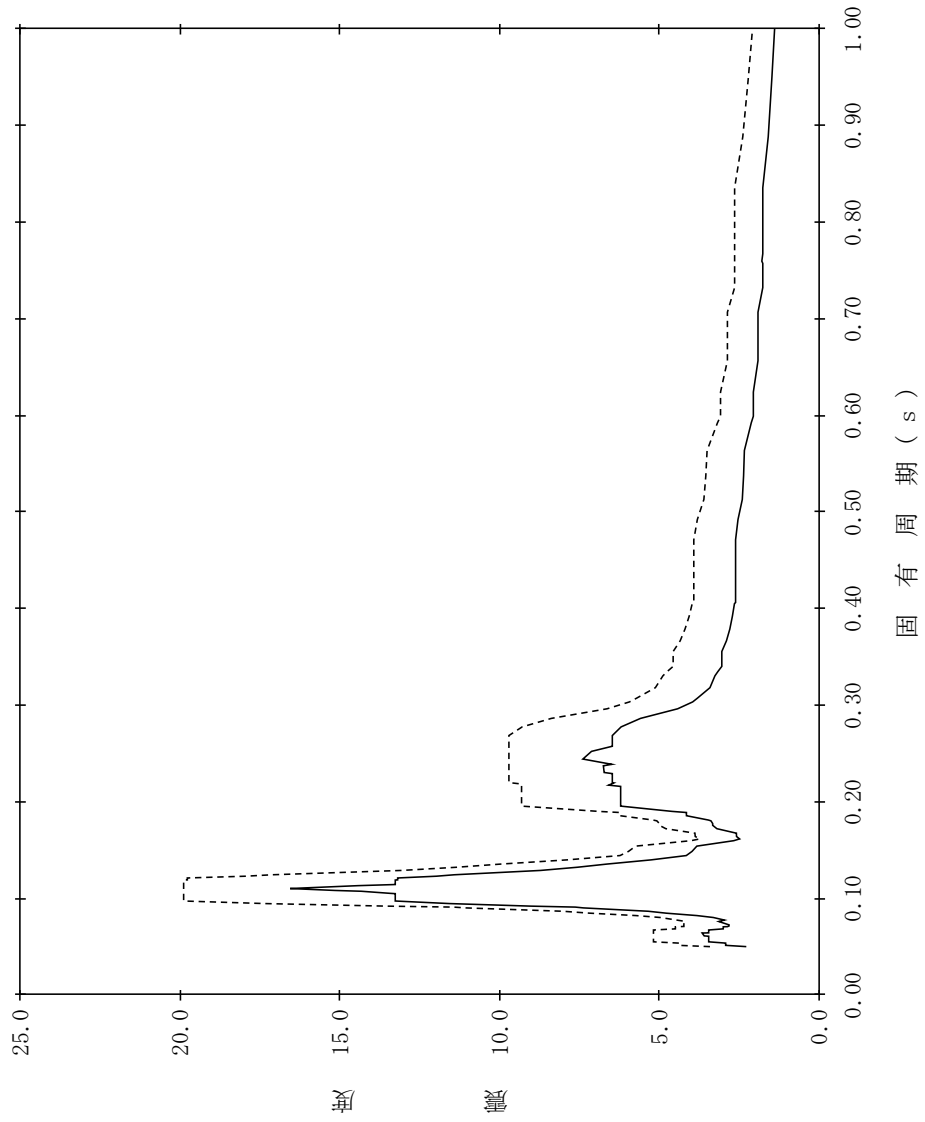
【NS2-PCV-SsNS-SHD194】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：1.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



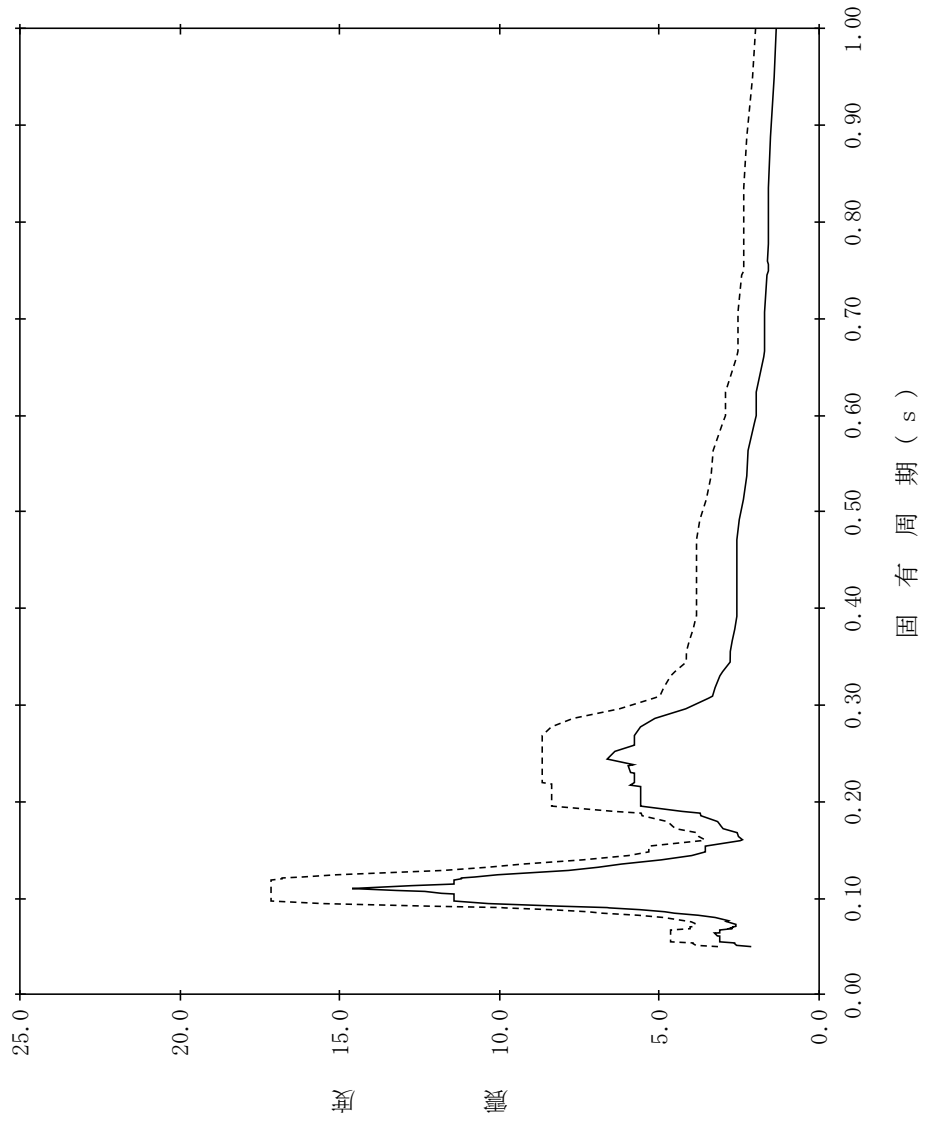
【NS2-PCV-SsNS-SHD195】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：1.5% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



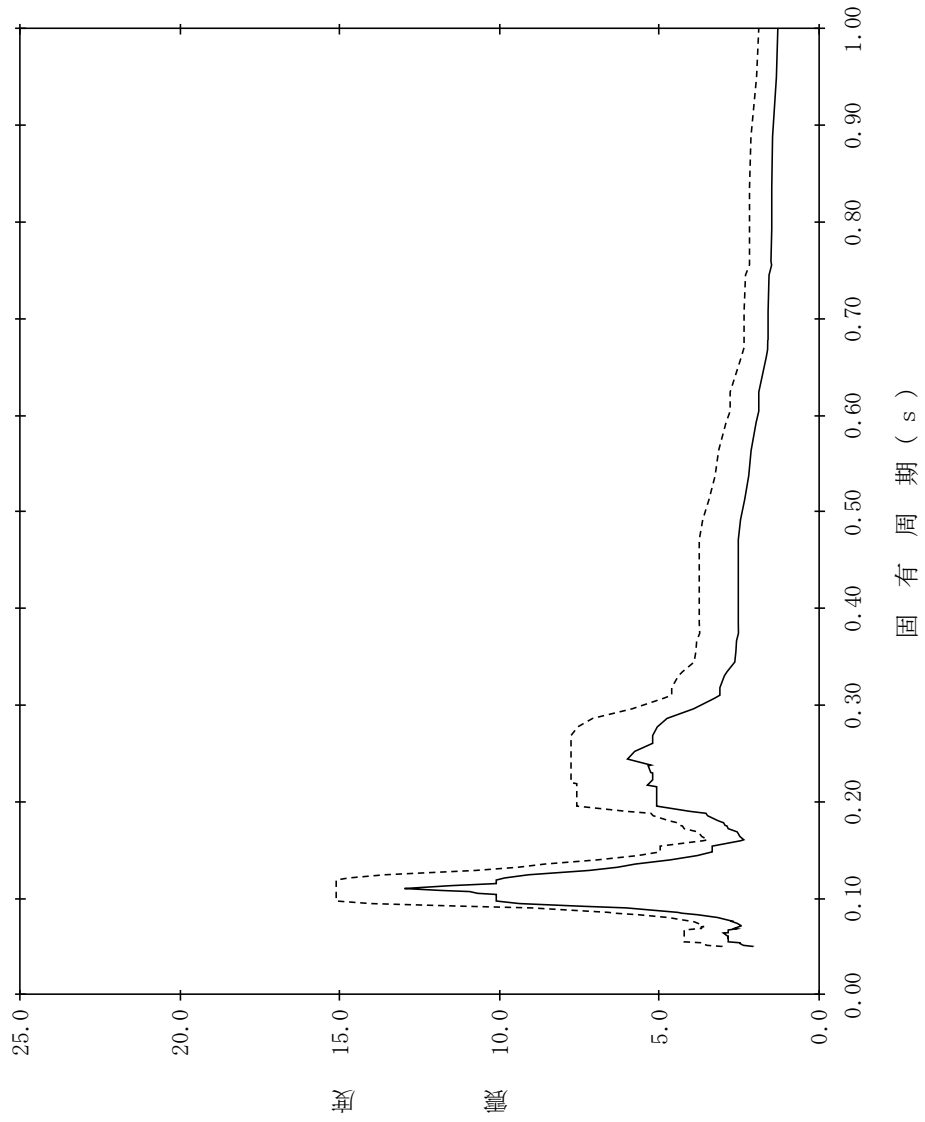
【NS2-PCV-SsNS-SHD196】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：2.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



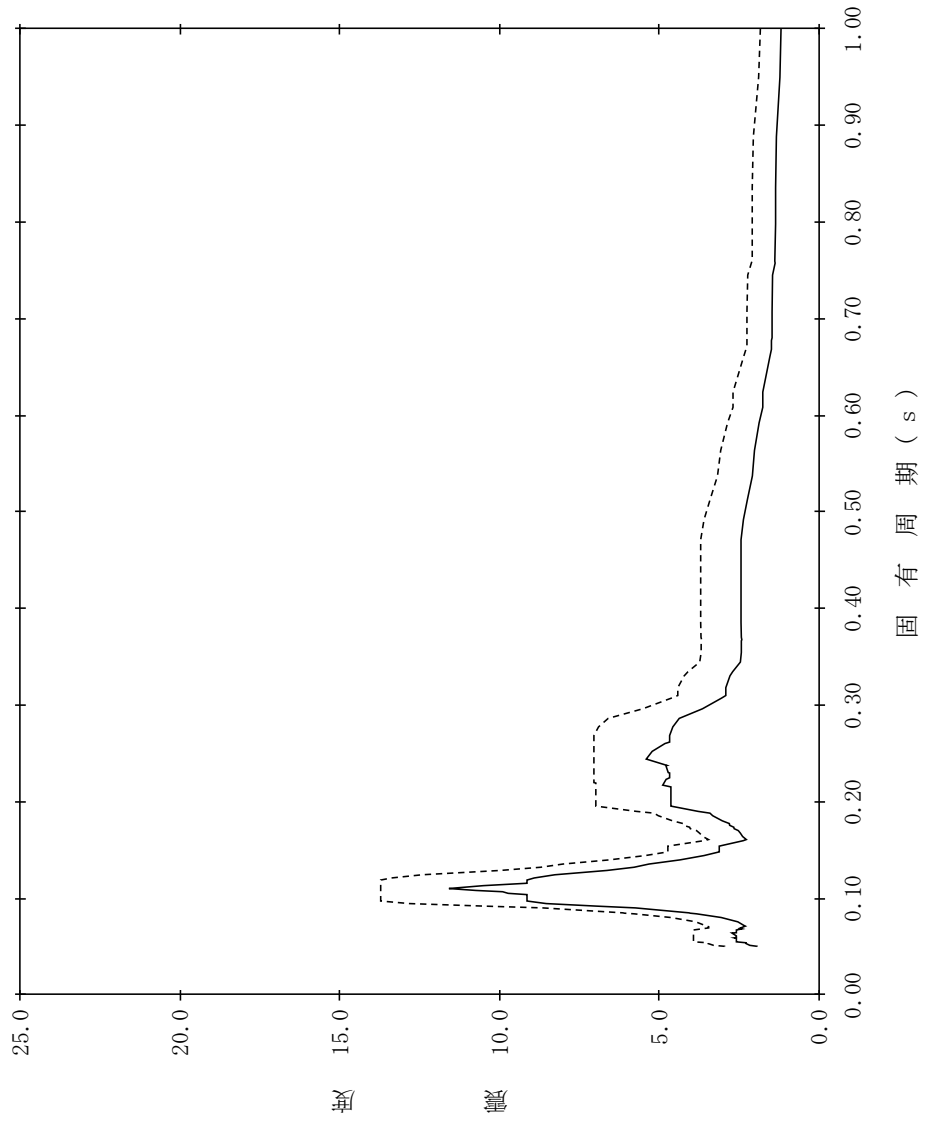
【NS2-PCV-SsNS-SHD197】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：2.5% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



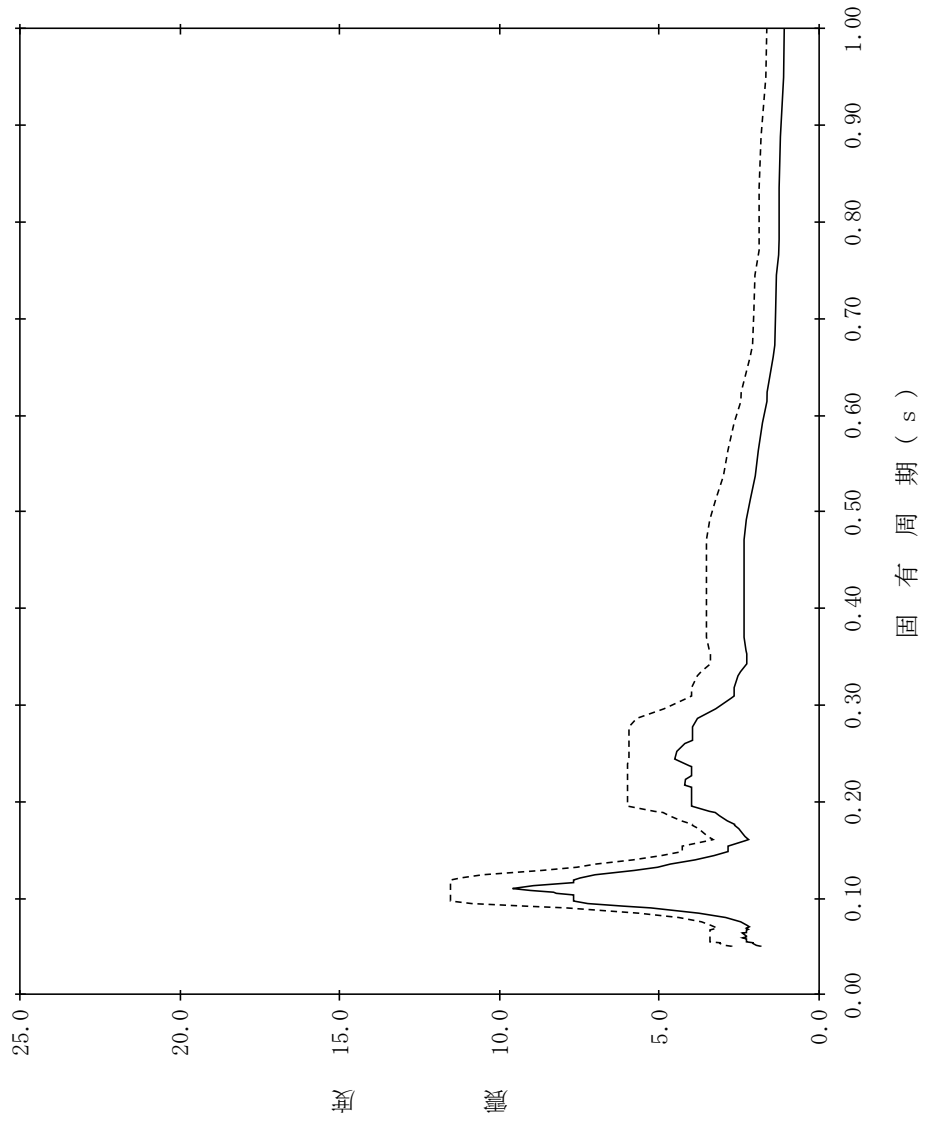
【NS2-PCV-SsNS-SHD198】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：3.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



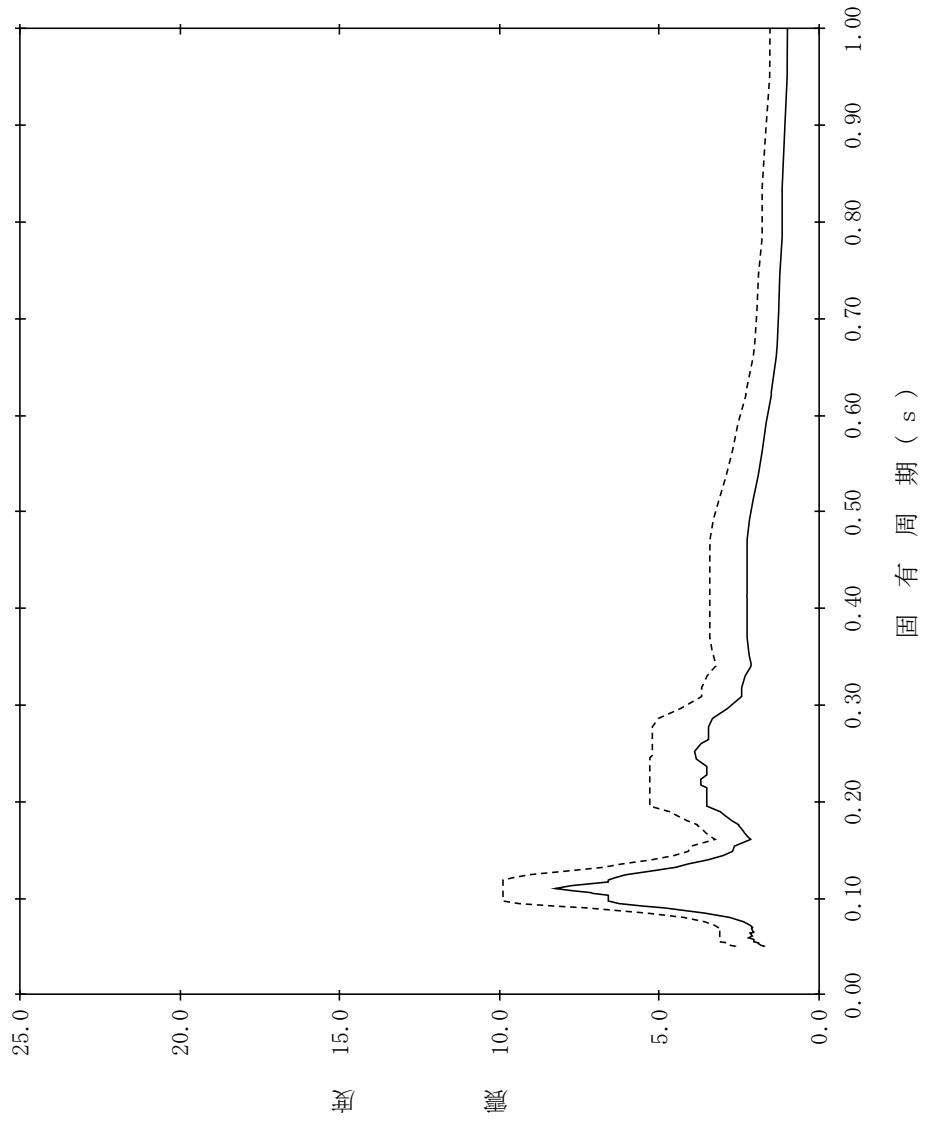
【NS2-PCV-SsNS-SHD199】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 減衰定数：4.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



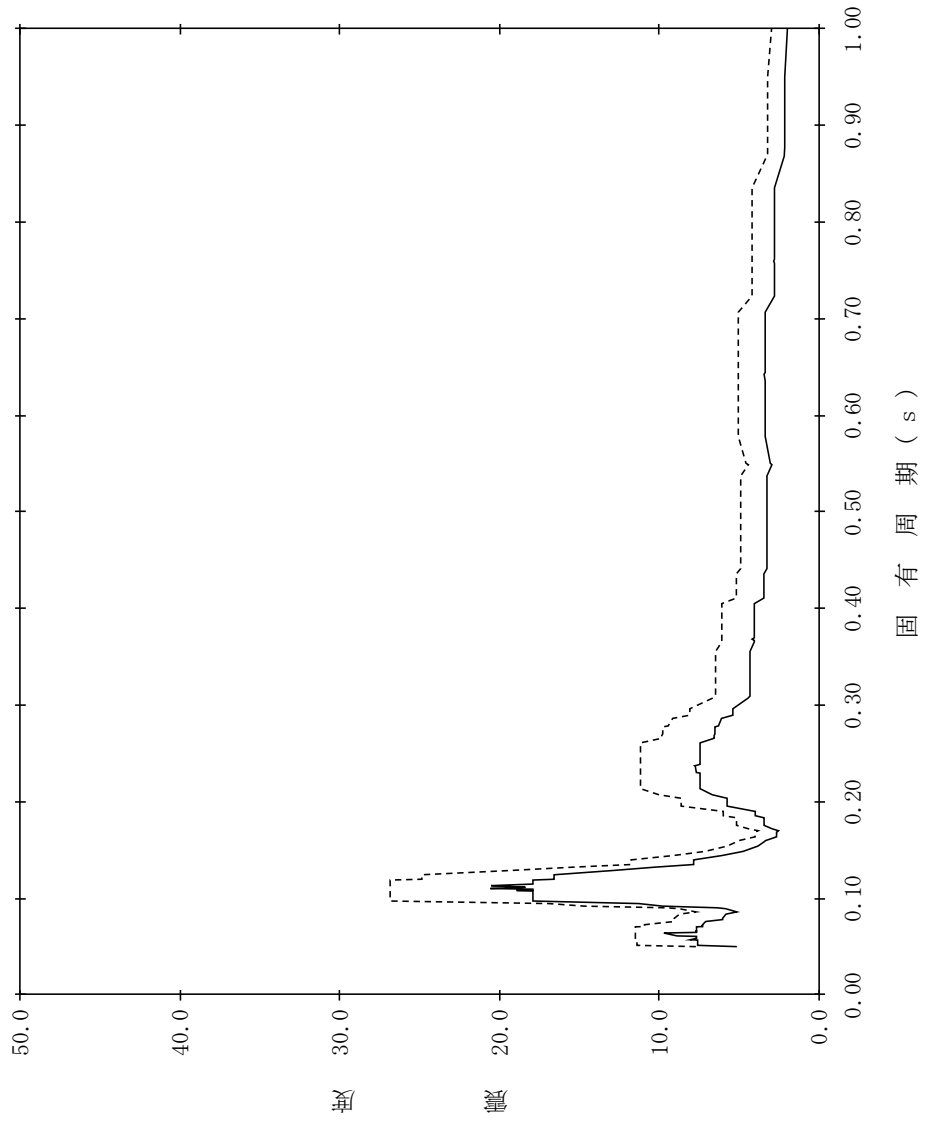
【NS2-PCV-SsNS-SHD200】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL1.571m 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
減衰定数：5.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



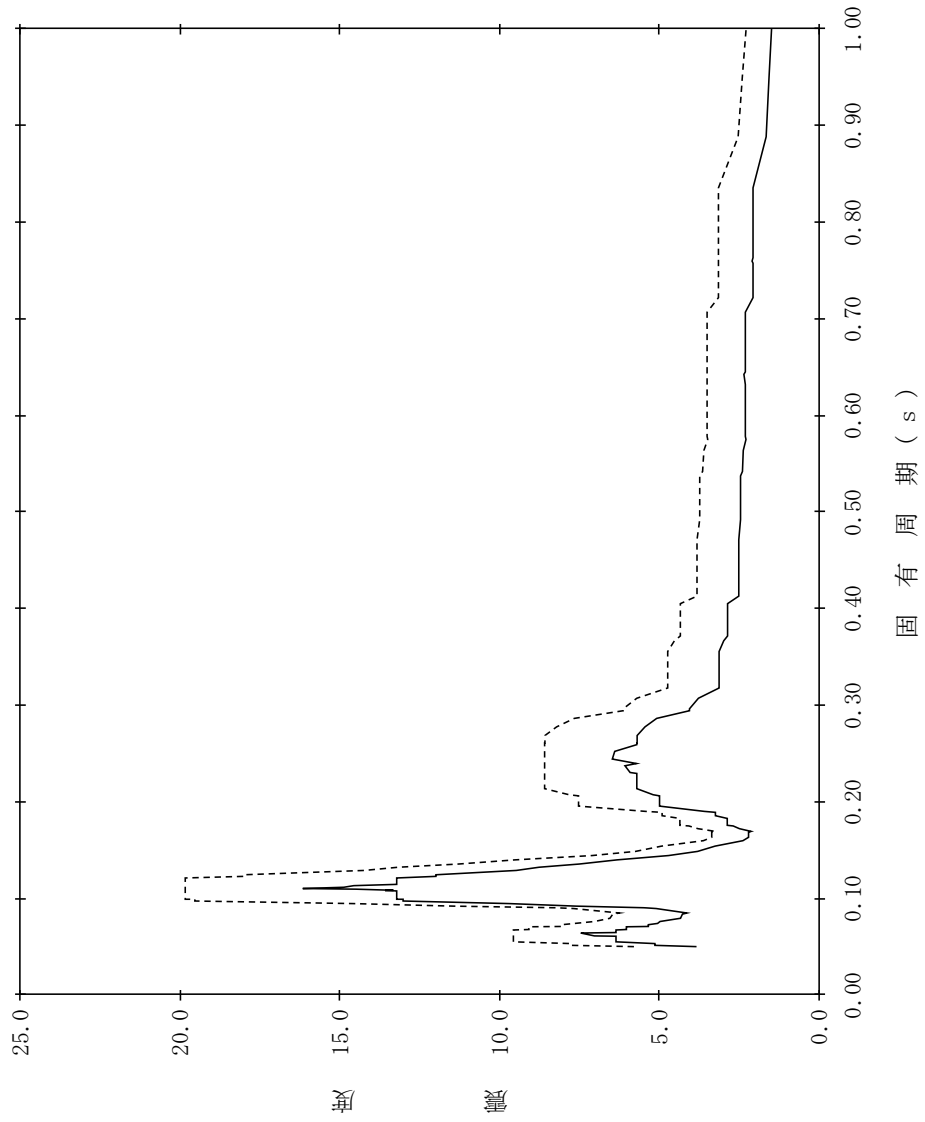
【NS2-PCV-SsNS-RPV201】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s



【NS2-PCV-SsNS-RPV202】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

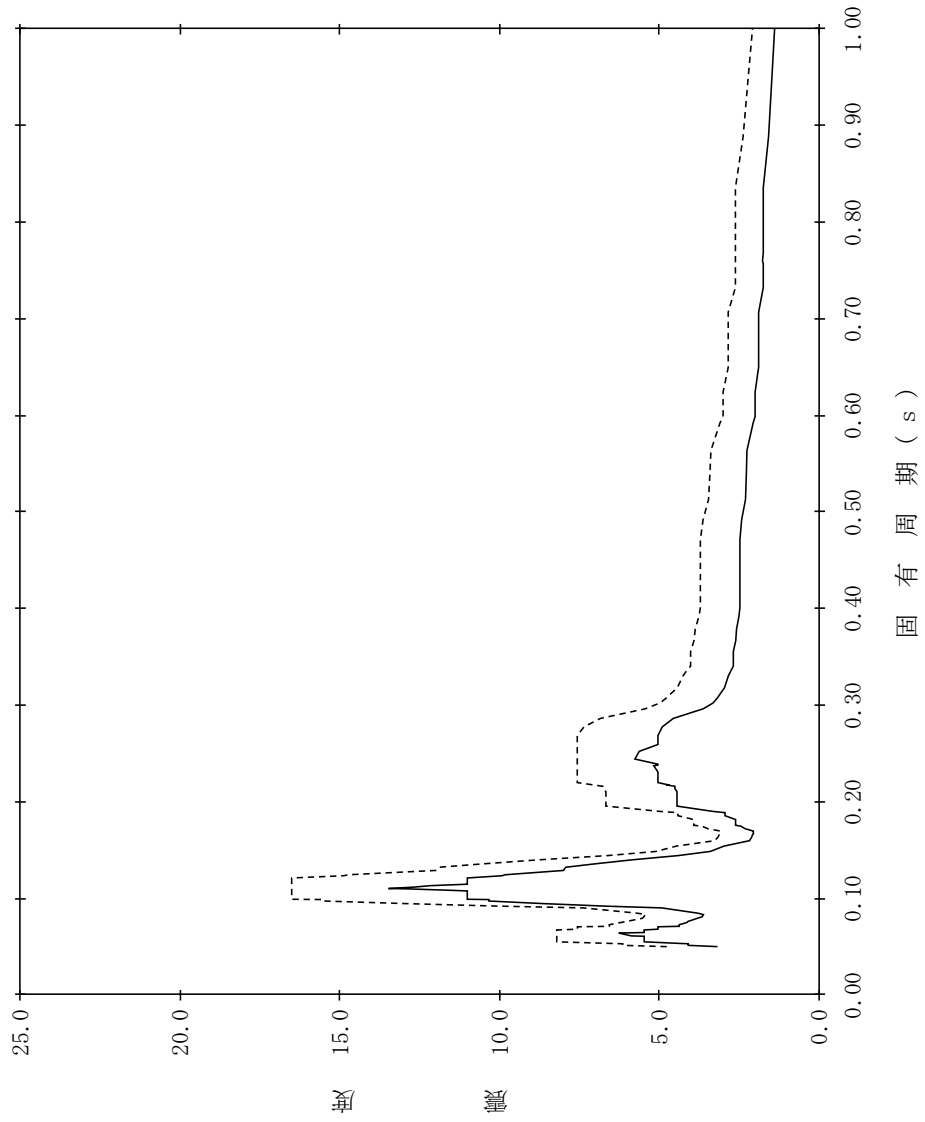


【NS2-PCV-SsNS-RPV203】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：1.5%

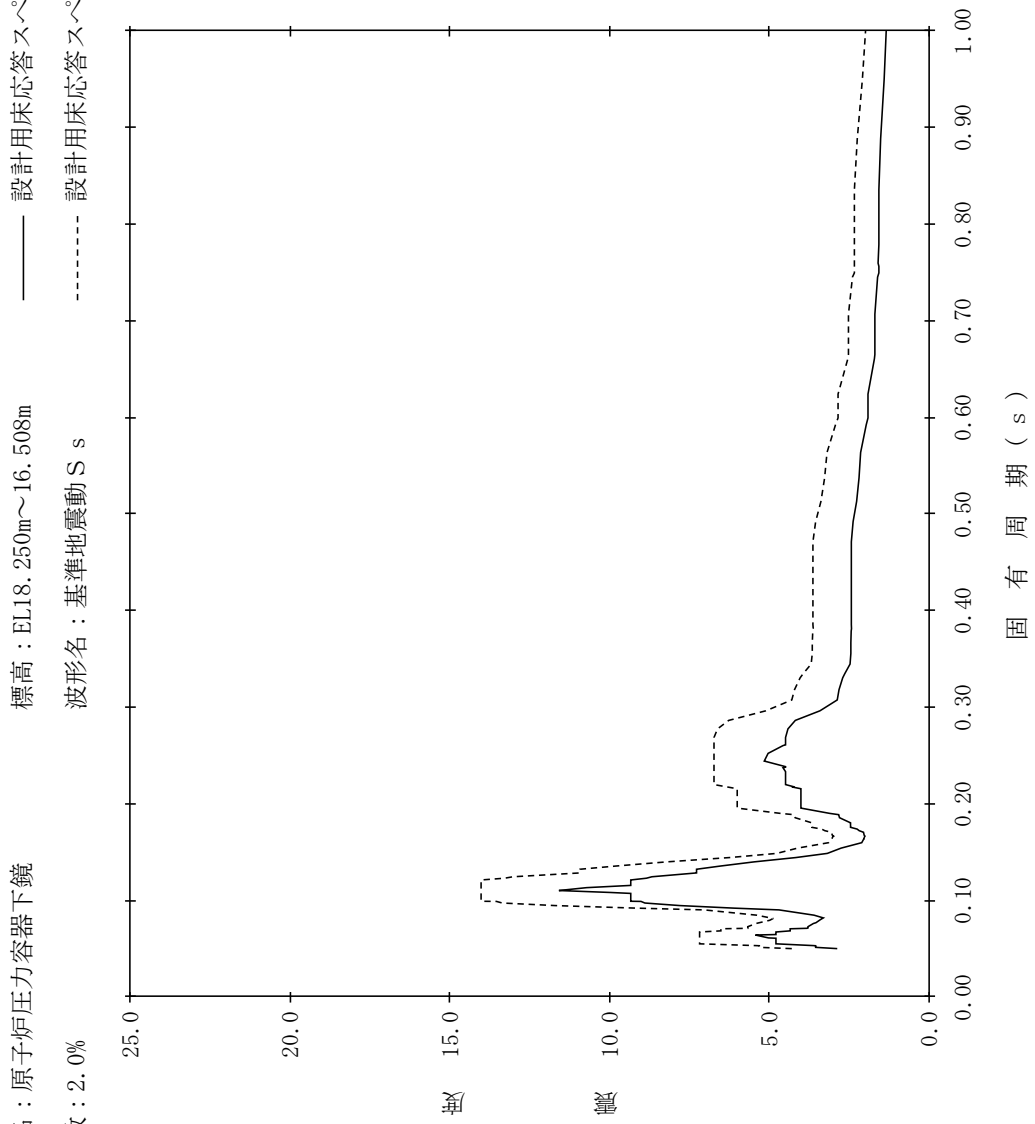
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



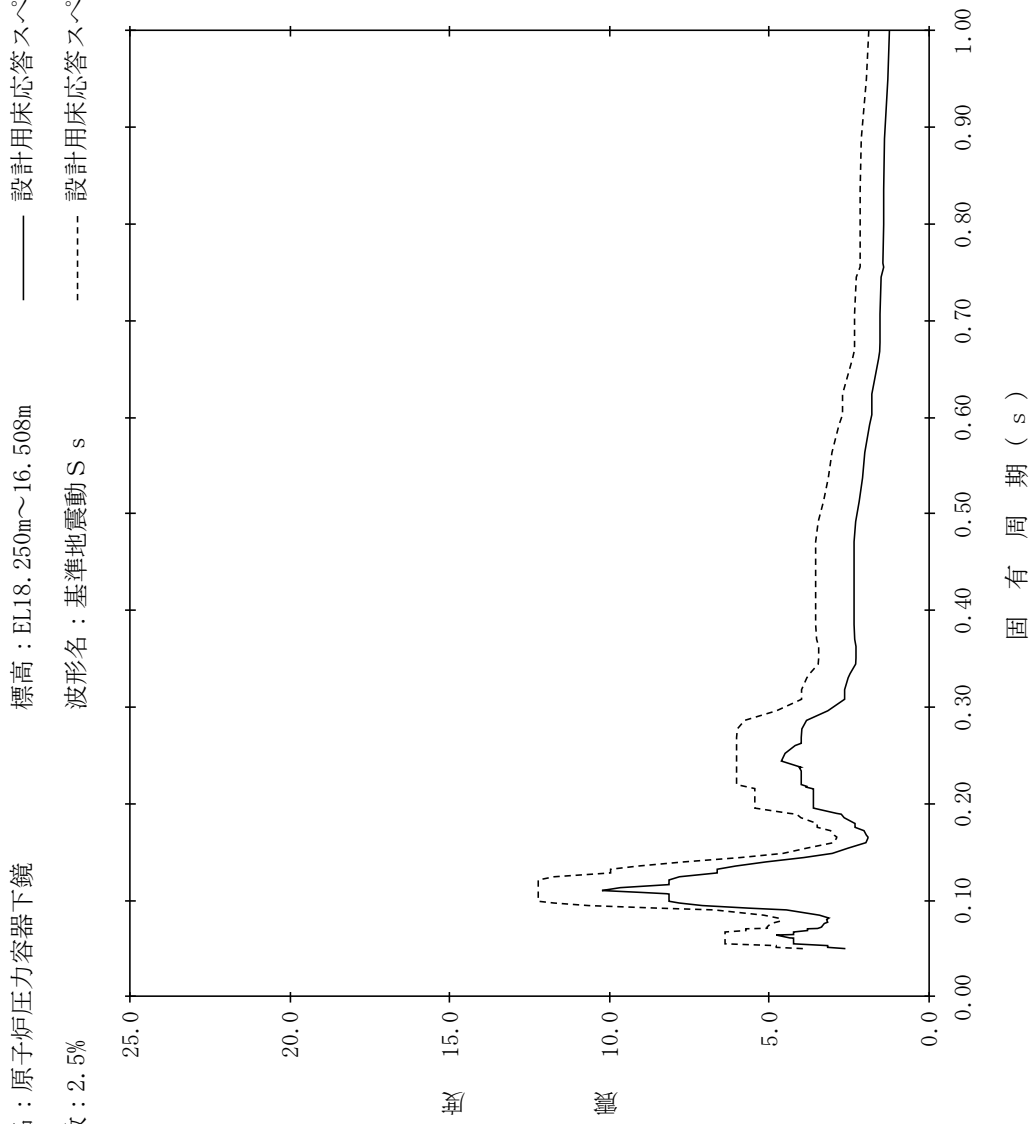
【NS2-PCV-SsNS-RPV204】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：2.0%



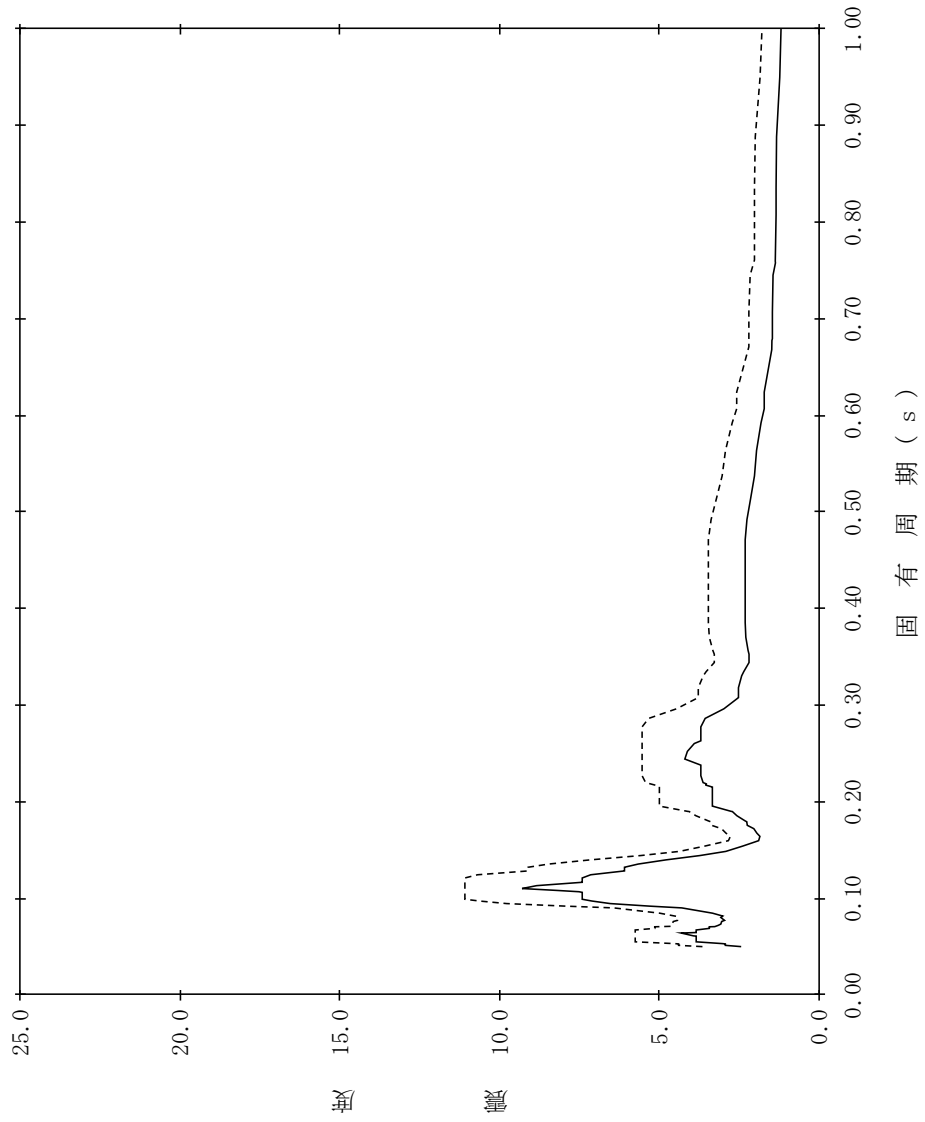
【NS2-PCV-SsNS-RPV205】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s



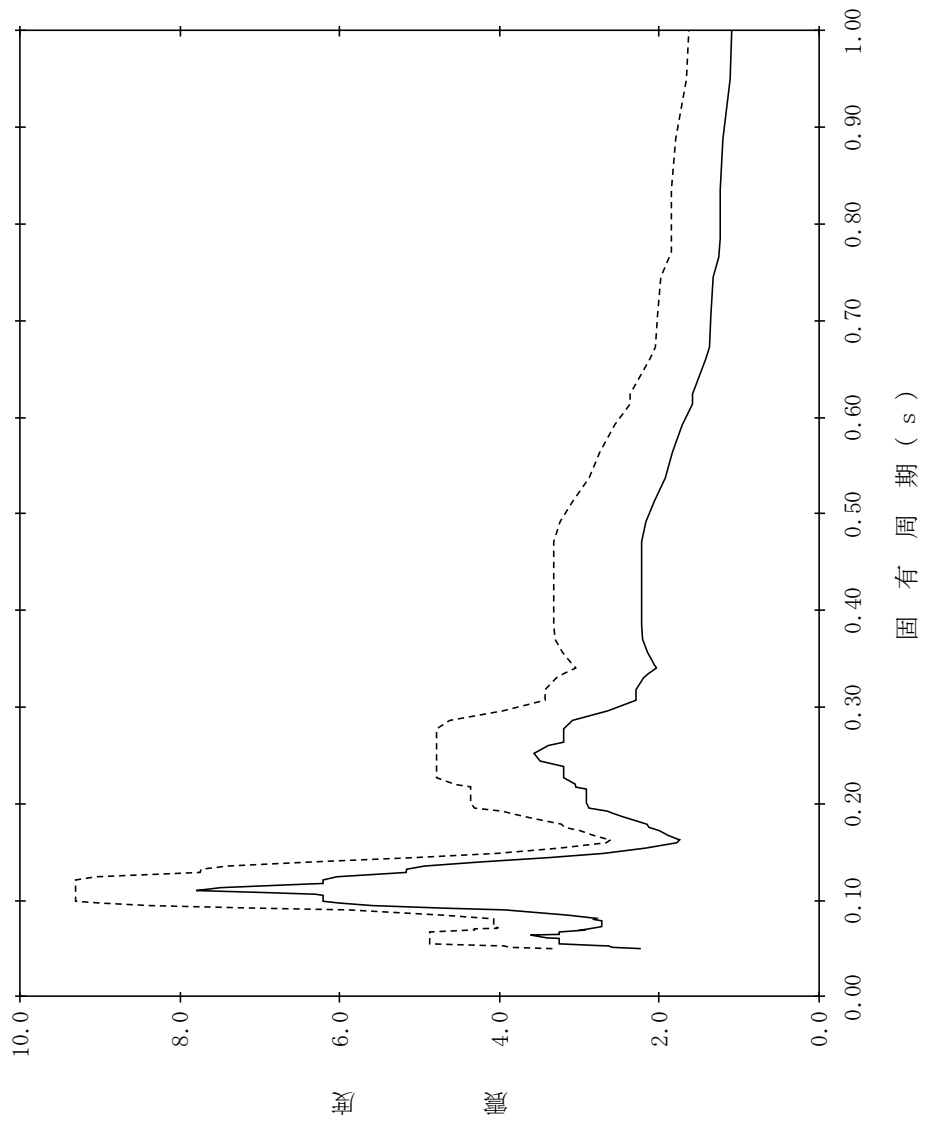
【NS2-PCV-SsNS-RPV206】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



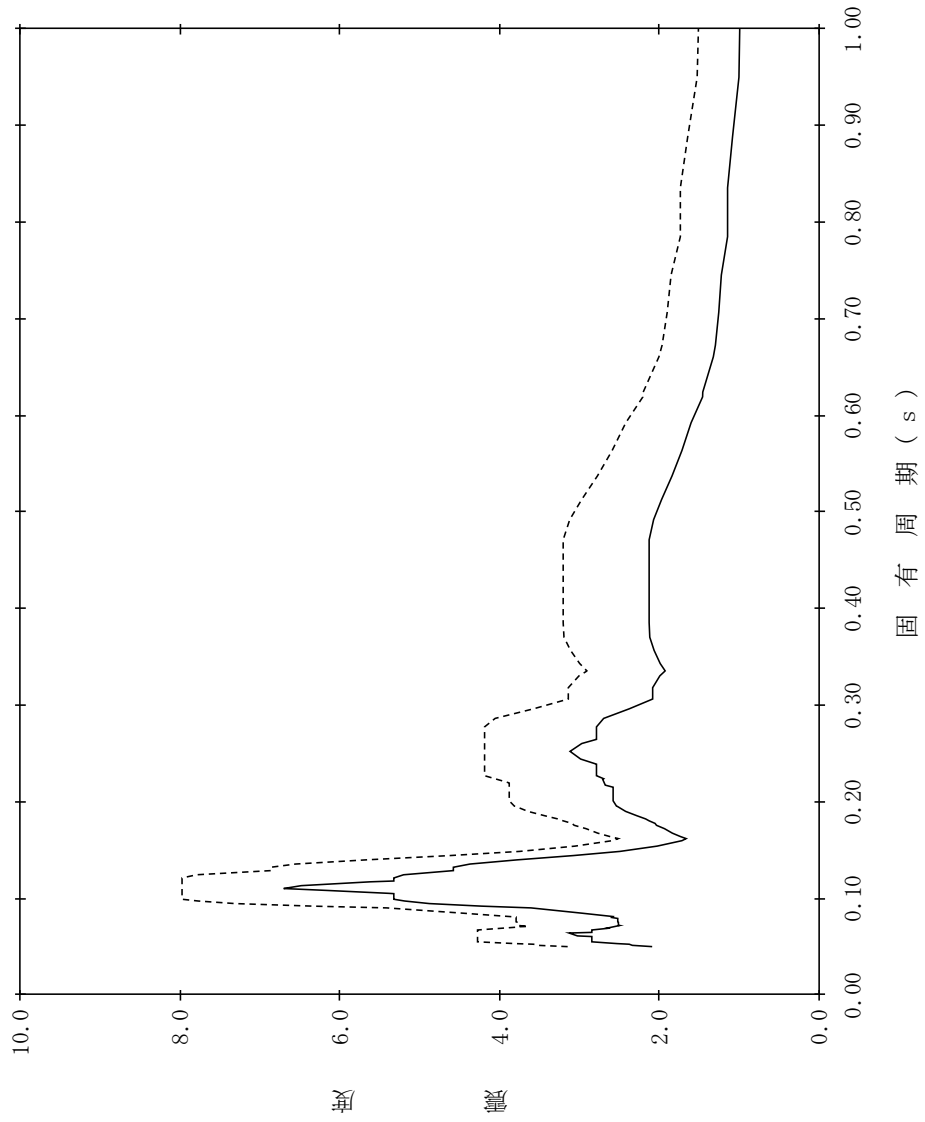
【NS2-PCV-SsNS-RPV207】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

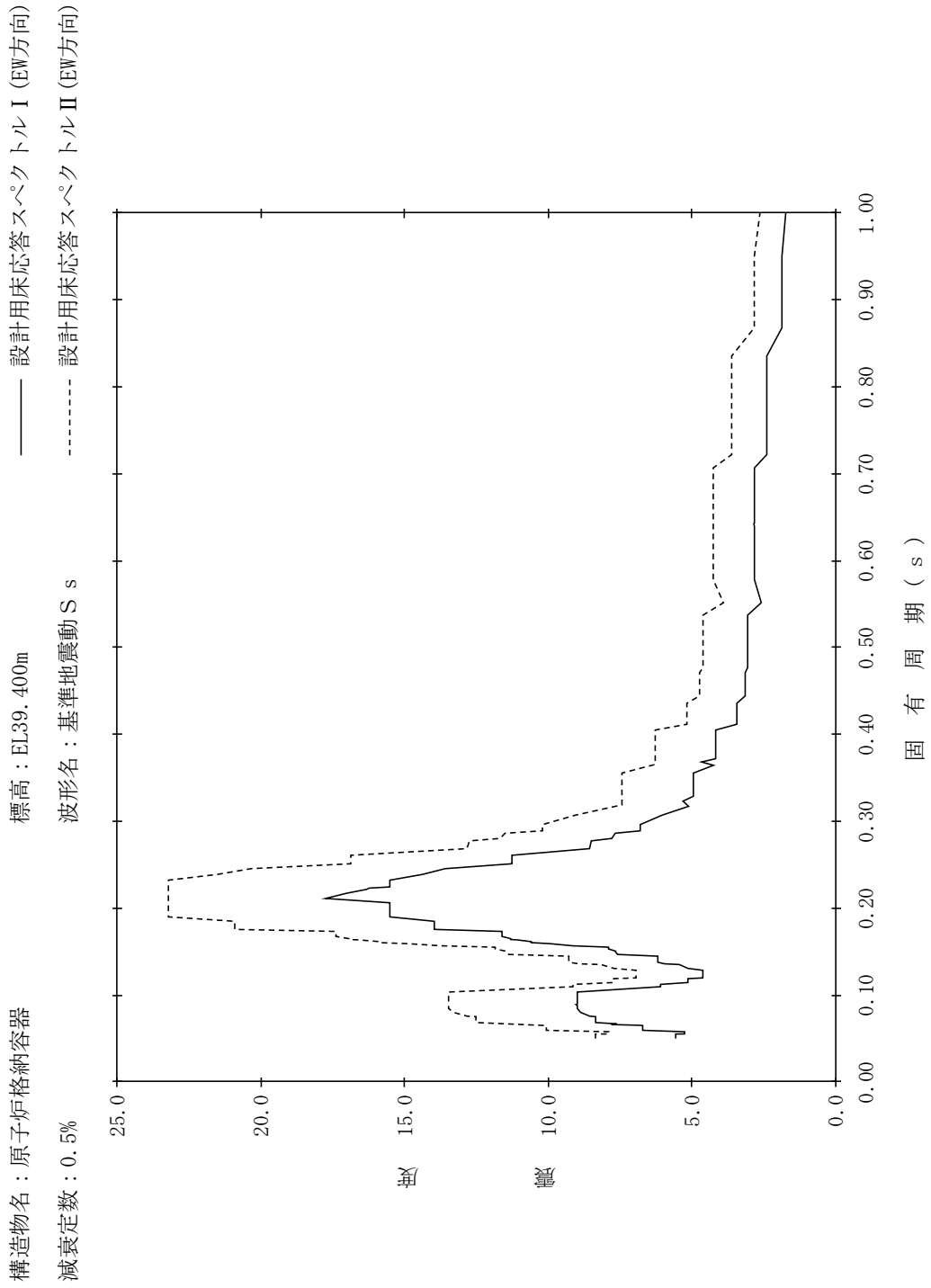


【NS2-PCV-SsNS-RPV208】

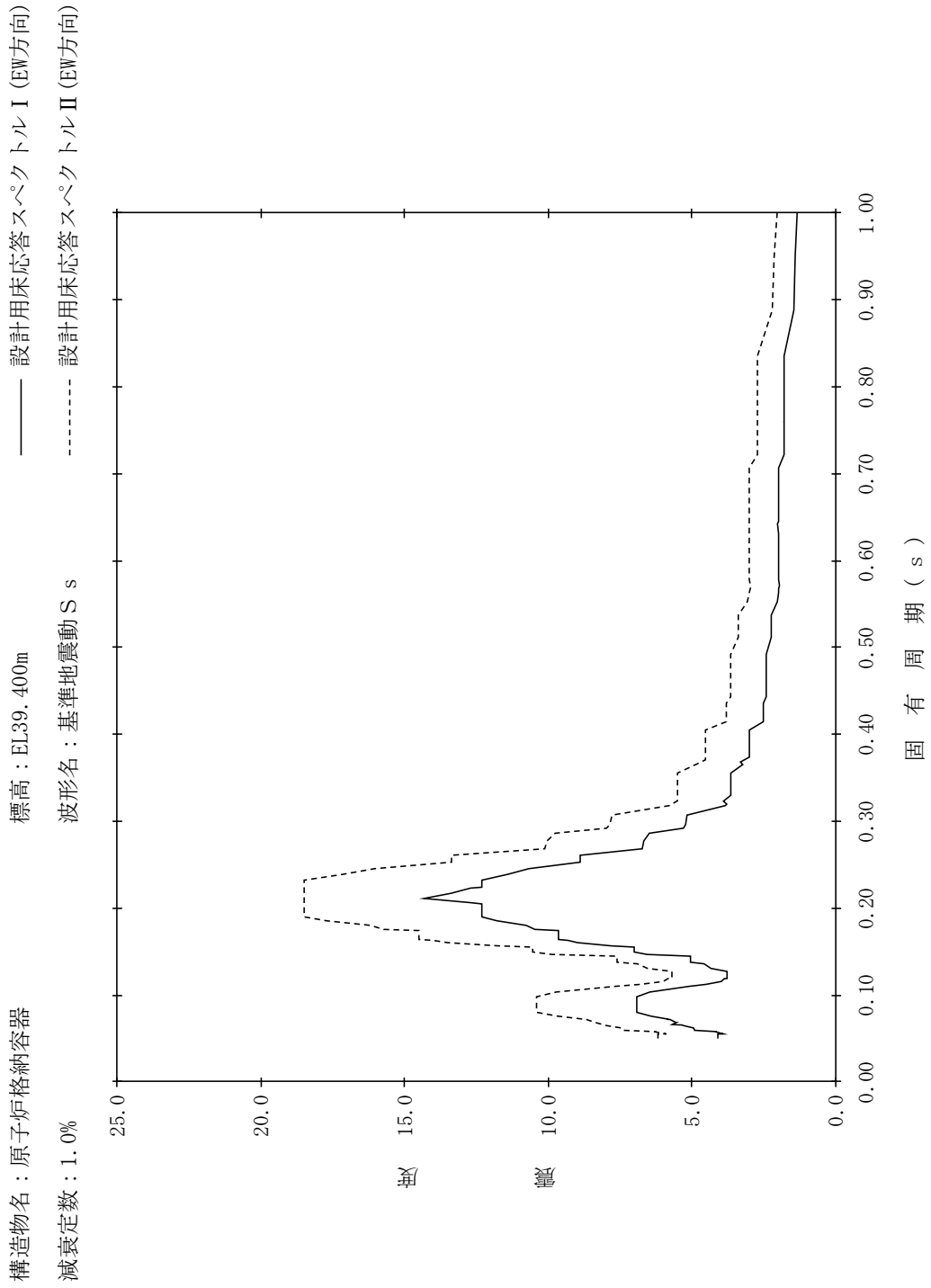
構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-PCV-SsEW-PCV1】

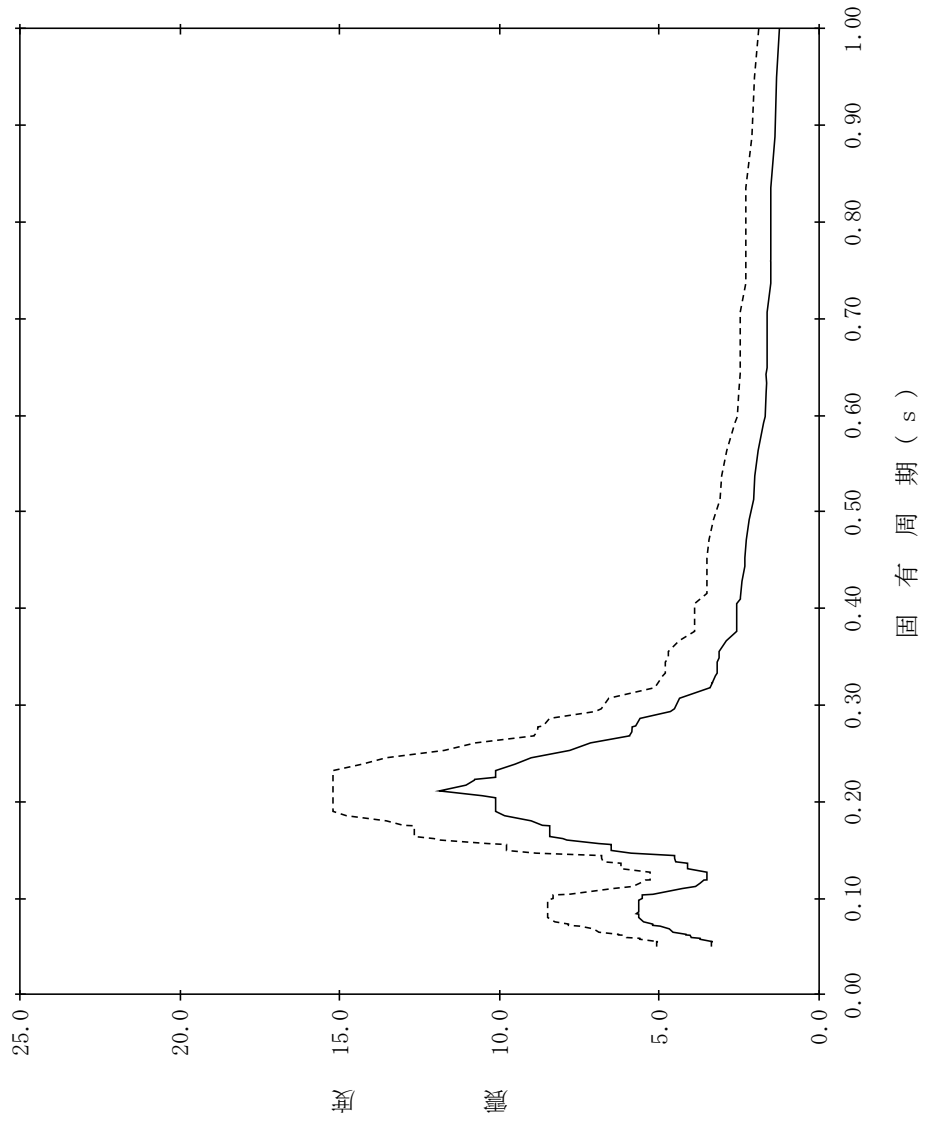


【NS2-PCV-SsEW-PCV2】



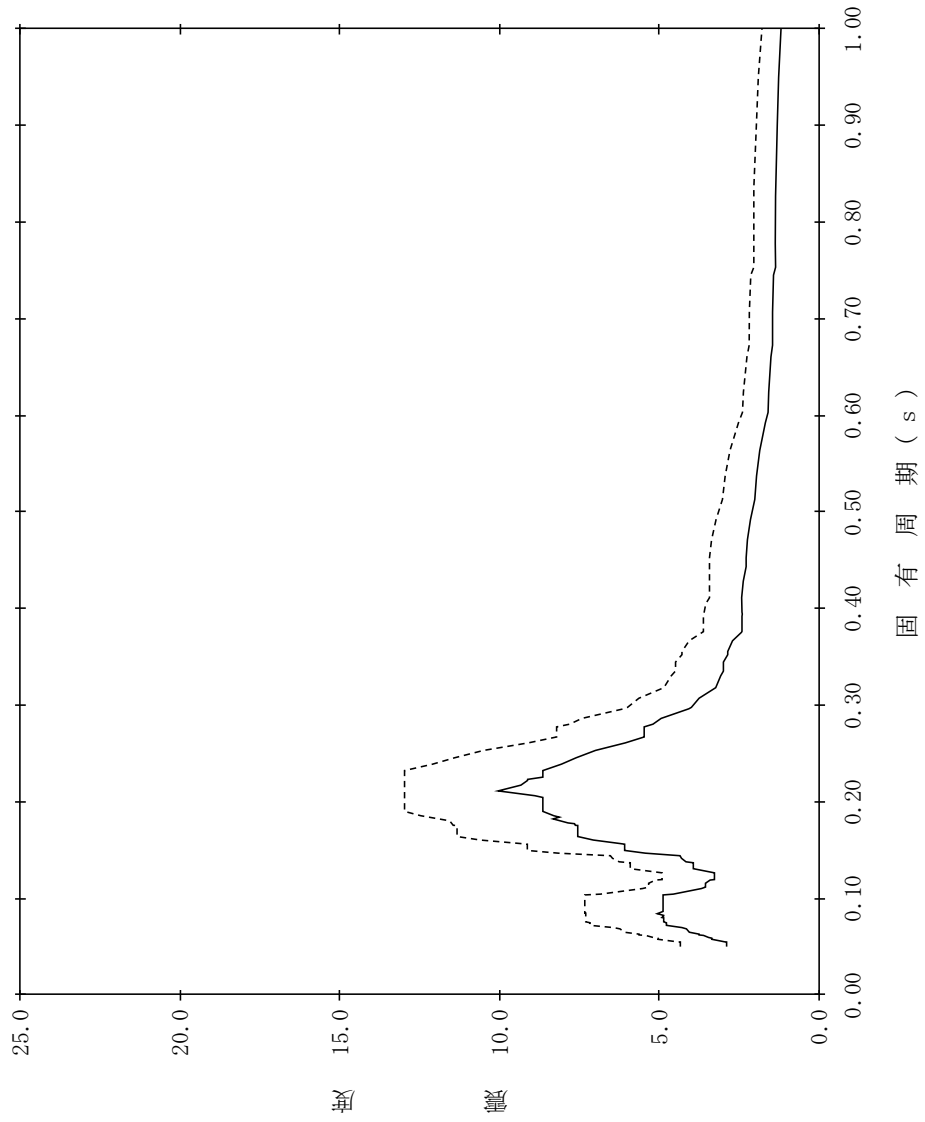
【NS2-PCV-SsEW-PCV3】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



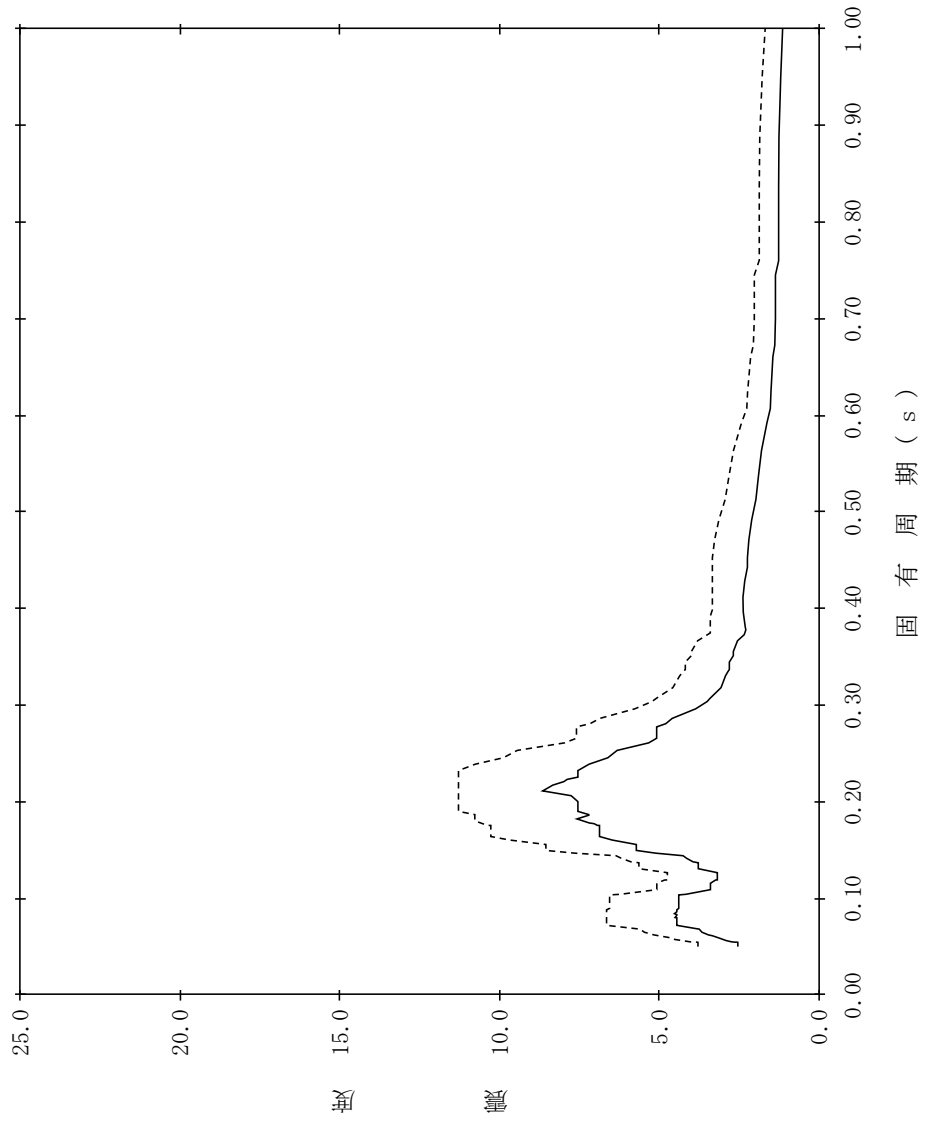
【NS2-PCV-SsEW-PCV4】

構造物名：原子炉格納容器
 減衰定数：2.0%
 標高：EL39.400m
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



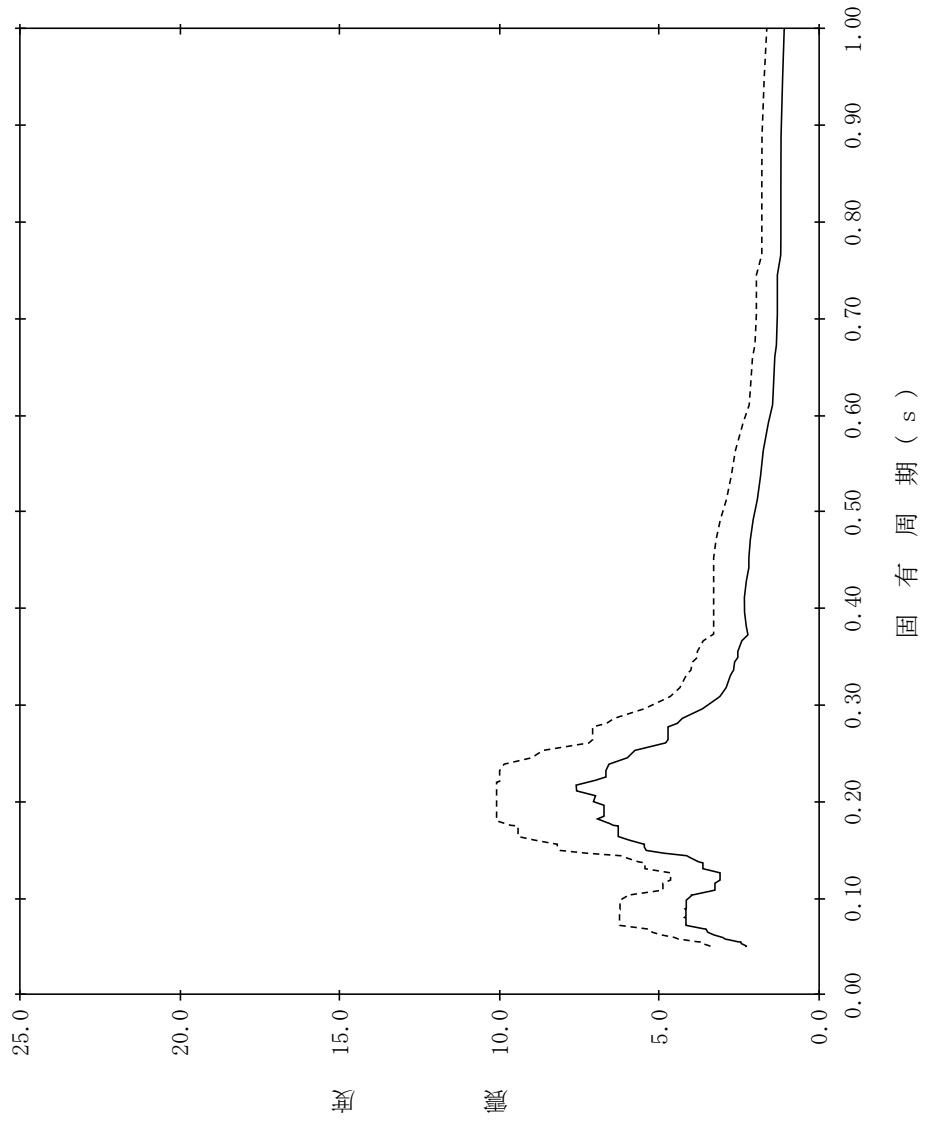
【NS2-PCV-SsEW-PCV5】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



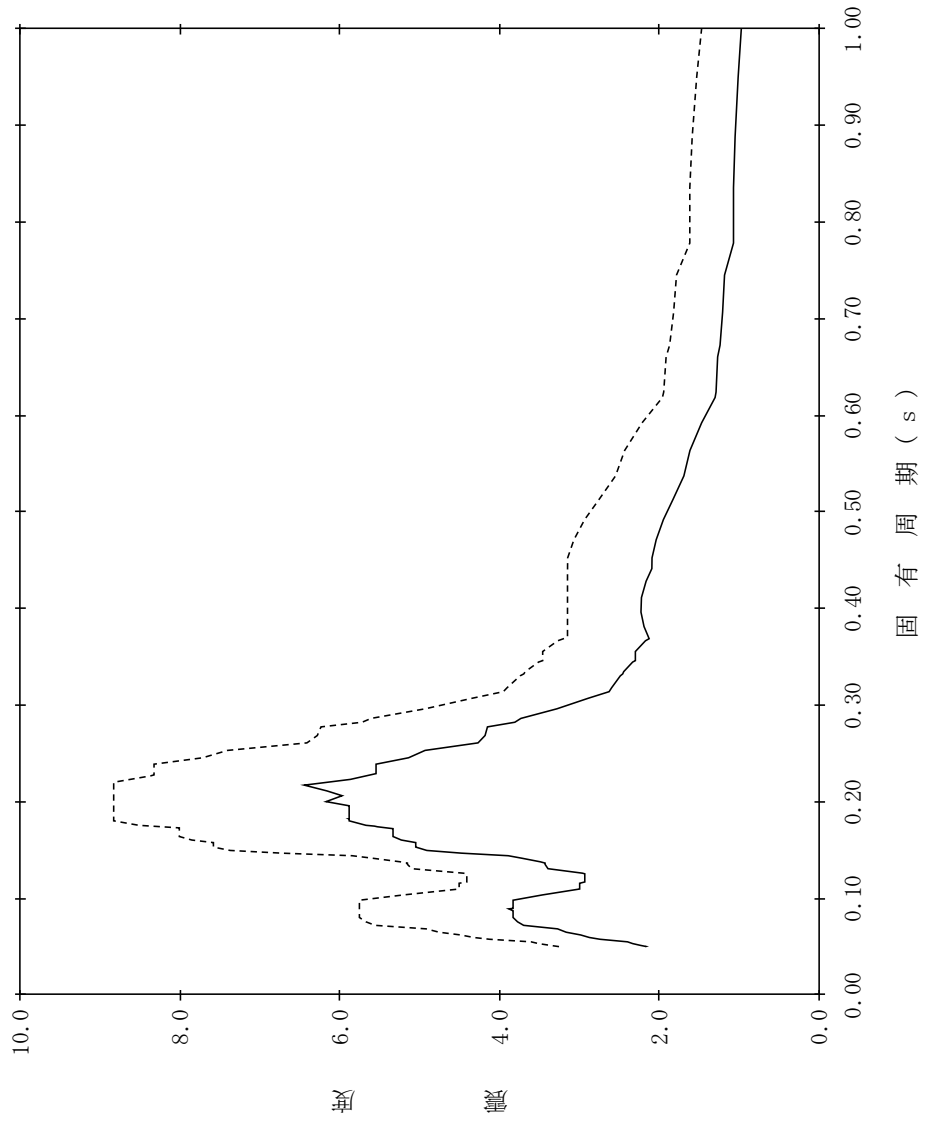
【NS2-PCV-SsEW-PCV6】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



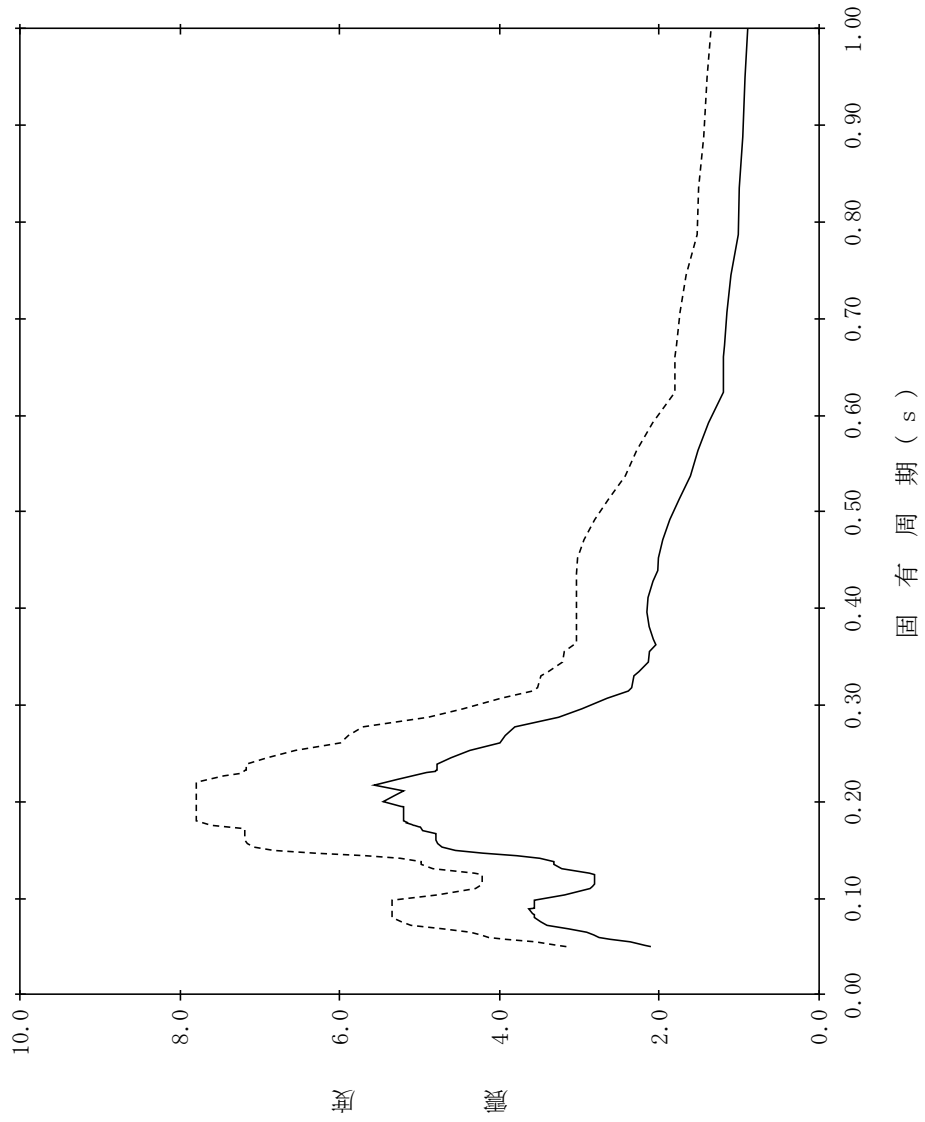
【NS2-PCV-SsEW-PCV7】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



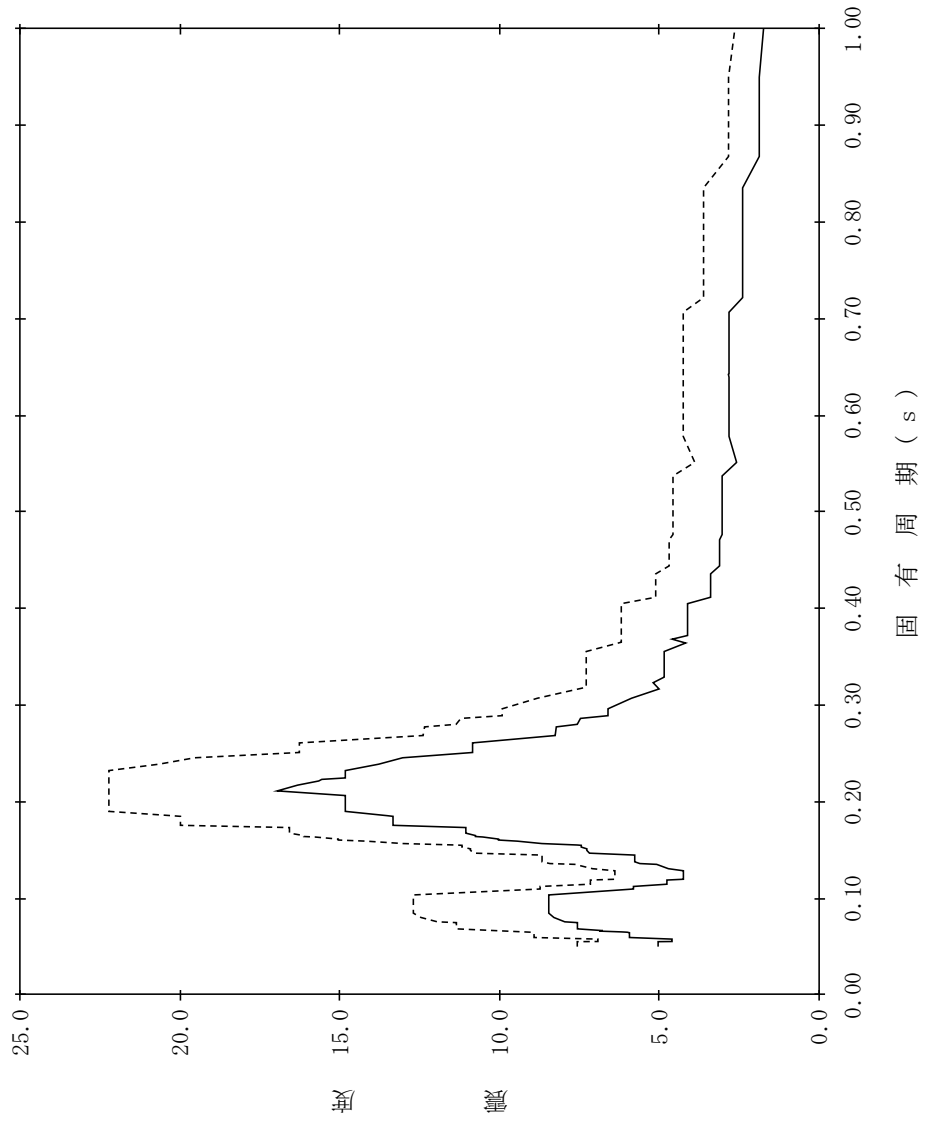
【NS2-PCV-SsEW-PCV8】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



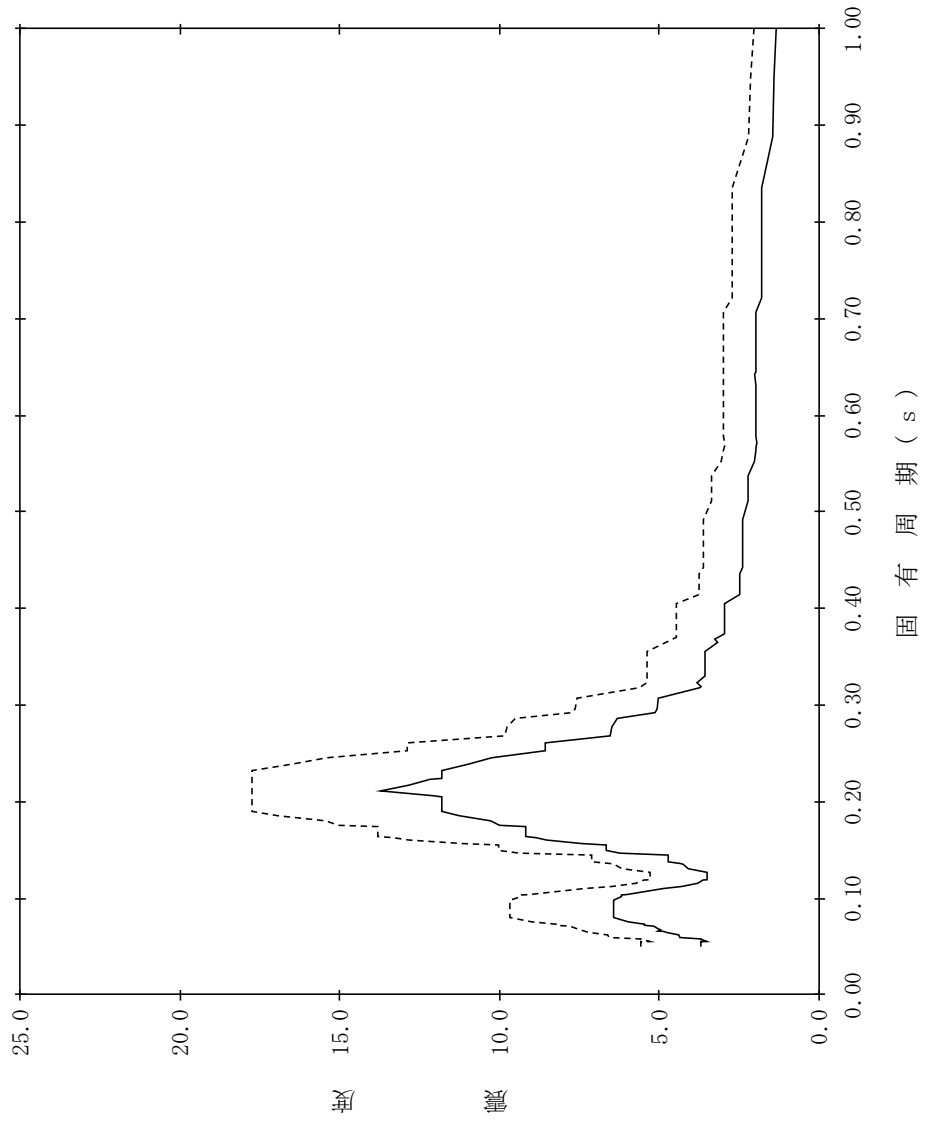
【NS2-PCV-SsEW-PCV9】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



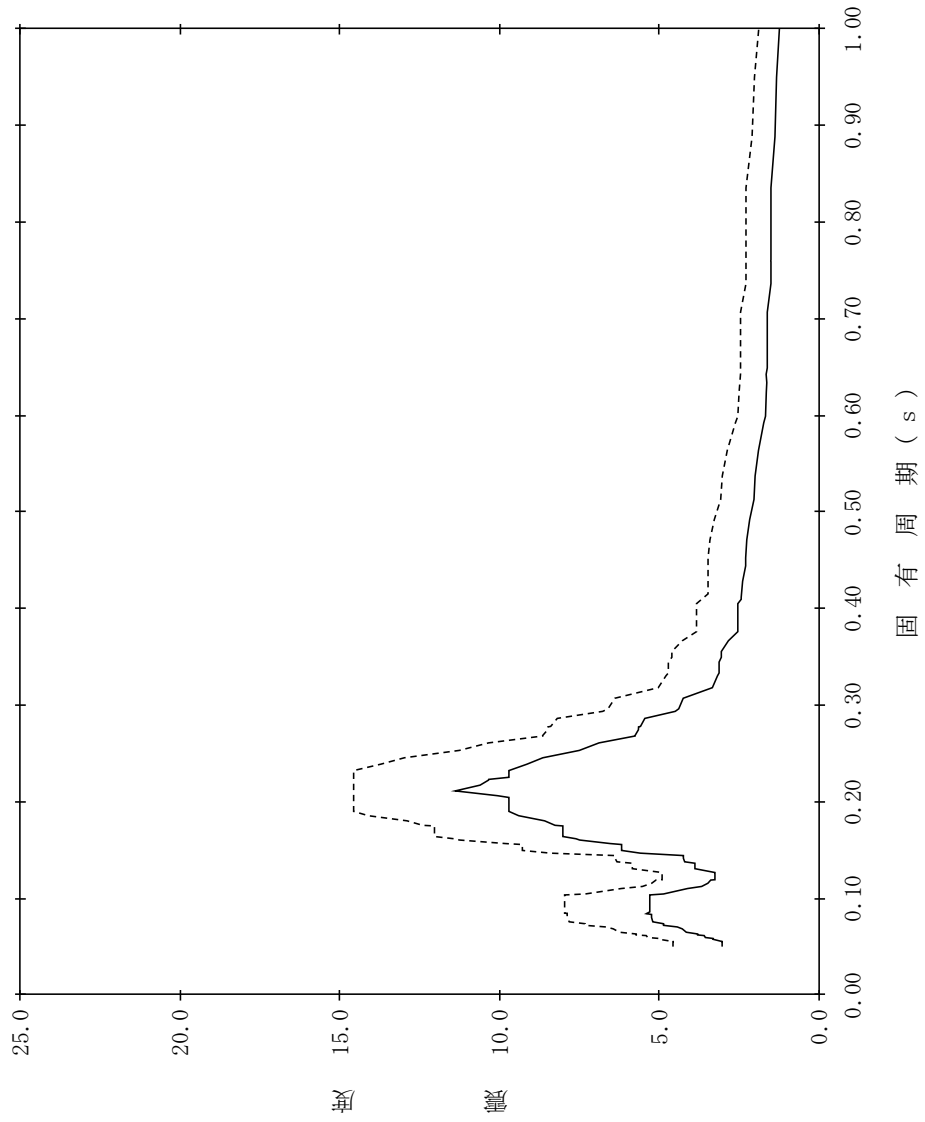
【NS2-PCV-SsEW-PCV10】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



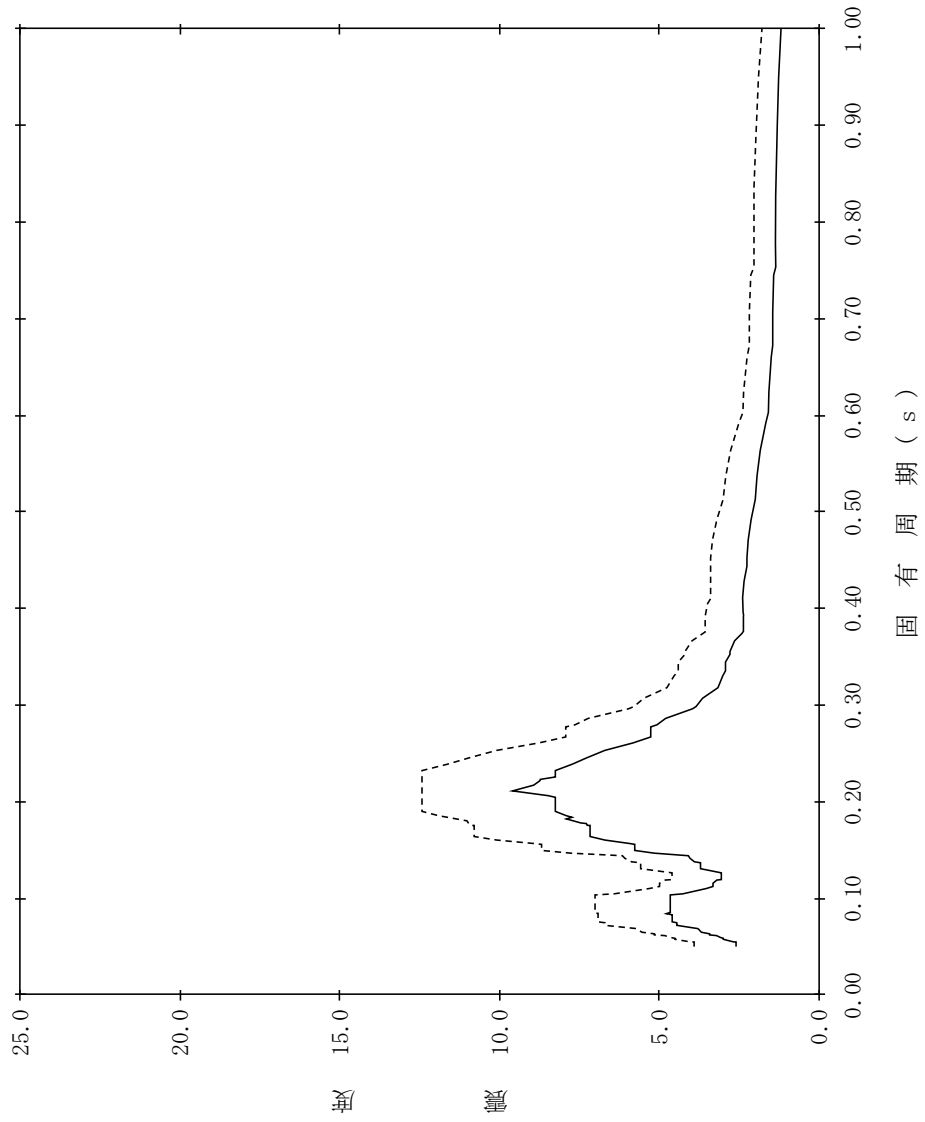
【NS2-PCV-SsEW-PCV11】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



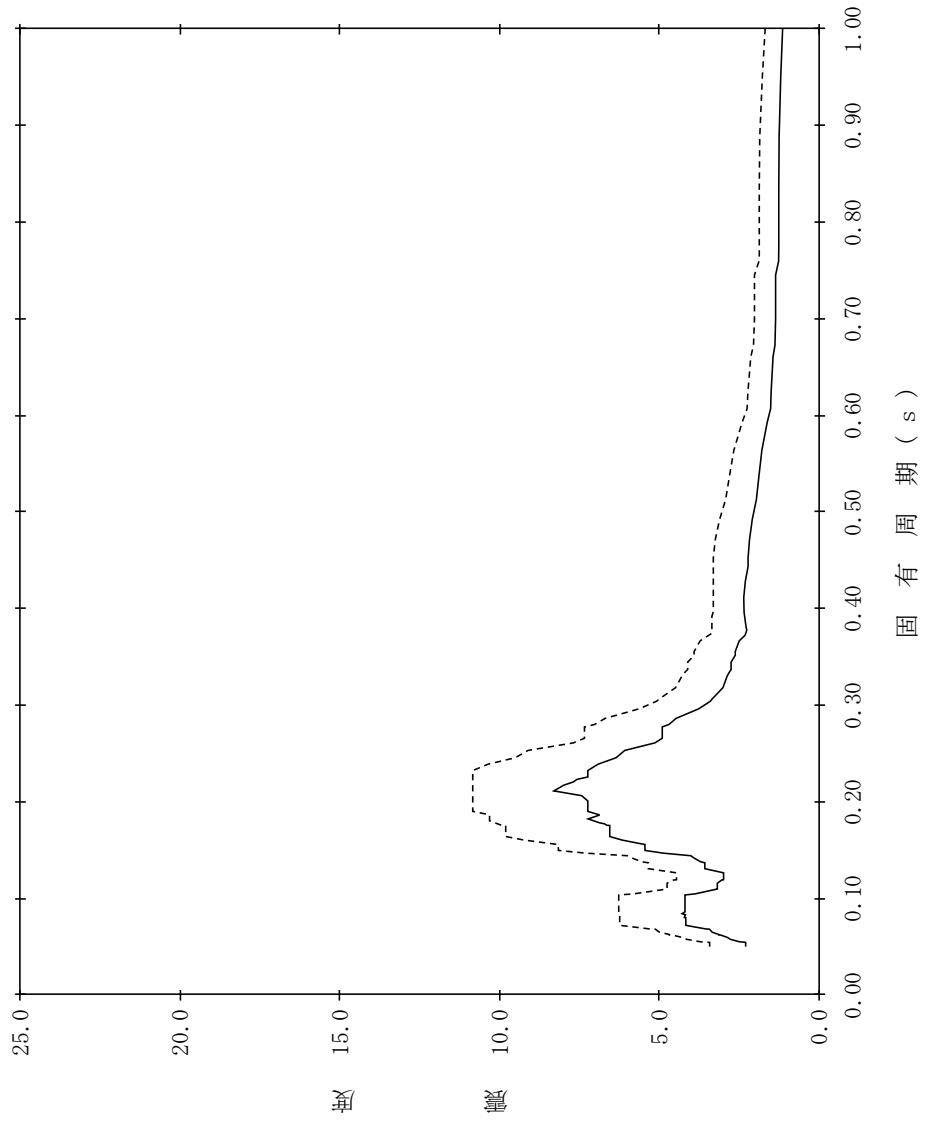
【NS2-PCV-SsEW-PCV12】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



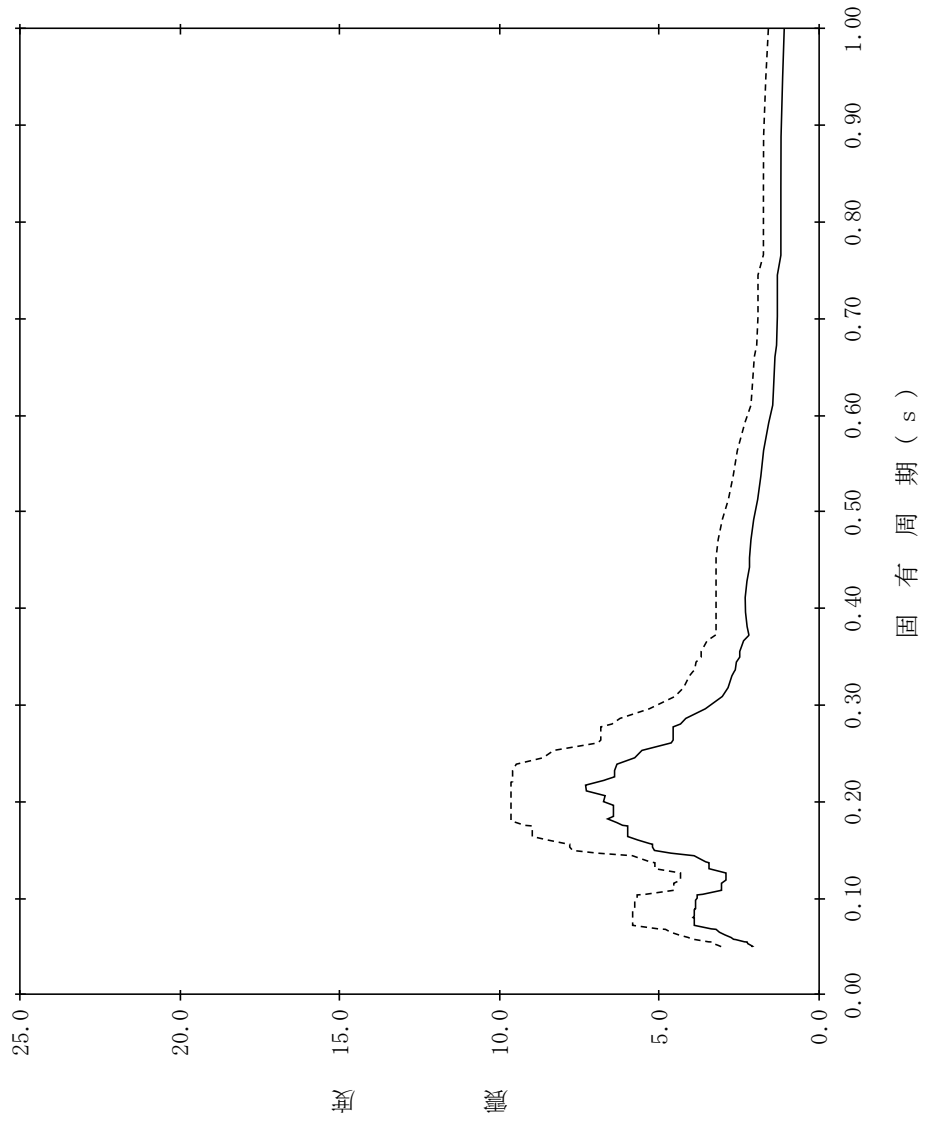
【NS2-PCV-SsEW-PCV13】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



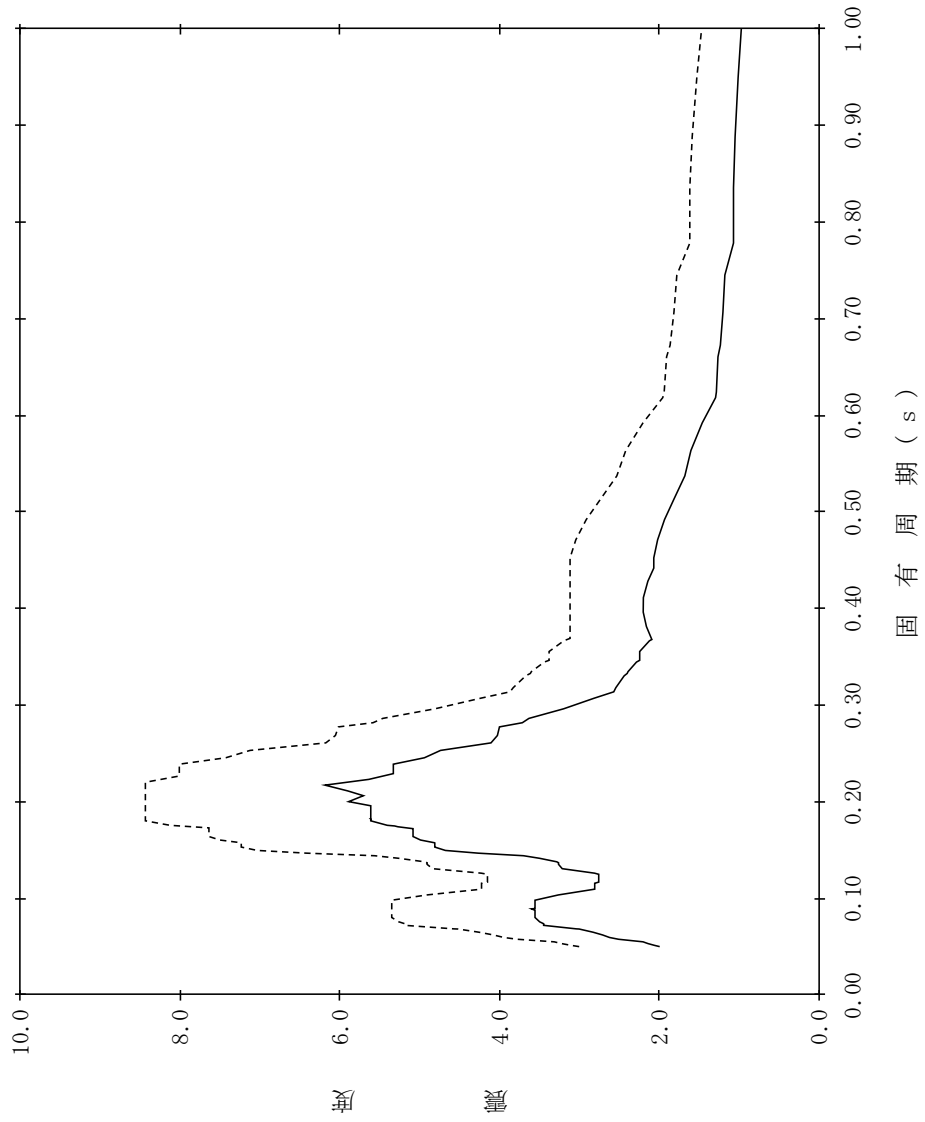
【NS2-PCV-SsEW-PCV14】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

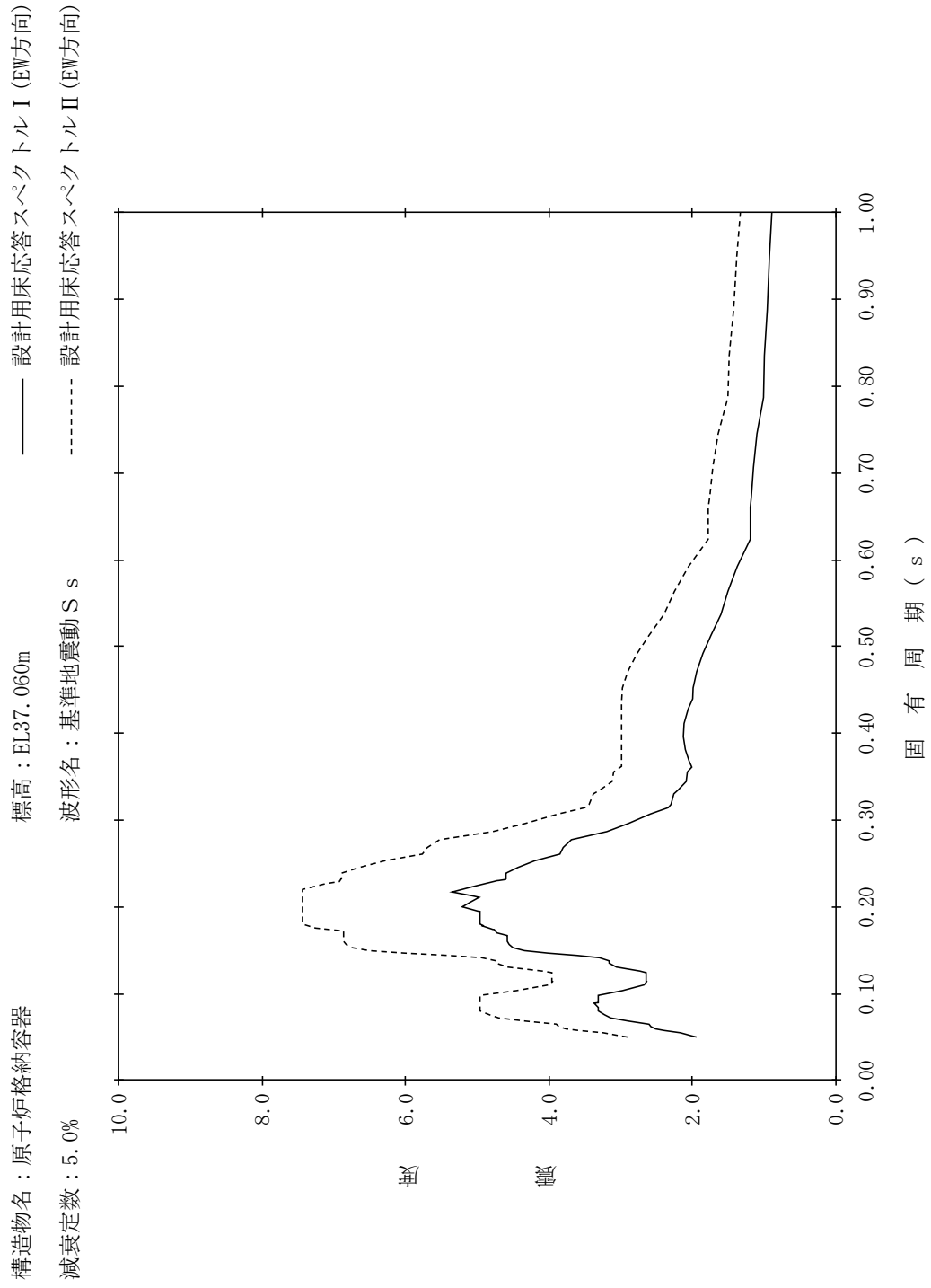


【NS2-PCV-SsEW-PCV15】

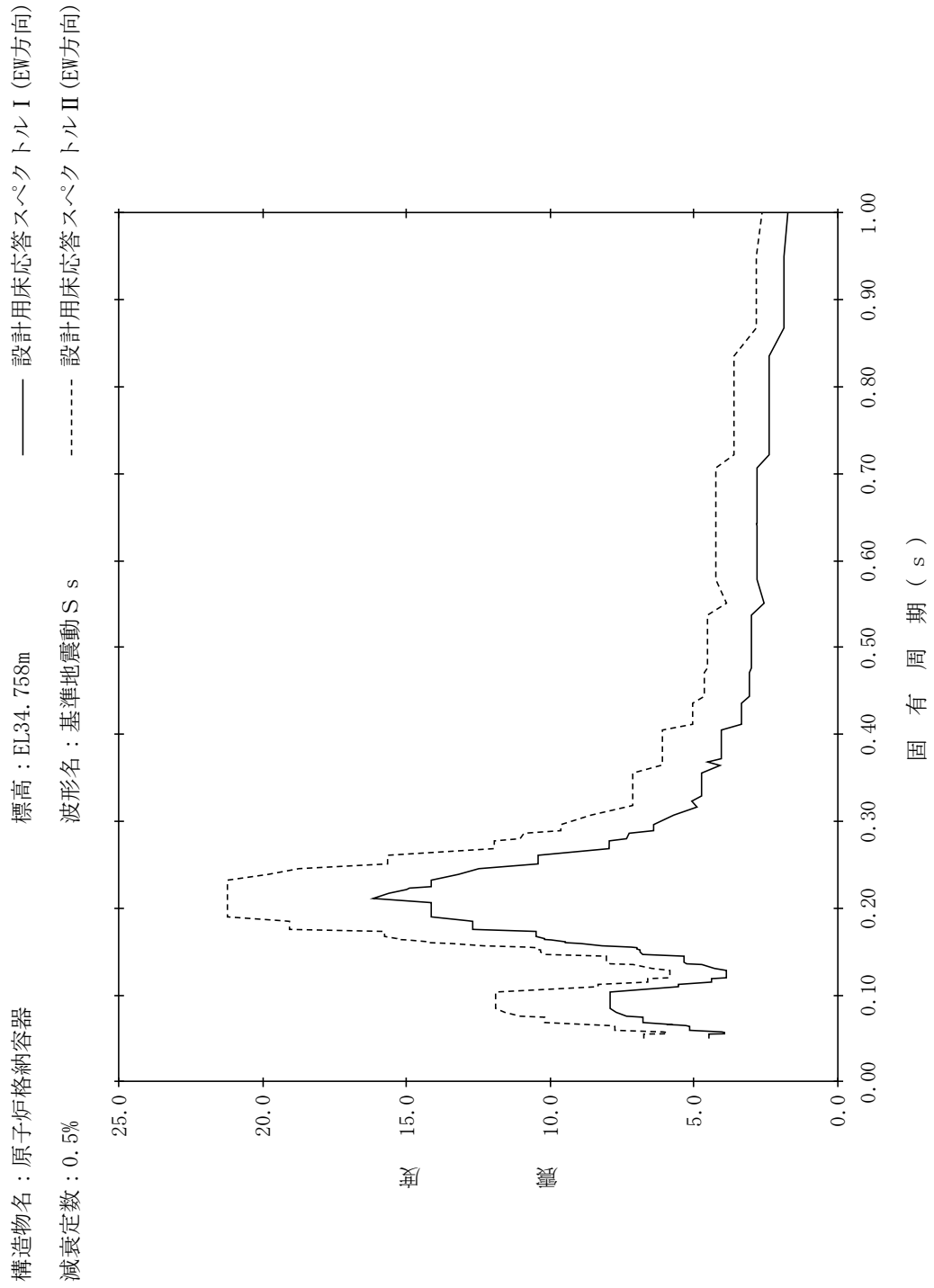
構造物名：原子炉格納容器
標高：EL37.060m
減衰定数：4.0%
波形式：標準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



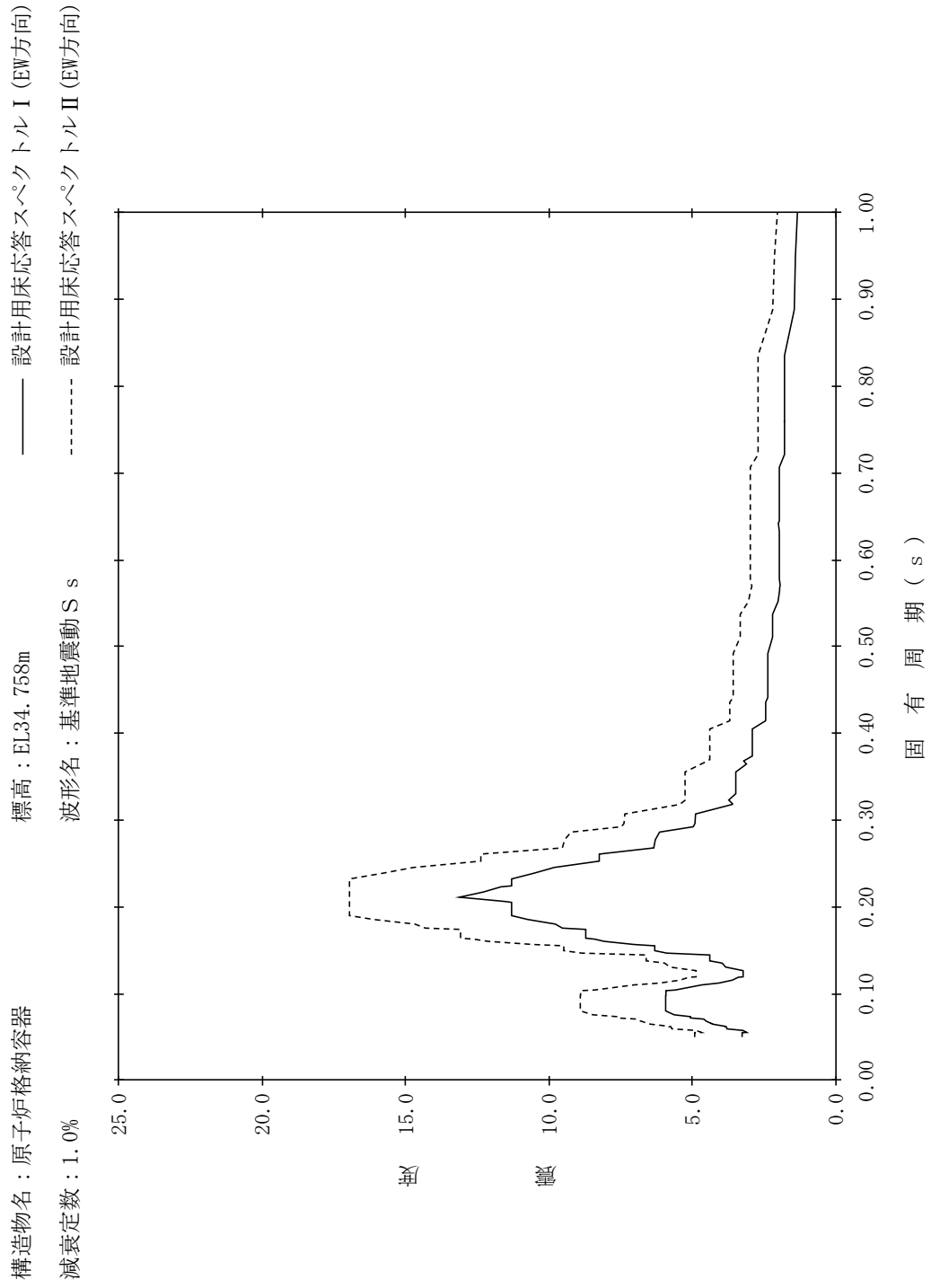
【NS2-PCV-SsEW-PCV16】



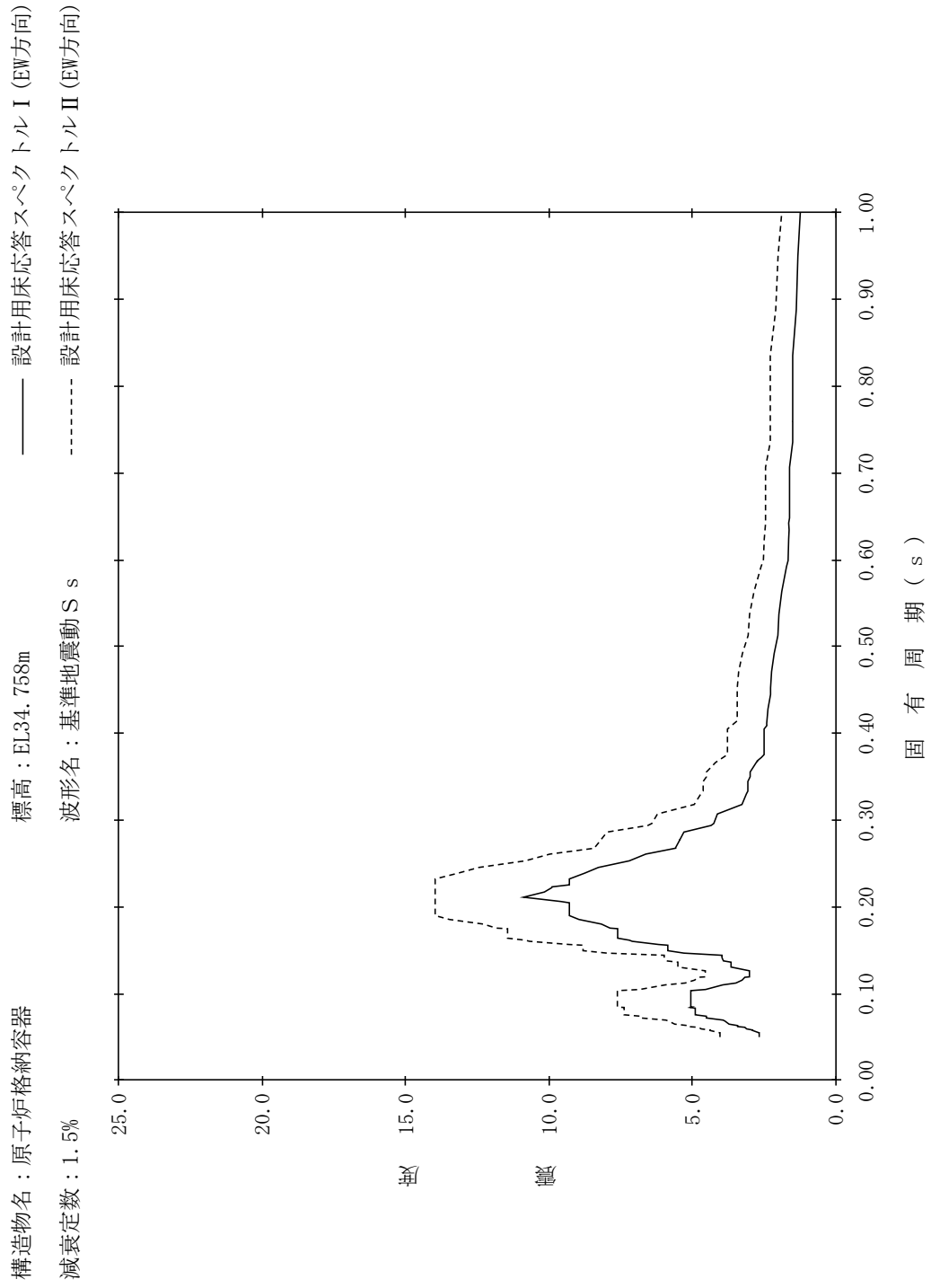
【NS2-PCV-SsEW-PCV17】



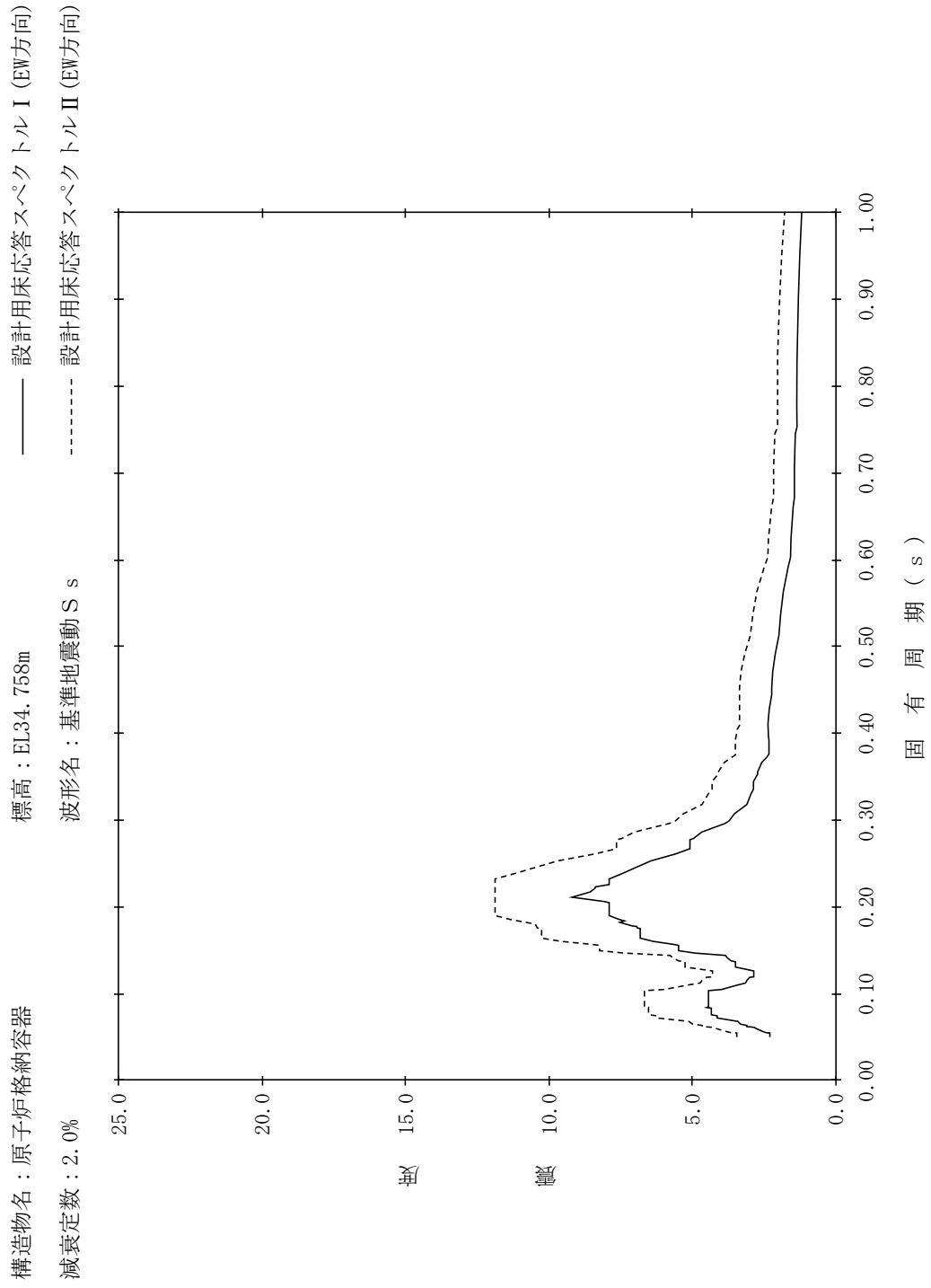
【NS2-PCV-SsEW-PCV18】



【NS2-PCV-SsEW-PCV19】

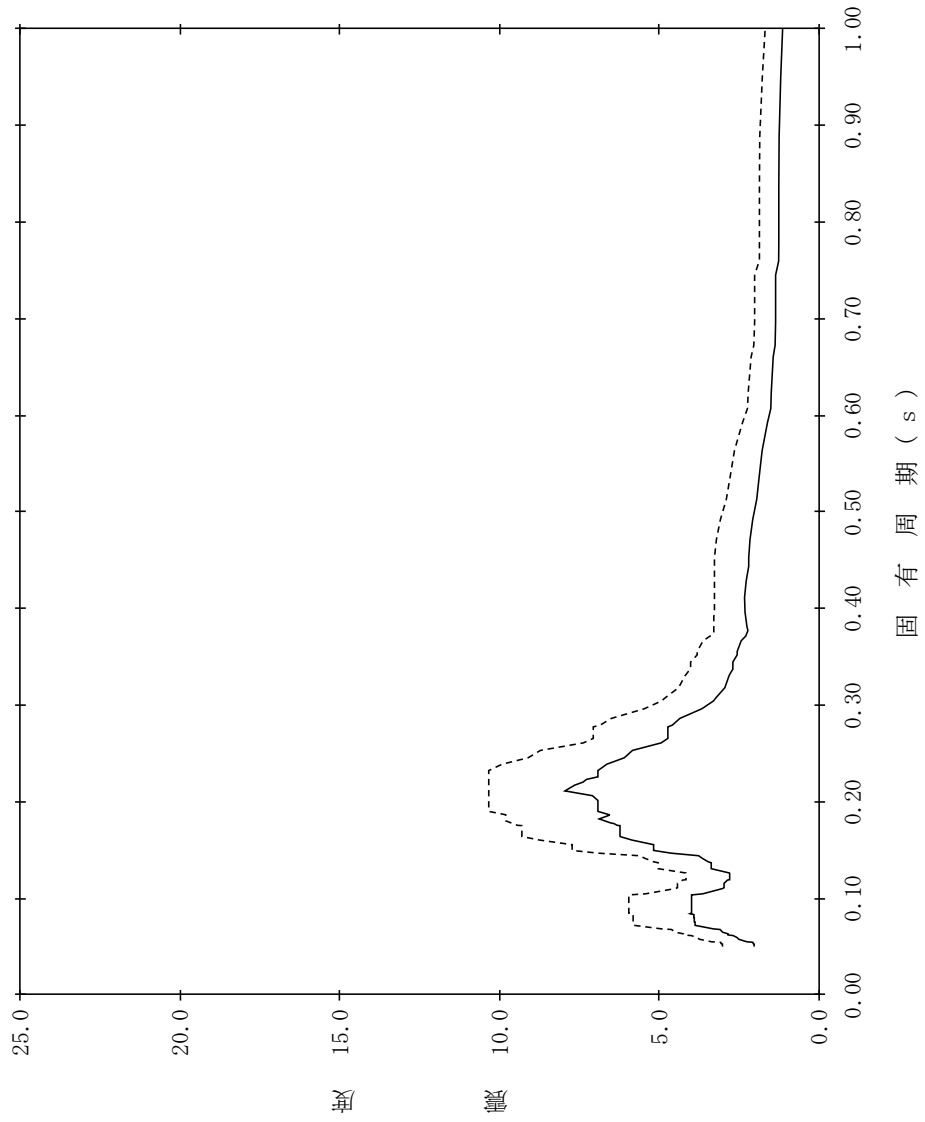


【NS2-PCV-SsEW-PCV20】

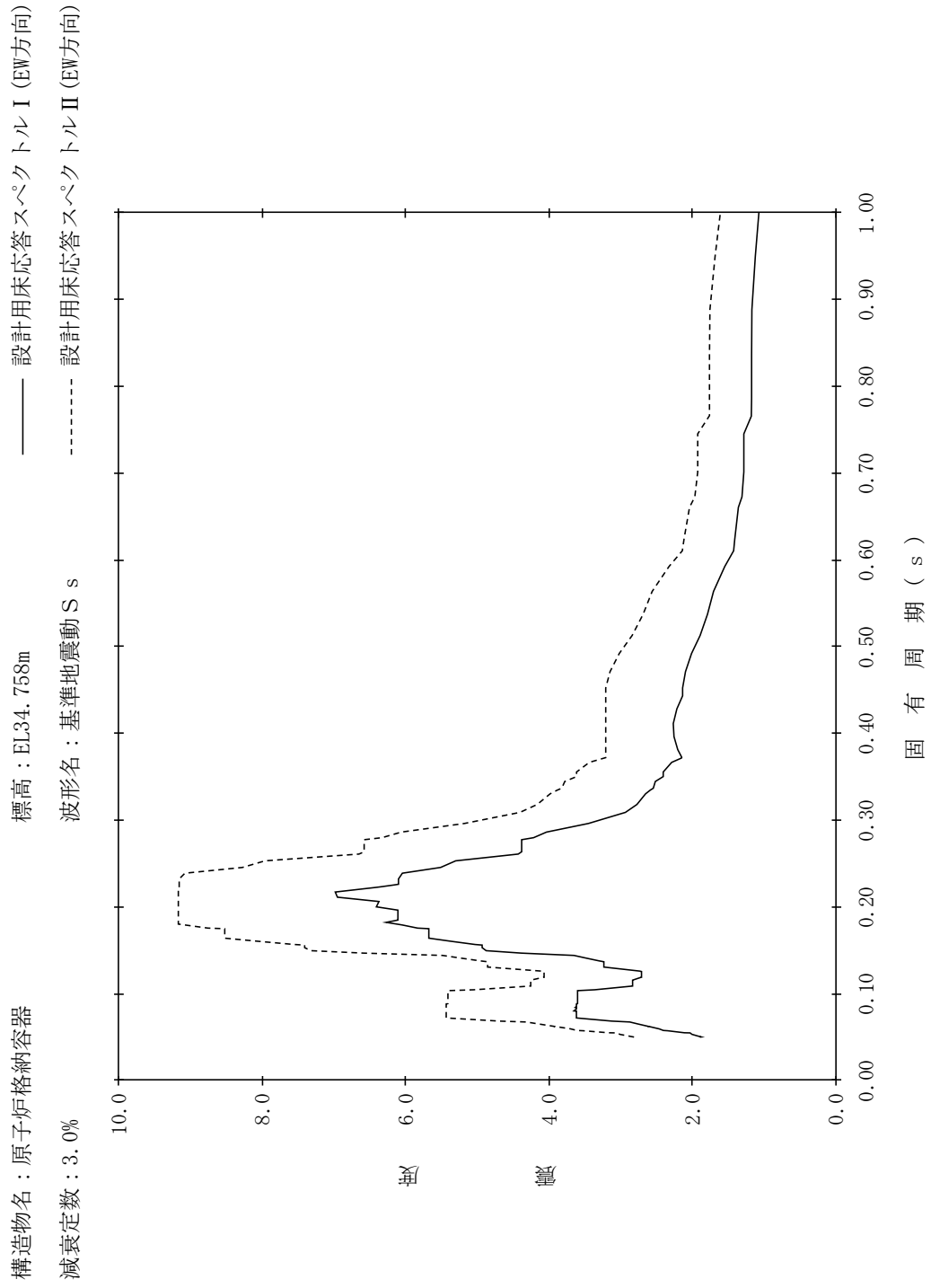


【NS2-PCV-SsEW-PCV21】

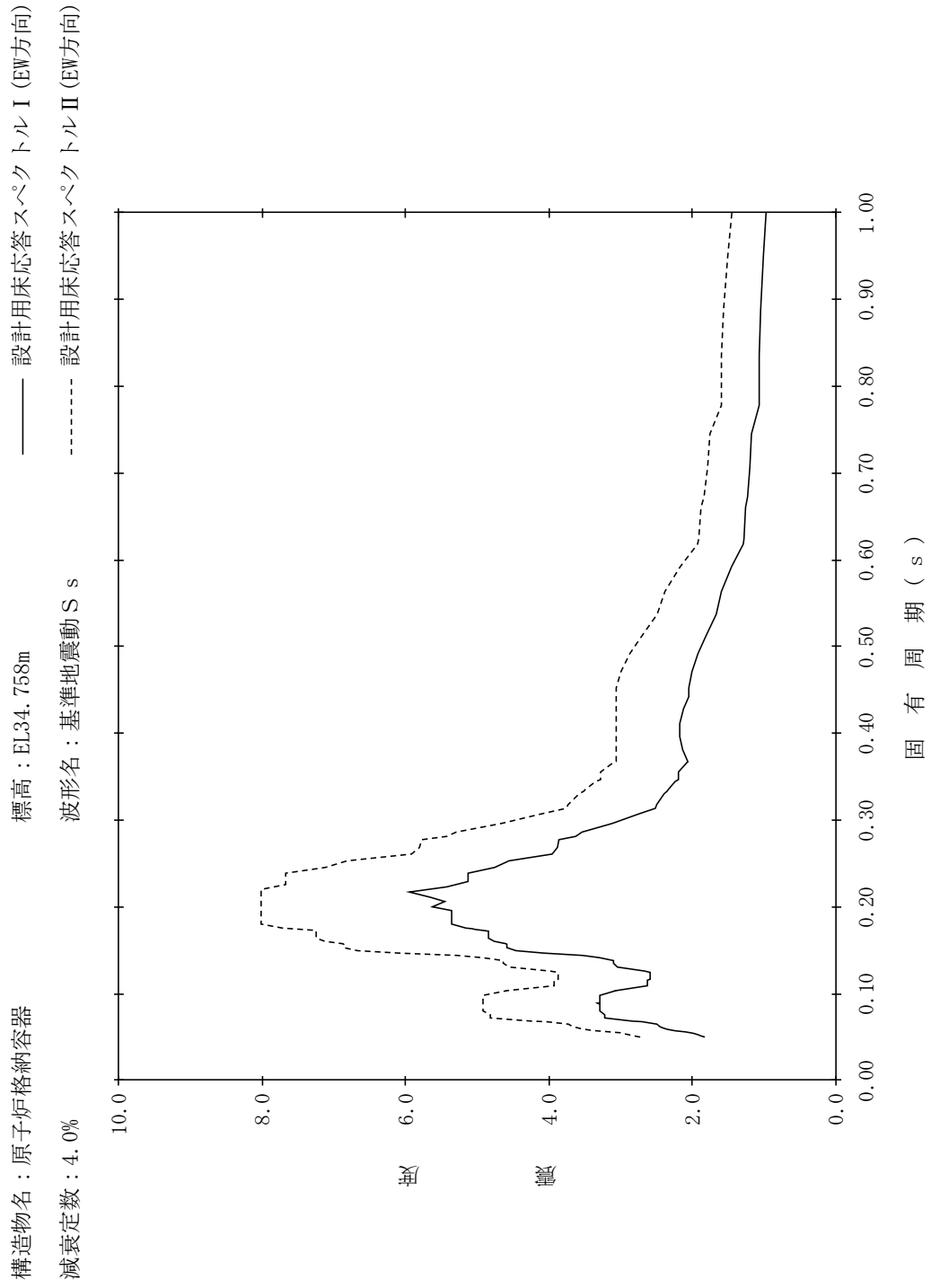
構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-PCV-SsEW-PCV22】

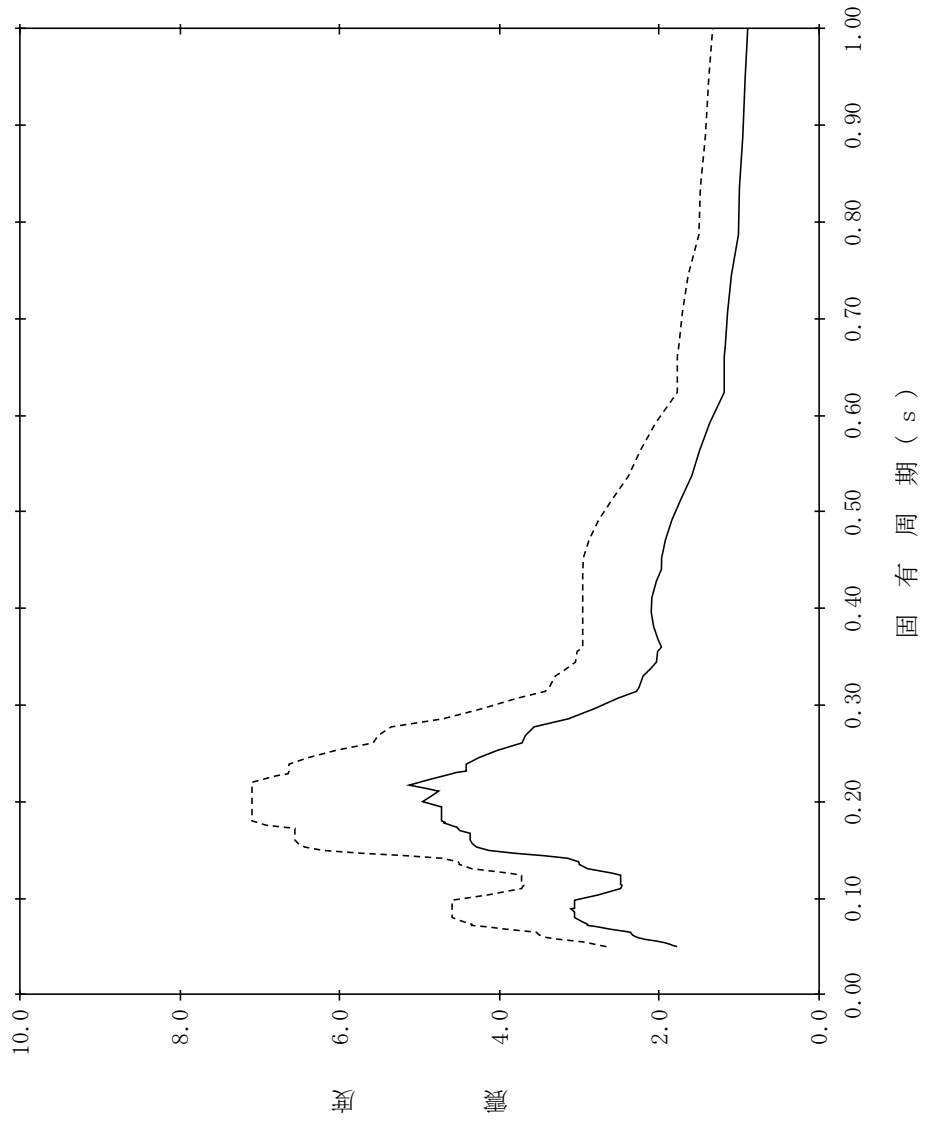


【NS2-PCV-SsEW-PCV23】

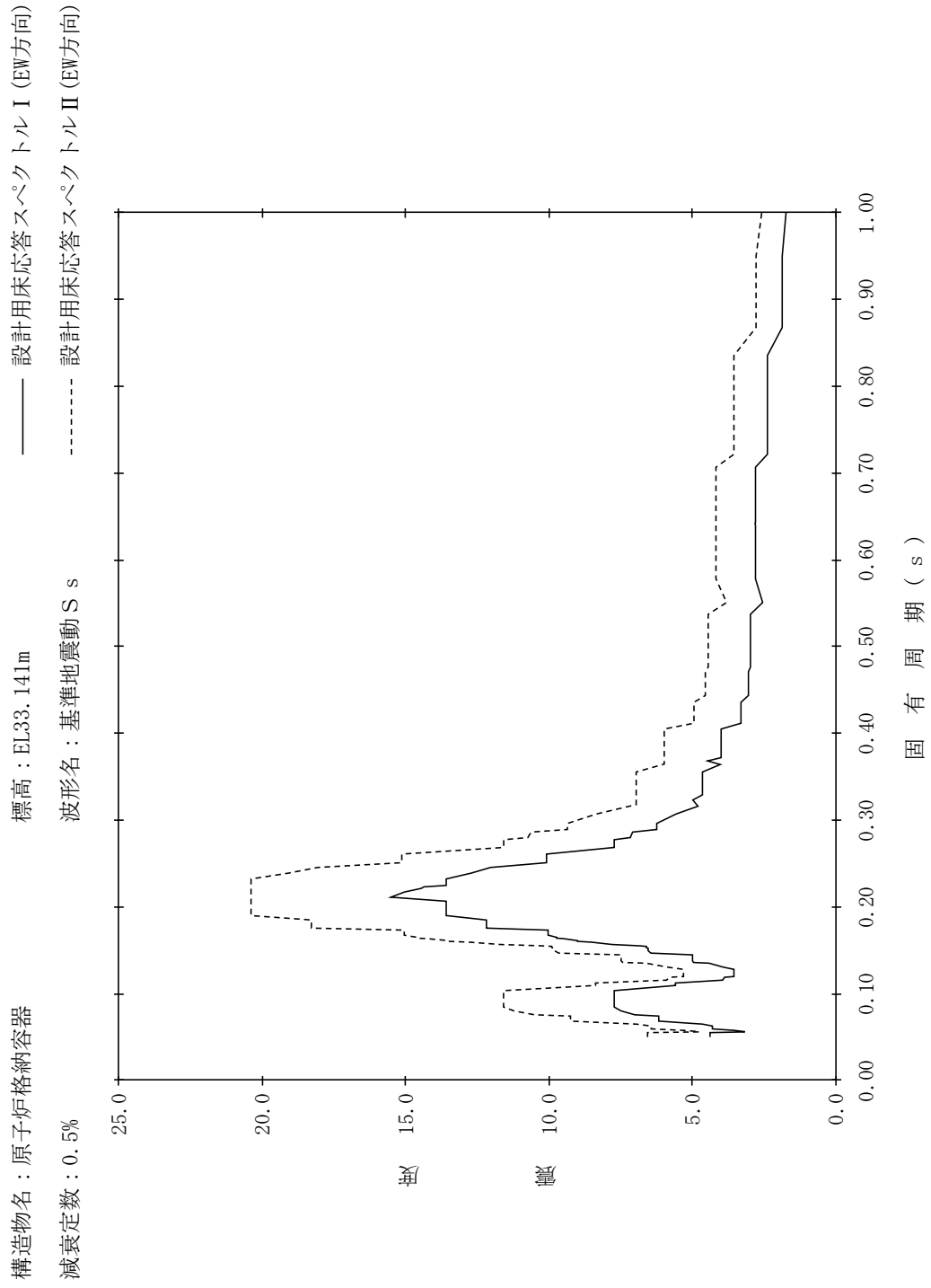


【NS2-PCV-SsEW-PCV24】

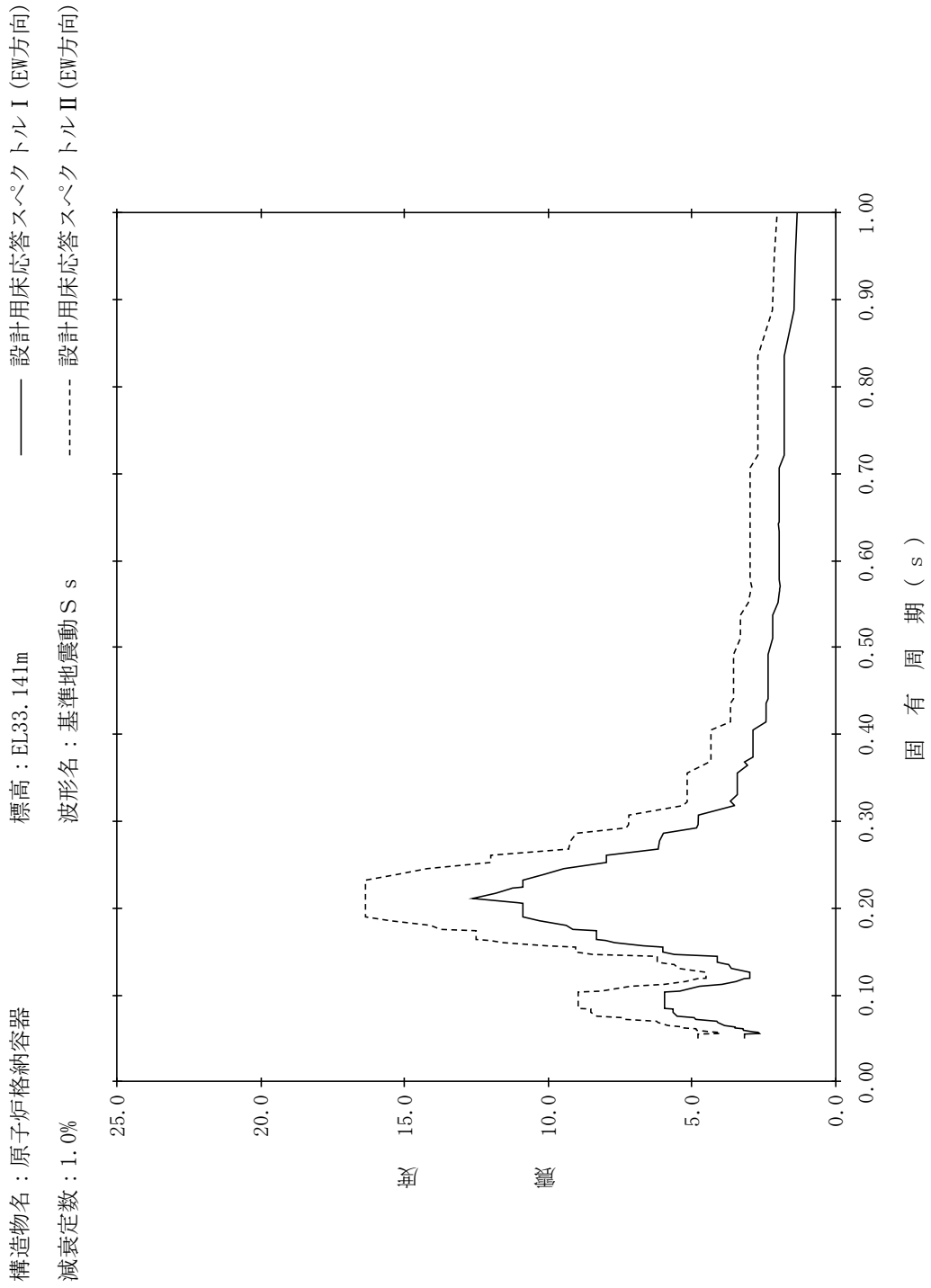
構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



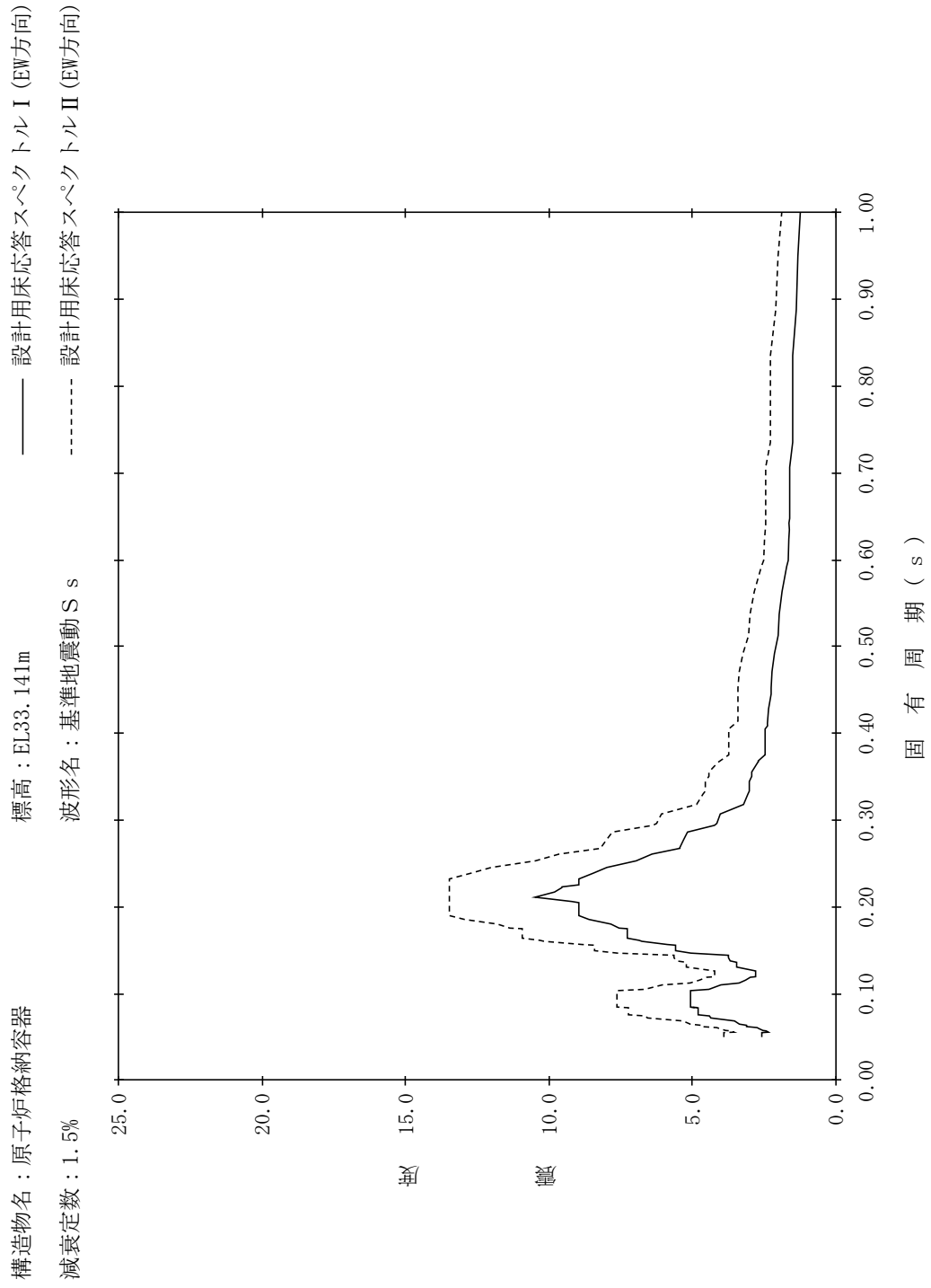
【NS2-PCV-SsEW-PCV25】



【NS2-PCV-SsEW-PCV26】

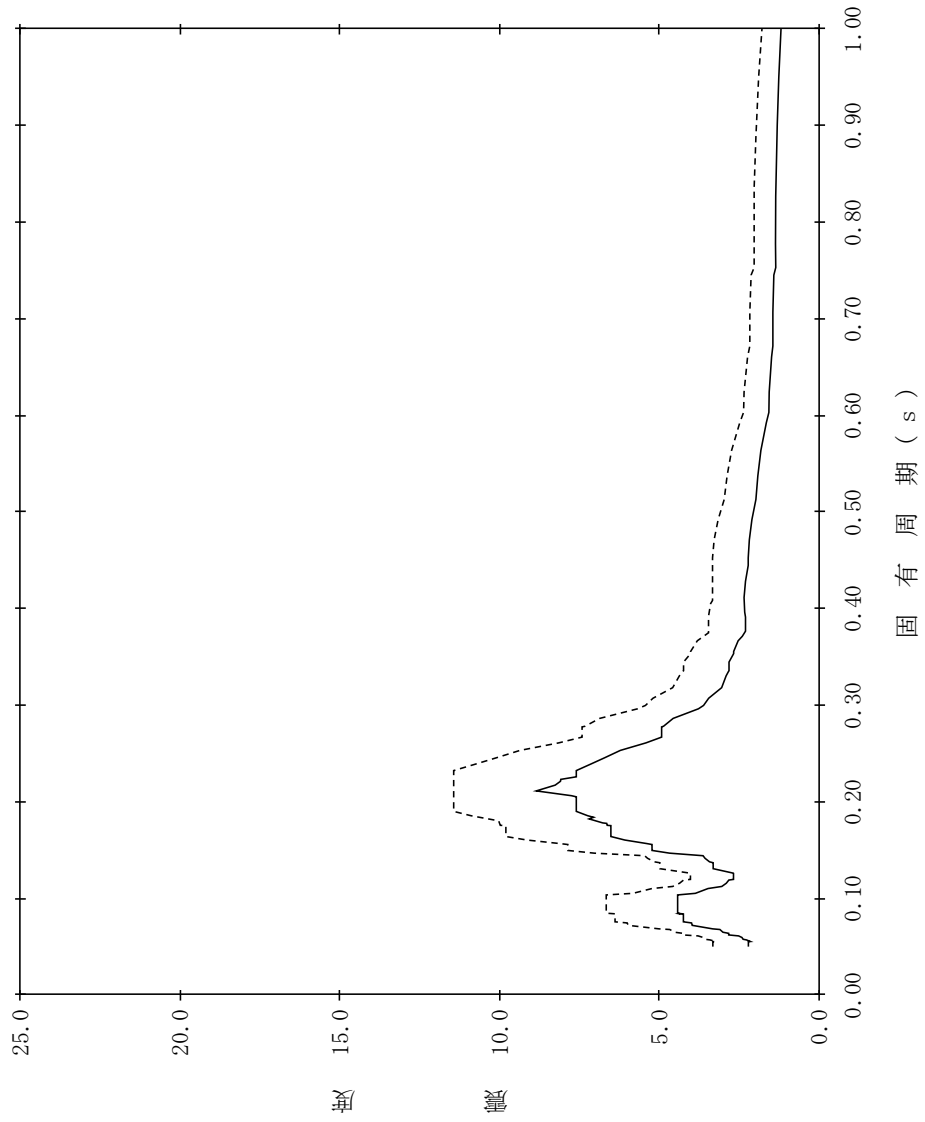


【NS2-PCV-SsEW-PCV27】

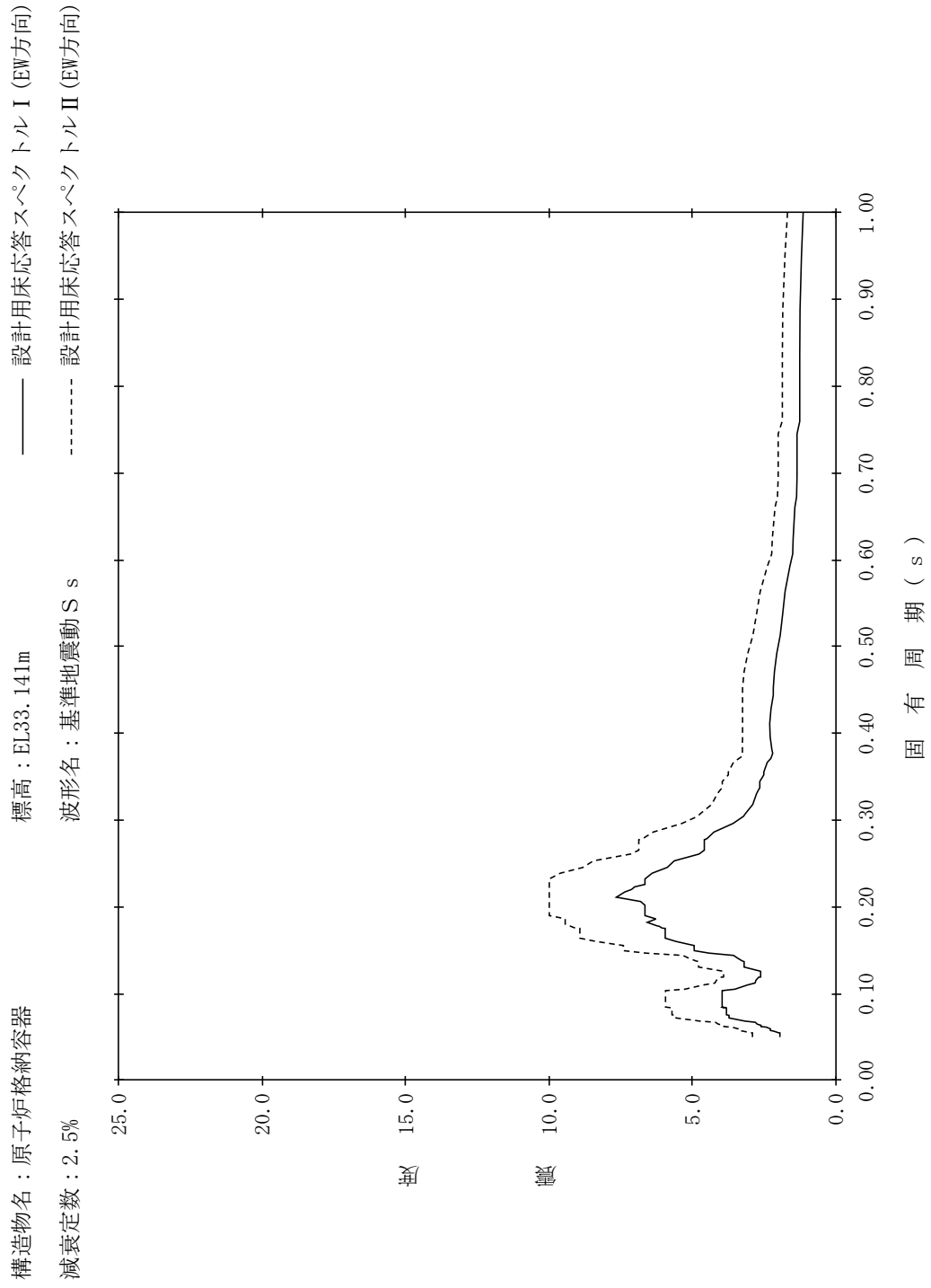


【NS2-PCV-SsEW-PCV28】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

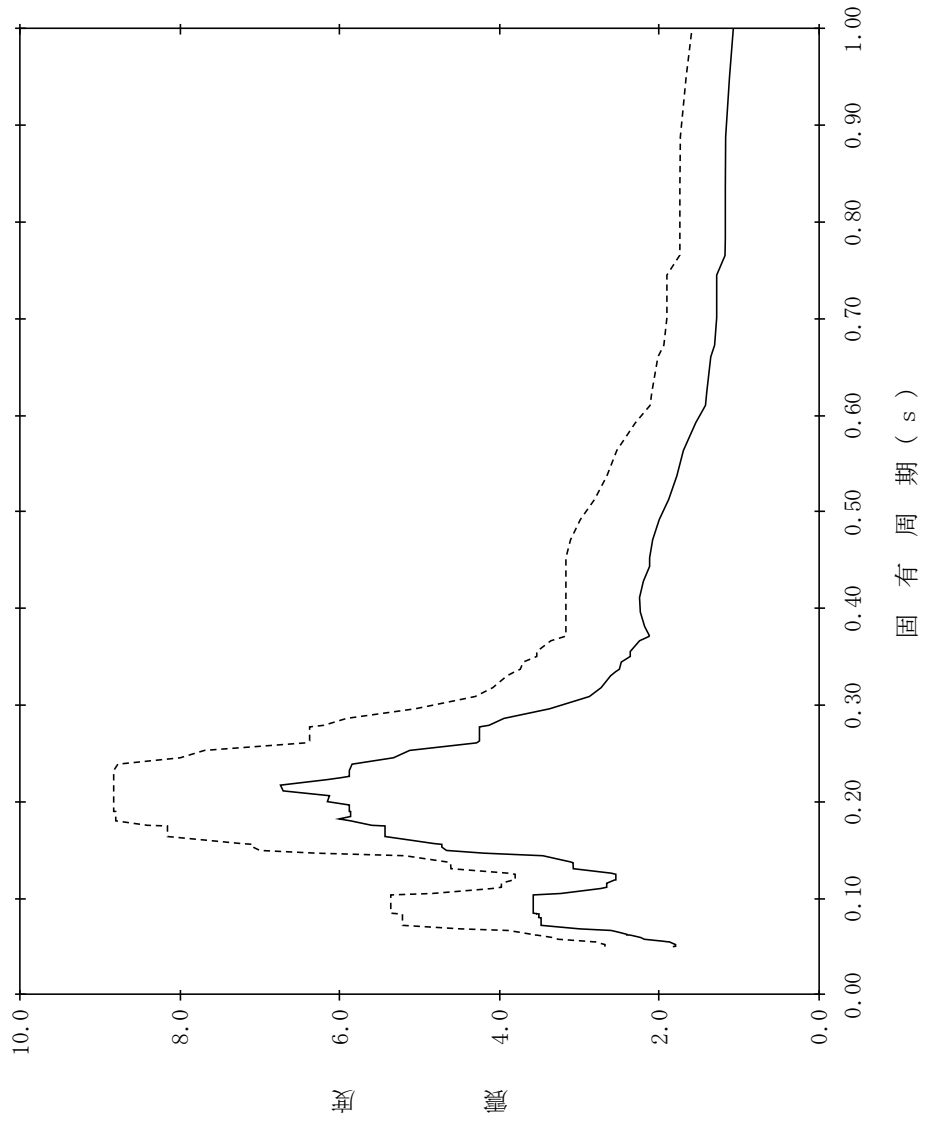


【NS2-PCV-SsEW-PCV29】

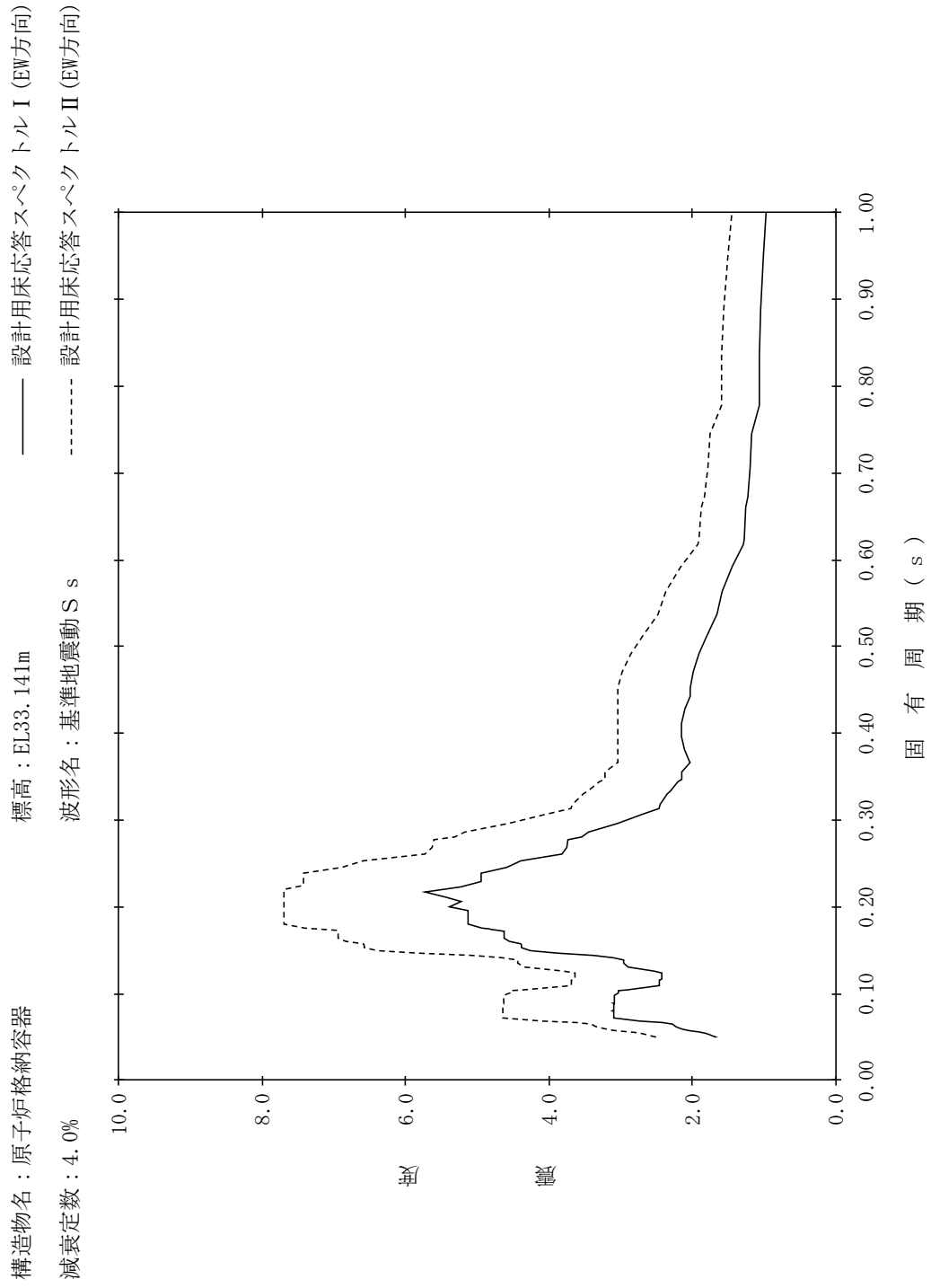


【NS2-PCV-SsEW-PCV30】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

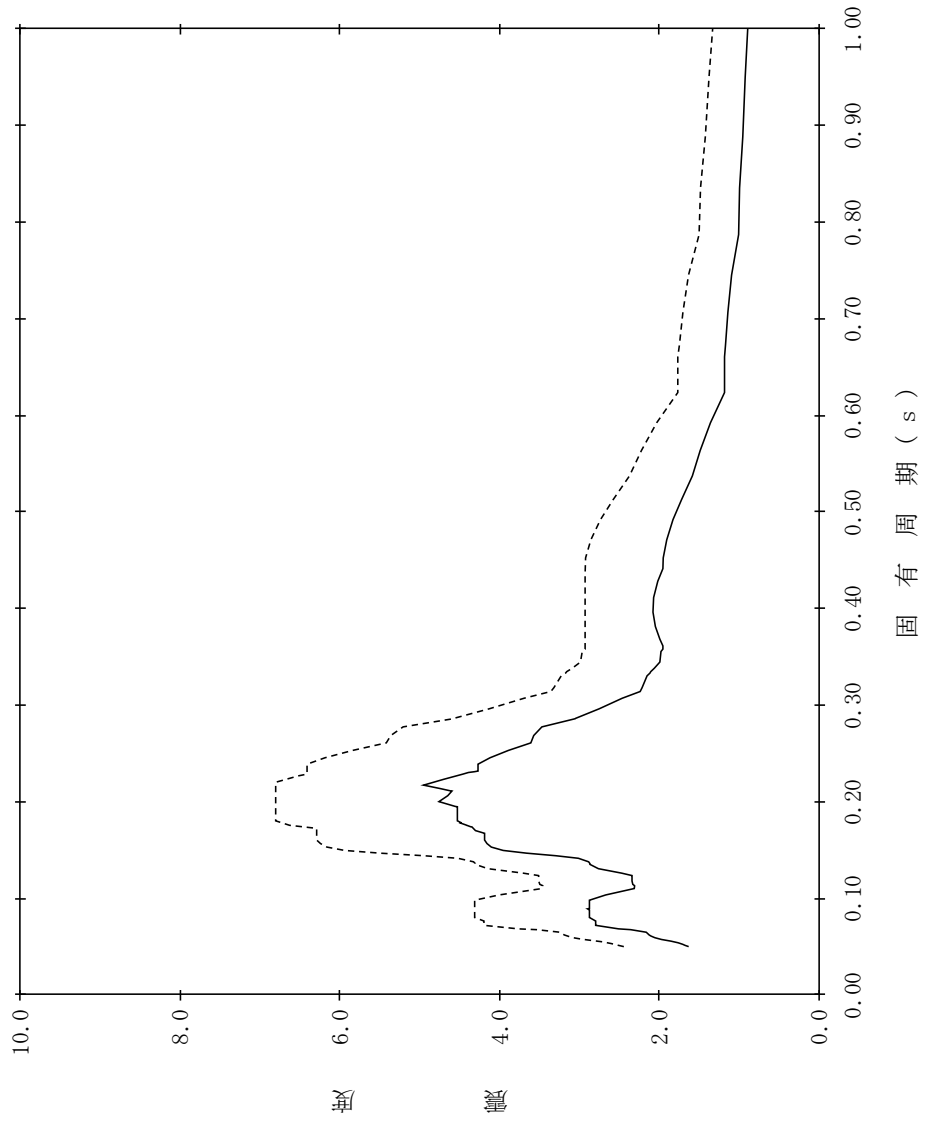


【NS2-PCV-SsEW-PCV31】



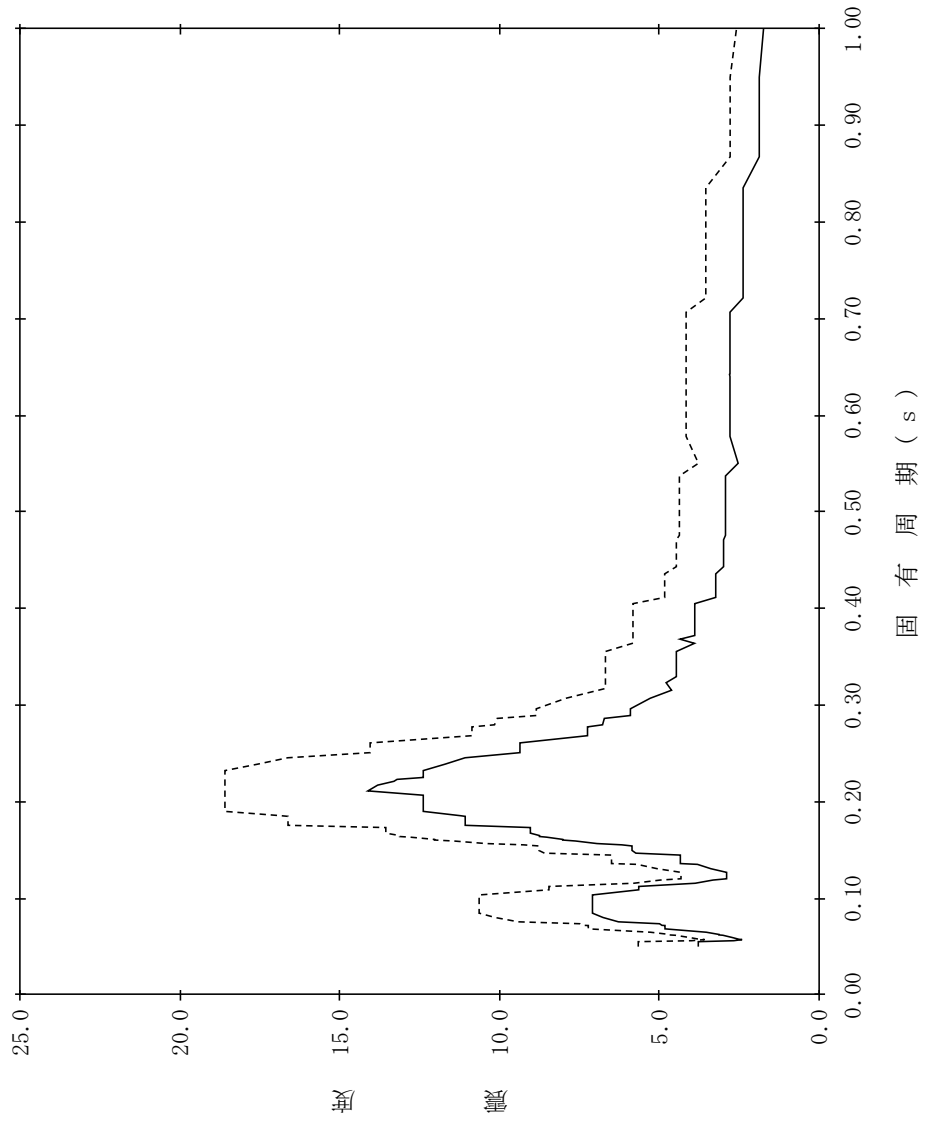
【NS2-PCV-SsEW-PCV32】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



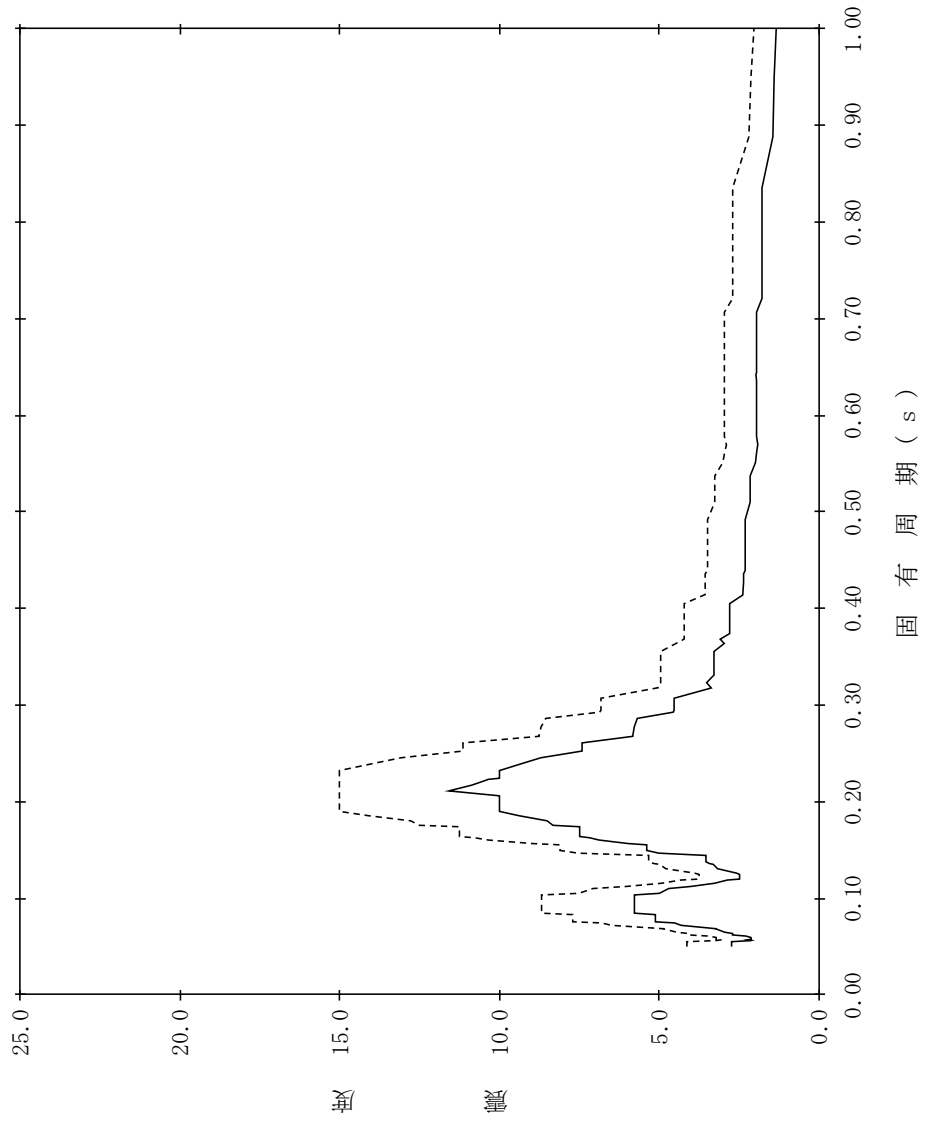
【NS2-PCV-SsEW-PCV33】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



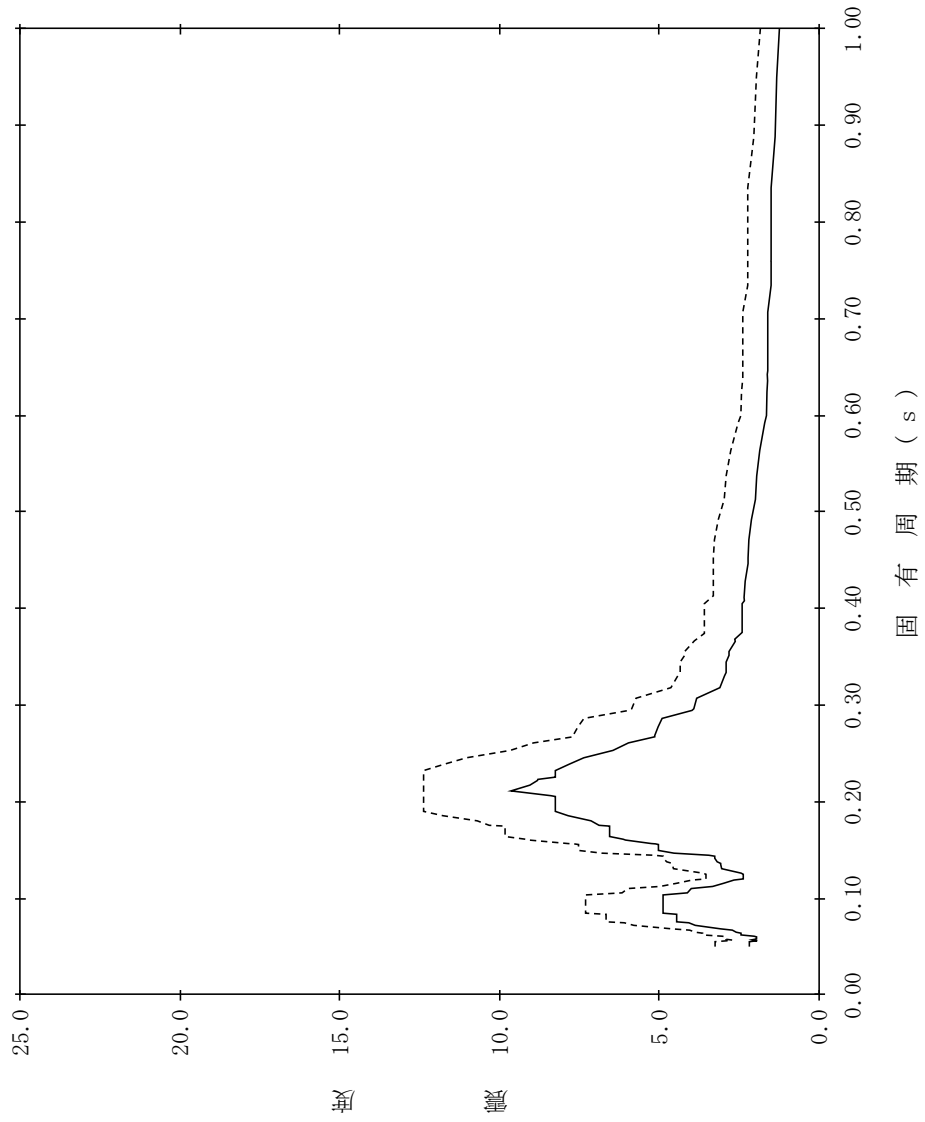
【NS2-PCV-SsEW-PCV34】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



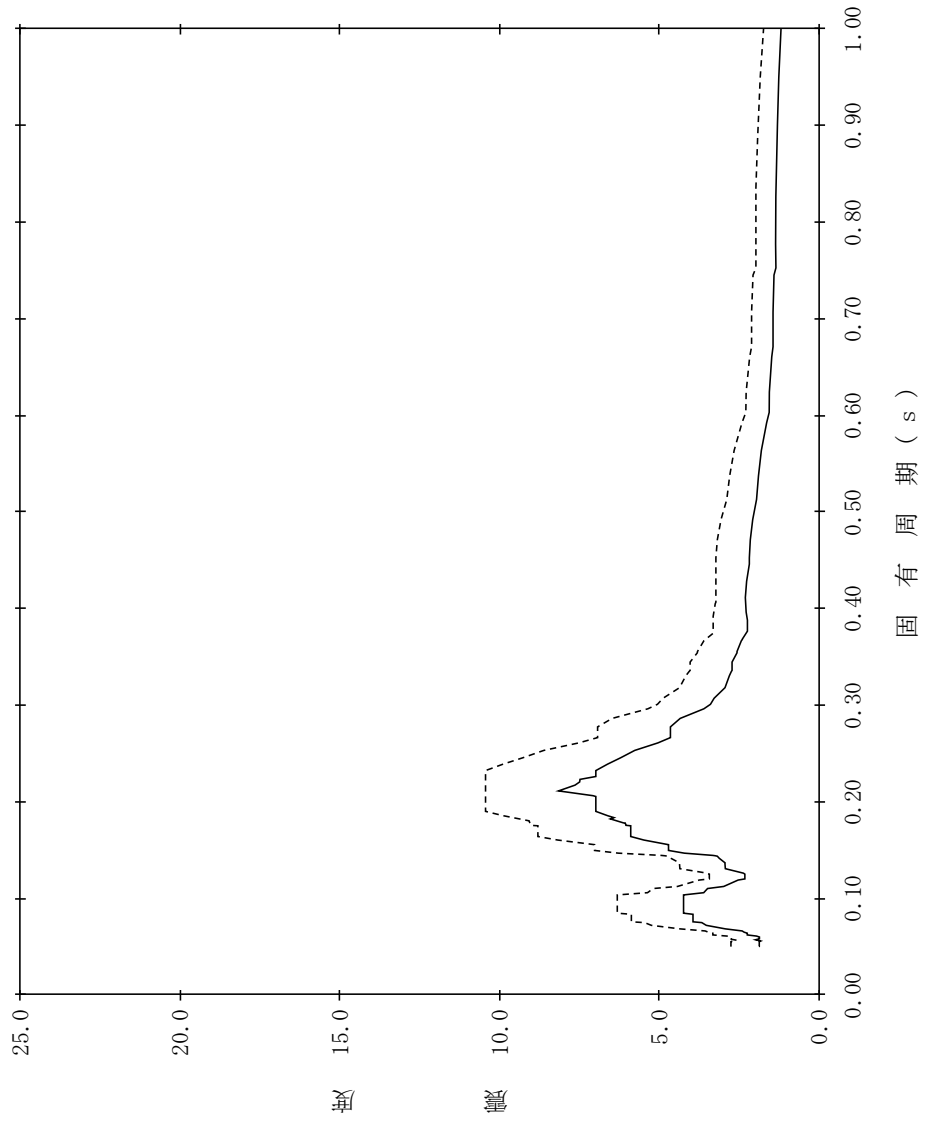
【NS2-PCV-SsEW-PCV35】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

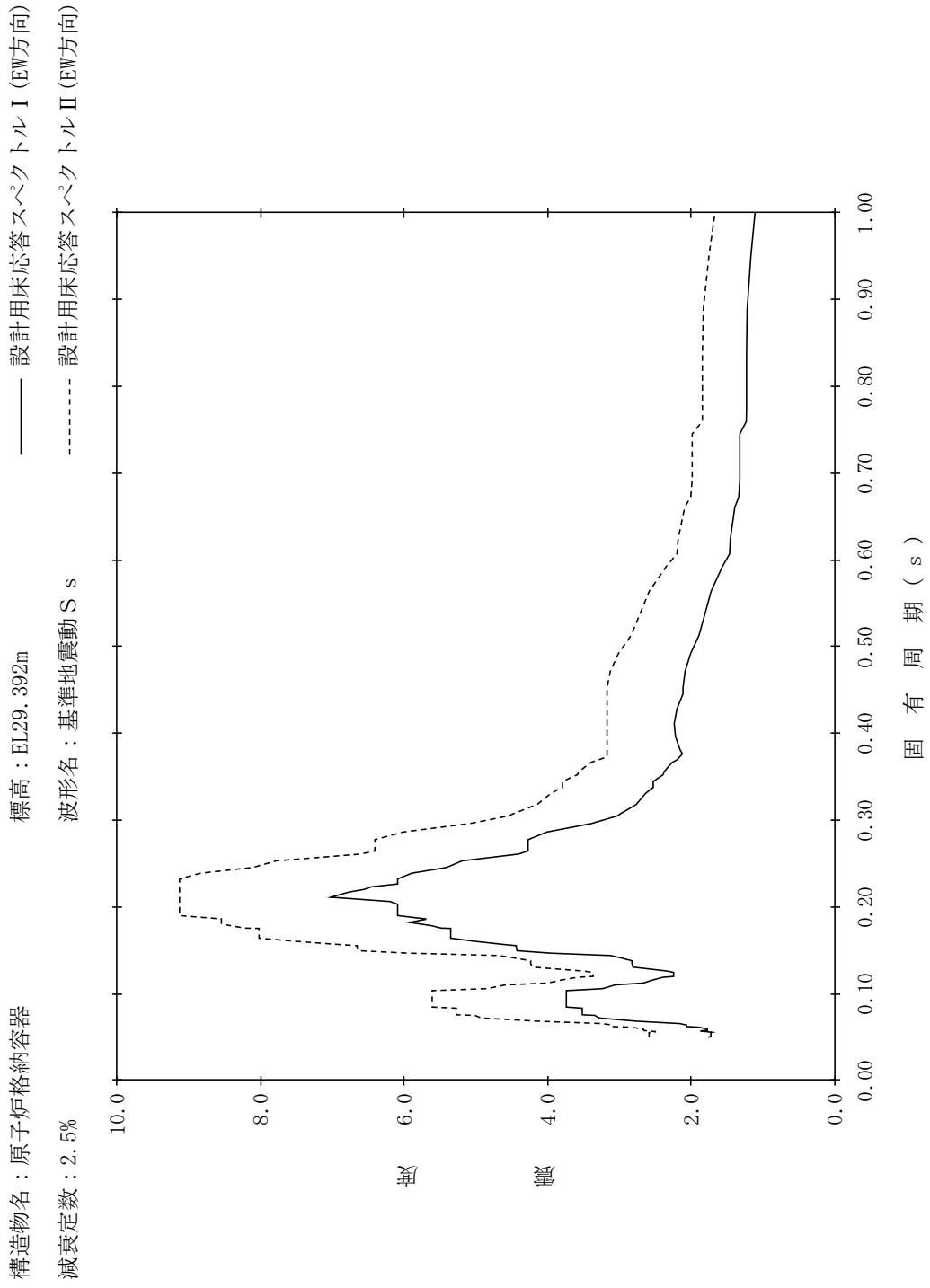


【NS2-PCV-SsEW-PCV36】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

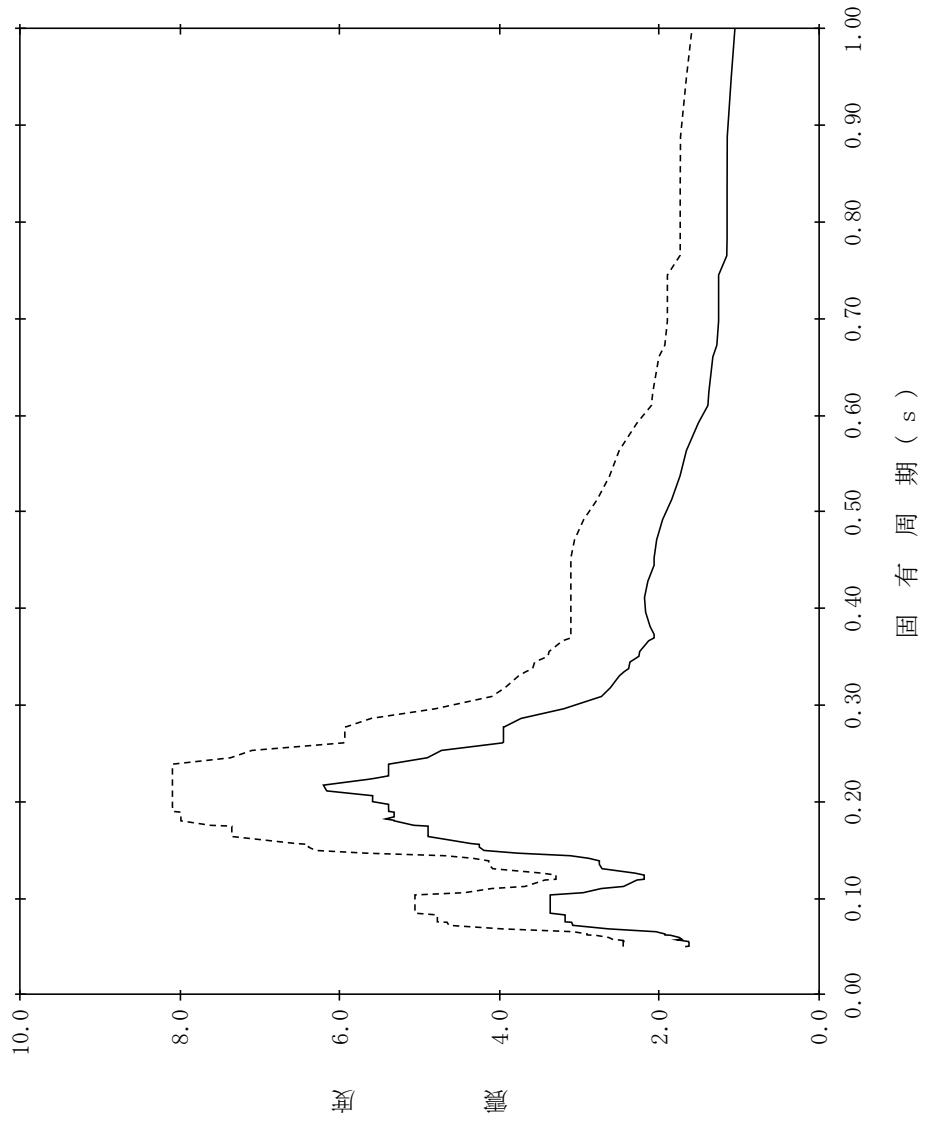


【NS2-PCV-SsEW-PCV37】

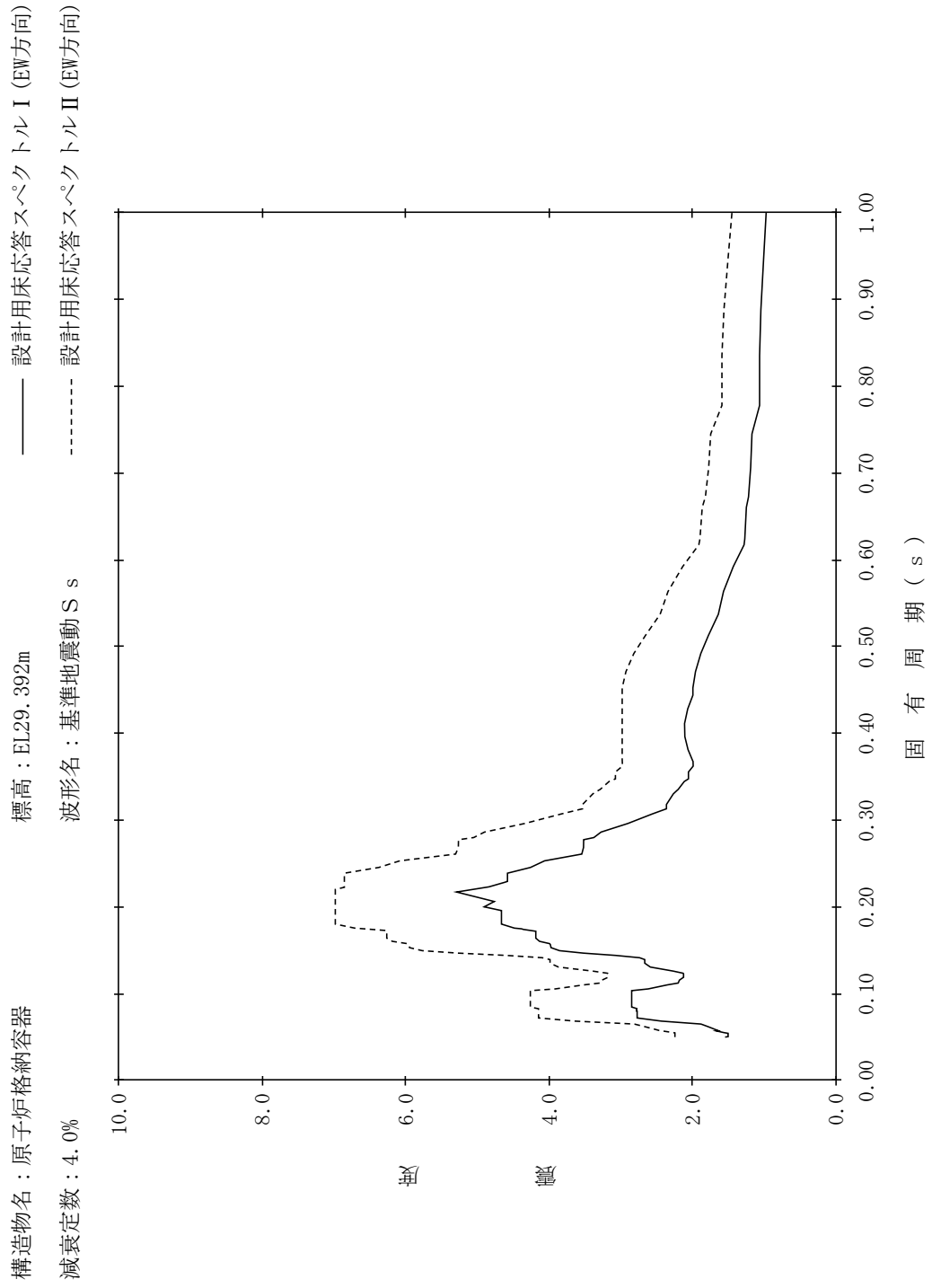


【NS2-PCV-SsEW-PCV38】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

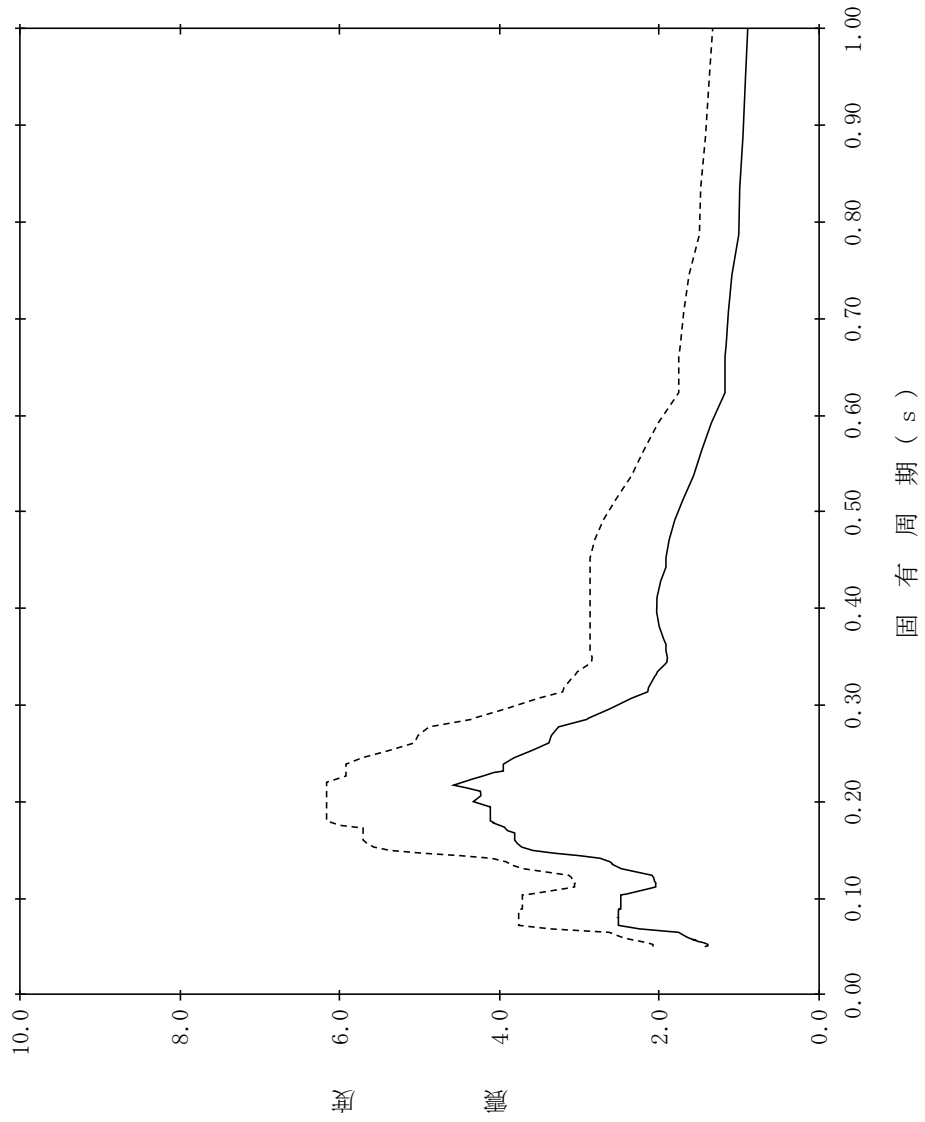


【NS2-PCV-SsEW-PCV39】

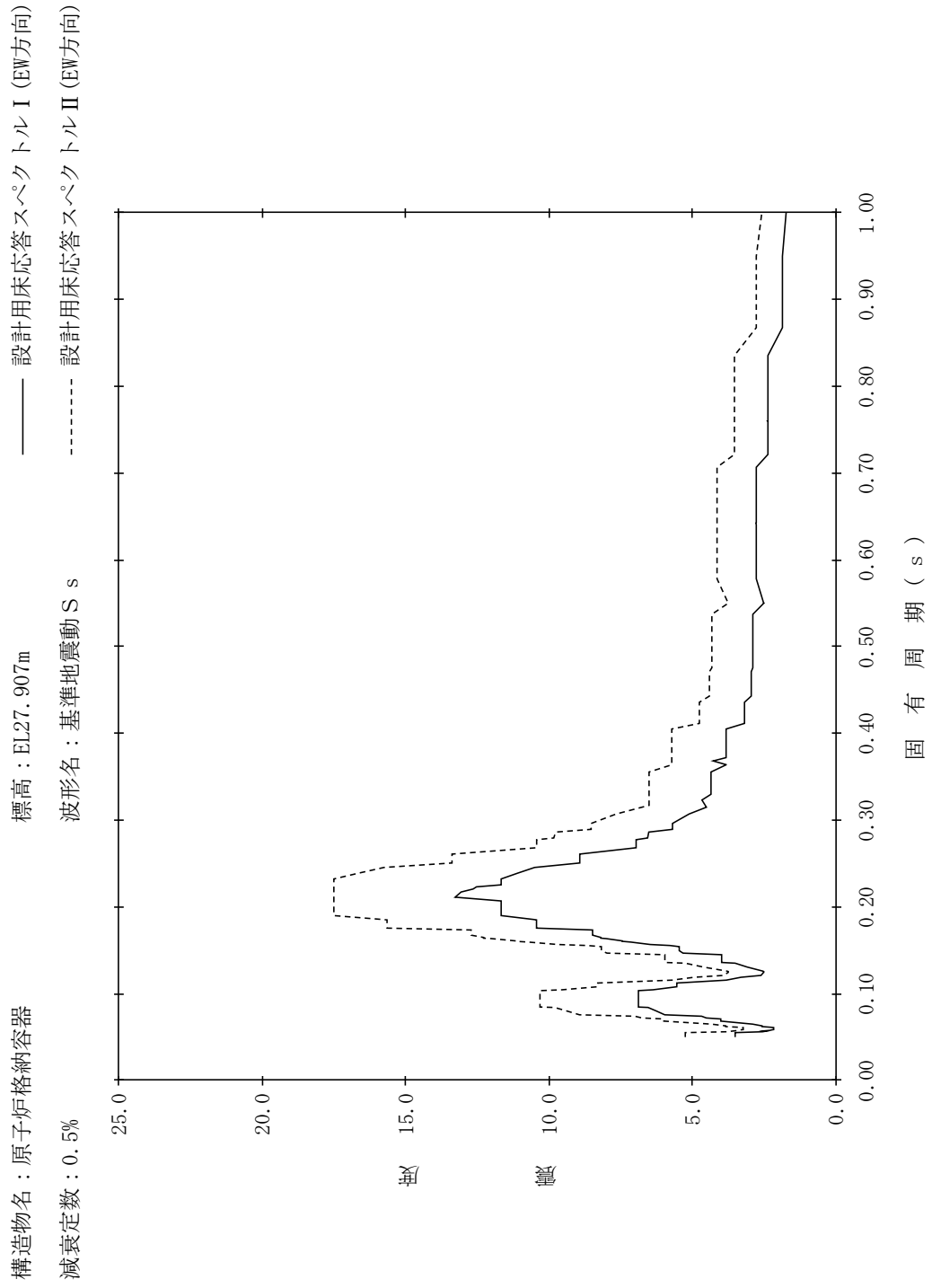


【NS2-PCV-SsEW-PCV40】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

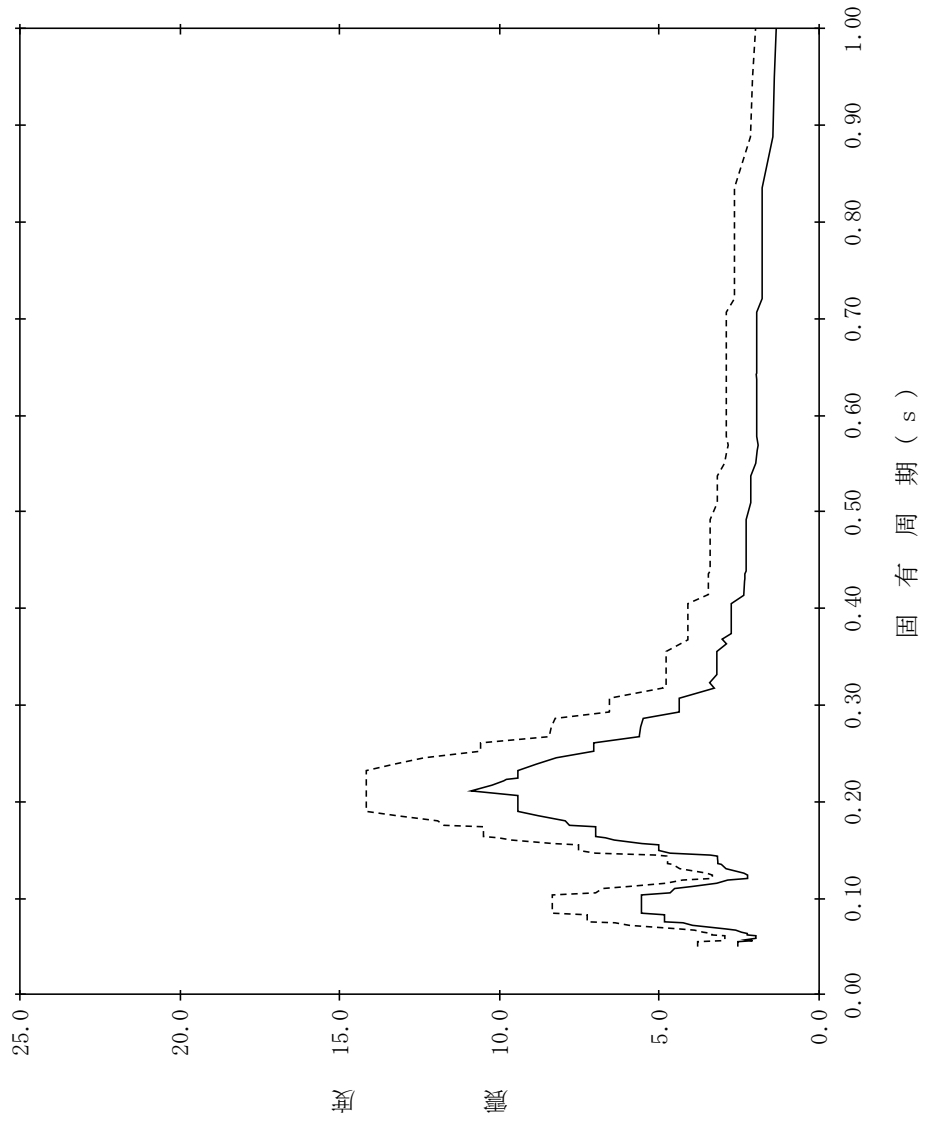


【NS2-PCV-SsEW-PCV41】

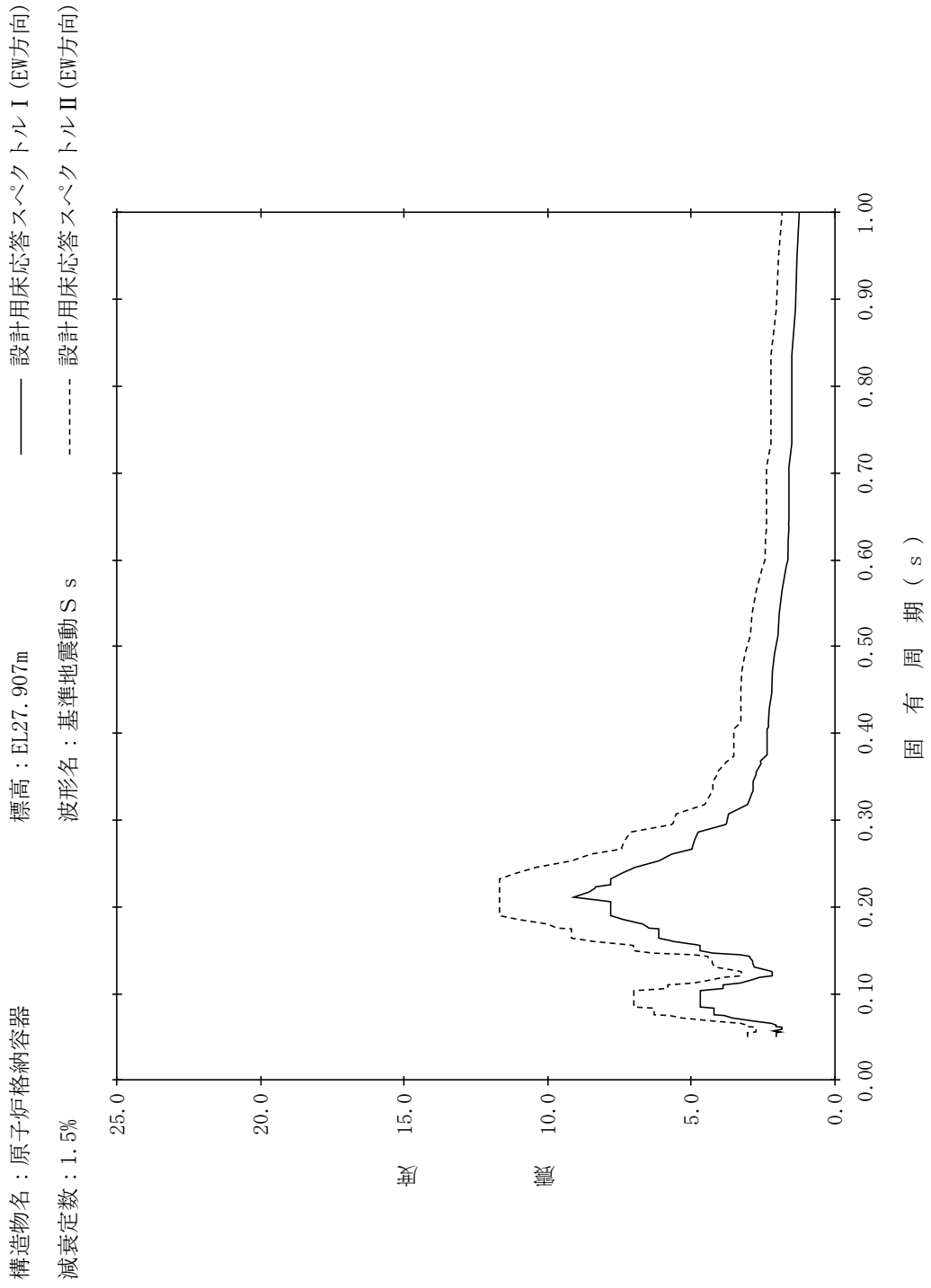


【NS2-PCV-SsEW-PCV42】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

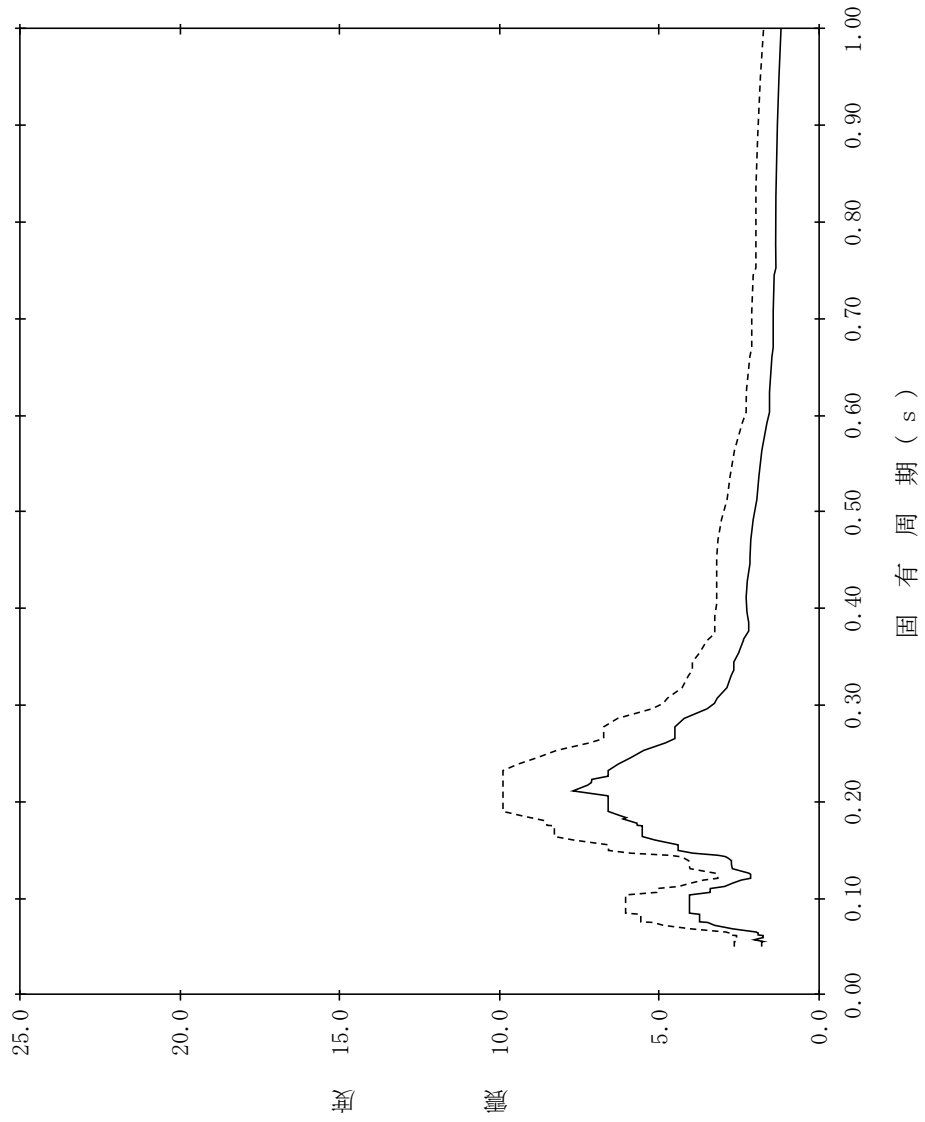


【NS2-PCV-SsEW-PCV43】



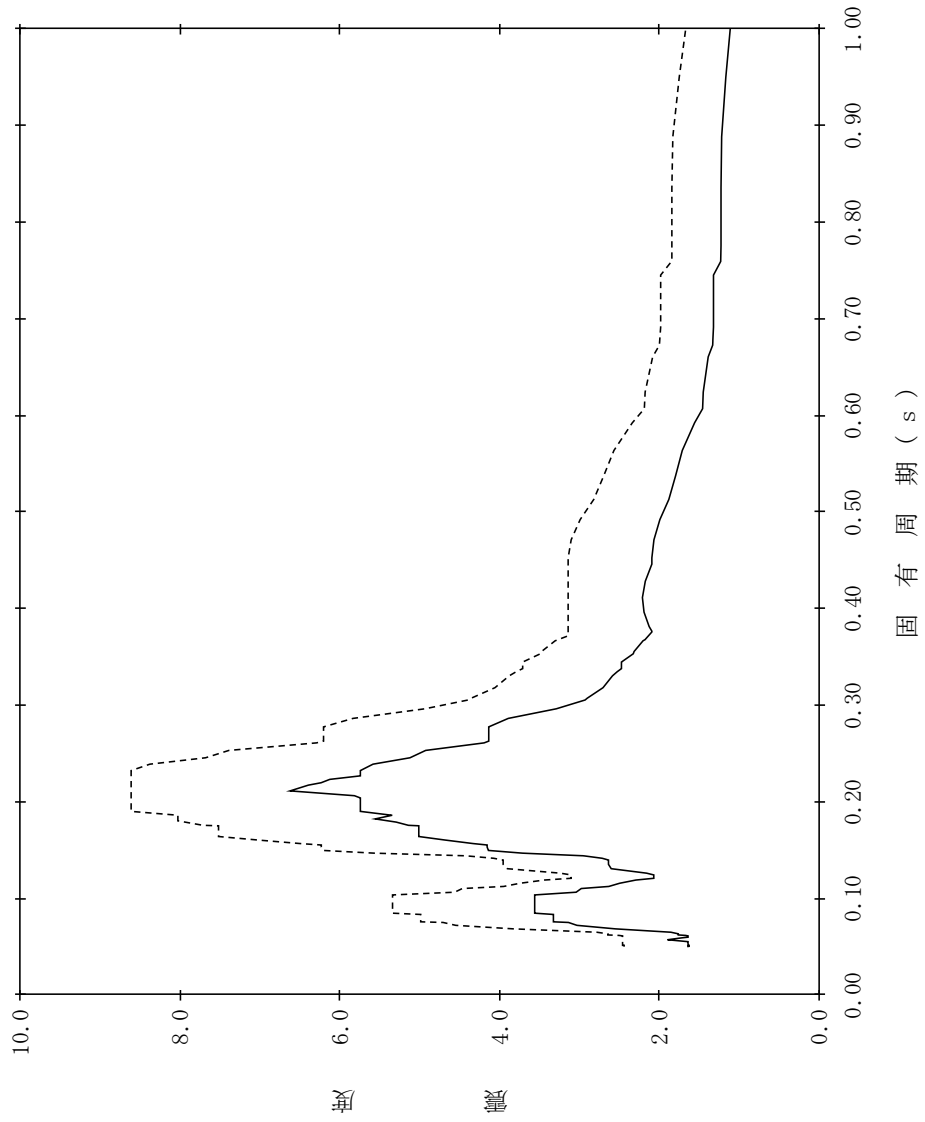
【NS2-PCV-SsEW-PCV44】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



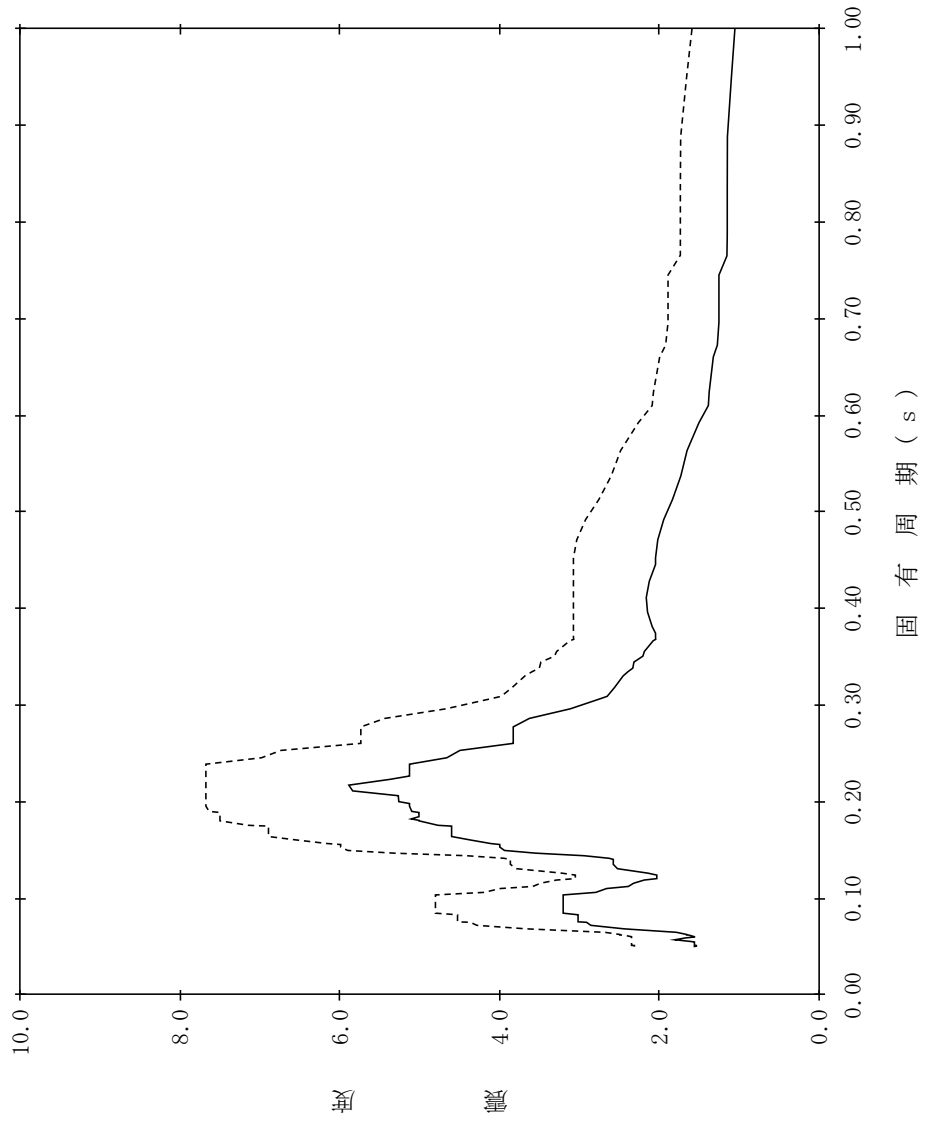
【NS2-PCV-SsEW-PCV45】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

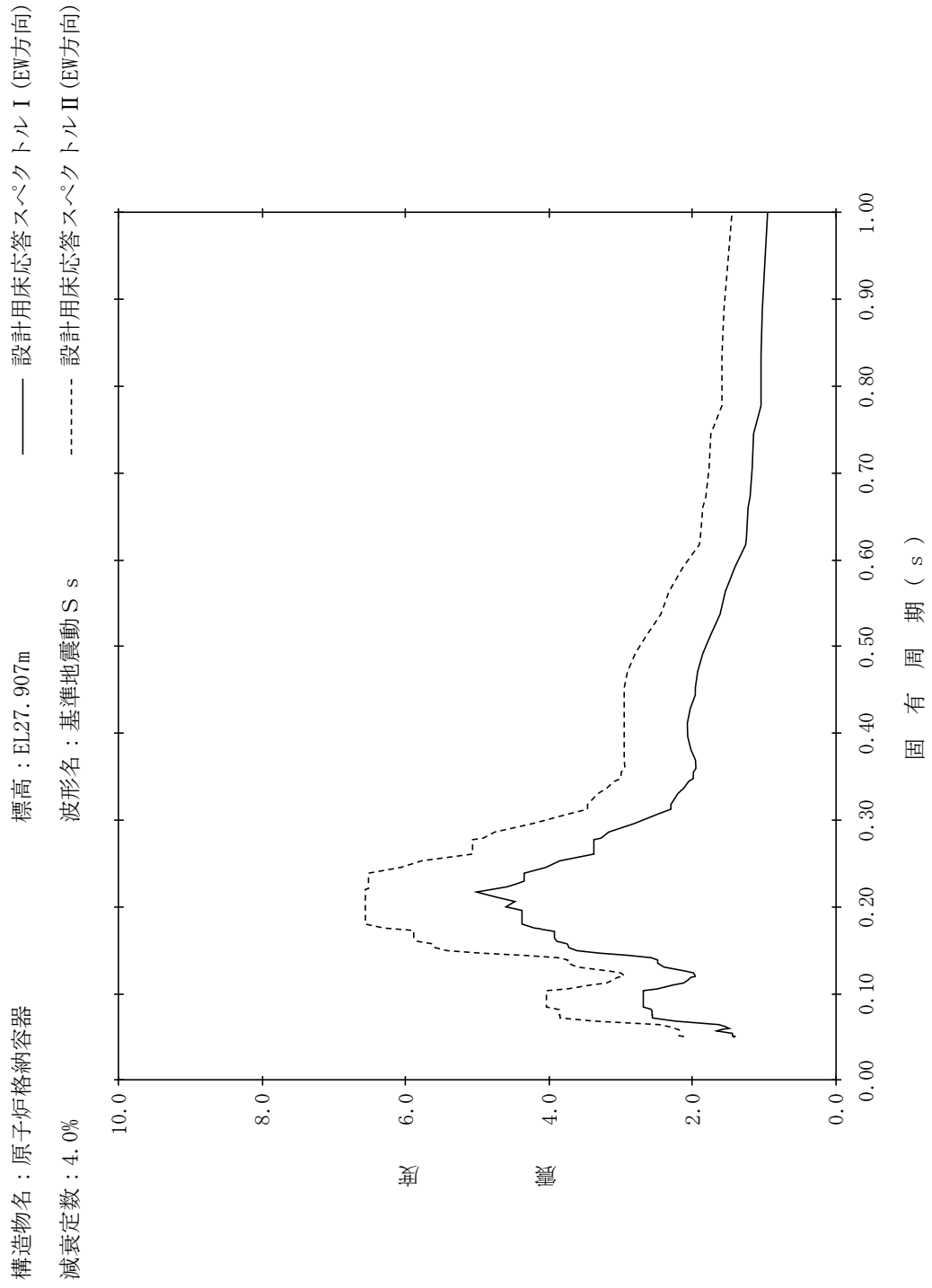


【NS2-PCV-SsEW-PCV46】

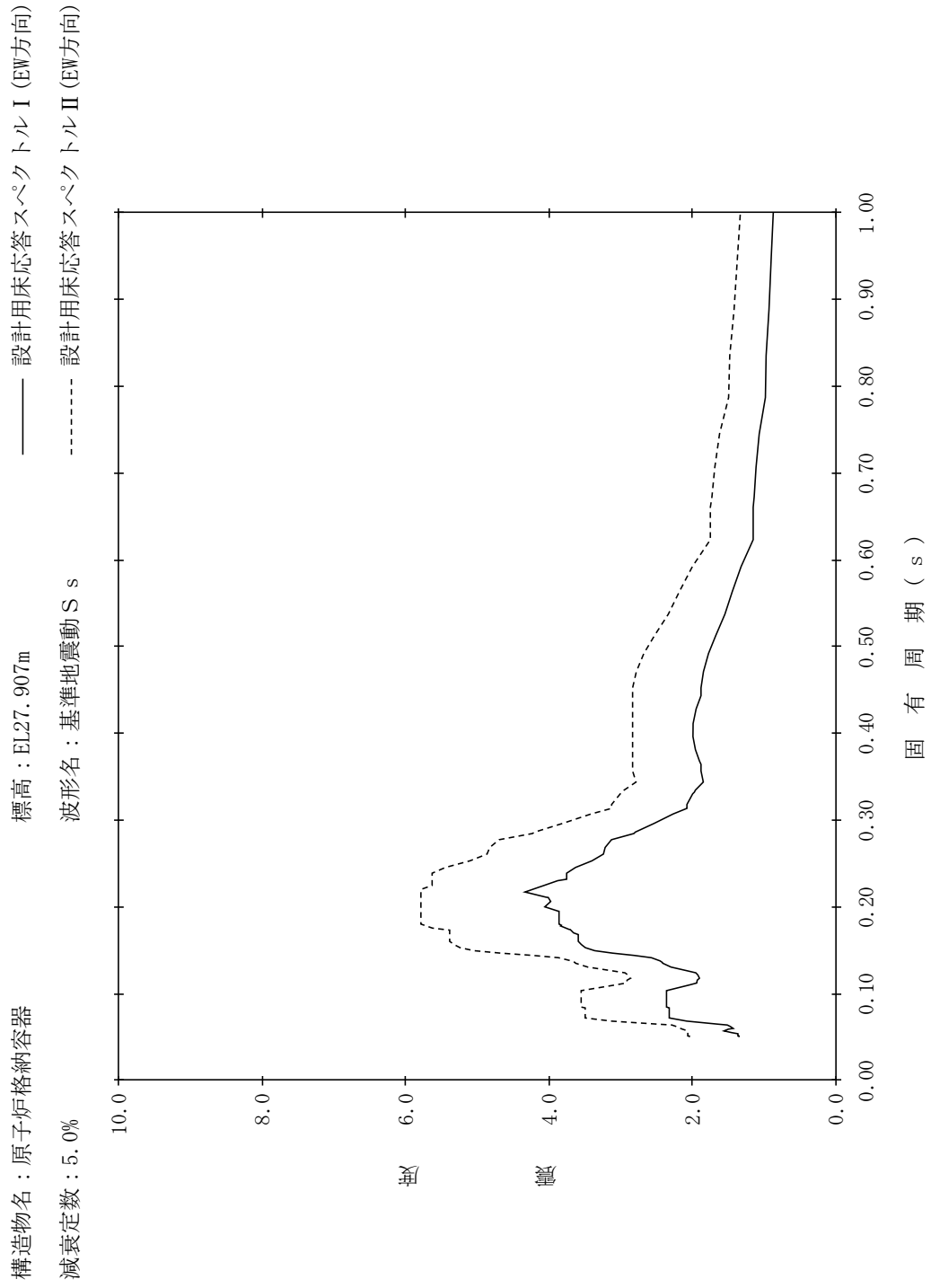
構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



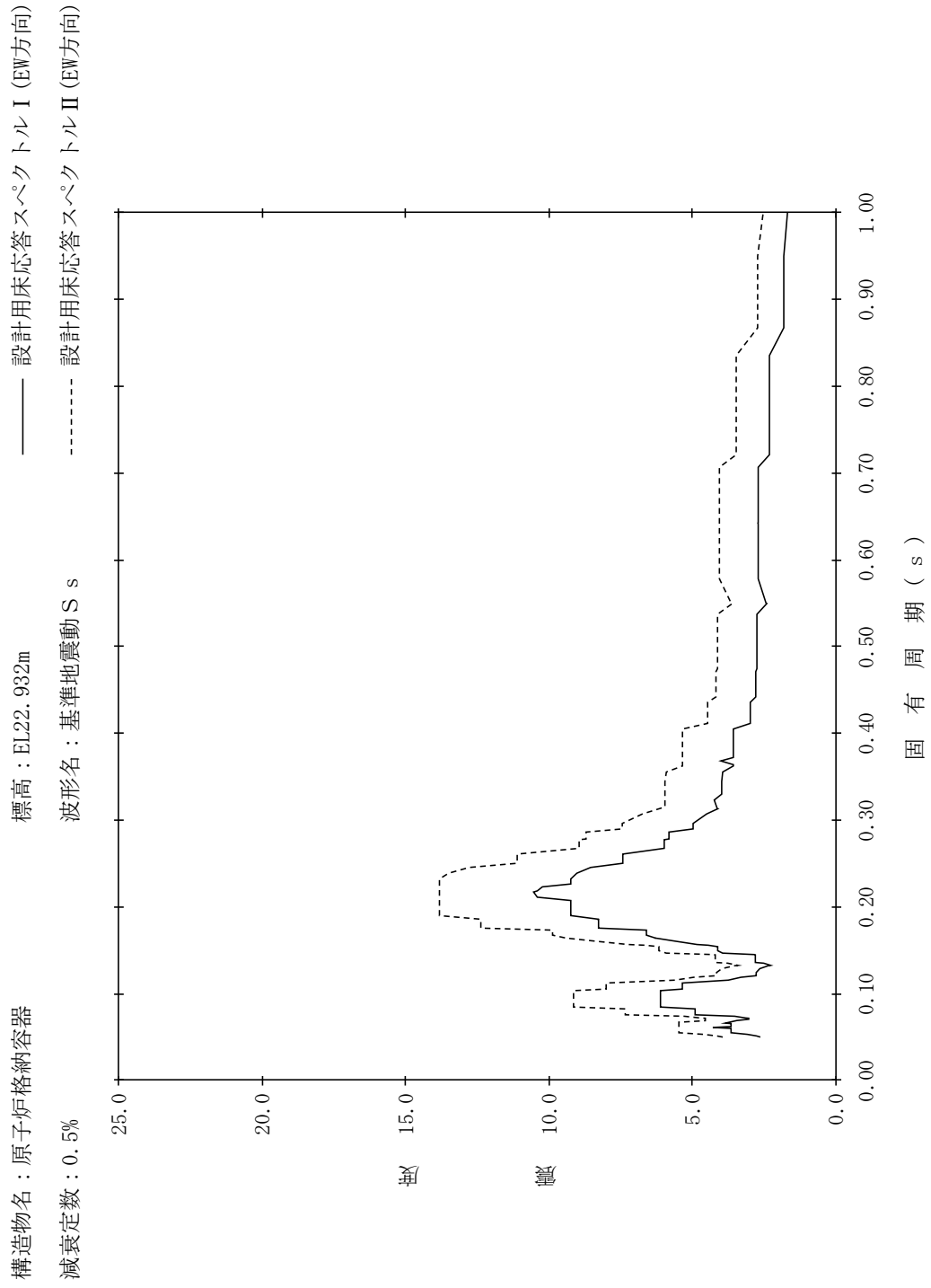
【NS2-PCV-SsEW-PCV47】



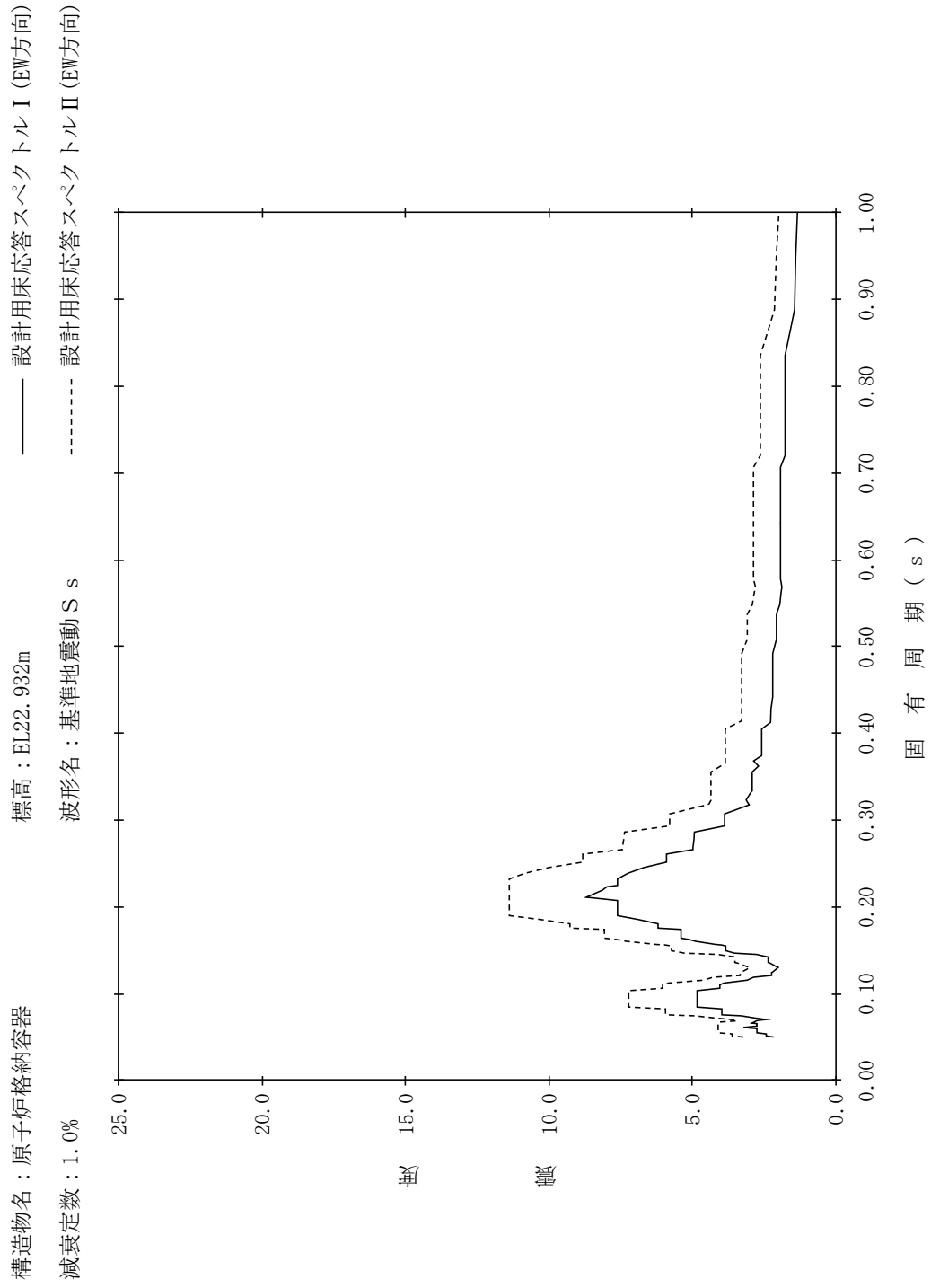
【NS2-PCV-SsEW-PCV48】



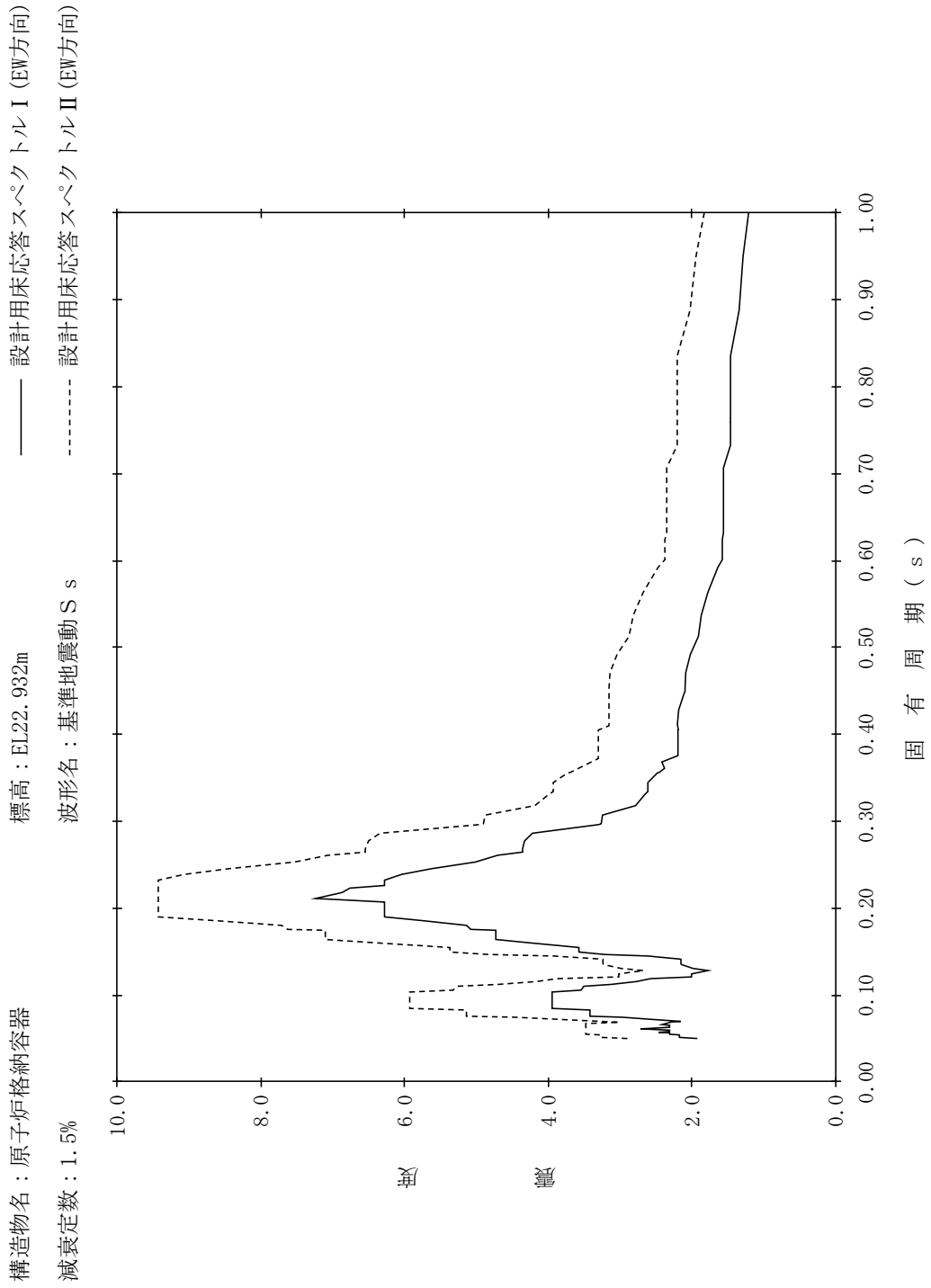
【NS2-PCV-SsEW-PCV49】



【NS2-PCV-SsEW-PCV50】

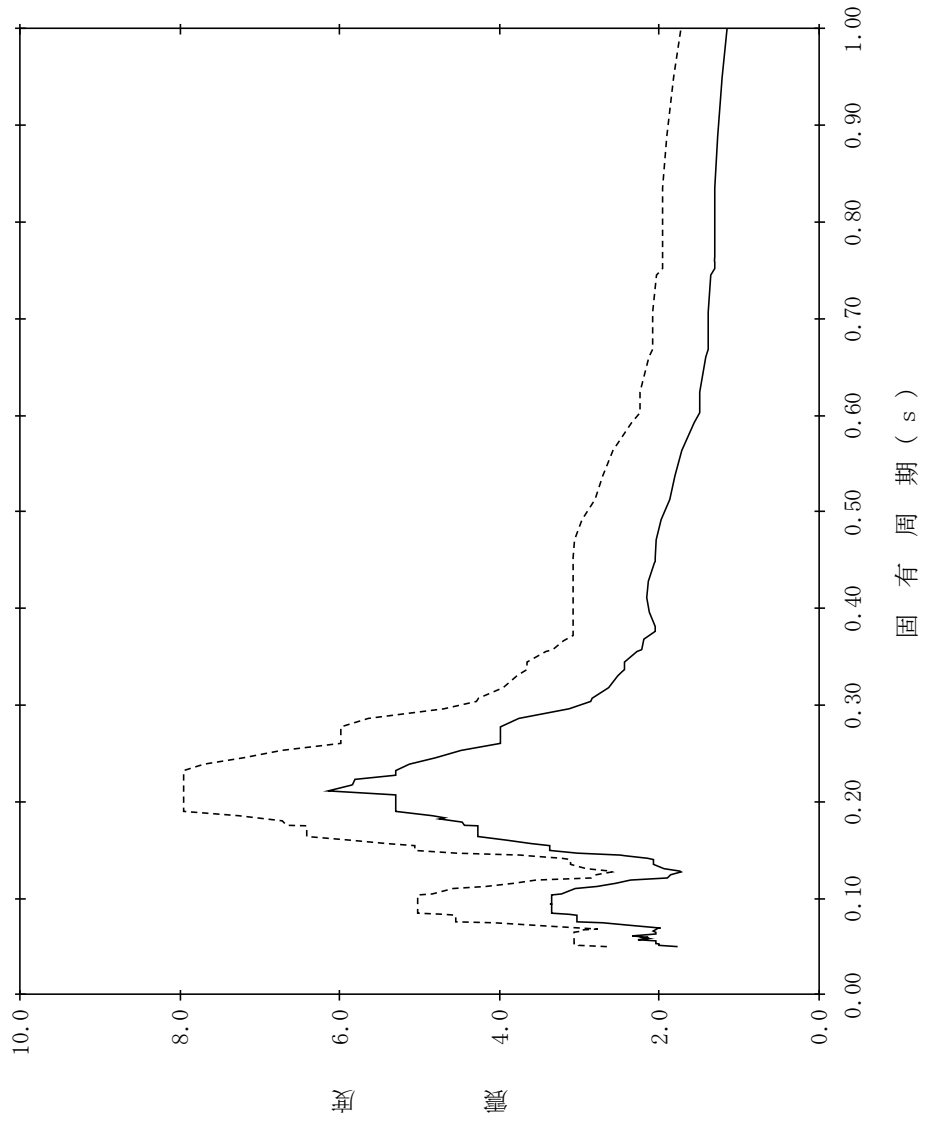


【NS2-PCV-SsEW-PCV51】



【NS2-PCV-SsEW-PCV52】

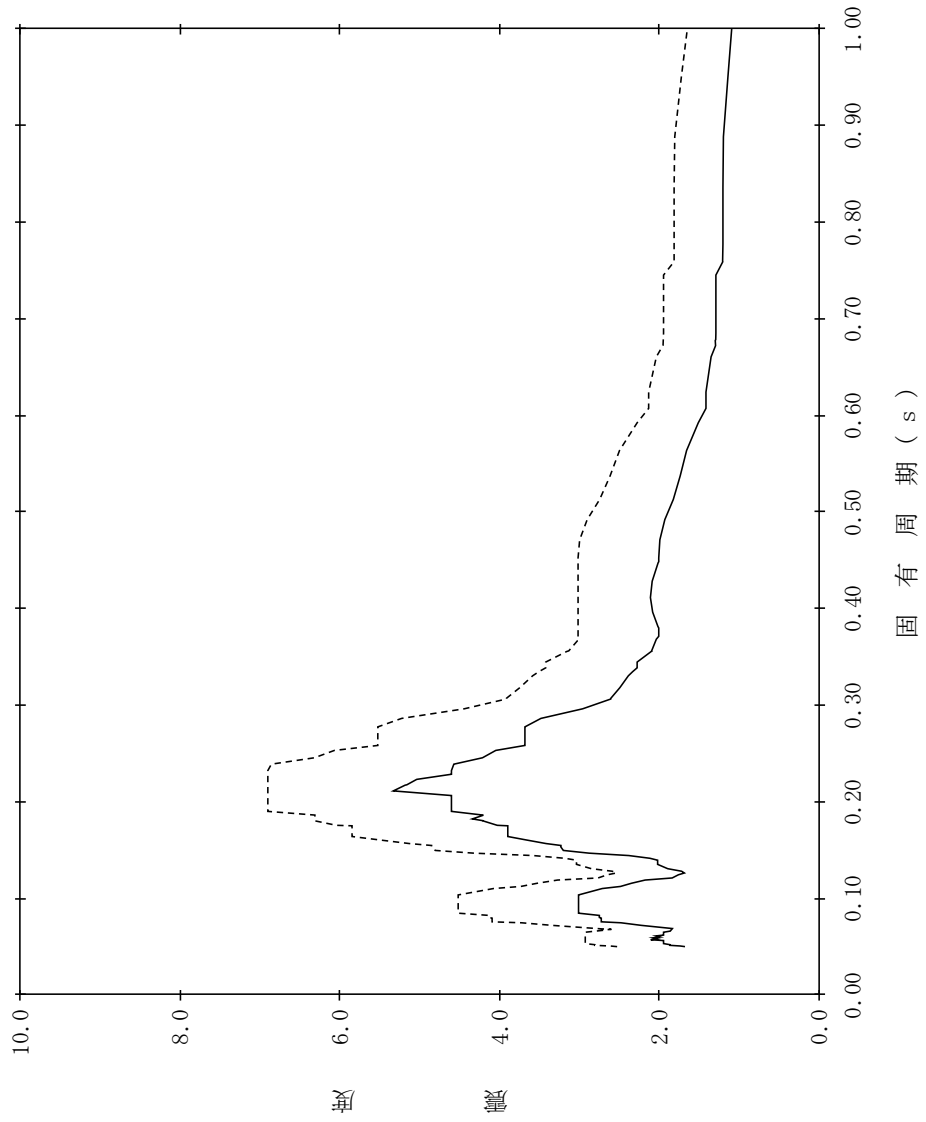
構造物名：原子炉格納容器
標高：EL22.932m
減衰定数：2.0%
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



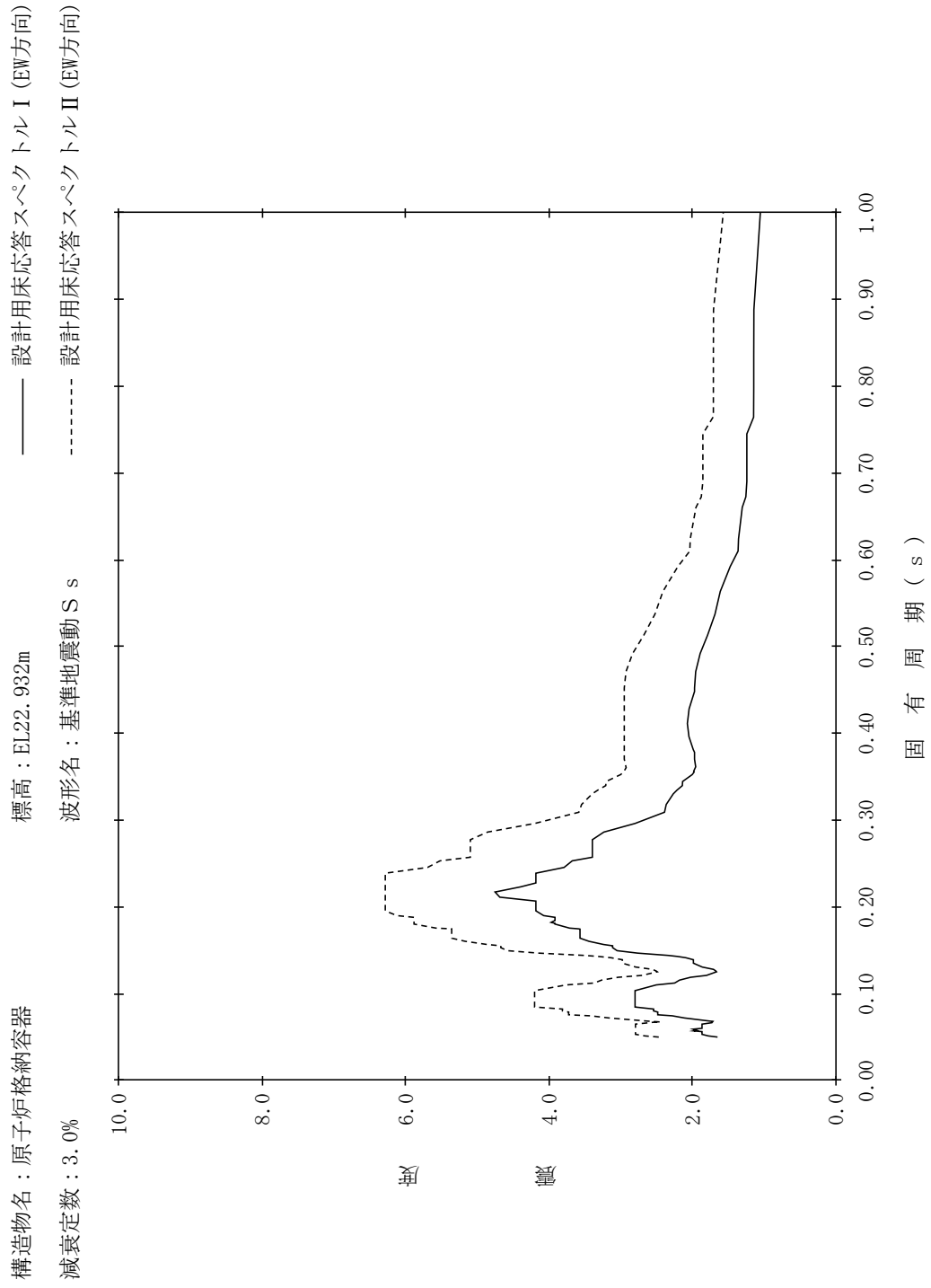
【NS2-PCV-SsEW-PCV53】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL22.932m
減衰定数：2.5%

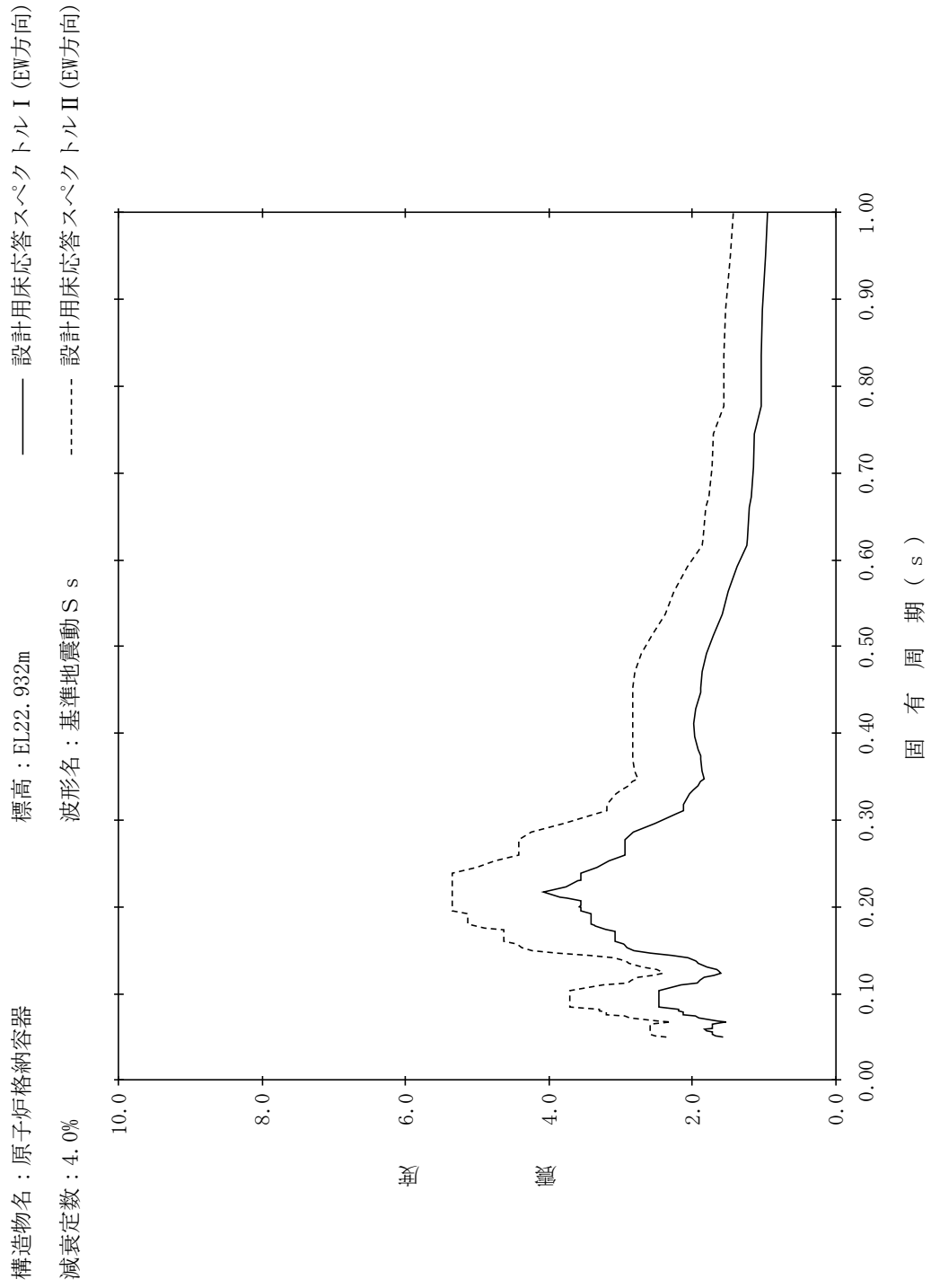
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-PCV-SsEW-PCV54】

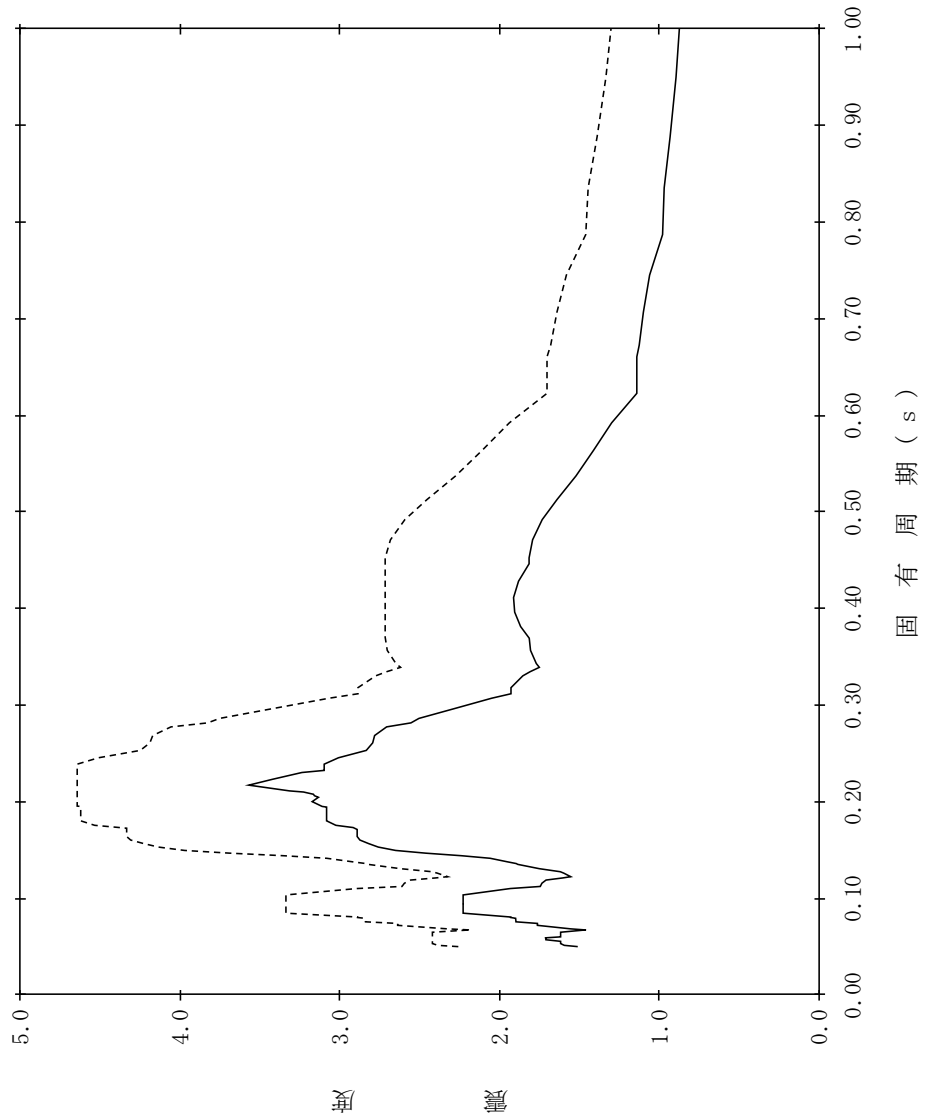


【NS2-PCV-SsEW-PCV55】

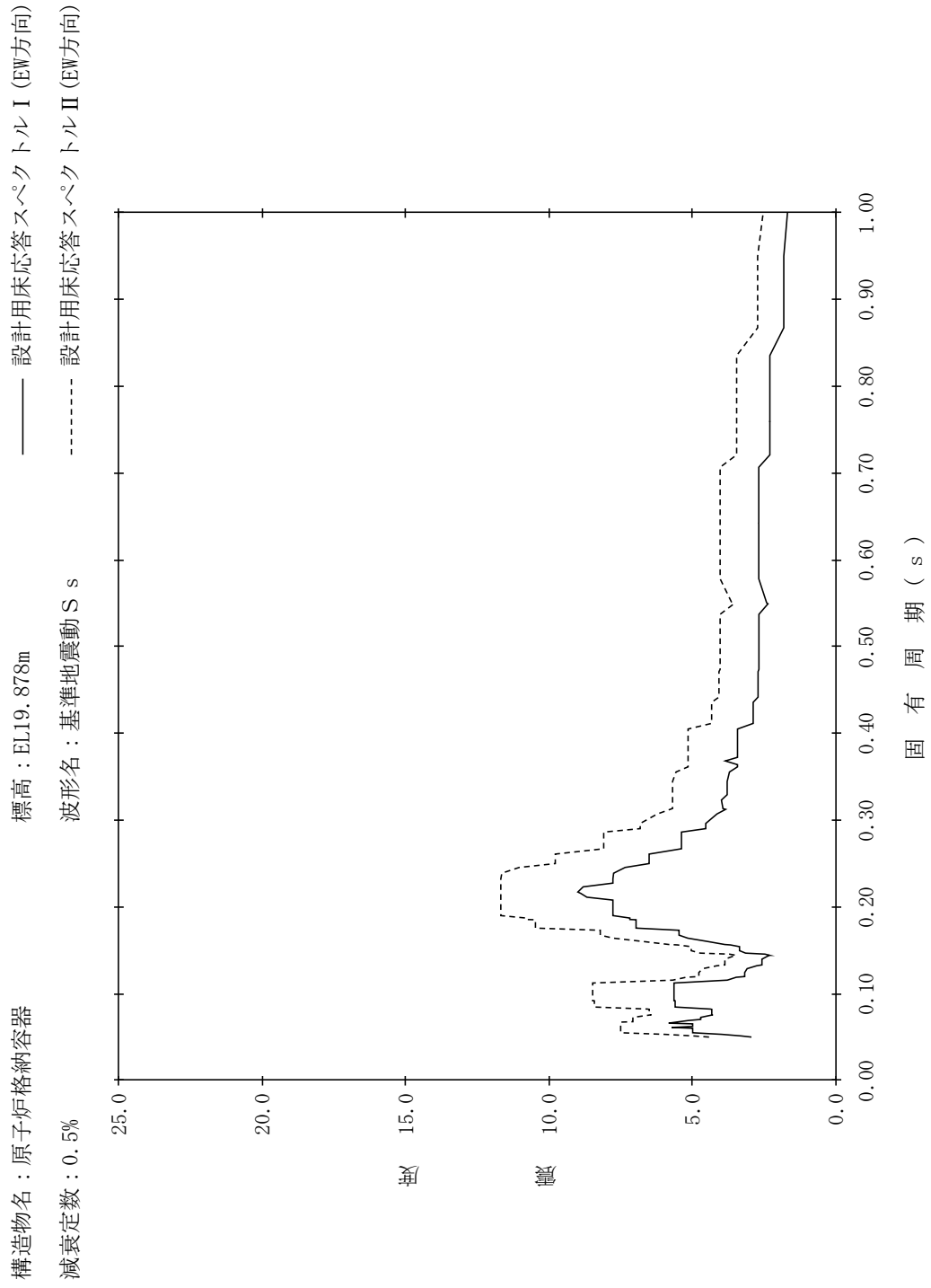


【NS2-PCV-SsEW-PCV56】

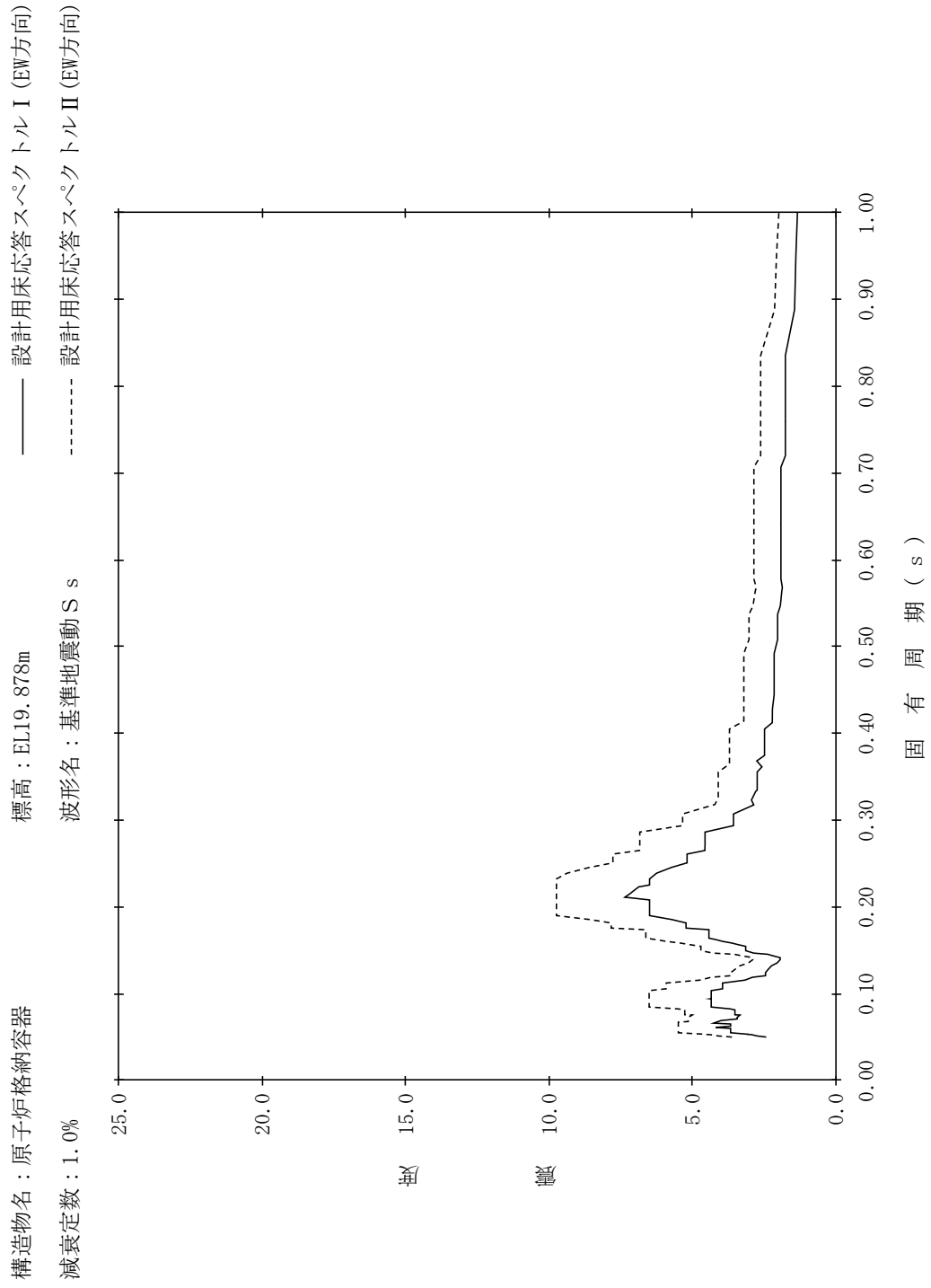
構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



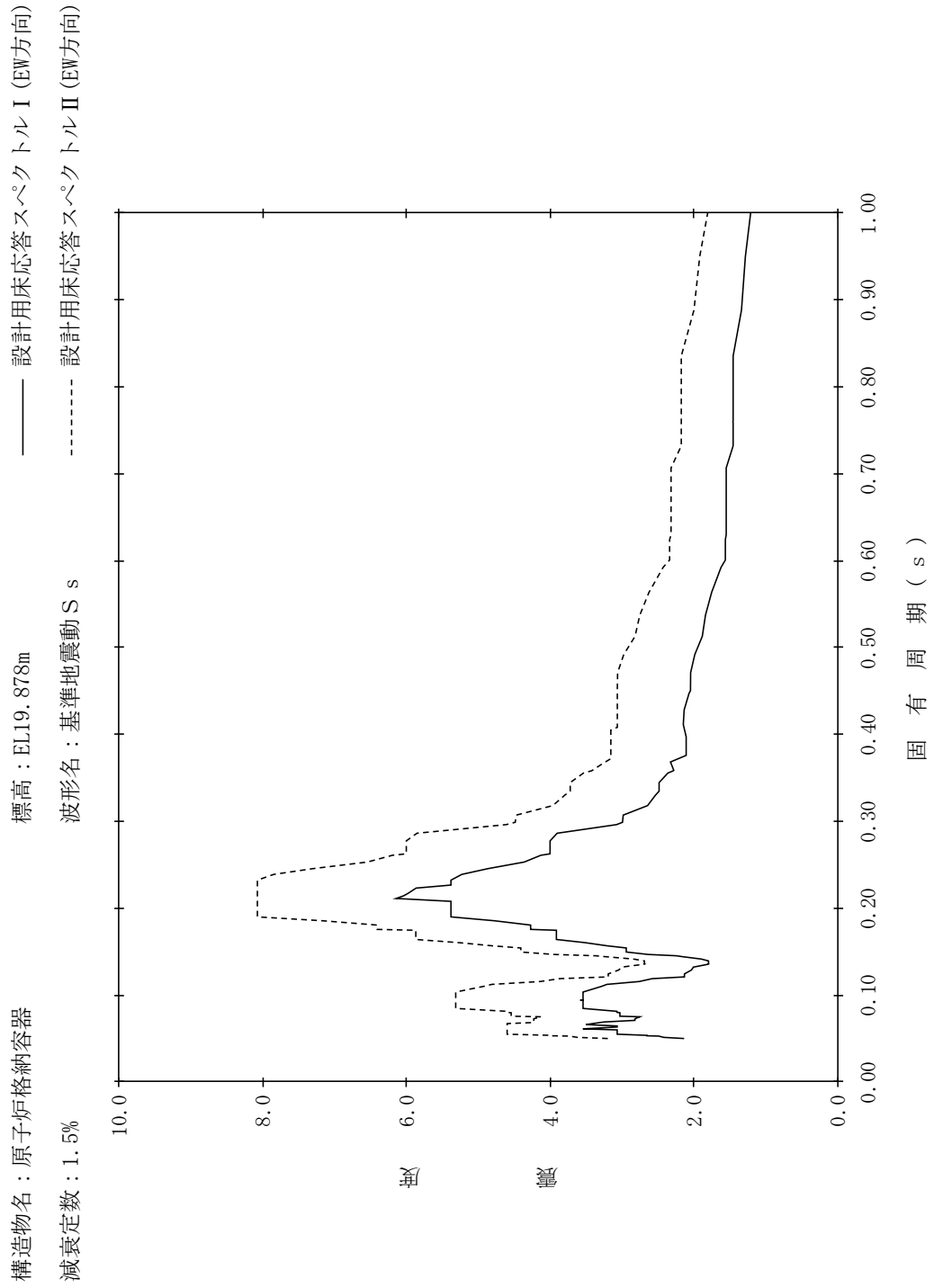
【NS2-PCV-SsEW-PCV57】



【NS2-PCV-SsEW-PCV58】

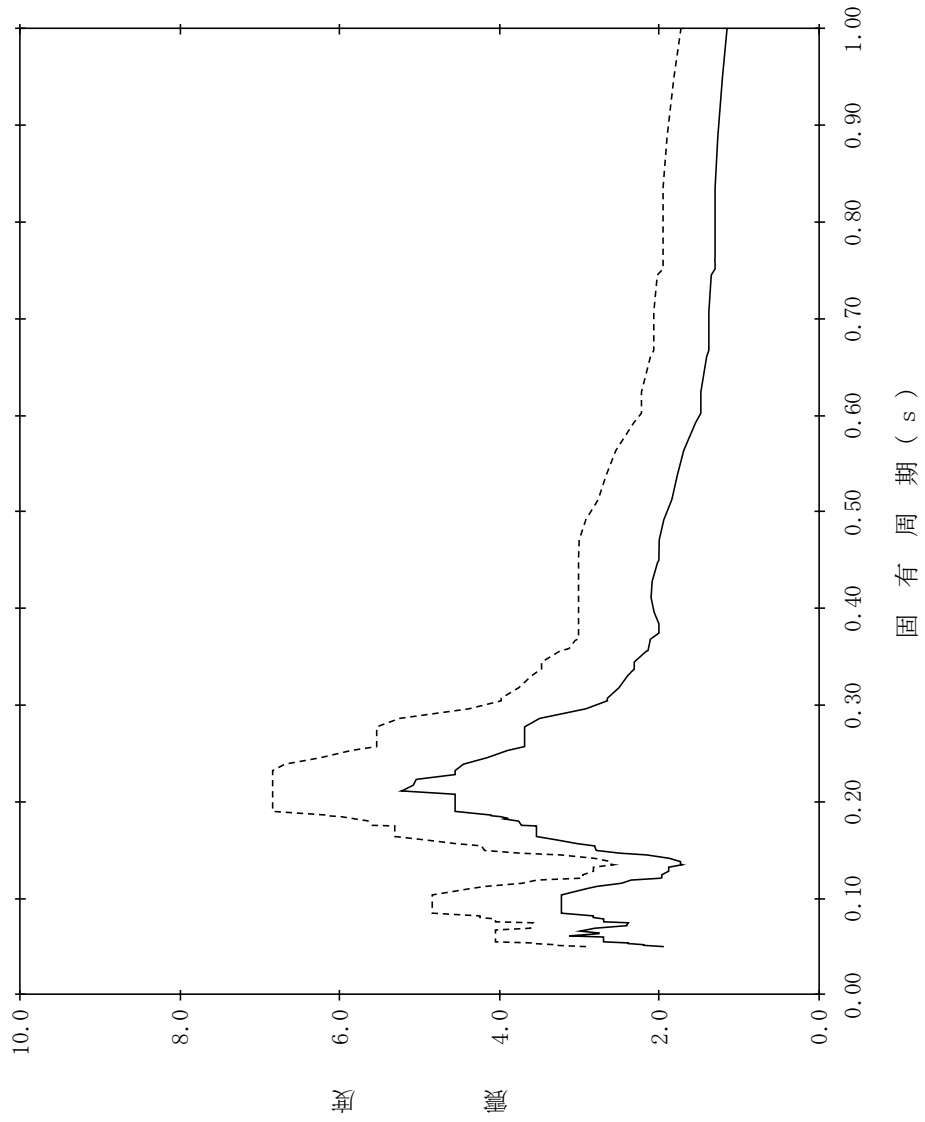


【NS2-PCV-SsEW-PCV59】



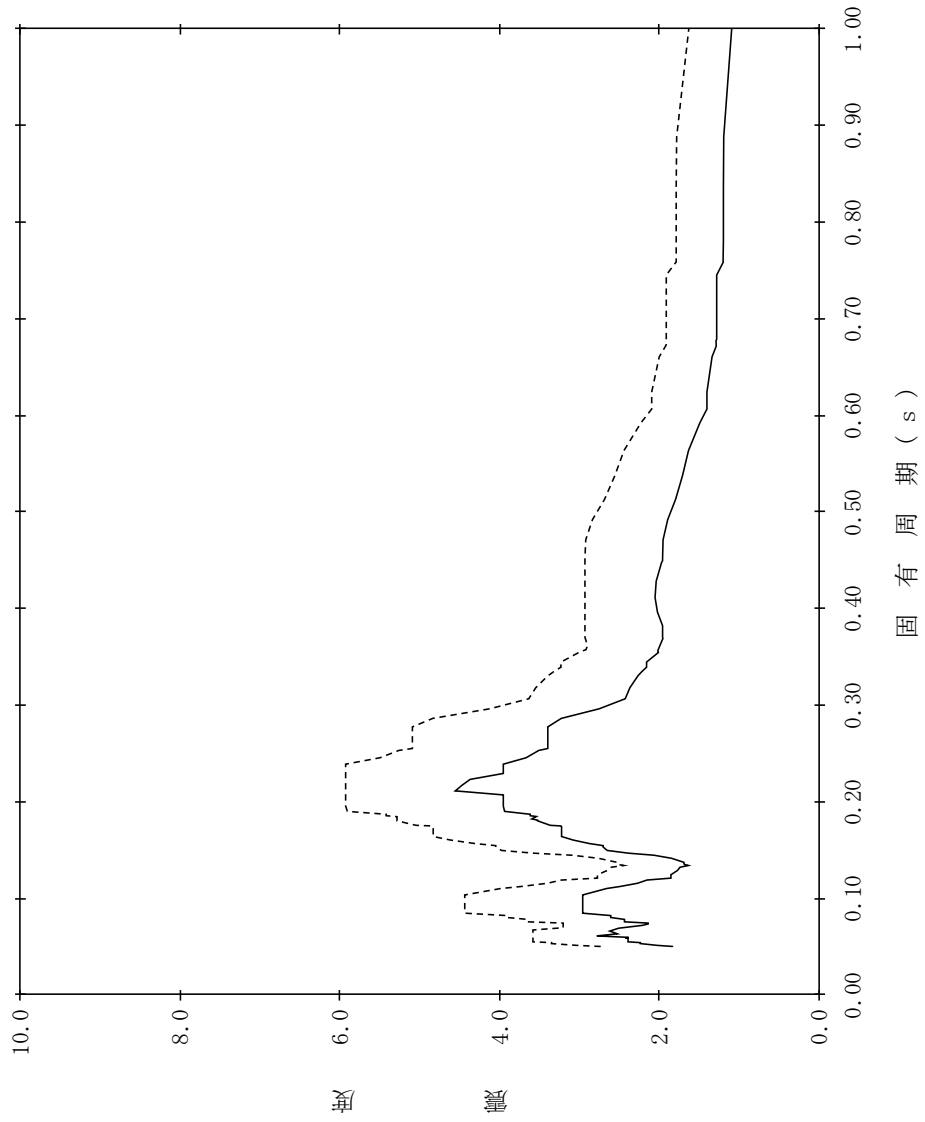
【NS2-PCV-SsEW-PCV60】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

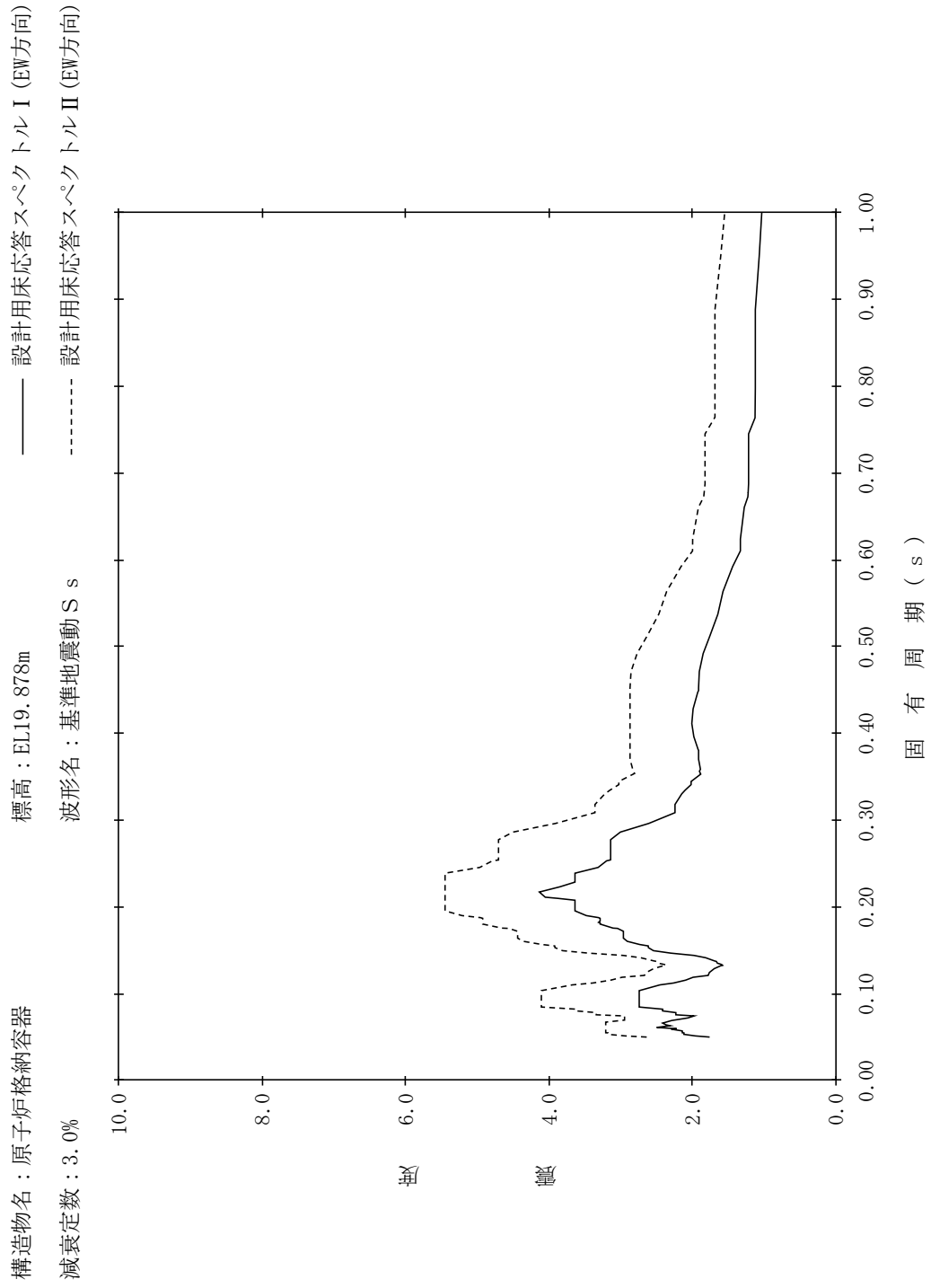


【NS2-PCV-SsEW-PCV61】

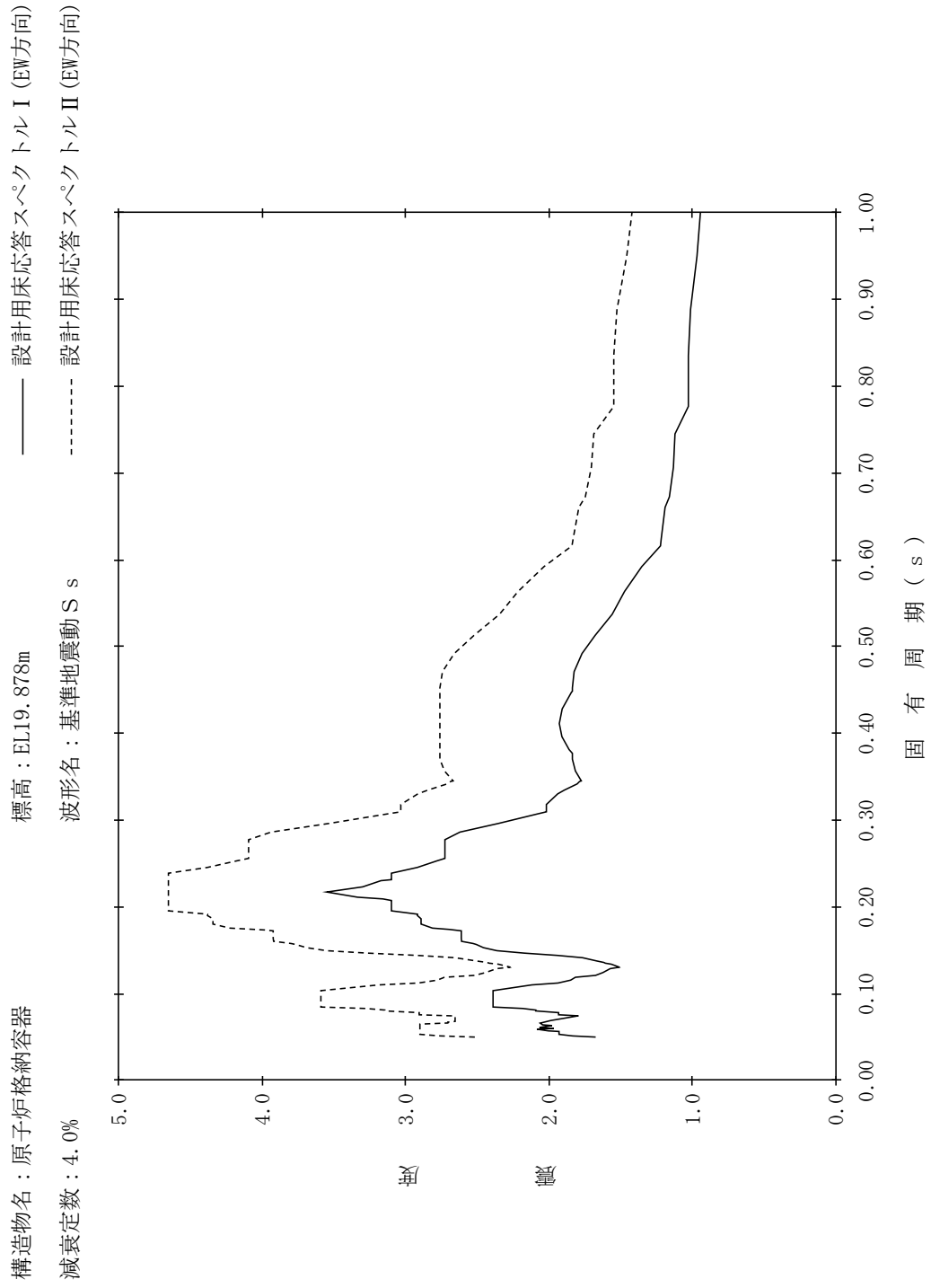
構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-PCV-SsEW-PCV62】

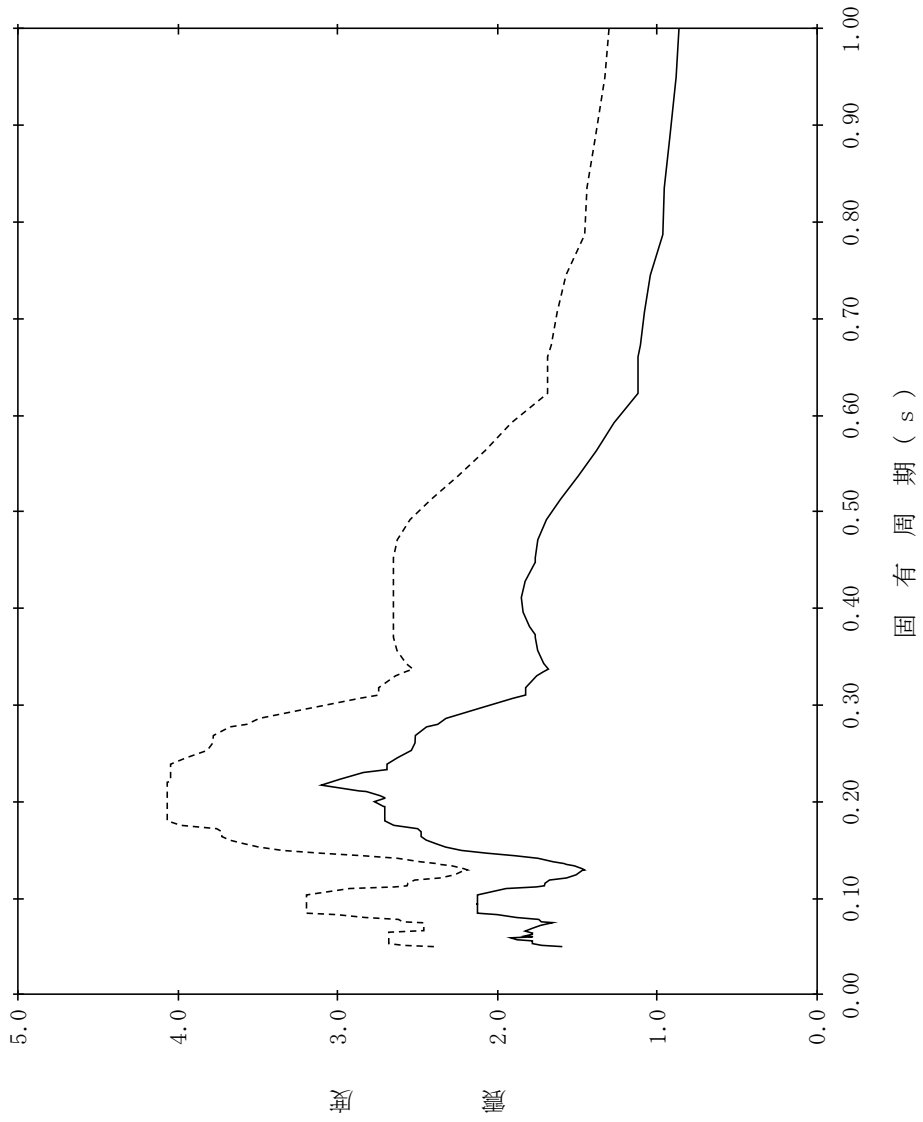


【NS2-PCV-SsEW-PCV63】



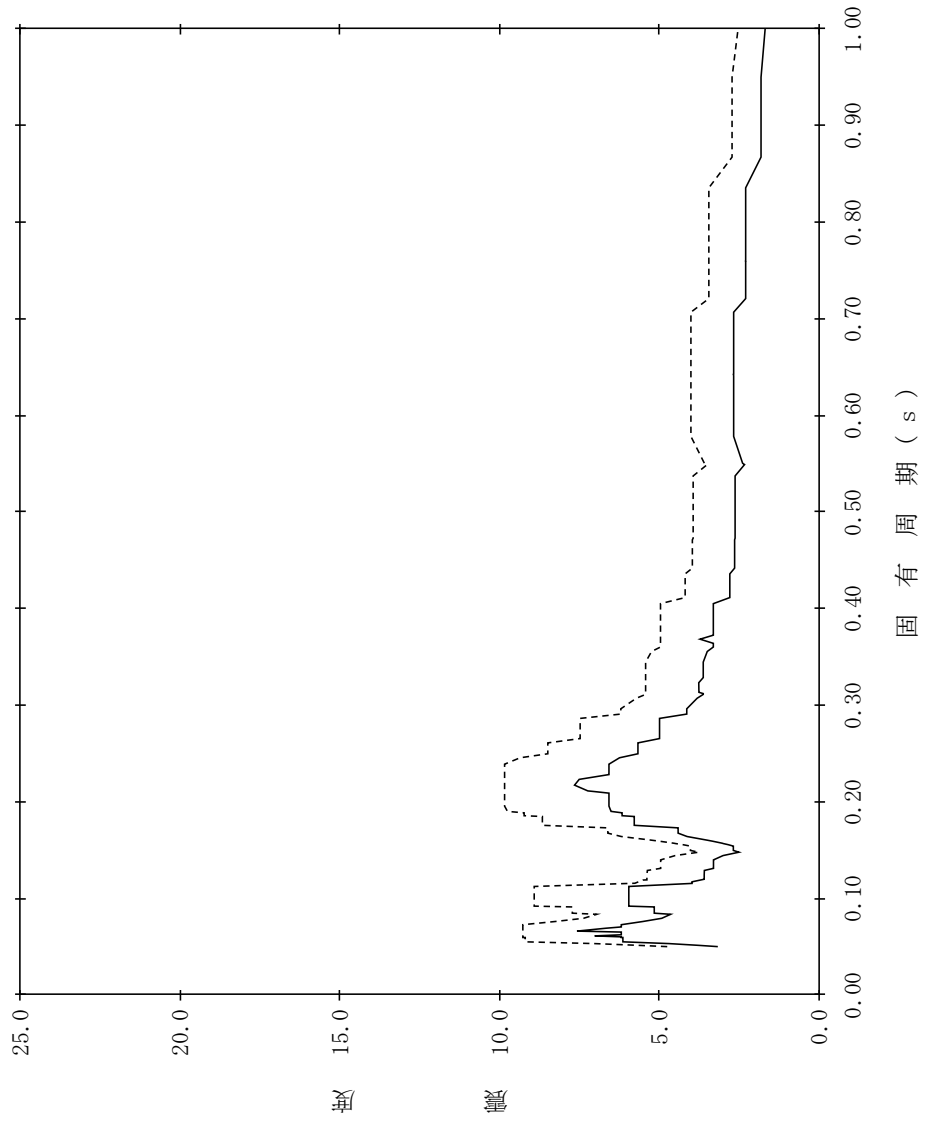
【NS2-PCV-SsEW-PCV64】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

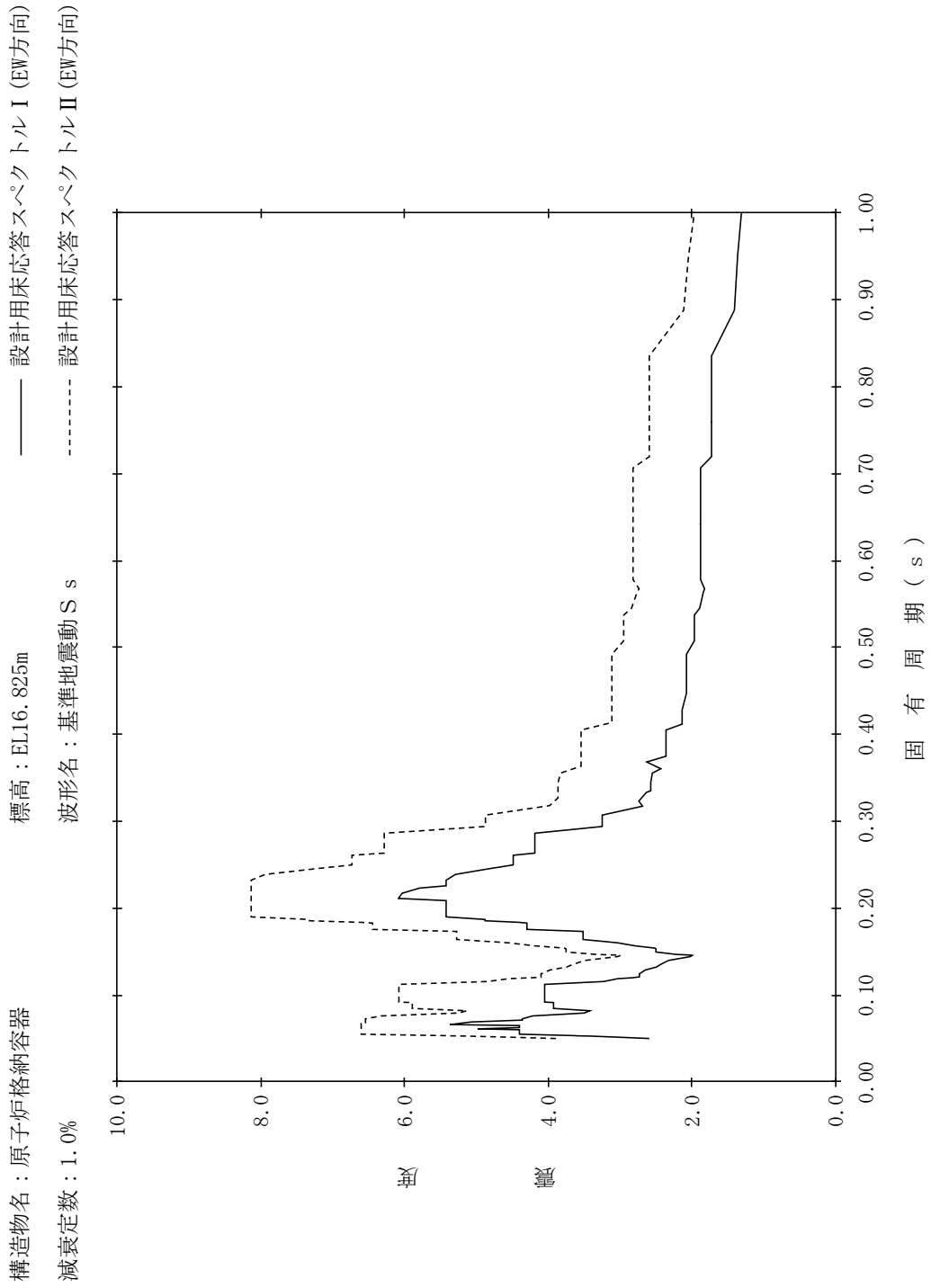


【NS2-PCV-SsEW-PCV65】

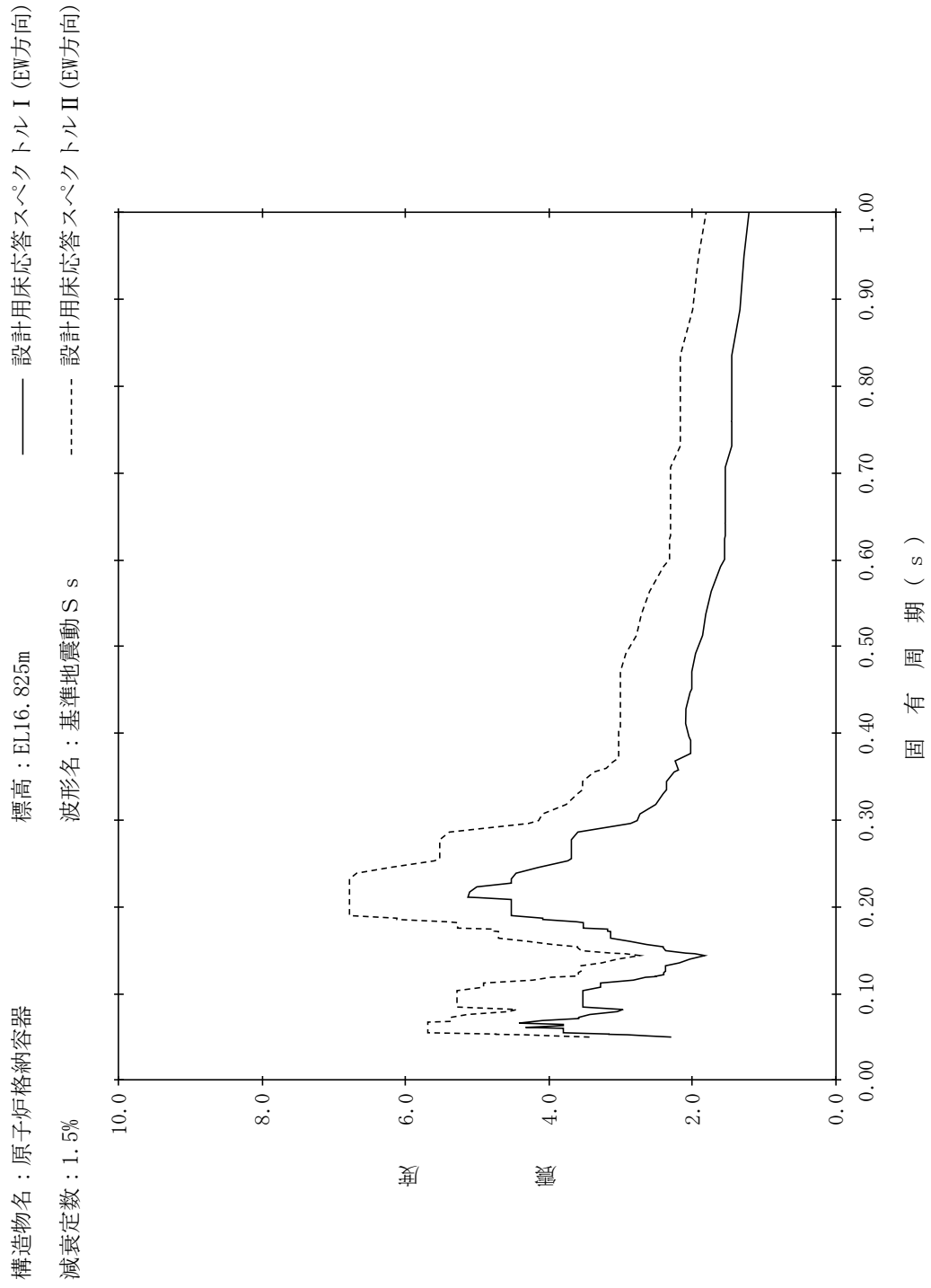
構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



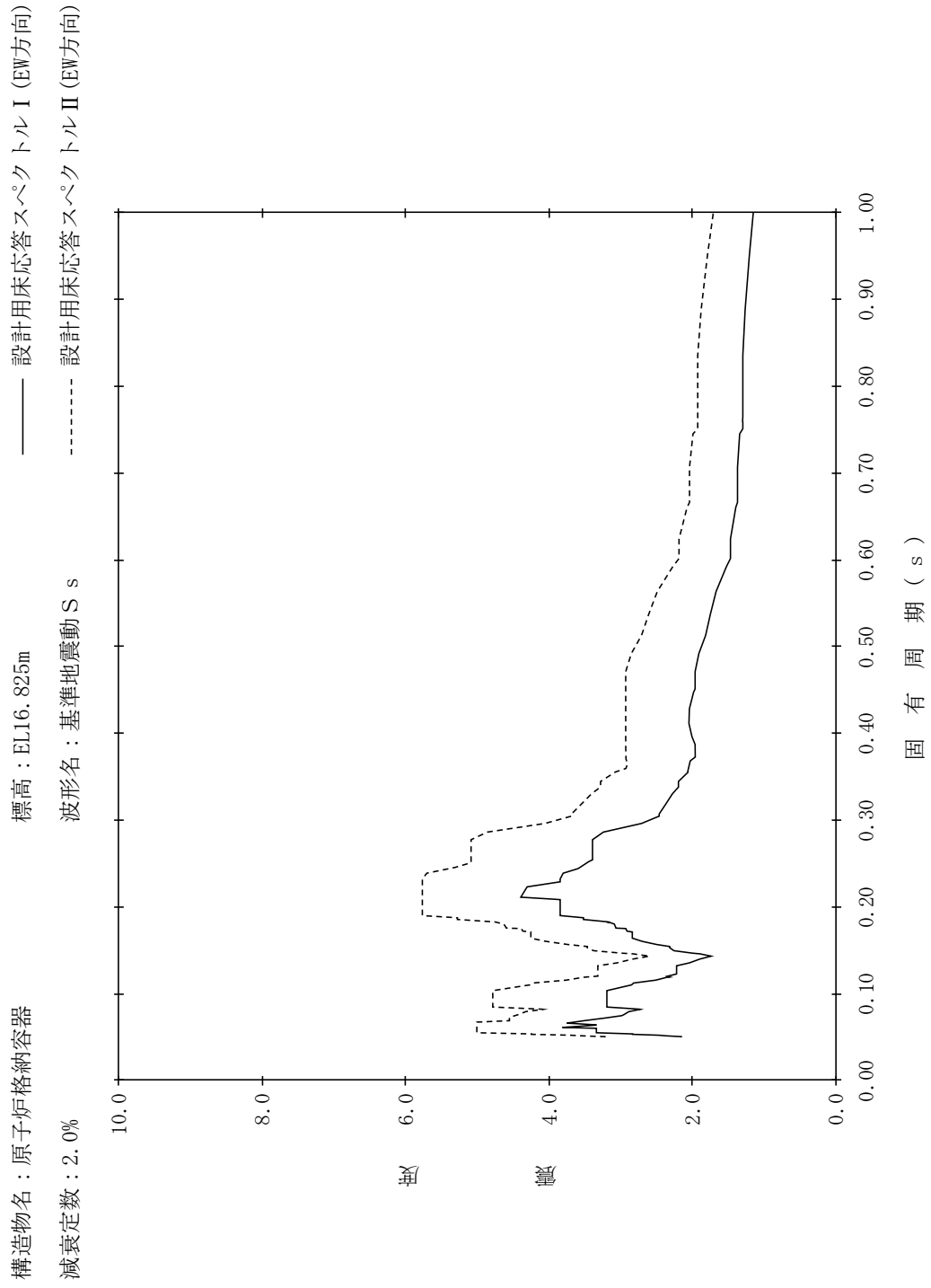
【NS2-PCV-SsEW-PCV66】



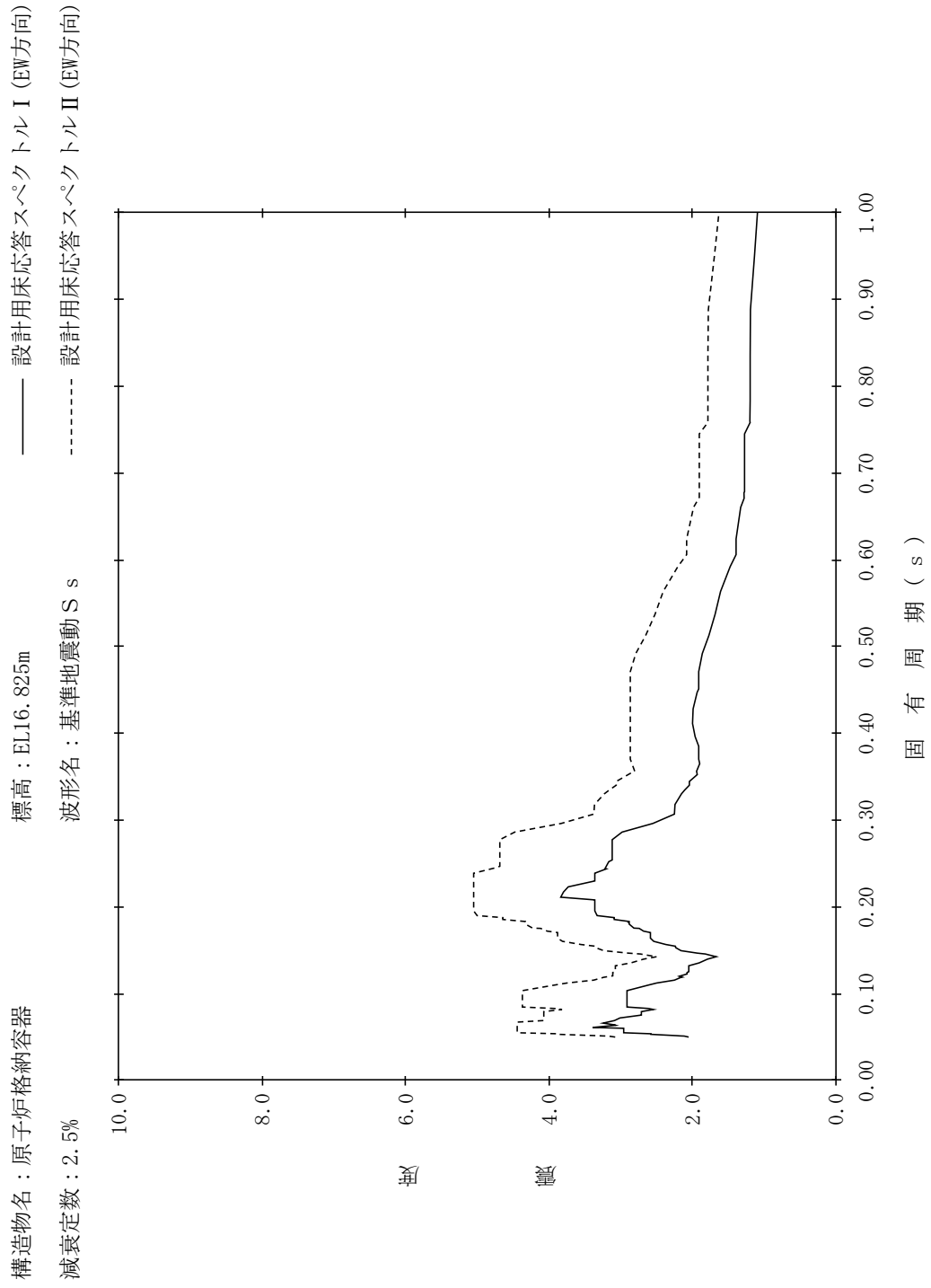
【NS2-PCV-SsEW-PCV67】



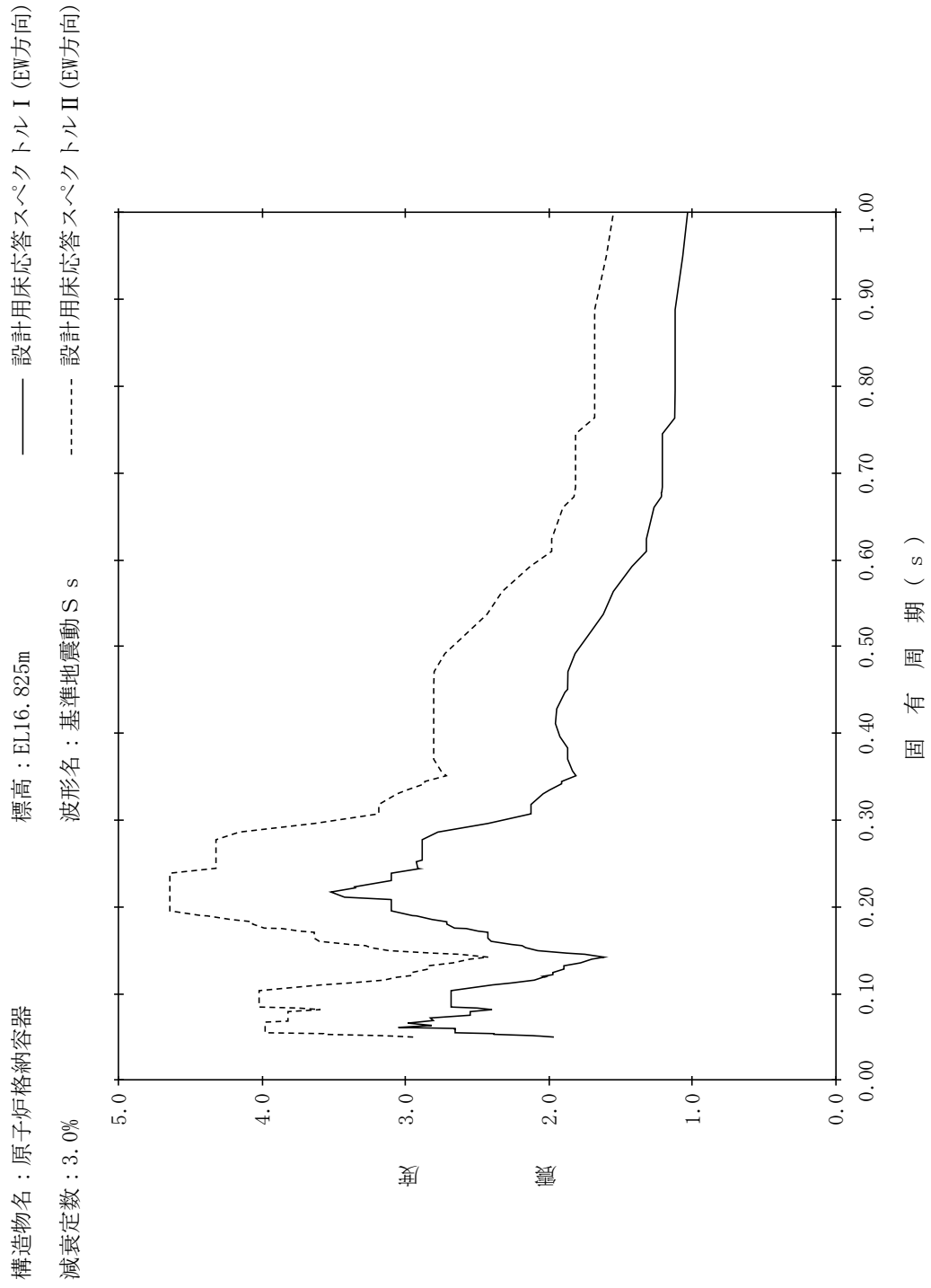
【NS2-PCV-SsEW-PCV68】



【NS2-PCV-SsEW-PCV69】

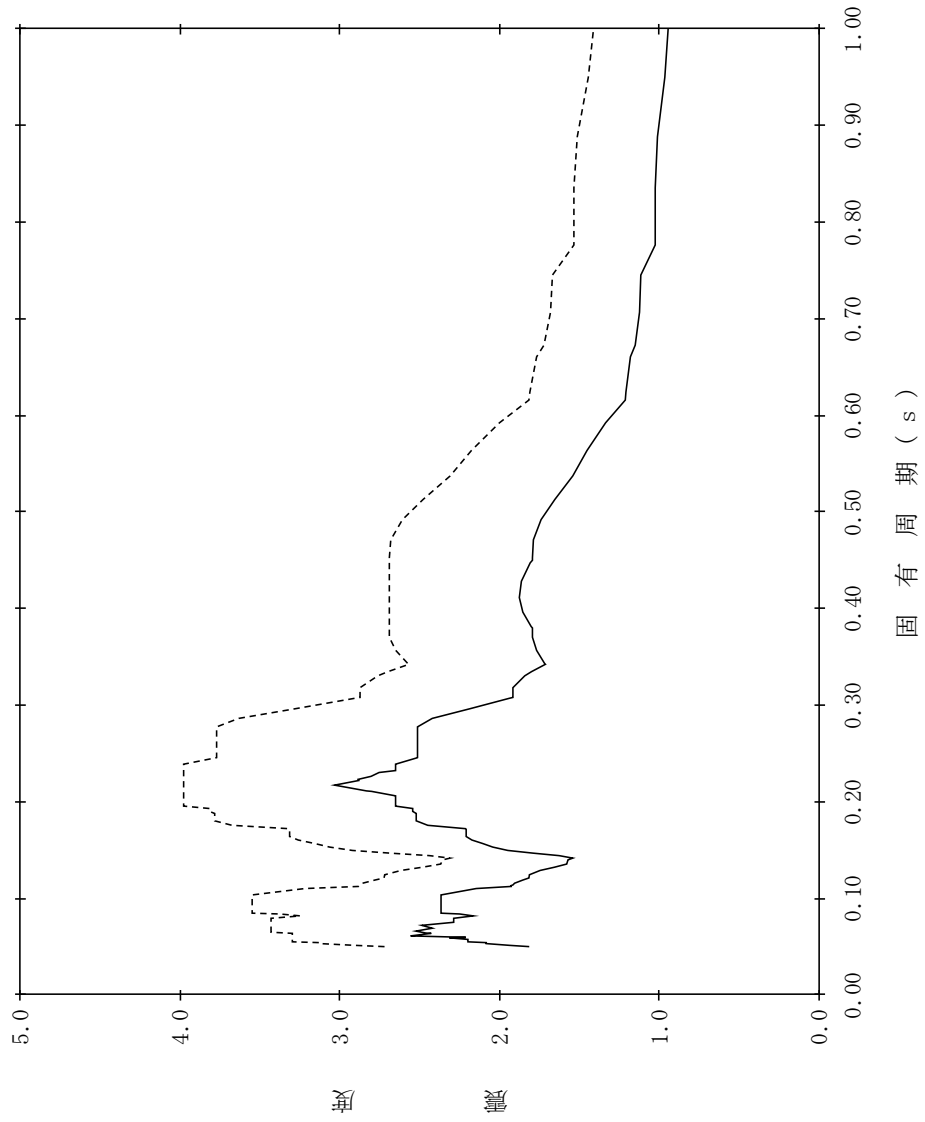


【NS2-PCV-SsEW-PCV70】



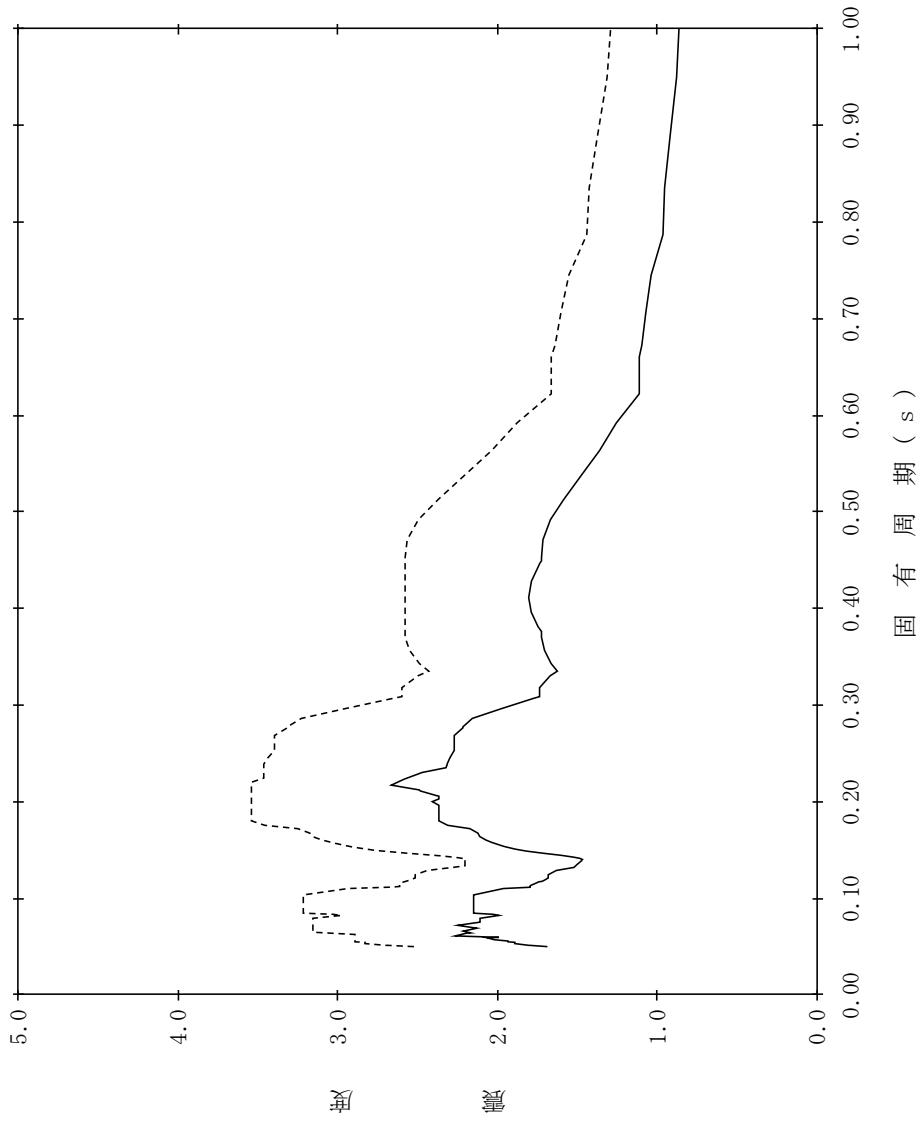
【NS2-PCV-SsEW-PCV71】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL16.825m
減衰定数：4.0%
波形式：標準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



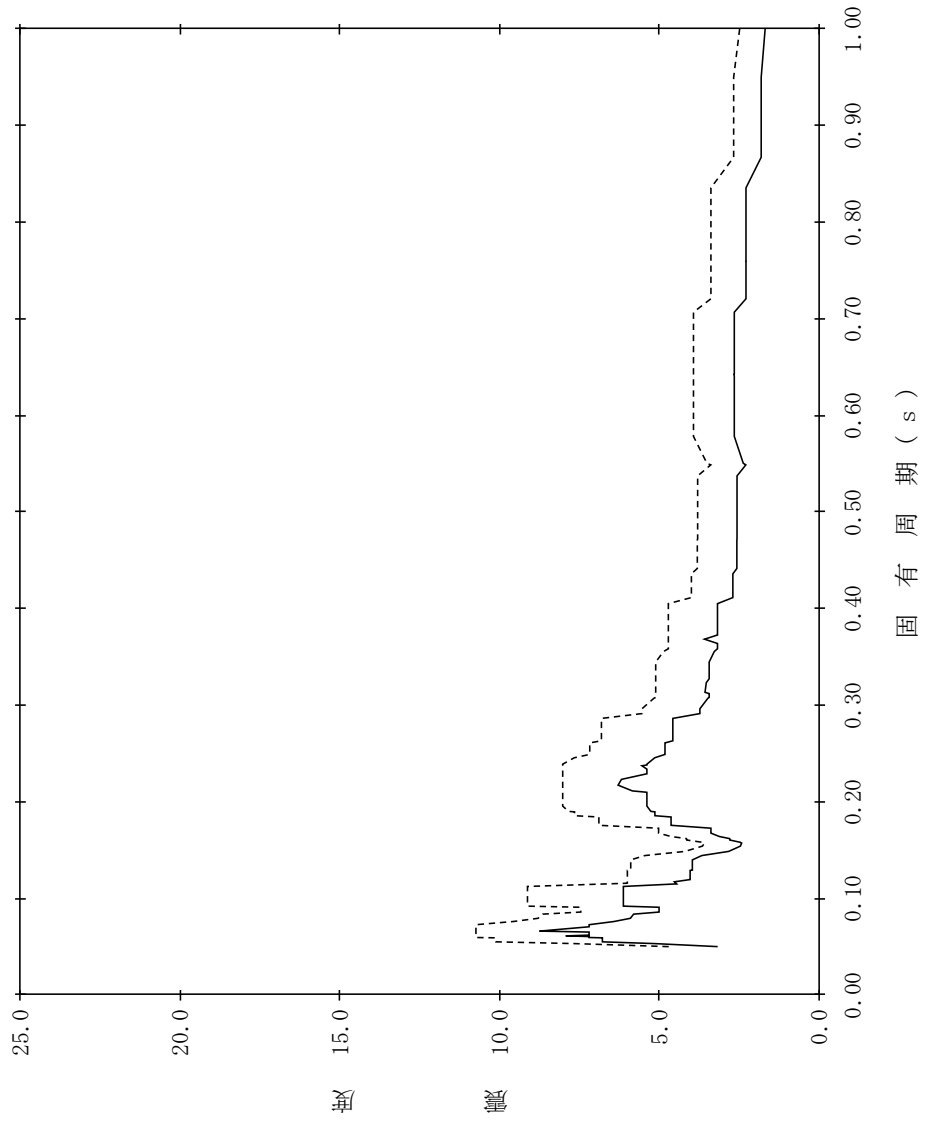
【NS2-PCV-SsEW-PCV72】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



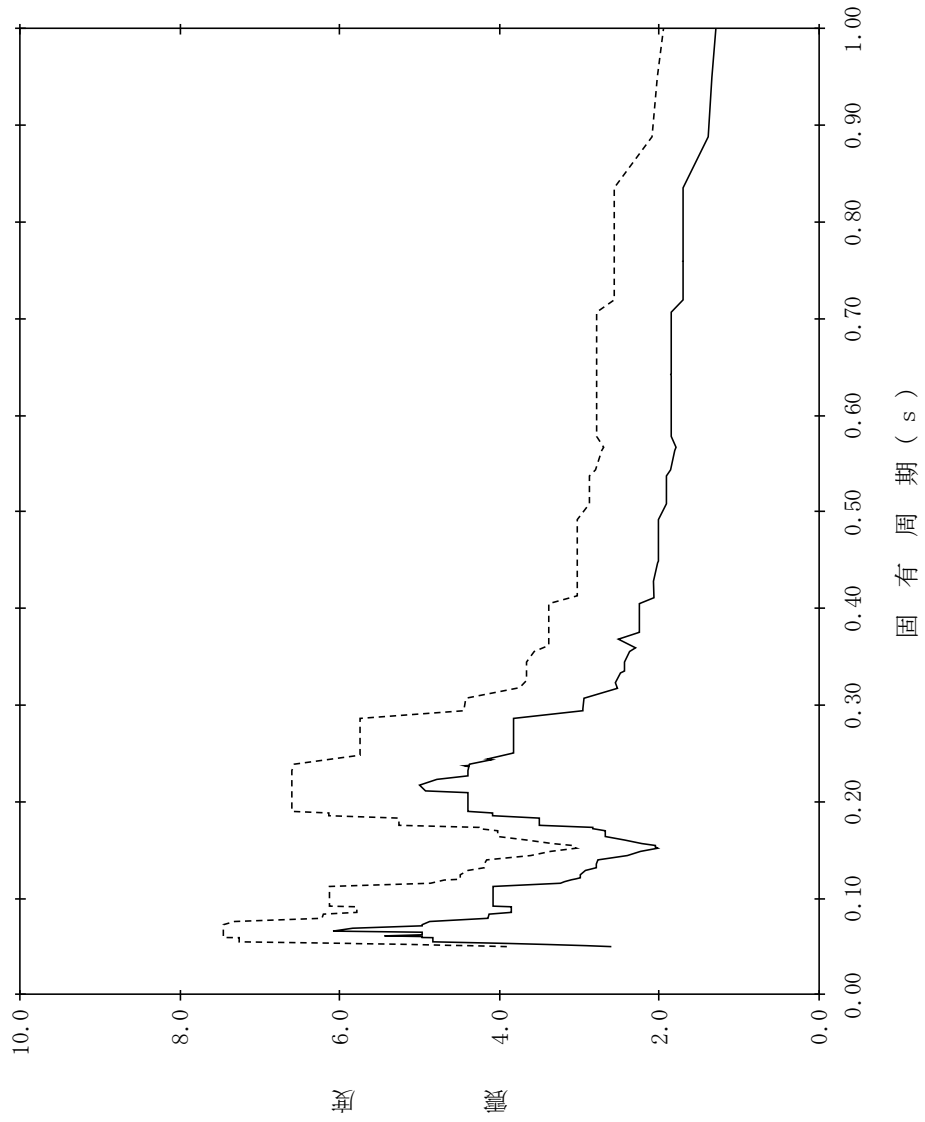
【NS2-PCV-SsEW-PCV73】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-PCV-SsEW-PCV74】

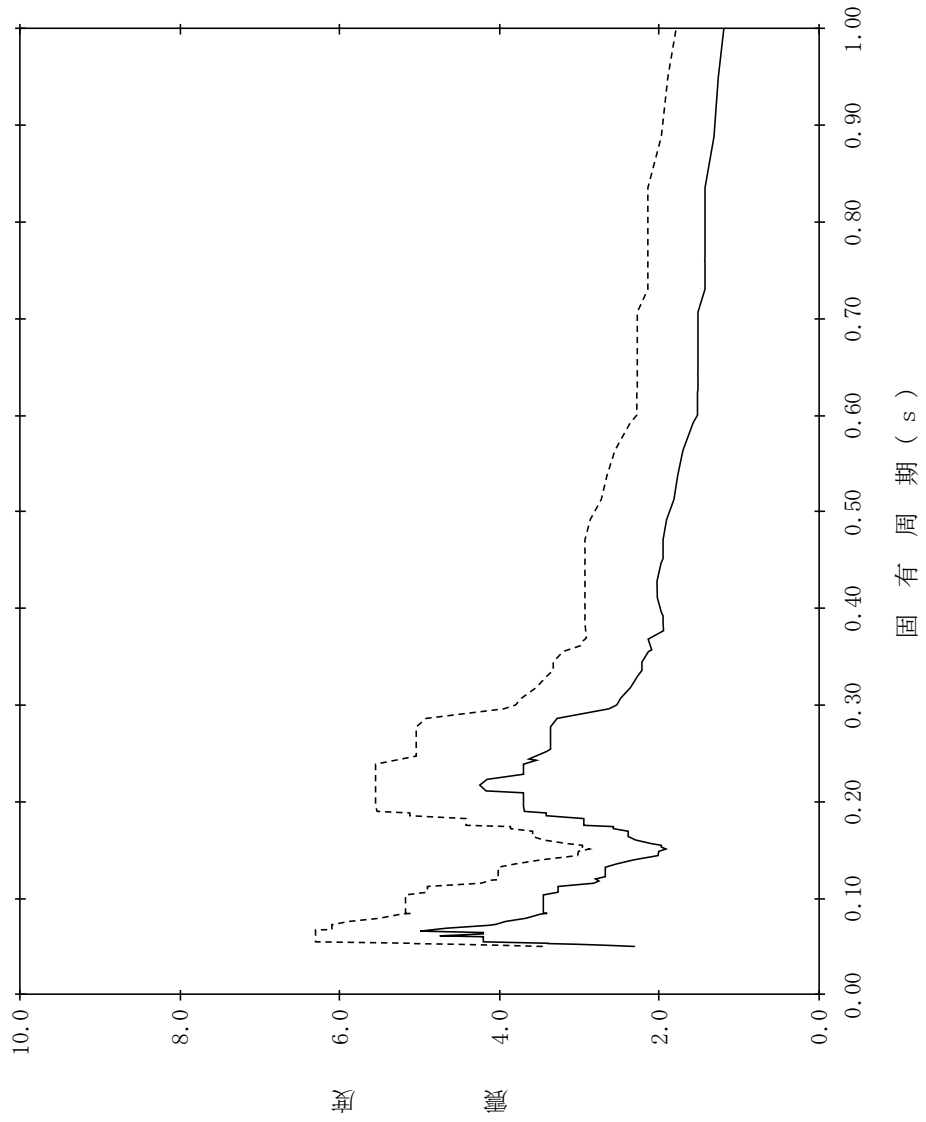
構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-PCV-SsEW-PCV75】

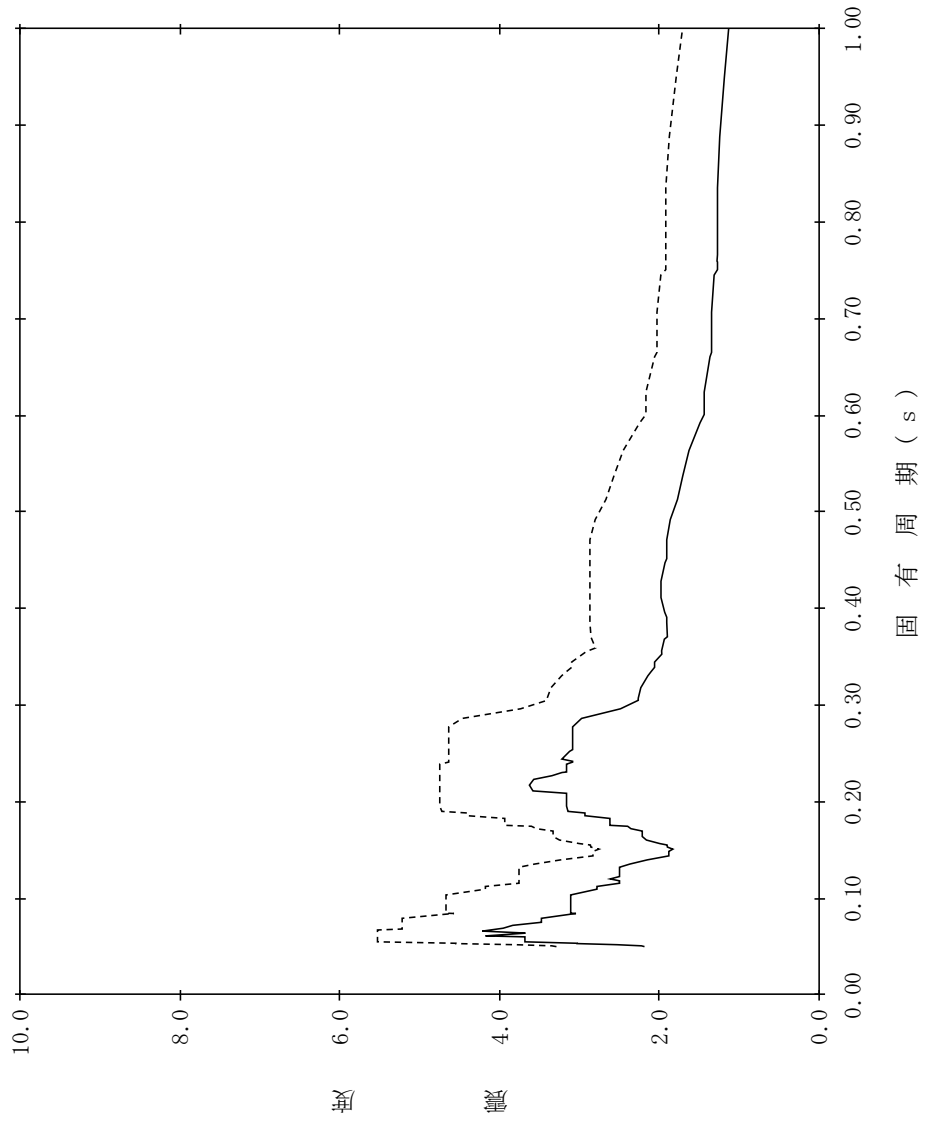
構造物名：原子炉格納容器
標高：EL13.700m
減衰定数：1.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-PCV-SsEW-PCV76】

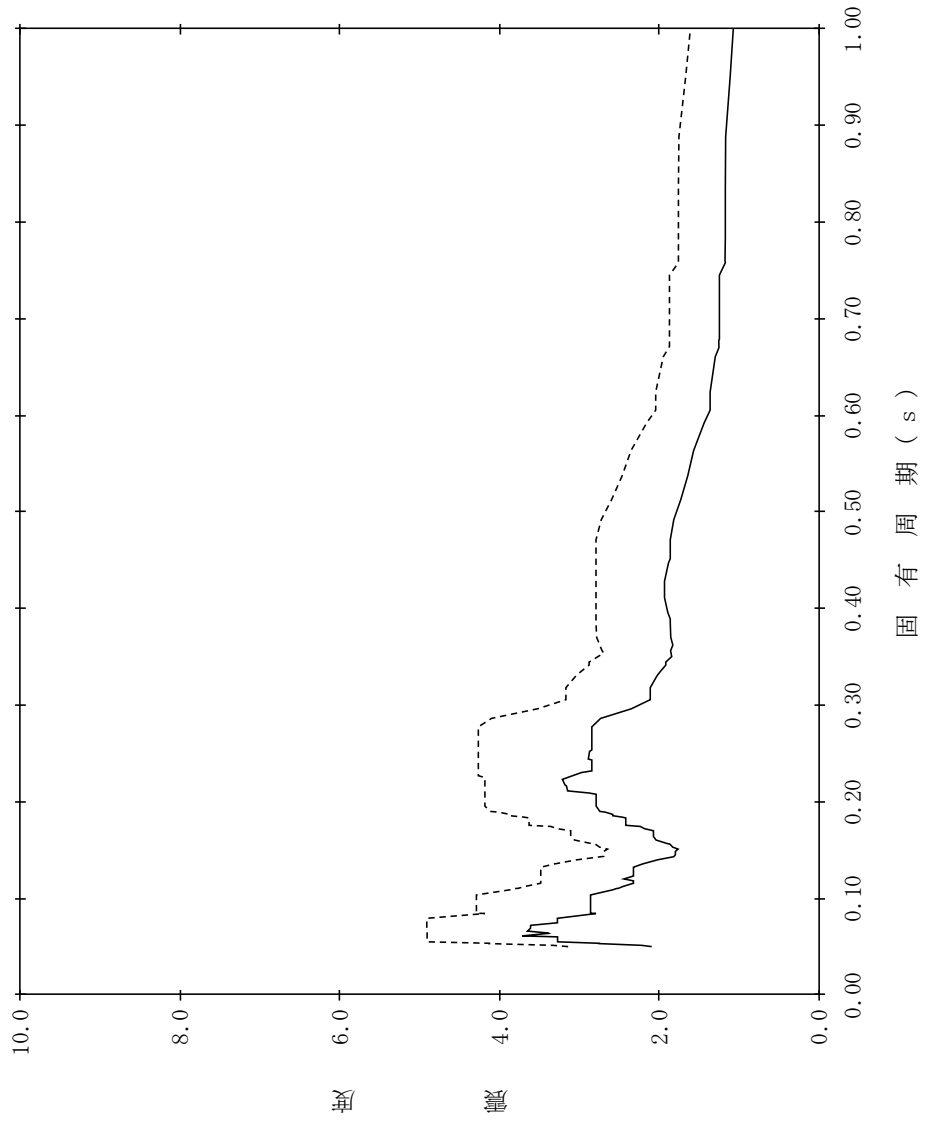
構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-PCV-SsEW-PCV77】

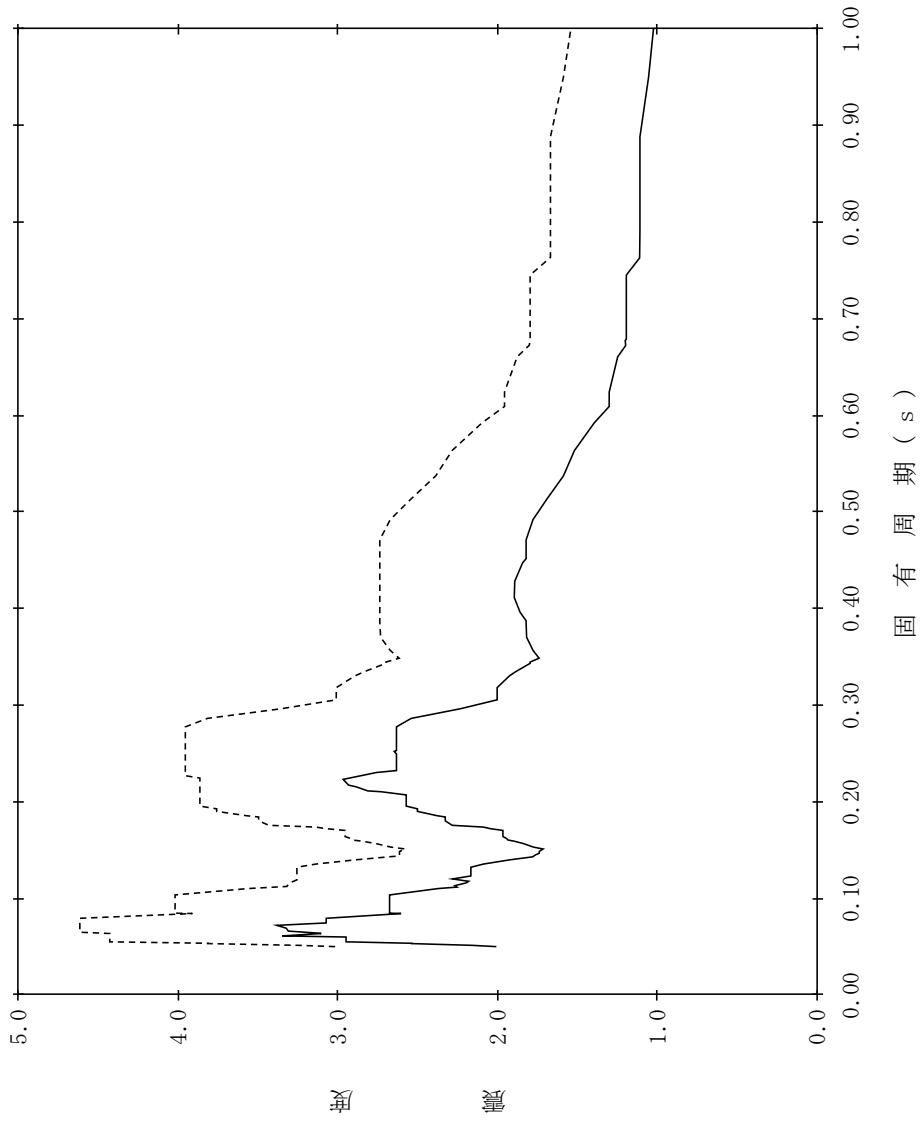
構造物名：原子炉格納容器
標高：EL13.700m
減衰定数：2.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



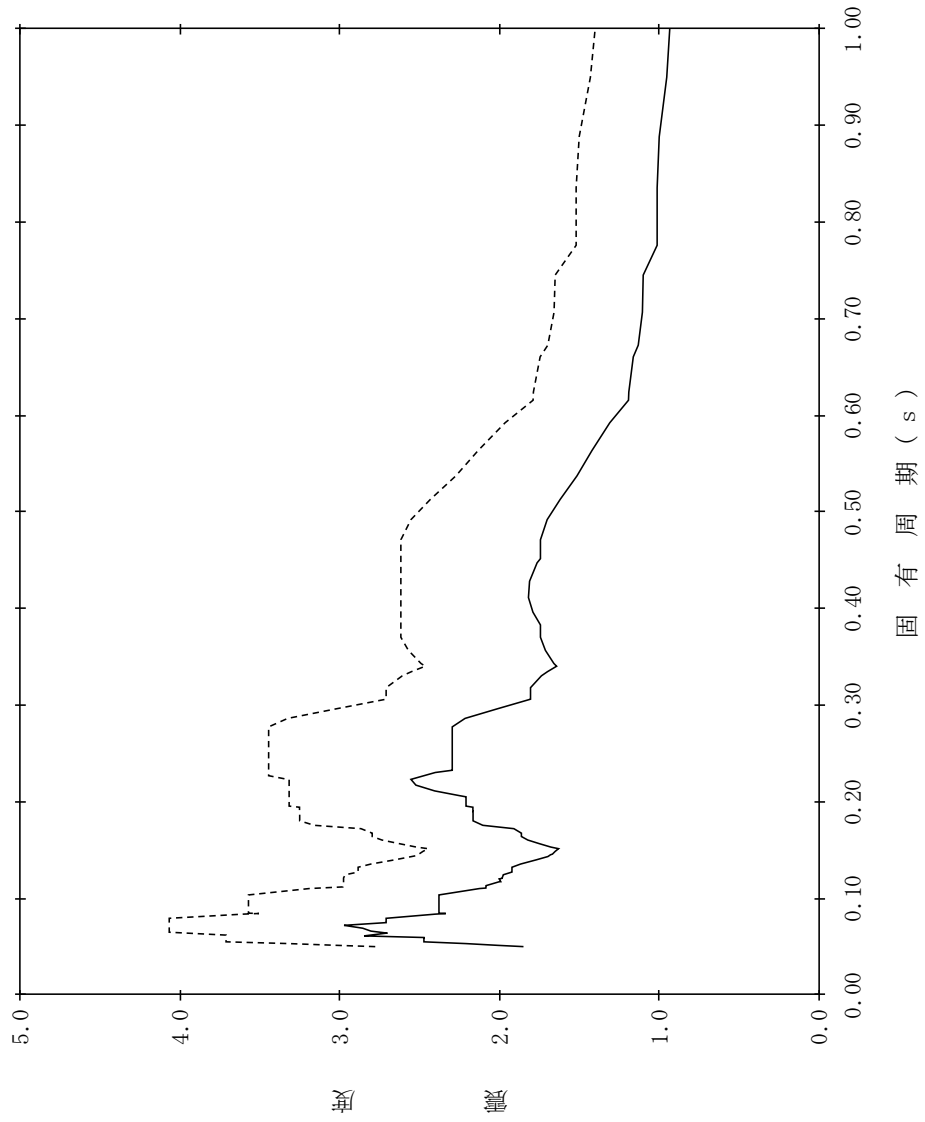
【NS2-PCV-SsEW-PCV78】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

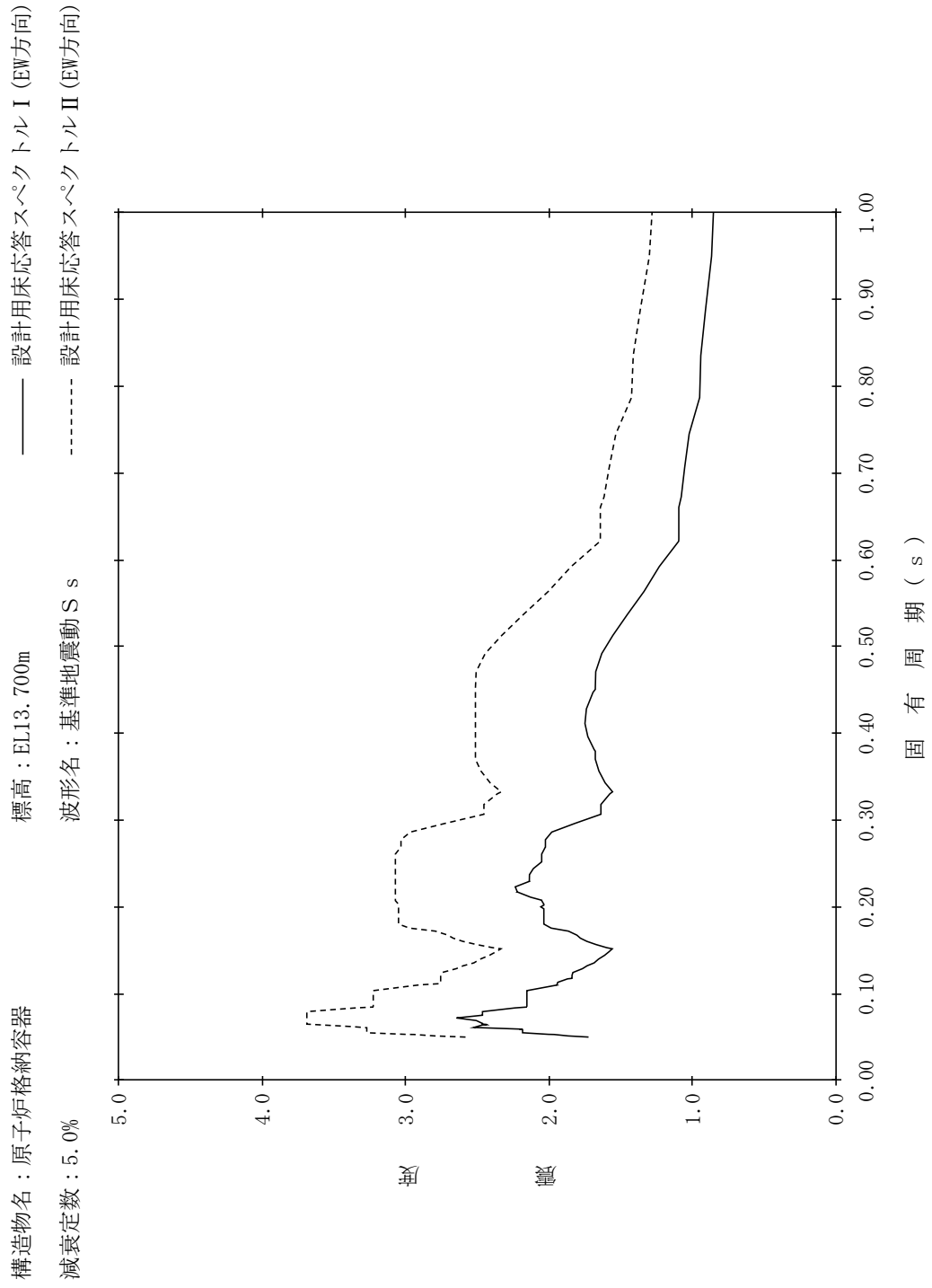


【NS2-PCV-SsEW-PCV79】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

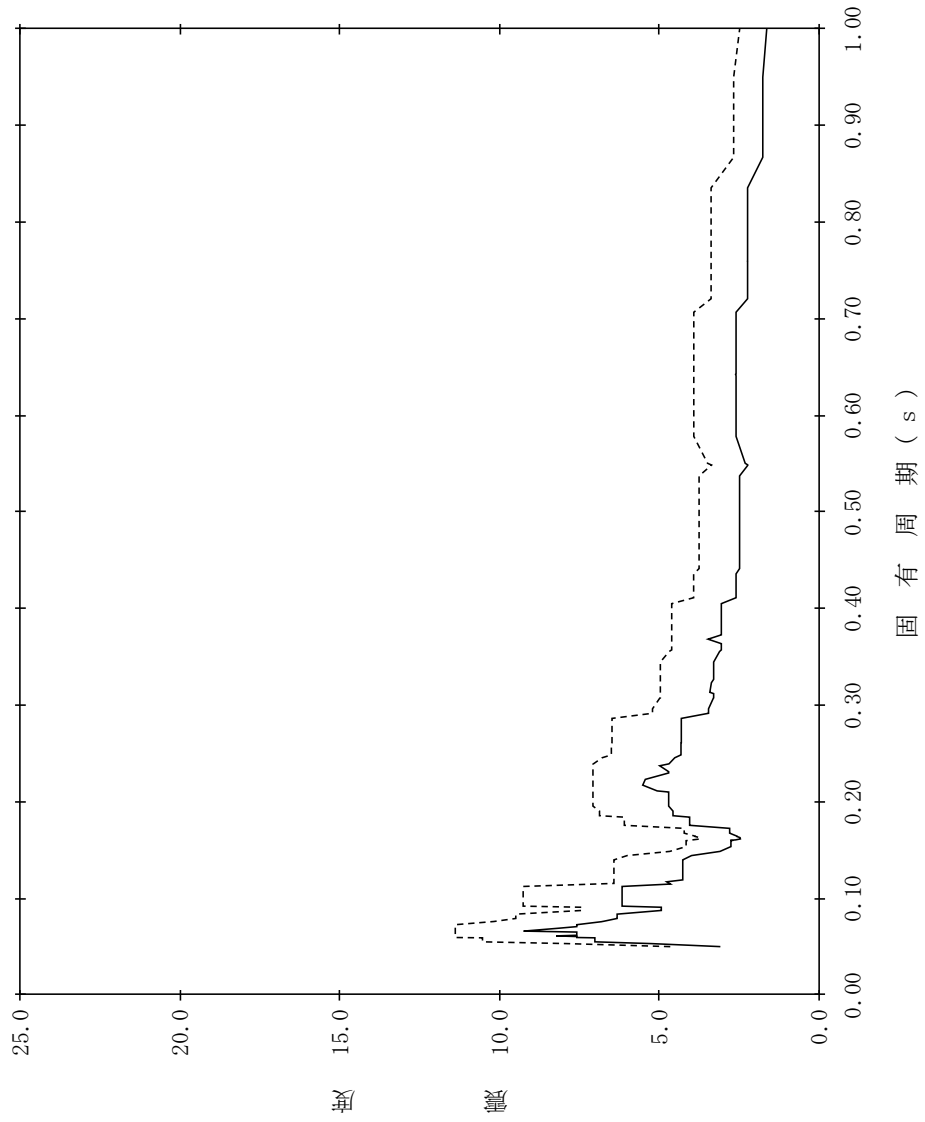


【NS2-PCV-SsEW-PCV80】

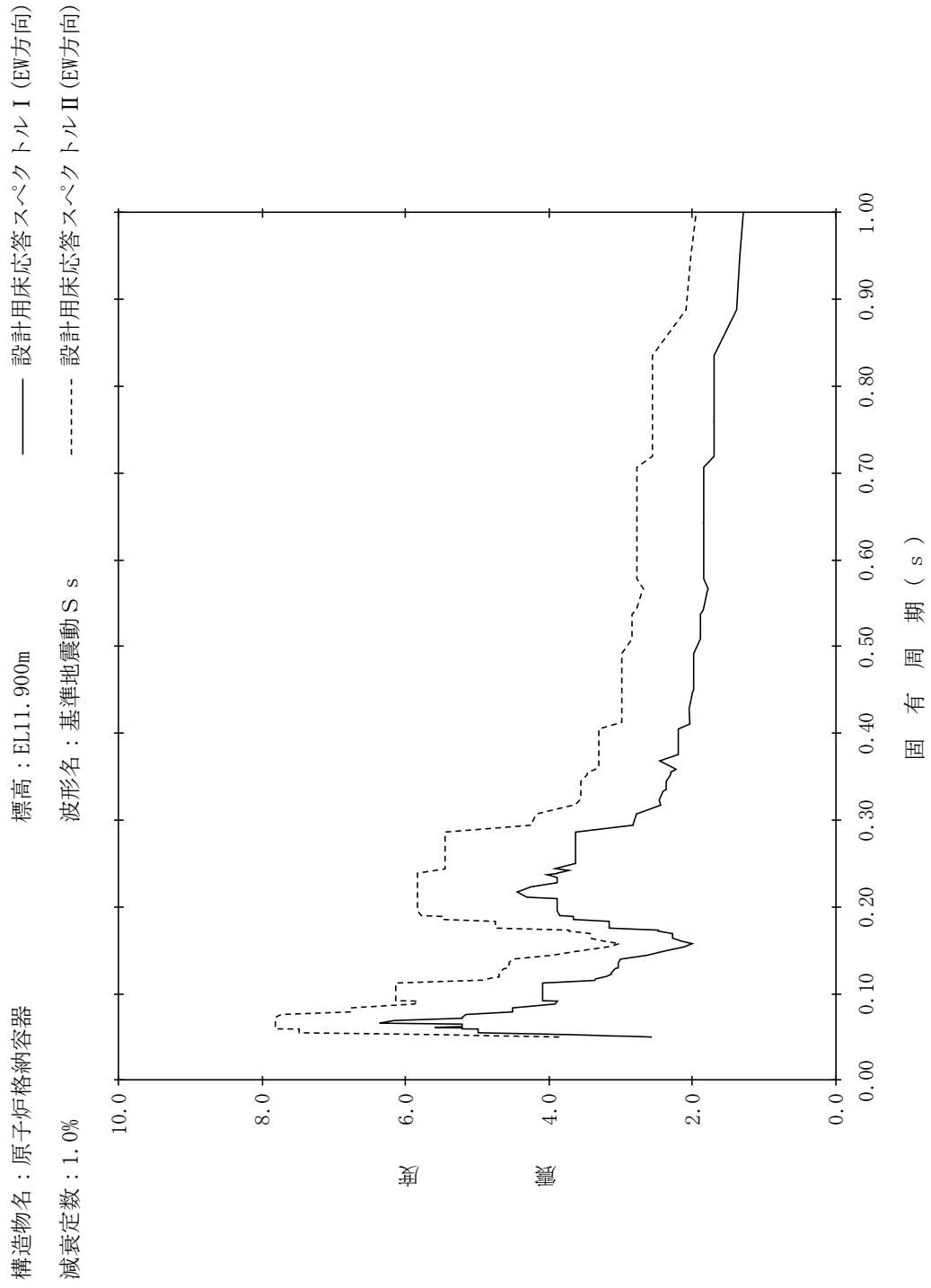


【NS2-PCV-SsEW-PCV81】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

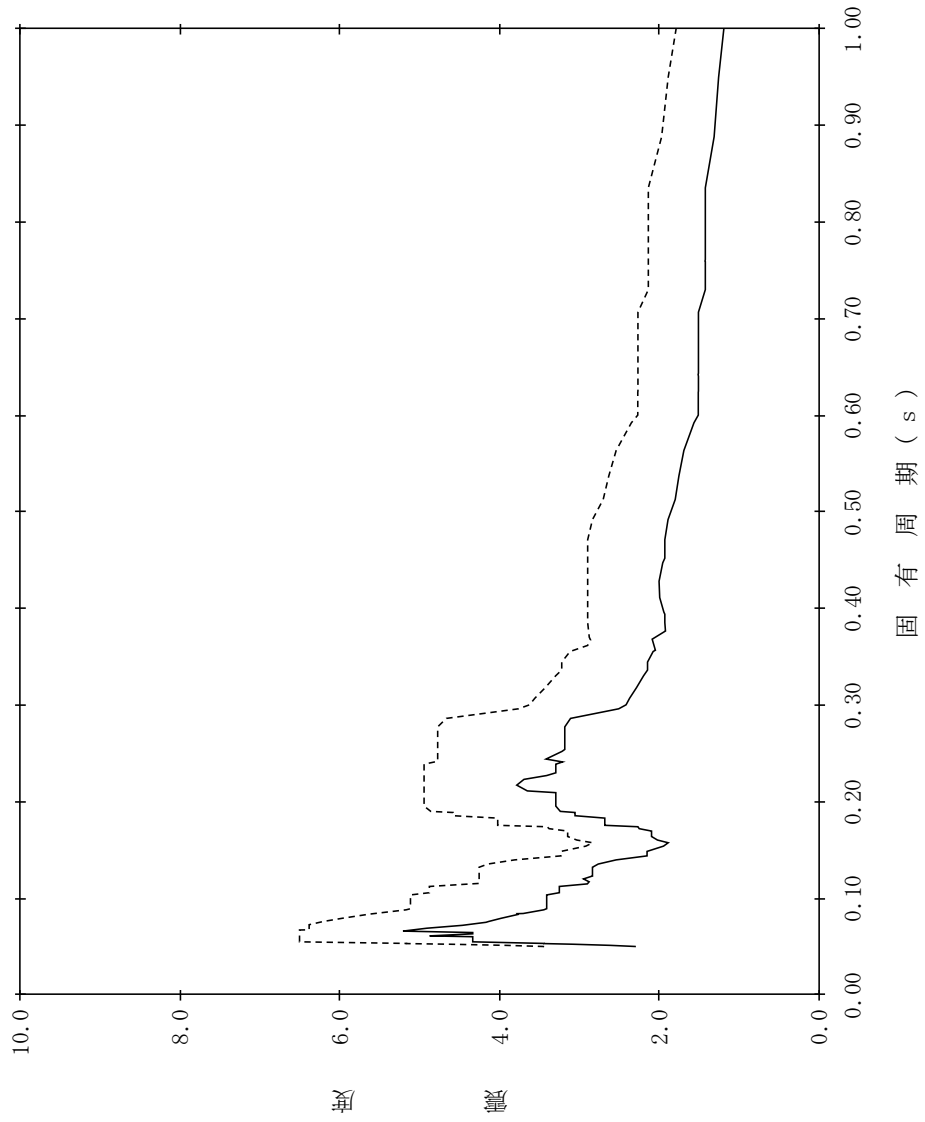


【NS2-PCV-SsEW-PCV82】



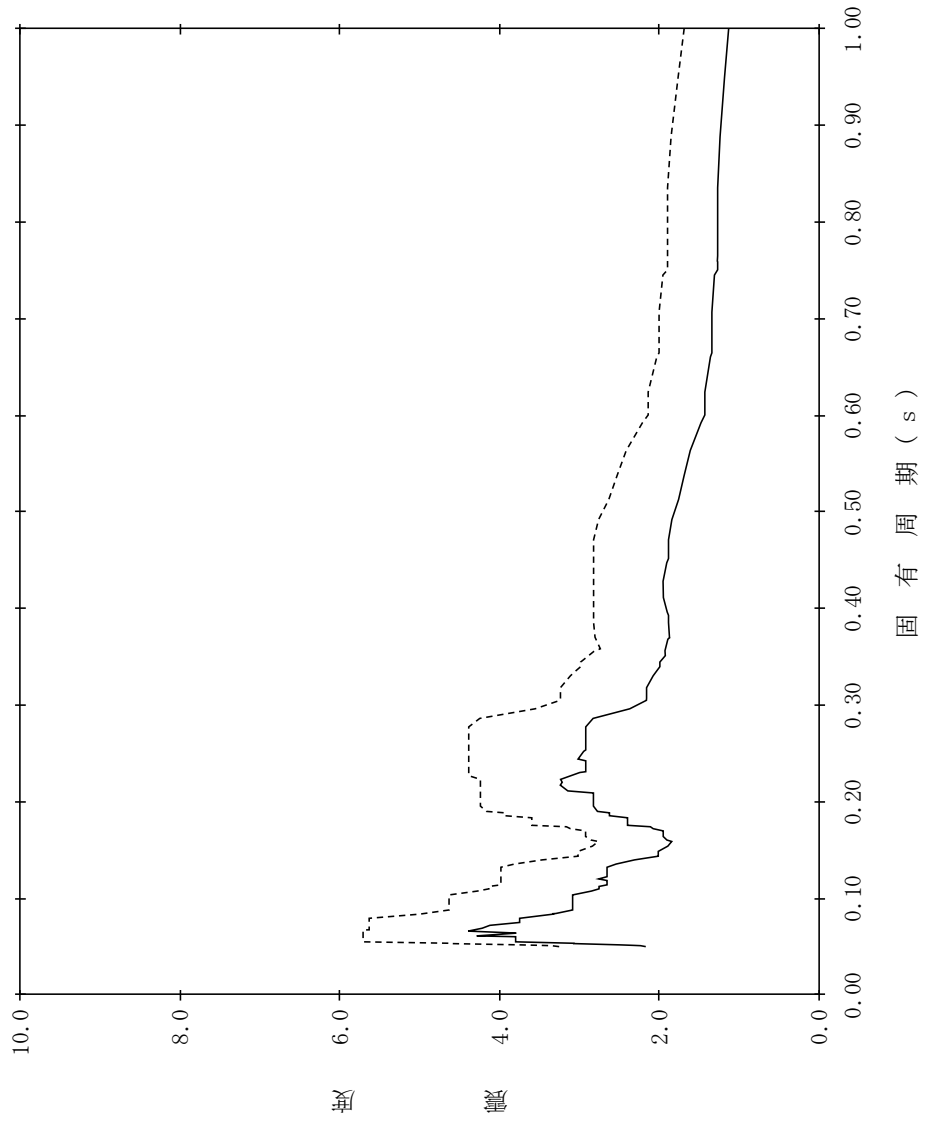
【NS2-PCV-SsEW-PCV83】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL11.900m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



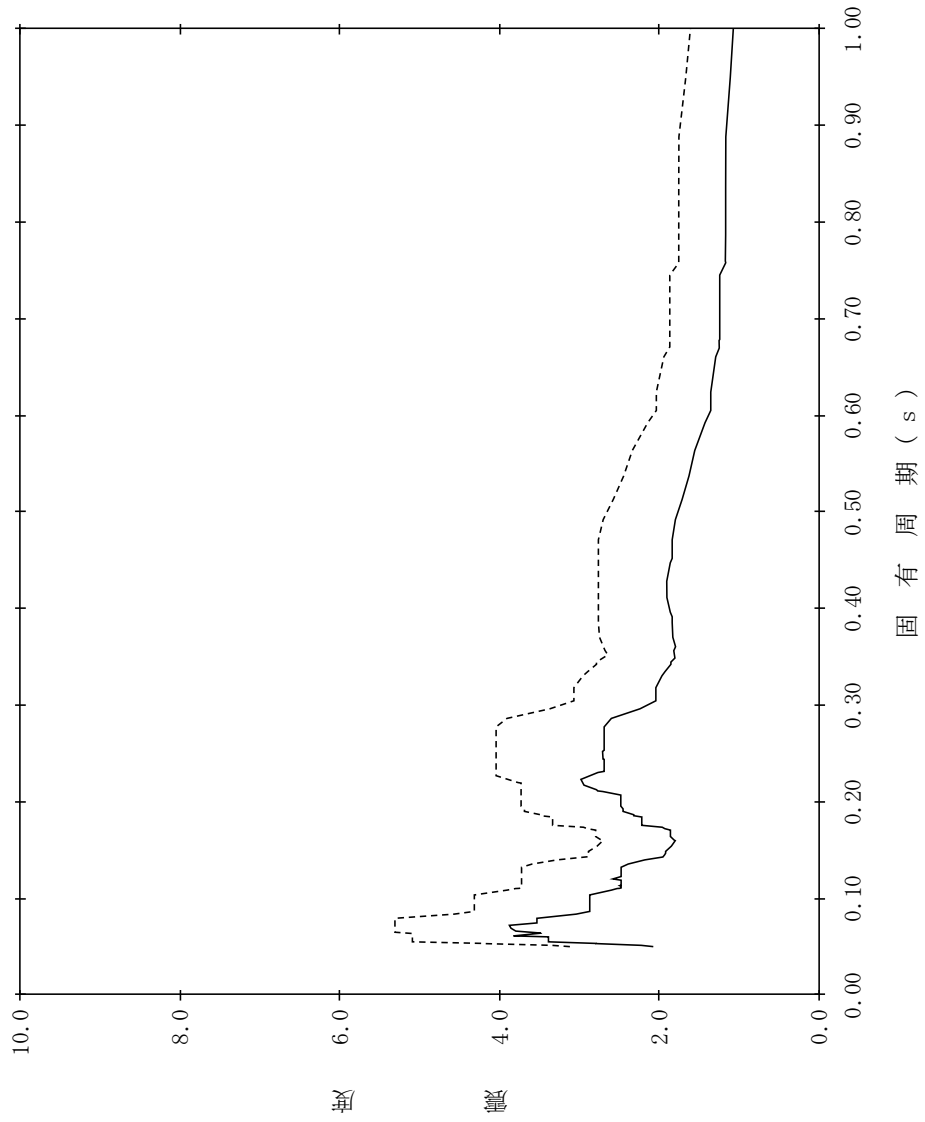
【NS2-PCV-SsEW-PCV84】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

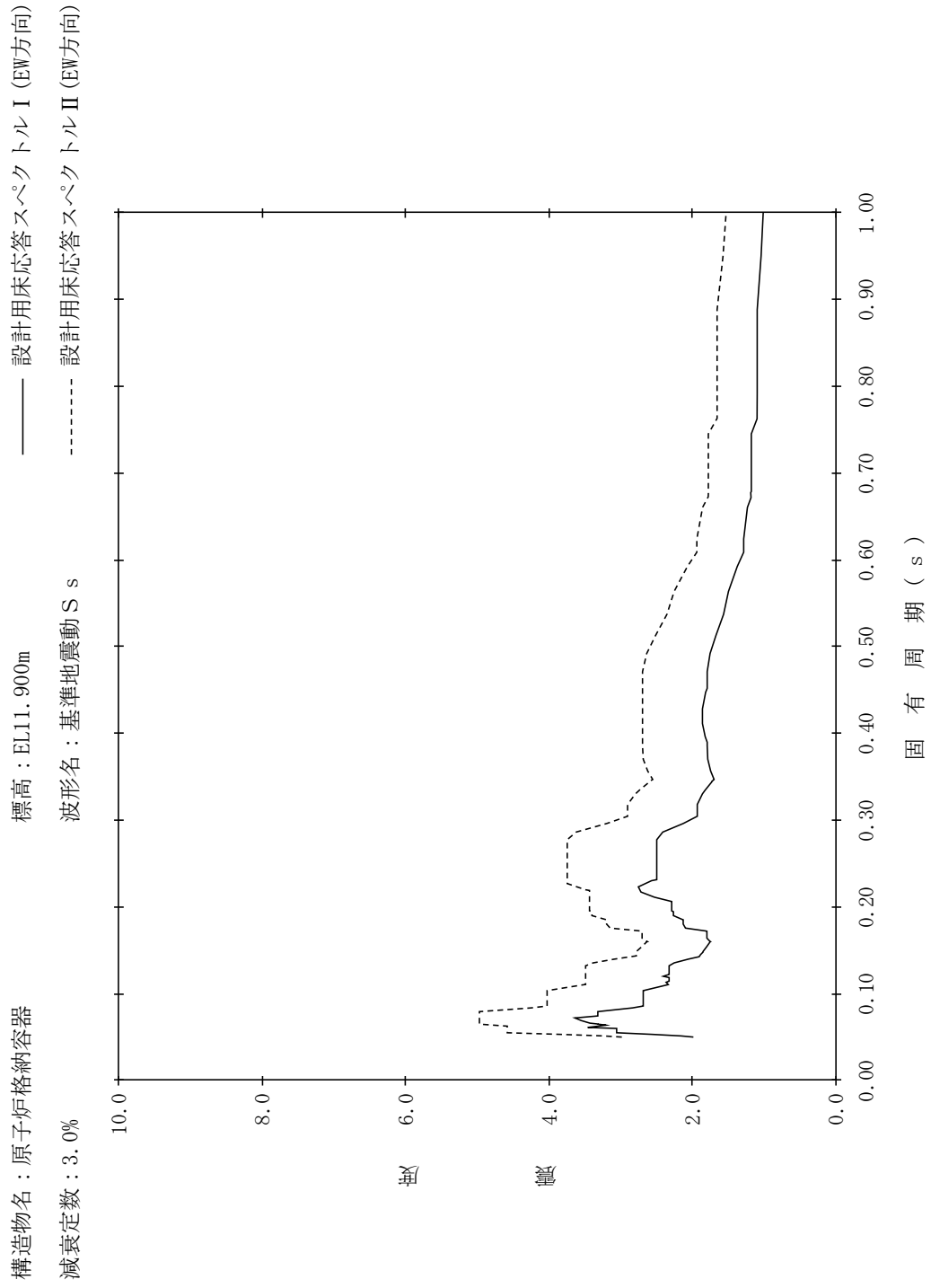


【NS2-PCV-SsEW-PCV85】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

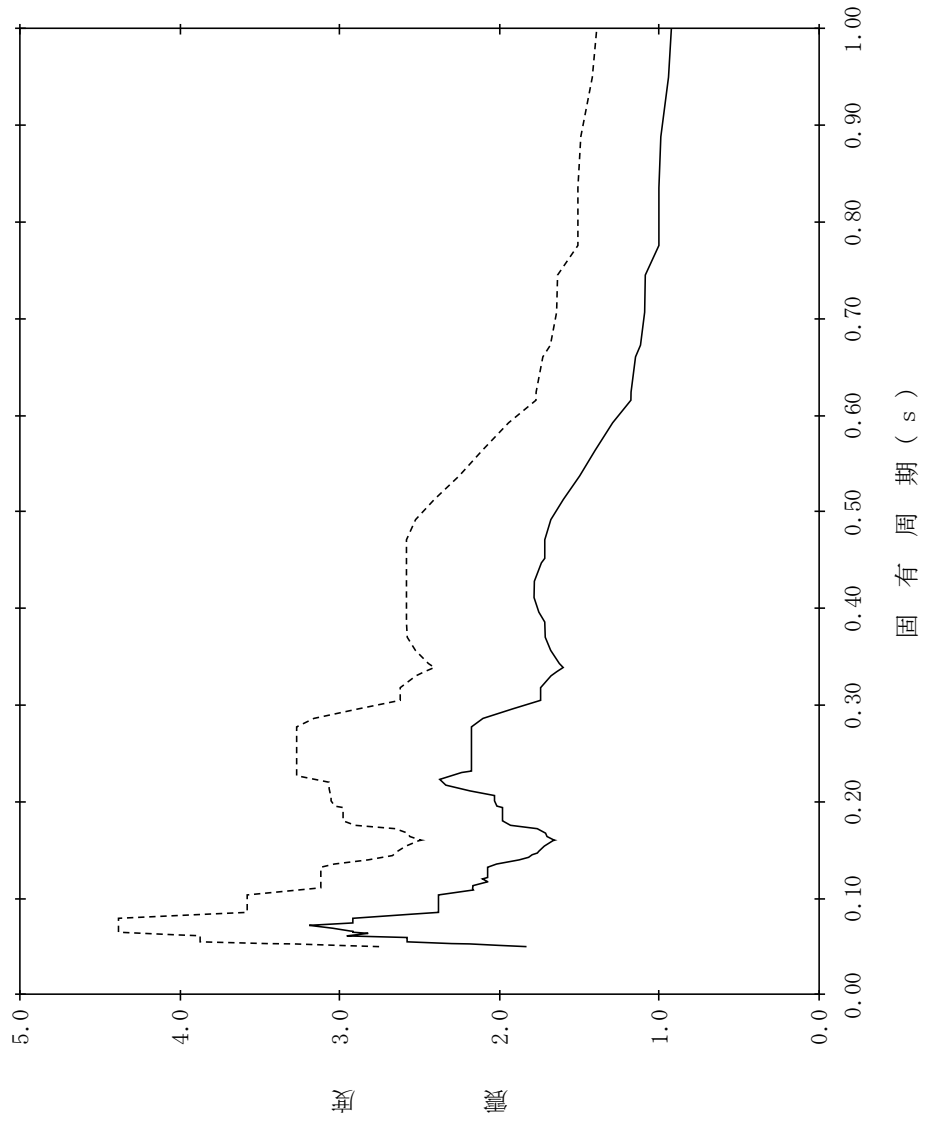


【NS2-PCV-SsEW-PCV86】



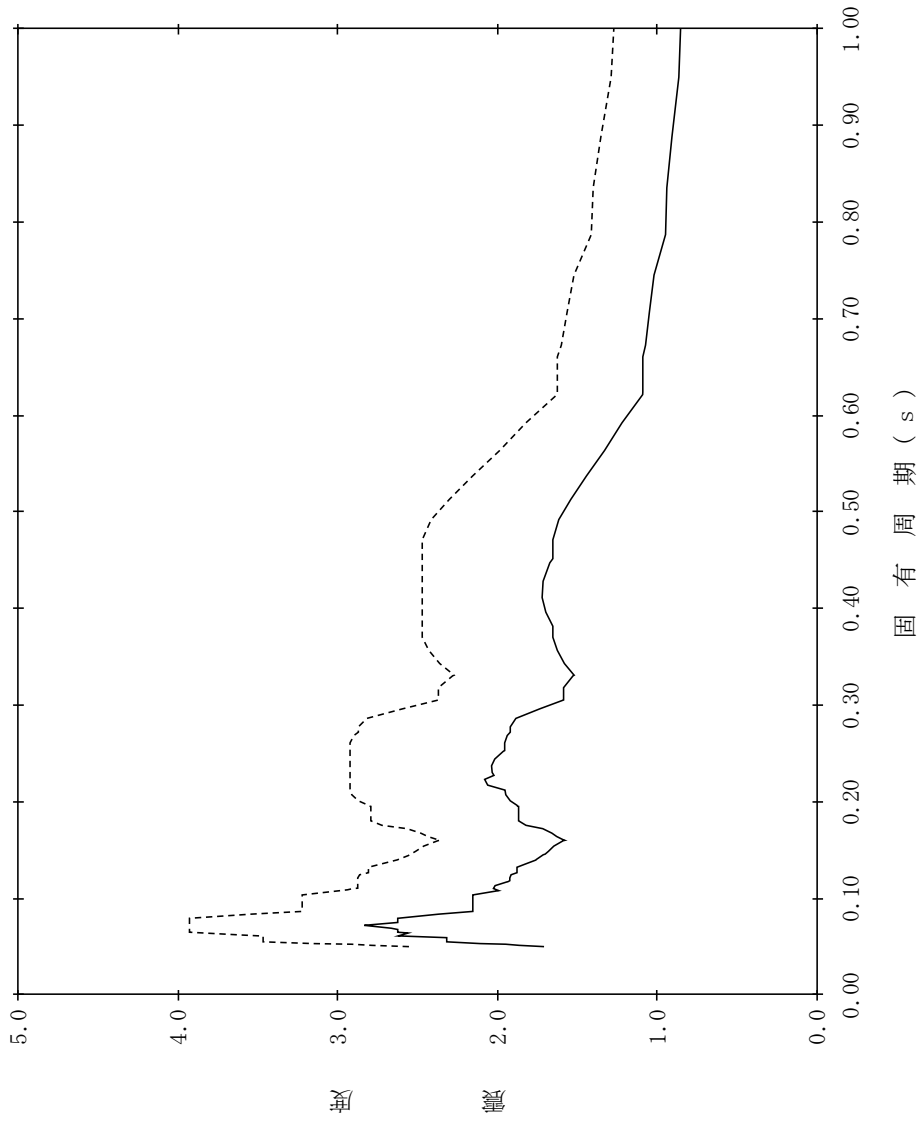
【NS2-PCV-SsEW-PCV87】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

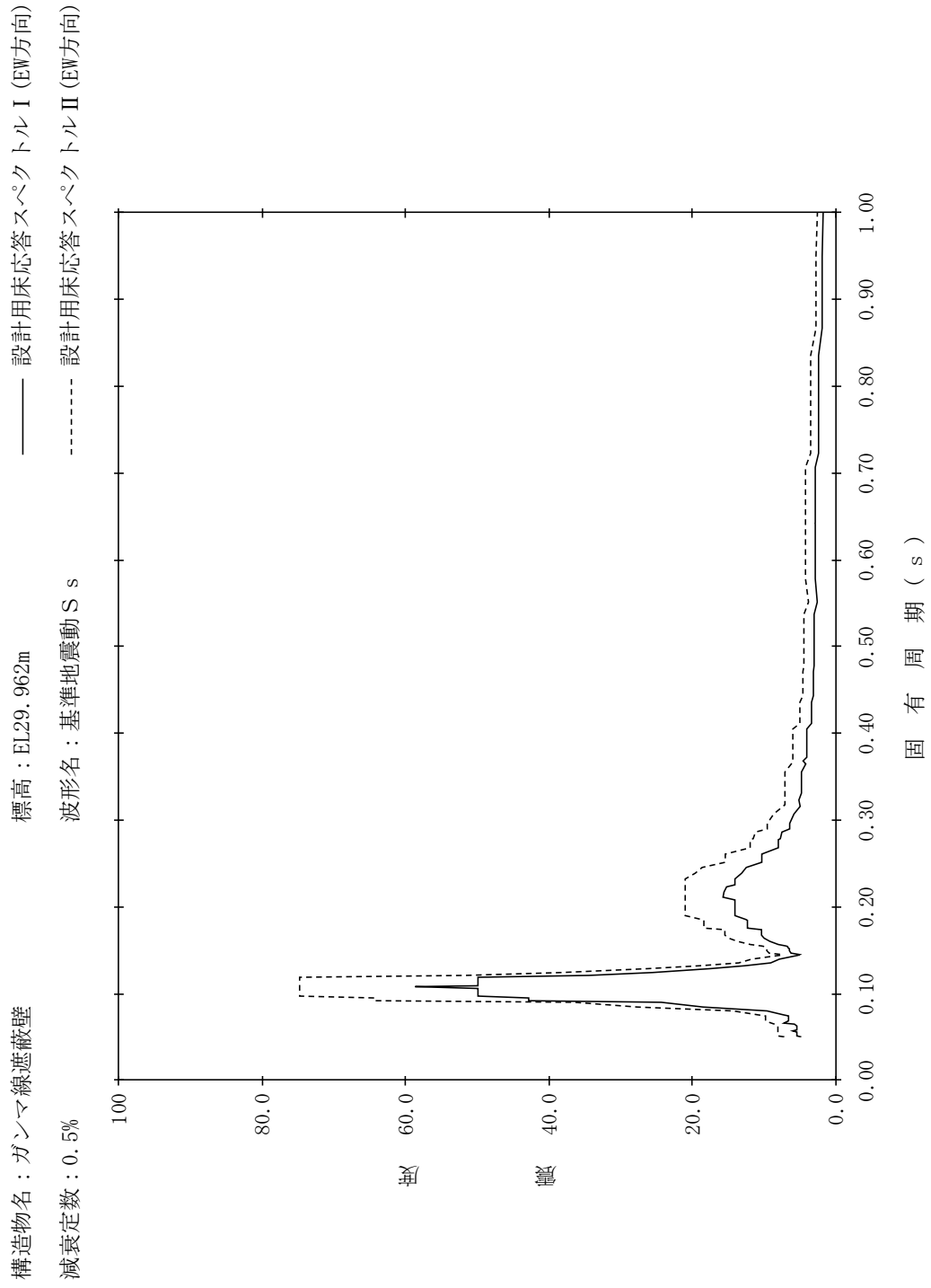


【NS2-PCV-SsEW-PCV88】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

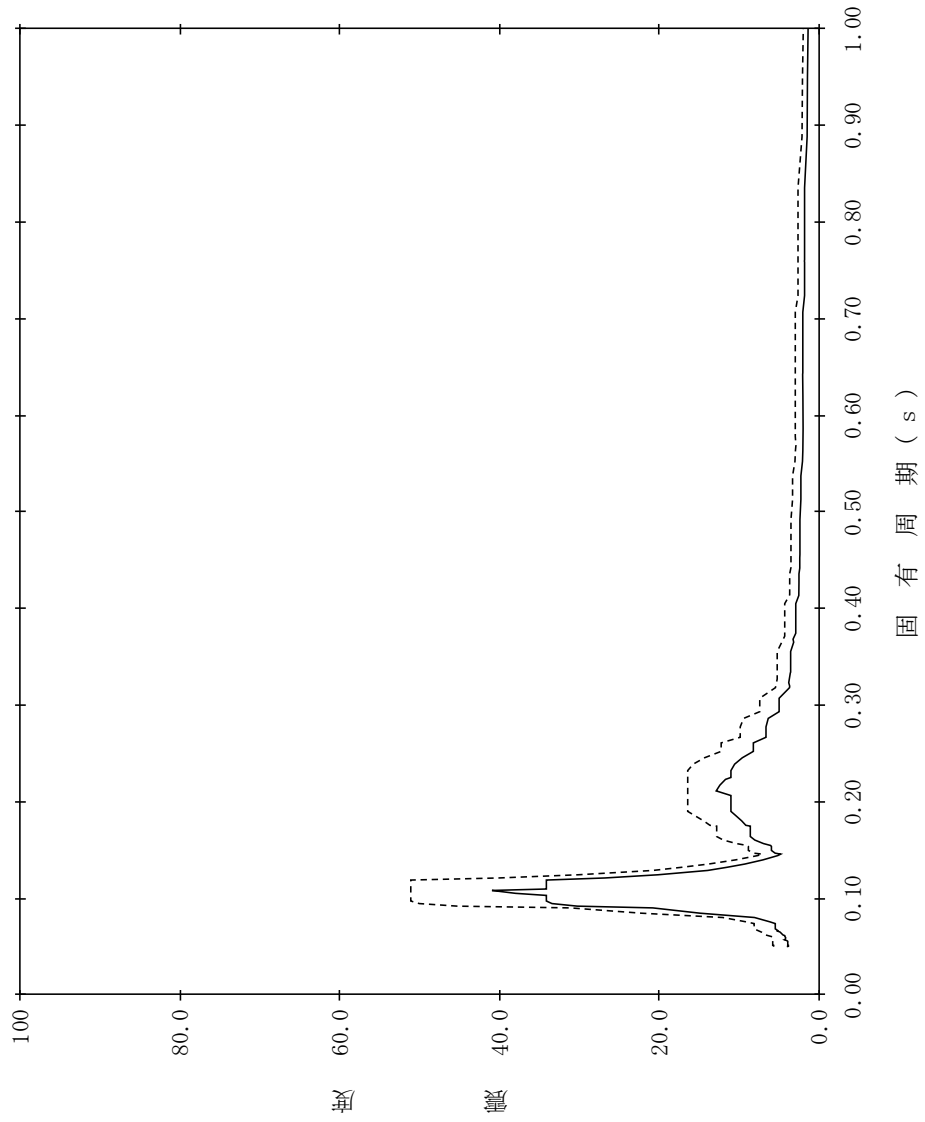


【NS2-PCV-SsEW-GSW89】

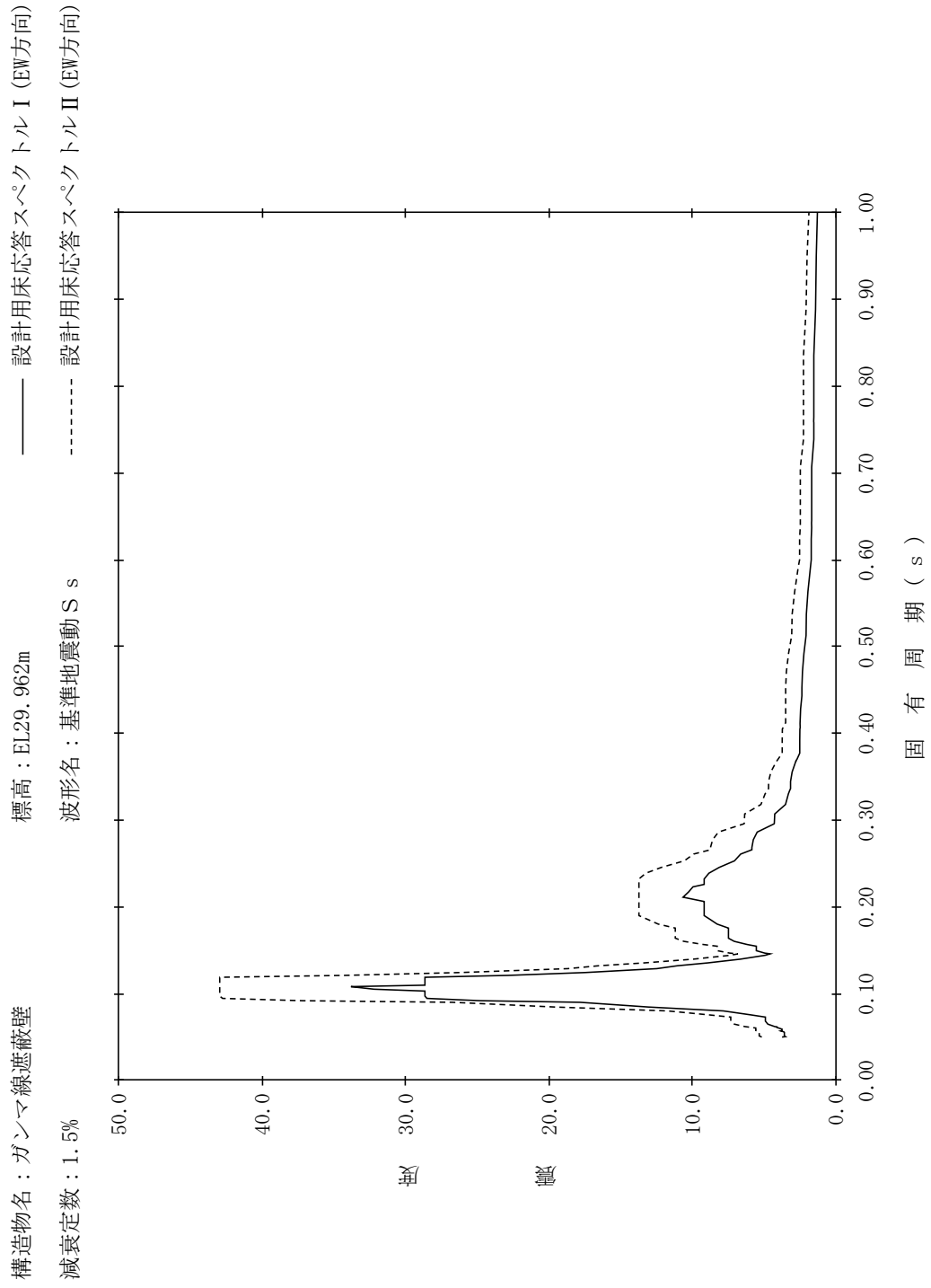


【NS2-PCV-SsEW-GSW90】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL29.962m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

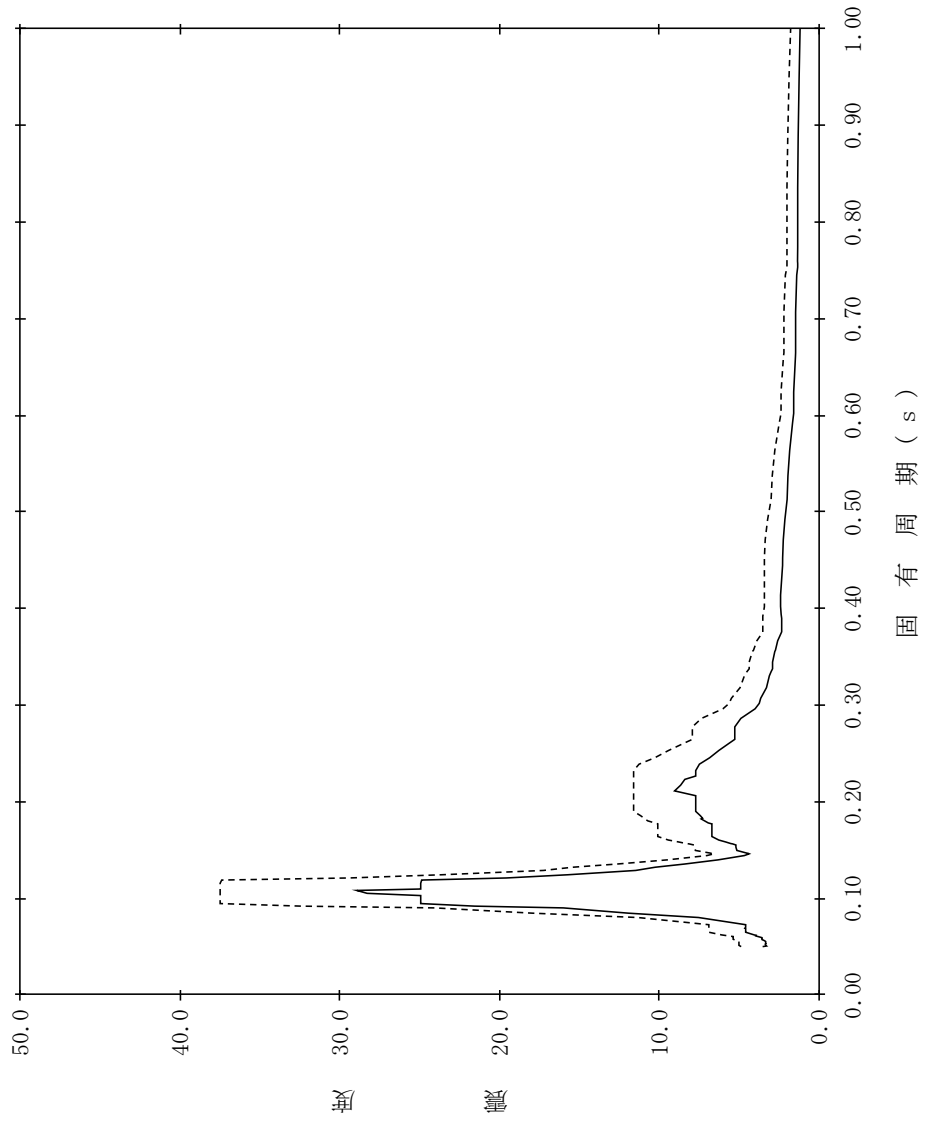


【NS2-PCV-SsEW-GSW91】



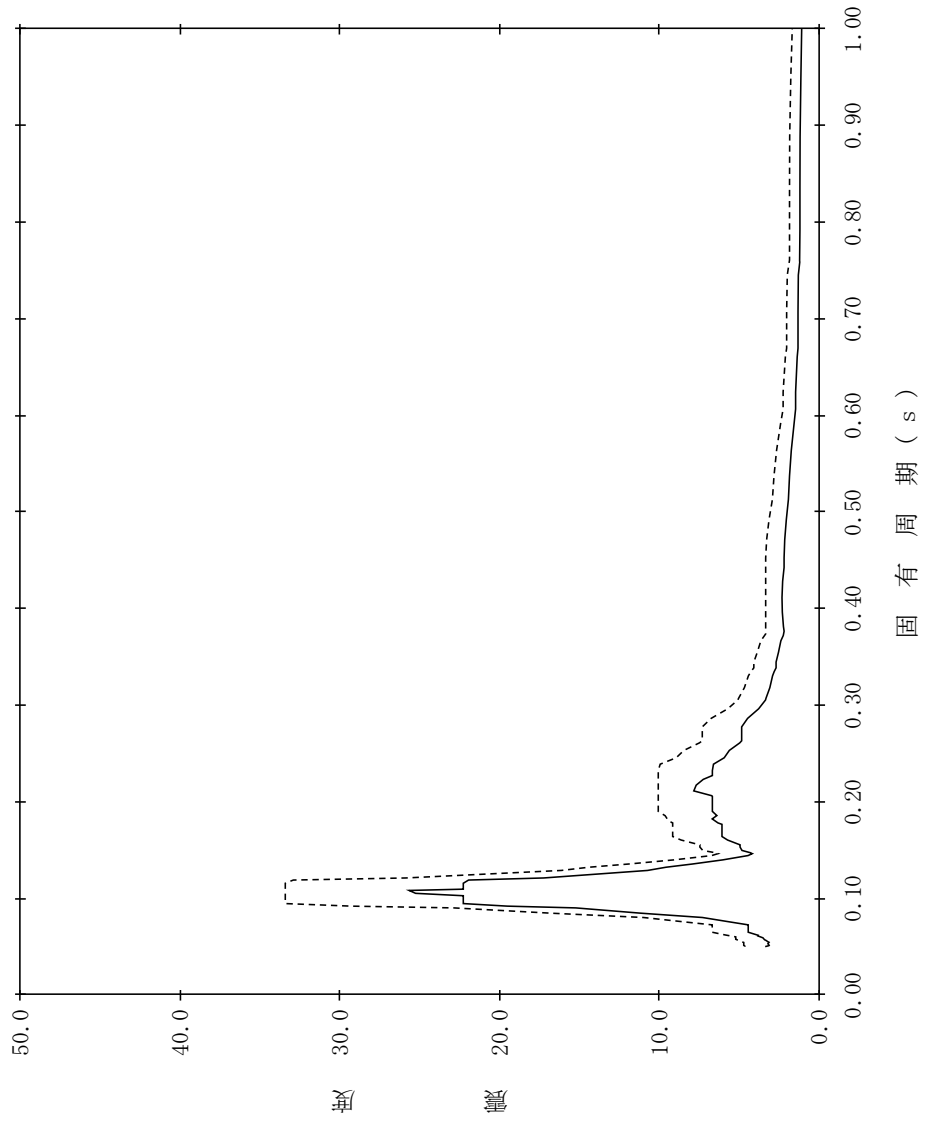
【NS2-PCV-SsEW-GSW92】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-PCV-SsEW-GSW93】

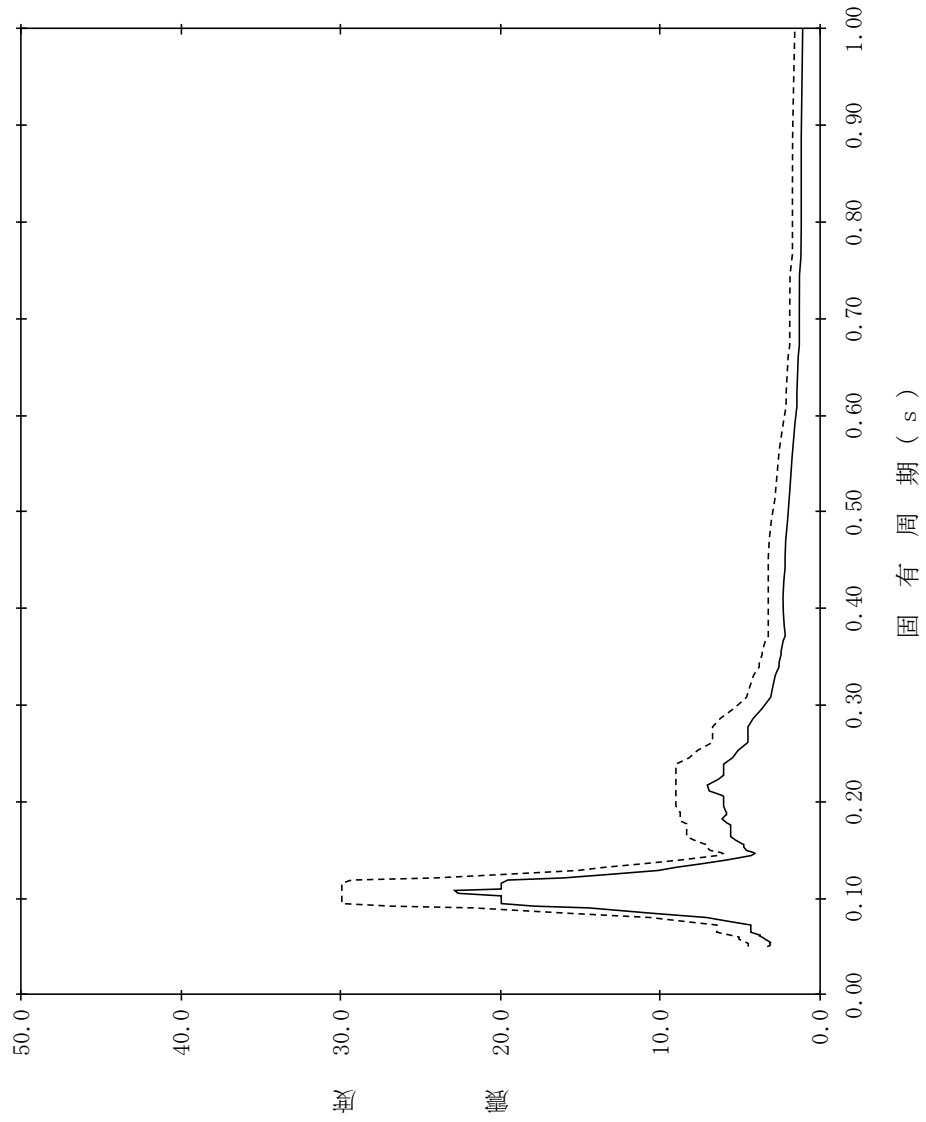
構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-PCV-SsEW-GSW94】

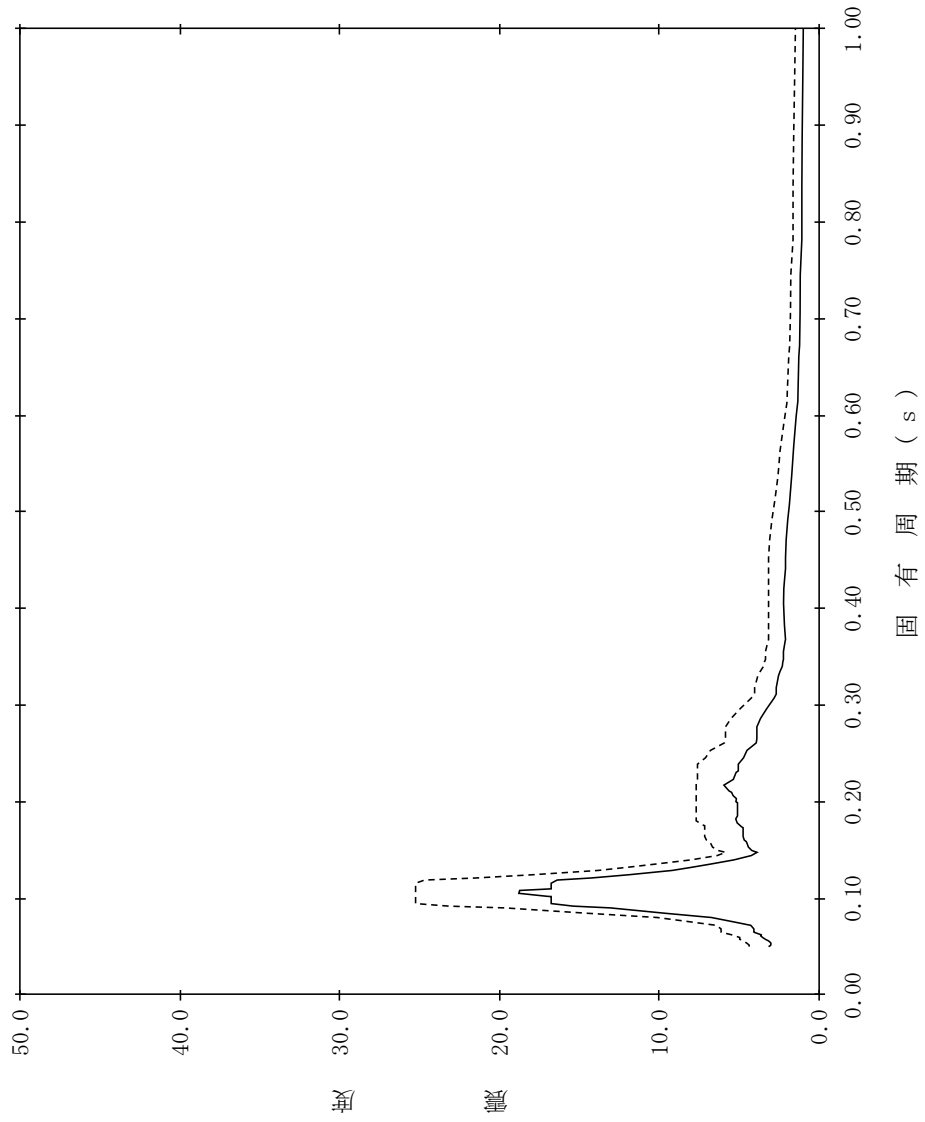
構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL29.962m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



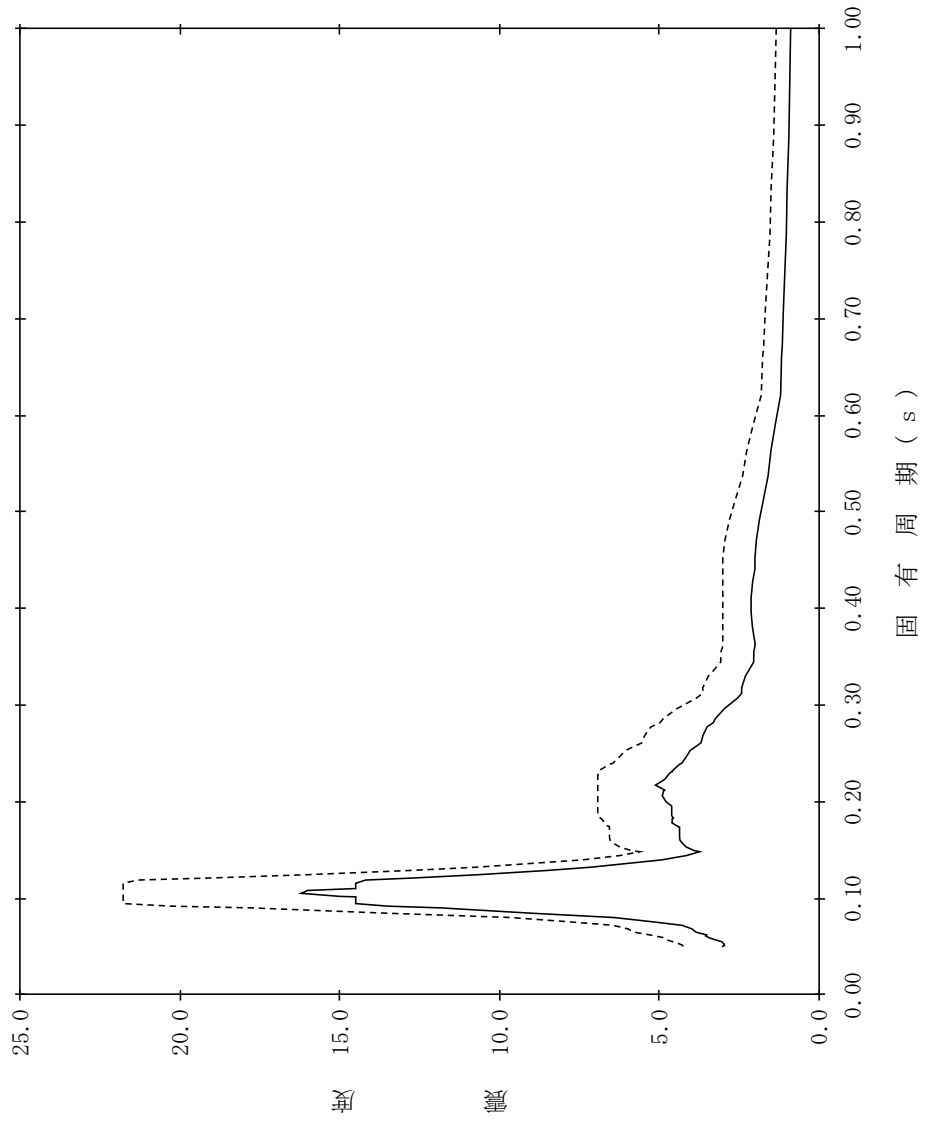
【NS2-PCV-SsEW-GSW95】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL29.962m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

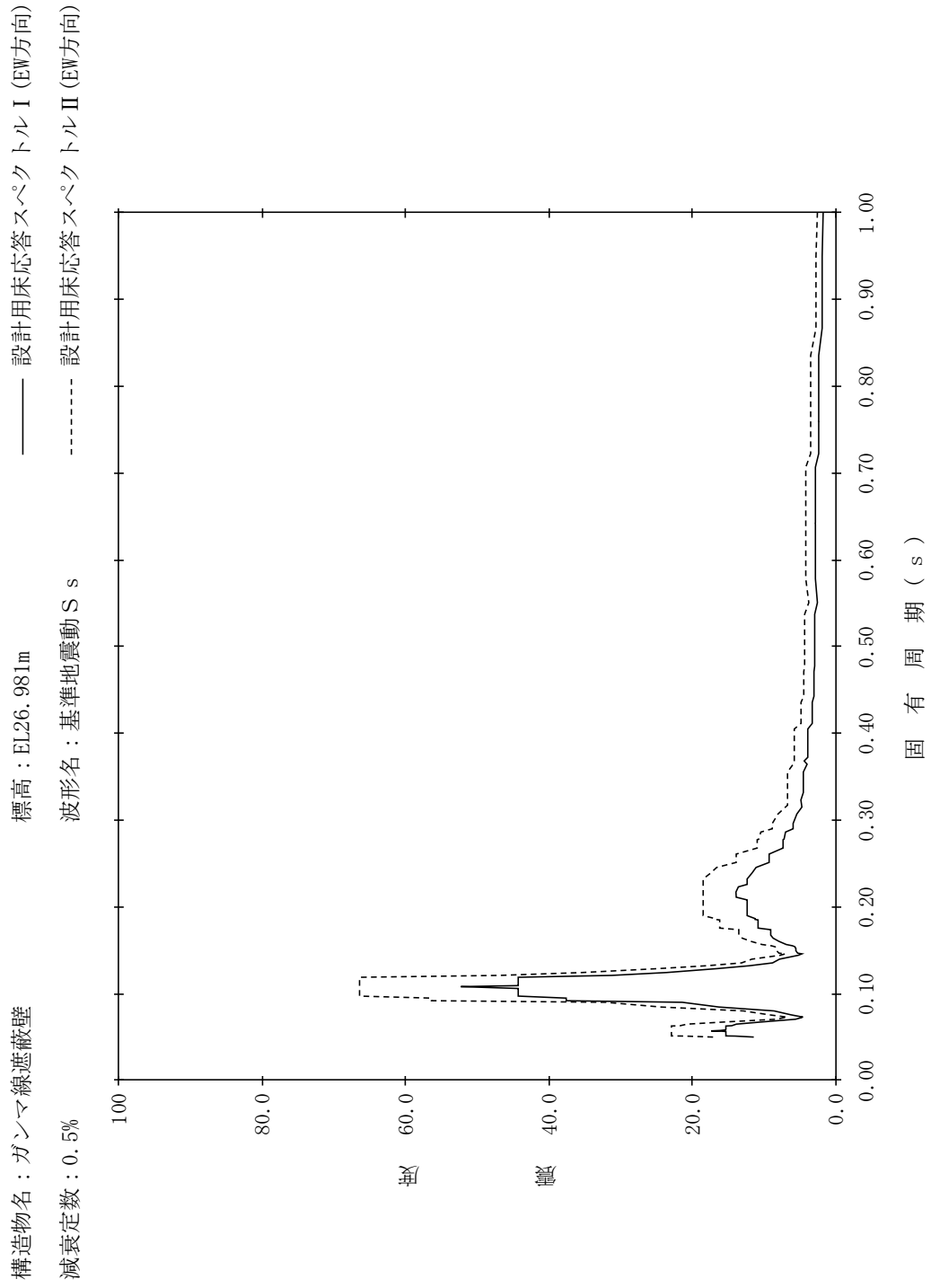


【NS2-PCV-SsEW-GSW96】

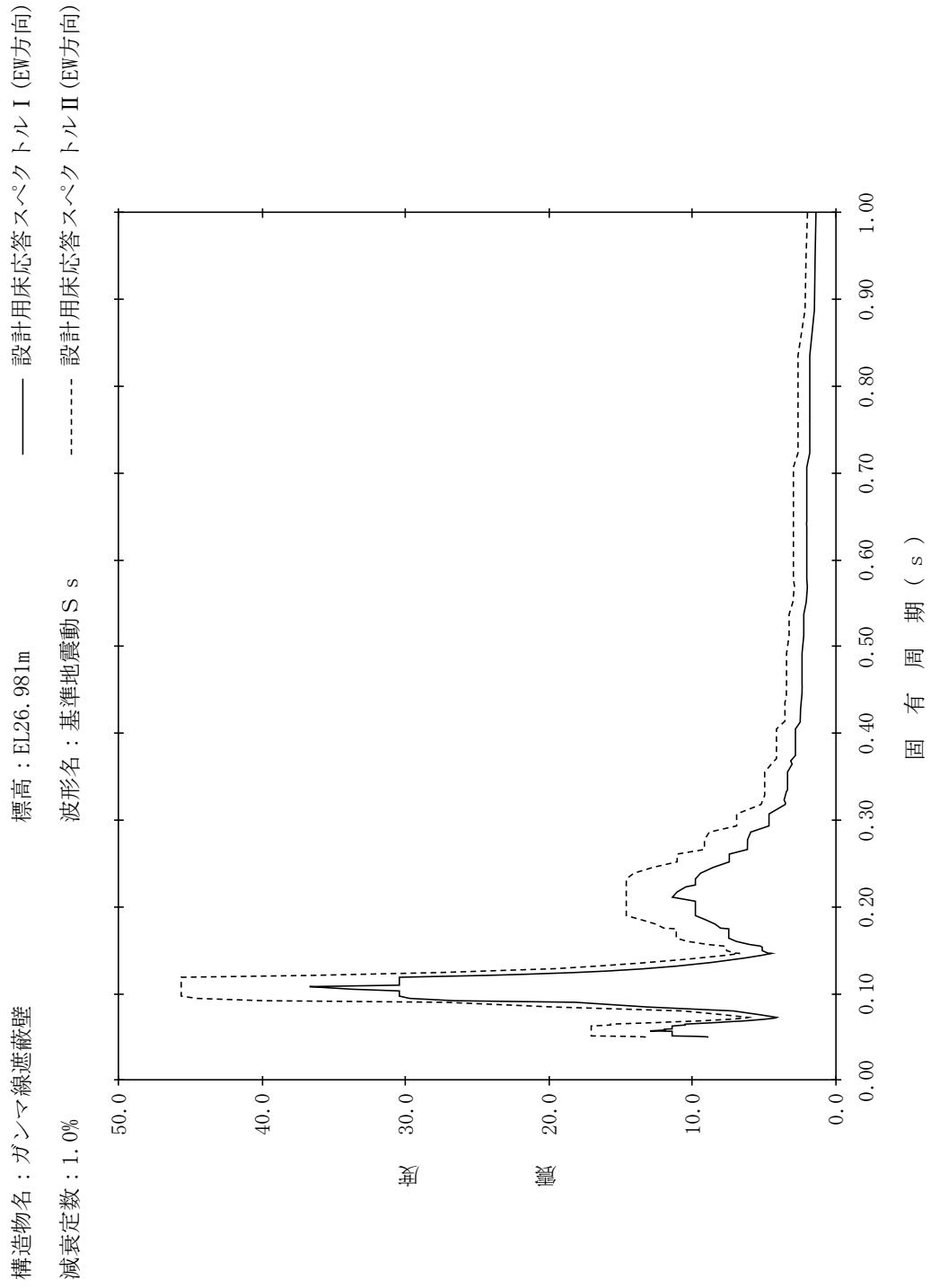
構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



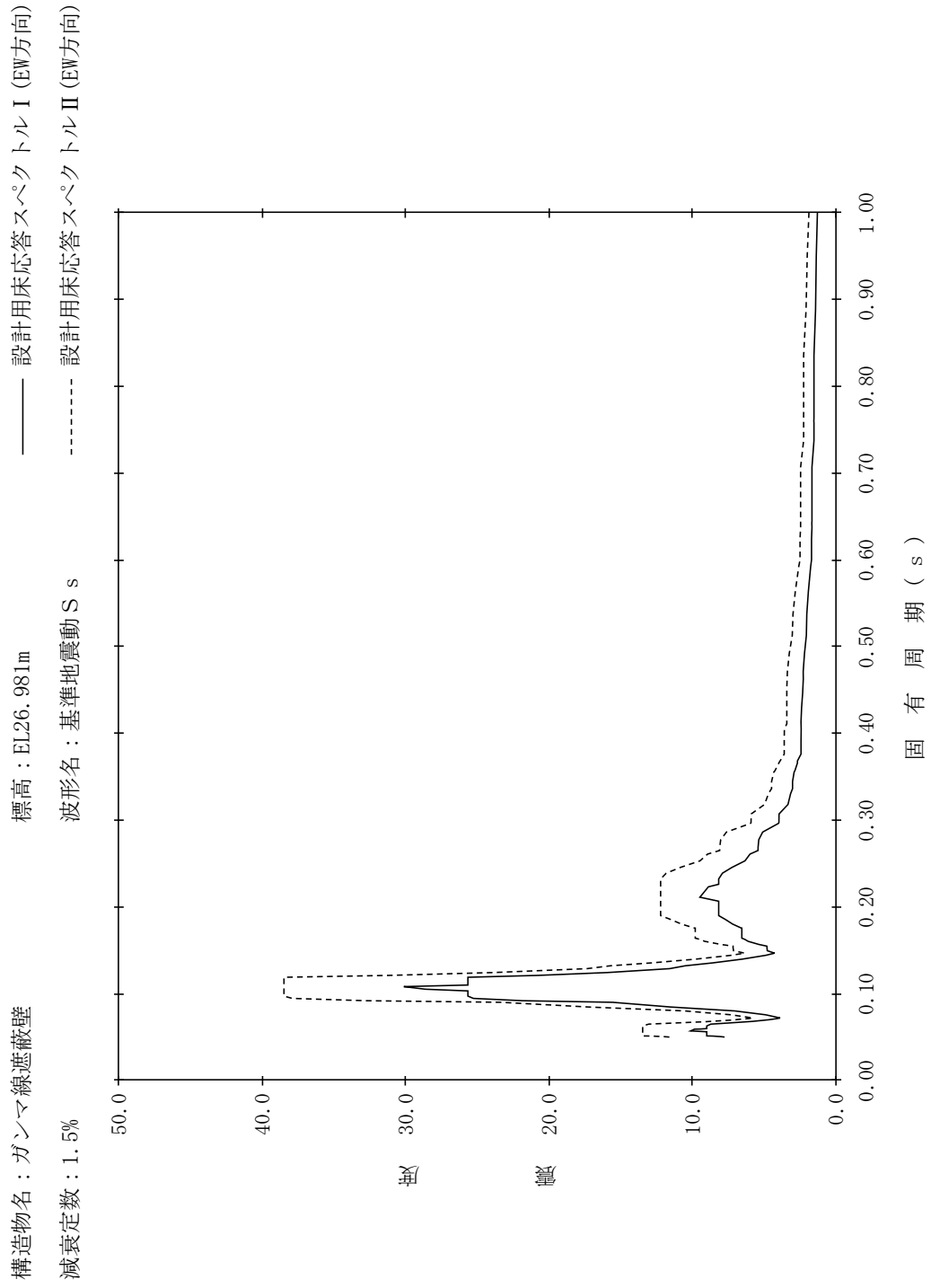
【NS2-PCV-SsEW-GSW97】



【NS2-PCV-SsEW-GSW98】



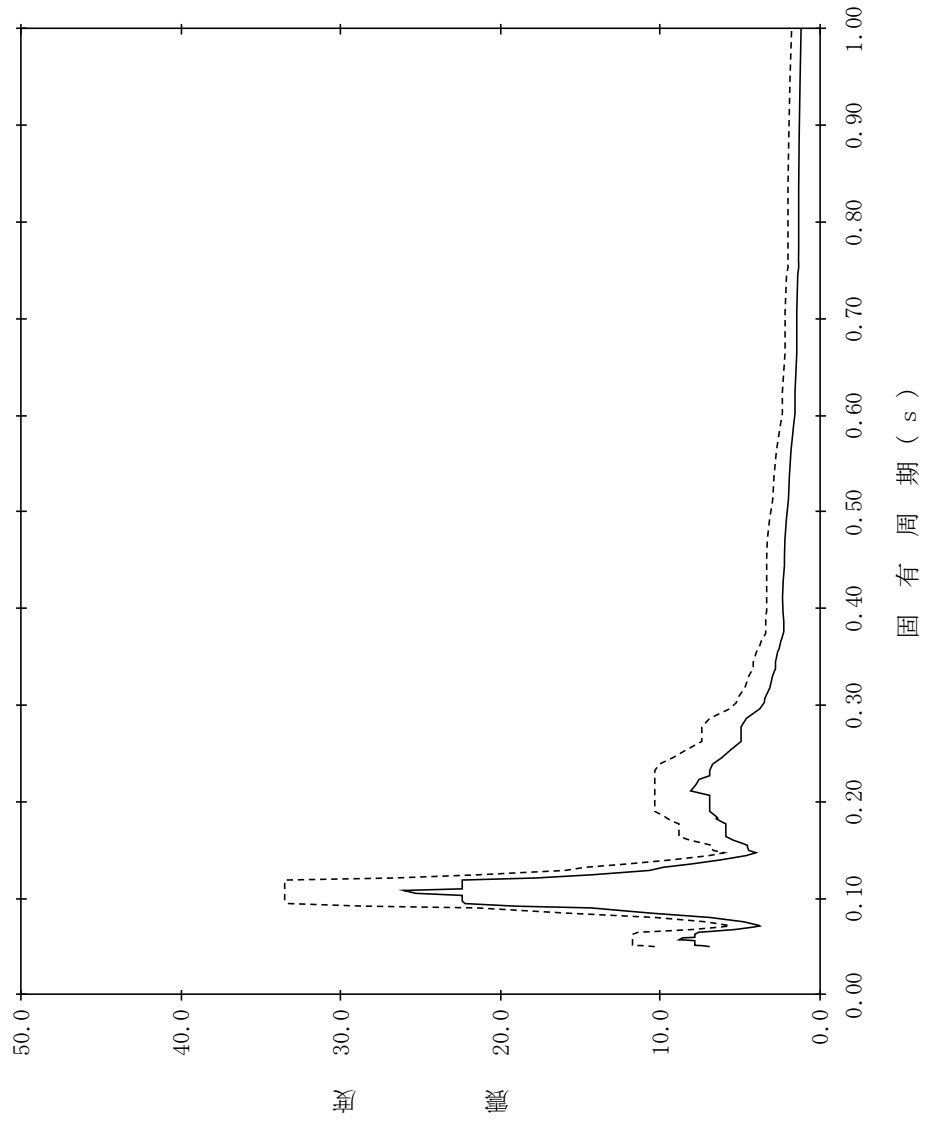
【NS2-PCV-SsEW-GSW99】



【NS2-PCV-SsEW-GSW100】

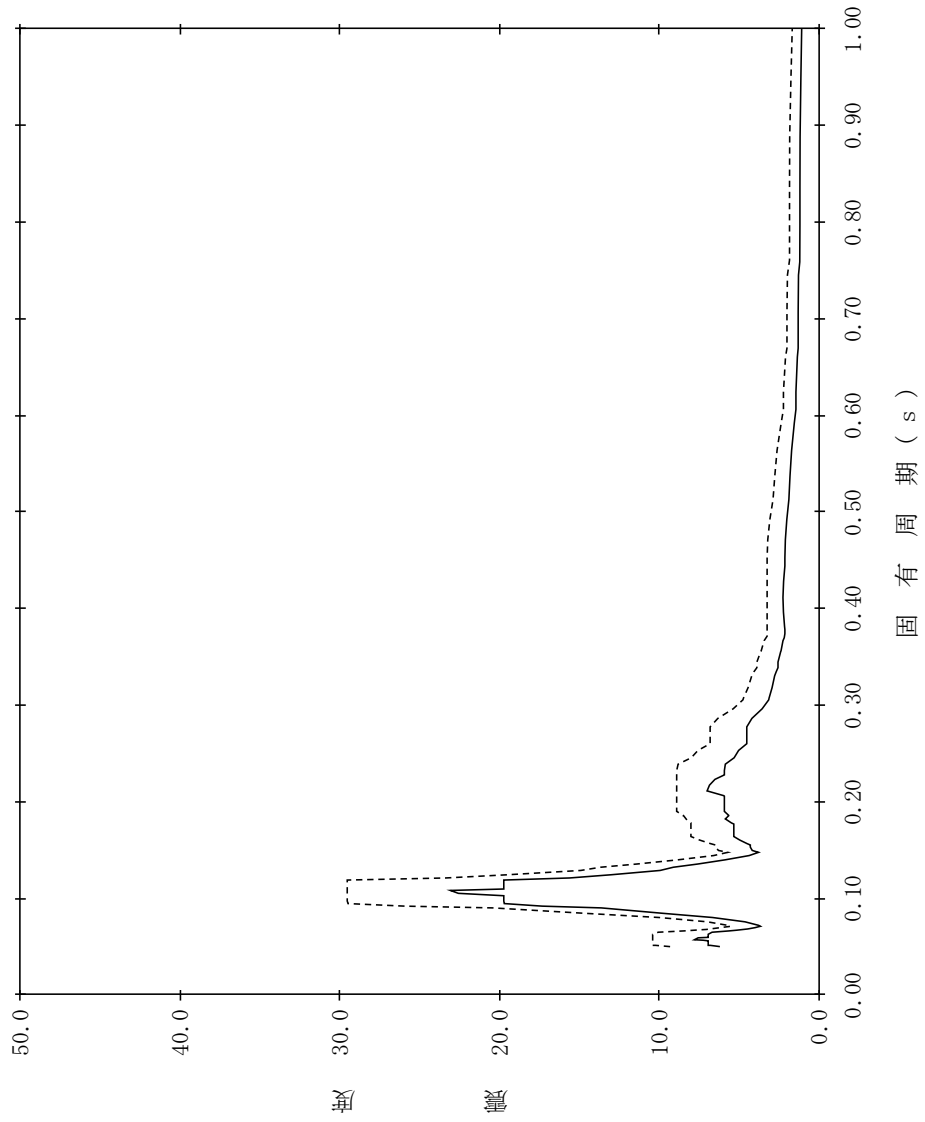
構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL26.981m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



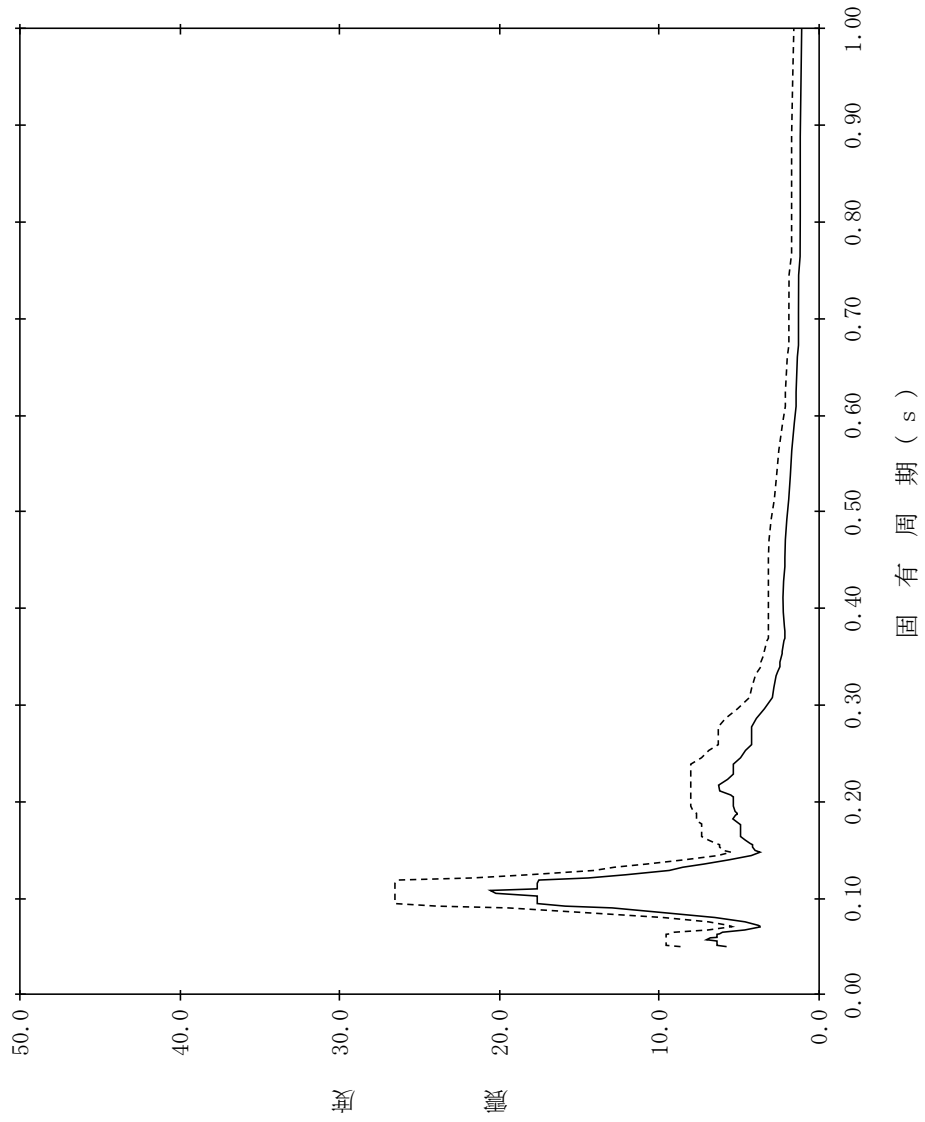
【NS2-PCV-SsEW-GSW101】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



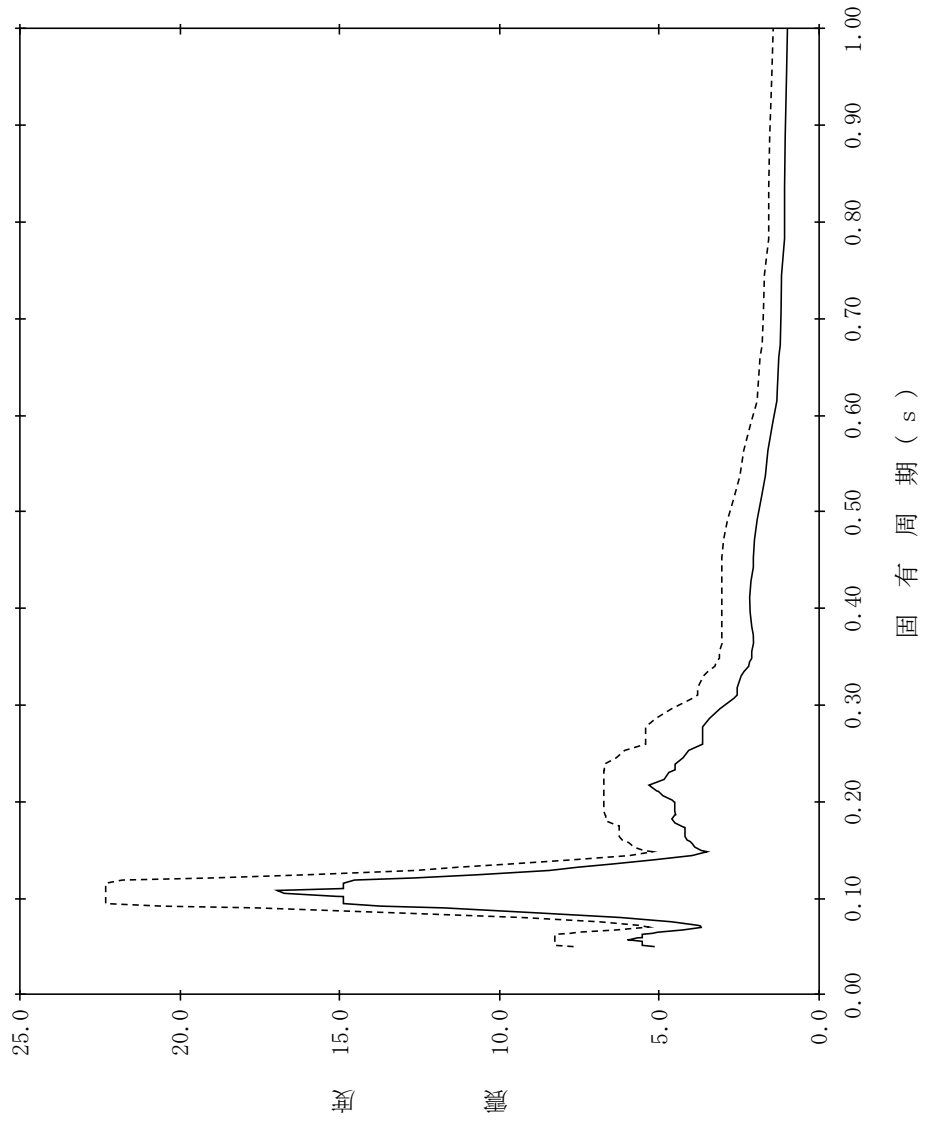
【NS2-PCV-SsEW-GSW102】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



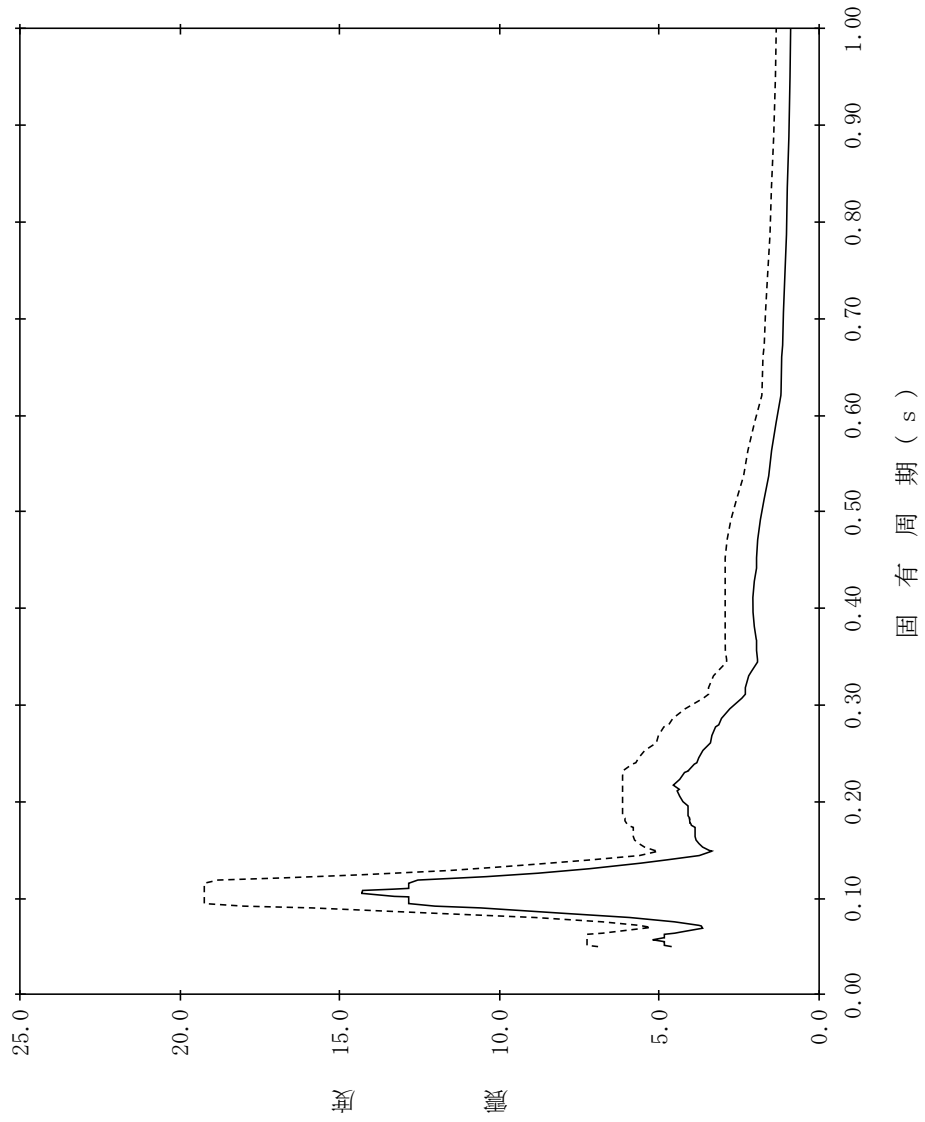
【NS2-PCV-SsEW-GSW103】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

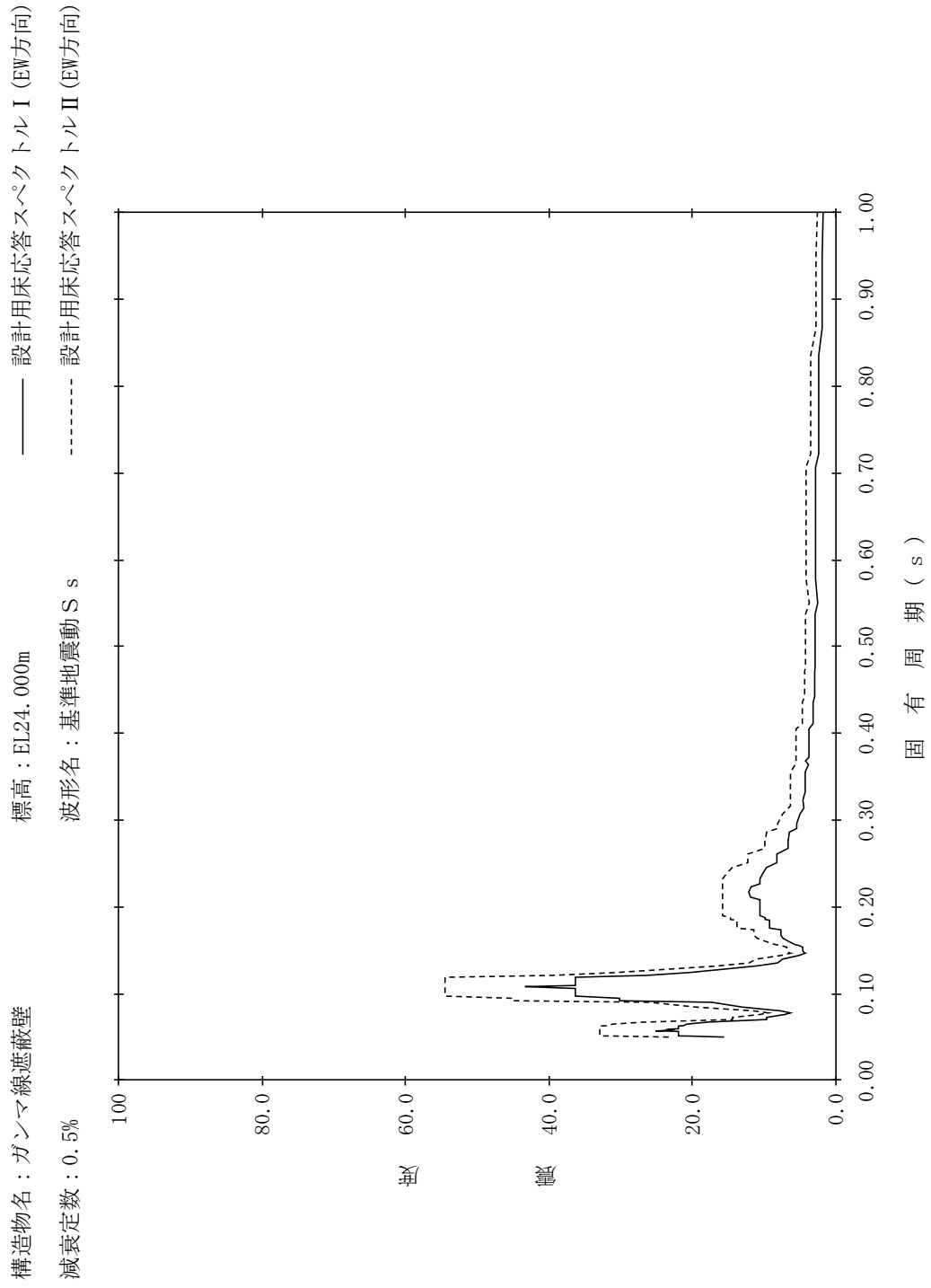


【NS2-PCV-SsEW-GSW104】

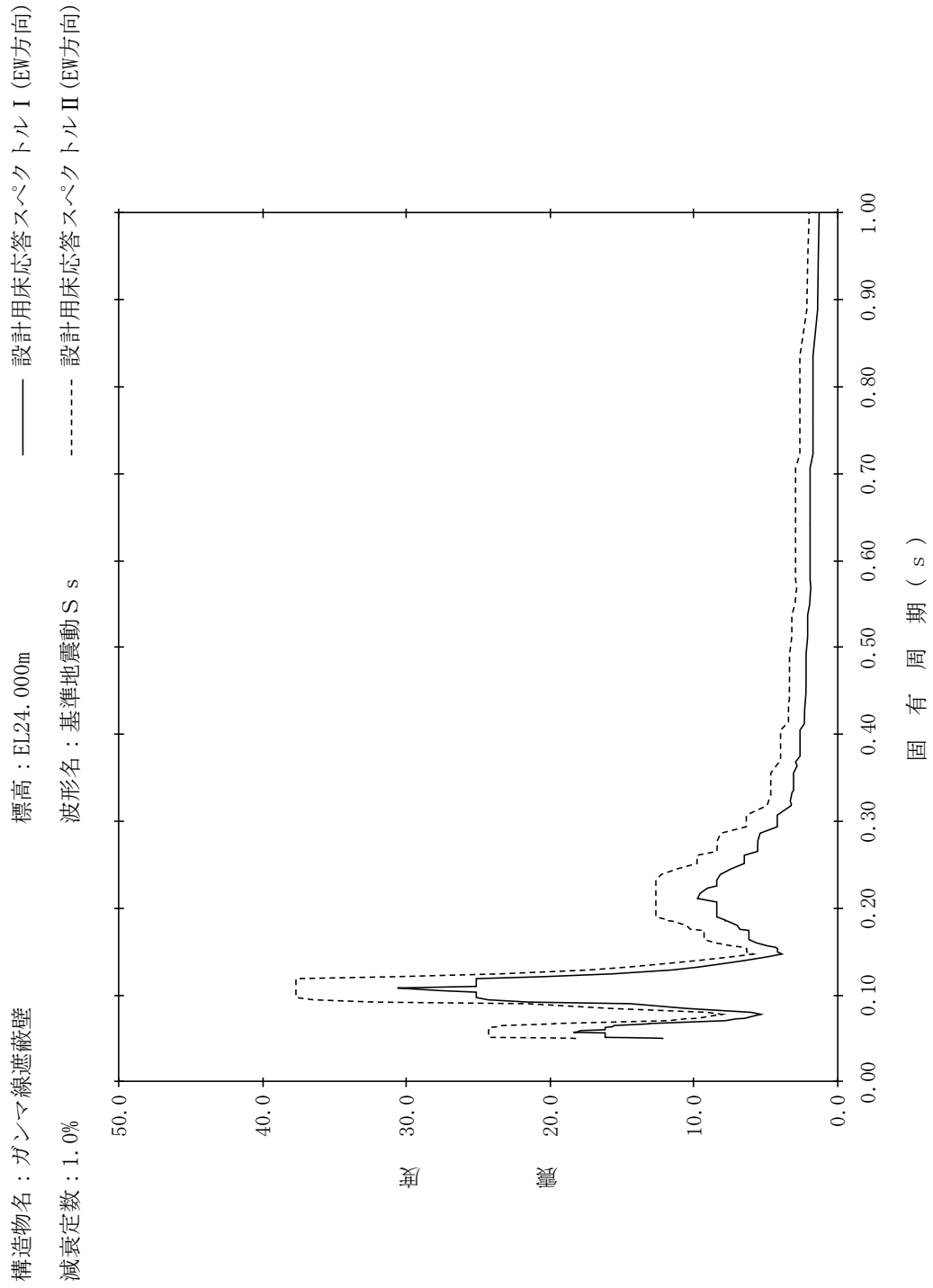
構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-PCV-SsEW-GSW105】

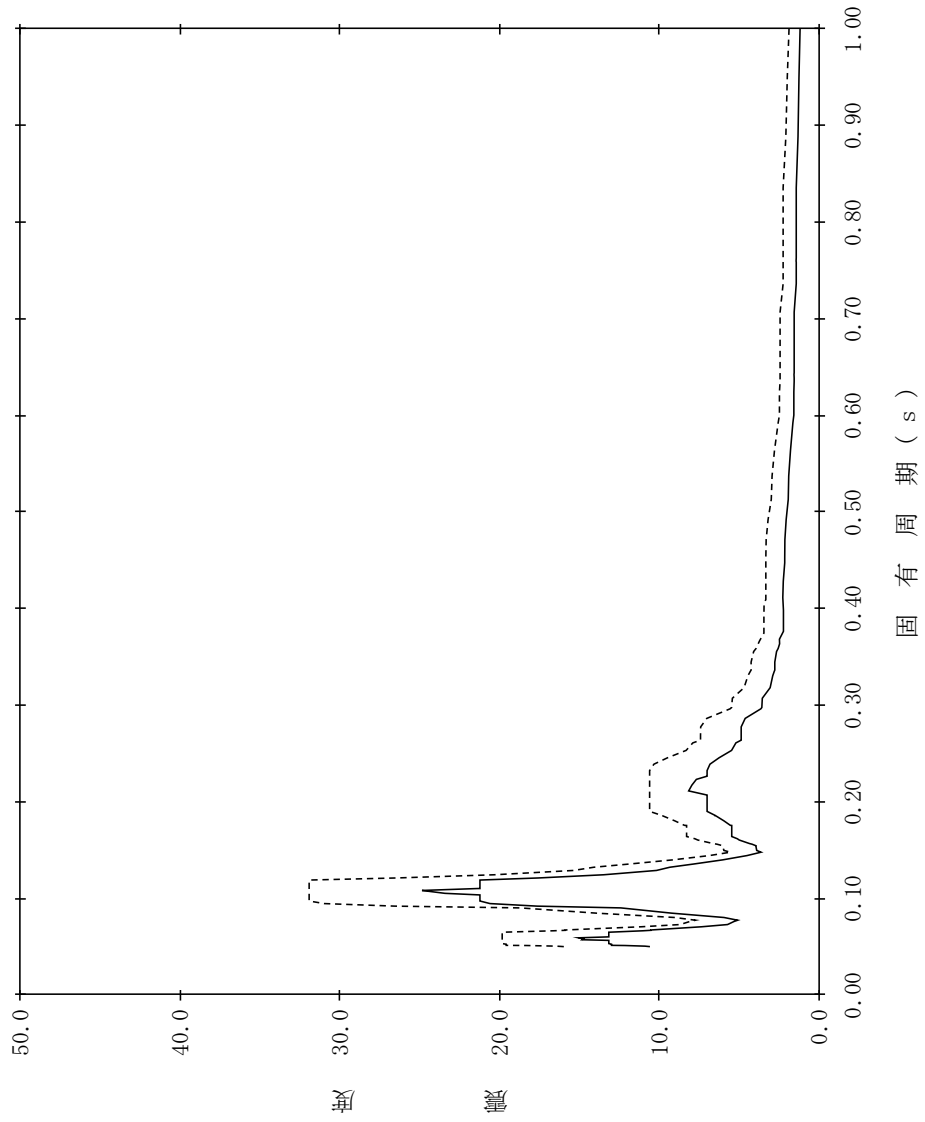


【NS2-PCV-SsEW-GSW106】

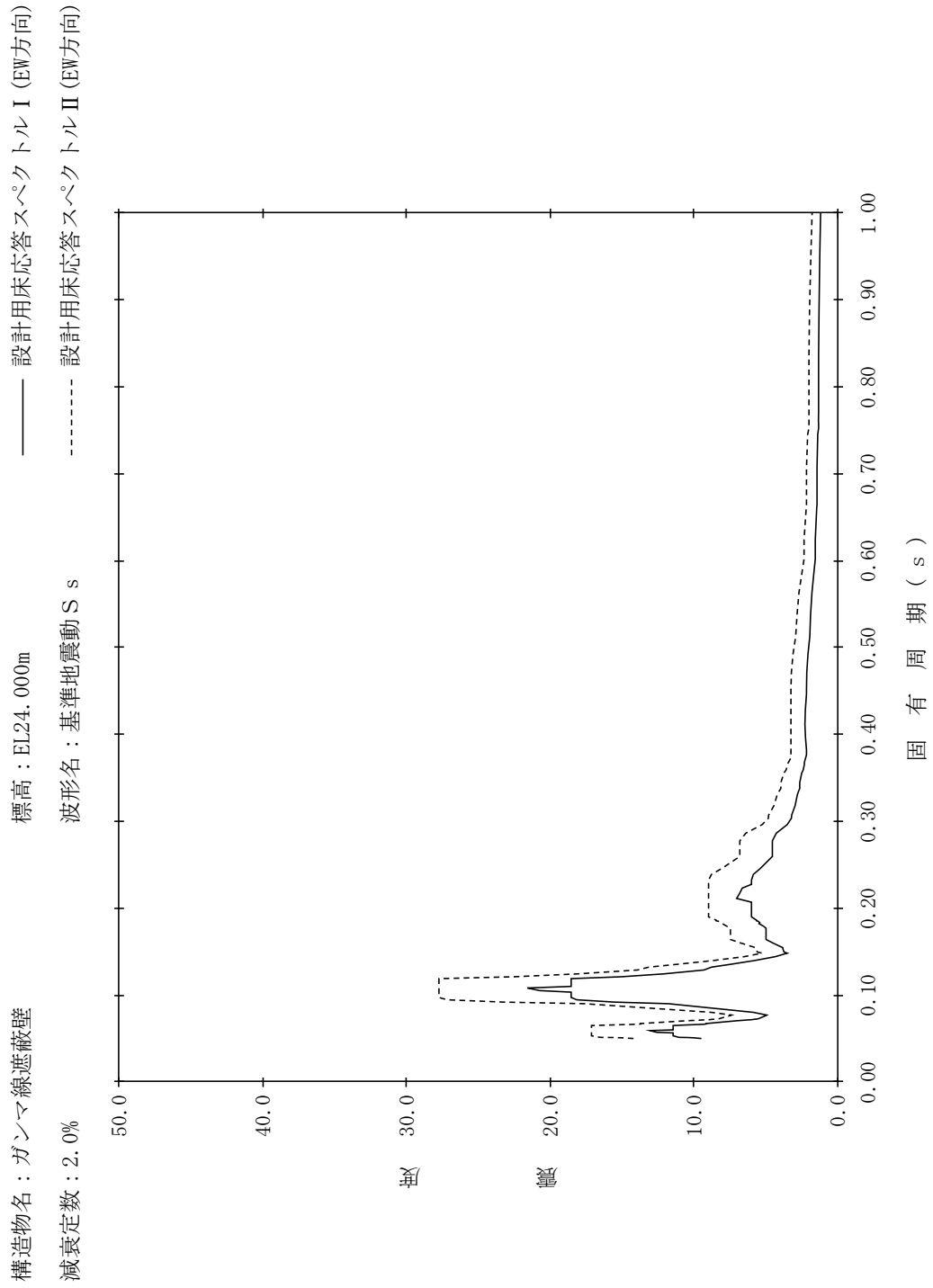


【NS2-PCV-SsEW-GSW107】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

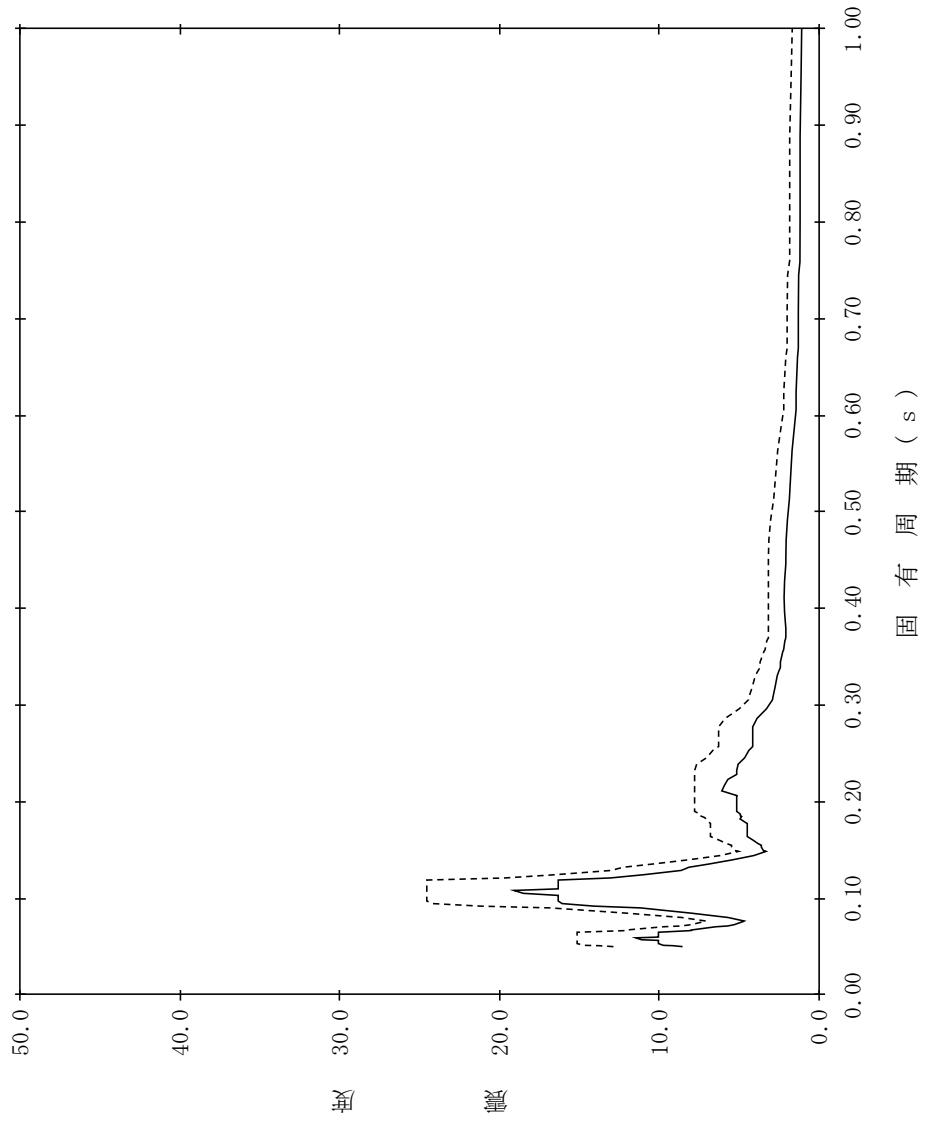


【NS2-PCV-SsEW-GSW108】

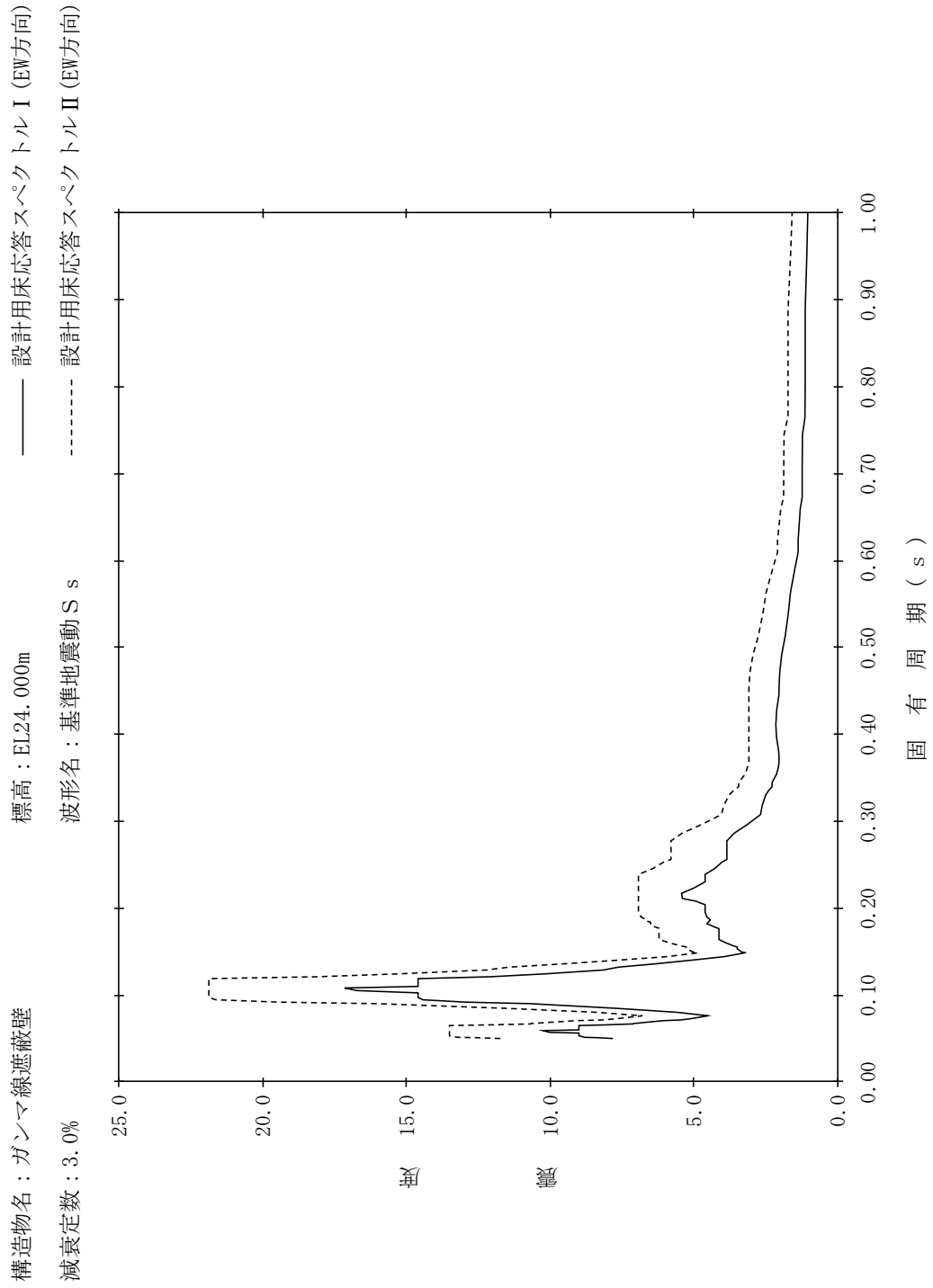


【NS2-PCV-SsEW-GSW109】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL24.000m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (EW方向)
設計用床応答スペクトル II (EW方向)

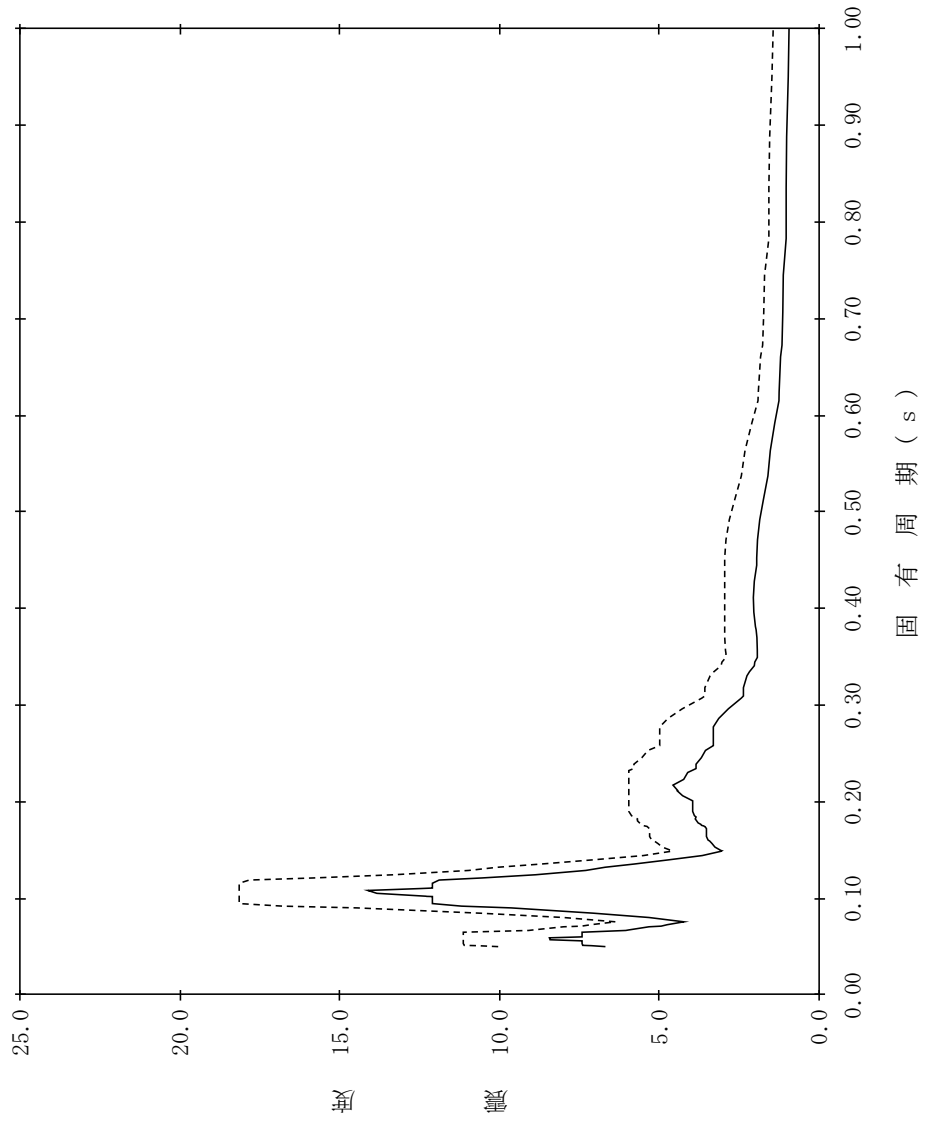


【NS2-PCV-SsEW-GSW110】



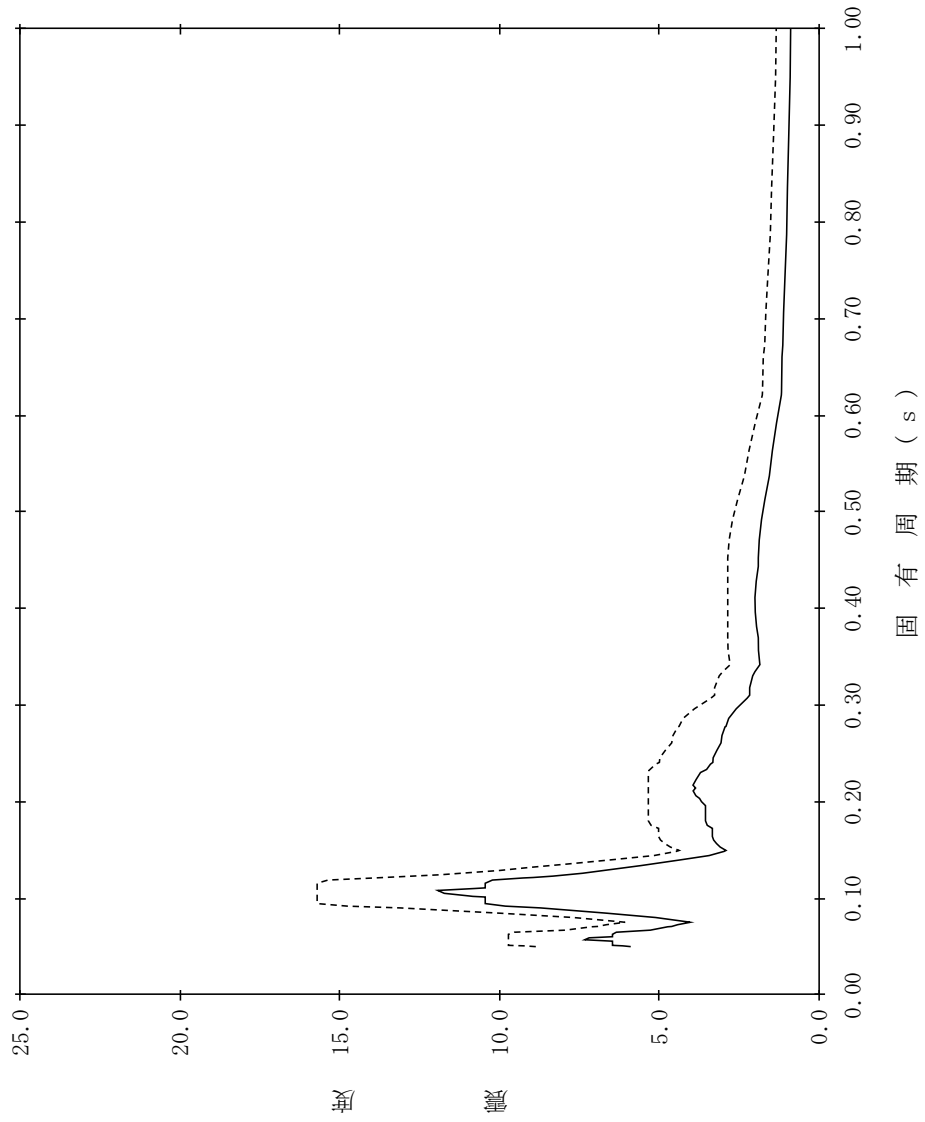
【NS2-PCV-SsEW-GSW111】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

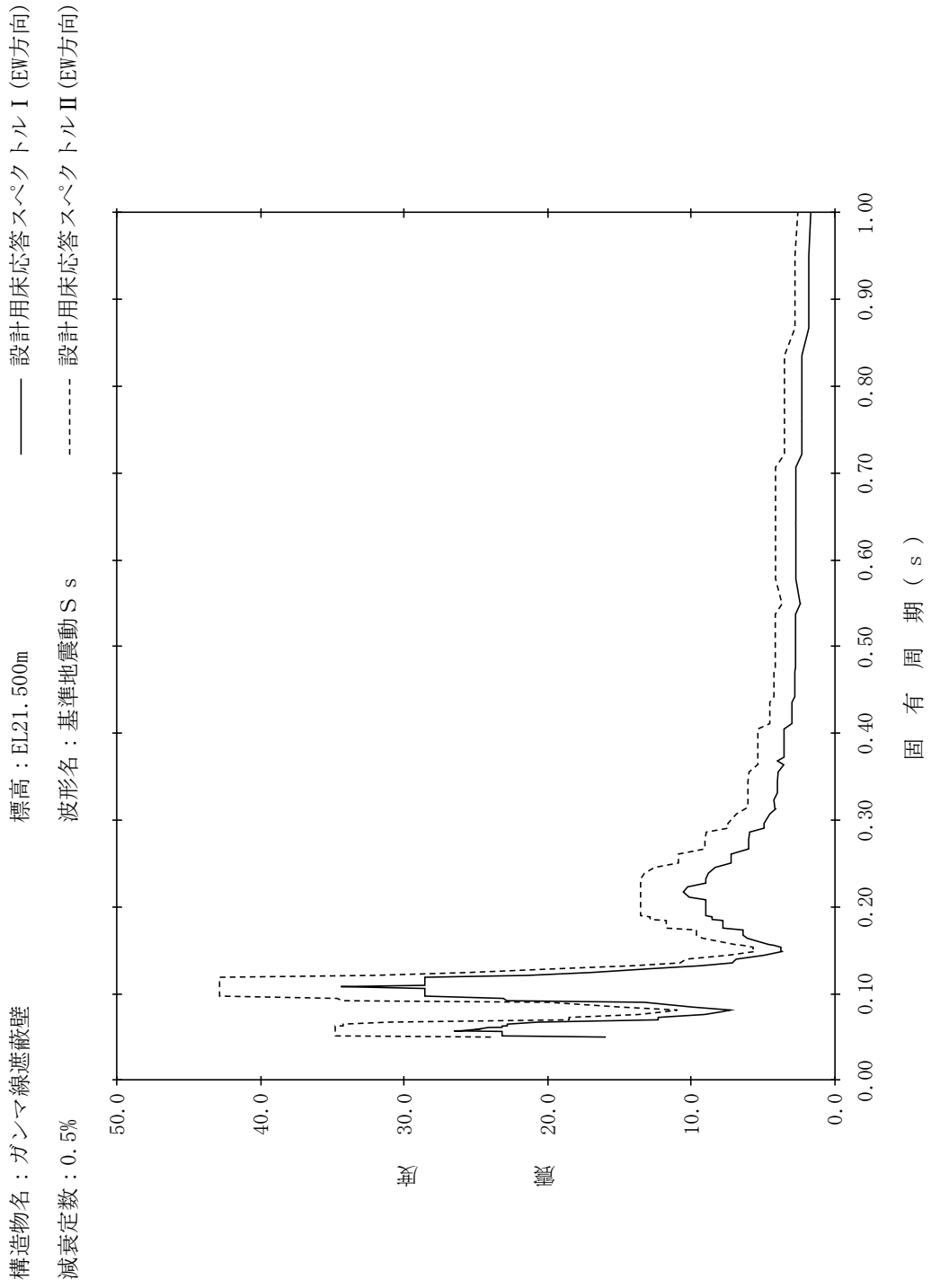


【NS2-PCV-SsEW-GSW112】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

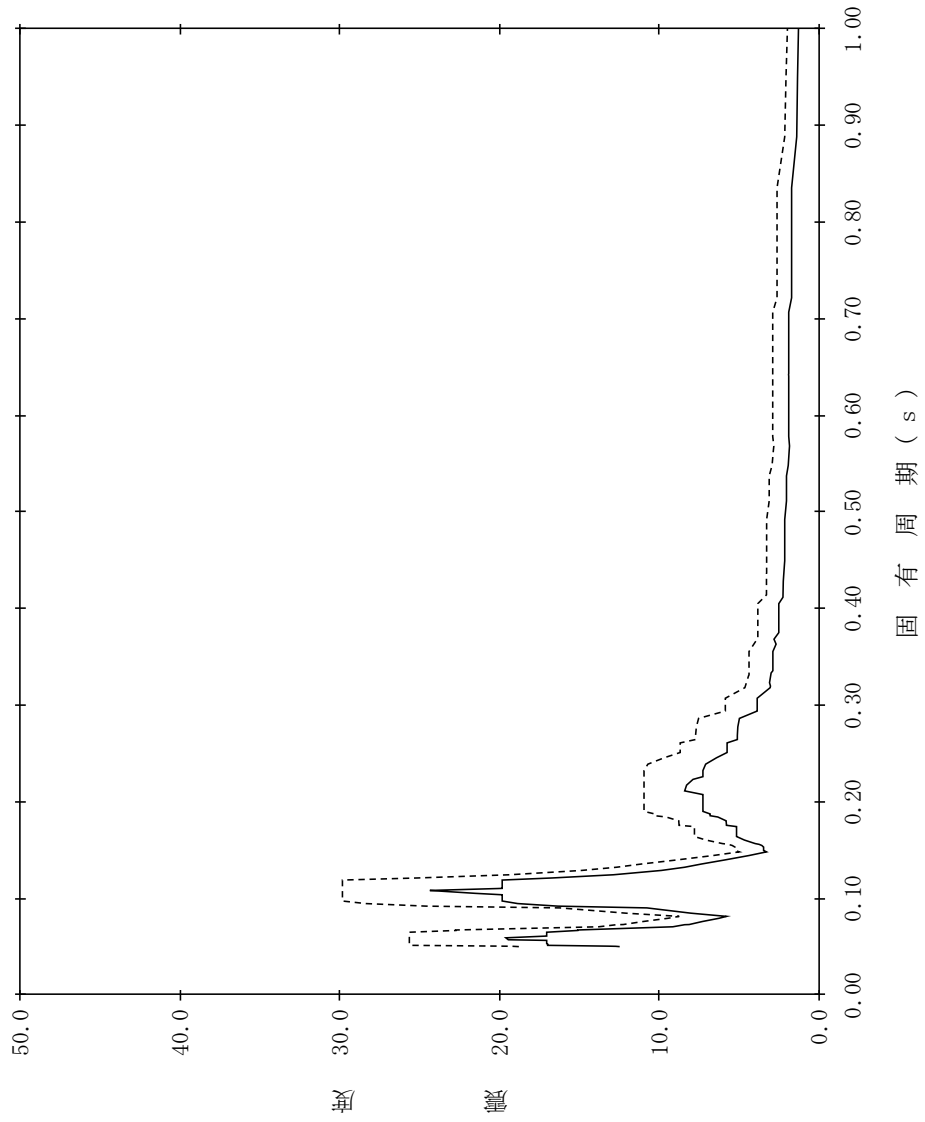


【NS2-PCV-SsEW-GSW113】

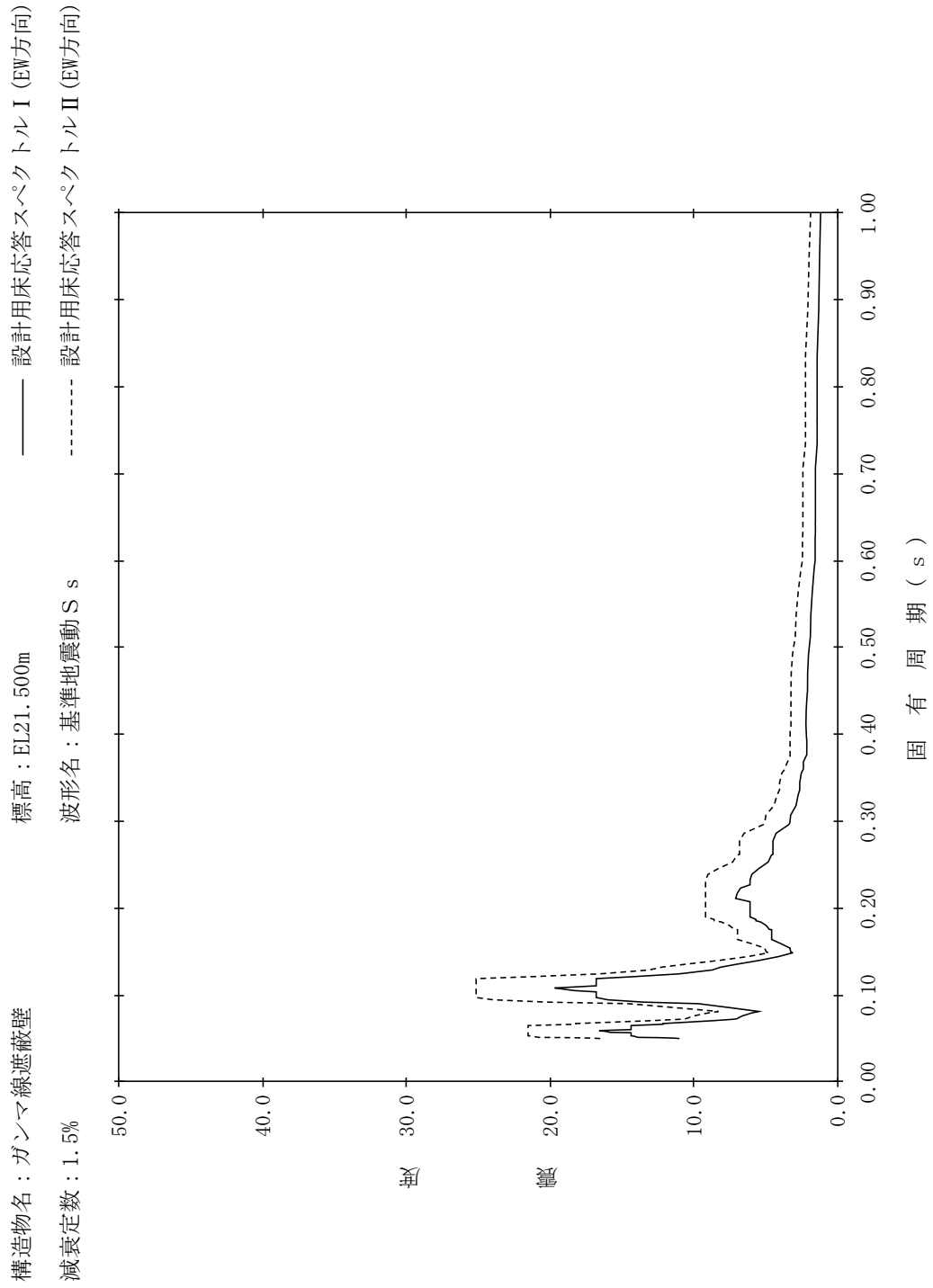


【NS2-PCV-SsEW-GSW114】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

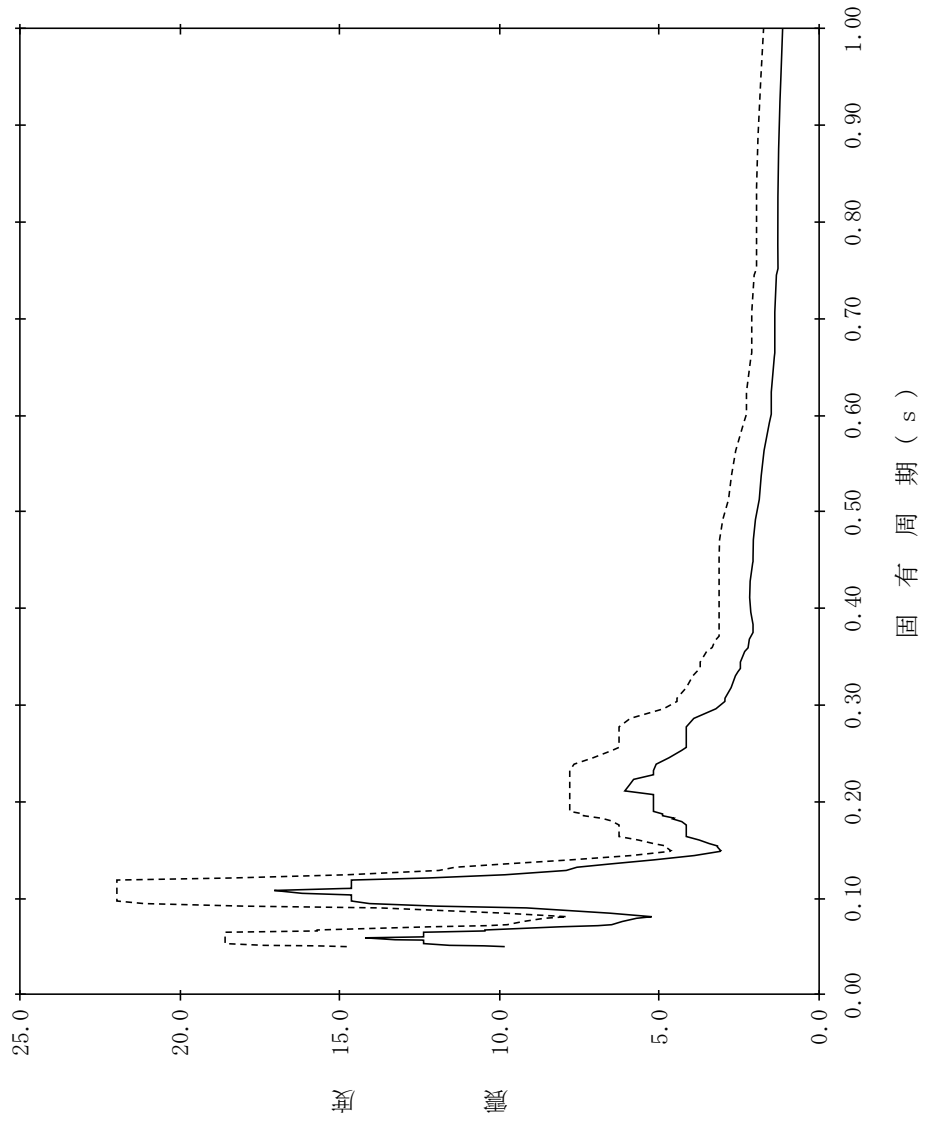


【NS2-PCV-SsEW-GSW115】

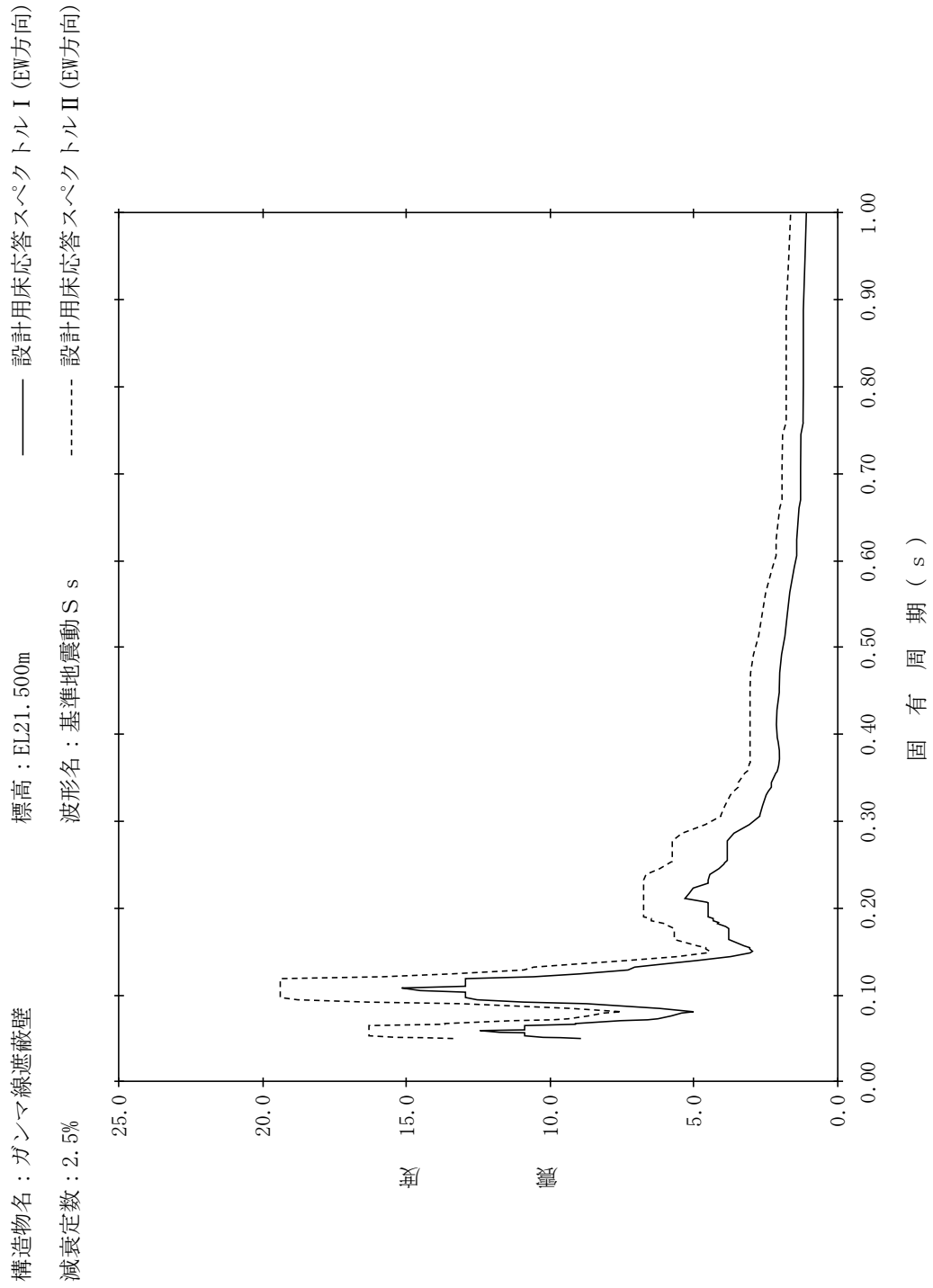


【NS2-PCV-SsEW-GSW116】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL21.500m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (EW方向)
設計用床応答スペクトル II (EW方向)

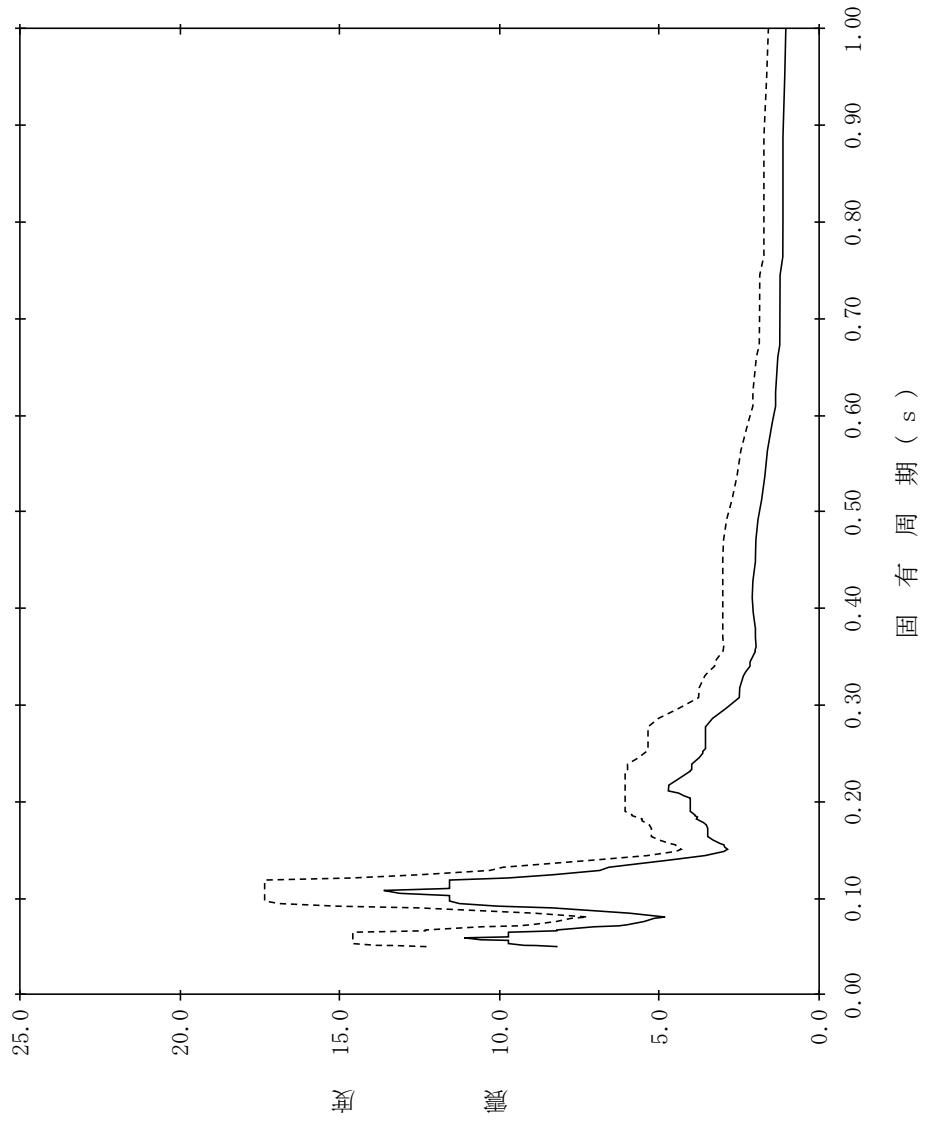


【NS2-PCV-SsEW-GSW117】

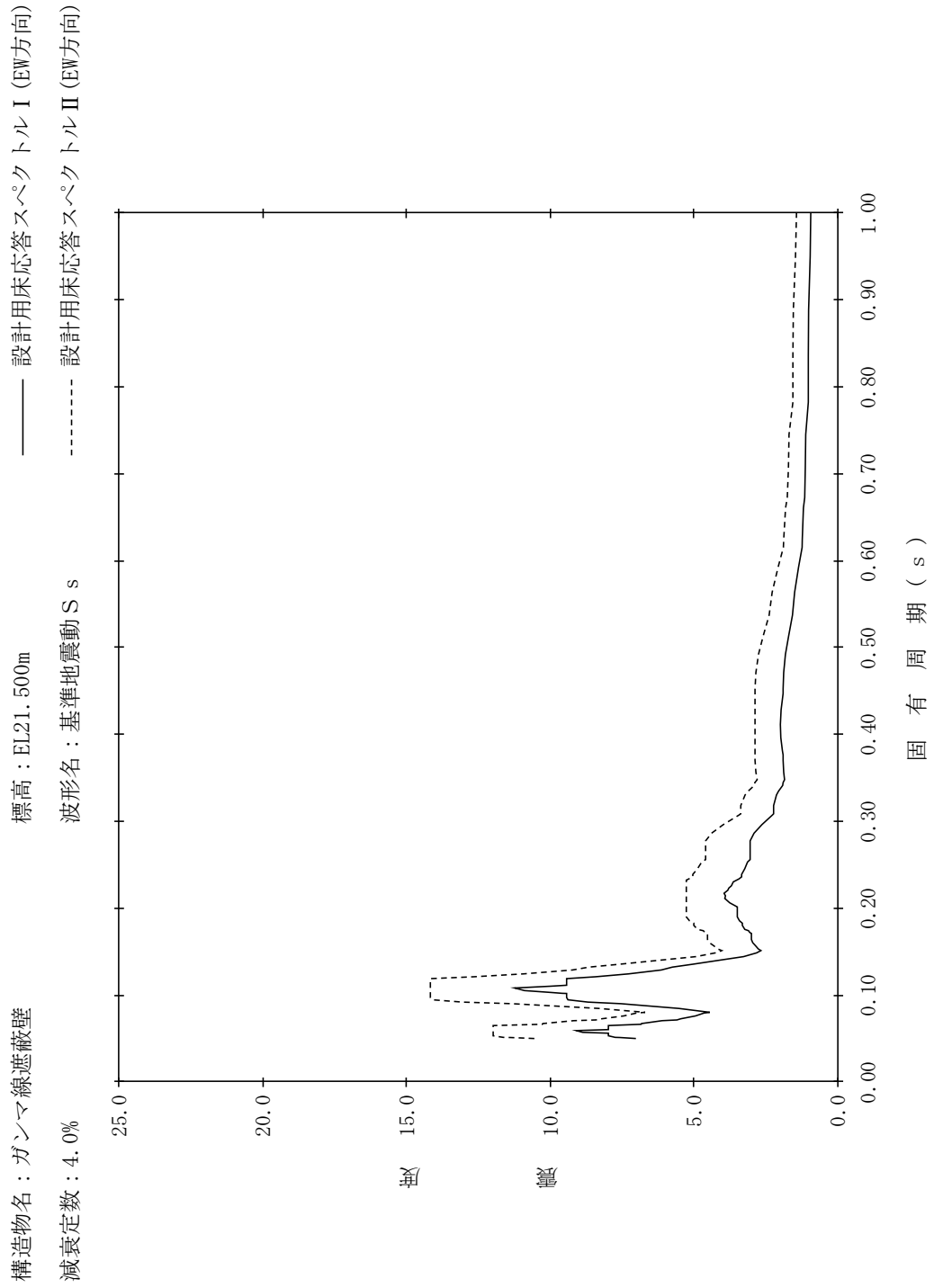


【NS2-PCV-SsEW-GSW118】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL21.500m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

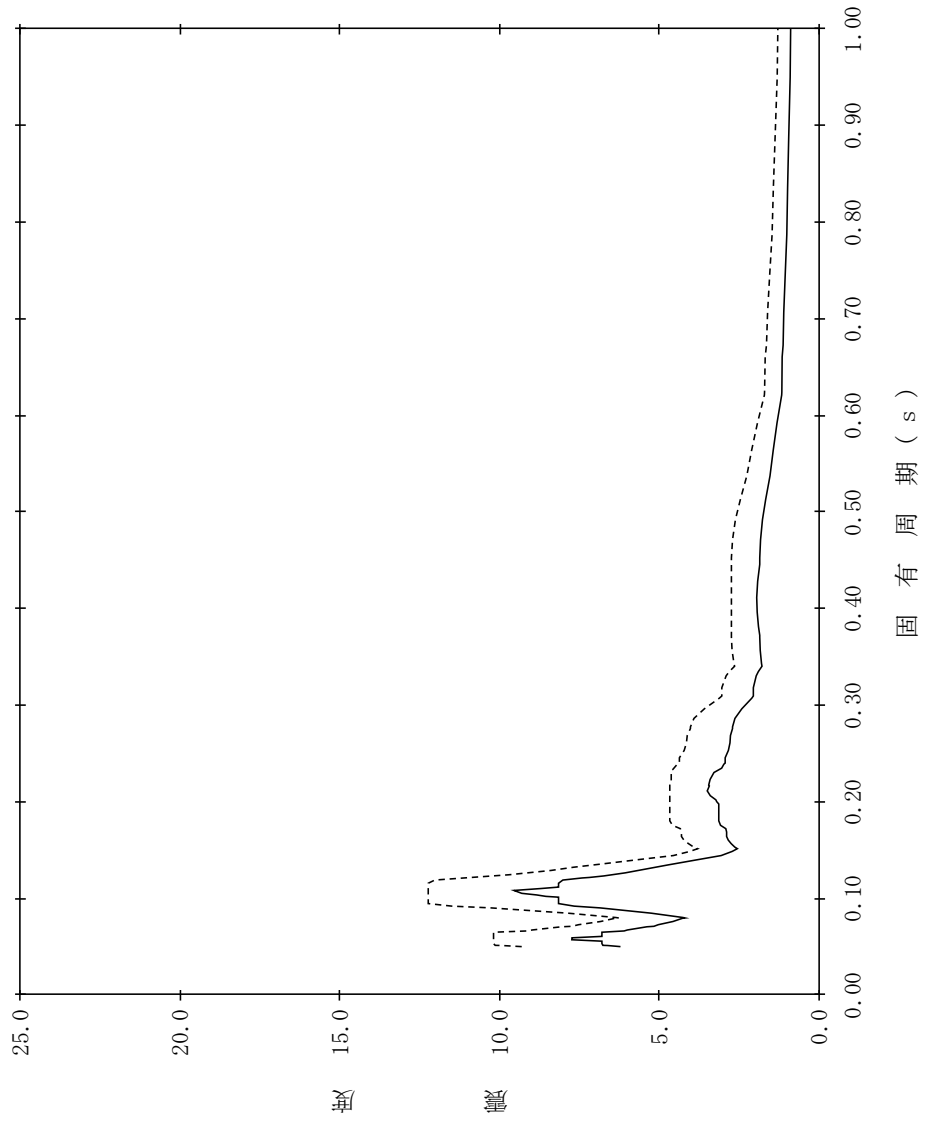


【NS2-PCV-SsEW-GSW119】



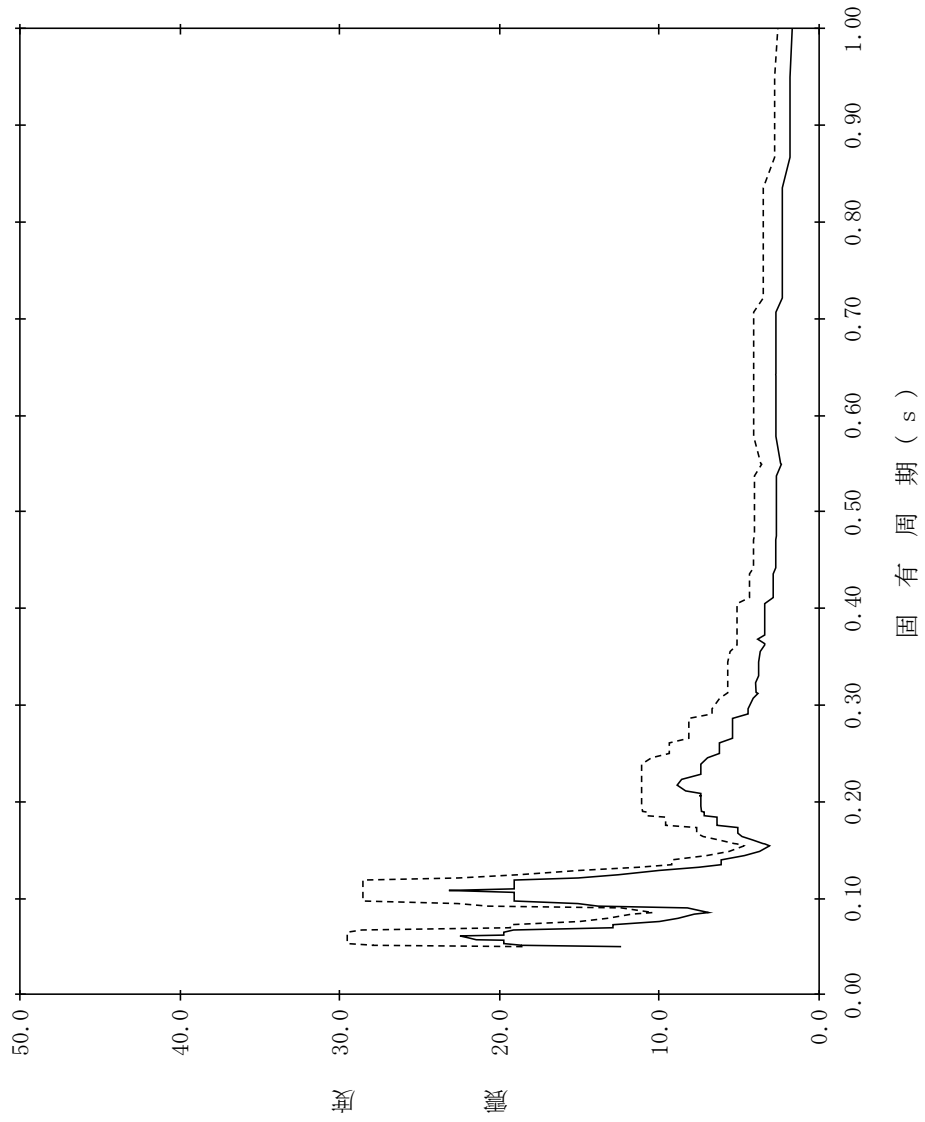
【NS2-PCV-SsEW-GSW120】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL1.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



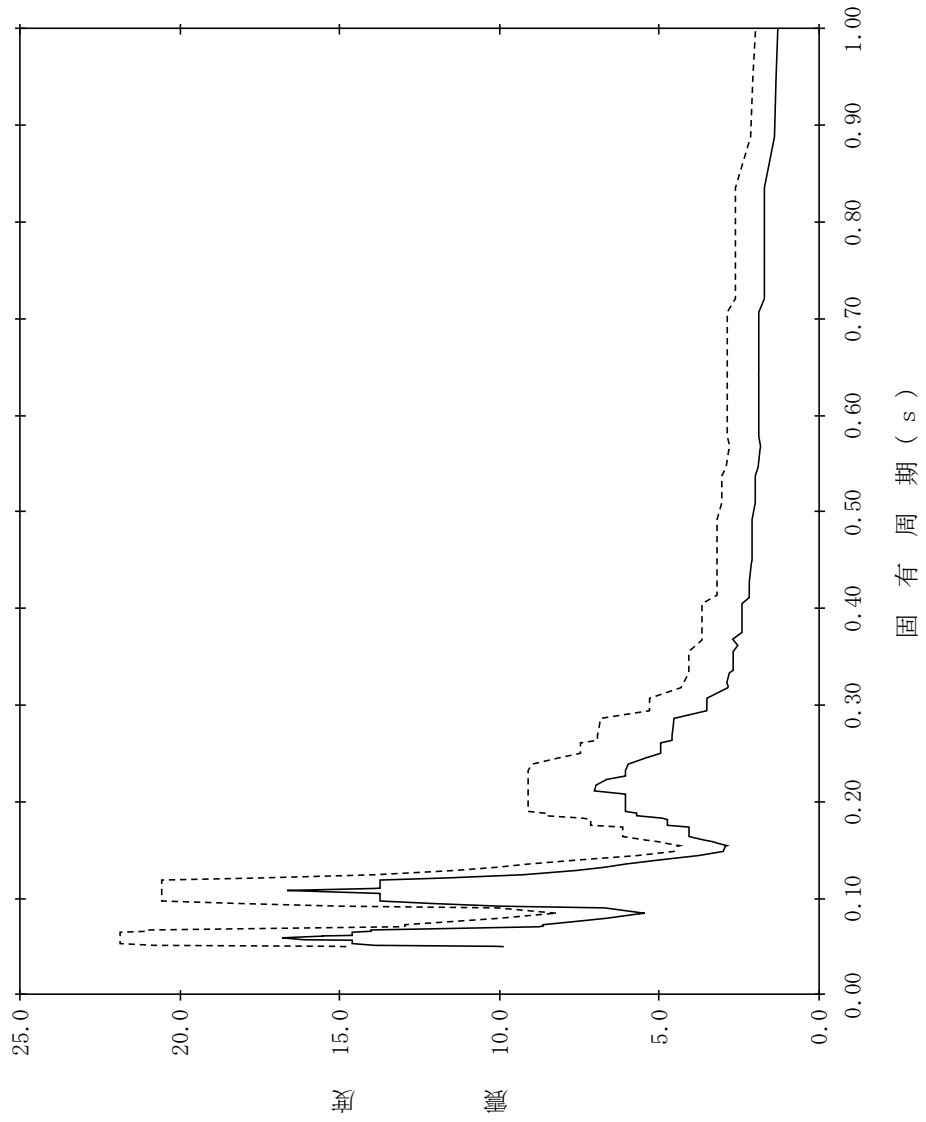
【NS2-PCV-SsEW-GSW121】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

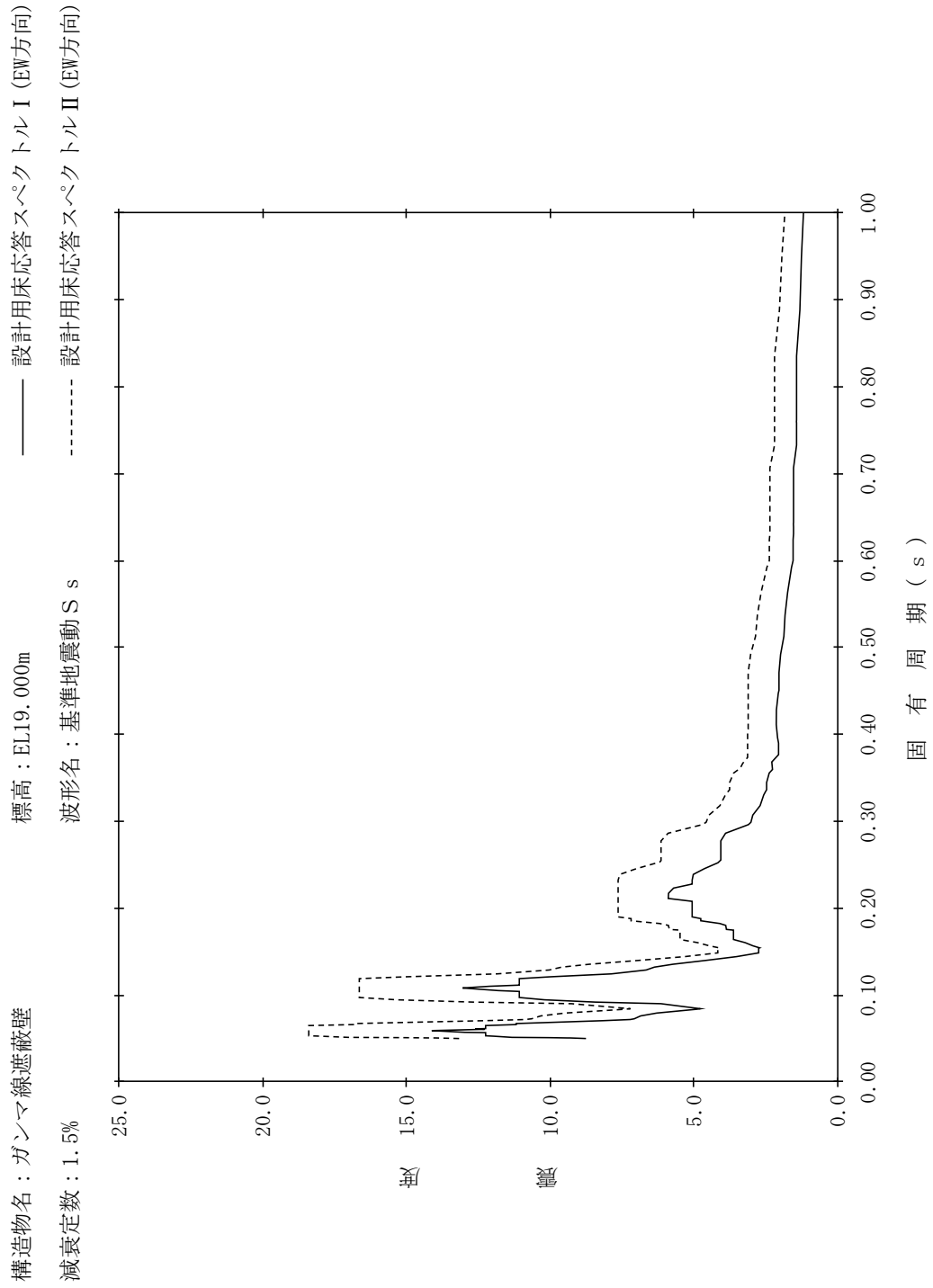


【NS2-PCV-SsEW-GSW122】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

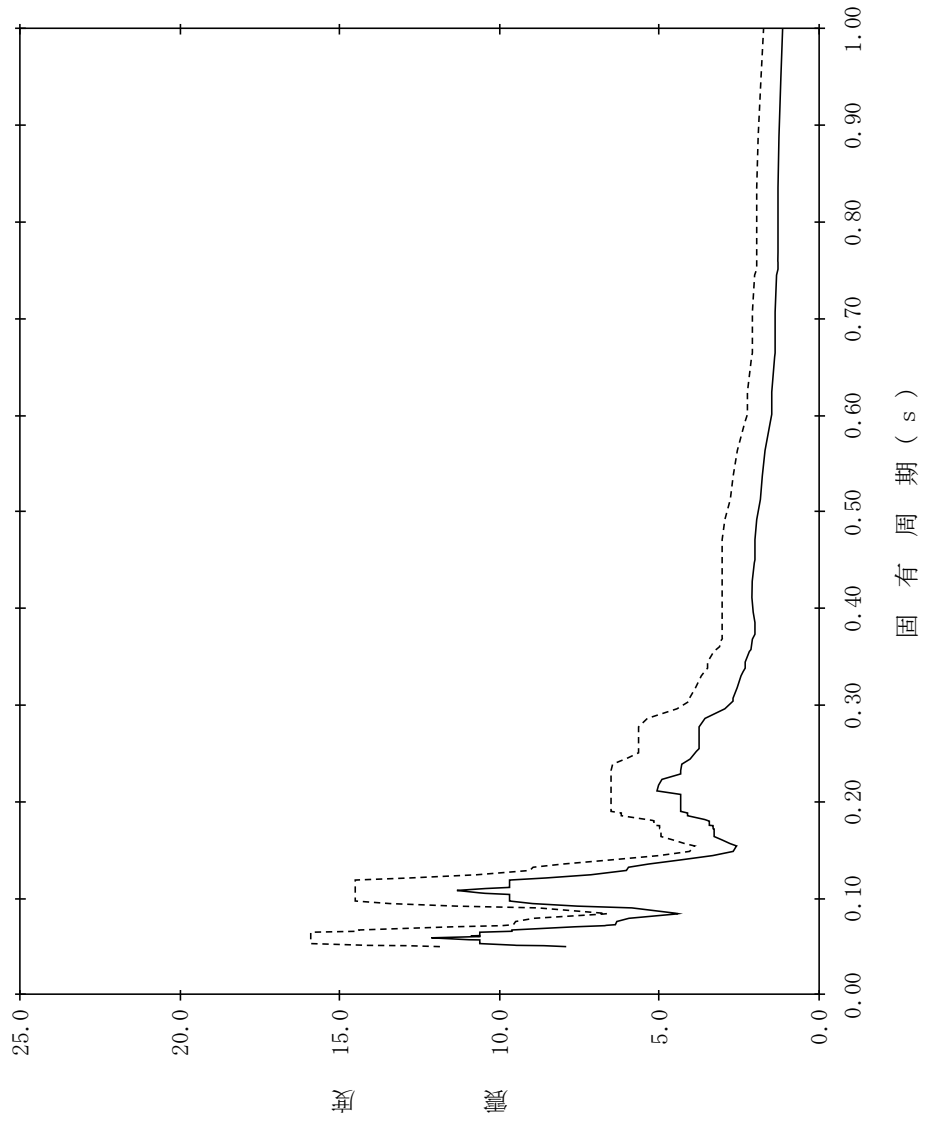


【NS2-PCV-SsEW-GSW123】



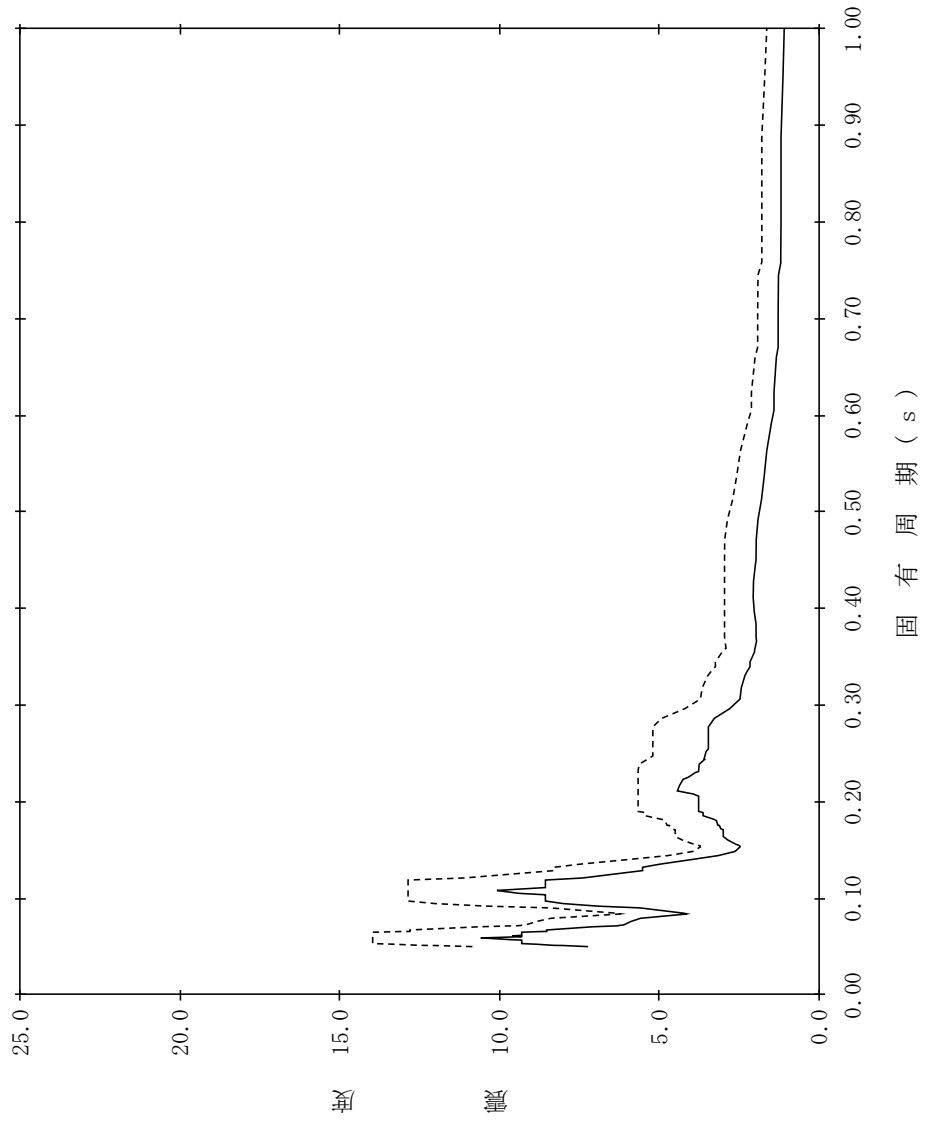
【NS2-PCV-SsEW-GSW124】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



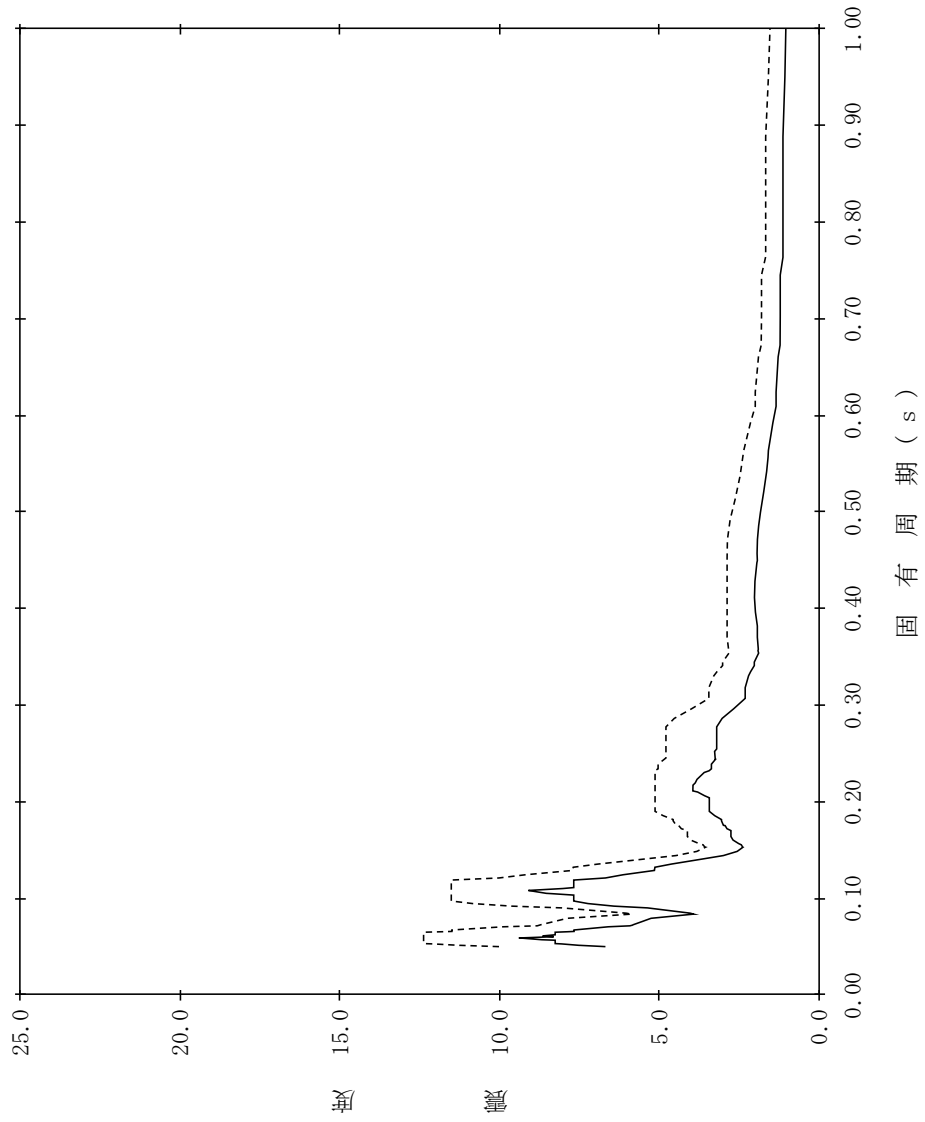
【NS2-PCV-SsEW-GSW125】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



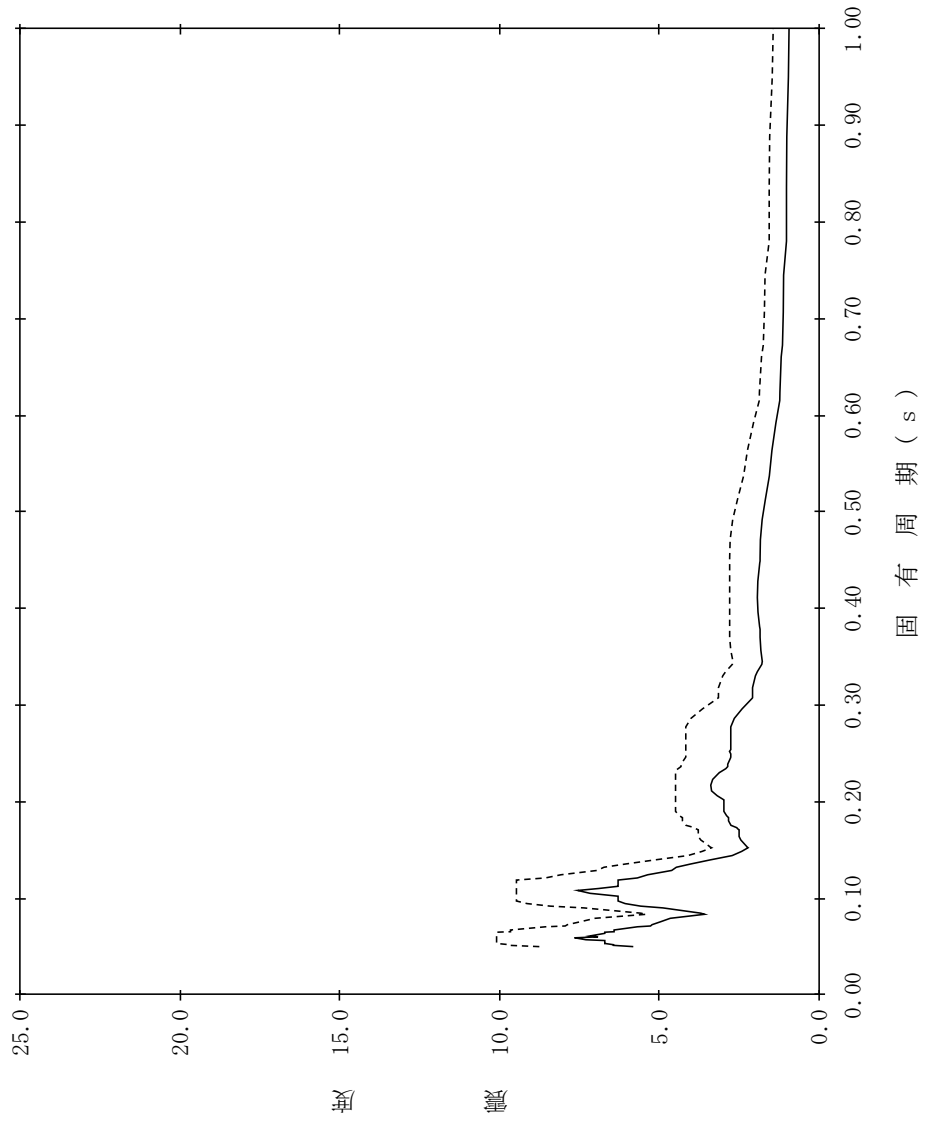
【NS2-PCV-SsEW-GSW126】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



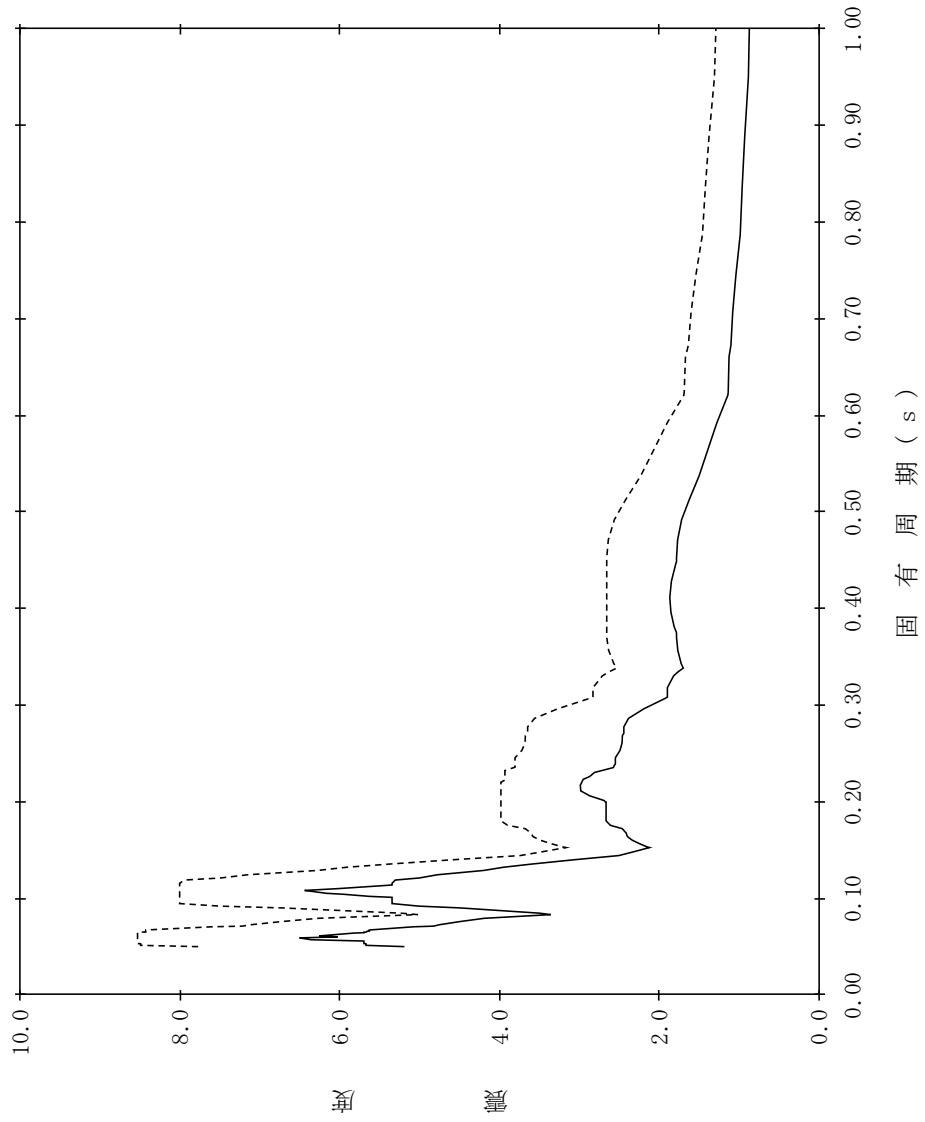
【NS2-PCV-SsEW-GSW127】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



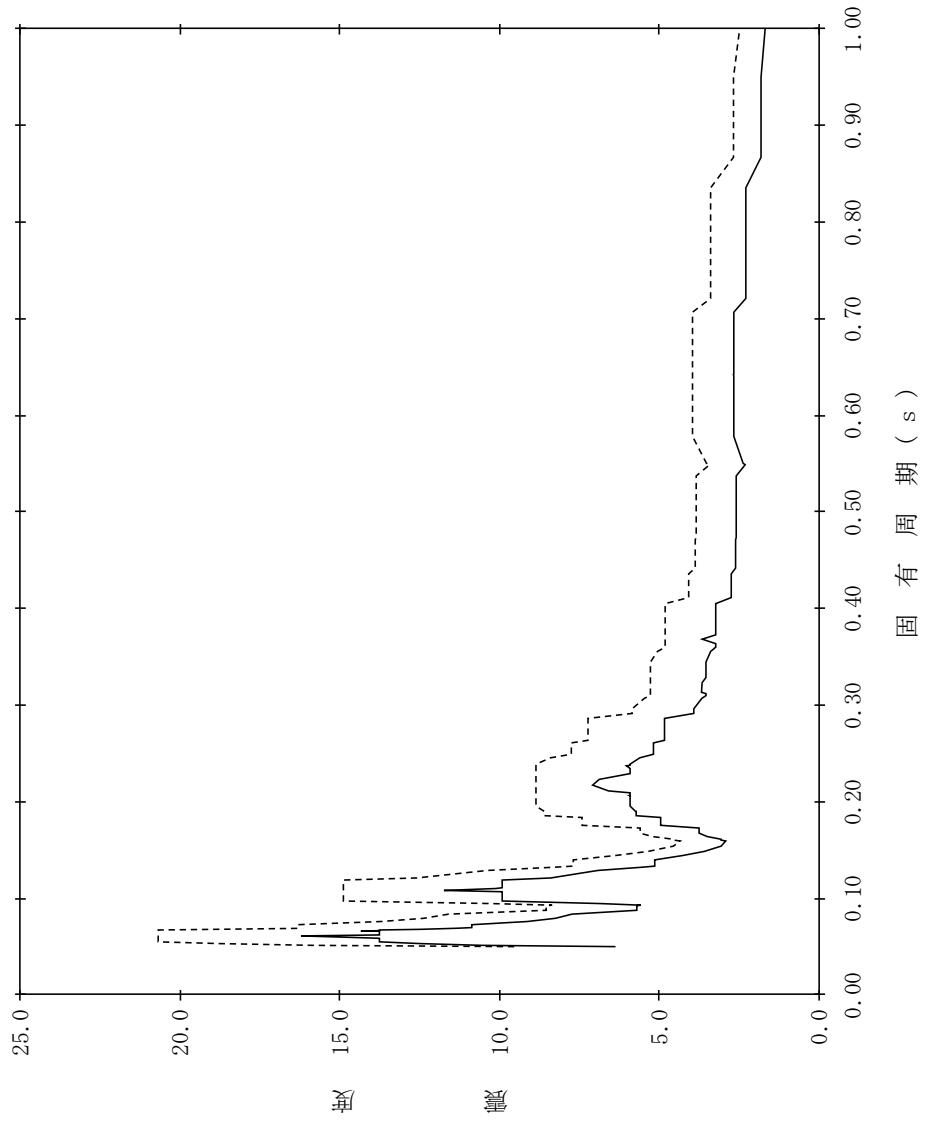
【NS2-PCV-SsEW-GSW128】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

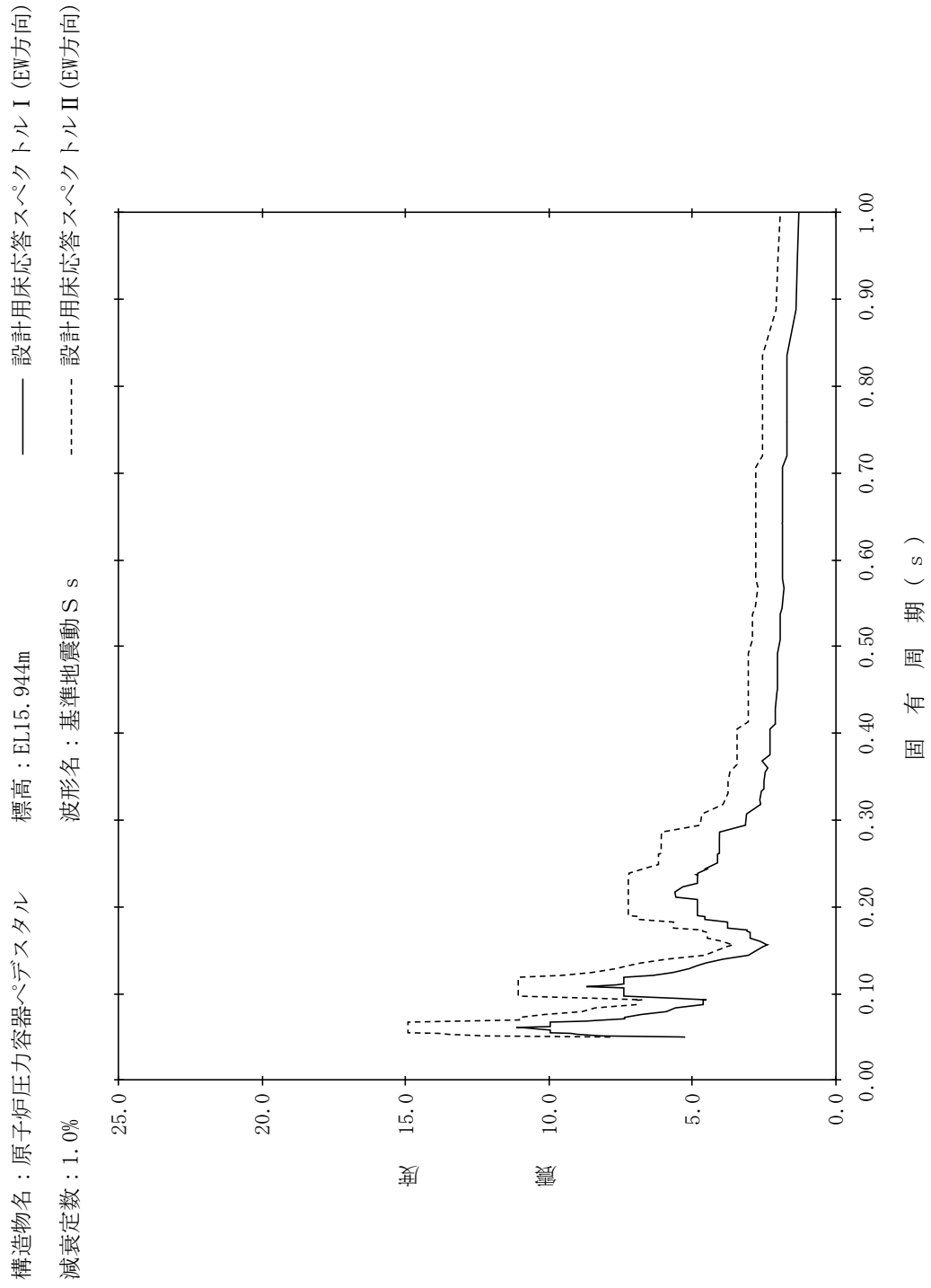


【NS2-PCV-SsEW-PED129】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

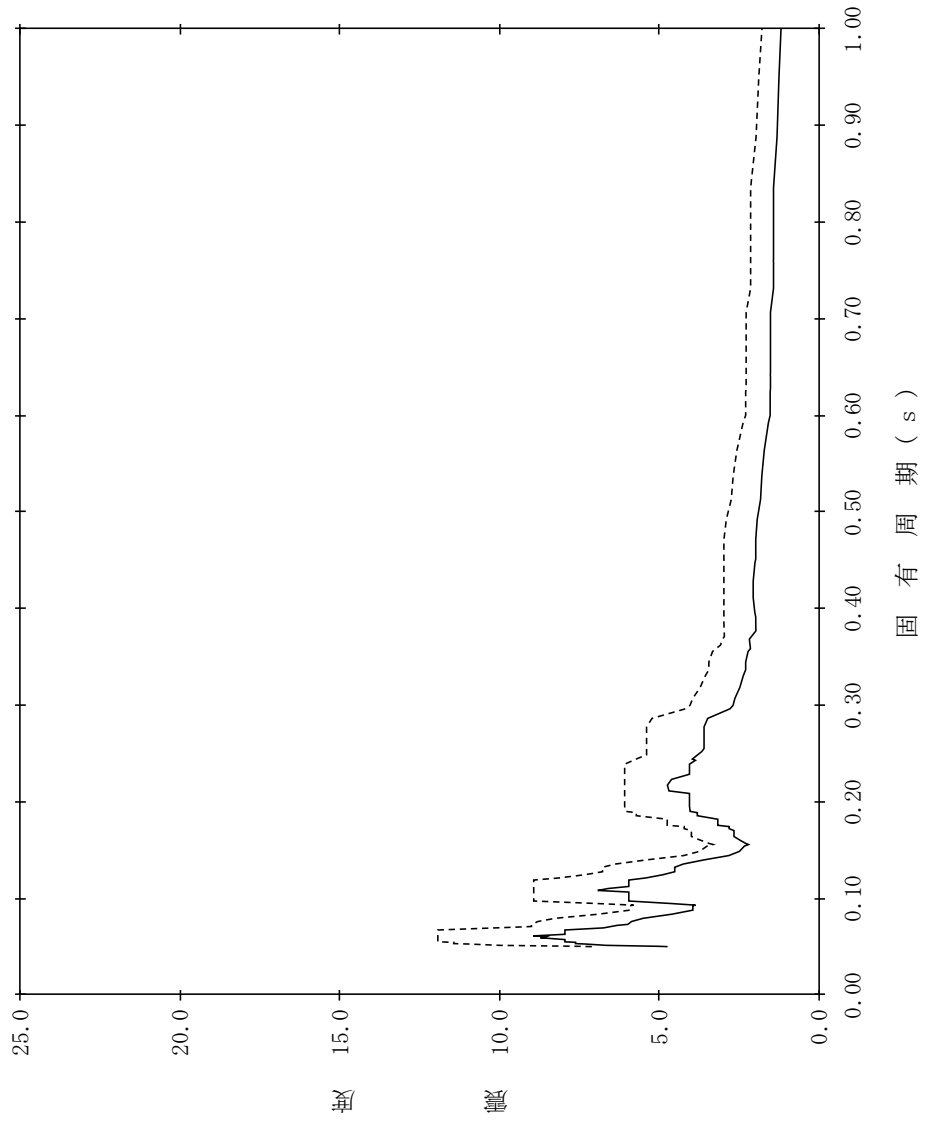


【NS2-PCV-SsEW-PED1.30】



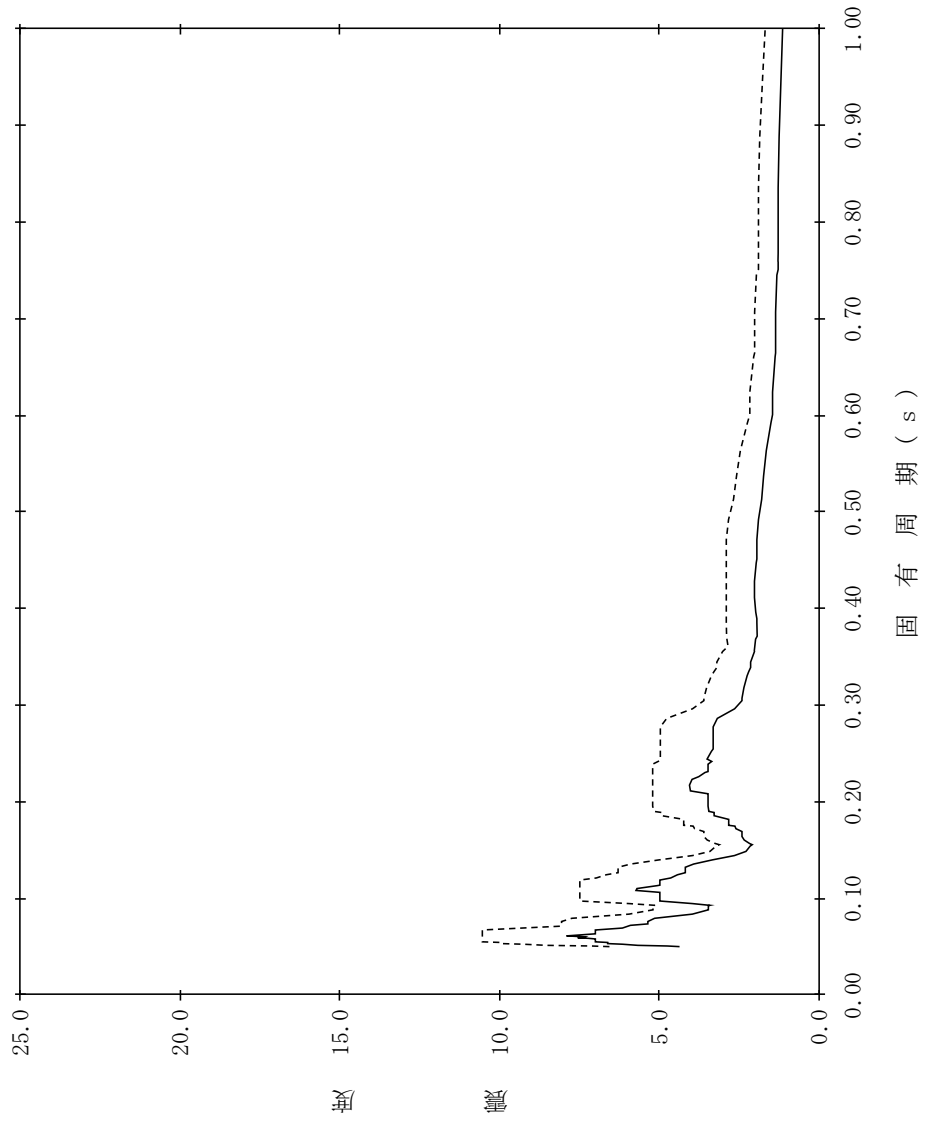
【NS2-PCV-SsEW-PED131】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



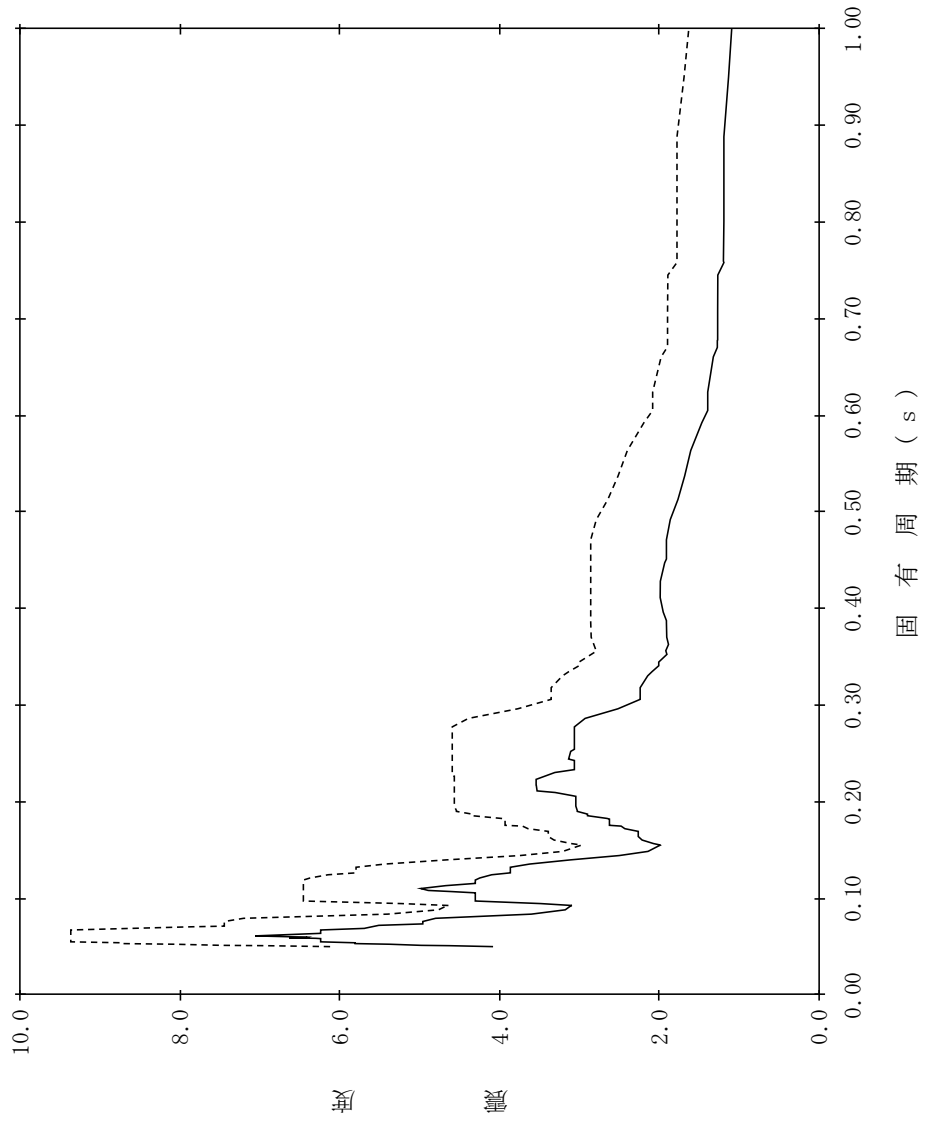
【NS2-PCV-SsEW-PED132】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



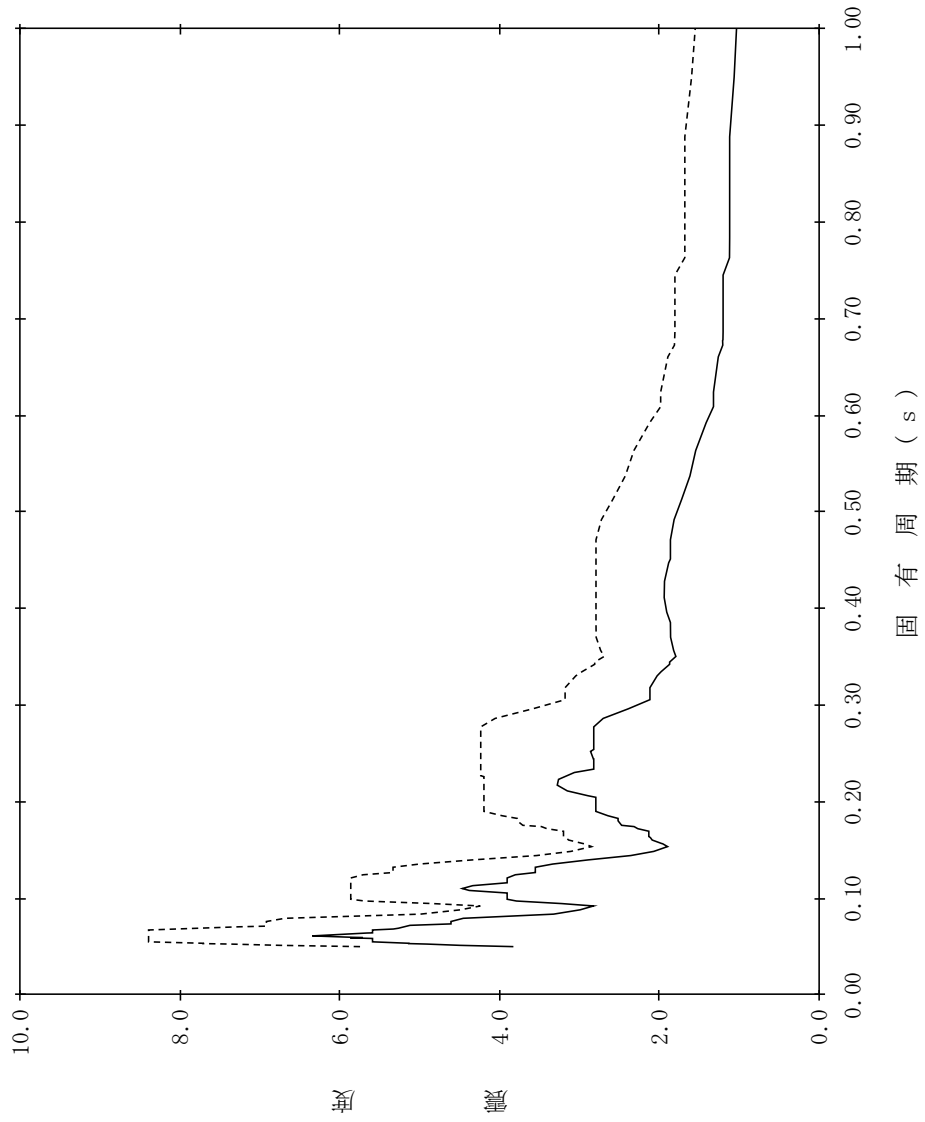
【NS2-PCV-SsEW-PED133】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



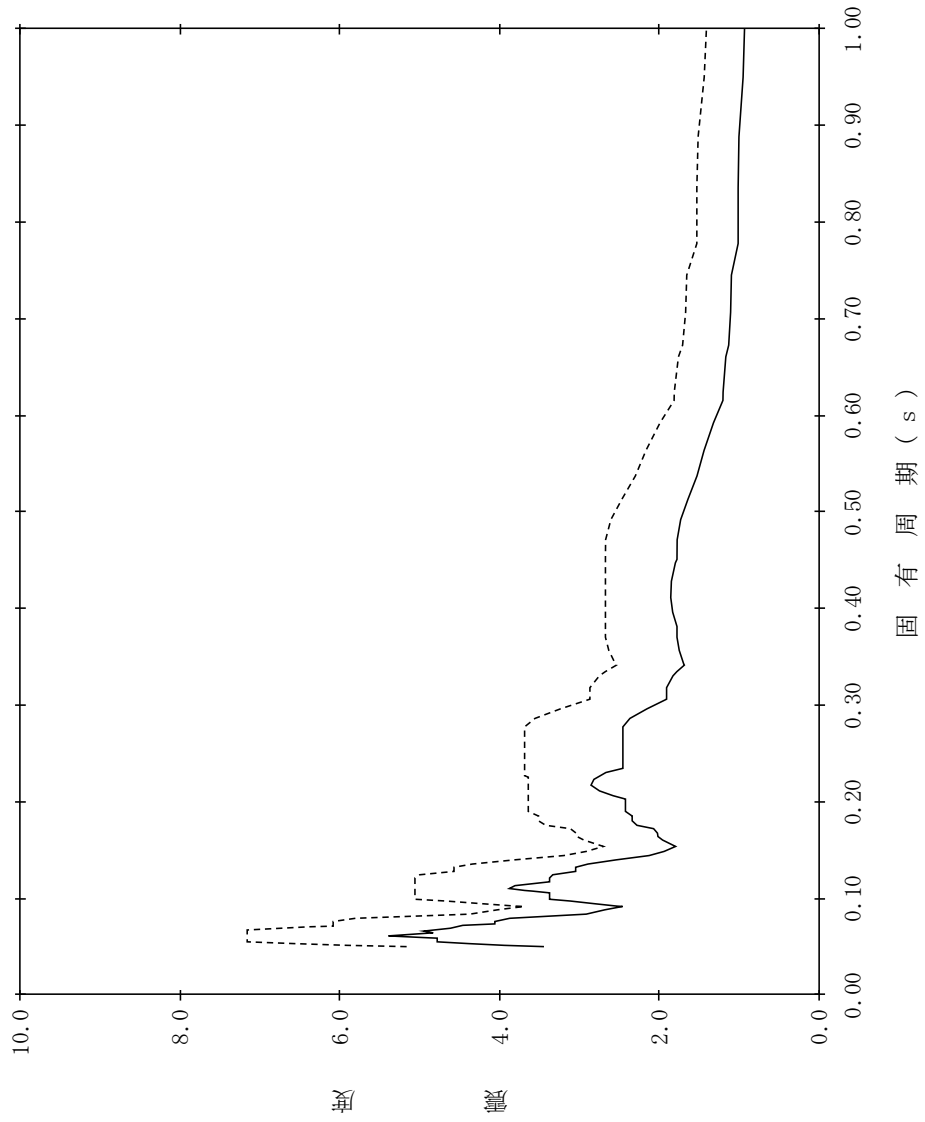
【NS2-PCV-SsEW-PEDI34】

構造物名：原子炉圧力容器ベグスタル
標高：EL15.944m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



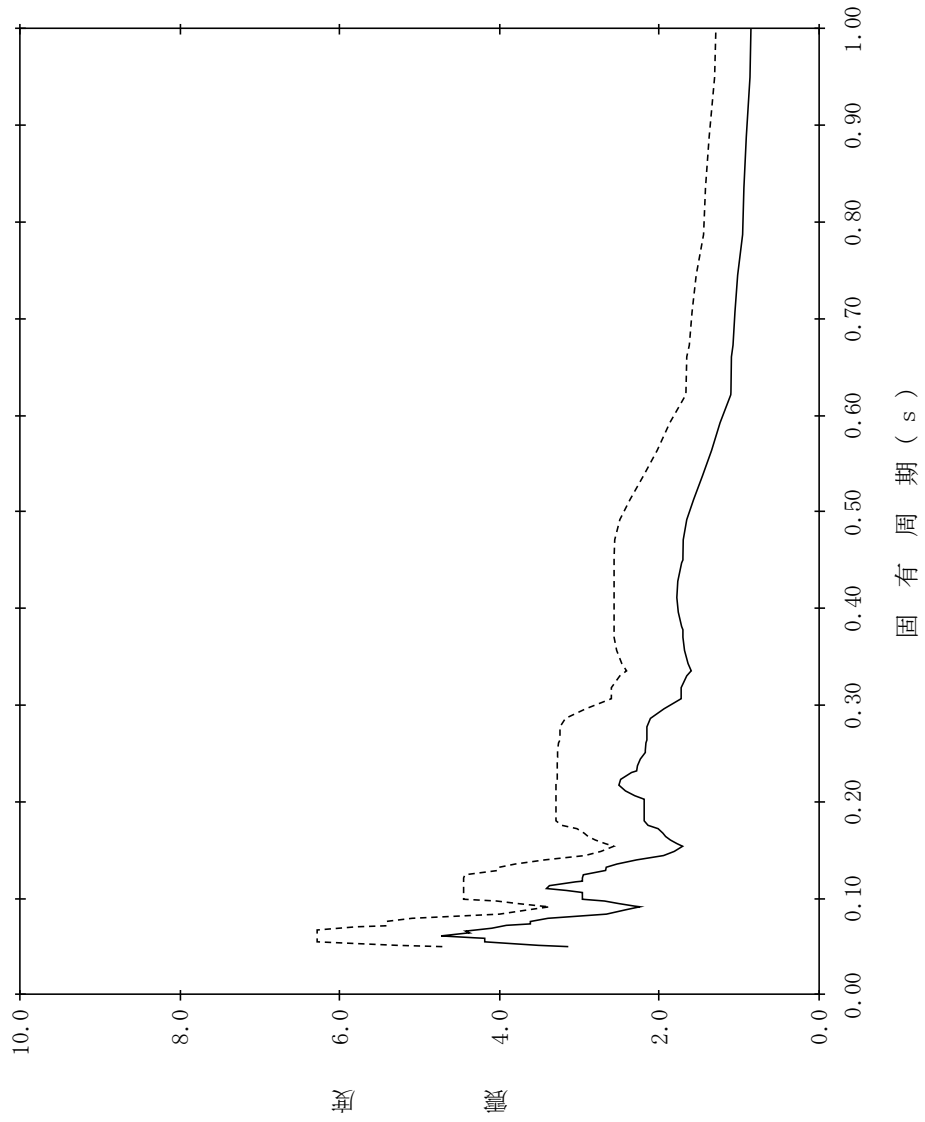
【NS2-PCV-SsEW-PEDI35】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



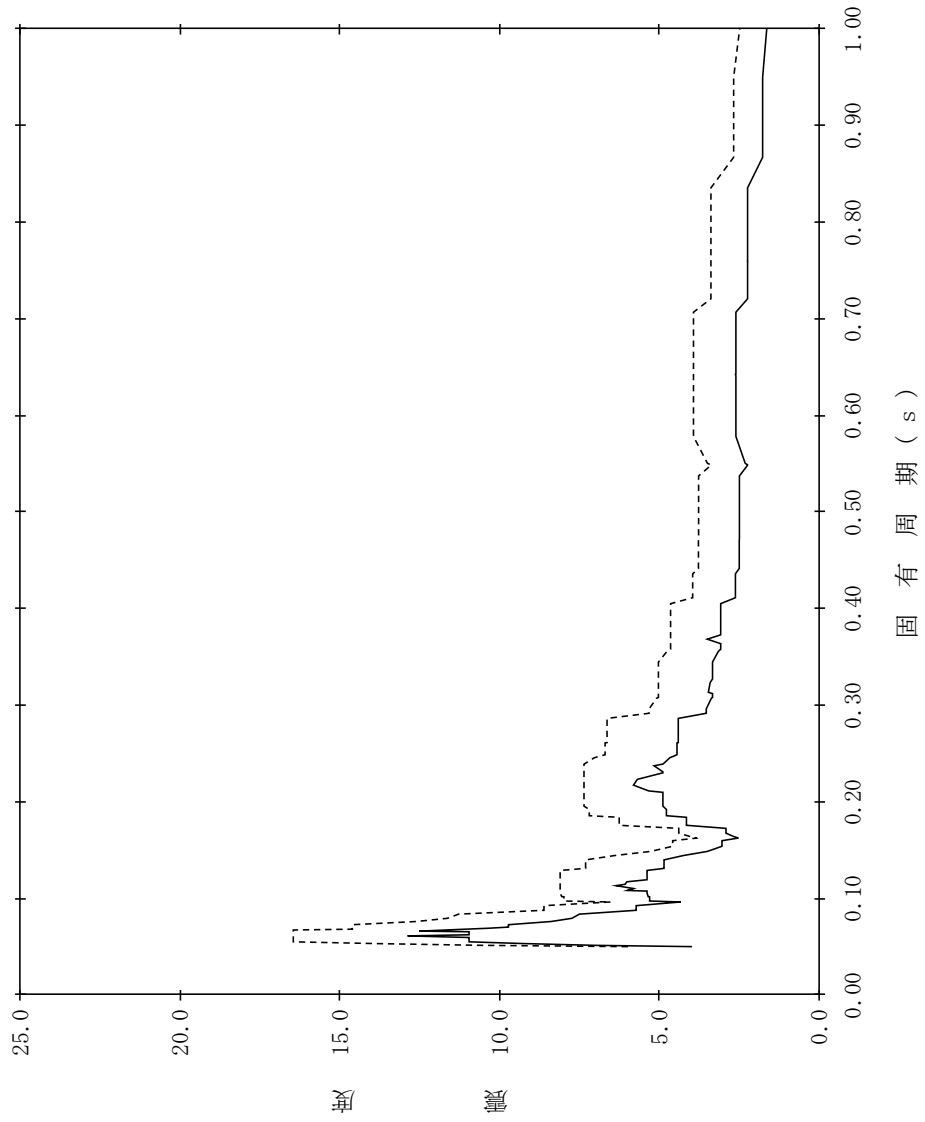
【NS2-PCV-SsEW-PED136】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



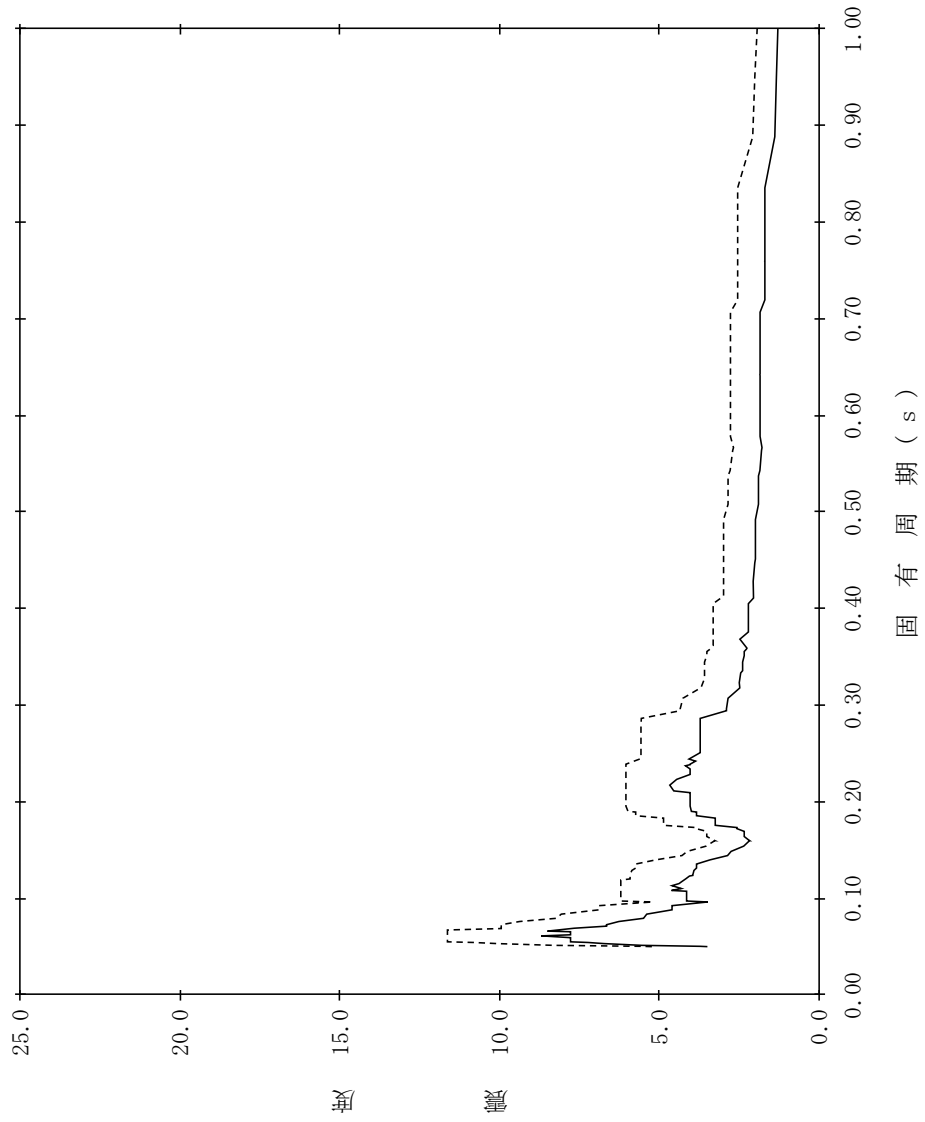
【NS2-PCV-SsEW-PED137】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-PCV-SsEW-PED138】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

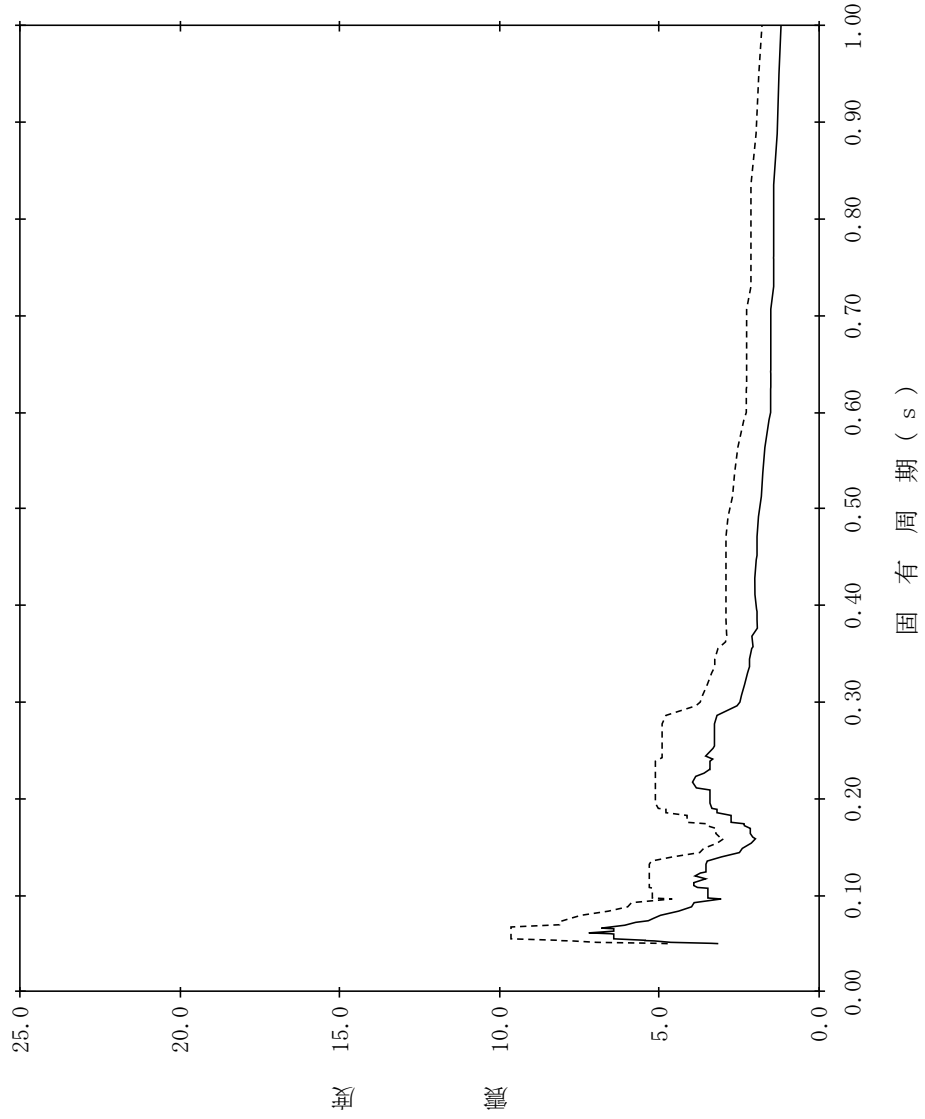


【NS2-PCV-SsEW-PED139】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
標高：EL13.022m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s

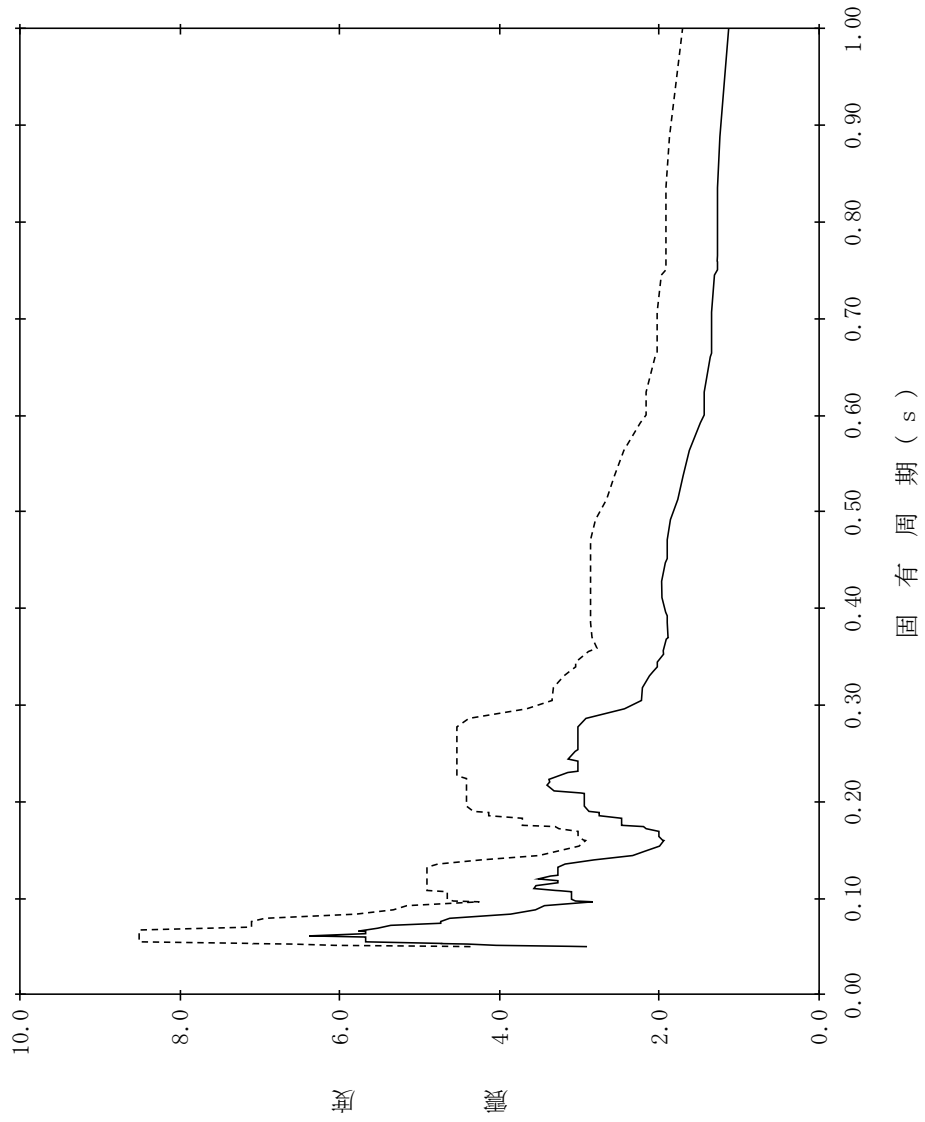
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



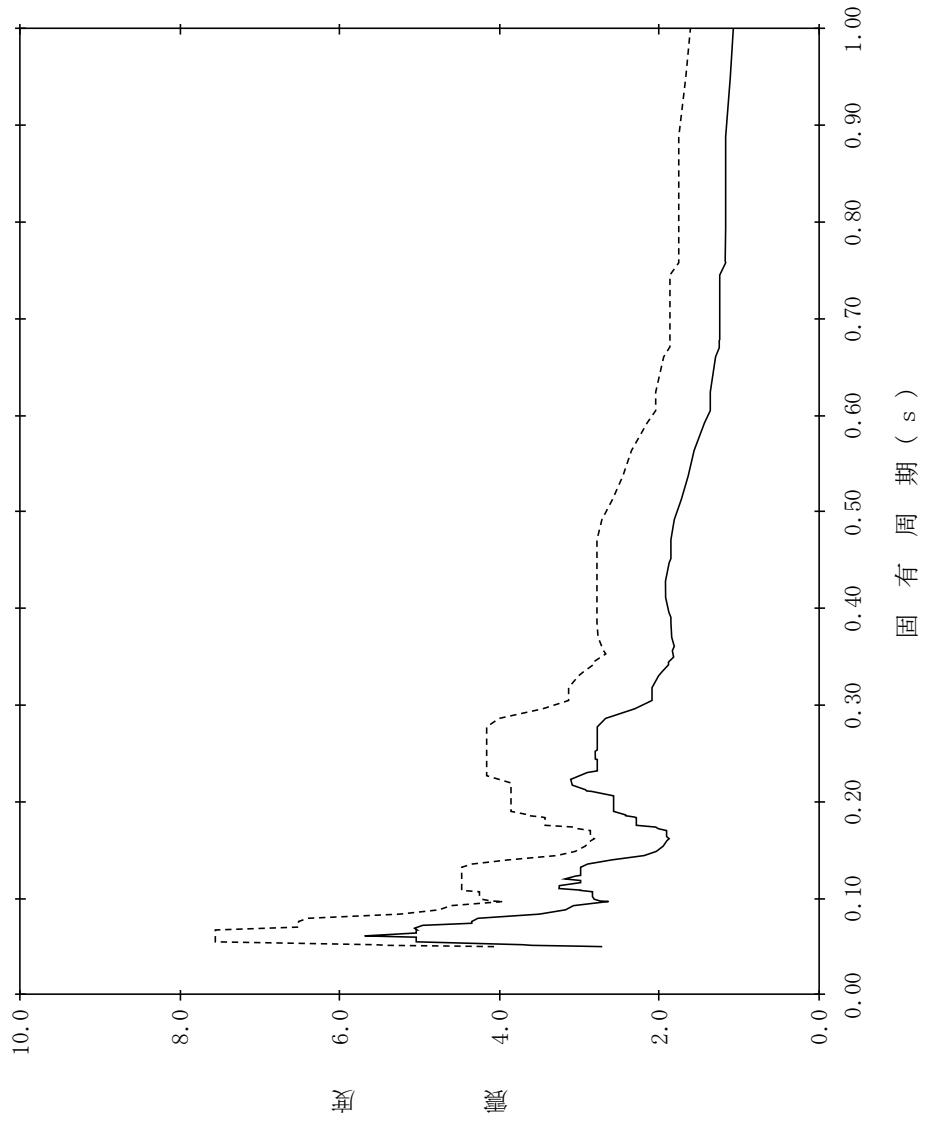
【NS2-PCV-SsEW-PED140】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



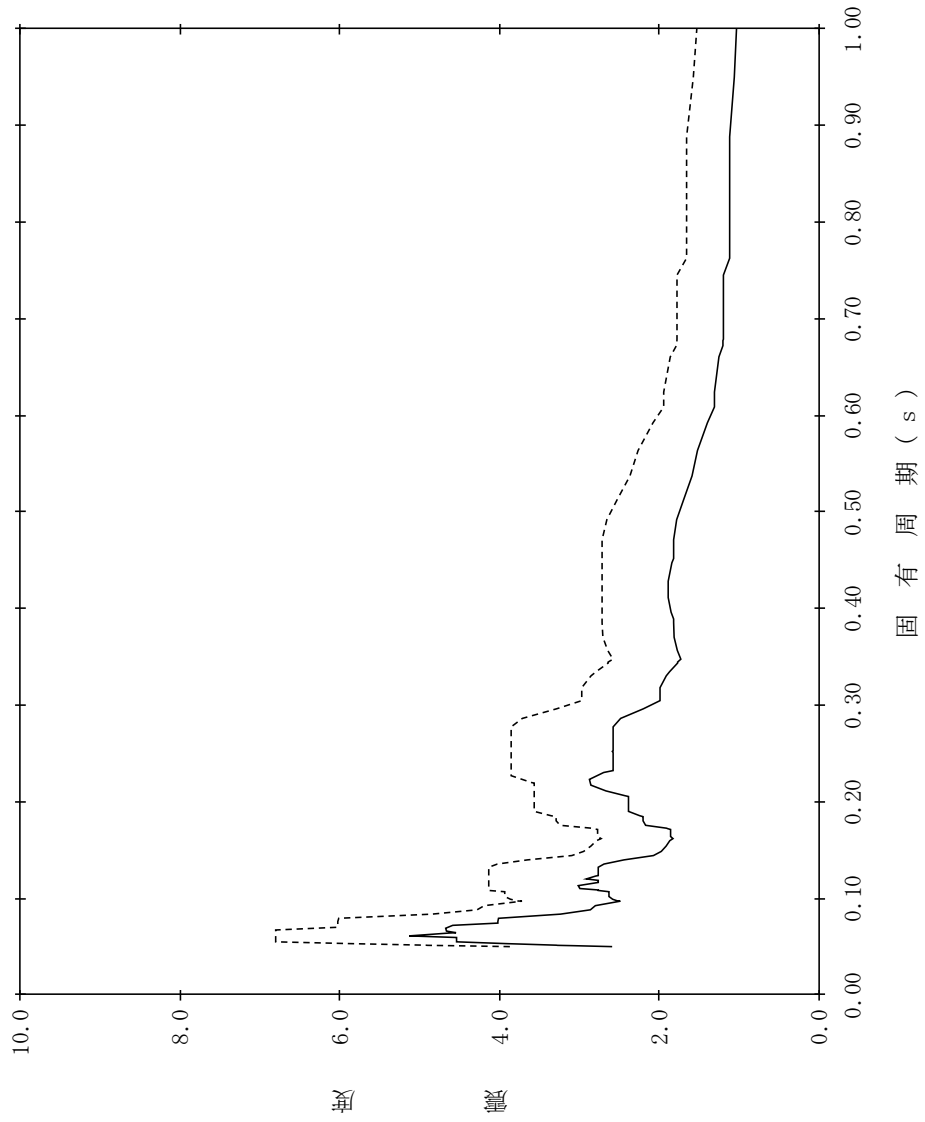
【NS2-PCV-SsEW-PED141】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



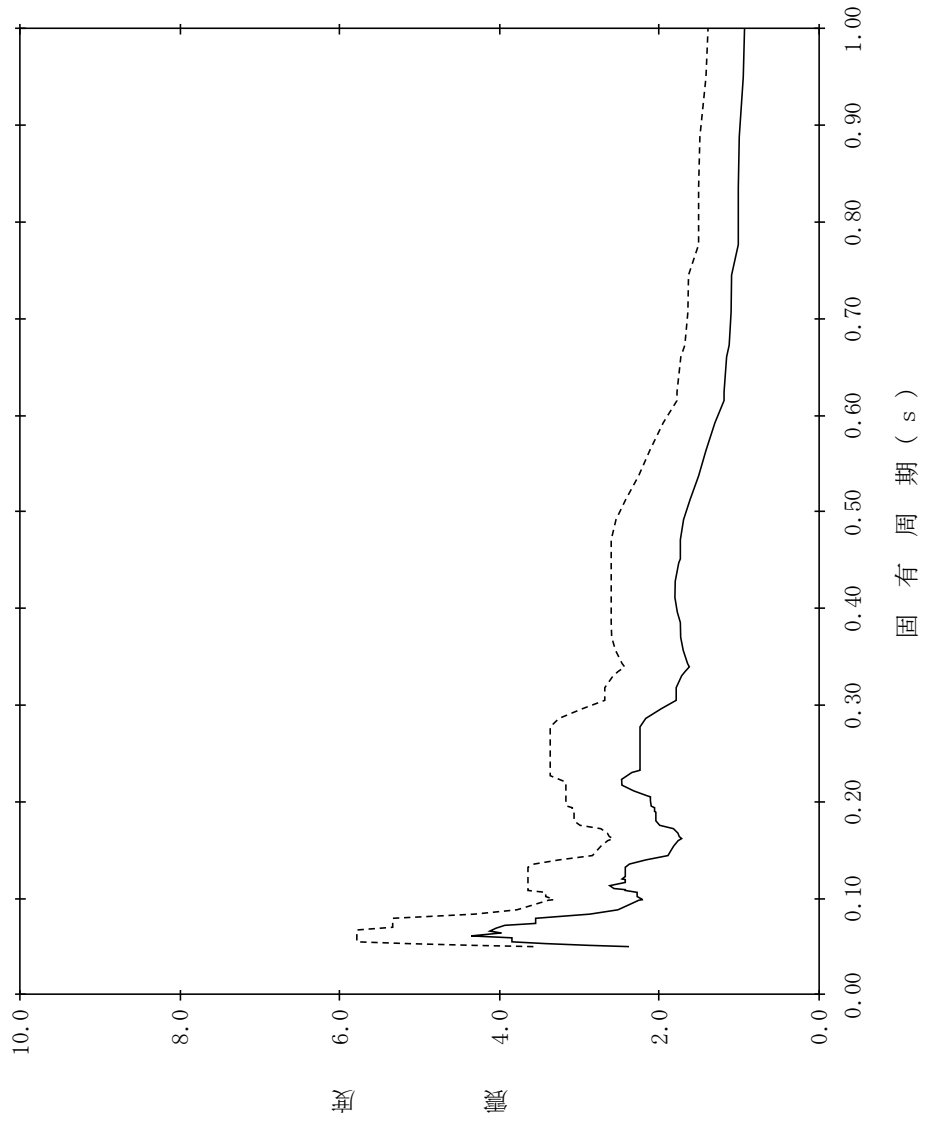
【NS2-PCV-SsEW-PED142】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



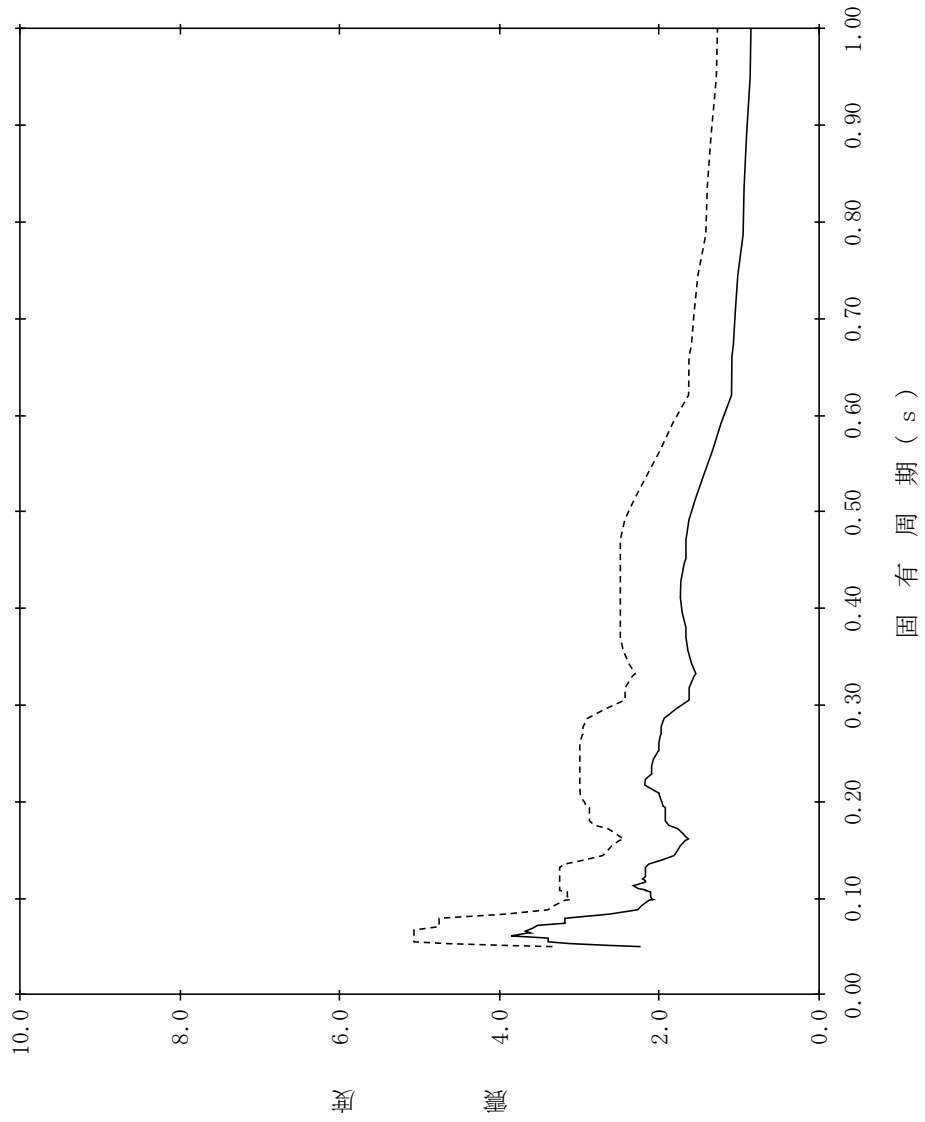
【NS2-PCV-SsEW-PED143】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



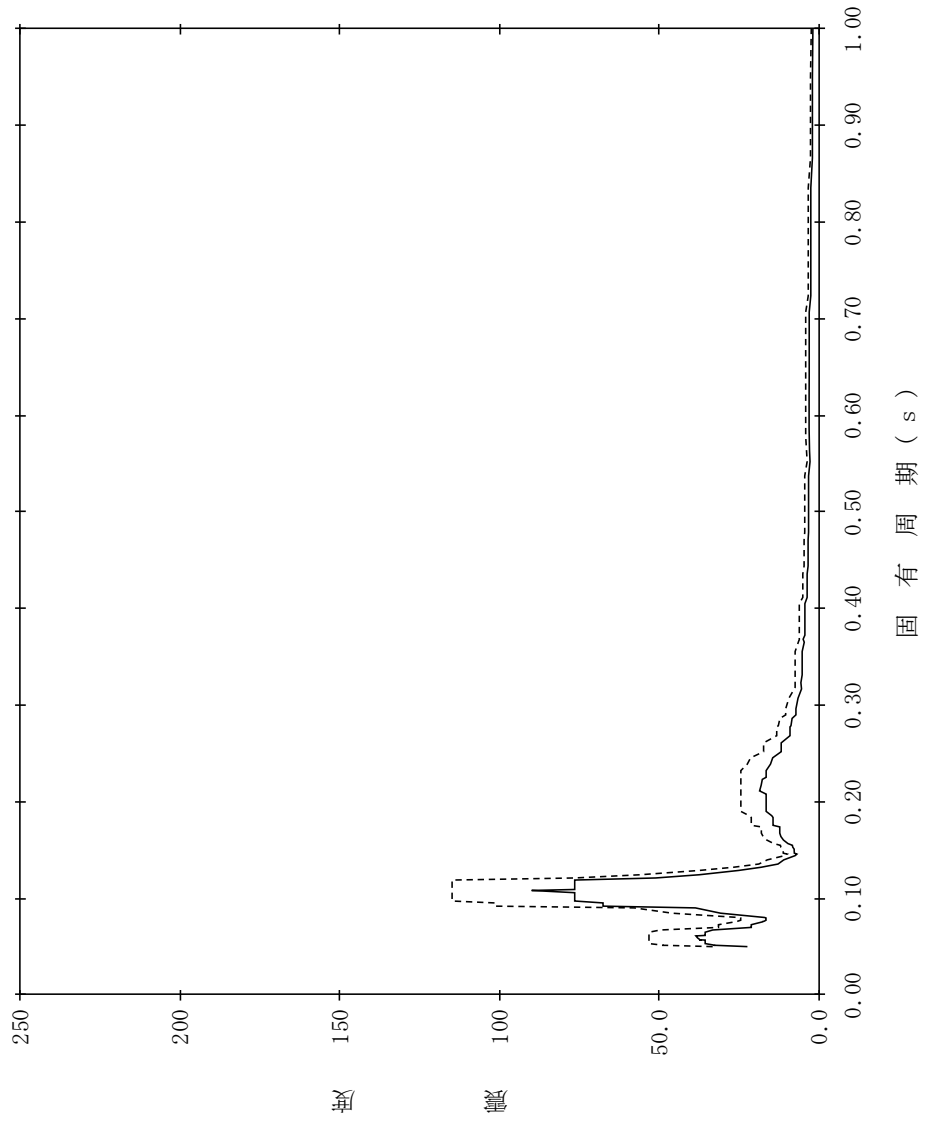
【NS2-PCV-SsEW-PED144】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



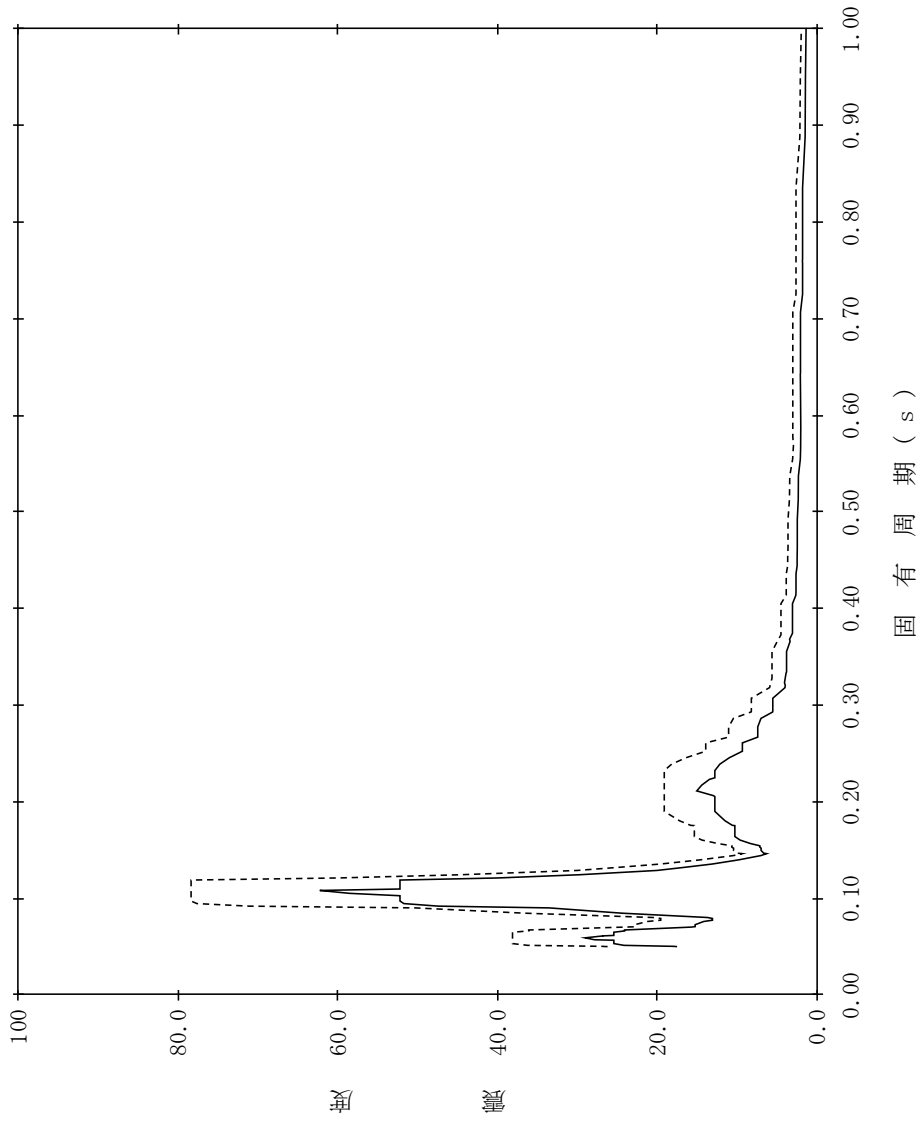
【NS2-PCV-SsEW-RPV145】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



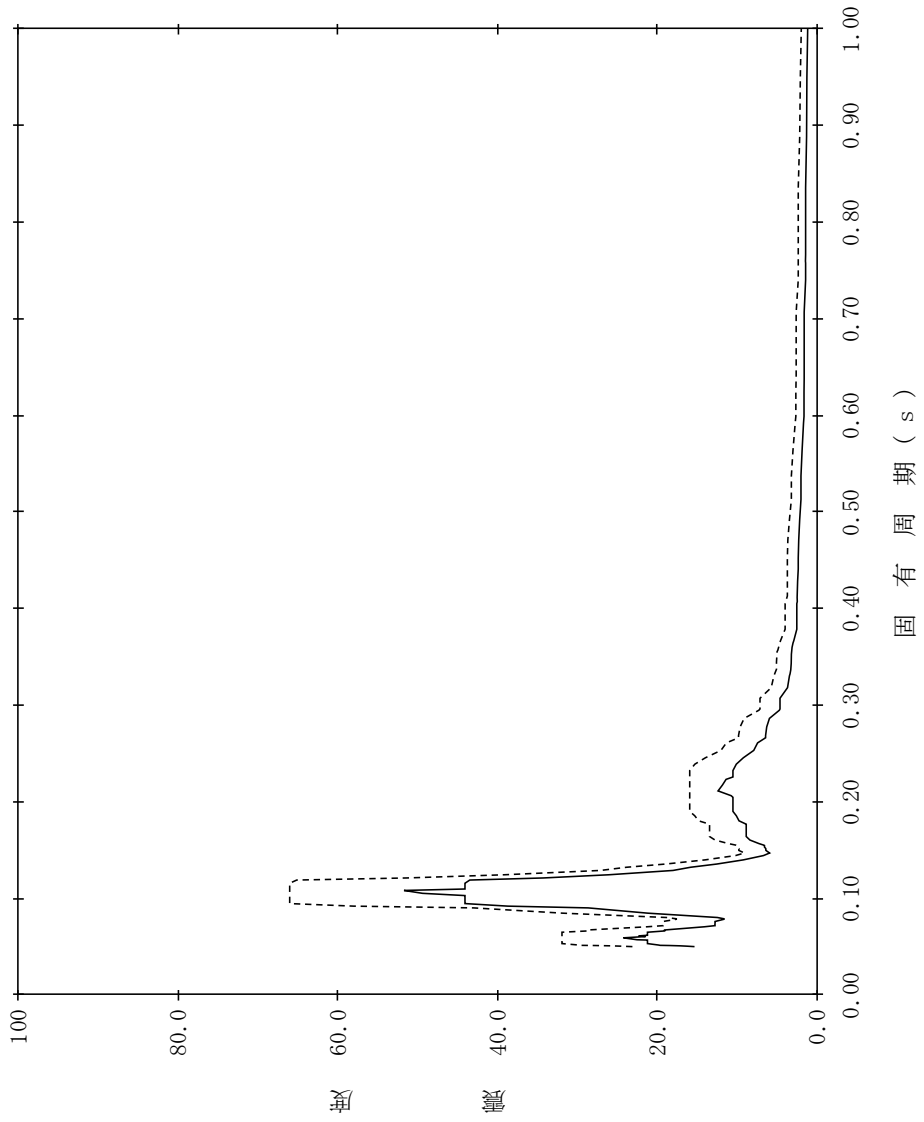
【NS2-PCV-SsEW-RPV146】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



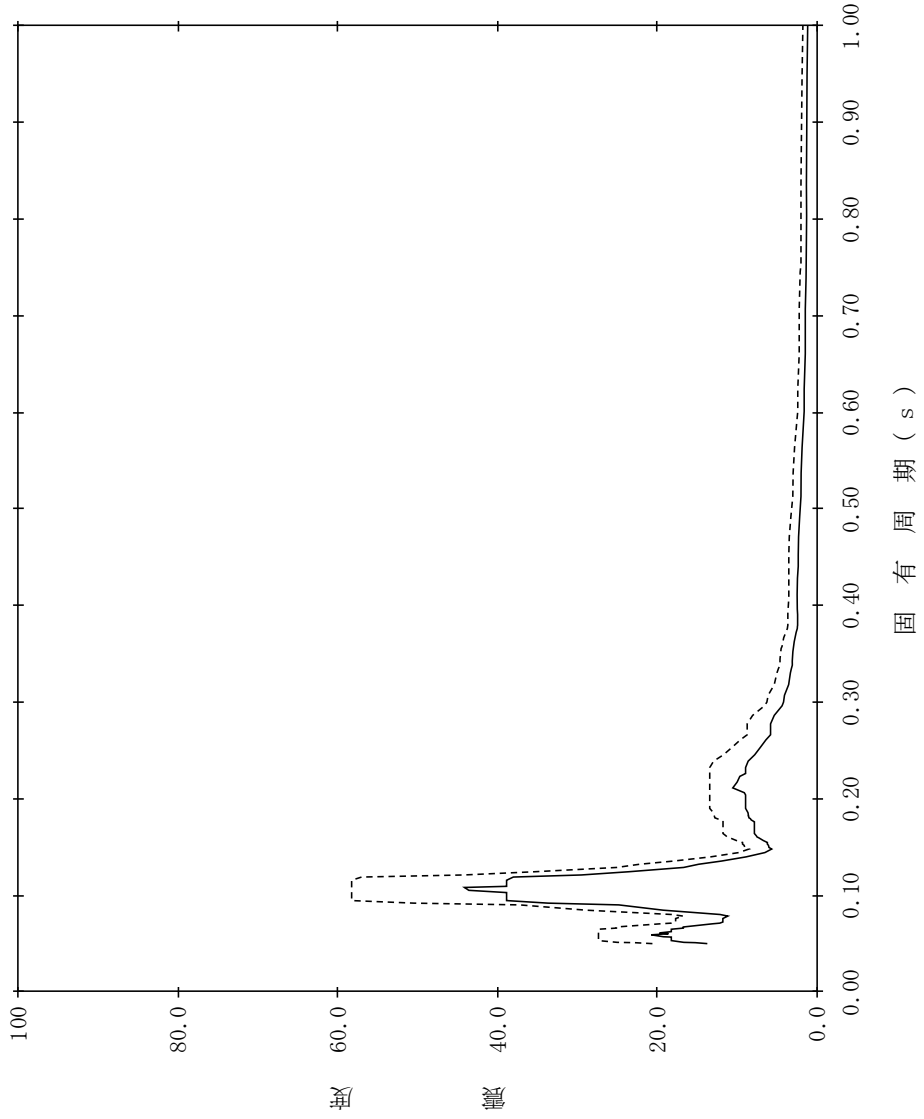
【NS2-PCV-SsEW-RPV147】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



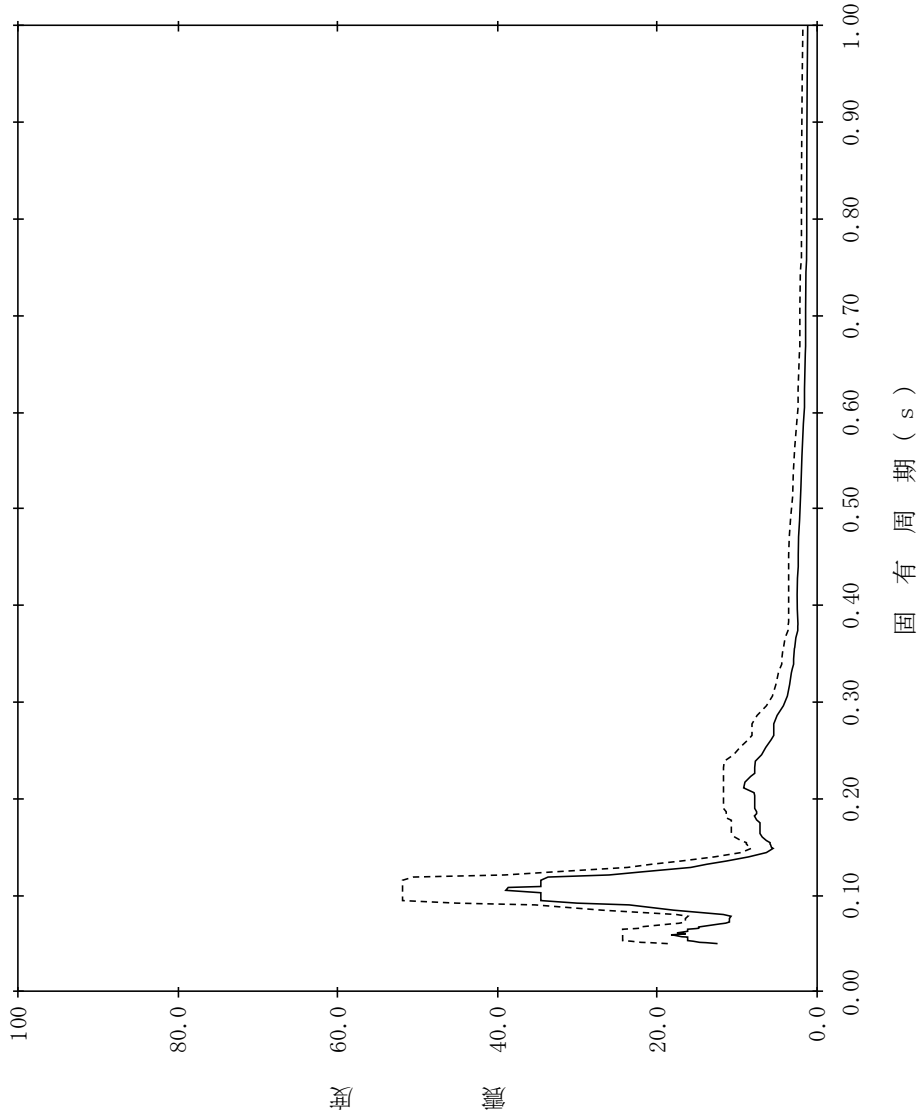
【NS2-PCV-SsEW-RPV148】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL32.567m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



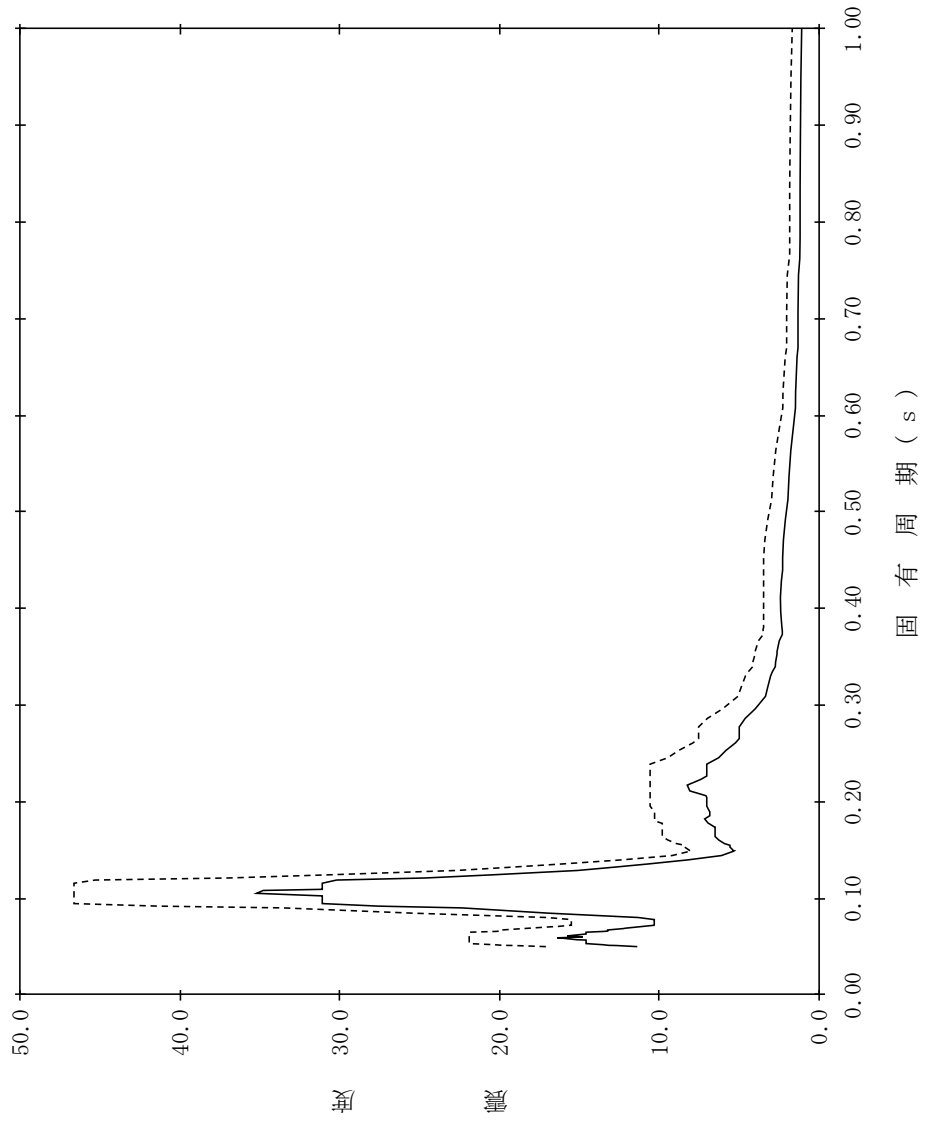
【NS2-PCV-SsEW-RPV149】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL32.567m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



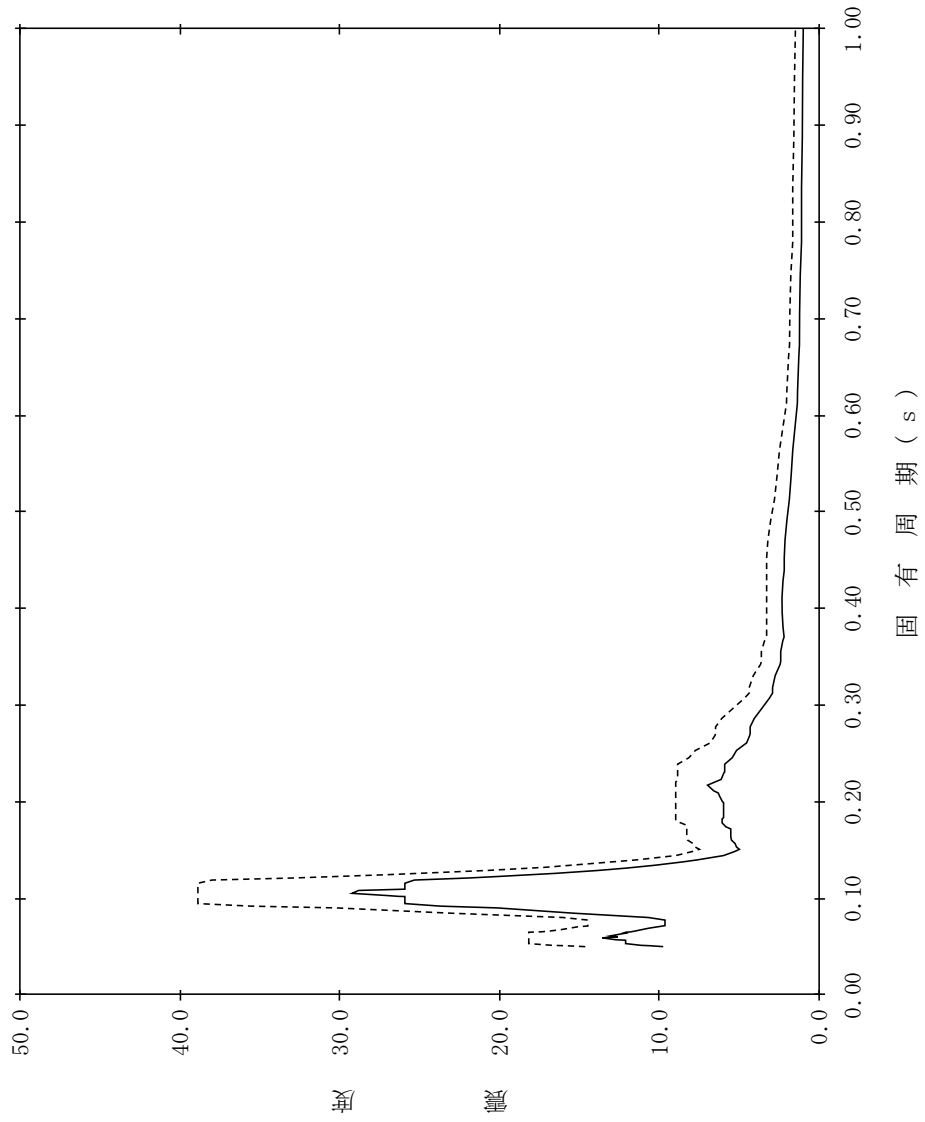
【NS2-PCV-SsEW-RPV150】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



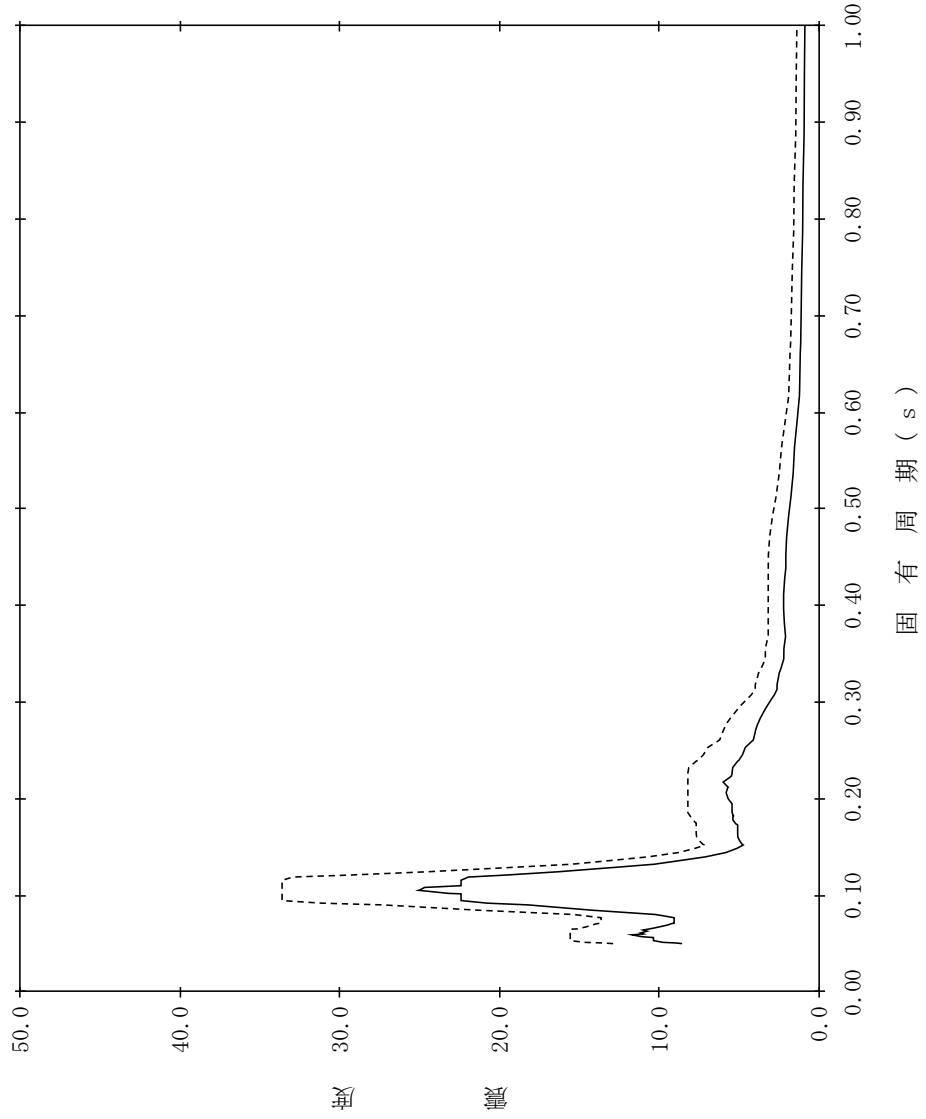
【NS2-PCV-SsEW-RPV151】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



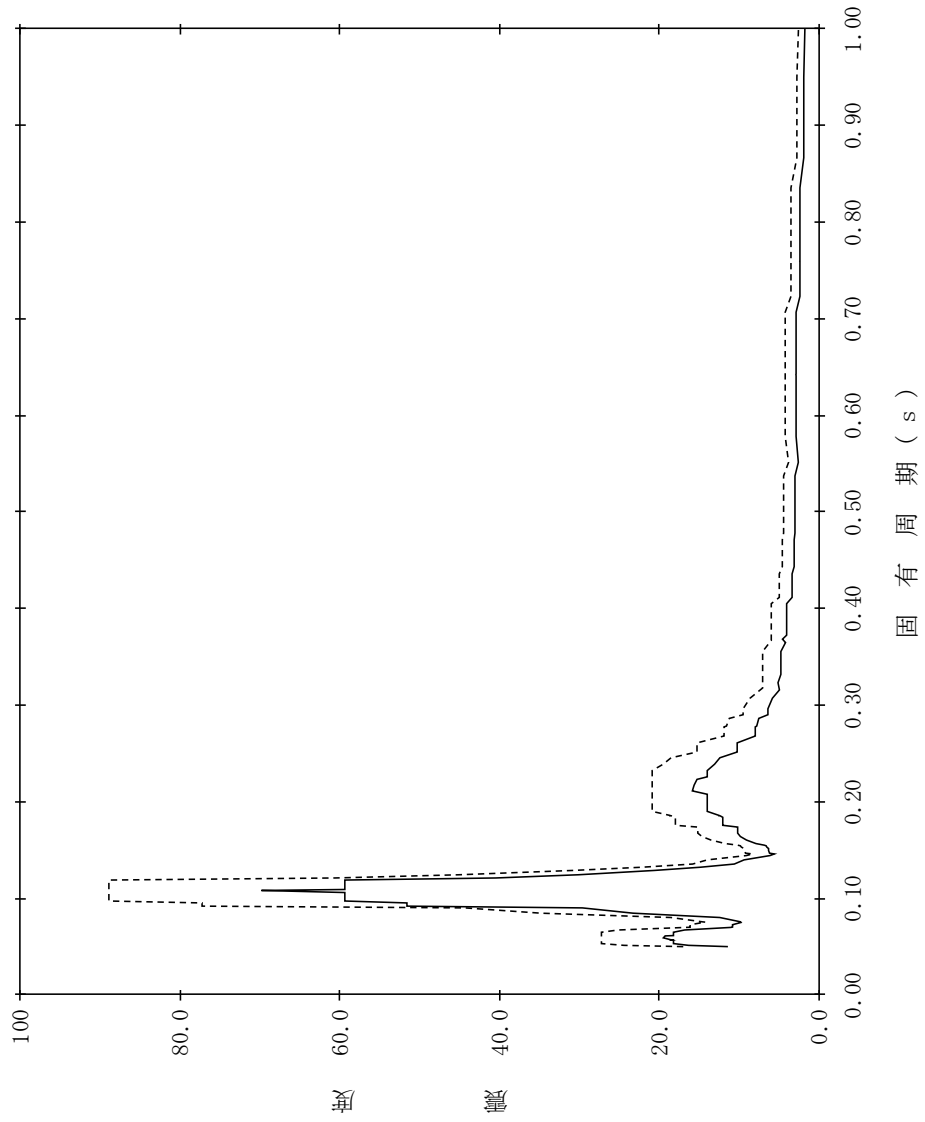
【NS2-PCV-SsEW-RPV152】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL32.567m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



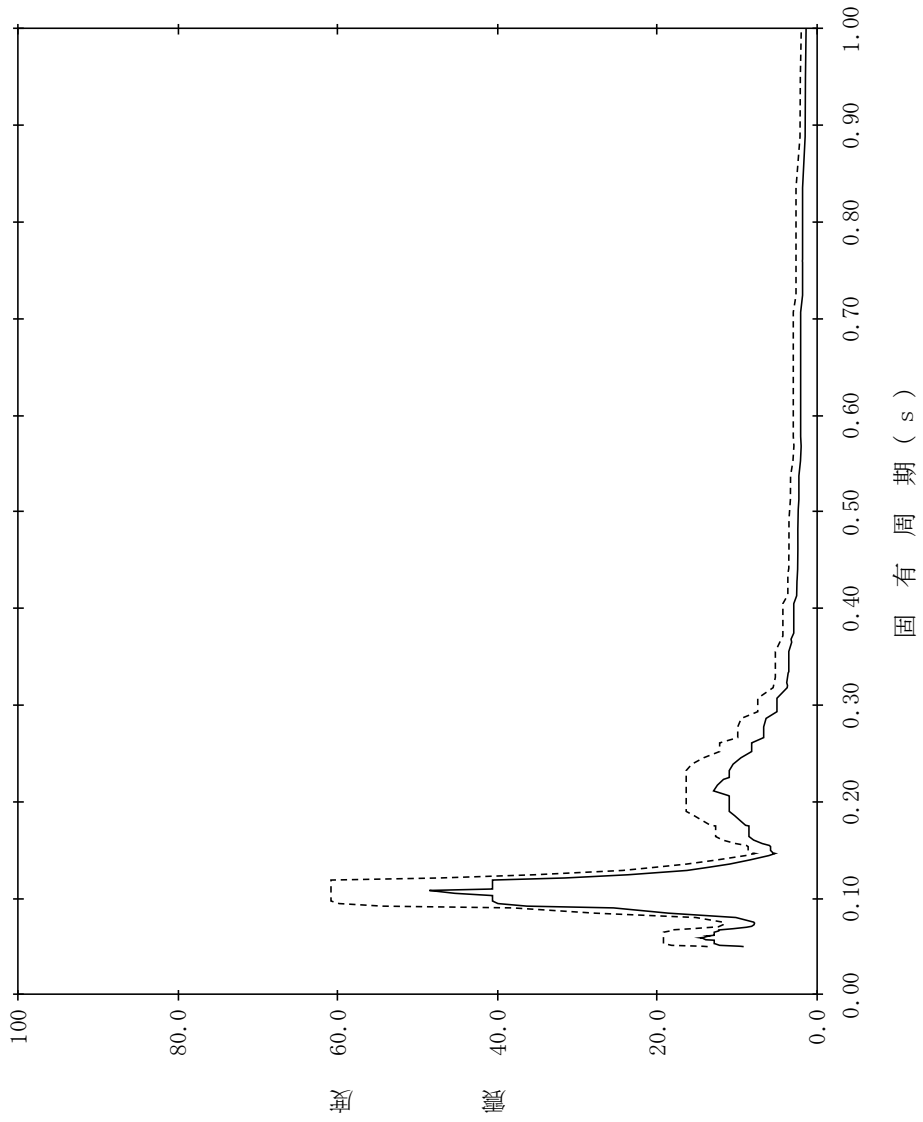
【NS2-PCV-SsEW-RPV153】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



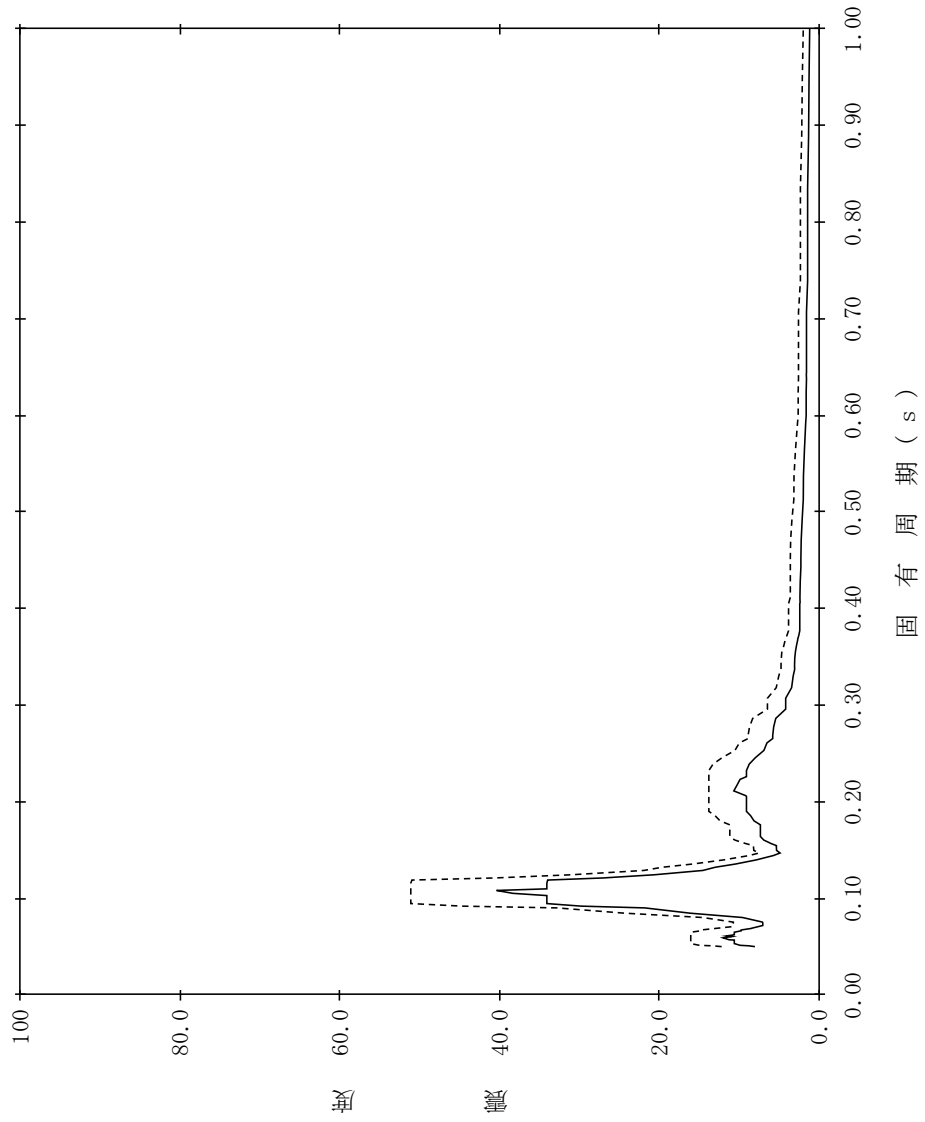
【NS2-PCV-SsEW-RPV154】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL29.181m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



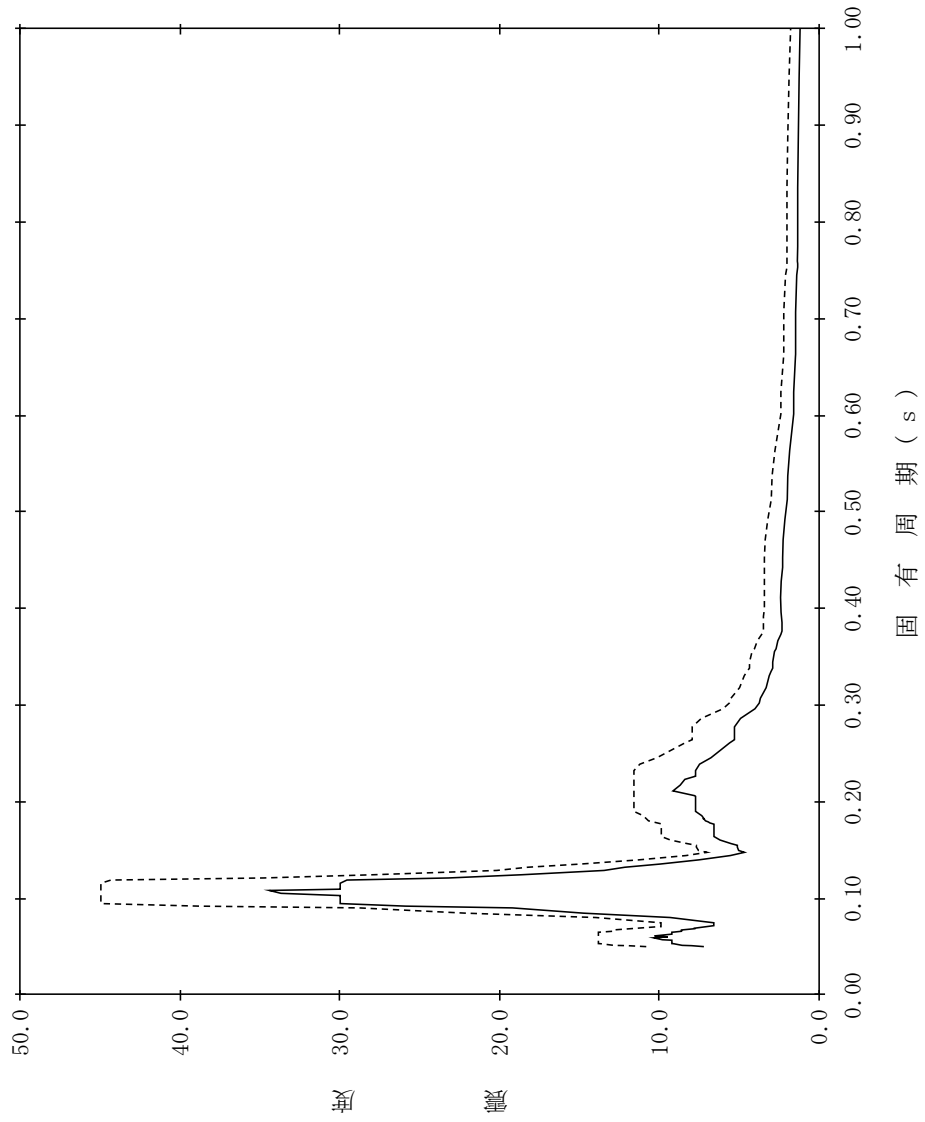
【NS2-PCV-SsEW-RPV155】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL29.181m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



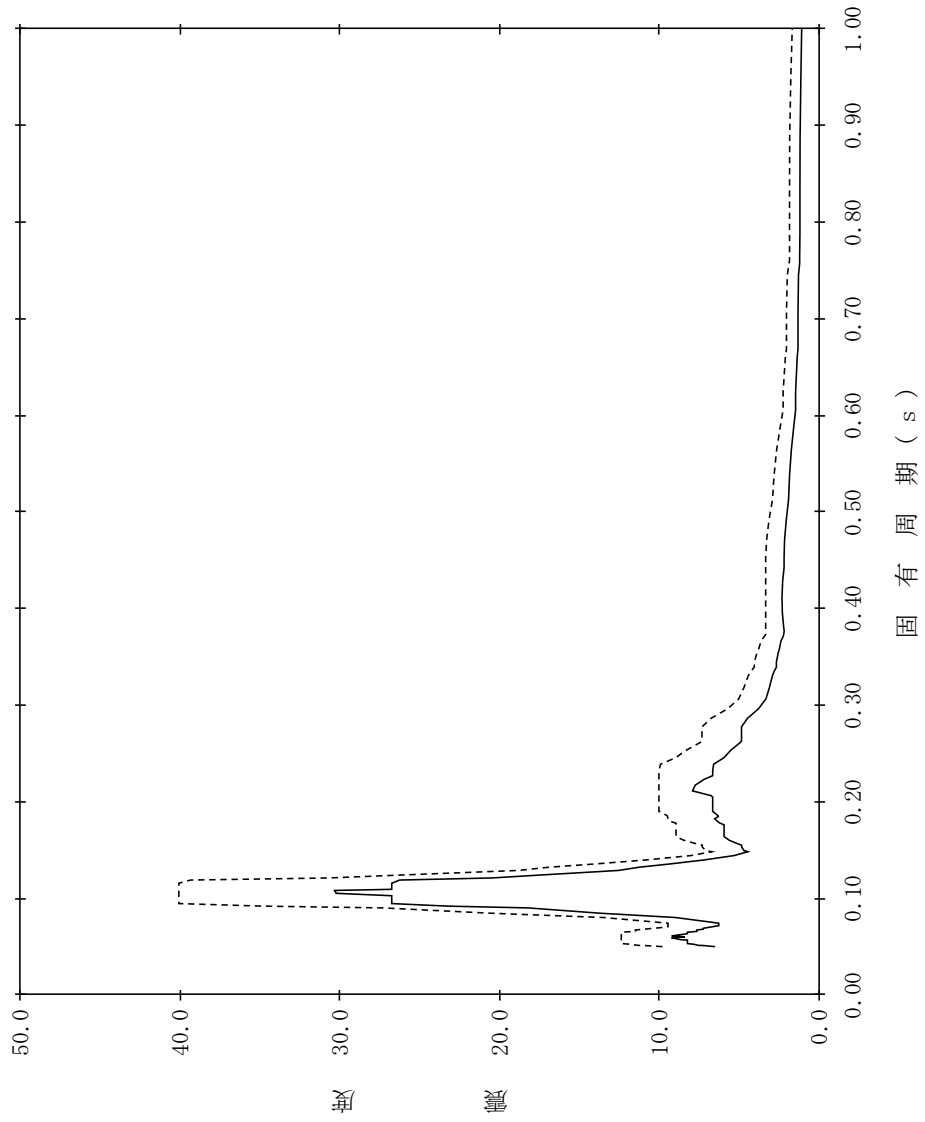
【NS2-PCV-SsEW-RPV156】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

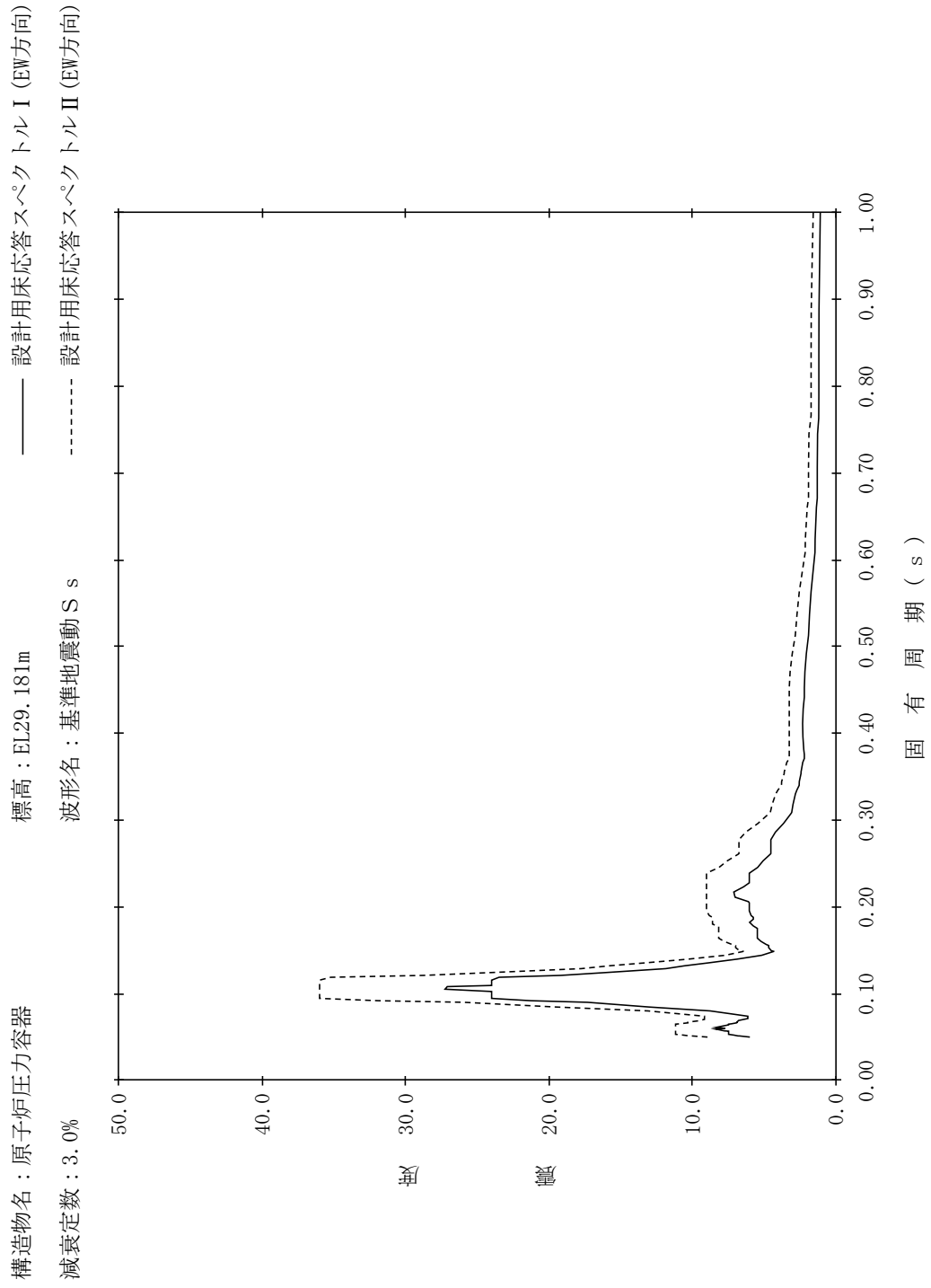


【NS2-PCV-SsEW-RPV157】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

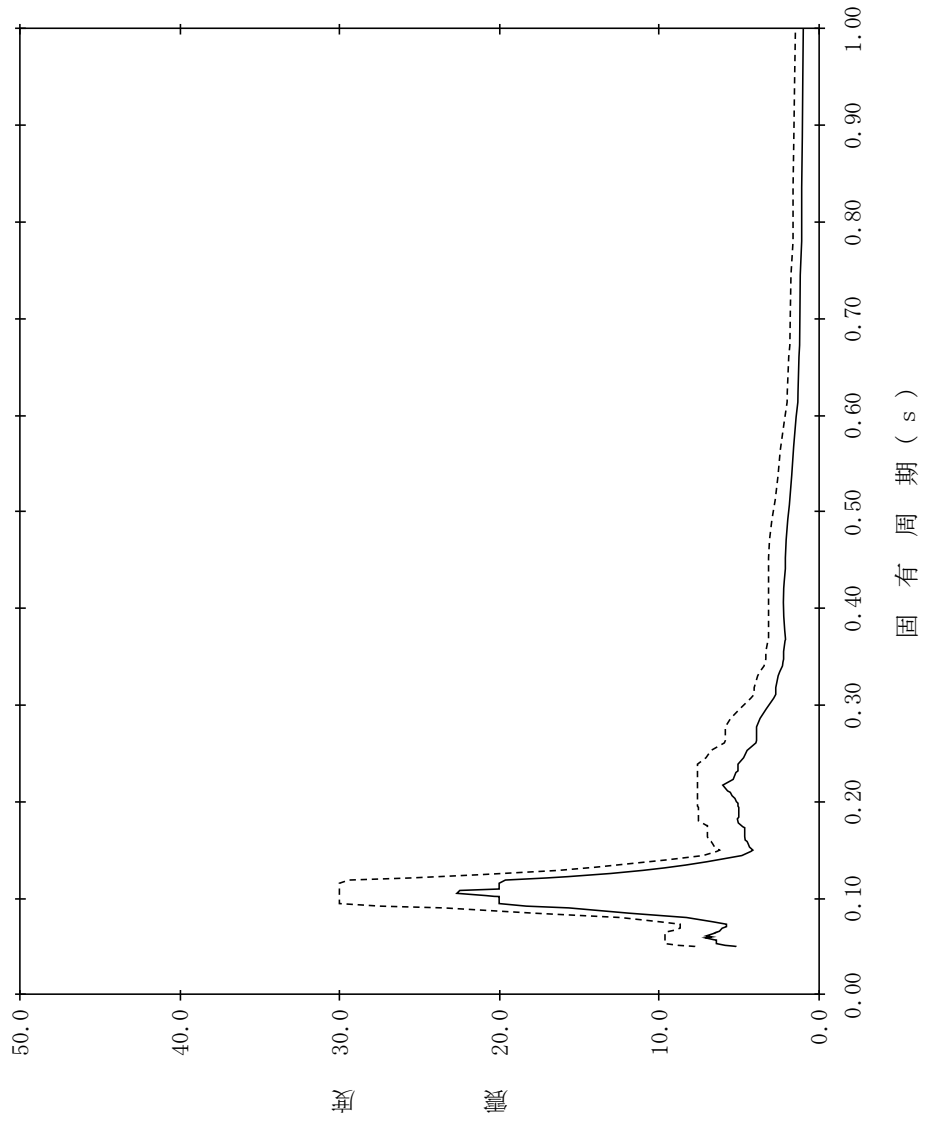


【NS2-PCV-SsEW-RPV158】



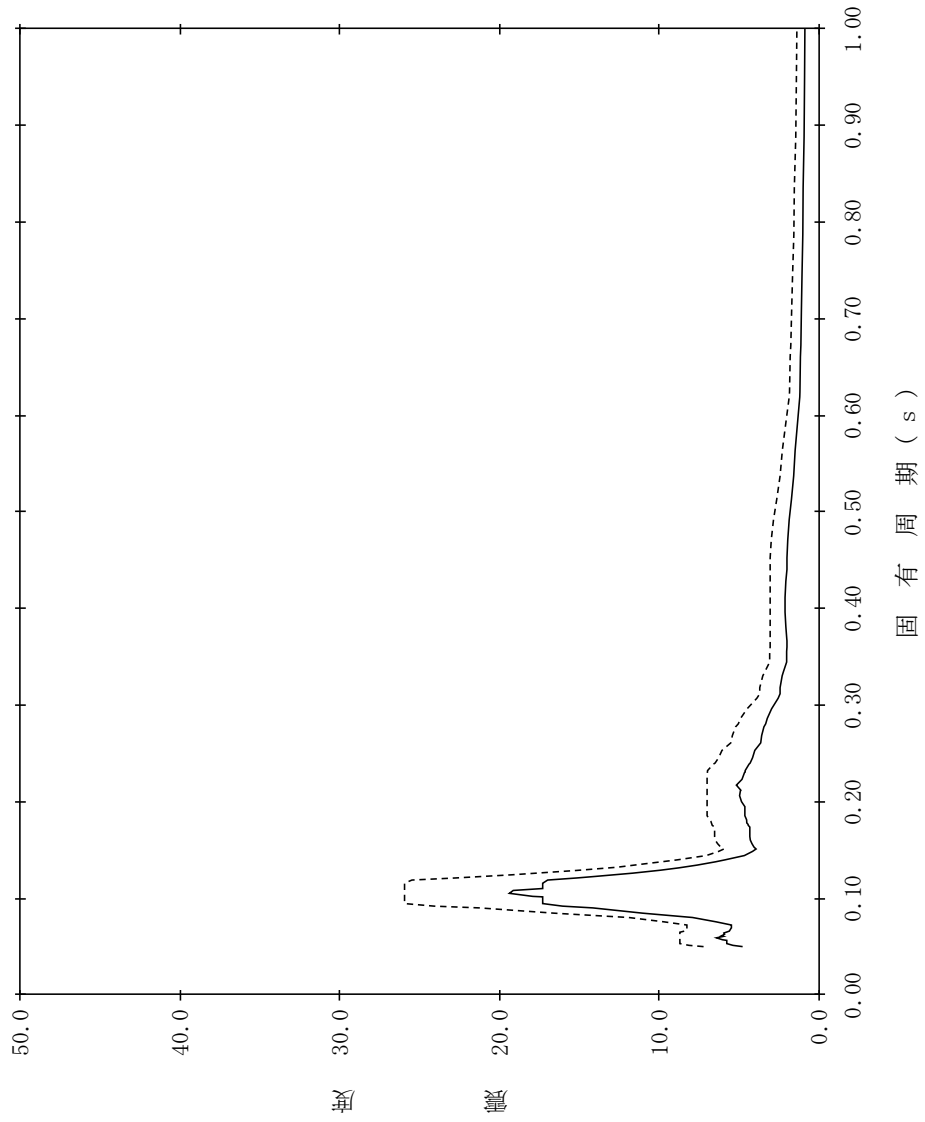
【NS2-PCV-SsEW-RPV159】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL29.181m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



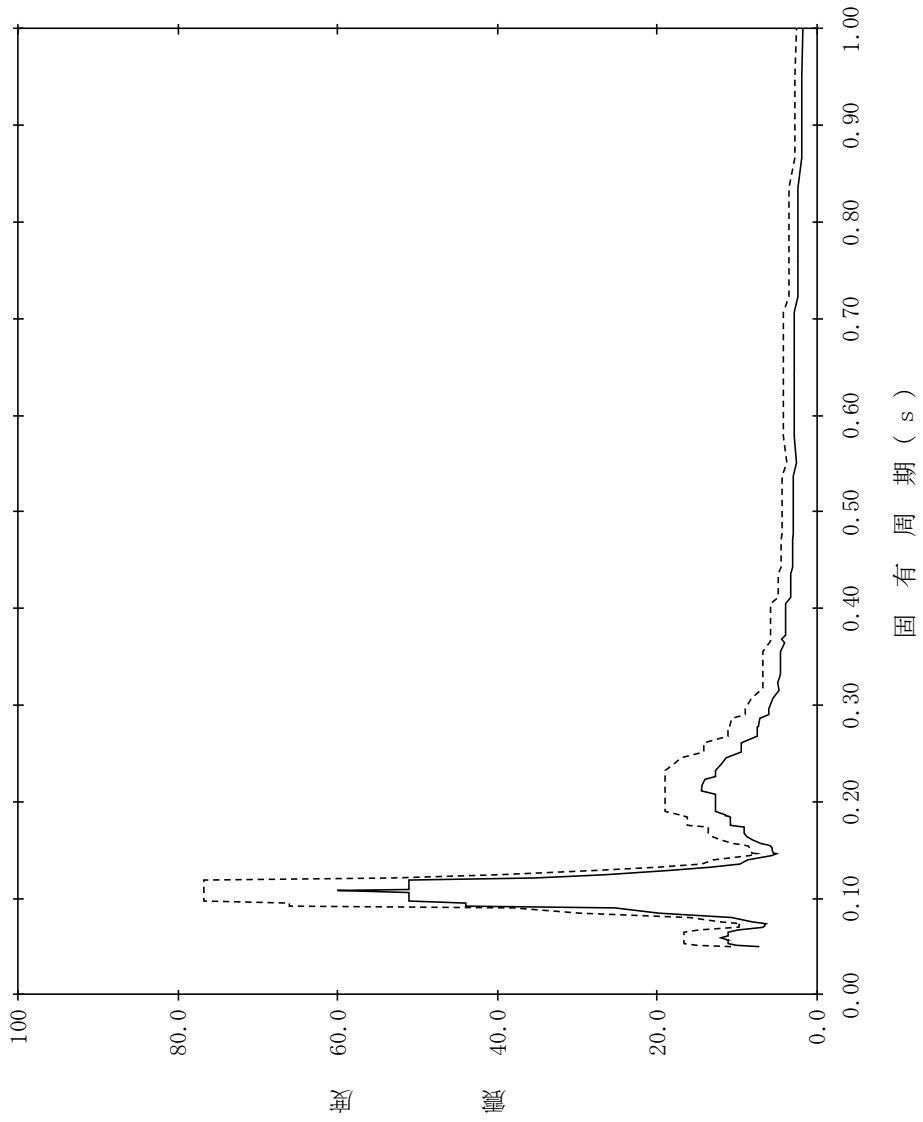
【NS2-PCV-SsEW-RPV160】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



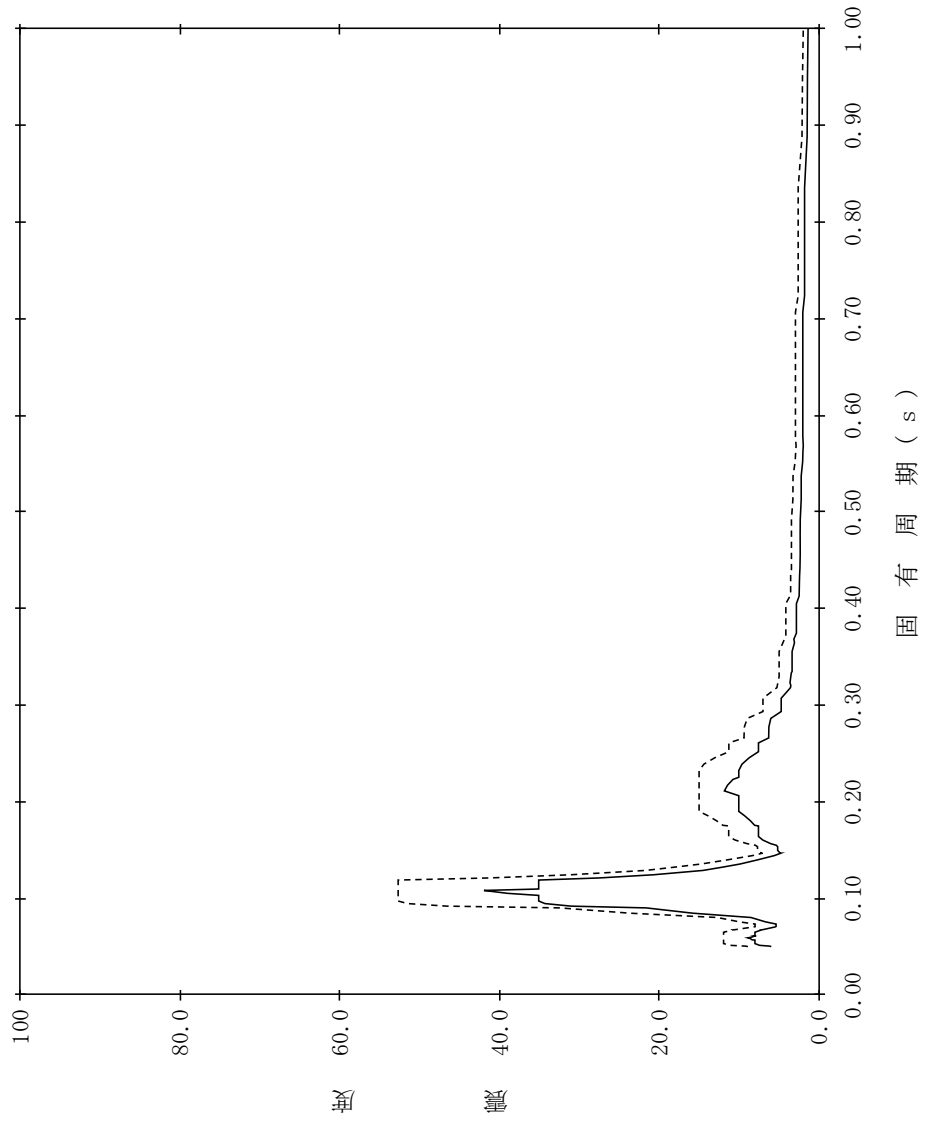
【NS2-PCV-SsEW-RPV161】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



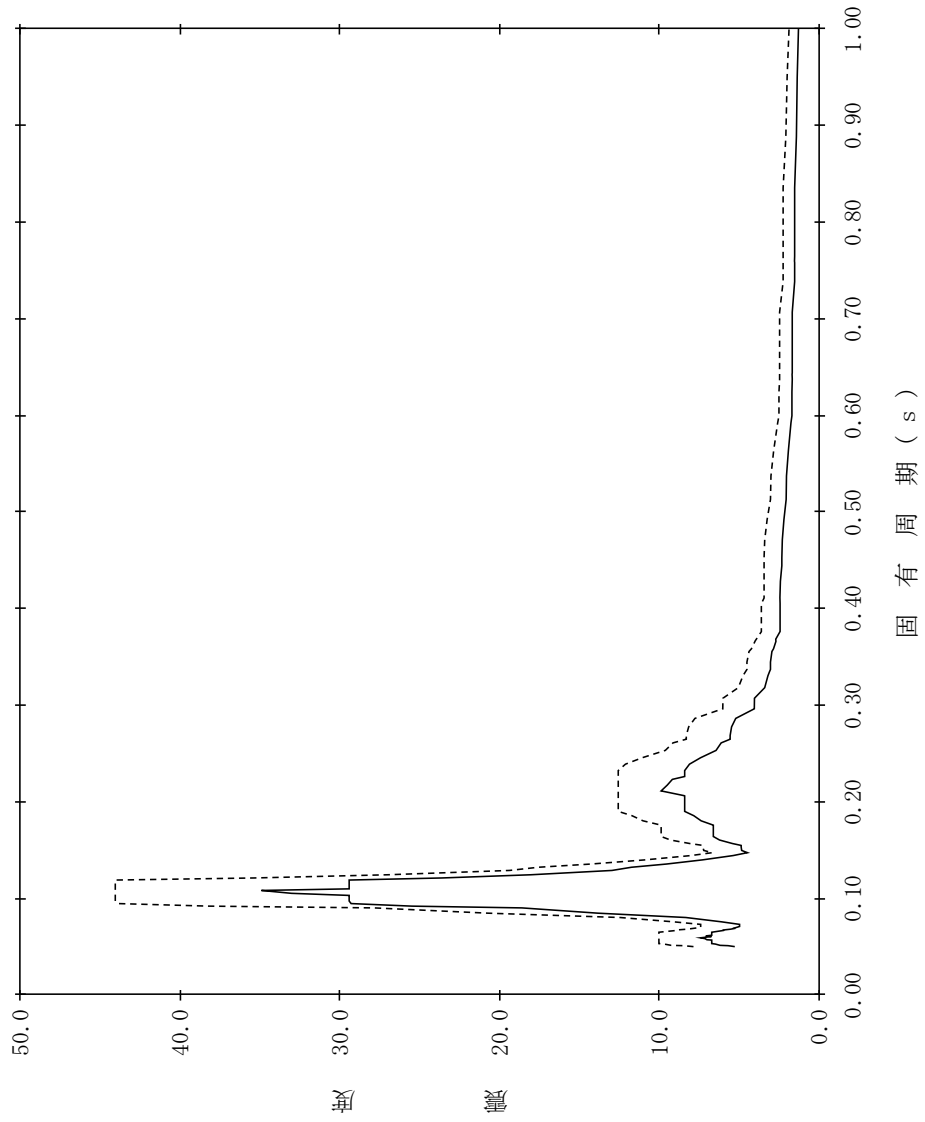
【NS2-PCV-SsEW-RPV162】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL27.317m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



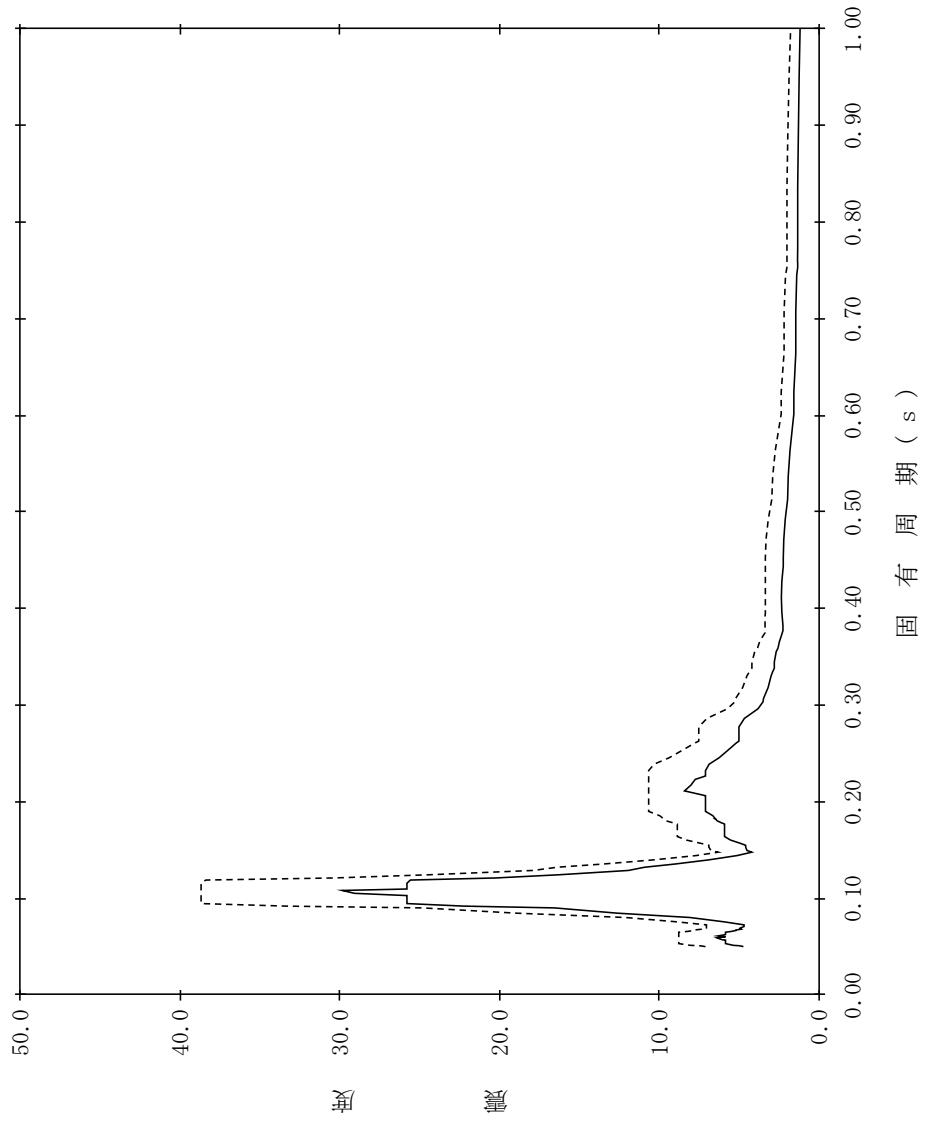
【NS2-PCV-SsEW-RPV163】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-PCV-SsEW-RPV164】

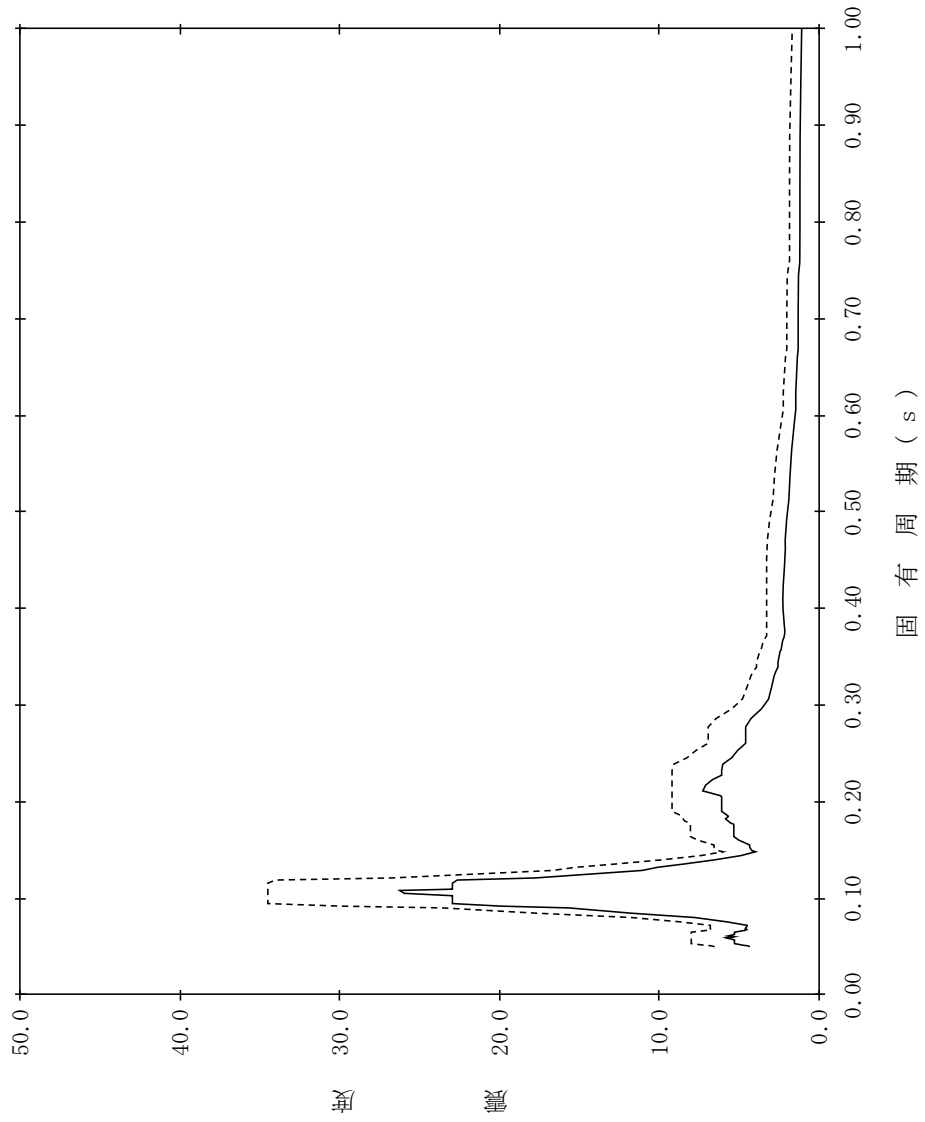
構造物名：原子炉压力容器
 減衰定数：2.0%
 標高：EL27.317m
 波形名：基準地震動 S s
 ———— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 - - - - - 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-PCV-SsEW-RPV165】

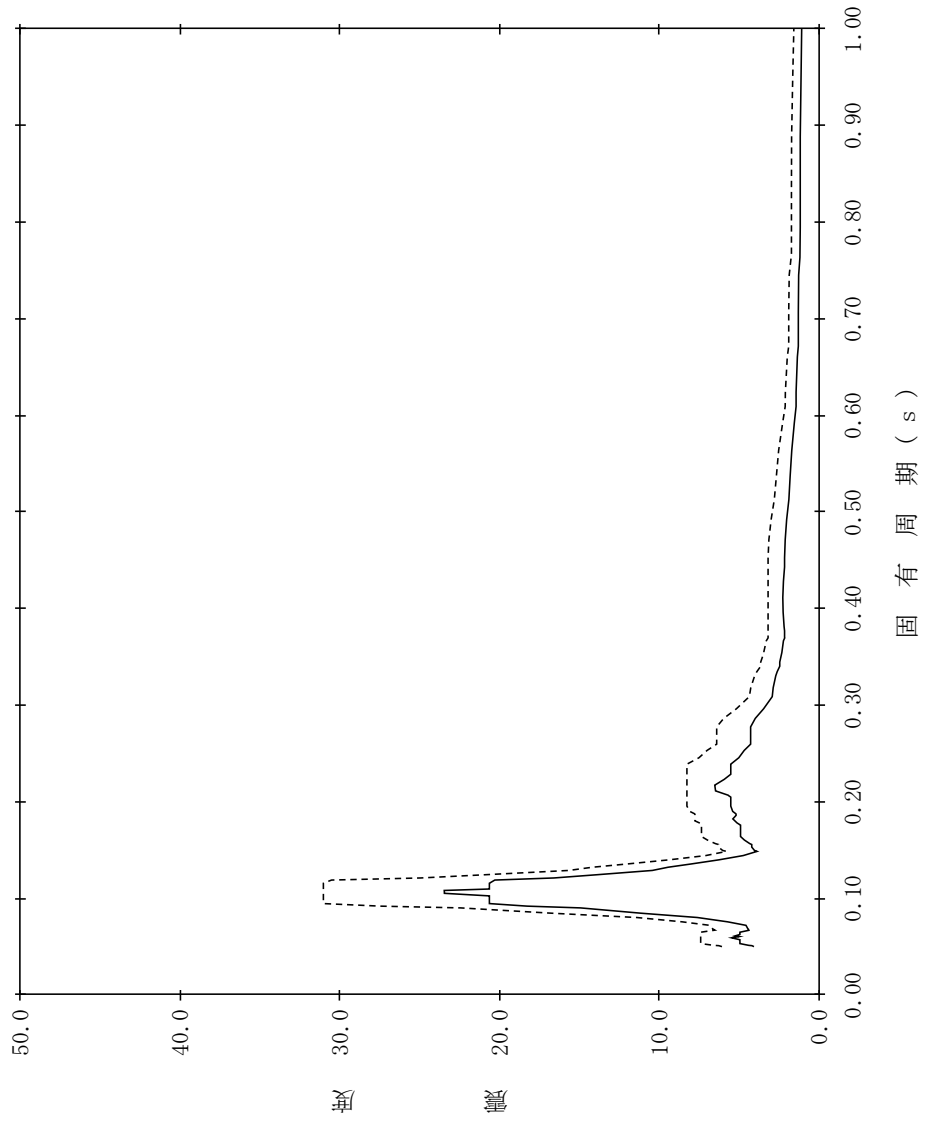
構造物名：原子炉压力容器
標高：EL27.317m
減衰定数：2.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



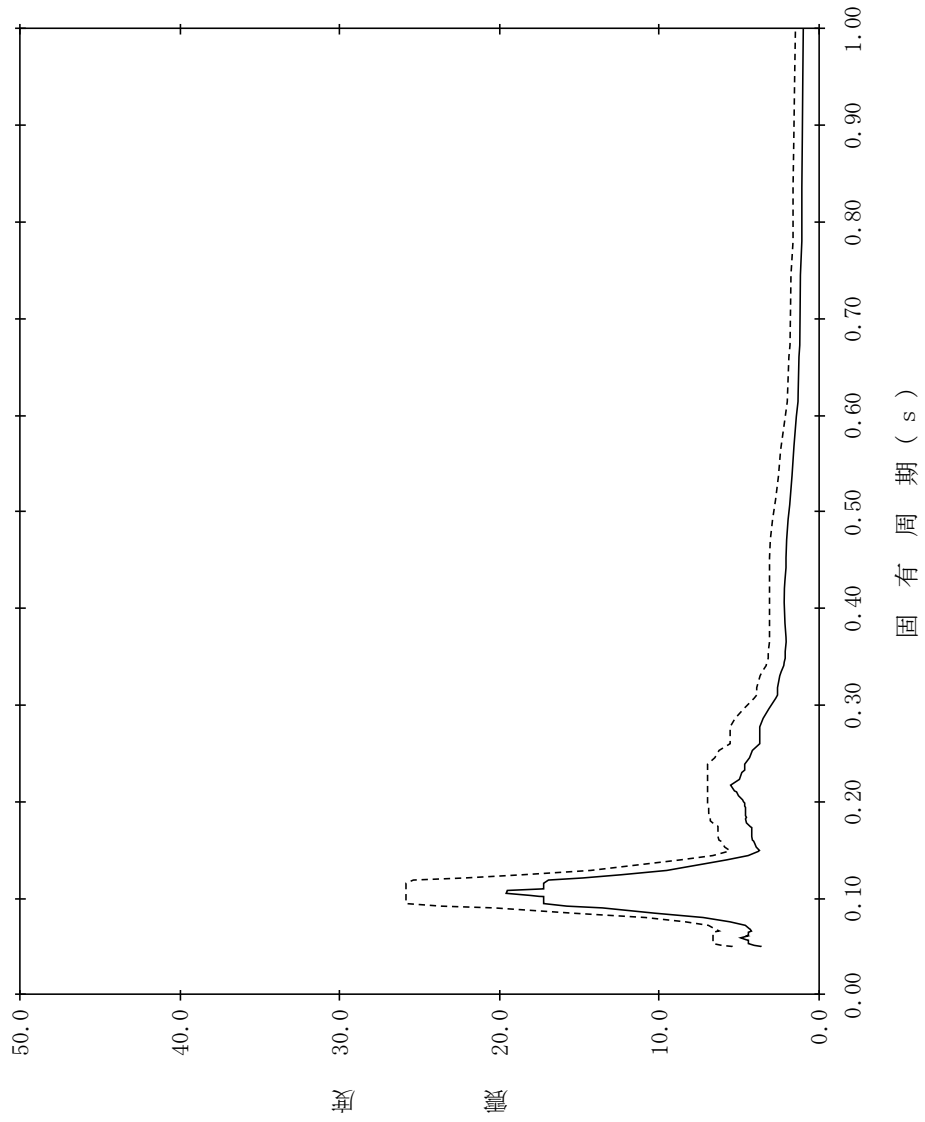
【NS2-PCV-SsEW-RPV166】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



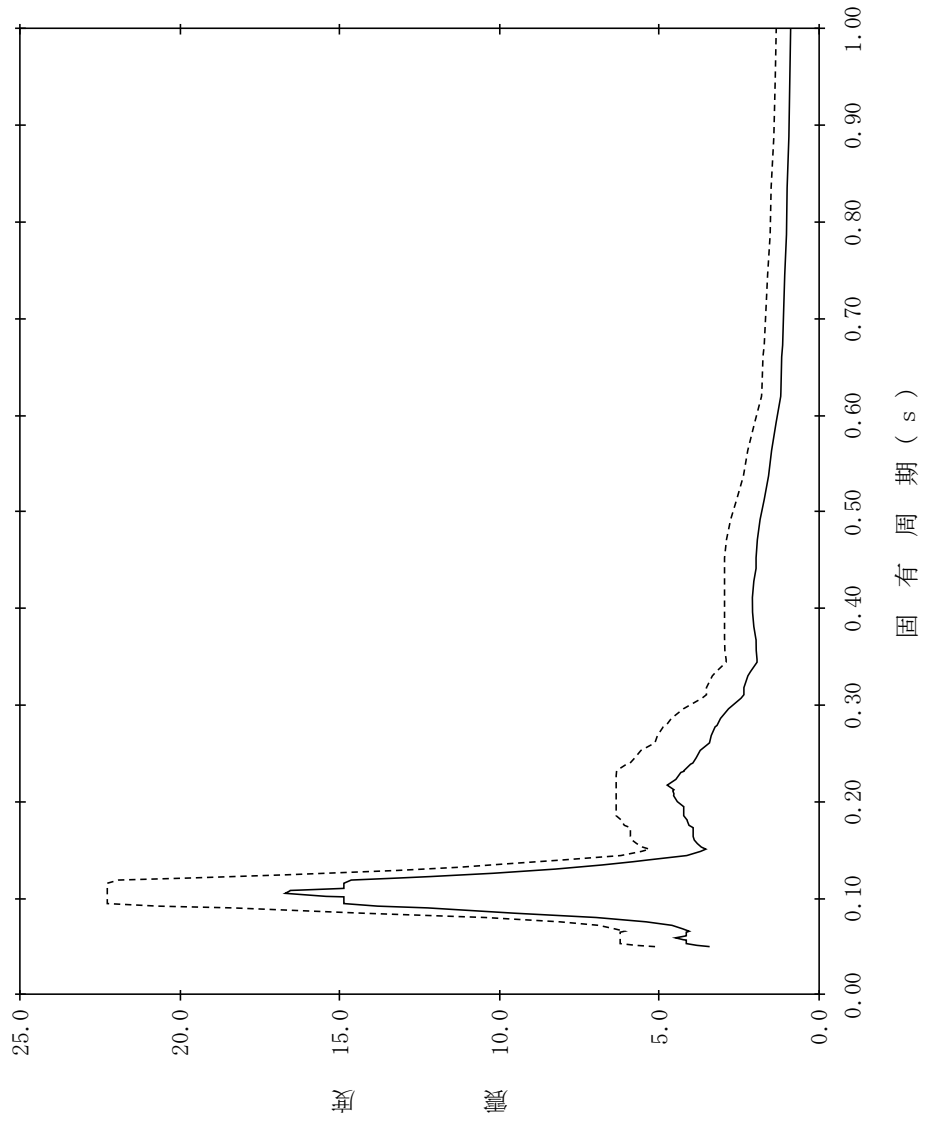
【NS2-PCV-SsEW-RPV167】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



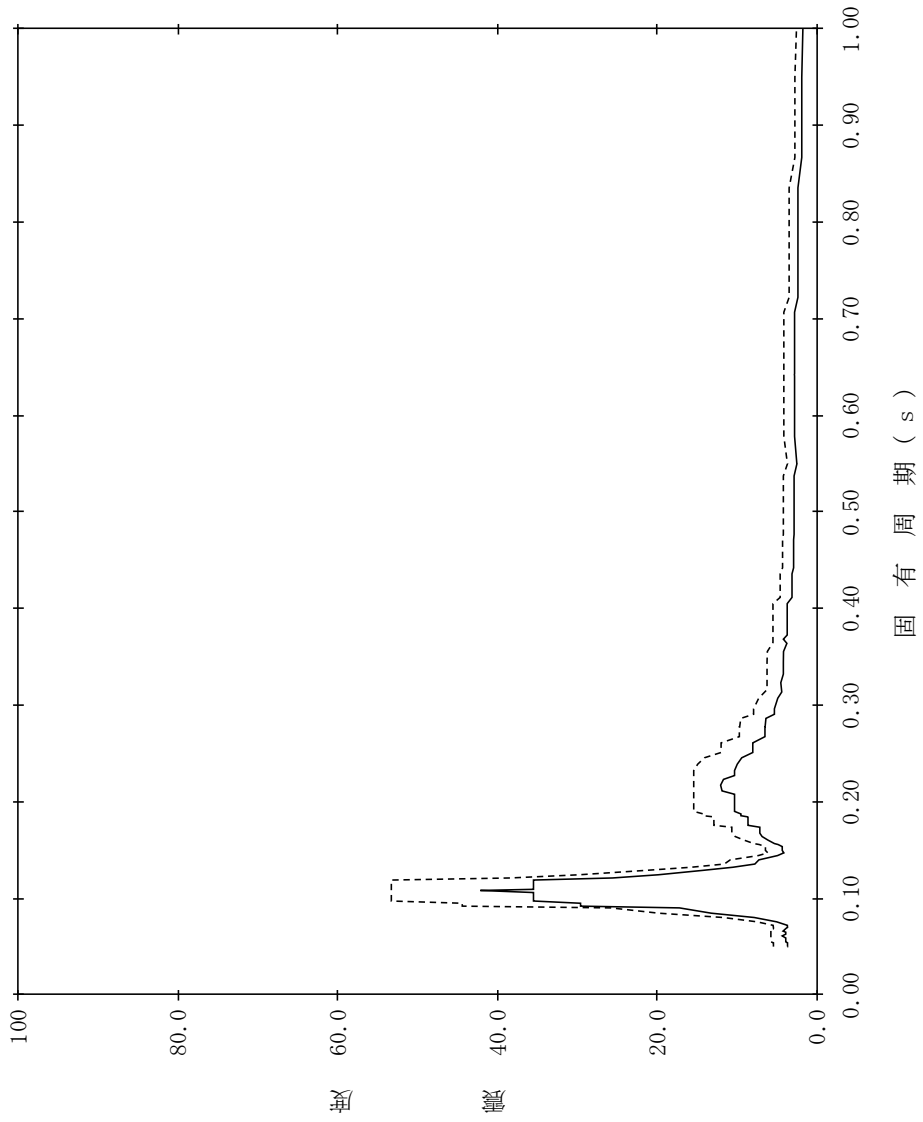
【NS2-PCV-SsEW-RPV168】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



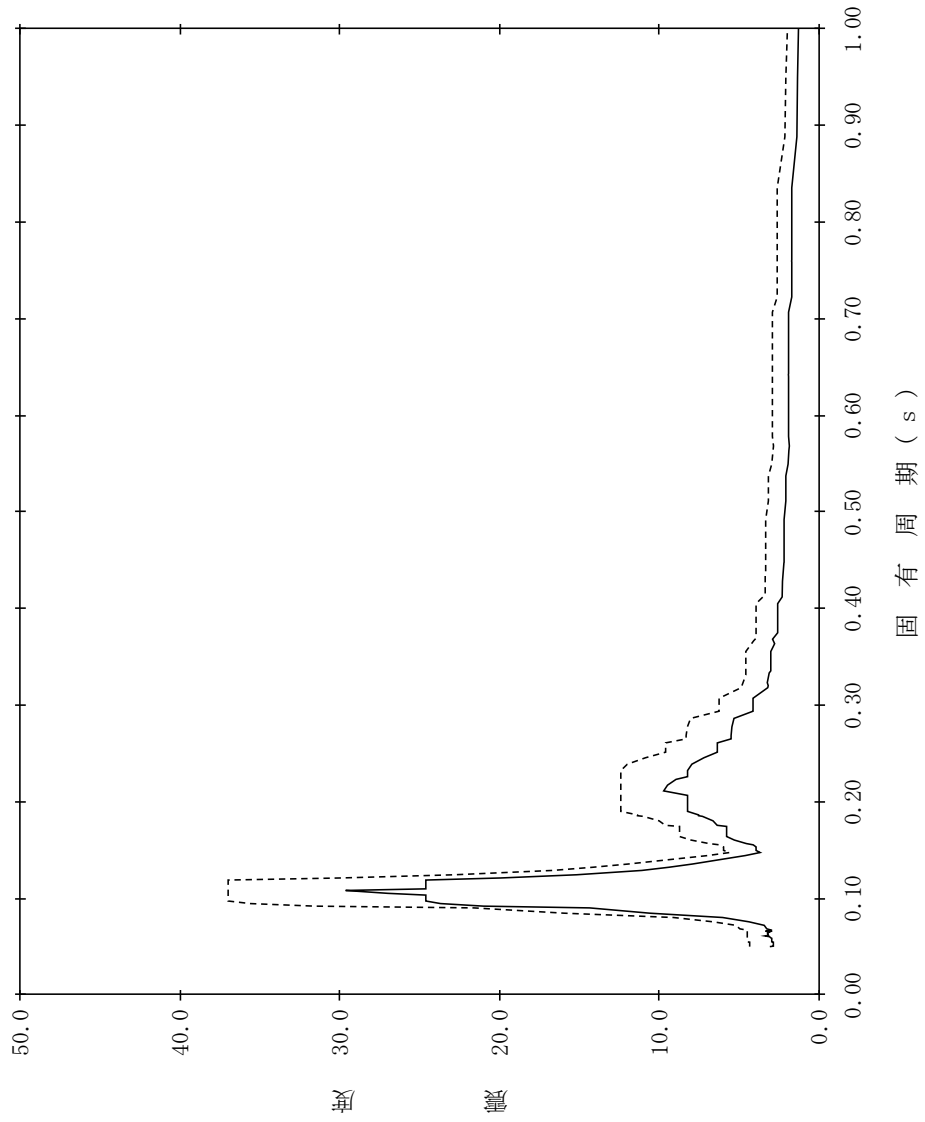
【NS2-PCV-SsEW-RPV169】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



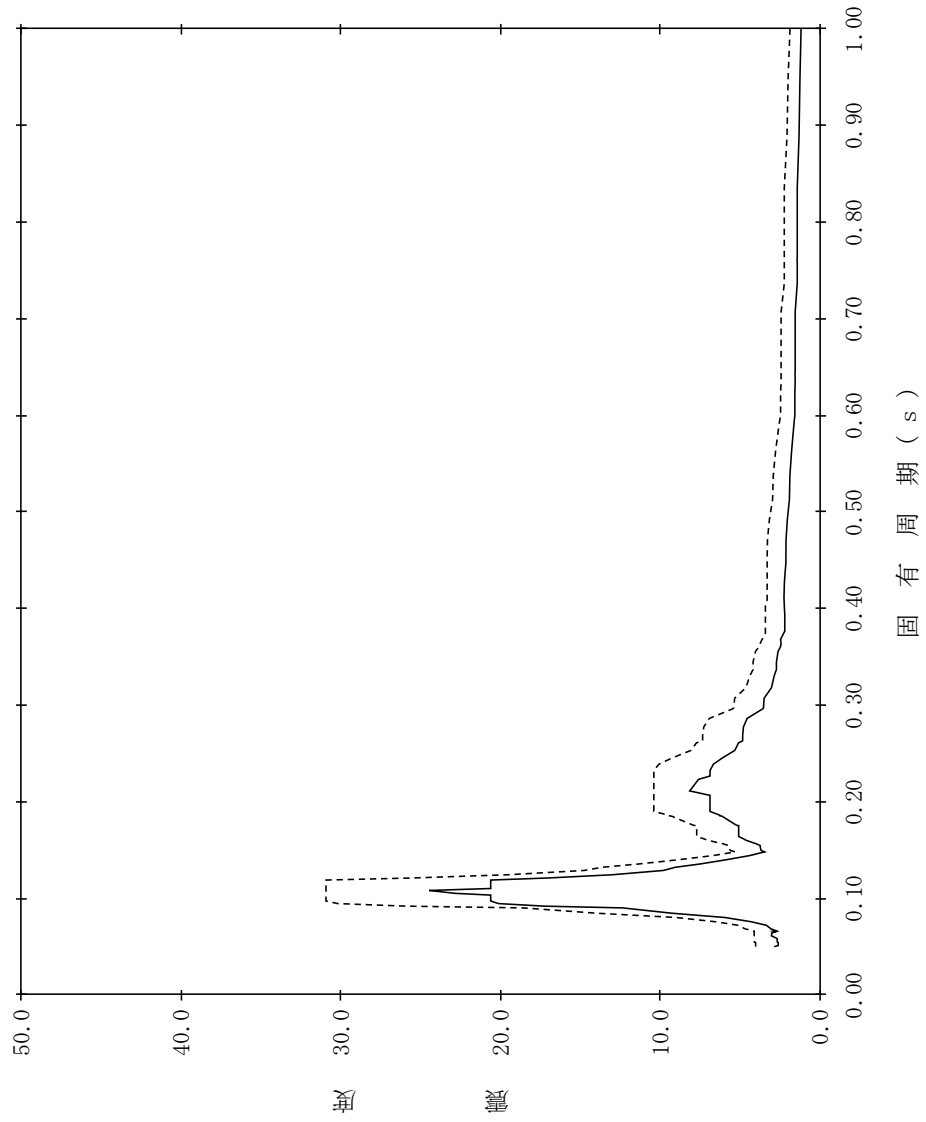
【NS2-PCV-SsEW-RPV170】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



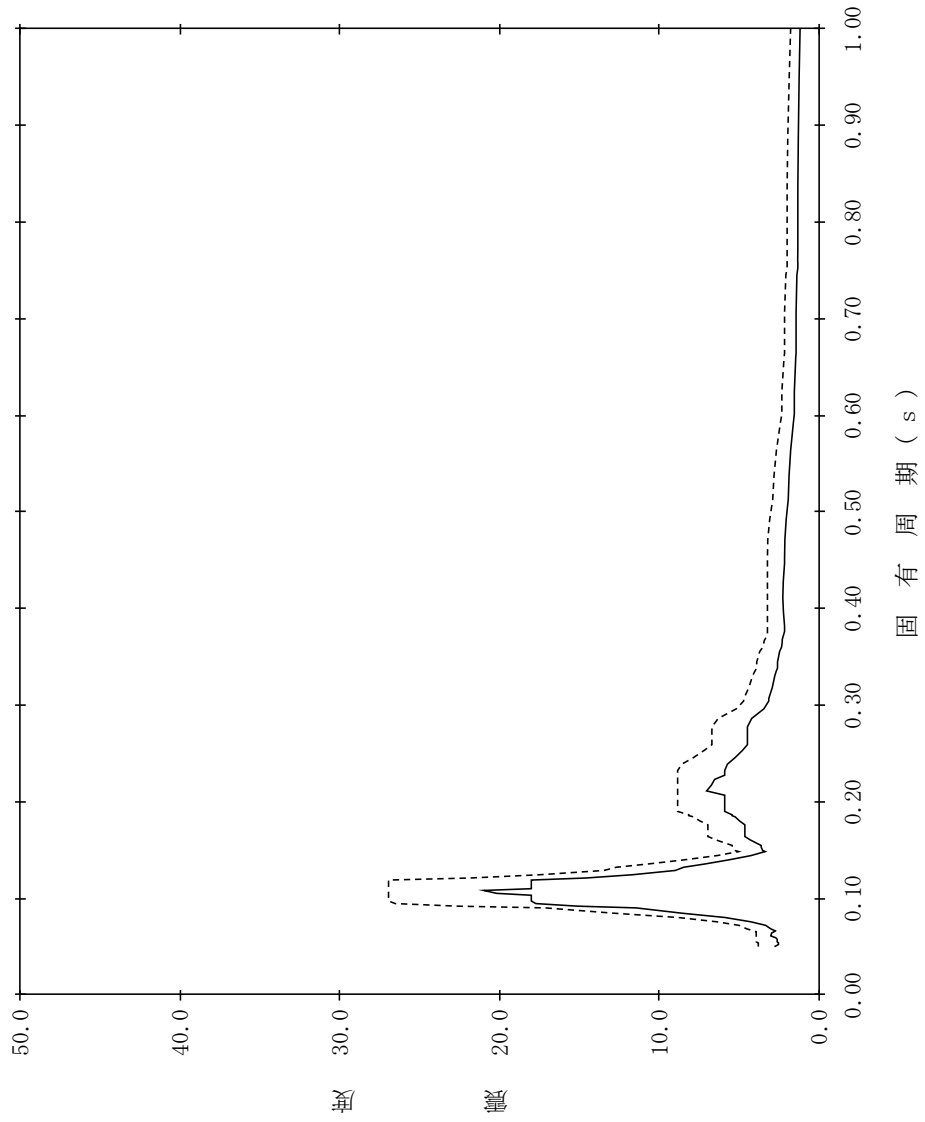
【NS2-PCV-SsEW-RPV171】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



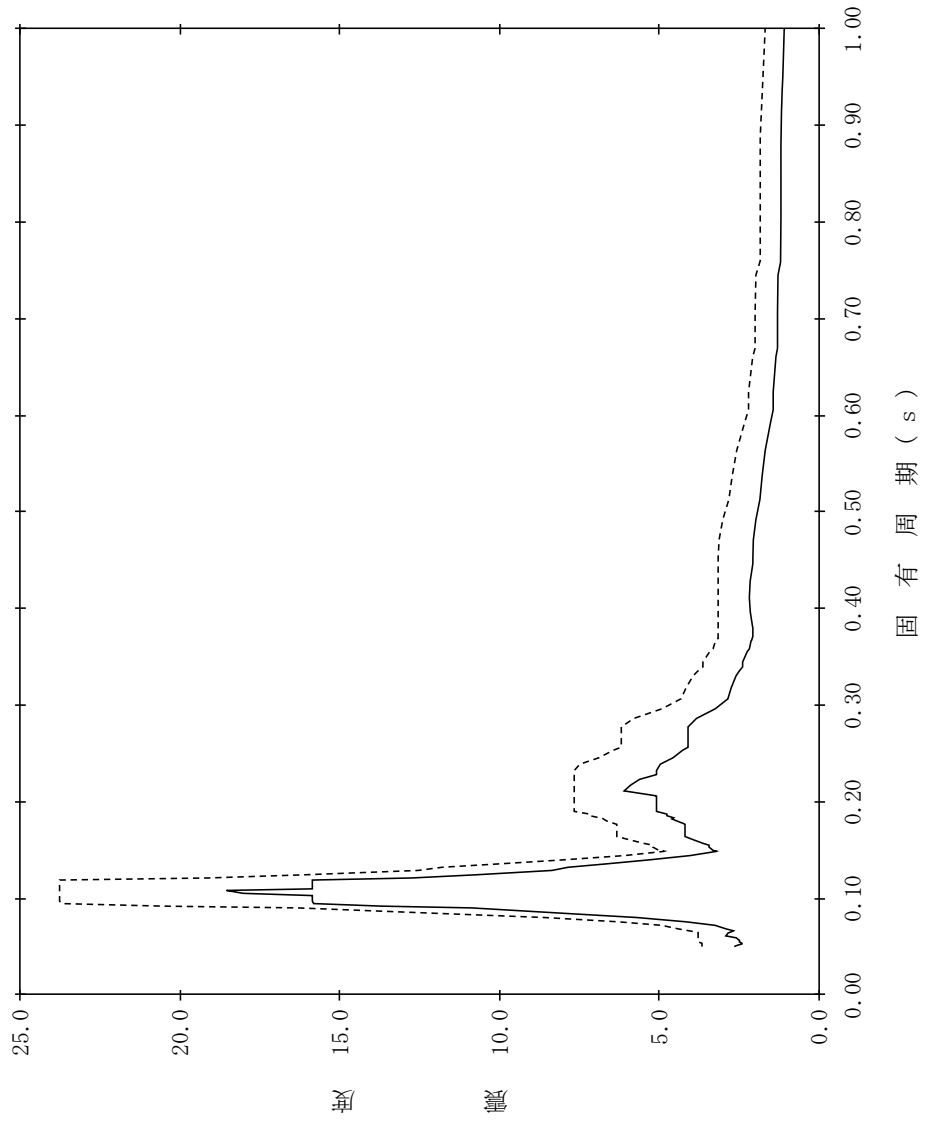
【NS2-PCV-SsEW-RPV172】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



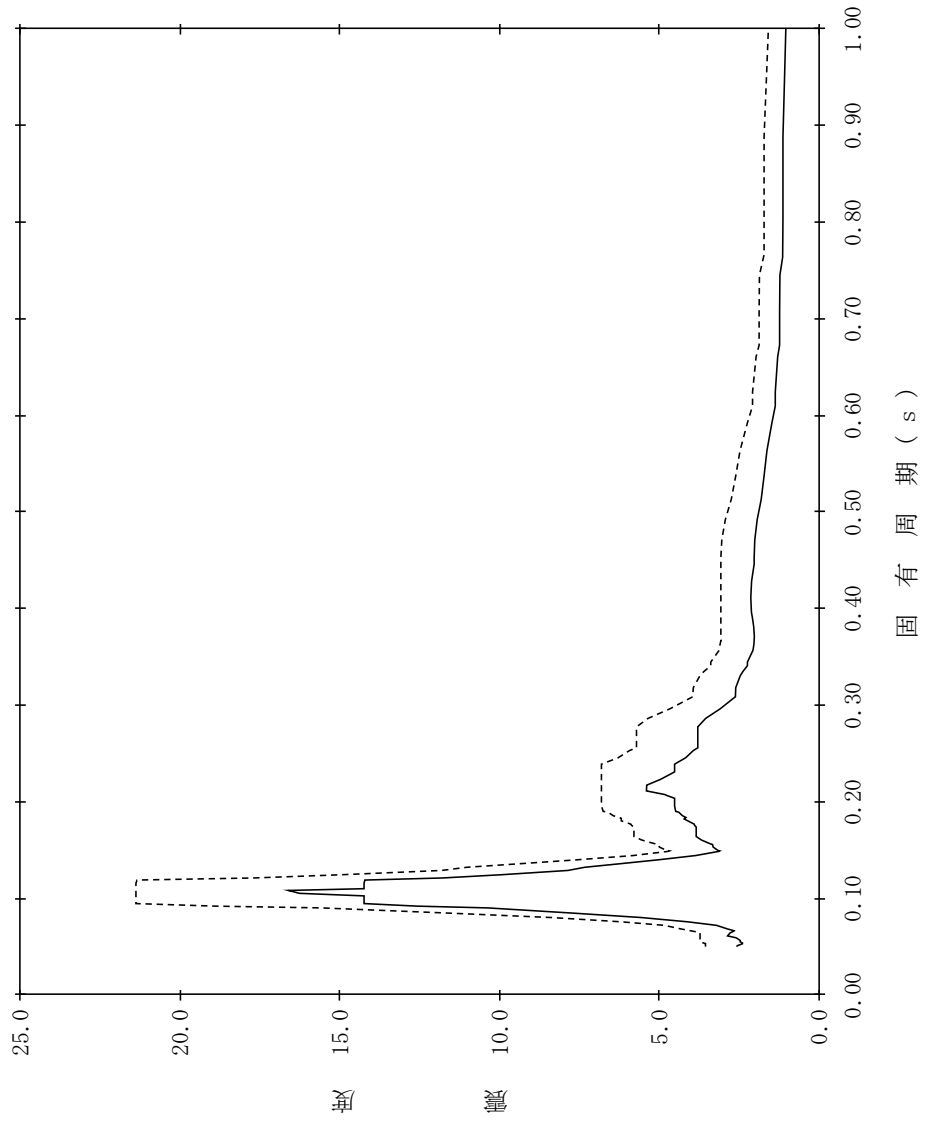
【NS2-PCV-SsEW-RPV173】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



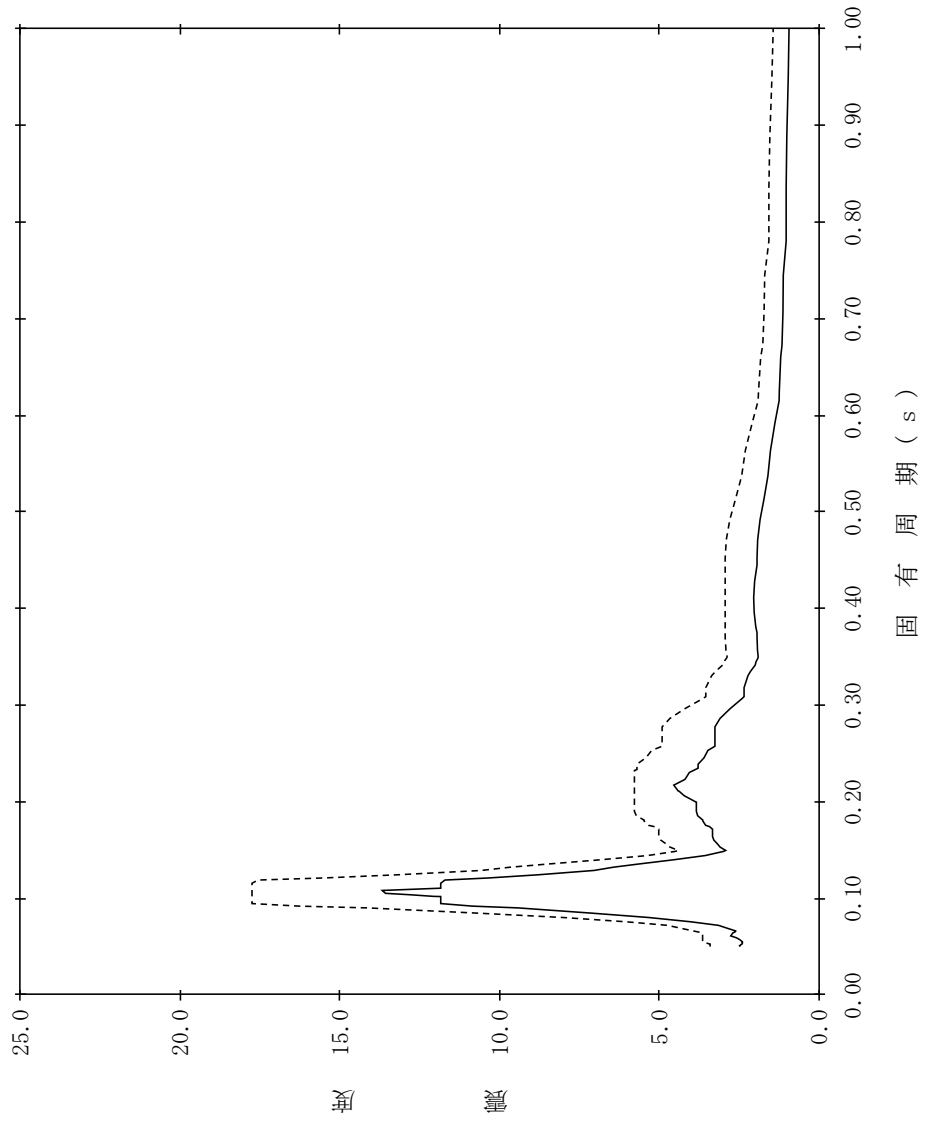
【NS2-PCV-SsEW-RPV174】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

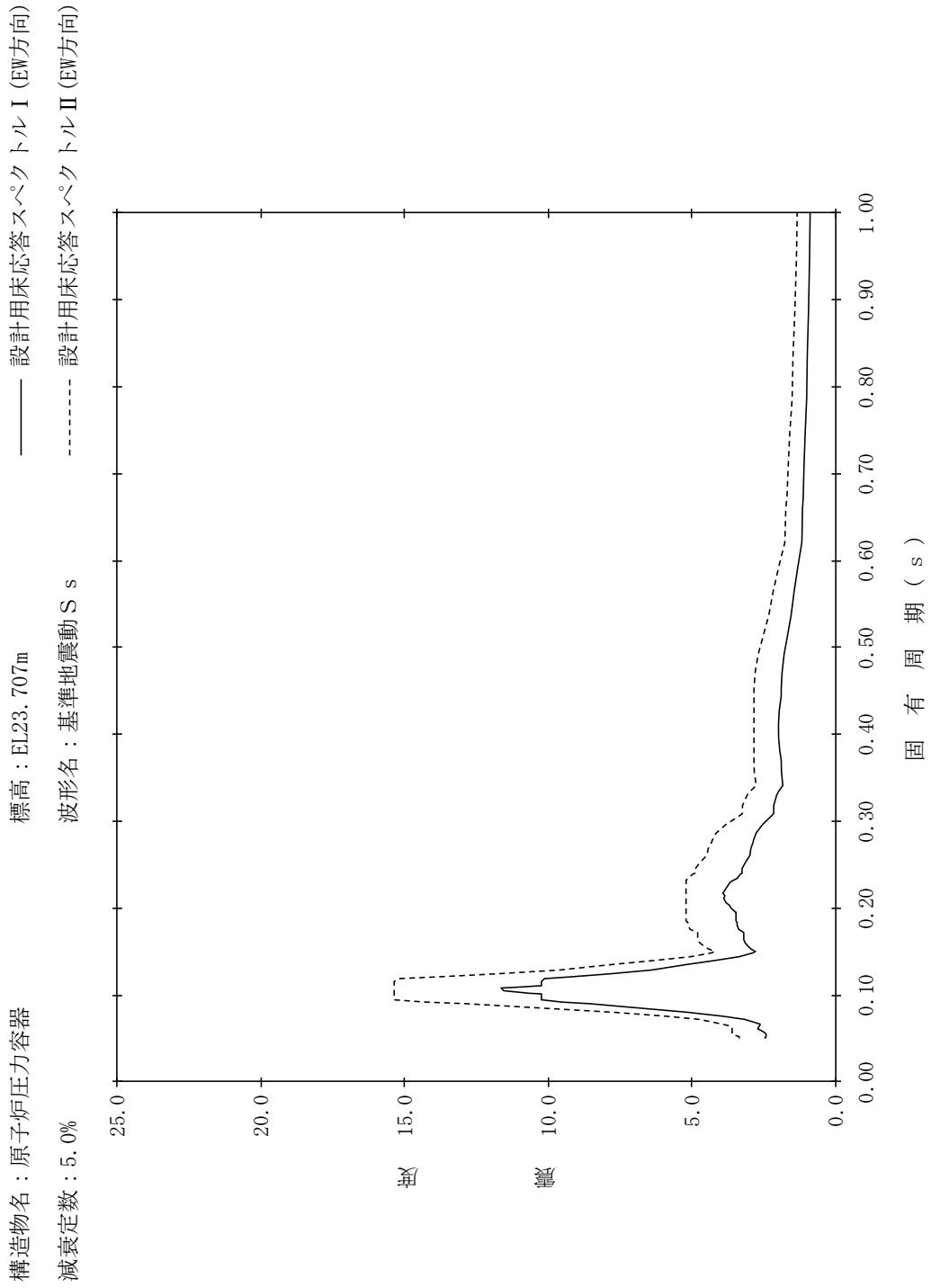


【NS2-PCV-SsEW-RPV175】

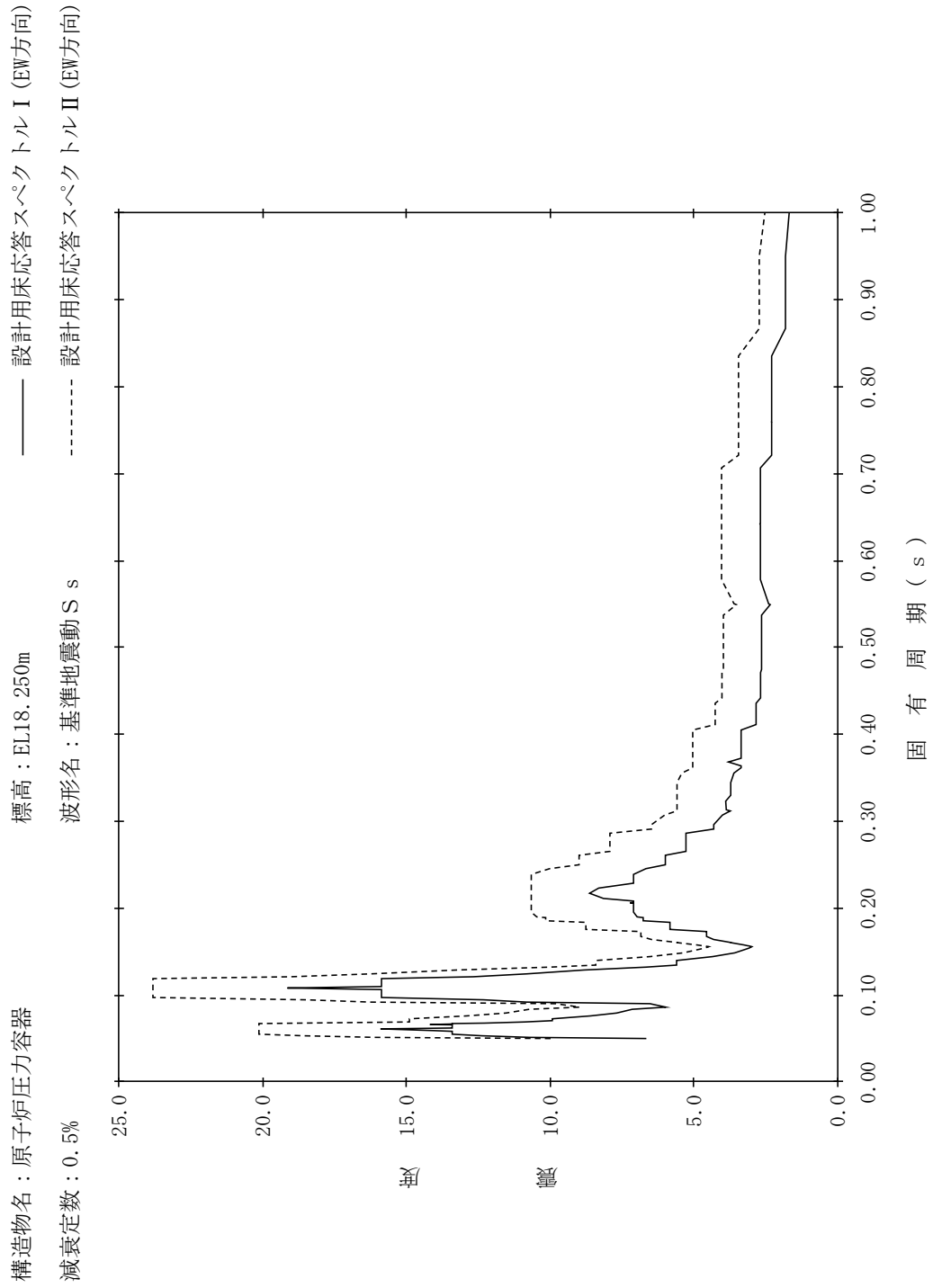
構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-PCV-SsEW-RPV176】

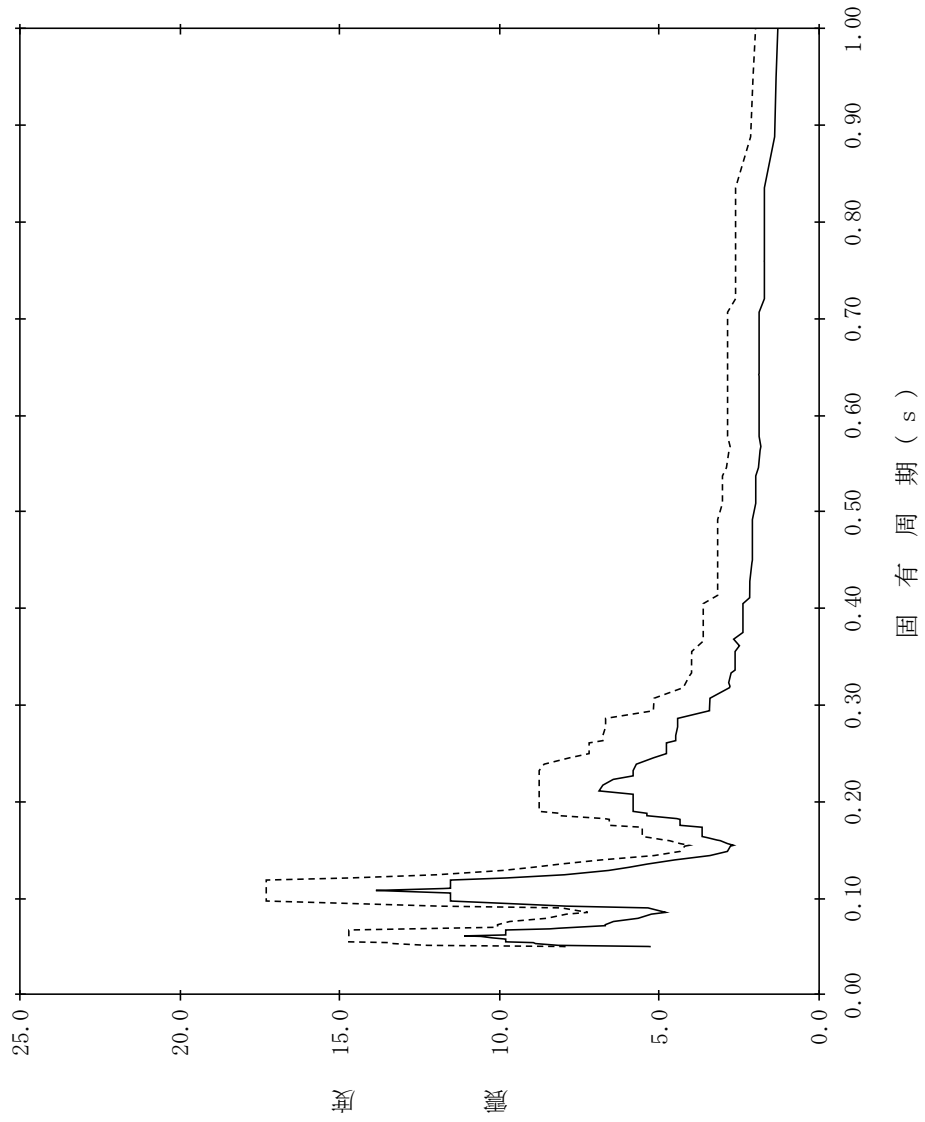


【NS2-PCV-SsEW-RPV177】



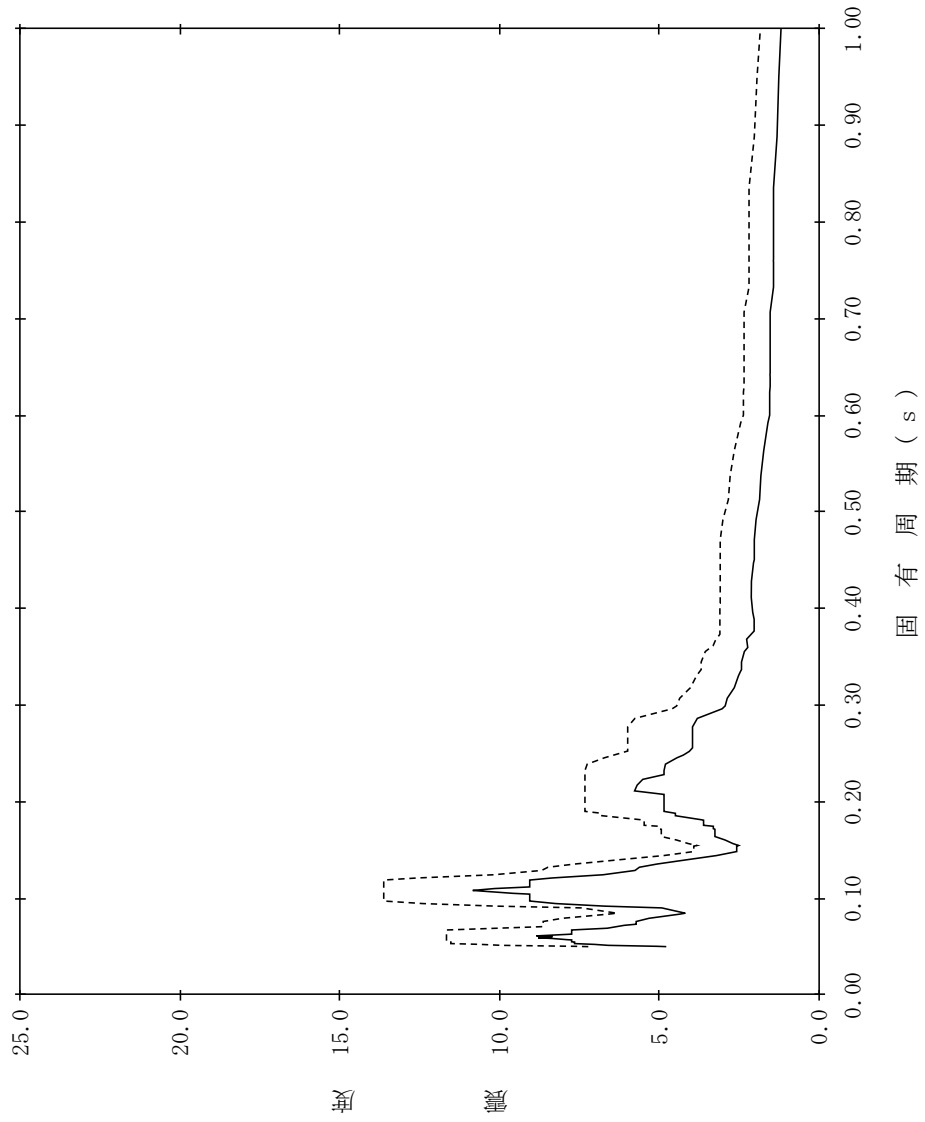
【NS2-PCV-SsEW-RPV178】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

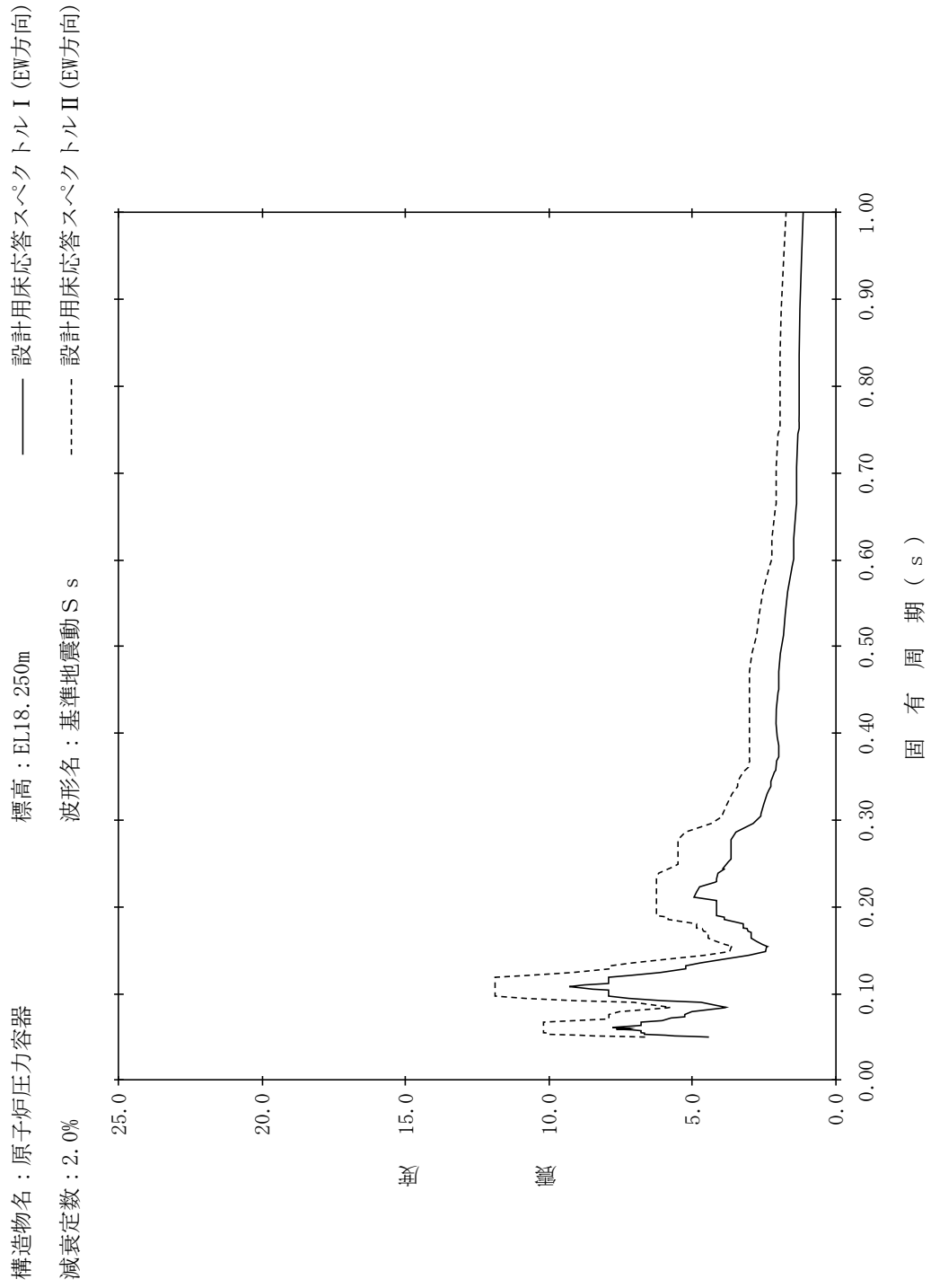


【NS2-PCV-SsEW-RPV179】

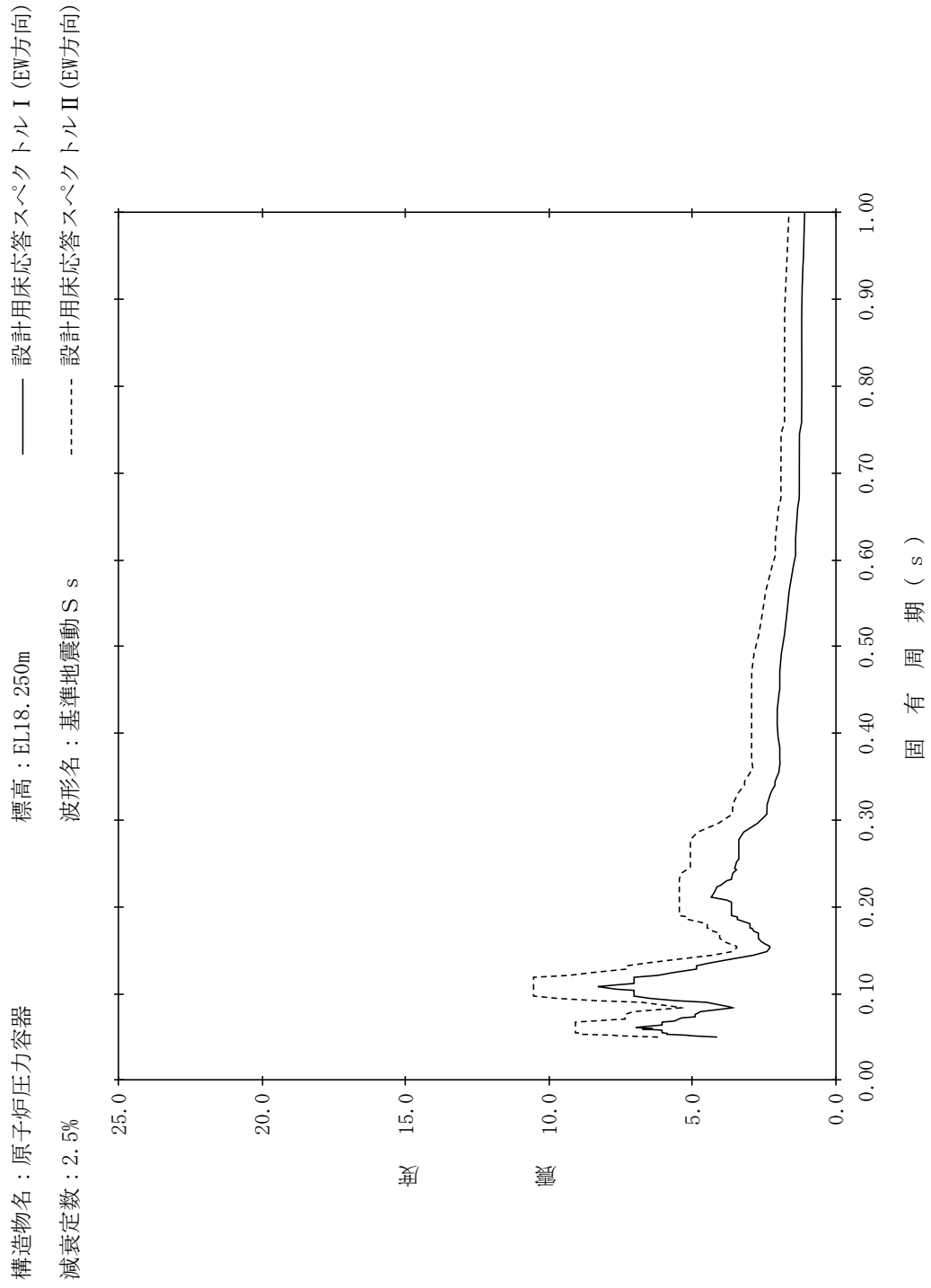
構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



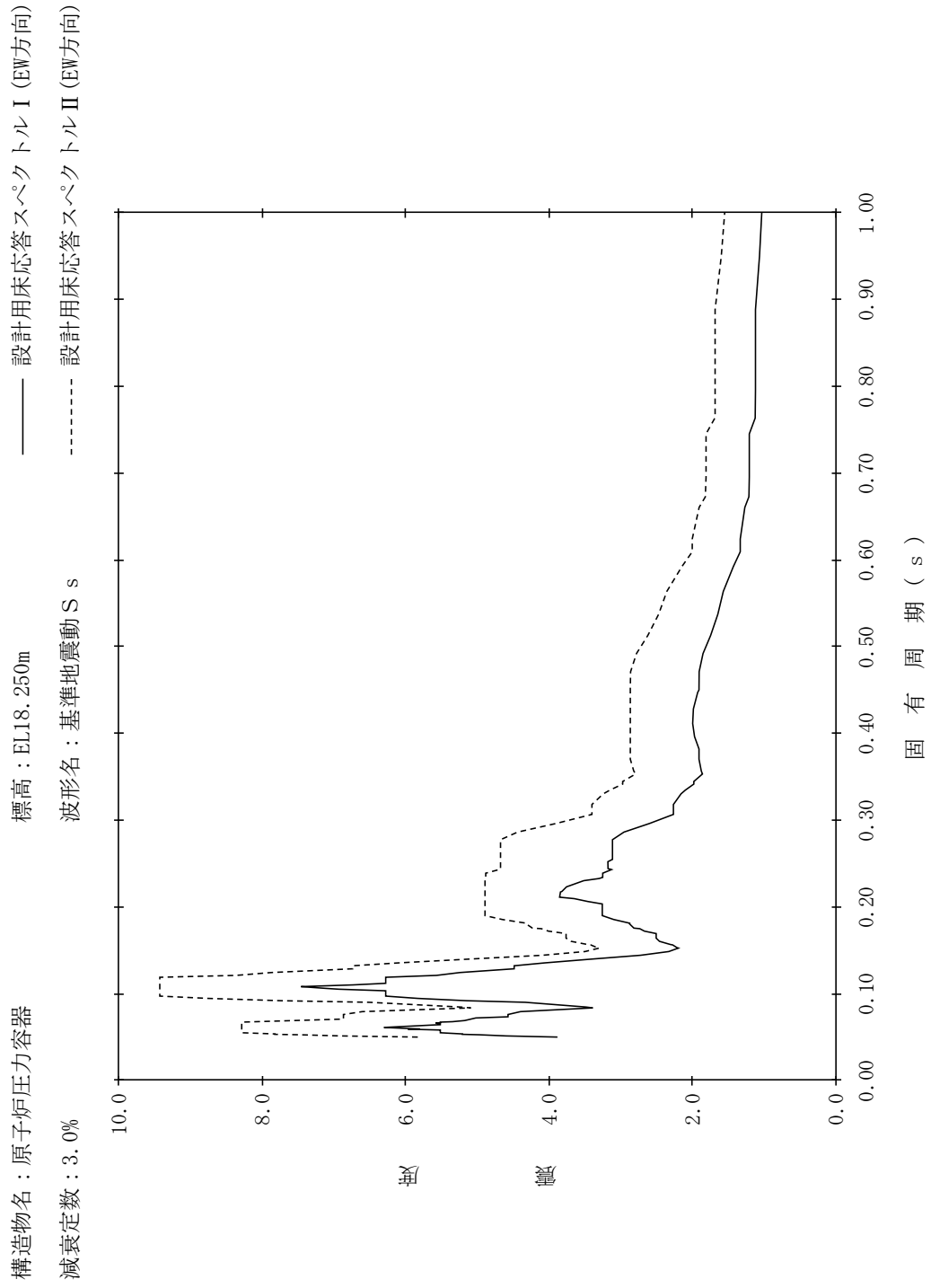
【NS2-PCV-SsEW-RPV180】



【NS2-PCV-SsEW-RPV181】

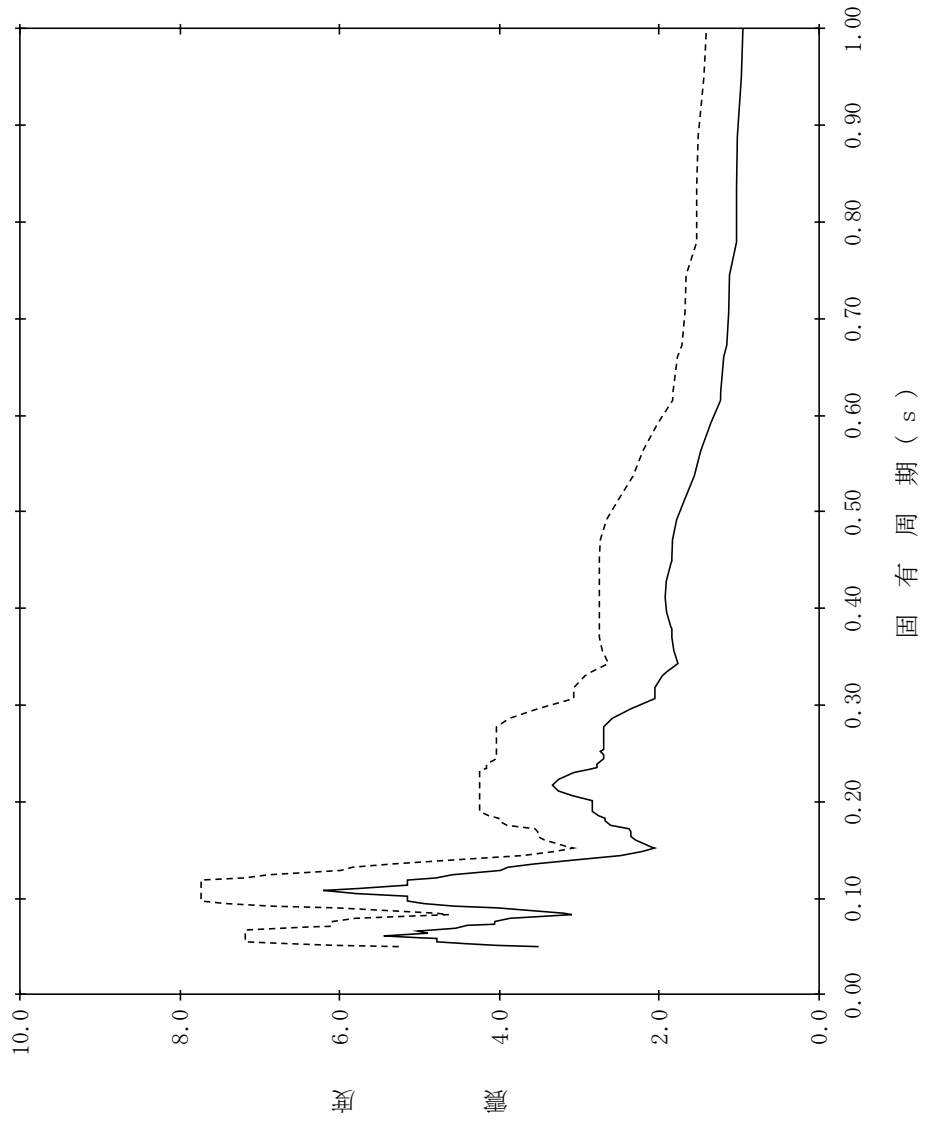


【NS2-PCV-SsEW-RPV182】



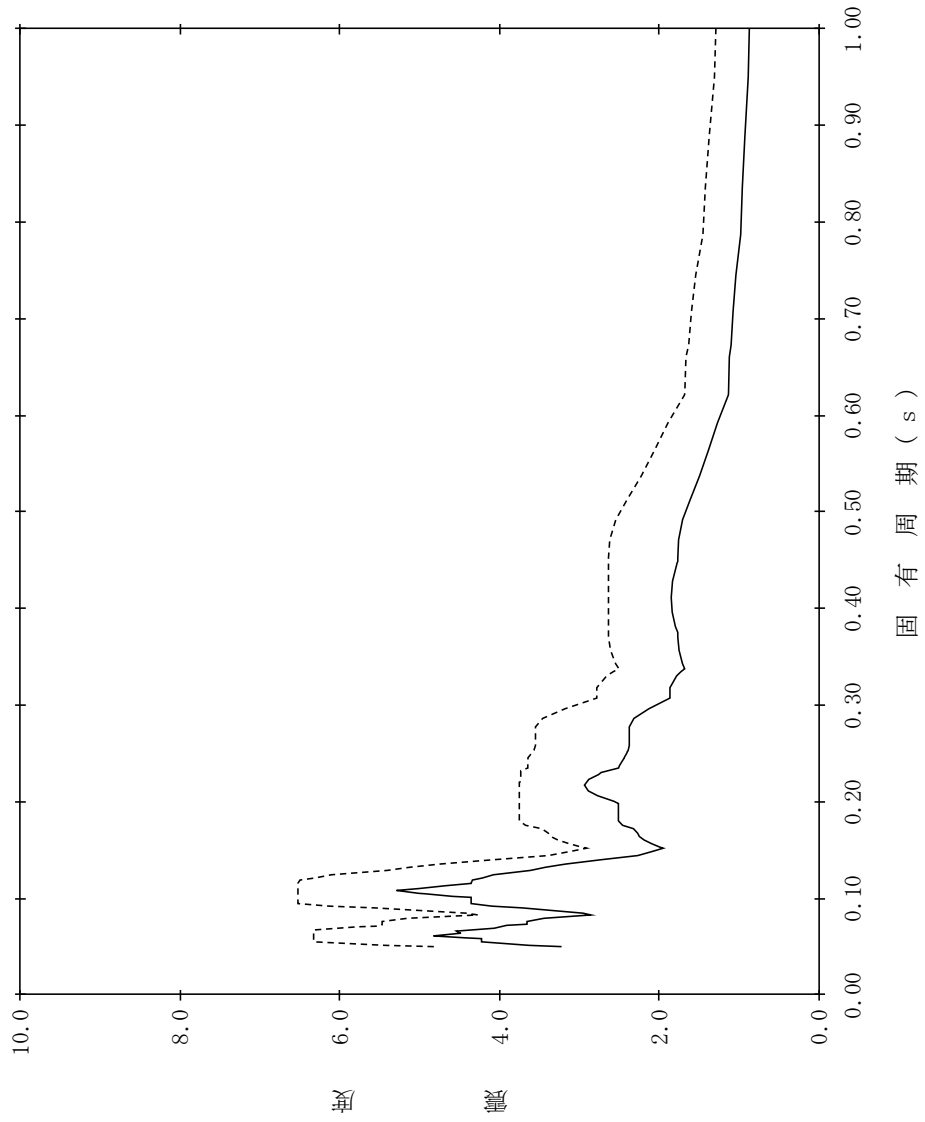
【NS2-PCV-SsEW-RPV183】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL18.250m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



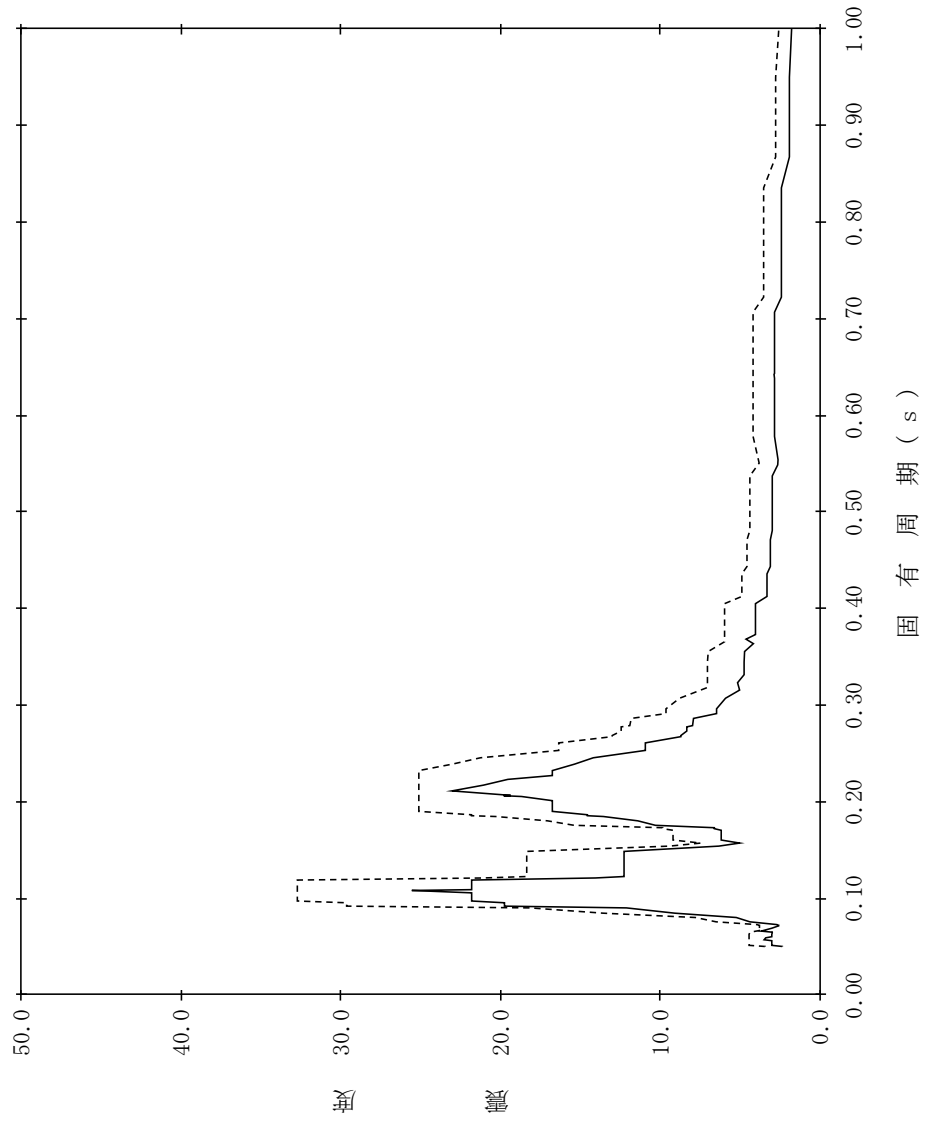
【NS2-PCV-SsEW-RPV184】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL18.250m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



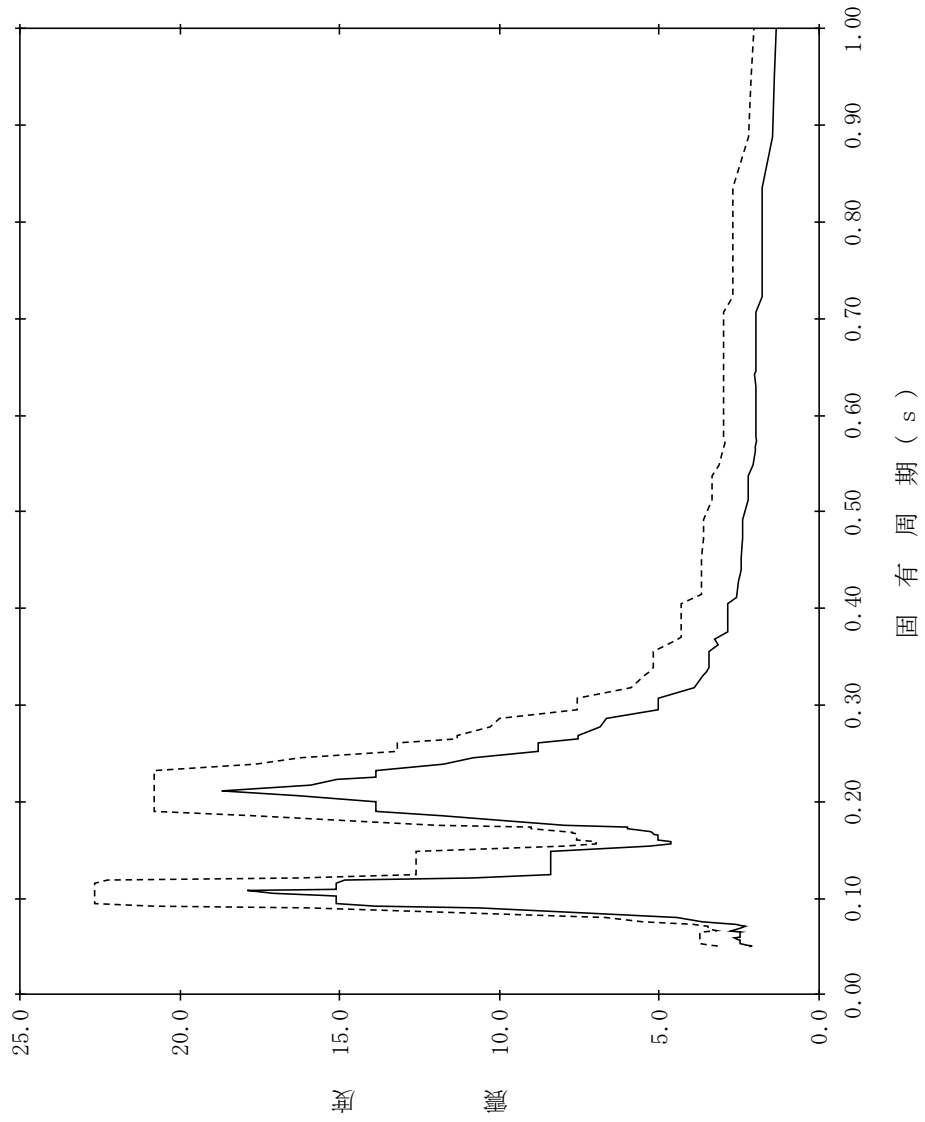
【NS2-PCV-SsEW-SHD185】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：0.5% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



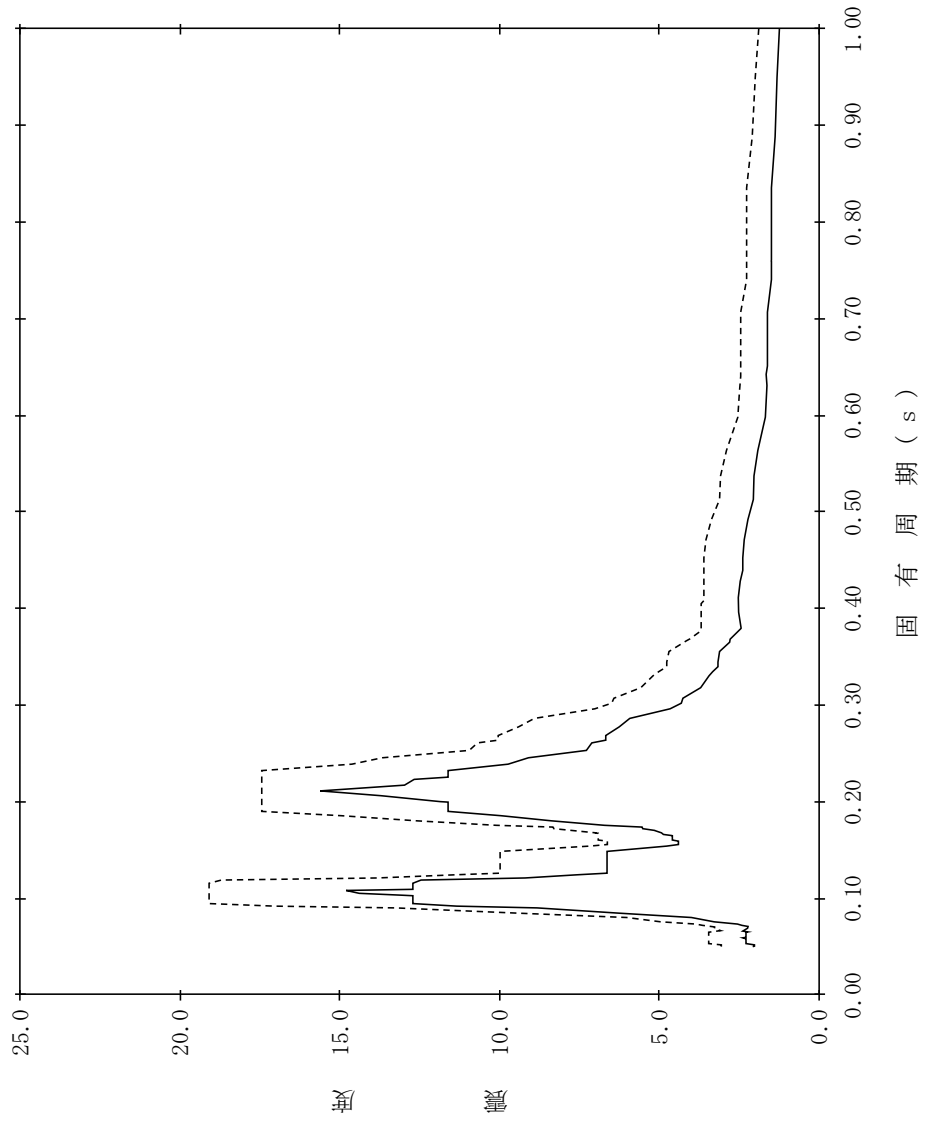
【NS2-PCV-SsEW-SHD186】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：1.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



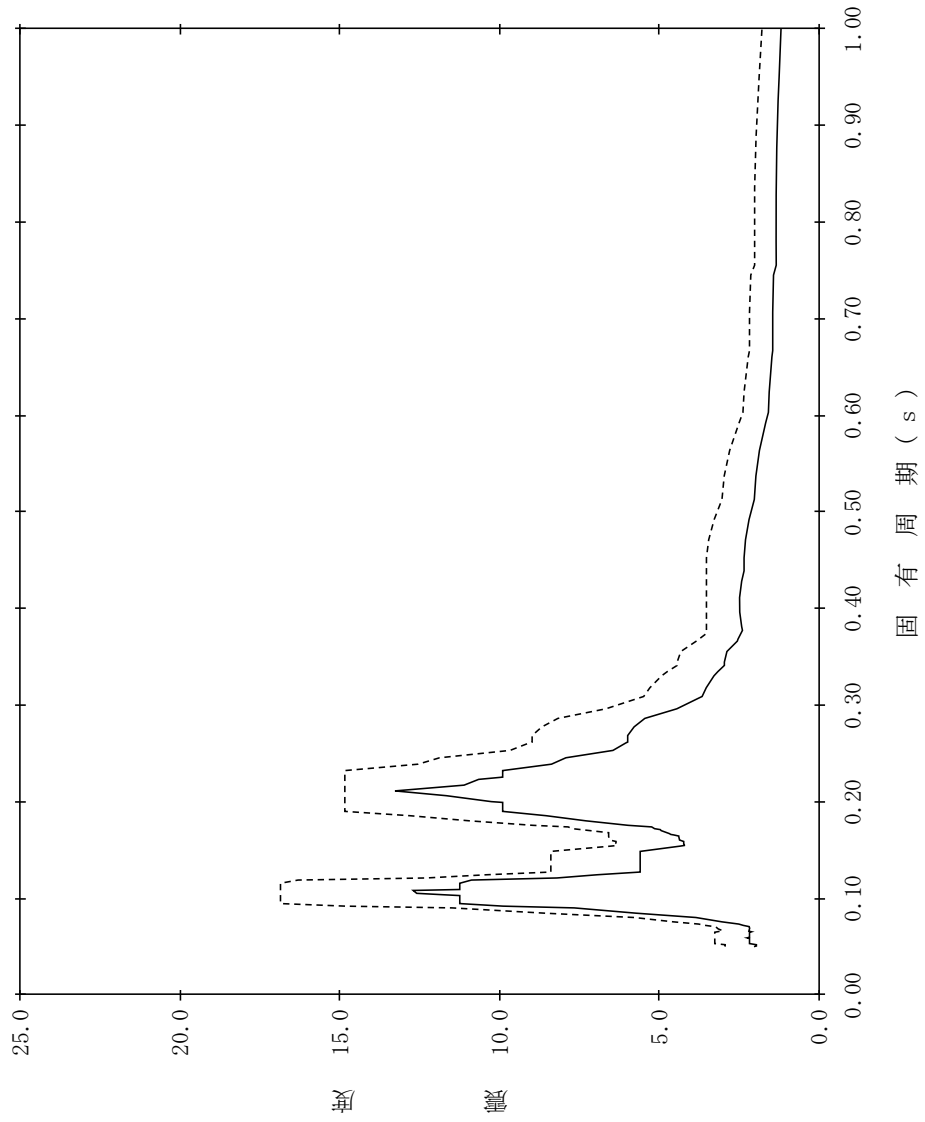
【NS2-PCV-SsEW-SHD187】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：1.5% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



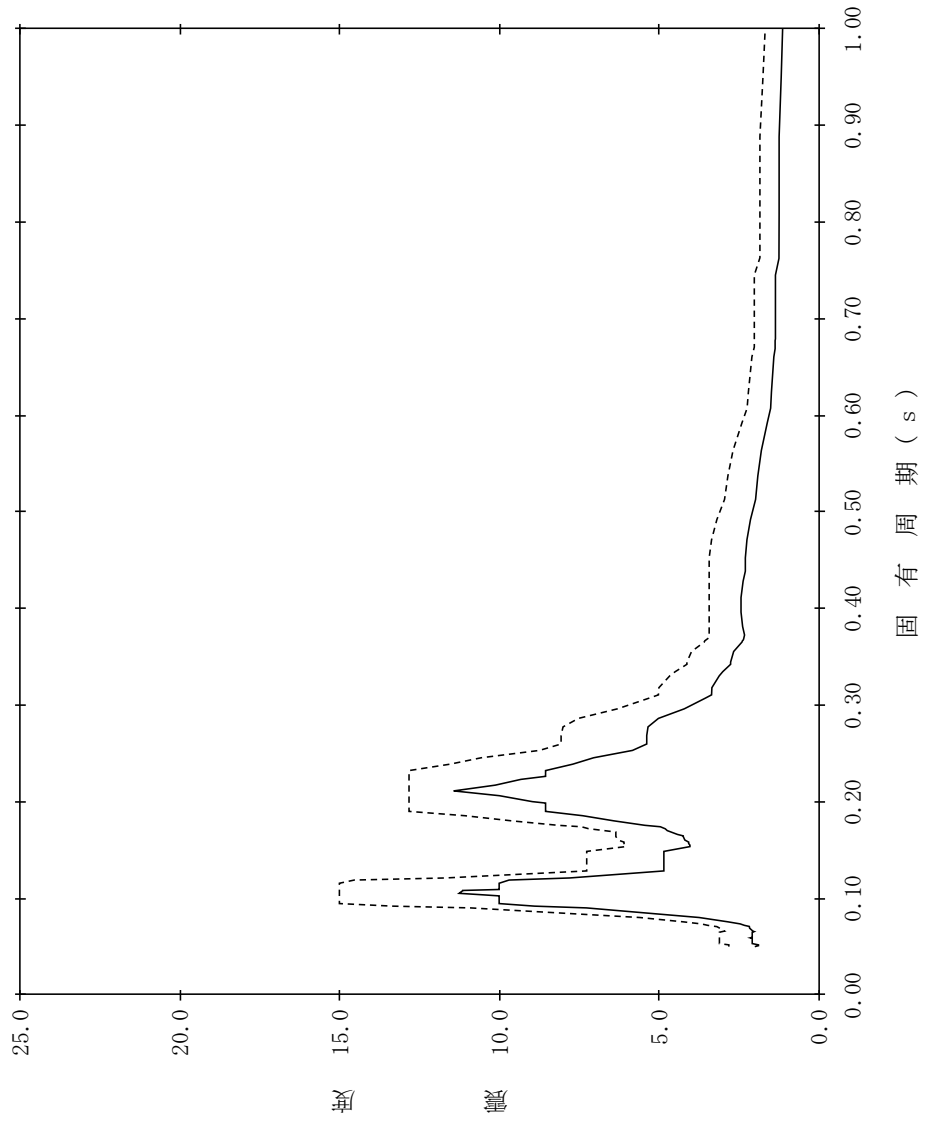
【NS2-PCV-SsEW-SHD188】

構造物名：炉心シュラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：2.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



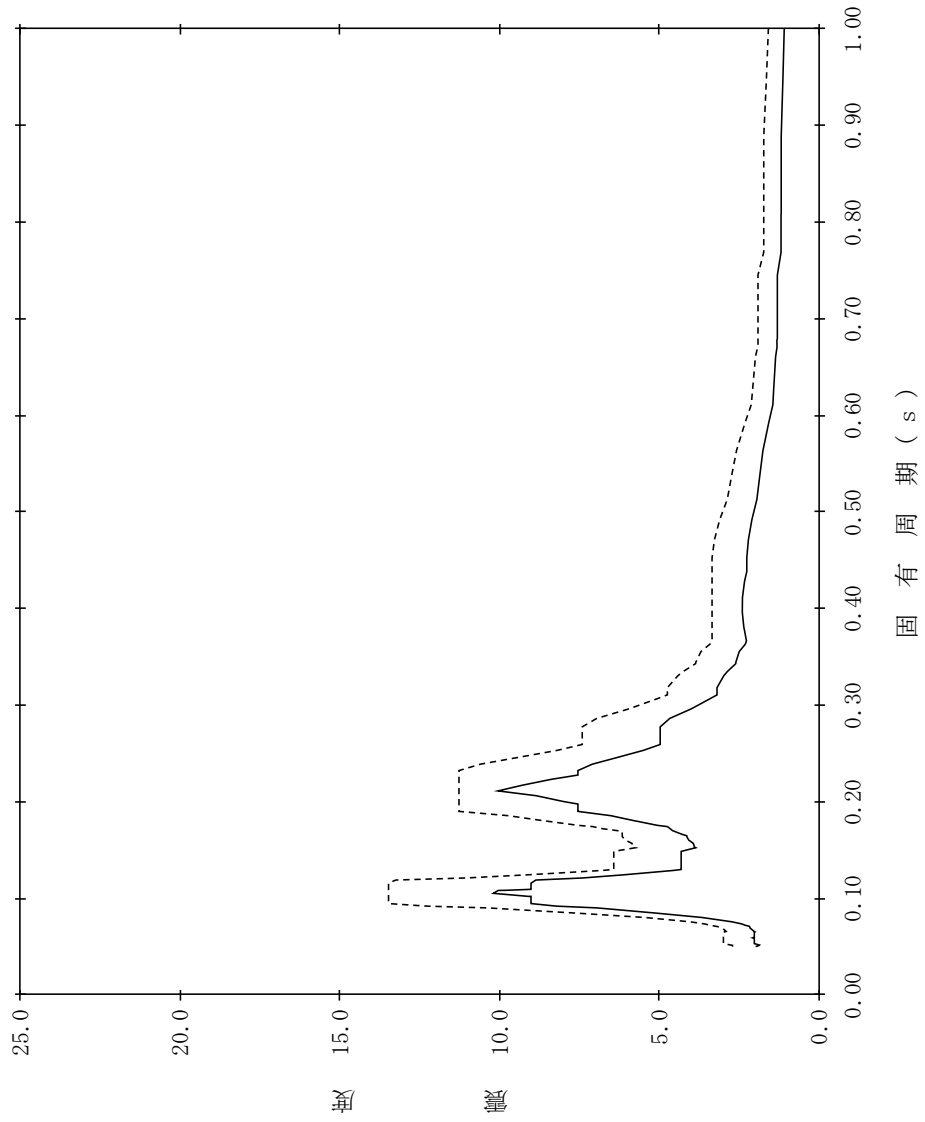
【NS2-PCV-SsEW-SHD189】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：2.5% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



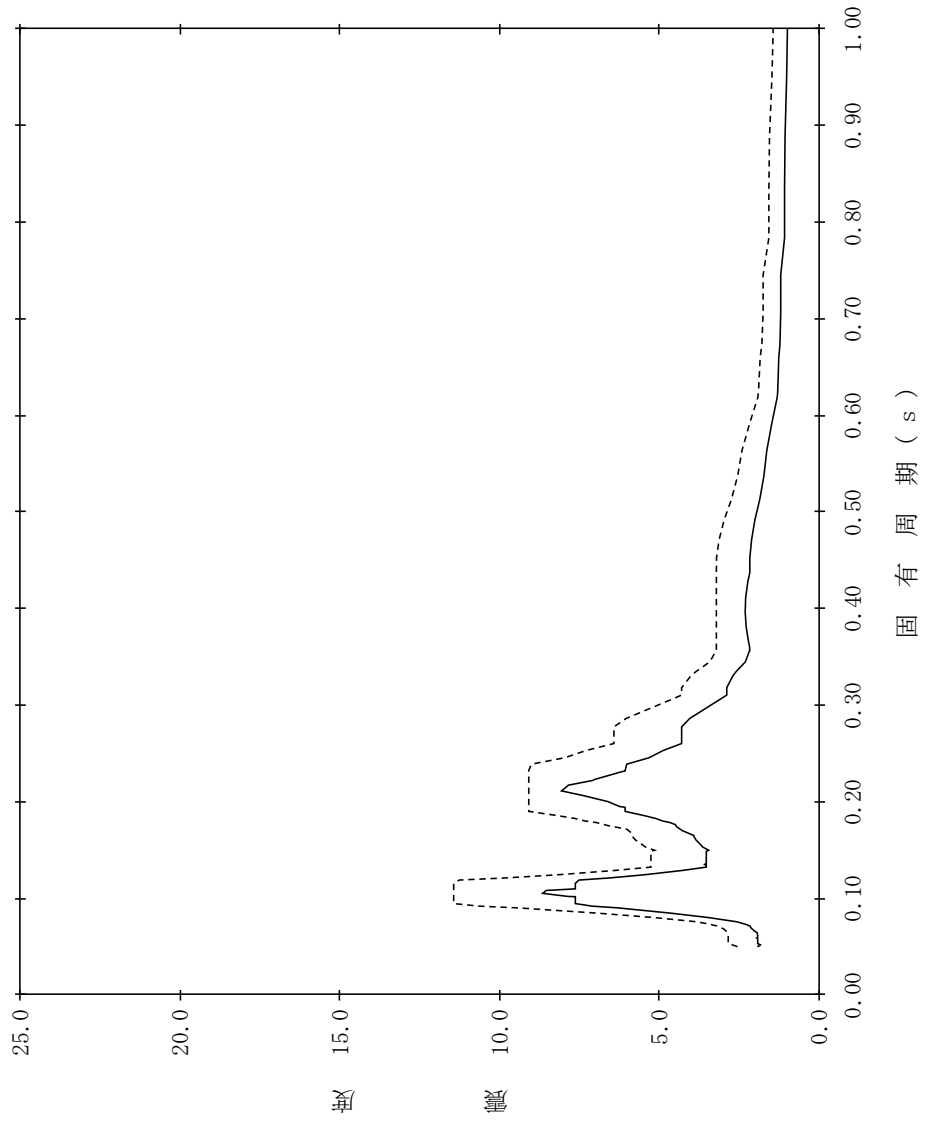
【NS2-PCV-SsEW-SHD190】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：3.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



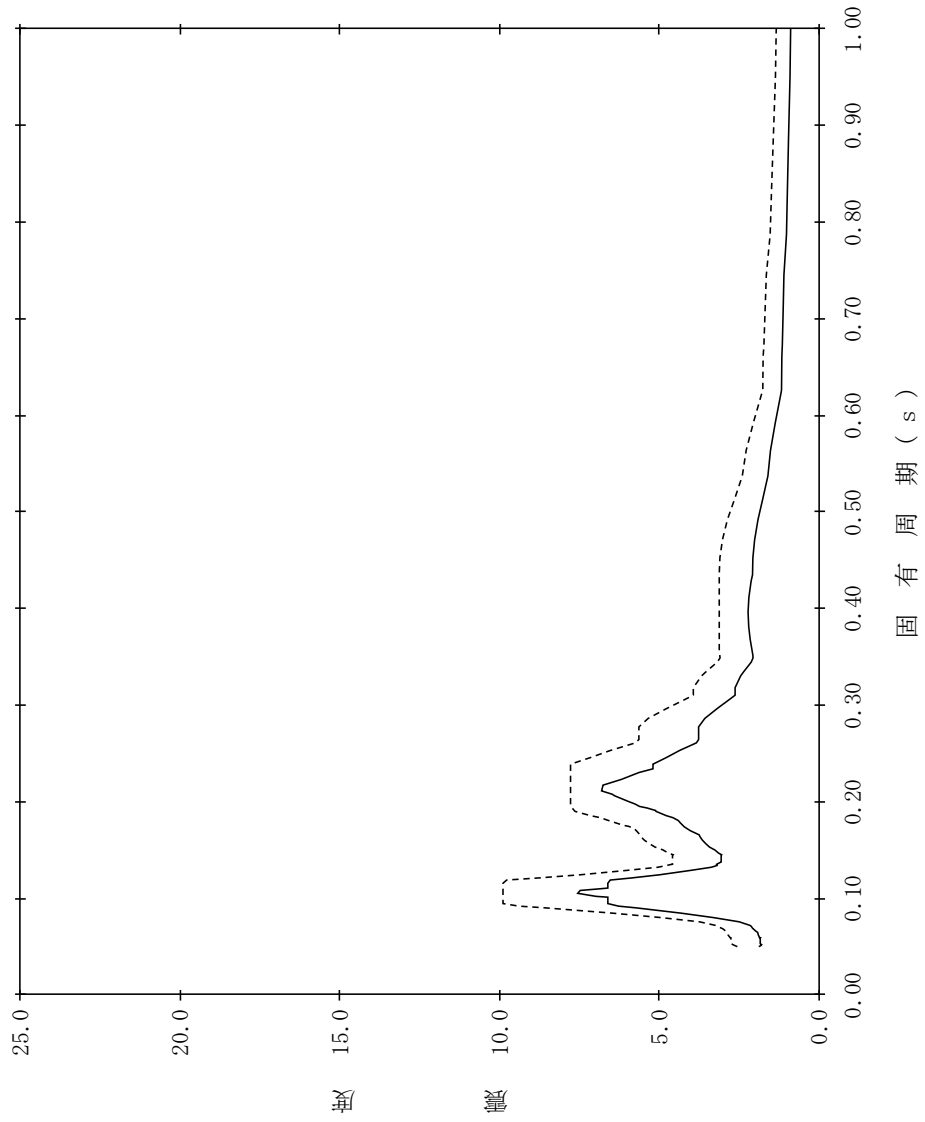
【NS2-PCV-SsEW-SHD191】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：4.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



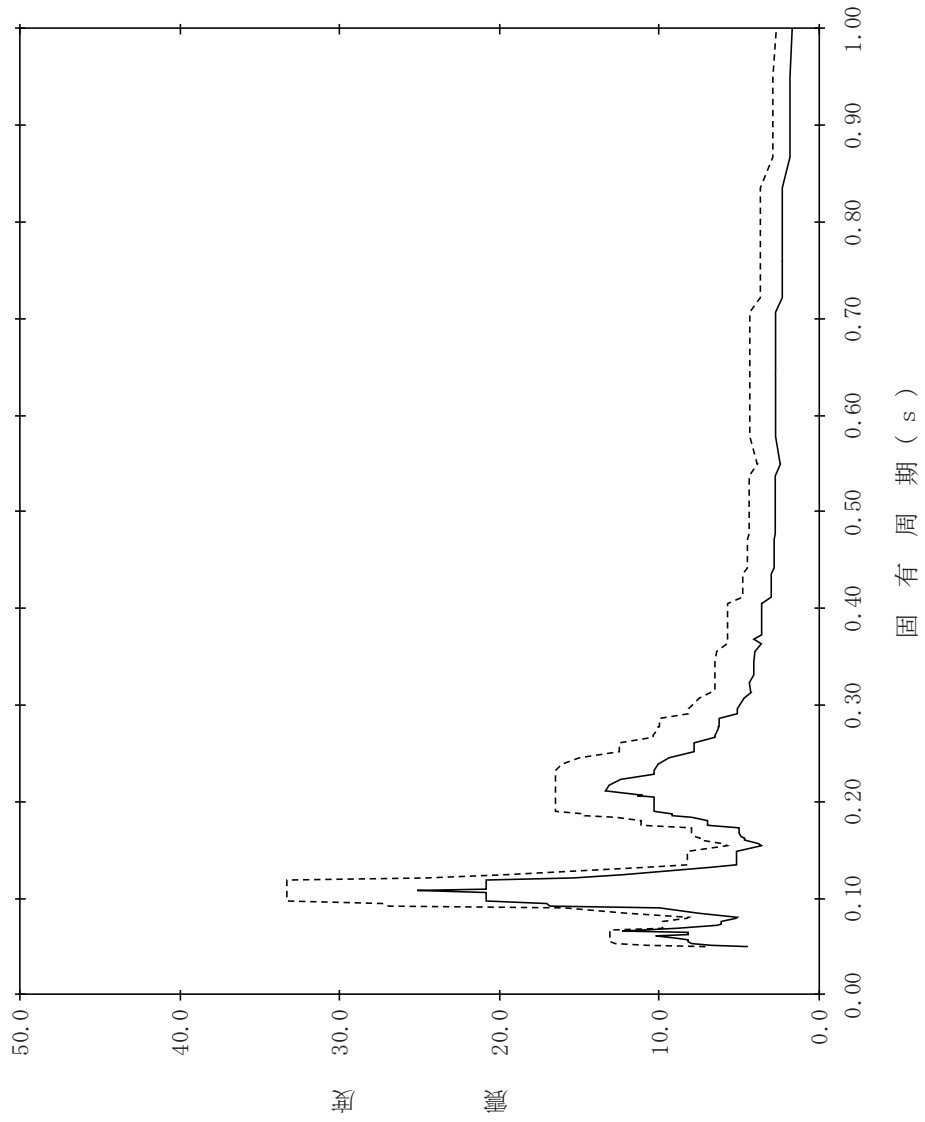
【NS2-PCV-SsEW-SHD192】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：5.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



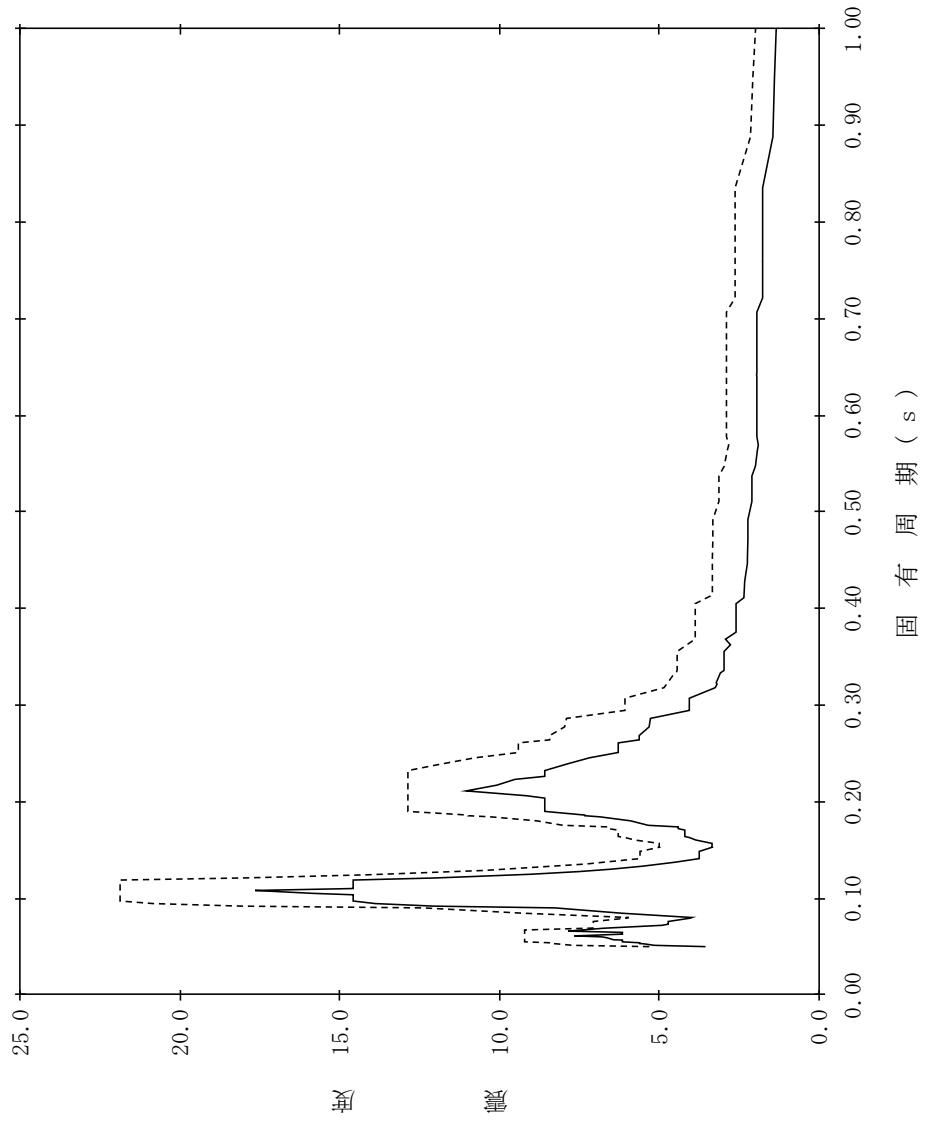
【NS2-PCV-SsEW-SHD193】

構造物名：炉心シェラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトルⅠ (EW方向)
 減衰定数：0.5% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトルⅡ (EW方向)



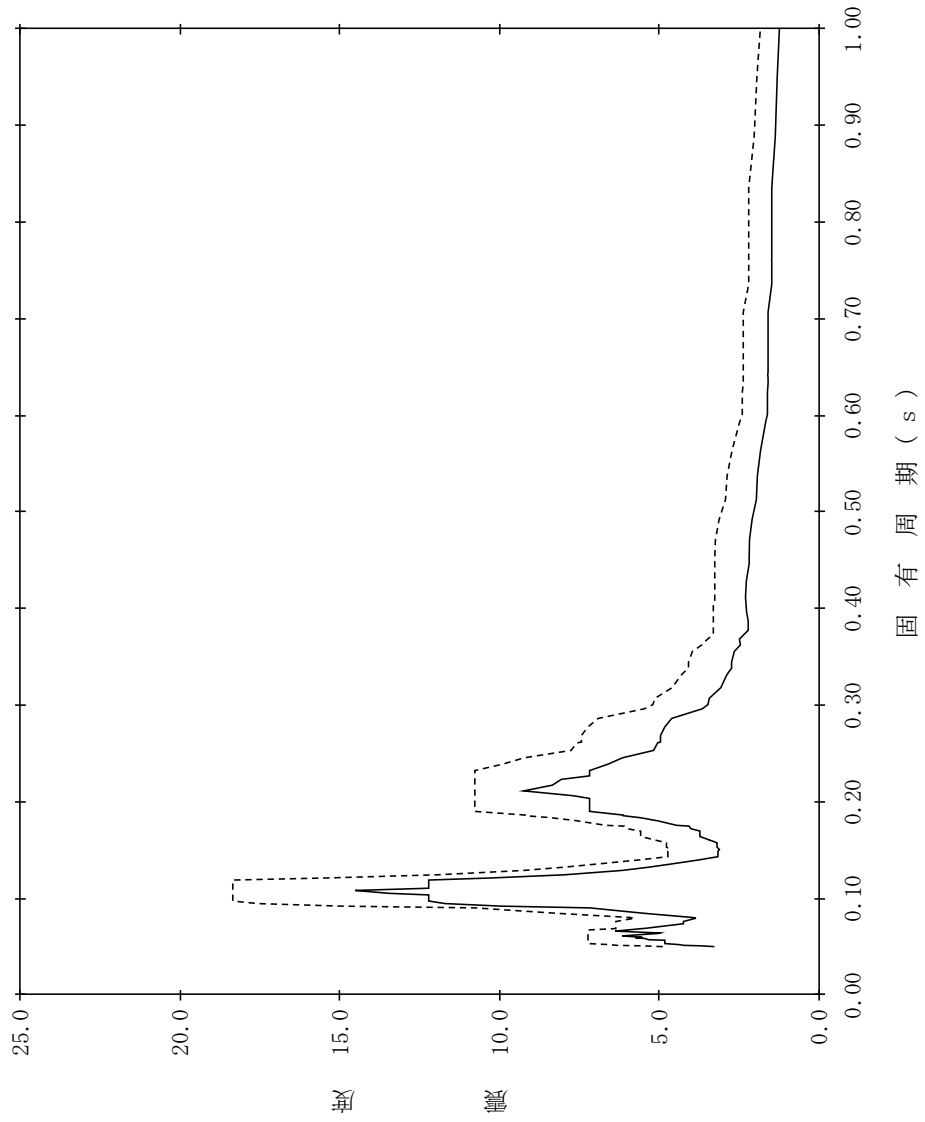
【NS2-PCV-SsEW-SHD194】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：1.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



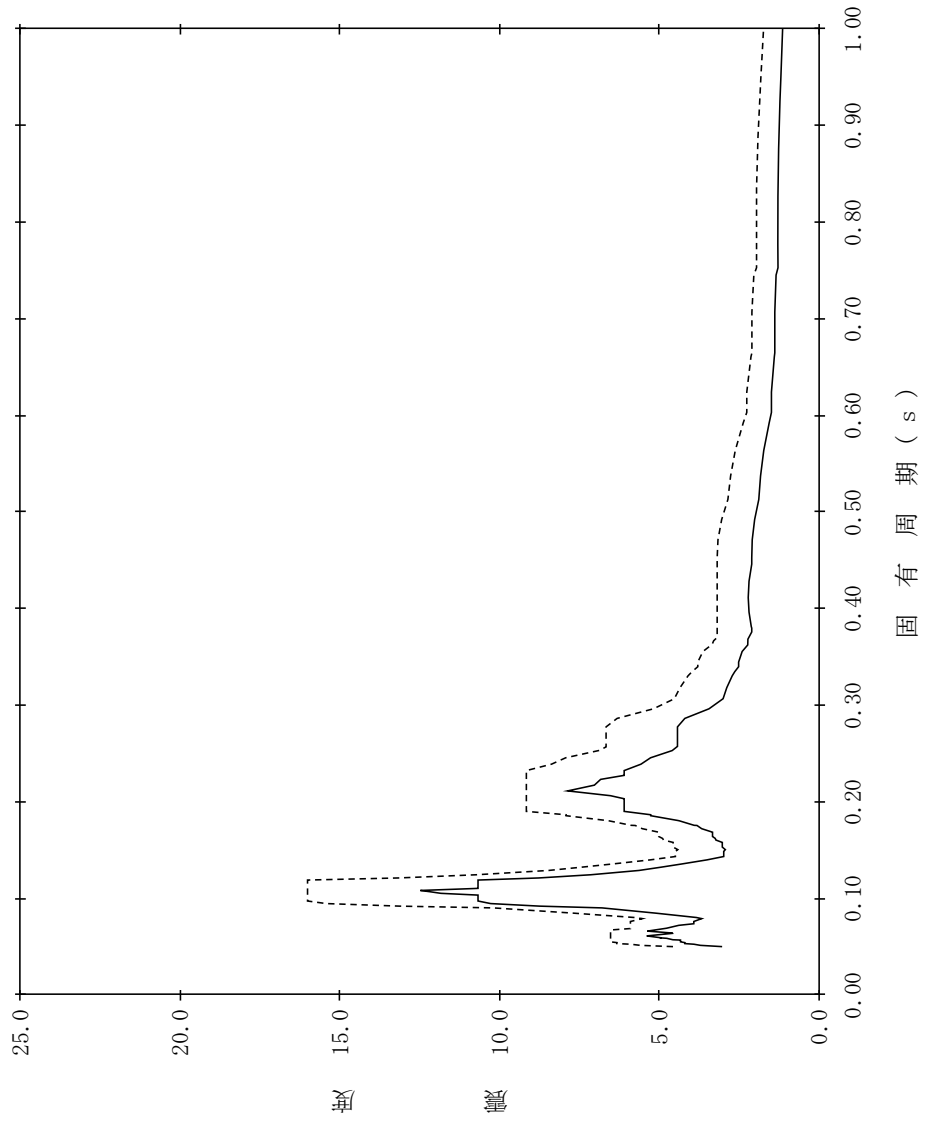
【NS2-PCV-SsEW-SHD195】

構造物名：炉心シェラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：1.5% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



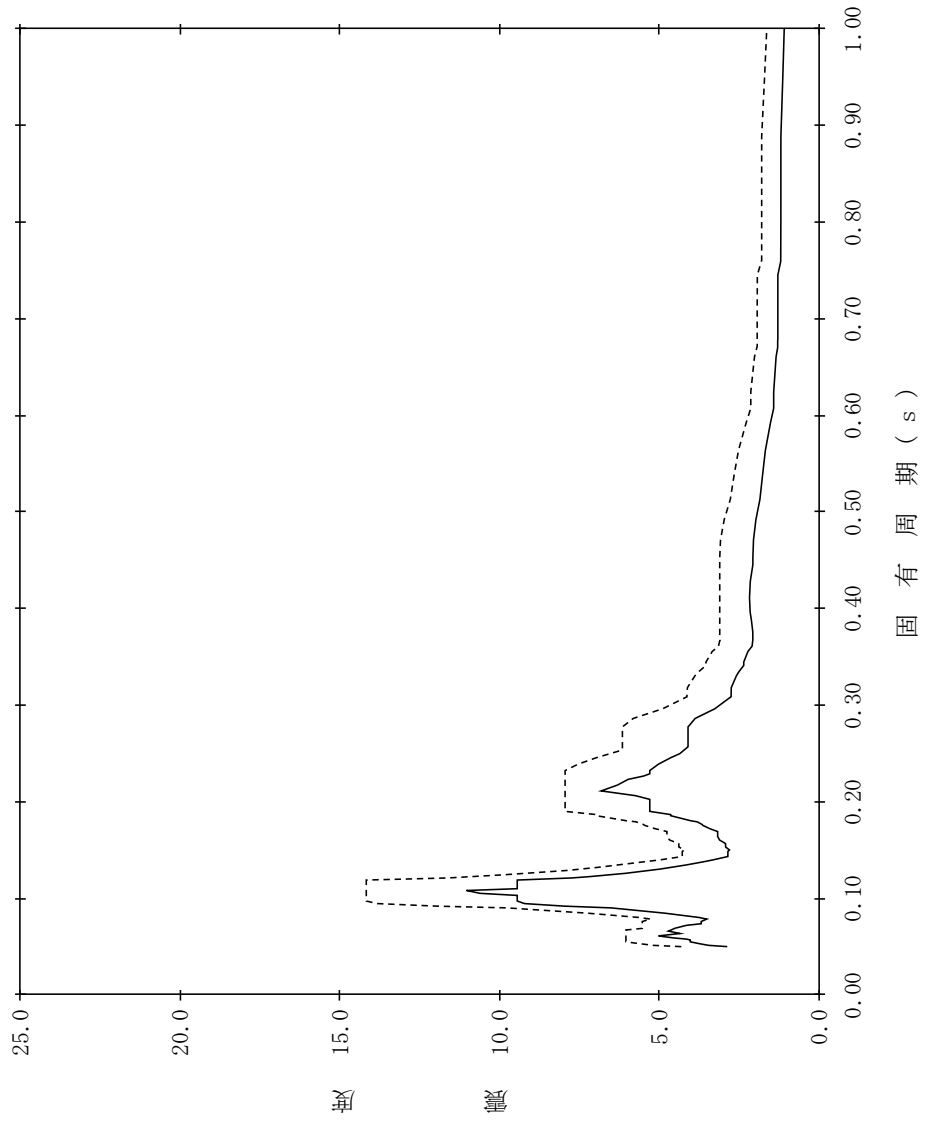
【NS2-PCV-SsEW-SHD196】

構造物名：炉心シェラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：2.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



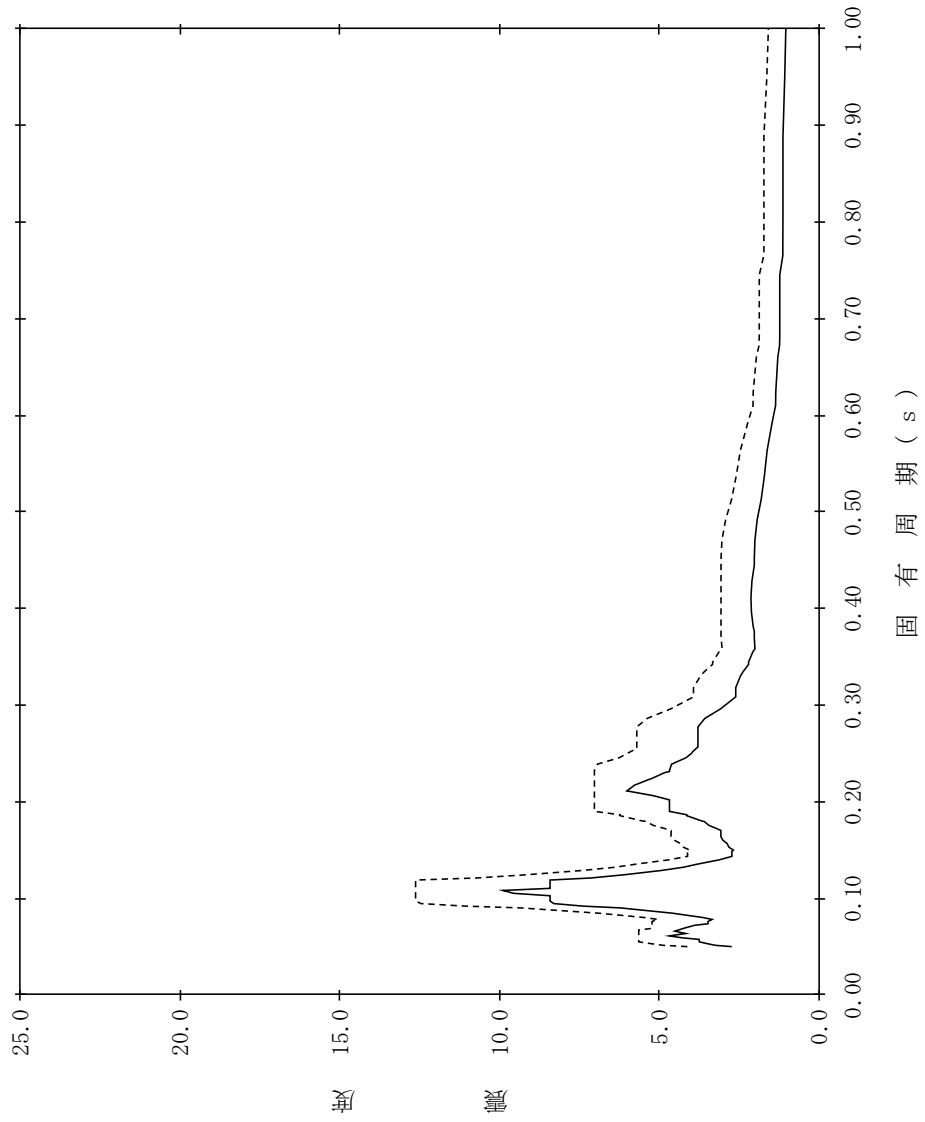
【NS2-PCV-SsEW-SHD197】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：2.5% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



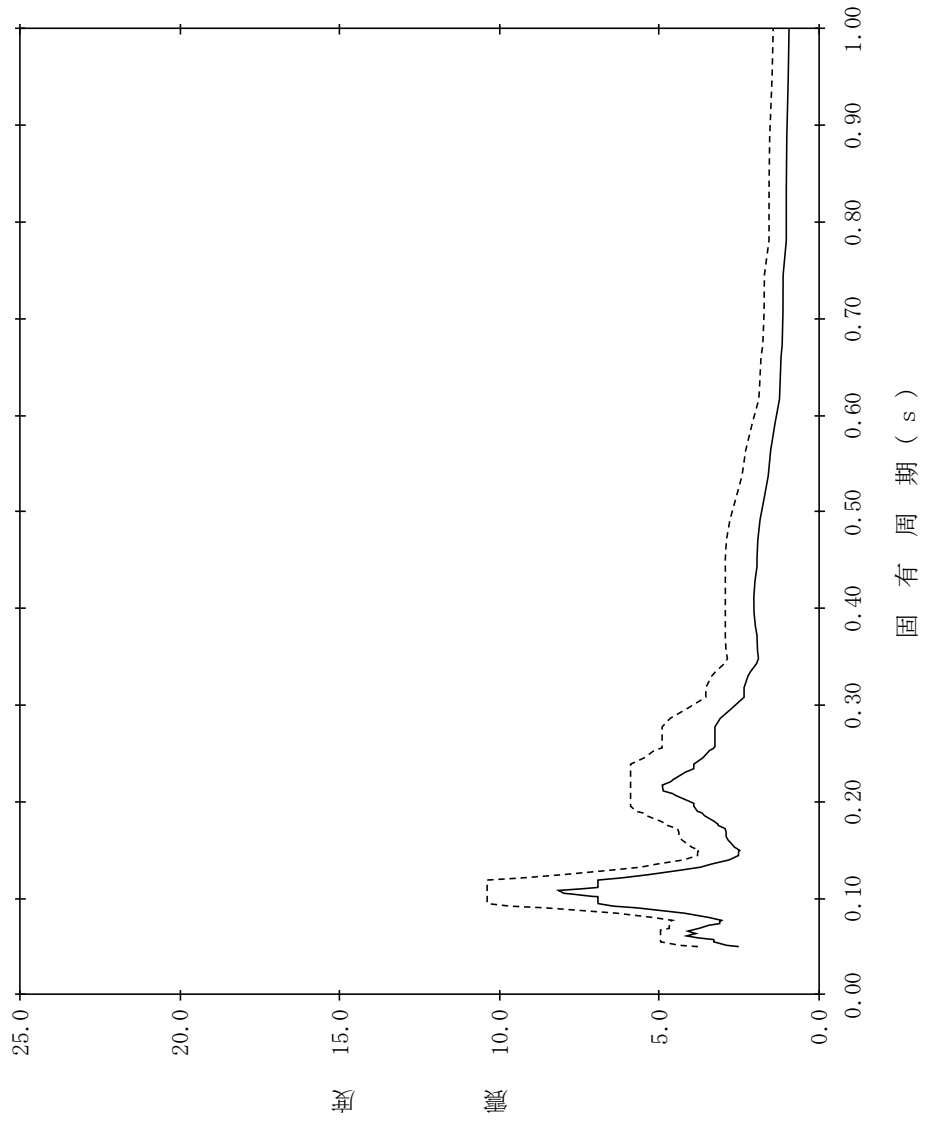
【NS2-PCV-SsEW-SHD198】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：3.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



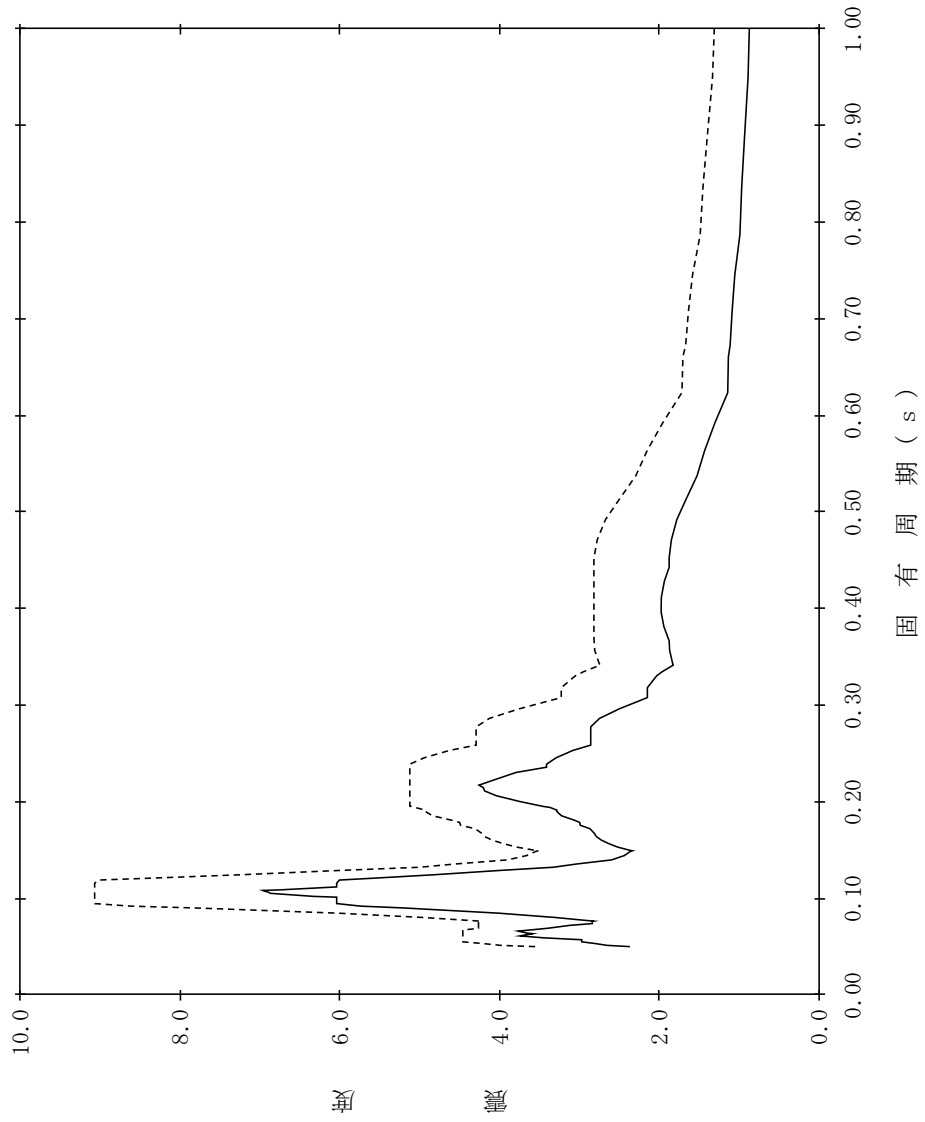
【NS2-PCV-SsEW-SHD199】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：4.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



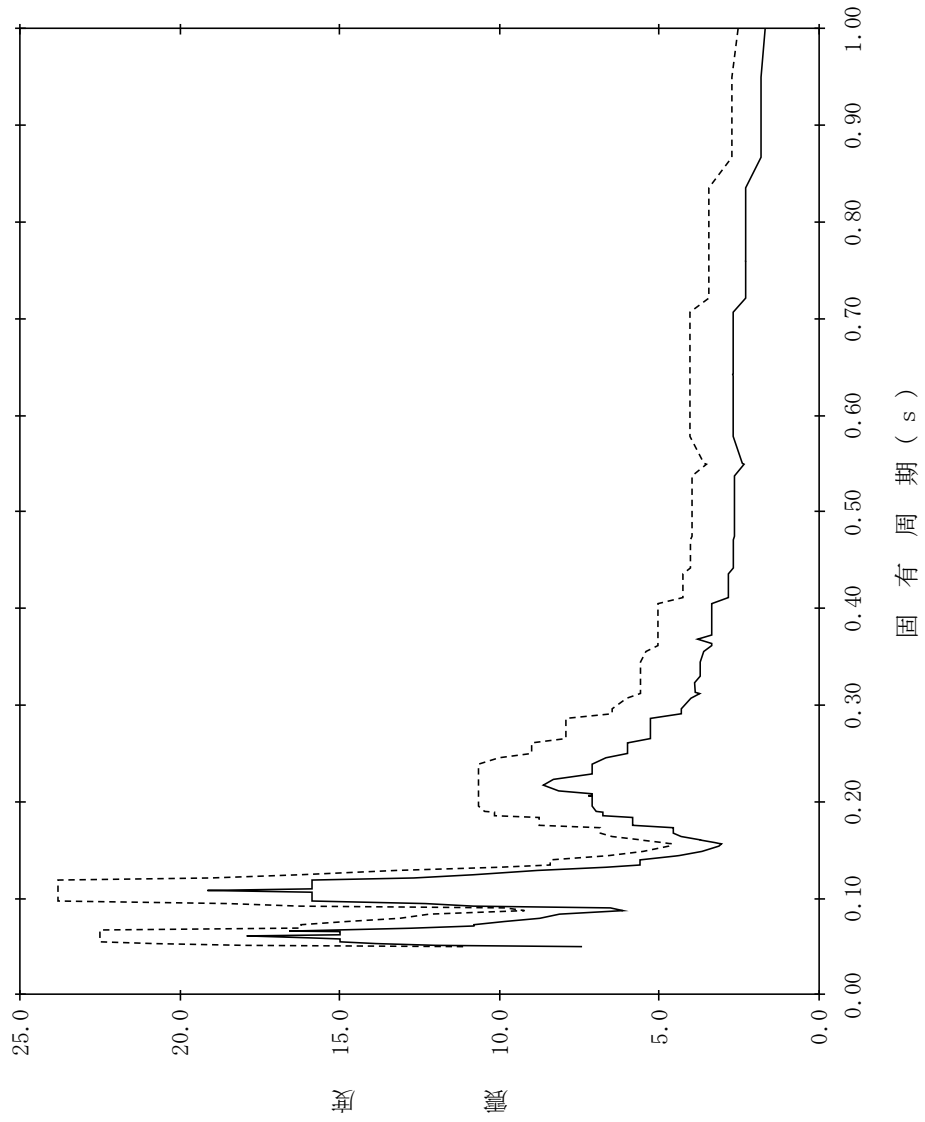
【NS2-PCV-SsEW-SHD200】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL1.571m 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 減衰定数：5.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



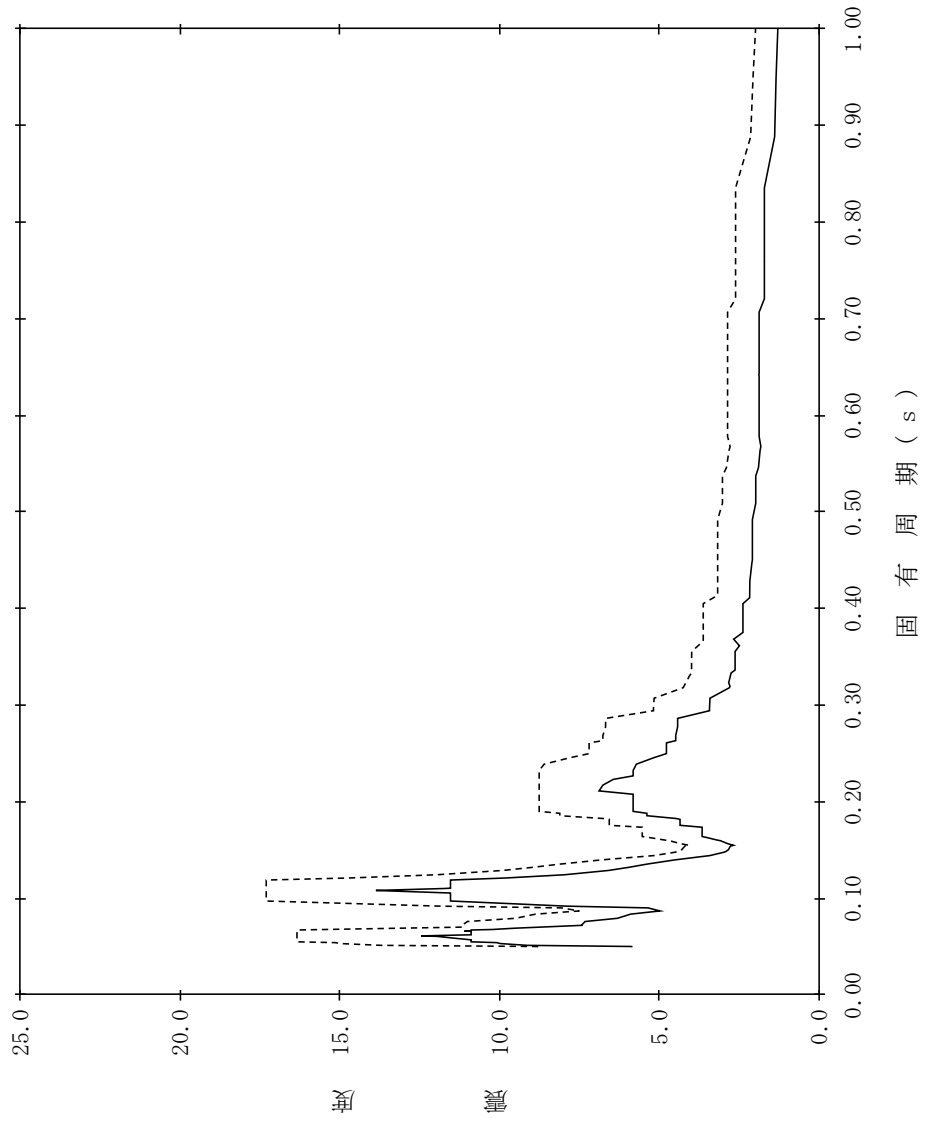
【NS2-PCV-SsEW-RPV201】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



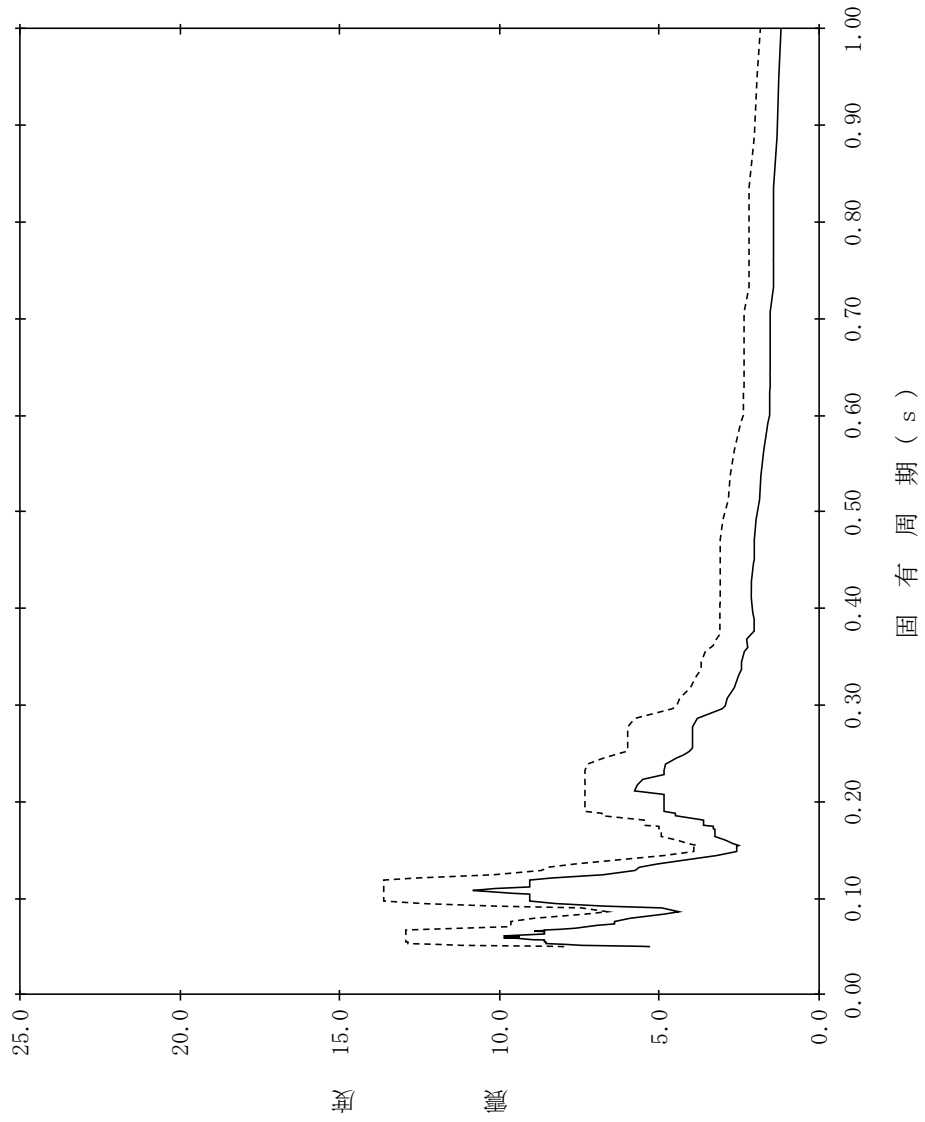
【NS2-PCV-SsEW-RPV202】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



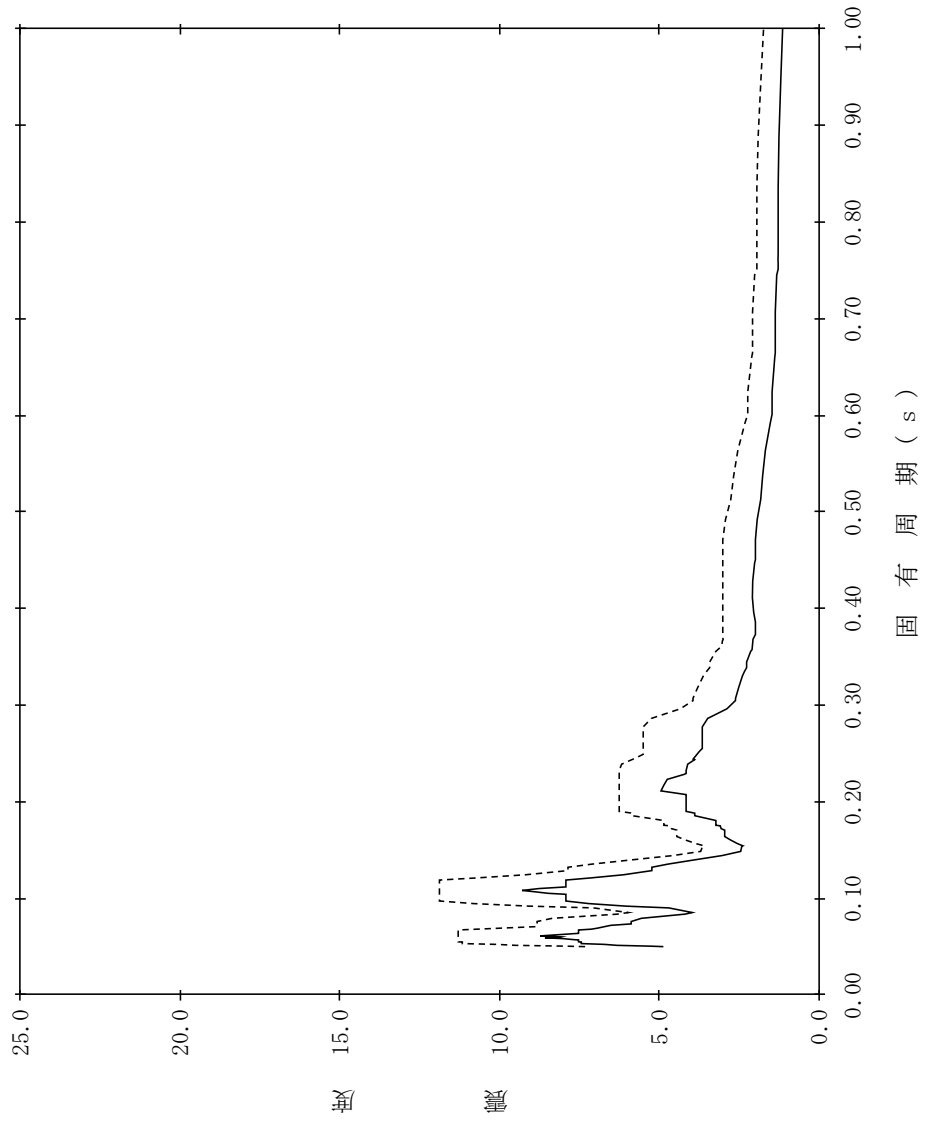
【NS2-PCV-SsEW-RPV203】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



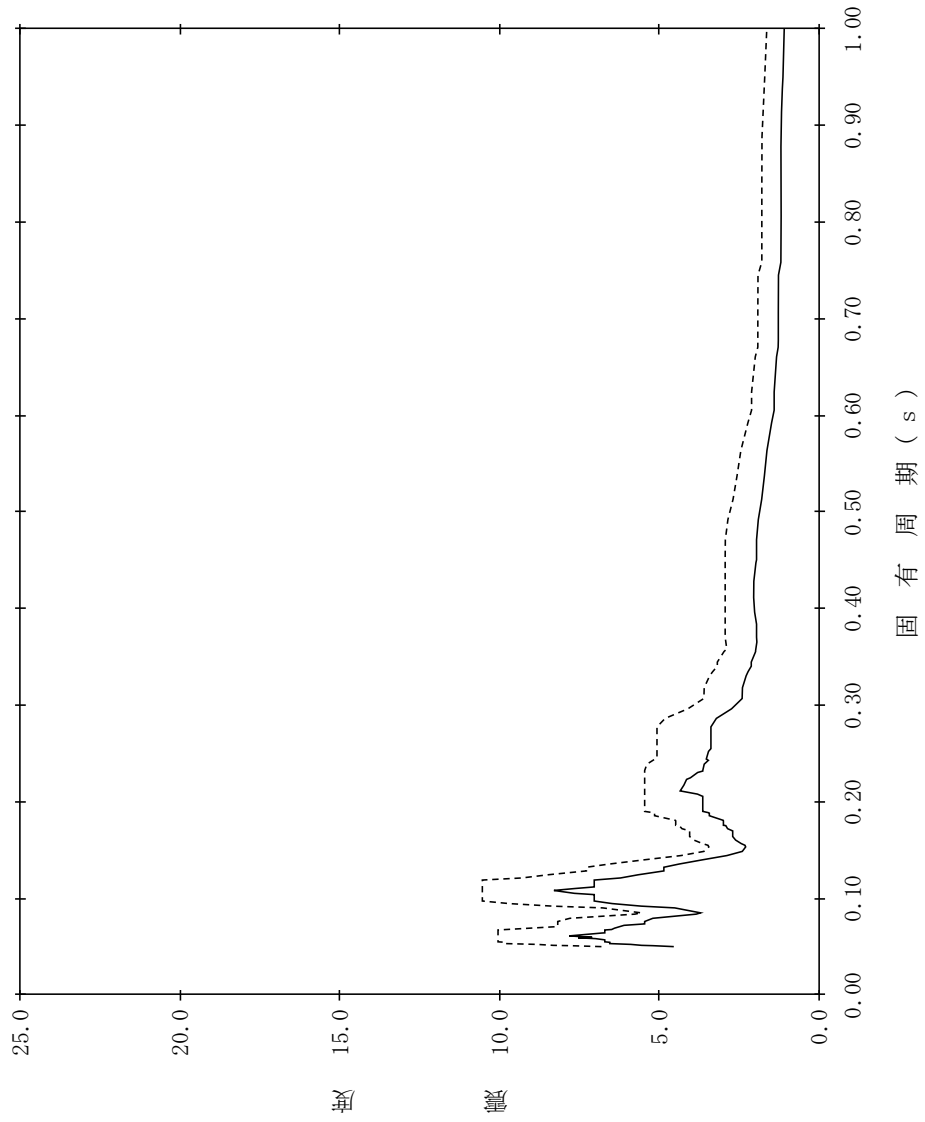
【NS2-PCV-SsEW-RPV204】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



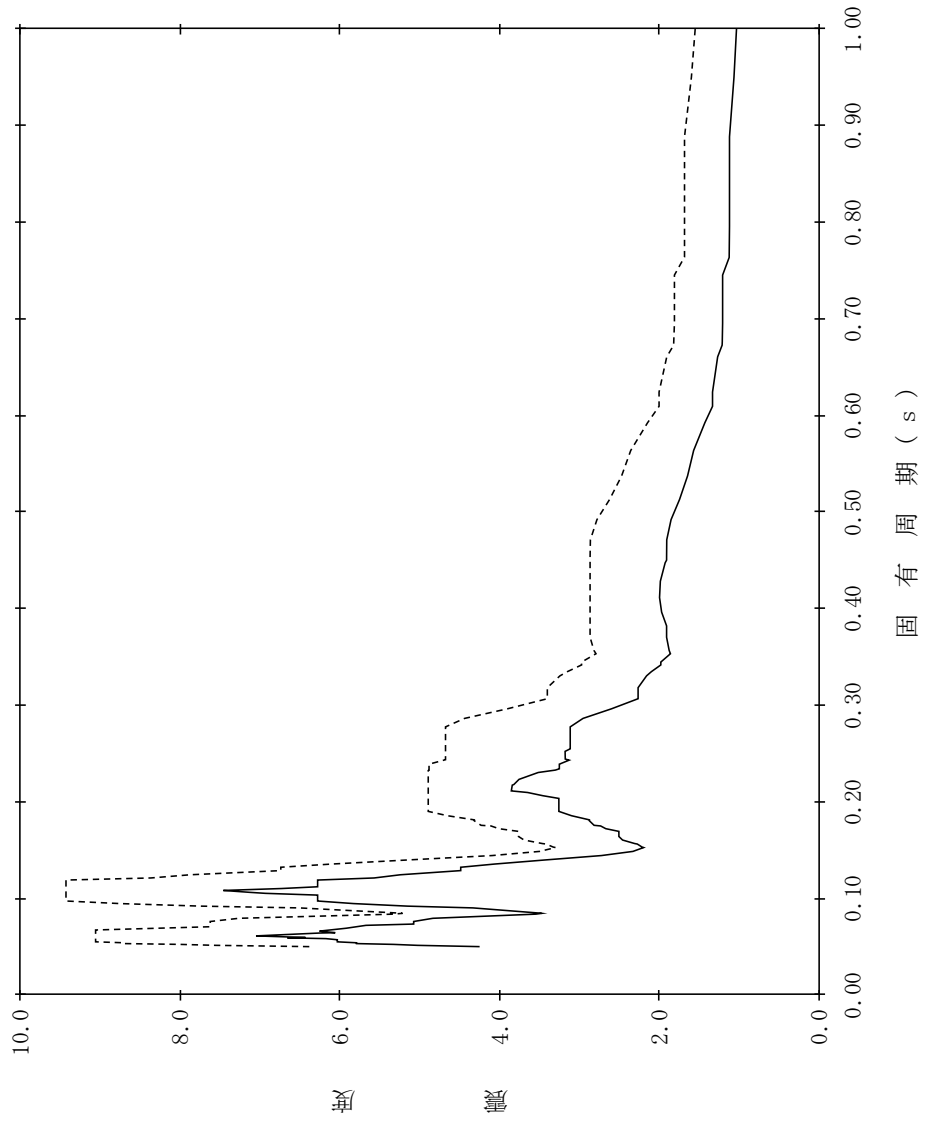
【NS2-PCV-SsEW-RPV205】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



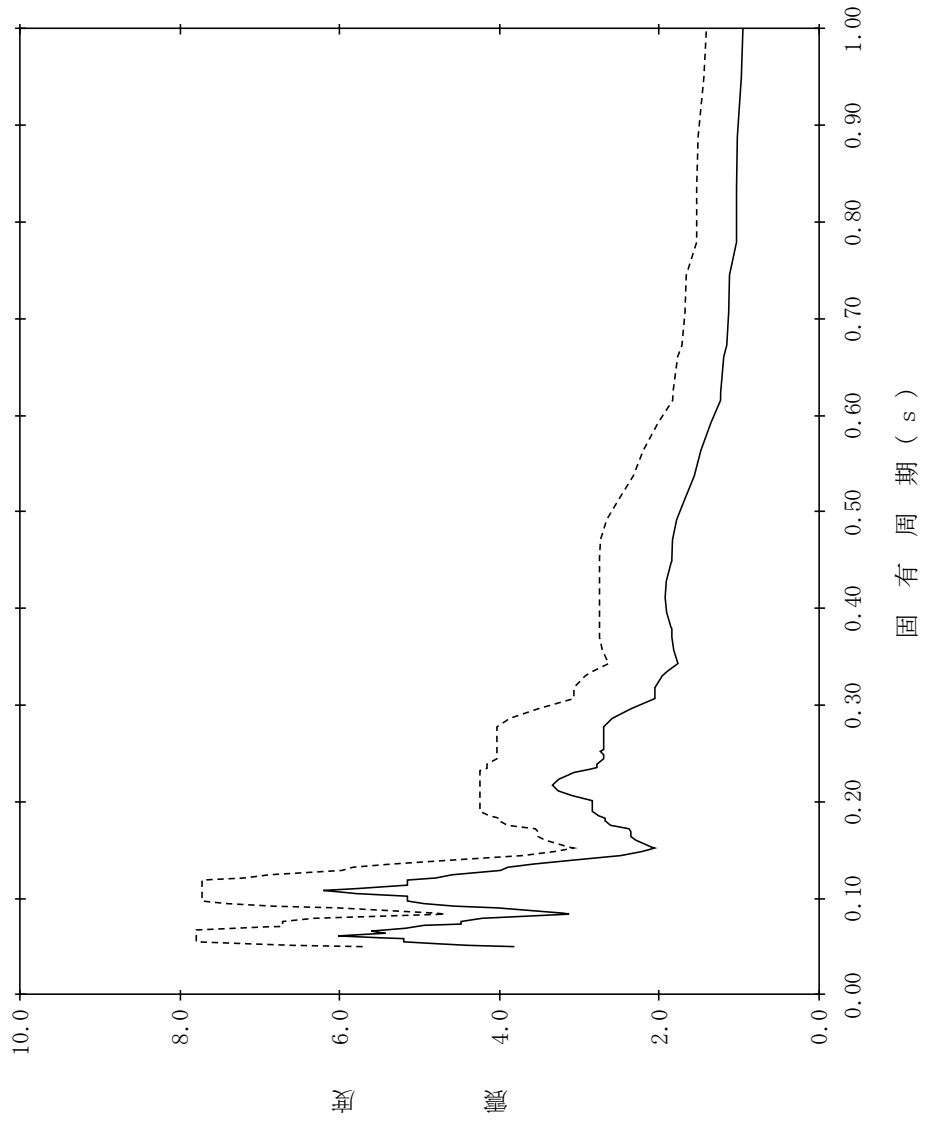
【NS2-PCV-SsEW-RPV206】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



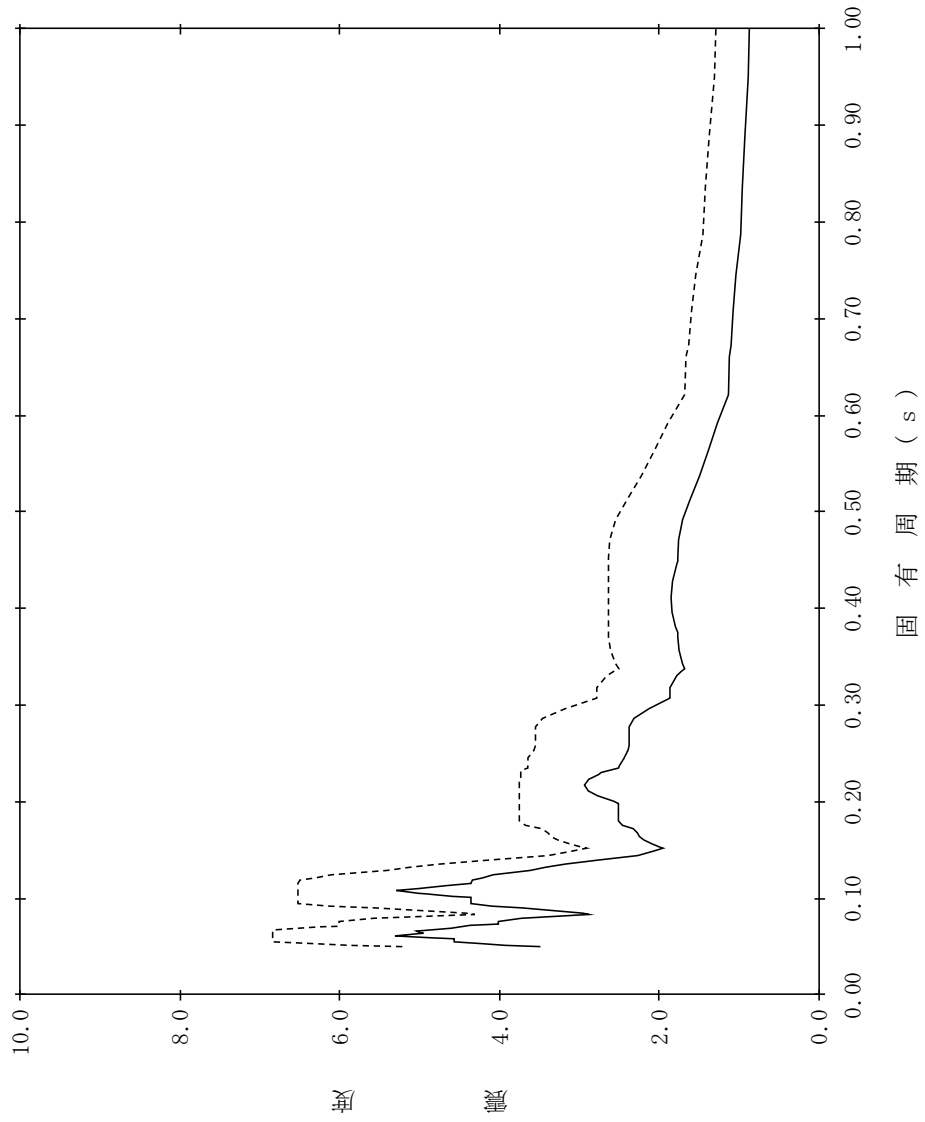
【NS2-PCV-SsEW-RPV207】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



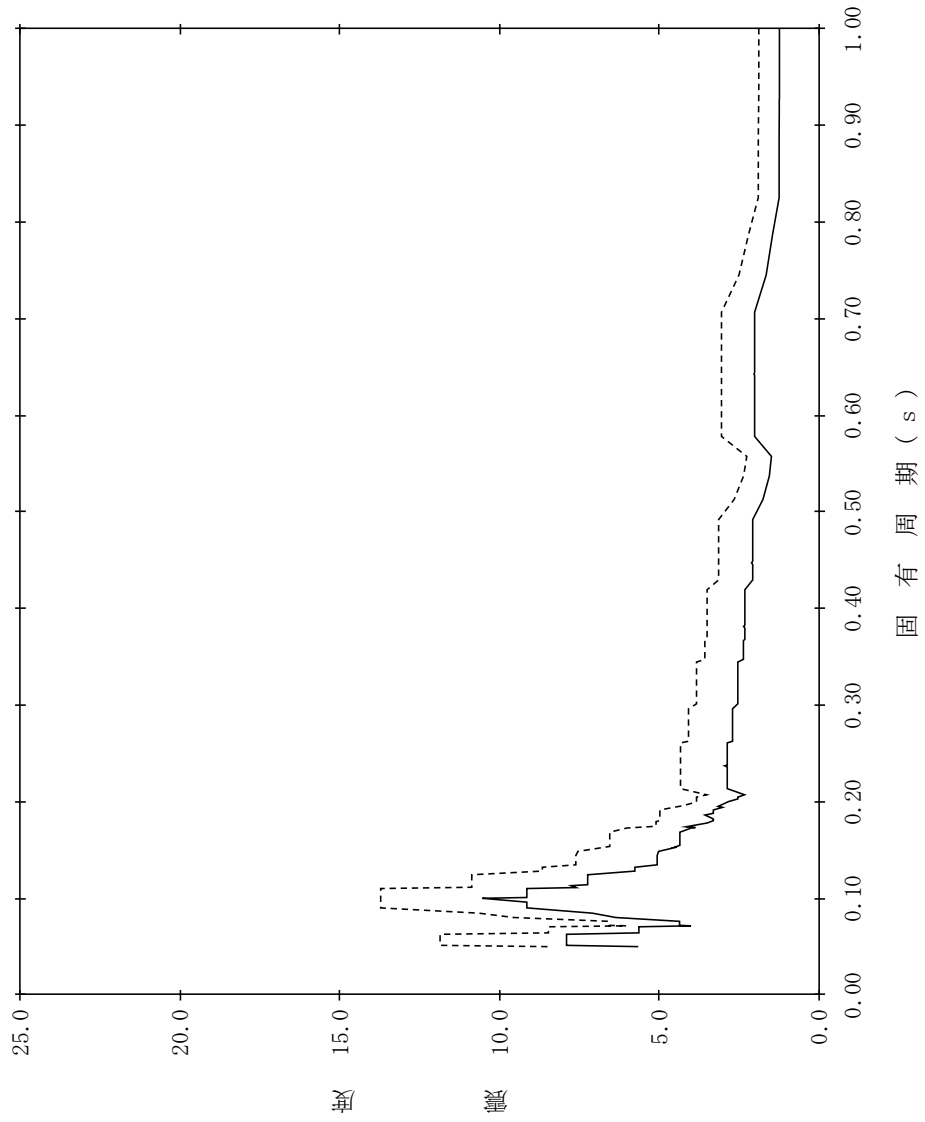
【NS2-PCV-SsEW-RPV208】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



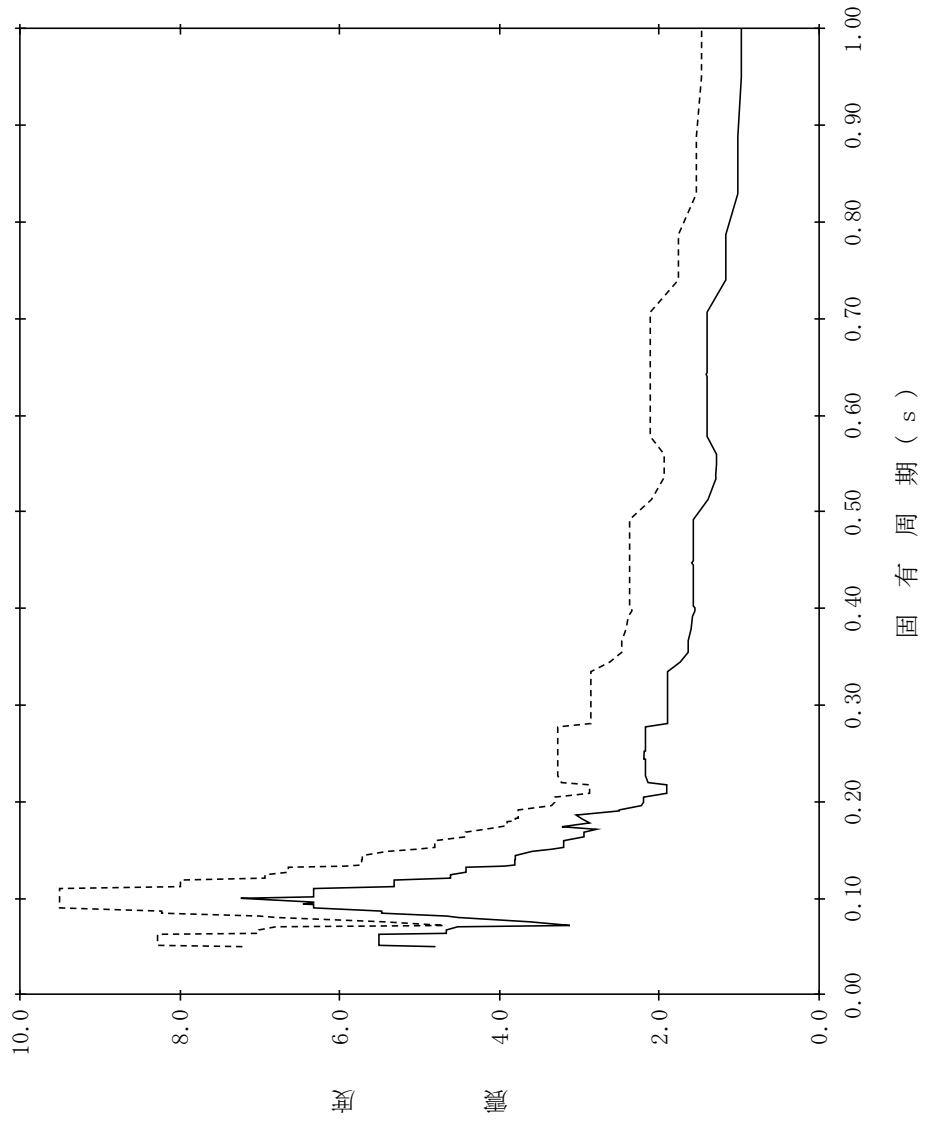
【NS2-PCV-SsV-PCV1】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



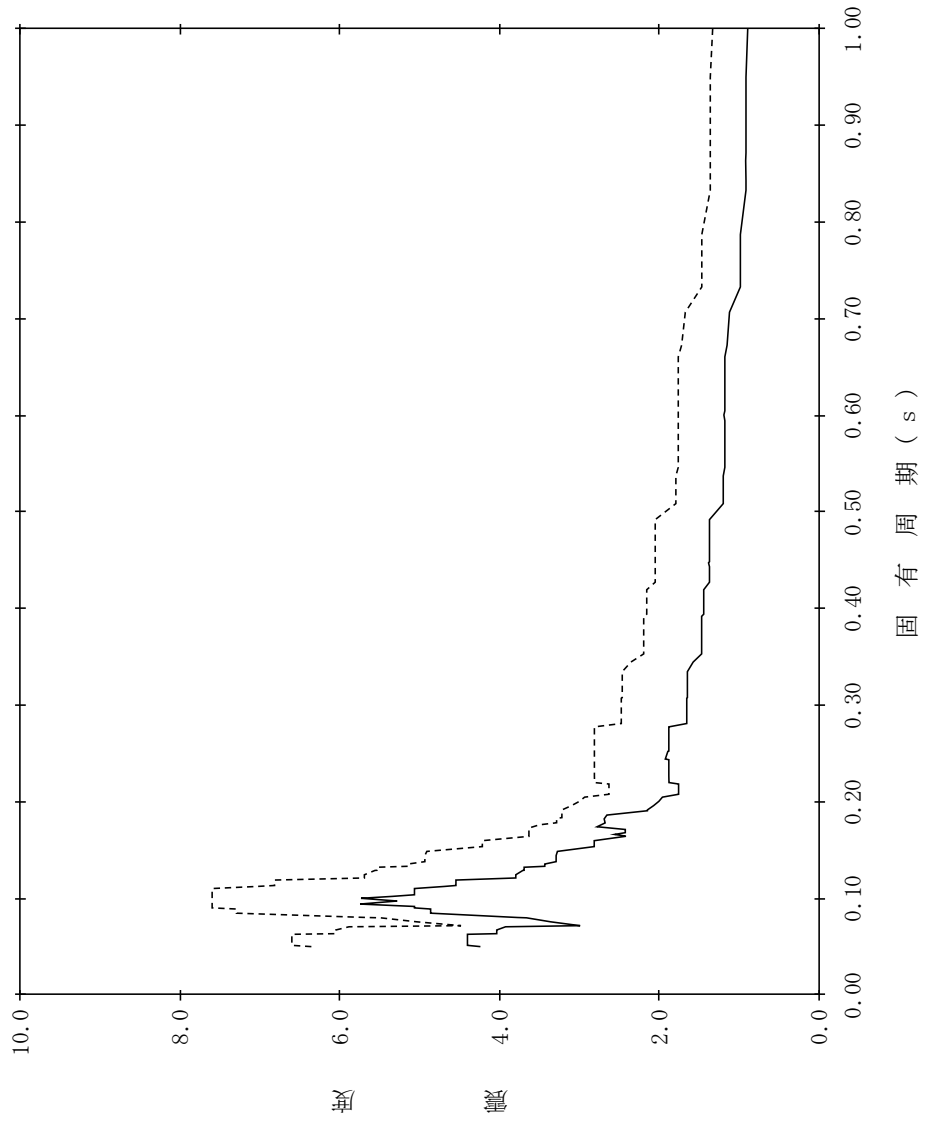
【NS2-PCV-SsV-PCV2】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



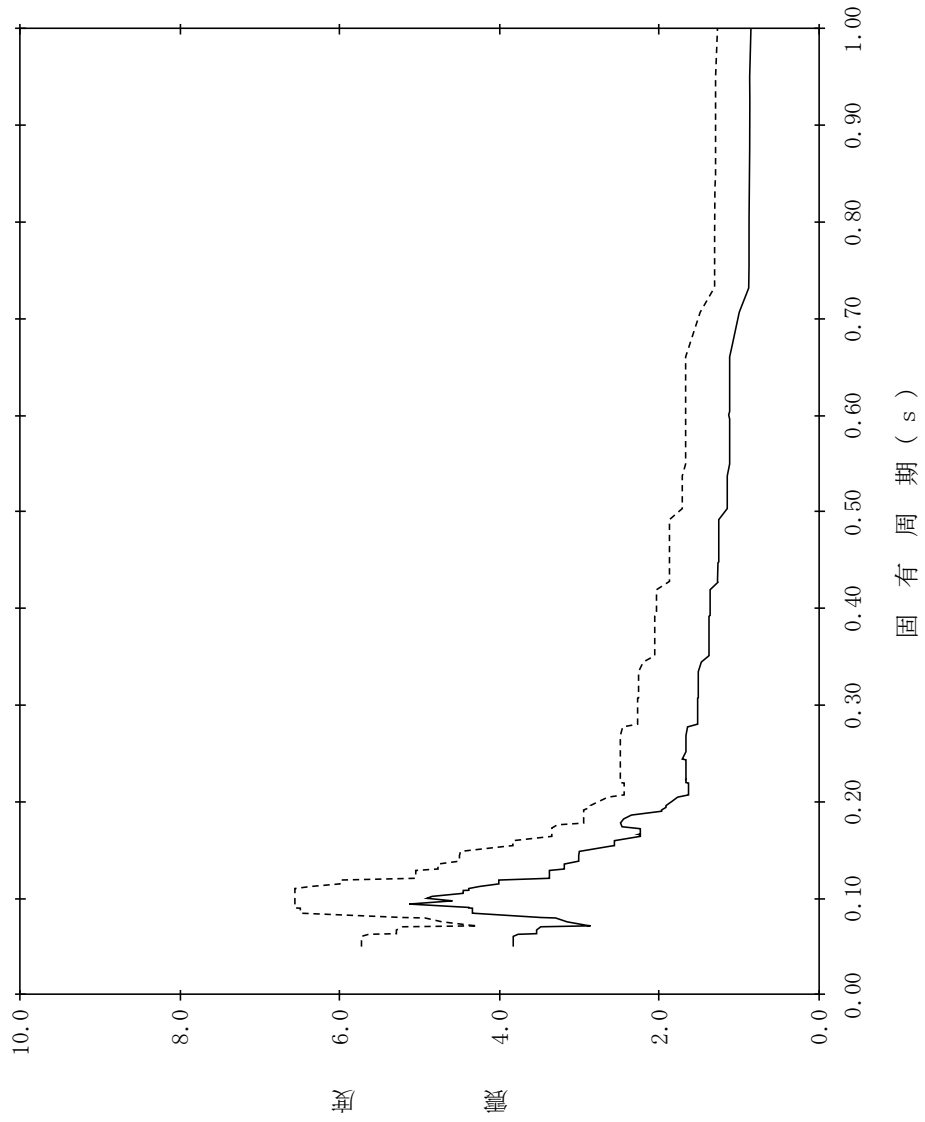
【NS2-PCV-SsV-PCV3】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



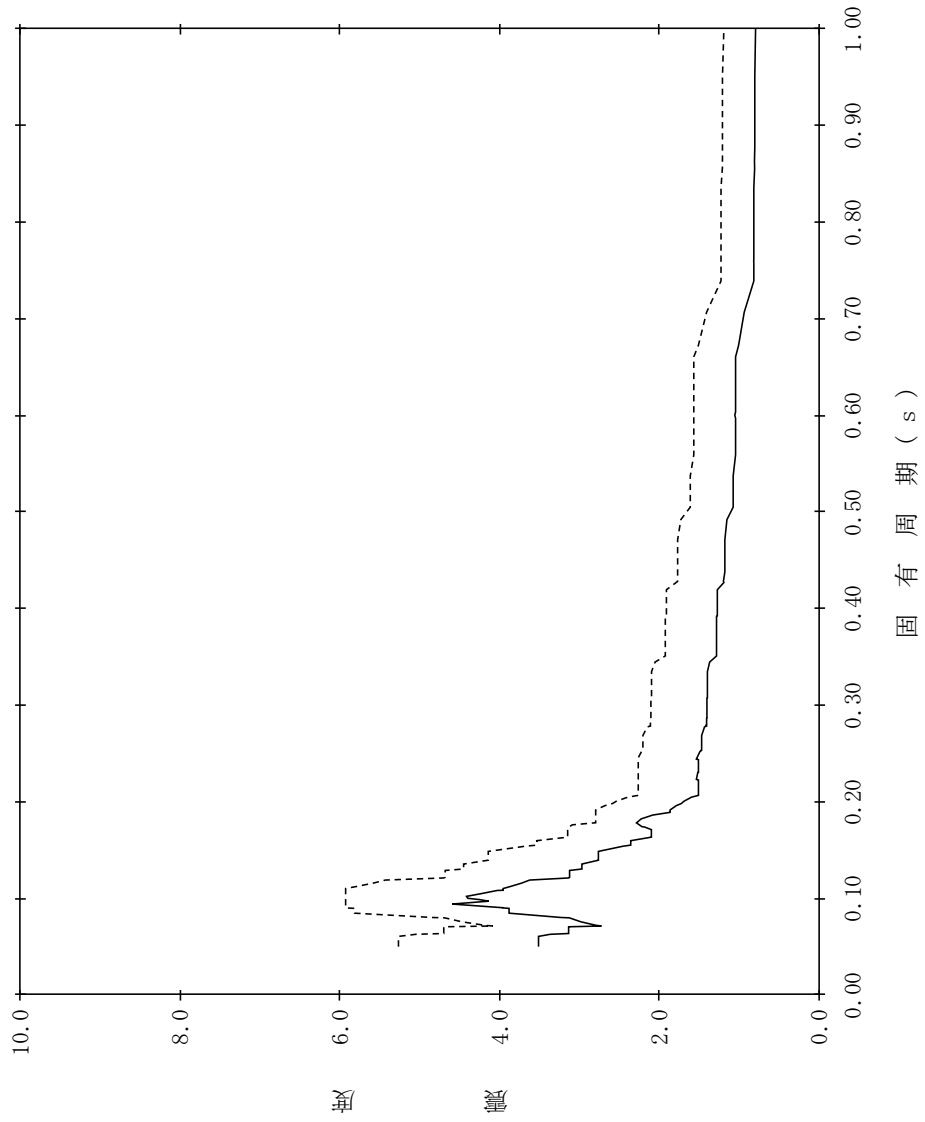
【NS2-PCV-SsV-PCV4】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL39.400m
減衰定数：2.0%
波形式：標準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



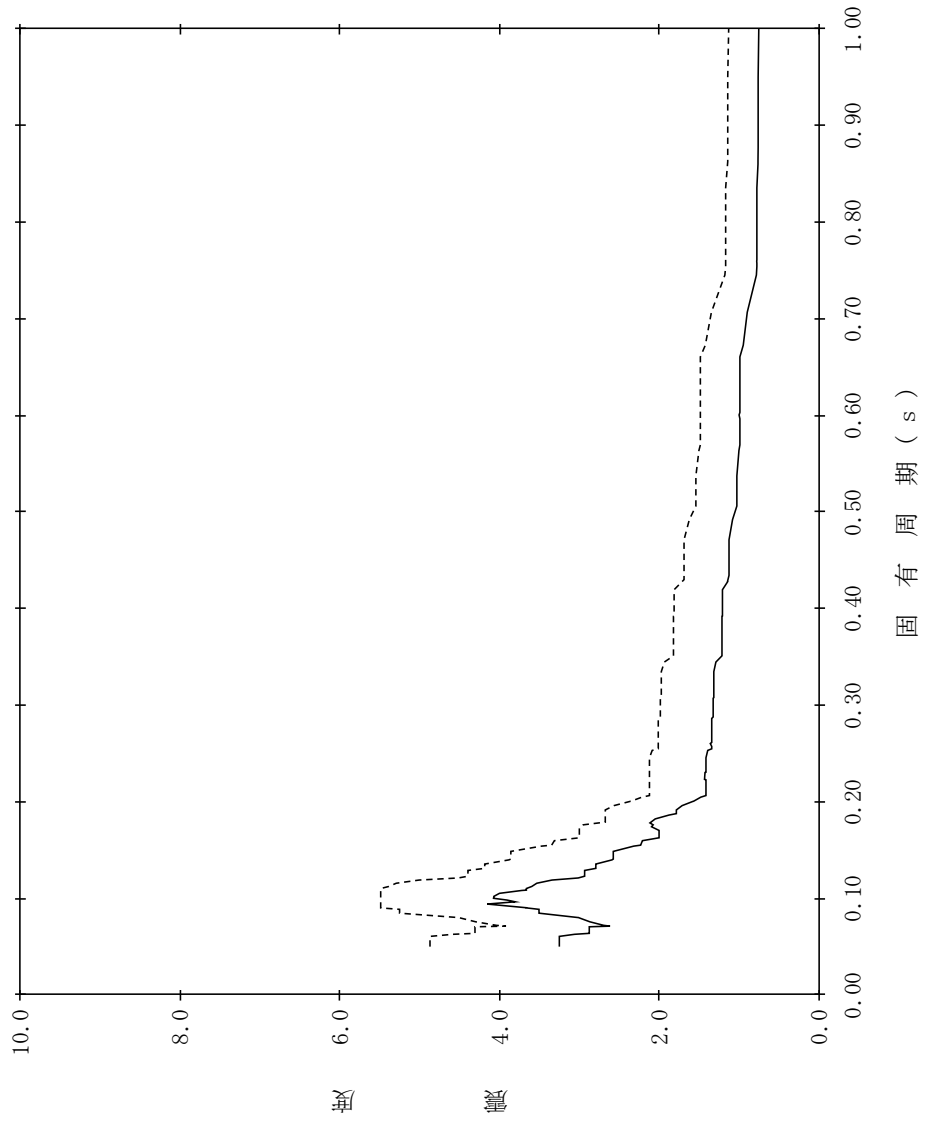
【NS2-PCV-SsV-PCV5】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



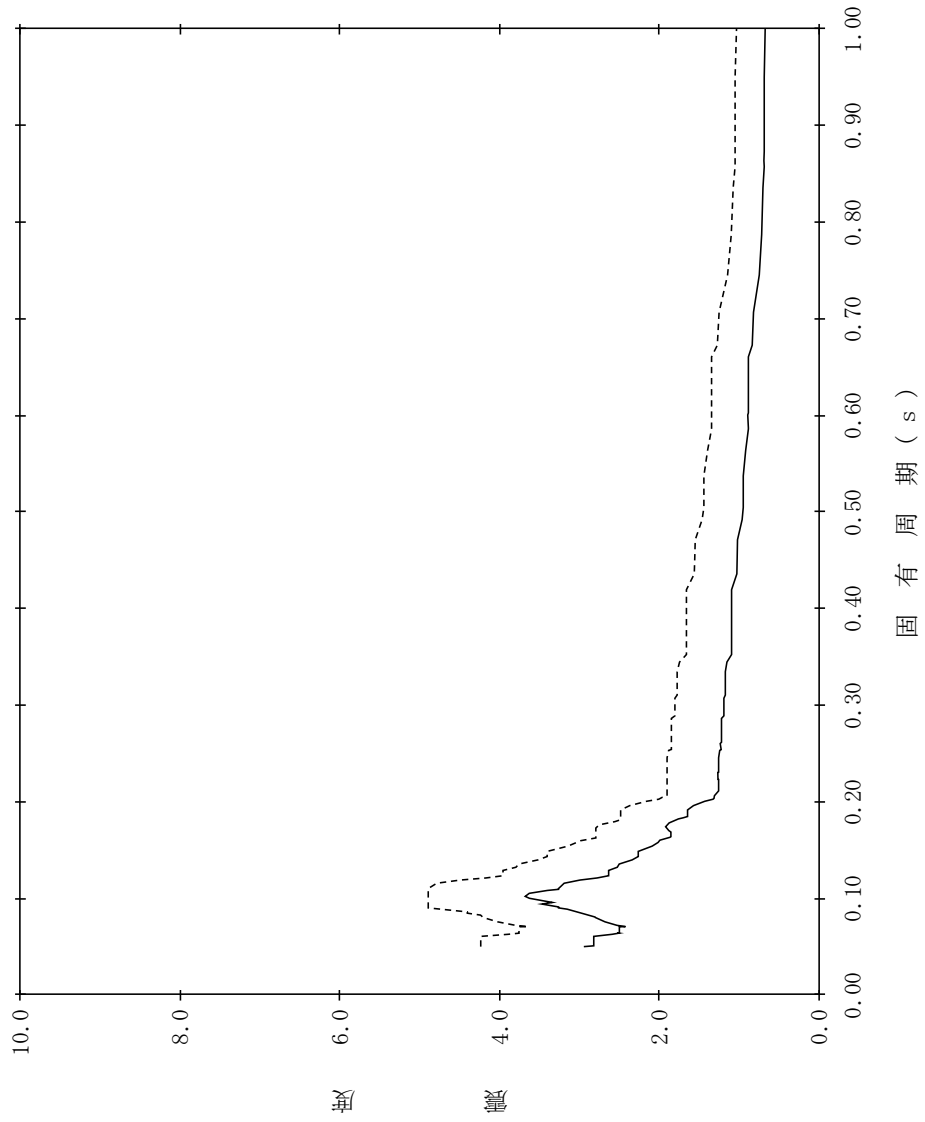
【NS2-PCV-SsV-PCV6】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



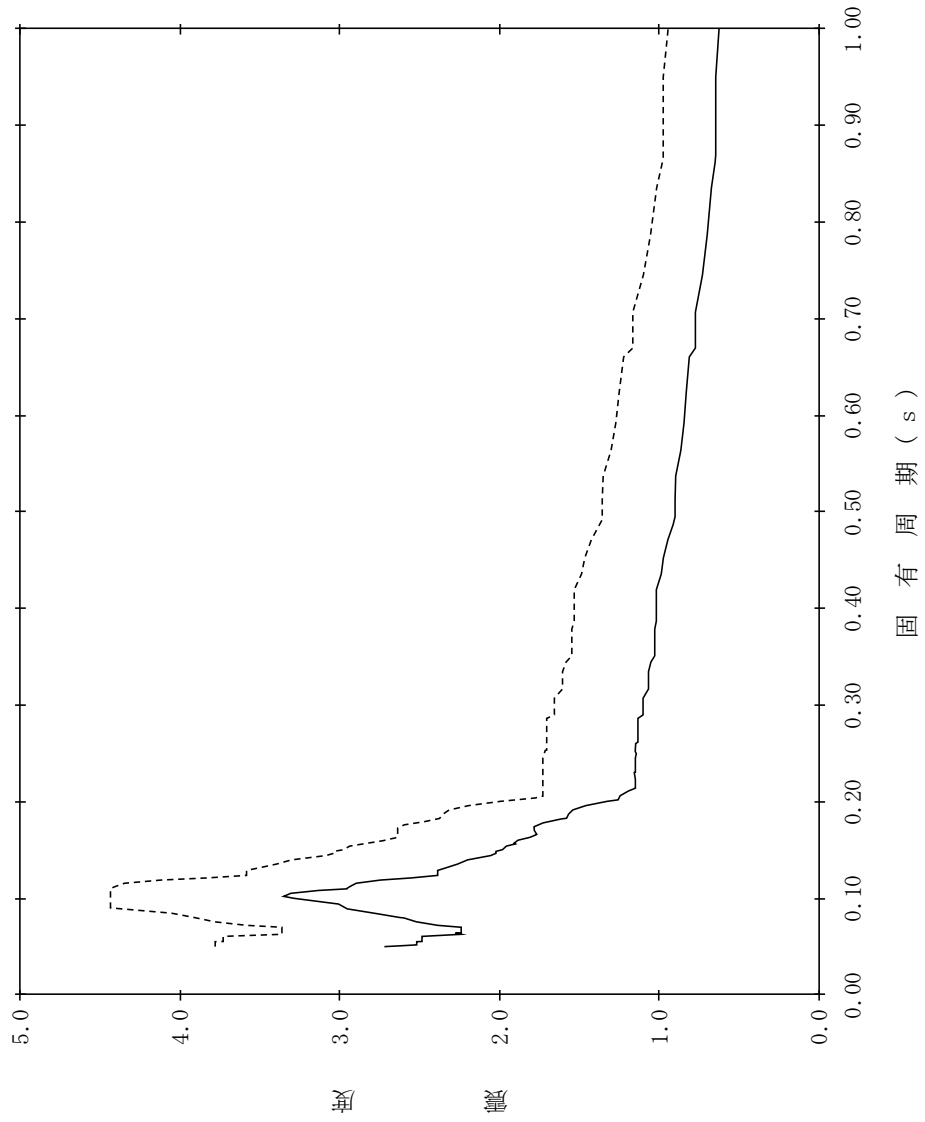
【NS2-PCV-SsV-PCV7】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



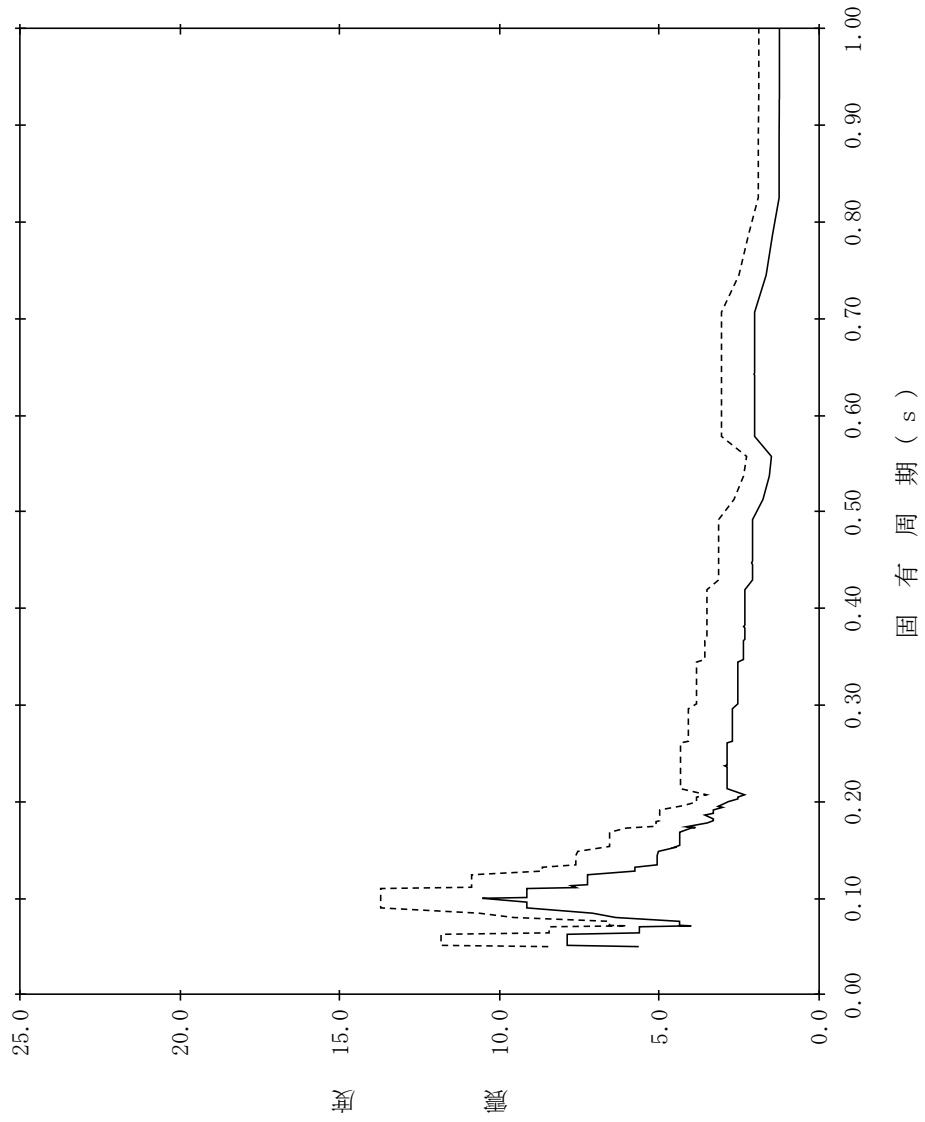
【NS2-PCV-SsV-PCV8】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL39.400m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



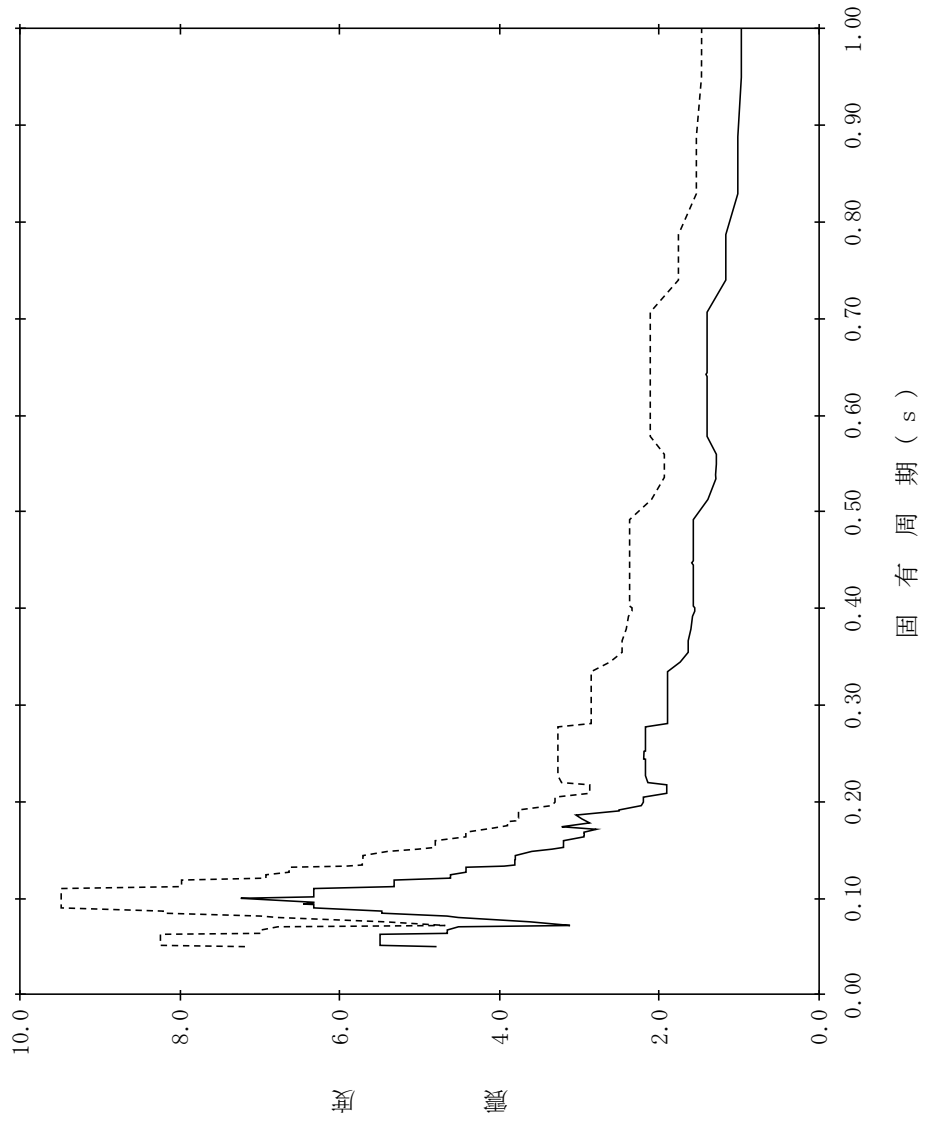
【NS2-PCV-SsV-PCV9】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



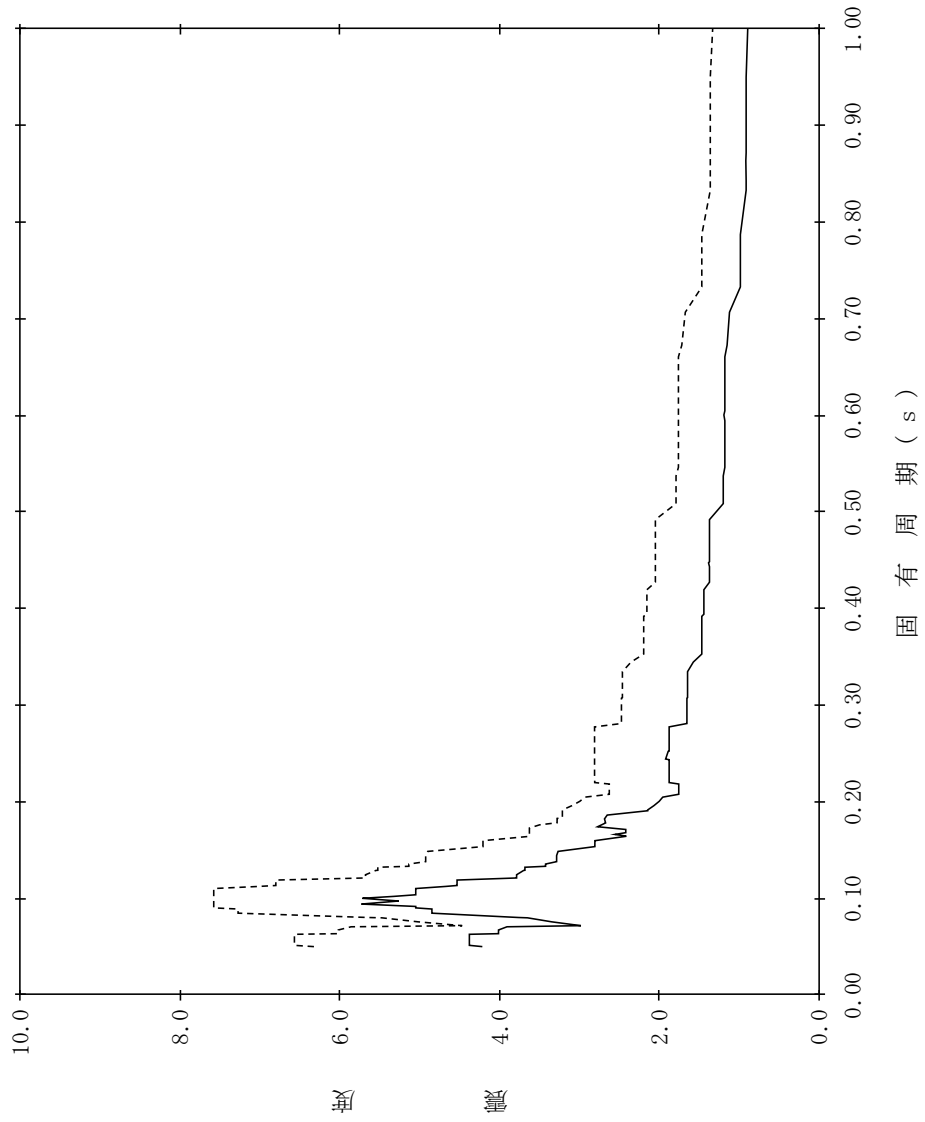
【NS2-PCV-SsV-PCV10】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



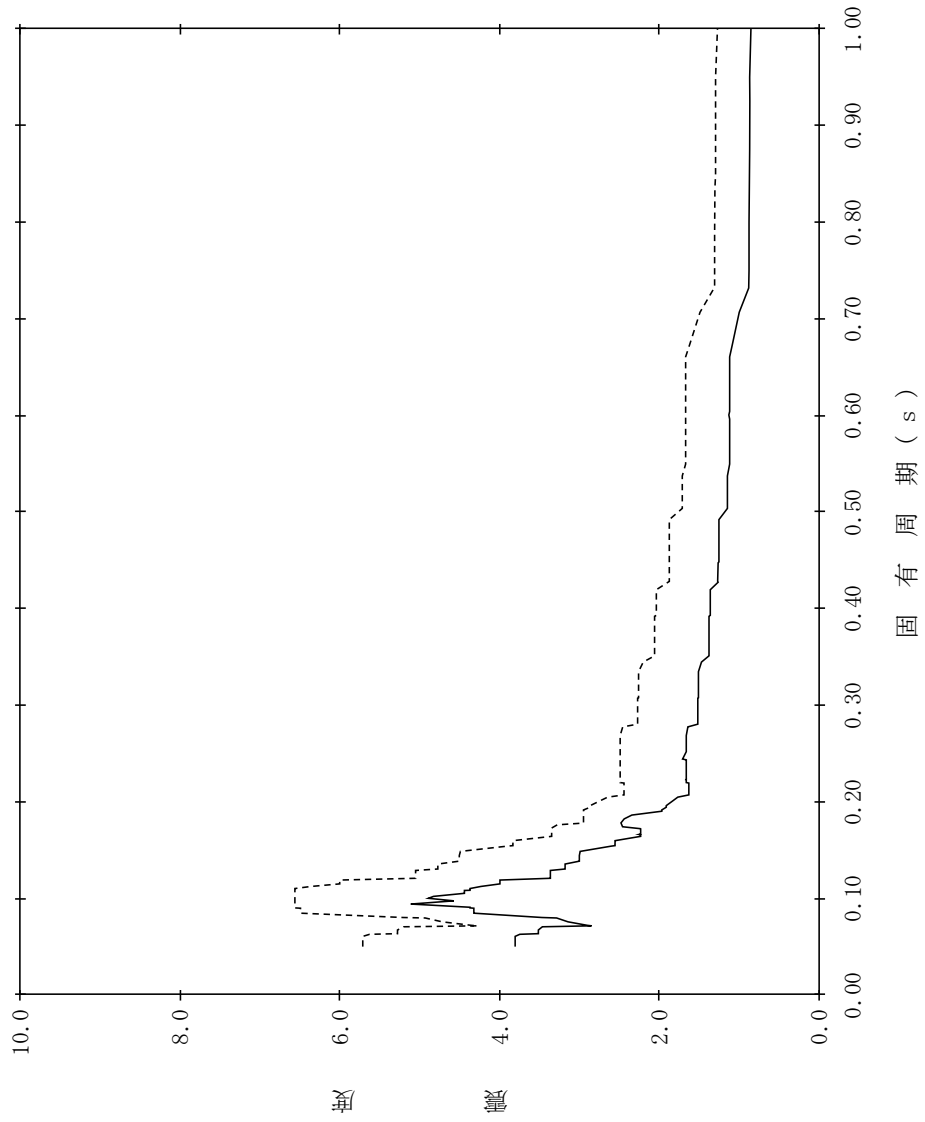
【NS2-PCV-SsV-PCV11】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



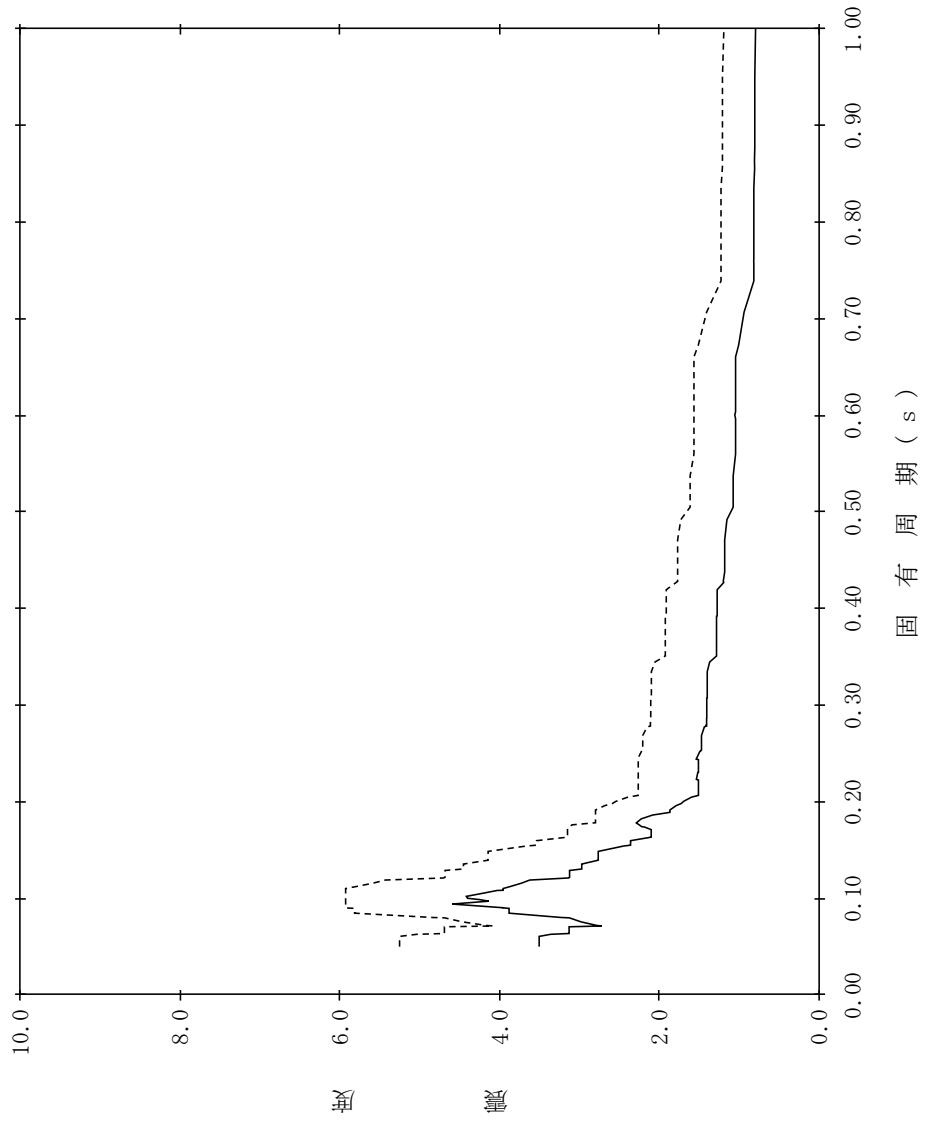
【NS2-PCV-SsV-PCV12】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



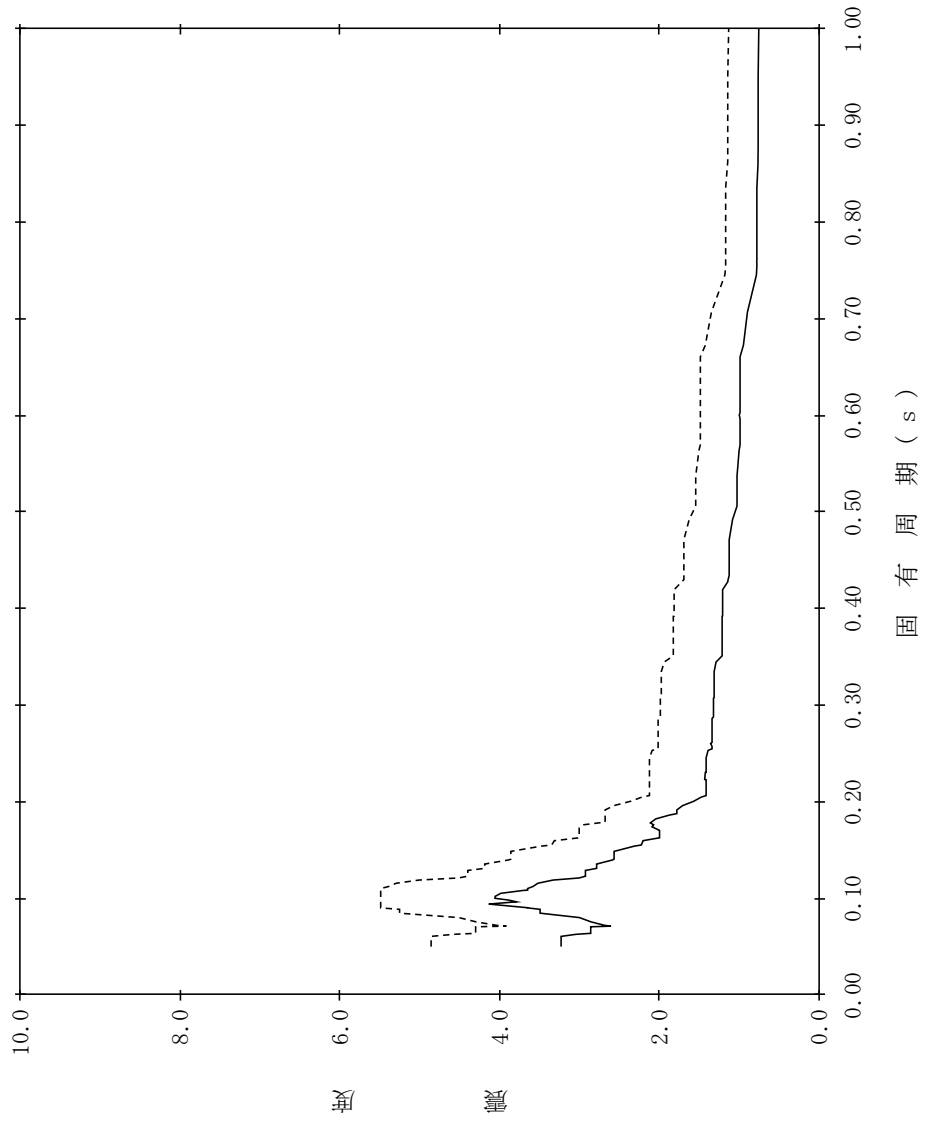
【NS2-PCV-SsV-PCV13】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



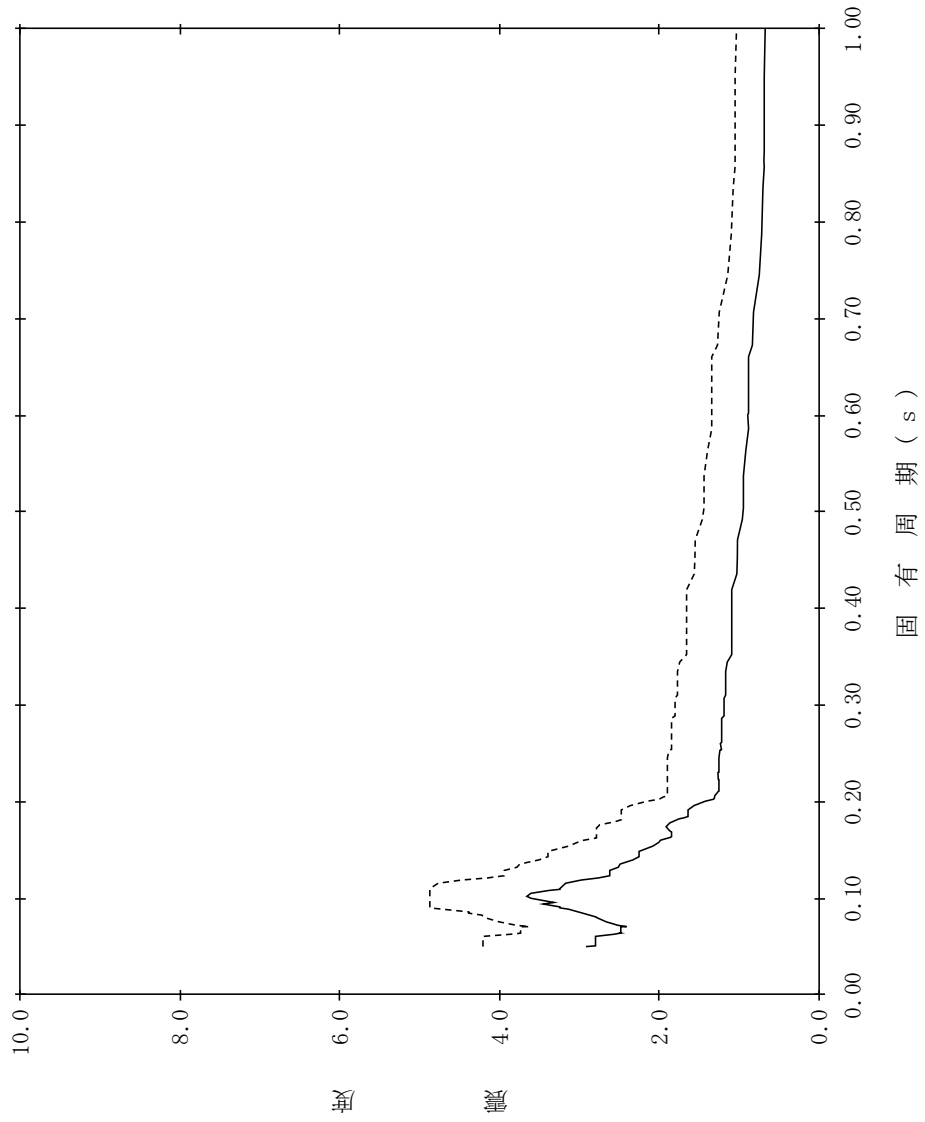
【NS2-PCV-SsV-PCV14】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



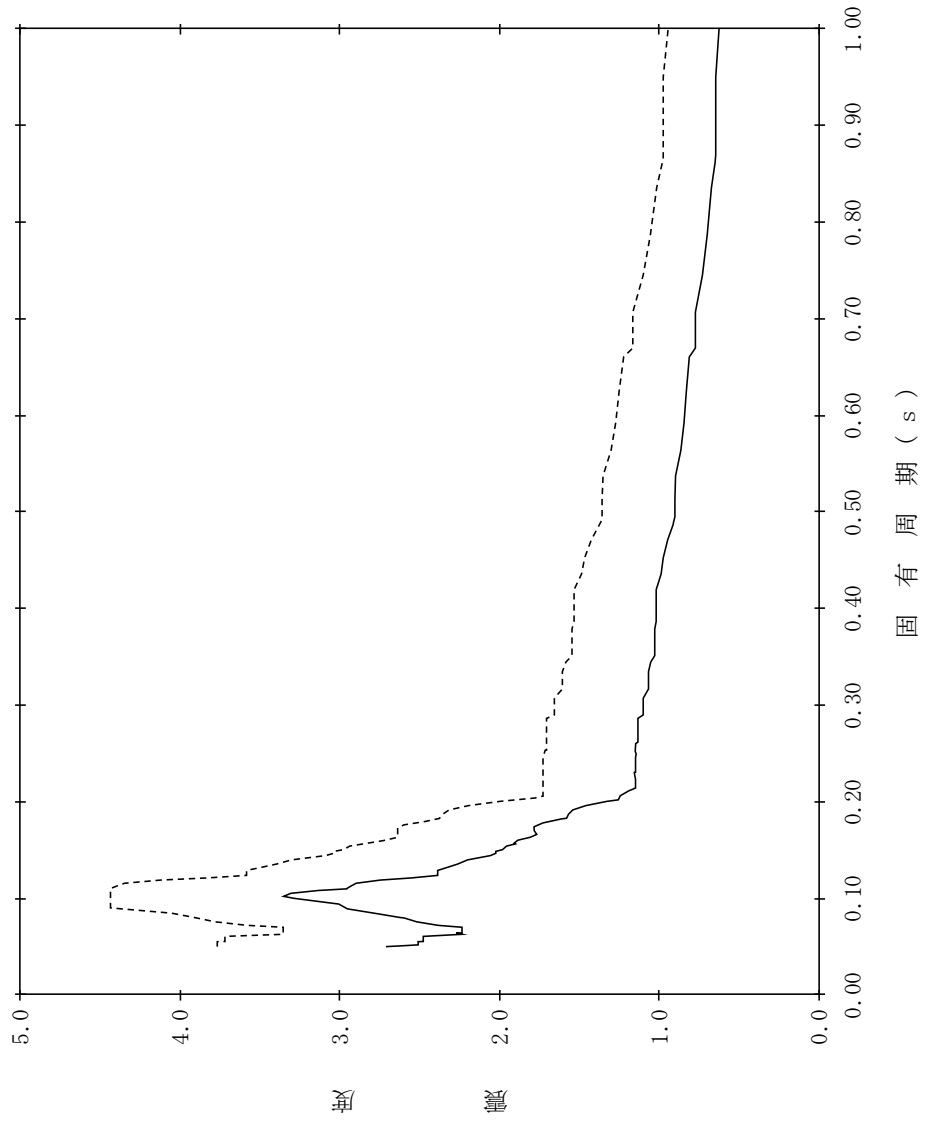
【NS2-PCV-SsV-PCV15】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



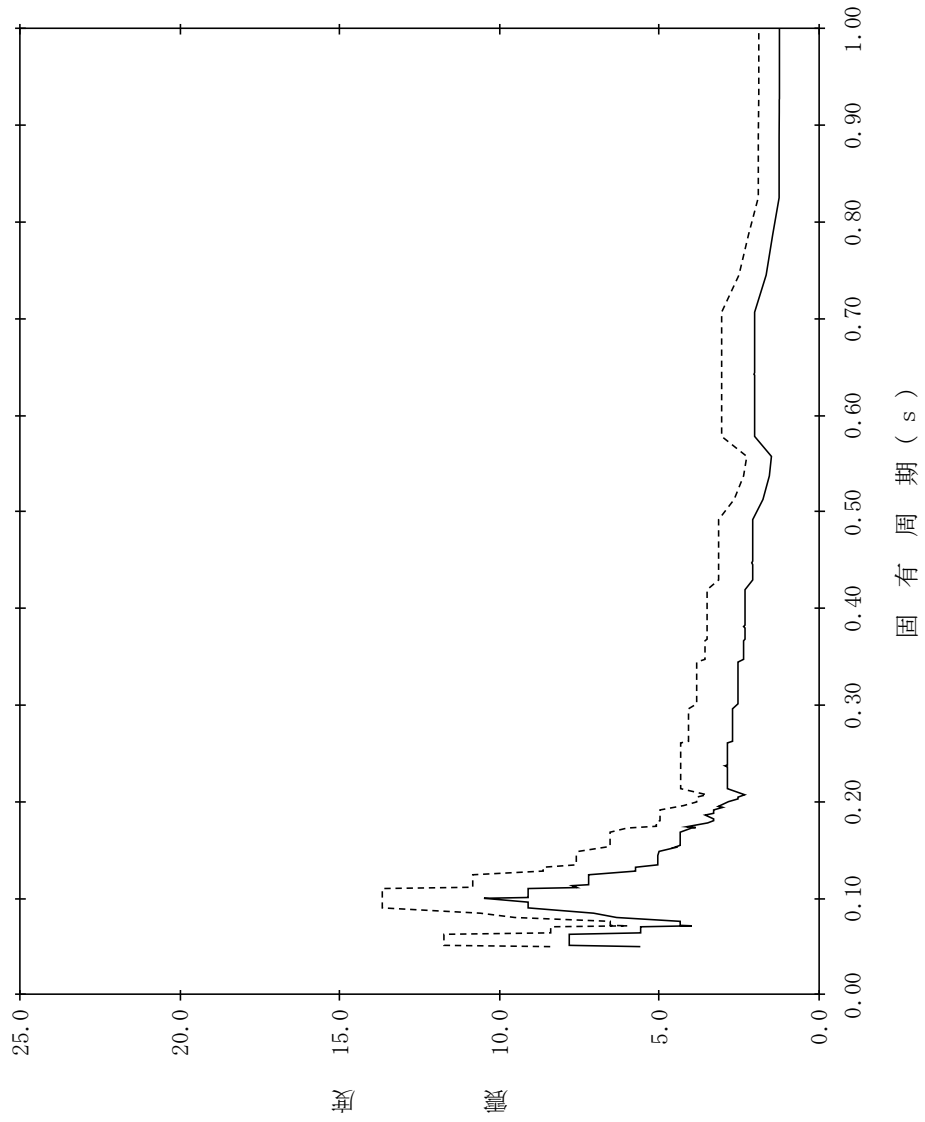
【NS2-PCV-SsV-PCV16】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL37.060m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



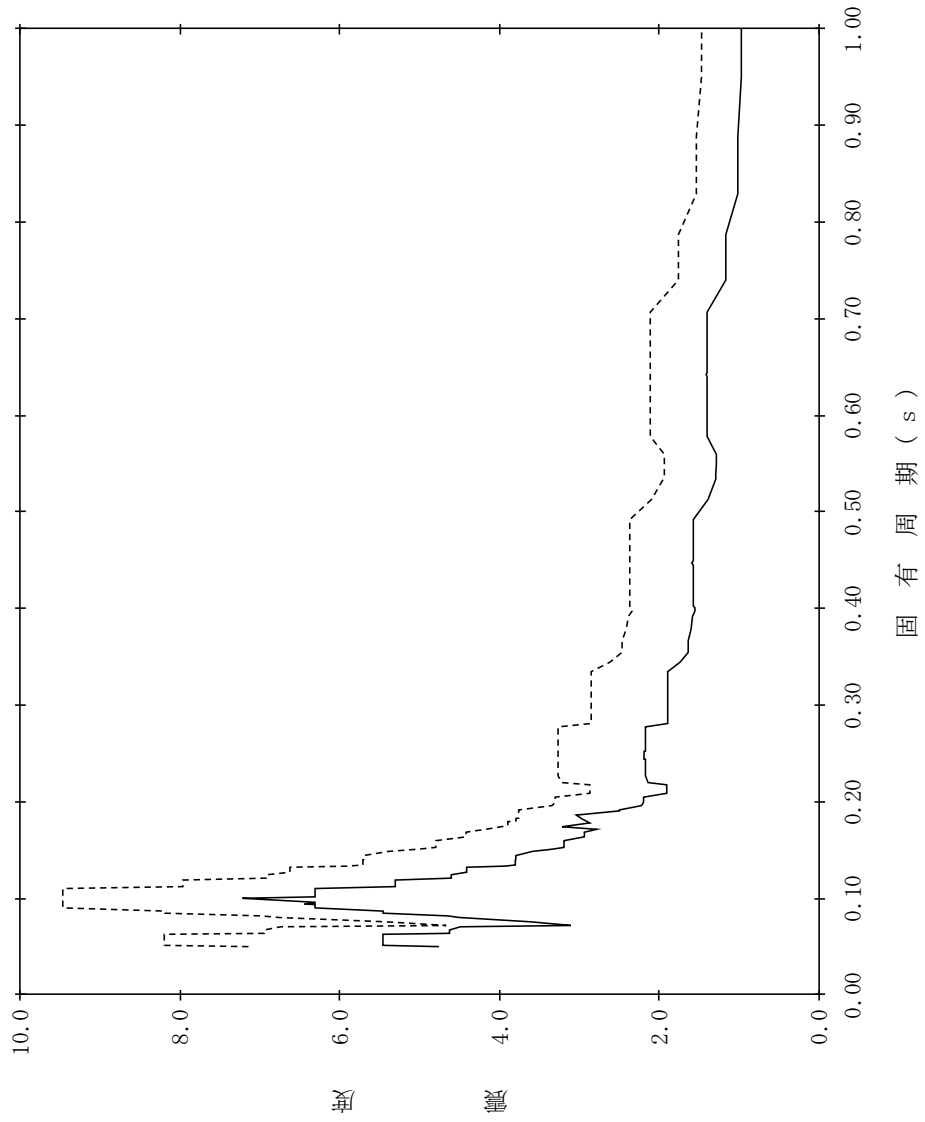
【NS2-PCV-SsV-PCV17】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



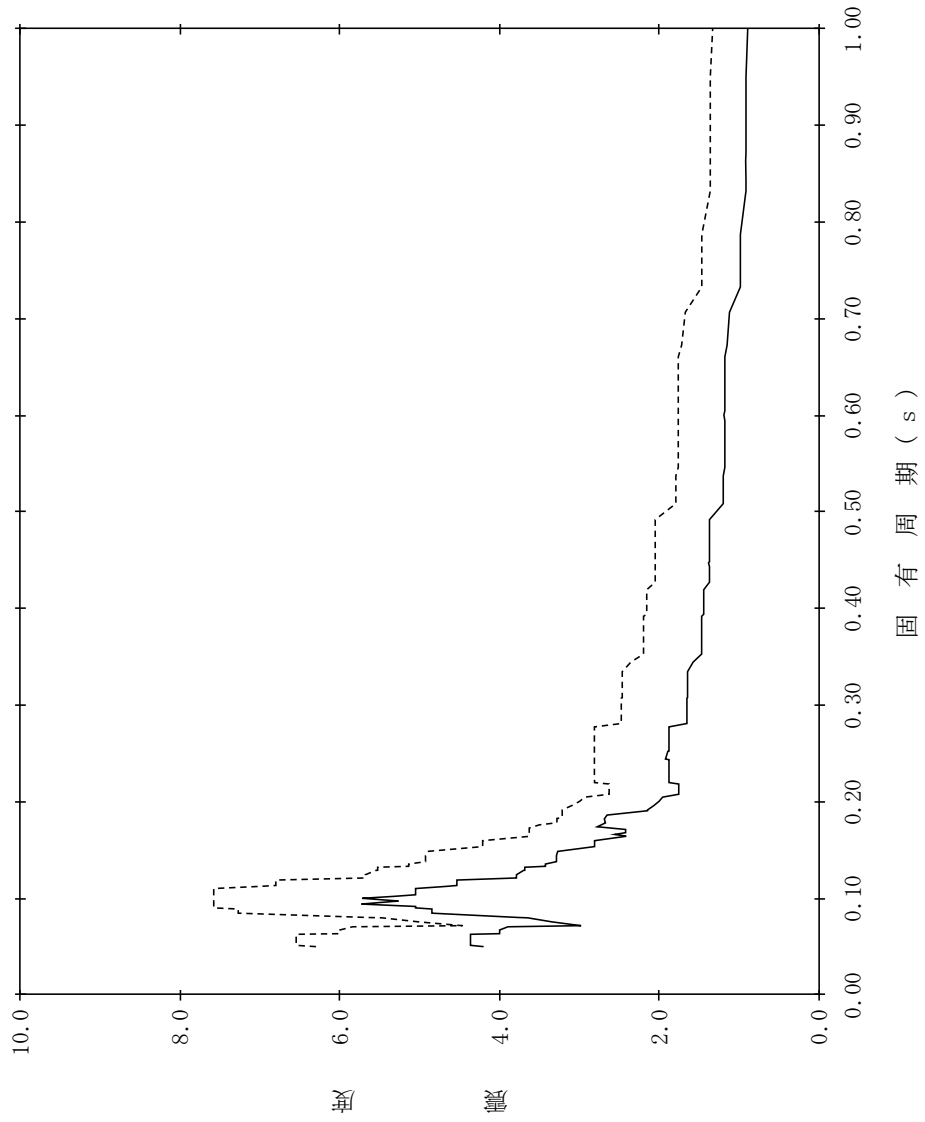
【NS2-PCV-SsV-PCV18】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



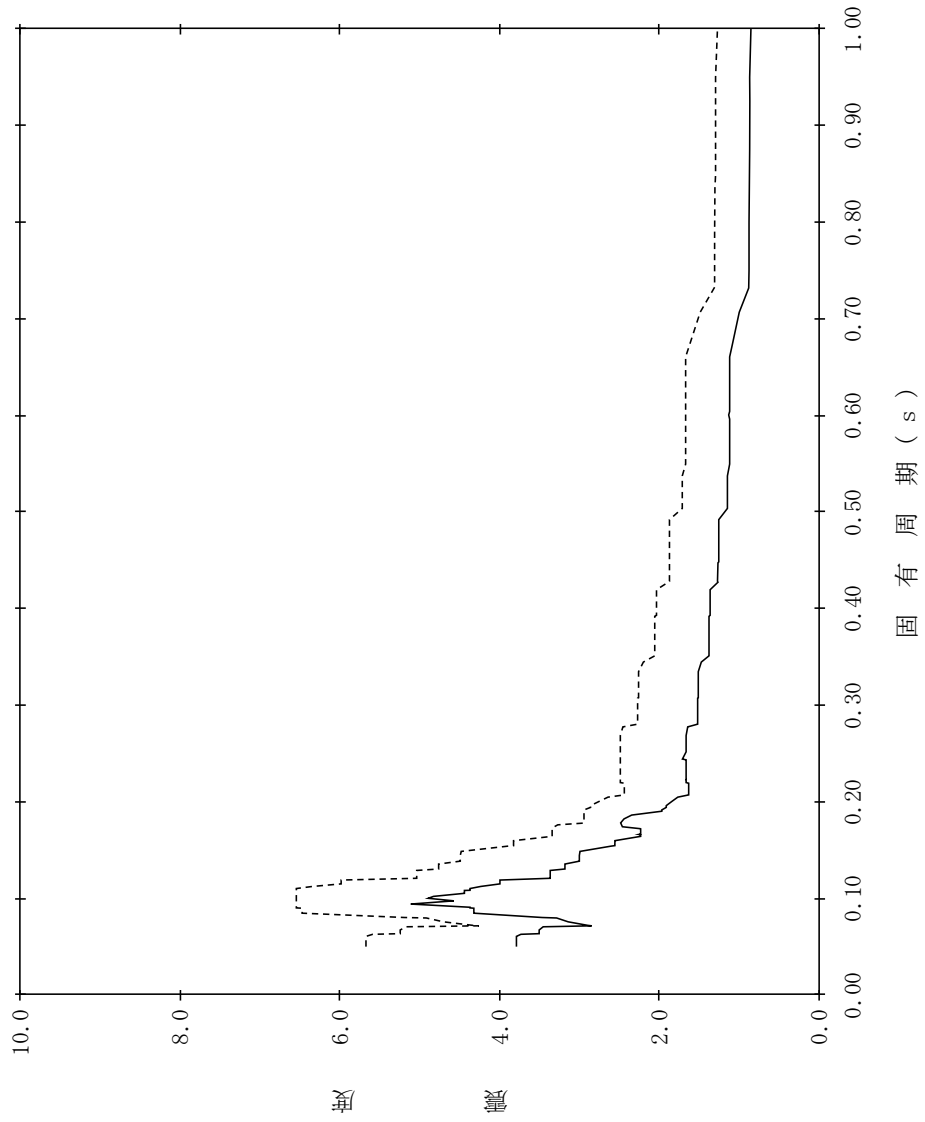
【NS2-PCV-SsV-PCV19】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL34.758m
減衰定数：1.5%
波形式：標準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

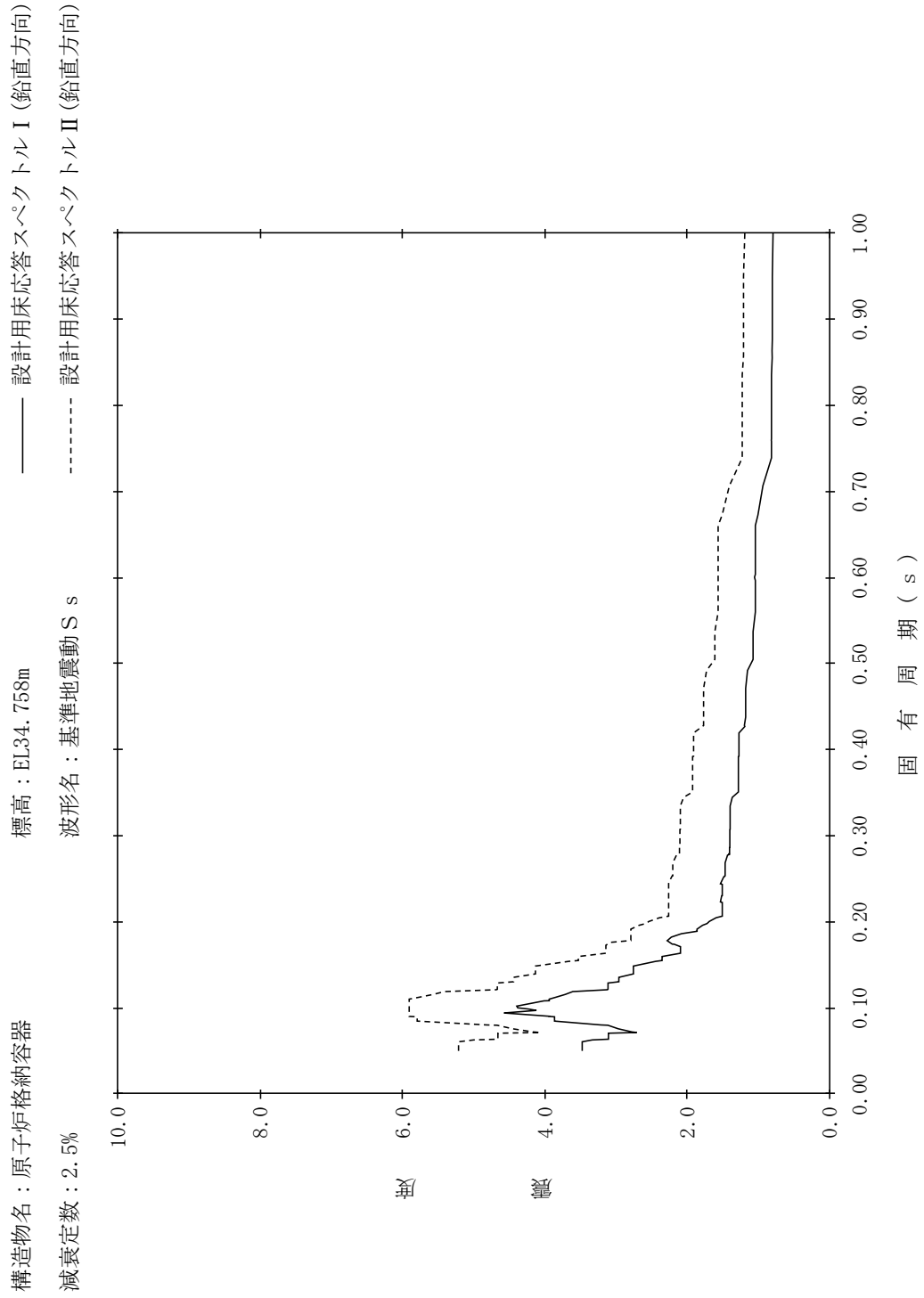


【NS2-PCV-SsV-PCV20】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

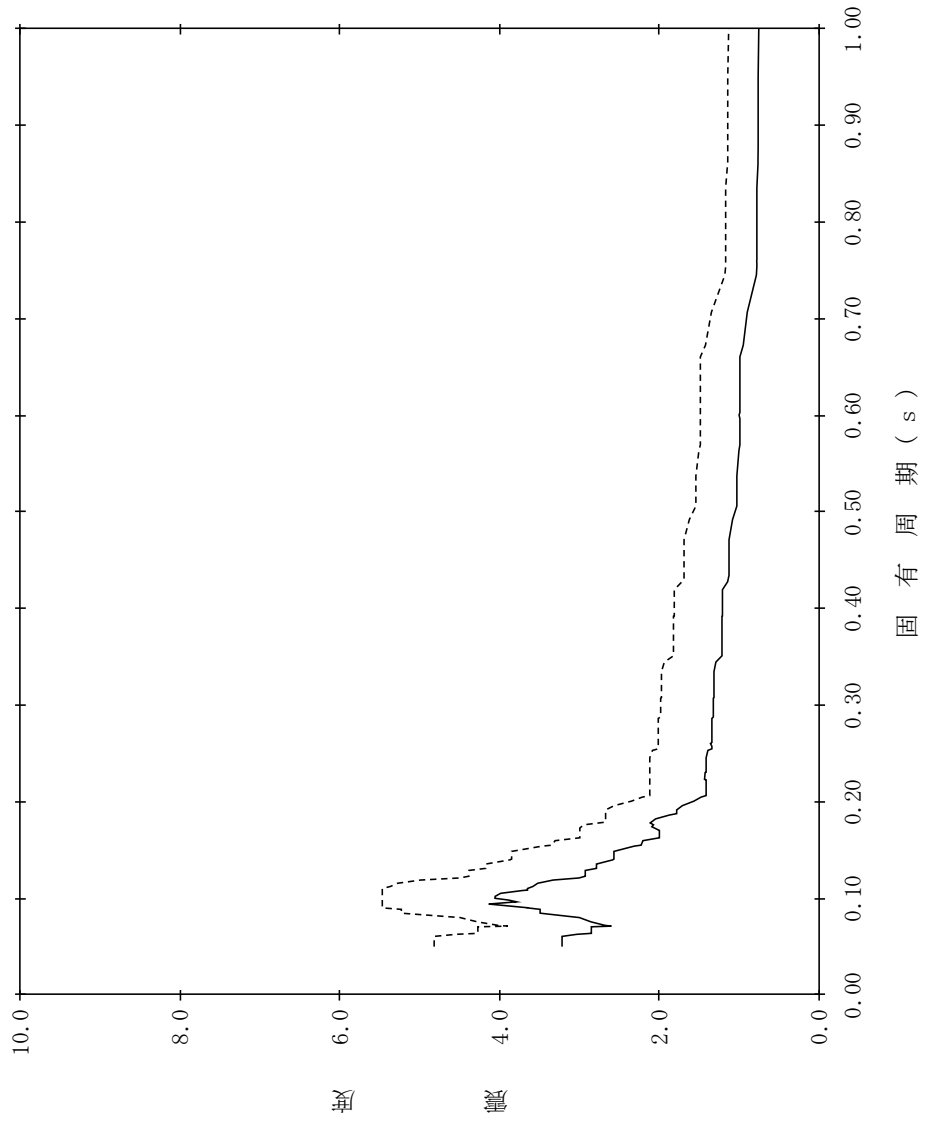


【NS2-PCV-SsV-PCV21】

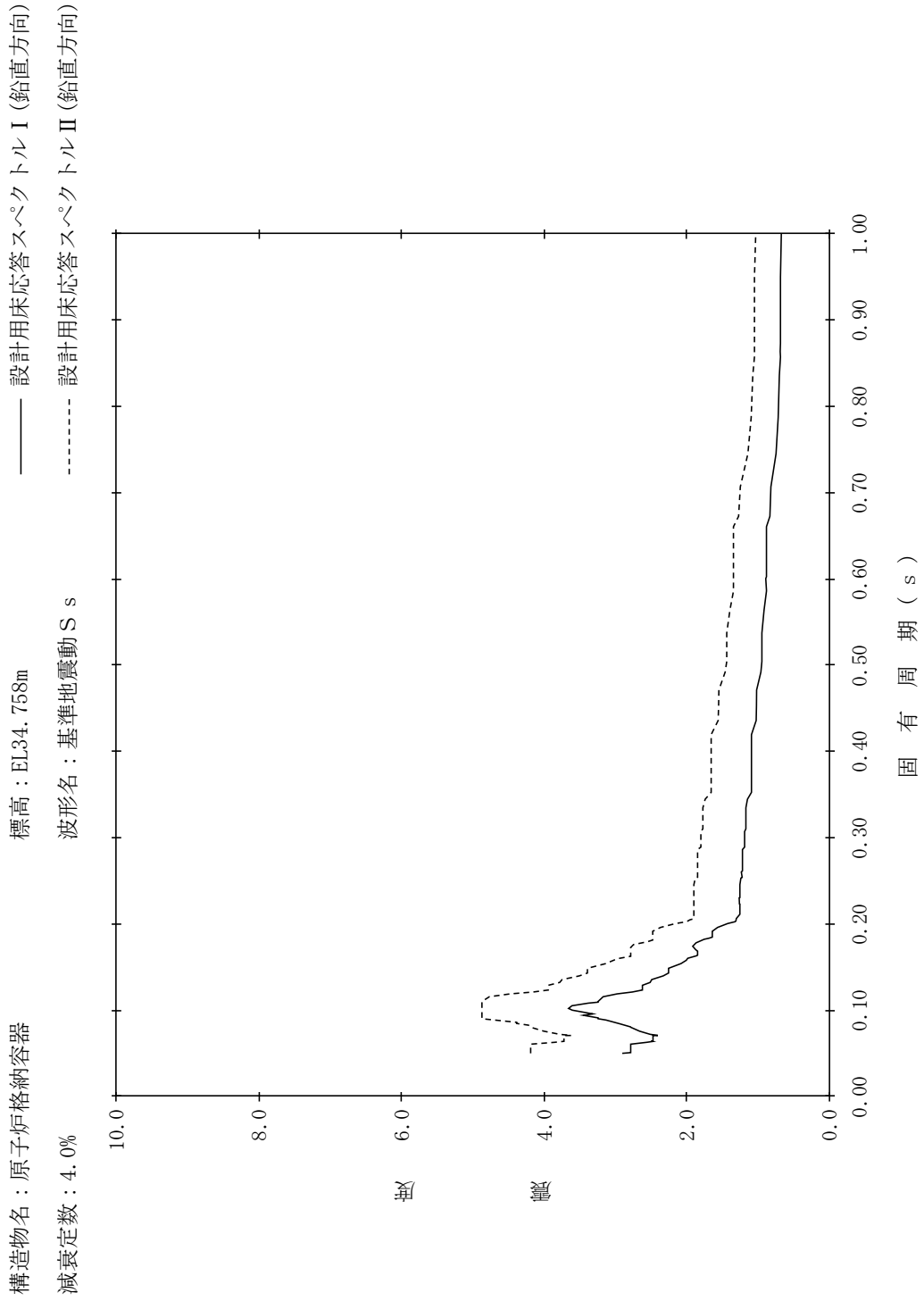


【NS2-PCV-SsV-PCV22】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

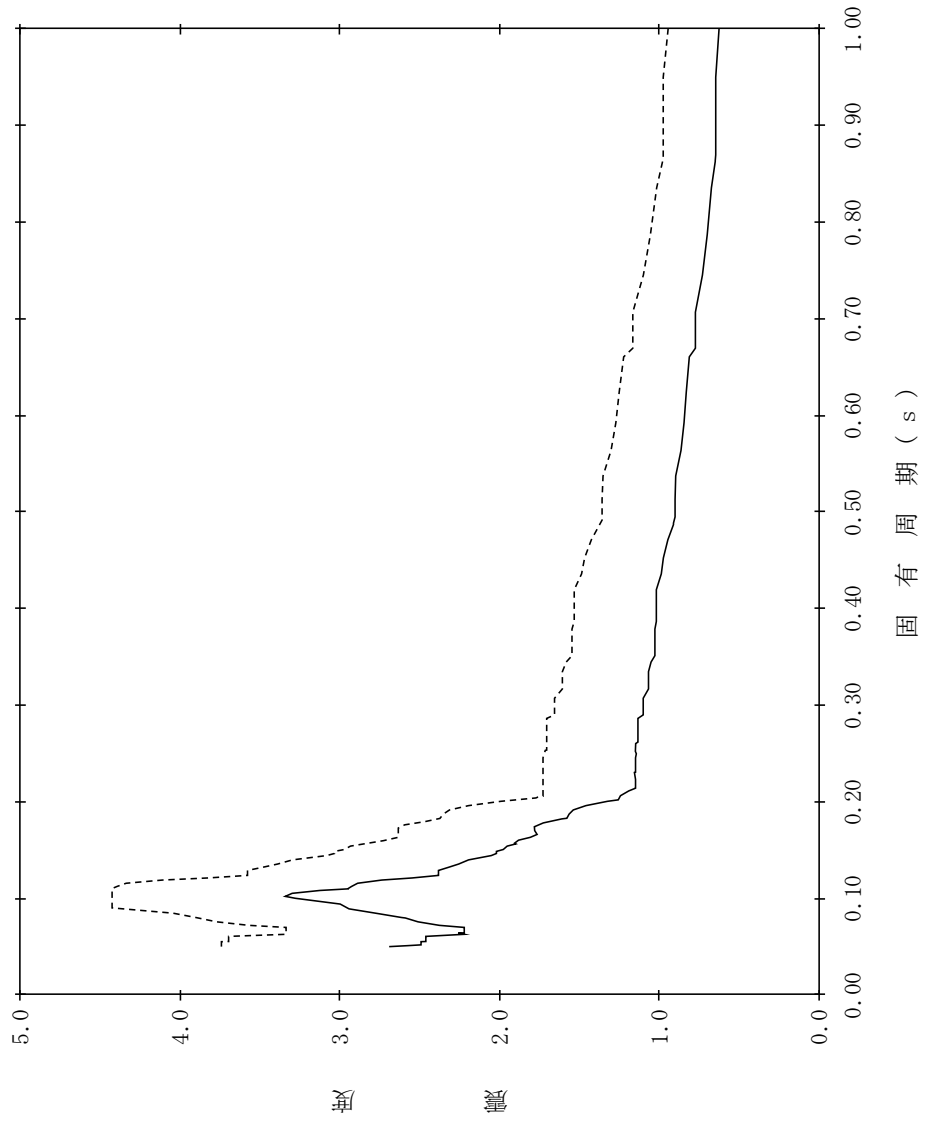


【NS2-PCV-SsV-PCV23】



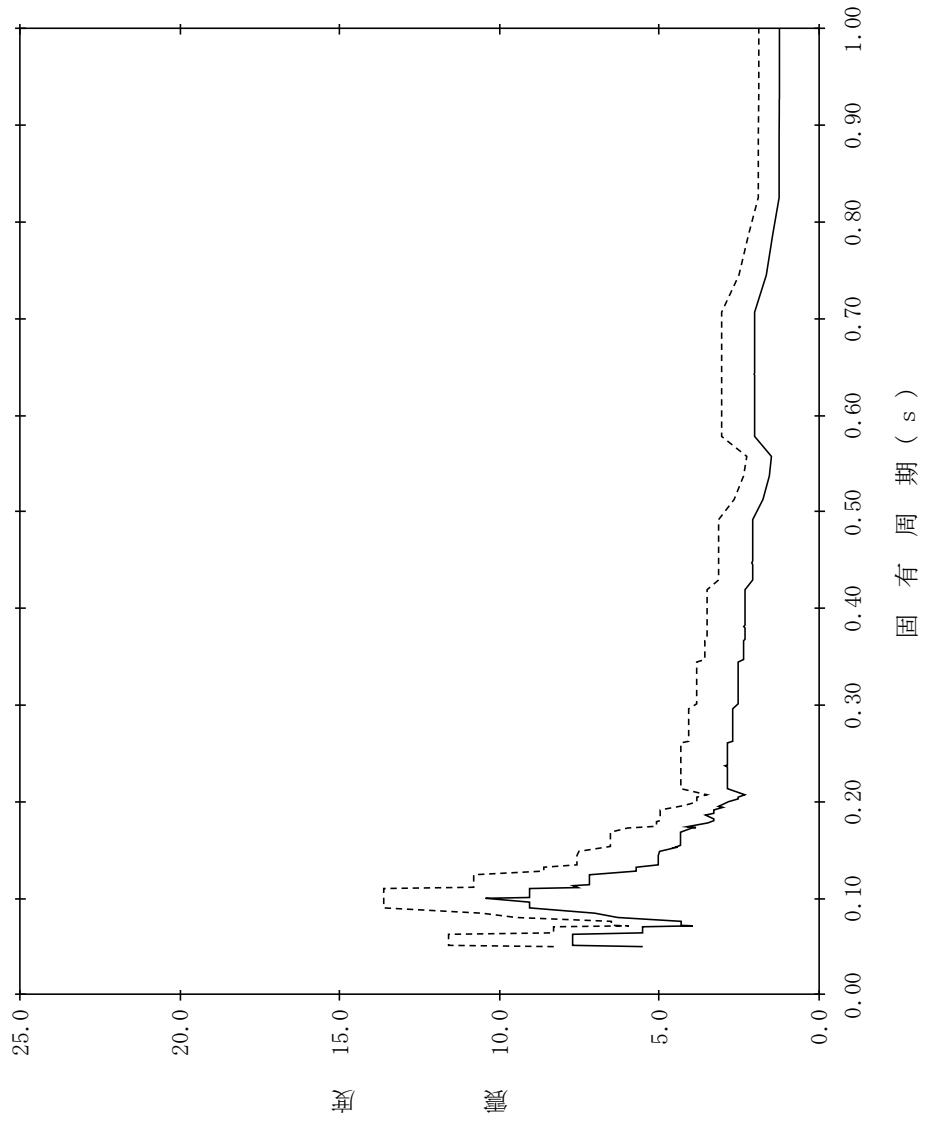
【NS2-PCV-SsV-PCV24】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL34.758m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



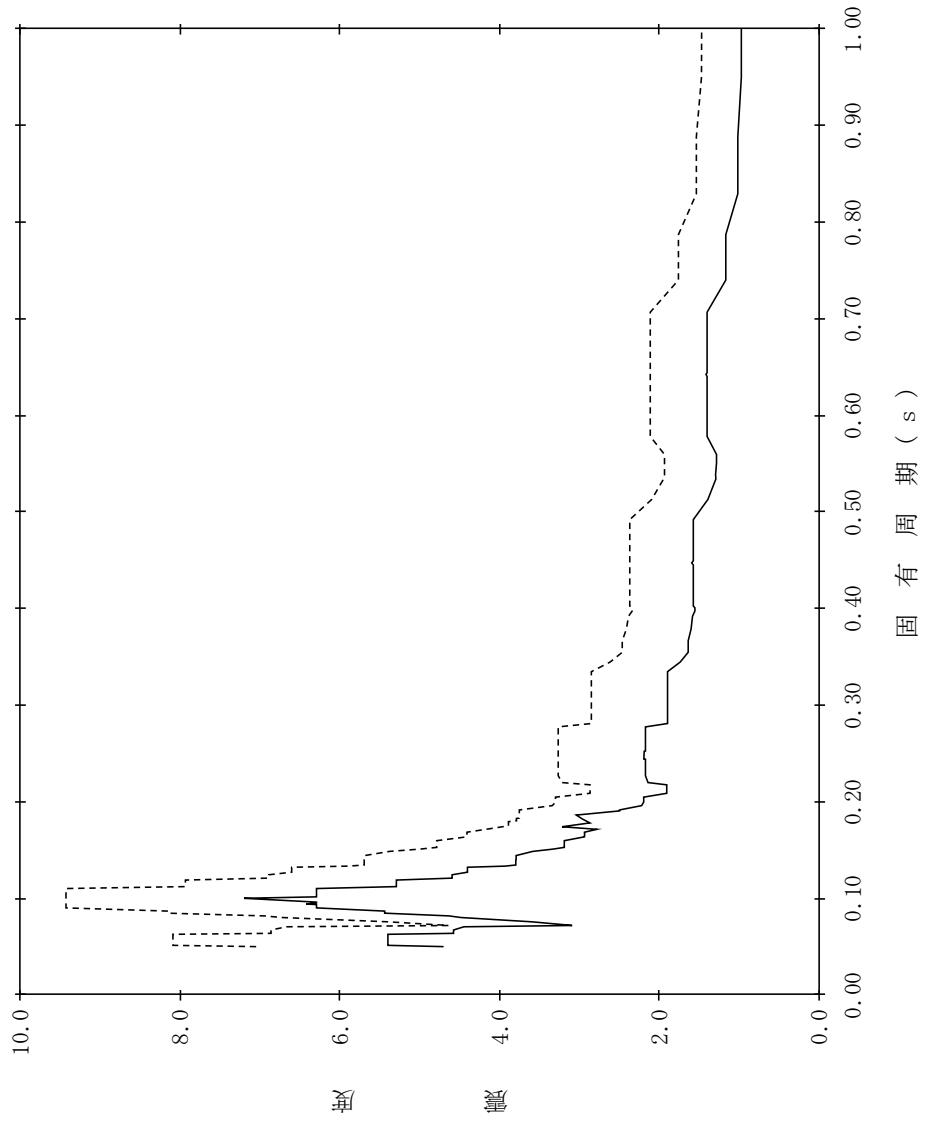
【NS2-PCV-SsV-PCV25】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



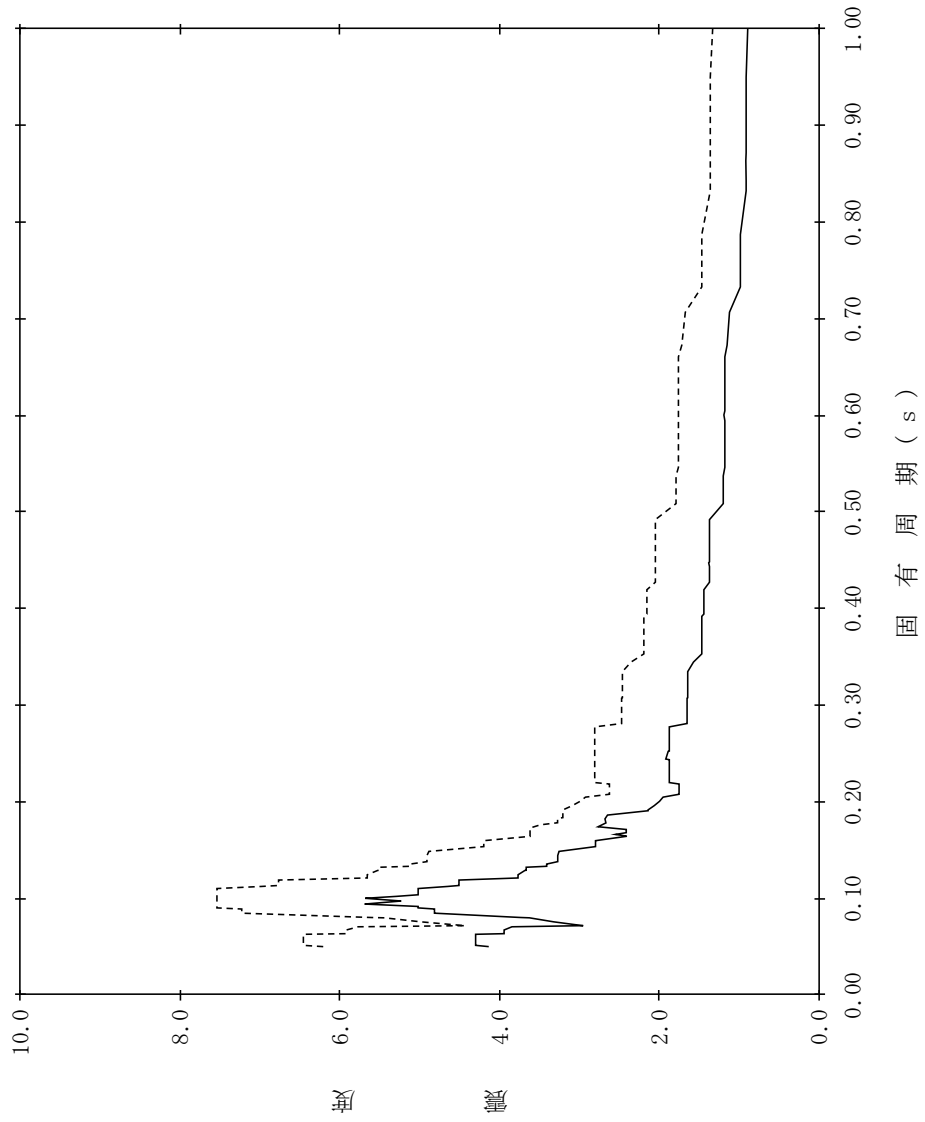
【NS2-PCV-SsV-PCV26】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



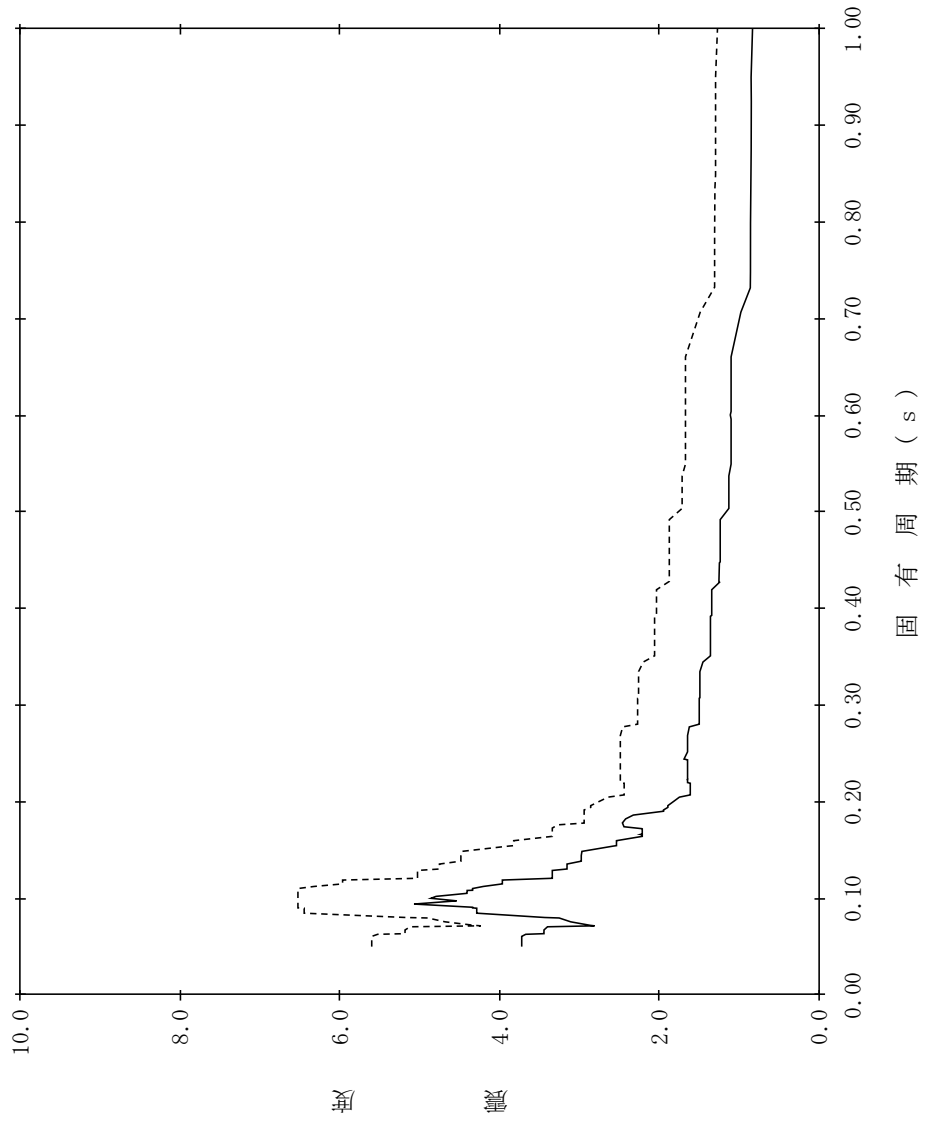
【NS2-PCV-SsV-PCV27】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



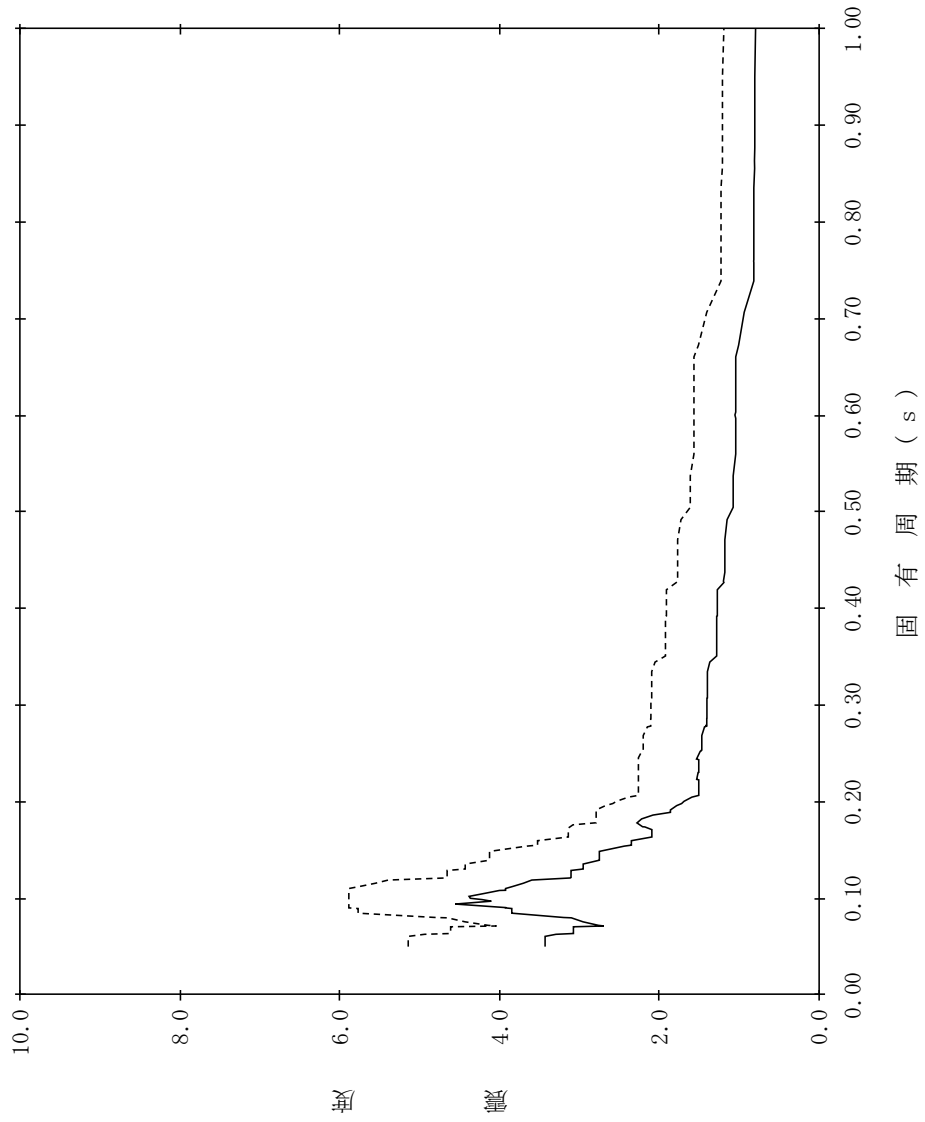
【NS2-PCV-SsV-PCV28】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



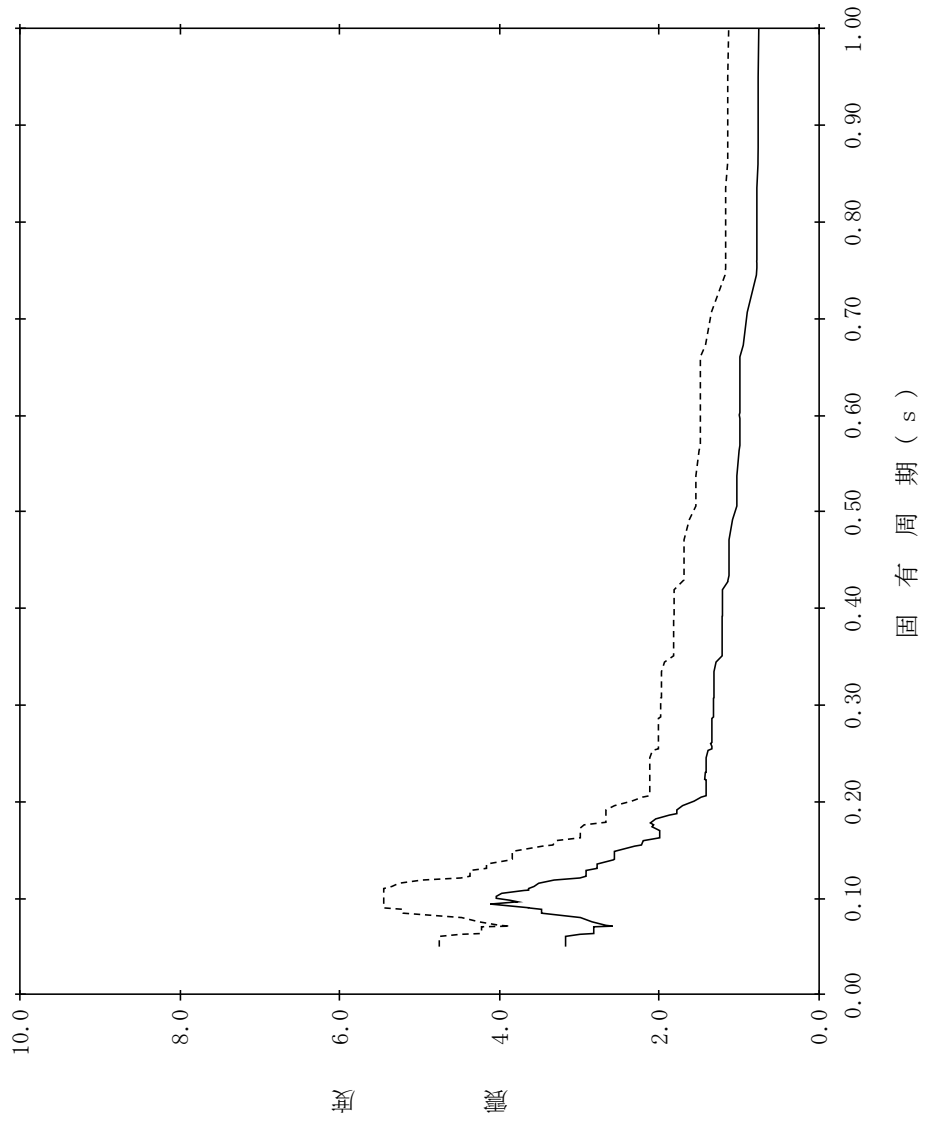
【NS2-PCV-SsV-PCV29】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



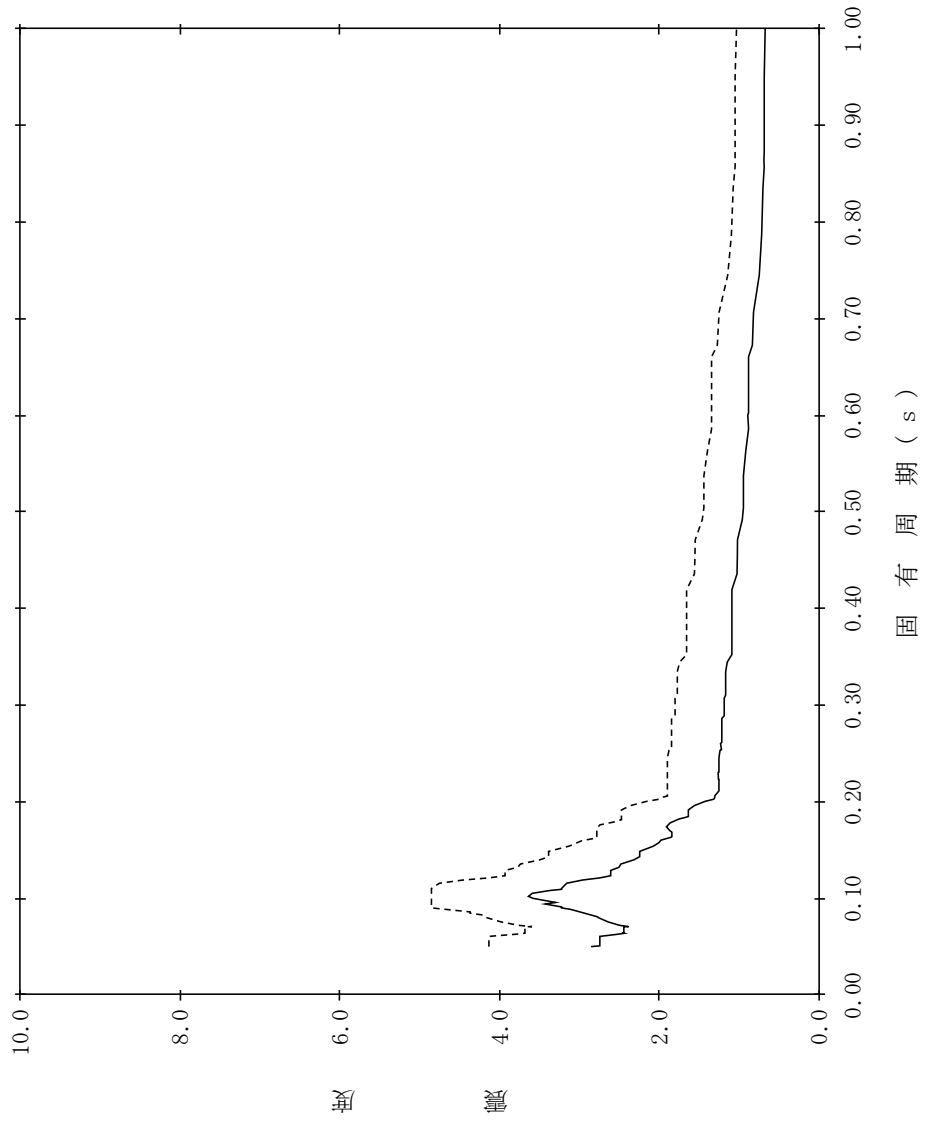
【NS2-PCV-SsV-PCV30】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



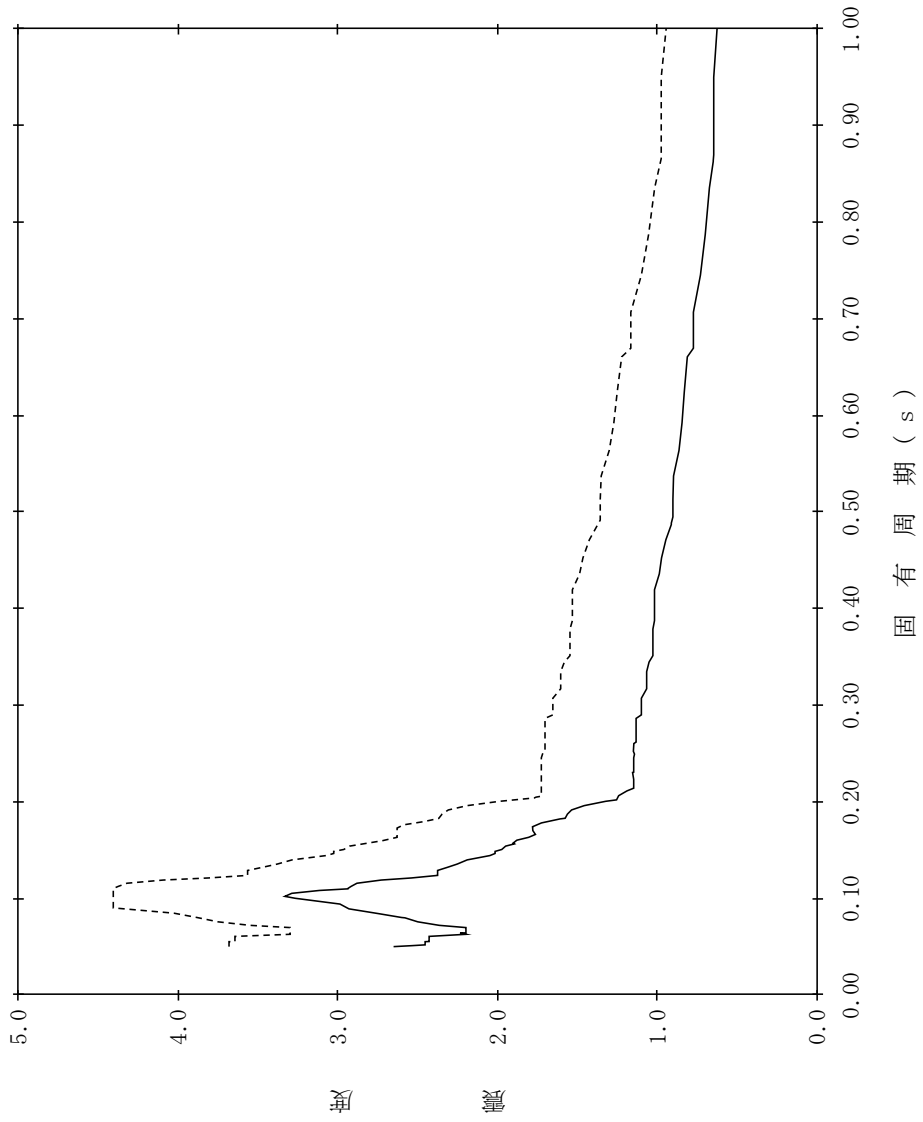
【NS2-PCV-SsV-PCV31】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



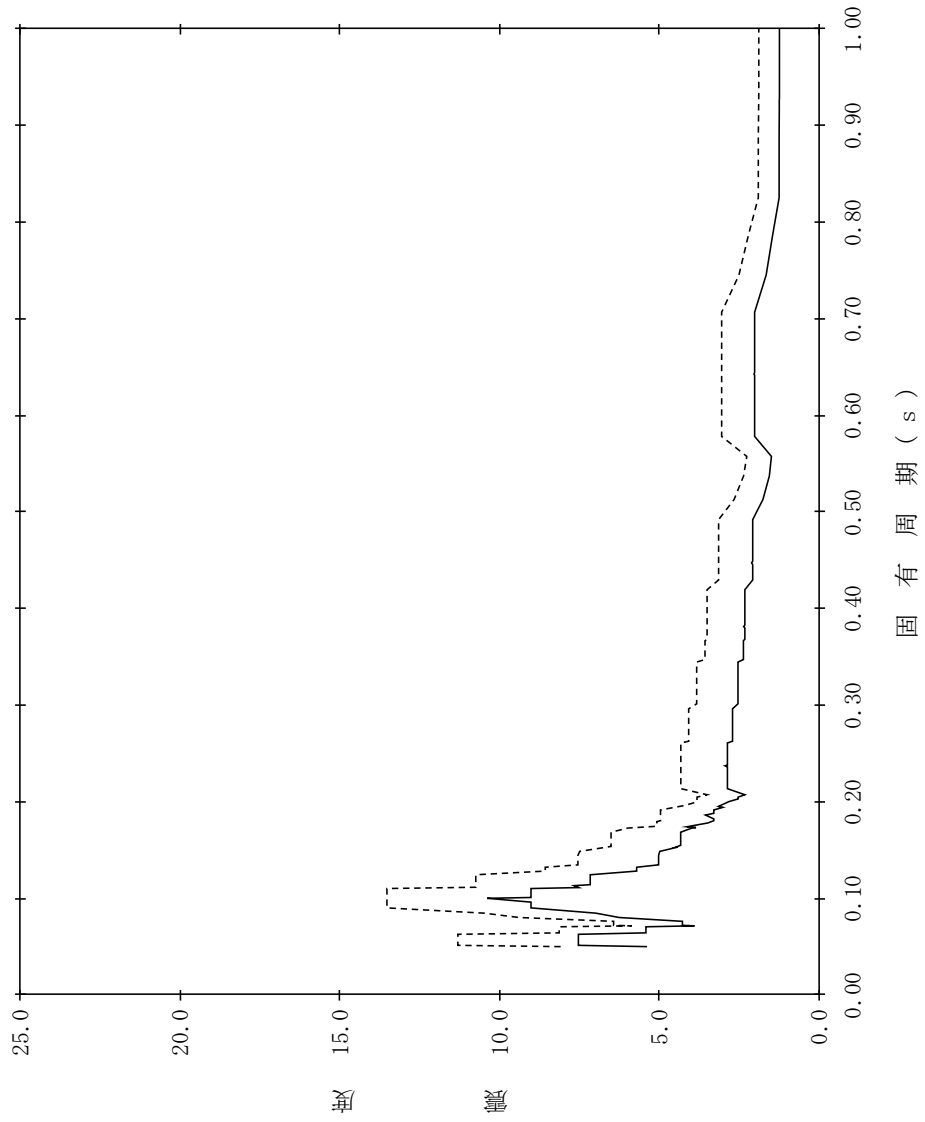
【NS2-PCV-SsV-PCV32】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL33.141m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



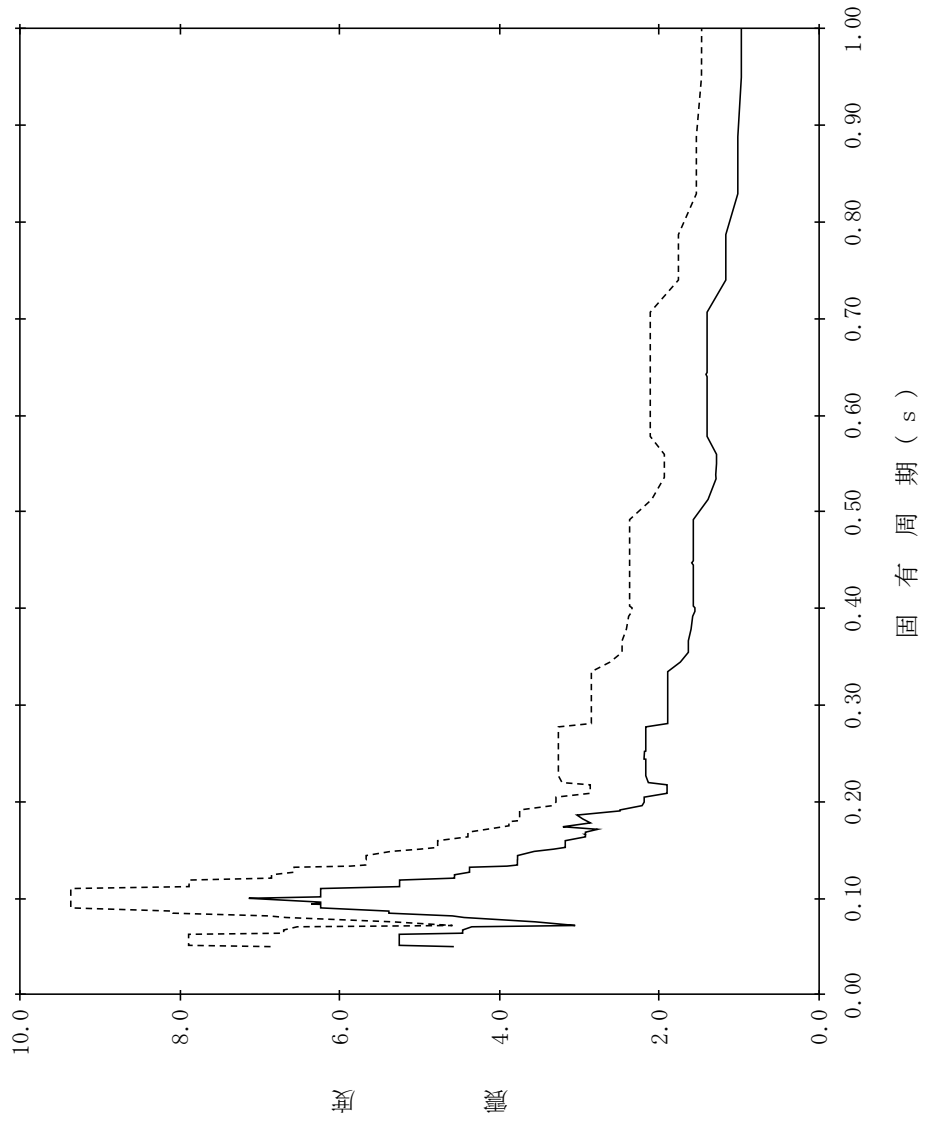
【NS2-PCV-SsV-PCV33】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



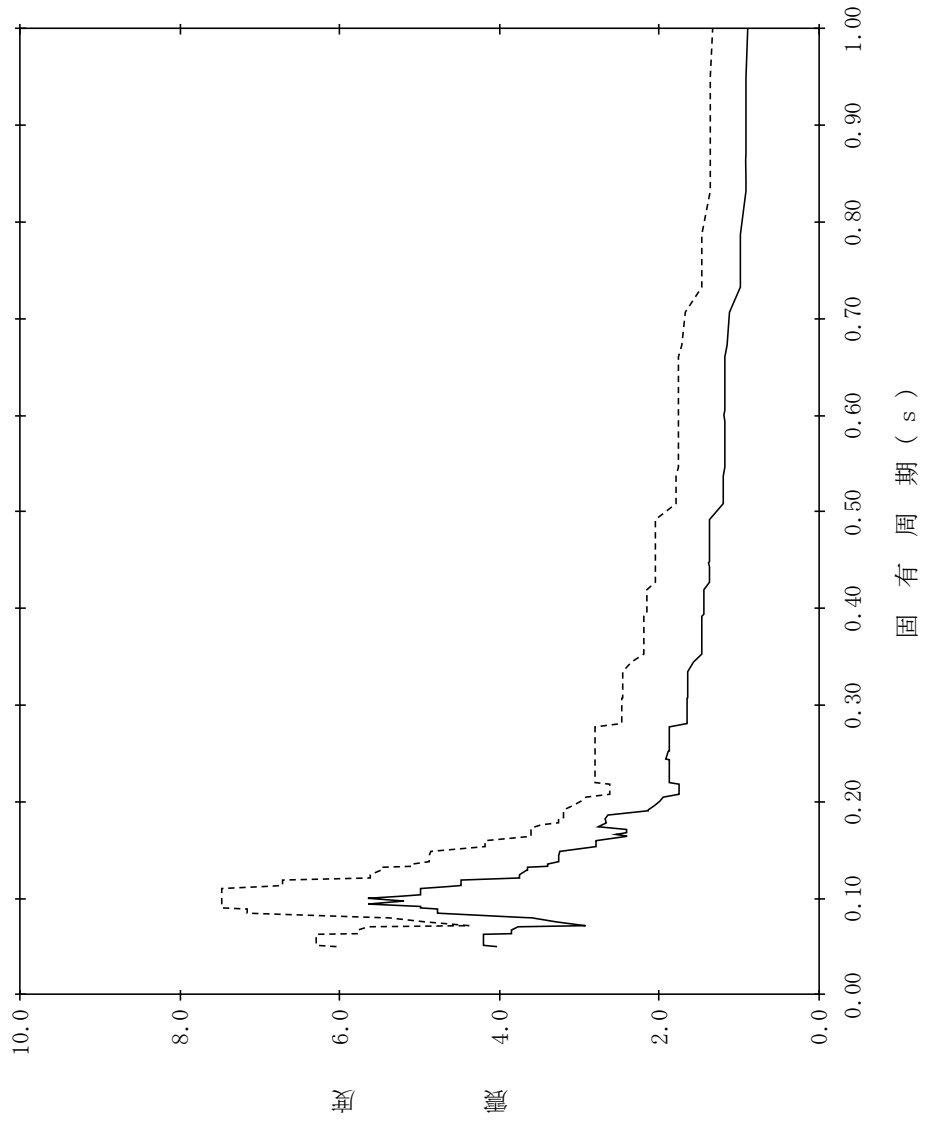
【NS2-PCV-SsV-PCV34】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



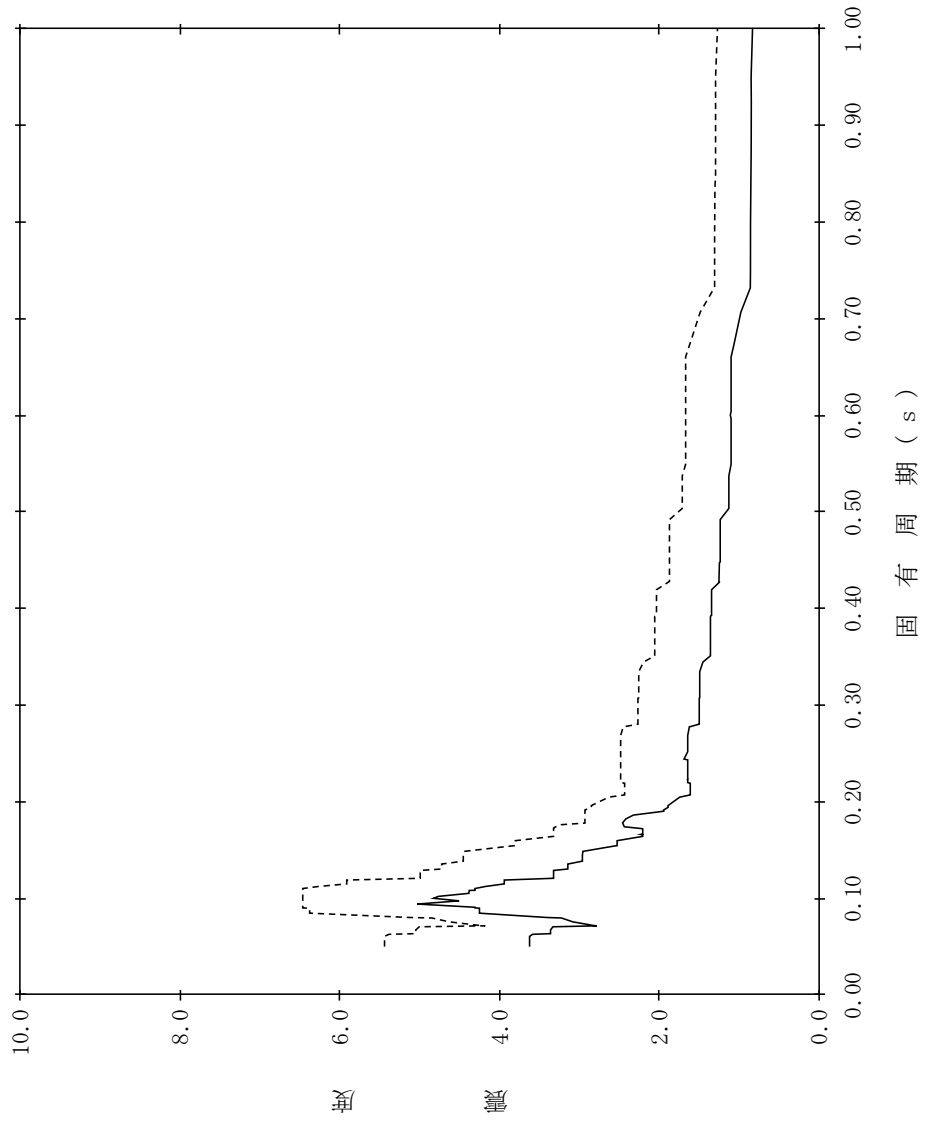
【NS2-PCV-SsV-PCV35】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



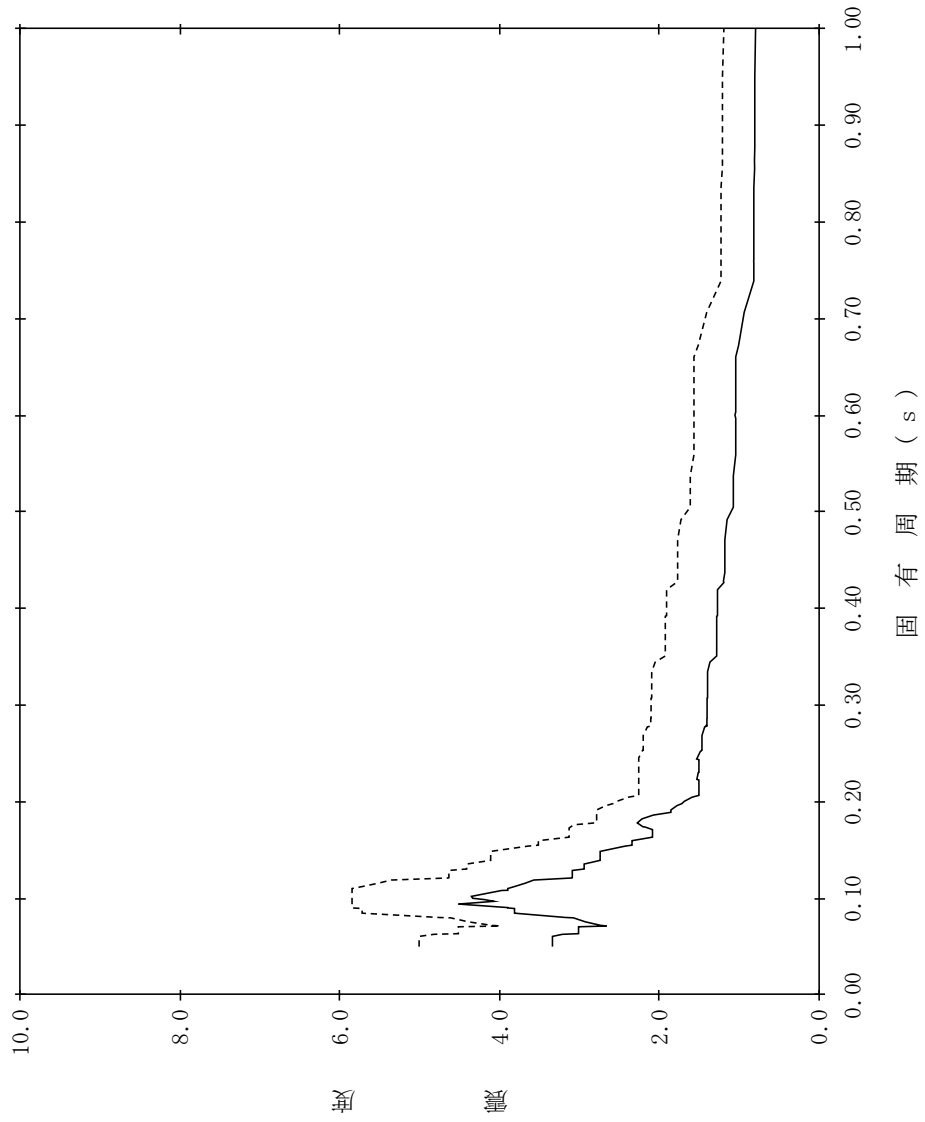
【NS2-PCV-SsV-PCV36】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



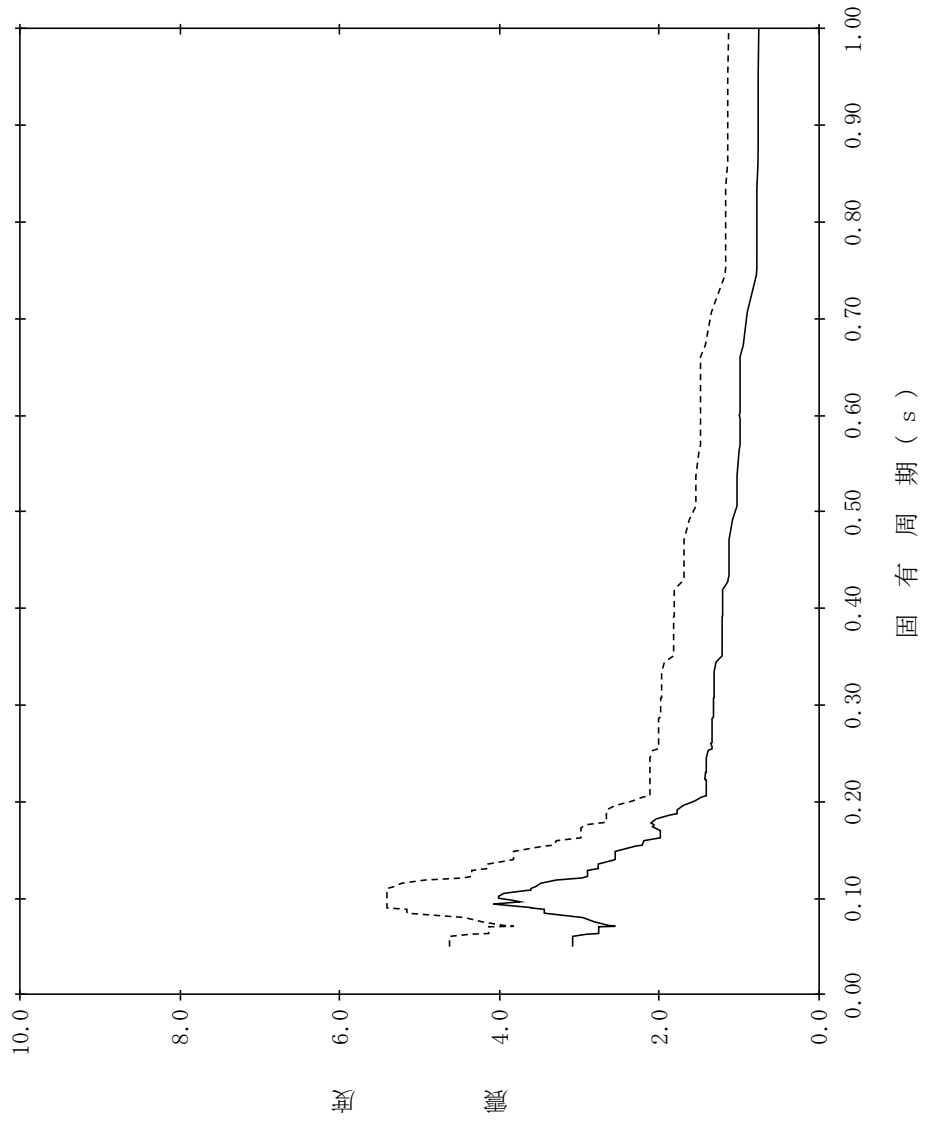
【NS2-PCV-SsV-PCV37】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



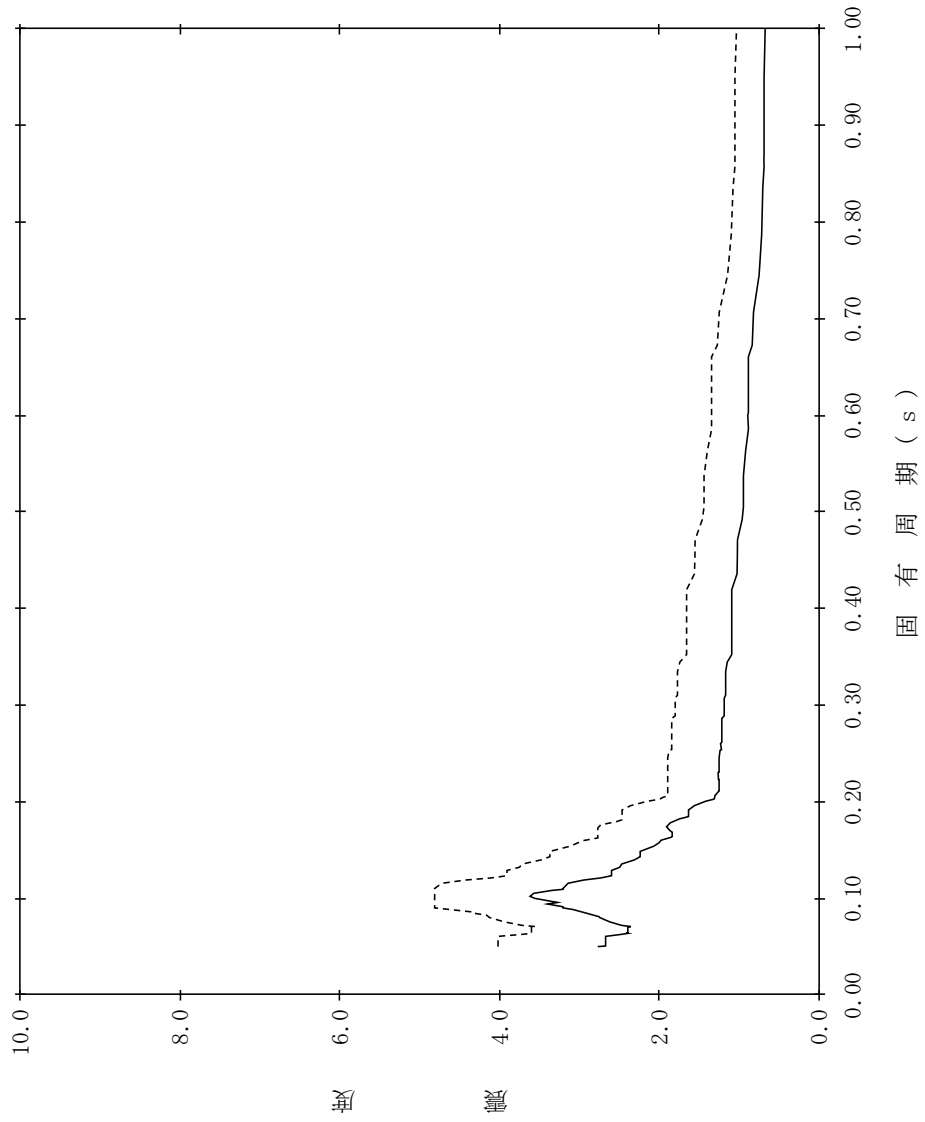
【NS2-PCV-SsV-PCV38】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



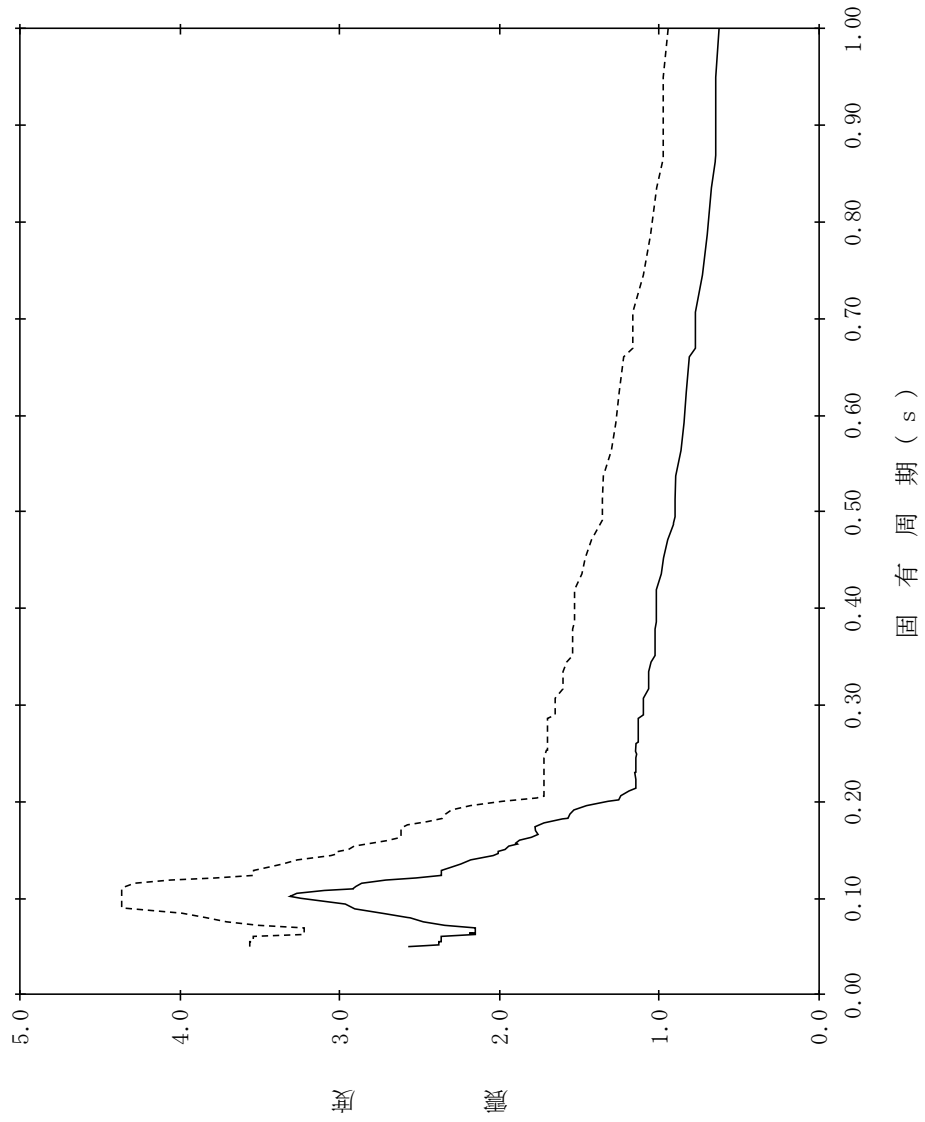
【NS2-PCV-SsV-PCV39】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



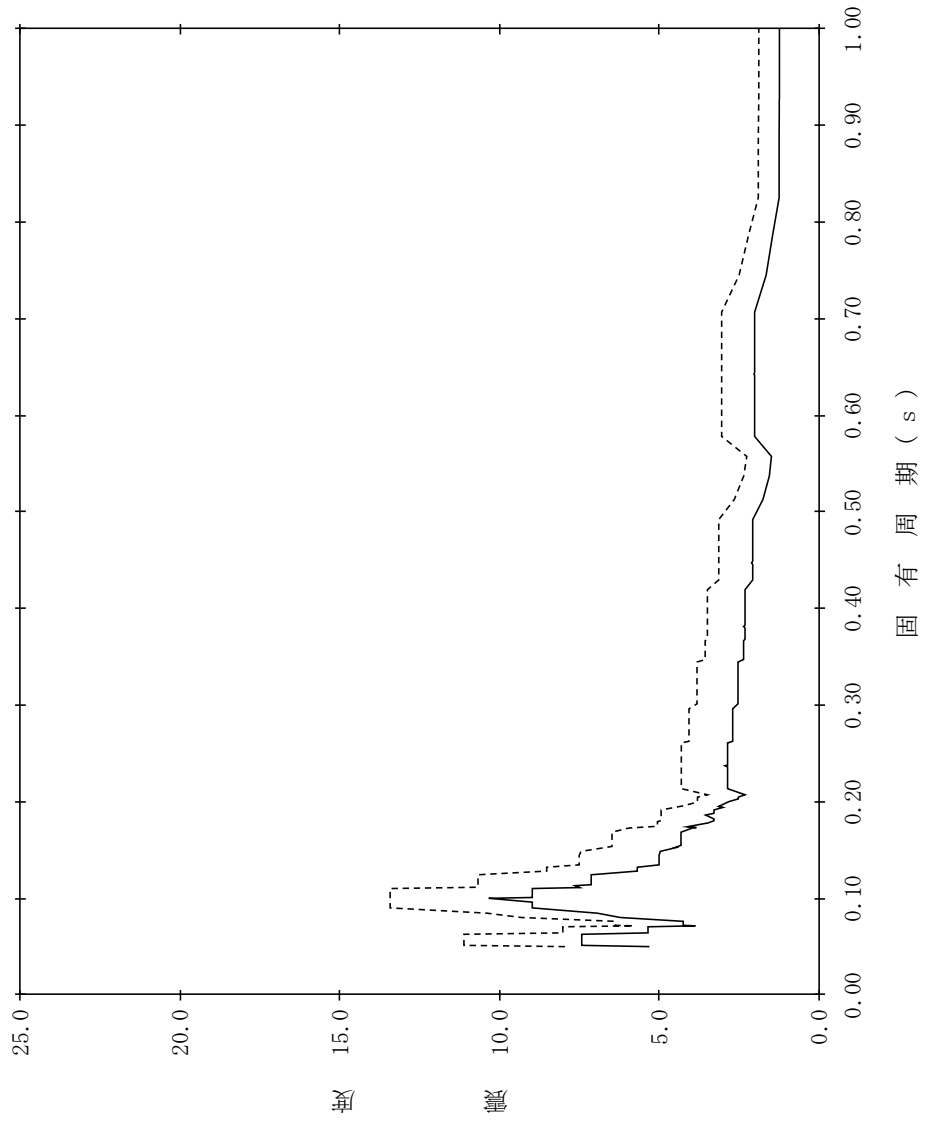
【NS2-PCV-SsV-PCV40】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL29.392m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



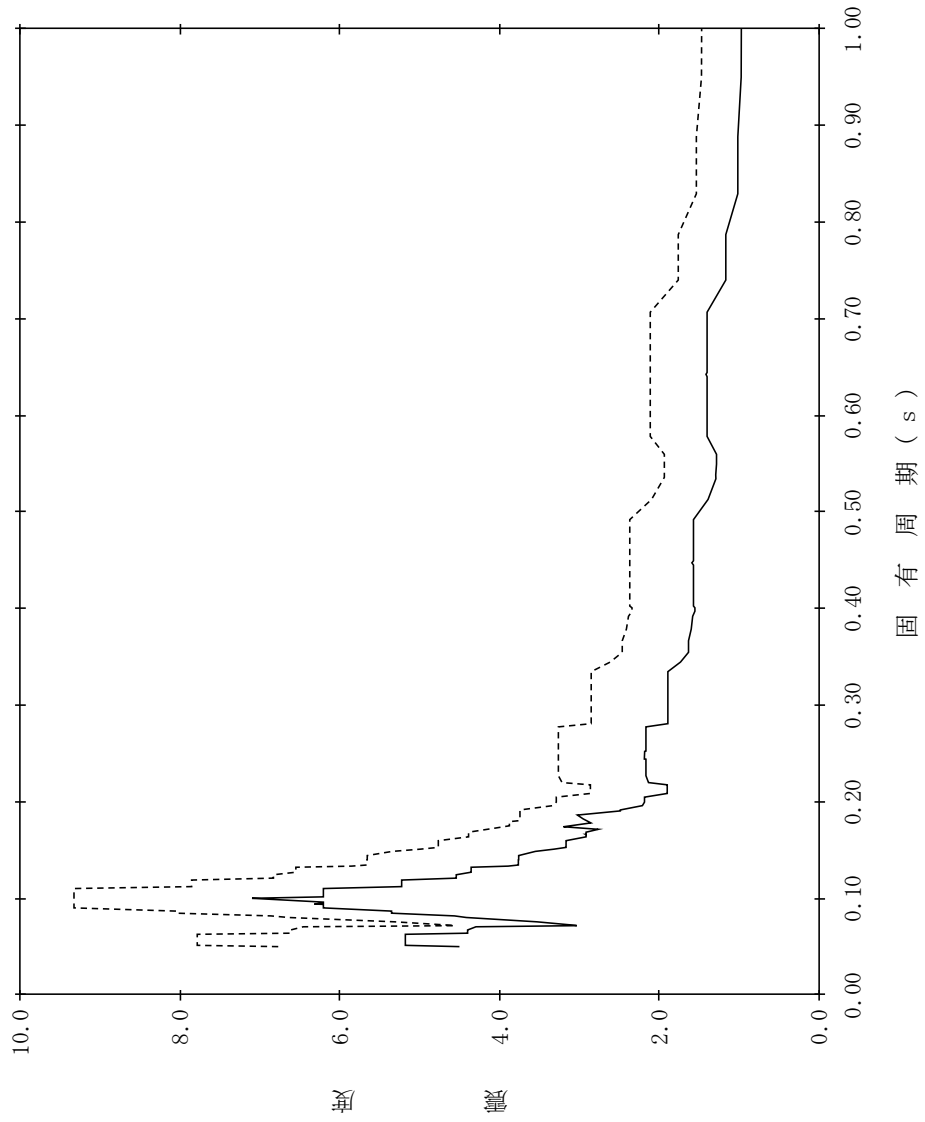
【NS2-PCV-SsV-PCV41】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



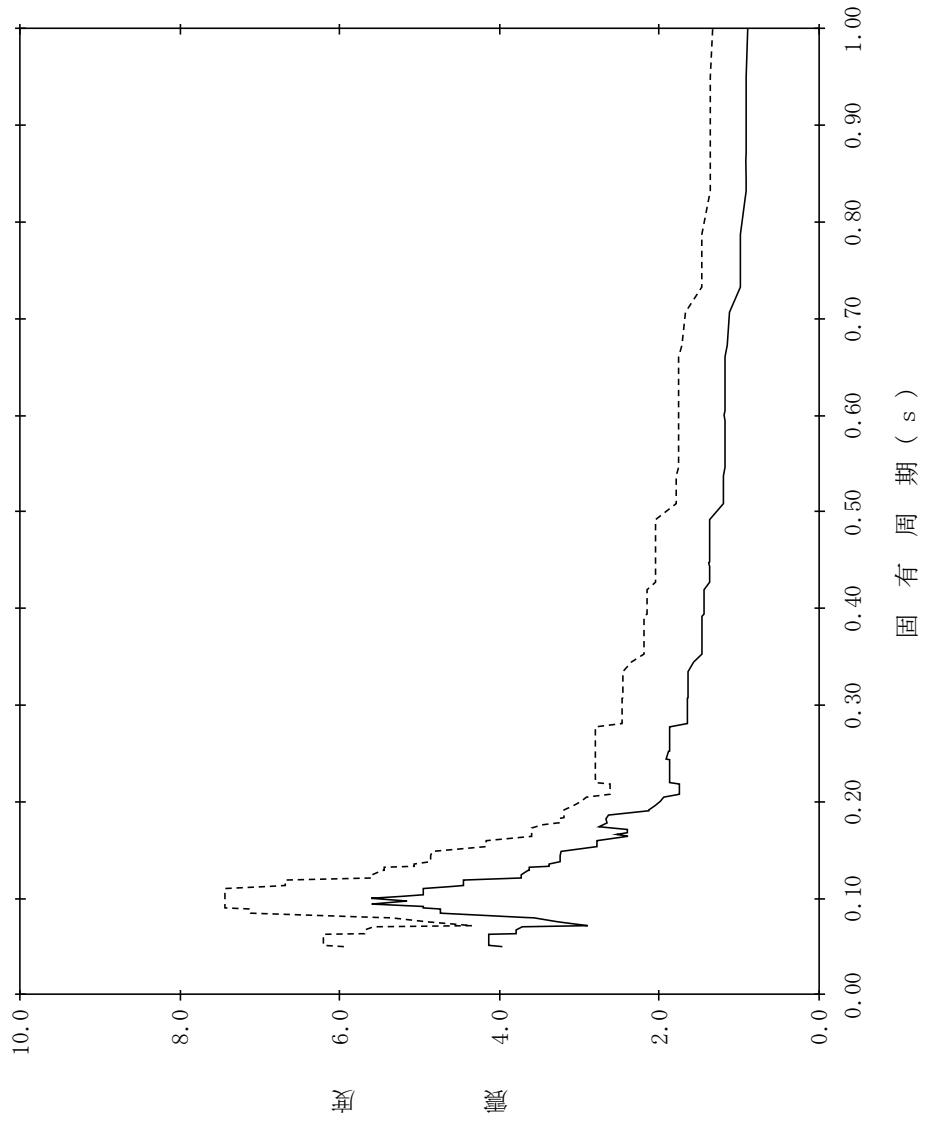
【NS2-PCV-SsV-PCV42】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



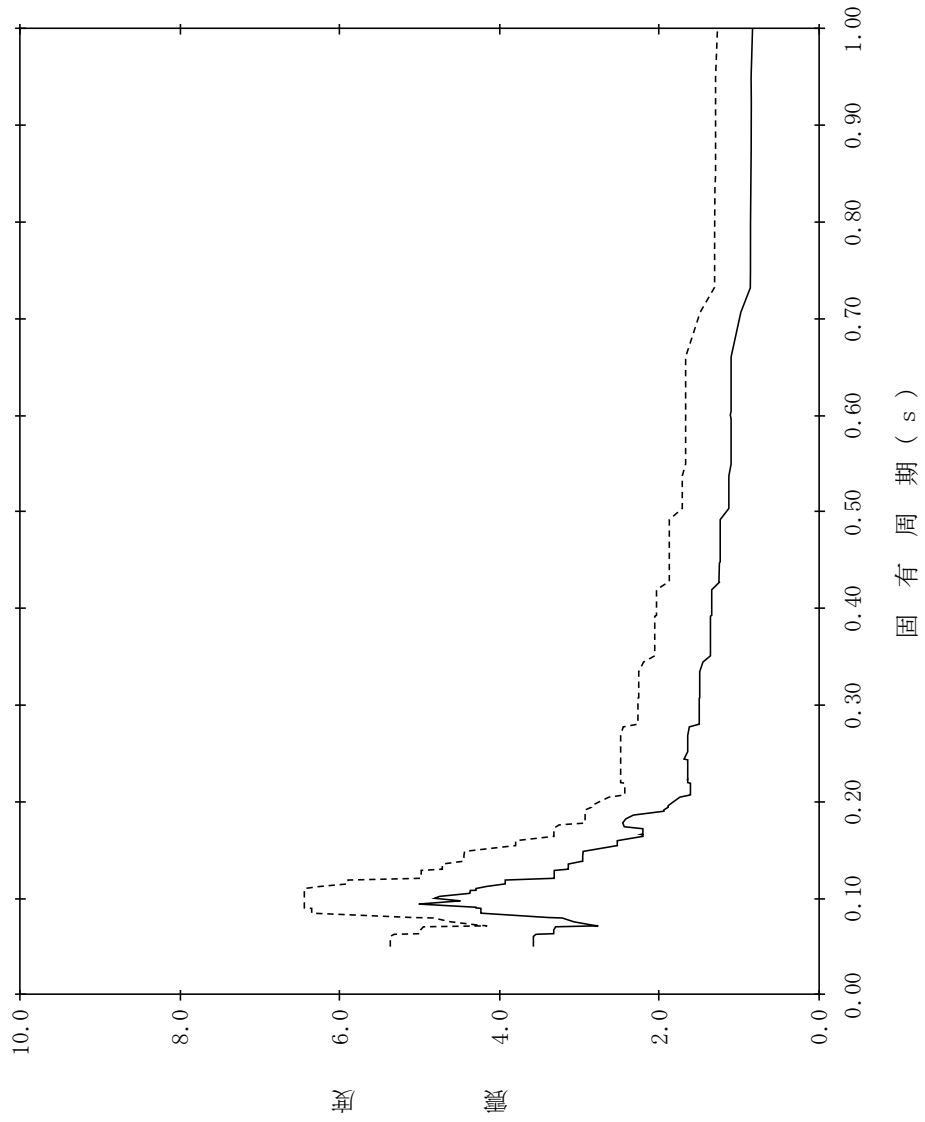
【NS2-PCV-SsV-PCV43】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



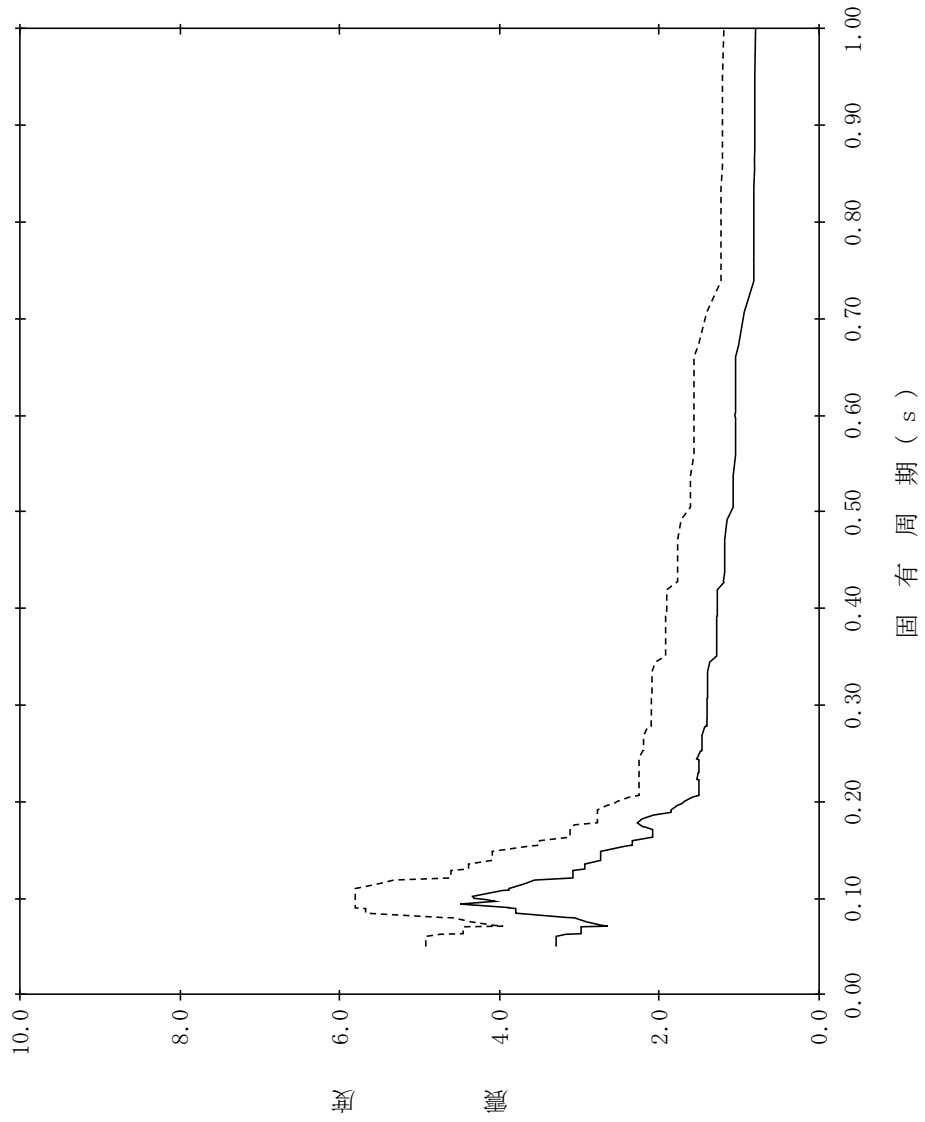
【NS2-PCV-SsV-PCV44】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL27.907m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



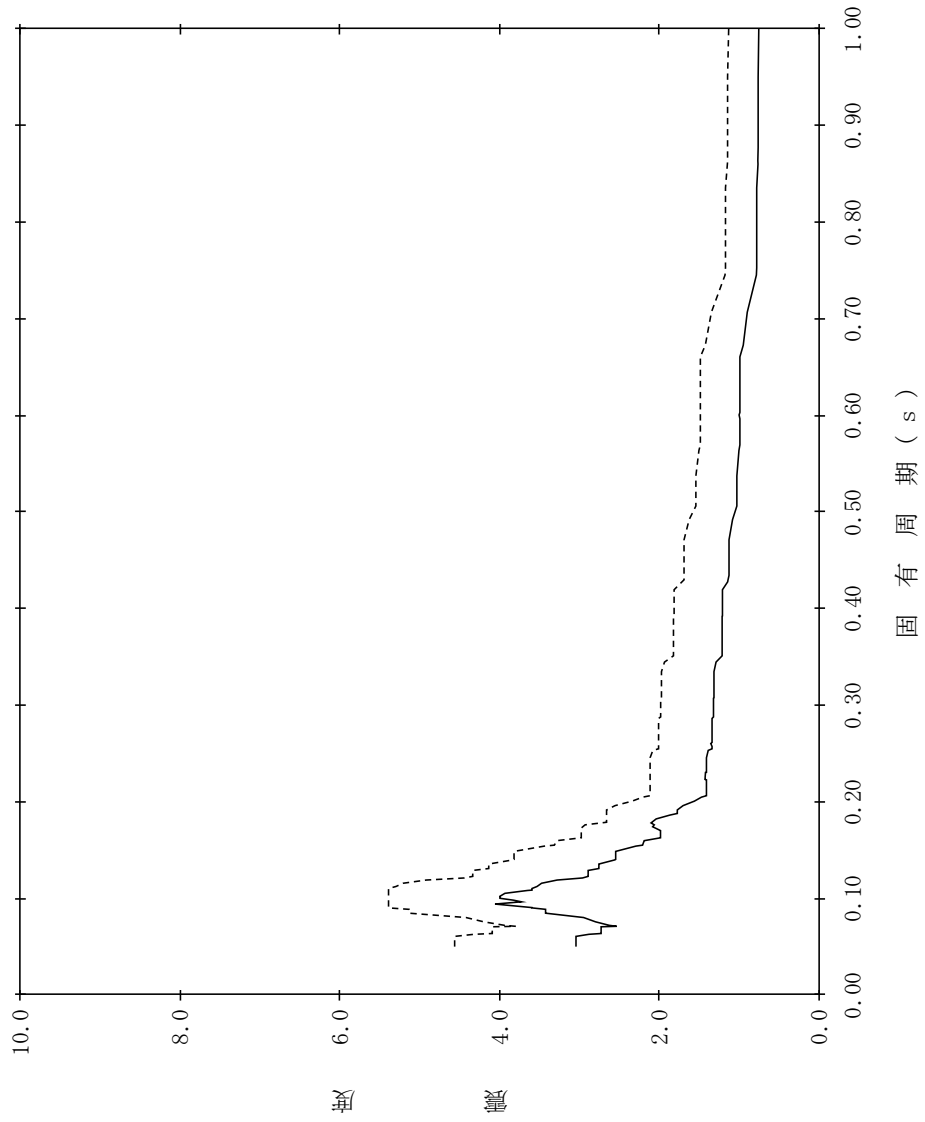
【NS2-PCV-SsV-PCV45】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



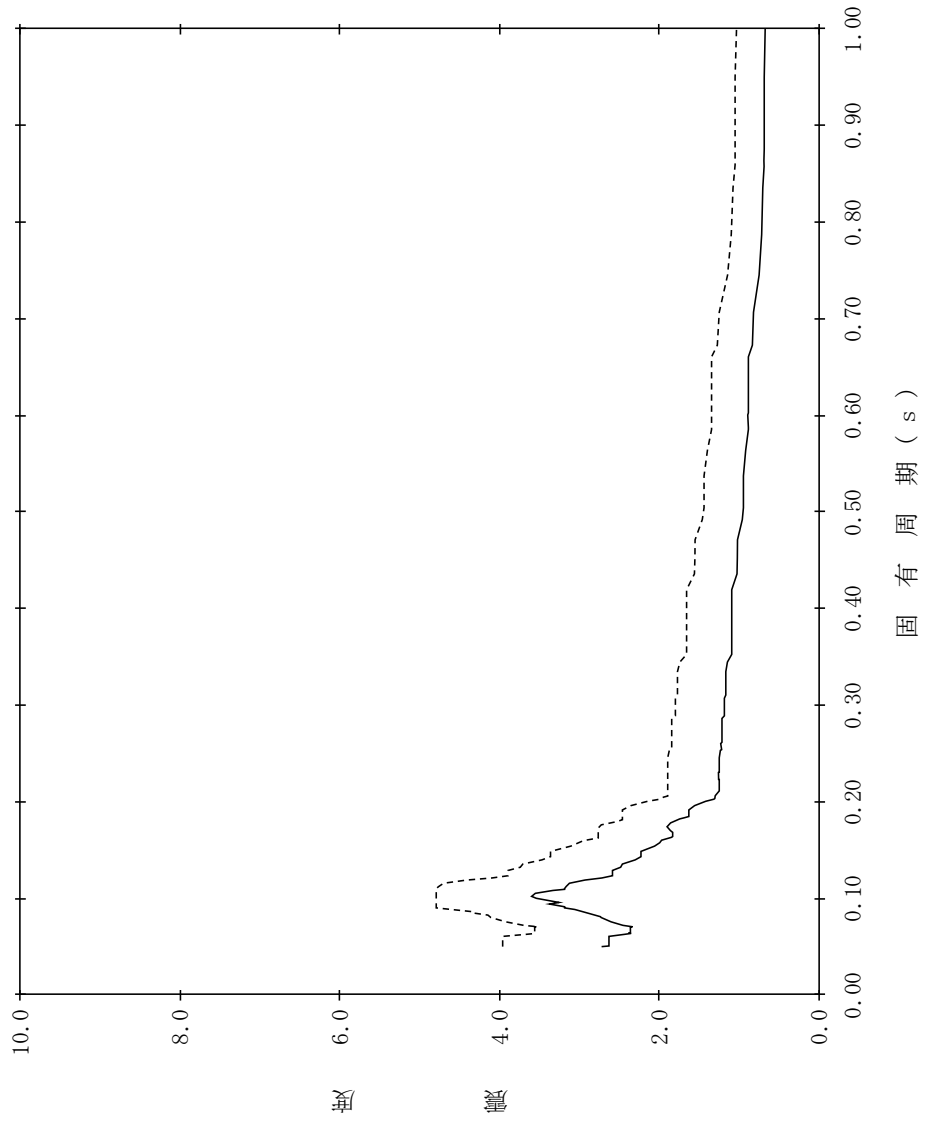
【NS2-PCV-SsV-PCV46】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



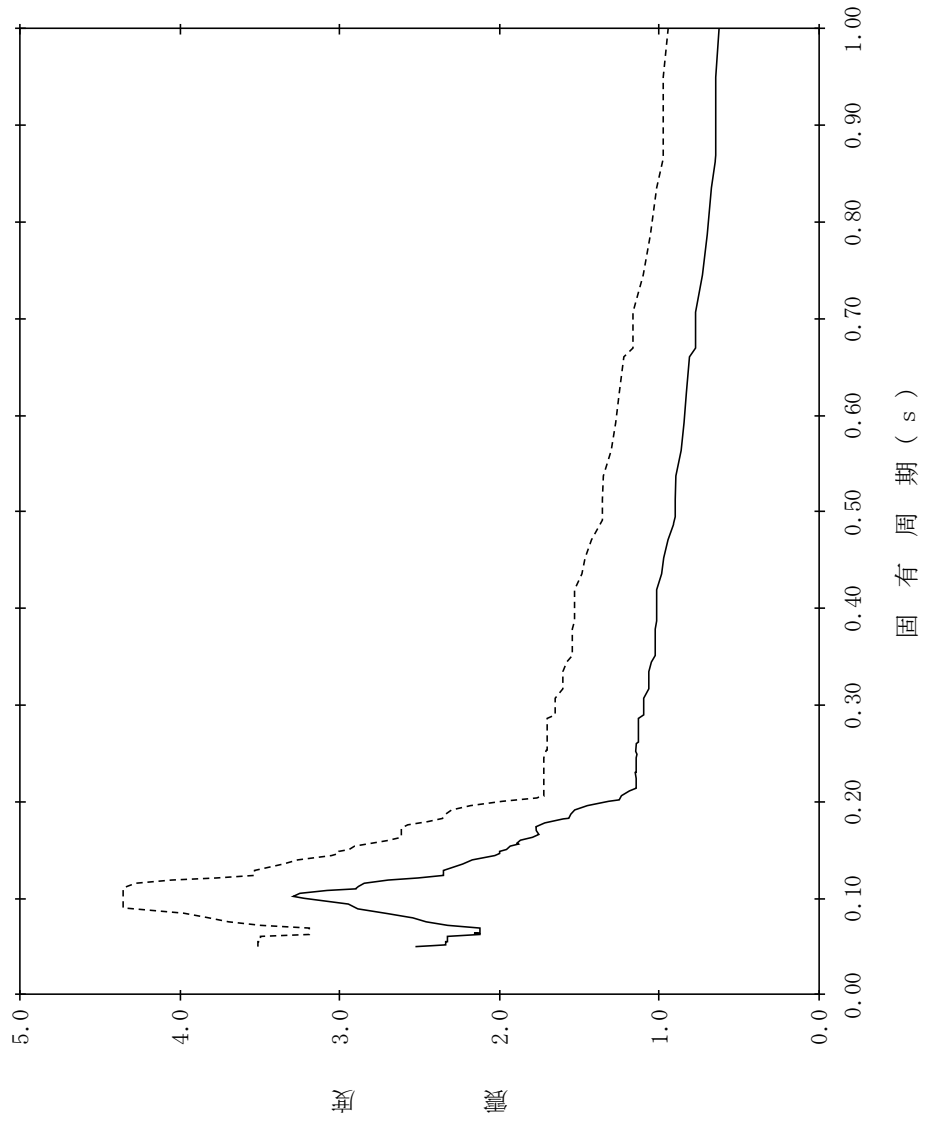
【NS2-PCV-SsV-PCV47】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



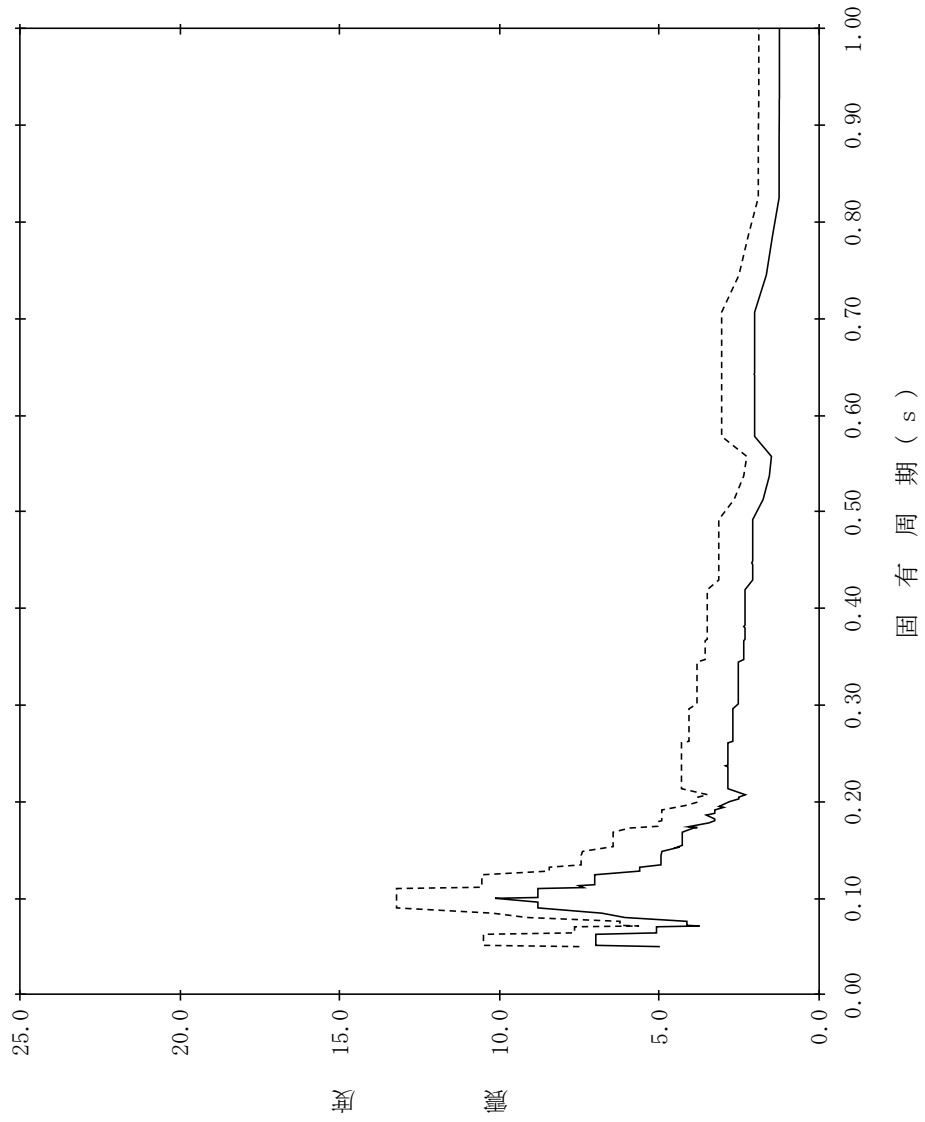
【NS2-PCV-SsV-PCV48】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL27.907m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



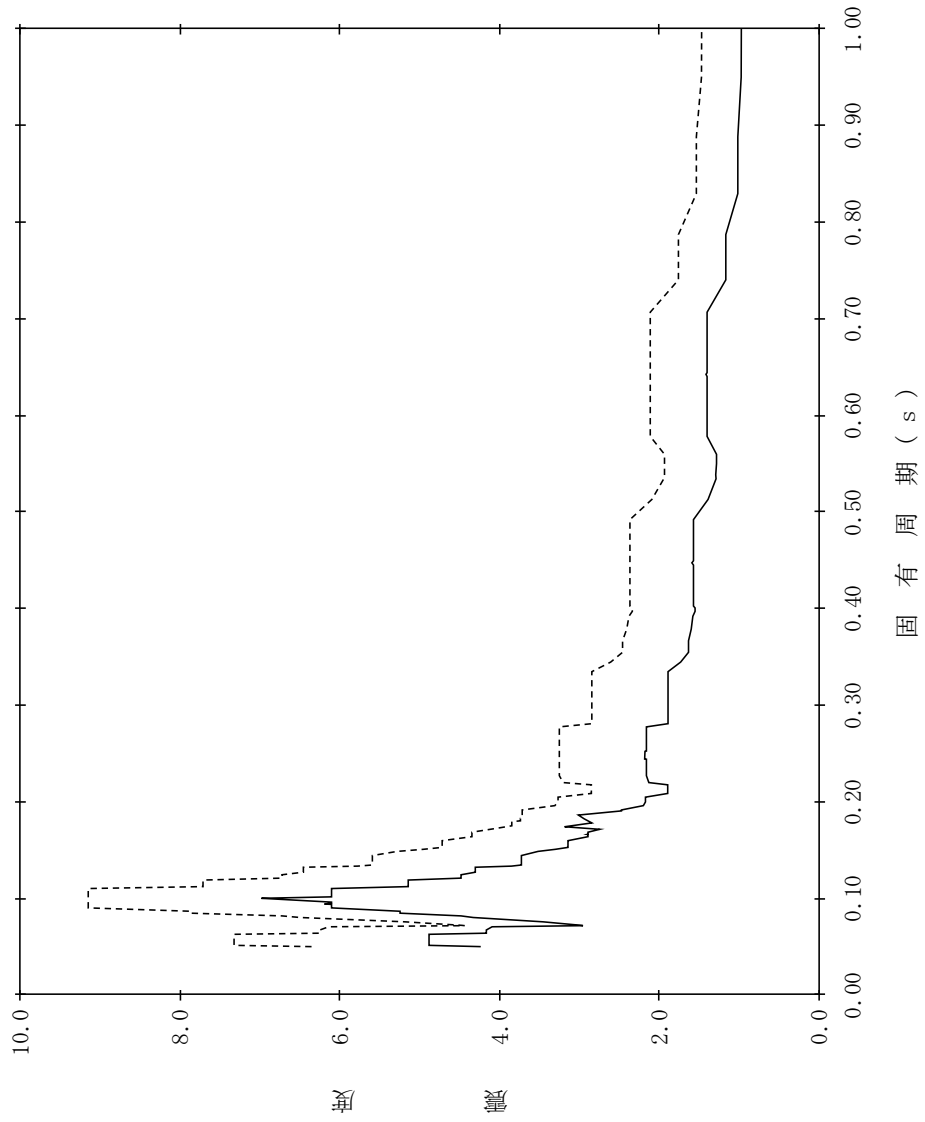
【NS2-PCV-SsV-PCV49】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



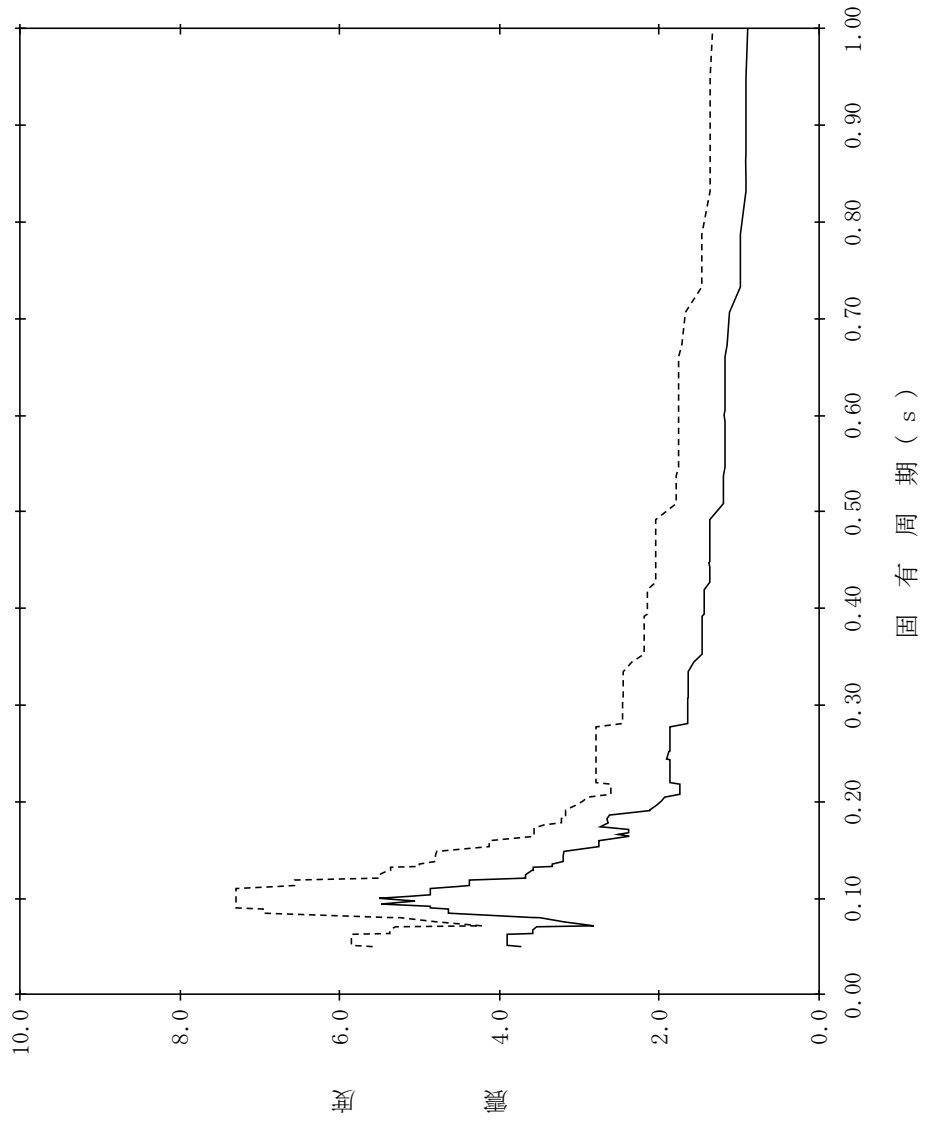
【NS2-PCV-SsV-PCV50】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



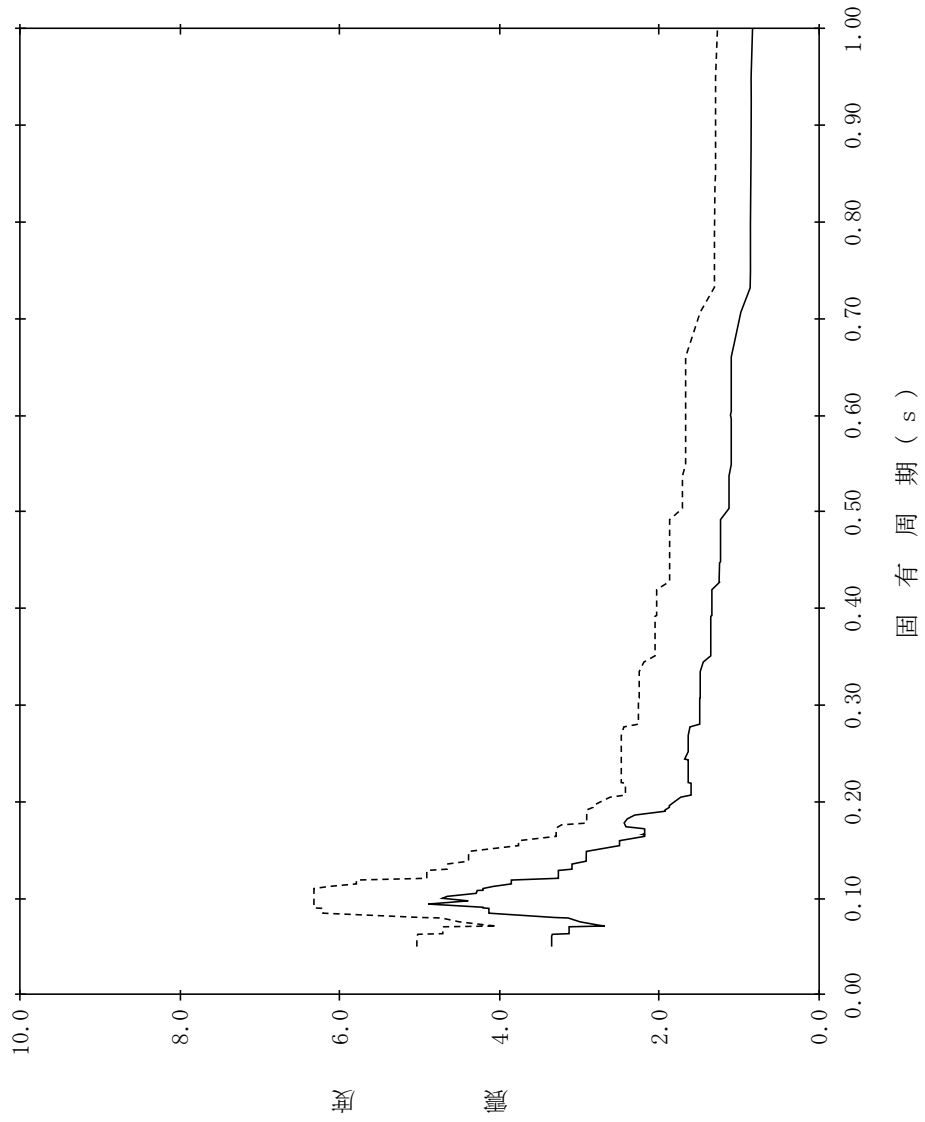
【NS2-PCV-SsV-PCV51】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



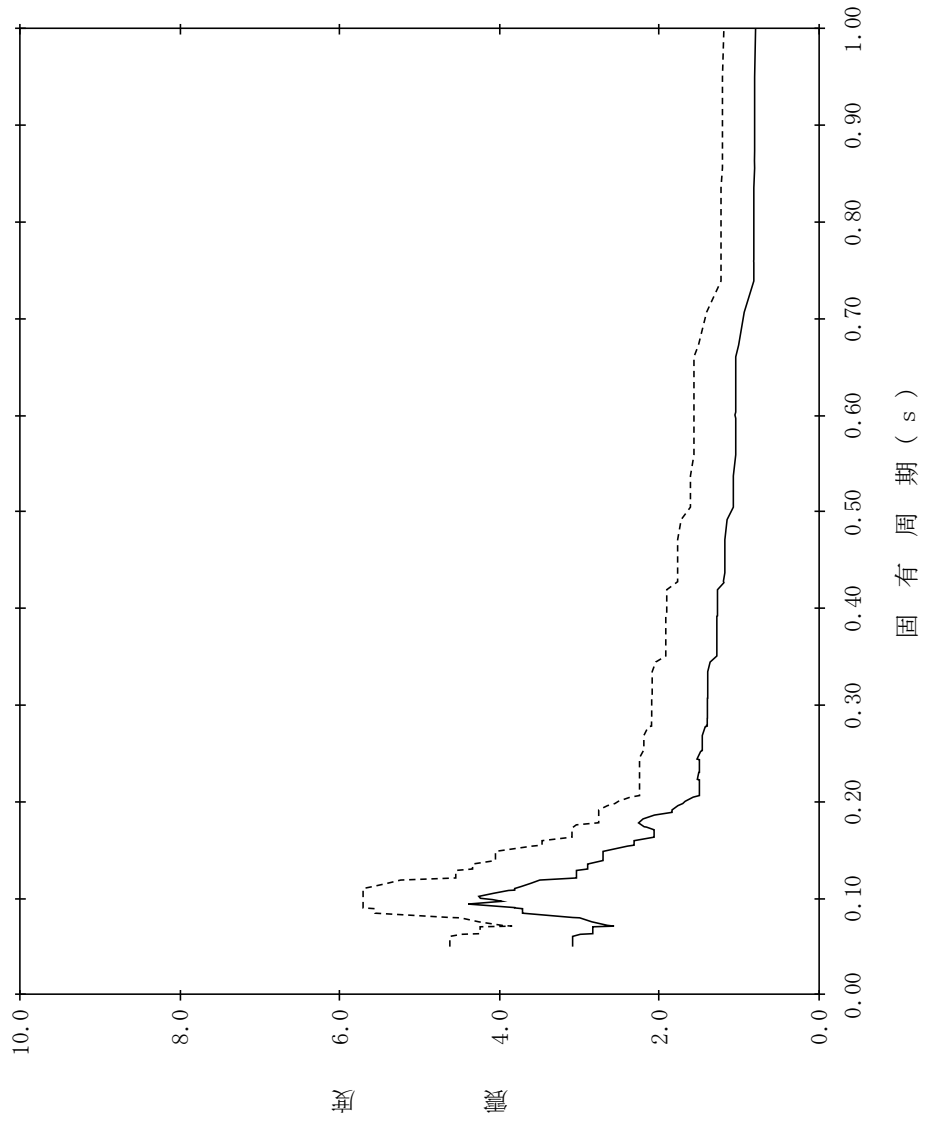
【NS2-PCV-SsV-PCV52】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



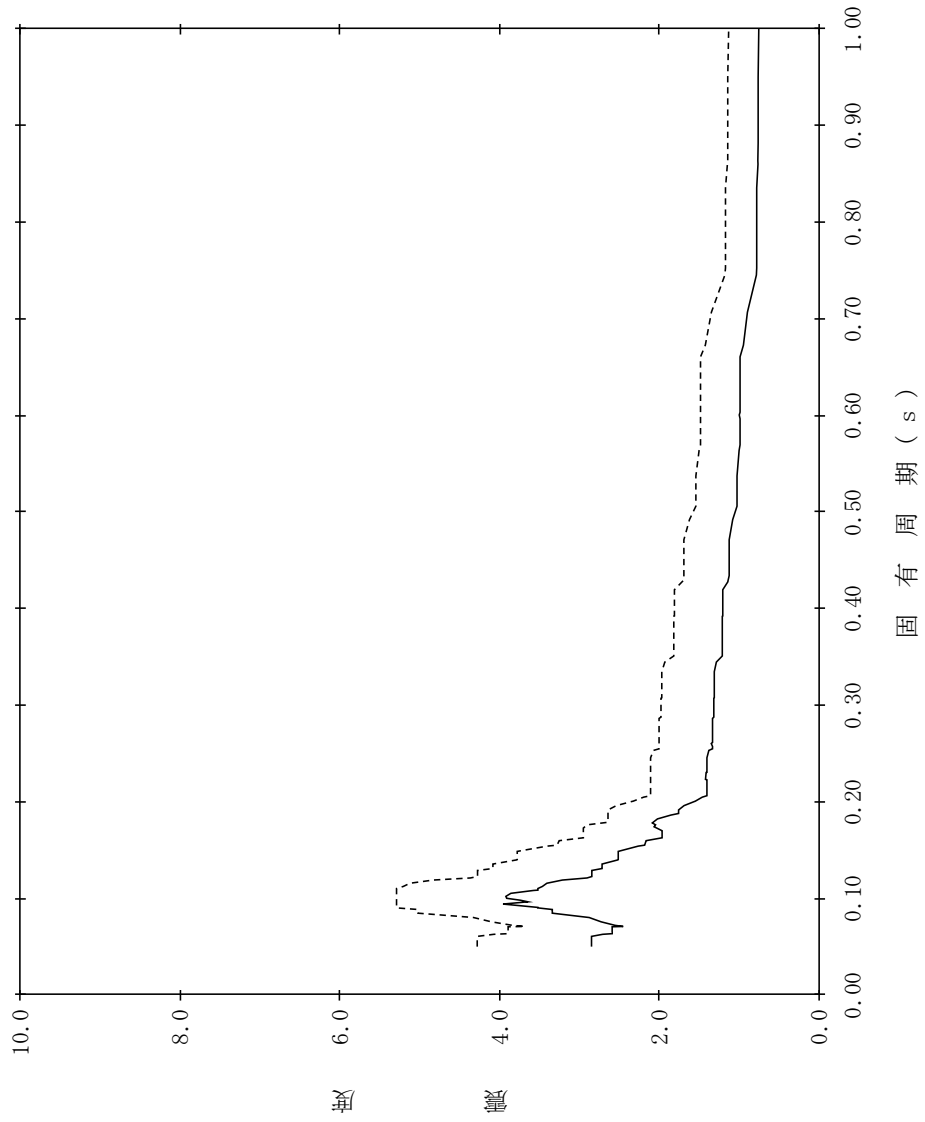
【NS2-PCV-SsV-PCV53】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



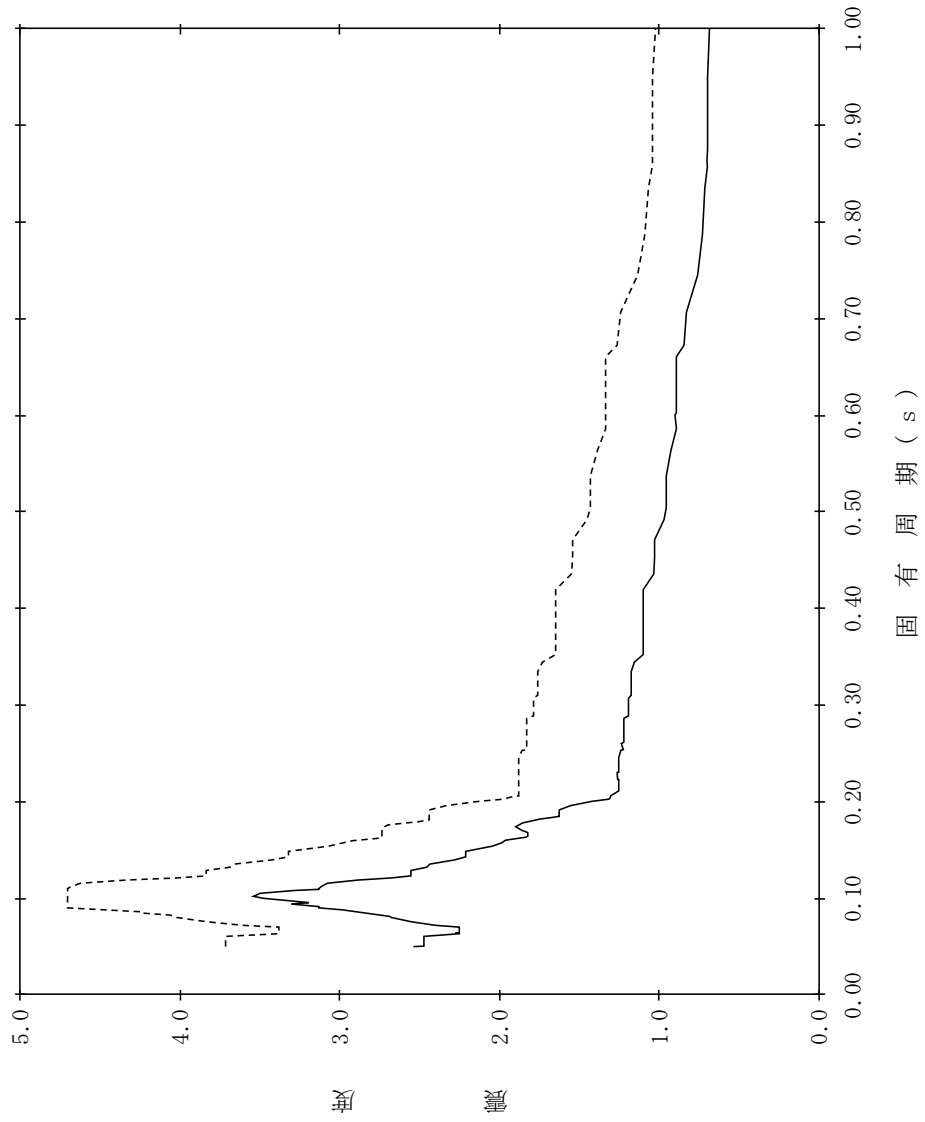
【NS2-PCV-SsV-PCV54】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



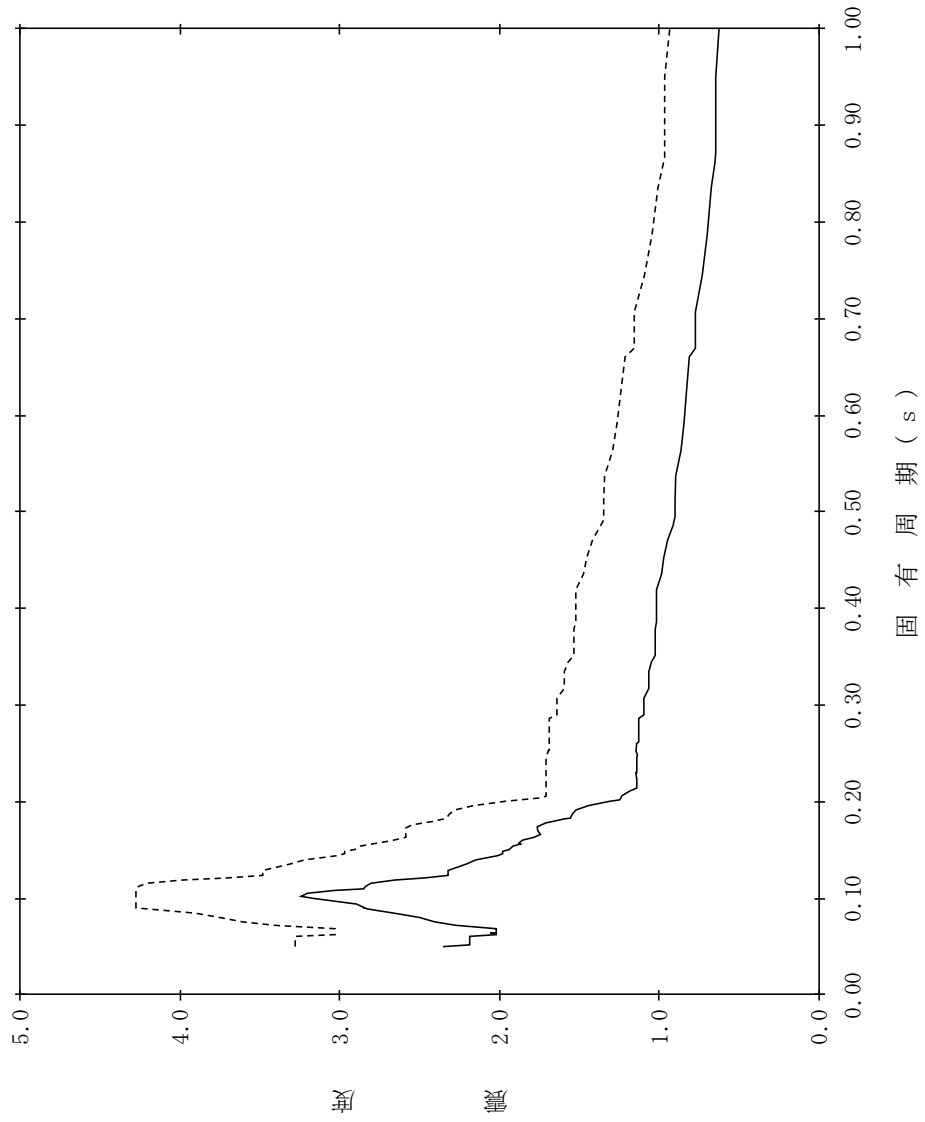
【NS2-PCV-SsV-PCV55】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



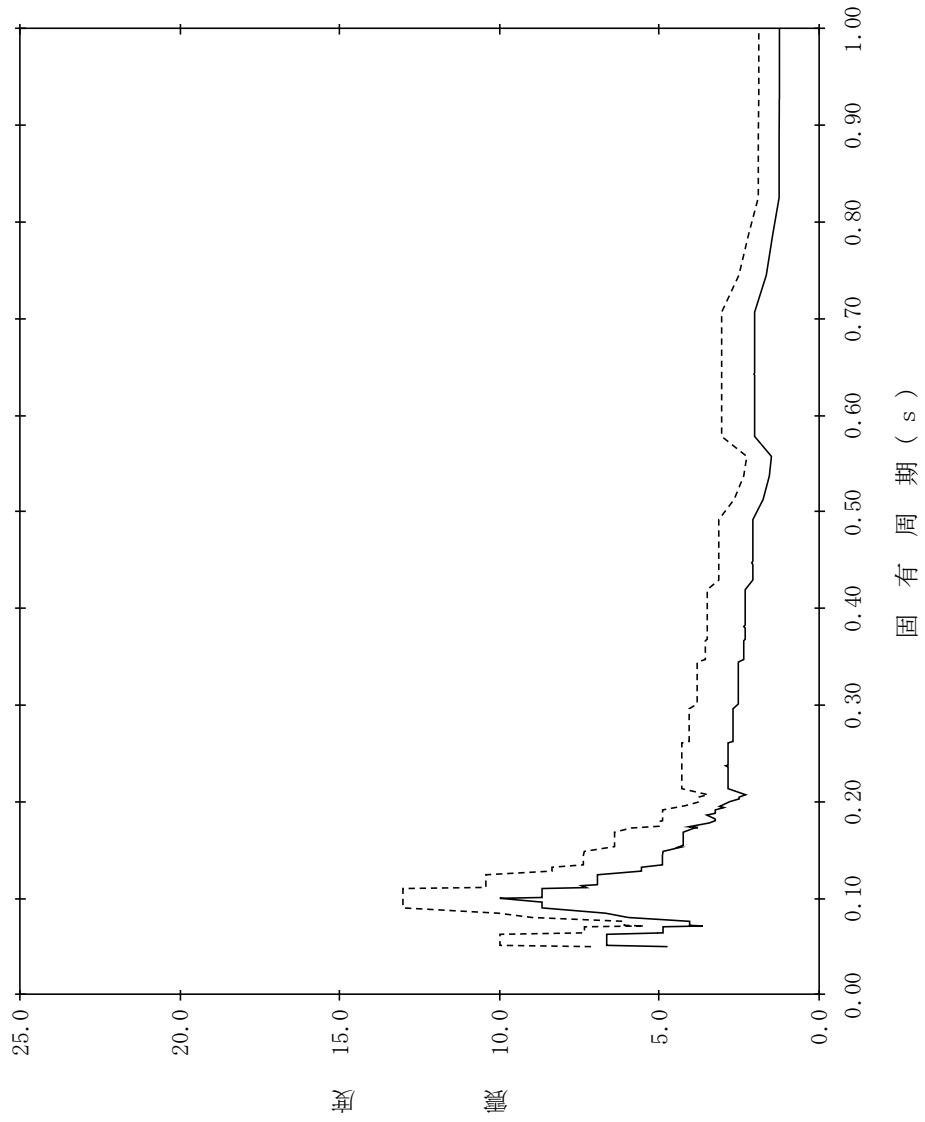
【NS2-PCV-SsV-PCV56】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL22.932m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



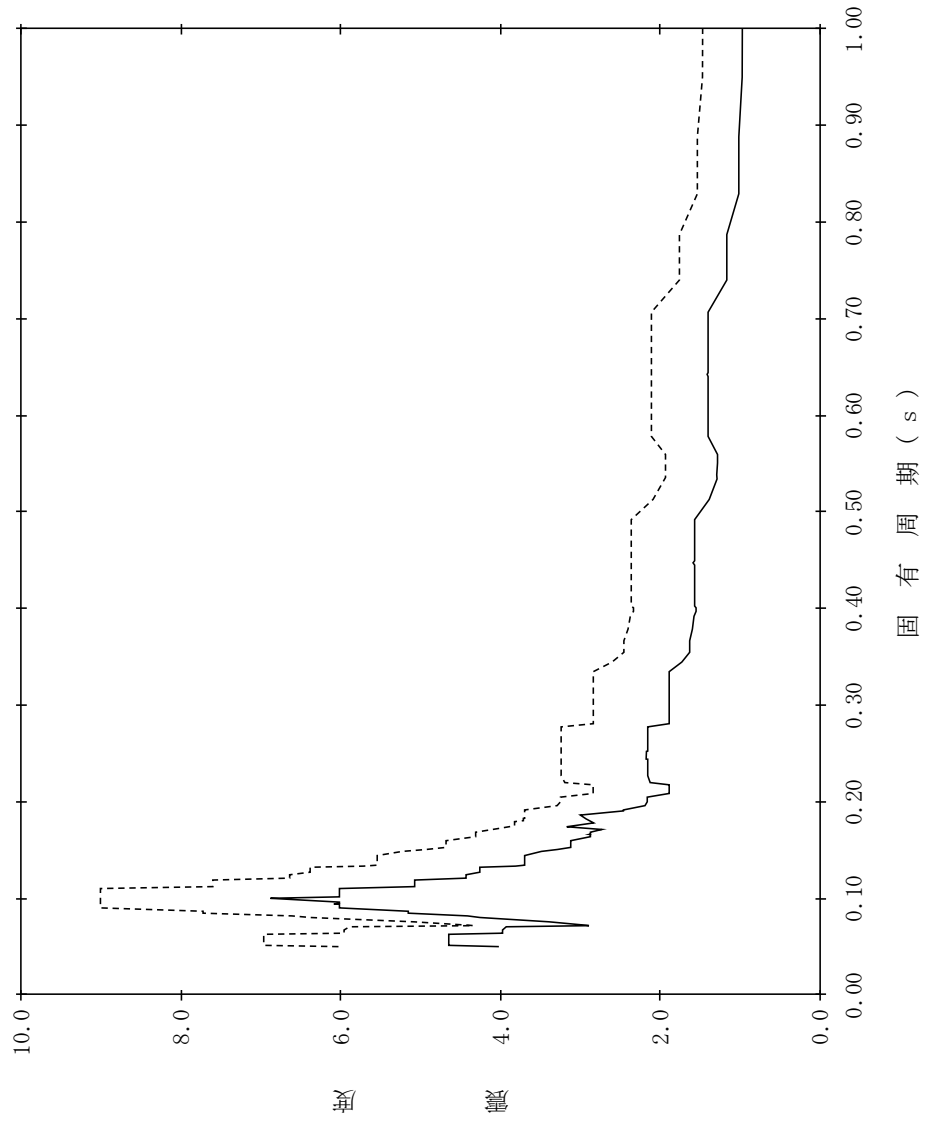
【NS2-PCV-SsV-PCV57】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL19.878m
減衰定数：0.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



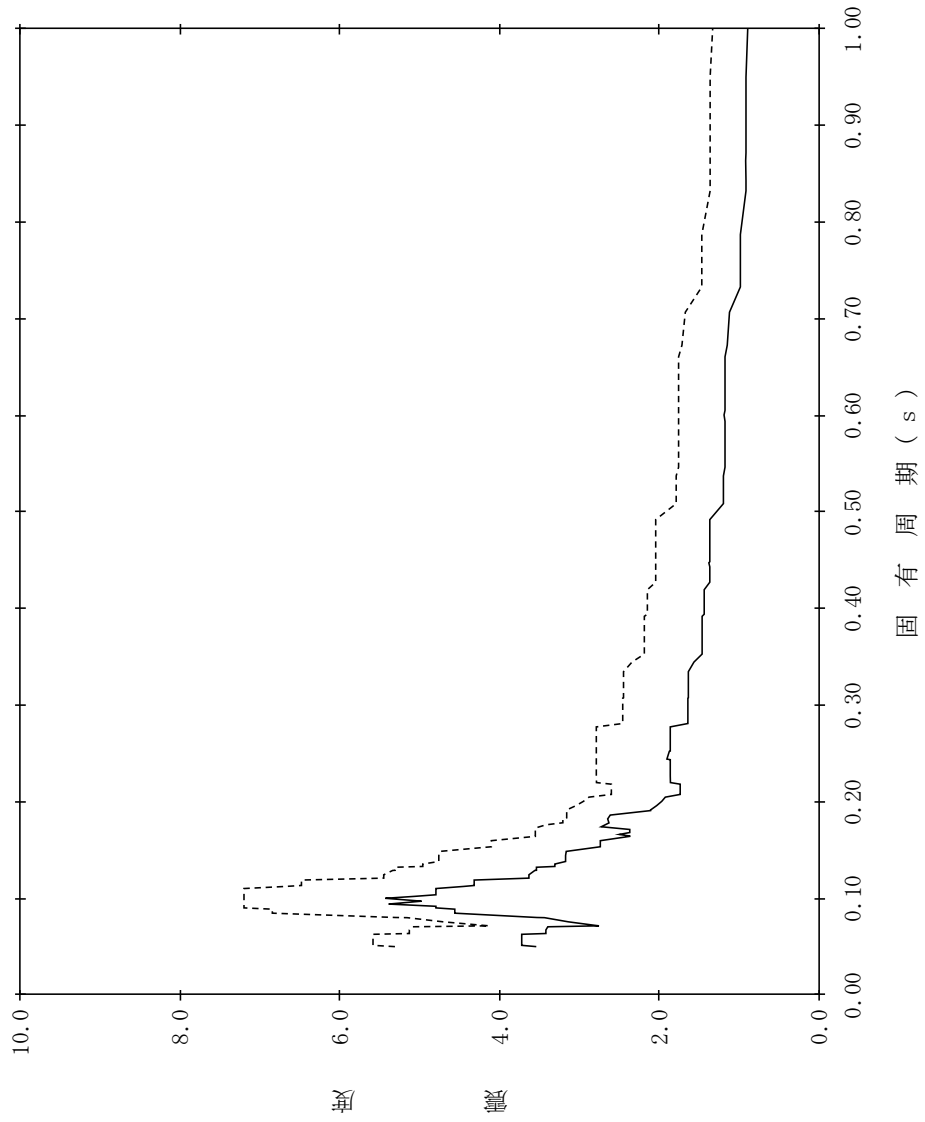
【NS2-PCV-SsV-PCV58】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



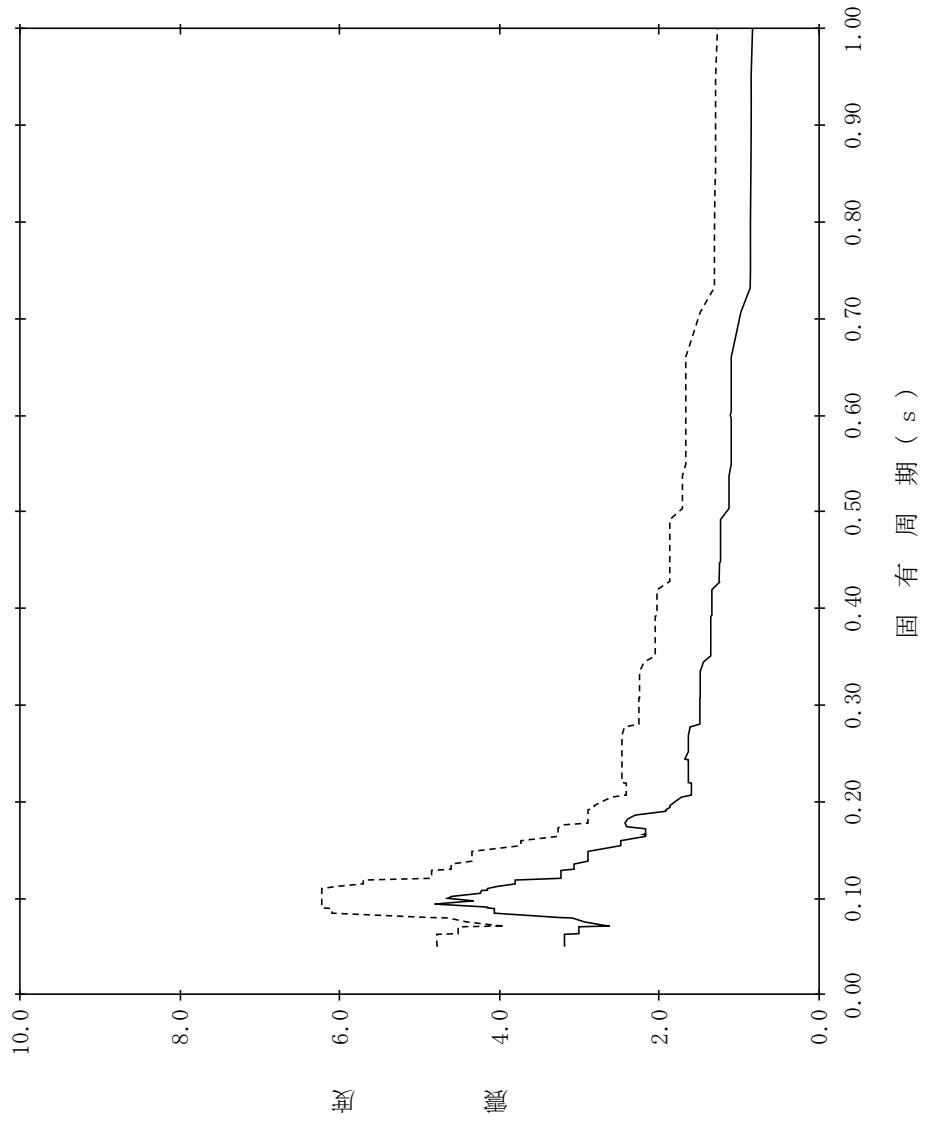
【NS2-PCV-SsV-PCV59】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

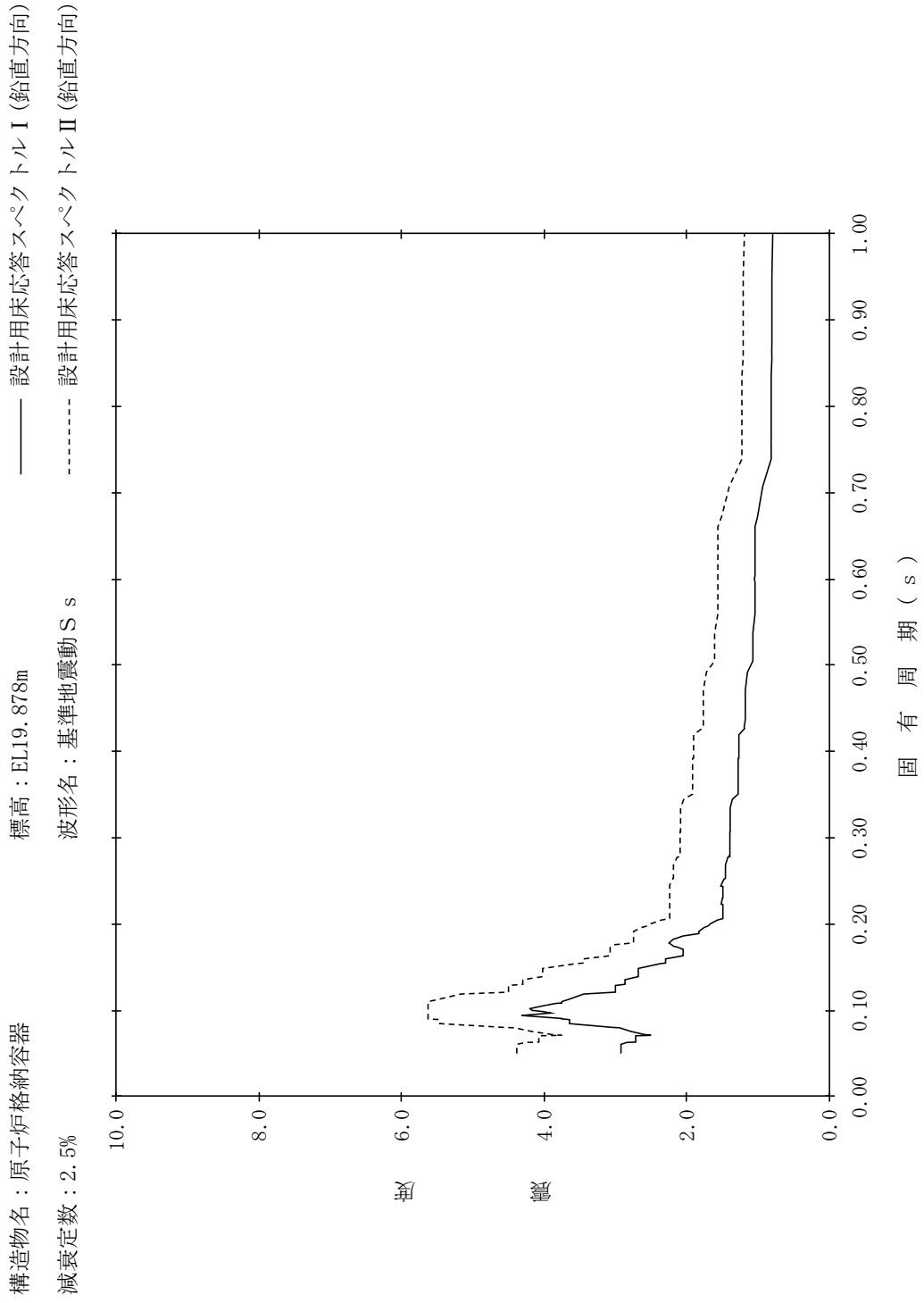


【NS2-PCV-SsV-PCV60】

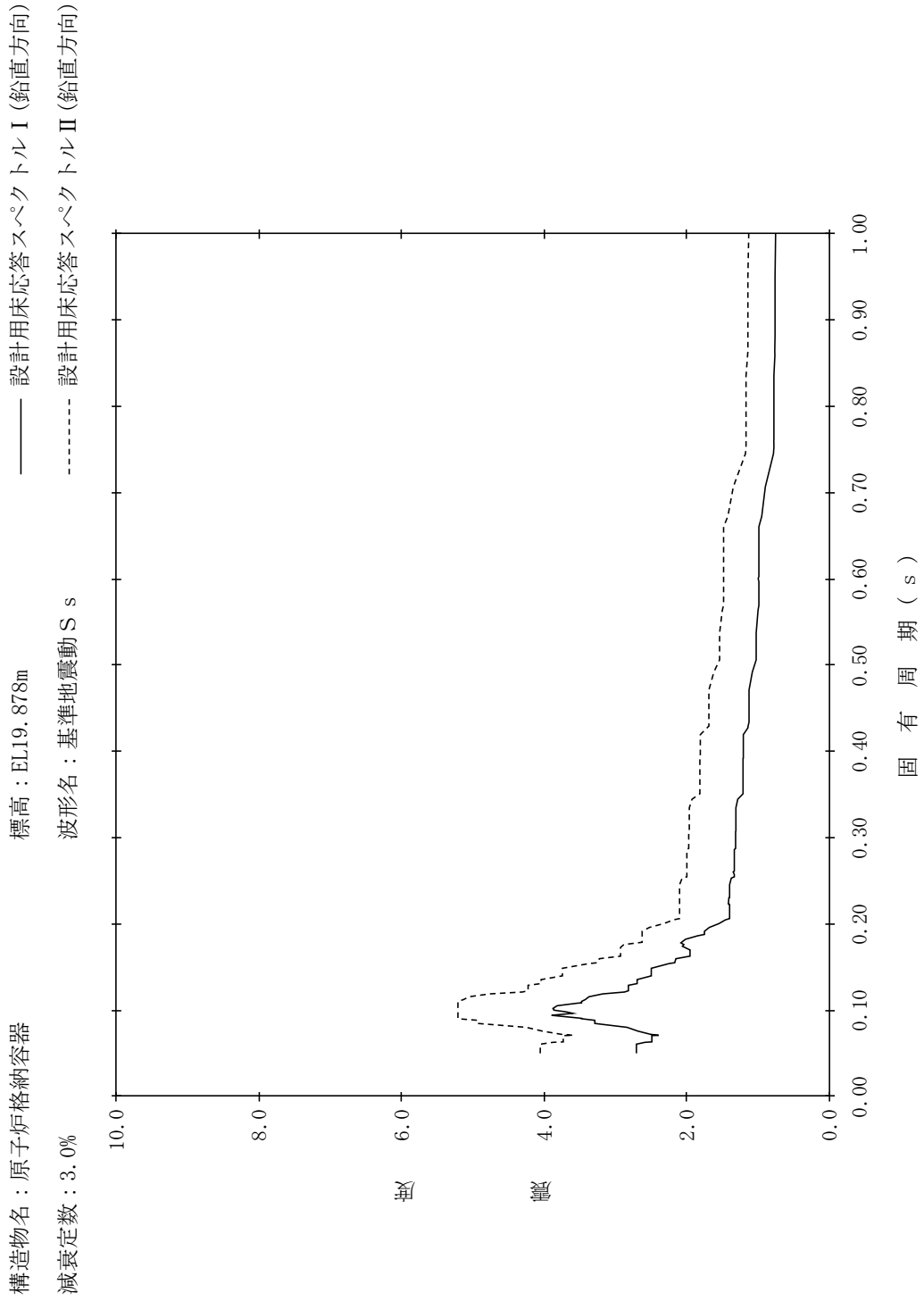
構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



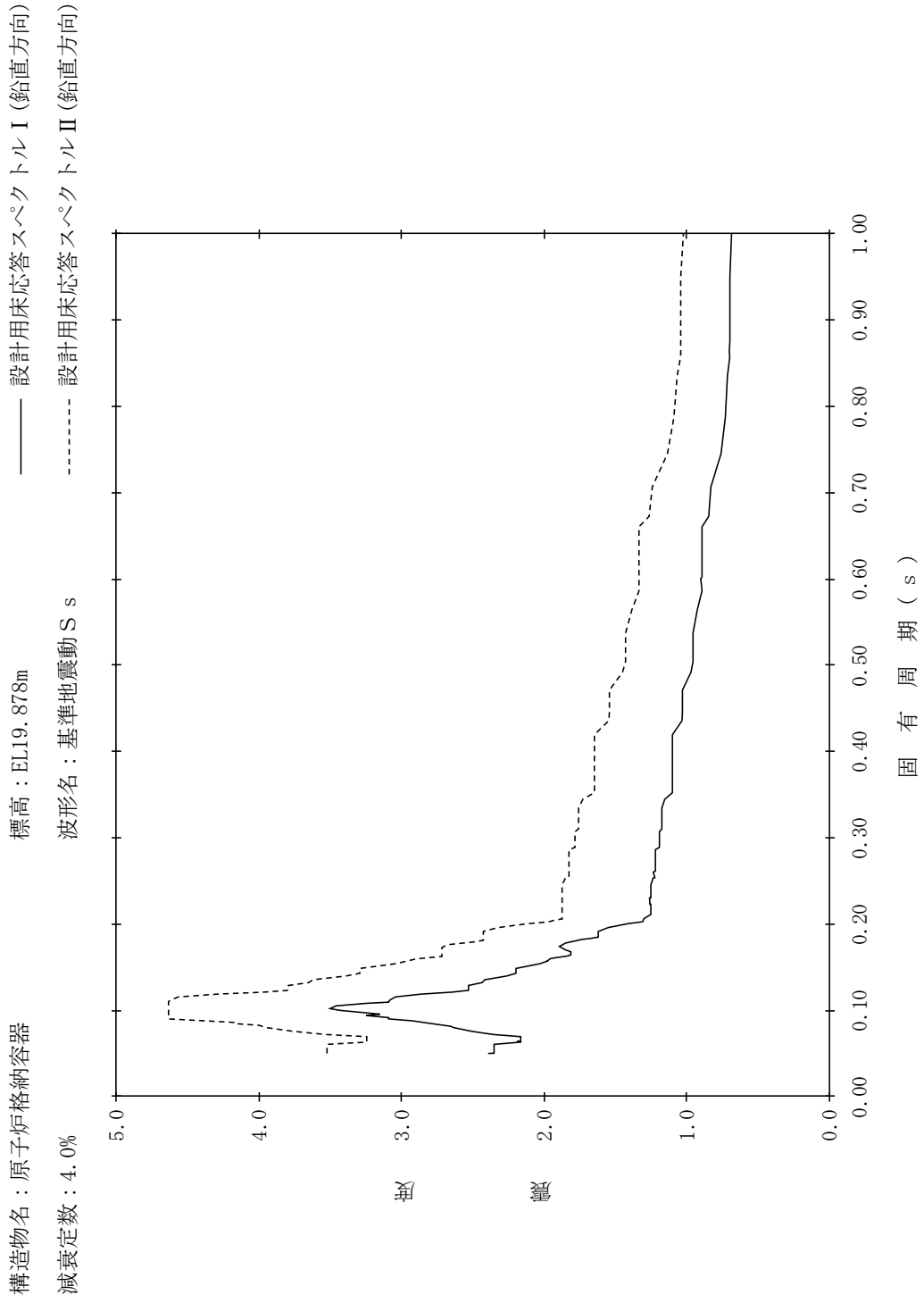
【NS2-PCV-SsV-PCV61】



【NS2-PCV-SsV-PCV62】

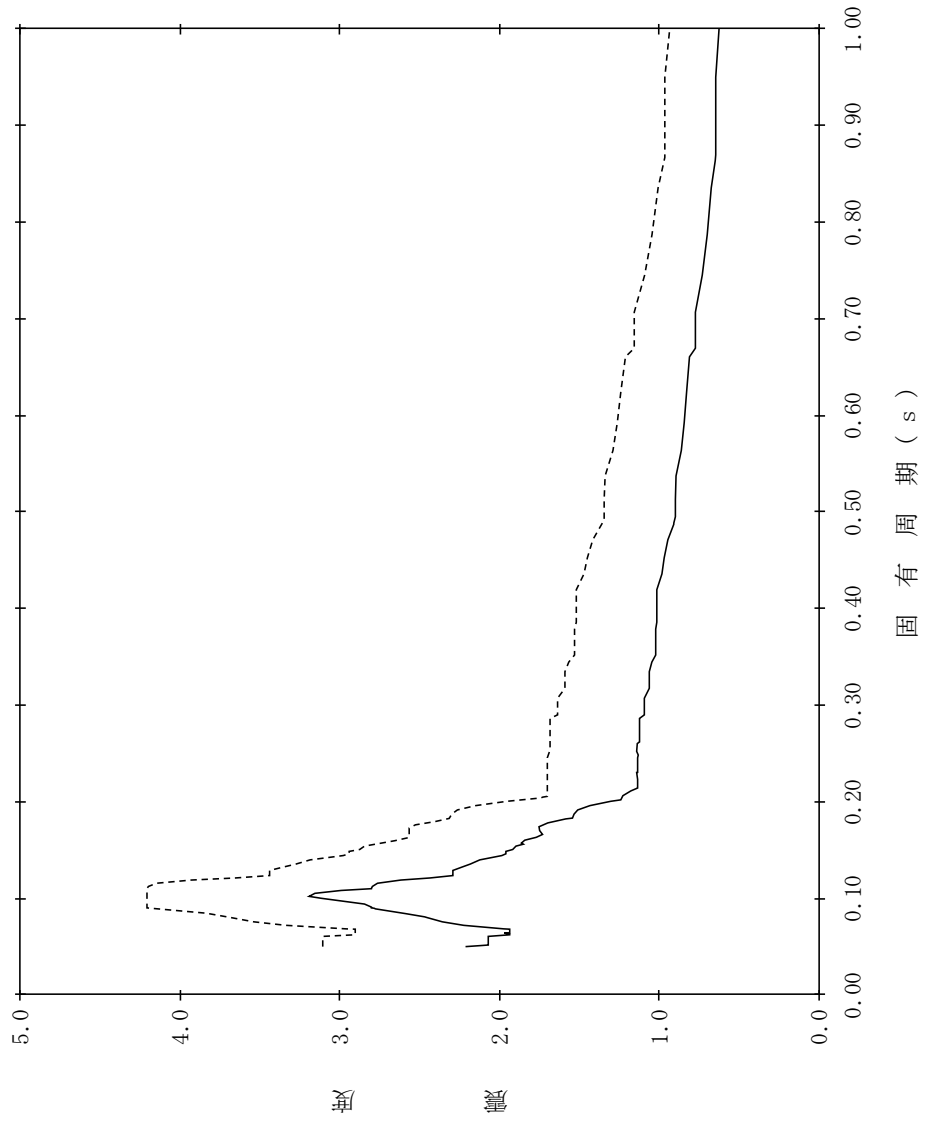


【NS2-PCV-SsV-PCV63】



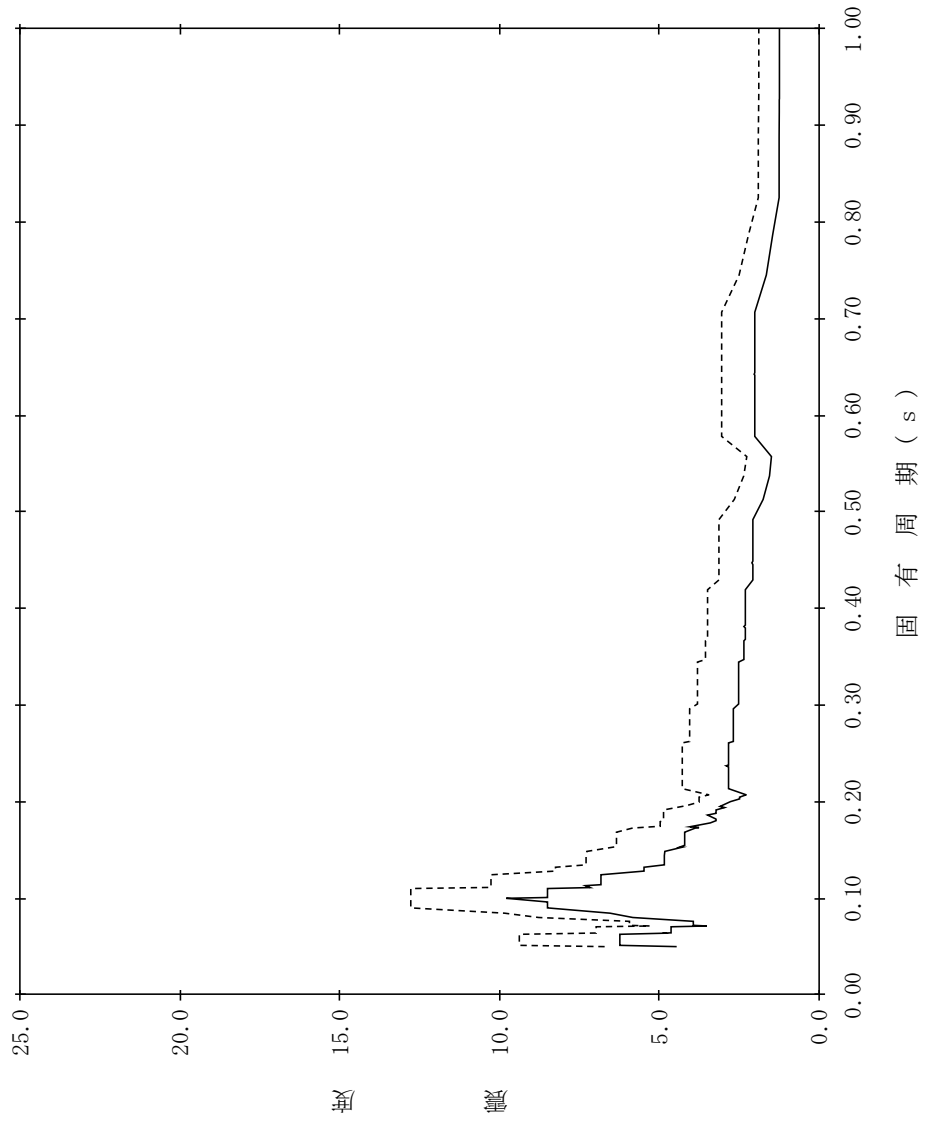
【NS2-PCV-SsV-PCV64】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL19.878m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



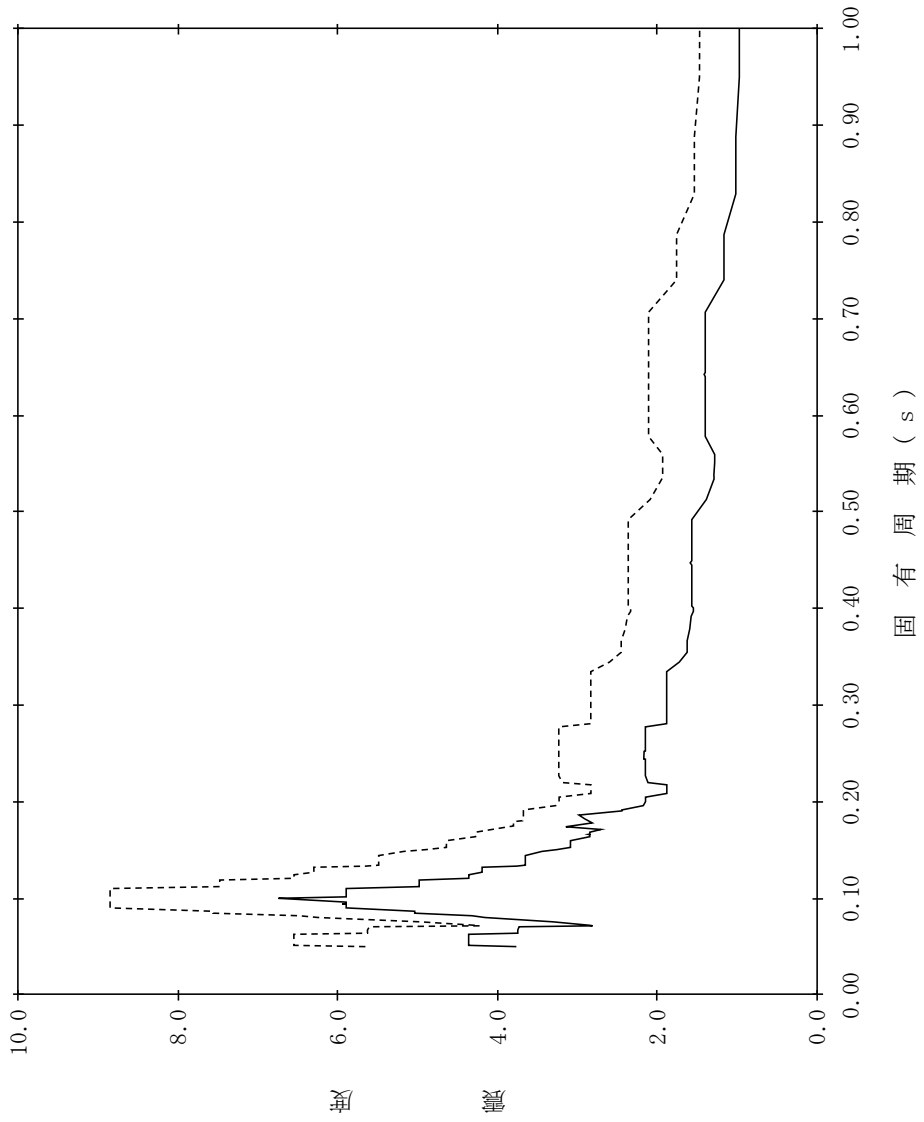
【NS2-PCV-SsV-PCV65】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



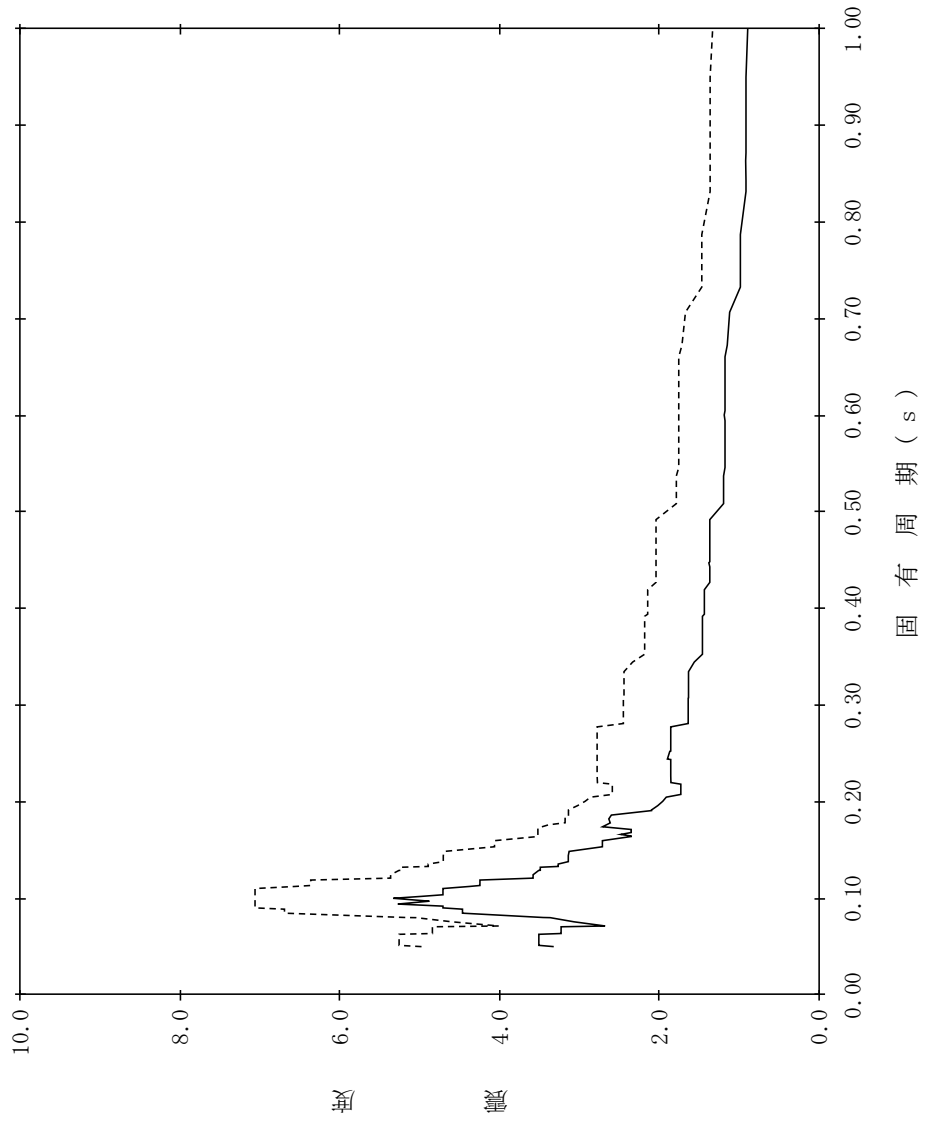
【NS2-PCV-SsV-PCV66】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



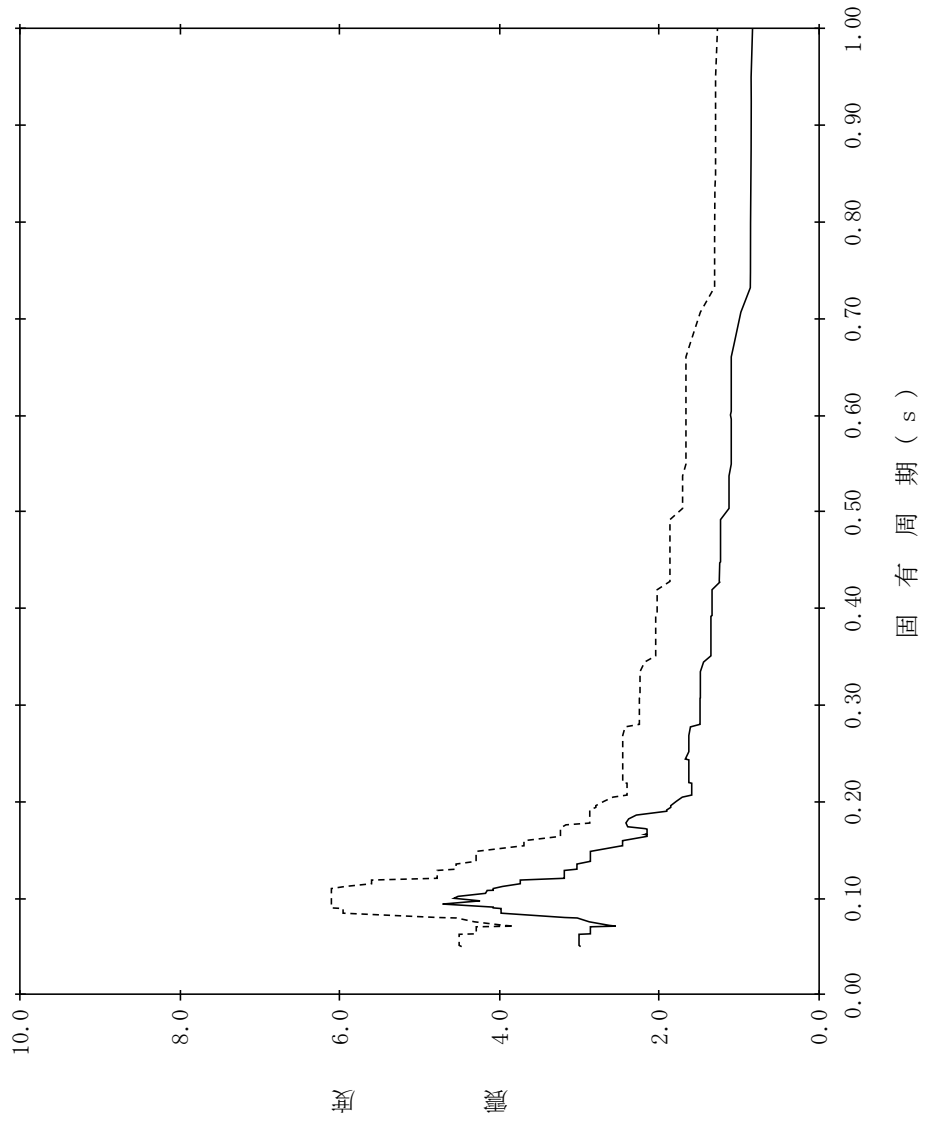
【NS2-PCV-SsV-PCV67】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



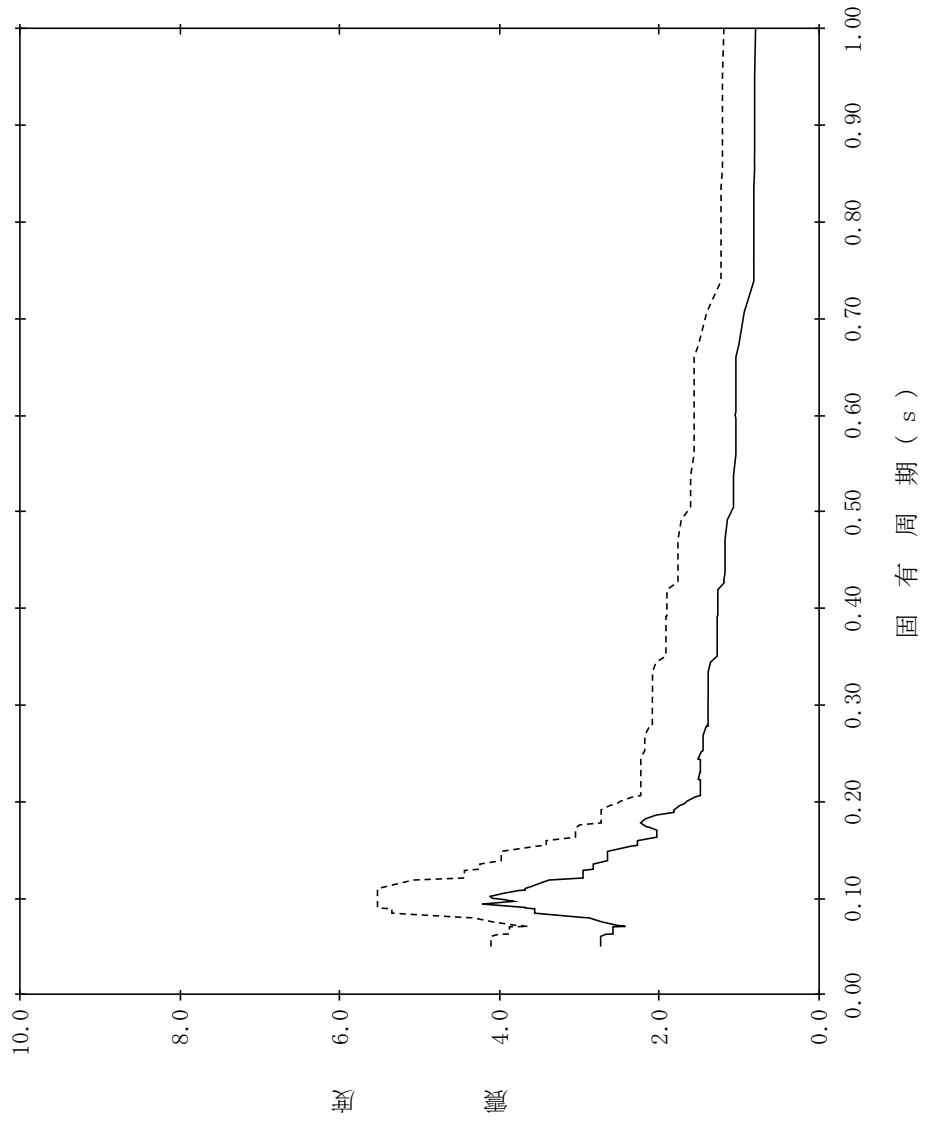
【NS2-PCV-SsV-PCV68】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



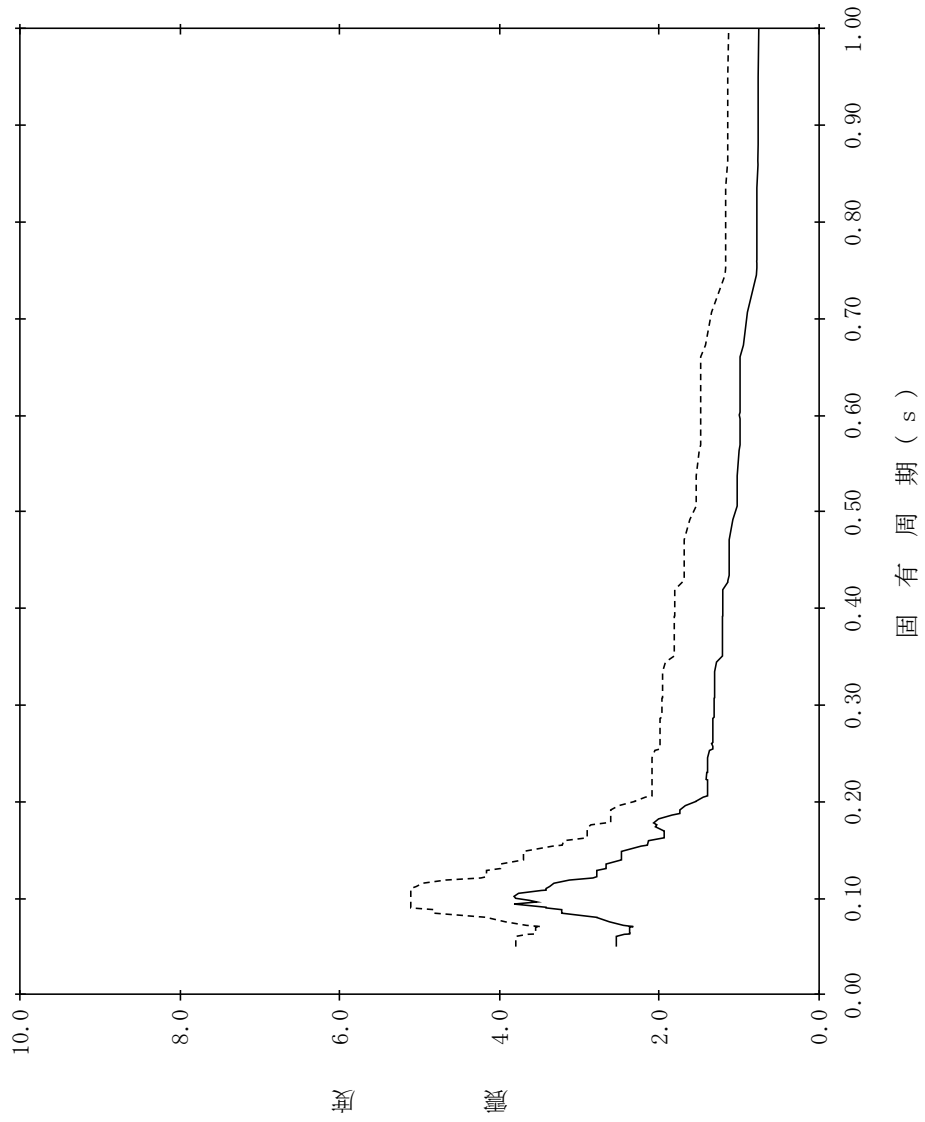
【NS2-PCV-SsV-PCV69】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



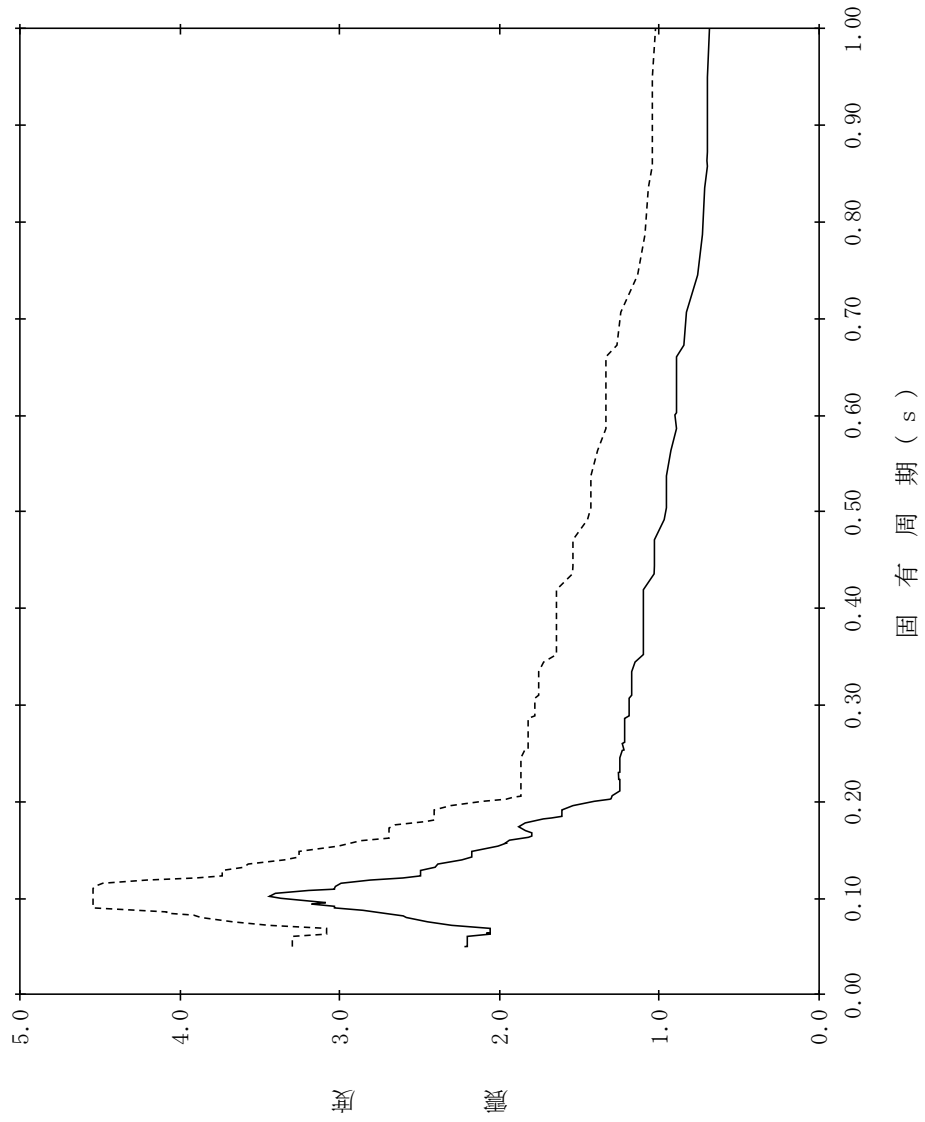
【NS2-PCV-SsV-PCV70】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



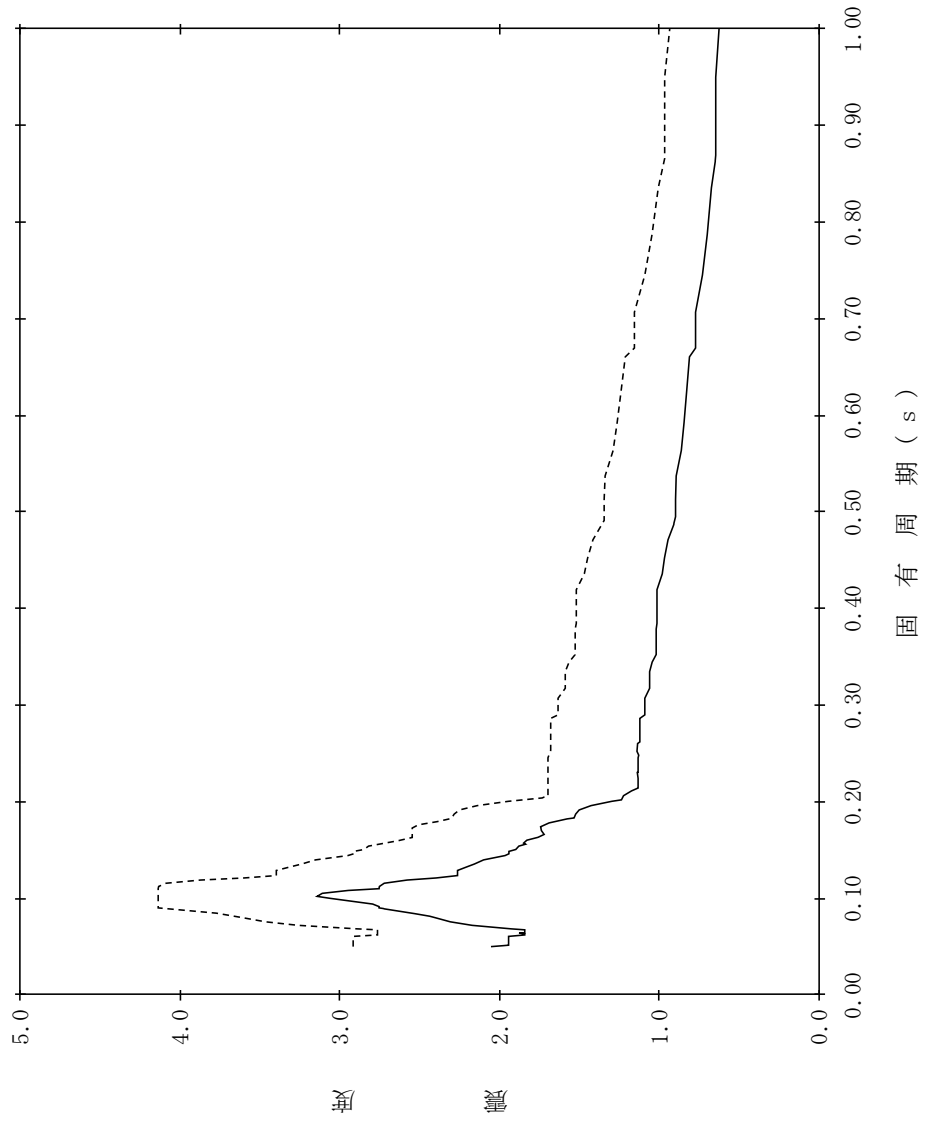
【NS2-PCV-SsV-PCV71】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



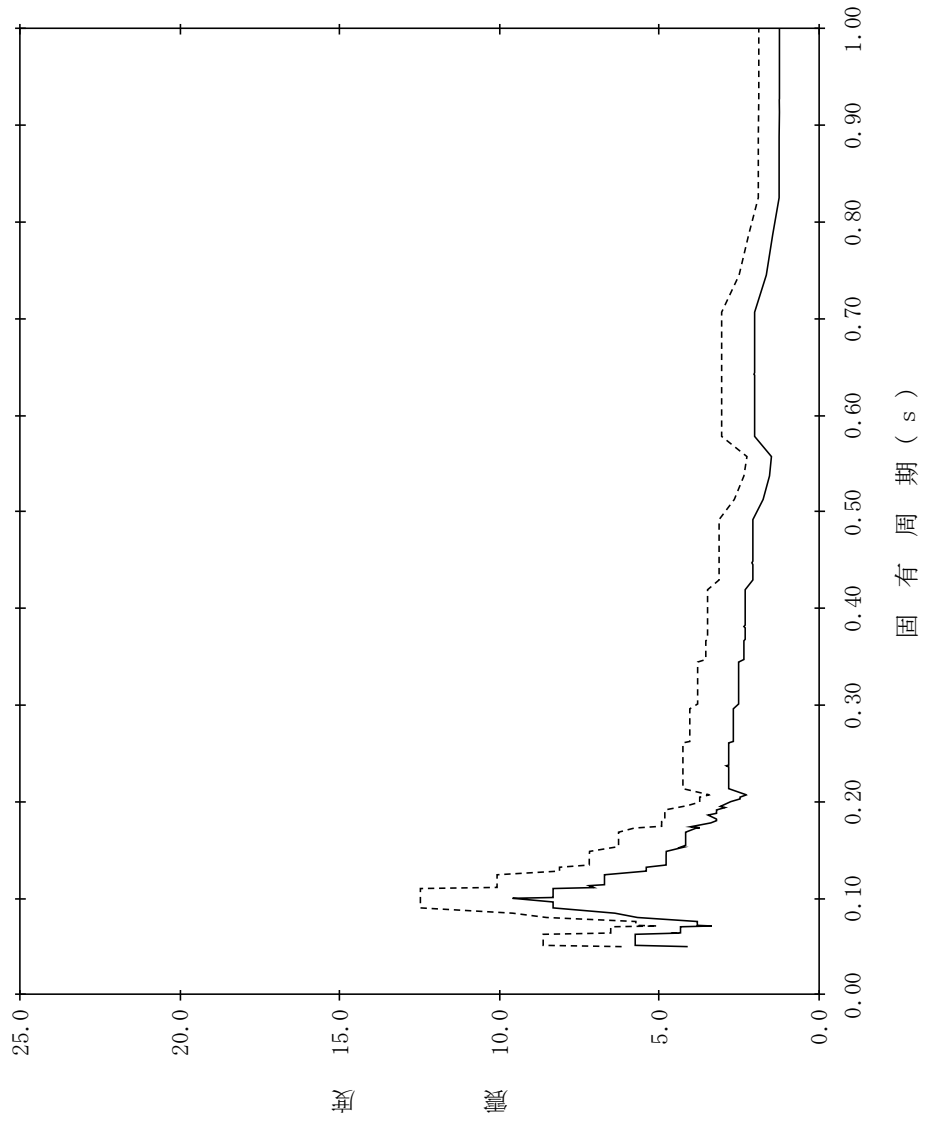
【NS2-PCV-SsV-PCV72】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL16.825m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



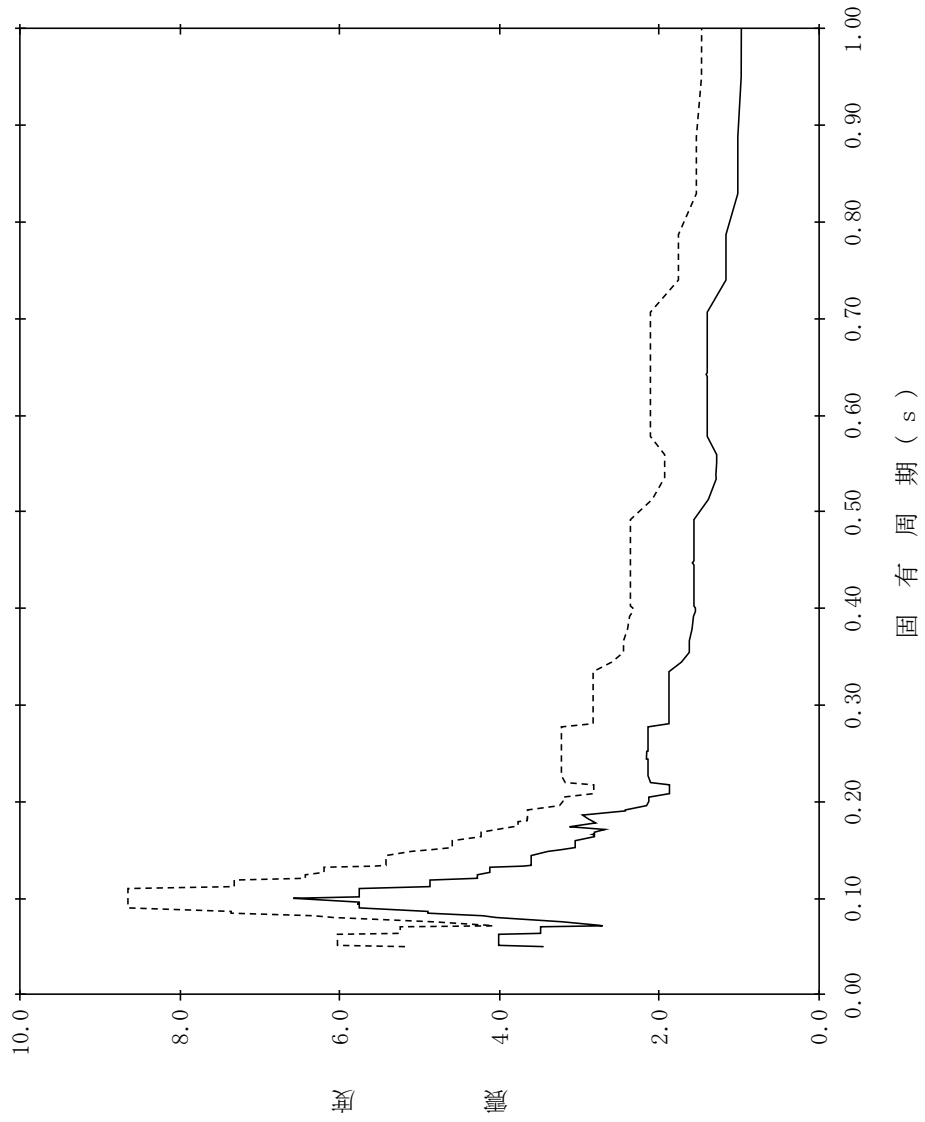
【NS2-PCV-SsV-PCV73】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



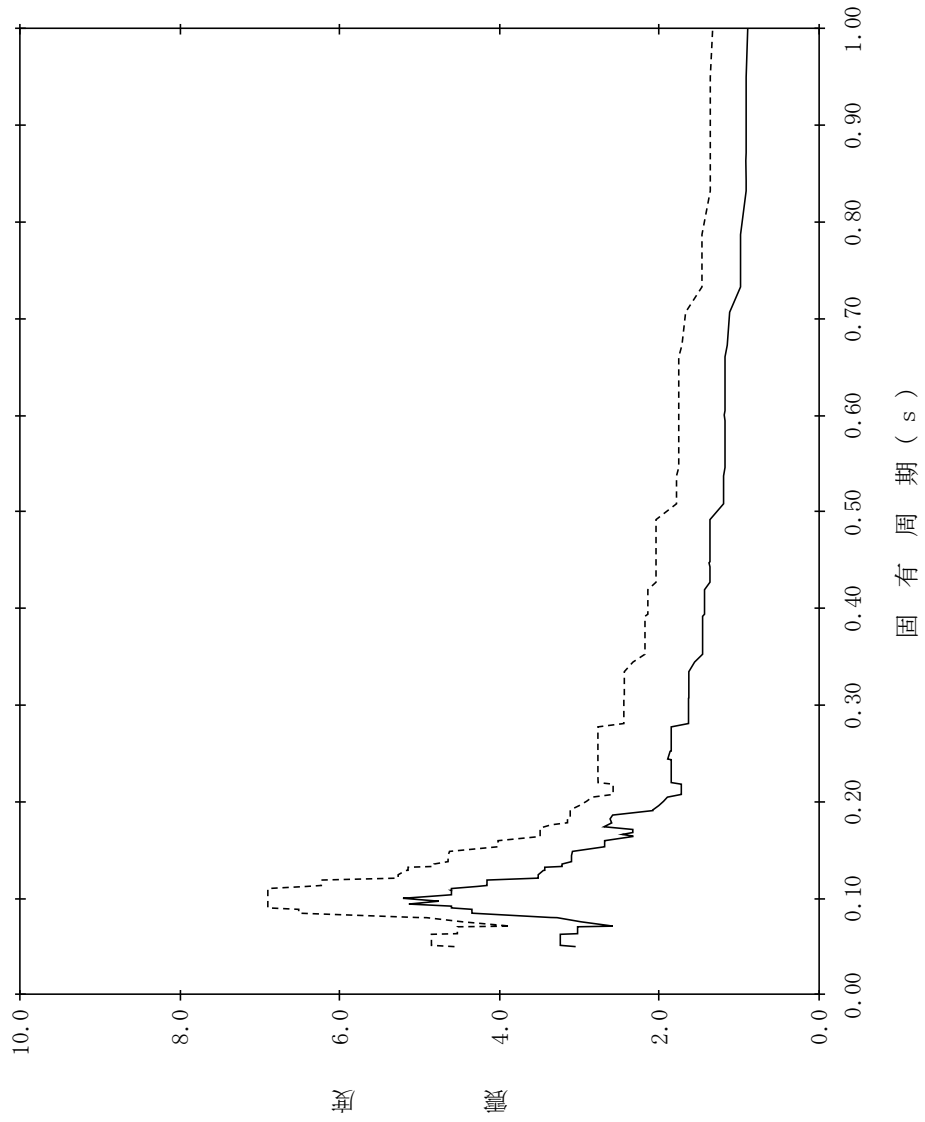
【NS2-PCV-SsV-PCV74】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



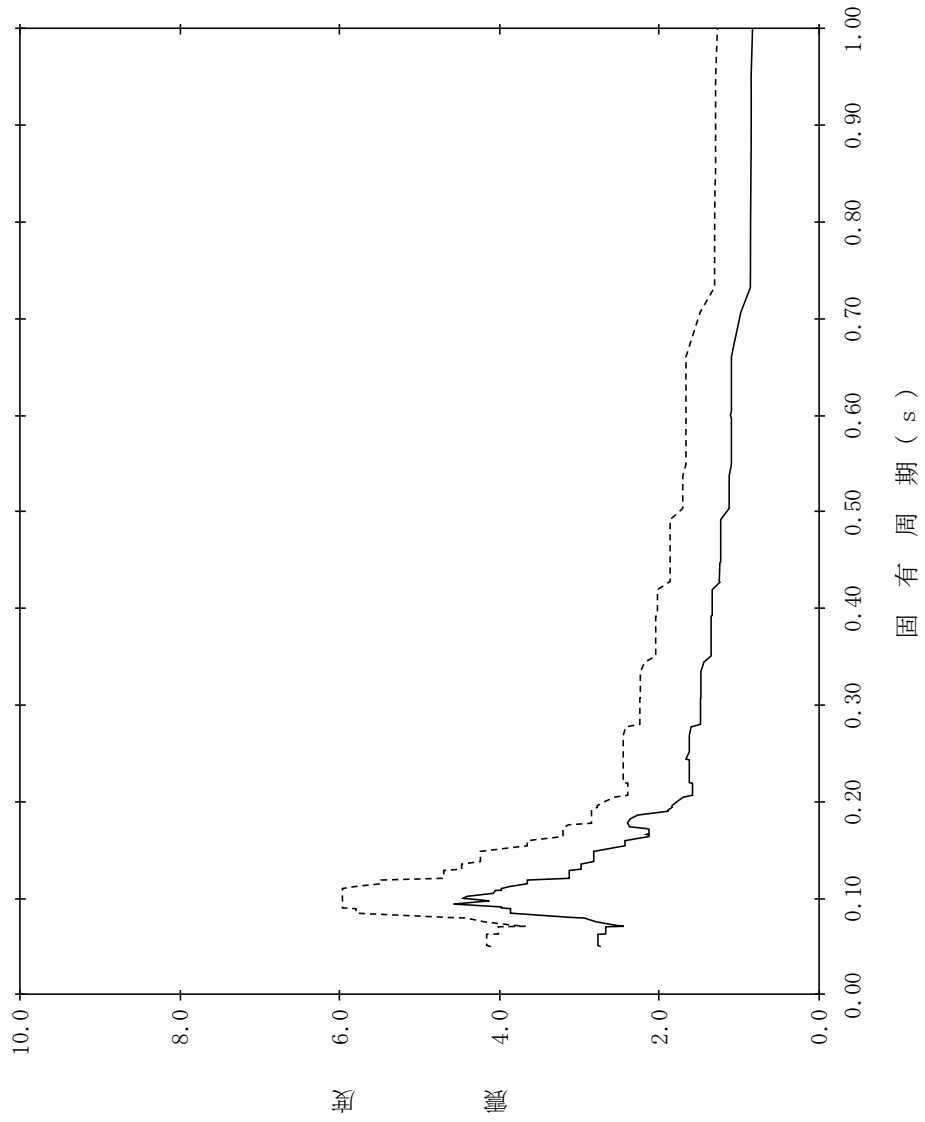
【NS2-PCV-SsV-PCV75】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



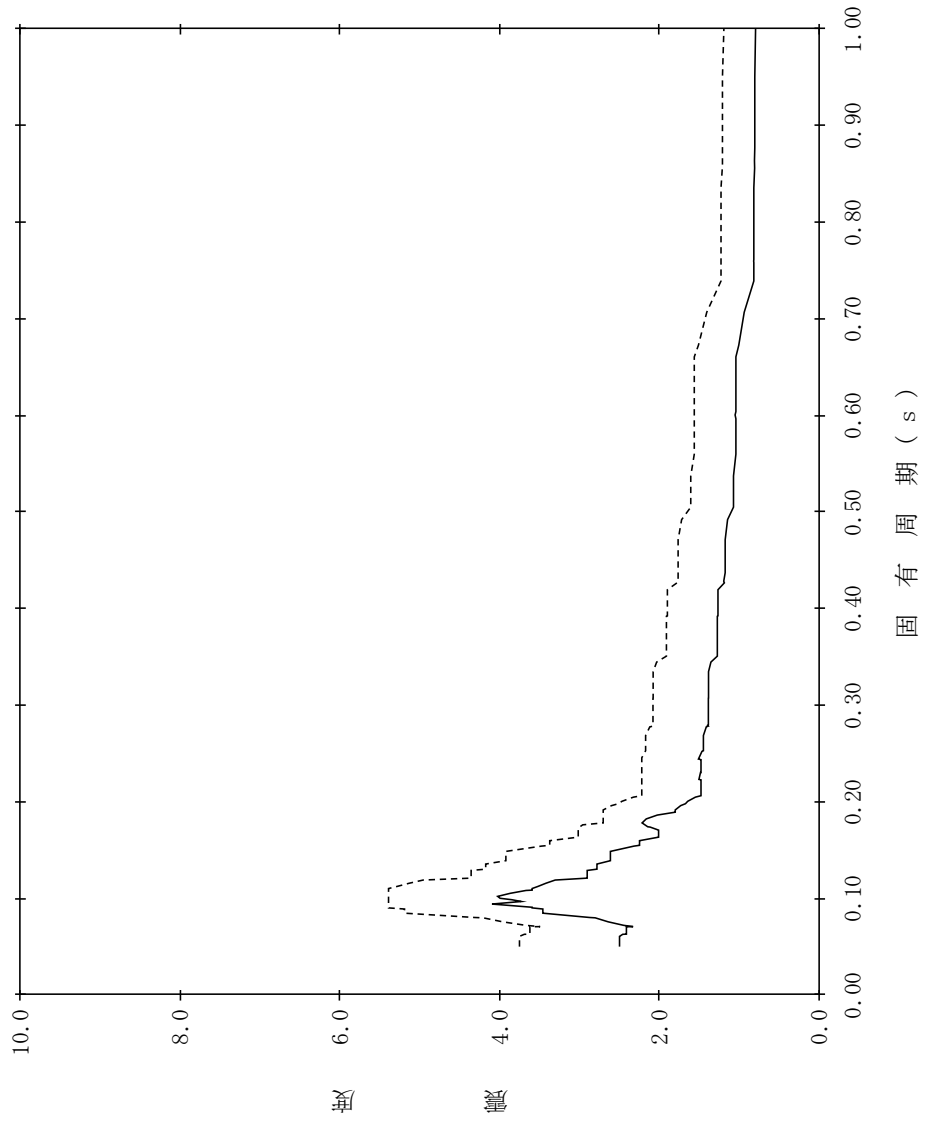
【NS2-PCV-SsV-PCV76】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



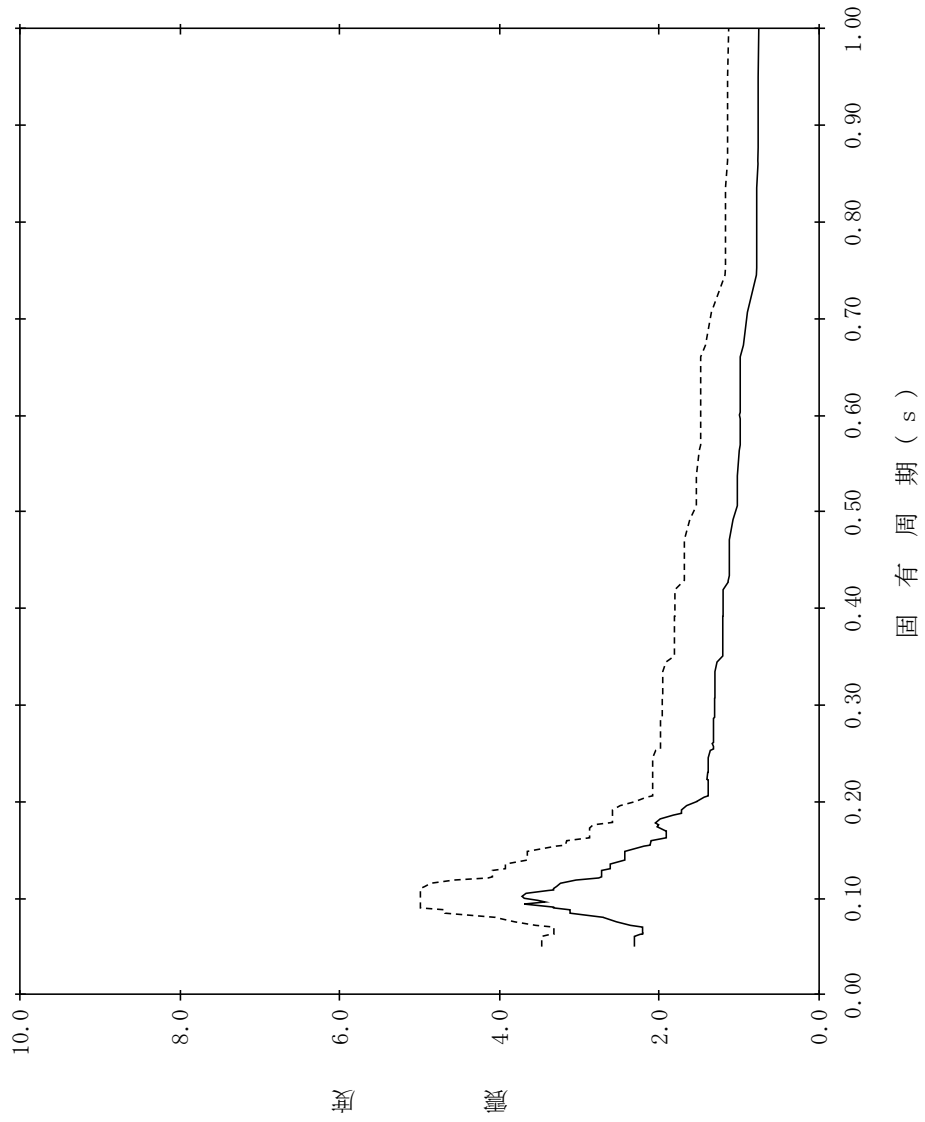
【NS2-PCV-SsV-PCV77】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



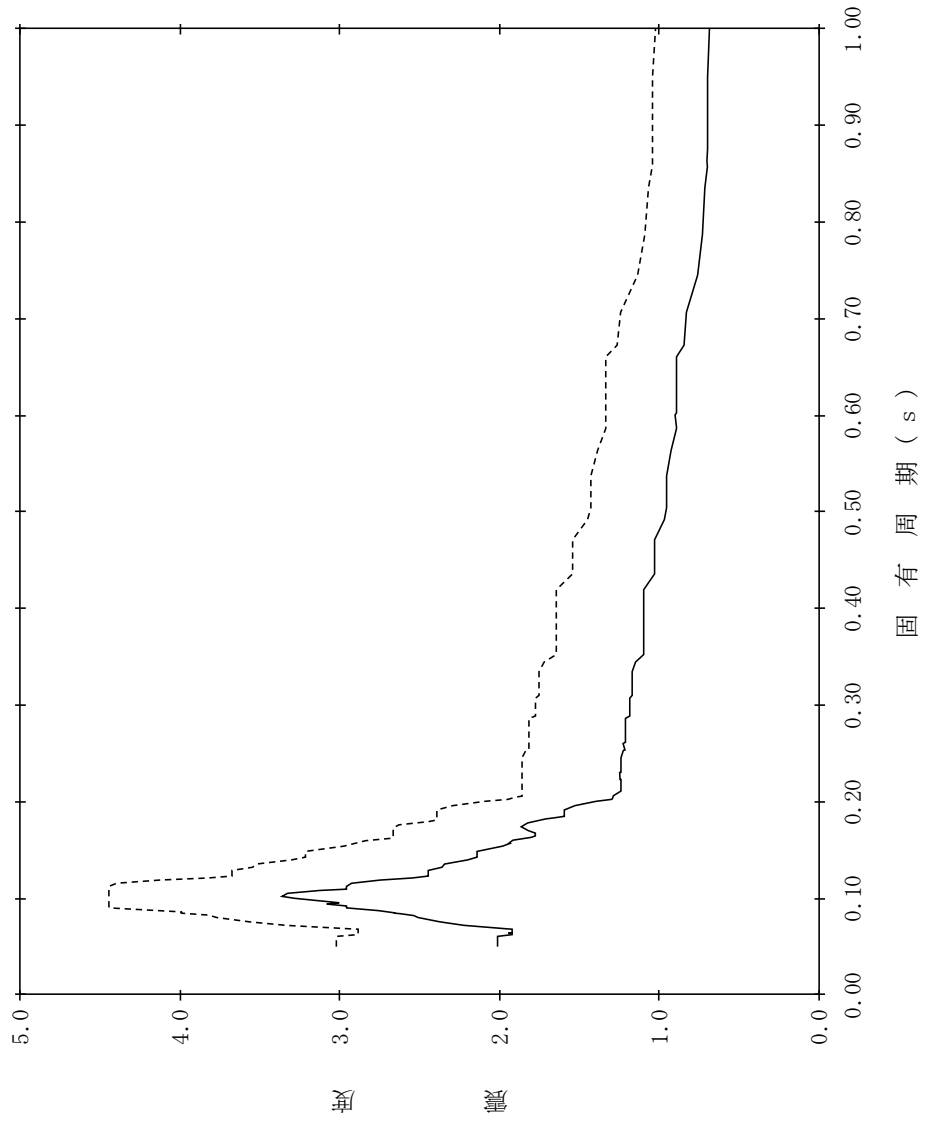
【NS2-PCV-SsV-PCV78】

構造物名：原子炉格納容器
標高：EL13.700m
減衰定数：3.0%
波形式：標準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



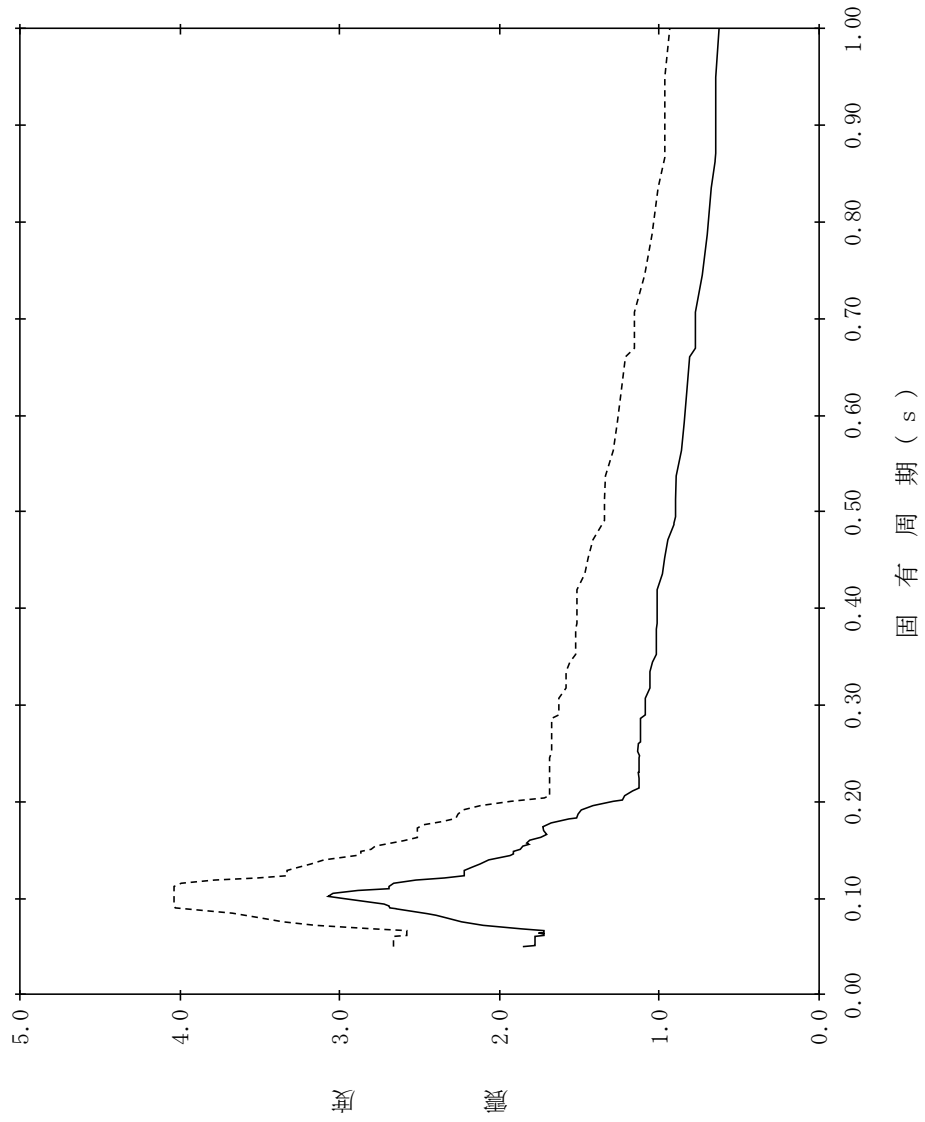
【NS2-PCV-SsV-PCV79】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

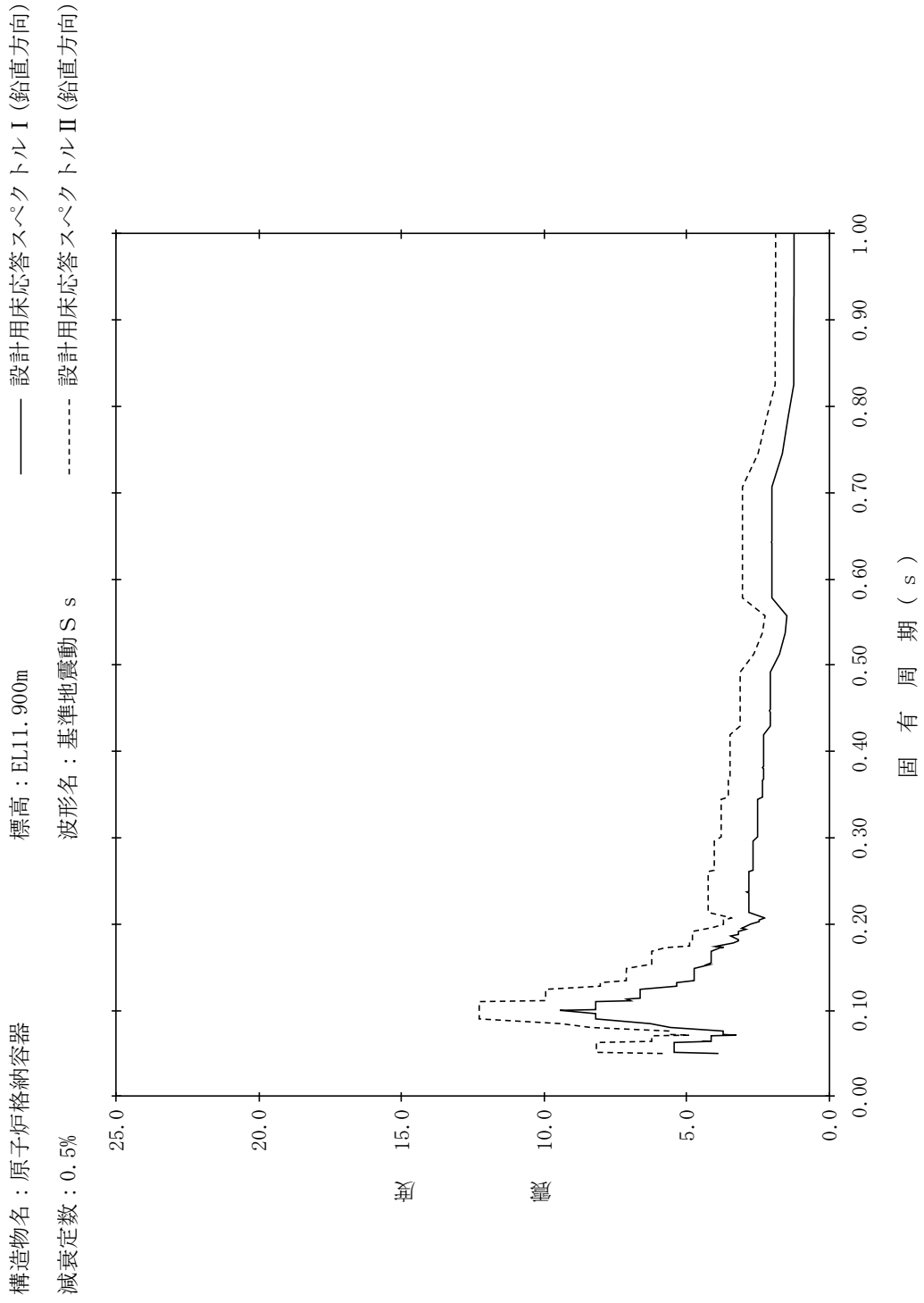


【NS2-PCV-SsV-PCV80】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL13.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

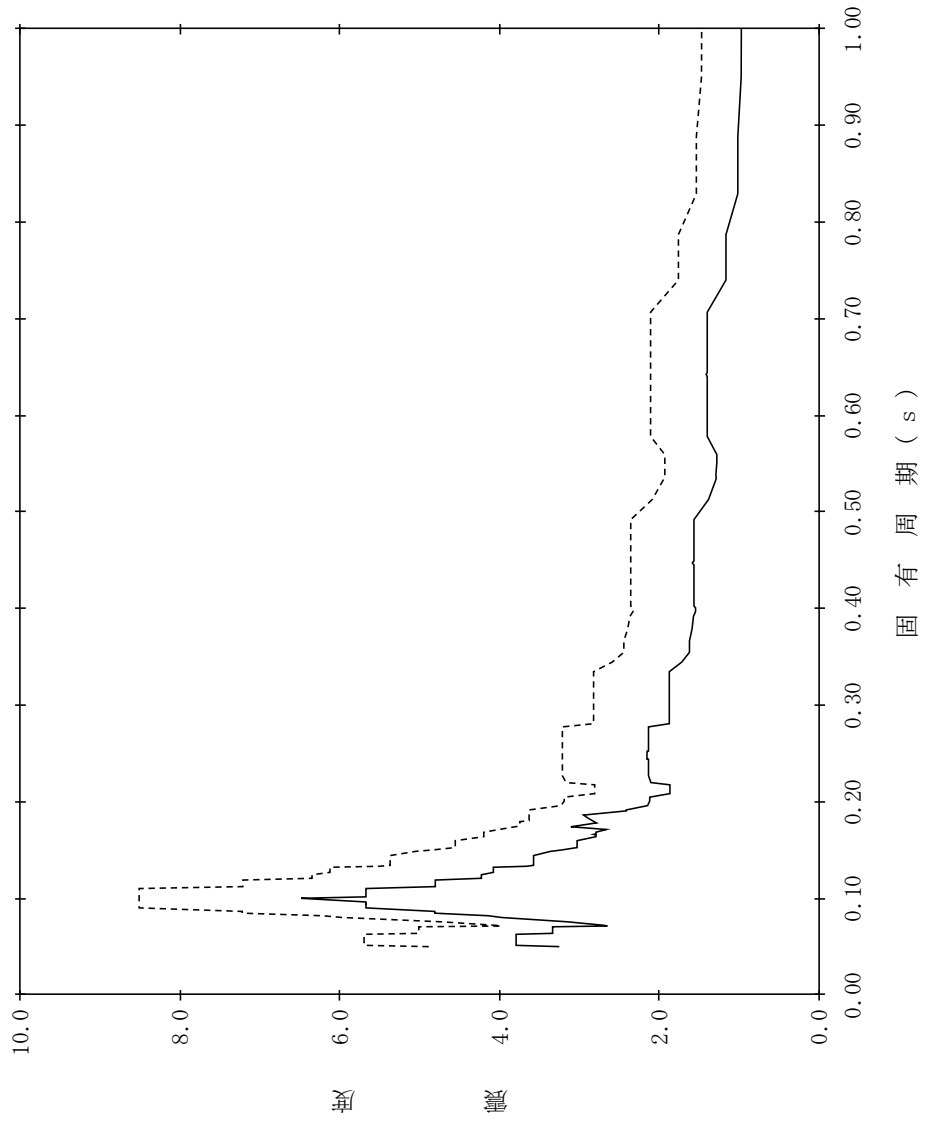


【NS2-PCV-SsV-PCV81】

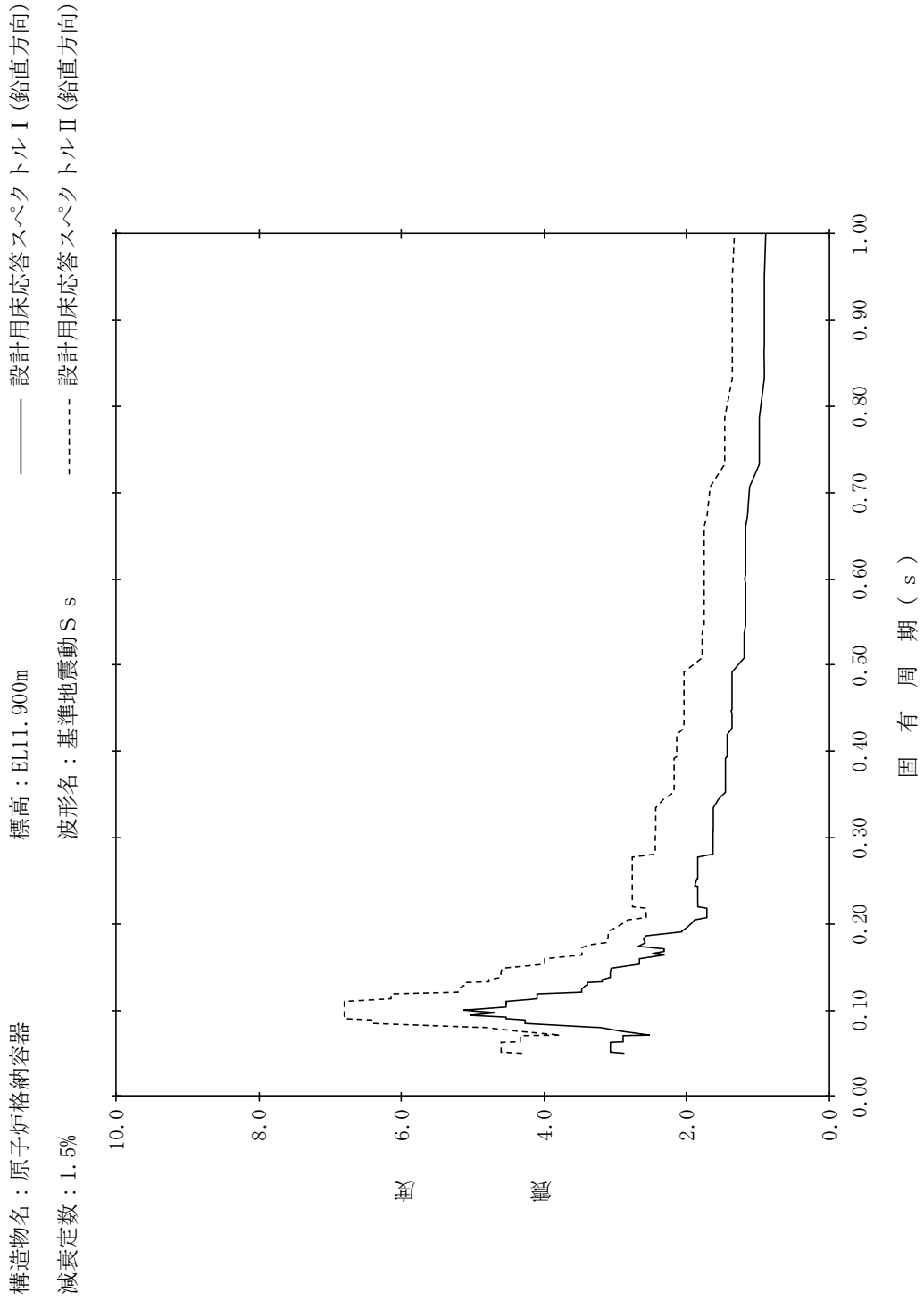


【NS2-PCV-SsV-PCV82】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

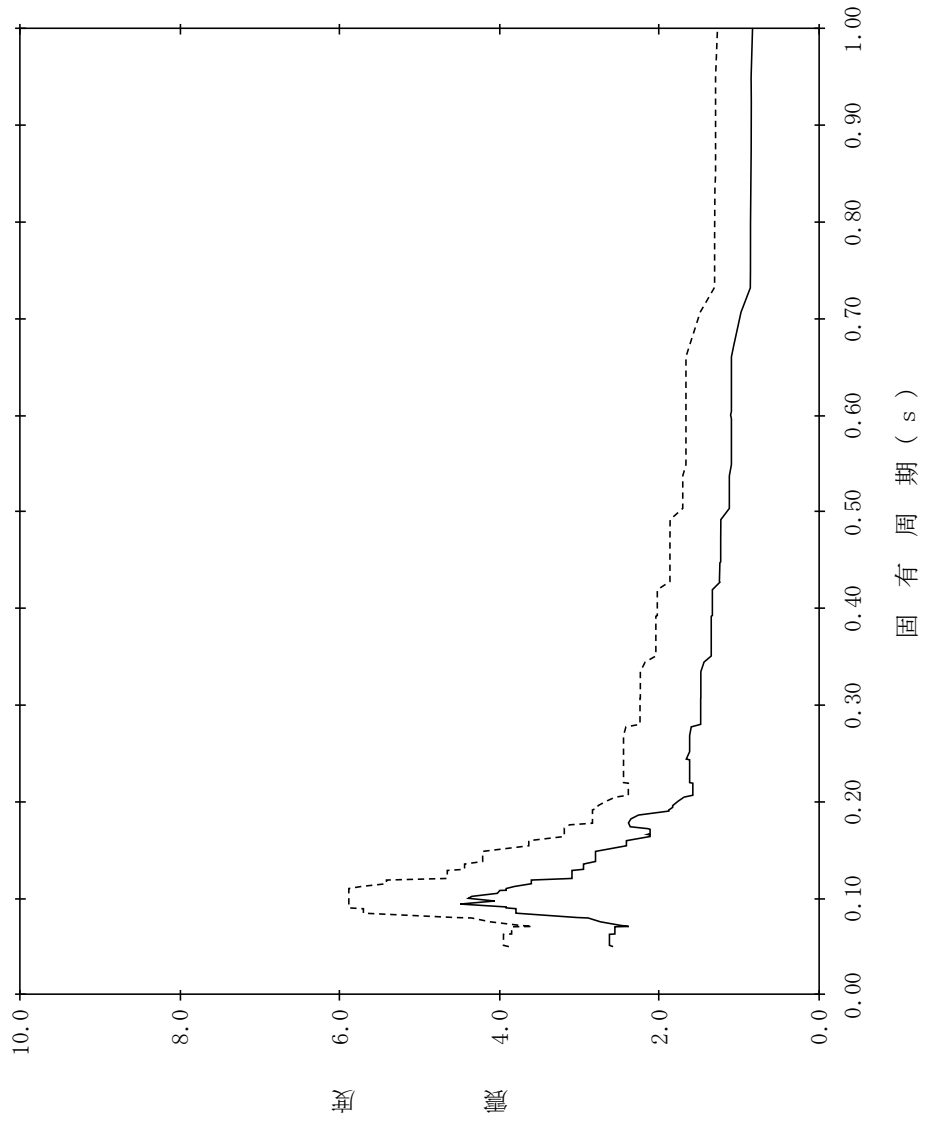


【NS2-PCV-SsV-PCV83】



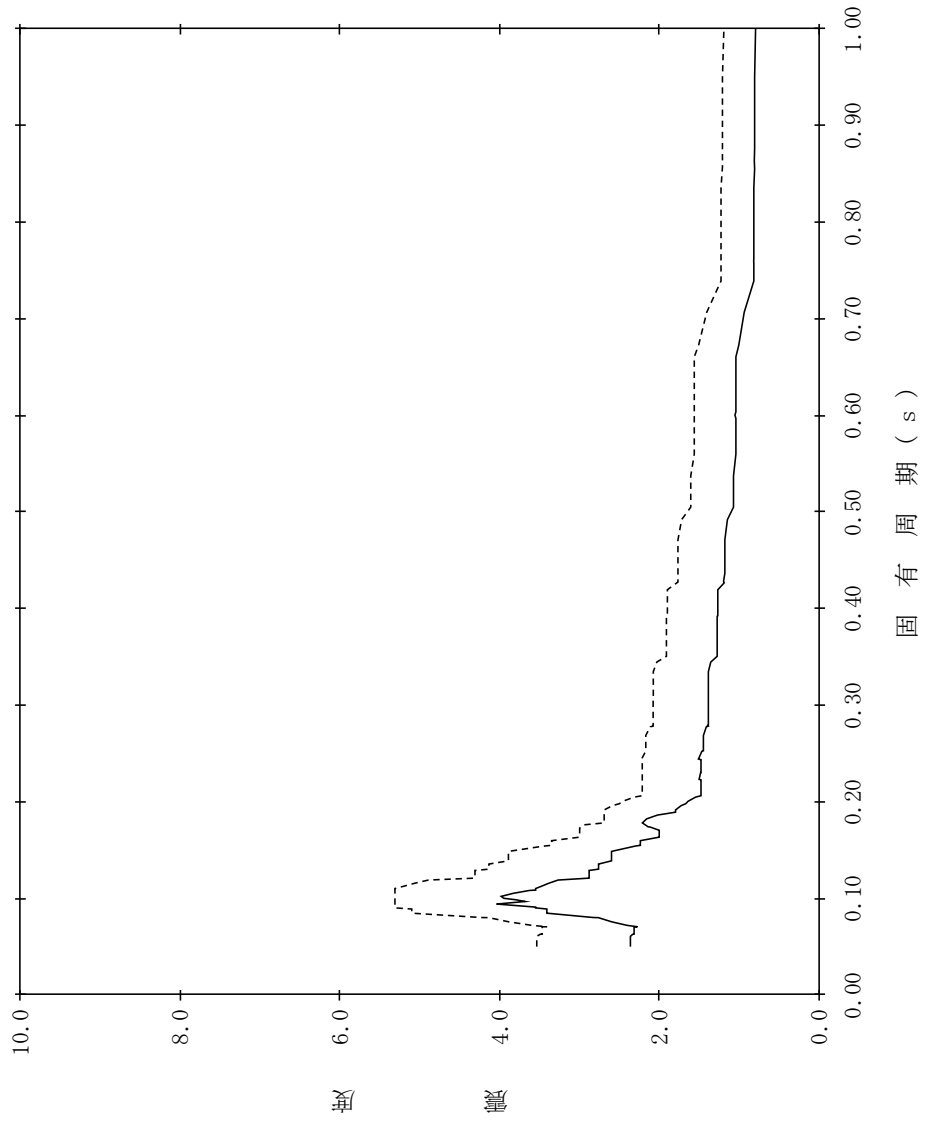
【NS2-PCV-SsV-PCV84】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



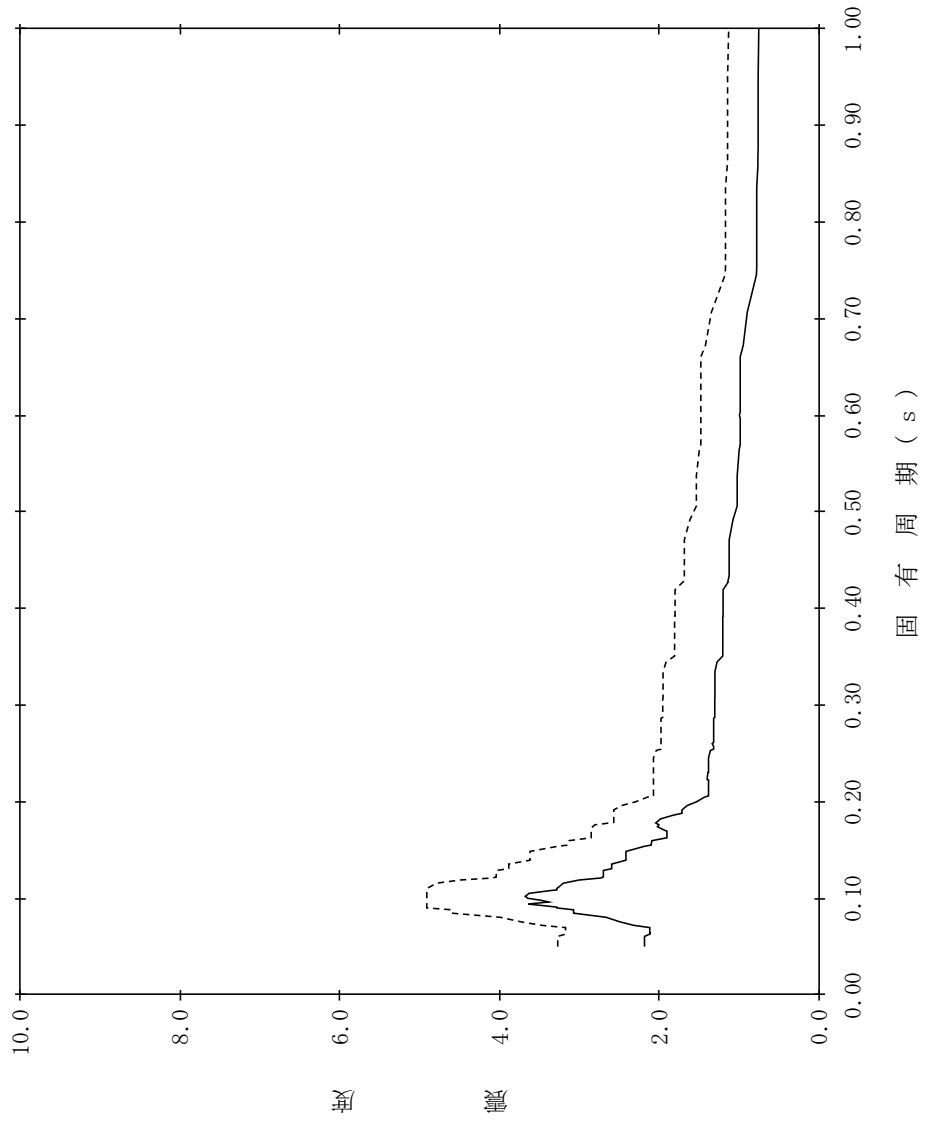
【NS2-PCV-SsV-PCV85】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



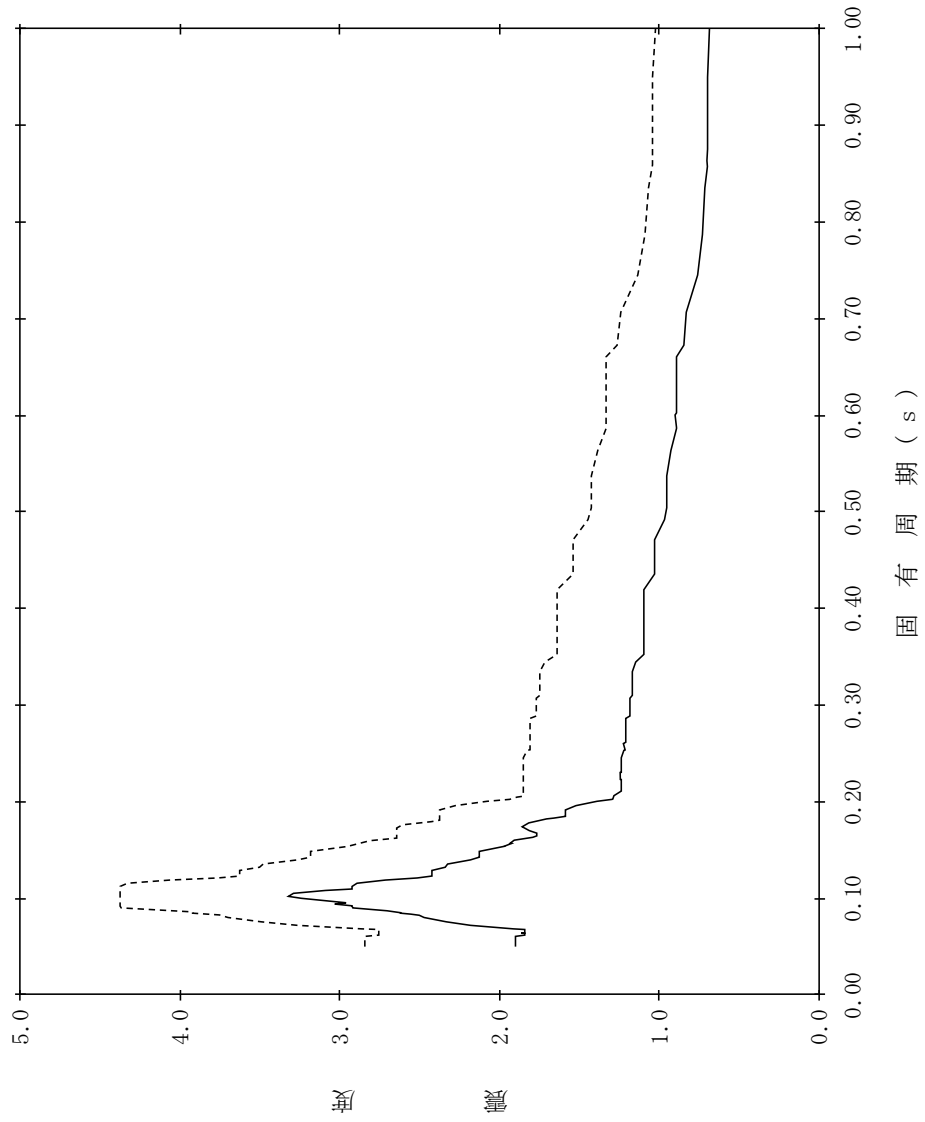
【NS2-PCV-SsV-PCV86】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



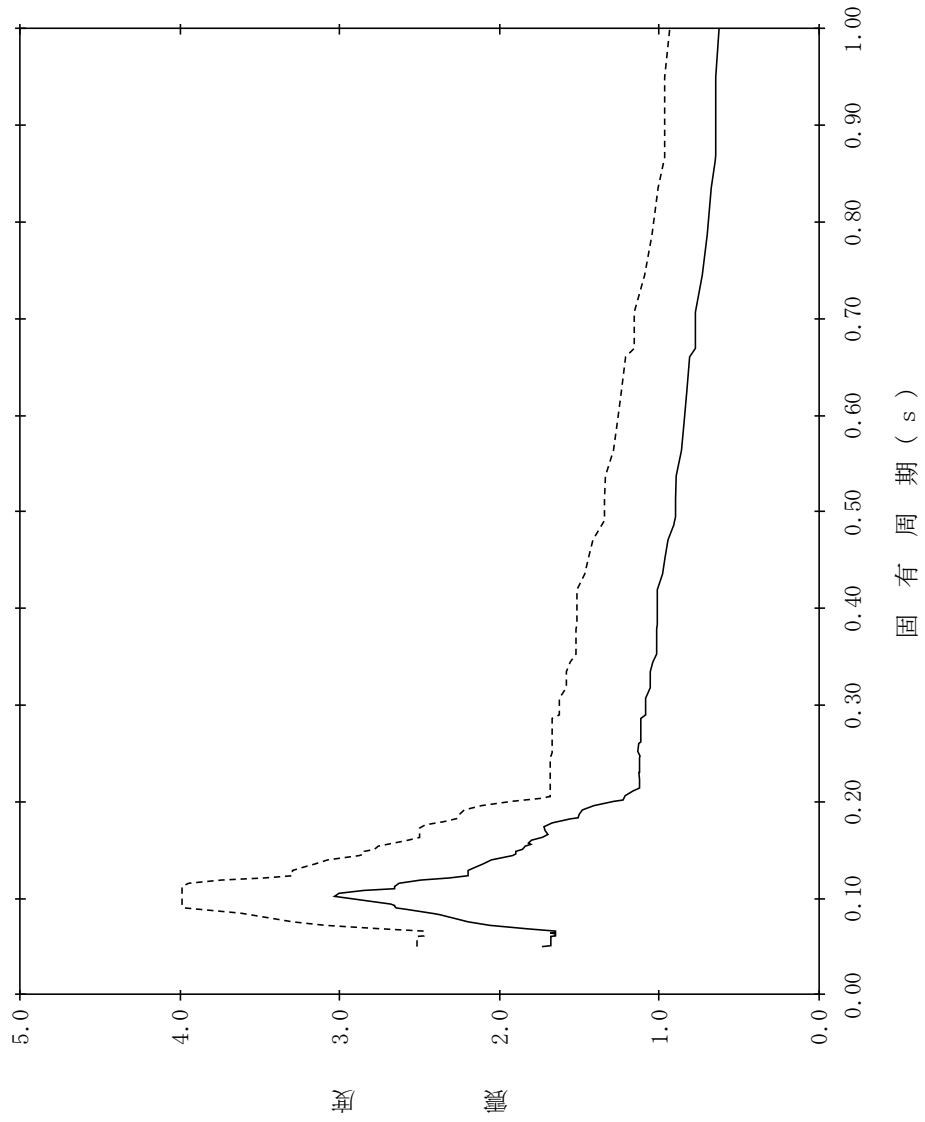
【NS2-PCV-SsV-PCV87】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



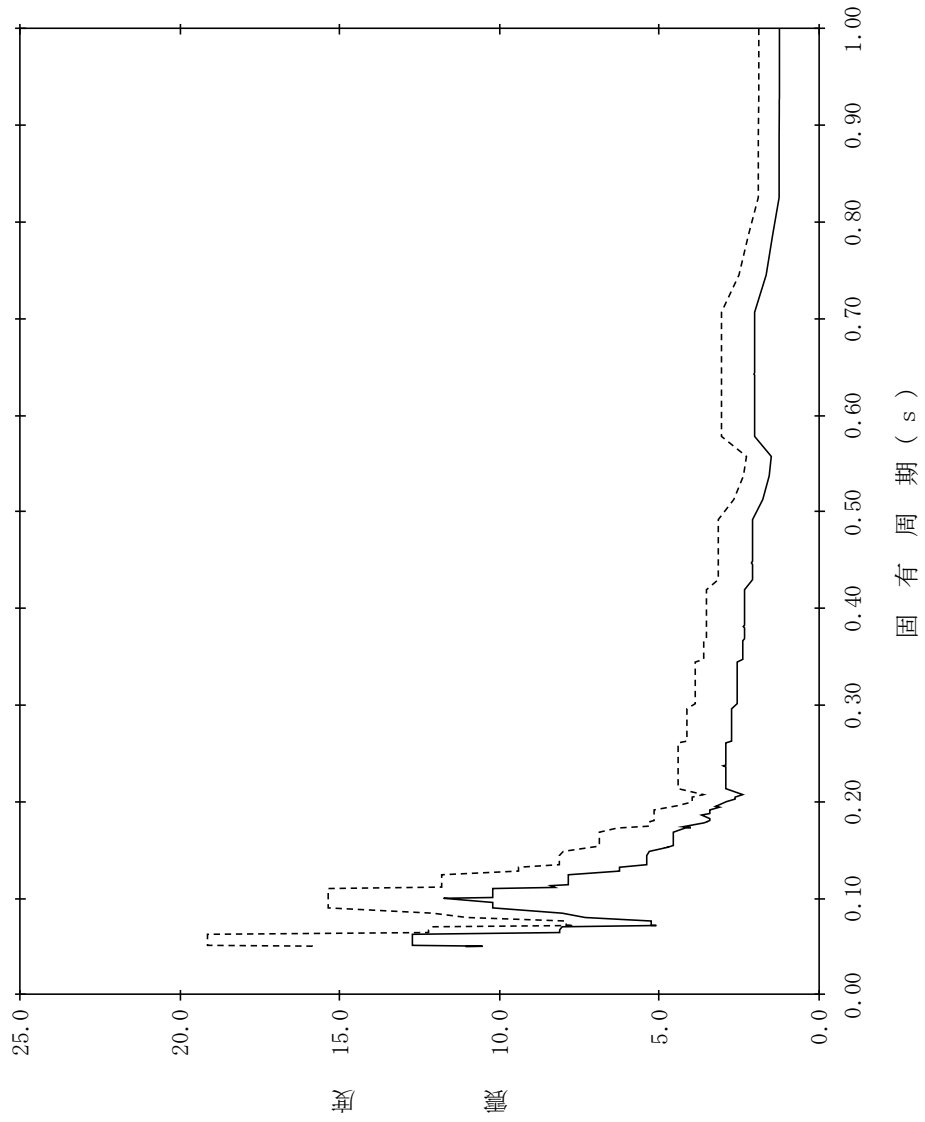
【NS2-PCV-SsV-PCV88】

構造物名：原子炉格納容器
 標高：EL11.900m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



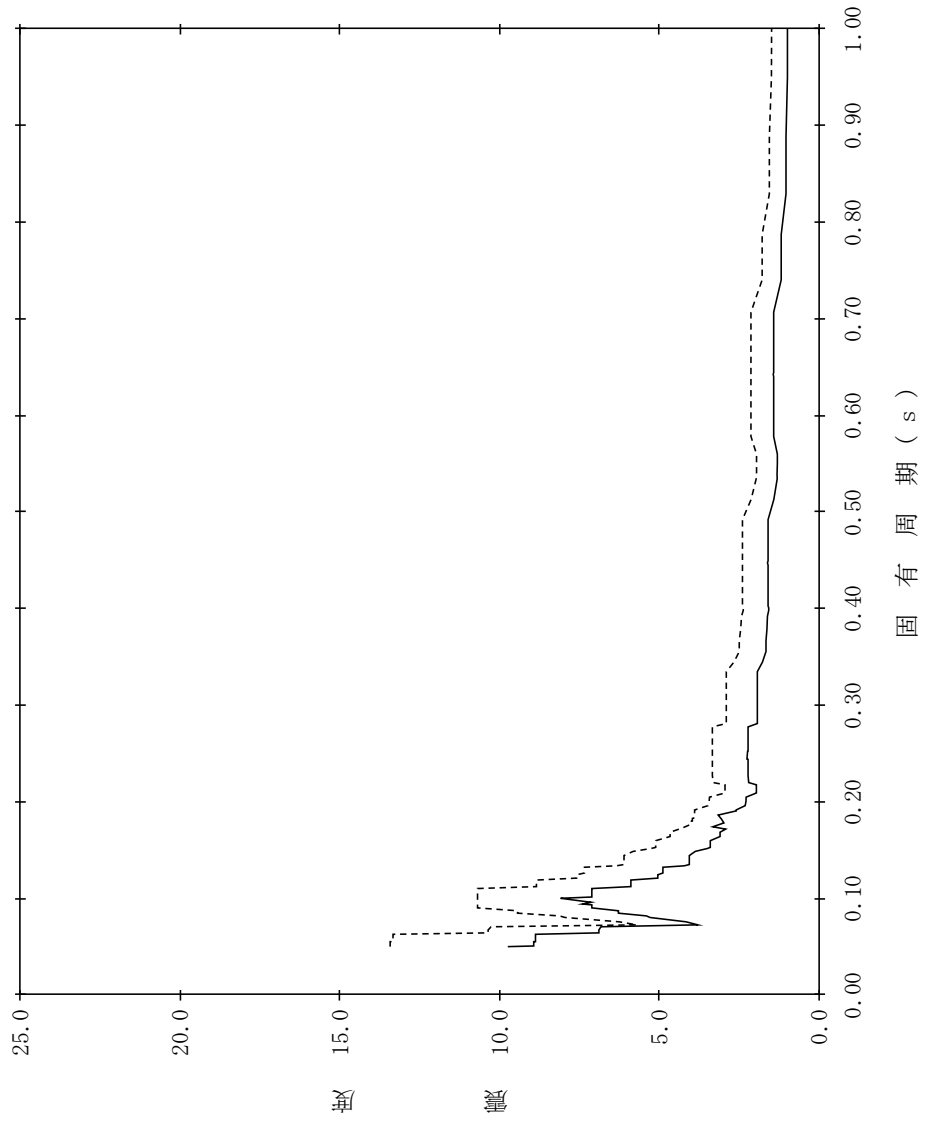
【NS2-PCV-SsV-GSW89】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



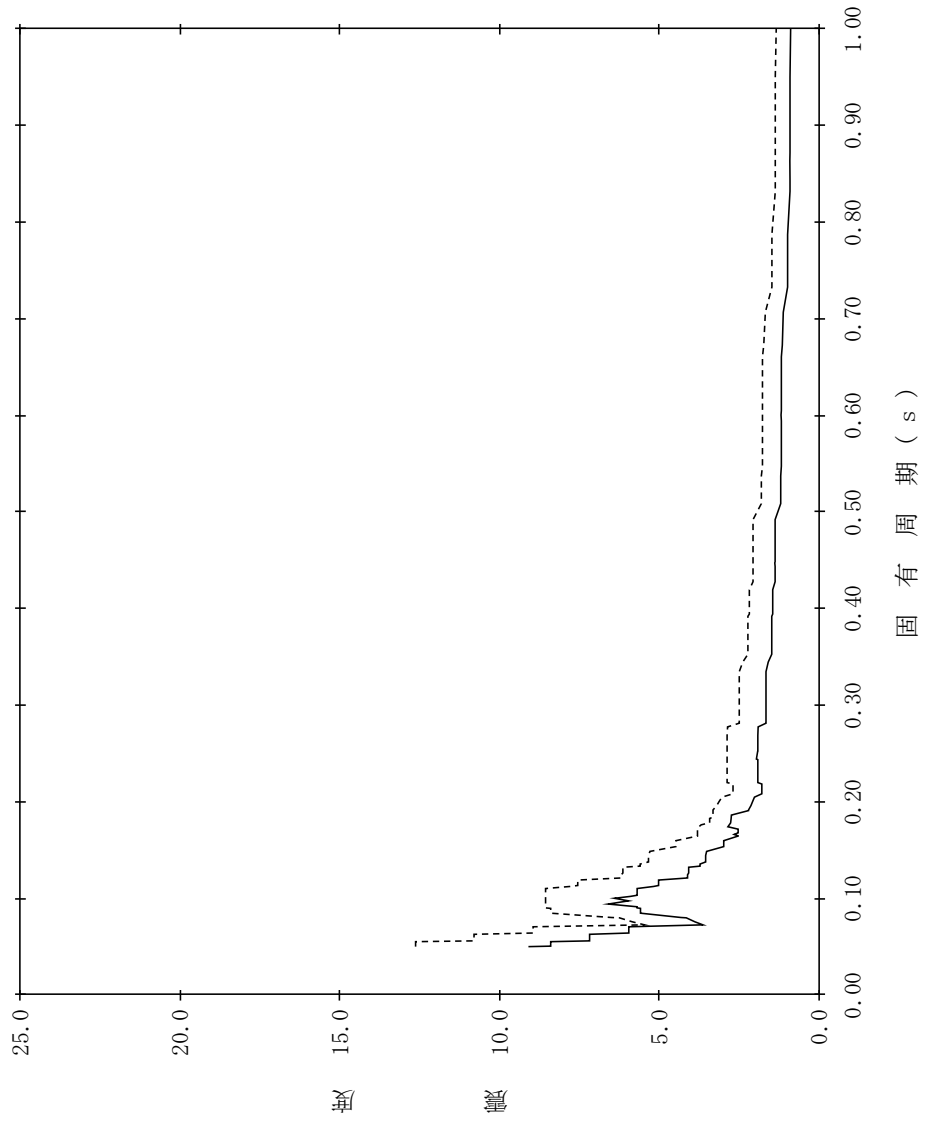
【NS2-PCV-SsV-GSW90】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



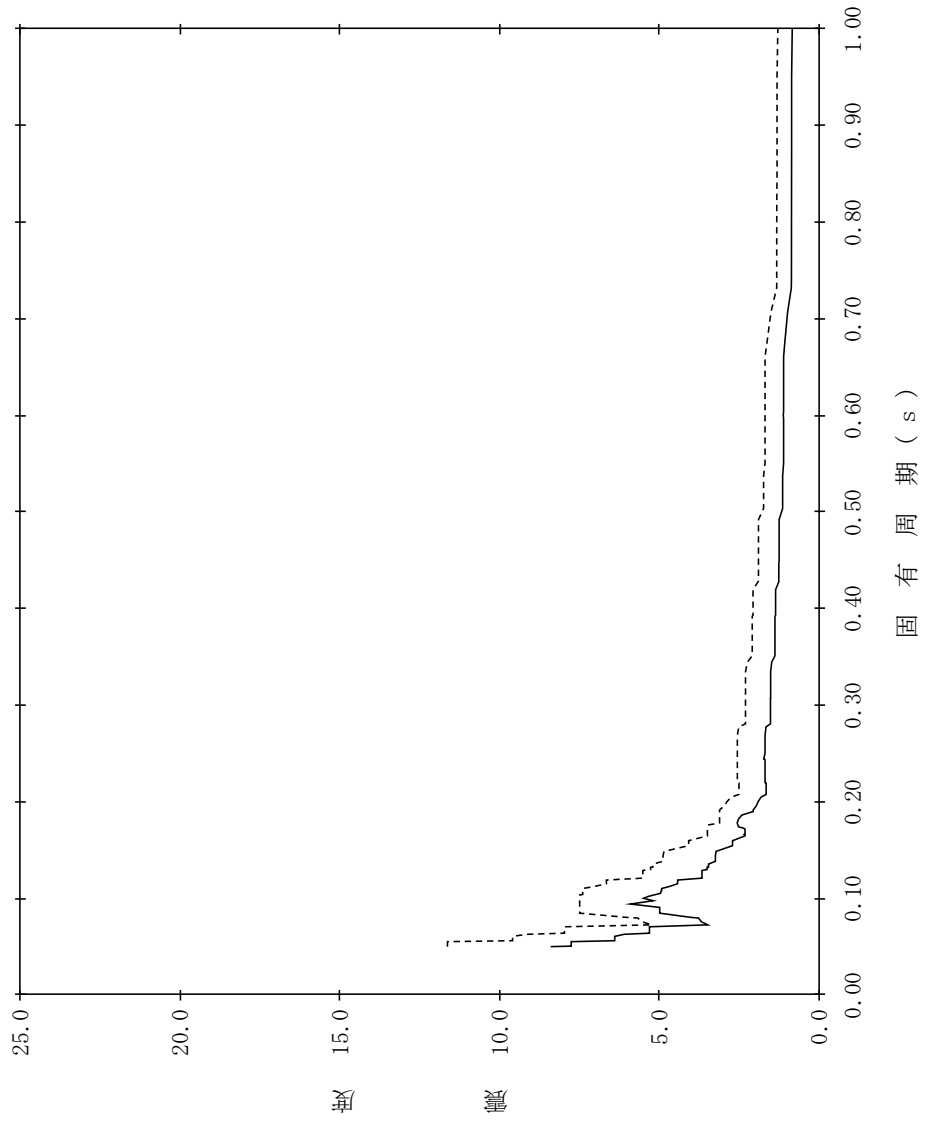
【NS2-PCV-SsV-GSW91】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

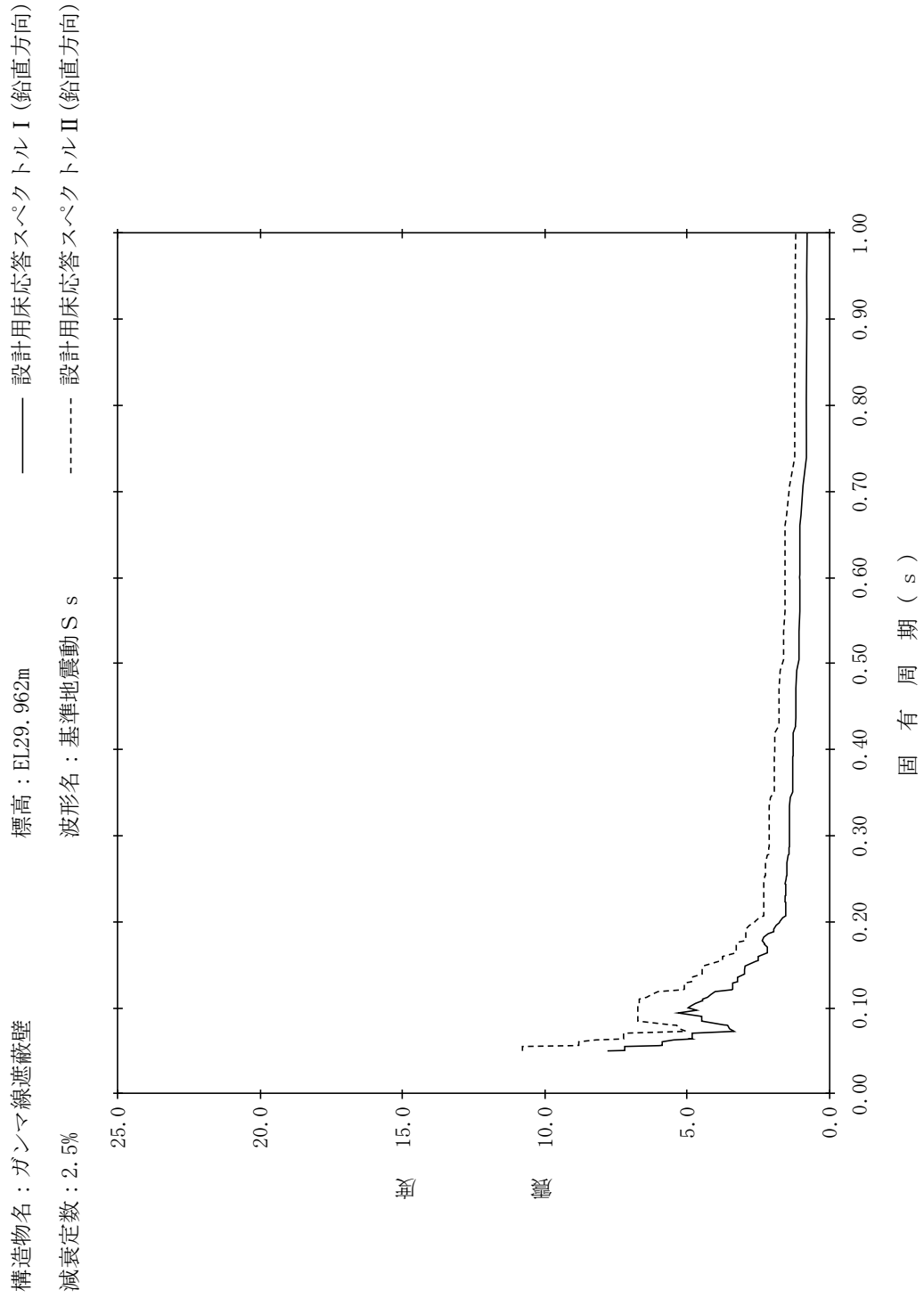


【NS2-PCV-SsV-GSW92】

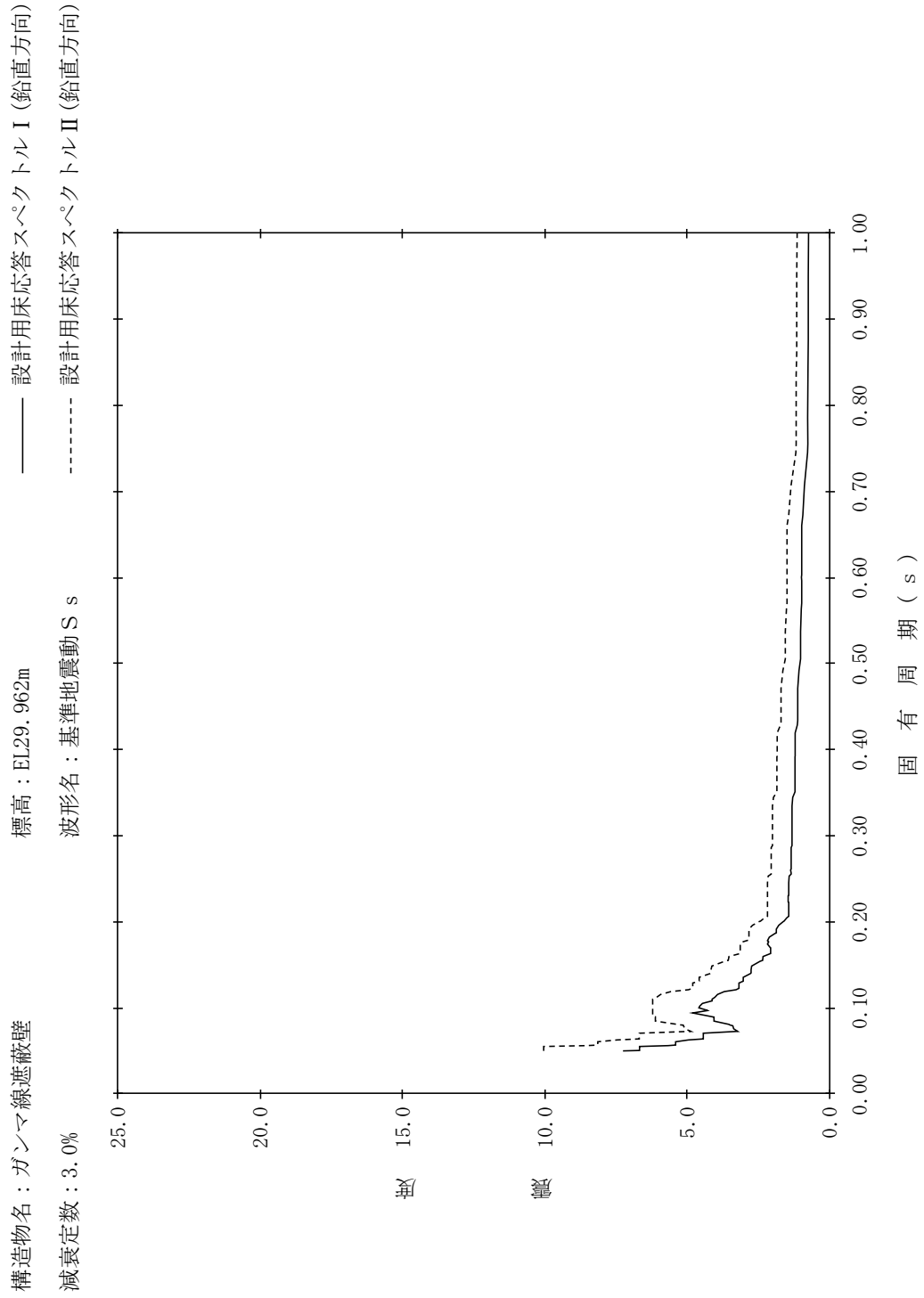
構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-PCV-SsV-GSW93】

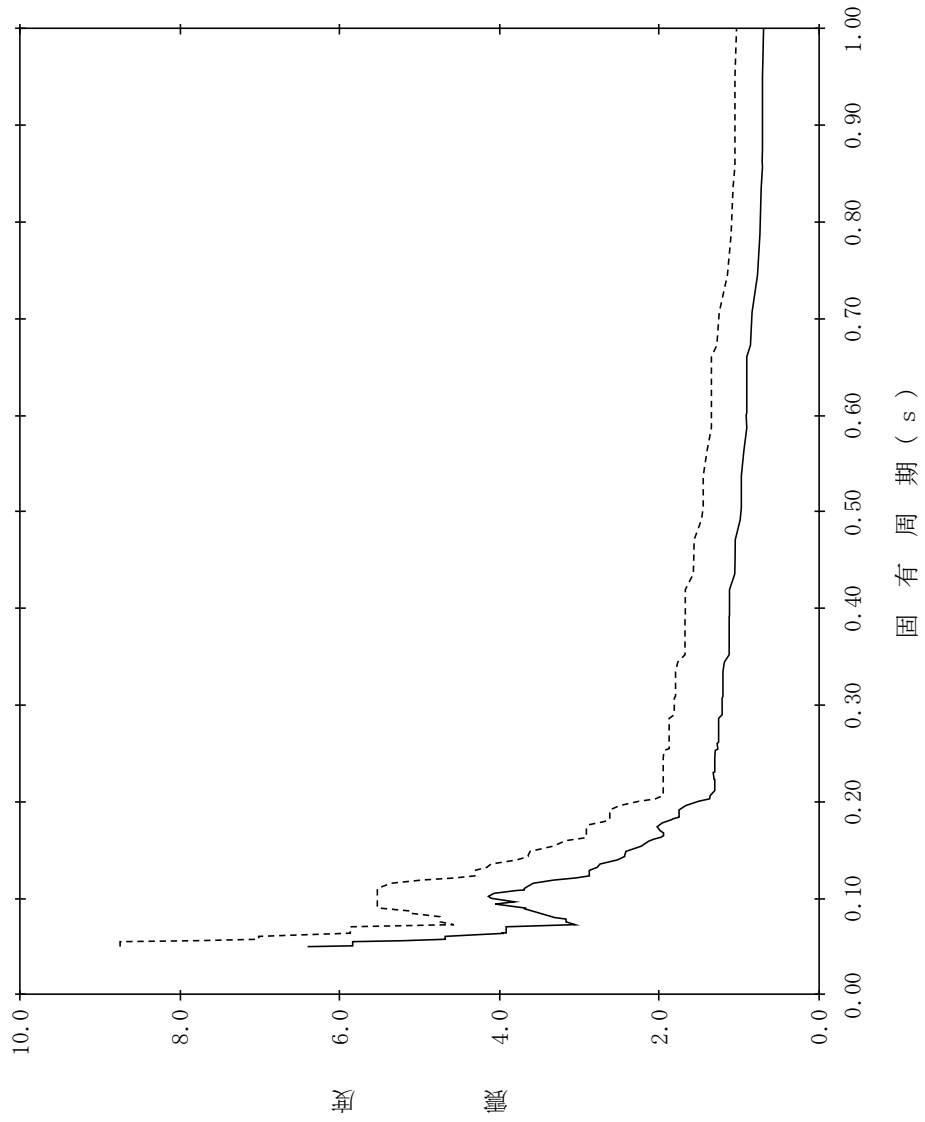


【NS2-PCV-SsV-GSW94】



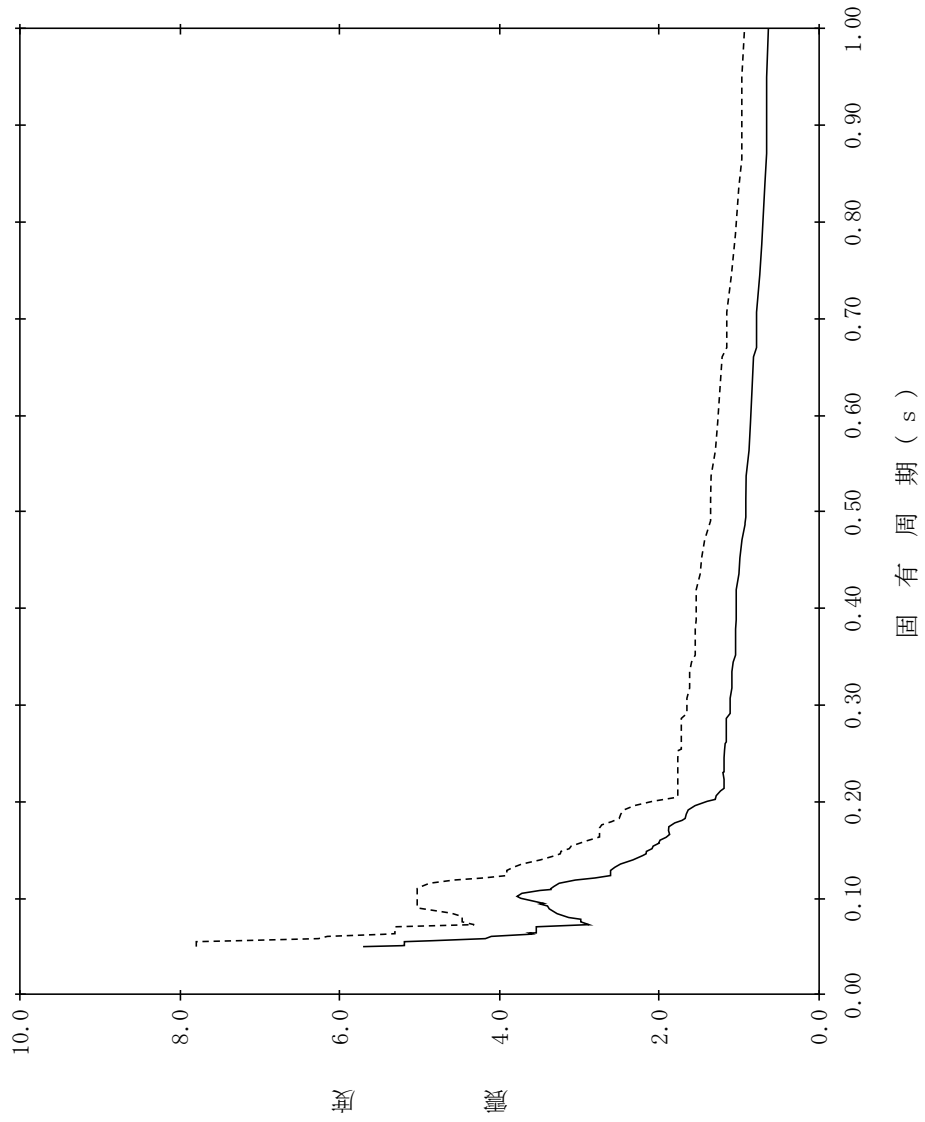
【NS2-PCV-SsV-GSW95】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



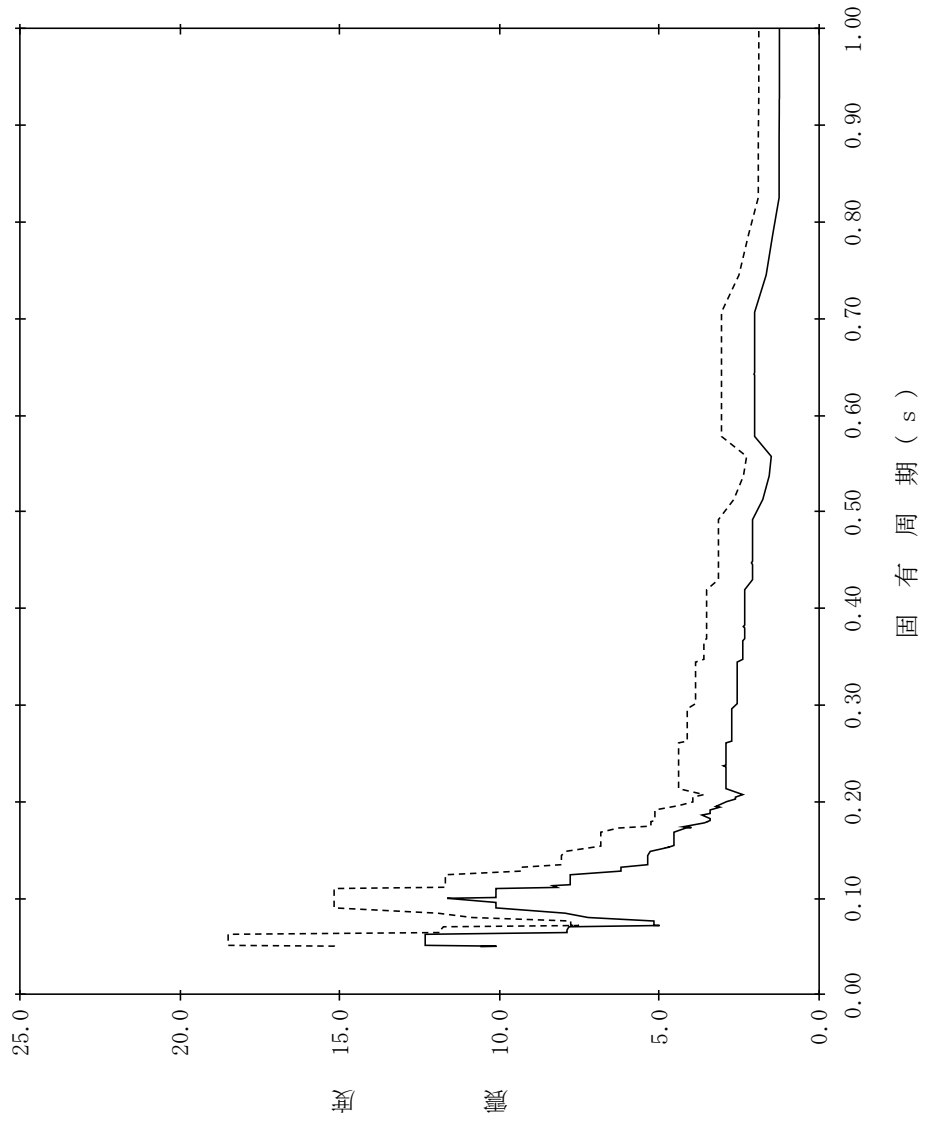
【NS2-PCV-SsV-GSW96】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL29.962m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



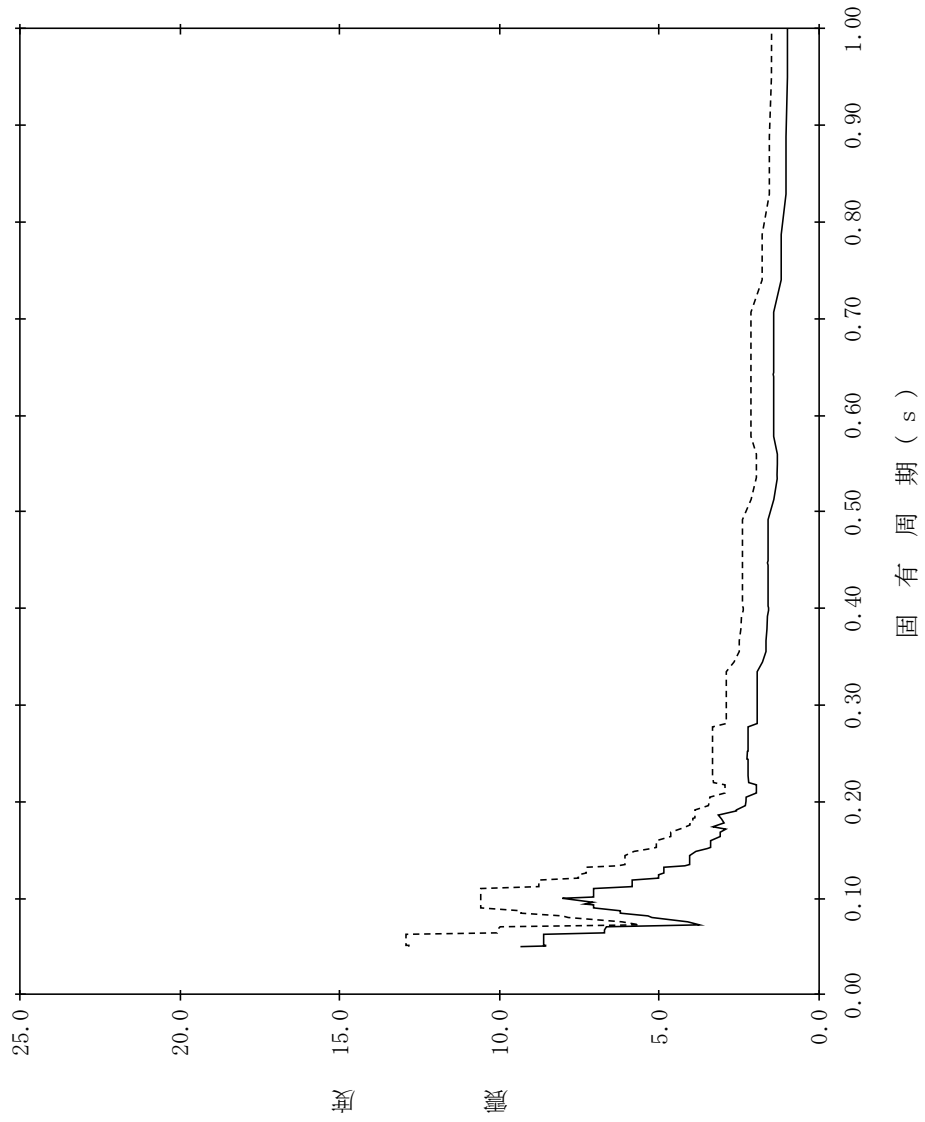
【NS2-PCV-SsV-GSW97】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



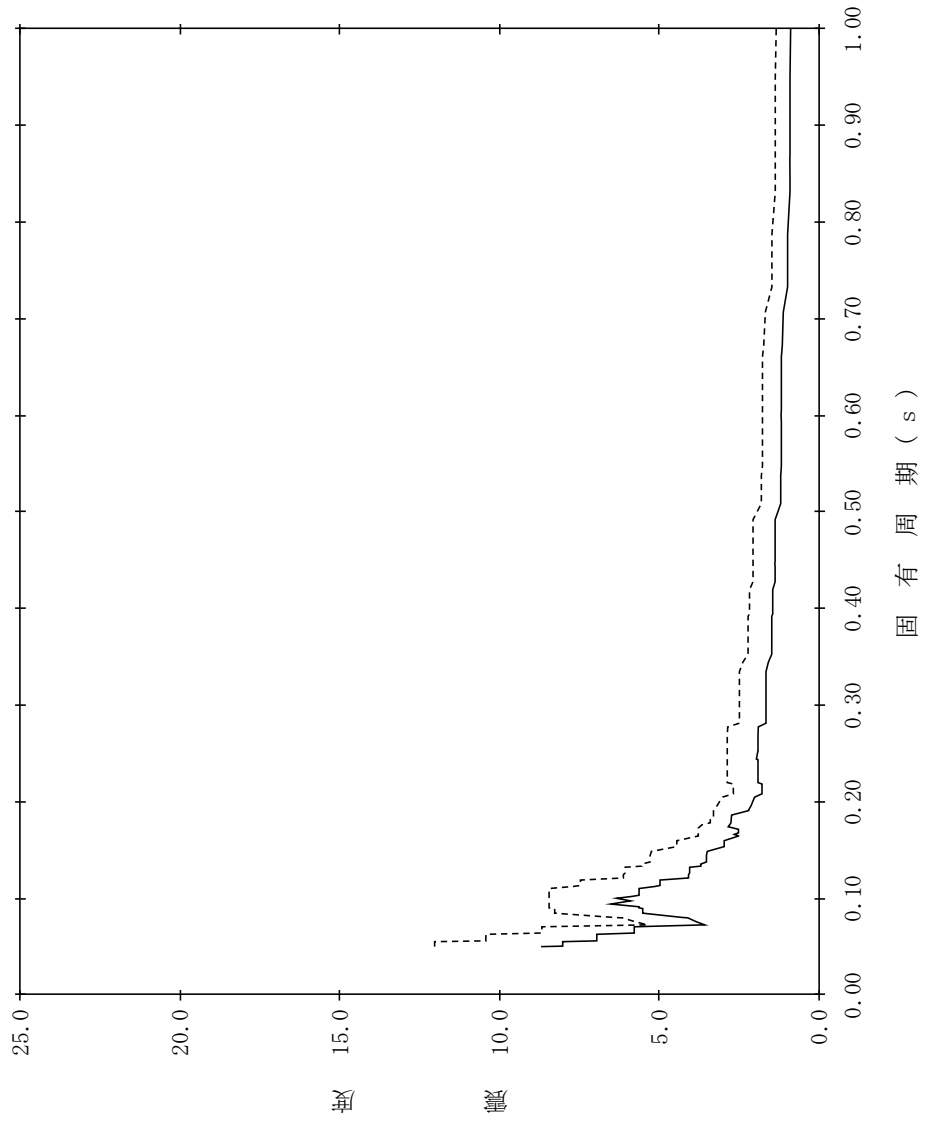
【NS2-PCV-SsV-GSW98】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL26.981m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



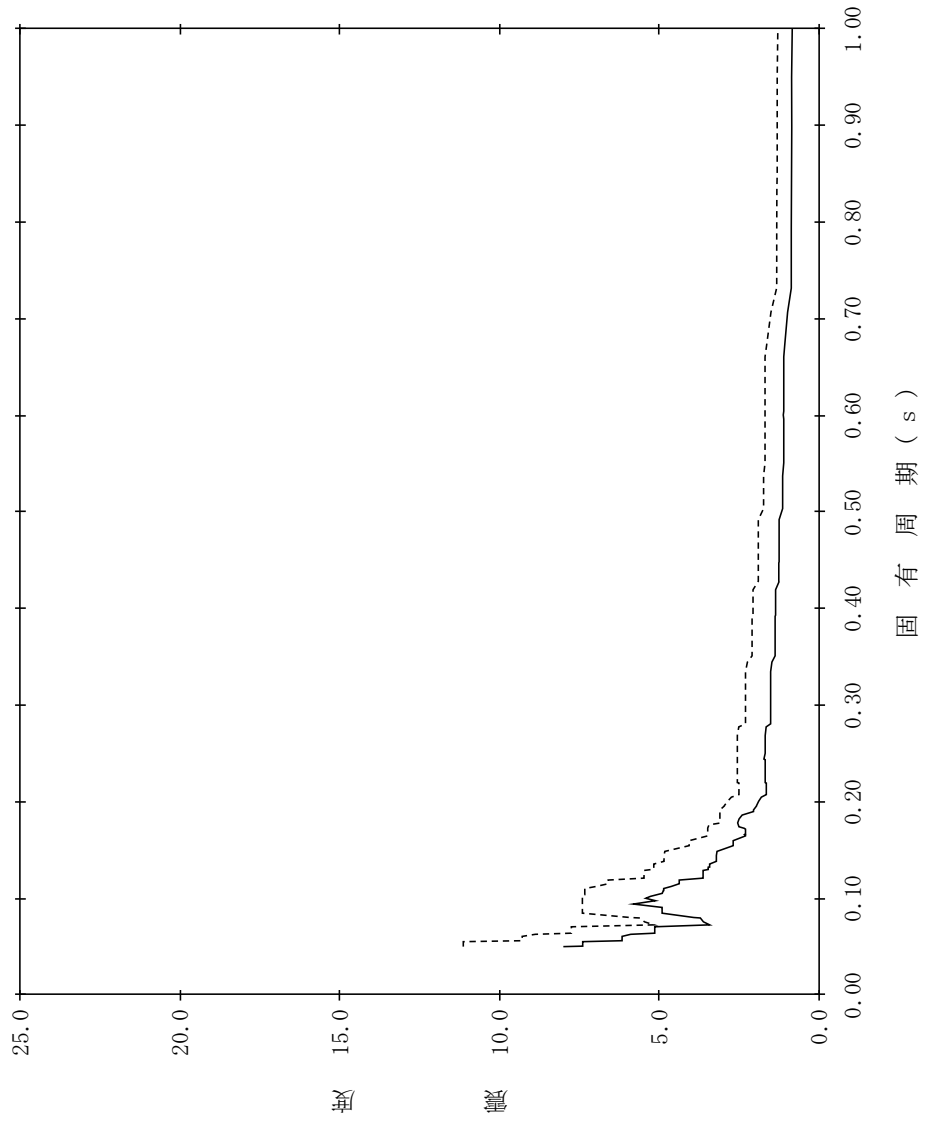
【NS2-PCV-SsV-GSW99】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



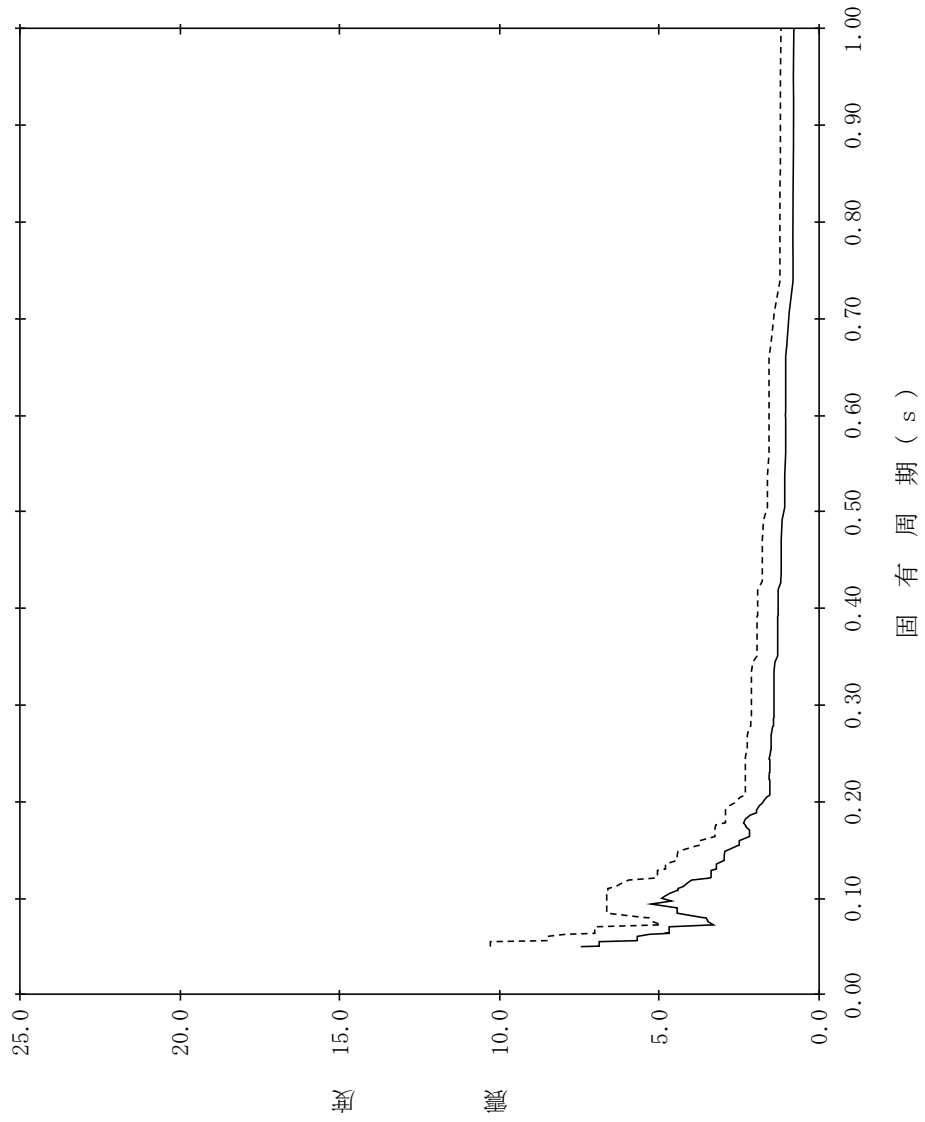
【NS2-PCV-SsV-GSW100】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



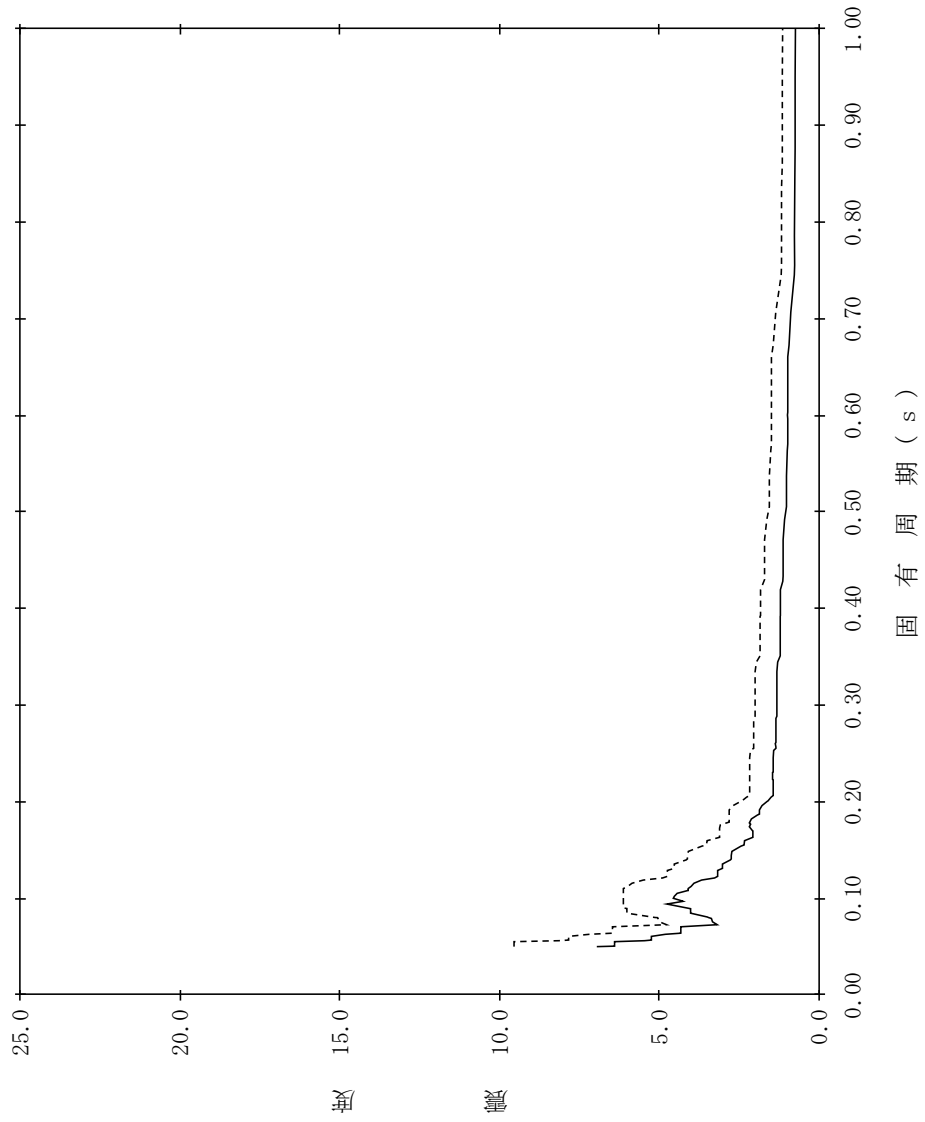
【NS2-PCV-SsV-GSW101】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



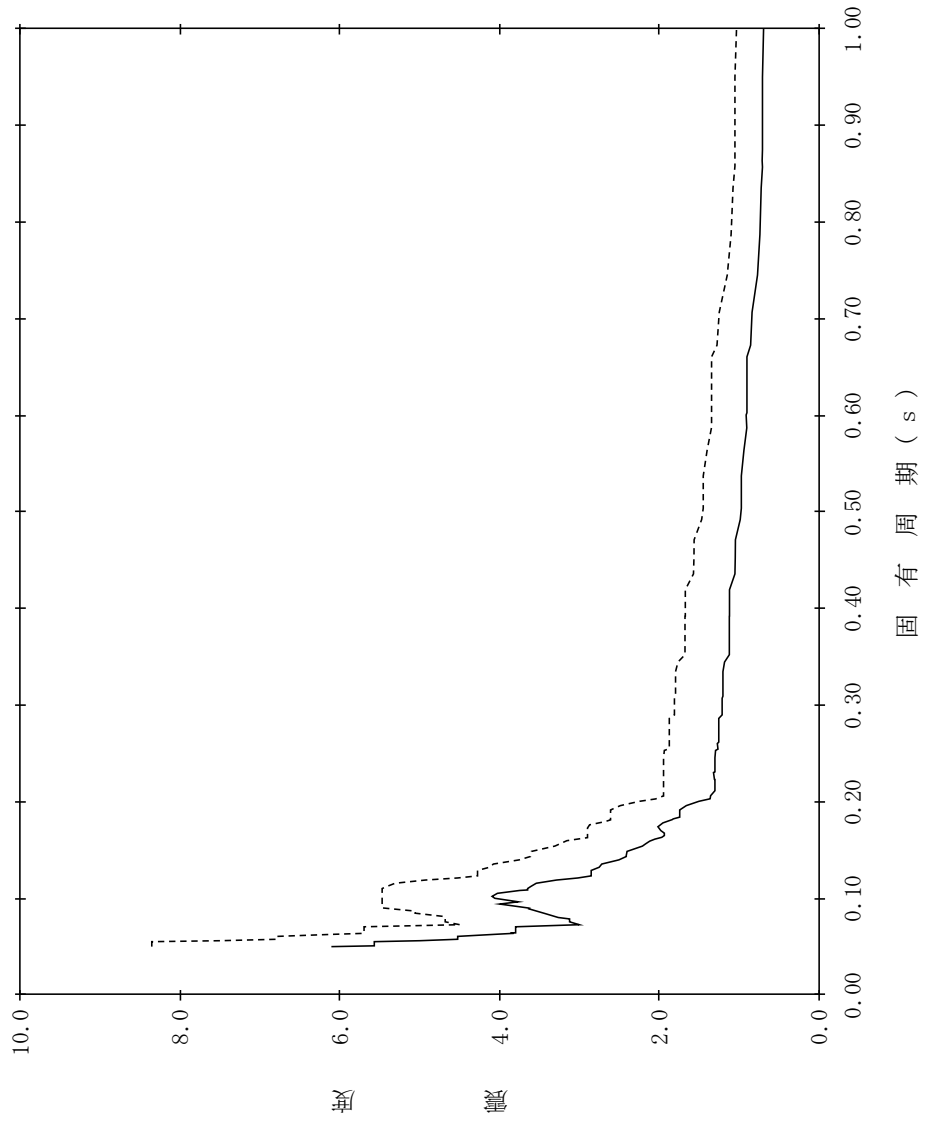
【NS2-PCV-SsV-GSW102】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



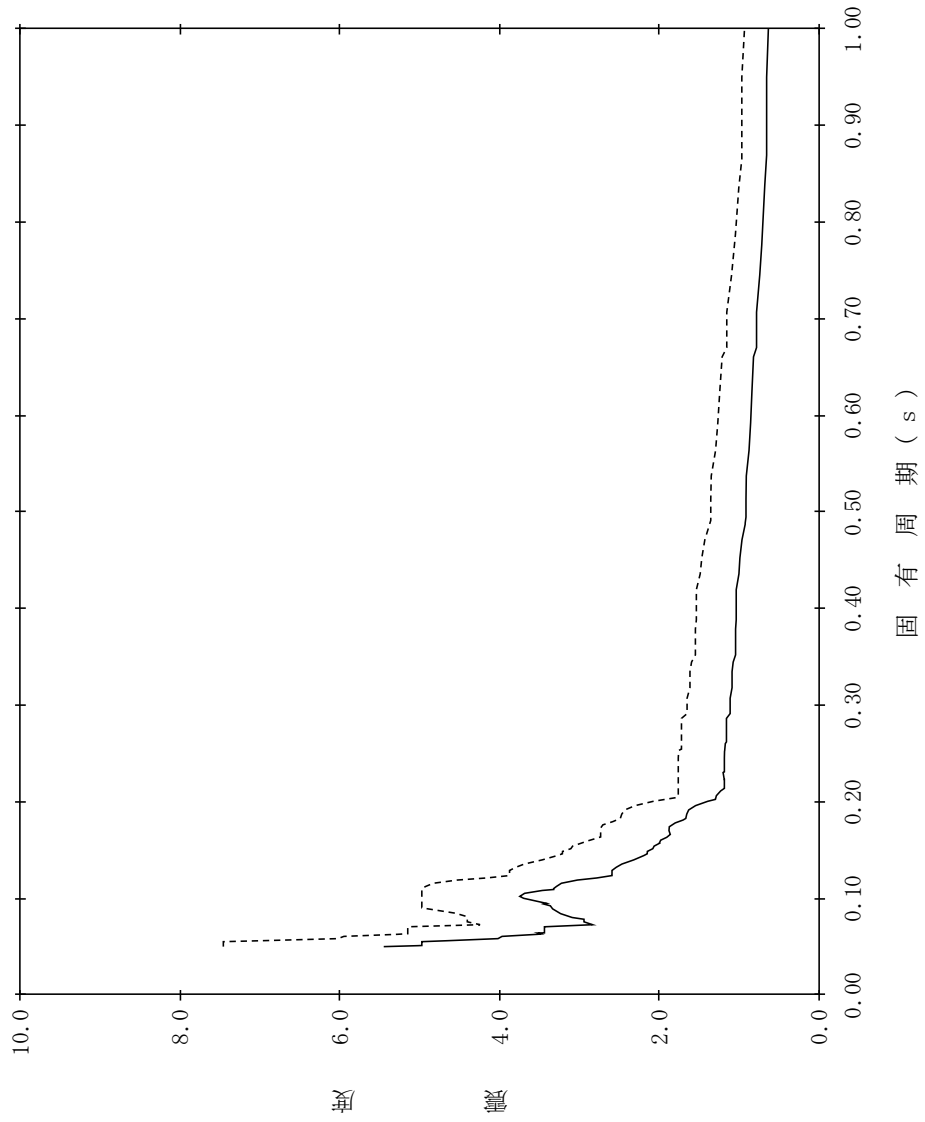
【NS2-PCV-SsV-GSW103】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



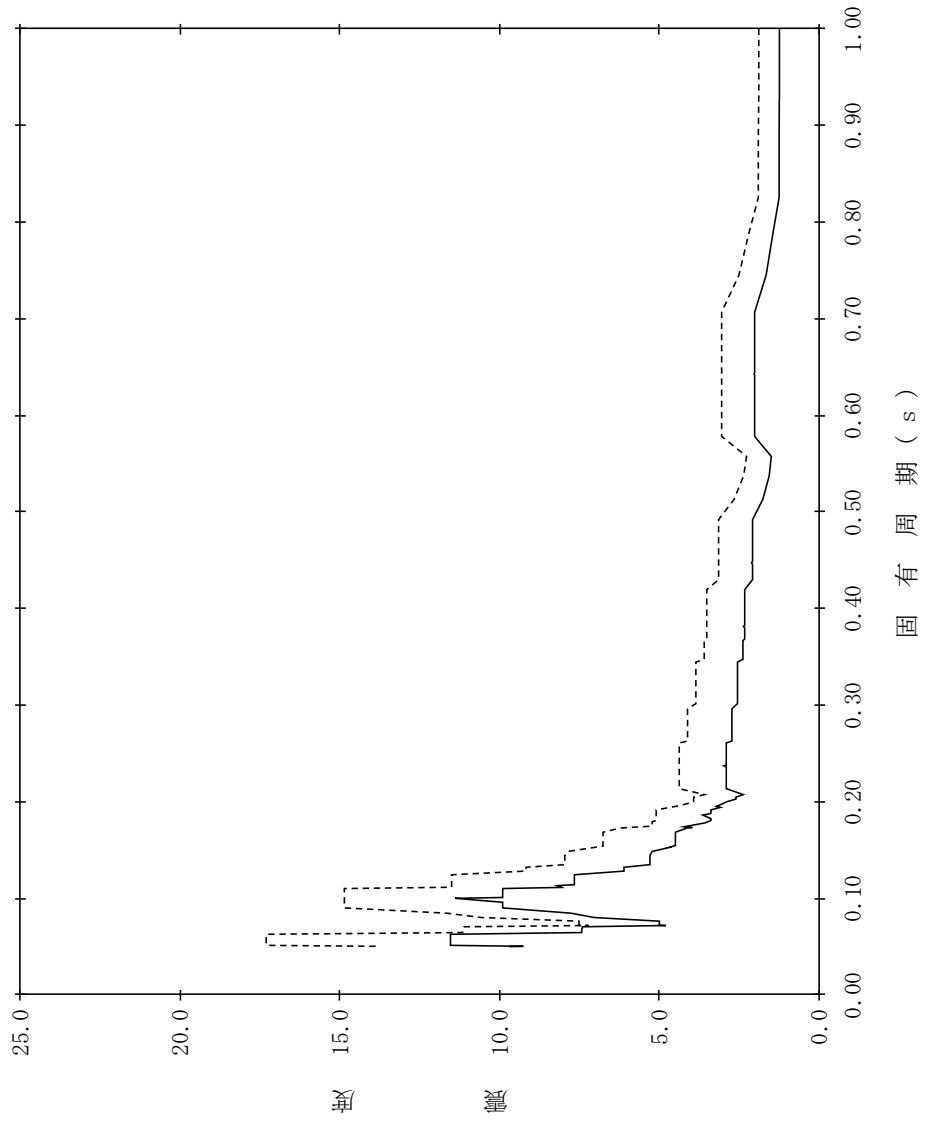
【NS2-PCV-SsV-GSW104】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL26.981m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



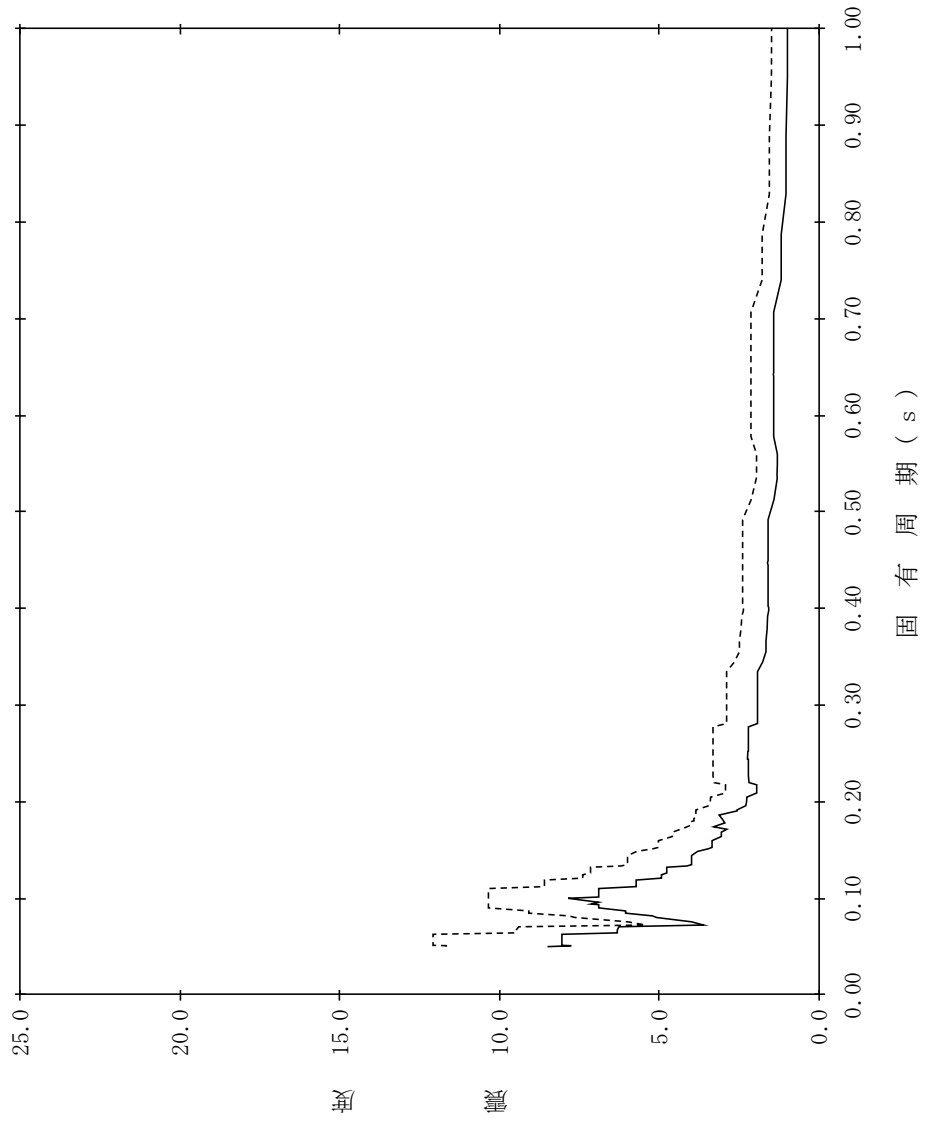
【NS2-PCV-SsV-GSW105】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



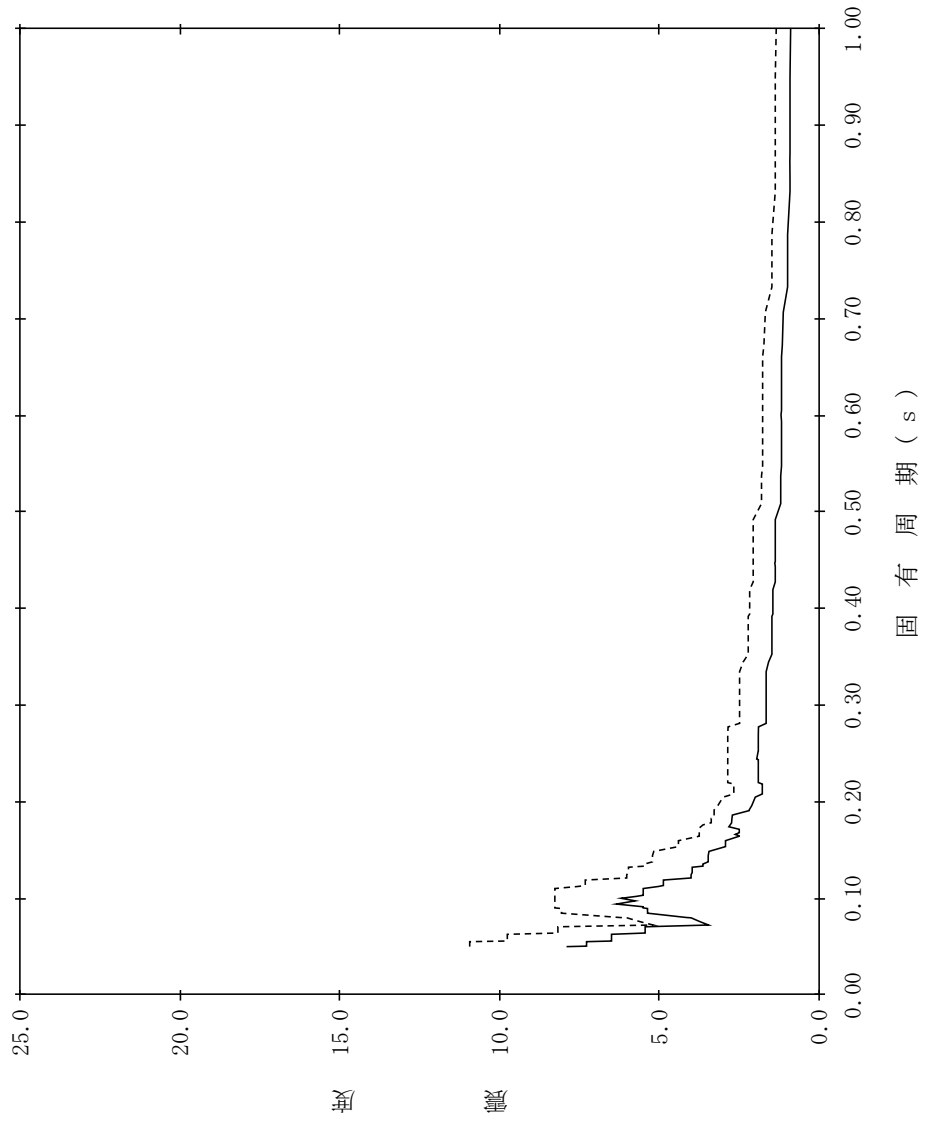
【NS2-PCV-SsV-GSW106】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



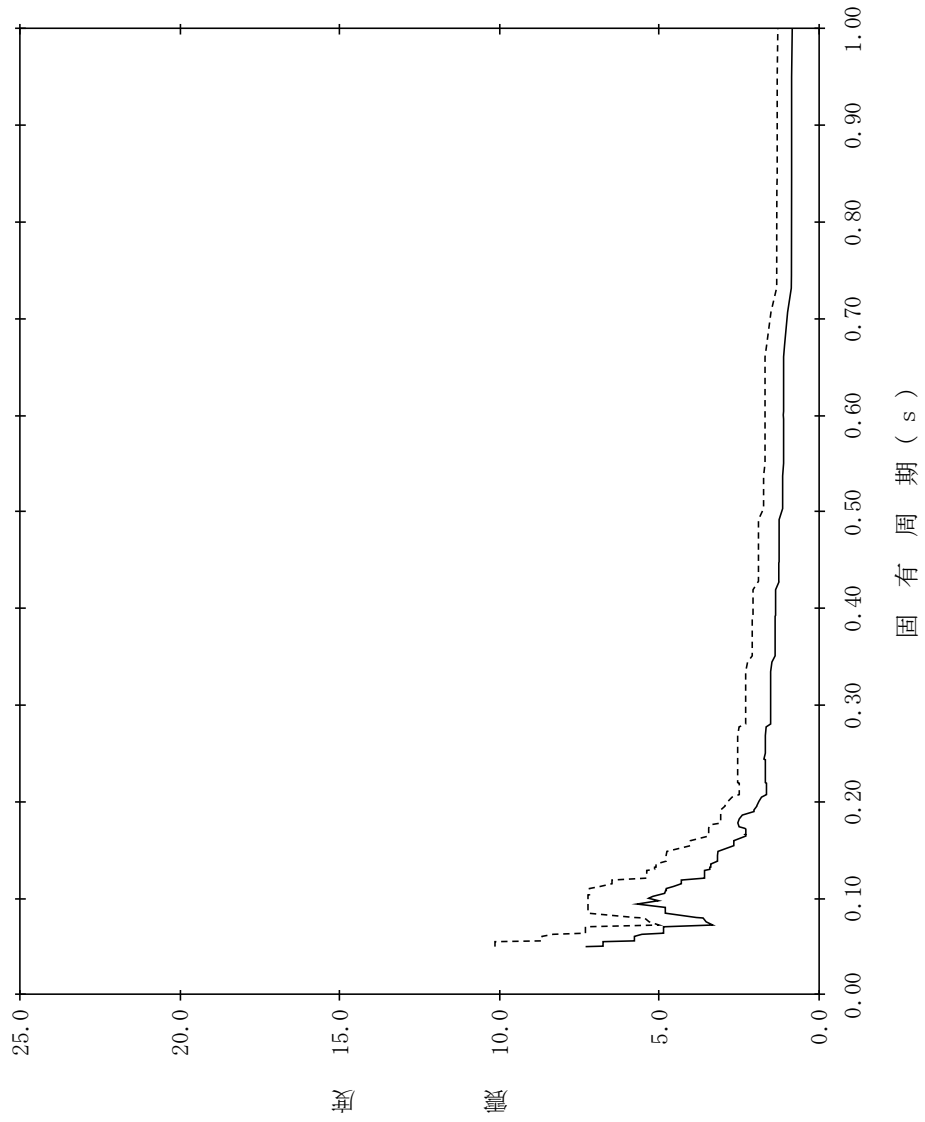
【NS2-PCV-SsV-GSW107】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



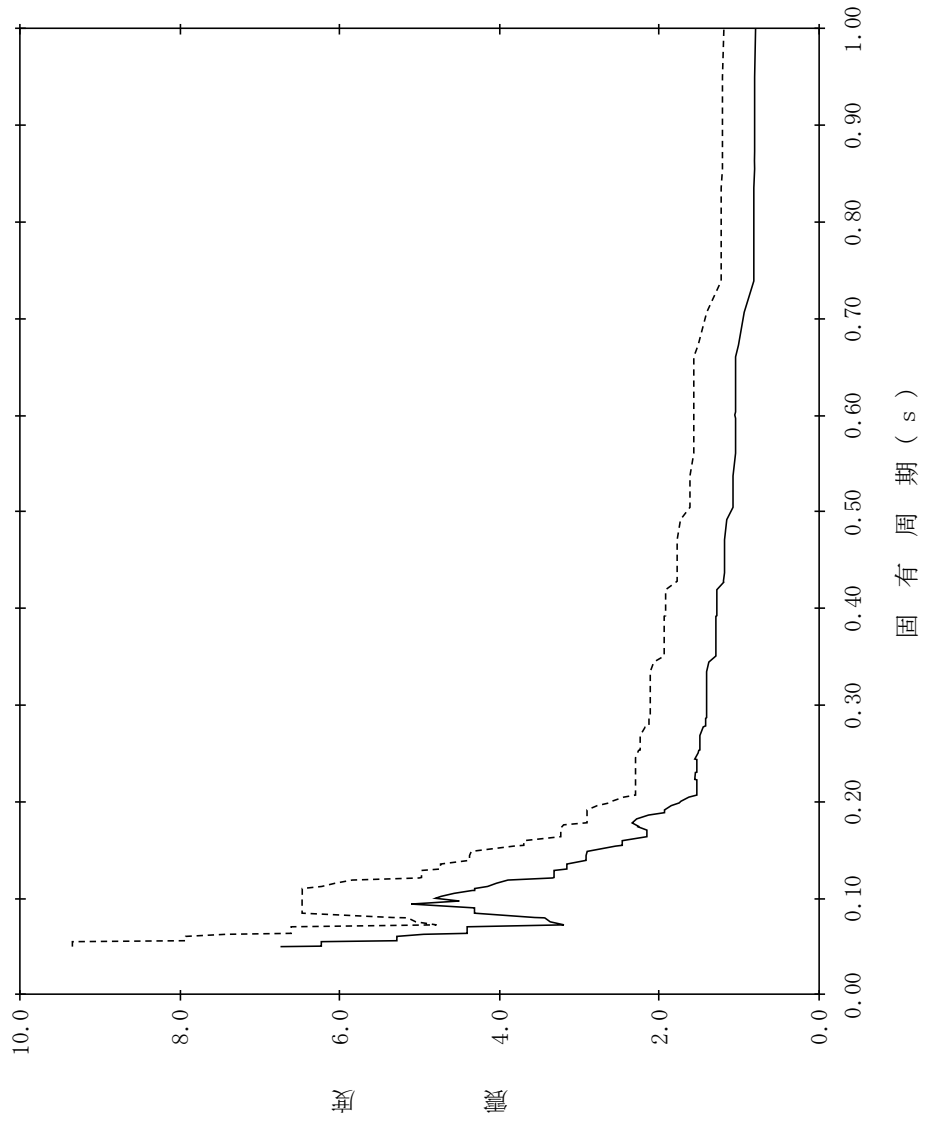
【NS2-PCV-SsV-GSW108】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



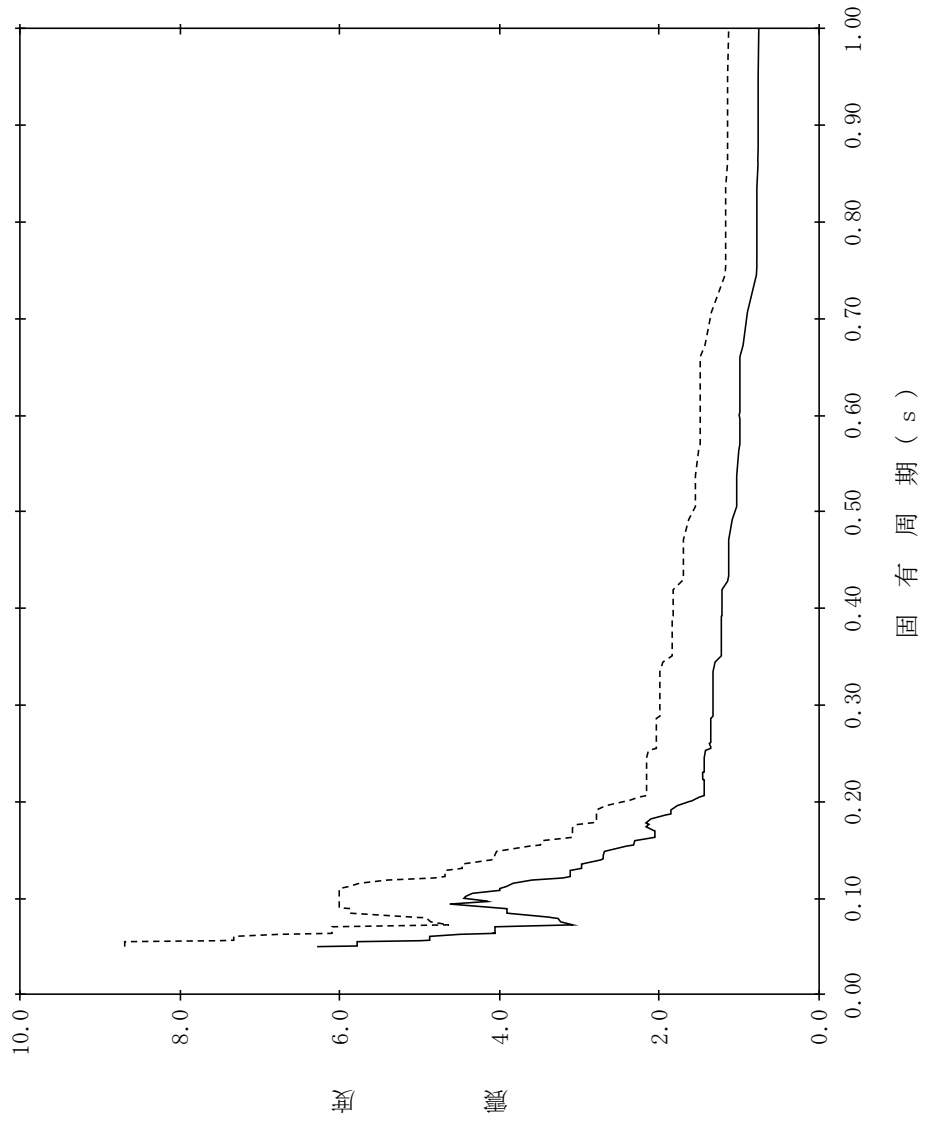
【NS2-PCV-SsV-GSW109】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



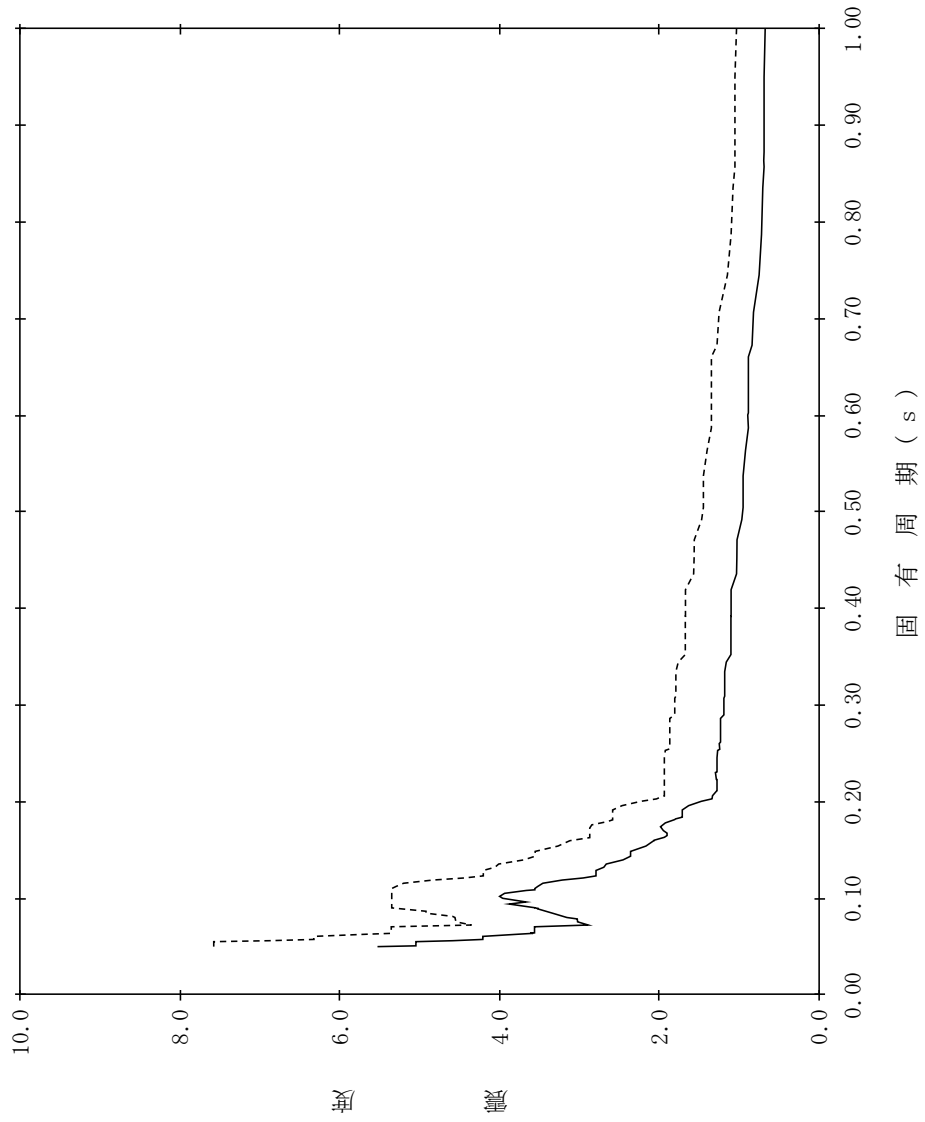
【NS2-PCV-SsV-GSW110】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



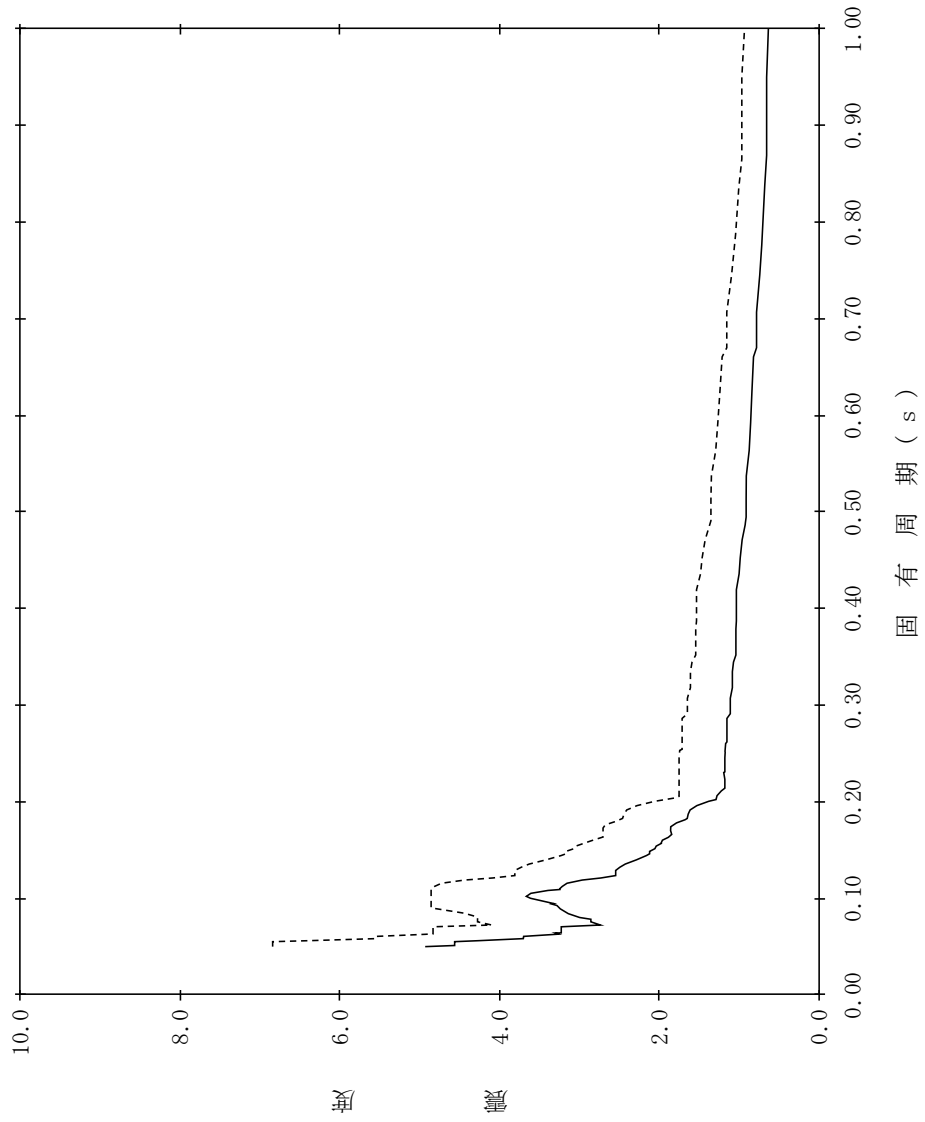
【NS2-PCV-SsV-GSW111】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



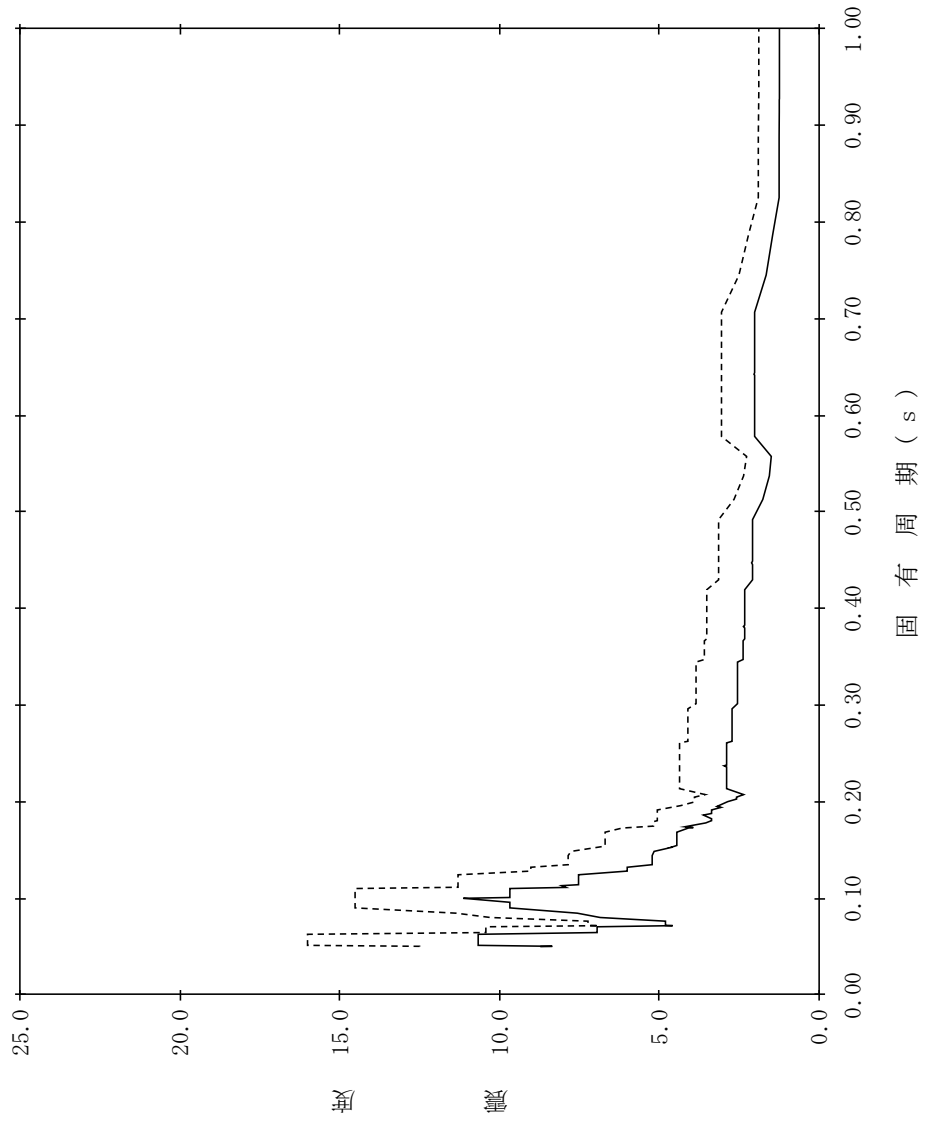
【NS2-PCV-SsV-GSW112】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL24.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



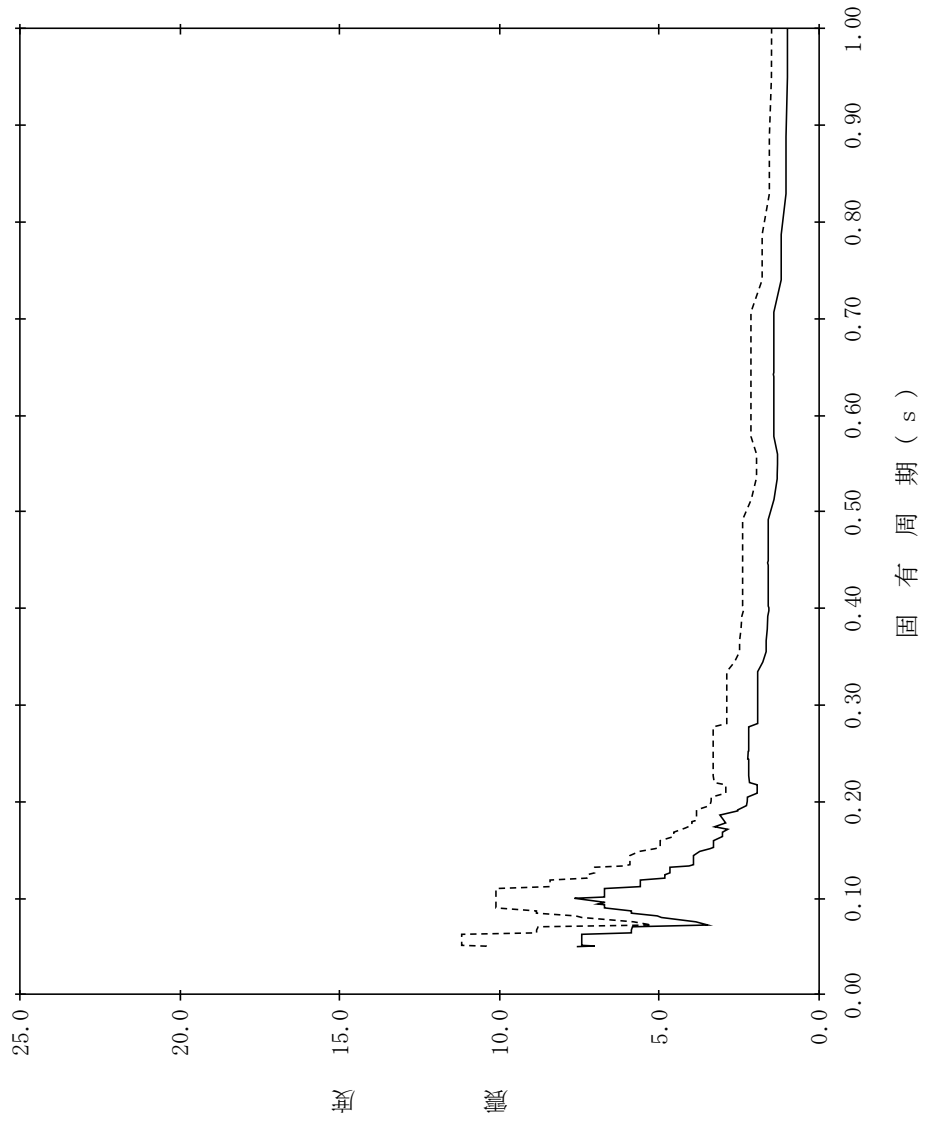
【NS2-PCV-SsV-GSW113】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



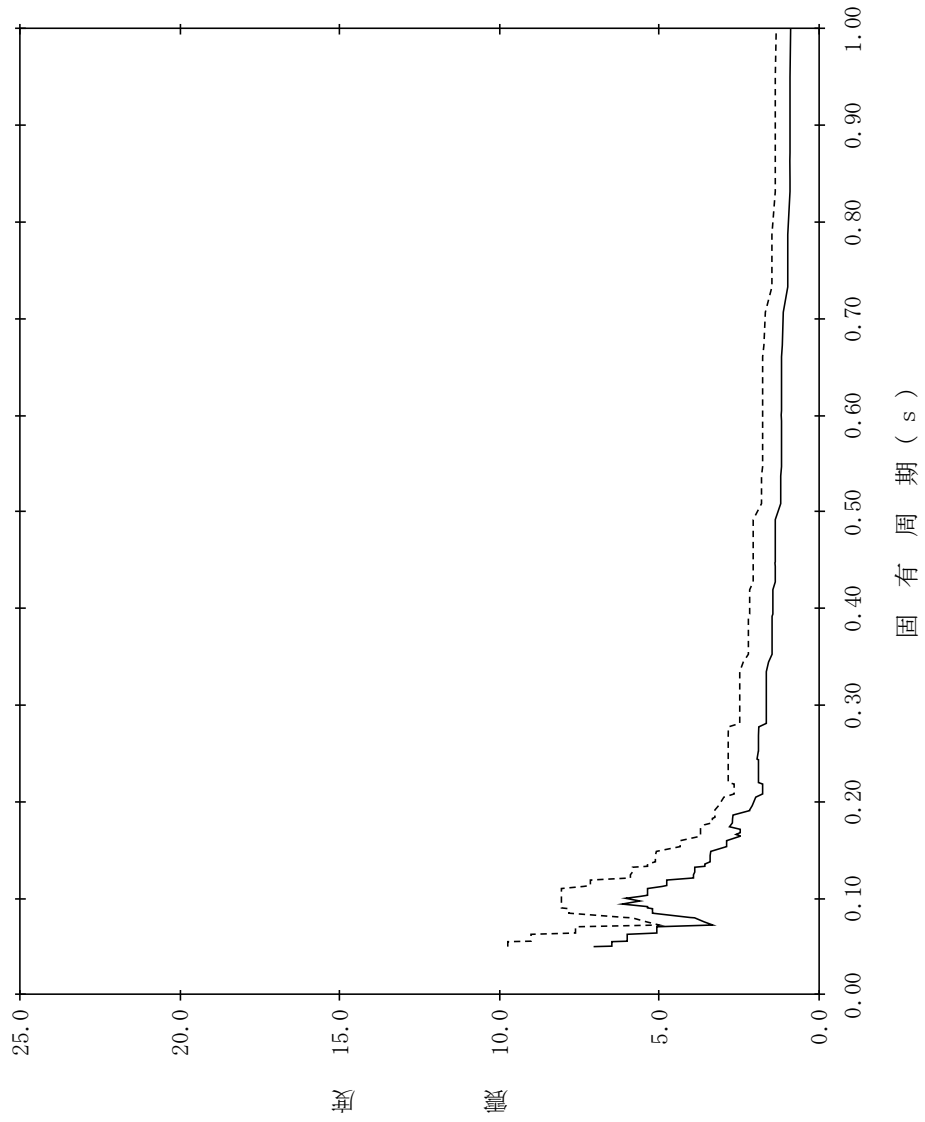
【NS2-PCV-SsV-GSW114】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
標高：EL21.500m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



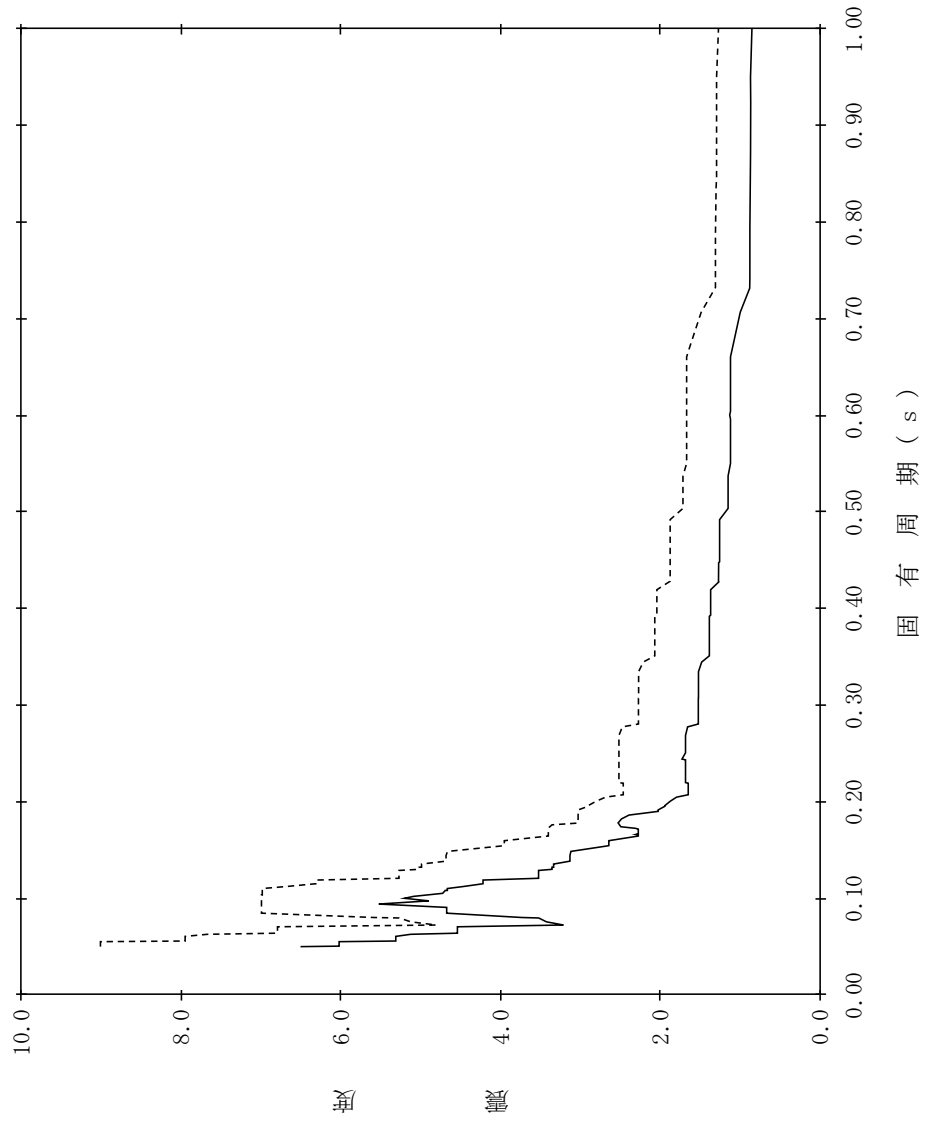
【NS2-PCV-SsV-GSW115】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL1.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



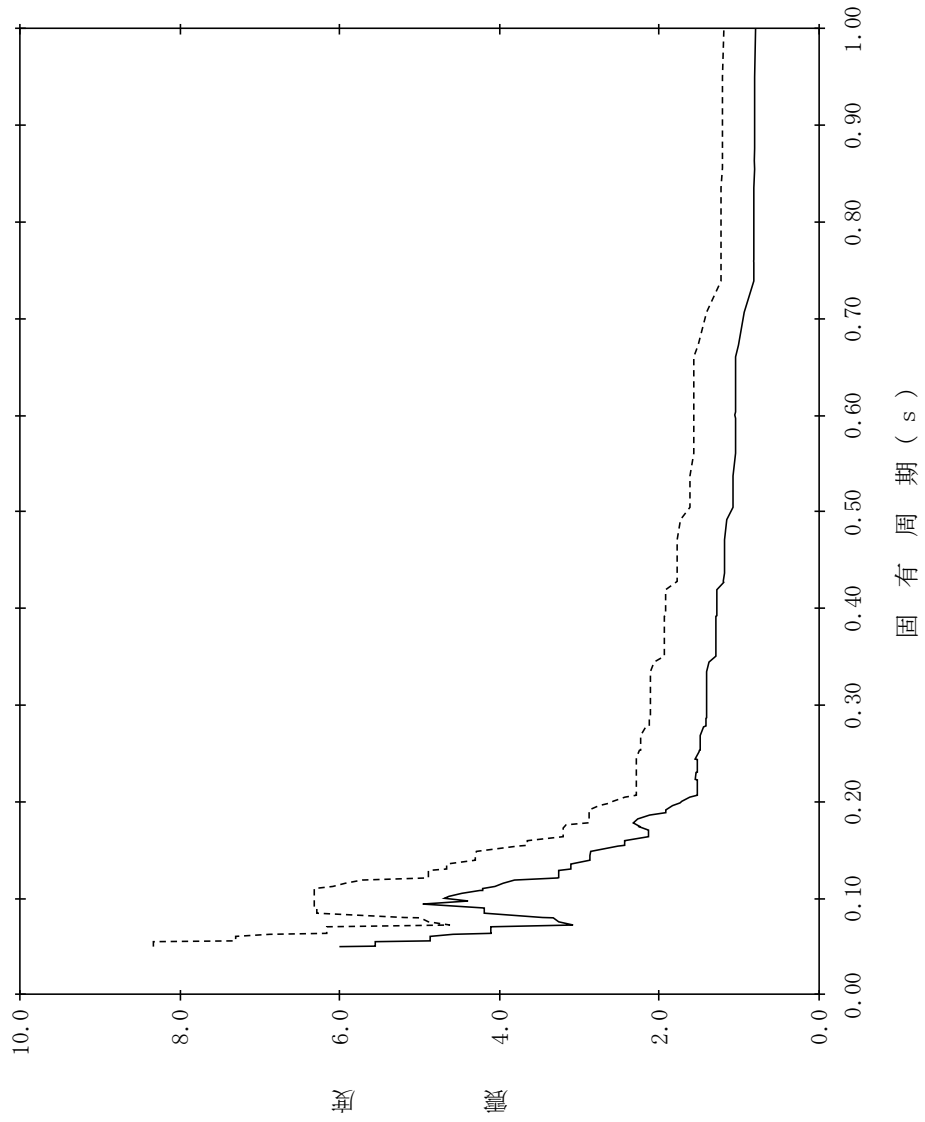
【NS2-PCV-SsV-GSW116】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



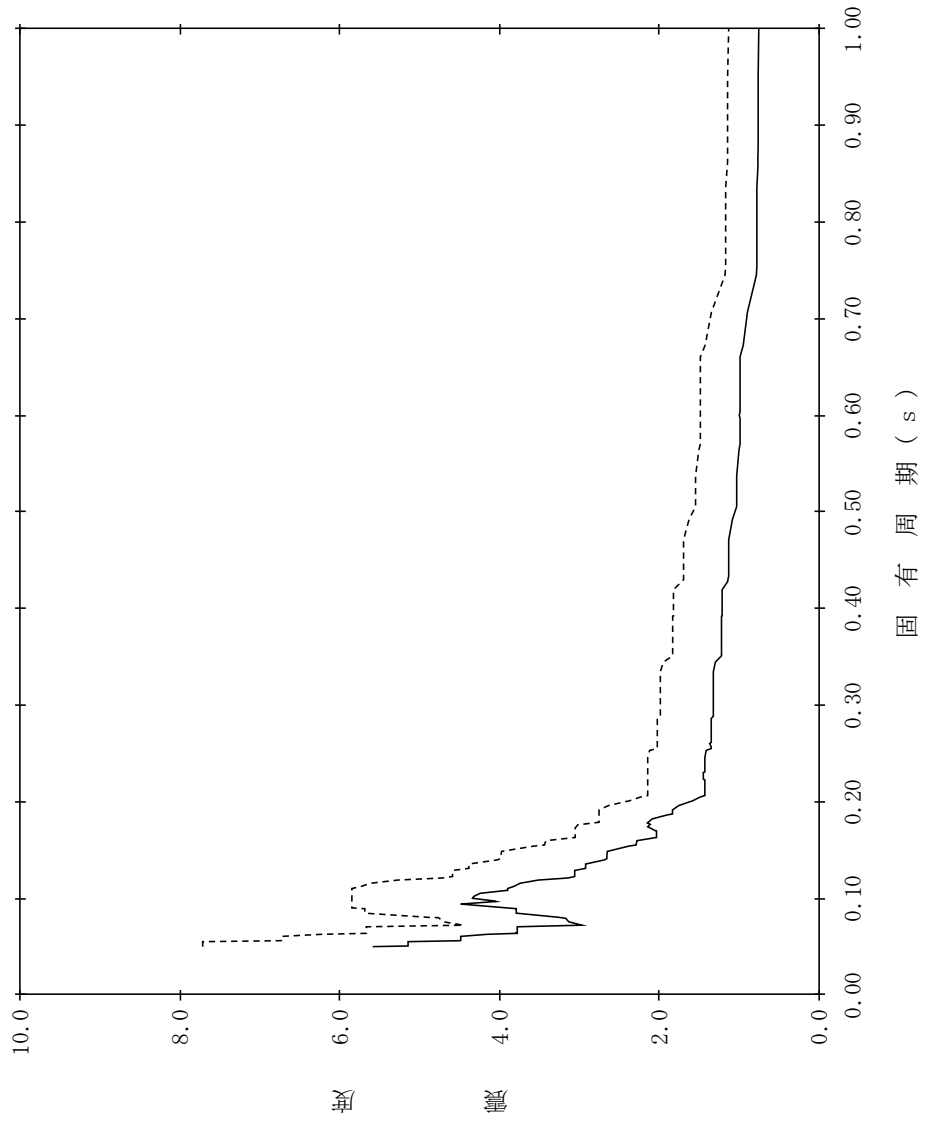
【NS2-PCV-SsV-GSW117】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



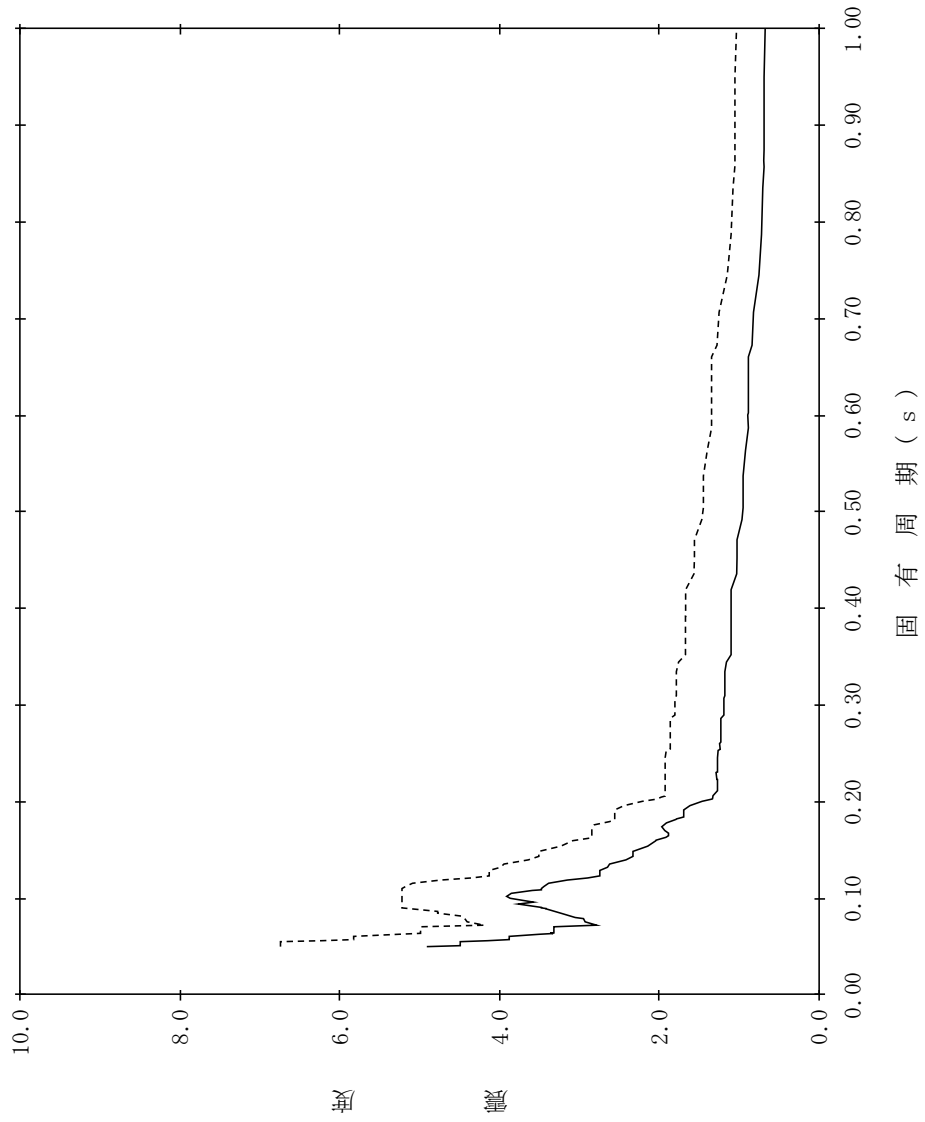
【NS2-PCV-SsV-GSW118】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL1.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



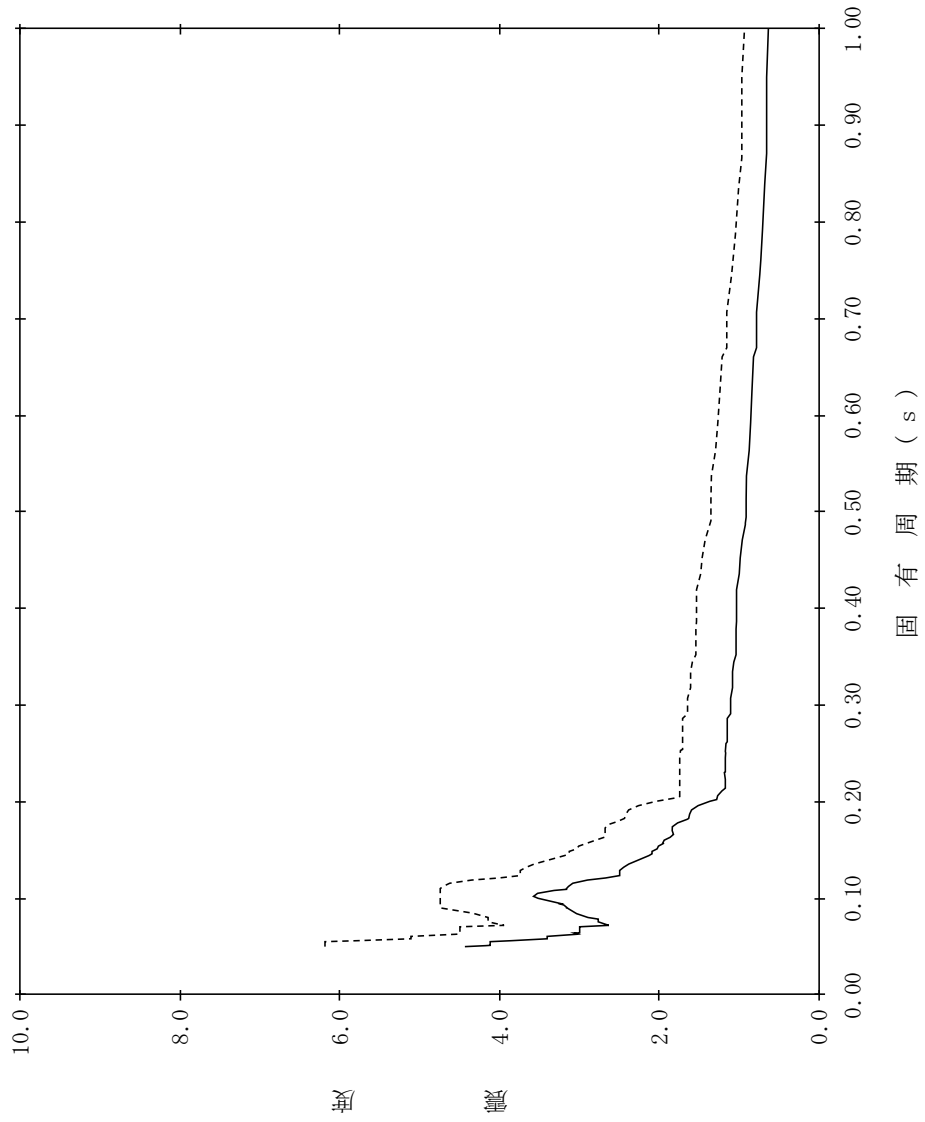
【NS2-PCV-SsV-GSW119】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL21.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



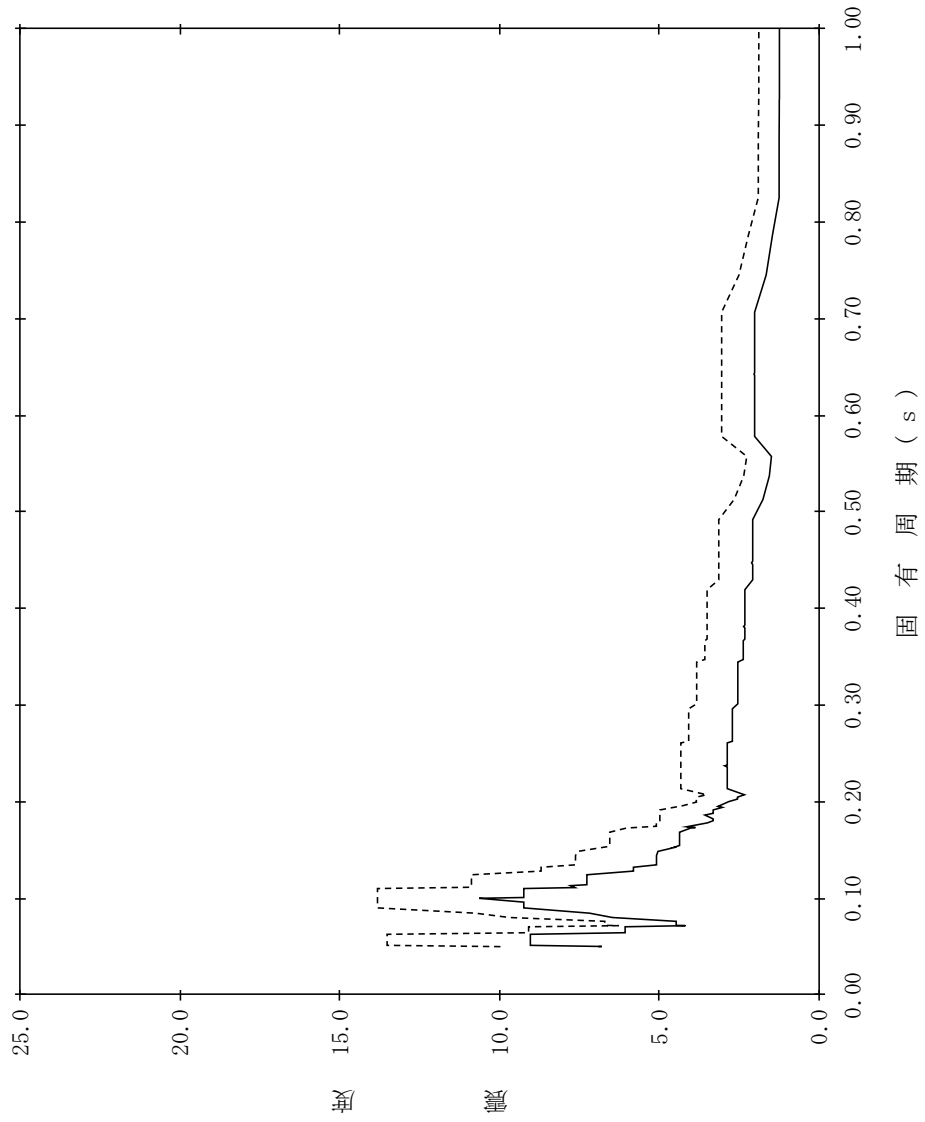
【NS2-PCV-SsV-GSW120】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL1.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



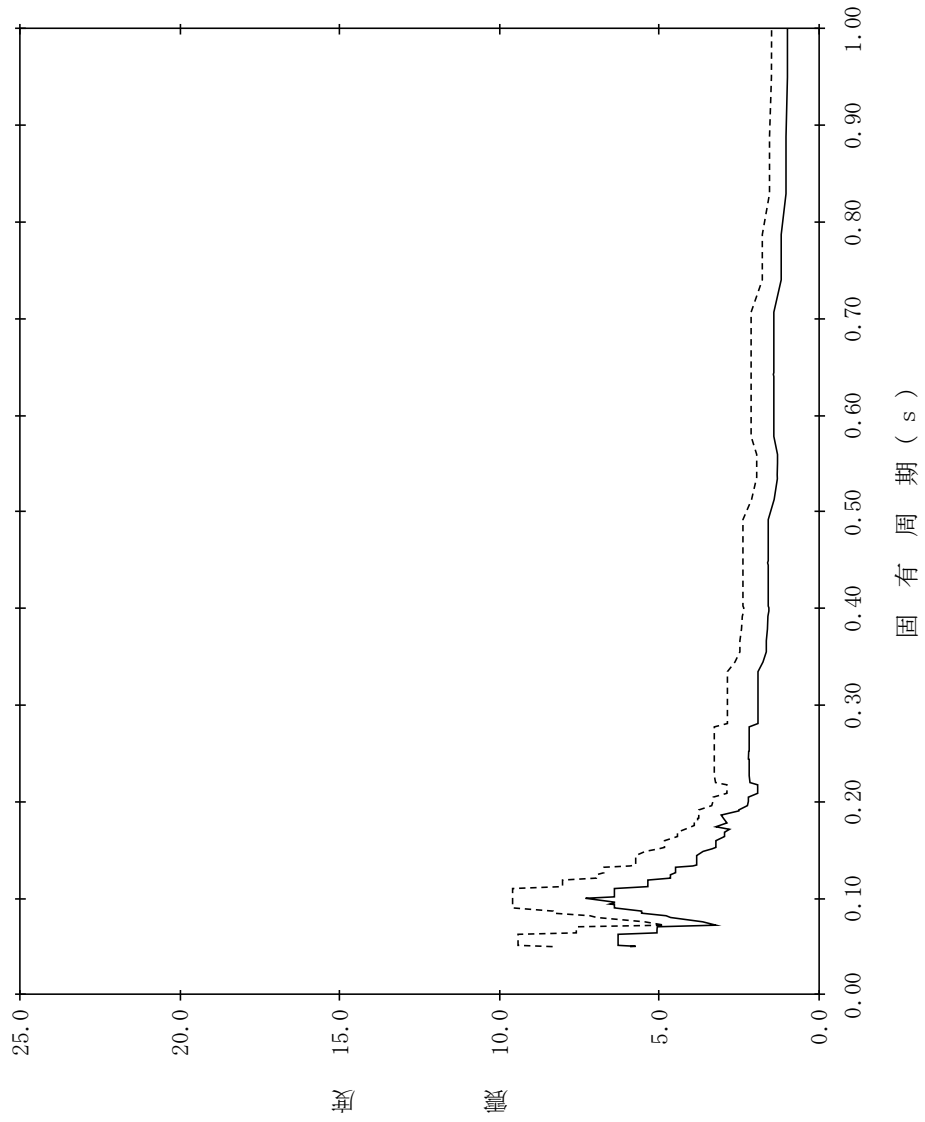
【NS2-PCV-SsV-GSW121】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-PCV-SsV-GSW122】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

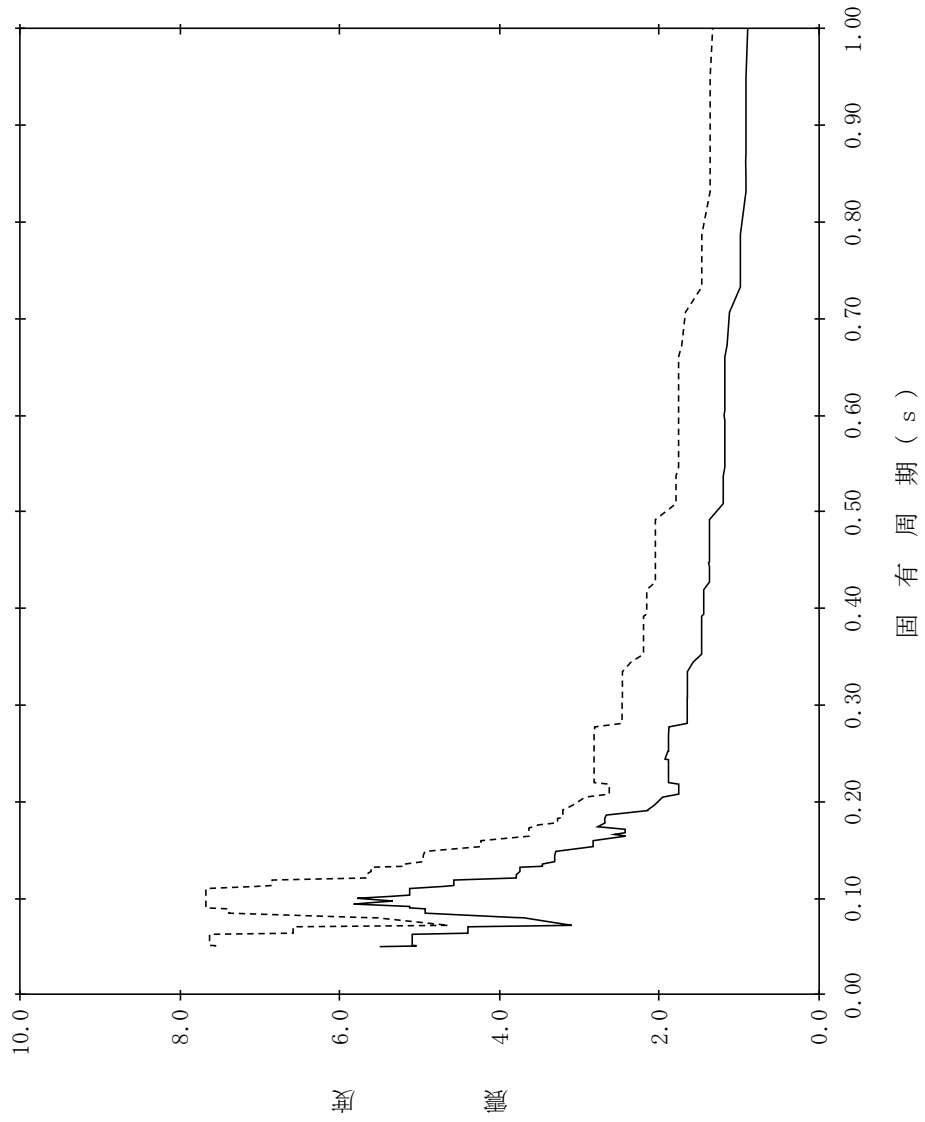


【NS2-PCV-SsV-GSW123】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：1.5%

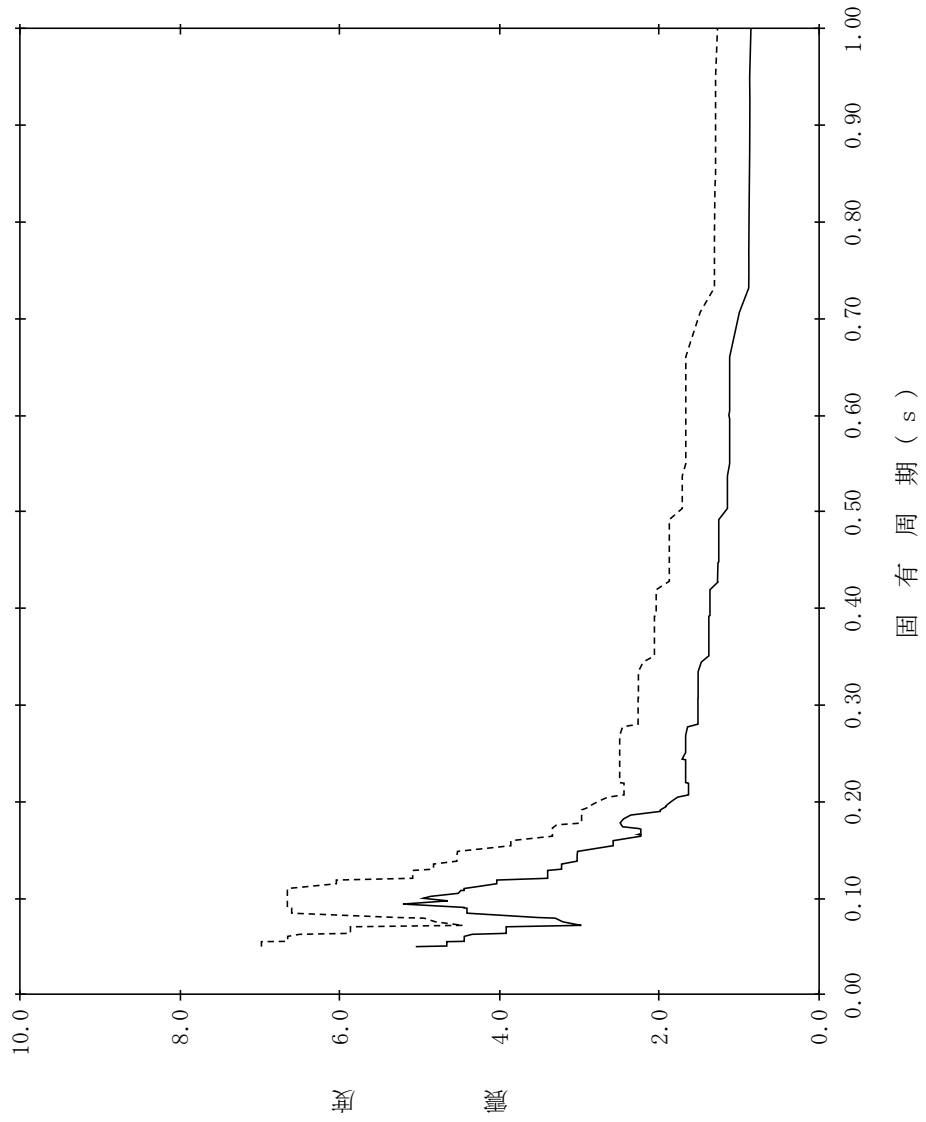
—— 設計用床応答スペクトルⅠ (鉛直方向)

- - - - 設計用床応答スペクトルⅡ (鉛直方向)



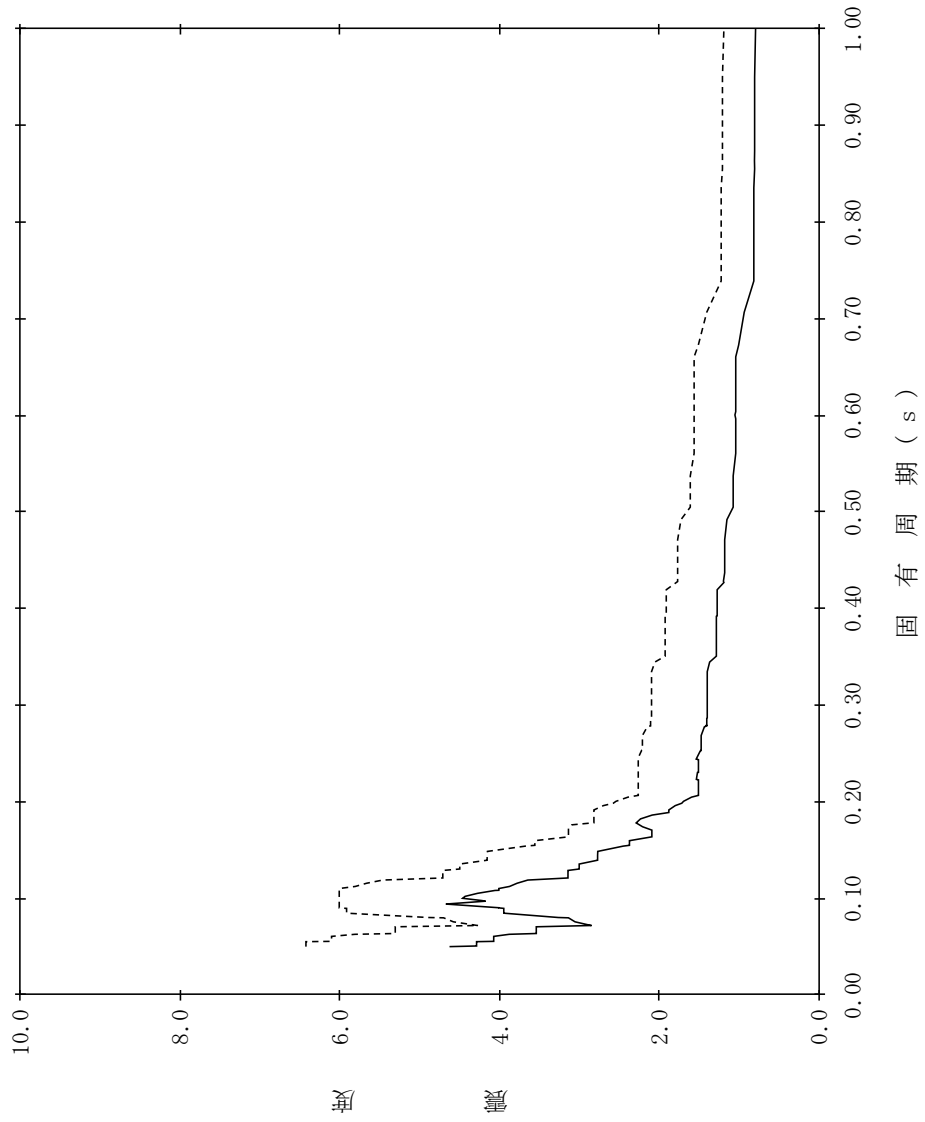
【NS2-PCV-SsV-GSW124】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



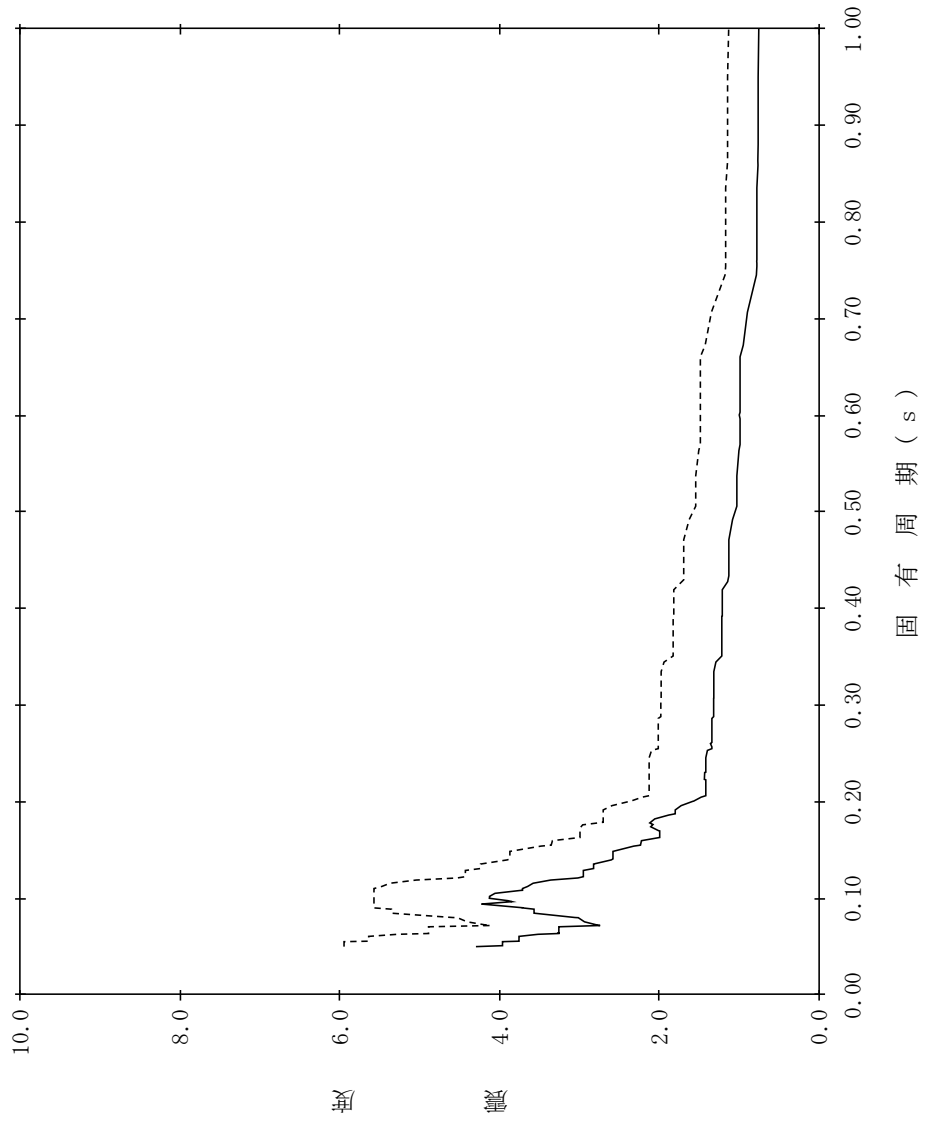
【NS2-PCV-SsV-GSW125】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



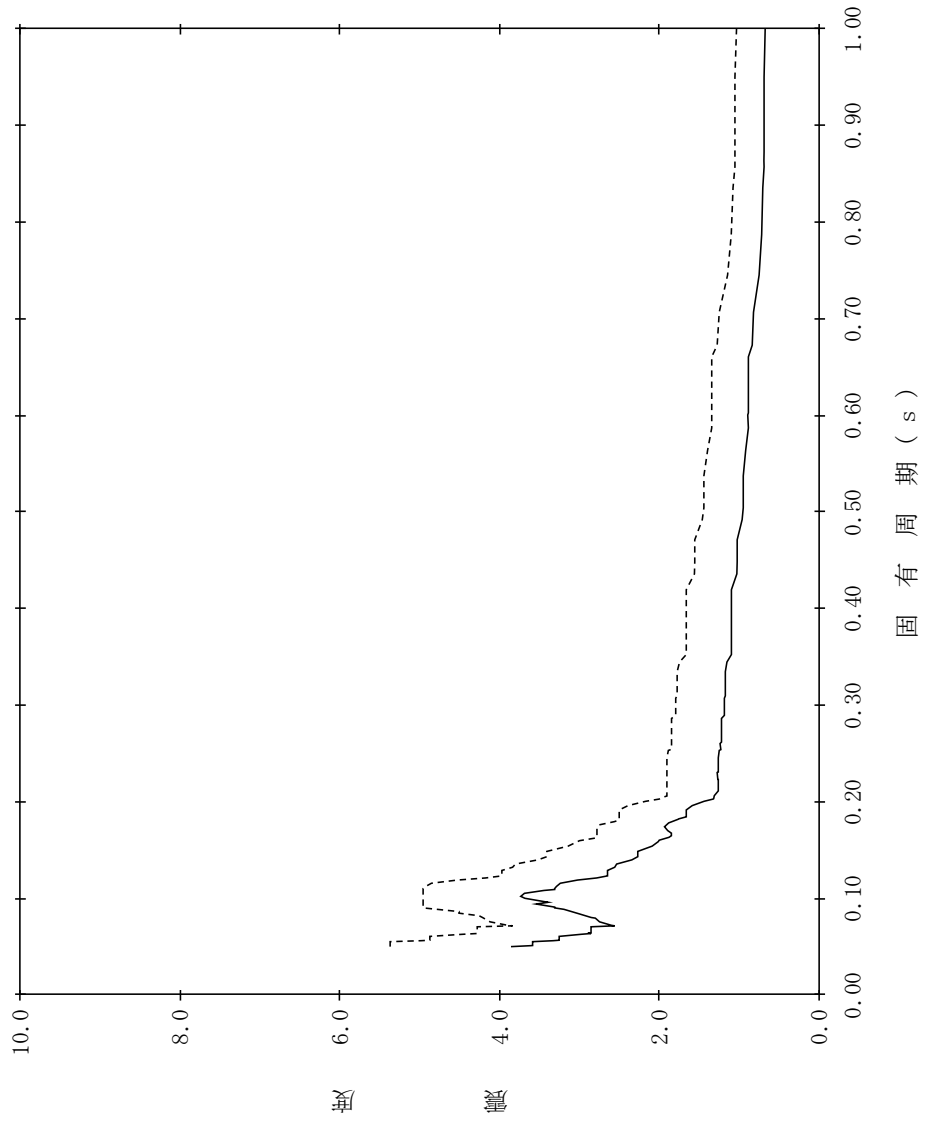
【NS2-PCV-SsV-GSW126】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



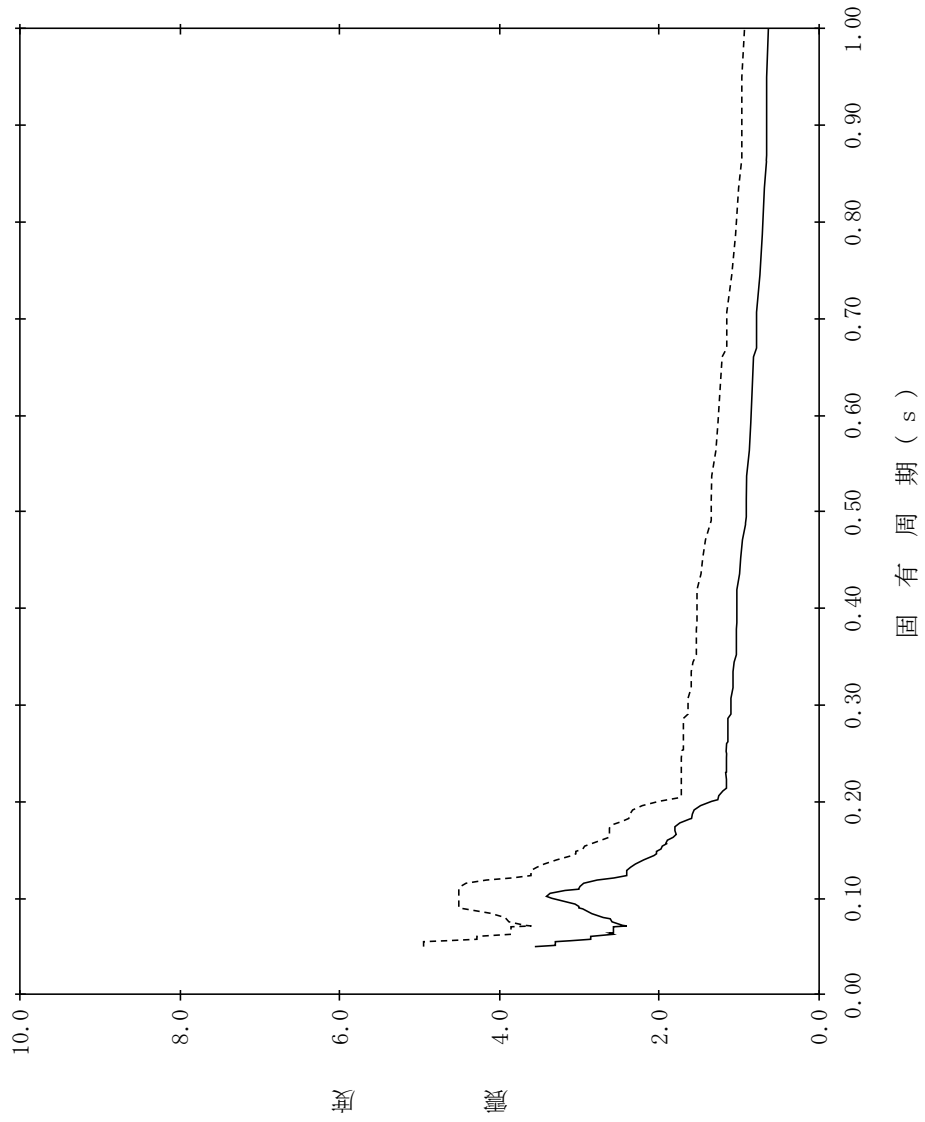
【NS2-PCV-SsV-GSW127】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



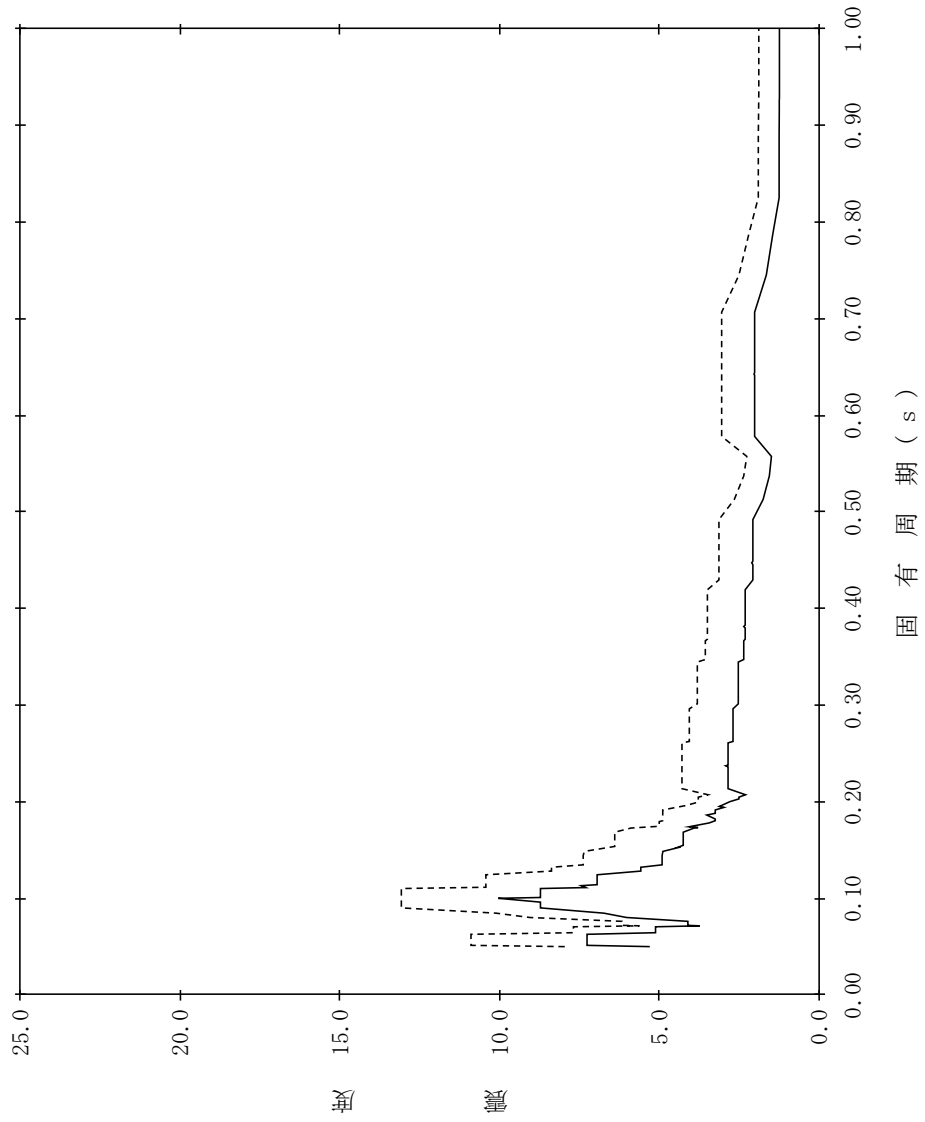
【NS2-PCV-SsV-GSW128】

構造物名：ガンマ線遮蔽壁
 標高：EL19.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



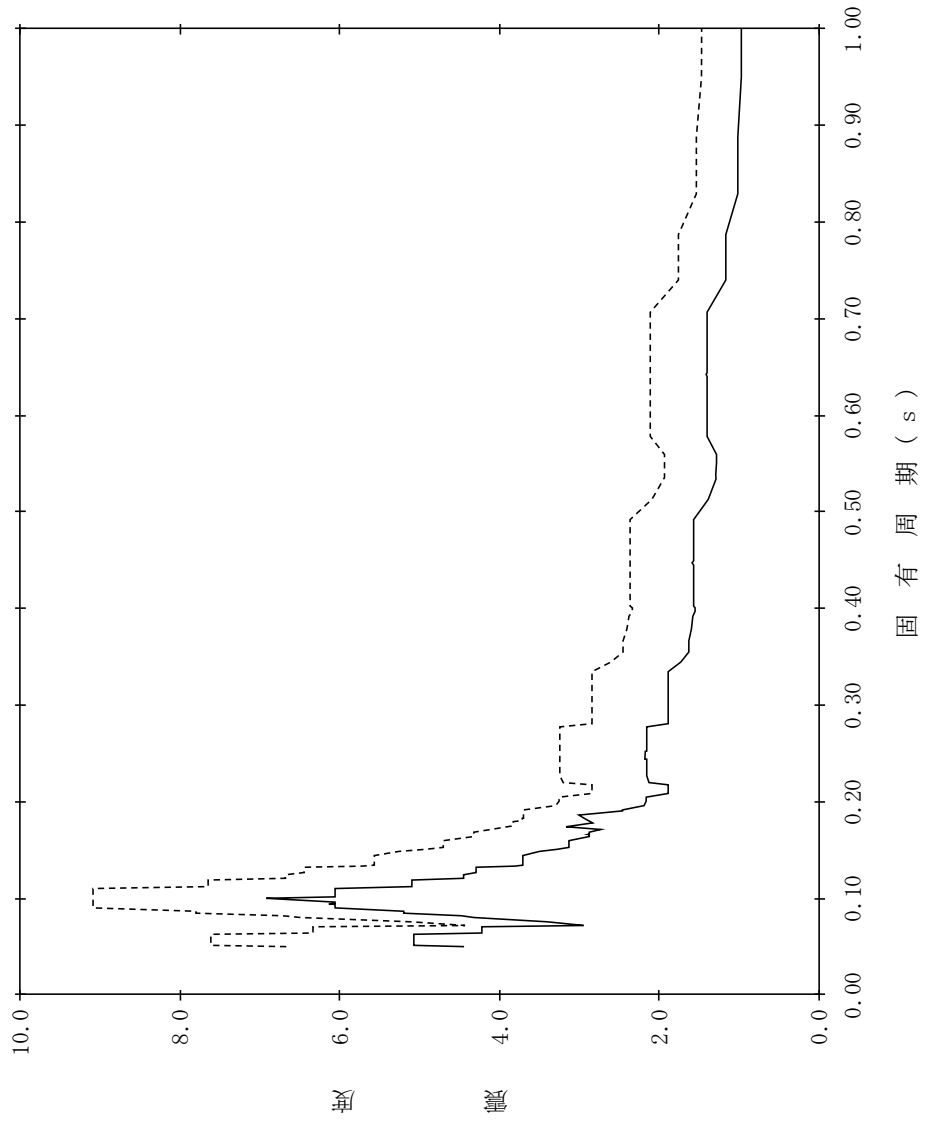
【NS2-PCV-SsV-PED129】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



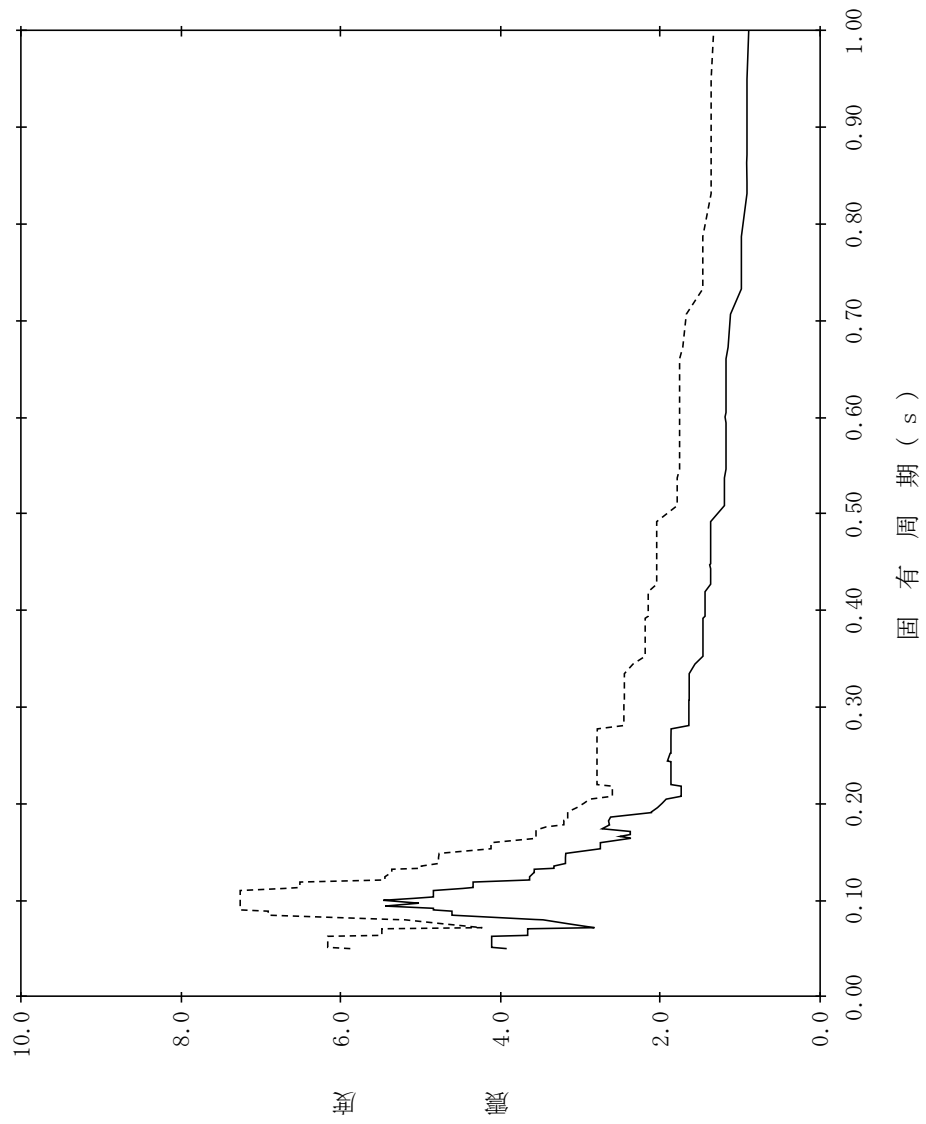
【NS2-PCV-SsV-PED130】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



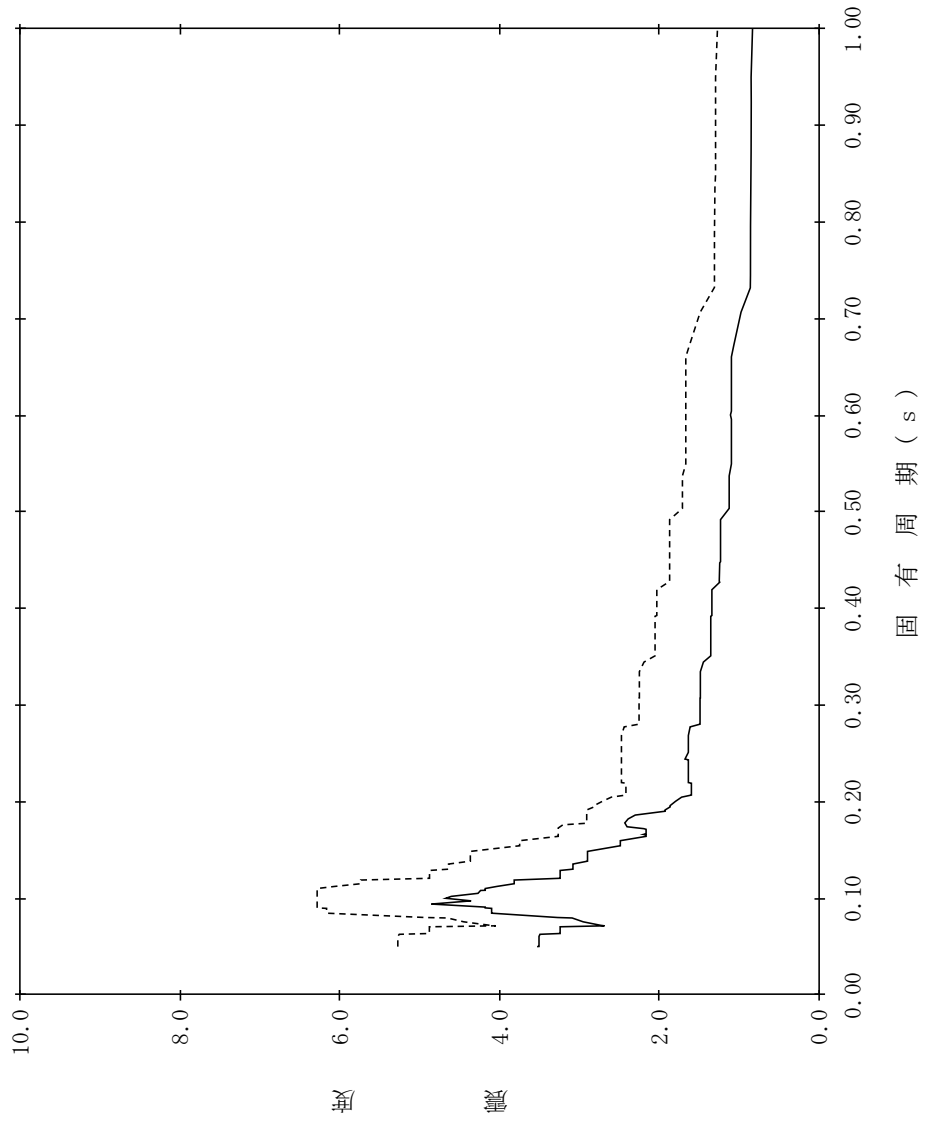
【NS2-PCV-SsV-PED131】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



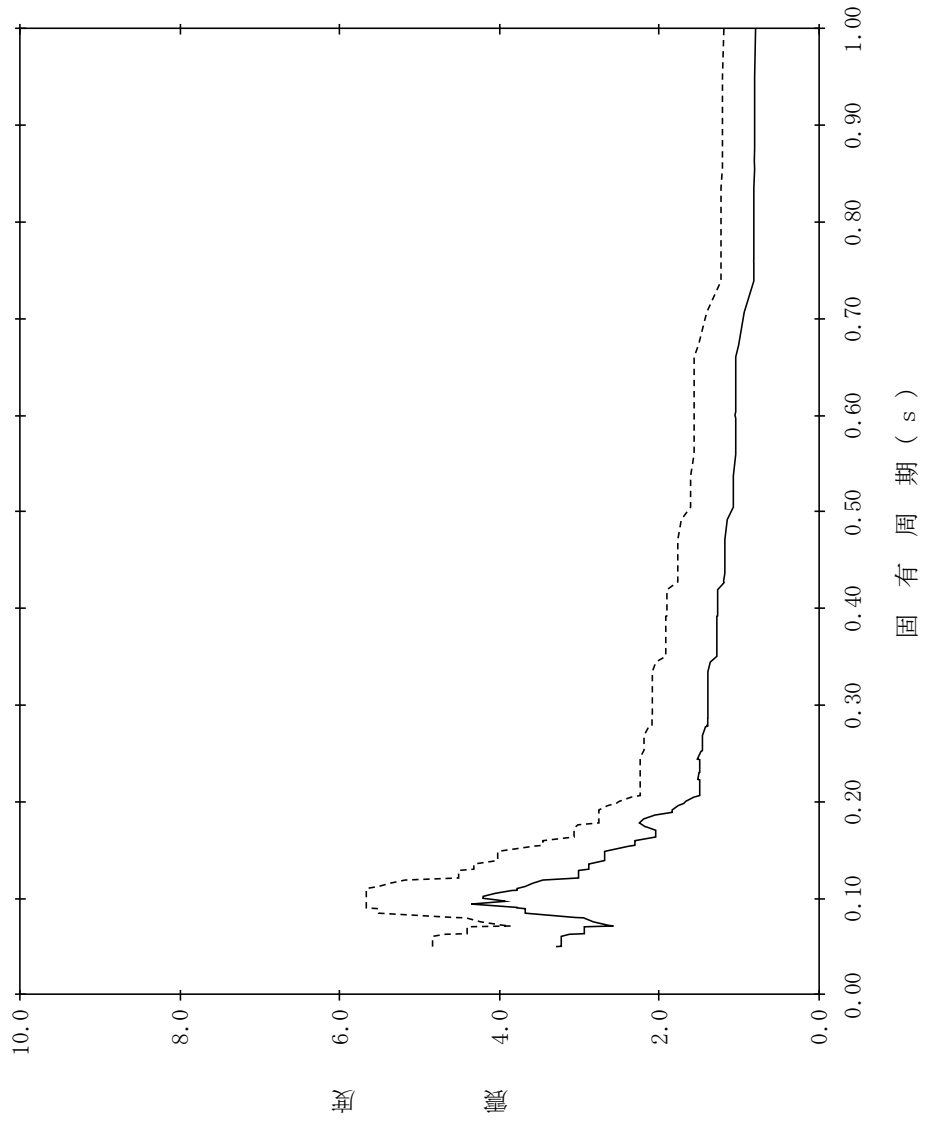
【NS2-PCV-SsV-PED132】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



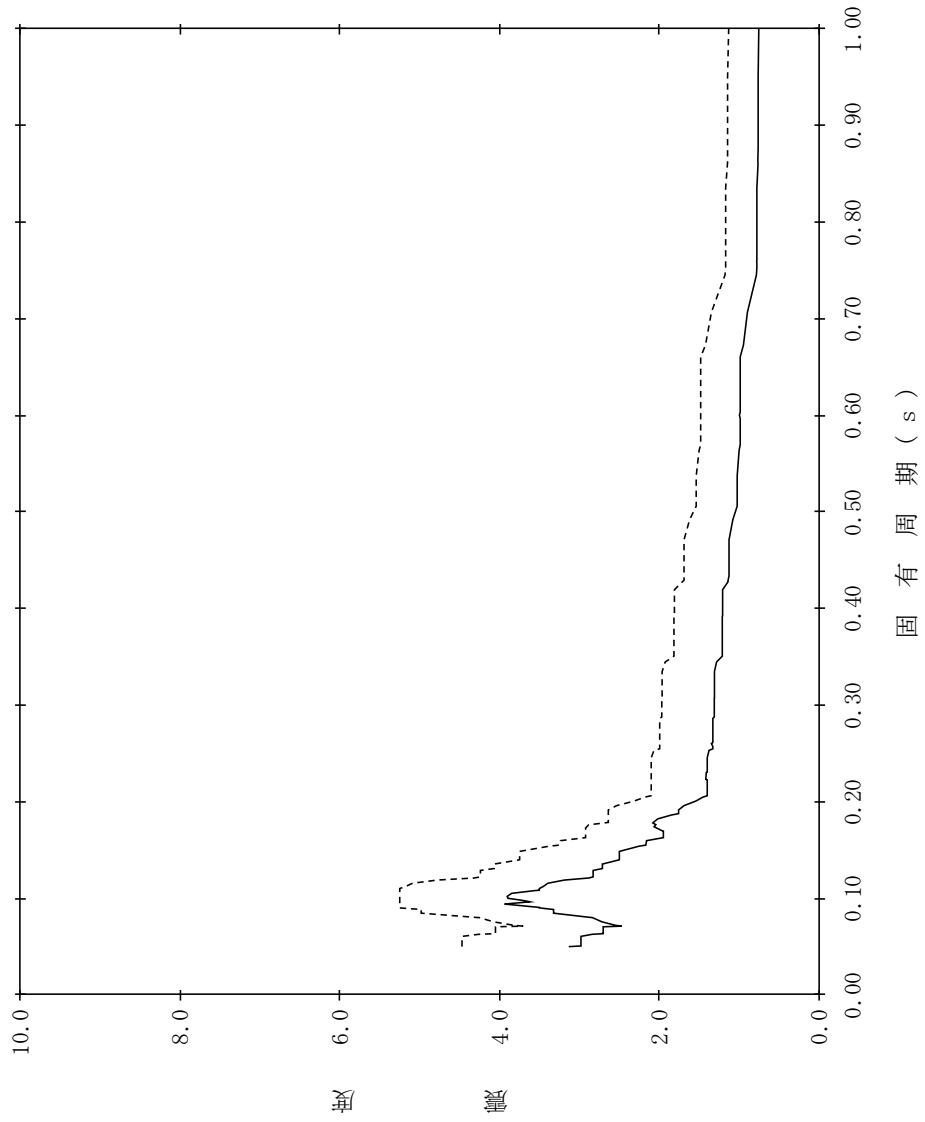
【NS2-PCV-SsV-PED133】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



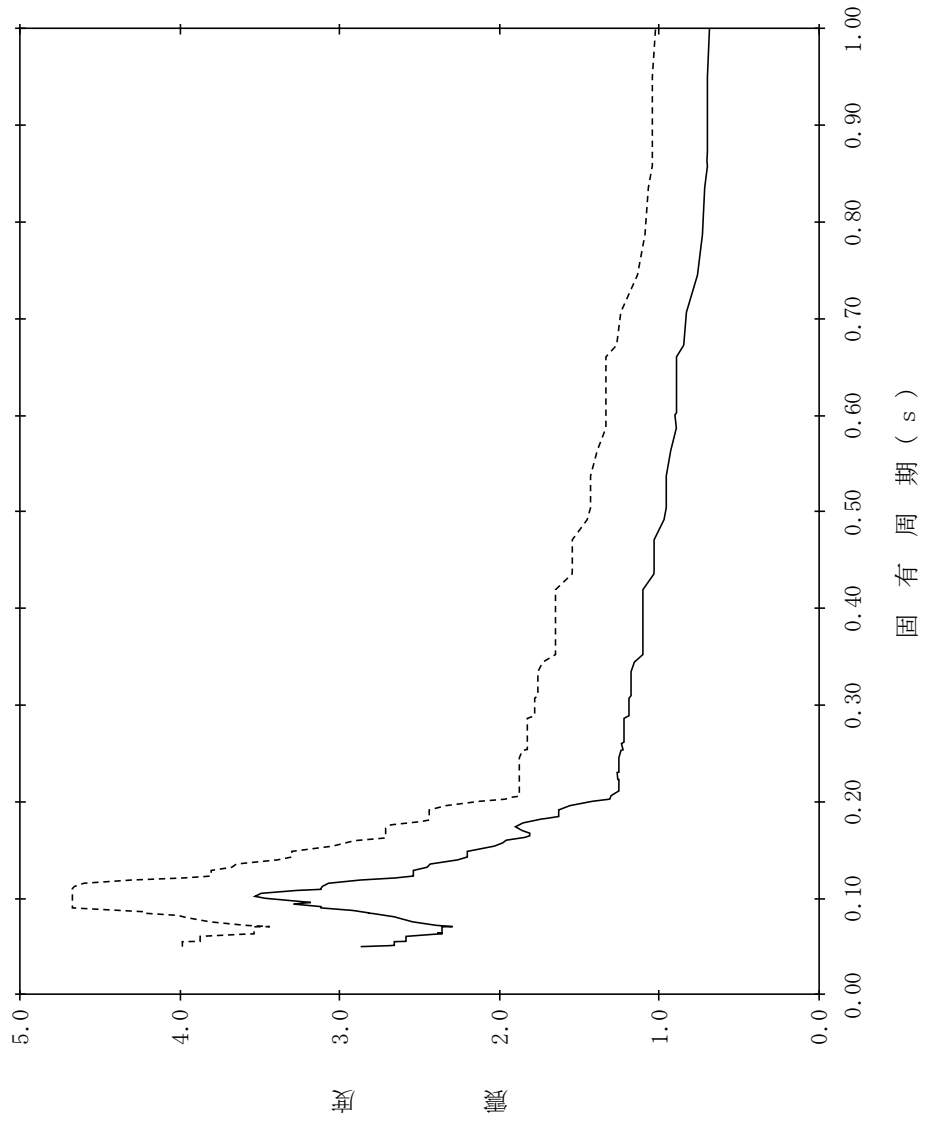
【NS2-PCV-SsV-PED134】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



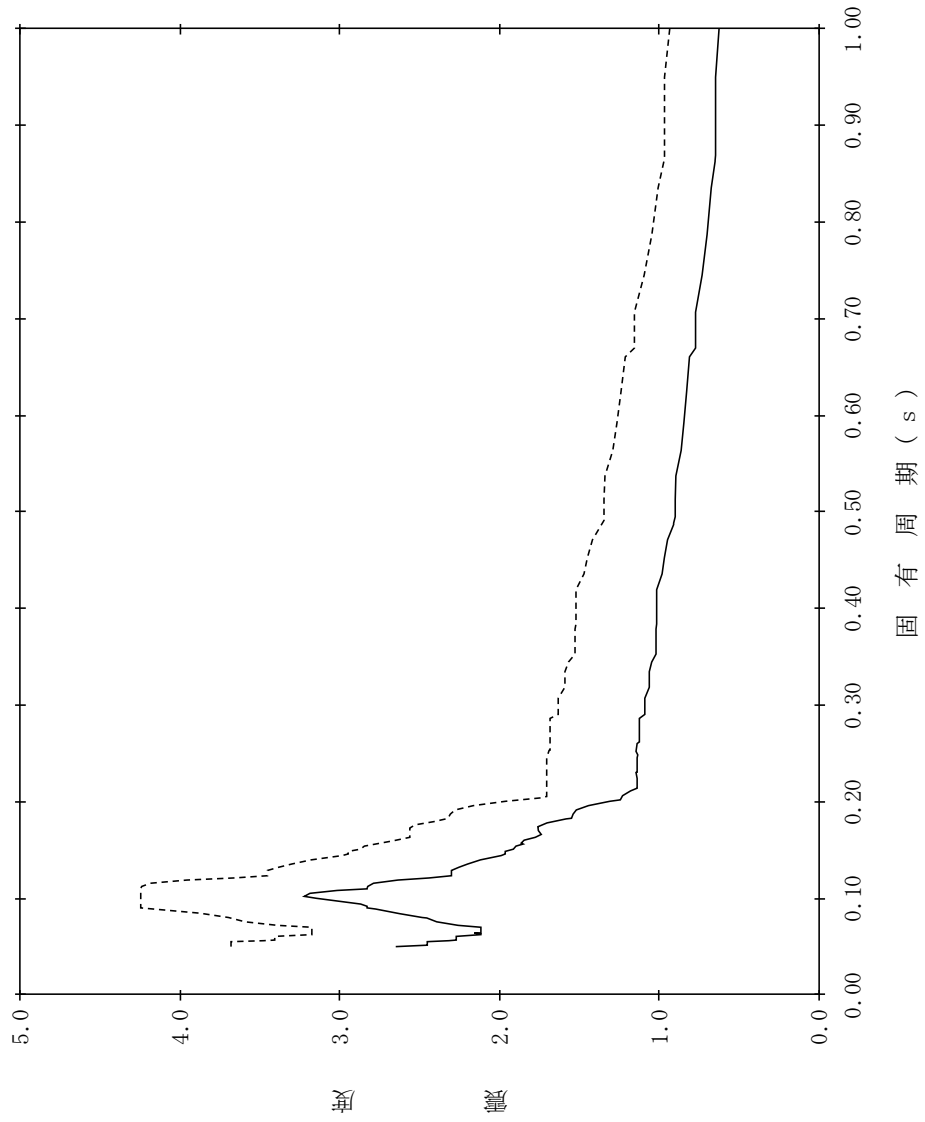
【NS2-PCV-SsV-PED135】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



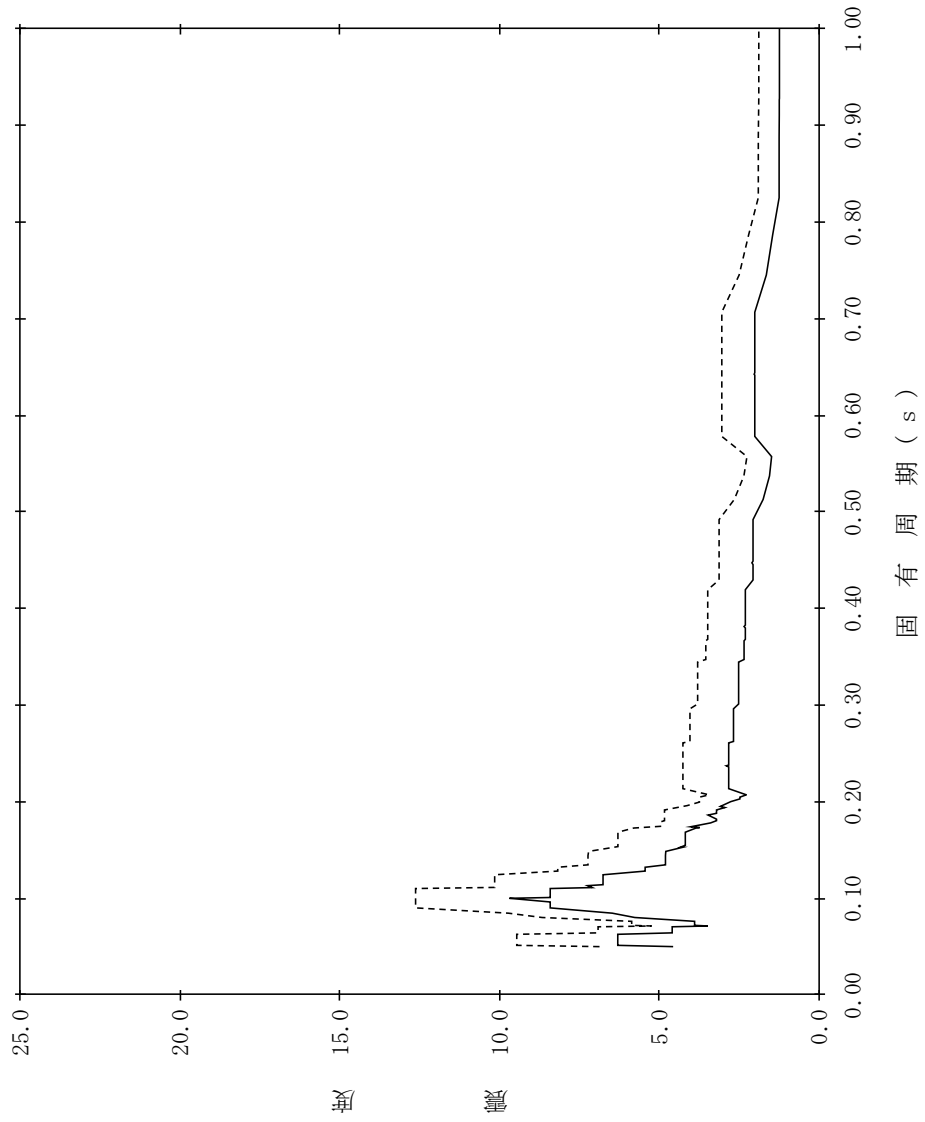
【NS2-PCV-SsV-PED136】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL15.944m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



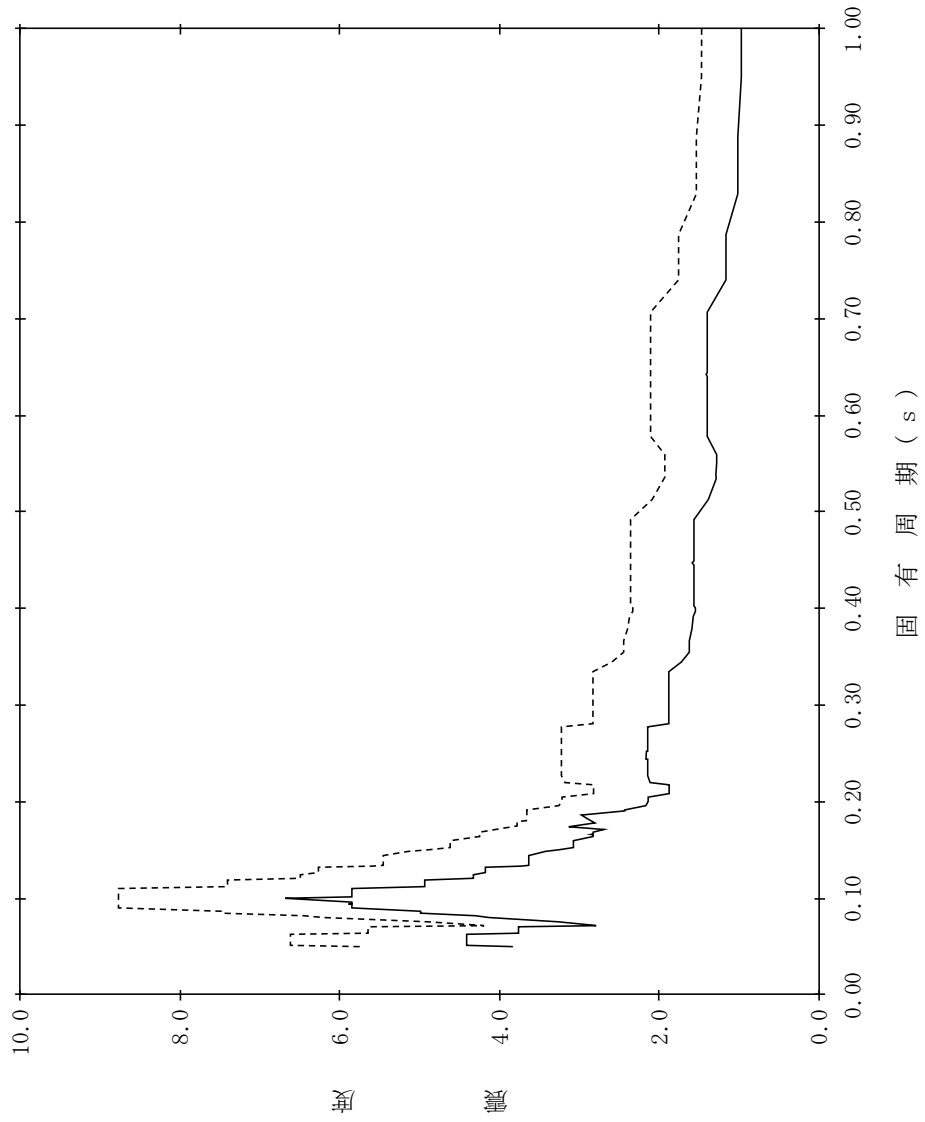
【NS2-PCV-SsV-PED137】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



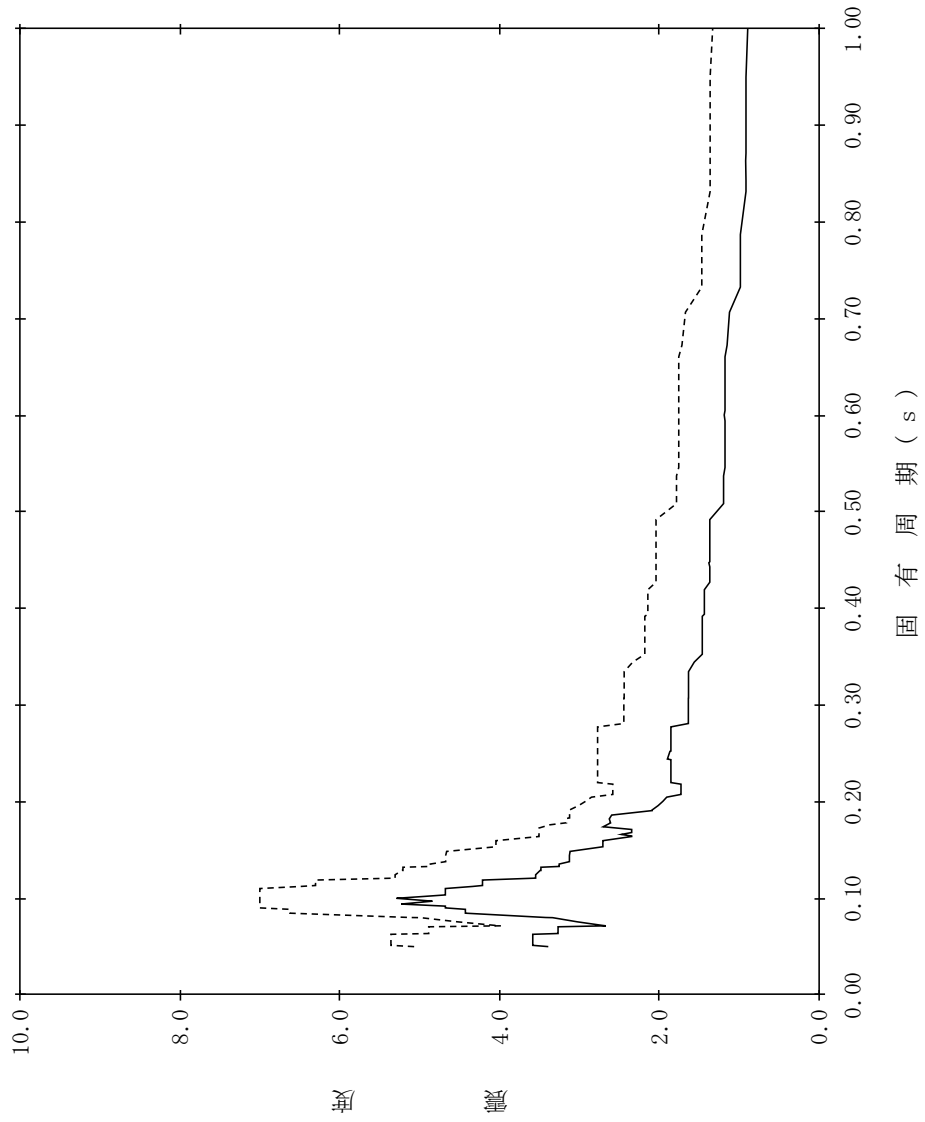
【NS2-PCV-SsV-PED138】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



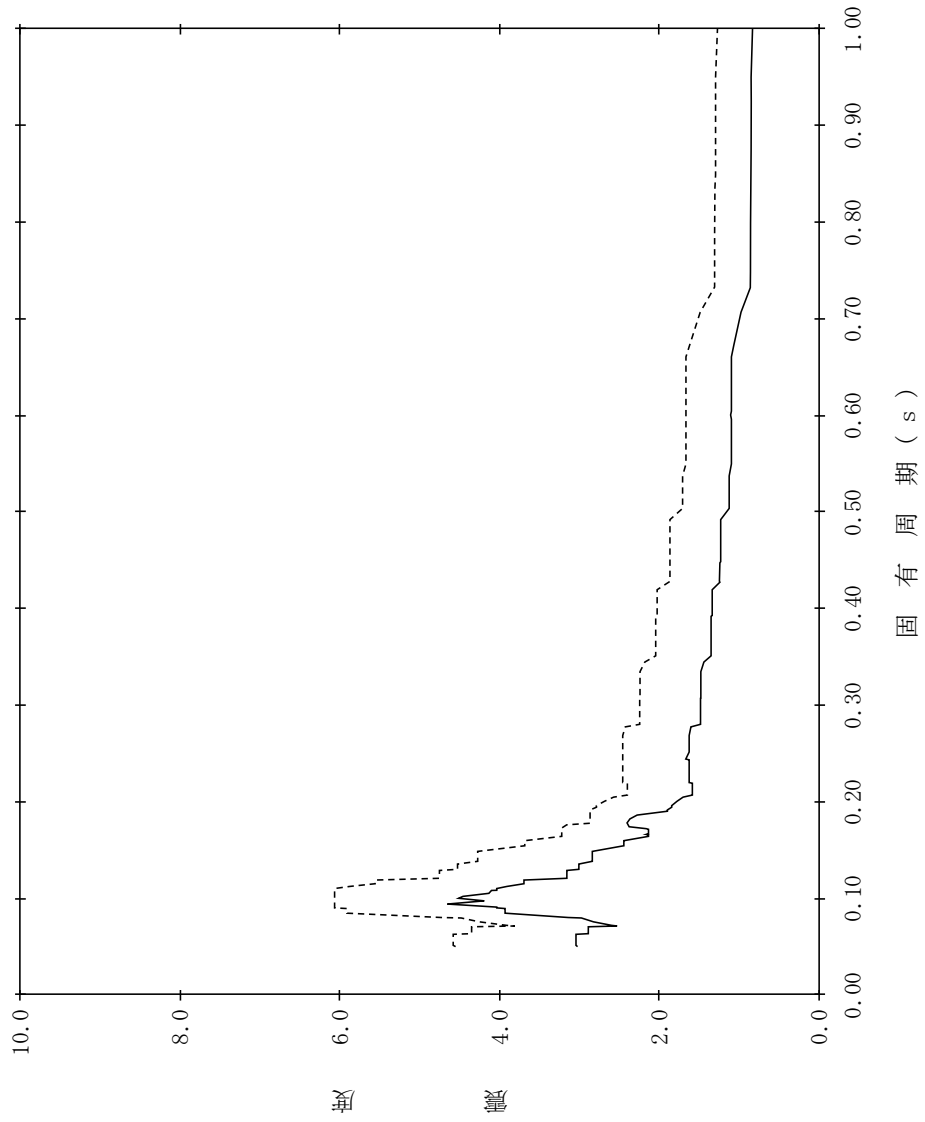
【NS2-PCV-SsV-PED139】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



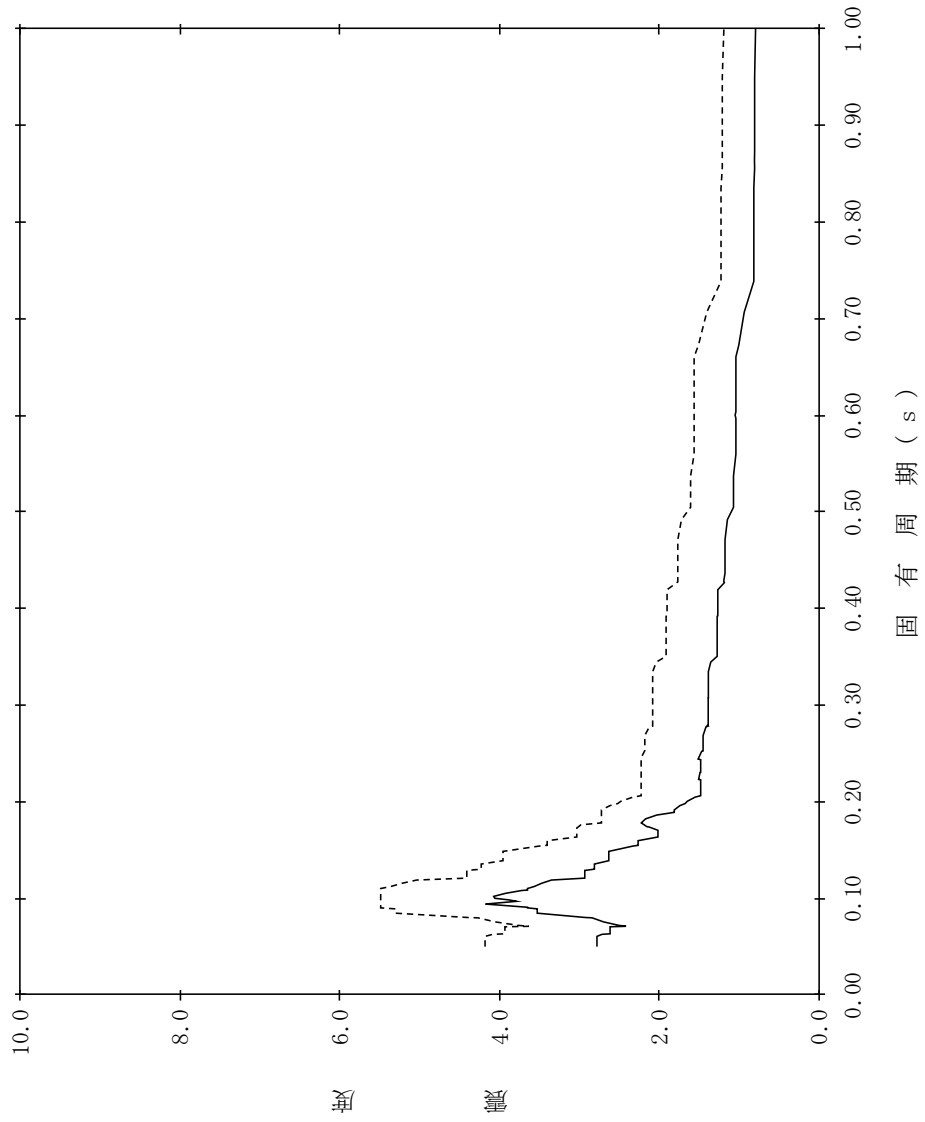
【NS2-PCV-SsV-PED140】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
標高：EL13.022m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



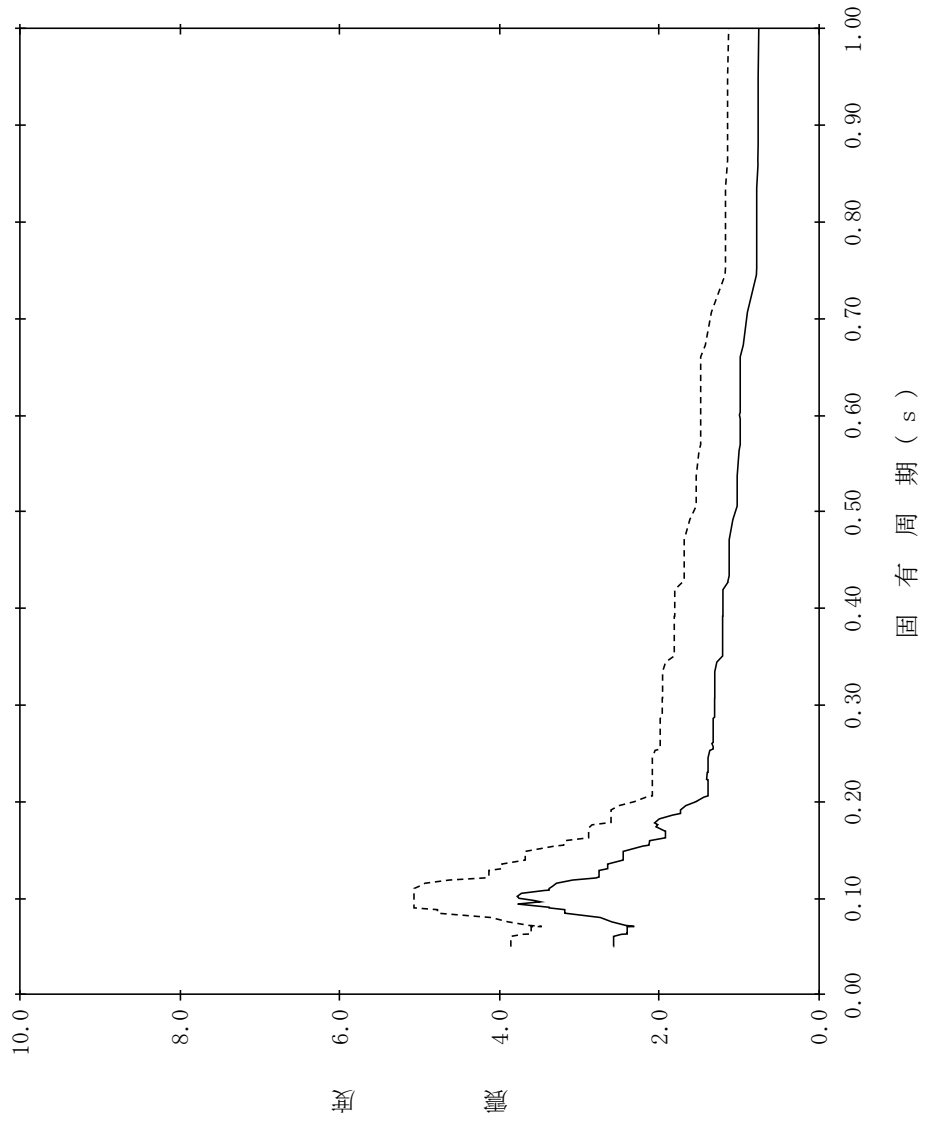
【NS2-PCV-SsV-PED141】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



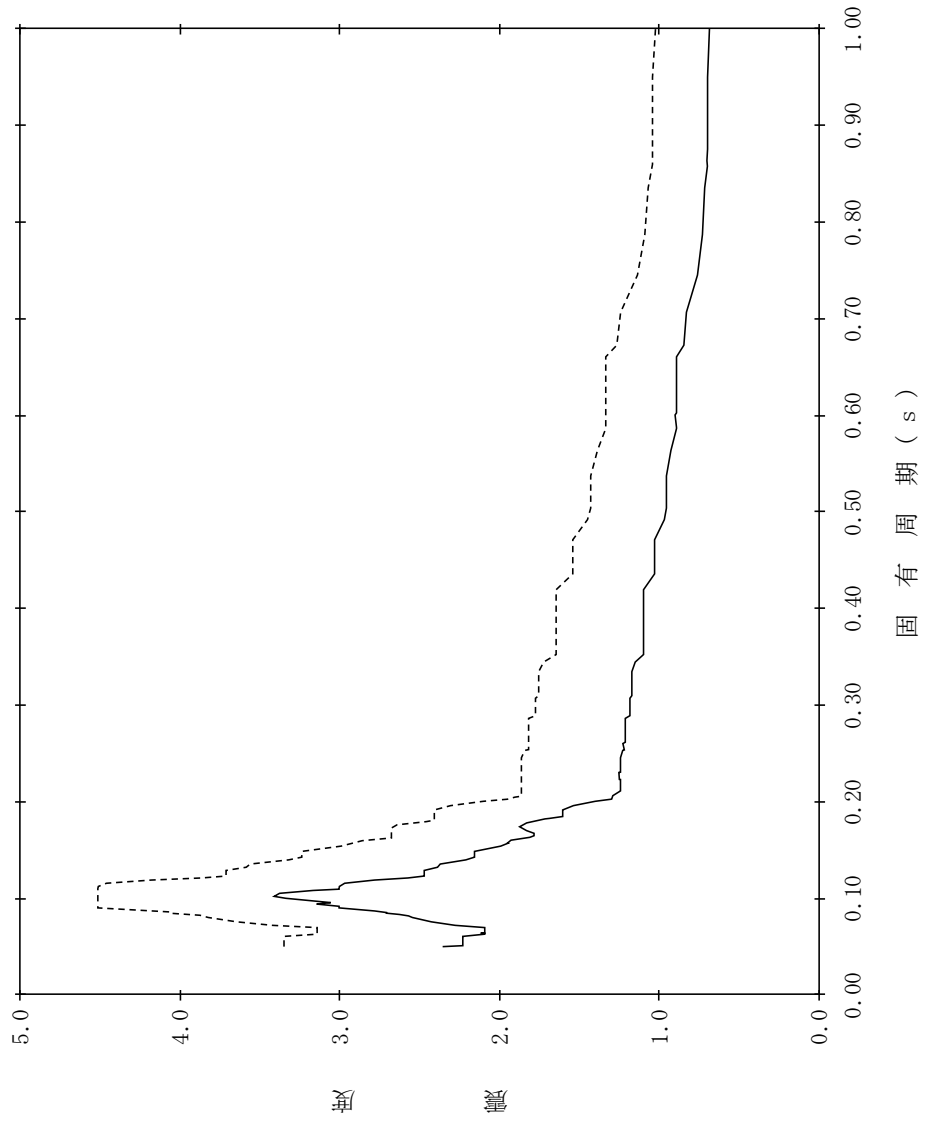
【NS2-PCV-SsV-PED142】

構造物名：原子炉压力容器ベゼスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



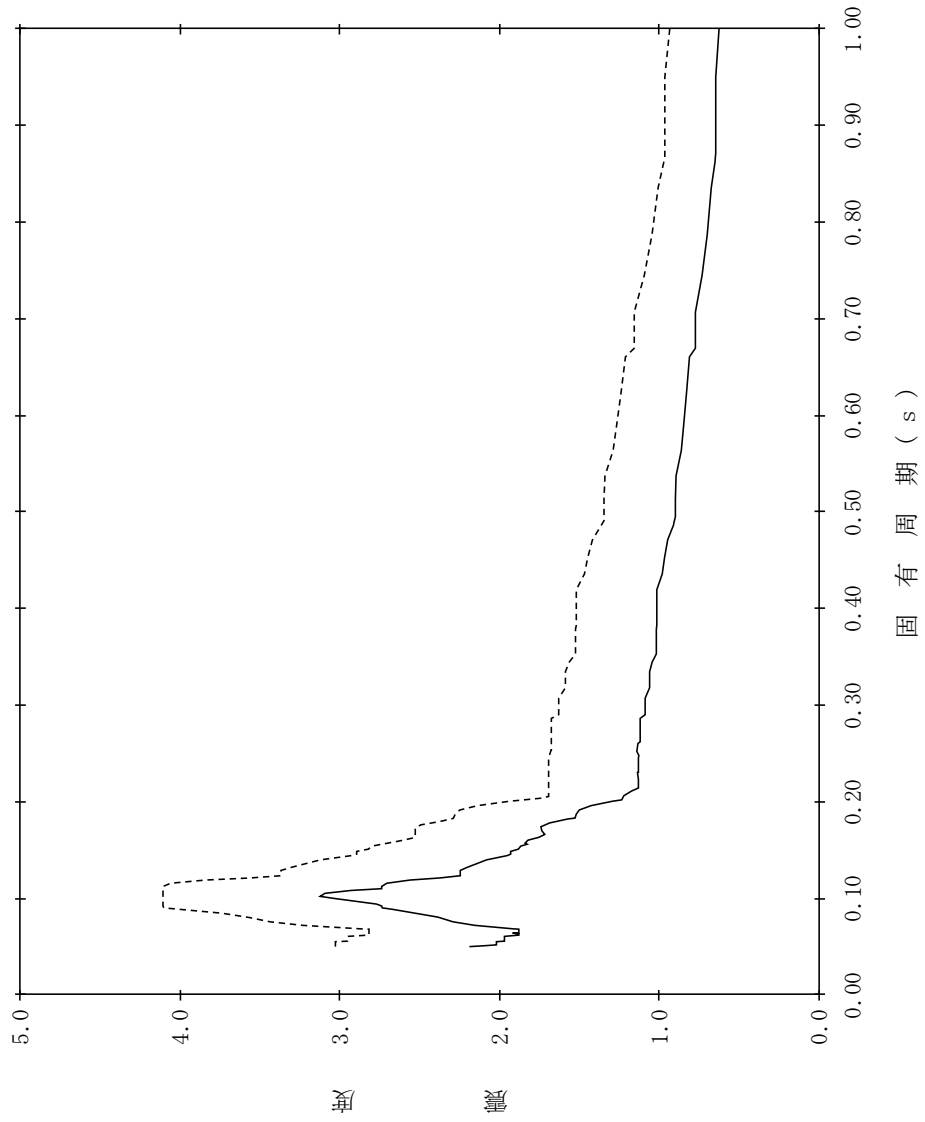
【NS2-PCV-SsV-PED143】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



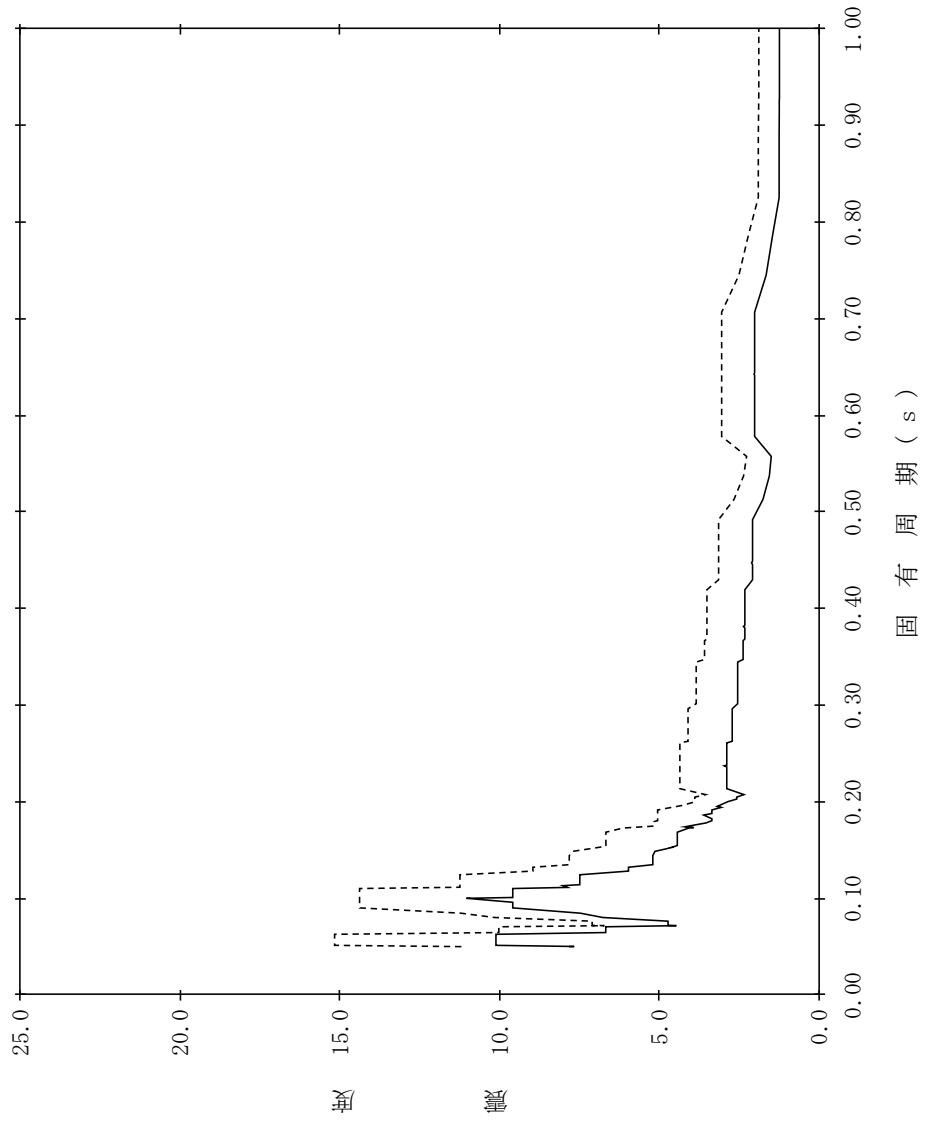
【NS2-PCV-SsV-PED144】

構造物名：原子炉压力容器ベデスタル
 標高：EL13.022m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



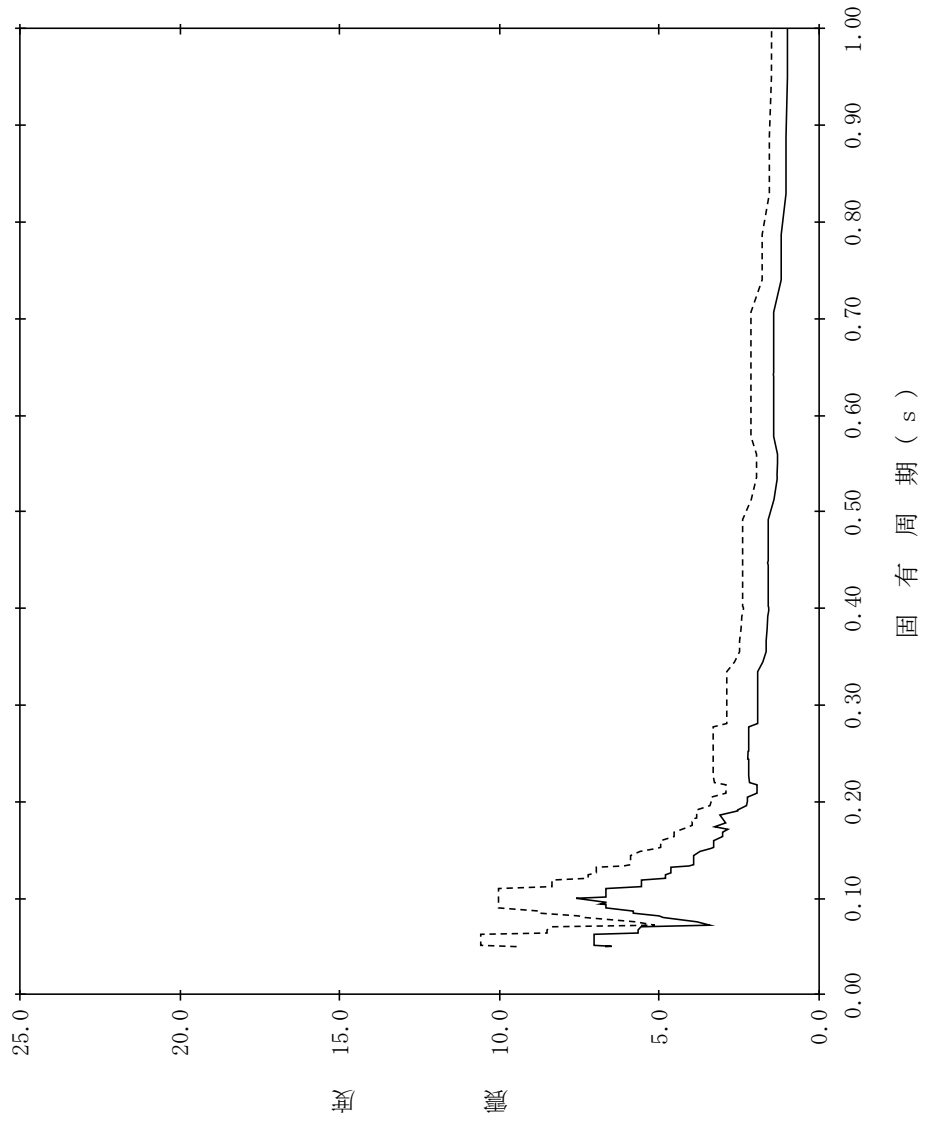
【NS2-PCV-SsV-RPV145】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



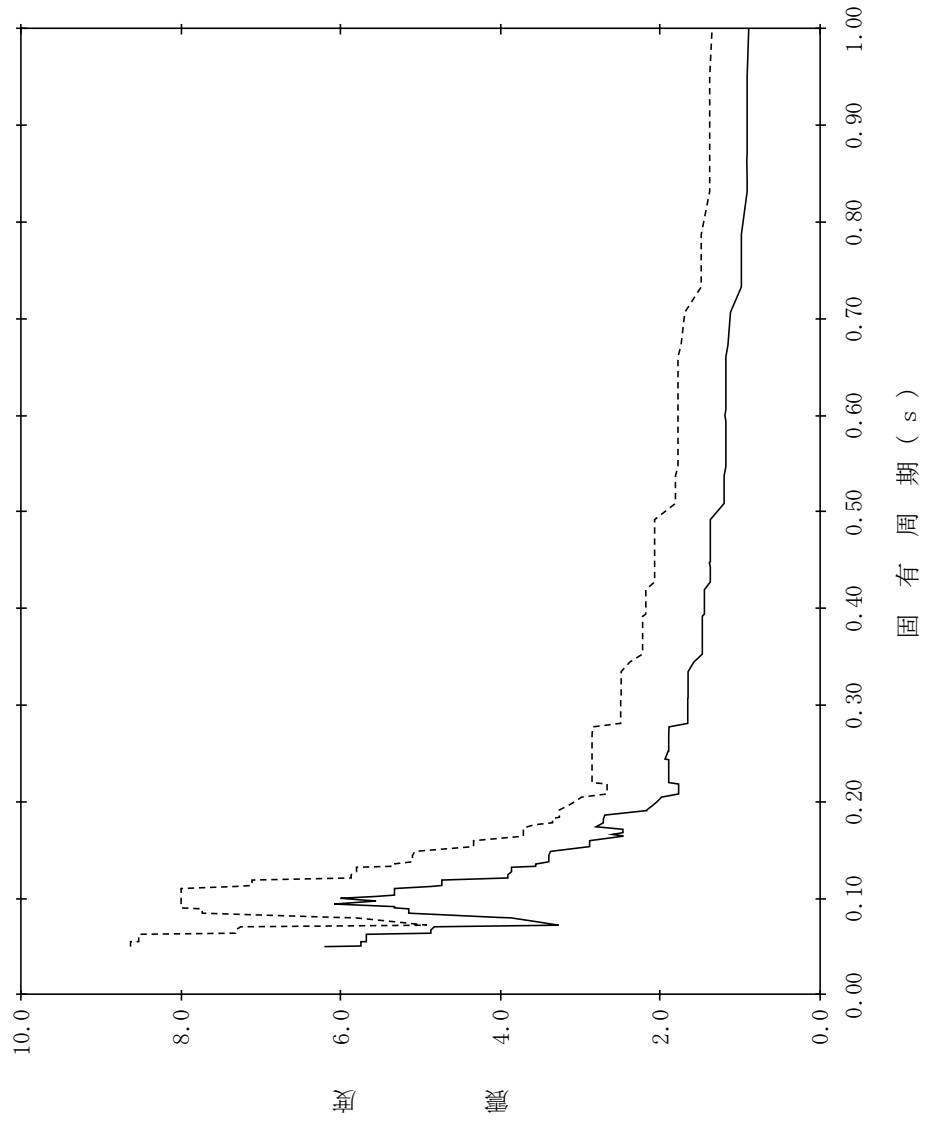
【NS2-PCV-SsV-RPV146】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL32.567m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



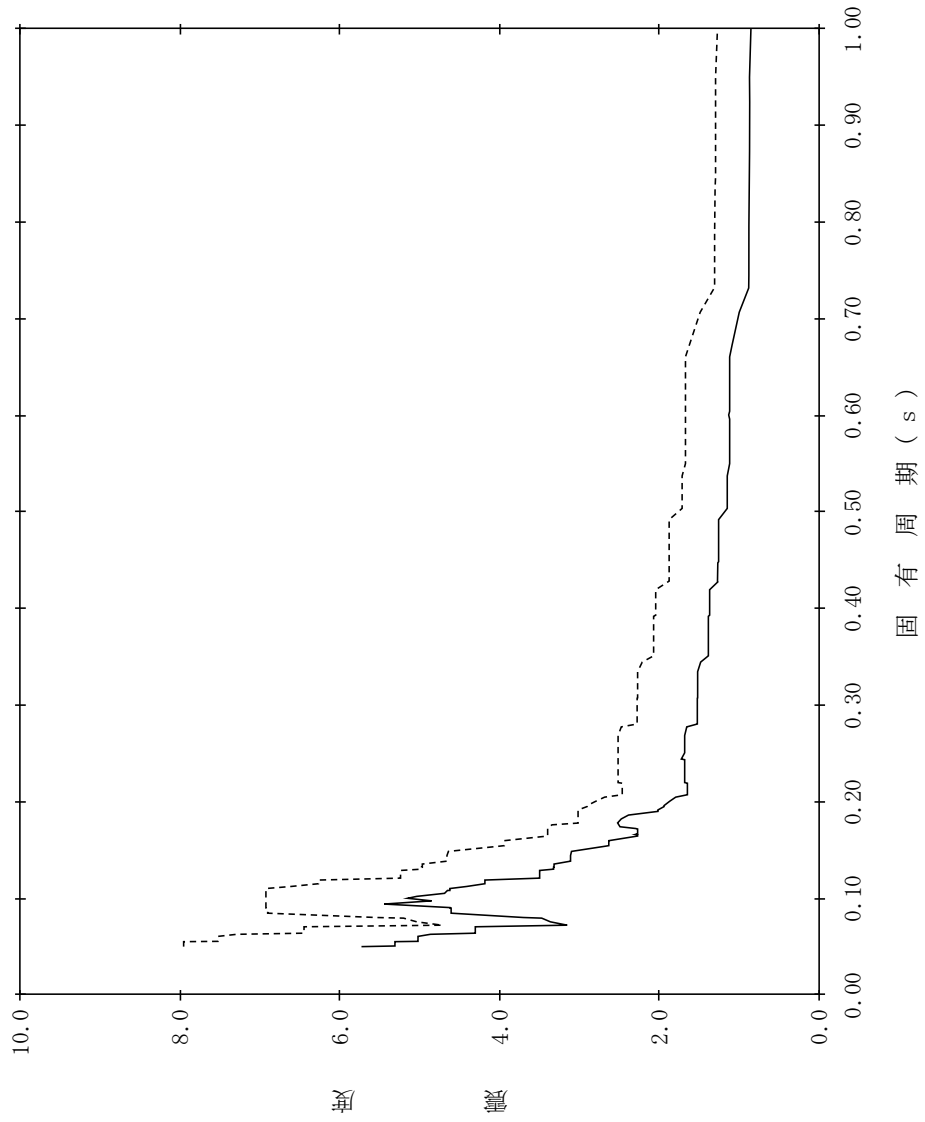
【NS2-PCV-SsV-RPV147】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



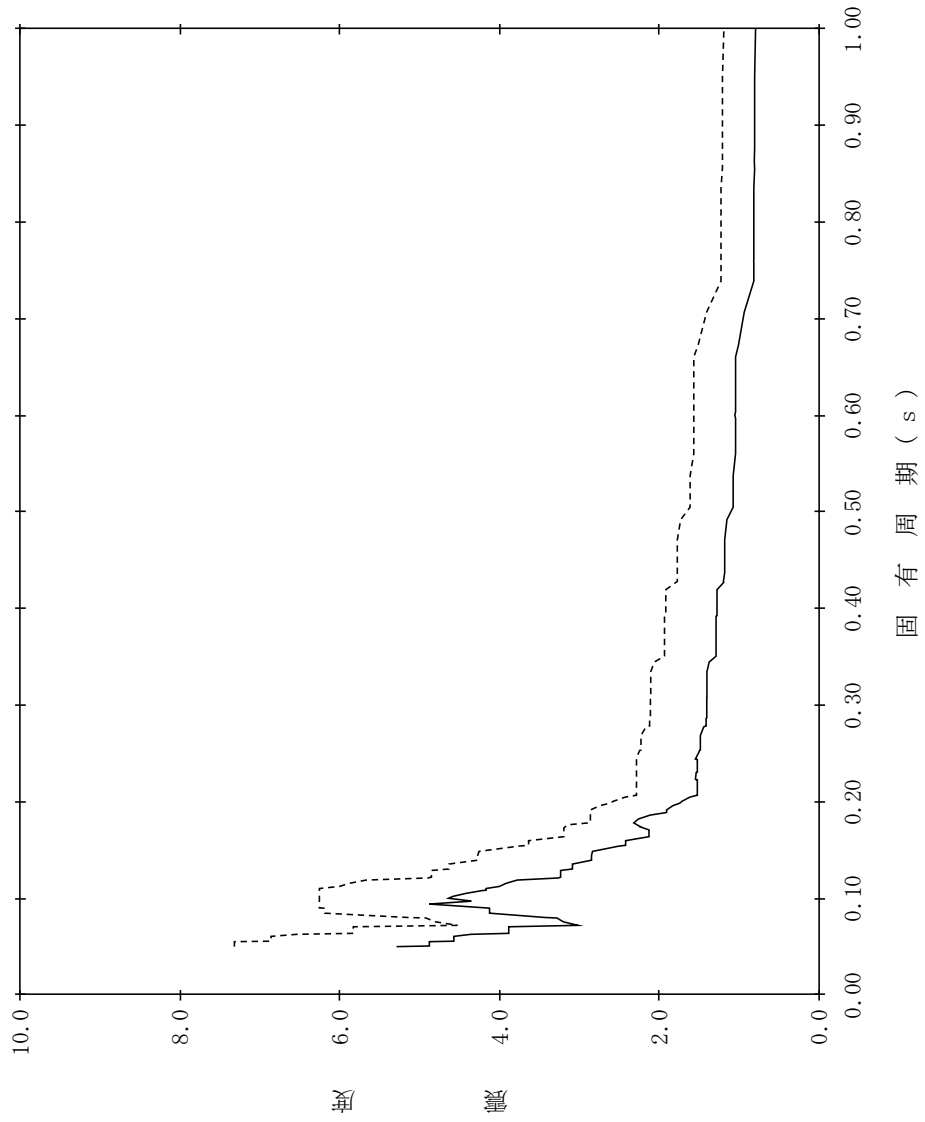
【NS2-PCV-SsV-RPV148】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



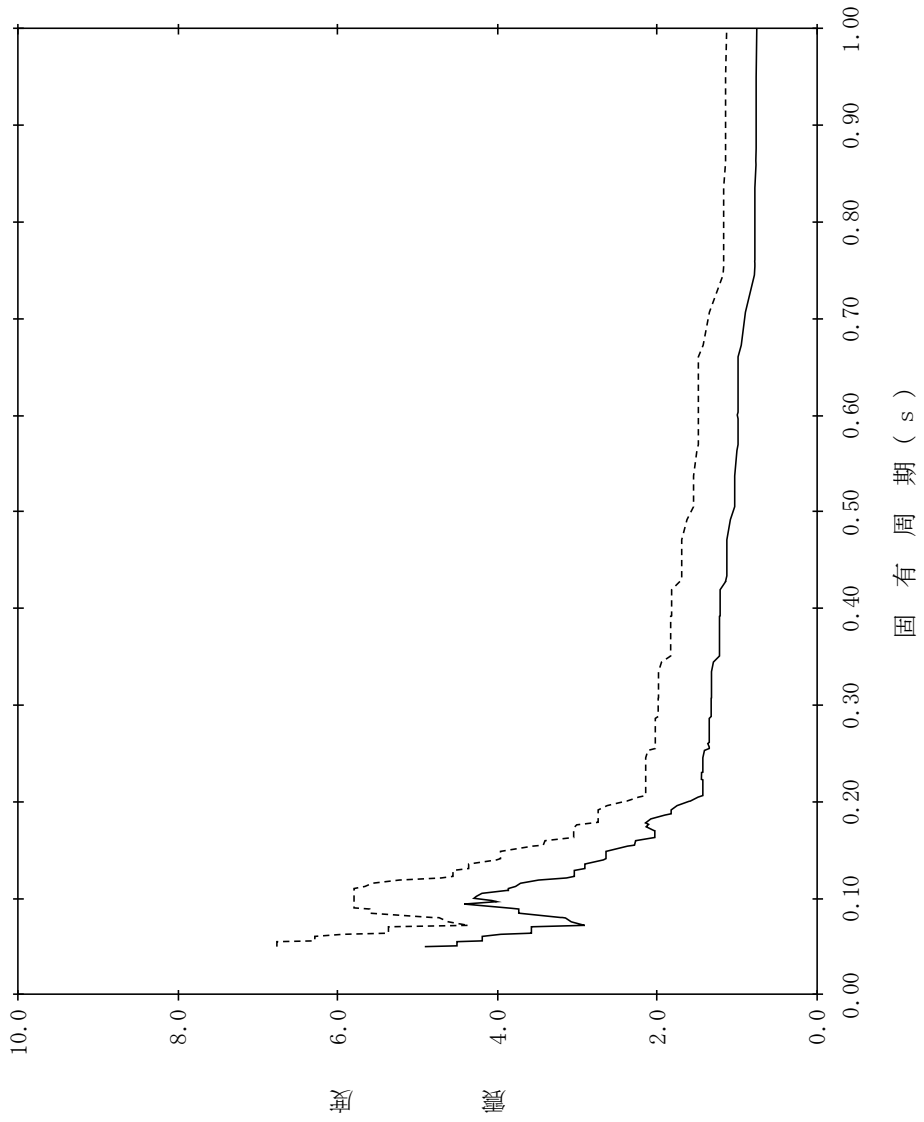
【NS2-PCV-SsV-RPV149】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



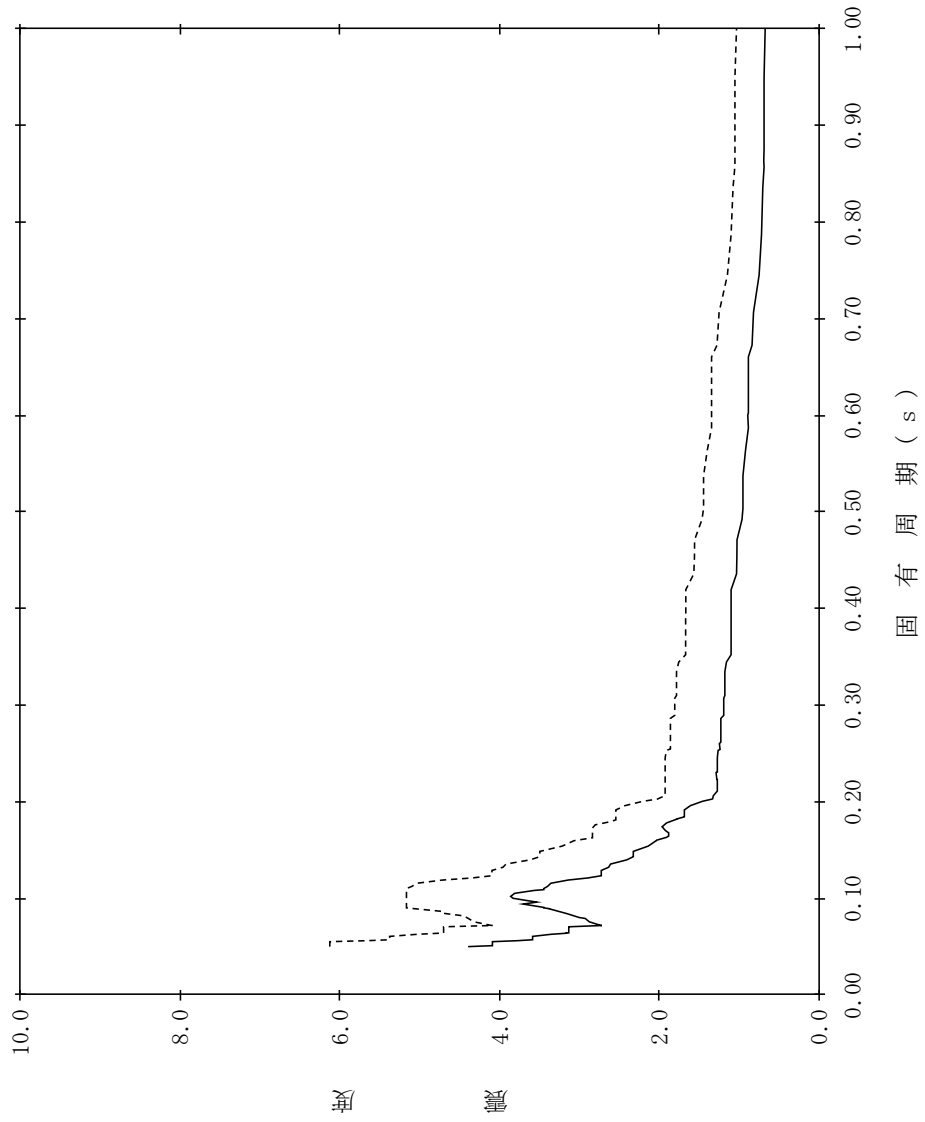
【NS2-PCV-SsV-RPV150】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



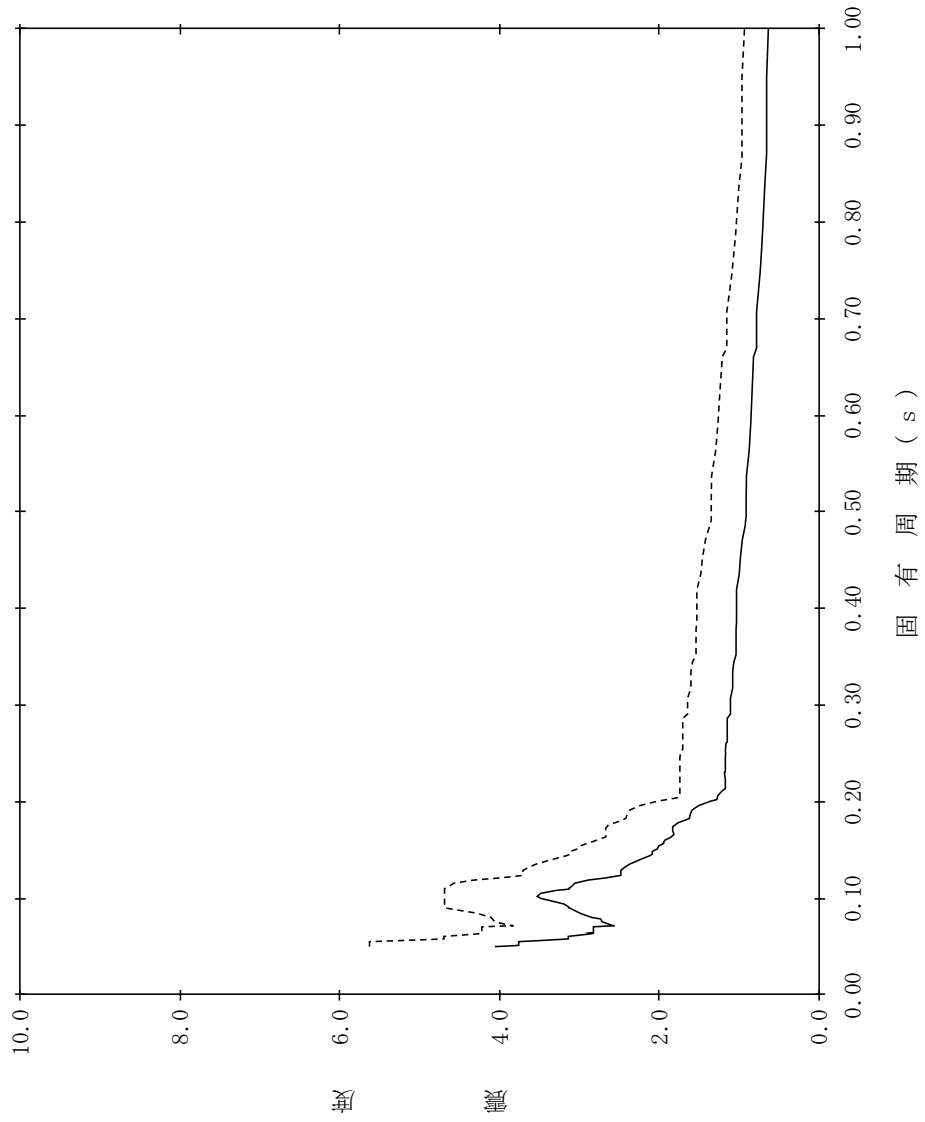
【NS2-PCV-SsV-RPV151】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL32.567m
減衰定数：4.0%
波形式：標準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



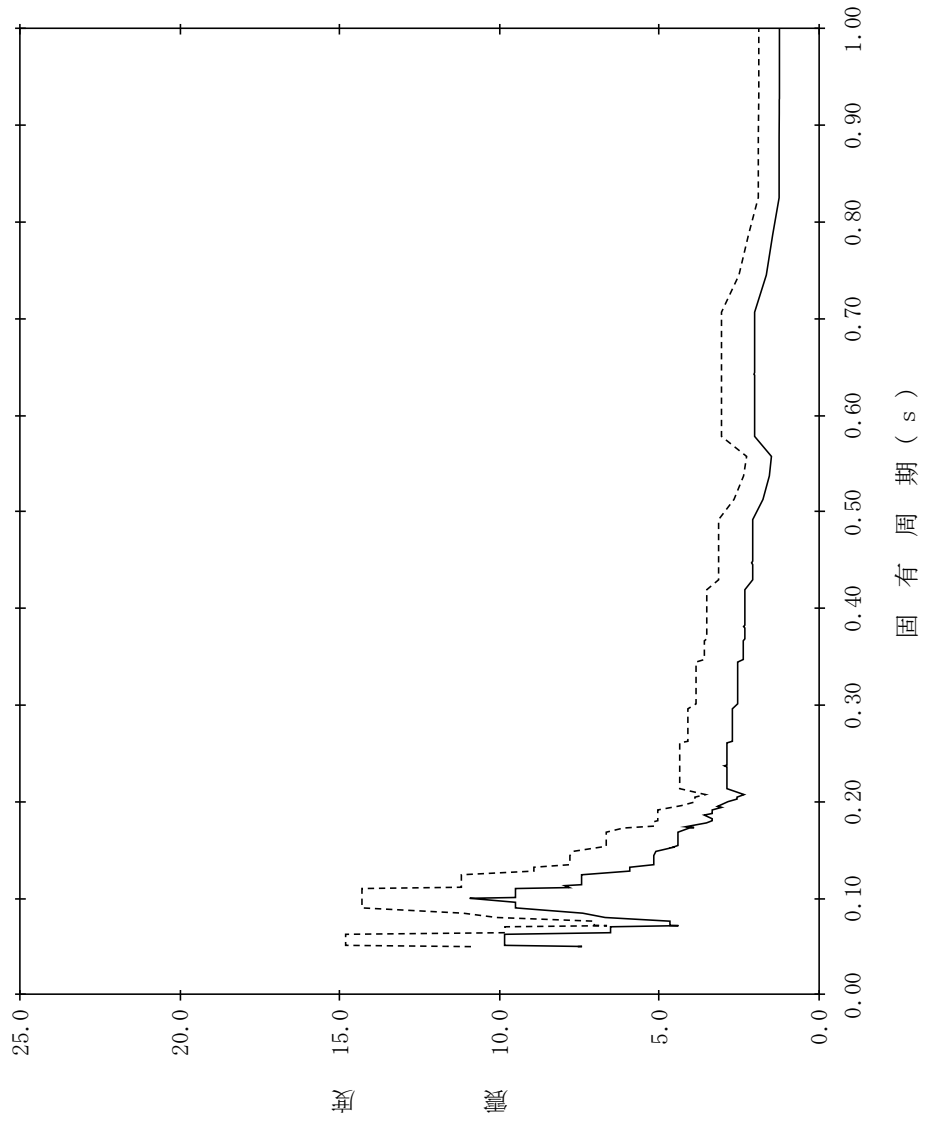
【NS2-PCV-SsV-RPV152】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL32.567m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



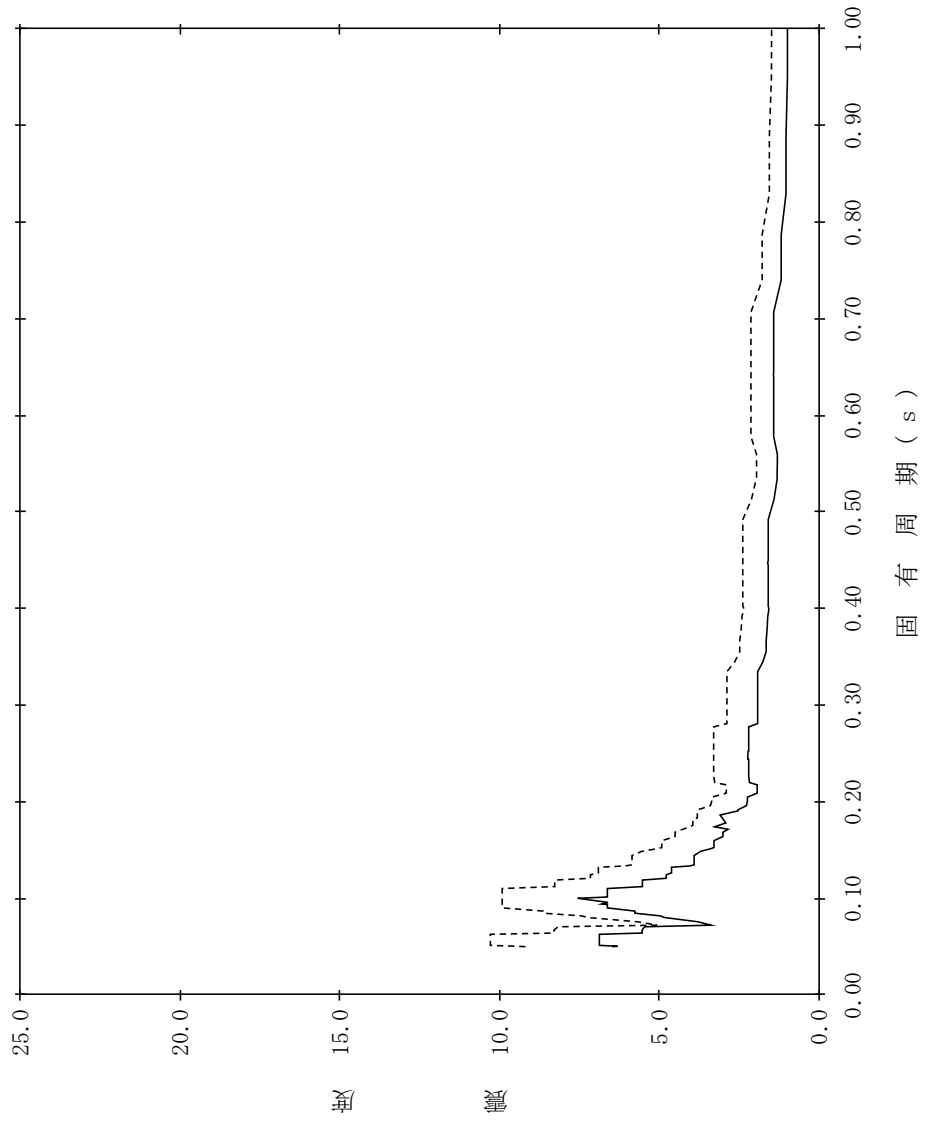
【NS2-PCV-SsV-RPV153】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



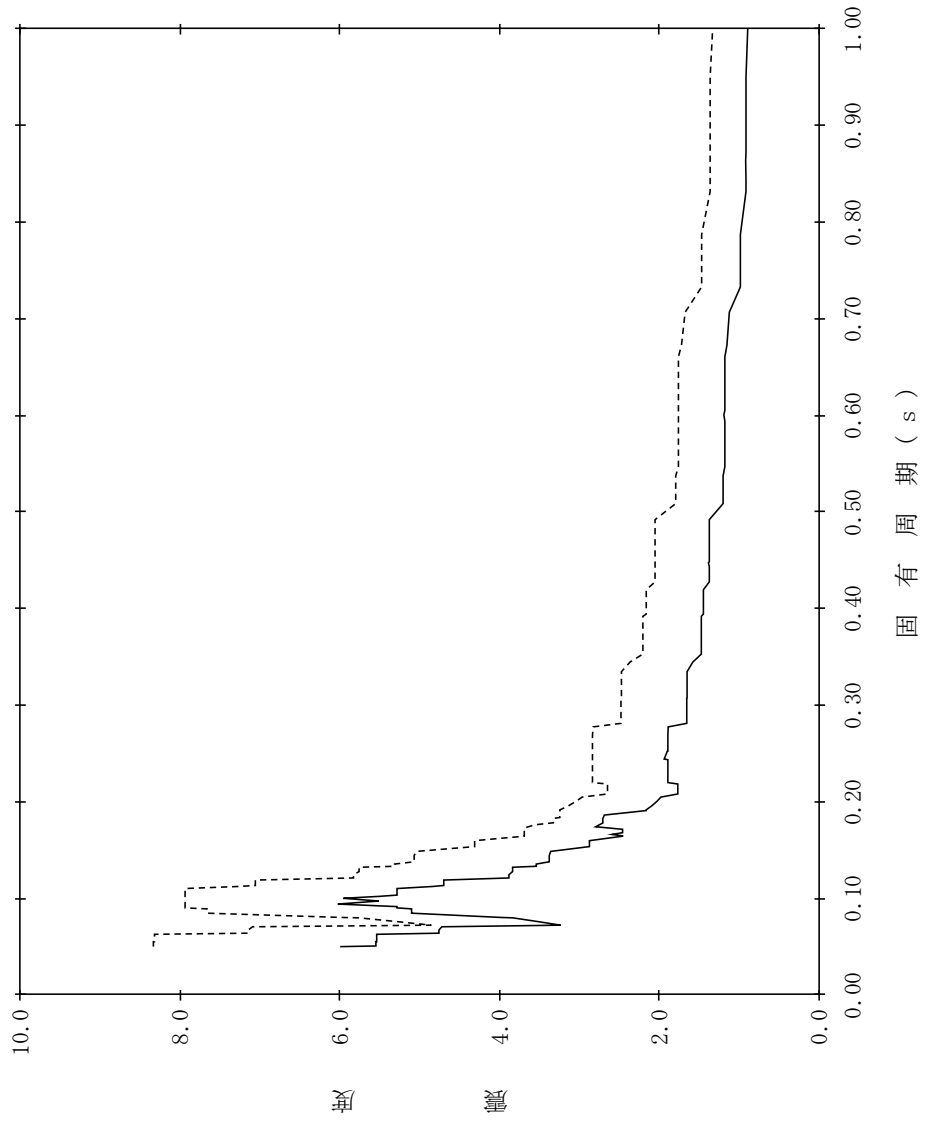
【NS2-PCV-SsV-RPV154】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



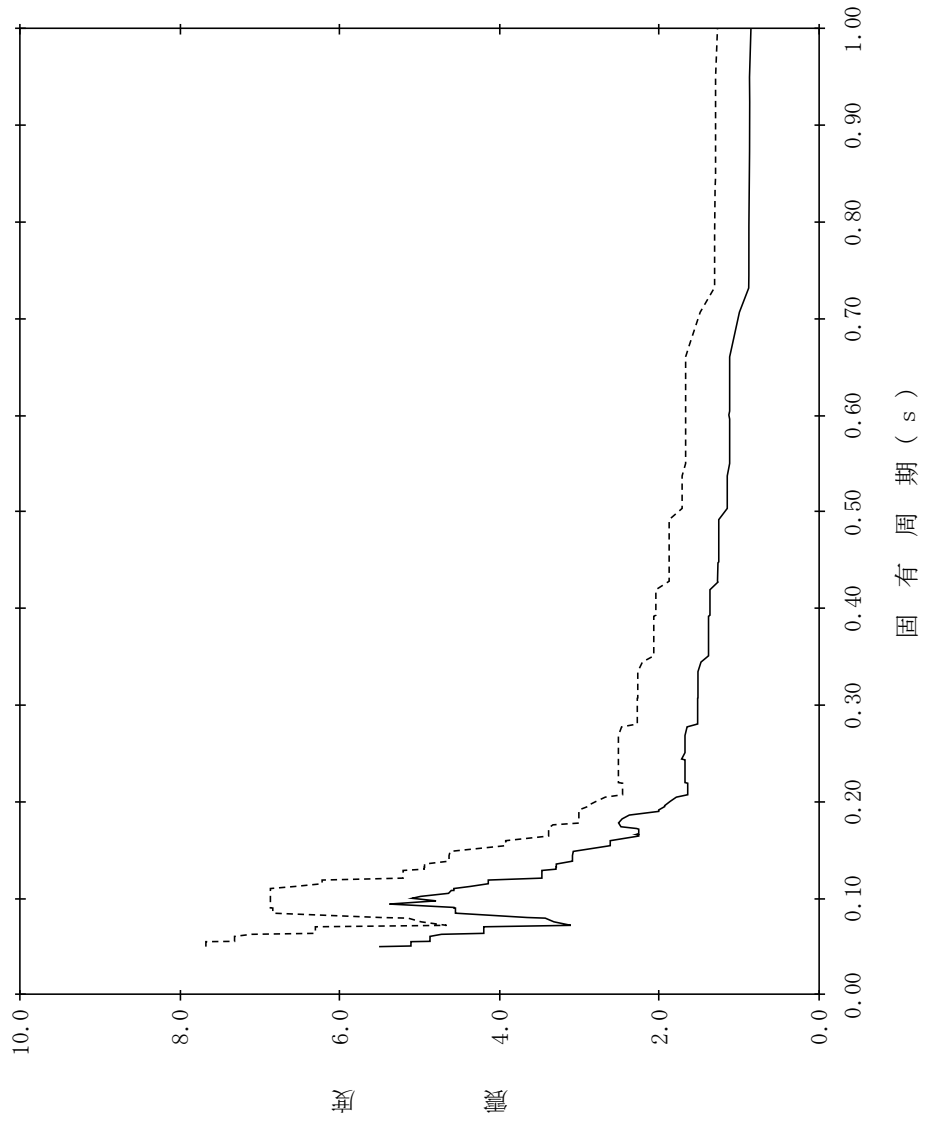
【NS2-PCV-SsV-RPV155】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

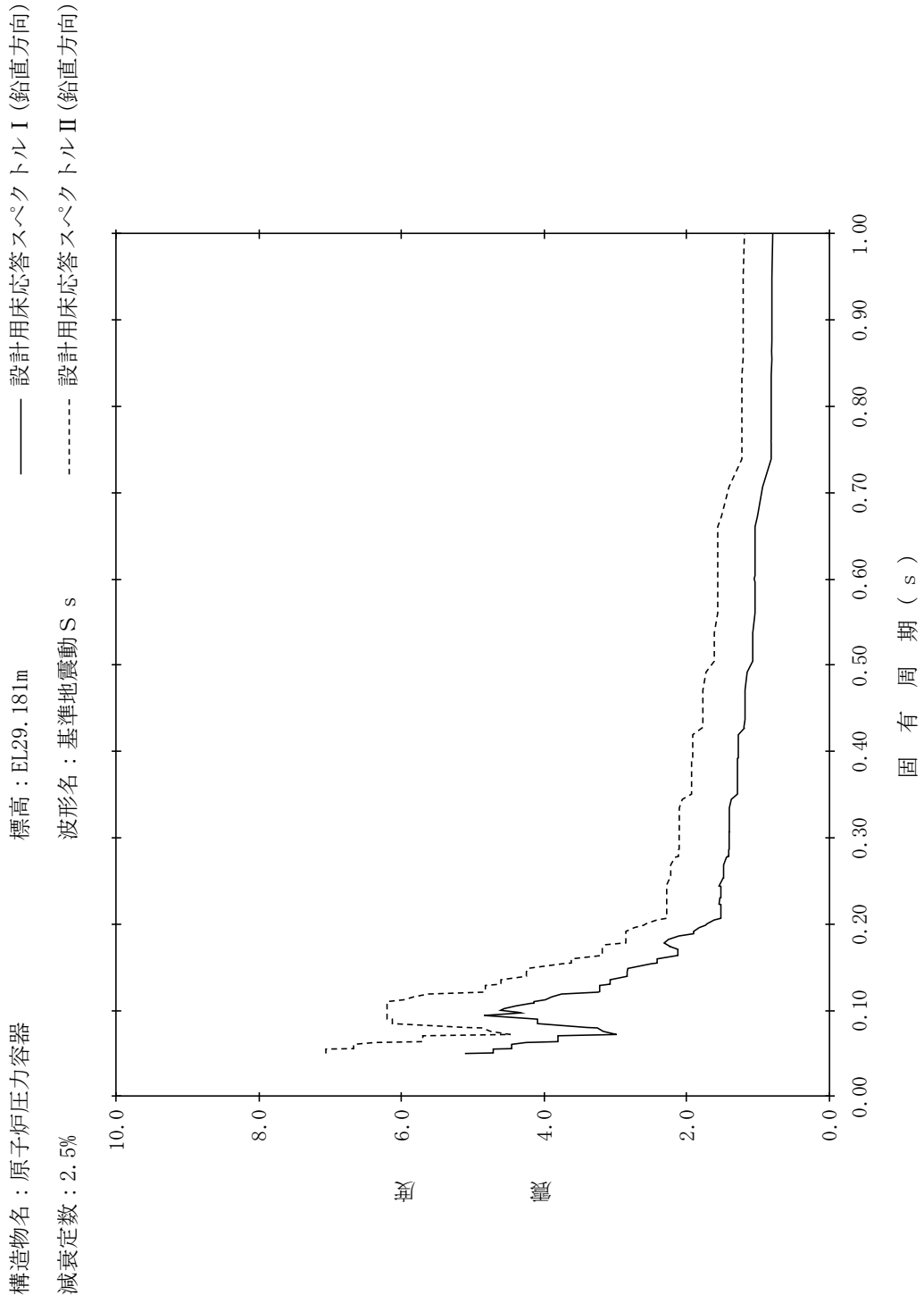


【NS2-PCV-SsV-RPV156】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

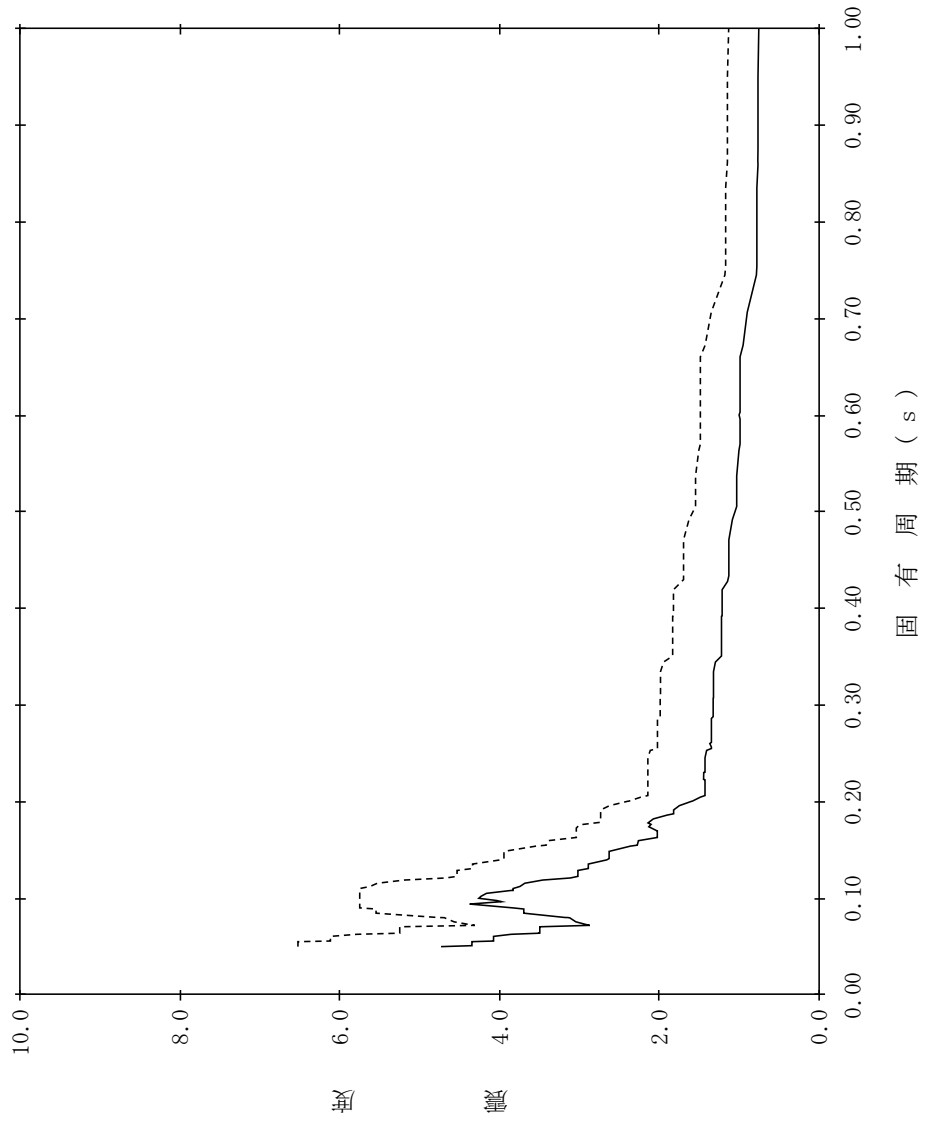


【NS2-PCV-SsV-RPV157】



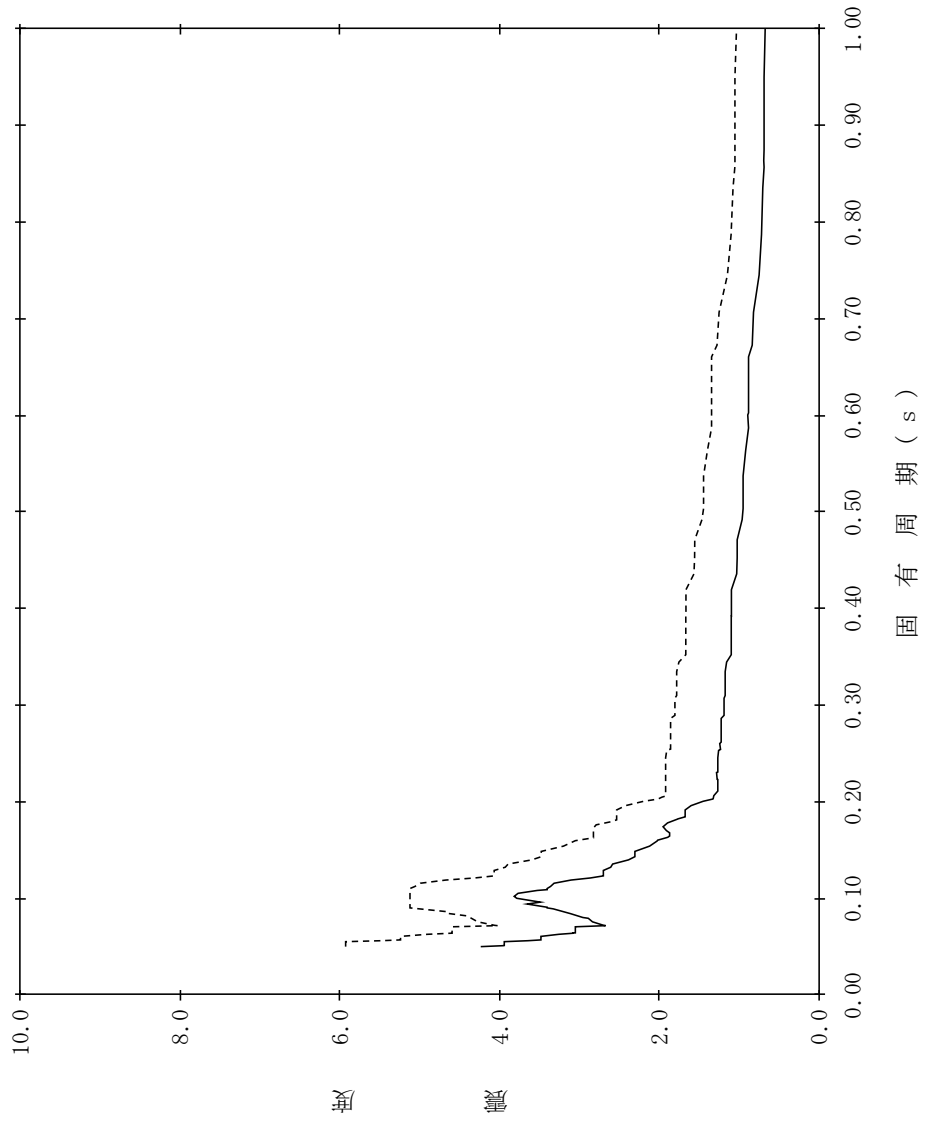
【NS2-PCV-SsV-RPV158】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



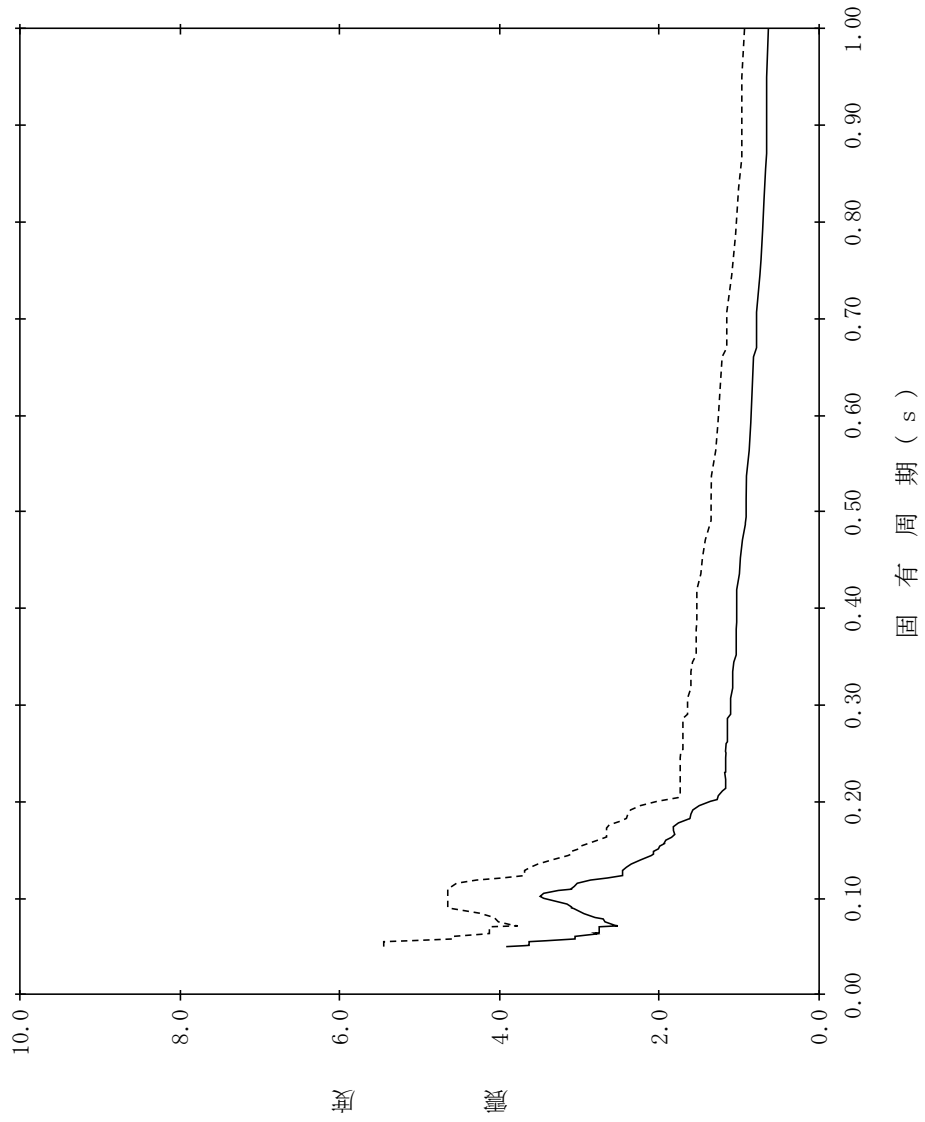
【NS2-PCV-SsV-RPV159】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL29.181m
減衰定数：4.0%
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-PCV-SsV-RPV160】

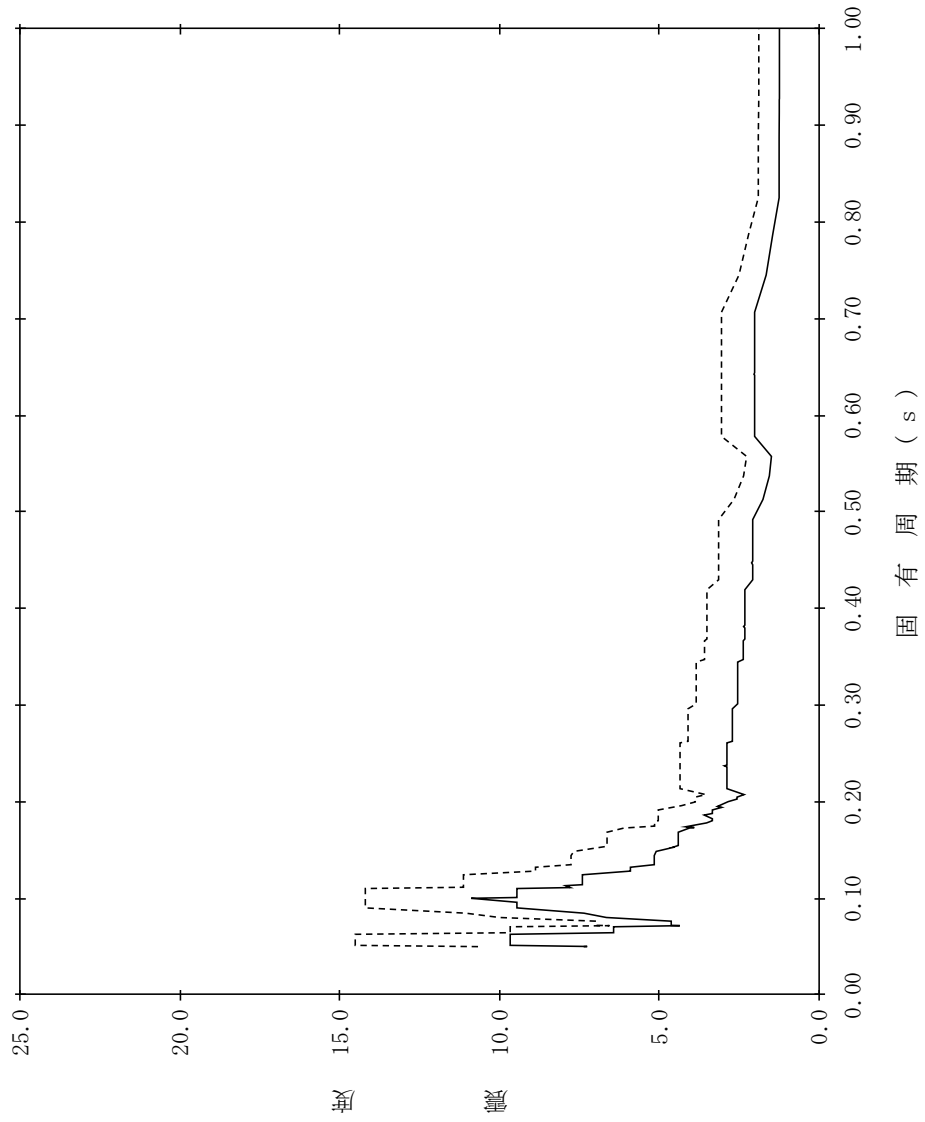
構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL29.181m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-PCV-SsV-RPV161】

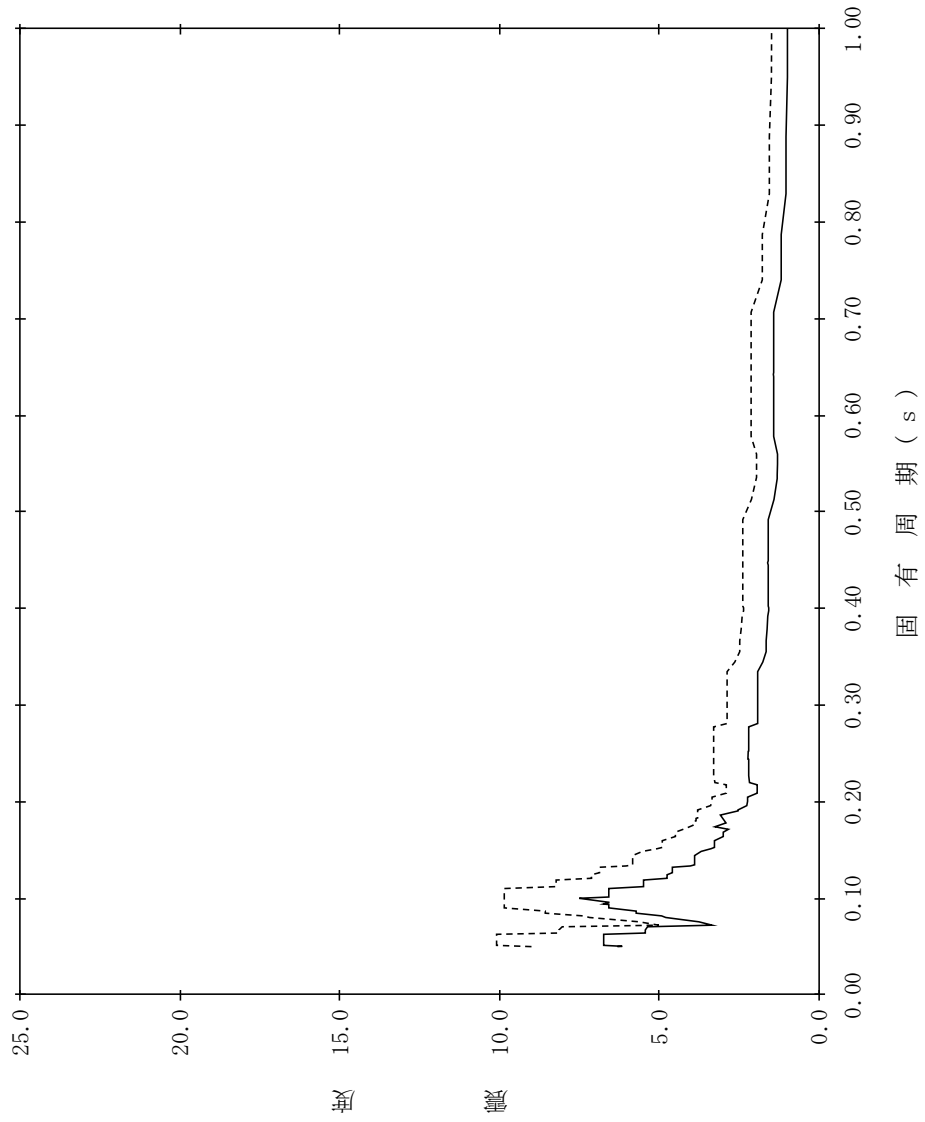
構造物名：原子炉压力容器
標高：EL27.317m
減衰定数：0.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



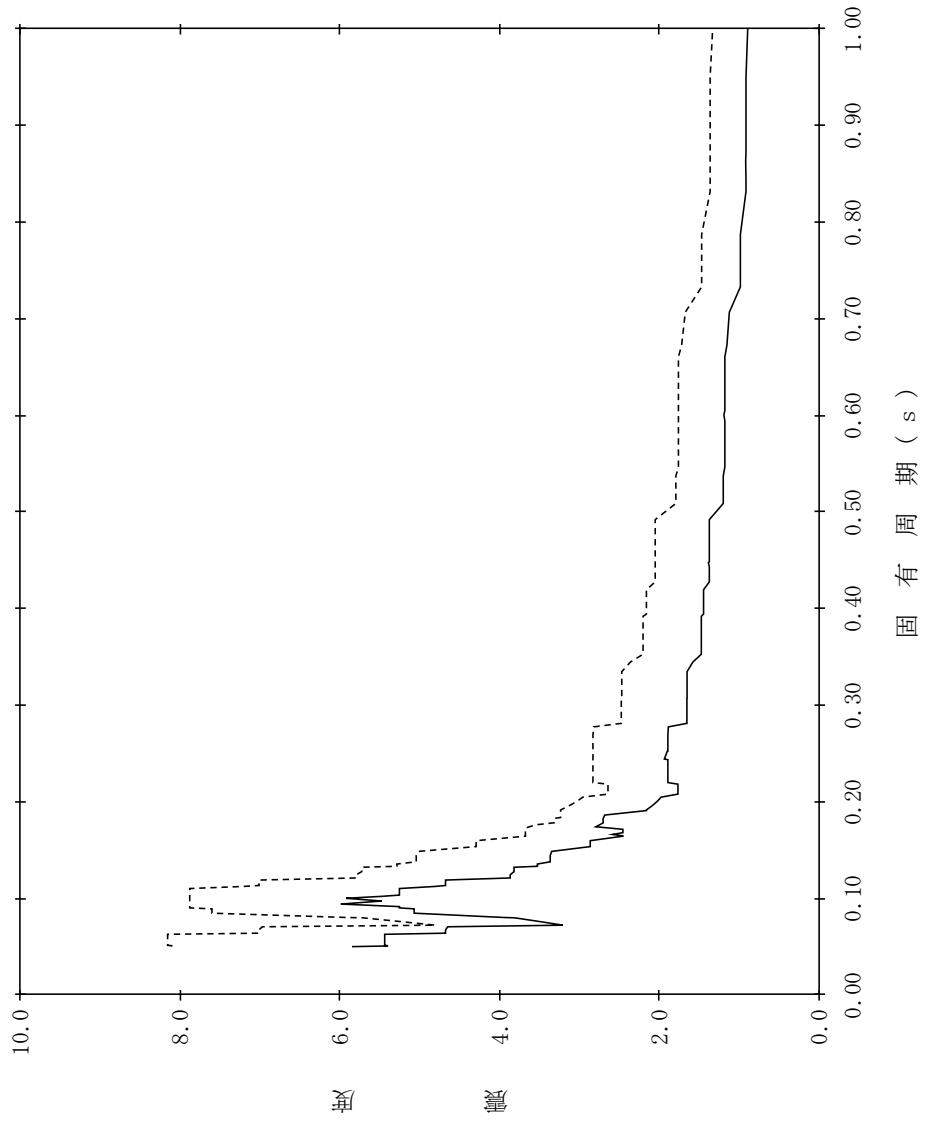
【NS2-PCV-SsV-RPV162】

構造物名：原子炉压力容器
標高：EL27.317m
減衰定数：1.0%
波形式：標準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



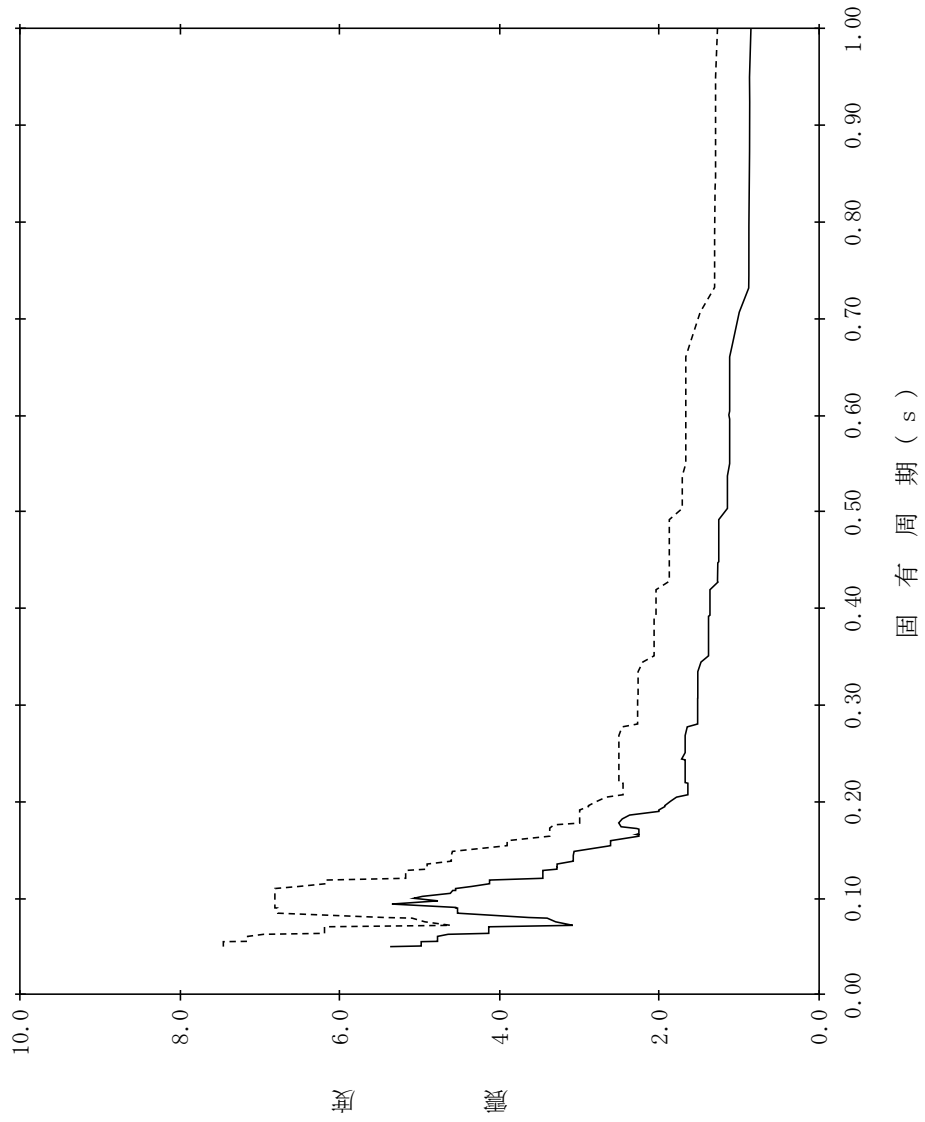
【NS2-PCV-SsV-RPV163】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



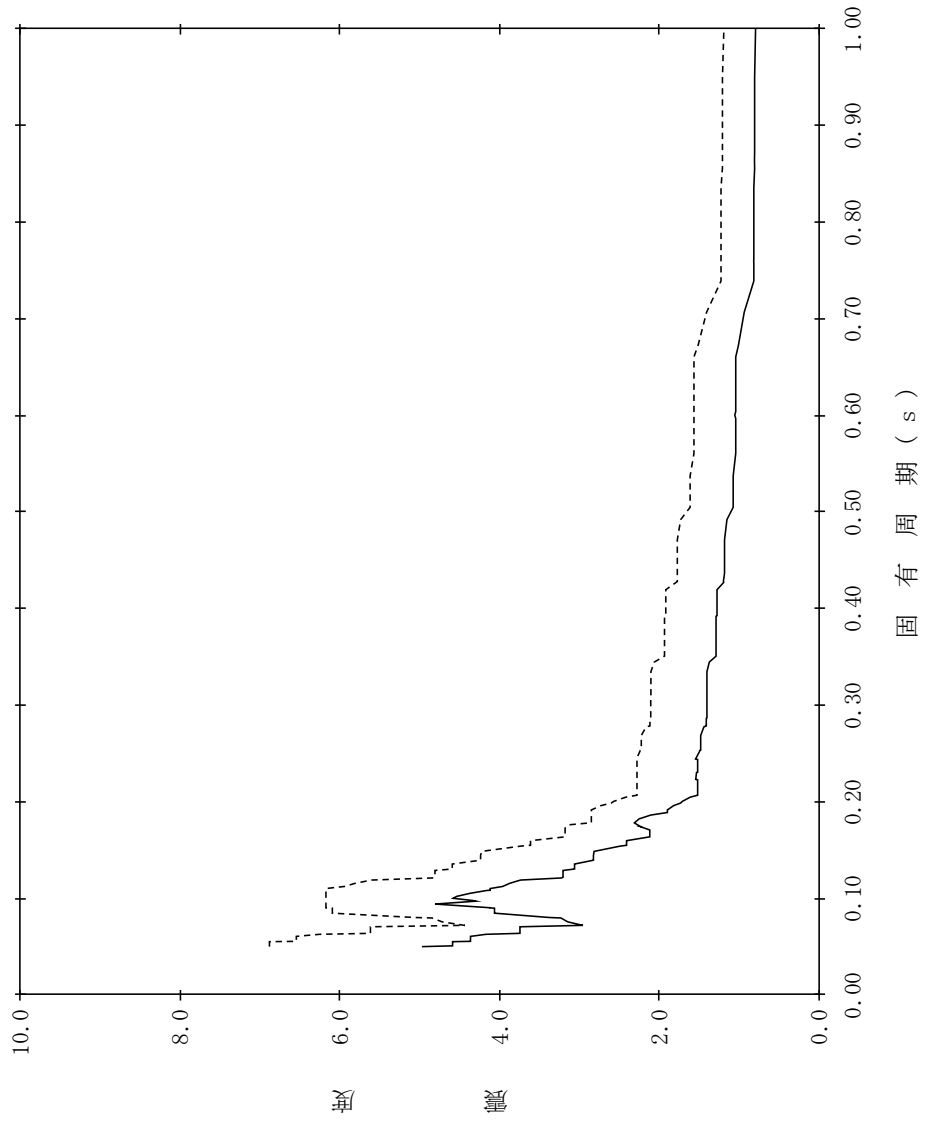
【NS2-PCV-SsV-RPV164】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



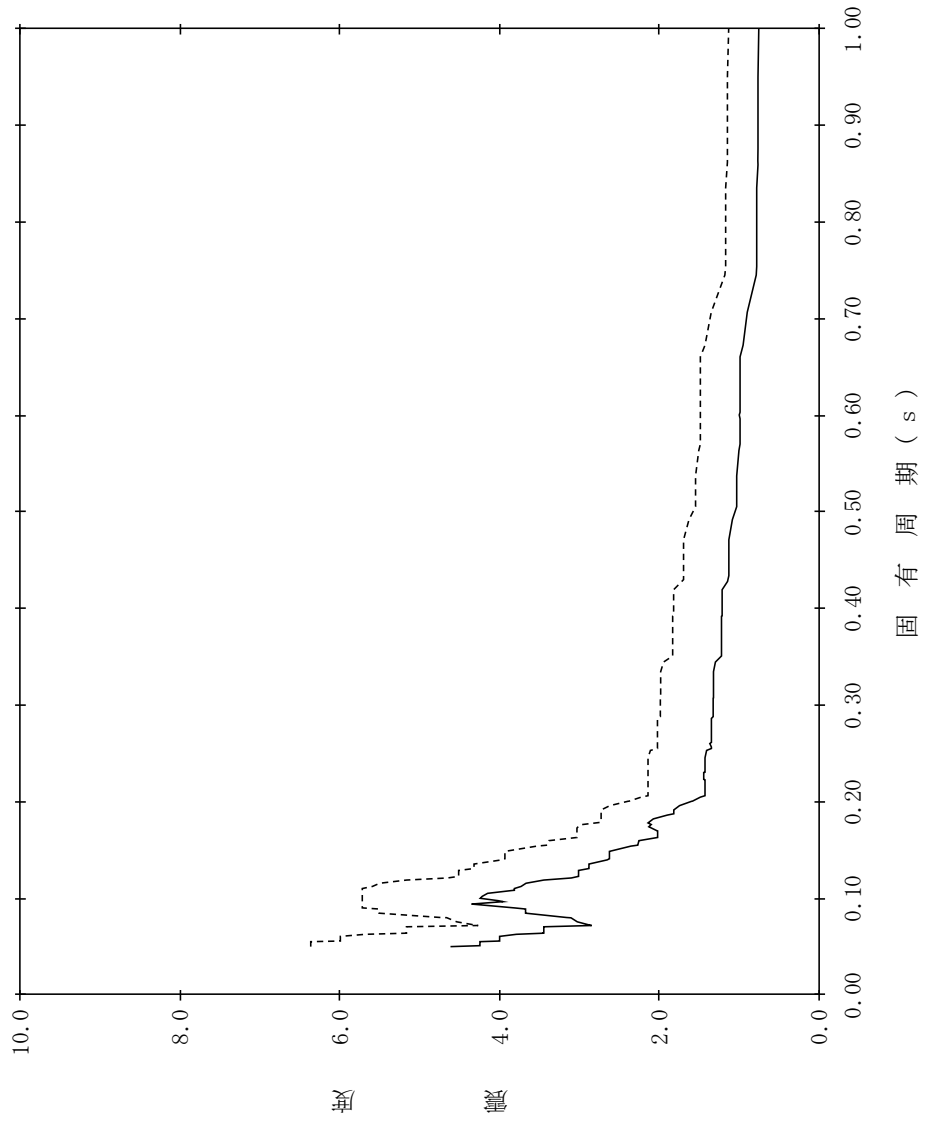
【NS2-PCV-SsV-RPV165】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



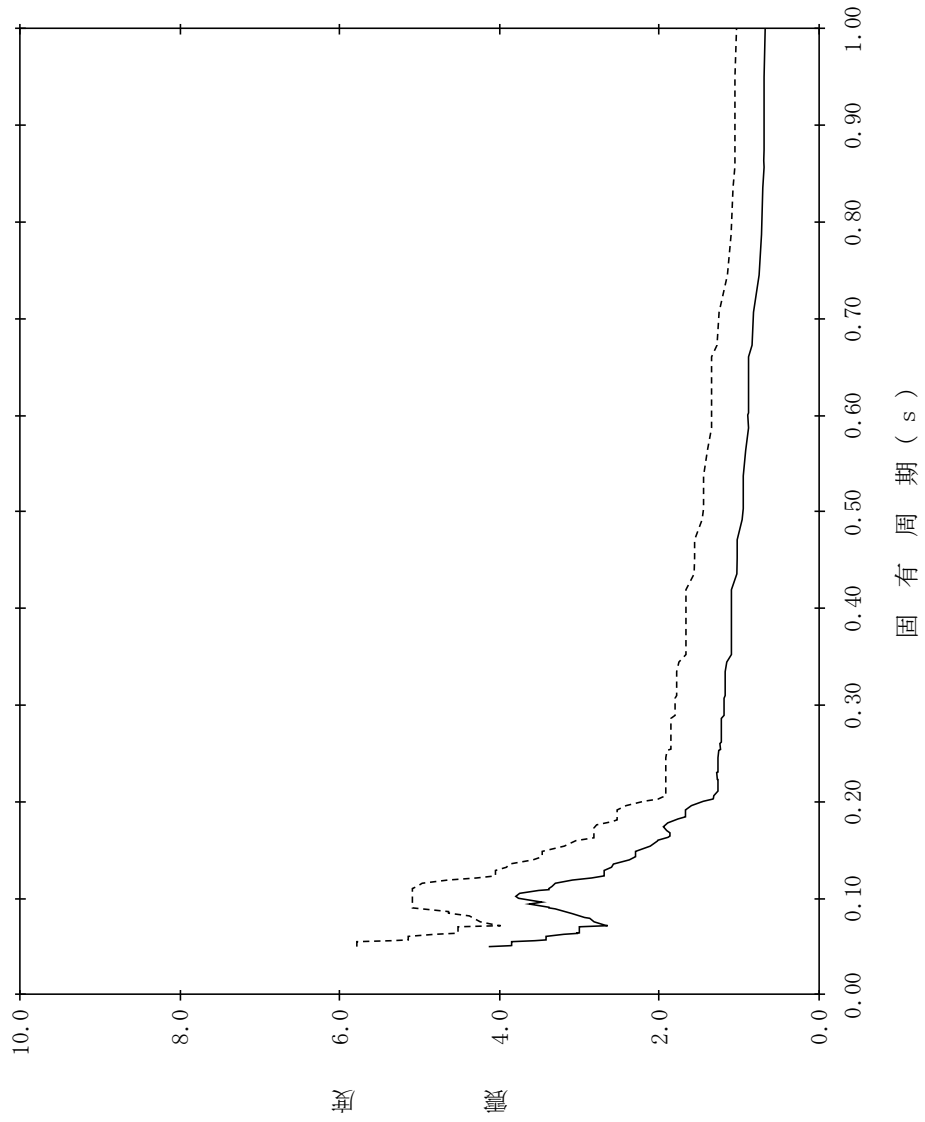
【NS2-PCV-SsV-RPV166】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



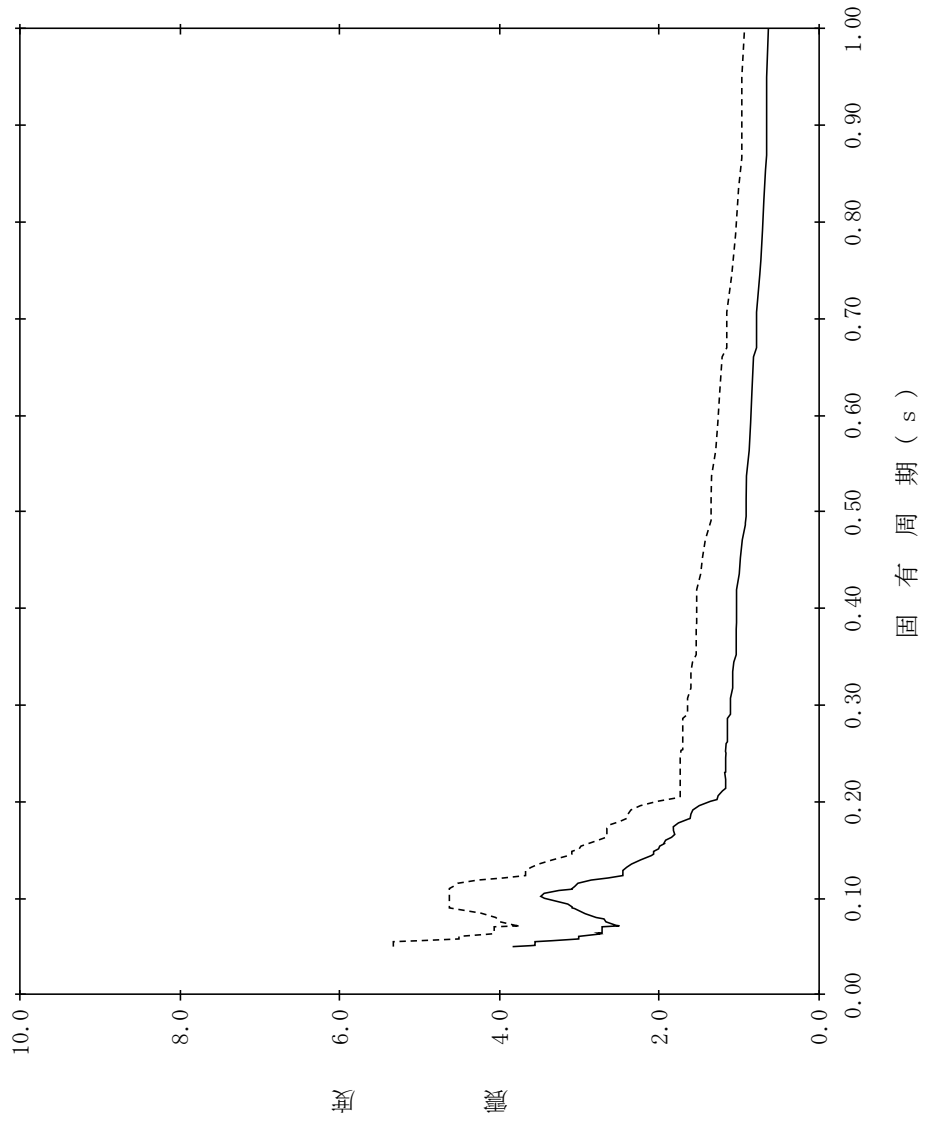
【NS2-PCV-SsV-RPV167】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



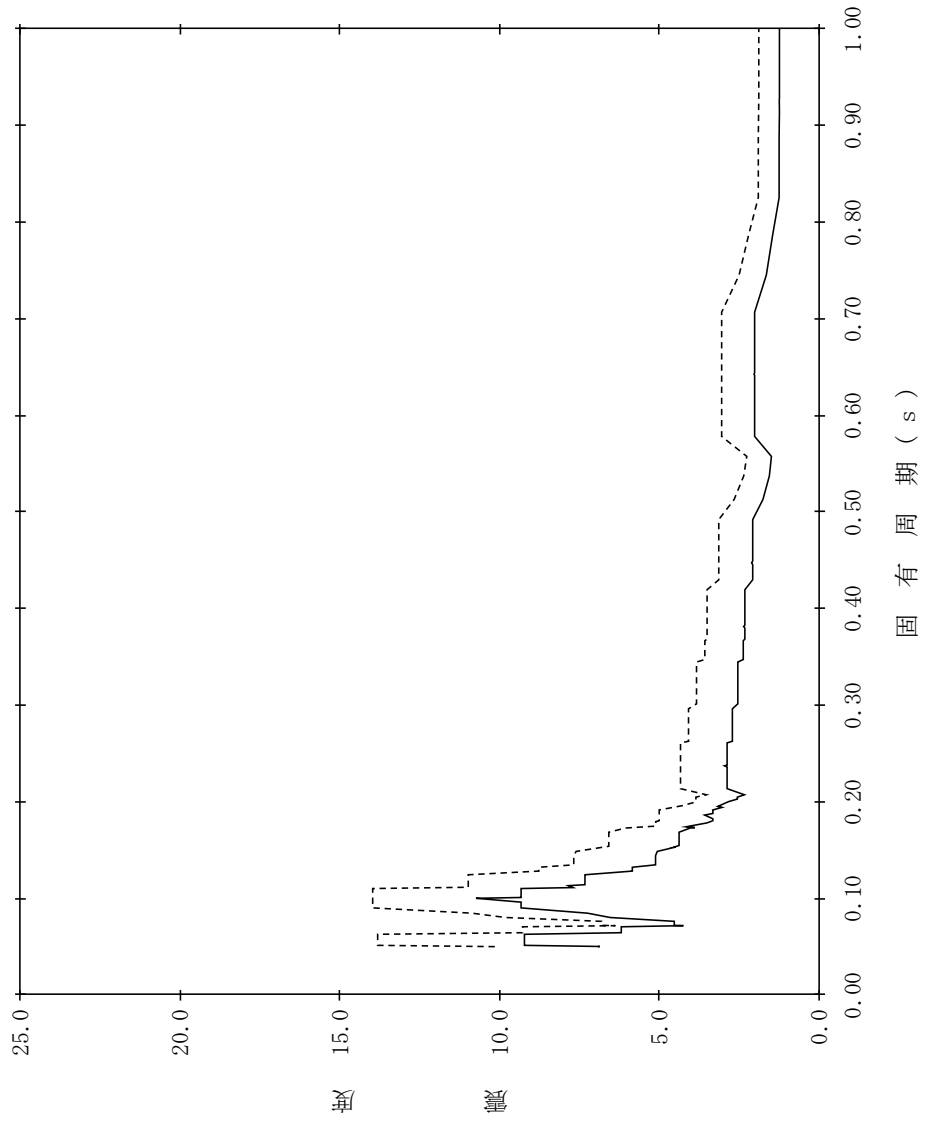
【NS2-PCV-SsV-RPV168】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL27.317m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



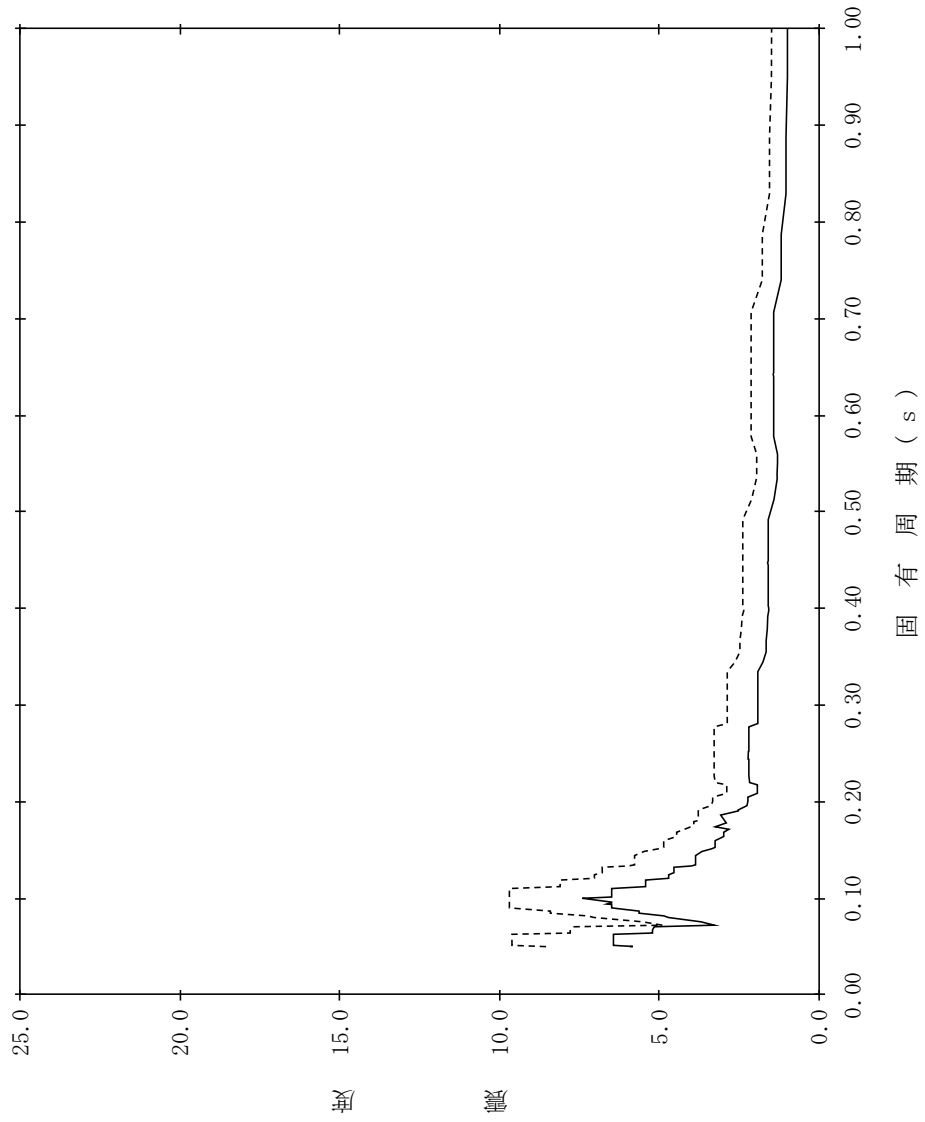
【NS2-PCV-SsV-RPV169】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



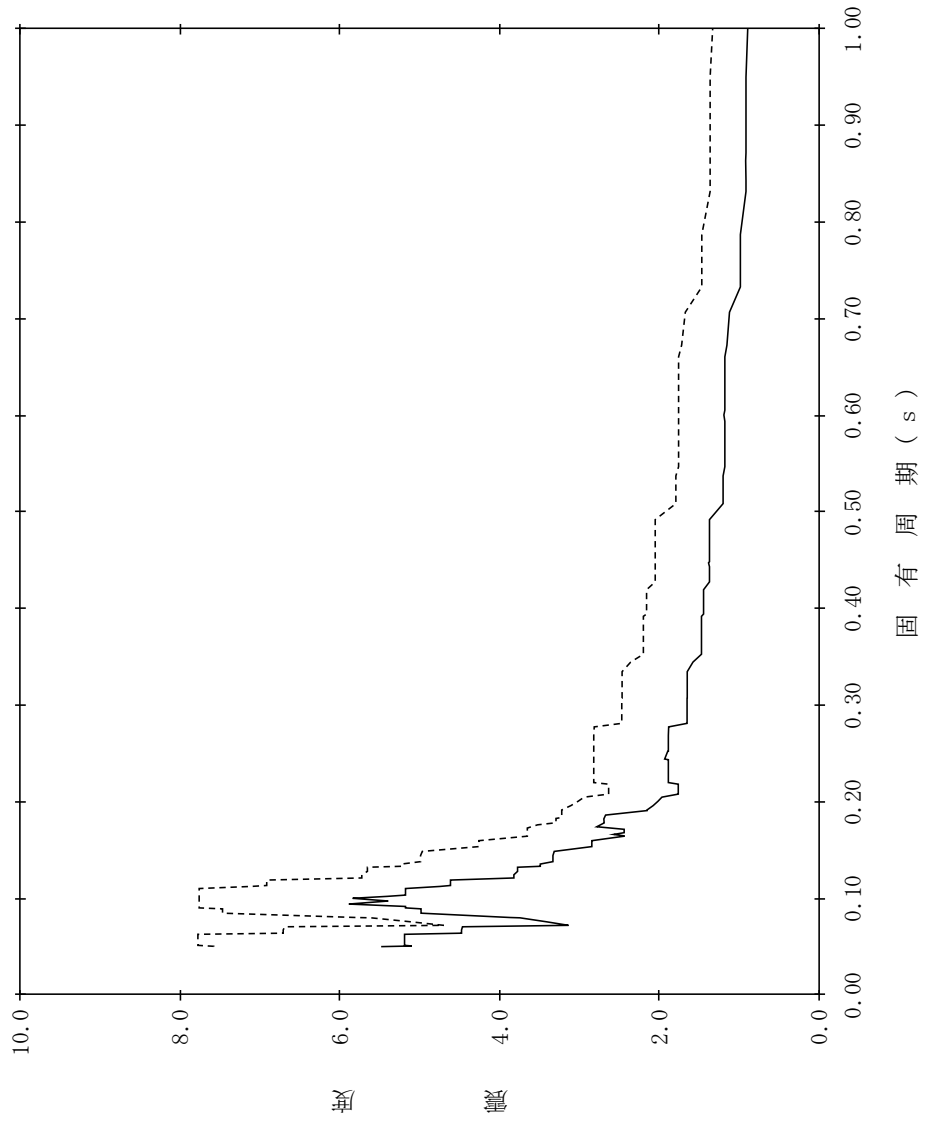
【NS2-PCV-SsV-RPV170】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



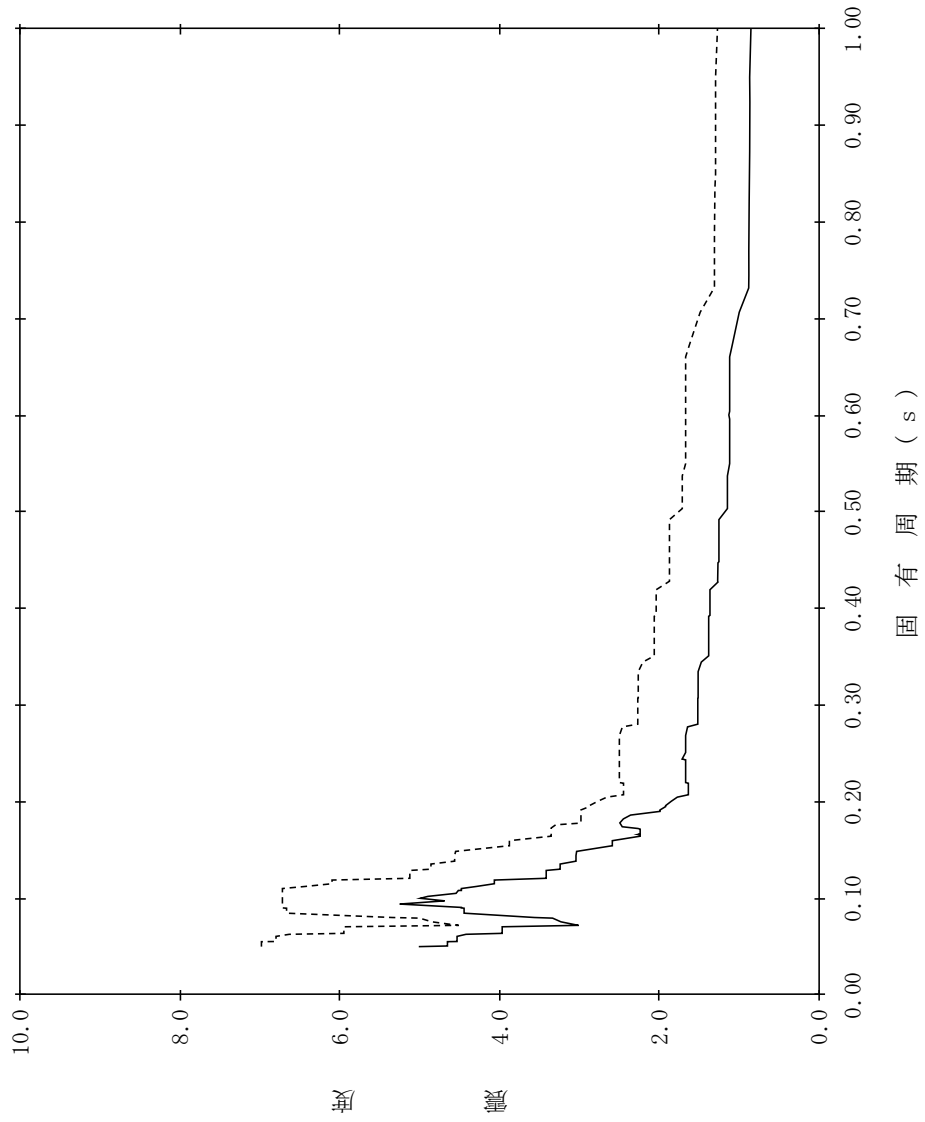
【NS2-PCV-SsV-RPV171】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



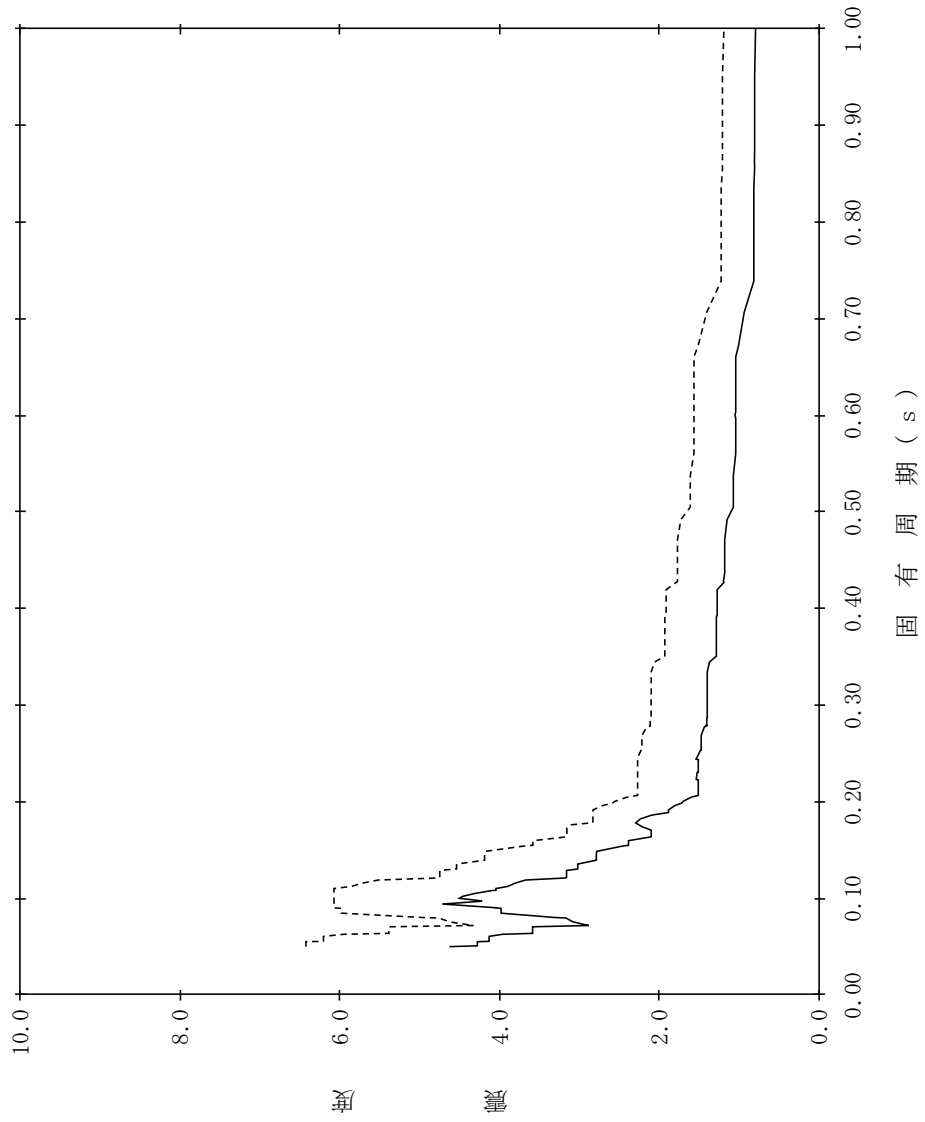
【NS2-PCV-SsV-RPV172】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



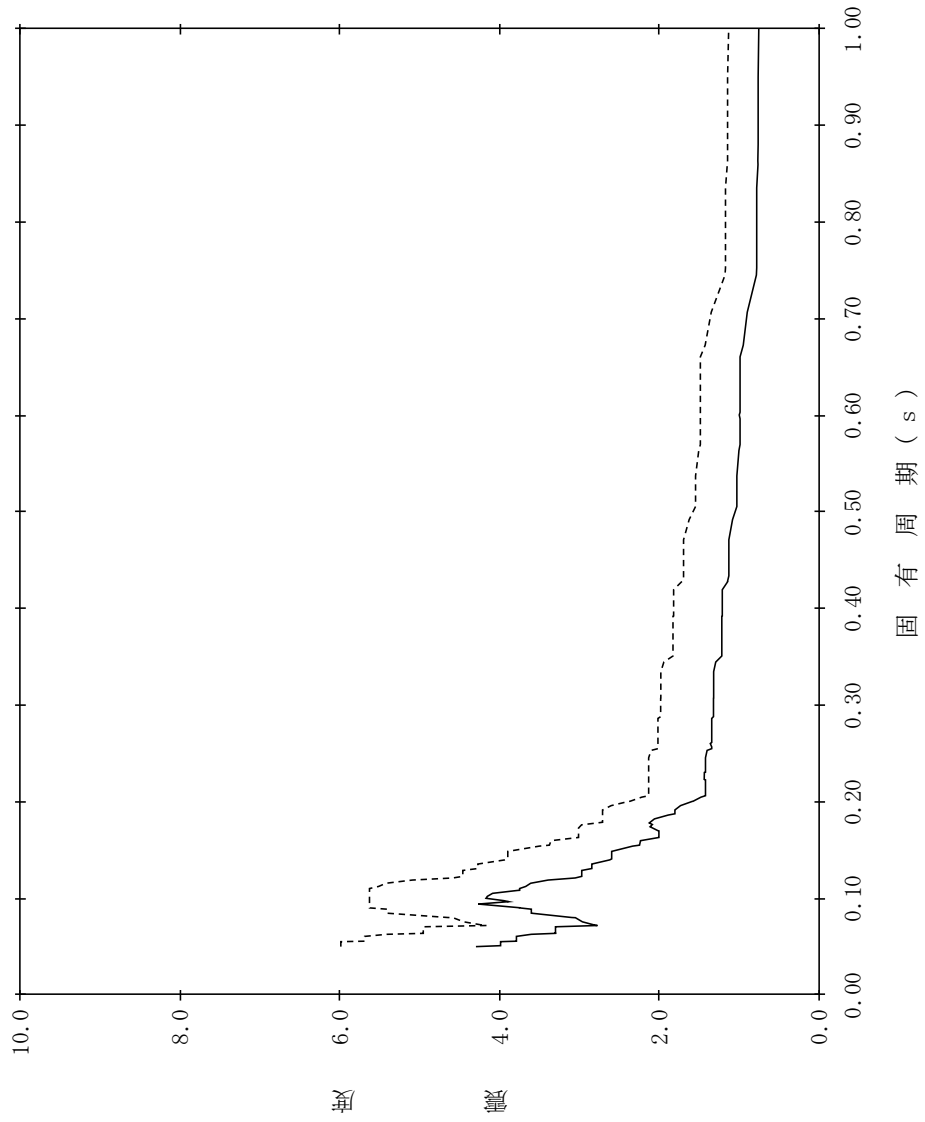
【NS2-PCV-SsV-RPV173】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



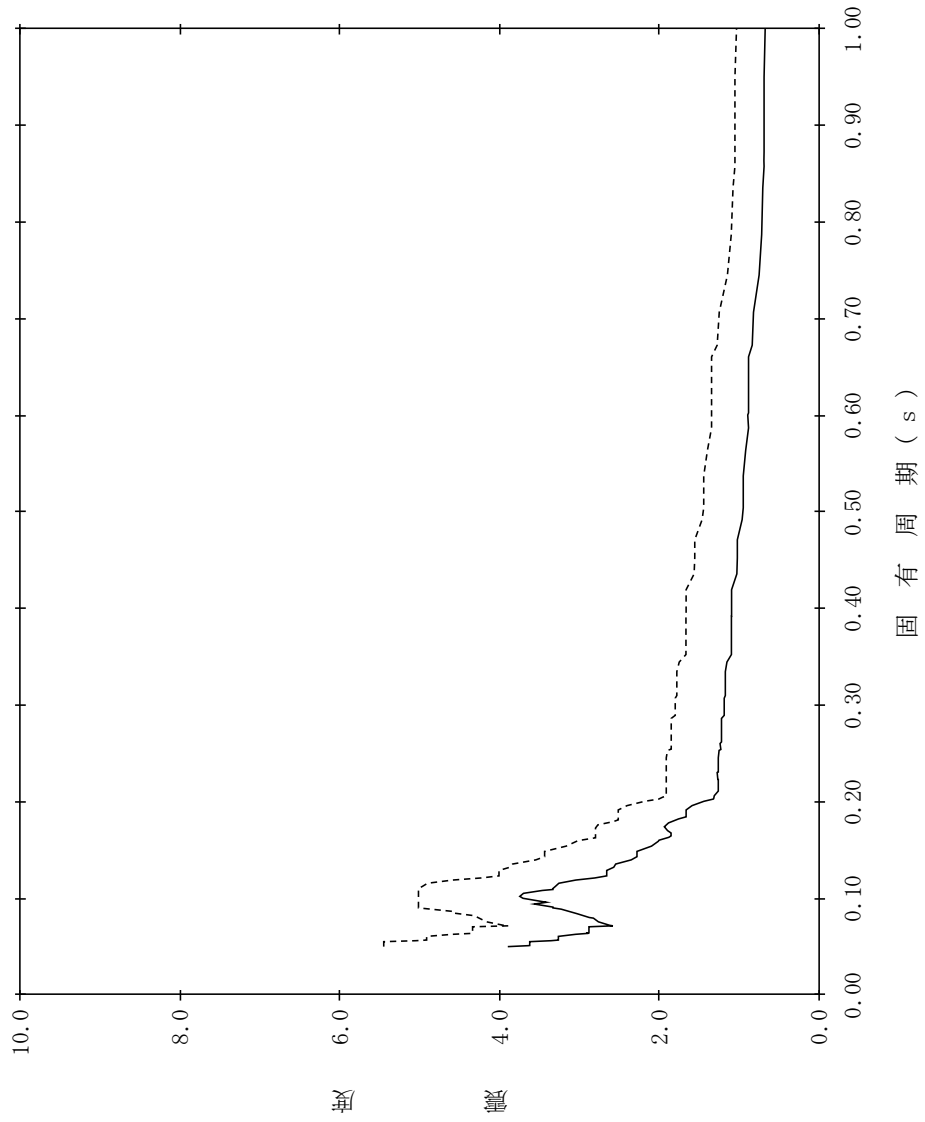
【NS2-PCV-SsV-RPV174】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



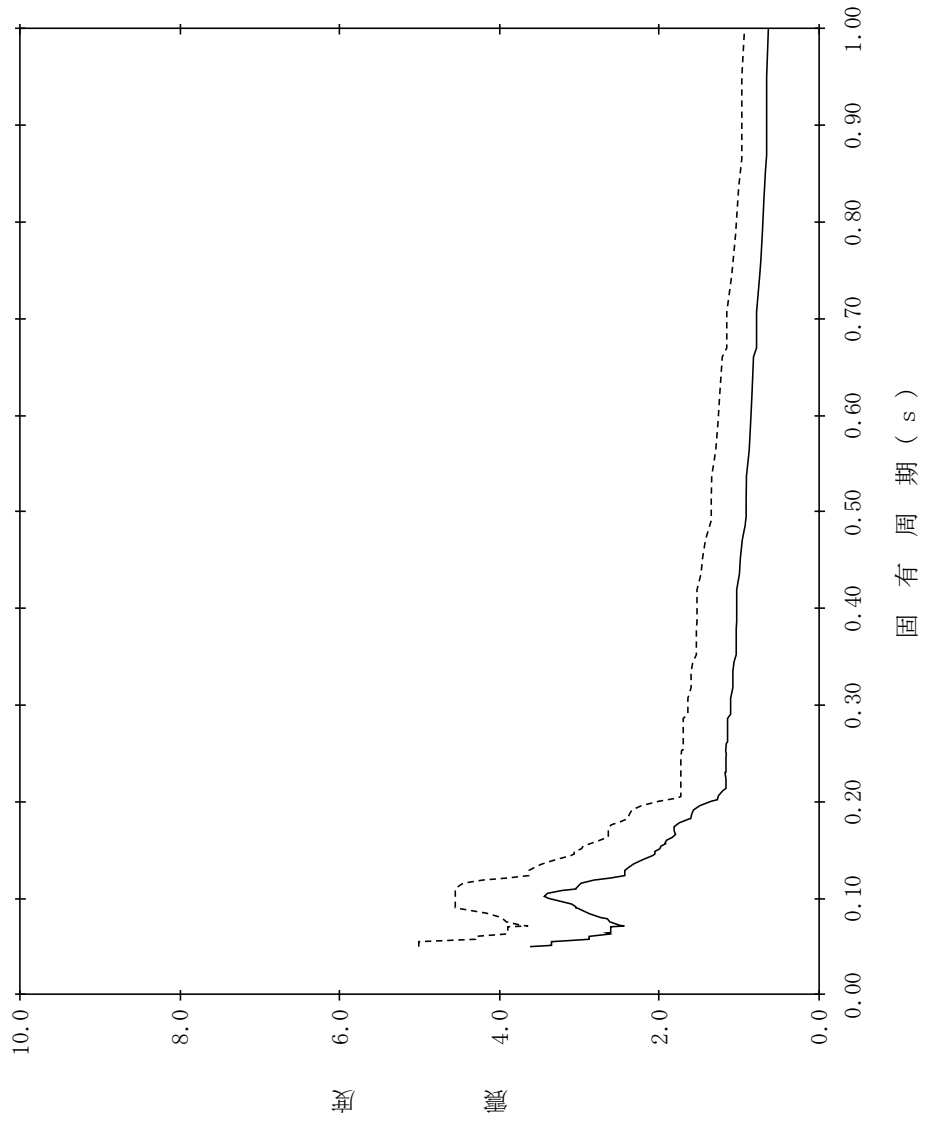
【NS2-PCV-SsV-RPV175】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

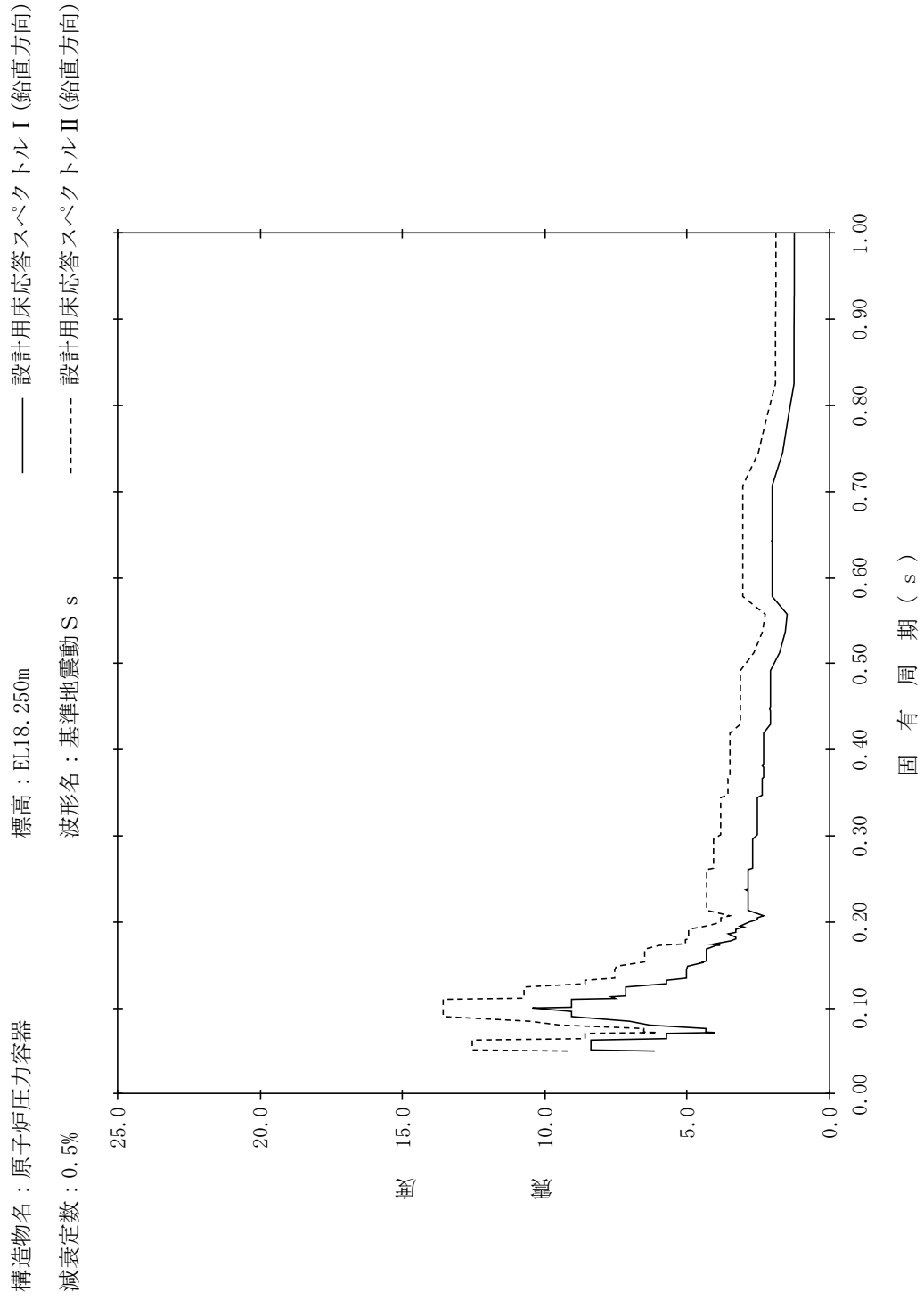


【NS2-PCV-SsV-RPV176】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL23.707m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

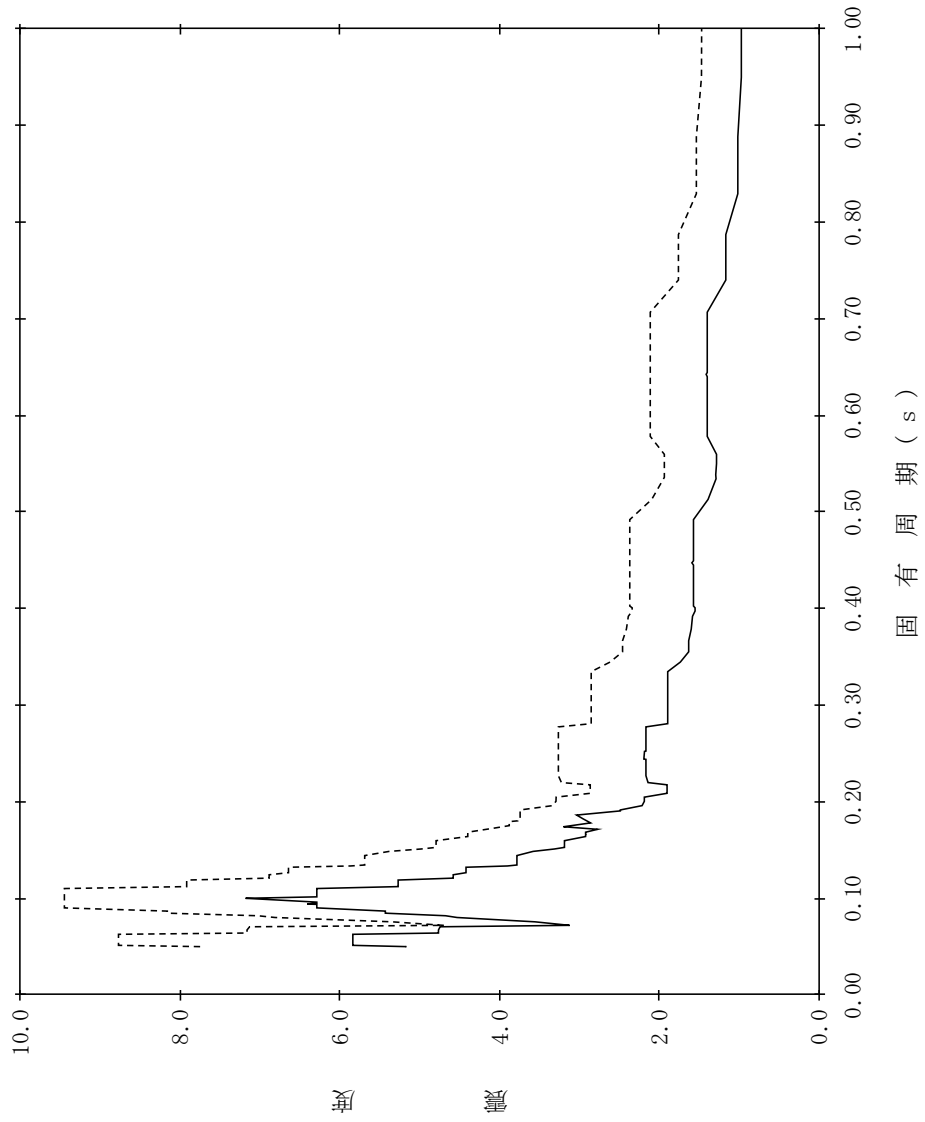


【NS2-PCV-SsV-RPV177】



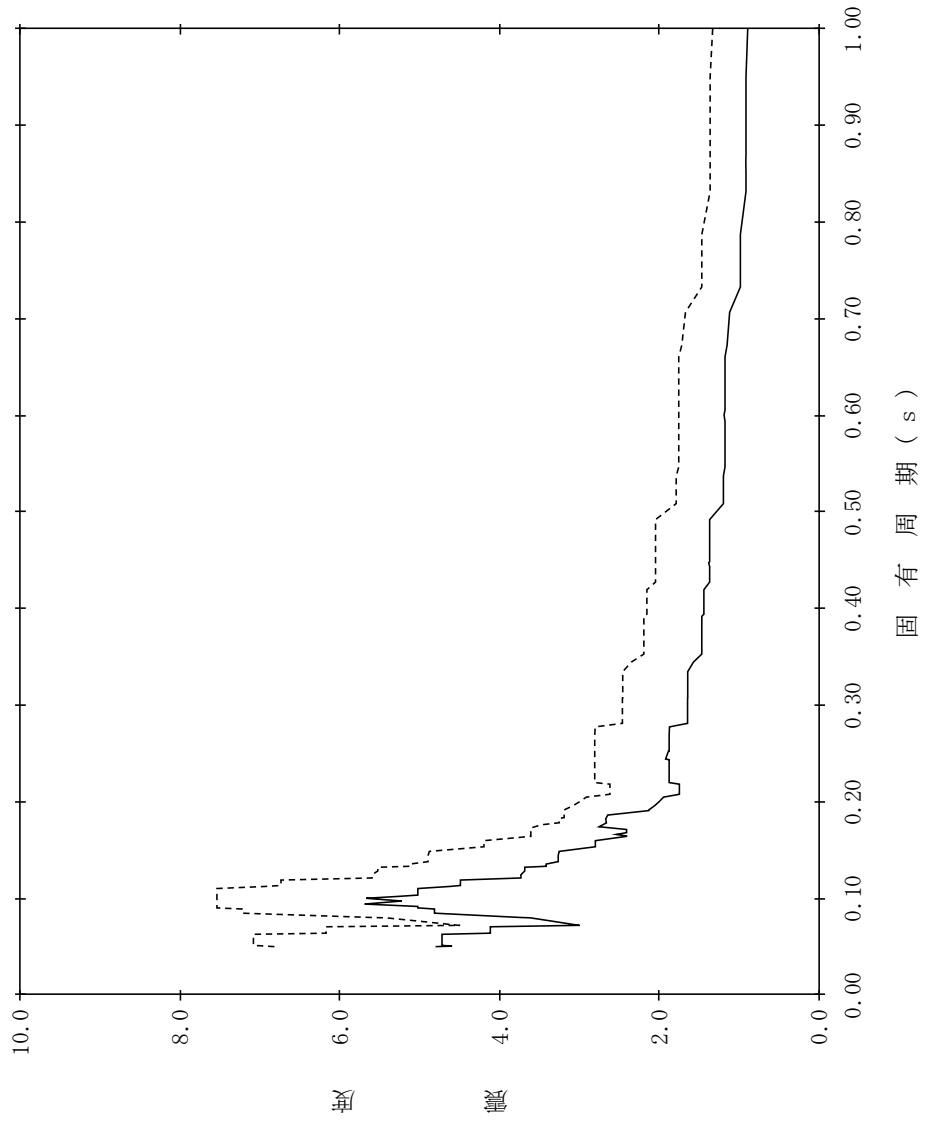
【NS2-PCV-SsV-RPV178】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



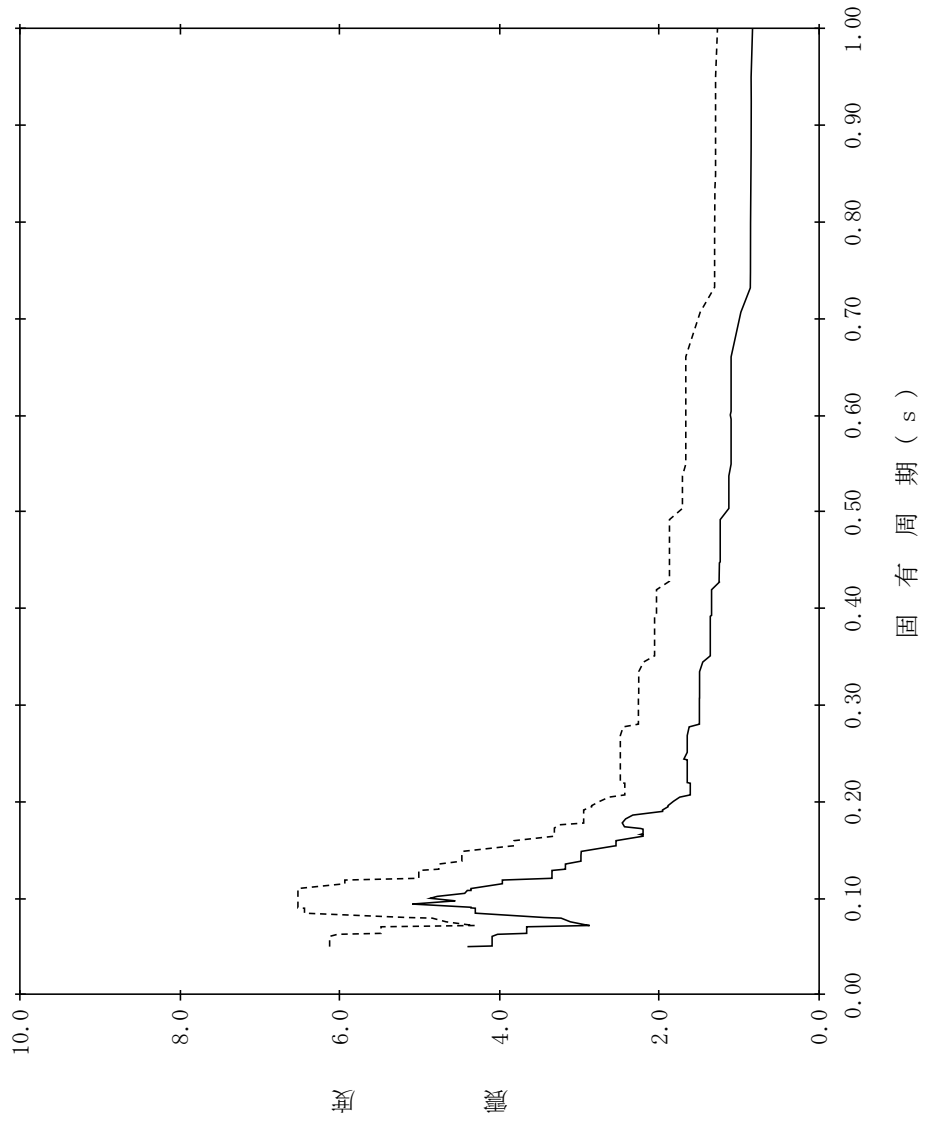
【NS2-PCV-SsV-RPV179】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



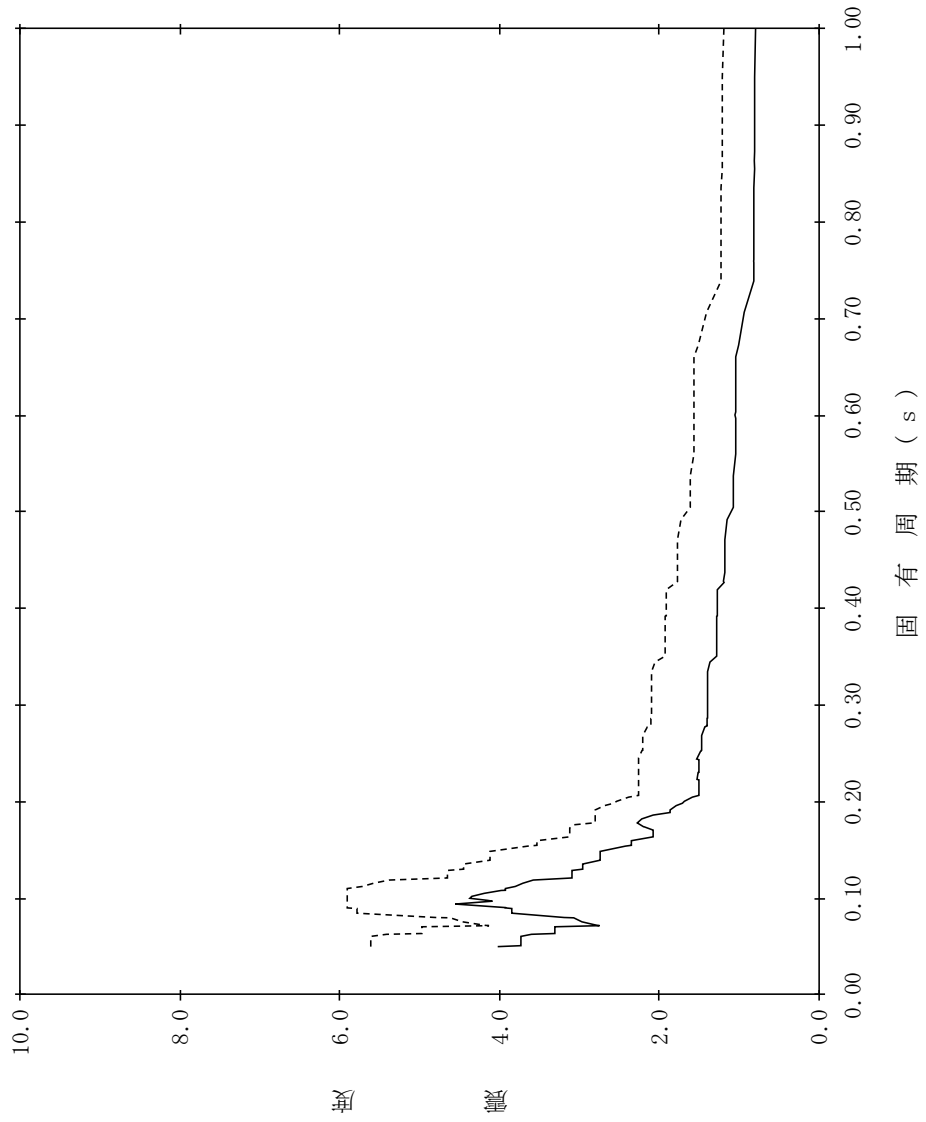
【NS2-PCV-SsV-RPV180】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



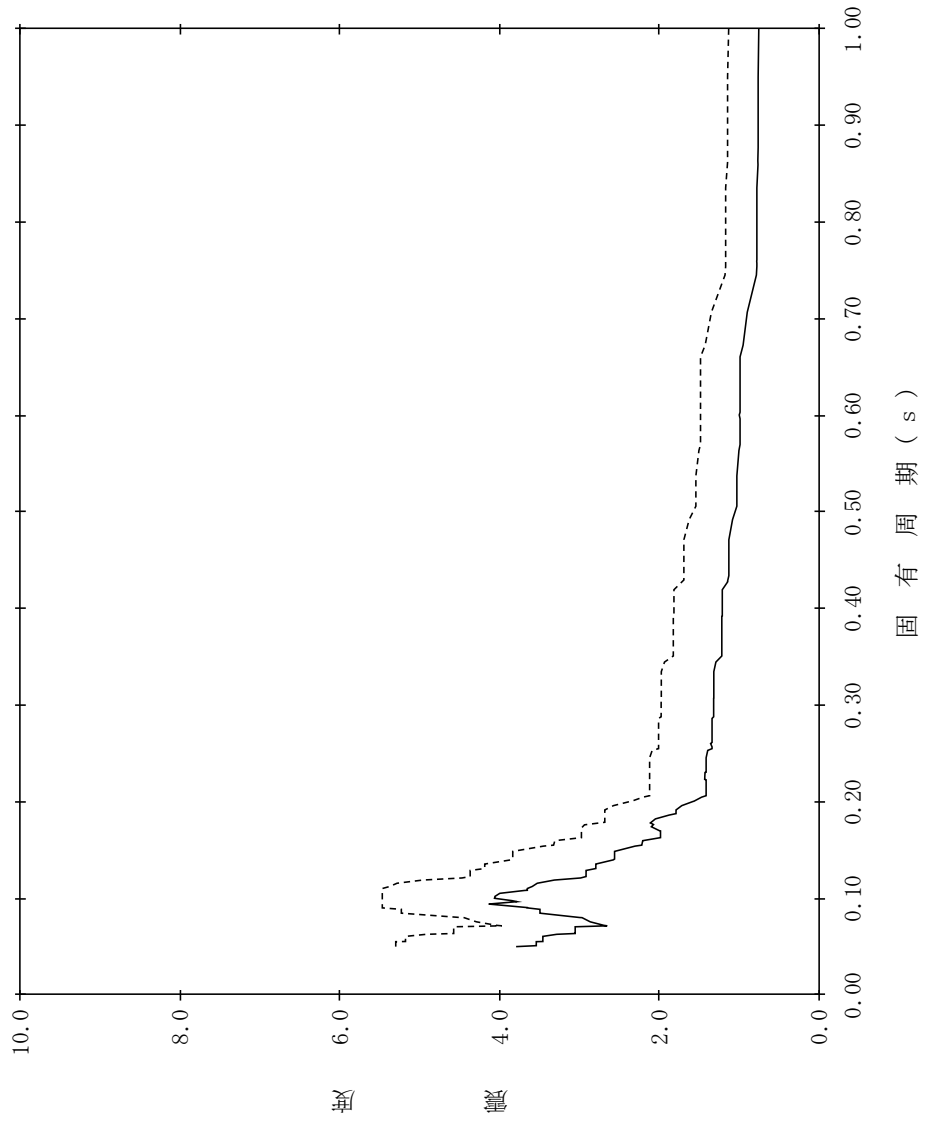
【NS2-PCV-SsV-RPV181】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



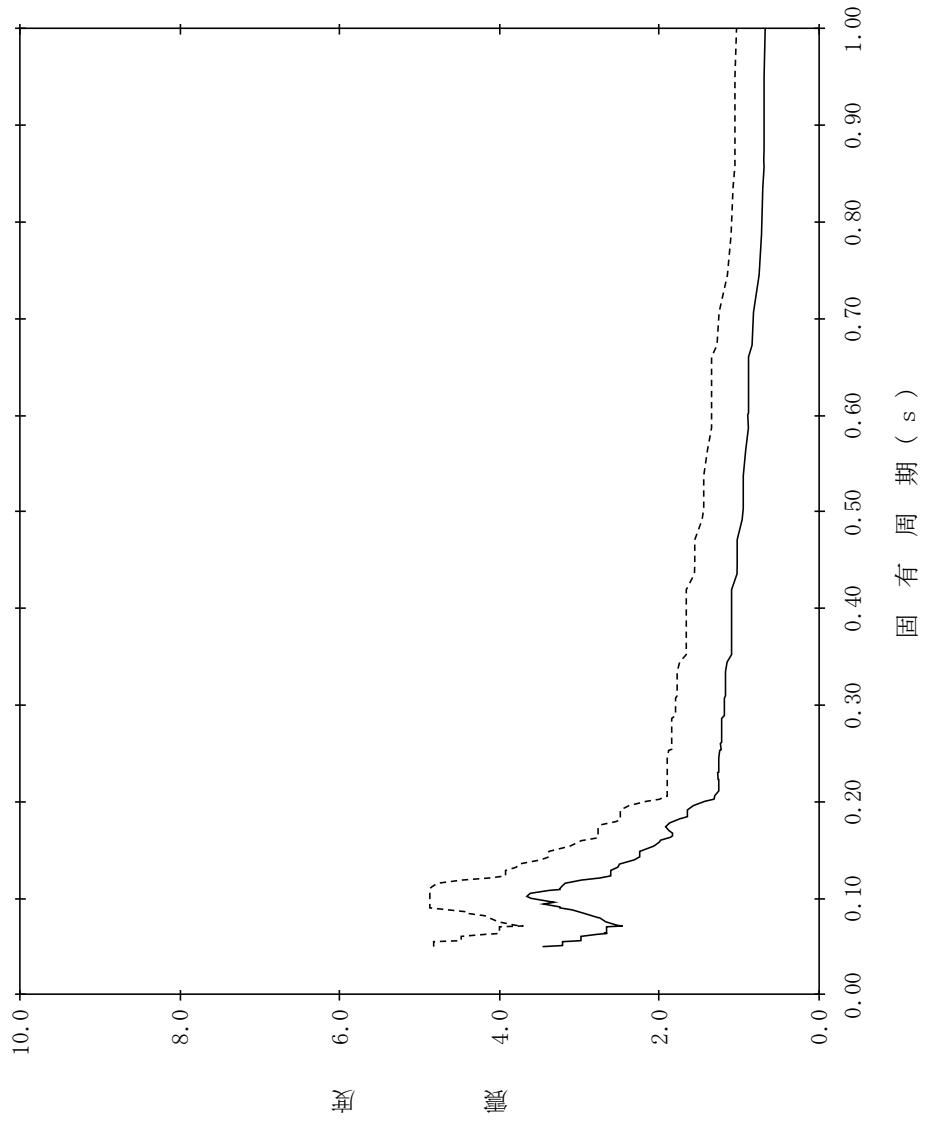
【NS2-PCV-SsV-RPV182】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



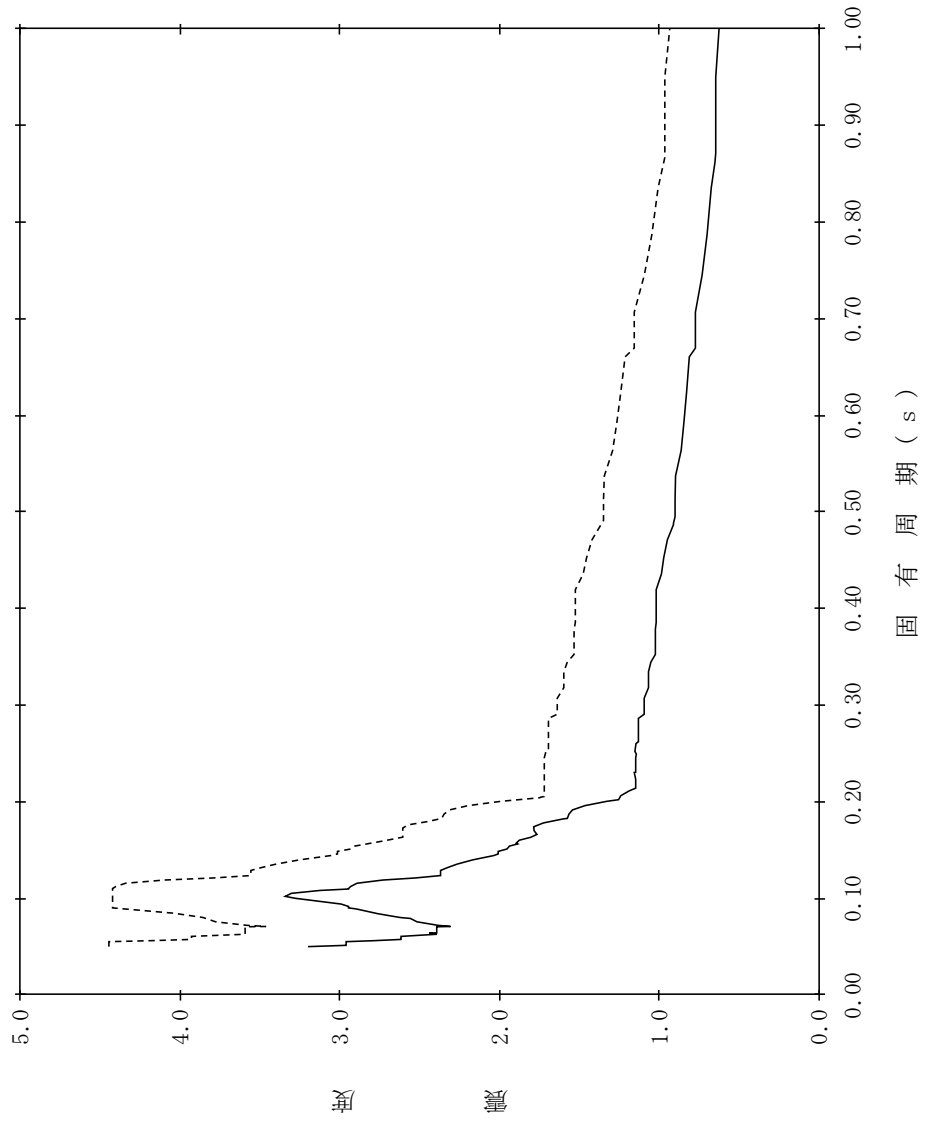
【NS2-PCV-SsV-RPV183】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



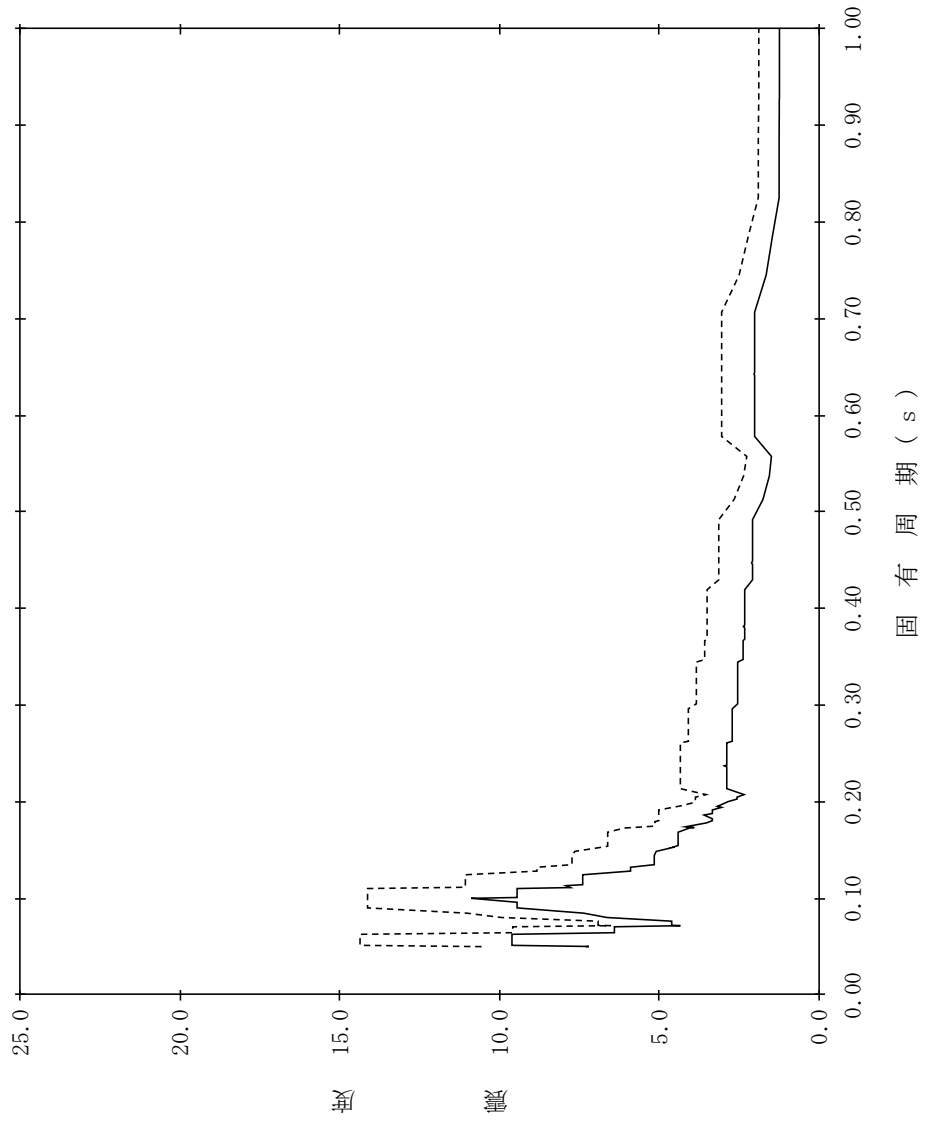
【NS2-PCV-SsV-RPV184】

構造物名：原子炉压力容器
 標高：EL18.250m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



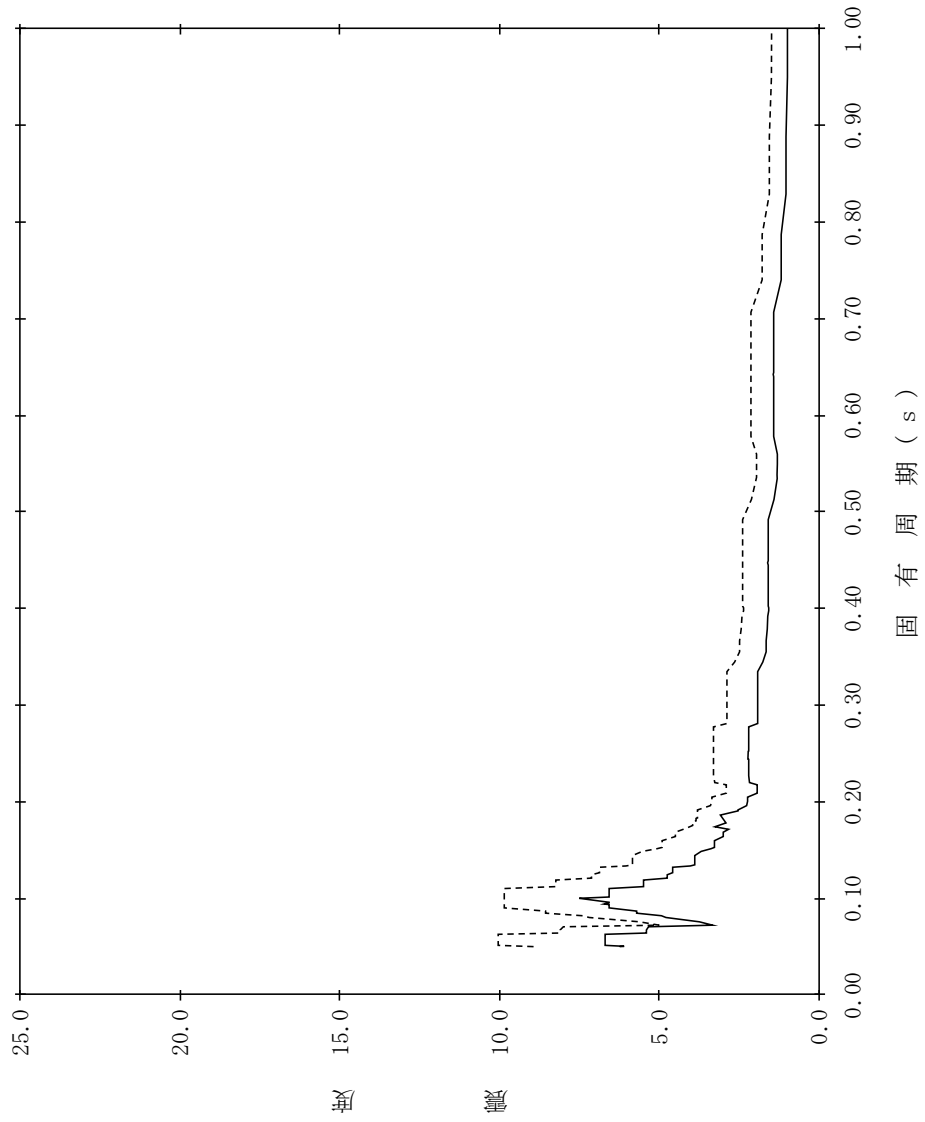
【NS2-PCV-SsV-SHD185】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 減衰定数：0.5% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



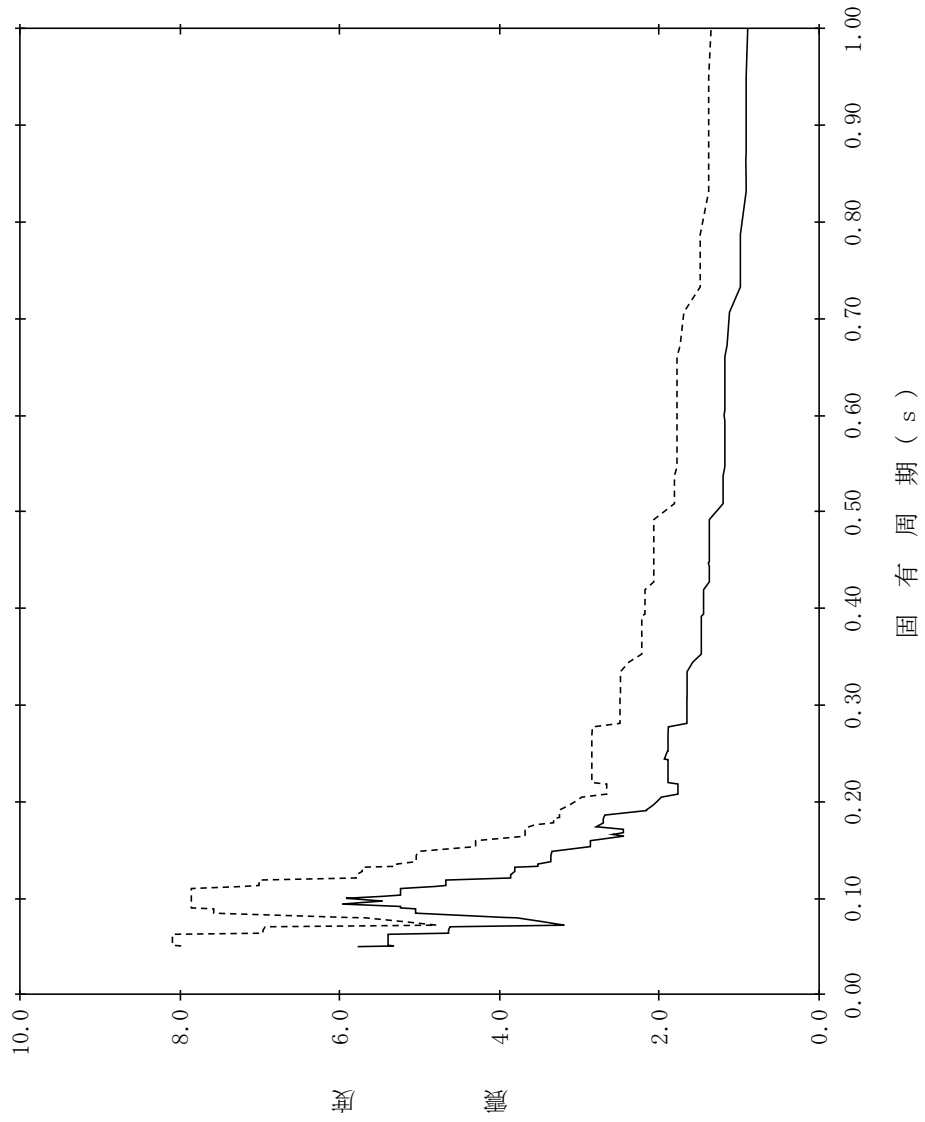
【NS2-PCV-SsV-SHD186】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：1.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



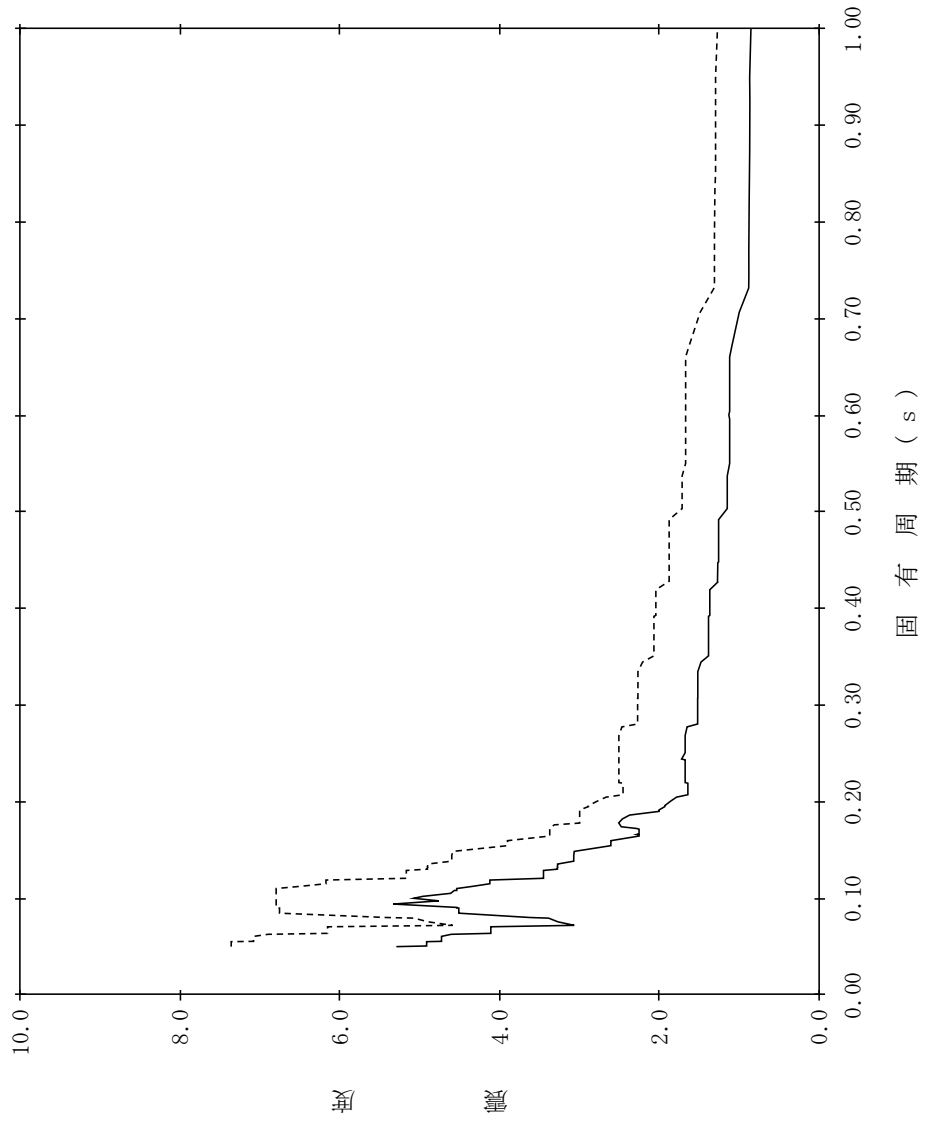
【NS2-PCV-SsV-SHD187】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：1.5% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



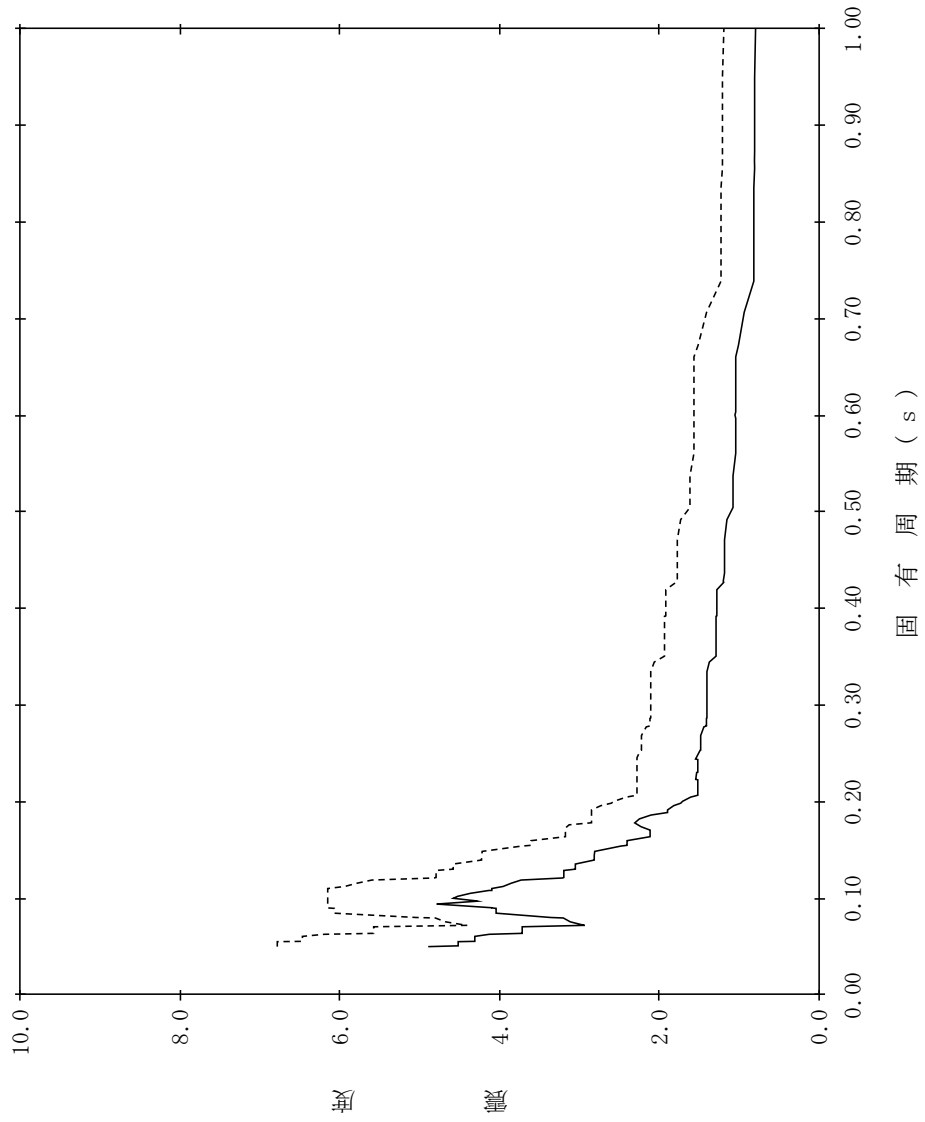
【NS2-PCV-SsV-SHD188】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：2.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



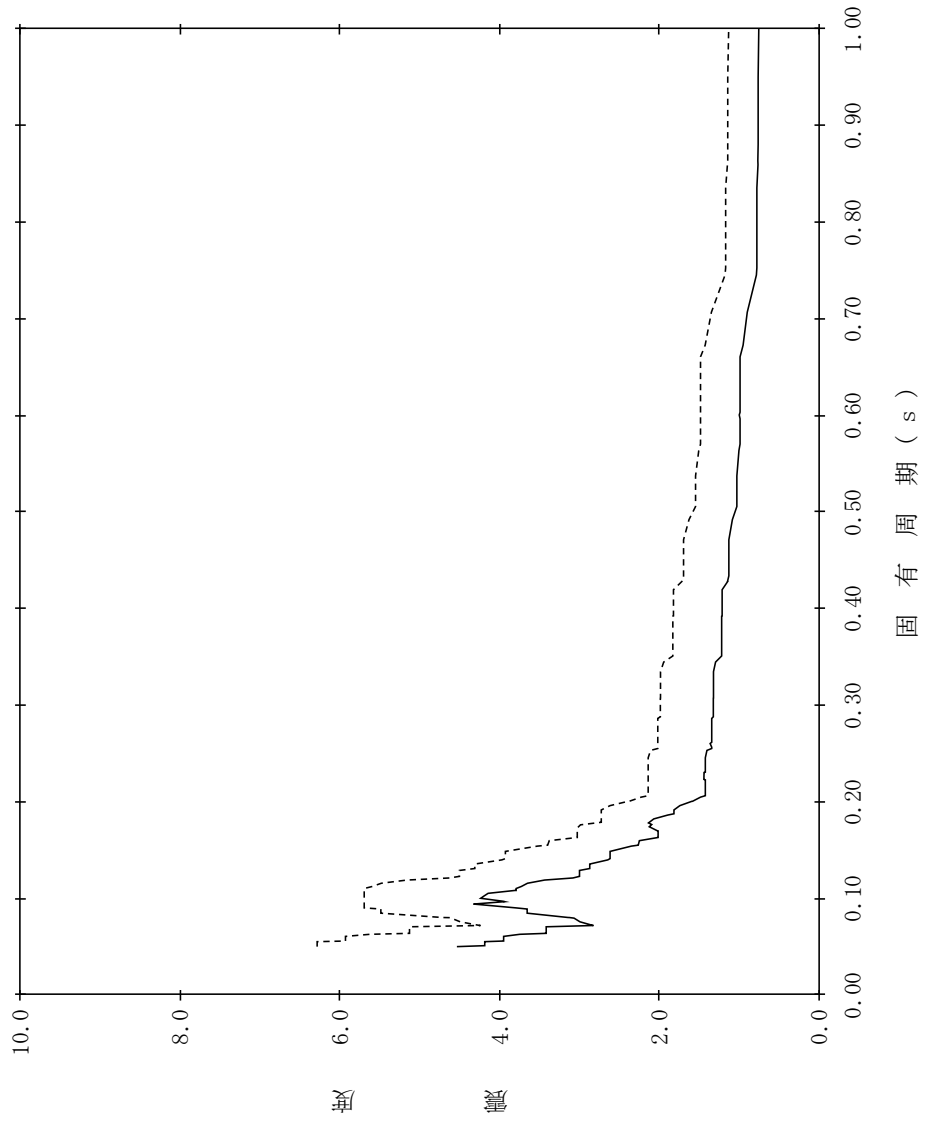
【NS2-PCV-SsV-SHD189】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：2.5% 波形名：基準地震動S s 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



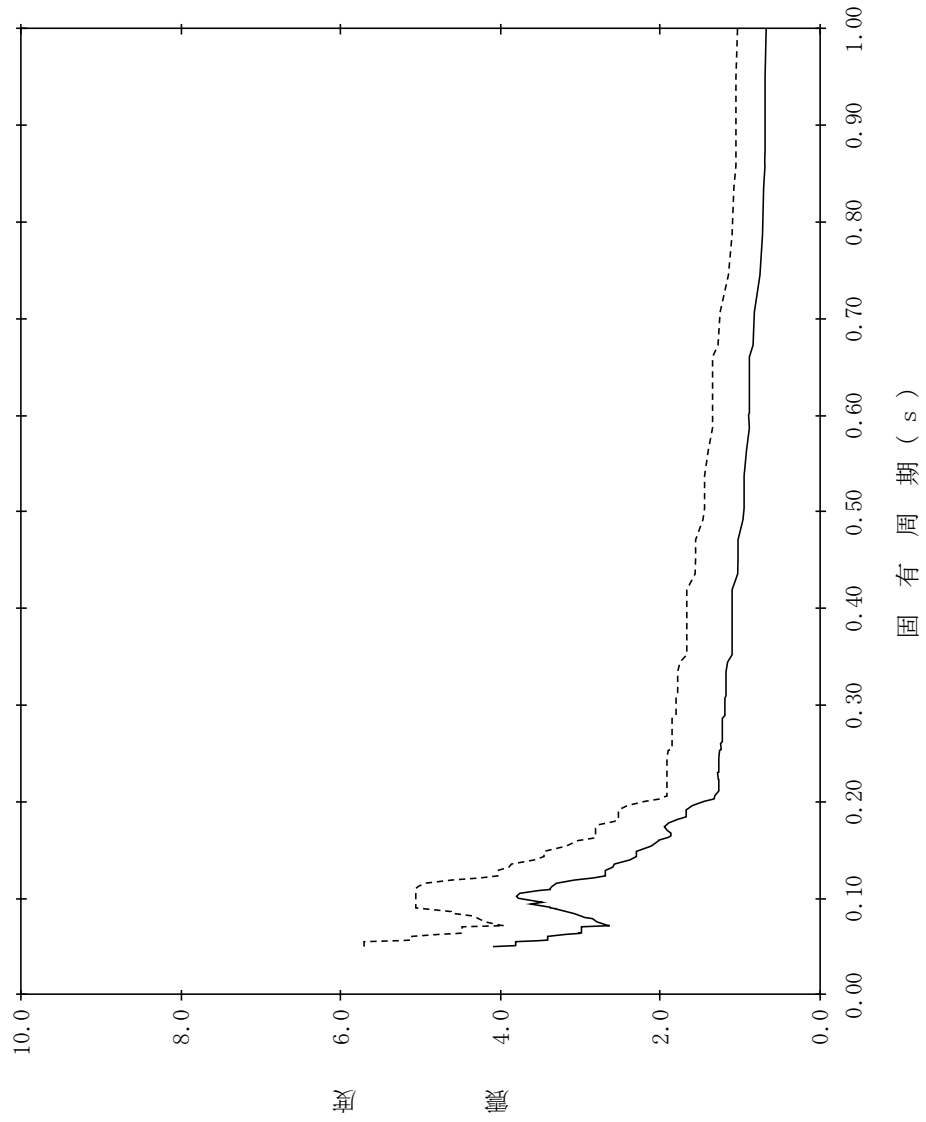
【NS2-PCV-SsV-SHD190】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：3.0% 波形名：基準地震動S s 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



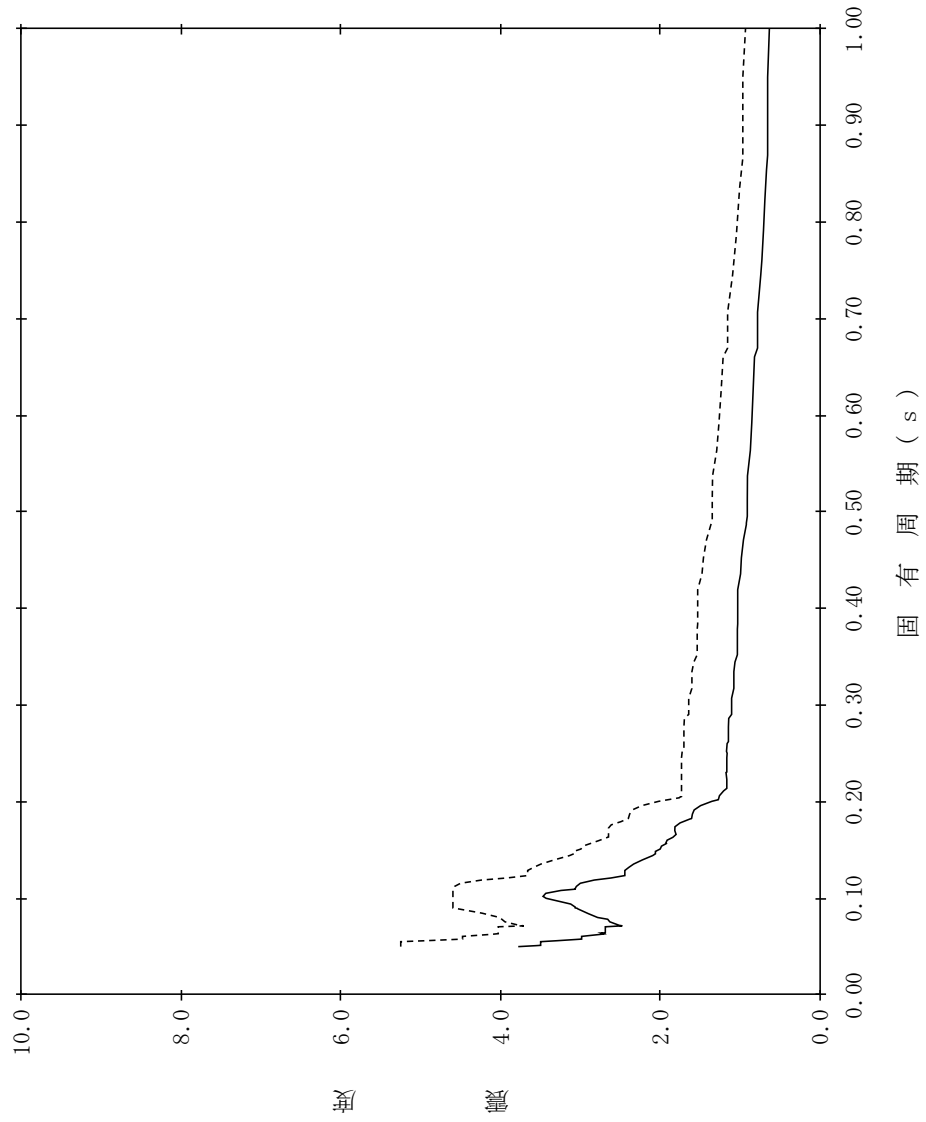
【NS2-PCV-SsV-SHD191】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：4.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



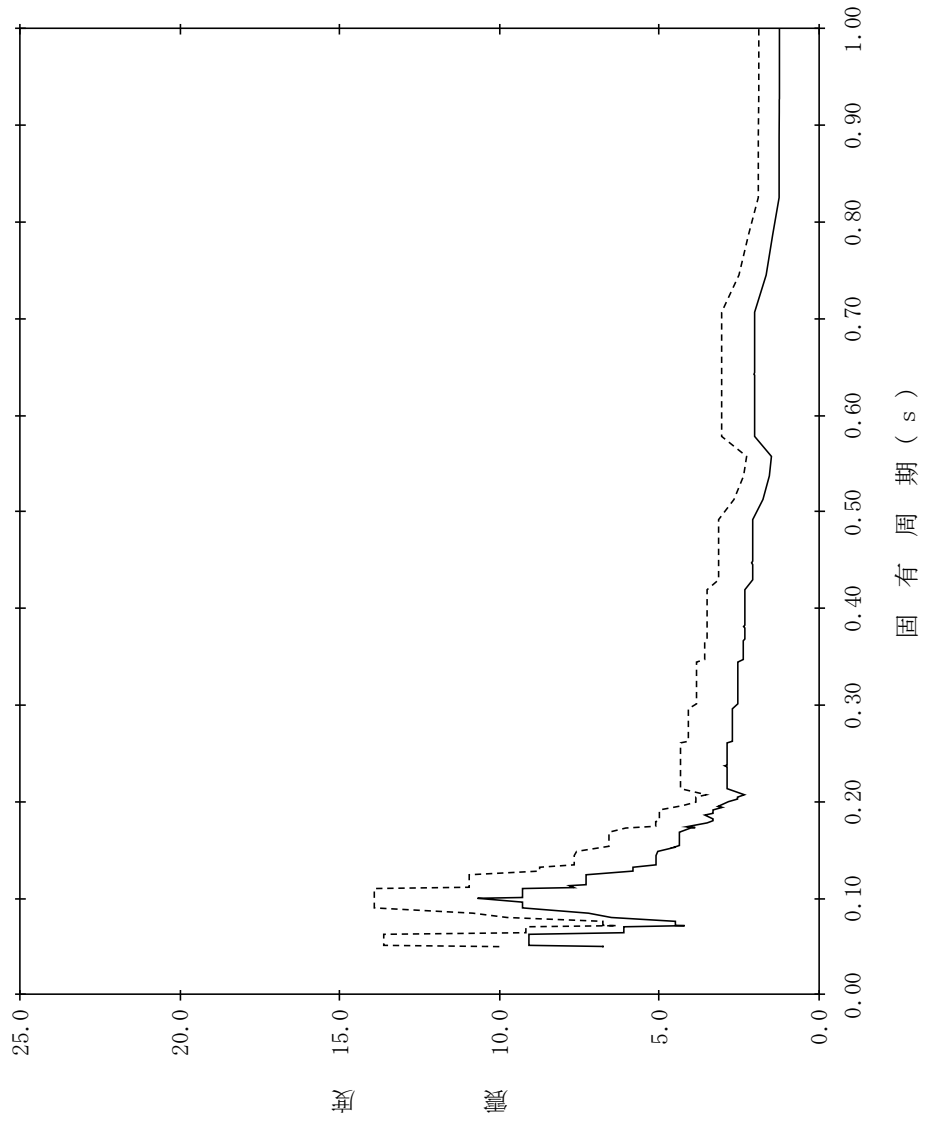
【NS2-PCV-SsV-SHD192】

構造物名：炉心シユラウド(上部格子板) 標高：EL25.843m 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 減衰定数：5.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



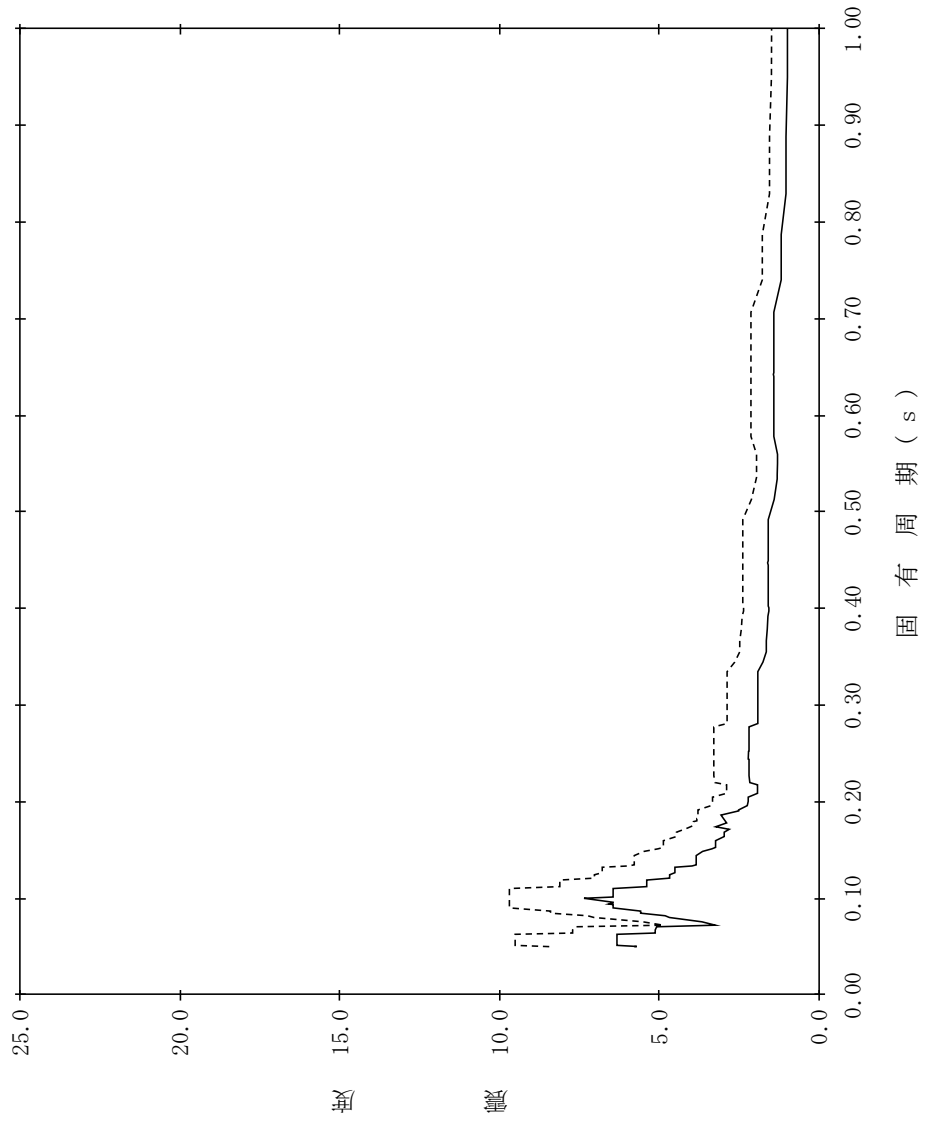
【NS2-PCV-SsV-SHD193】

構造物名：炉心シェラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：0.5% 波形名：基準地震動Ss 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



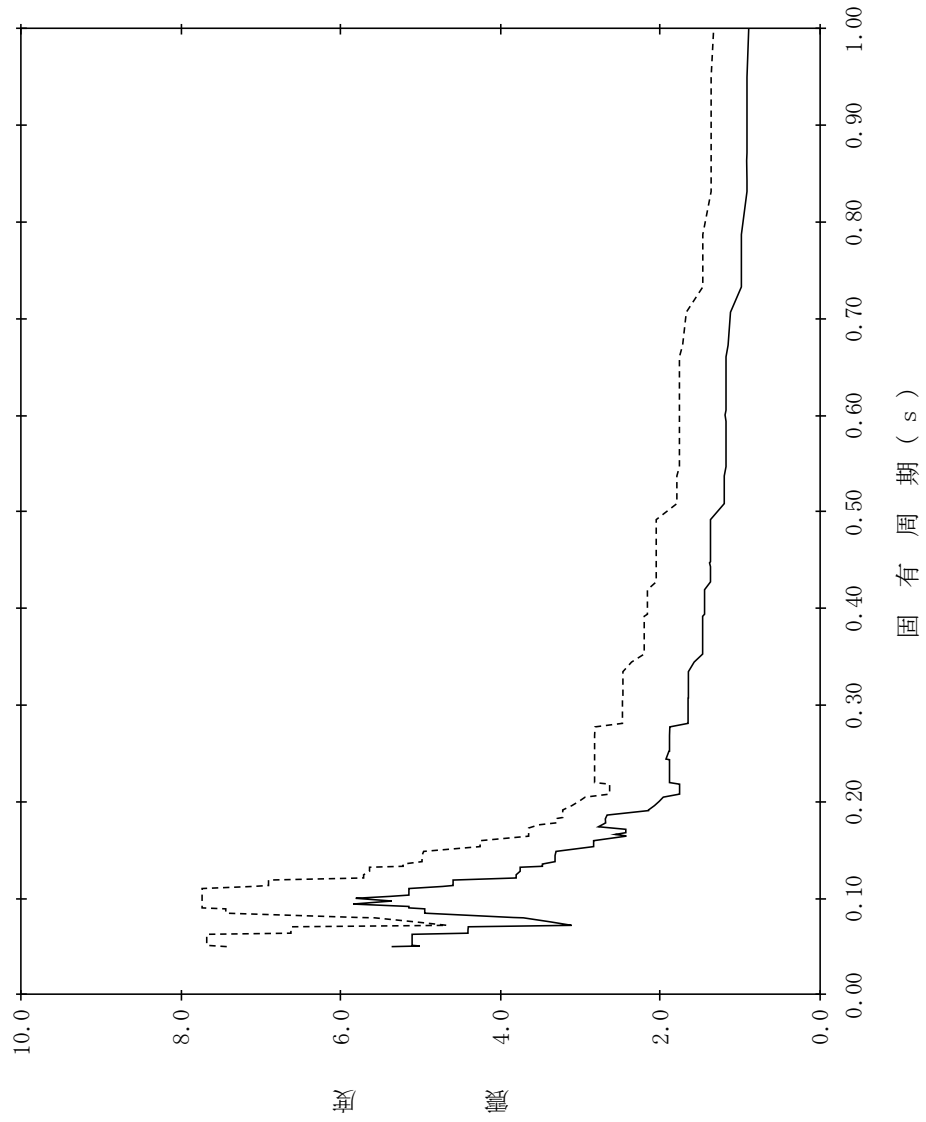
【NS2-PCV-SsV-SHD194】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：1.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



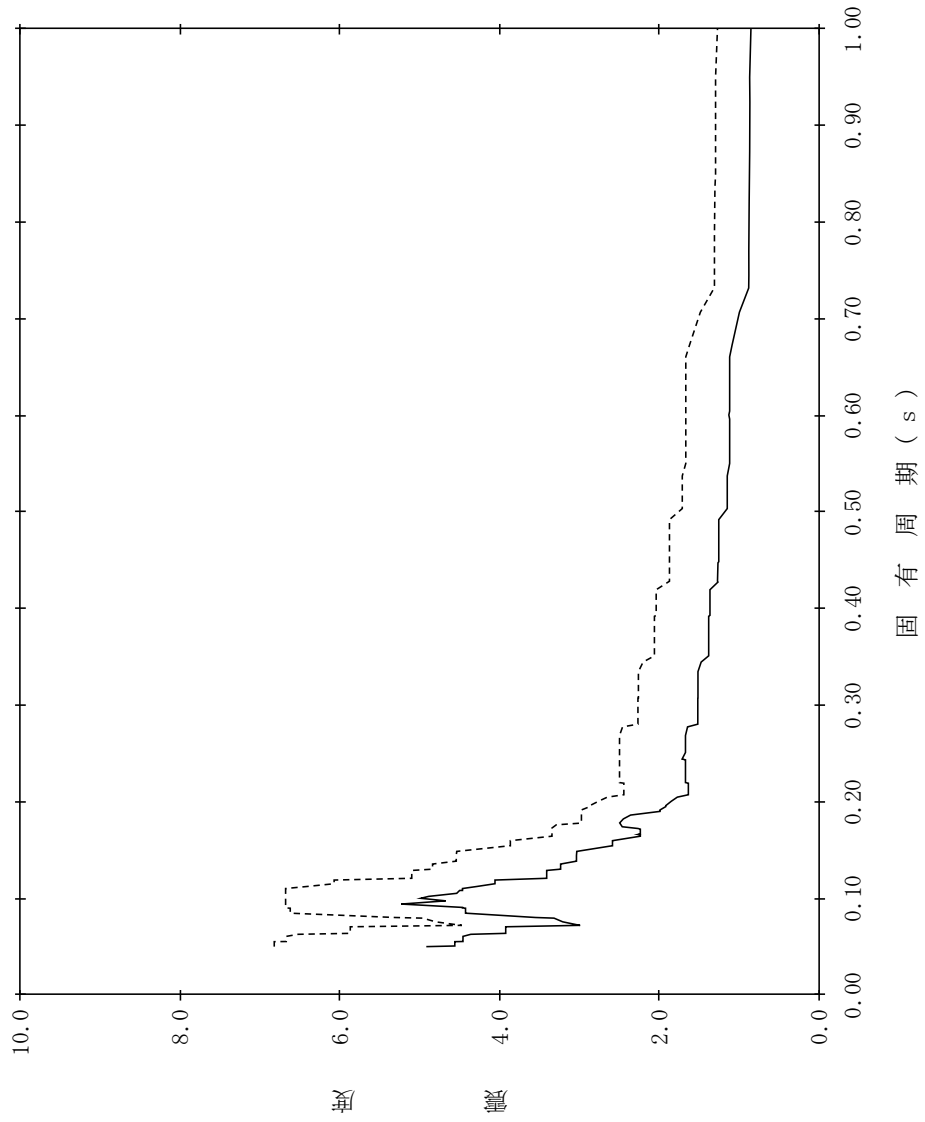
【NS2-PCV-SsV-SHD195】

構造物名：炉心シェラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：1.5% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



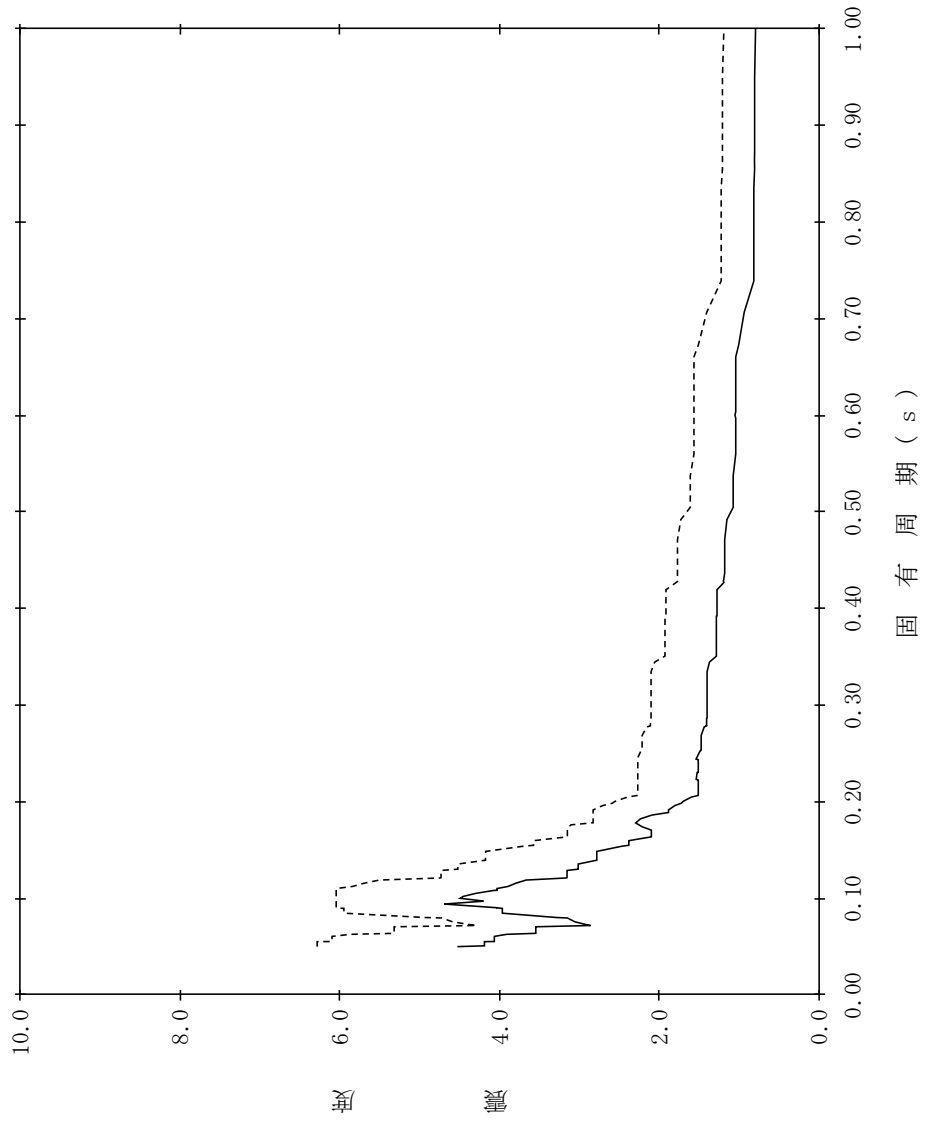
【NS2-PCV-SsV-SHD196】

構造物名：炉心シェラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
 減衰定数：2.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



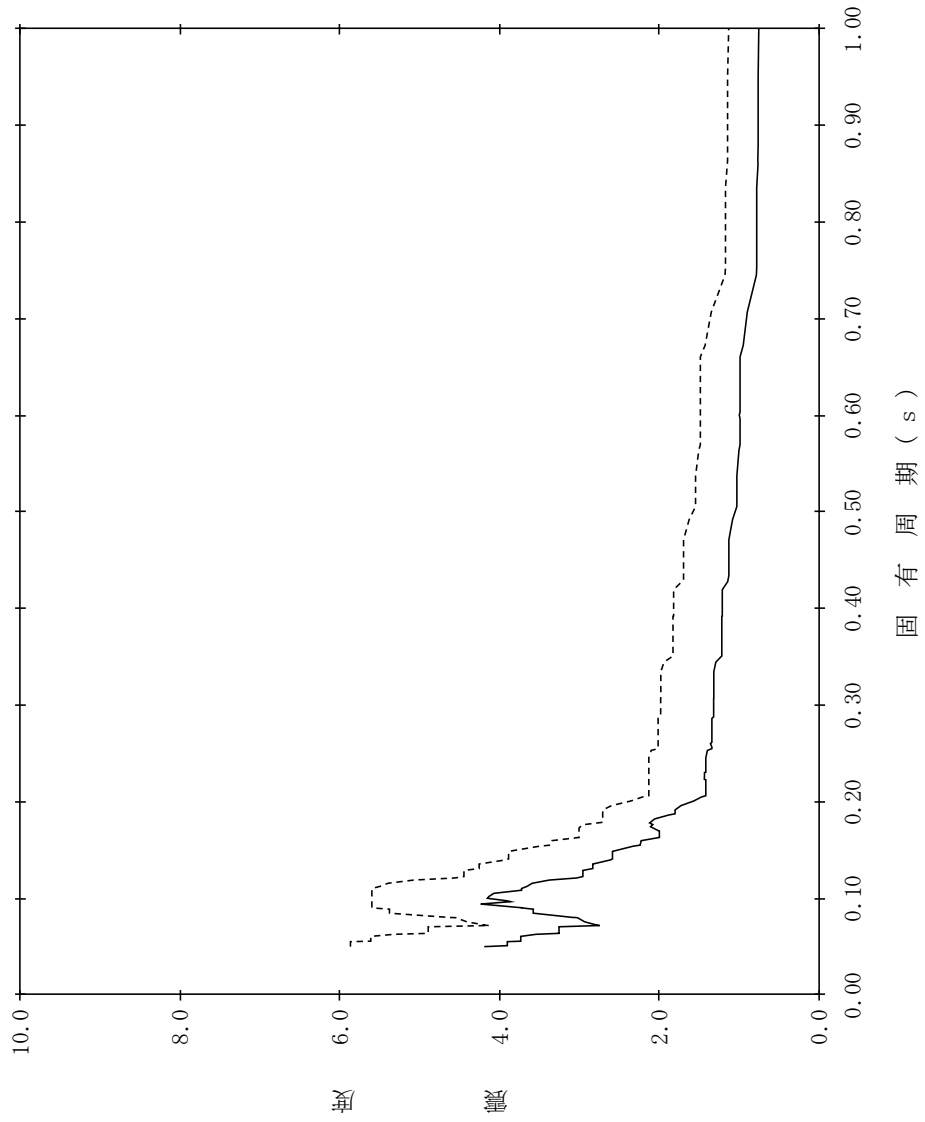
【NS2-PCV-SsV-SHD197】

構造物名：炉心シユラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトルⅠ(鉛直方向)
減衰定数：2.5% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトルⅡ(鉛直方向)



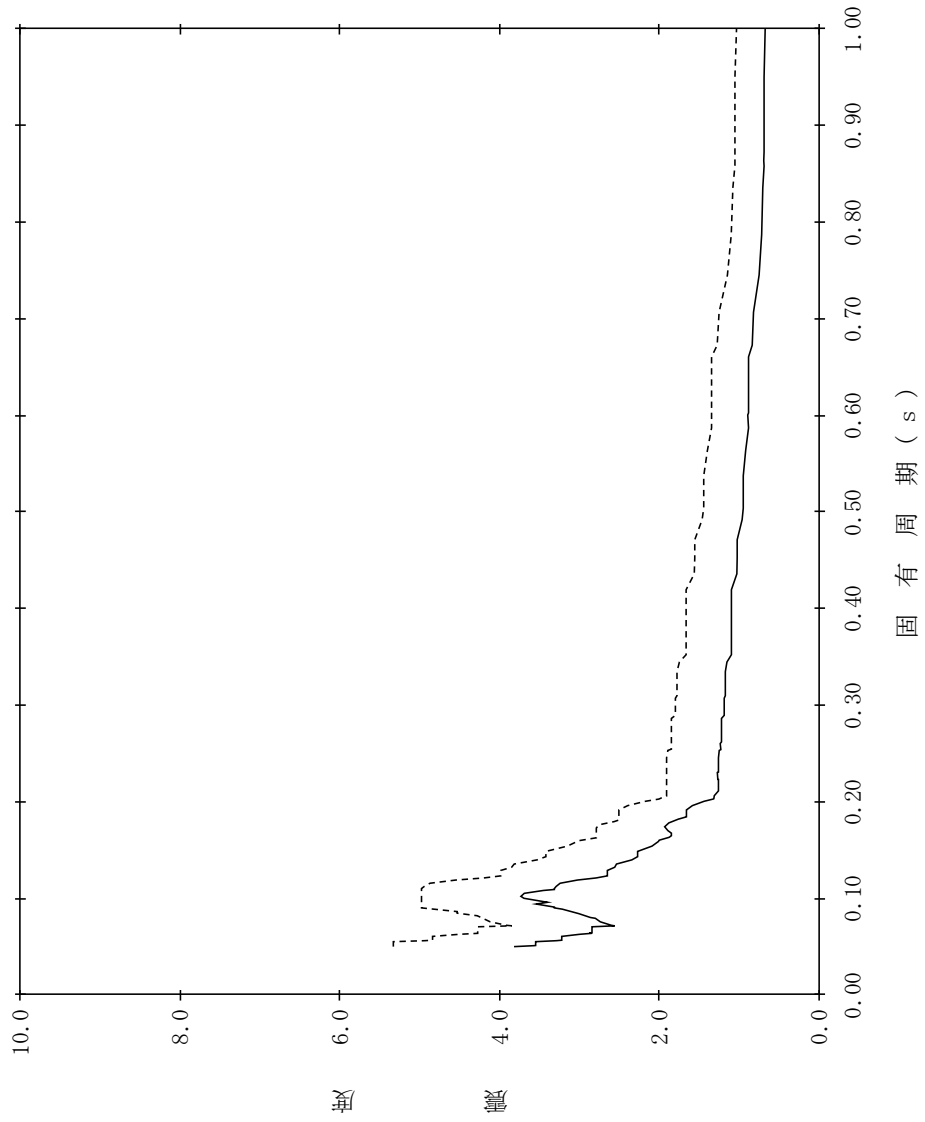
【NS2-PCV-SsV-SHD198】

構造物名：炉心シェラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 減衰定数：3.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



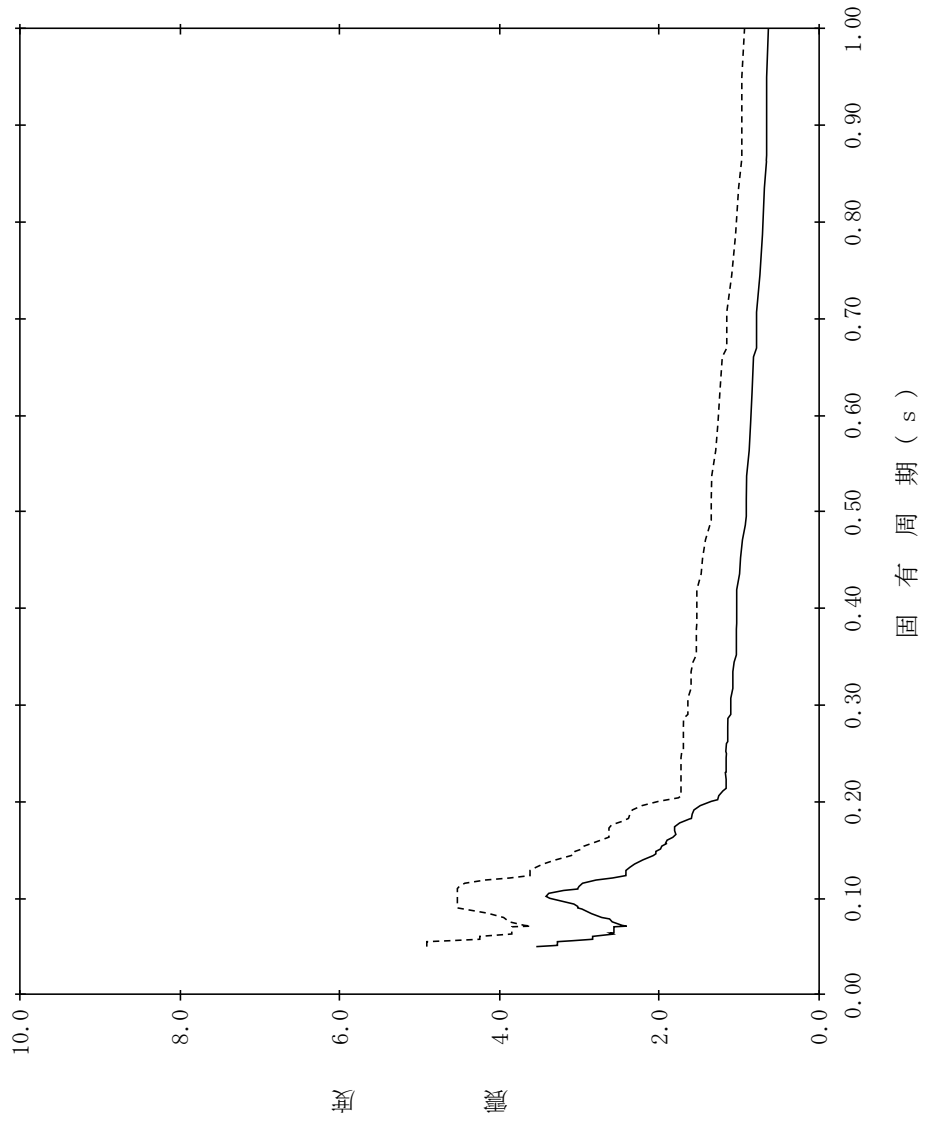
【NS2-PCV-SsV-SHD199】

構造物名：炉心シュラウド(炉心支持板) 標高：EL21.571m 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 減衰定数：4.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



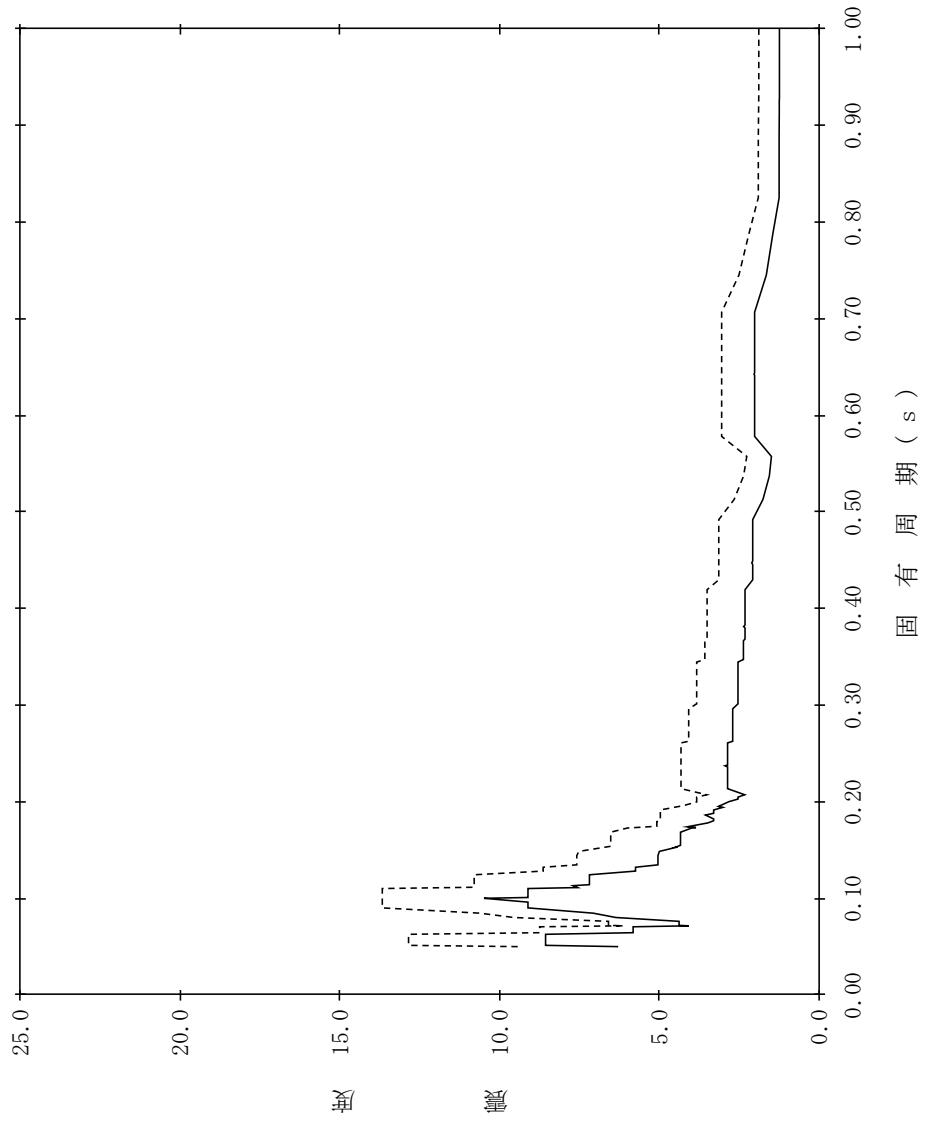
【NS2-PCV-SsV-SHD200】

構造物名：炉心シェラウド(炉心支持板) 標高：EL1.571m 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 減衰定数：5.0% 波形名：基準地震動 S s 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-PCV-SsV-RPV201】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

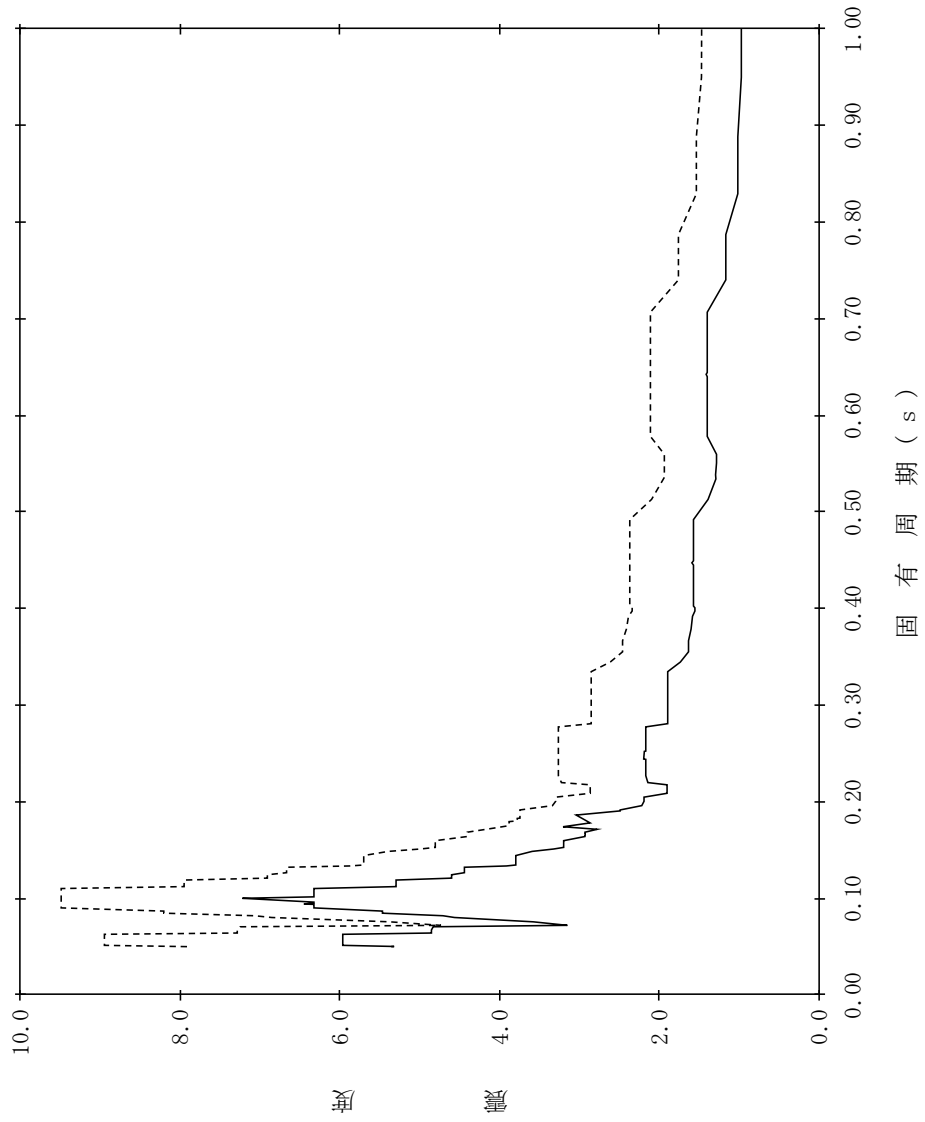


【NS2-PCV-SsV-RPV202】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：1.0%

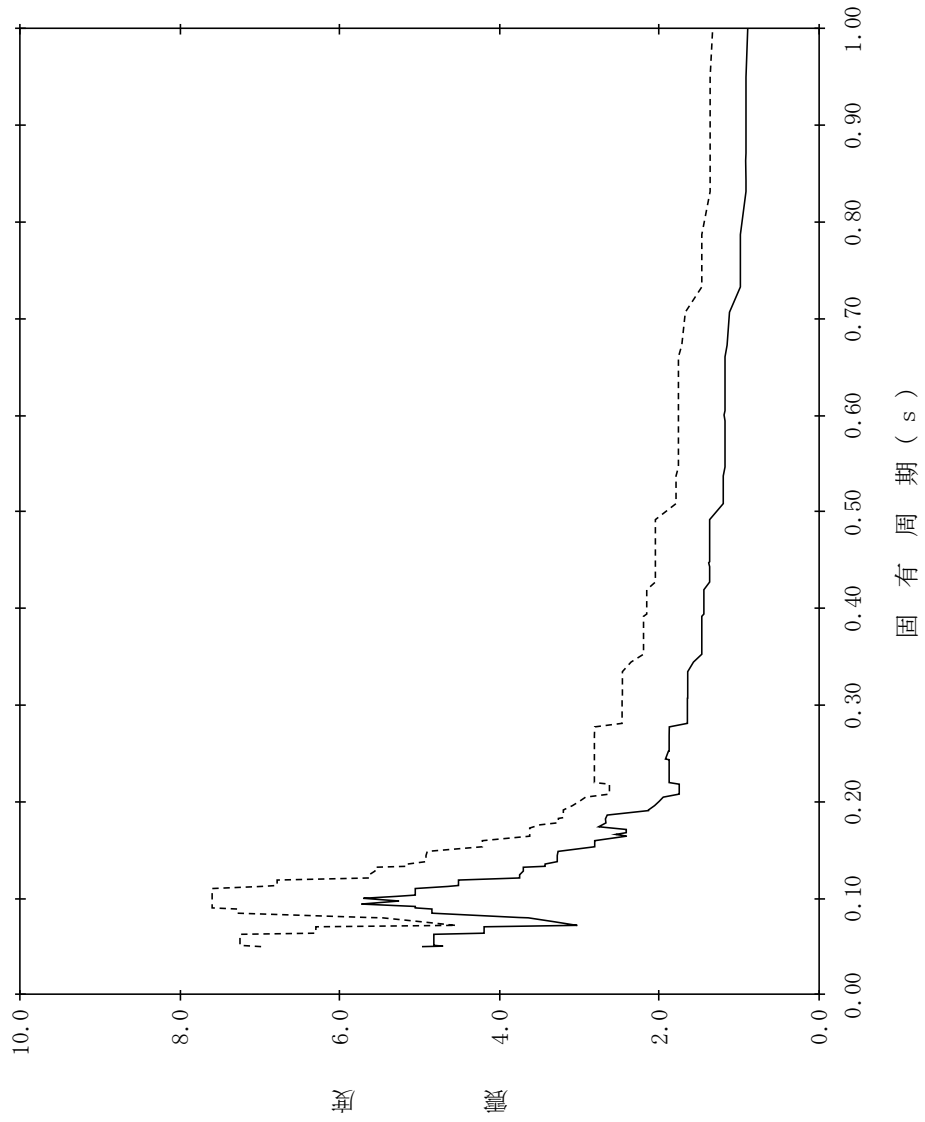
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



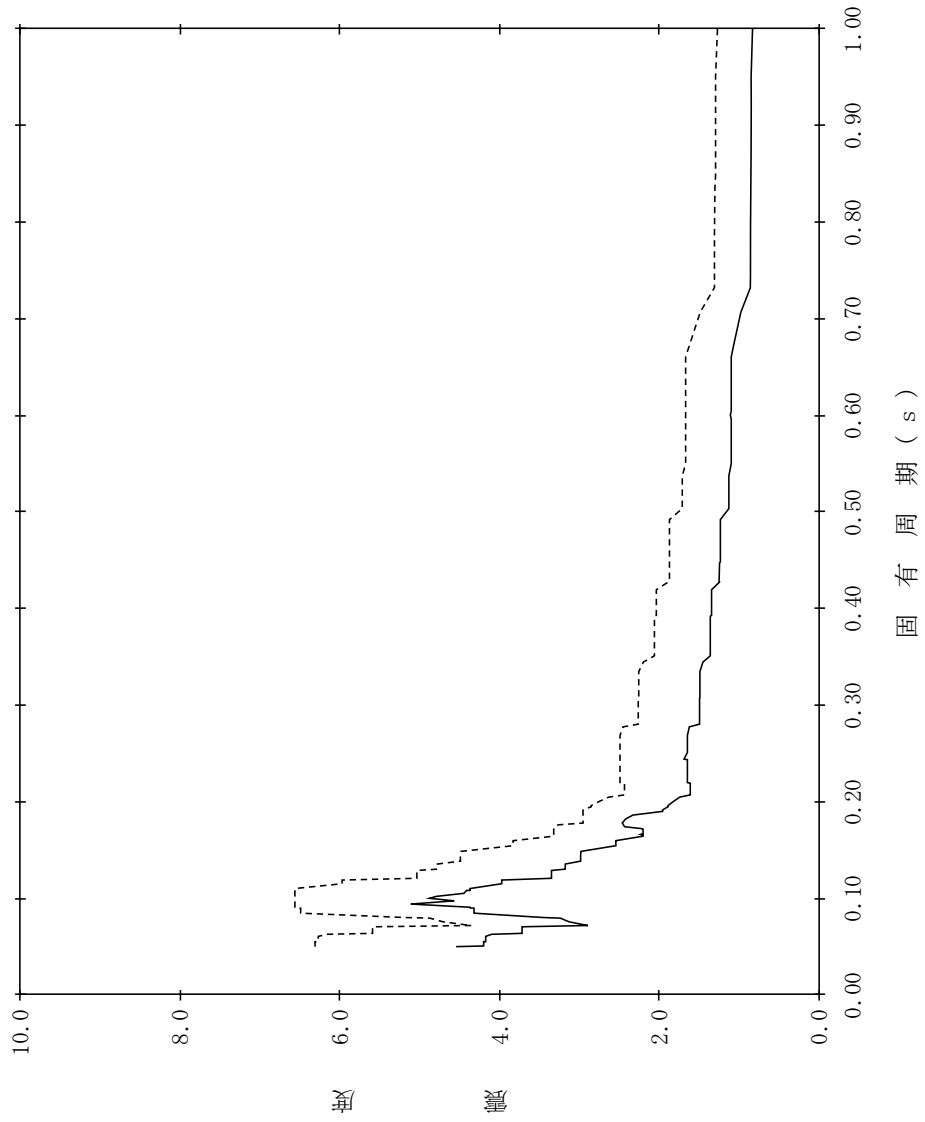
【NS2-PCV-SsV-RPV203】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



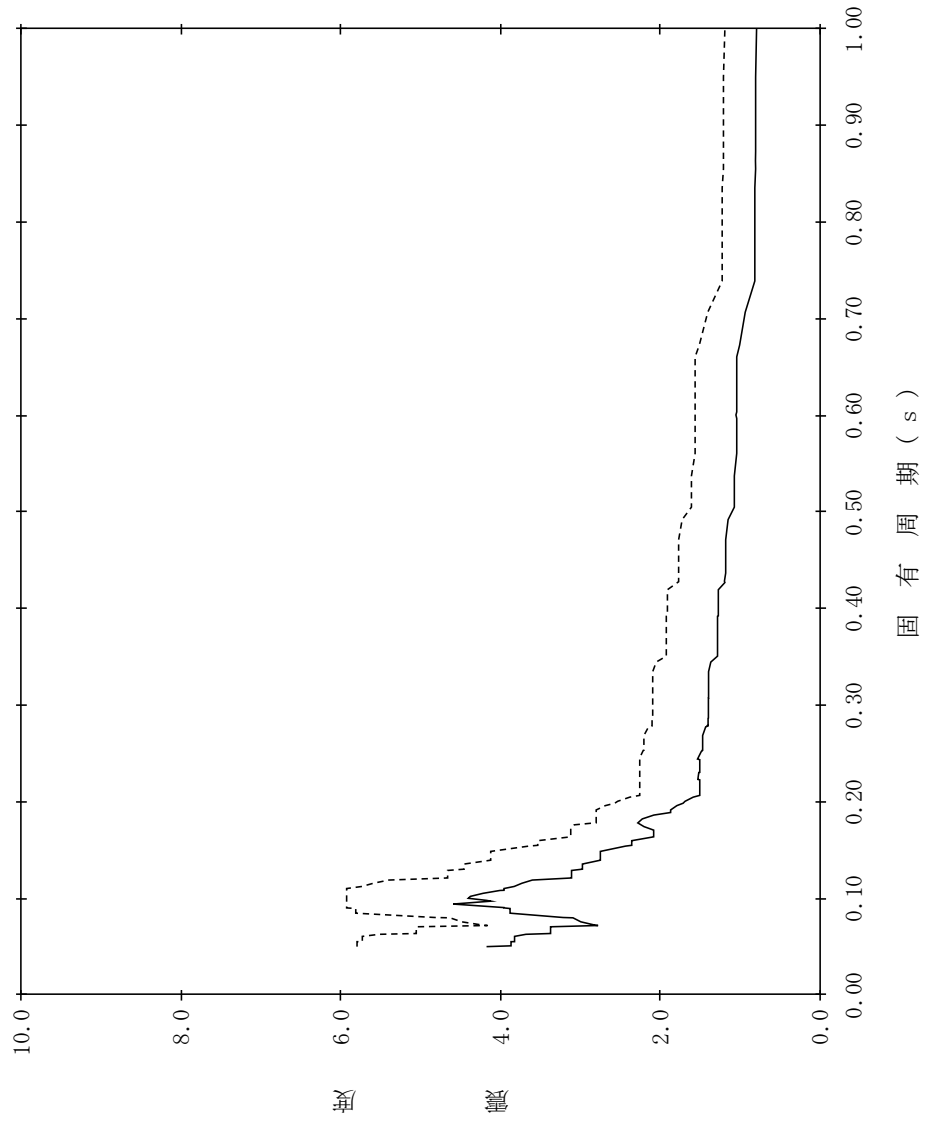
【NS2-PCV-SsV-RPV204】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



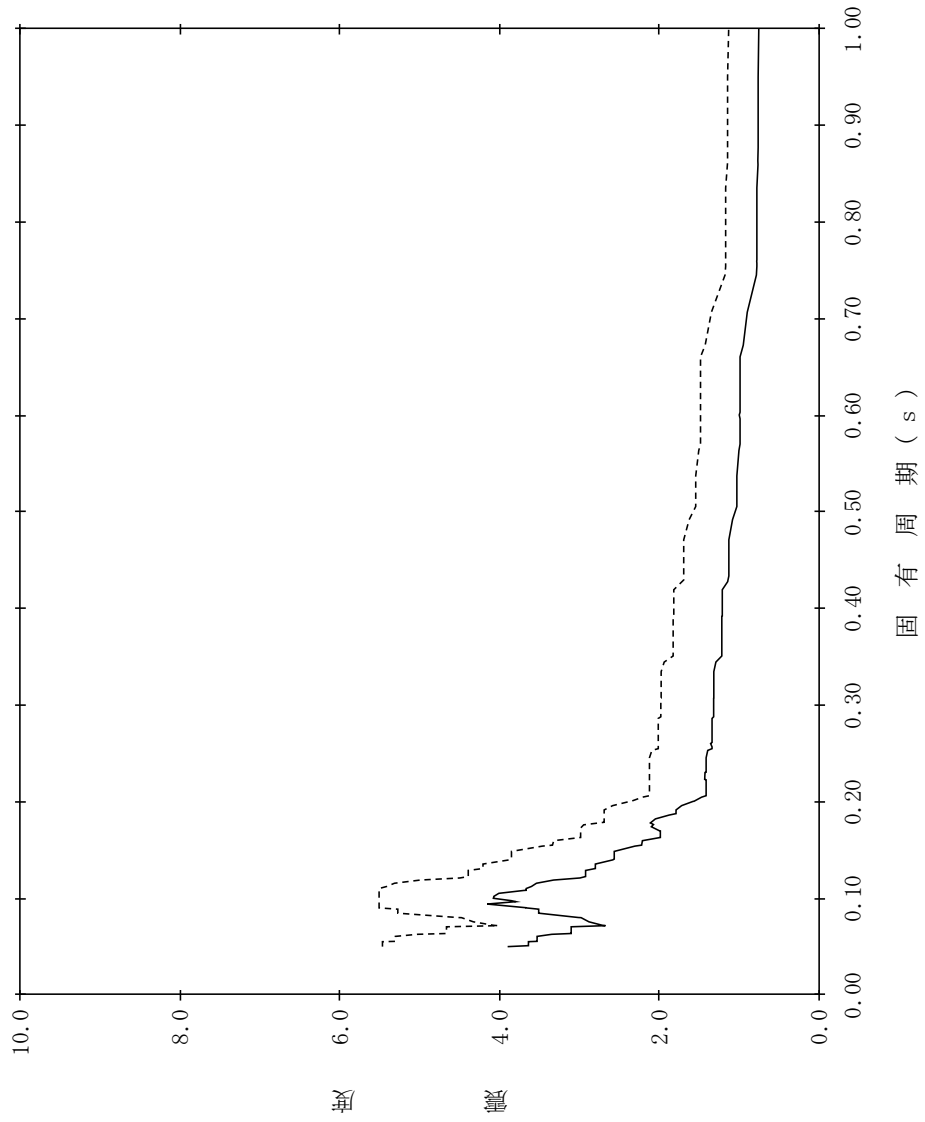
【NS2-PCV-SsV-RPV205】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



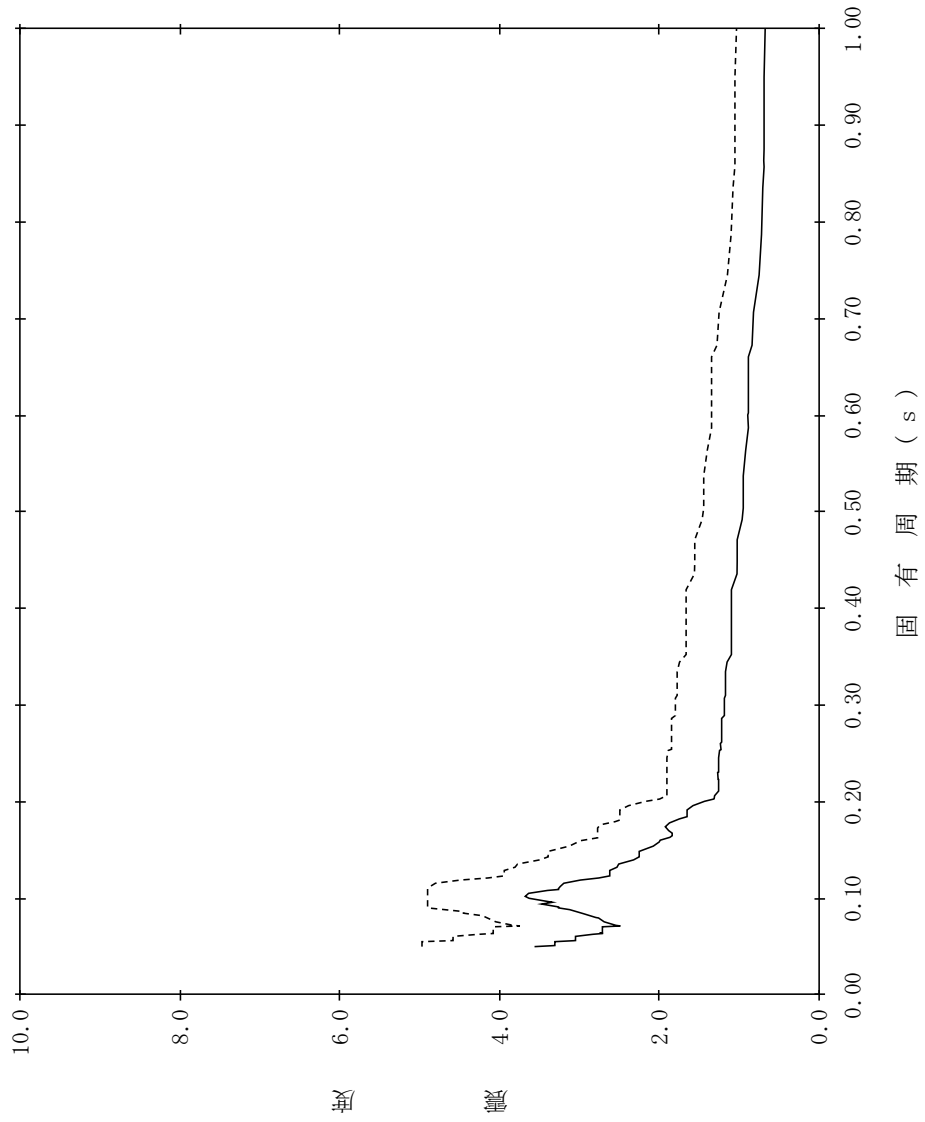
【NS2-PCV-SsV-RPV206】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：3.0%
 波形式：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-PCV-SsV-RPV207】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-PCV-SsV-RPV208】

構造物名：原子炉压力容器下鏡
 標高：EL18.250m～16.508m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

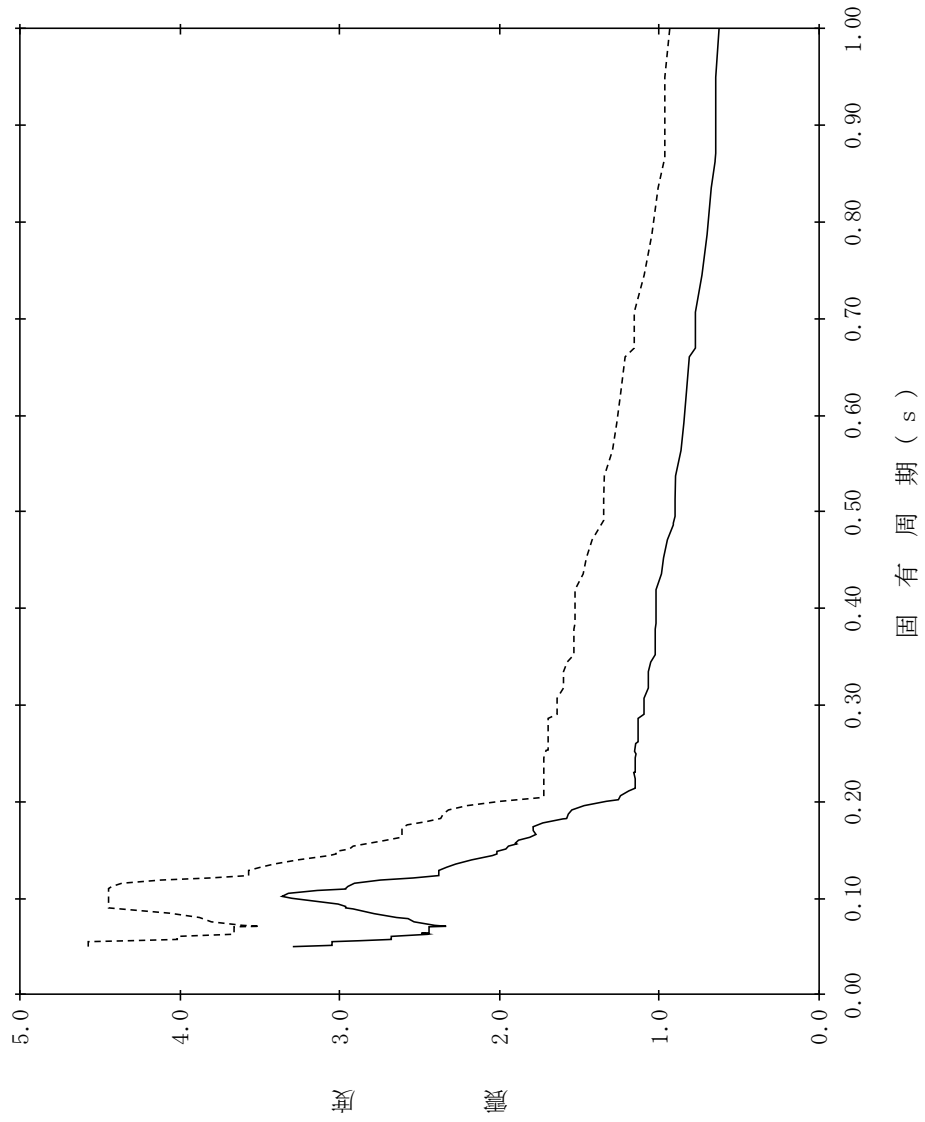


表 4.4-3 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (制御室建物) (1/3)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S _s	制御室建物	NS 方向	1	22.050	0.5	NS2 - CB - S _s NS - CB 1
					1.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 2
					1.5	NS2 - CB - S _s NS - CB 3
					2.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 4
					2.5	NS2 - CB - S _s NS - CB 5
					3.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 6
					4.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 7
					5.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 8
			2	16.900	0.5	NS2 - CB - S _s NS - CB 9
					1.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 10
					1.5	NS2 - CB - S _s NS - CB 11
					2.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 12
					2.5	NS2 - CB - S _s NS - CB 13
					3.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 14
					4.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 15
					5.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 16
			3	12.800	0.5	NS2 - CB - S _s NS - CB 17
					1.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 18
					1.5	NS2 - CB - S _s NS - CB 19
					2.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 20
					2.5	NS2 - CB - S _s NS - CB 21
					3.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 22
					4.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 23
					5.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 24
			4, 7	8.800	0.5	NS2 - CB - S _s NS - CB 25
					1.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 26
					1.5	NS2 - CB - S _s NS - CB 27
					2.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 28
					2.5	NS2 - CB - S _s NS - CB 29
					3.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 30
					4.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 31
					5.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 32
			5	1.600	0.5	NS2 - CB - S _s NS - CB 33
					1.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 34
					1.5	NS2 - CB - S _s NS - CB 35
					2.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 36
					2.5	NS2 - CB - S _s NS - CB 37
					3.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 38
					4.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 39
					5.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 40
			6	0.100	0.5	NS2 - CB - S _s NS - CB 41
					1.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 42
					1.5	NS2 - CB - S _s NS - CB 43
					2.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 44
					2.5	NS2 - CB - S _s NS - CB 45
					3.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 46
					4.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 47
					5.0	NS2 - CB - S _s NS - CB 48

表 4.4-3 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (制御室建物) (2/3)

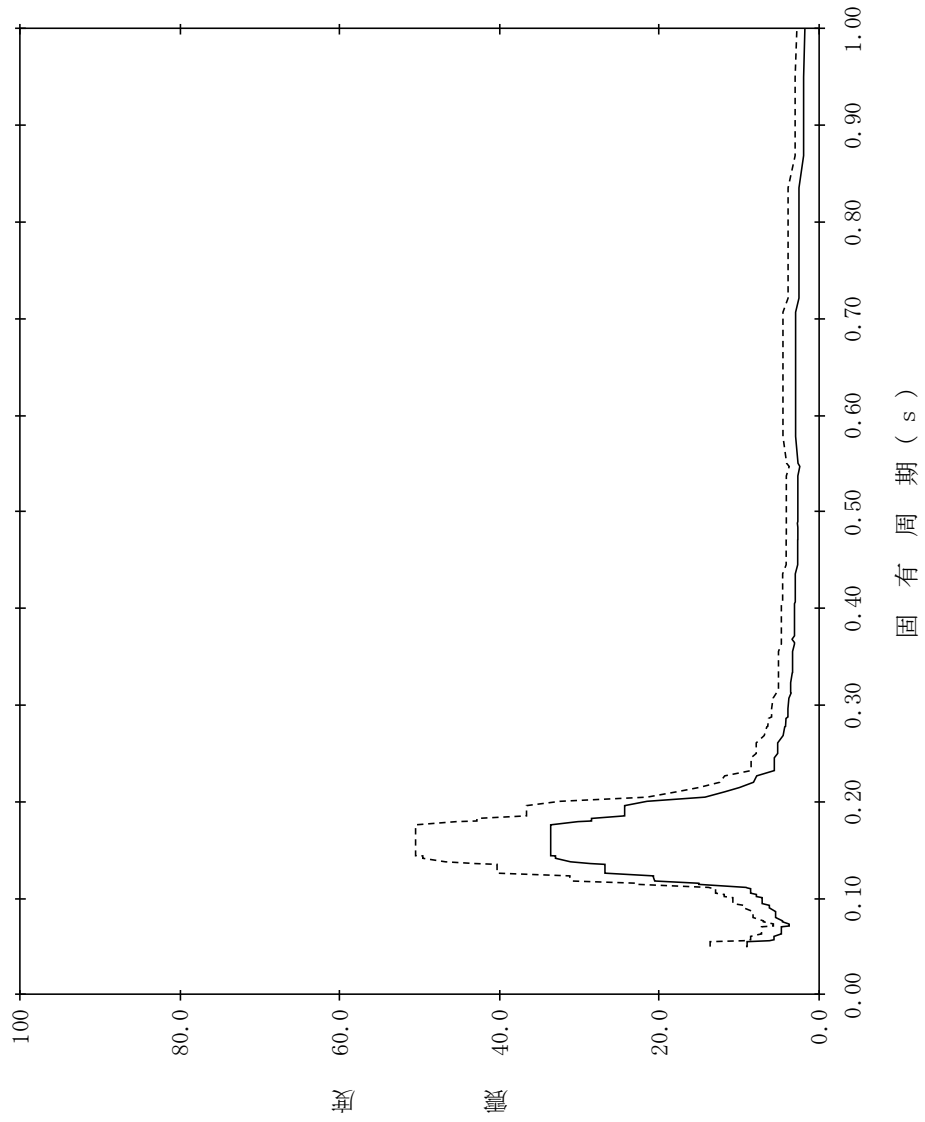
地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL (m)	減衰定数 (%)	図番
S _s	制御室建物	EW 方向	1	22.050	0.5	NS2 - CB - SsEW - CB 1
					1.0	NS2 - CB - SsEW - CB 2
					1.5	NS2 - CB - SsEW - CB 3
					2.0	NS2 - CB - SsEW - CB 4
					2.5	NS2 - CB - SsEW - CB 5
					3.0	NS2 - CB - SsEW - CB 6
					4.0	NS2 - CB - SsEW - CB 7
					5.0	NS2 - CB - SsEW - CB 8
			2	16.900	0.5	NS2 - CB - SsEW - CB 9
					1.0	NS2 - CB - SsEW - CB 10
					1.5	NS2 - CB - SsEW - CB 11
					2.0	NS2 - CB - SsEW - CB 12
					2.5	NS2 - CB - SsEW - CB 13
					3.0	NS2 - CB - SsEW - CB 14
					4.0	NS2 - CB - SsEW - CB 15
					5.0	NS2 - CB - SsEW - CB 16
			3	12.800	0.5	NS2 - CB - SsEW - CB 17
					1.0	NS2 - CB - SsEW - CB 18
					1.5	NS2 - CB - SsEW - CB 19
					2.0	NS2 - CB - SsEW - CB 20
					2.5	NS2 - CB - SsEW - CB 21
					3.0	NS2 - CB - SsEW - CB 22
					4.0	NS2 - CB - SsEW - CB 23
					5.0	NS2 - CB - SsEW - CB 24
			4	8.800	0.5	NS2 - CB - SsEW - CB 25
					1.0	NS2 - CB - SsEW - CB 26
					1.5	NS2 - CB - SsEW - CB 27
					2.0	NS2 - CB - SsEW - CB 28
					2.5	NS2 - CB - SsEW - CB 29
					3.0	NS2 - CB - SsEW - CB 30
					4.0	NS2 - CB - SsEW - CB 31
					5.0	NS2 - CB - SsEW - CB 32
			5	1.600	0.5	NS2 - CB - SsEW - CB 33
					1.0	NS2 - CB - SsEW - CB 34
					1.5	NS2 - CB - SsEW - CB 35
					2.0	NS2 - CB - SsEW - CB 36
					2.5	NS2 - CB - SsEW - CB 37
					3.0	NS2 - CB - SsEW - CB 38
					4.0	NS2 - CB - SsEW - CB 39
					5.0	NS2 - CB - SsEW - CB 40
			6	0.100	0.5	NS2 - CB - SsEW - CB 41
					1.0	NS2 - CB - SsEW - CB 42
					1.5	NS2 - CB - SsEW - CB 43
					2.0	NS2 - CB - SsEW - CB 44
					2.5	NS2 - CB - SsEW - CB 45
					3.0	NS2 - CB - SsEW - CB 46
					4.0	NS2 - CB - SsEW - CB 47
					5.0	NS2 - CB - SsEW - CB 48

表 4.4-3 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (制御室建物) (3/3)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S _s	制御室建物	鉛直方向	1	22.050	0.5	NS2 - CB - S _s V - CB 1
					1.0	NS2 - CB - S _s V - CB 2
					1.5	NS2 - CB - S _s V - CB 3
					2.0	NS2 - CB - S _s V - CB 4
					2.5	NS2 - CB - S _s V - CB 5
					3.0	NS2 - CB - S _s V - CB 6
					4.0	NS2 - CB - S _s V - CB 7
			2	16.900	0.5	NS2 - CB - S _s V - CB 9
					1.0	NS2 - CB - S _s V - CB 10
					1.5	NS2 - CB - S _s V - CB 11
					2.0	NS2 - CB - S _s V - CB 12
					2.5	NS2 - CB - S _s V - CB 13
					3.0	NS2 - CB - S _s V - CB 14
					4.0	NS2 - CB - S _s V - CB 15
			3	12.800	0.5	NS2 - CB - S _s V - CB 17
					1.0	NS2 - CB - S _s V - CB 18
					1.5	NS2 - CB - S _s V - CB 19
					2.0	NS2 - CB - S _s V - CB 20
					2.5	NS2 - CB - S _s V - CB 21
					3.0	NS2 - CB - S _s V - CB 22
					4.0	NS2 - CB - S _s V - CB 23
			4	8.800	0.5	NS2 - CB - S _s V - CB 24
					1.0	NS2 - CB - S _s V - CB 25
					1.5	NS2 - CB - S _s V - CB 26
					2.0	NS2 - CB - S _s V - CB 27
					2.5	NS2 - CB - S _s V - CB 28
					3.0	NS2 - CB - S _s V - CB 29
					4.0	NS2 - CB - S _s V - CB 30
			5	1.600	0.5	NS2 - CB - S _s V - CB 31
					1.0	NS2 - CB - S _s V - CB 32
					1.5	NS2 - CB - S _s V - CB 33
					2.0	NS2 - CB - S _s V - CB 34
					2.5	NS2 - CB - S _s V - CB 35
					3.0	NS2 - CB - S _s V - CB 36
					4.0	NS2 - CB - S _s V - CB 37
			6	0.100	0.5	NS2 - CB - S _s V - CB 38
					1.0	NS2 - CB - S _s V - CB 39
					1.5	NS2 - CB - S _s V - CB 40
					2.0	NS2 - CB - S _s V - CB 41
					2.5	NS2 - CB - S _s V - CB 42
					3.0	NS2 - CB - S _s V - CB 43
					4.0	NS2 - CB - S _s V - CB 44
			6	0.100	0.5	NS2 - CB - S _s V - CB 45
					1.0	NS2 - CB - S _s V - CB 46
					1.5	NS2 - CB - S _s V - CB 47
					2.0	NS2 - CB - S _s V - CB 48

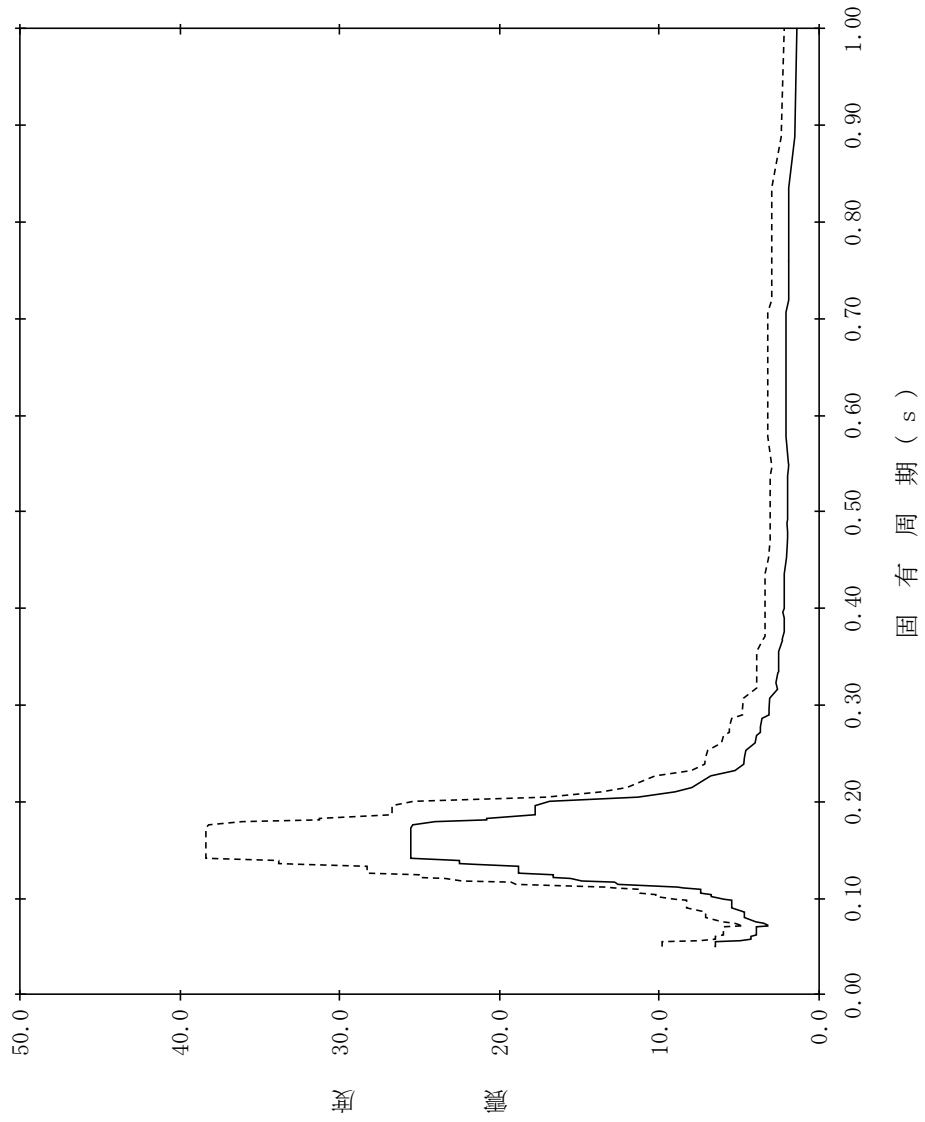
【NS2-CB-SsNS-CB1】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



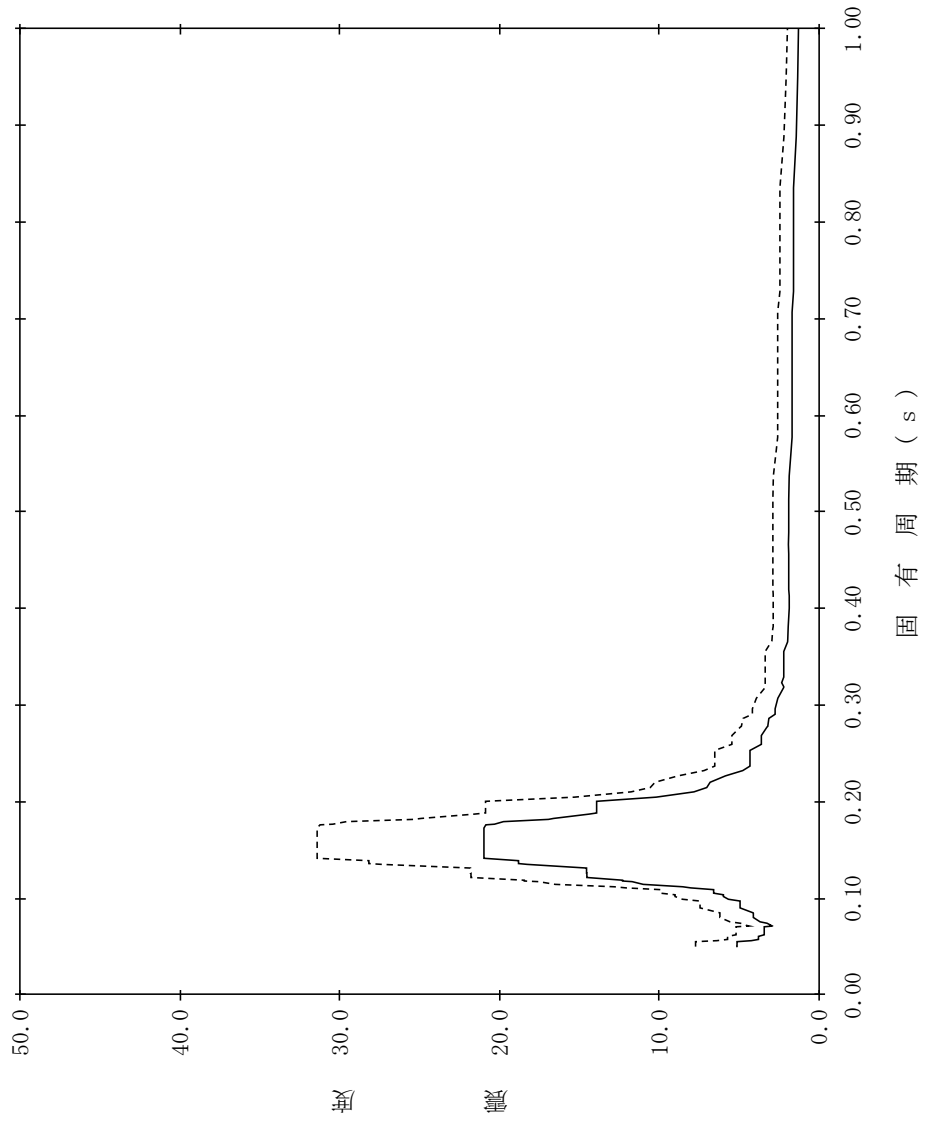
【NS2-CB-SsNS-CB2】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



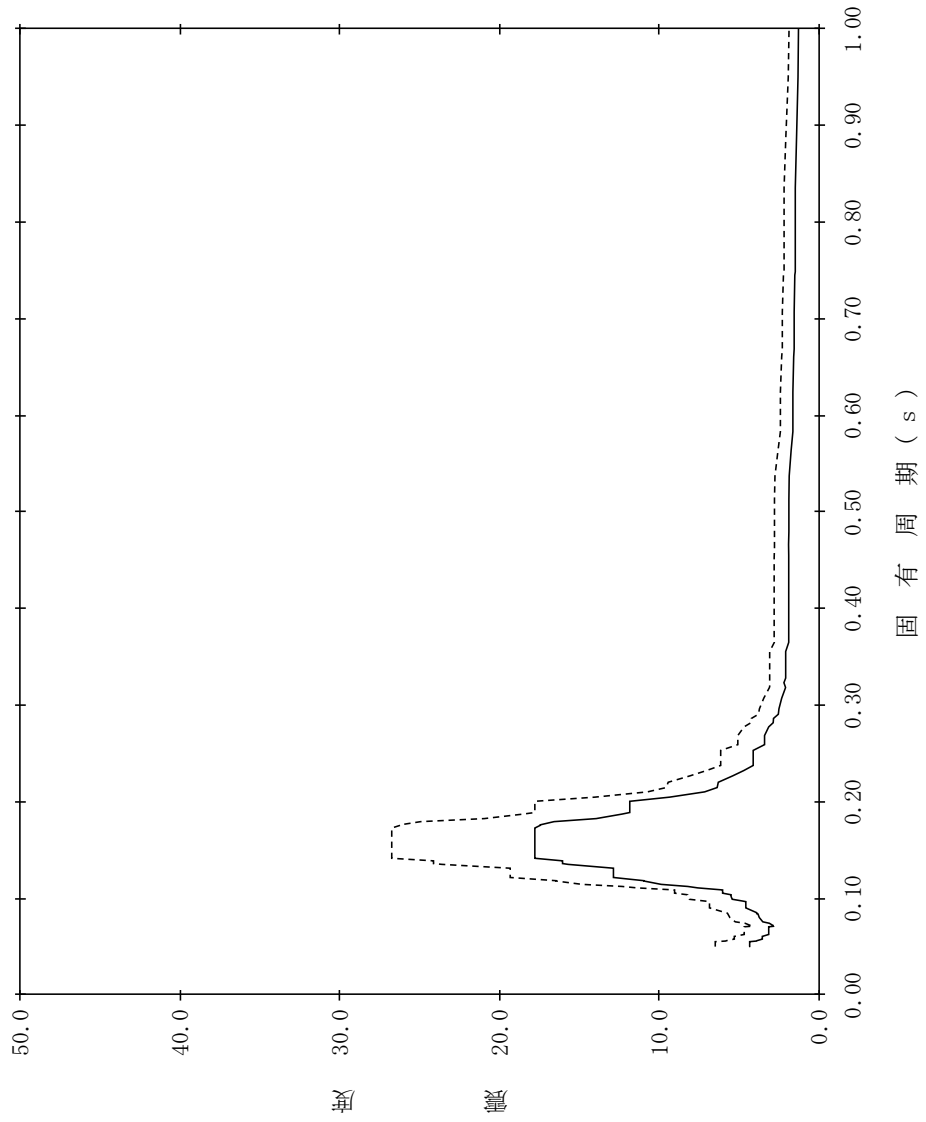
【NS2-CB-SsNS-CB3】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



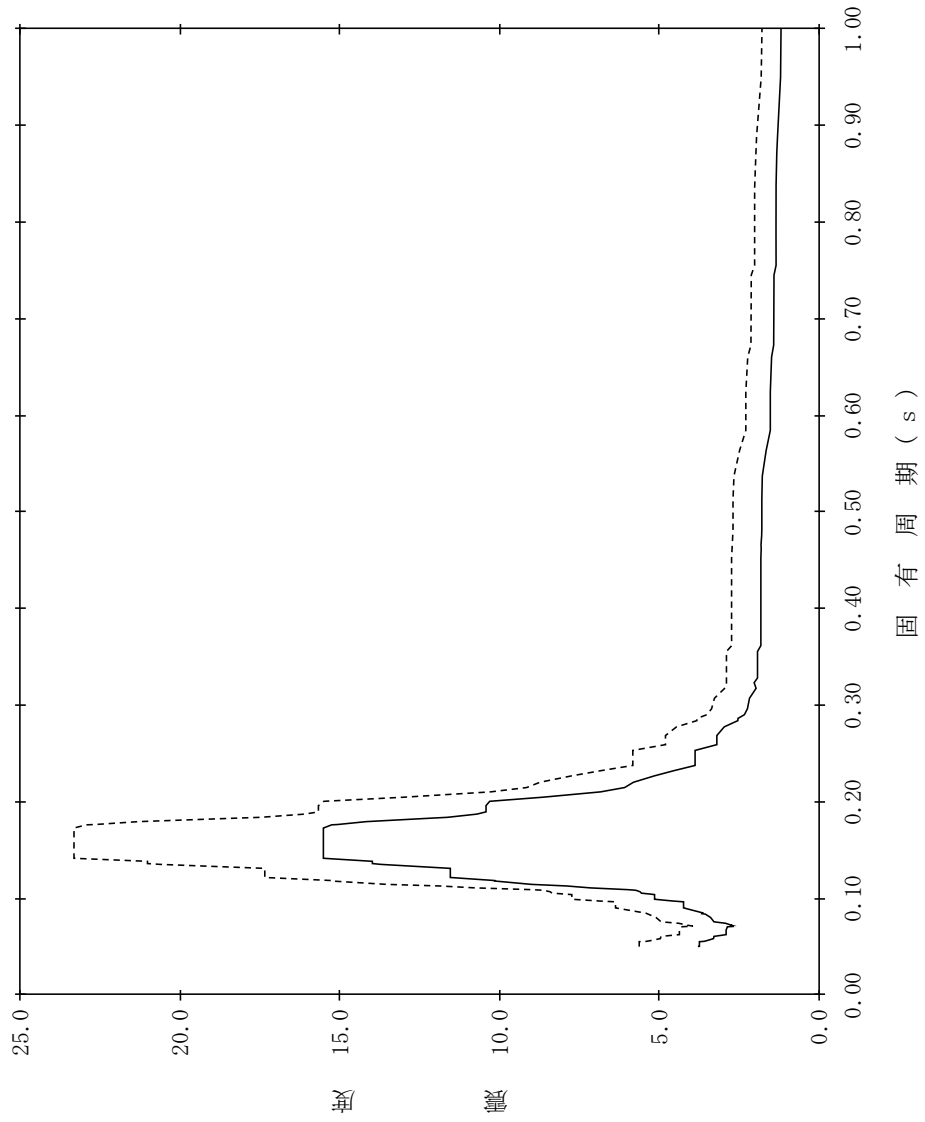
【NS2-CB-SsNS-CB4】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



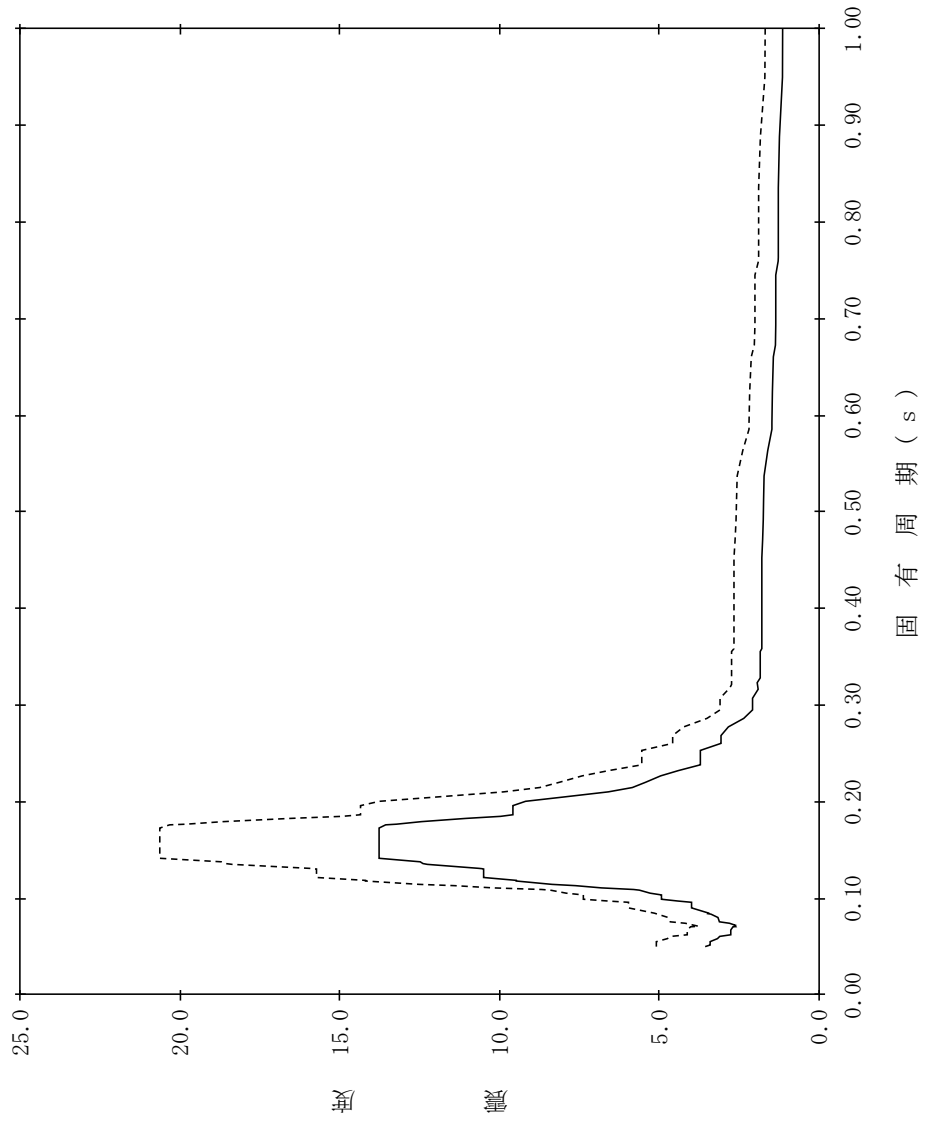
【NS2-CB-SsNS-CB5】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



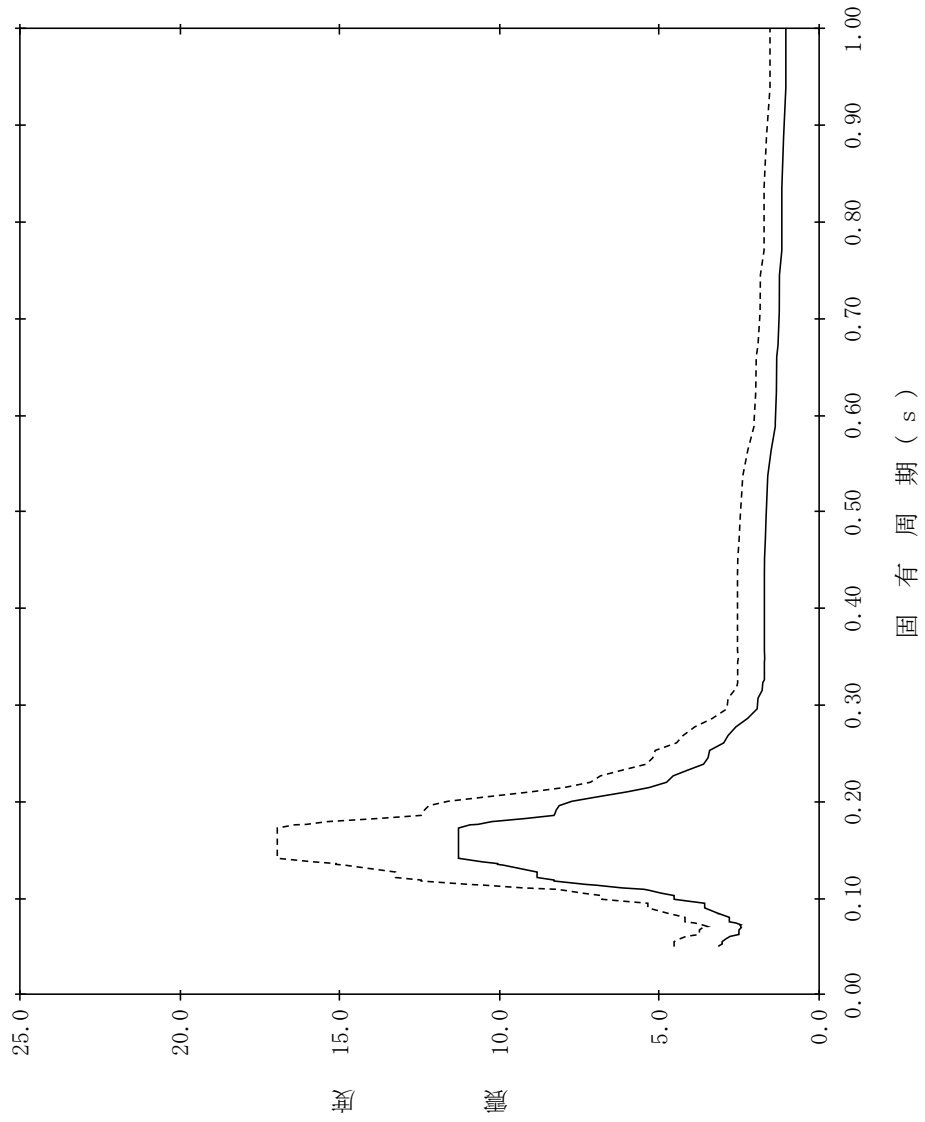
【NS2-CB-SsNS-CB6】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



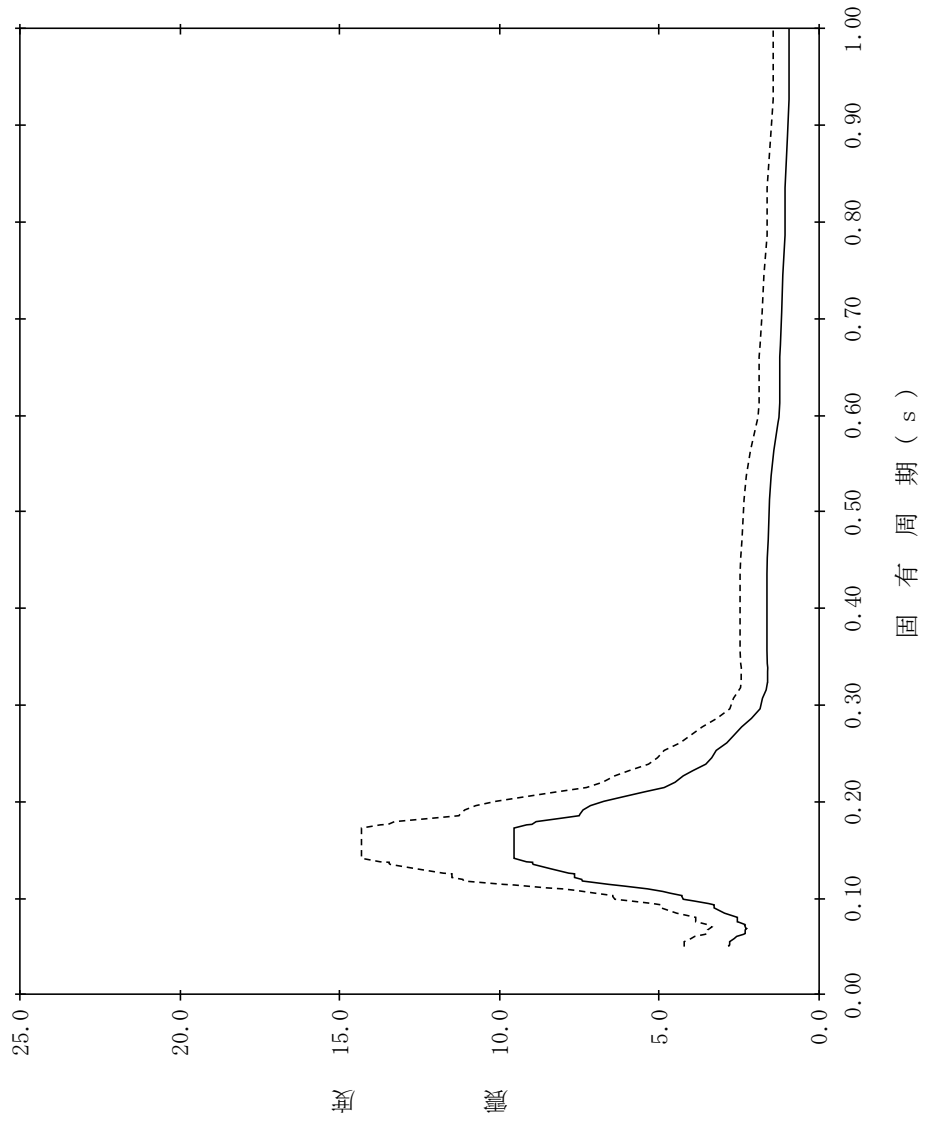
【NS2-CB-SsNS-CB7】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



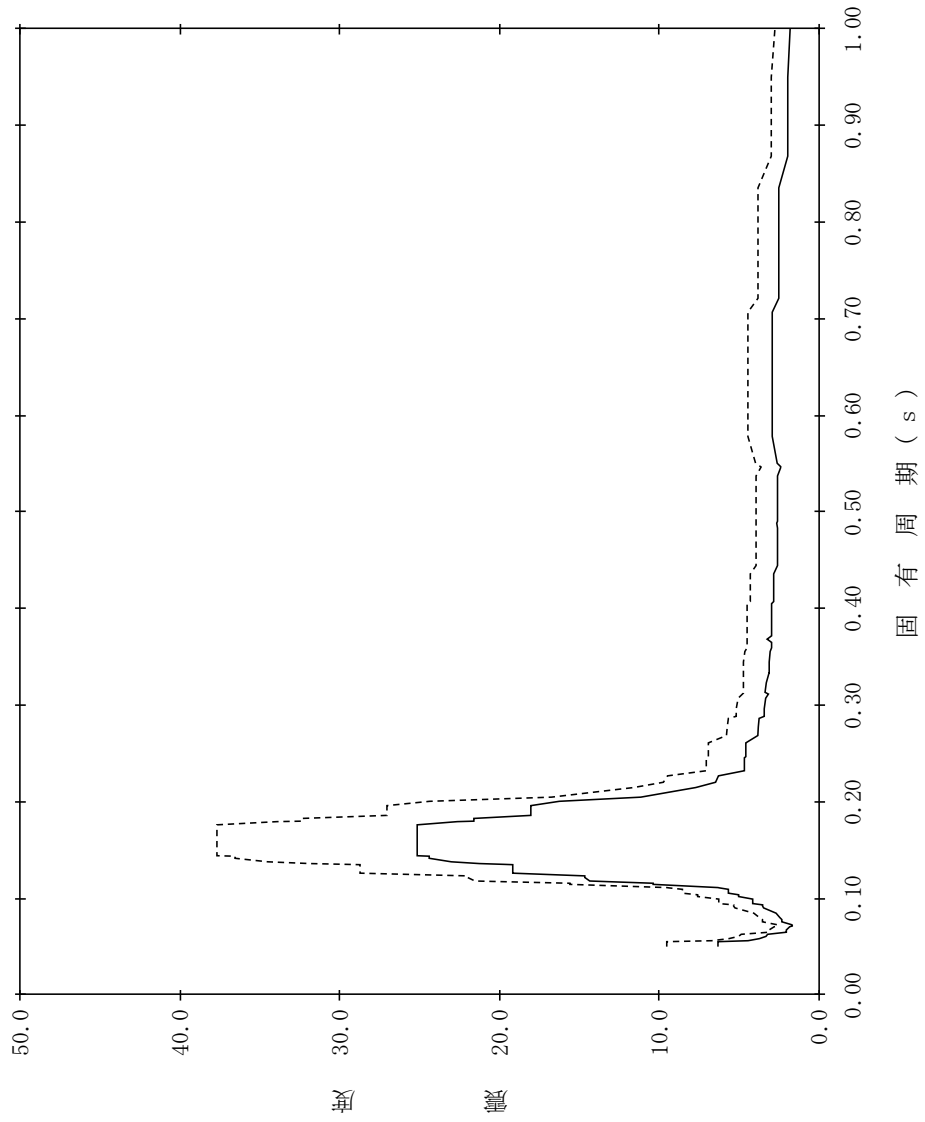
【NS2-CB-SsNS-CB8】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



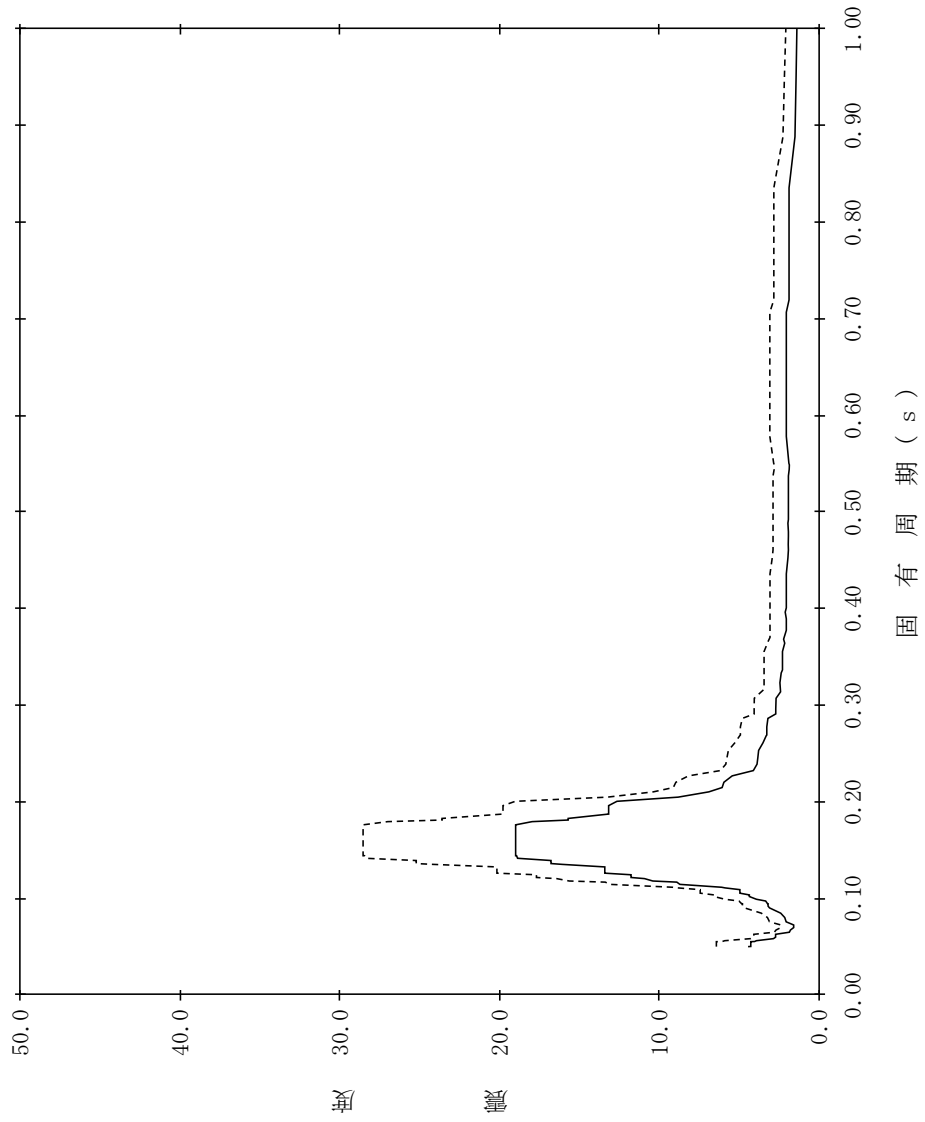
【NS2-CB-SsNS-CB9】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



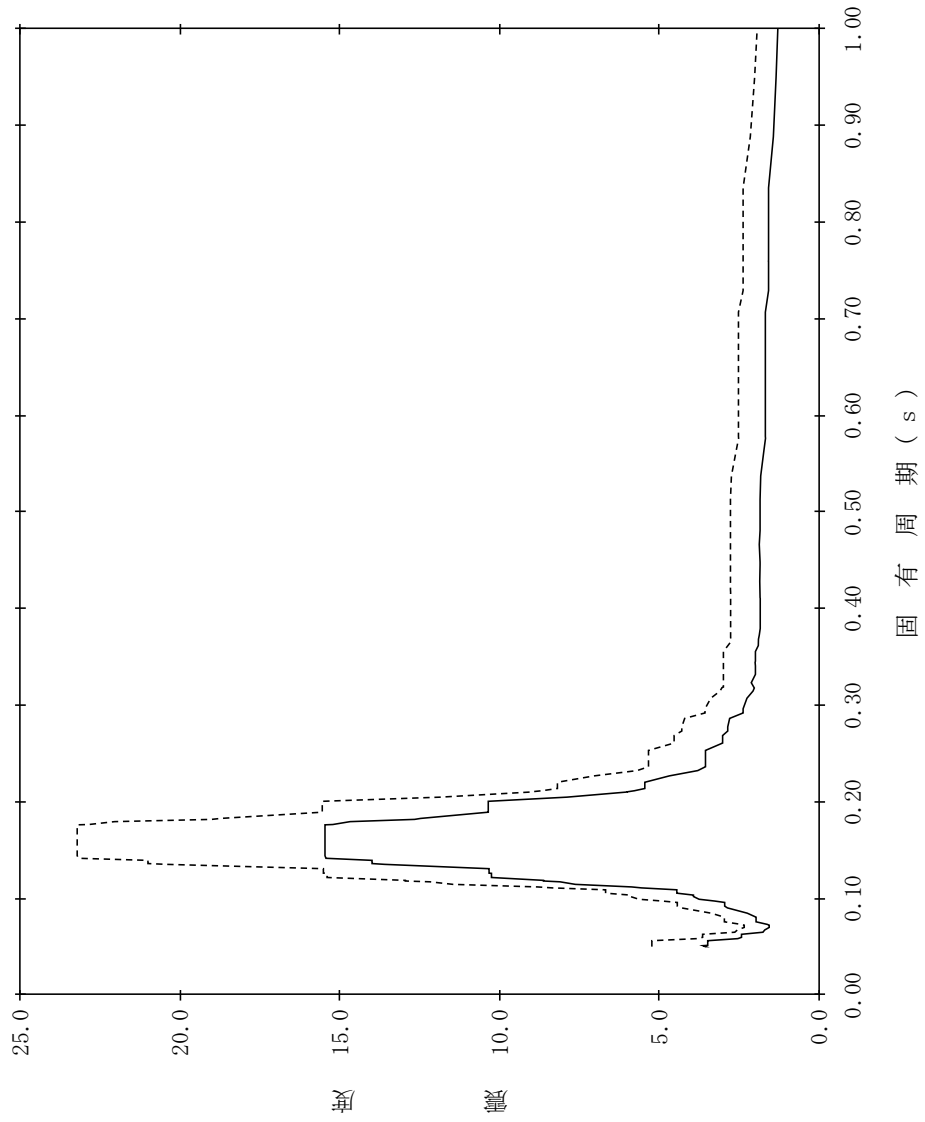
【NS2-CB-SsNS-CB10】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



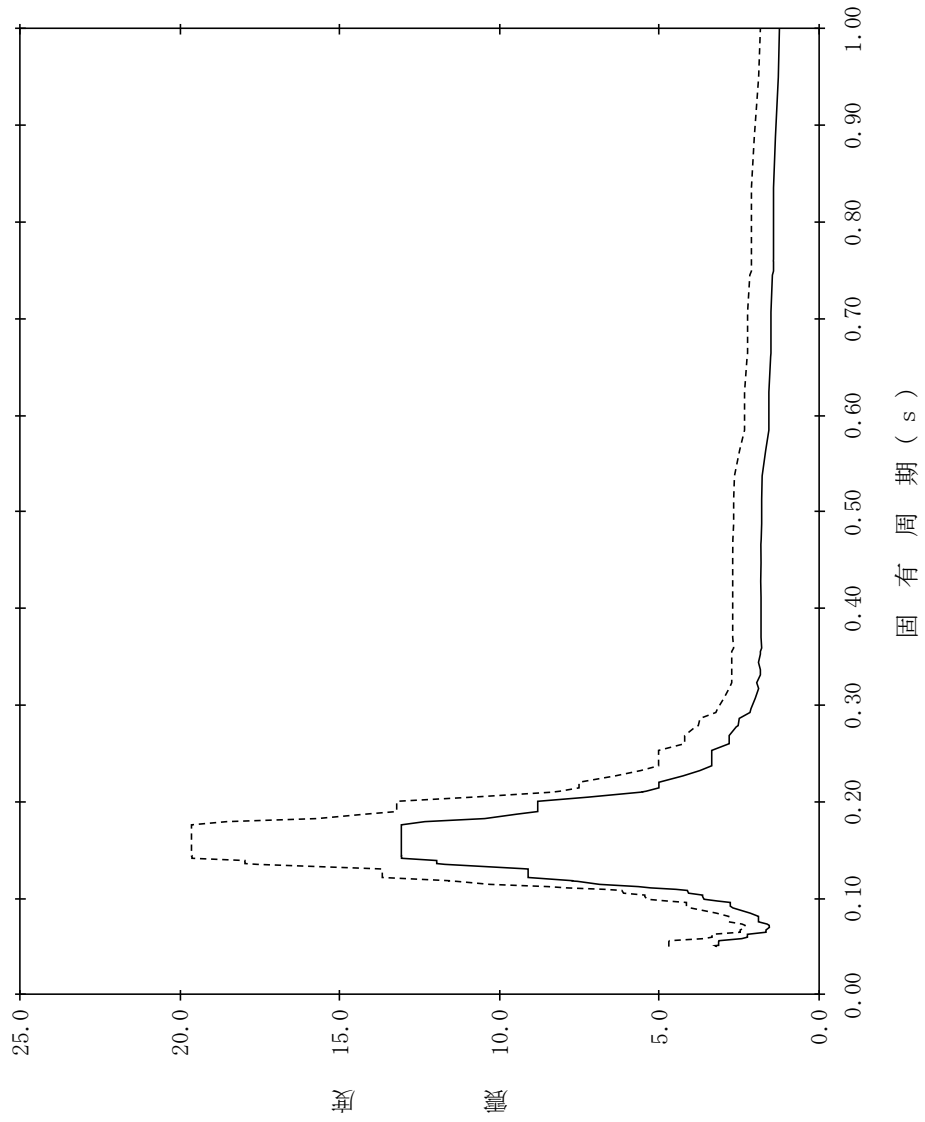
【NS2-CB-SsNS-CB11】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



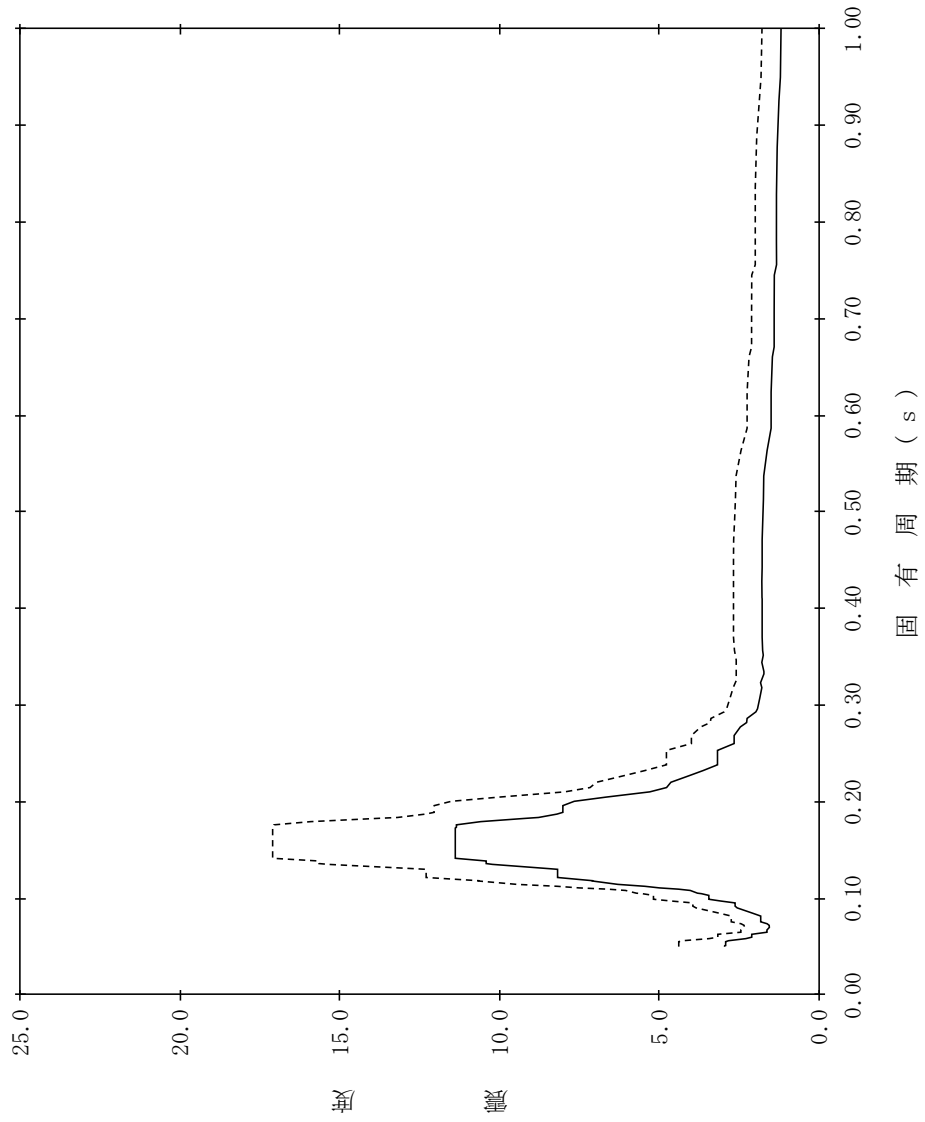
【NS2-CB-SsNS-CB12】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



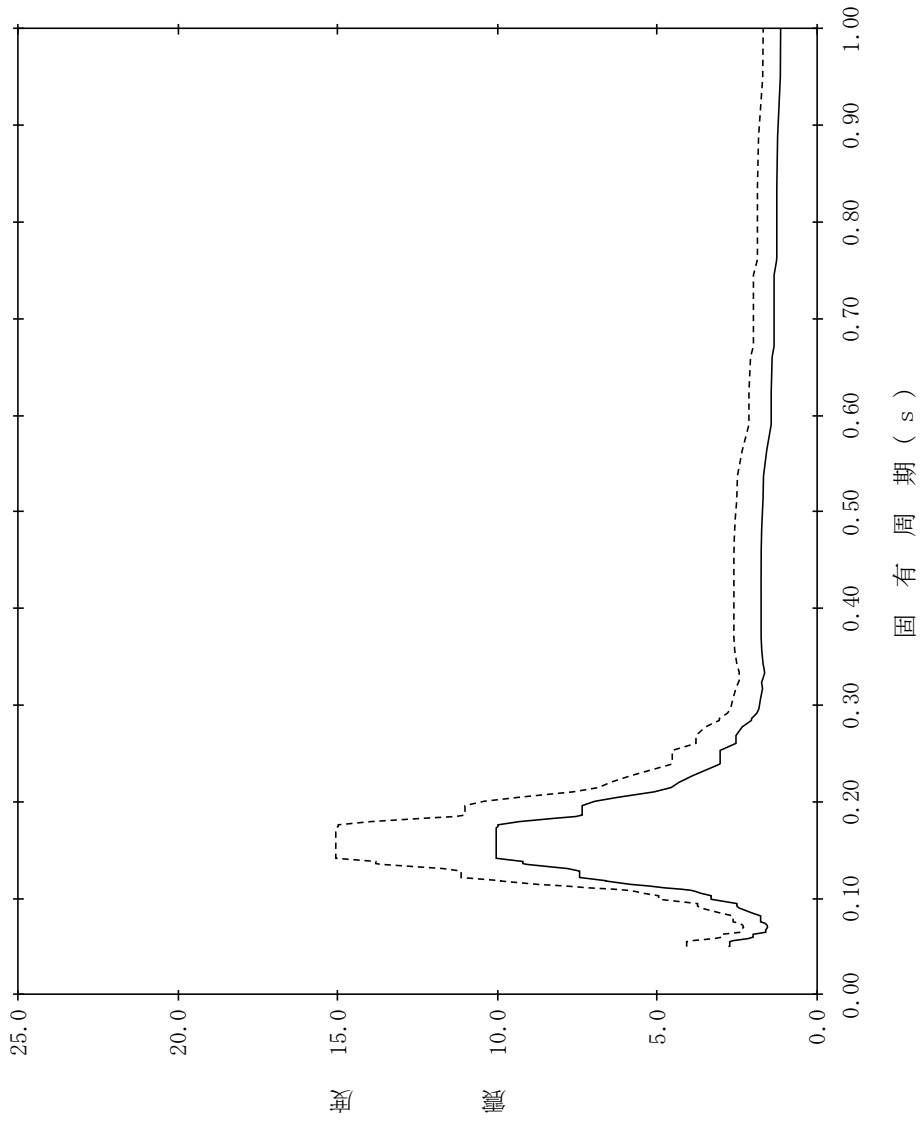
【NS2-CB-SsNS-CB13】

構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-CB-SsNS-CB14】

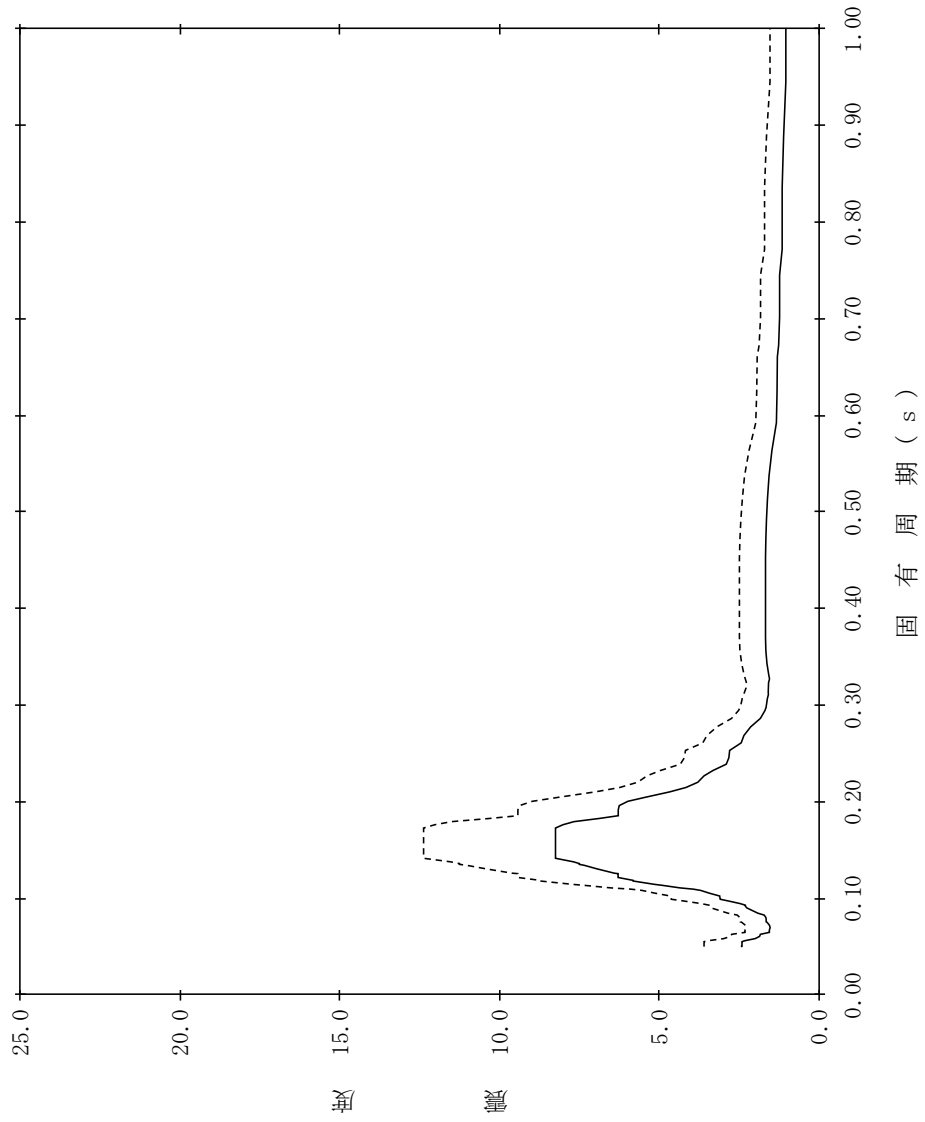
構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s



【NS2-CB-SsNS-CB15】

構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：4.0%

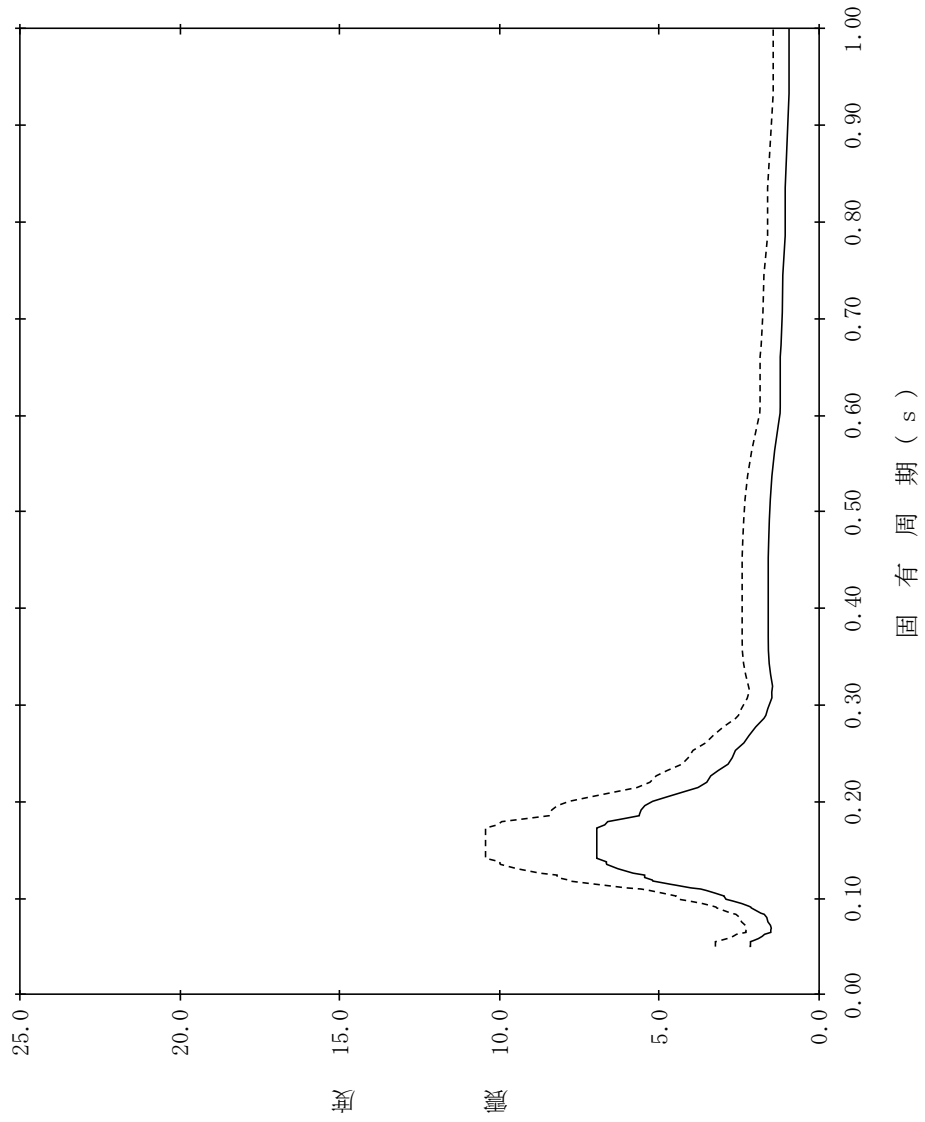
—— 設計用床応答スペクトルⅠ (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトルⅡ (NS方向)



【NS2-CB-SsNS-CB16】

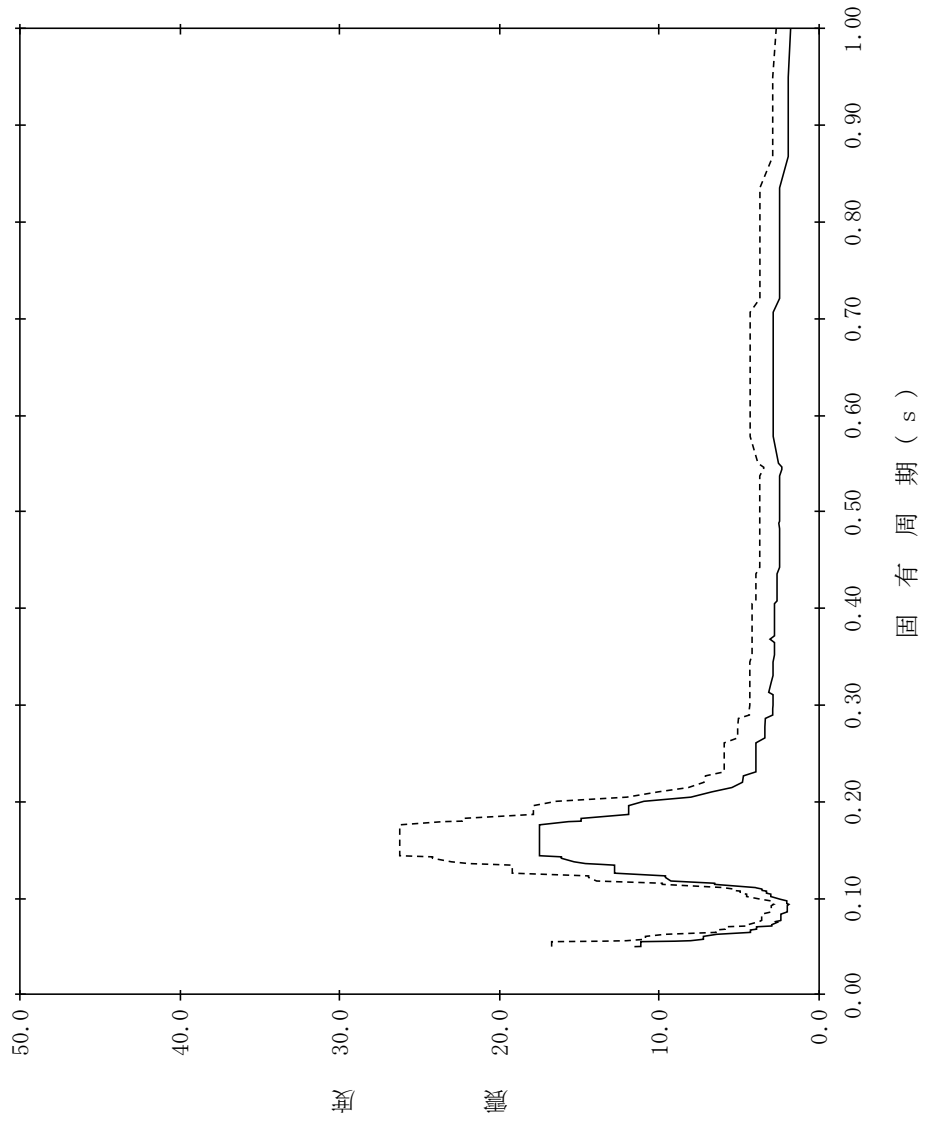
構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s

—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



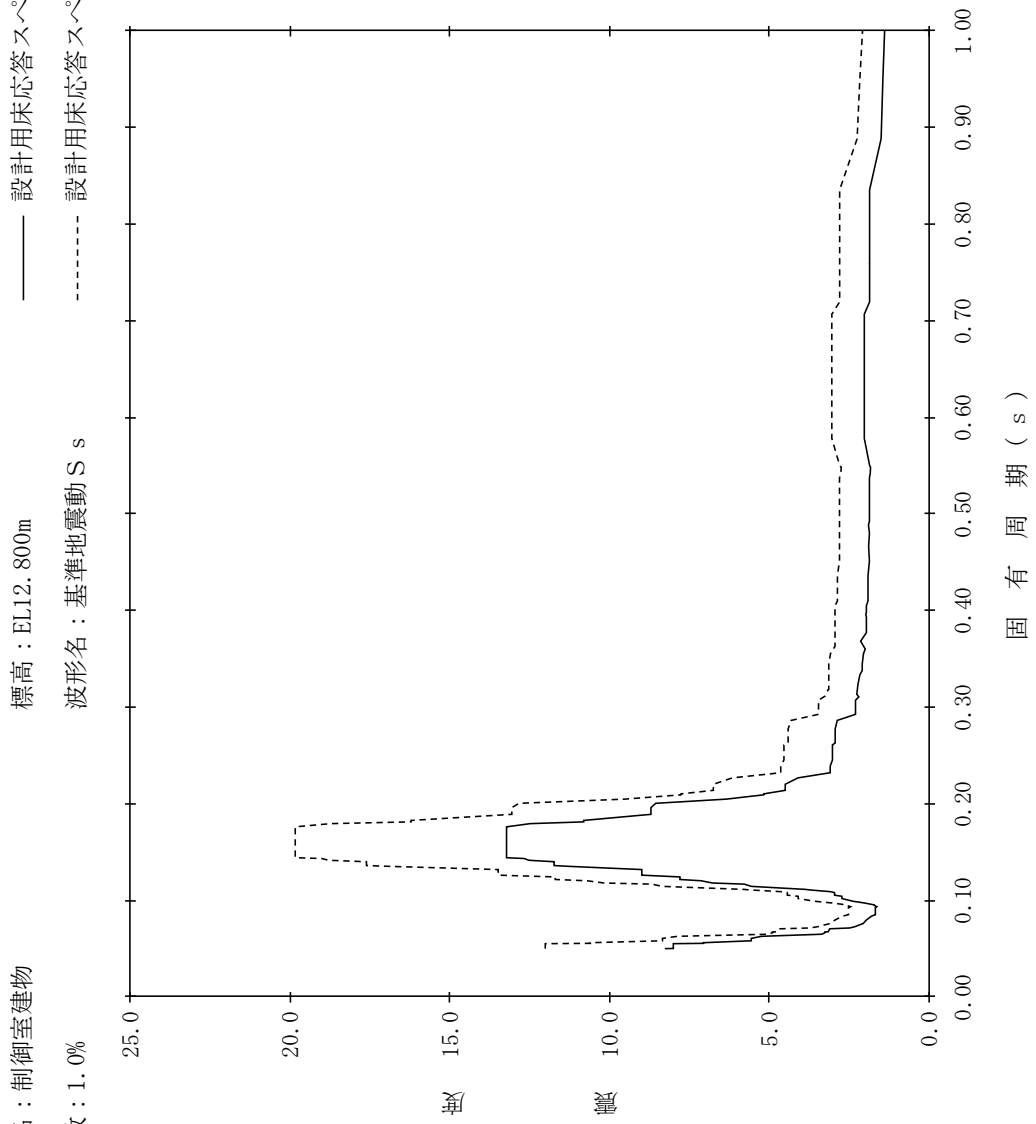
【NS2-CB-SsNS-CB17】

構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



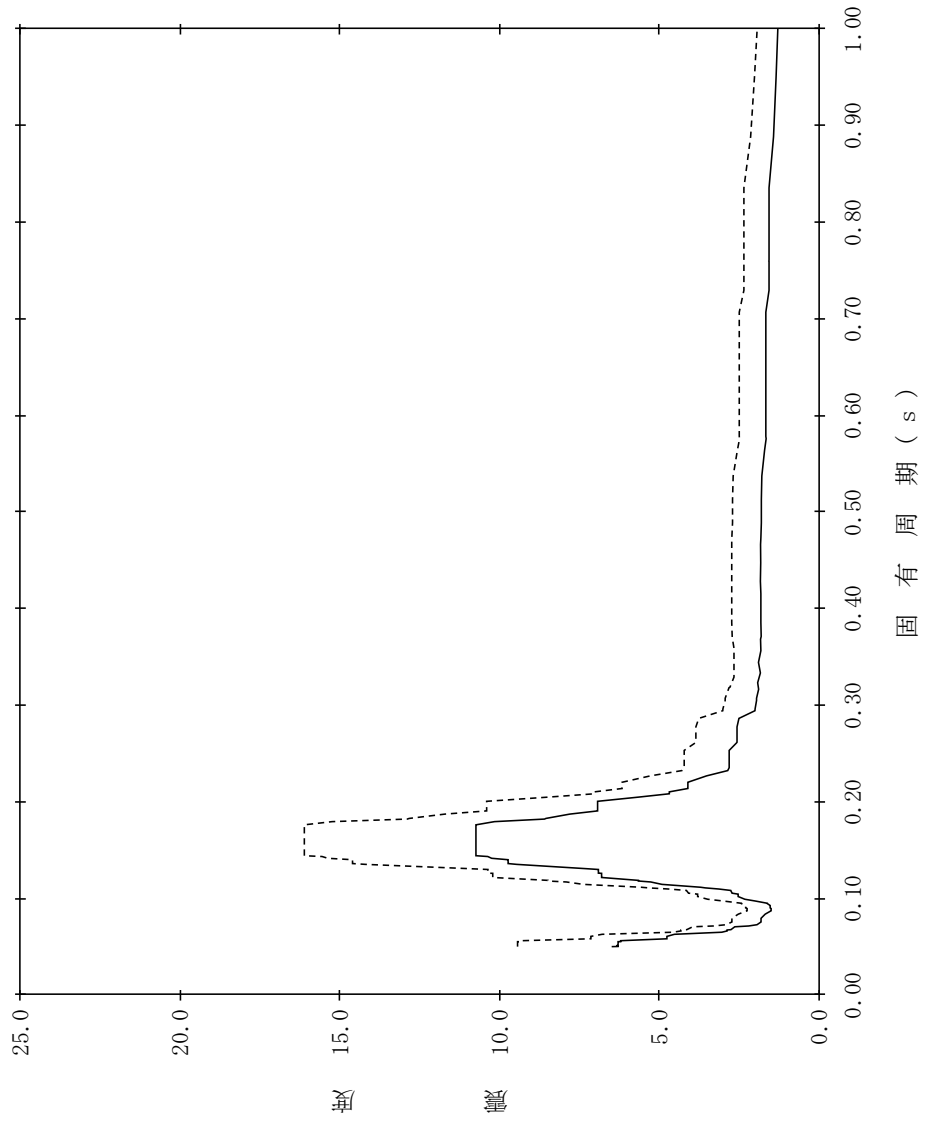
【NS2-CB-SsNS-CB18】

構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s



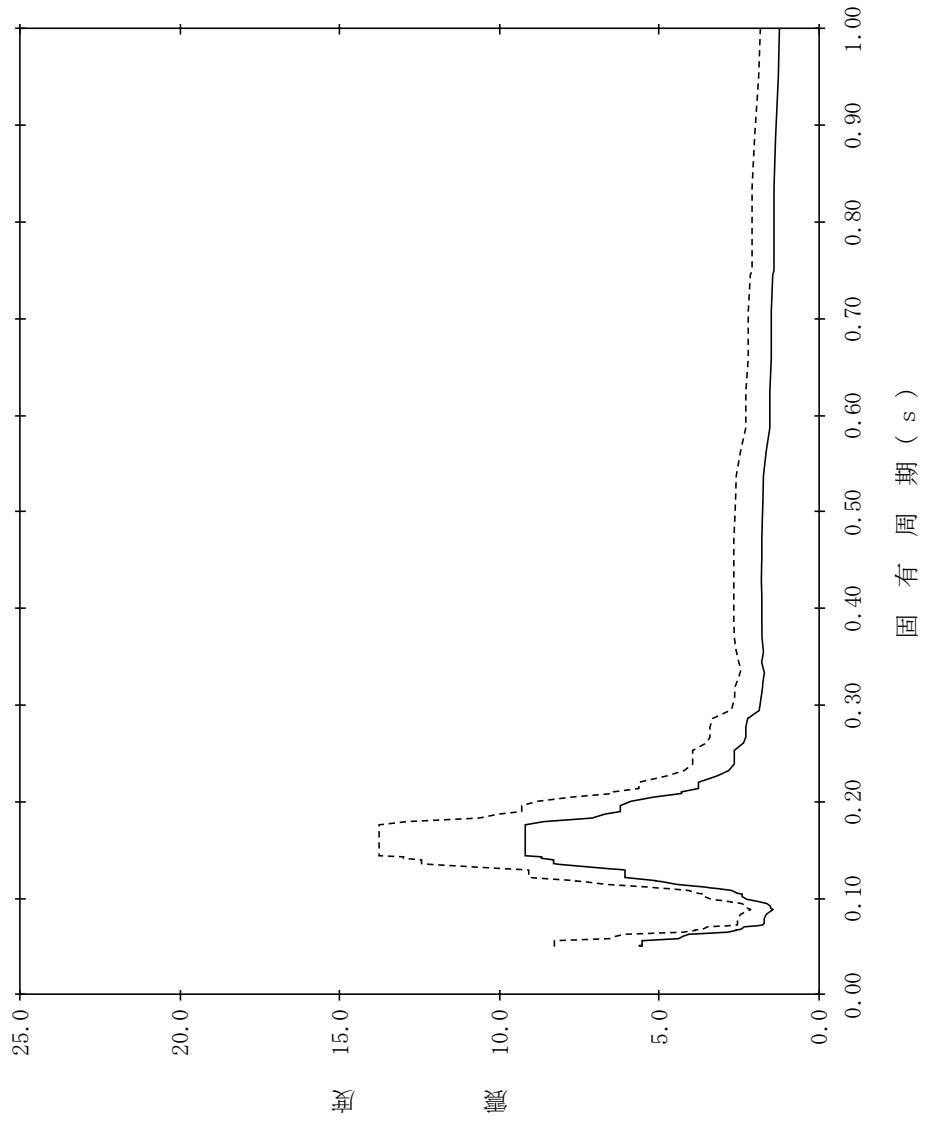
【NS2-CB-SsNS-CB19】

構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



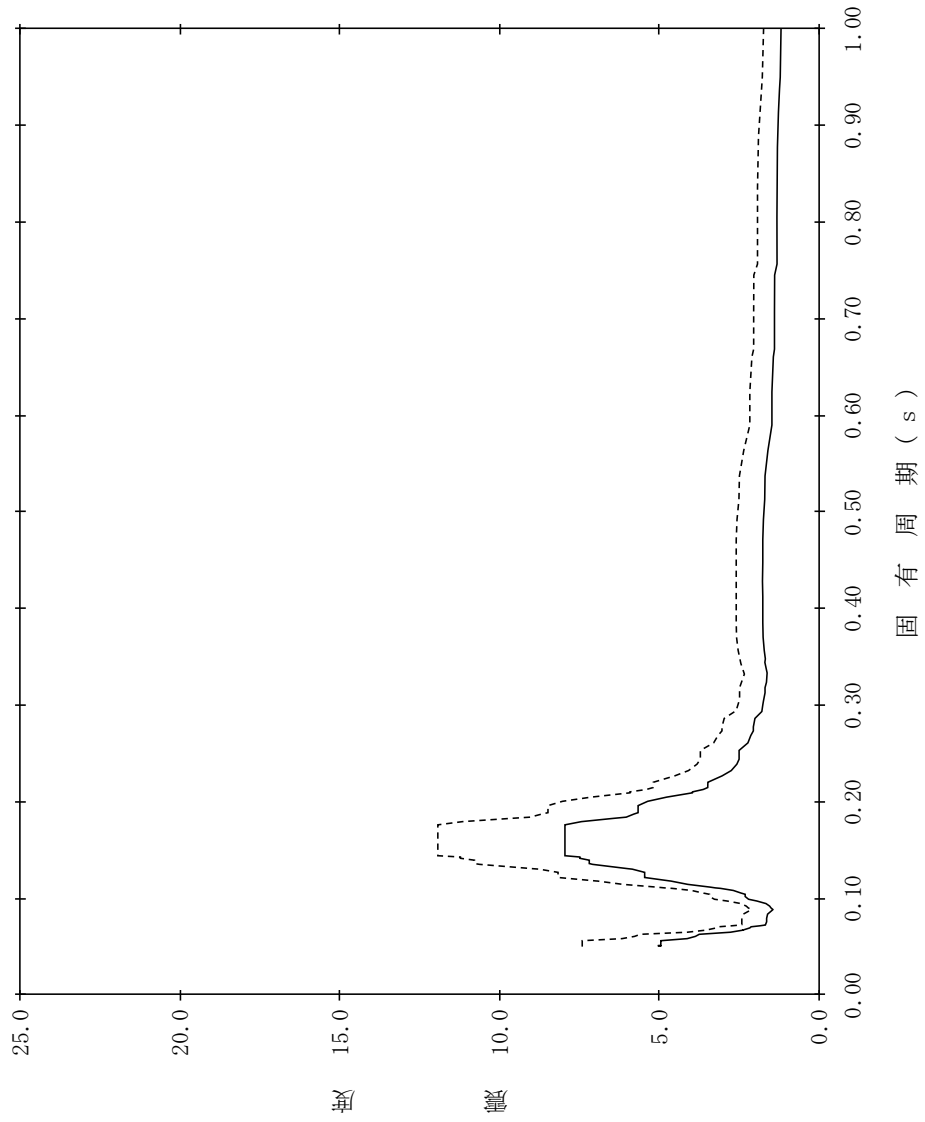
【NS2-CB-SsNS-CB20】

構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



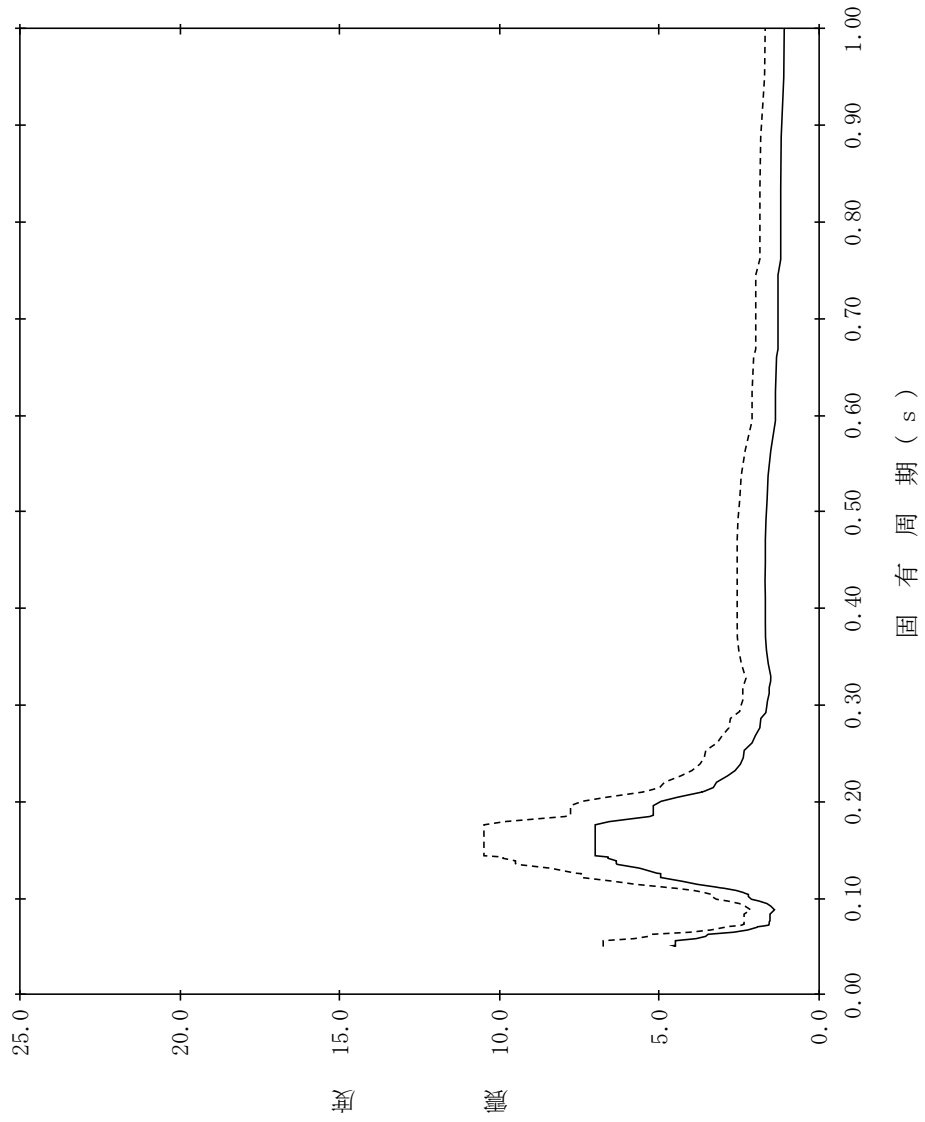
【NS2-CB-SsNS-CB21】

構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



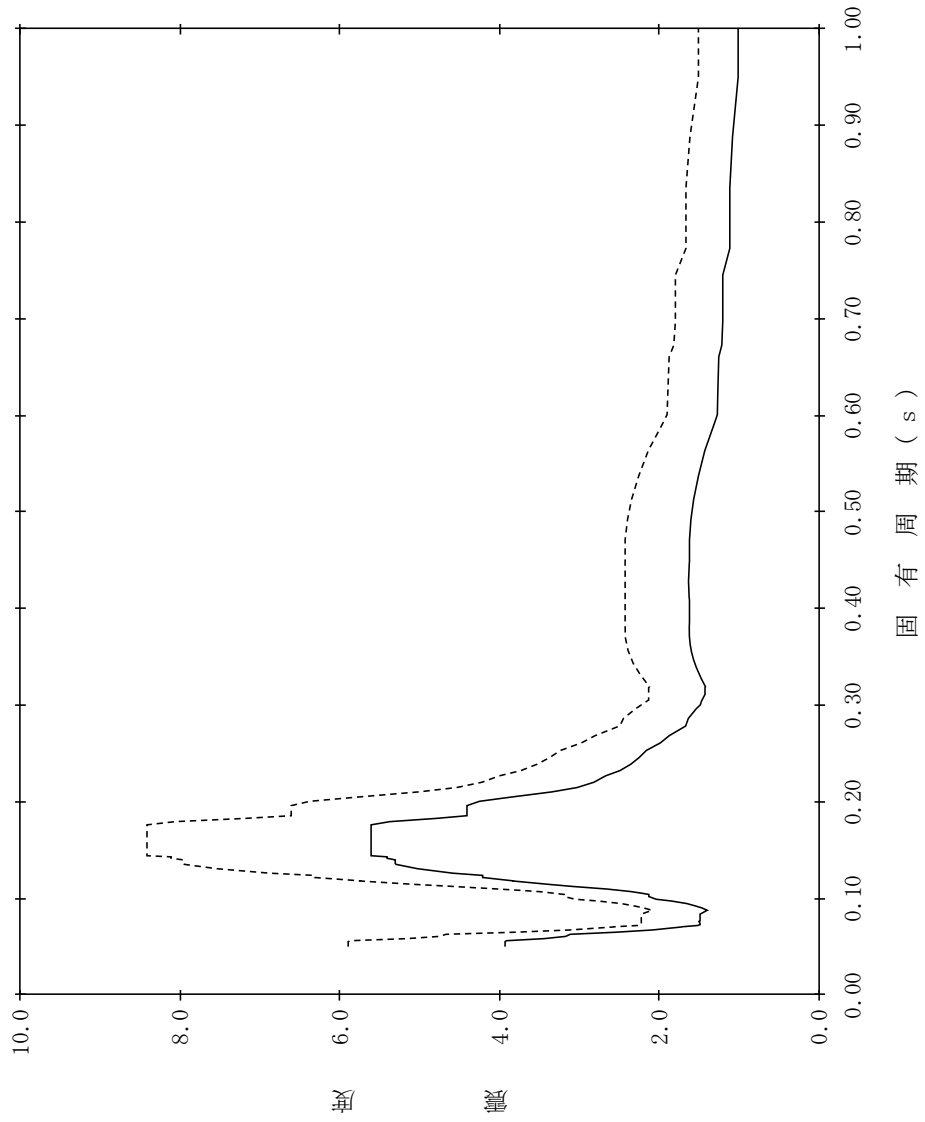
【NS2-CB-SsNS-CB22】

構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



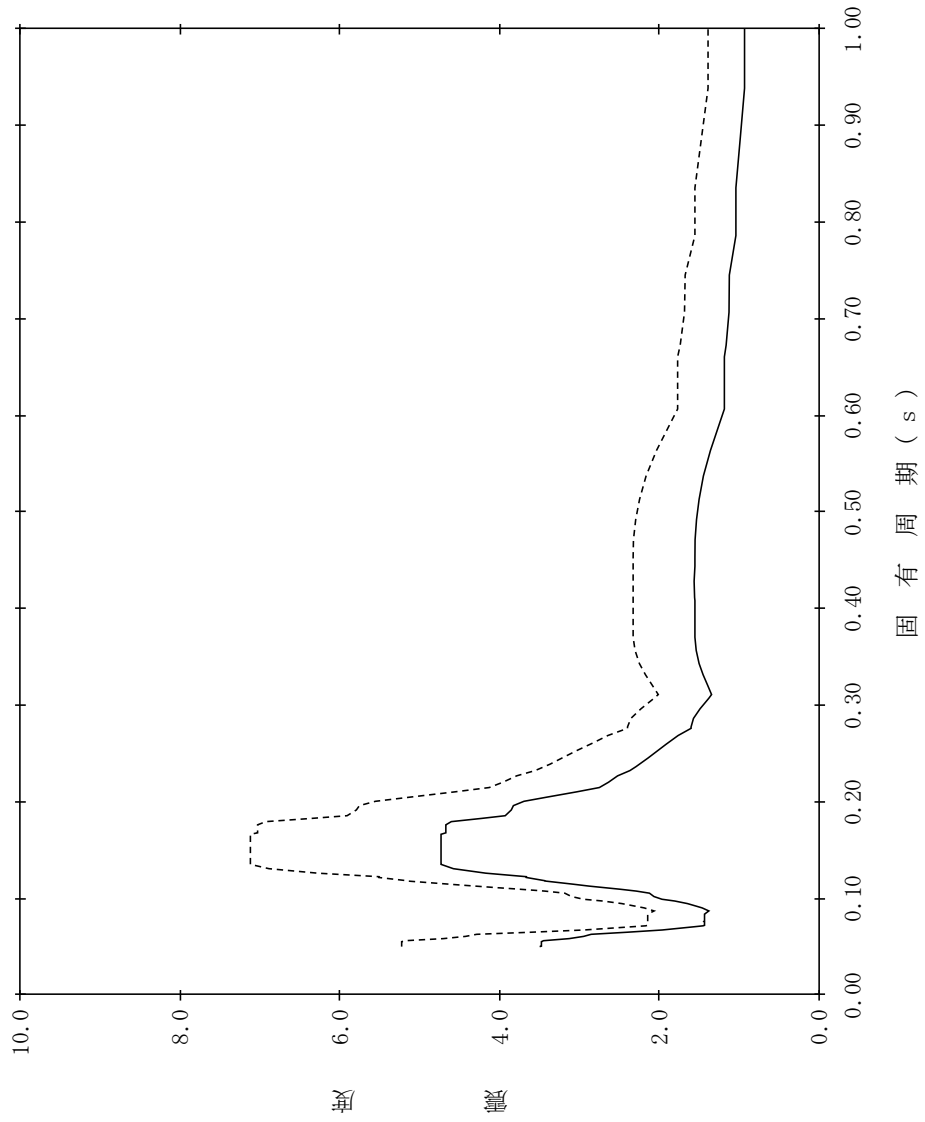
【NS2-CB-SsNS-CB23】

構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



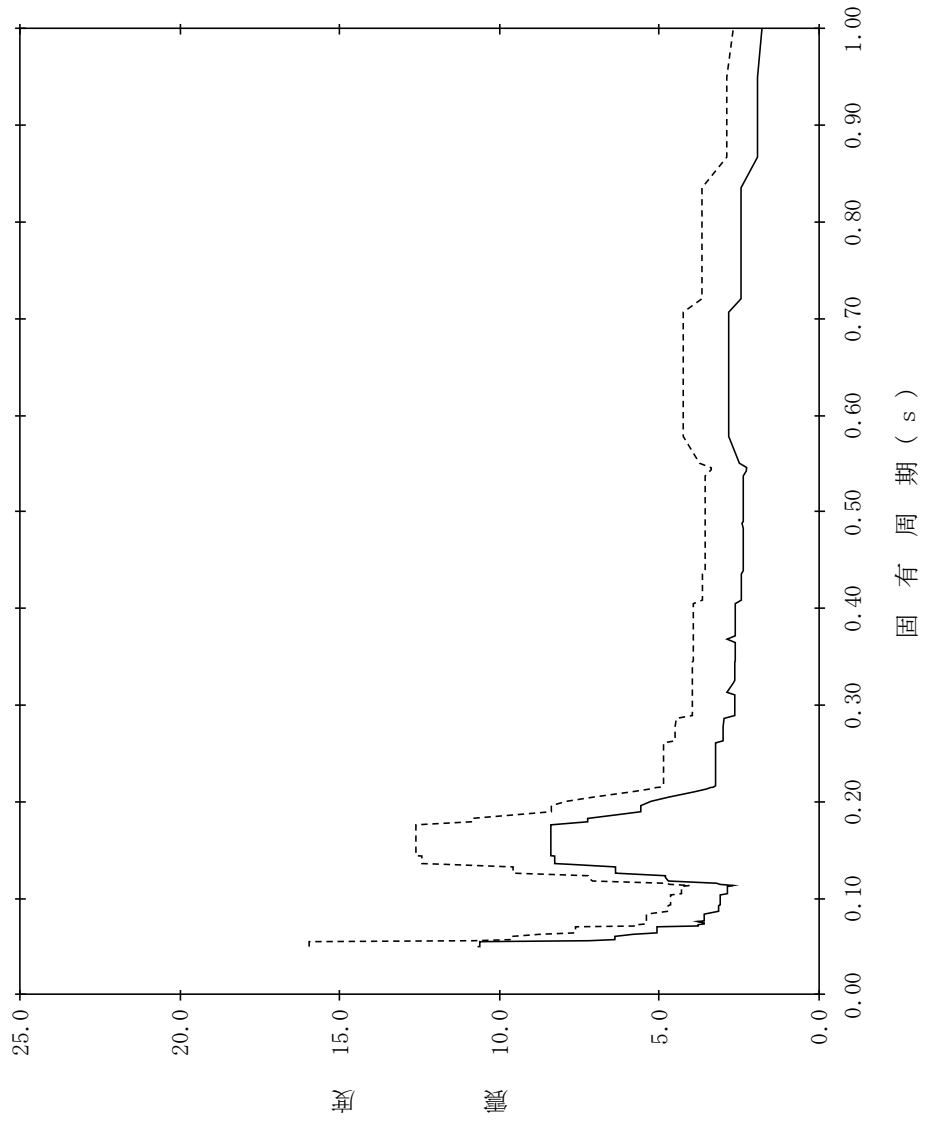
【NS2-CB-SsNS-CB24】

構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



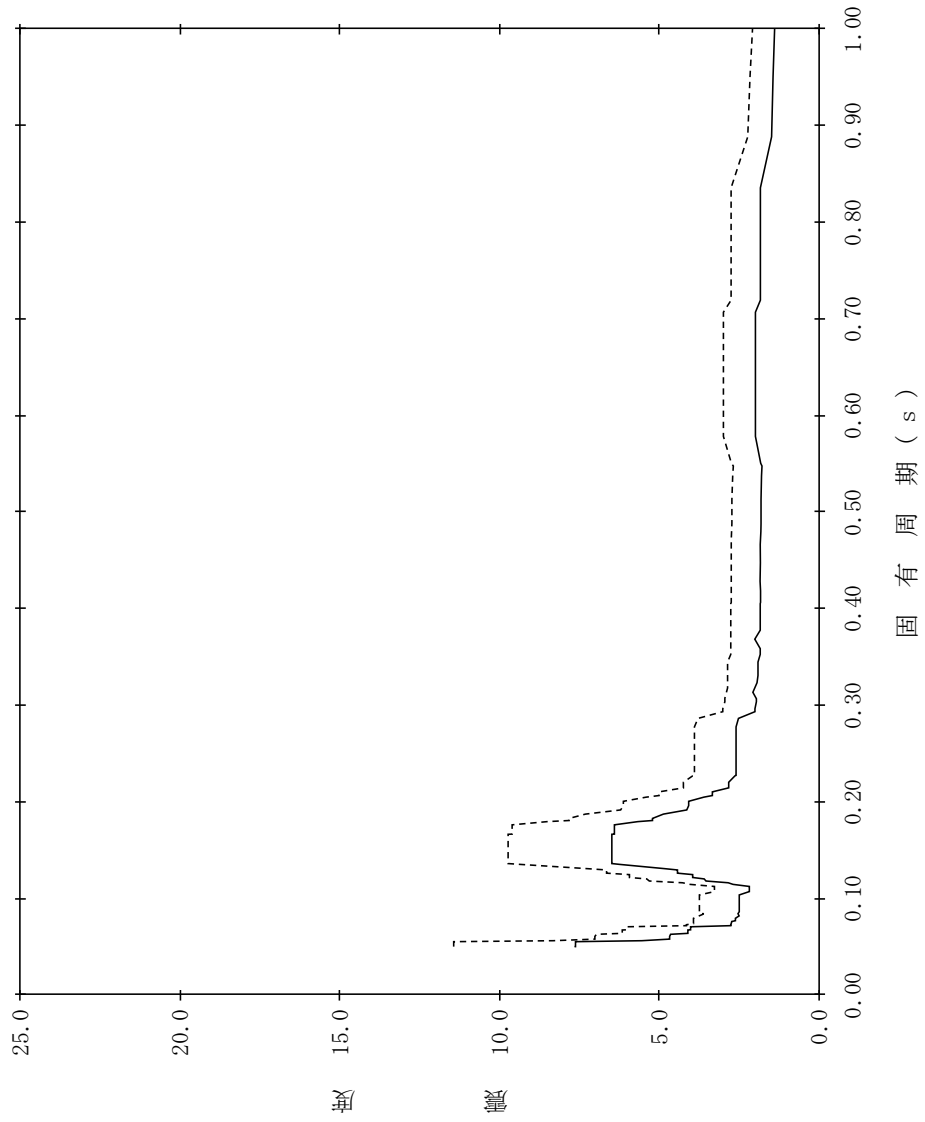
【NS2-CB-SsNS-CB25】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

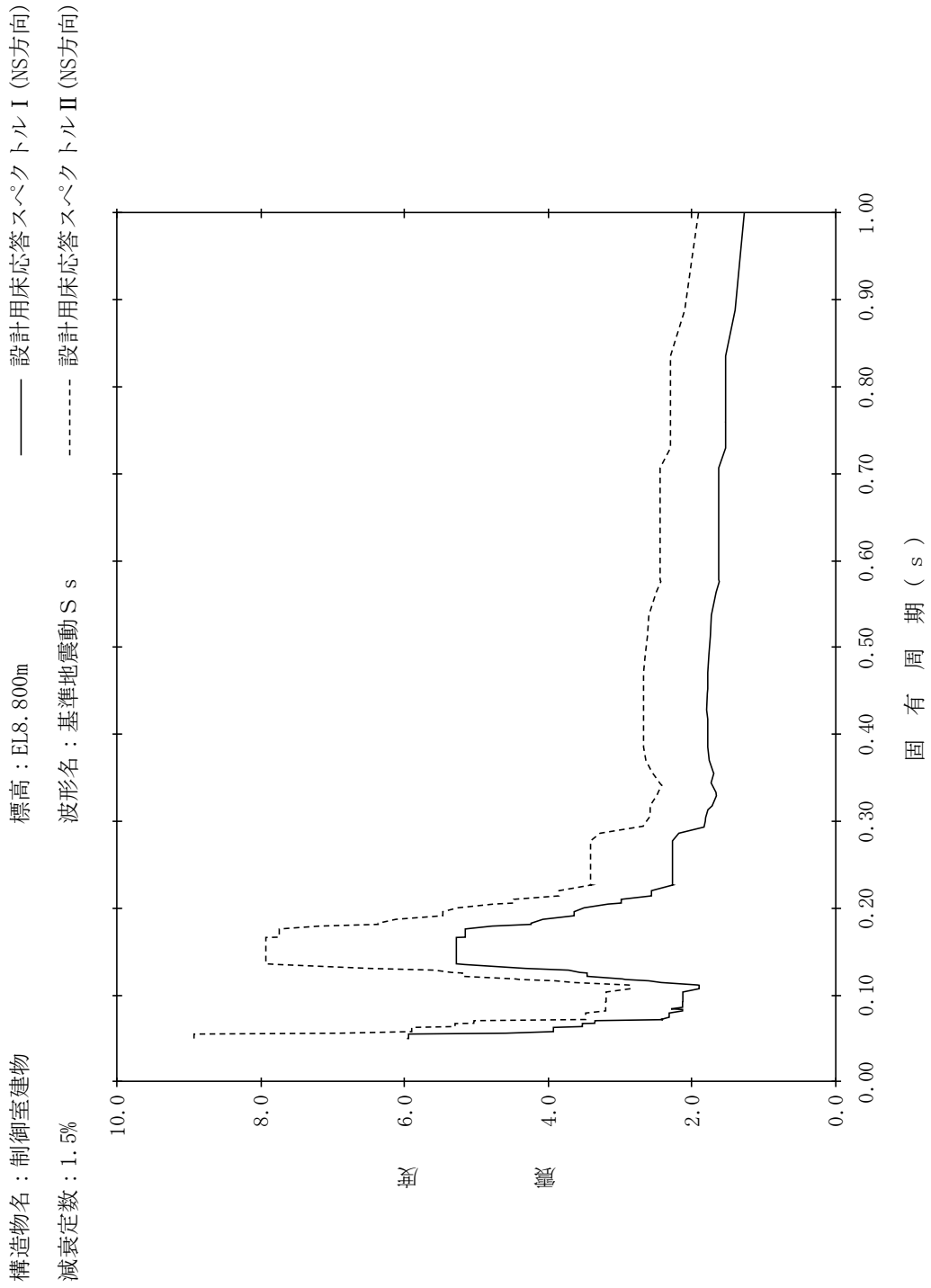


【NS2-CB-SsNS-CB26】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

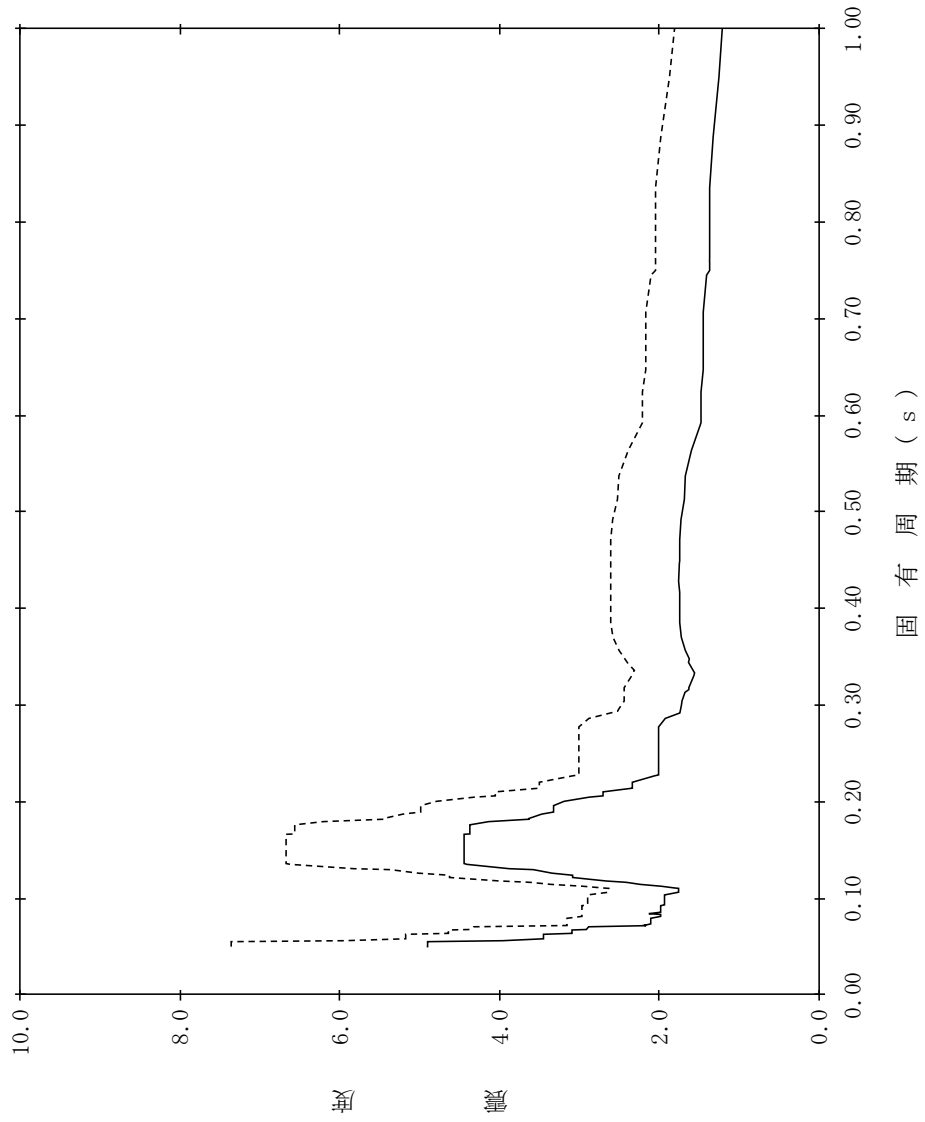


【NS2-CB-SsNS-CB27】



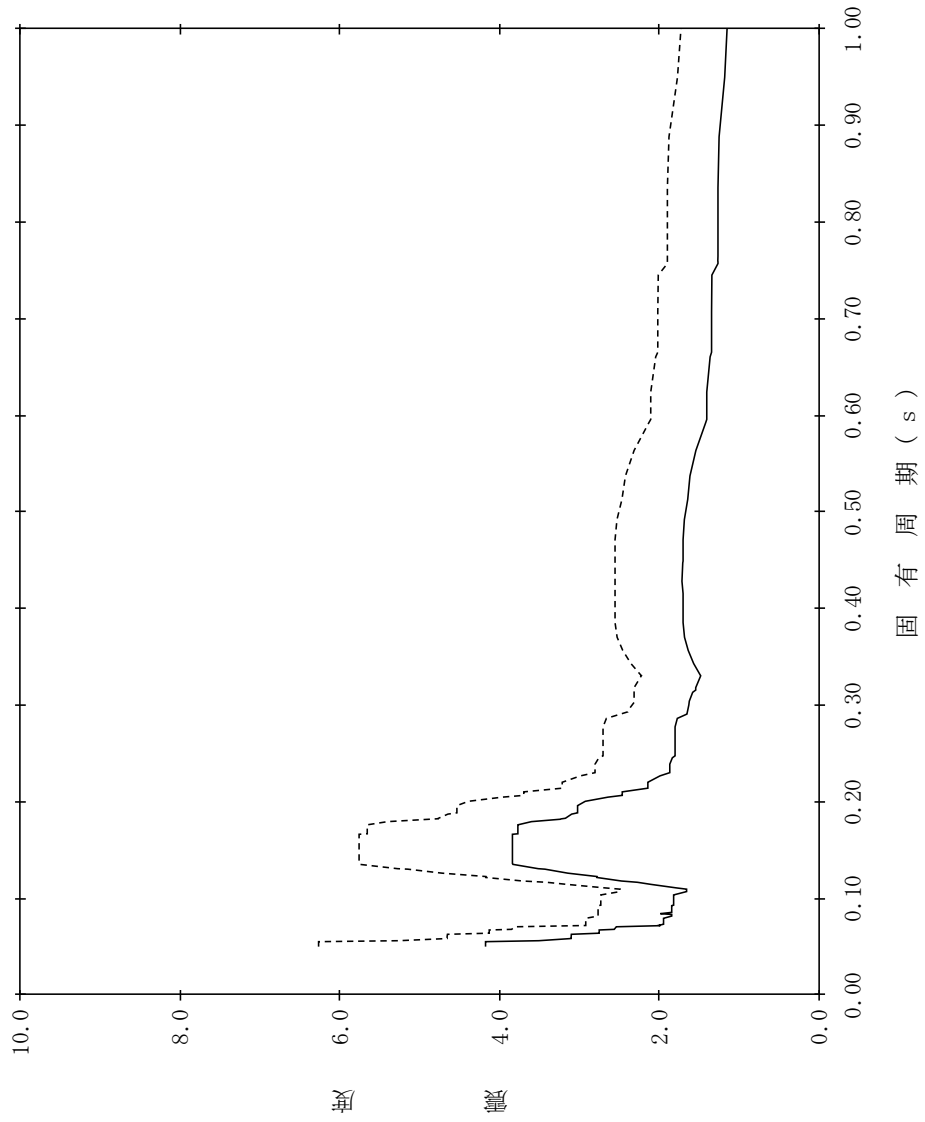
【NS2-CB-SsNS-CB28】

構造物名：制御室建物
標高：EL8.800m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



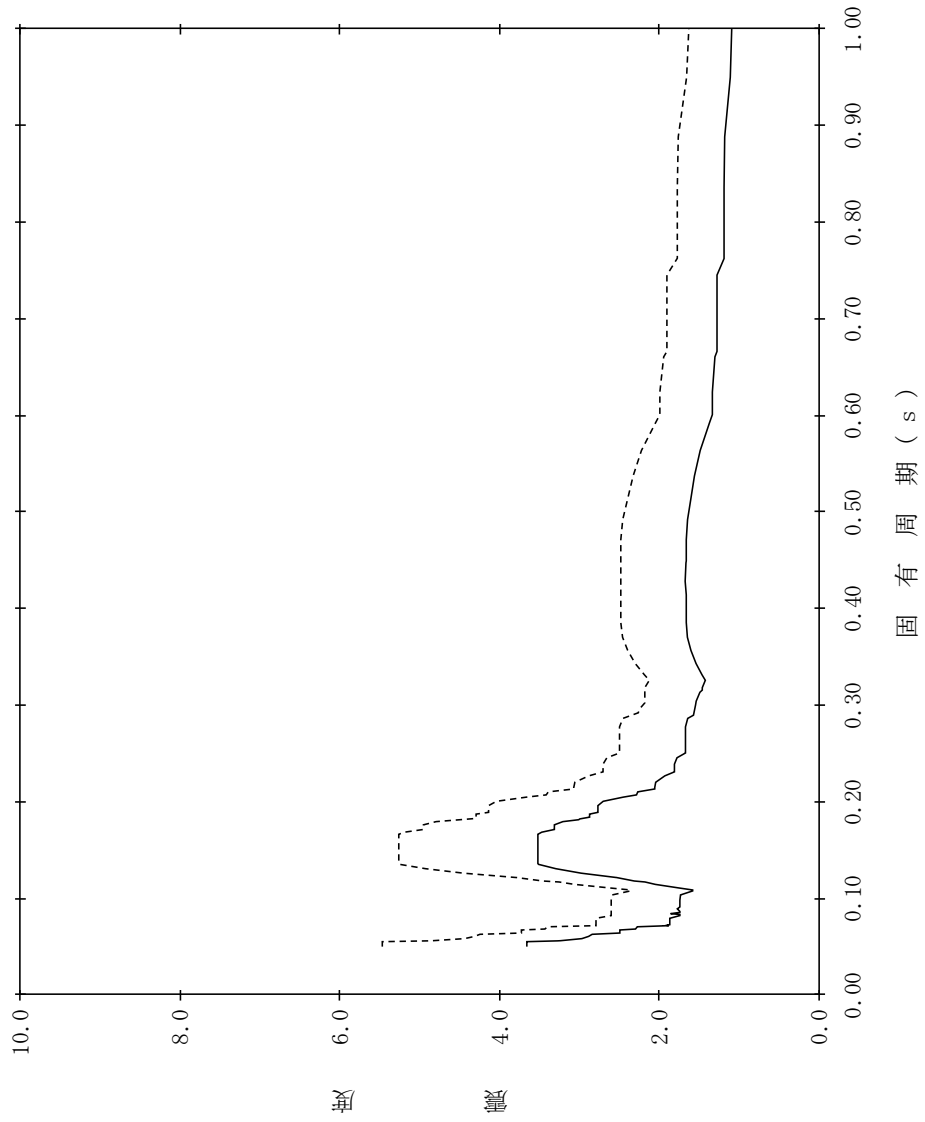
【NS2-CB-SsNS-CB29】

構造物名：制御室建物
標高：EL8.800m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



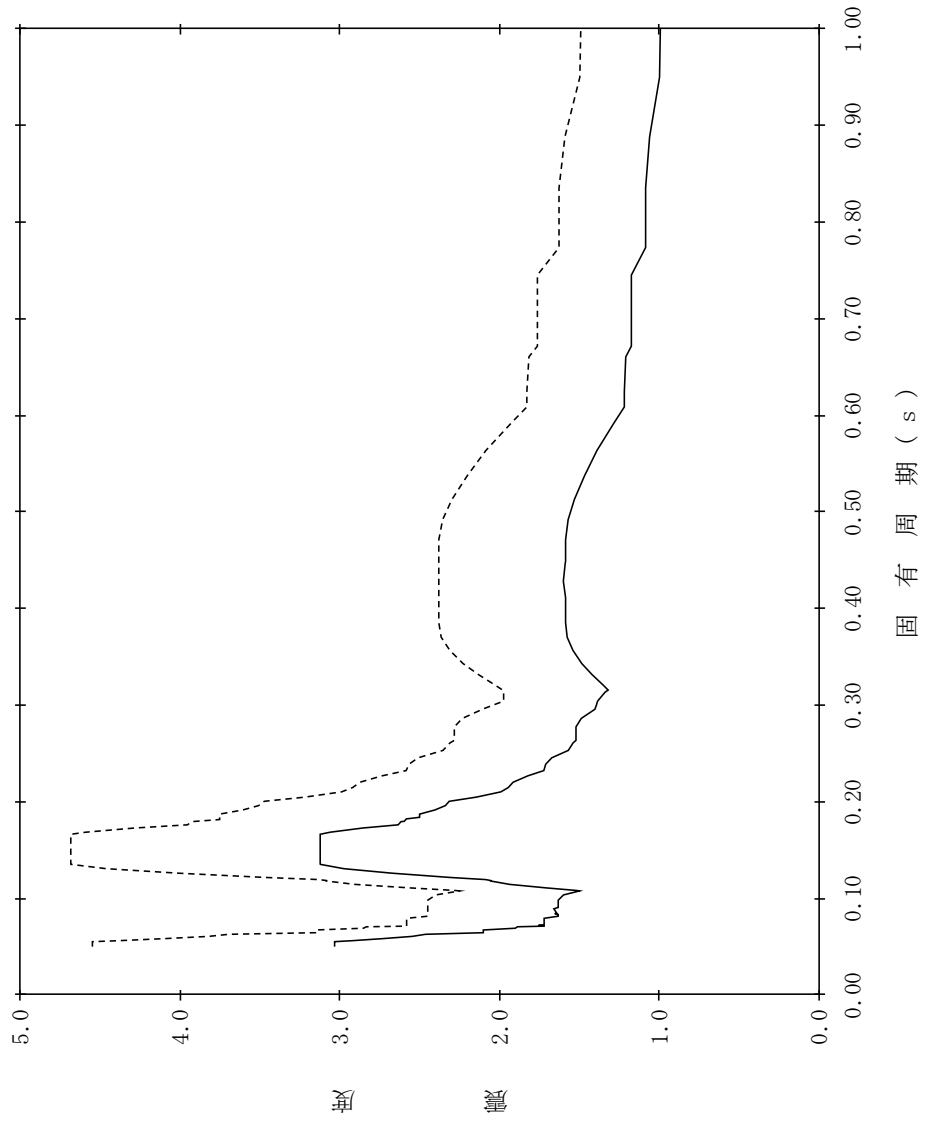
【NS2-CB-SsNS-CB30】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



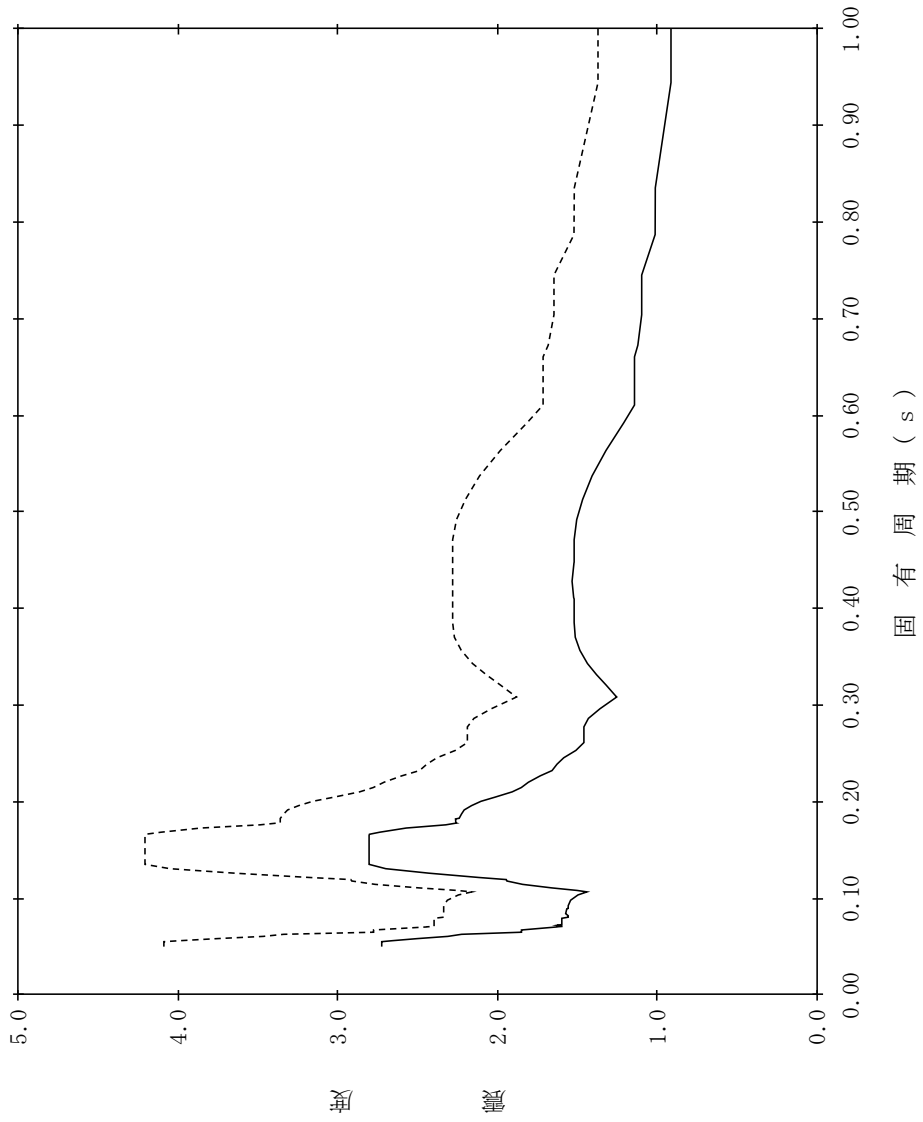
【NS2-CB-SsNS-CB31】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



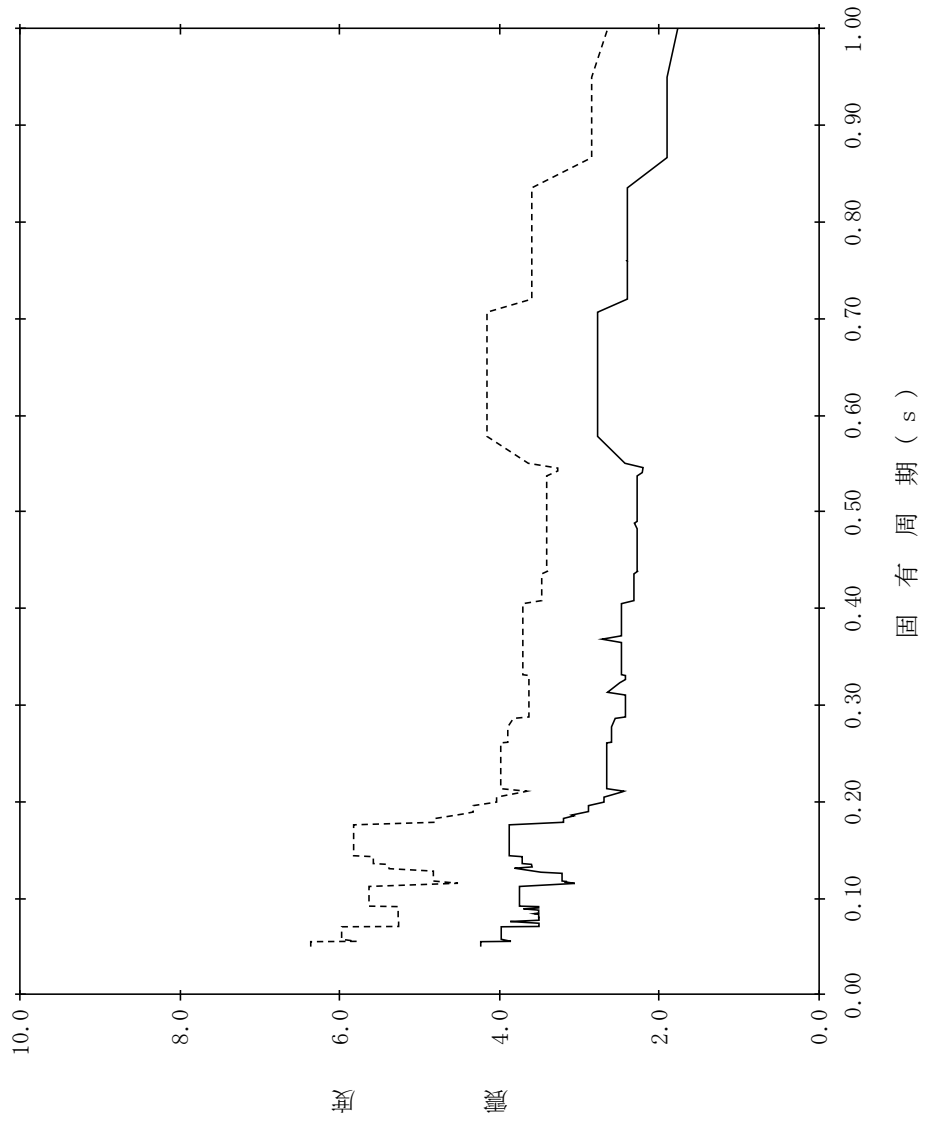
【NS2-CB-SsNS-CB32】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



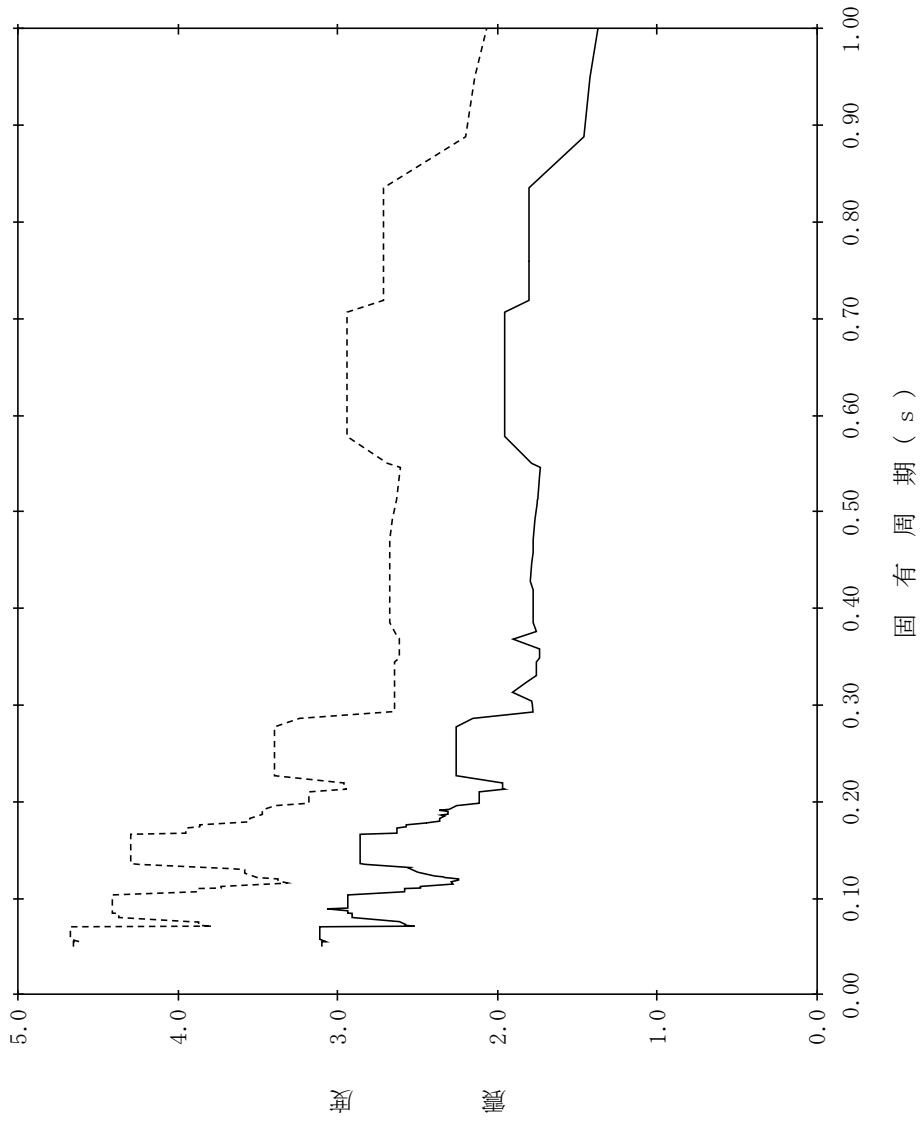
【NS2-CB-SsNS-CB33】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



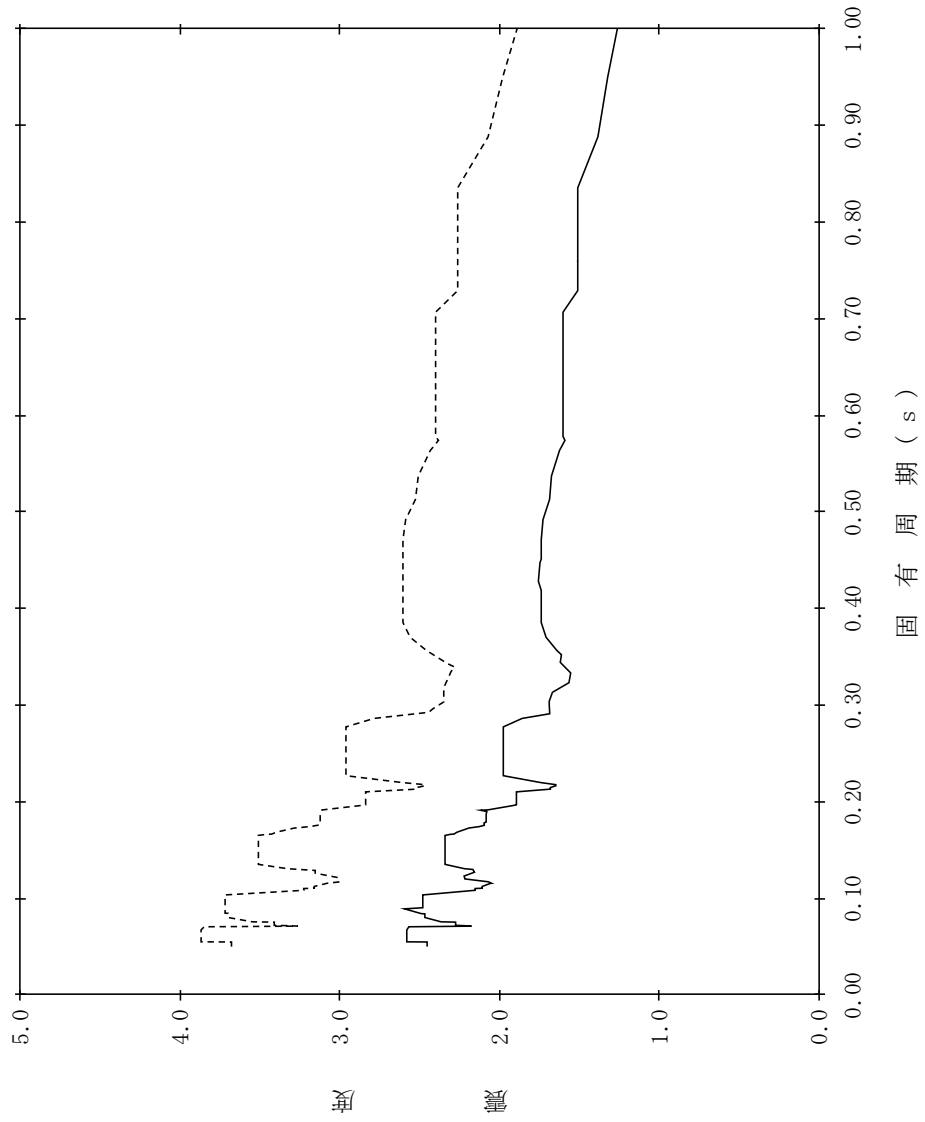
【NS2-CB-SsNS-CB34】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



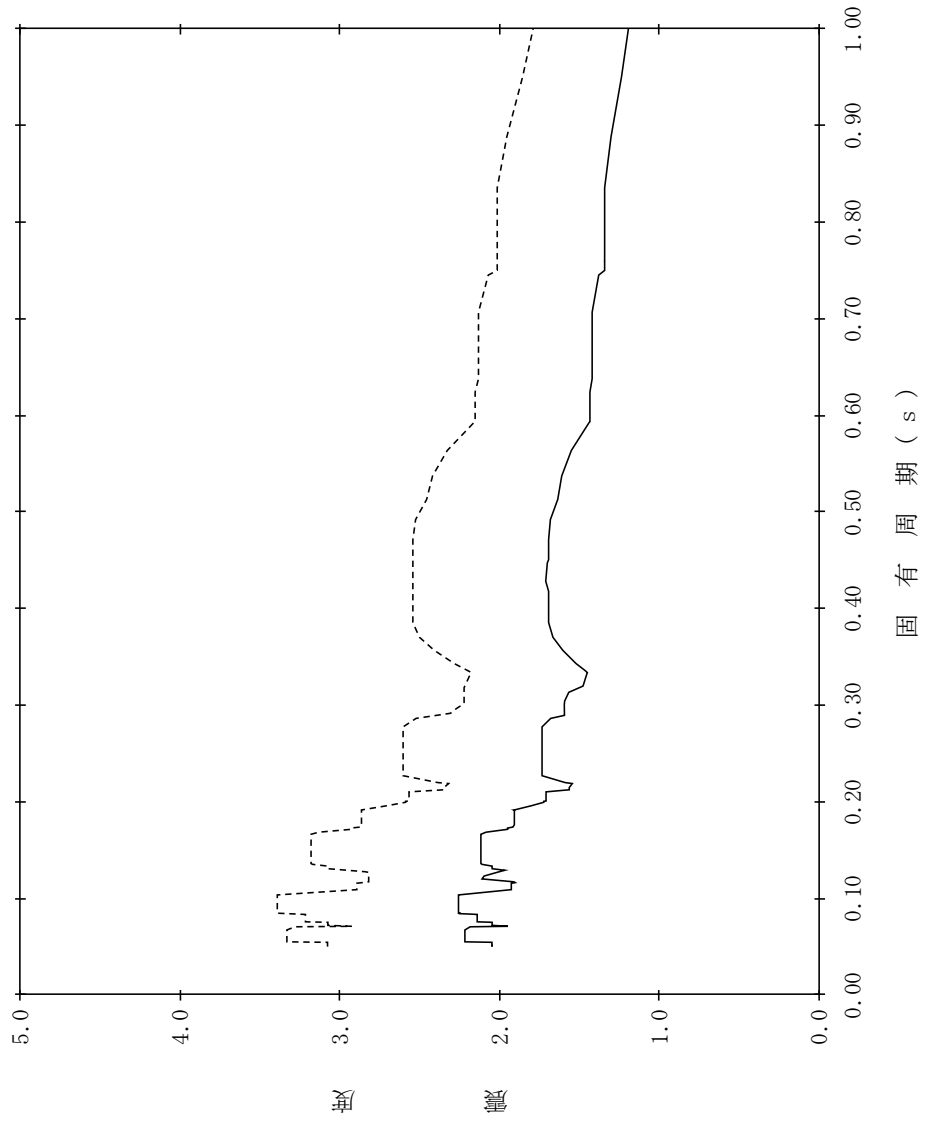
【NS2-CB-SsNS-CB35】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



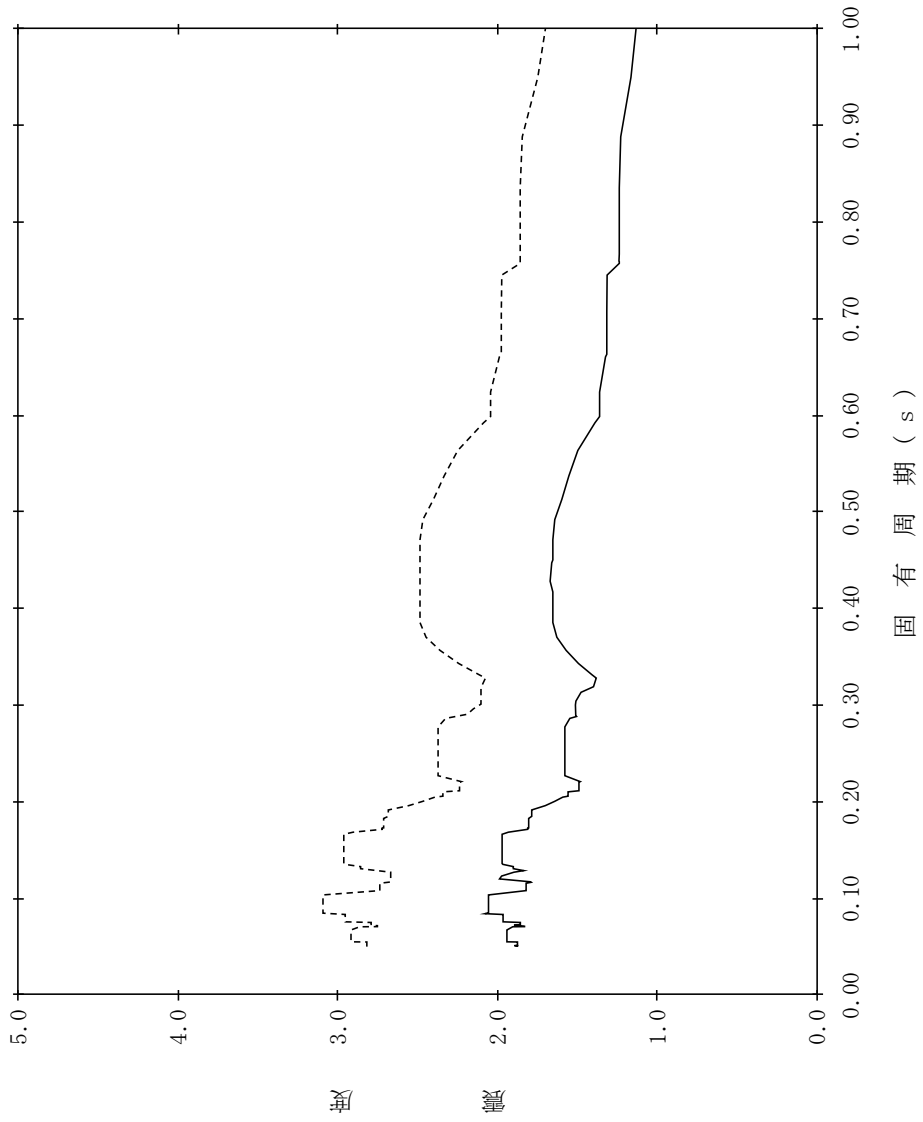
【NS2-CB-SsNS-CB36】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



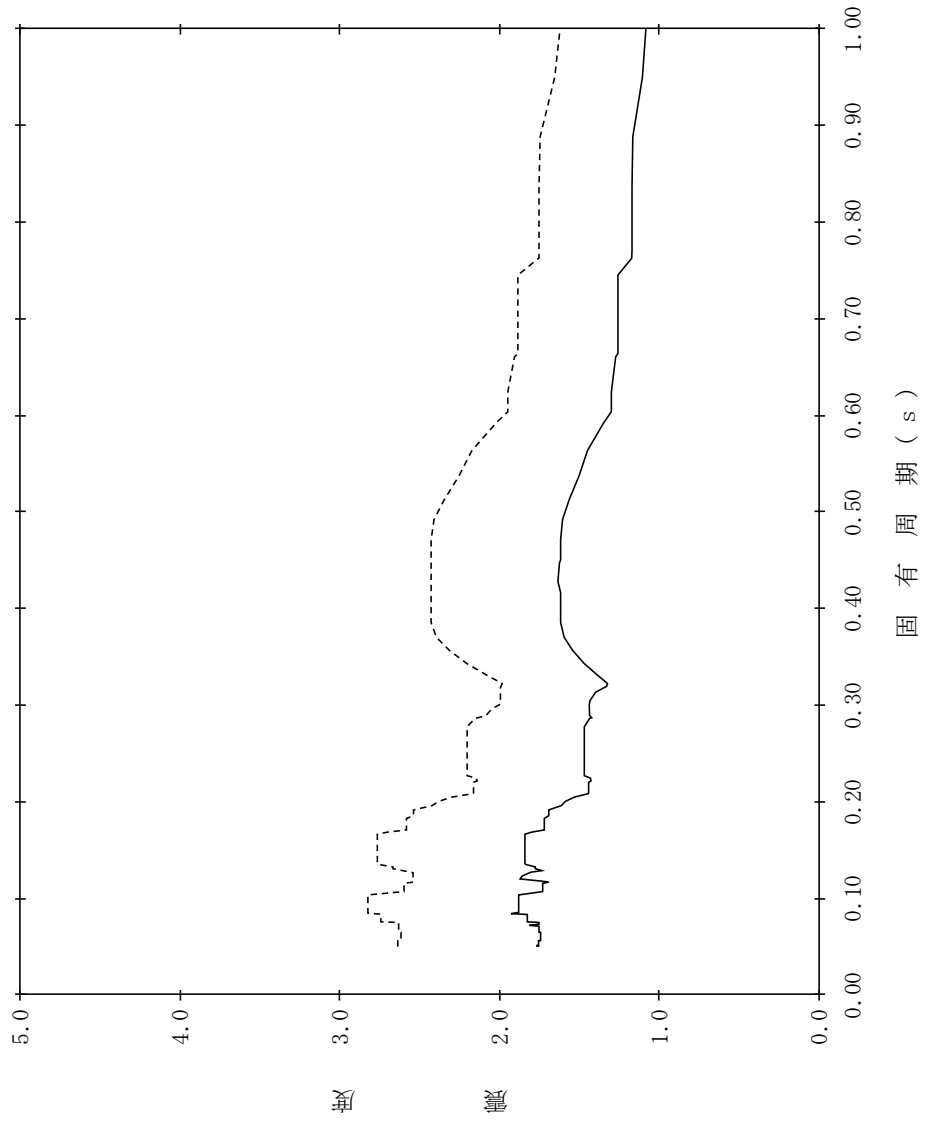
【NS2-CB-SsNS-CB37】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



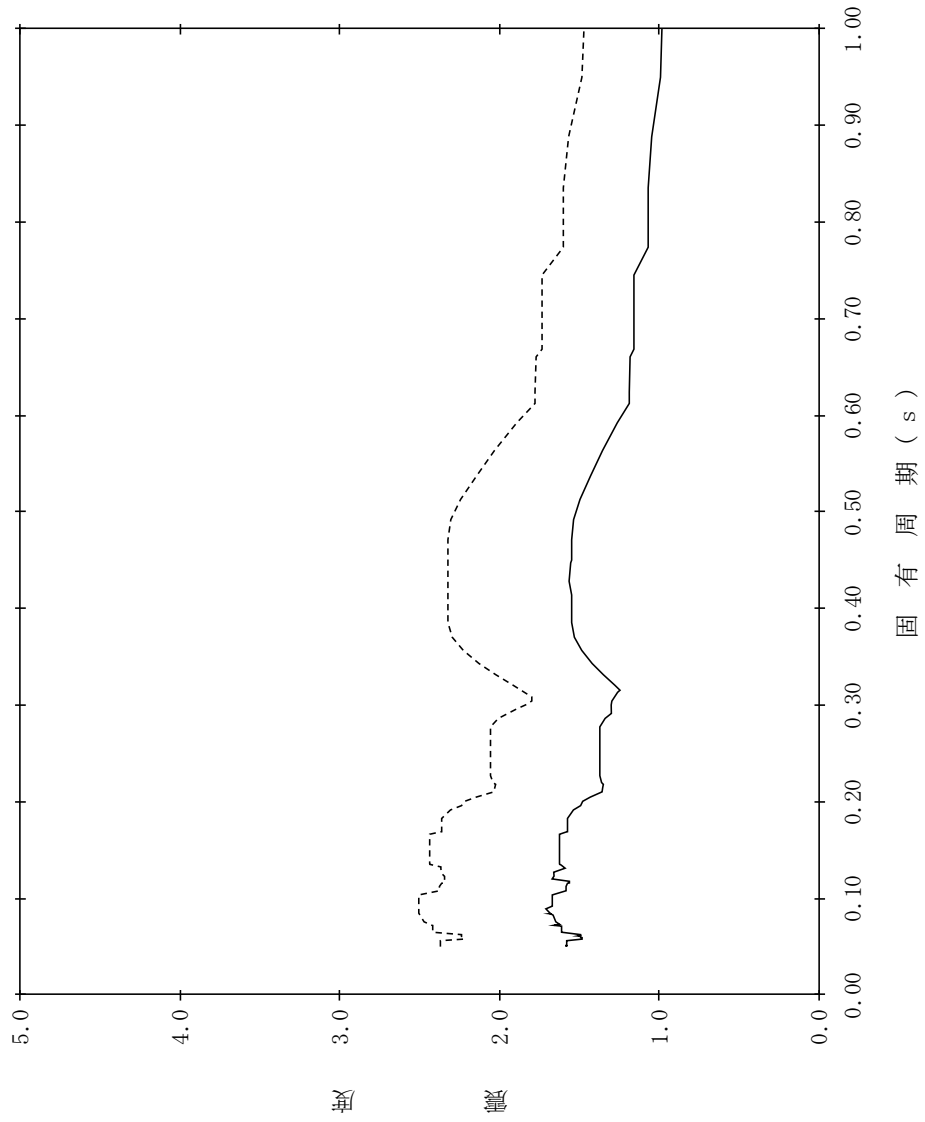
【NS2-CB-SsNS-CB38】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



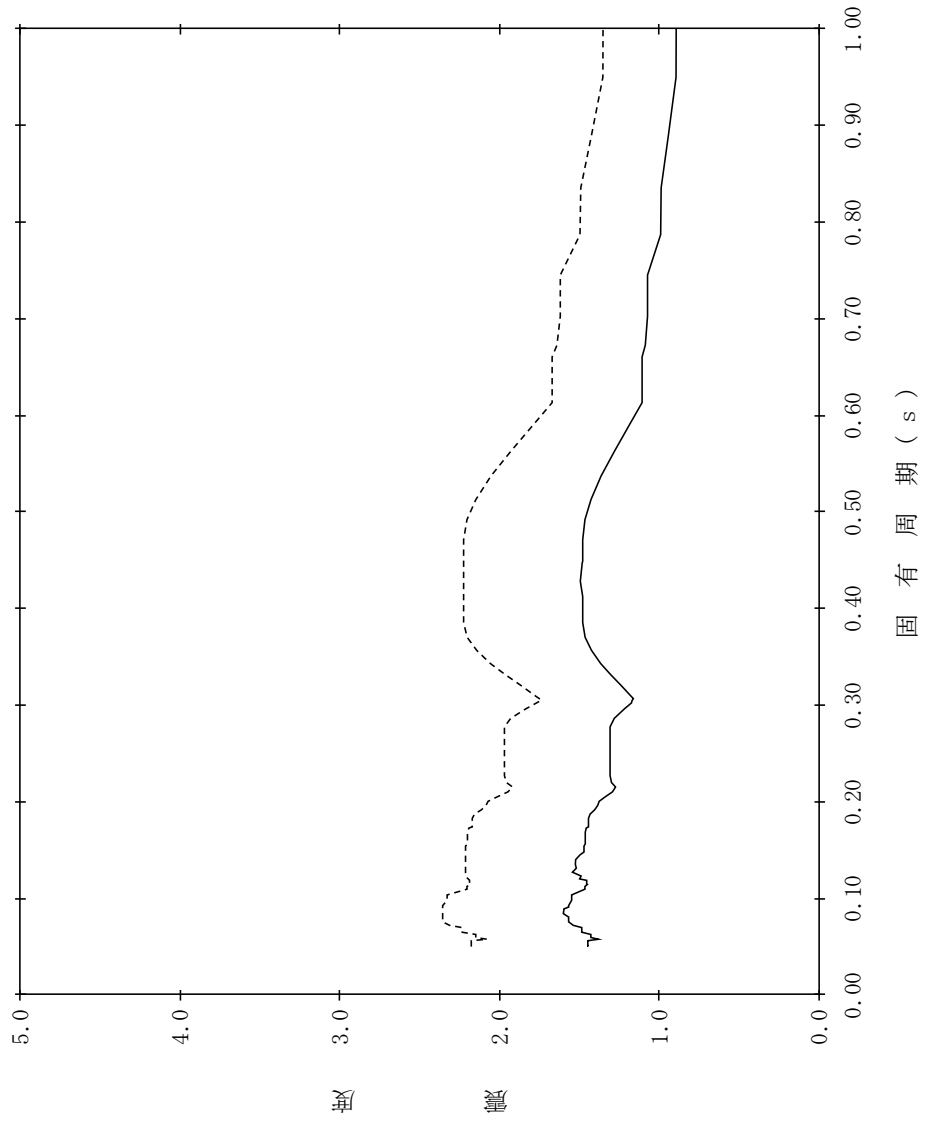
【NS2-CB-SsNS-CB39】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



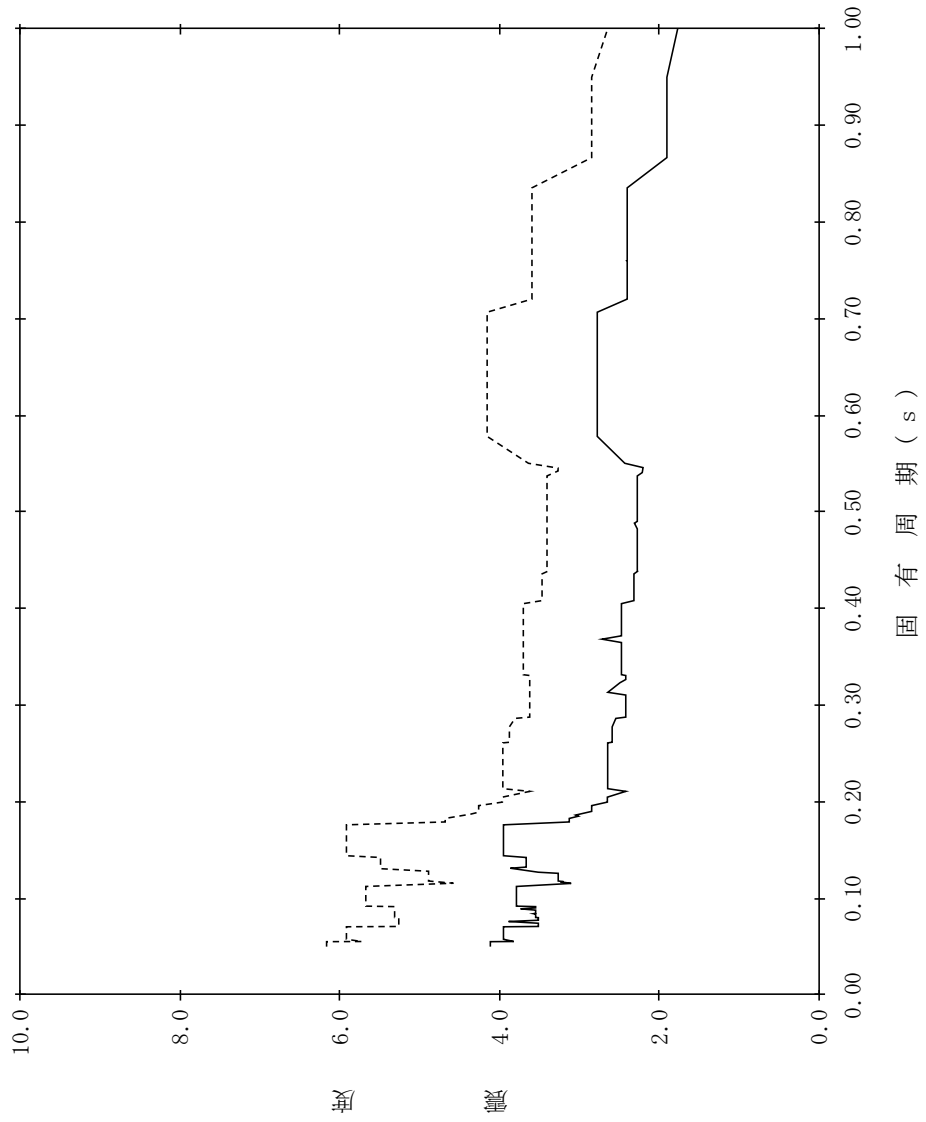
【NS2-CB-SsNS-CB40】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



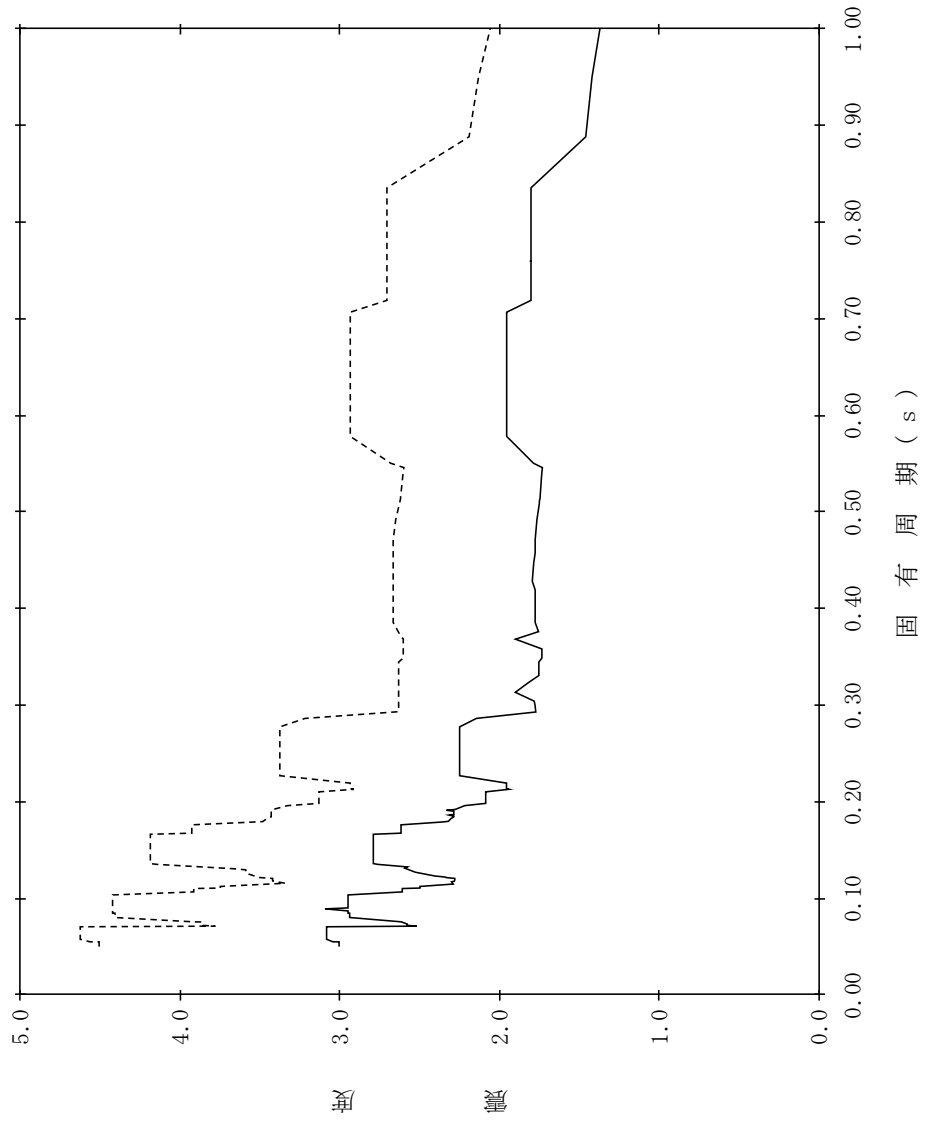
【NS2-CB-SsNS-CB41】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

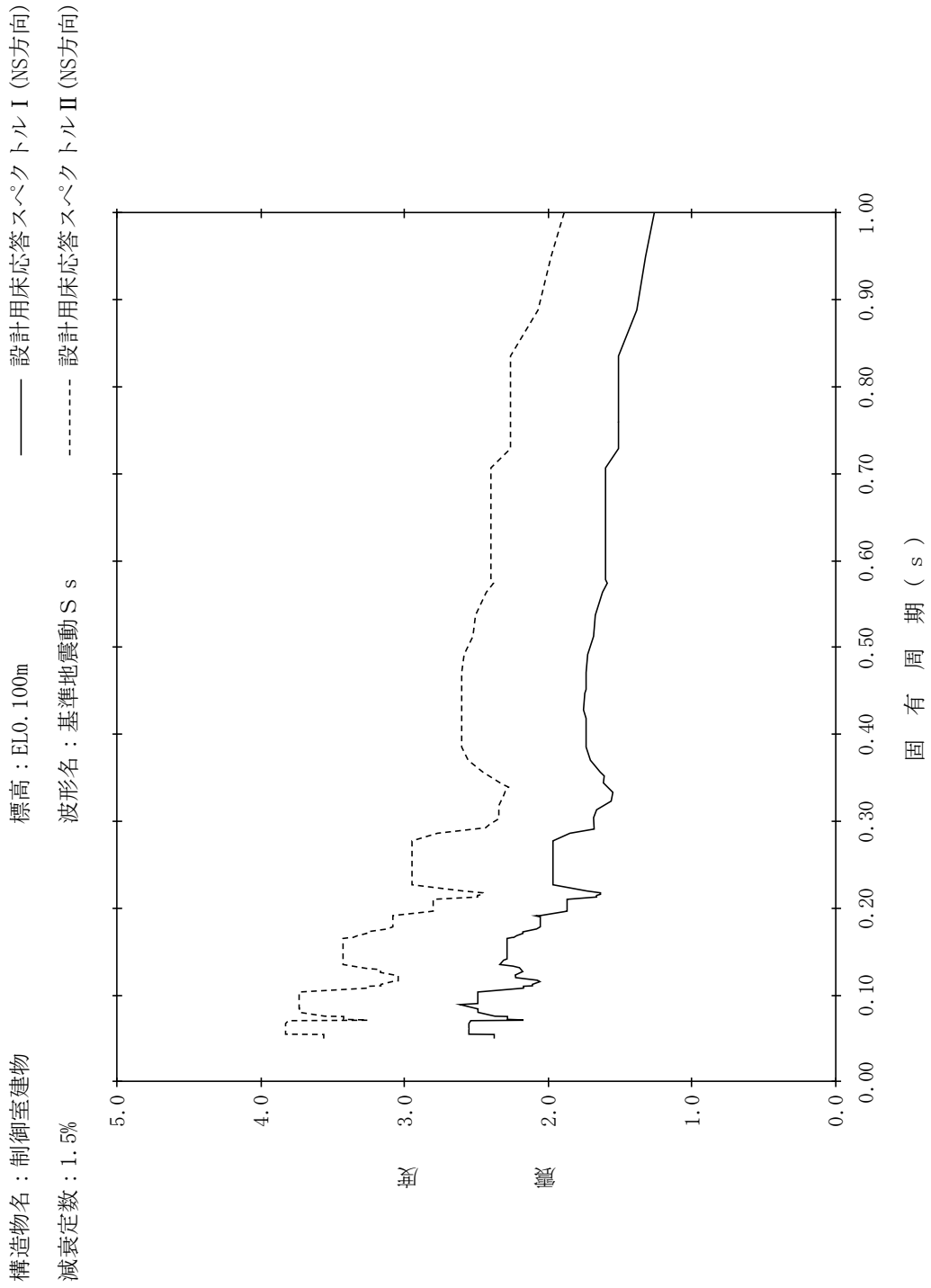


【NS2-CB-SsNS-CB42】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

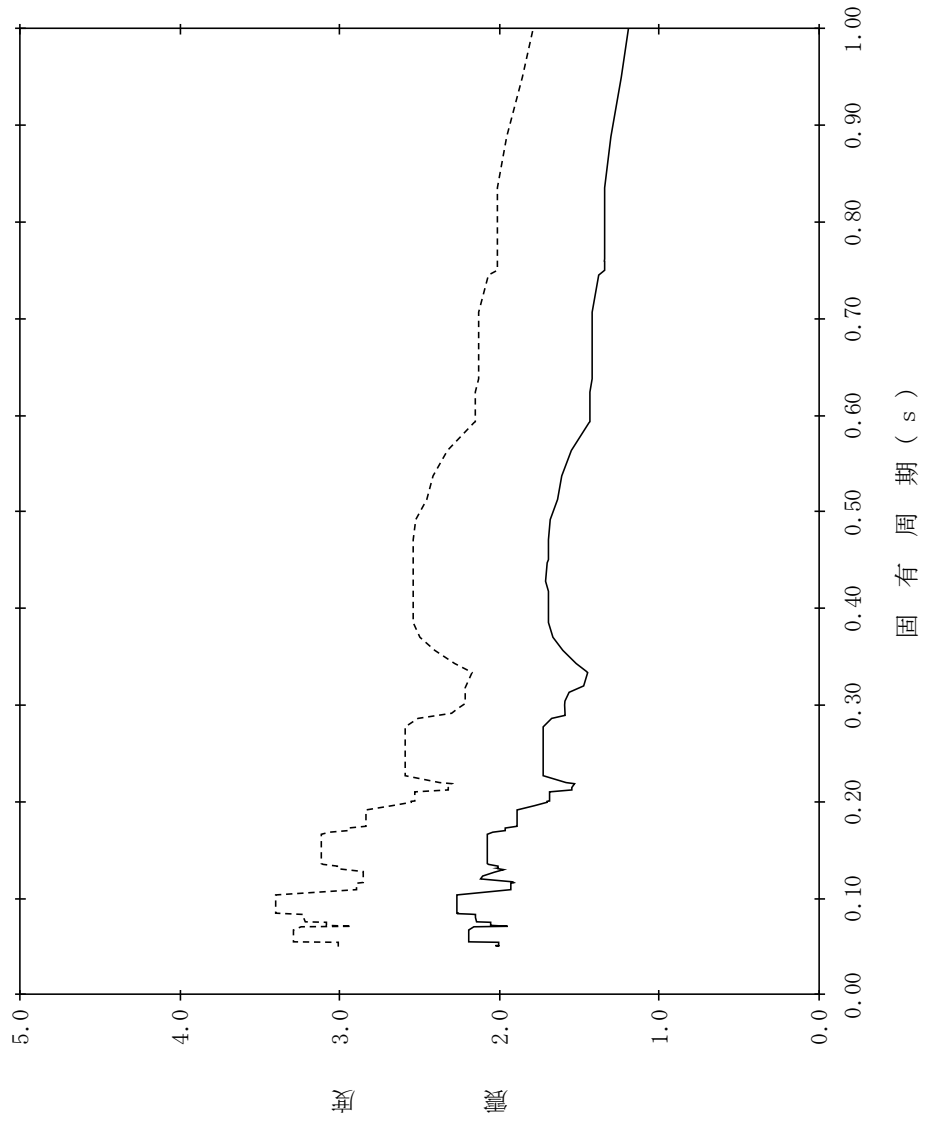


【NS2-CB-SsNS-CB43】



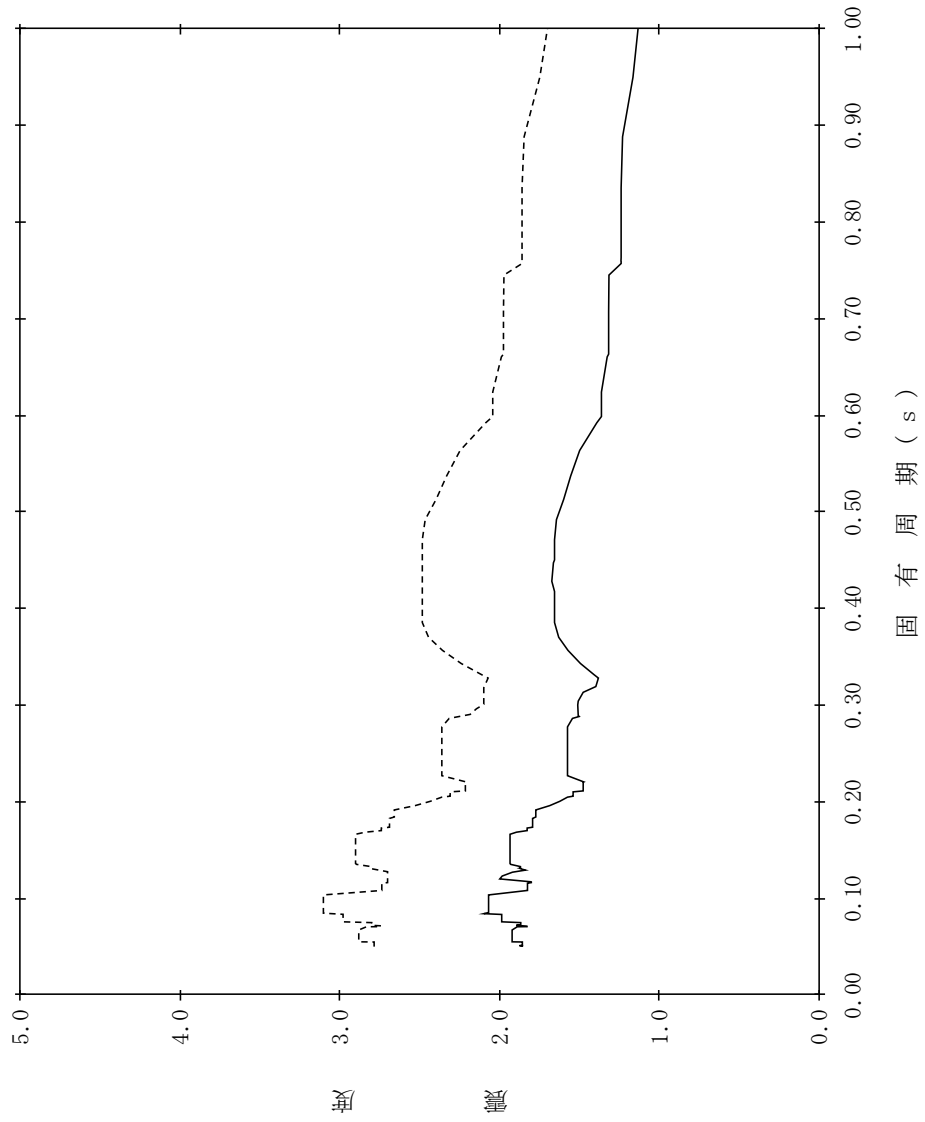
【NS2-CB-SsNS-CB44】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

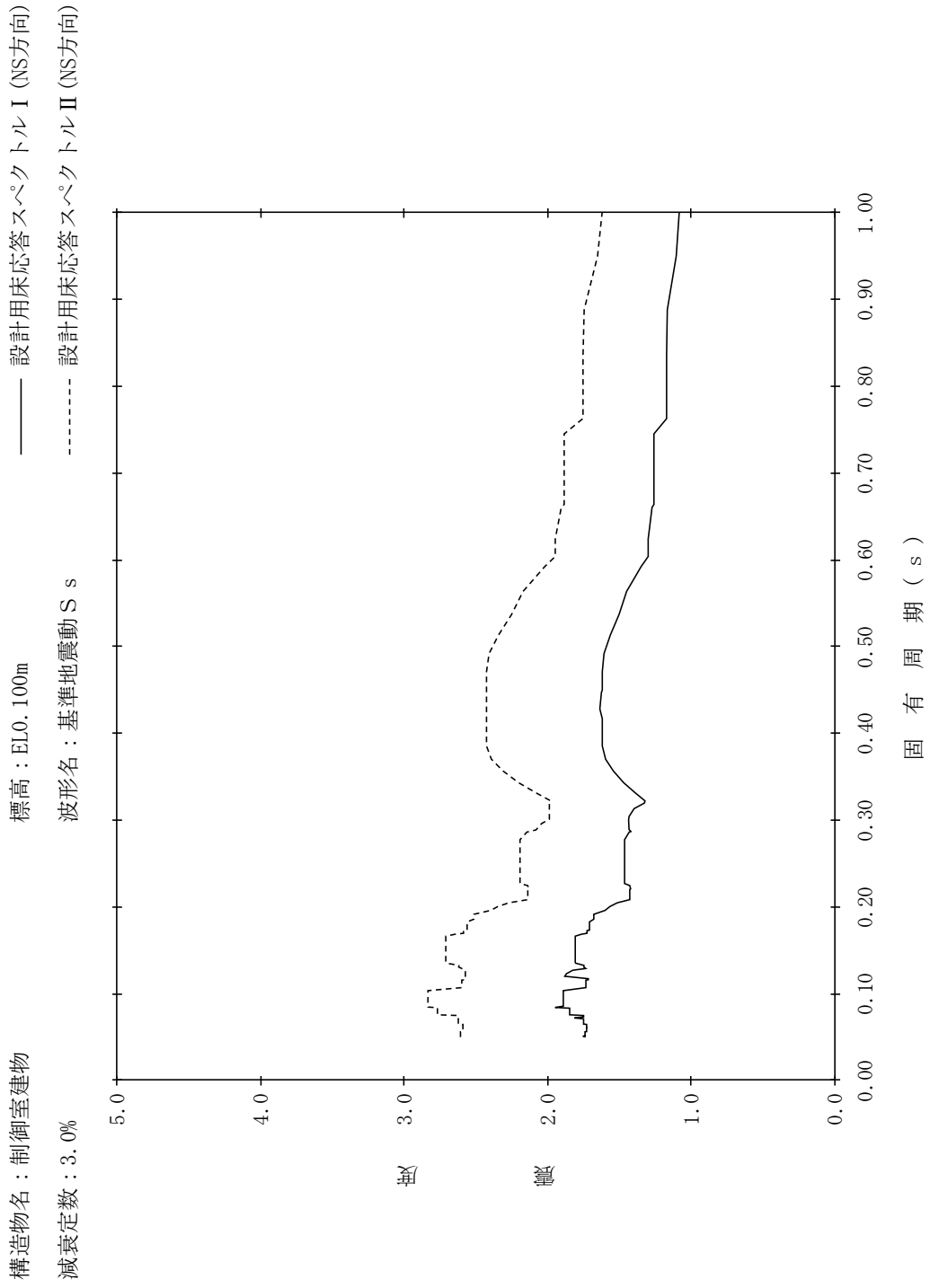


【NS2-CB-SsNS-CB45】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

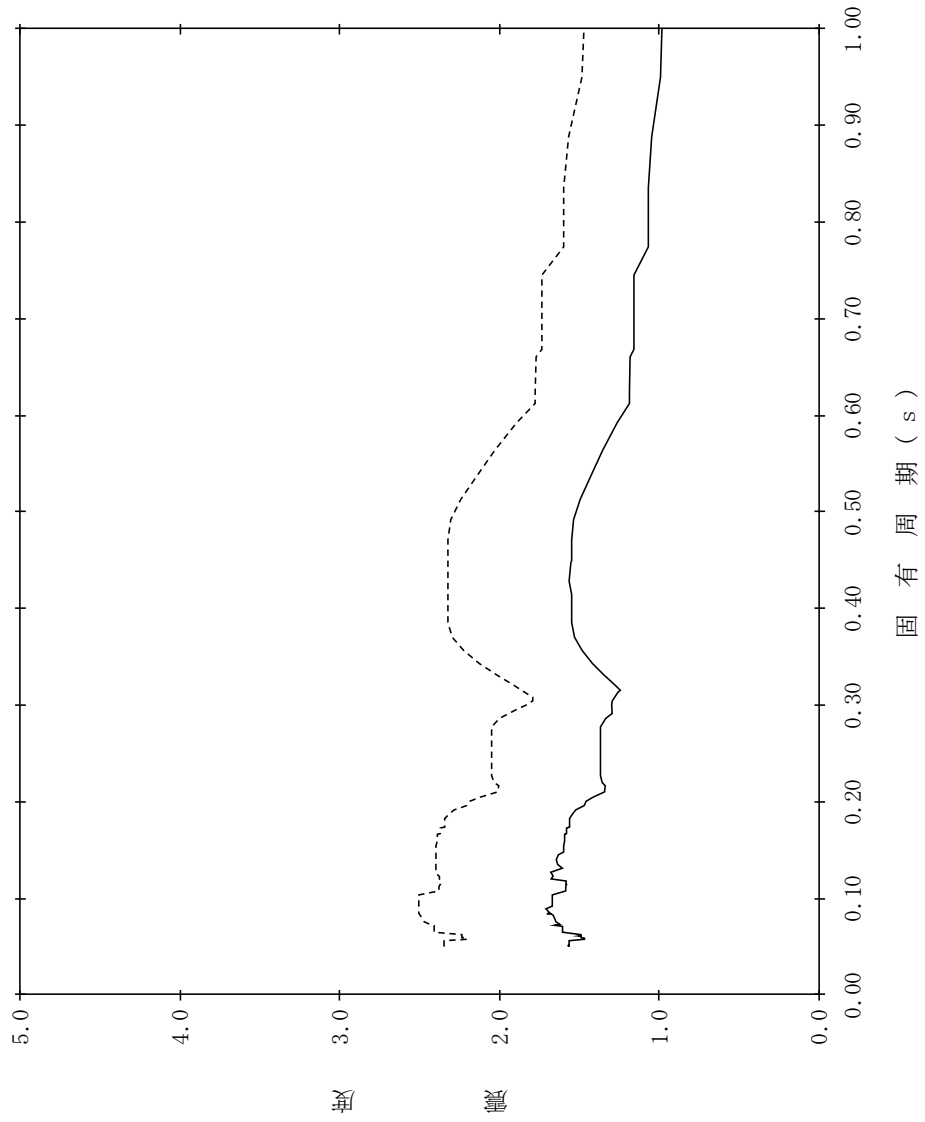


【NS2-CB-SsNS-CB46】



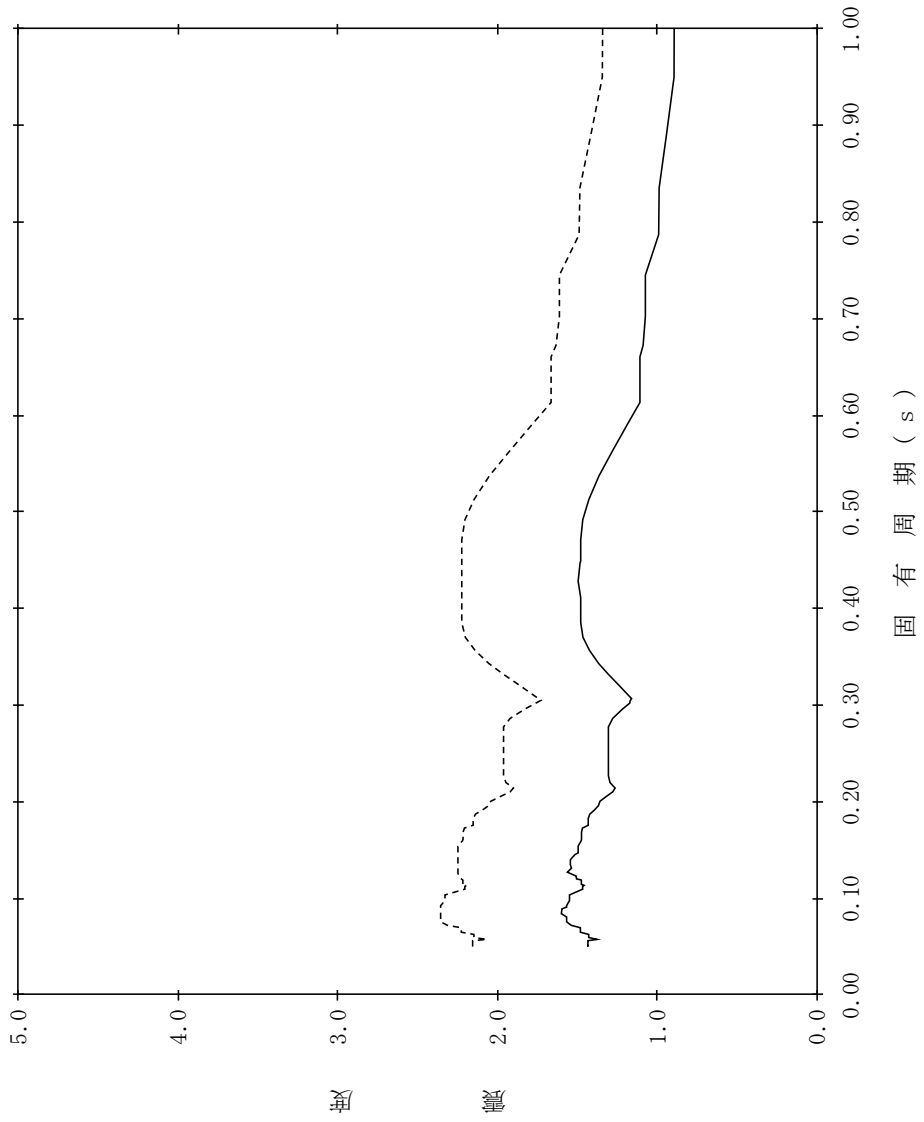
【NS2-CB-SsNS-CB47】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



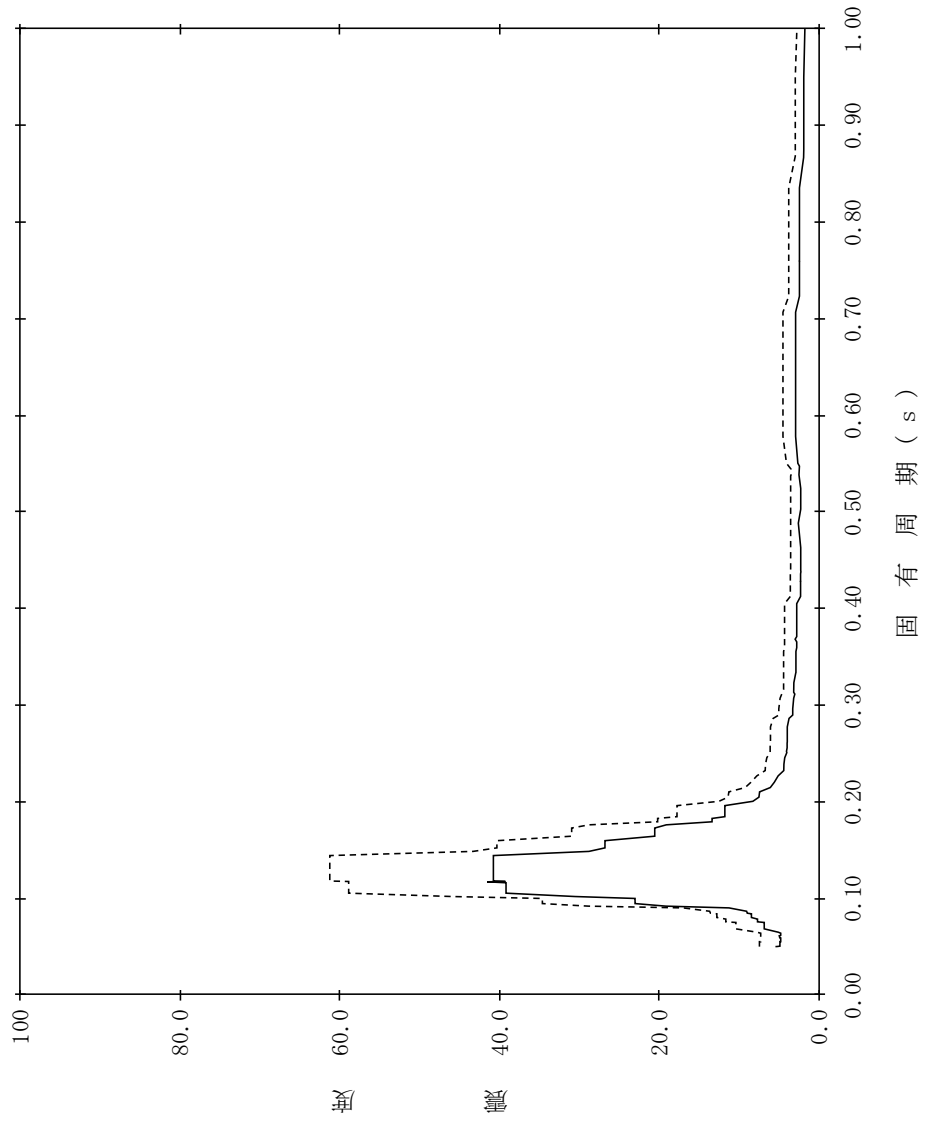
【NS2-CB-SsNS-CB48】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



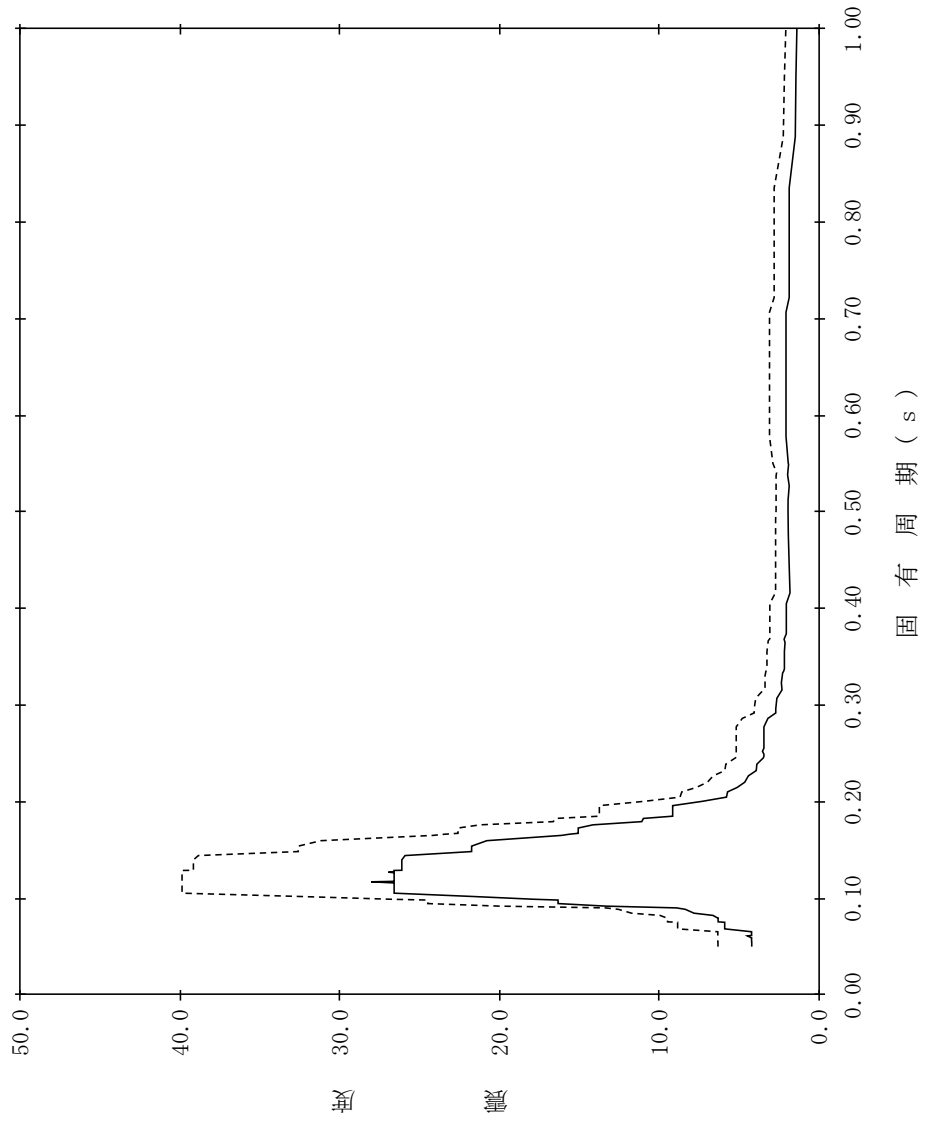
【NS2-CB-SsEW-CB1】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



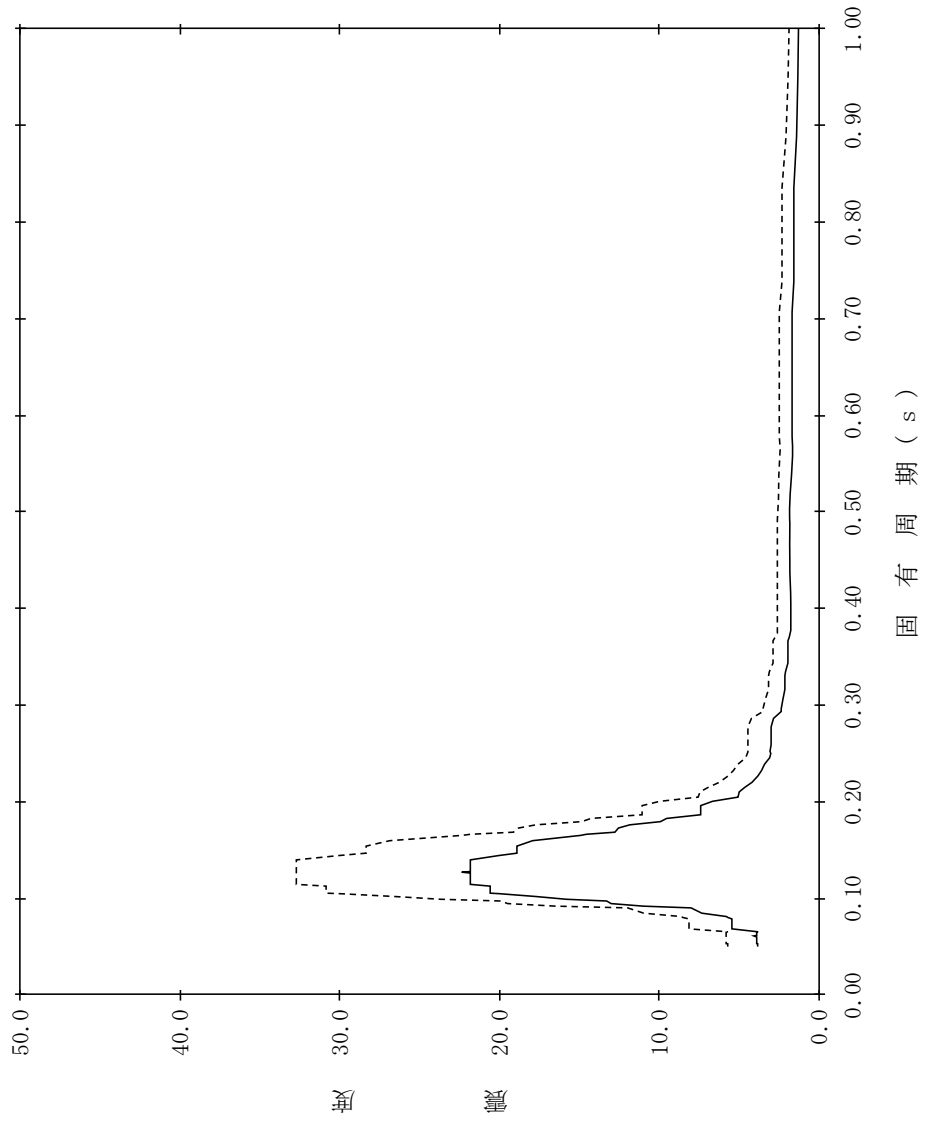
【NS2-CB-SsEW-CB2】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



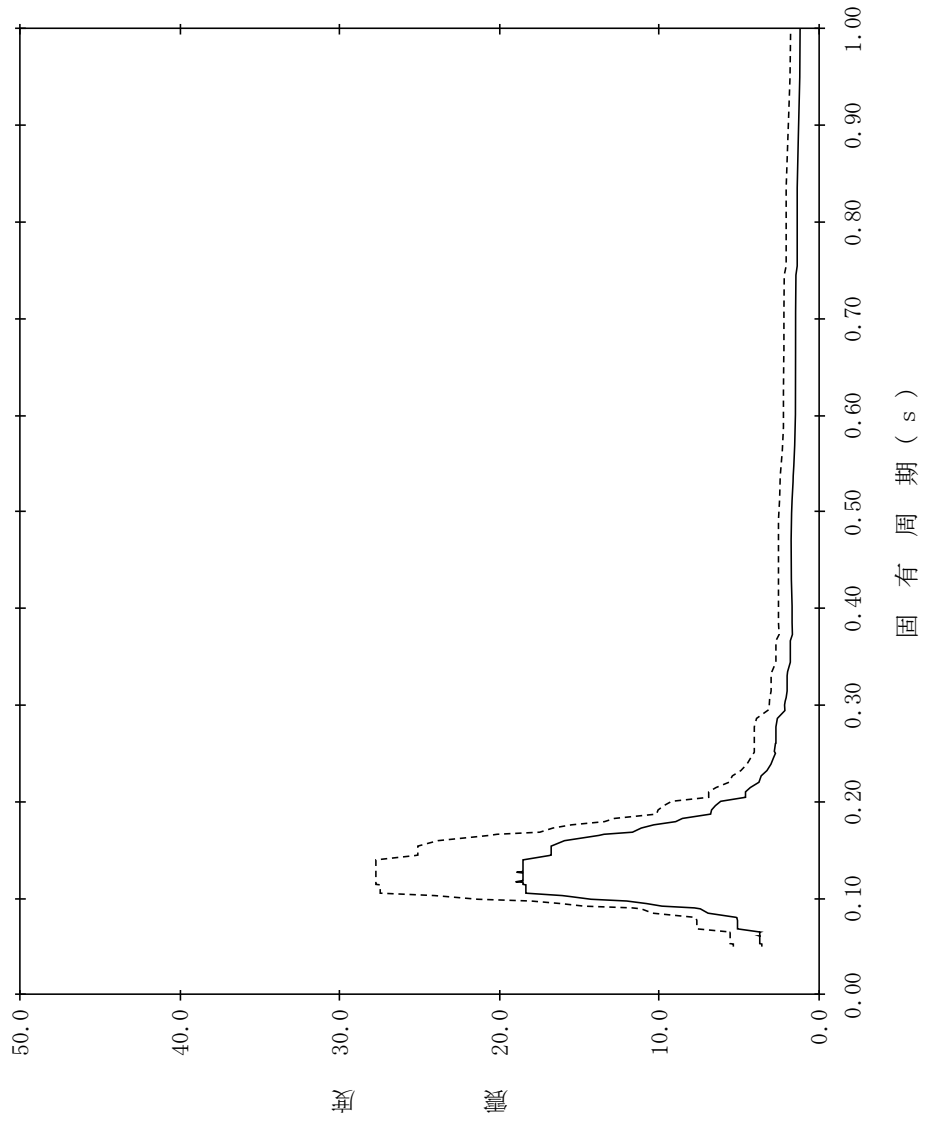
【NS2-CB-SsEW-CB3】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

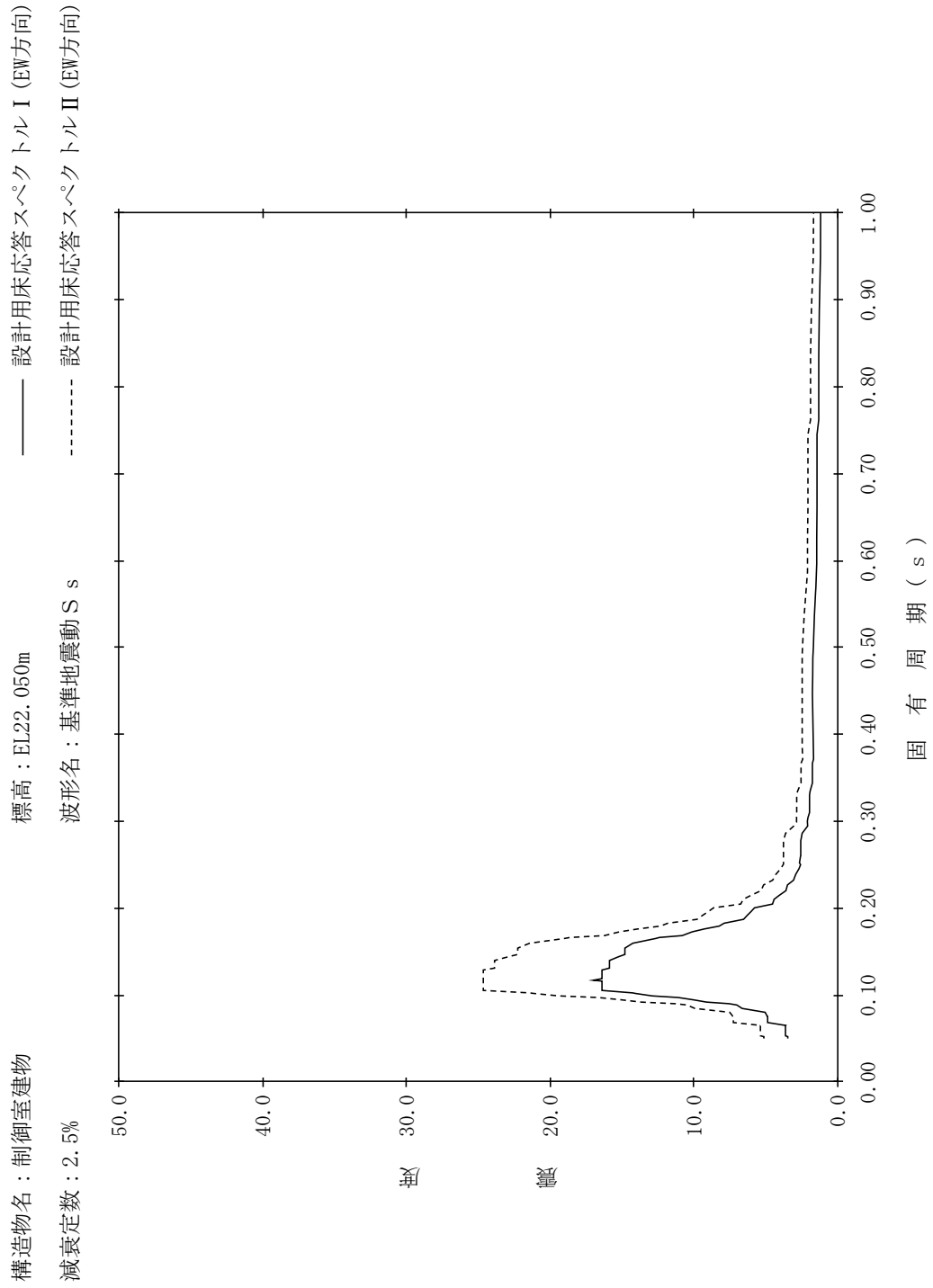


【NS2-CB-SsEW-CB4】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

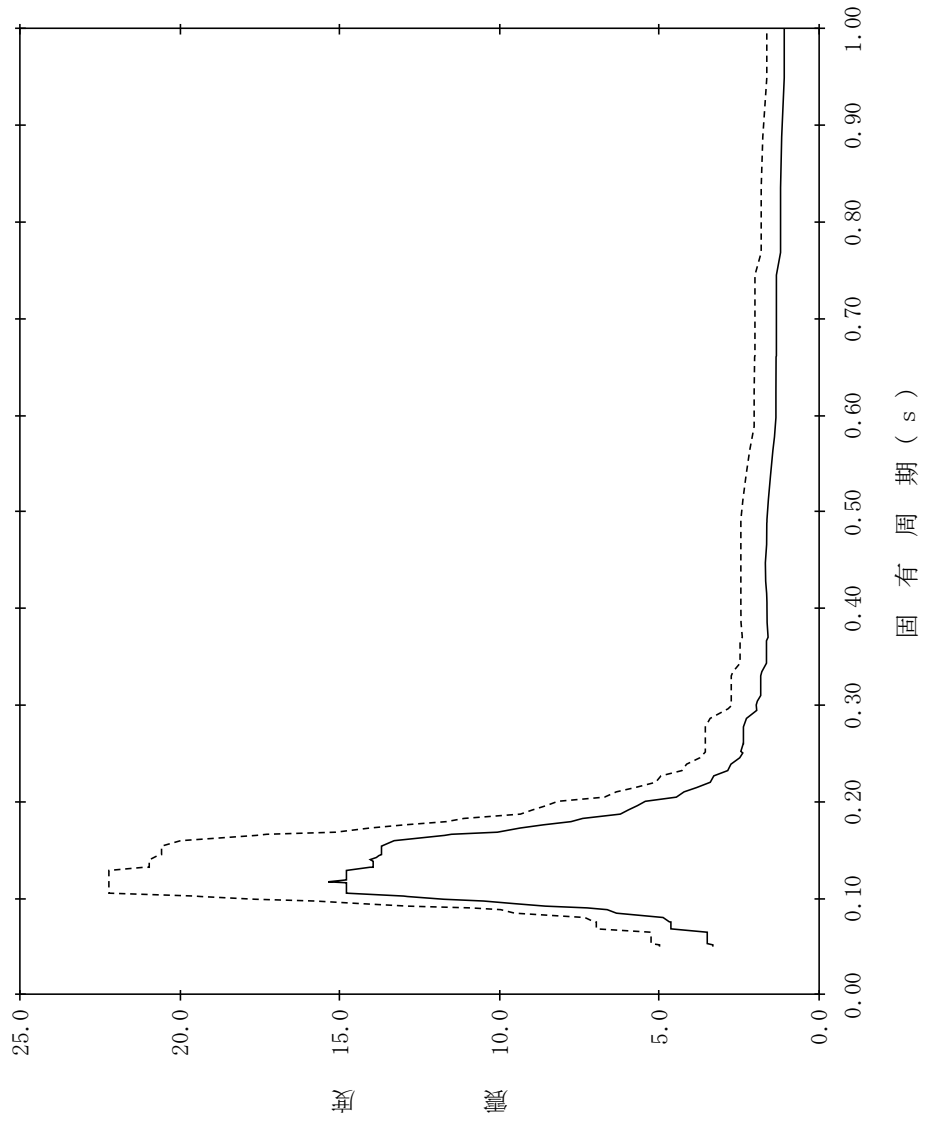


【NS2-CB-SsEW-CB5】



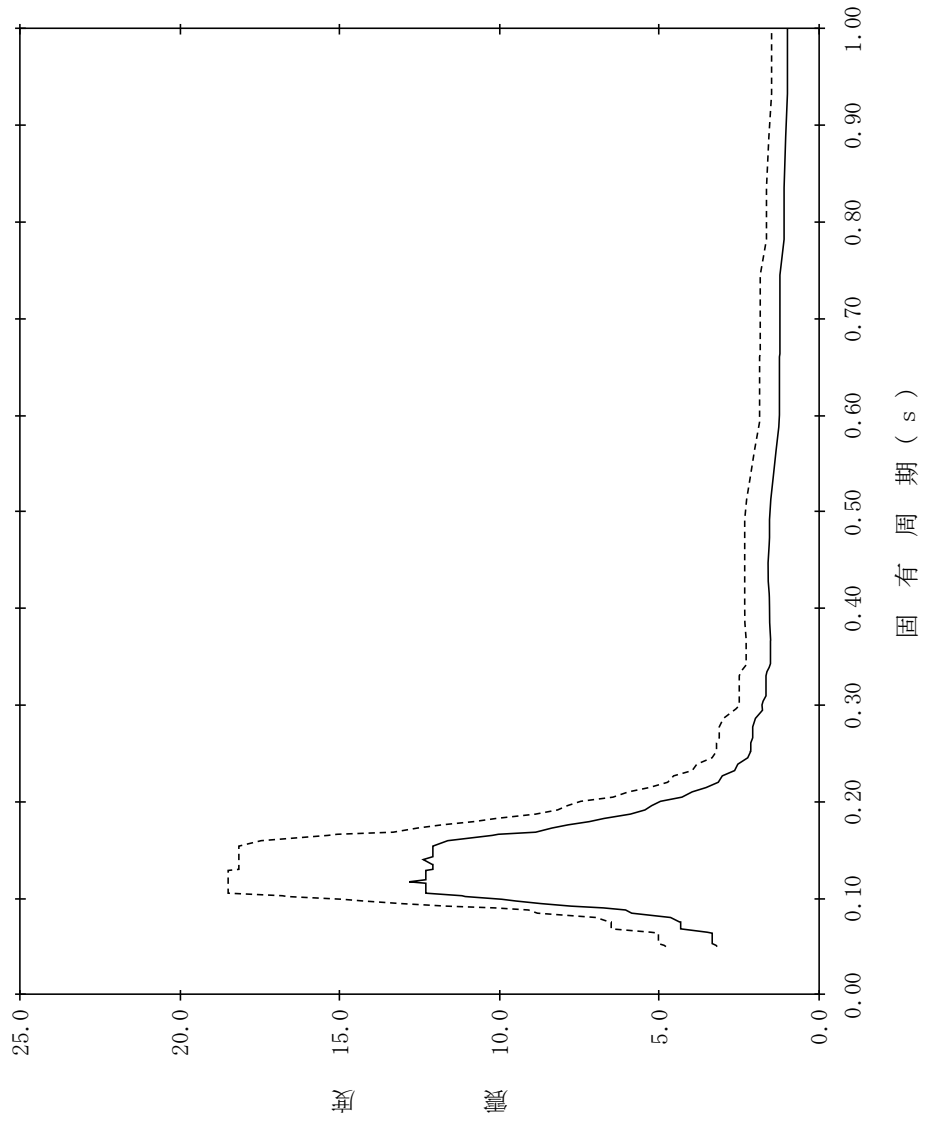
【NS2-CB-SsEW-CB6】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



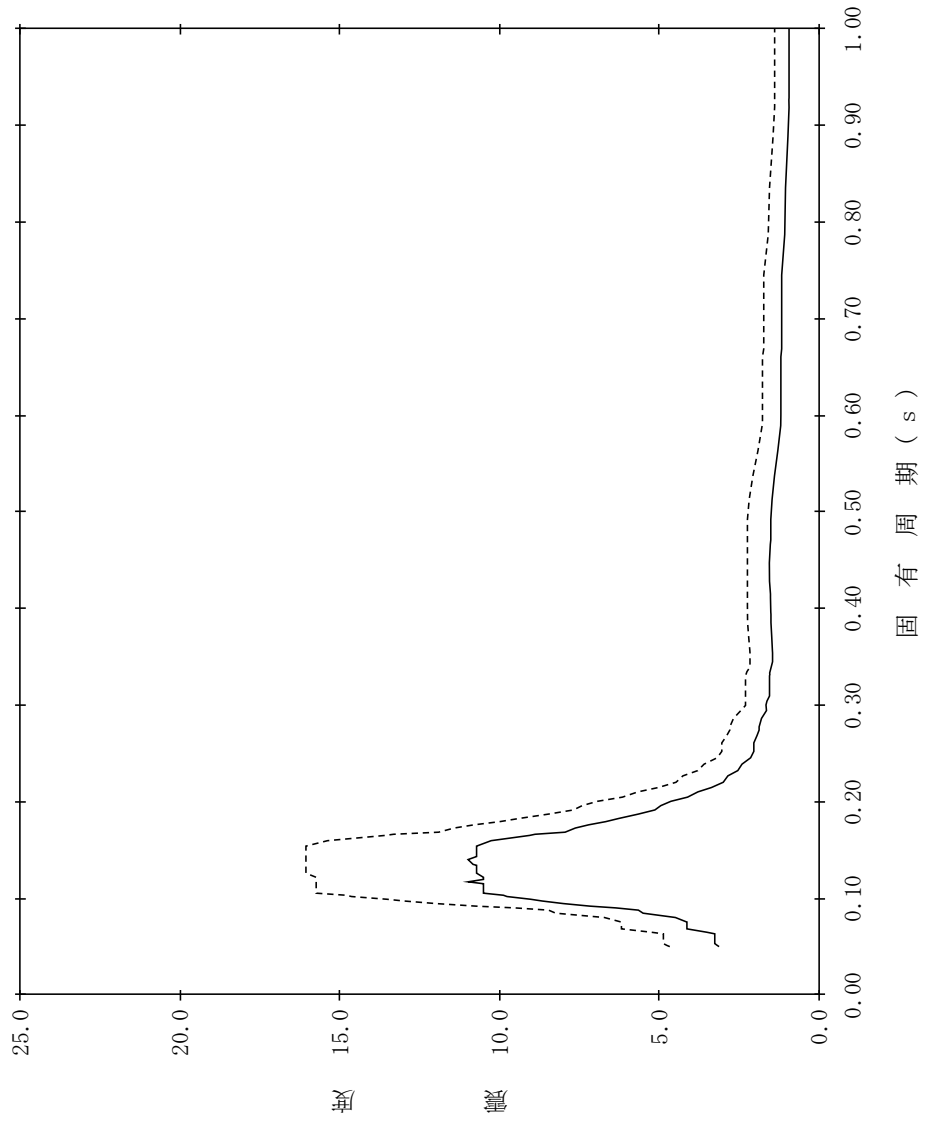
【NS2-CB-SsEW-CB7】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-CB-SsEW-CB8】

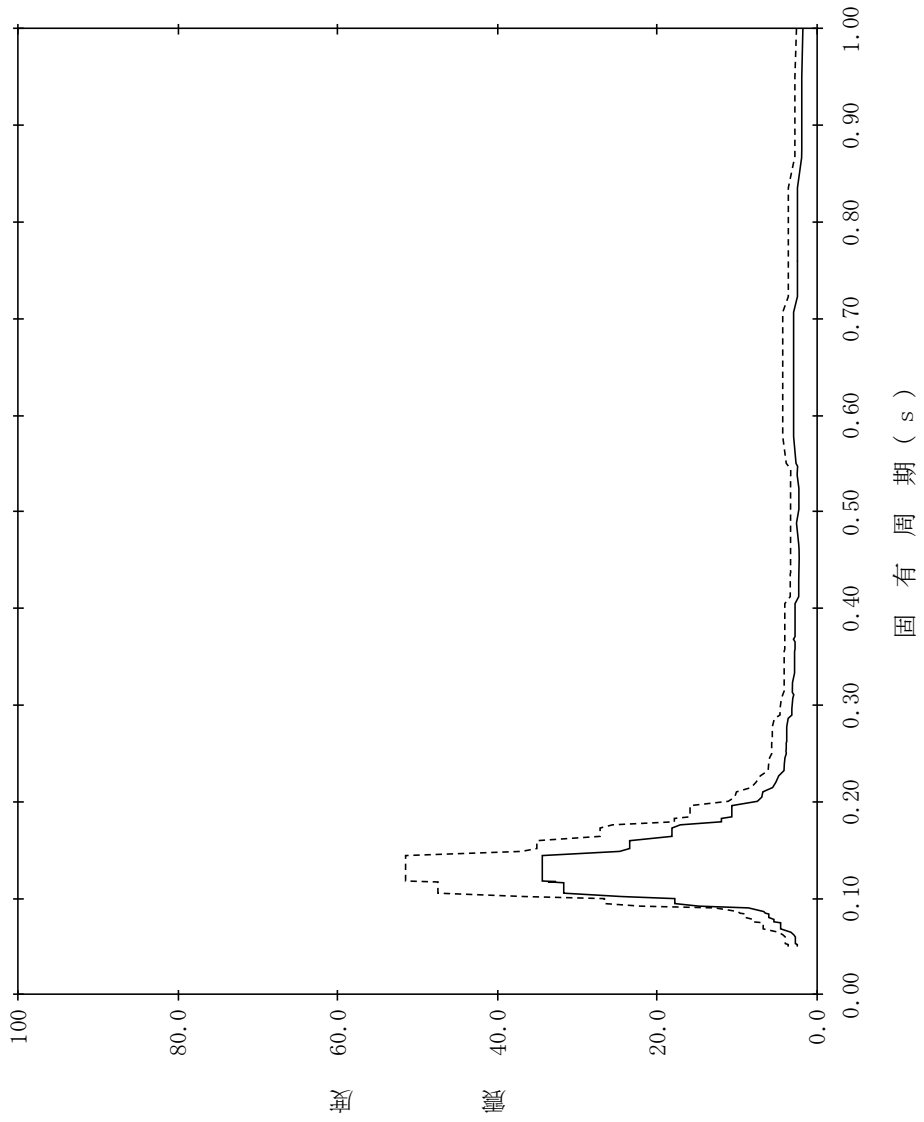
構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-CB-SsEW-CB9】

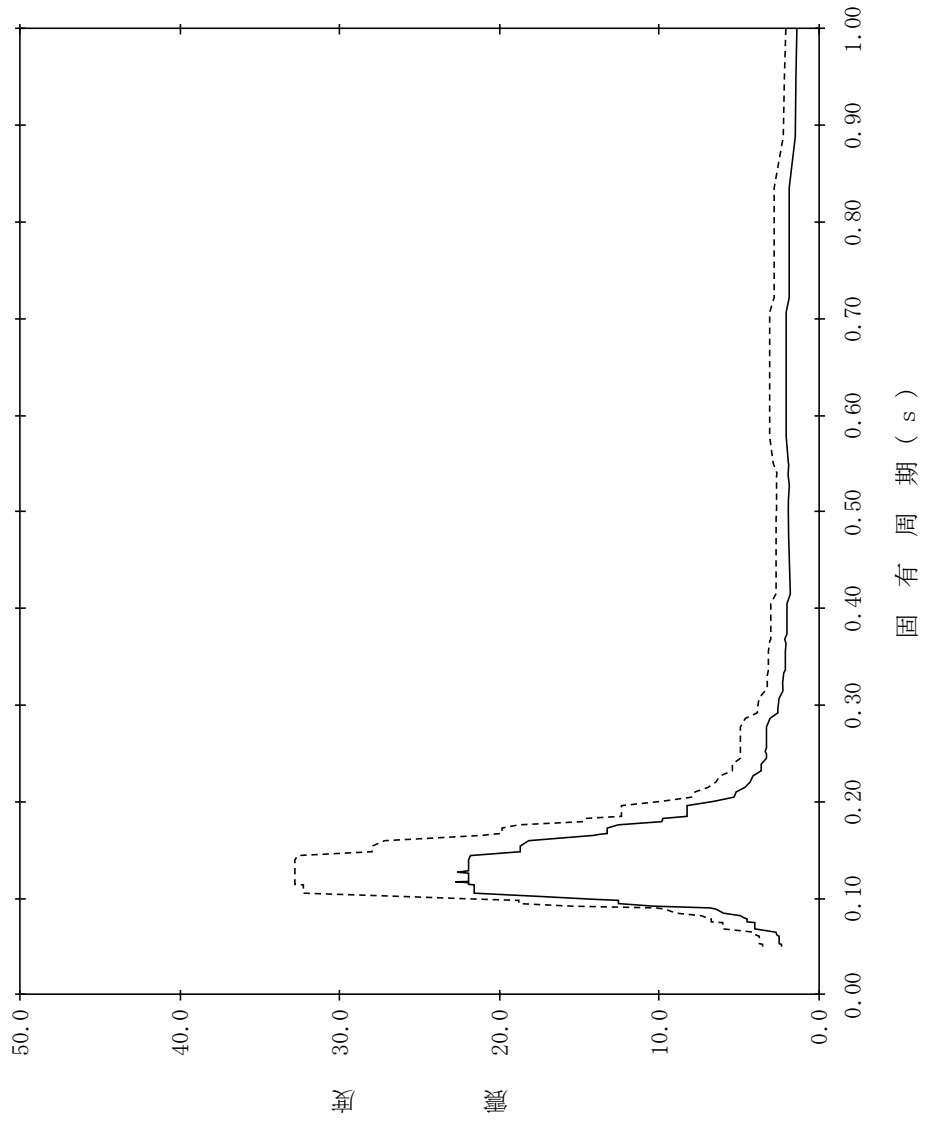
構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：0.5%
波形名：基準地震動 S s

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



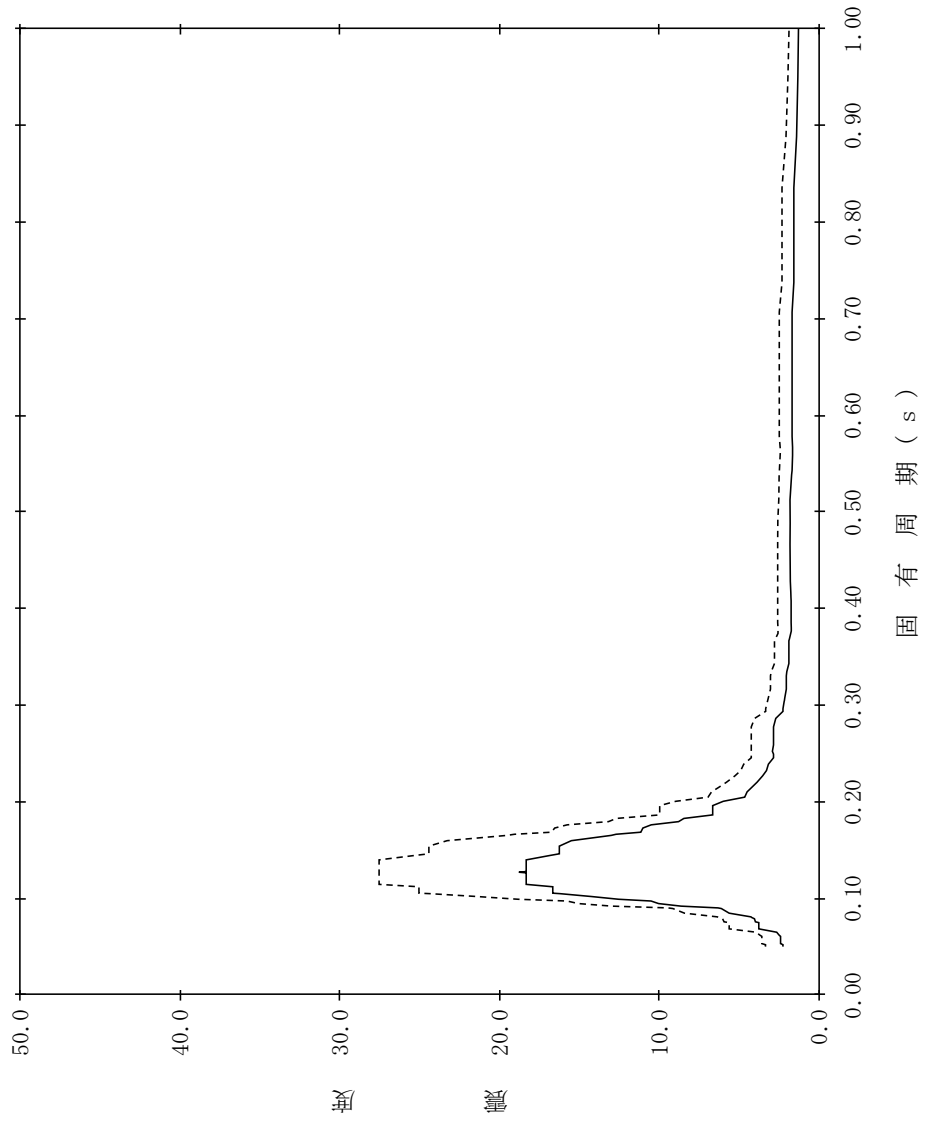
【NS2-CB-SsEW-CB10】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



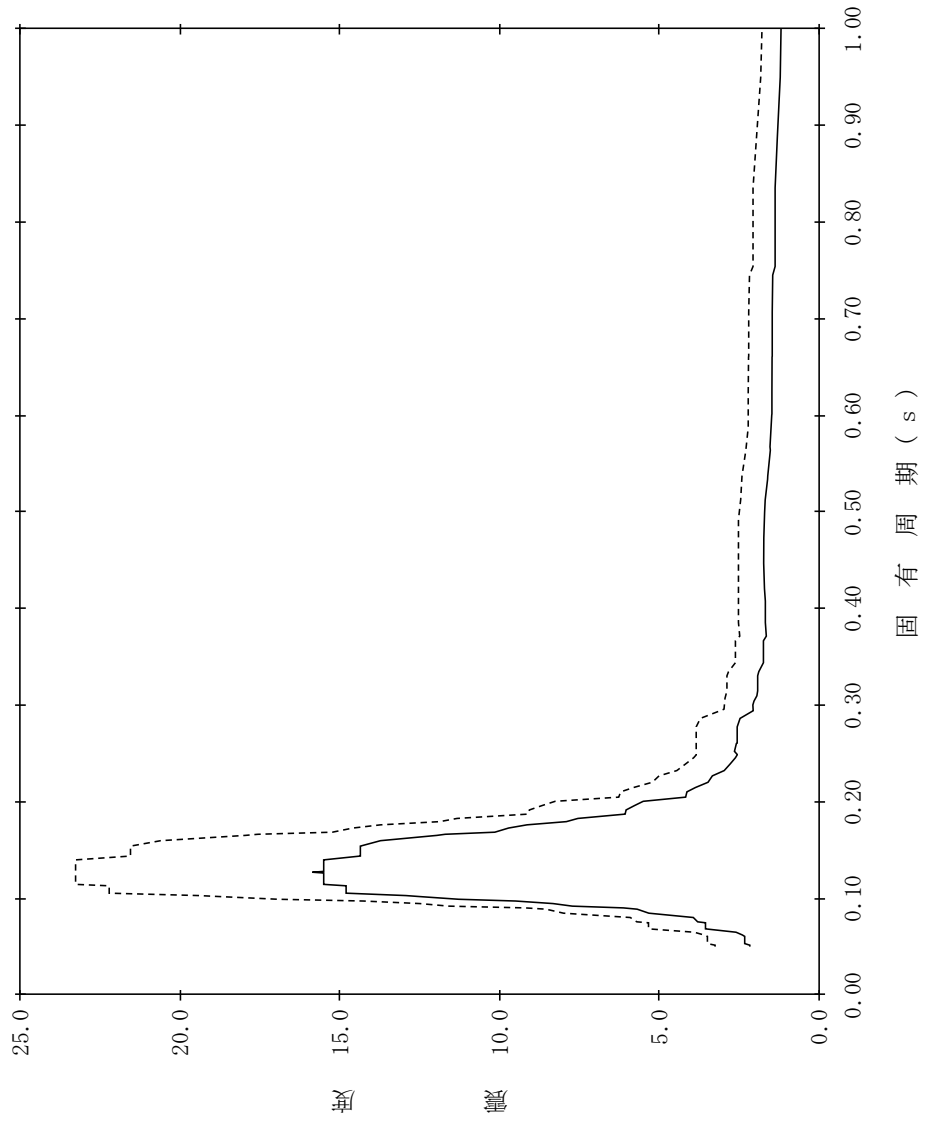
【NS2-CB-SsEW-CB11】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



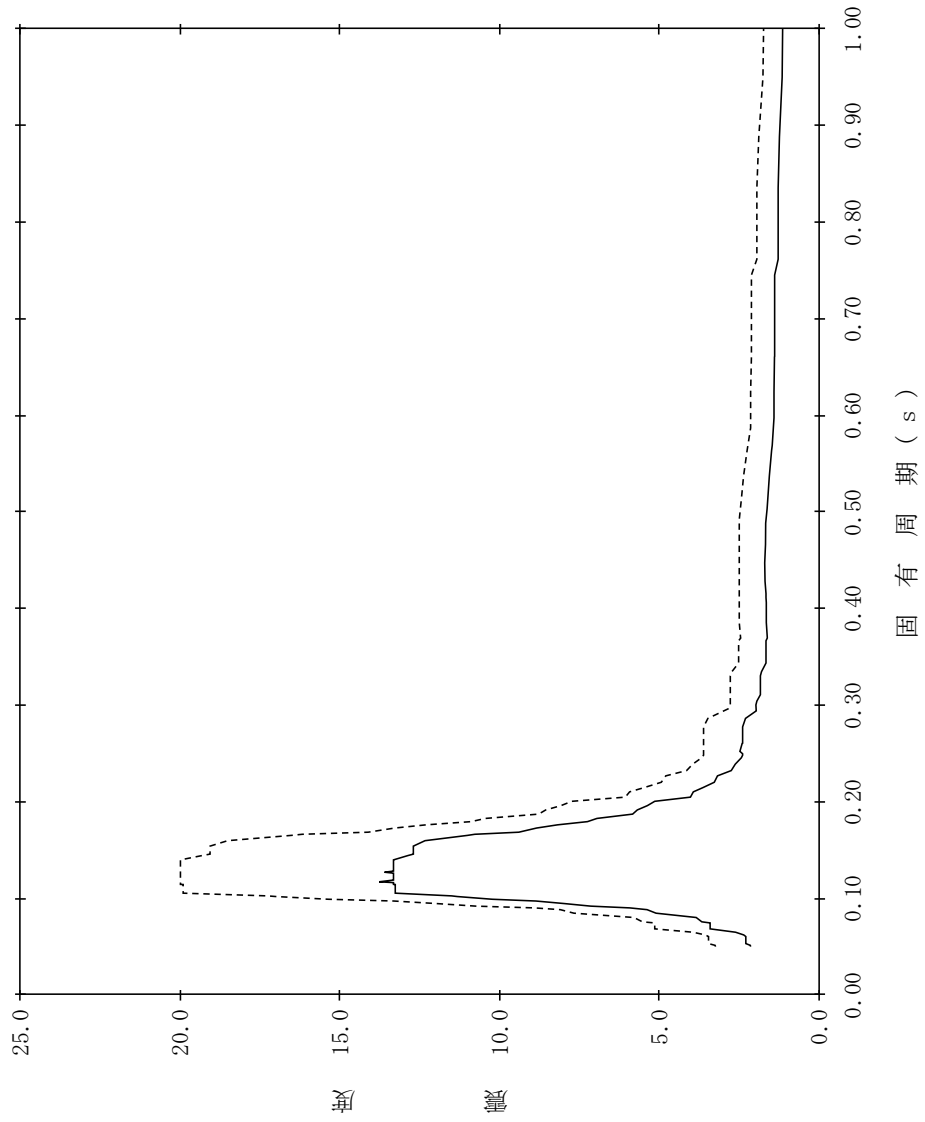
【NS2-CB-SsEW-CB12】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



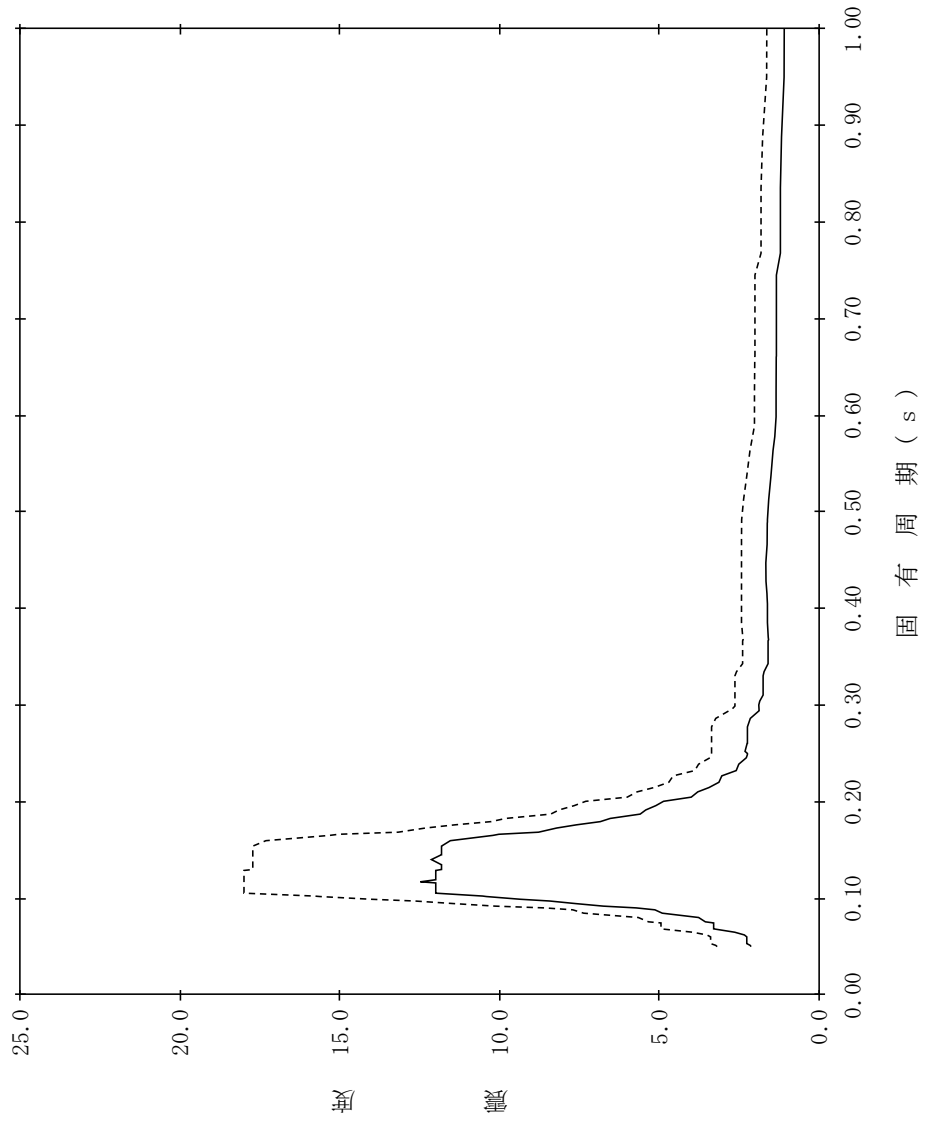
【NS2-CB-SsEW-CB13】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-CB-SsEW-CB14】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

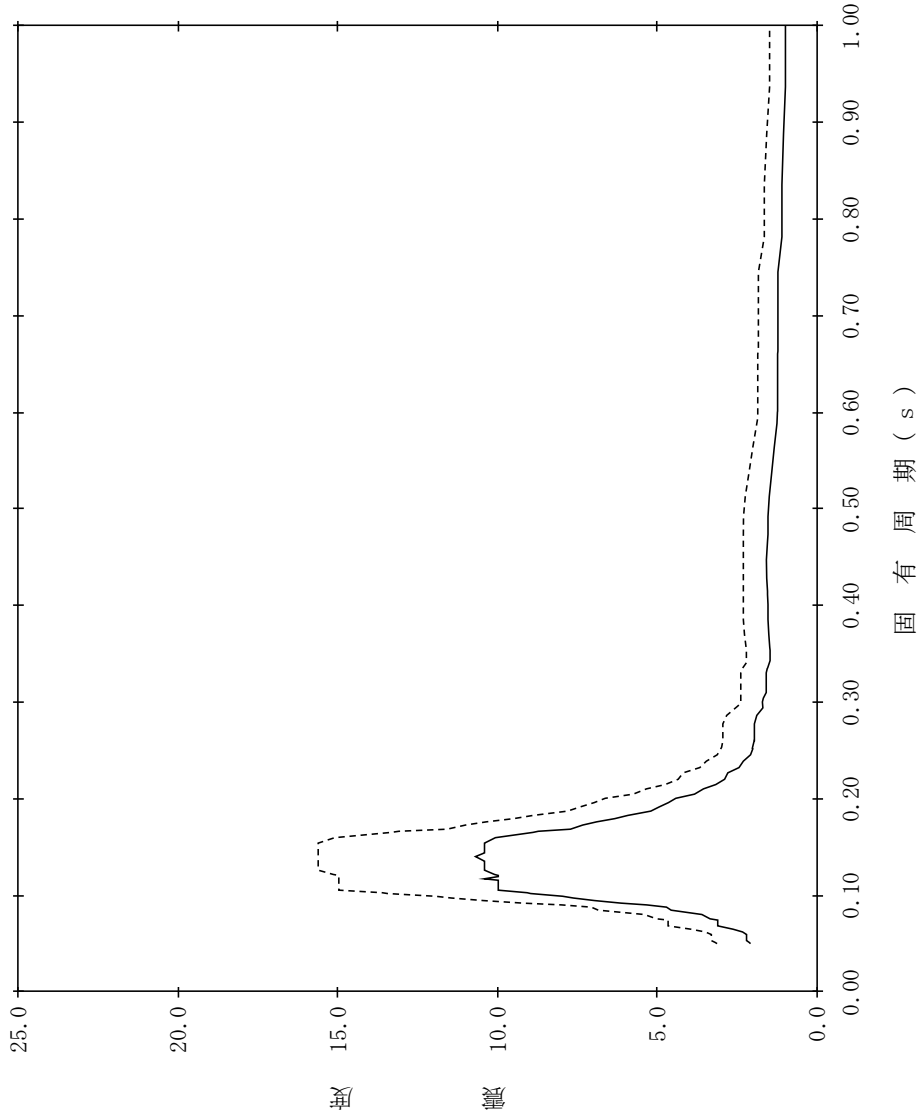


【NS2-CB-SsEW-CB15】

構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s

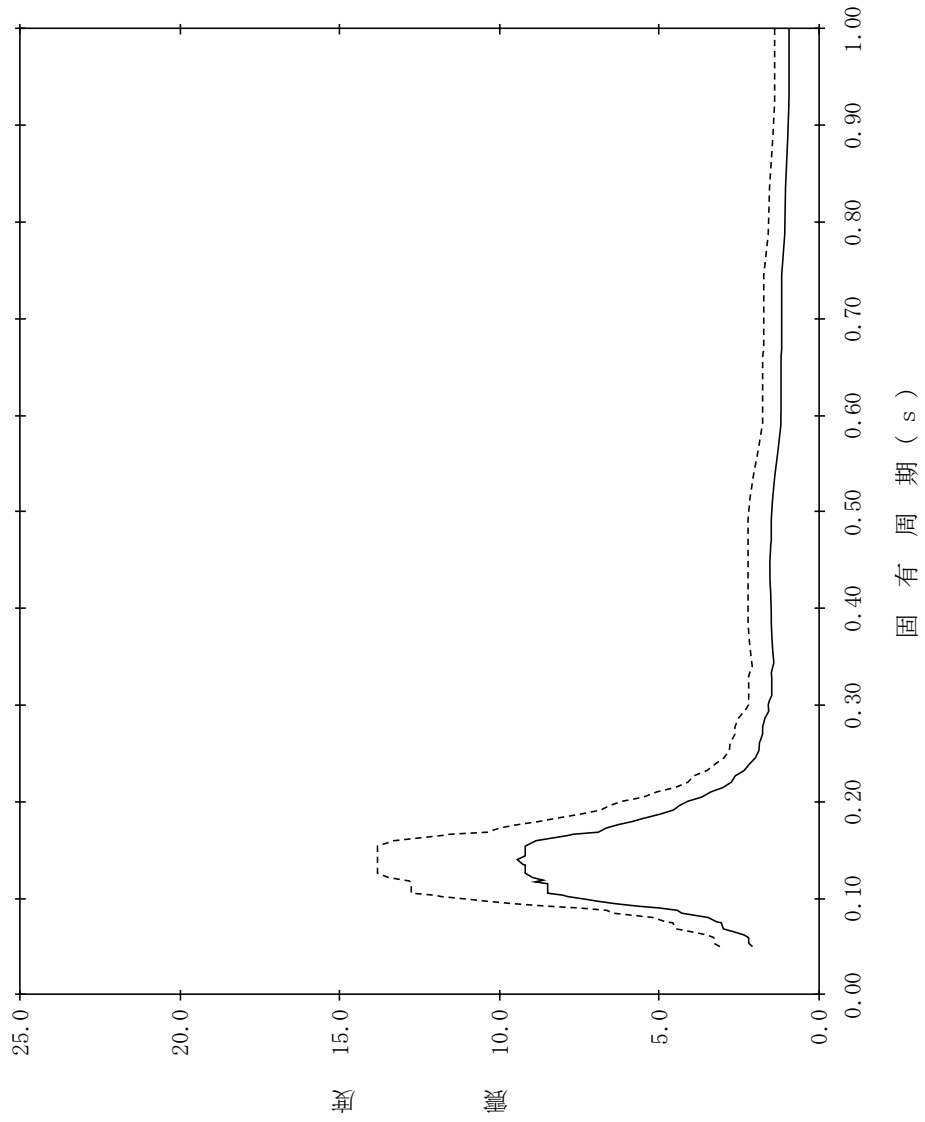
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



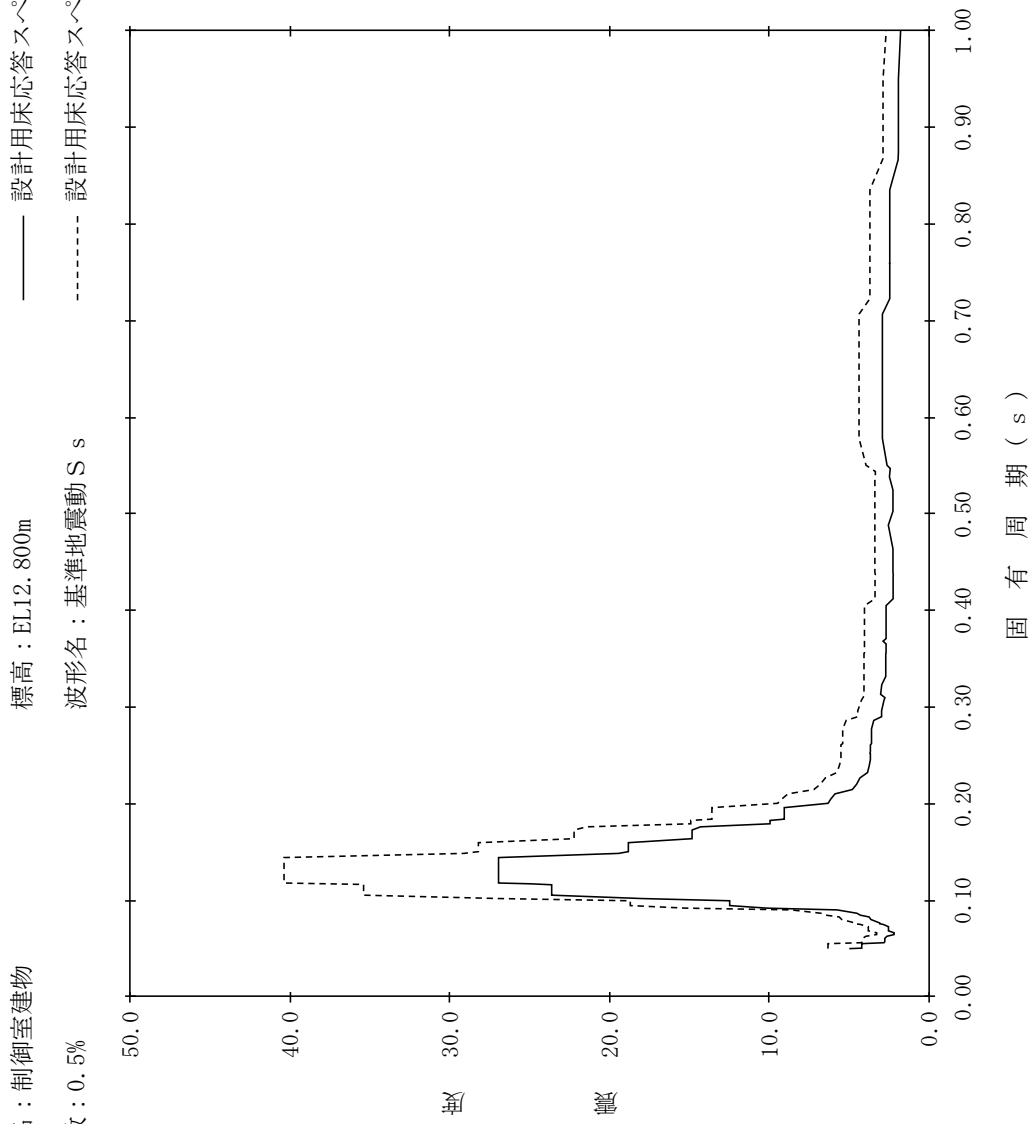
【NS2-CB-SsEW-CB16】

構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



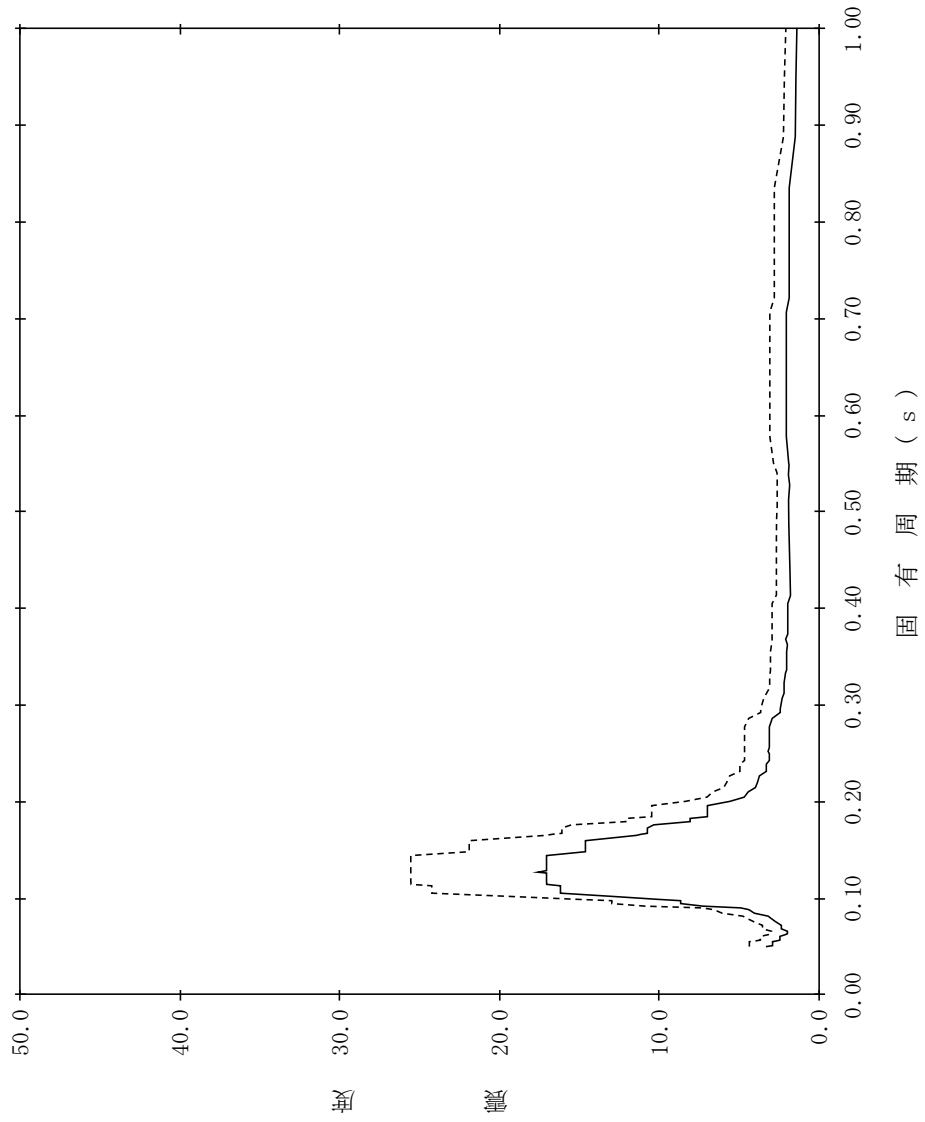
【NS2-CB-SsEW-CB17】

構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：0.5%
波形名：基準地震動 S s



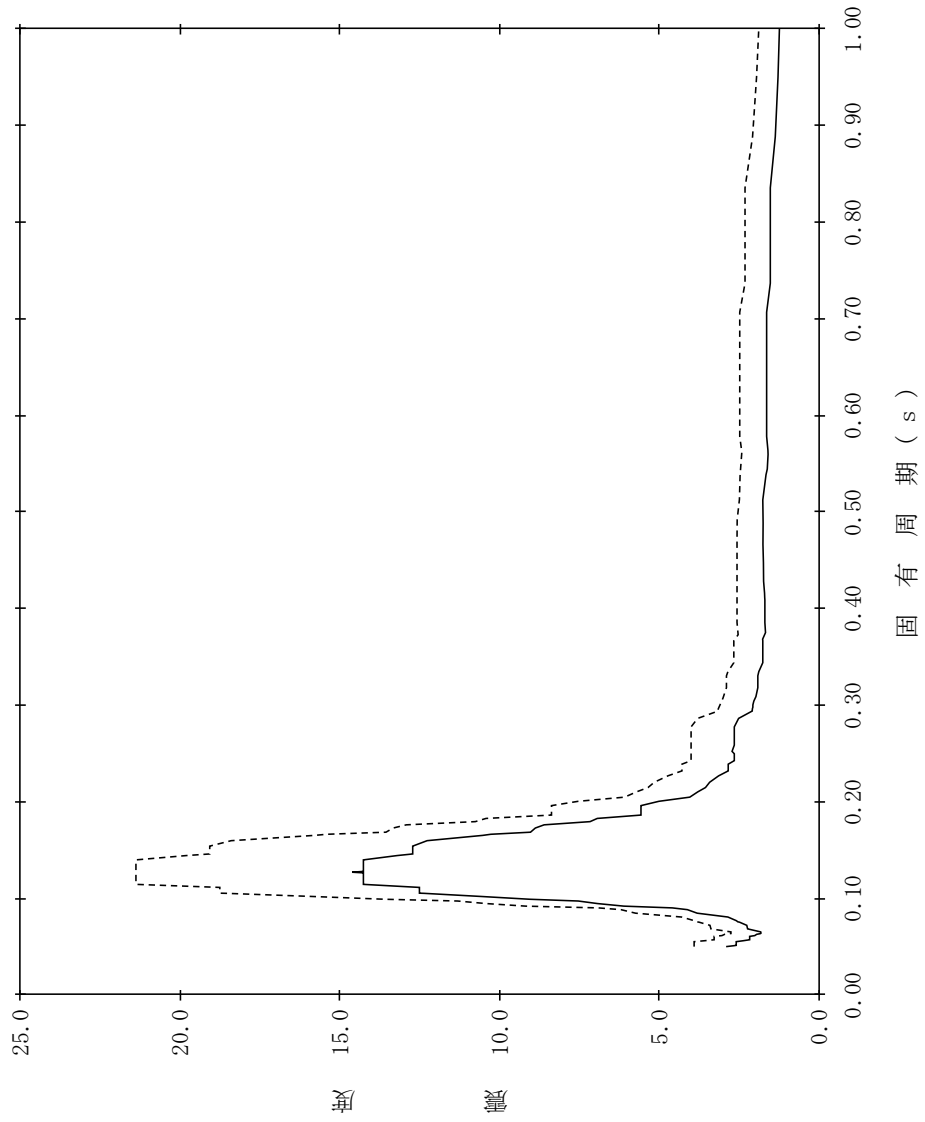
【NS2-CB-SsEW-CB18】

構造物名：制御室建物
減衰定数：1.0%
標高：EL12.800m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



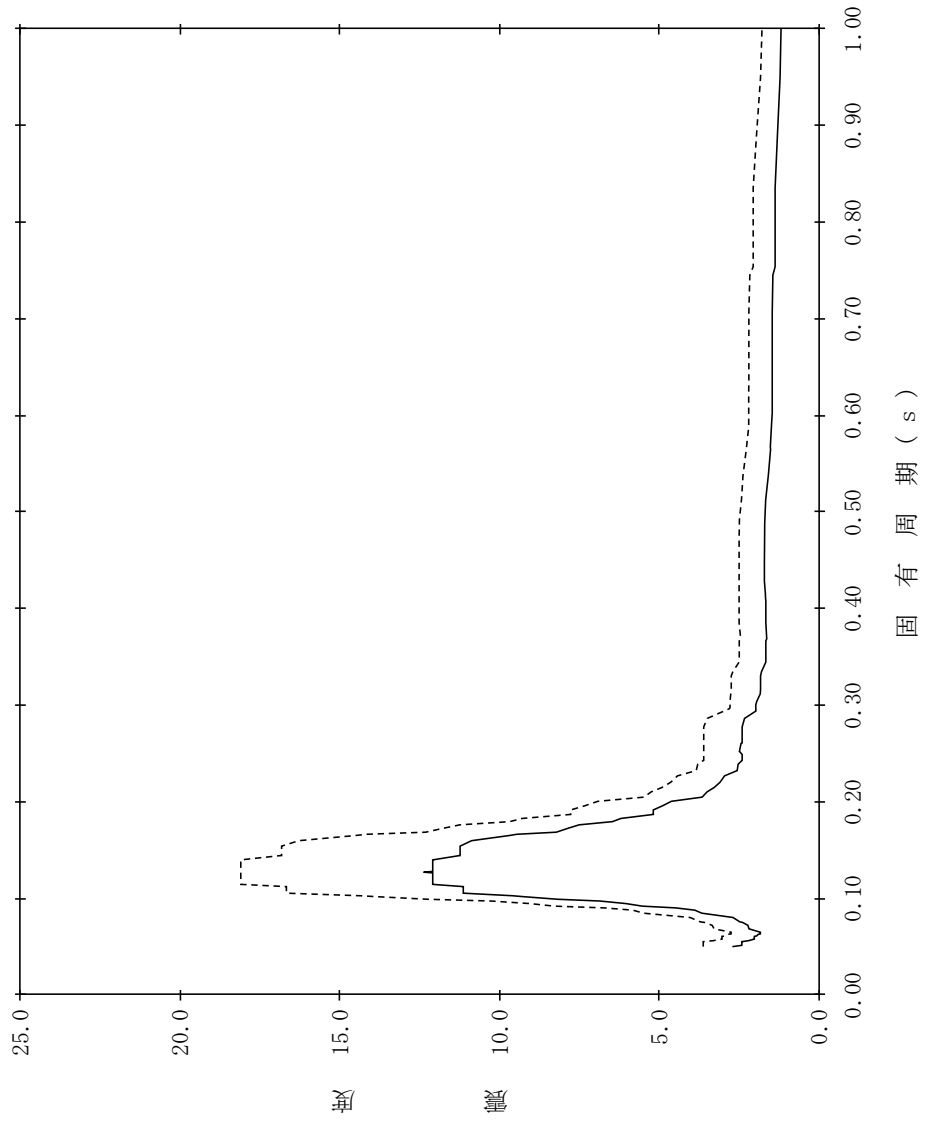
【NS2-CB-SsEW-CB19】

構造物名：制御室建物
減衰定数：1.5%
標高：EL12.800m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-CB-SsEW-CB20】

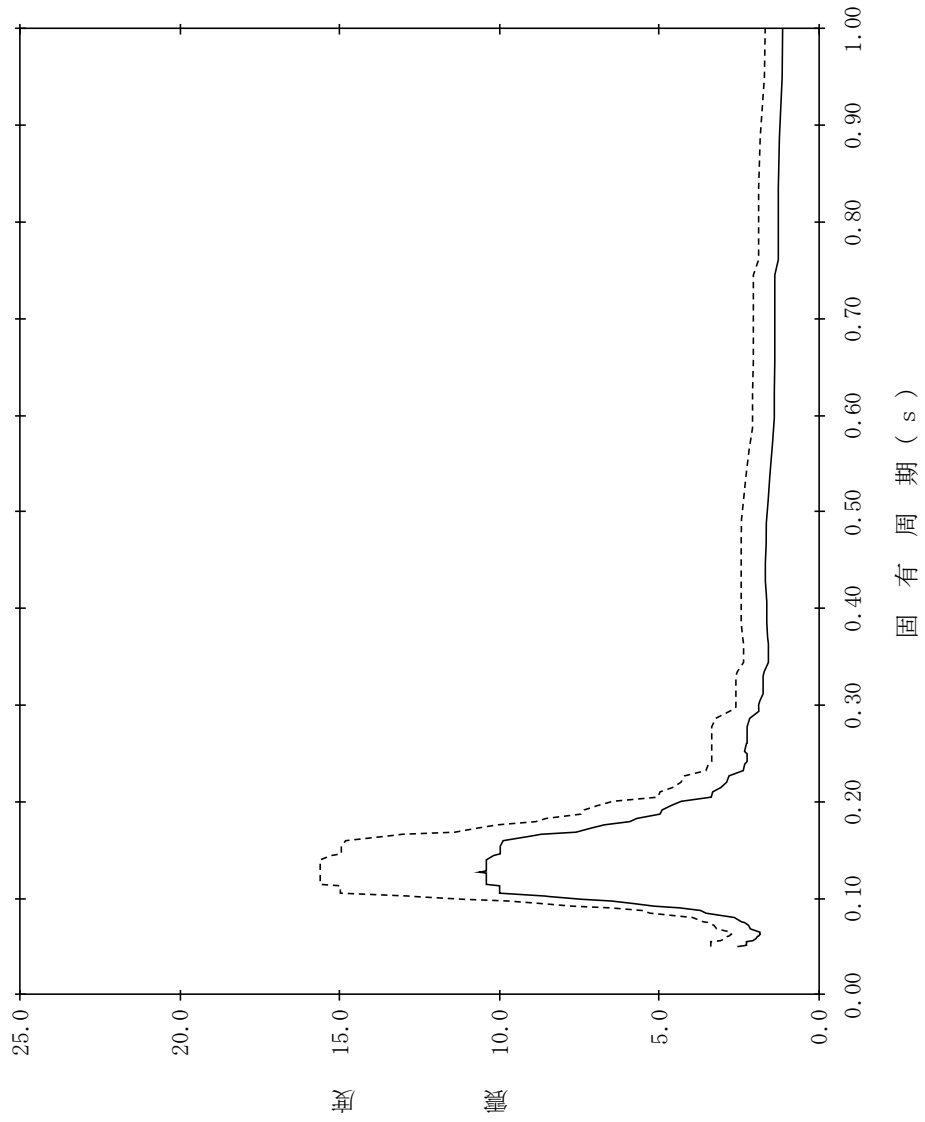
構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-CB-SsEW-CB21】

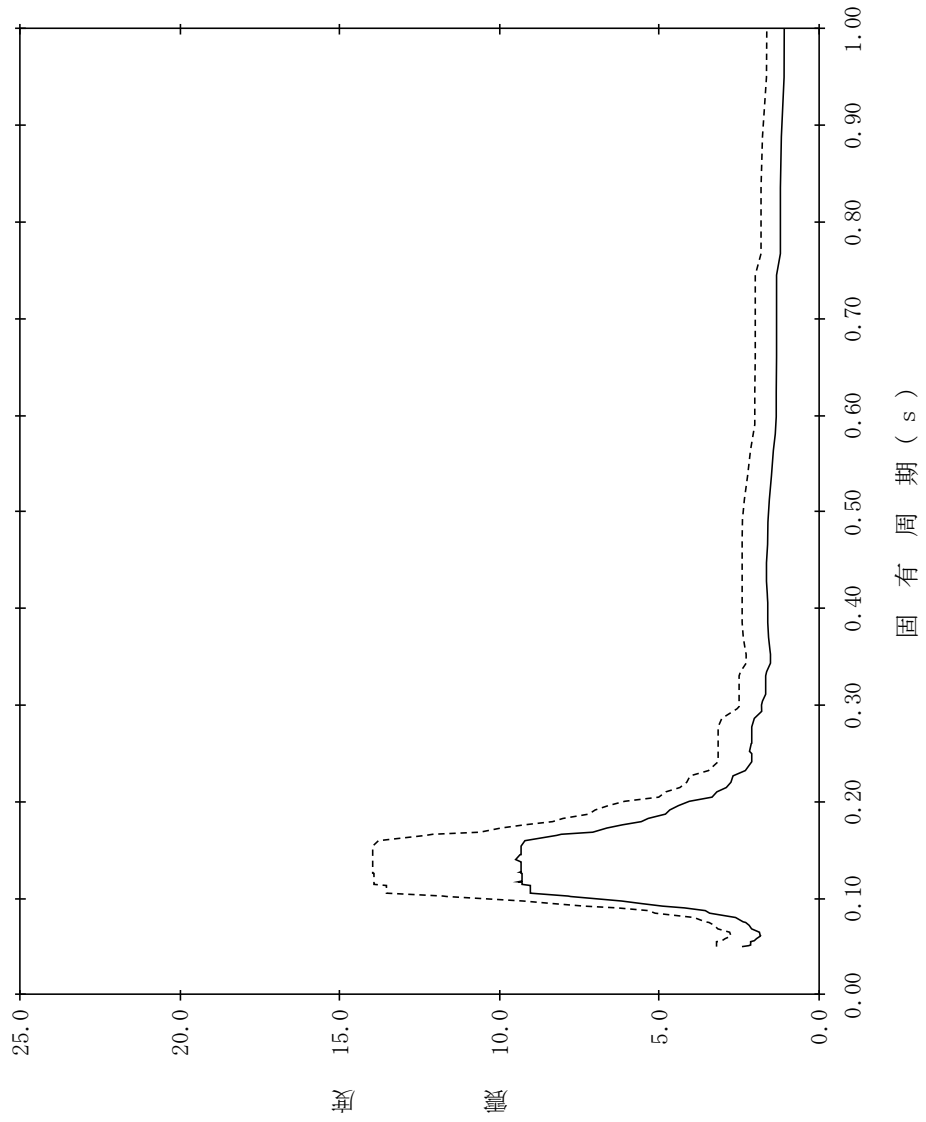
構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



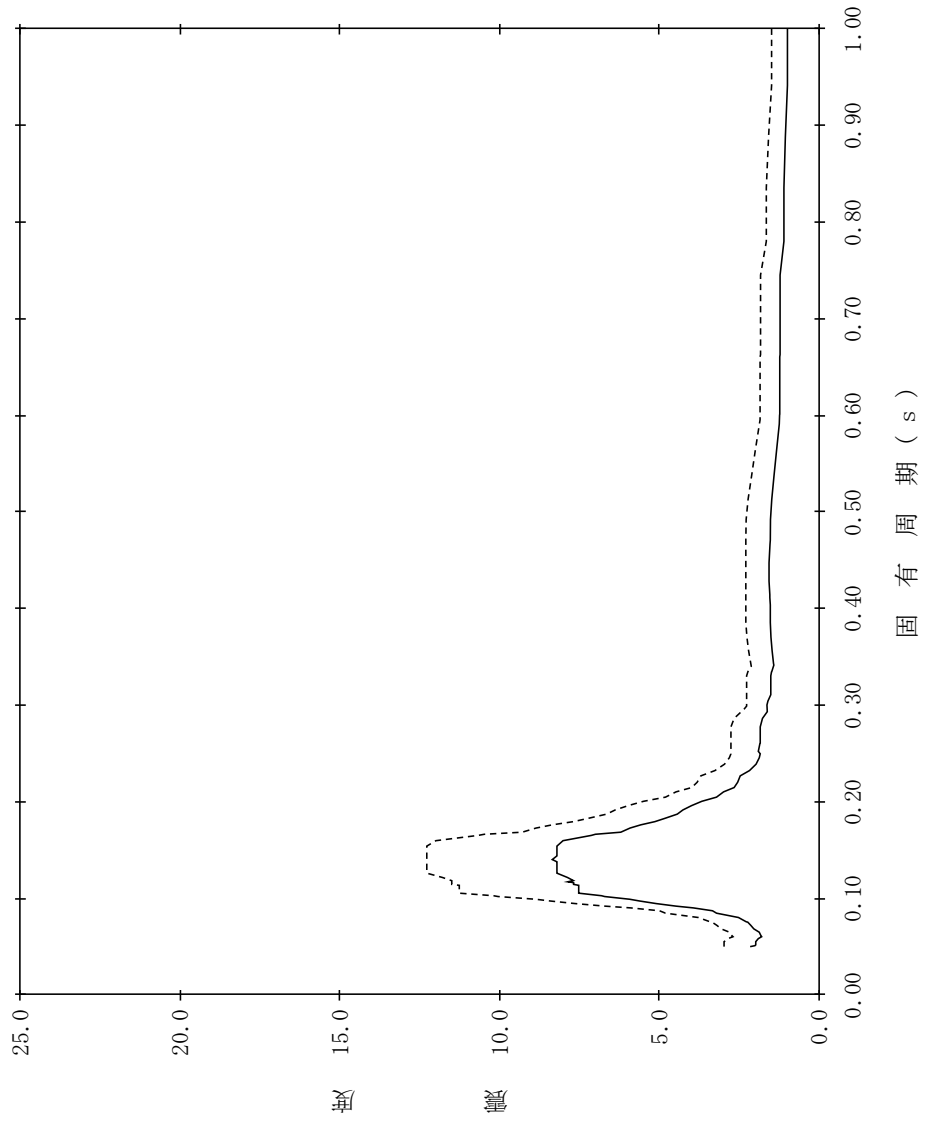
【NS2-CB-SsEW-CB22】

構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-CB-SsEW-CB23】

構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

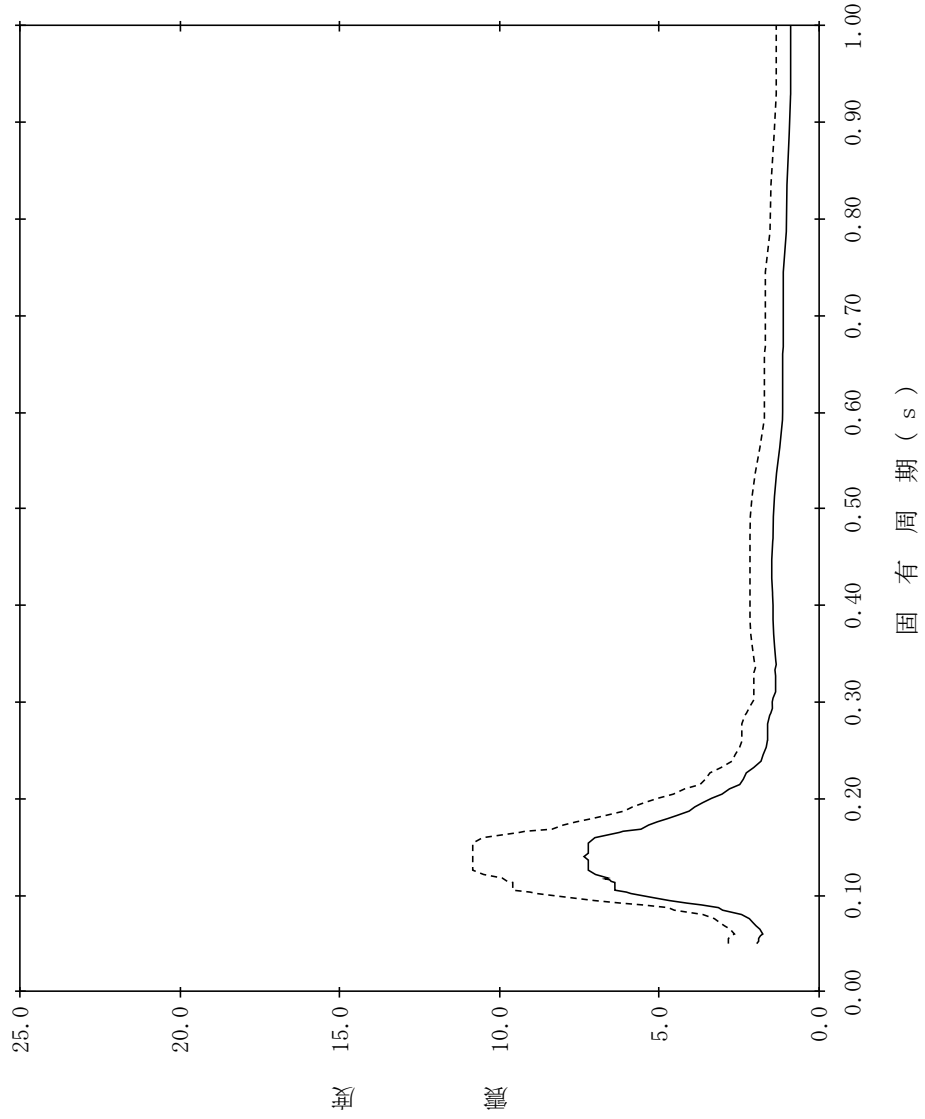


【NS2-CB-SsEW-CB24】

構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s

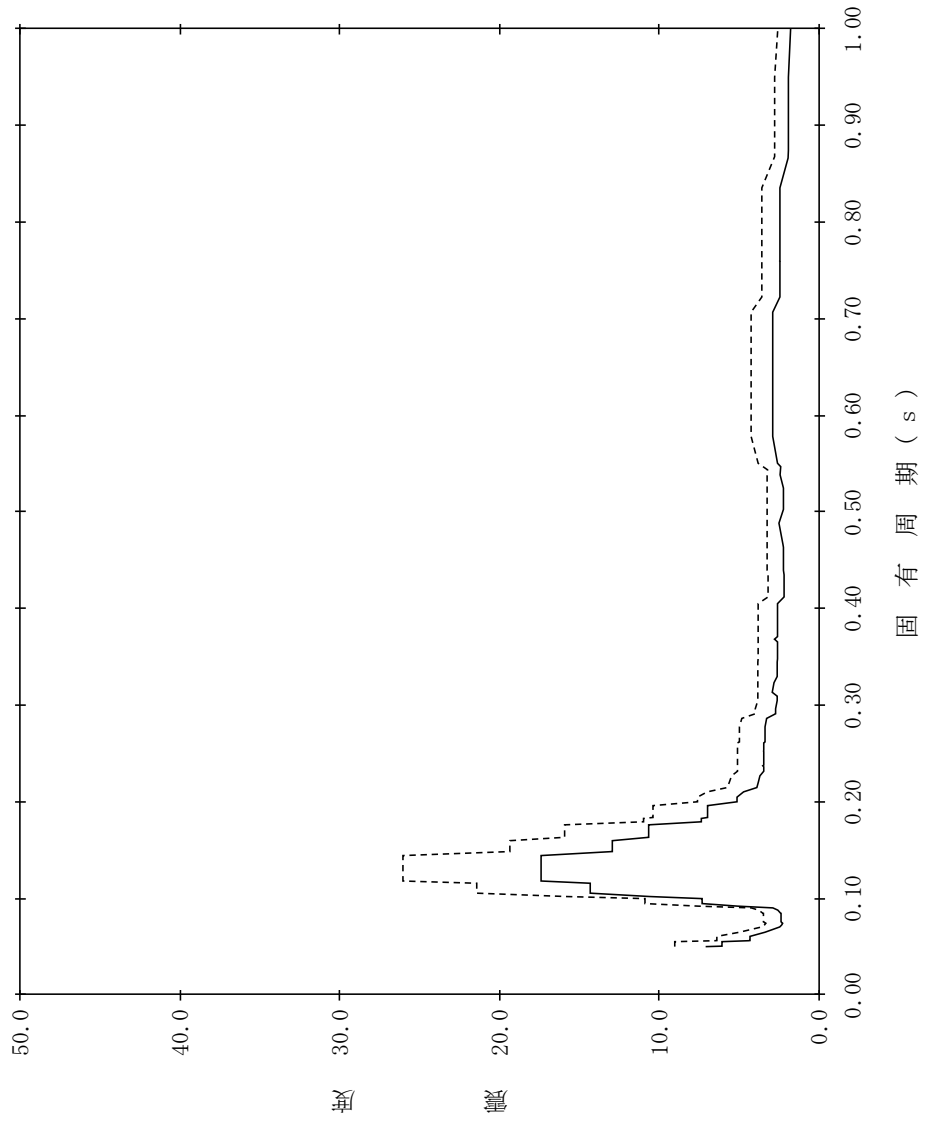
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



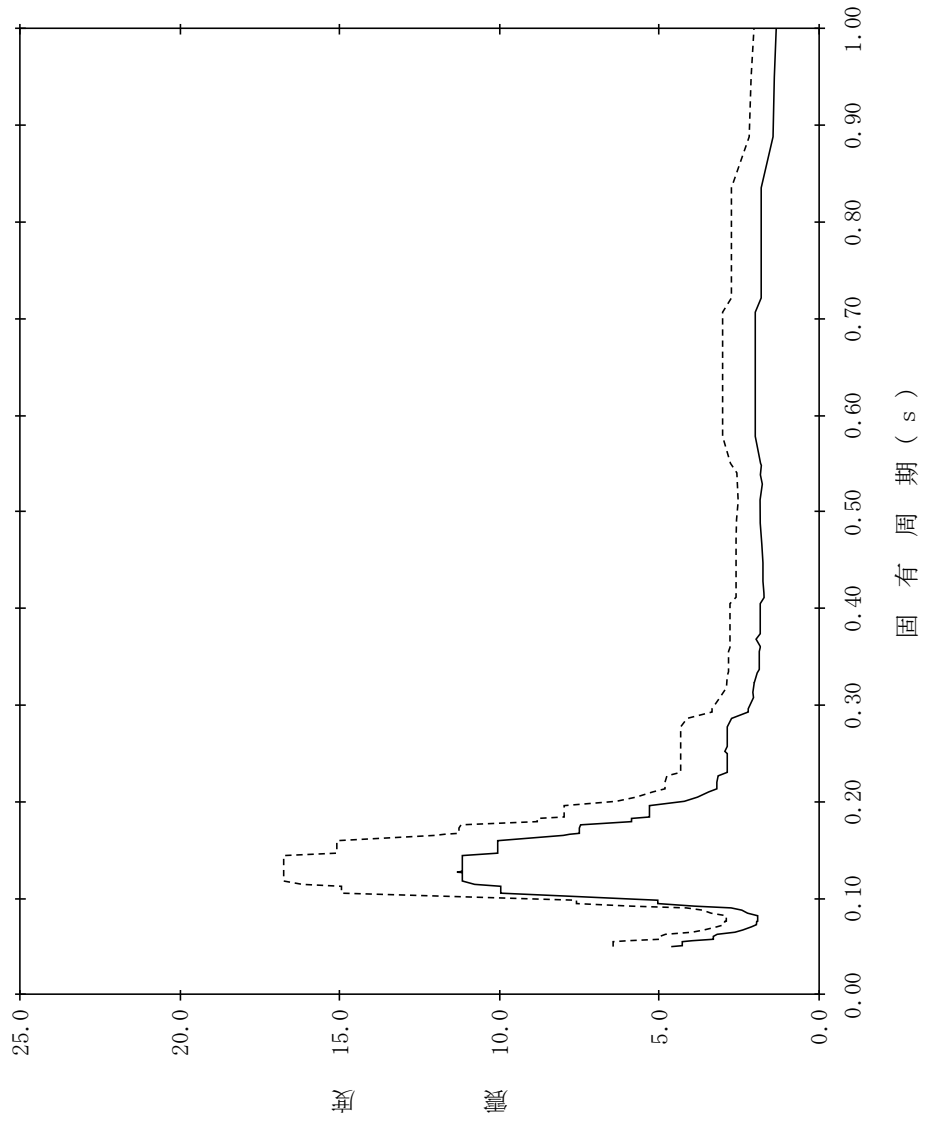
【NS2-CB-SsEW-CB25】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



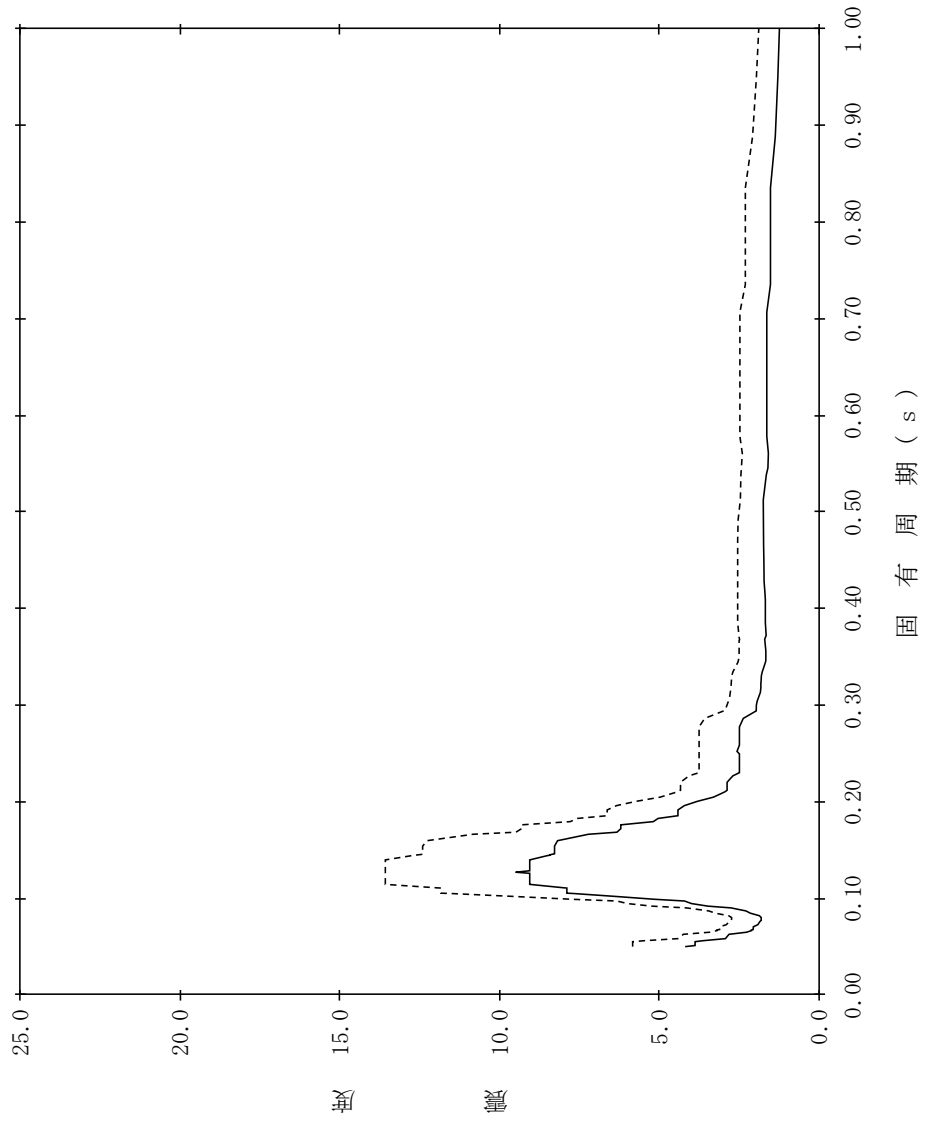
【NS2-CB-SsEW-CB26】

構造物名：制御室建物
標高：EL8.800m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



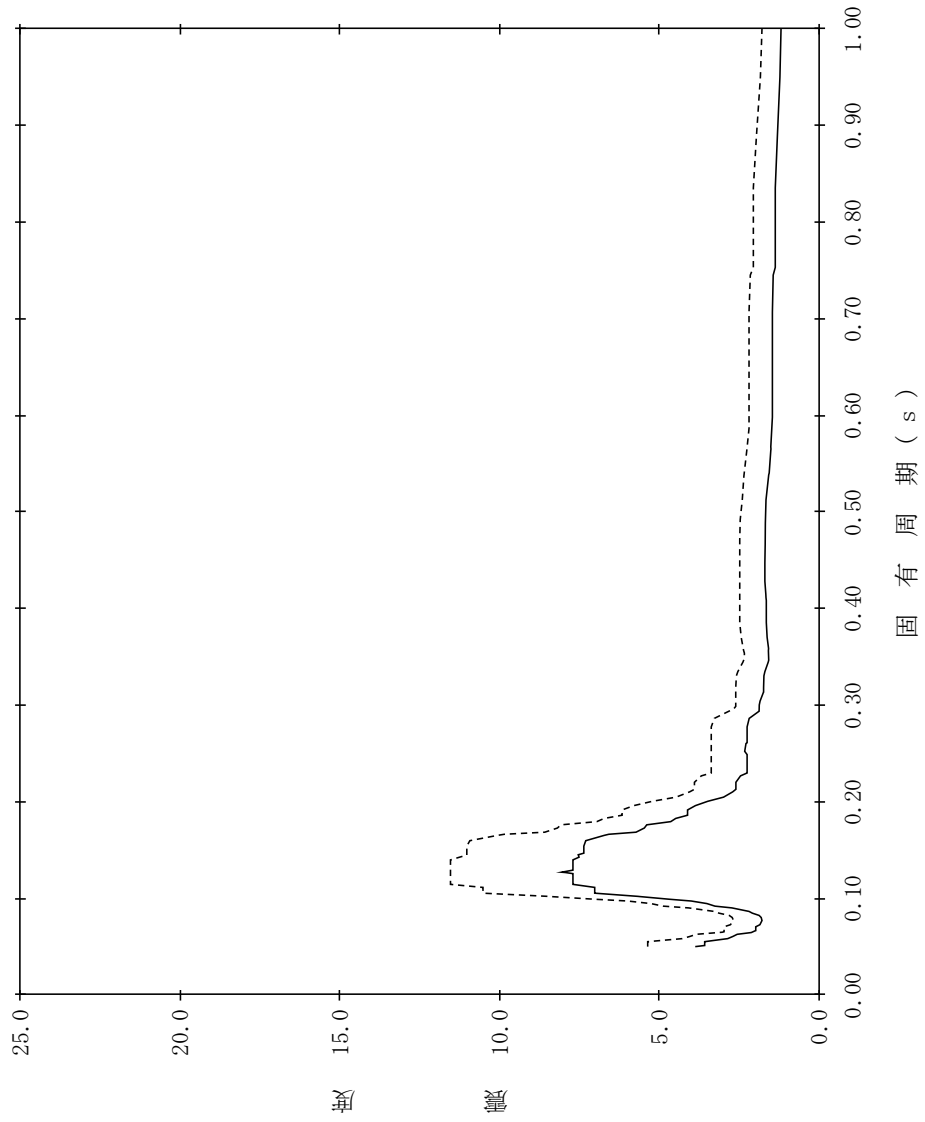
【NS2-CB-SsEW-CB27】

構造物名：制御室建物
標高：EL8.800m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



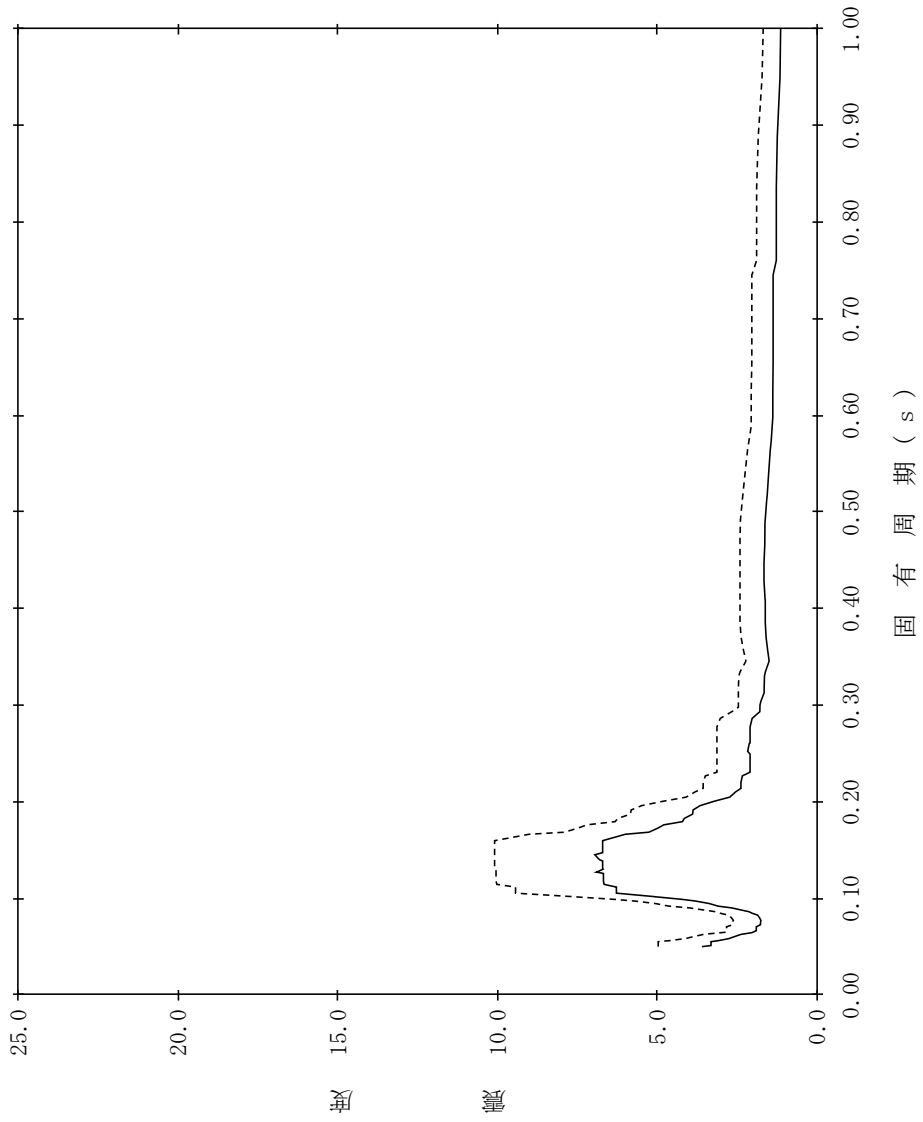
【NS2-CB-SsEW-CB28】

構造物名：制御室建物
標高：EL8.800m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



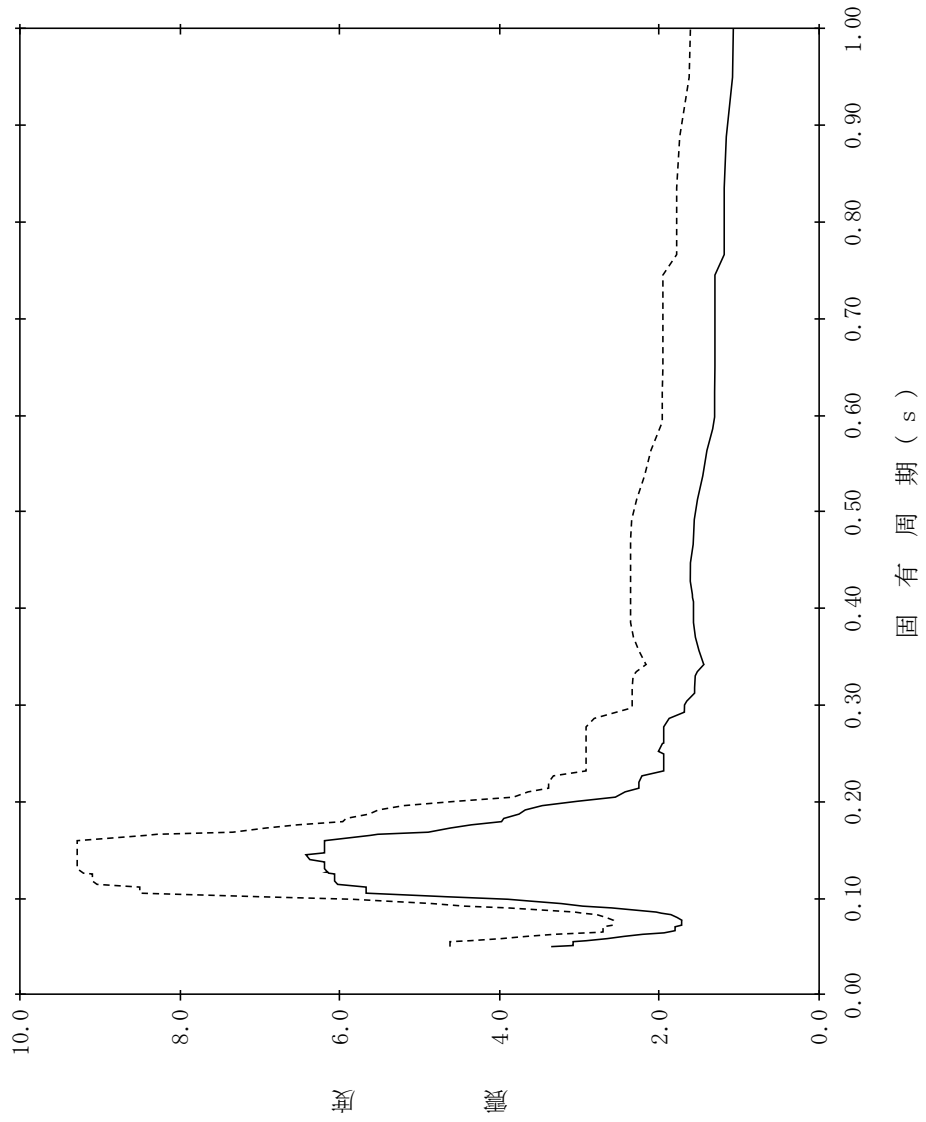
【NS2-CB-SsEW-CB29】

構造物名：制御室建物
標高：EL8.800m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s



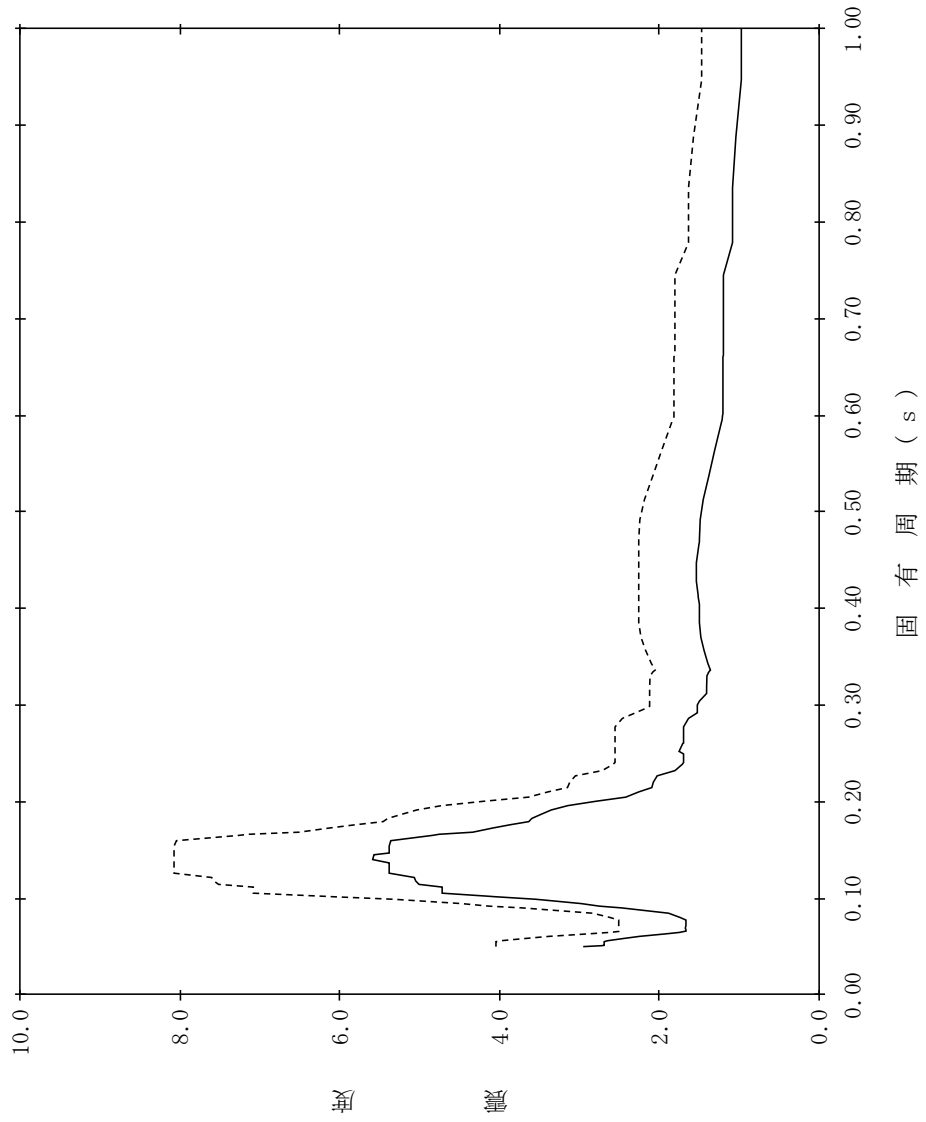
【NS2-CB-SsEW-CB30】

構造物名：制御室建物
標高：EL8.800m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



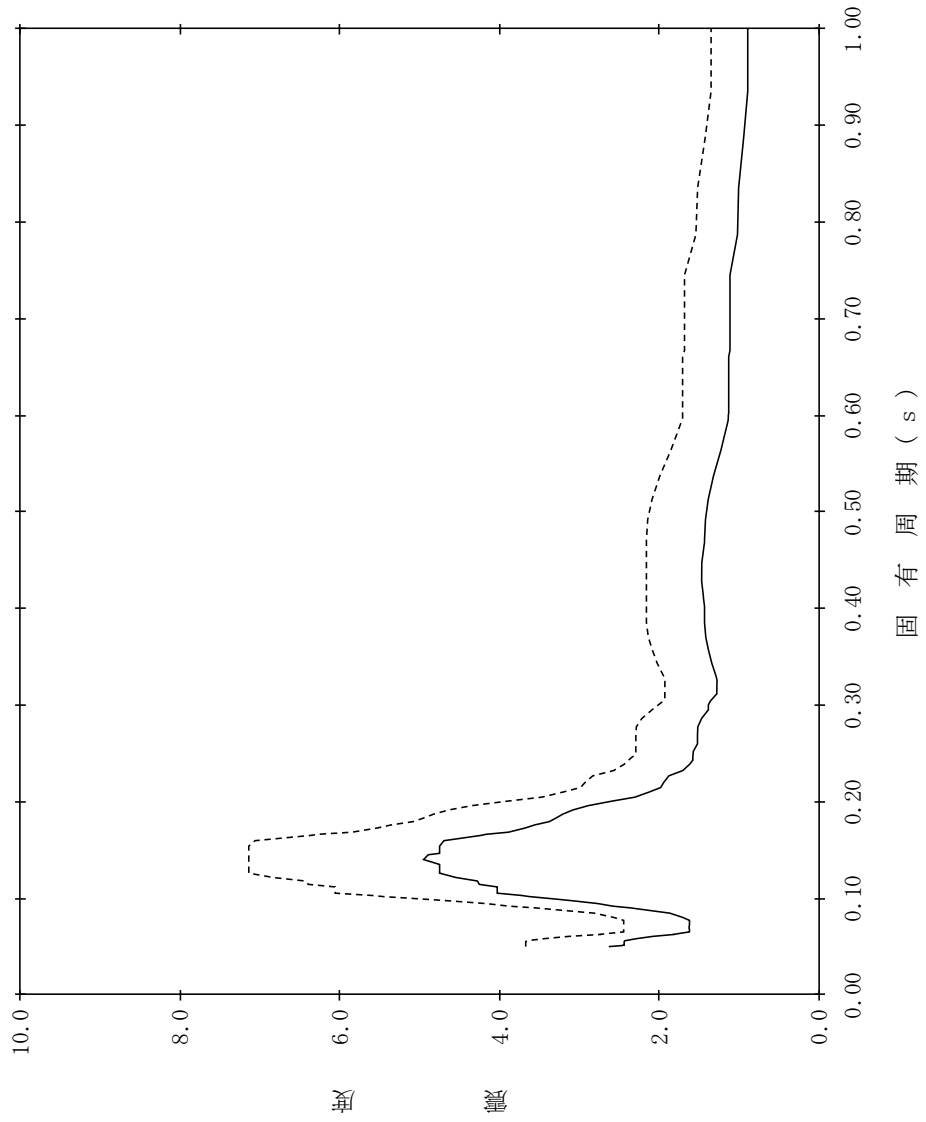
【NS2-CB-SsEW-CB31】

構造物名：制御室建物
標高：EL8.800m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



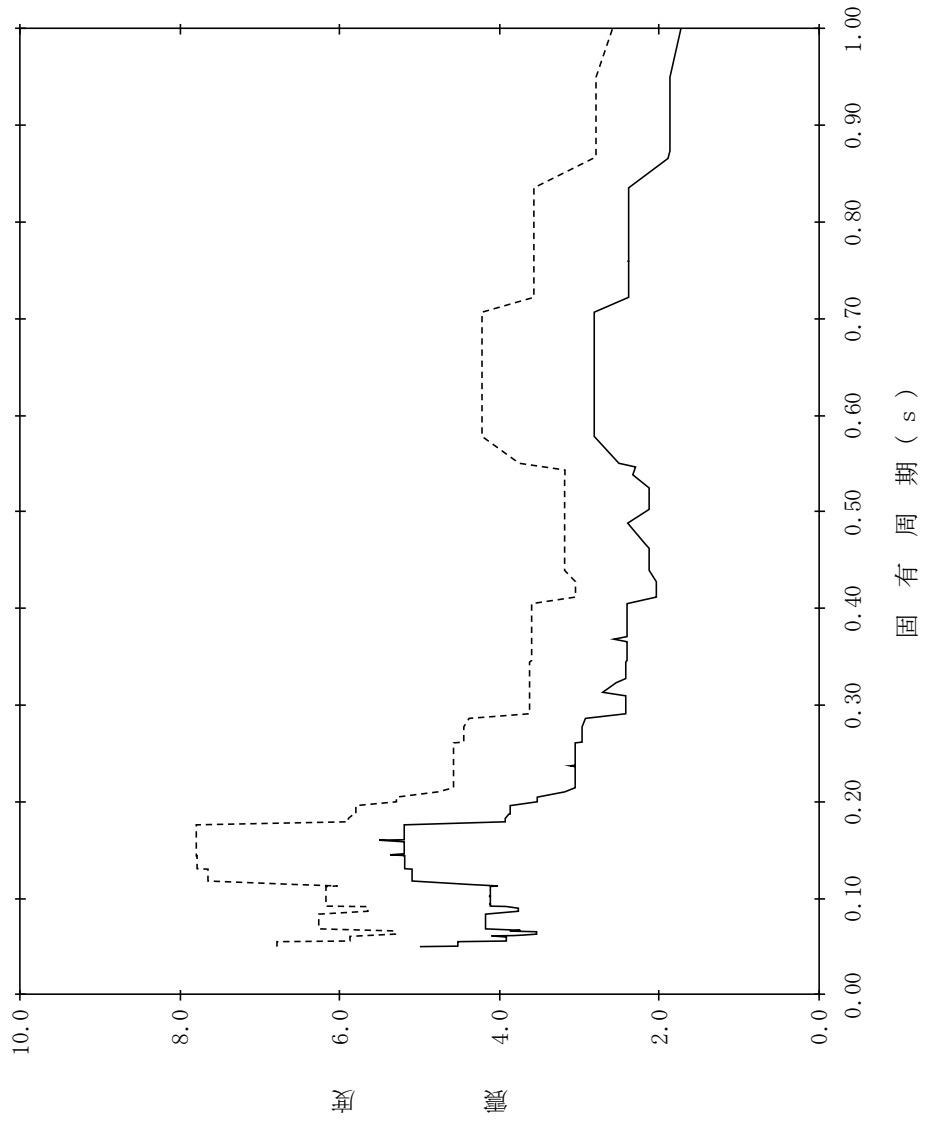
【NS2-CB-SsEW-CB32】

構造物名：制御室建物
標高：EL8.800m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



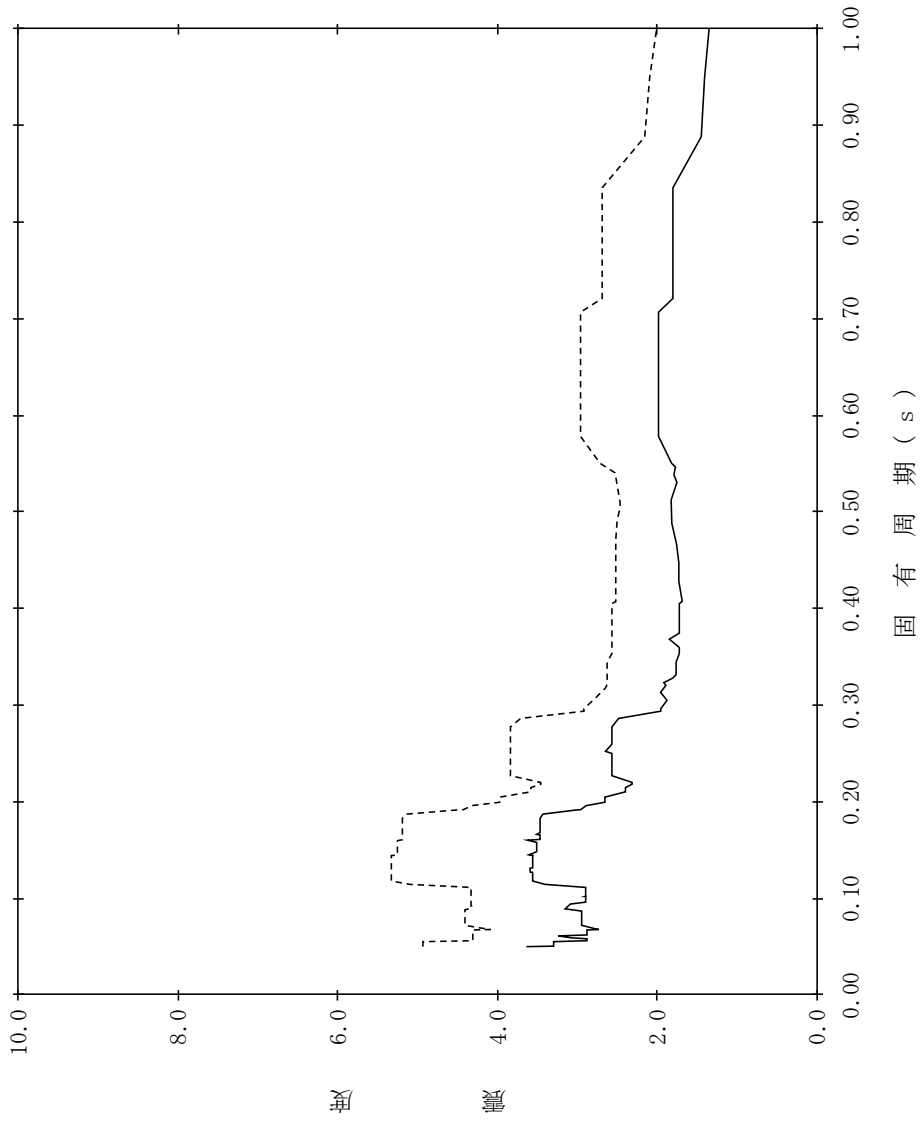
【NS2-CB-SsEW-CB33】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



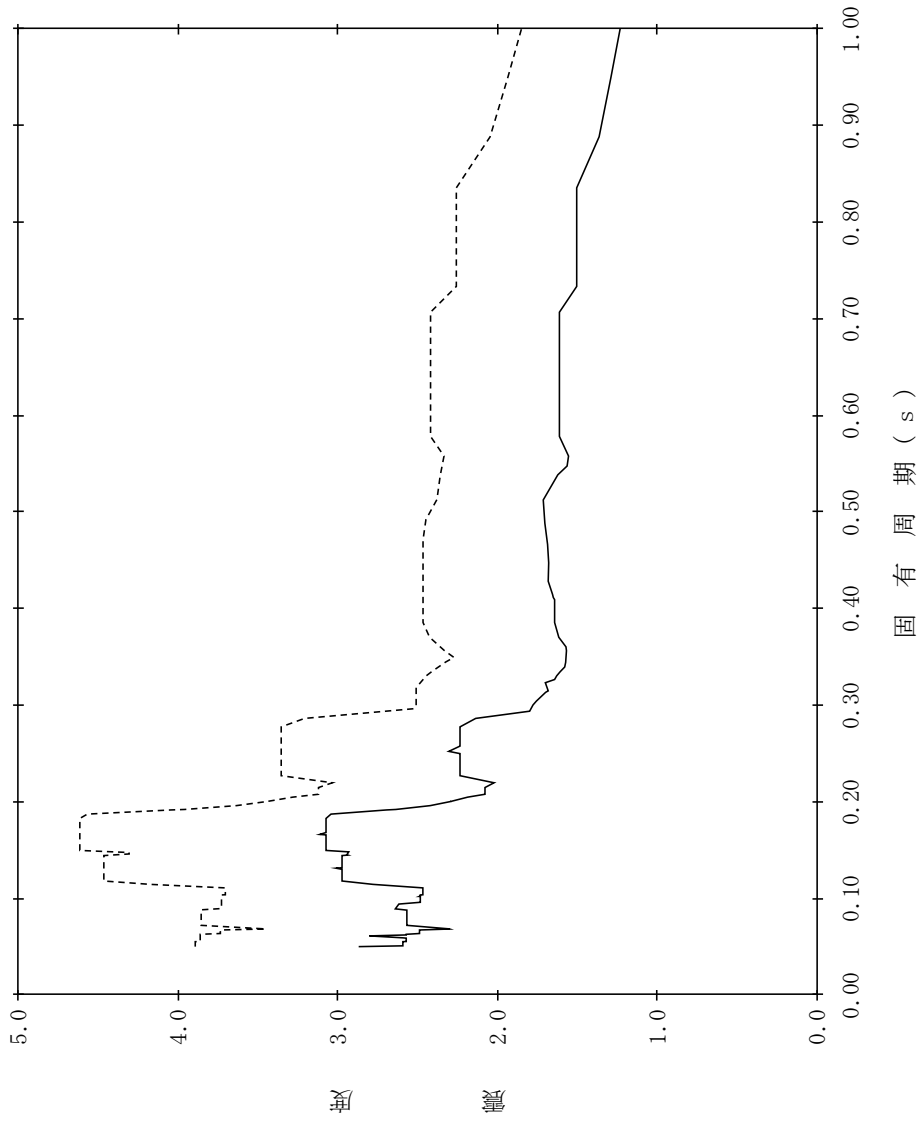
【NS2-CB-SsEW-CB34】

構造物名：制御室建物
標高：EL1.600m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s



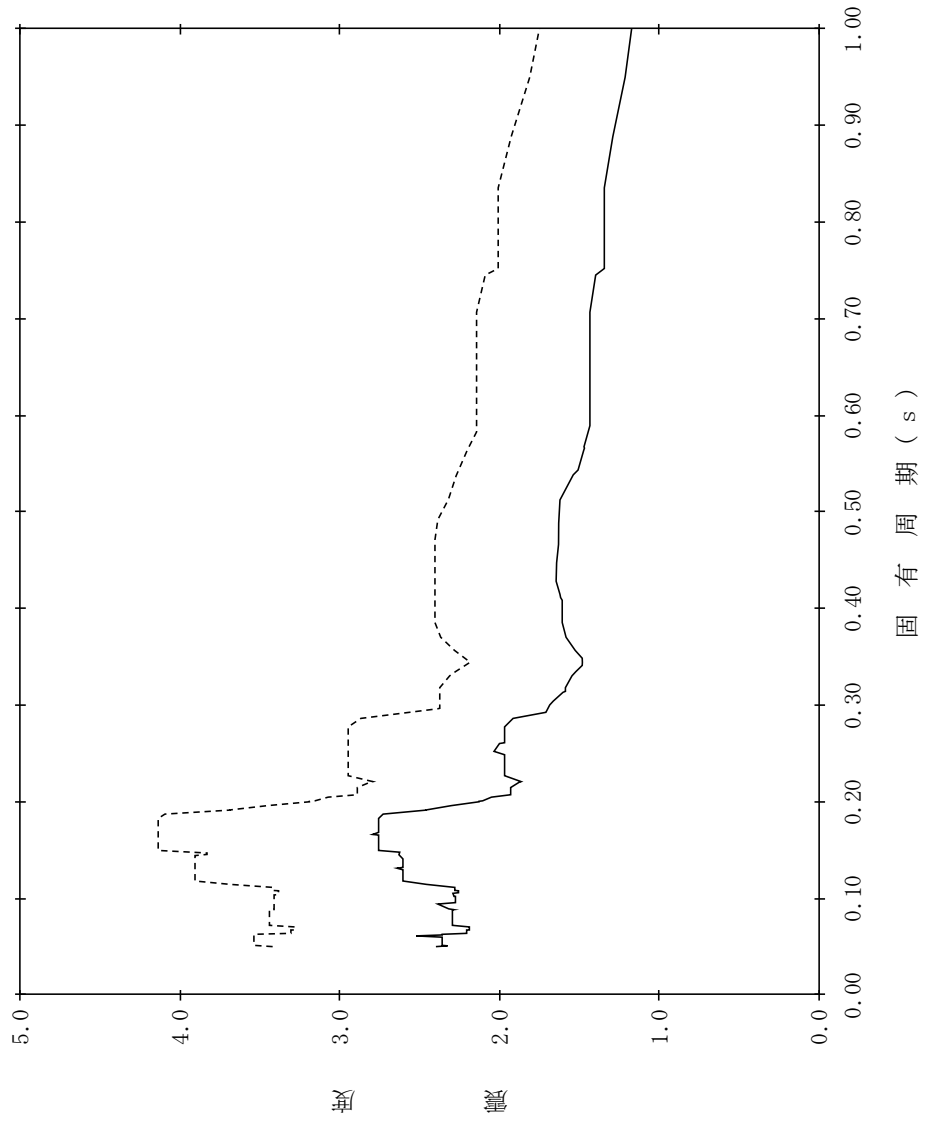
【NS2-CB-SsEW-CB35】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



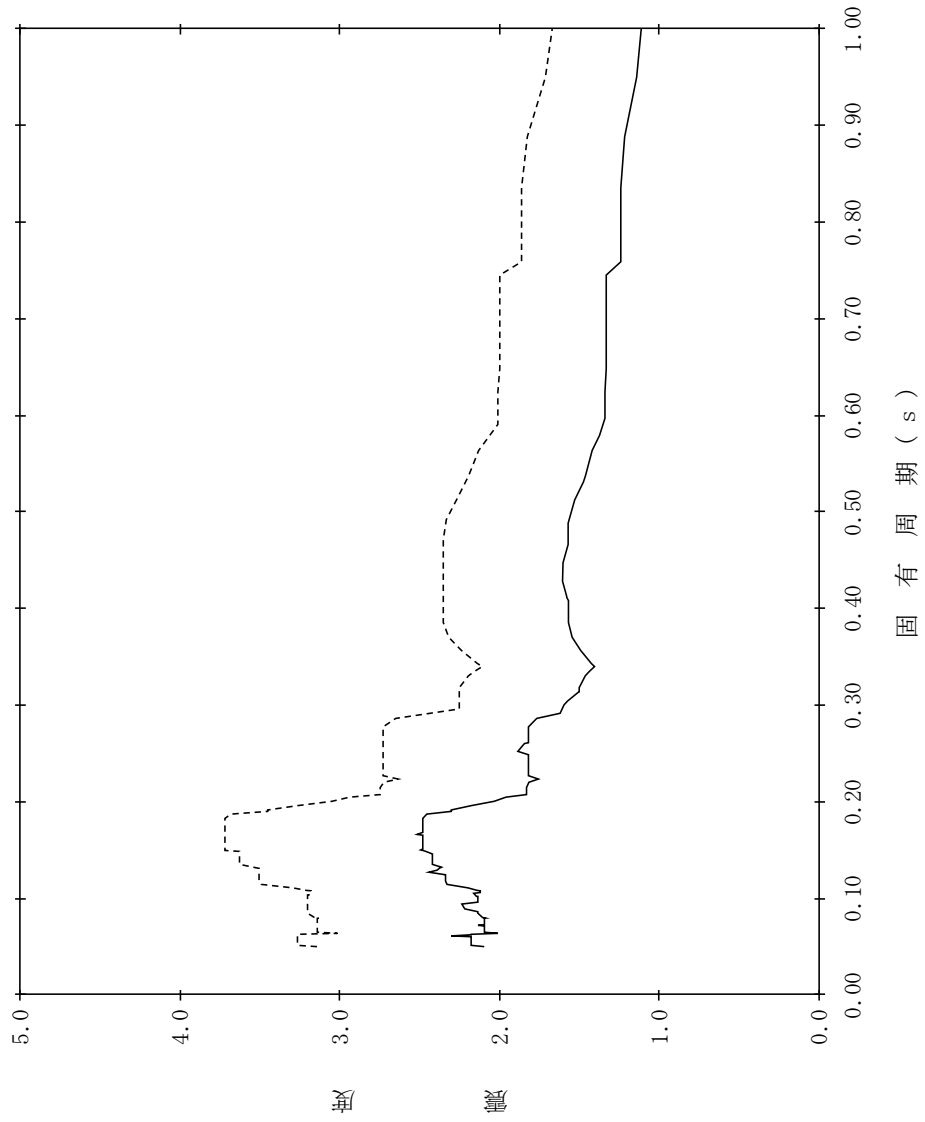
【NS2-CB-SsEW-CB36】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

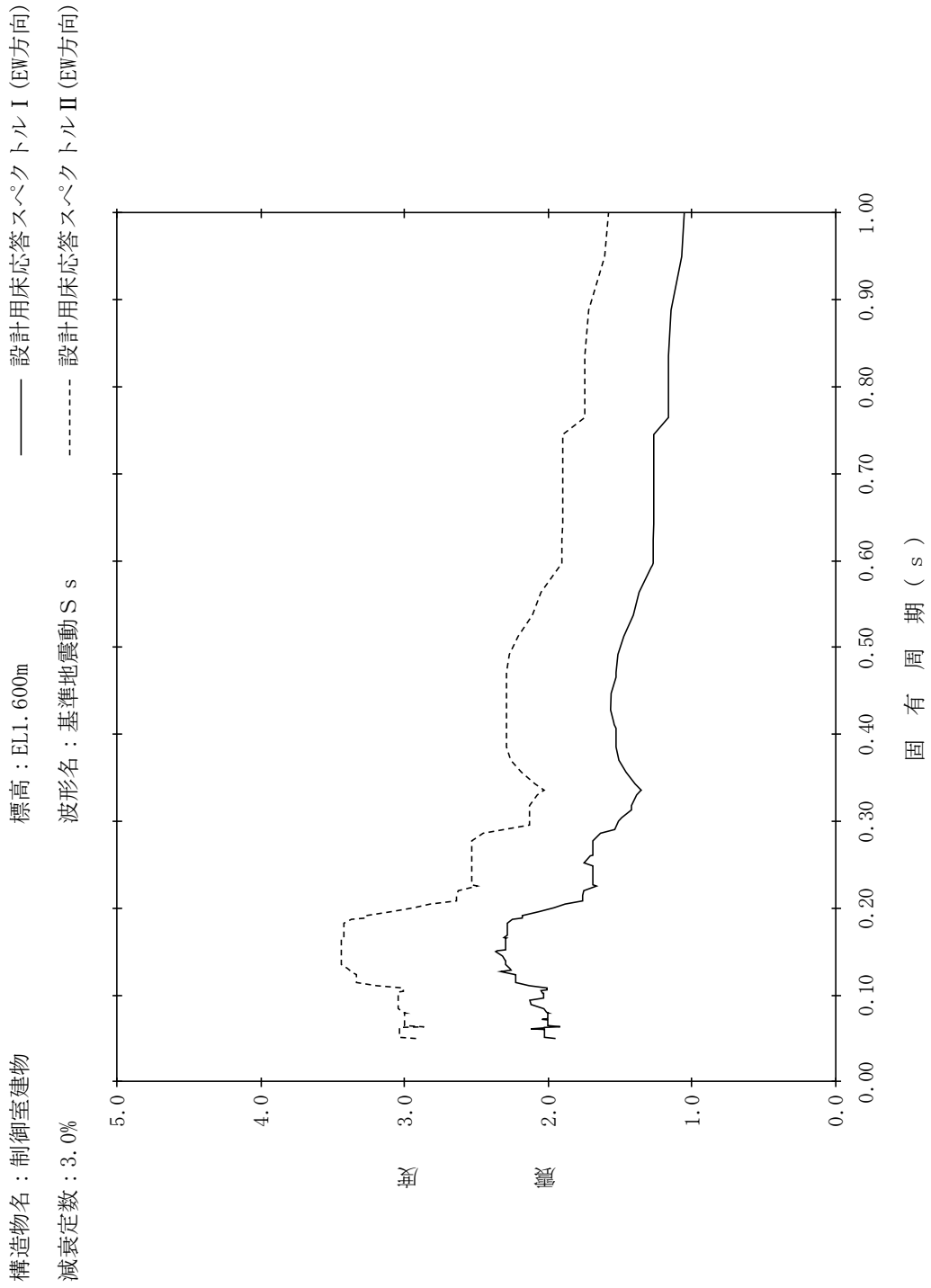


【NS2-CB-SsEW-CB37】

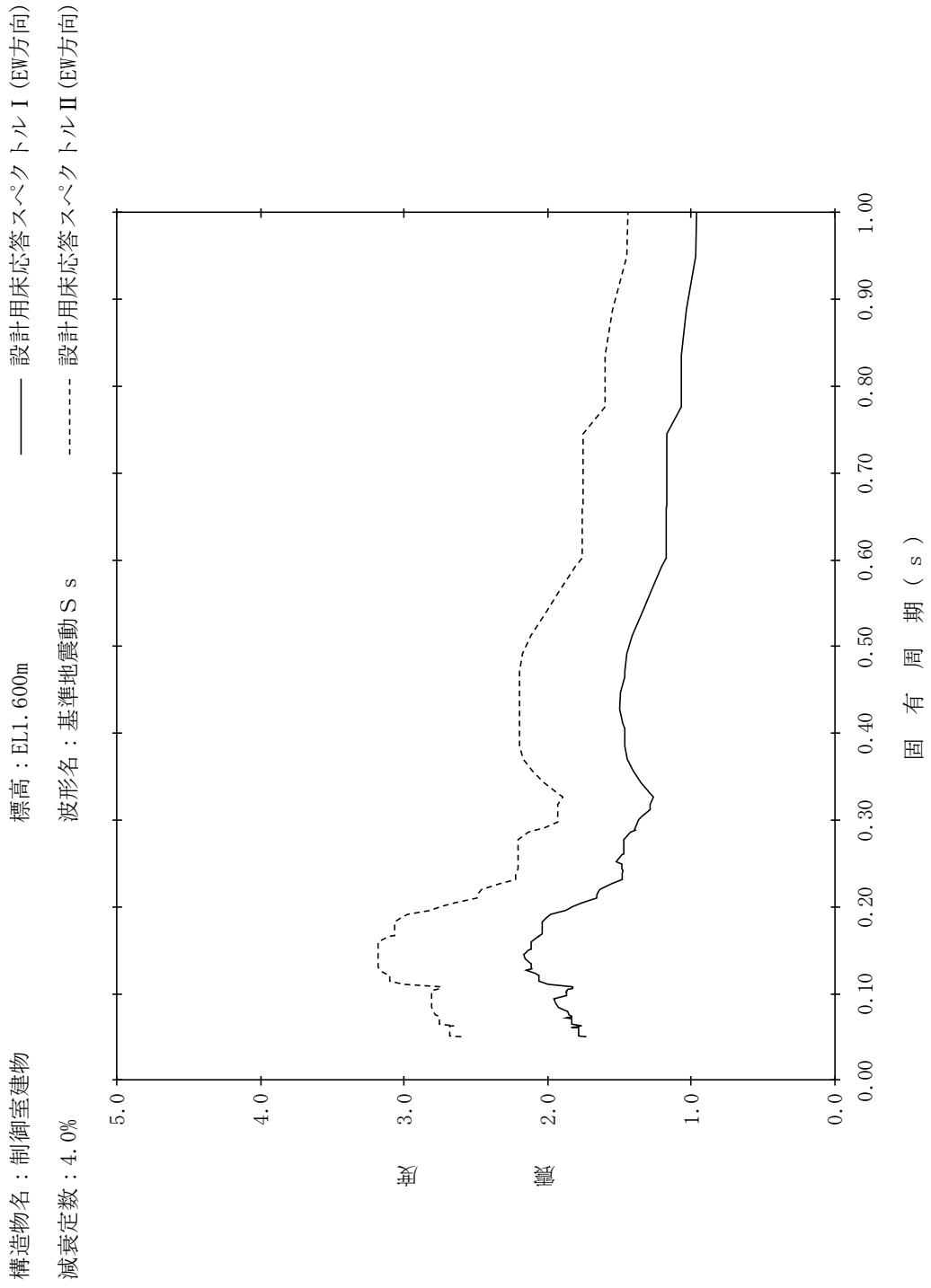
構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-CB-SsEW-CB38】

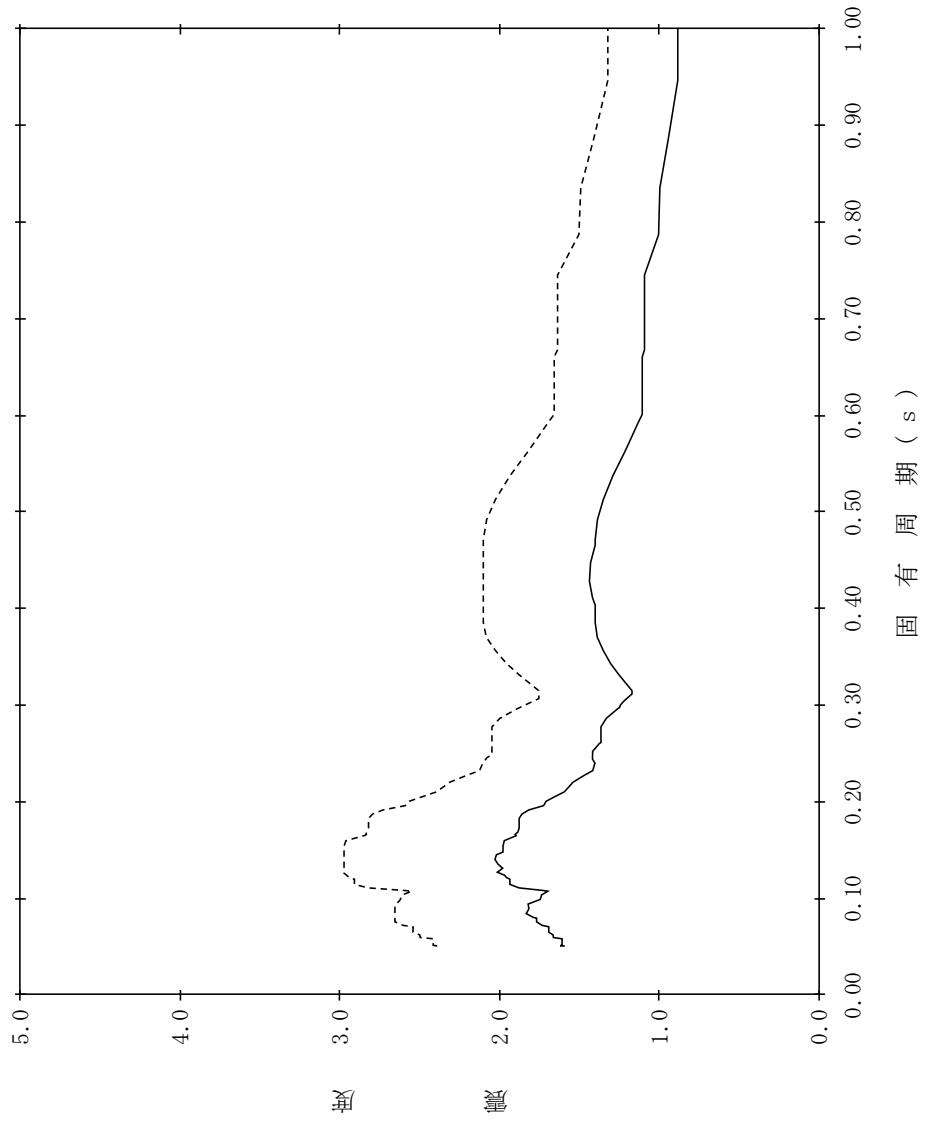


【NS2-CB-SsEW-CB39】



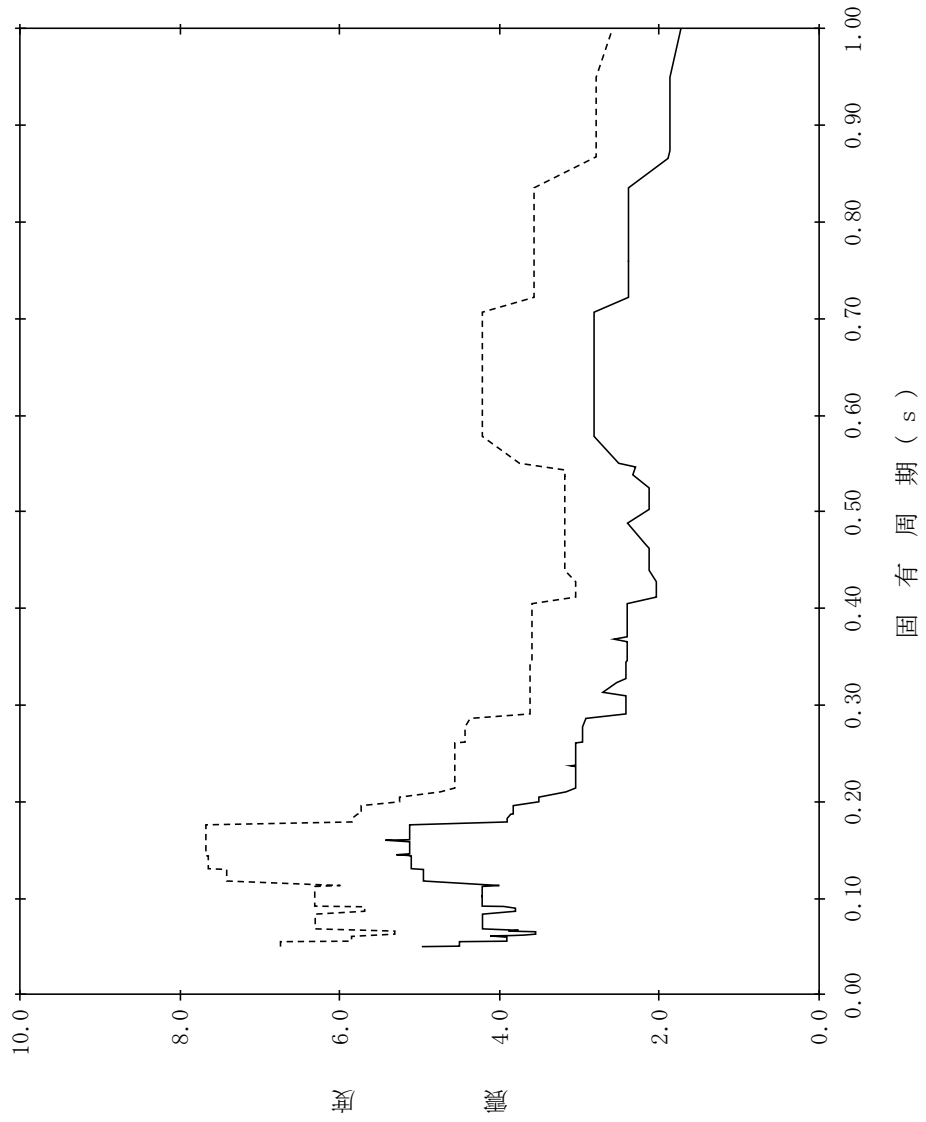
【NS2-CB-SsEW-CB40】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-CB-SsEW-CB41】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：0.5%
 波形式：標準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

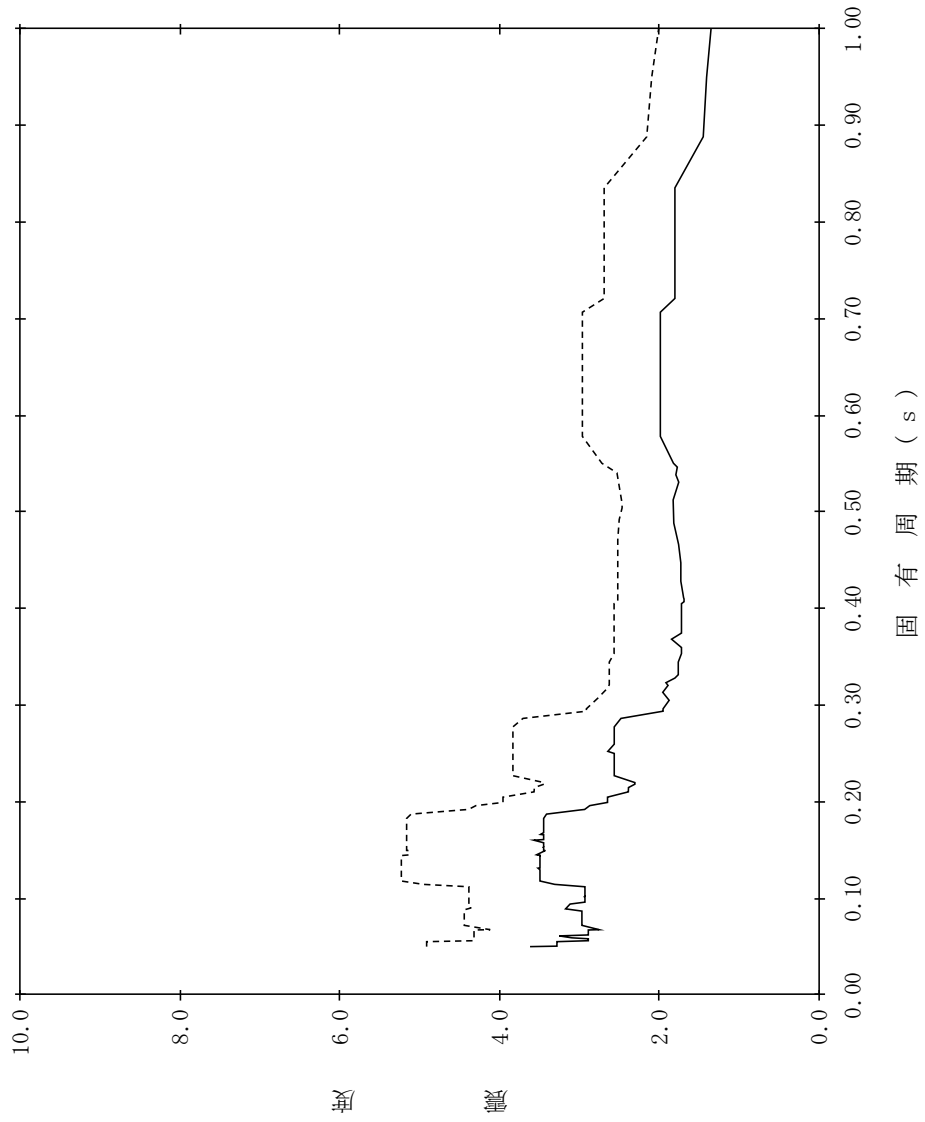


【NS2-CB-SsEW-CB42】

構造物名：制御室建物
標高：EL0.100m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s

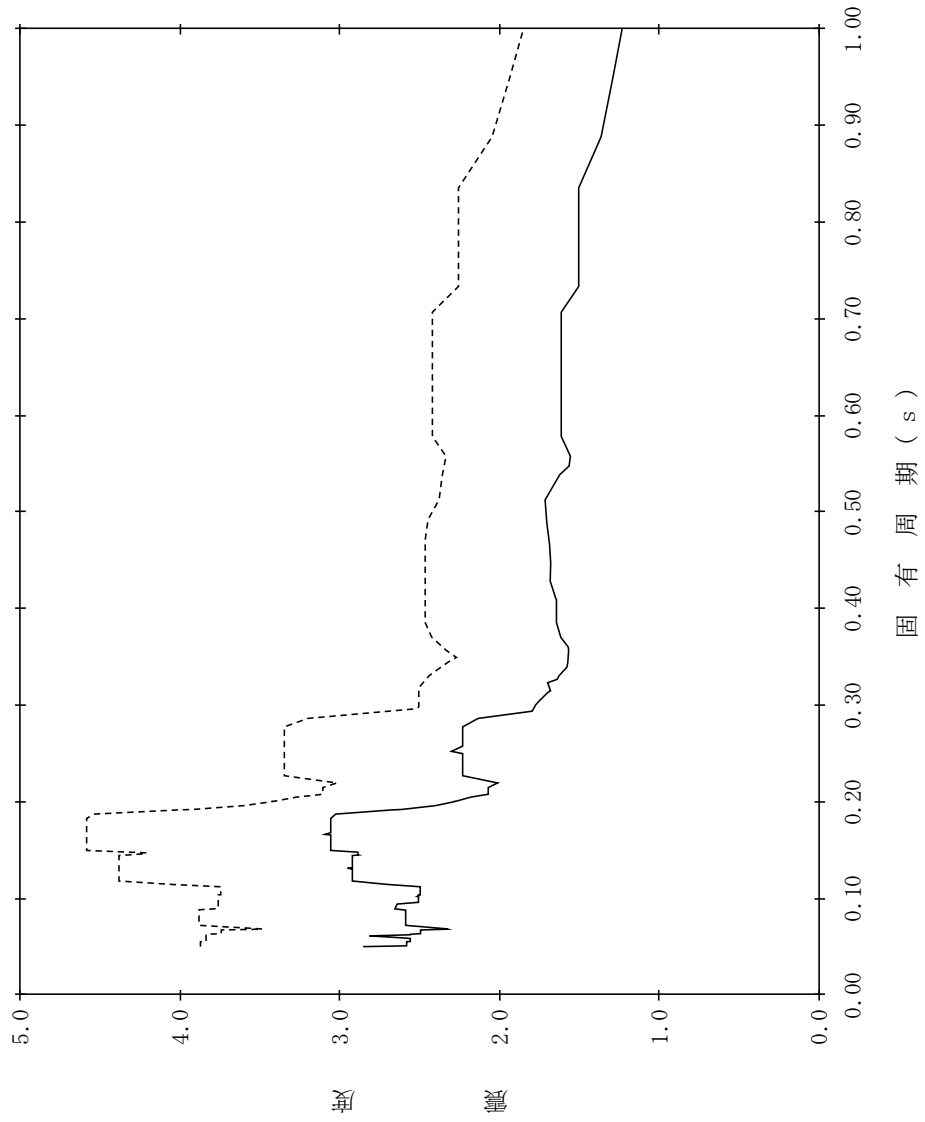
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



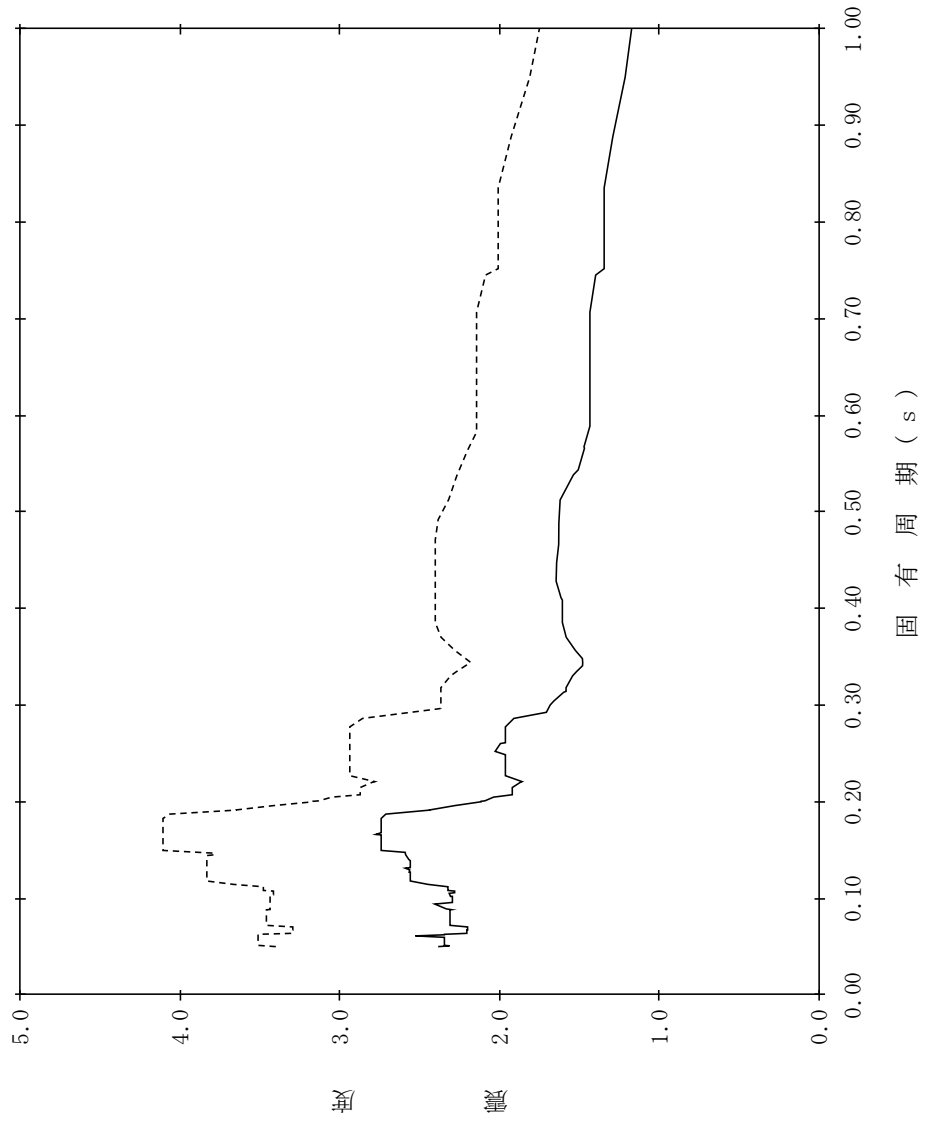
【NS2-CB-SsEW-CB43】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

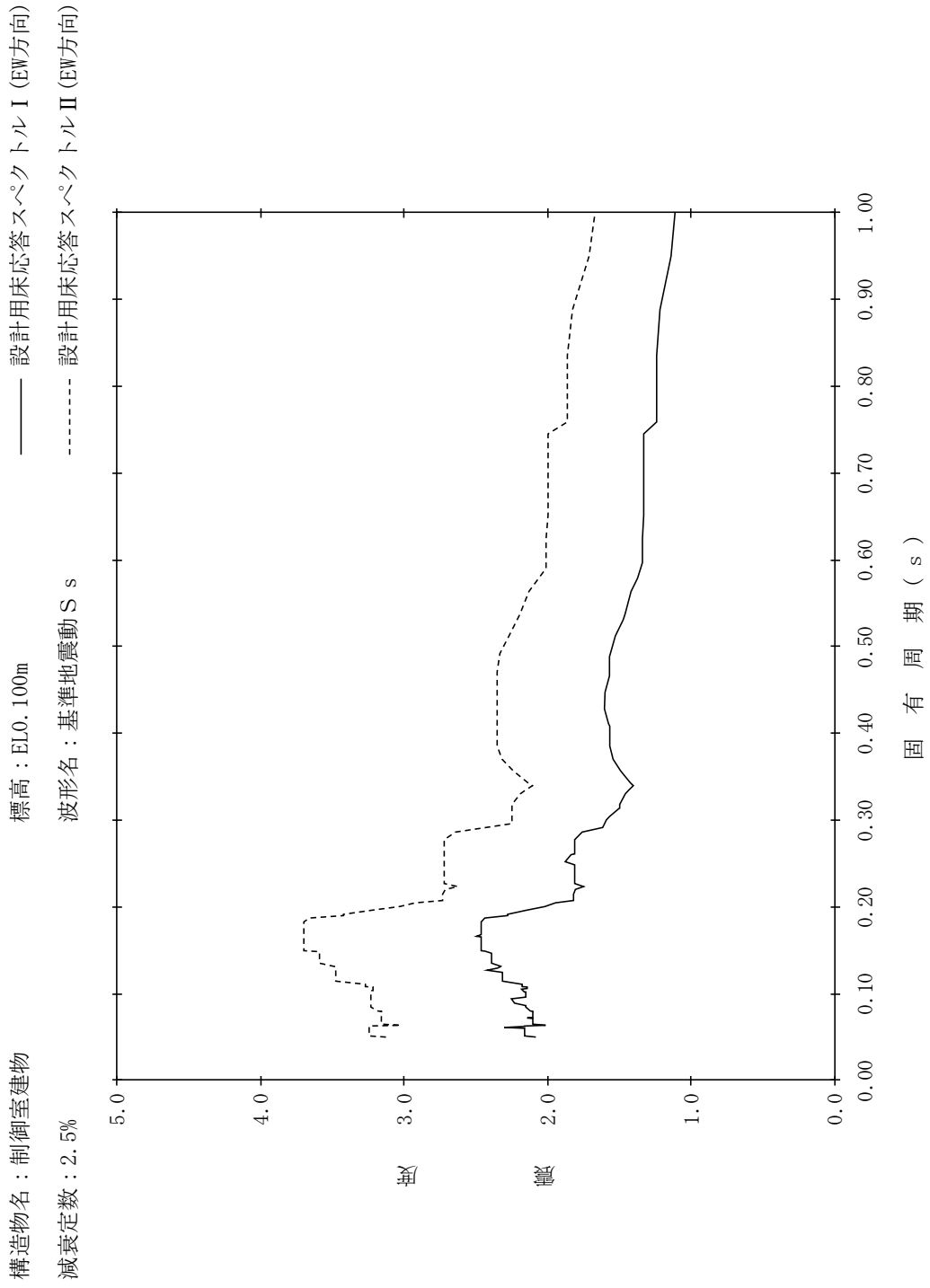


【NS2-CB-SsEW-CB44】

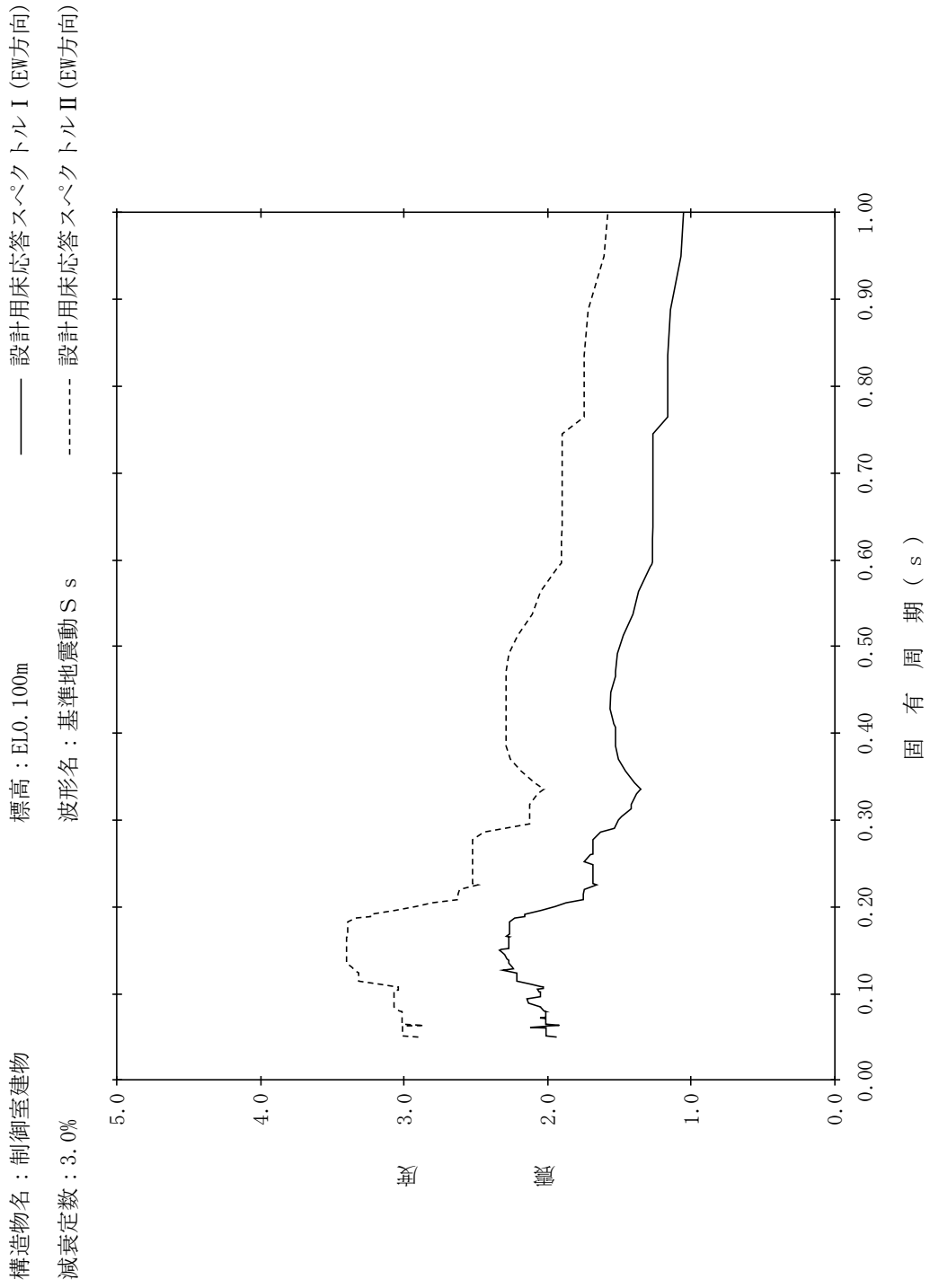
構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-CB-SsEW-CB45】

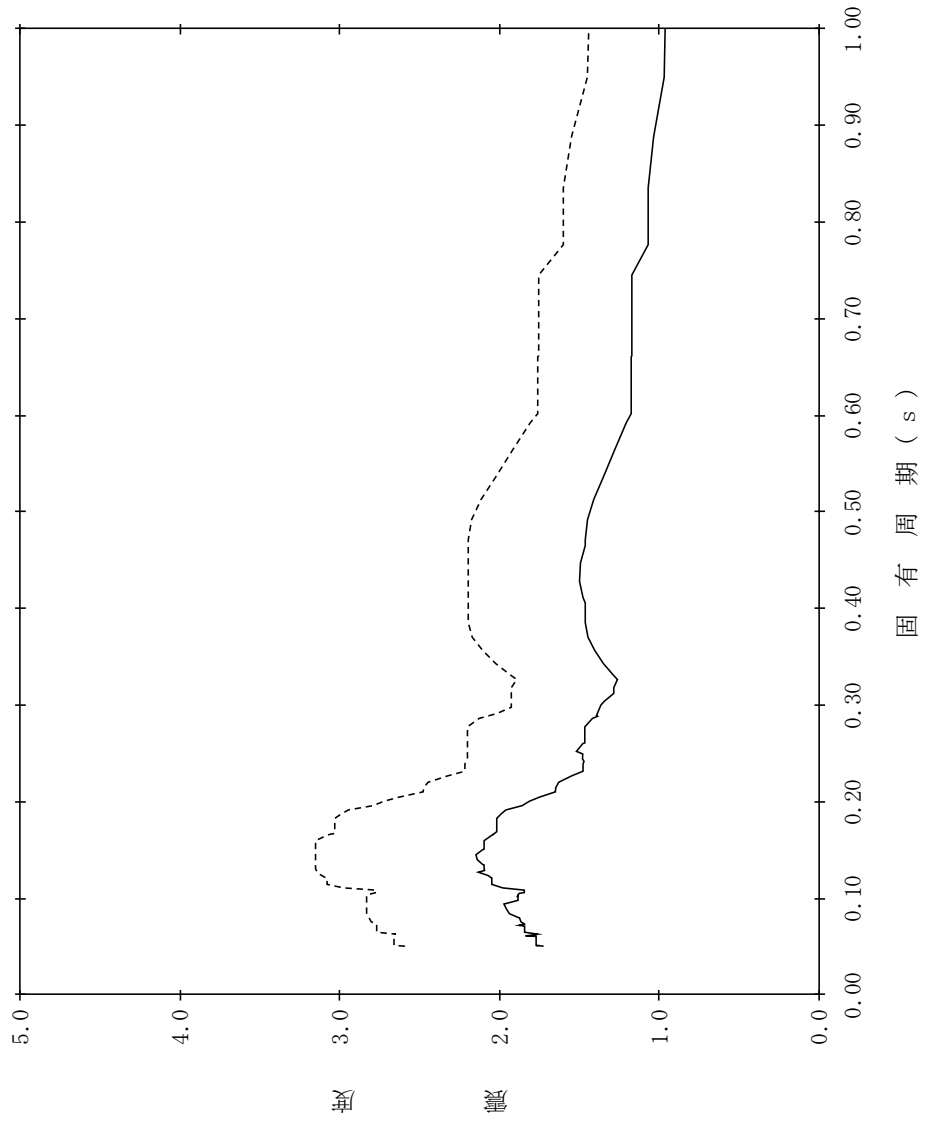


【NS2-CB-SsEW-CB46】



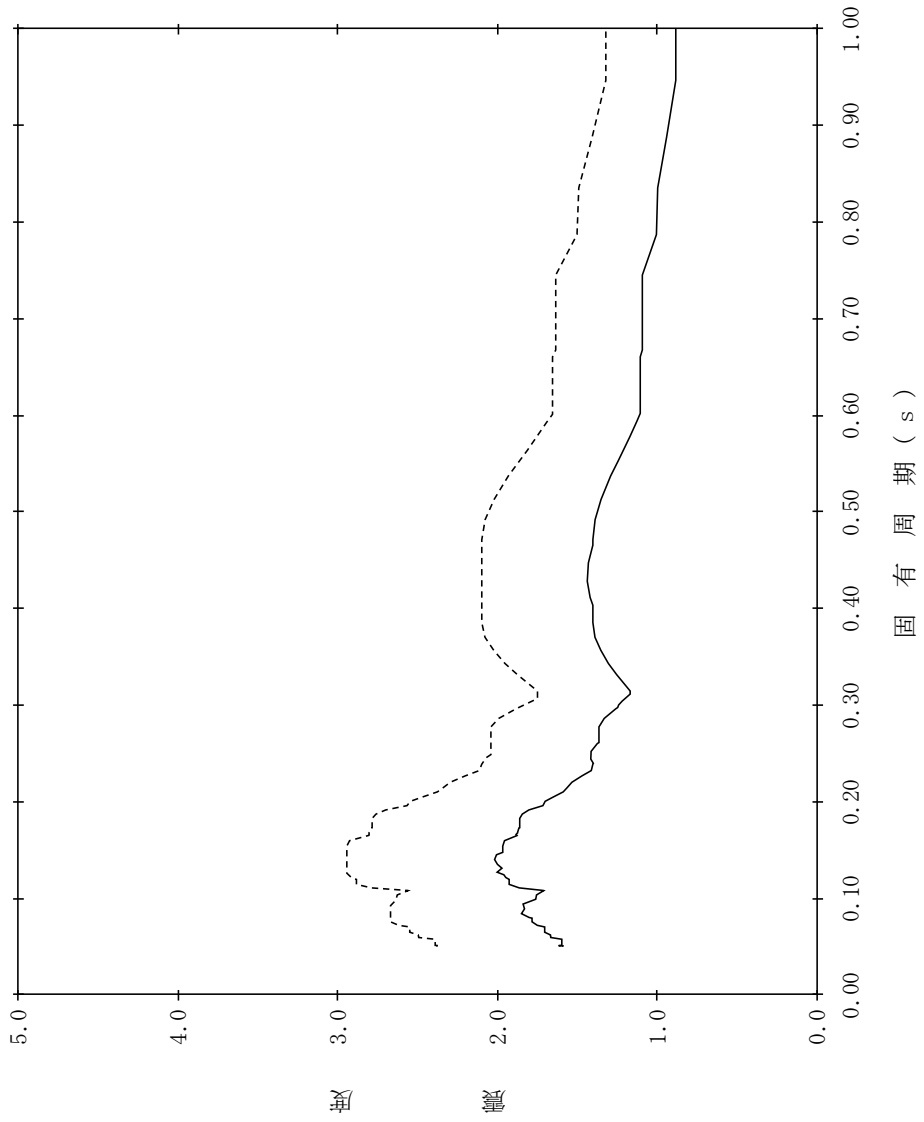
【NS2-CB-SsEW-CB47】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



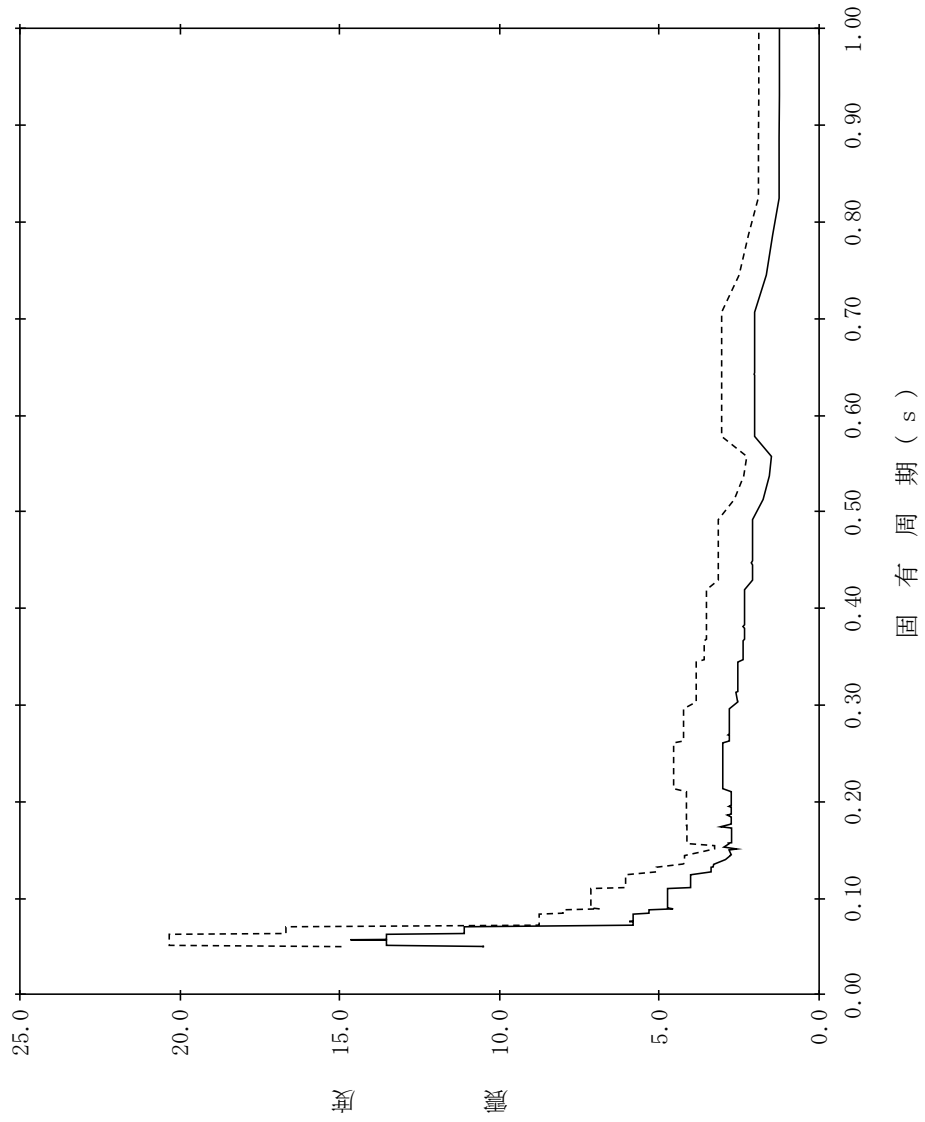
【NS2-CB-SsEW-CB48】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



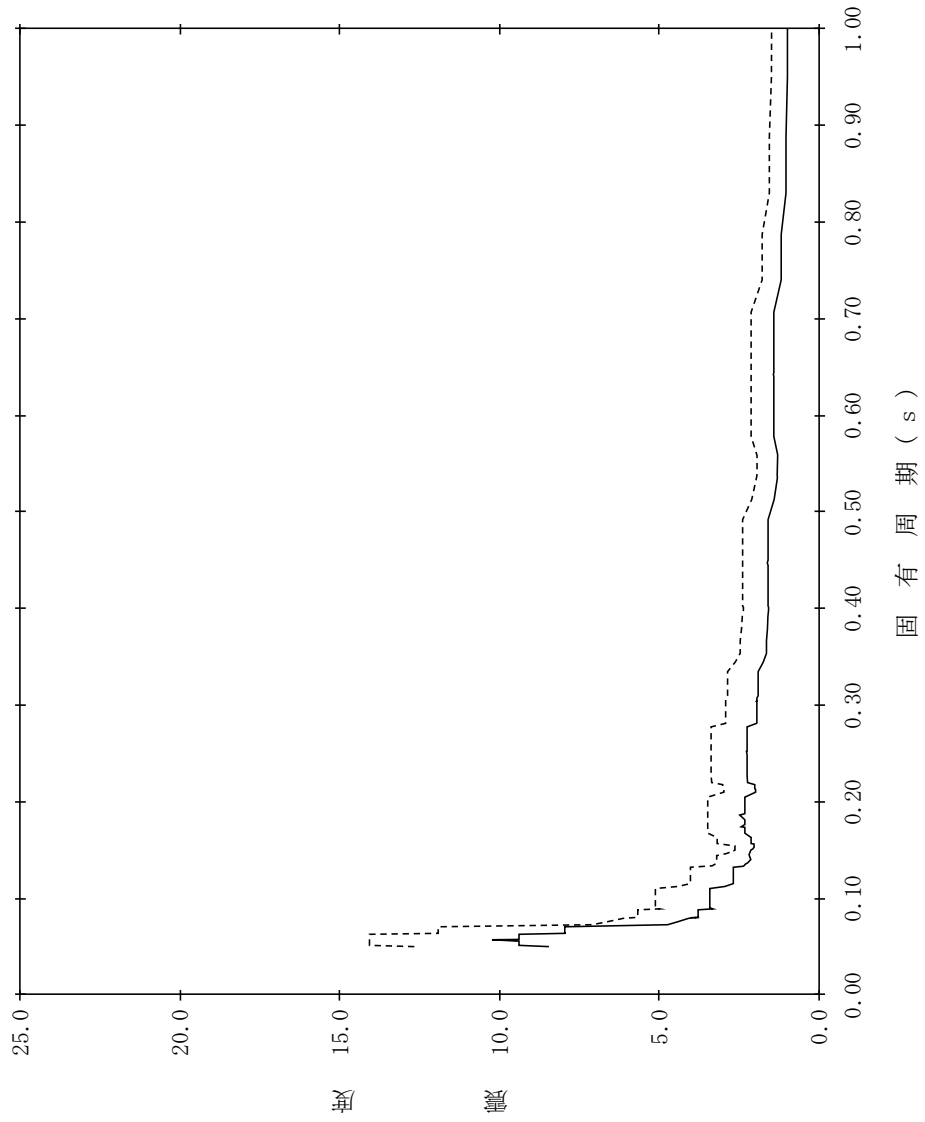
【NS2-CB-SsV-CB1】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-CB-SsV-CB2】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

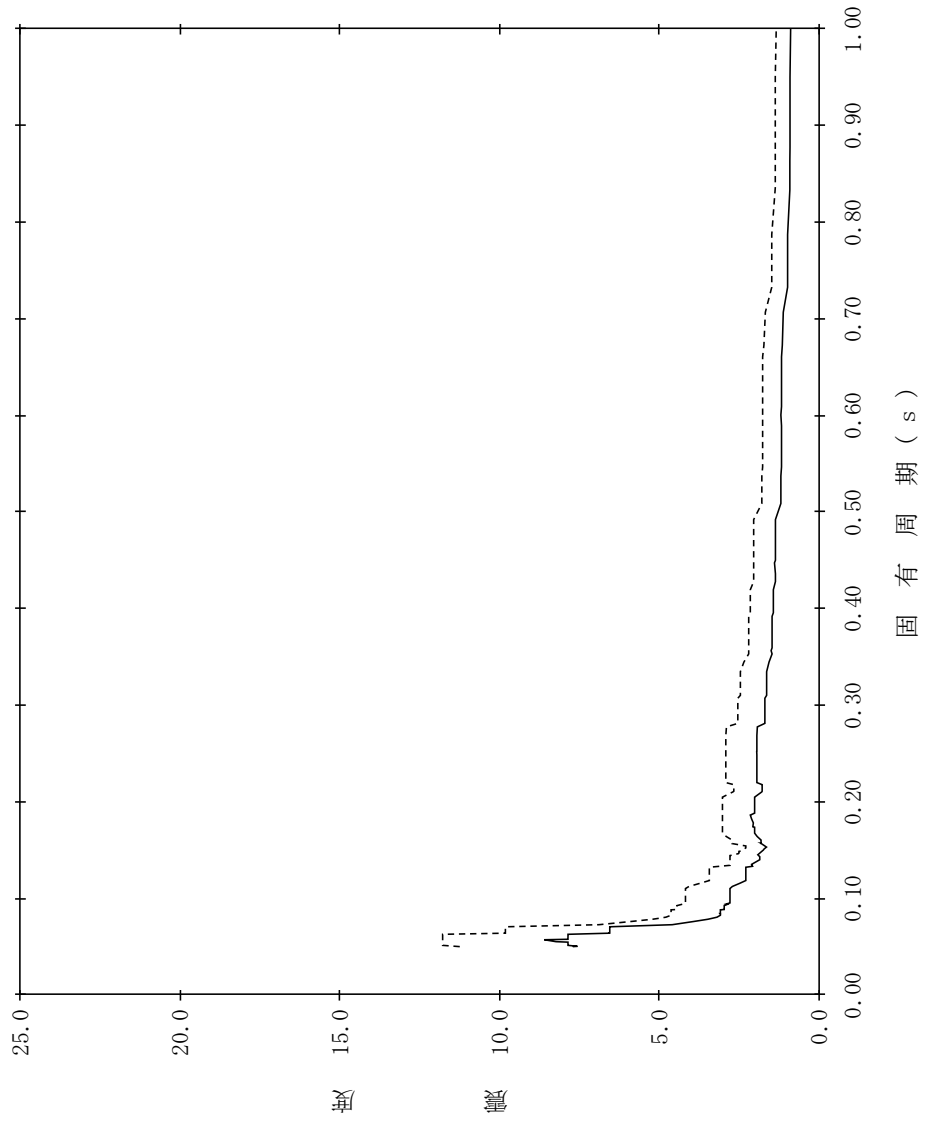


【NS2-CB-SsV-CB3】

構造物名：制御室建物
標高：EL22.050m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s

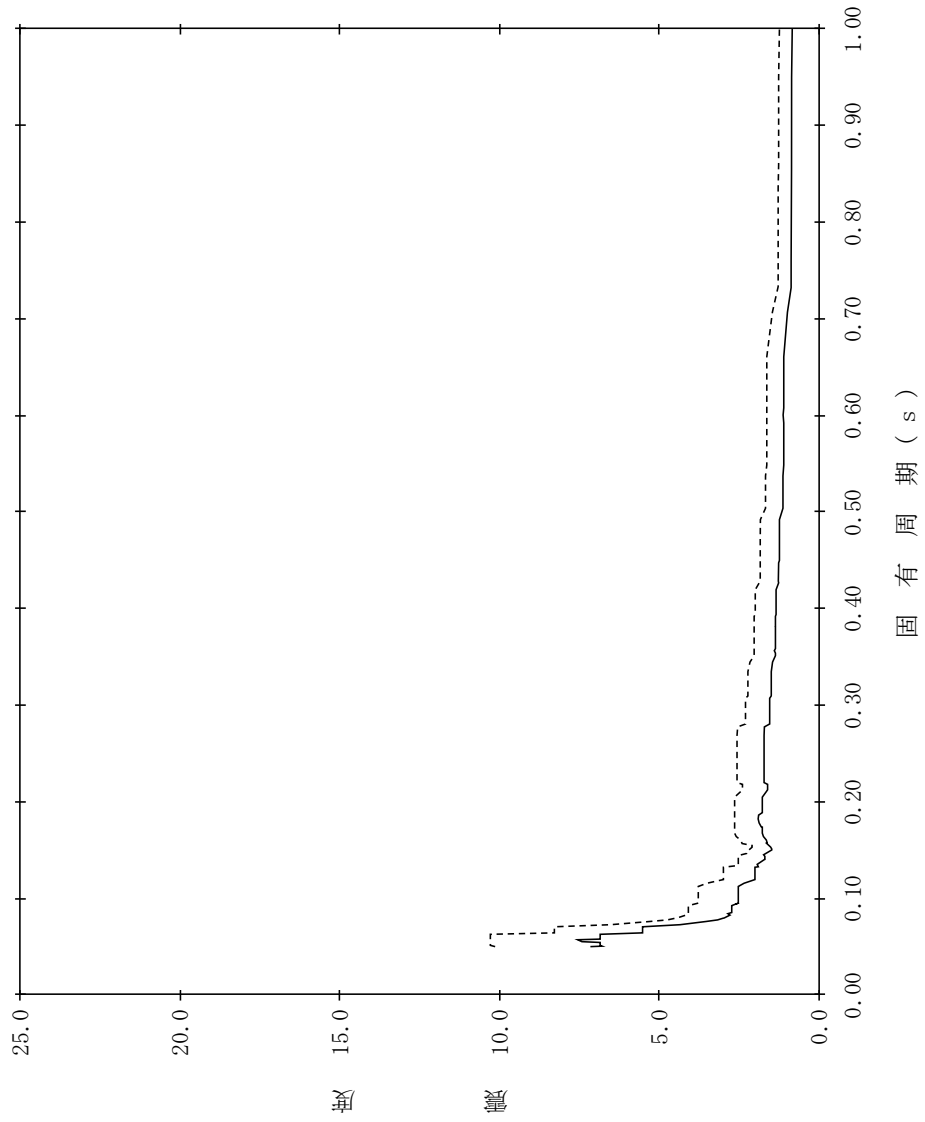
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



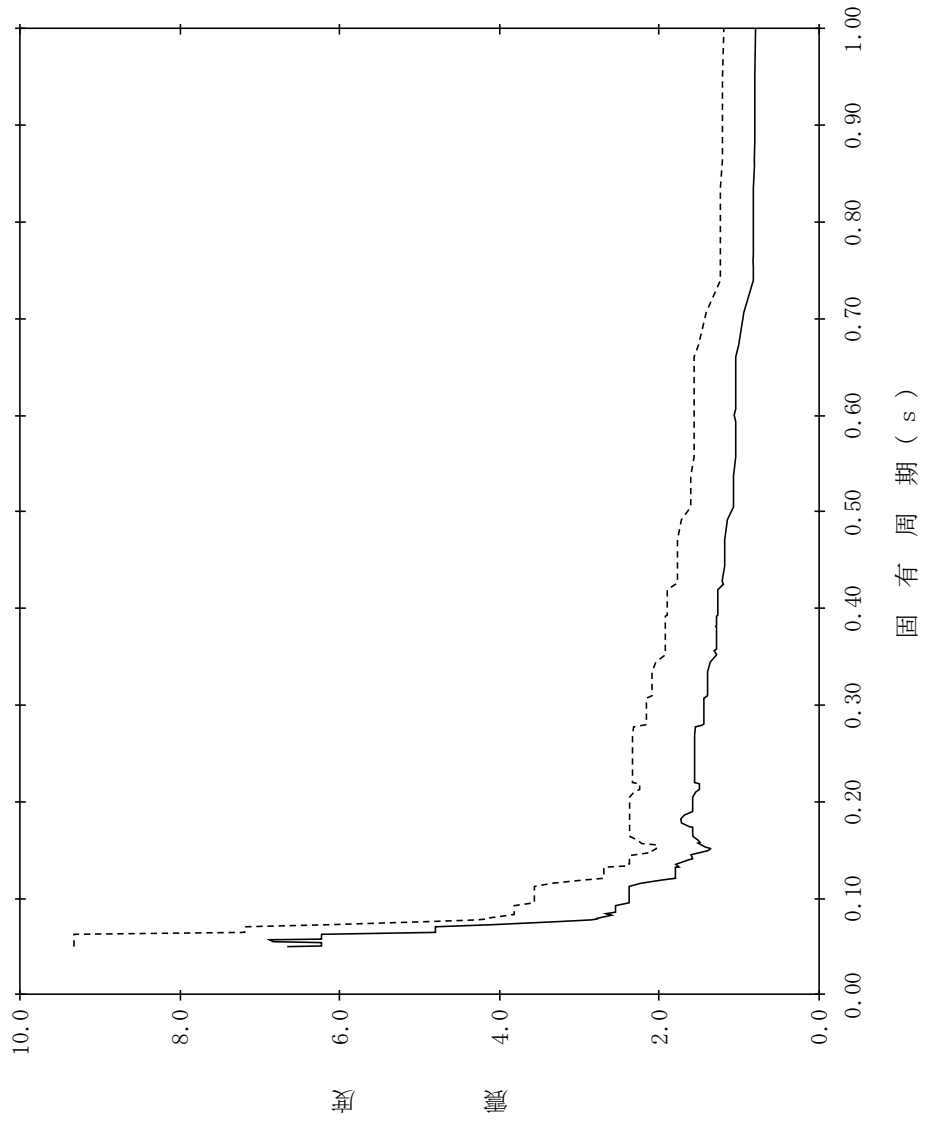
【NS2-CB-SsV-CB4】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



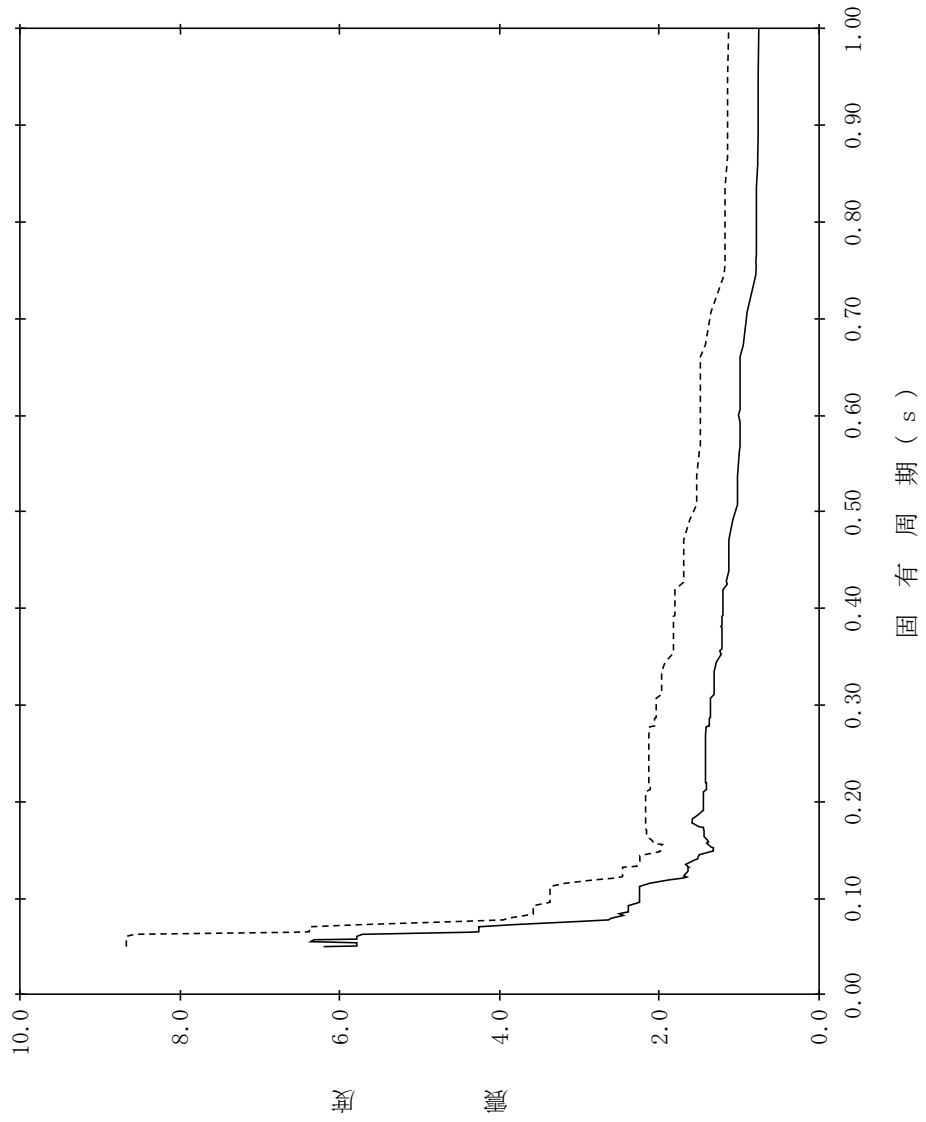
【NS2-CB-SsV-CB5】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



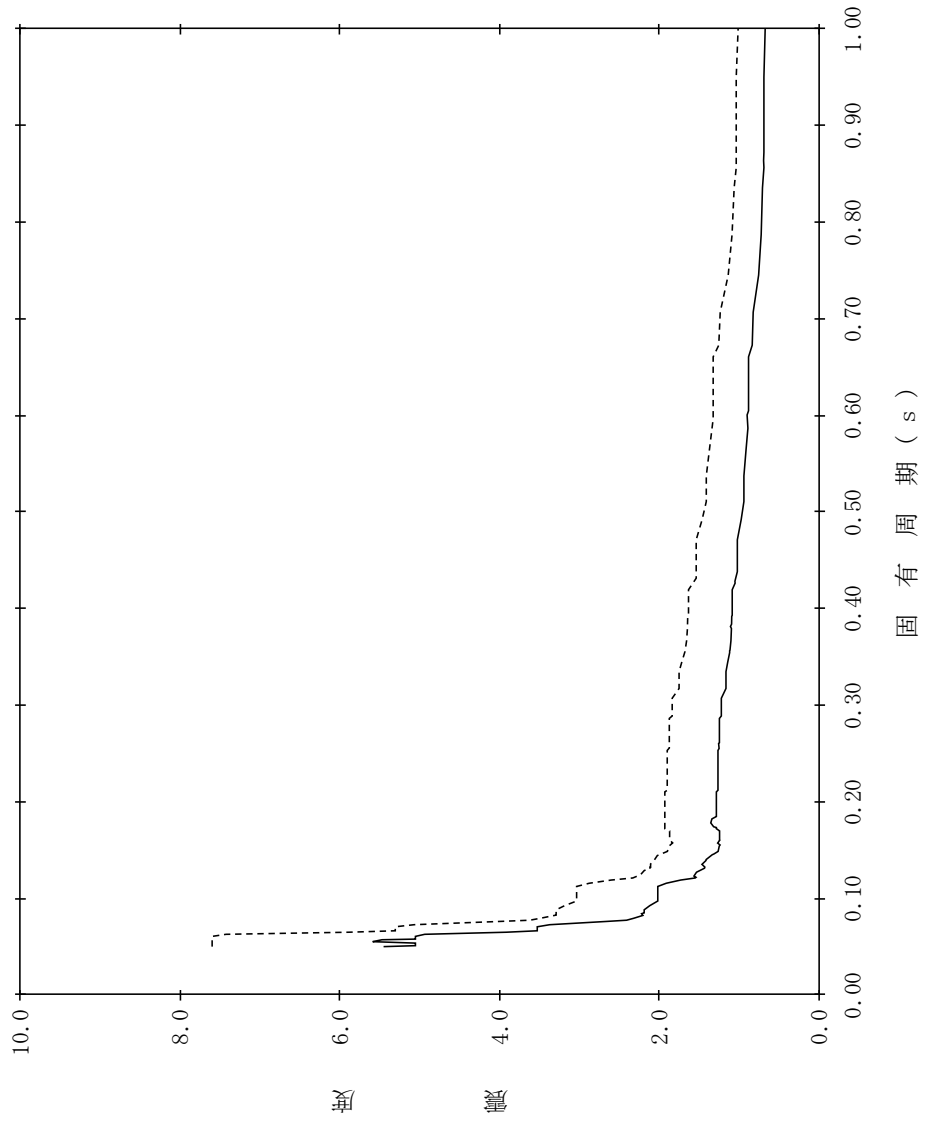
【NS2-CB-SsV-CB6】

構造物名：制御室建物
 標高：EL22.050m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



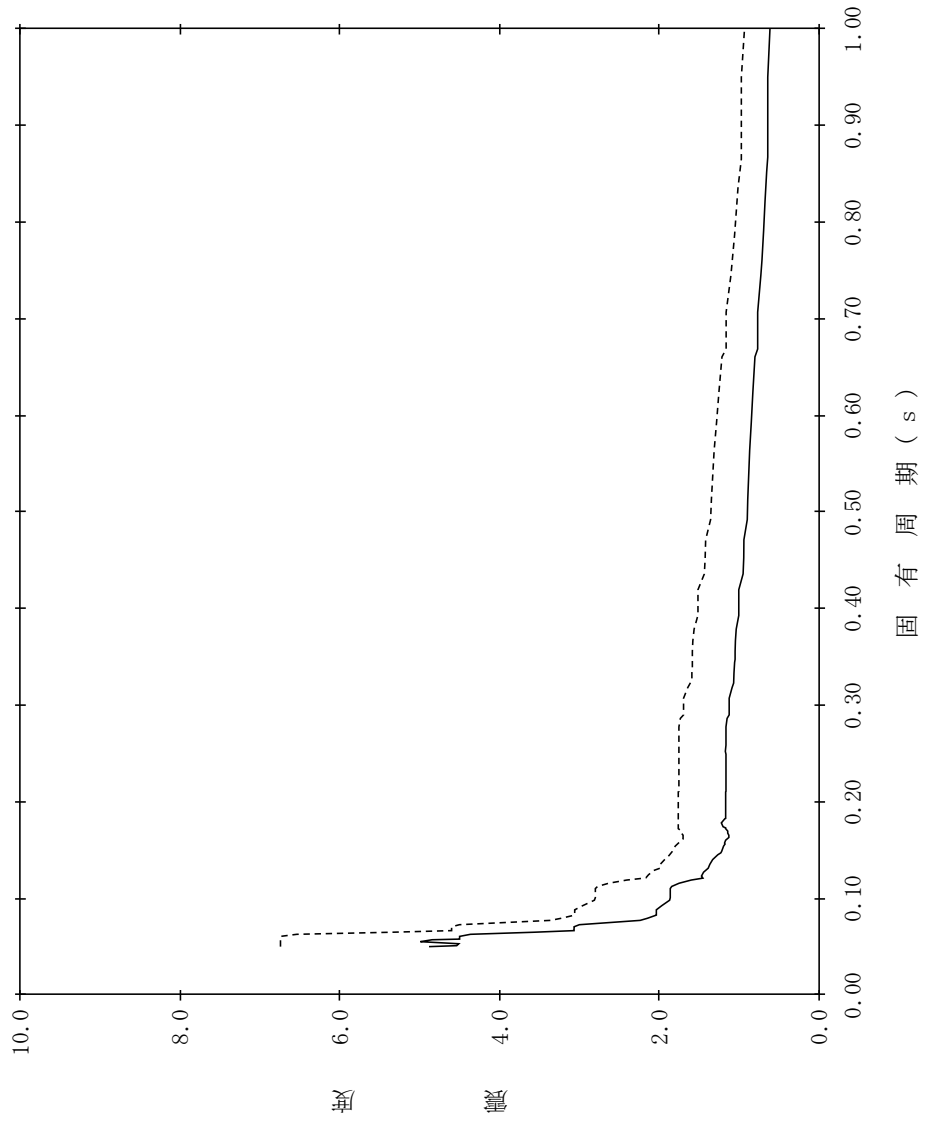
【NS2-CB-SsV-CB7】

構造物名：制御室建物
標高：EL22.050m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

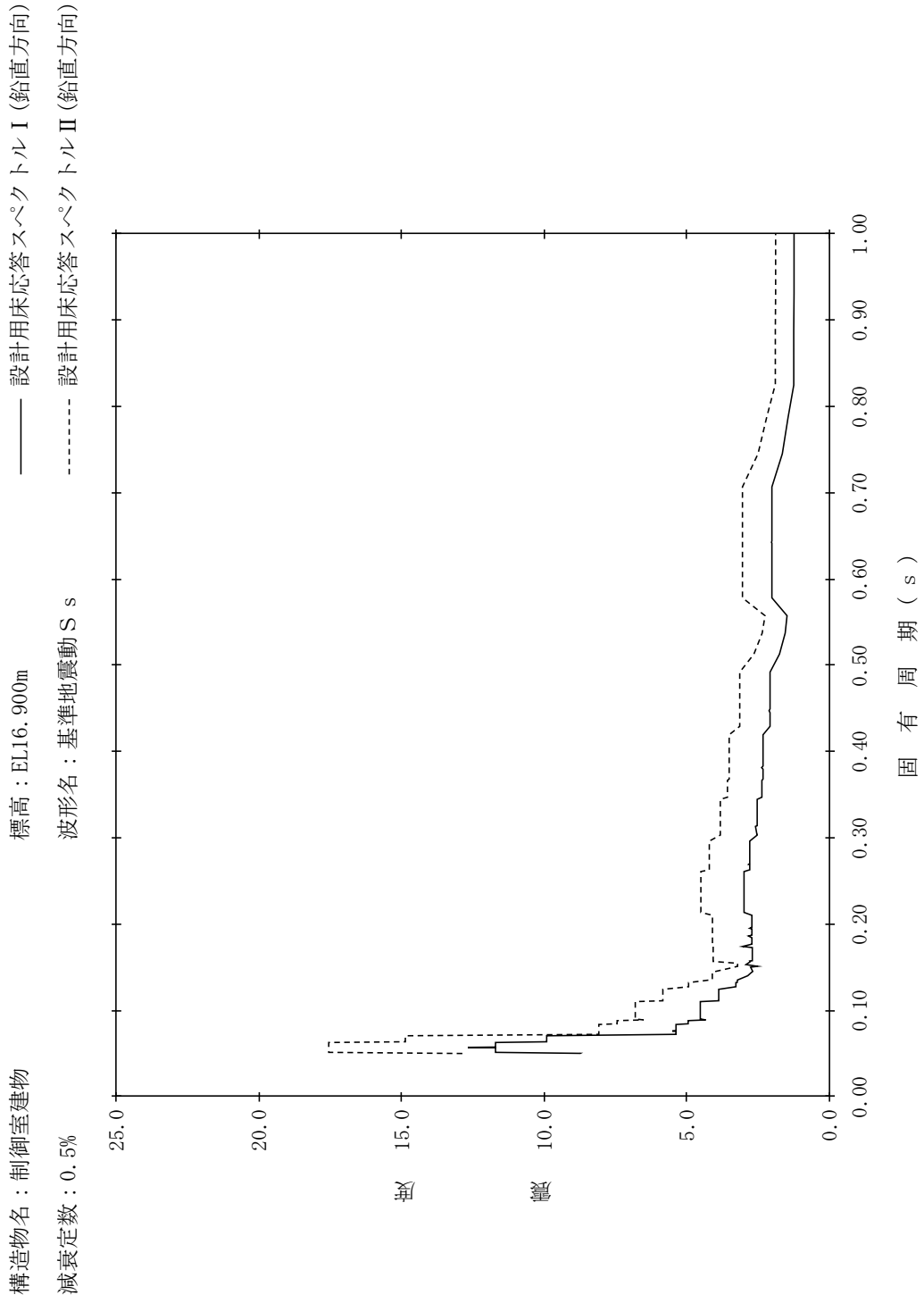


【NS2-CB-SsV-CB8】

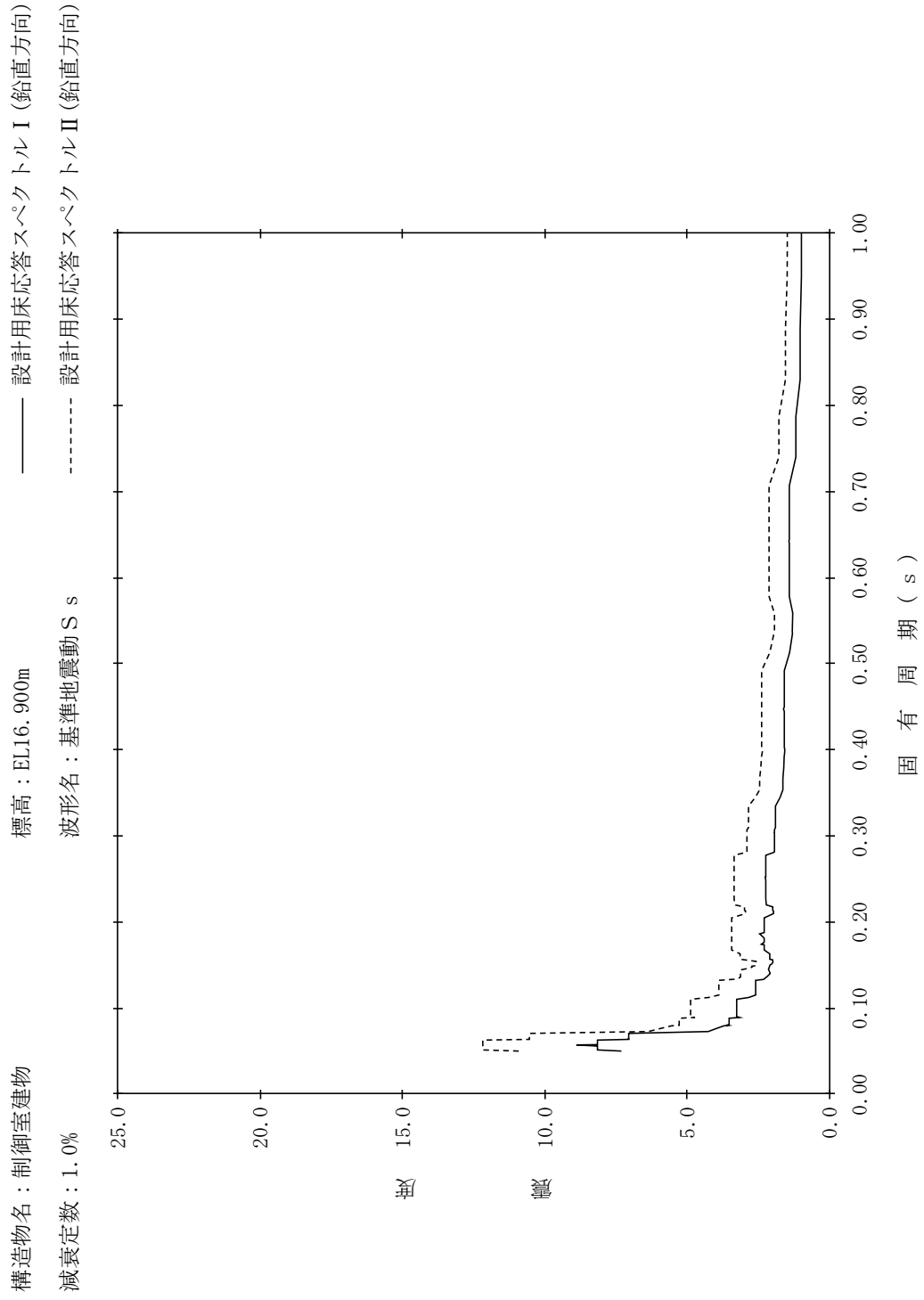
構造物名：制御室建物
標高：EL22.050m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-CB-SsV-CB9】

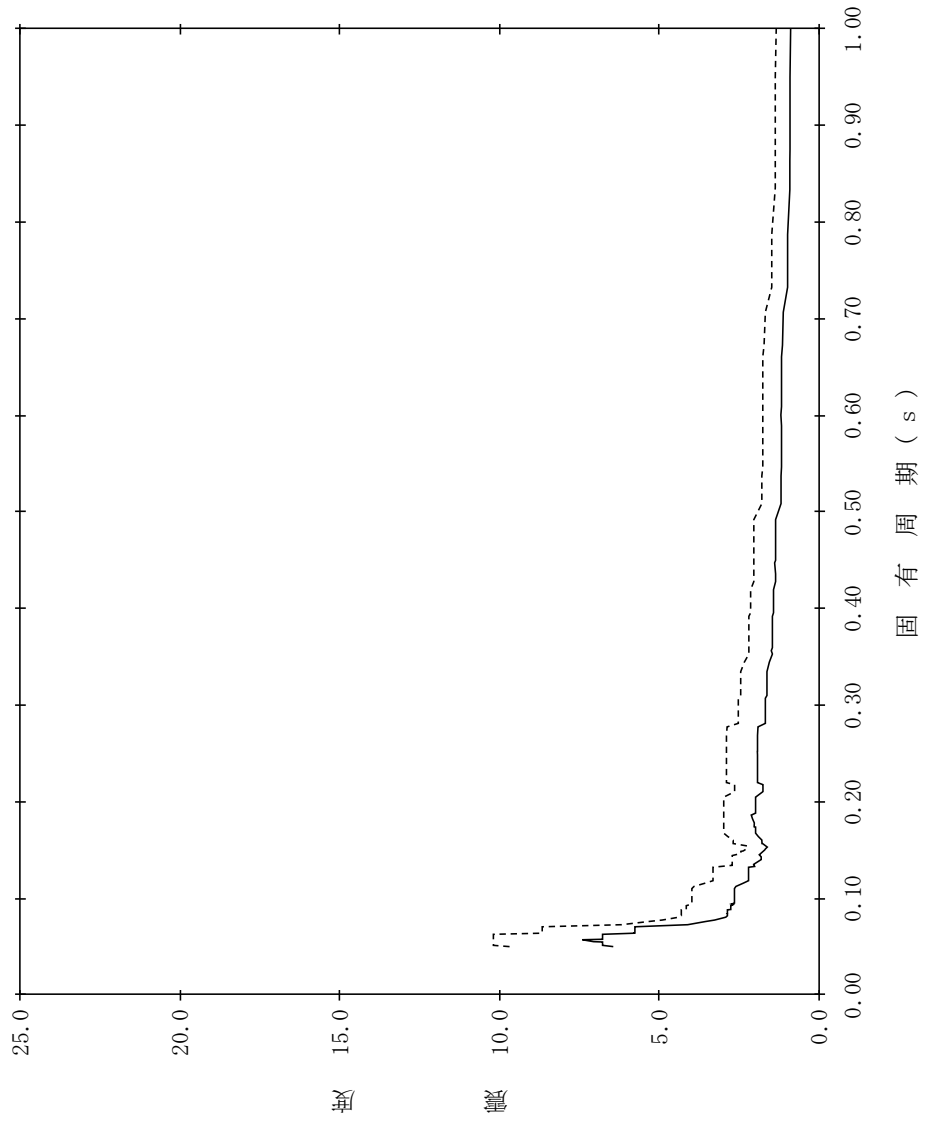


【NS2-CB-SsV-CB10】



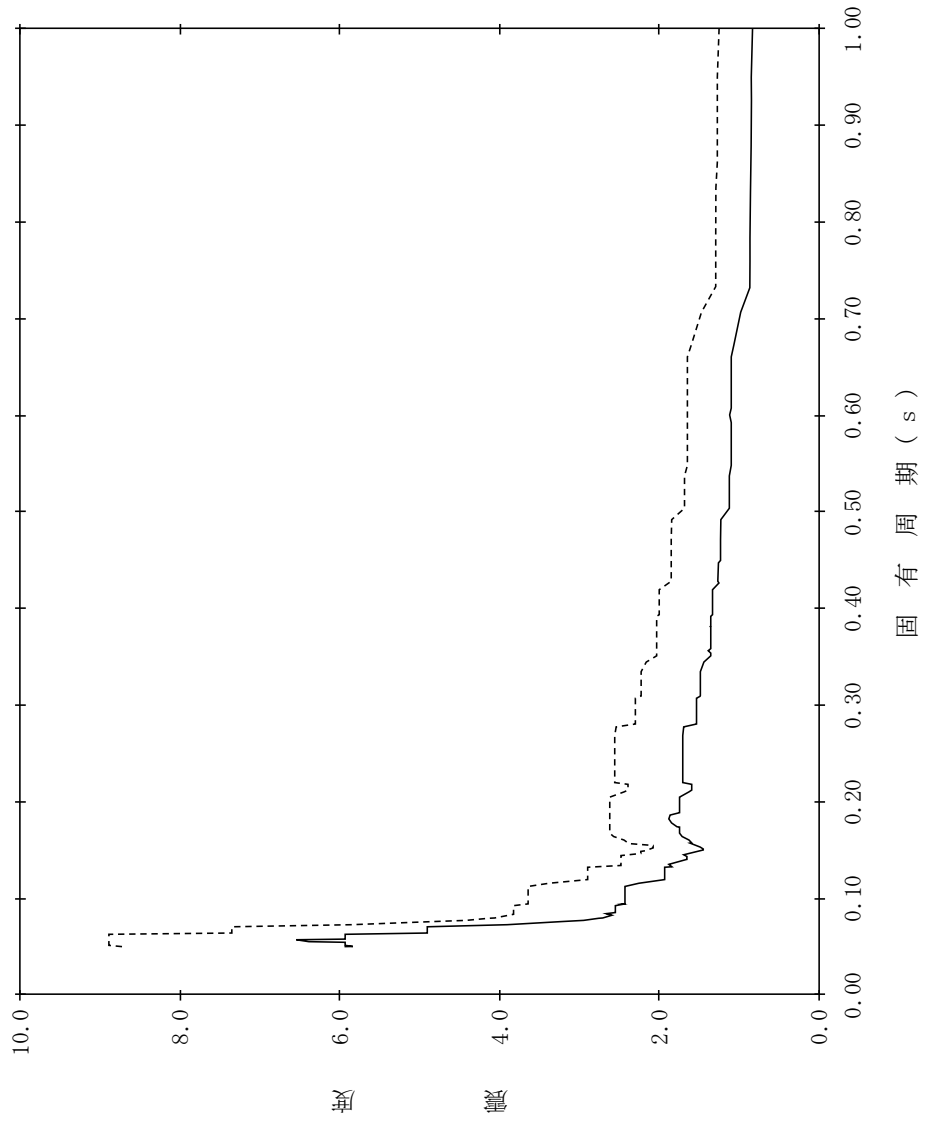
【NS2-CB-SsV-CB11】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



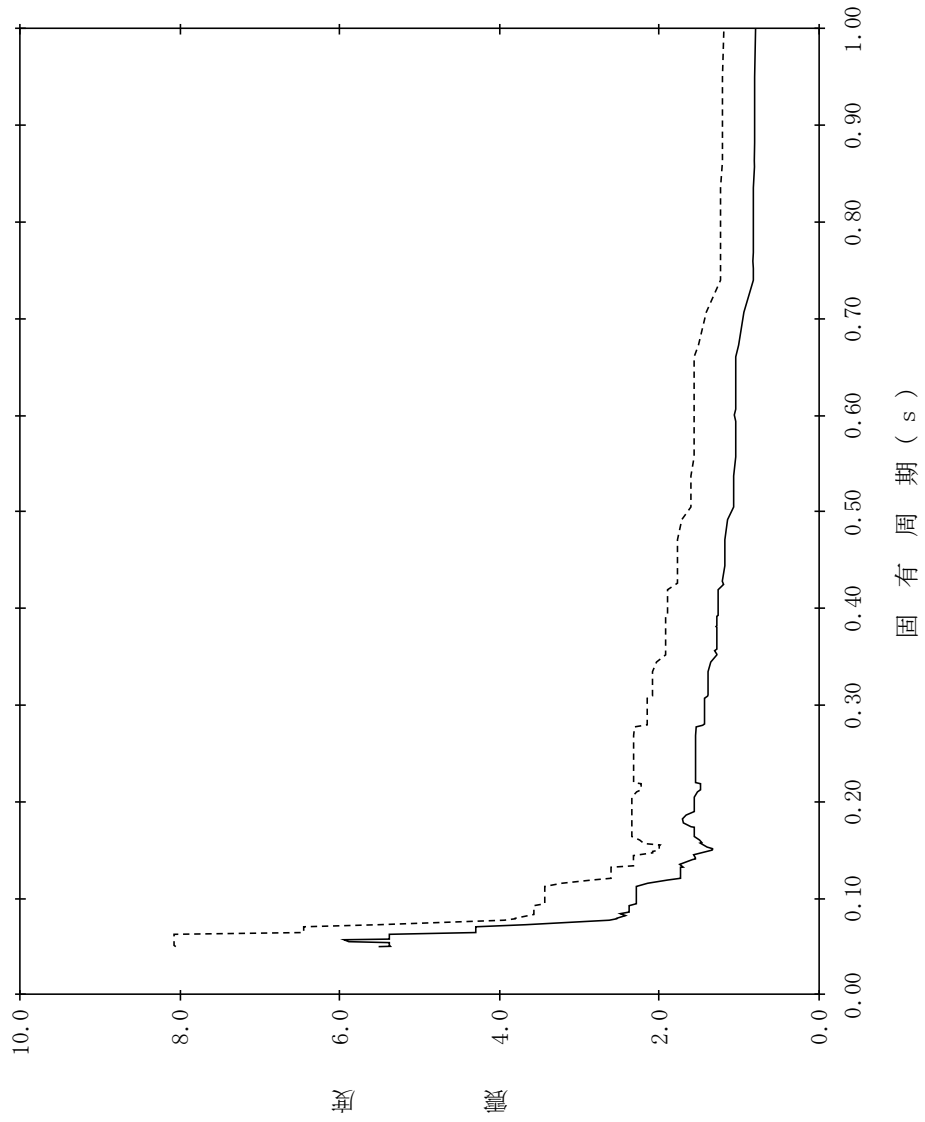
【NS2-CB-SsV-CB12】

構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-CB-SsV-CB13】

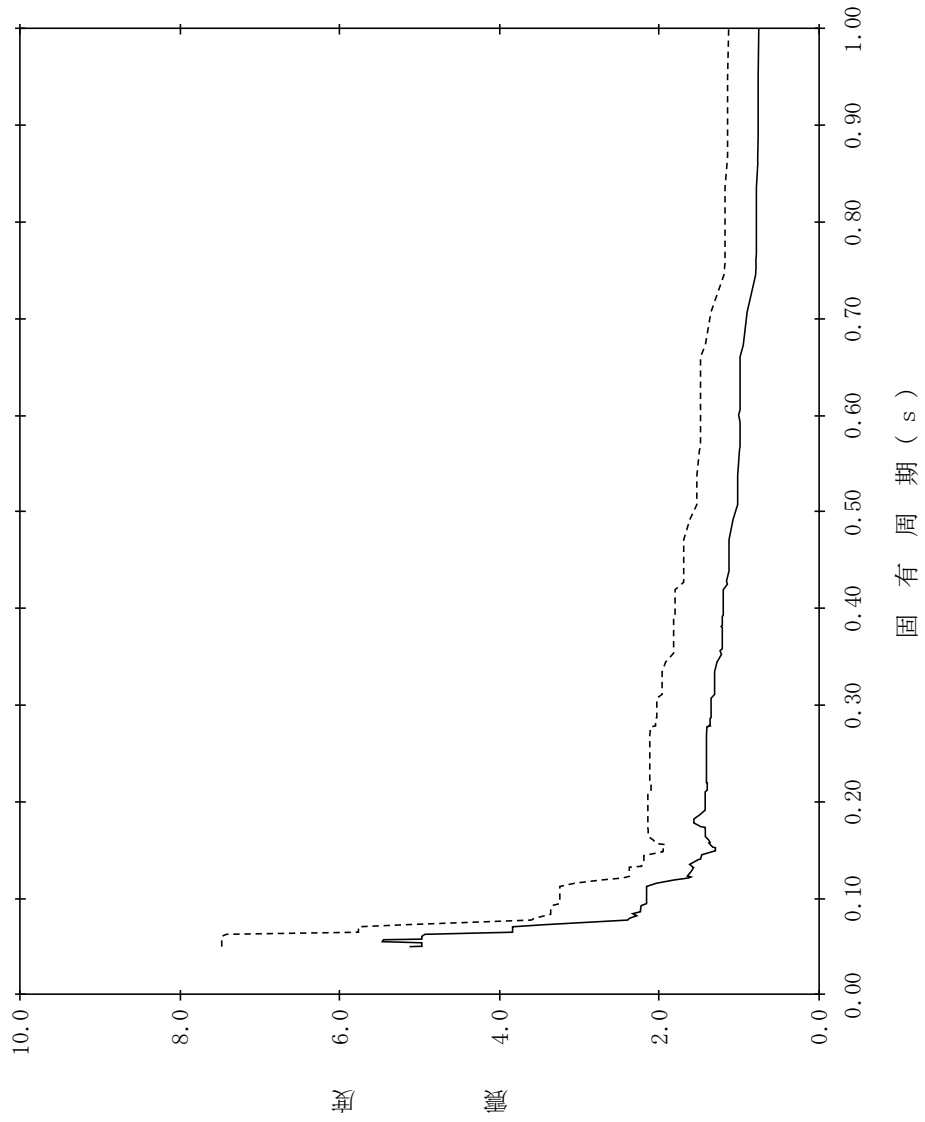
構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-CB-SsV-CB14】

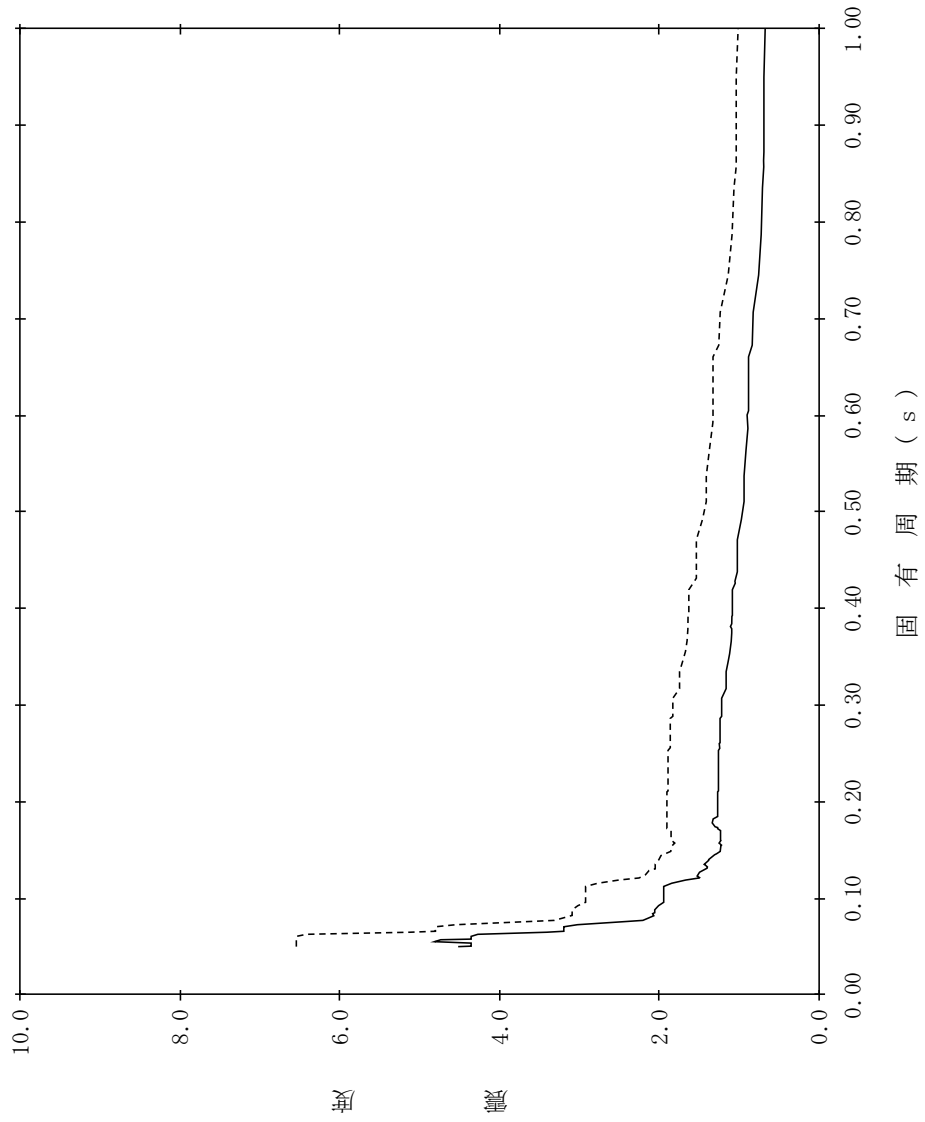
構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：3.0%

—— 設計用床応答スペクトルⅠ（鉛直方向）
----- 設計用床応答スペクトルⅡ（鉛直方向）



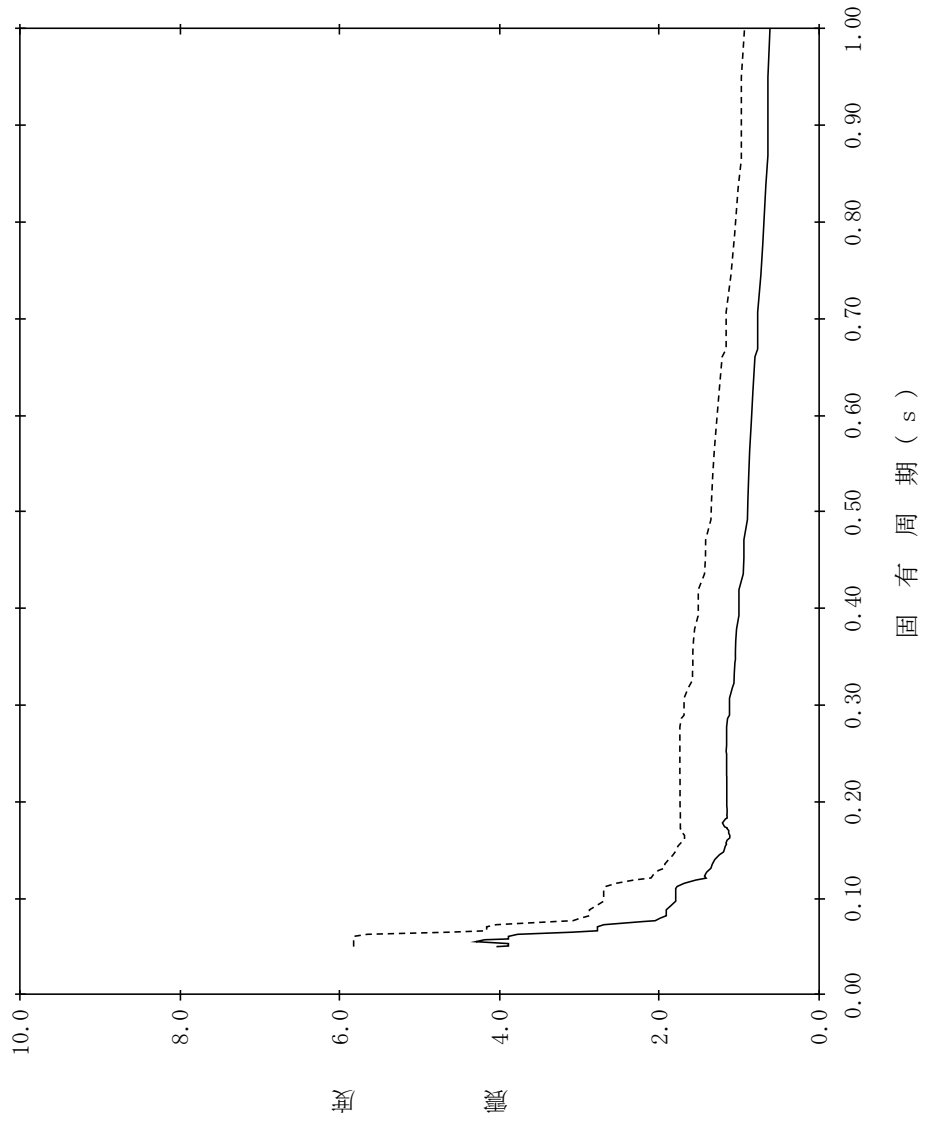
【NS2-CB-SsV-CB15】

構造物名：制御室建物
標高：EL16.900m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



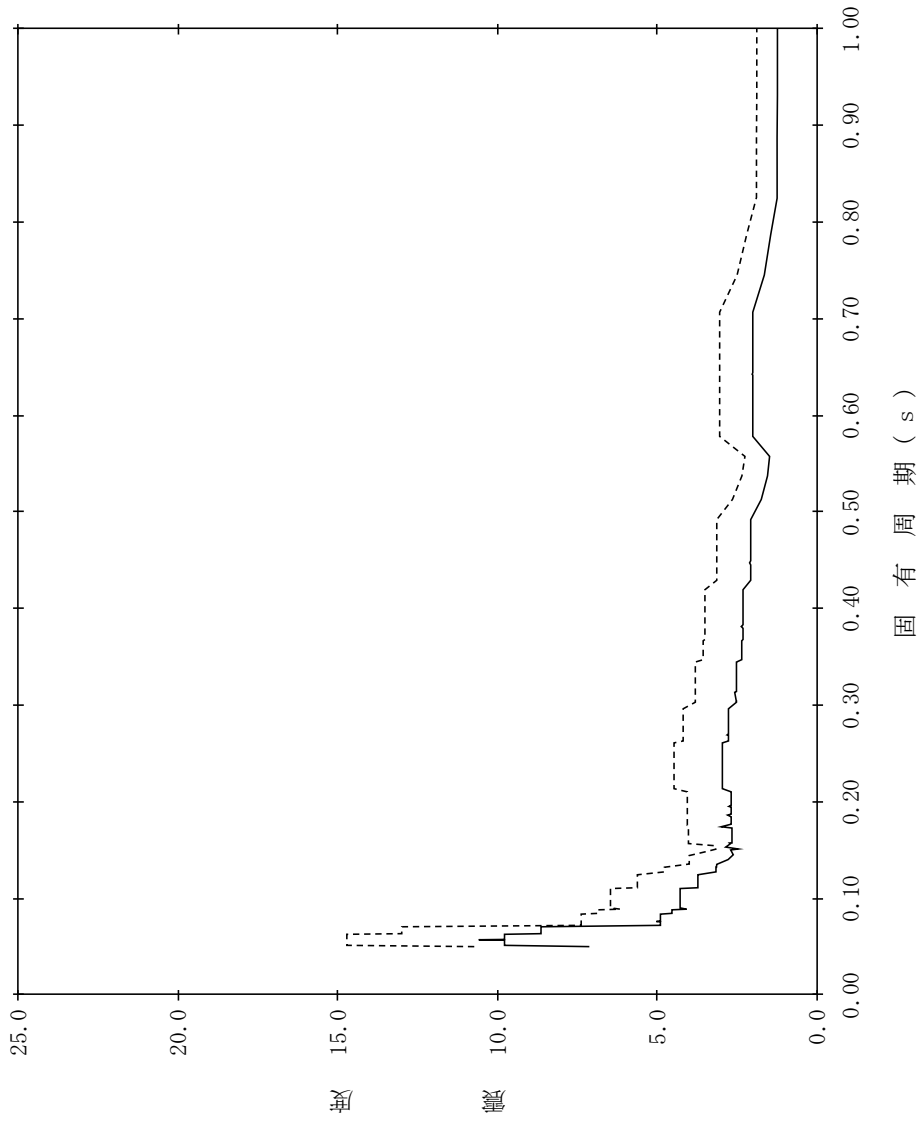
【NS2-CB-SsV-CB16】

構造物名：制御室建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



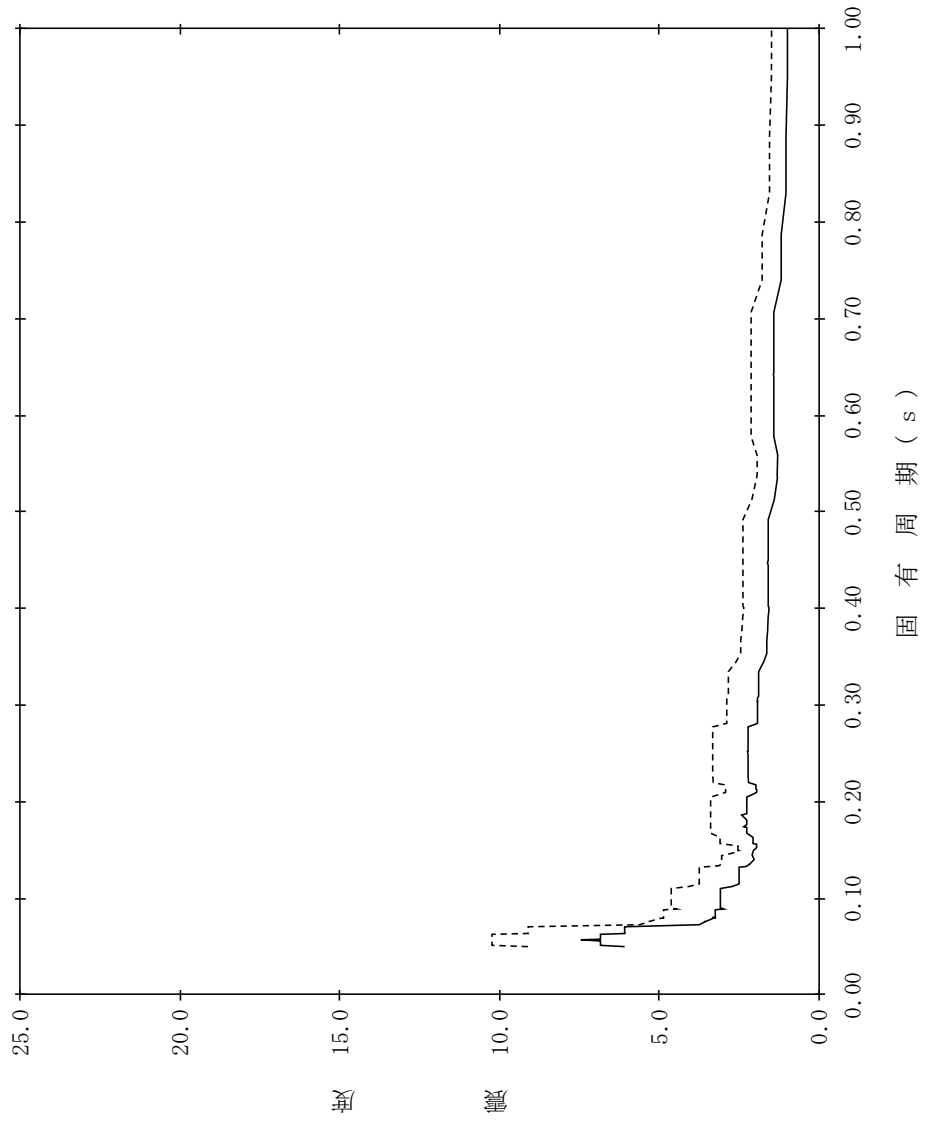
【NS2-CB-SsV-CB17】

構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

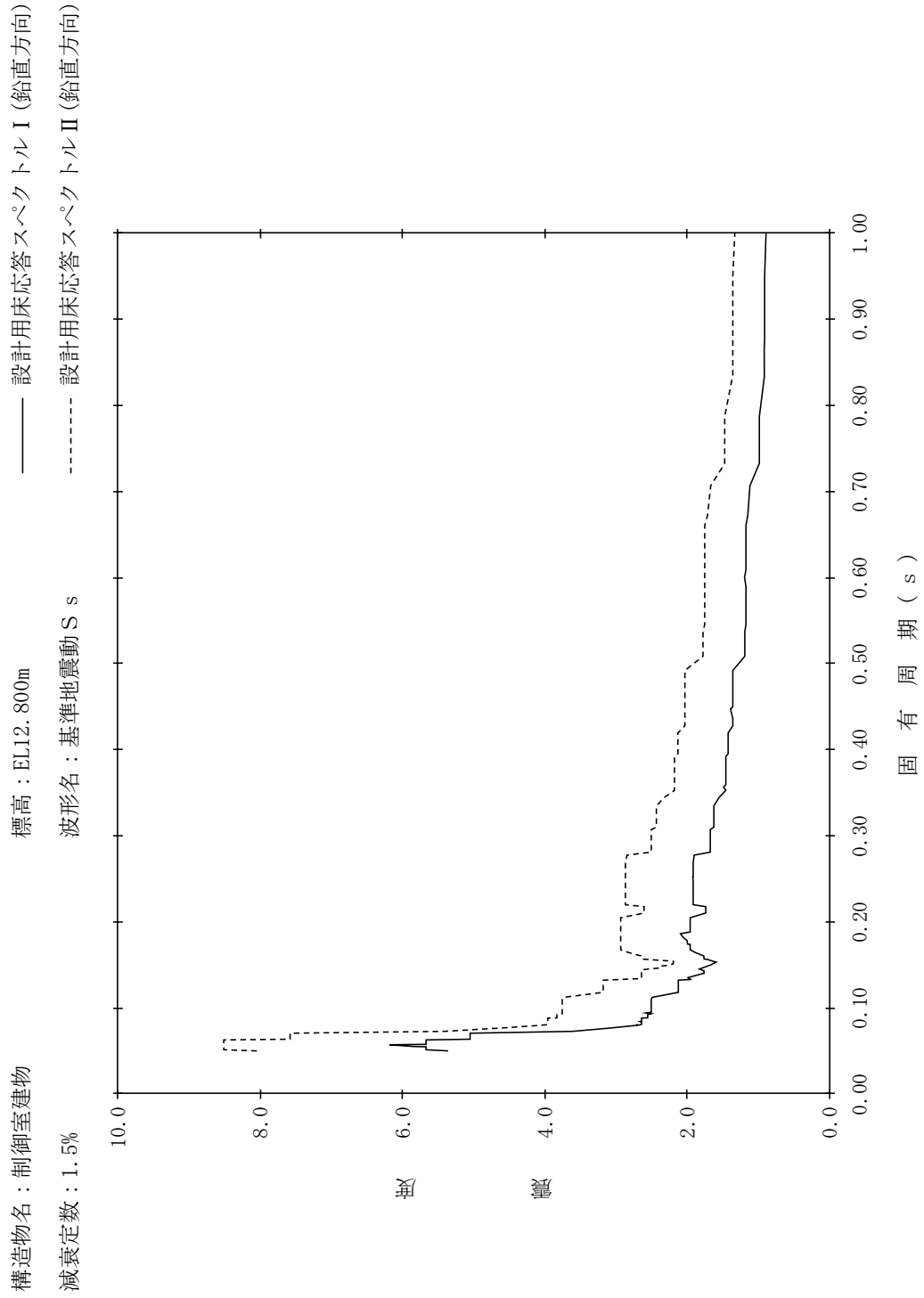


【NS2-CB-SsV-CB18】

構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

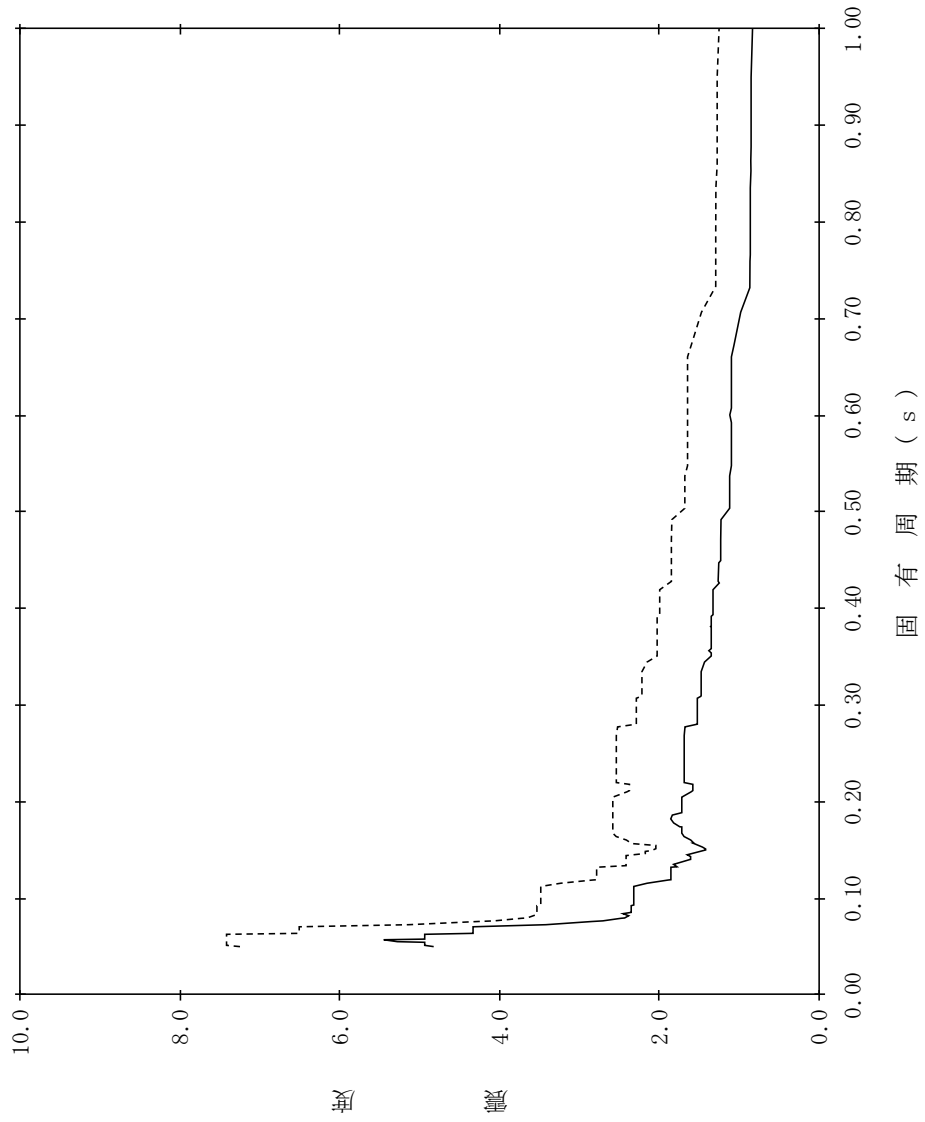


【NS2-CB-SsV-CB19】



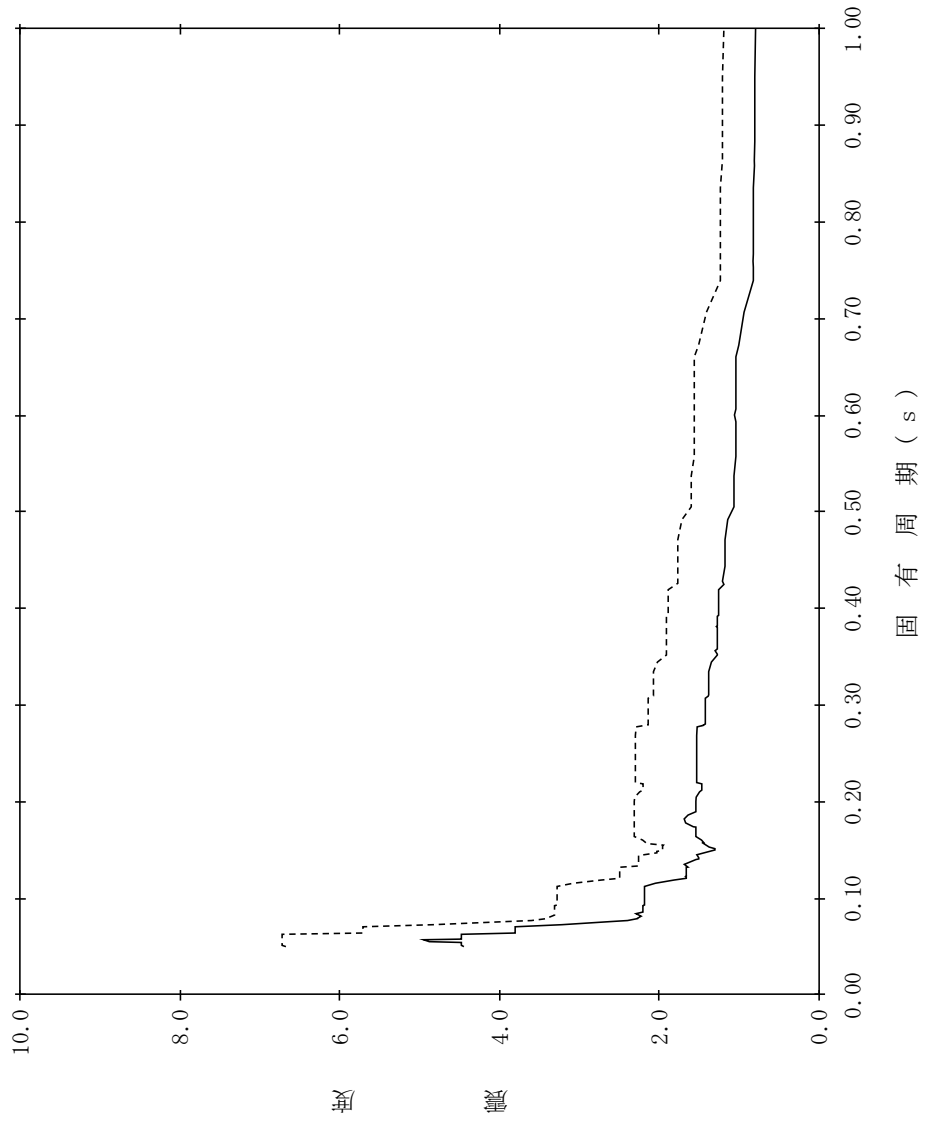
【NS2-CB-SsV-CB20】

構造物名：制御室建物
 標高：EL12.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

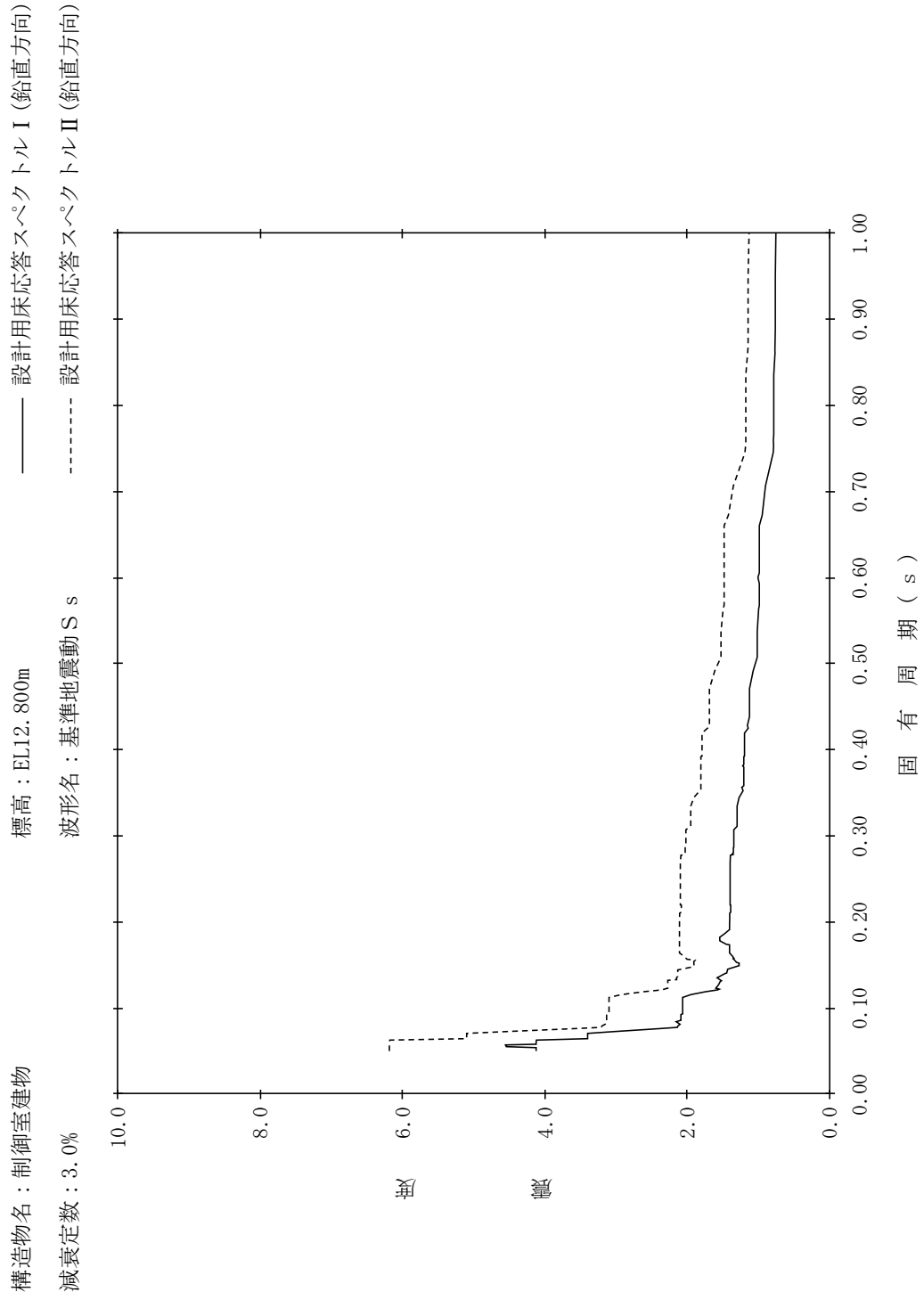


【NS2-CB-SsV-CB21】

構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

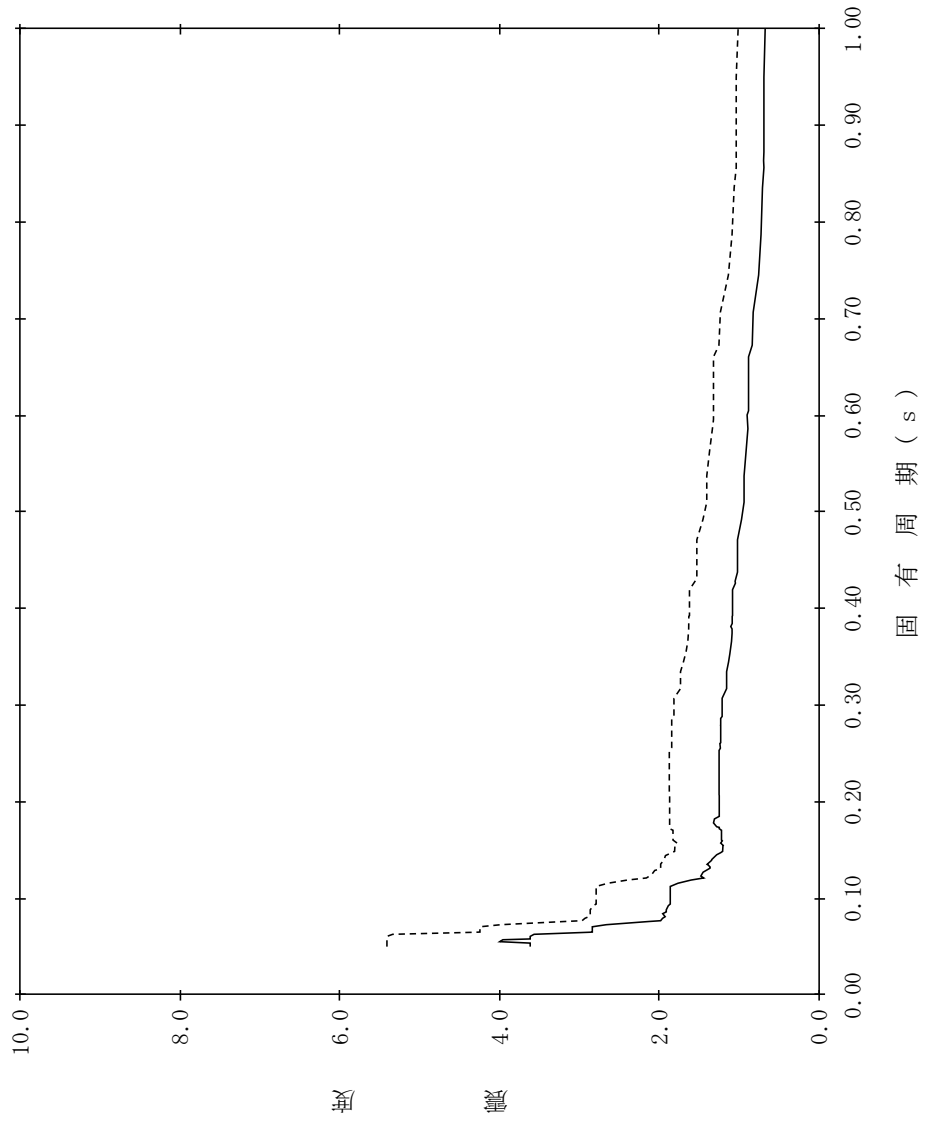


【NS2-CB-SsV-CB22】



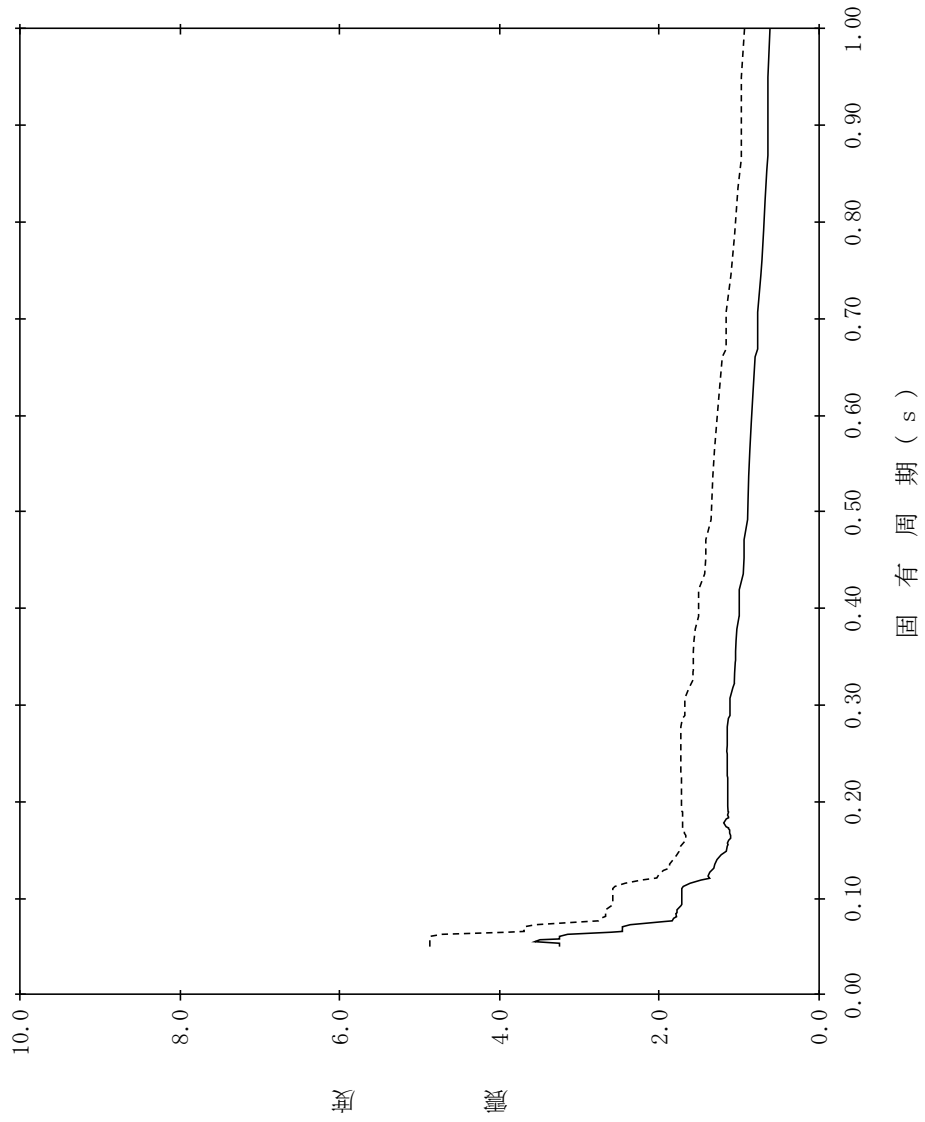
【NS2-CB-SsV-CB23】

構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：4.0%
—— 設計用床応答スペクトルⅠ（鉛直方向）
----- 設計用床応答スペクトルⅡ（鉛直方向）



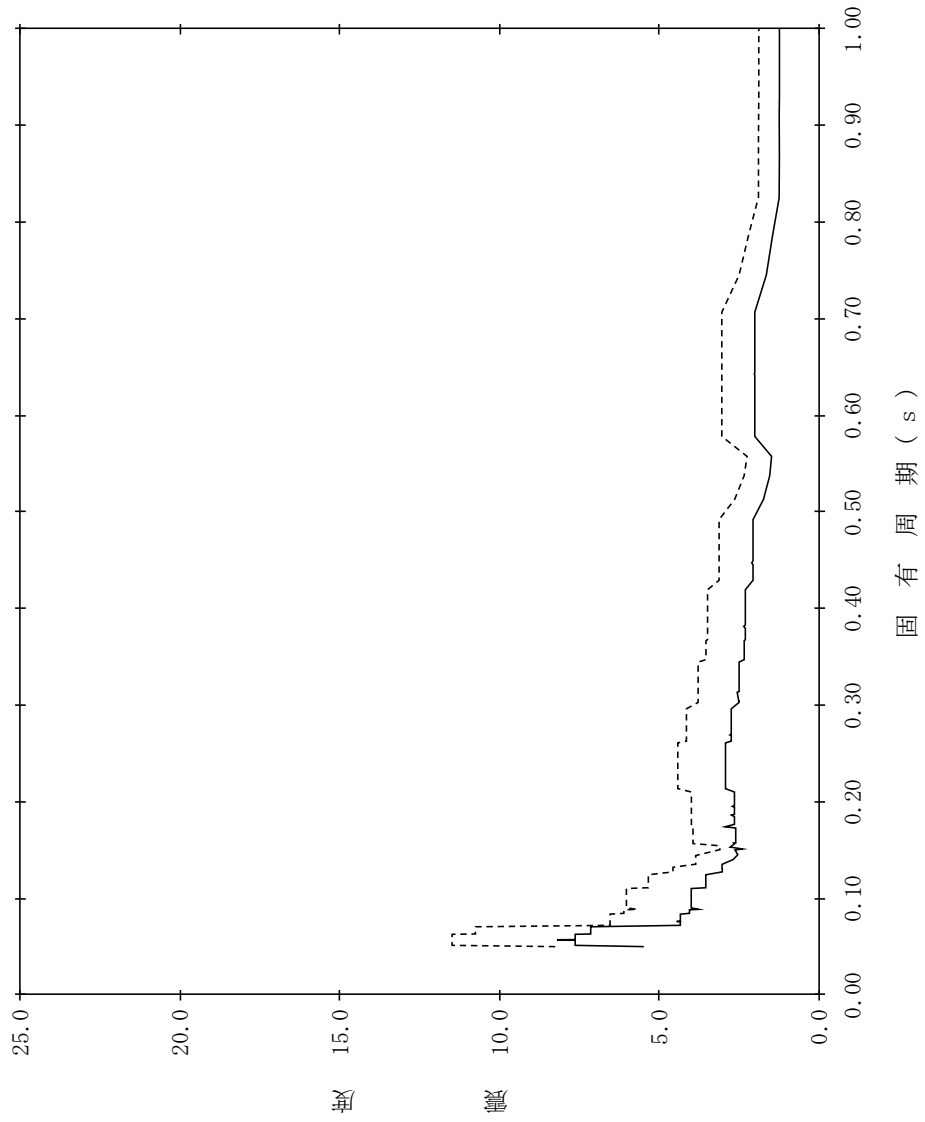
【NS2-CB-SsV-CB24】

構造物名：制御室建物
標高：EL12.800m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

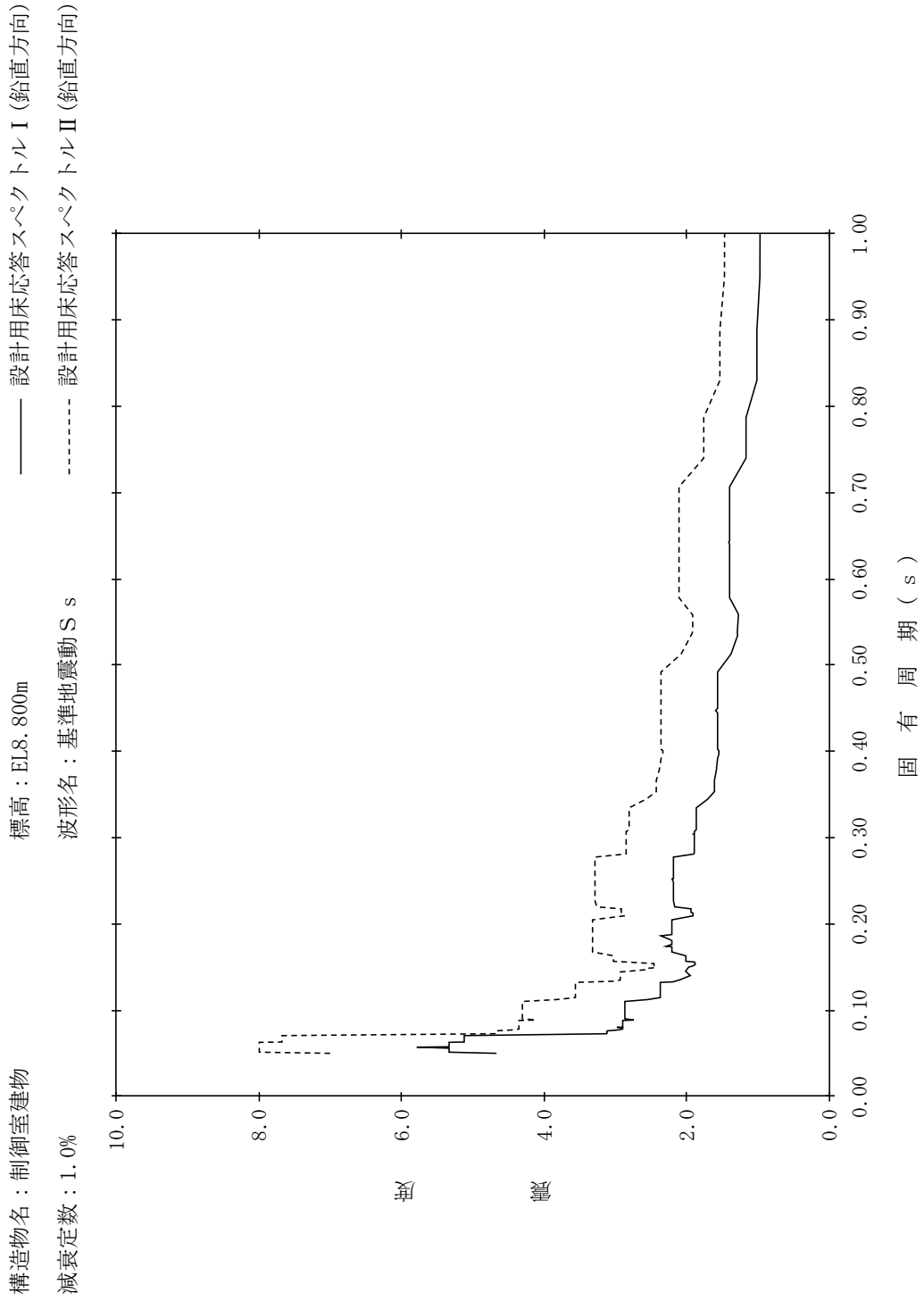


【NS2-CB-SsV-CB25】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

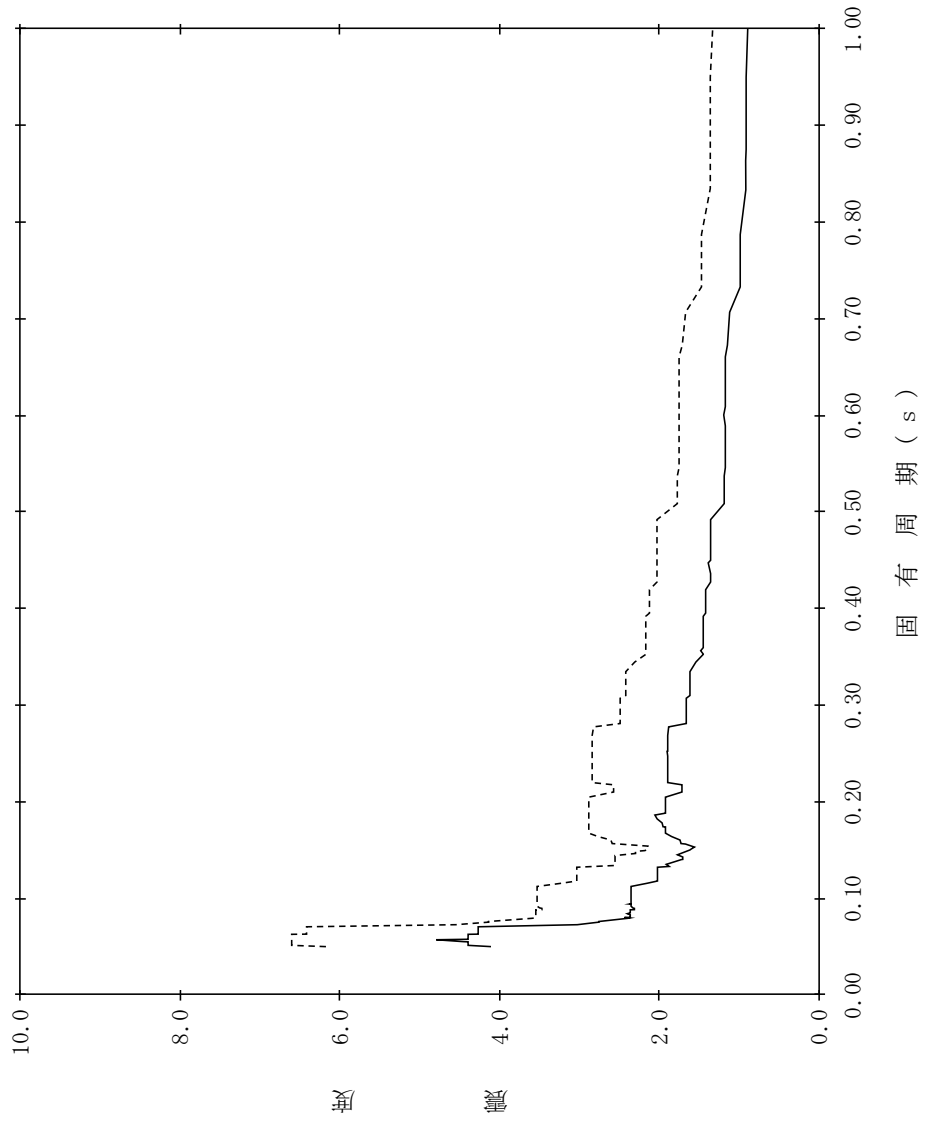


【NS2-CB-SsV-CB26】



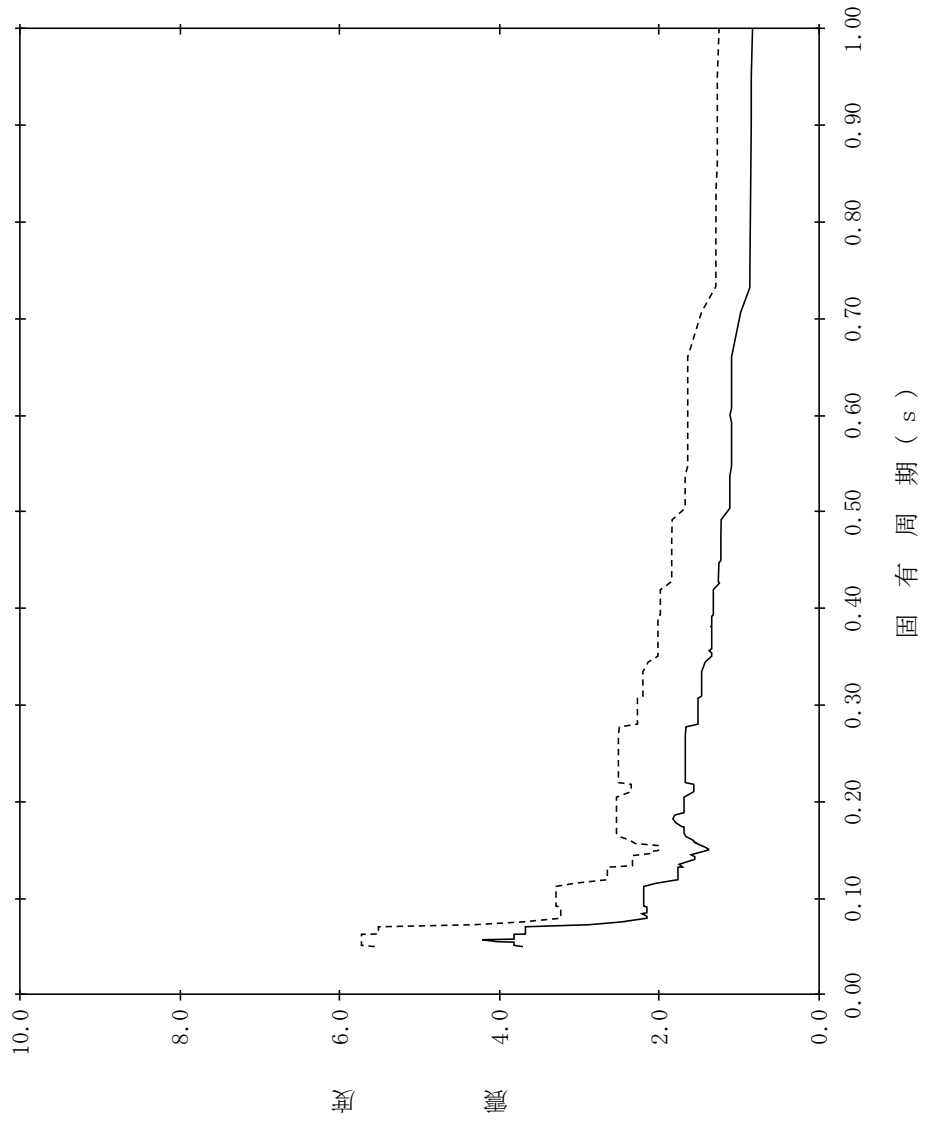
【NS2-CB-SsV-CB27】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



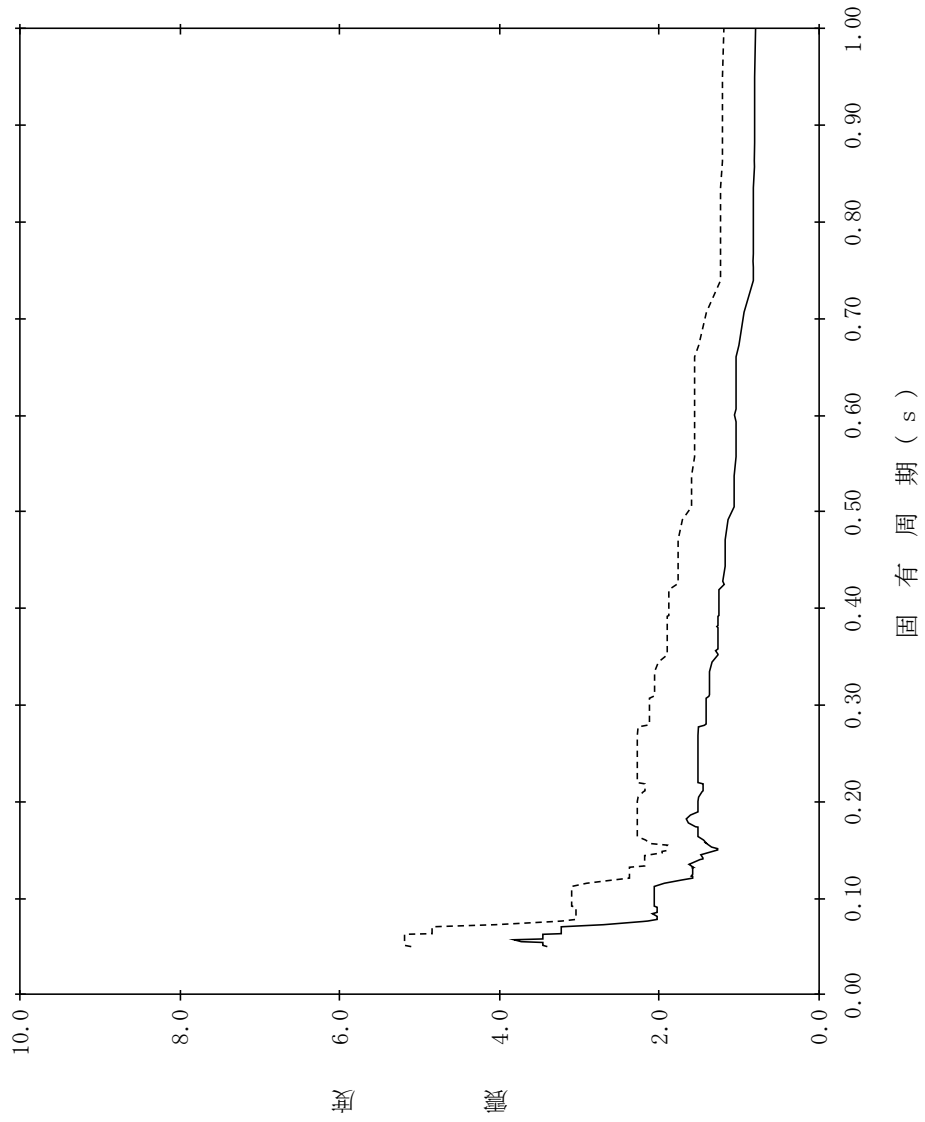
【NS2-CB-SsV-CB28】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



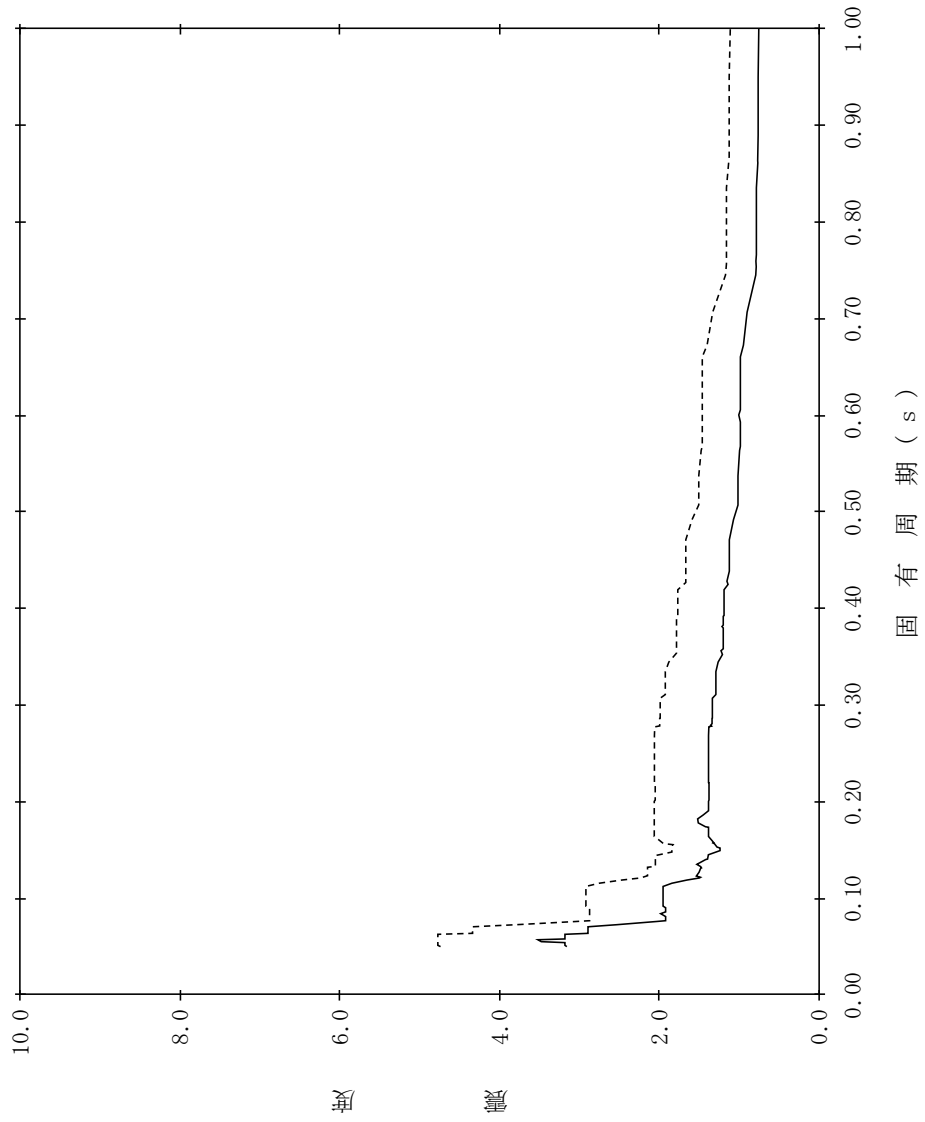
【NS2-CB-SsV-CB29】

構造物名：制御室建物
標高：EL8.800m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



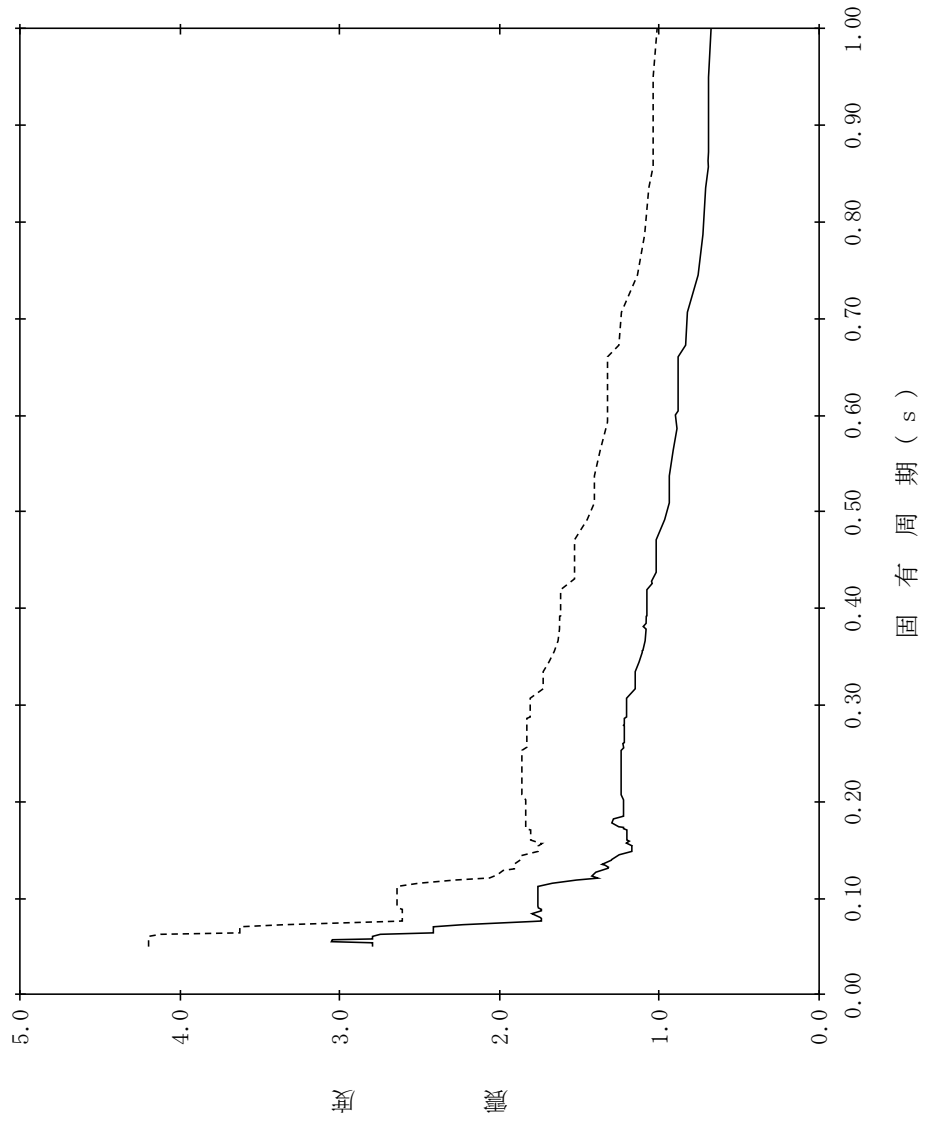
【NS2-CB-SsV-CB30】

構造物名：制御室建物
標高：EL8.800m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



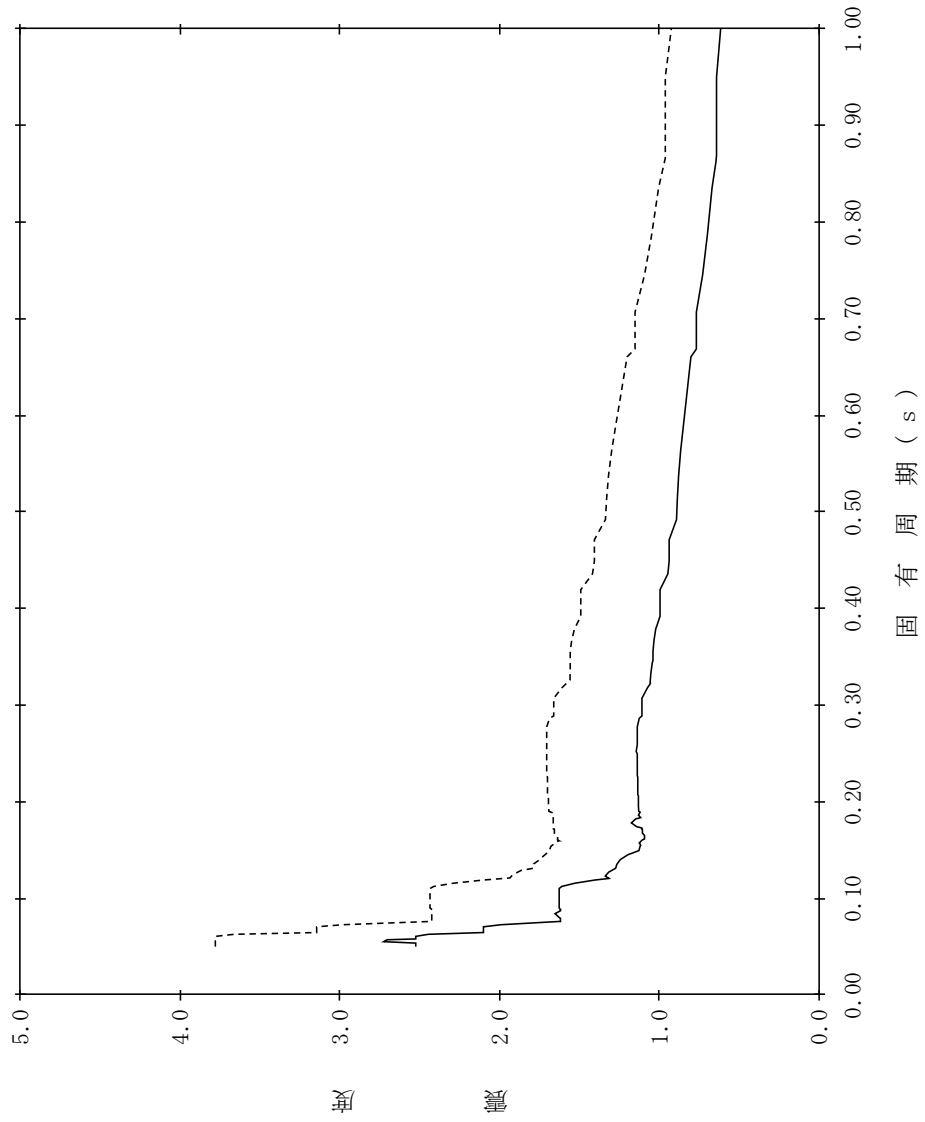
【NS2-CB-SsV-CB31】

構造物名：制御室建物
標高：EL8.800m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



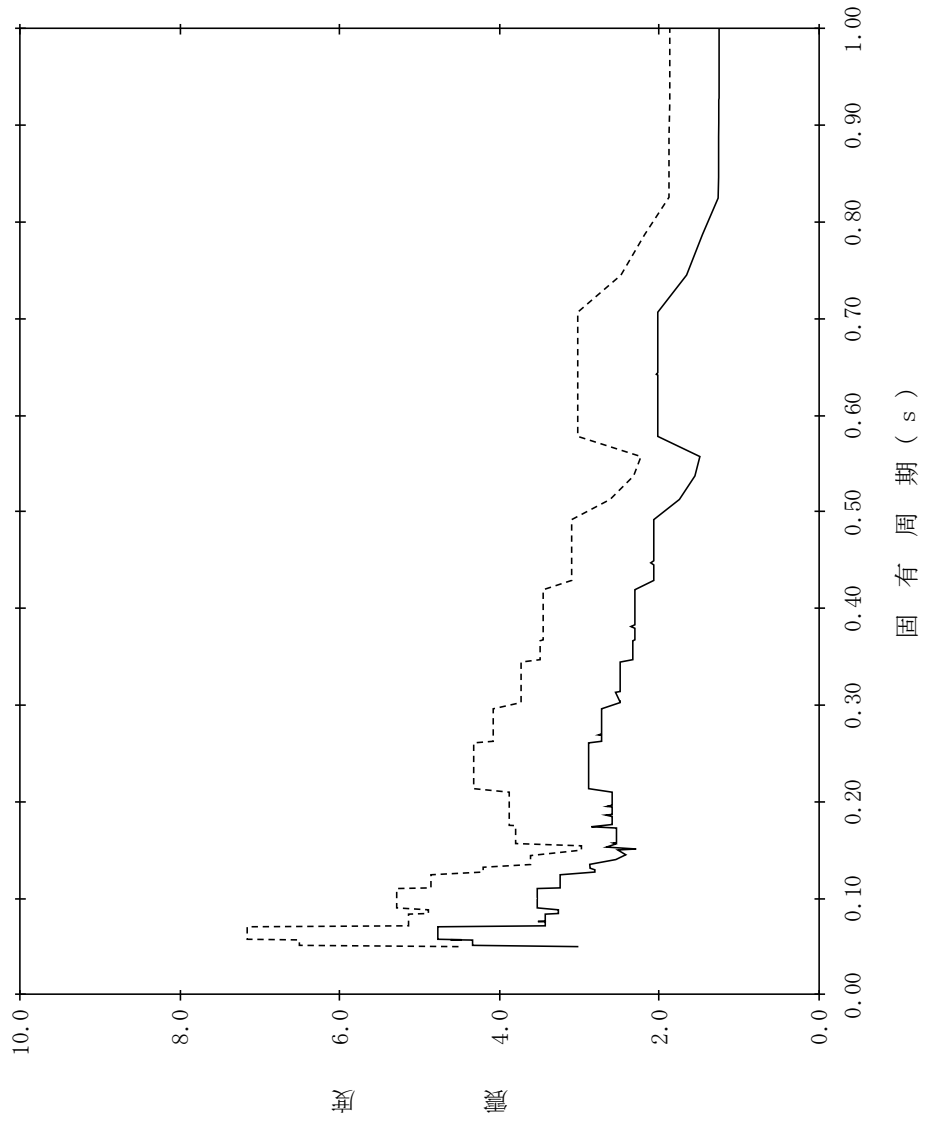
【NS2-CB-SsV-CB32】

構造物名：制御室建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

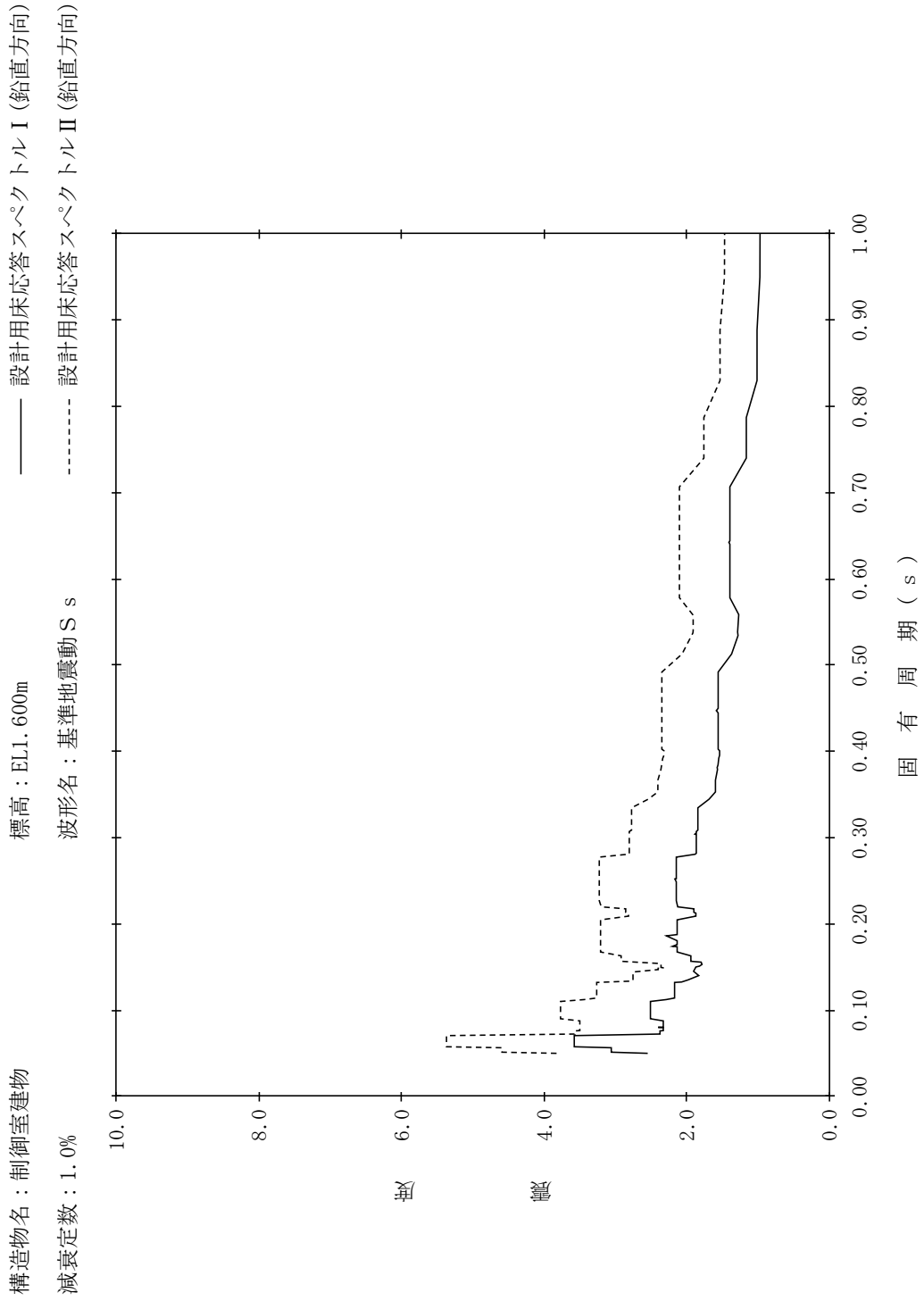


【NS2-CB-SsV-CB33】

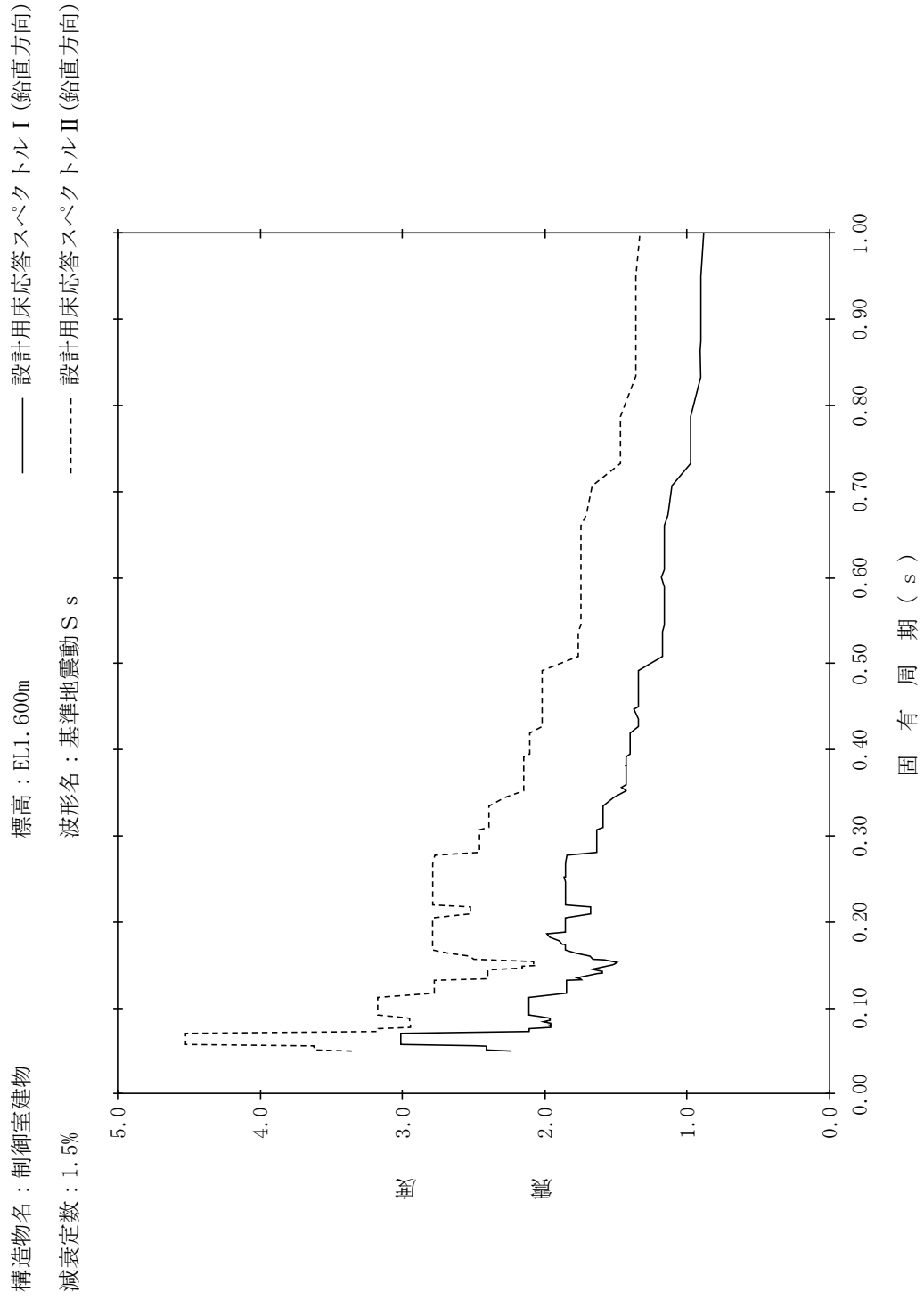
構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-CB-SsV-CB34】

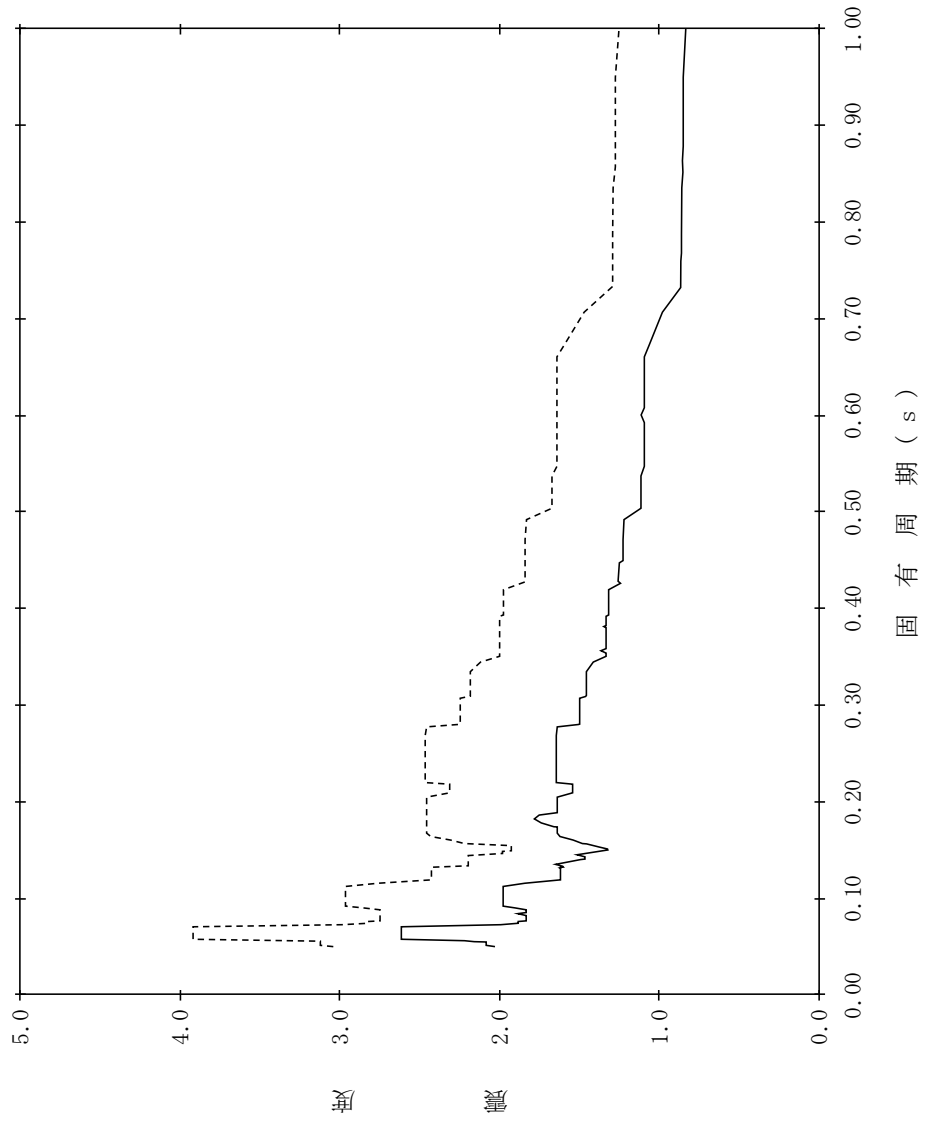


【NS2-CB-SsV-CB35】



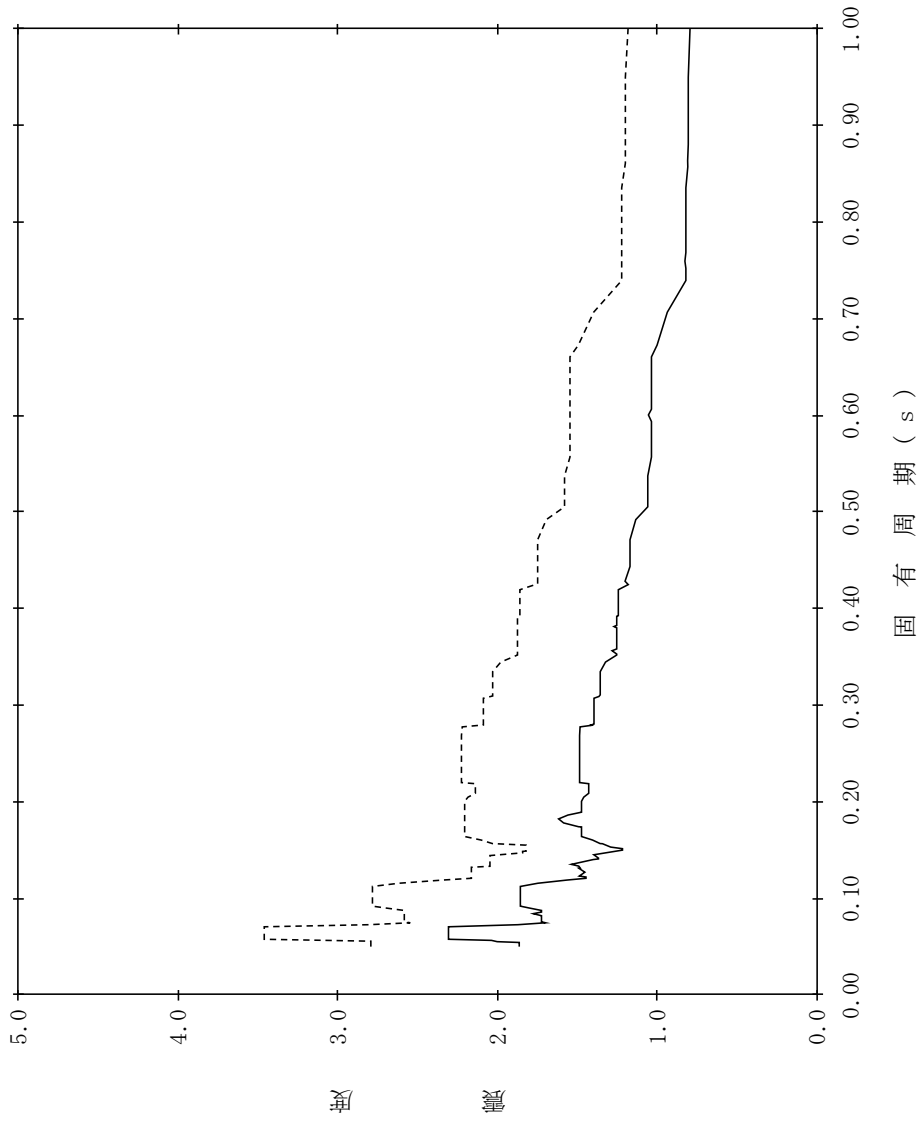
【NS2-CB-SsV-CB36】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



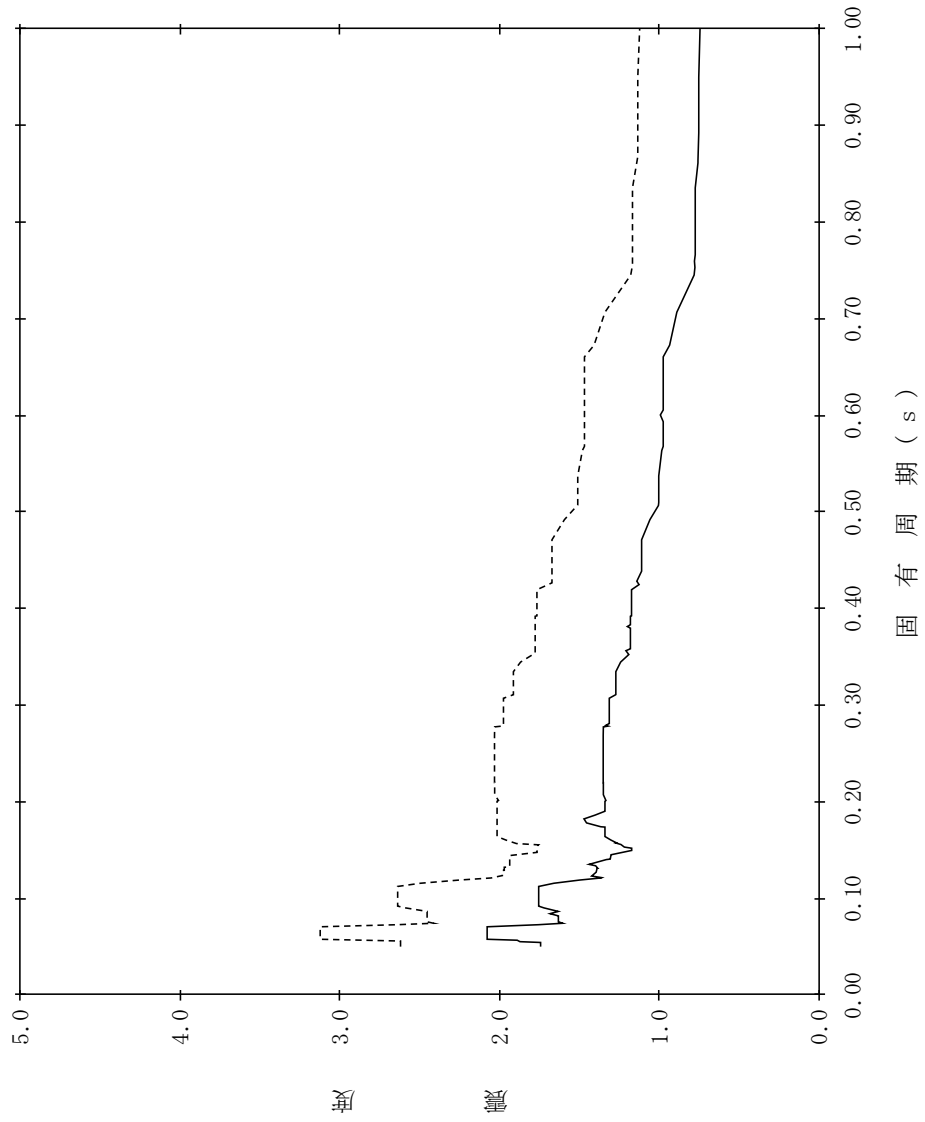
【NS2-CB-SsV-CB37】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



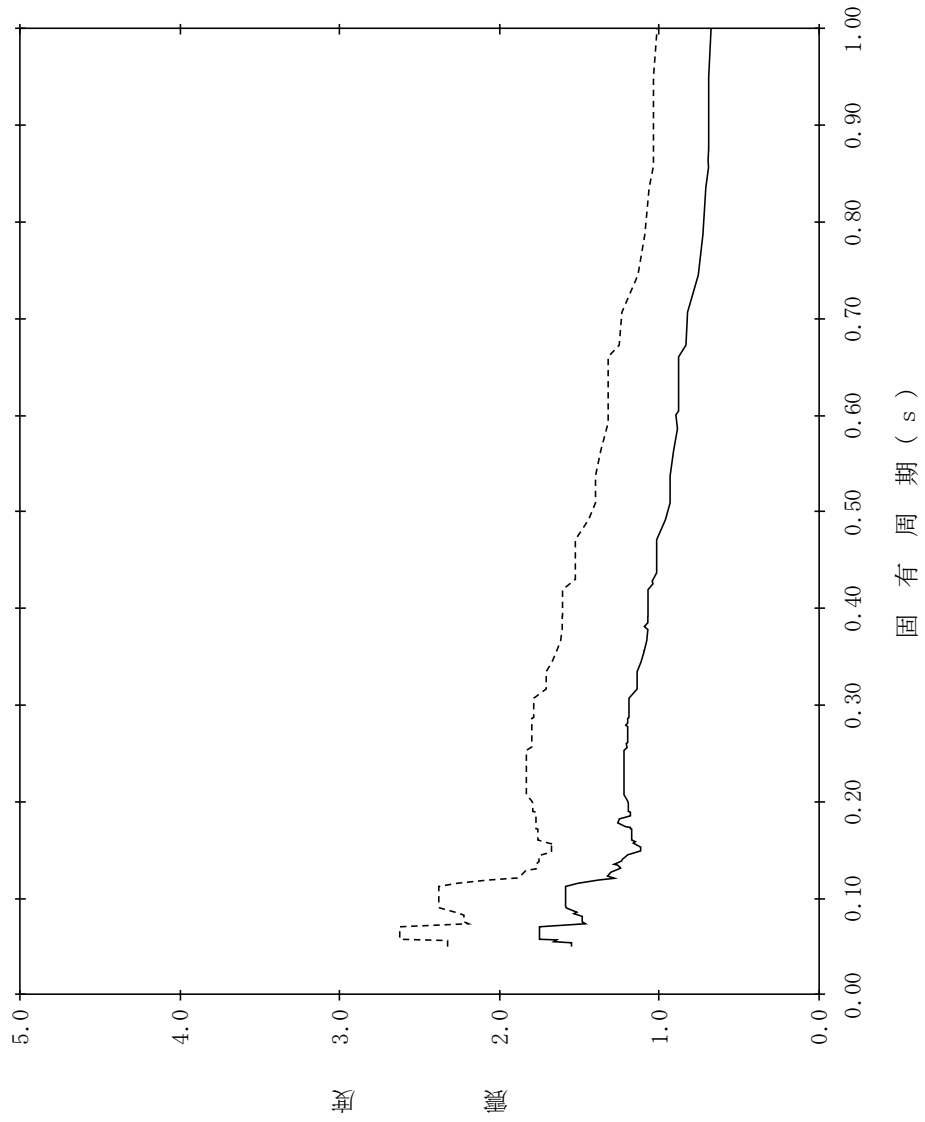
【NS2-CB-SsV-CB38】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



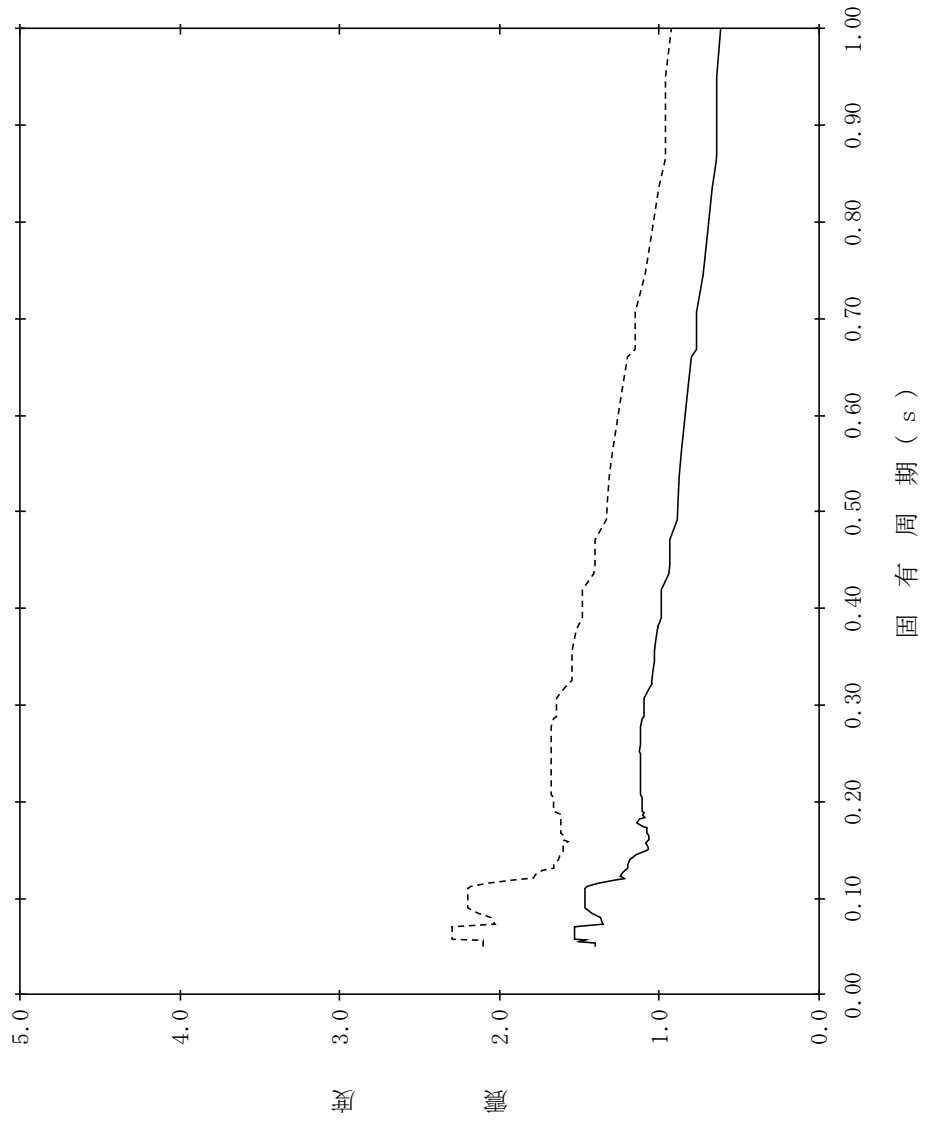
【NS2-CB-SsV-CB39】

構造物名：制御室建物
標高：EL1.600m
減衰定数：4.0%
—— 設計用床応答スペクトルⅠ（鉛直方向）
----- 設計用床応答スペクトルⅡ（鉛直方向）



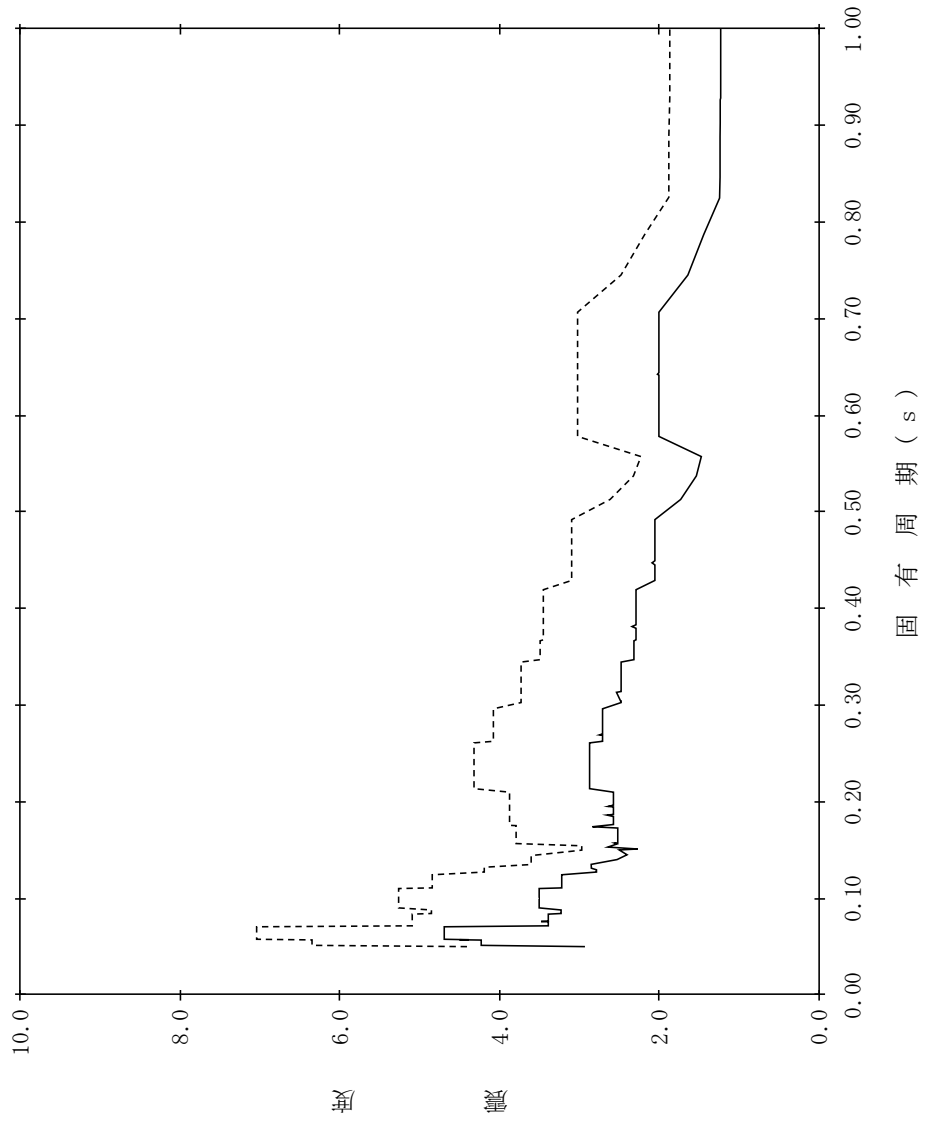
【NS2-CB-SsV-CB40】

構造物名：制御室建物
 標高：EL1.600m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



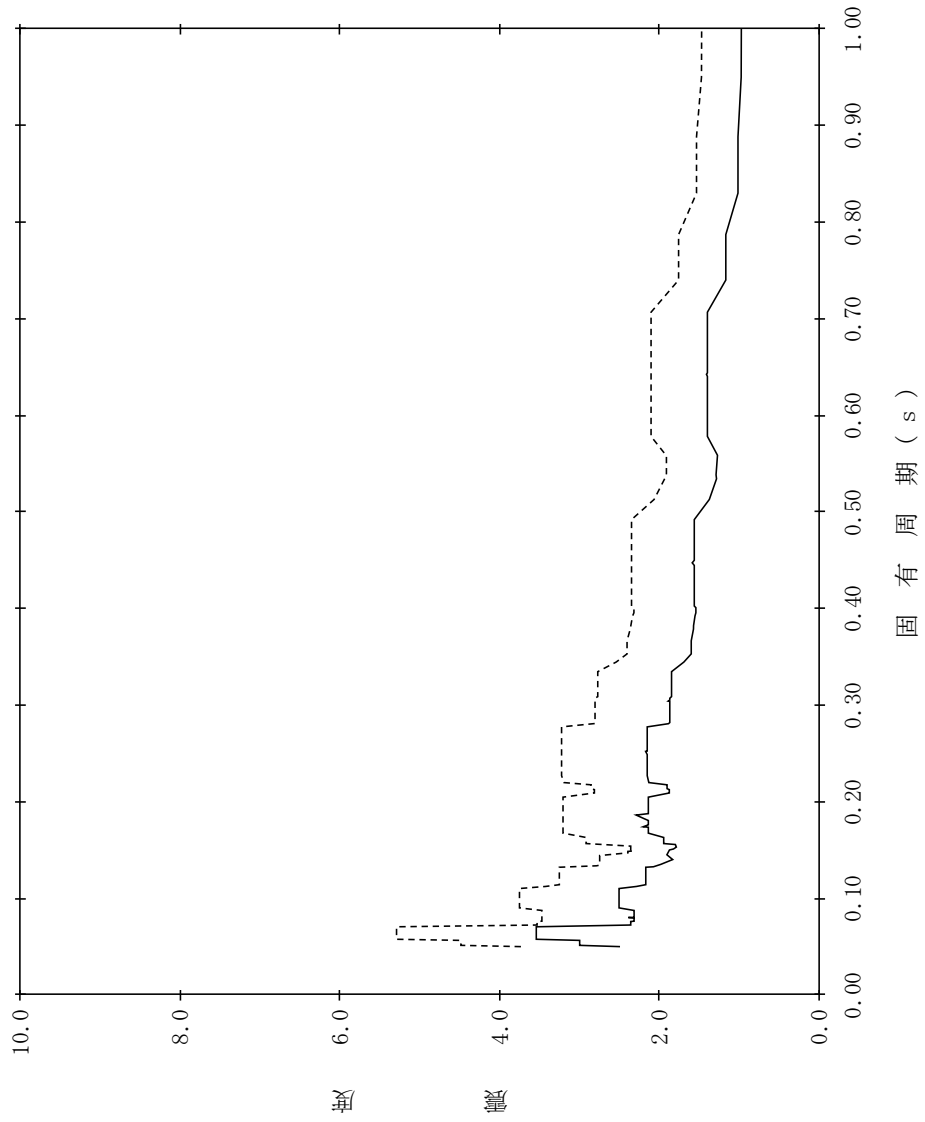
【NS2-CB-SsV-CB41】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

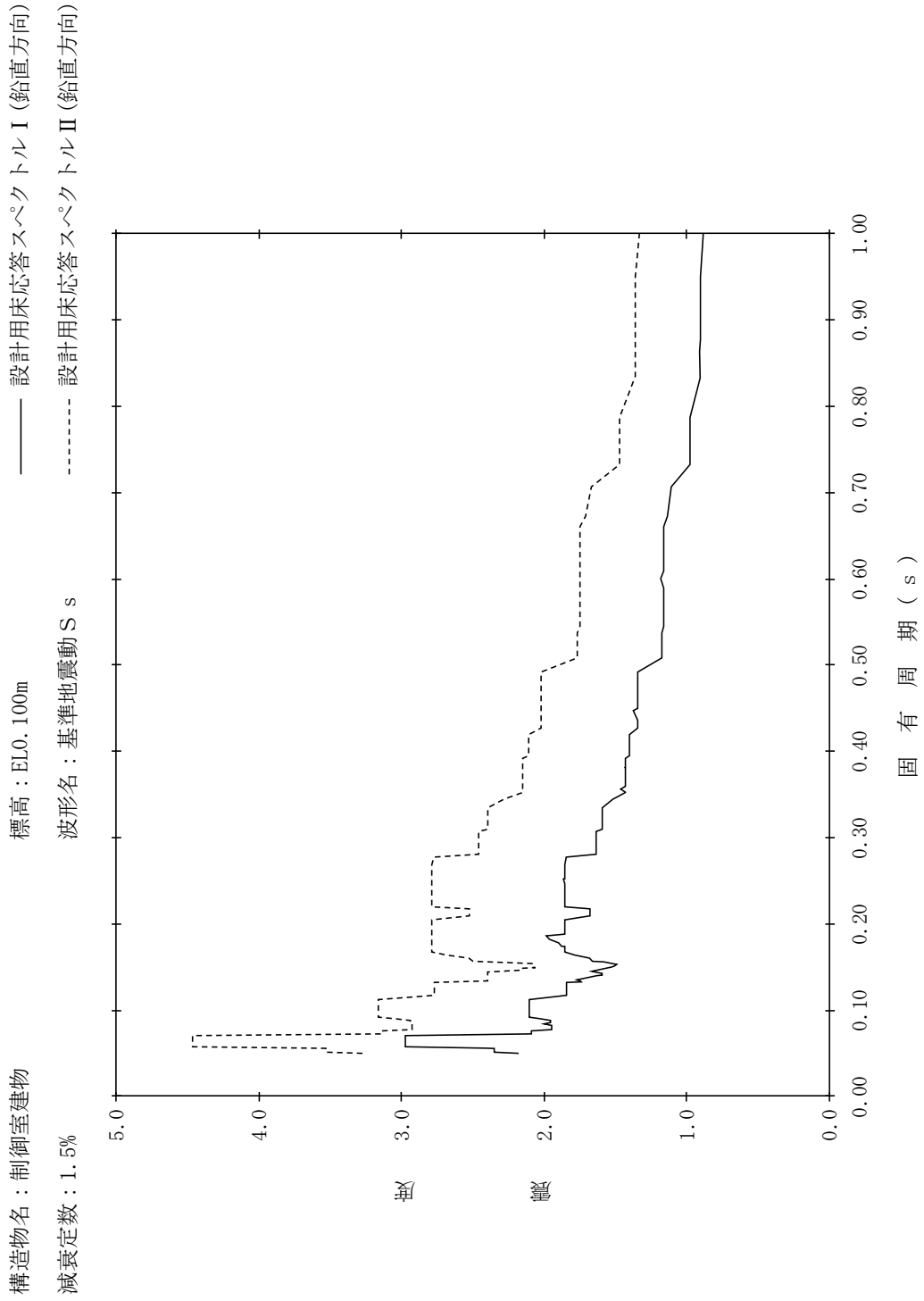


【NS2-CB-SsV-CB42】

構造物名：制御室建物
標高：EL0.100m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

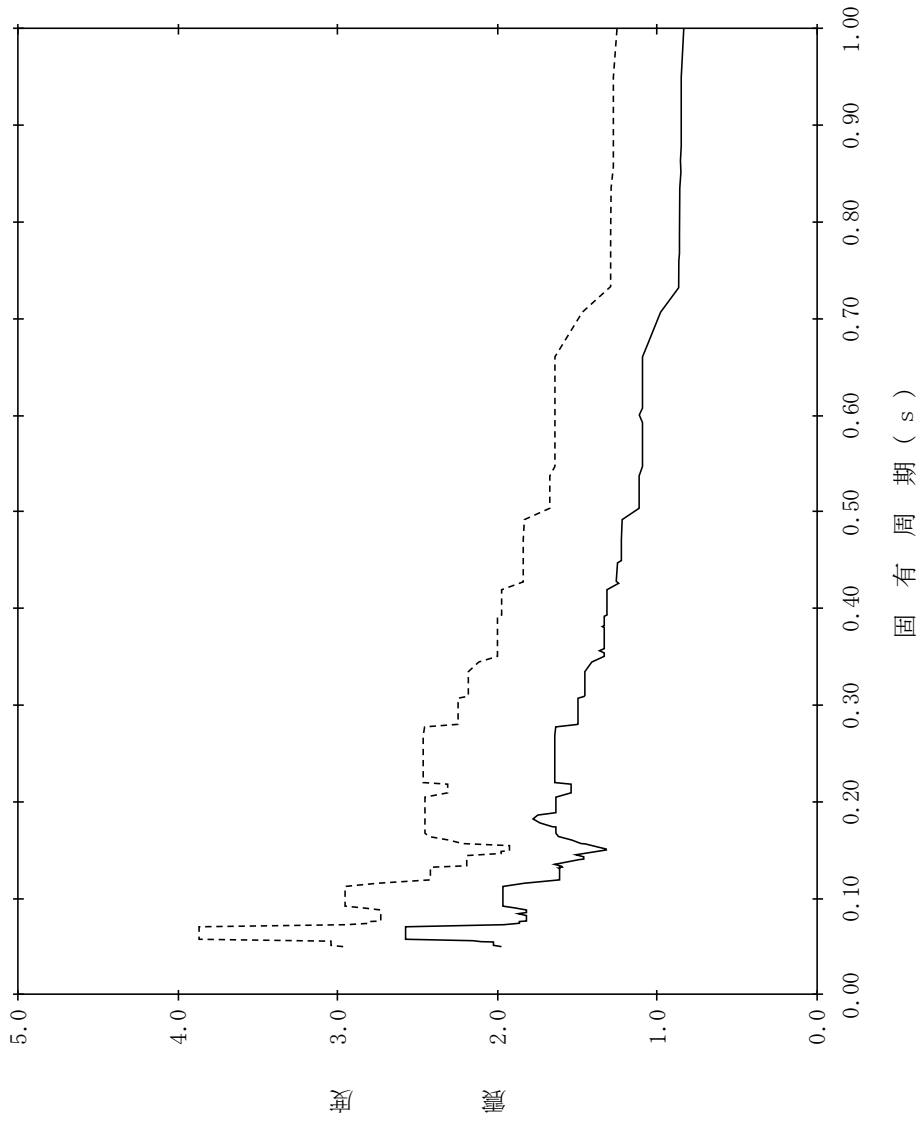


【NS2-CB-SsV-CB43】



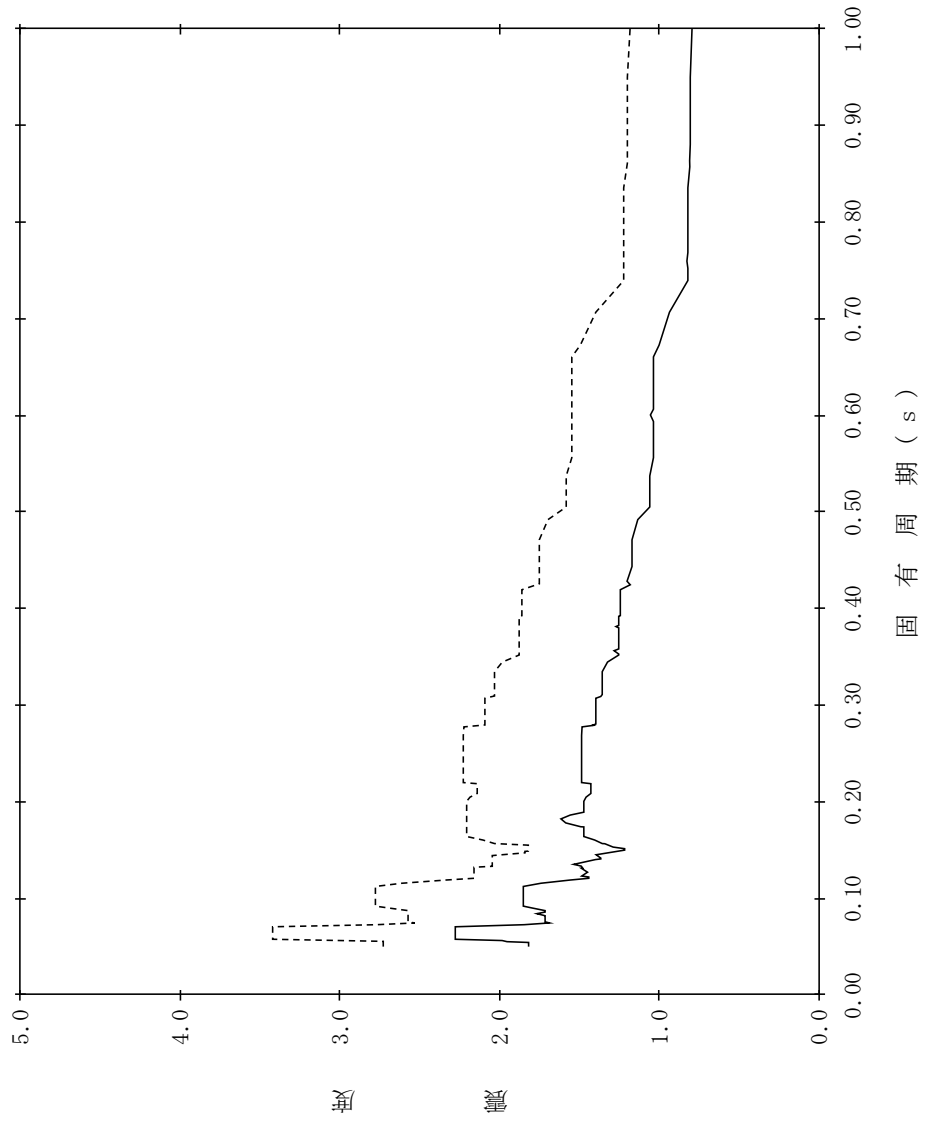
【NS2-CB-SsV-CB44】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



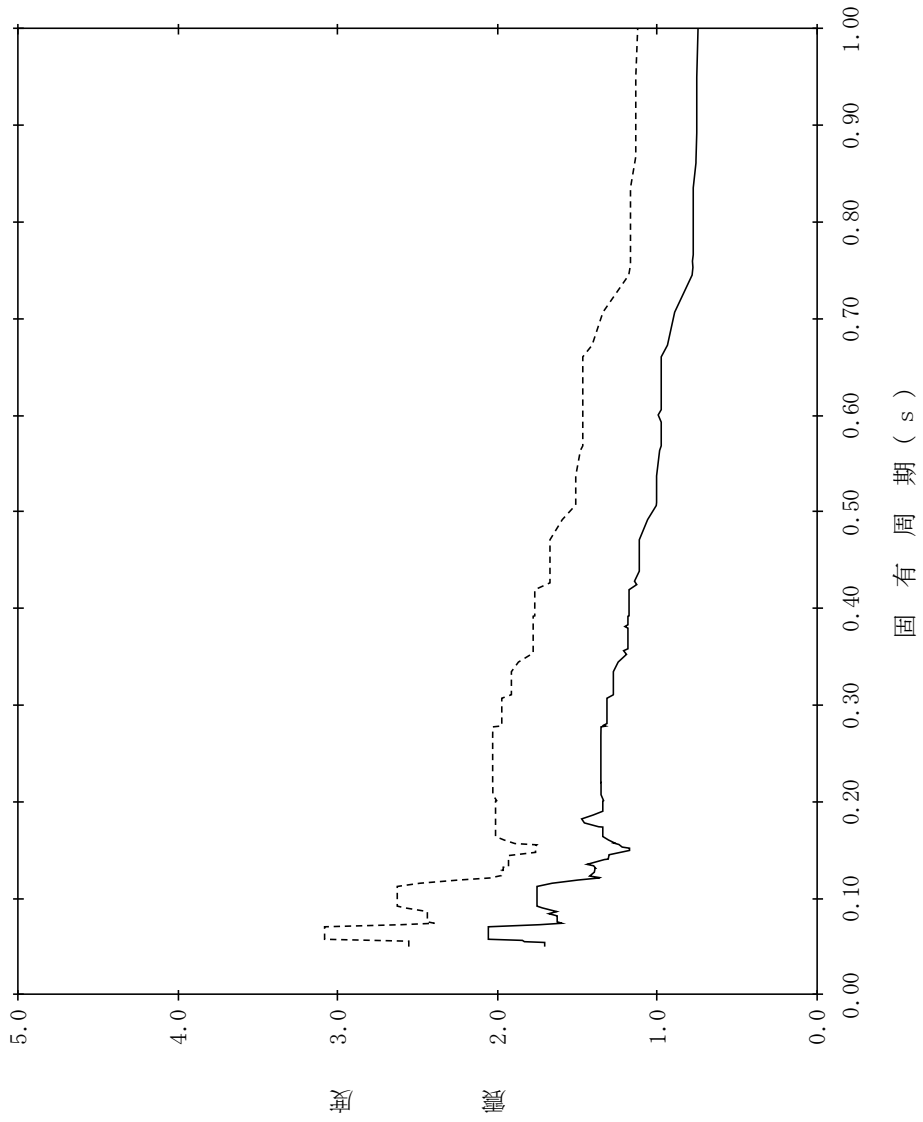
【NS2-CB-SsV-CB45】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



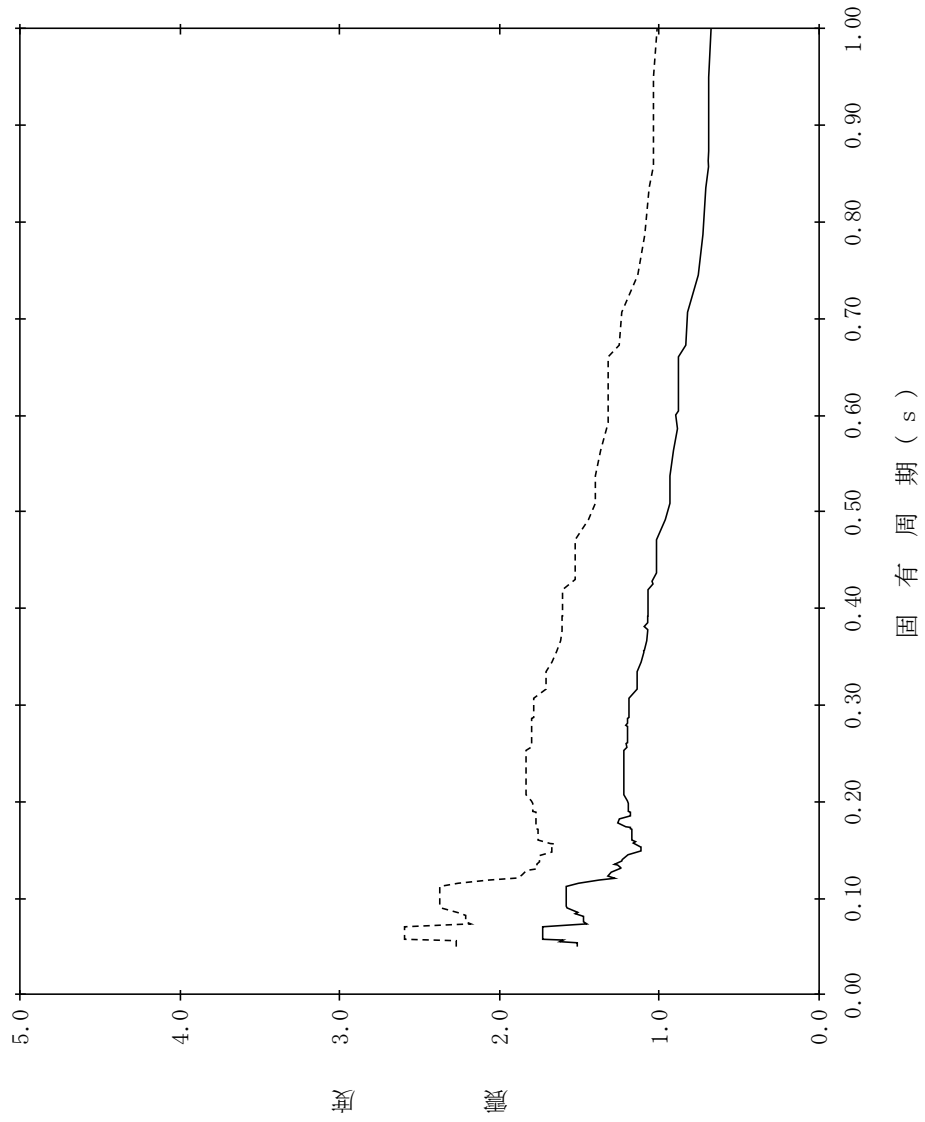
【NS2-CB-SsV-CB46】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-CB-SsV-CB47】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-CB-SsV-CB48】

構造物名：制御室建物
 標高：EL0.100m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

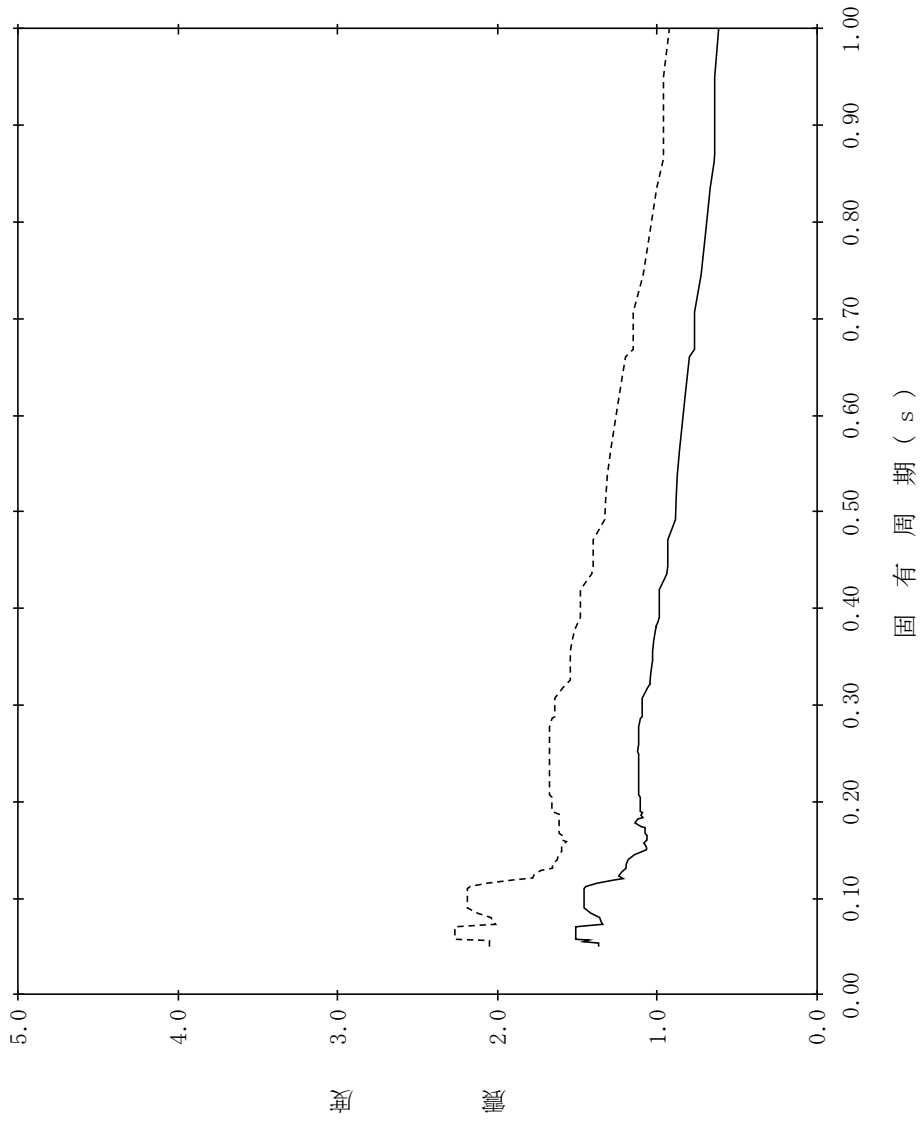


表 4.4-4 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (タービン建物) (1/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL (m)	減衰定数 (%)	図番
S _s	タービン建物	NS 方向	5, 7, 13, 22, 28	41.600	0.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 1
					1.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 2
					1.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 3
					2.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 4
					2.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 5
					3.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 6
					4.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 7
					5.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 8
			1, 6, 8	33.700	0.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 9
					1.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 10
					1.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 11
					2.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 12
					2.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 13
					3.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 14
					4.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 15
					5.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 16
			9, 18, 24	32.000	0.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 17
					1.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 18
					1.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 19
					2.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 20
					2.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 21
					3.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 22
					4.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 23
					5.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 24
			14, 23, 29	30.550	0.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 25
					1.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 26
					1.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 27
					2.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 28
					2.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 29
					3.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 30
					4.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 31
					5.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 32
			2, 10, 15, 19, 25, 30	20.600	0.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 33
					1.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 34
					1.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 35
					2.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 36
					2.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 37
					3.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 38
					4.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 39
					5.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 40
			3, 11, 16, 20, 26, 31	12.500	0.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 41
					1.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 42
					1.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 43
					2.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 44
					2.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 45
					3.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 46
					4.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 47
					5.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 48

表 4.4-4 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (タービン建物) (2/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S _s	タービン建物	NS 方向	4	9.000	0.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 49
					1.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 50
					1.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 51
					2.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 52
					2.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 53
					3.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 54
					4.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 55
					5.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 56
			12, 17, 21, 27	5.500	0.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 57
					1.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 58
					1.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 59
					2.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 60
					2.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 61
					3.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 62
					4.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 63
					5.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 64
			34	2.000	0.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 65
					1.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 66
					1.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 67
					2.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 68
					2.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 69
					3.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 70
					4.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 71
					5.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 72
	35	0.000	0.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 73		
			1.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 74		
			1.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 75		
			2.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 76		
			2.5	NS2 - TB - S _s NS - TB 77		
			3.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 78		
			4.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 79		
			5.0	NS2 - TB - S _s NS - TB 80		
	蒸気 タービンの基礎	32	20.480	0.5	NS2 - TB - S _s NS - TG 81	
				1.0	NS2 - TB - S _s NS - TG 82	
				1.5	NS2 - TB - S _s NS - TG 83	
				2.0	NS2 - TB - S _s NS - TG 84	
				2.5	NS2 - TB - S _s NS - TG 85	
				3.0	NS2 - TB - S _s NS - TG 86	
				4.0	NS2 - TB - S _s NS - TG 87	
				5.0	NS2 - TB - S _s NS - TG 88	
		33	13.000	0.5	NS2 - TB - S _s NS - TG 89	
				1.0	NS2 - TB - S _s NS - TG 90	
				1.5	NS2 - TB - S _s NS - TG 91	
				2.0	NS2 - TB - S _s NS - TG 92	
				2.5	NS2 - TB - S _s NS - TG 93	
				3.0	NS2 - TB - S _s NS - TG 94	
				4.0	NS2 - TB - S _s NS - TG 95	
				5.0	NS2 - TB - S _s NS - TG 96	

表 4.4-4 設計用床応答スペクトル (S s) 一覧表 (タービン建物) (3/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S s	タービン建物	EW 方向	1, 8, 14	41.600	0.5	NS2 - TB - SsEW - TB 1
					1.0	NS2 - TB - SsEW - TB 2
					1.5	NS2 - TB - SsEW - TB 3
					2.0	NS2 - TB - SsEW - TB 4
					2.5	NS2 - TB - SsEW - TB 5
					3.0	NS2 - TB - SsEW - TB 6
					4.0	NS2 - TB - SsEW - TB 7
					5.0	NS2 - TB - SsEW - TB 8
			19	33.700	0.5	NS2 - TB - SsEW - TB 9
					1.0	NS2 - TB - SsEW - TB 10
					1.5	NS2 - TB - SsEW - TB 11
					2.0	NS2 - TB - SsEW - TB 12
					2.5	NS2 - TB - SsEW - TB 13
					3.0	NS2 - TB - SsEW - TB 14
					4.0	NS2 - TB - SsEW - TB 15
					5.0	NS2 - TB - SsEW - TB 16
			2, 9	32.000	0.5	NS2 - TB - SsEW - TB 17
					1.0	NS2 - TB - SsEW - TB 18
					1.5	NS2 - TB - SsEW - TB 19
					2.0	NS2 - TB - SsEW - TB 20
					2.5	NS2 - TB - SsEW - TB 21
					3.0	NS2 - TB - SsEW - TB 22
					4.0	NS2 - TB - SsEW - TB 23
					5.0	NS2 - TB - SsEW - TB 24
			15	30.550	0.5	NS2 - TB - SsEW - TB 25
					1.0	NS2 - TB - SsEW - TB 26
					1.5	NS2 - TB - SsEW - TB 27
					2.0	NS2 - TB - SsEW - TB 28
					2.5	NS2 - TB - SsEW - TB 29
					3.0	NS2 - TB - SsEW - TB 30
					4.0	NS2 - TB - SsEW - TB 31
					5.0	NS2 - TB - SsEW - TB 32
			3, 5, 10, 16, 20	20.600	0.5	NS2 - TB - SsEW - TB 33
					1.0	NS2 - TB - SsEW - TB 34
					1.5	NS2 - TB - SsEW - TB 35
					2.0	NS2 - TB - SsEW - TB 36
					2.5	NS2 - TB - SsEW - TB 37
					3.0	NS2 - TB - SsEW - TB 38
					4.0	NS2 - TB - SsEW - TB 39
					5.0	NS2 - TB - SsEW - TB 40
			4, 11, 17, 21	12.500	0.5	NS2 - TB - SsEW - TB 41
					1.0	NS2 - TB - SsEW - TB 42
					1.5	NS2 - TB - SsEW - TB 43
					2.0	NS2 - TB - SsEW - TB 44
					2.5	NS2 - TB - SsEW - TB 45
					3.0	NS2 - TB - SsEW - TB 46
					4.0	NS2 - TB - SsEW - TB 47
					5.0	NS2 - TB - SsEW - TB 48

表 4.4-4 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (タービン建物) (4/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S _s	タービン建物	EW 方向	6	8.800	0.5	NS2 - TB - SsEW - TB 49
					1.0	NS2 - TB - SsEW - TB 50
					1.5	NS2 - TB - SsEW - TB 51
					2.0	NS2 - TB - SsEW - TB 52
					2.5	NS2 - TB - SsEW - TB 53
					3.0	NS2 - TB - SsEW - TB 54
					4.0	NS2 - TB - SsEW - TB 55
					5.0	NS2 - TB - SsEW - TB 56
			7, 12, 13, 18, 22	5.500	0.5	NS2 - TB - SsEW - TB 57
					1.0	NS2 - TB - SsEW - TB 58
					1.5	NS2 - TB - SsEW - TB 59
					2.0	NS2 - TB - SsEW - TB 60
					2.5	NS2 - TB - SsEW - TB 61
					3.0	NS2 - TB - SsEW - TB 62
					4.0	NS2 - TB - SsEW - TB 63
					5.0	NS2 - TB - SsEW - TB 64
			25	2.000	0.5	NS2 - TB - SsEW - TB 65
					1.0	NS2 - TB - SsEW - TB 66
					1.5	NS2 - TB - SsEW - TB 67
					2.0	NS2 - TB - SsEW - TB 68
					2.5	NS2 - TB - SsEW - TB 69
					3.0	NS2 - TB - SsEW - TB 70
					4.0	NS2 - TB - SsEW - TB 71
					5.0	NS2 - TB - SsEW - TB 72
			26	0.000	0.5	NS2 - TB - SsEW - TB 73
					1.0	NS2 - TB - SsEW - TB 74
					1.5	NS2 - TB - SsEW - TB 75
					2.0	NS2 - TB - SsEW - TB 76
	2.5	NS2 - TB - SsEW - TB 77				
	3.0	NS2 - TB - SsEW - TB 78				
	4.0	NS2 - TB - SsEW - TB 79				
	5.0	NS2 - TB - SsEW - TB 80				
	蒸気 タービンの基礎	23	20.480	0.5	NS2 - TB - SsEW - TG 81	
				1.0	NS2 - TB - SsEW - TG 82	
				1.5	NS2 - TB - SsEW - TG 83	
				2.0	NS2 - TB - SsEW - TG 84	
				2.5	NS2 - TB - SsEW - TG 85	
				3.0	NS2 - TB - SsEW - TG 86	
				4.0	NS2 - TB - SsEW - TG 87	
				5.0	NS2 - TB - SsEW - TG 88	
24		13.000	0.5	NS2 - TB - SsEW - TG 89		
			1.0	NS2 - TB - SsEW - TG 90		
			1.5	NS2 - TB - SsEW - TG 91		
			2.0	NS2 - TB - SsEW - TG 92		
			2.5	NS2 - TB - SsEW - TG 93		
			3.0	NS2 - TB - SsEW - TG 94		
			4.0	NS2 - TB - SsEW - TG 95		
			5.0	NS2 - TB - SsEW - TG 96		

表 4.4-4 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (タービン建物) (5/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL (m)	減衰定数 (%)	図番
S _s	タービン建物	鉛直方向	1	41.600	0.5	NS2 - TB - S _s V - TB 1
					1.0	NS2 - TB - S _s V - TB 2
					1.5	NS2 - TB - S _s V - TB 3
					2.0	NS2 - TB - S _s V - TB 4
					2.5	NS2 - TB - S _s V - TB 5
					3.0	NS2 - TB - S _s V - TB 6
					4.0	NS2 - TB - S _s V - TB 7
					5.0	NS2 - TB - S _s V - TB 8
			2	32.000	0.5	NS2 - TB - S _s V - TB 9
					1.0	NS2 - TB - S _s V - TB 10
					1.5	NS2 - TB - S _s V - TB 11
					2.0	NS2 - TB - S _s V - TB 12
					2.5	NS2 - TB - S _s V - TB 13
					3.0	NS2 - TB - S _s V - TB 14
					4.0	NS2 - TB - S _s V - TB 15
					5.0	NS2 - TB - S _s V - TB 16
			3	20.600	0.5	NS2 - TB - S _s V - TB 17
					1.0	NS2 - TB - S _s V - TB 18
					1.5	NS2 - TB - S _s V - TB 19
					2.0	NS2 - TB - S _s V - TB 20
					2.5	NS2 - TB - S _s V - TB 21
					3.0	NS2 - TB - S _s V - TB 22
					4.0	NS2 - TB - S _s V - TB 23
					5.0	NS2 - TB - S _s V - TB 24
			4	12.500	0.5	NS2 - TB - S _s V - TB 25
					1.0	NS2 - TB - S _s V - TB 26
					1.5	NS2 - TB - S _s V - TB 27
					2.0	NS2 - TB - S _s V - TB 28
					2.5	NS2 - TB - S _s V - TB 29
					3.0	NS2 - TB - S _s V - TB 30
					4.0	NS2 - TB - S _s V - TB 31
					5.0	NS2 - TB - S _s V - TB 32
			5	5.500	0.5	NS2 - TB - S _s V - TB 33
					1.0	NS2 - TB - S _s V - TB 34
					1.5	NS2 - TB - S _s V - TB 35
					2.0	NS2 - TB - S _s V - TB 36
					2.5	NS2 - TB - S _s V - TB 37
					3.0	NS2 - TB - S _s V - TB 38
					4.0	NS2 - TB - S _s V - TB 39
					5.0	NS2 - TB - S _s V - TB 40
			8	2.000	0.5	NS2 - TB - S _s V - TB 41
					1.0	NS2 - TB - S _s V - TB 42
					1.5	NS2 - TB - S _s V - TB 43
					2.0	NS2 - TB - S _s V - TB 44
					2.5	NS2 - TB - S _s V - TB 45
					3.0	NS2 - TB - S _s V - TB 46
					4.0	NS2 - TB - S _s V - TB 47
					5.0	NS2 - TB - S _s V - TB 48

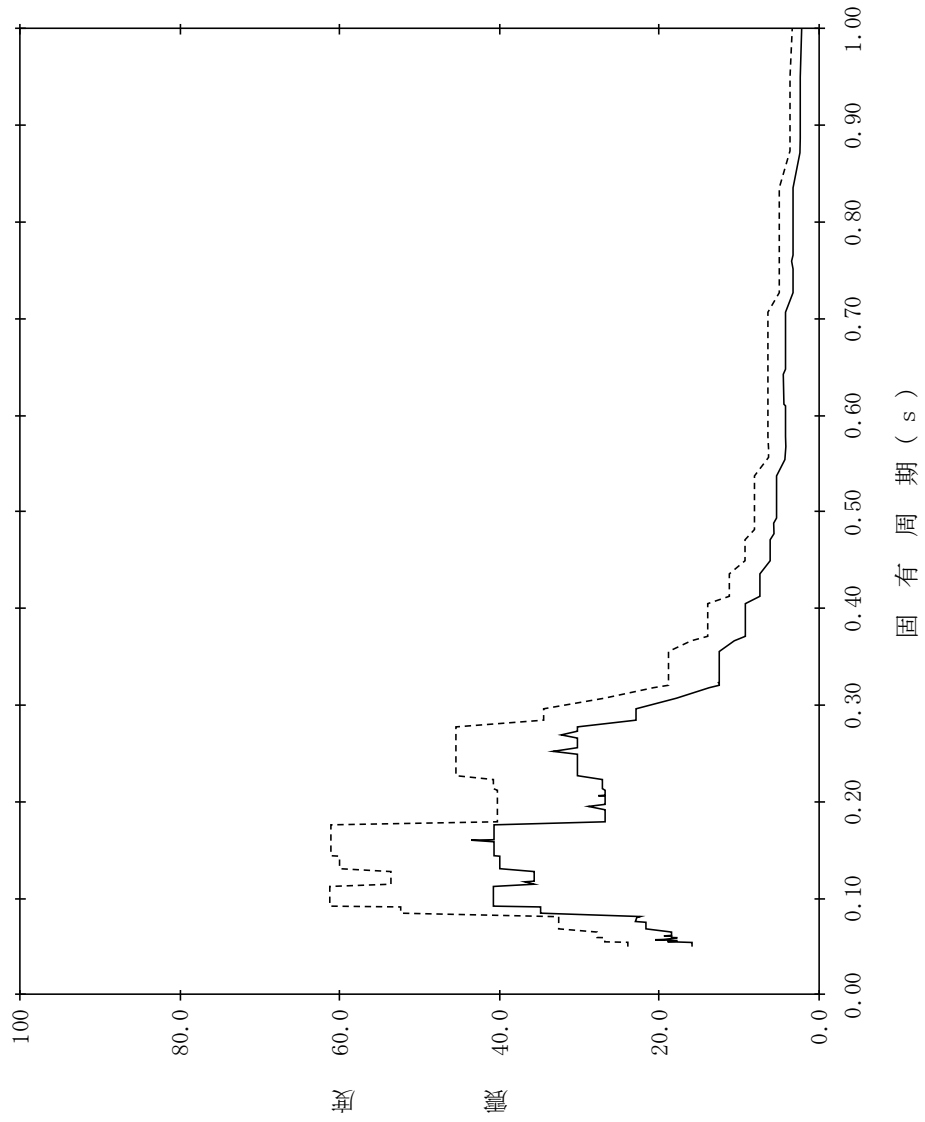
表 4.4-4 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (タービン建物) (6/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S _s	タービン建物	鉛直 方向	9	0.000	0.5	NS2 - TB - S _s V - TB 49
					1.0	NS2 - TB - S _s V - TB 50
					1.5	NS2 - TB - S _s V - TB 51
					2.0	NS2 - TB - S _s V - TB 52
					2.5	NS2 - TB - S _s V - TB 53
					3.0	NS2 - TB - S _s V - TB 54
					4.0	NS2 - TB - S _s V - TB 55
					5.0	NS2 - TB - S _s V - TB 56
	蒸気 タービンの基礎		6	20.480	0.5	NS2 - TB - S _s V - TG 57
					1.0	NS2 - TB - S _s V - TG 58
					1.5	NS2 - TB - S _s V - TG 59
					2.0	NS2 - TB - S _s V - TG 60
					2.5	NS2 - TB - S _s V - TG 61
					3.0	NS2 - TB - S _s V - TG 62
					4.0	NS2 - TB - S _s V - TG 63
					5.0	NS2 - TB - S _s V - TG 64
			7	13.000	0.5	NS2 - TB - S _s V - TG 65
					1.0	NS2 - TB - S _s V - TG 66
					1.5	NS2 - TB - S _s V - TG 67
					2.0	NS2 - TB - S _s V - TG 68
					2.5	NS2 - TB - S _s V - TG 69
					3.0	NS2 - TB - S _s V - TG 70
					4.0	NS2 - TB - S _s V - TG 71
					5.0	NS2 - TB - S _s V - TG 72

【NS2-TB-SsNS-TB1】

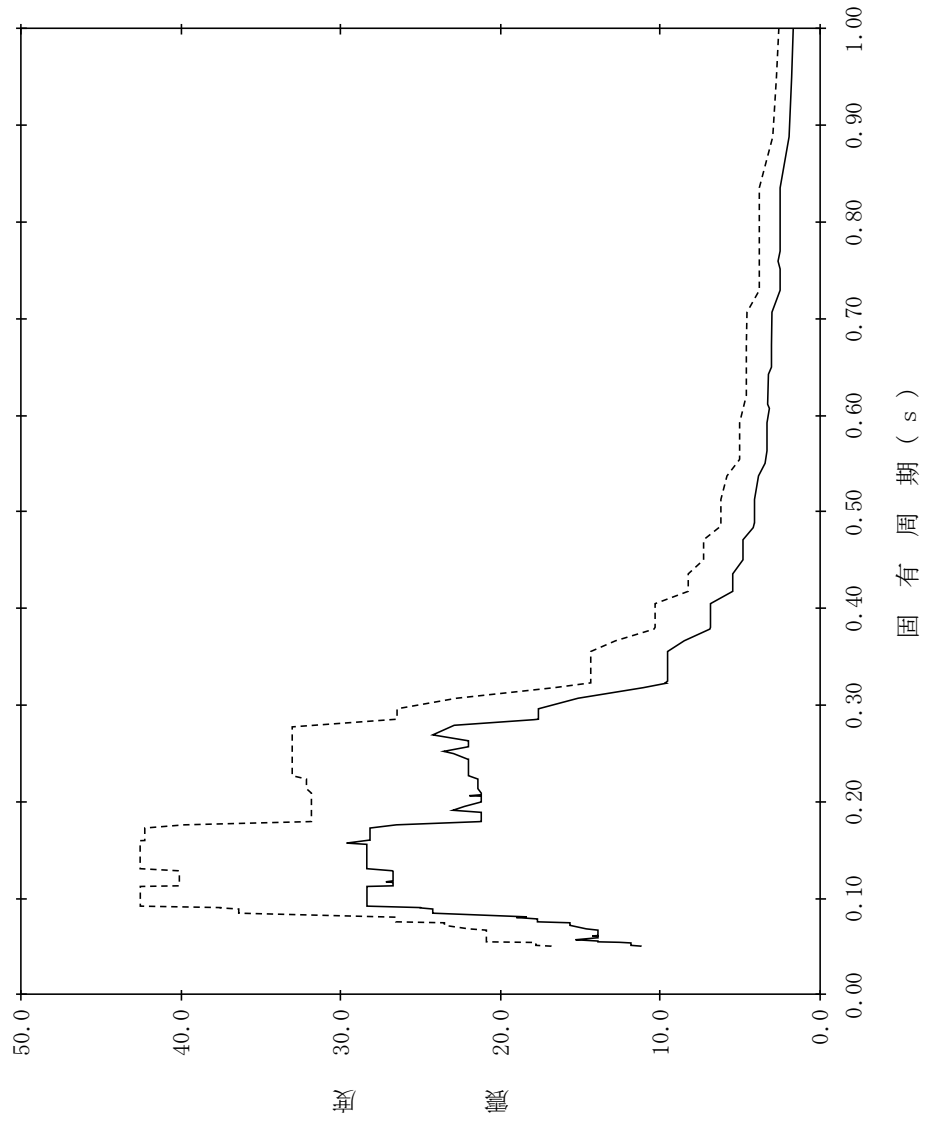
構造物名：タービン建物
標高：EL41.600m
減衰定数：0.5%
波形名：基準地震動 S s

—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SsNS-TB2】

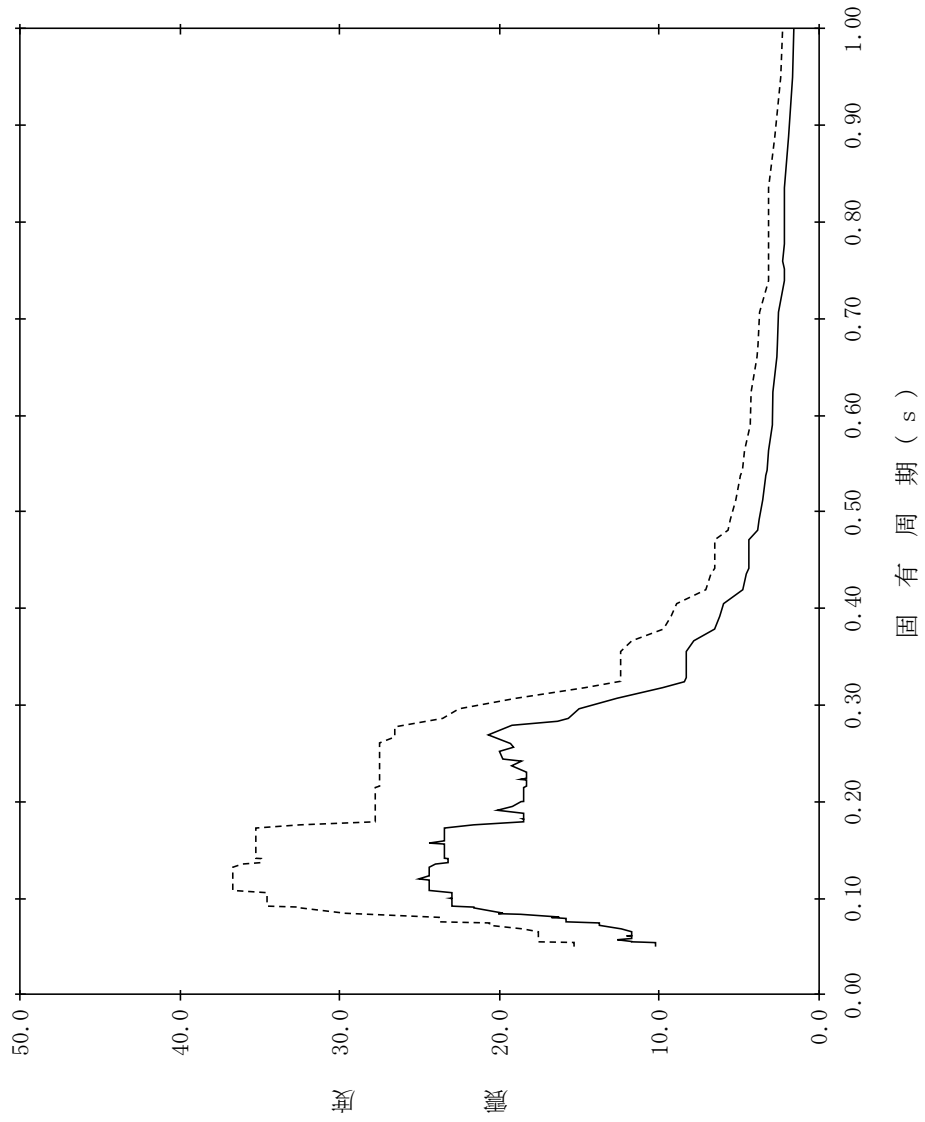
構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SsNS-TB3】

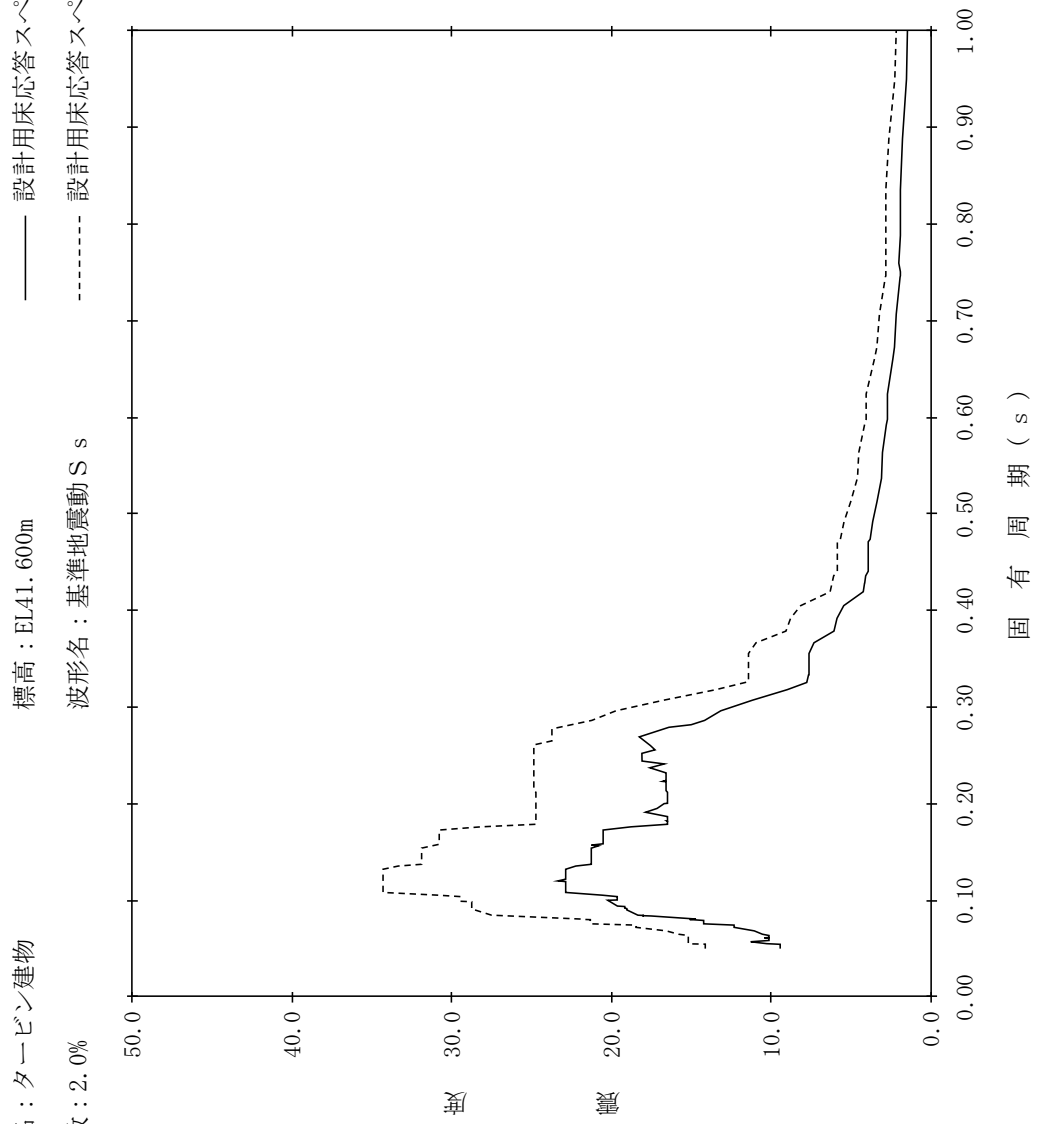
構造物名：タービン建物
標高：EL41.600m
減衰定数：1.5%

—— 設計用床応答スペクトルⅠ (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトルⅡ (NS方向)



【NS2-TB-SsNS-TB4】

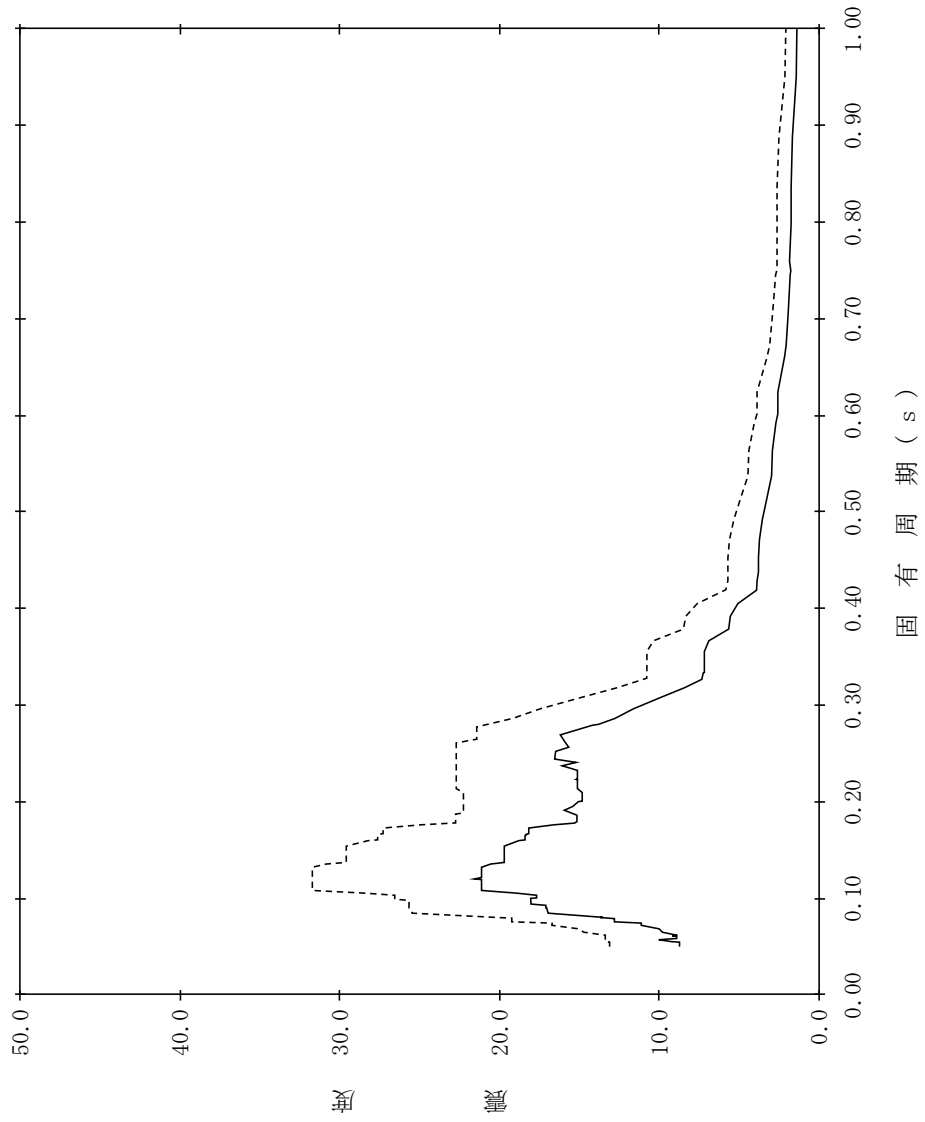
構造物名：タービン建物
標高：EL41.600m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s



【NS2-TB-SsNS-TB5】

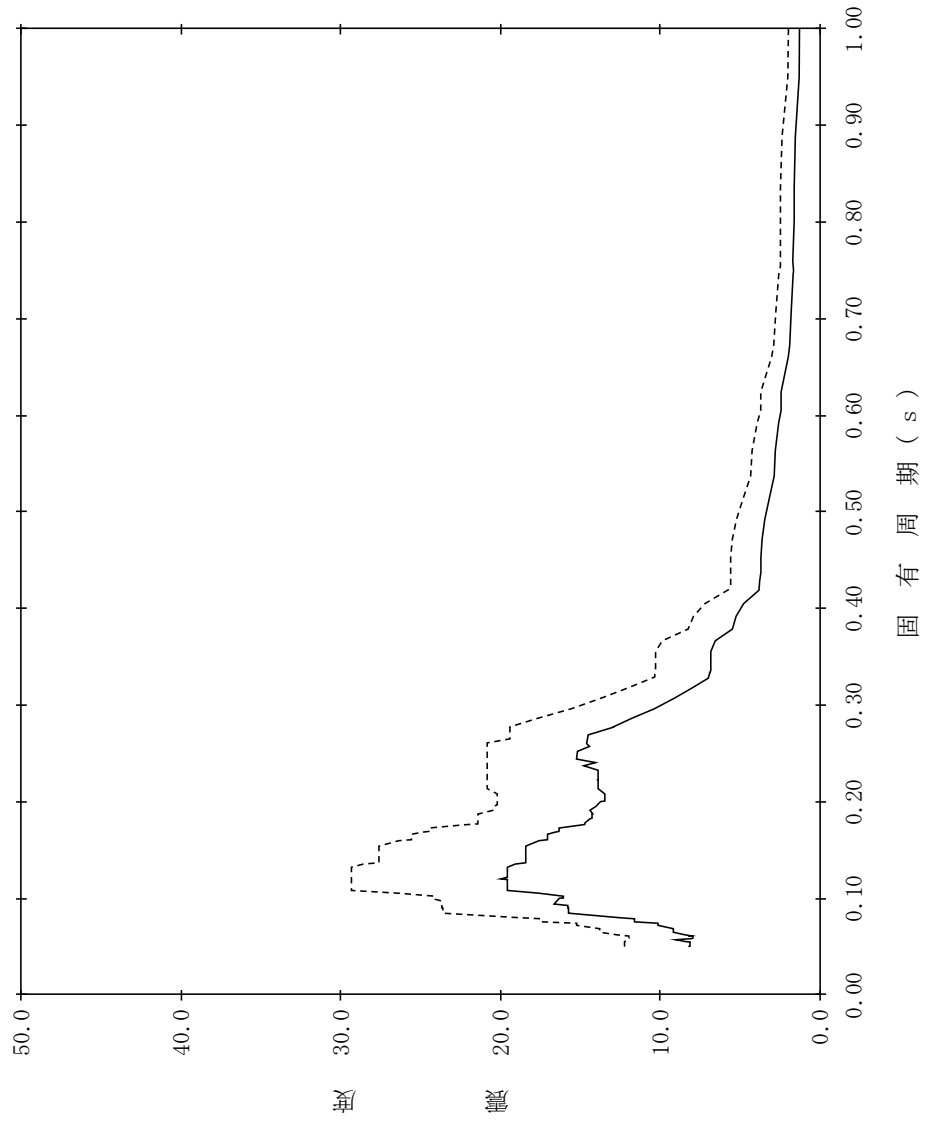
構造物名：タービン建物
標高：EL41.600m
減衰定数：2.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



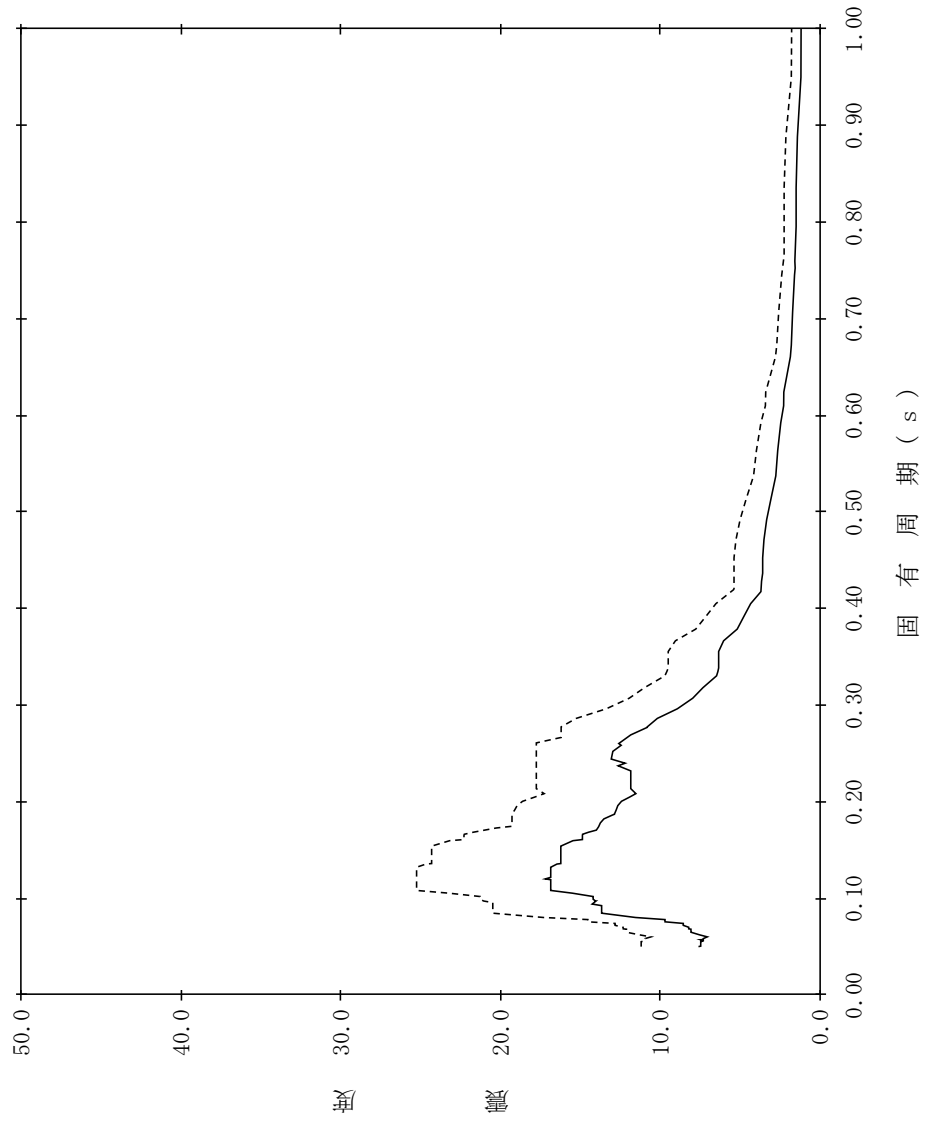
【NS2-TB-SsNS-TB6】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



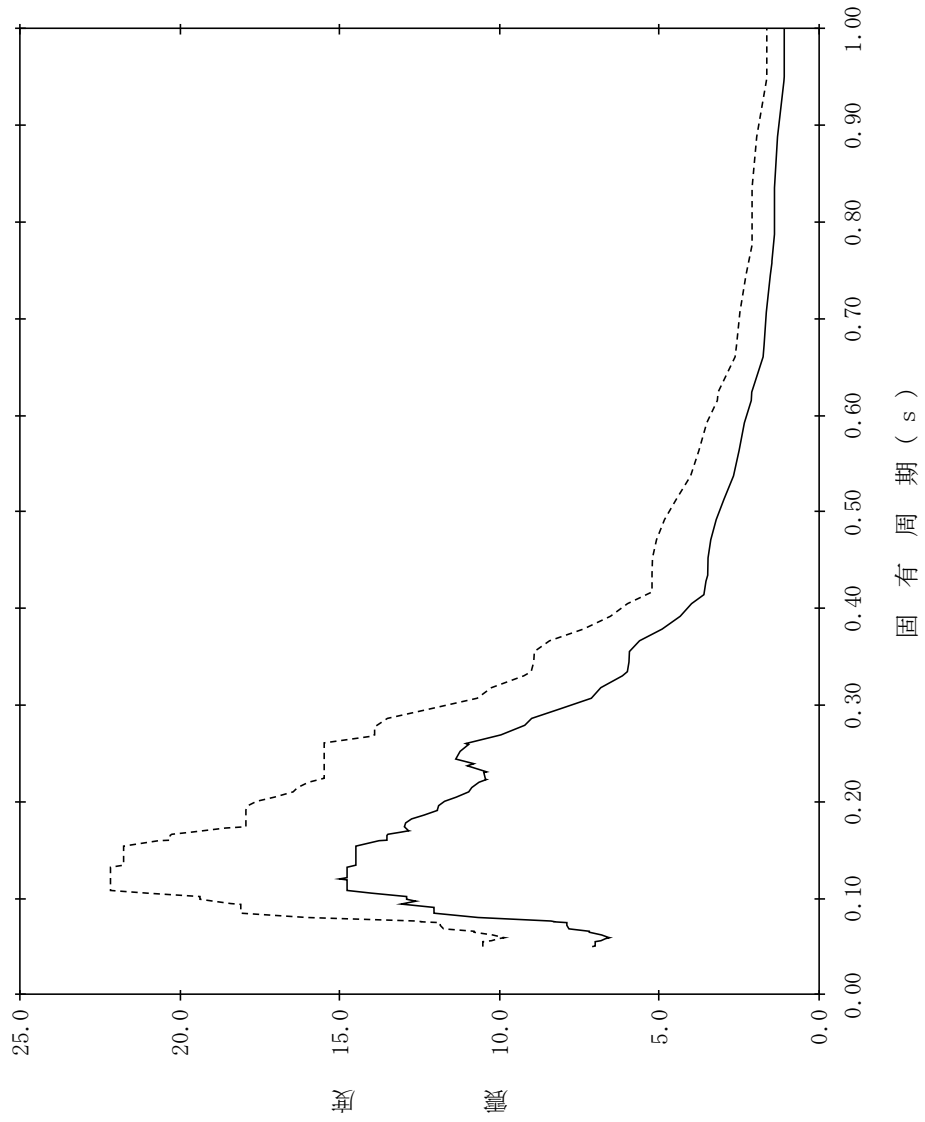
【NS2-TB-SsNS-TB7】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



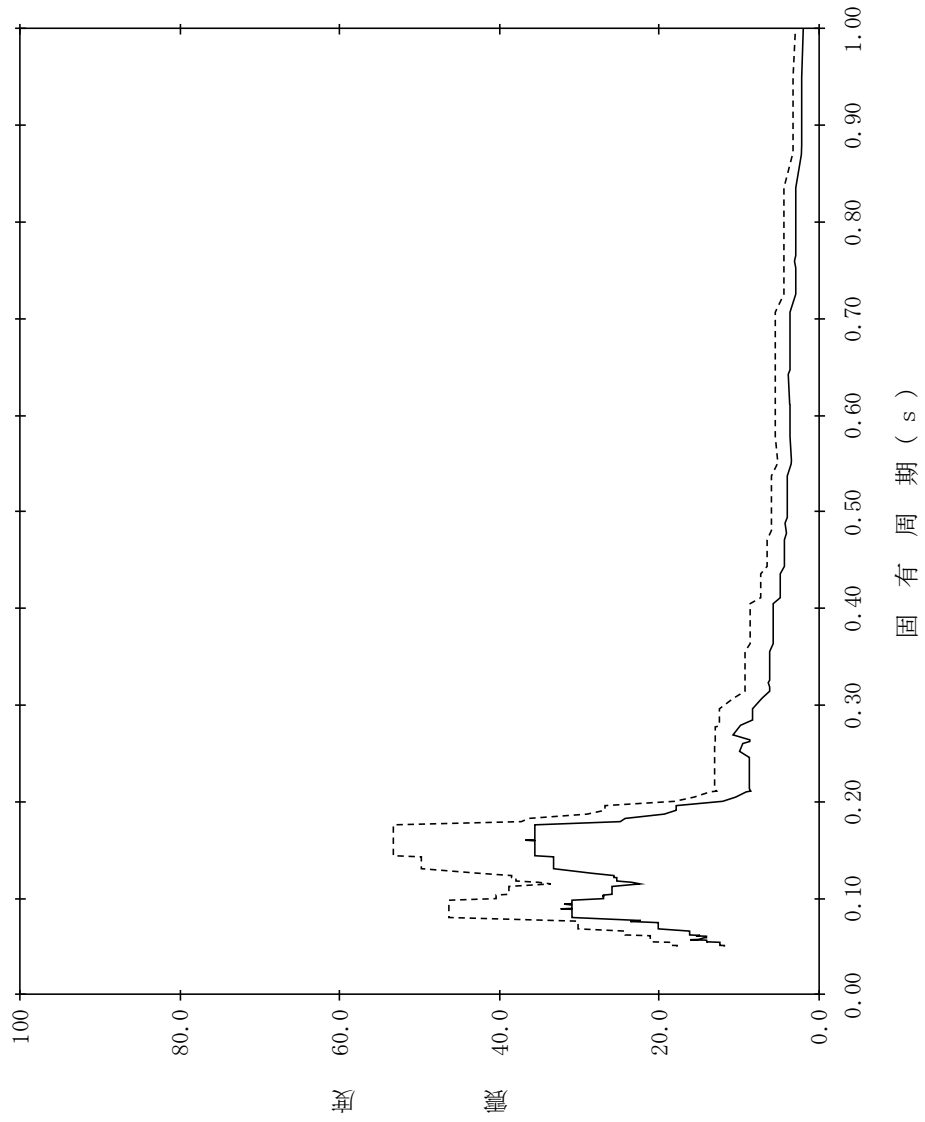
【NS2-TB-SsNS-TB8】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



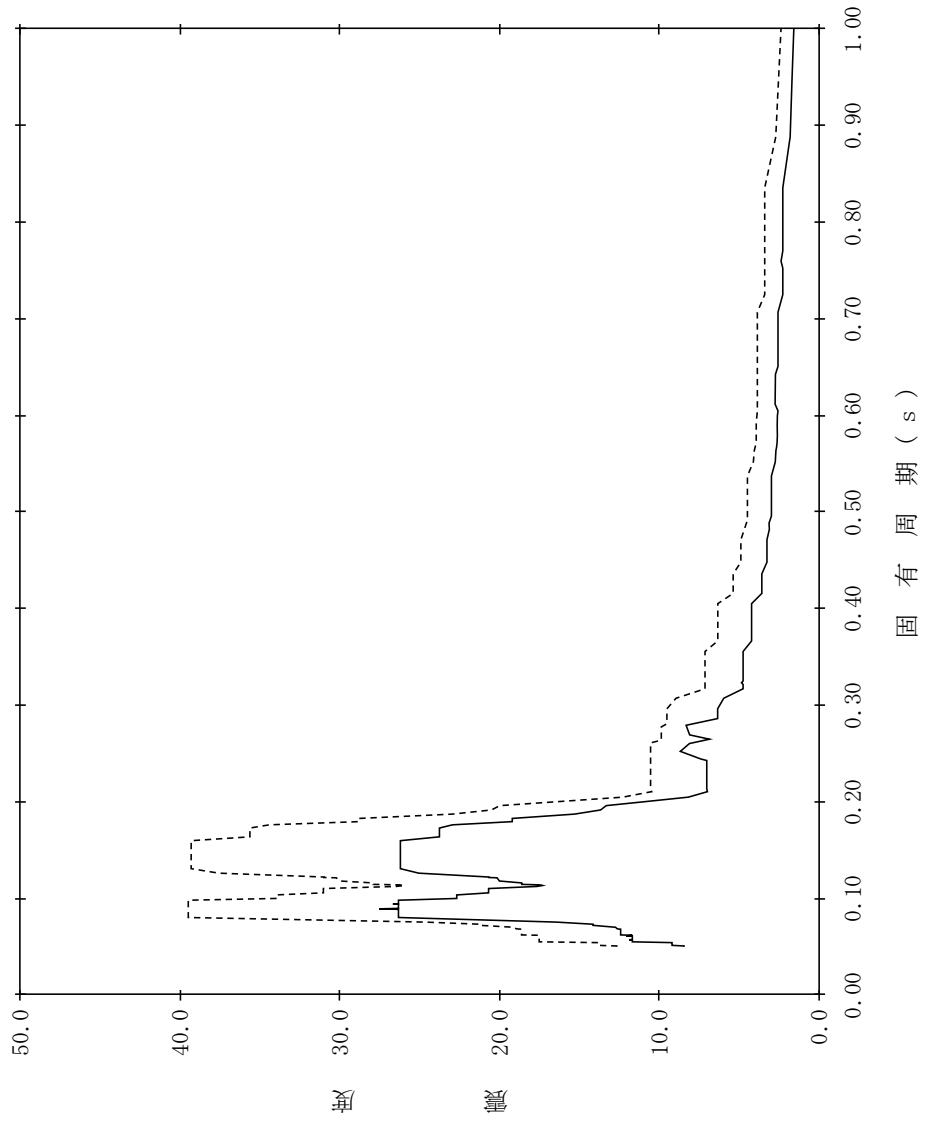
【NS2-TB-SsNS-TB9】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SsNS-TB10】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

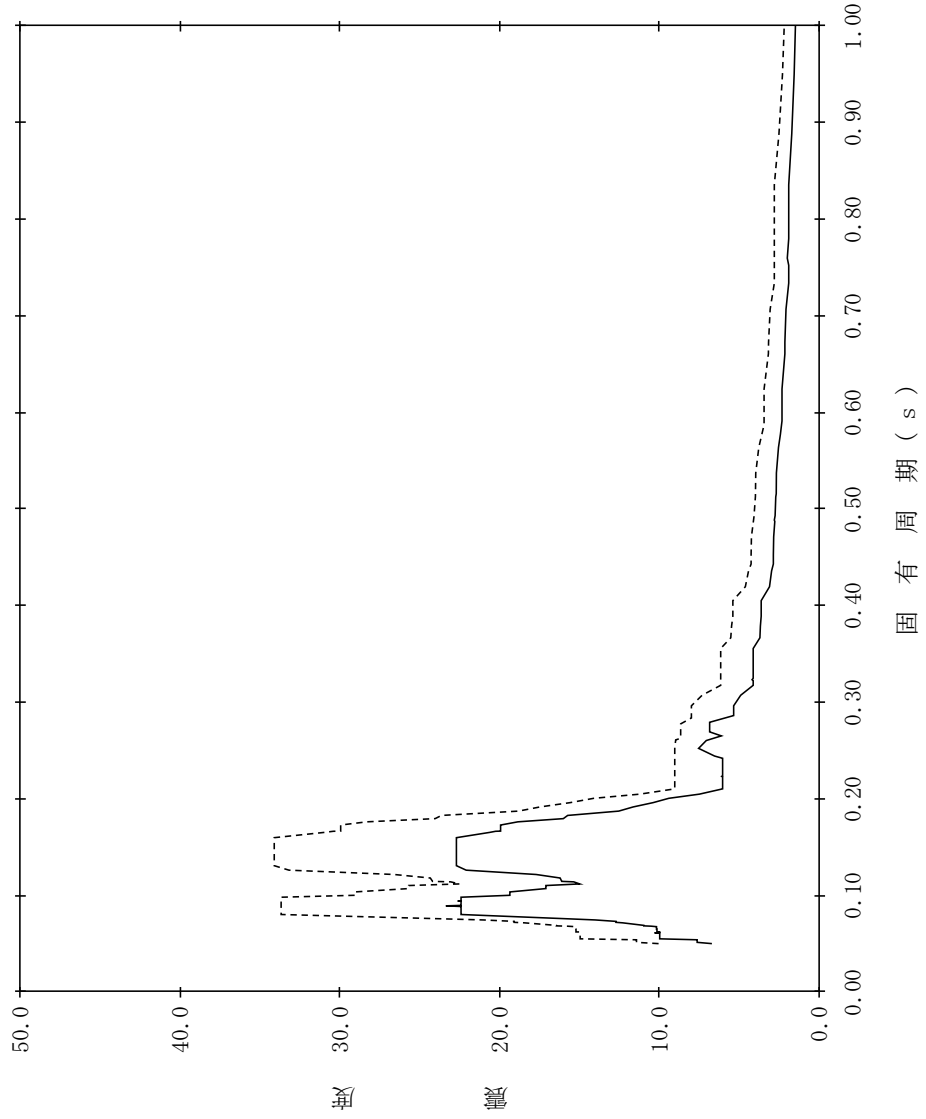


【NS2-TB-SsNS-TB11】

構造物名：タービン建物
標高：EL33.700m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s

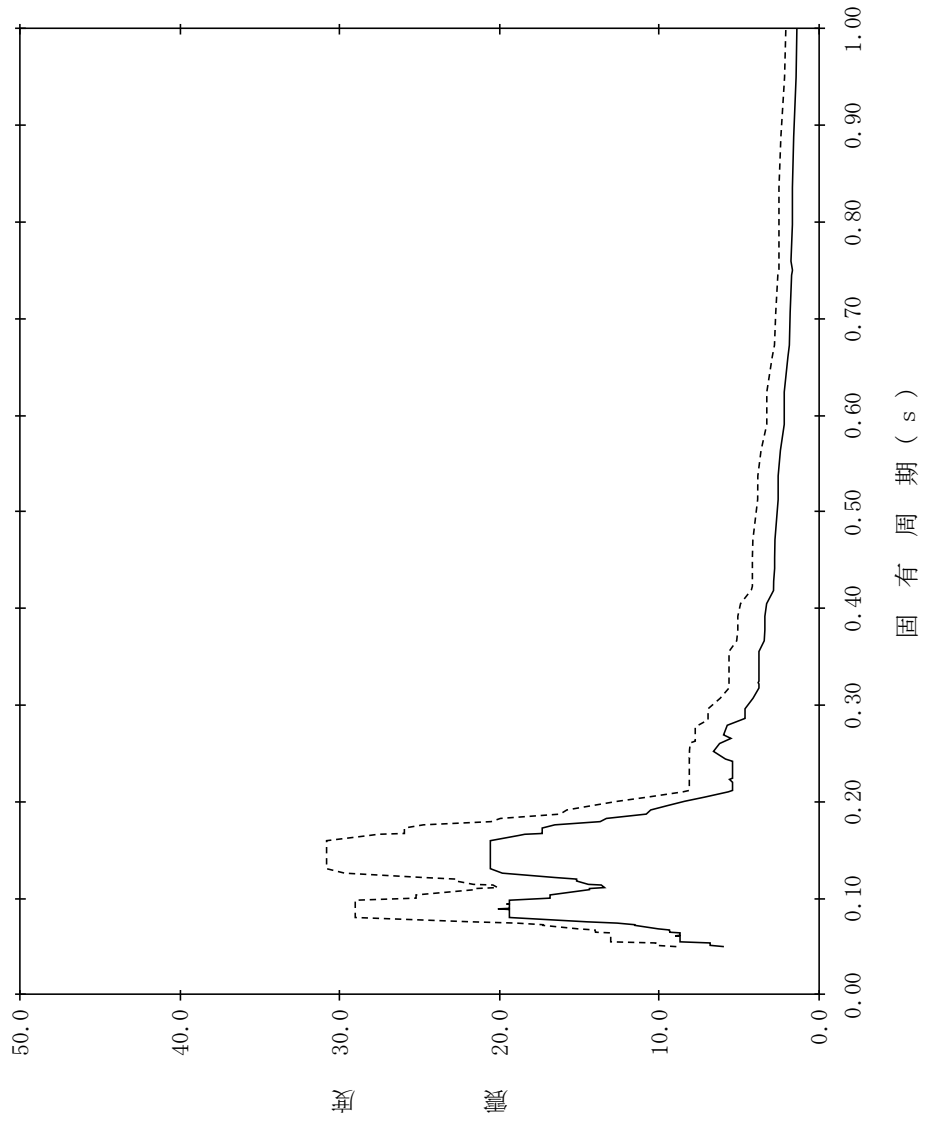
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



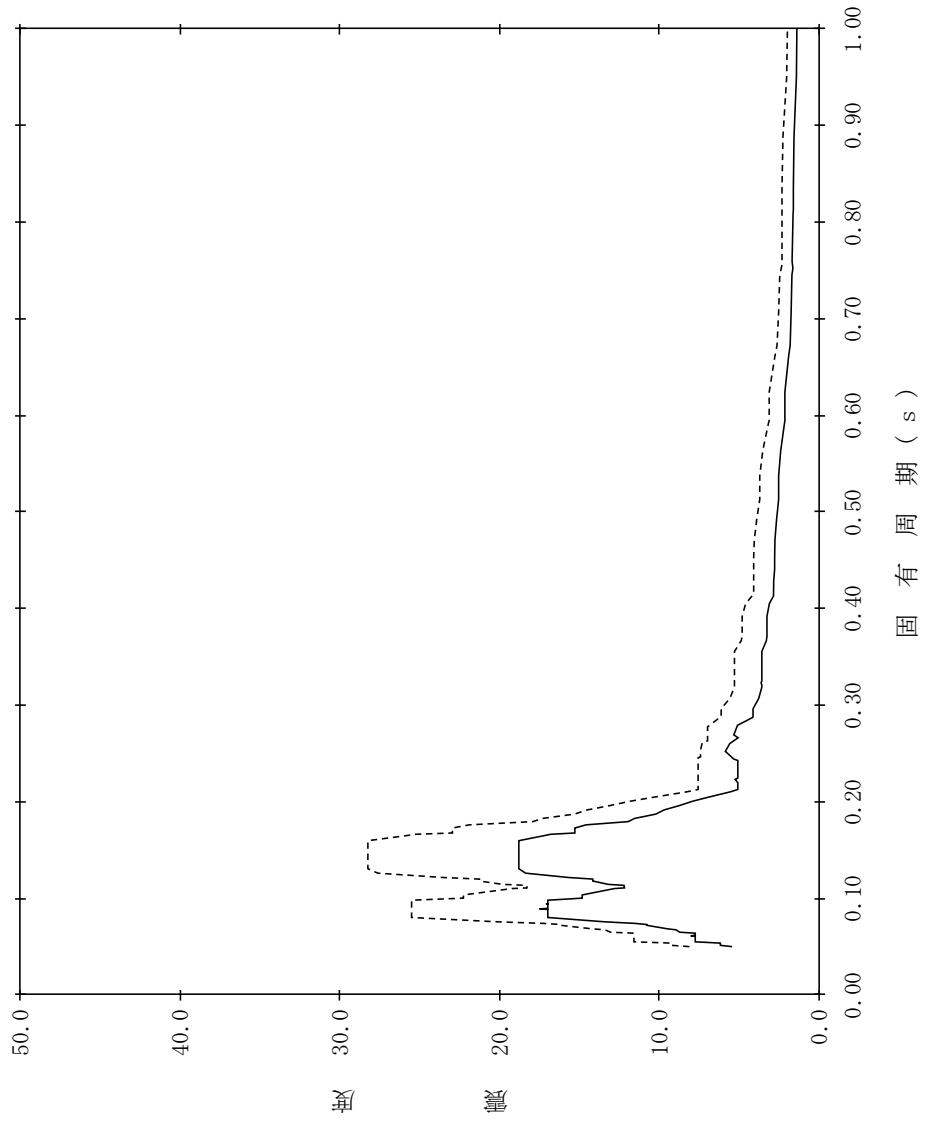
【NS2-TB-SsNS-TB12】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



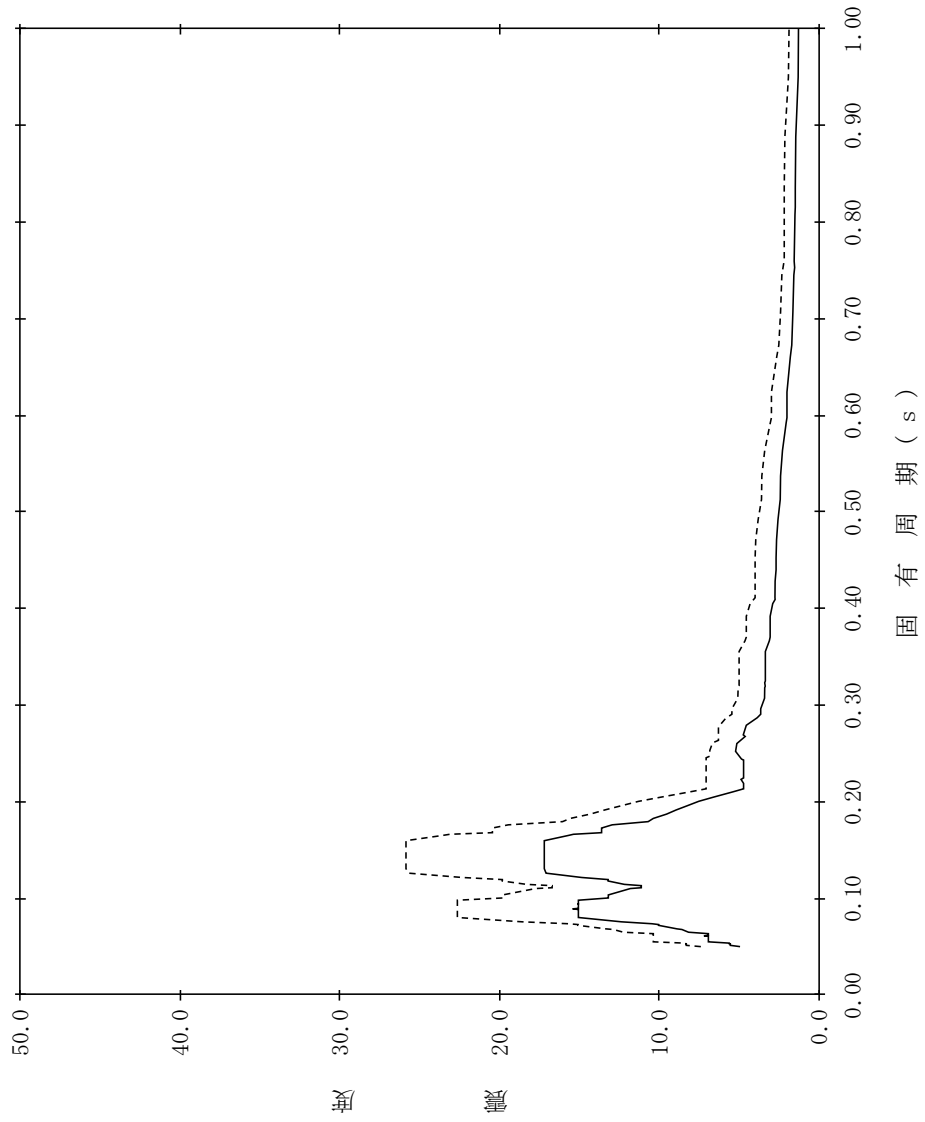
【NS2-TB-SsNS-TB13】

構造物名：タービン建物
標高：EL33.700m
減衰定数：2.5%
波形式：標準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



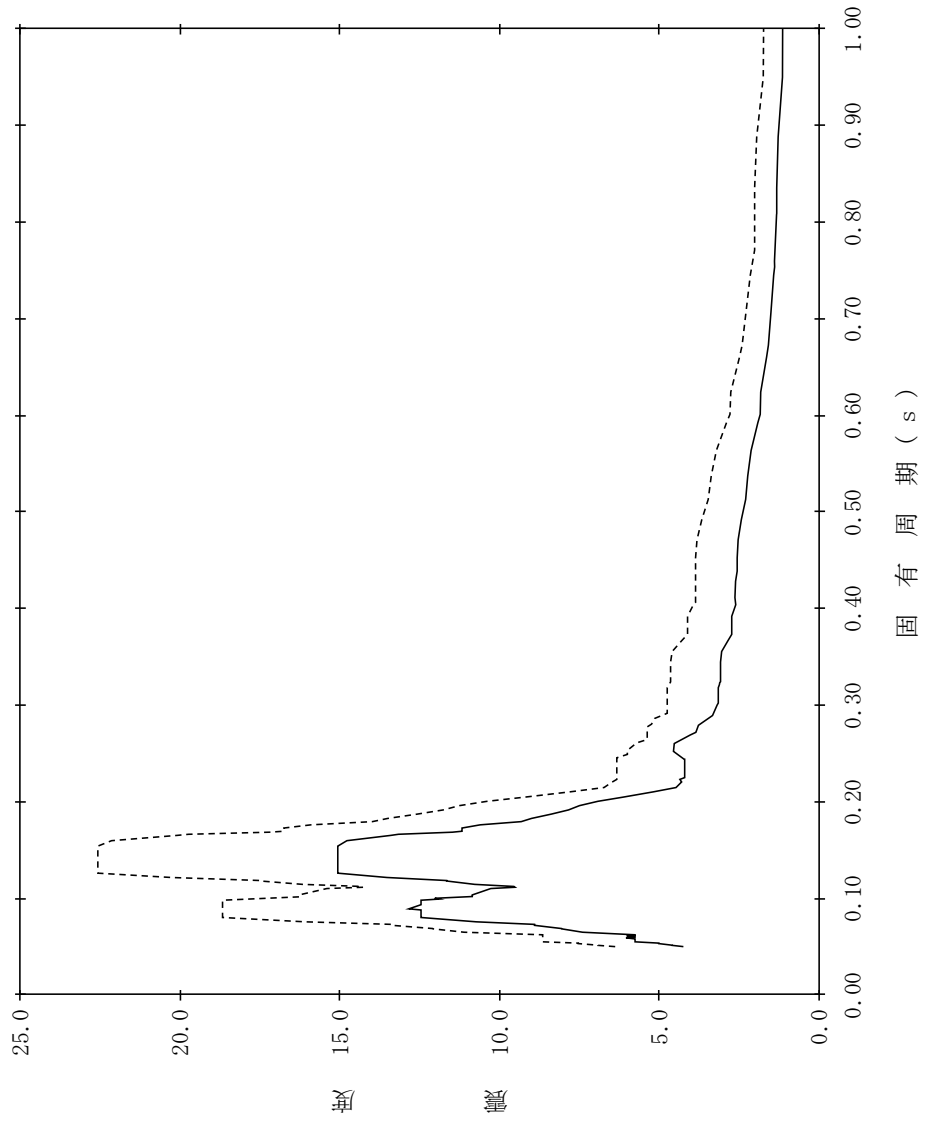
【NS2-TB-SsNS-TB14】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



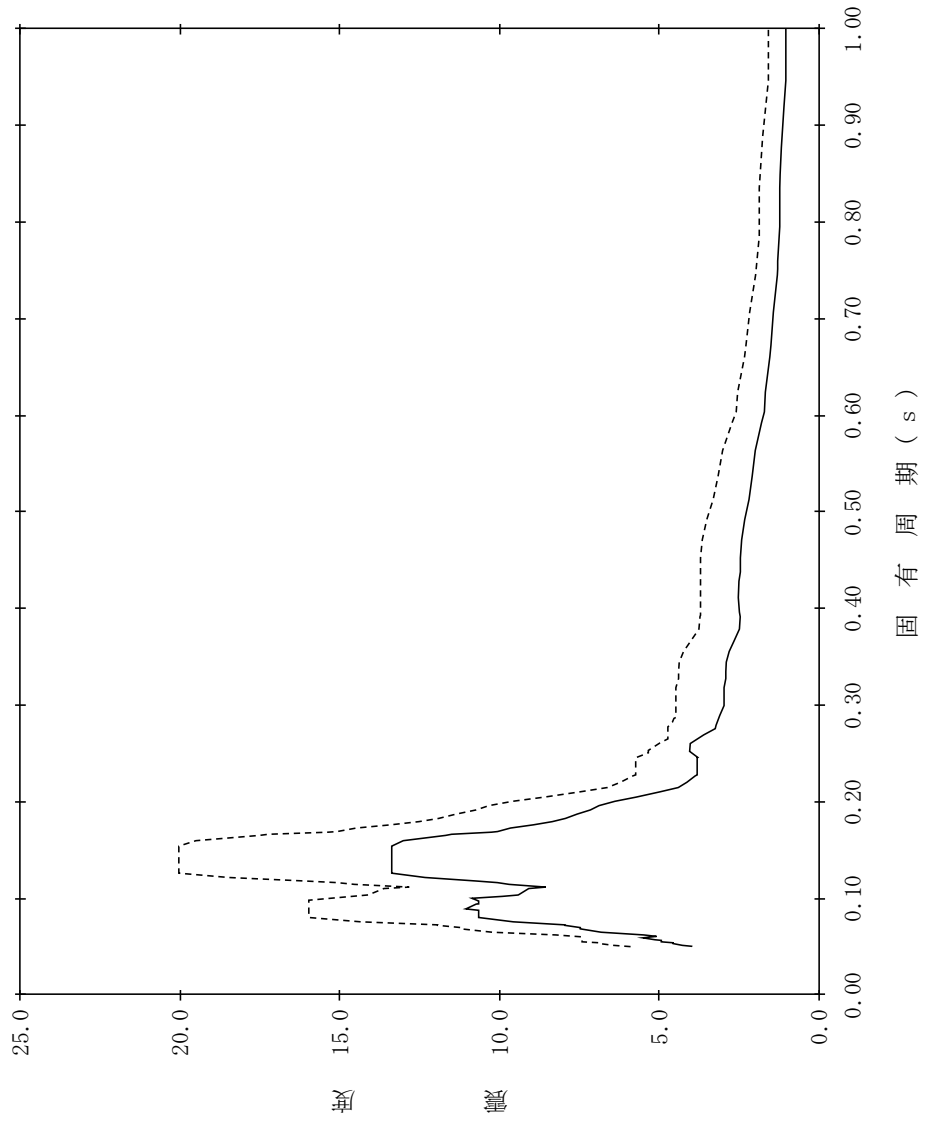
【NS2-TB-SsNS-TB15】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



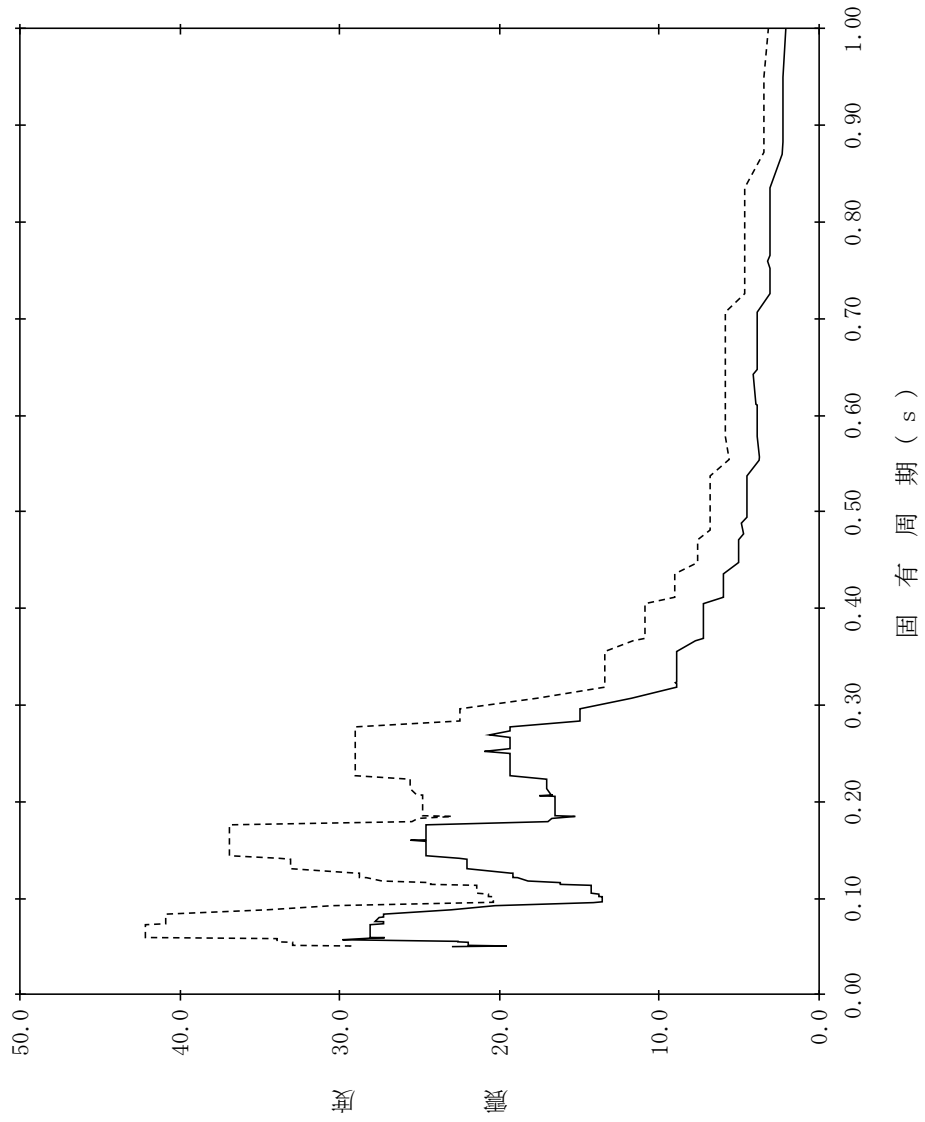
【NS2-TB-SsNS-TB16】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



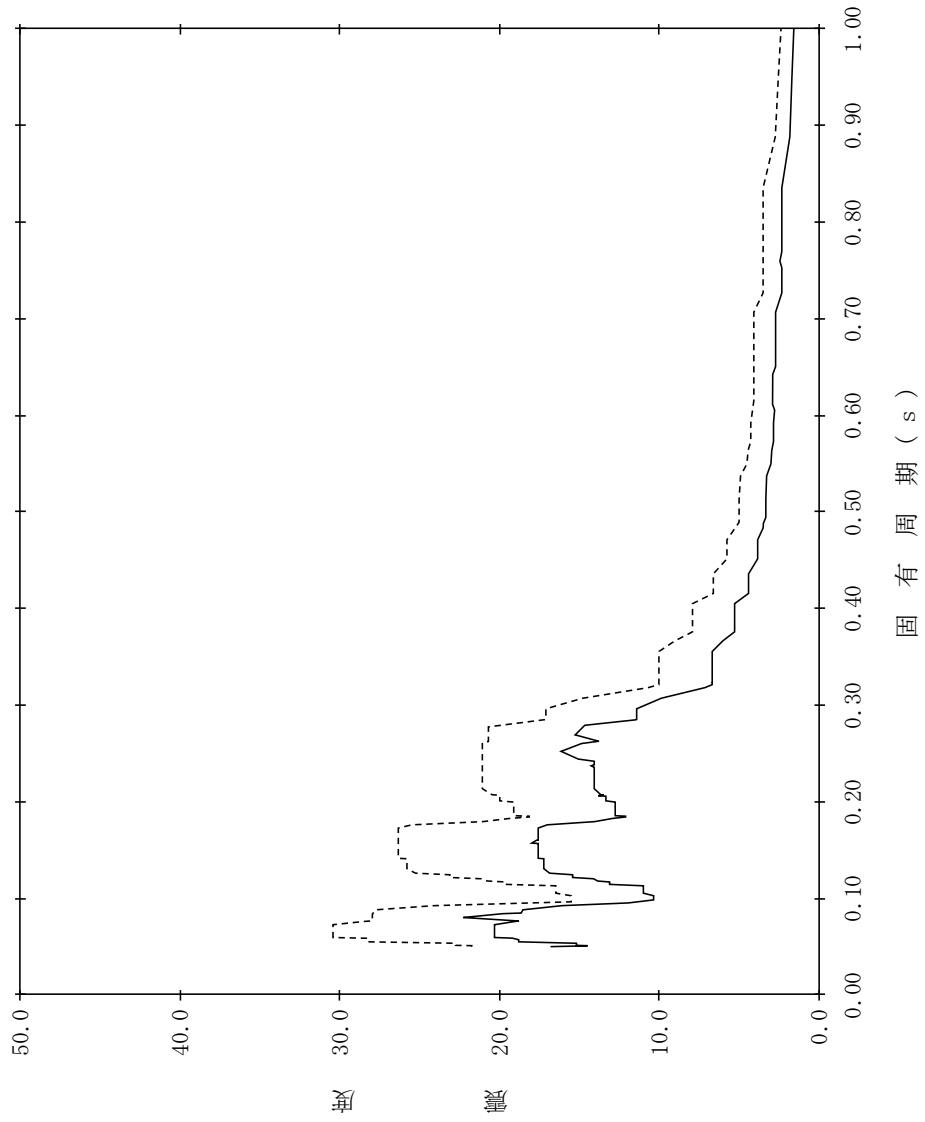
【NS2-TB-SsNS-TB17】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



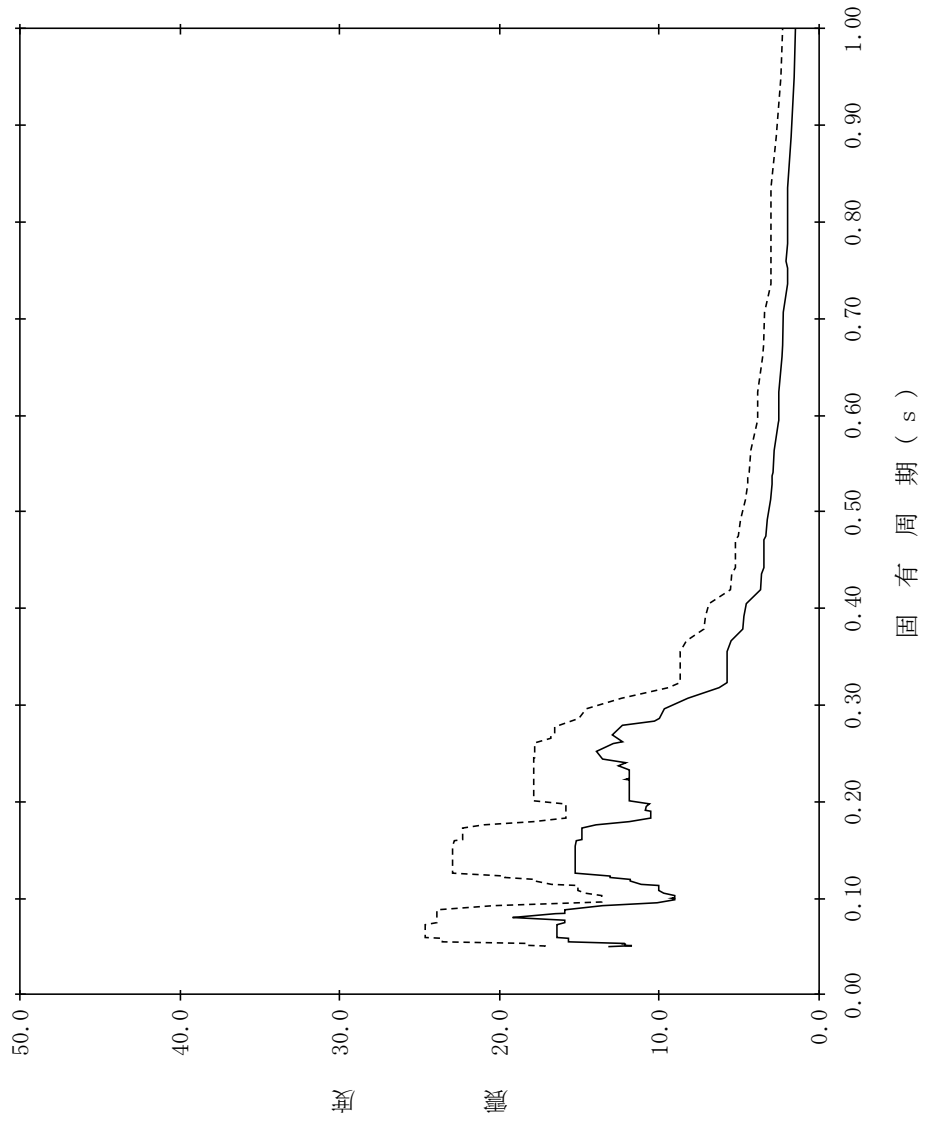
【NS2-TB-SsNS-TB18】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



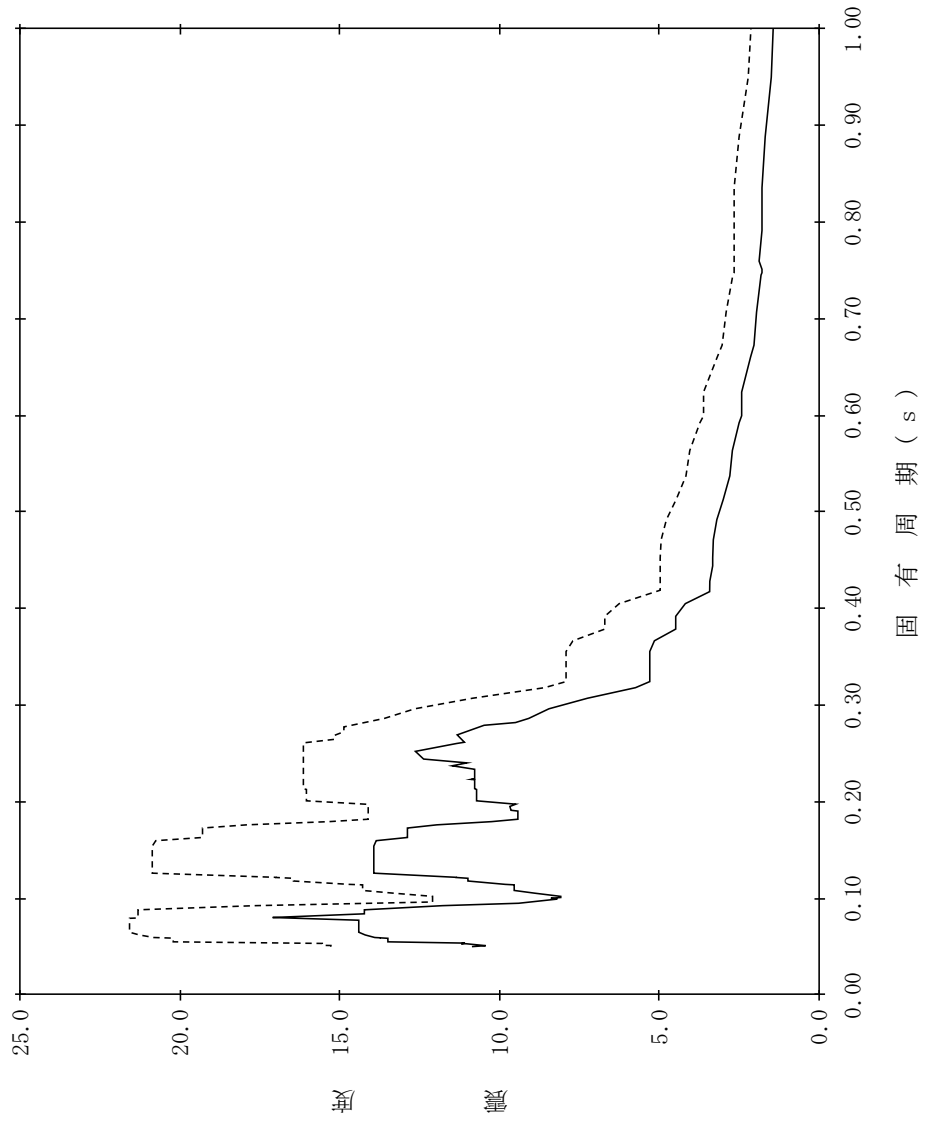
【NS2-TB-SsNS-TB19】

構造物名：タービン建物
減衰定数：1.5%
標高：EL32.000m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



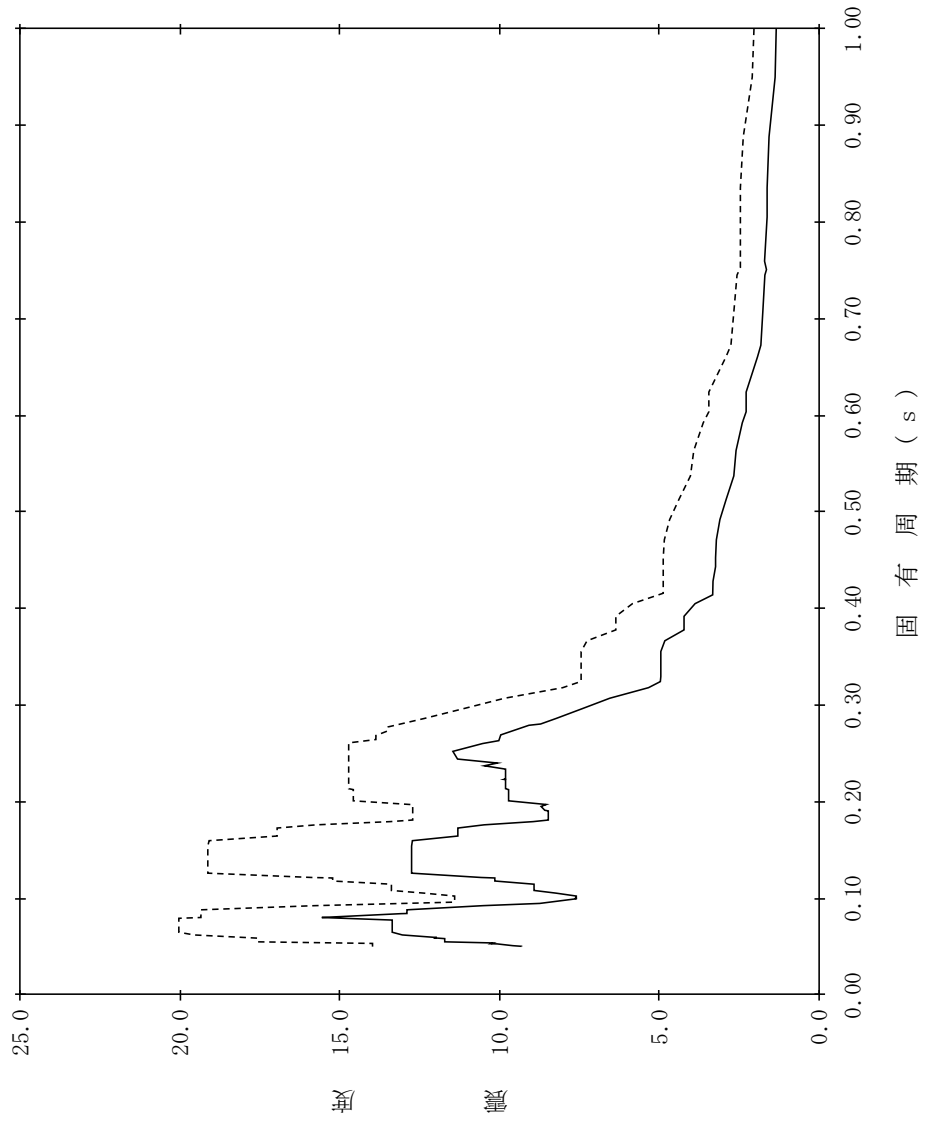
【NS2-TB-SsNS-TB20】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



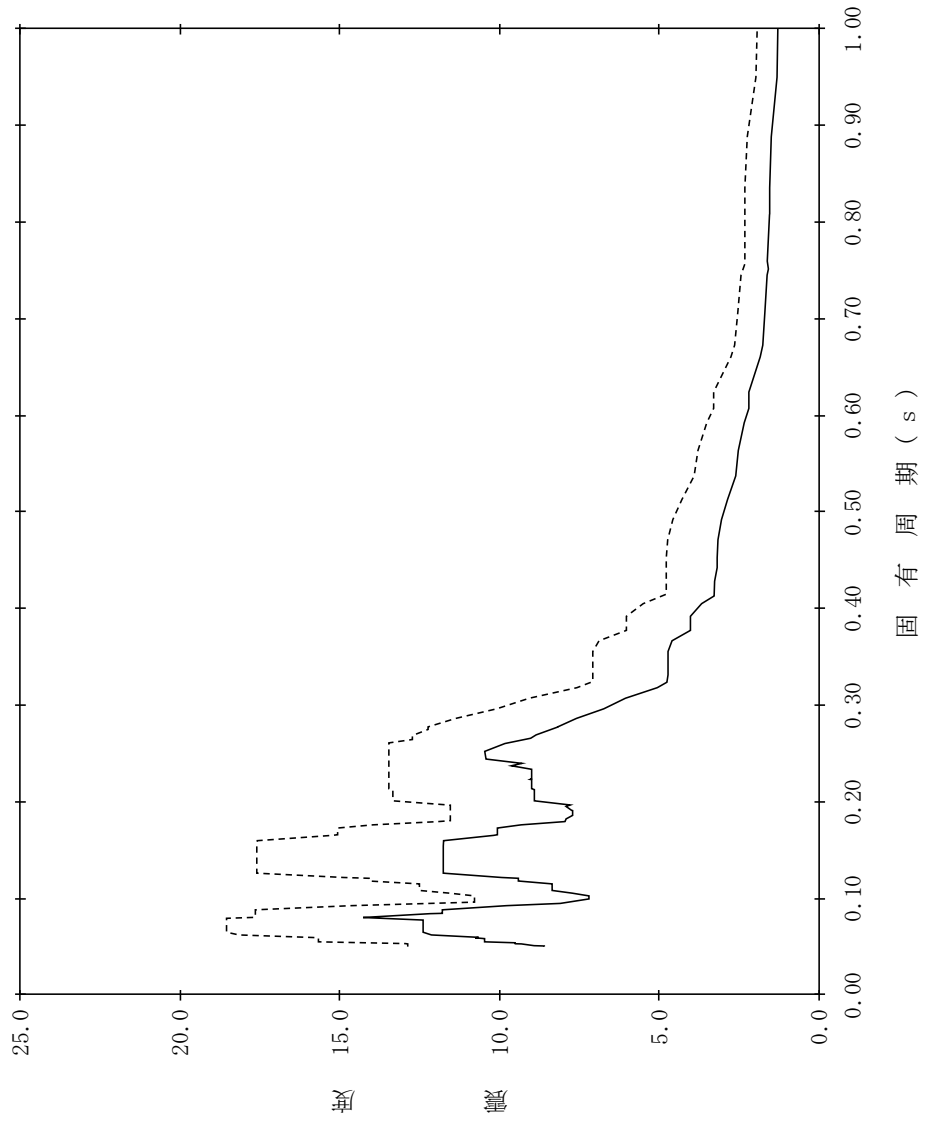
【NS2-TB-SsNS-TB21】

構造物名：タービン建物
減衰定数：2.5%
標高：EL32.000m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



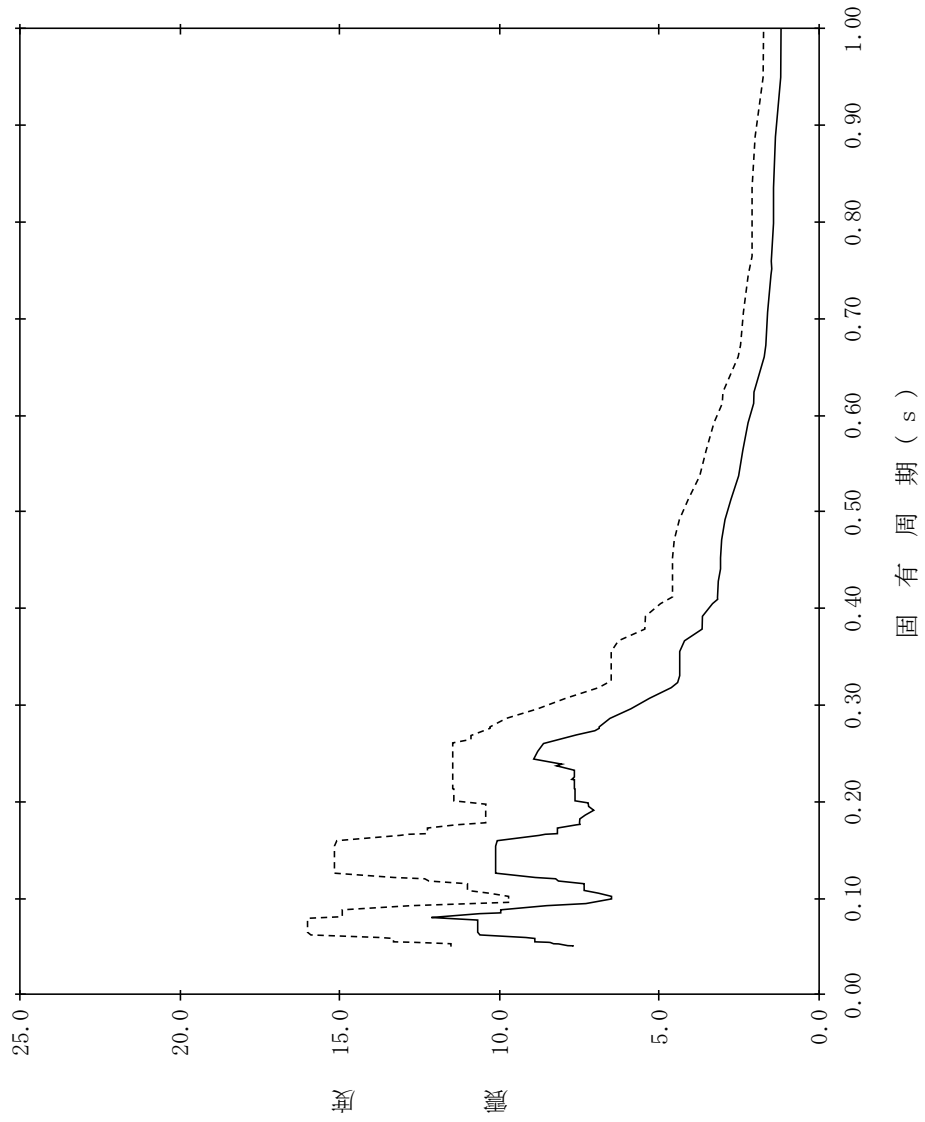
【NS2-TB-SsNS-TB22】

構造物名：タービン建物
標高：EL32.000m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



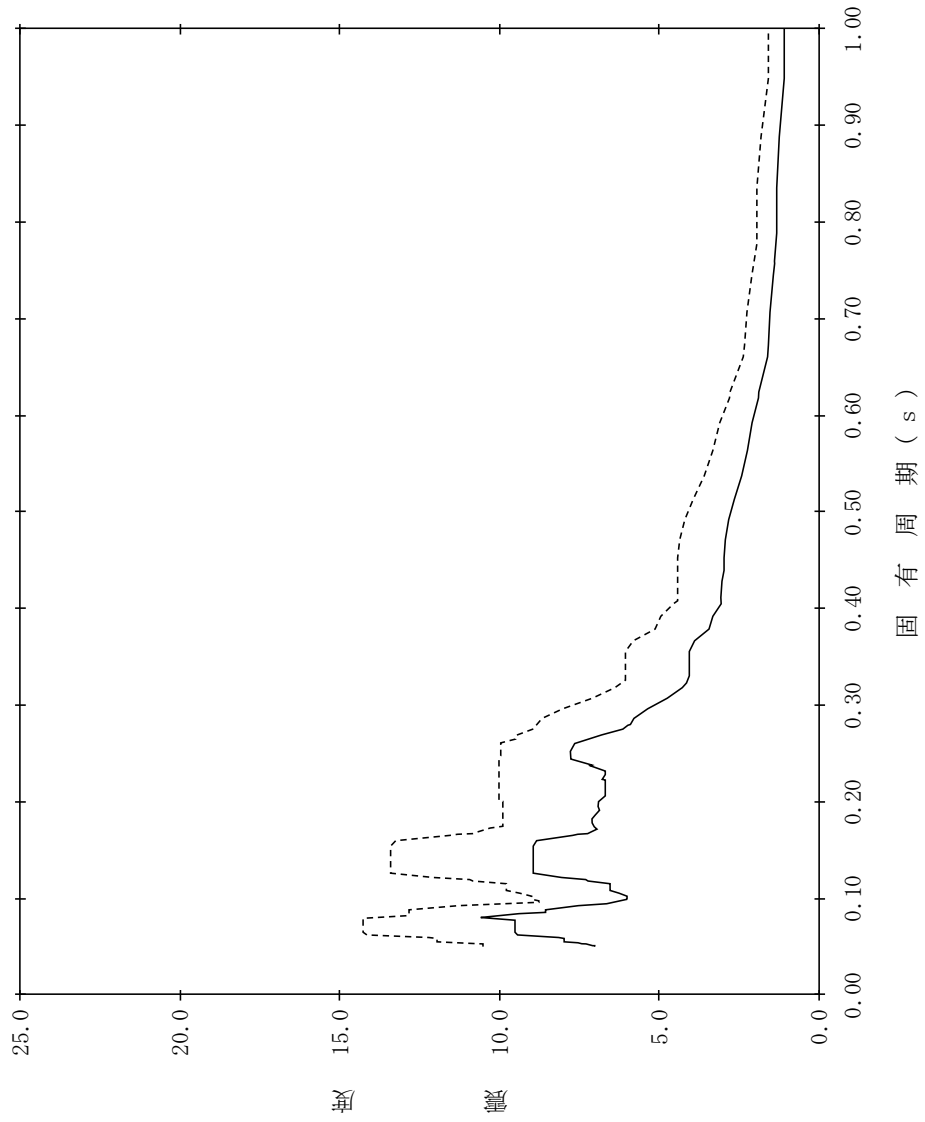
【NS2-TB-SsNS-TB23】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SsNS-TB24】

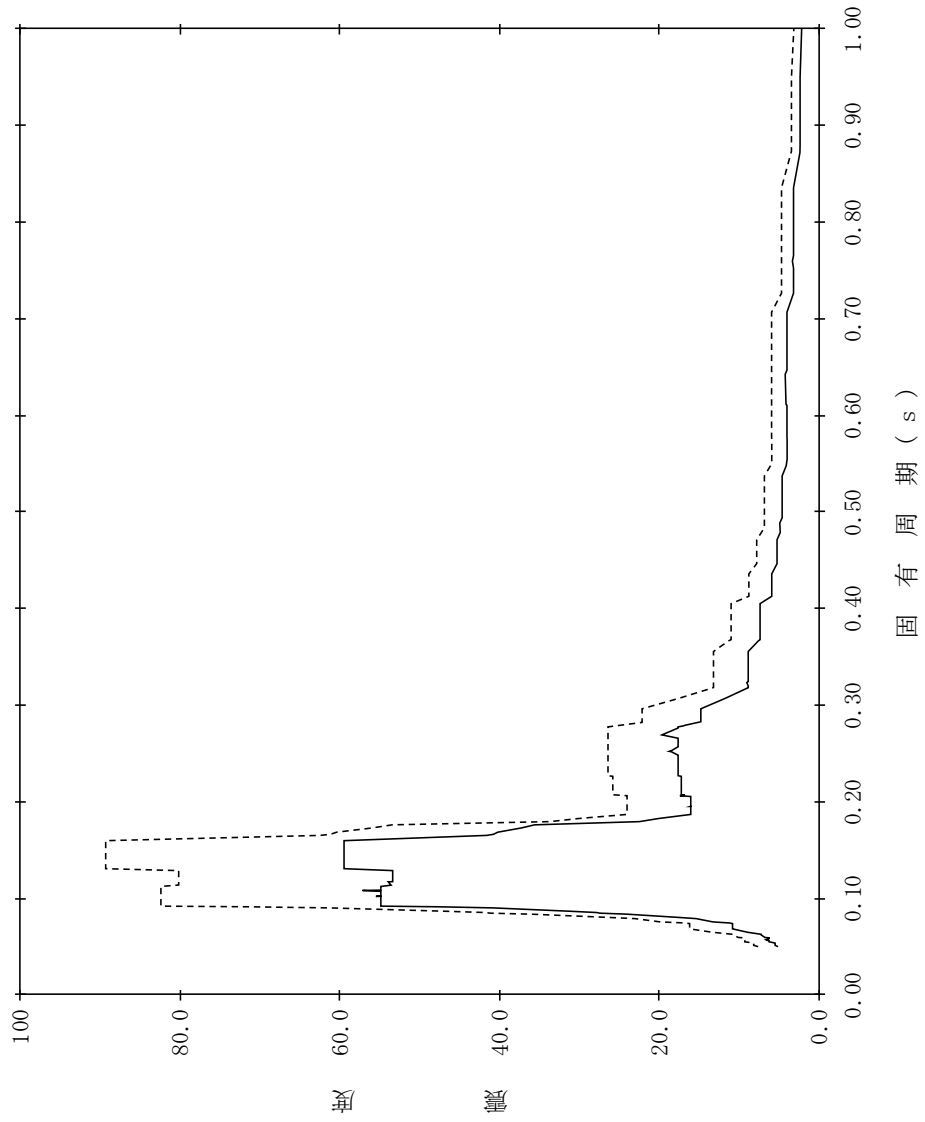
構造物名：タービン建物
標高：EL32.000m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SsNS-TB25】

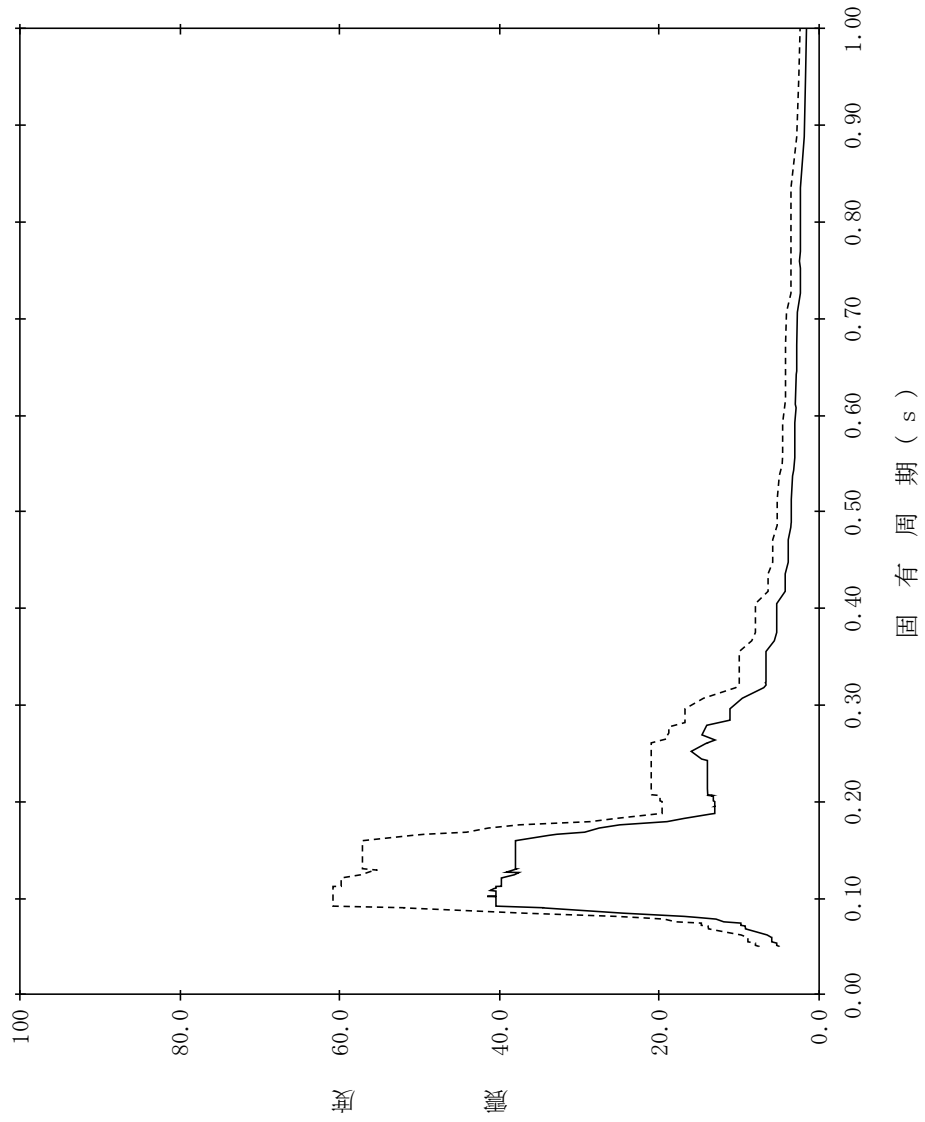
構造物名：タービン建物
標高：EL30.550m
減衰定数：0.5%
波形名：基準地震動 S s

—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



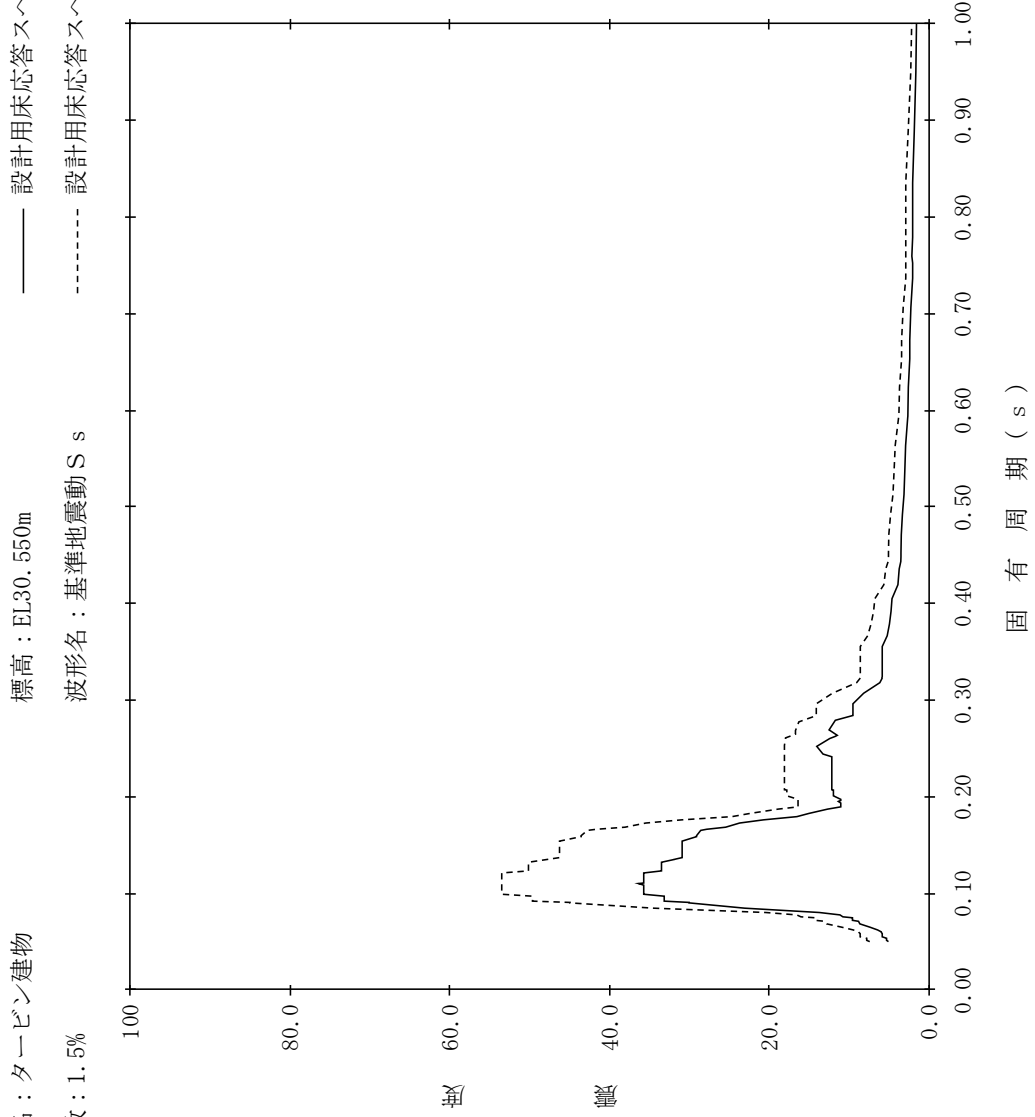
【NS2-TB-SsNS-TB26】

構造物名：タービン建物
 標高：EL30.550m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



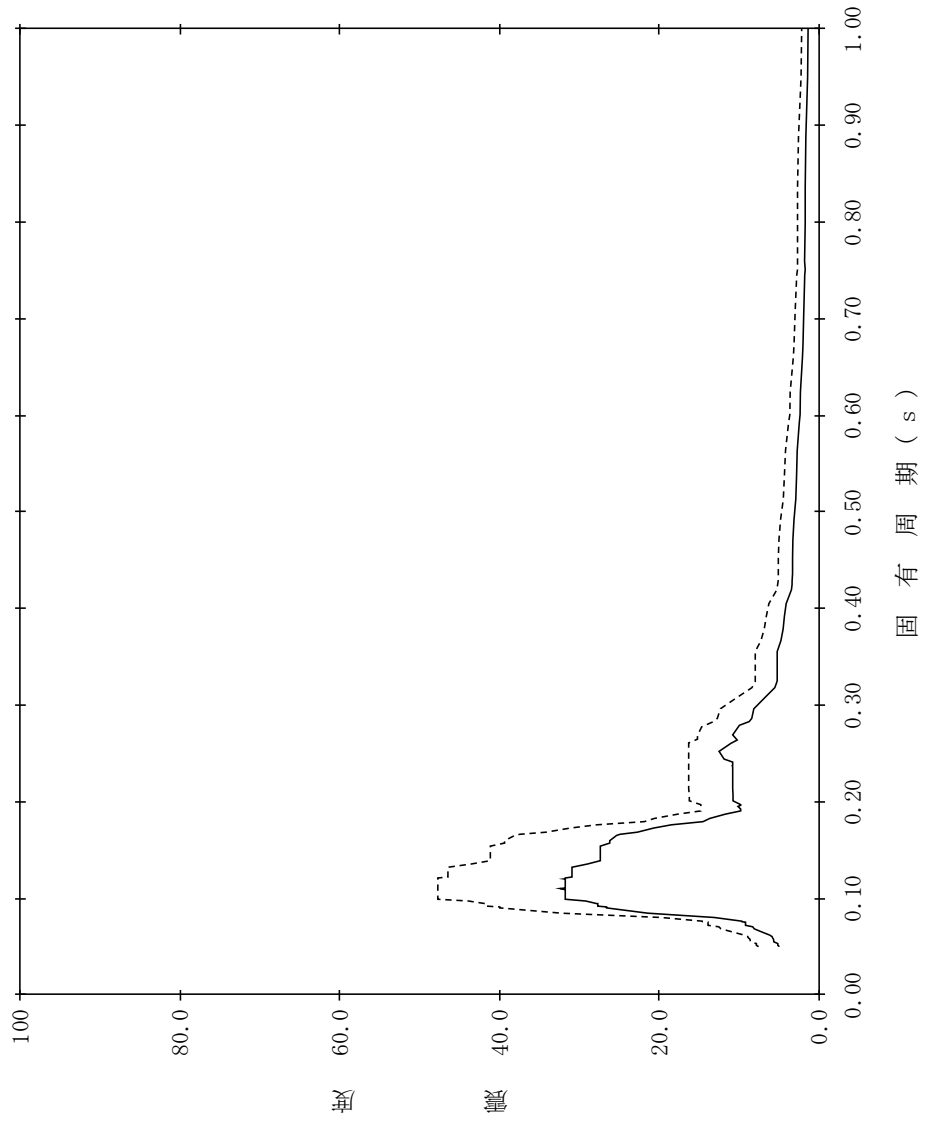
【NS2-TB-SsNS-TB27】

構造物名：タービン建物
 標高：EL30.550m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s



【NS2-TB-SsNS-TB28】

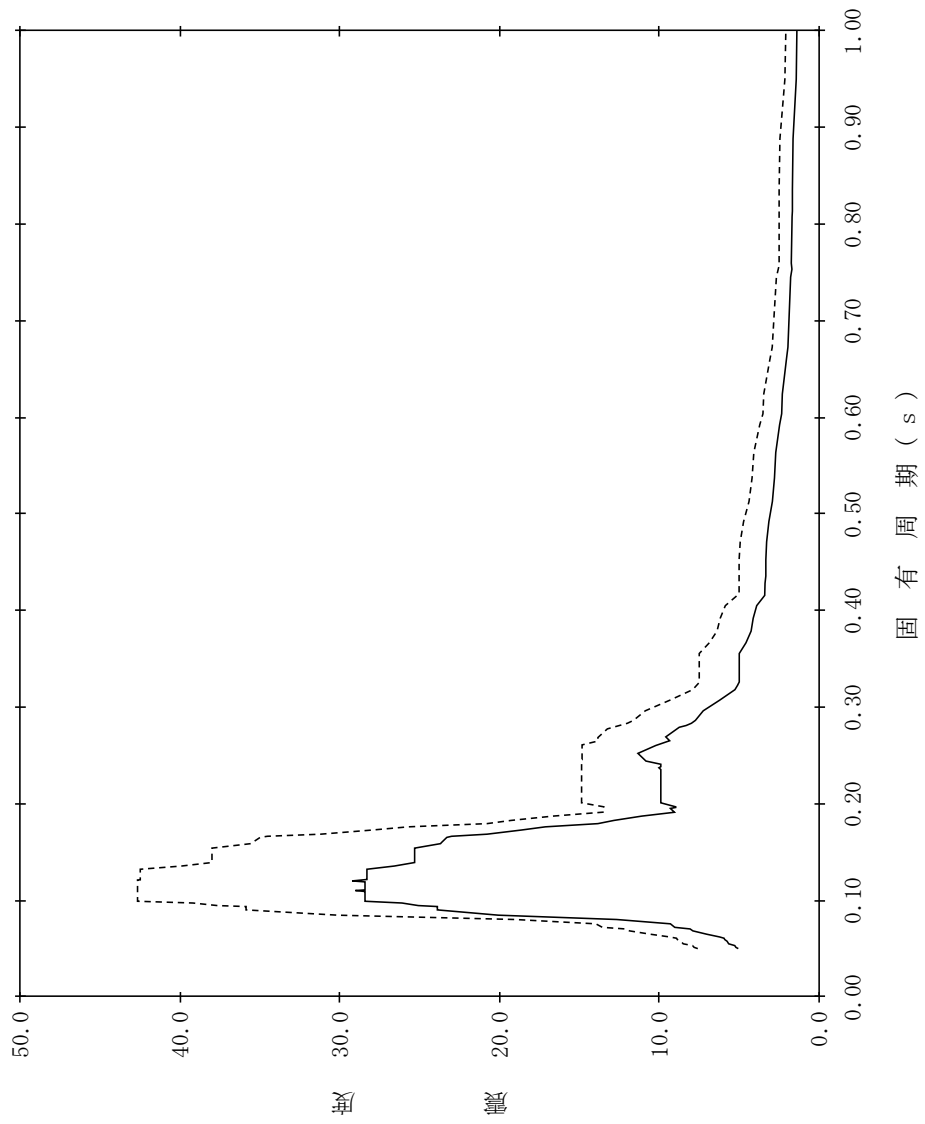
構造物名：タービン建物
標高：EL30.550m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SsNS-TB29】

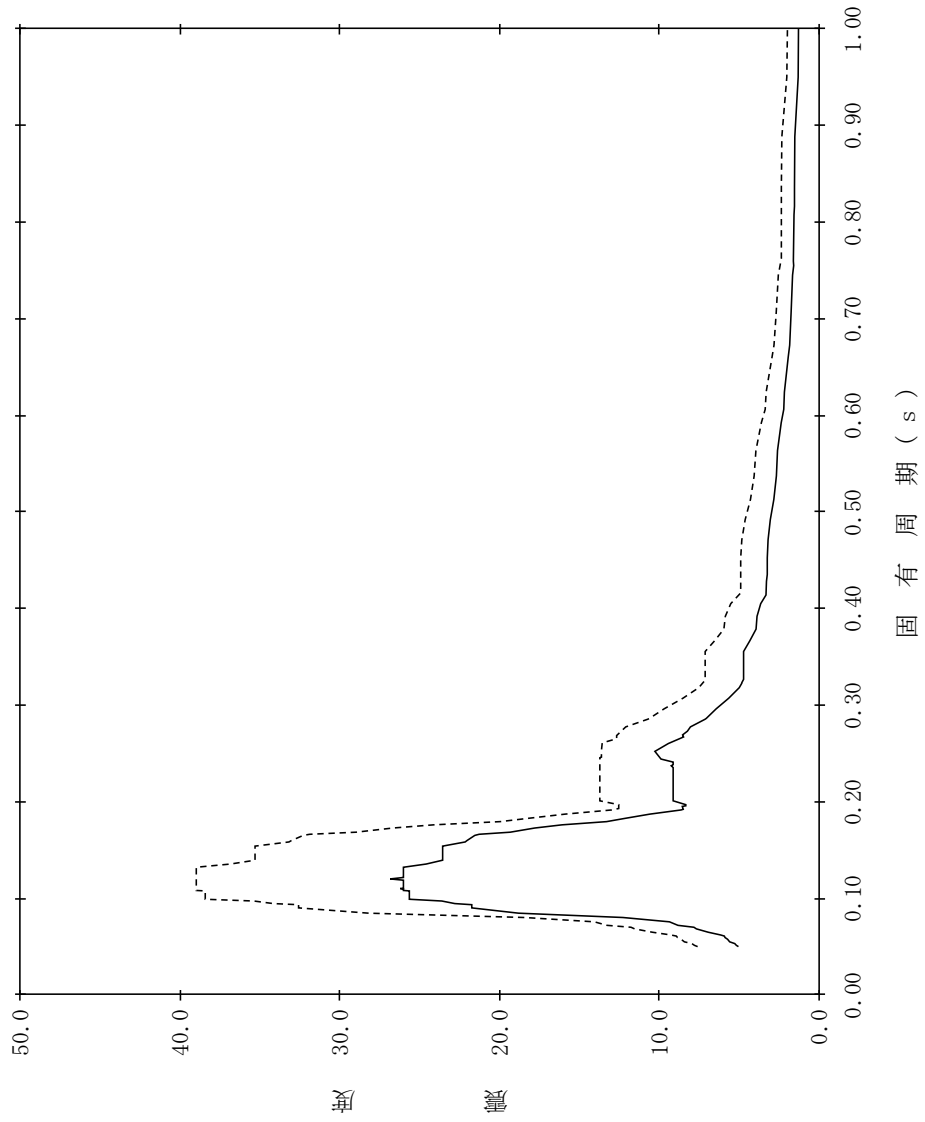
構造物名：タービン建物
標高：EL30.550m
減衰定数：2.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



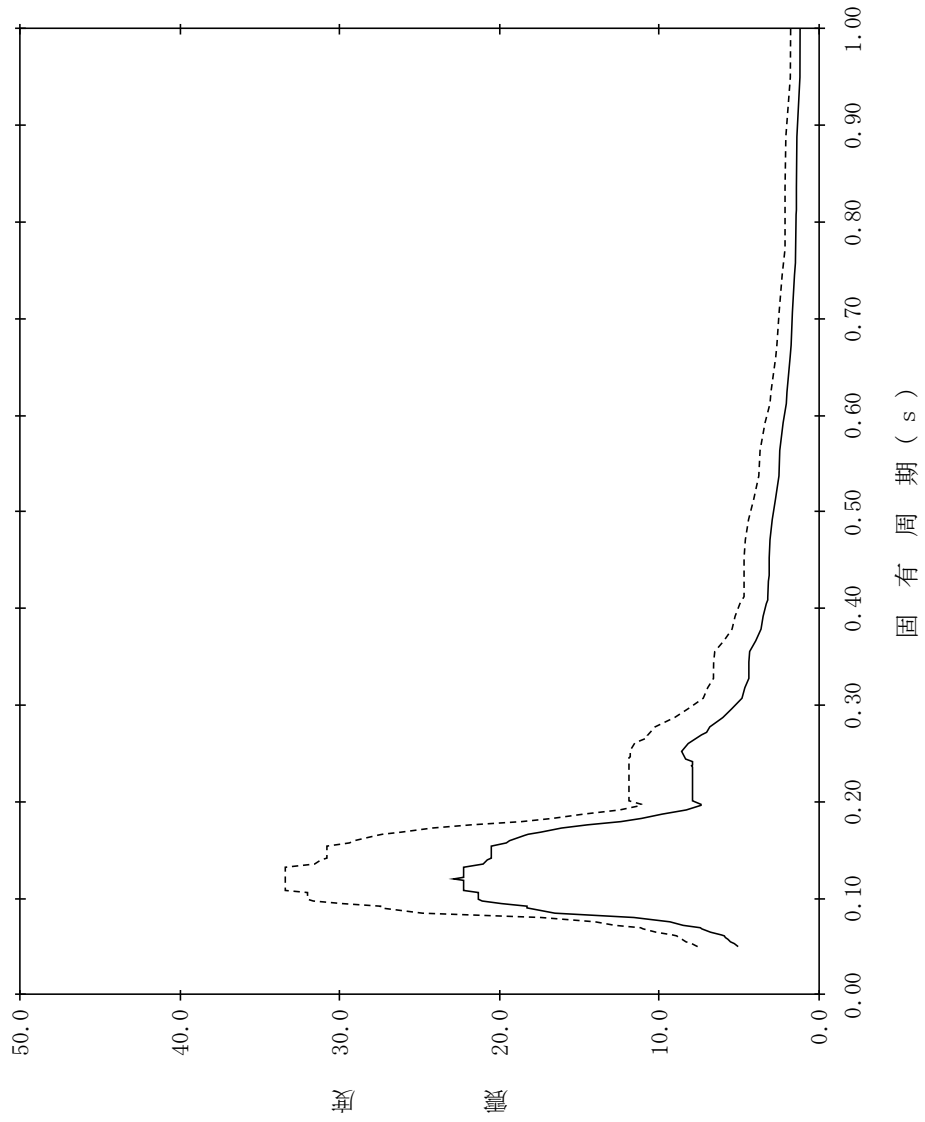
【NS2-TB-SsNS-TB30】

構造物名：タービン建物
減衰定数：3.0%
標高：EL30.550m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



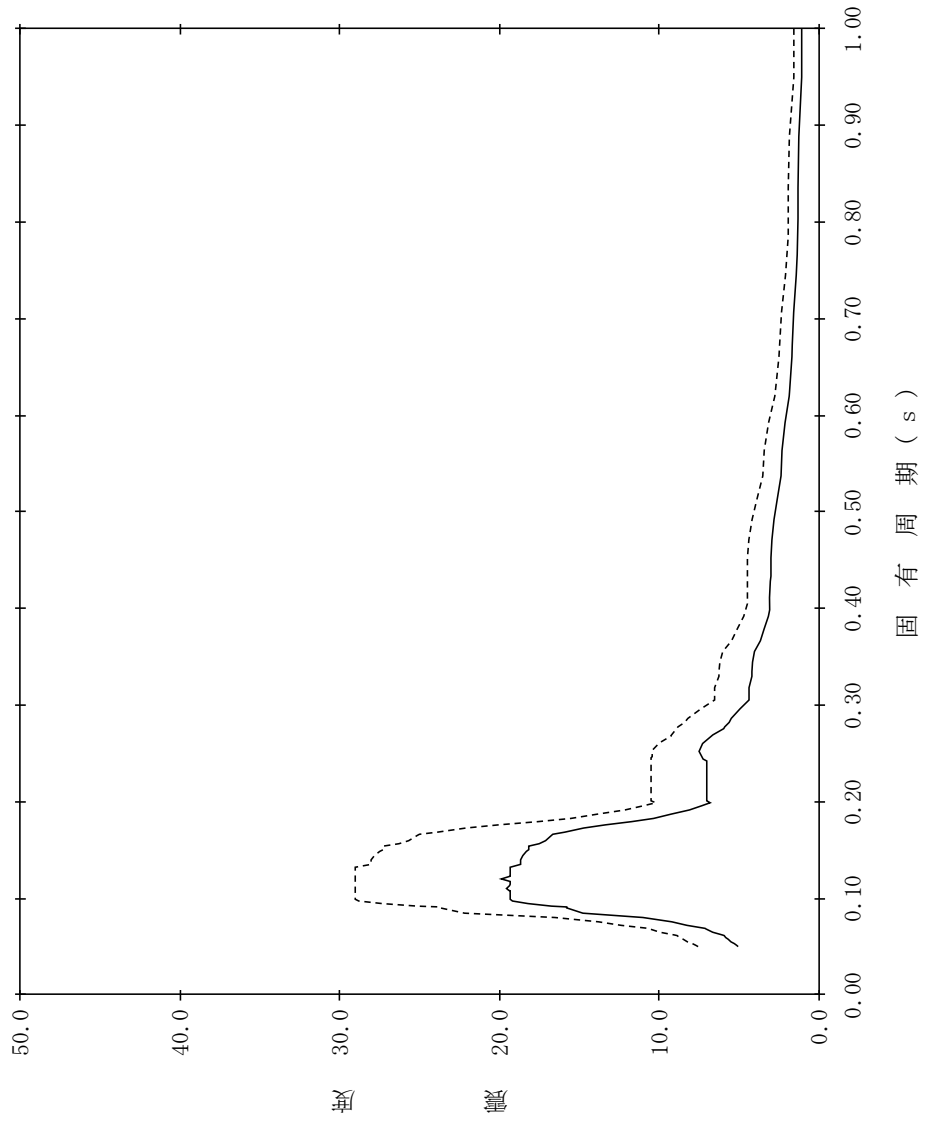
【NS2-TB-SsNS-TB31】

構造物名：タービン建物
 標高：EL30.550m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



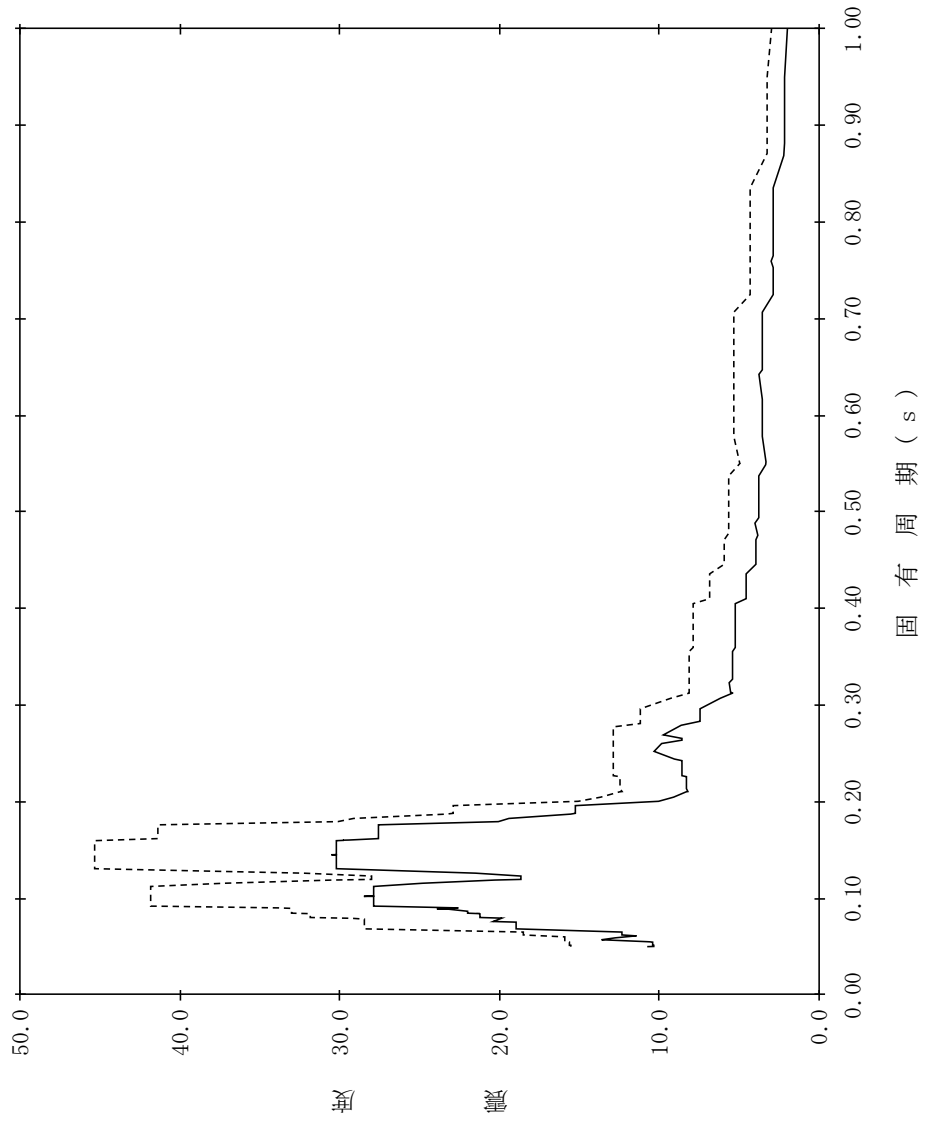
【NS2-TB-SsNS-TB32】

構造物名：タービン建物
標高：EL30.550m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



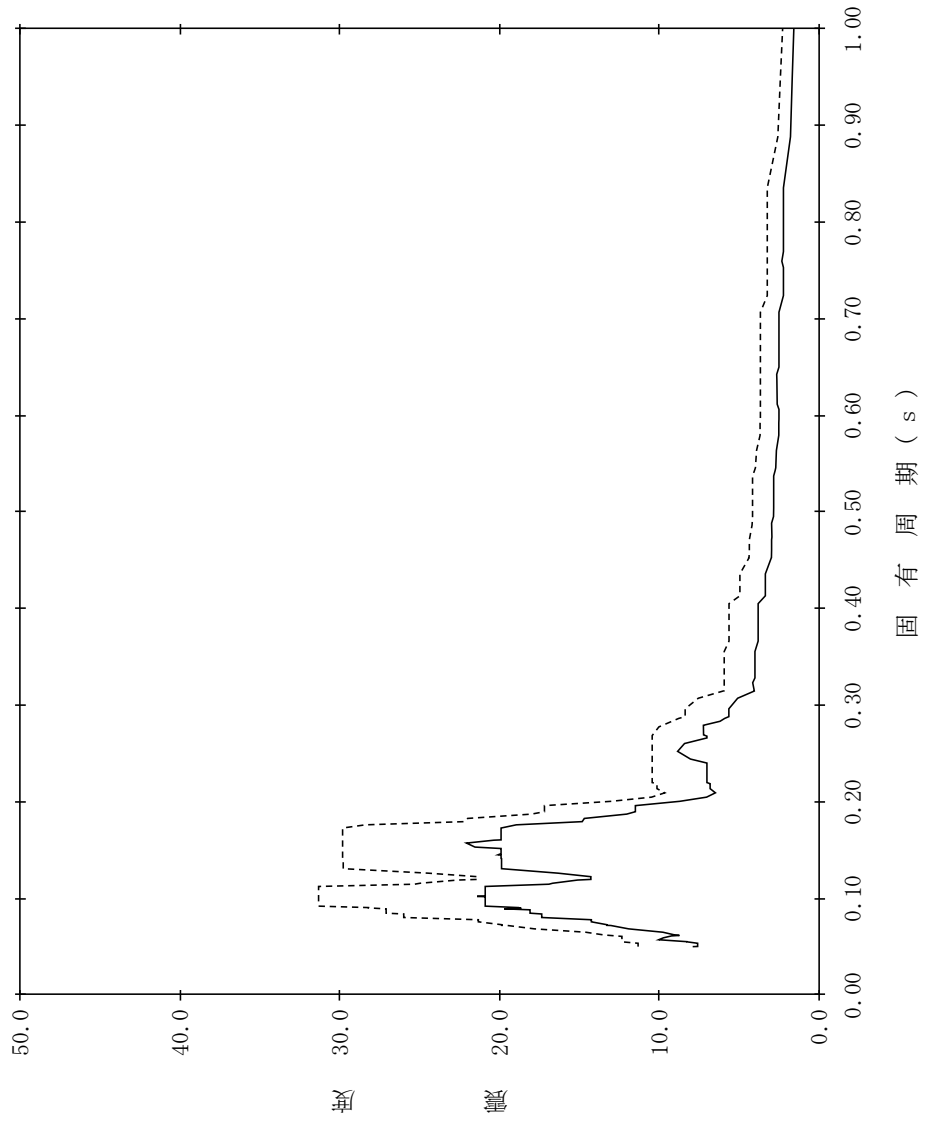
【NS2-TB-SsNS-TB33】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



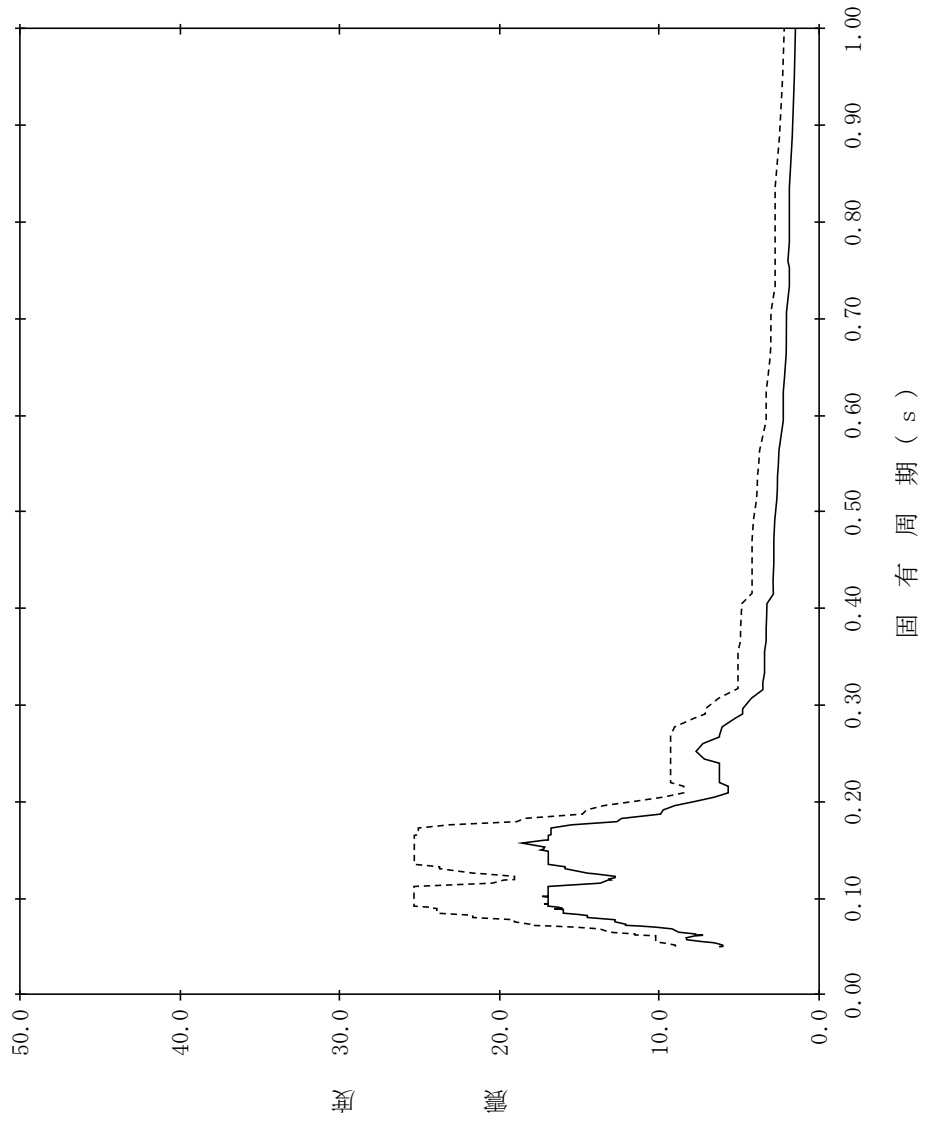
【NS2-TB-SsNS-TB34】

構造物名：タービン建物
減衰定数：1.0%
標高：EL20.600m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



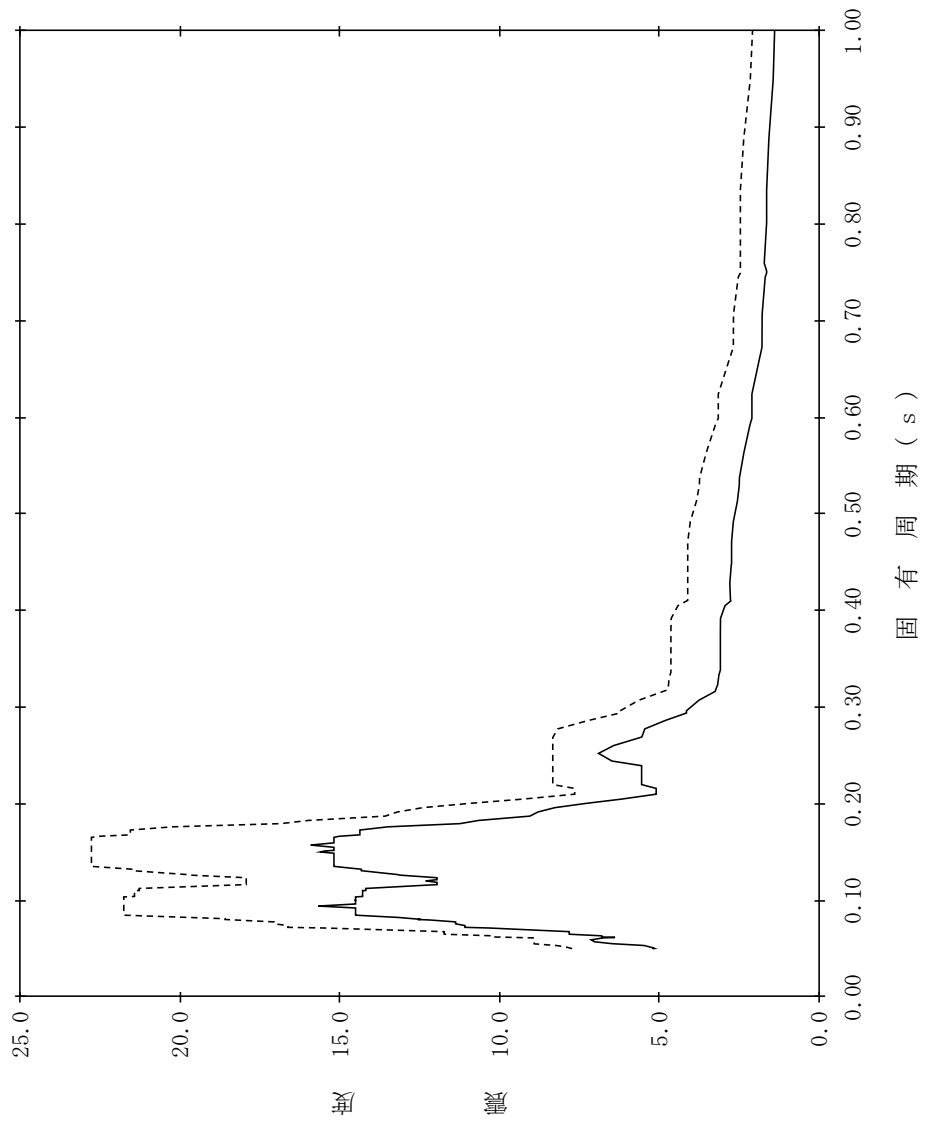
【NS2-TB-SsNS-TB35】

構造物名：タービン建物
減衰定数：1.5%
標高：EL20.600m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



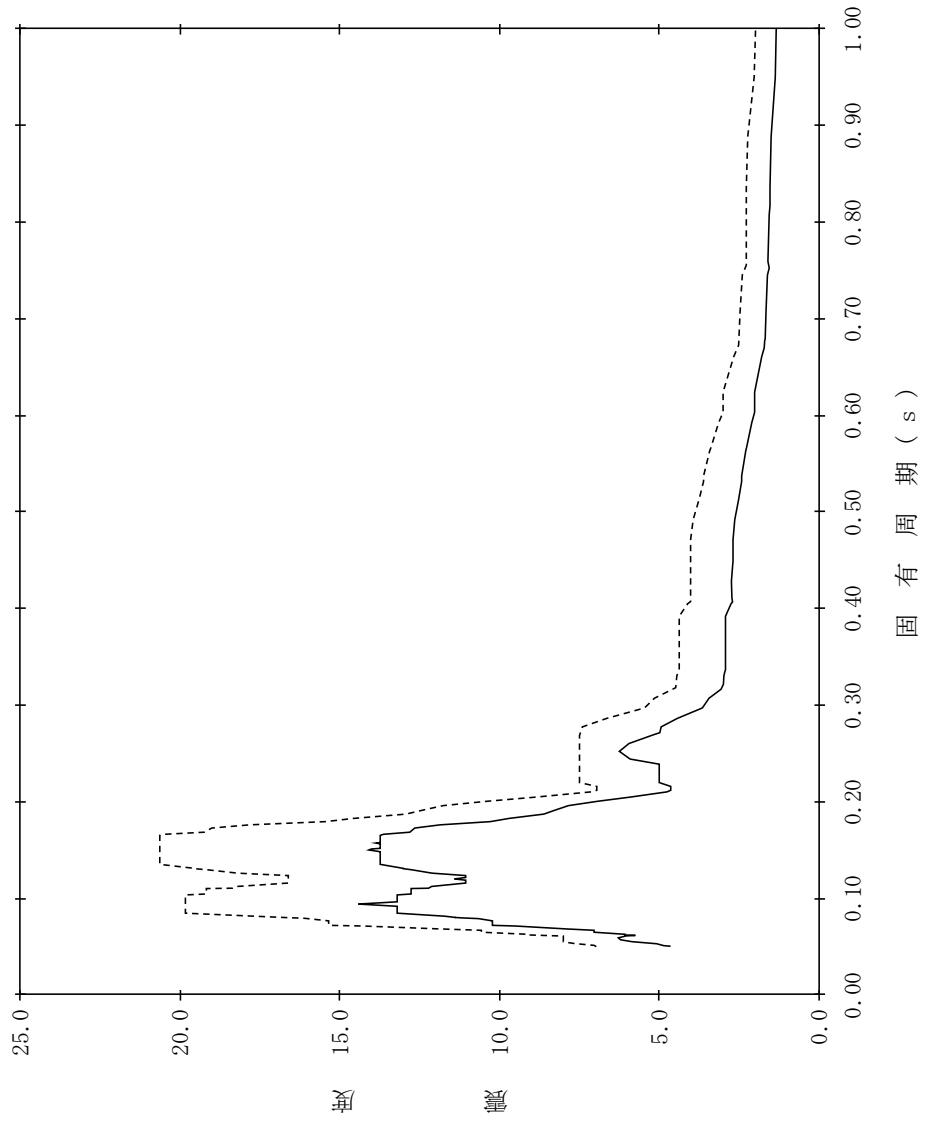
【NS2-TB-SsNS-TB36】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



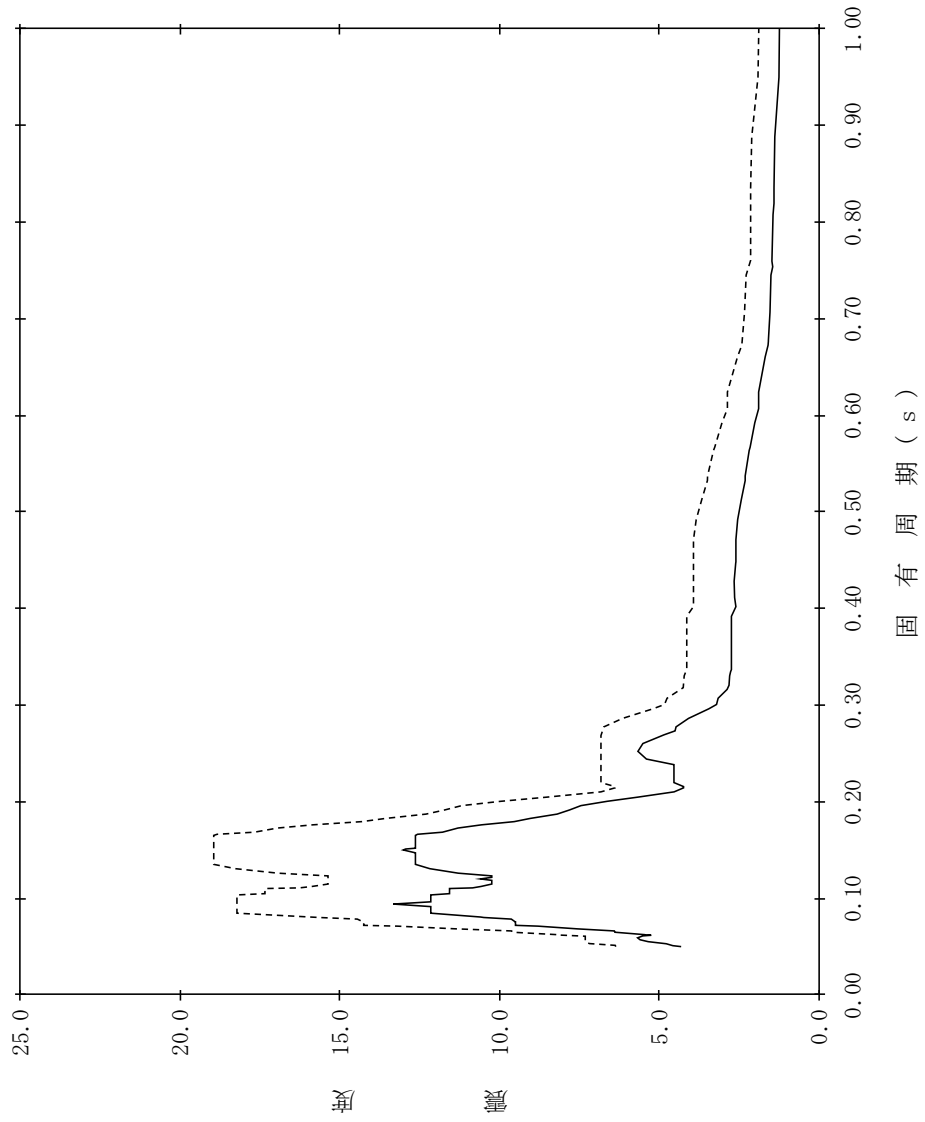
【NS2-TB-SsNS-TB37】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



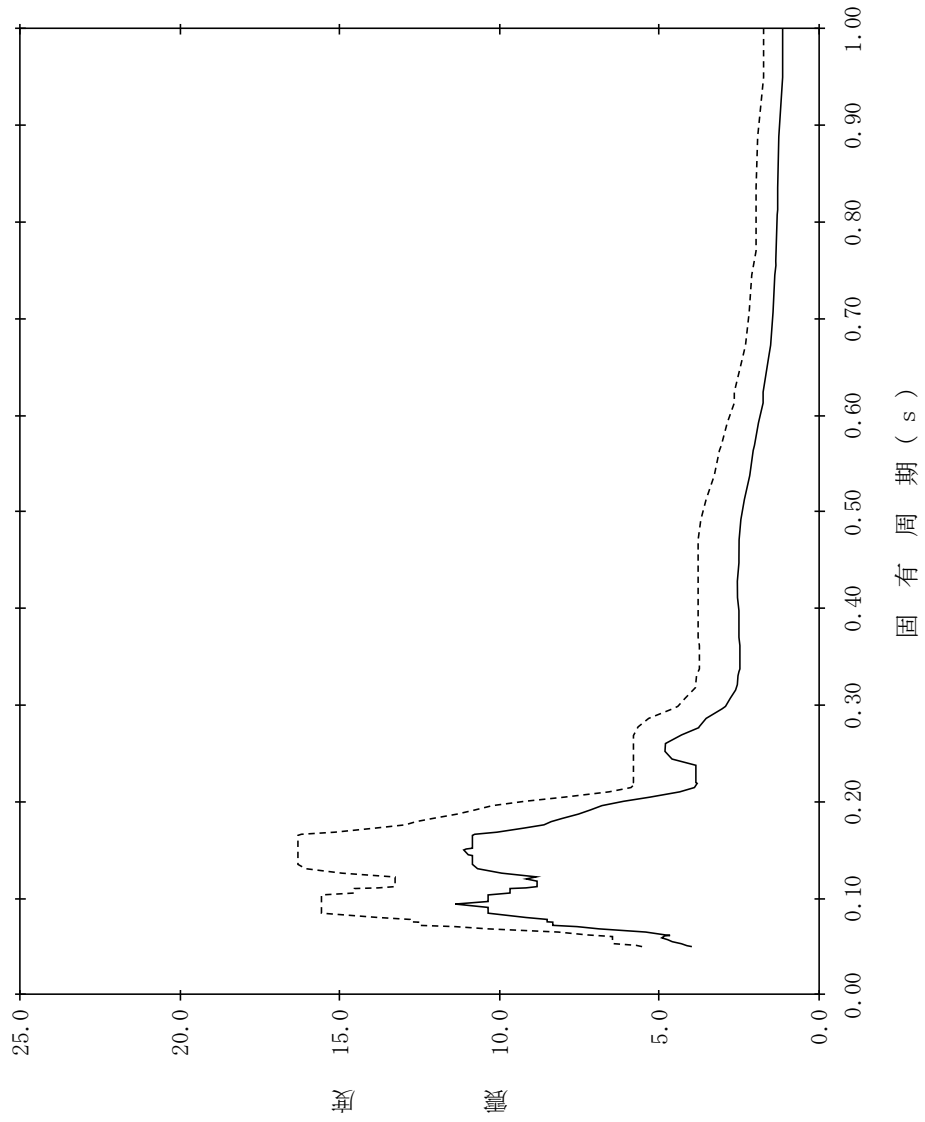
【NS2-TB-SsNS-TB38】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



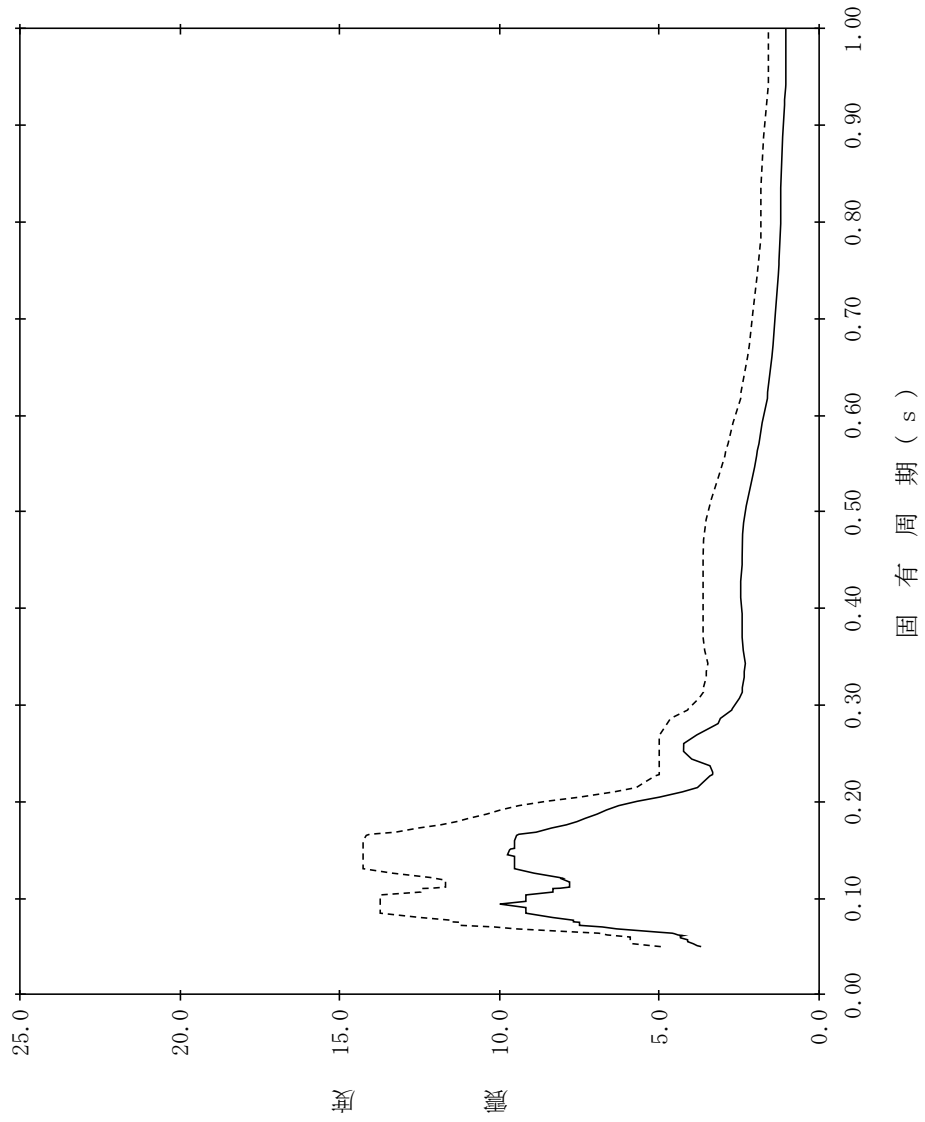
【NS2-TB-SsNS-TB39】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



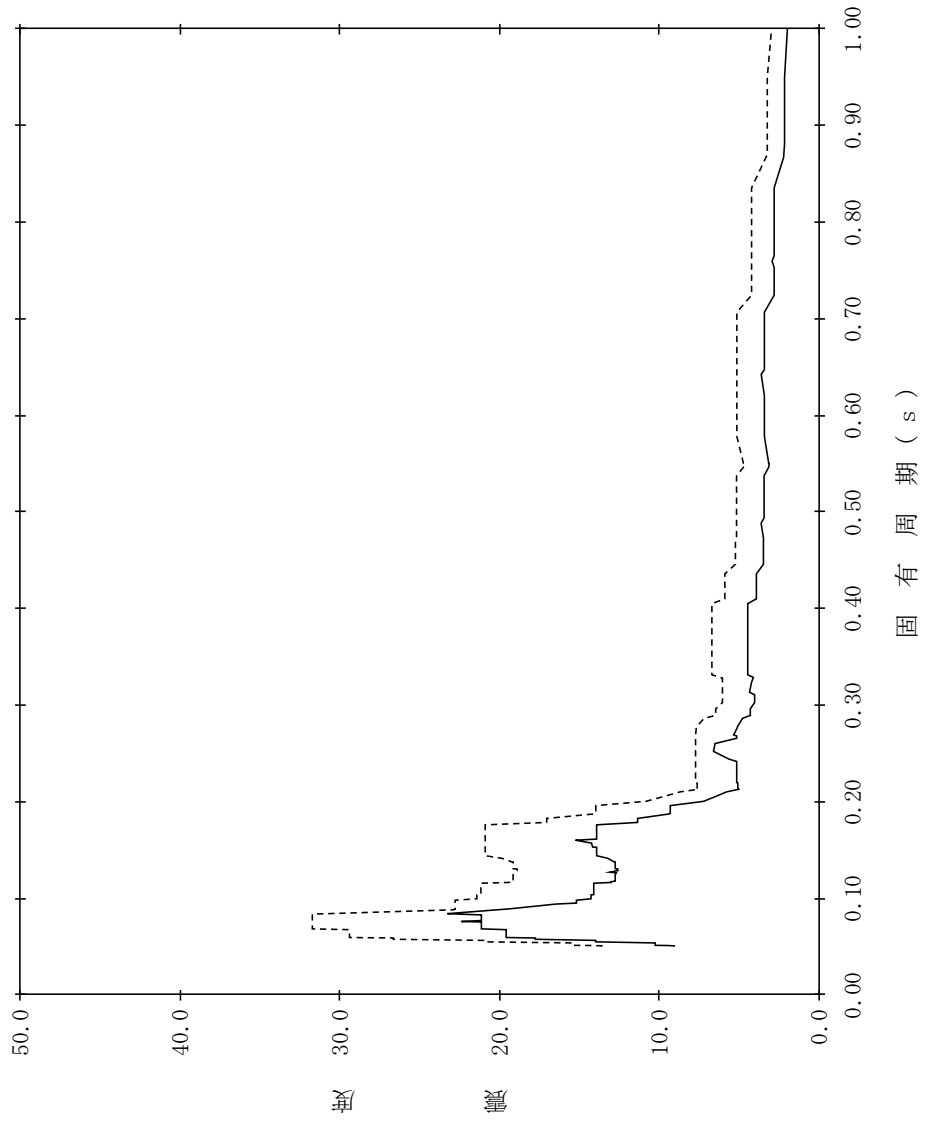
【NS2-TB-SsNS-TB40】

構造物名：タービン建物
減衰定数：5.0%
標高：EL20.600m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



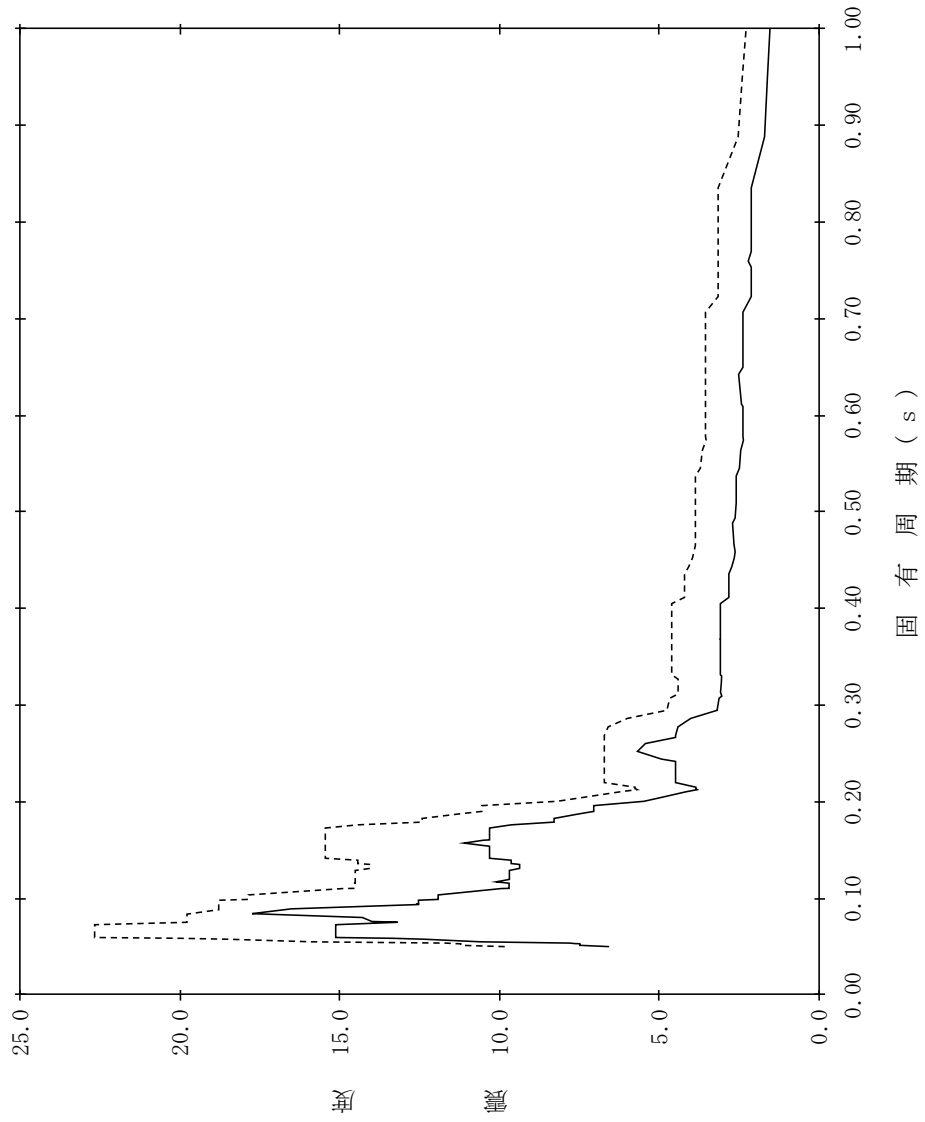
【NS2-TB-SsNS-TB41】

構造物名：タービン建物
減衰定数：0.5%
標高：EL12.500m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



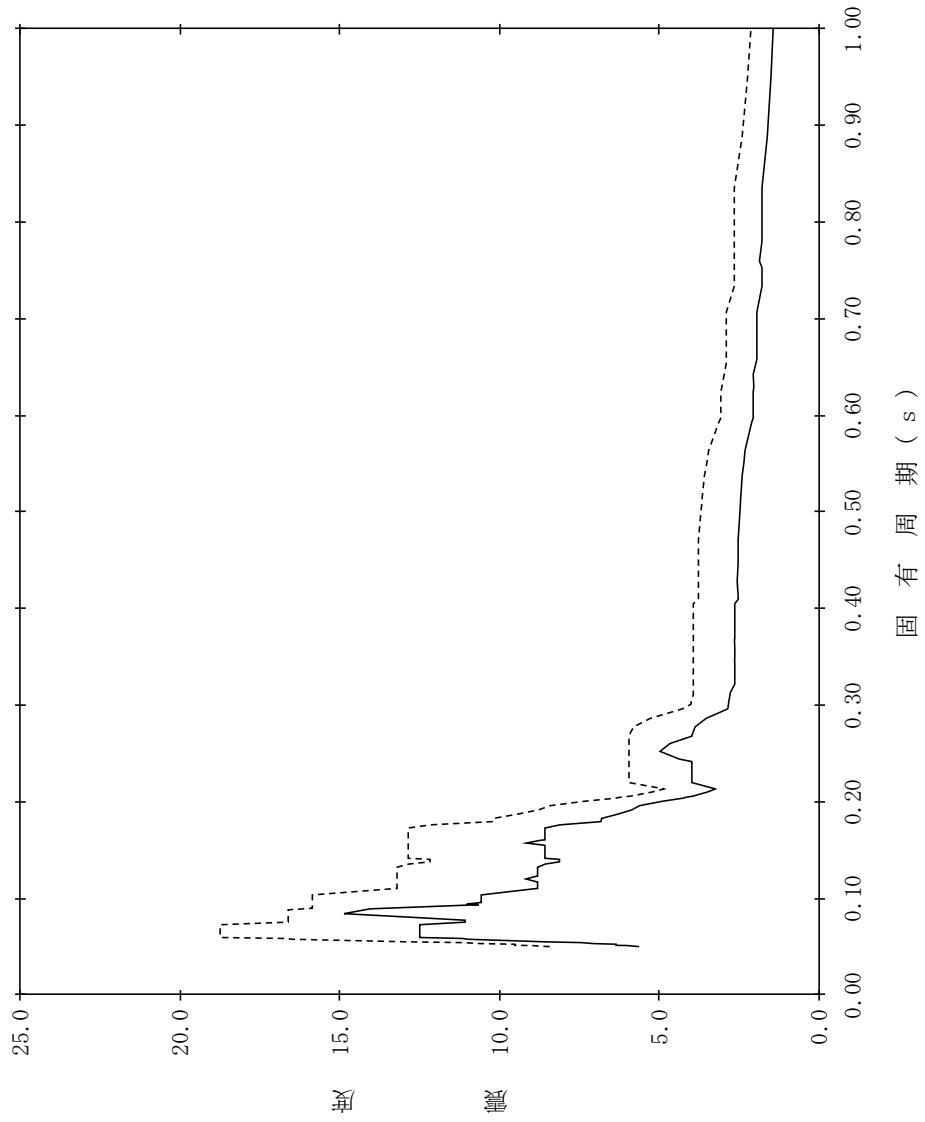
【NS2-TB-SsNS-TB42】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



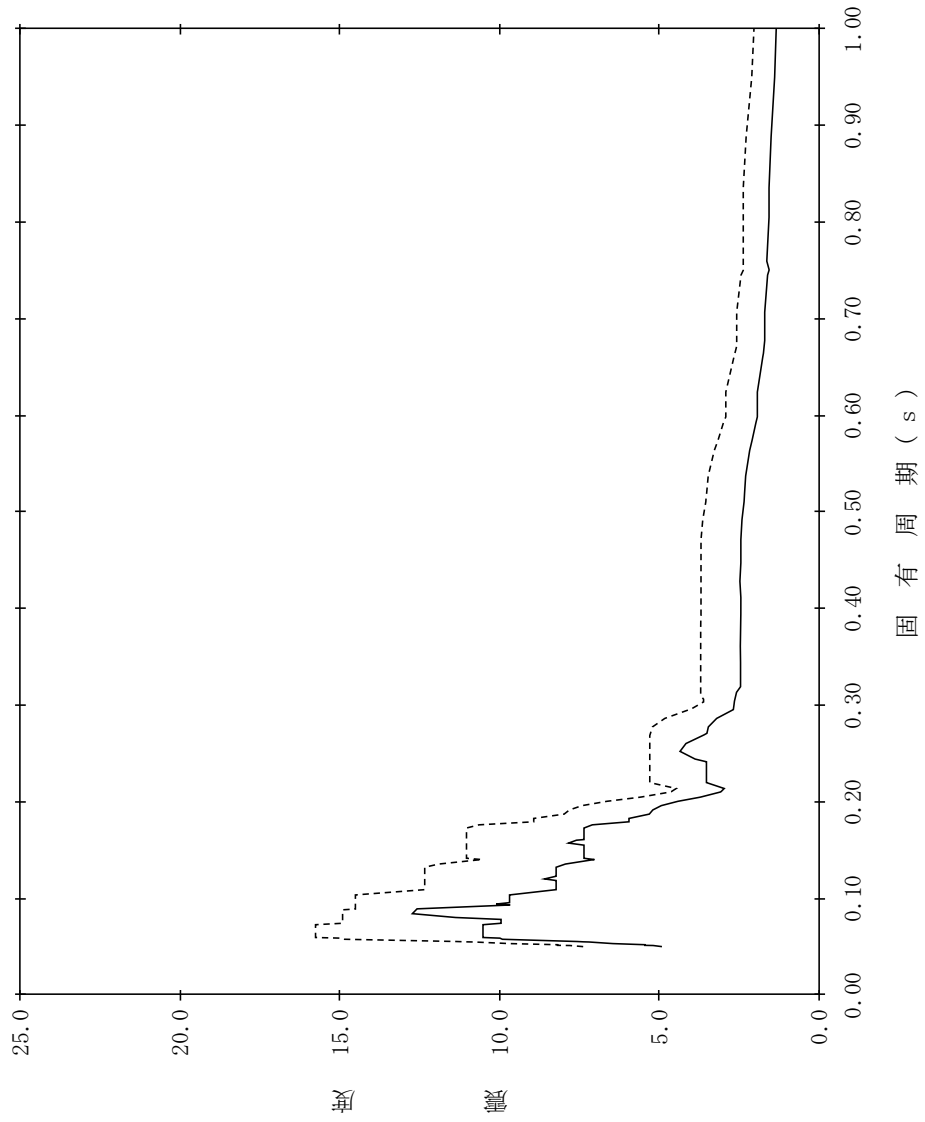
【NS2-TB-SsNS-TB43】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



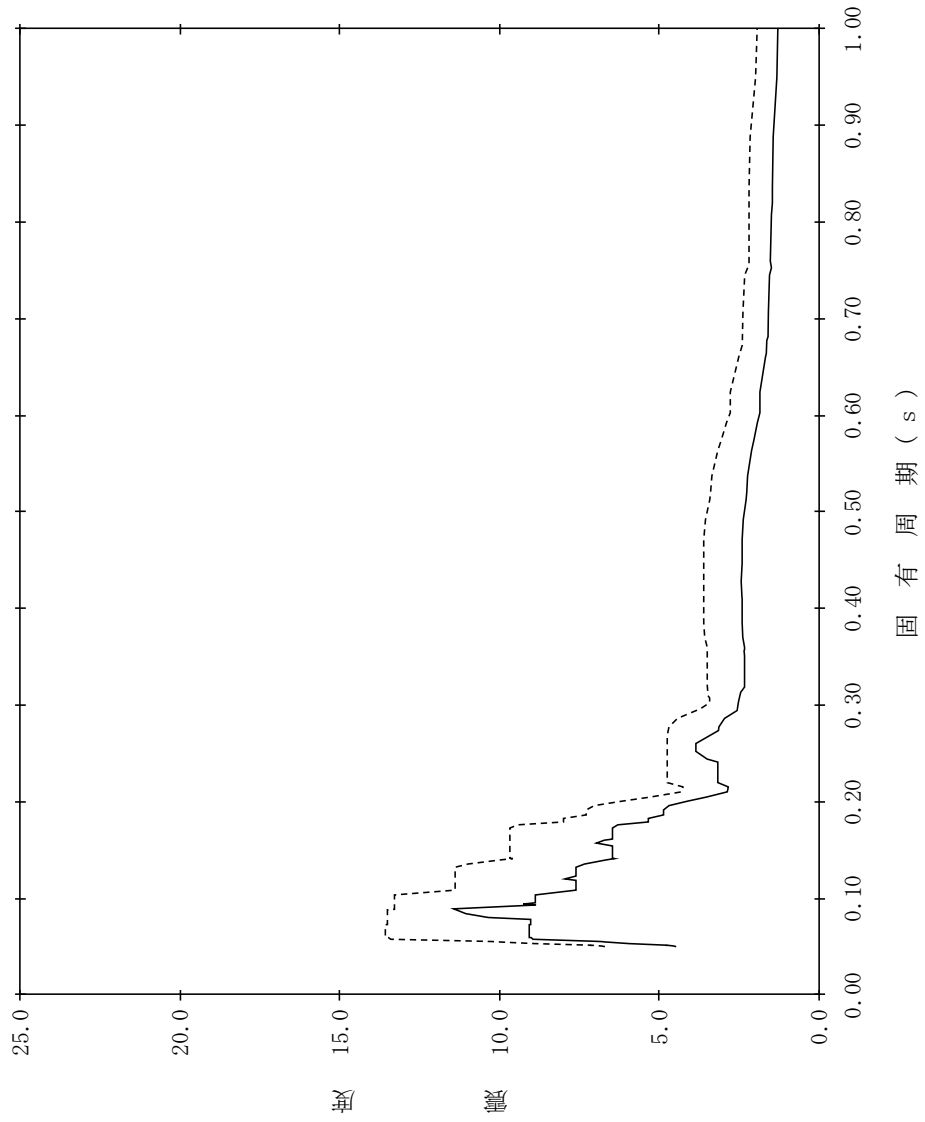
【NS2-TB-SsNS-TB44】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



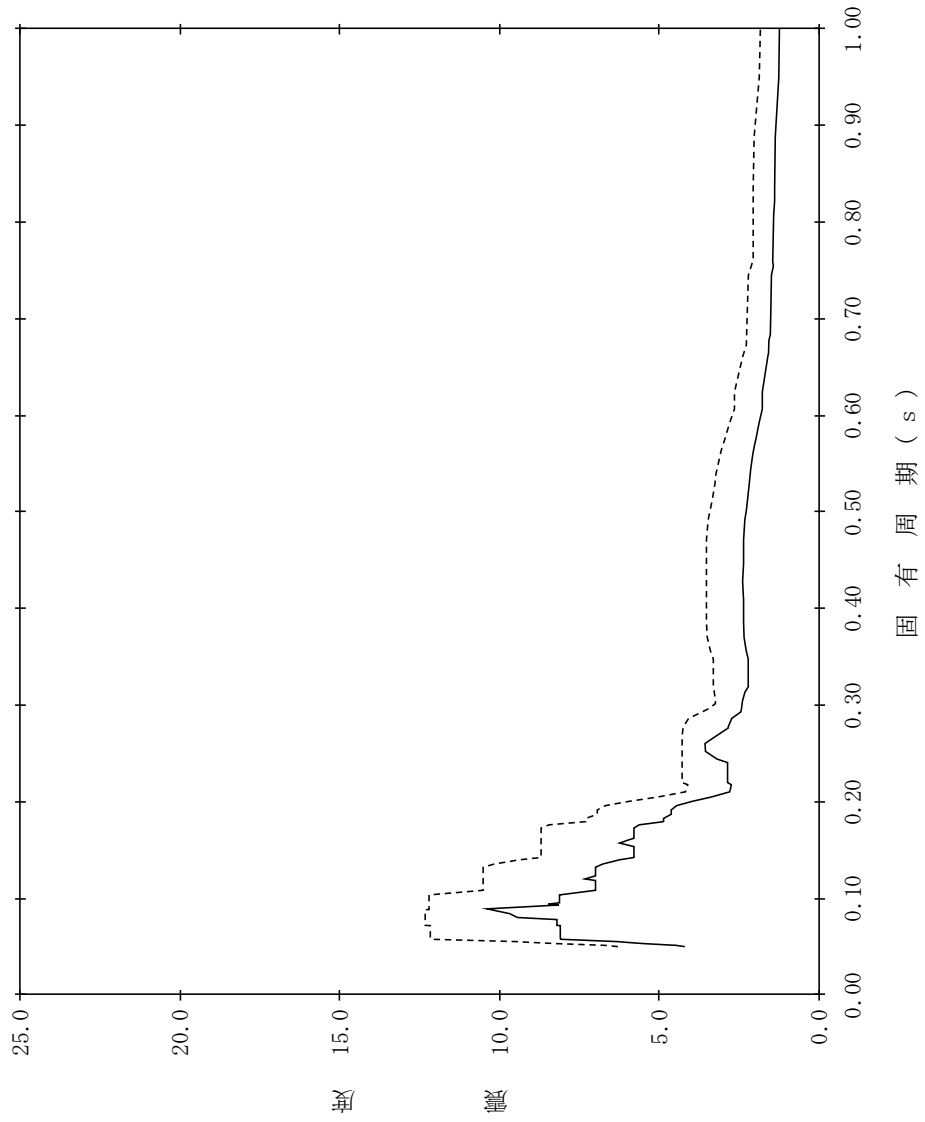
【NS2-TB-SsNS-TB45】

構造物名：タービン建物
標高：EL12.500m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



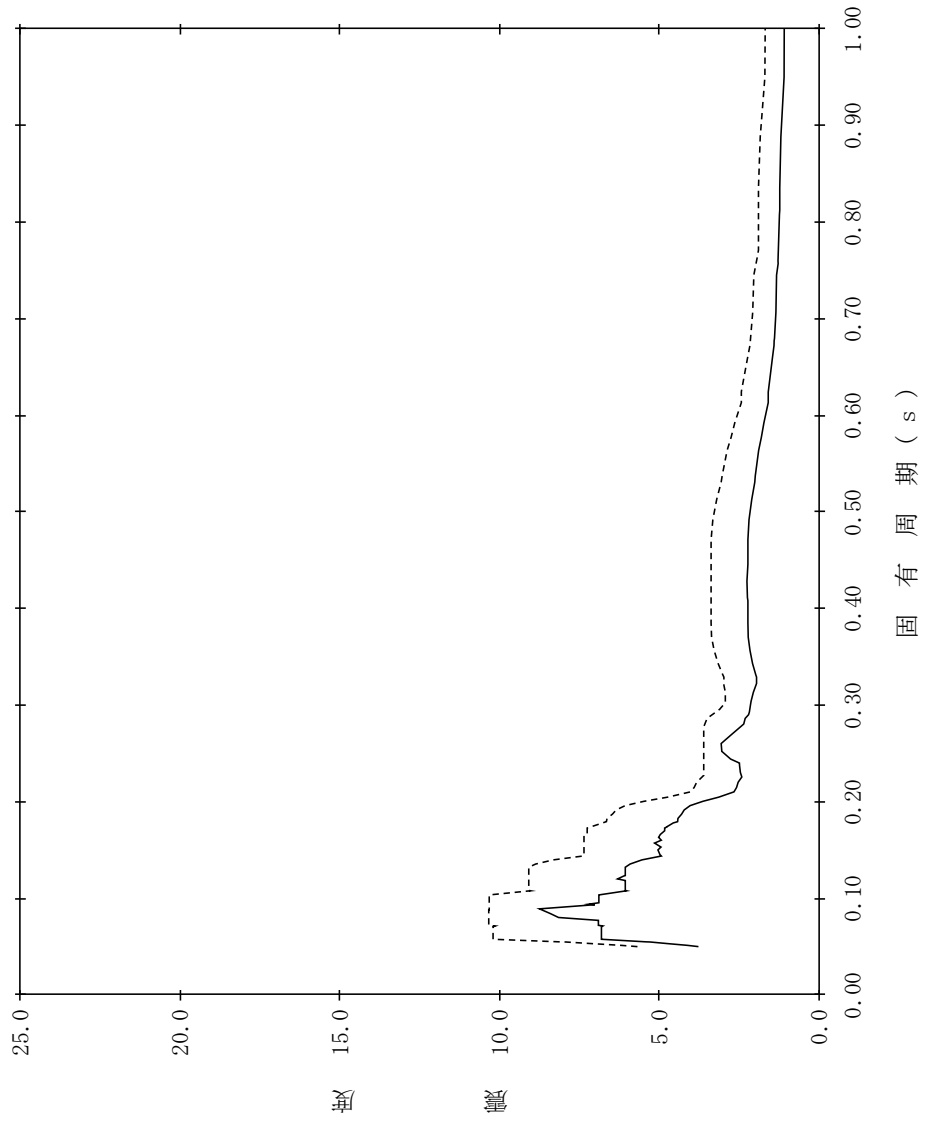
【NS2-TB-SsNS-TB46】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



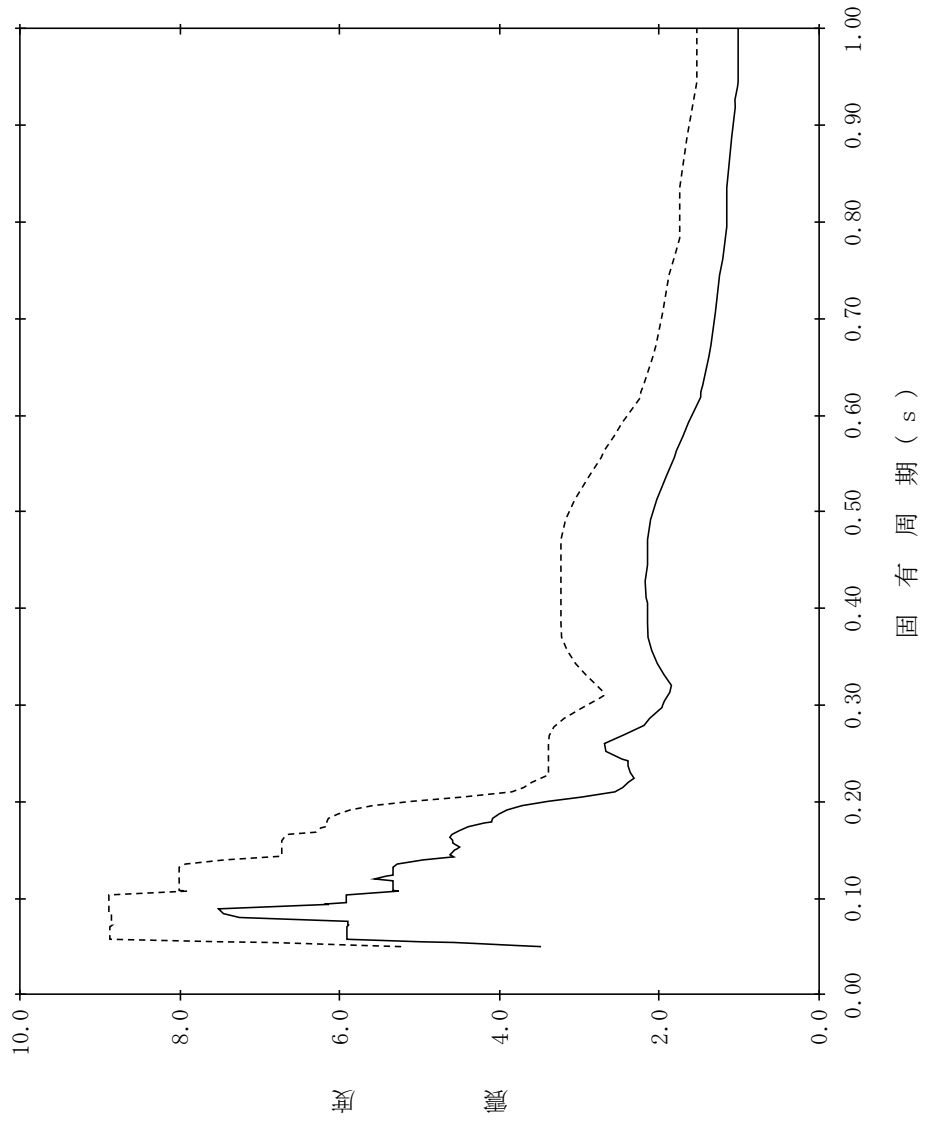
【NS2-TB-SsNS-TB47】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



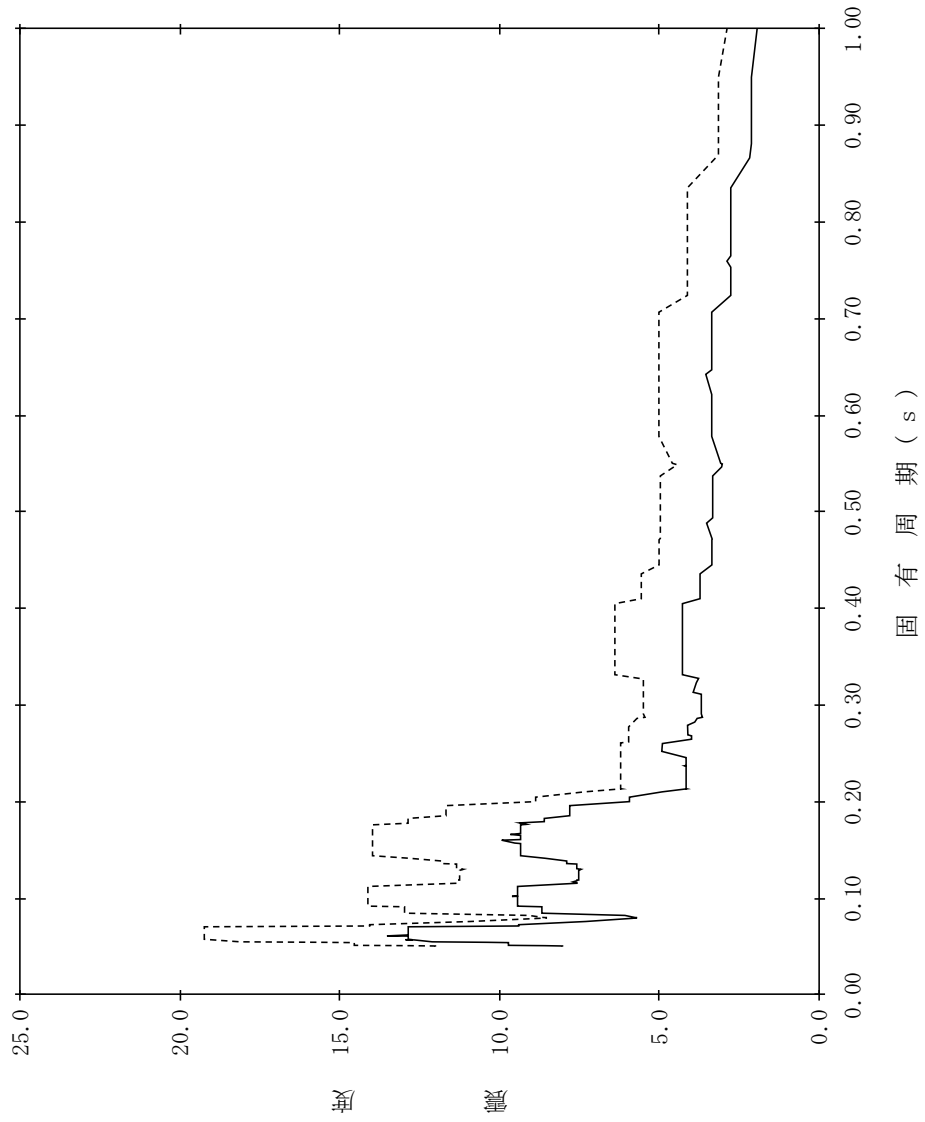
【NS2-TB-SsNS-TB48】

構造物名：タービン建物
標高：EL12.500m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (NS方向)
設計用床応答スペクトル II (NS方向)



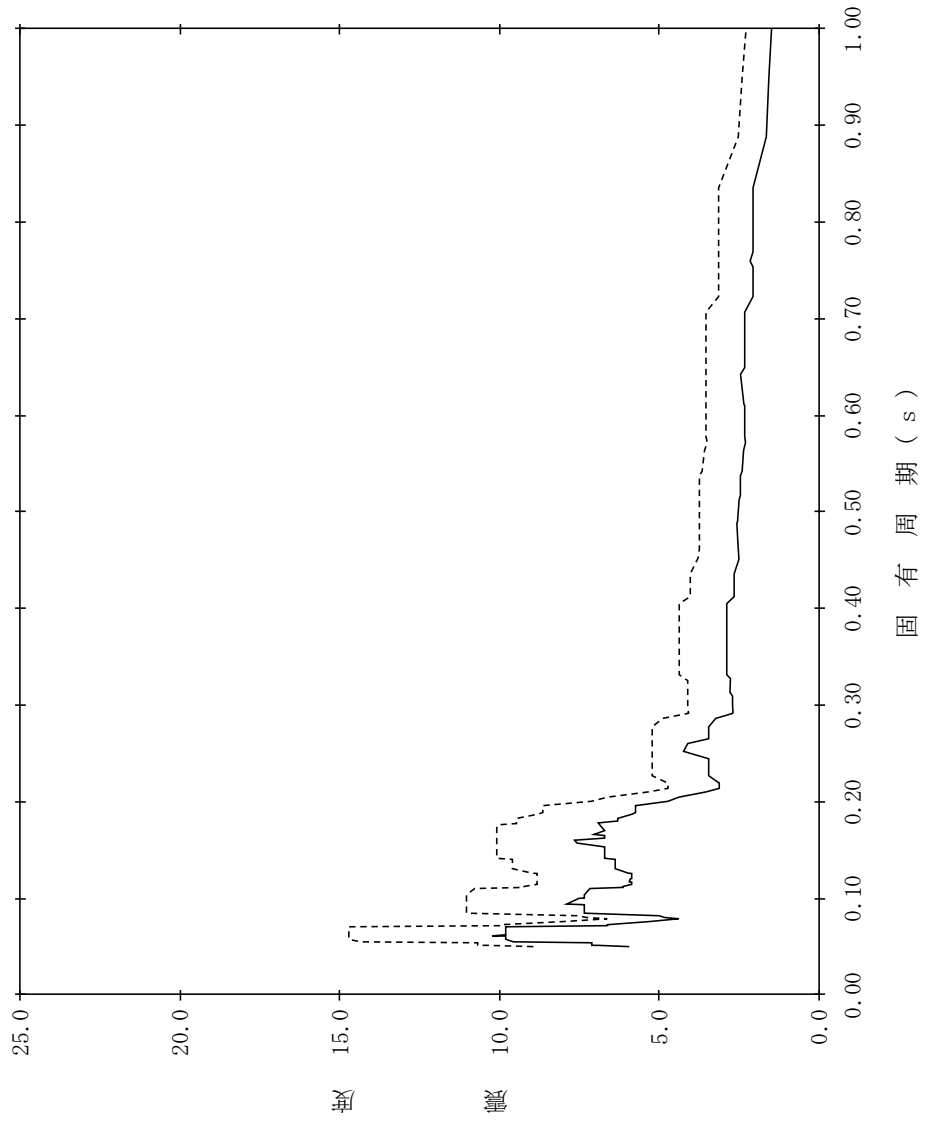
【NS2-TB-SsNS-TB49】

構造物名：タービン建物
 標高：EL9.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



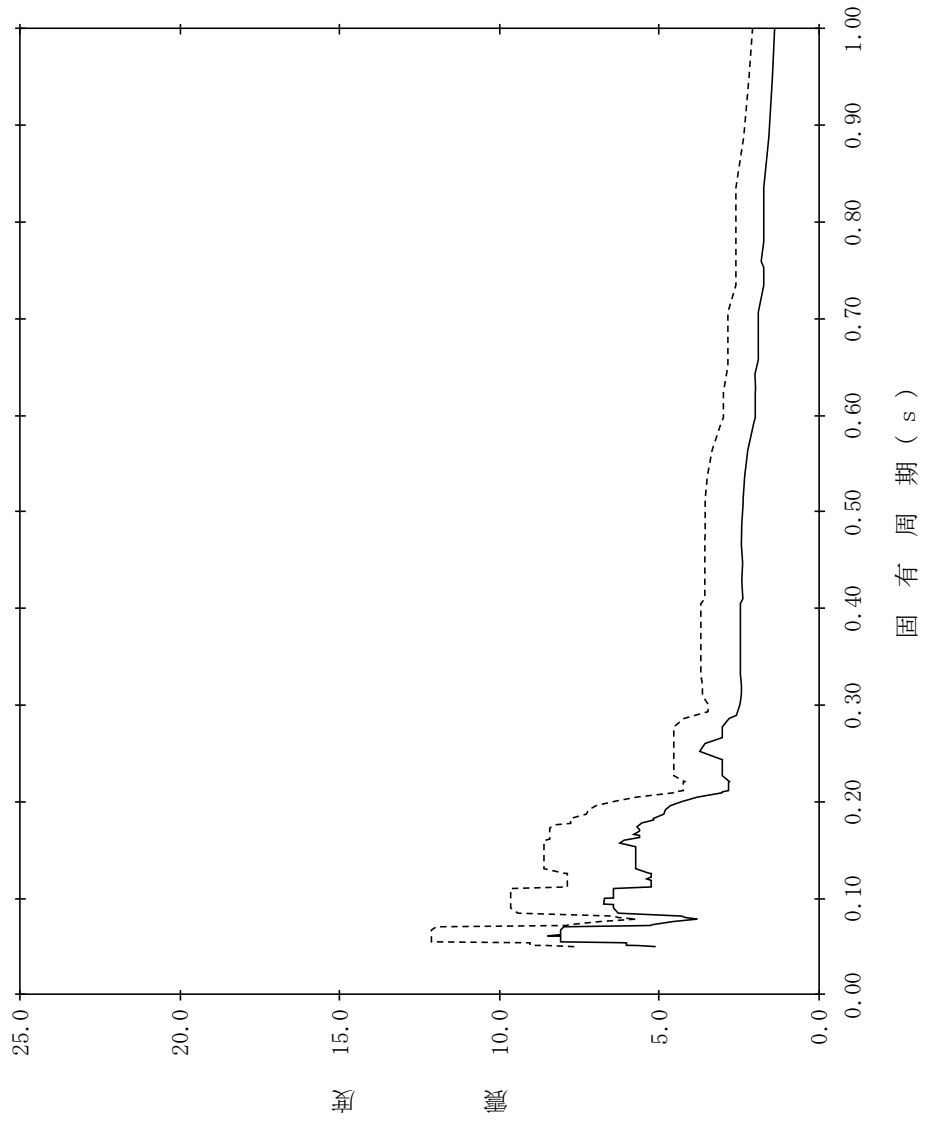
【NS2-TB-SsNS-TB50】

構造物名：タービン建物
標高：EL9.000m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



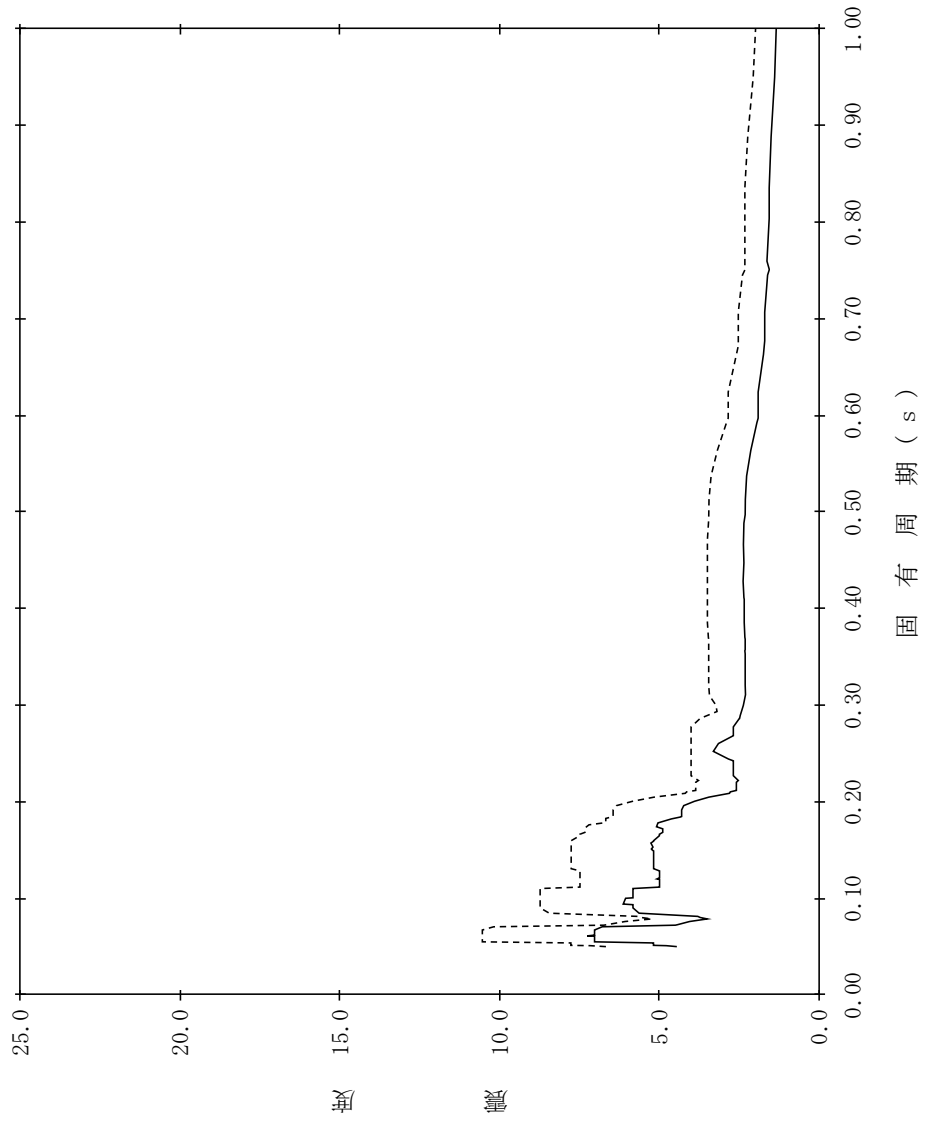
【NS2-TB-SsNS-TB51】

構造物名：タービン建物
標高：EL9.000m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (NS方向)
設計用床応答スペクトル II (NS方向)



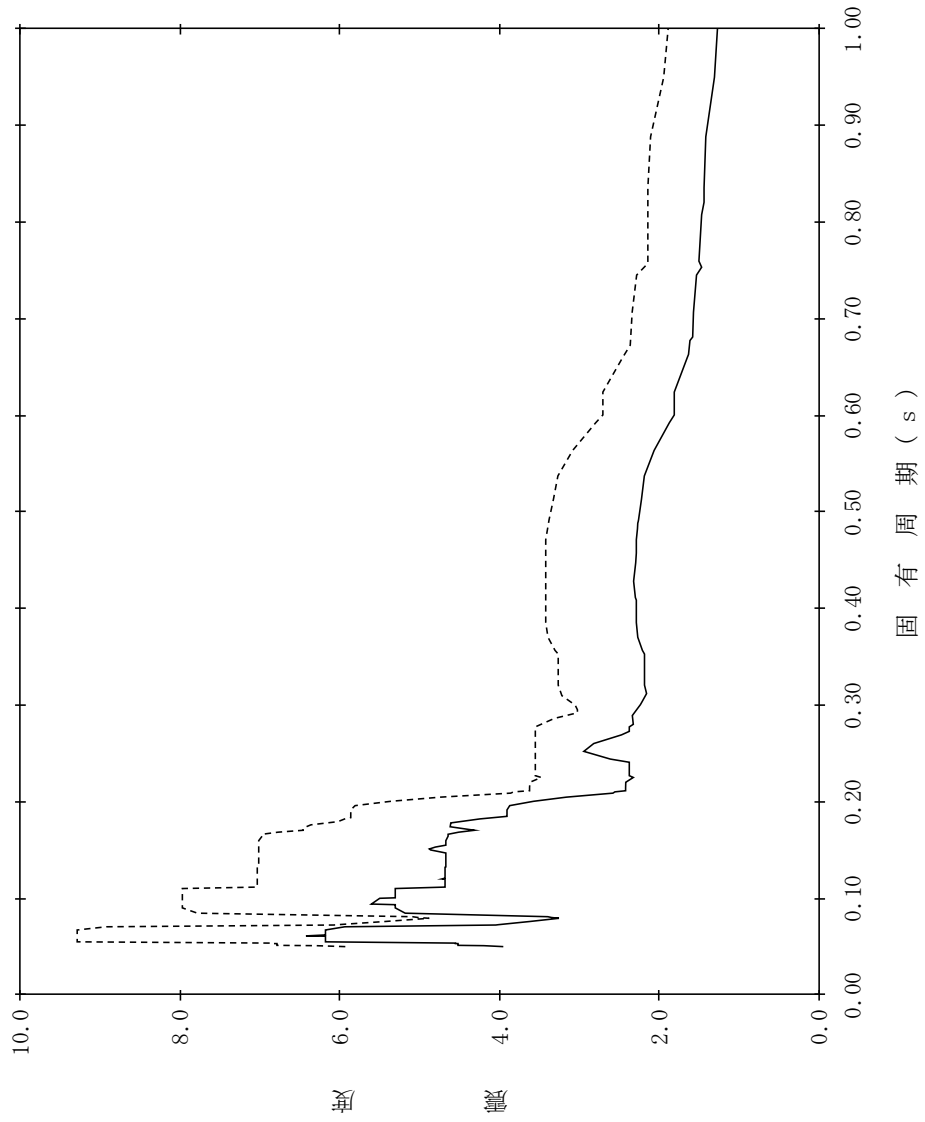
【NS2-TB-SsNS-TB52】

構造物名：タービン建物
 標高：EL9.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



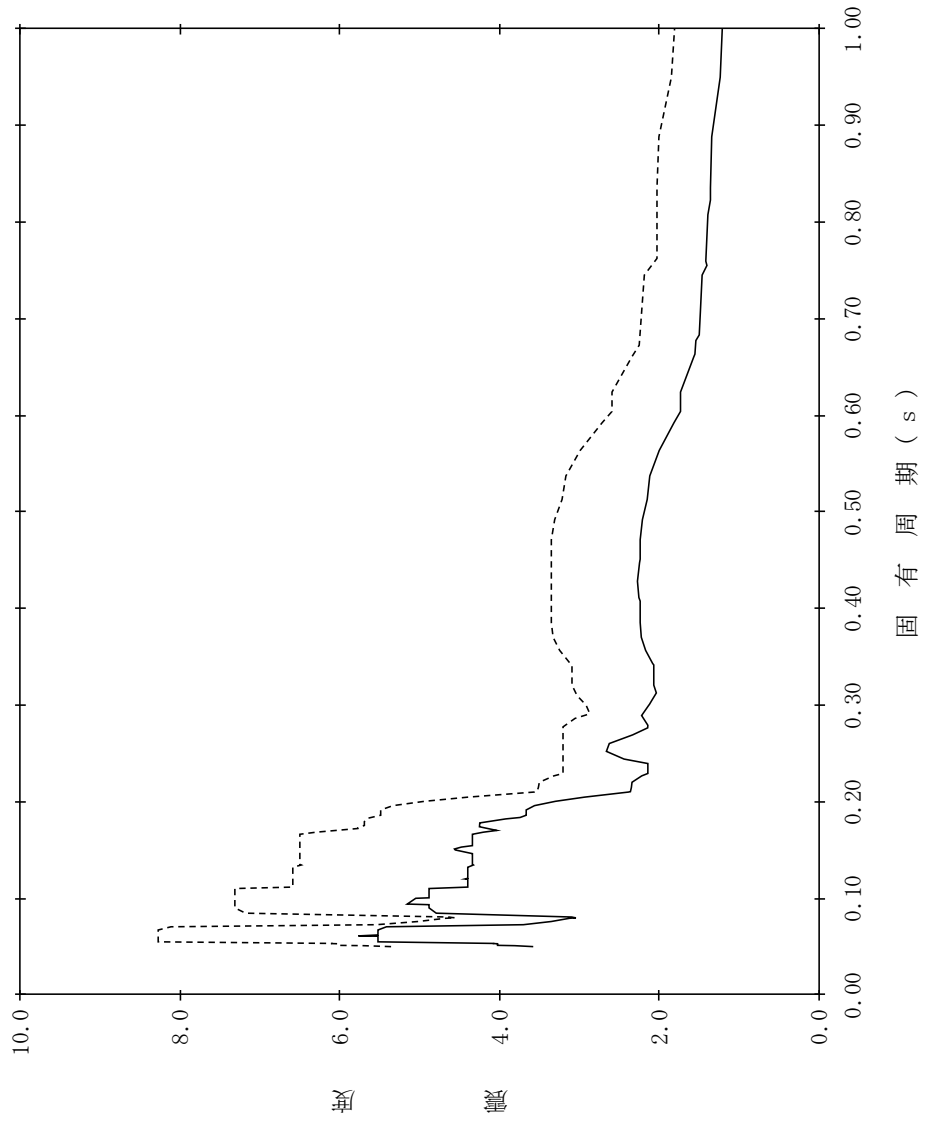
【NS2-TB-SsNS-TB53】

構造物名：タービン建物
標高：EL9.000m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (NS方向)
設計用床応答スペクトル II (NS方向)



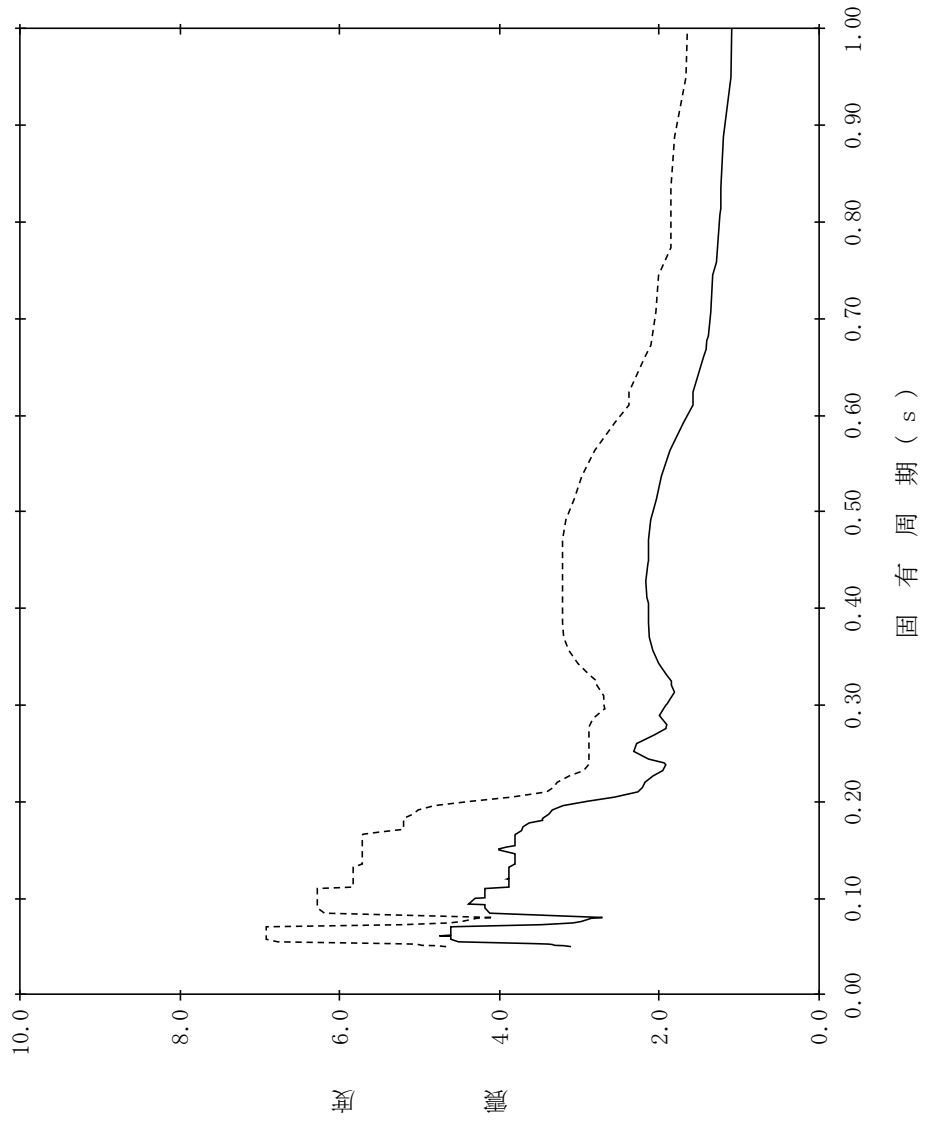
【NS2-TB-SsNS-TB54】

構造物名：タービン建物
標高：EL9.000m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (NS方向)
設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SsNS-TB55】

構造物名：タービン建物
標高：EL9.000m
減衰定数：4.0%
波形式：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (NS方向)
設計用床応答スペクトル II (NS方向)

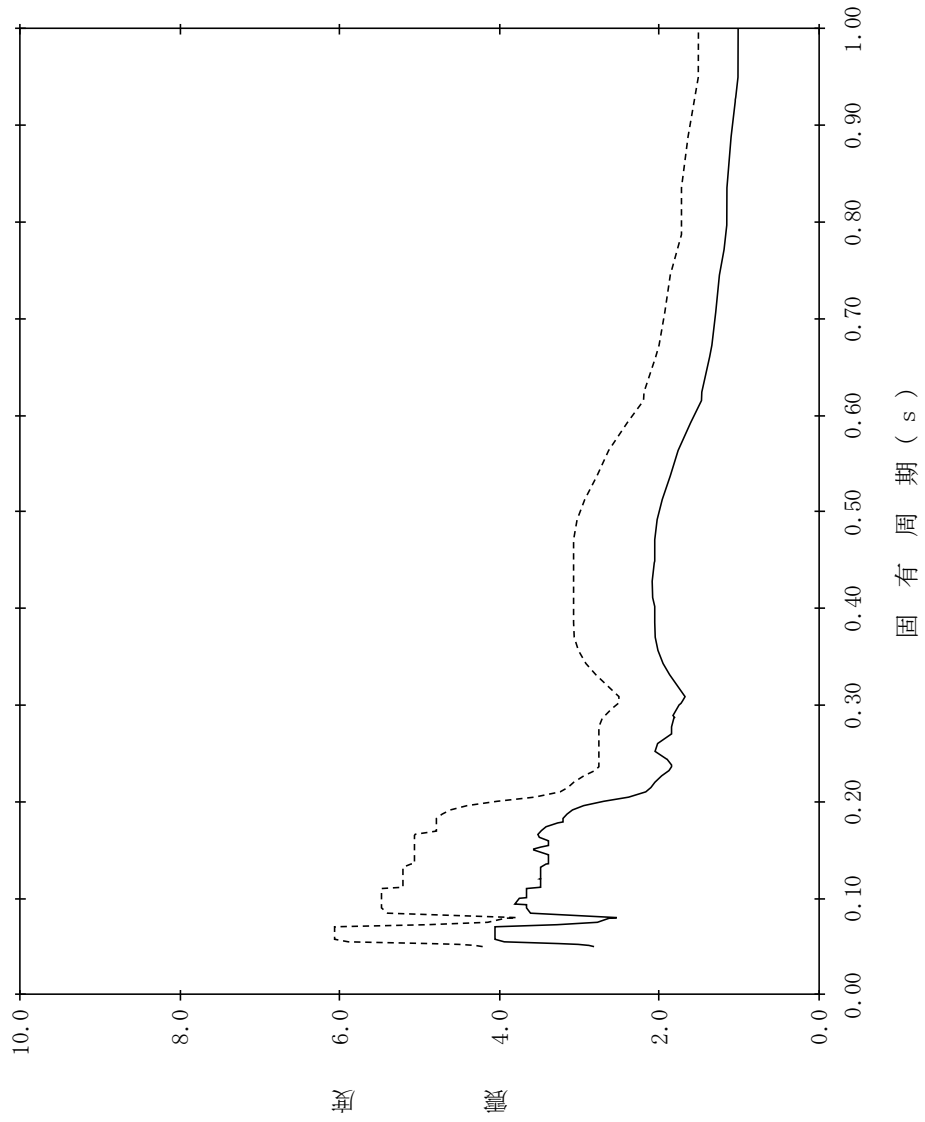


【NS2-TB-SsNS-TB56】

構造物名：タービン建物
標高：EL9.000m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s

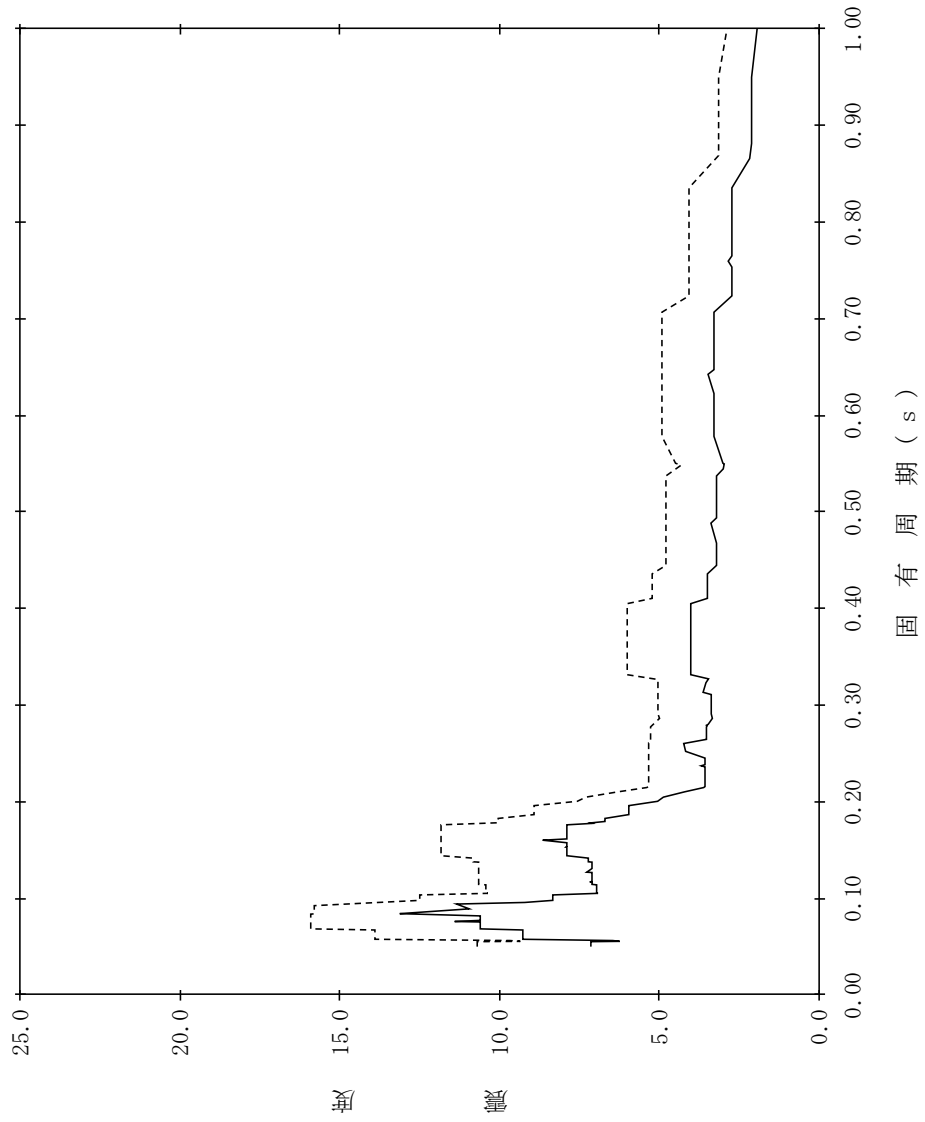
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



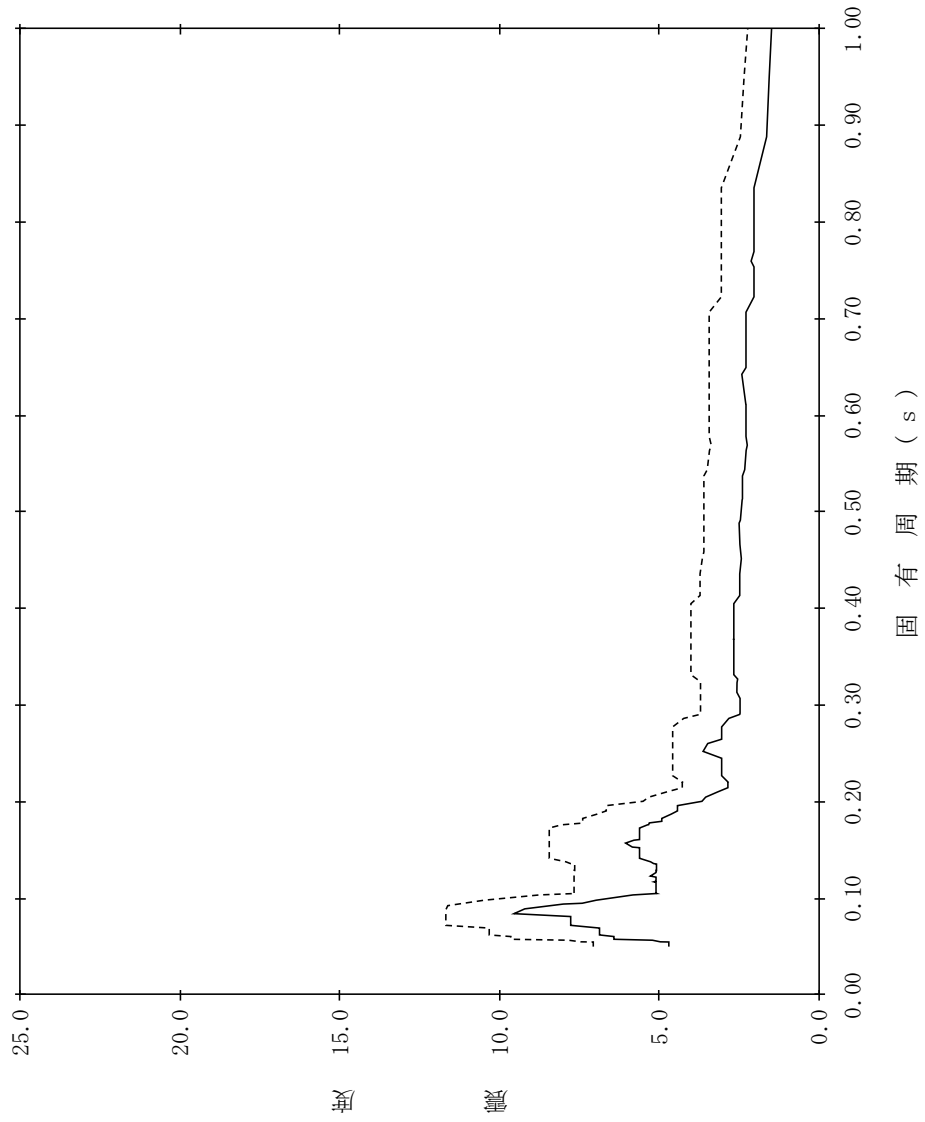
【NS2-TB-SsNS-TB57】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



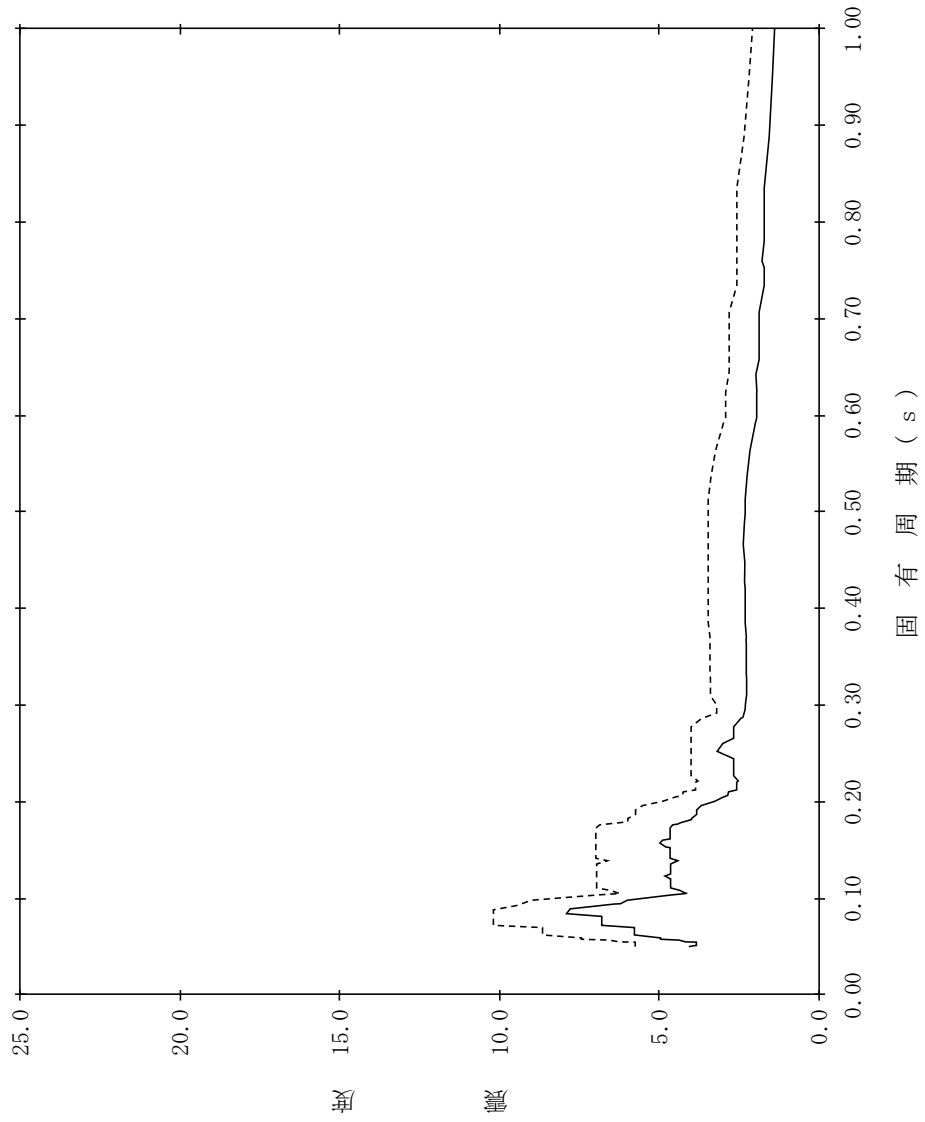
【NS2-TB-SsNS-TB58】

構造物名：タービン建物
減衰定数：1.0%
標高：EL5.500m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



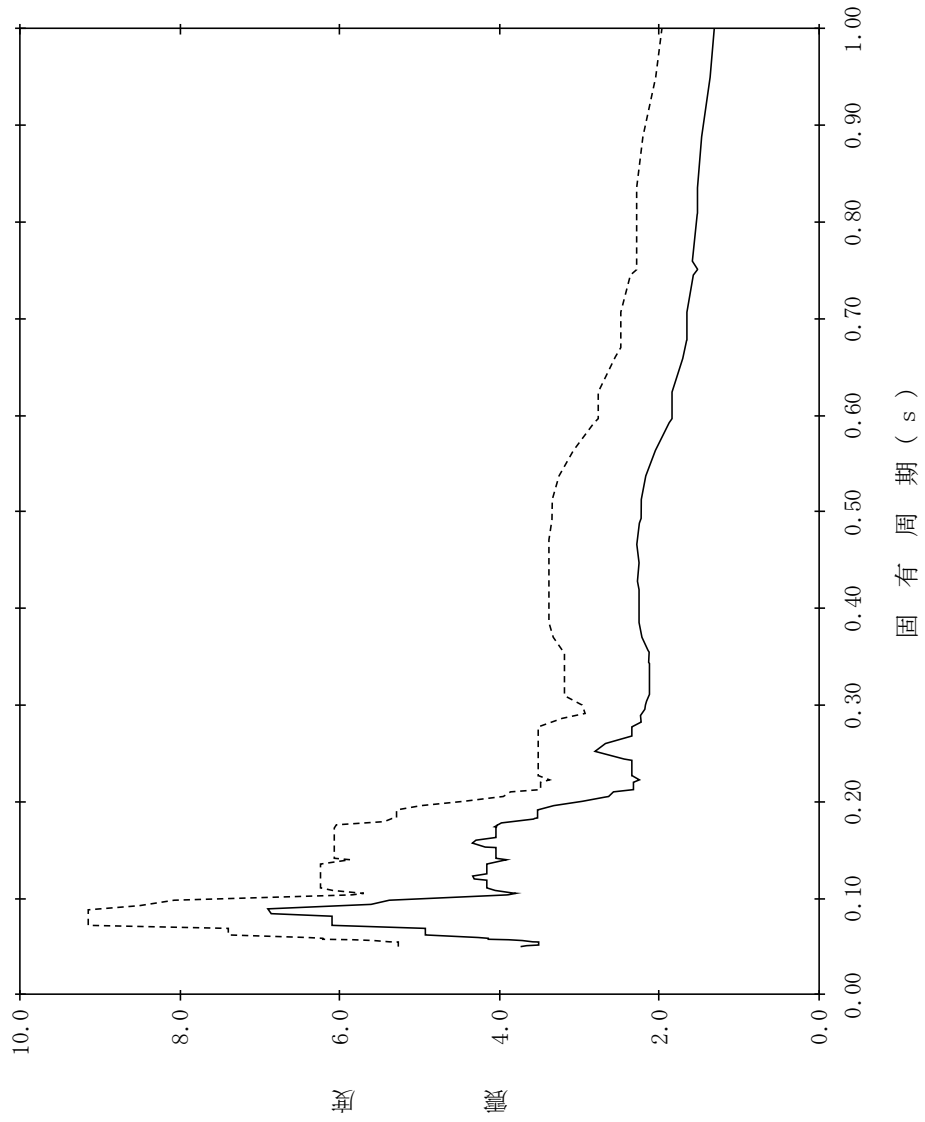
【NS2-TB-SsNS-TB59】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



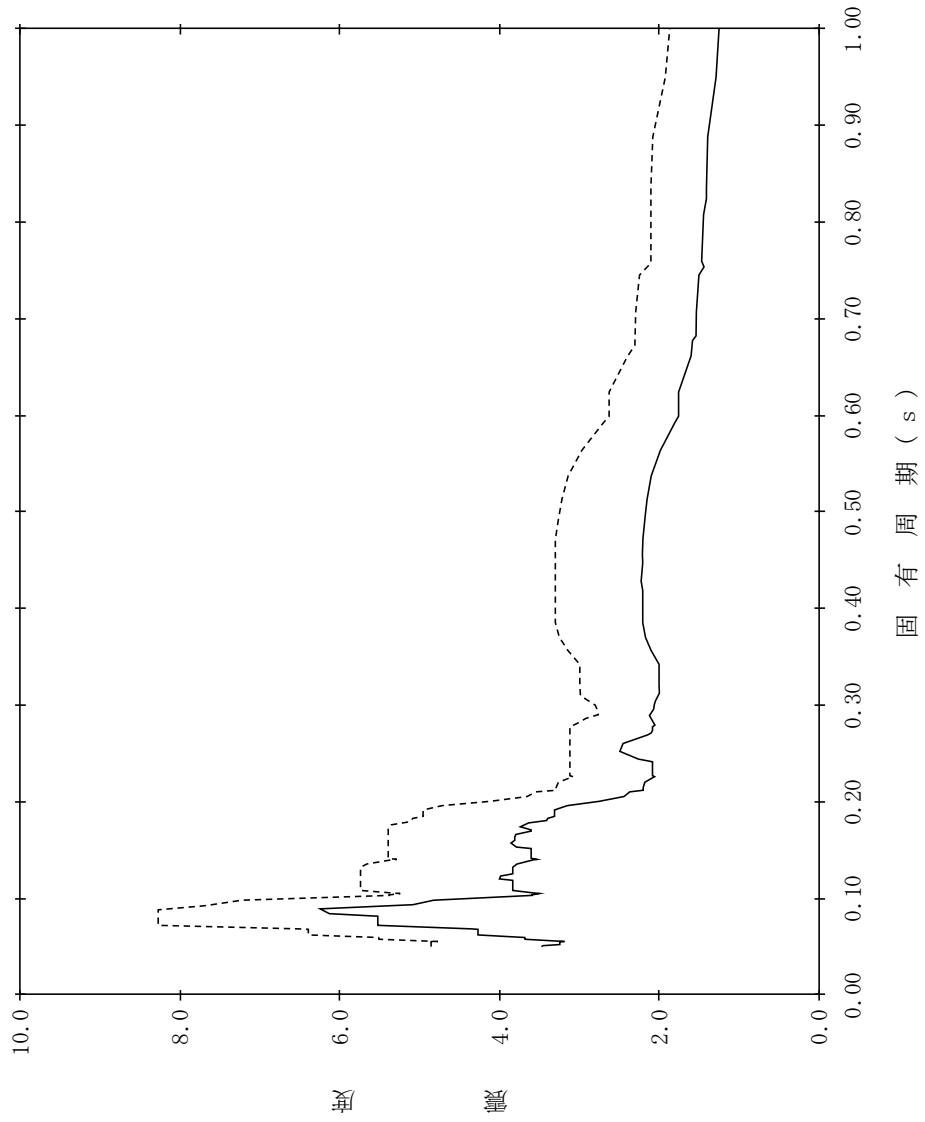
【NS2-TB-SsNS-TB60】

構造物名：タービン建物
標高：EL5.500m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



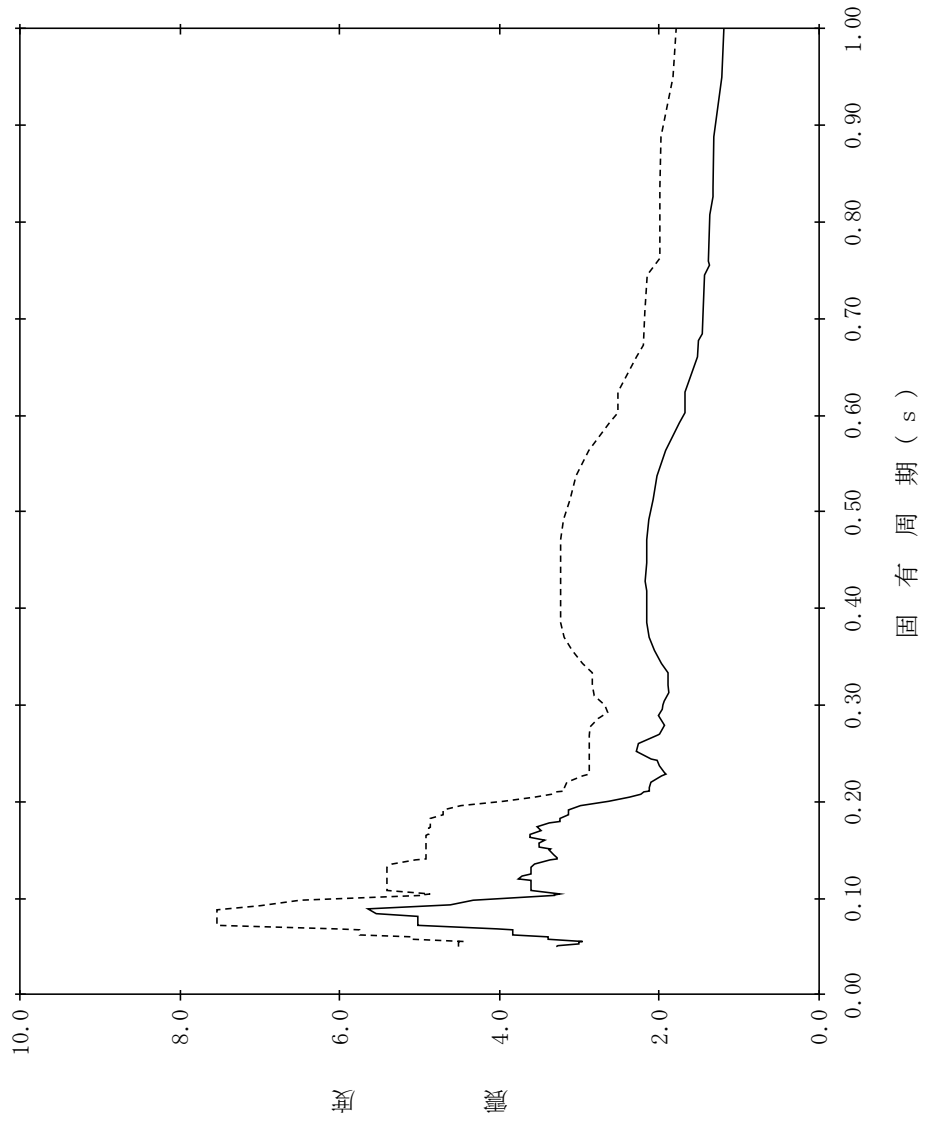
【NS2-TB-SsNS-TB61】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



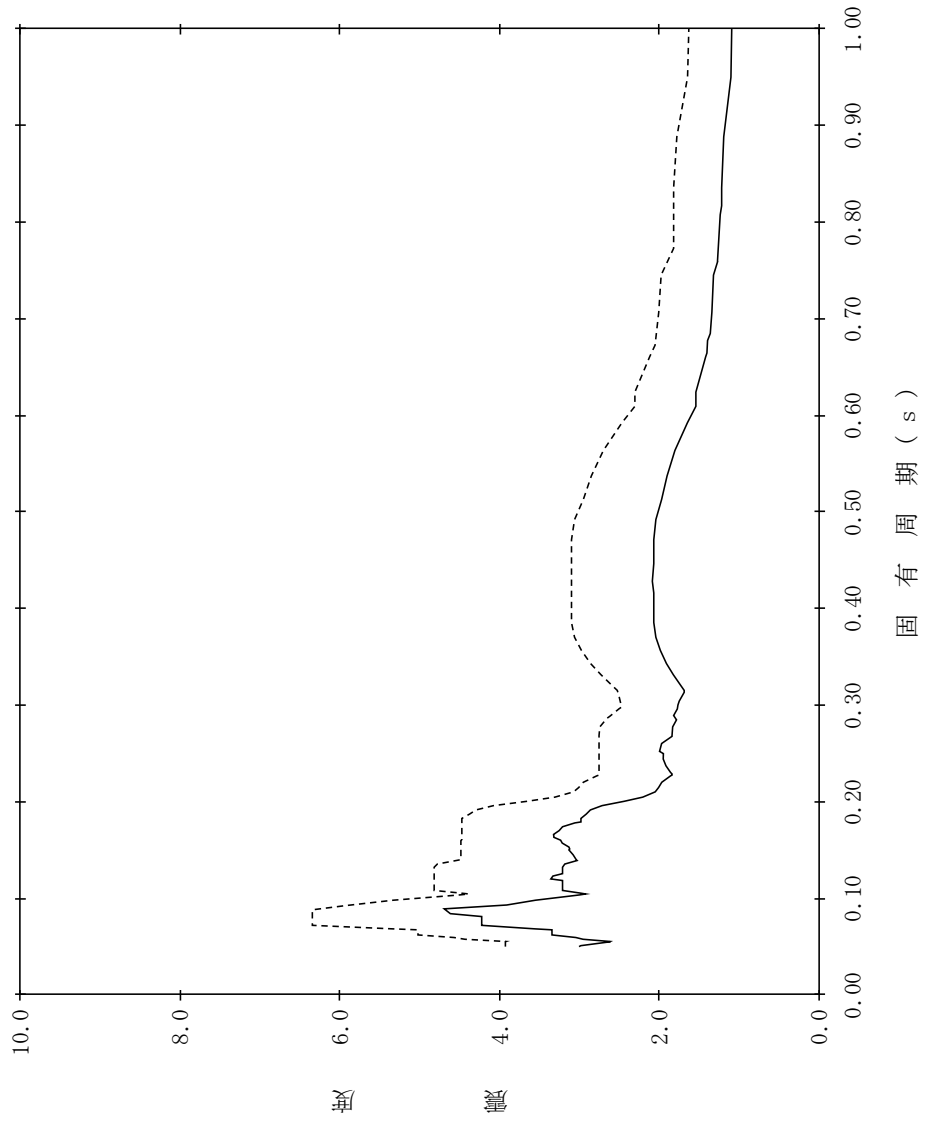
【NS2-TB-SsNS-TB62】

構造物名：タービン建物
標高：EL5.500m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (NS方向)
設計用床応答スペクトル II (NS方向)



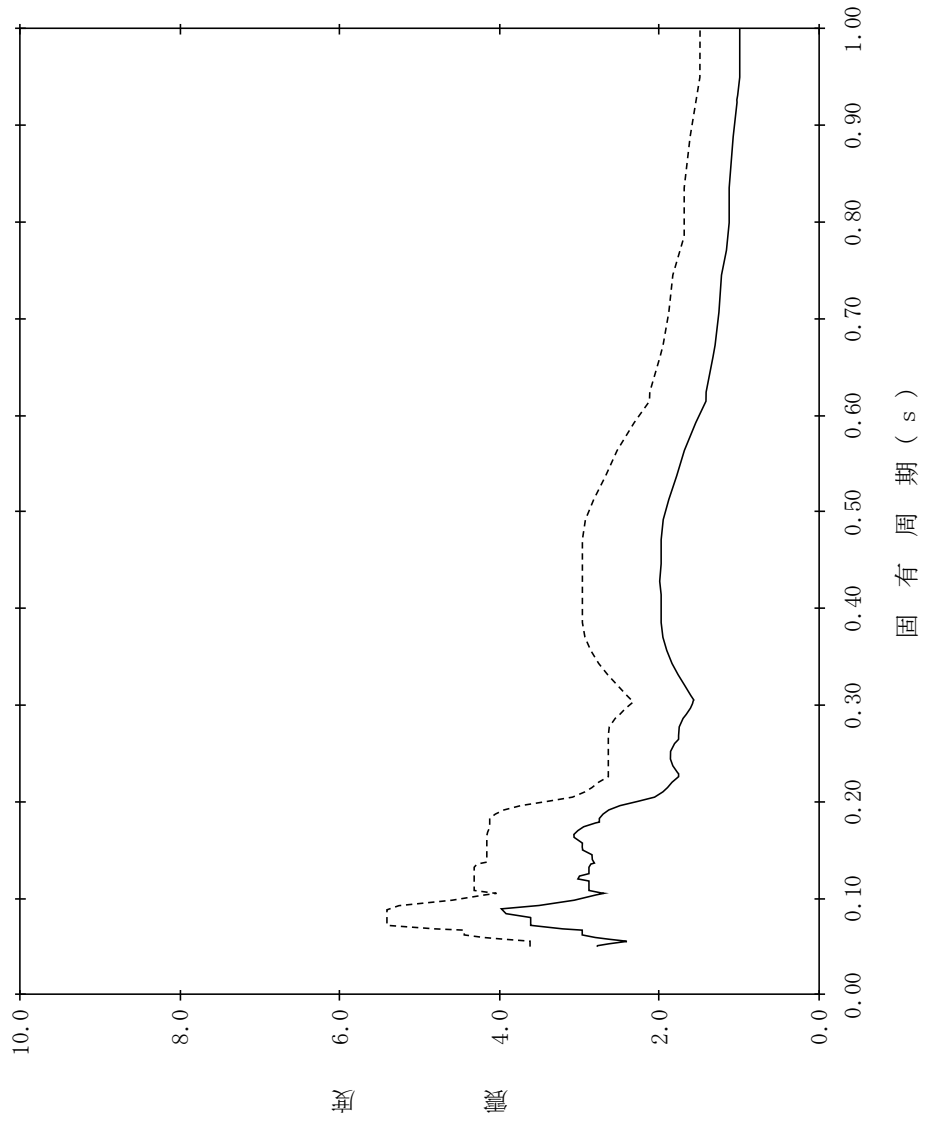
【NS2-TB-SsNS-TB63】

構造物名：タービン建物
標高：EL5.500m
減衰定数：4.0%
波形式：標準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (NS方向)
設計用床応答スペクトル II (NS方向)



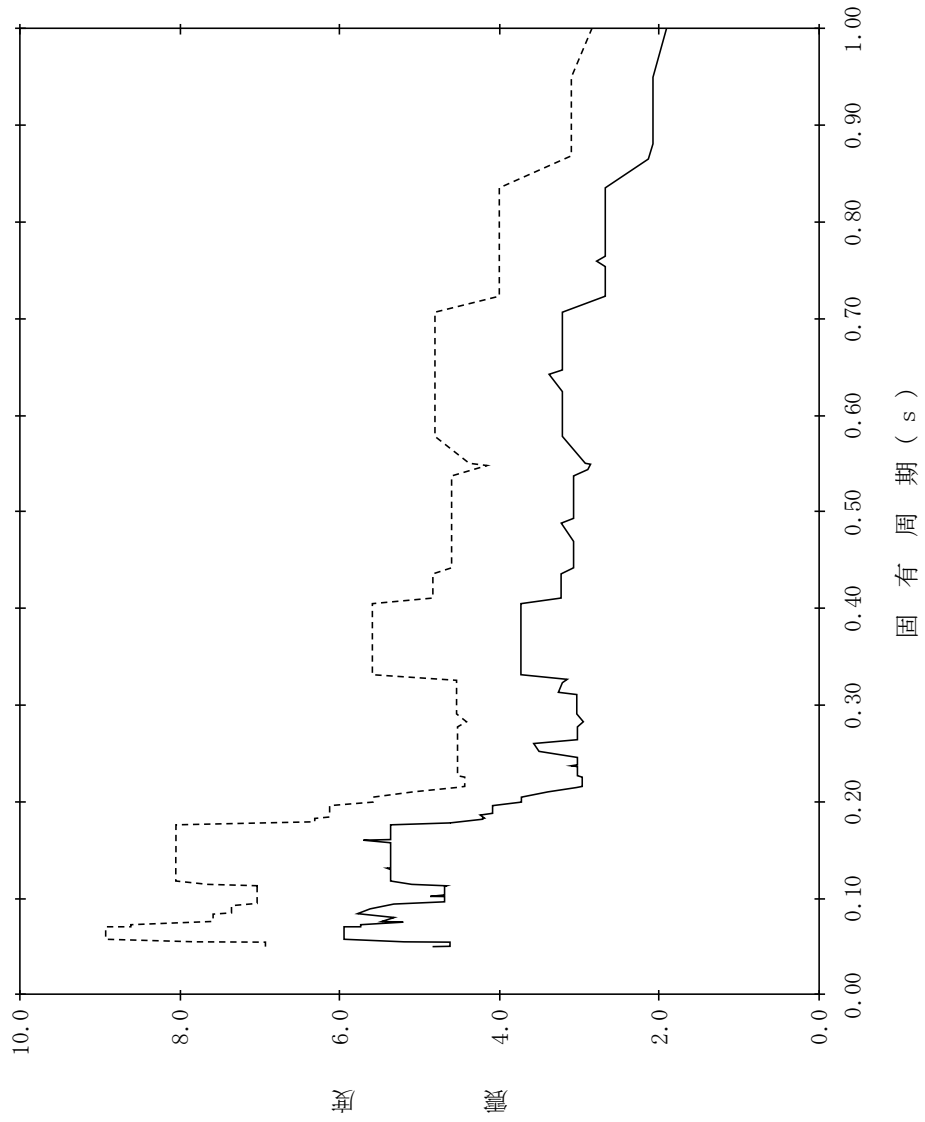
【NS2-TB-SsNS-TB64】

構造物名：タービン建物
標高：EL5.500m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SsNS-TB65】

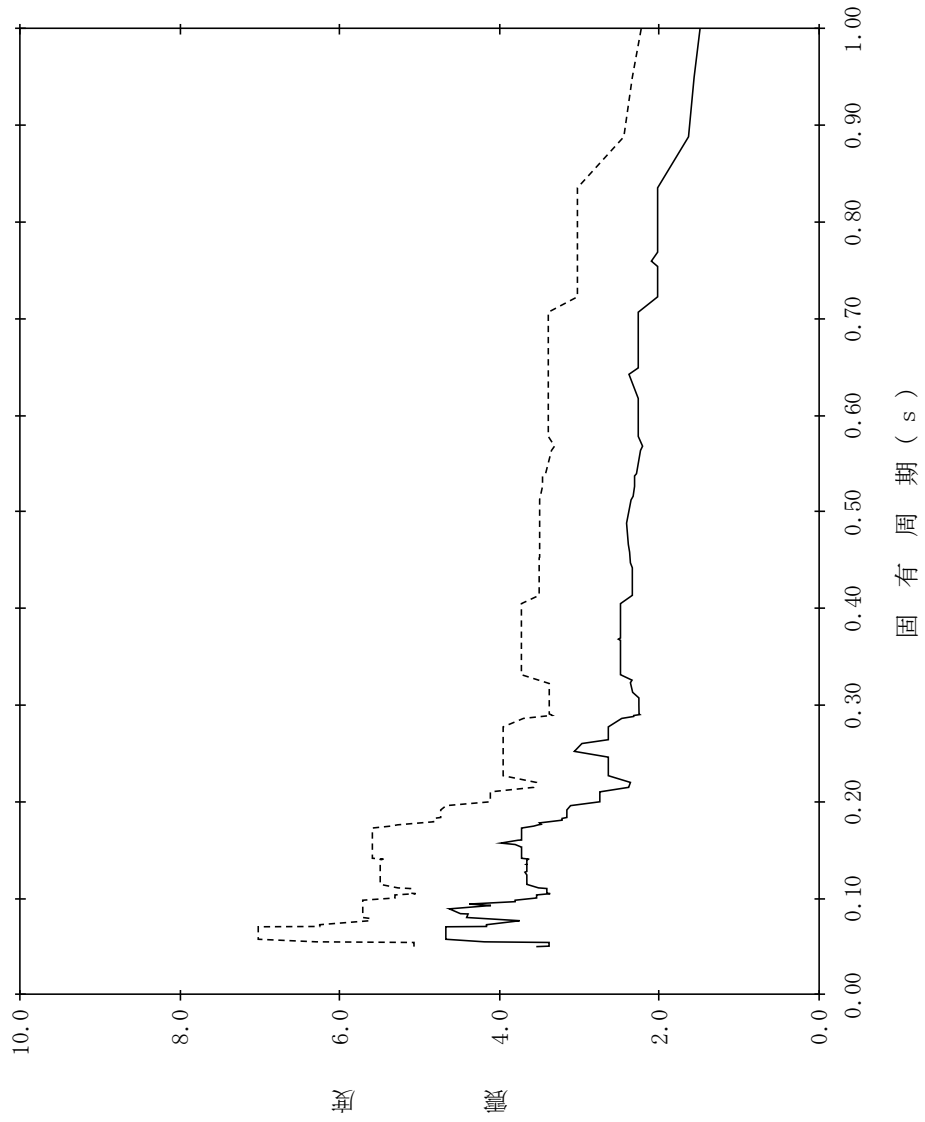
構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SsNS-TB66】

構造物名：タービン建物
標高：EL. 000m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s

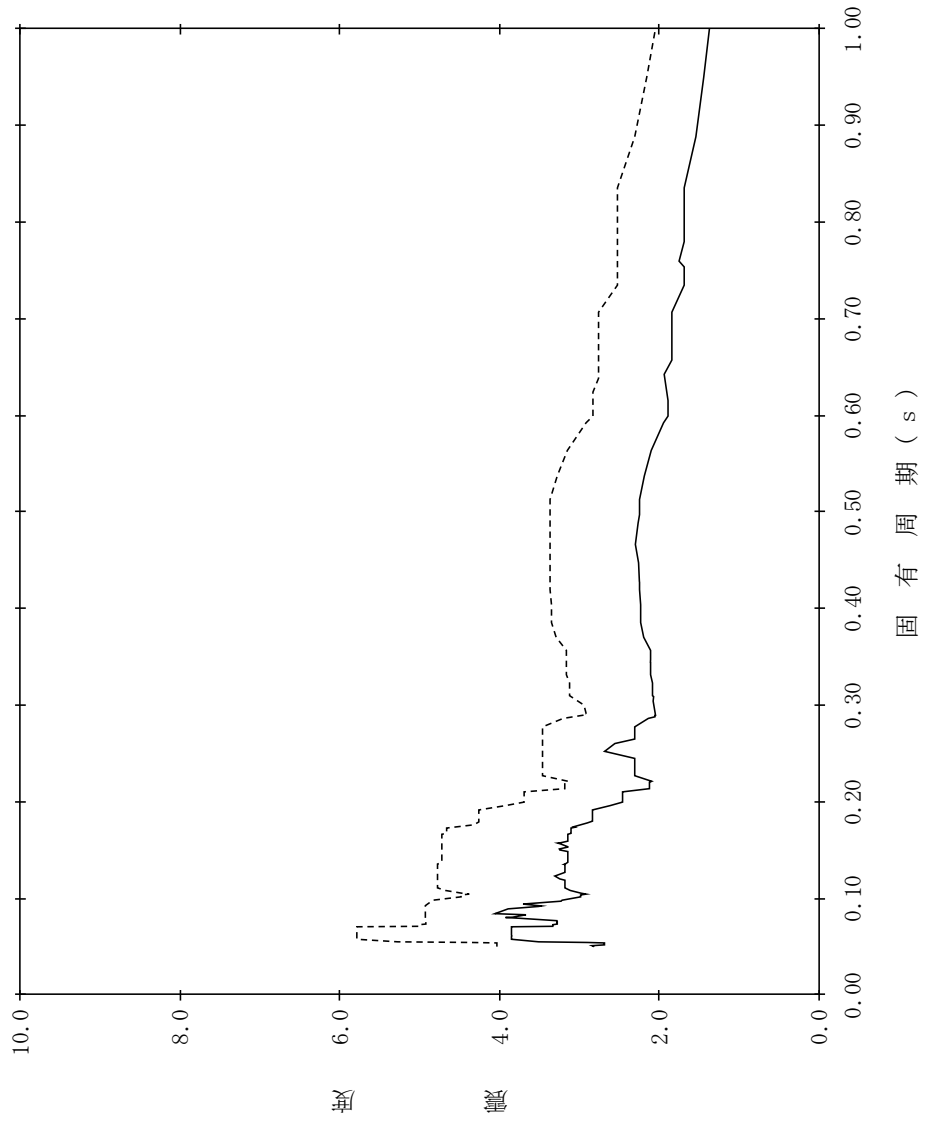
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SsNS-TB67】

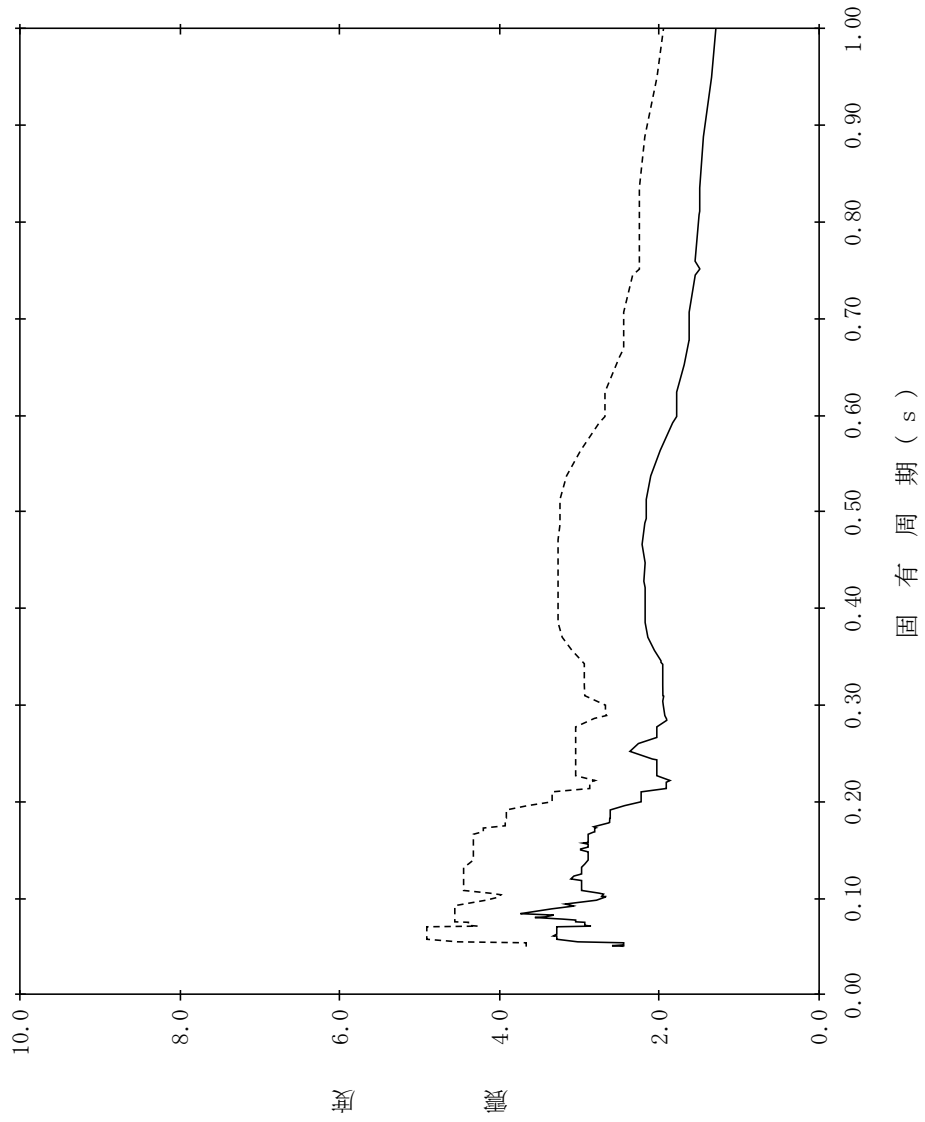
構造物名：タービン建物
標高：EL. 000m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s

—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SsNS-TB68】

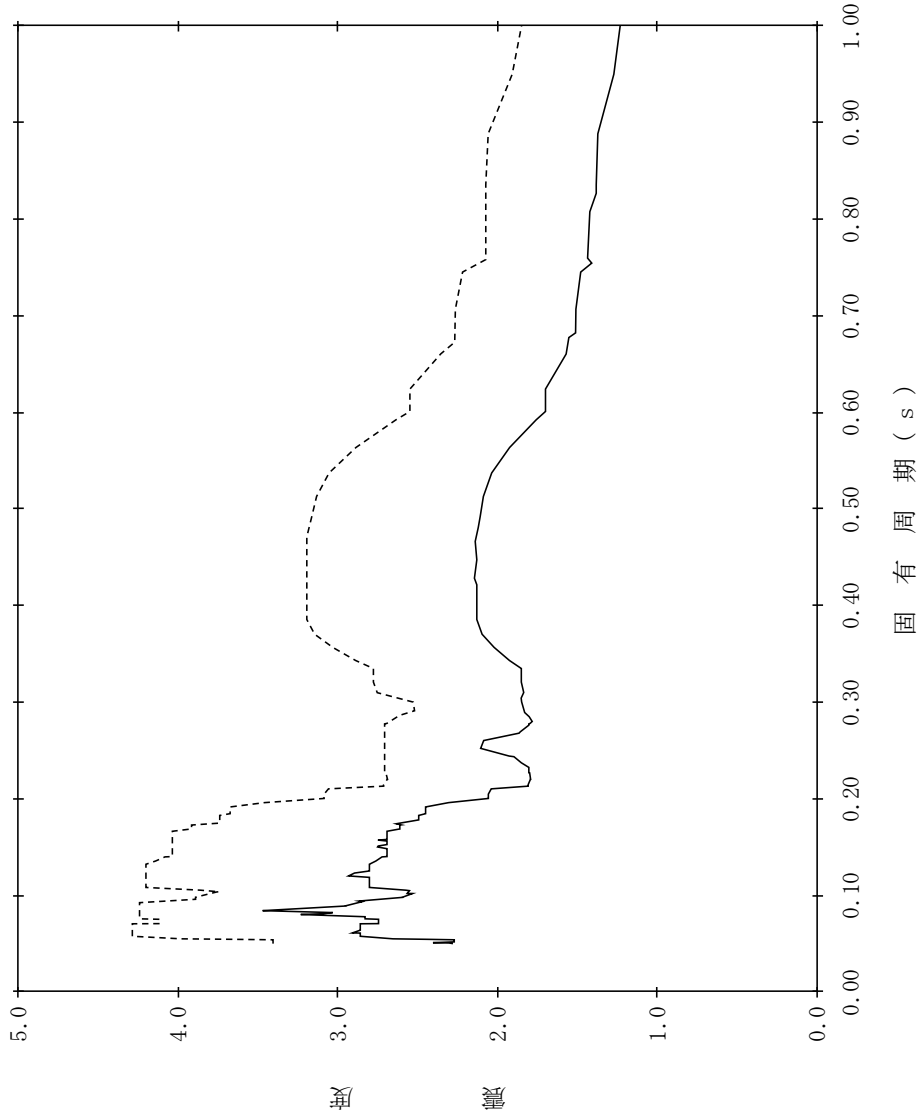
構造物名：タービン建物
標高：EL2.000m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SsNS-TB69】

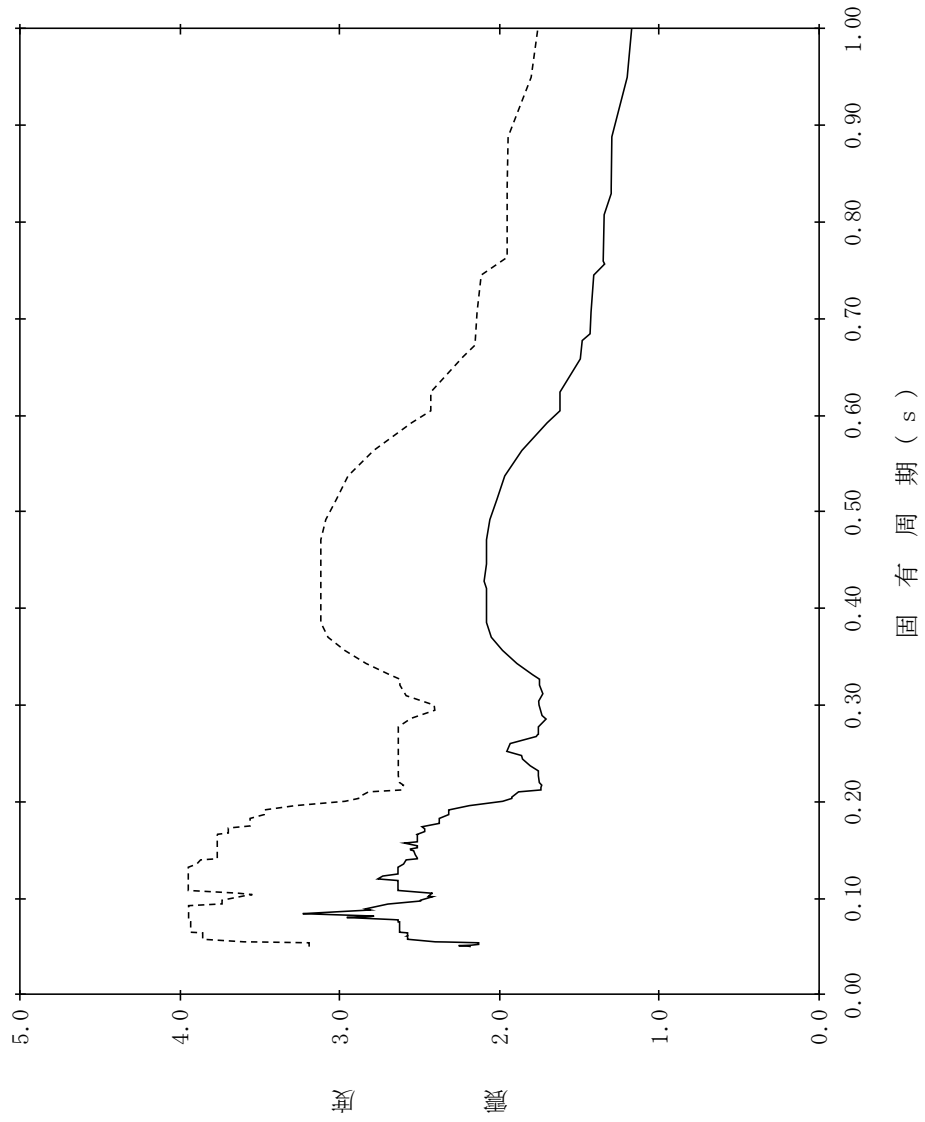
構造物名：タービン建物
標高：EL. 000m
減衰定数：2.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SsNS-TB70】

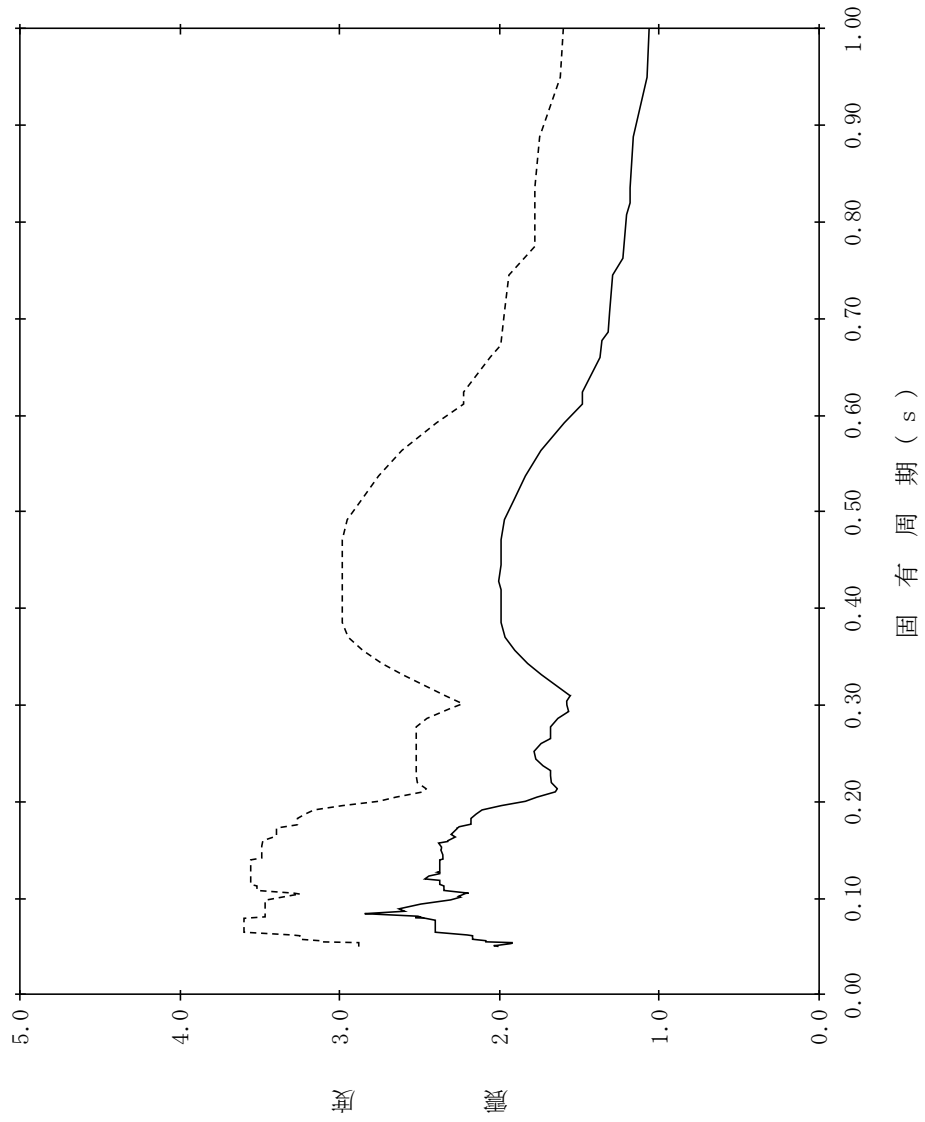
構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SsNS-TB71】

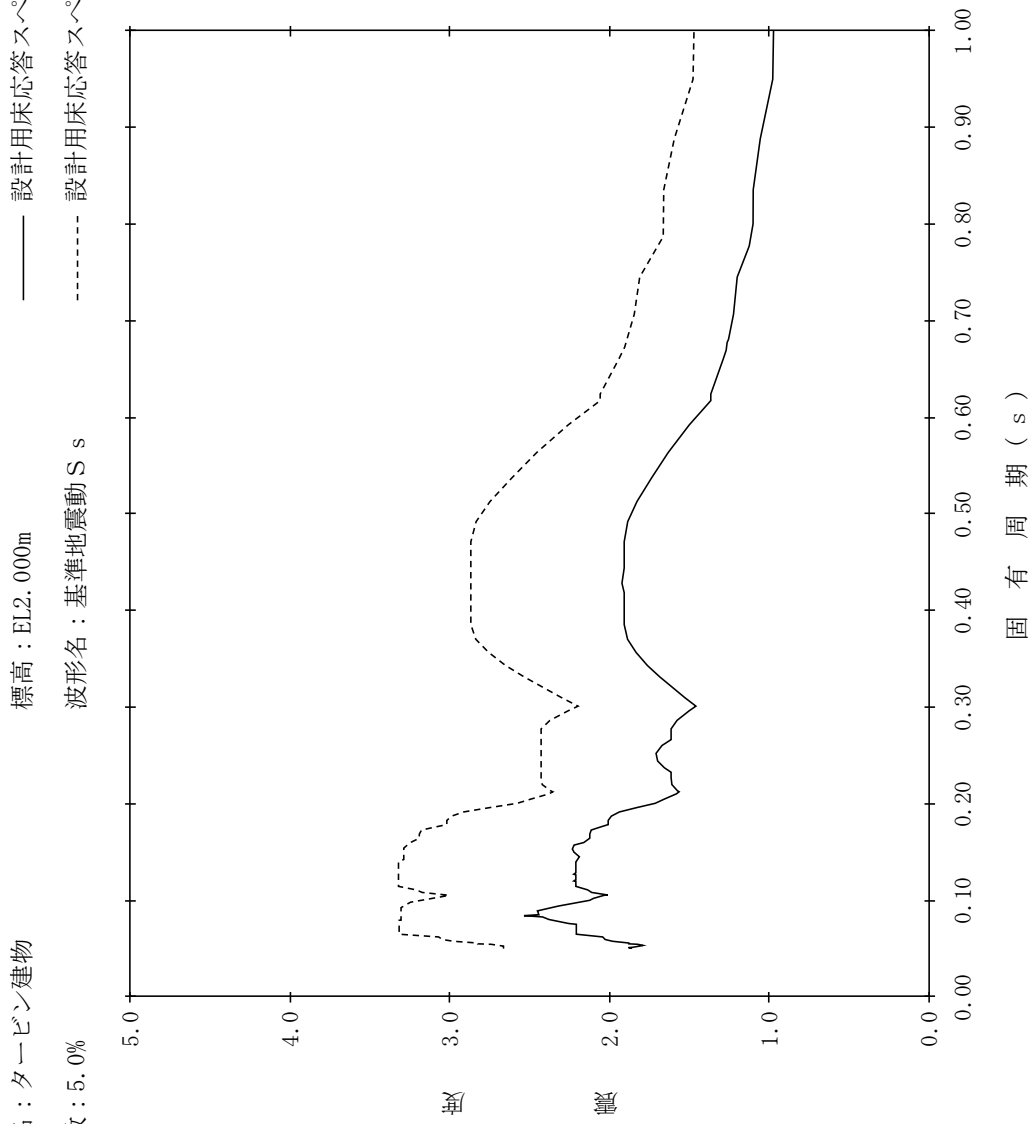
構造物名：タービン建物
標高：EL2.000m
減衰定数：4.0%

—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



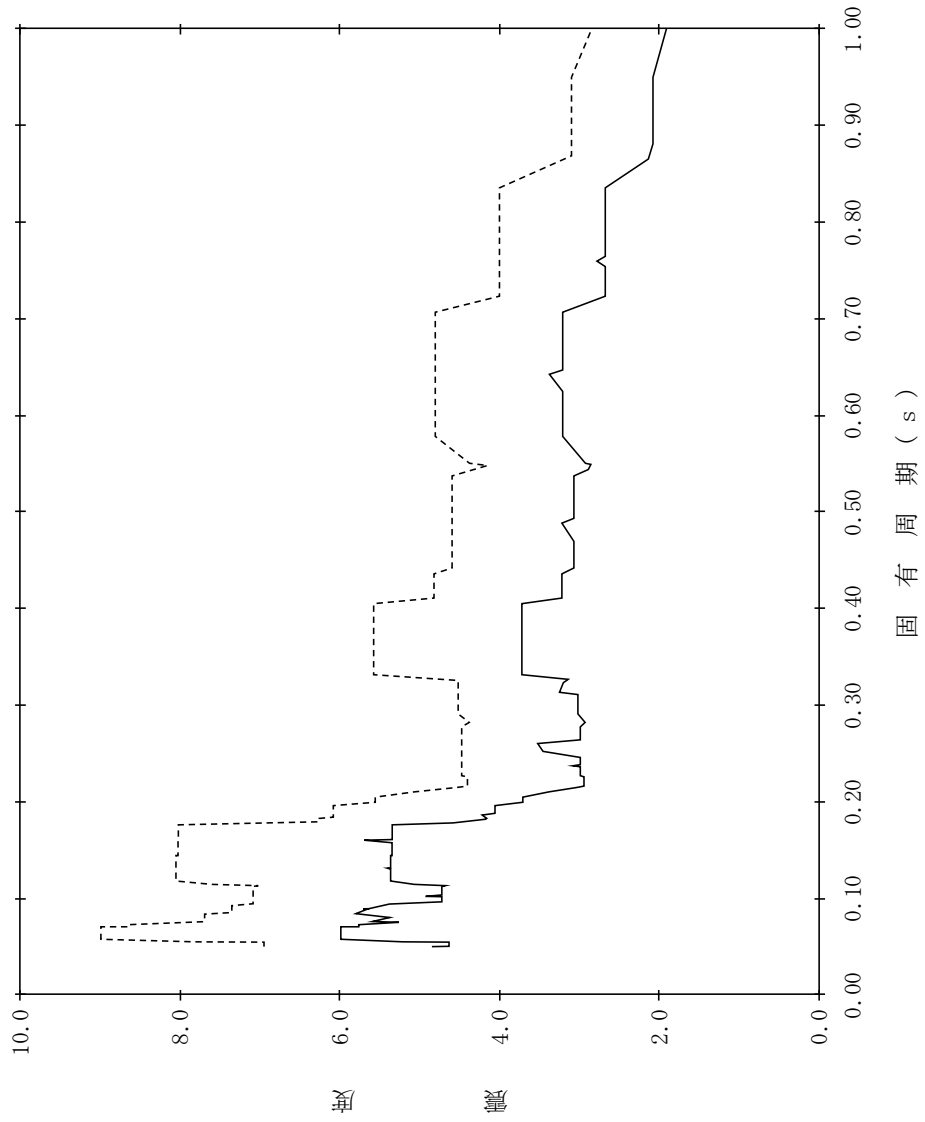
【NS2-TB-SsNS-TB72】

構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：5.0%



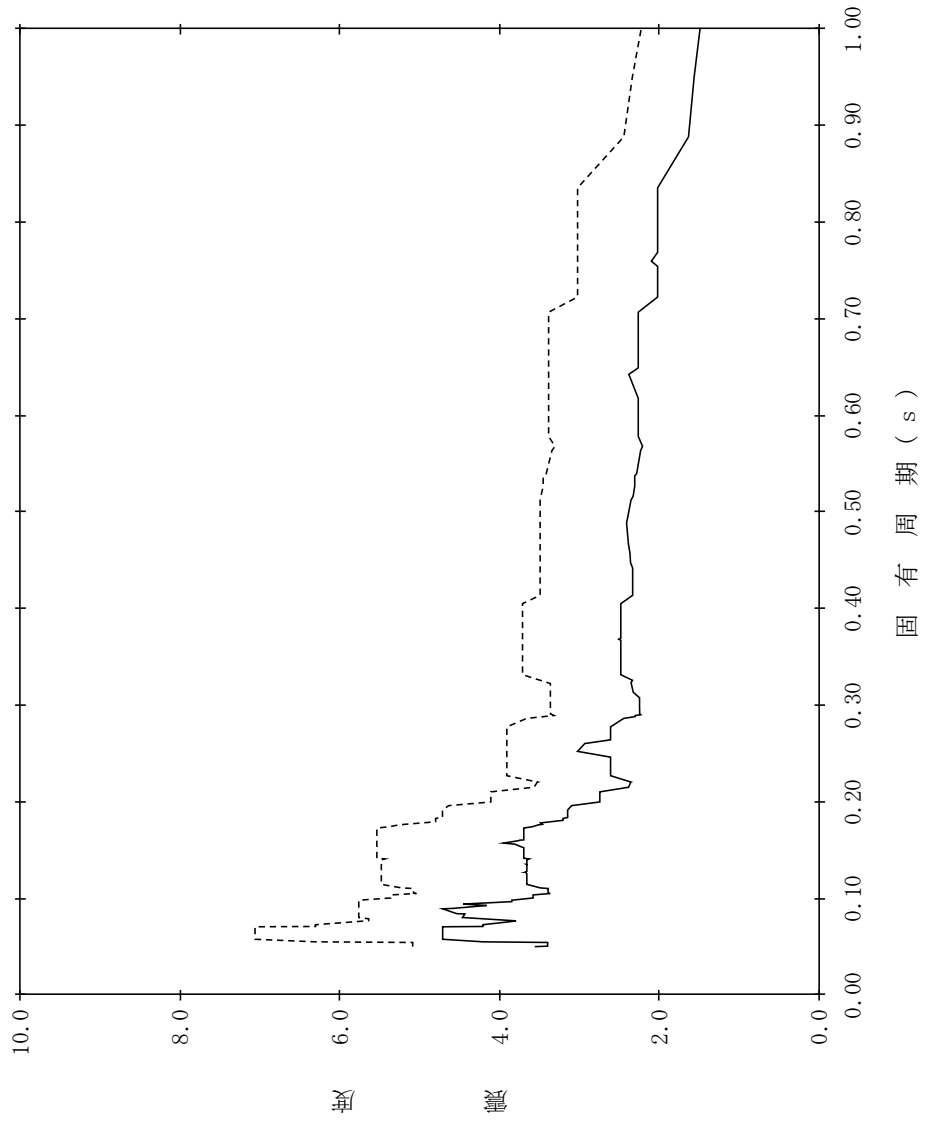
【NS2-TB-SsNS-TB73】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SsNS-TB74】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

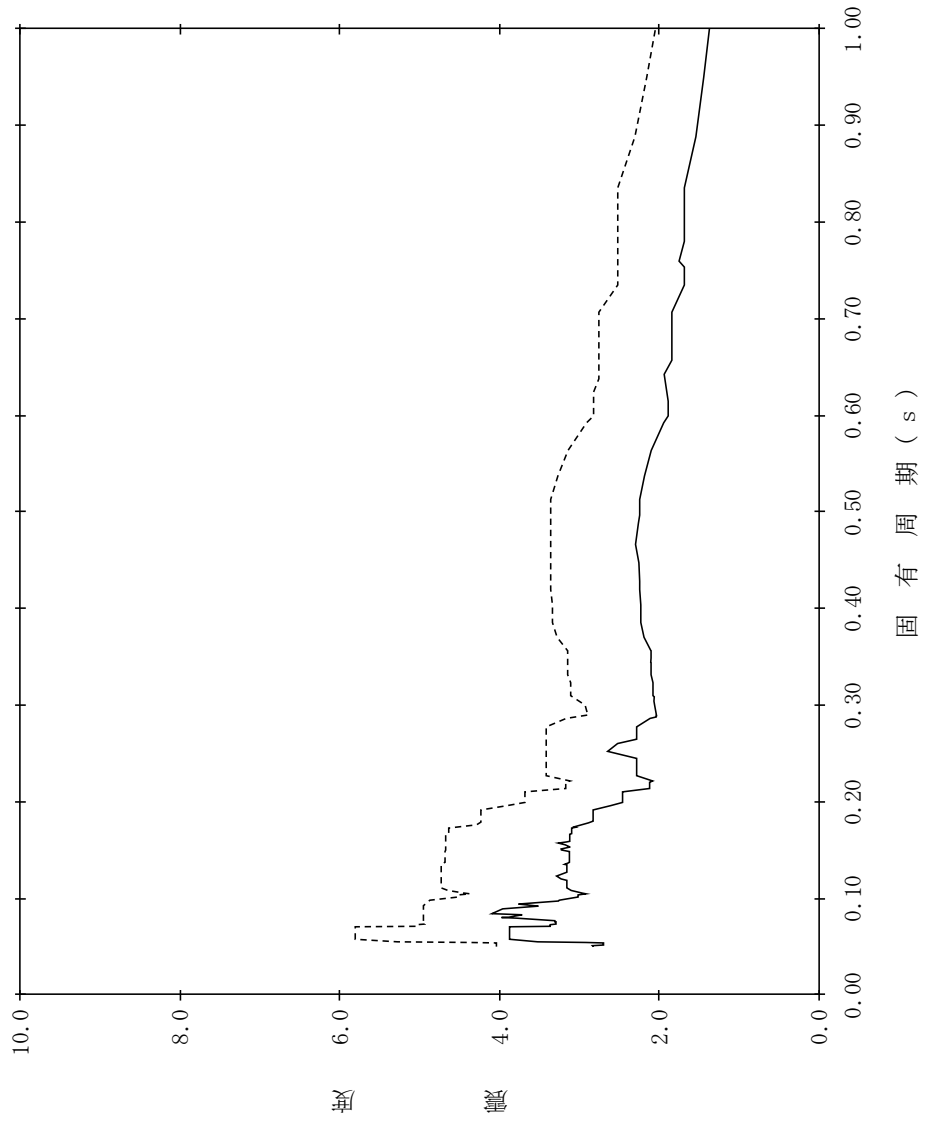


【NS2-TB-SsNS-TB75】

構造物名：タービン建物
標高：EL0.000m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s

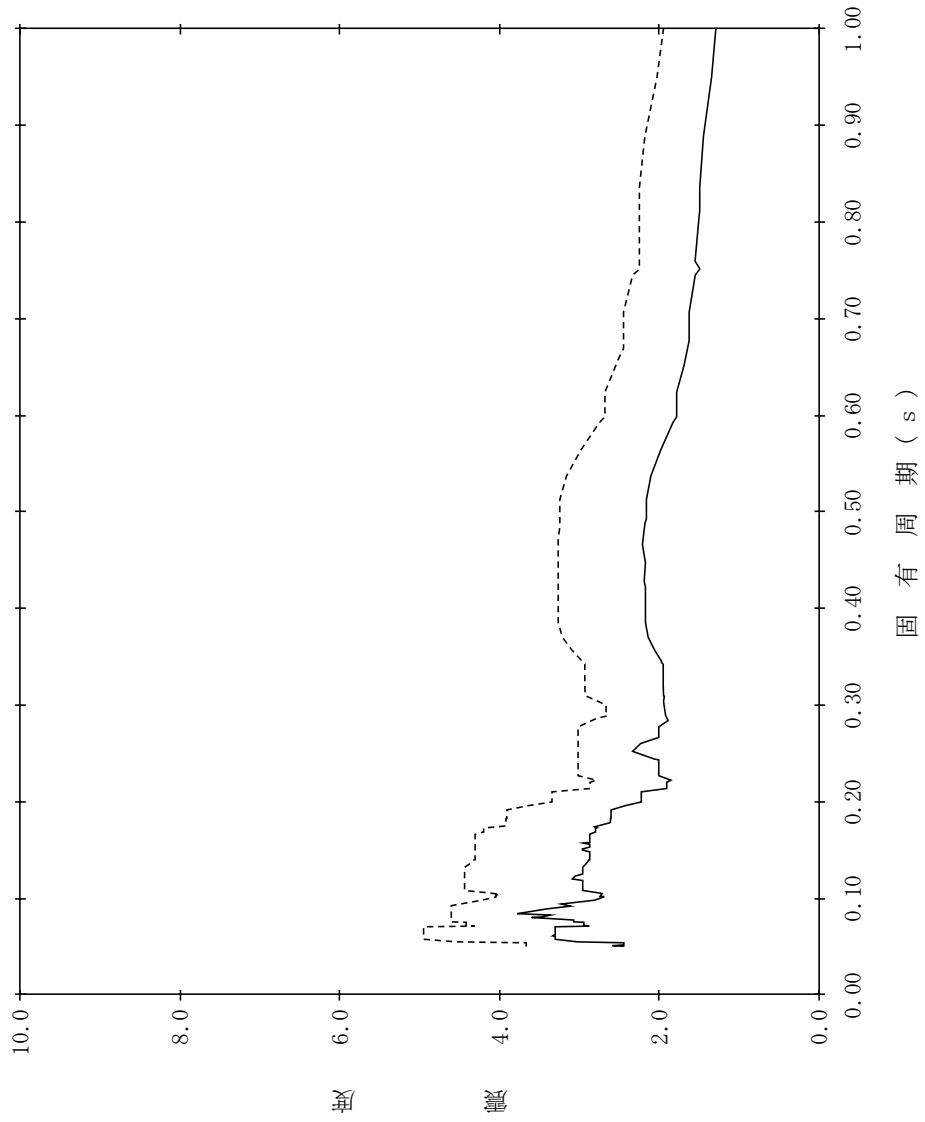
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-TB-SsNS-TB76】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

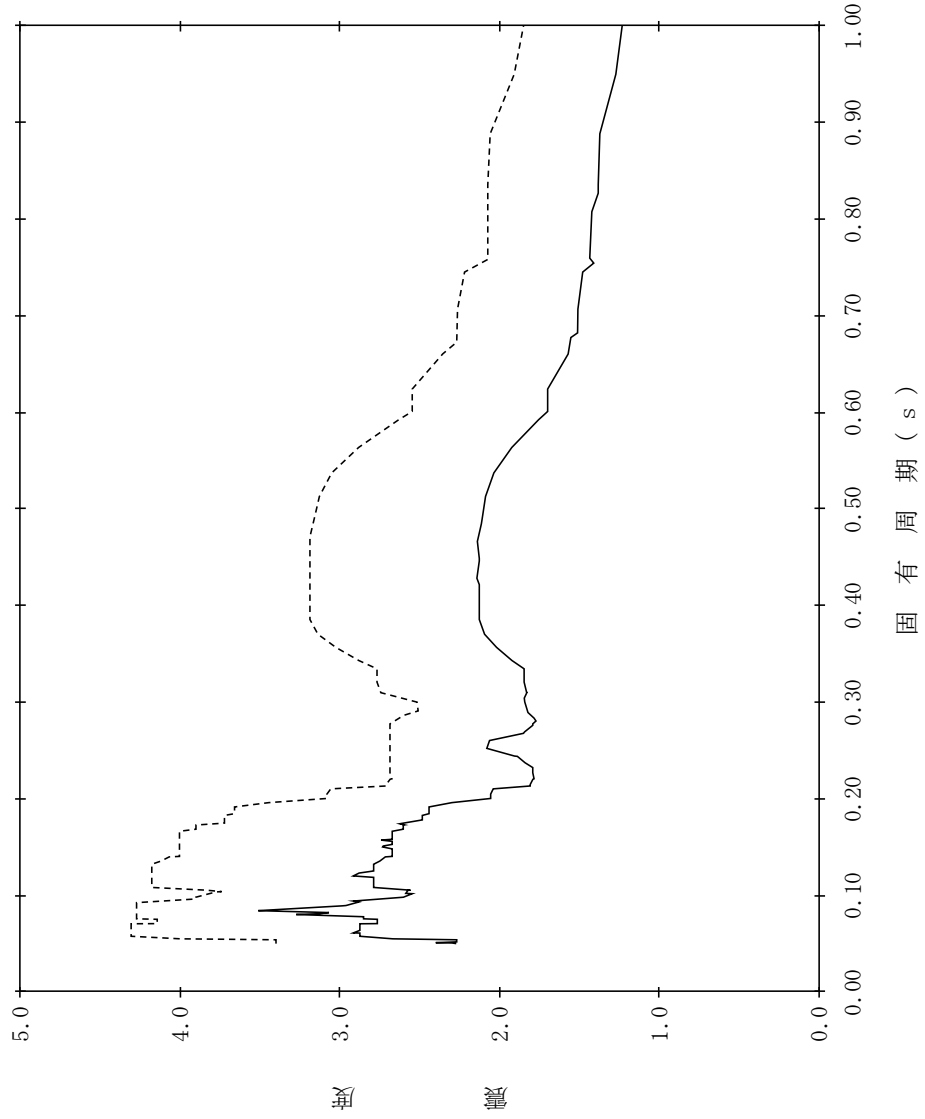


【NS2-TB-SsNS-TB77】

構造物名：タービン建物
標高：EL0.000m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s

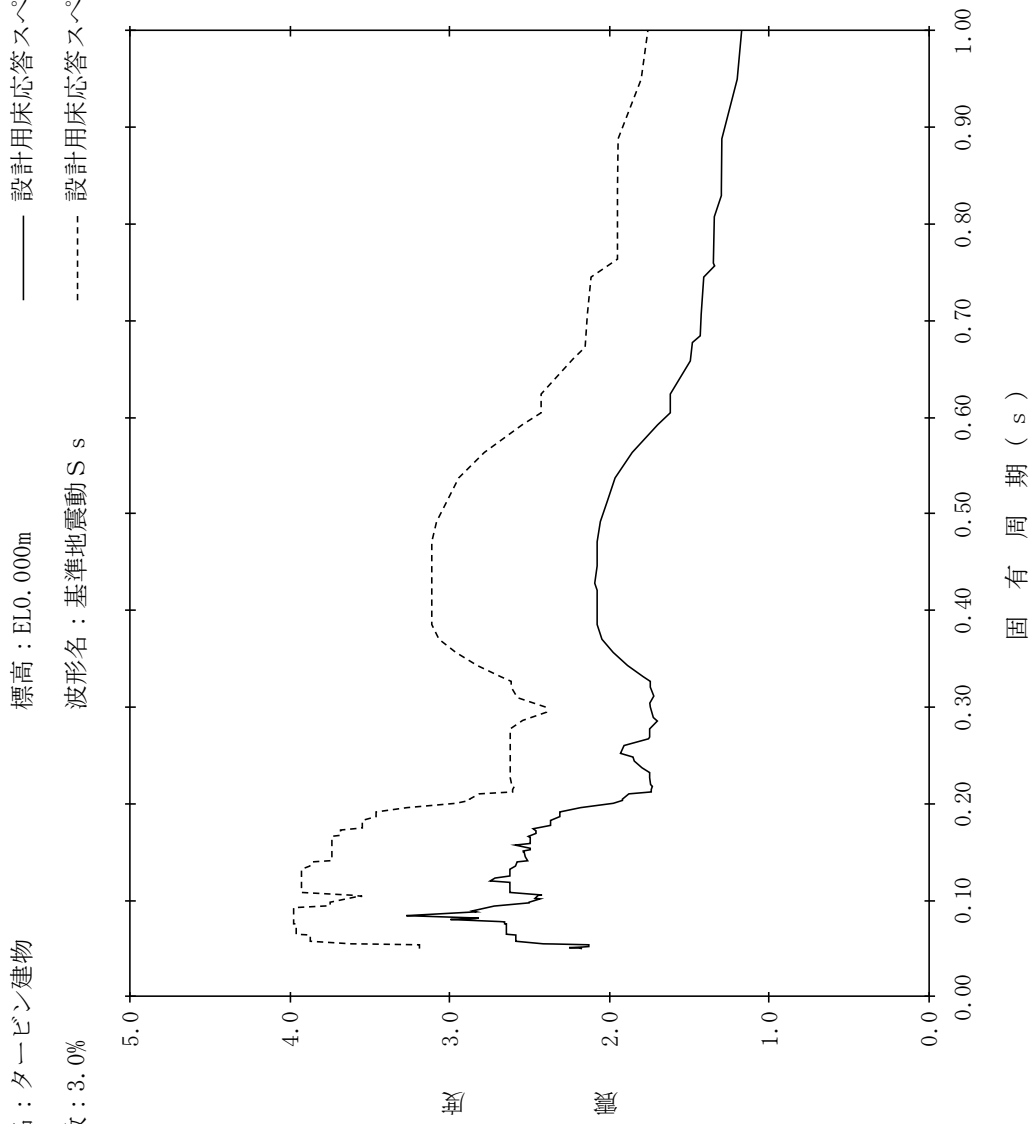
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



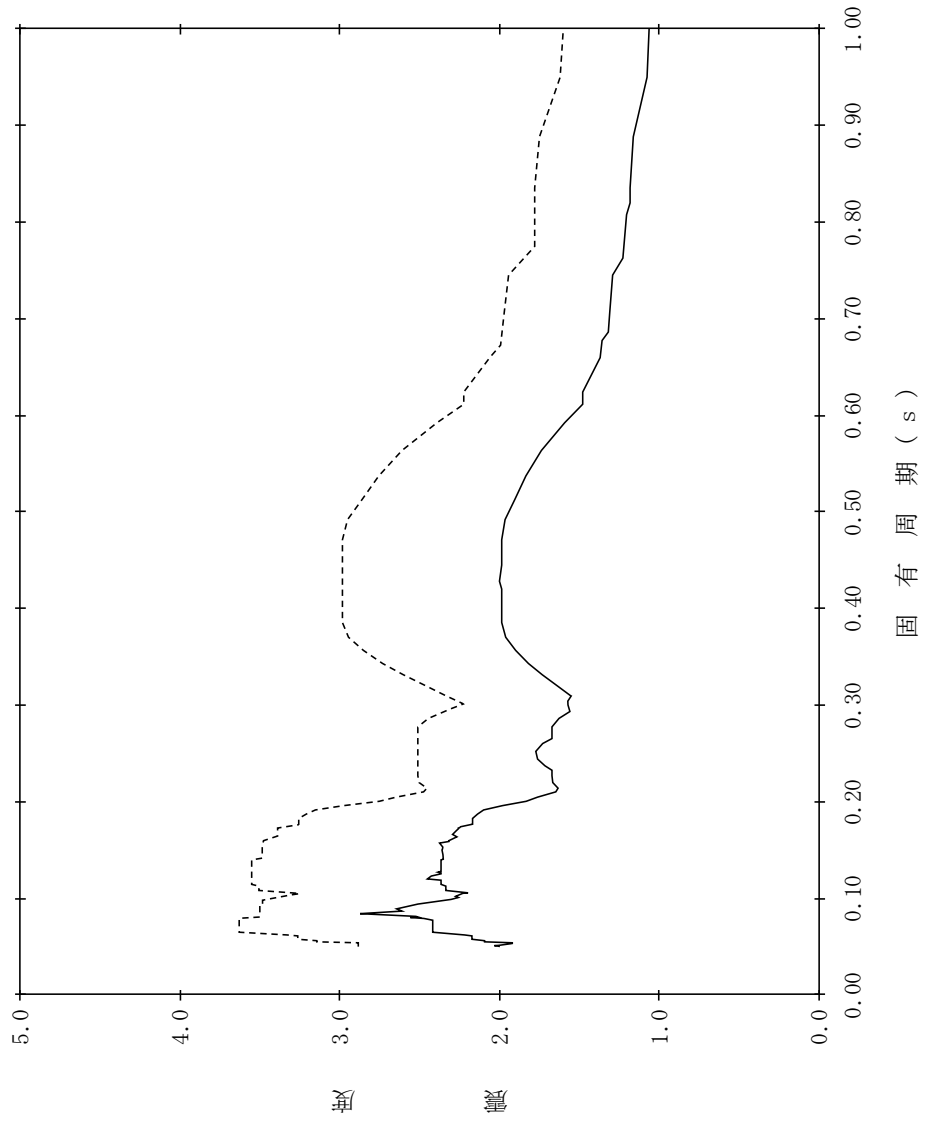
【NS2-TB-SsNS-TB78】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：3.0%



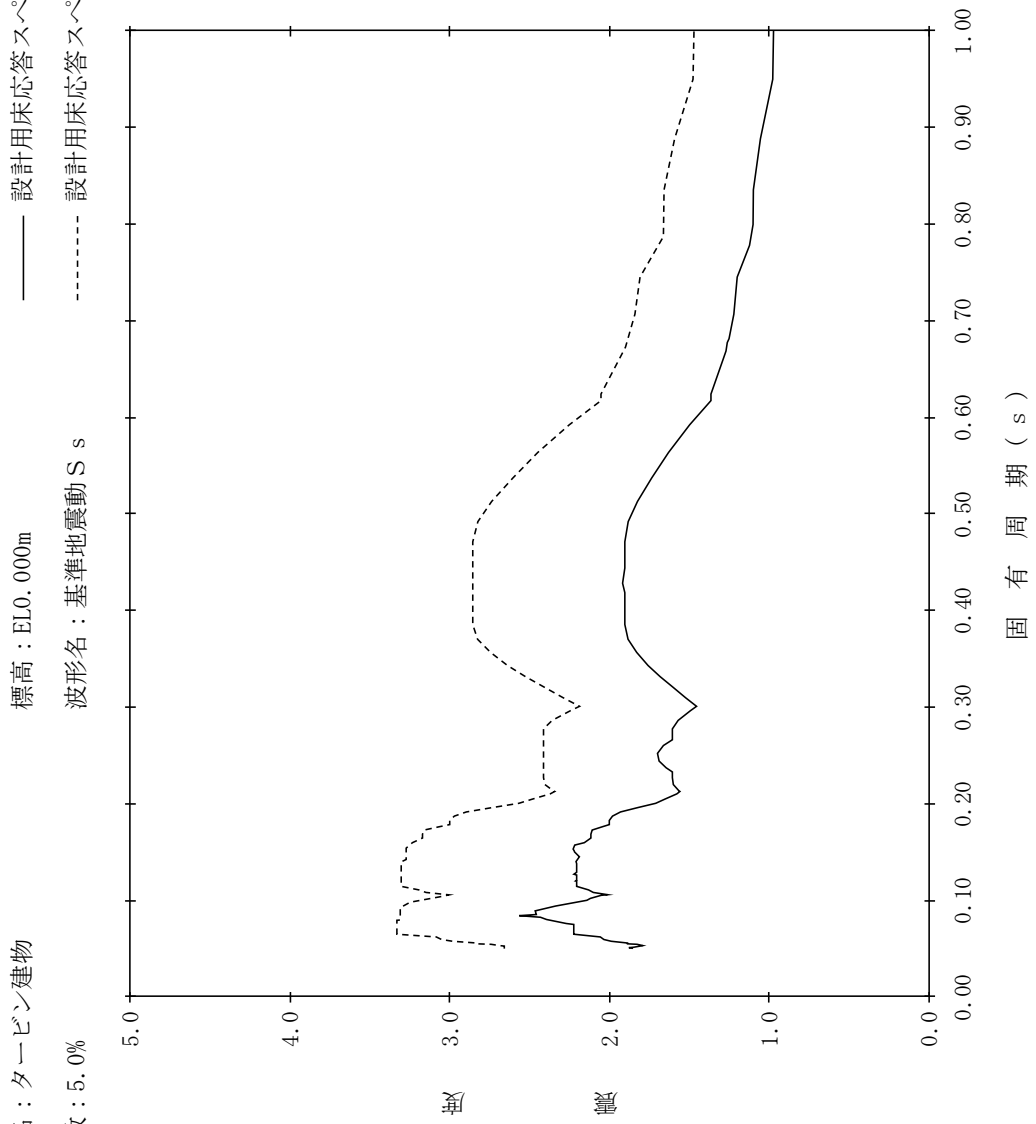
【NS2-TB-SsNS-TB79】

構造物名：タービン建物
標高：EL0.000m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



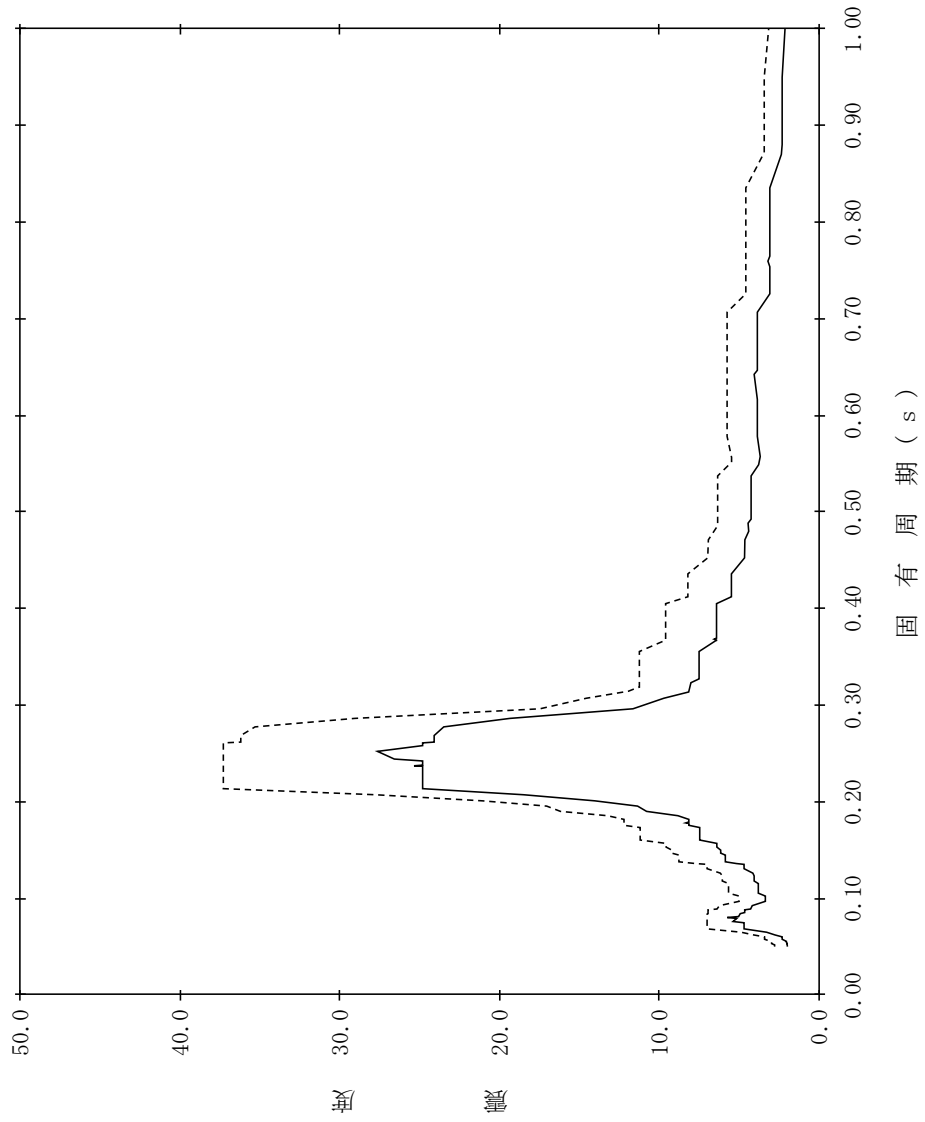
【NS2-TB-SsNS-TB80】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：5.0%



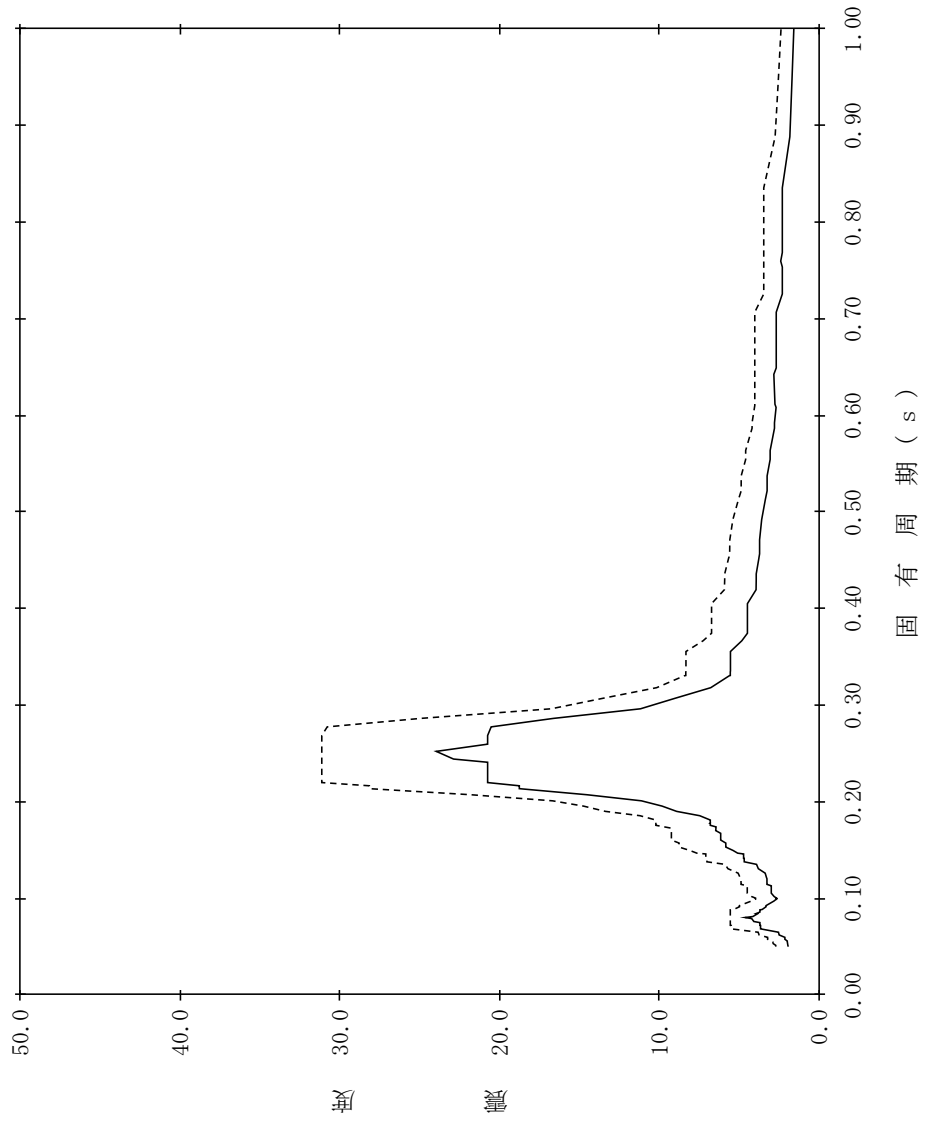
【NS2-TB-SsNS-TG81】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL20.480m
減衰定数：0.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

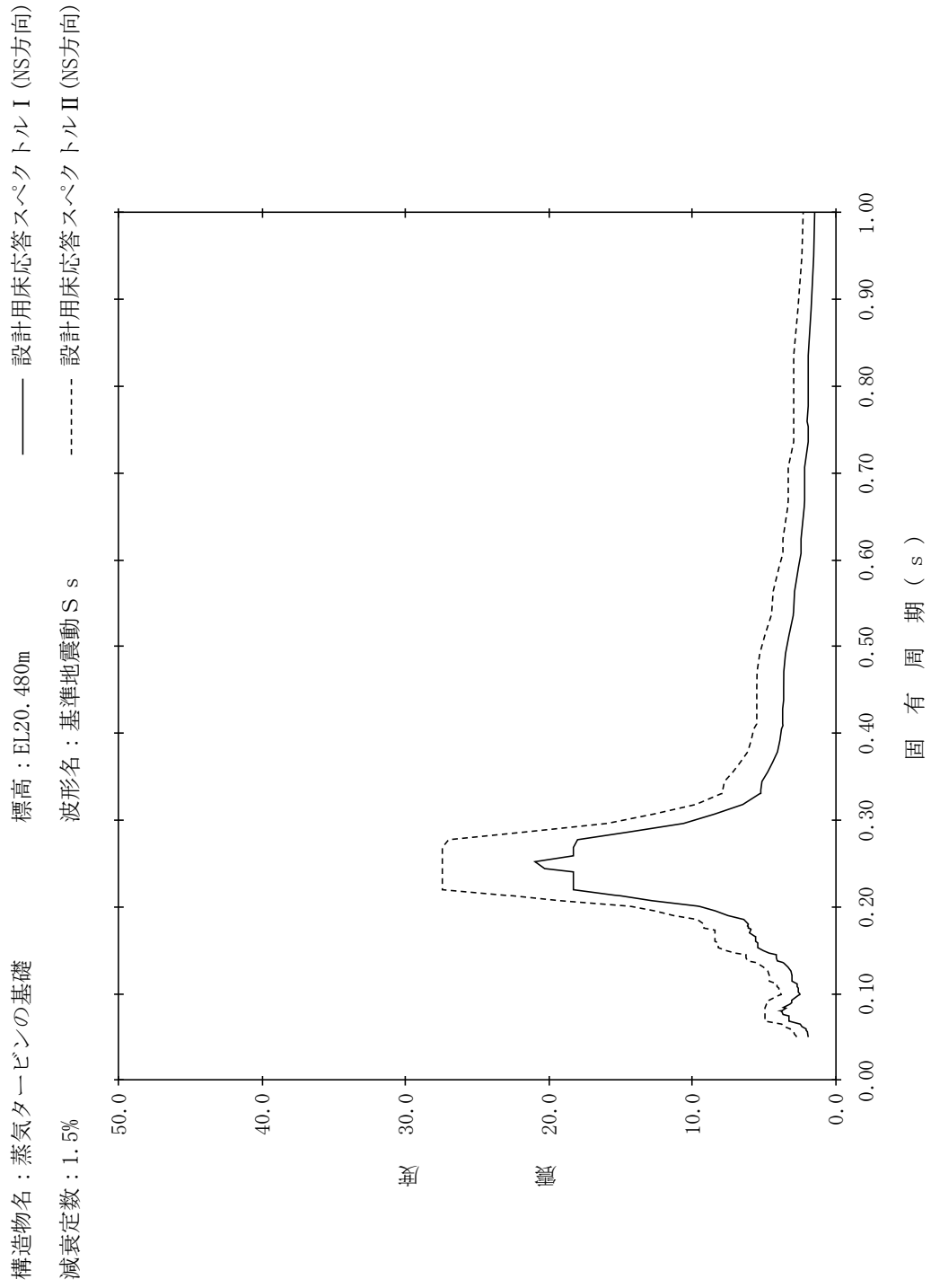


【NS2-TB-SsNS-TG82】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL20.480m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



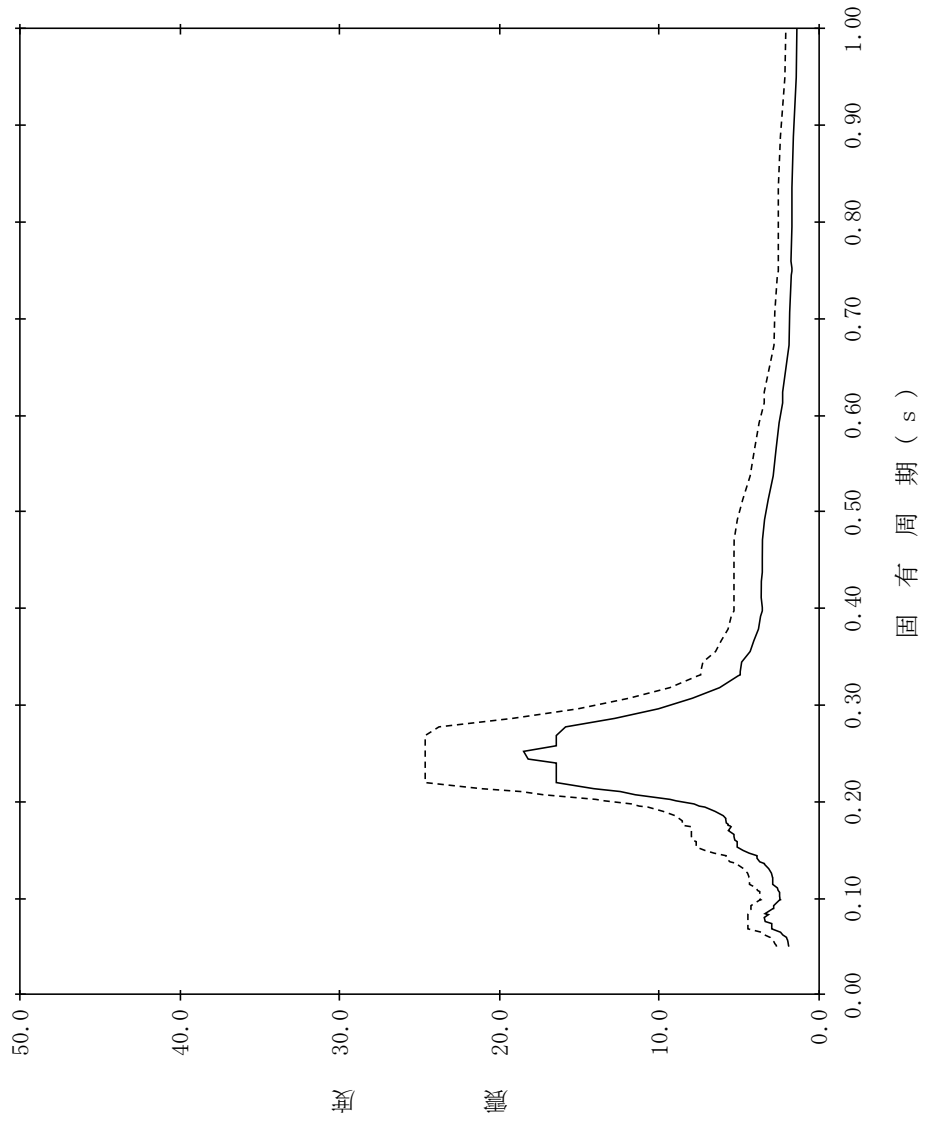
【NS2-TB-SsNS-TG83】



【NS2-TB-SsNS-TG84】

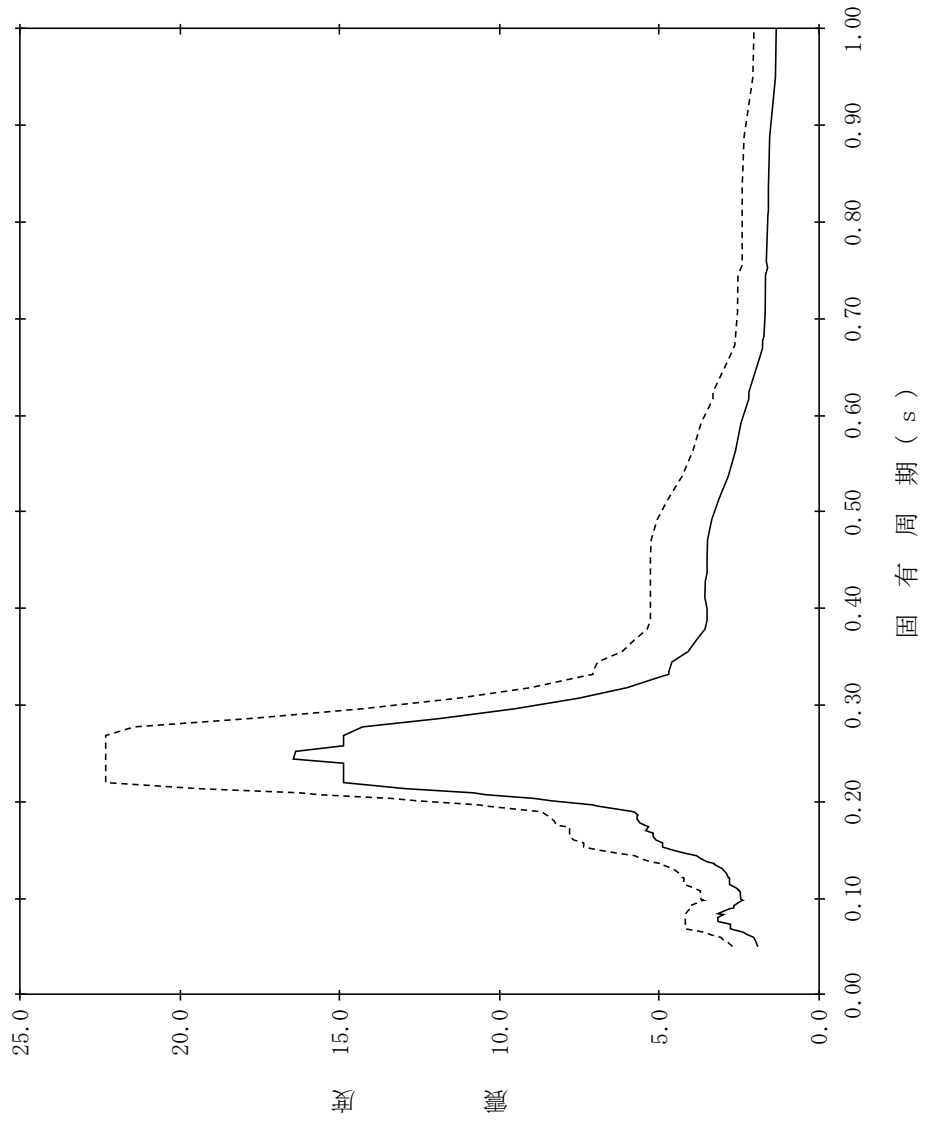
構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL20.480m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s

—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



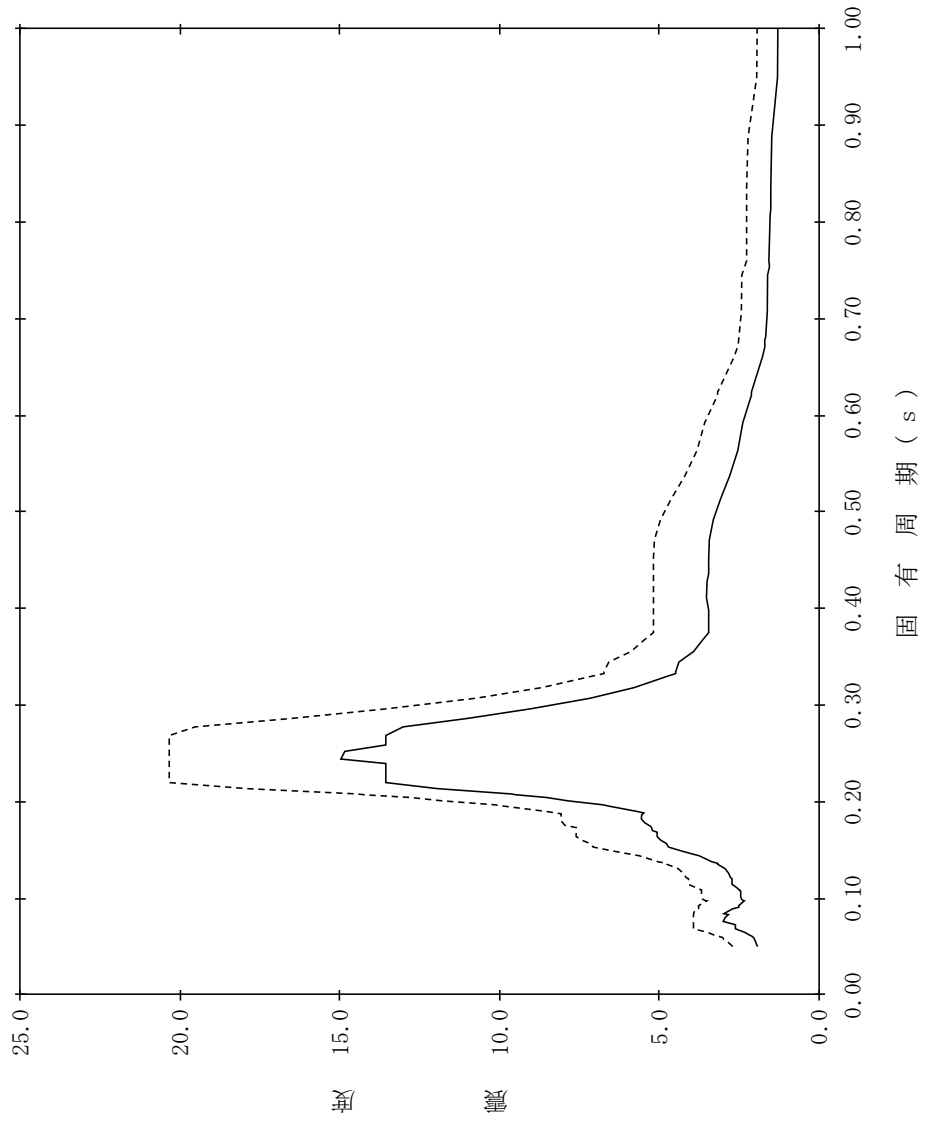
【NS2-TB-SsNS-TG85】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



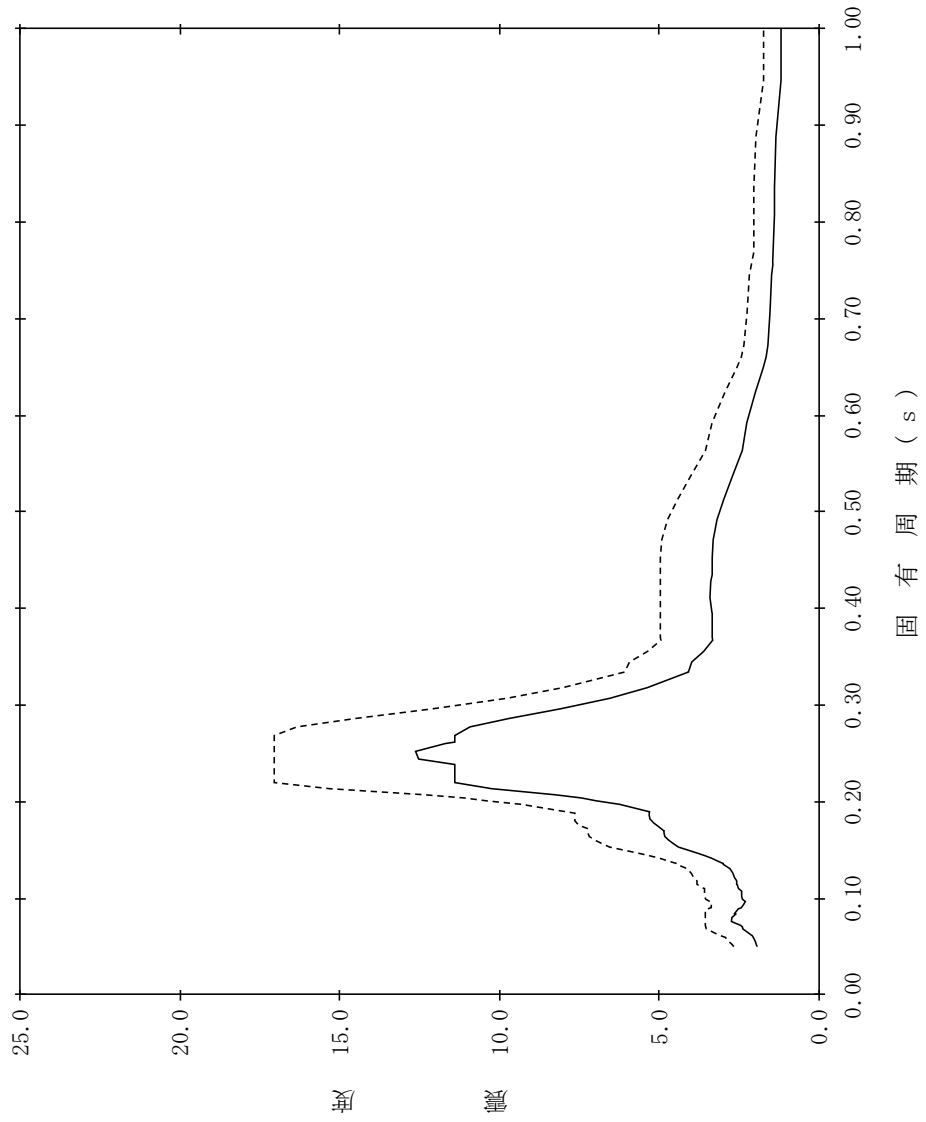
【NS2-TB-SsNS-TG86】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



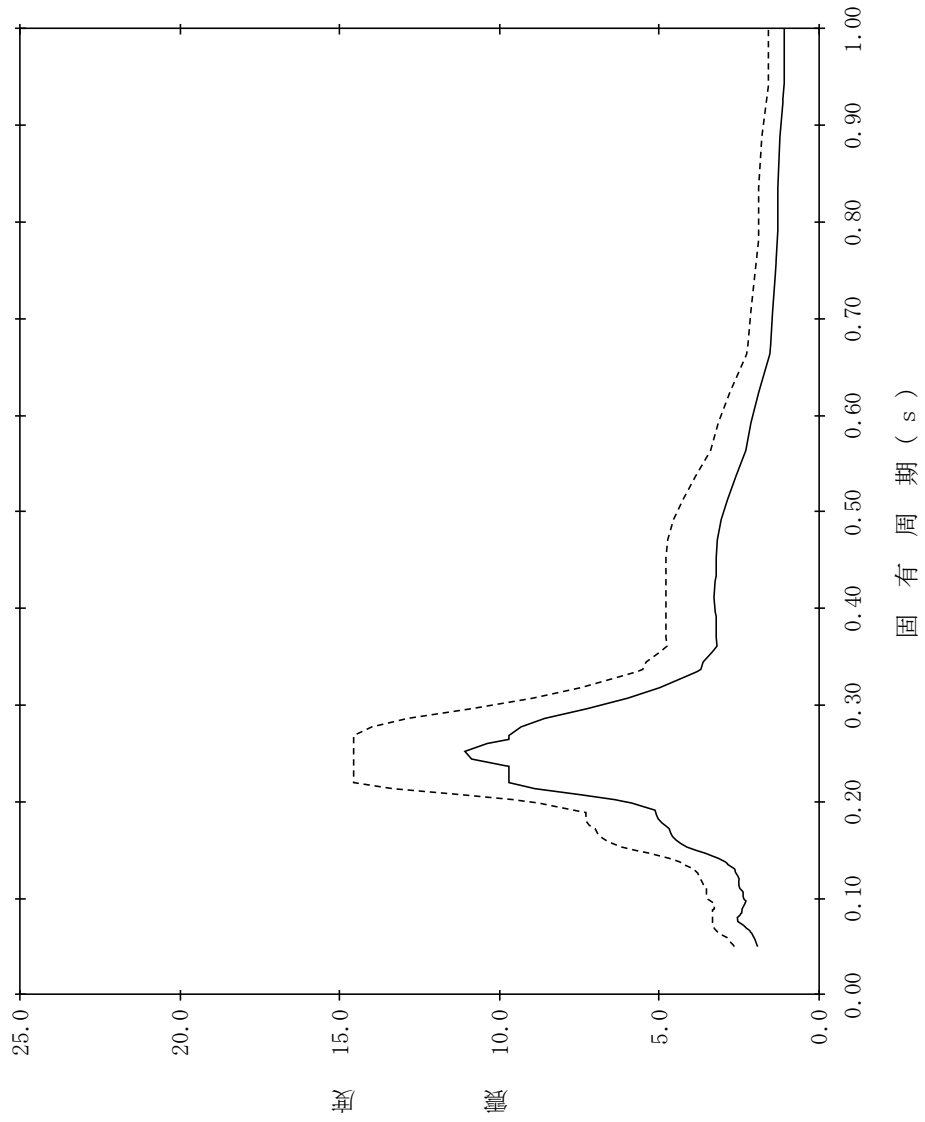
【NS2-TB-SsNS-TG87】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL20.480m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



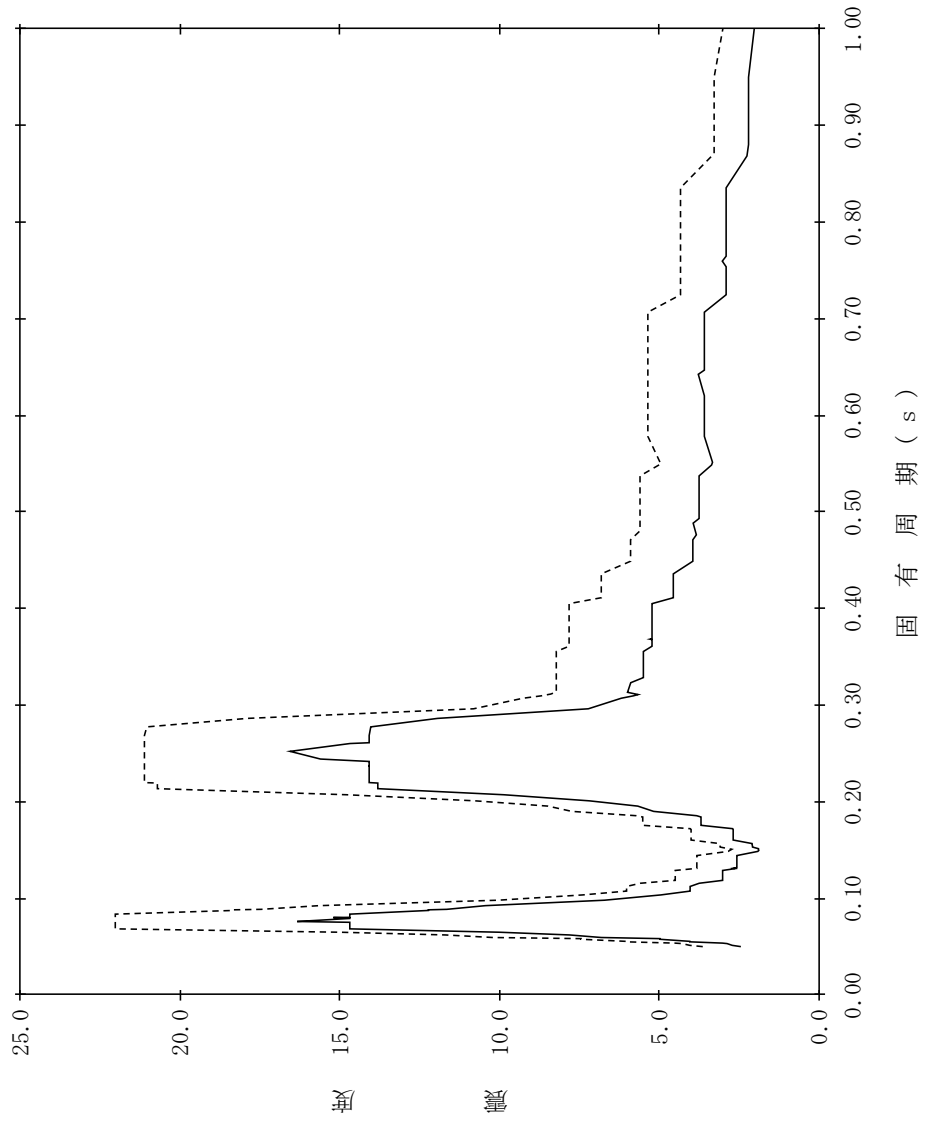
【NS2-TB-SsNS-TG88】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



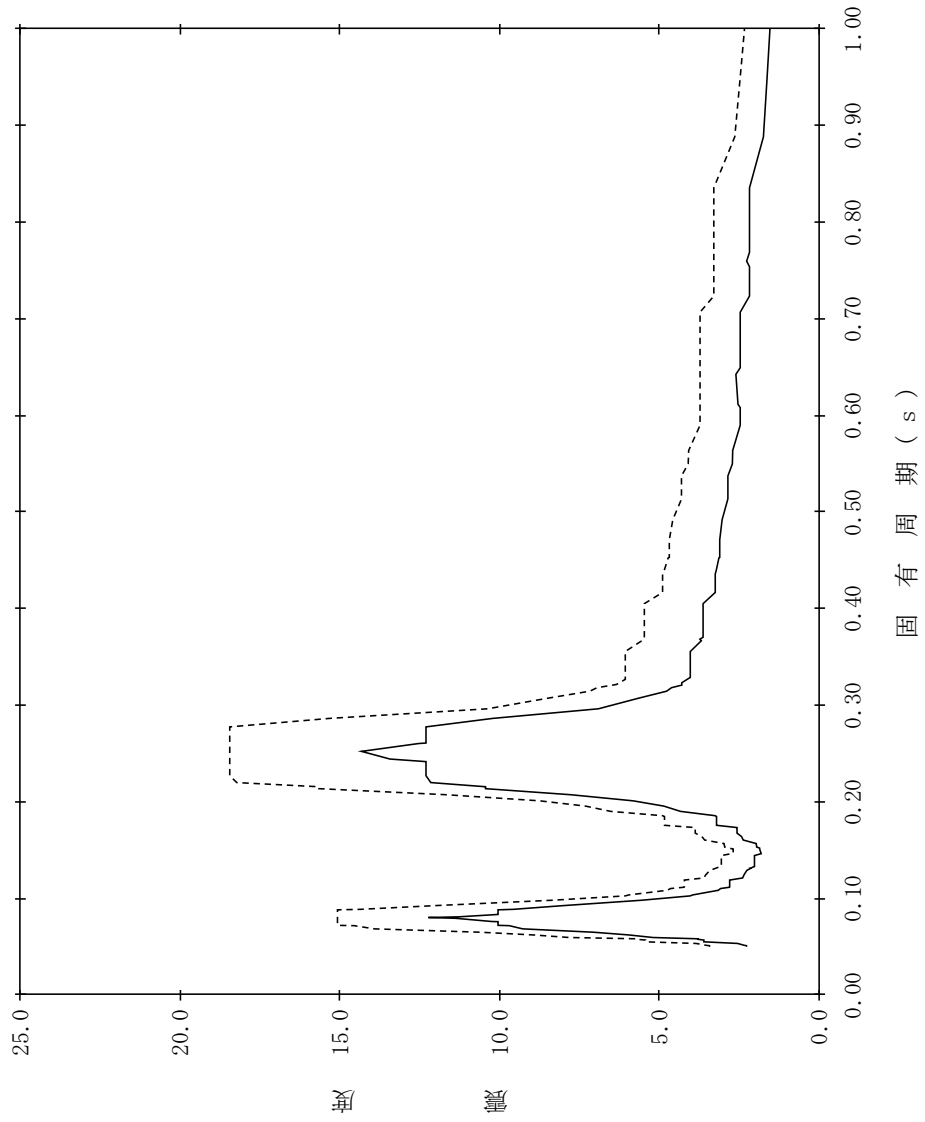
【NS2-TB-SsNS-TG89】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



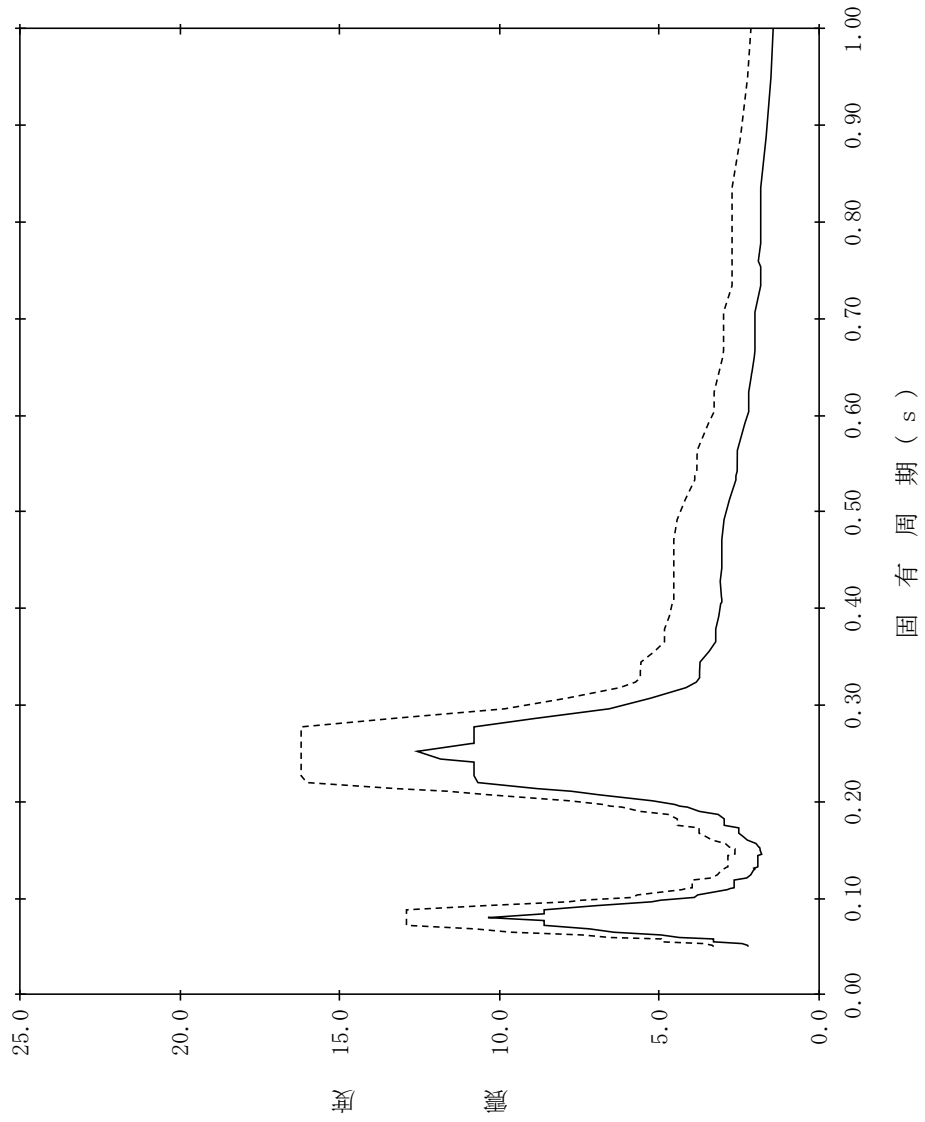
【NS2-TB-SsNS-TG90】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



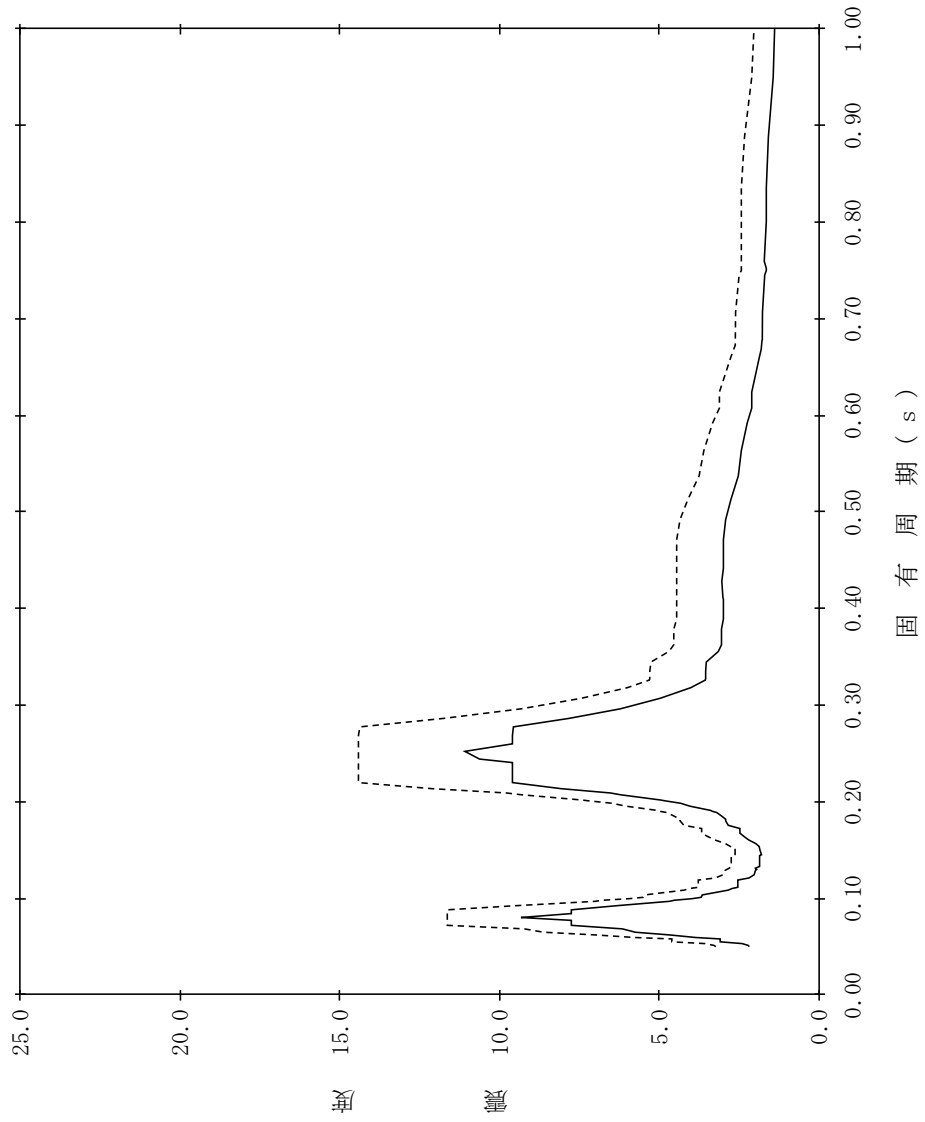
【NS2-TB-SsNS-TG91】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL13.000m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



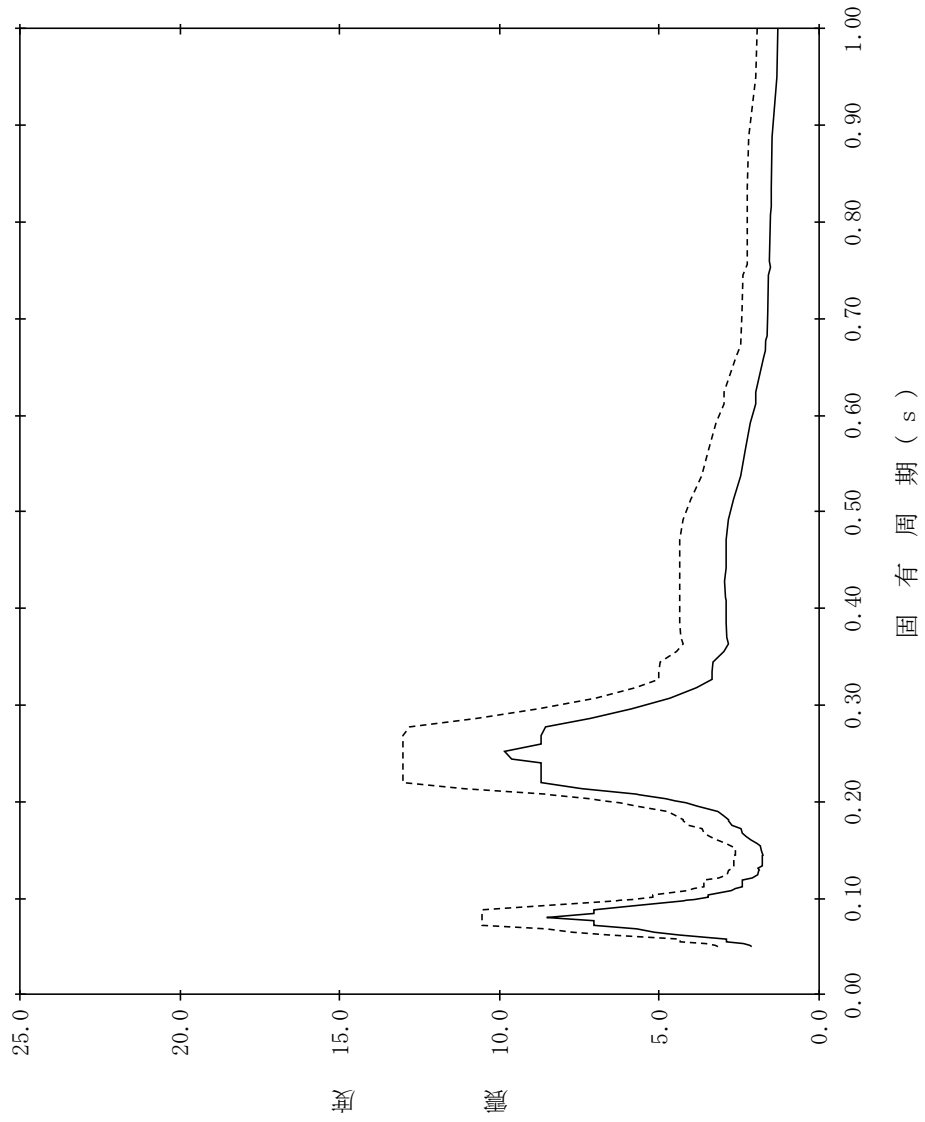
【NS2-TB-SsNS-TG92】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL13.000m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



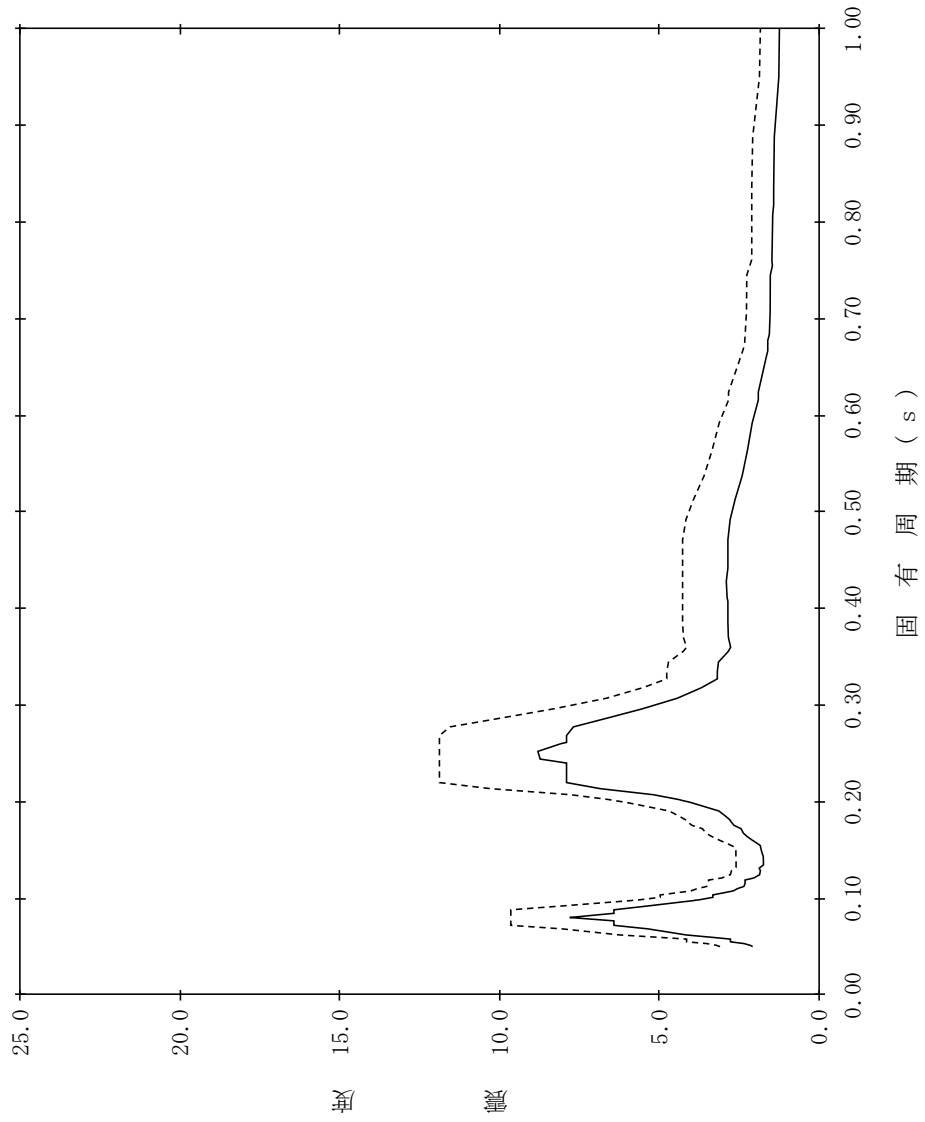
【NS2-TB-SsNS-TG93】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL13.000m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



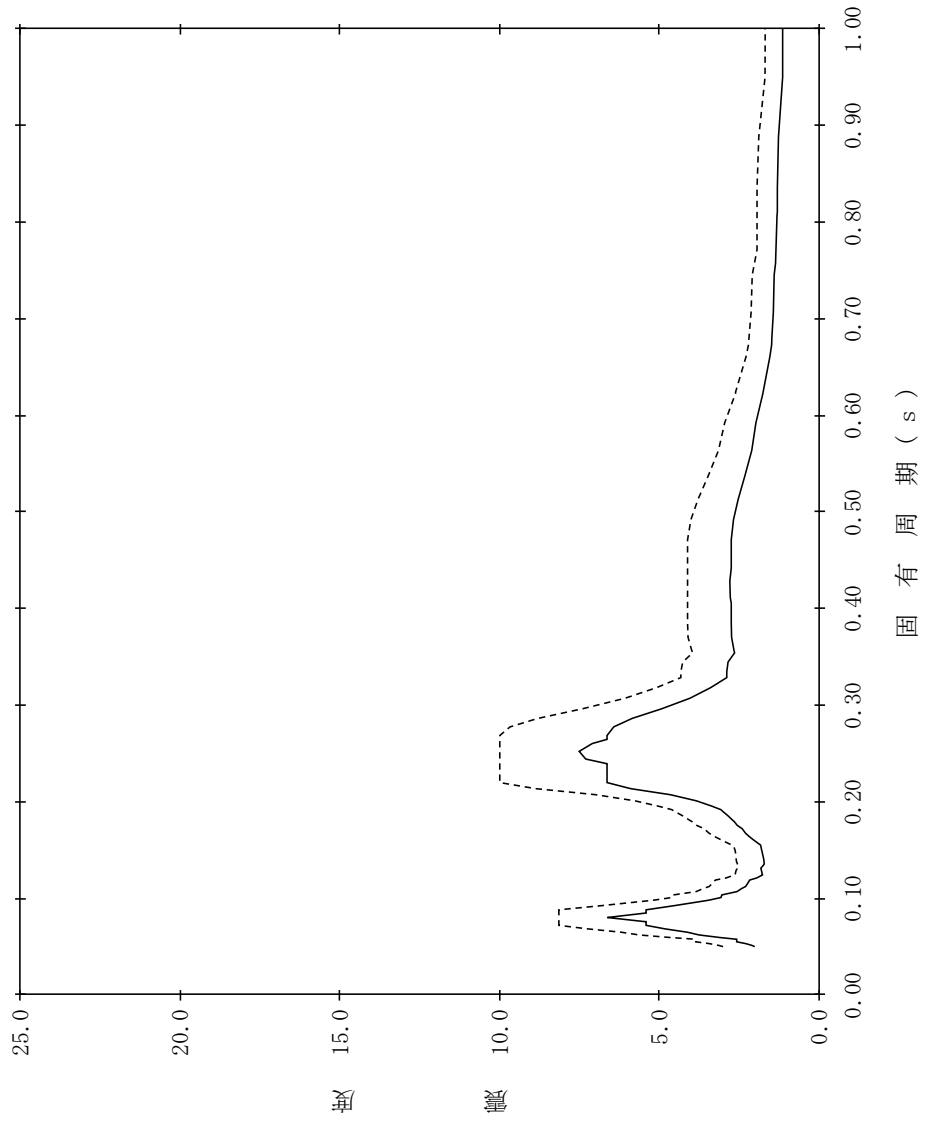
【NS2-TB-SsNS-TG94】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL13.000m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



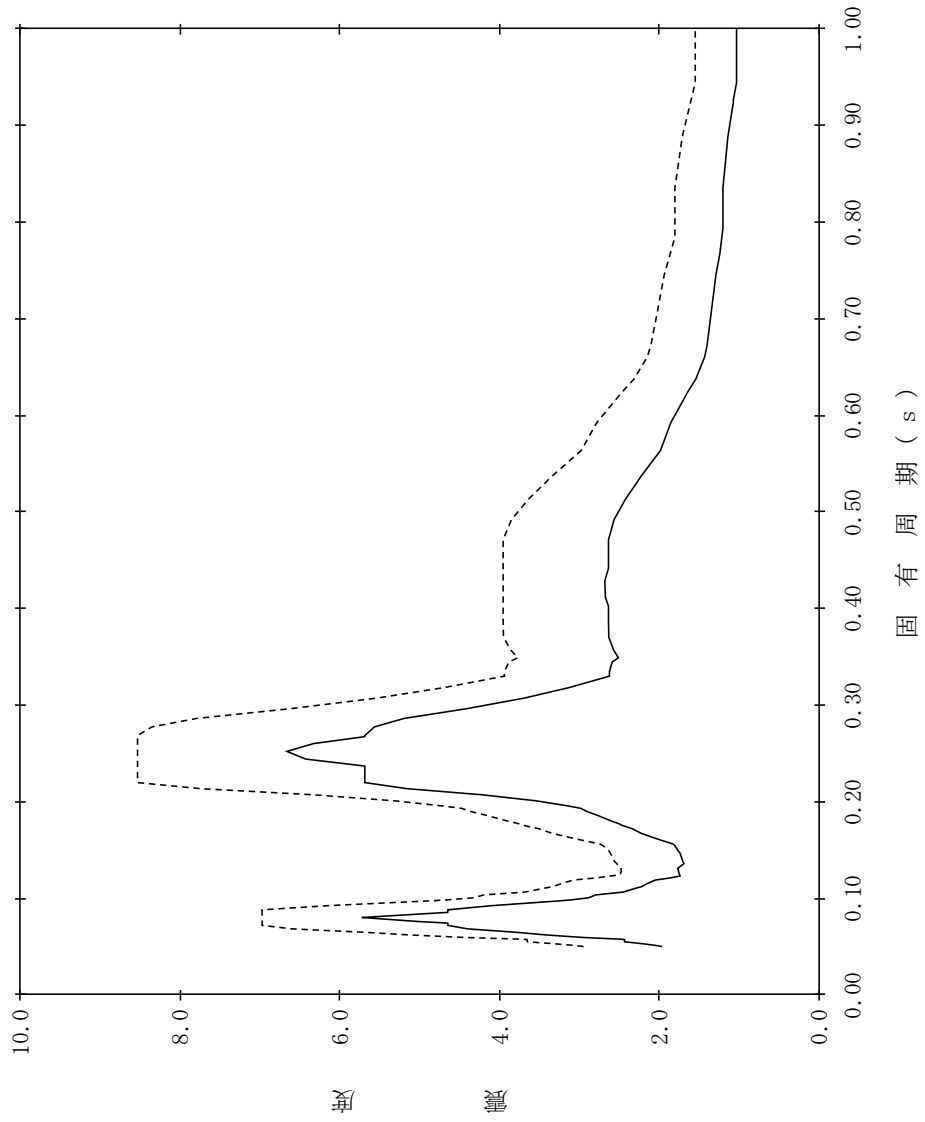
【NS2-TB-SsNS-TG95】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL13.000m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



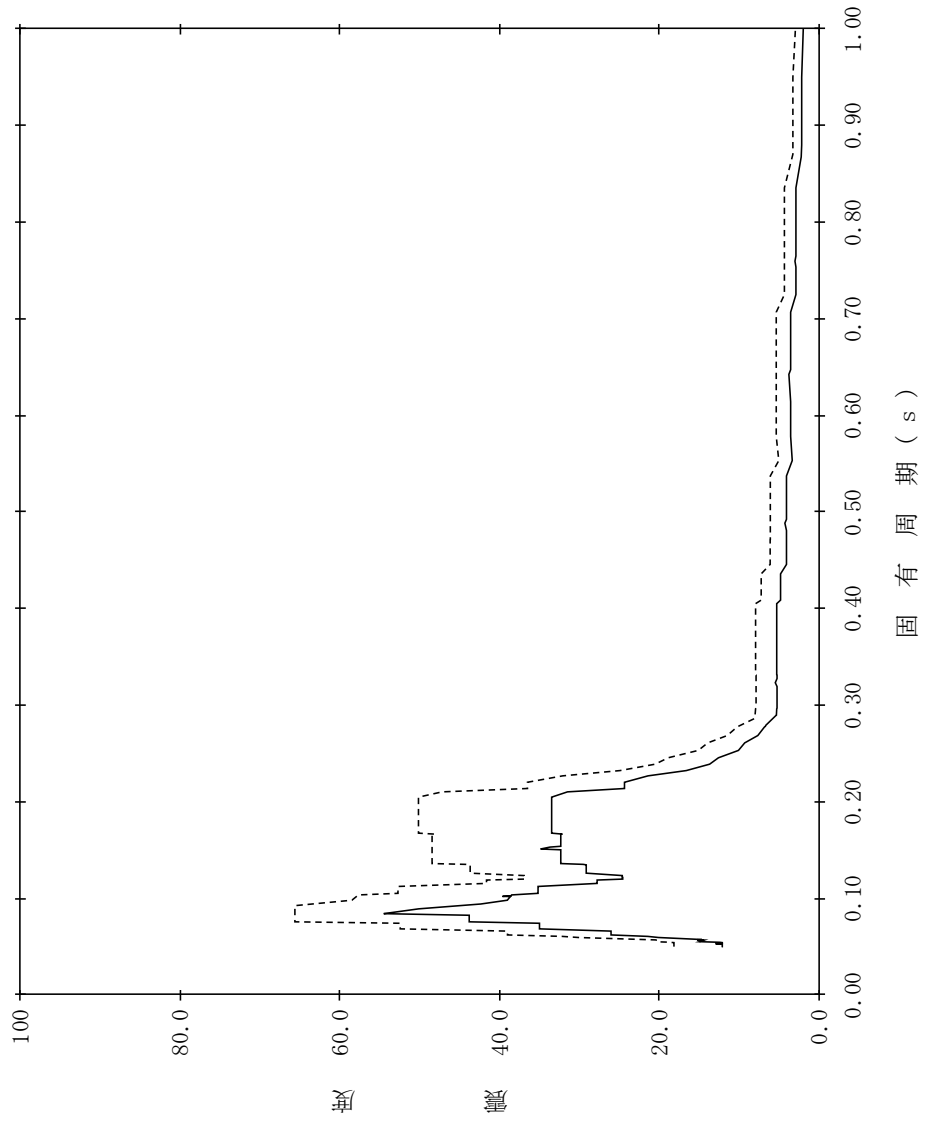
【NS2-TB-SsNS-TG96】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



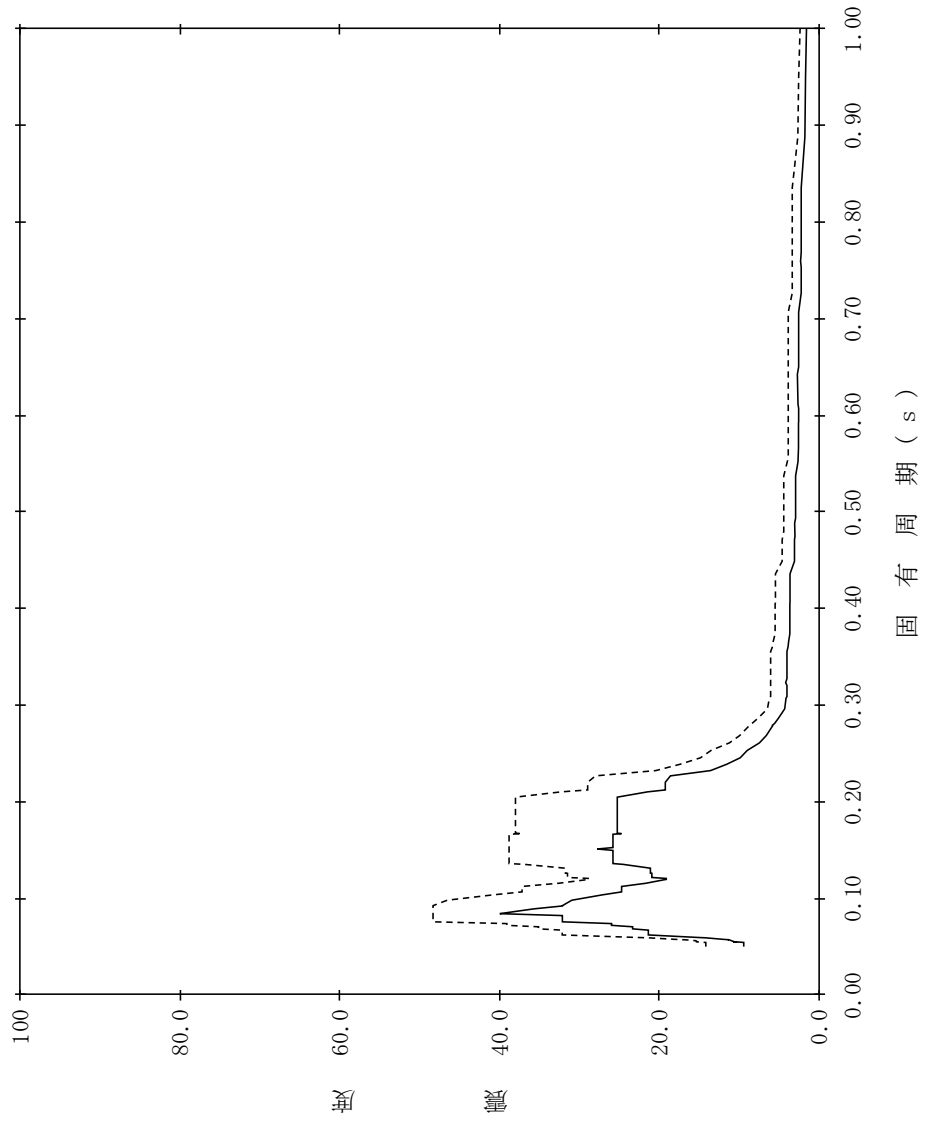
【NS2-TB-SsEW-TB1】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



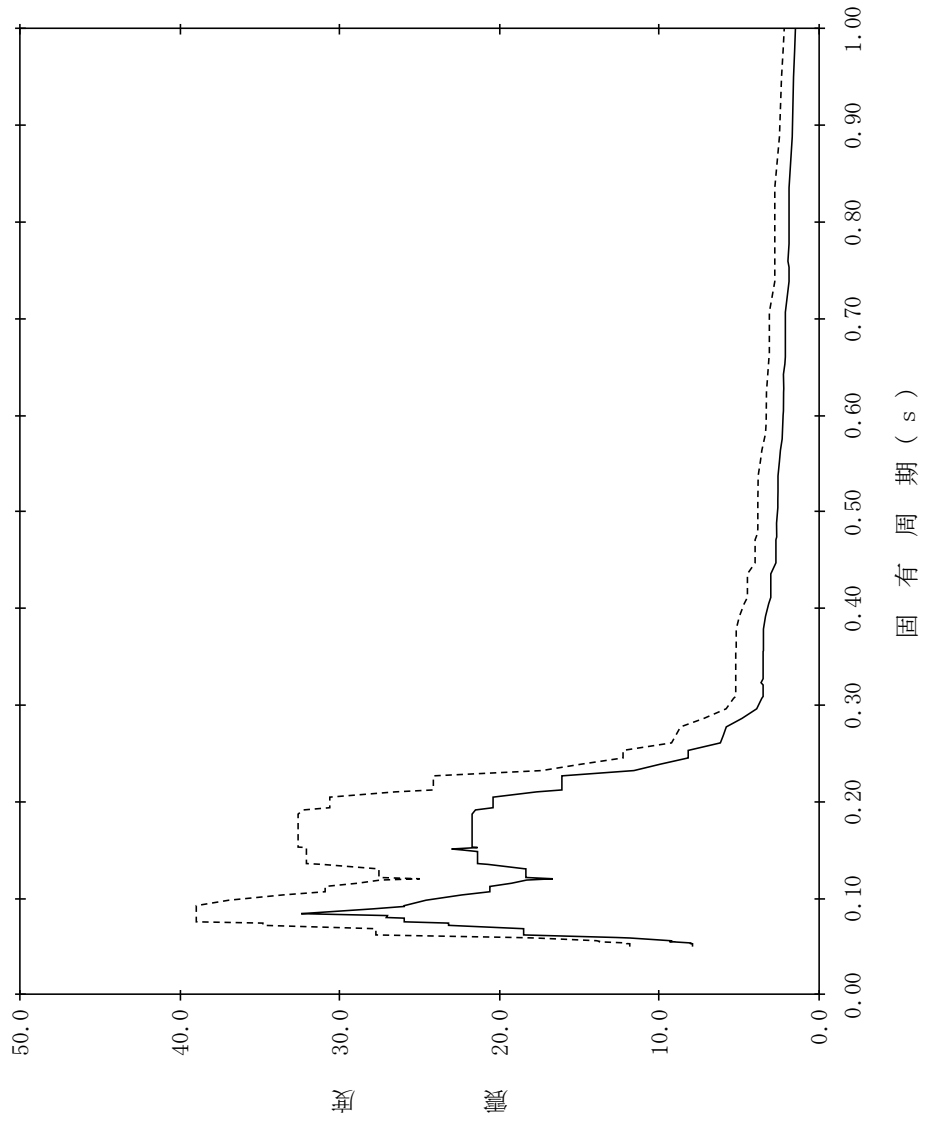
【NS2-TB-SsEW-TB2】

構造物名：タービン建物
標高：EL41.600m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



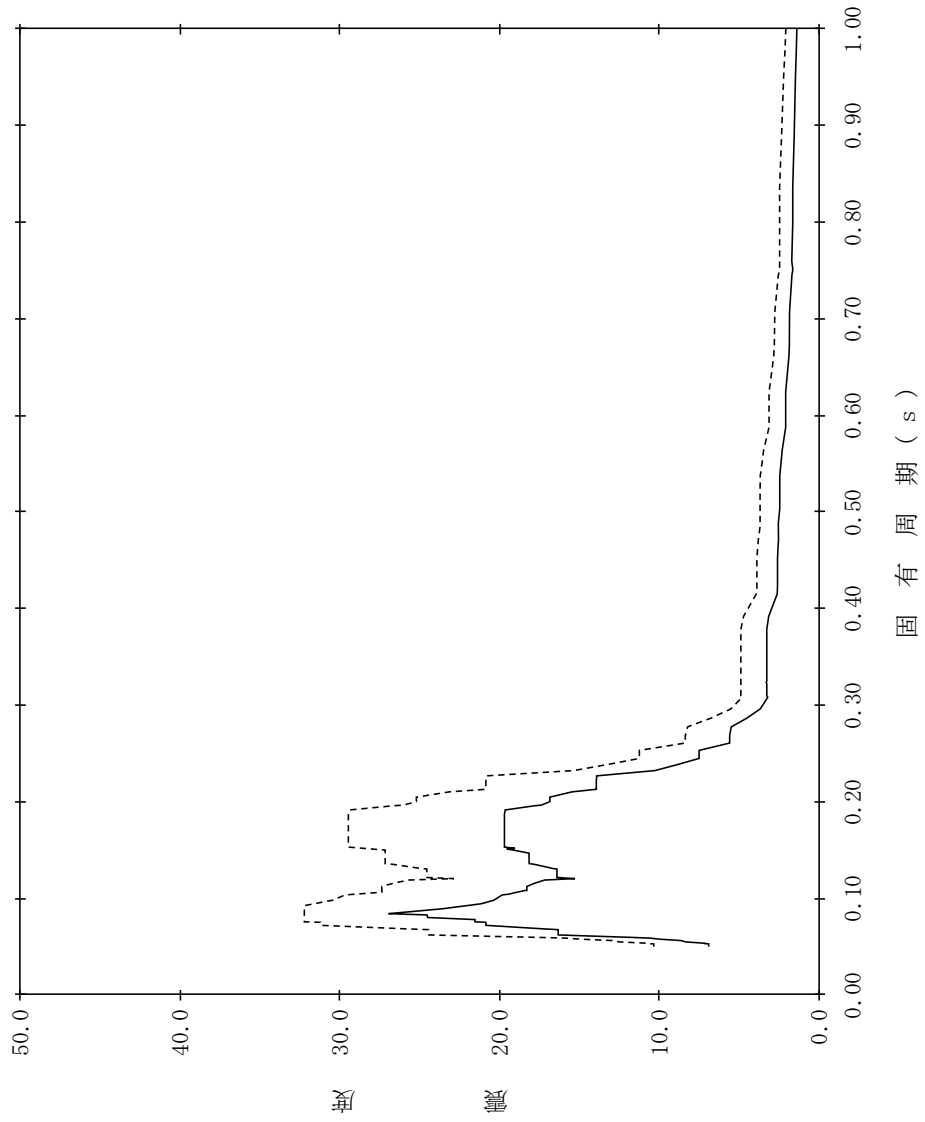
【NS2-TB-SsEW-TB3】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：1.5%
 波形式：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



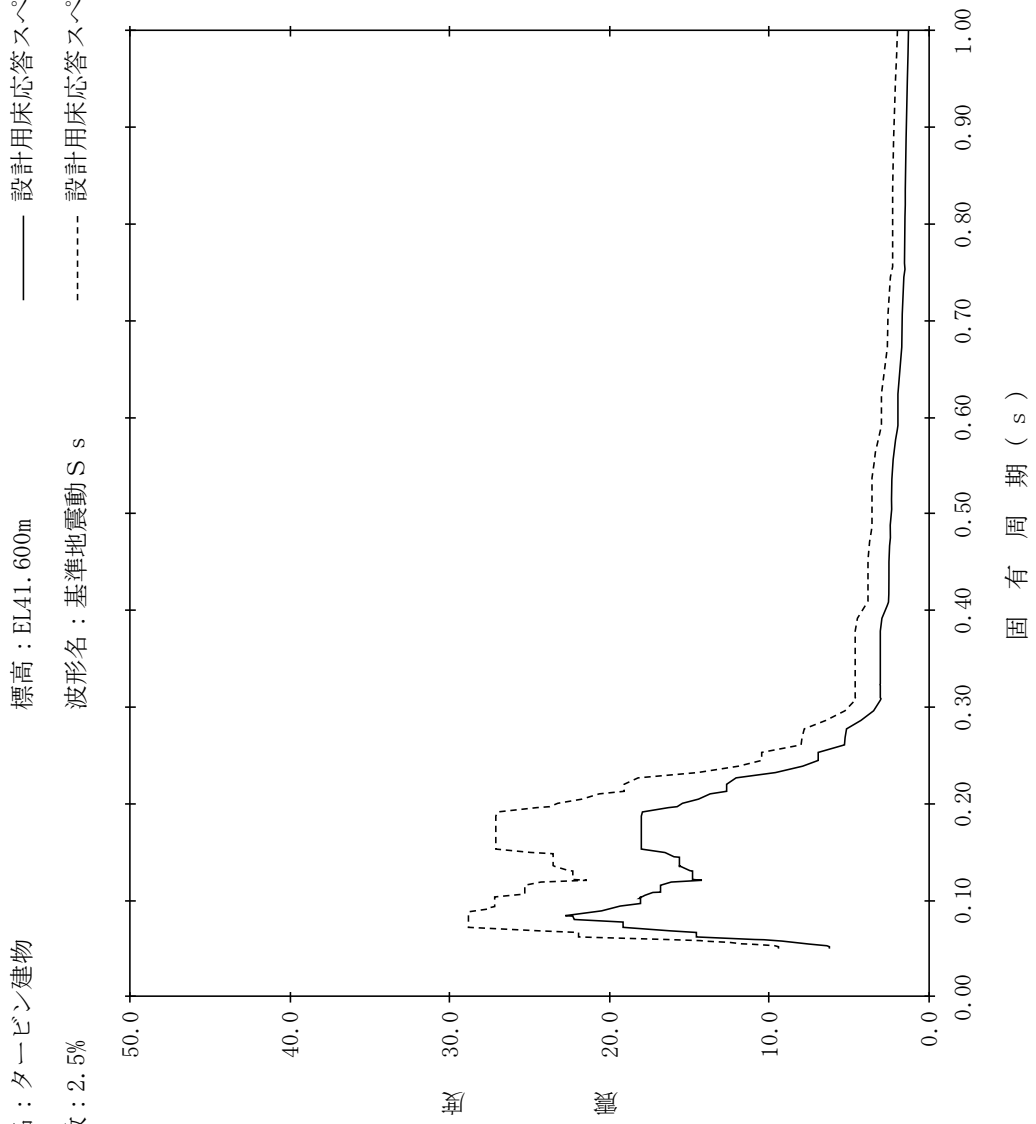
【NS2-TB-SsEW-TB4】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



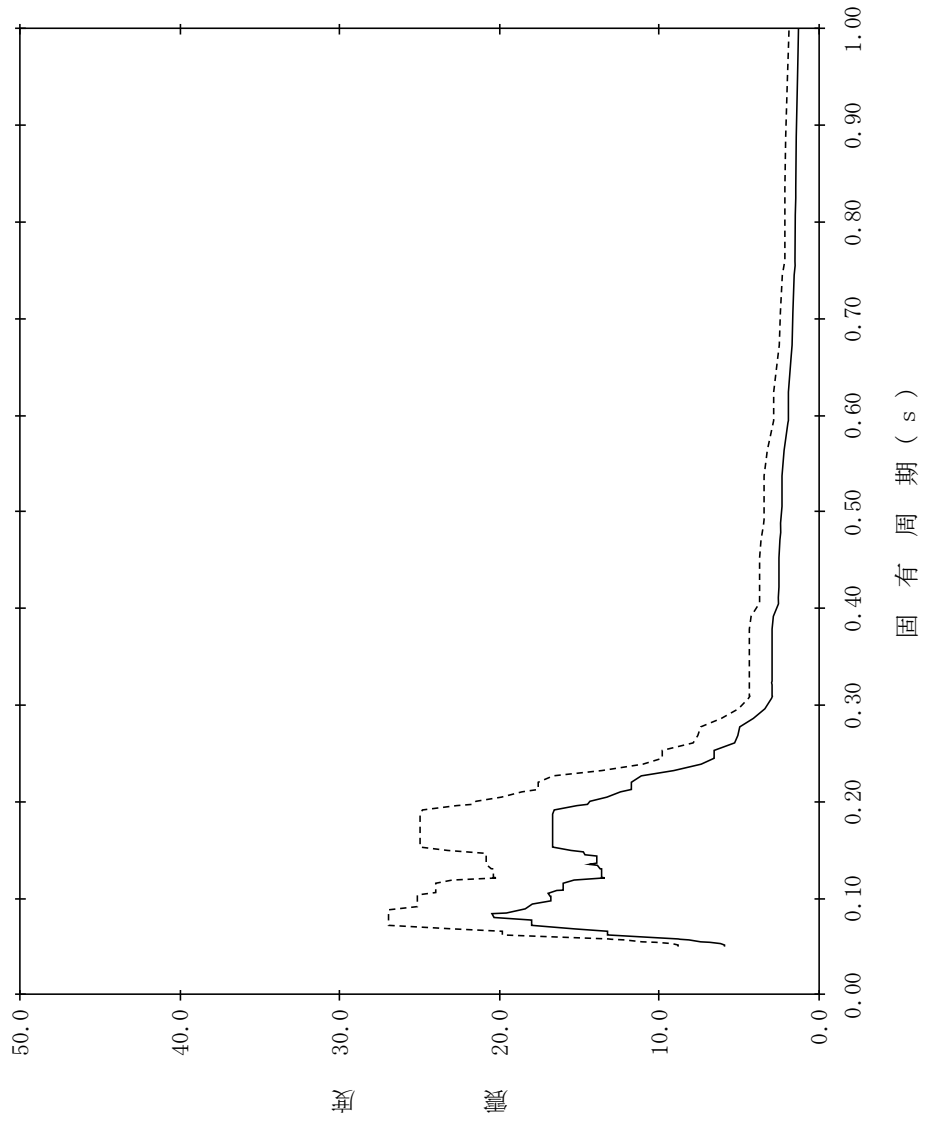
【NS2-TB-SsEW-TB5】

構造物名：タービン建物
標高：EL41.600m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s



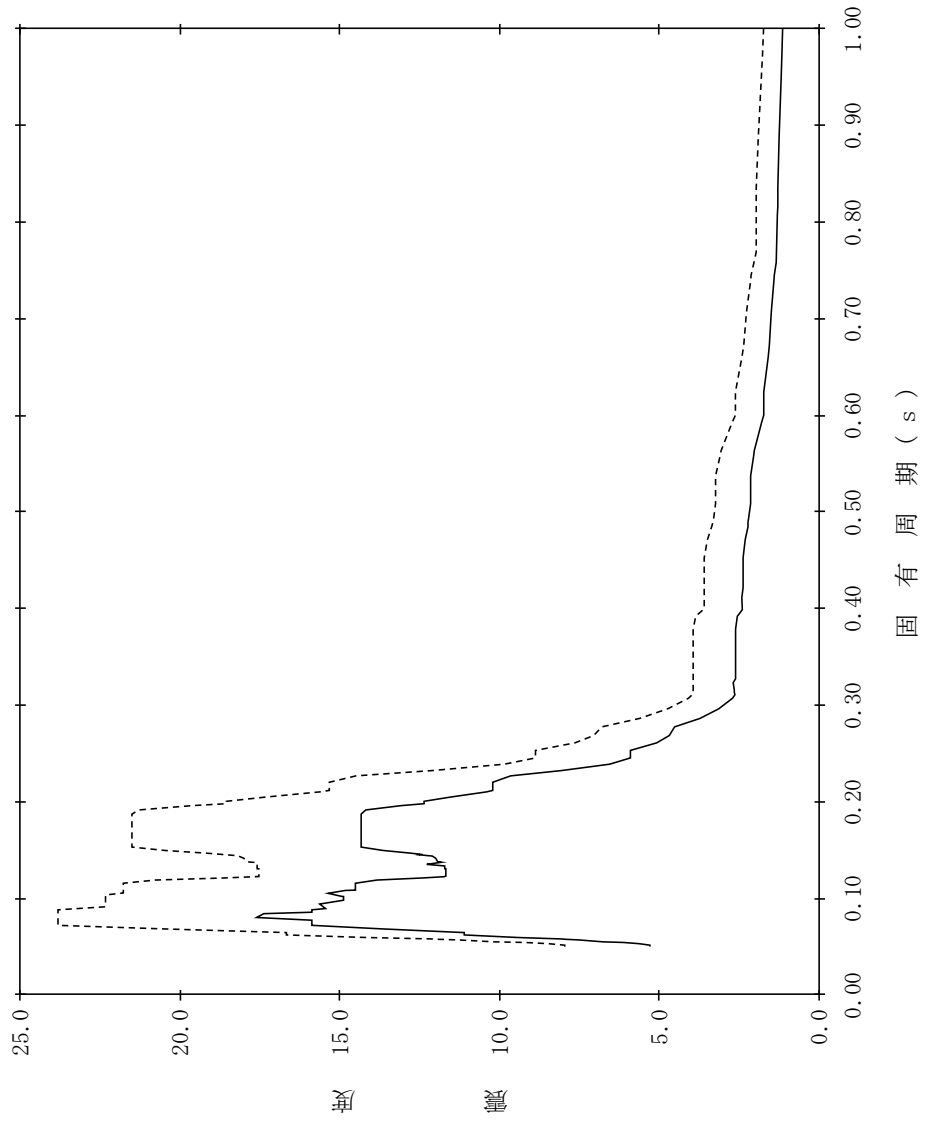
【NS2-TB-SsEW-TB6】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



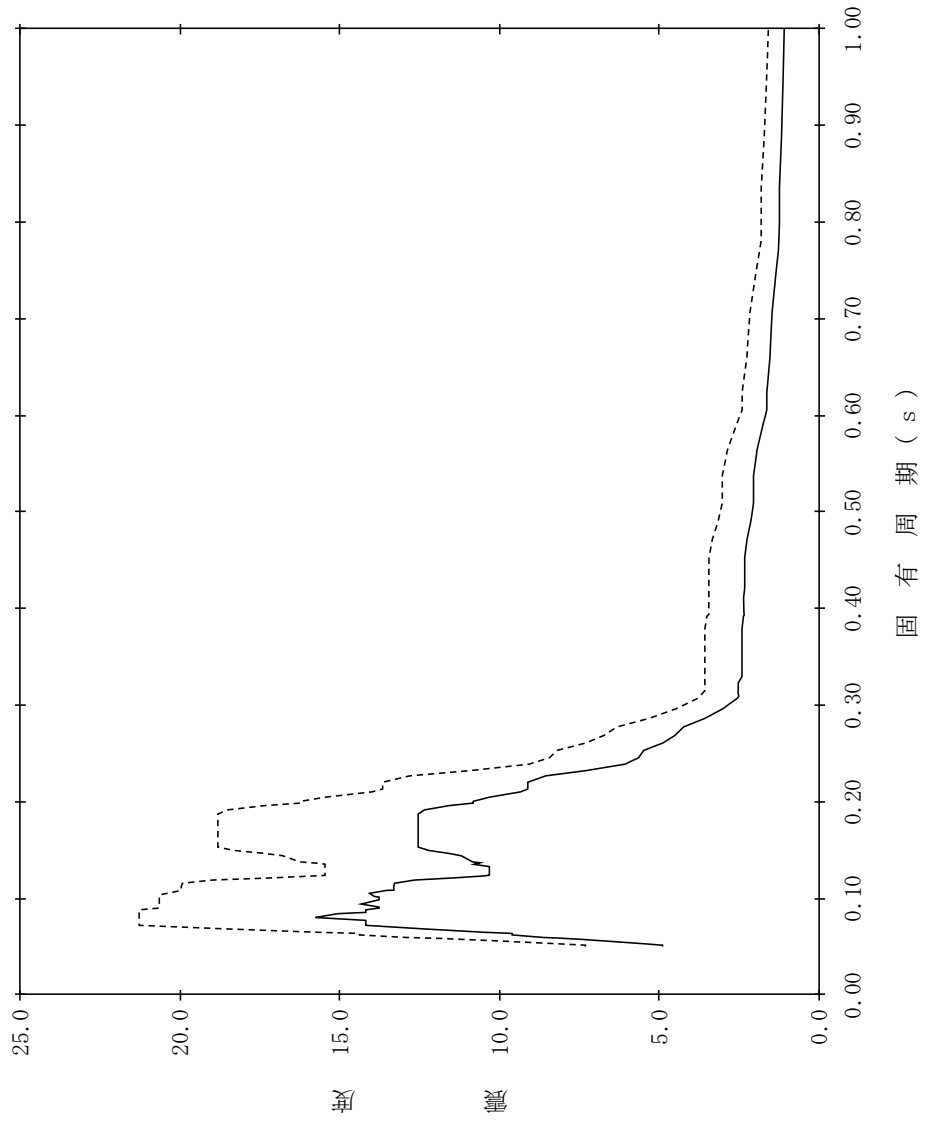
【NS2-TB-SsEW-TB7】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



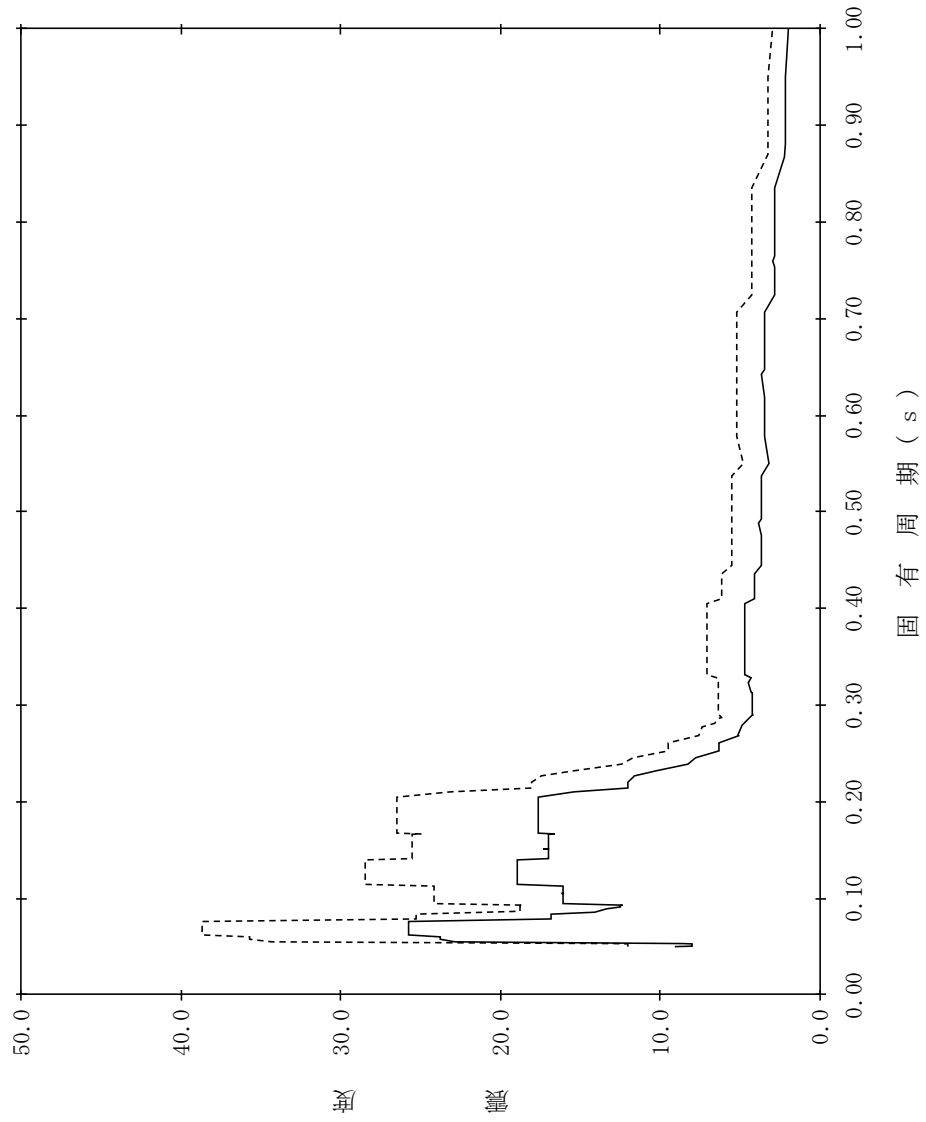
【NS2-TB-SsEW-TB8】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



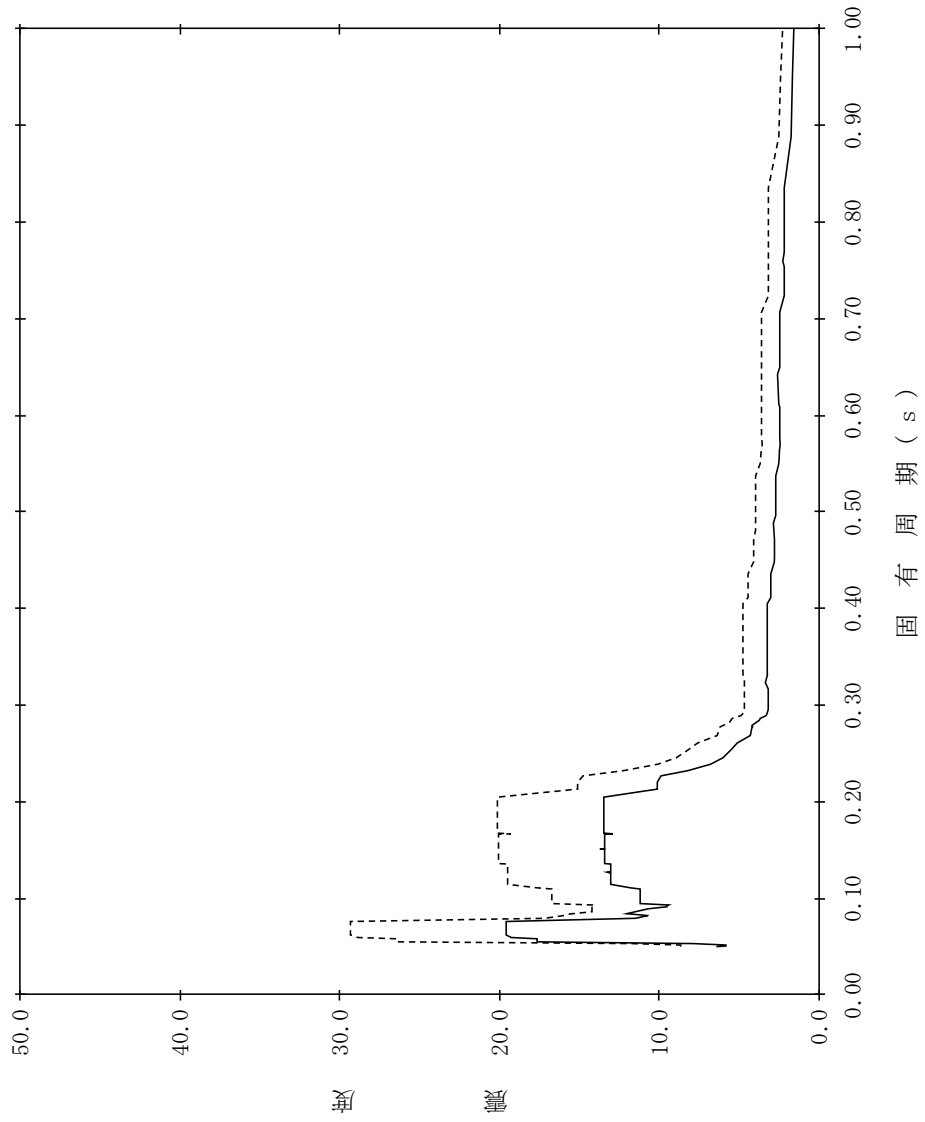
【NS2-TB-SsEW-TB9】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



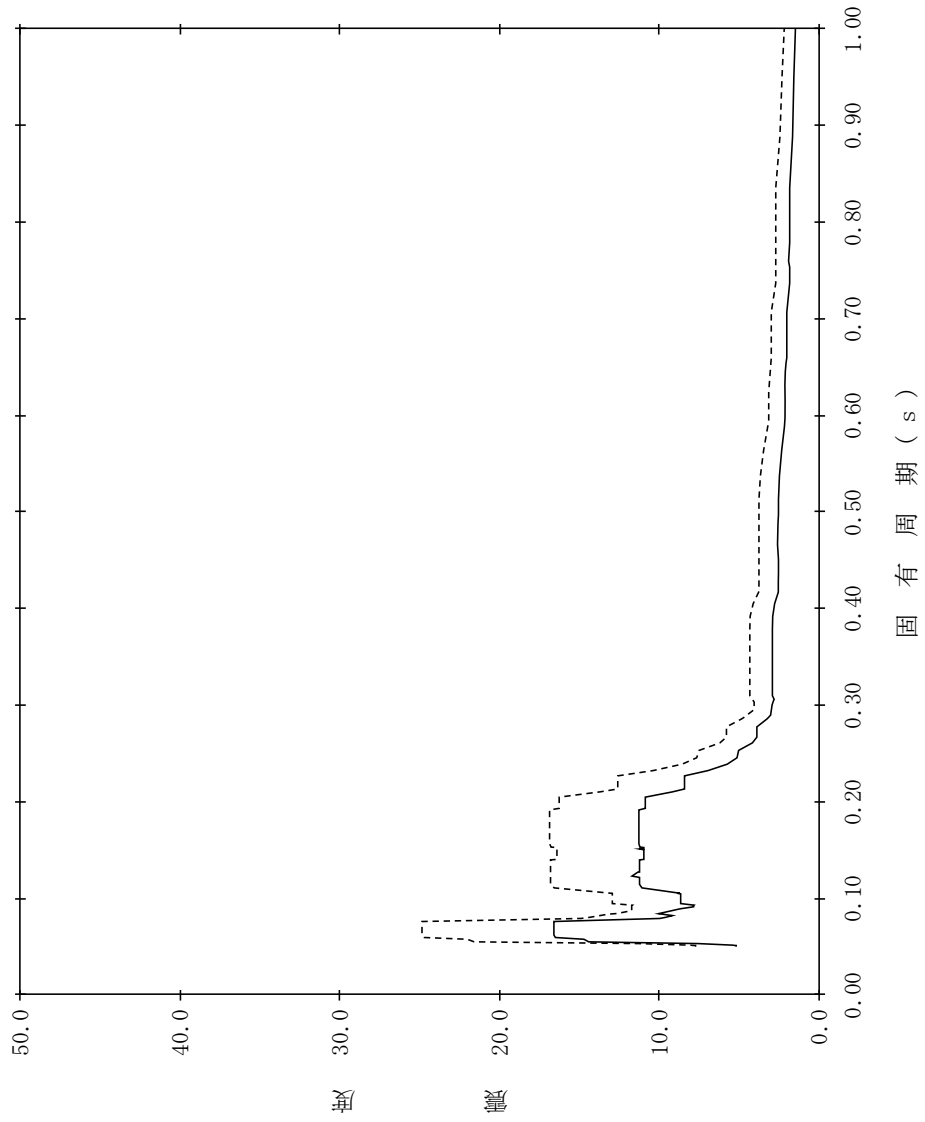
【NS2-TB-SsEW-TB10】

構造物名：タービン建物
標高：EL33.700m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



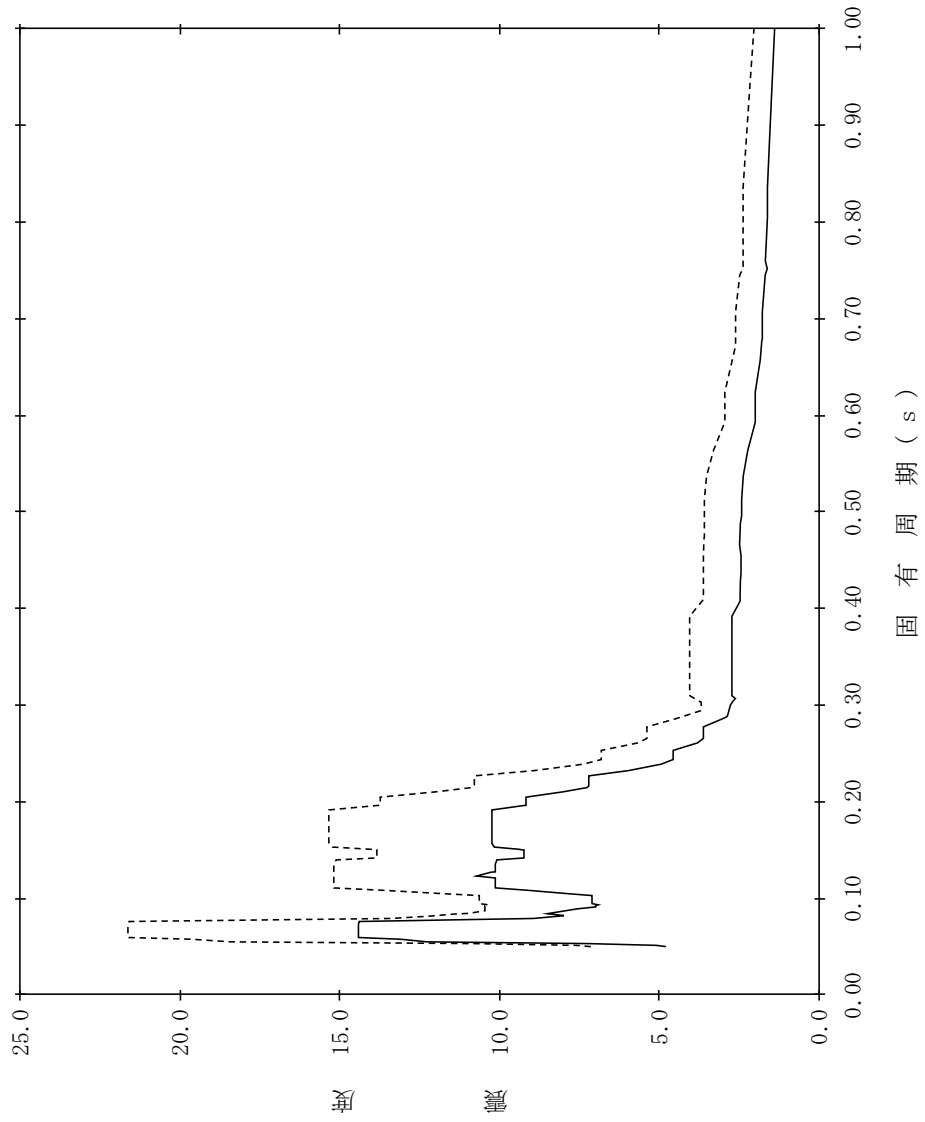
【NS2-TB-SsEW-TB11】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



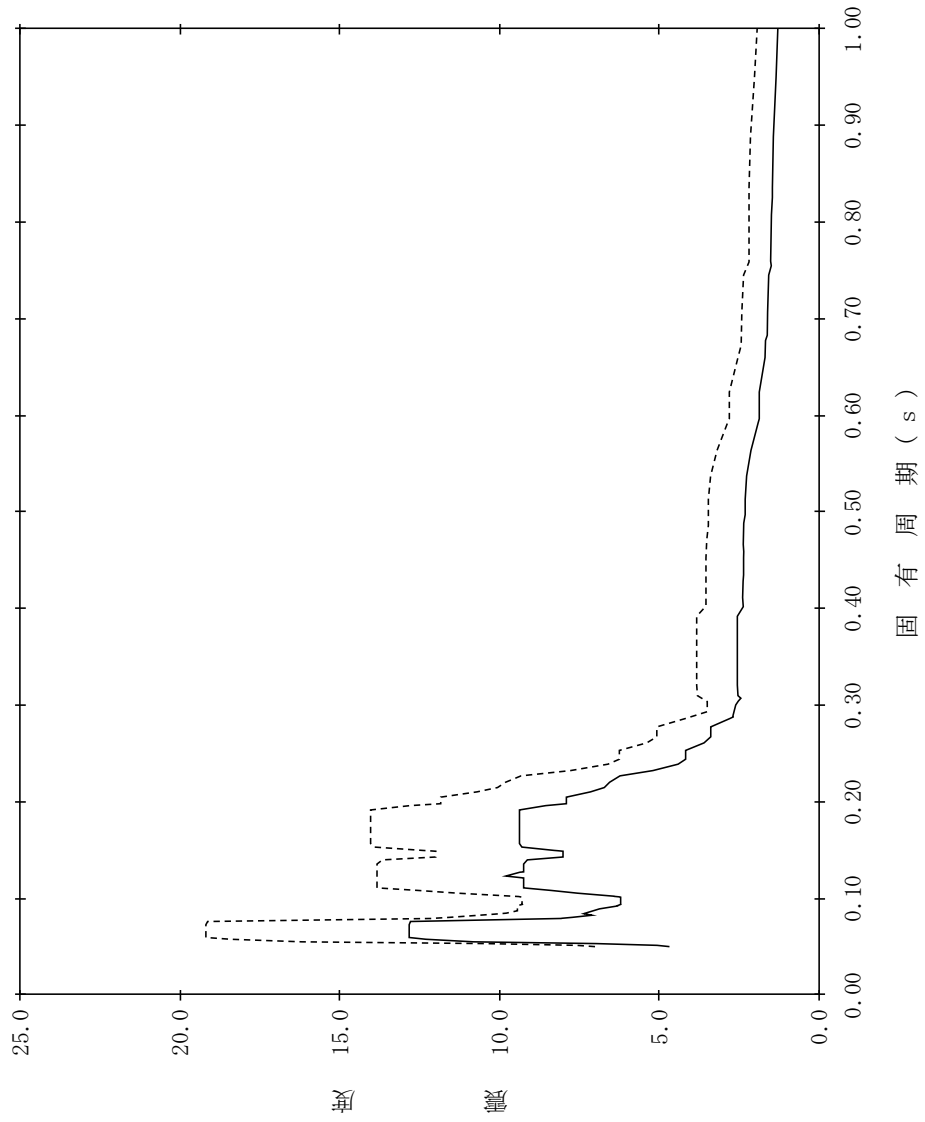
【NS2-TB-SsEW-TB12】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-TB-SsEW-TB13】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

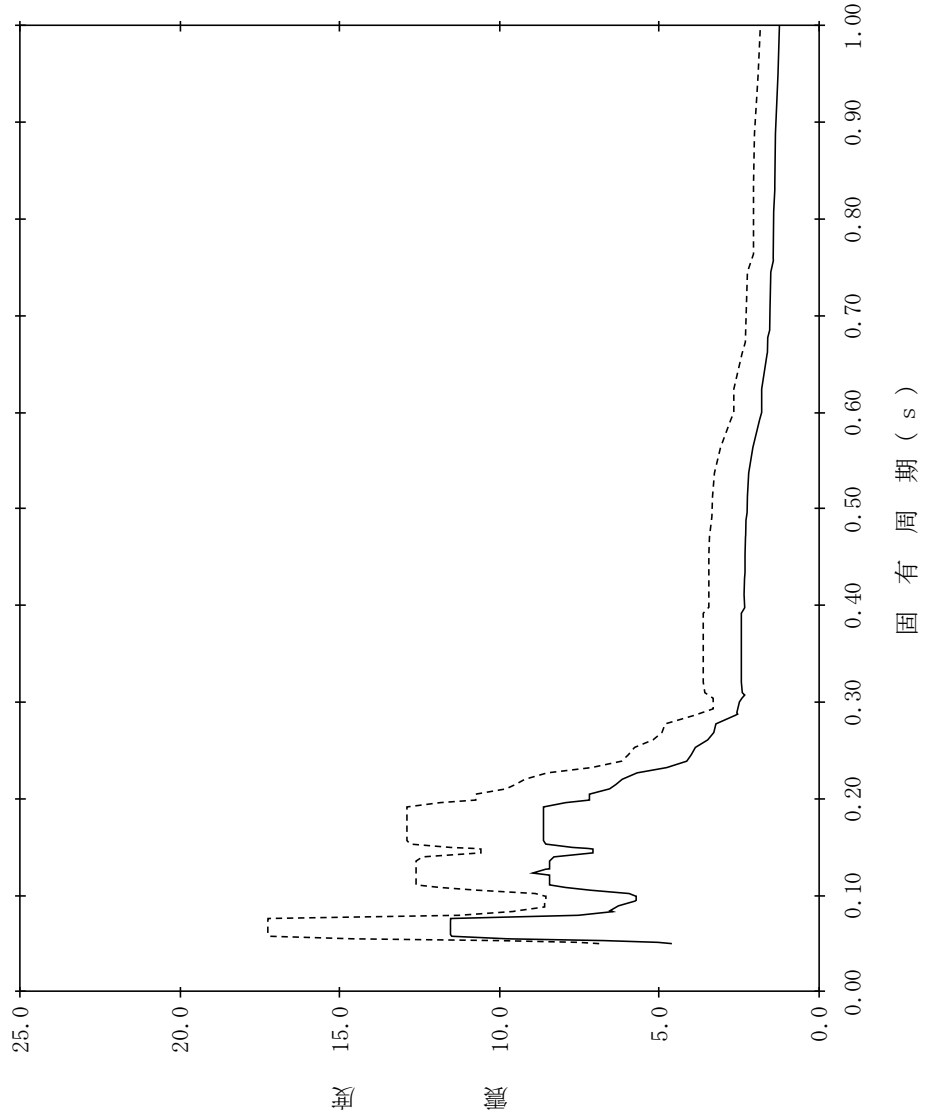


【NS2-TB-SsEW-TB14】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：3.0%

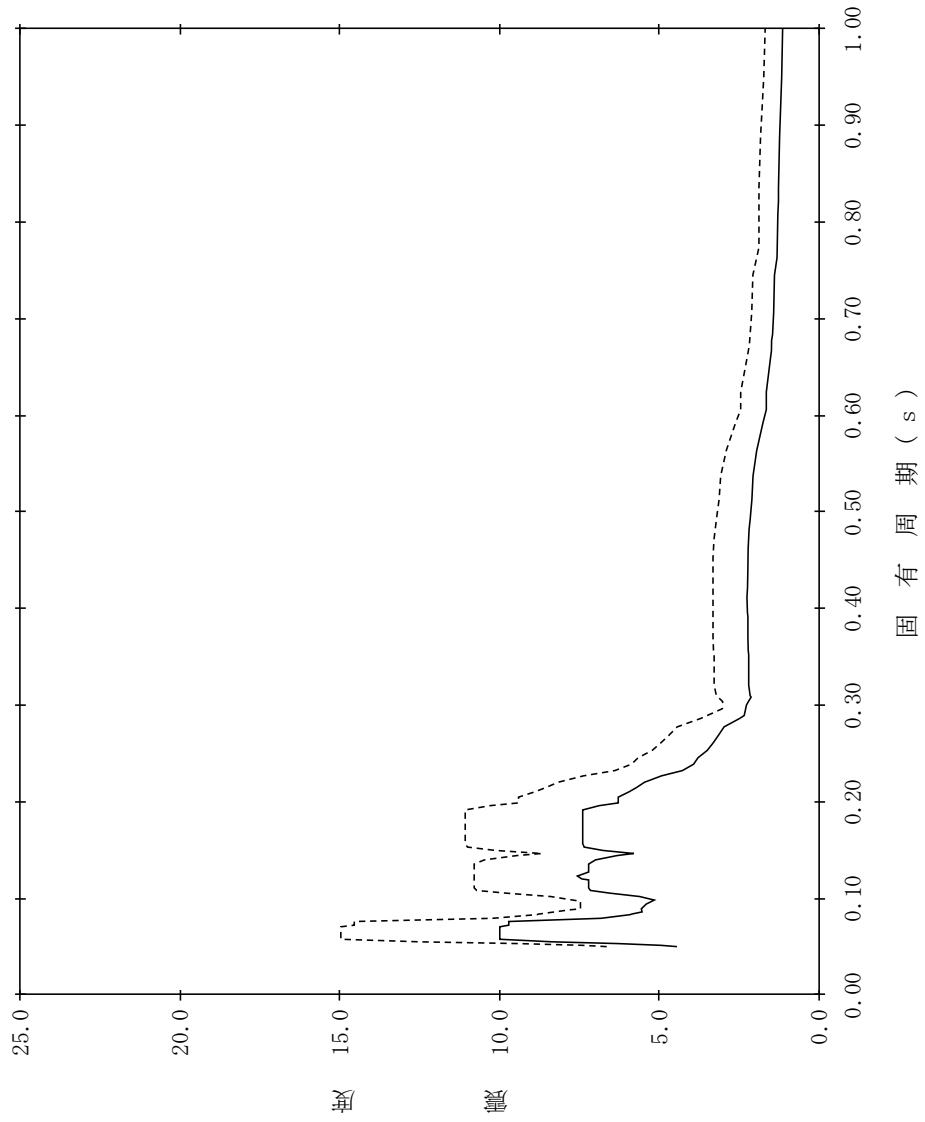
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



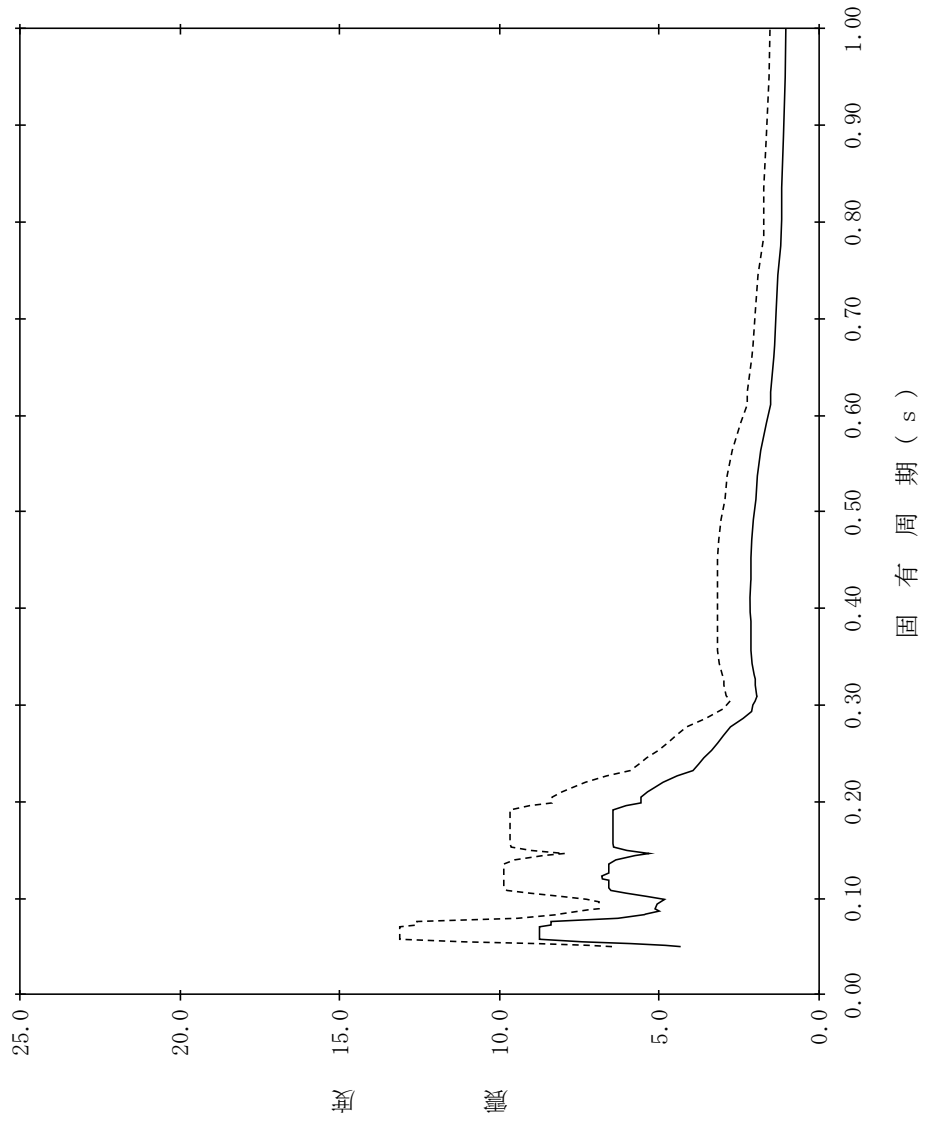
【NS2-TB-SsEW-TB15】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



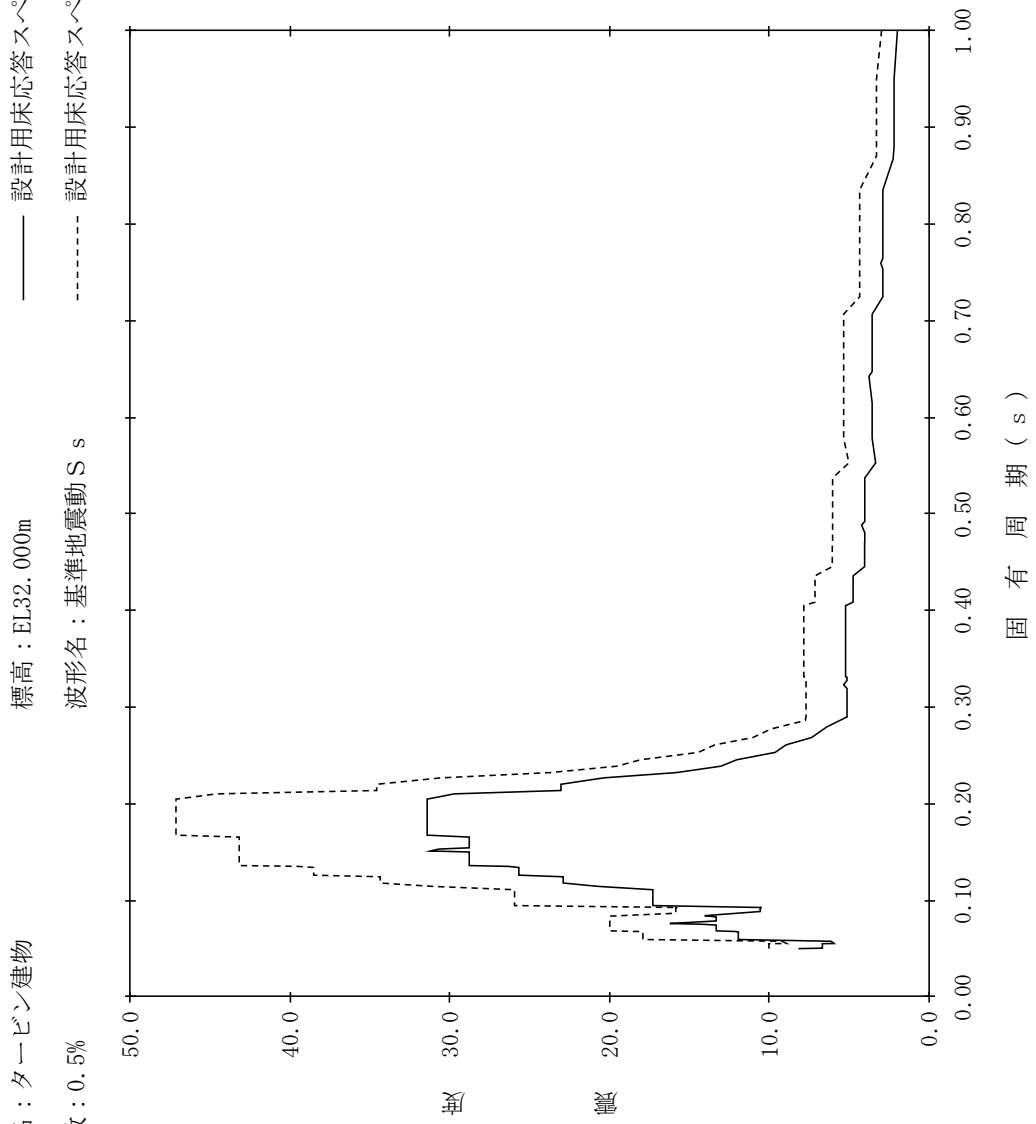
【NS2-TB-SsEW-TB16】

構造物名：タービン建物
 標高：EL33.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



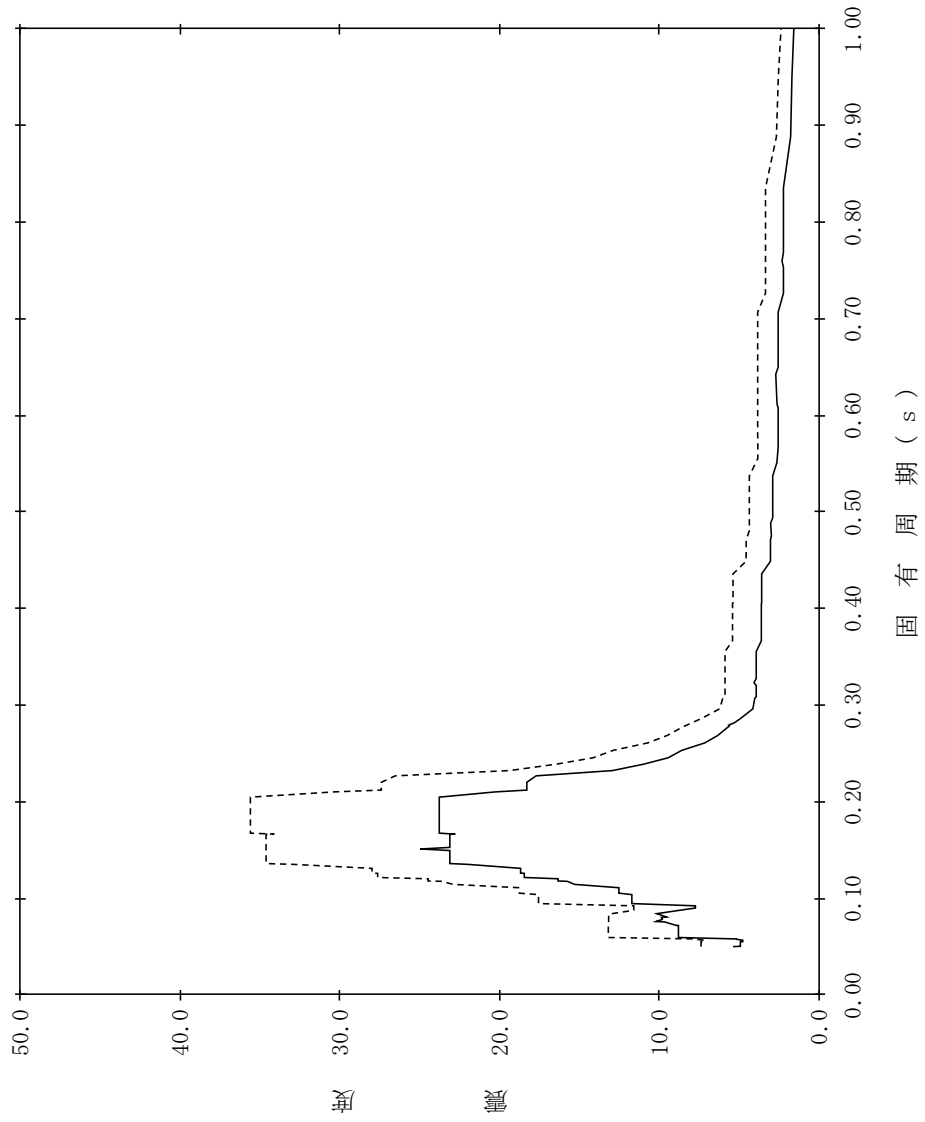
【NS2-TB-SsEW-TB17】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：0.5%



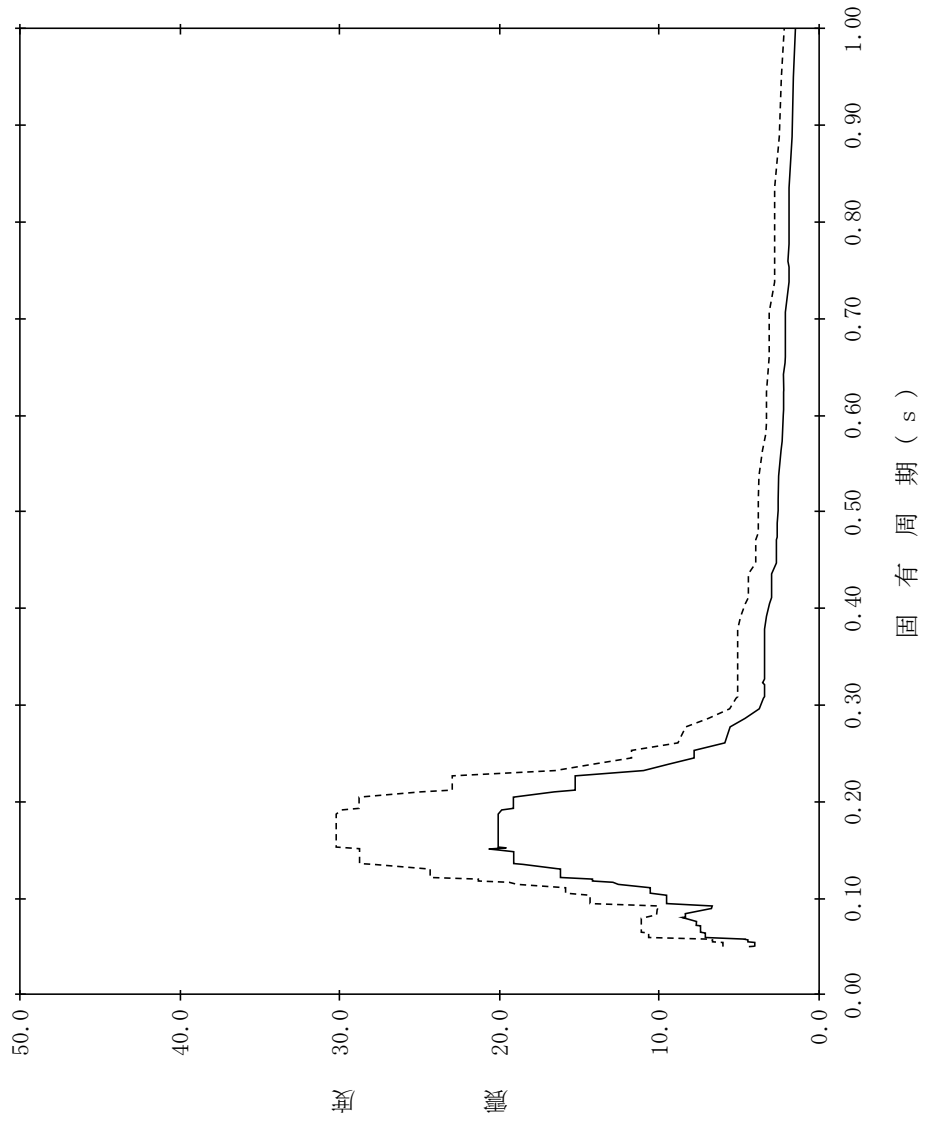
【NS2-TB-SsEW-TB18】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



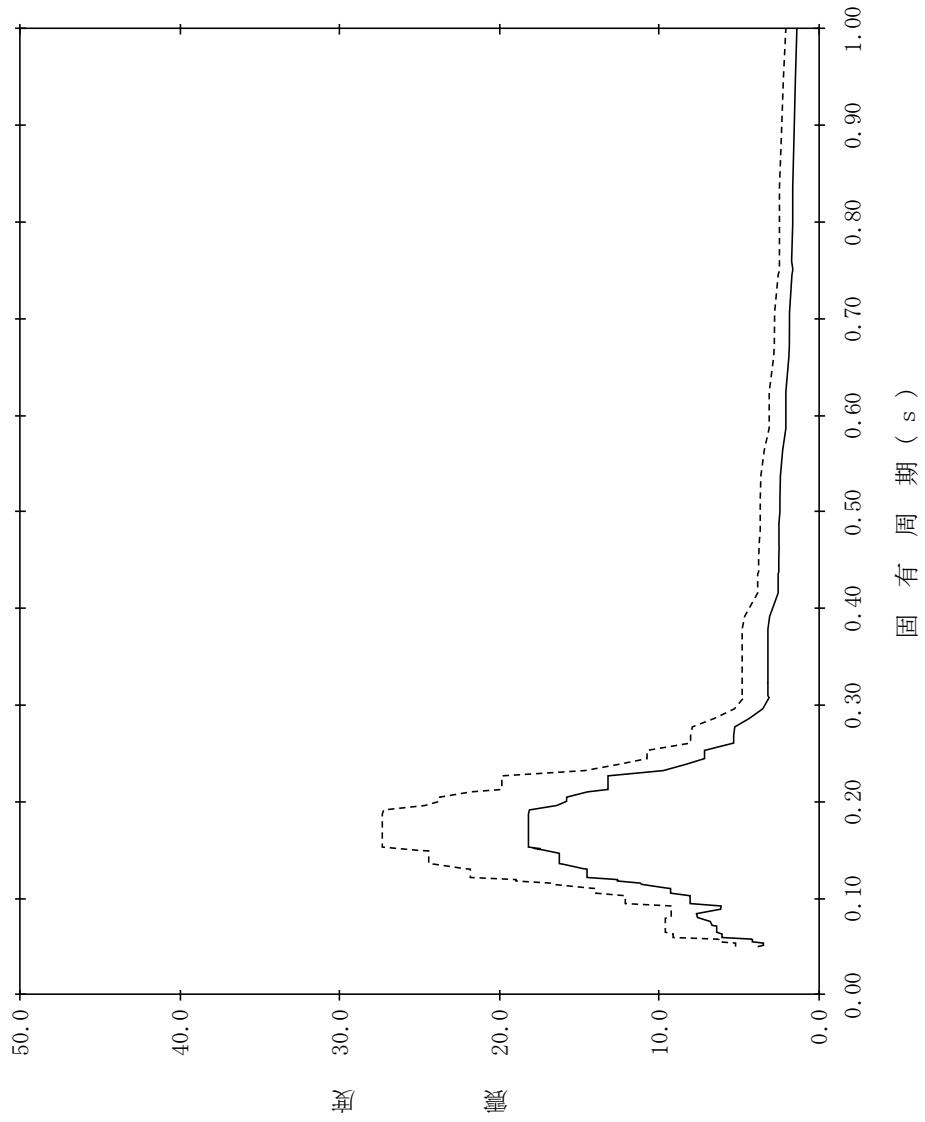
【NS2-TB-SsEW-TB19】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



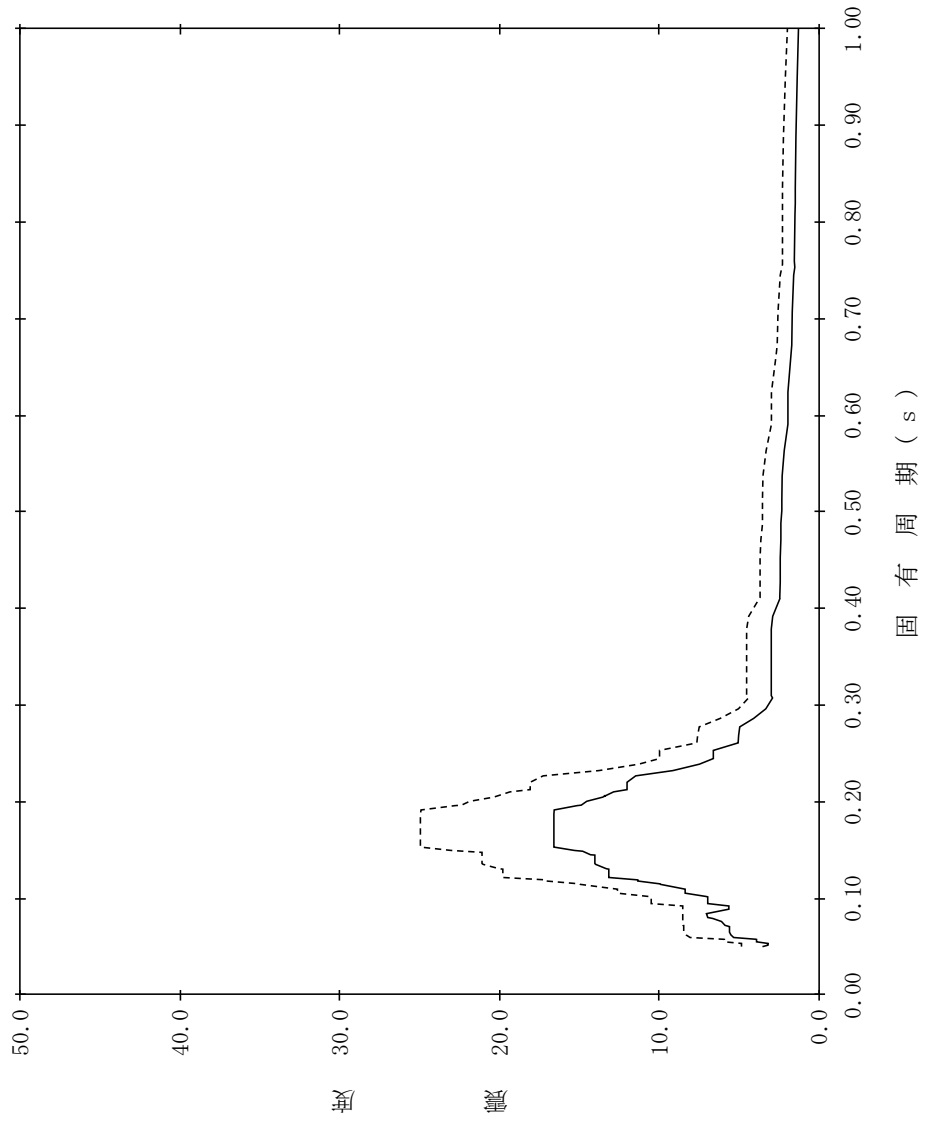
【NS2-TB-SsEW-TB20】

構造物名：タービン建物
標高：EL32.000m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



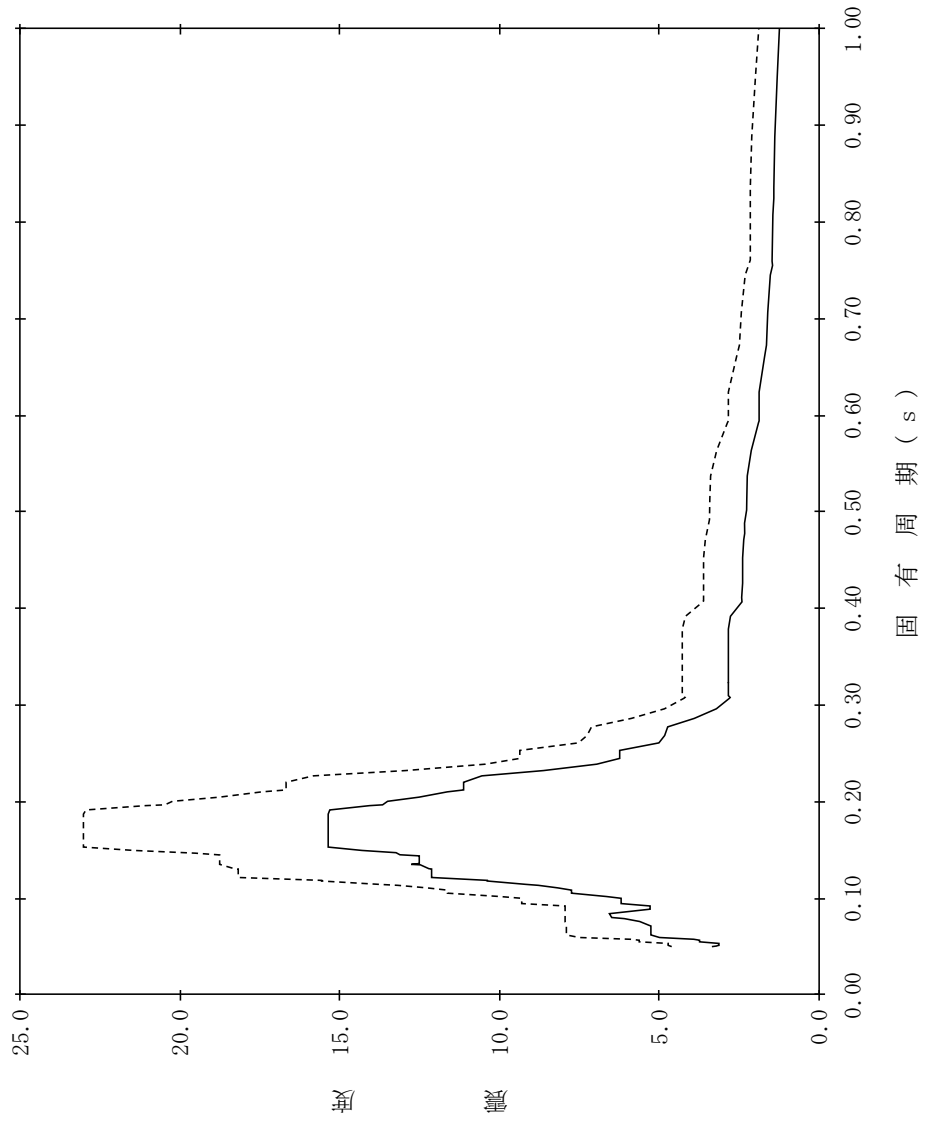
【NS2-TB-SsEW-TB21】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

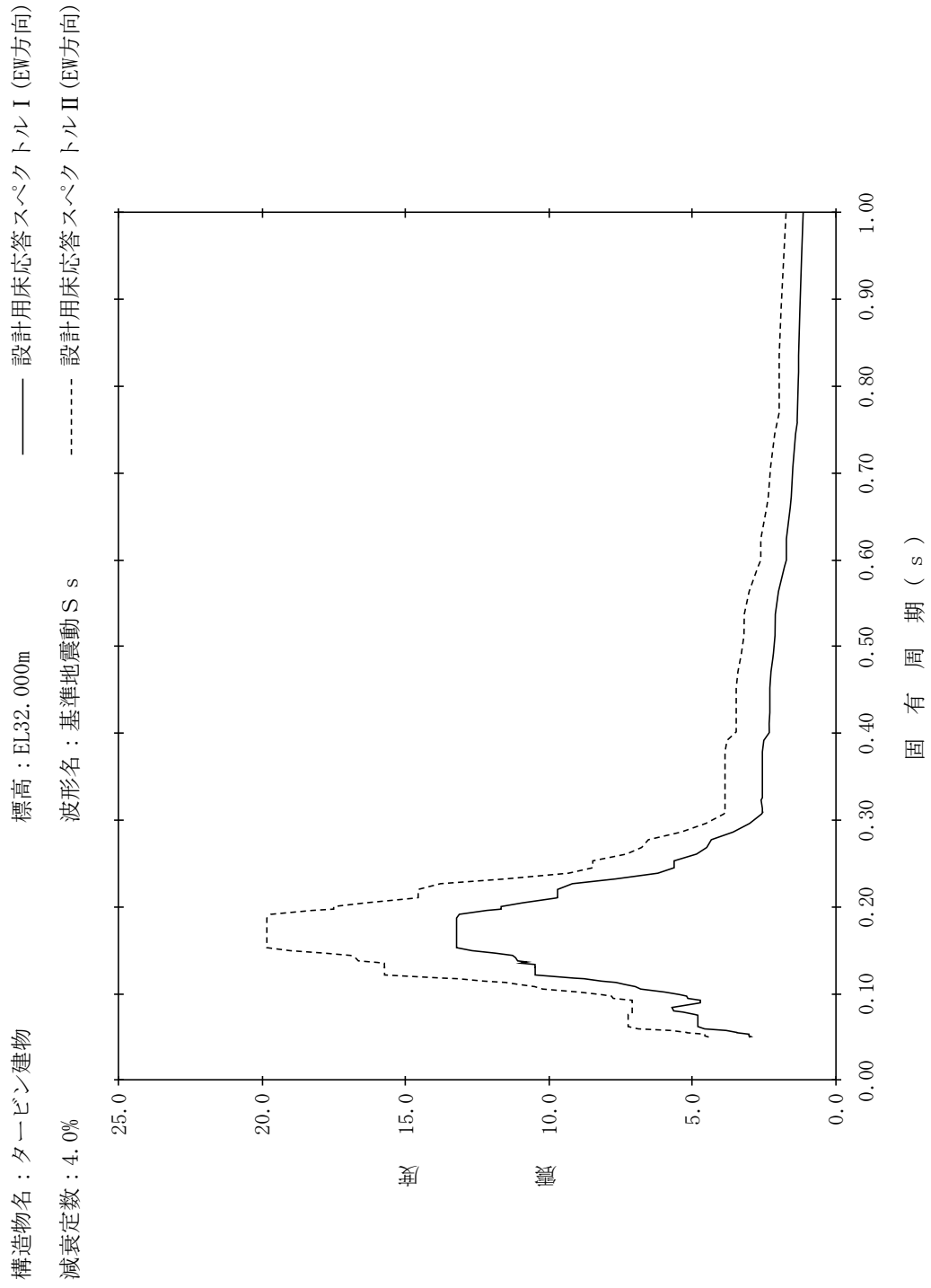


【NS2-TB-SsEW-TB22】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

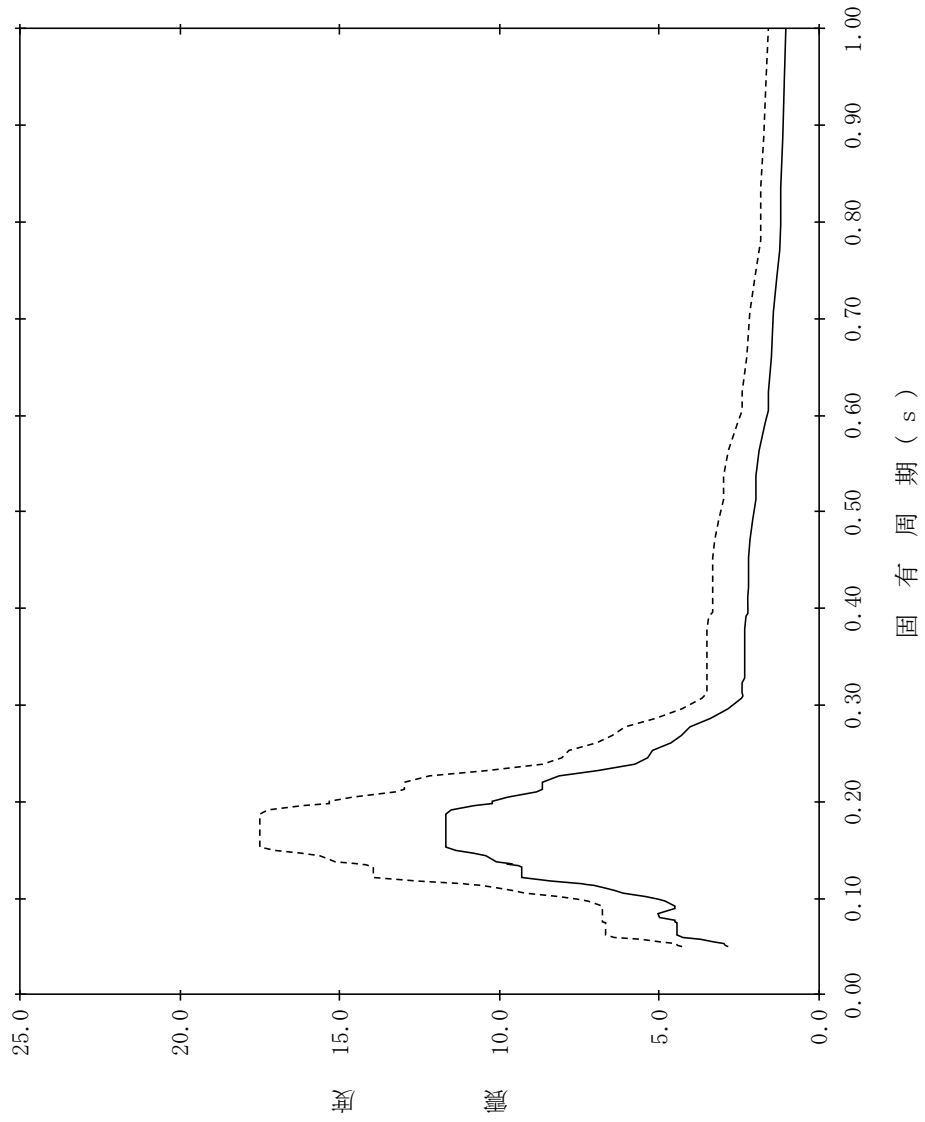


【NS2-TB-SsEW-TB23】



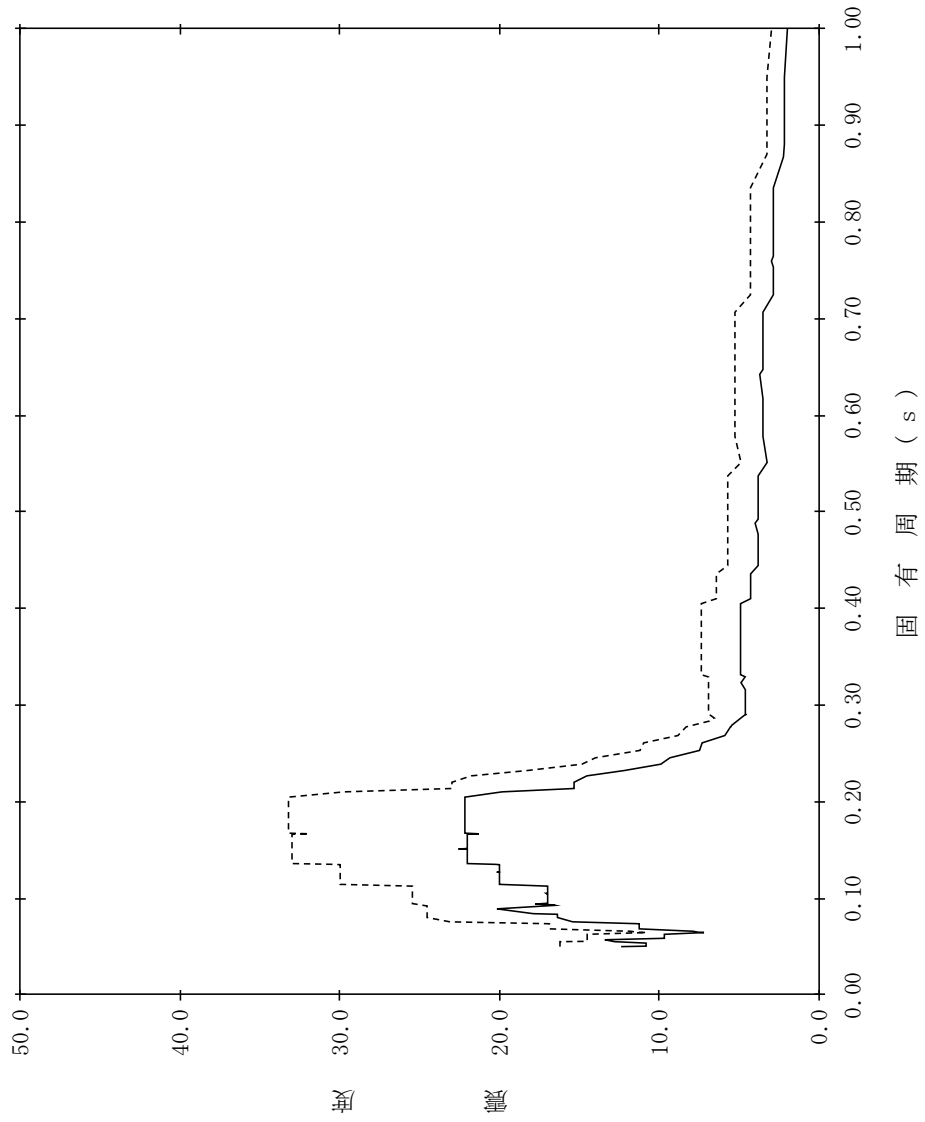
【NS2-TB-SsEW-TB24】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



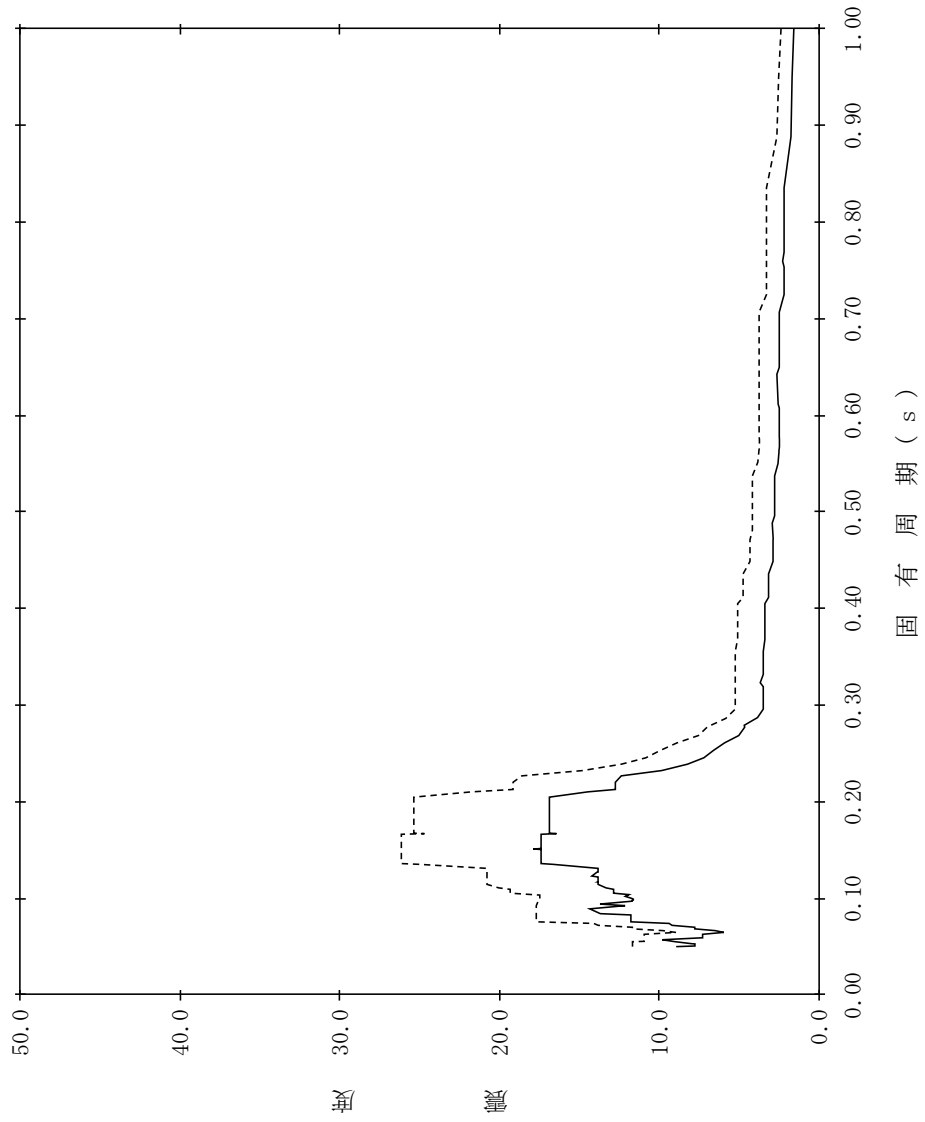
【NS2-TB-SsEW-TB25】

構造物名：タービン建物
 標高：EL30.550m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



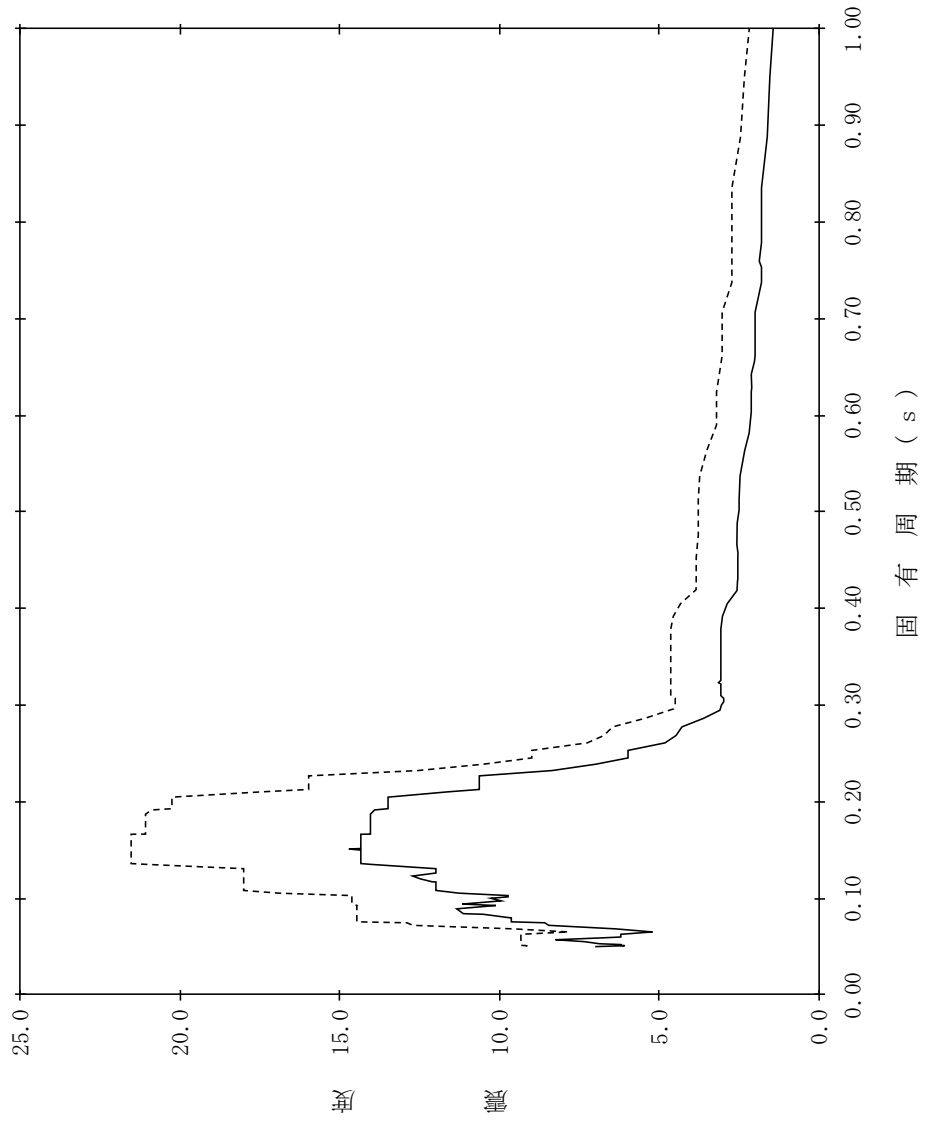
【NS2-TB-SsEW-TB26】

構造物名：タービン建物
 標高：EL30.550m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



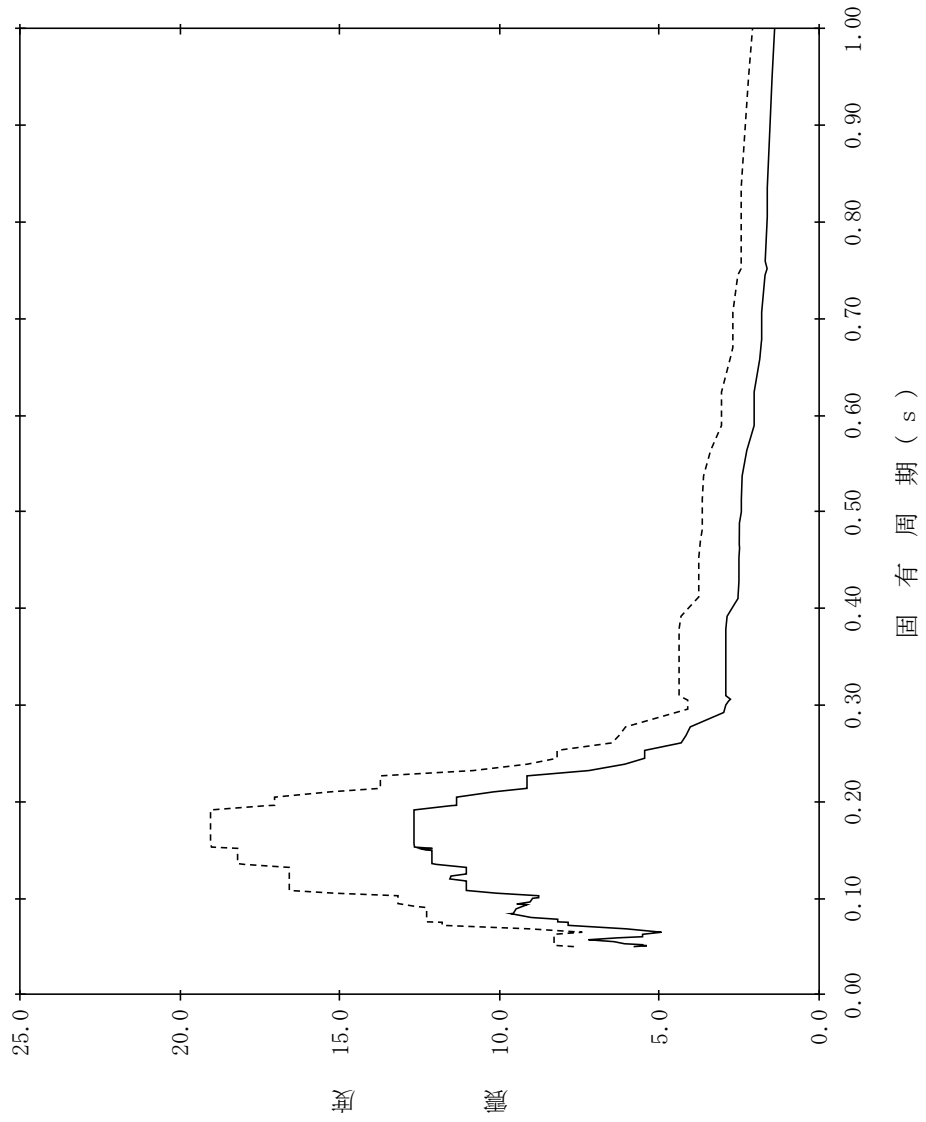
【NS2-TB-SsEW-TB27】

構造物名：タービン建物
 標高：EL30.550m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



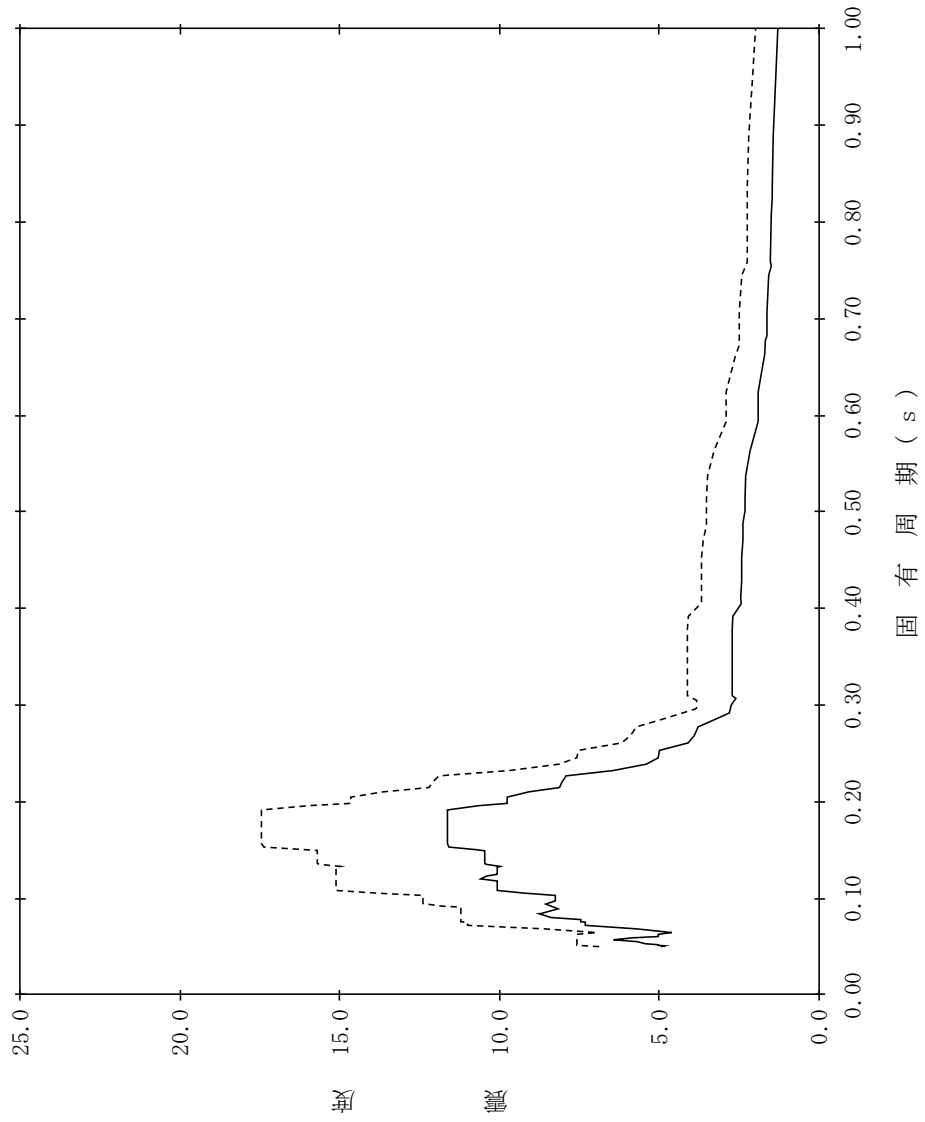
【NS2-TB-SsEW-TB28】

構造物名：タービン建物
標高：EL30.550m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



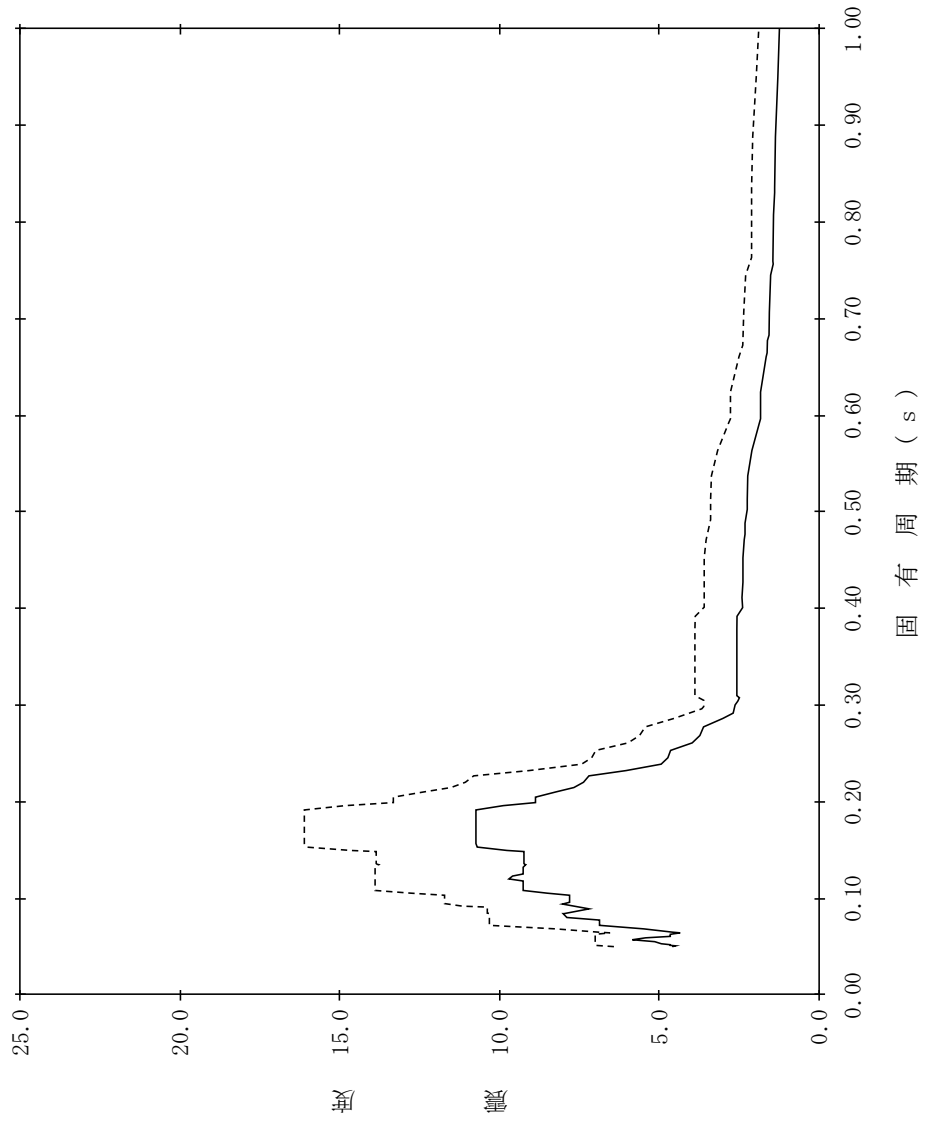
【NS2-TB-SsEW-TB29】

構造物名：タービン建物
 標高：EL30.550m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



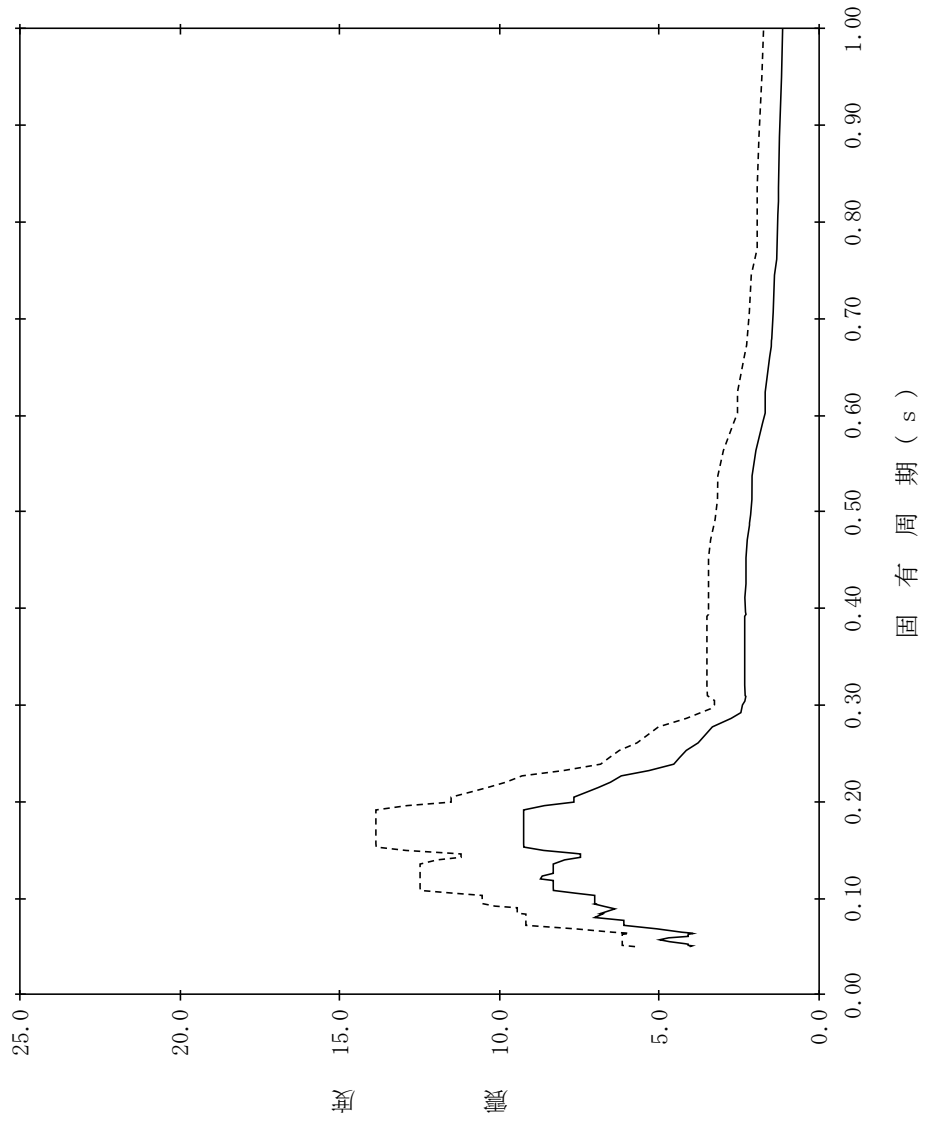
【NS2-TB-SsEW-TB30】

構造物名：タービン建物
減衰定数：3.0%
標高：EL30.550m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



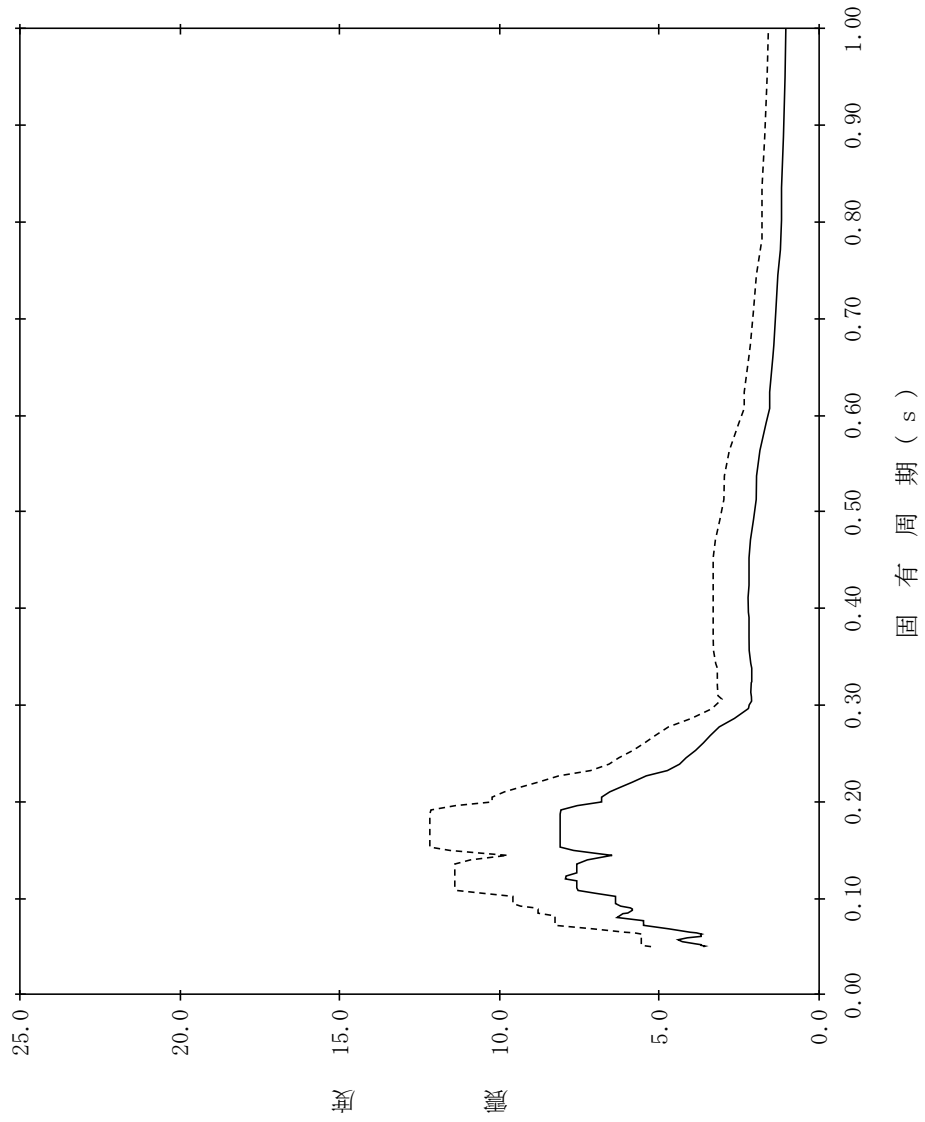
【NS2-TB-SsEW-TB31】

構造物名：タービン建物
 標高：EL30.550m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



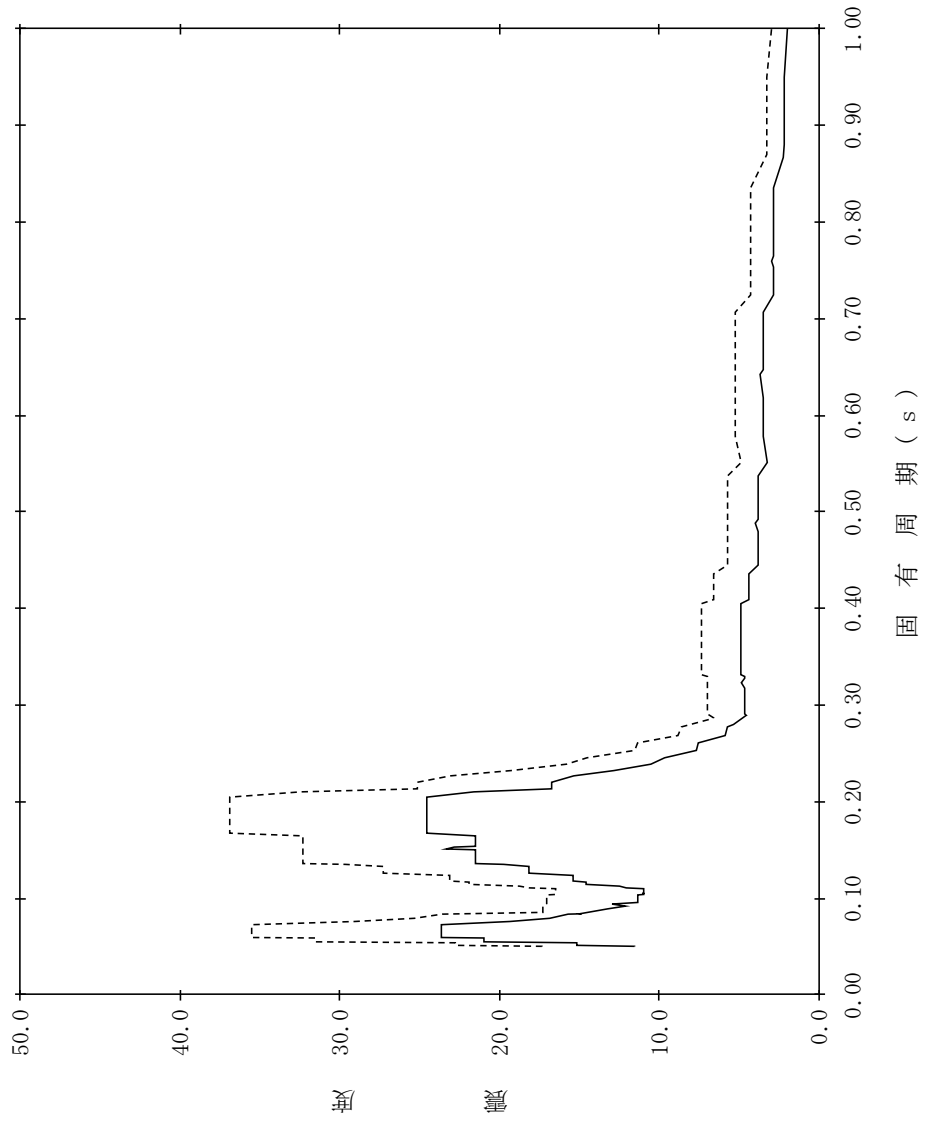
【NS2-TB-SsEW-TB32】

構造物名：タービン建物
 標高：EL30.550m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

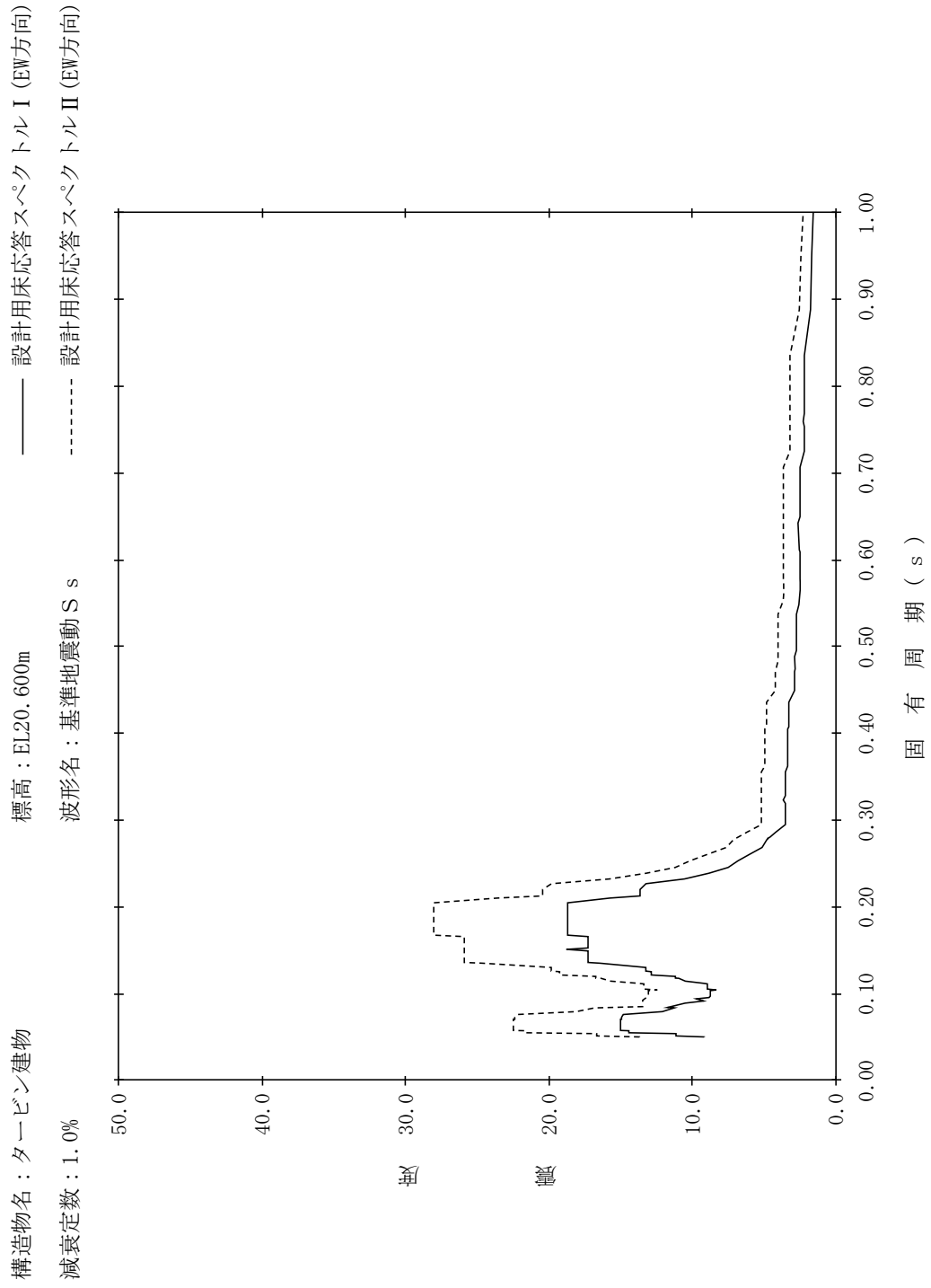


【NS2-TB-SsEW-TB33】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

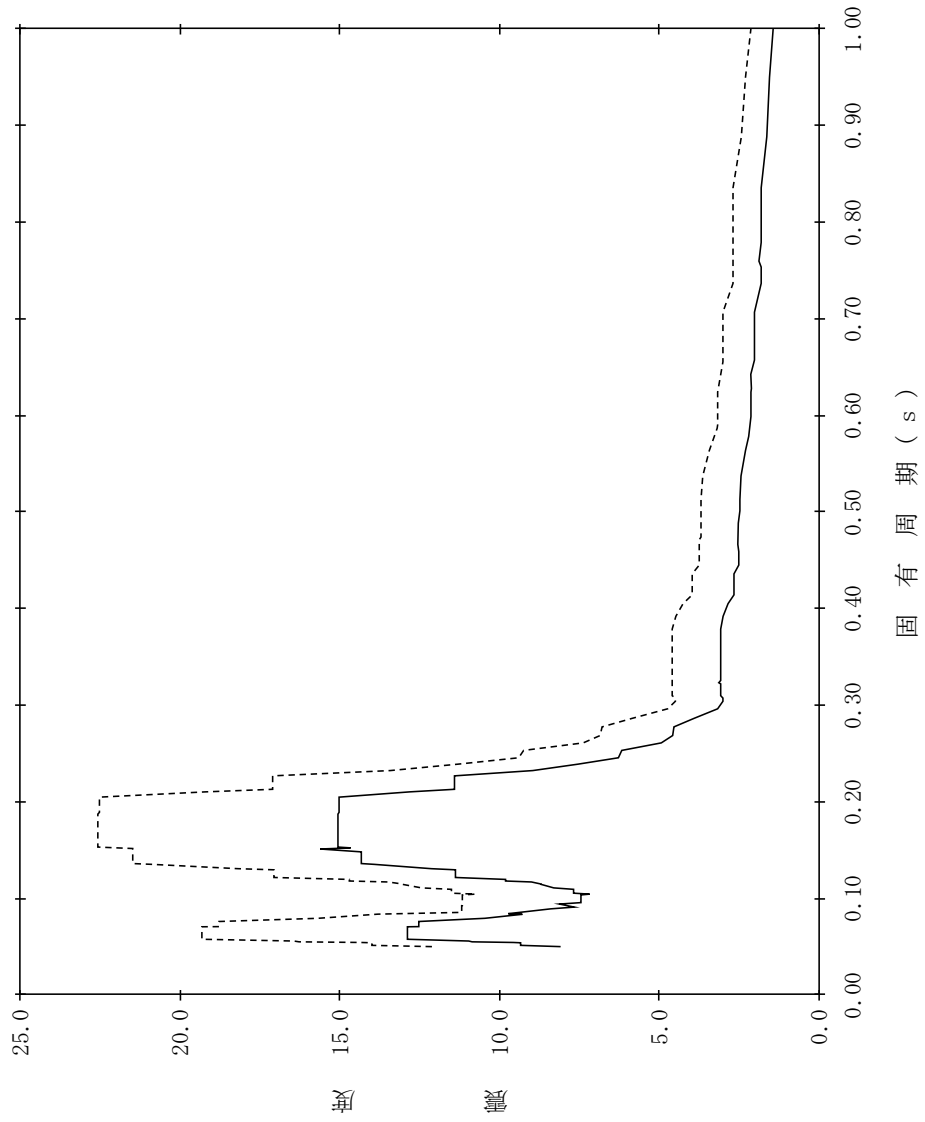


【NS2-TB-SsEW-TB34】



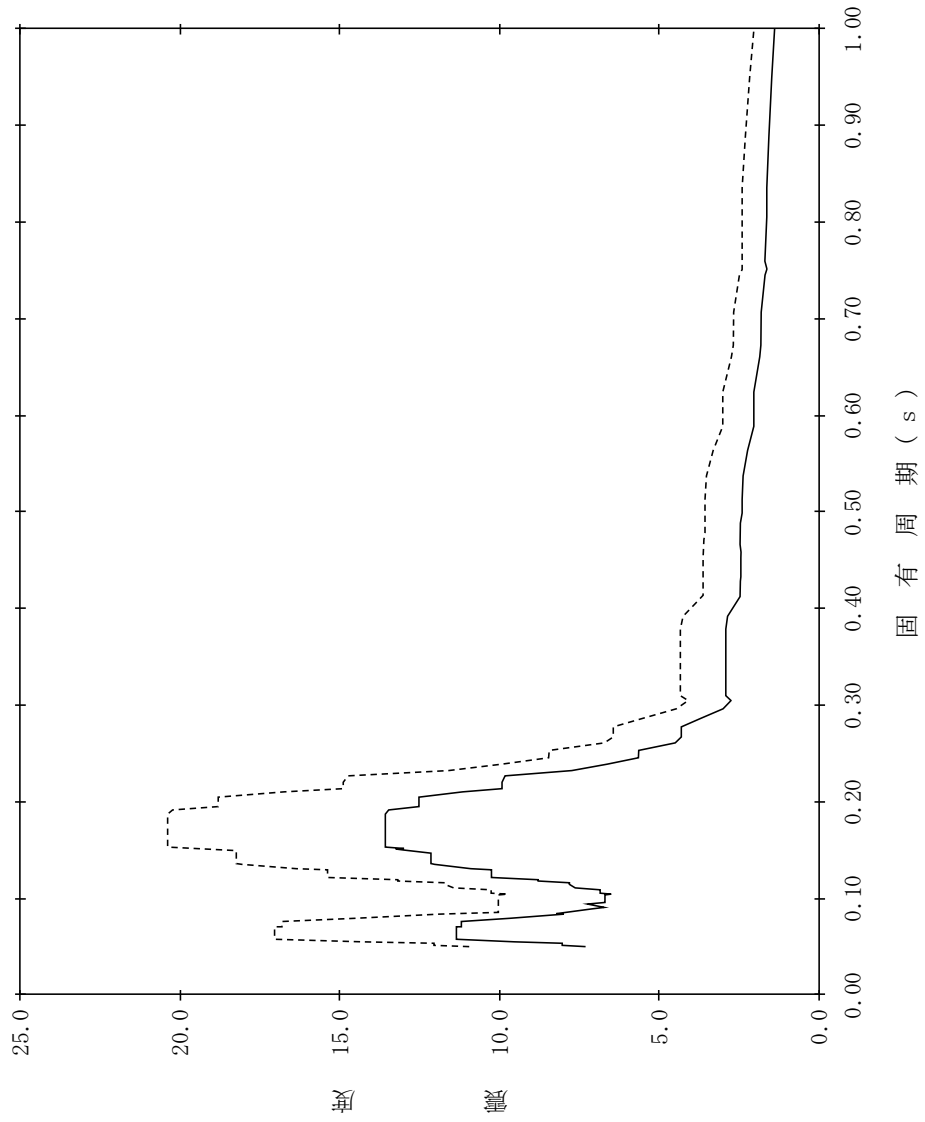
【NS2-TB-SsEW-TB35】

構造物名：タービン建物
 減衰定数：1.5%
 標高：EL20.600m
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

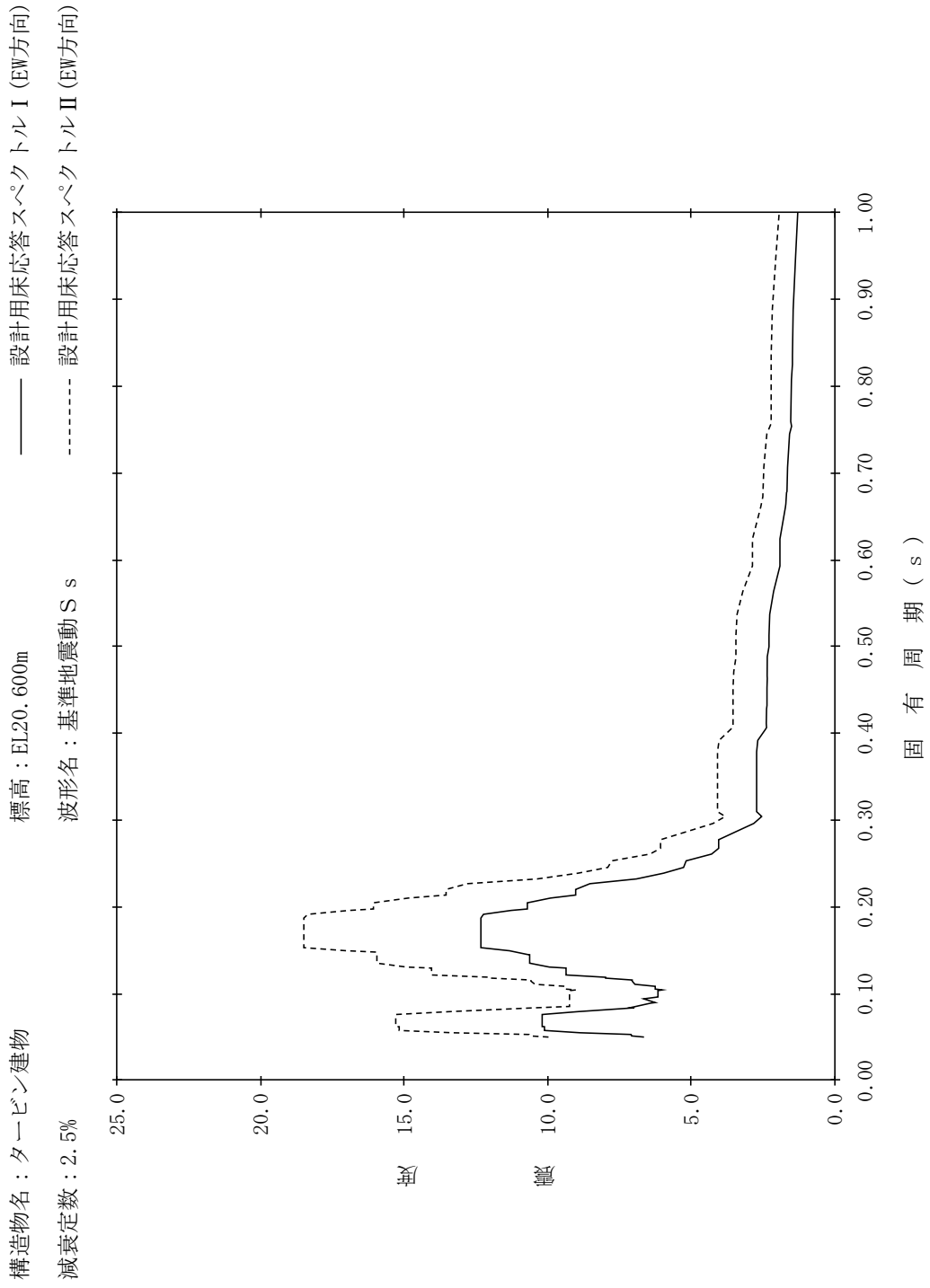


【NS2-TB-SsEW-TB36】

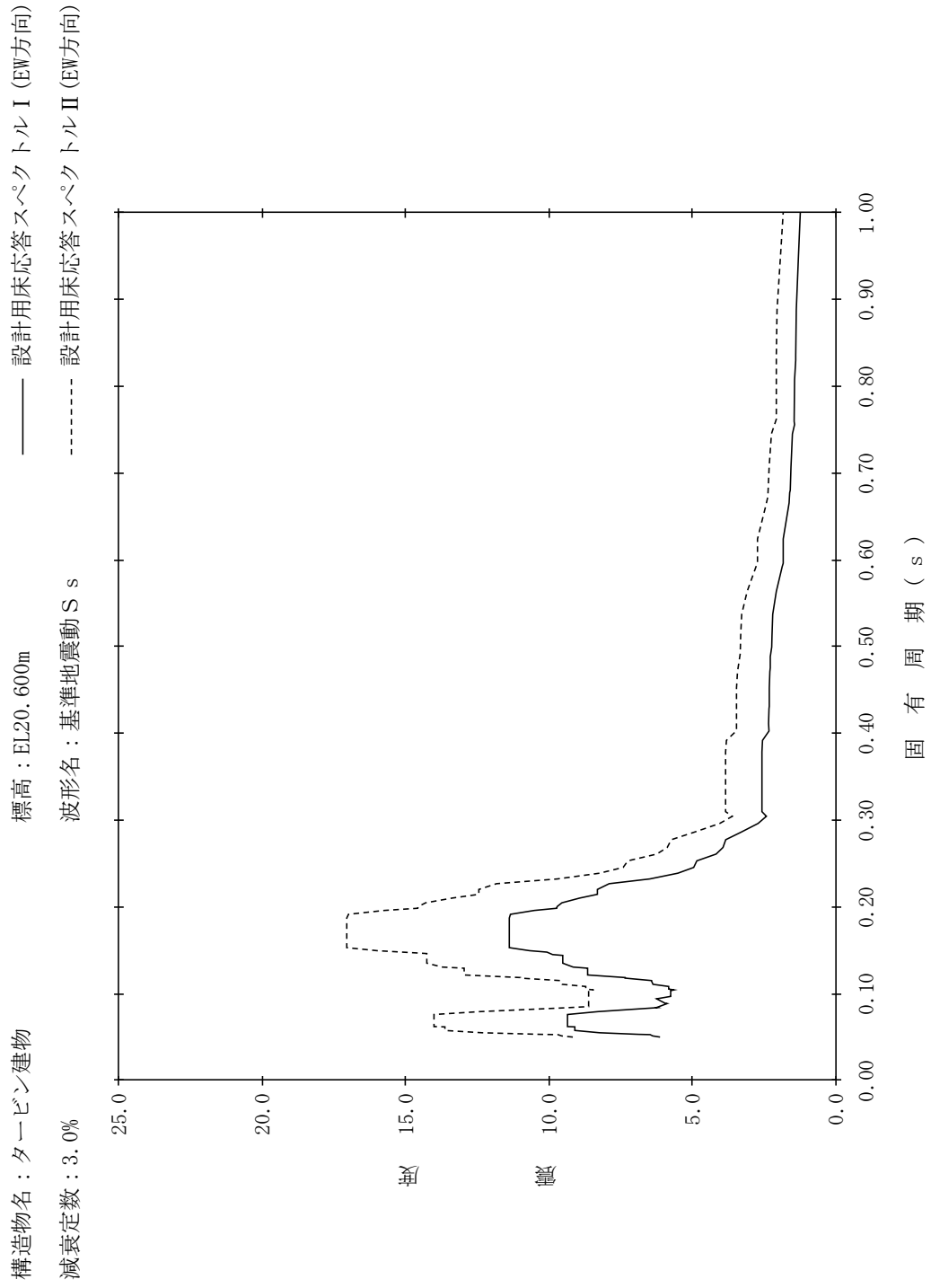
構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-TB-SsEW-TB37】

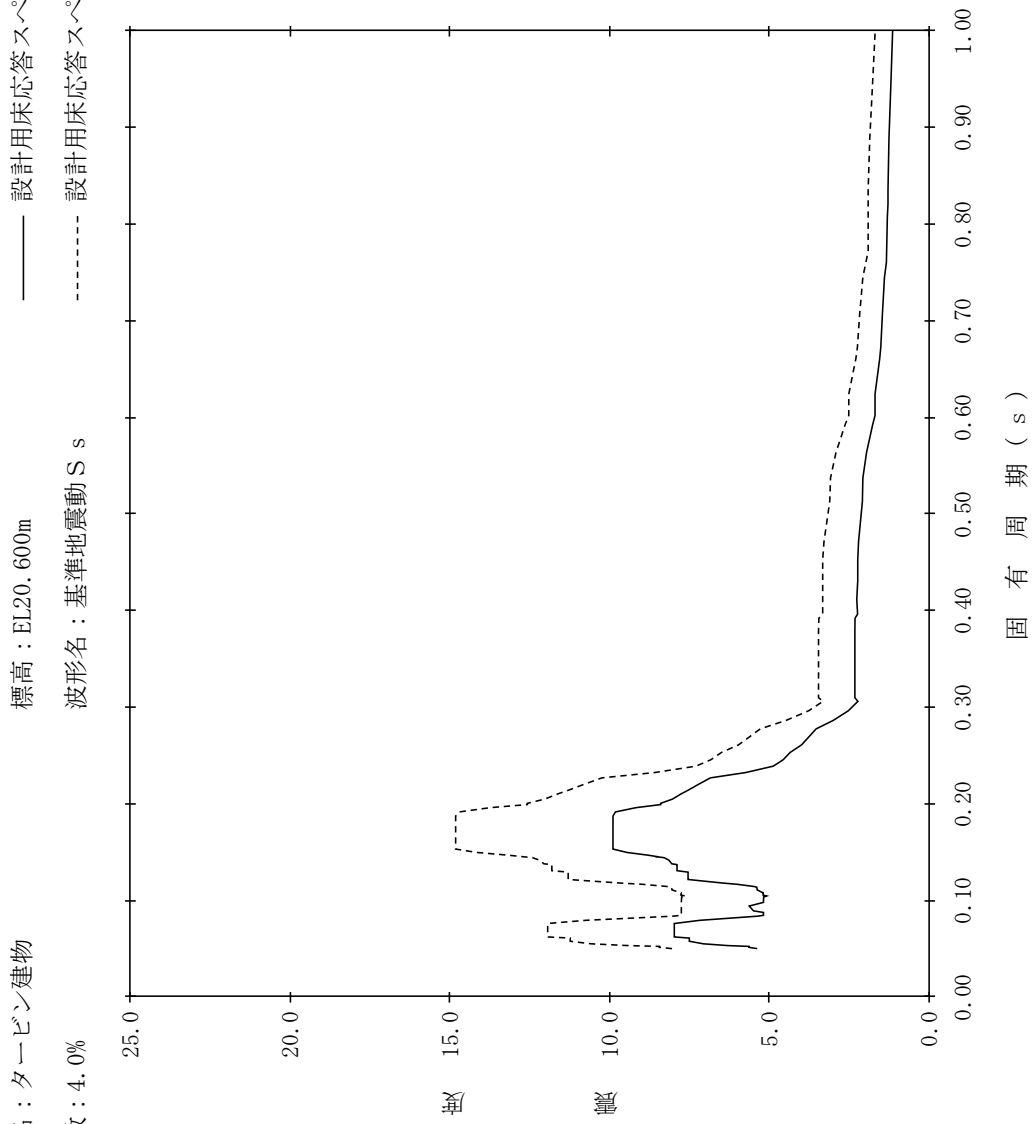


【NS2-TB-SsEW-TB38】



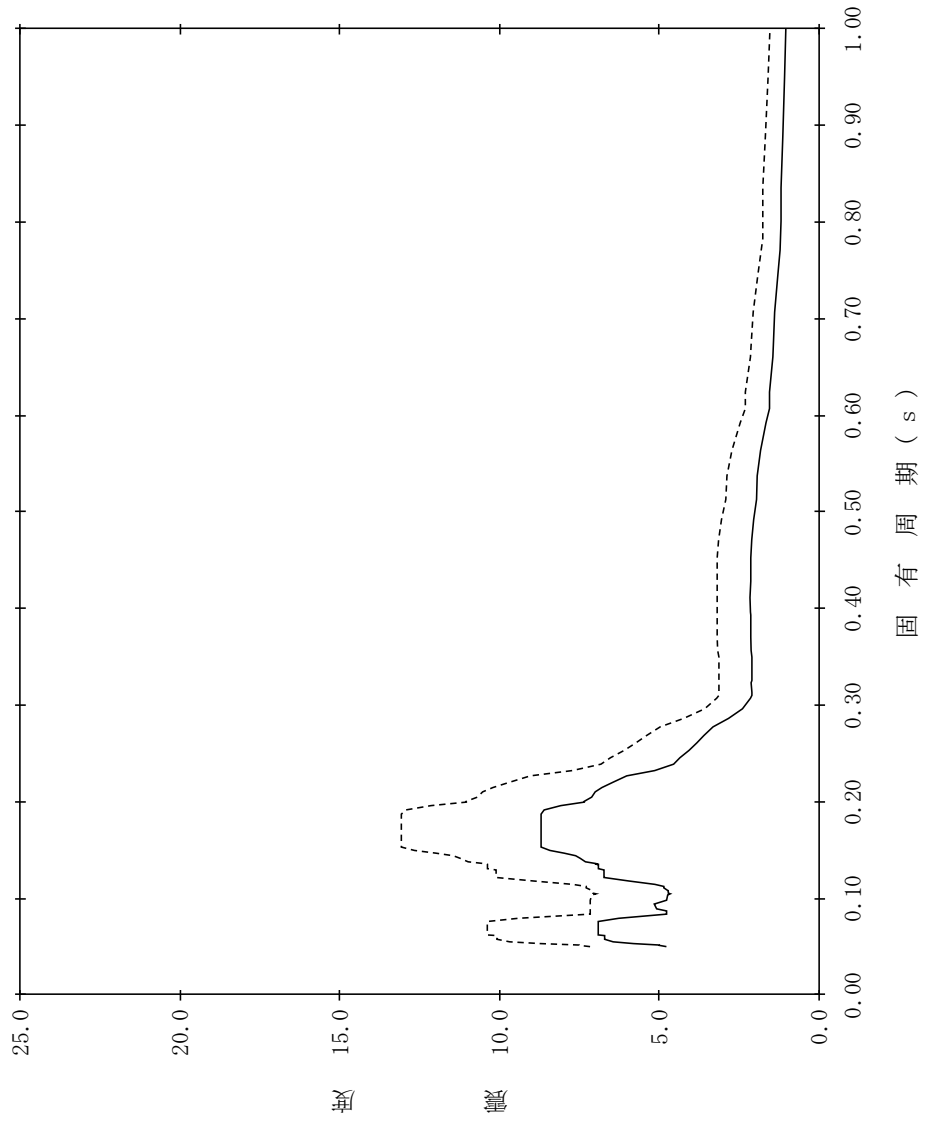
【NS2-TB-SsEW-TB39】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：4.0%



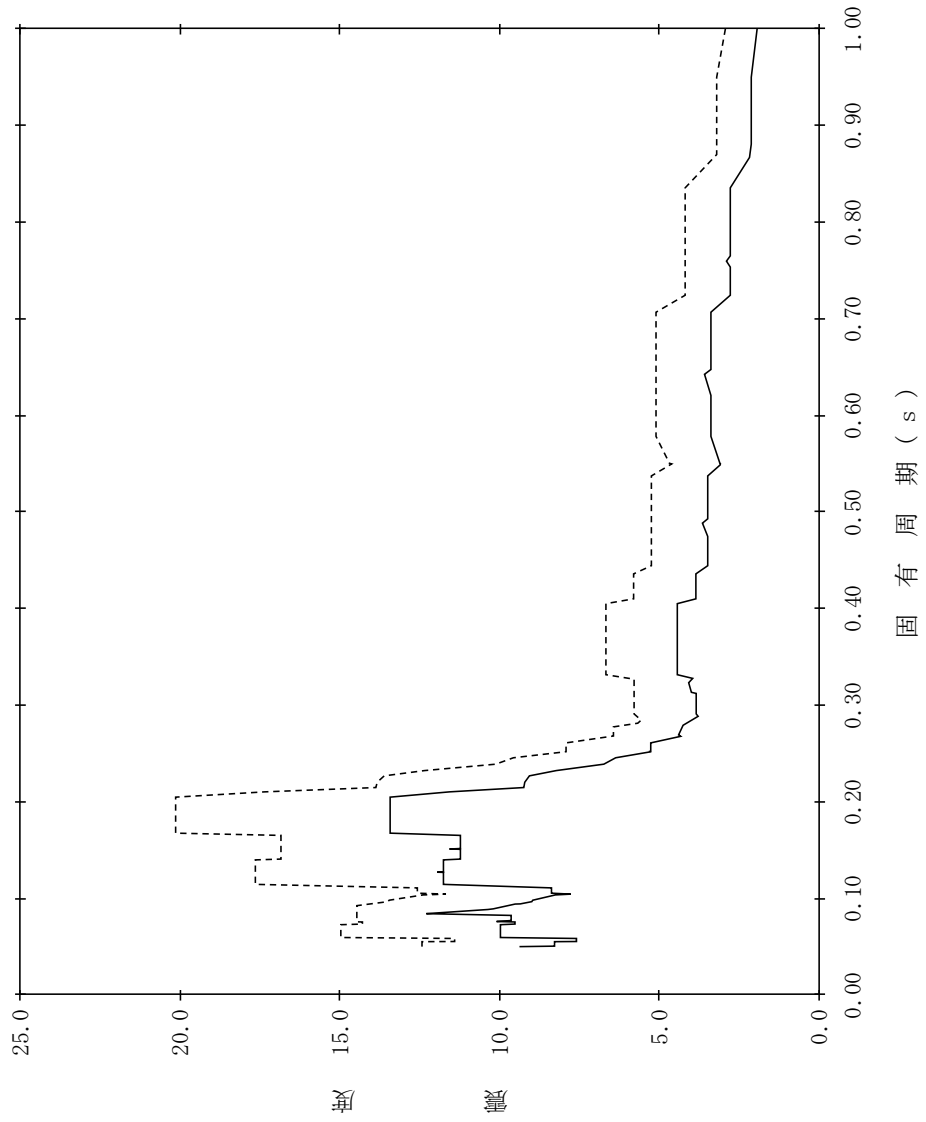
【NS2-TB-SsEW-TB40】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

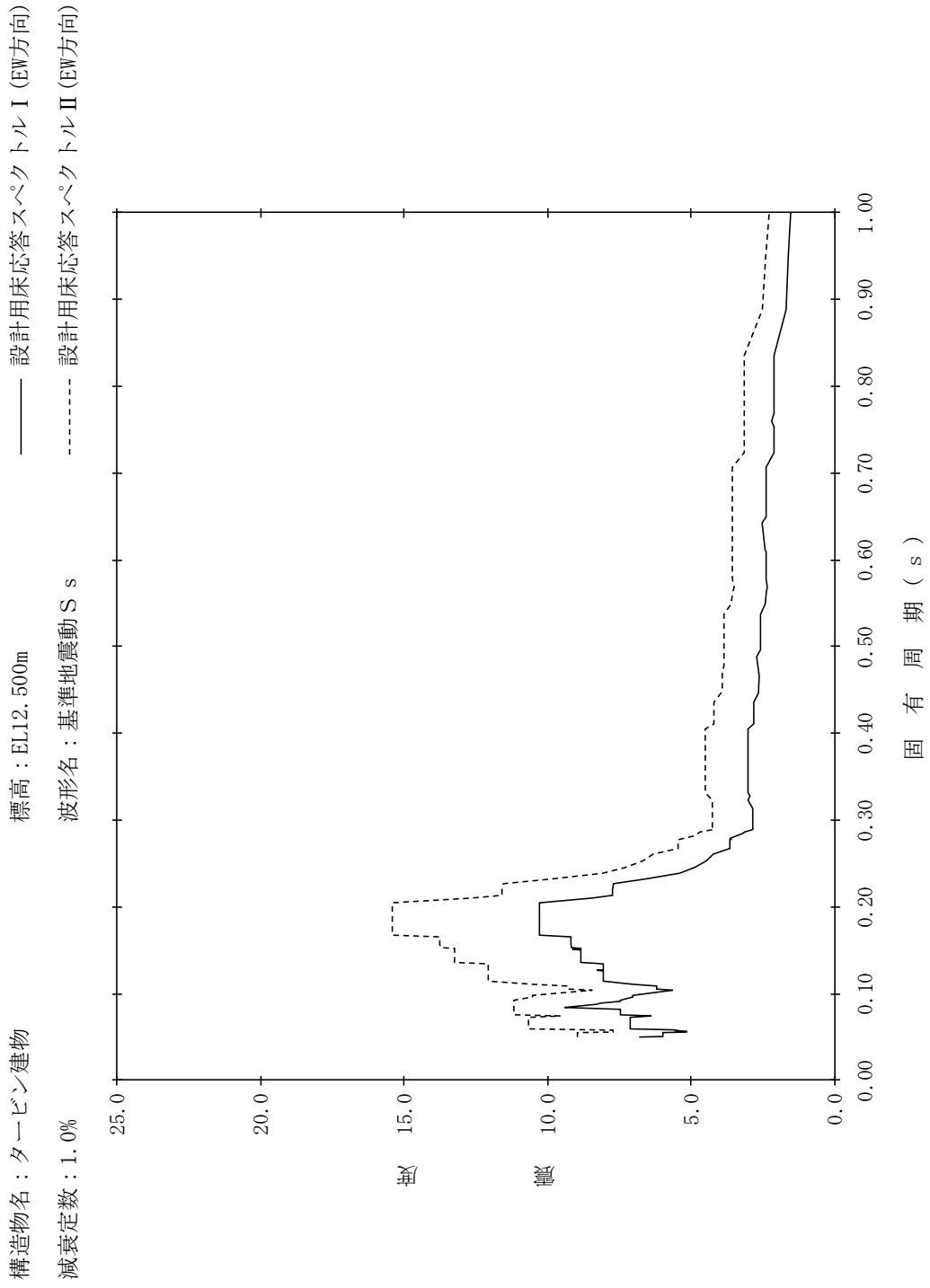


【NS2-TB-SsEW-TB41】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

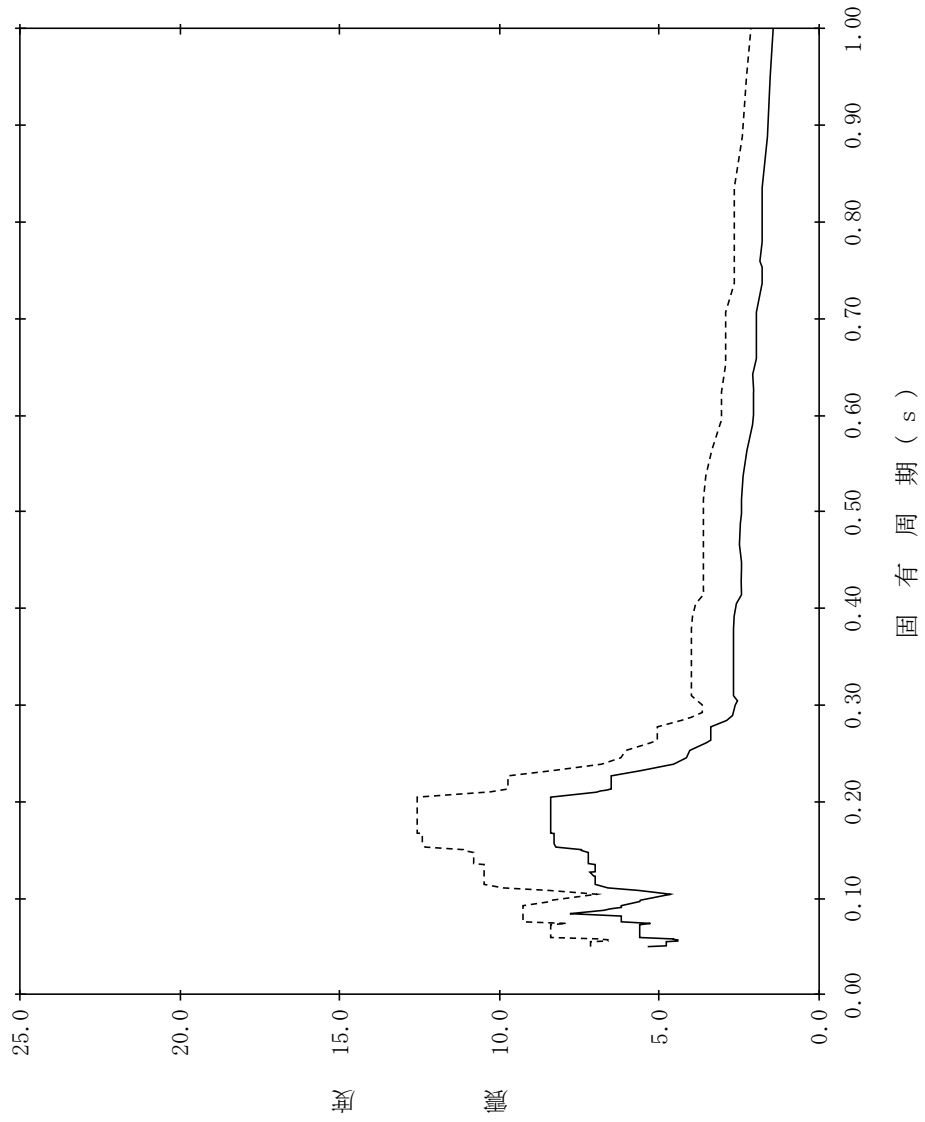


【NS2-TB-SsEW-TB42】



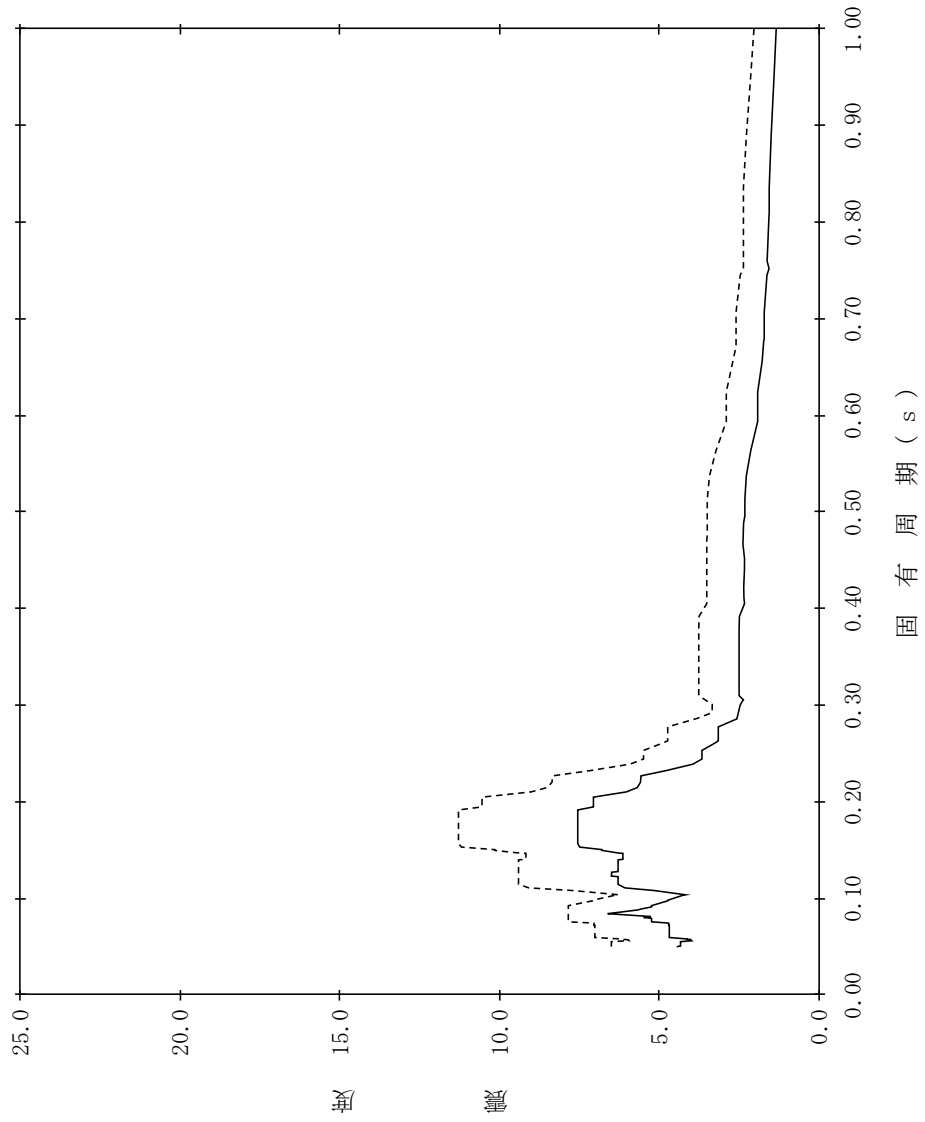
【NS2-TB-SsEW-TB43】

構造物名：タービン建物
減衰定数：1.5%
標高：EL12.500m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

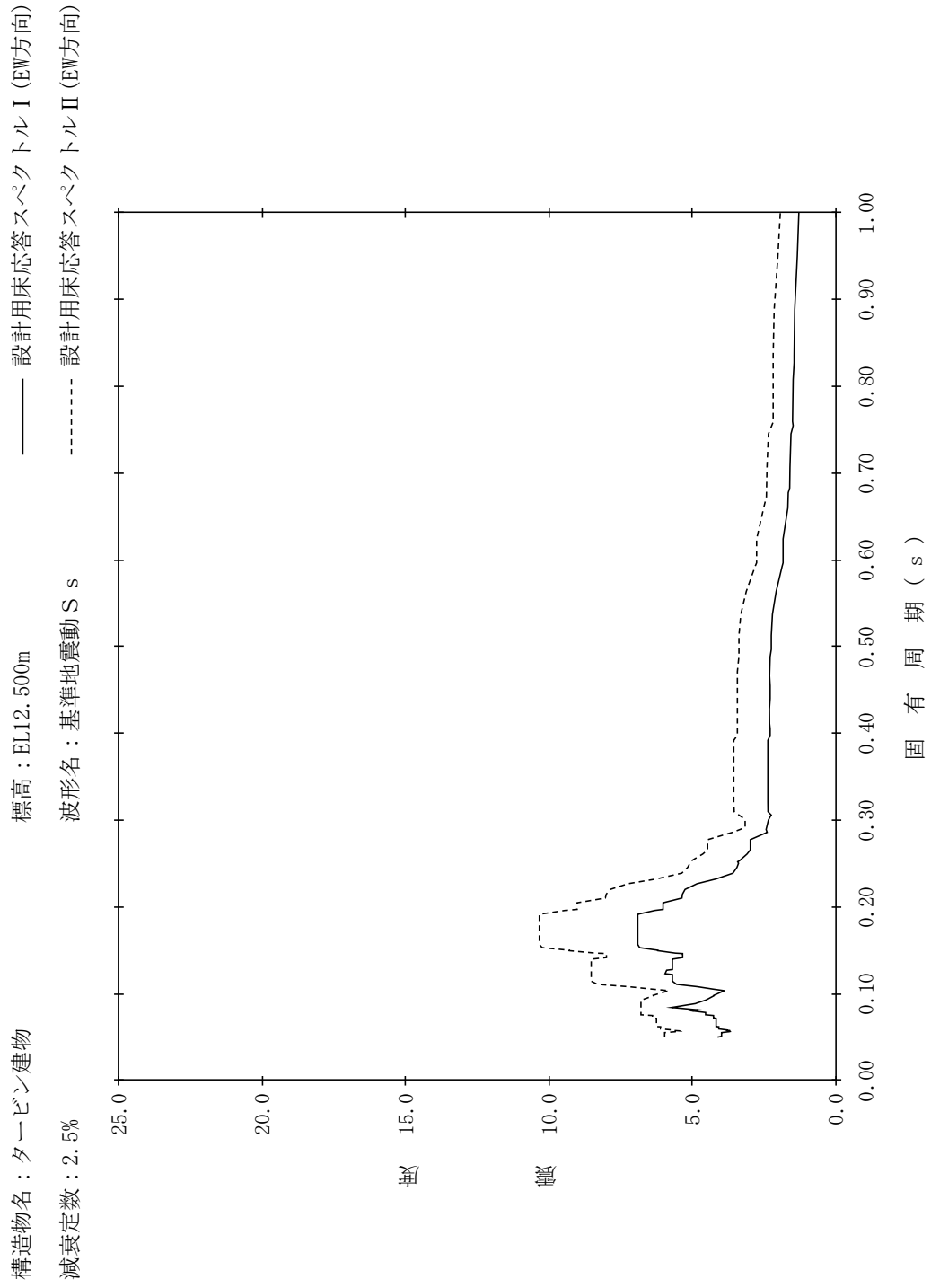


【NS2-TB-SsEW-TB44】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

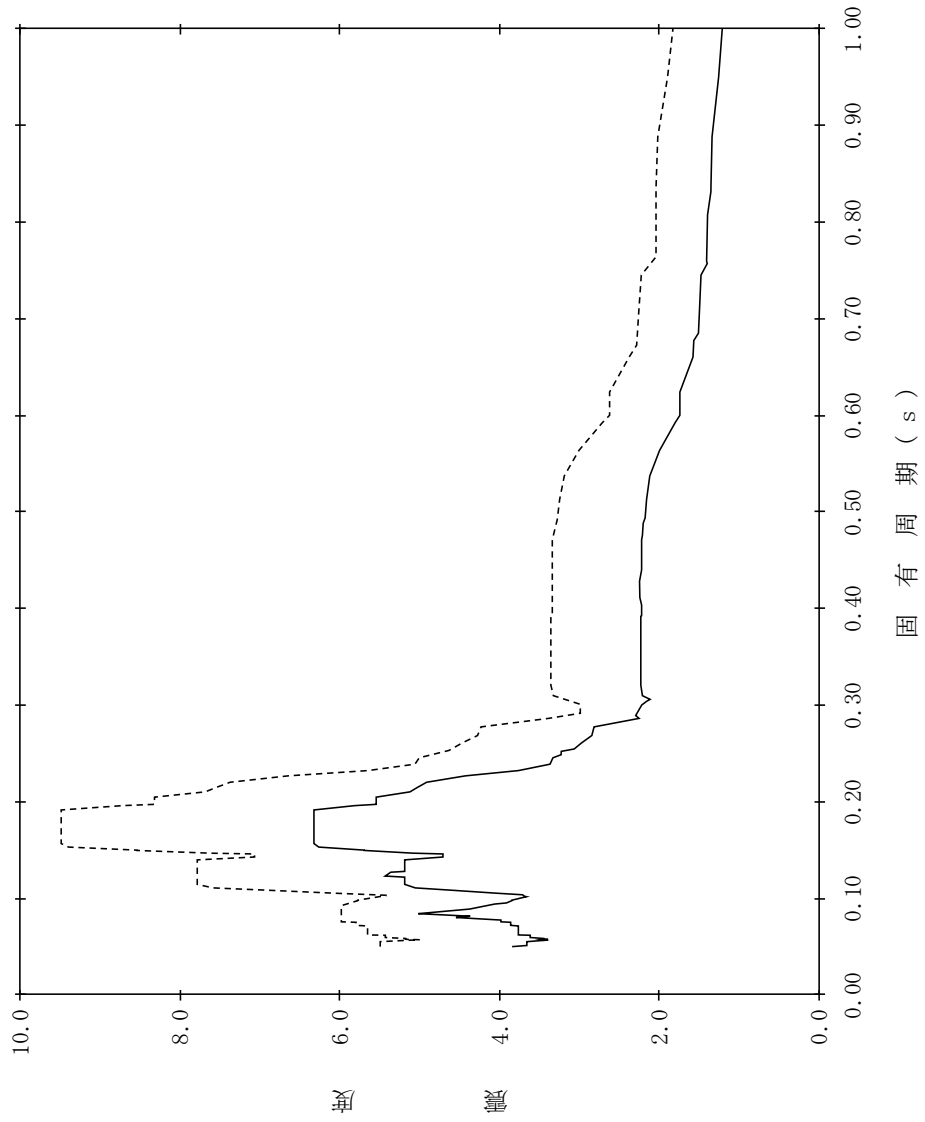


【NS2-TB-SsEW-TB45】



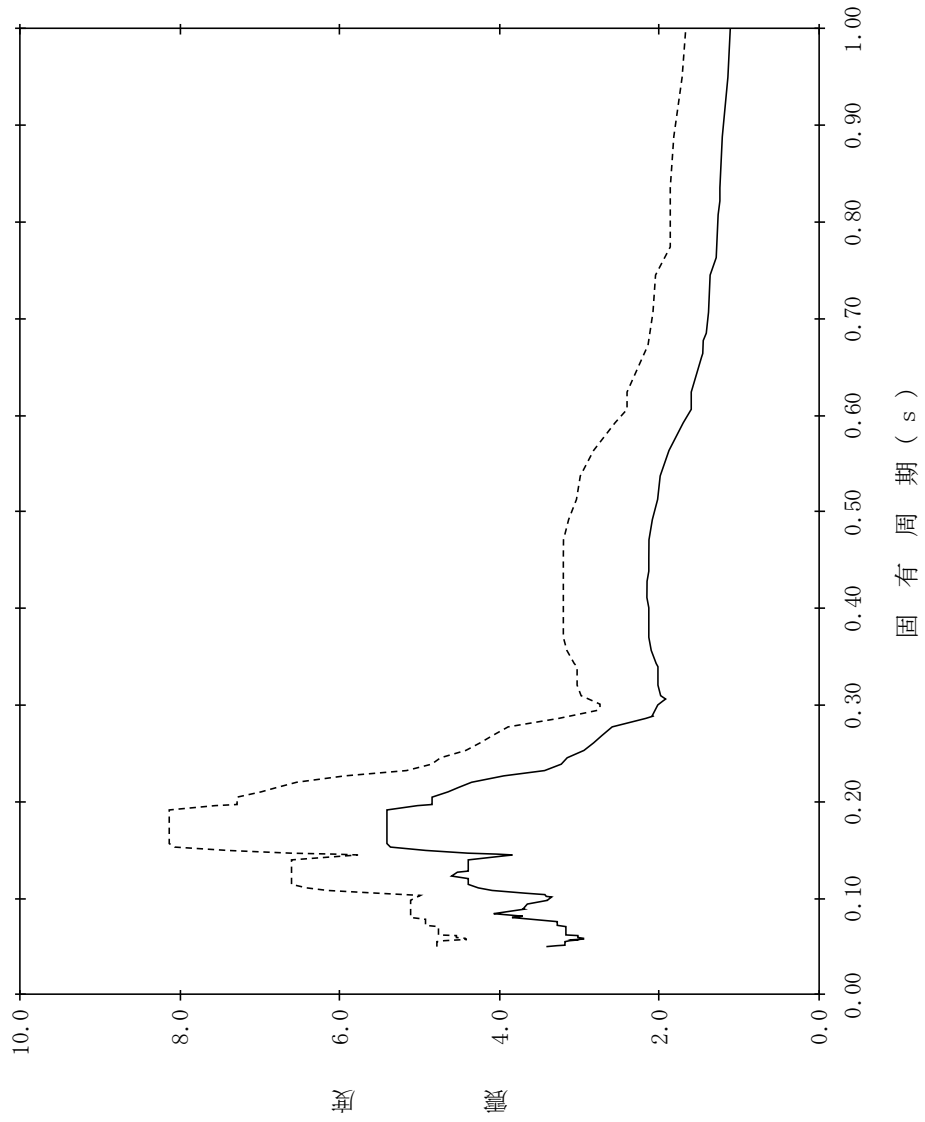
【NS2-TB-SsEW-TB46】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



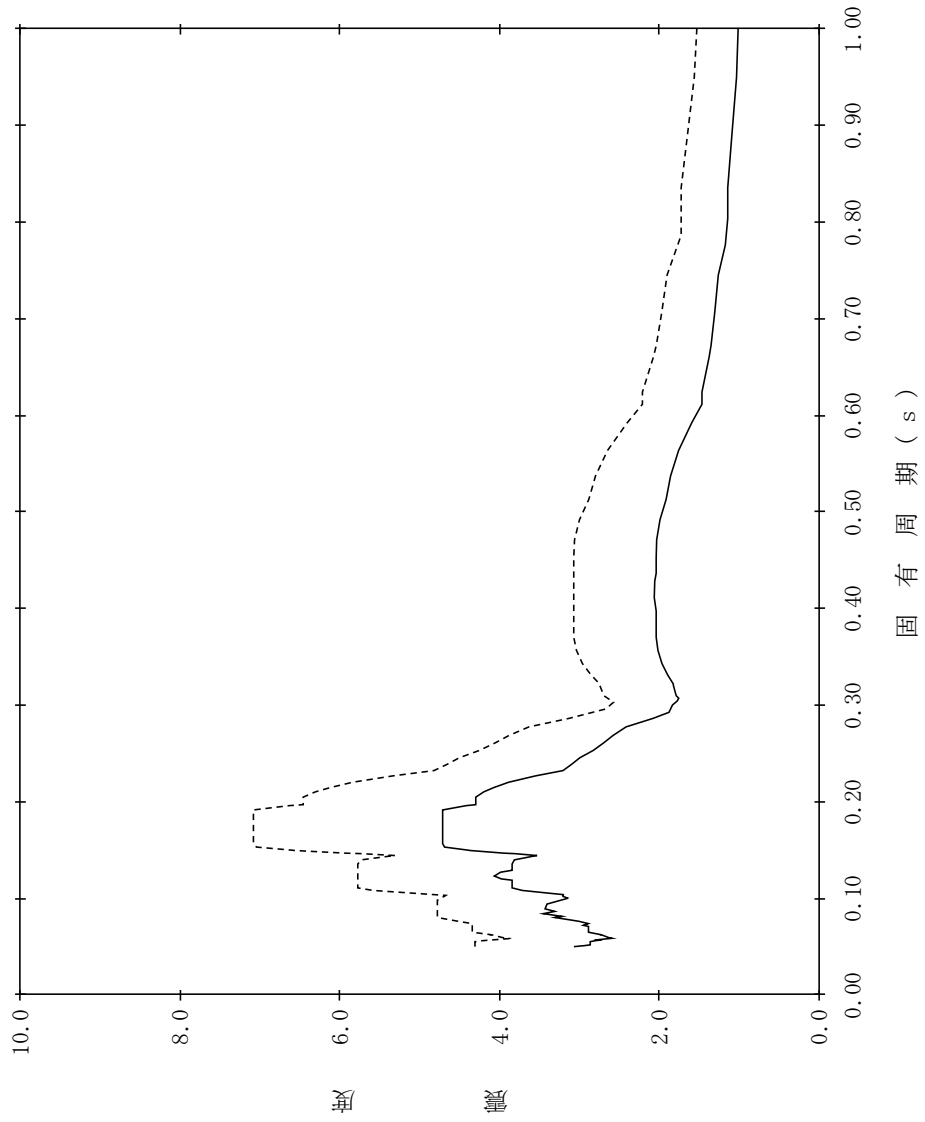
【NS2-TB-SsEW-TB47】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

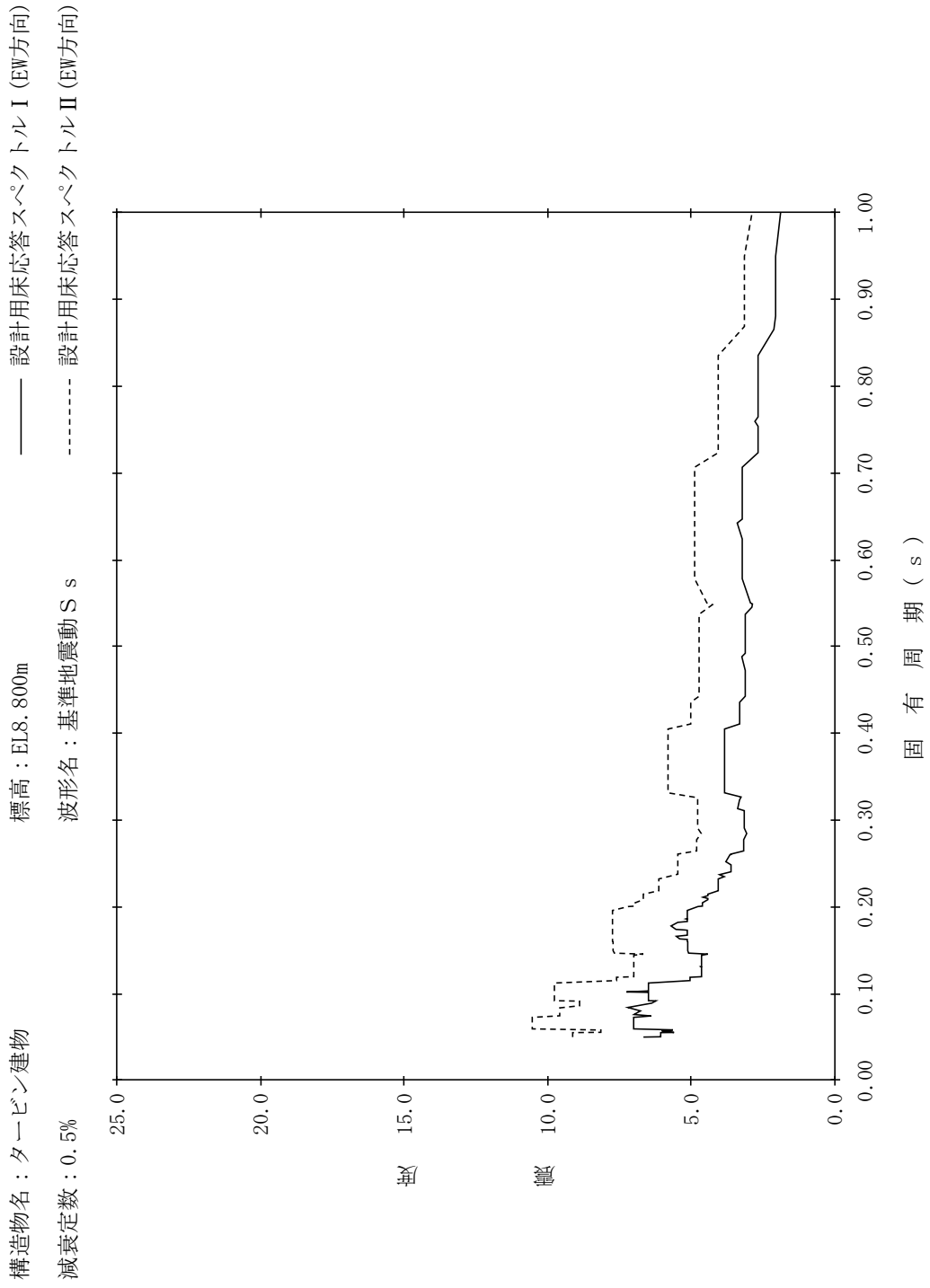


【NS2-TB-SsEW-TB48】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

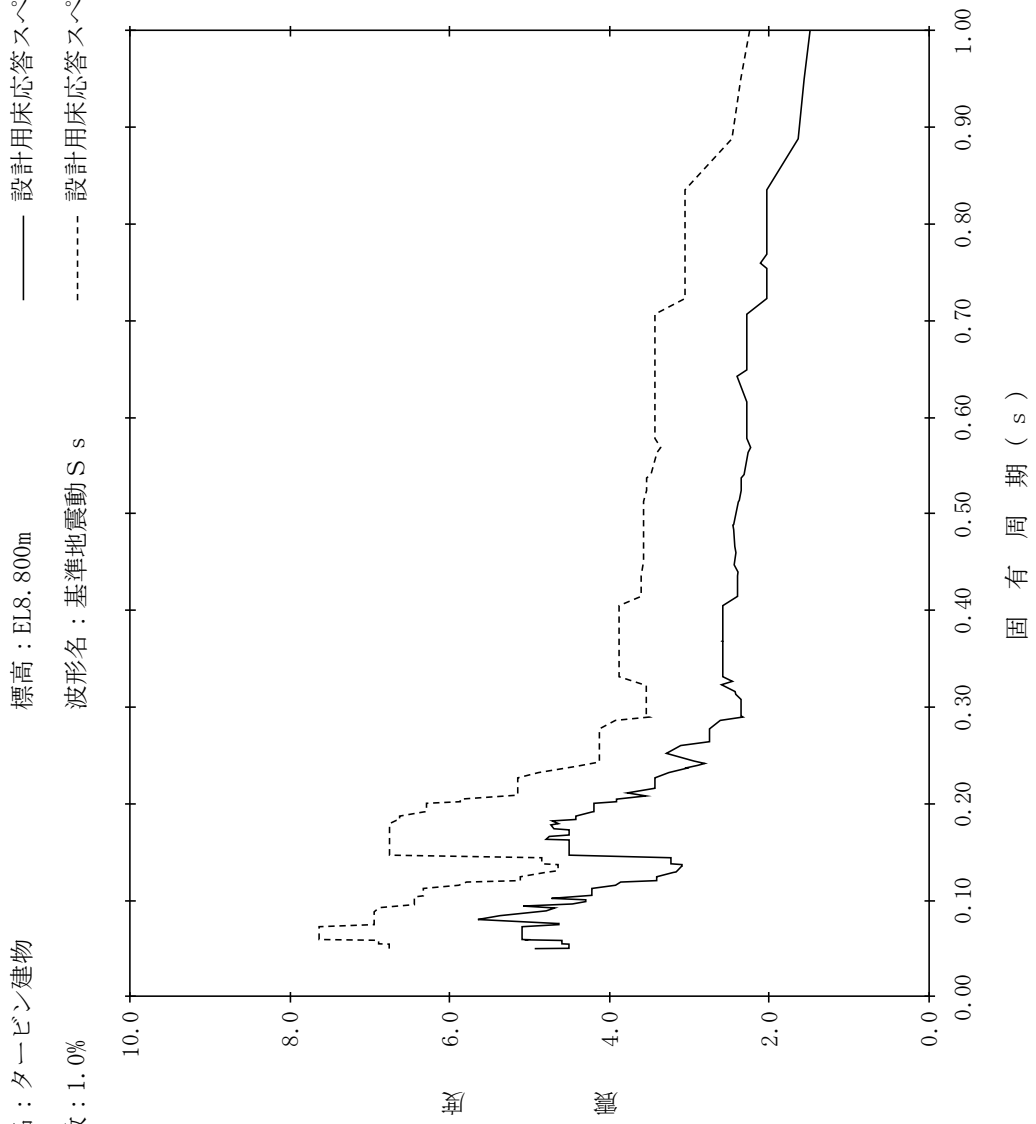


【NS2-TB-SsEW-TB49】



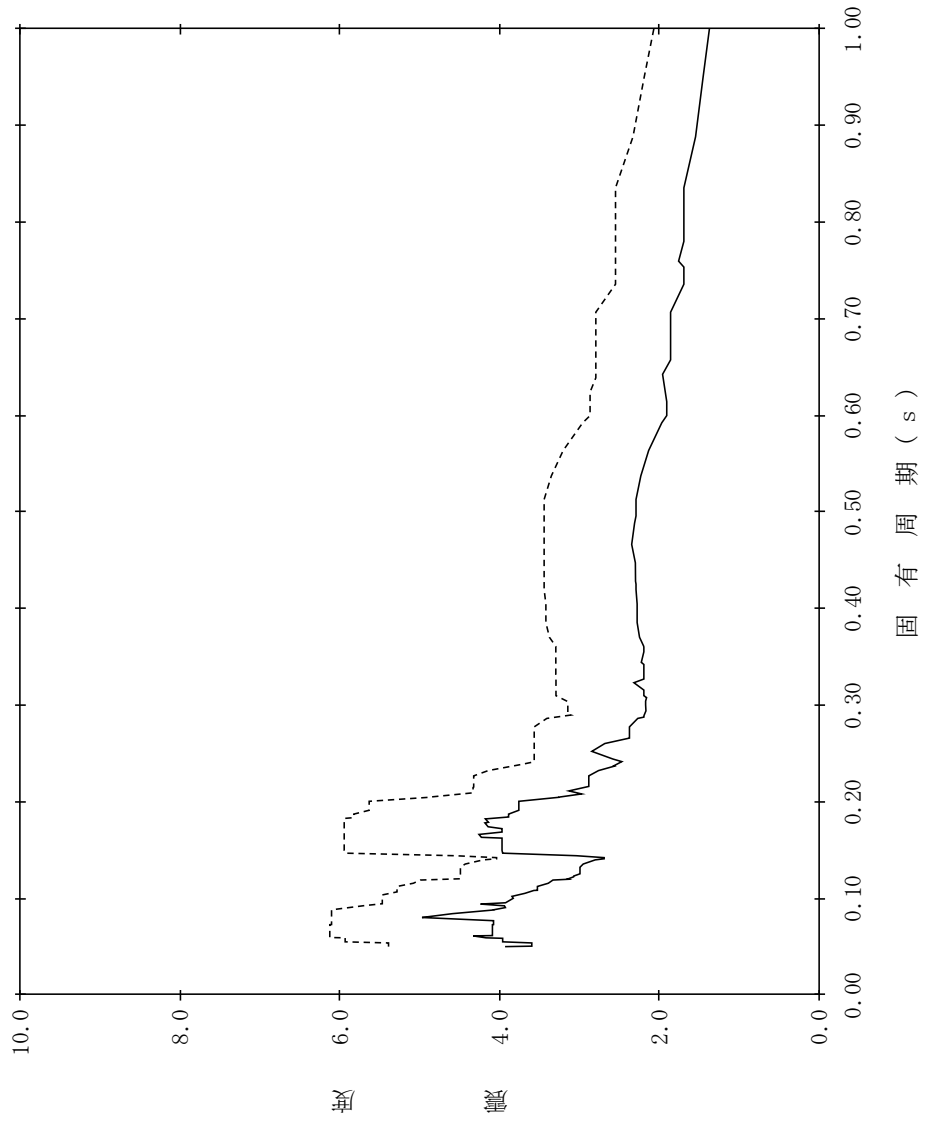
【NS2-TB-SsEW-TB50】

構造物名：タービン建物
 標高：EL8.800m
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：1.0%



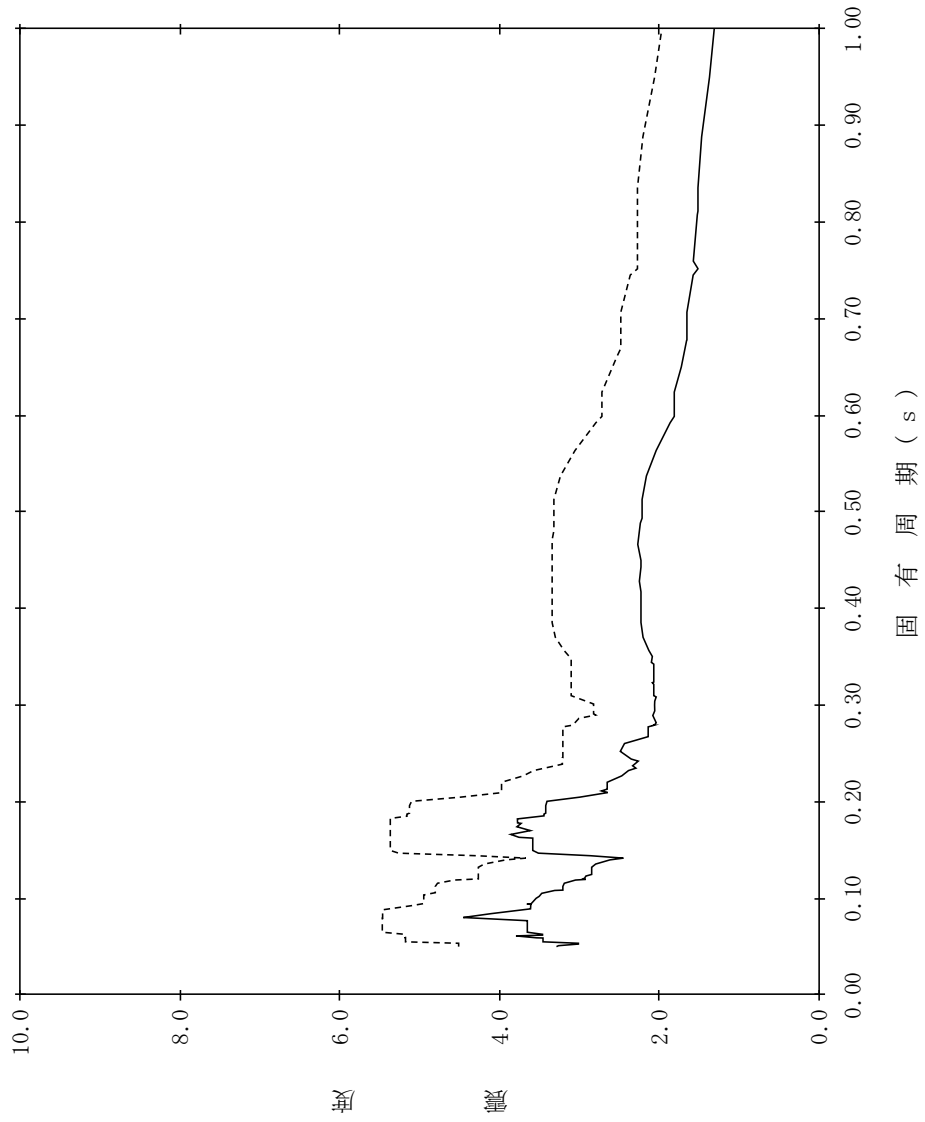
【NS2-TB-SsEW-TB51】

構造物名：タービン建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



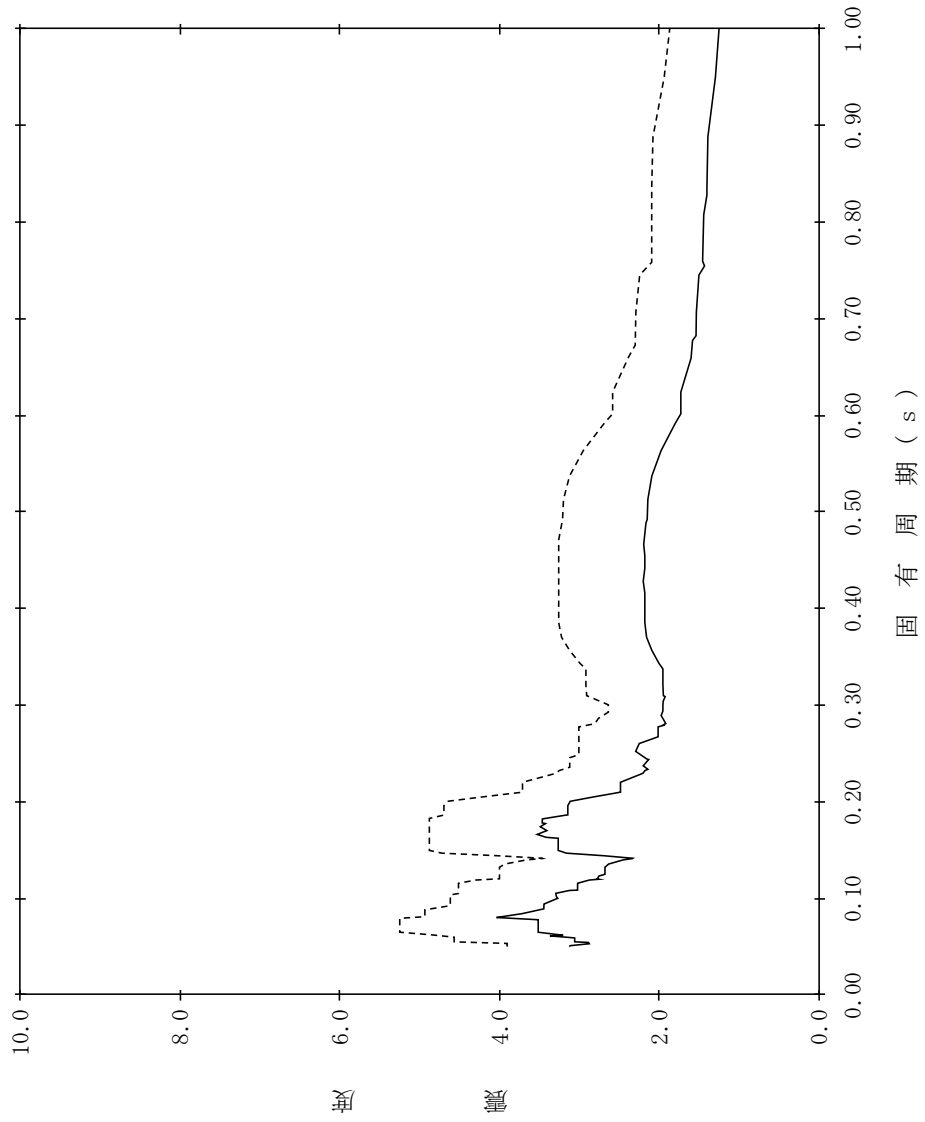
【NS2-TB-SsEW-TB52】

構造物名：タービン建物
標高：EL8.800m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



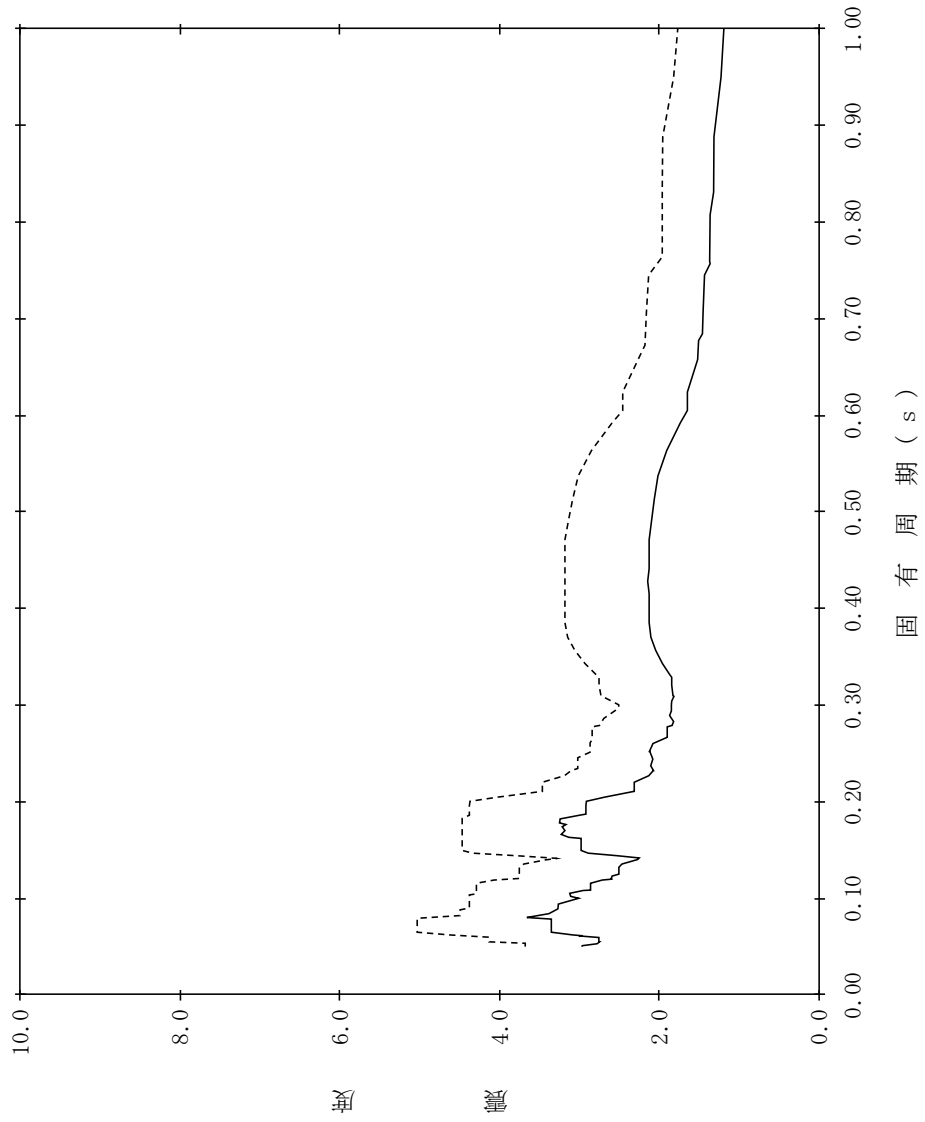
【NS2-TB-SsEW-TB53】

構造物名：タービン建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



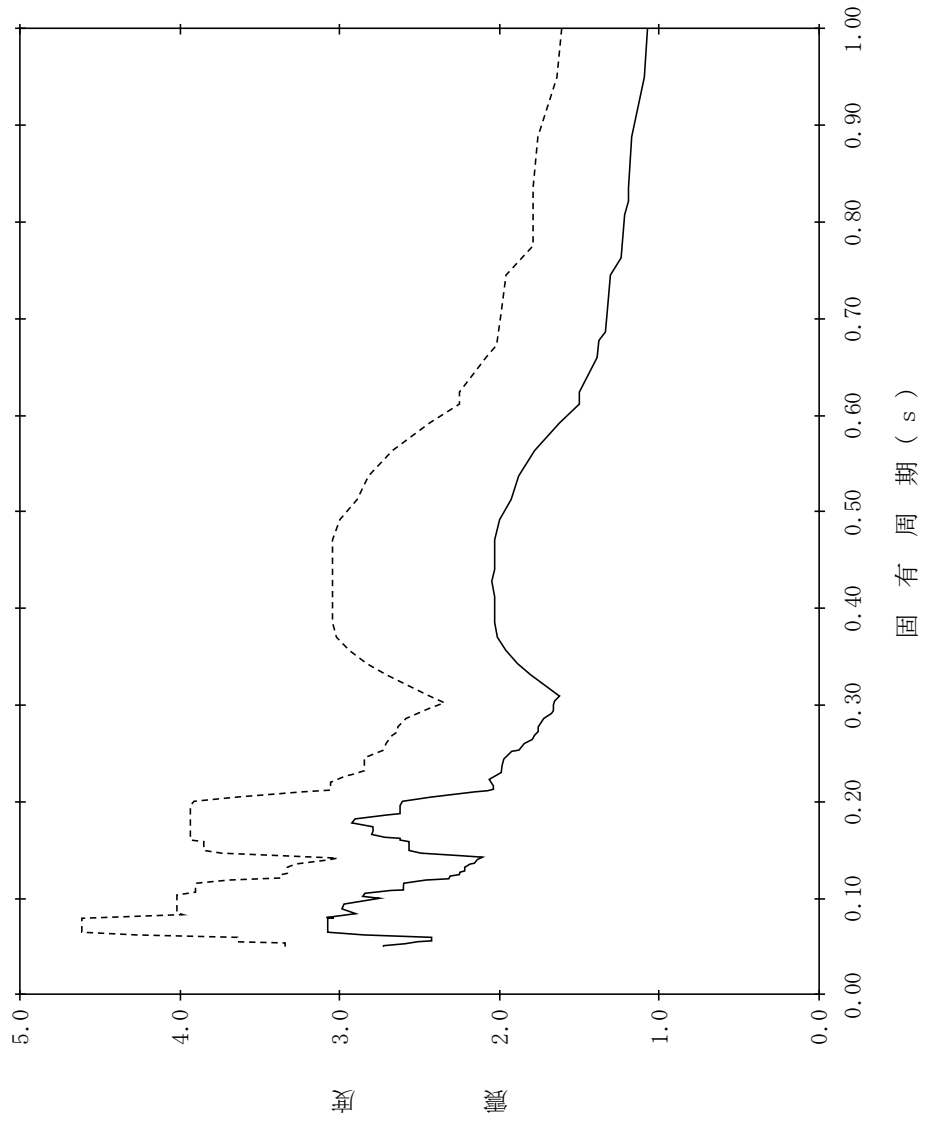
【NS2-TB-SsEW-TB54】

構造物名：タービン建物
標高：EL8.800m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (EW方向)
設計用床応答スペクトル II (EW方向)



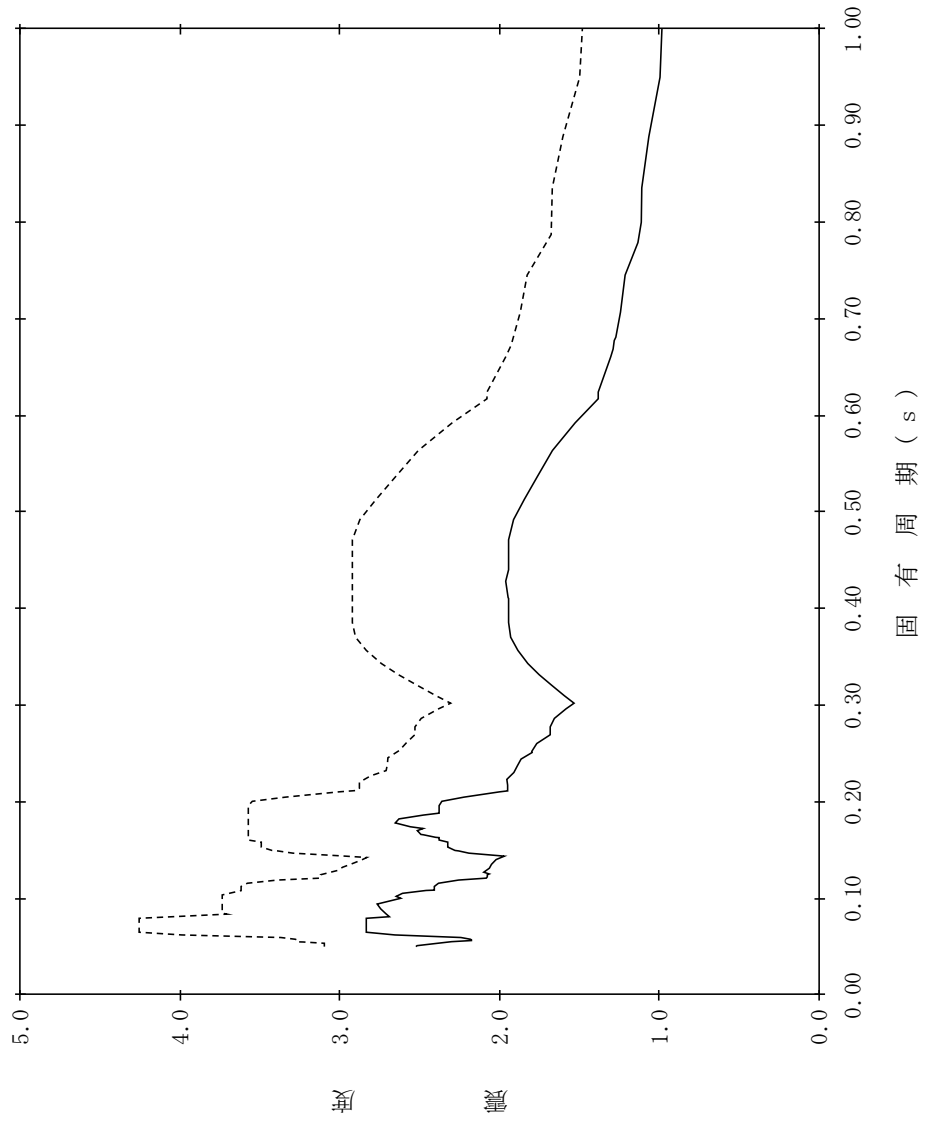
【NS2-TB-SsEW-TB55】

構造物名：タービン建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



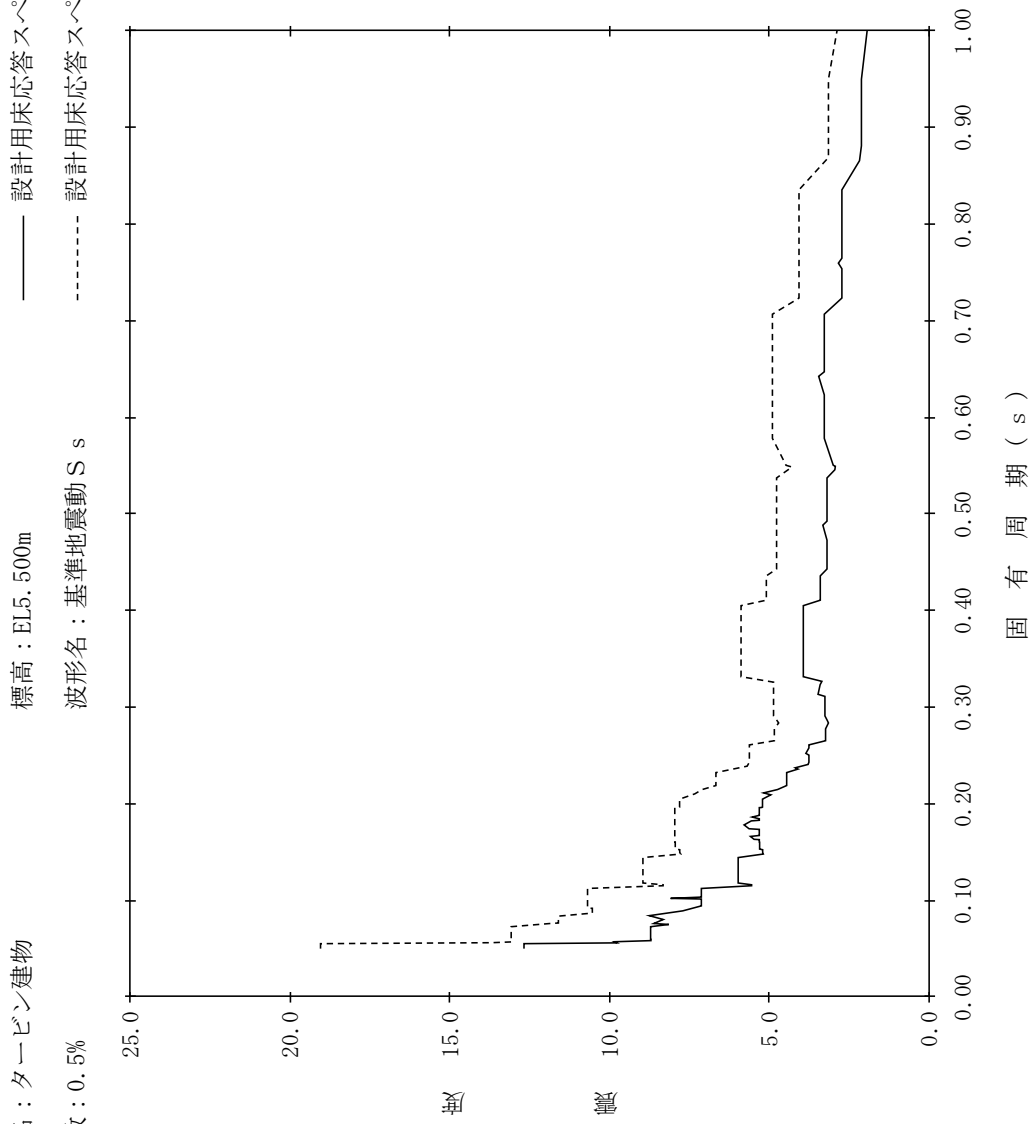
【NS2-TB-SsEW-TB56】

構造物名：タービン建物
標高：EL8.800m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



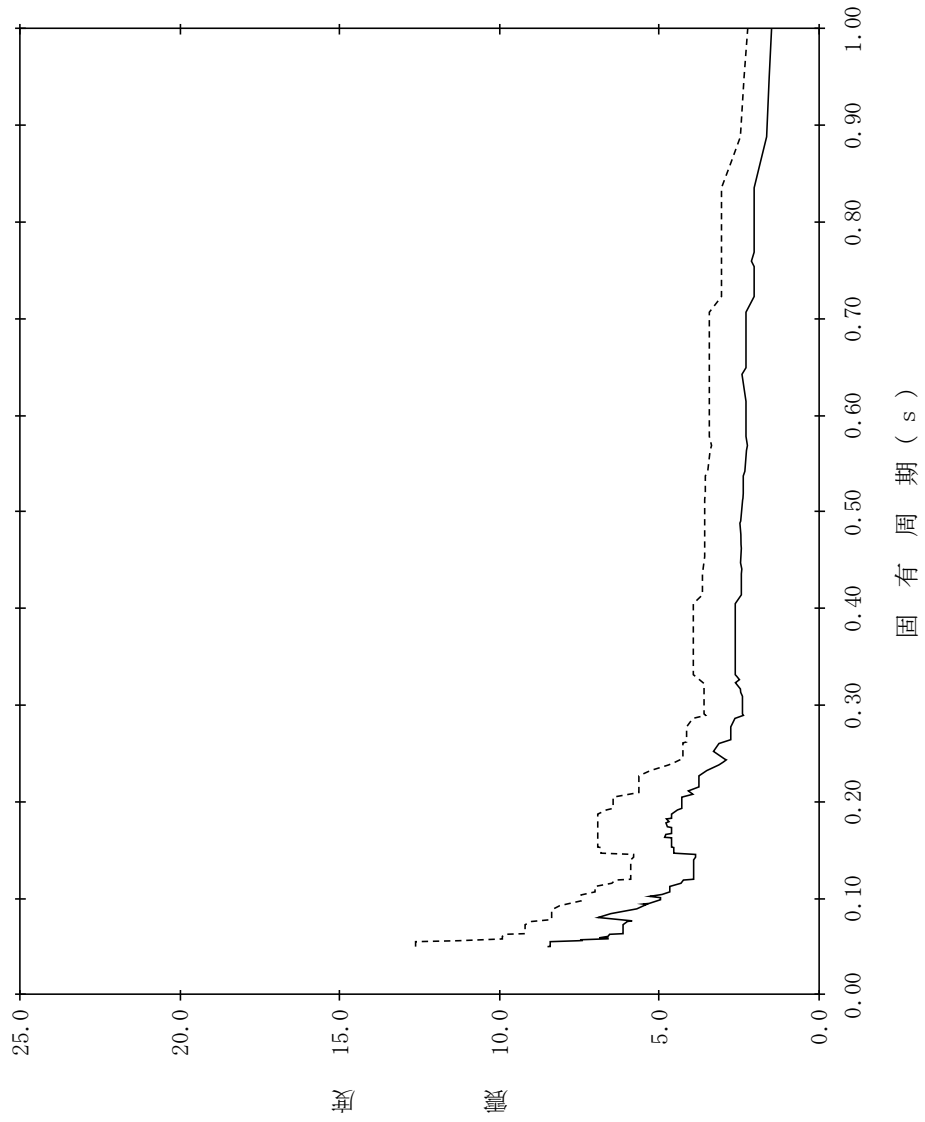
【NS2-TB-SsEW-TB57】

構造物名：タービン建物
標高：EL5.500m
減衰定数：0.5%
波形名：基準地震動 S s



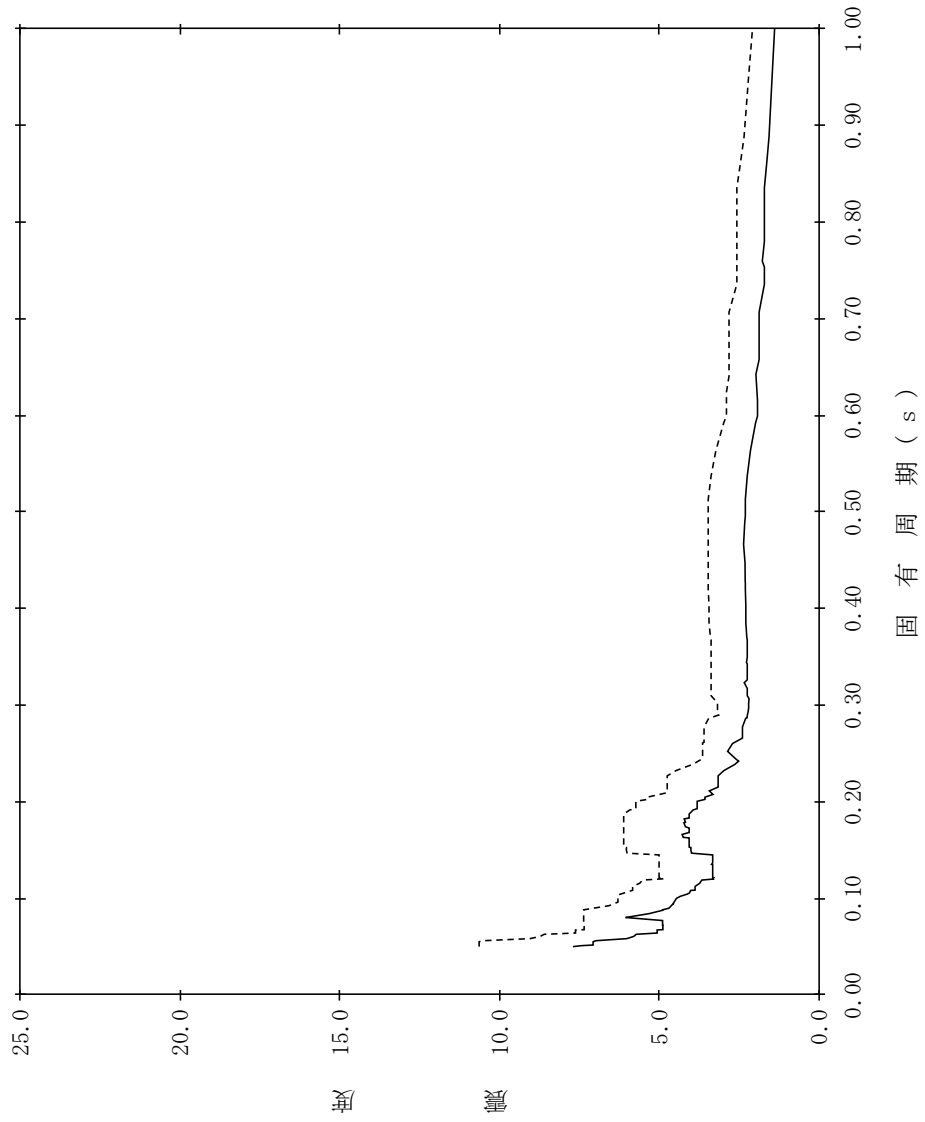
【NS2-TB-SsEW-TB58】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

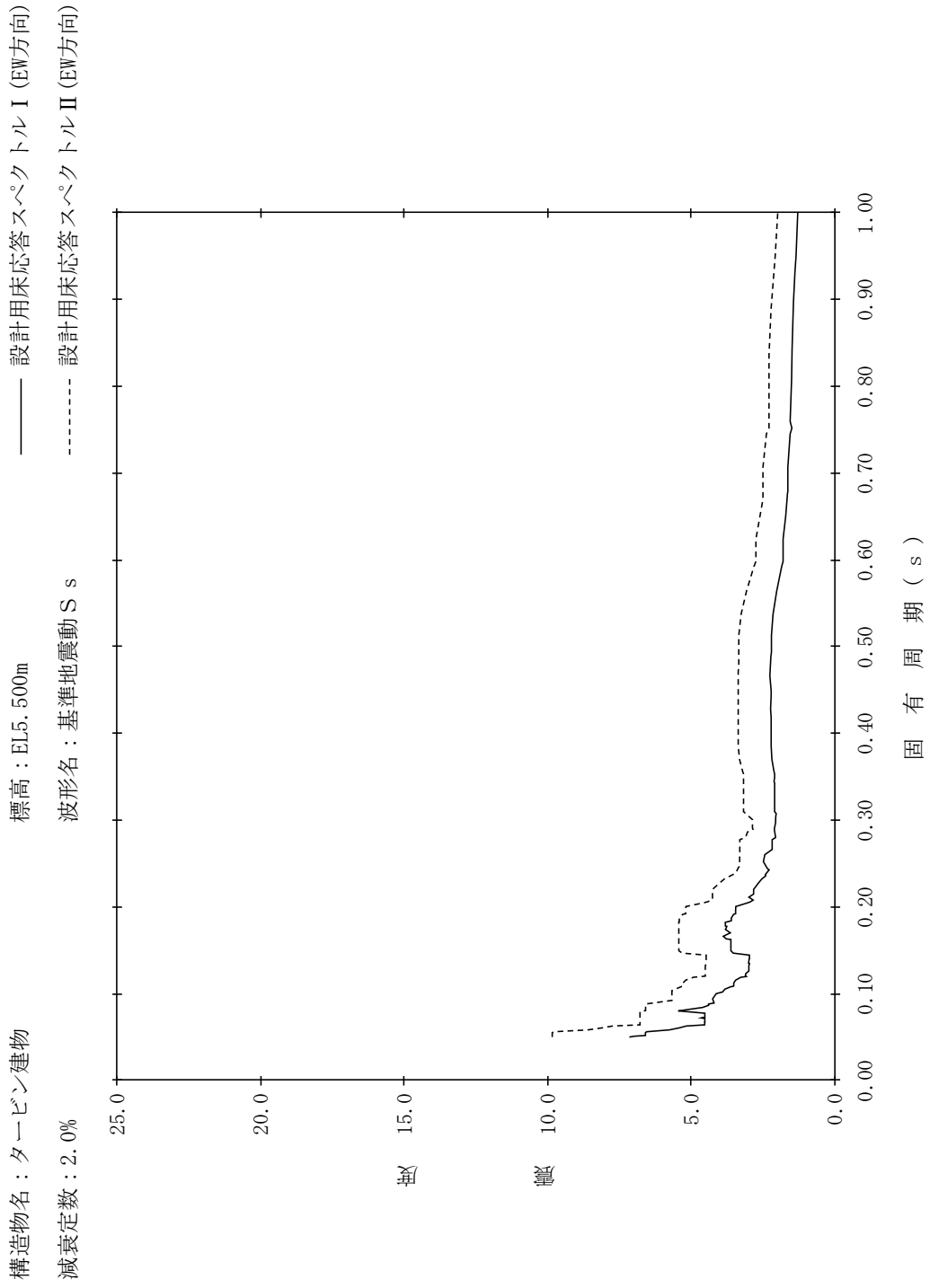


【NS2-TB-SsEW-TB59】

構造物名：タービン建物
標高：EL5.500m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

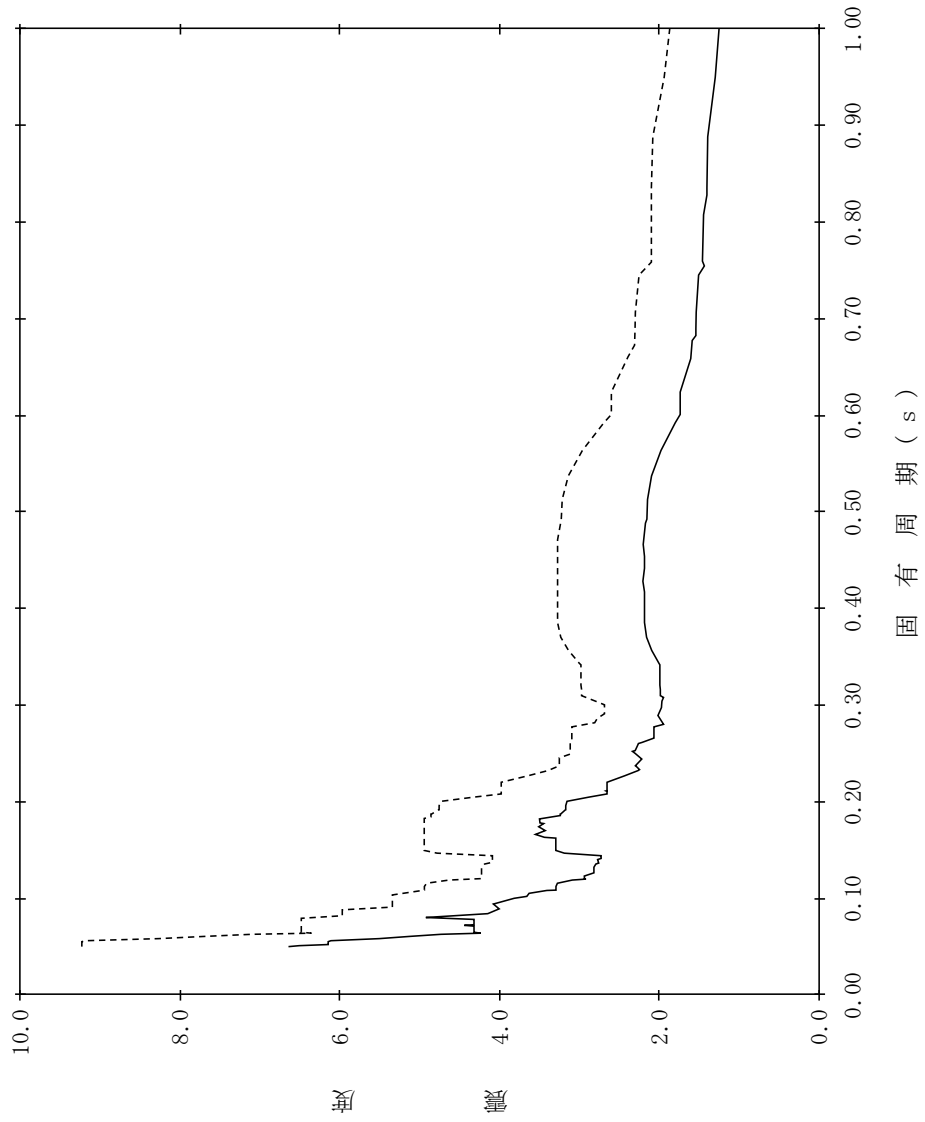


【NS2-TB-SsEW-TB60】



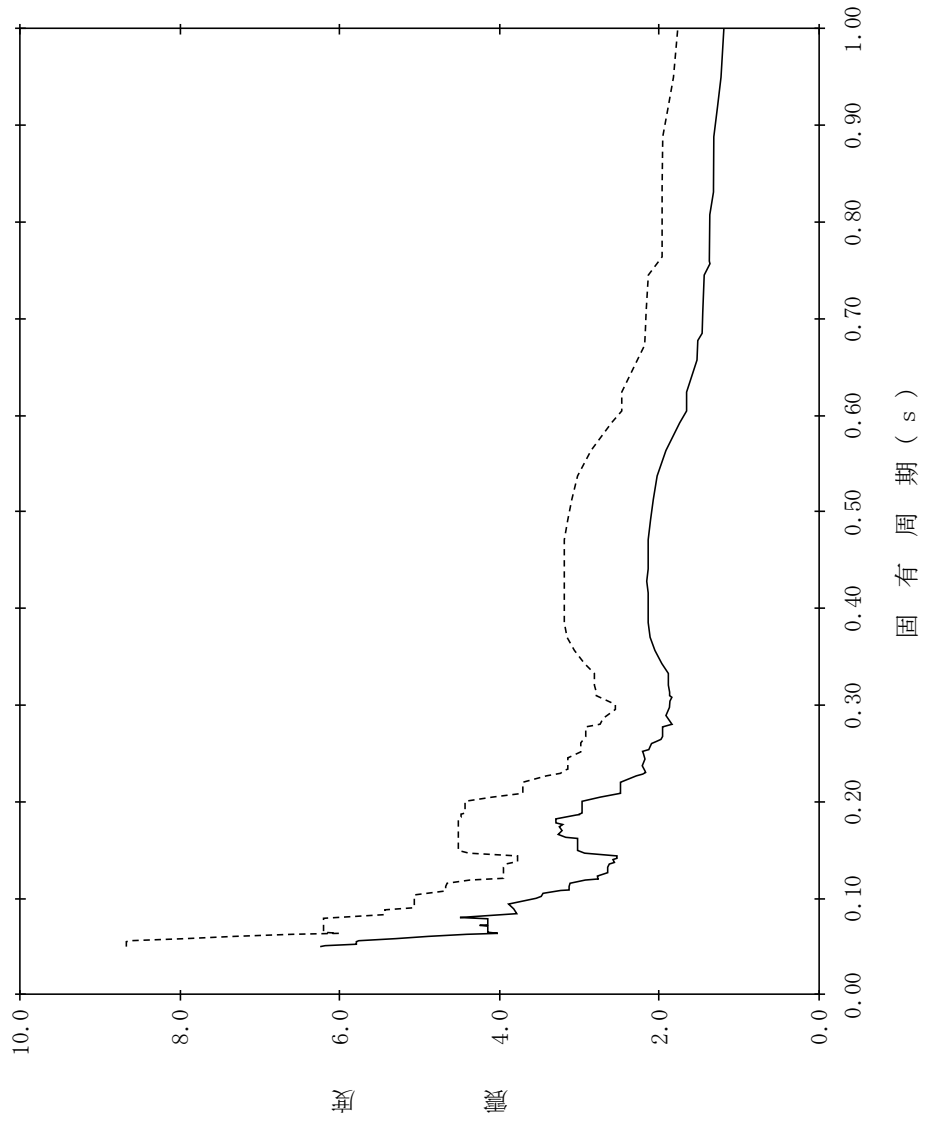
【NS2-TB-SsEW-TB61】

構造物名：タービン建物
標高：EL5.500m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (EW方向)
設計用床応答スペクトル II (EW方向)



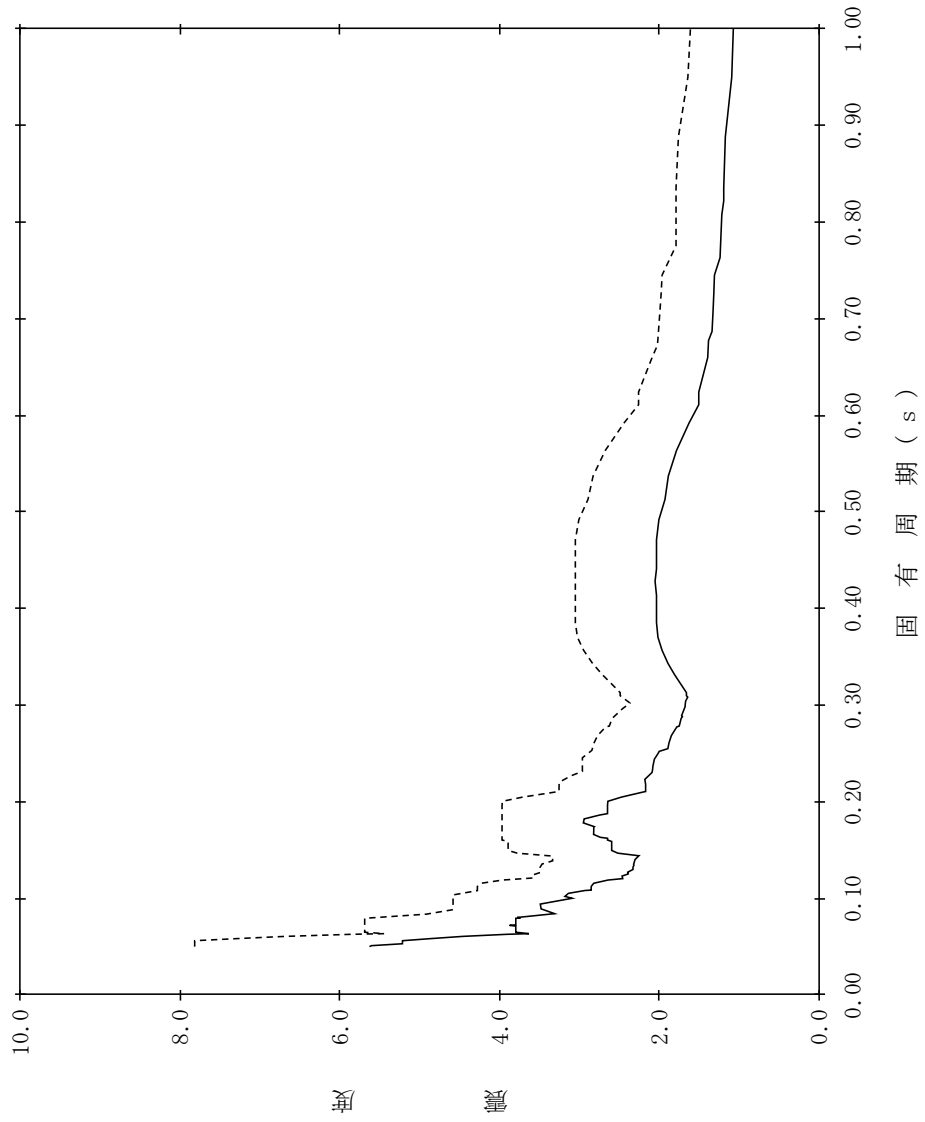
【NS2-TB-SsEW-TB62】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



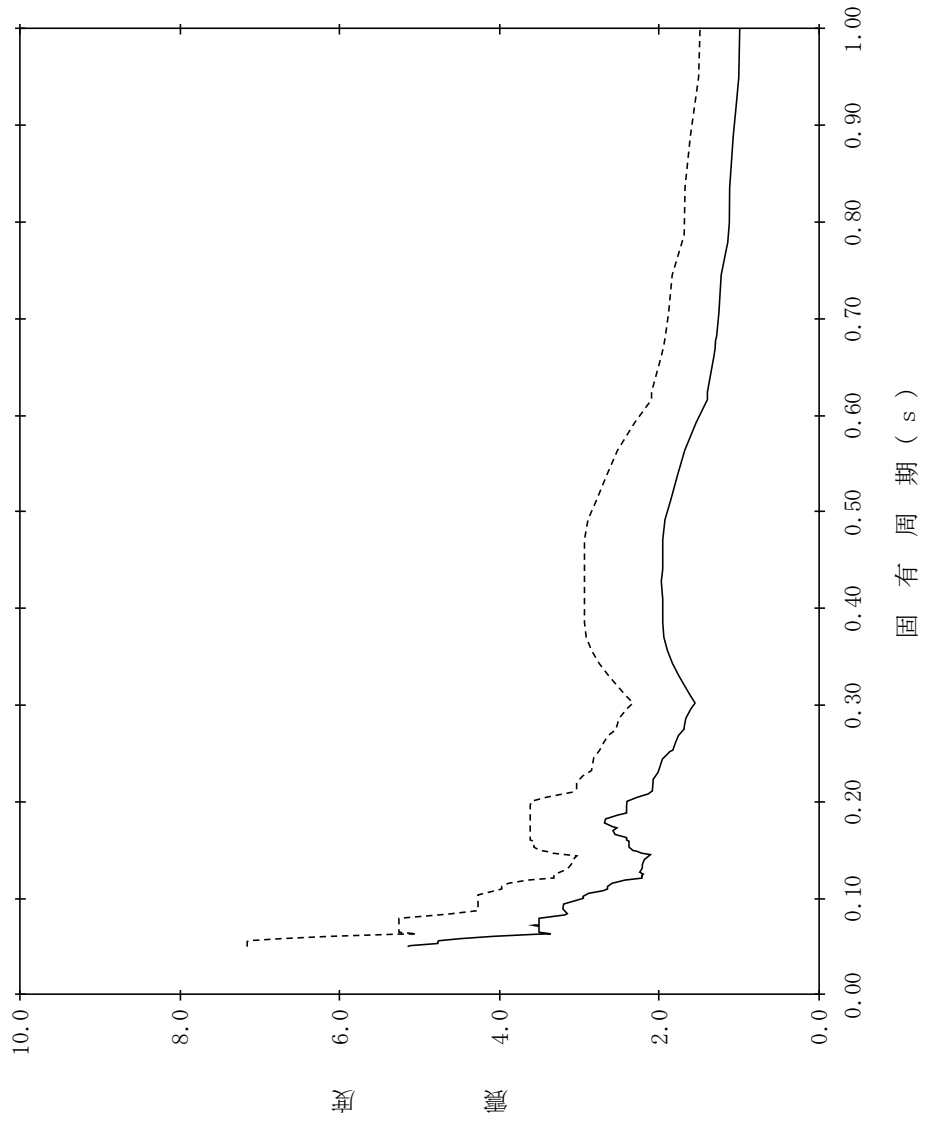
【NS2-TB-SsEW-TB63】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



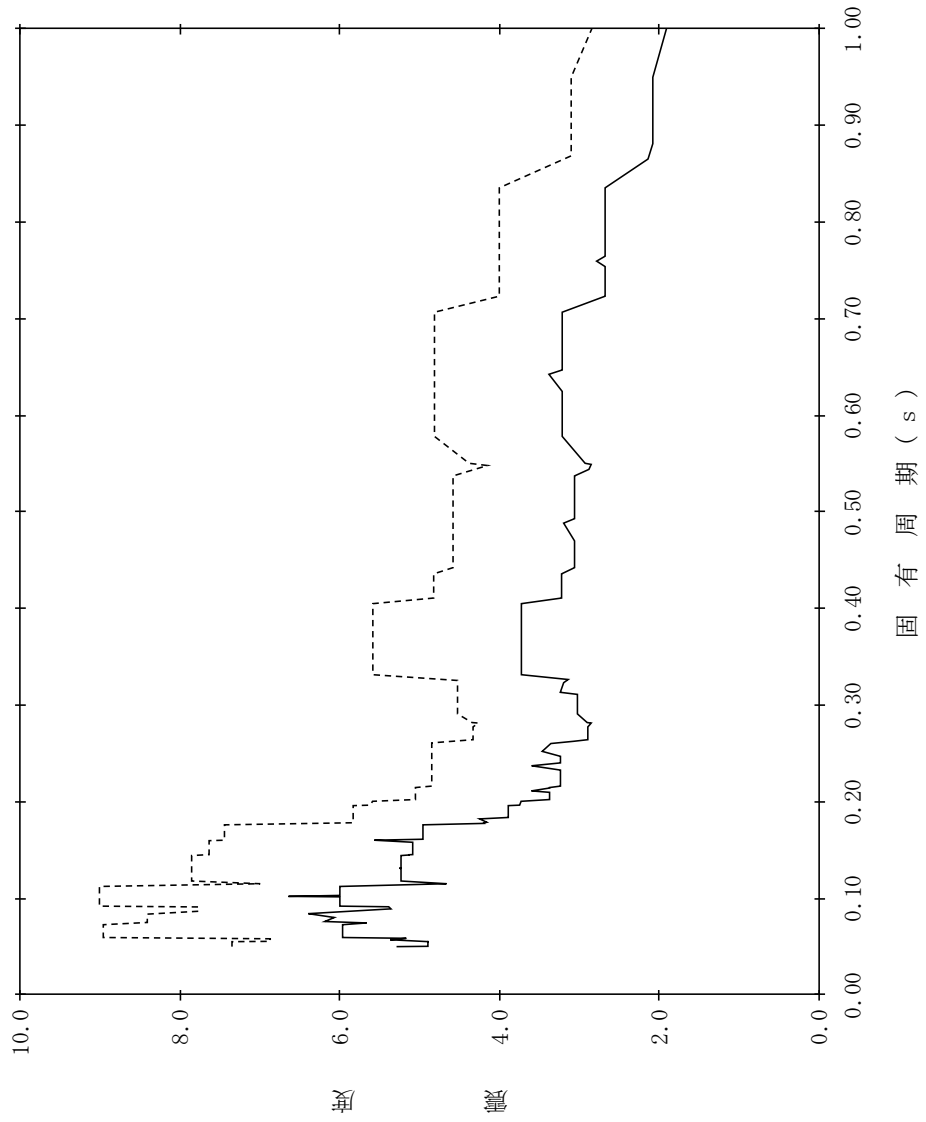
【NS2-TB-SsEW-TB64】

構造物名：タービン建物
標高：EL5.500m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



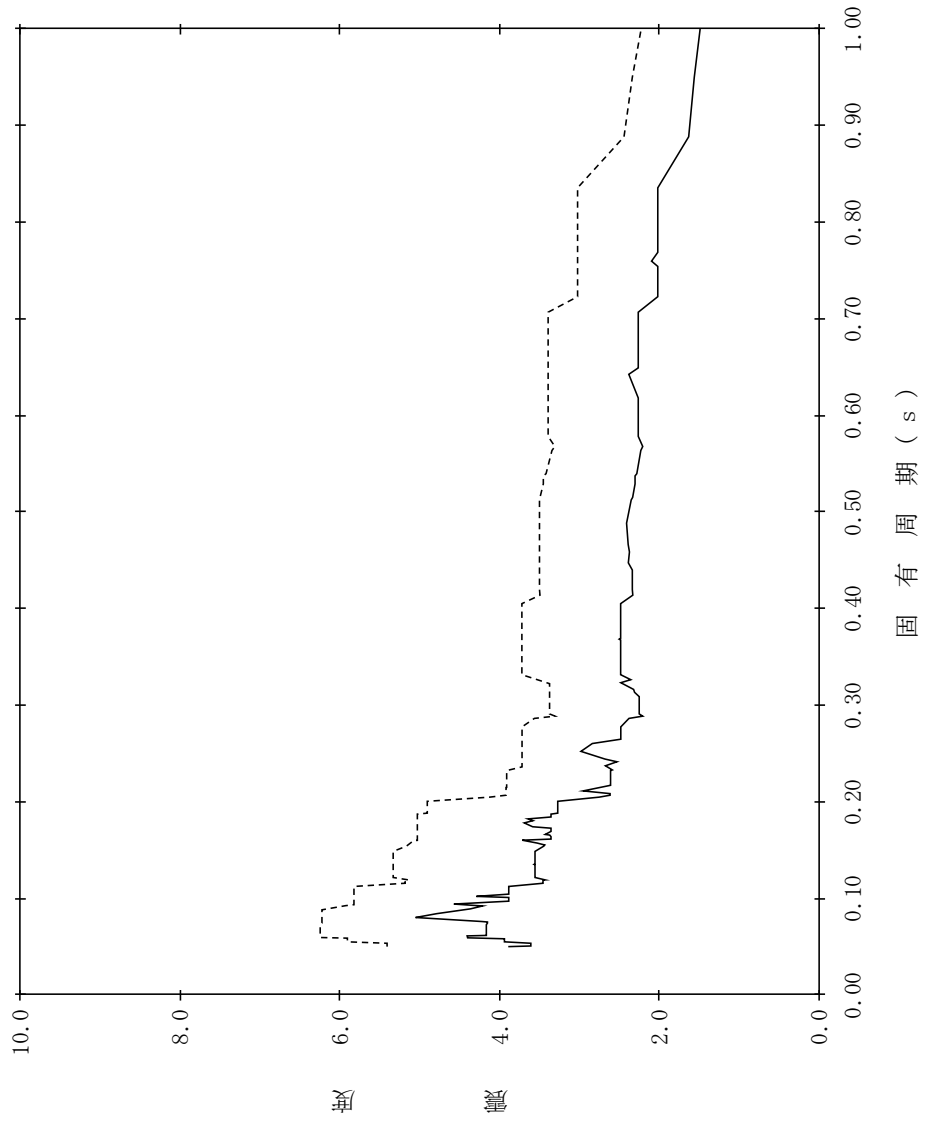
【NS2-TB-SsEW-TB65】

構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 減衰定数：0.5%
 波形式：標準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



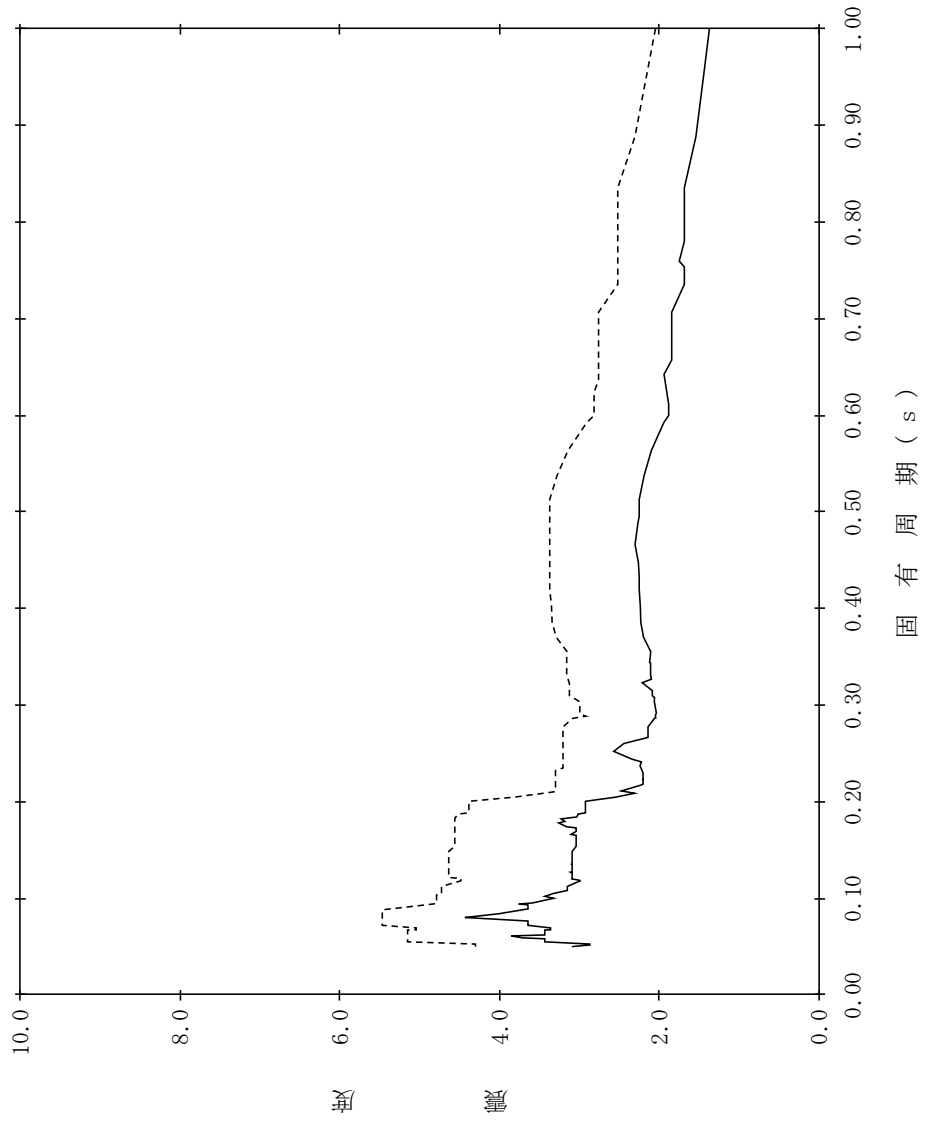
【NS2-TB-SsEW-TB66】

構造物名：タービン建物
標高：EL. 000m
減衰定数：1.0%
波形式：標準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (EW方向)
設計用床応答スペクトル II (EW方向)



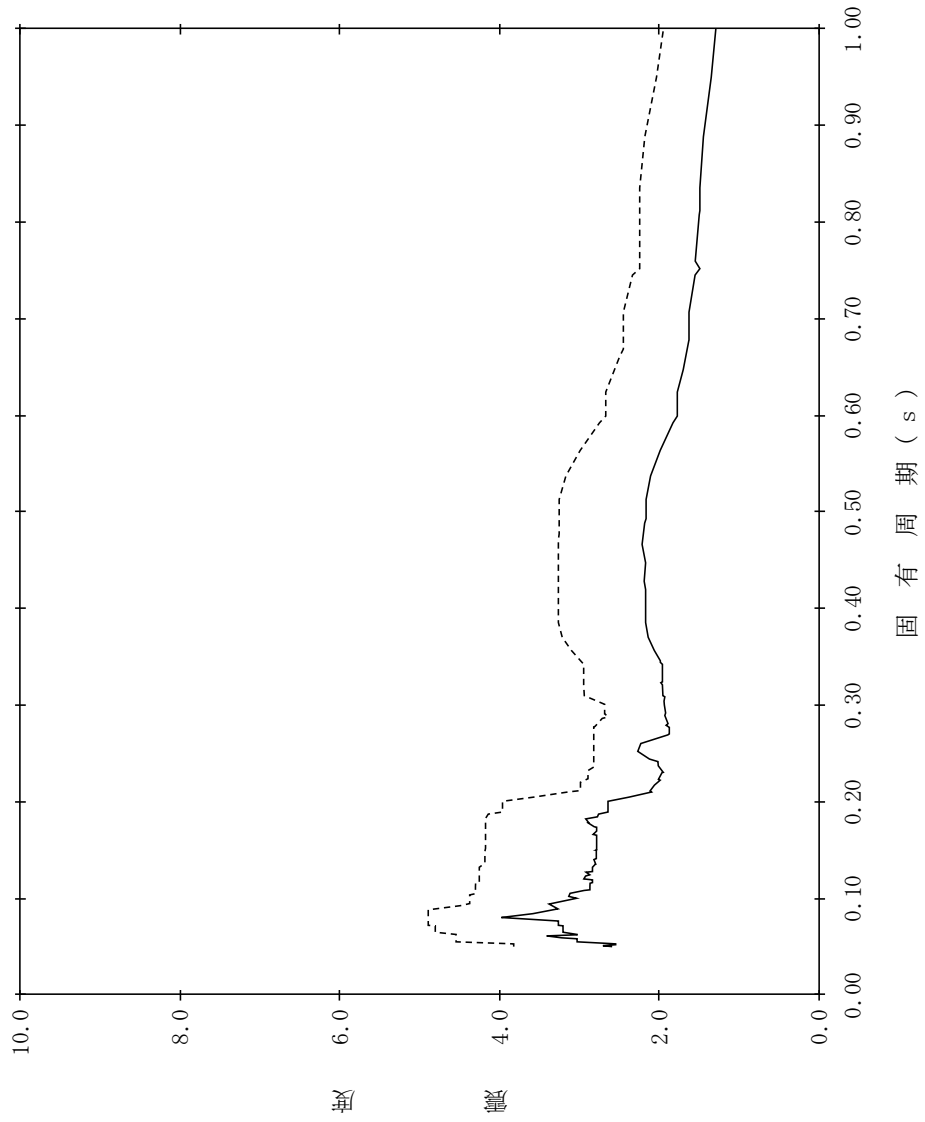
【NS2-TB-SsEW-TB67】

構造物名：タービン建物
標高：EL. 000m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-TB-SsEW-TB68】

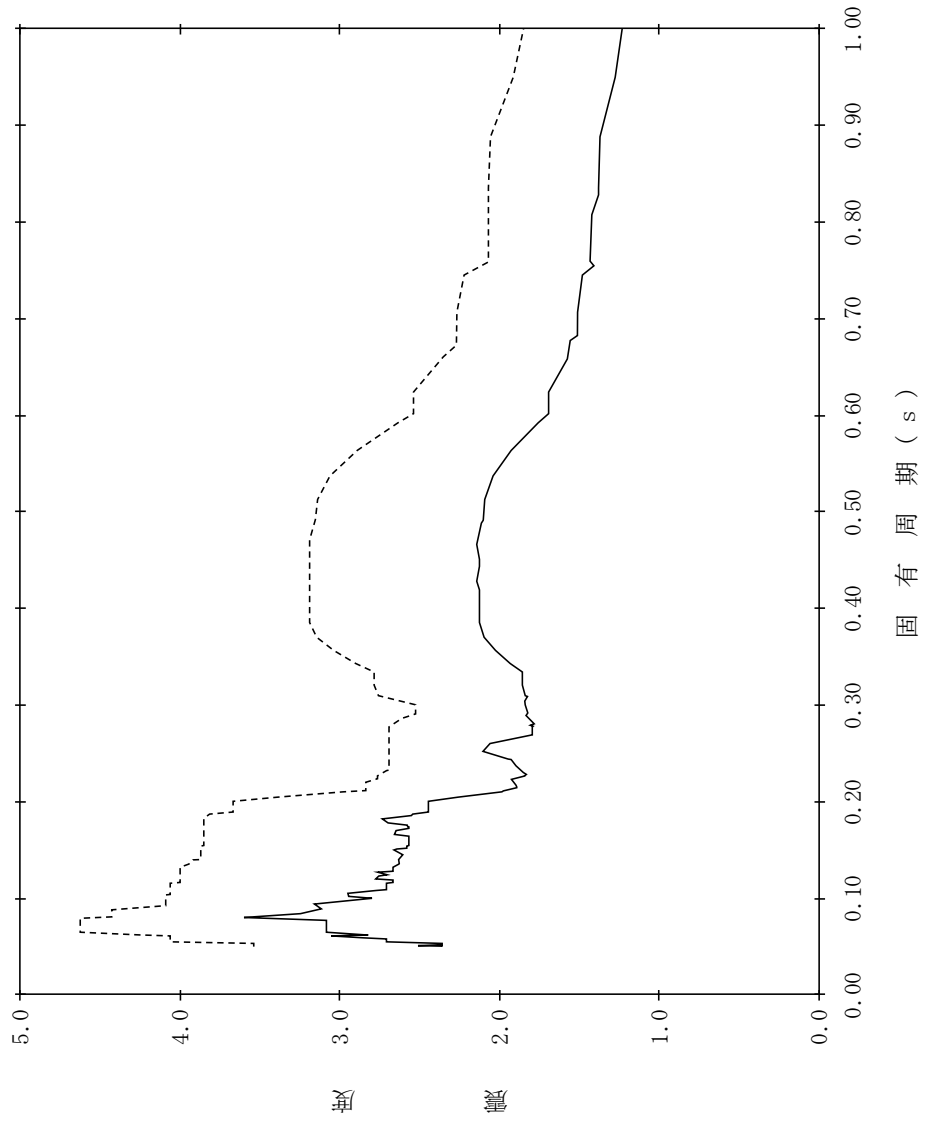
構造物名：タービン建物
標高：EL. 000m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (EW方向)
設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-TB-SsEW-TB69】

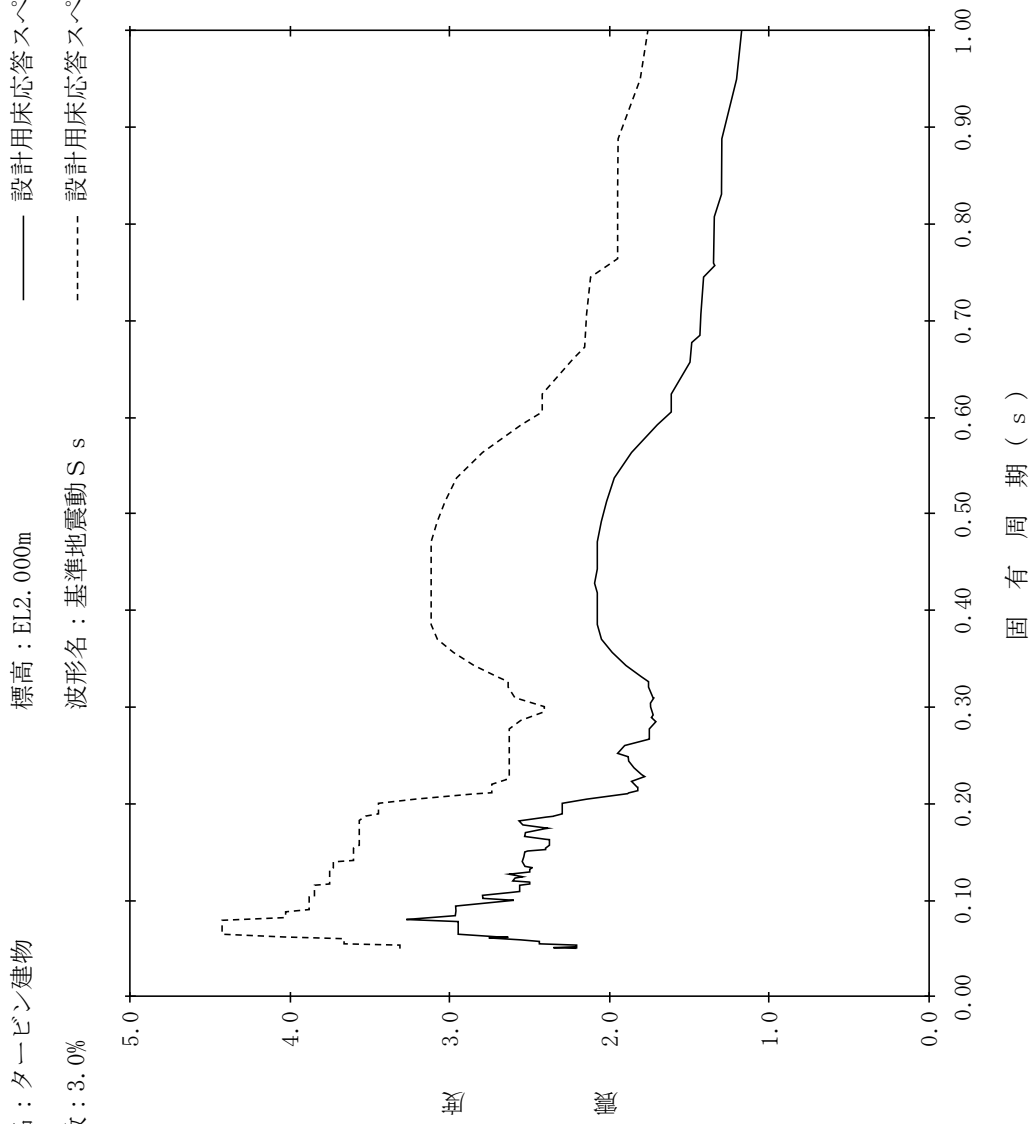
構造物名：タービン建物
標高：EL2.000m
減衰定数：2.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



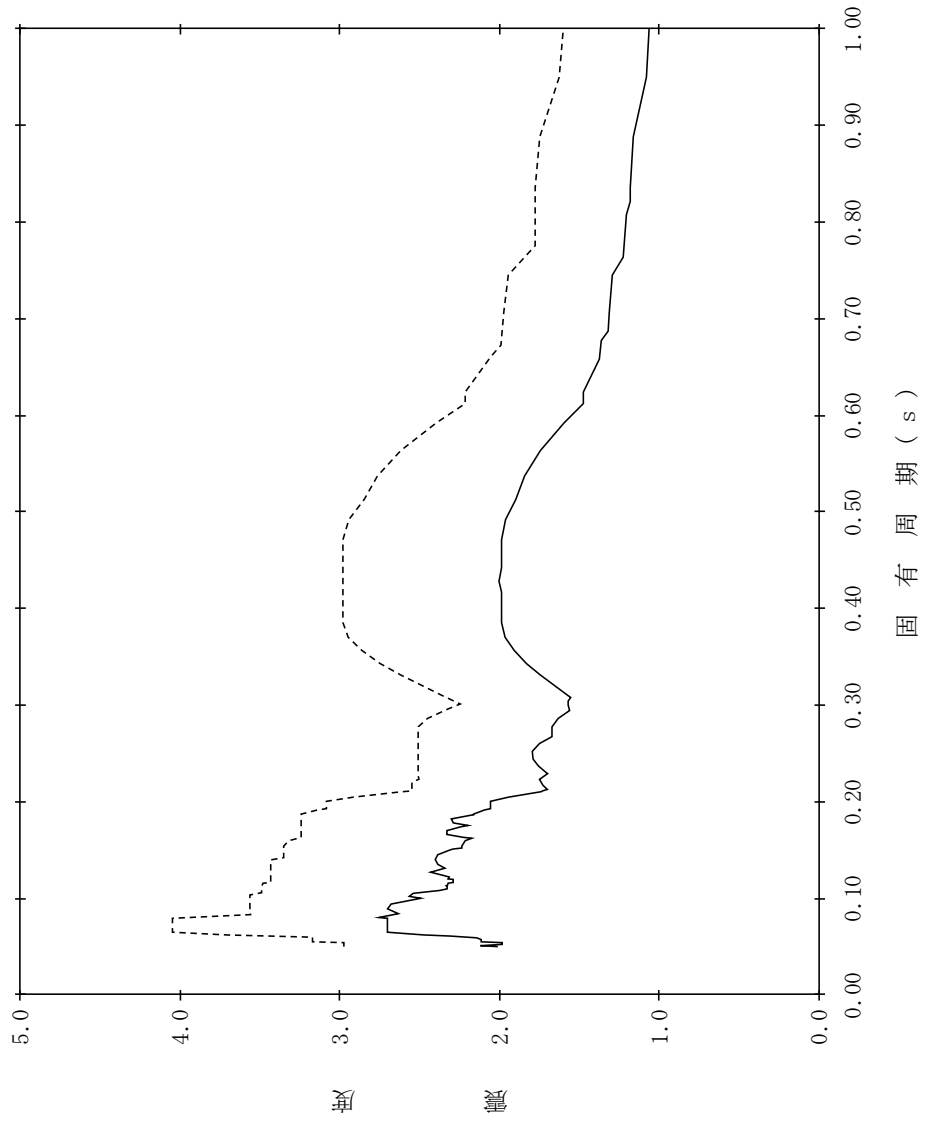
【NS2-TB-SsEW-TB70】

構造物名：タービン建物
 標高：EL2.000m
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：3.0%



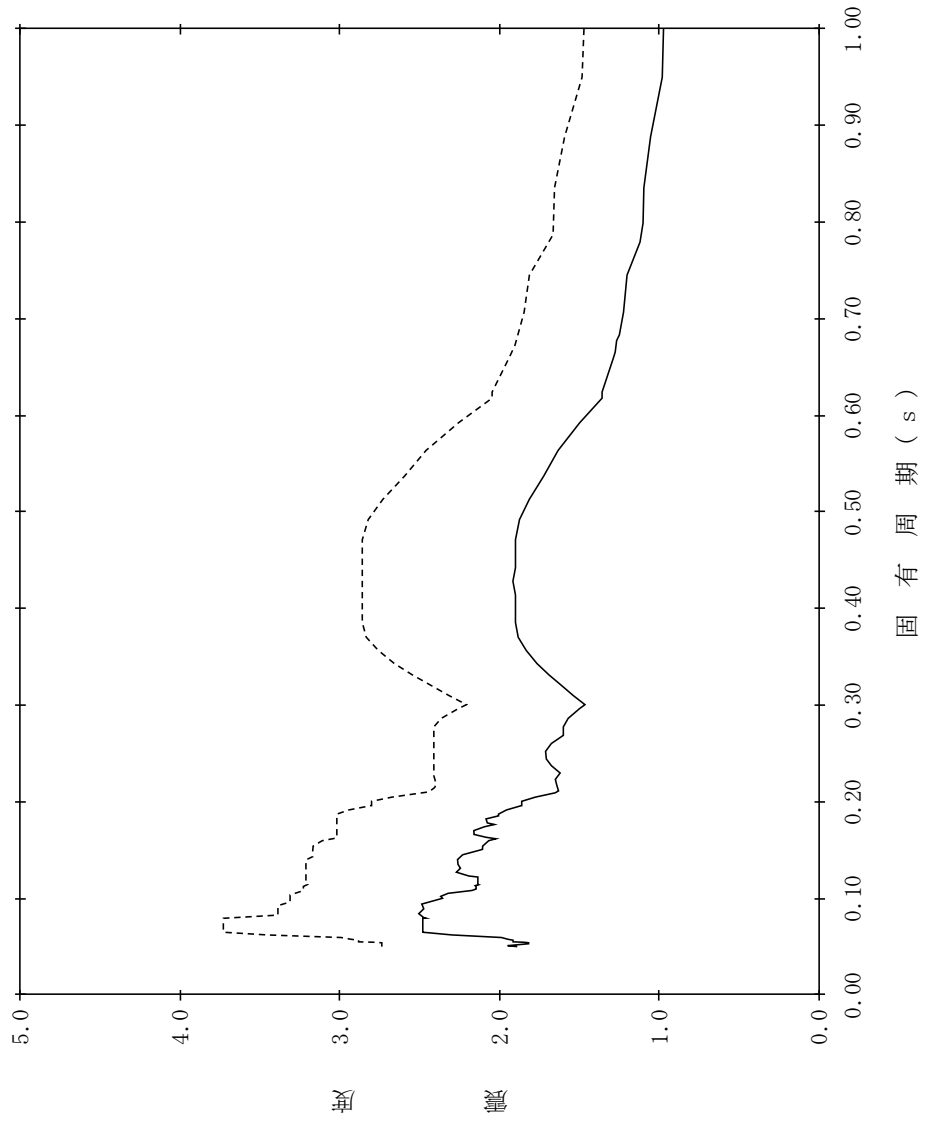
【NS2-TB-SsEW-TB71】

構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



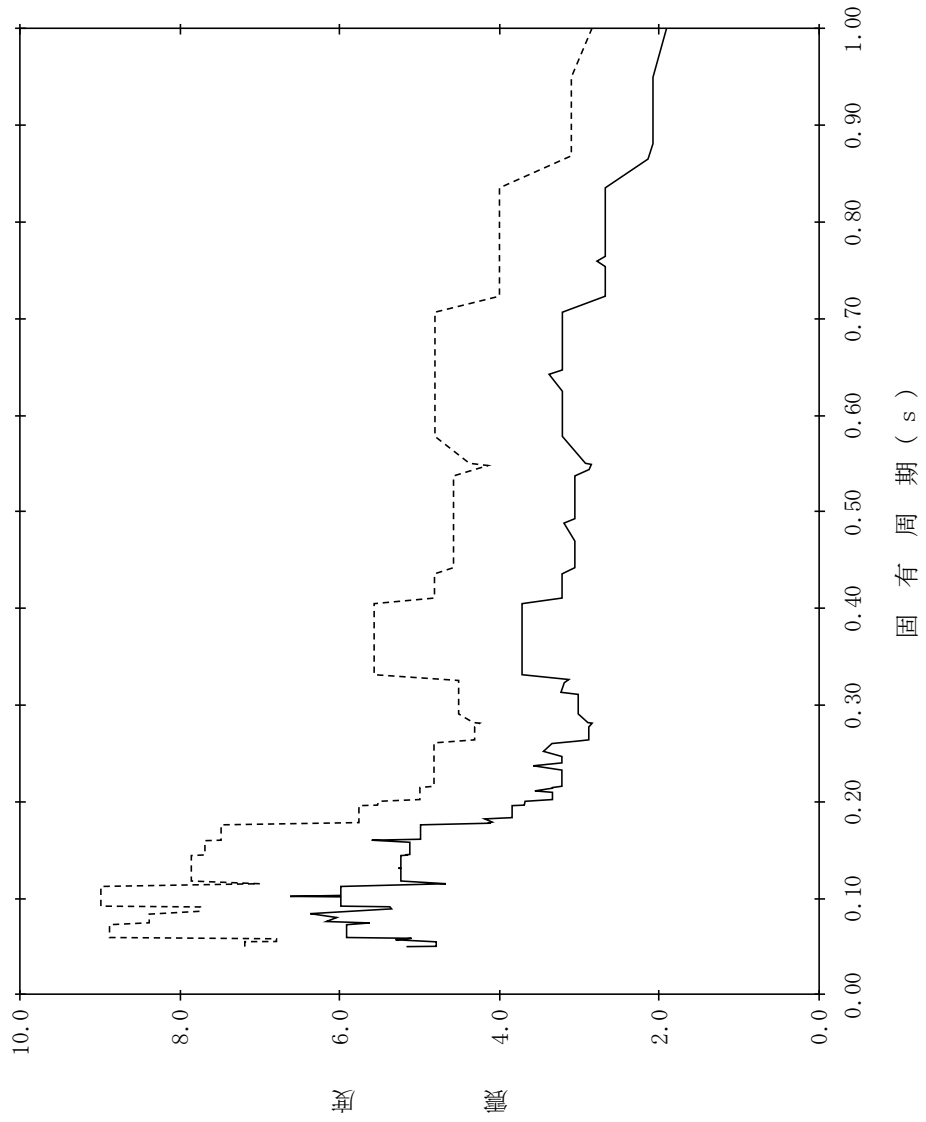
【NS2-TB-SsEW-TB72】

構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



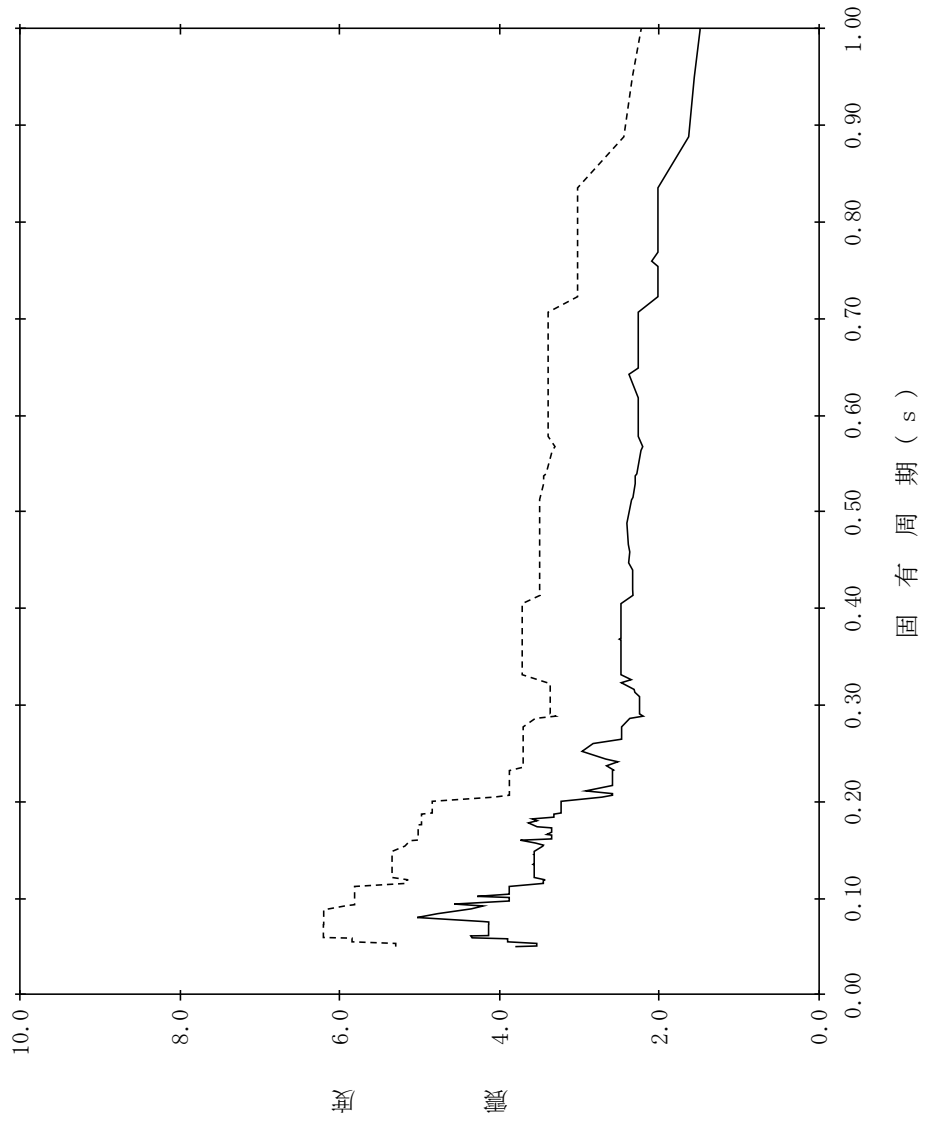
【NS2-TB-SsEW-TB73】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



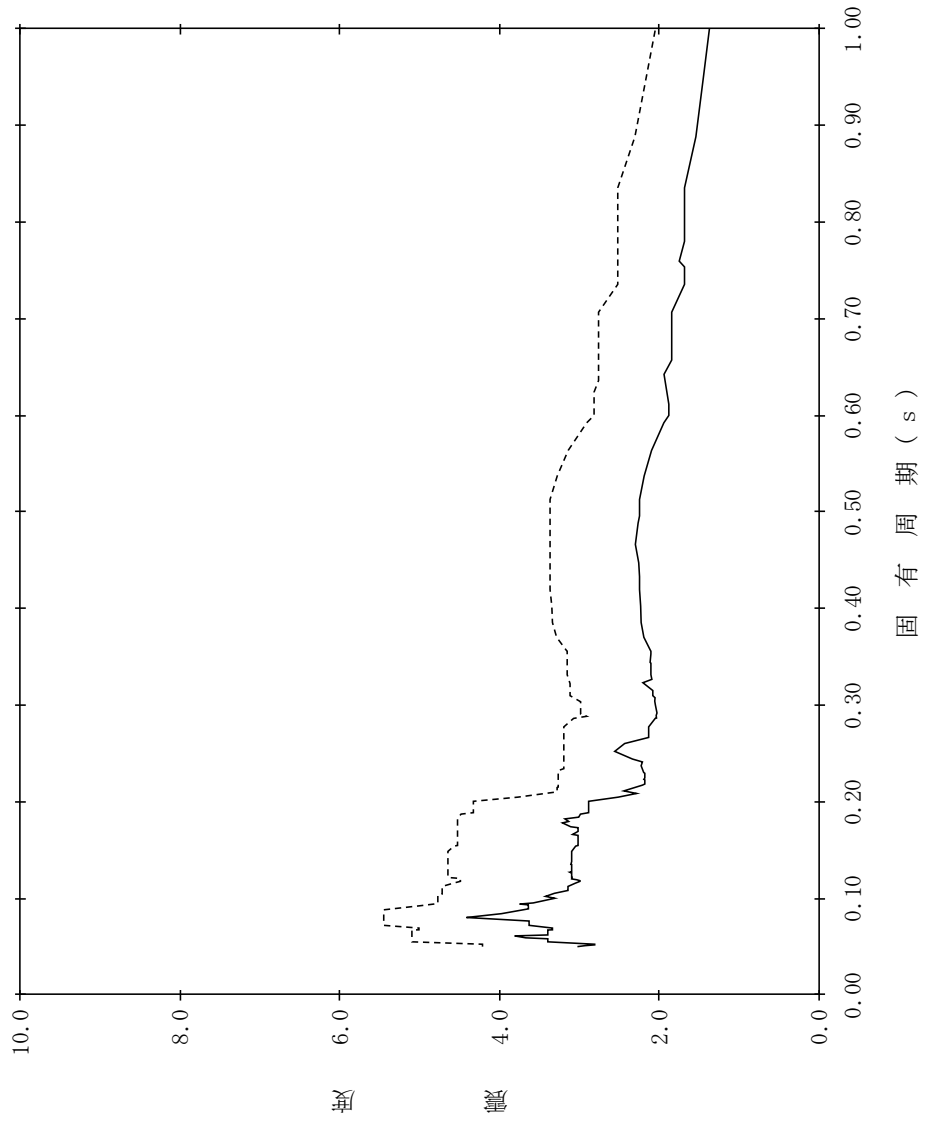
【NS2-TB-SsEW-TB74】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



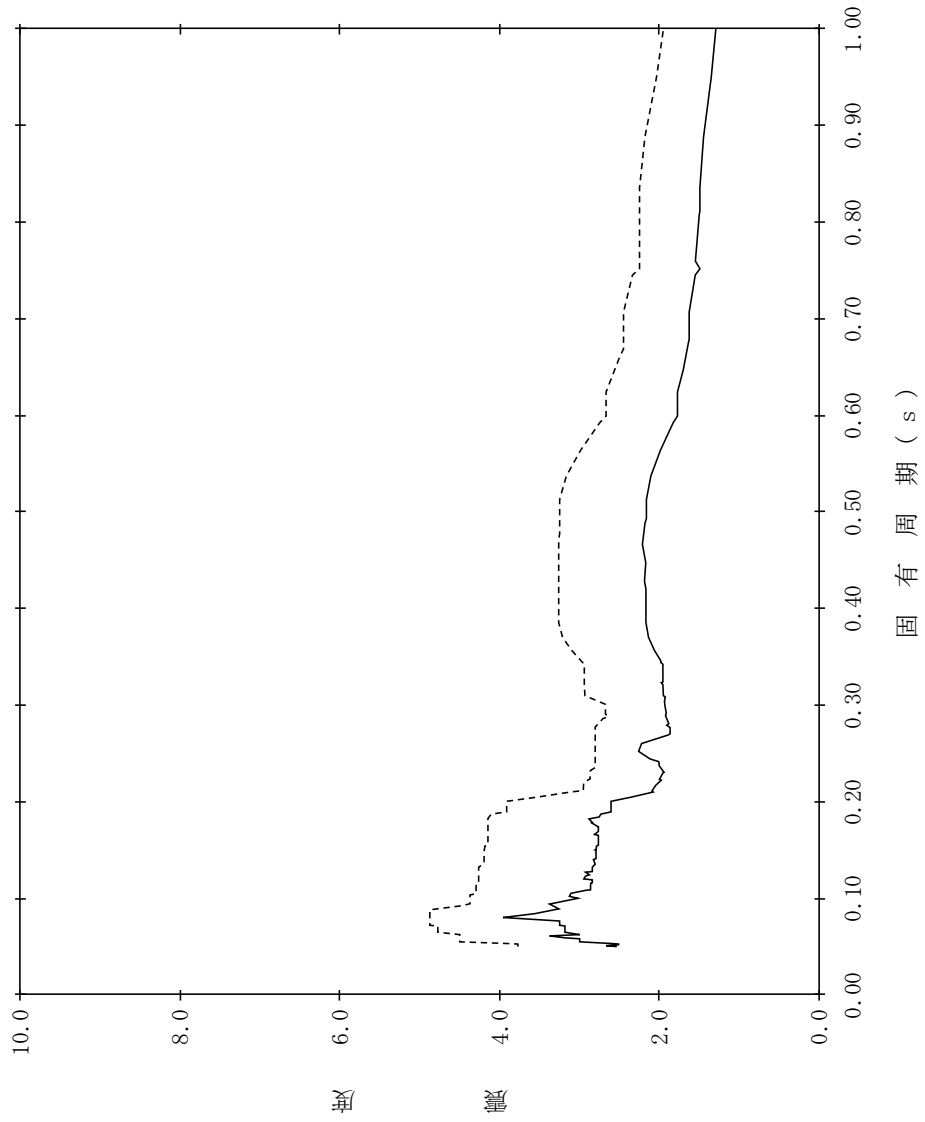
【NS2-TB-SsEW-TB75】

構造物名：タービン建物
標高：EL0.000m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-TB-SsEW-TB76】

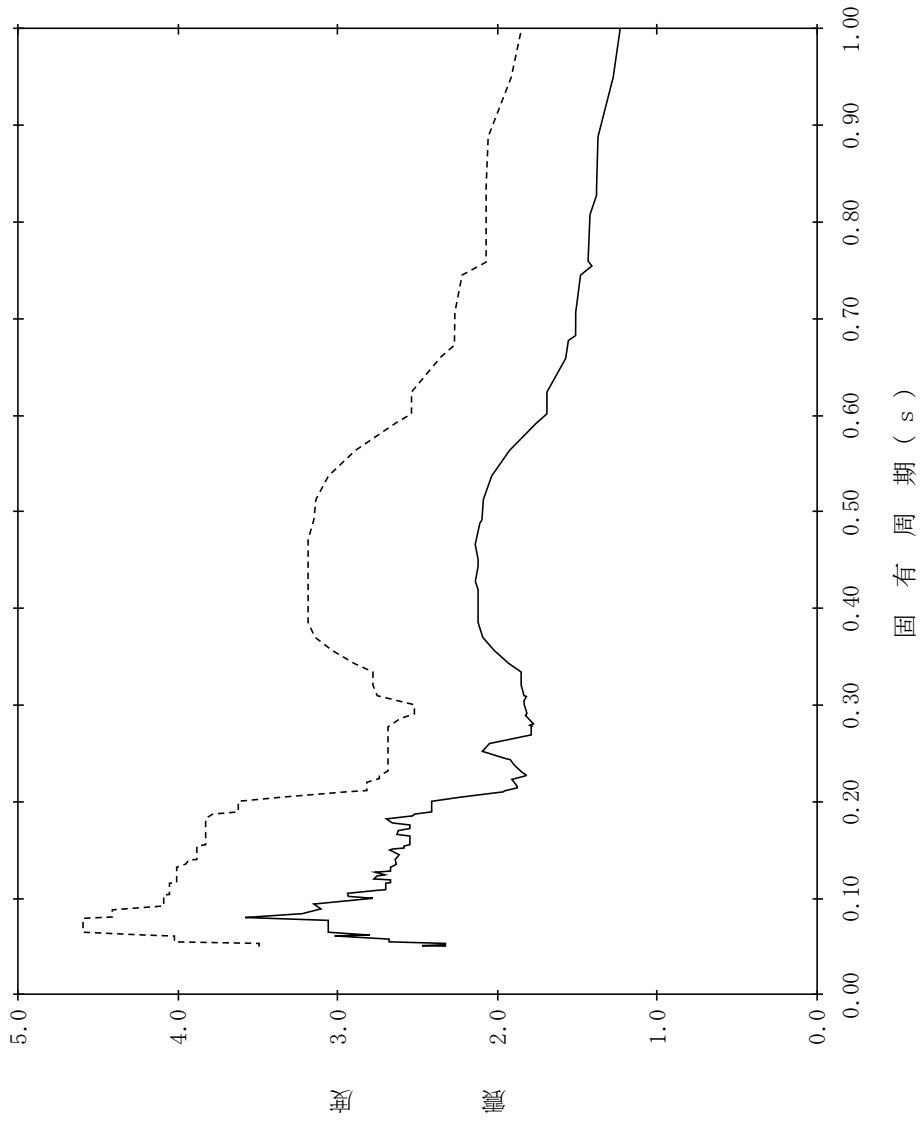
構造物名：タービン建物
標高：EL0.000m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (EW方向)
設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-TB-SsEW-TB77】

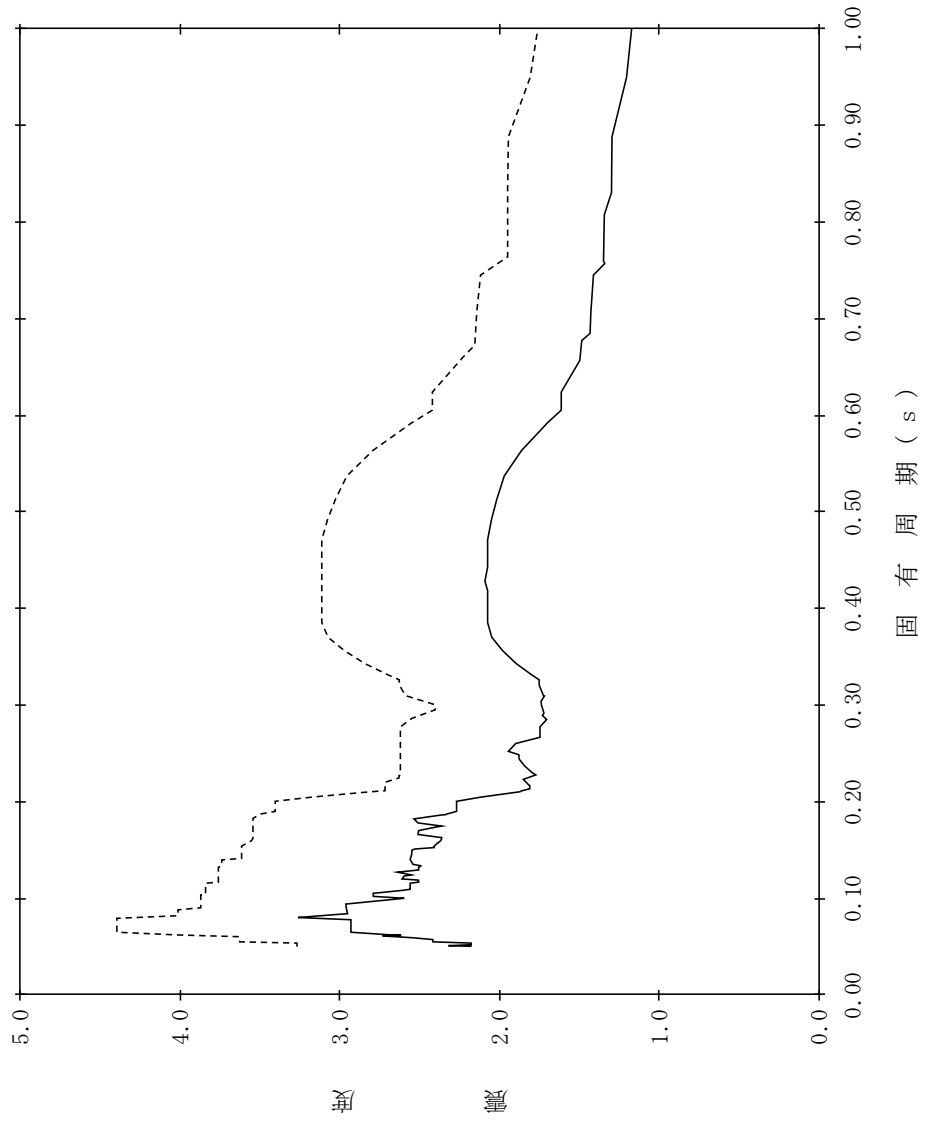
構造物名：タービン建物
標高：EL0.000m
減衰定数：2.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

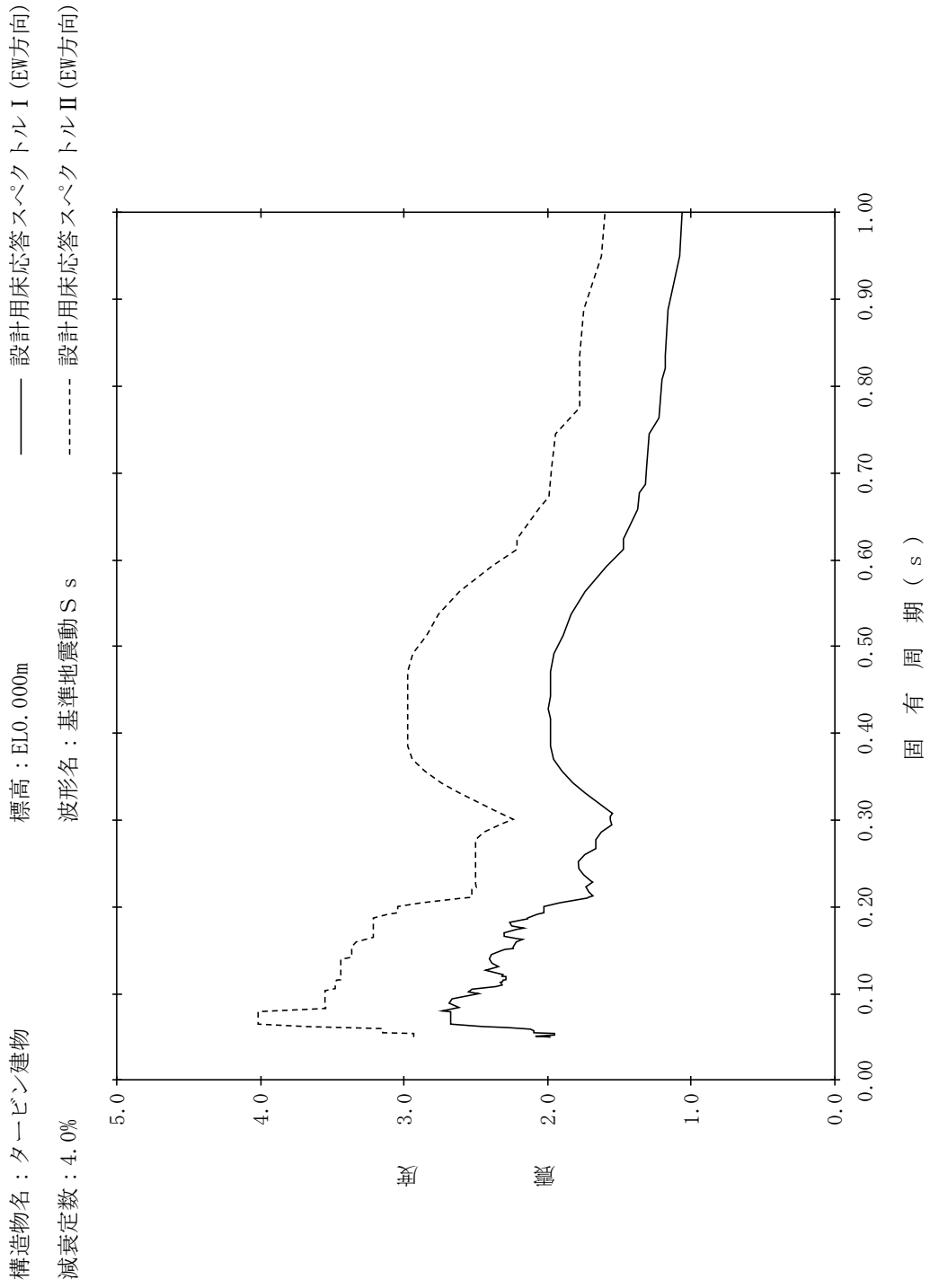


【NS2-TB-SsEW-TB78】

構造物名：タービン建物
標高：EL0.000m
減衰定数：3.0%
波形式：標準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (EW方向)
設計用床応答スペクトル II (EW方向)

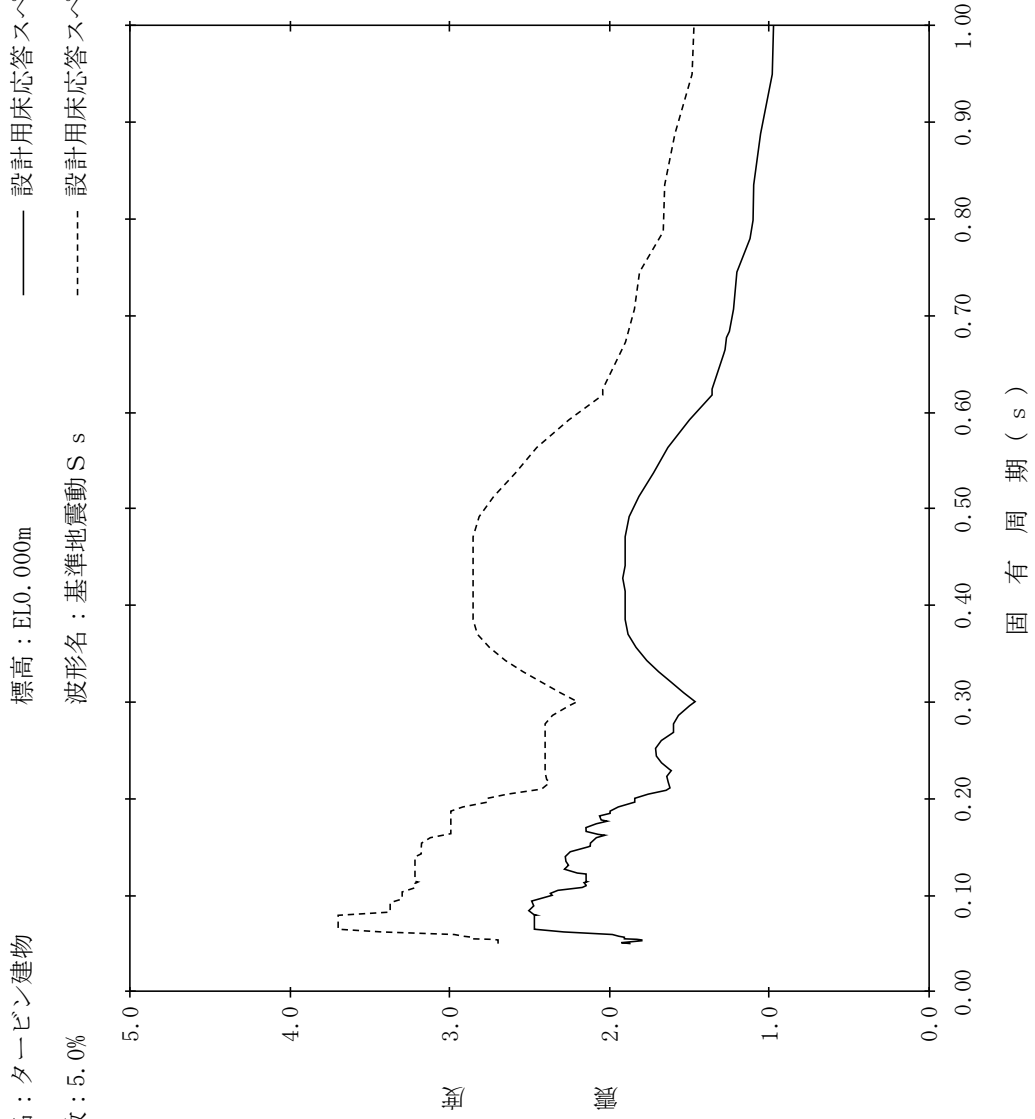


【NS2-TB-SsEW-TB79】



【NS2-TB-SsEW-TB80】

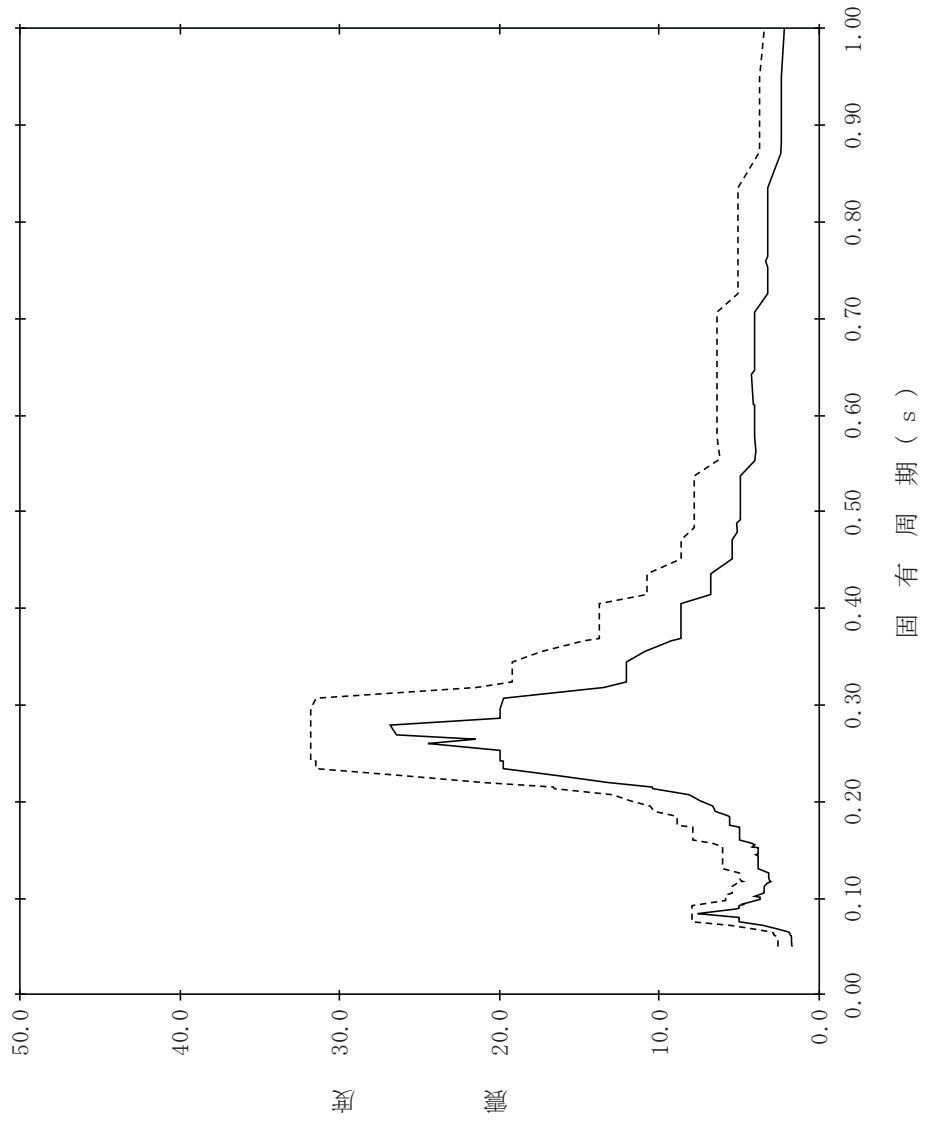
構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：5.0%



【NS2-TB-SsEW-TG81】

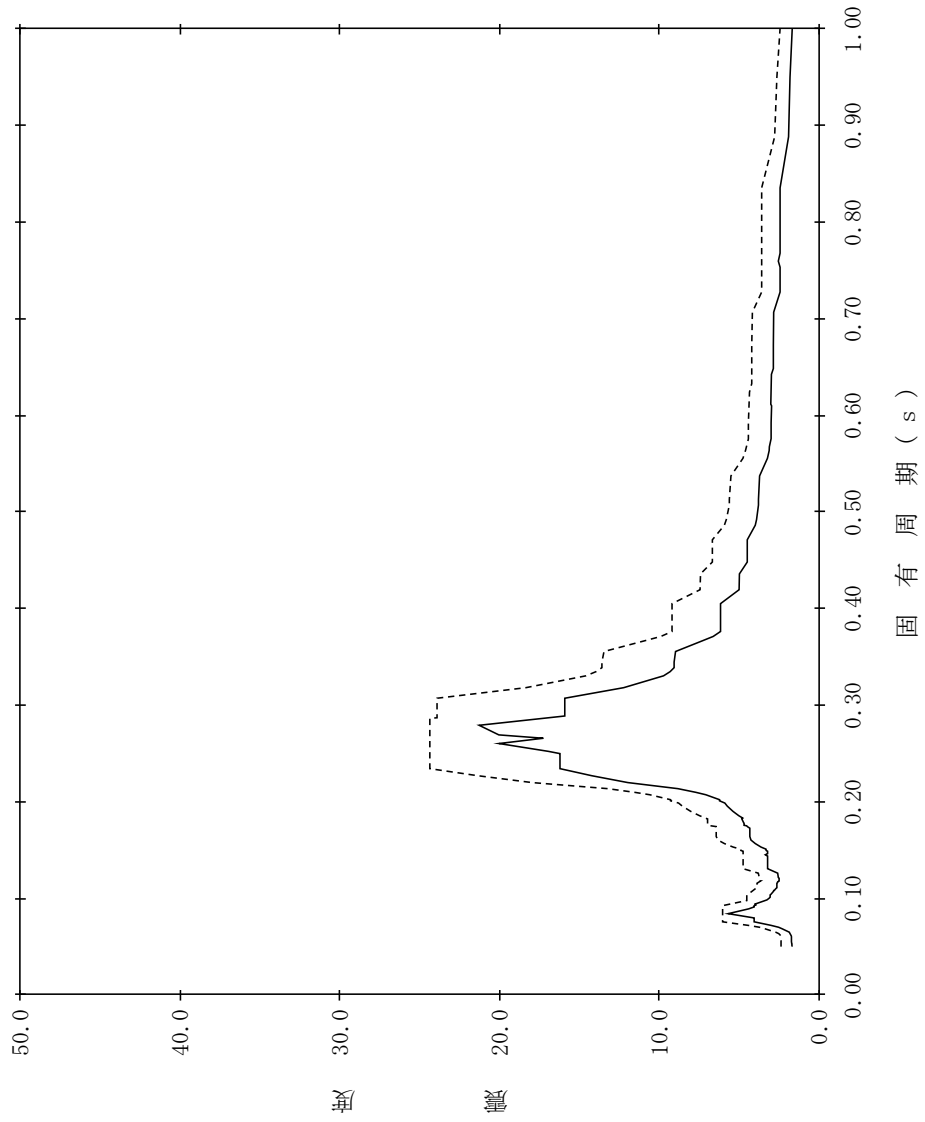
構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：0.5%

——— 設計用床応答スペクトルⅠ (EW方向)
 - - - - - 設計用床応答スペクトルⅡ (EW方向)



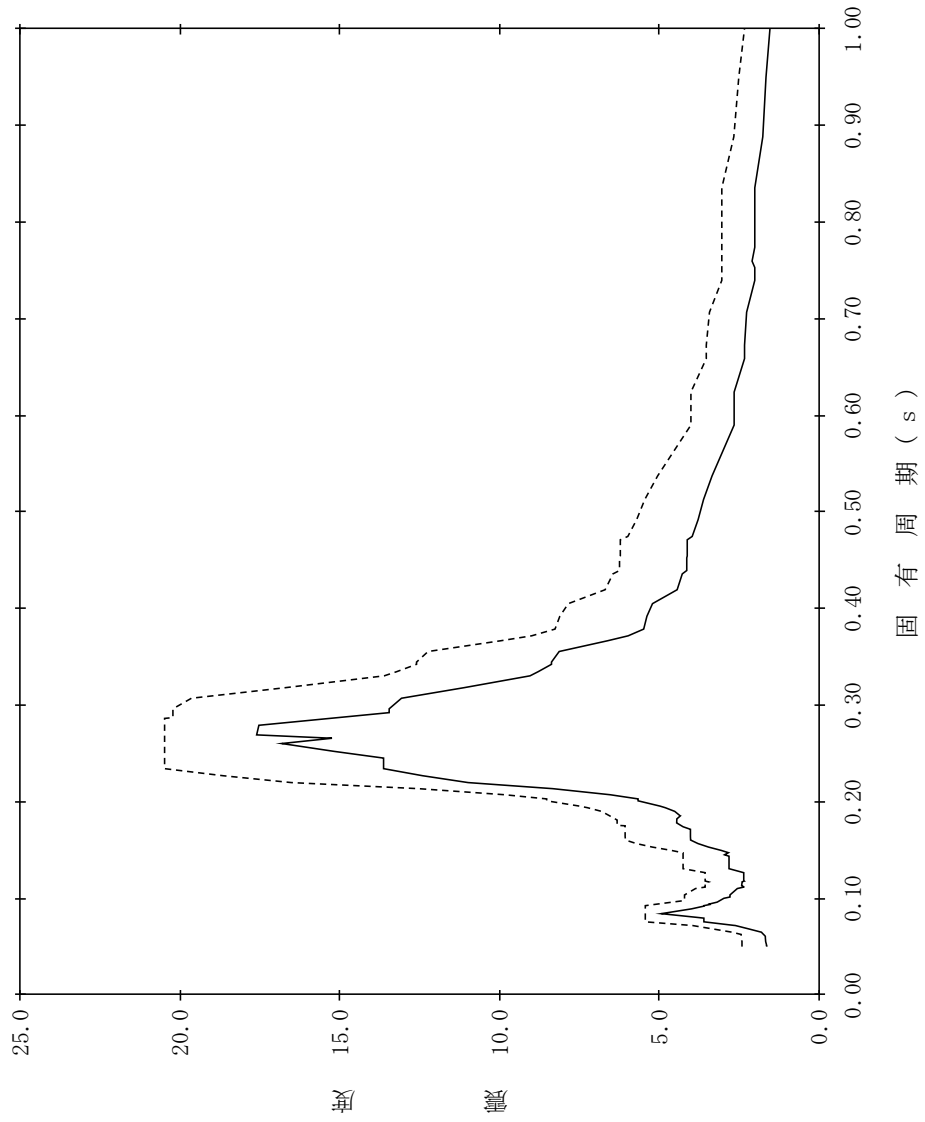
【NS2-TB-SsEW-TG82】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL20.480m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



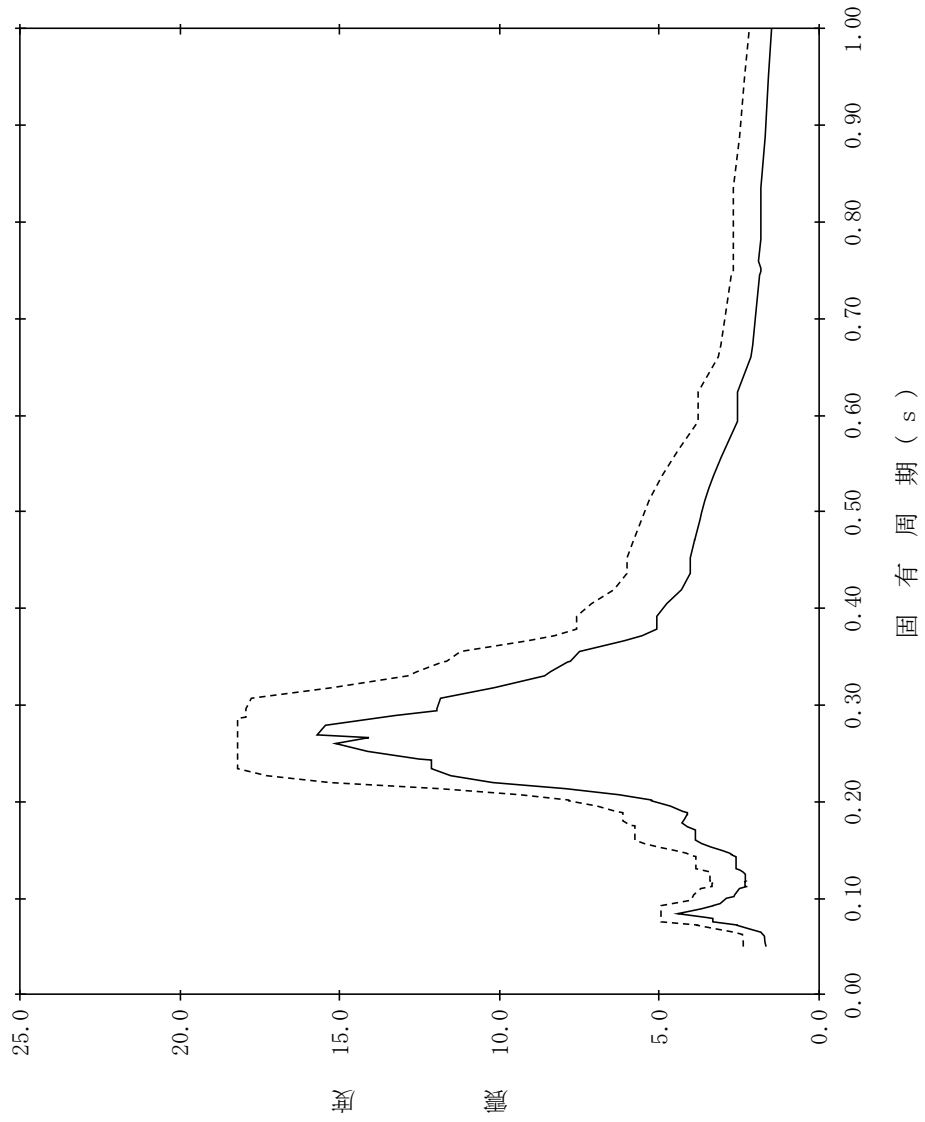
【NS2-TB-SsEW-TG83】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



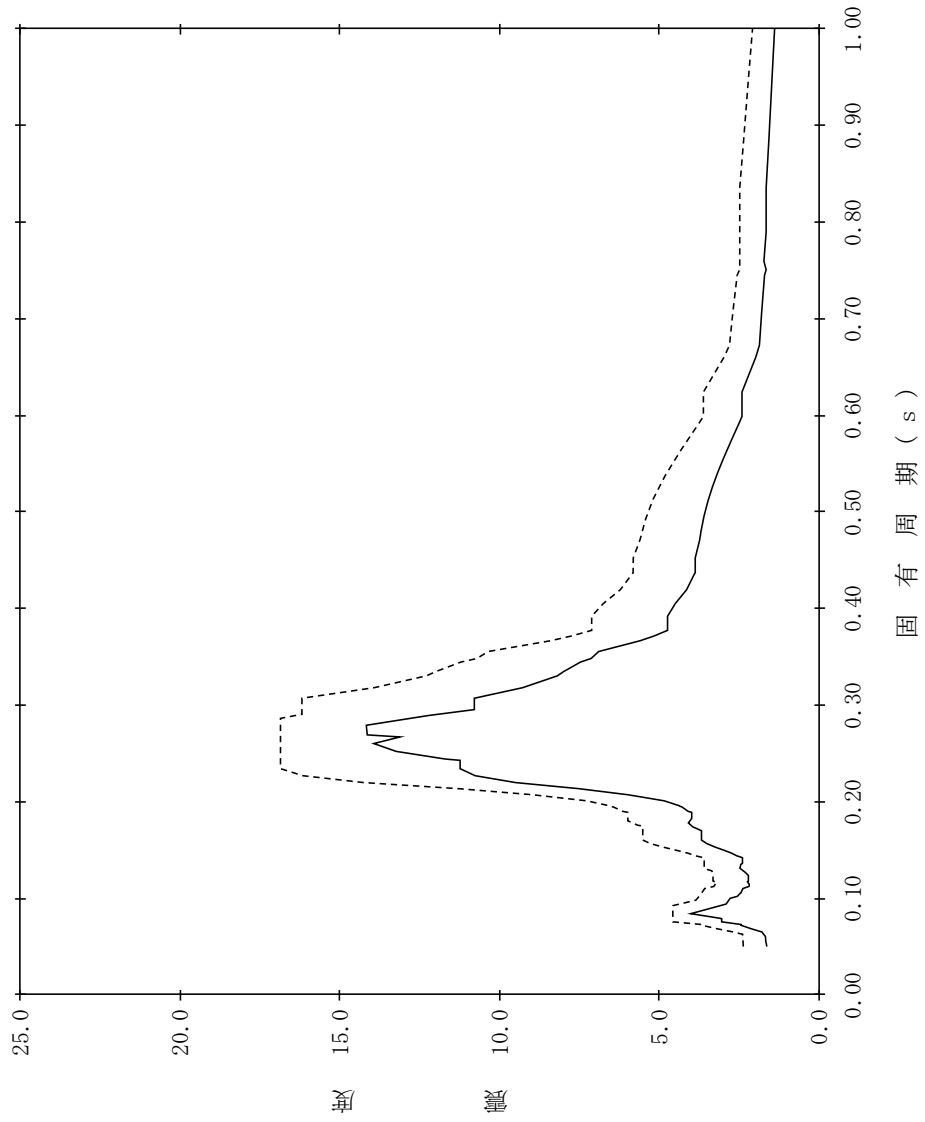
【NS2-TB-SsEW-TG84】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL20.480m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



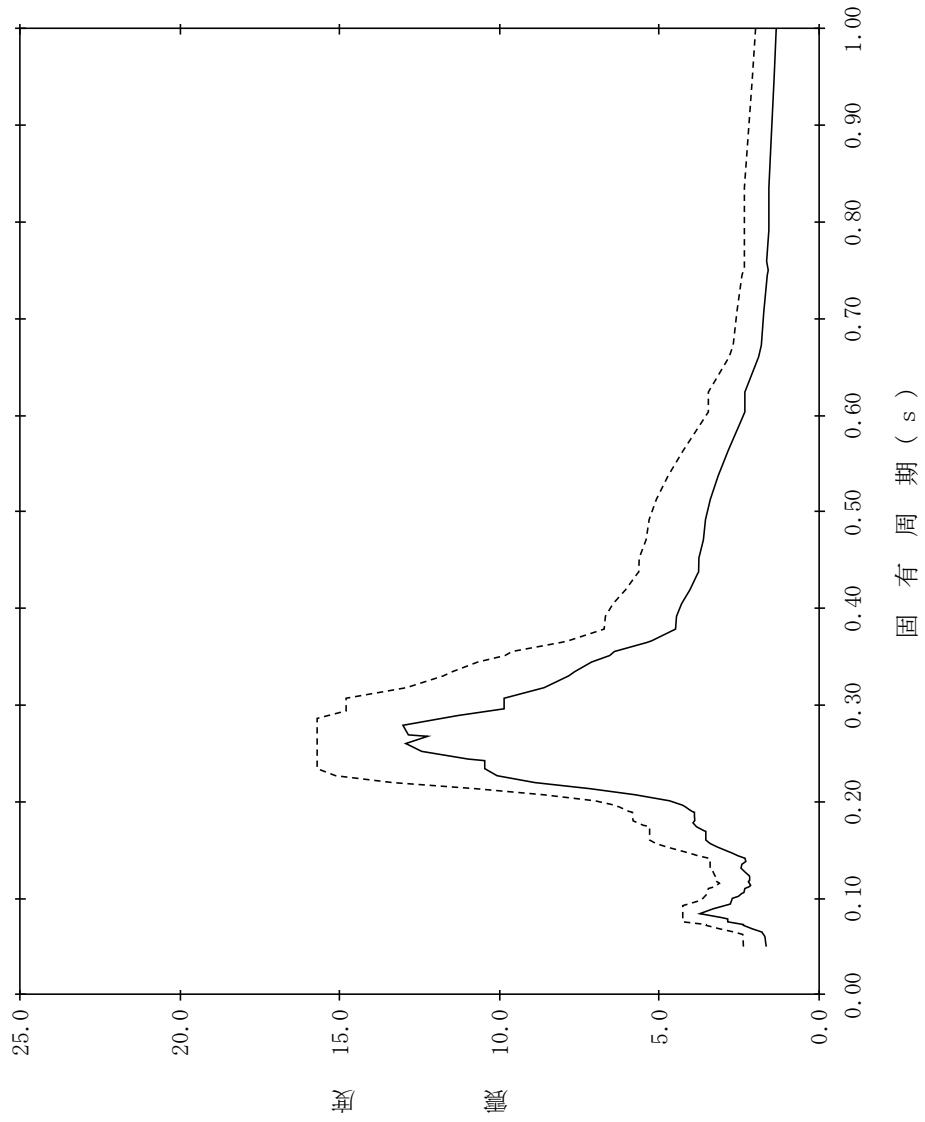
【NS2-TB-SsEW-TG85】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



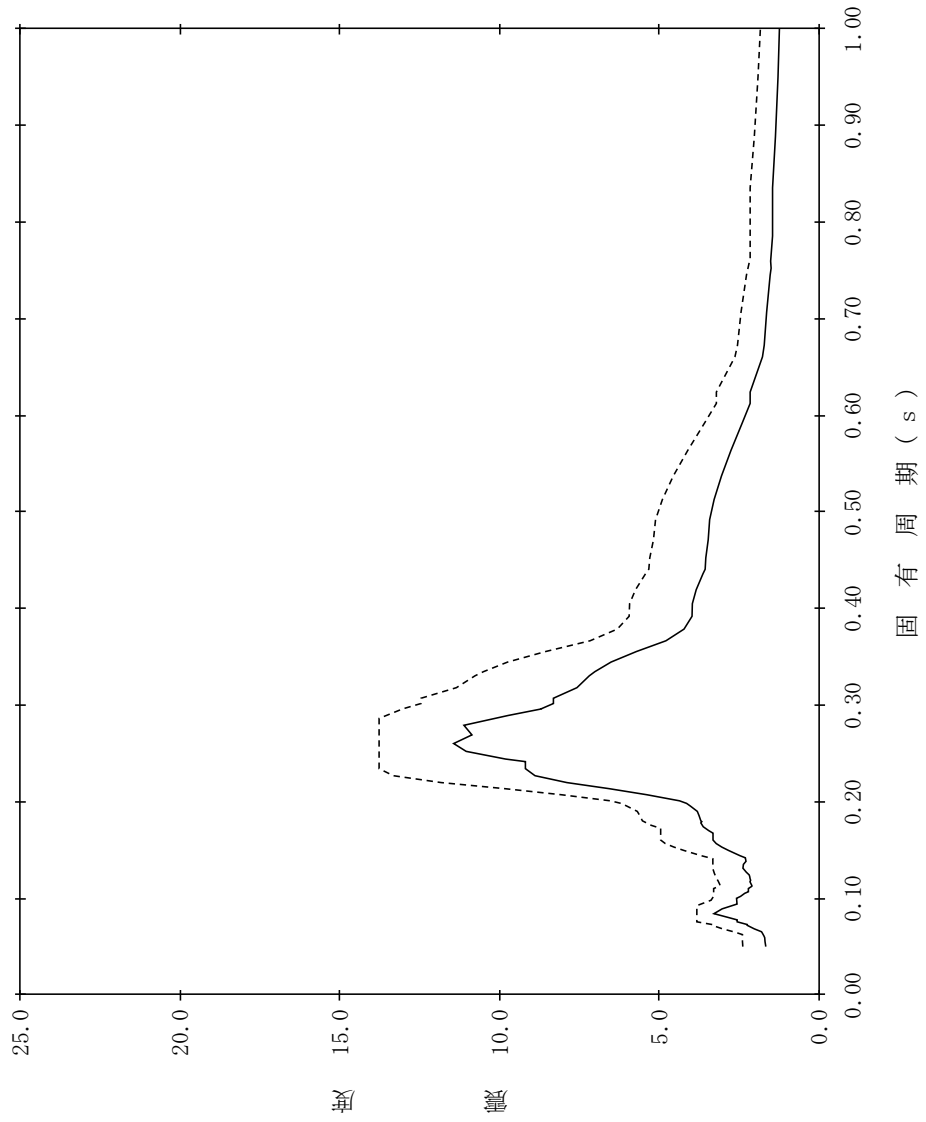
【NS2-TB-SsEW-TG86】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



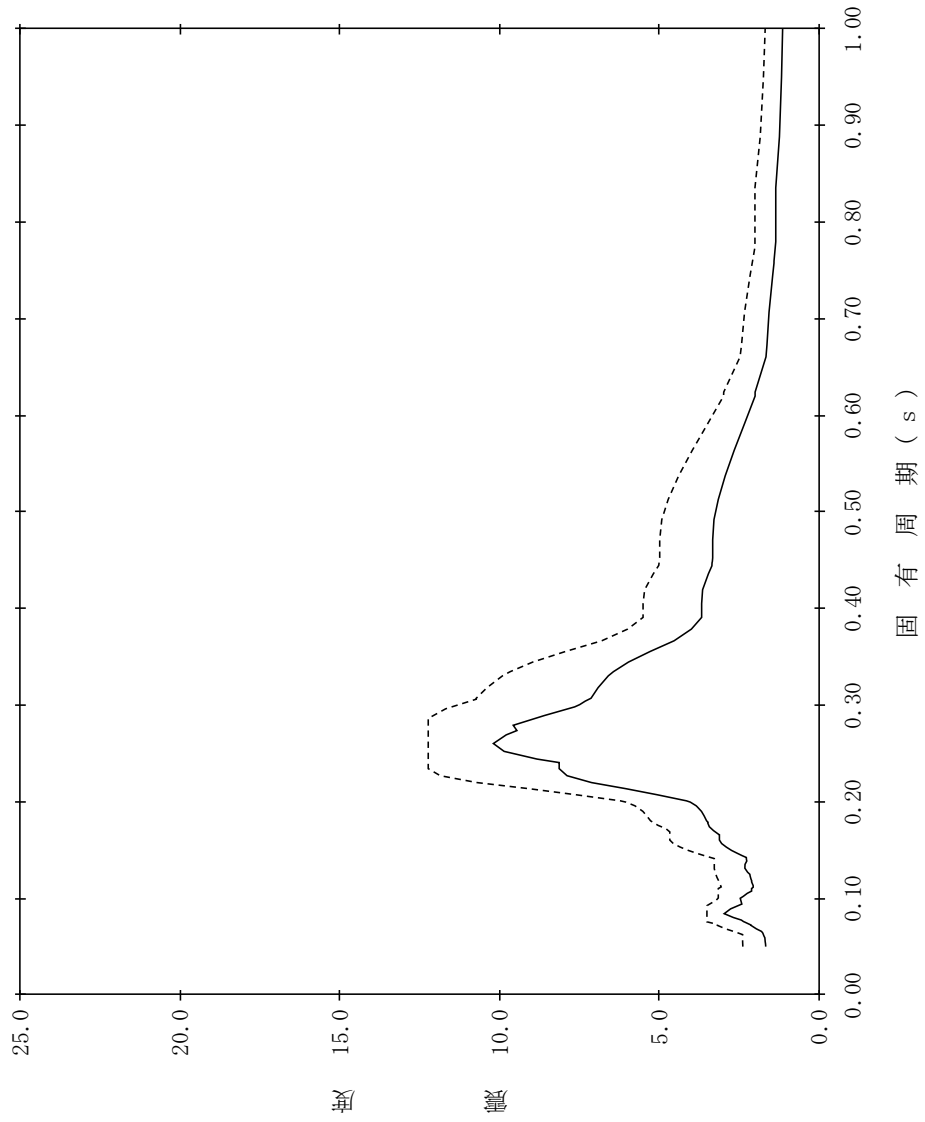
【NS2-TB-SsEW-TG87】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



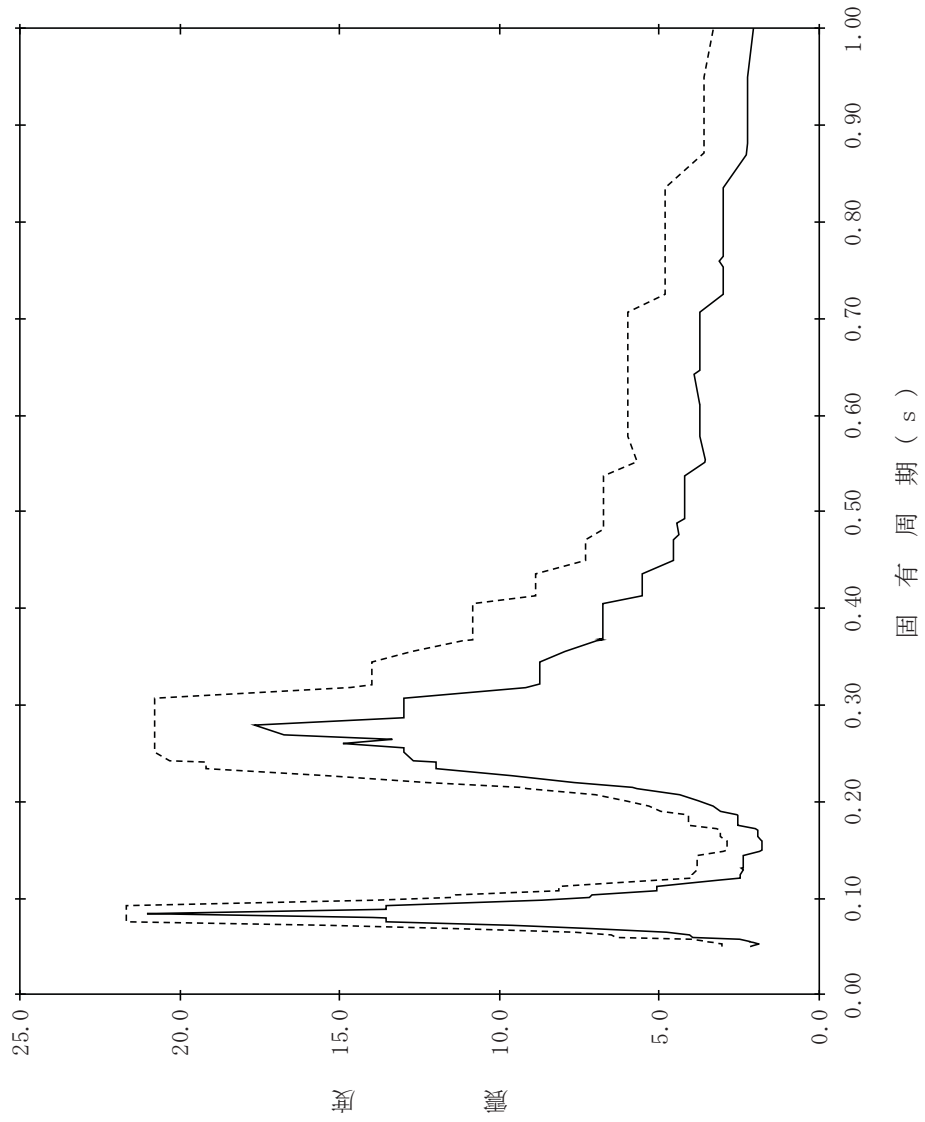
【NS2-TB-SsEW-TG88】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



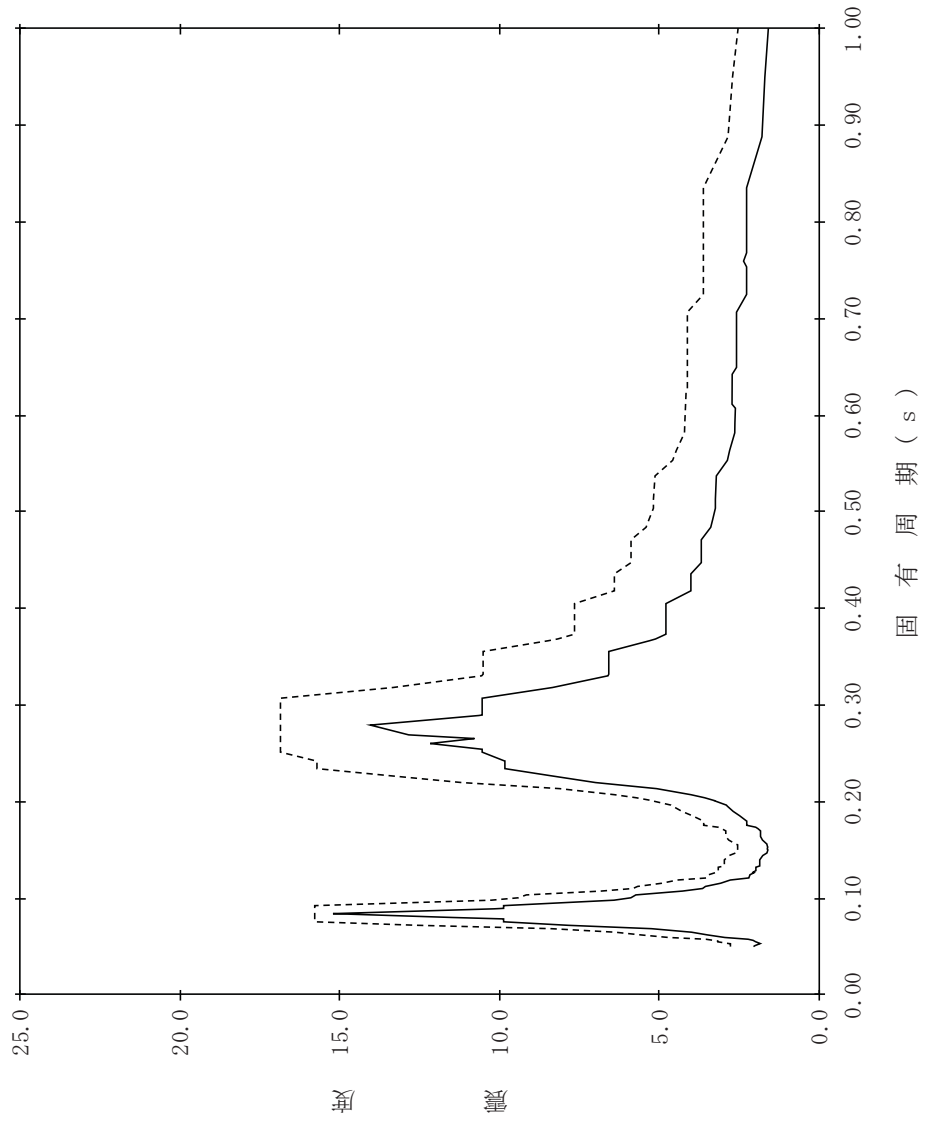
【NS2-TB-SsEW-TG89】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



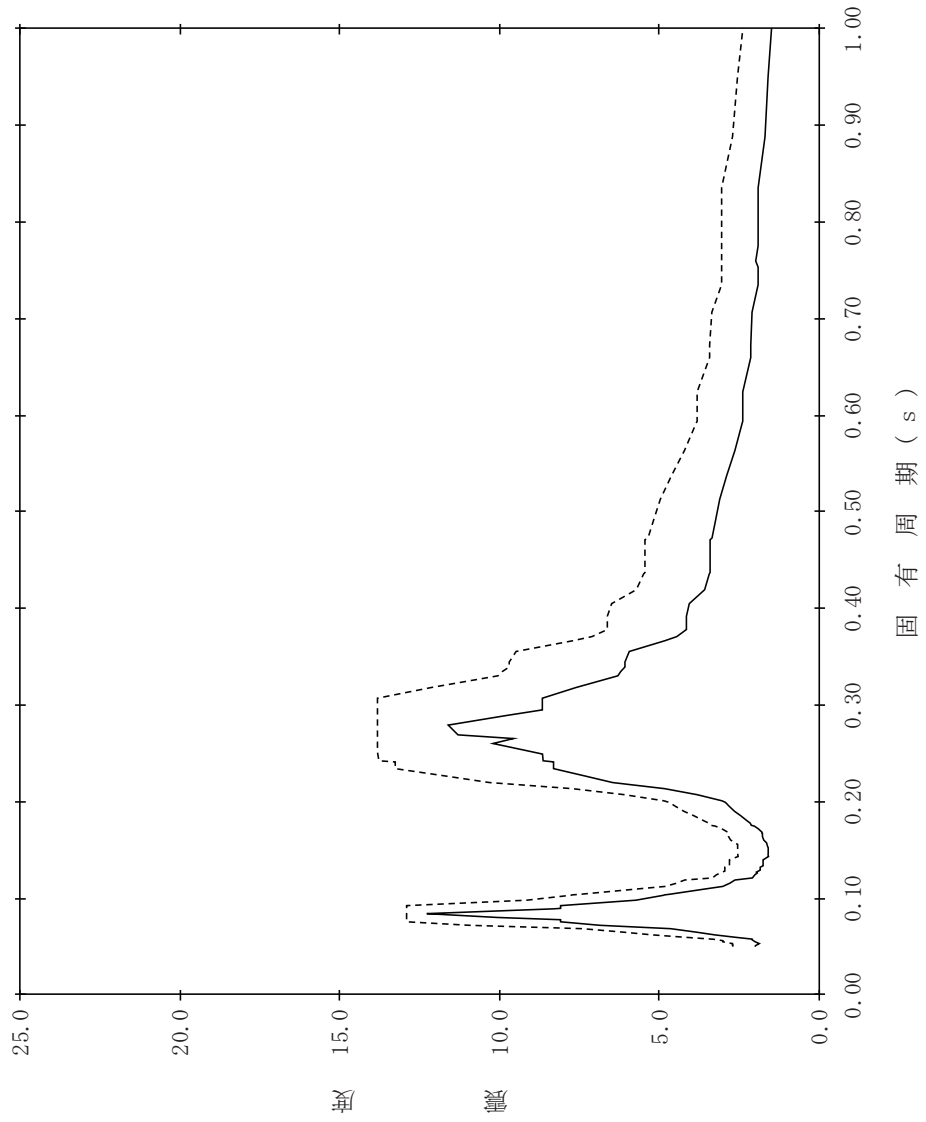
【NS2-TB-SsEW-TG90】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



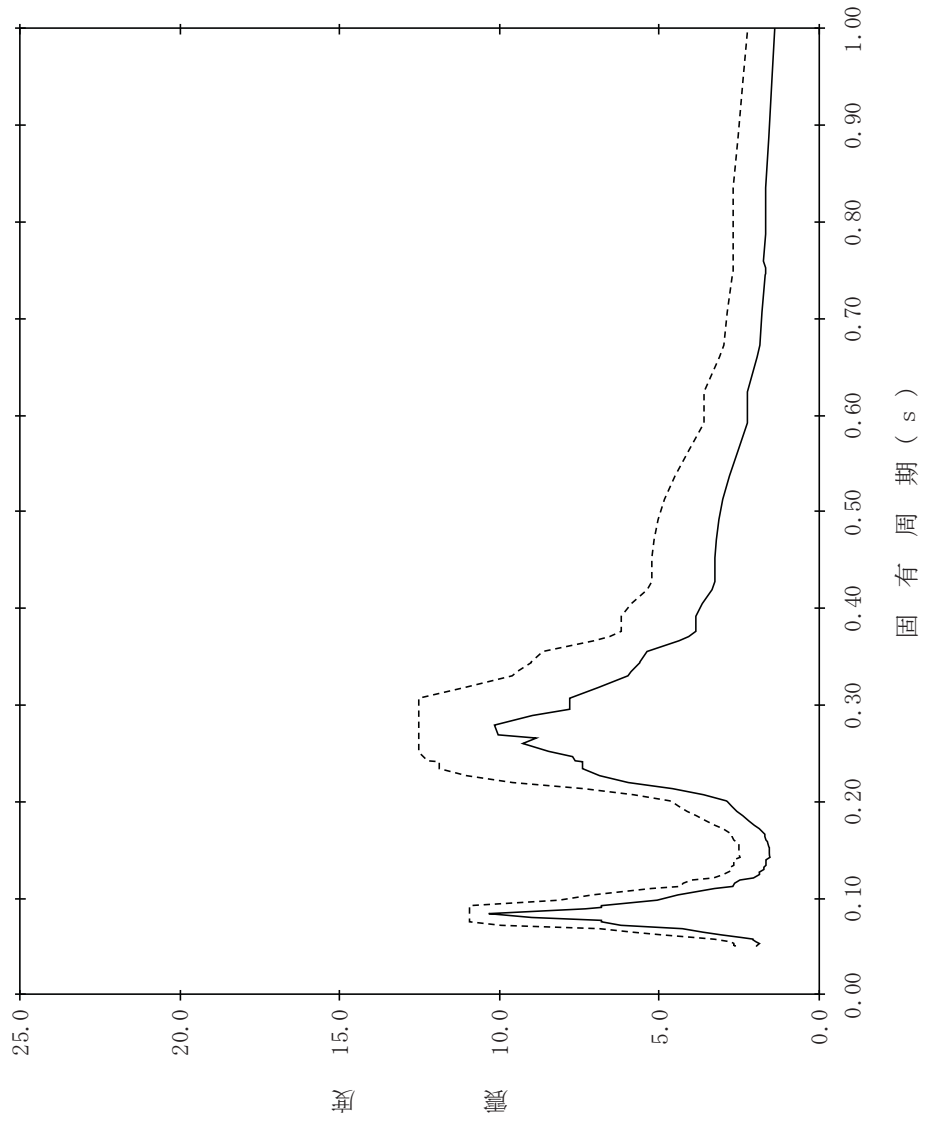
【NS2-TB-SsEW-TG91】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL13.000m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (EW方向)
設計用床応答スペクトル II (EW方向)



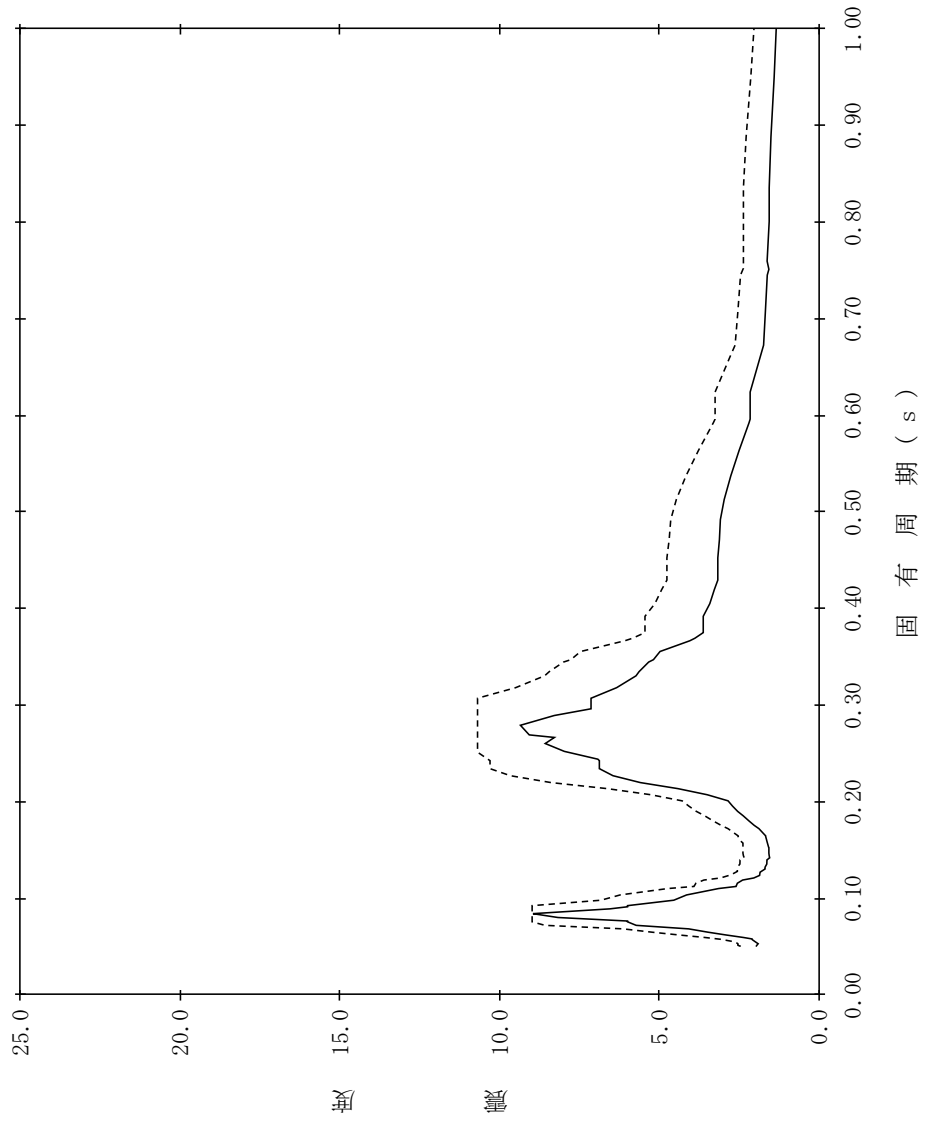
【NS2-TB-SsEW-TG92】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL13.000m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



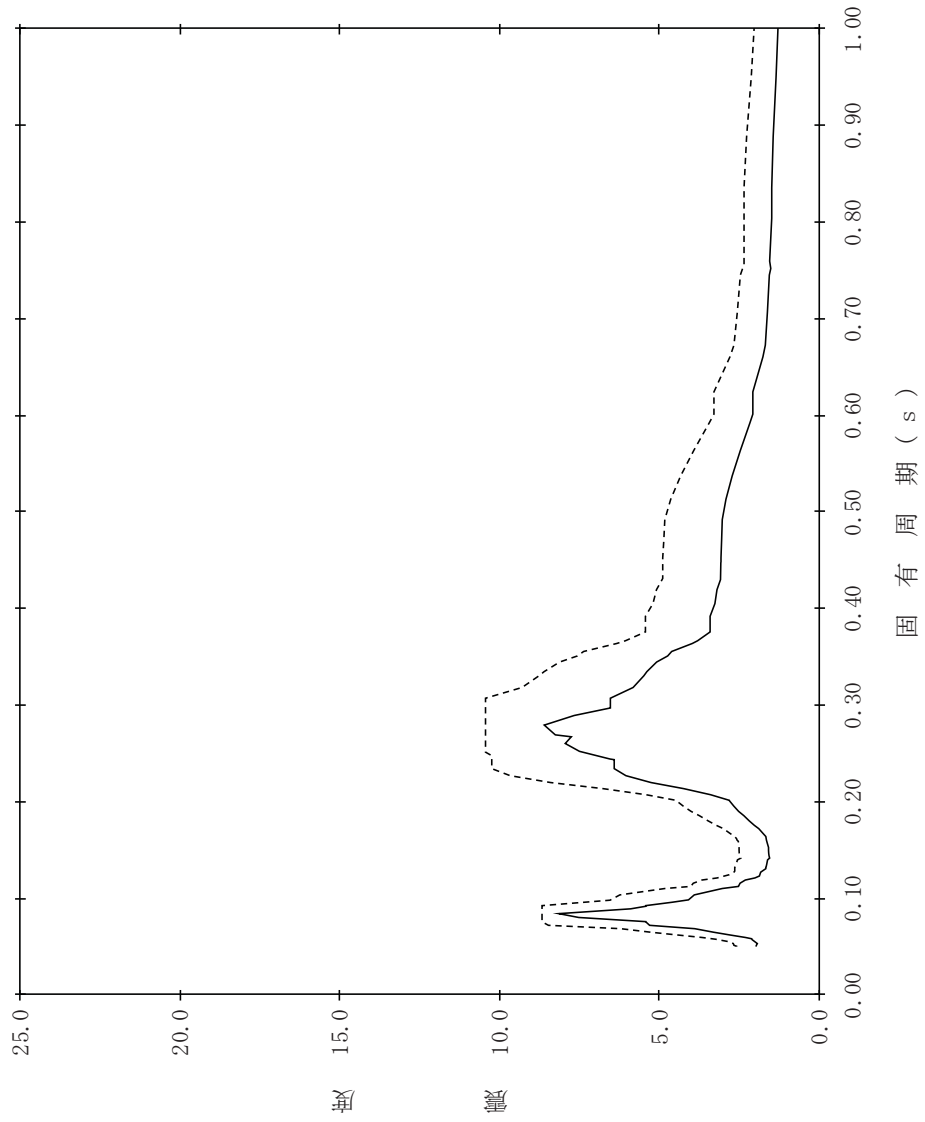
【NS2-TB-SsEW-TG93】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



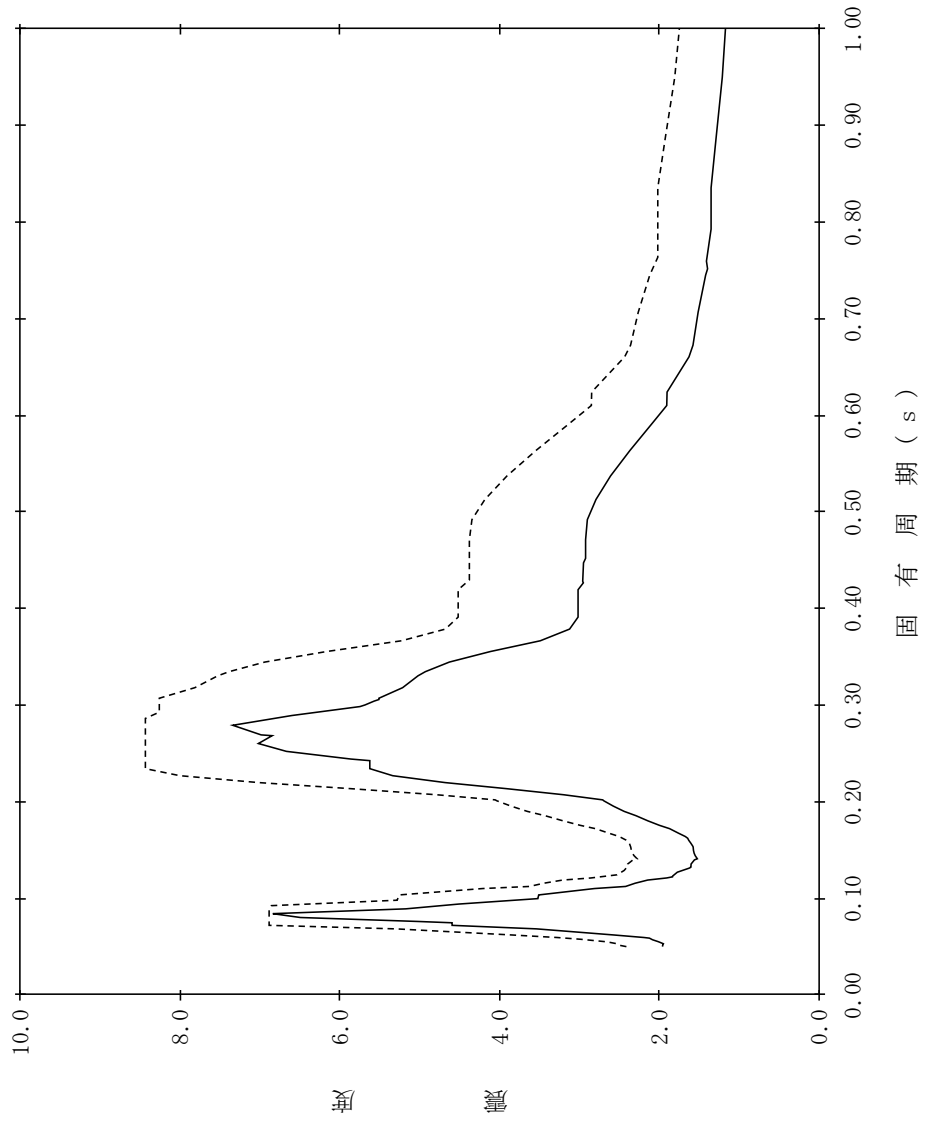
【NS2-TB-SsEW-TG94】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



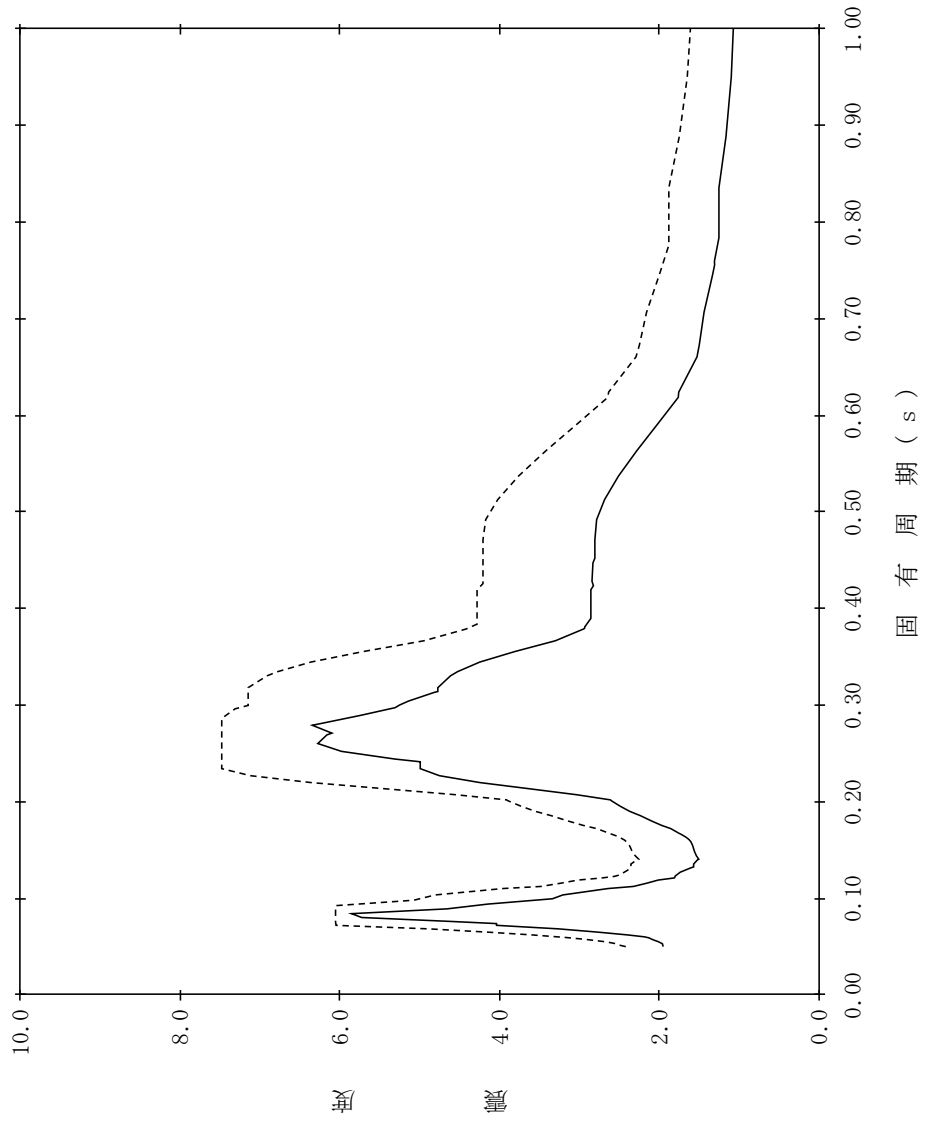
【NS2-TB-SsEW-TG95】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL13.000m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



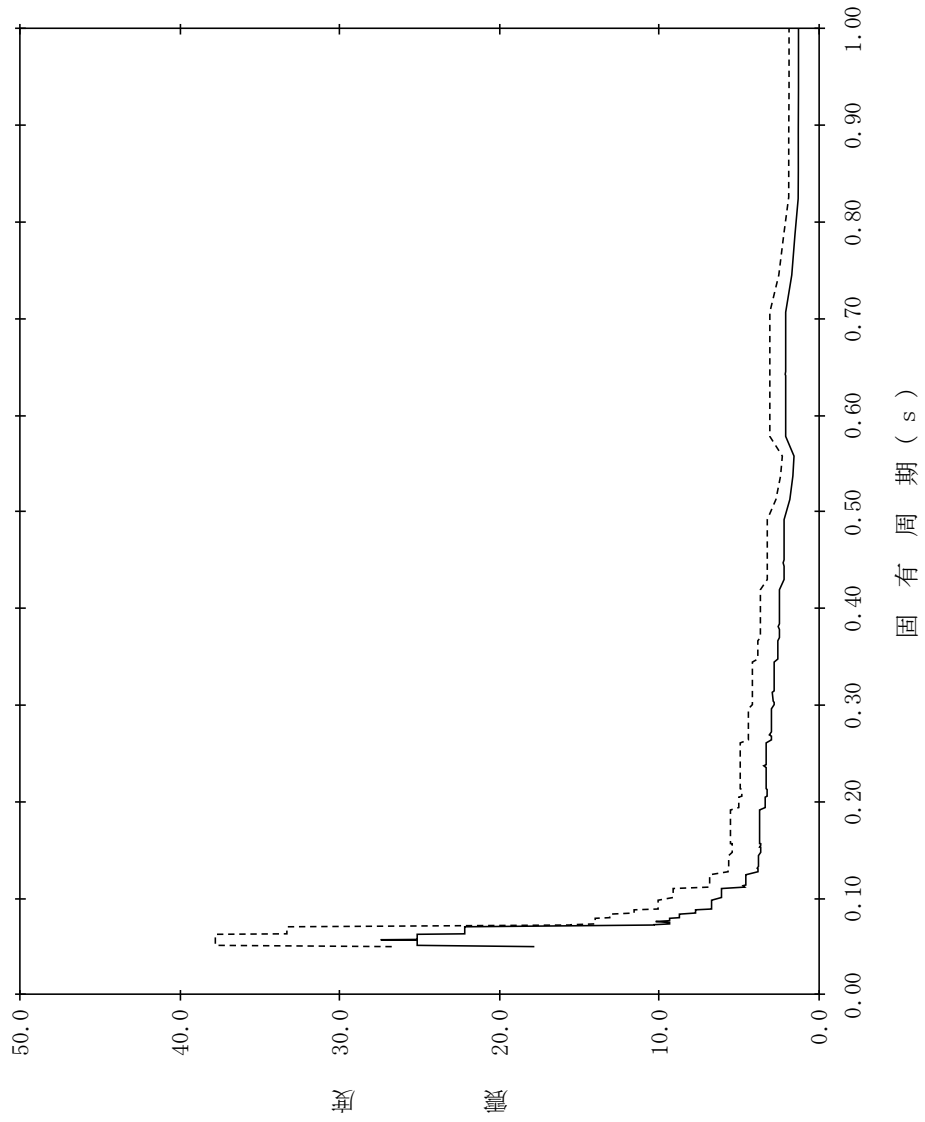
【NS2-TB-SsEW-TG96】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



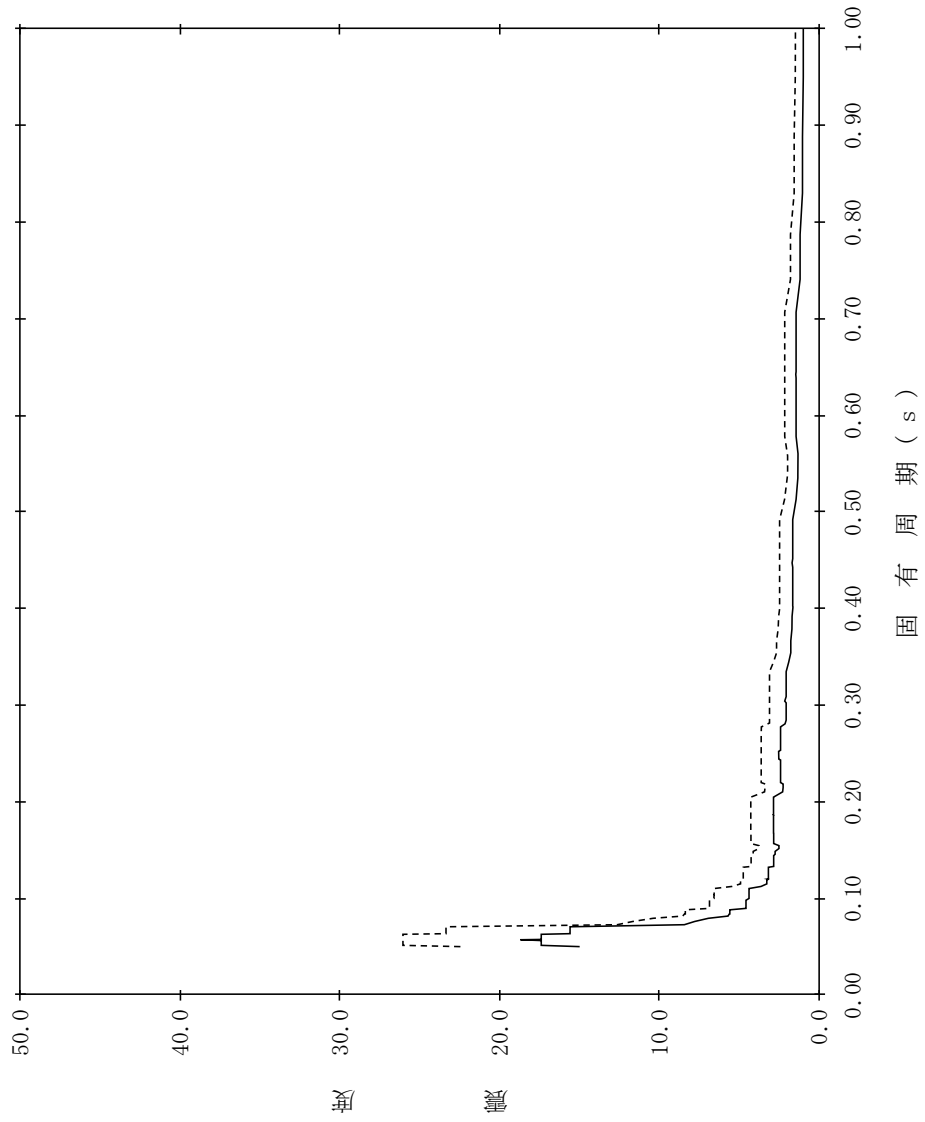
【NS2-TB-SsV-TB1】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



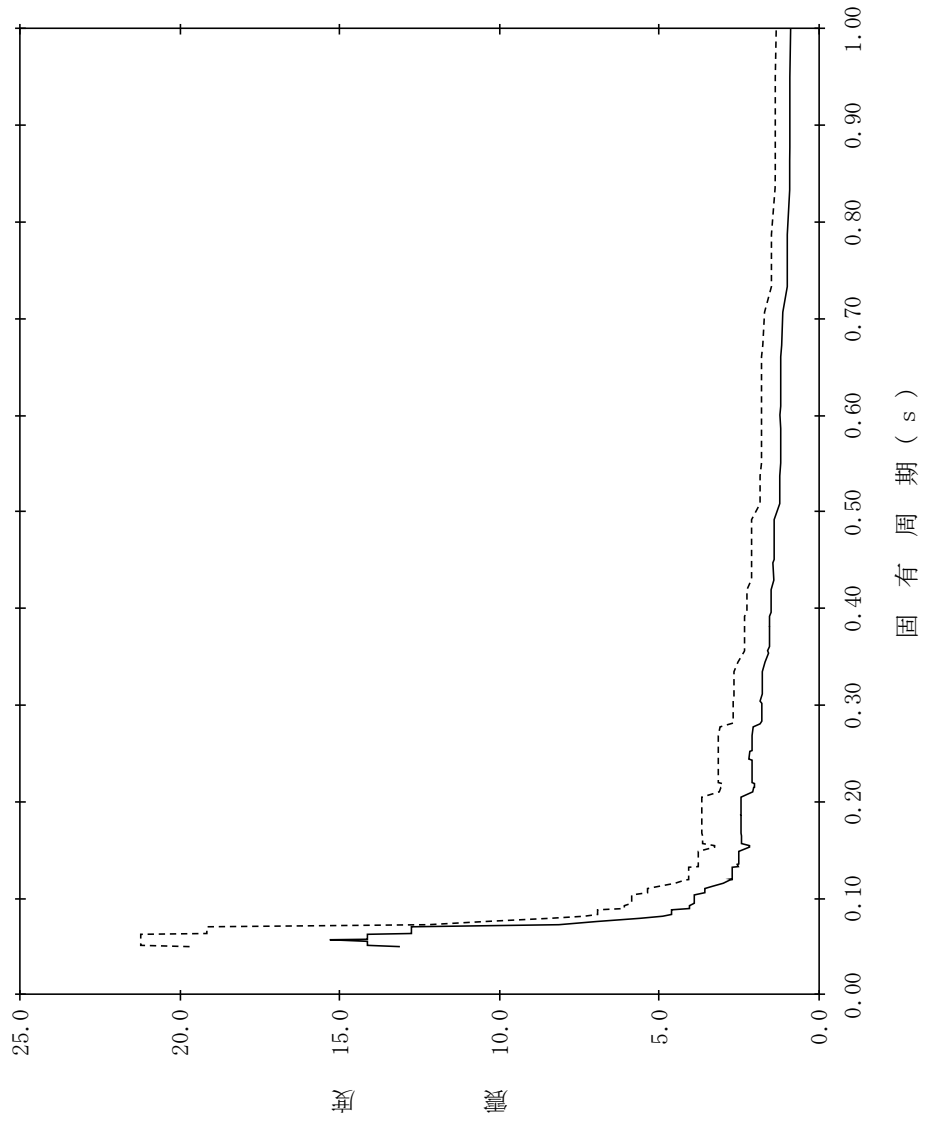
【NS2-TB-SsV-TB2】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



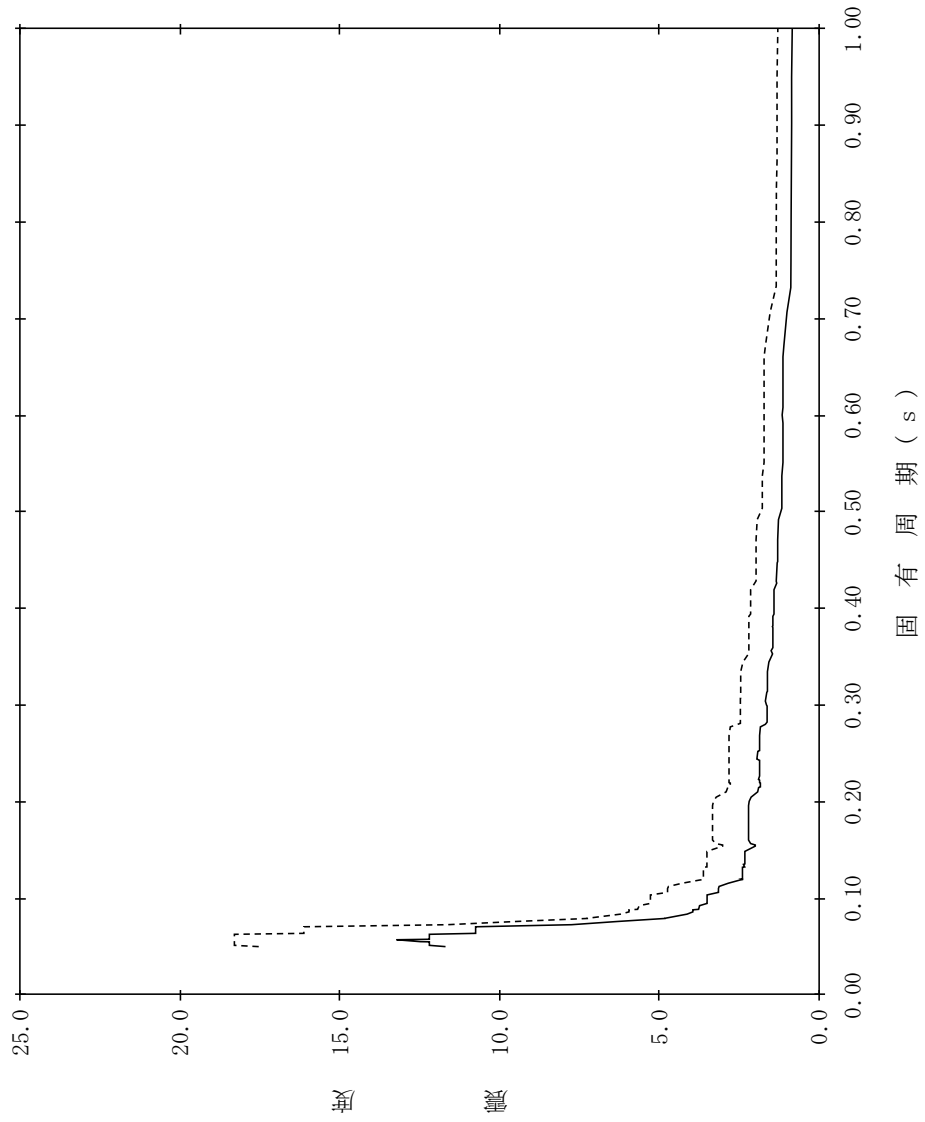
【NS2-TB-SsV-TB3】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



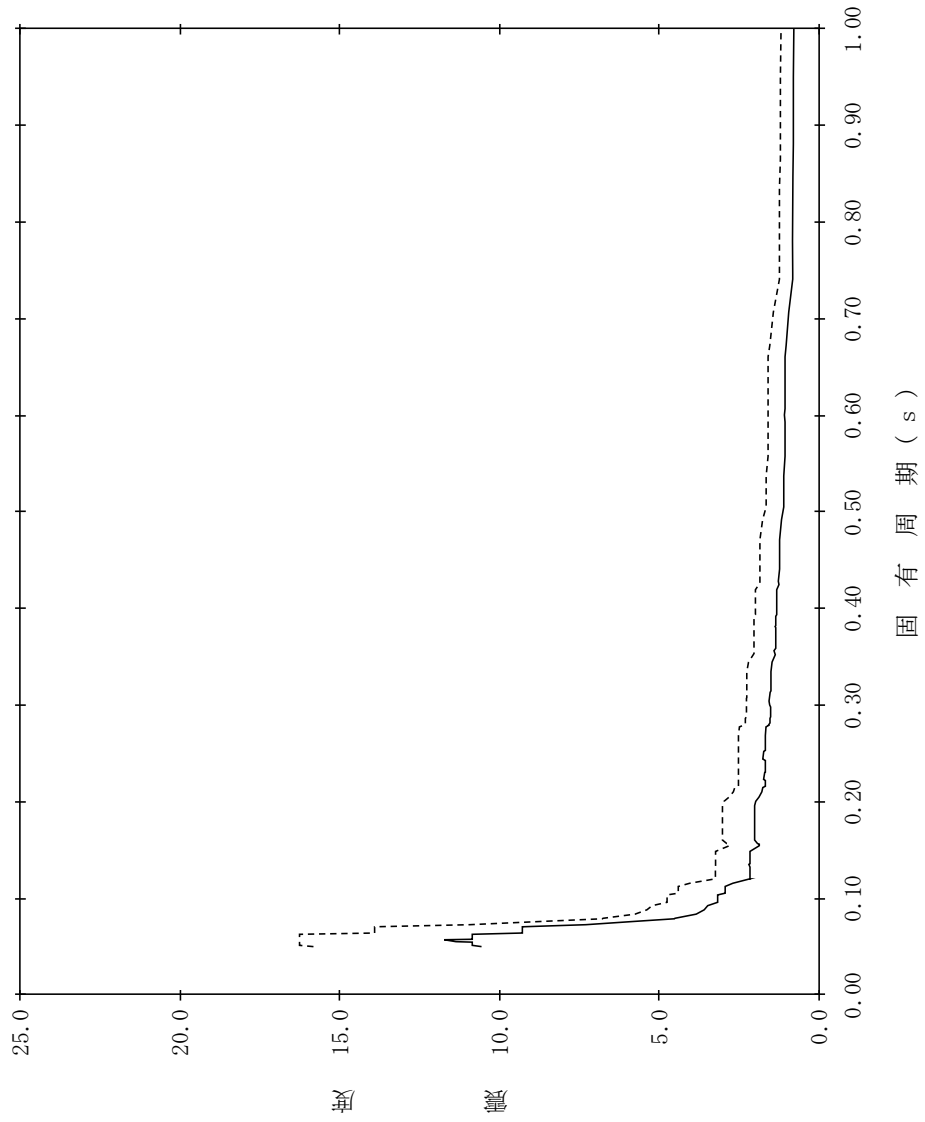
【NS2-TB-SsV-TB4】

構造物名：タービン建物
 標高：EL41.600m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



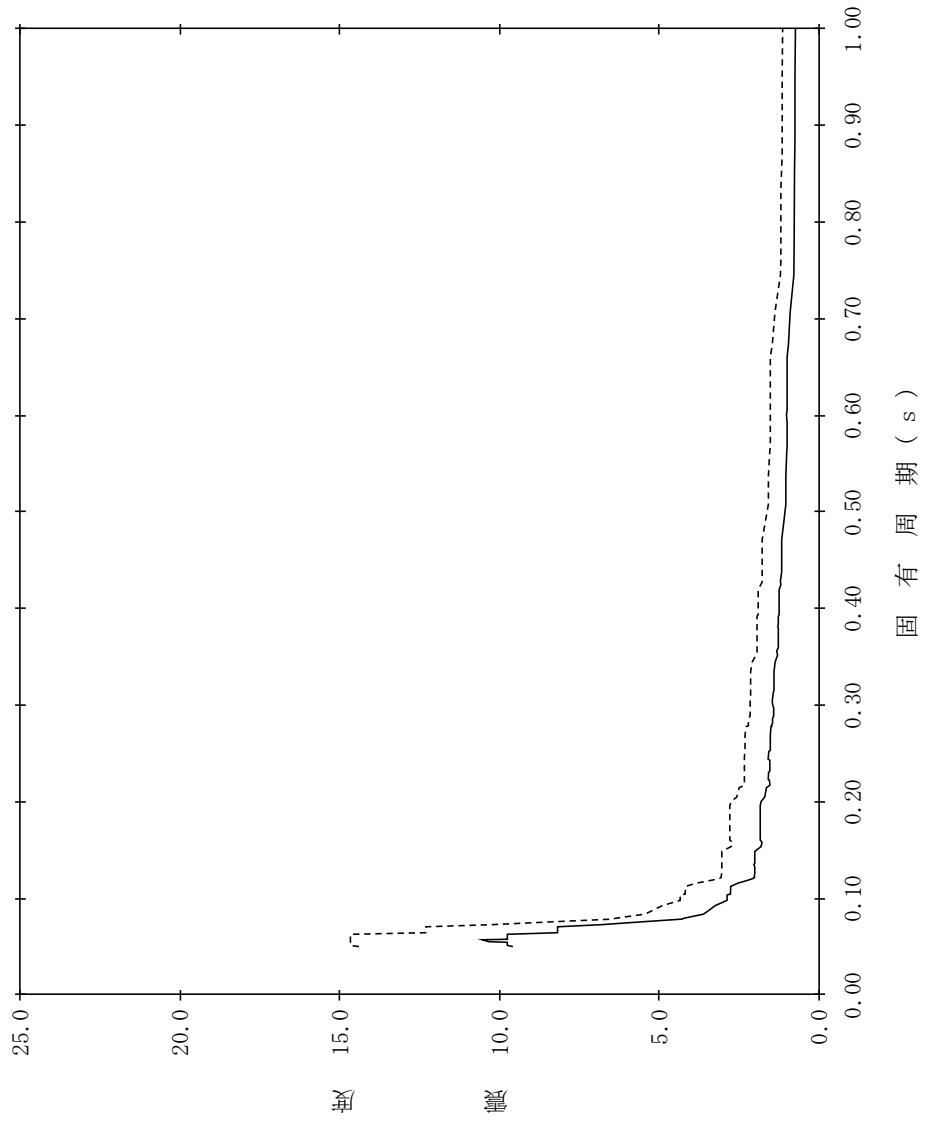
【NS2-TB-SsV-TB5】

構造物名：タービン建物
標高：EL41.600m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



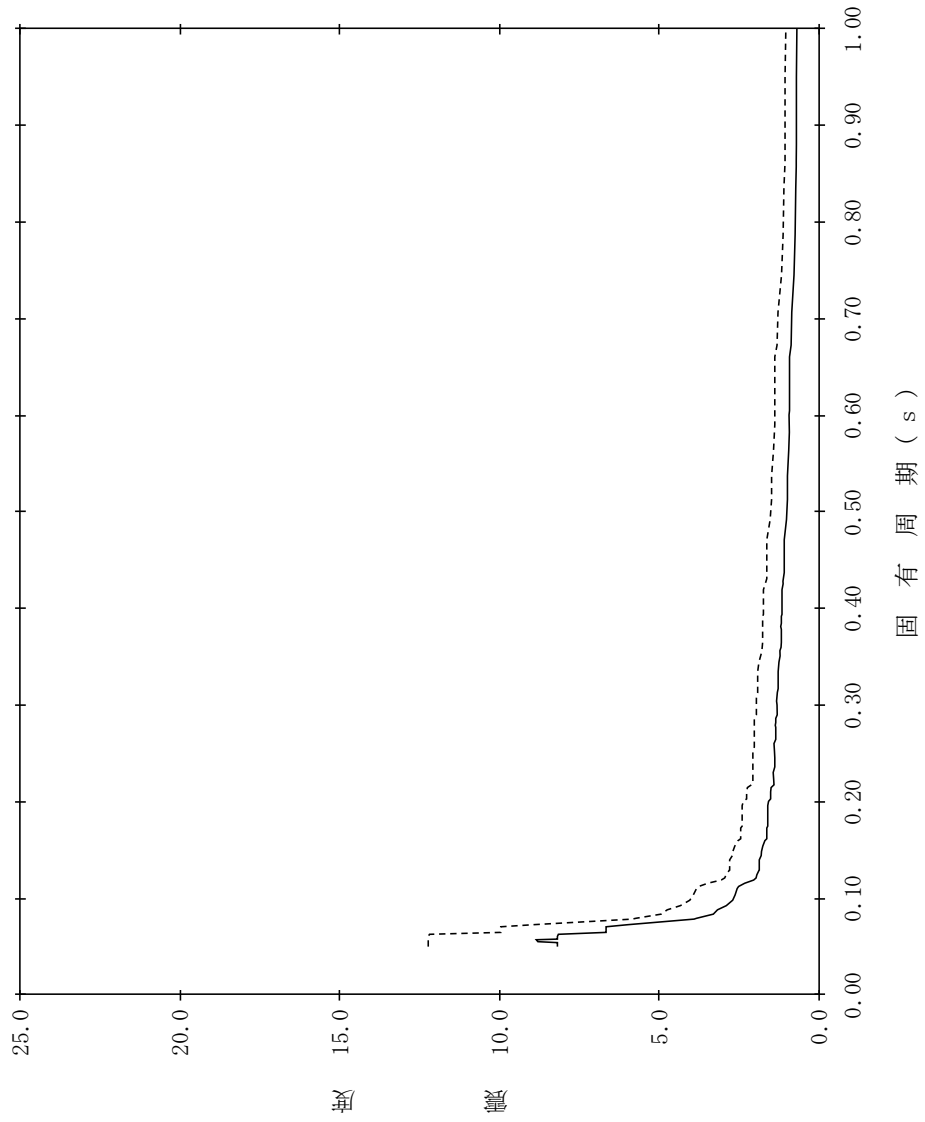
【NS2-TB-SsV-TB6】

構造物名：タービン建物
標高：EL41.600m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



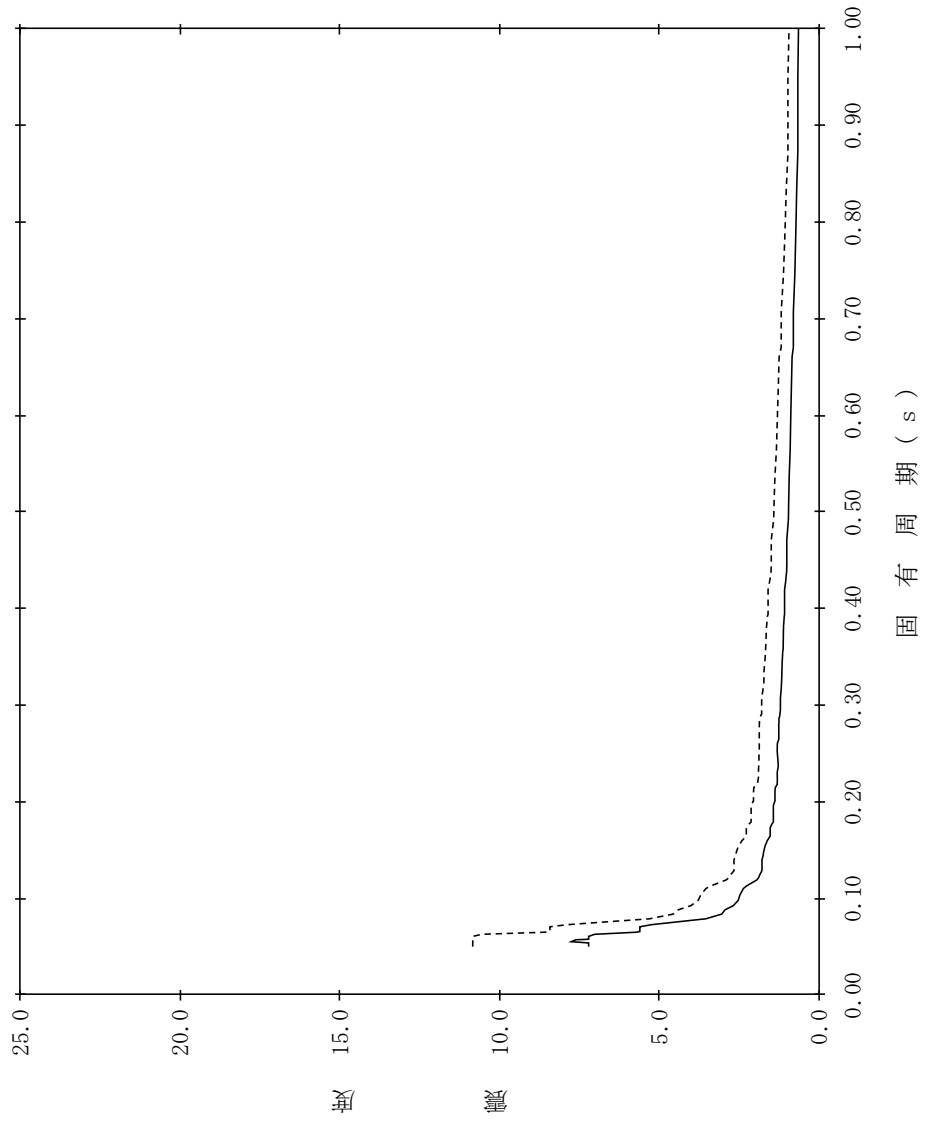
【NS2-TB-SsV-TB7】

構造物名：タービン建物
標高：EL41.600m
減衰定数：4.0%
波形式：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



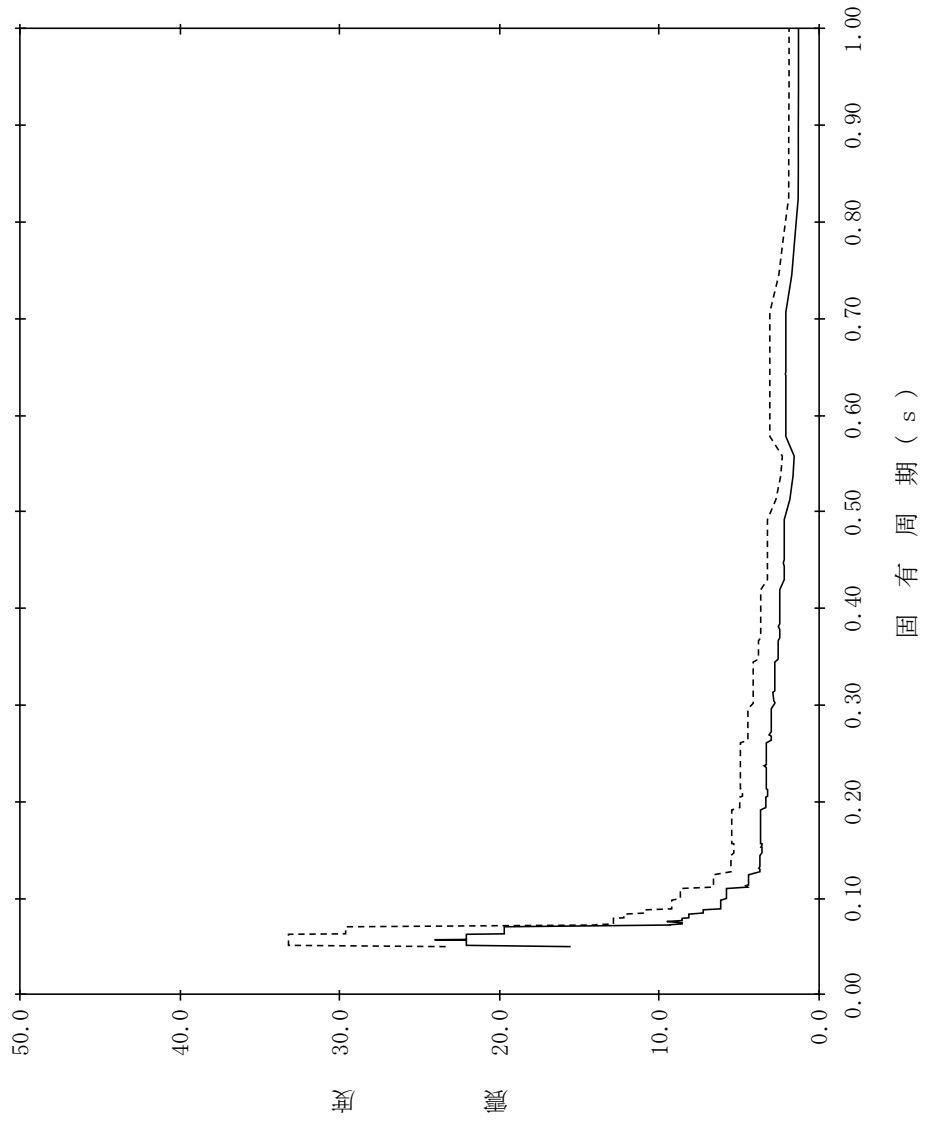
【NS2-TB-SsV-TB8】

構造物名：タービン建物
標高：EL41.600m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



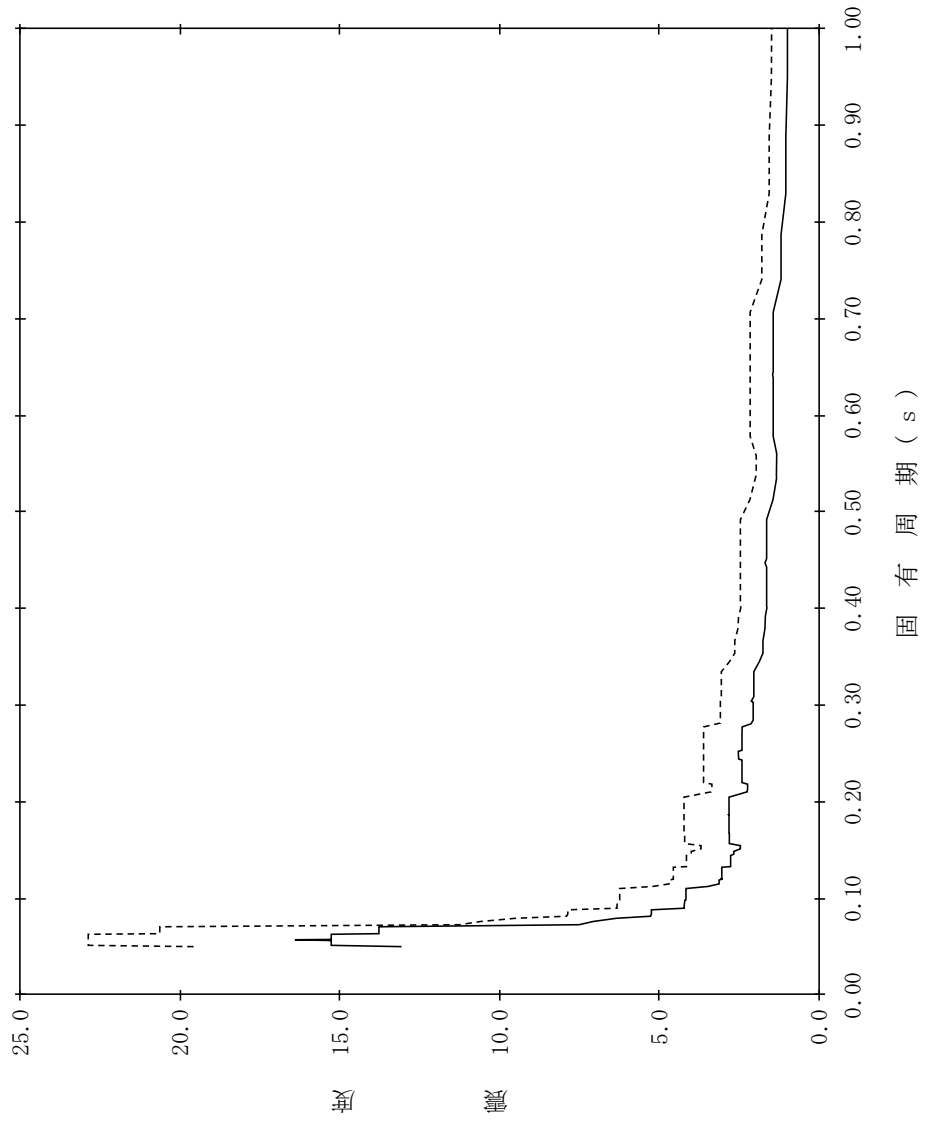
【NS2-TB-SsV-TB9】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



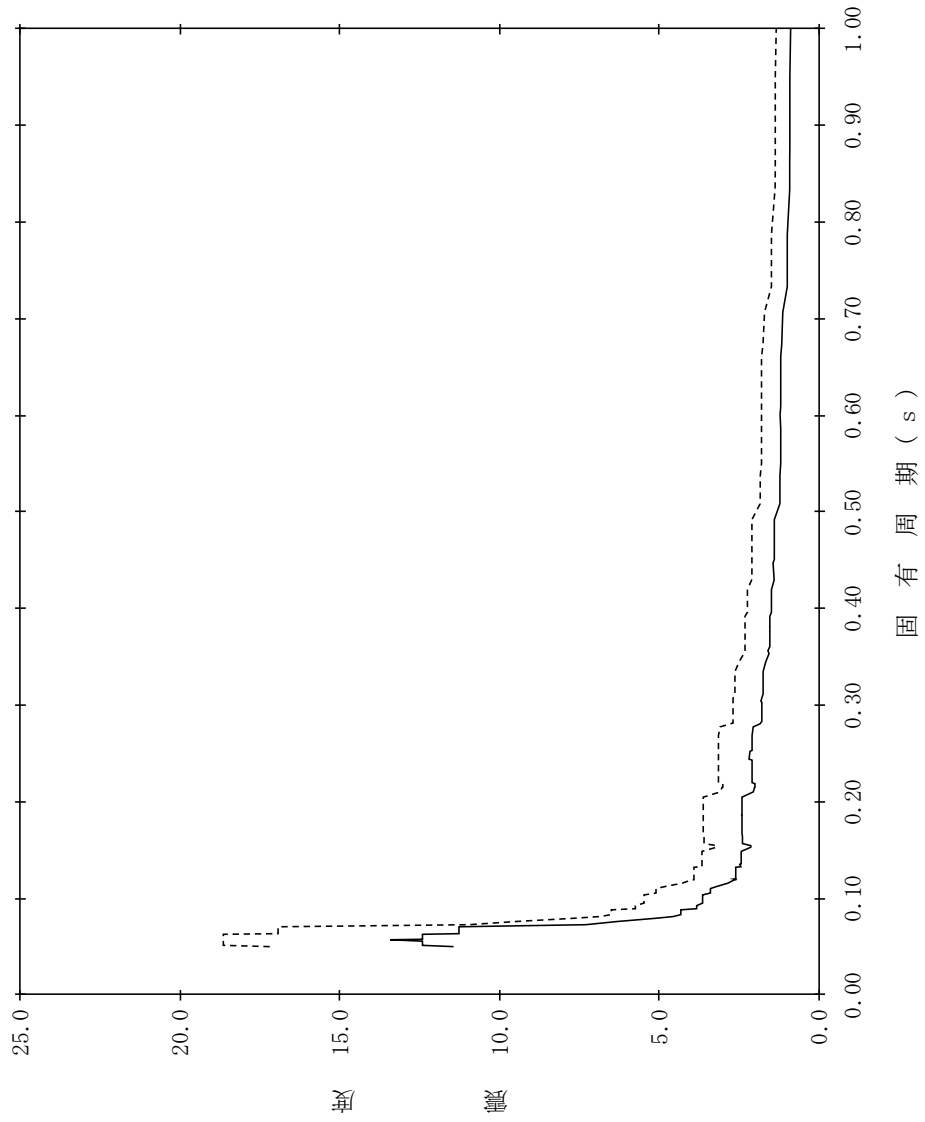
【NS2-TB-SsV-TB10】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



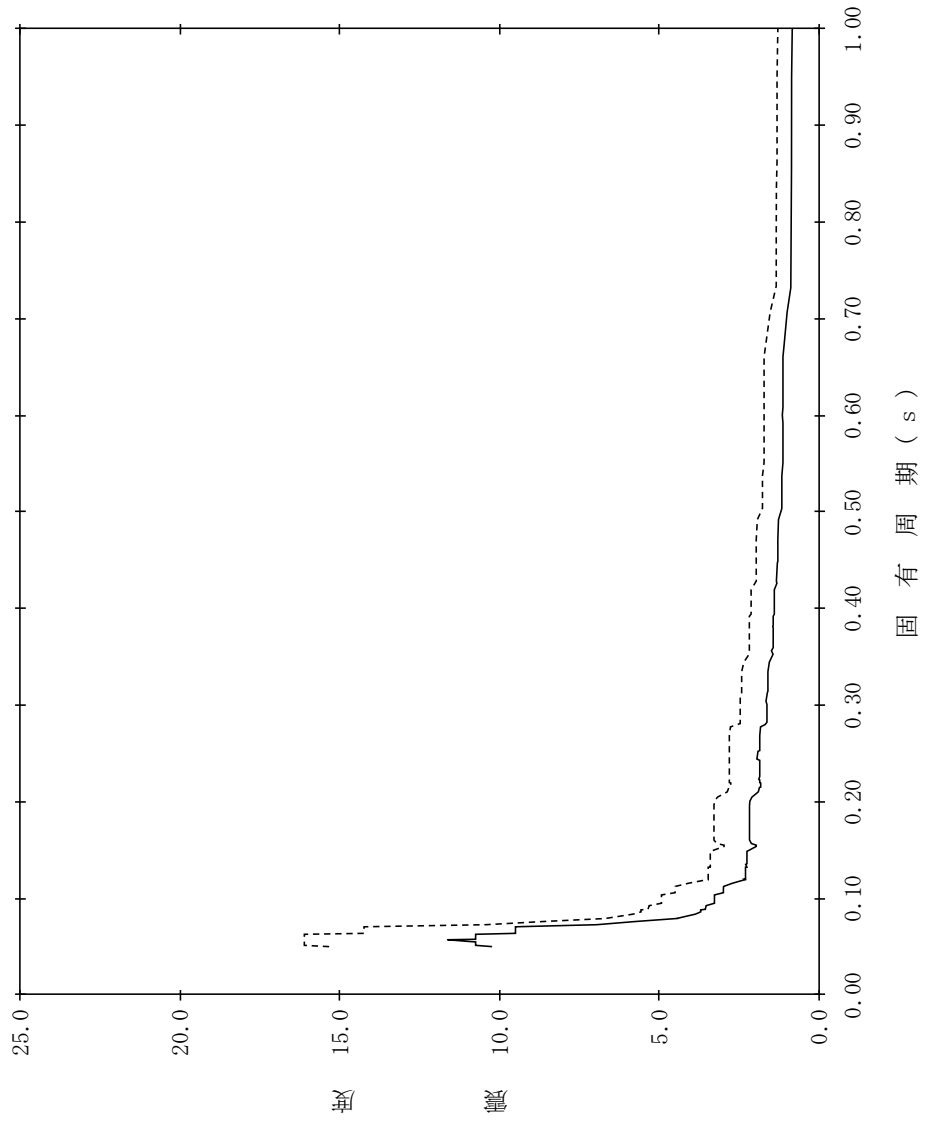
【NS2-TB-SsV-TB11】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



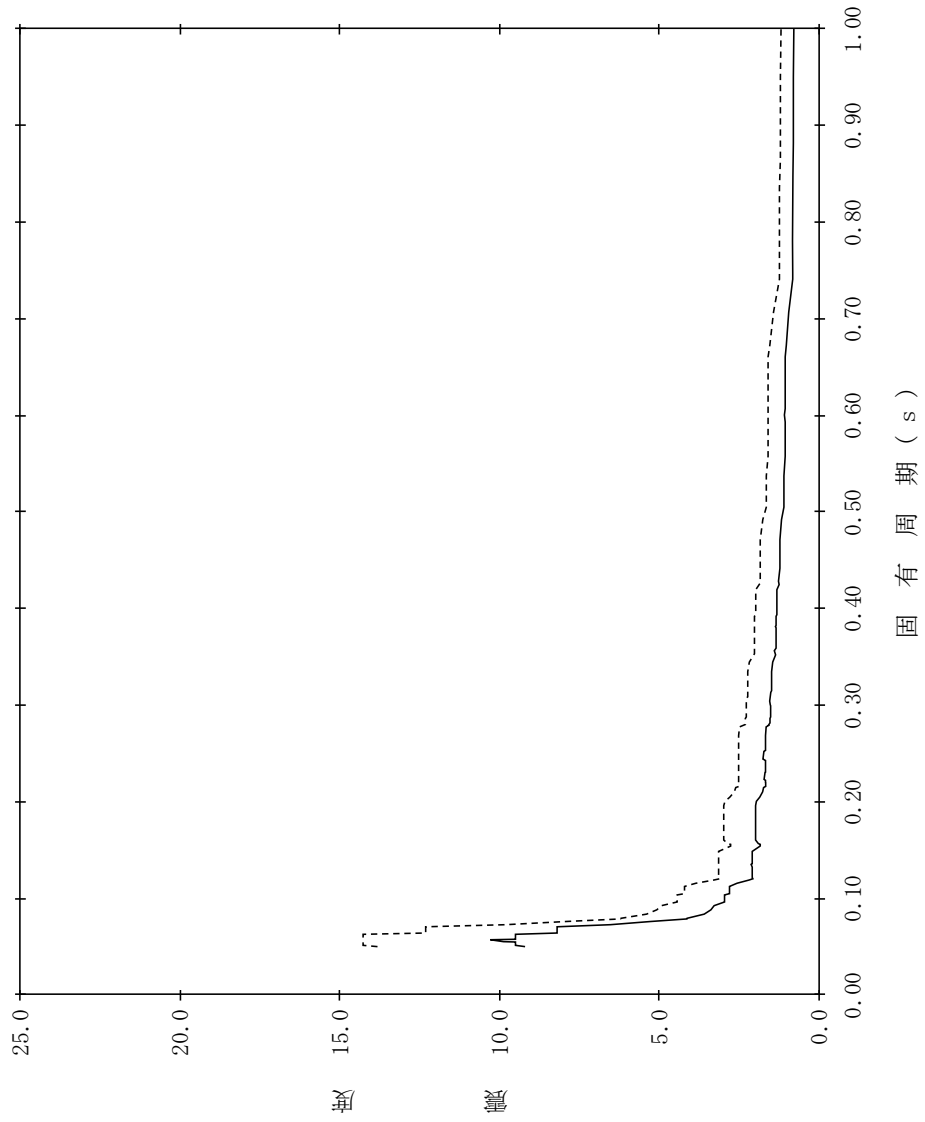
【NS2-TB-SsV-TB12】

構造物名：タービン建物
標高：EL32.000m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SsV-TB13】

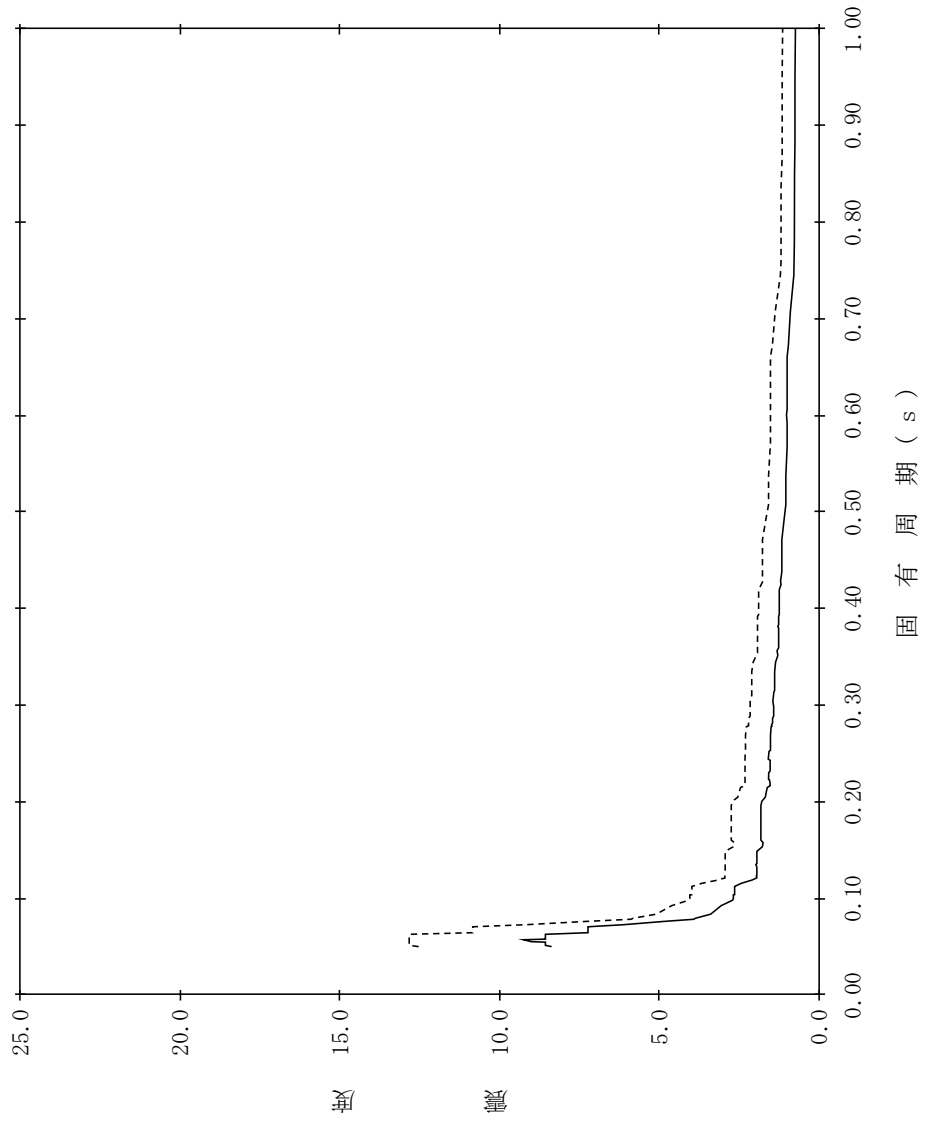
構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SsV-TB14】

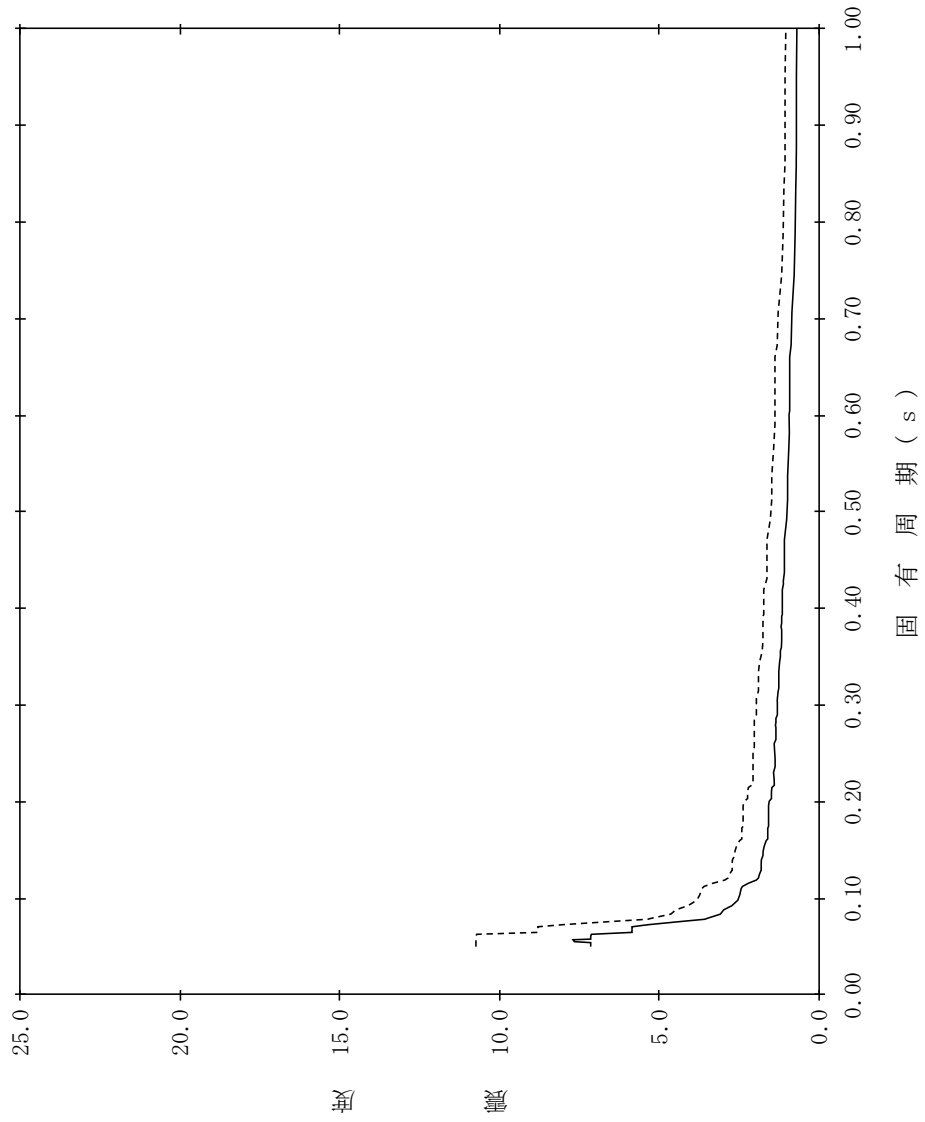
構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：3.0%

——— 設計用床応答スペクトルⅠ（鉛直方向）
 - - - - - 設計用床応答スペクトルⅡ（鉛直方向）



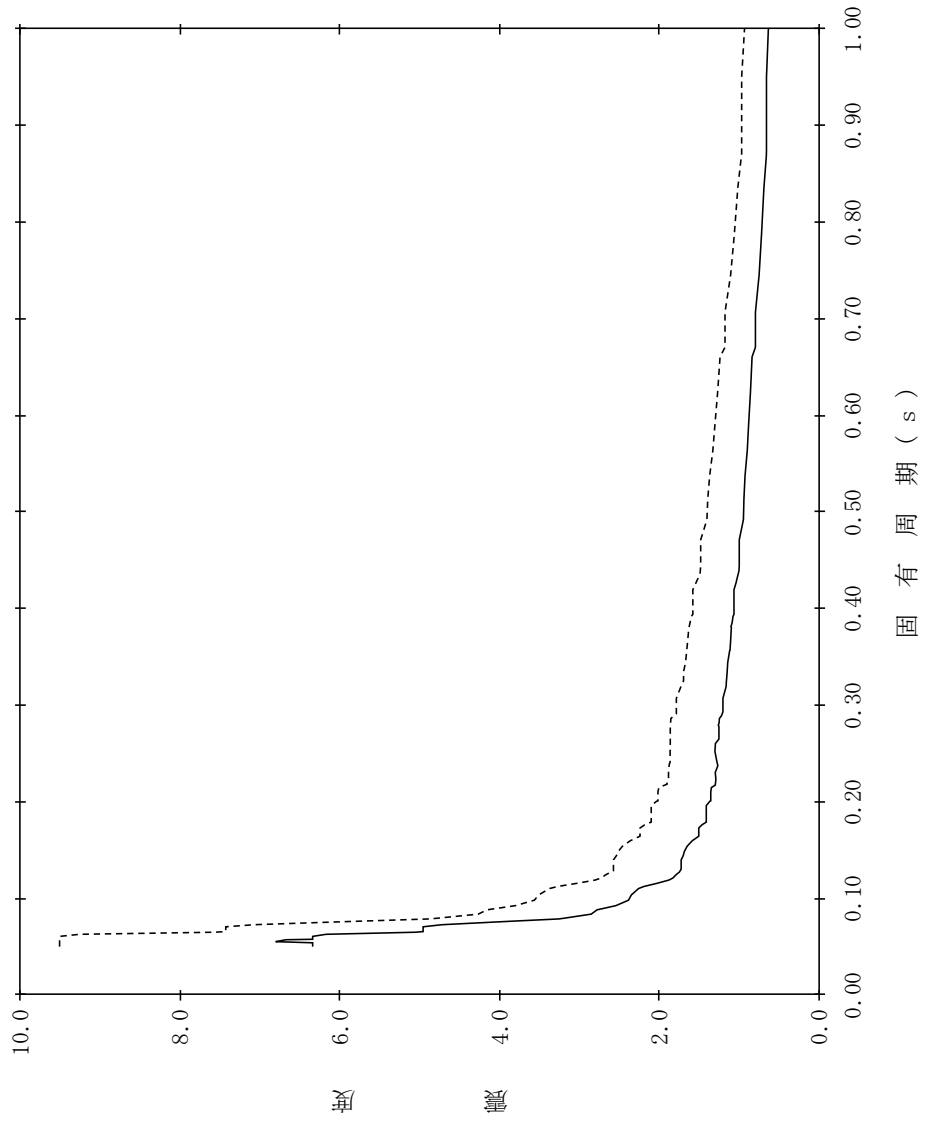
【NS2-TB-SsV-TB15】

構造物名：タービン建物
標高：EL32.000m
減衰定数：4.0%
波形式：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SsV-TB16】

構造物名：タービン建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

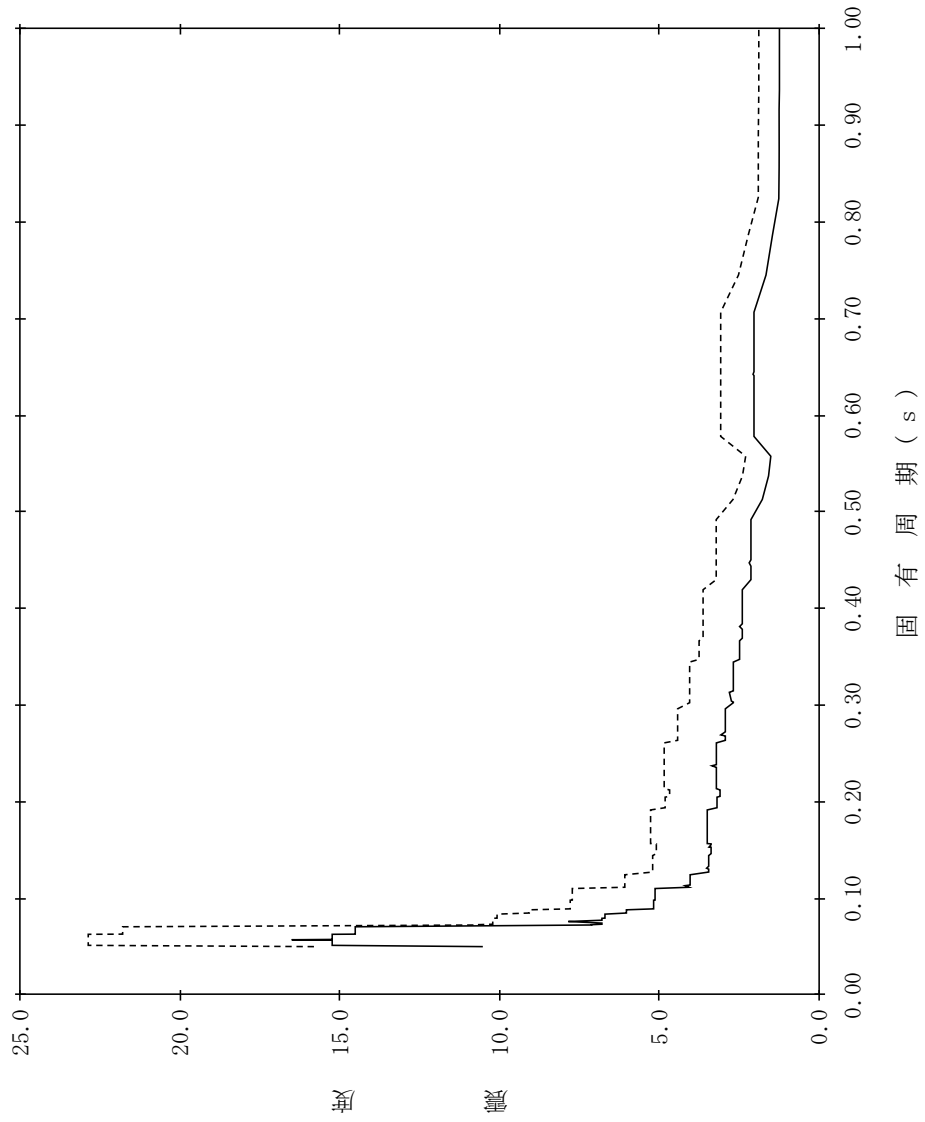


【NS2-TB-SsV-TB17】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：0.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

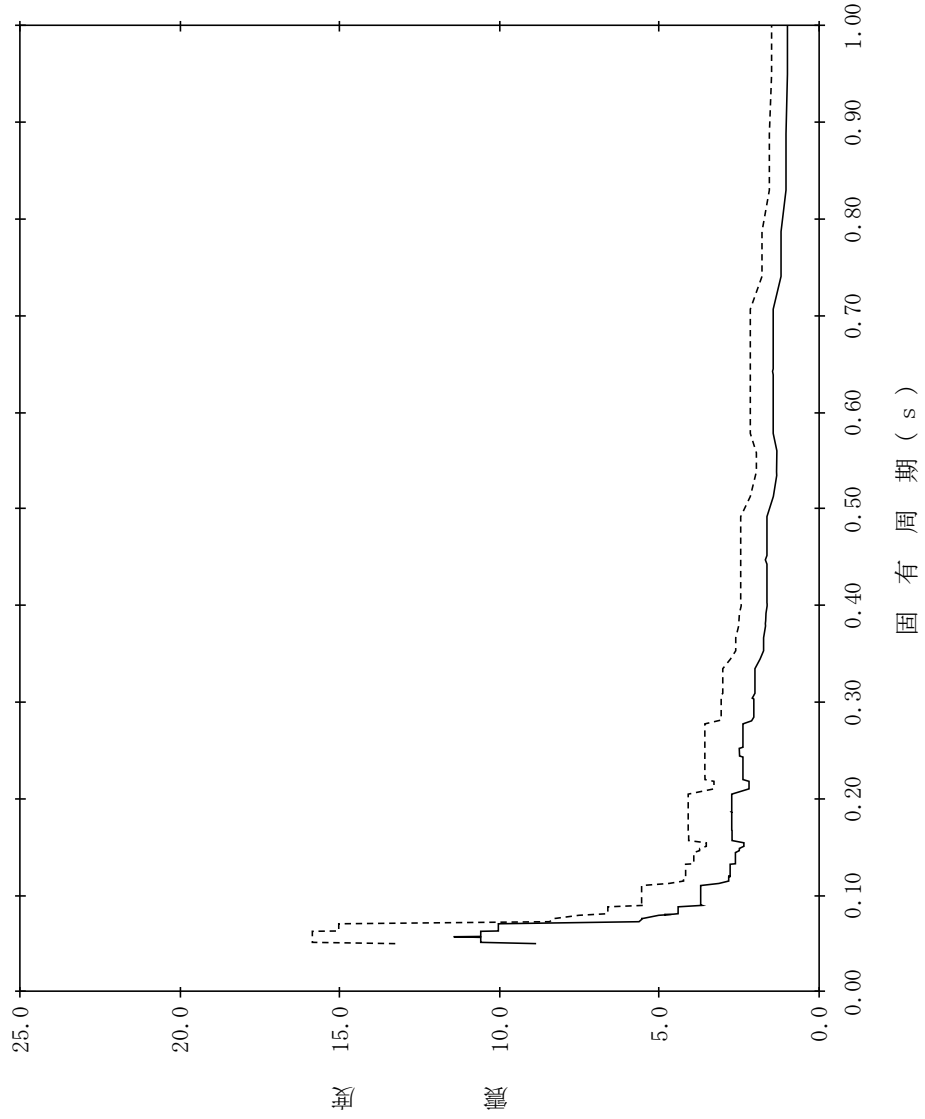


【NS2-TB-SsV-TB18】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：1.0%

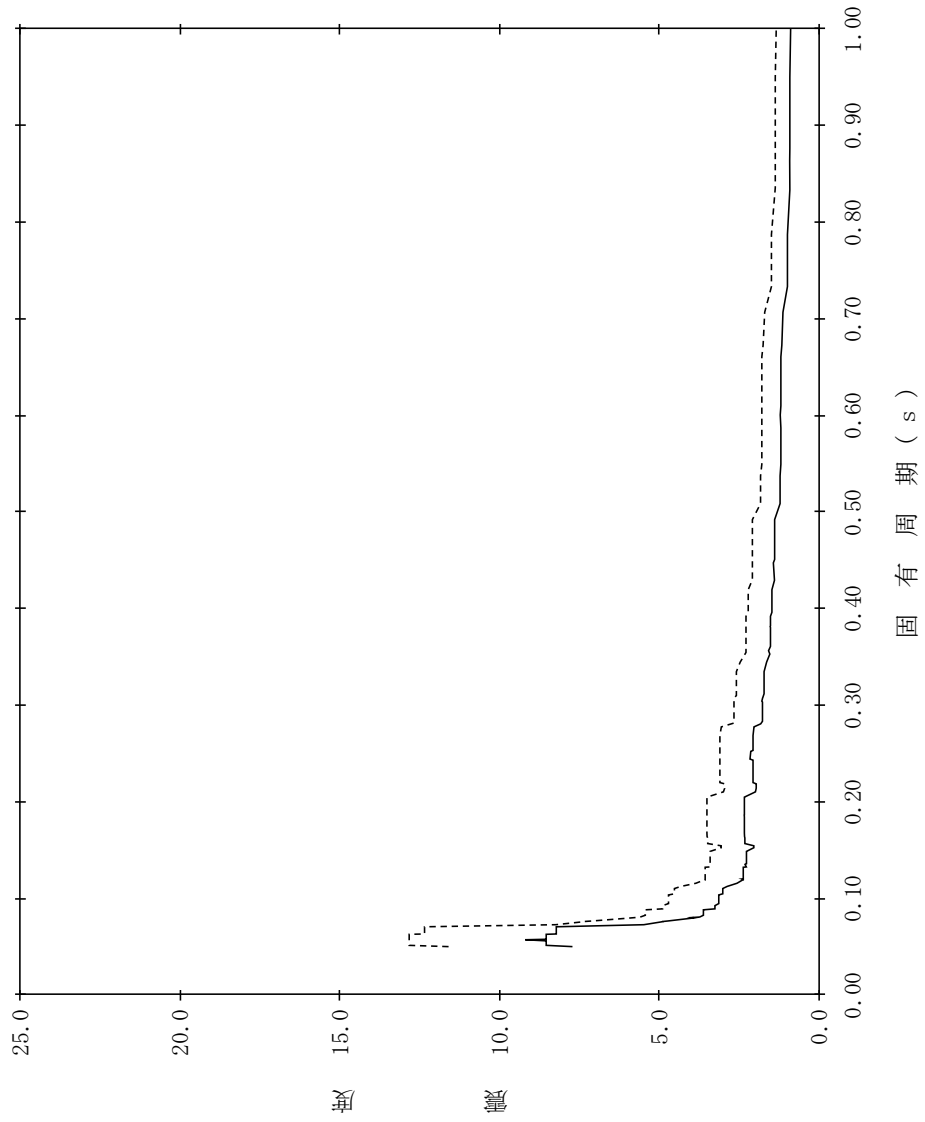
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

- - - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



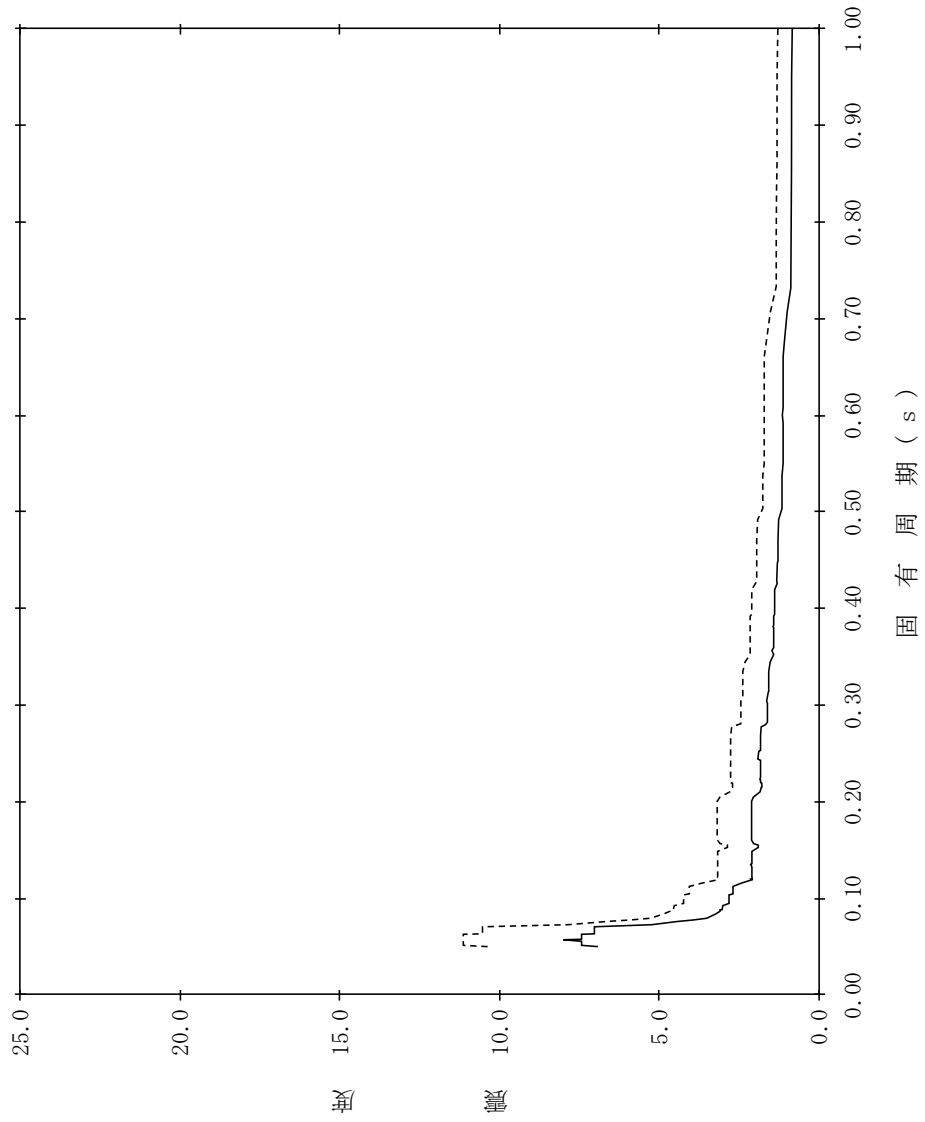
【NS2-TB-SsV-TB19】

構造物名：タービン建物
標高：EL20.600m
減衰定数：1.5%
波形式：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



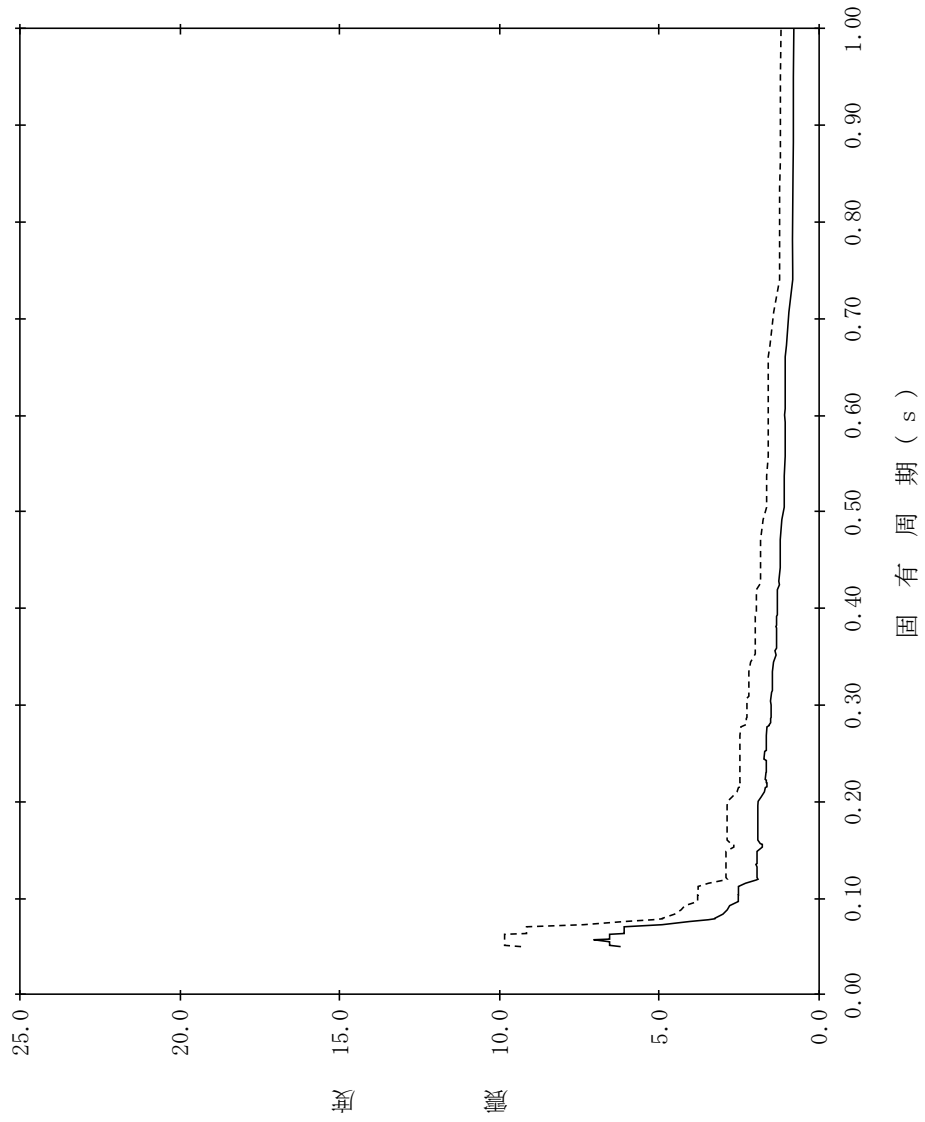
【NS2-TB-SsV-TB20】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



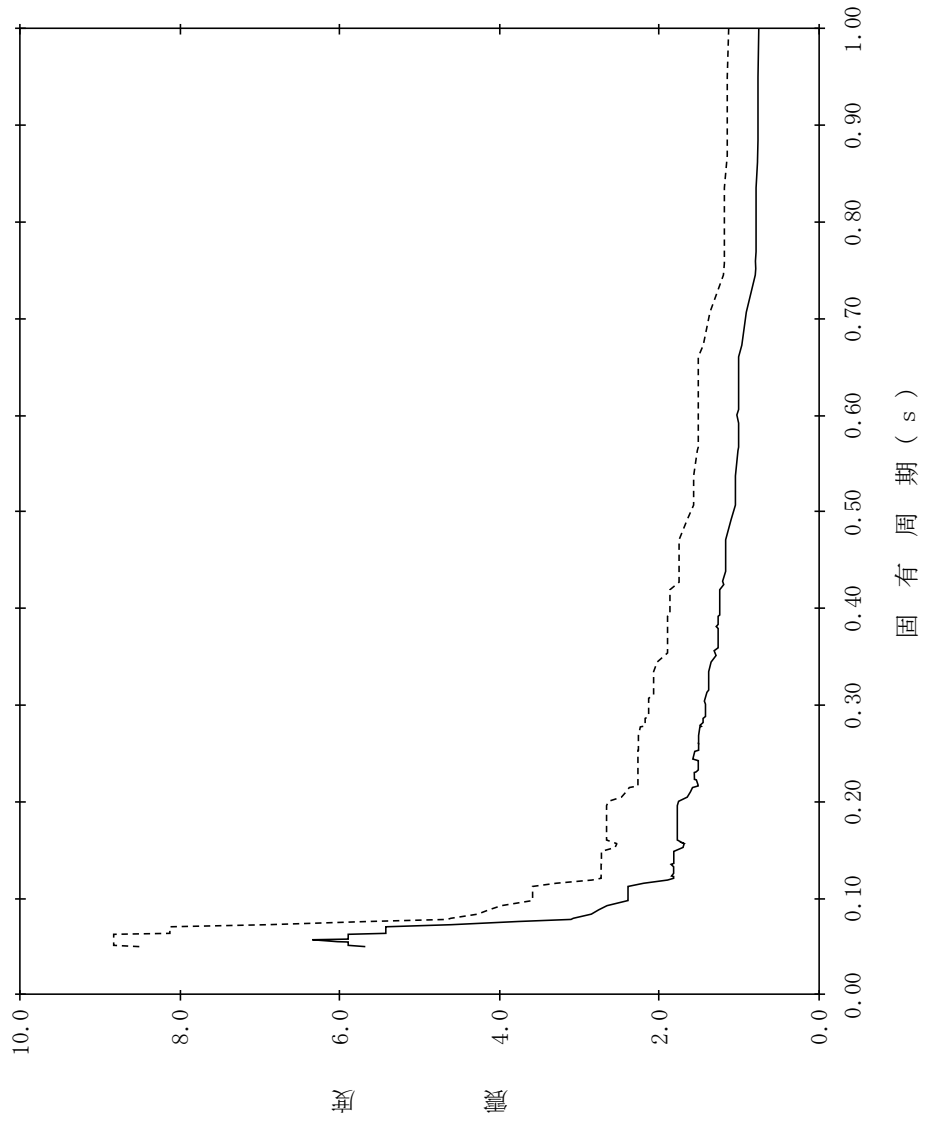
【NS2-TB-SsV-TB21】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



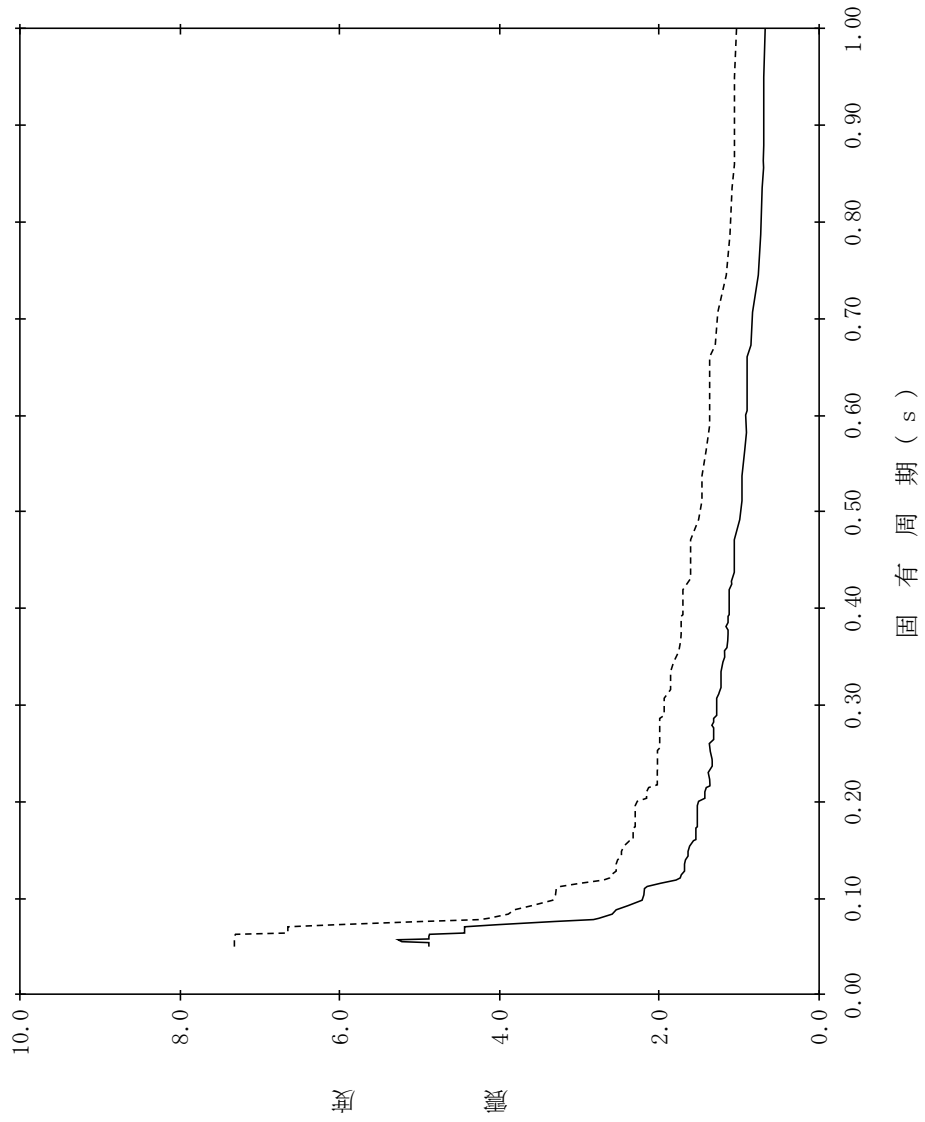
【NS2-TB-SsV-TB22】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



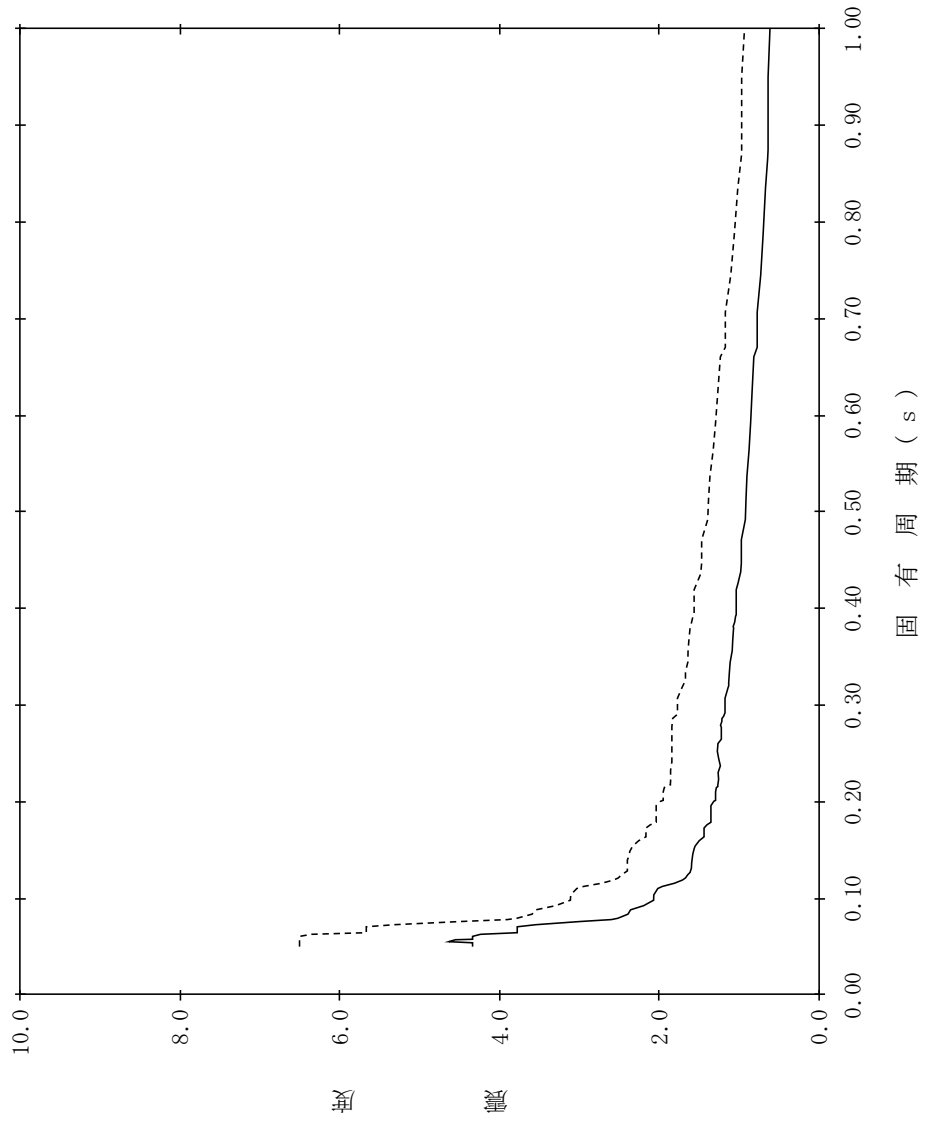
【NS2-TB-SsV-TB23】

構造物名：タービン建物
標高：EL20.600m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SsV-TB24】

構造物名：タービン建物
 標高：EL20.600m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

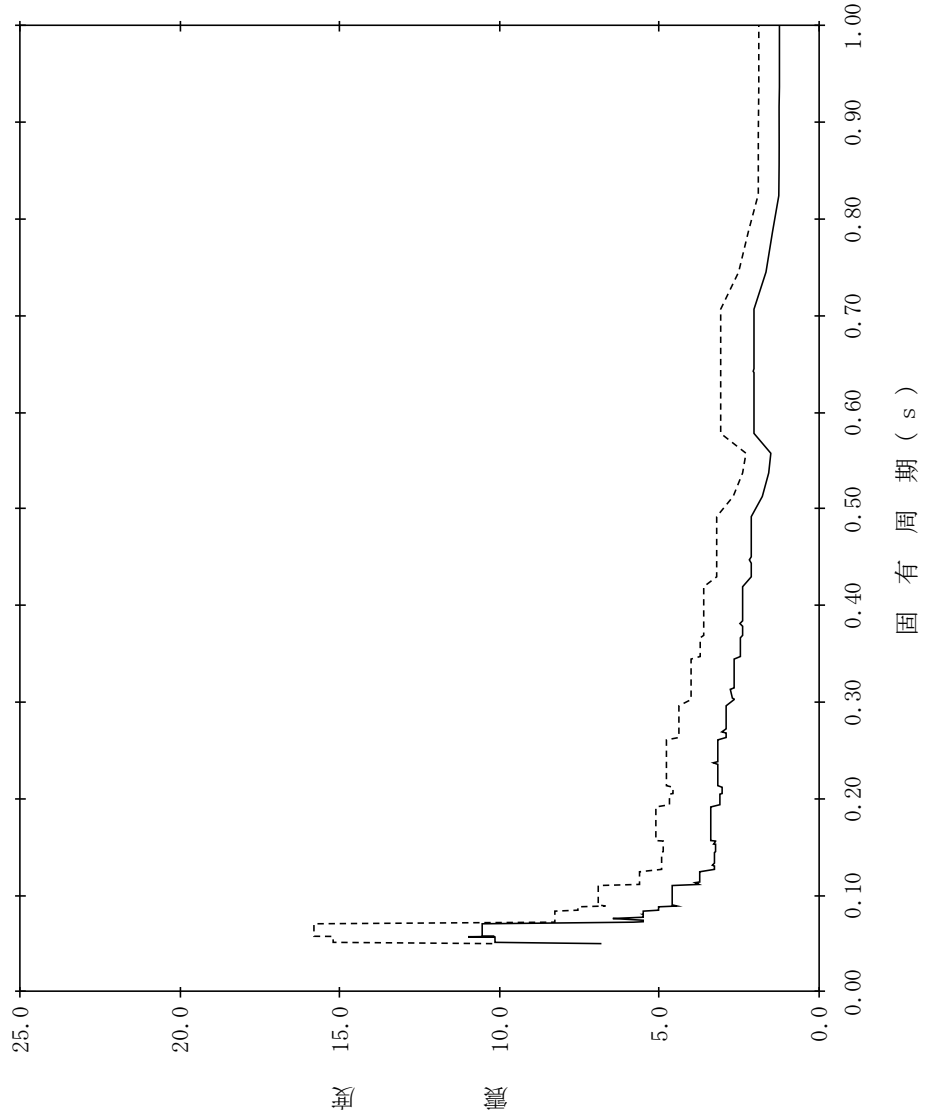


【NS2-TB-SsV-TB25】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：0.5%

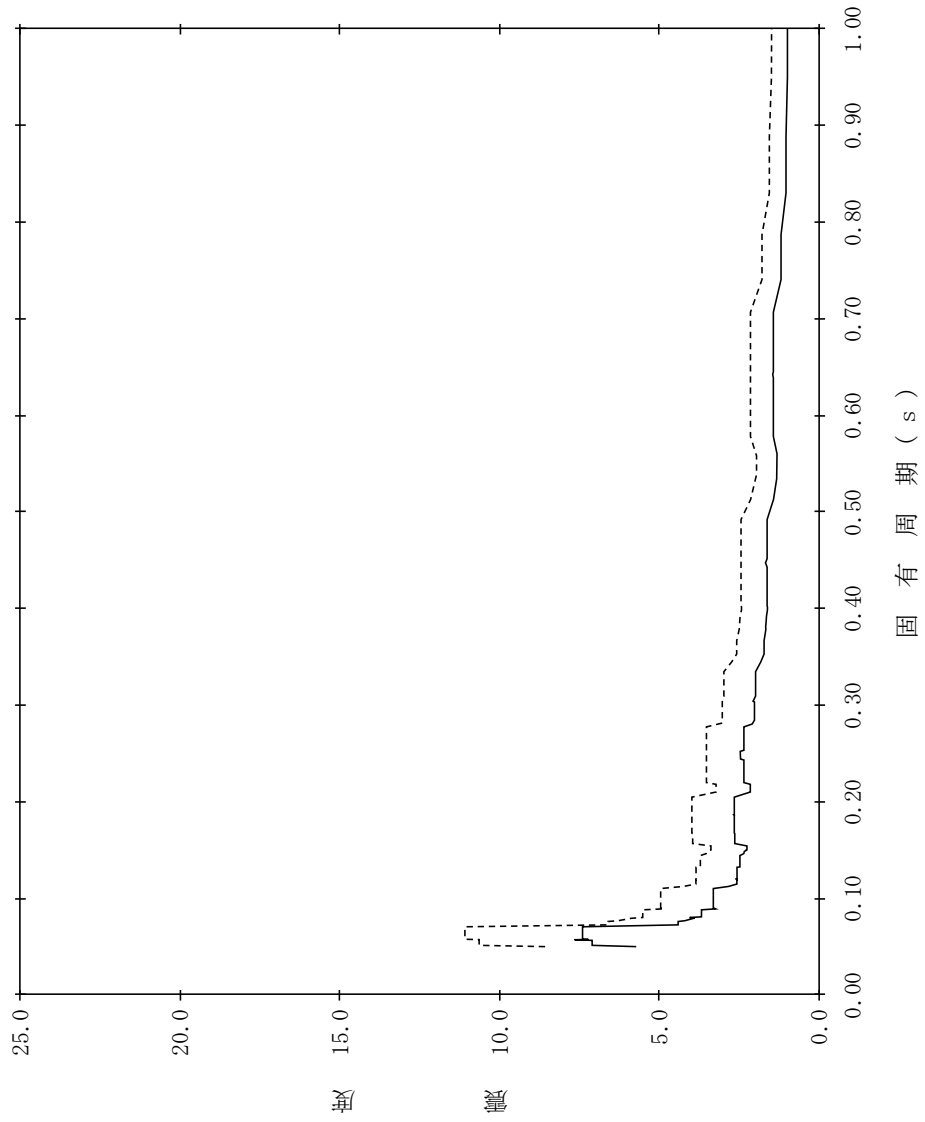
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



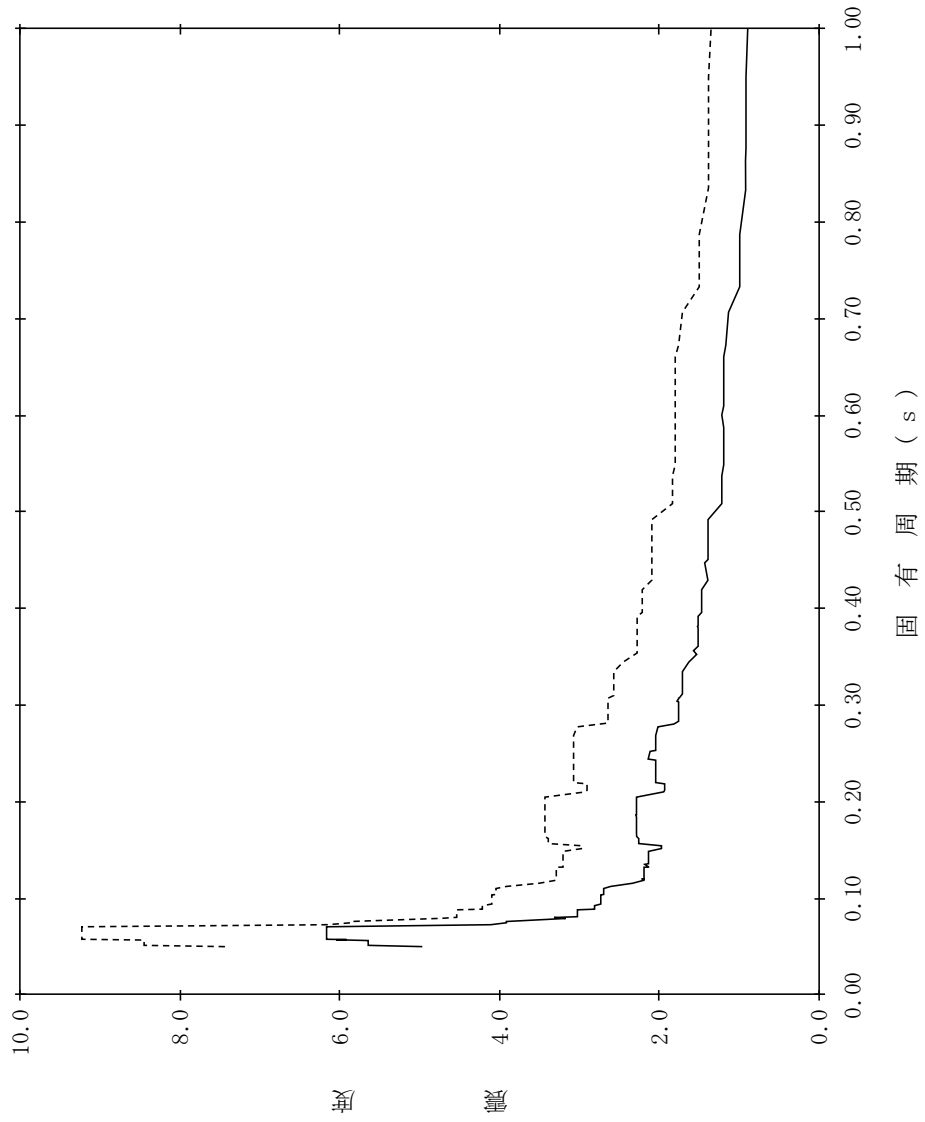
【NS2-TB-SsV-TB26】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SsV-TB27】

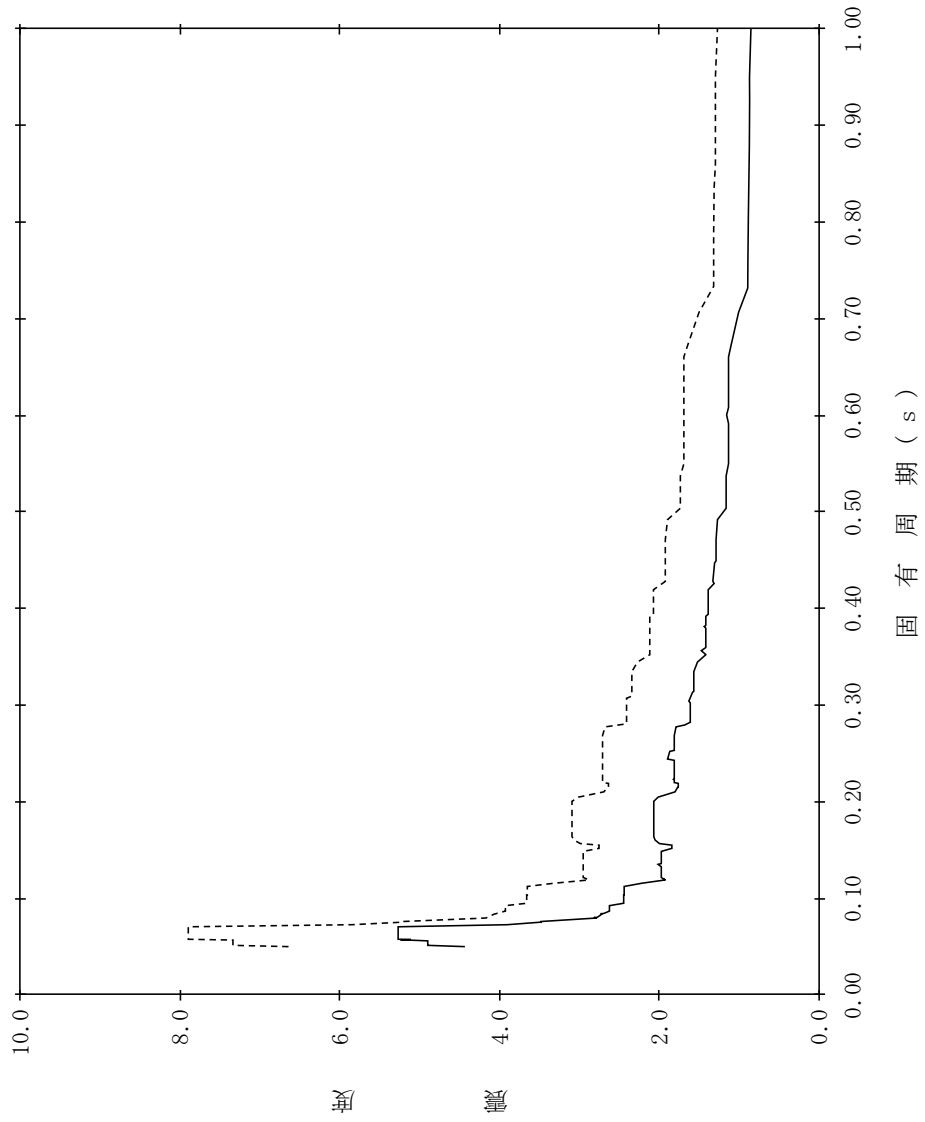
構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SsV-TB28】

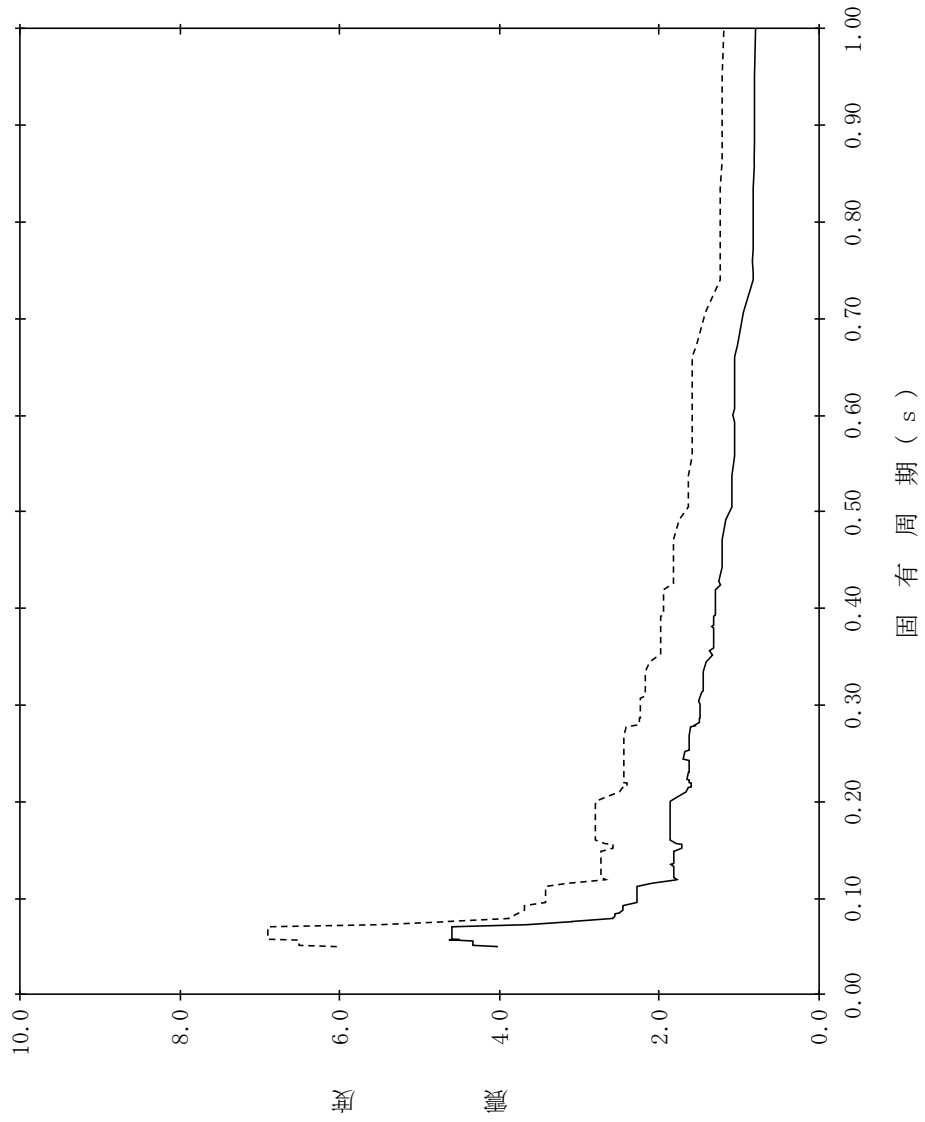
構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：2.0%

— 設計用床応答スペクトルⅠ (鉛直方向)
 - - - 設計用床応答スペクトルⅡ (鉛直方向)



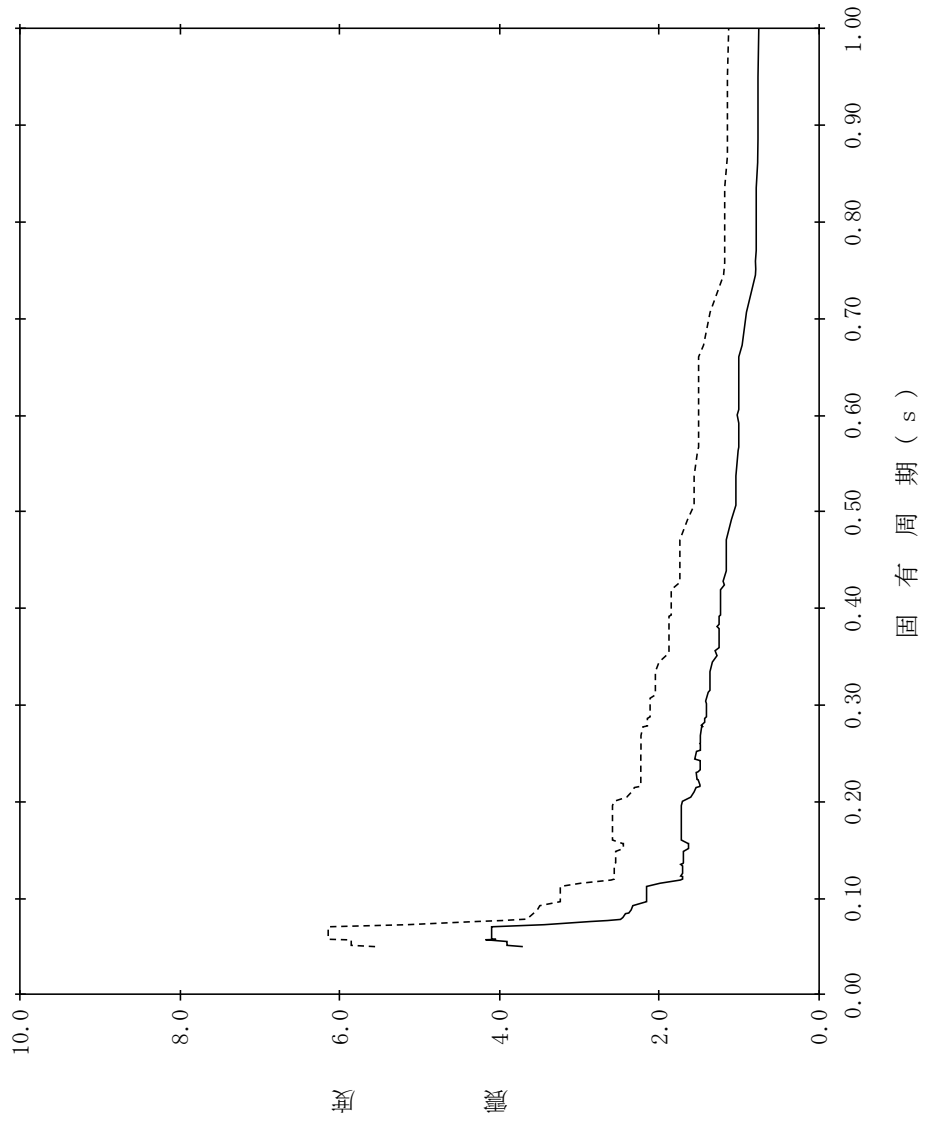
【NS2-TB-SsV-TB29】

構造物名：タービン建物
標高：EL12.500m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



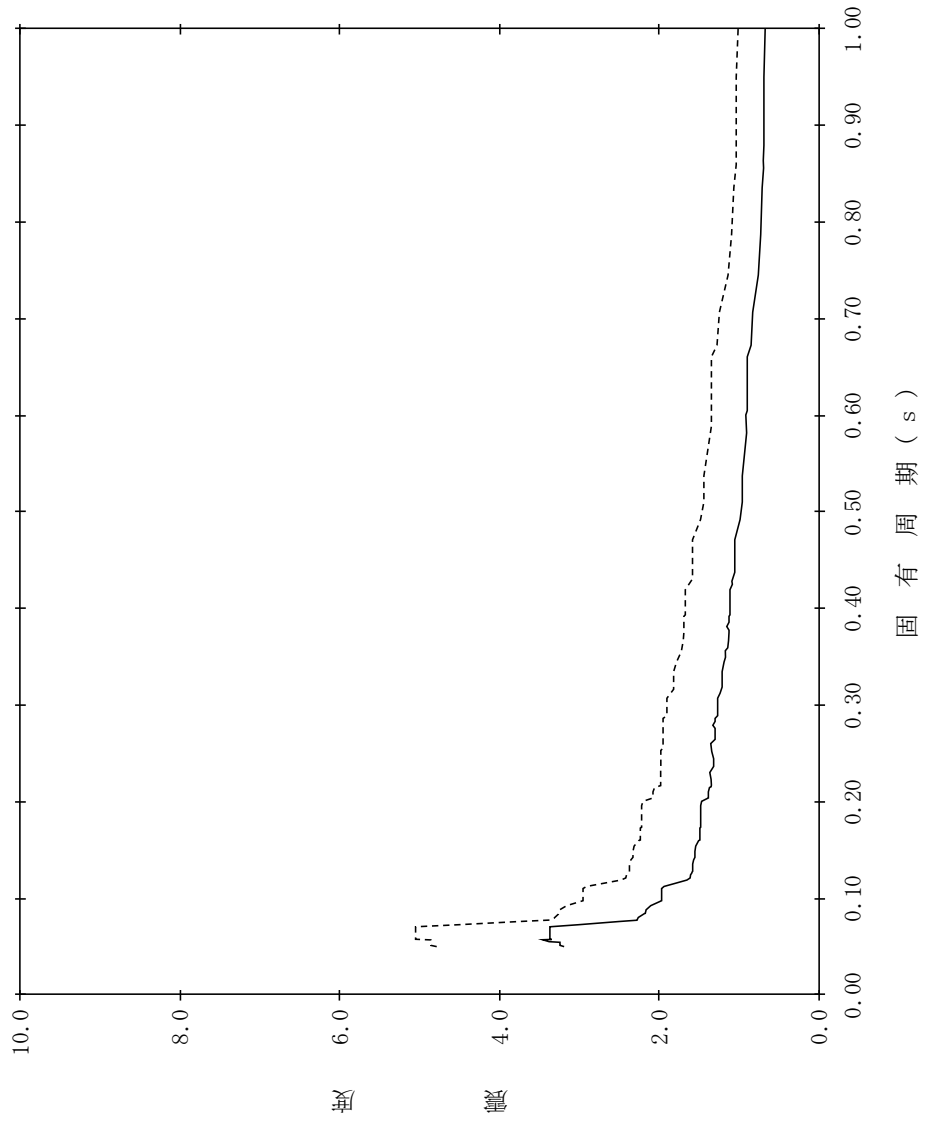
【NS2-TB-SsV-TB30】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



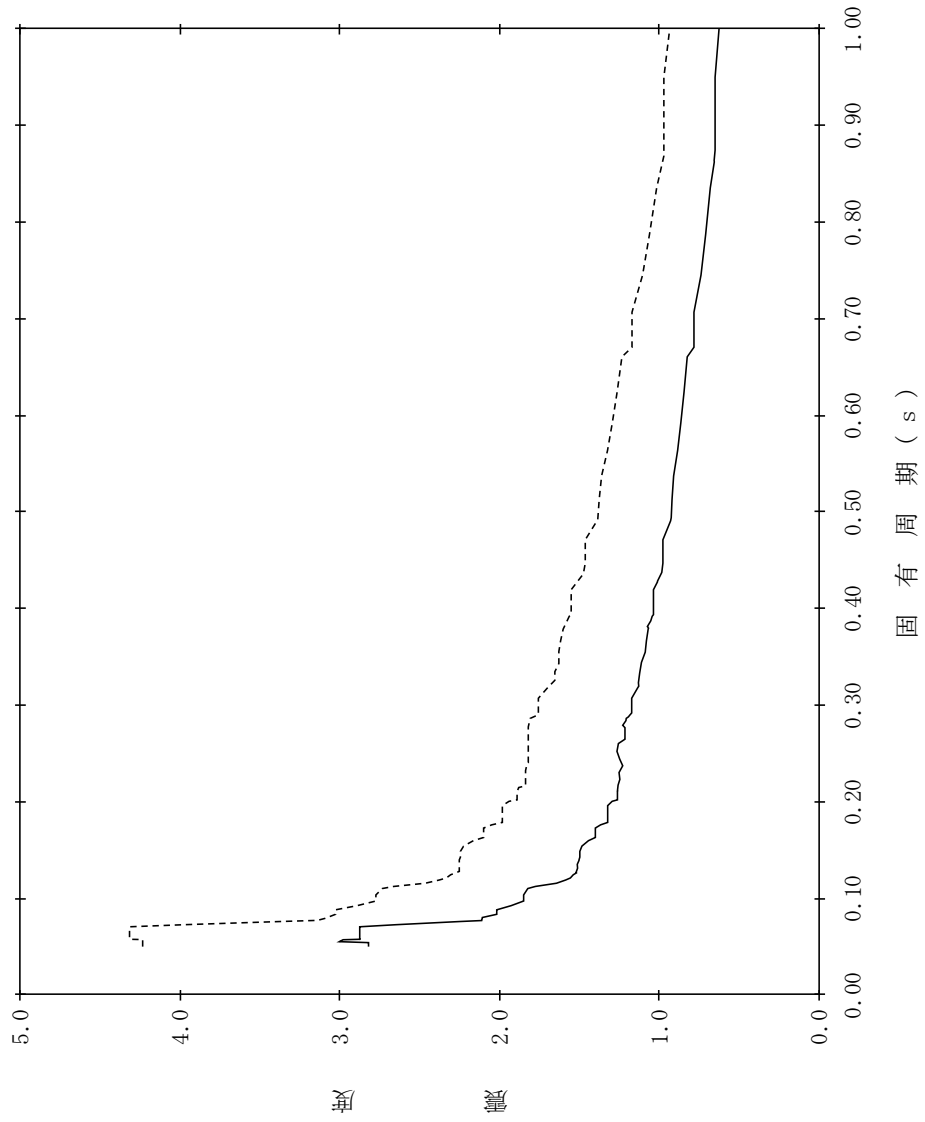
【NS2-TB-SsV-TB31】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



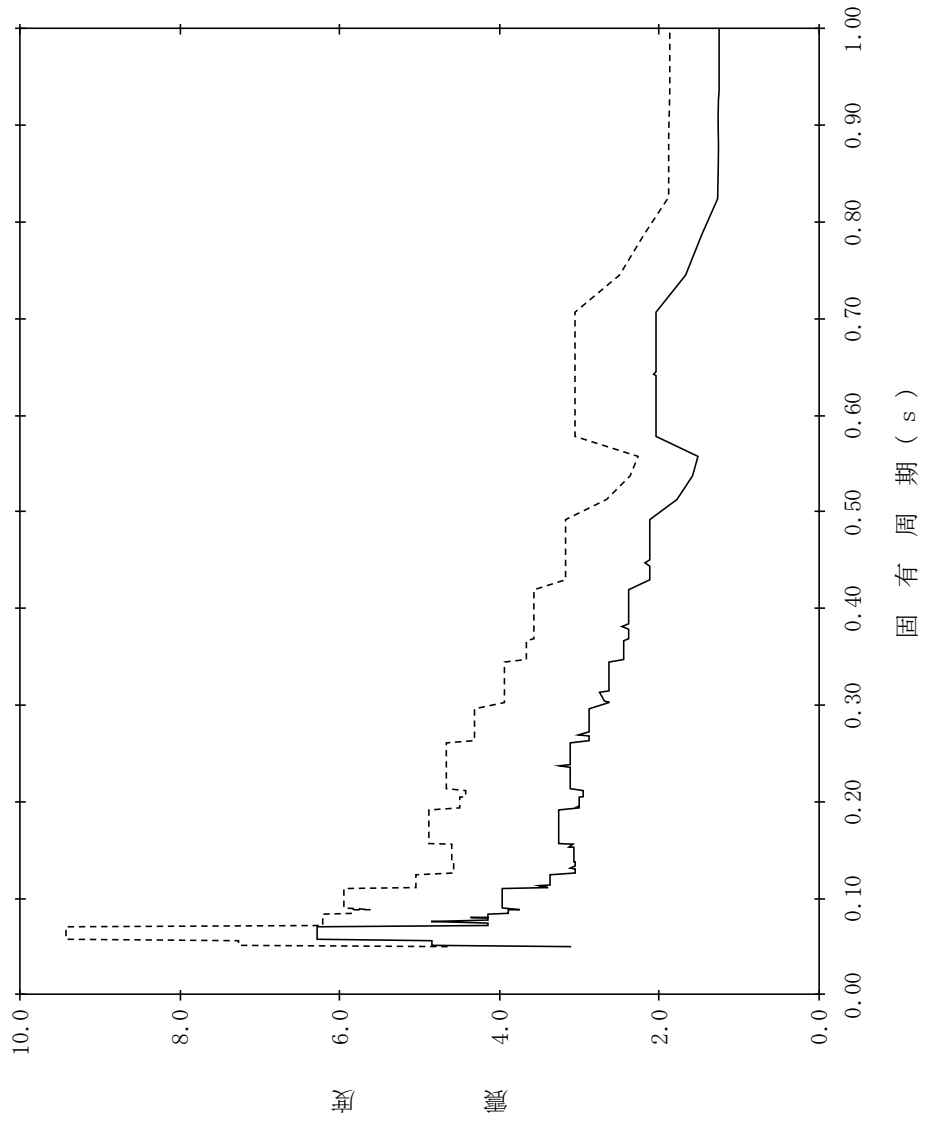
【NS2-TB-SsV-TB32】

構造物名：タービン建物
 標高：EL12.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

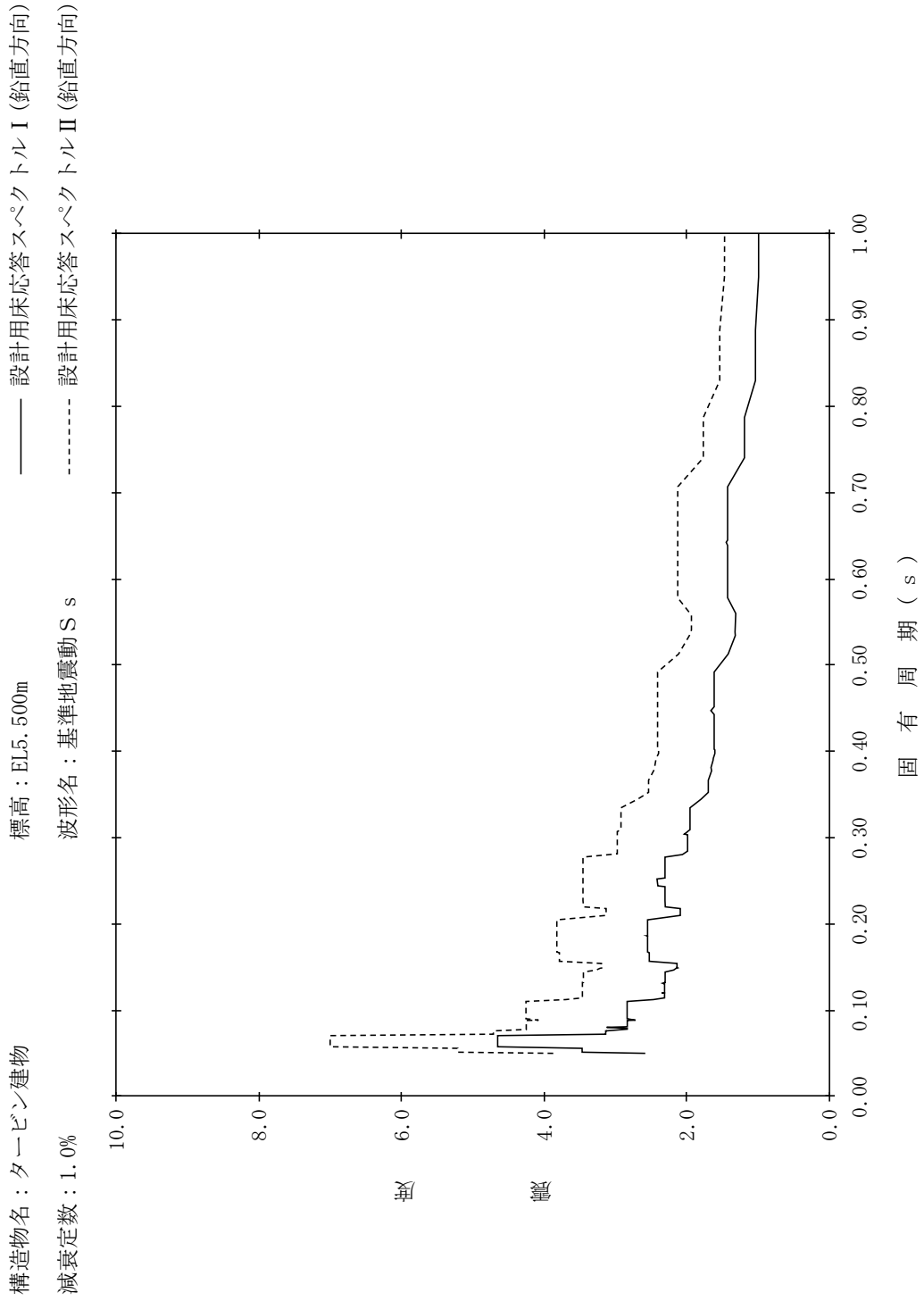


【NS2-TB-SsV-TB33】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SsV-TB34】

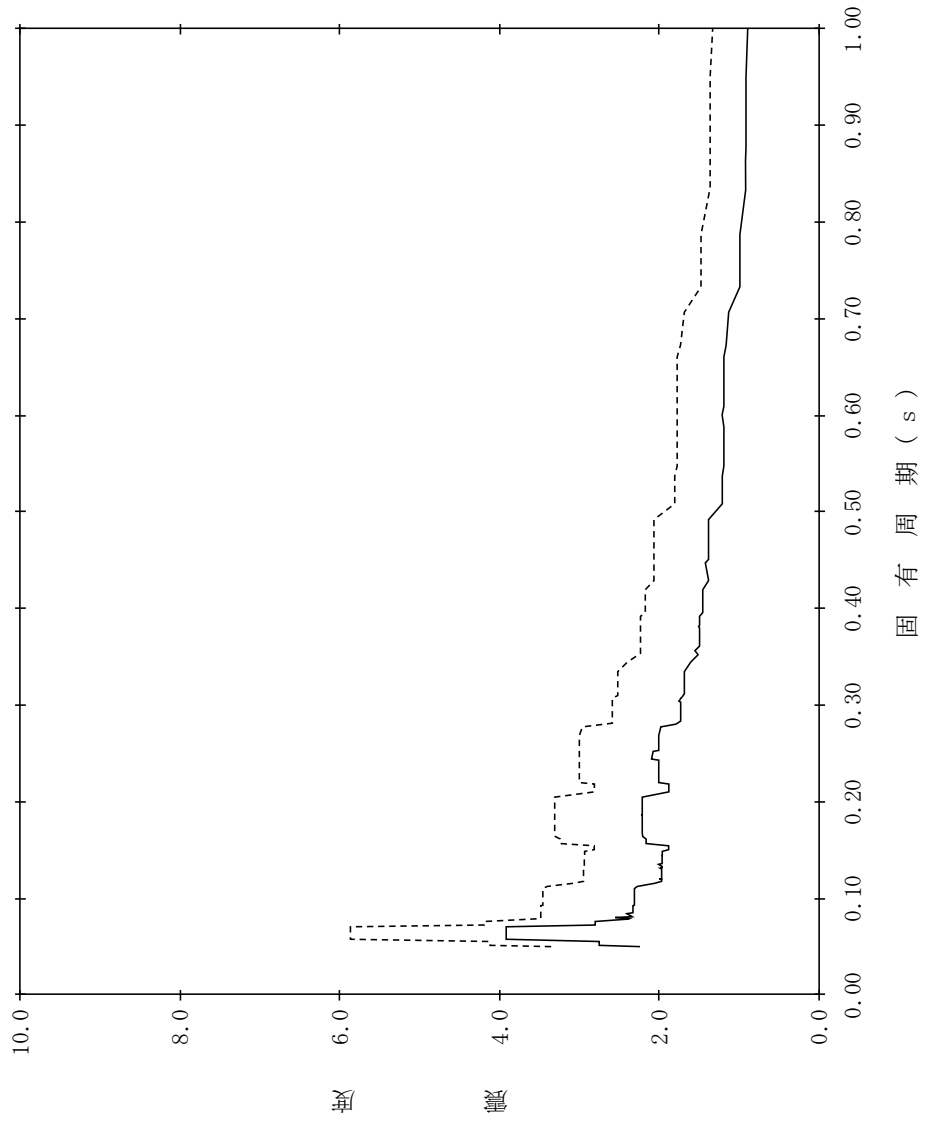


【NS2-TB-SsV-TB35】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 波形名：基準地震動 S s
 減衰定数：1.5%

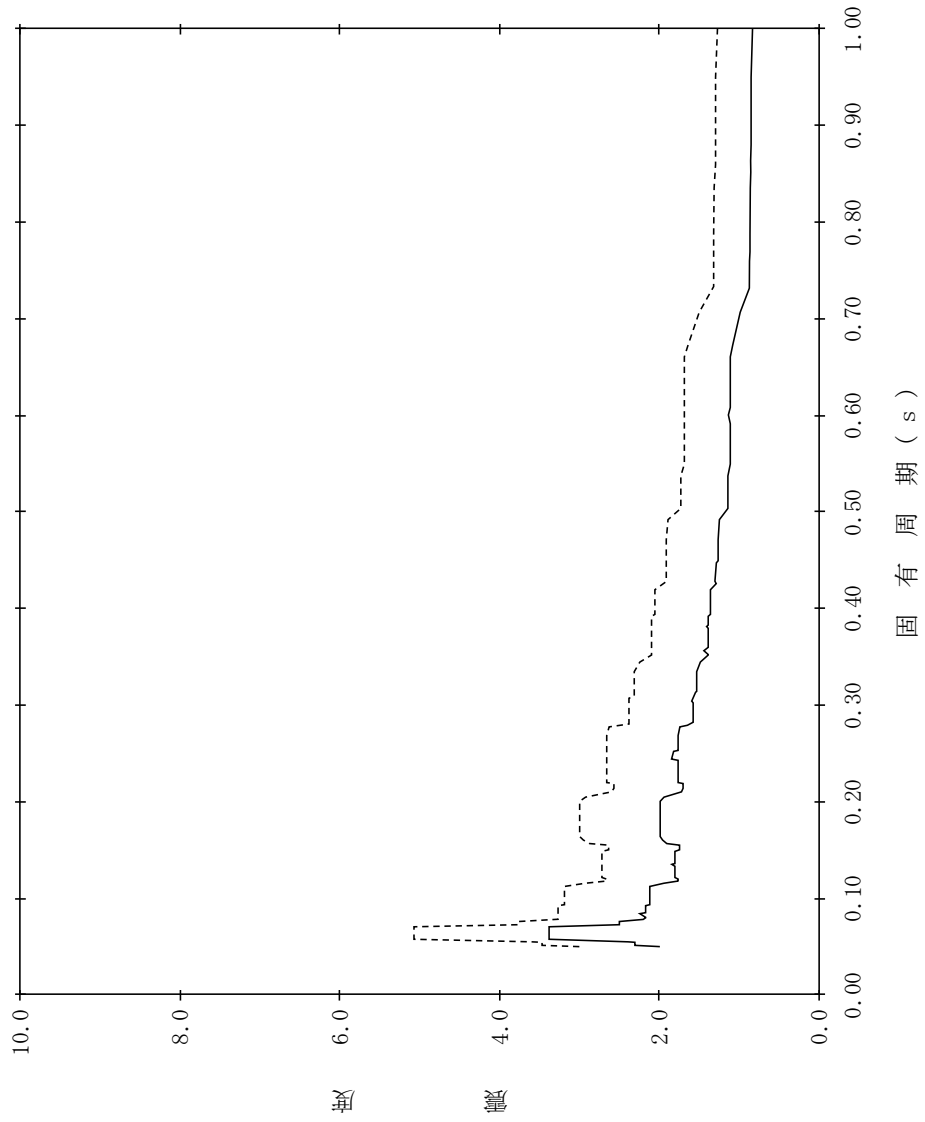
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



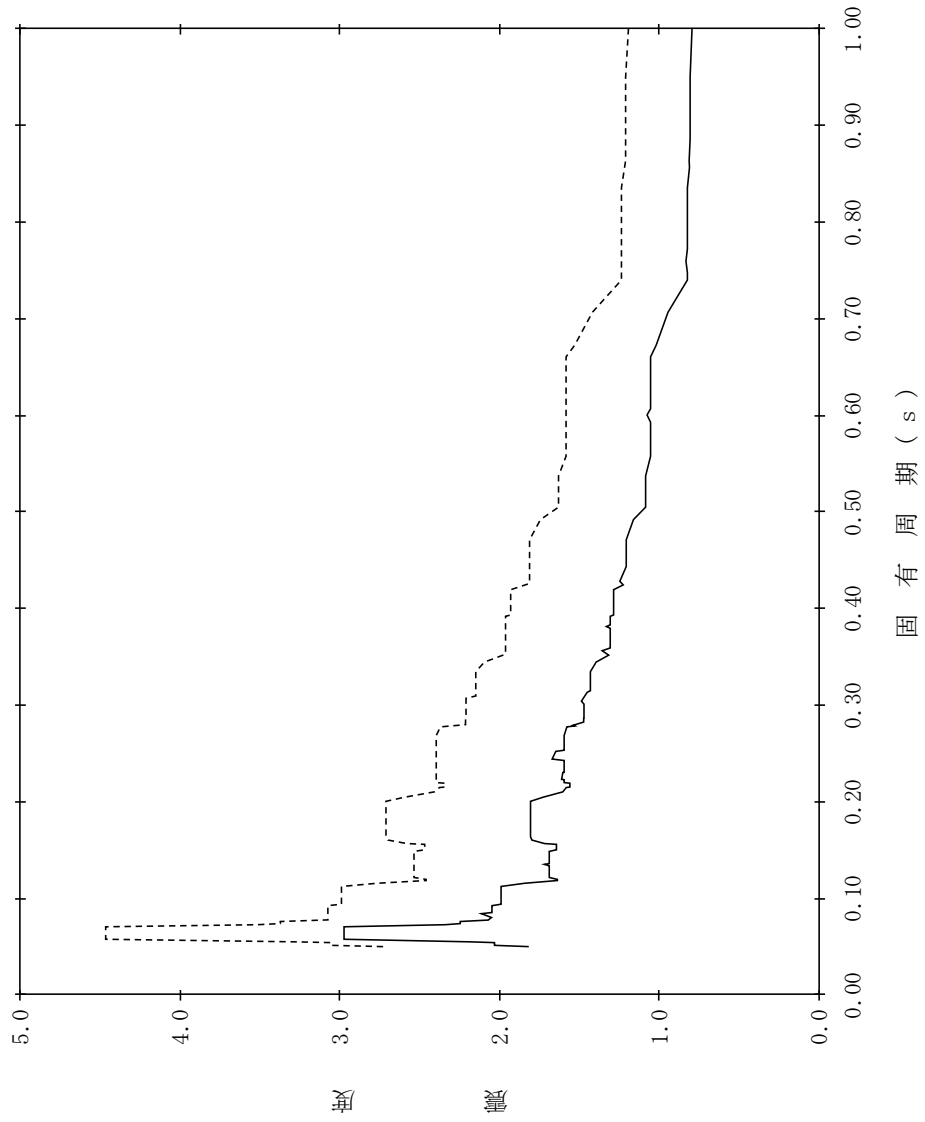
【NS2-TB-SsV-TB36】

構造物名：タービン建物
標高：EL5.500m
減衰定数：2.0%
波形式：標準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



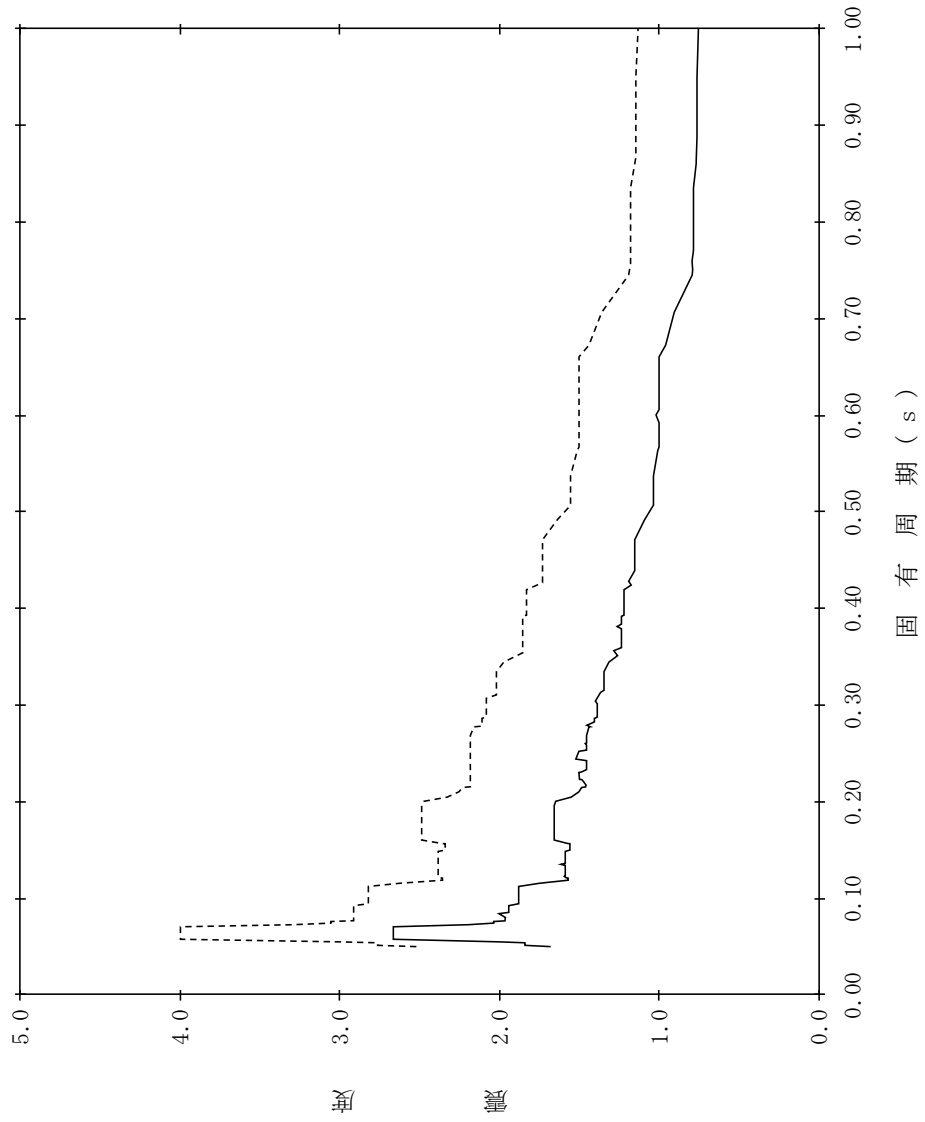
【NS2-TB-SsV-TB37】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

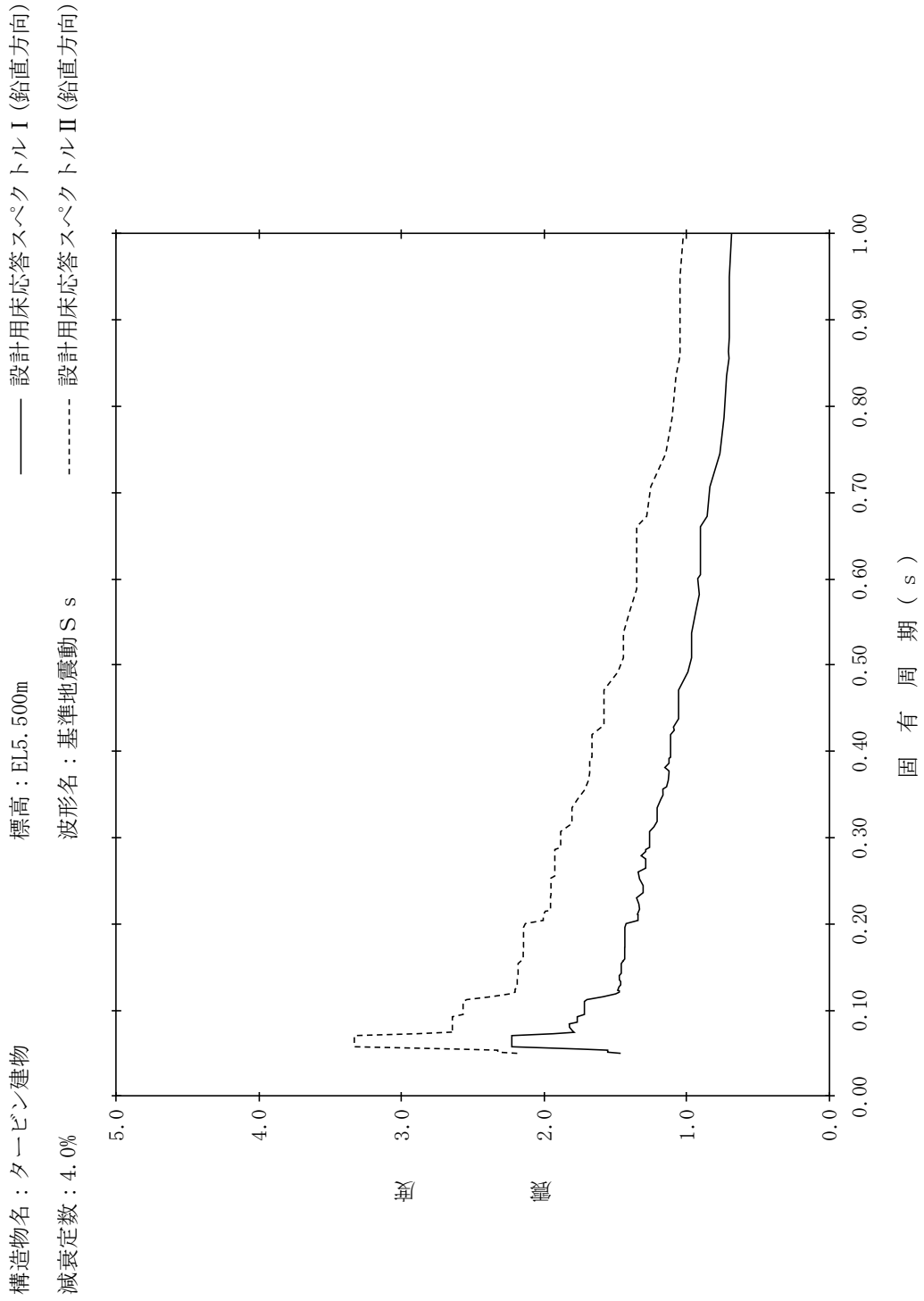


【NS2-TB-SsV-TB38】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

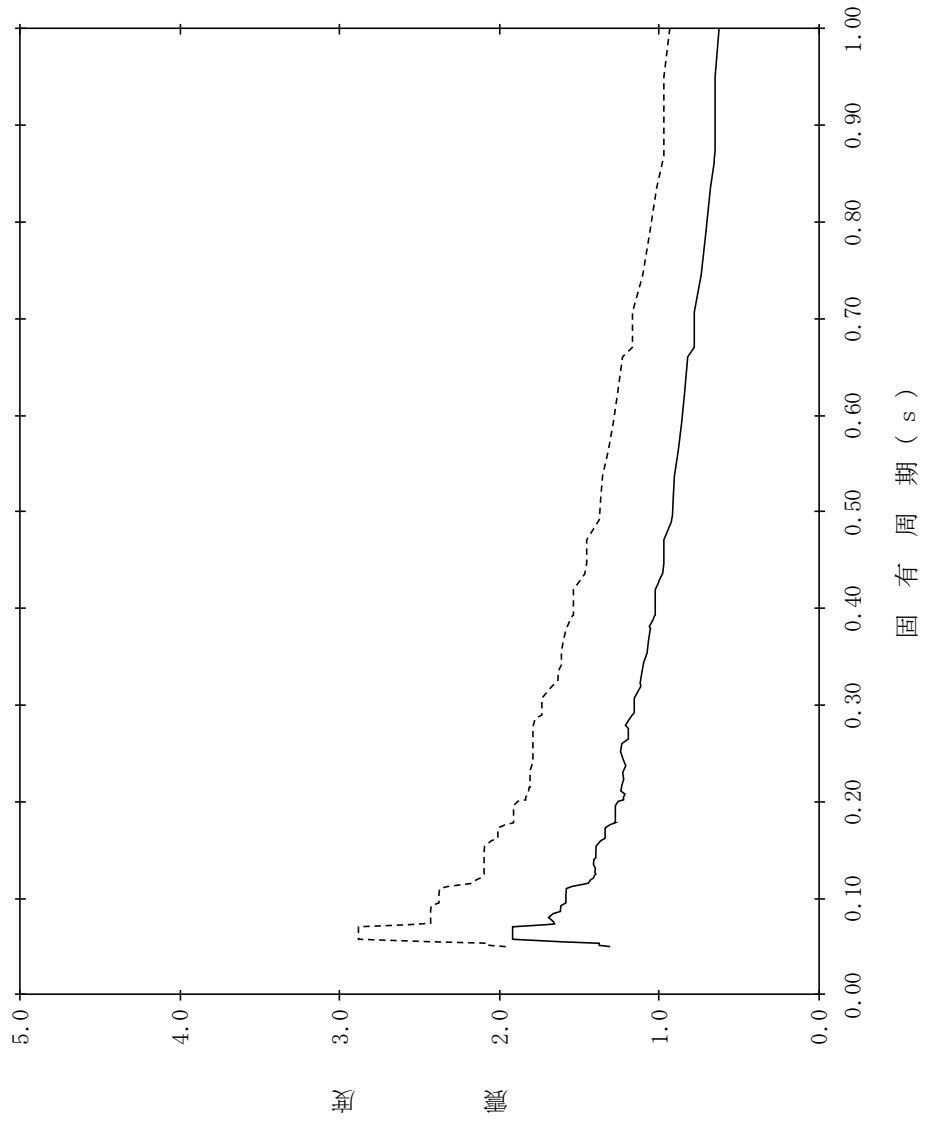


【NS2-TB-SsV-TB39】



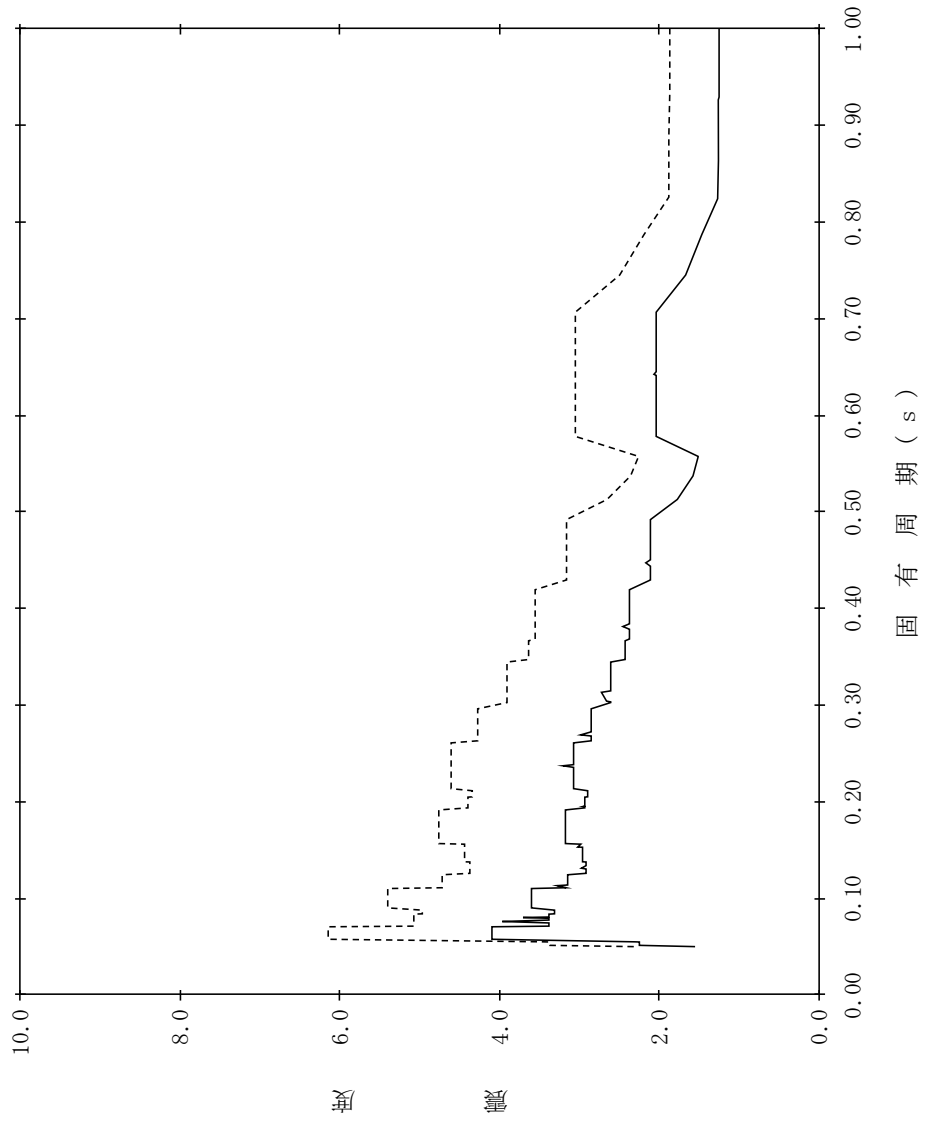
【NS2-TB-SsV-TB40】

構造物名：タービン建物
 標高：EL5.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

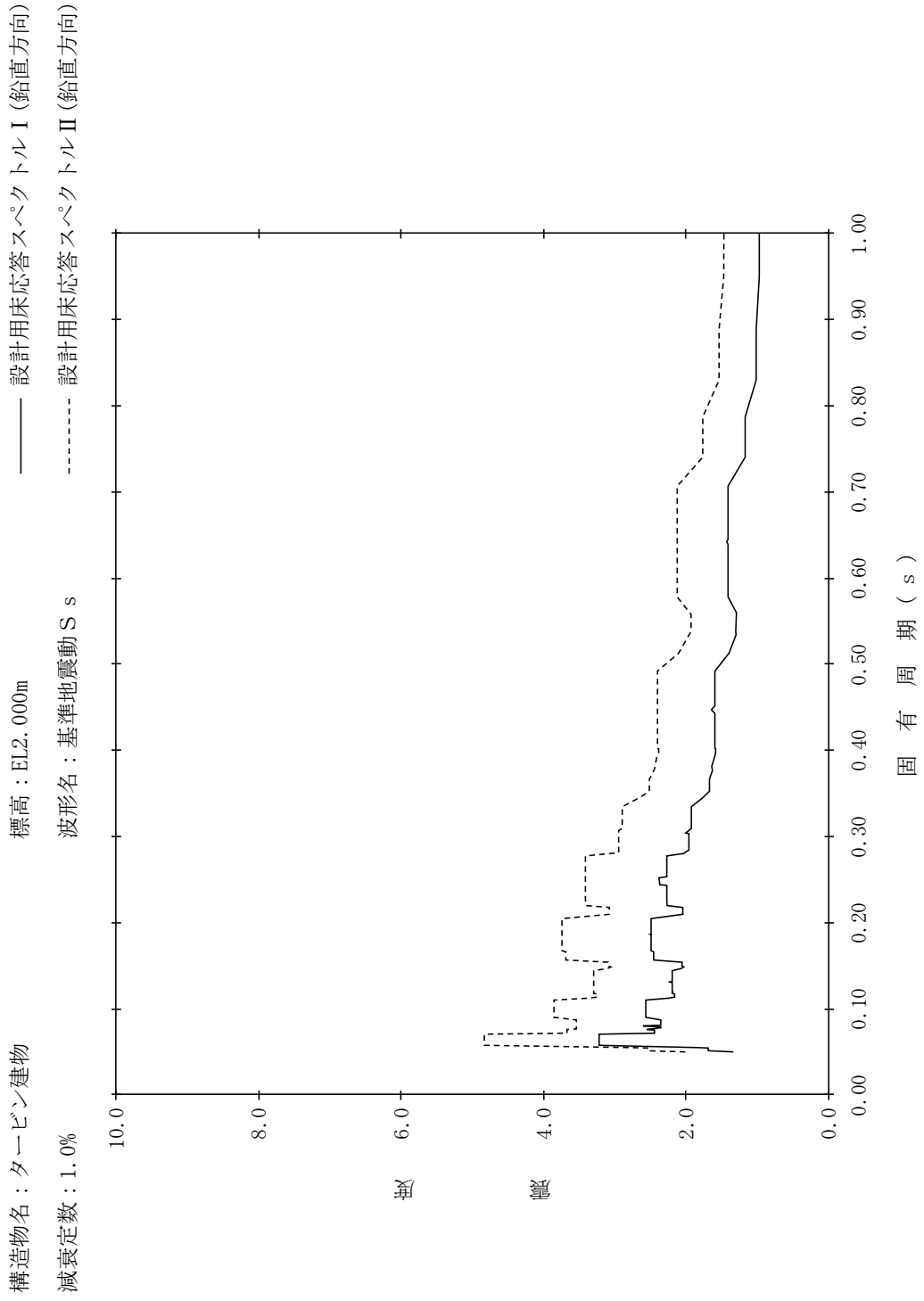


【NS2-TB-SsV-TB41】

構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

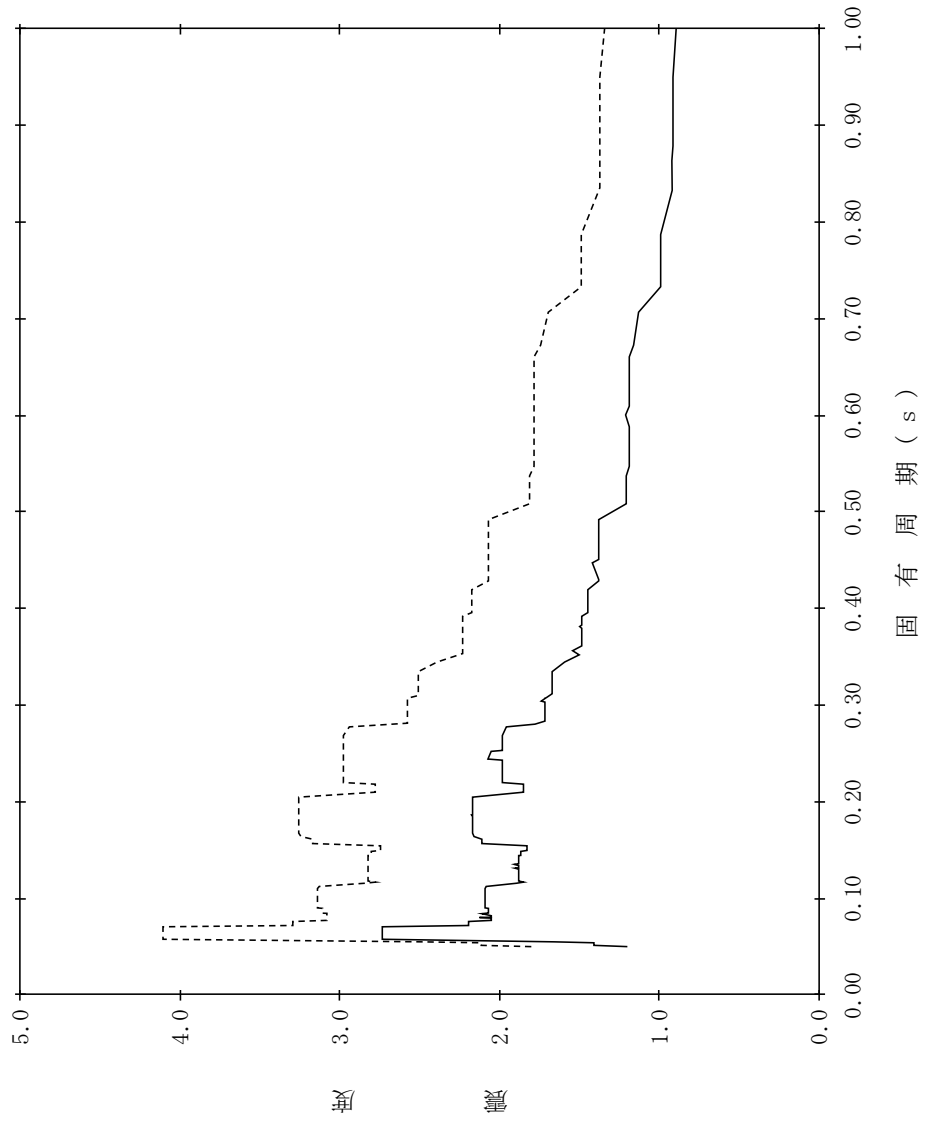


【NS2-TB-SsV-TB42】



【NS2-TB-SsV-TB43】

構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

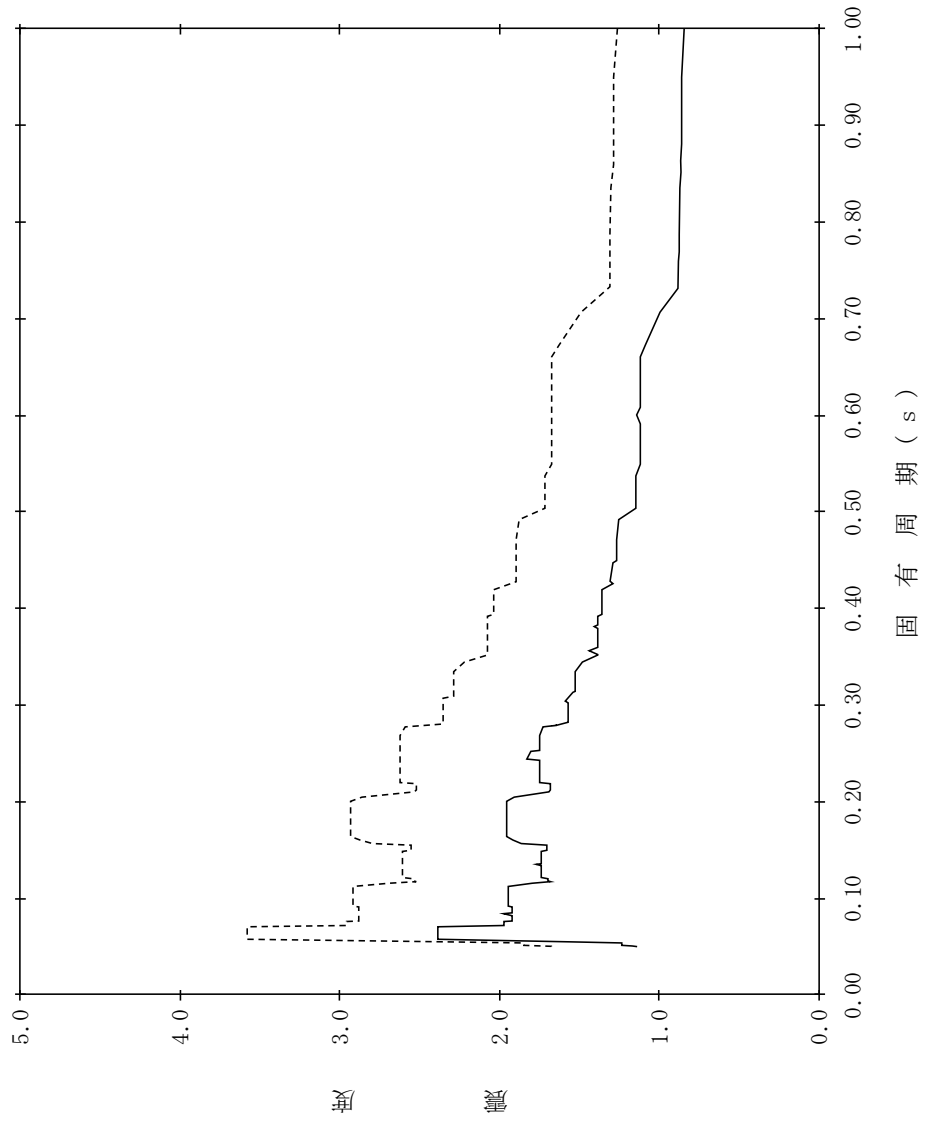


【NS2-TB-SsV-TB44】

構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 減衰定数：2.0%

—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

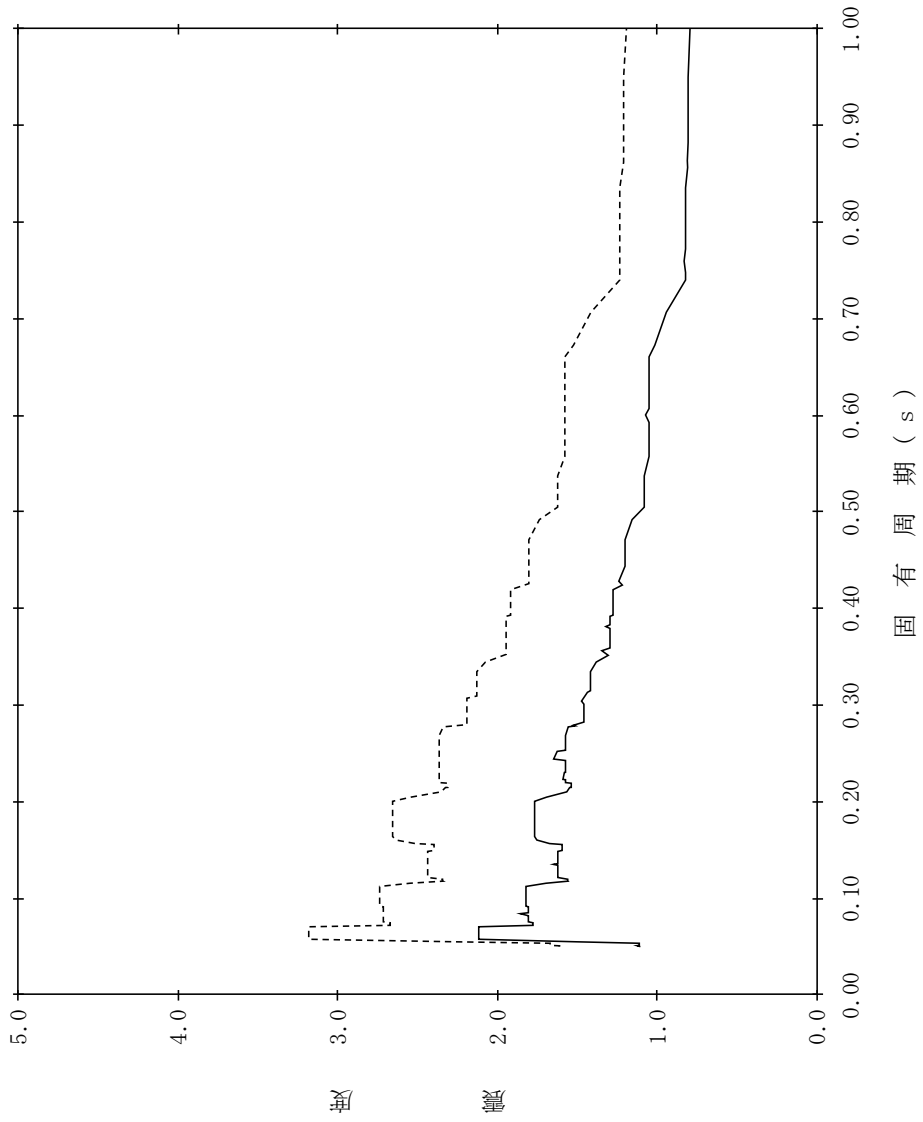
- - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SsV-TB45】

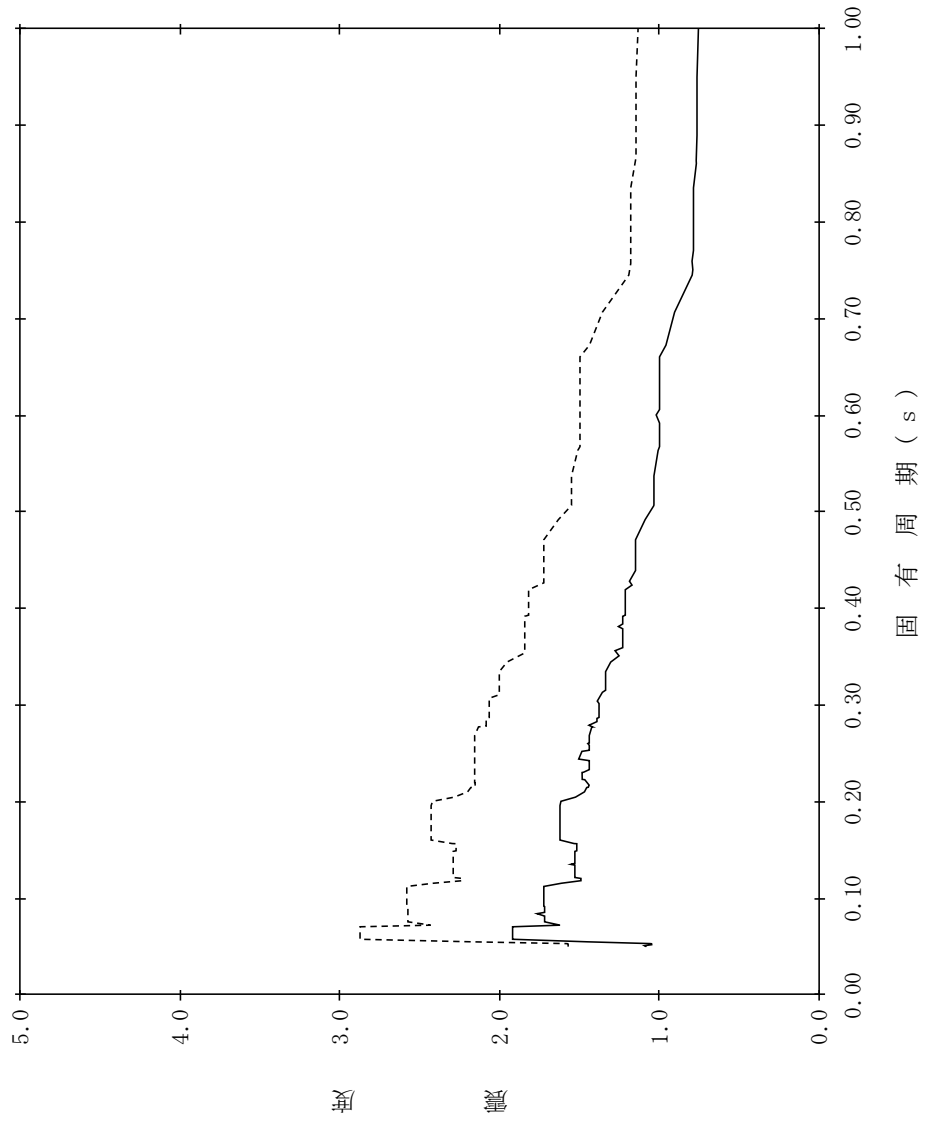
構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 減衰定数：2.5%

——— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 - - - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



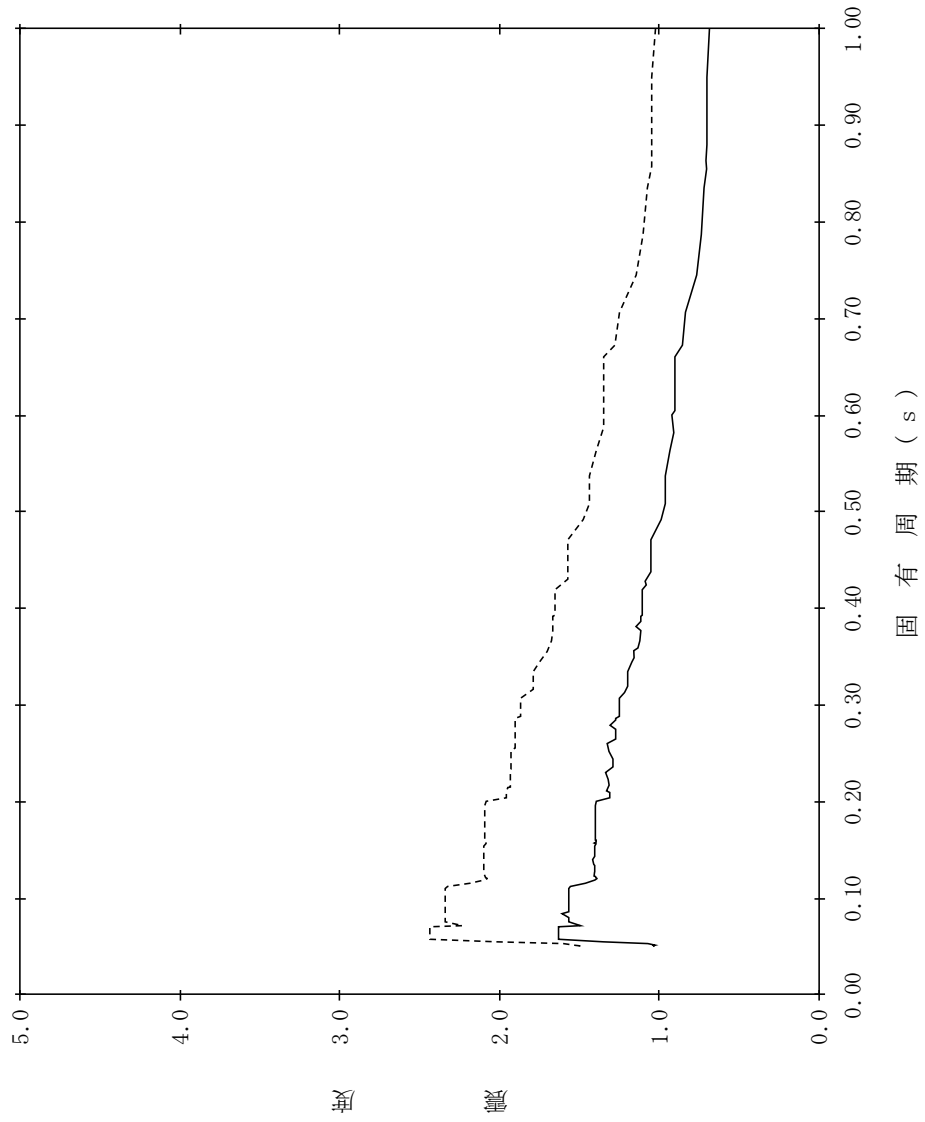
【NS2-TB-SsV-TB46】

構造物名：タービン建物
 標高：EL. 000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



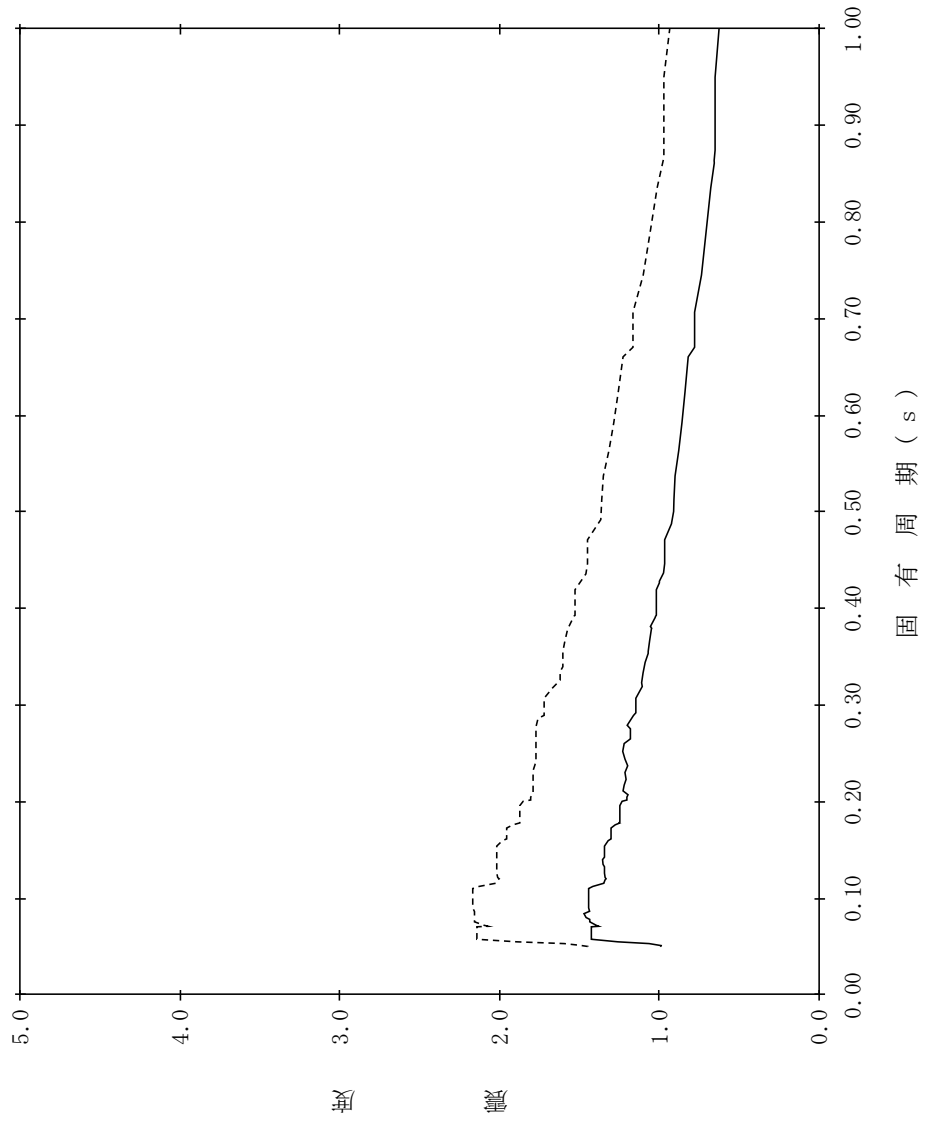
【NS2-TB-SsV-TB47】

構造物名：タービン建物
 標高：EL2.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



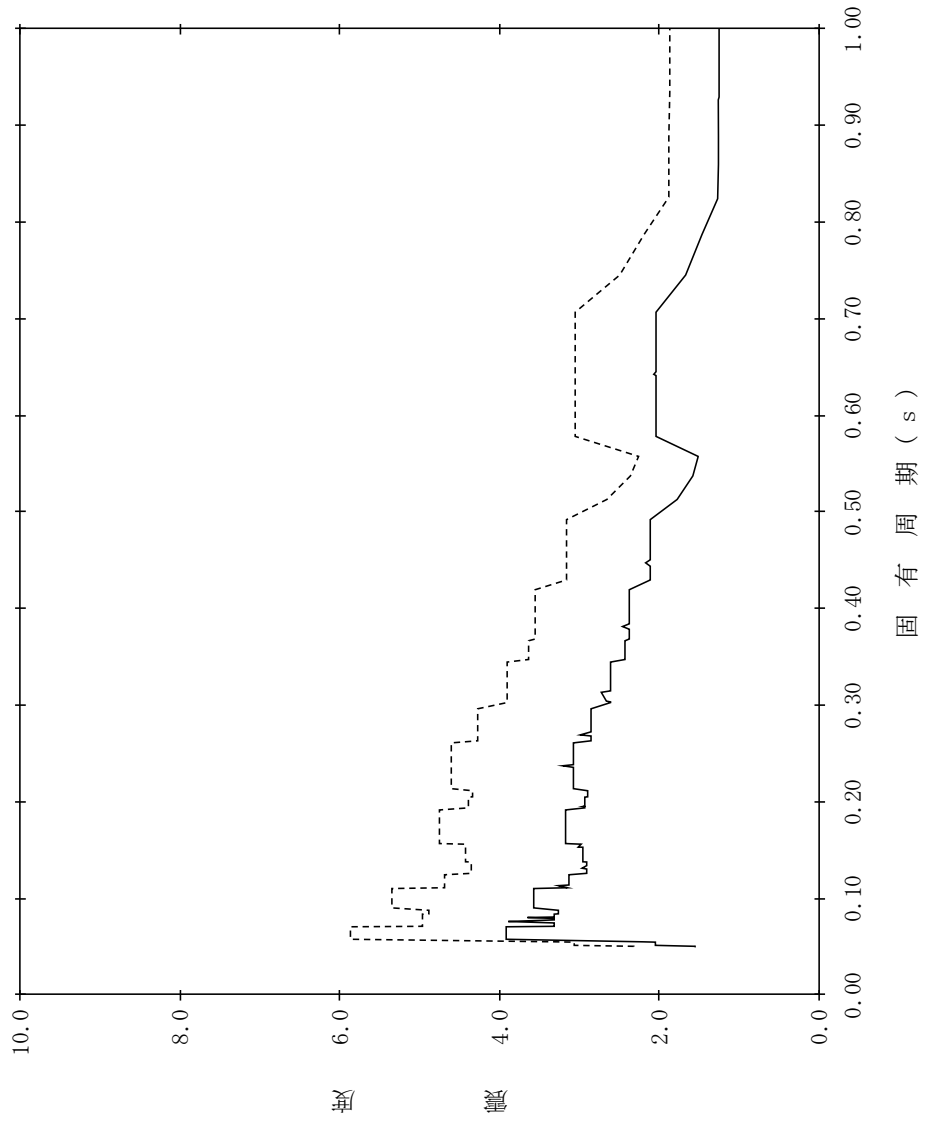
【NS2-TB-SsV-TB48】

構造物名：タービン建物
 標高：EL2.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



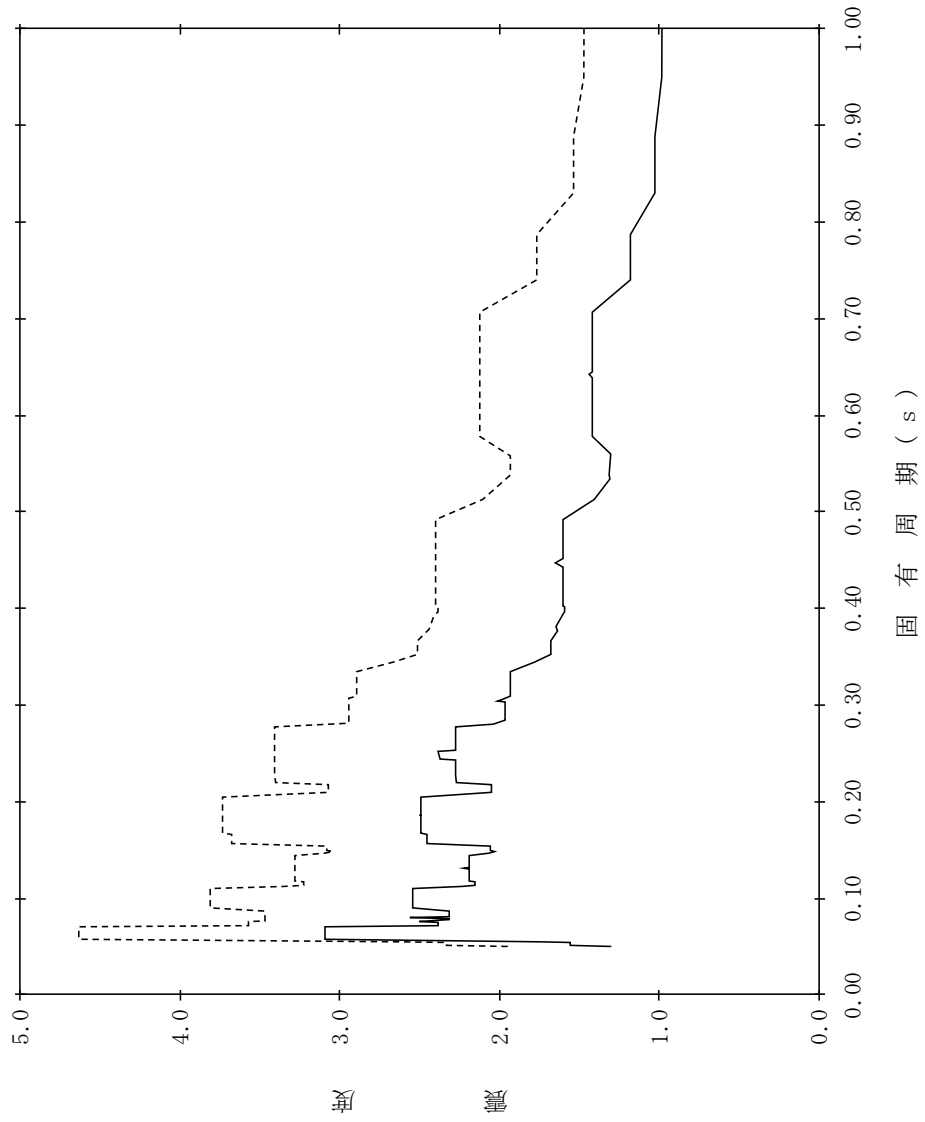
【NS2-TB-SsV-TB49】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



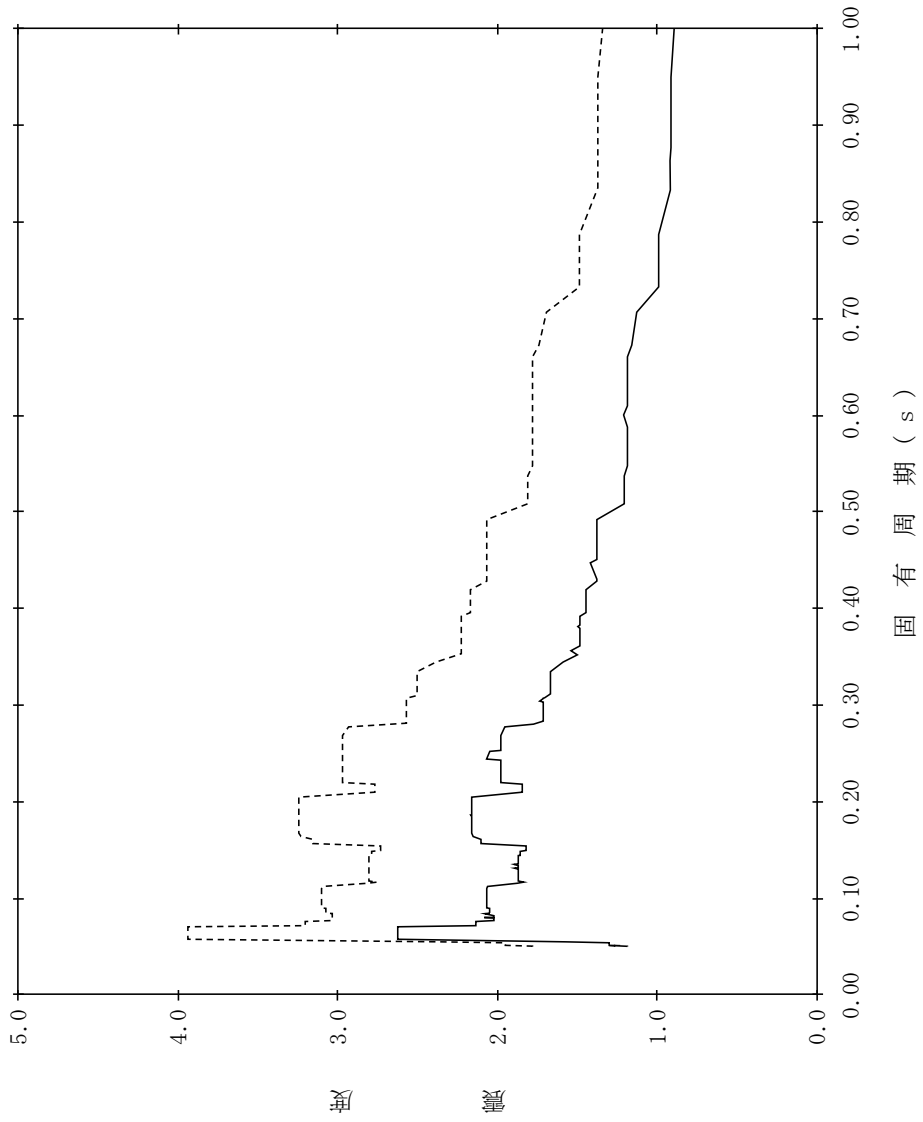
【NS2-TB-SsV-TB50】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



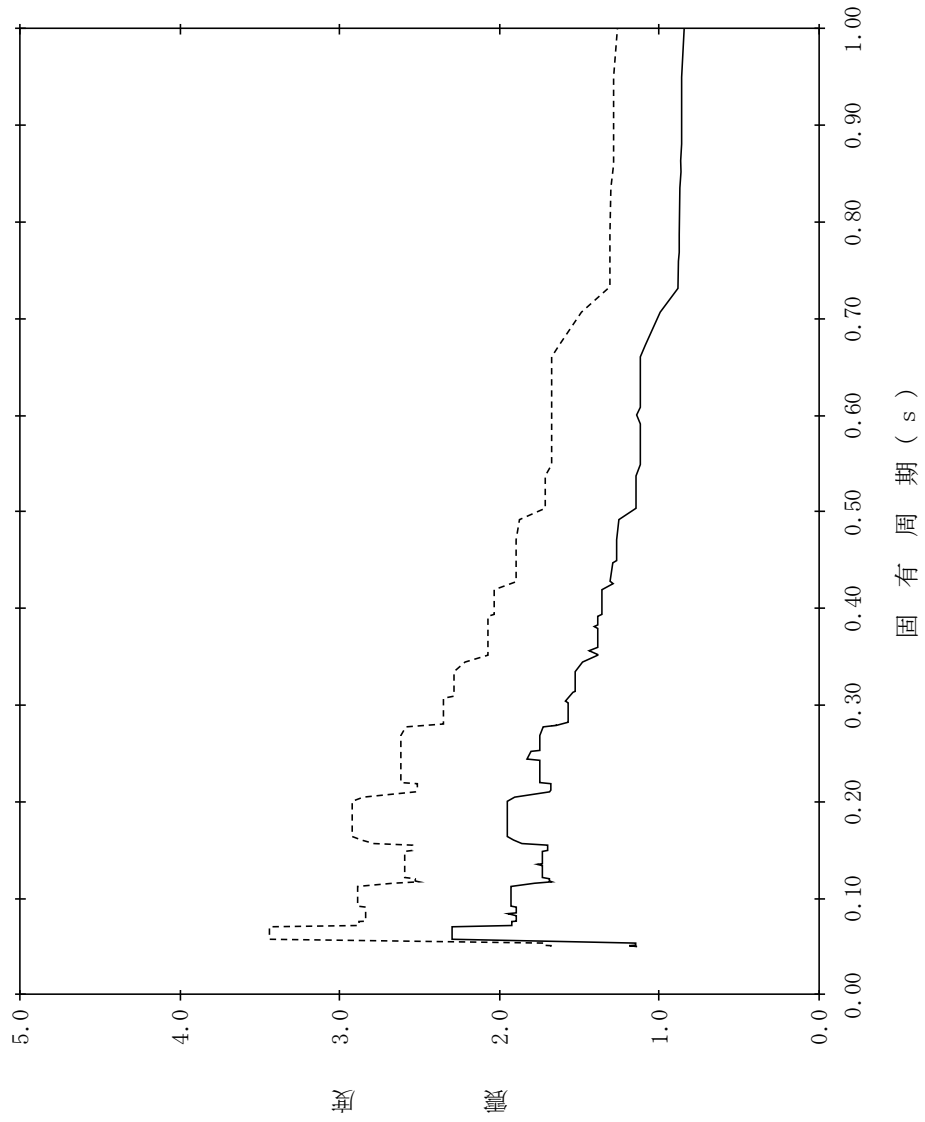
【NS2-TB-SsV-TB51】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



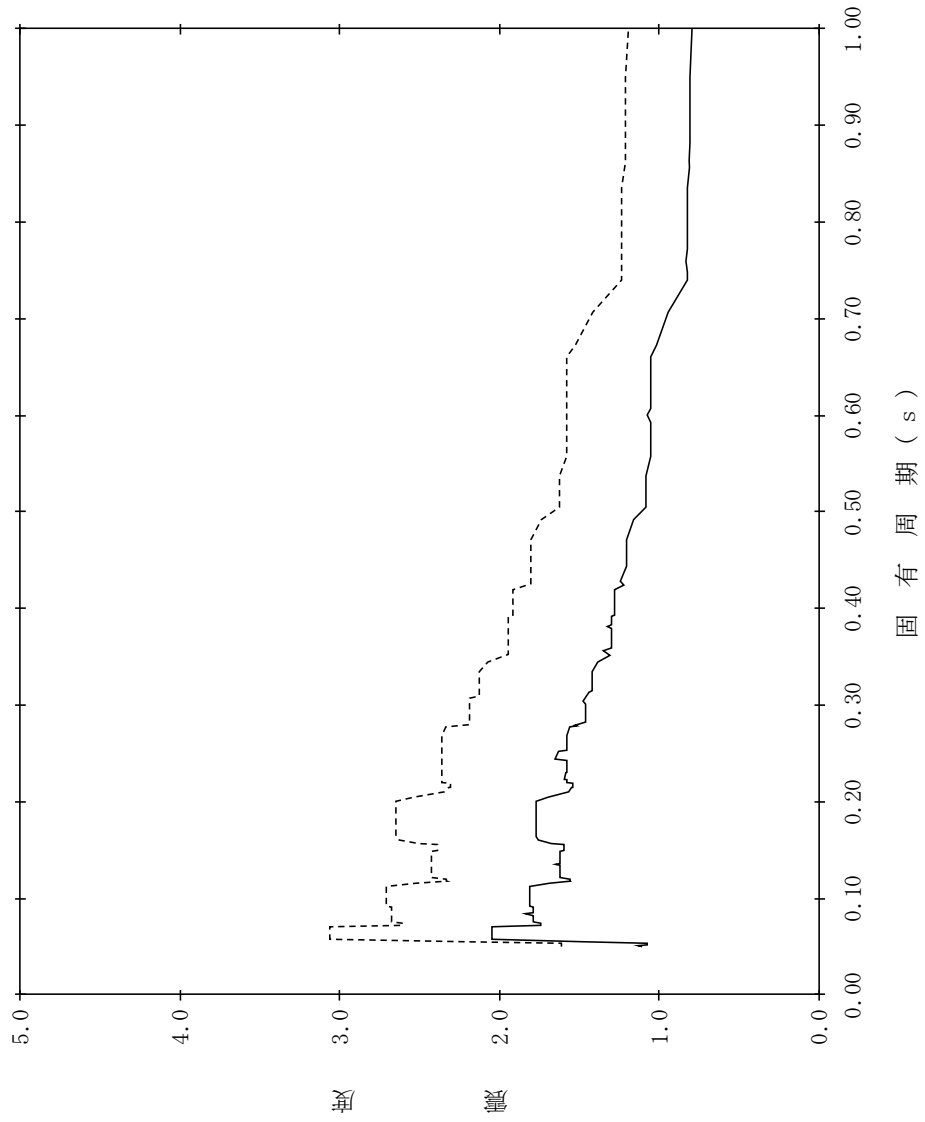
【NS2-TB-SsV-TB52】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SsV-TB53】

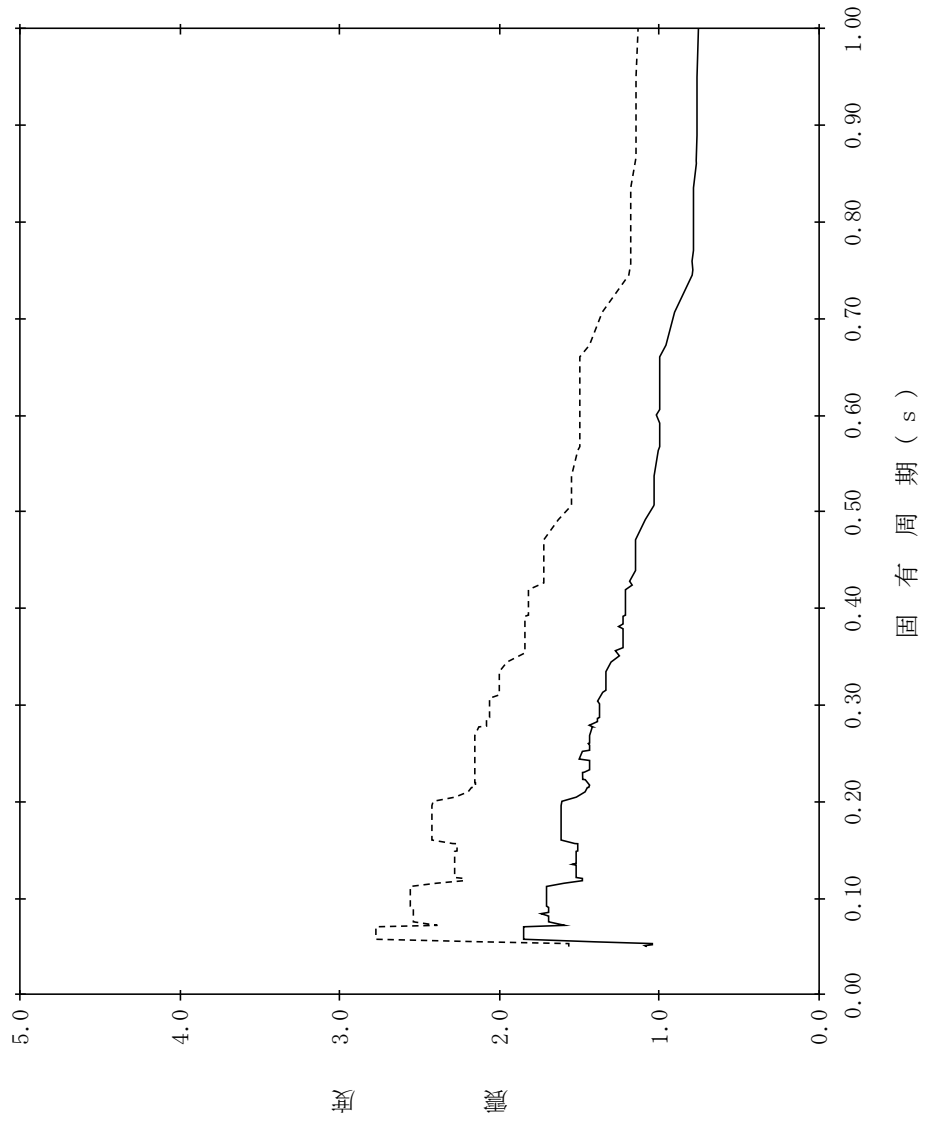
構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SsV-TB54】

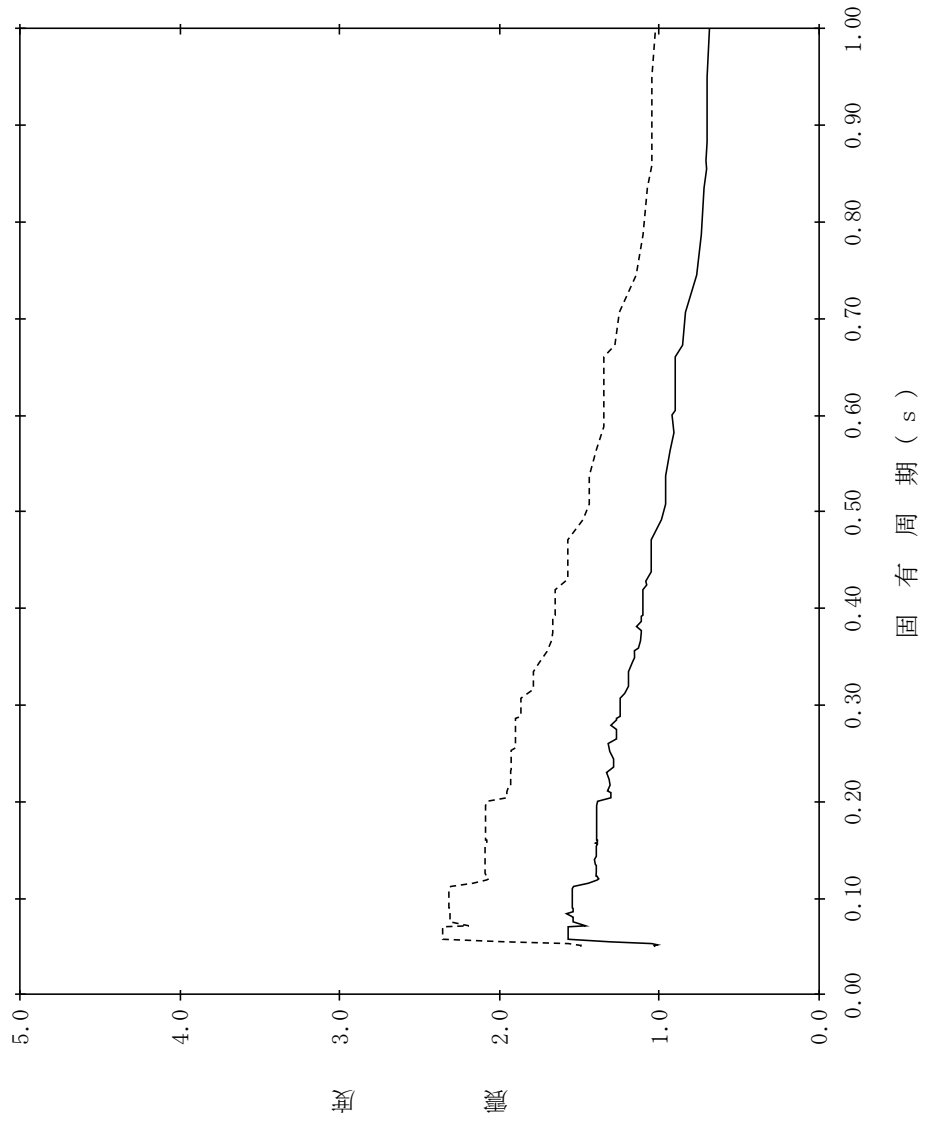
構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：3.0%

——— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 - - - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



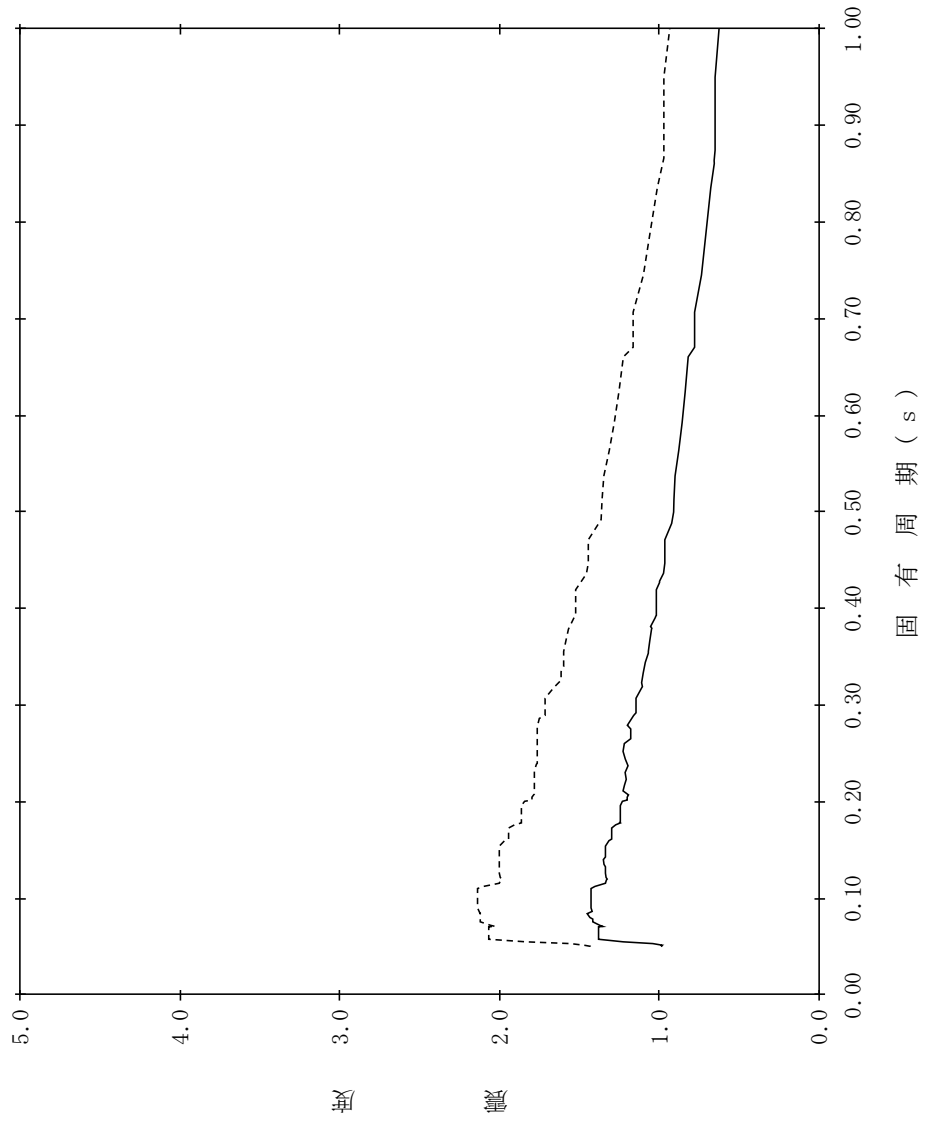
【NS2-TB-SsV-TB55】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



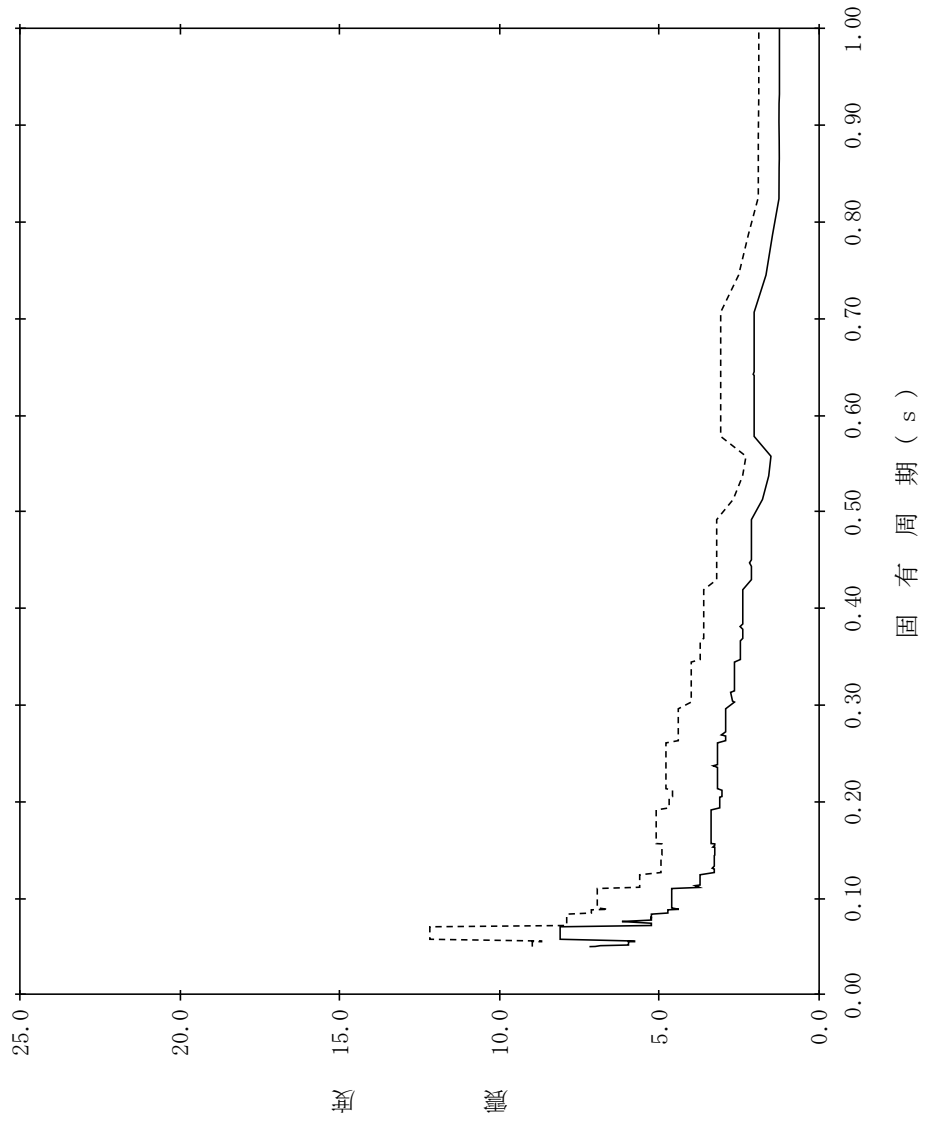
【NS2-TB-SsV-TB56】

構造物名：タービン建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



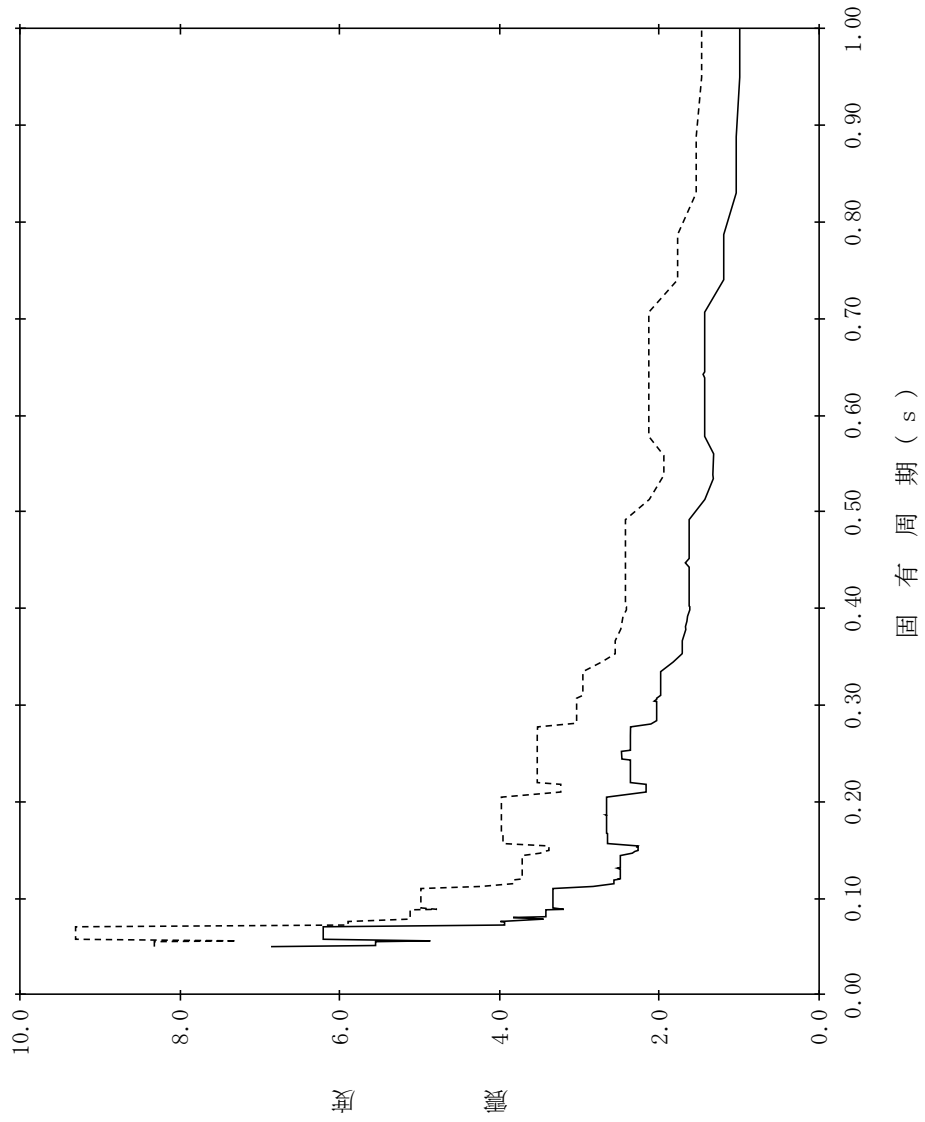
【NS2-TB-SsV-TG57】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



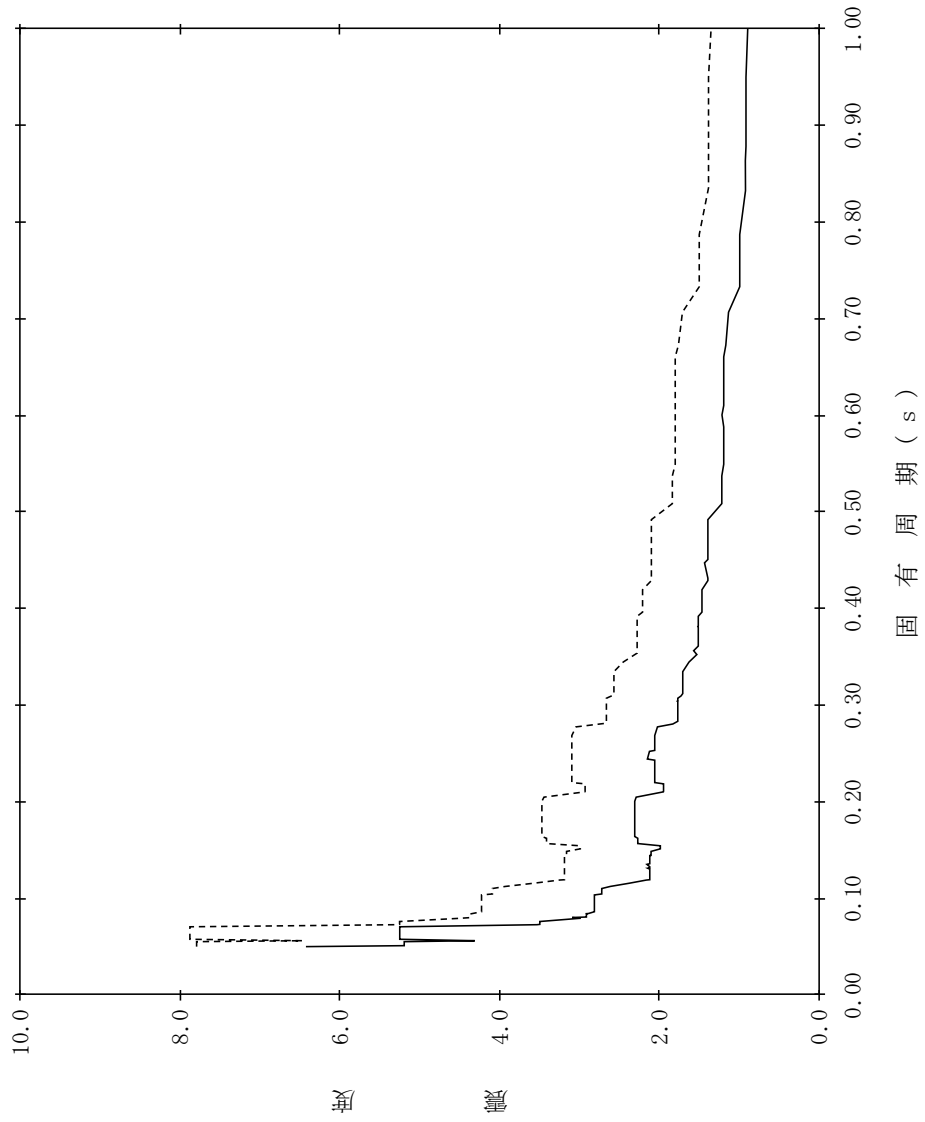
【NS2-TB-SsV-TG58】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



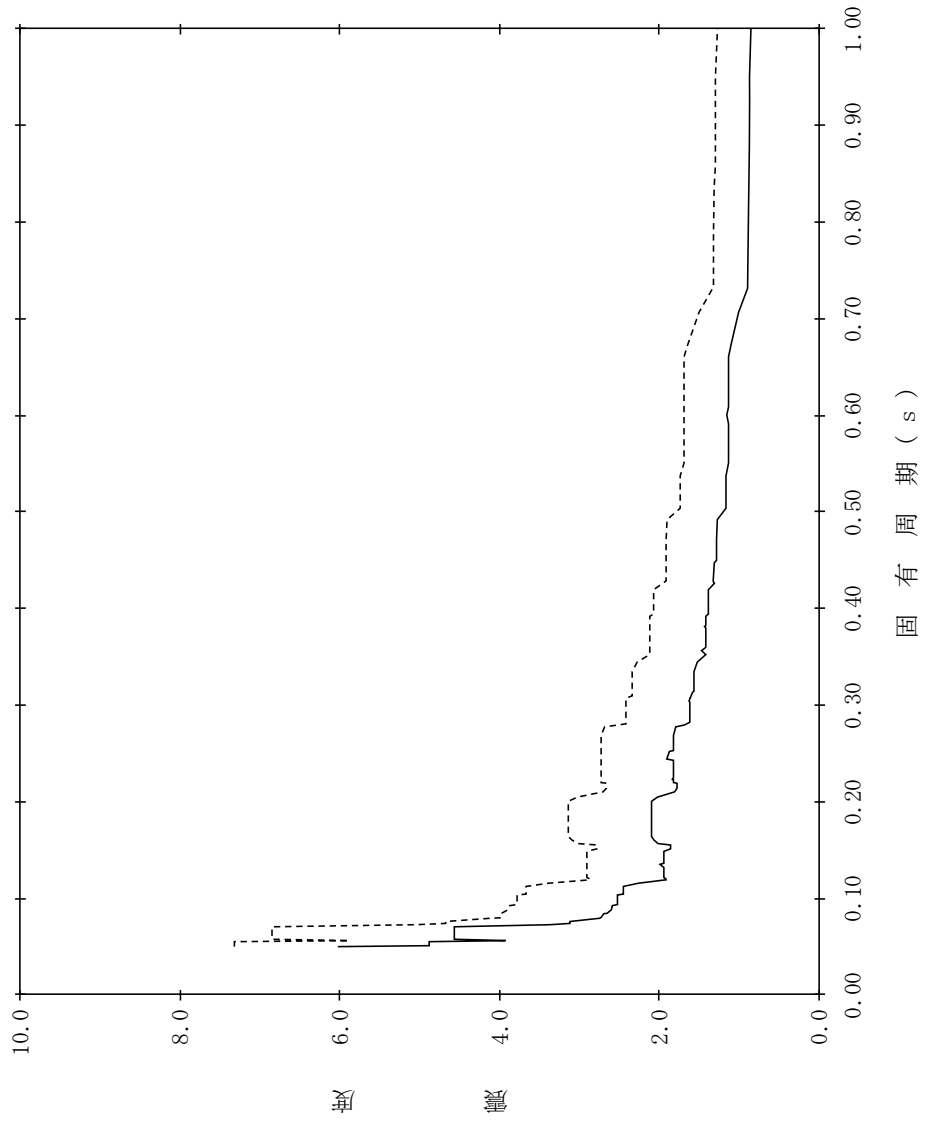
【NS2-TB-SsV-TG59】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SsV-TG60】

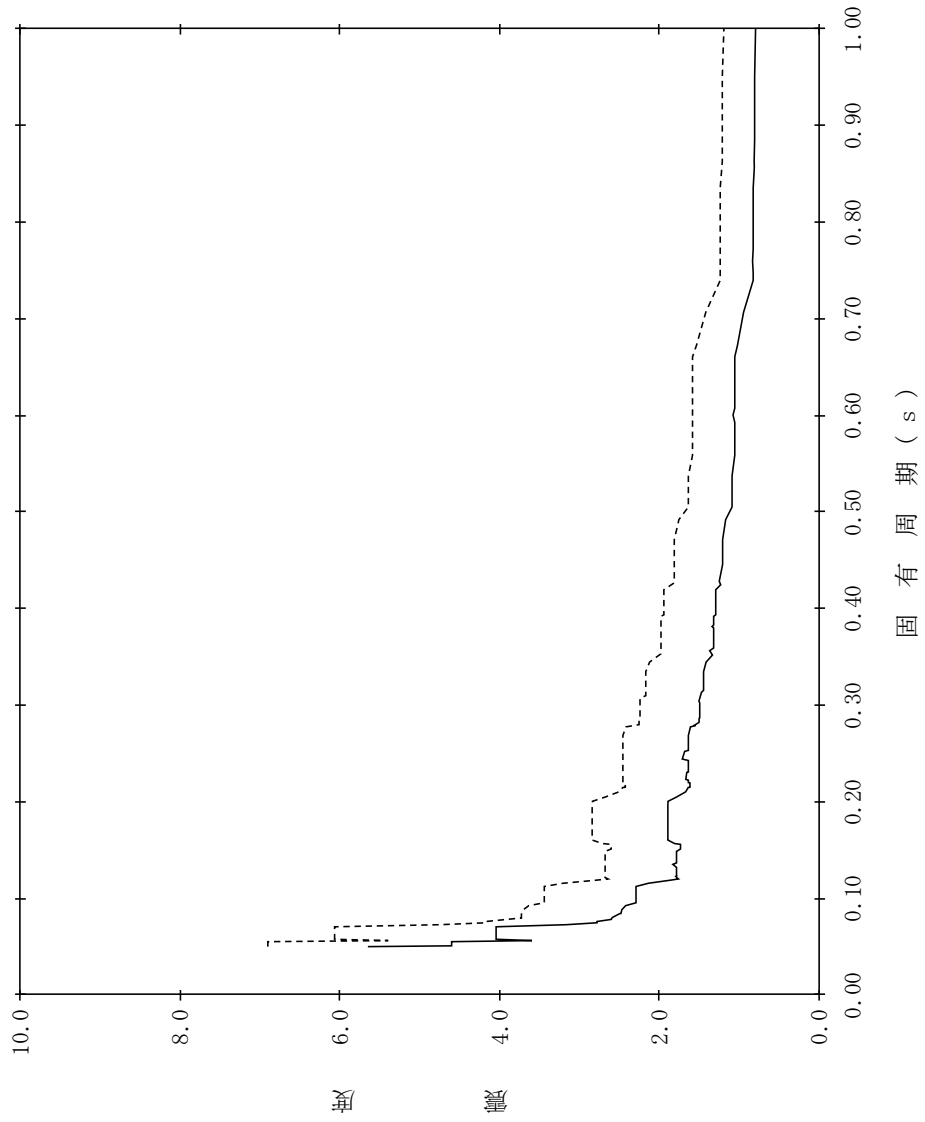
構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SsV-TG61】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：2.5%

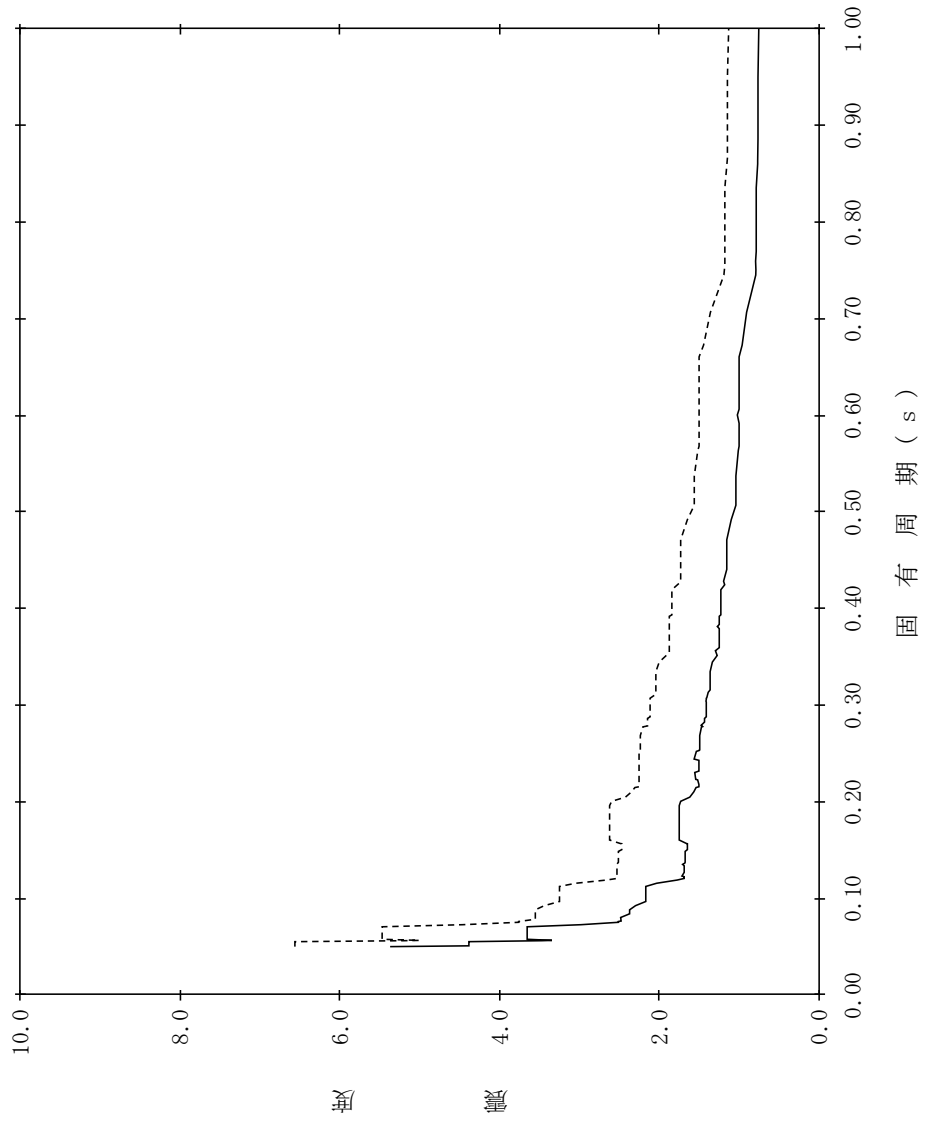
——— 設計用床応答スペクトルⅠ（鉛直方向）
 - - - - - 設計用床応答スペクトルⅡ（鉛直方向）



【NS2-TB-SsV-TG62】

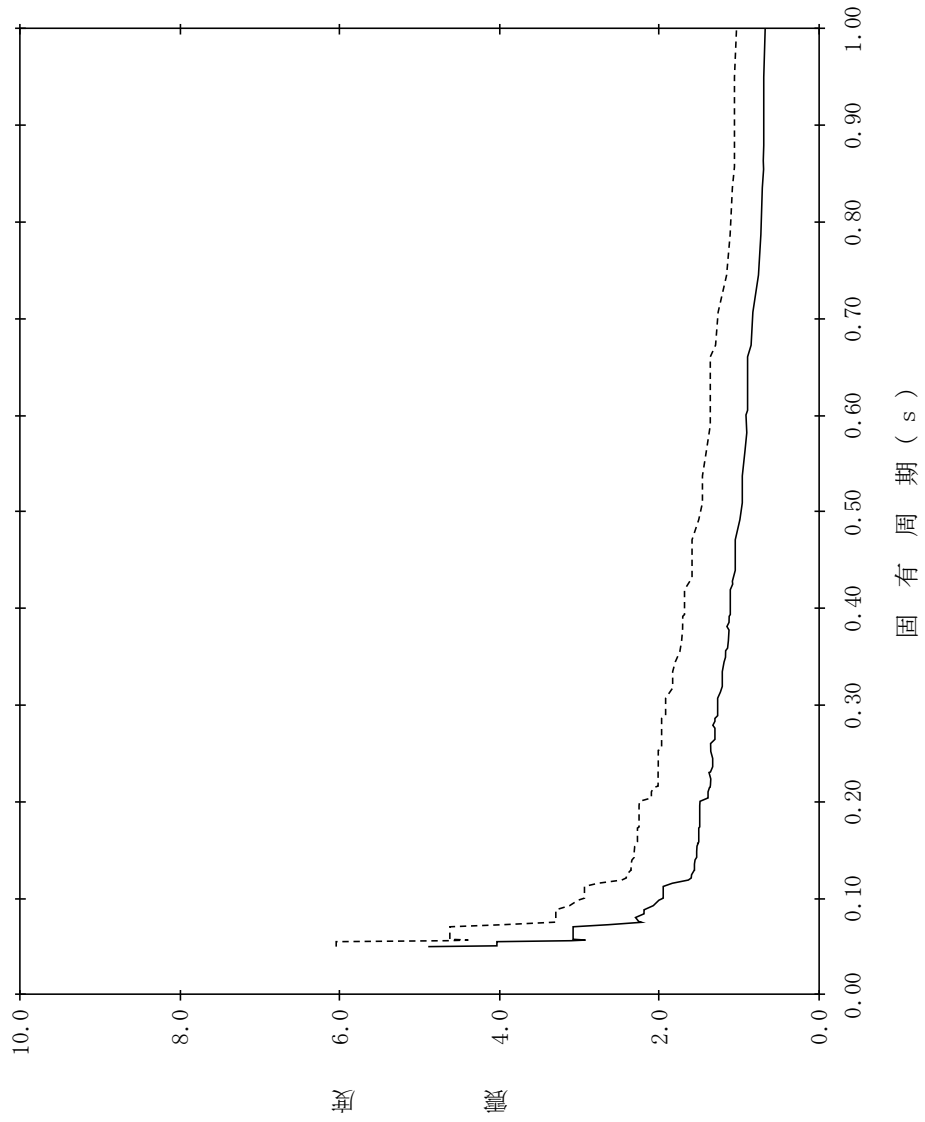
構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：3.0%

— 設計用床応答スペクトルⅠ（鉛直方向）
 - - - 設計用床応答スペクトルⅡ（鉛直方向）



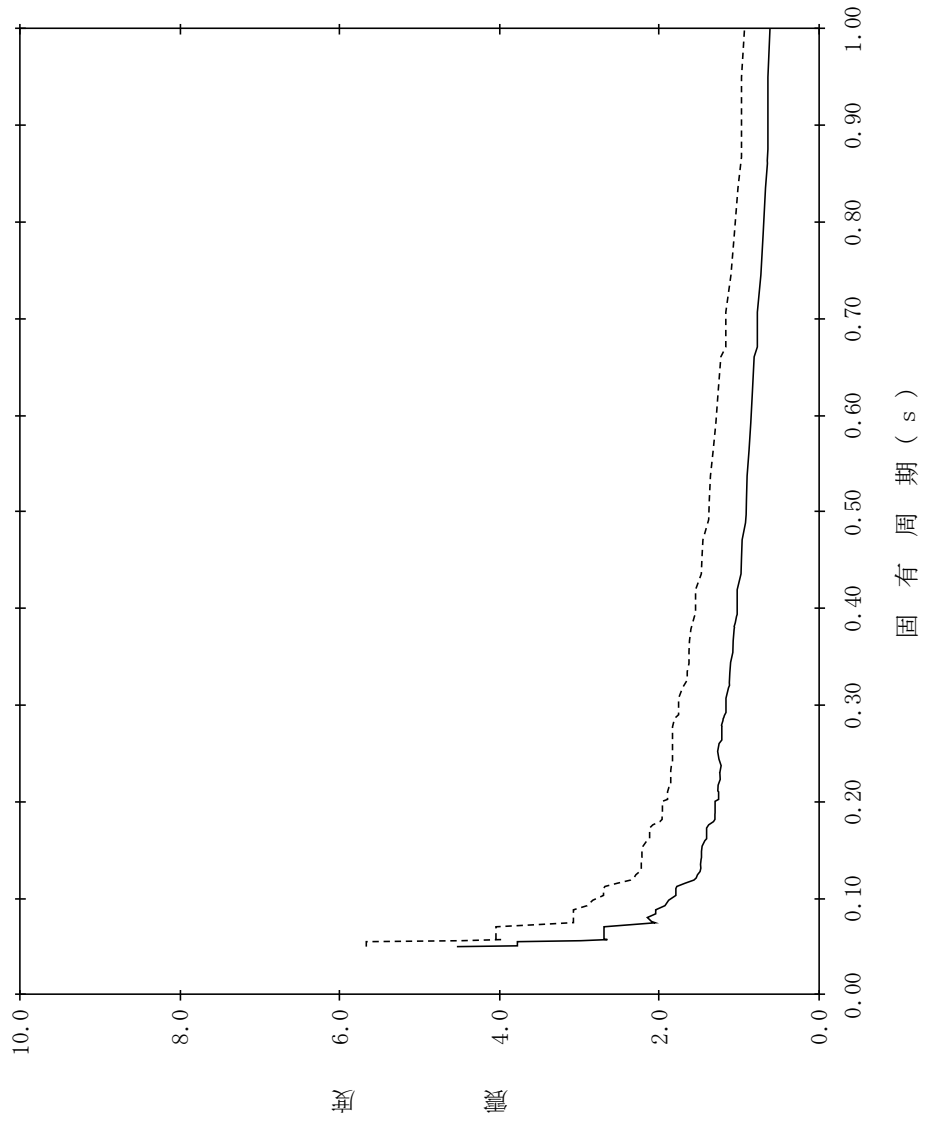
【NS2-TB-SsV-TG63】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL20.480m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



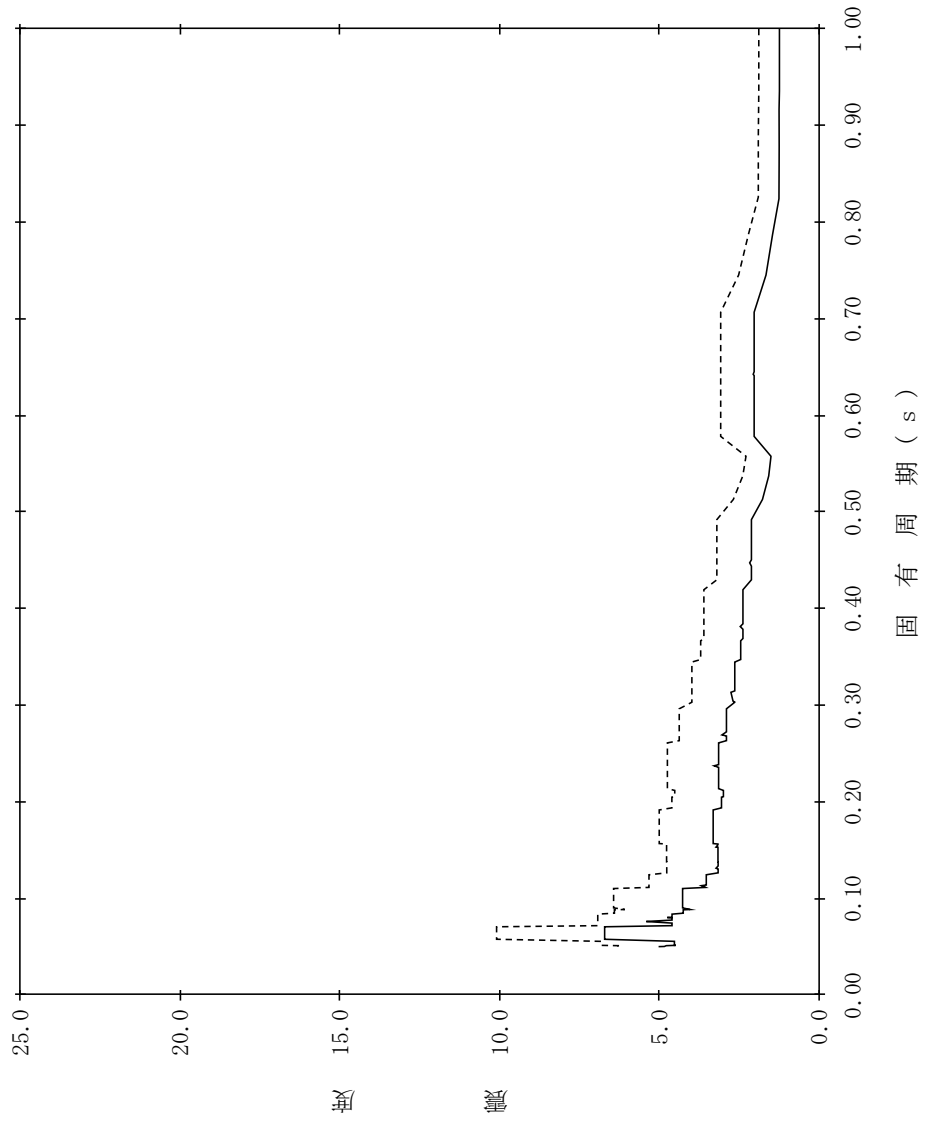
【NS2-TB-SsV-TG64】

構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL20.480m
減衰定数：5.0%
波形式：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



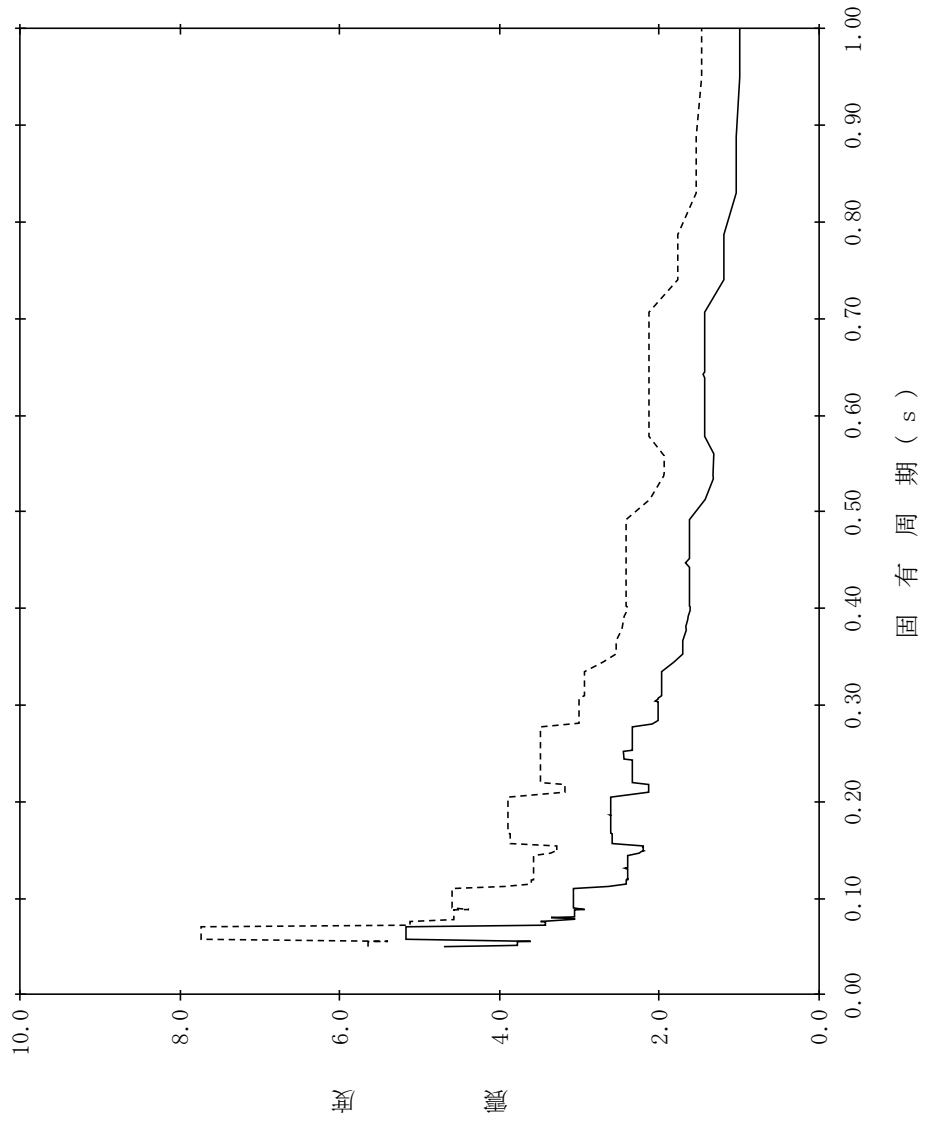
【NS2-TB-SsV-TG65】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



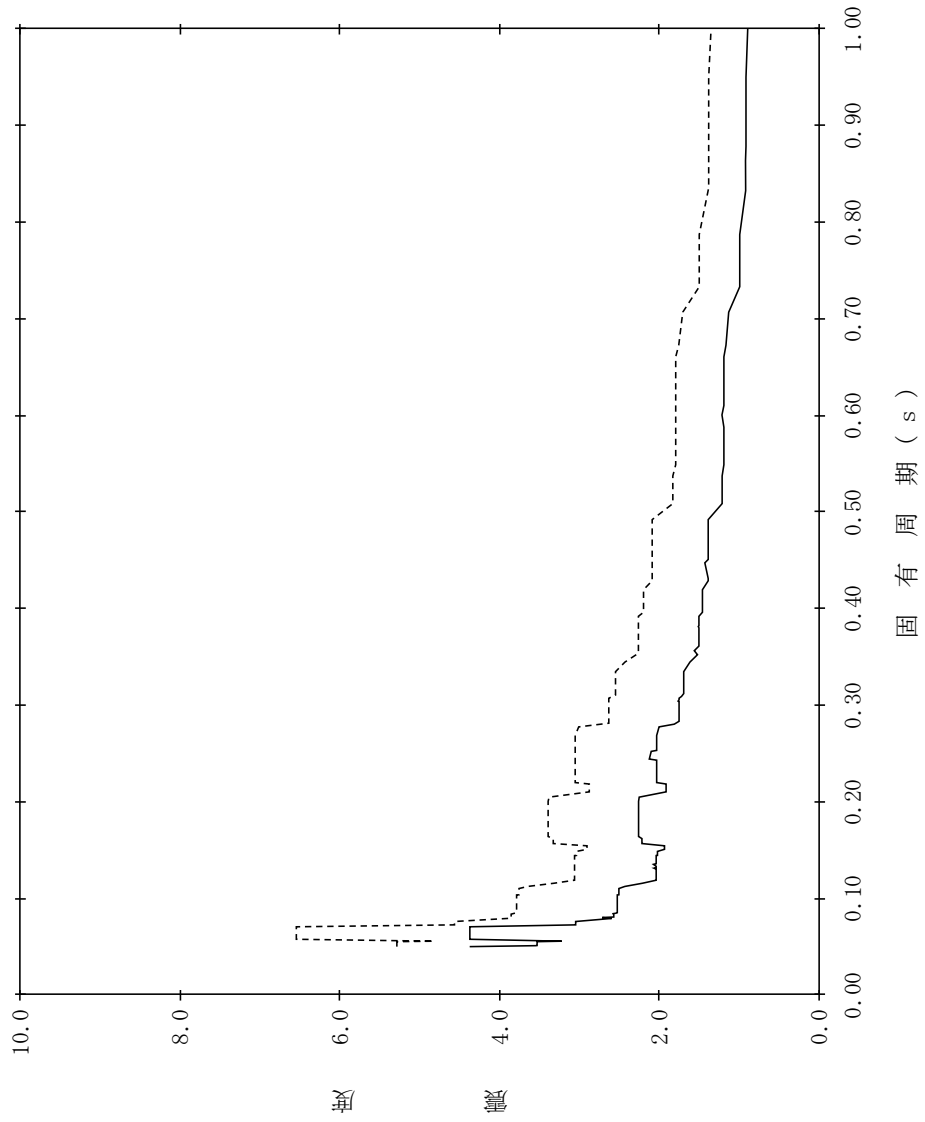
【NS2-TB-SsV-TG66】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SsV-TG67】

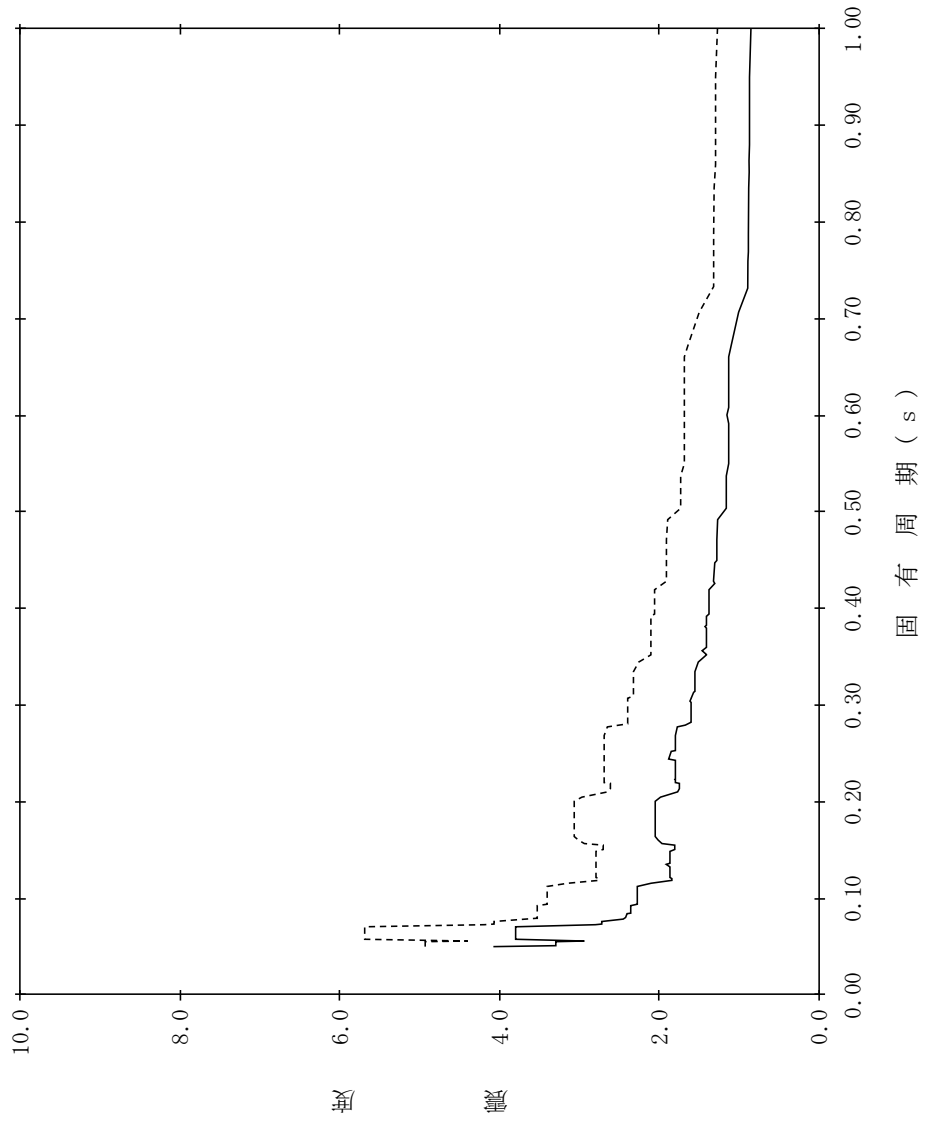
構造物名：蒸気タービンの基礎
標高：EL13.000m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SsV-TG68】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：2.0%

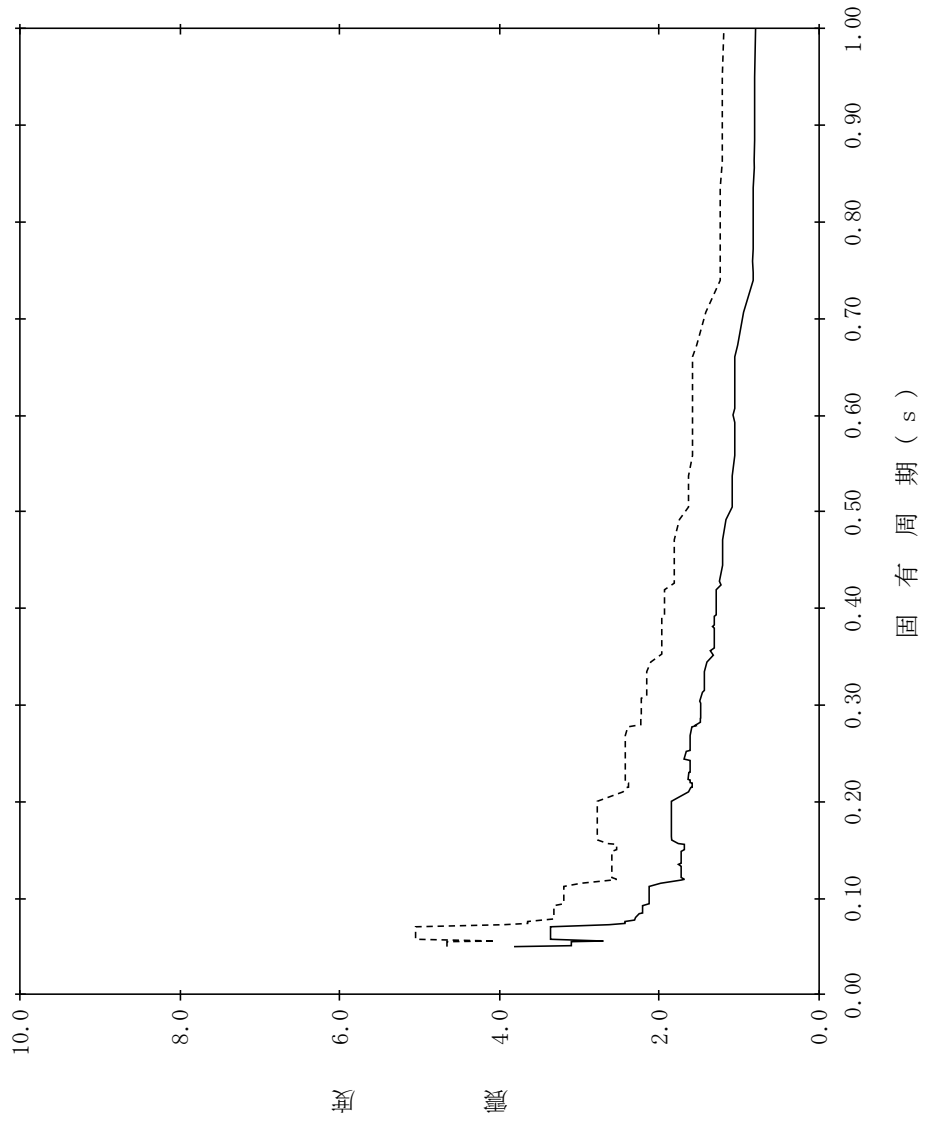
— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SsV-TG69】

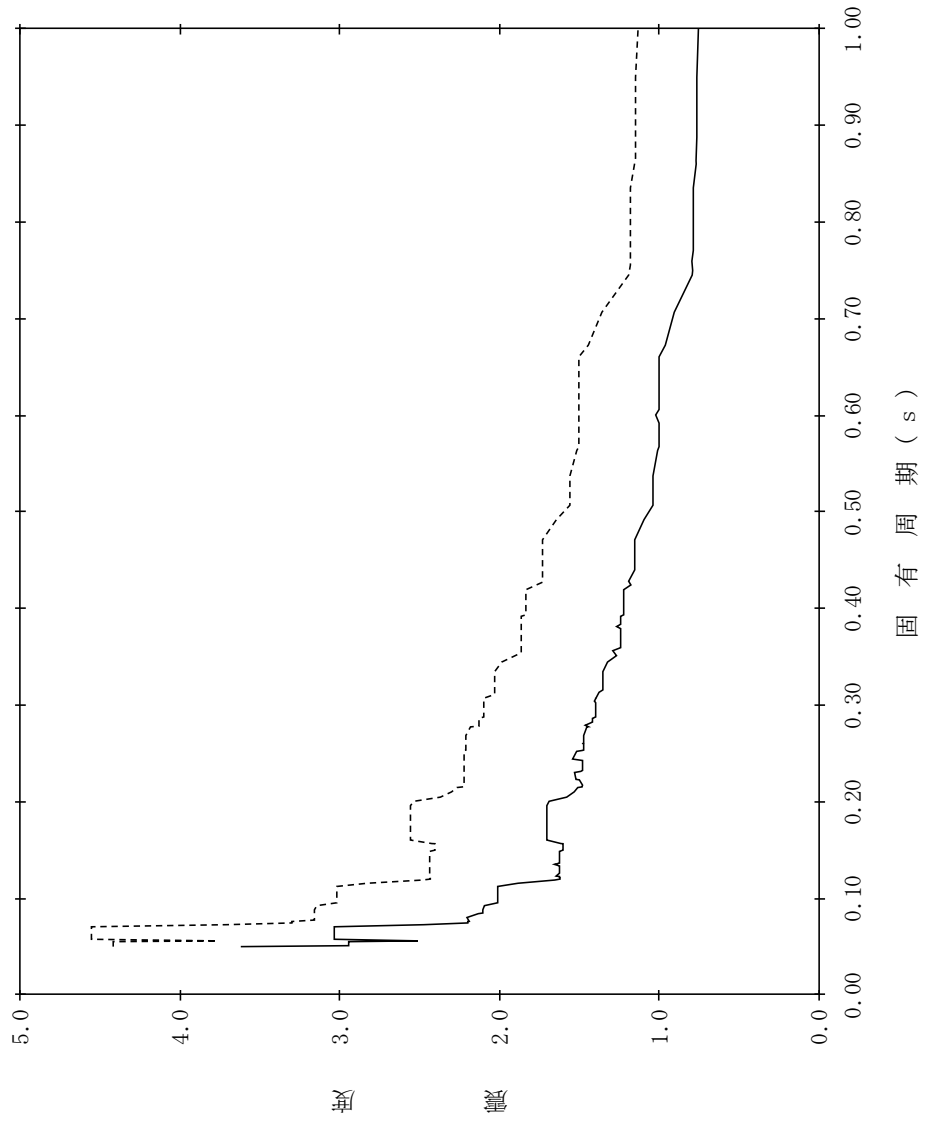
構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：2.5%

——— 設計用床応答スペクトルⅠ (鉛直方向)
 - - - - - 設計用床応答スペクトルⅡ (鉛直方向)



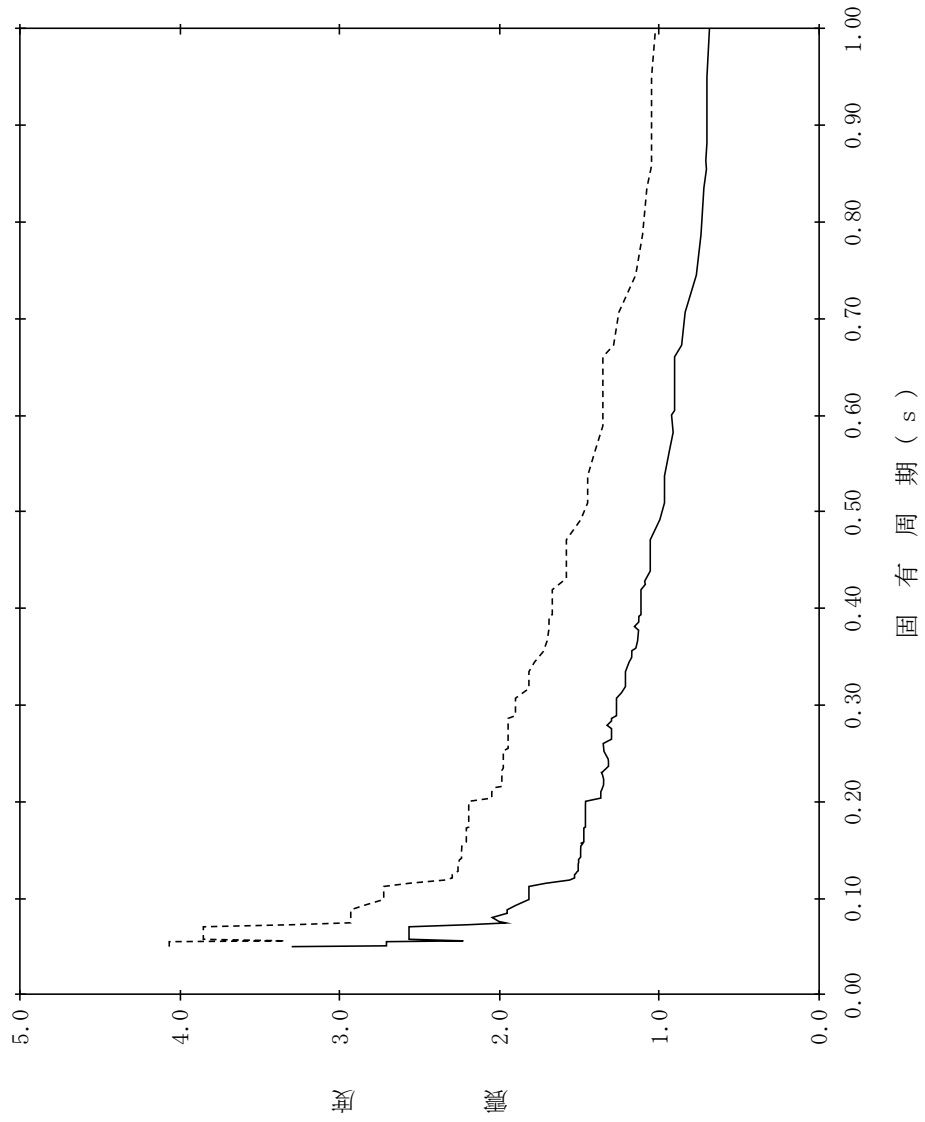
【NS2-TB-SsV-TG70】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SsV-TG71】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-TB-SsV-TG72】

構造物名：蒸気タービンの基礎
 標高：EL13.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

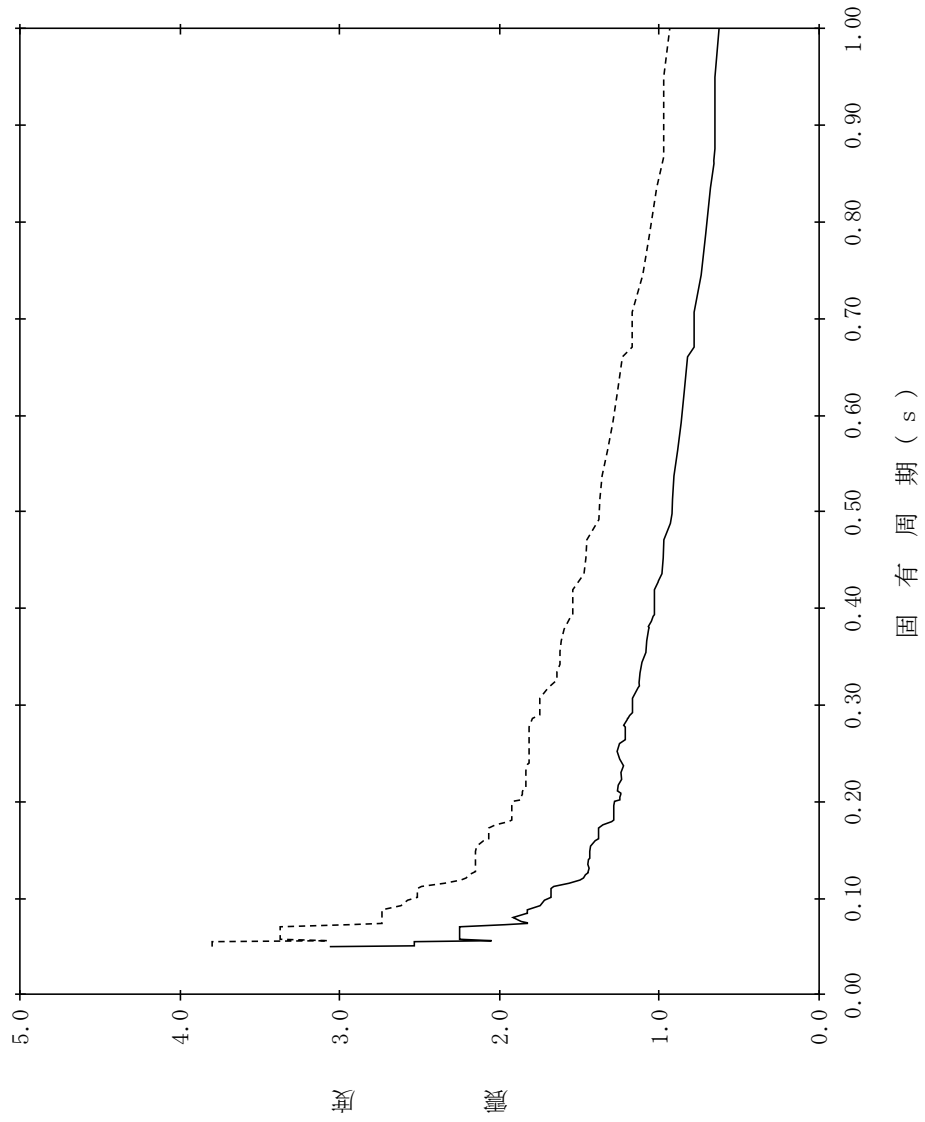


表 4.4-5 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (廃棄物処理建物) (1/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数 (%)	図番
S _s	廃棄物処理建物	NS 方向	1	42.000	0.5	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 1
					1.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 2
					1.5	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 3
					2.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 4
					2.5	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 5
					3.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 6
					4.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 7
					5.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 8
			2	37.500	0.5	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 9
					1.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 10
					1.5	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 11
					2.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 12
					2.5	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 13
					3.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 14
					4.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 15
					5.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 16
			3	32.000	0.5	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 17
					1.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 18
					1.5	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 19
					2.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 20
					2.5	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 21
					3.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 22
					4.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 23
					5.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 24
			4	26.700	0.5	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 25
					1.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 26
					1.5	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 27
					2.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 28
					2.5	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 29
					3.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 30
					4.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 31
					5.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 32
			5	22.100	0.5	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 33
					1.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 34
					1.5	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 35
					2.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 36
					2.5	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 37
					3.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 38
					4.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 39
					5.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 40
			6	16.900	0.5	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 41
					1.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 42
					1.5	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 43
					2.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 44
					2.5	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 45
					3.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 46
					4.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 47
					5.0	NS2 - Rwb - S _s NS - Rwb 48

表 4.4-5 設計用床応答スペクトル (S s) 一覧表 (廃棄物処理建物) (2/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S s	廃棄物処理建物	NS 方向	7	15.300	0.5	NS2 - RwB - SsNS - RwB 49
					1.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 50
					1.5	NS2 - RwB - SsNS - RwB 51
					2.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 52
					2.5	NS2 - RwB - SsNS - RwB 53
					3.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 54
					4.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 55
					5.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 56
			8	12.300	0.5	NS2 - RwB - SsNS - RwB 57
					1.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 58
					1.5	NS2 - RwB - SsNS - RwB 59
					2.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 60
					2.5	NS2 - RwB - SsNS - RwB 61
					3.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 62
					4.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 63
					5.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 64
			9	8.800	0.5	NS2 - RwB - SsNS - RwB 65
					1.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 66
					1.5	NS2 - RwB - SsNS - RwB 67
					2.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 68
					2.5	NS2 - RwB - SsNS - RwB 69
					3.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 70
					4.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 71
					5.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 72
			10	3.000	0.5	NS2 - RwB - SsNS - RwB 73
					1.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 74
					1.5	NS2 - RwB - SsNS - RwB 75
					2.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 76
					2.5	NS2 - RwB - SsNS - RwB 77
					3.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 78
					4.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 79
					5.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 80
			11	0.000	0.5	NS2 - RwB - SsNS - RwB 81
					1.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 82
					1.5	NS2 - RwB - SsNS - RwB 83
2.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 84					
2.5	NS2 - RwB - SsNS - RwB 85					
3.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 86					
4.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 87					
5.0	NS2 - RwB - SsNS - RwB 88					

表 4.4-5 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (廃棄物処理建物) (3/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S _s	廃棄物処理建物	EW 方向	1	42.000	0.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 1
					1.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 2
					1.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 3
					2.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 4
					2.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 5
					3.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 6
					4.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 7
					5.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 8
			2	37.500	0.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 9
					1.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 10
					1.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 11
					2.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 12
					2.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 13
					3.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 14
					4.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 15
					5.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 16
			3	32.000	0.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 17
					1.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 18
					1.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 19
					2.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 20
					2.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 21
					3.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 22
					4.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 23
					5.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 24
			4	26.700	0.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 25
					1.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 26
					1.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 27
					2.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 28
					2.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 29
					3.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 30
					4.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 31
					5.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 32
			5	22.100	0.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 33
					1.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 34
					1.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 35
					2.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 36
					2.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 37
					3.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 38
					4.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 39
					5.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 40
			6	16.900	0.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 41
					1.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 42
					1.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 43
					2.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 44
					2.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 45
					3.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 46
					4.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 47
					5.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 48

表 4.4-5 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (廃棄物処理建物) (4/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数 (%)	図番
S _s	廃棄物処理建物	EW 方向	7	15.300	0.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 49
					1.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 50
					1.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 51
					2.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 52
					2.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 53
					3.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 54
					4.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 55
					5.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 56
			8	12.300	0.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 57
					1.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 58
					1.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 59
					2.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 60
					2.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 61
					3.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 62
					4.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 63
					5.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 64
			9	8.800	0.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 65
					1.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 66
					1.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 67
					2.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 68
					2.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 69
					3.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 70
					4.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 71
					5.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 72
			10	3.000	0.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 73
					1.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 74
					1.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 75
					2.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 76
					2.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 77
					3.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 78
					4.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 79
					5.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 80
			11	0.000	0.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 81
1.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 82					
1.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 83					
2.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 84					
2.5	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 85					
3.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 86					
4.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 87					
5.0	NS2 - R _w B - S _s EW - R _w B 88					

表 4.4-5 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (廃棄物処理建物) (5/6)

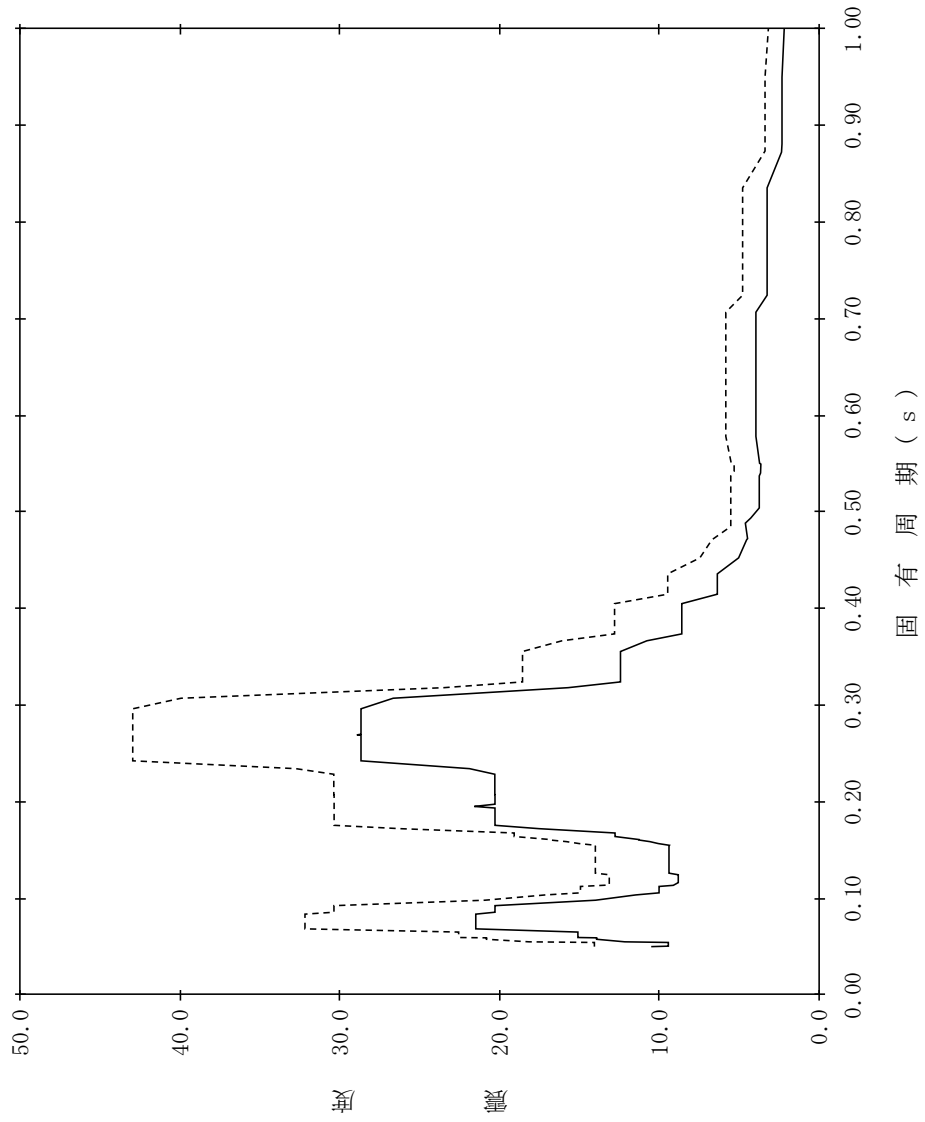
地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数 (%)	図番
S _s	廃棄物処理建物	鉛直方向	1	42.000	0.5	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 1
					1.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 2
					1.5	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 3
					2.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 4
					2.5	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 5
					3.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 6
					4.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 7
			2	37.500	0.5	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 9
					1.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 10
					1.5	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 11
					2.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 12
					2.5	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 13
					3.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 14
					4.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 15
			3	32.000	0.5	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 17
					1.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 18
					1.5	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 19
					2.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 20
					2.5	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 21
					3.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 22
					4.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 23
			4	26.700	0.5	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 25
					1.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 26
					1.5	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 27
					2.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 28
					2.5	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 29
					3.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 30
					4.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 31
			5	22.100	0.5	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 33
					1.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 34
					1.5	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 35
					2.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 36
					2.5	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 37
					3.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 38
					4.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 39
			6	16.900	0.5	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 41
					1.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 42
					1.5	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 43
					2.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 44
					2.5	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 45
					3.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 46
					4.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 47
			5.0	NS2 - R _w B - S _s V - R _w B 48		

表 4.4-5 設計用床応答スペクトル (S s) 一覧表 (廃棄物処理建物) (6/6)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL (m)	減衰定数 (%)	図番
S s	廃棄物処理建物	鉛直方向	7	15.300	0.5	NS2 - RwB - SsV - RwB 49
					1.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 50
					1.5	NS2 - RwB - SsV - RwB 51
					2.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 52
					2.5	NS2 - RwB - SsV - RwB 53
					3.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 54
					4.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 55
			5.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 56		
			8	12.300	0.5	NS2 - RwB - SsV - RwB 57
					1.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 58
					1.5	NS2 - RwB - SsV - RwB 59
					2.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 60
					2.5	NS2 - RwB - SsV - RwB 61
					3.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 62
					4.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 63
			5.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 64		
			9	8.800	0.5	NS2 - RwB - SsV - RwB 65
					1.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 66
					1.5	NS2 - RwB - SsV - RwB 67
					2.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 68
					2.5	NS2 - RwB - SsV - RwB 69
					3.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 70
					4.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 71
			5.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 72		
			10	3.000	0.5	NS2 - RwB - SsV - RwB 73
					1.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 74
					1.5	NS2 - RwB - SsV - RwB 75
					2.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 76
					2.5	NS2 - RwB - SsV - RwB 77
					3.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 78
					4.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 79
			5.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 80		
			11	0.000	0.5	NS2 - RwB - SsV - RwB 81
1.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 82					
1.5	NS2 - RwB - SsV - RwB 83					
2.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 84					
2.5	NS2 - RwB - SsV - RwB 85					
3.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 86					
4.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 87					
5.0	NS2 - RwB - SsV - RwB 88					

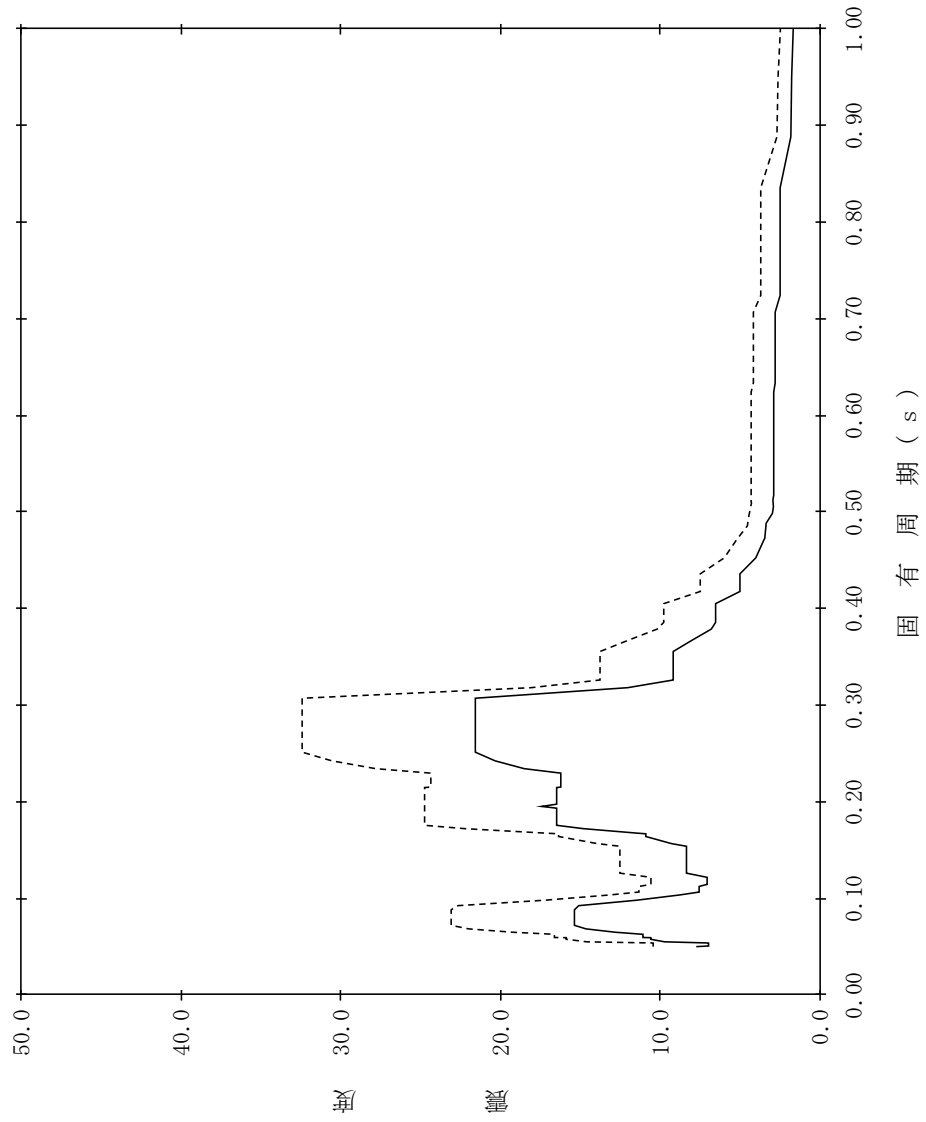
【NS2-RwB-SsNS-RwB1】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



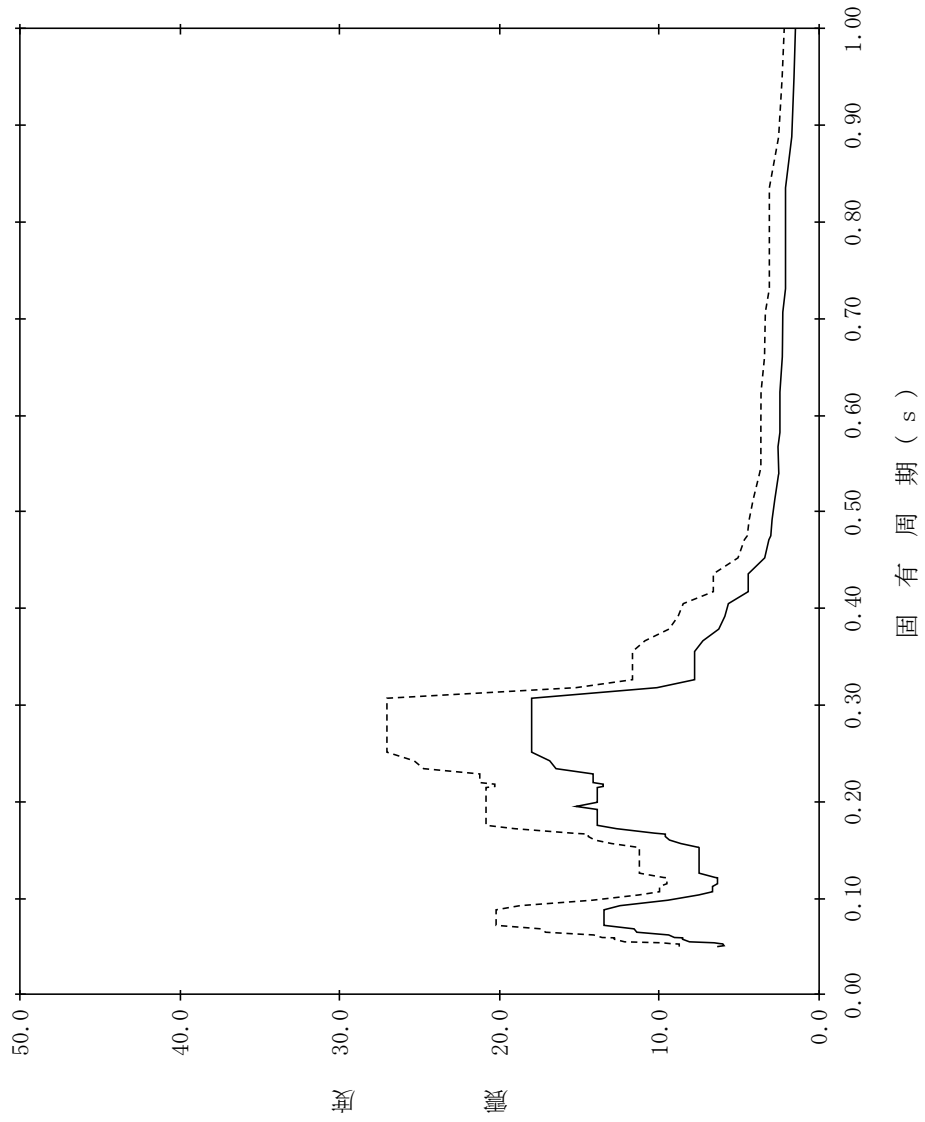
【NS2-RwB-SsNS-RwB2】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



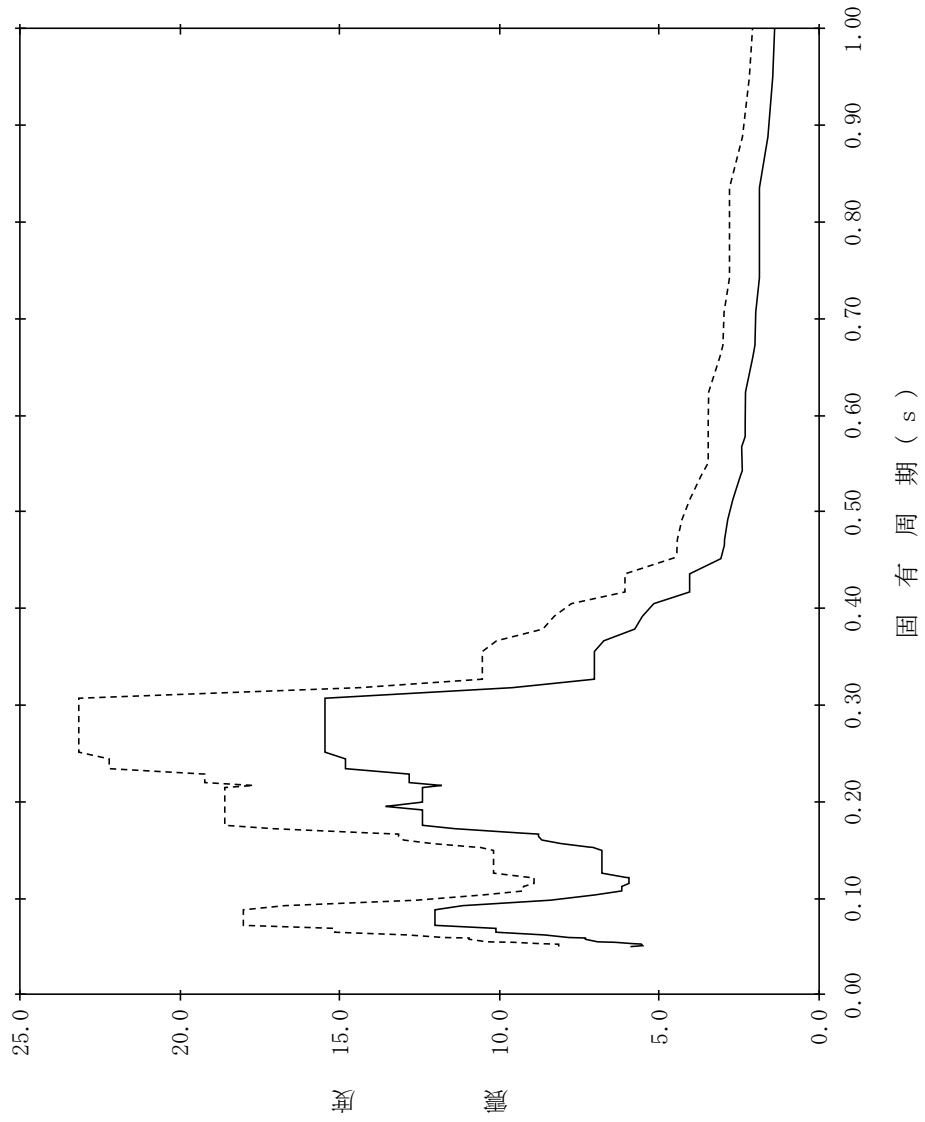
【NS2-RwB-SsNS-RwB3】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



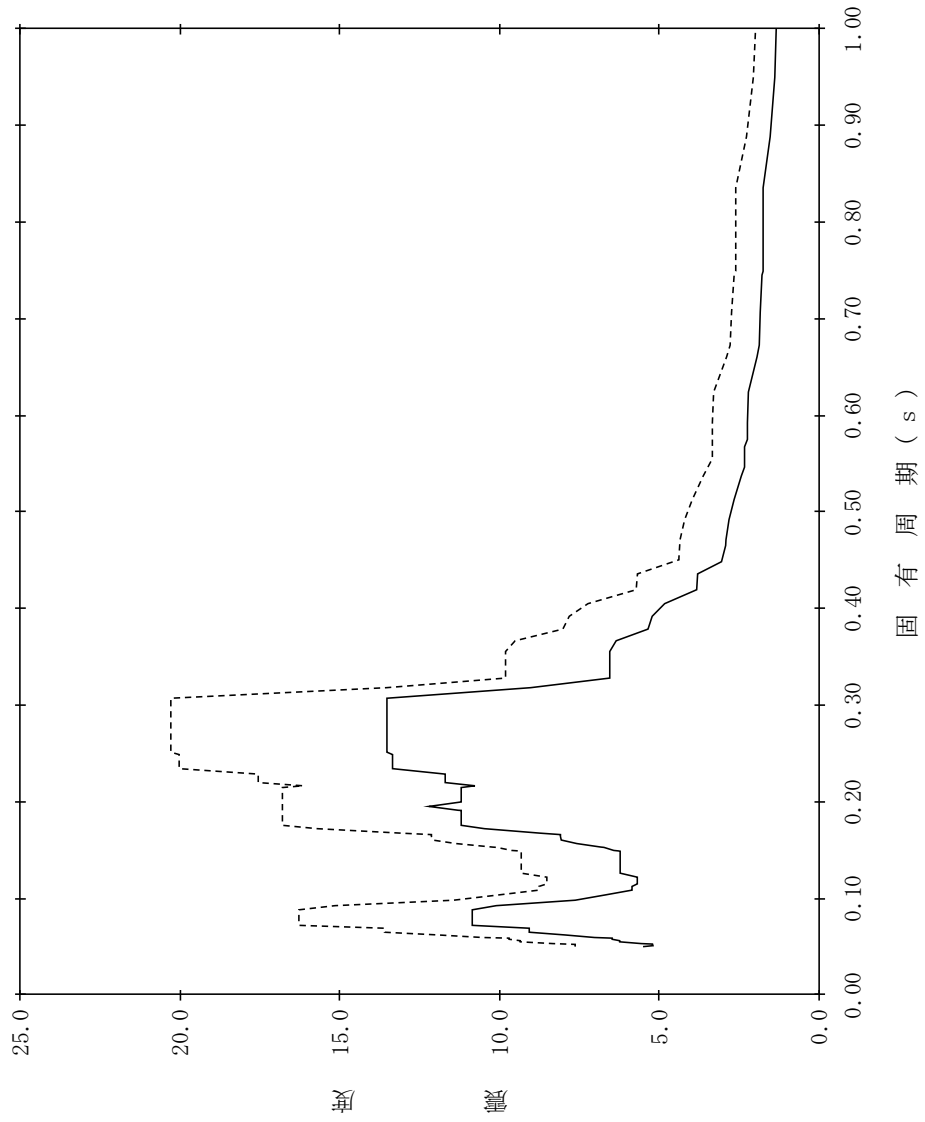
【NS2-RwB-SsNS-RwB4】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



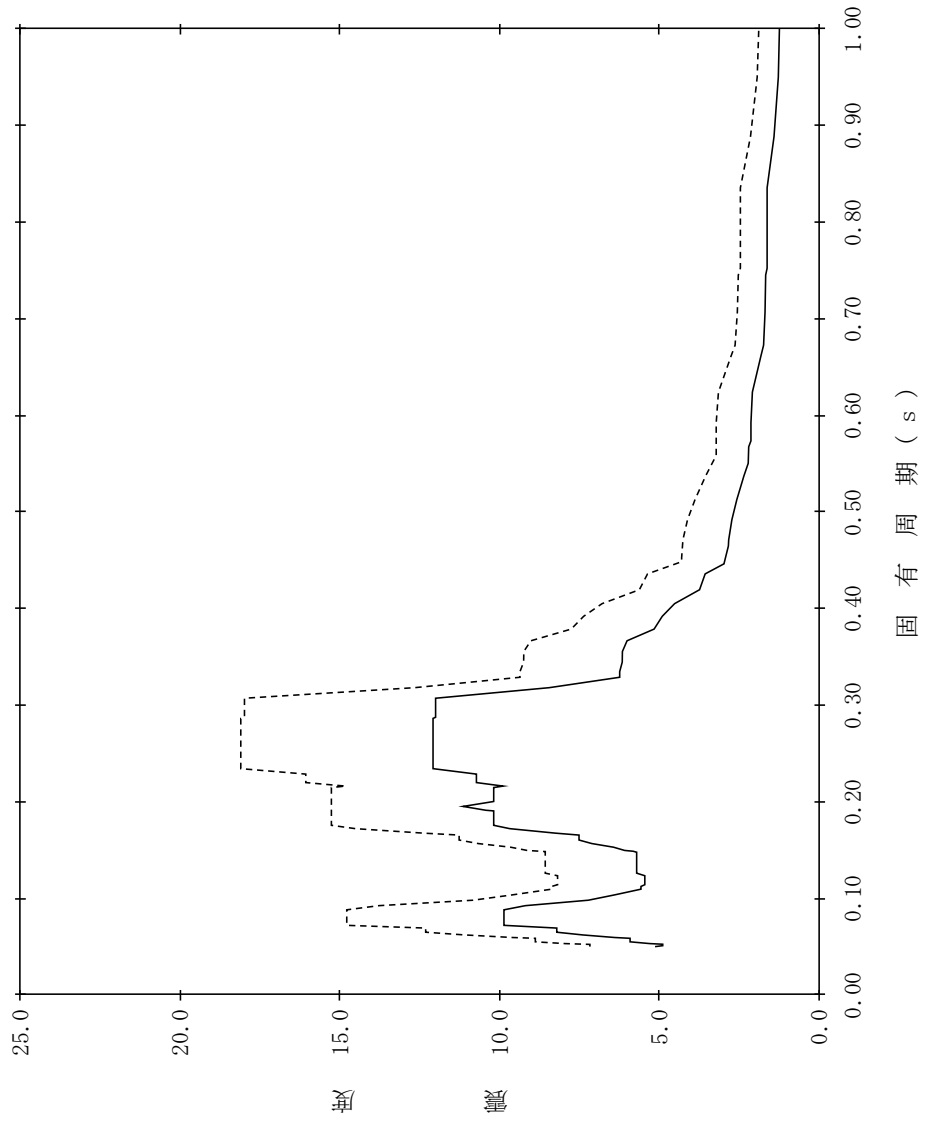
【NS2-RwB-SsNS-RwB5】

構造物名：廃棄物処理建物
 減衰定数：2.5%
 標高：EL42.000m
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



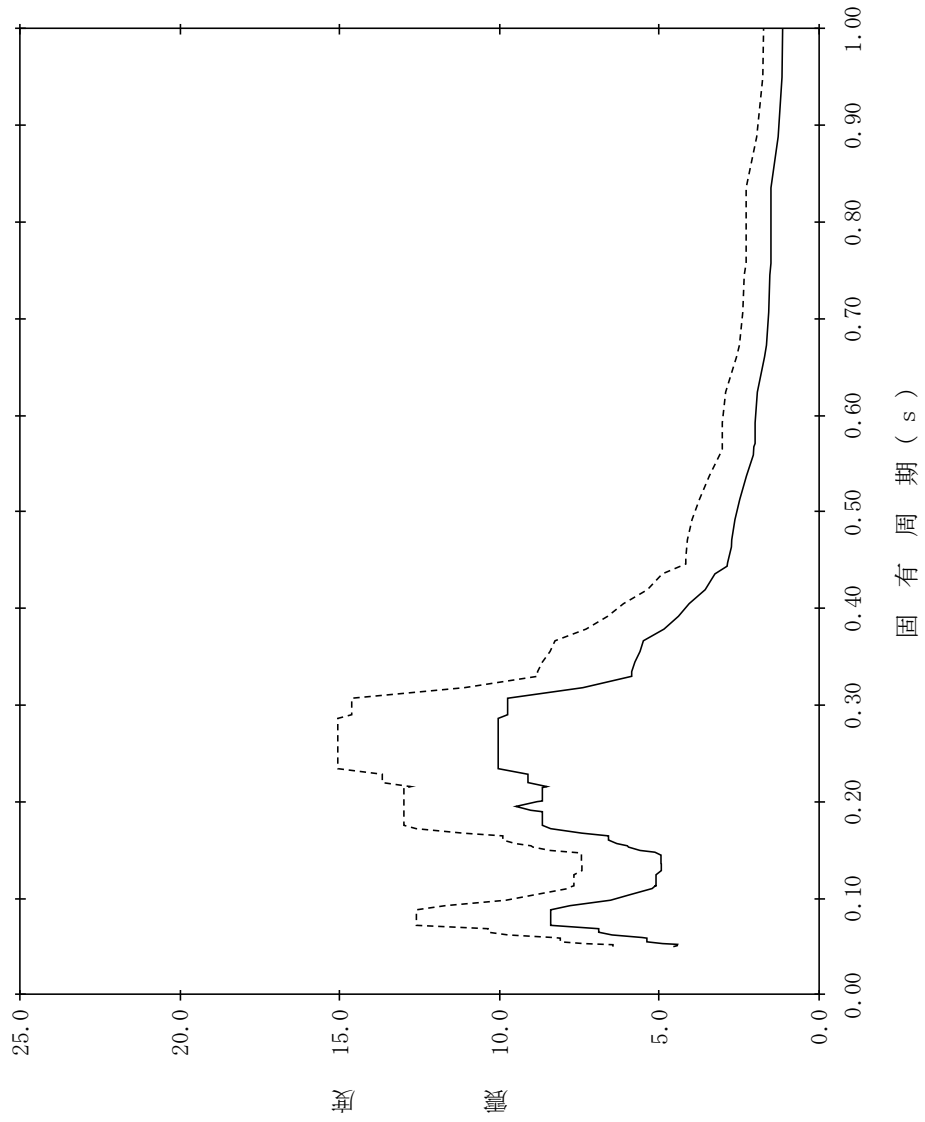
【NS2-RwB-SsNS-RwB6】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



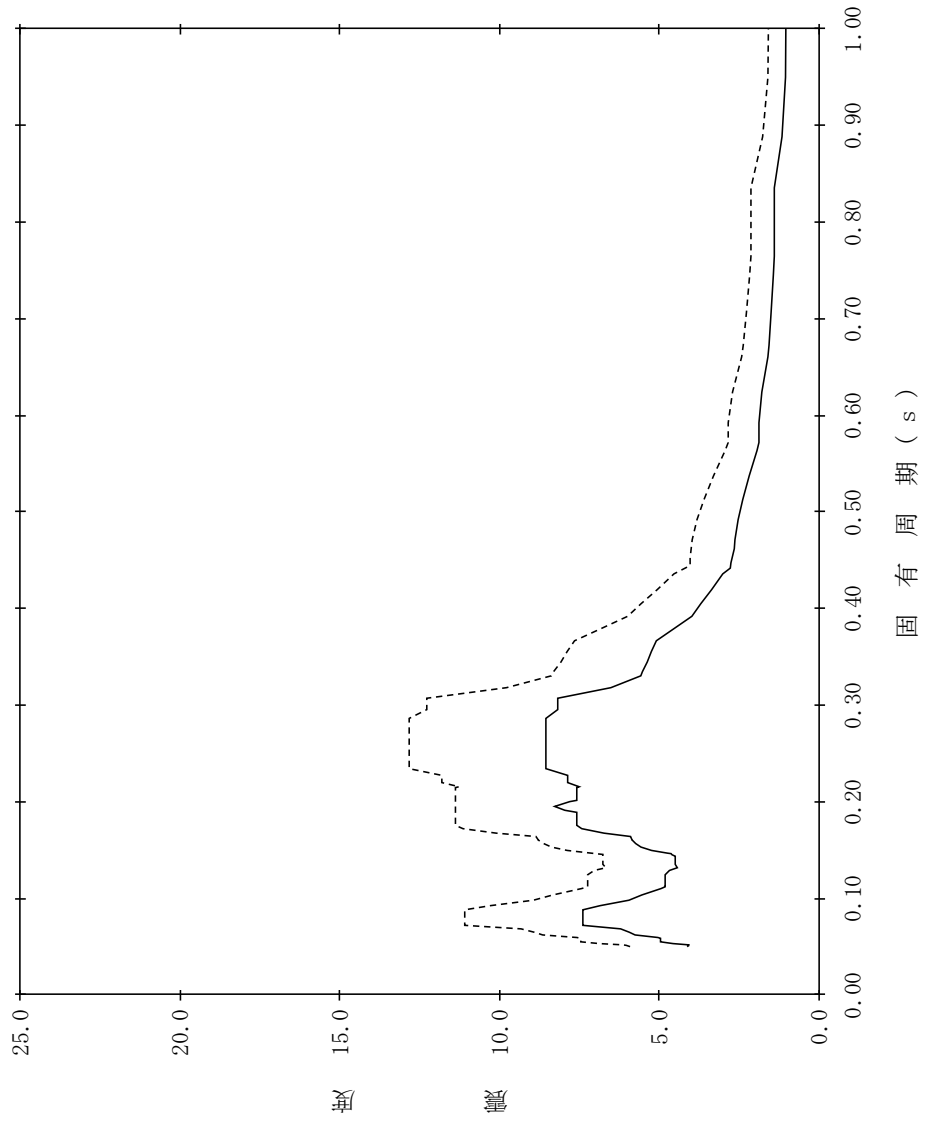
【NS2-RwB-SsNS-RwB7】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



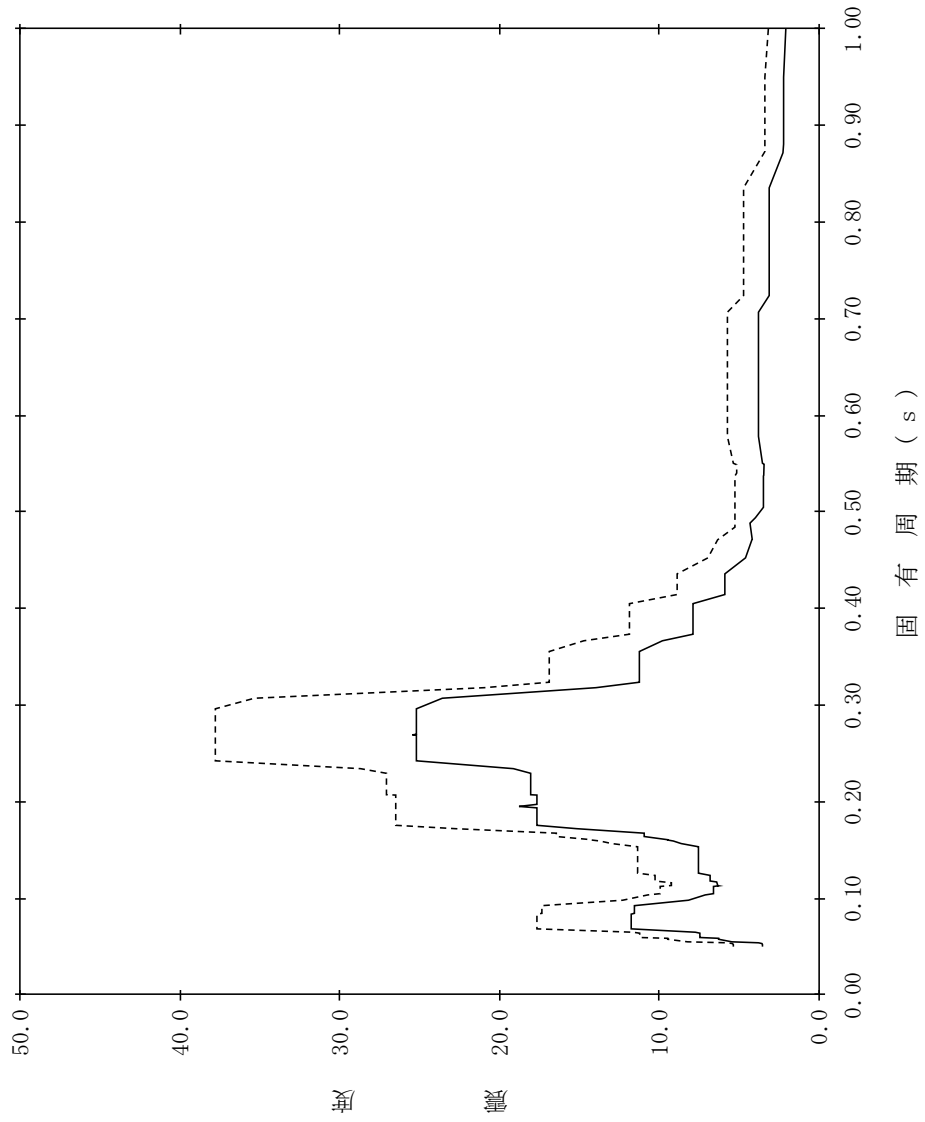
【NS2-RwB-SsNS-RwB8】

構造物名：廃棄物処理建物
 減衰定数：5.0%
 標高：EL42.000m
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



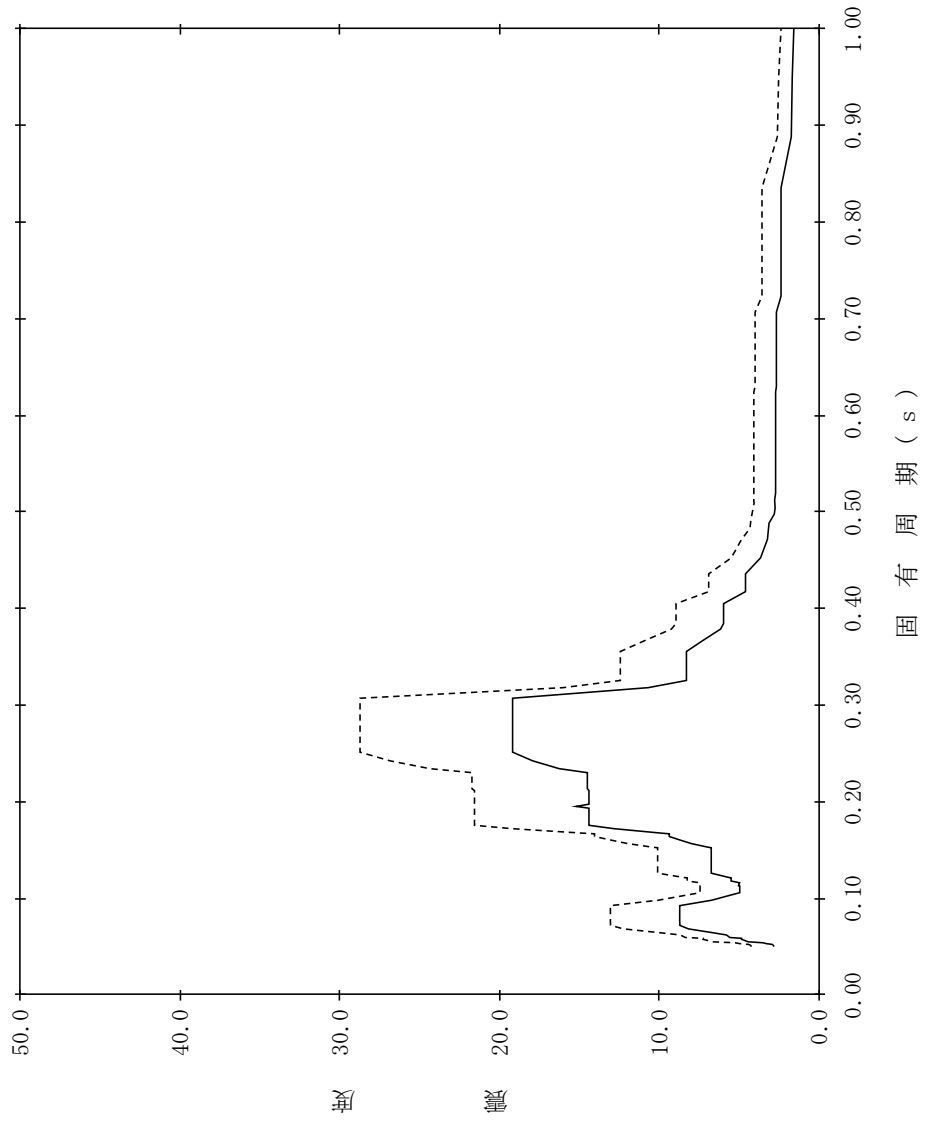
【NS2-RwB-SsNS-RwB9】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



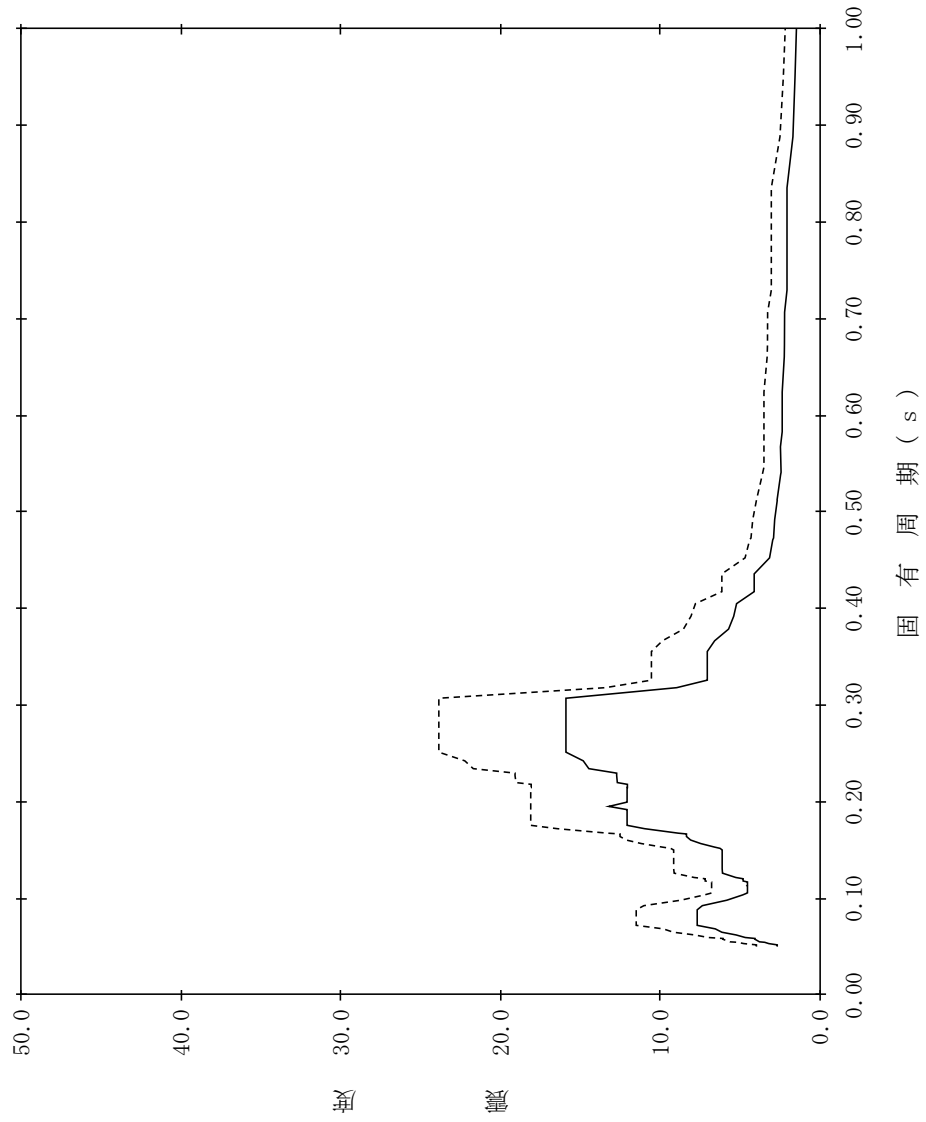
【NS2-RwB-SsNS-RwB10】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



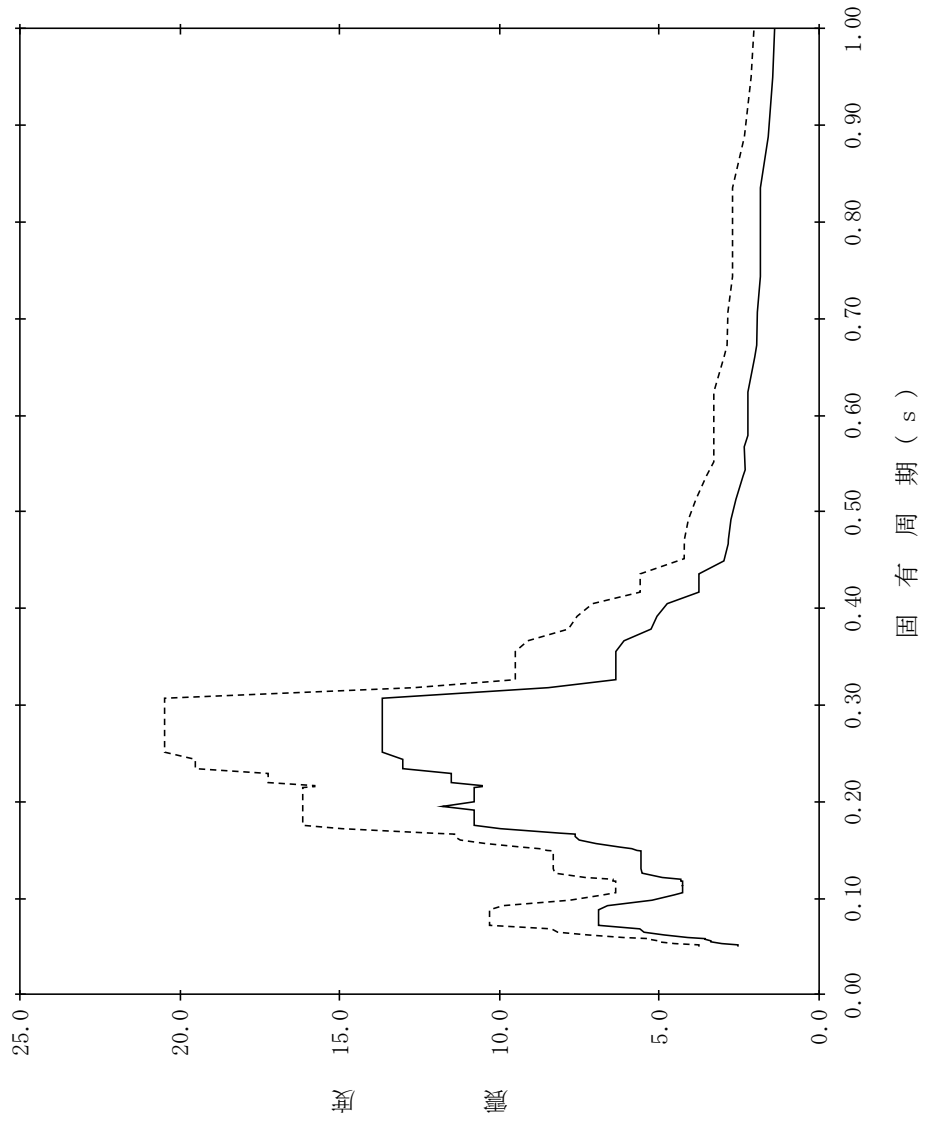
【NS2-RwB-SsNS-RwB11】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



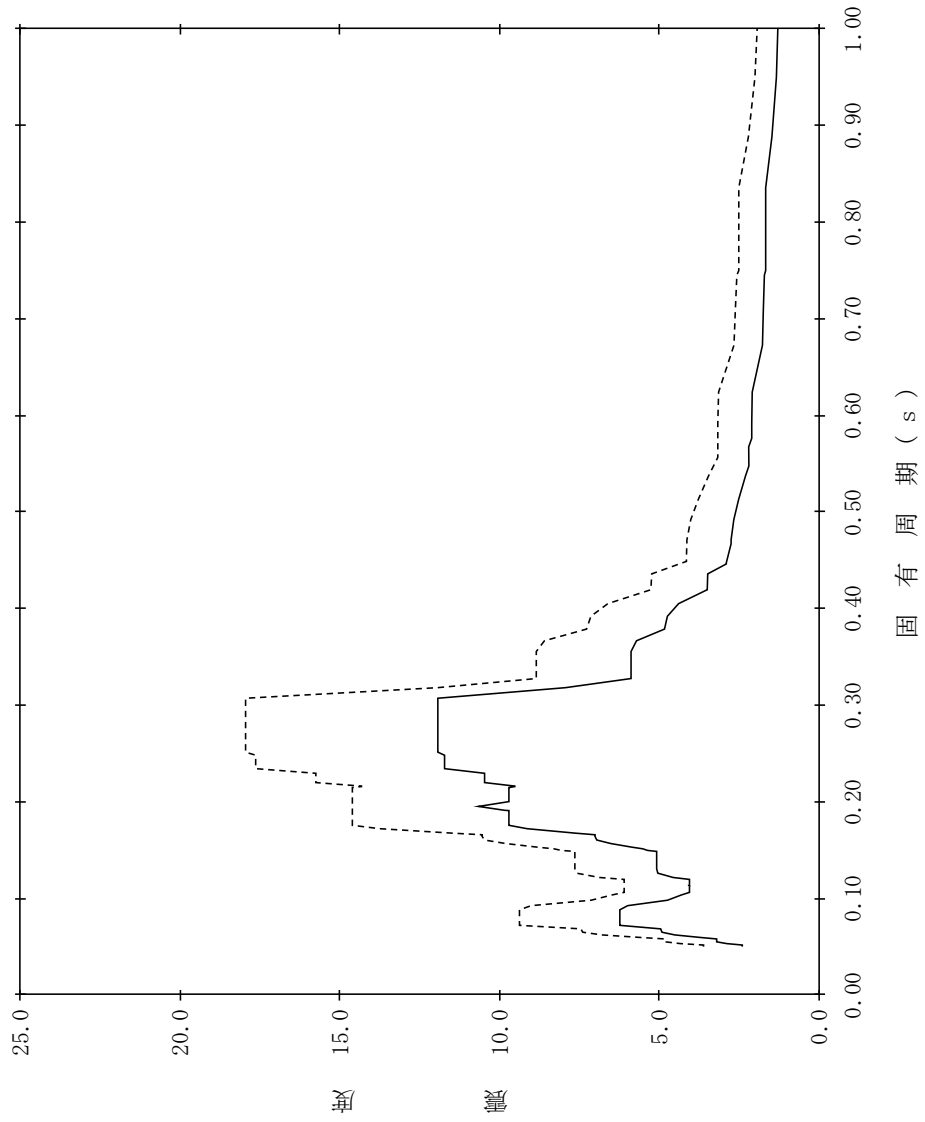
【NS2-RwB-SsNS-RwB12】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



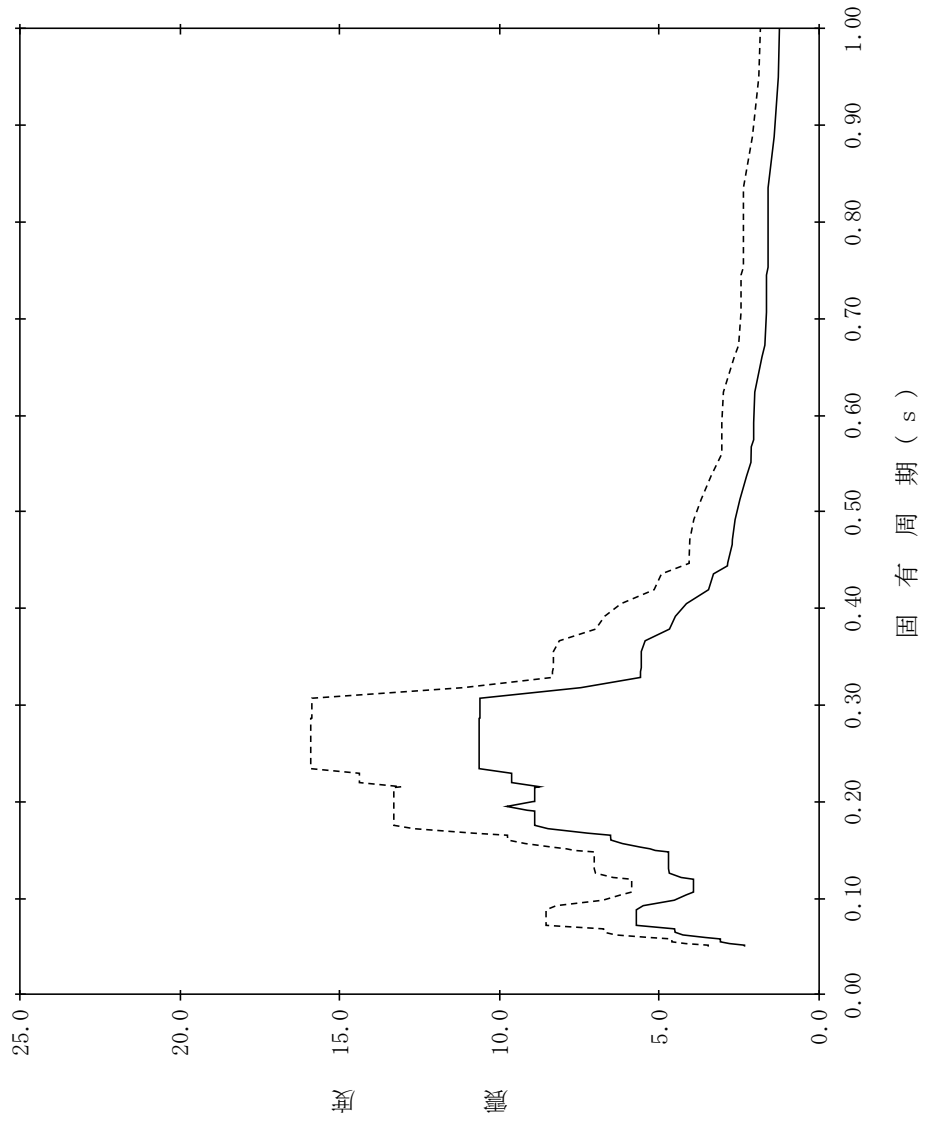
【NS2-RwB-SsNS-RwB13】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



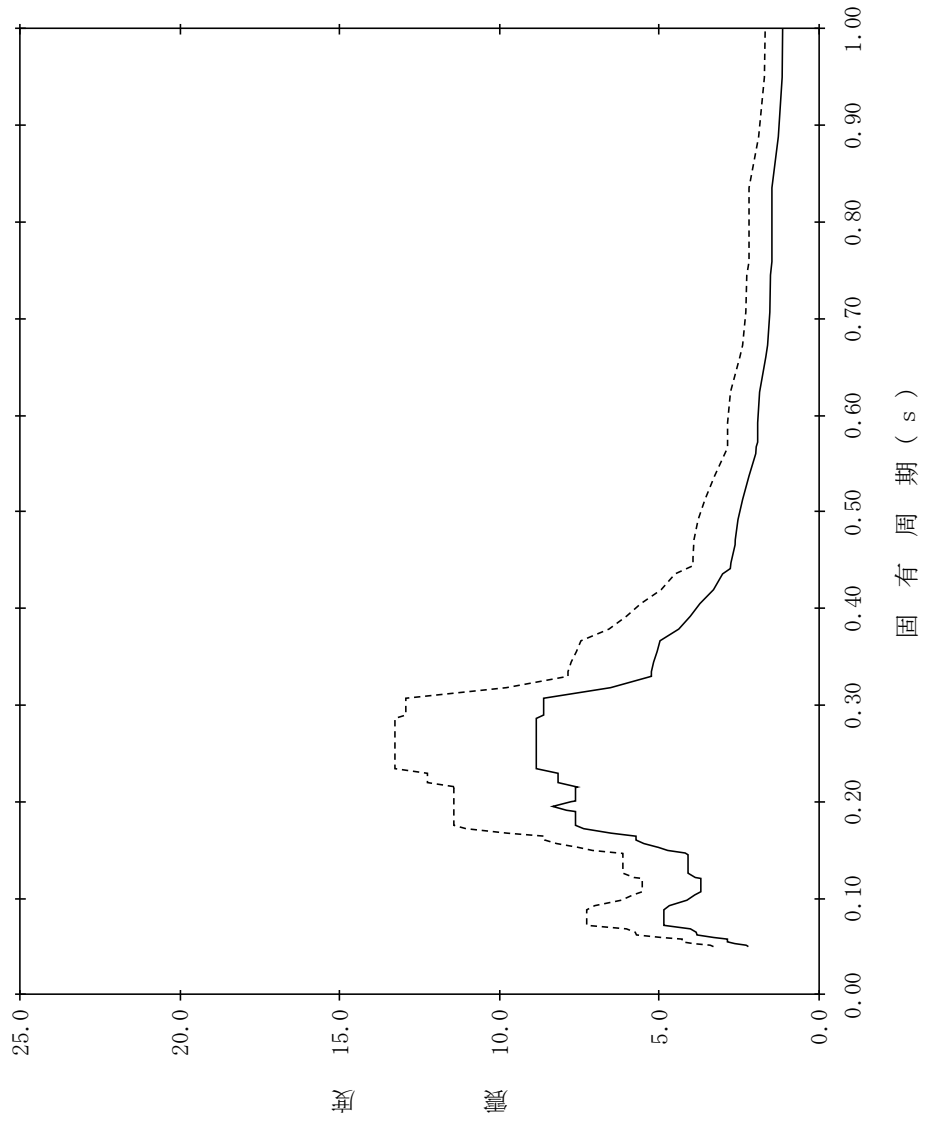
【NS2-RwB-SsNS-RwB14】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



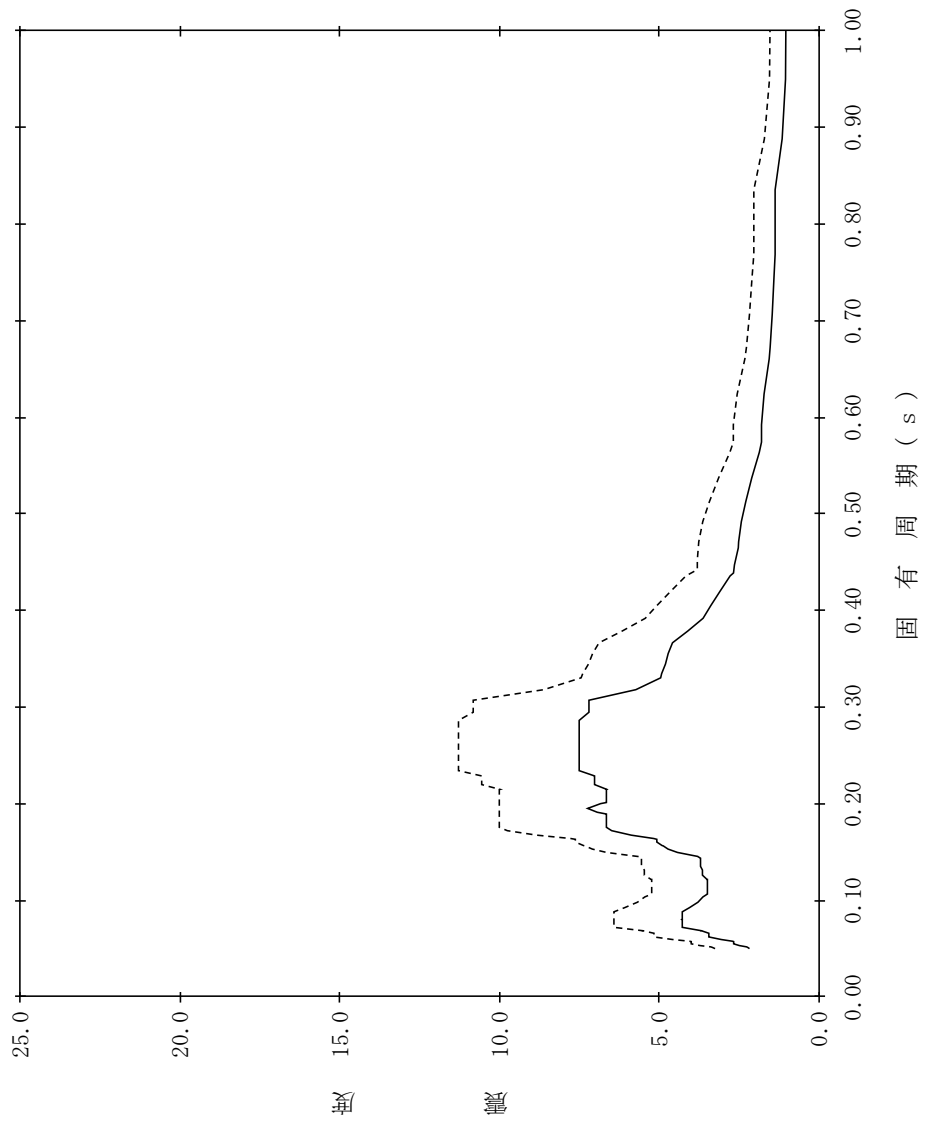
【NS2-RwB-SsNS-RwB15】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

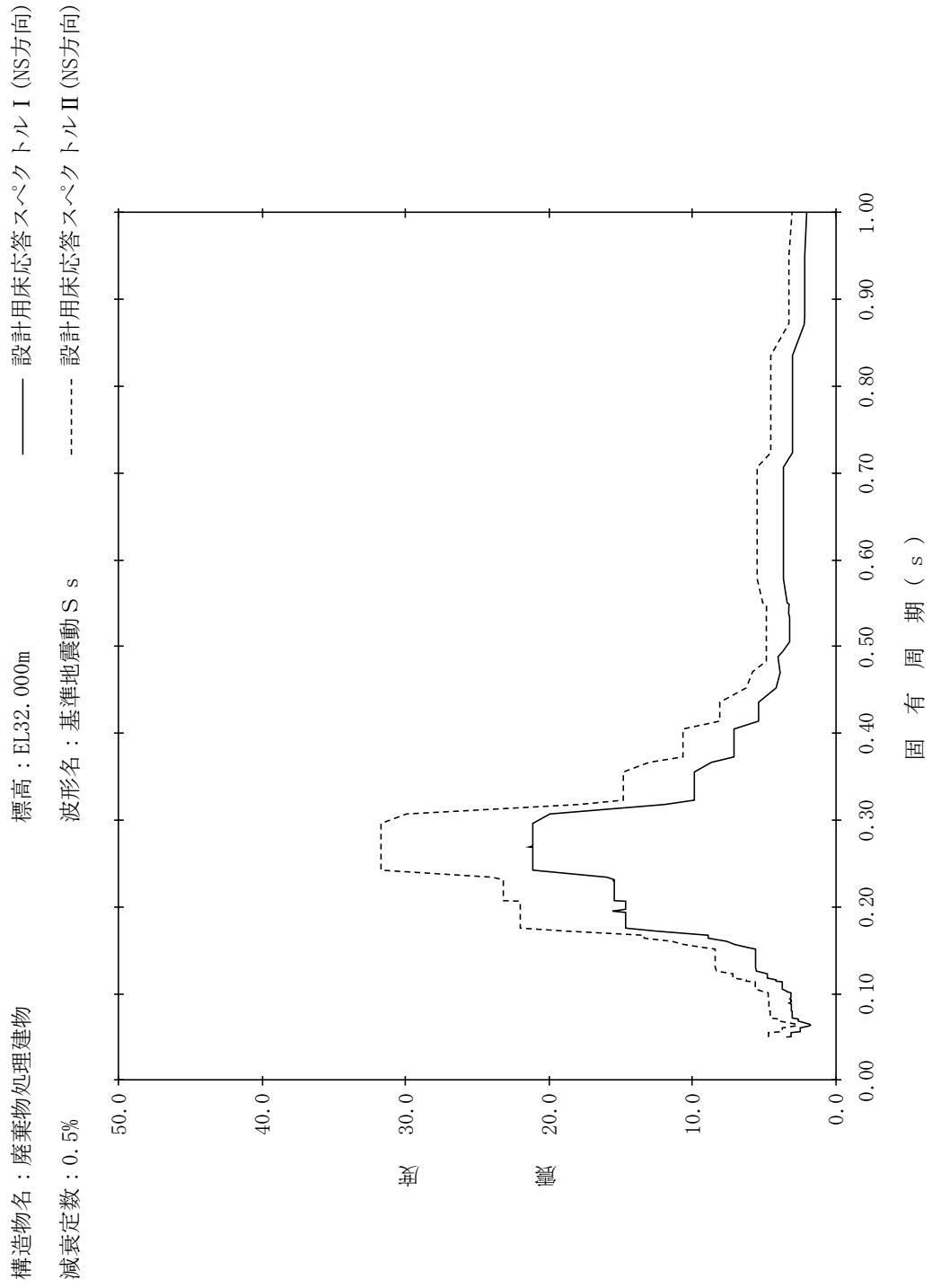


【NS2-RwB-SsNS-RwB16】

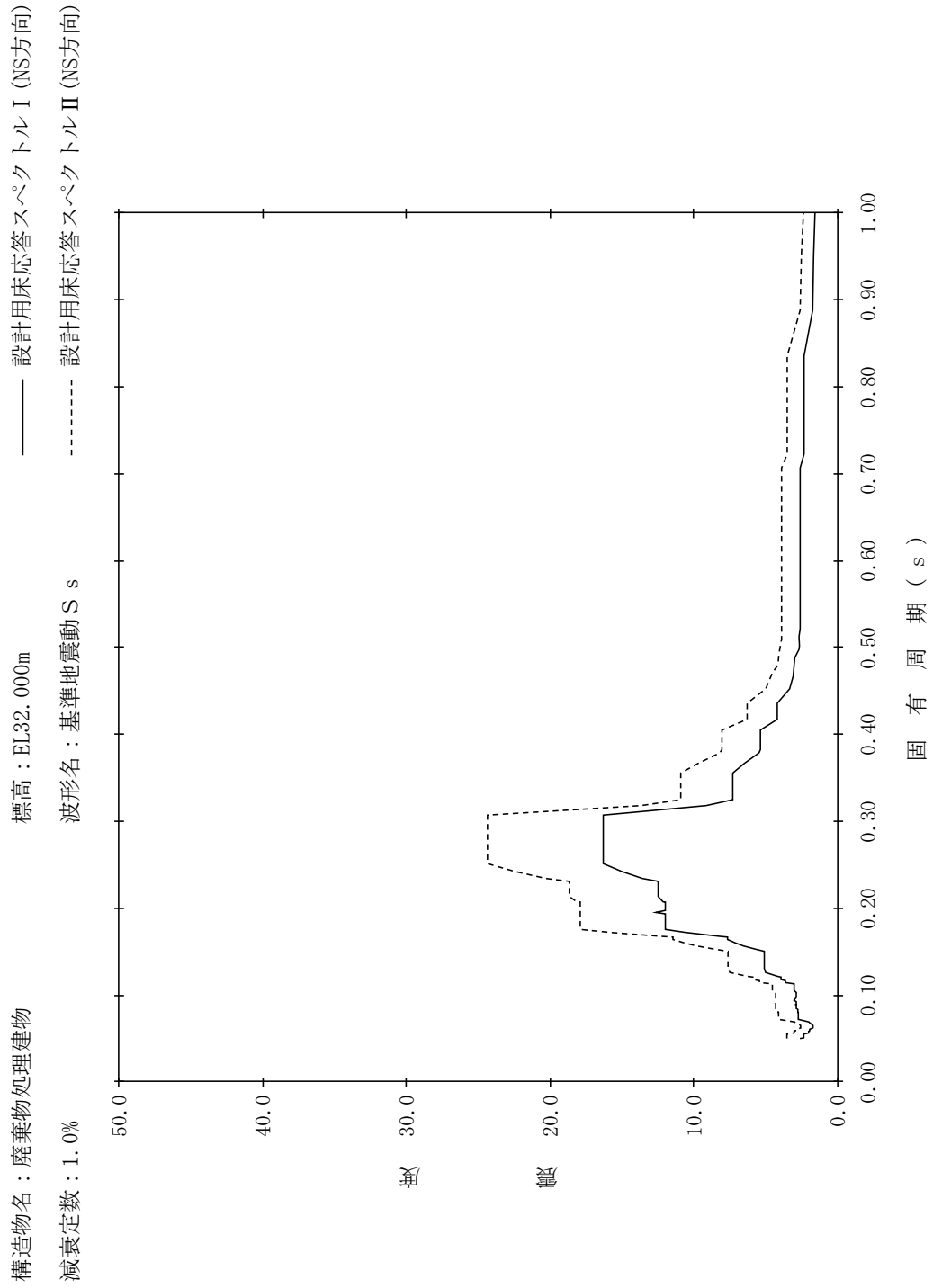
構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



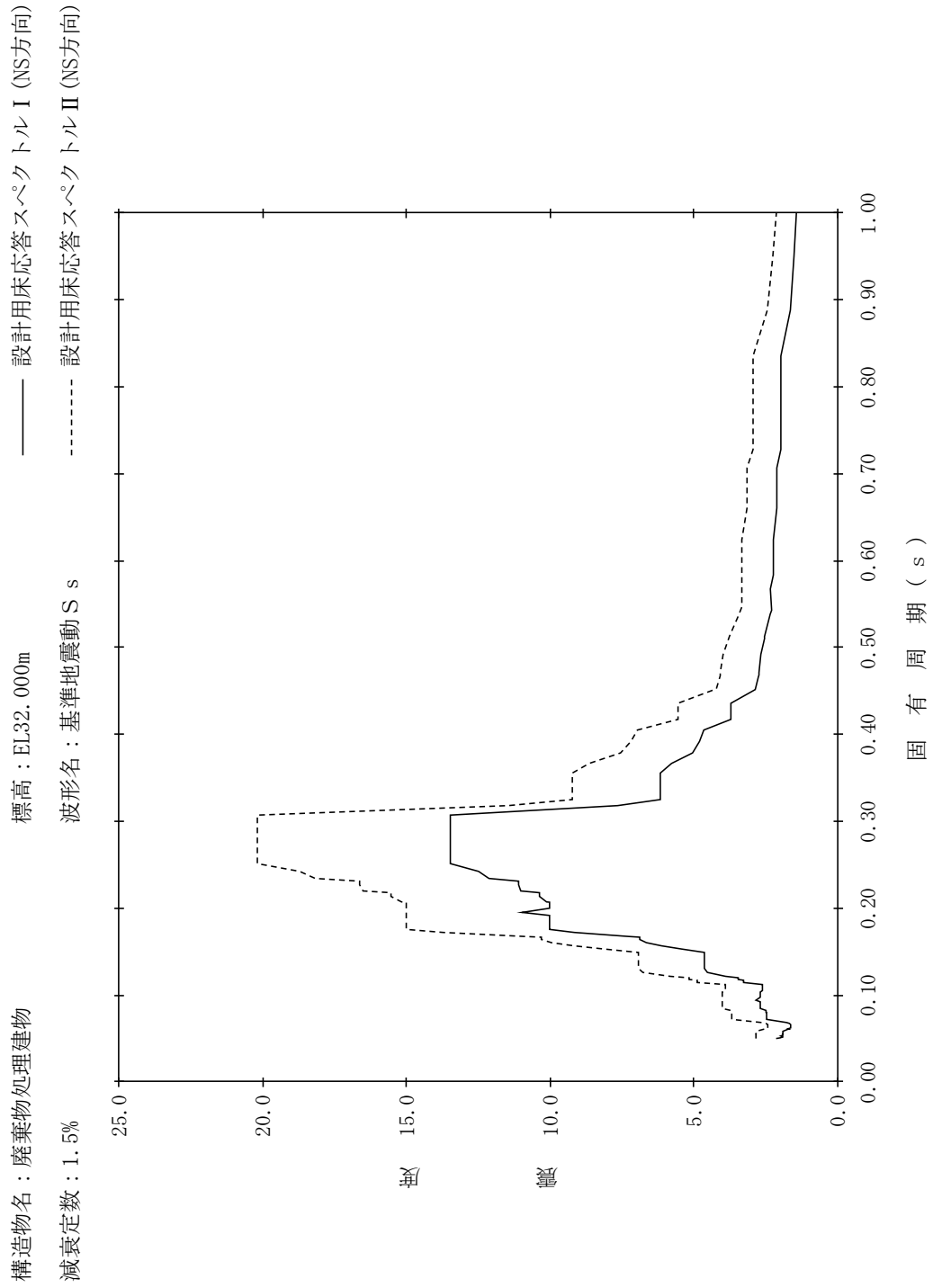
【NS2-RwB-SsNS-RwB17】



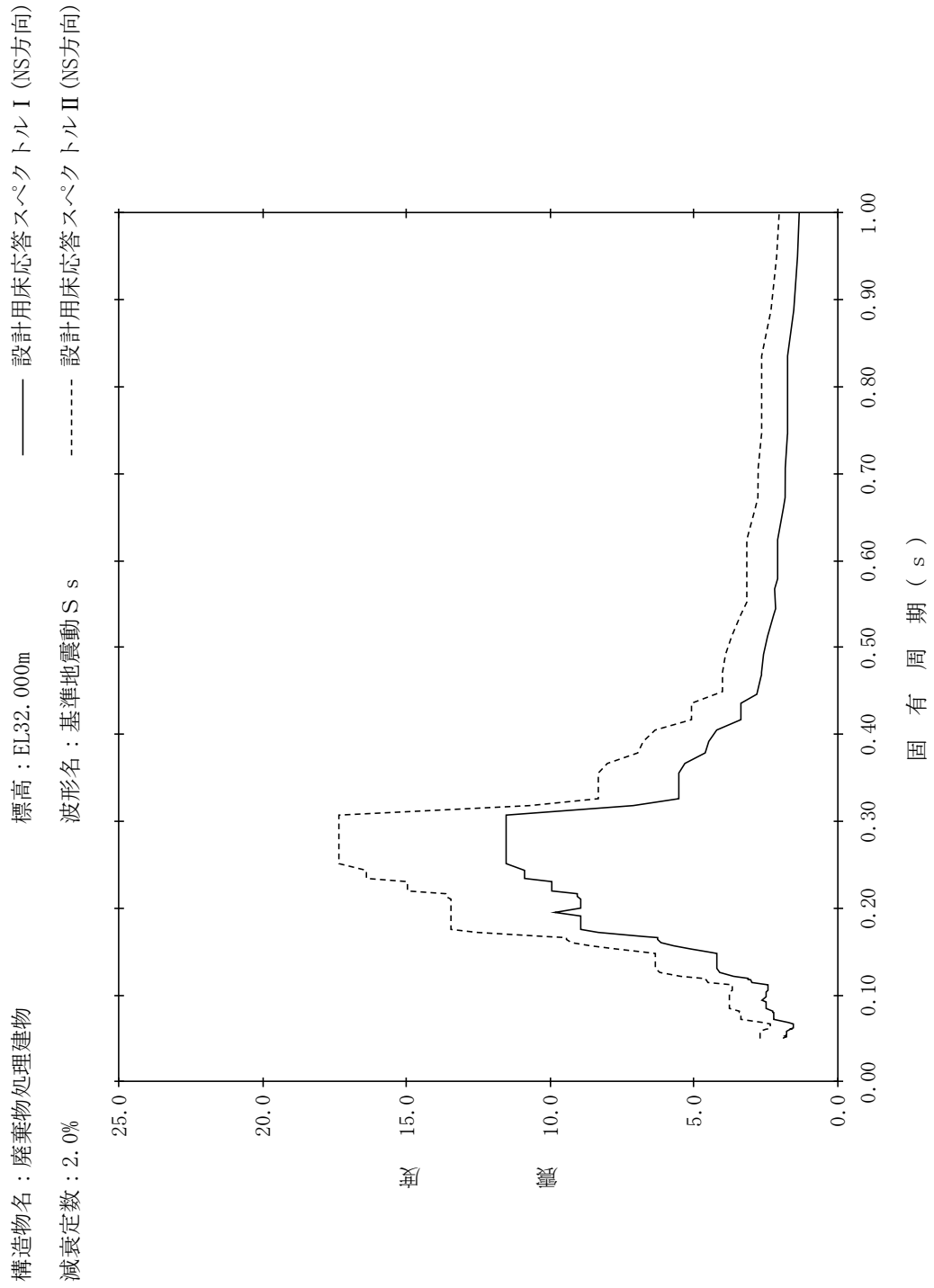
【NS2-RwB-SsNS-RwB18】



【NS2-RwB-SsNS-RwB19】

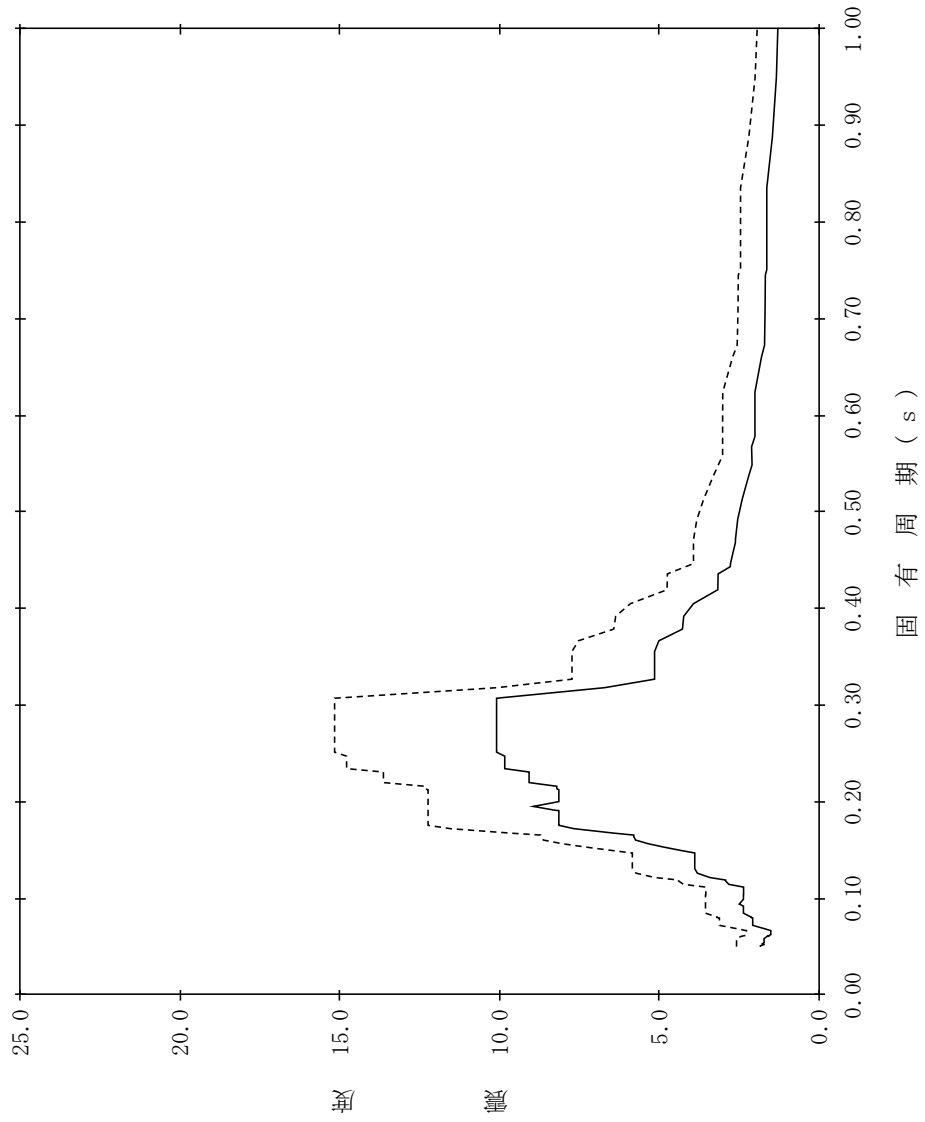


【NS2-RwB-SsNS-RwB20】

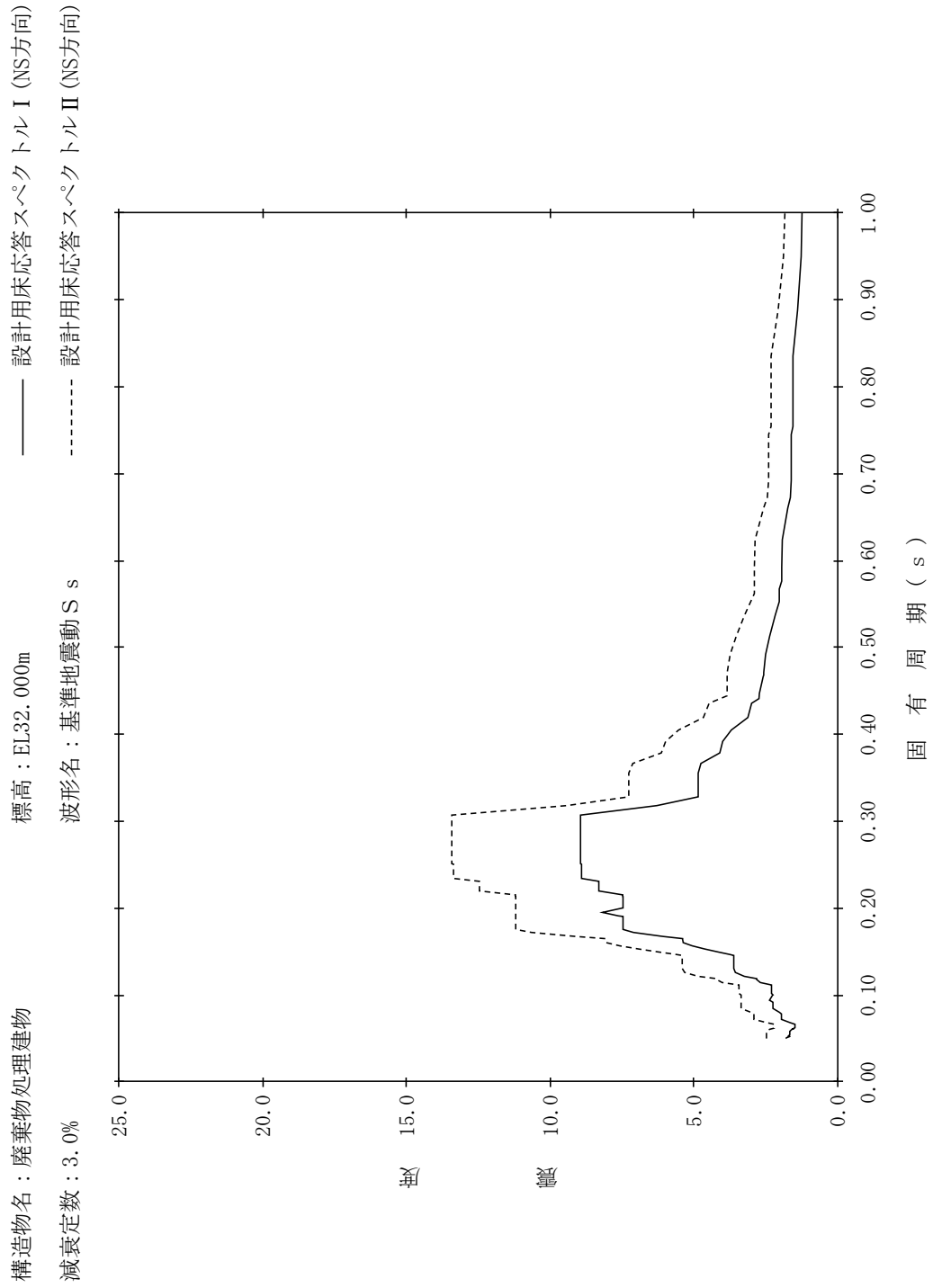


【NS2-RwB-SsNS-RwB21】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

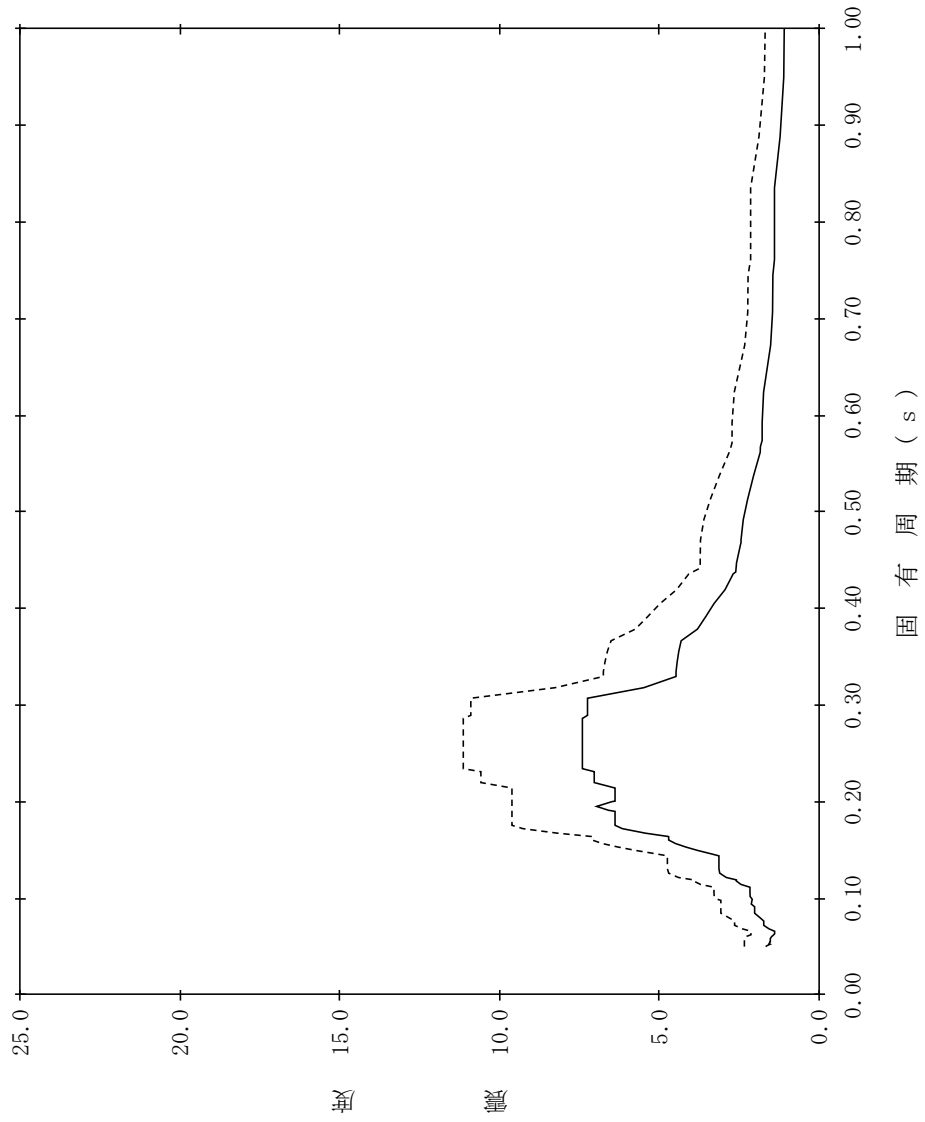


【NS2-RwB-SsNS-RwB22】



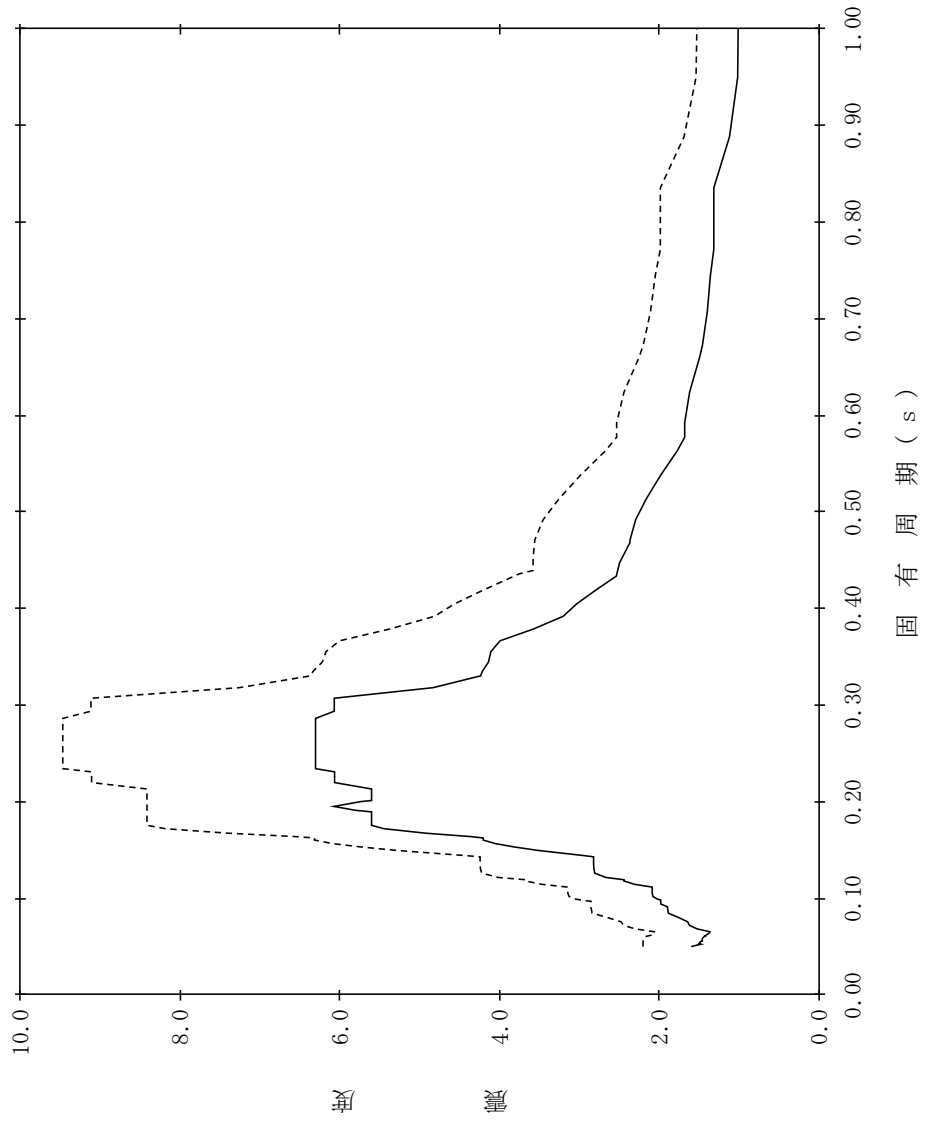
【NS2-RwB-SsNS-RwB23】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

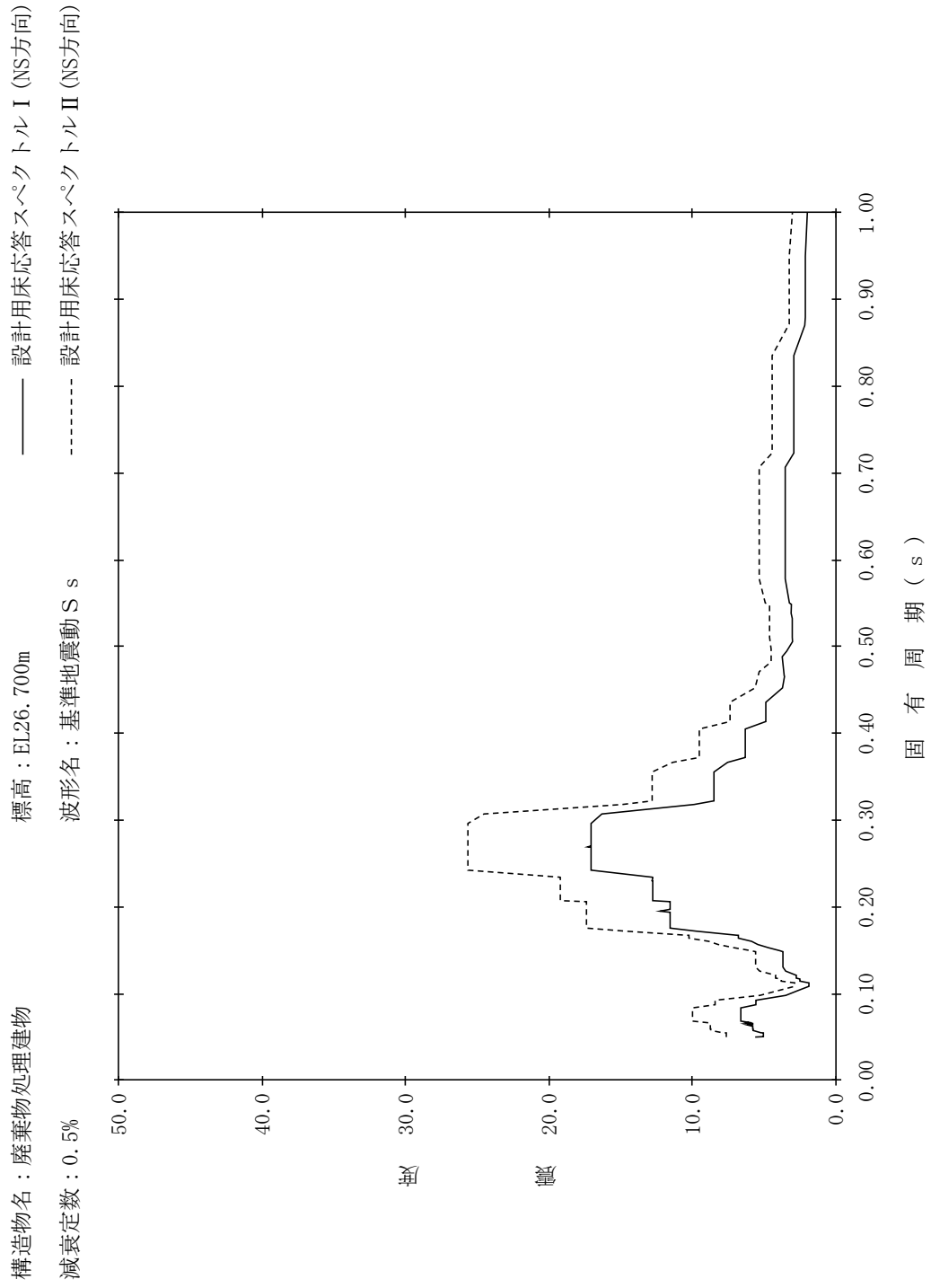


【NS2-RwB-SsNS-RwB24】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

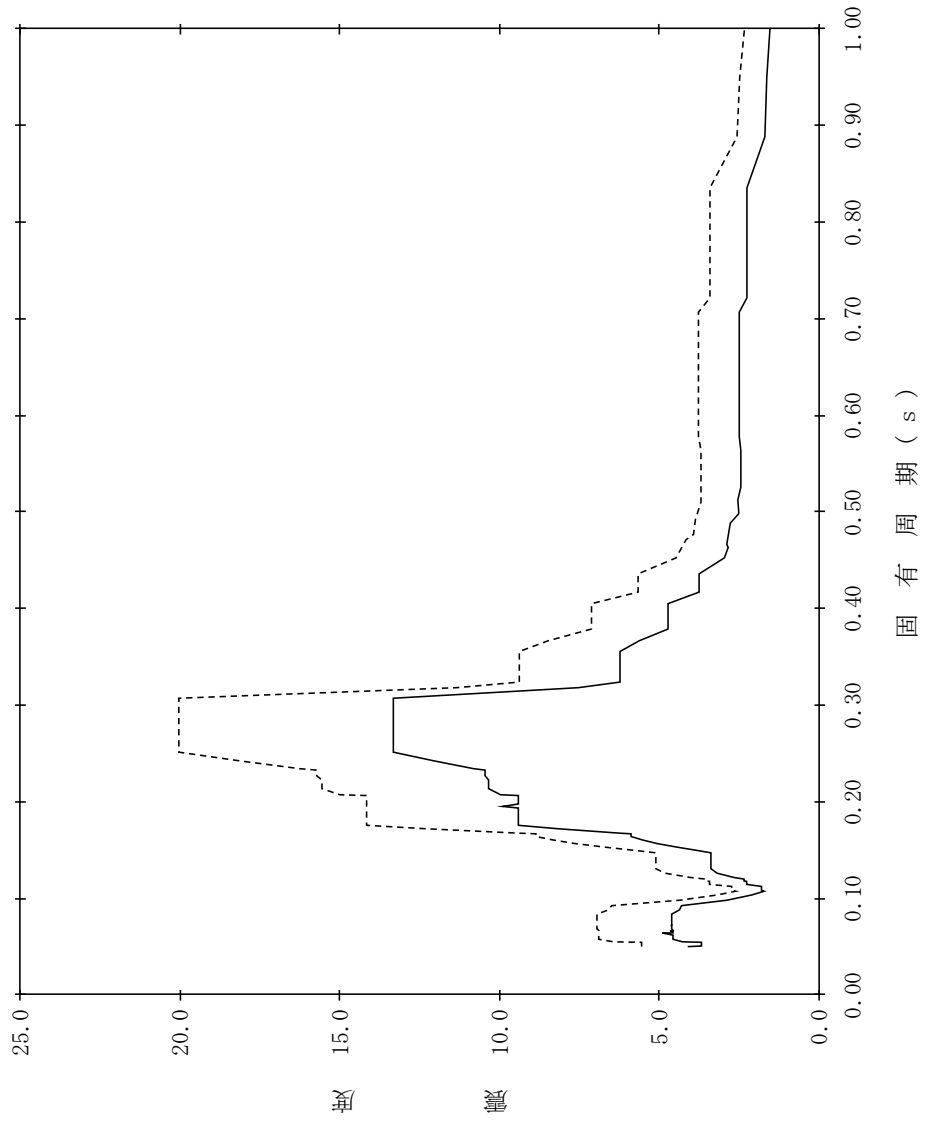


【NS2-RwB-SsNS-RwB25】



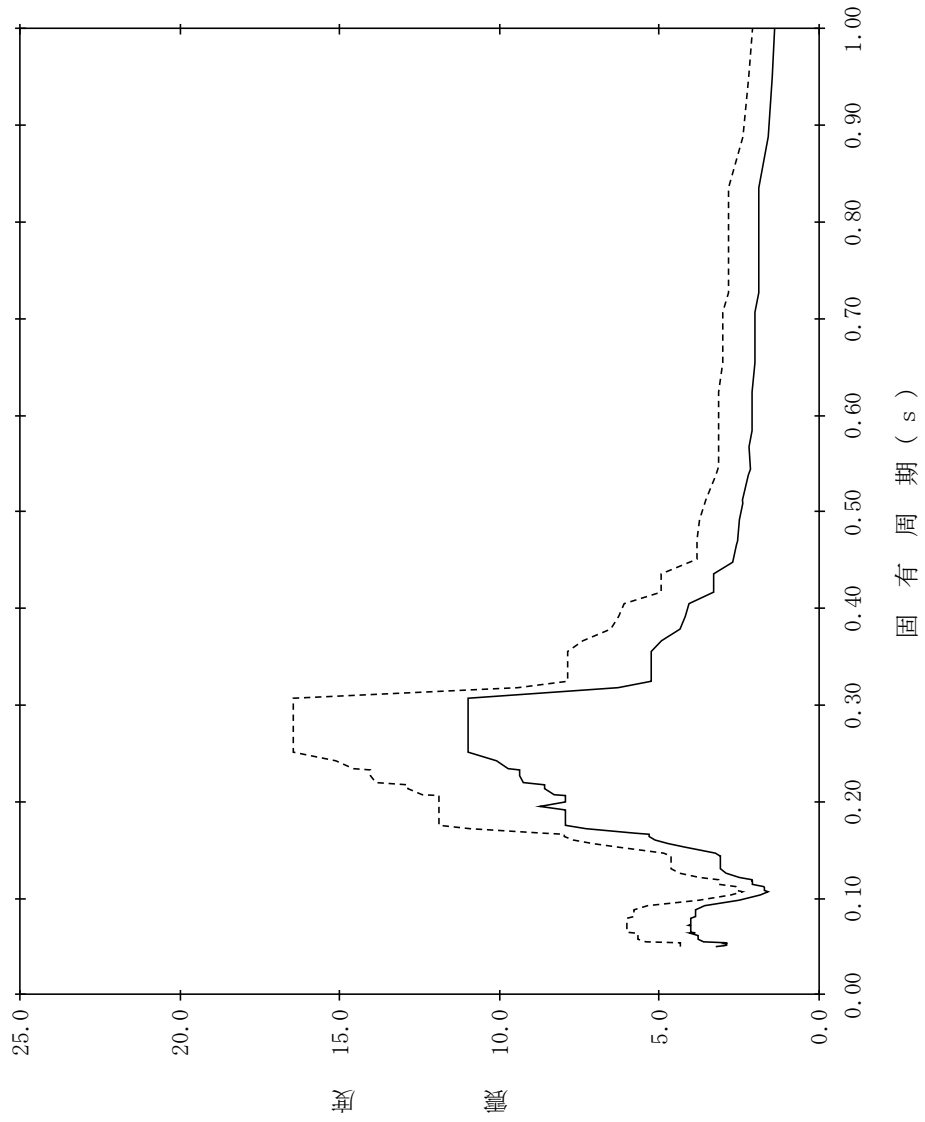
【NS2-RwB-SsNS-RwB26】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



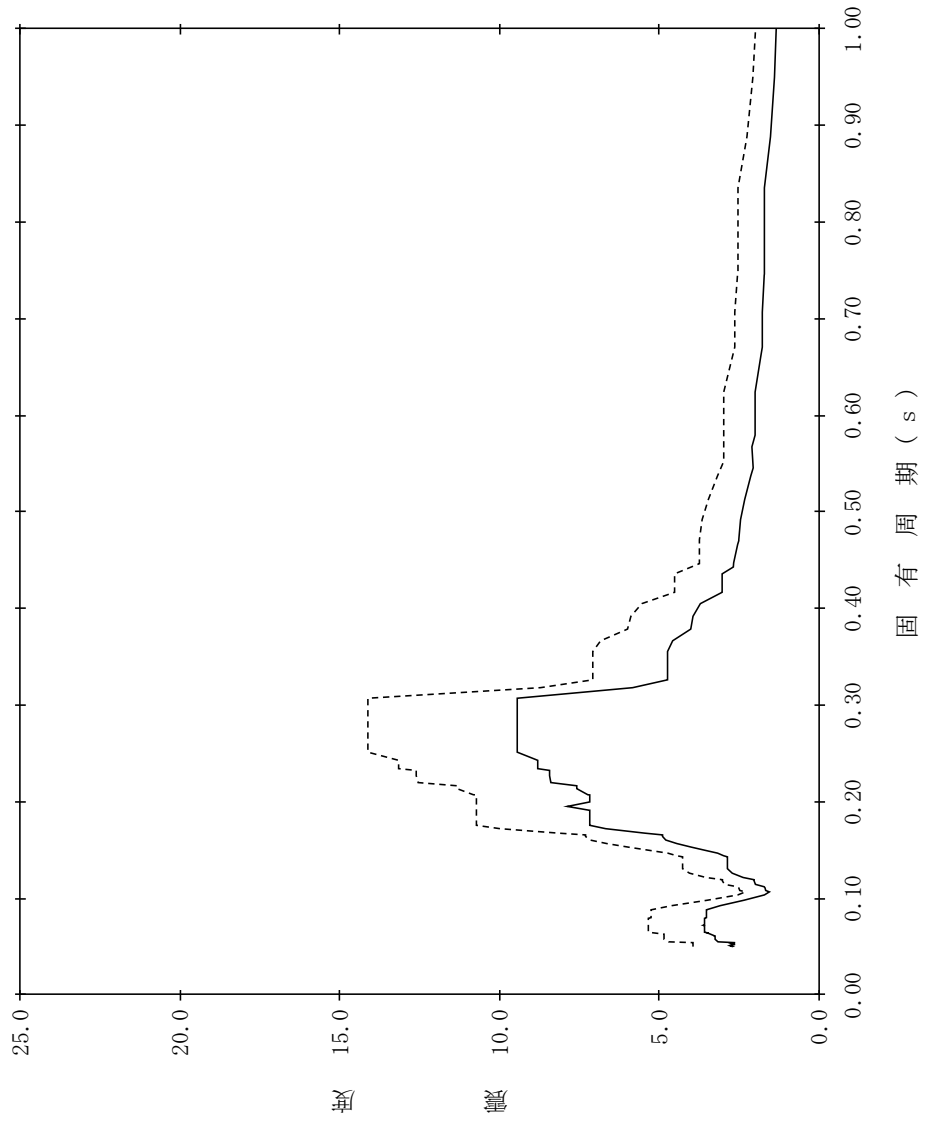
【NS2-RwB-SsNS-RwB27】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



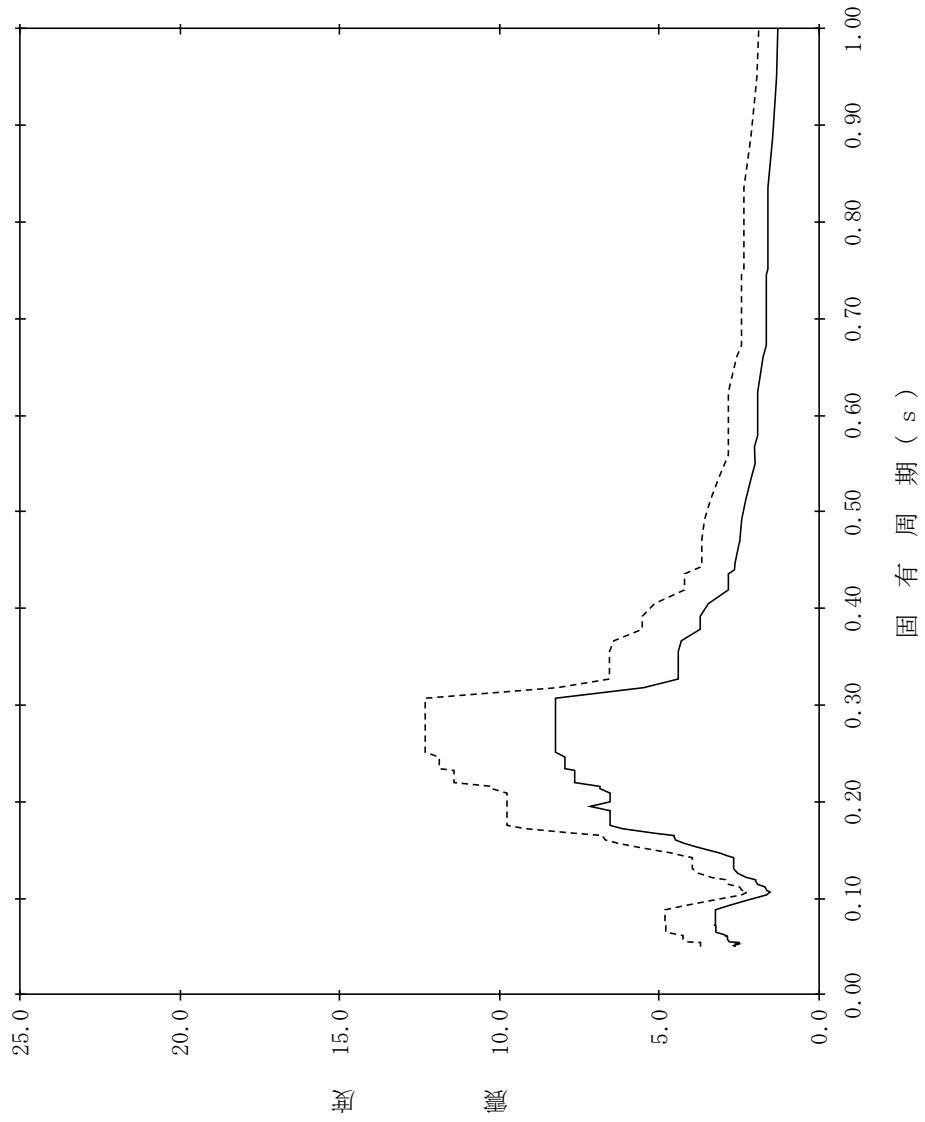
【NS2-RwB-SsNS-RwB28】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



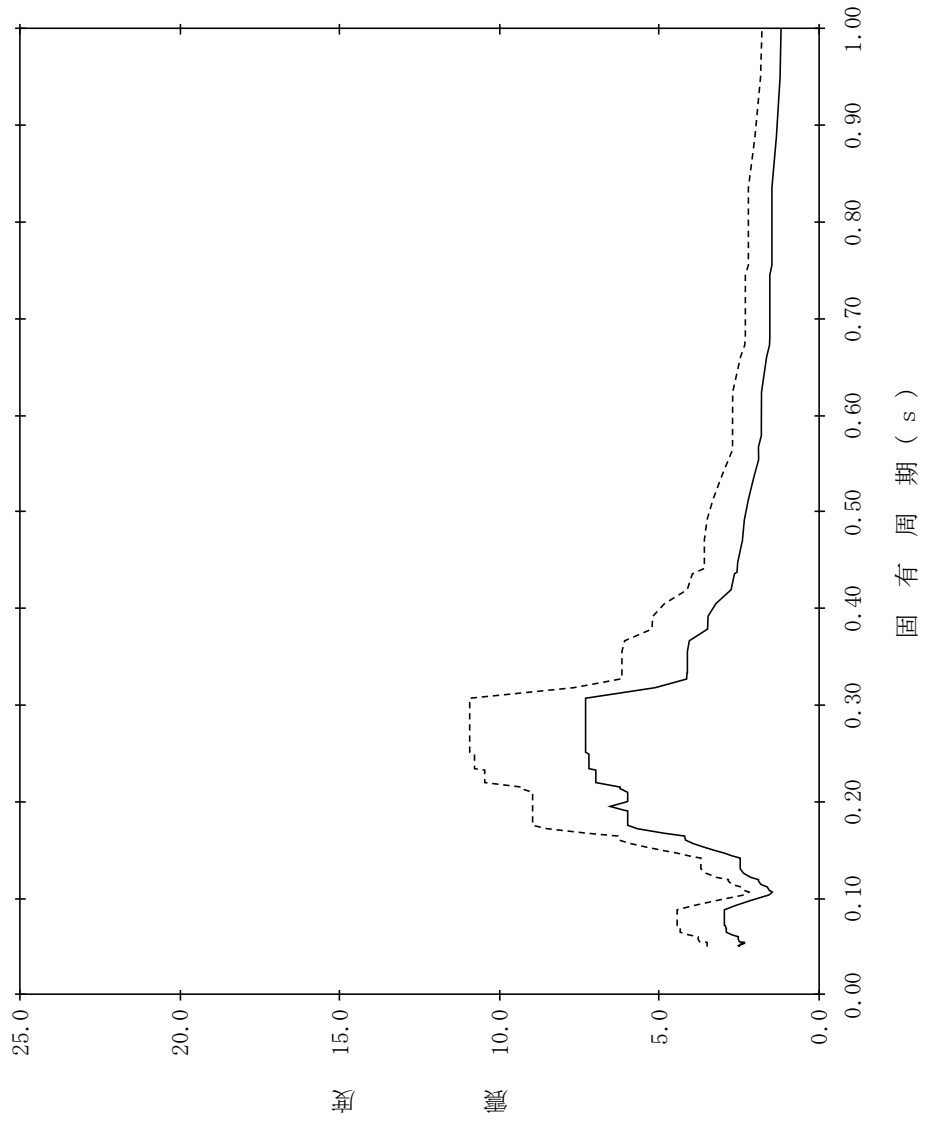
【NS2-RwB-SsNS-RwB29】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



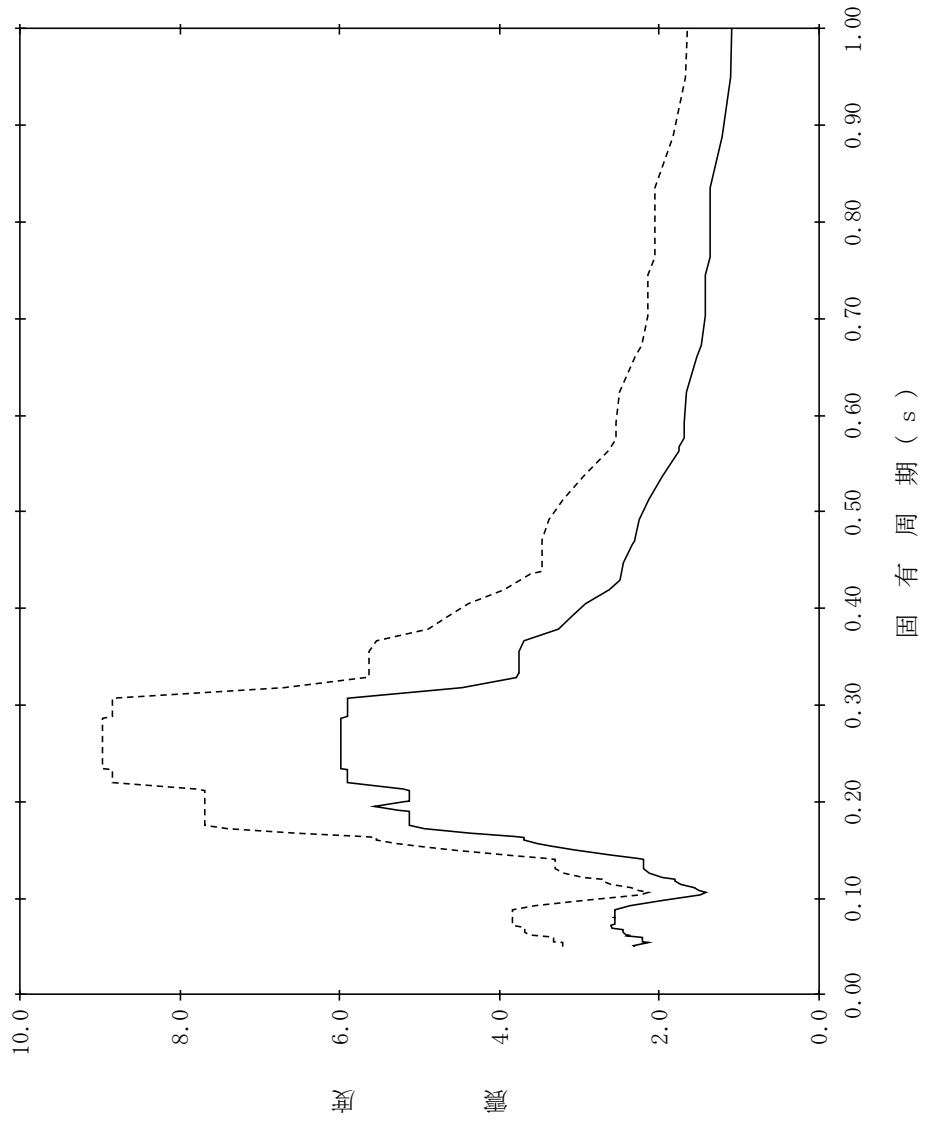
【NS2-RwB-SsNS-RwB30】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



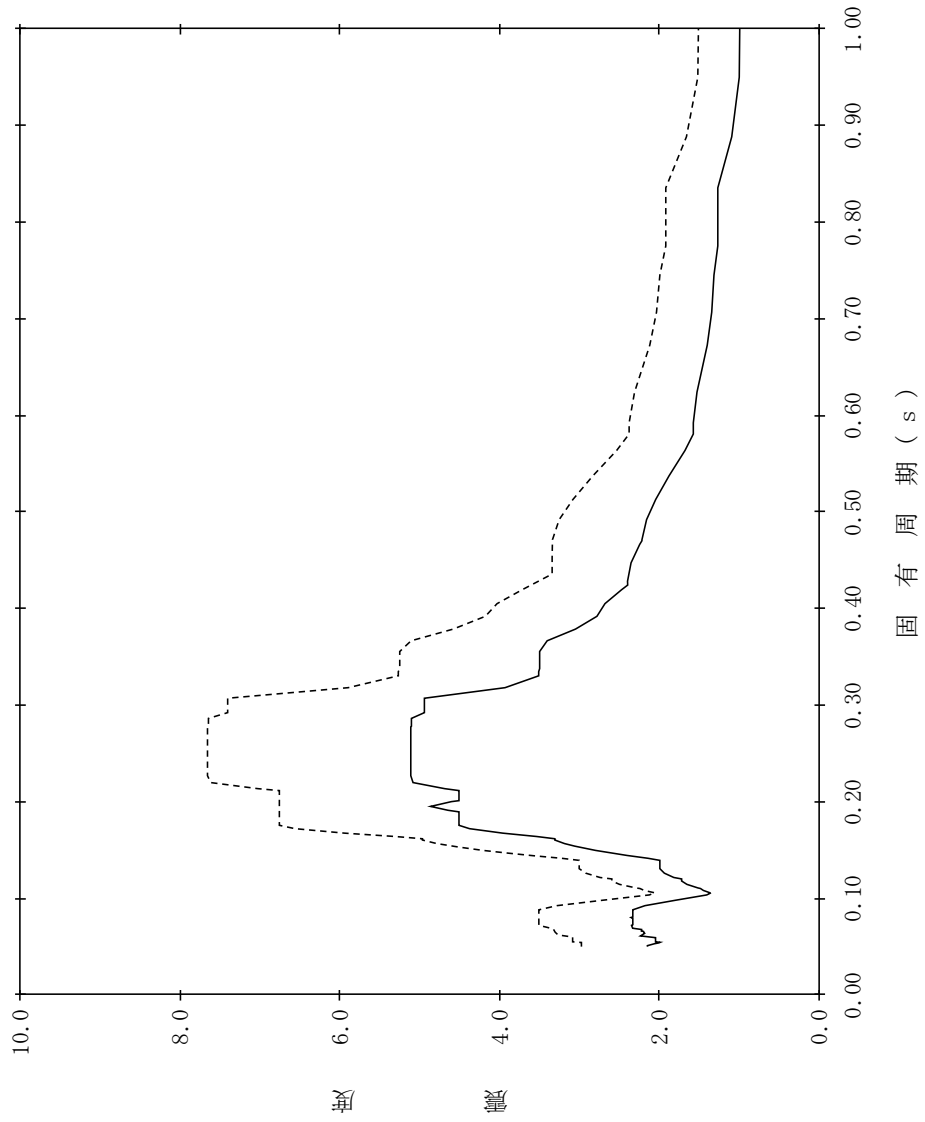
【NS2-RwB-SsNS-RwB31】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



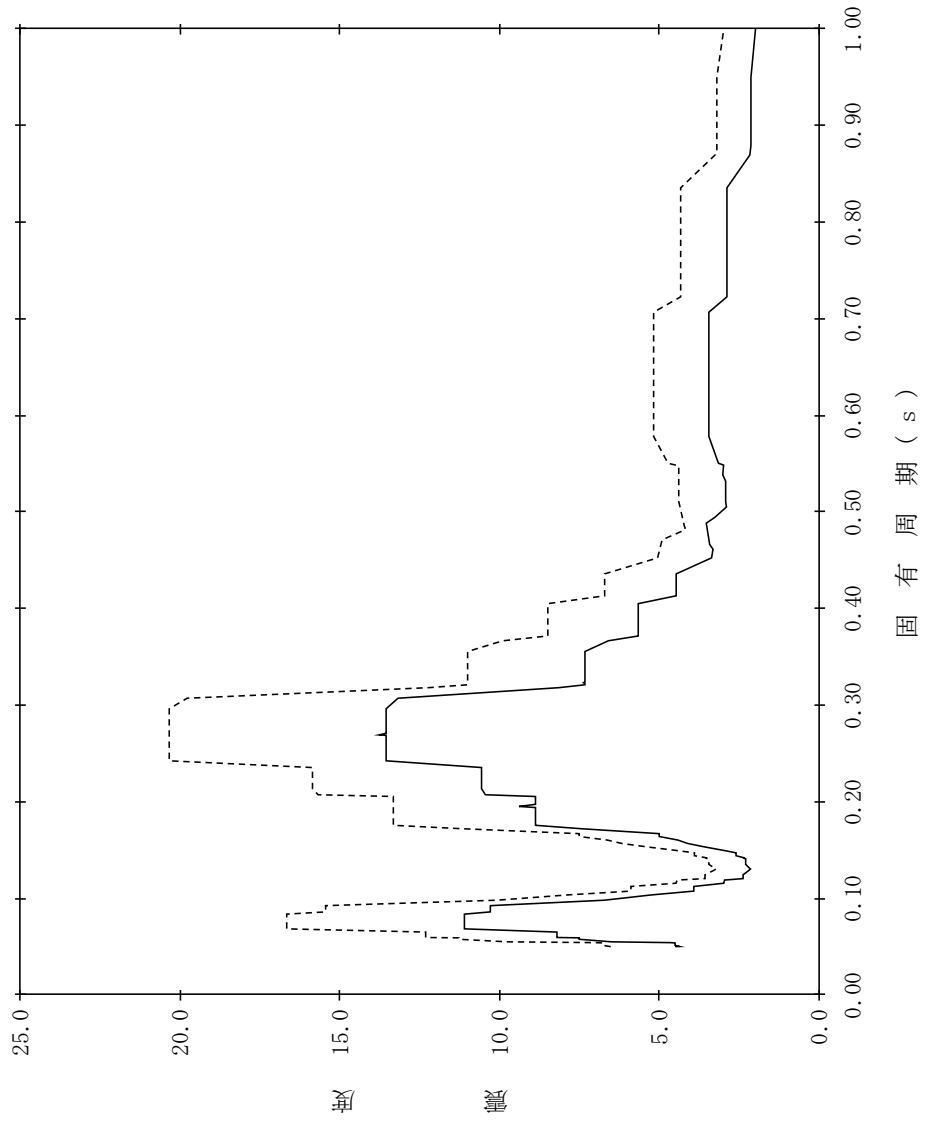
【NS2-RwB-SsNS-RwB32】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

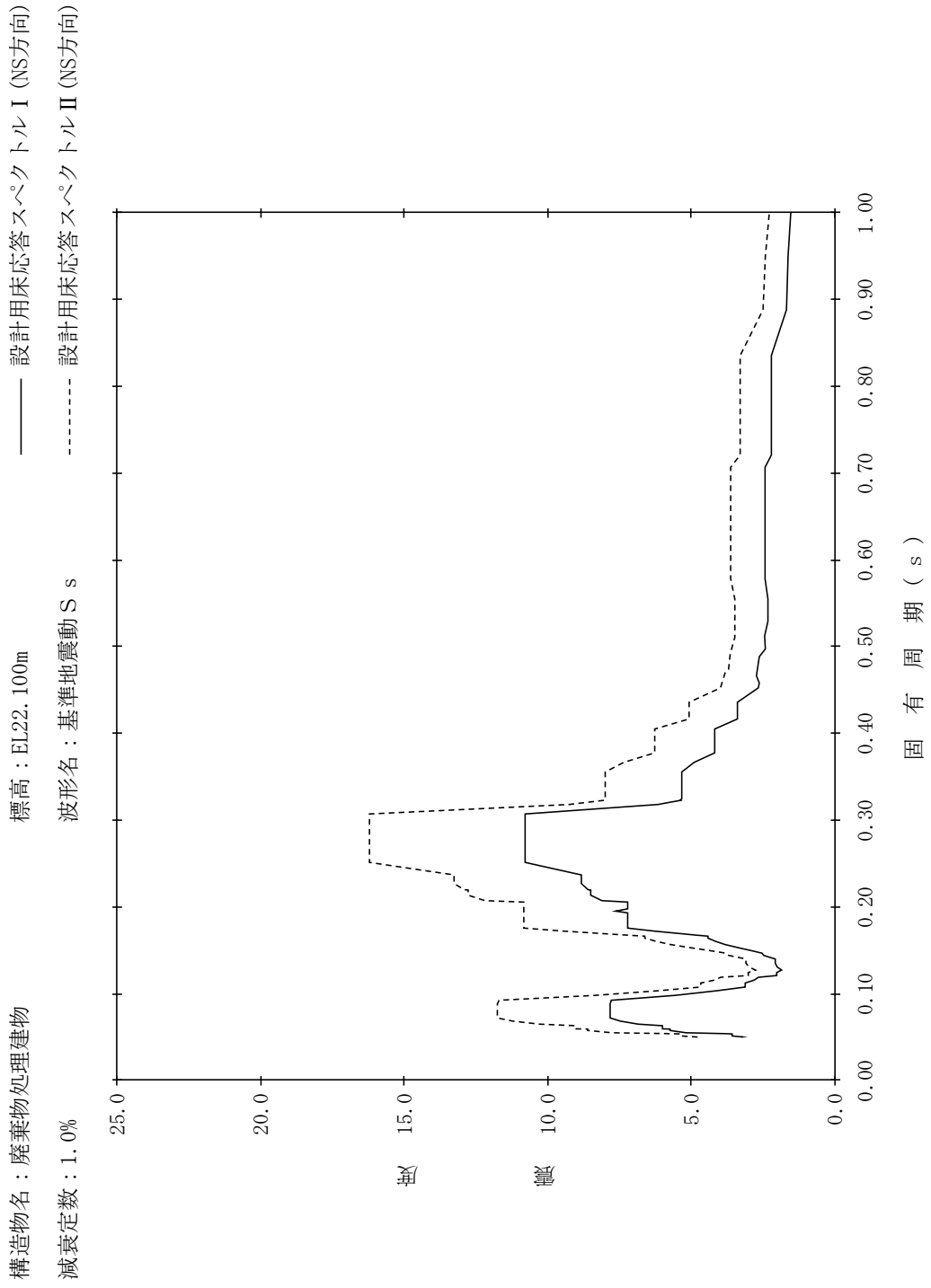


【NS2-RwB-SsNS-RwB33】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

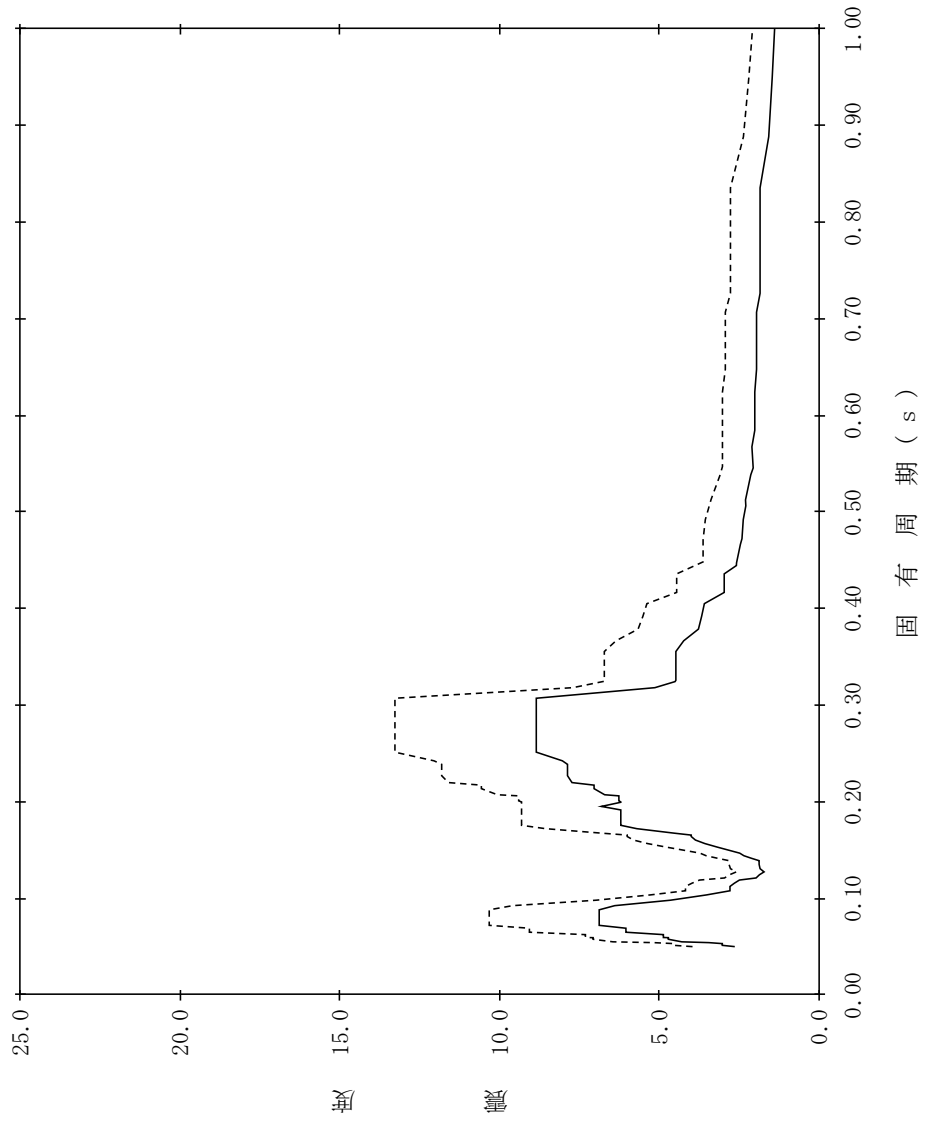


【NS2-RwB-SsNS-RwB34】

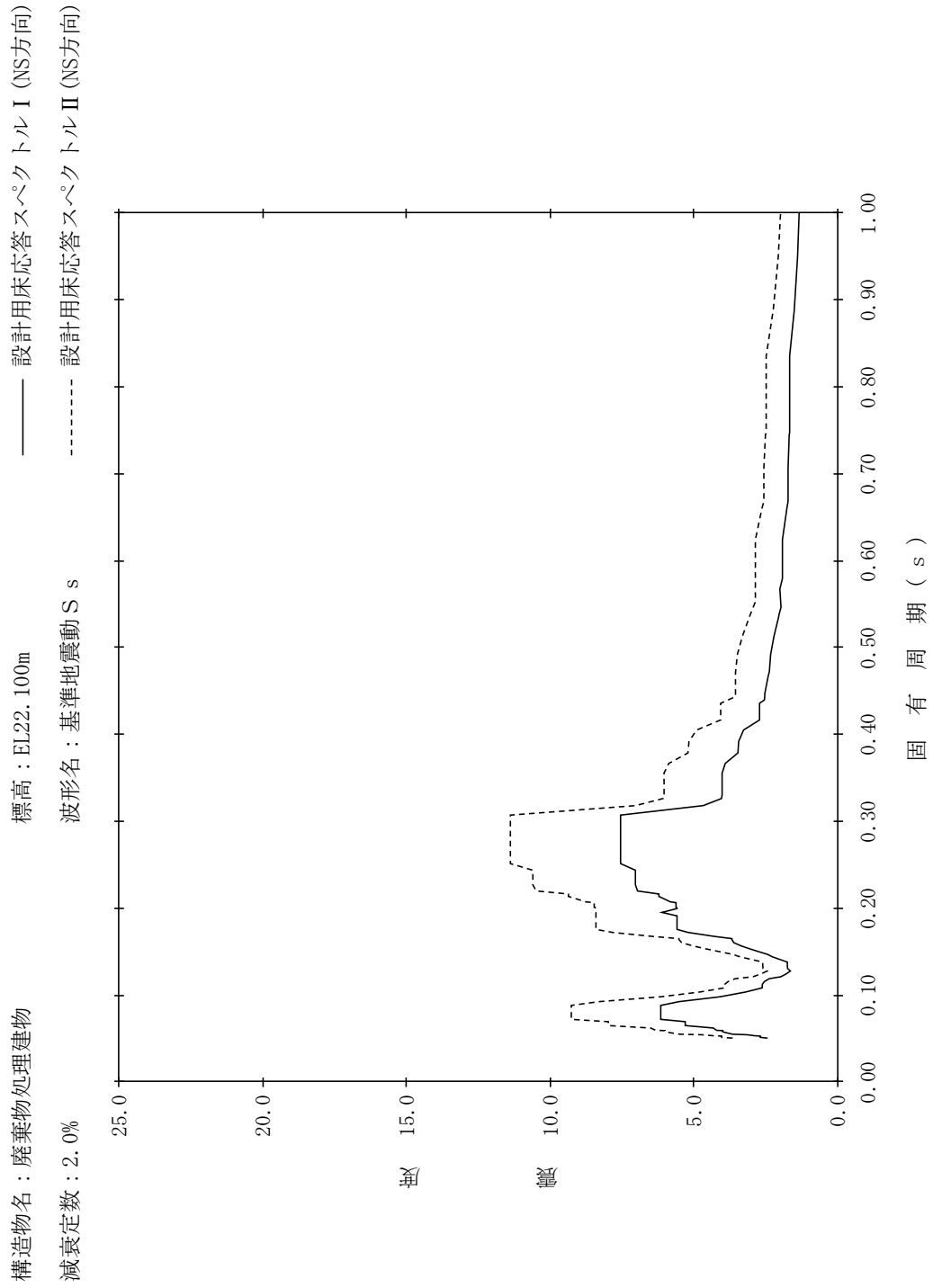


【NS2-RwB-SsNS-RwB35】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

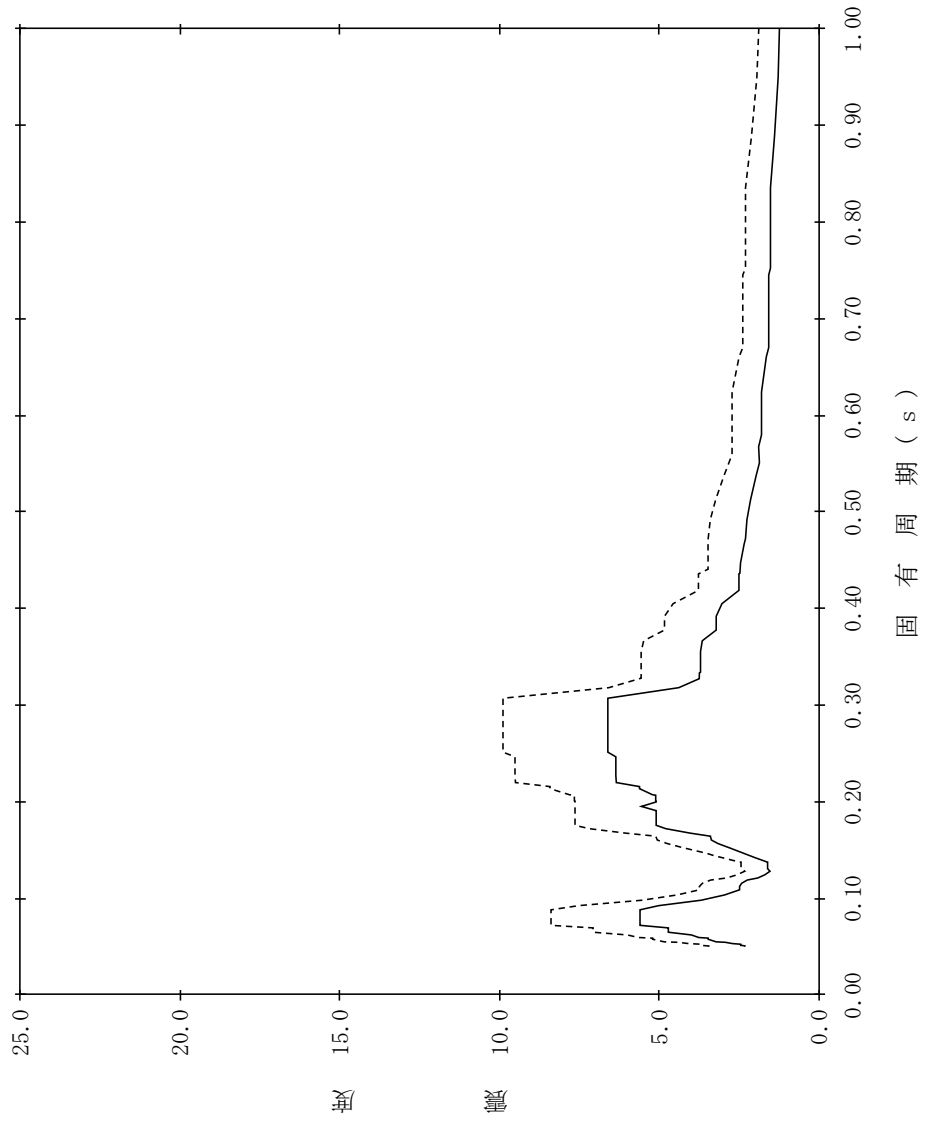


【NS2-RwB-SsNS-RwB36】



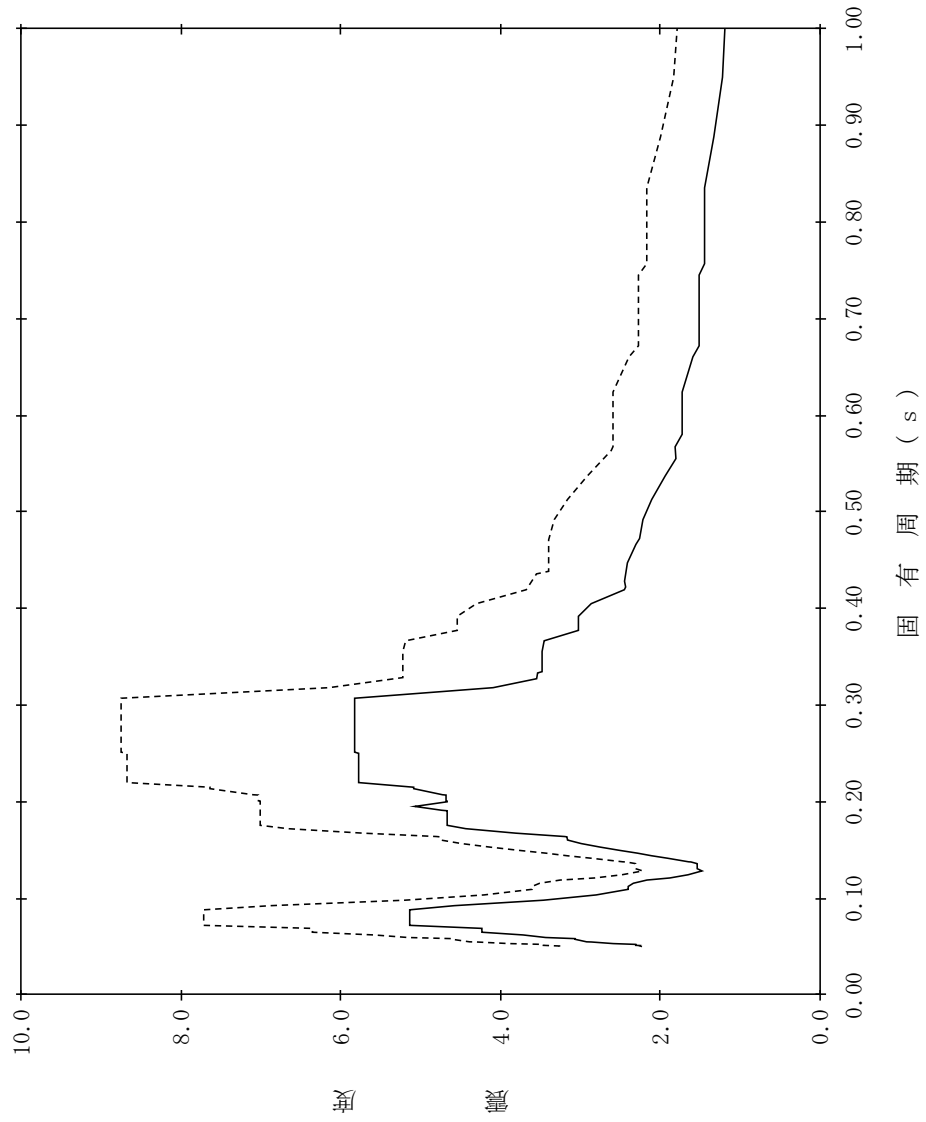
【NS2-RwB-SsNS-RwB37】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



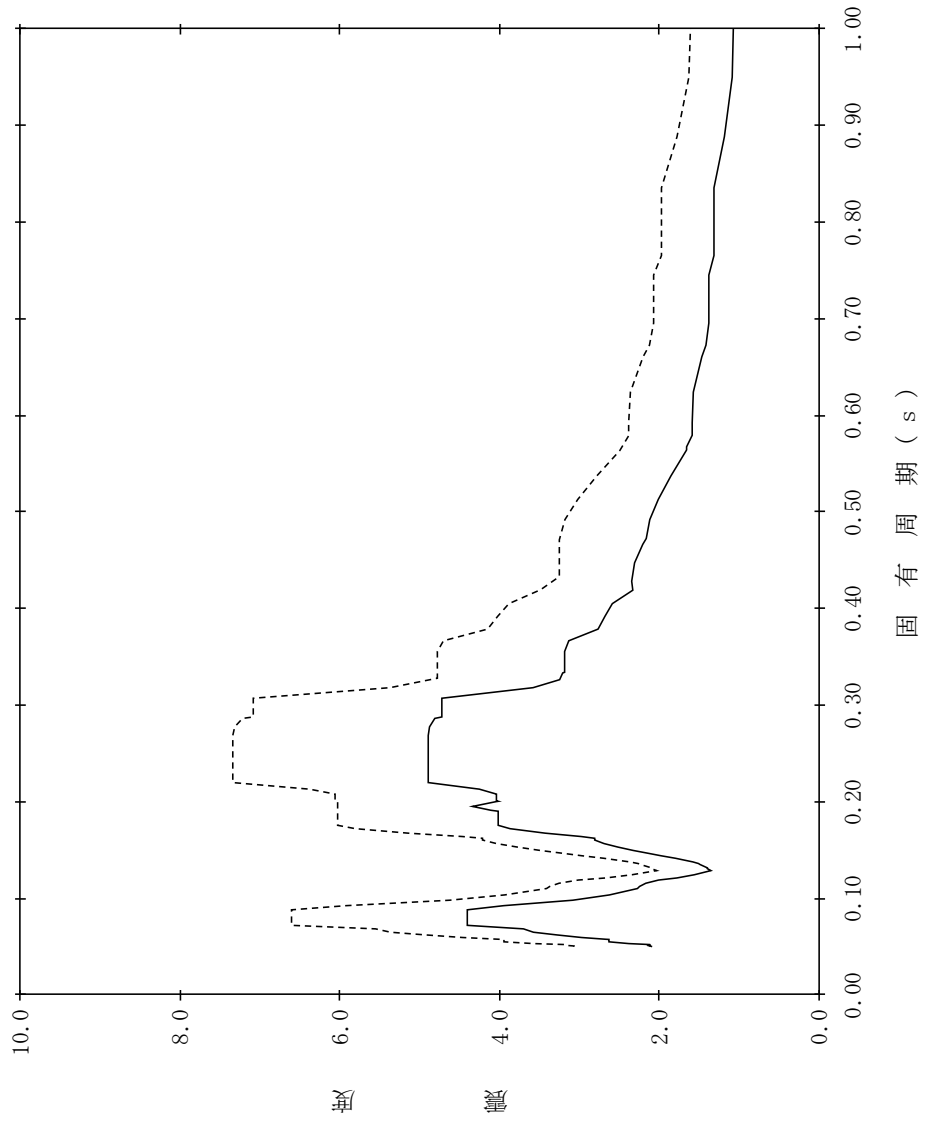
【NS2-RwB-SsNS-RwB38】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



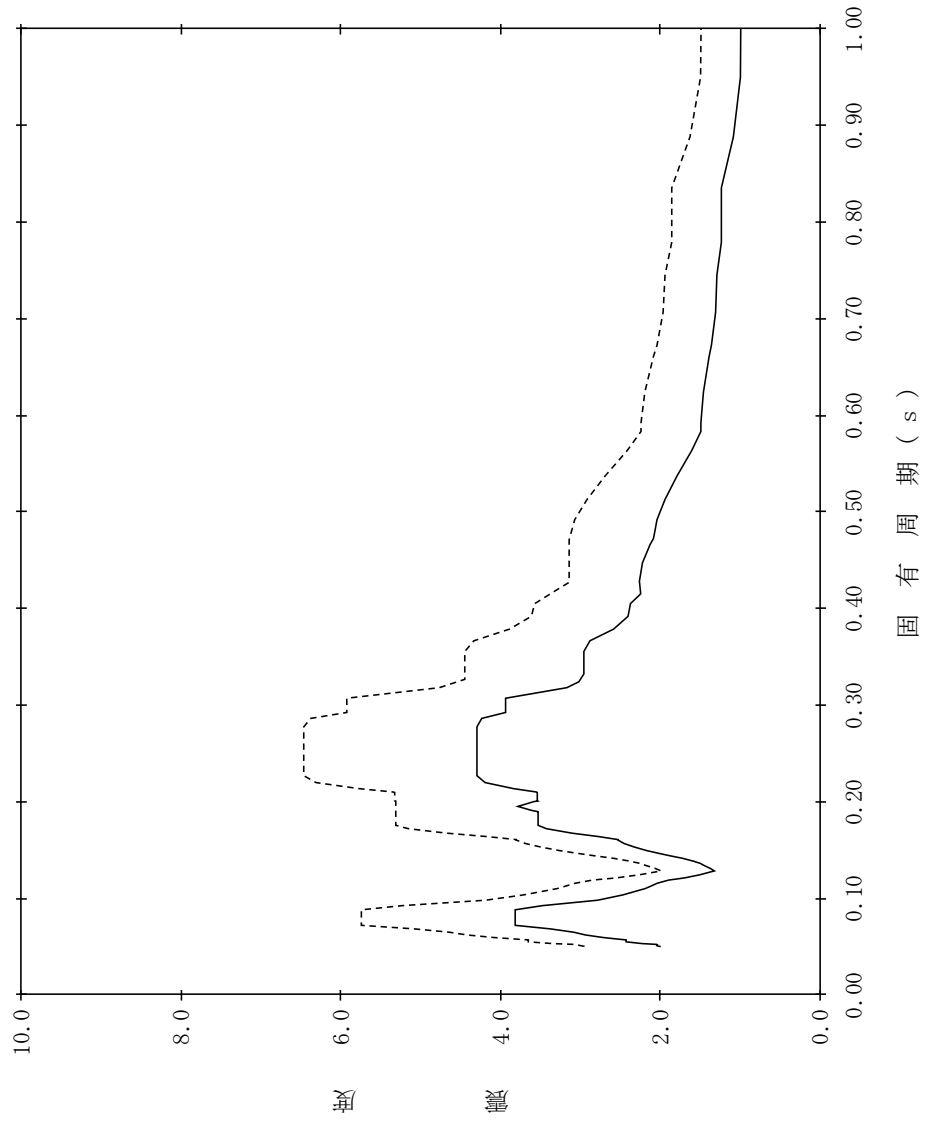
【NS2-RwB-SsNS-RwB39】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



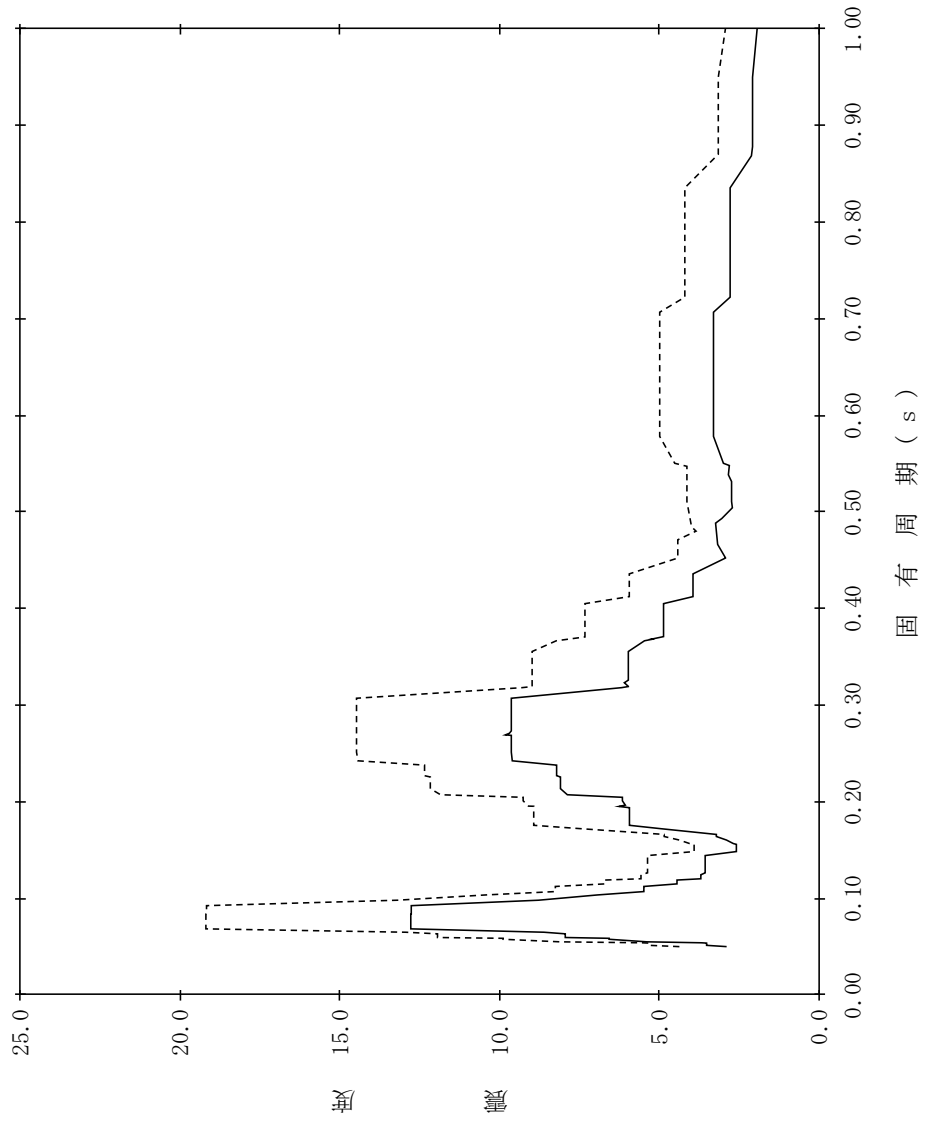
【NS2-RwB-SsNS-RwB40】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



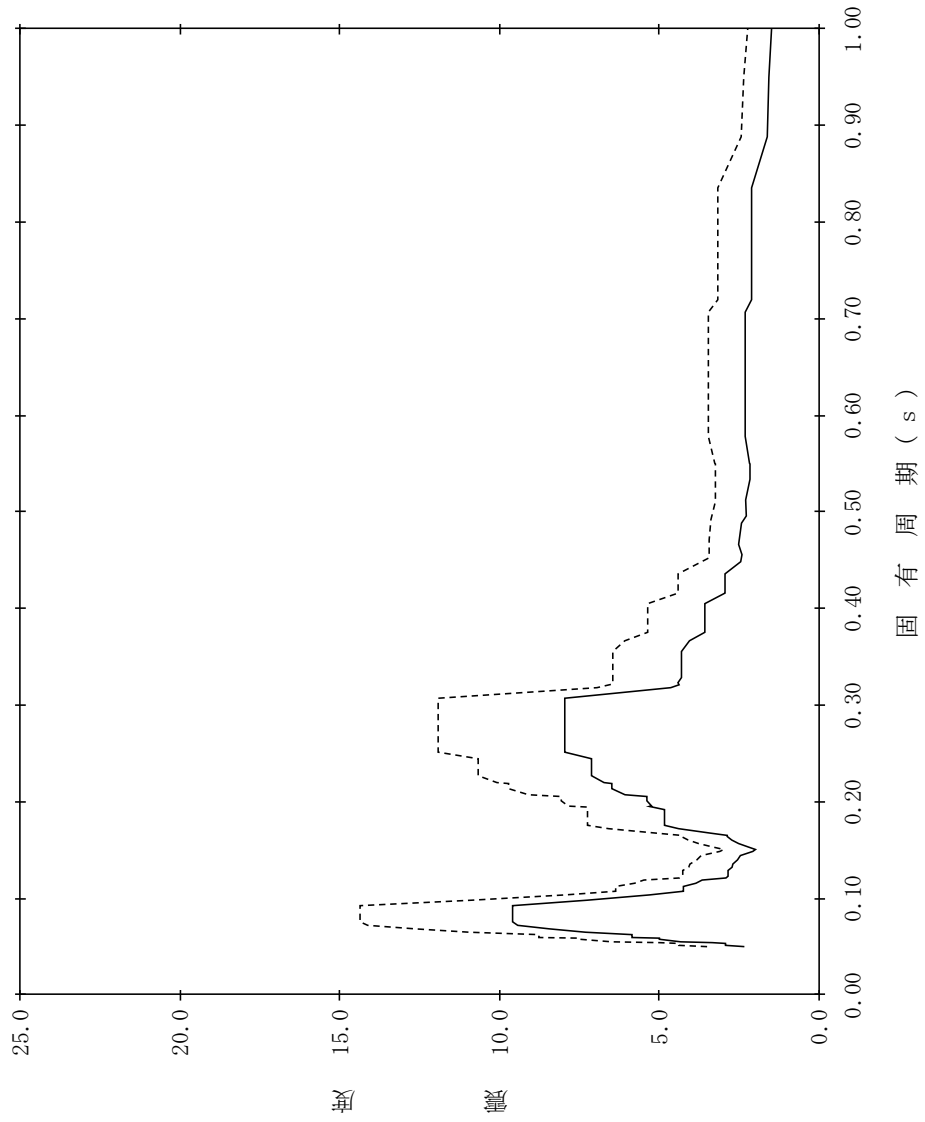
【NS2-RwB-SsNS-RwB41】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



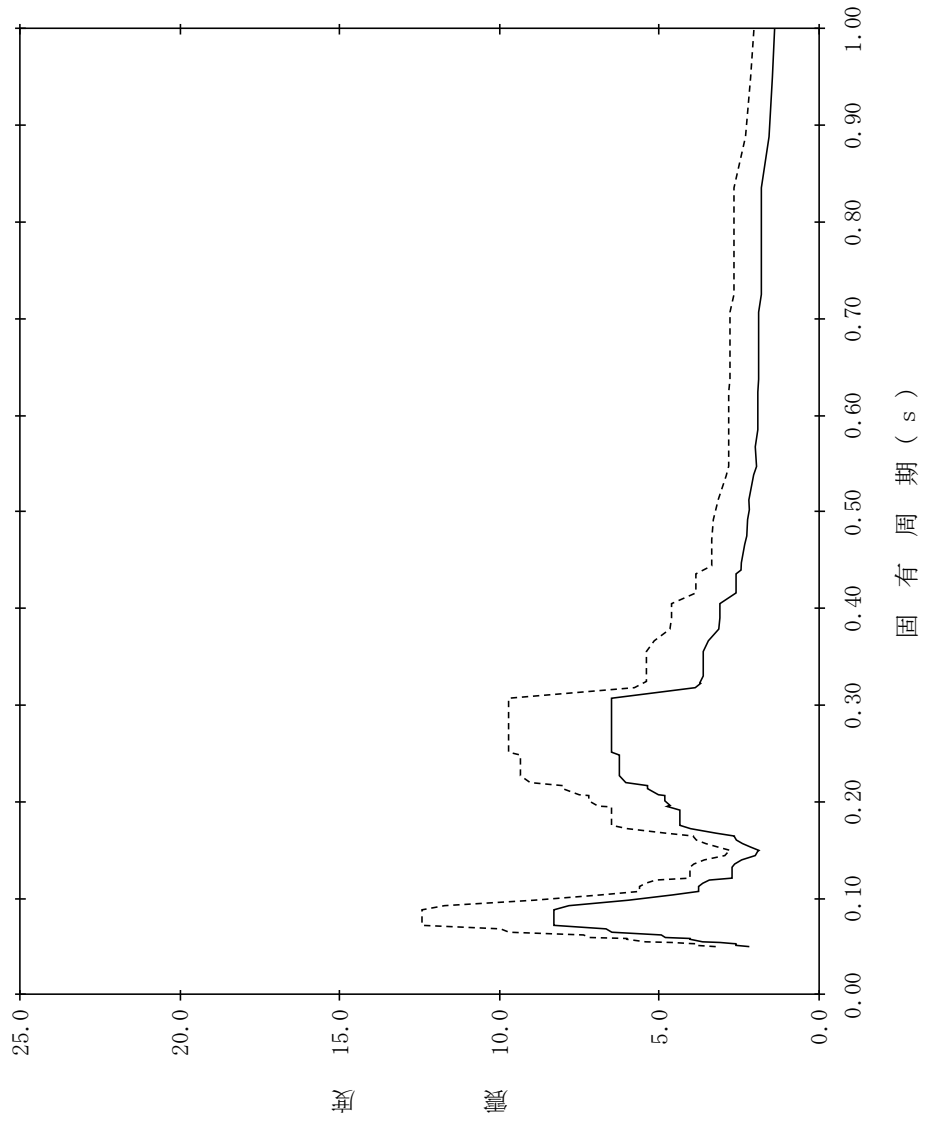
【NS2-RwB-SsNS-RwB42】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



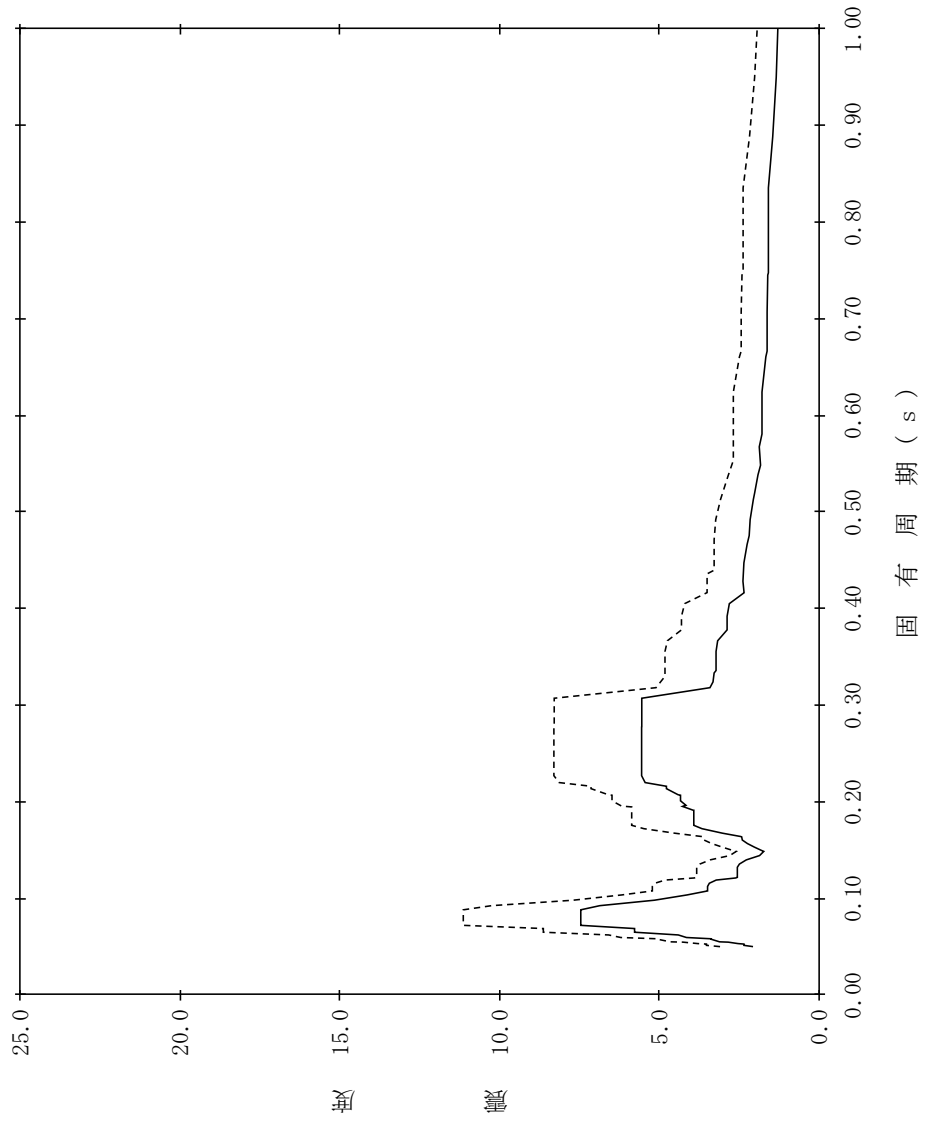
【NS2-RwB-SsNS-RwB43】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



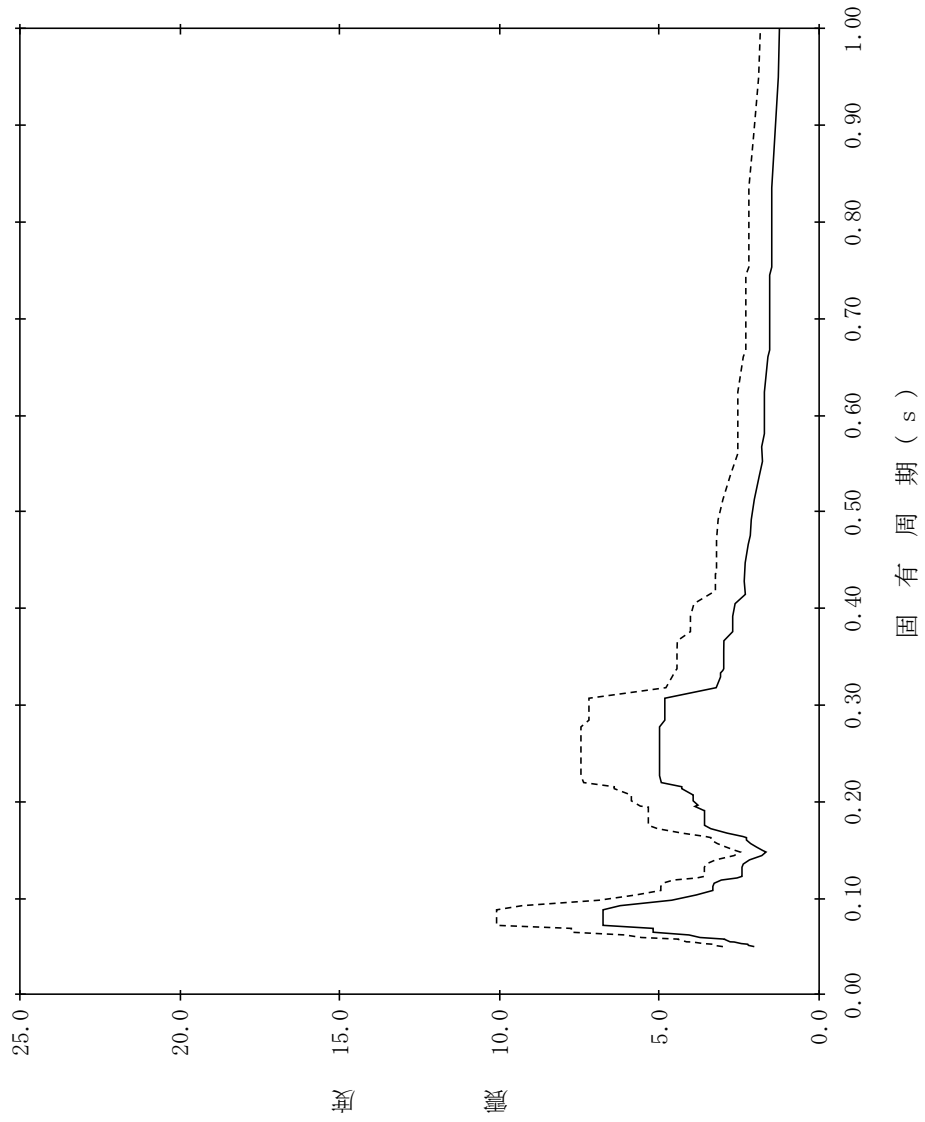
【NS2-RwB-SsNS-RwB44】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



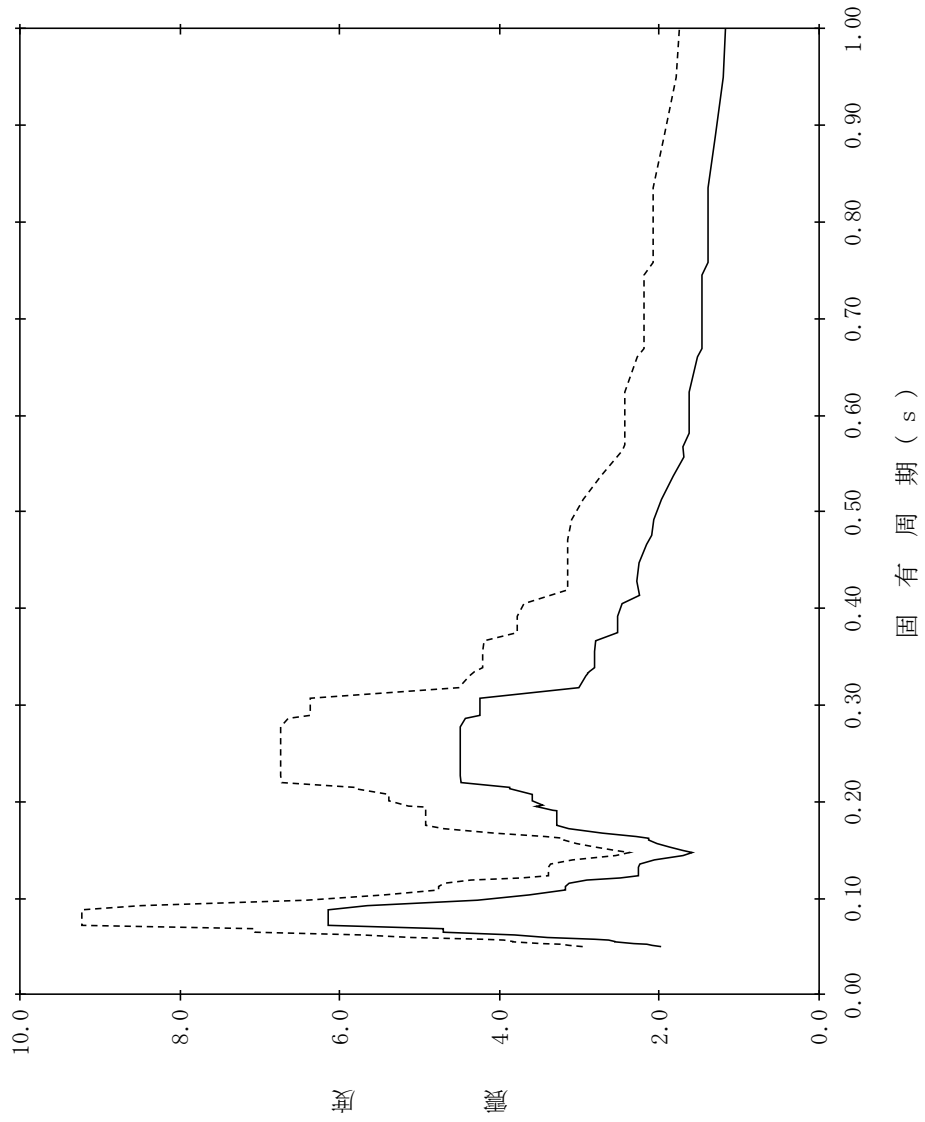
【NS2-RwB-SsNS-RwB45】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



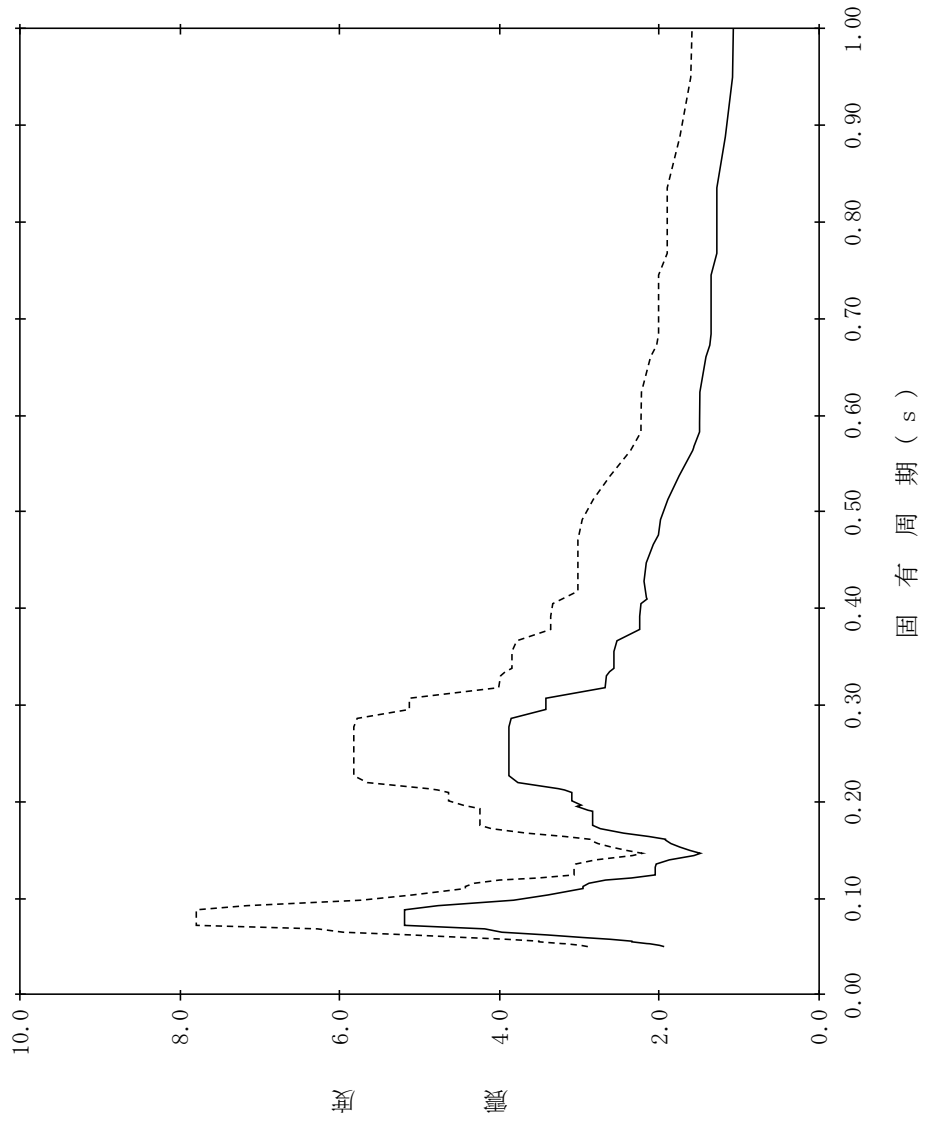
【NS2-RwB-SsNS-RwB46】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



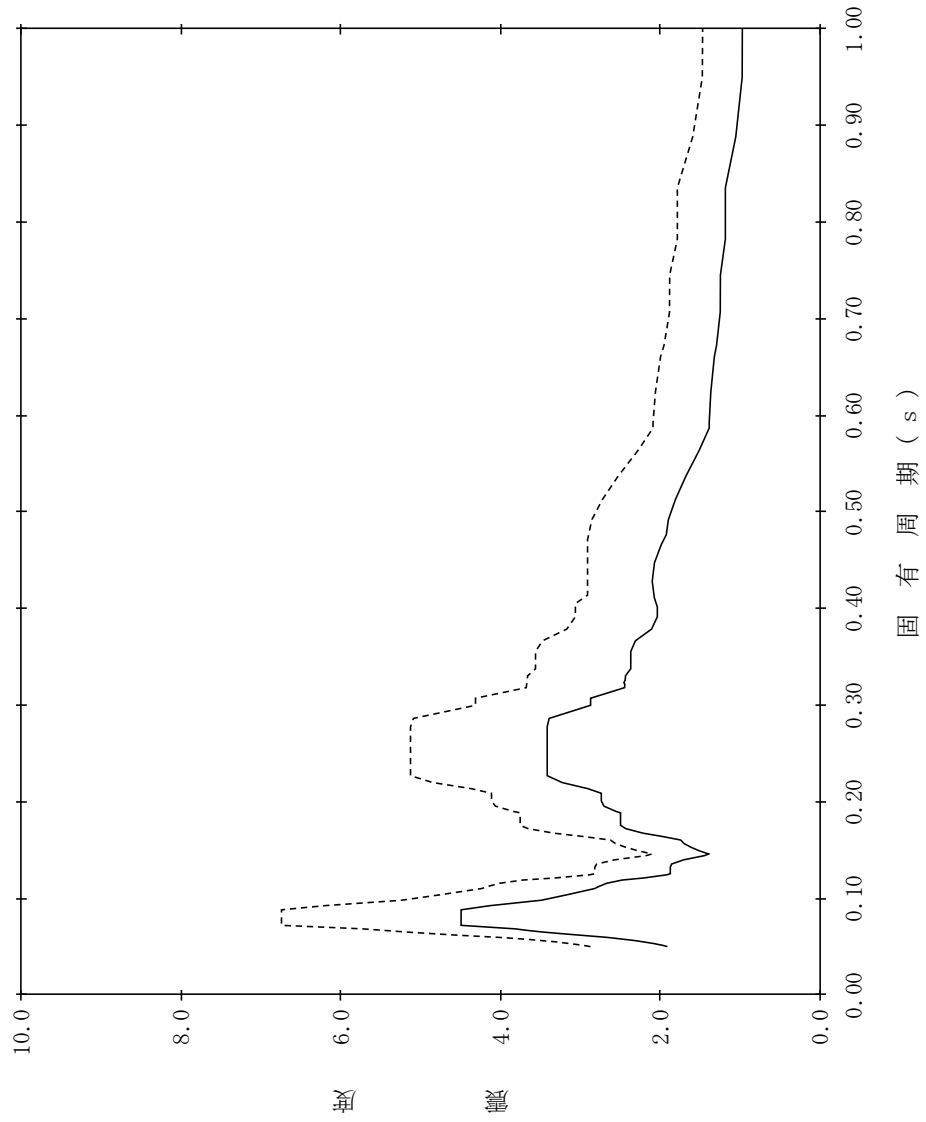
【NS2-RwB-SsNS-RwB47】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



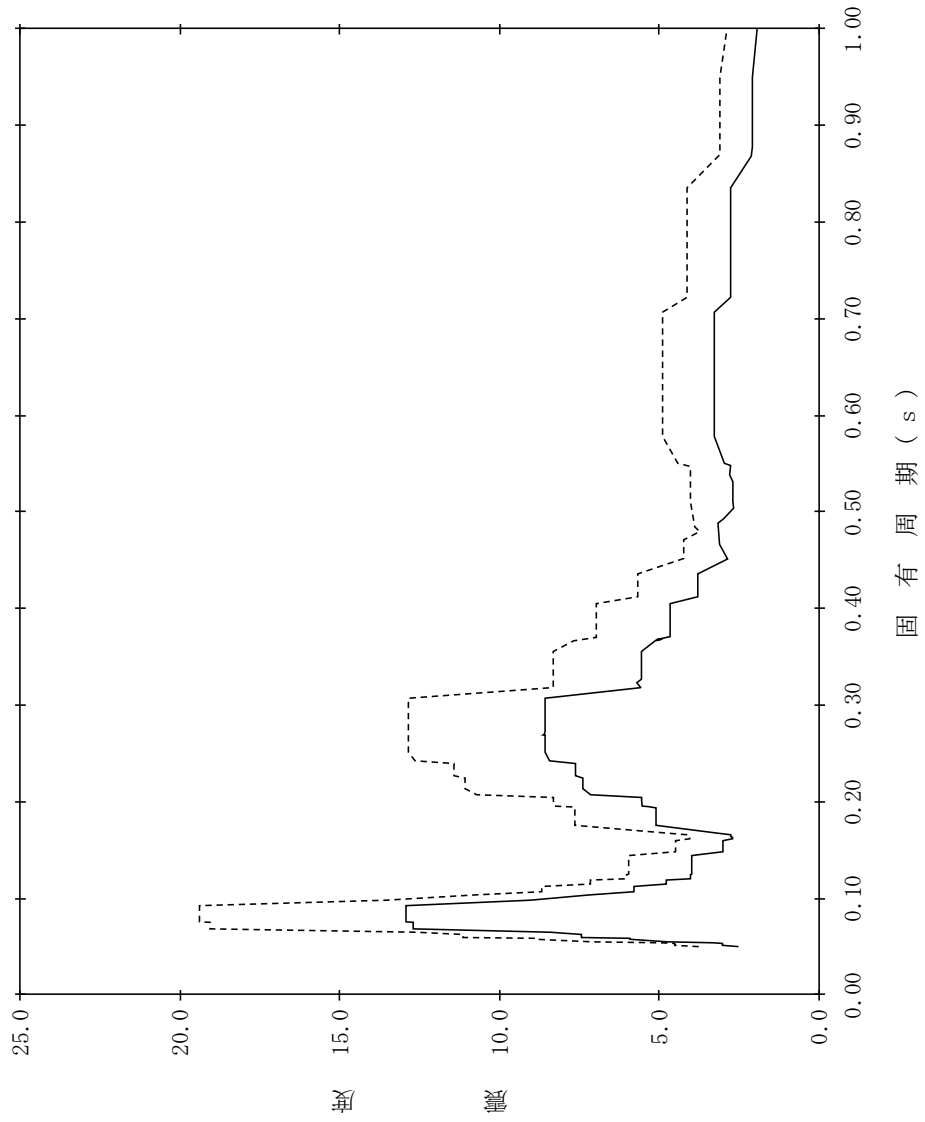
【NS2-RwB-SsNS-RwB48】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

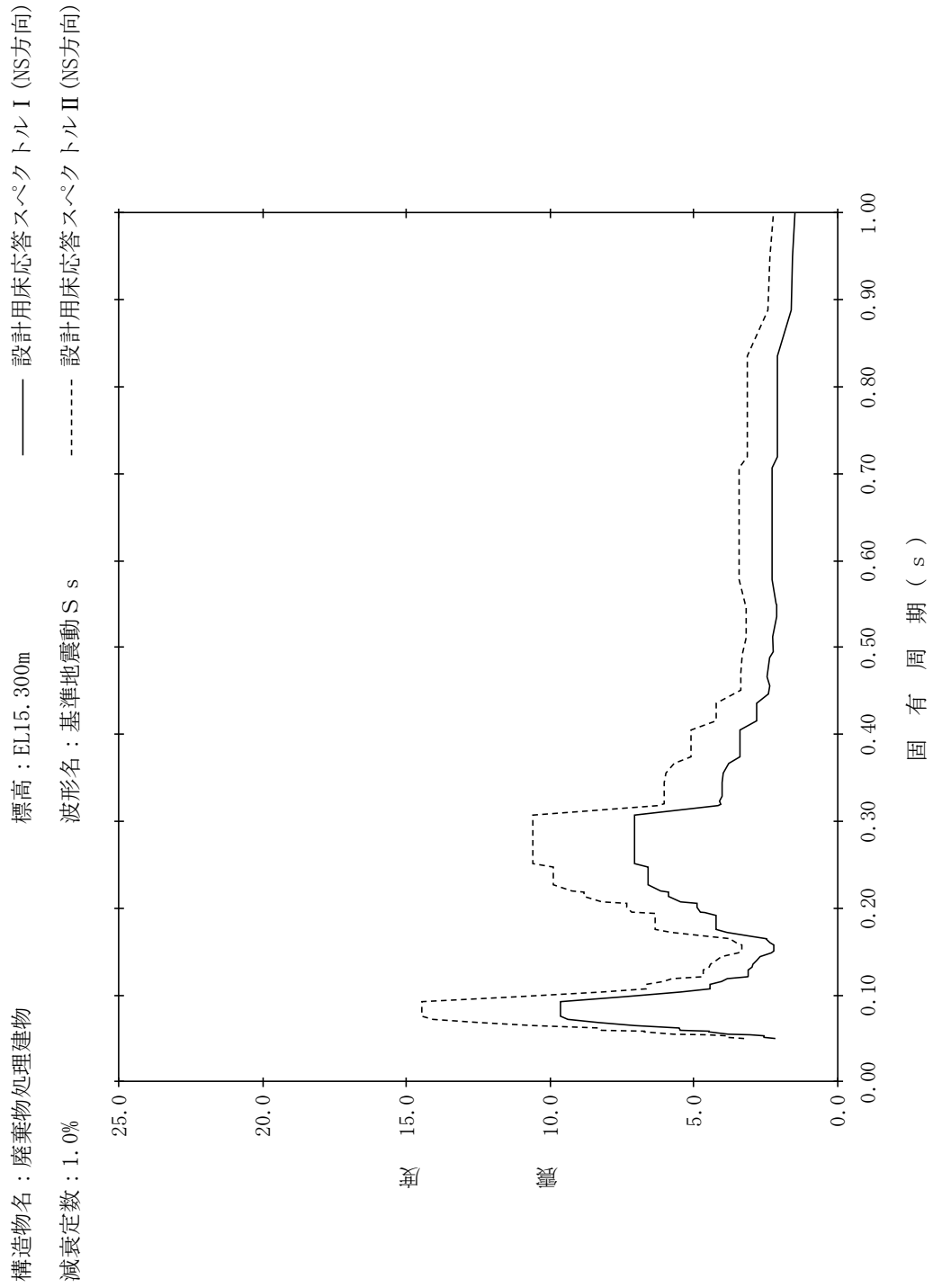


【NS2-RwB-SsNS-RwB49】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

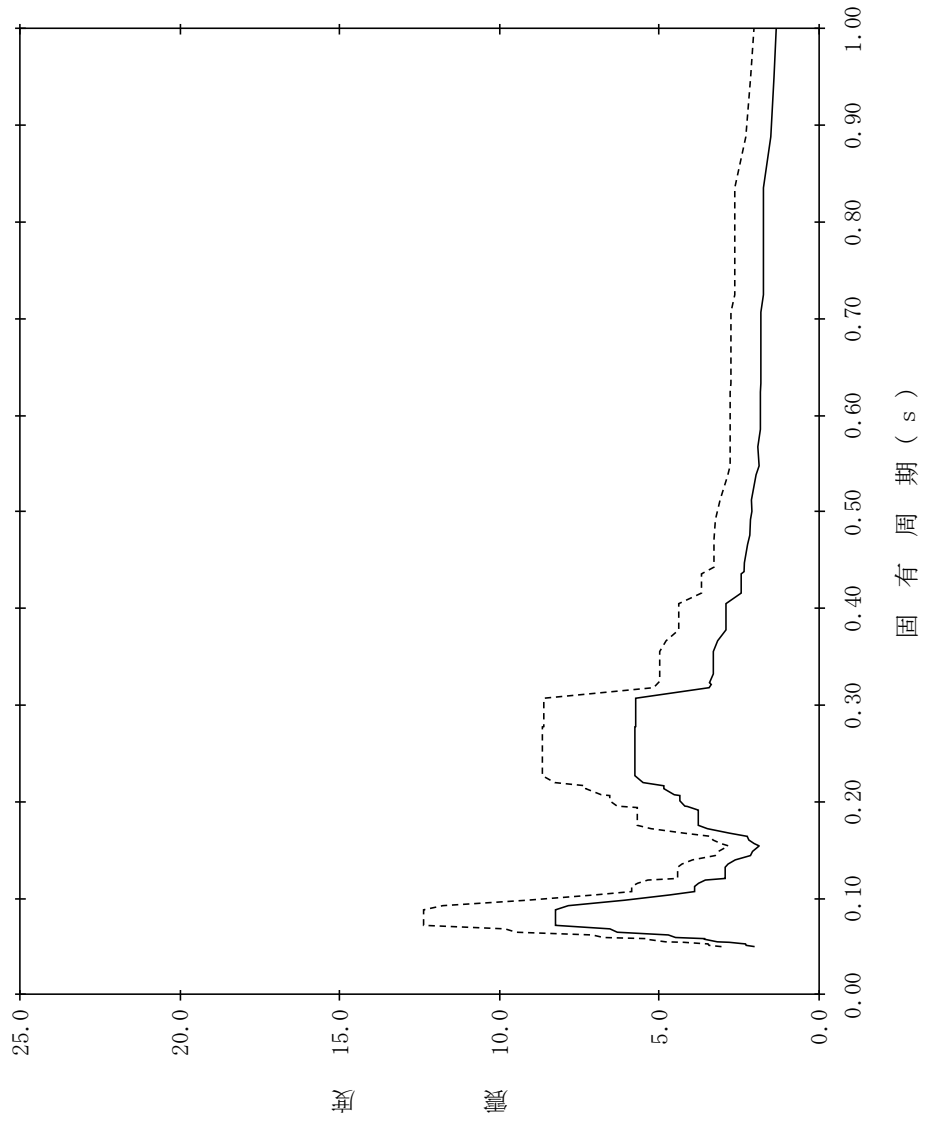


【NS2-RwB-SsNS-RwB50】



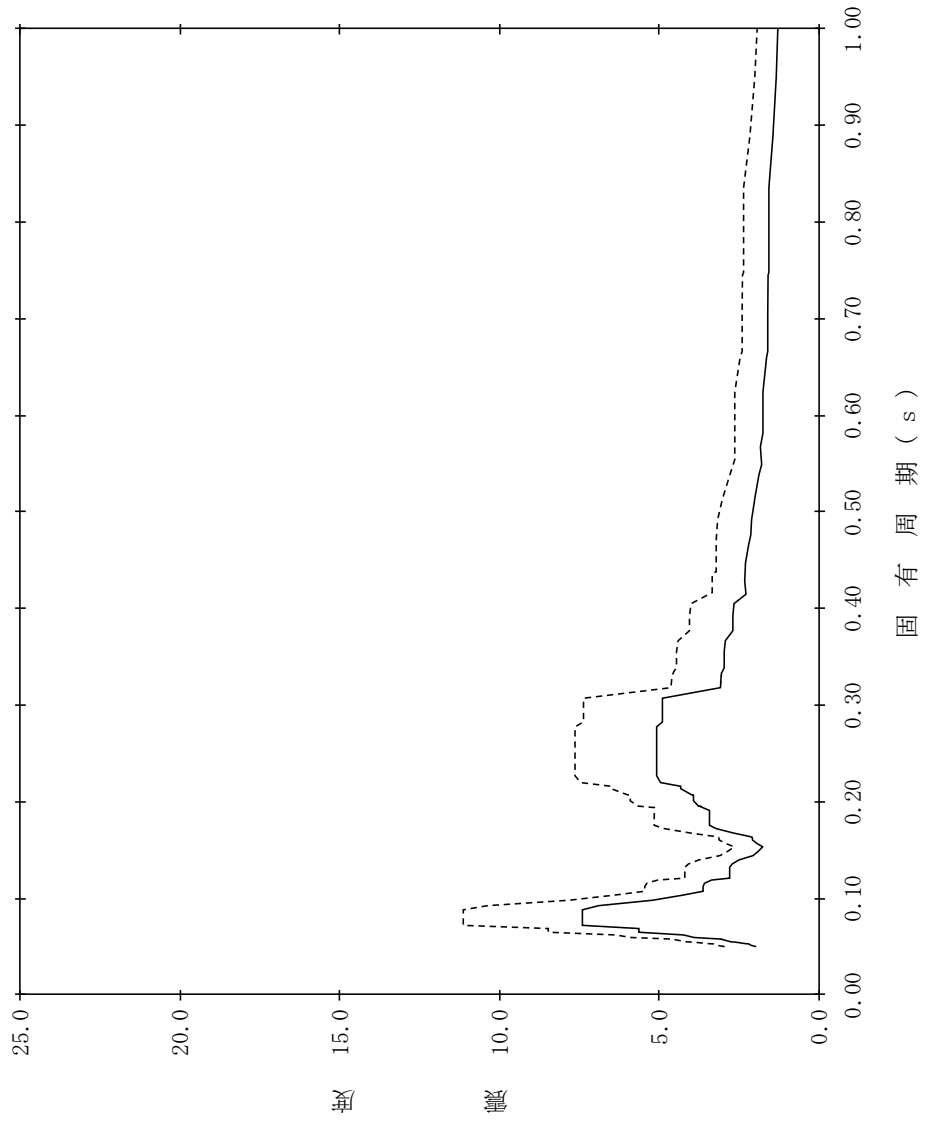
【NS2-RwB-SsNS-RwB51】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



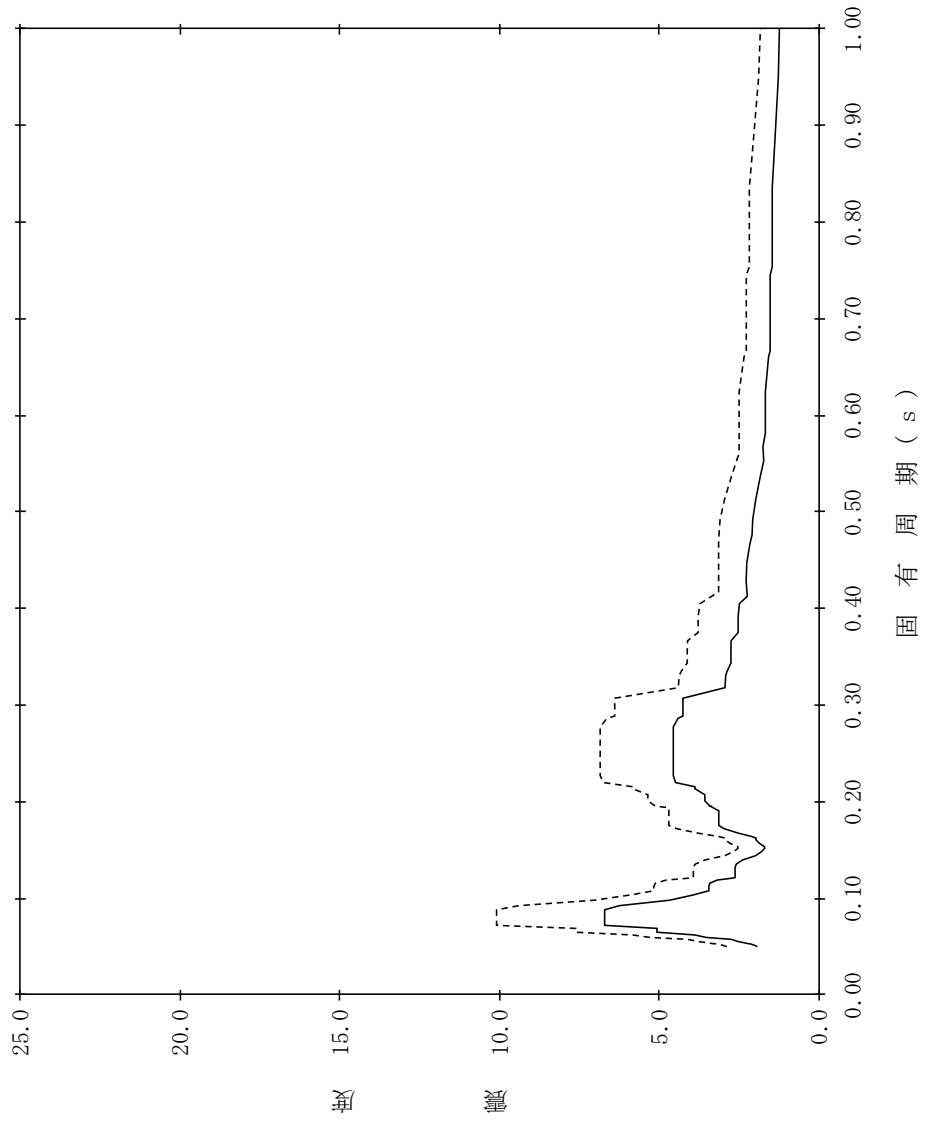
【NS2-RwB-SsNS-RwB52】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



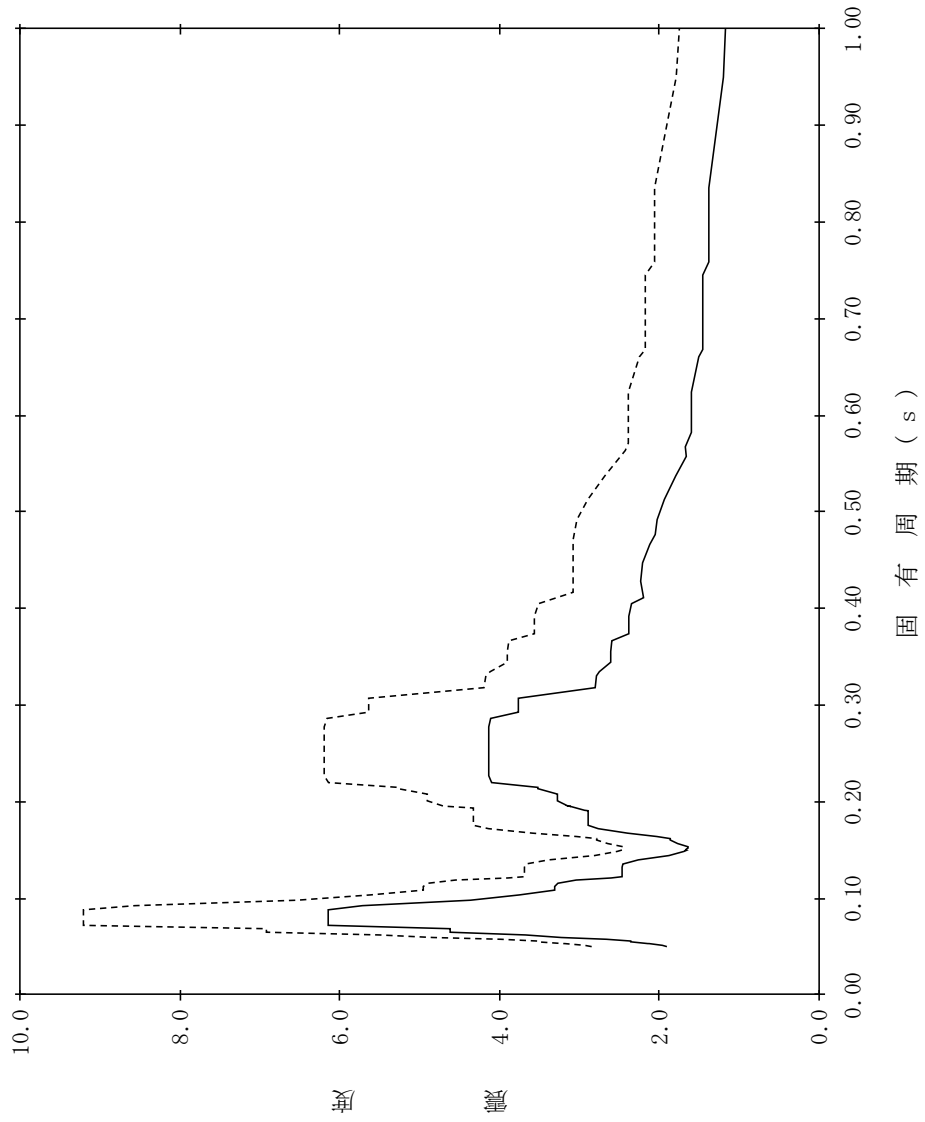
【NS2-RwB-SsNS-RwB53】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



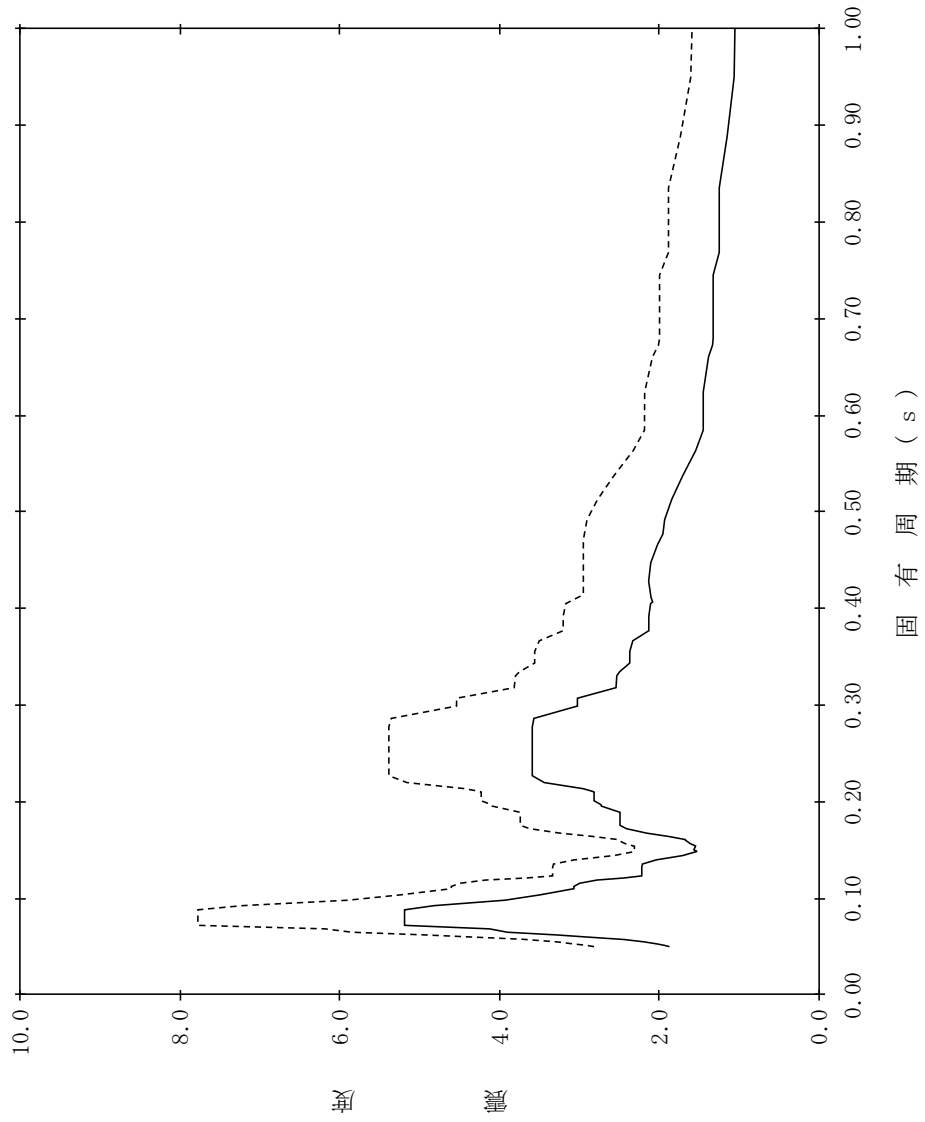
【NS2-RwB-SsNS-RwB54】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



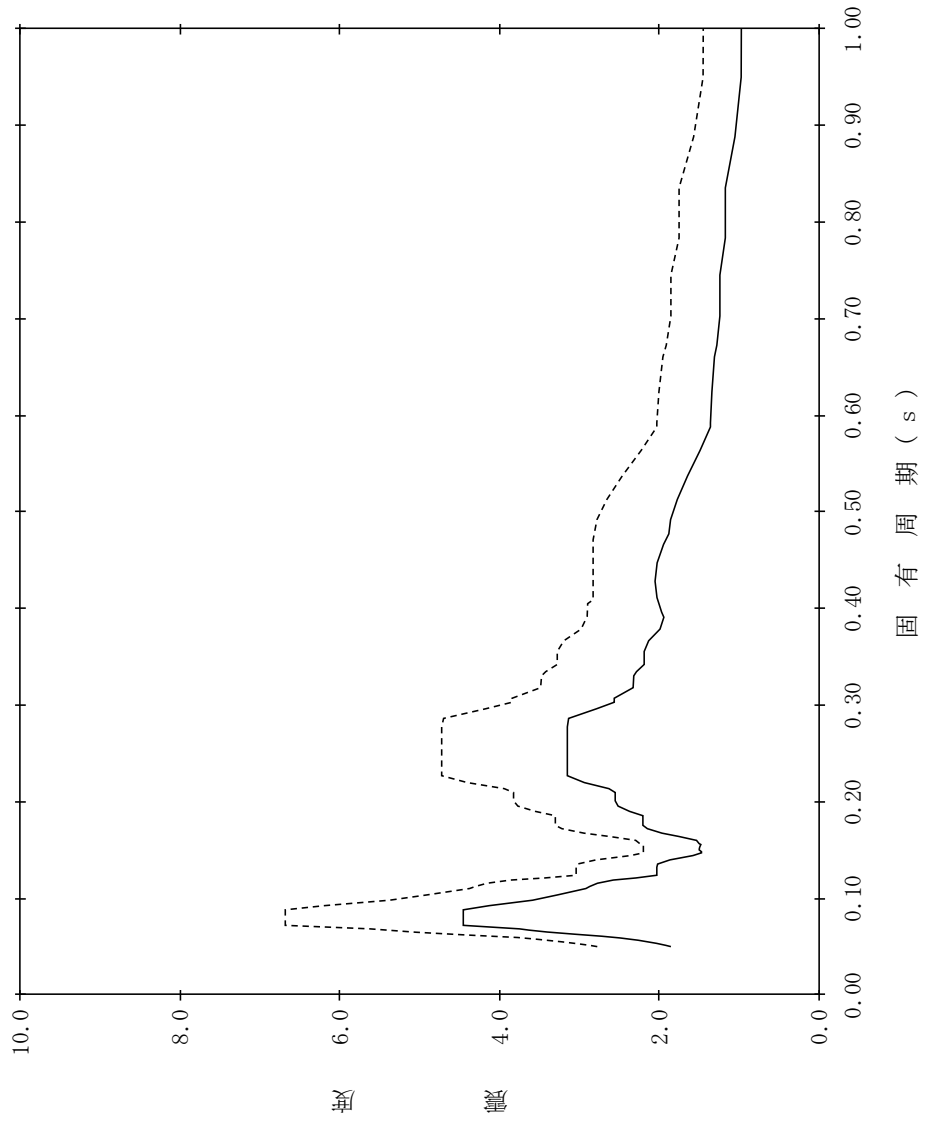
【NS2-RwB-SsNS-RwB55】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



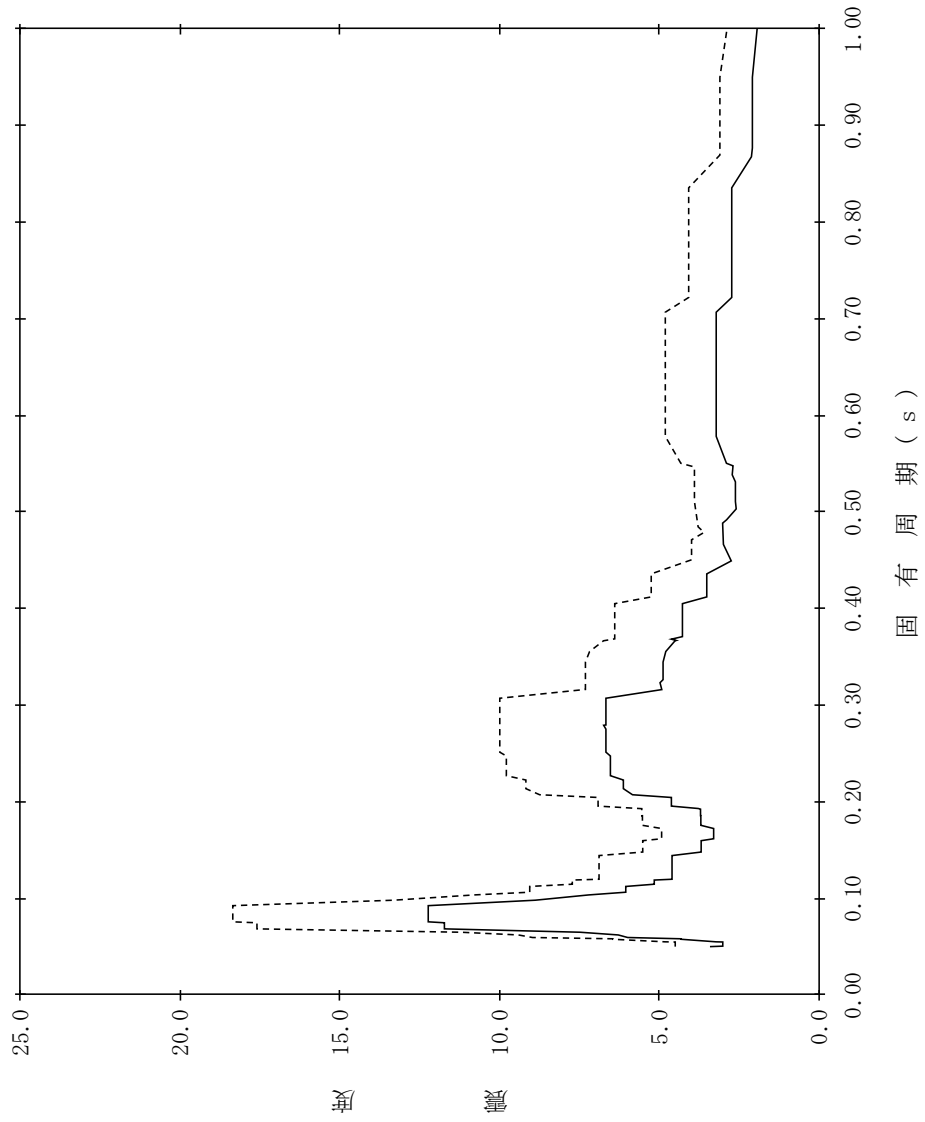
【NS2-RwB-SsNS-RwB56】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



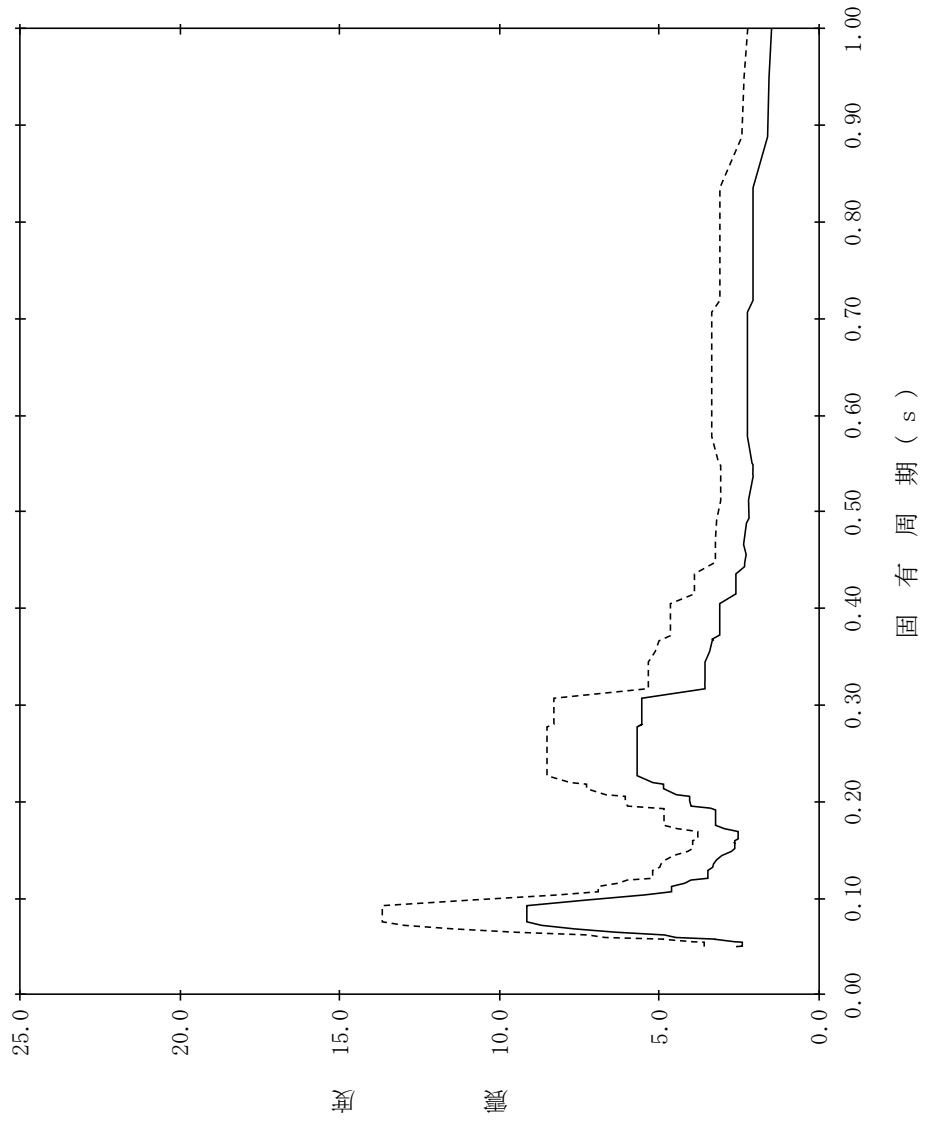
【NS2-RwB-SsNS-RwB57】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



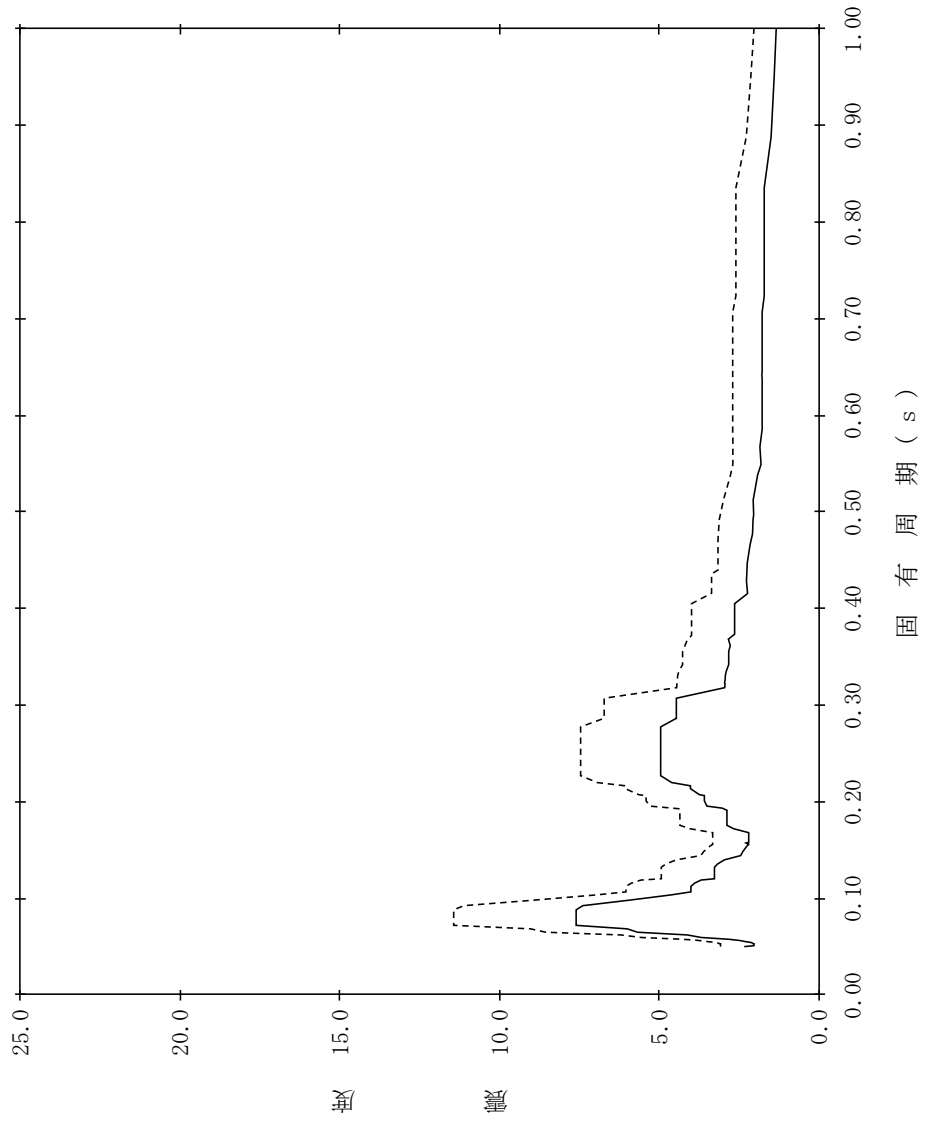
【NS2-RwB-SsNS-RwB58】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



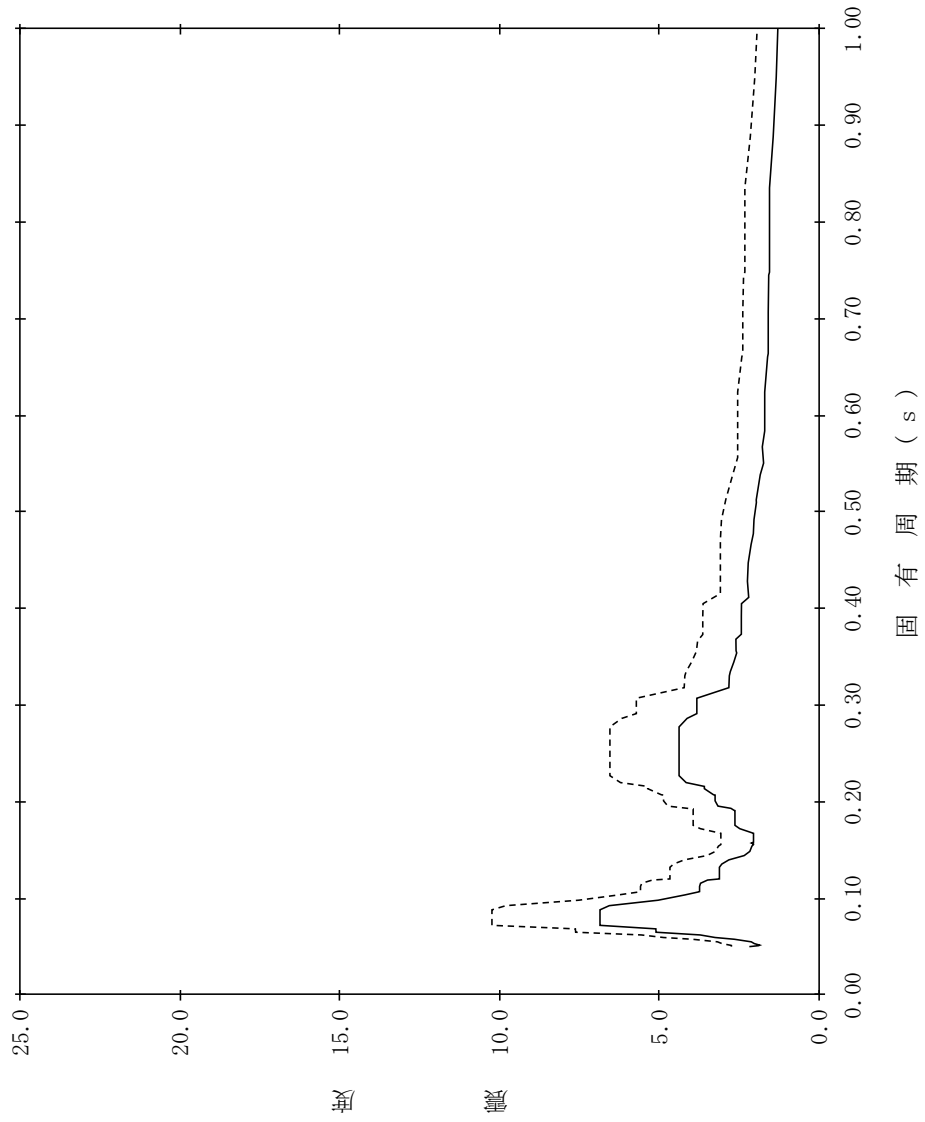
【NS2-RwB-SsNS-RwB59】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-RwB-SsNS-RwB60】

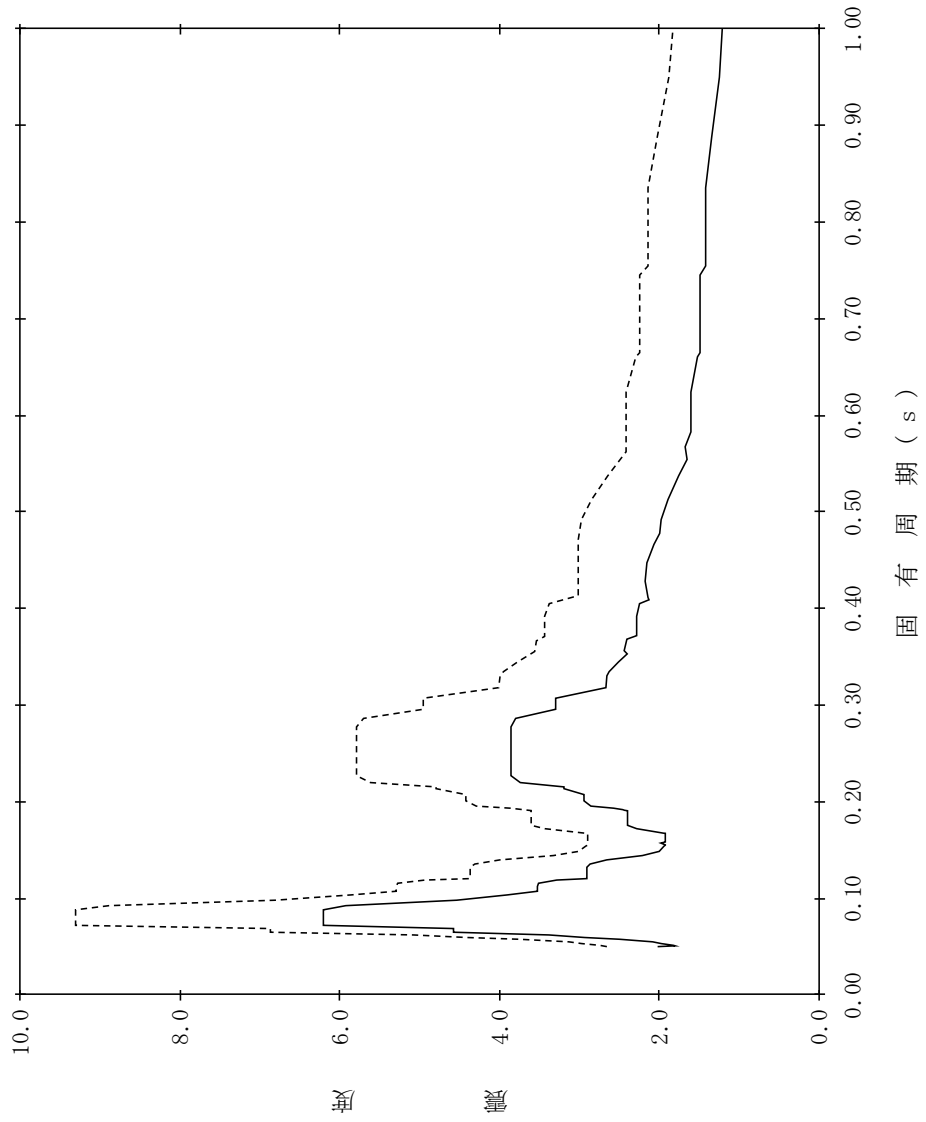
構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



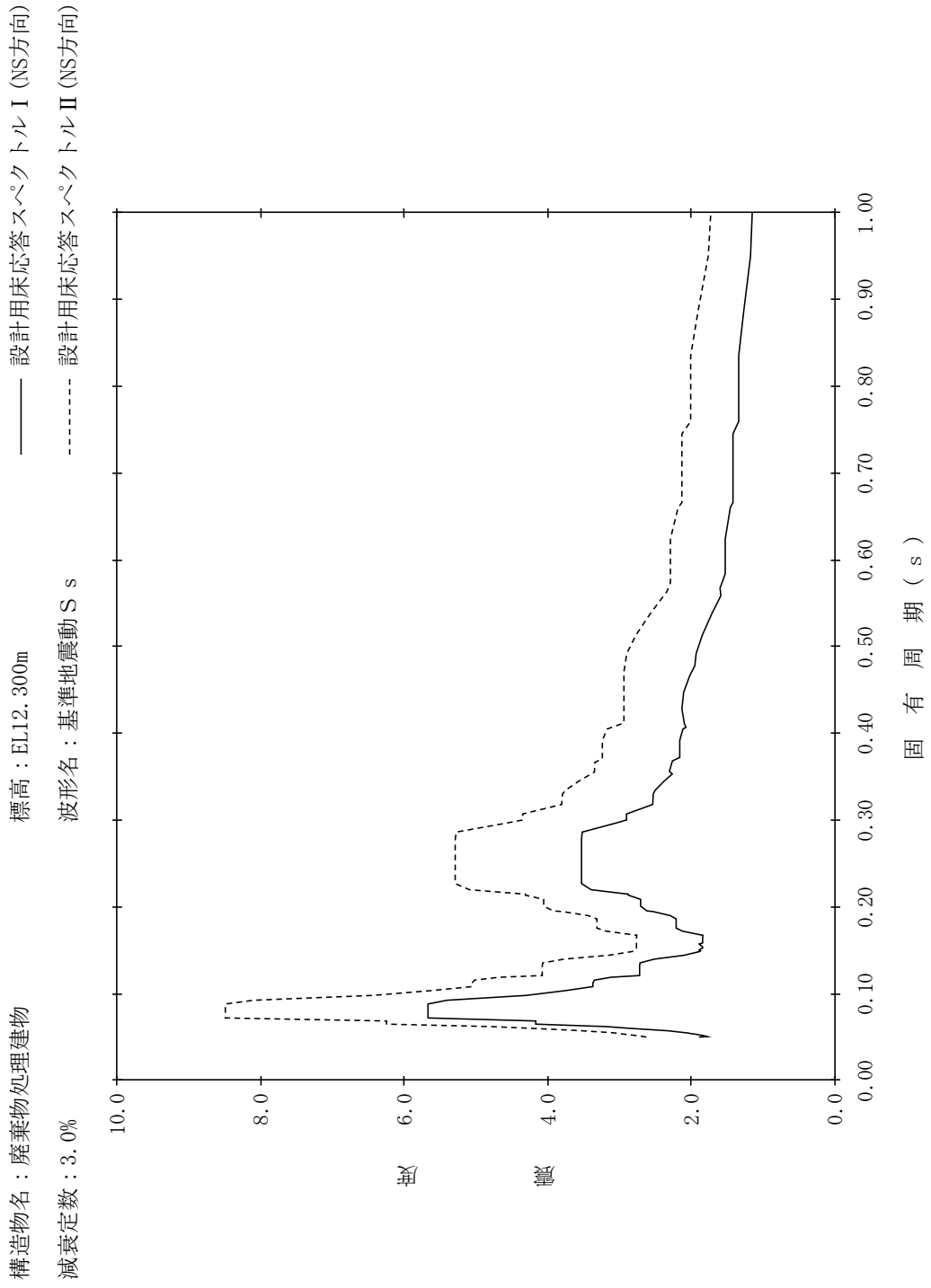
【NS2-RwB-SsNS-RwB61】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL12.300m
減衰定数：2.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

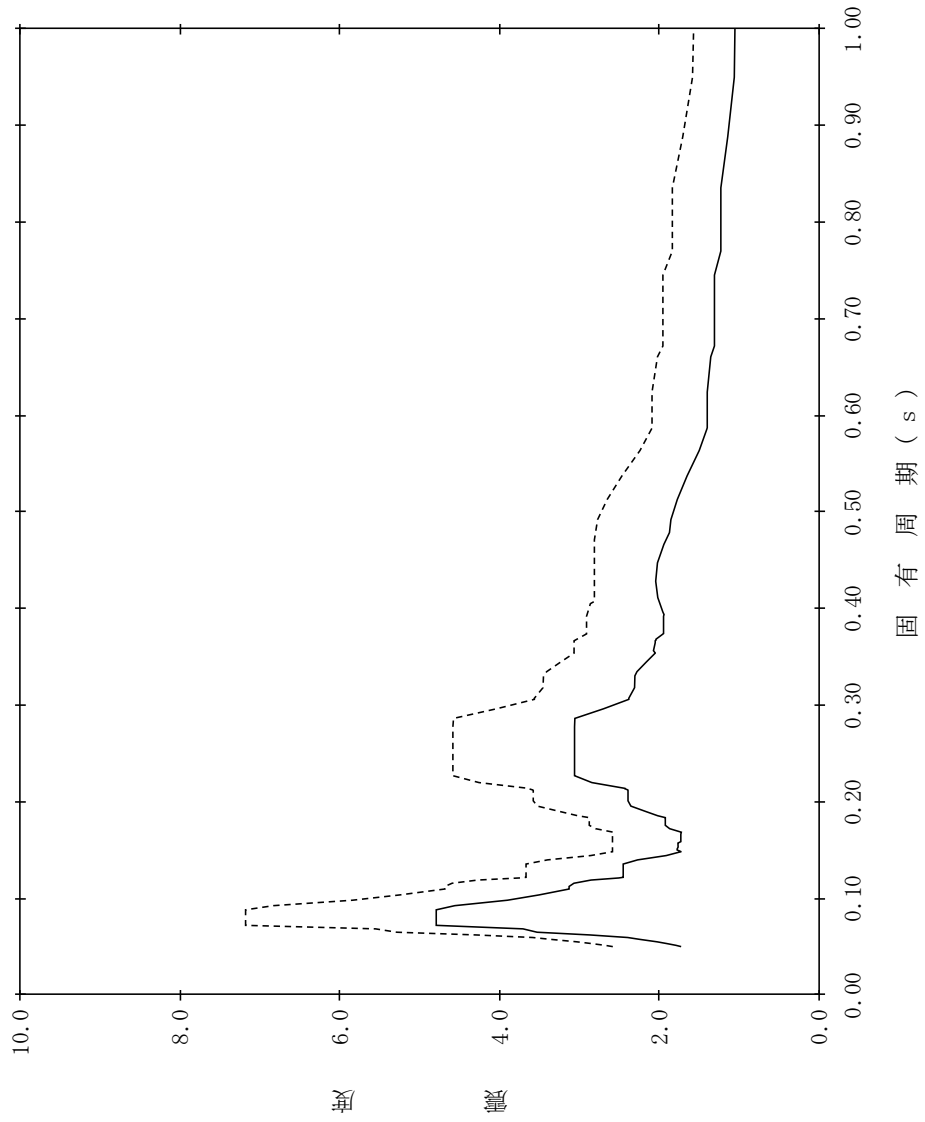


【NS2-RwB-SsNS-RwB62】



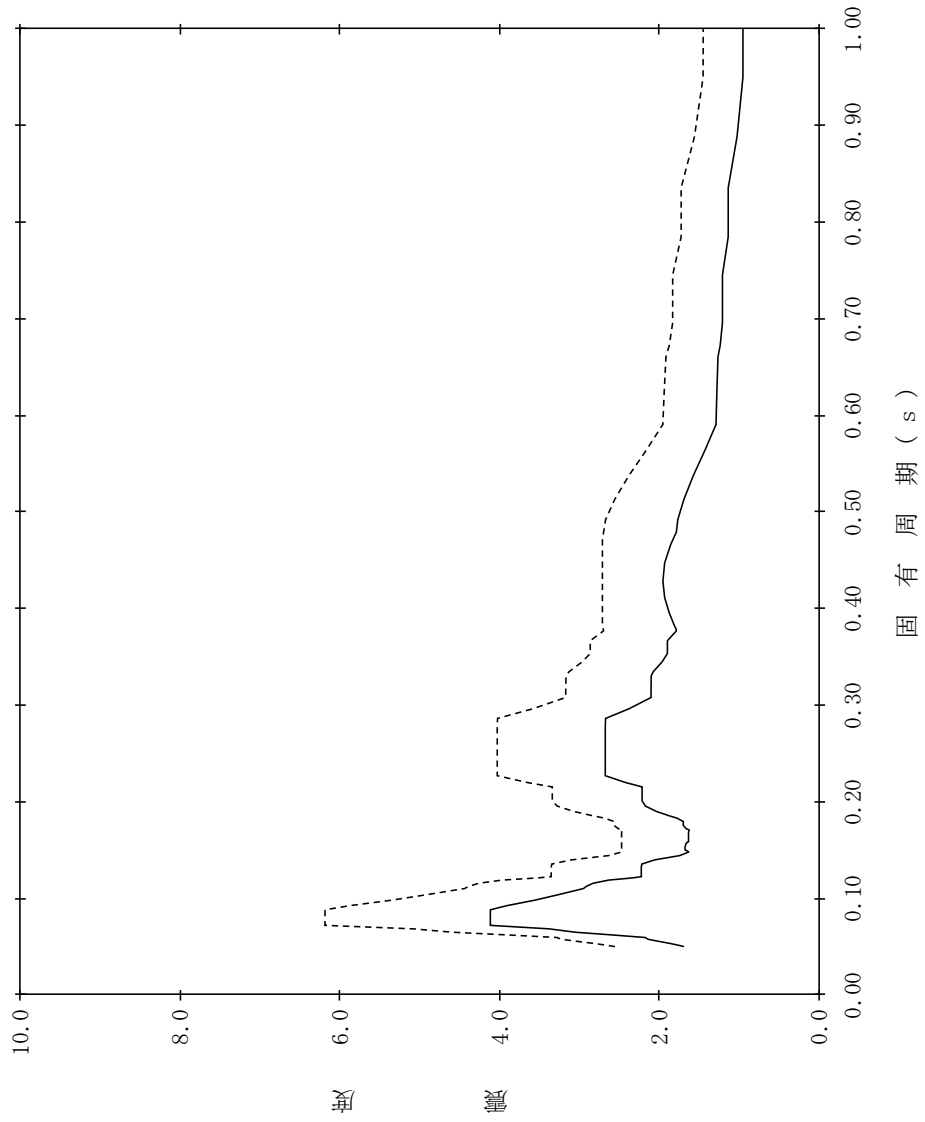
【NS2-RwB-SsNS-RwB63】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



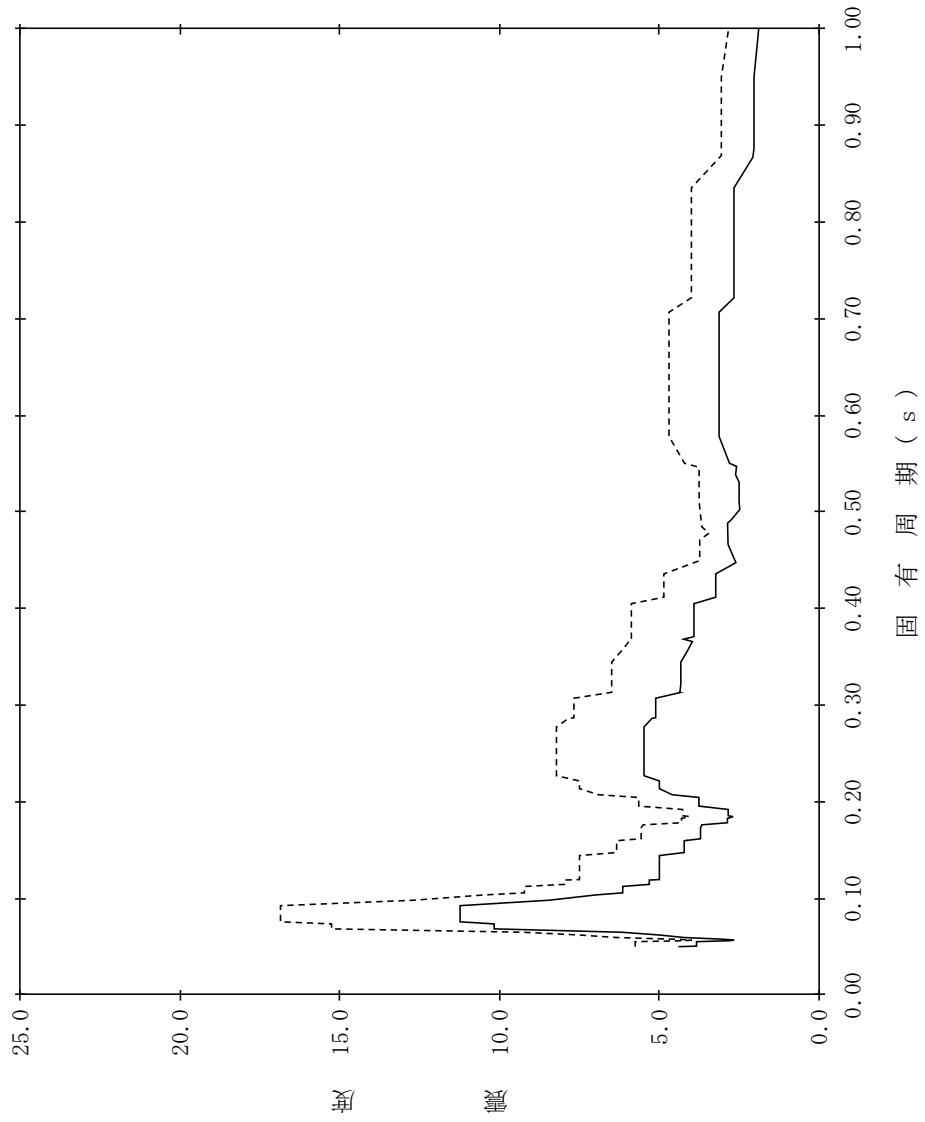
【NS2-RwB-SsNS-RwB64】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



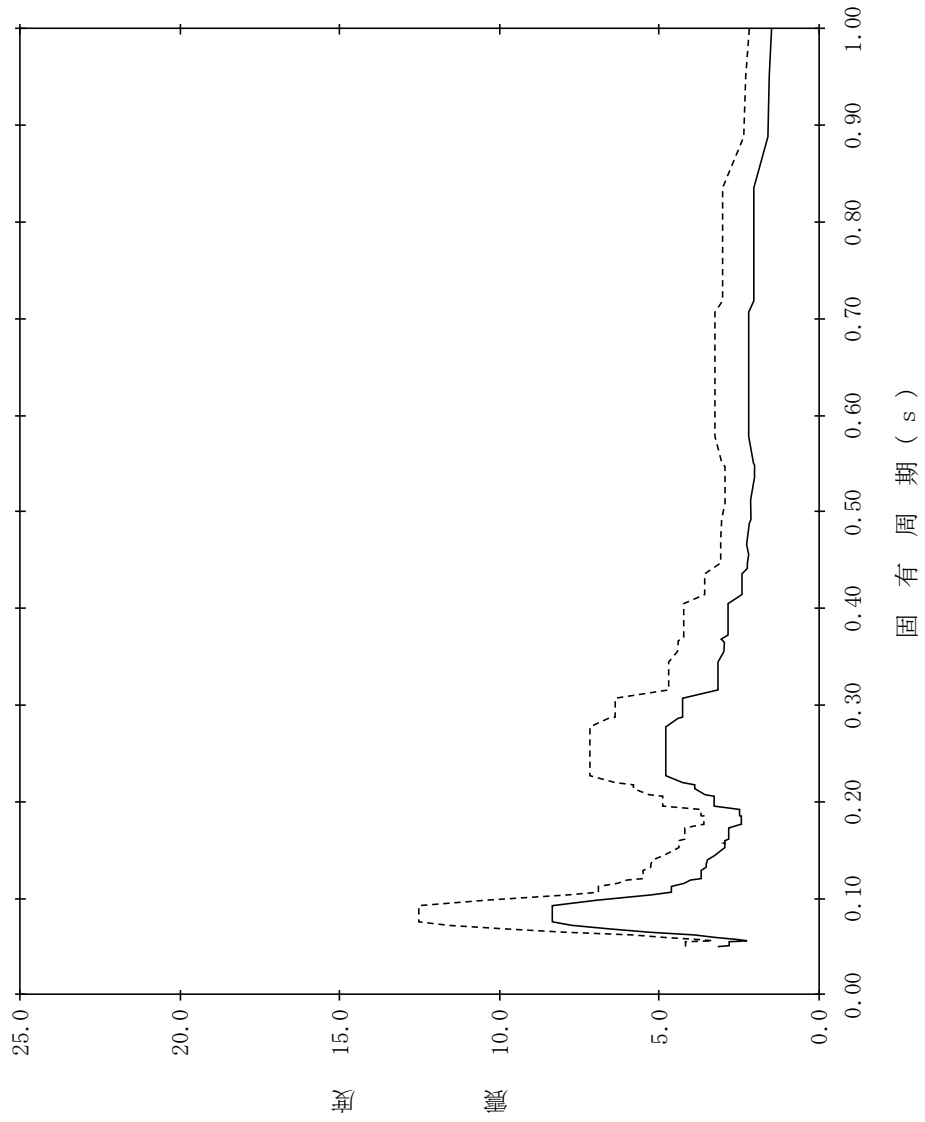
【NS2-RwB-SsNS-RwB65】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



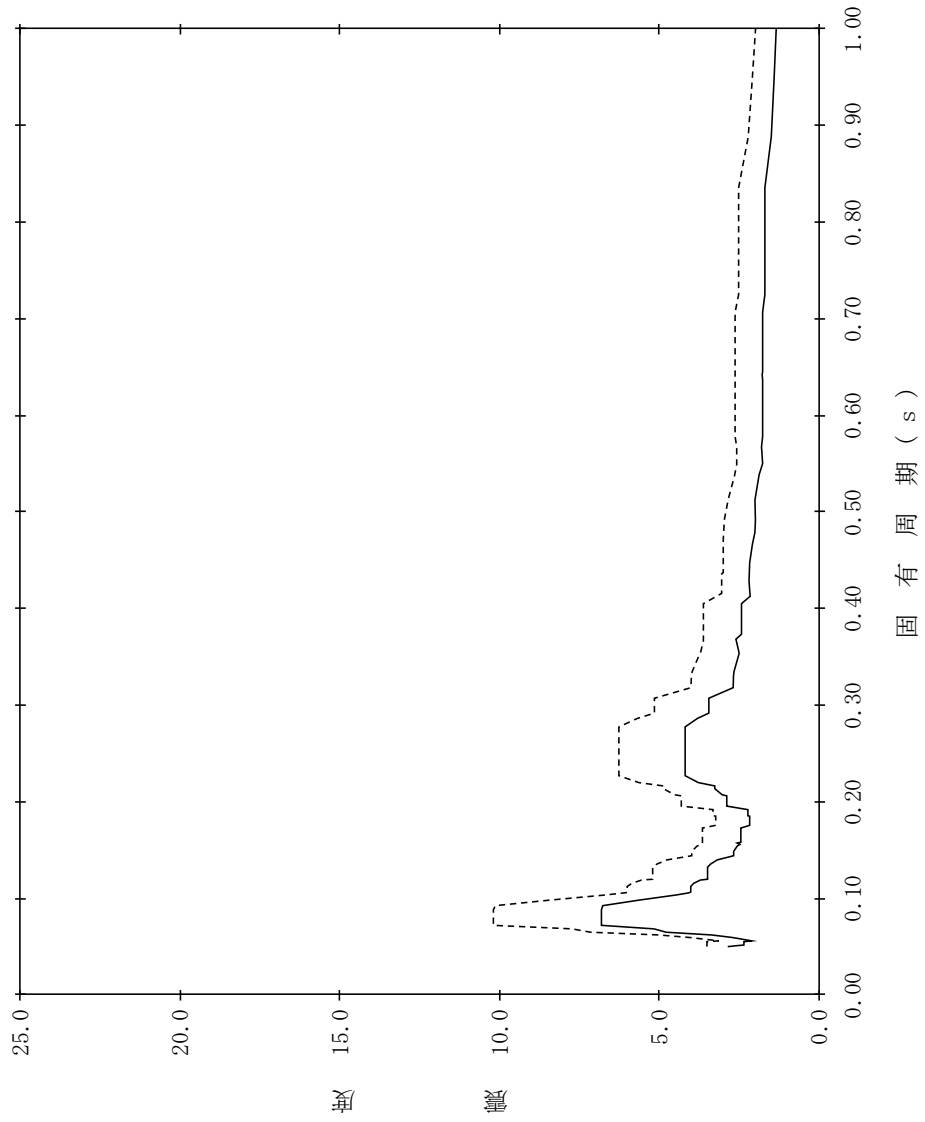
【NS2-RwB-SsNS-RwB66】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL8.800m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s



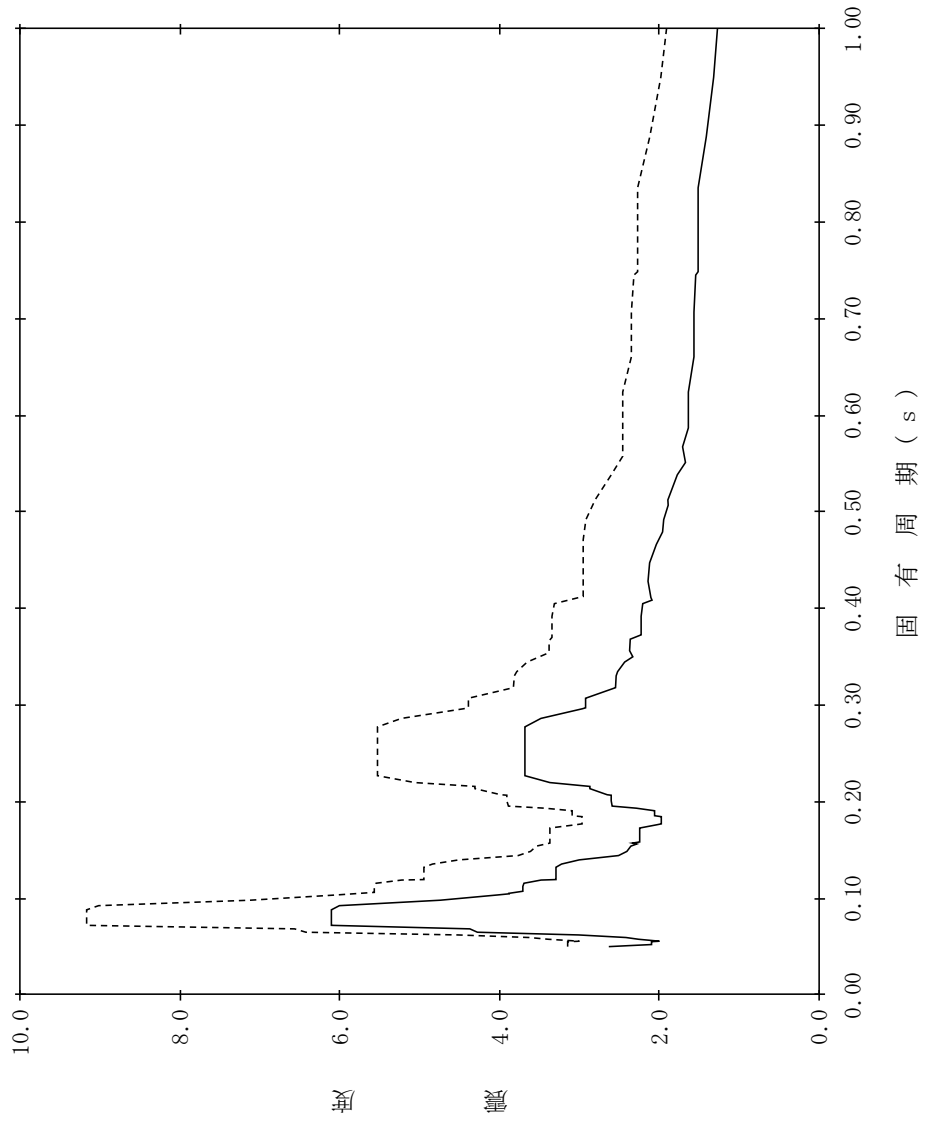
【NS2-RwB-SsNS-RwB67】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



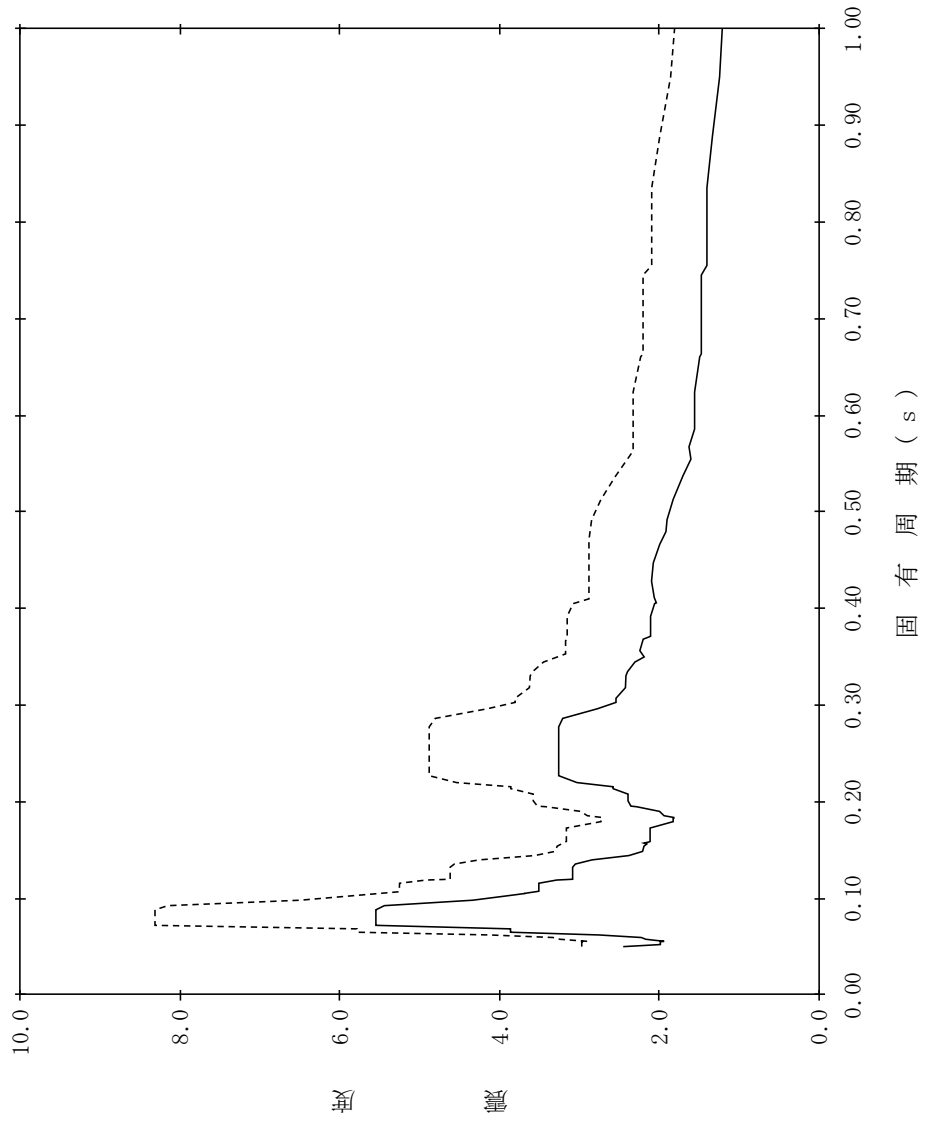
【NS2-RwB-SsNS-RwB68】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



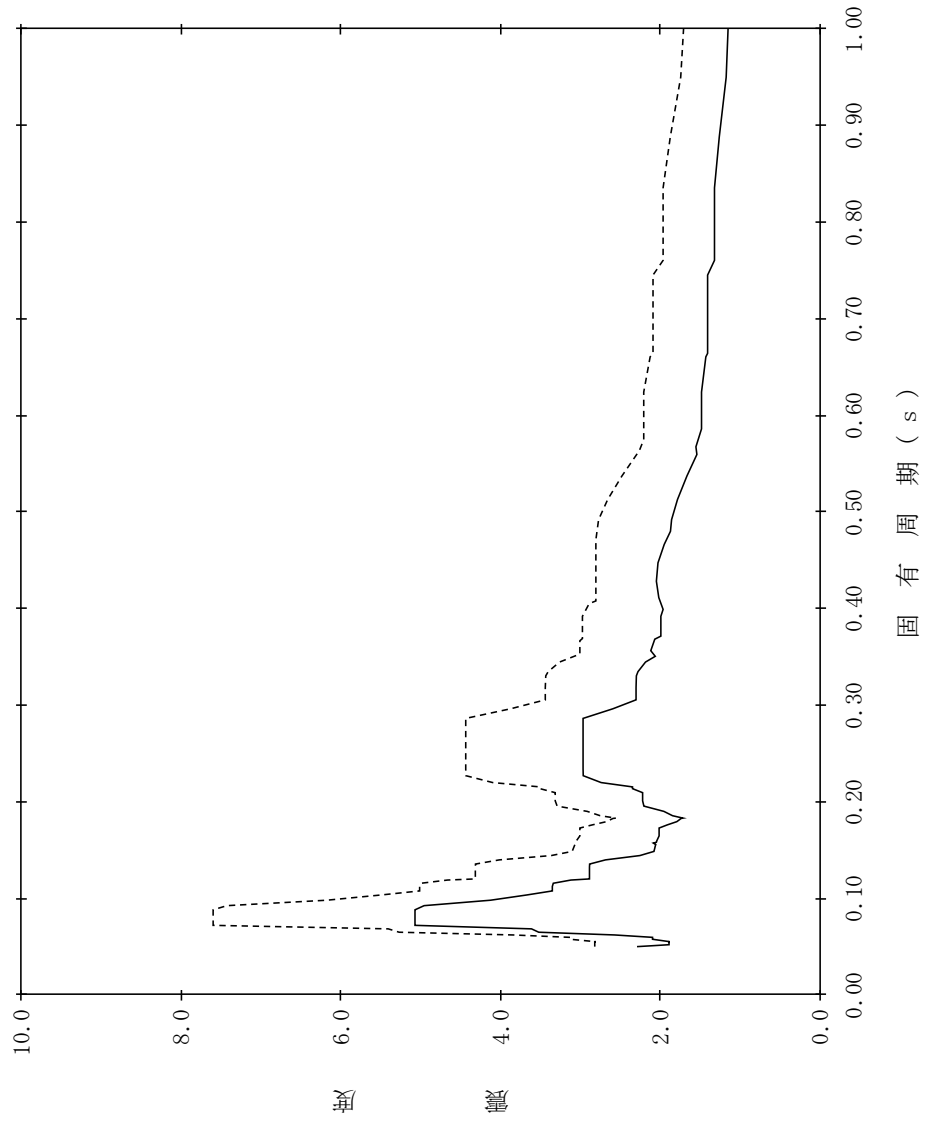
【NS2-RwB-SsNS-RwB69】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL8.800m
減衰定数：2.5%
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



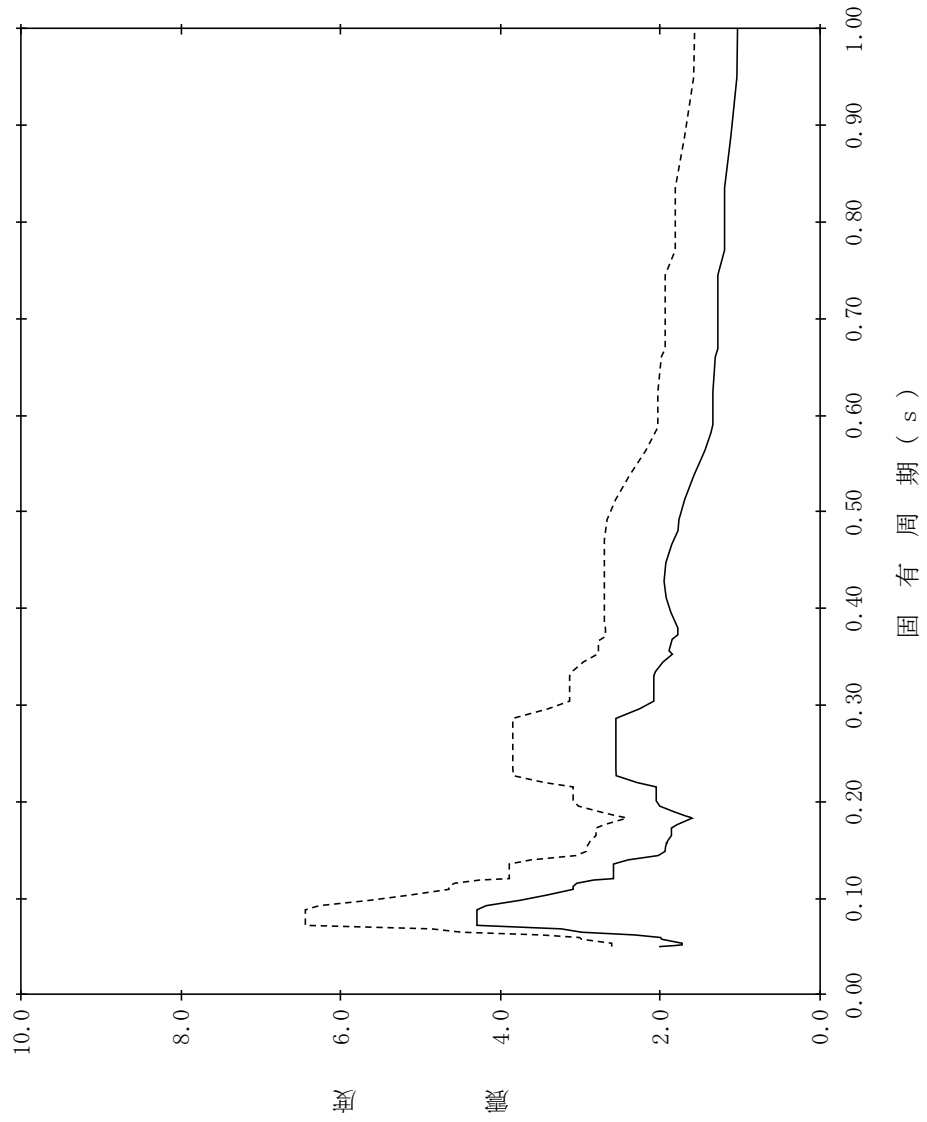
【NS2-RwB-SsNS-RwB70】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



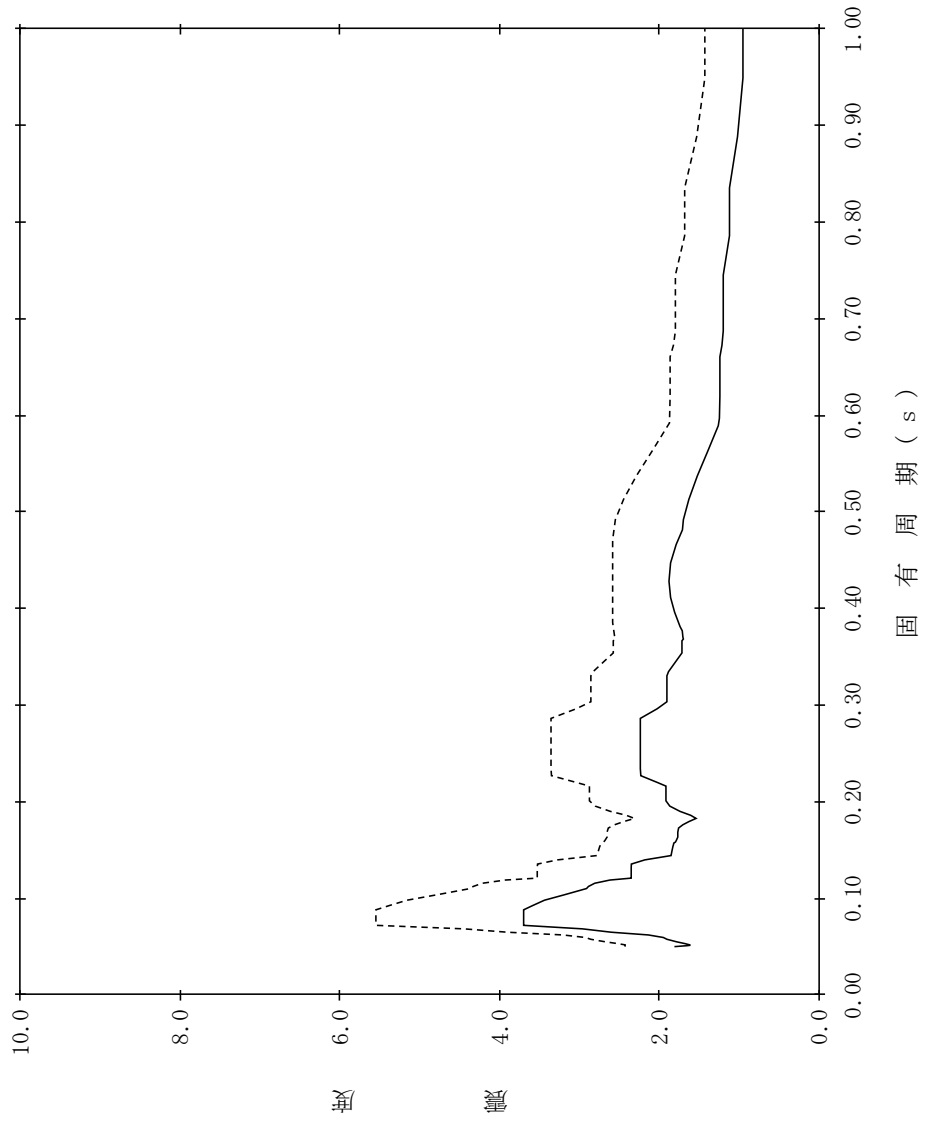
【NS2-RwB-SsNS-RwB71】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



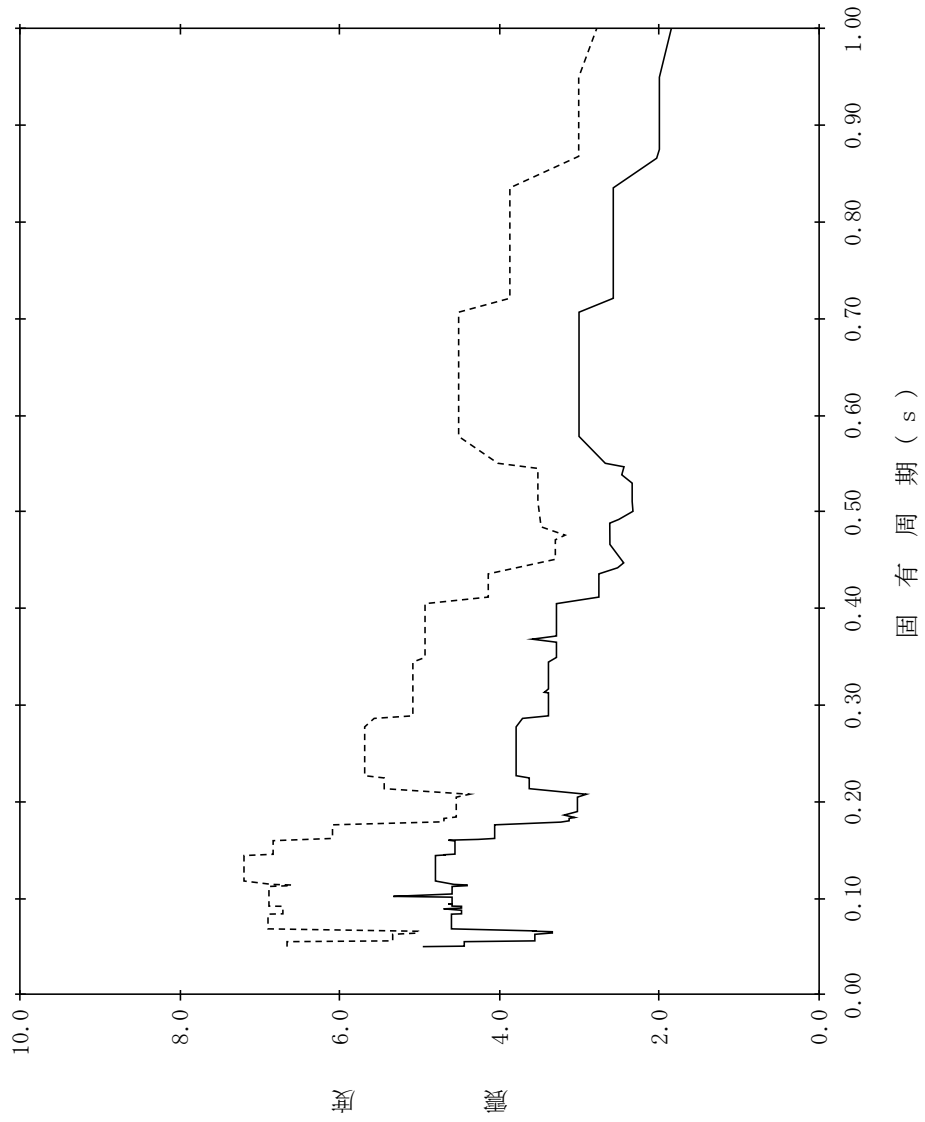
【NS2-RwB-SsNS-RwB72】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



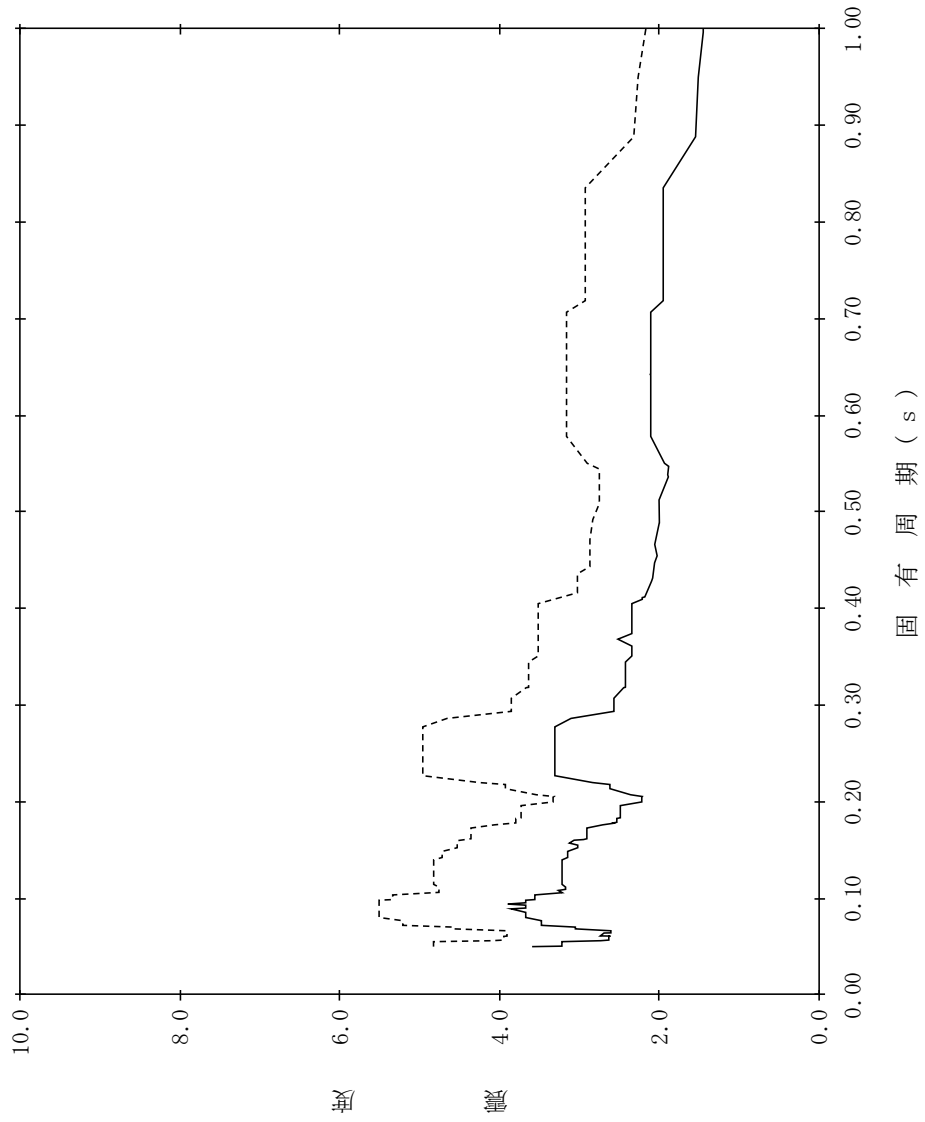
【NS2-RwB-SsNS-RwB73】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



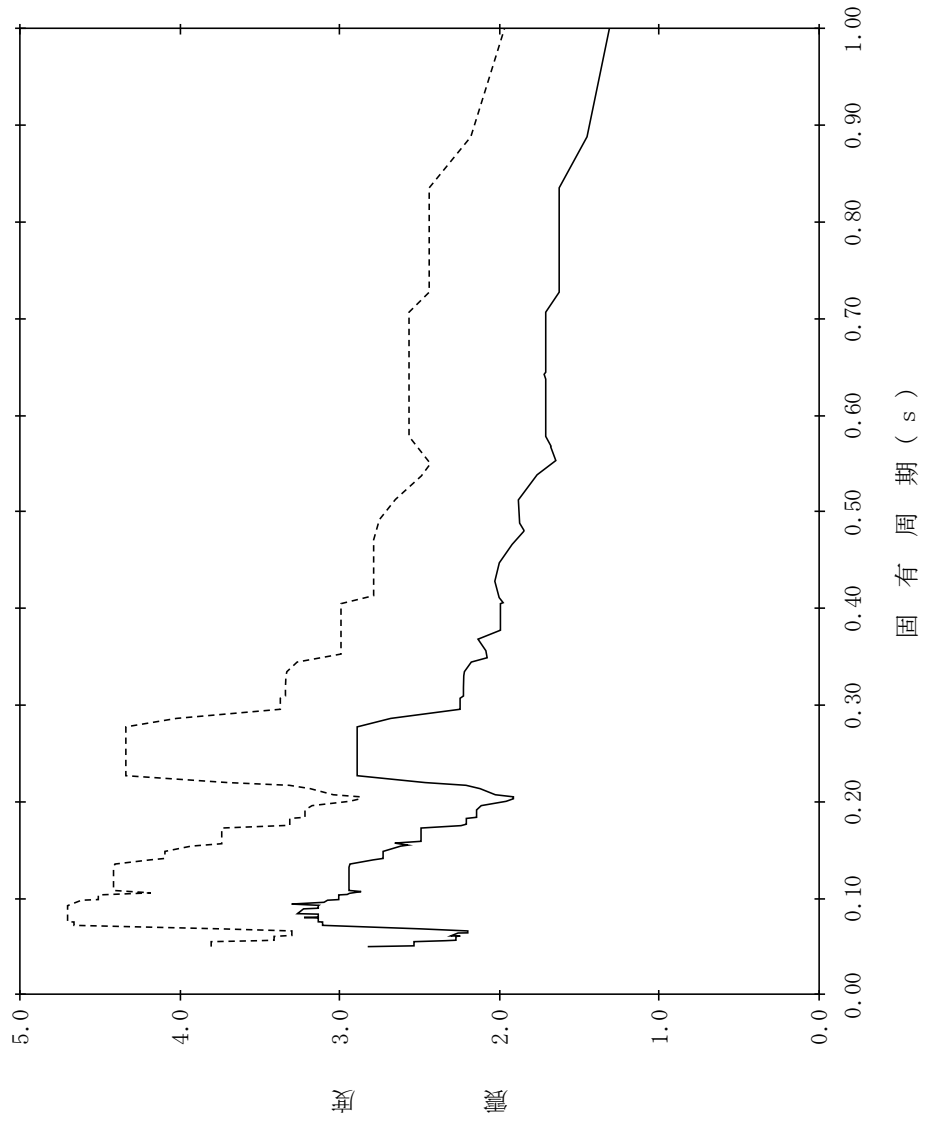
【NS2-RwB-SsNS-RwB74】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

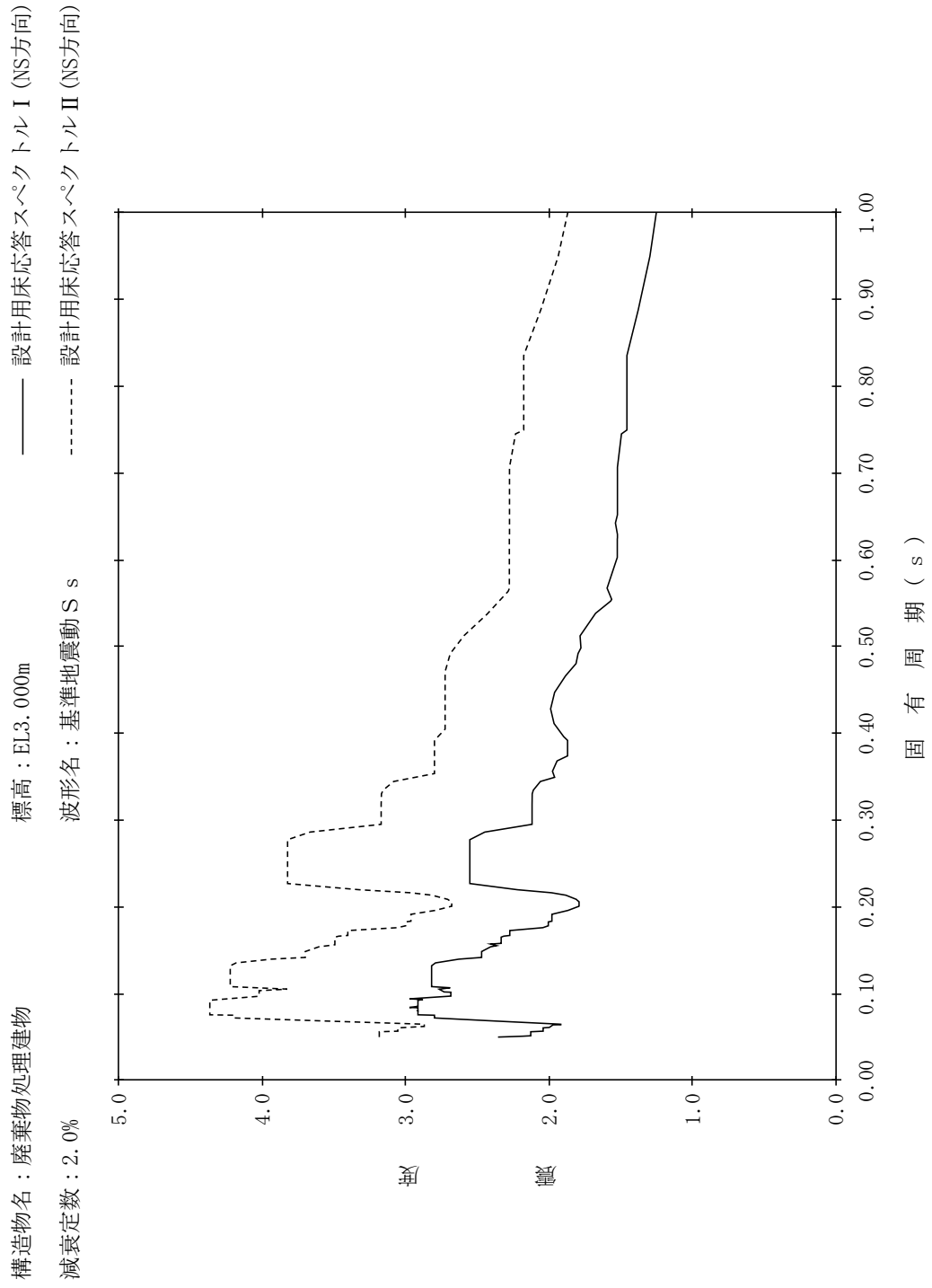


【NS2-RwB-SsNS-RwB75】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

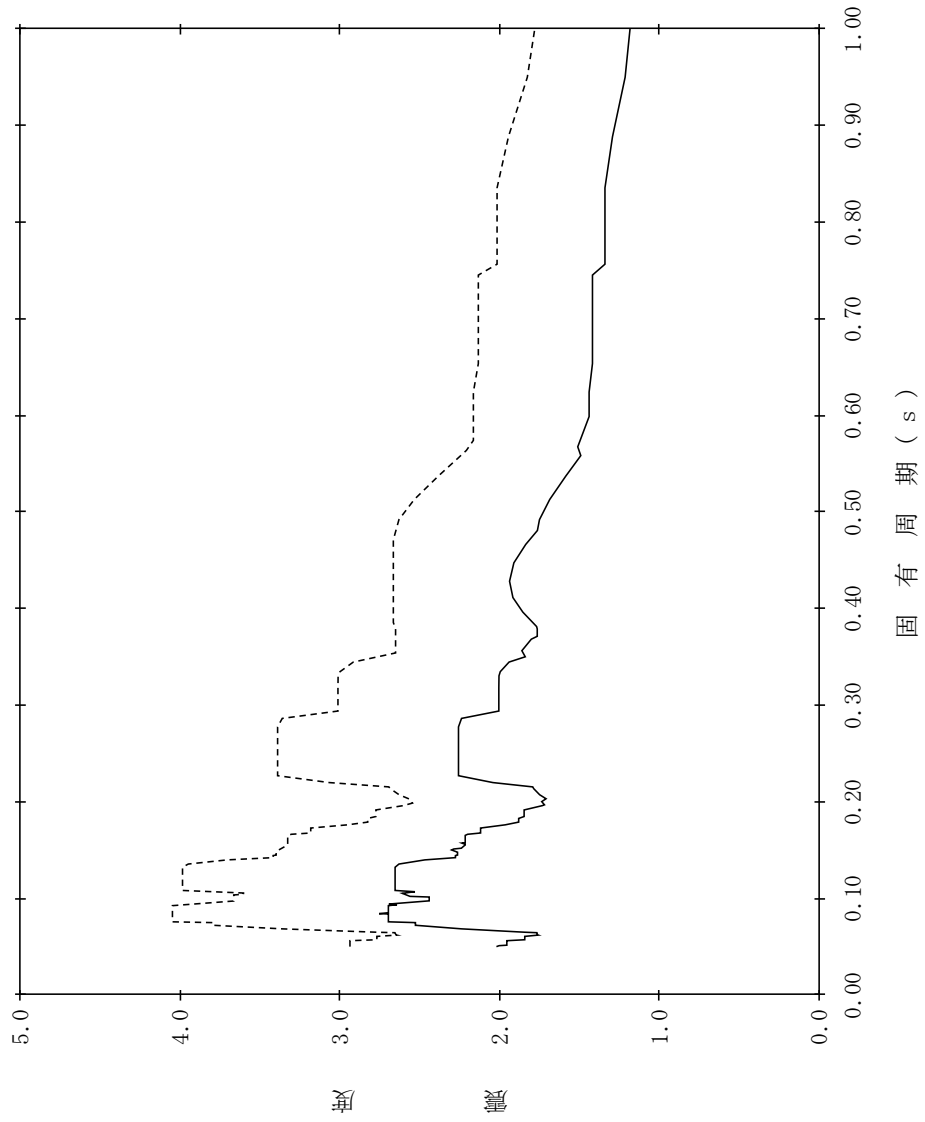


【NS2-RwB-SsNS-RwB76】



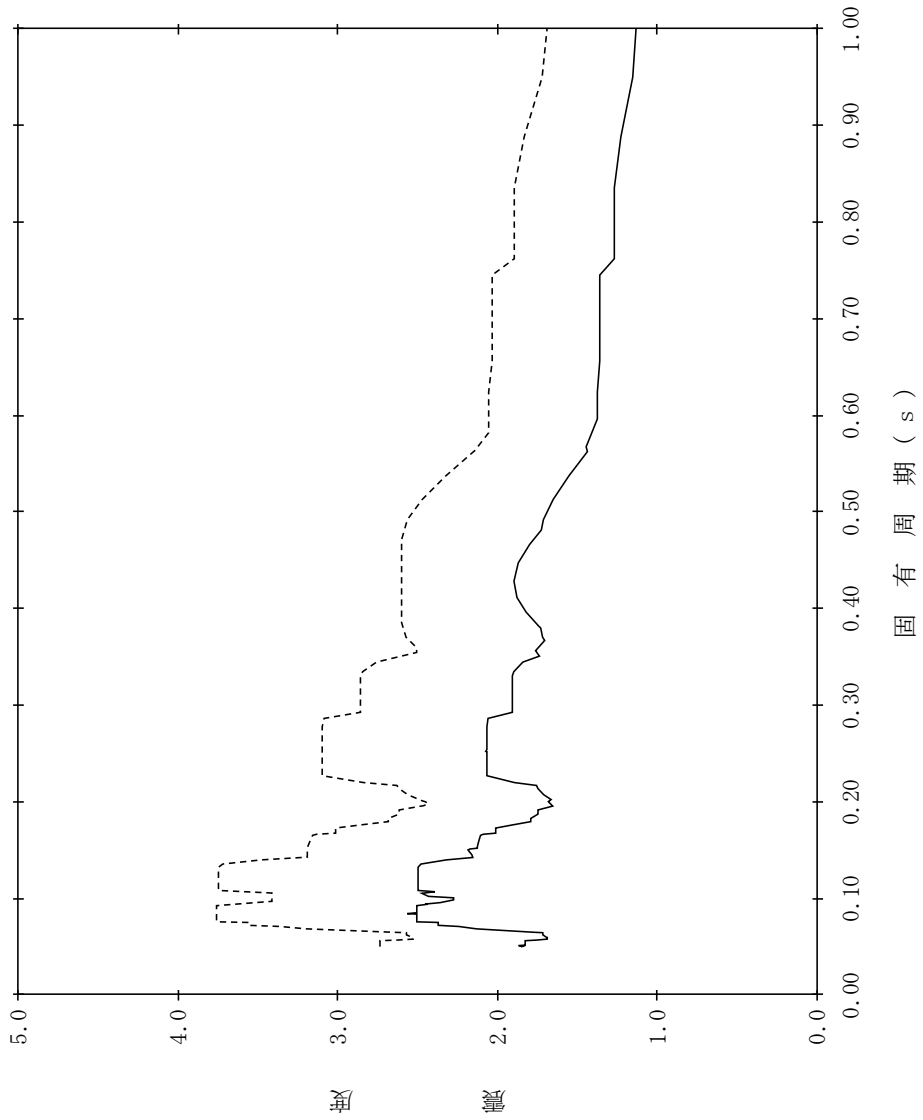
【NS2-RwB-SsNS-RwB77】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



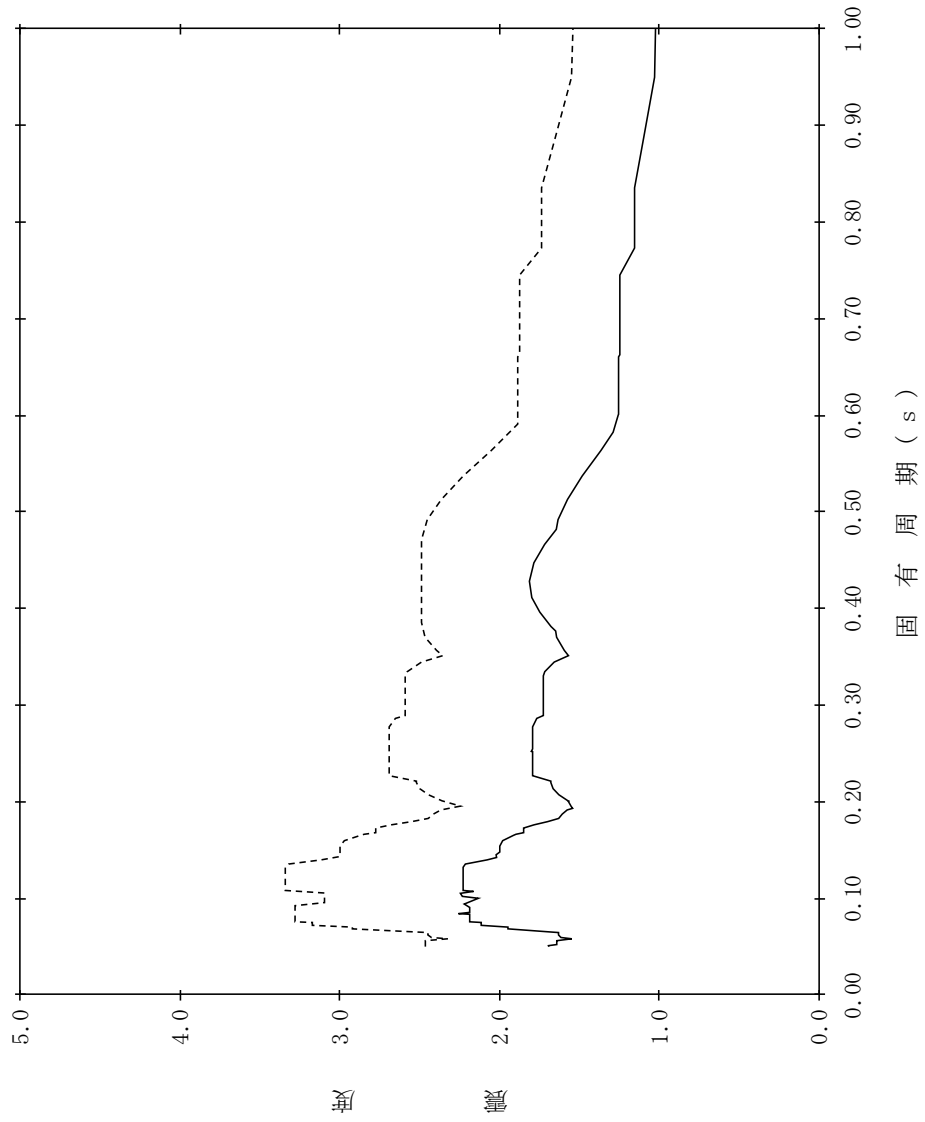
【NS2-RwB-SsNS-RwB78】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL3.000m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s



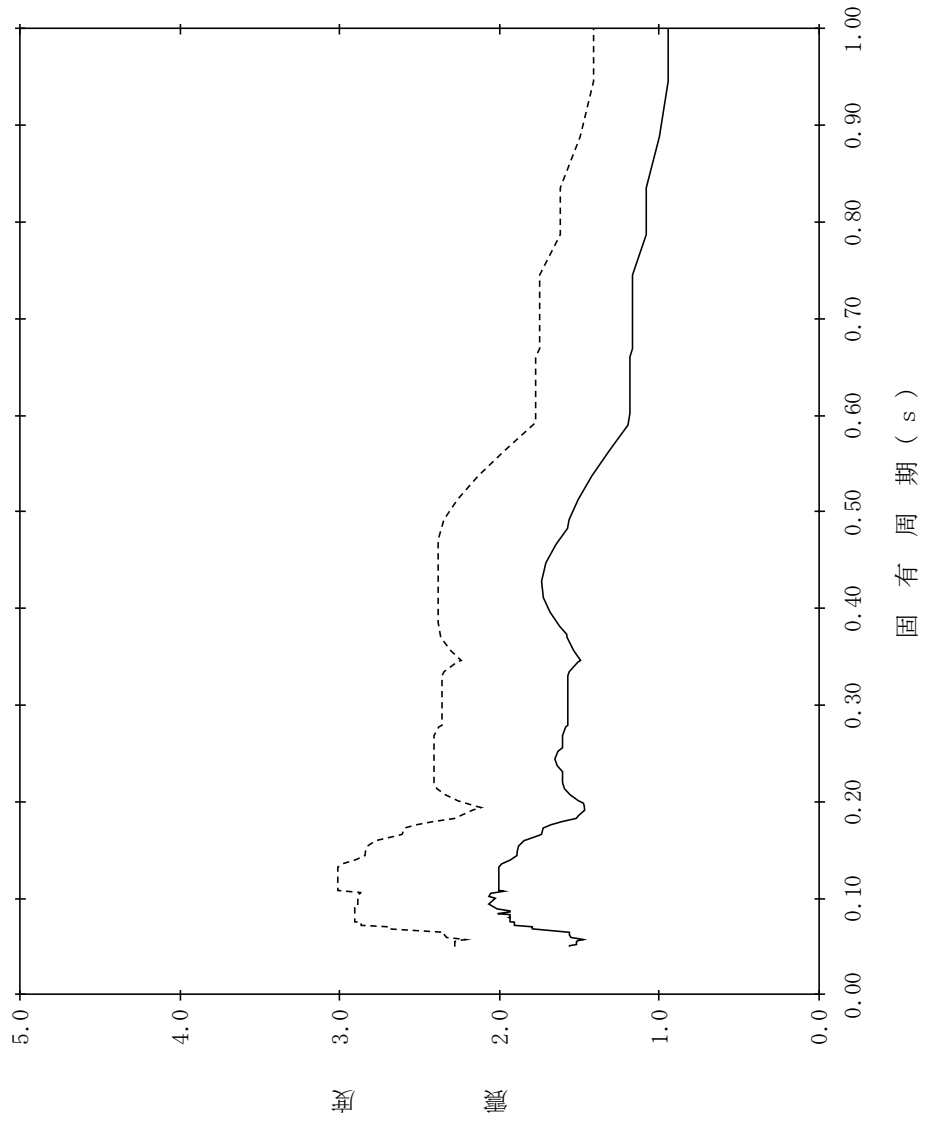
【NS2-RwB-SsNS-RwB79】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

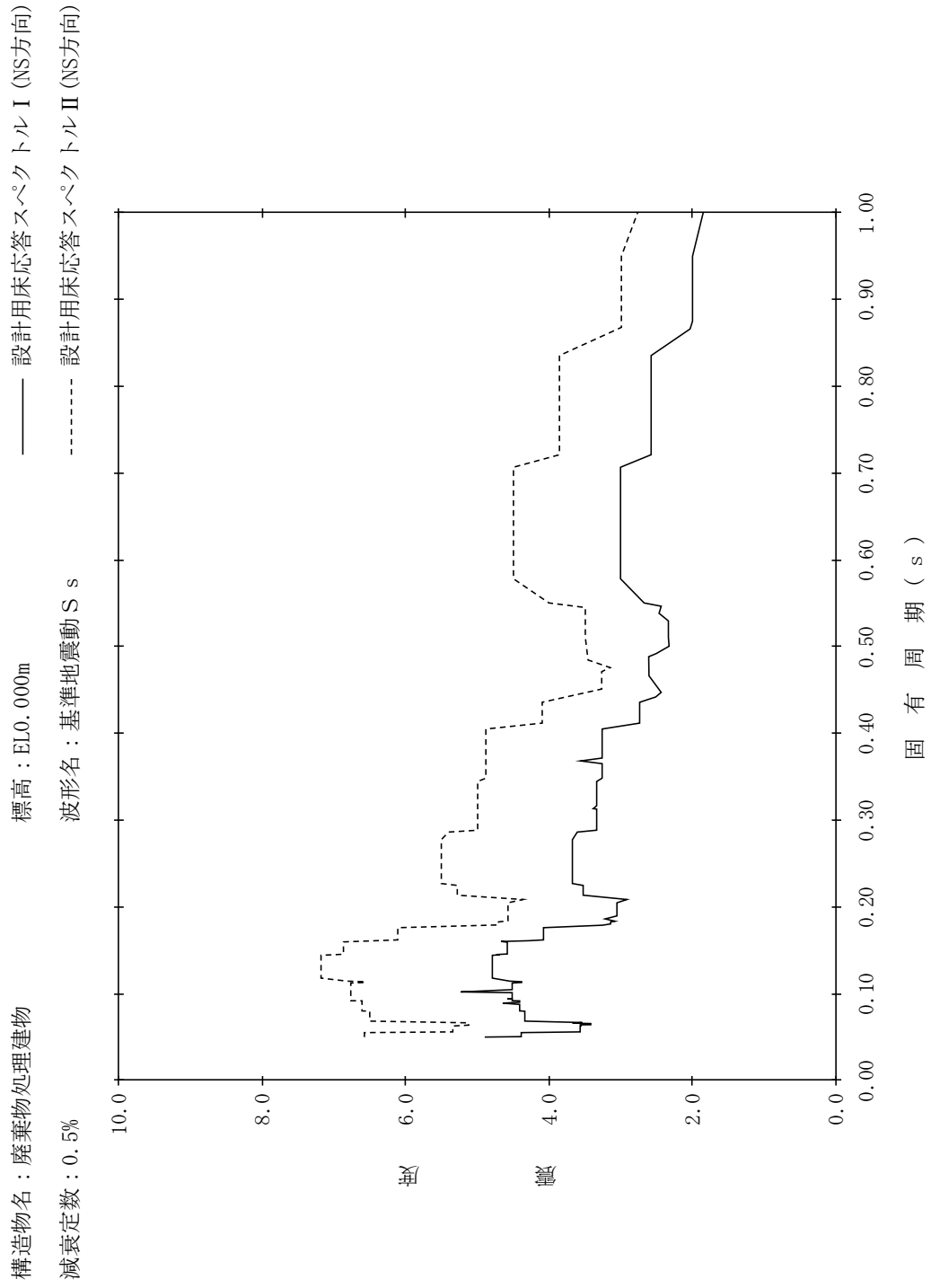


【NS2-RwB-SsNS-RwB80】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

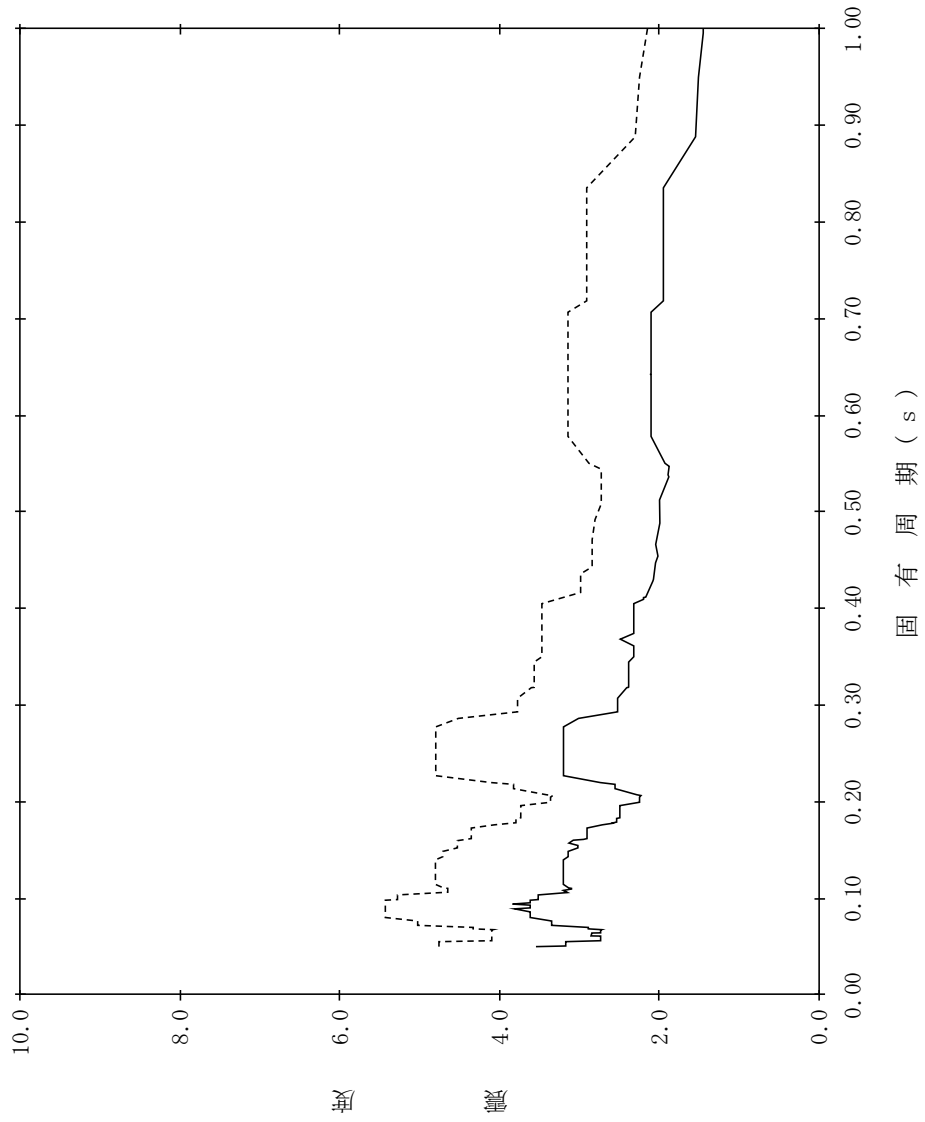


【NS2-RwB-SsNS-RwB81】



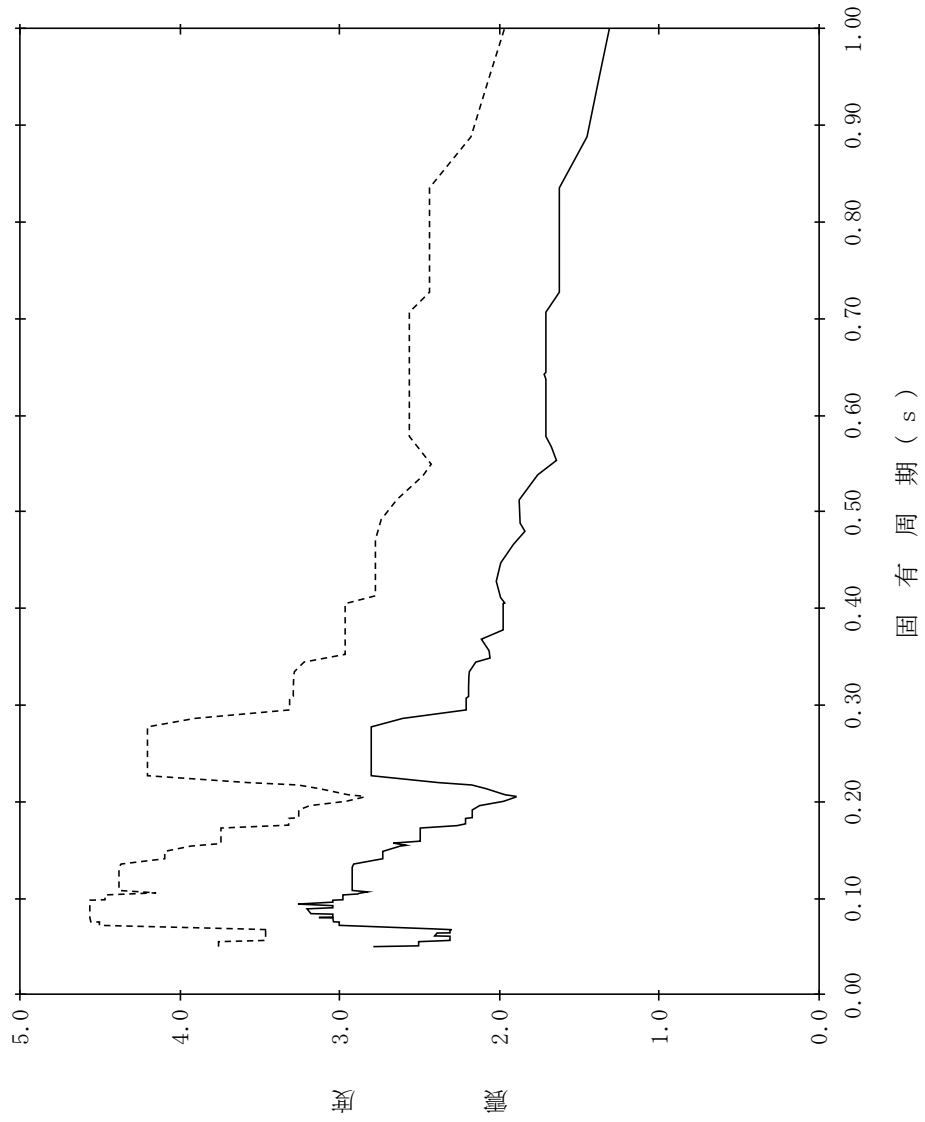
【NS2-RwB-SsNS-RwB82】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



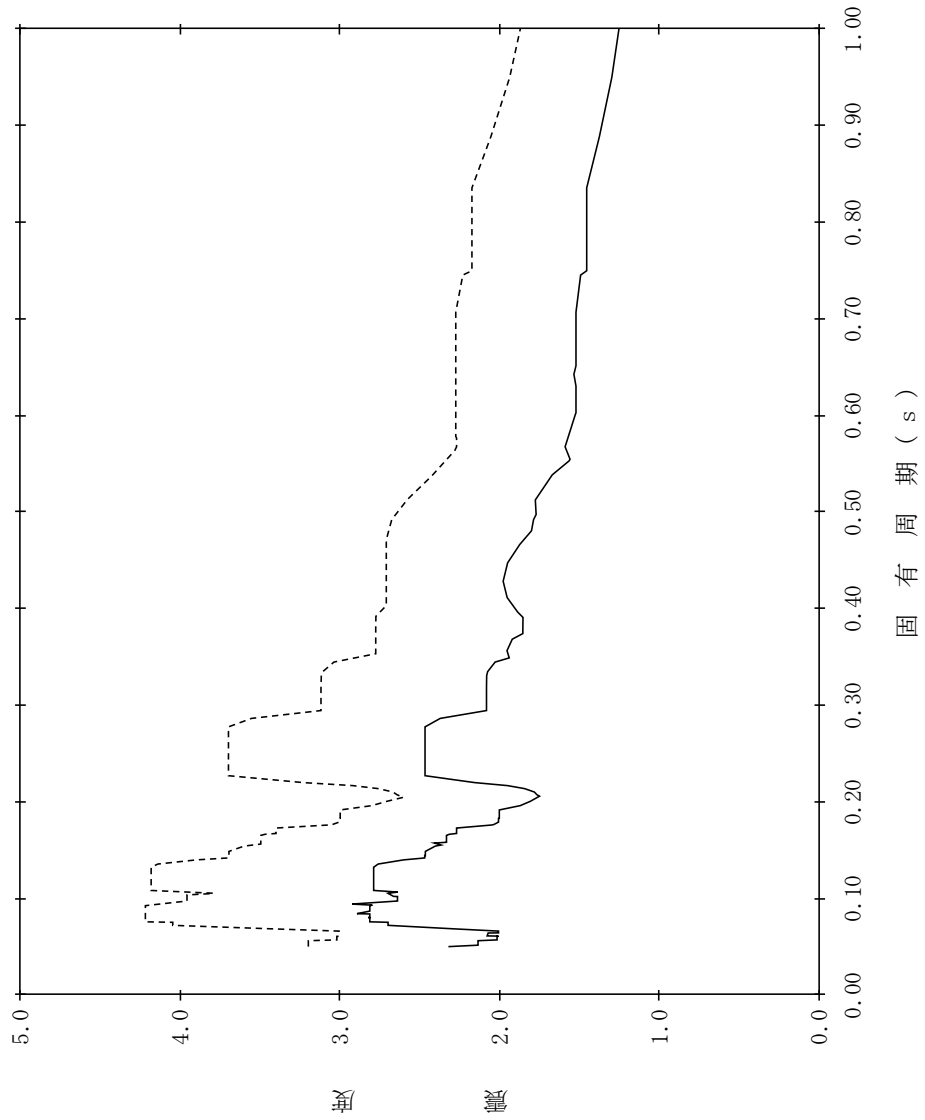
【NS2-RwB-SsNS-RwB83】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL0.000m
減衰定数：1.5%波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



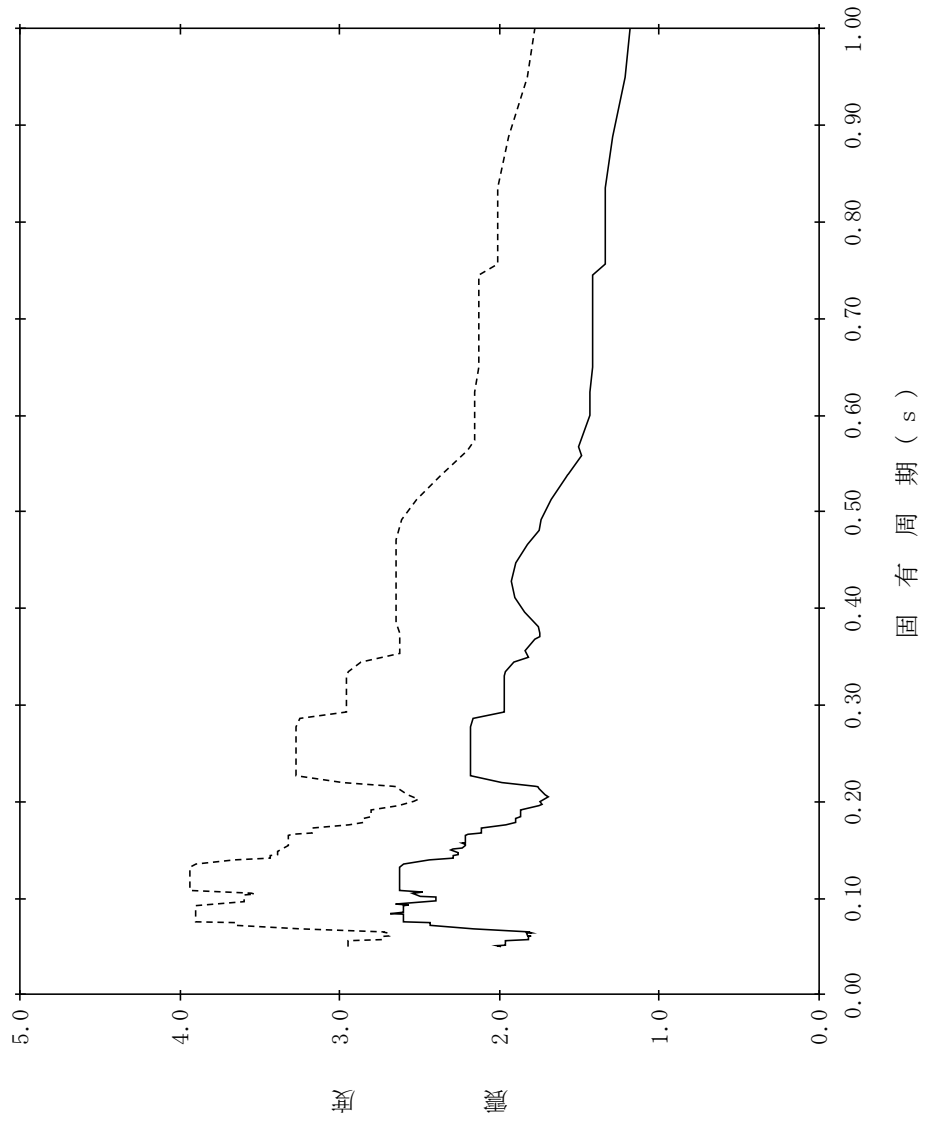
【NS2-RwB-SsNS-RwB84】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



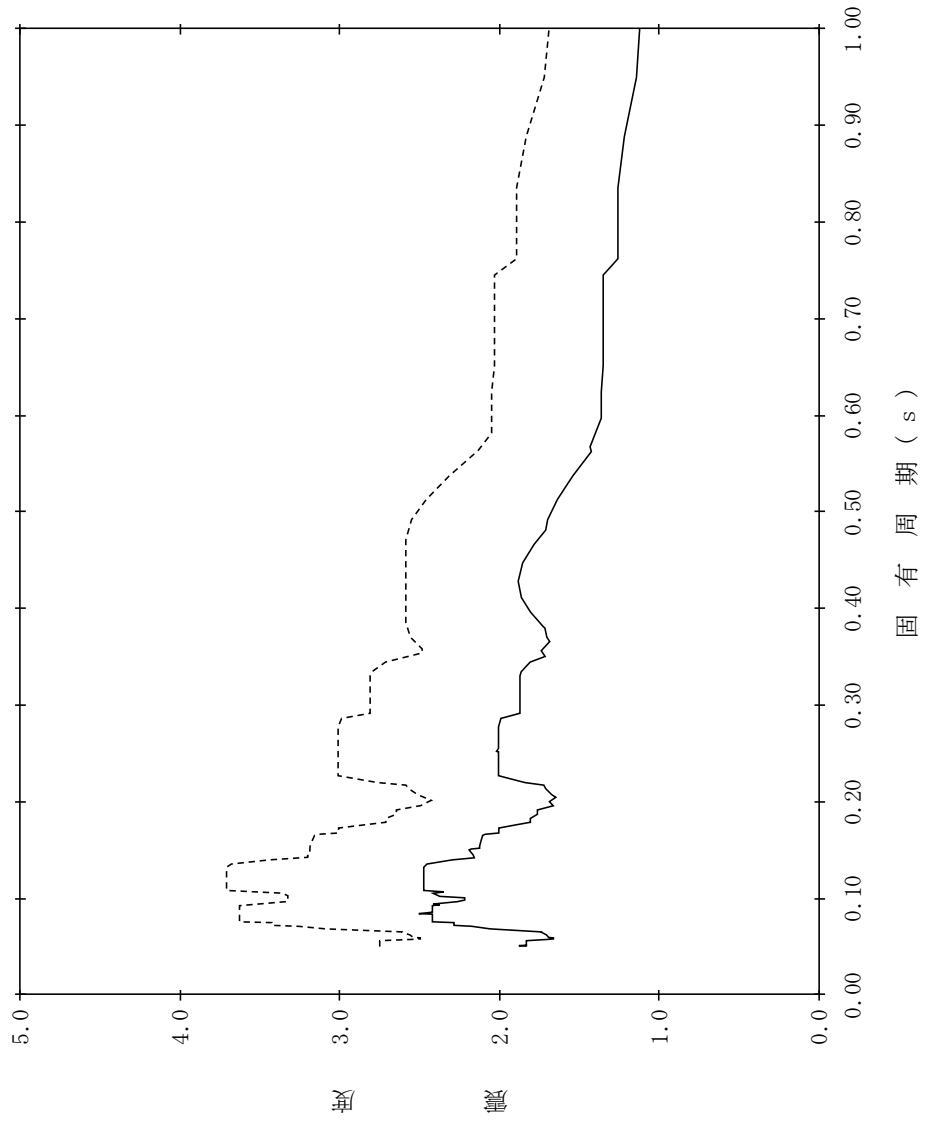
【NS2-RwB-SsNS-RwB85】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



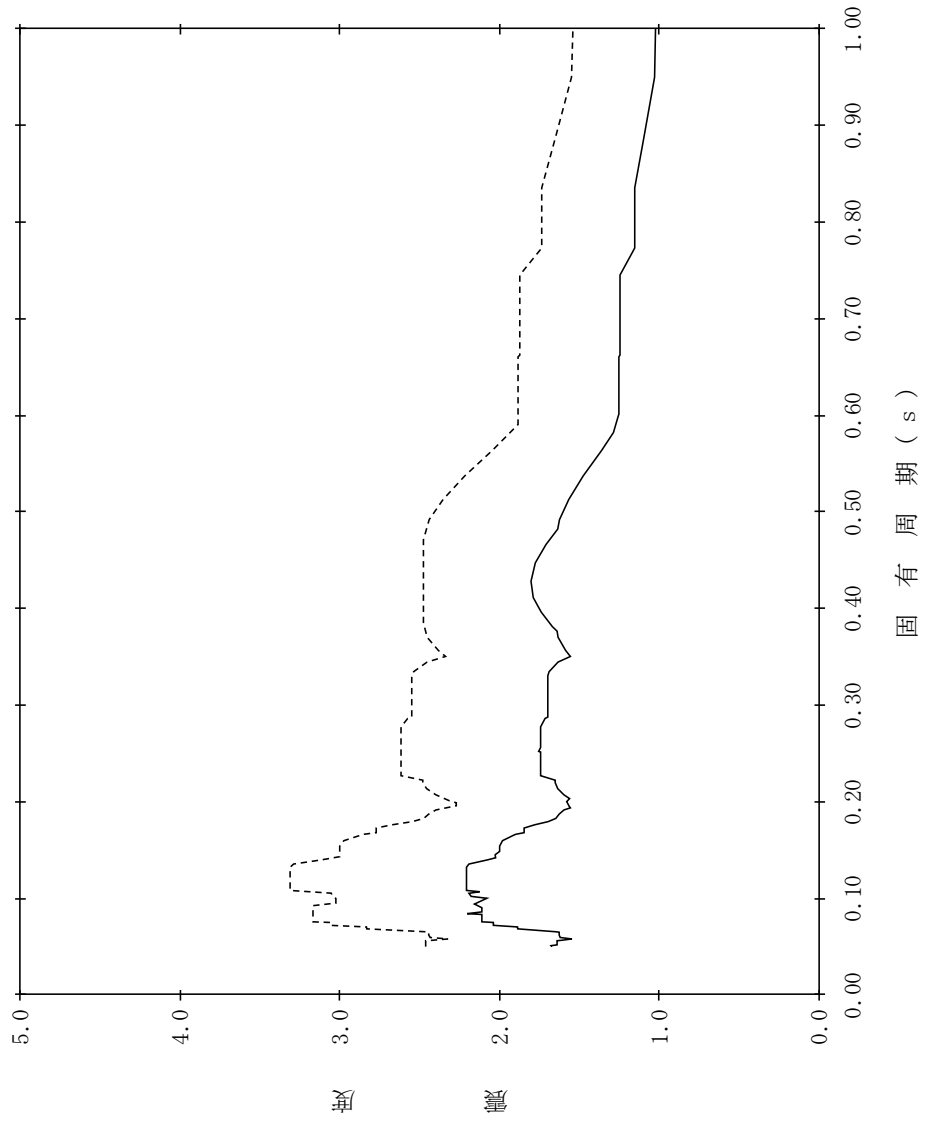
【NS2-RwB-SsNS-RwB86】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



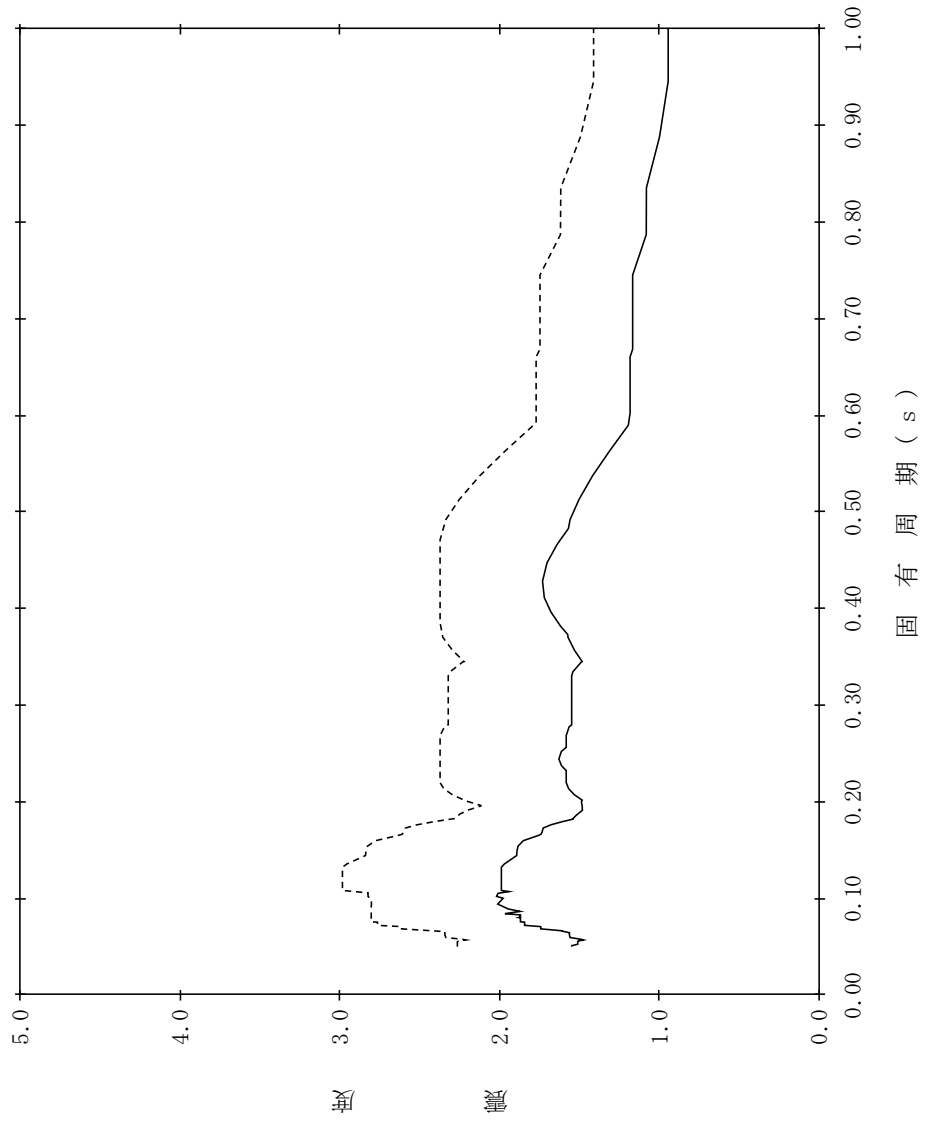
【NS2-RwB-SsNS-RwB87】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



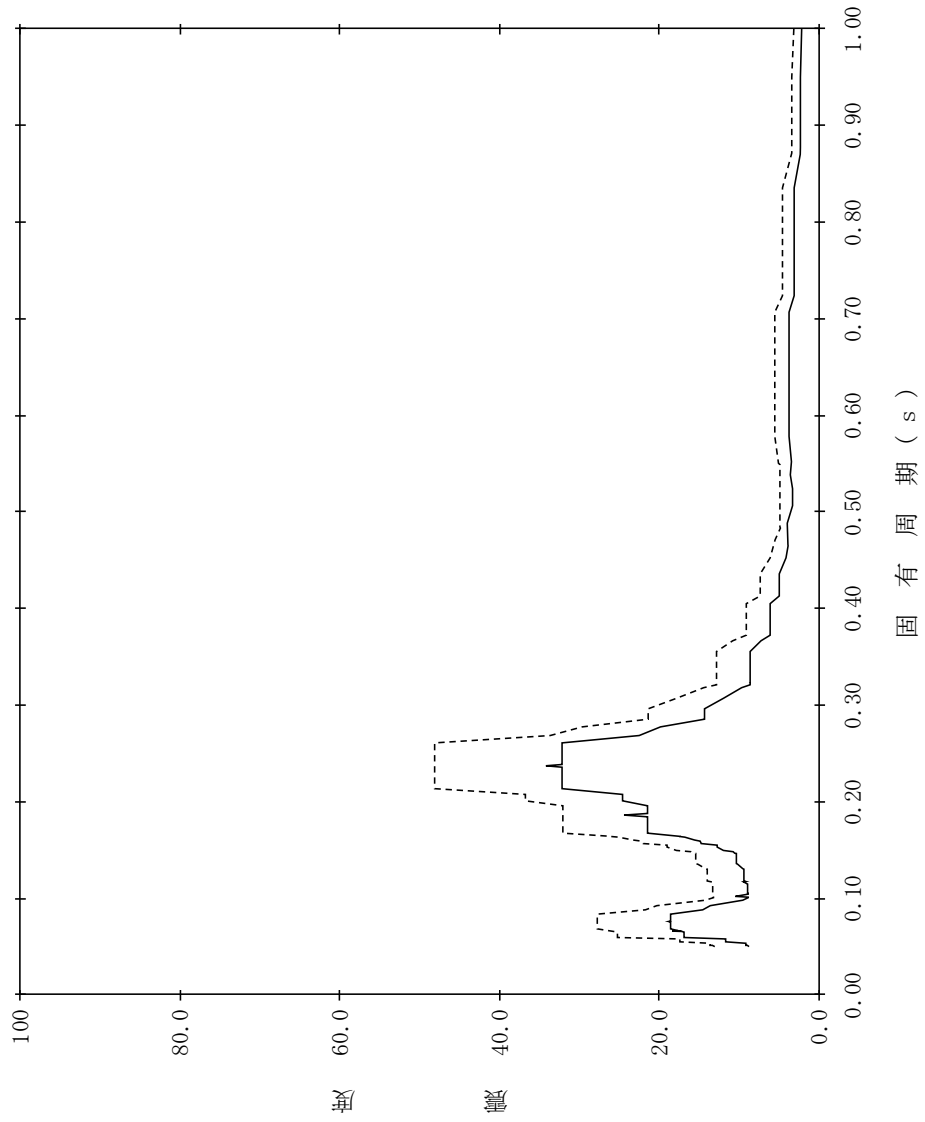
【NS2-RwB-SsNS-RwB88】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



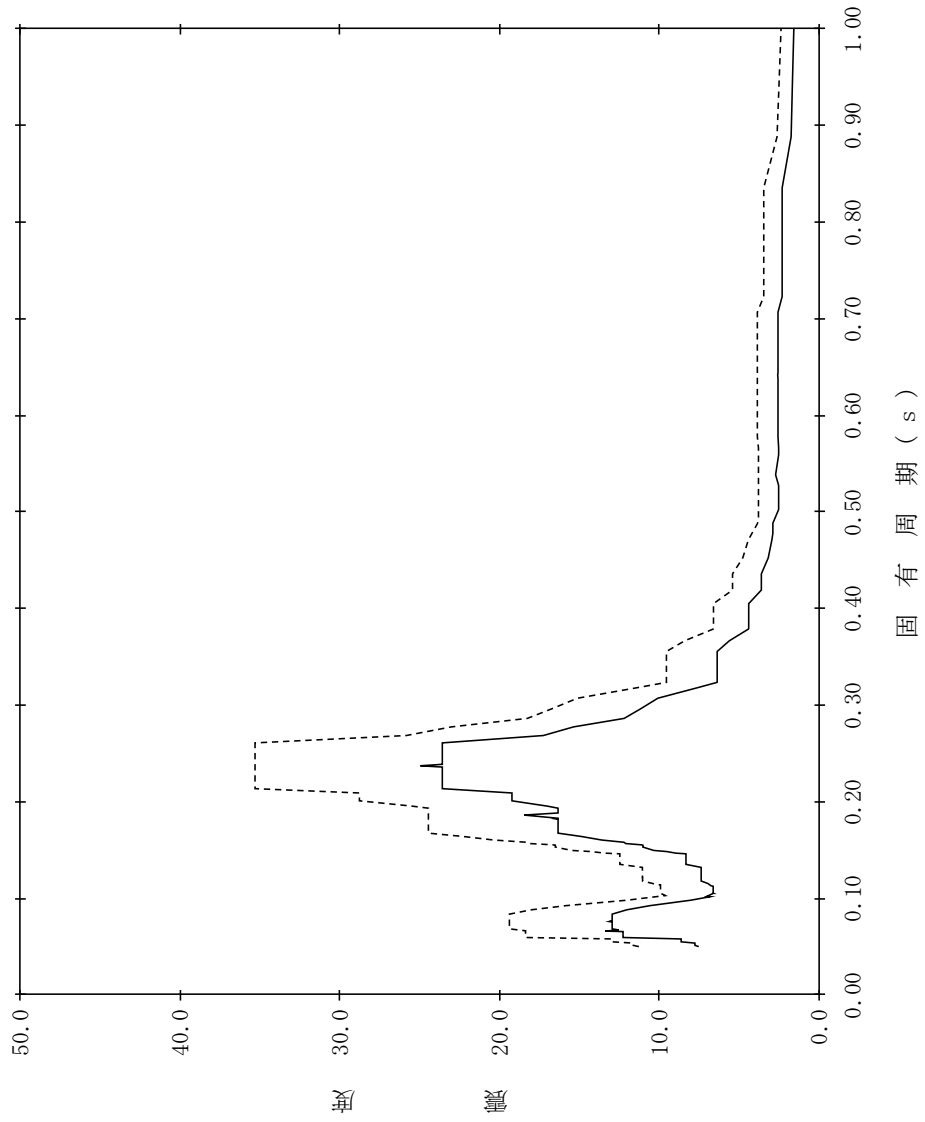
【NS2-RwB-SsEW-RwB1】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-RwB-SsEW-RwB2】

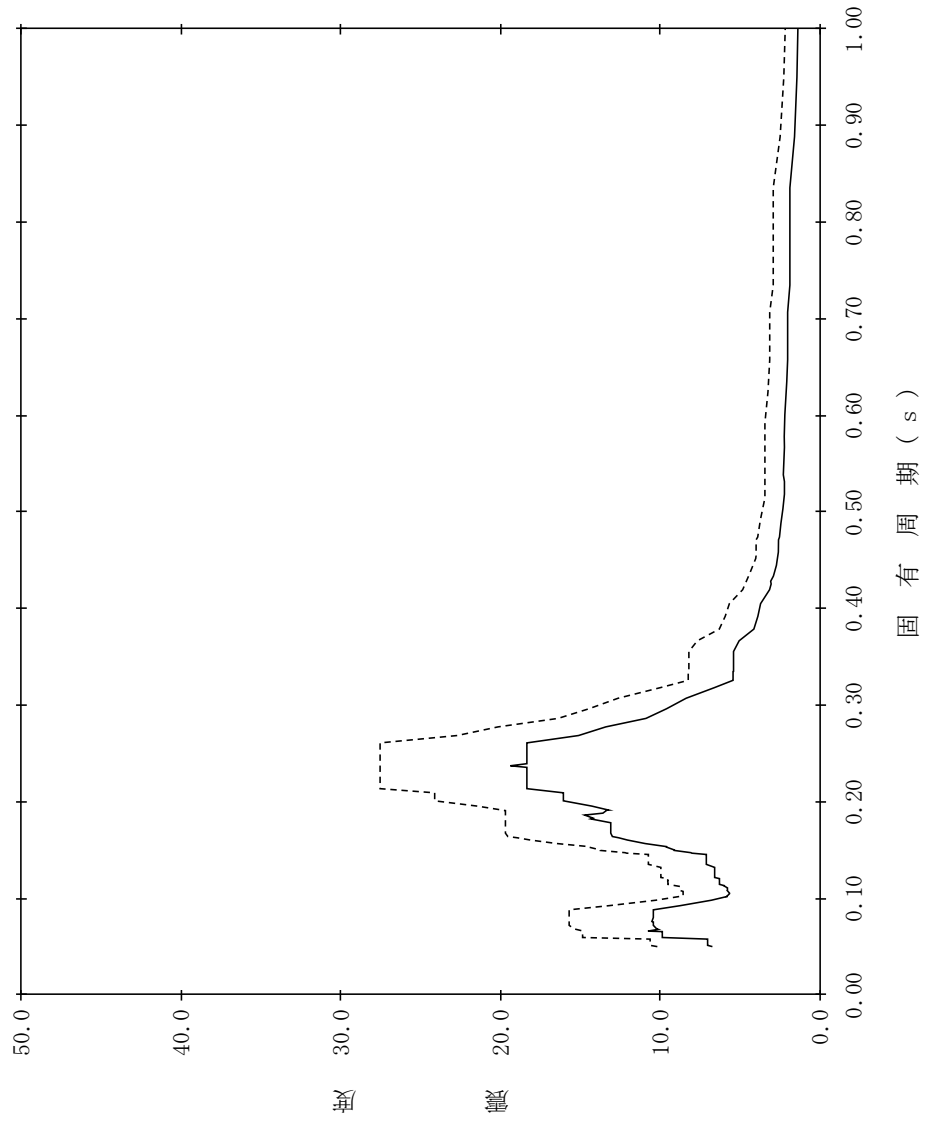
構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-RwB-SsEW-RwB3】

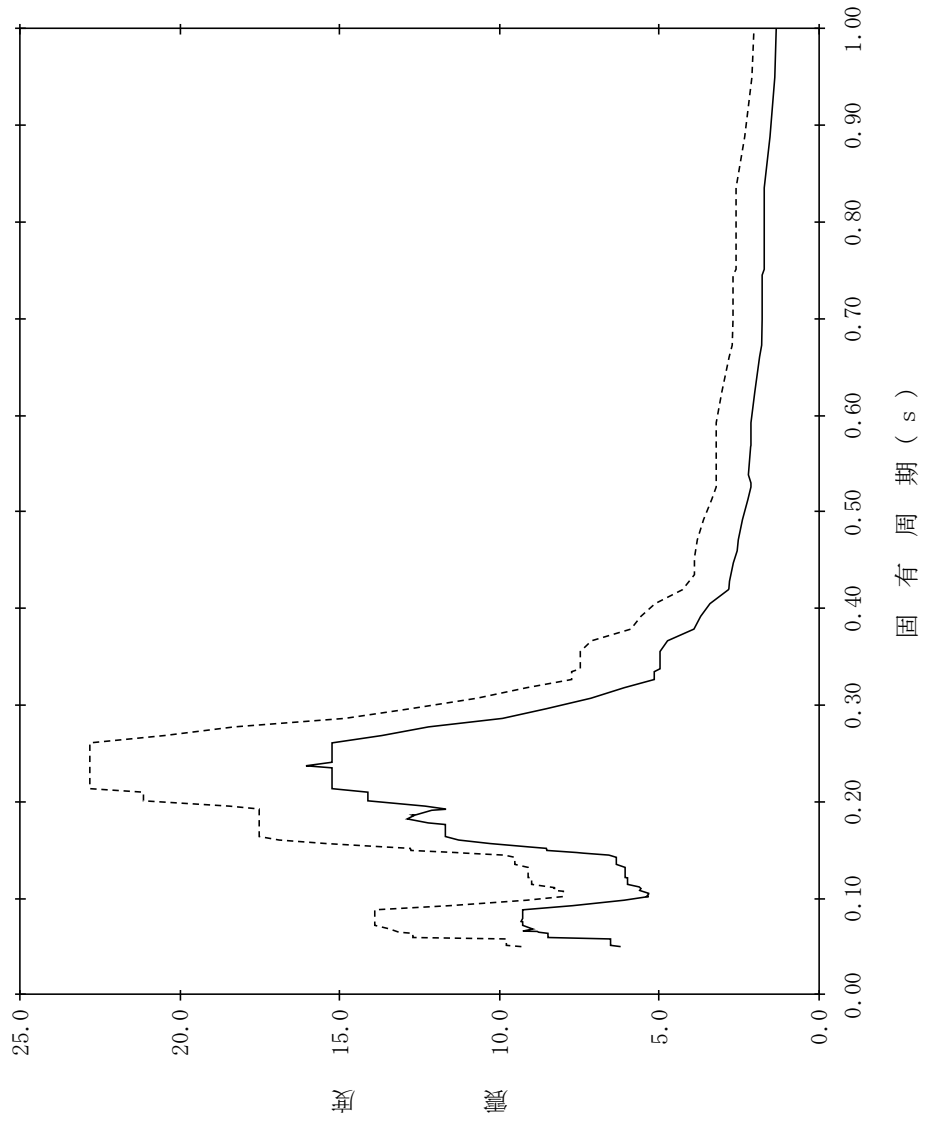
構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL42.000m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

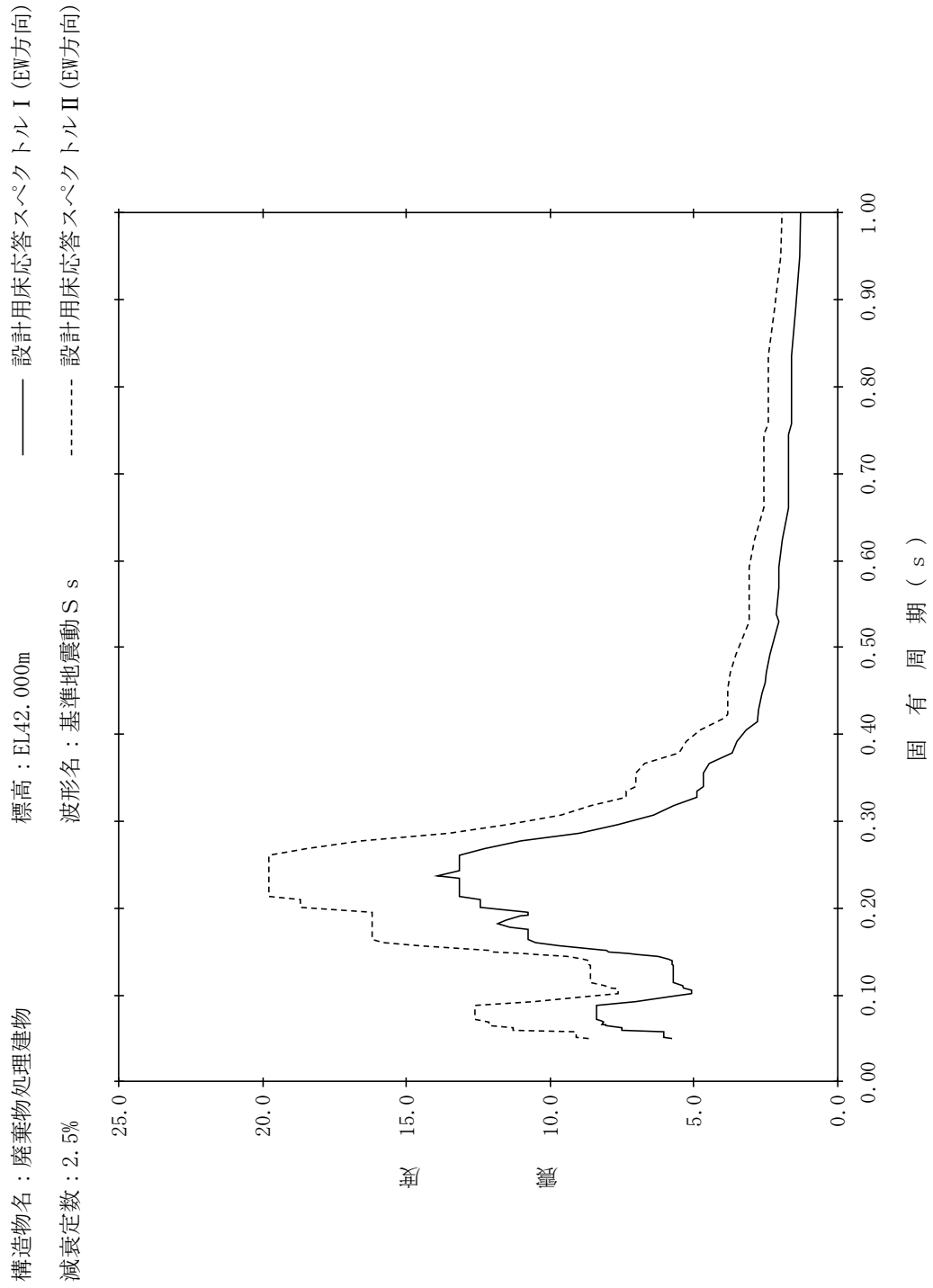


【NS2-RwB-SsEW-RwB4】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL42.000m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s

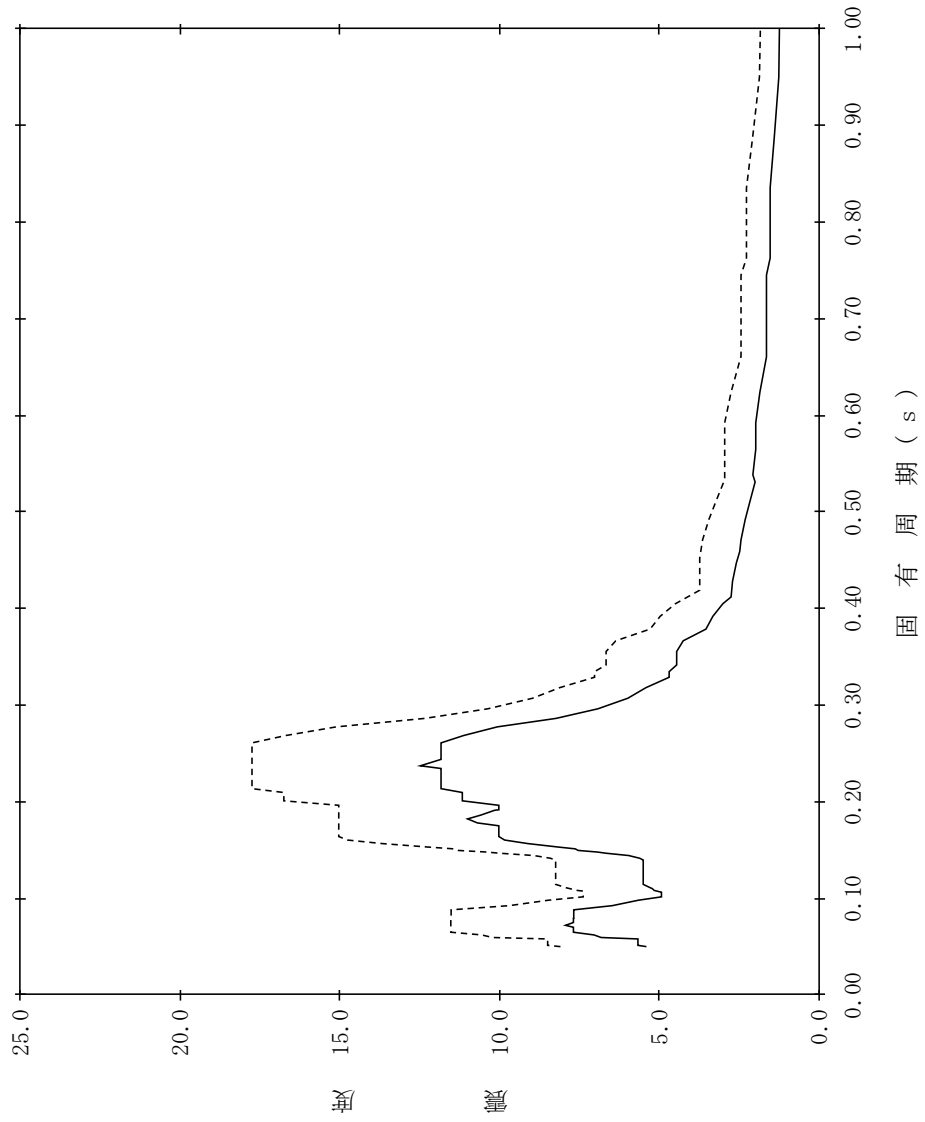


【NS2-RwB-SsEW-RwB5】



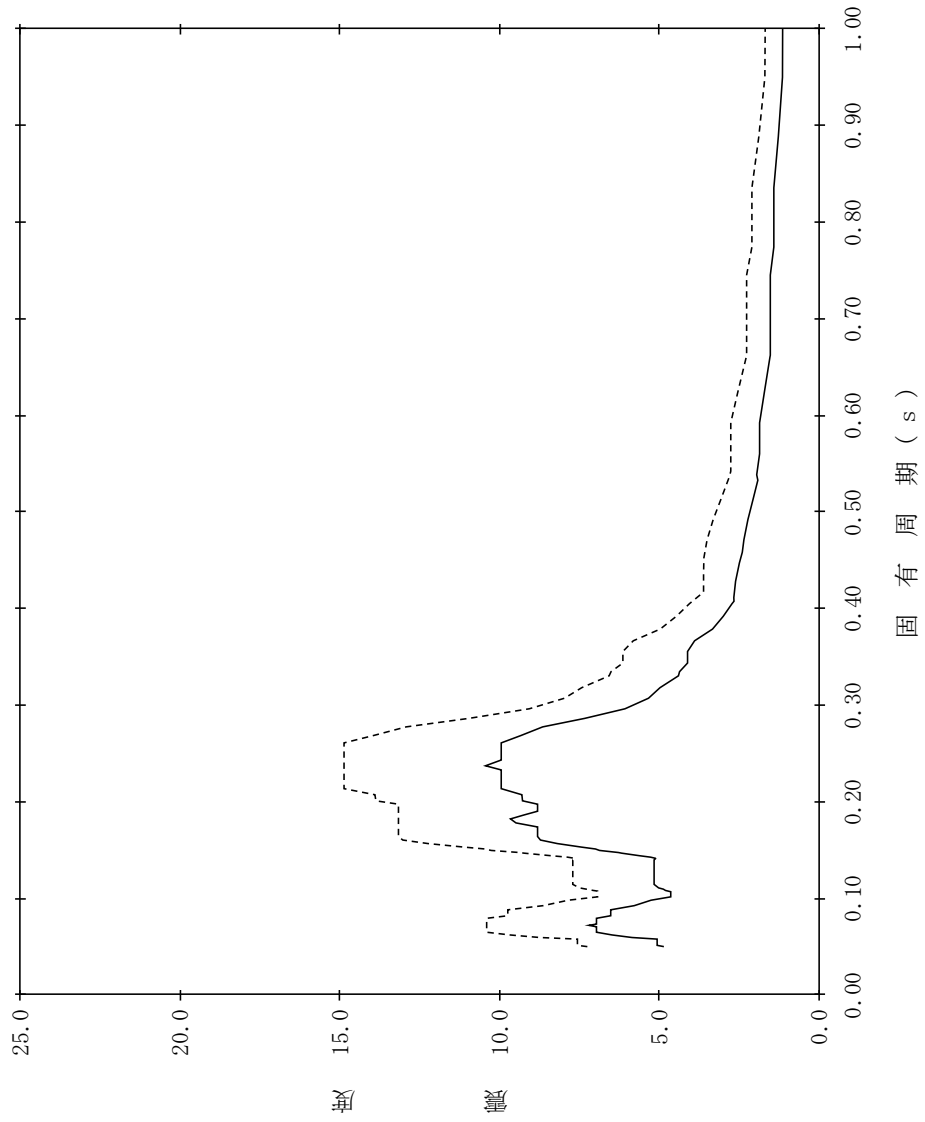
【NS2-RwB-SsEW-RwB6】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



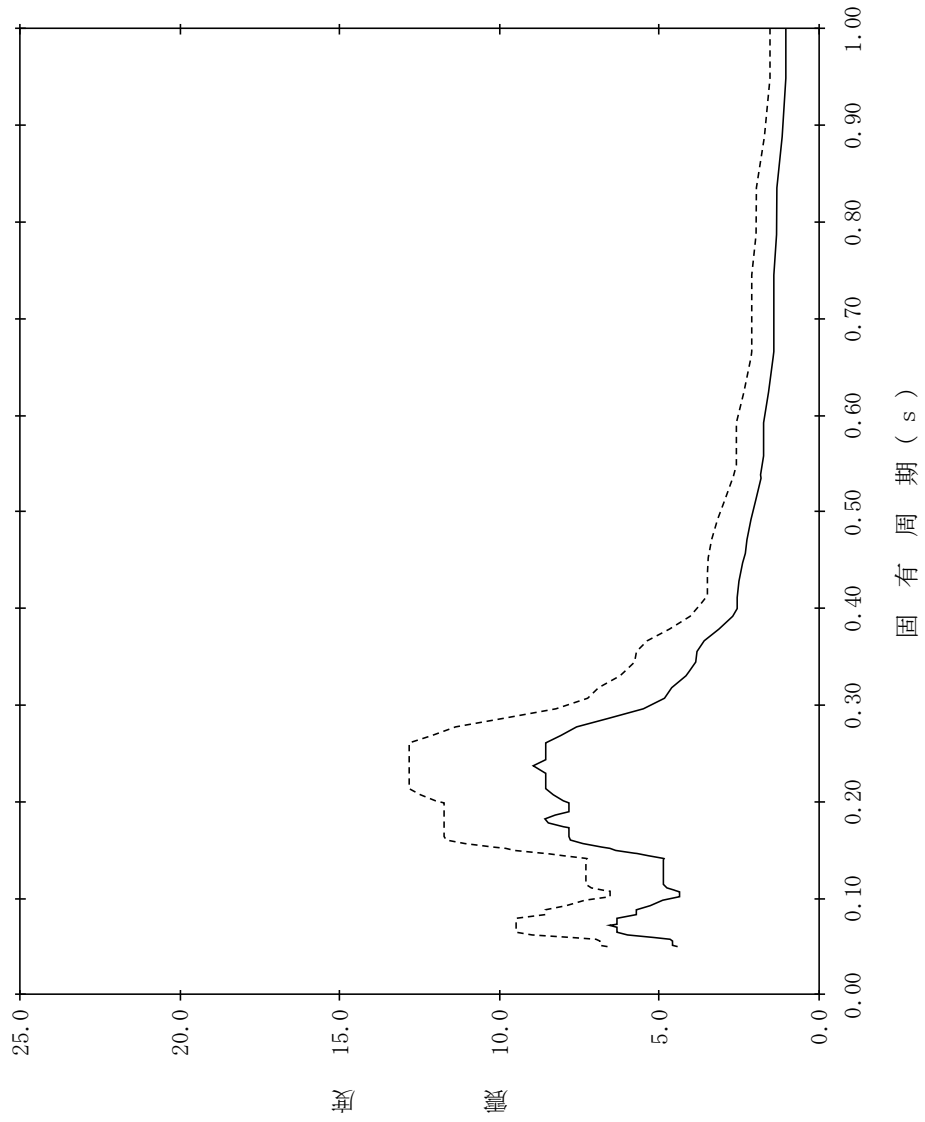
【NS2-RwB-SsEW-RwB7】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



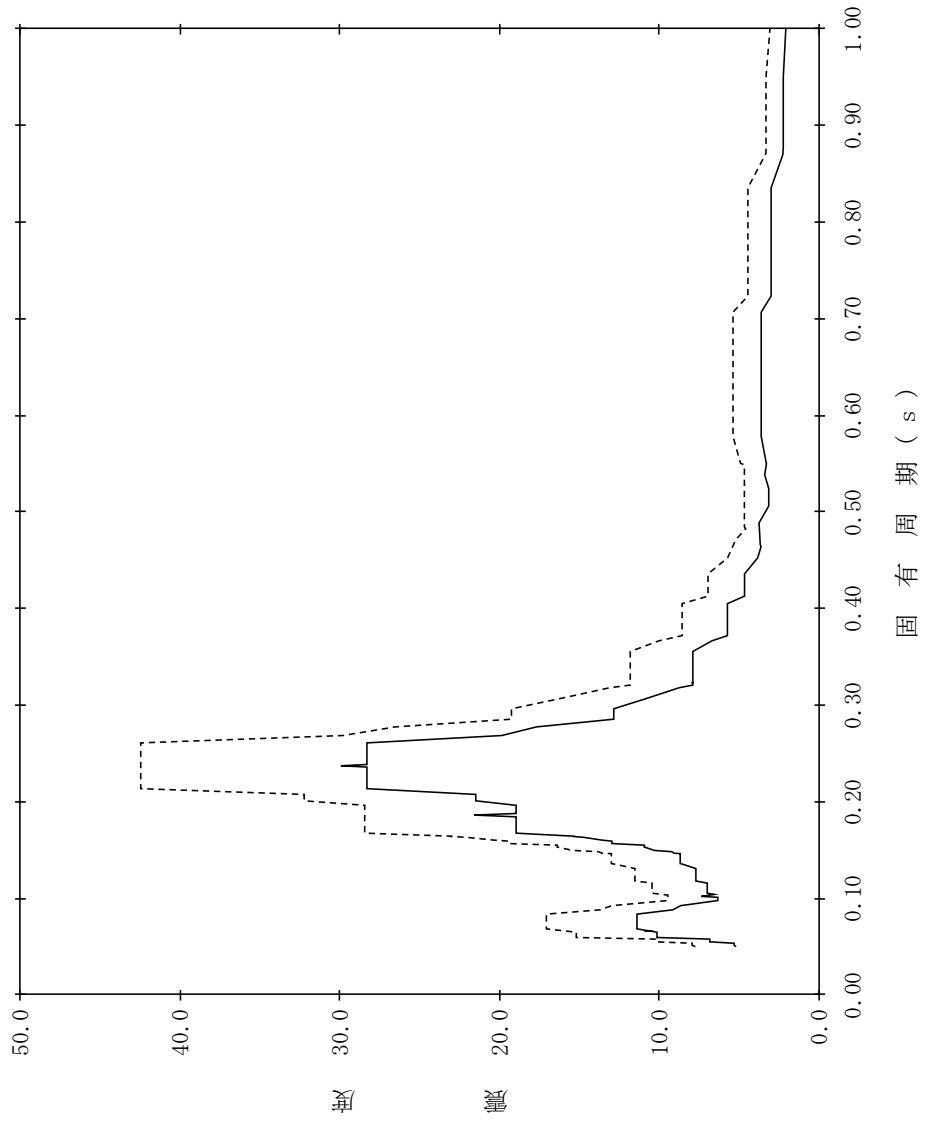
【NS2-RwB-SsEW-RwB8】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

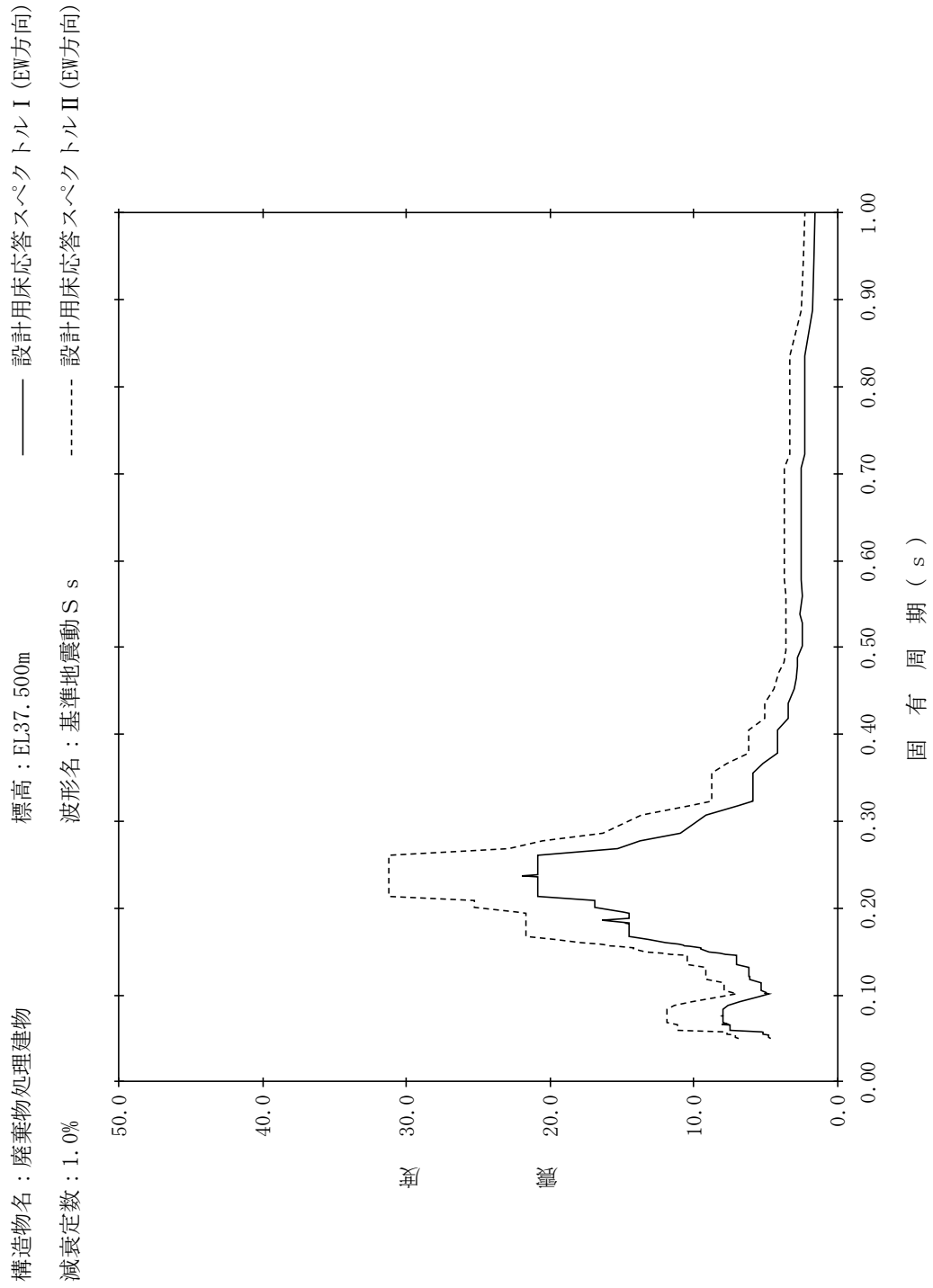


【NS2-RwB-SsEW-RwB9】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



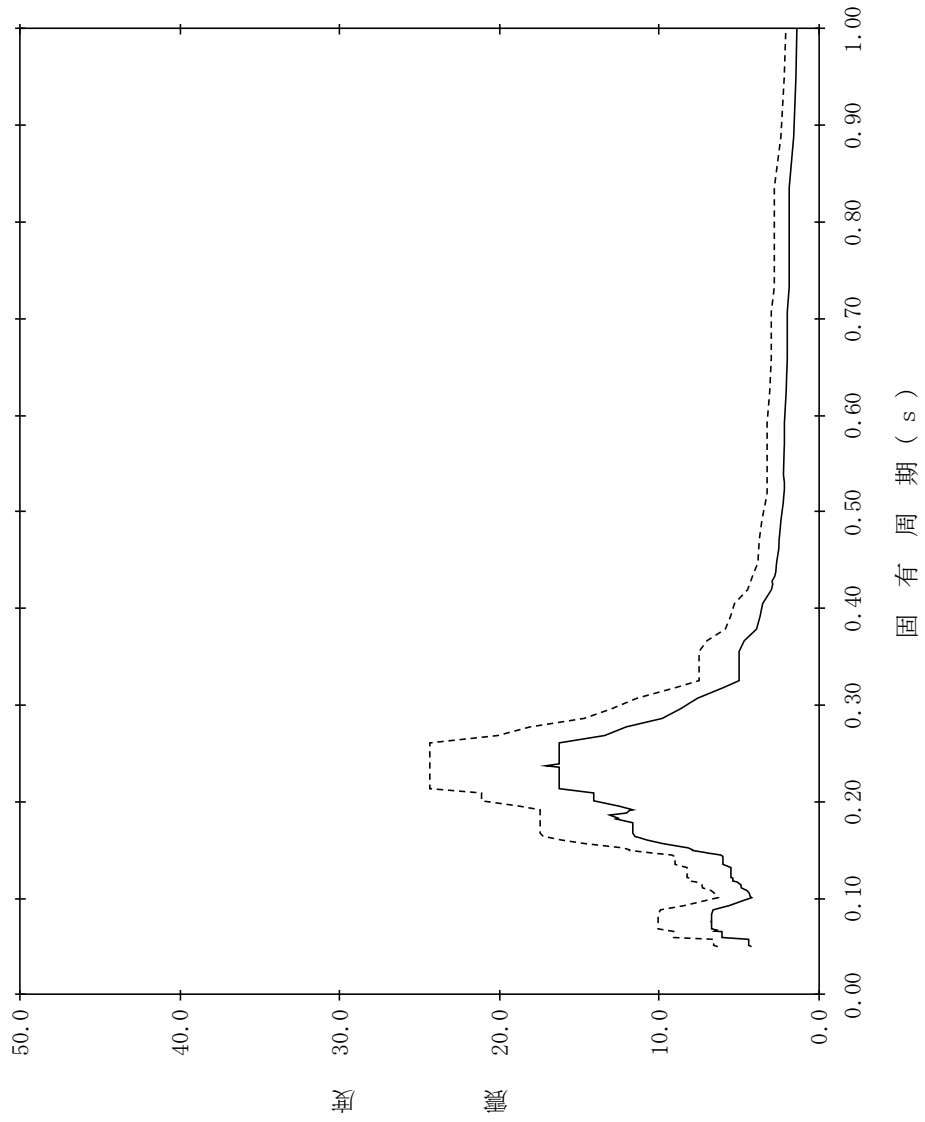
【NS2-RwB-SsEW-RwB10】



【NS2-RwB-SsEW-RwB11】

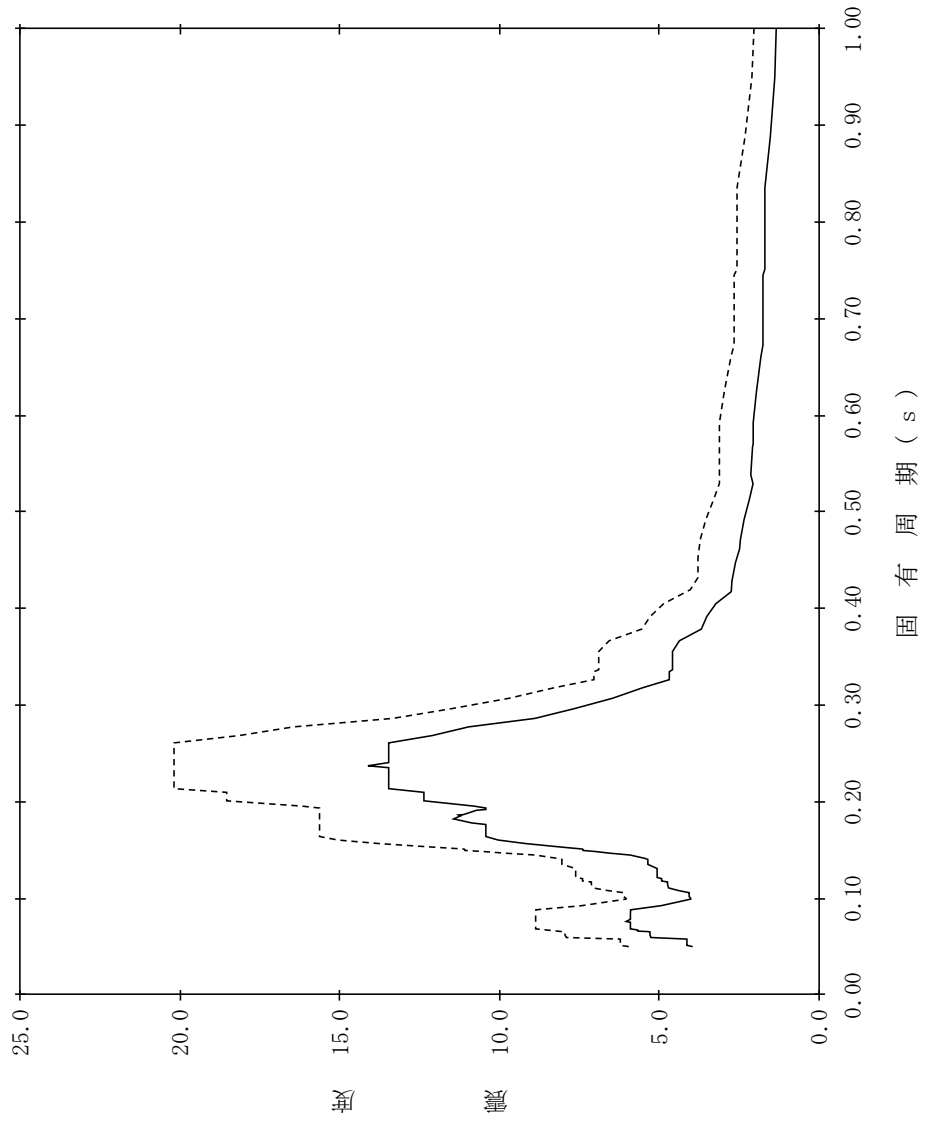
構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL37.500m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

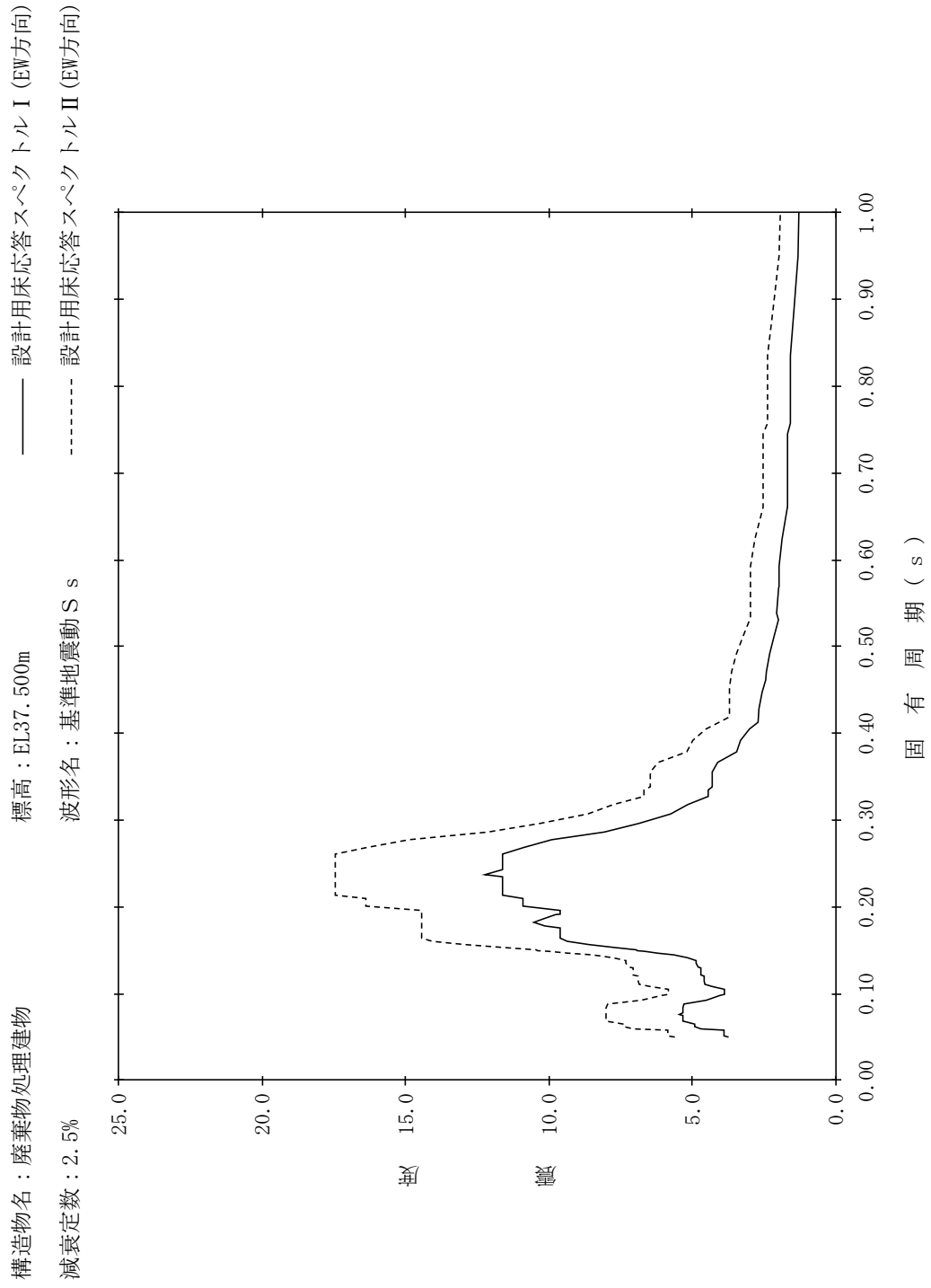


【NS2-RwB-SsEW-RwB12】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

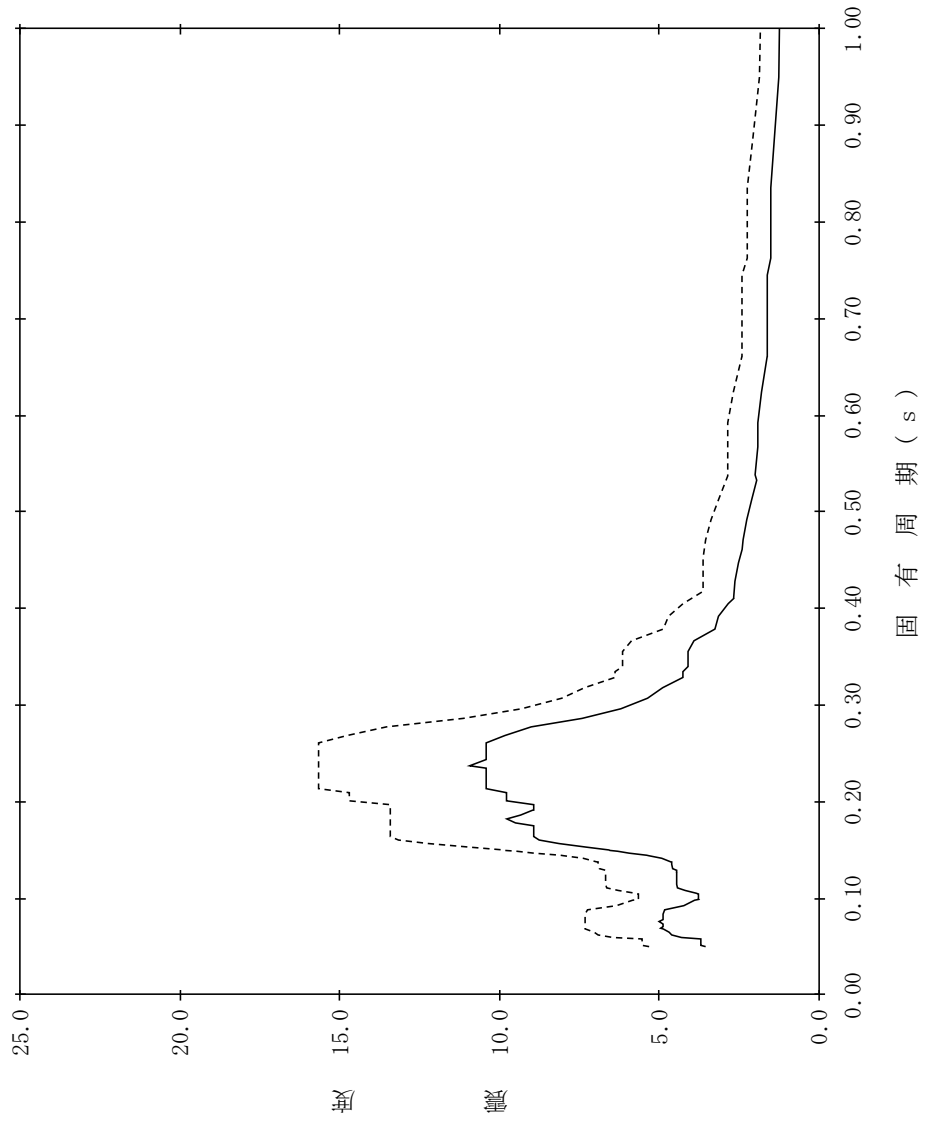


【NS2-RwB-SsEW-RwB13】



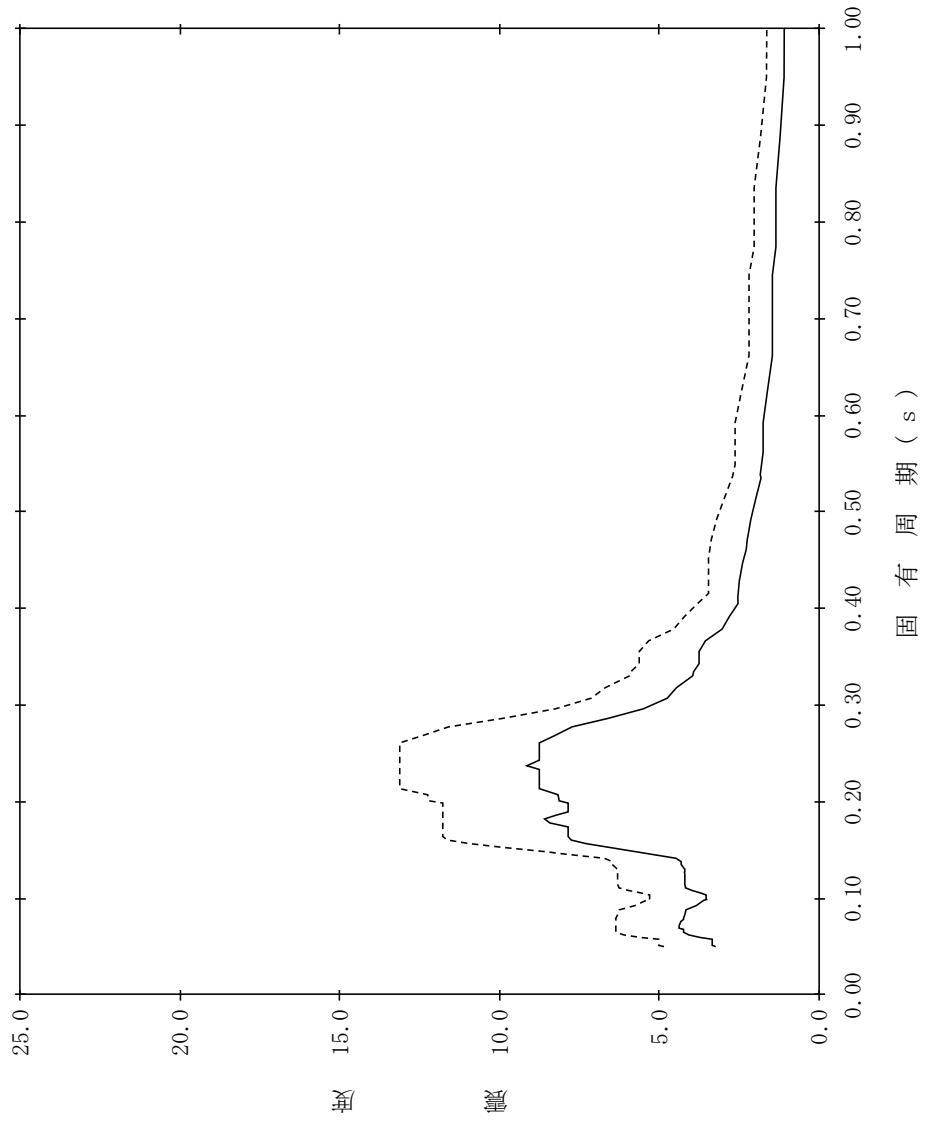
【NS2-RwB-SsEW-RwB14】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

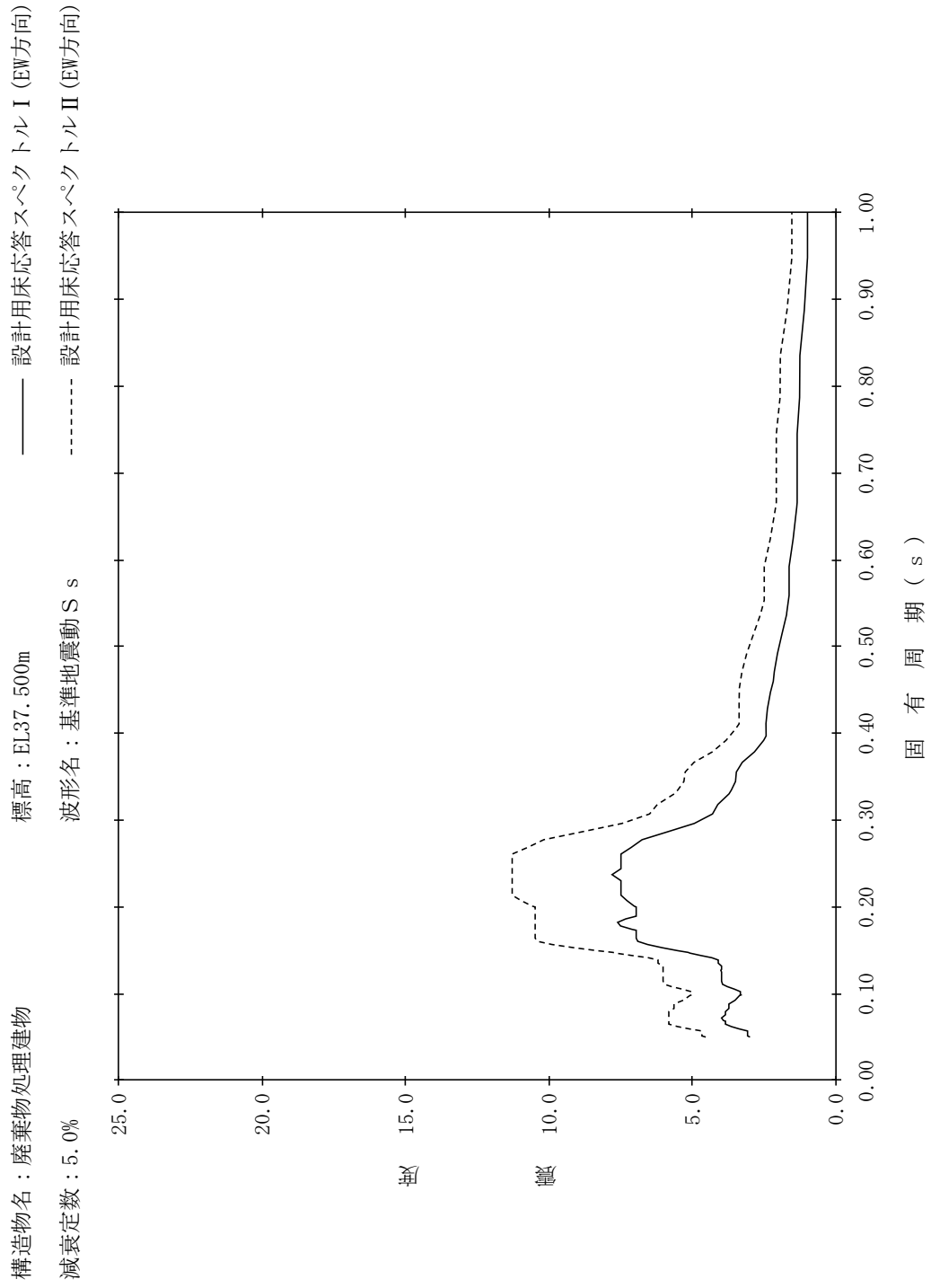


【NS2-RwB-SsEW-RwB15】

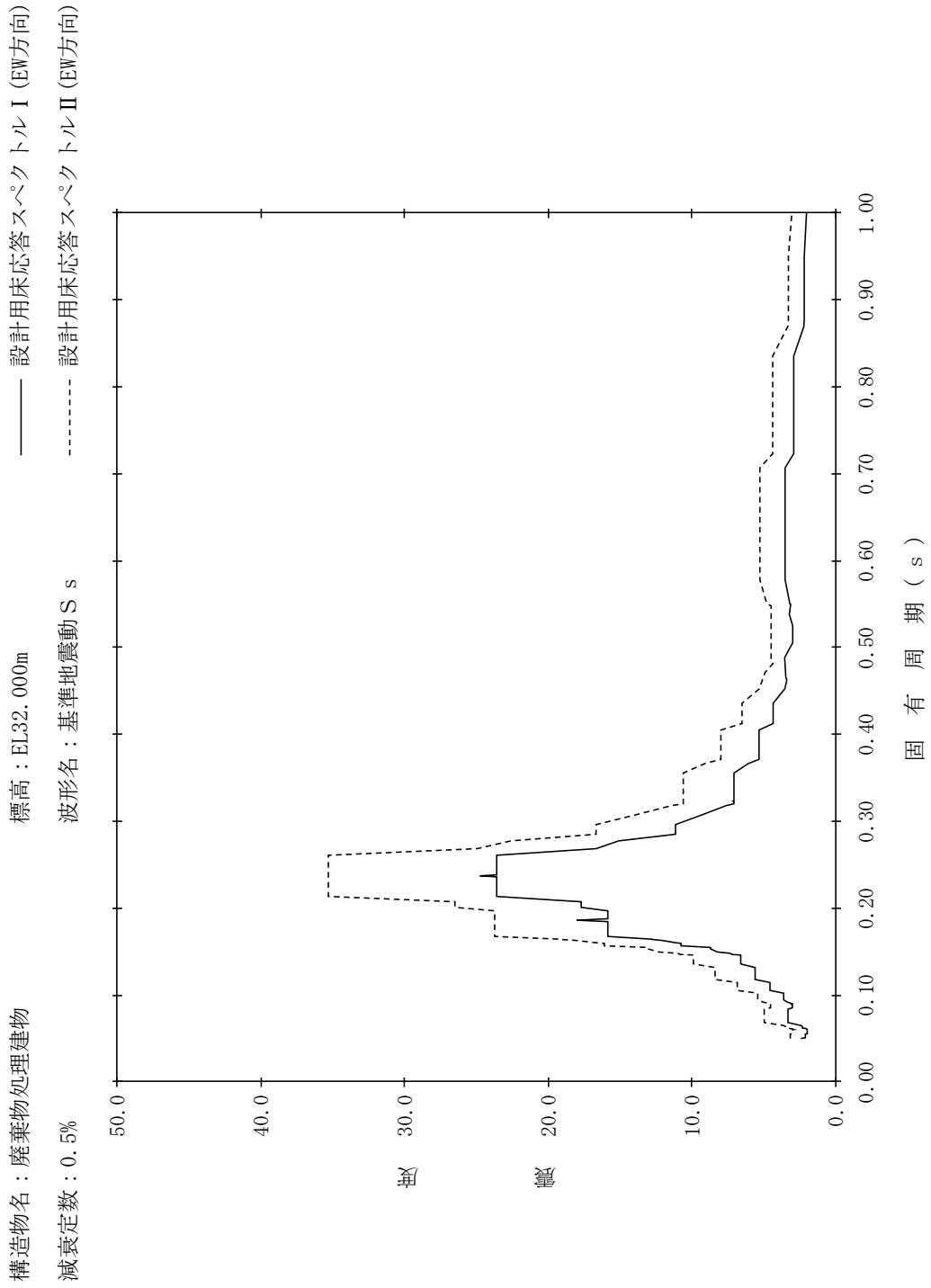
構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-RwB-SsEW-RwB16】

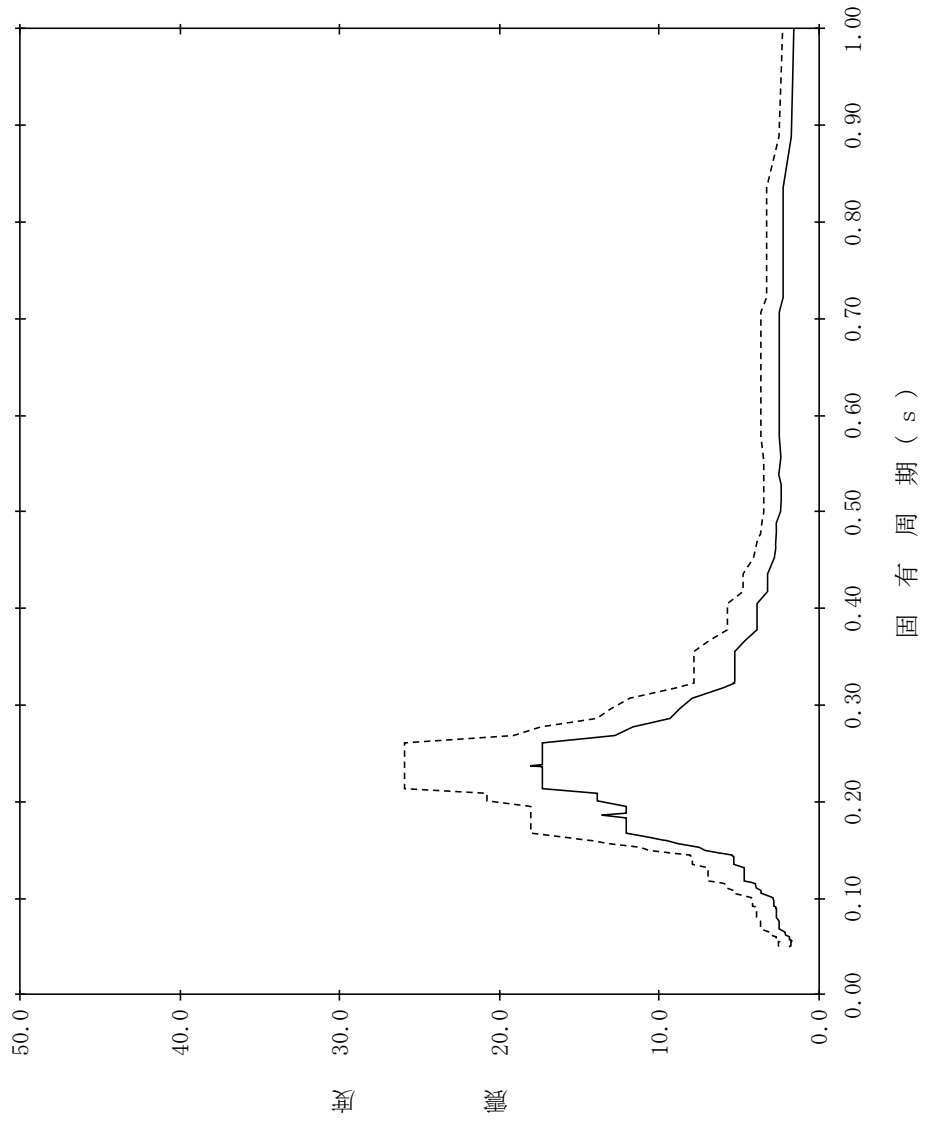


【NS2-RwB-SsEW-RwB17】



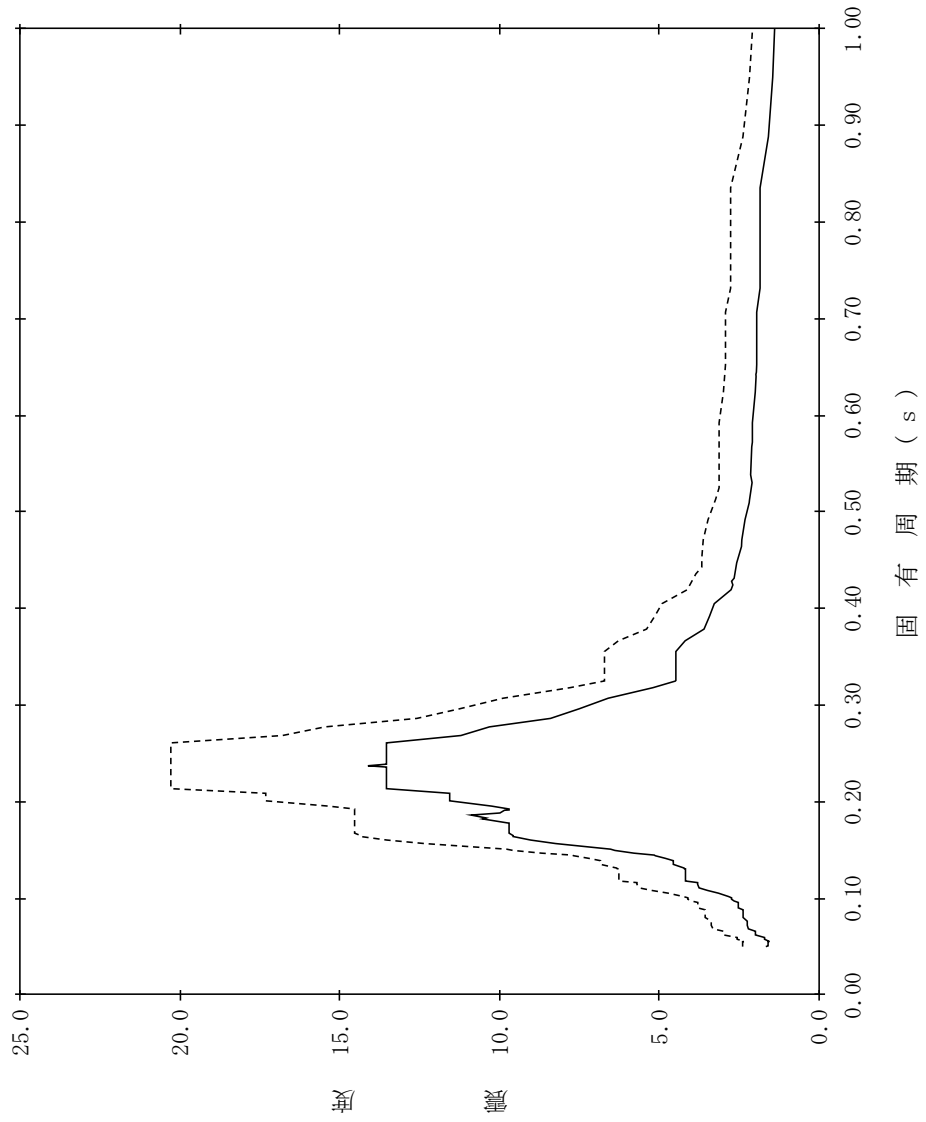
【NS2-RwB-SsEW-RwB18】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

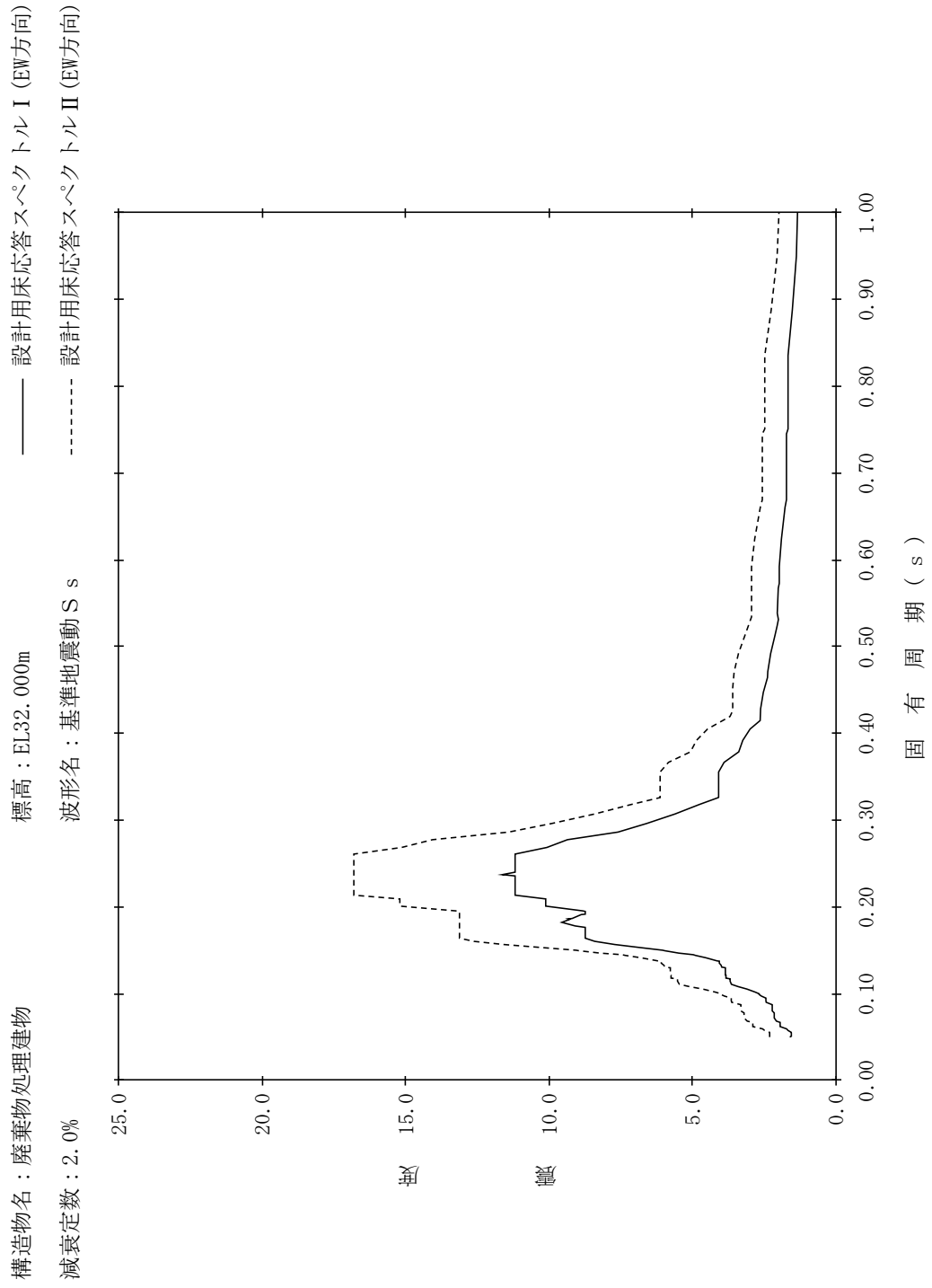


【NS2-RwB-SsEW-RwB19】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

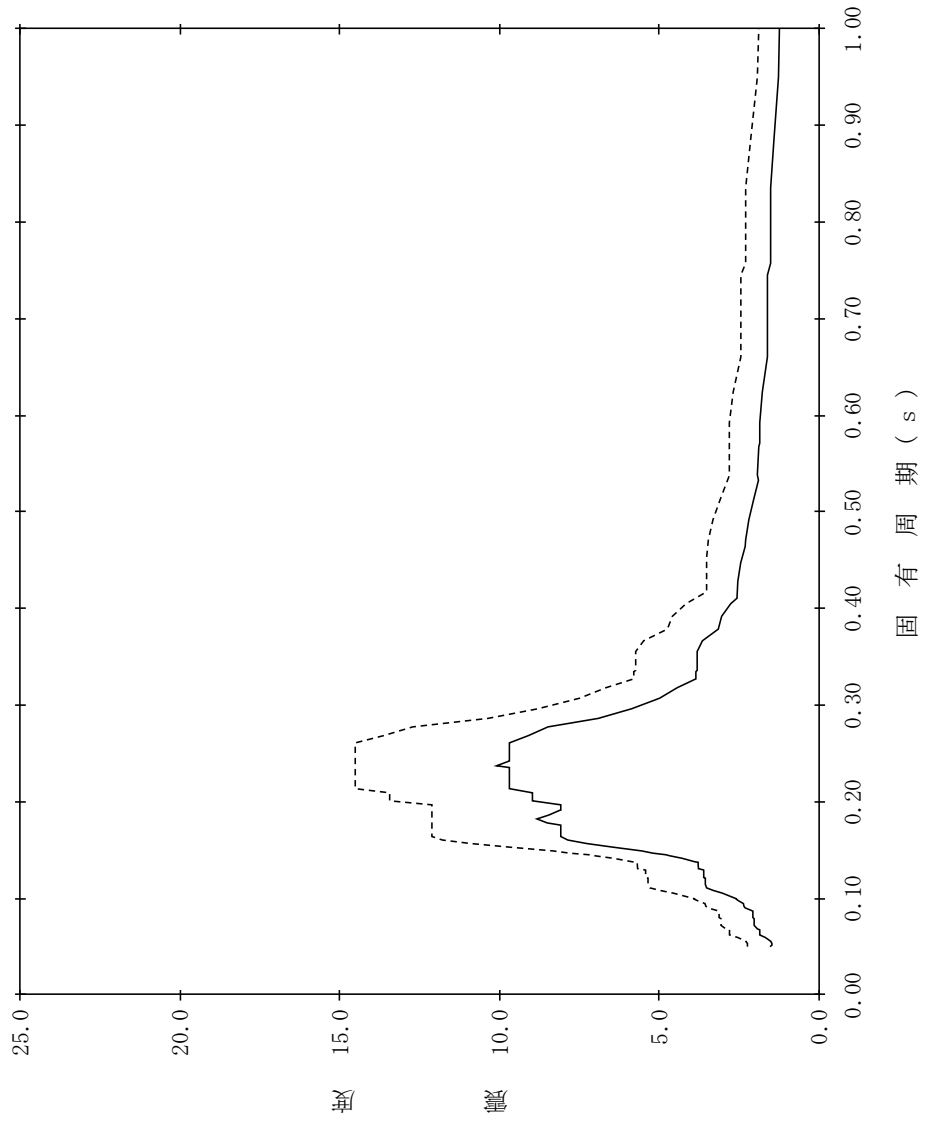


【NS2-RwB-SsEW-RwB20】



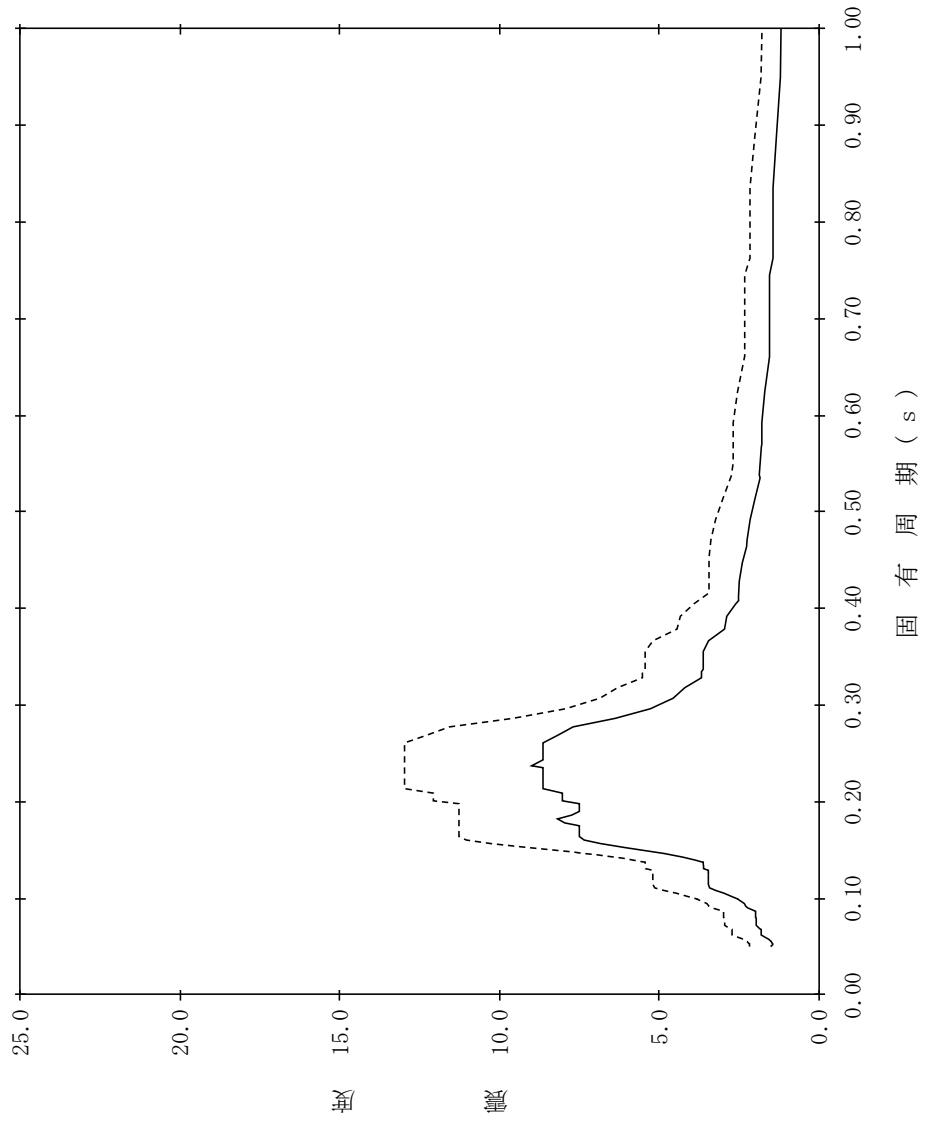
【NS2-RwB-SsEW-RwB21】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL32.000m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



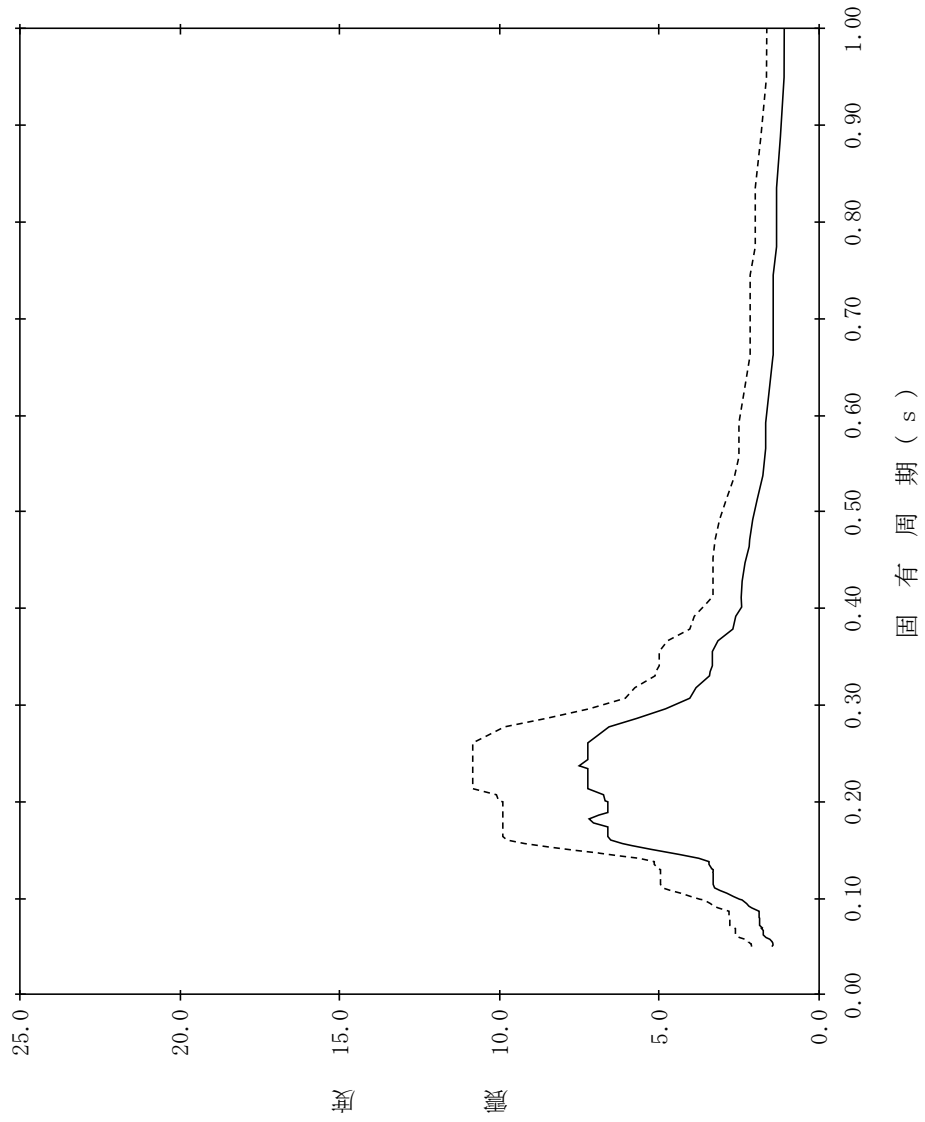
【NS2-RwB-SsEW-RwB22】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



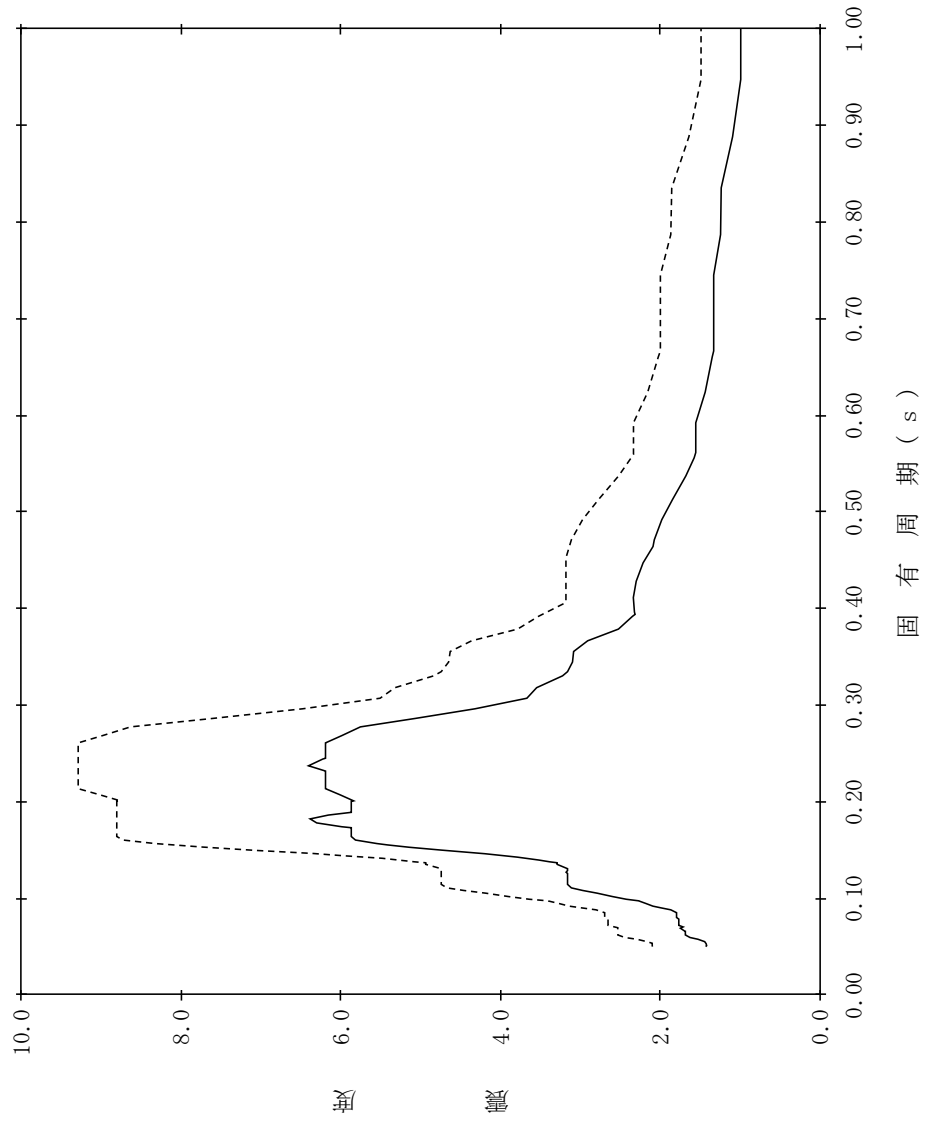
【NS2-RwB-SsEW-RwB23】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL32.000m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



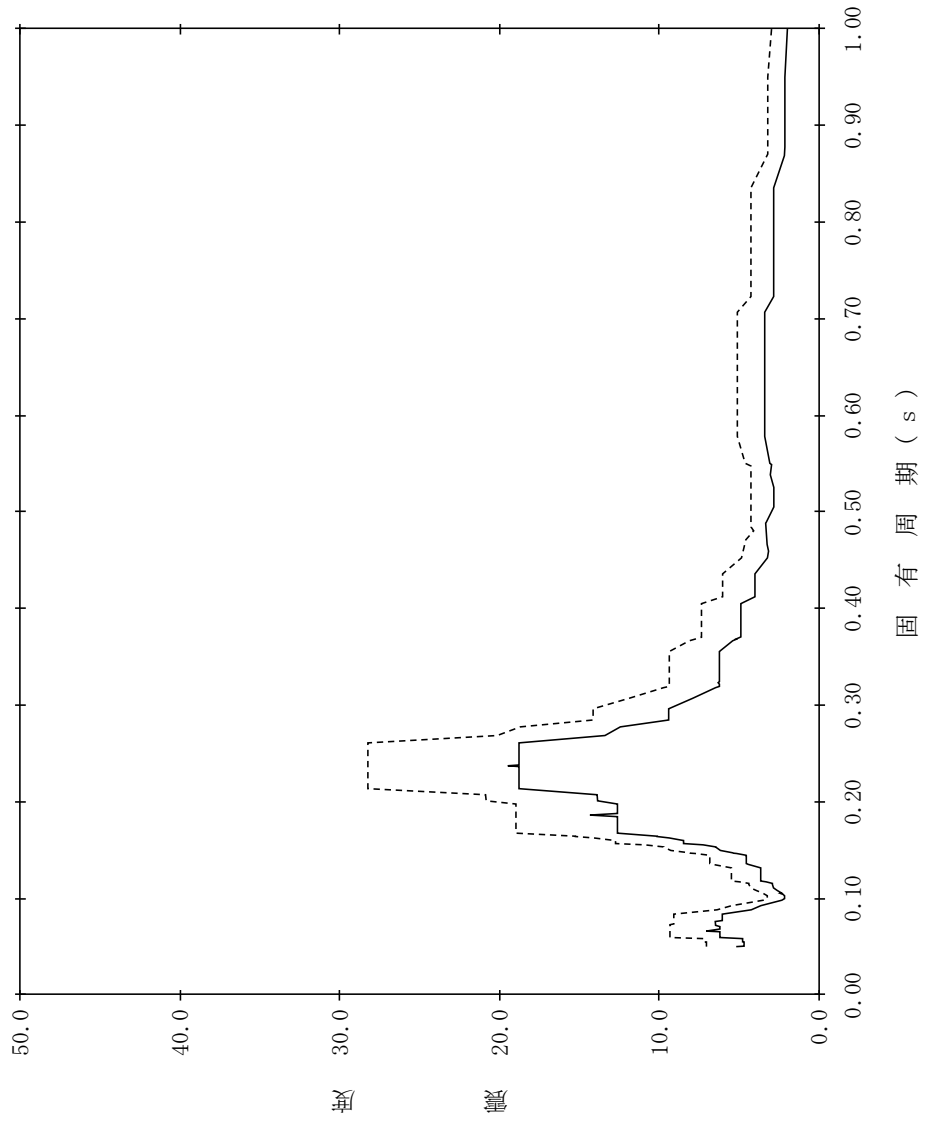
【NS2-RwB-SsEW-RwB24】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



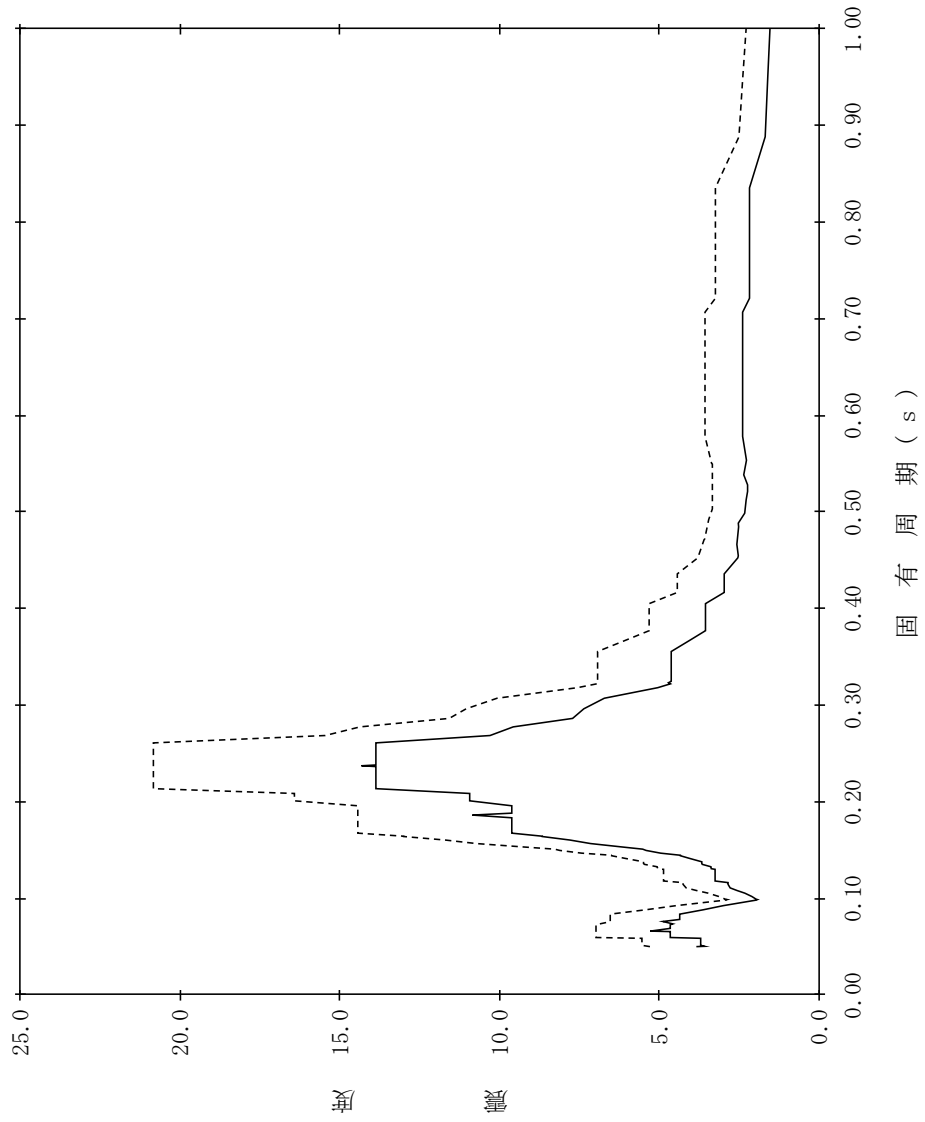
【NS2-RwB-SsEW-RwB25】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

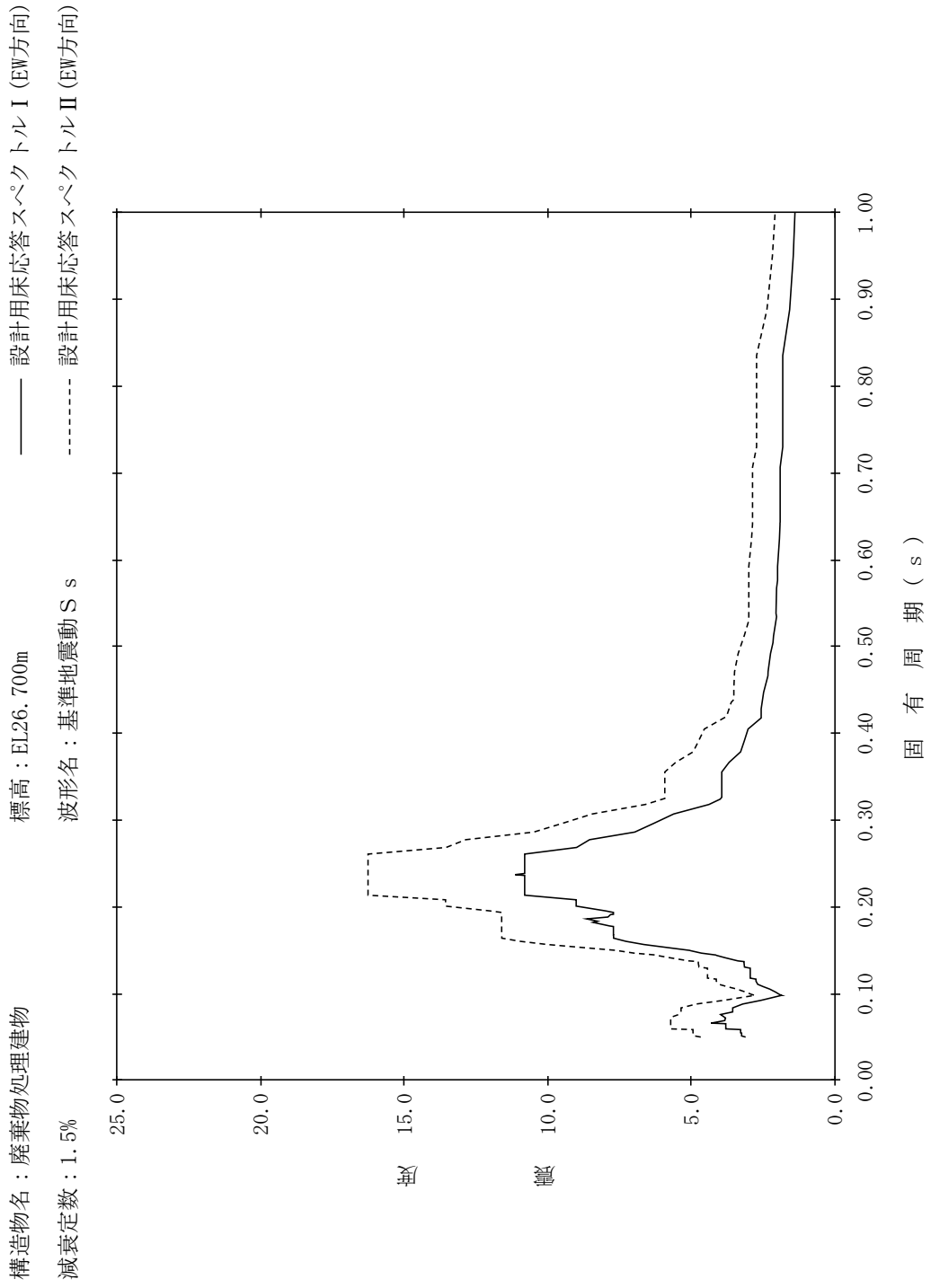


【NS2-RwB-SsEW-RwB26】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

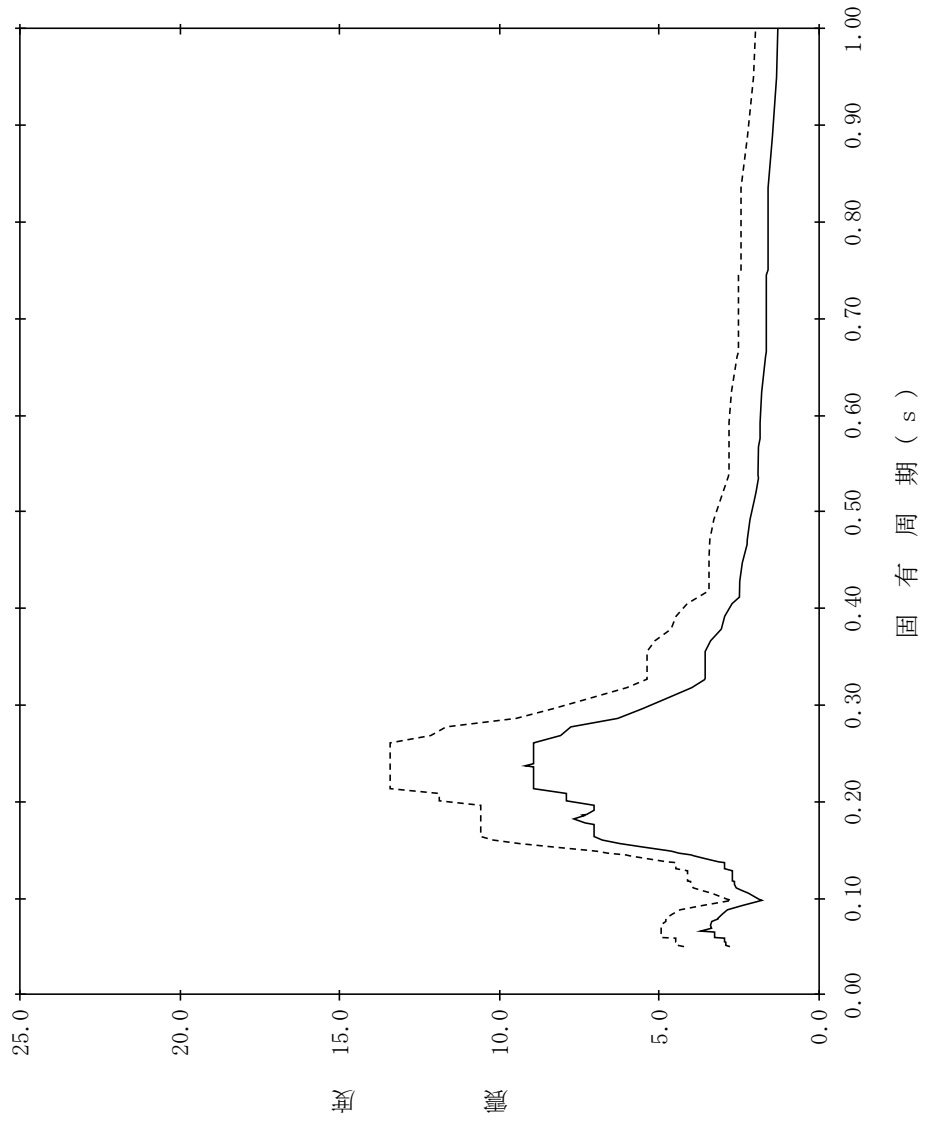


【NS2-RwB-SsEW-RwB27】



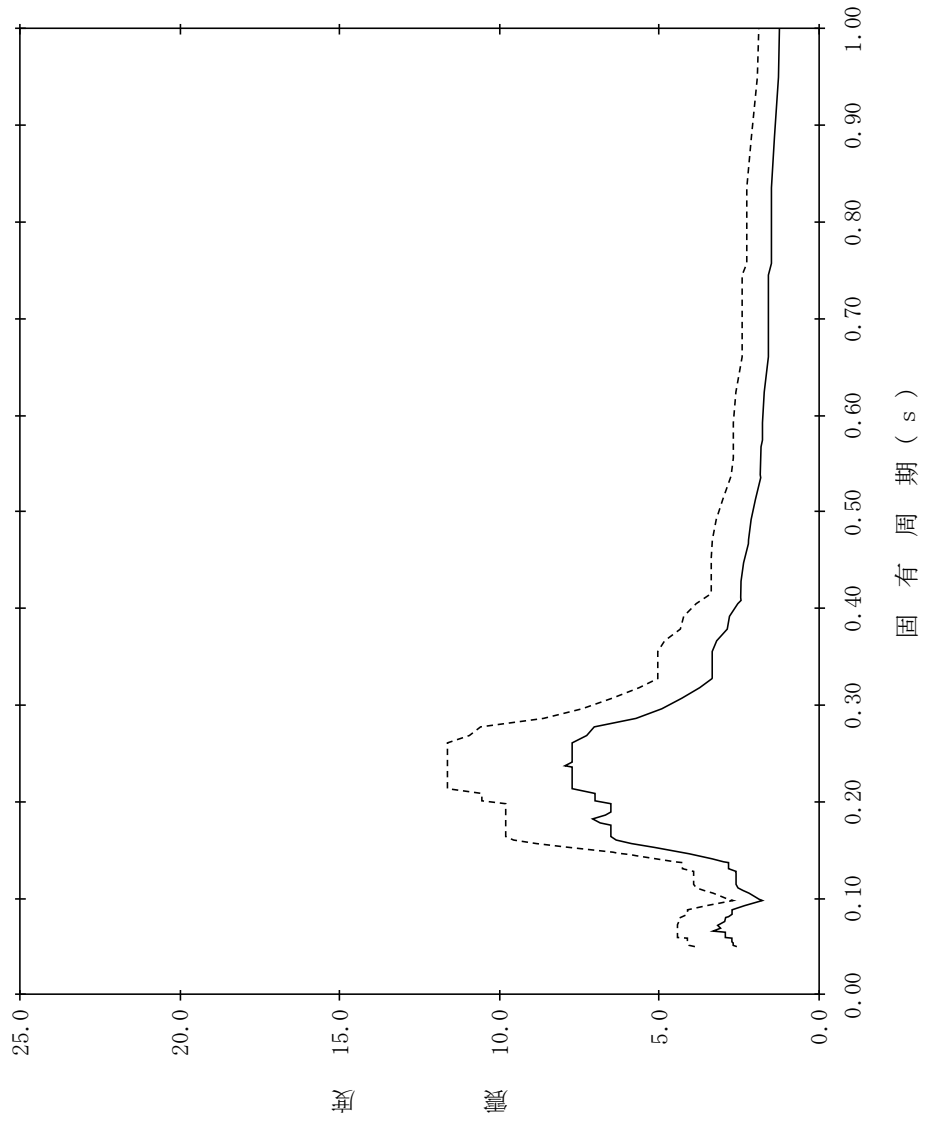
【NS2-RwB-SsEW-RwB28】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL26.700m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s



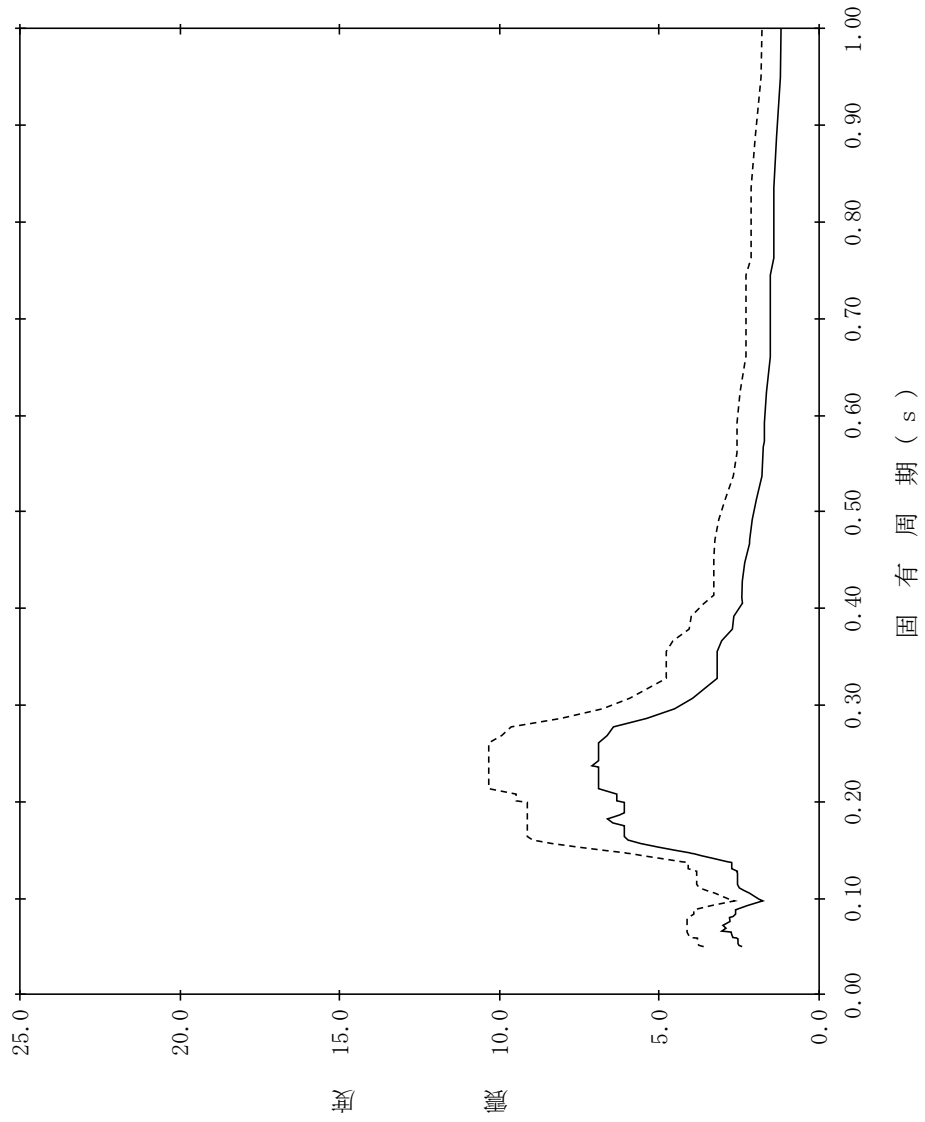
【NS2-RwB-SsEW-RwB29】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



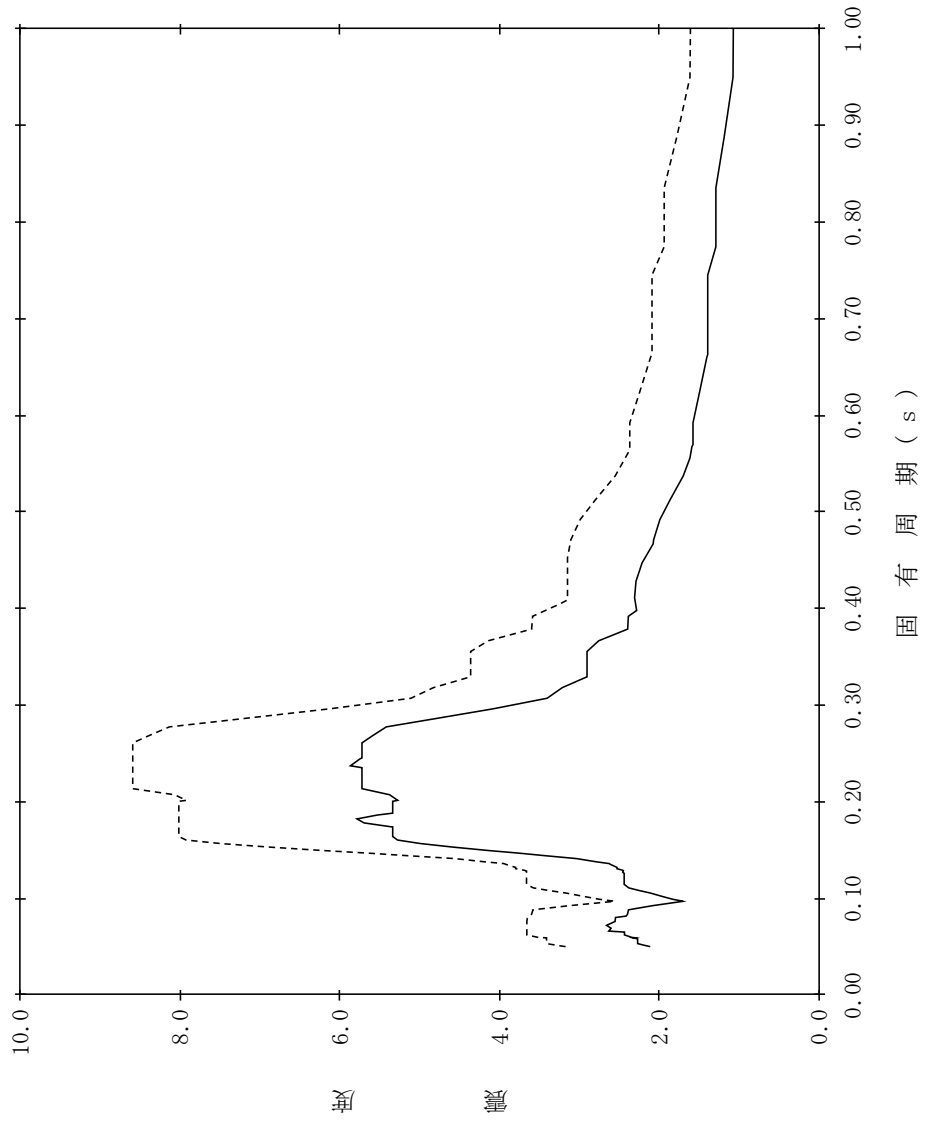
【NS2-RwB-SsEW-RwB30】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

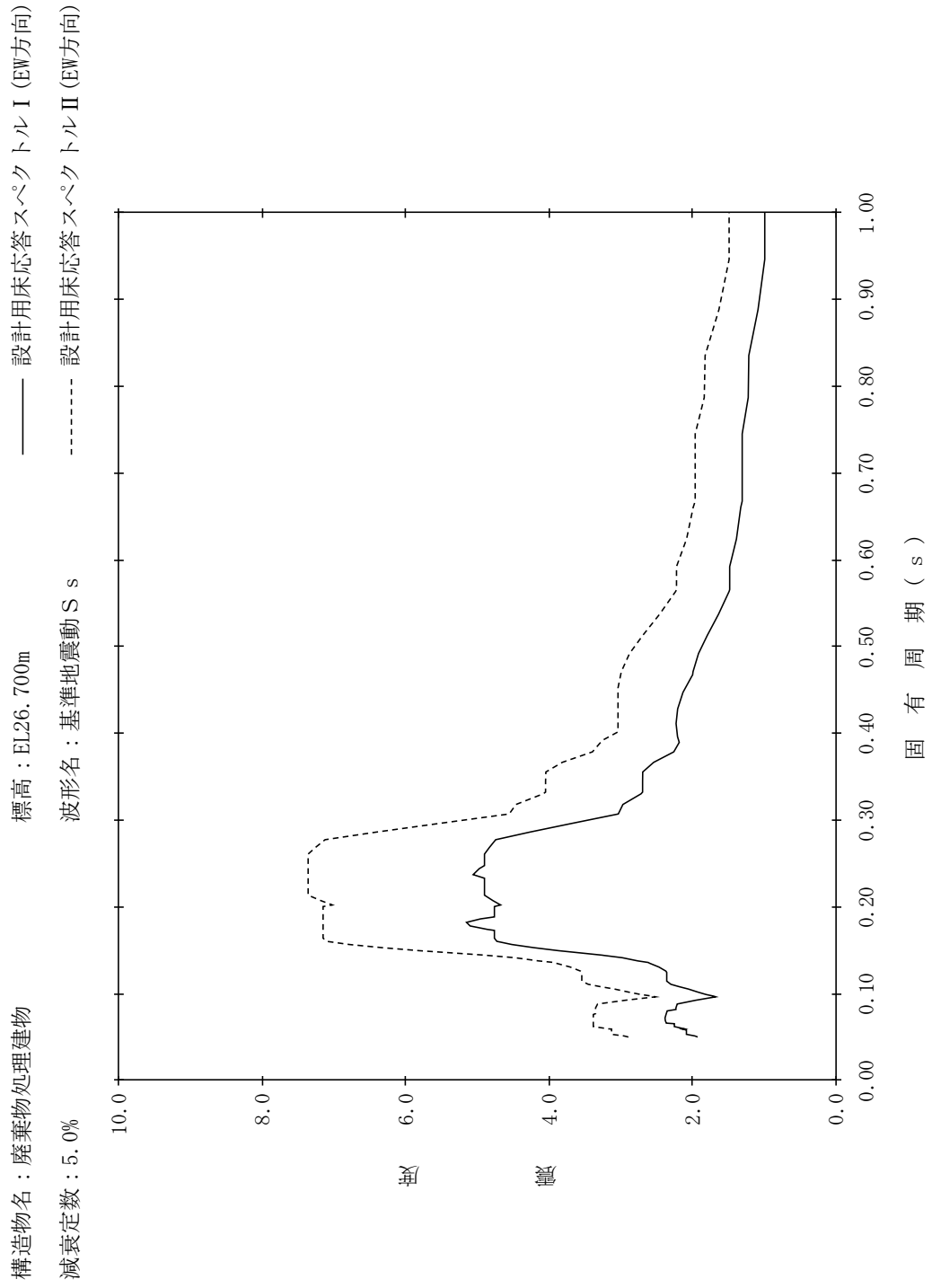


【NS2-RwB-SsEW-RwB31】

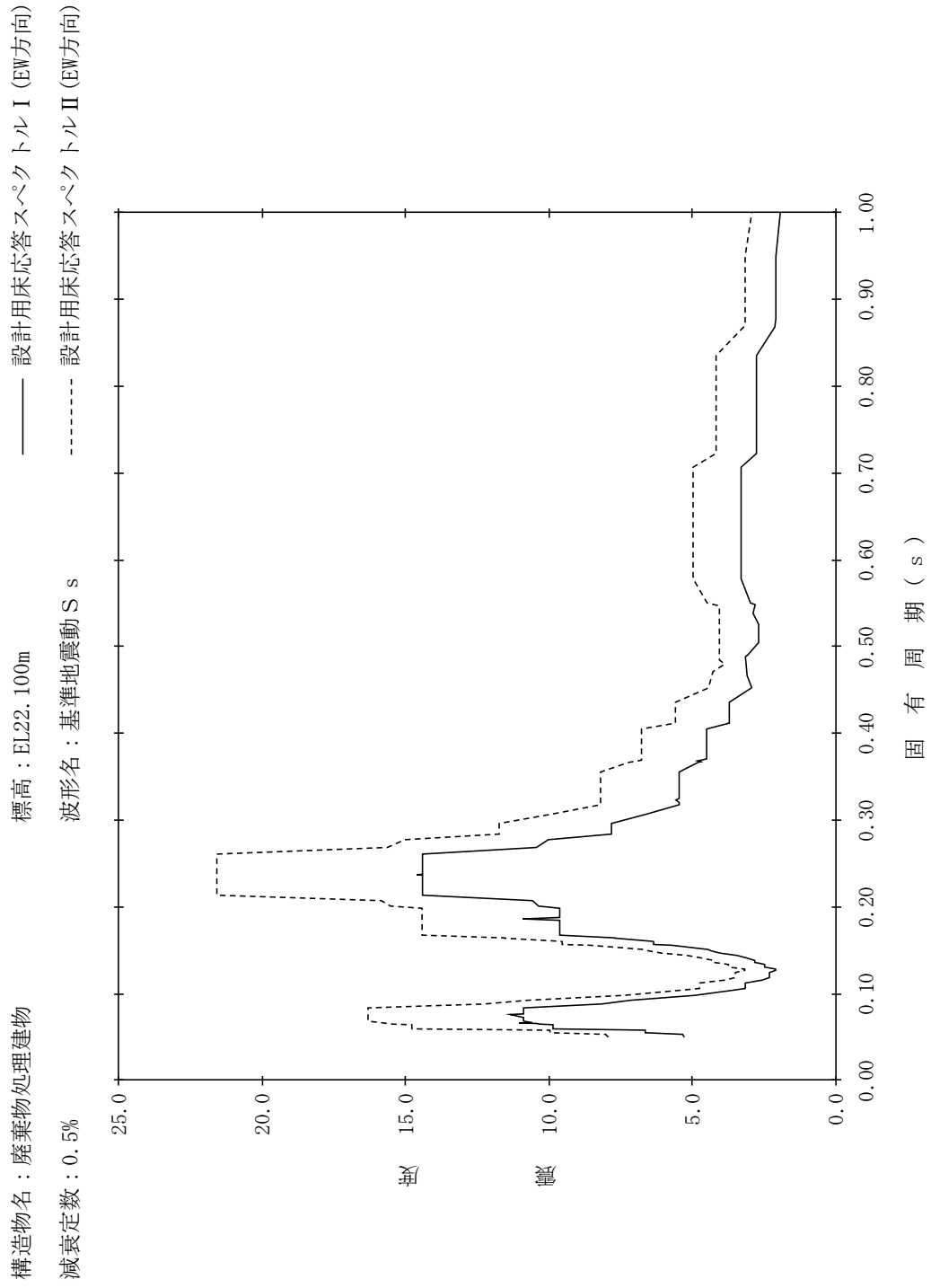
構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL26.700m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-RwB-SsEW-RwB32】

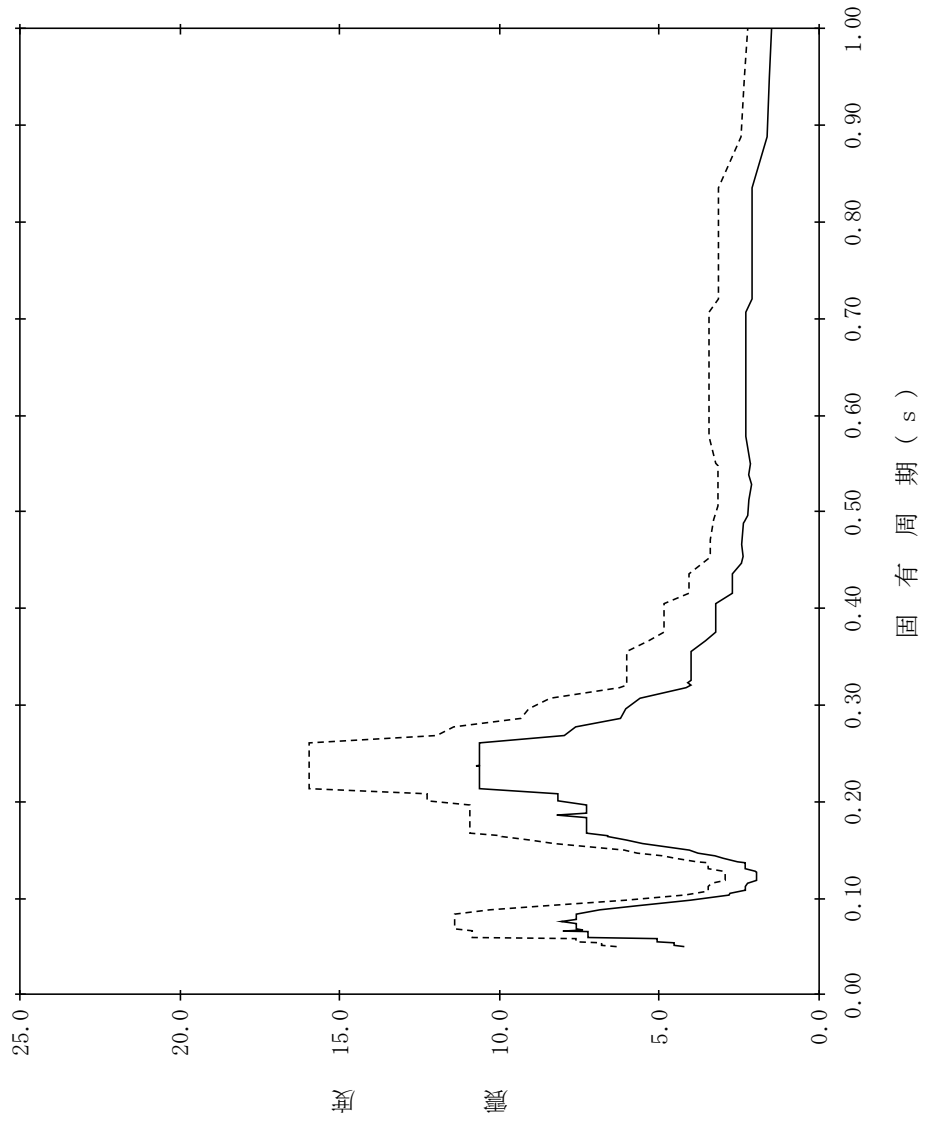


【NS2-RwB-SsEW-RwB33】



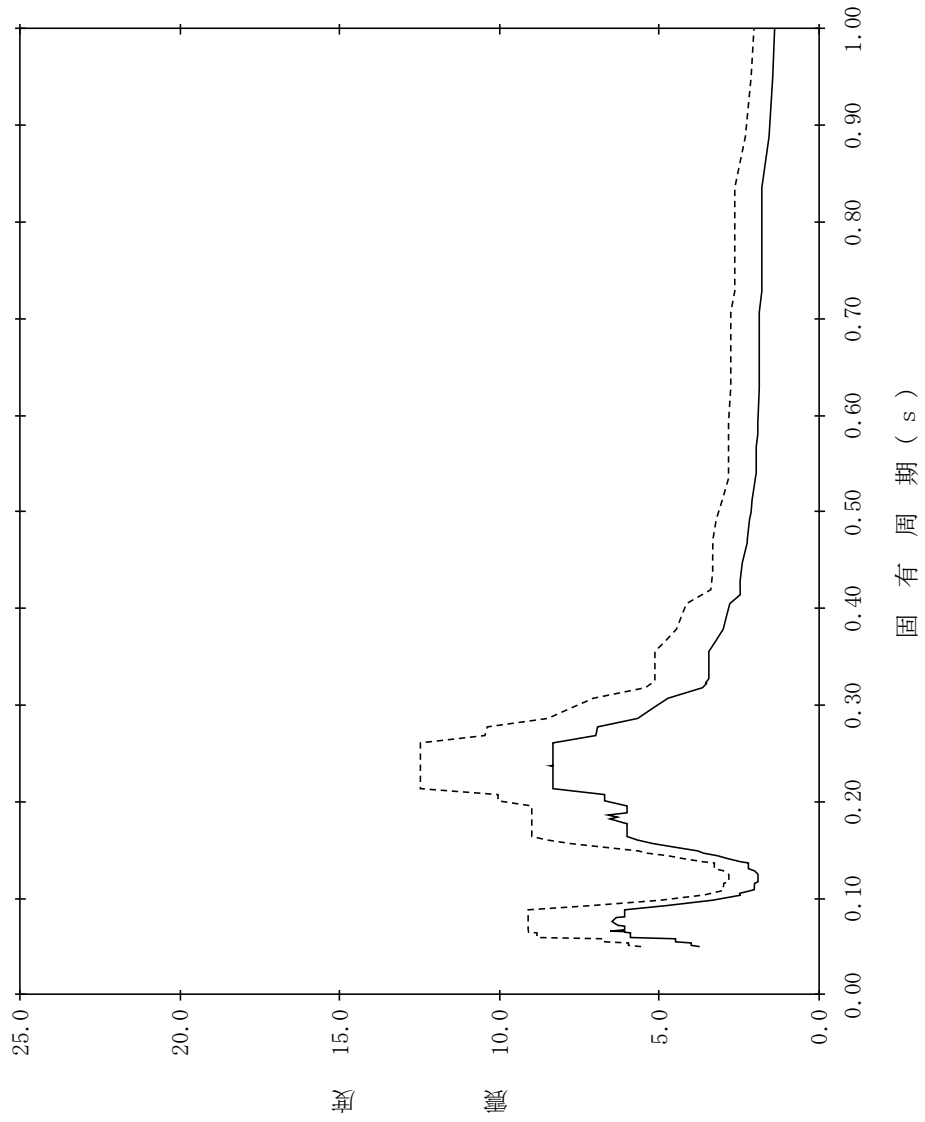
【NS2-RwB-SsEW-RwB34】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

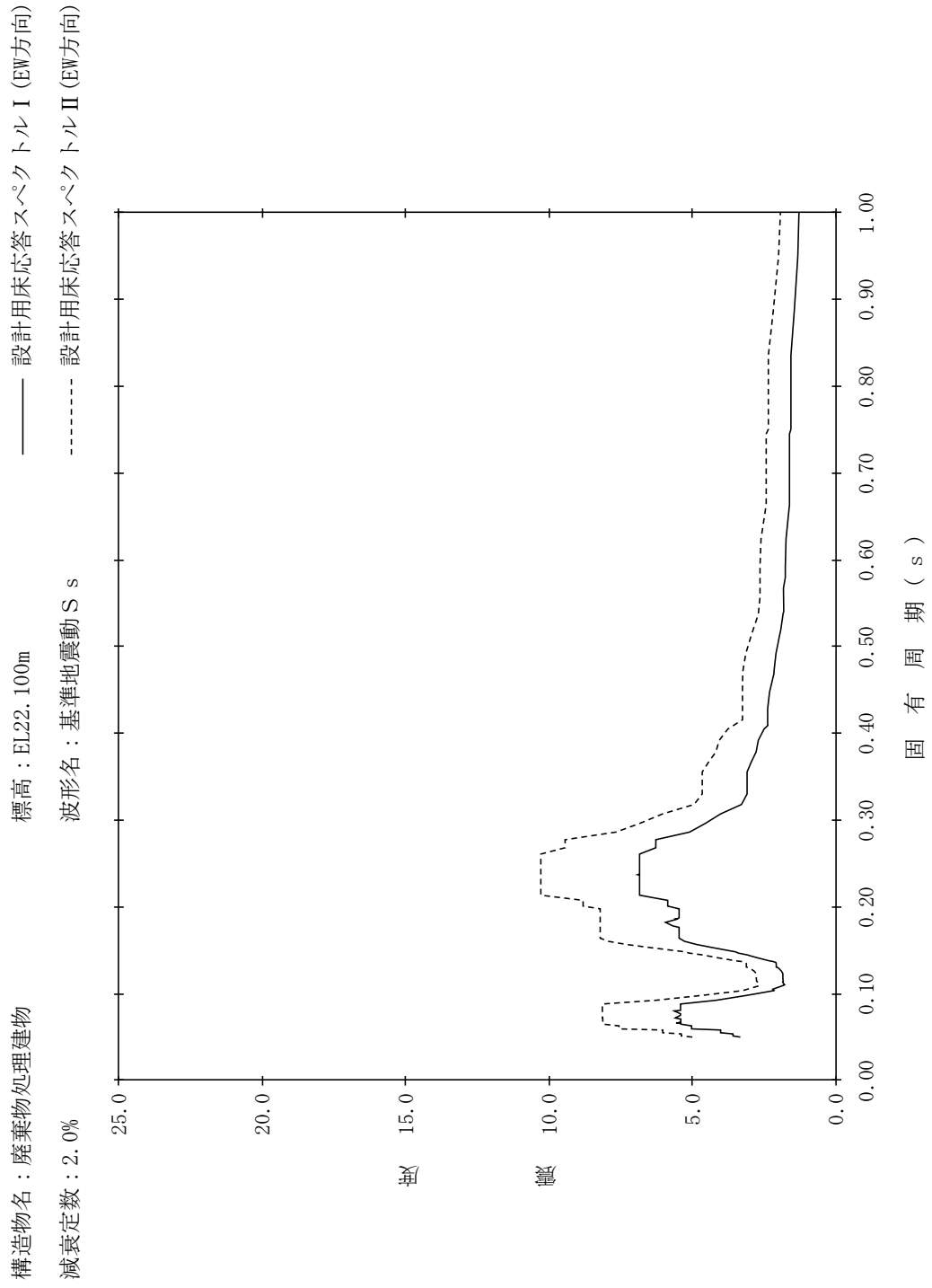


【NS2-RwB-SsEW-RwB35】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



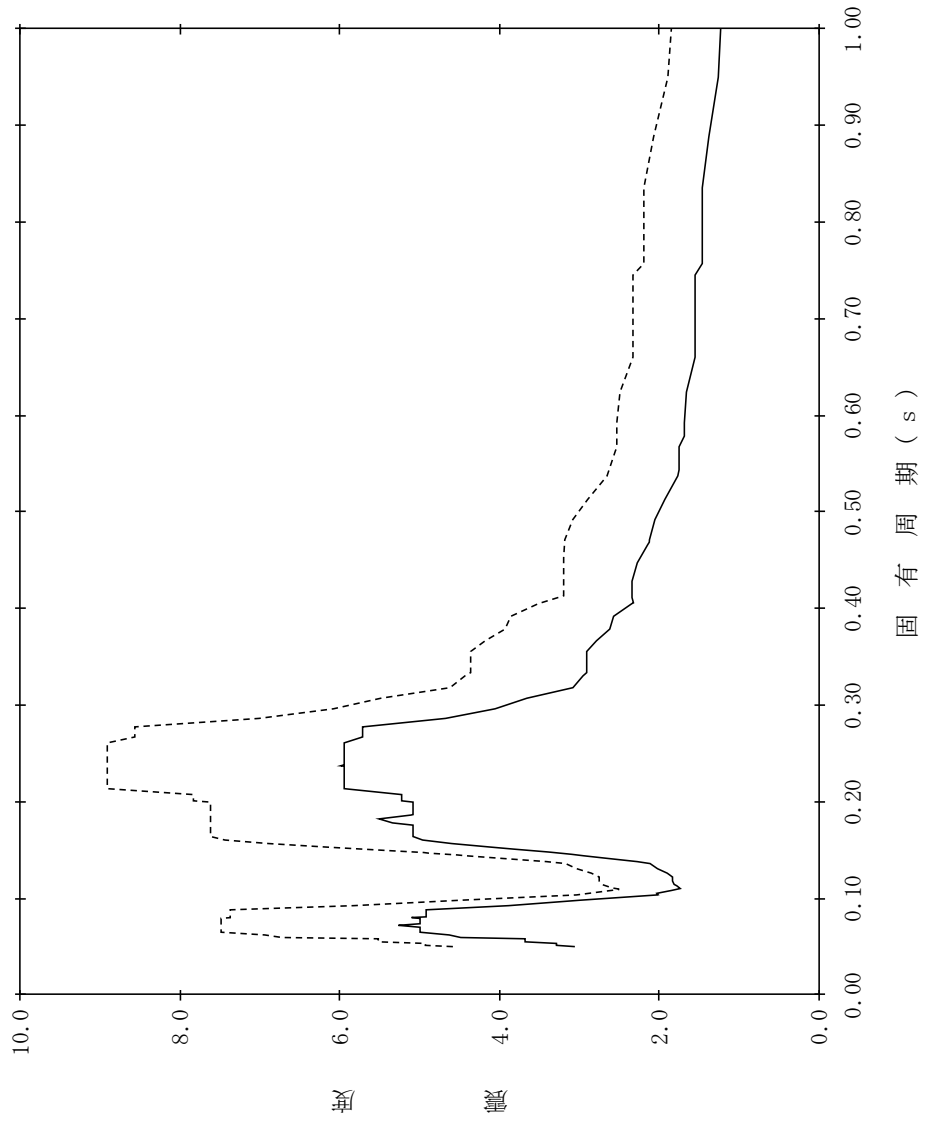
【NS2-RwB-SsEW-RwB36】



【NS2-RwB-SsEW-RwB37】

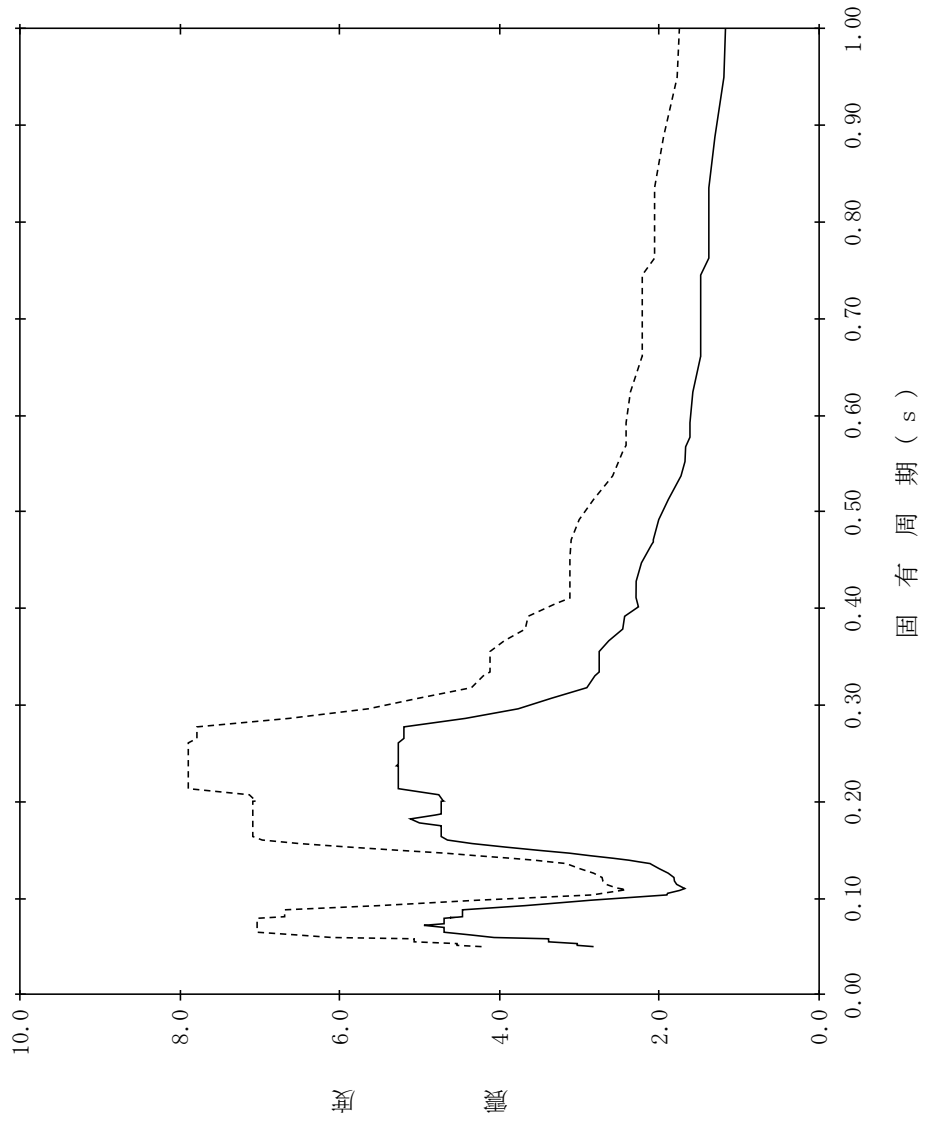
構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL22.100m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



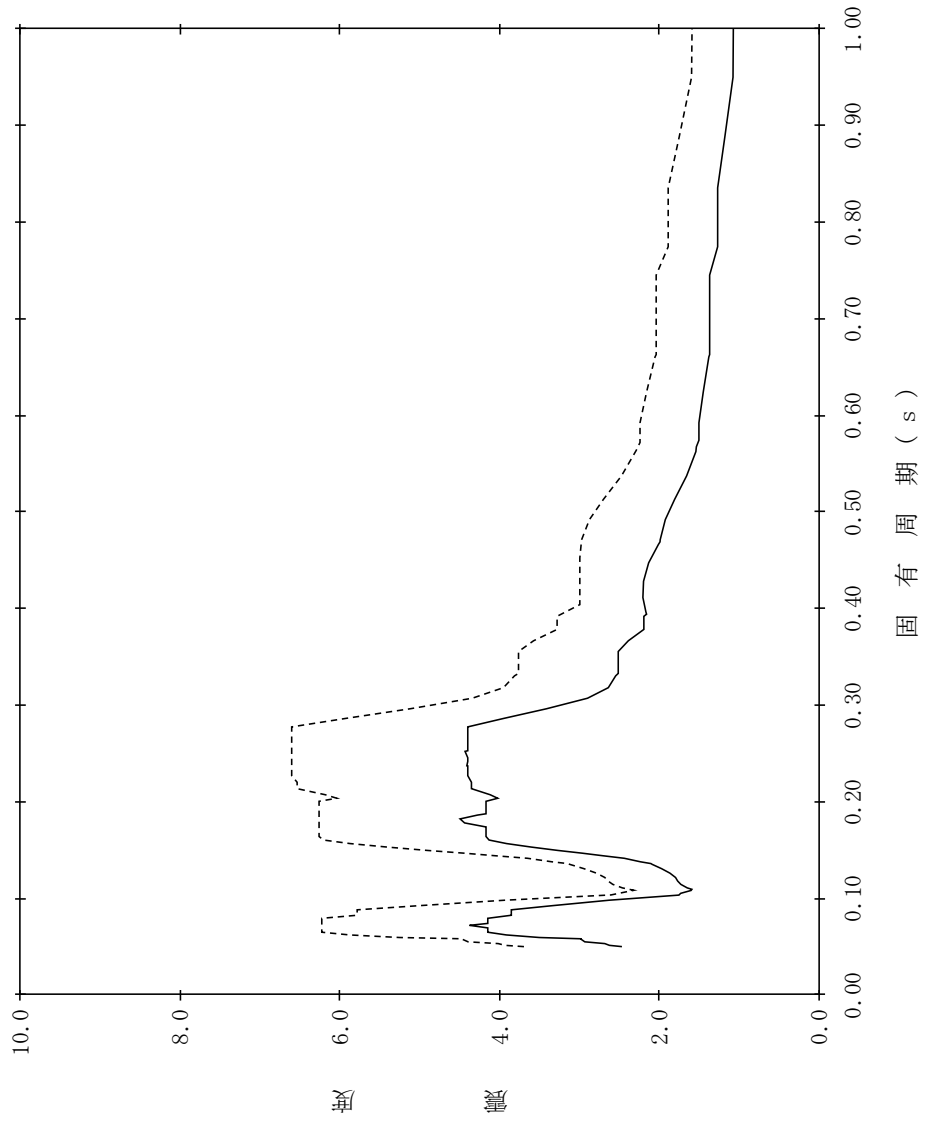
【NS2-RwB-SsEW-RwB38】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



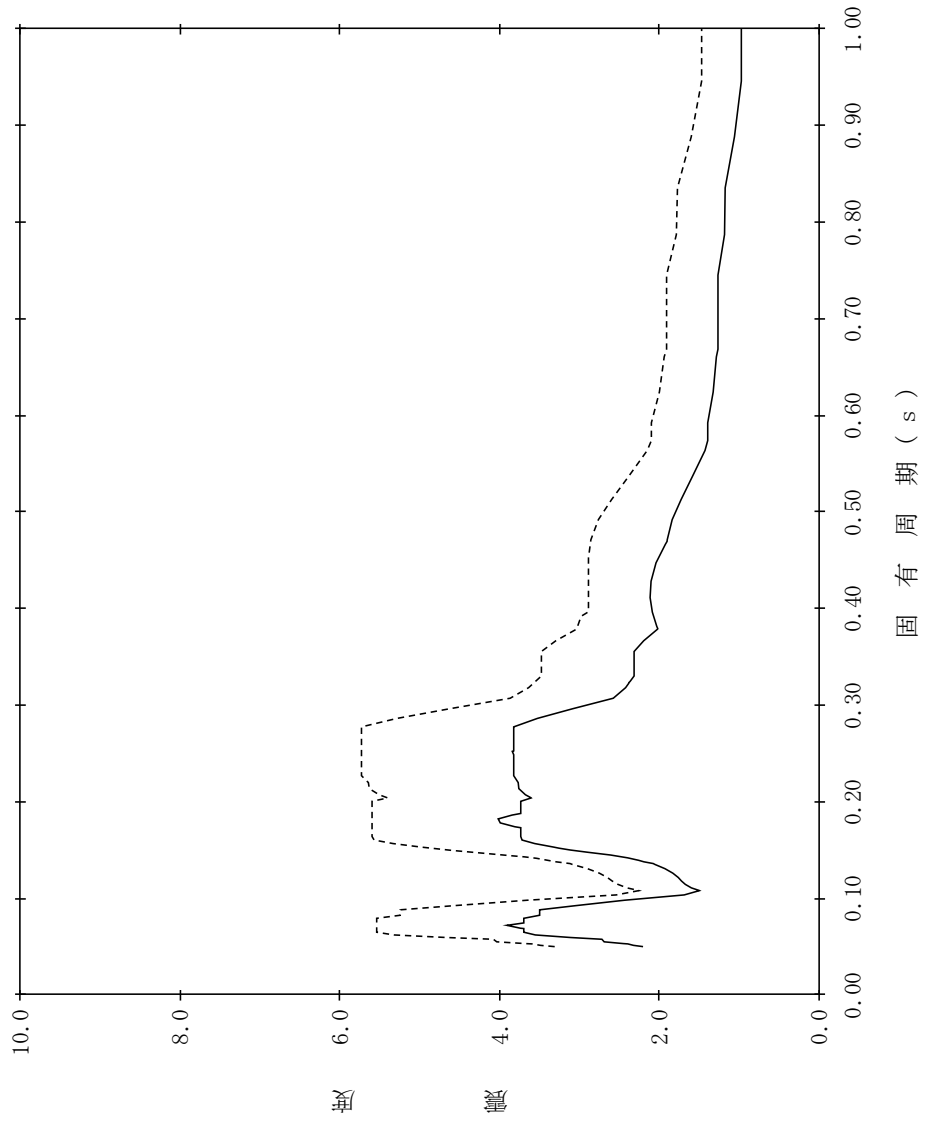
【NS2-RwB-SsEW-RwB39】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL22.100m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



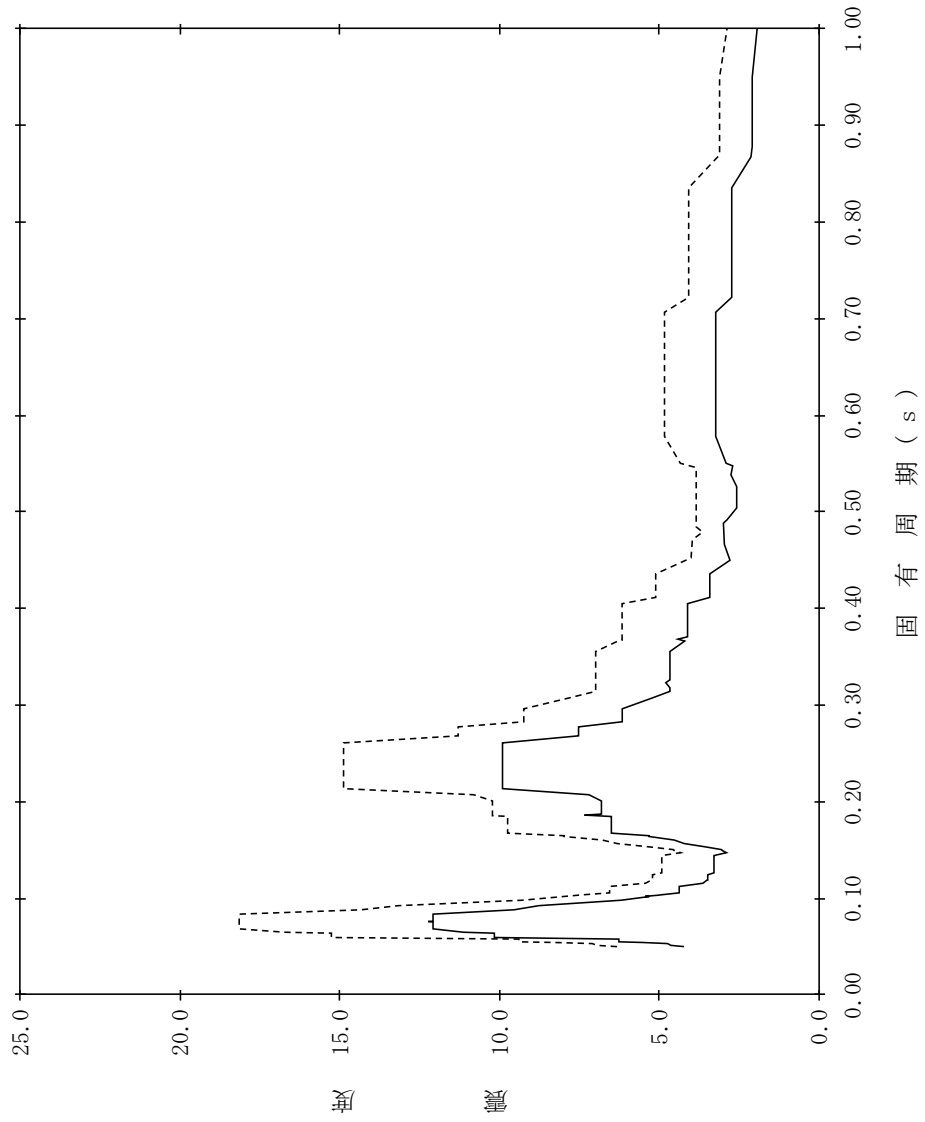
【NS2-RwB-SsEW-RwB40】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



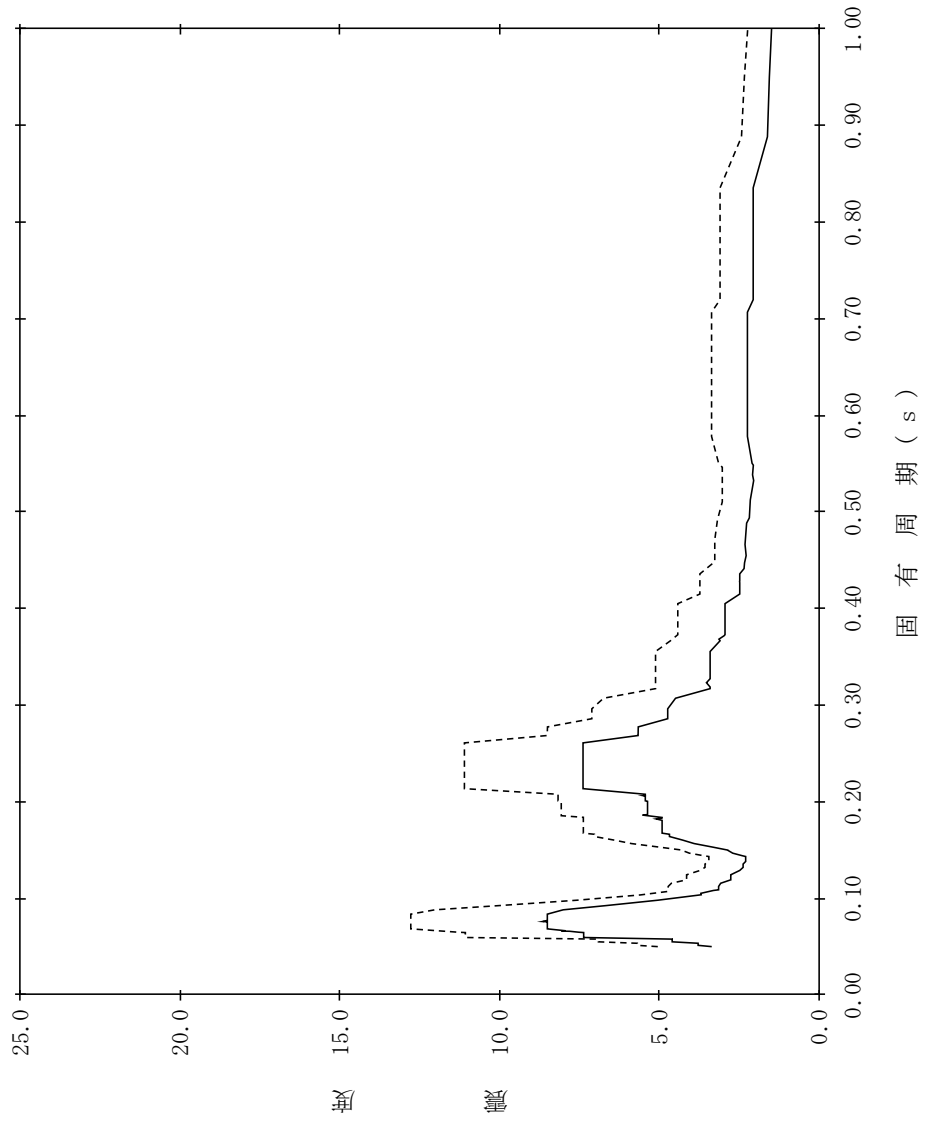
【NS2-RwB-SsEW-RwB41】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



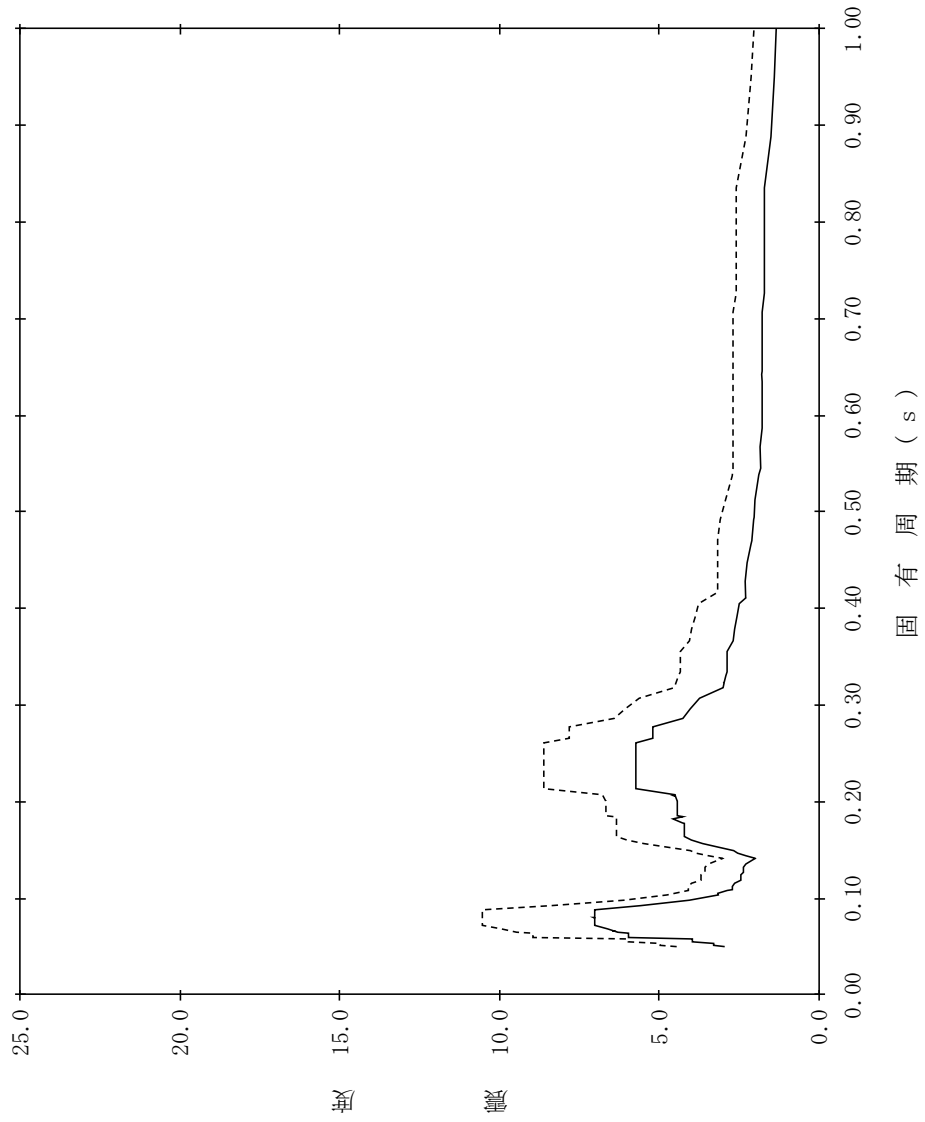
【NS2-RwB-SsEW-RwB42】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



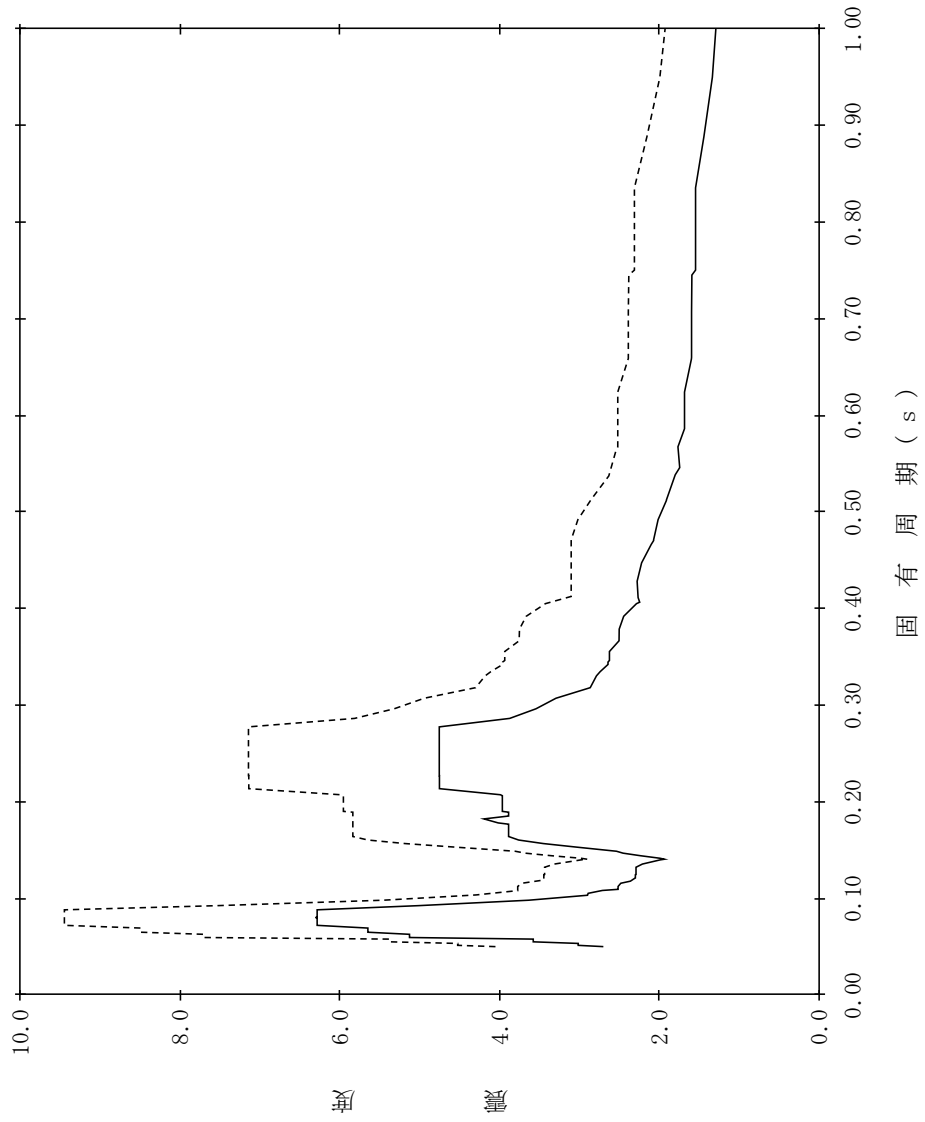
【NS2-RwB-SsEW-RwB43】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



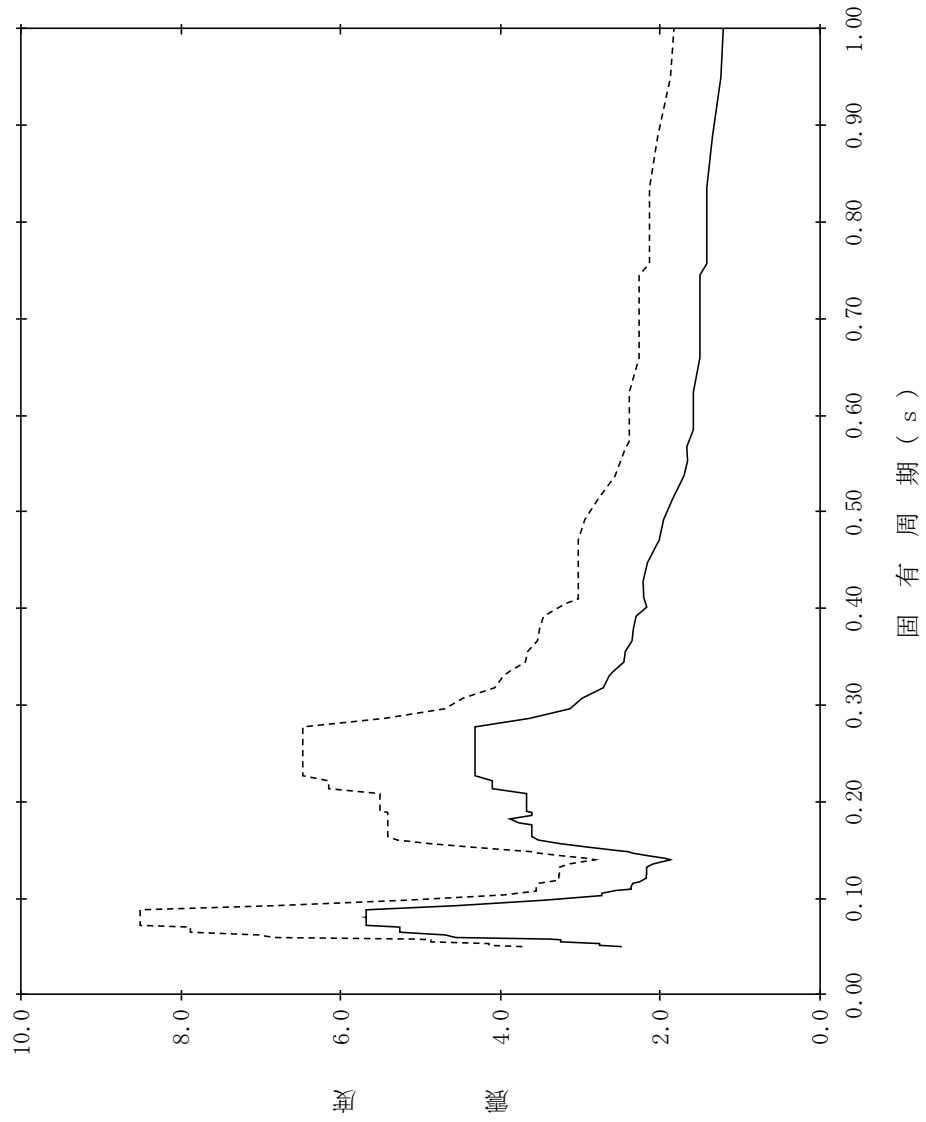
【NS2-RwB-SsEW-RwB44】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



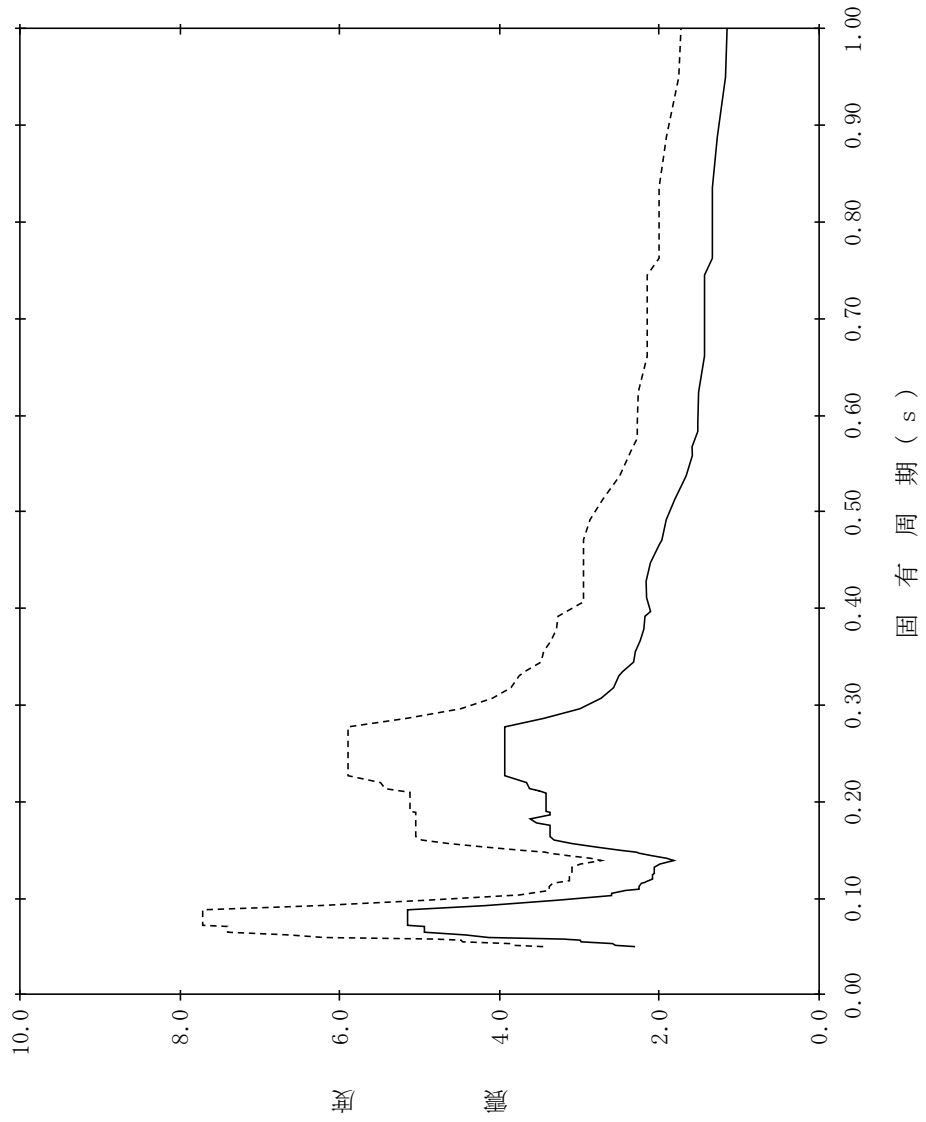
【NS2-RwB-SsEW-RwB45】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL16.900m
減衰定数：2.5%
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



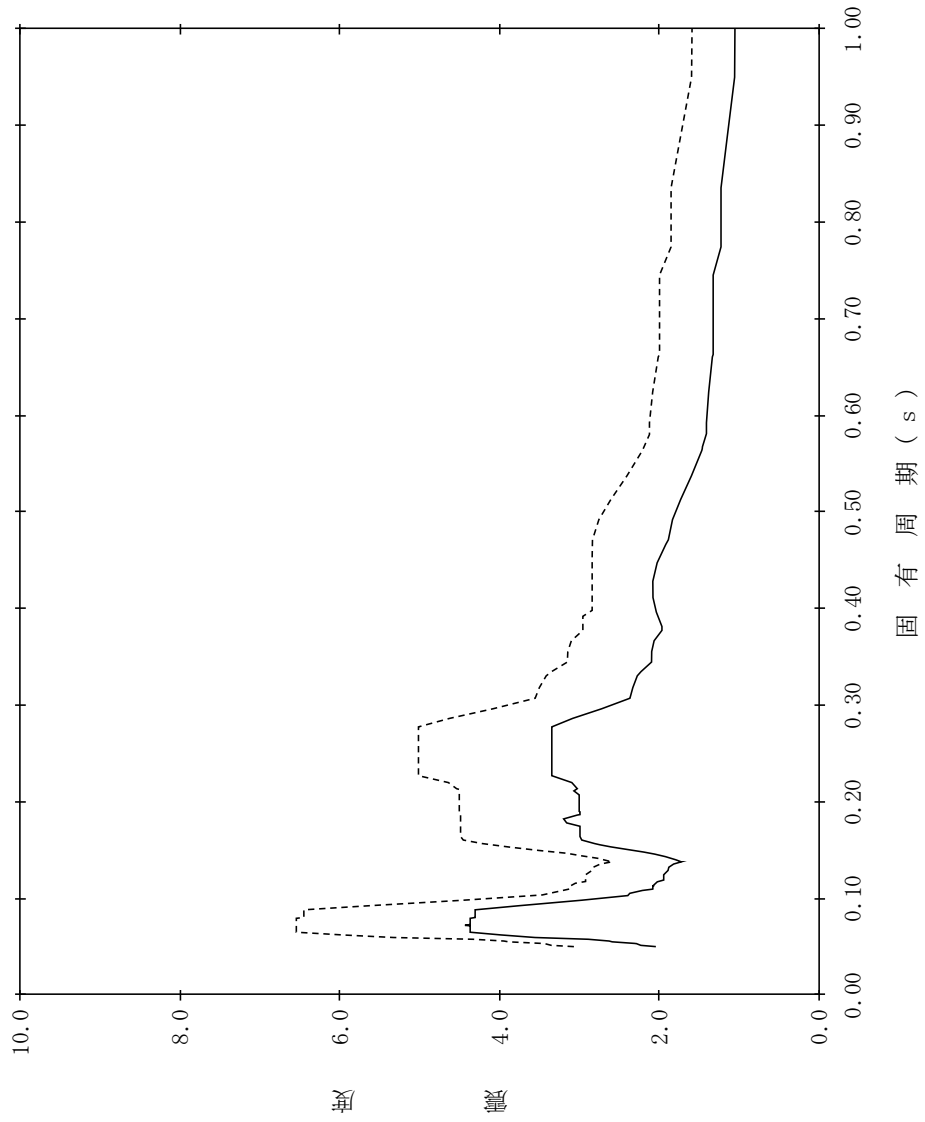
【NS2-RwB-SsEW-RwB46】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL16.900m
減衰定数：3.0%
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



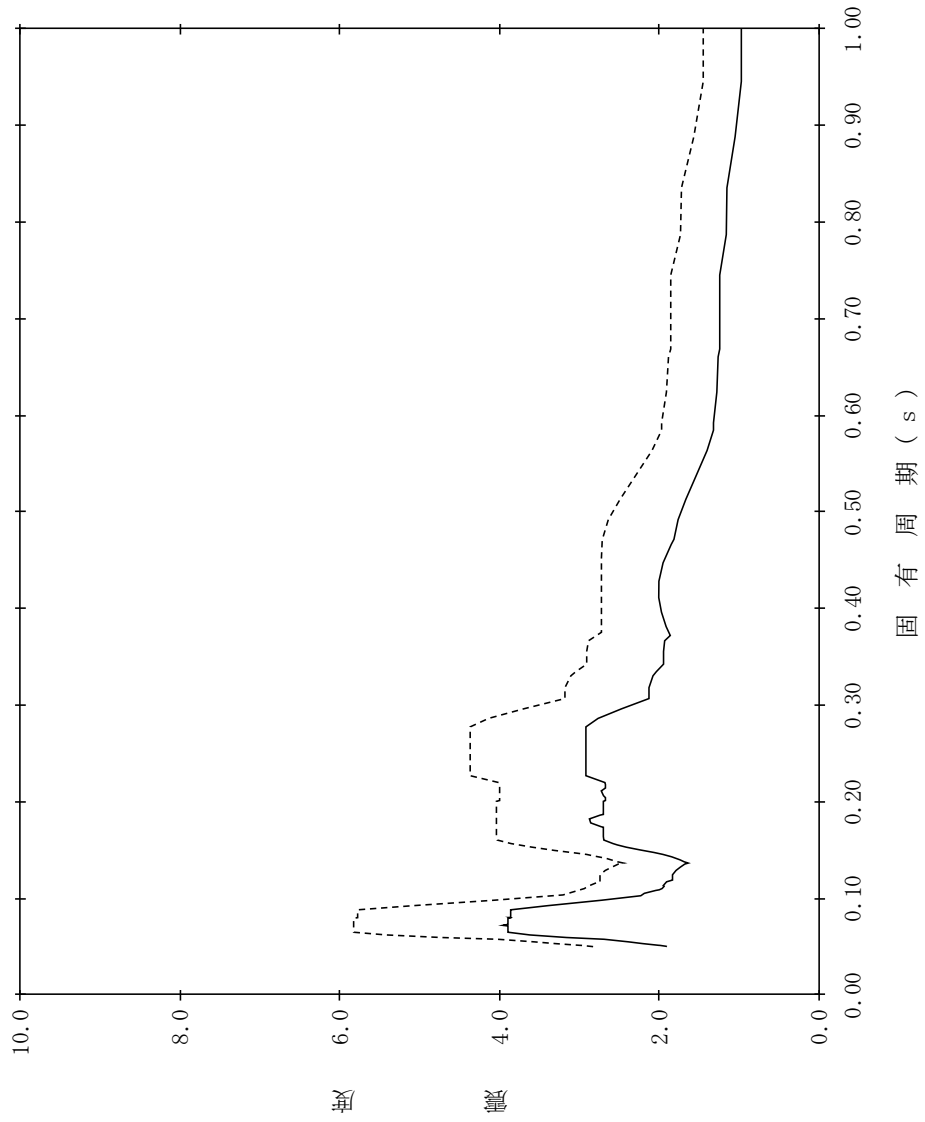
【NS2-RwB-SsEW-RwB47】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL16.900m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



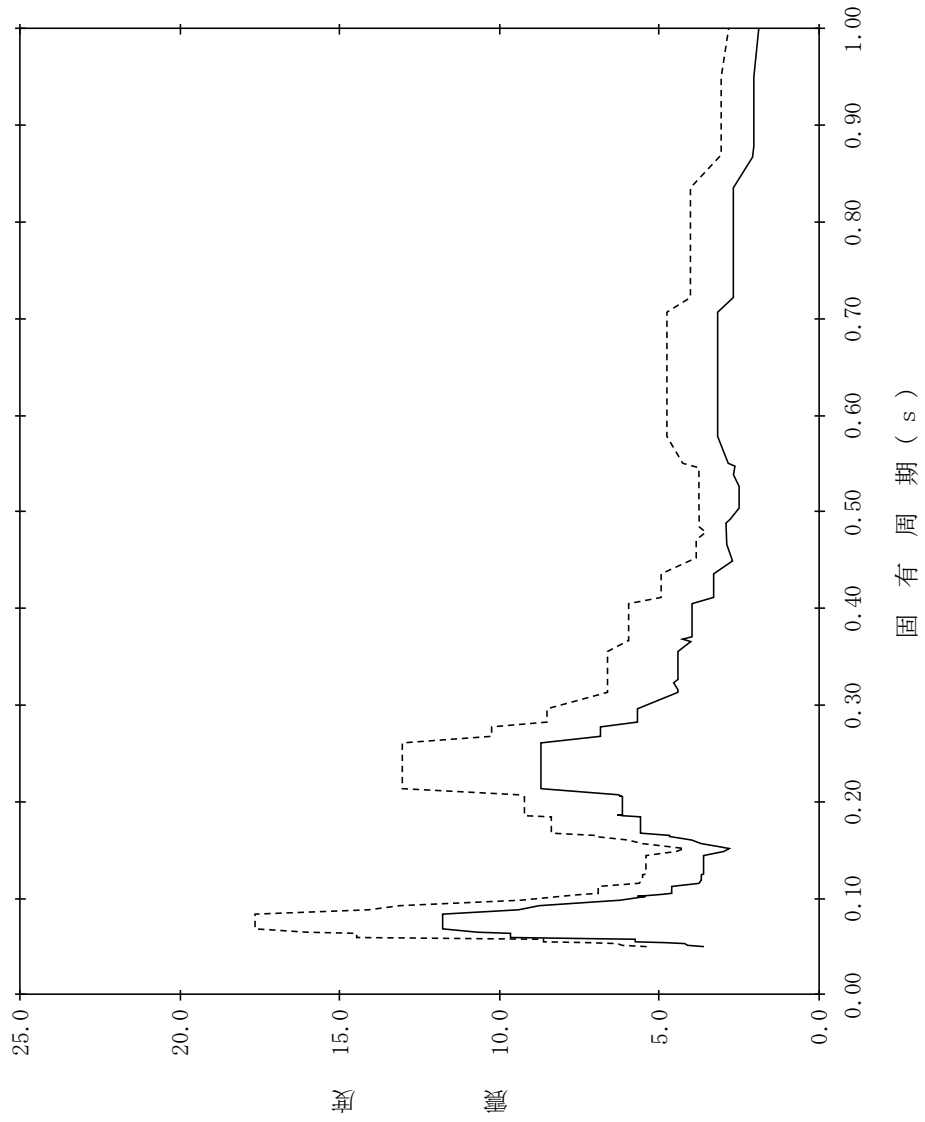
【NS2-RwB-SsEW-RwB48】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL16.900m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



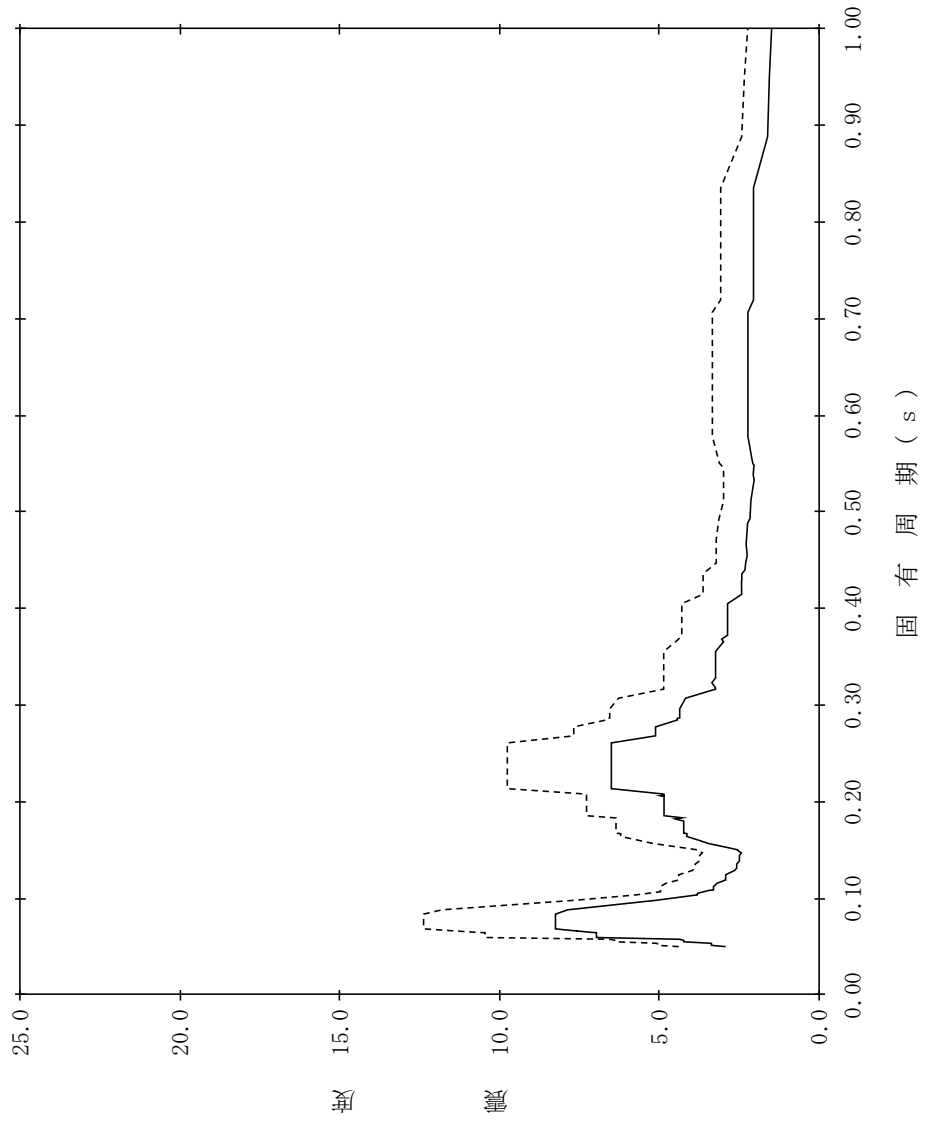
【NS2-RwB-SsEW-RwB49】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



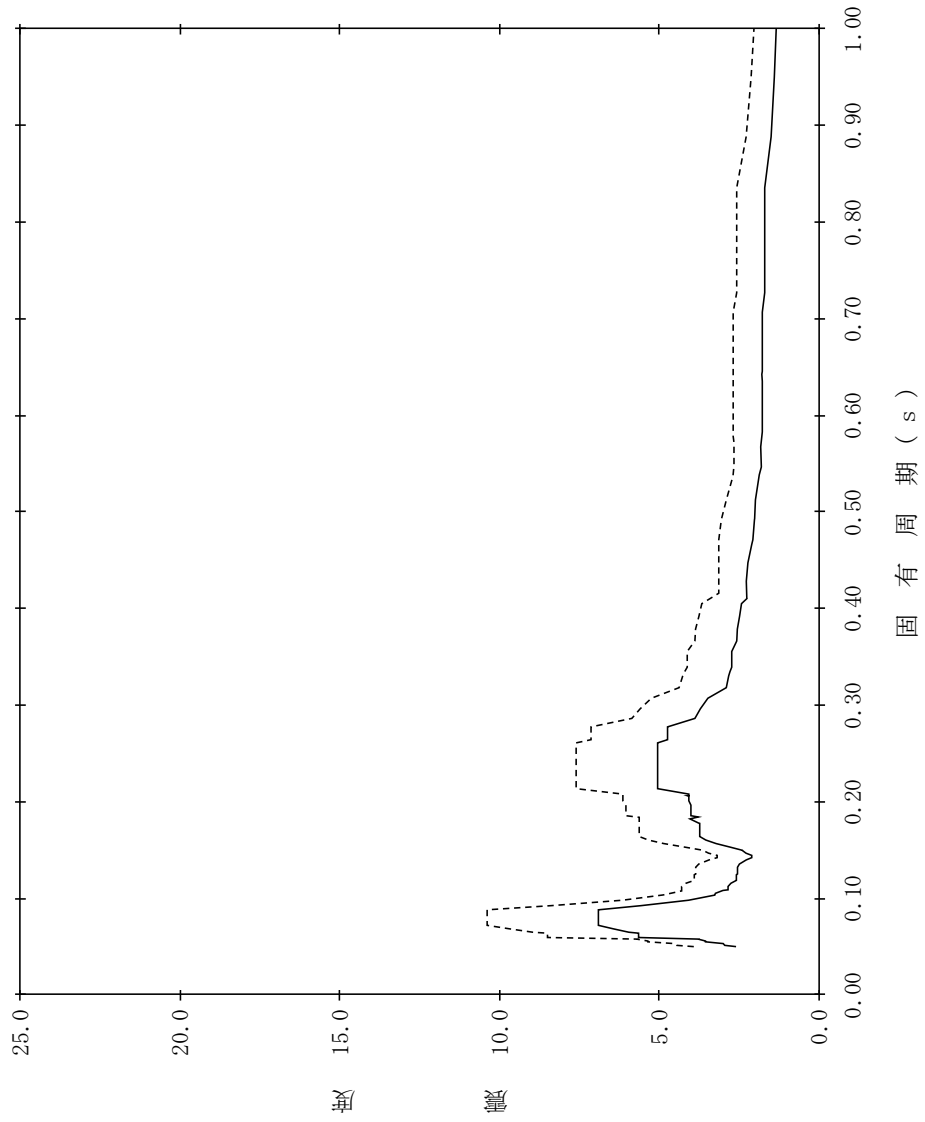
【NS2-RwB-SsEW-RwB50】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



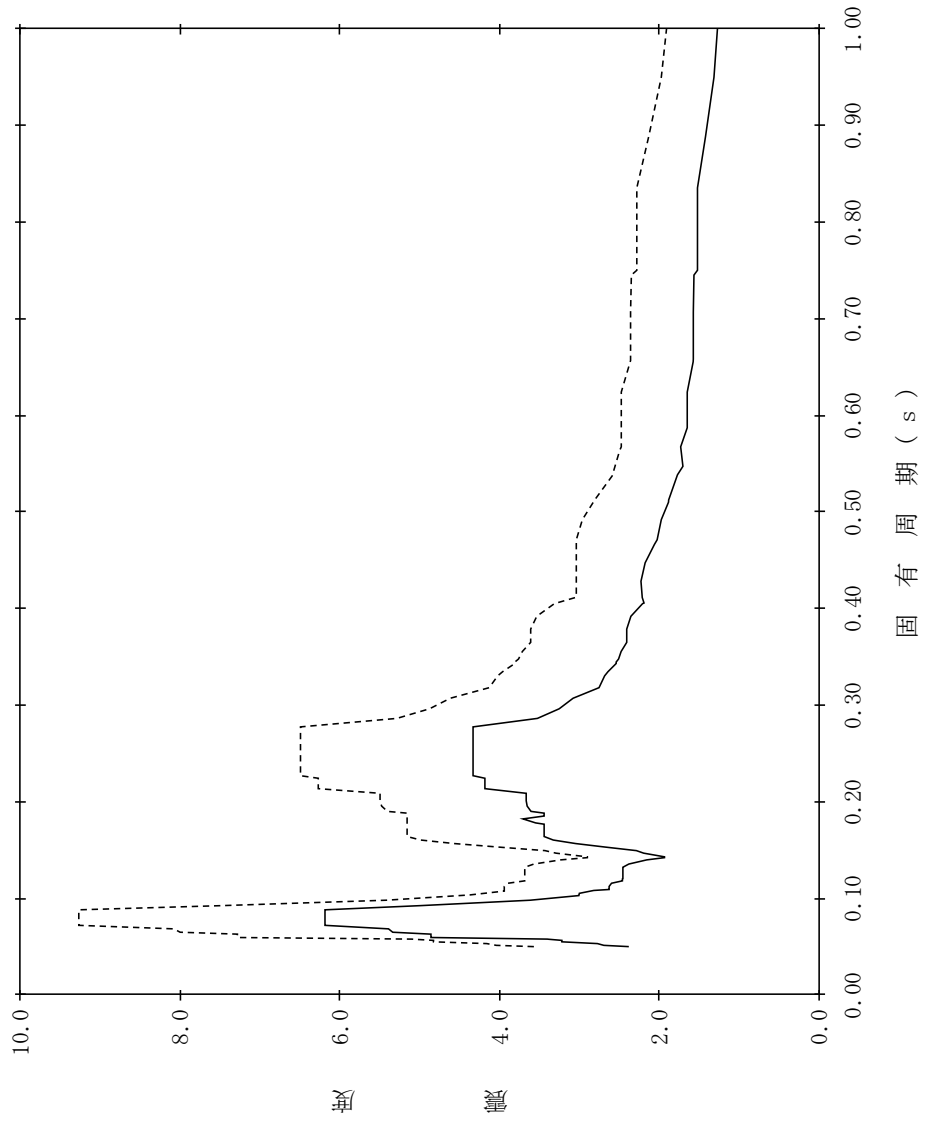
【NS2-RwB-SsEW-RwB51】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL15.300m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



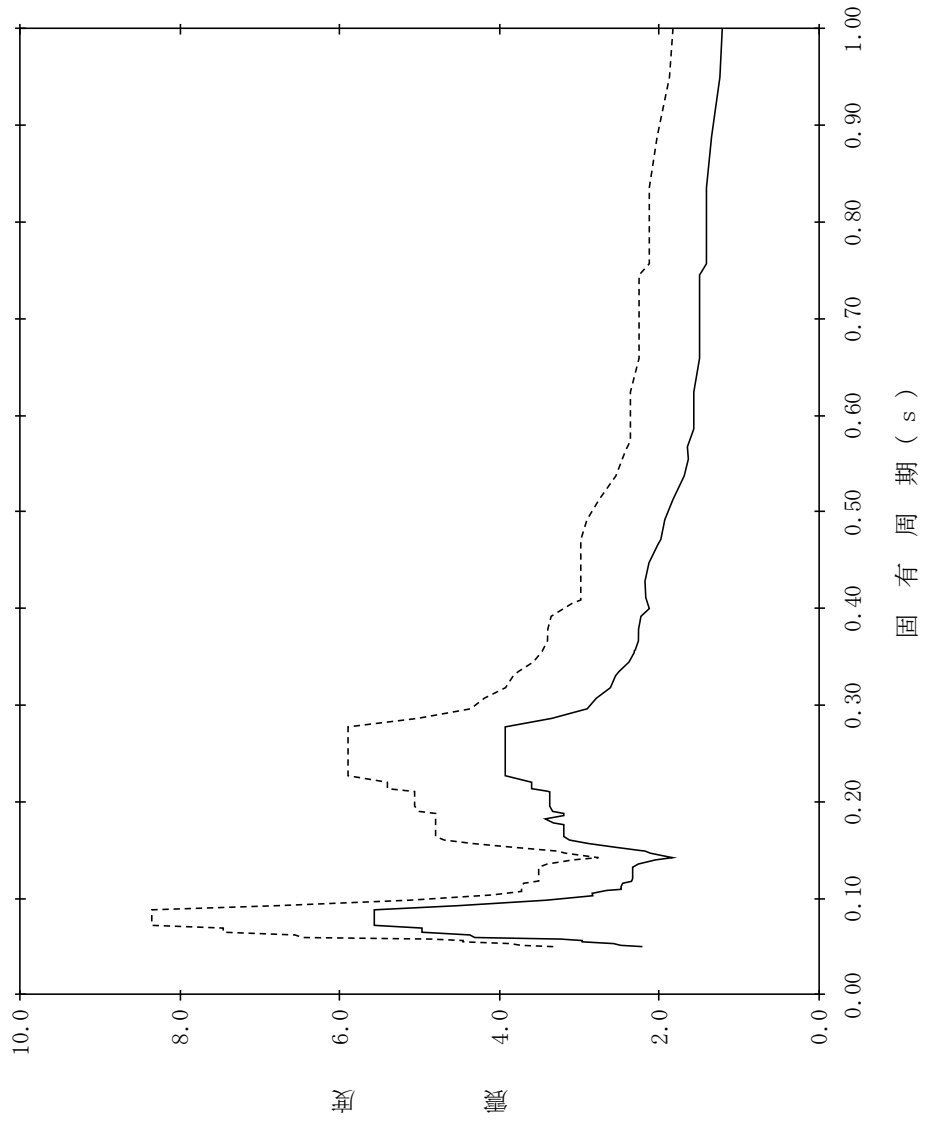
【NS2-RwB-SsEW-RwB52】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



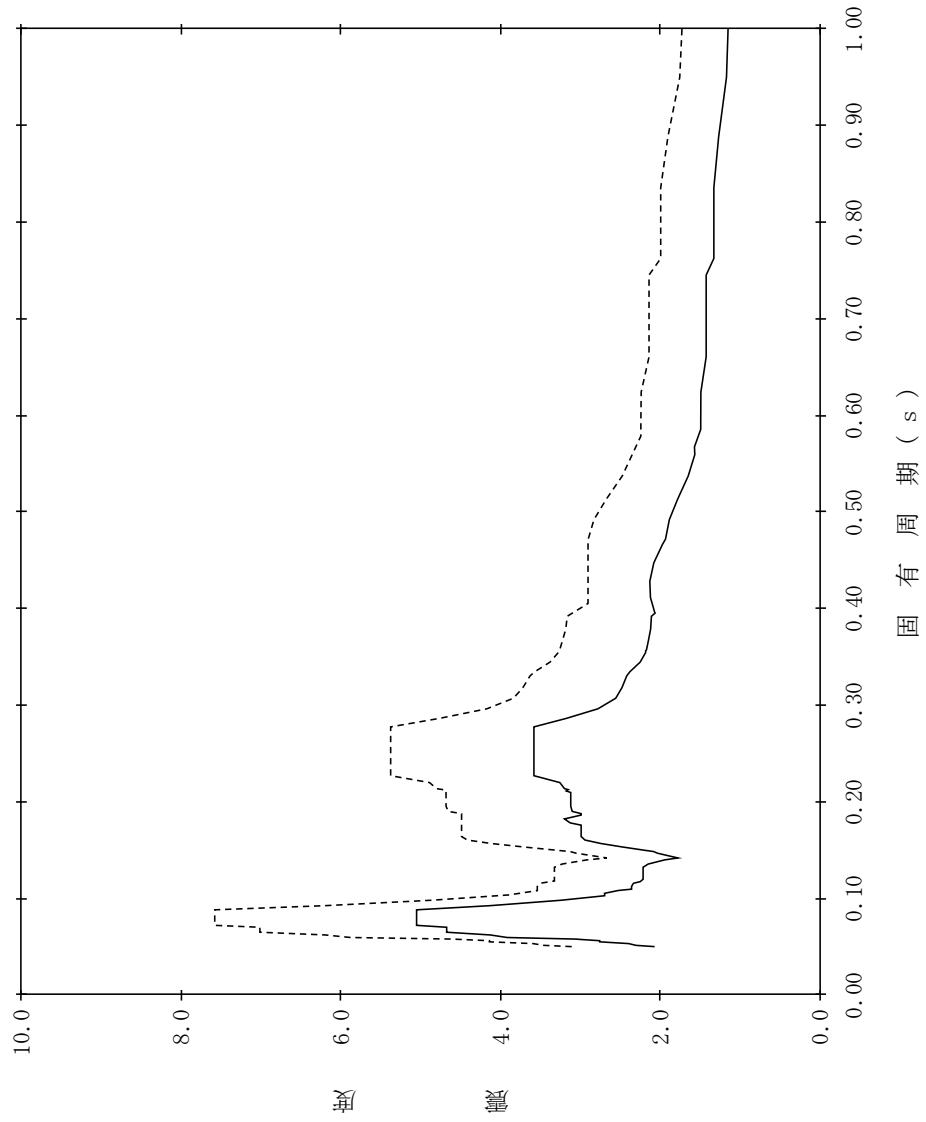
【NS2-RwB-SsEW-RwB53】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL15.300m
減衰定数：2.5%—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



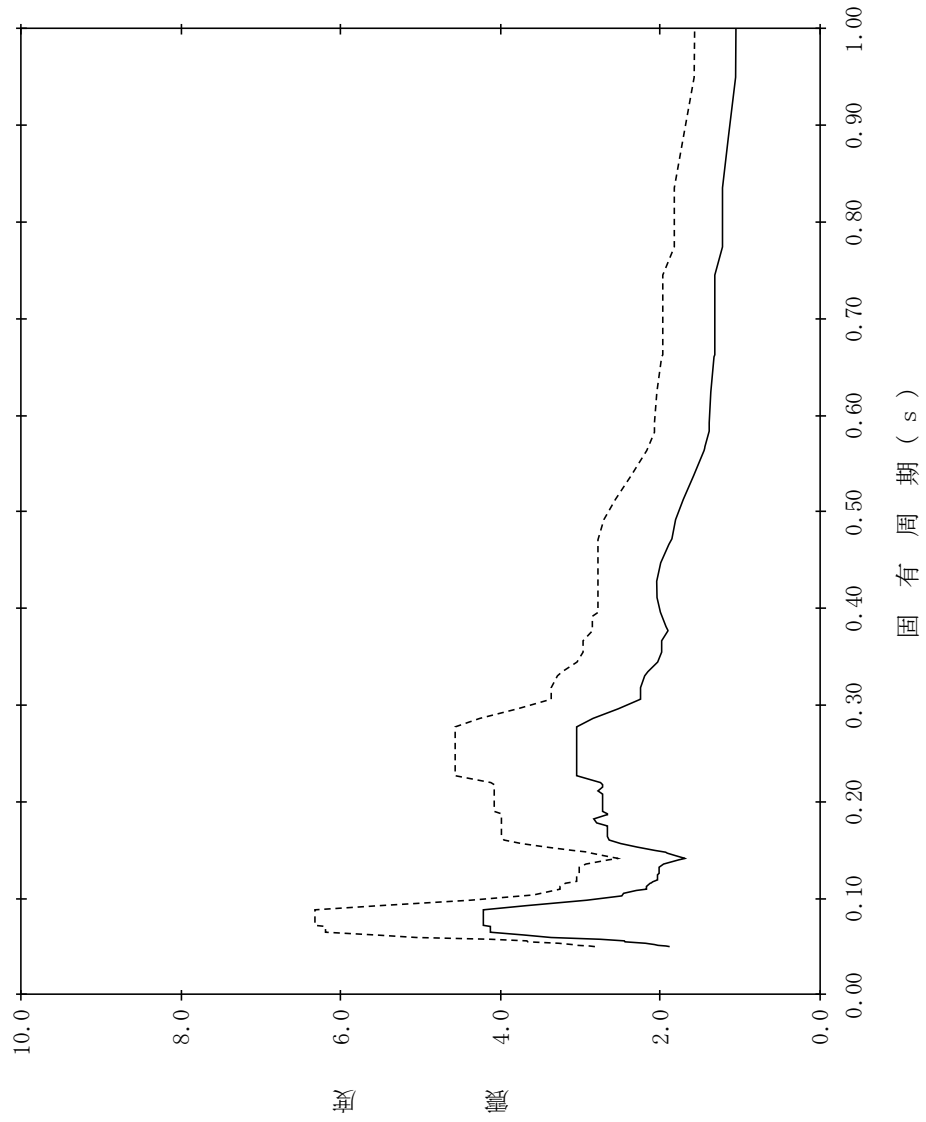
【NS2-RwB-SsEW-RwB54】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



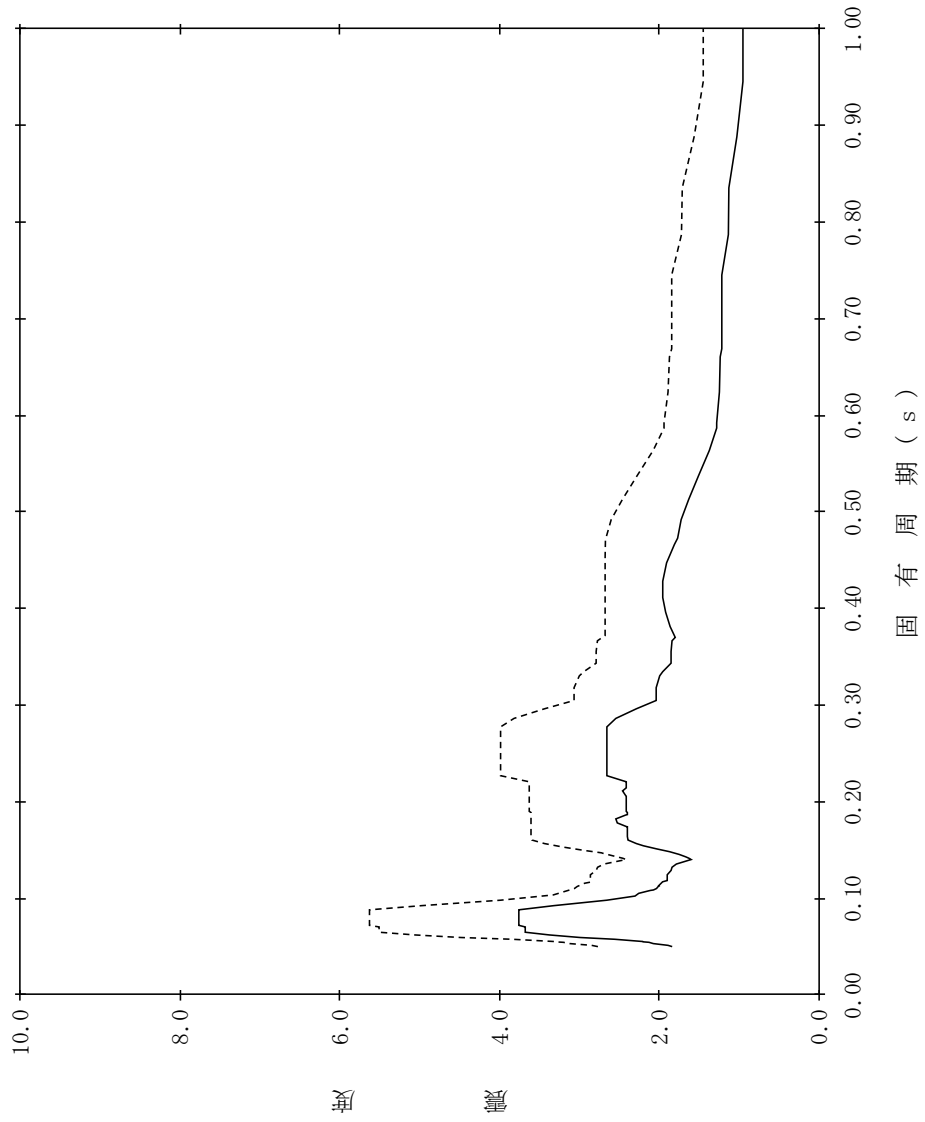
【NS2-RwB-SsEW-RwB55】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

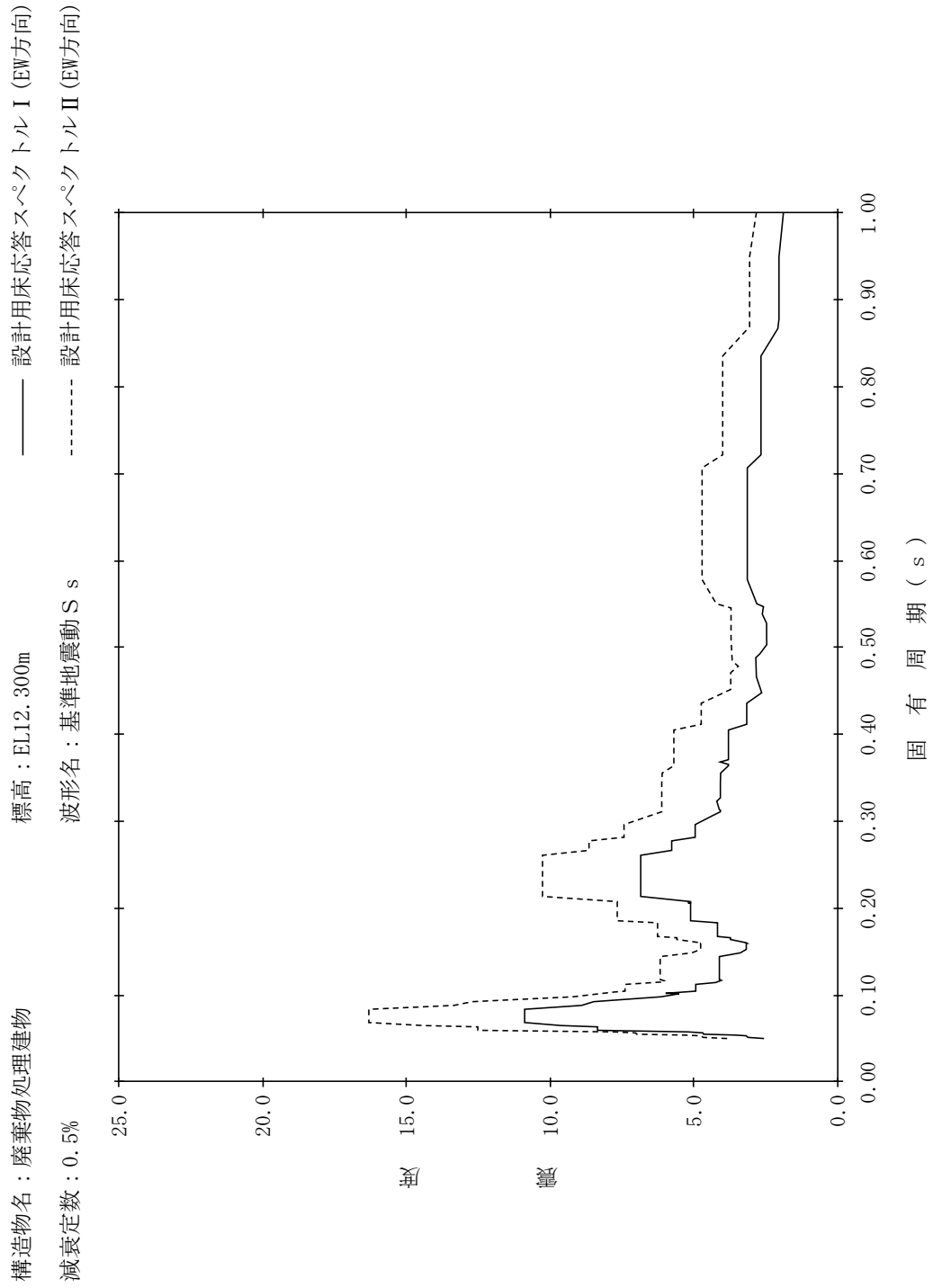


【NS2-RwB-SsEW-RwB56】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL15.300m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

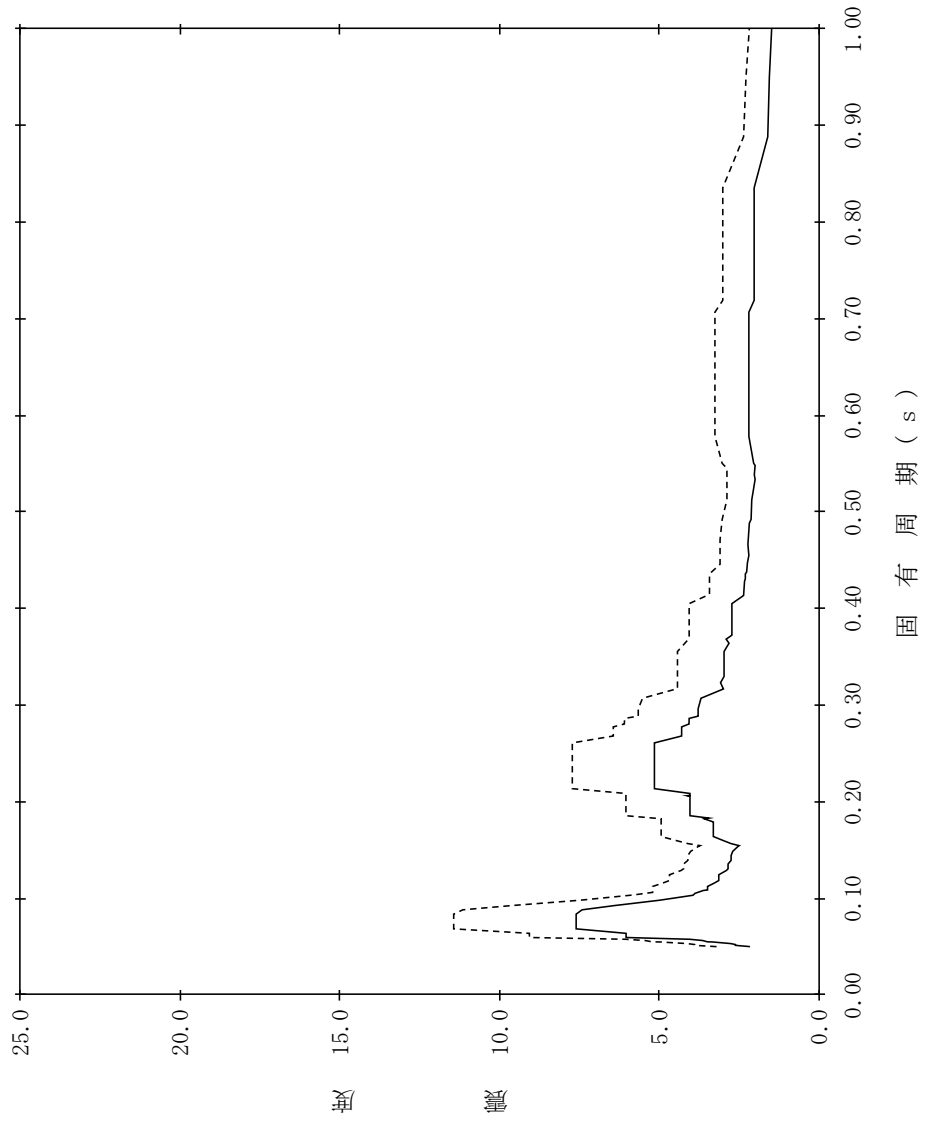


【NS2-RwB-SsEW-RwB57】



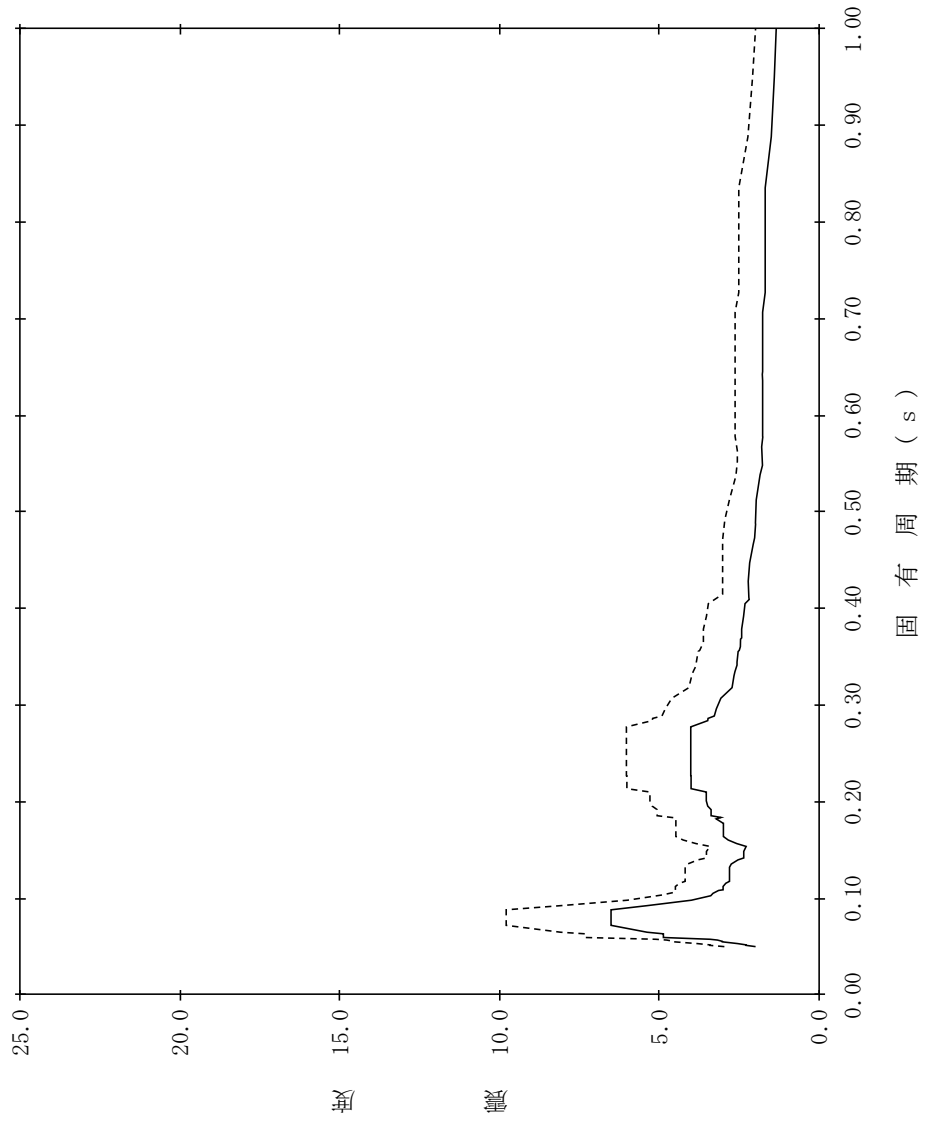
【NS2-RwB-SsEW-RwB58】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



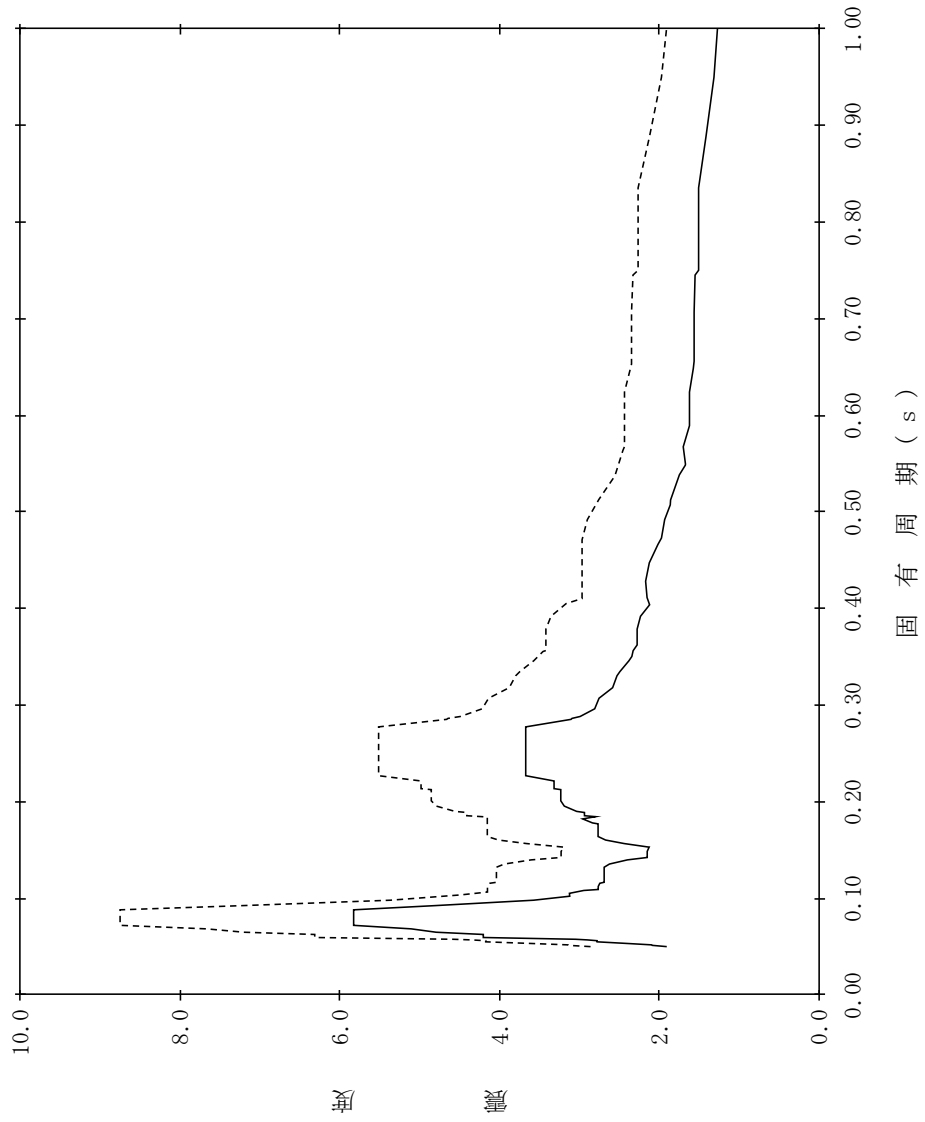
【NS2-RwB-SsEW-RwB59】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

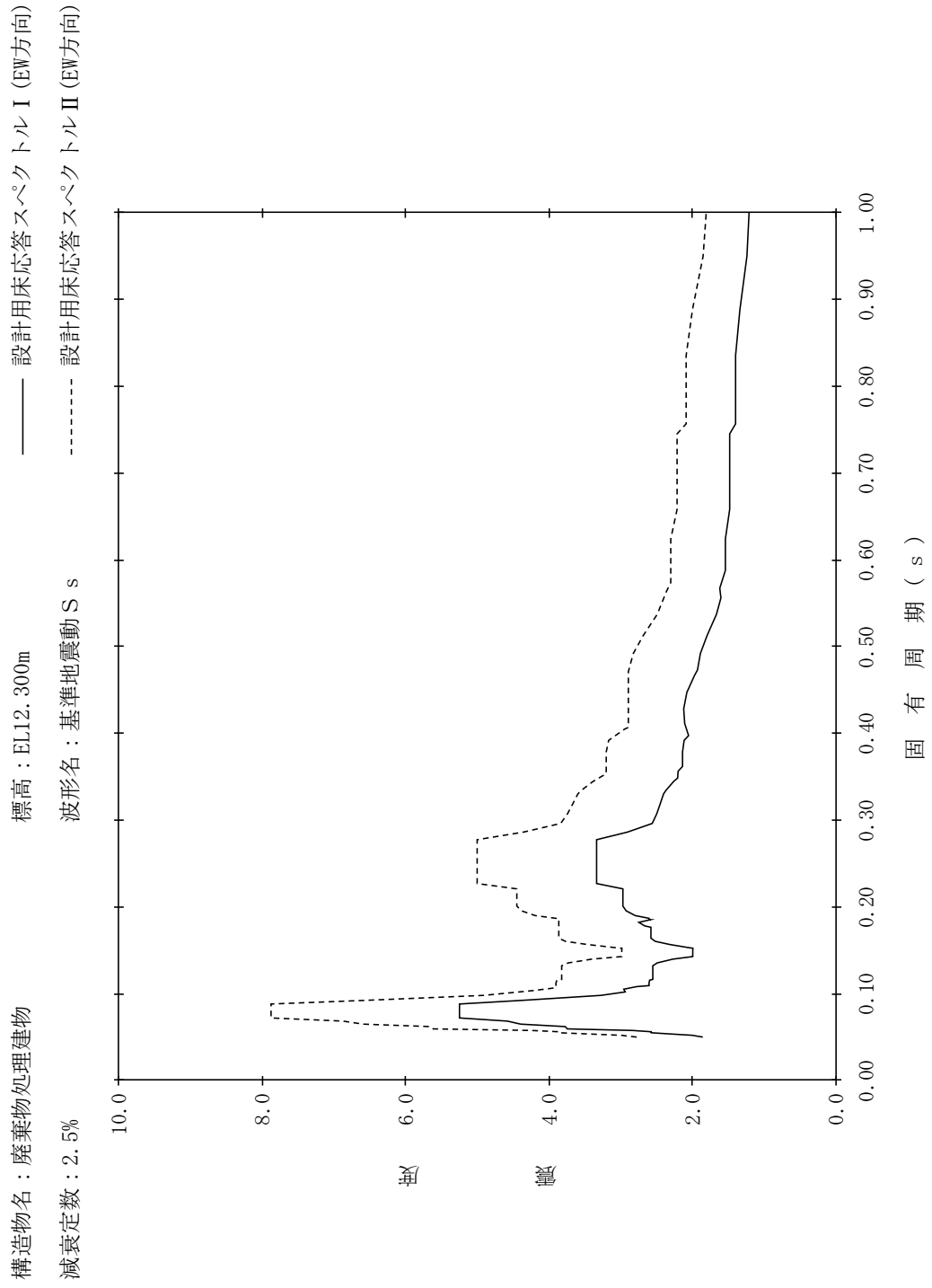


【NS2-RwB-SsEW-RwB60】

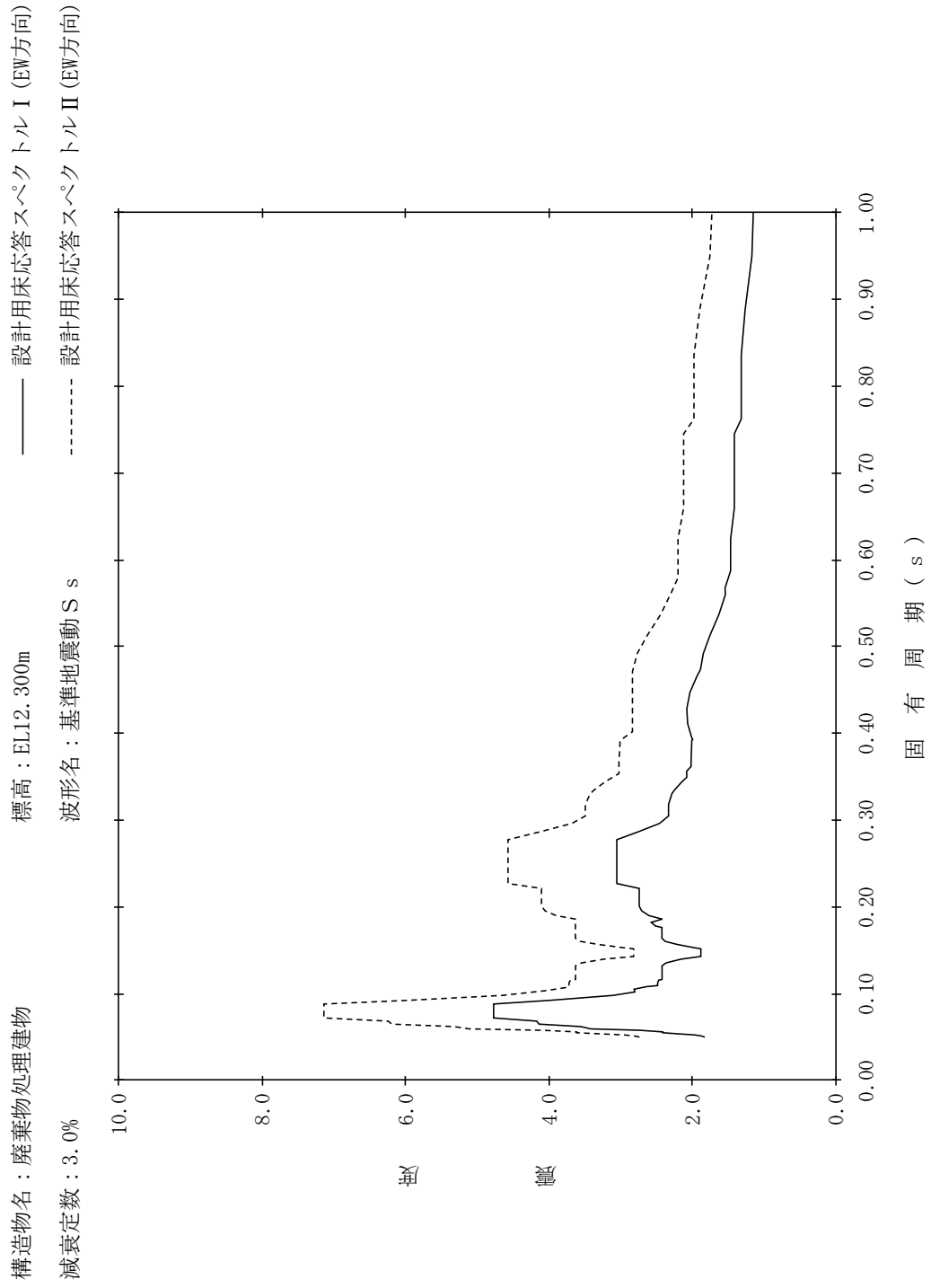
構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-RwB-SsEW-RwB61】

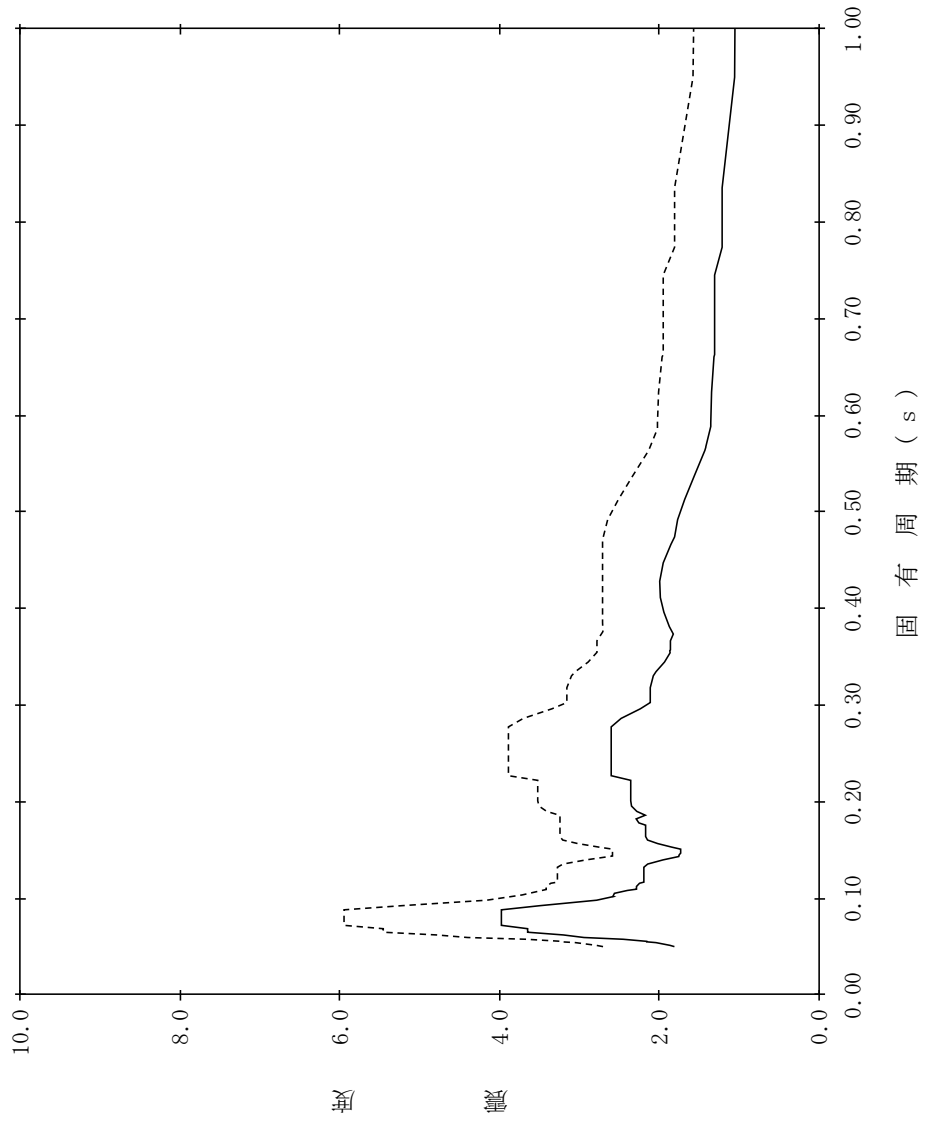


【NS2-RwB-SsEW-RwB62】



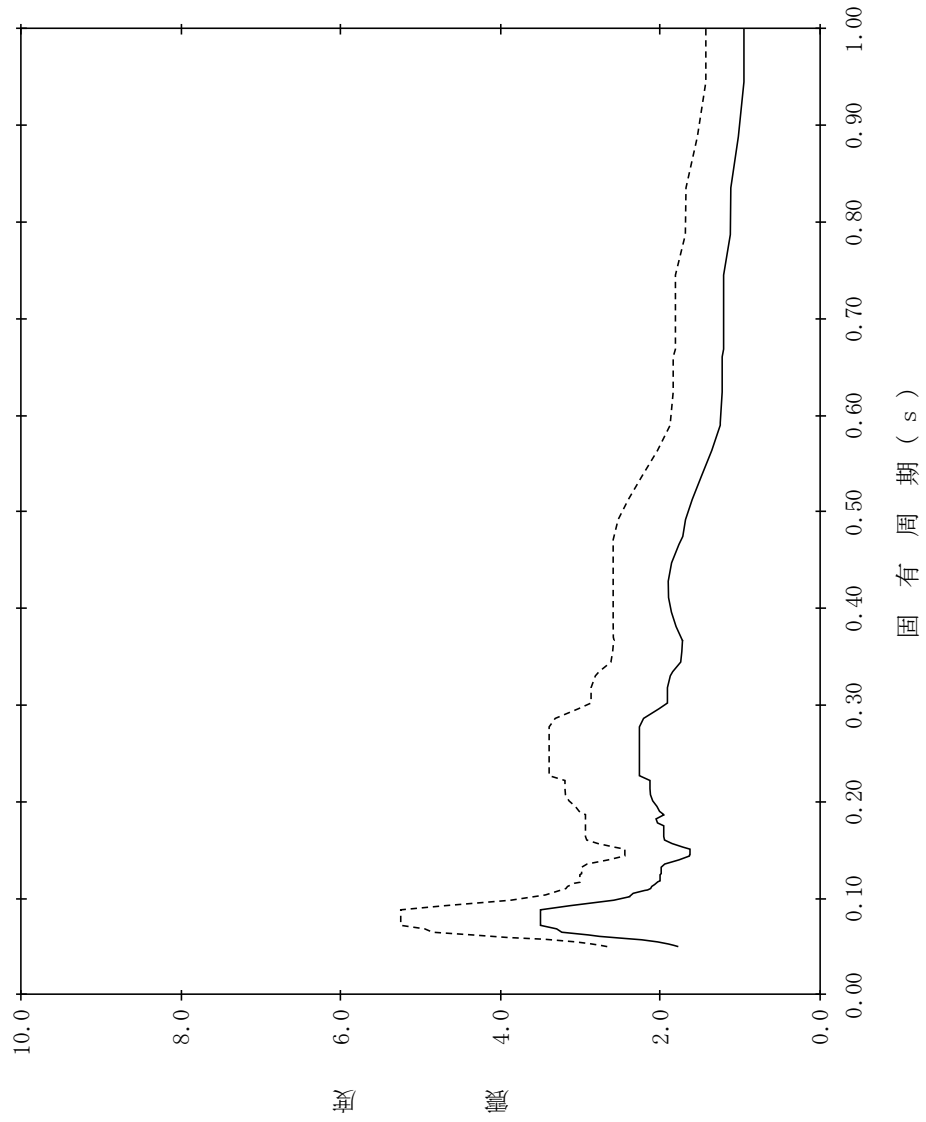
【NS2-RwB-SsEW-RwB63】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



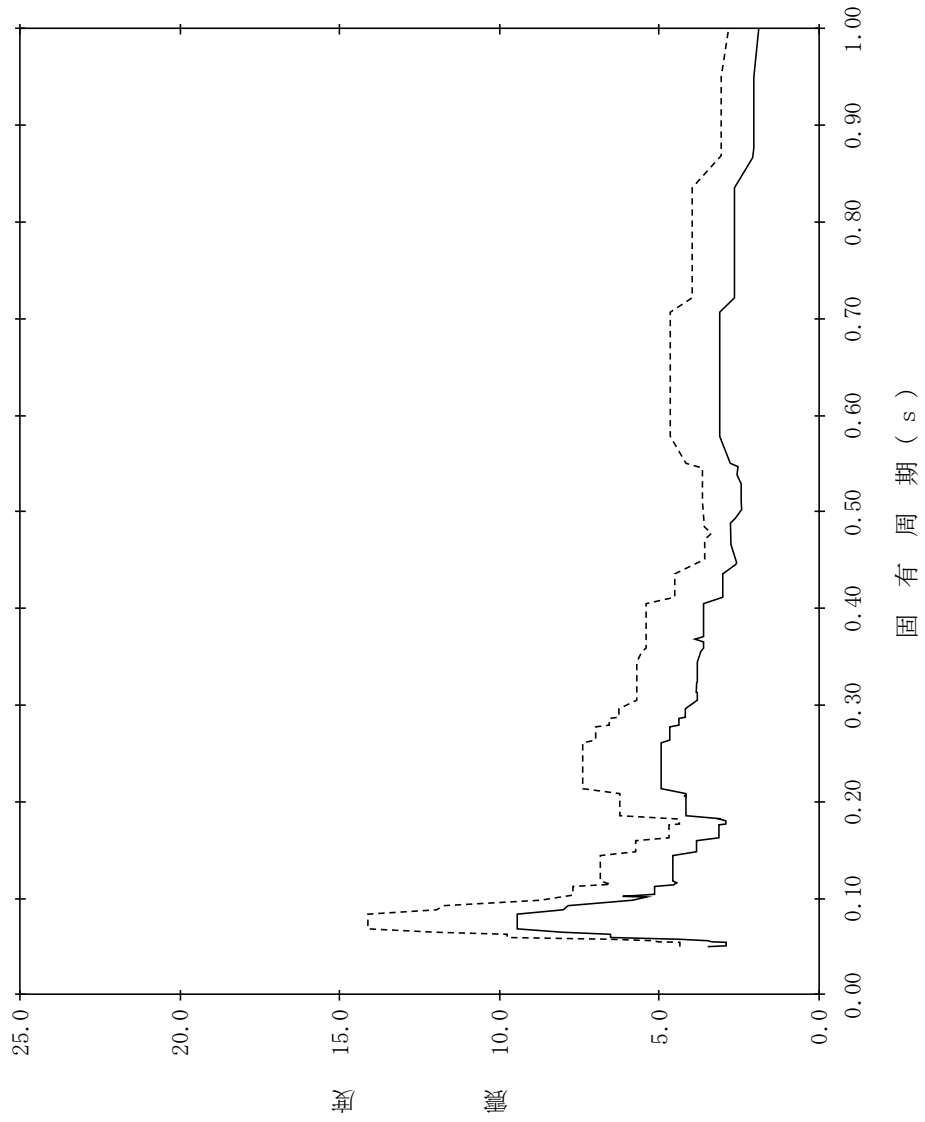
【NS2-RwB-SsEW-RwB64】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



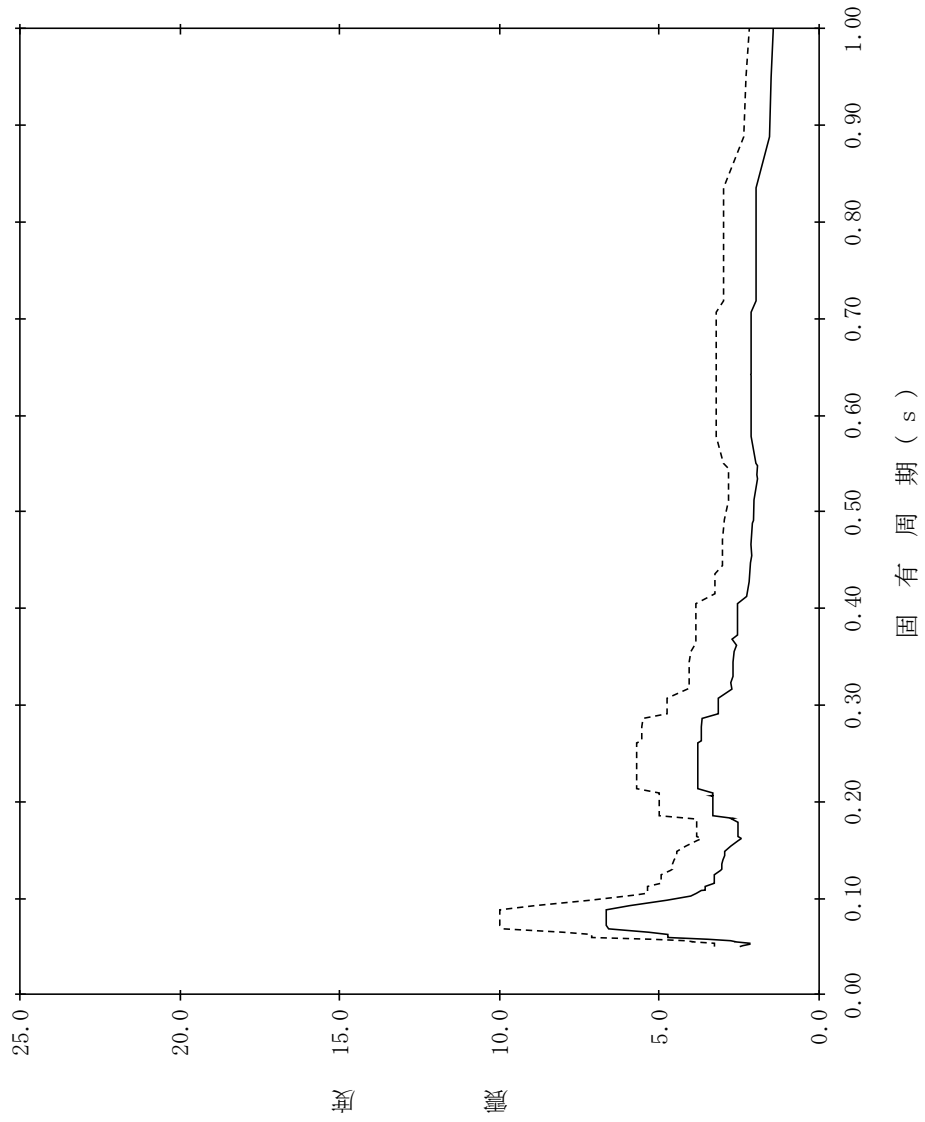
【NS2-RwB-SsEW-RwB65】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



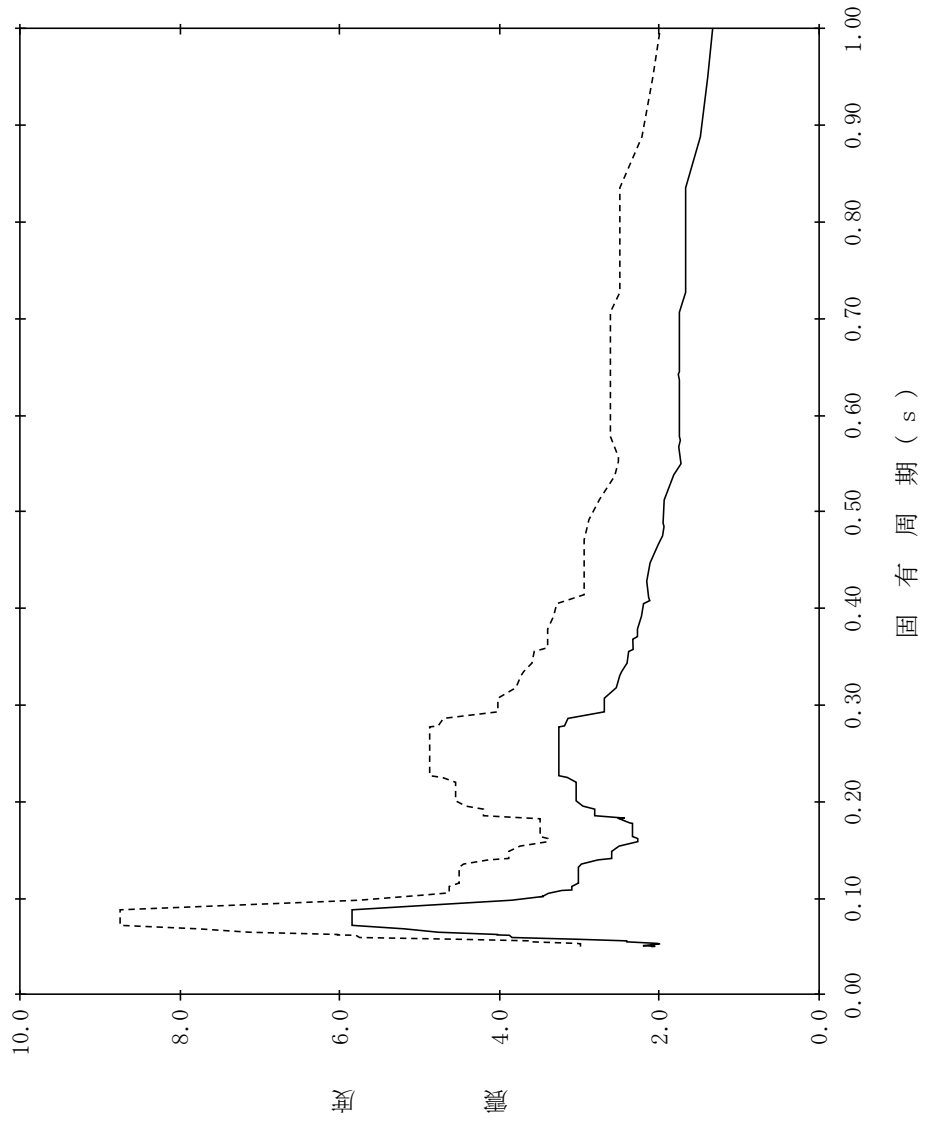
【NS2-RwB-SsEW-RwB66】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



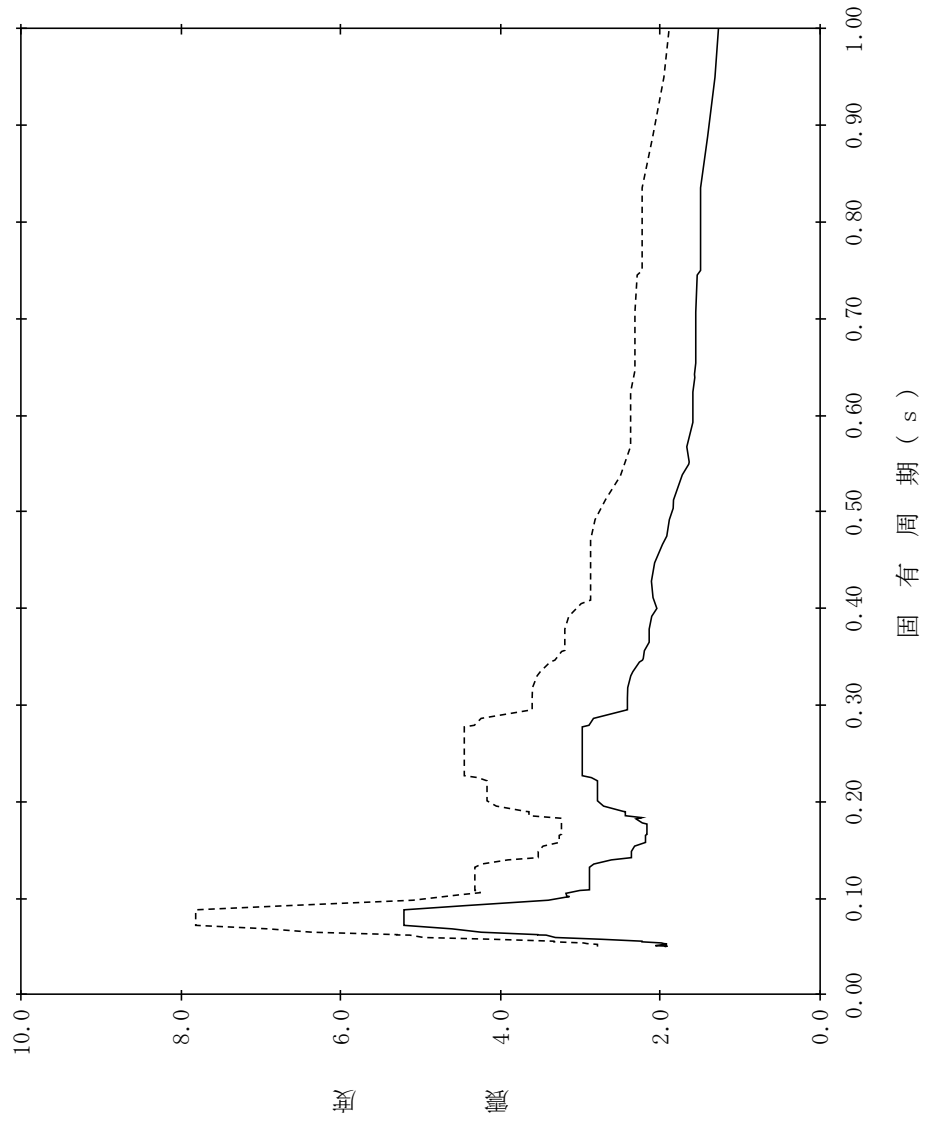
【NS2-RwB-SsEW-RwB67】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

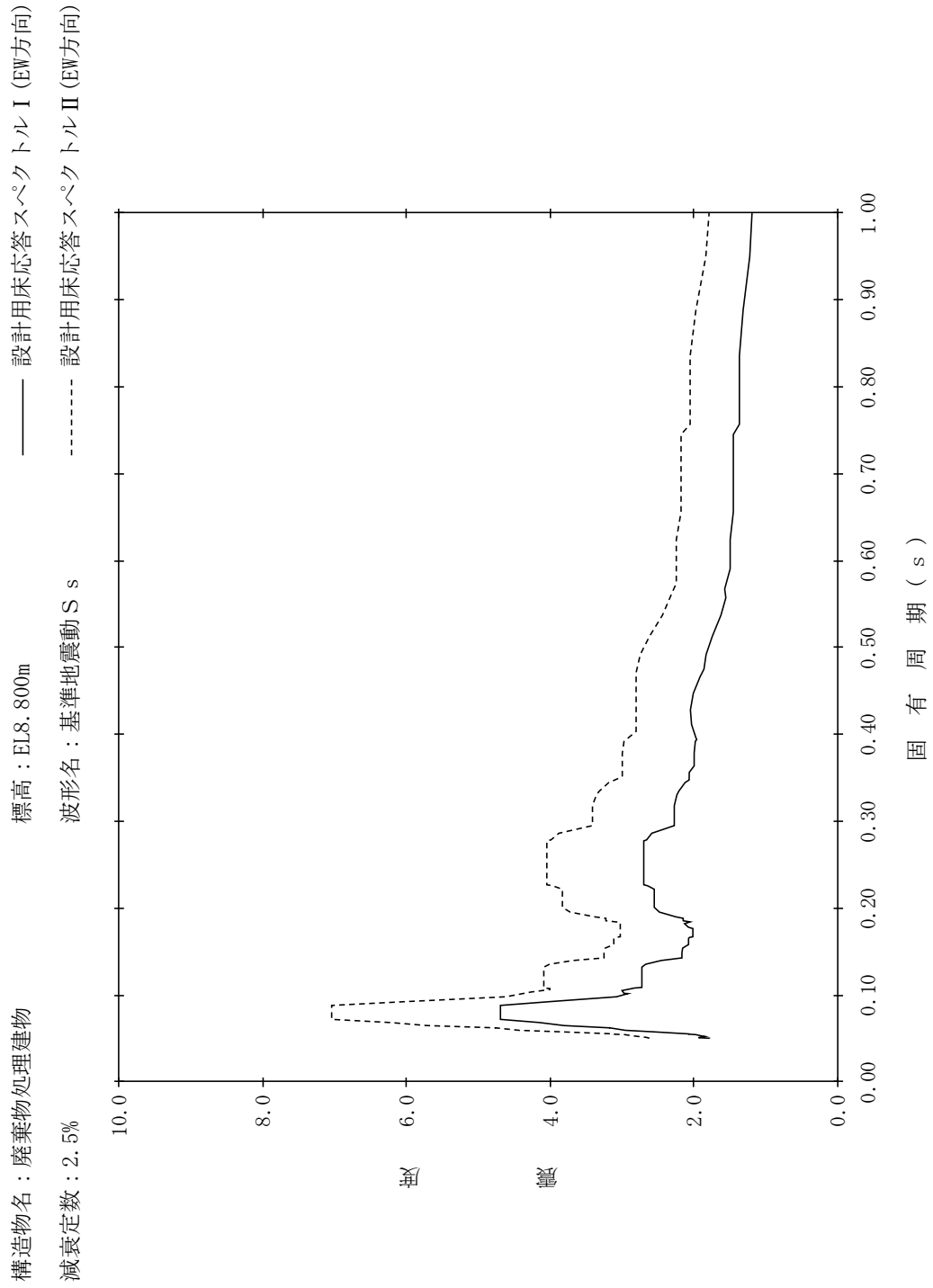


【NS2-RwB-SsEW-RwB68】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

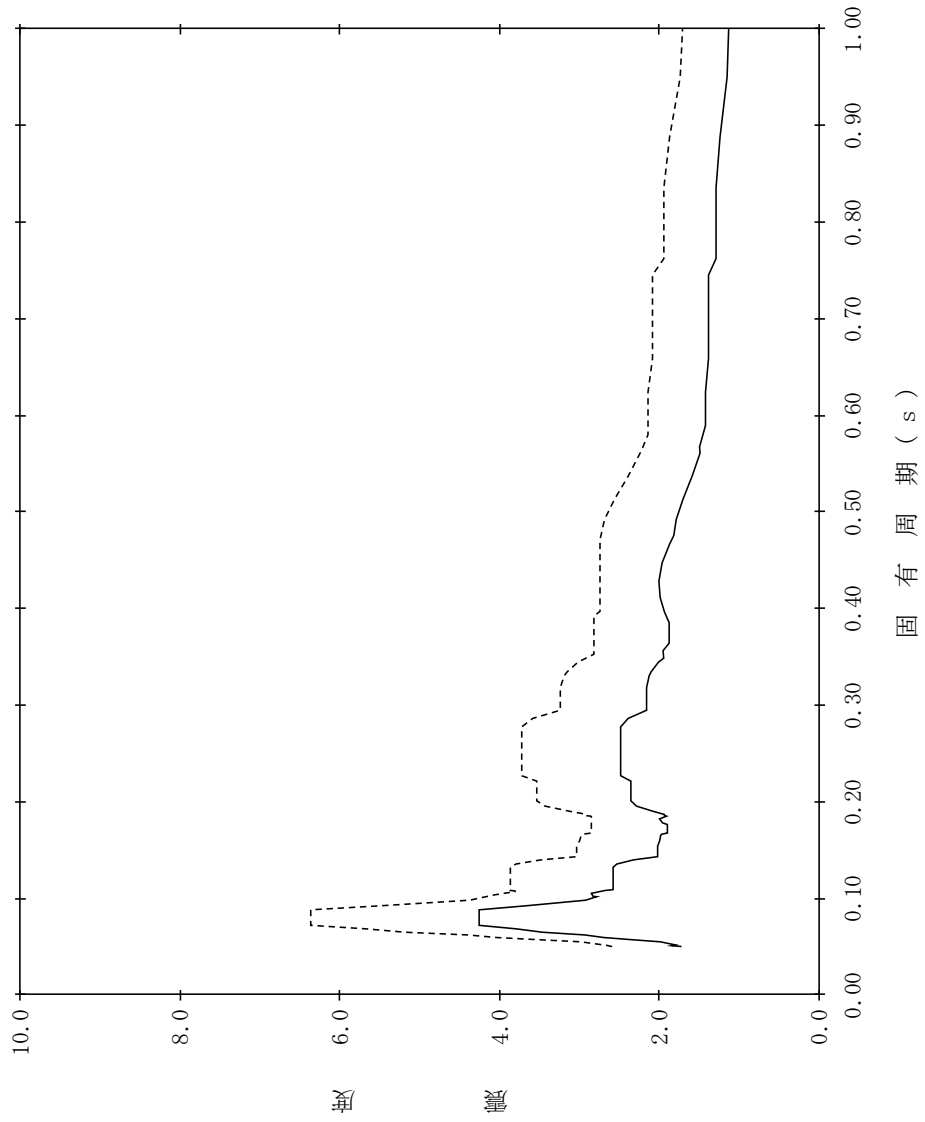


【NS2-RwB-SsEW-RwB69】

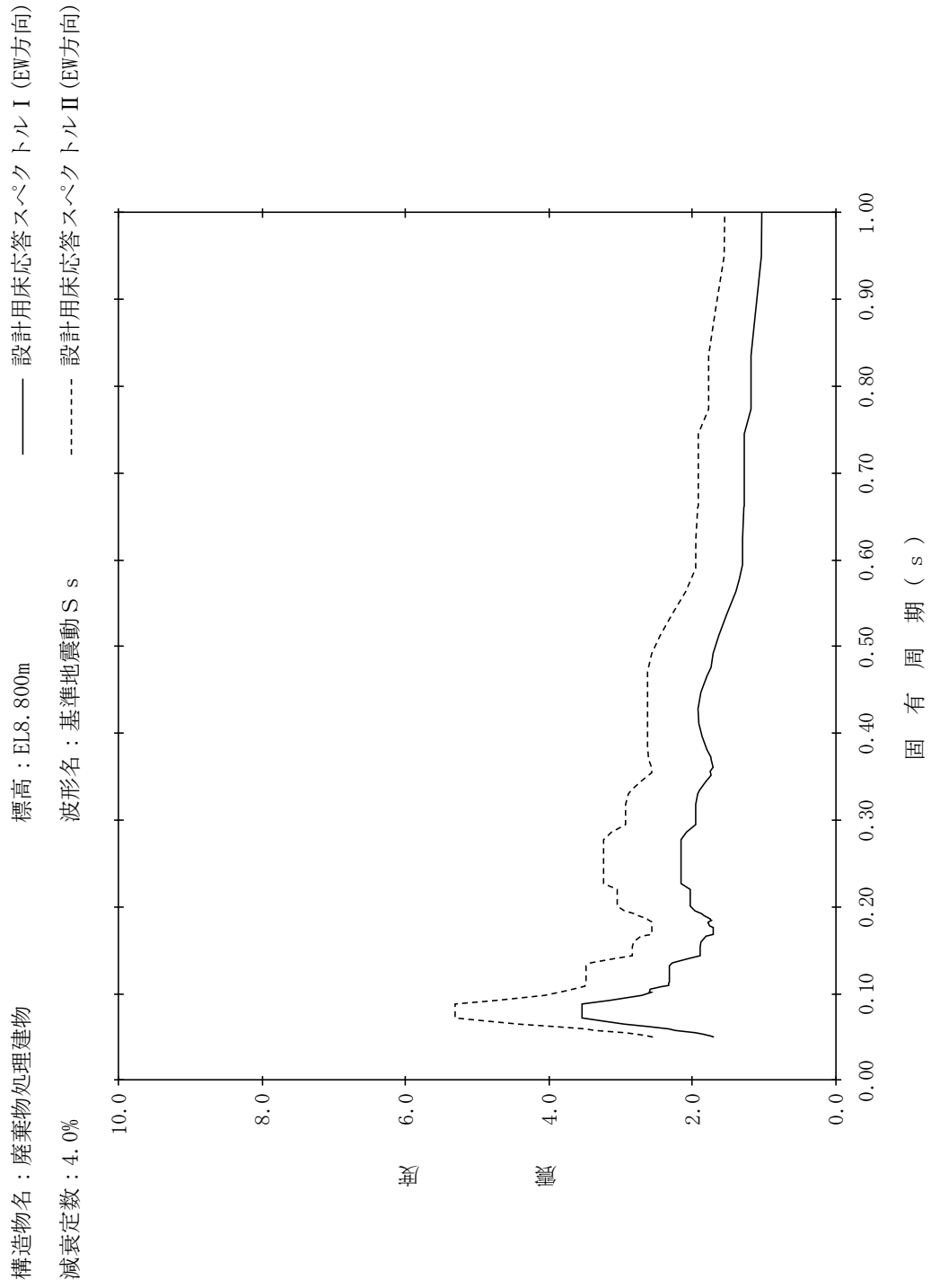


【NS2-RwB-SsEW-RwB70】

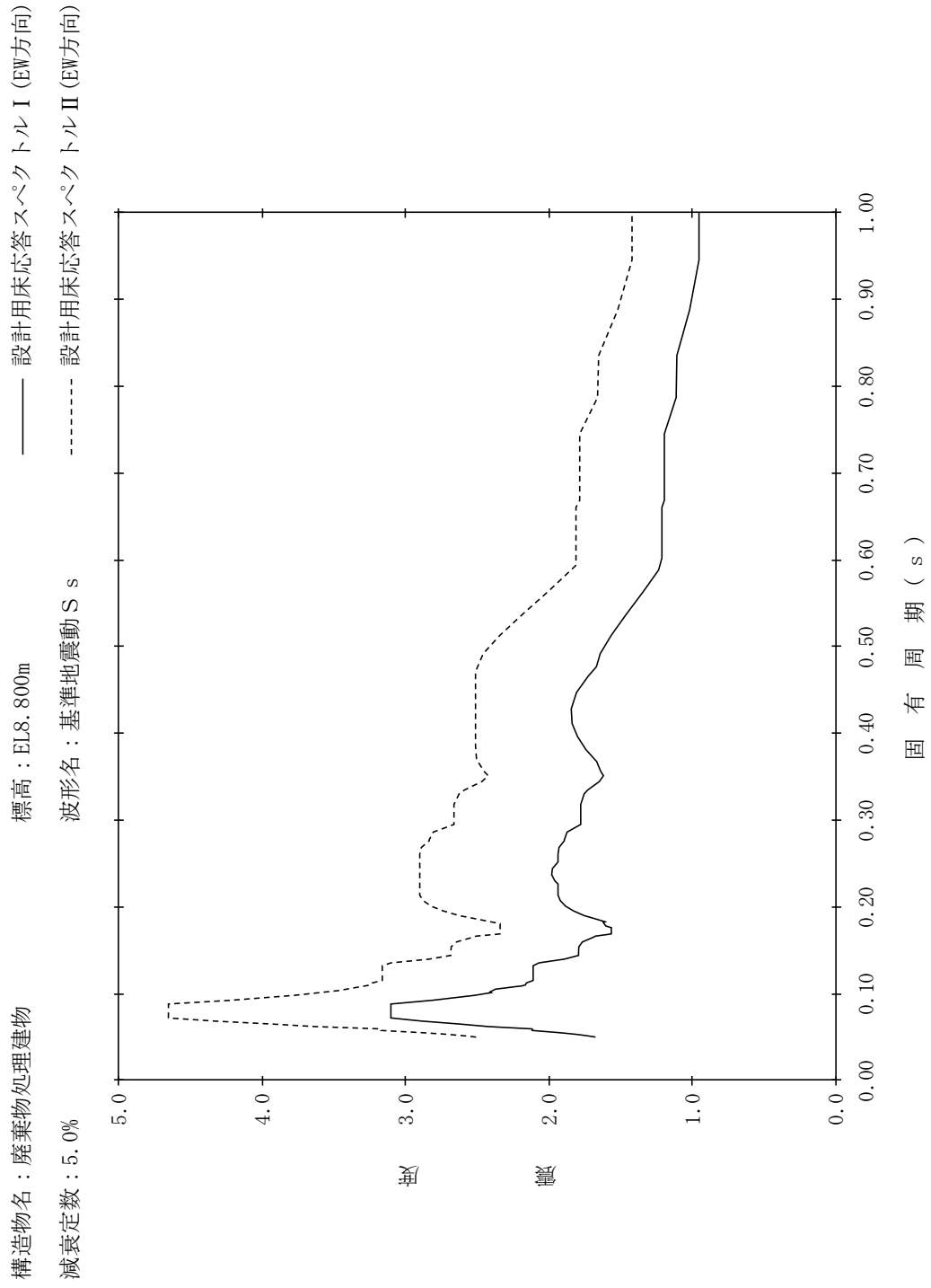
構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



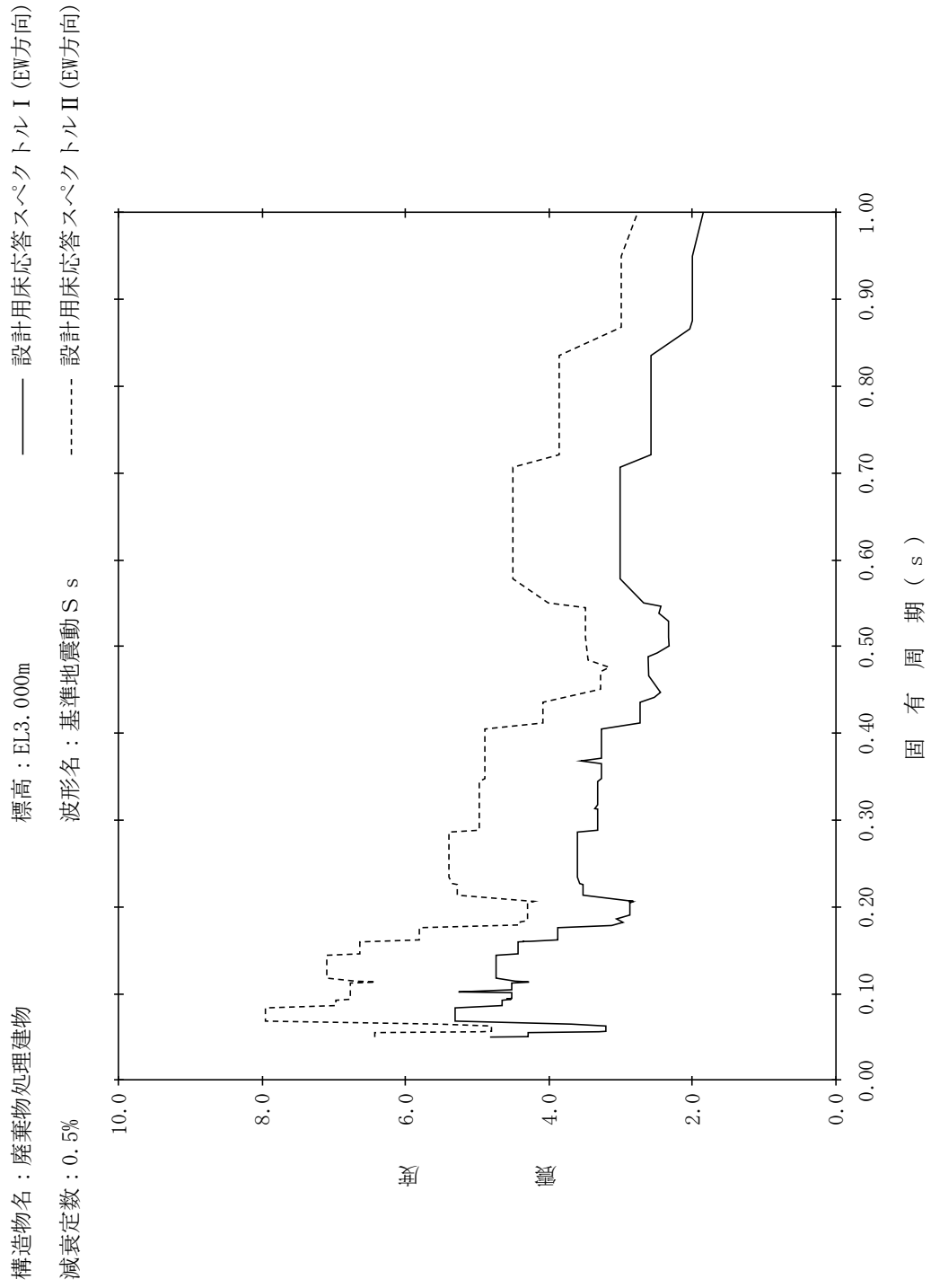
【NS2-RwB-SsEW-RwB71】



【NS2-RwB-SsEW-RwB72】

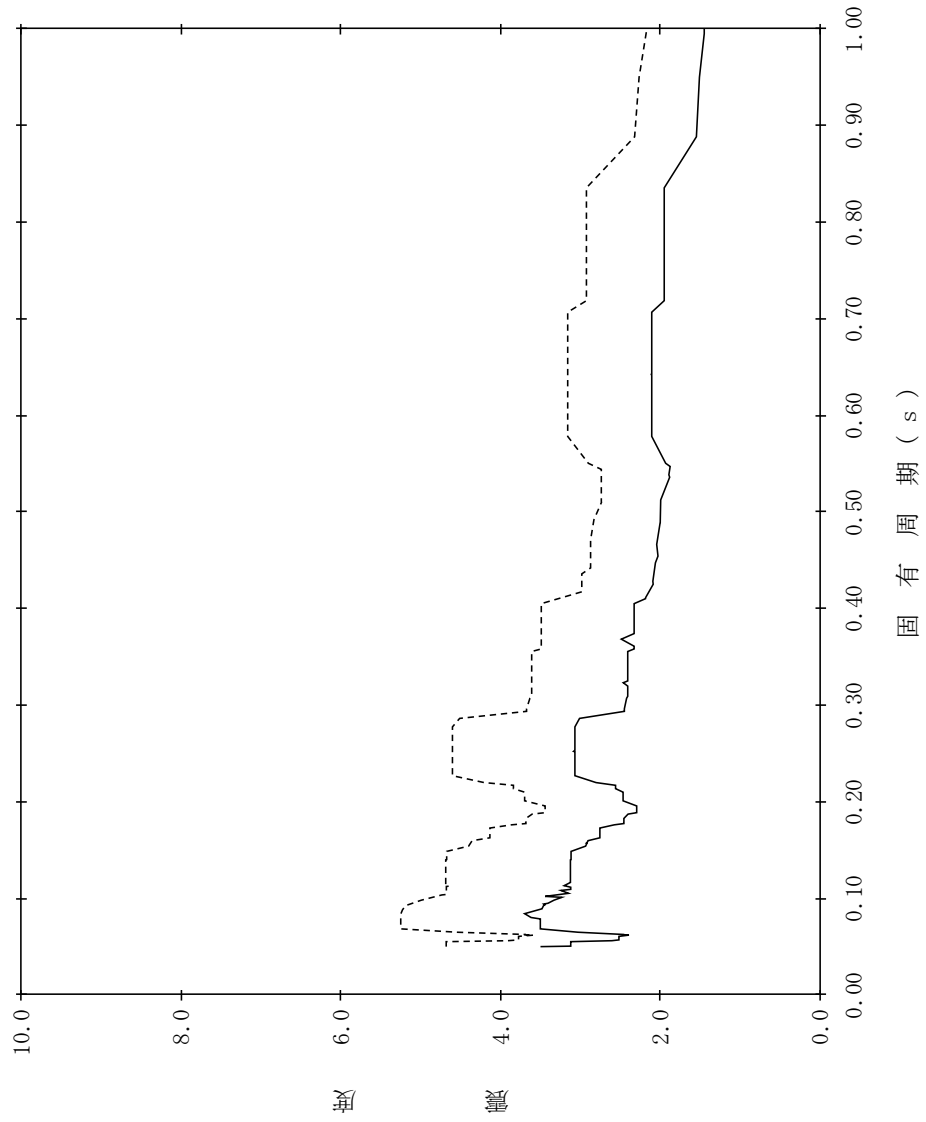


【NS2-RwB-SsEW-RwB73】



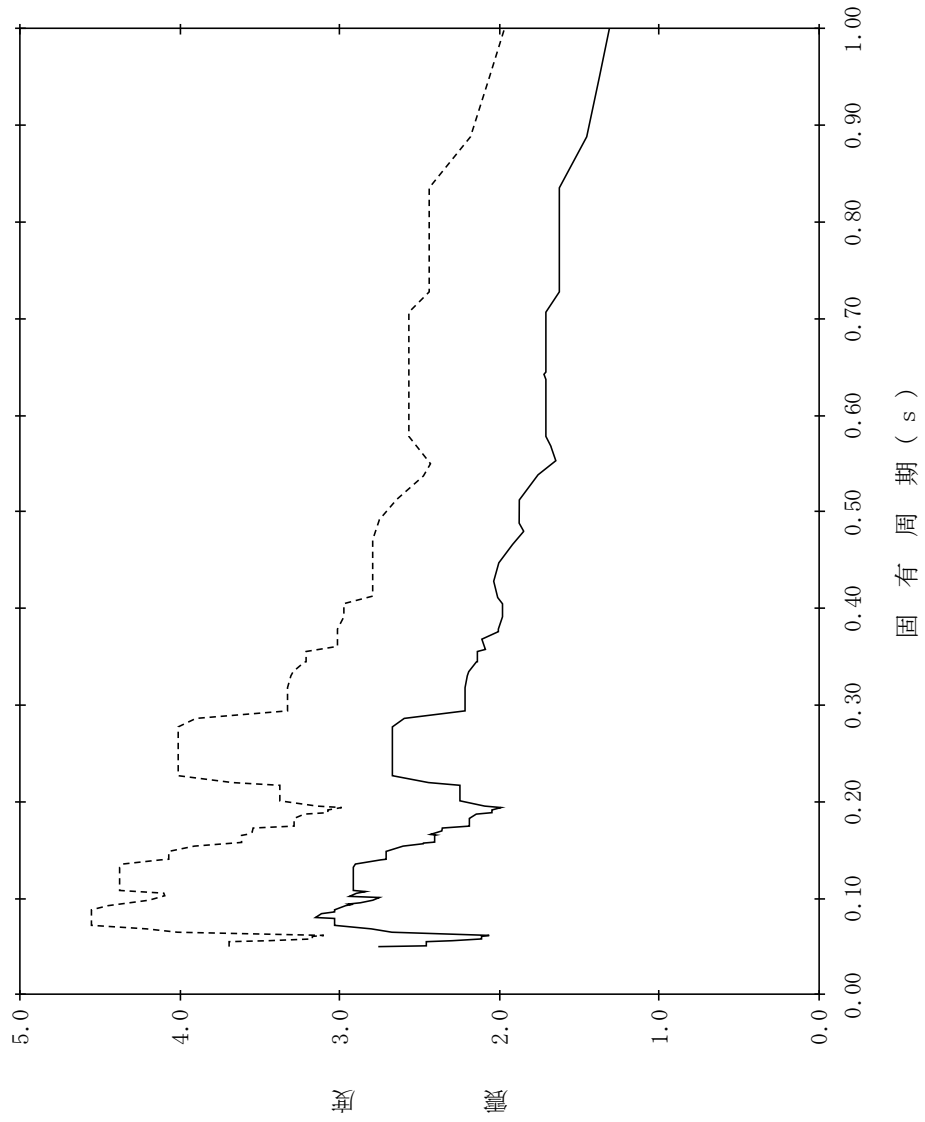
【NS2-RwB-SsEW-RwB74】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



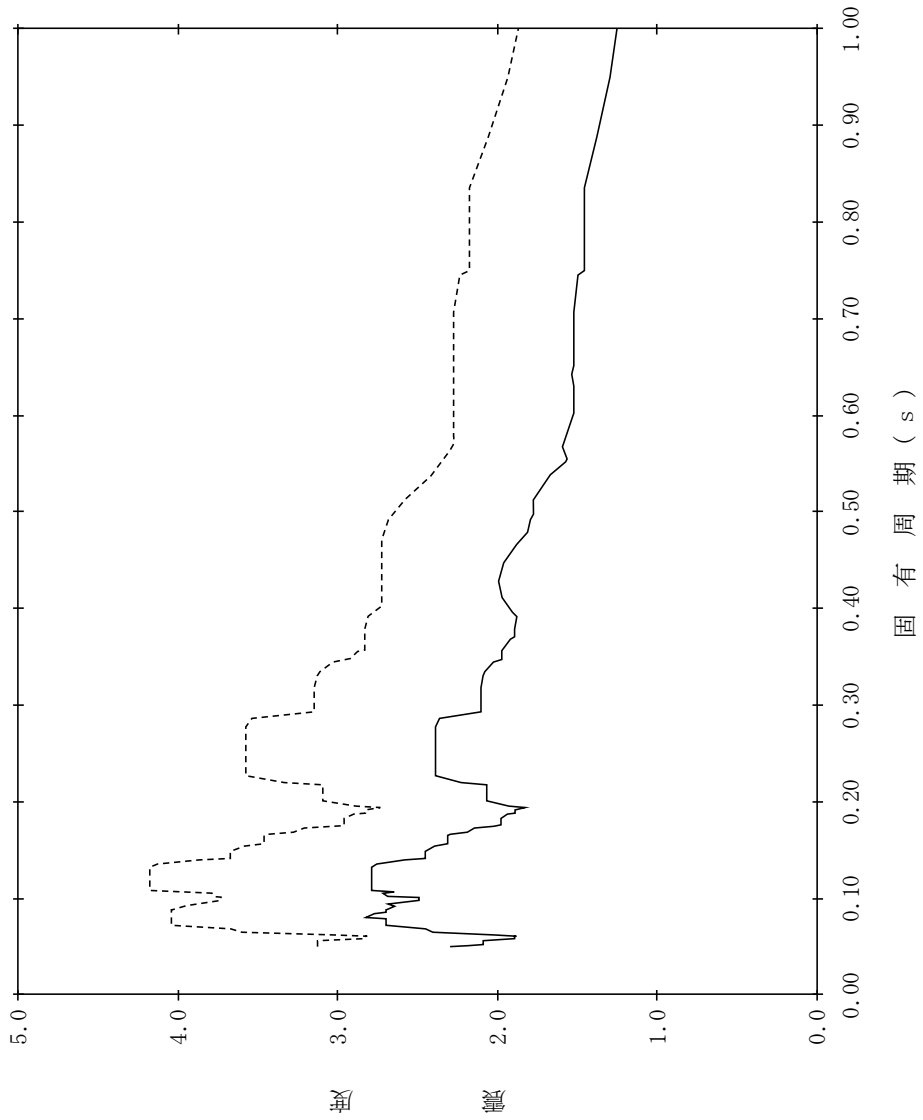
【NS2-RwB-SsEW-RwB75】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



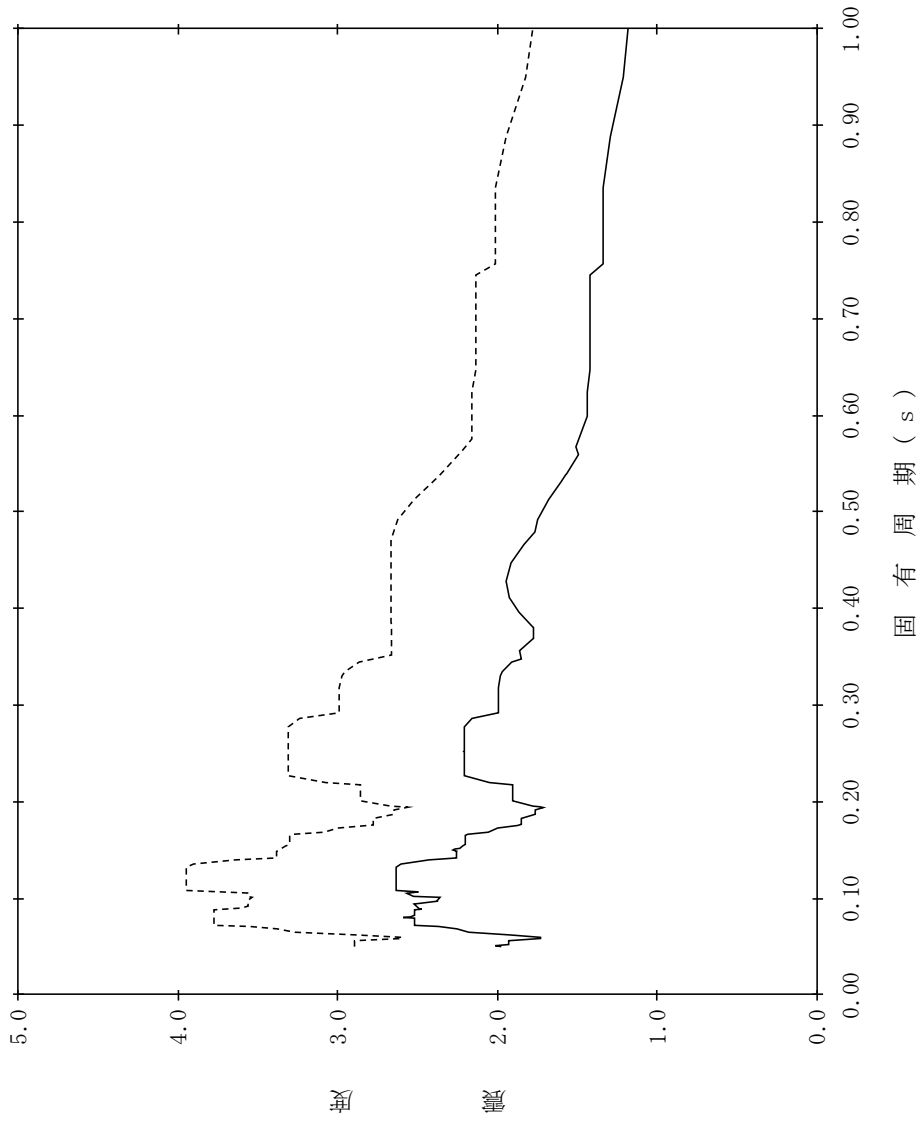
【NS2-RwB-SsEW-RwB76】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



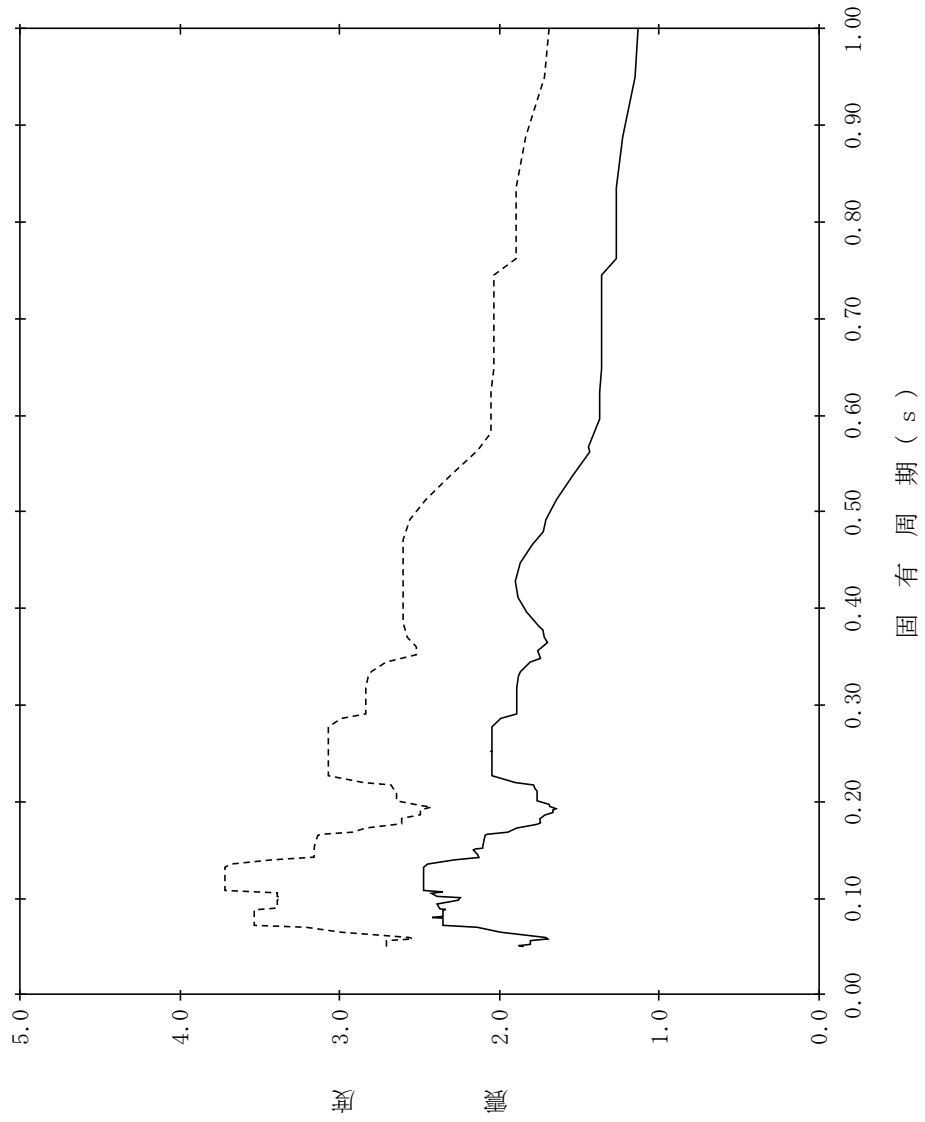
【NS2-RwB-SsEW-RwB77】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



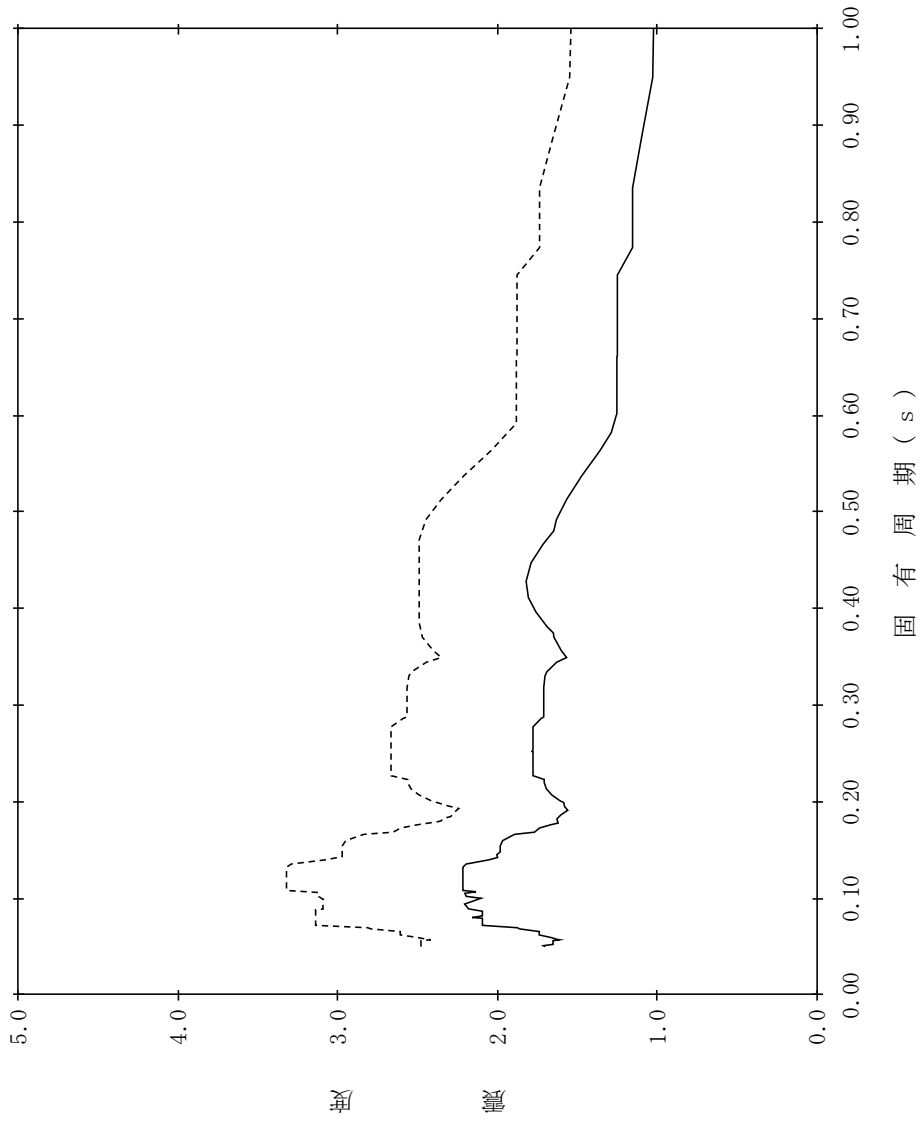
【NS2-RwB-SsEW-RwB78】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

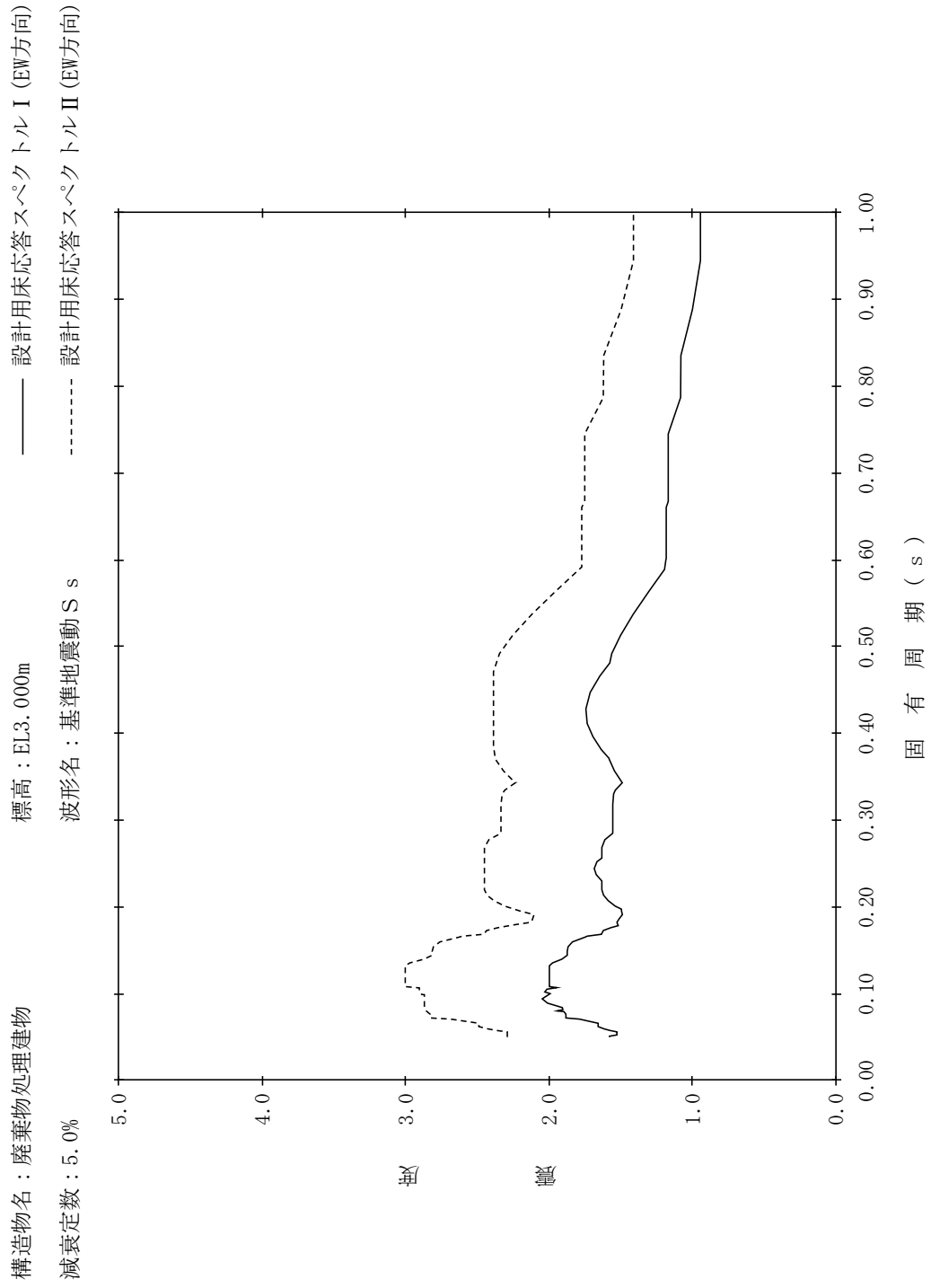


【NS2-RwB-SsEW-RwB79】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

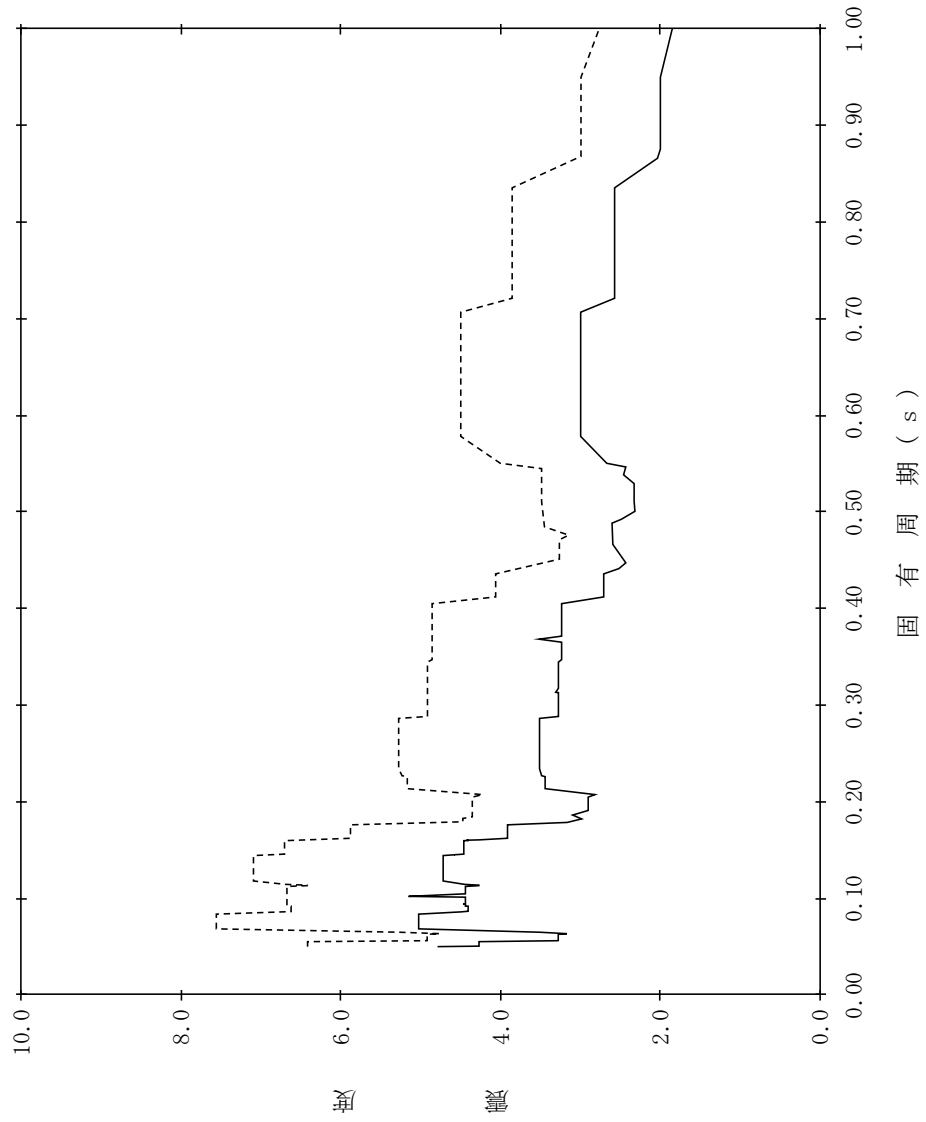


【NS2-RwB-SsEW-RwB80】



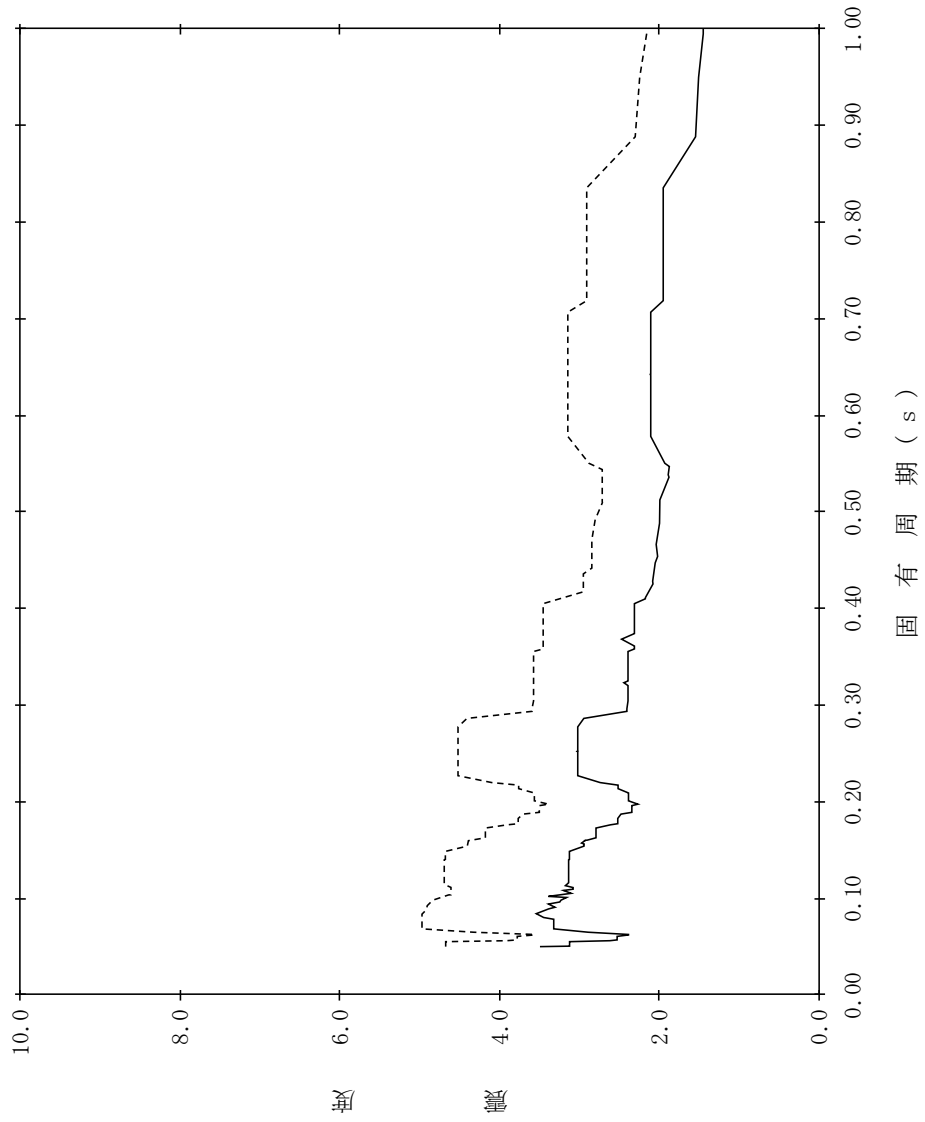
【NS2-RwB-SsEW-RwB81】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



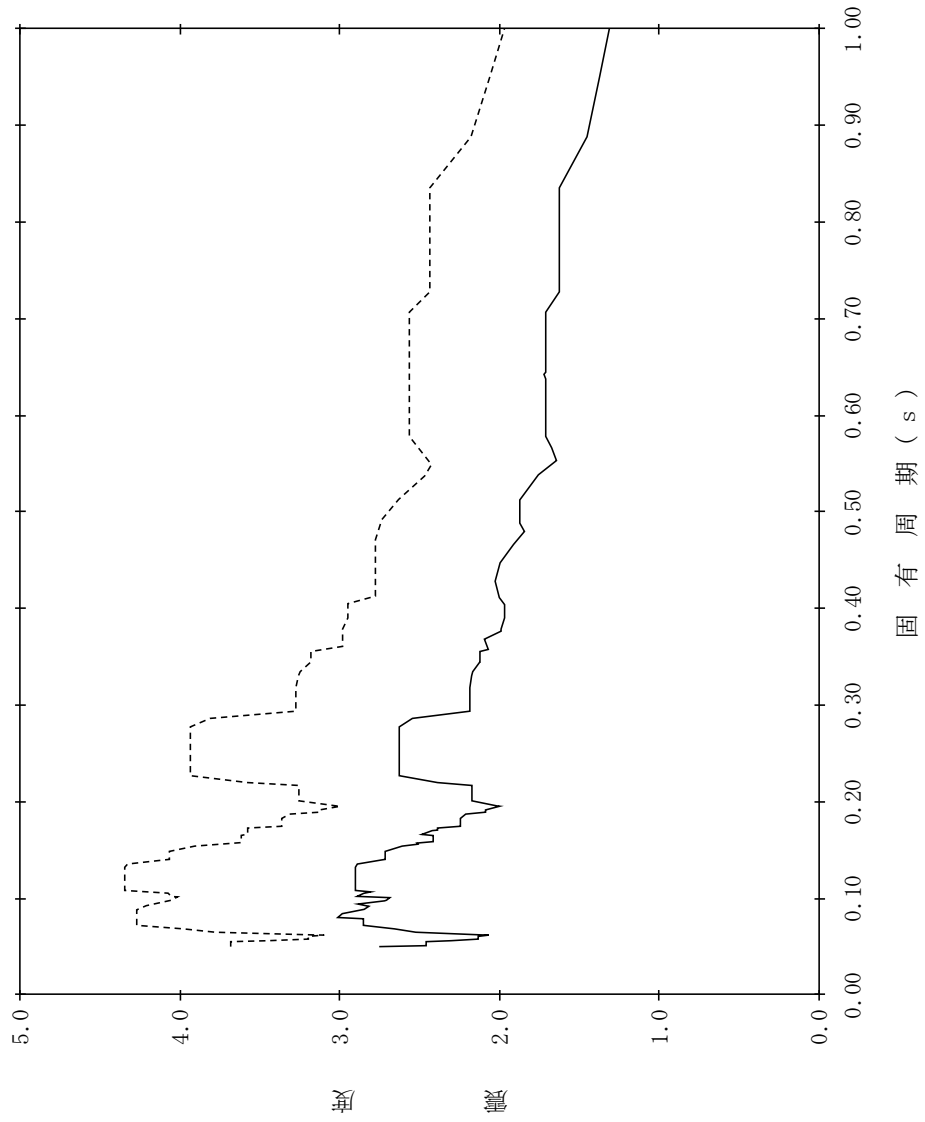
【NS2-RwB-SsEW-RwB82】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-RwB-SsEW-RwB83】

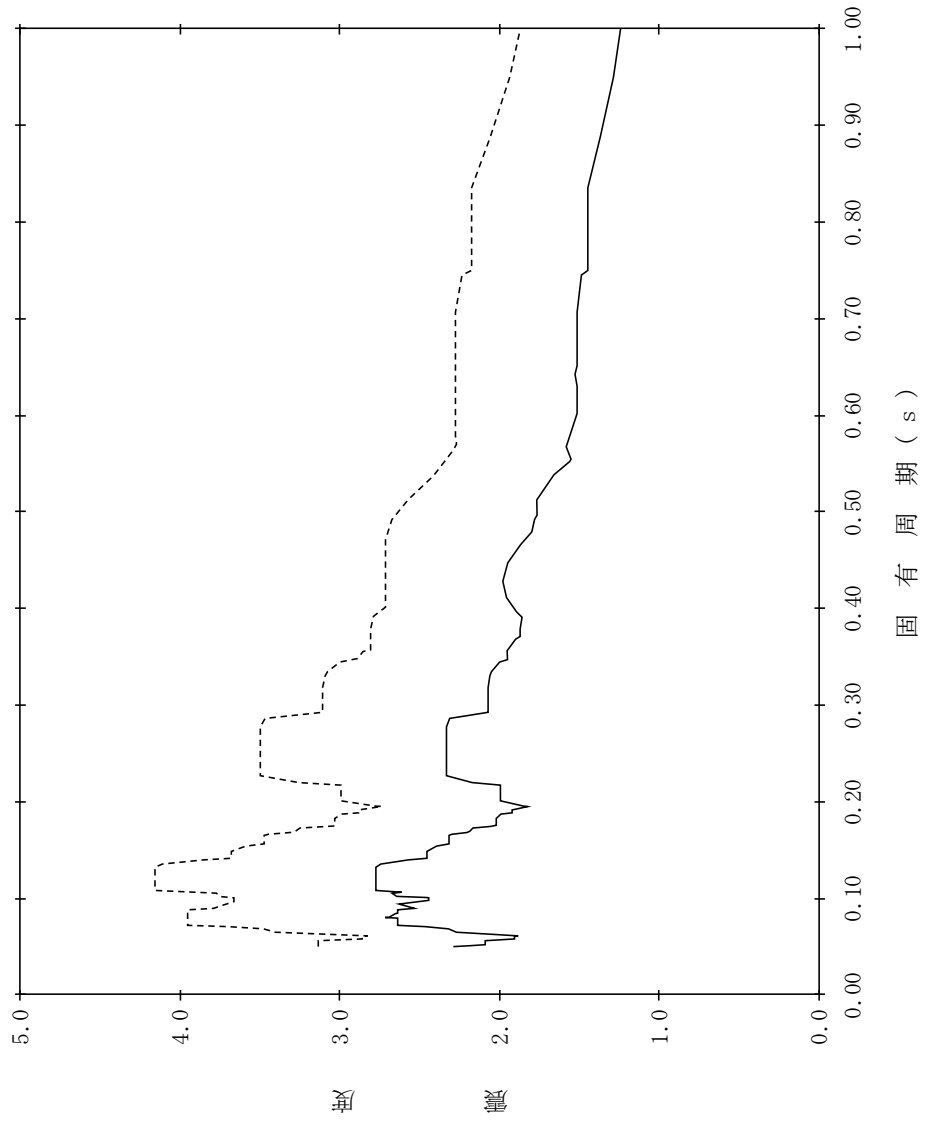
構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-RwB-SsEW-RwB84】

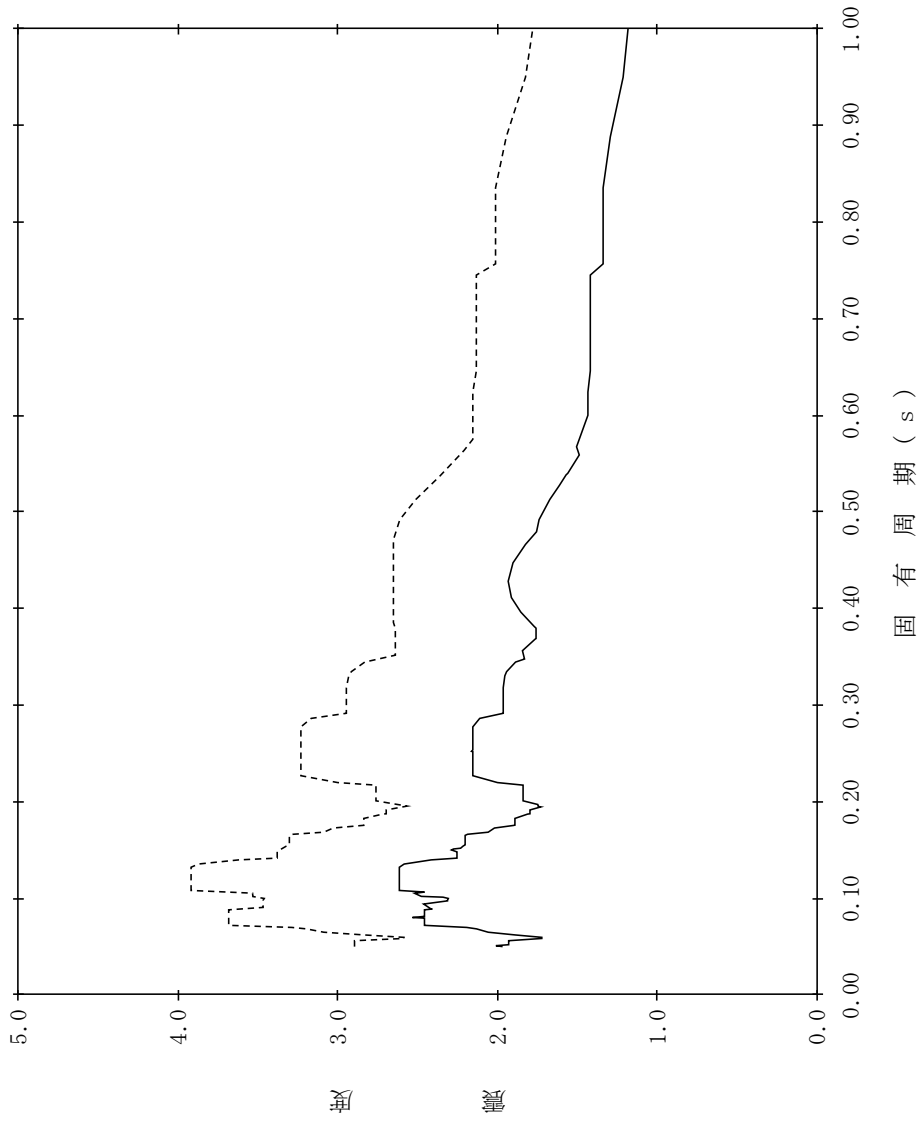
構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：2.0%

— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 - - - 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



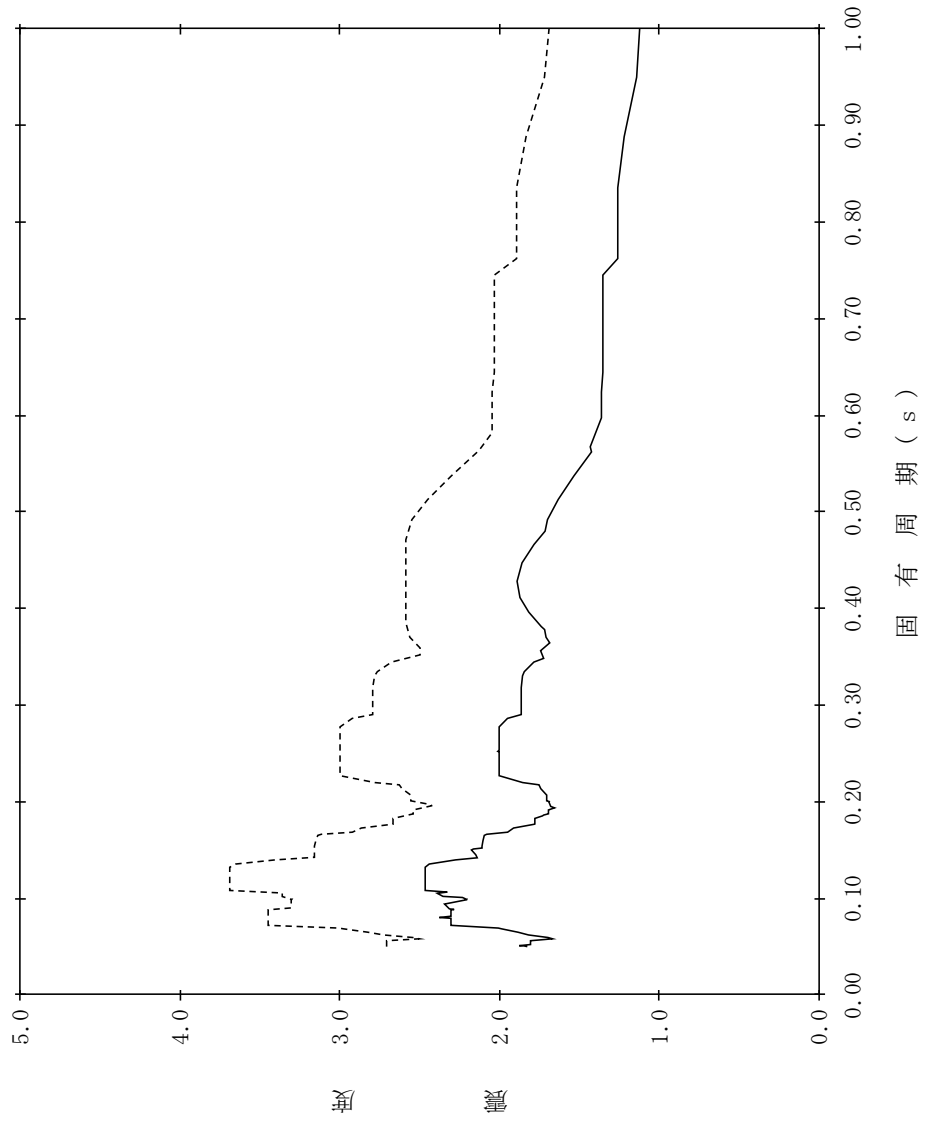
【NS2-RwB-SsEW-RwB85】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



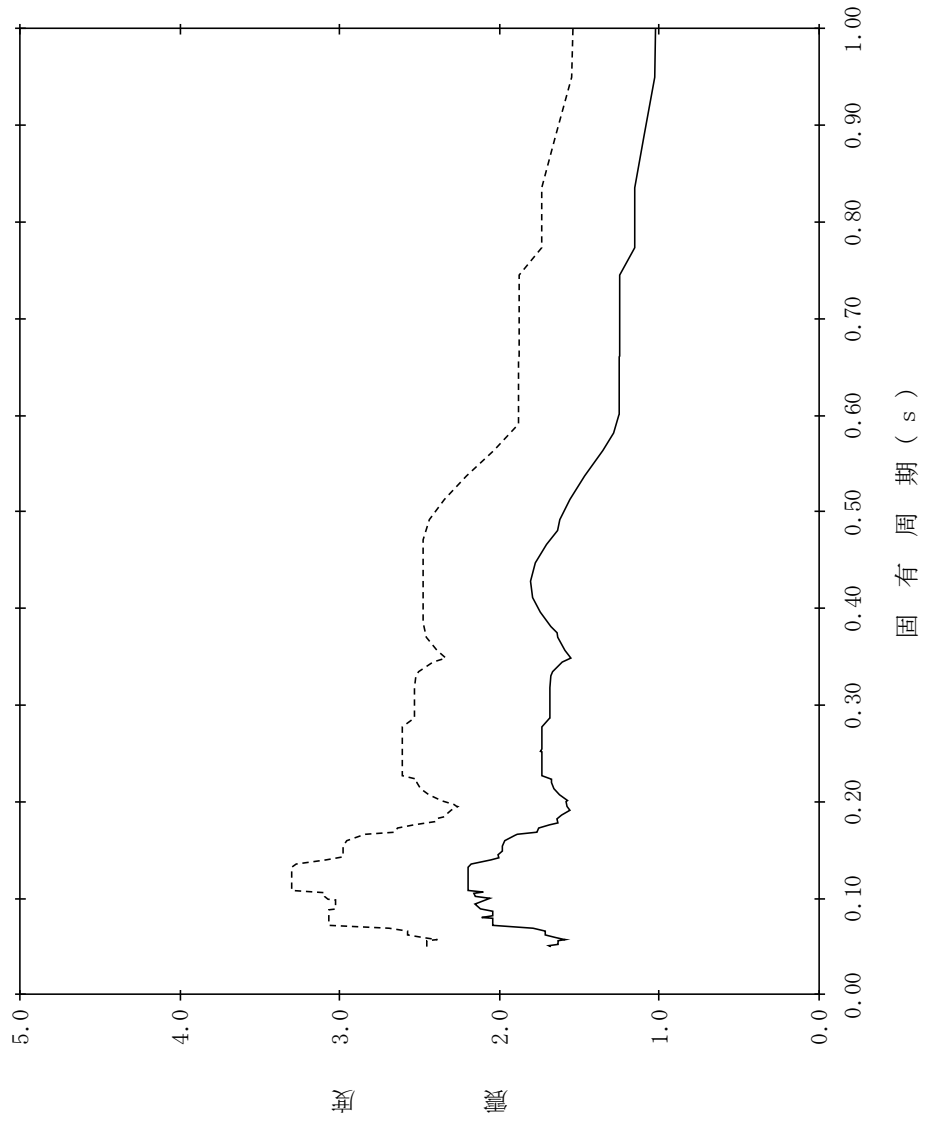
【NS2-RwB-SsEW-RwB86】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

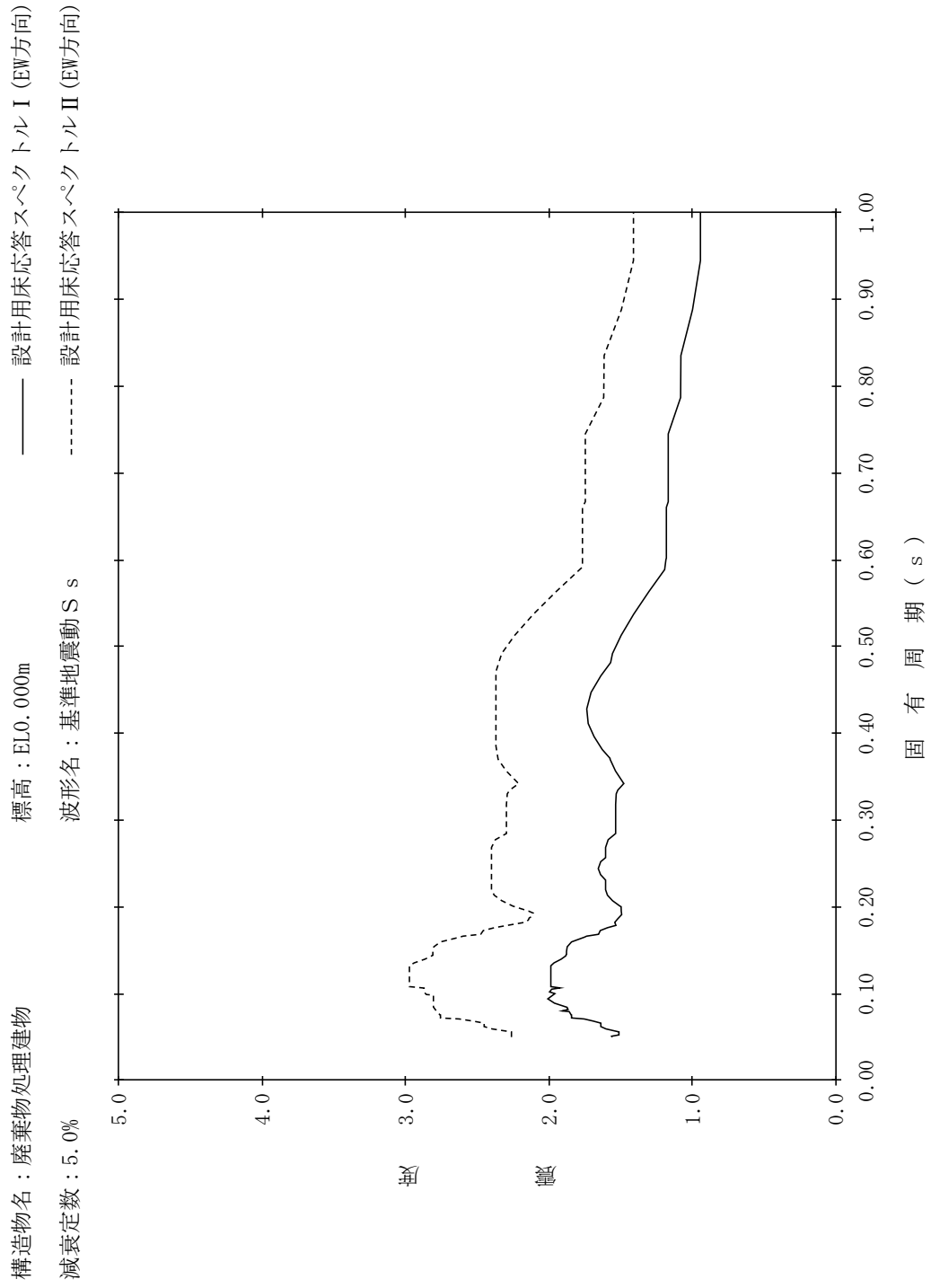


【NS2-RwB-SsEW-RwB87】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

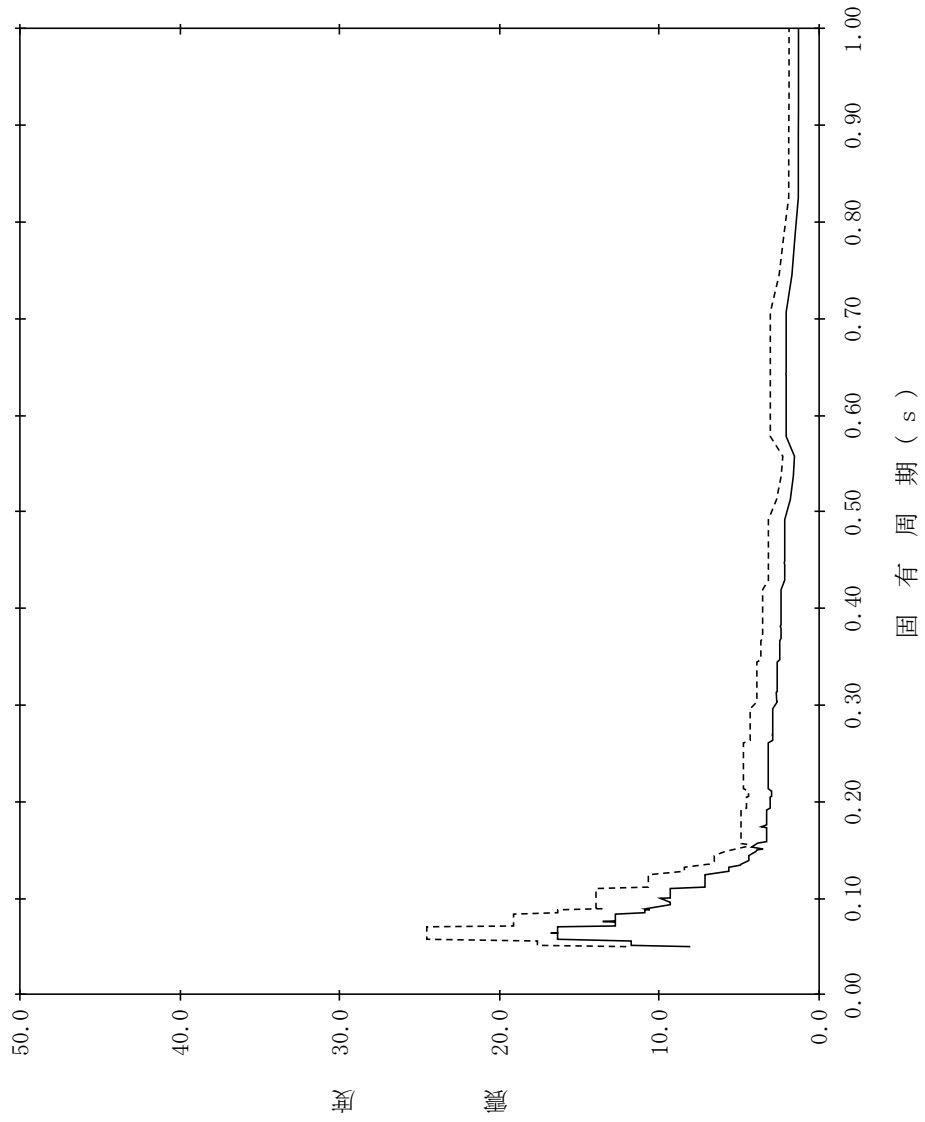


【NS2-RwB-SsEW-RwB88】



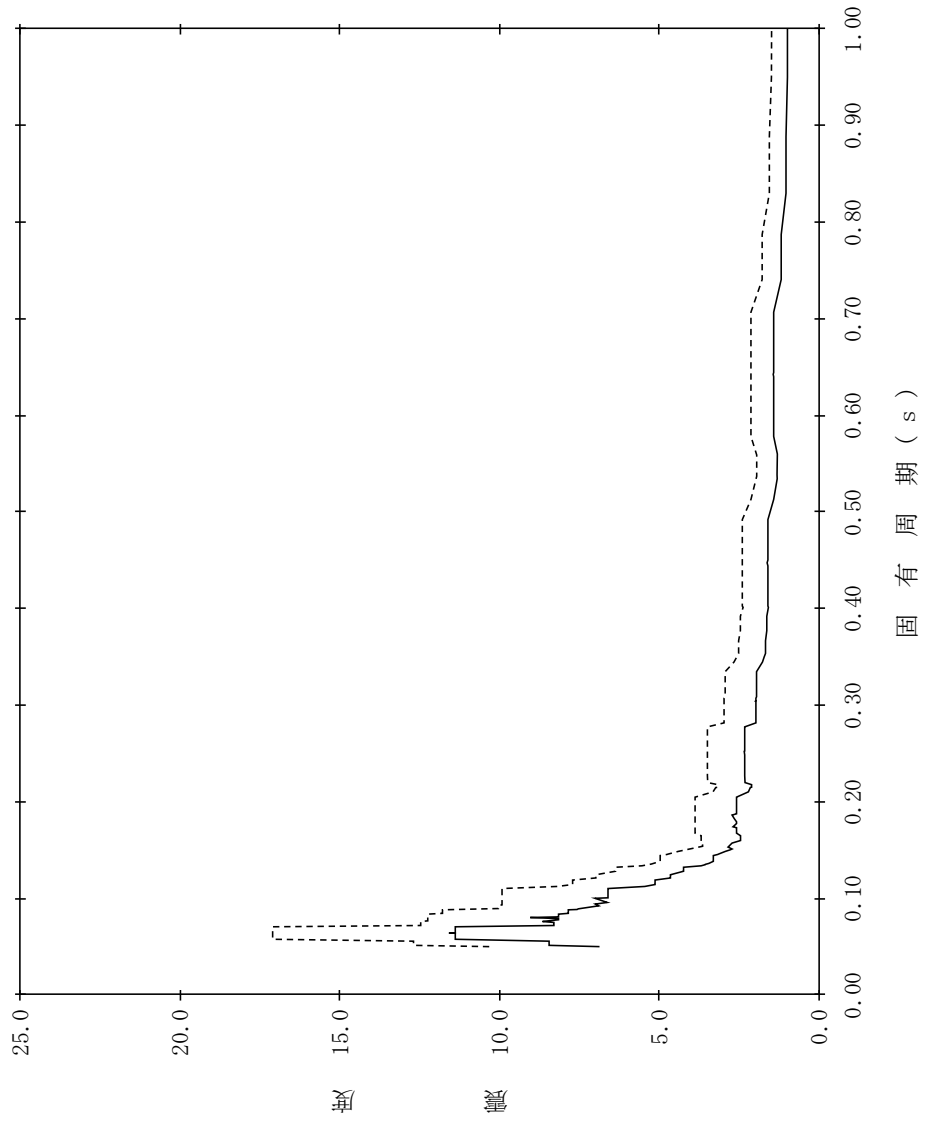
【NS2-RwB-SsV-RwB1】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



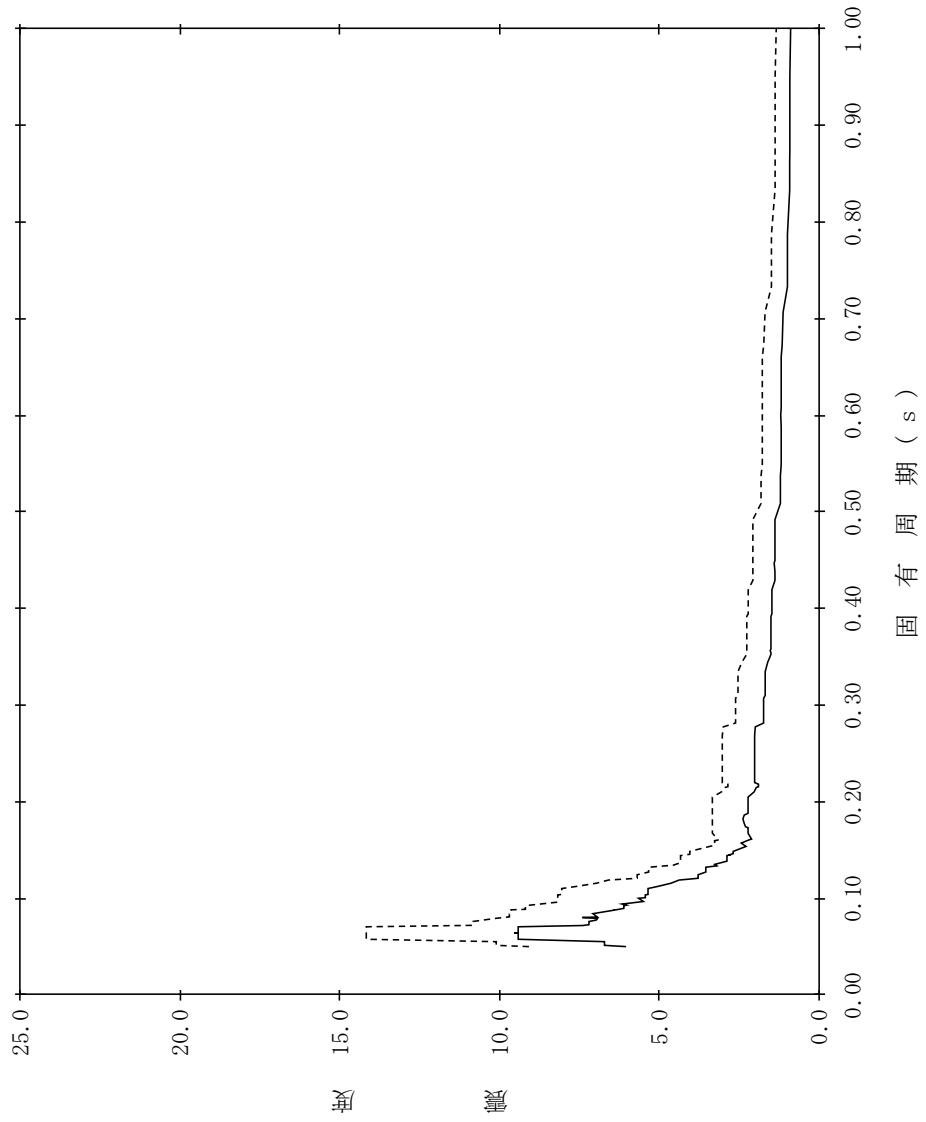
【NS2-RwB-SsV-RwB2】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



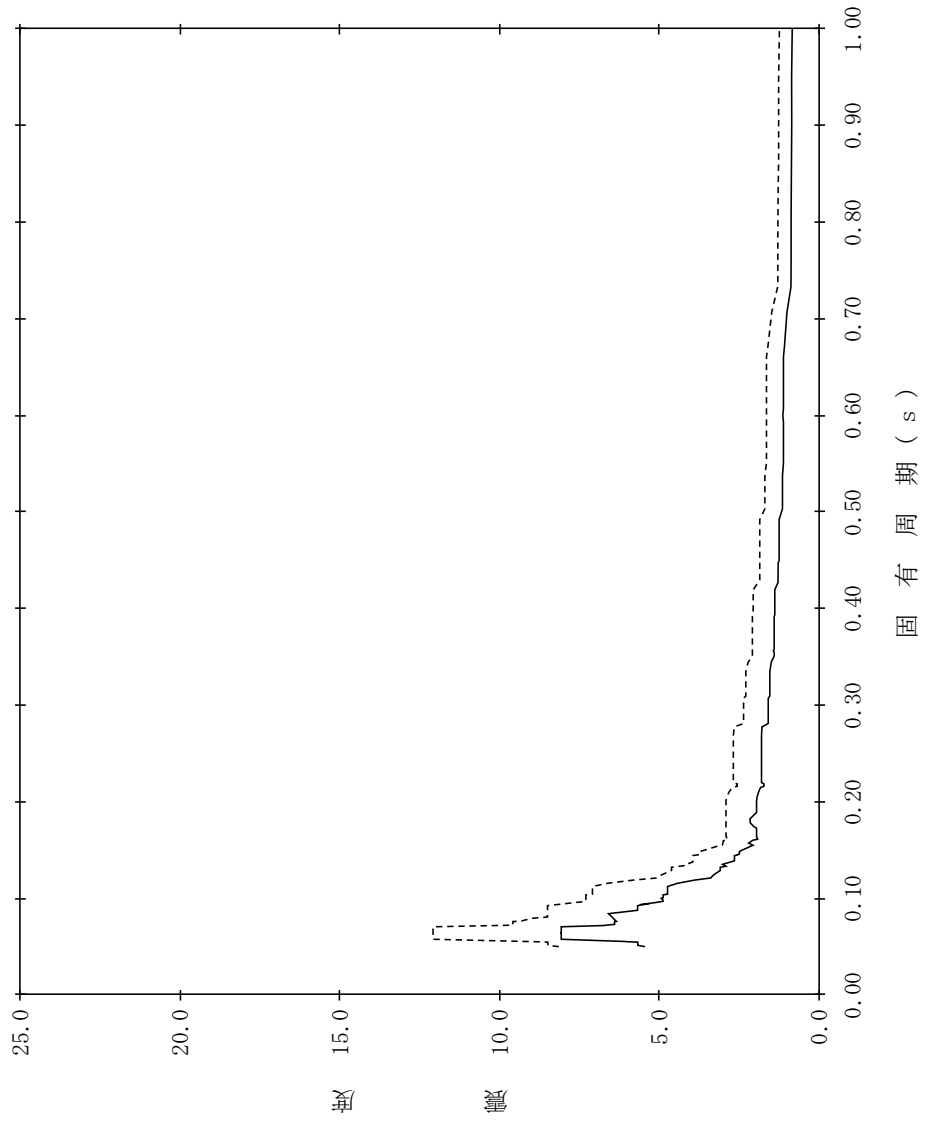
【NS2-RwB-SsV-RwB3】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



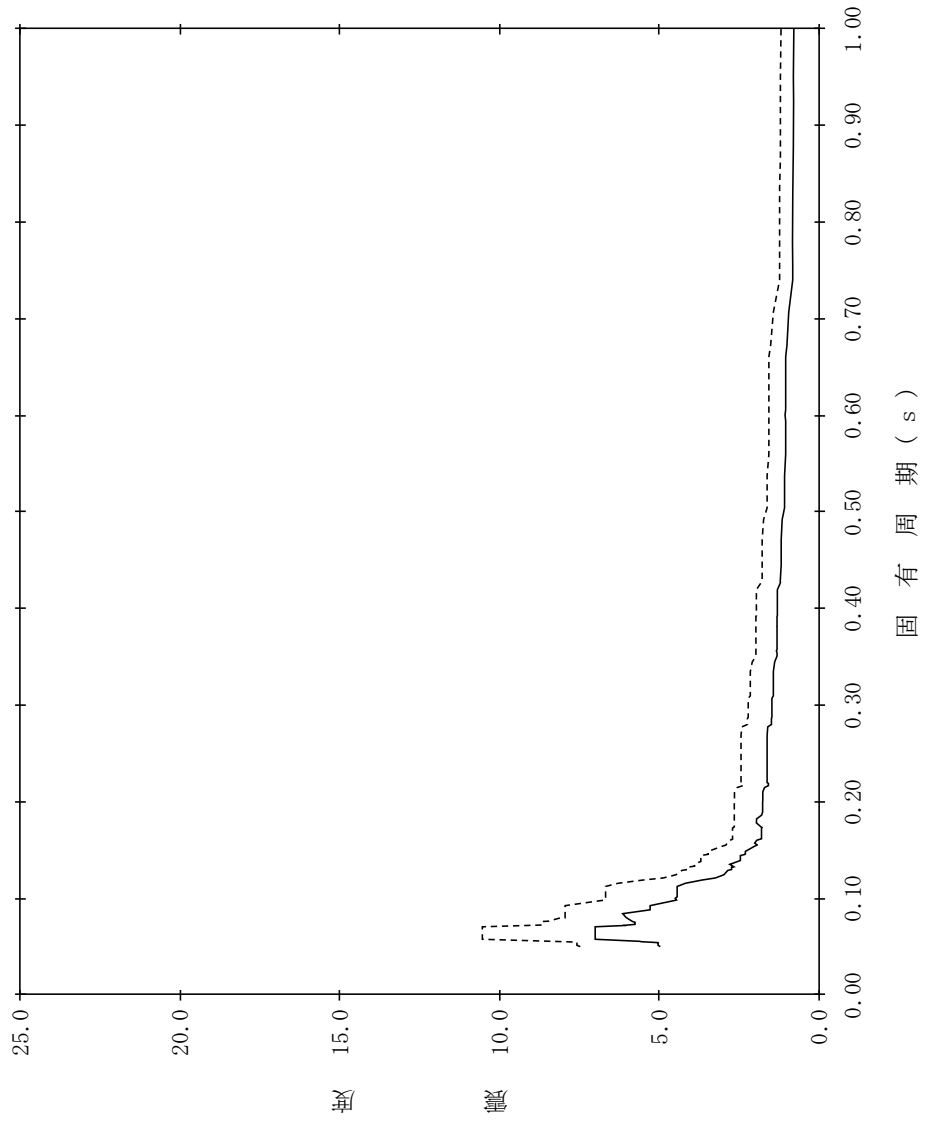
【NS2-RwB-SsV-RwB4】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



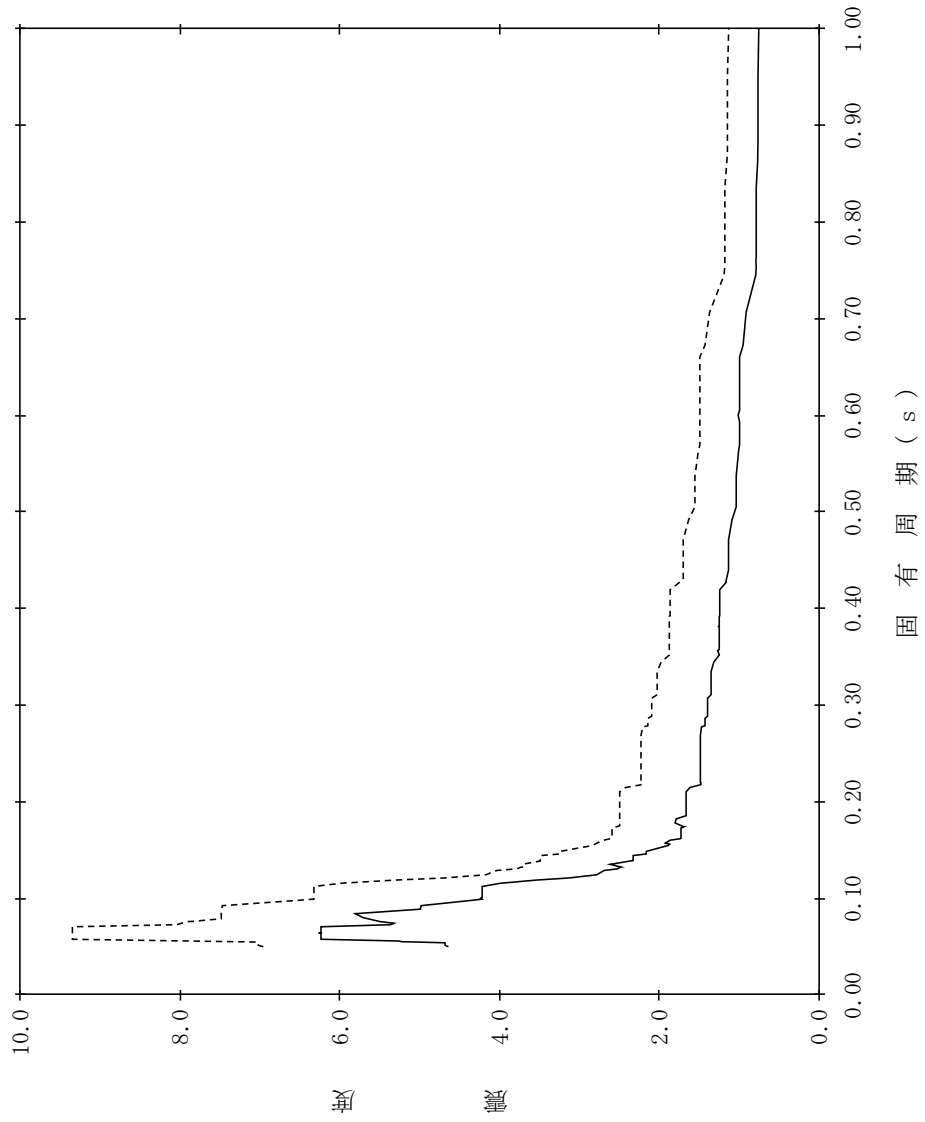
【NS2-RwB-SsV-RwB5】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



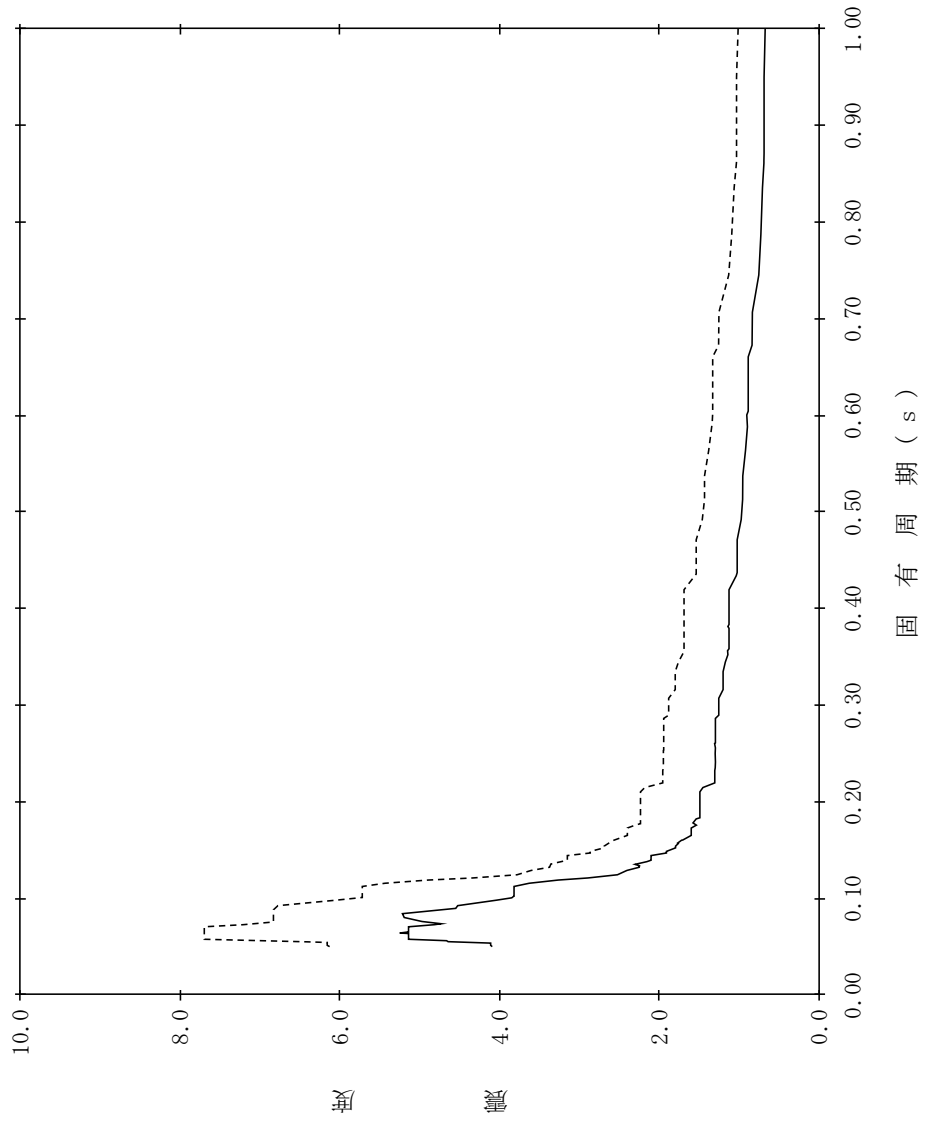
【NS2-RwB-SsV-RwB6】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



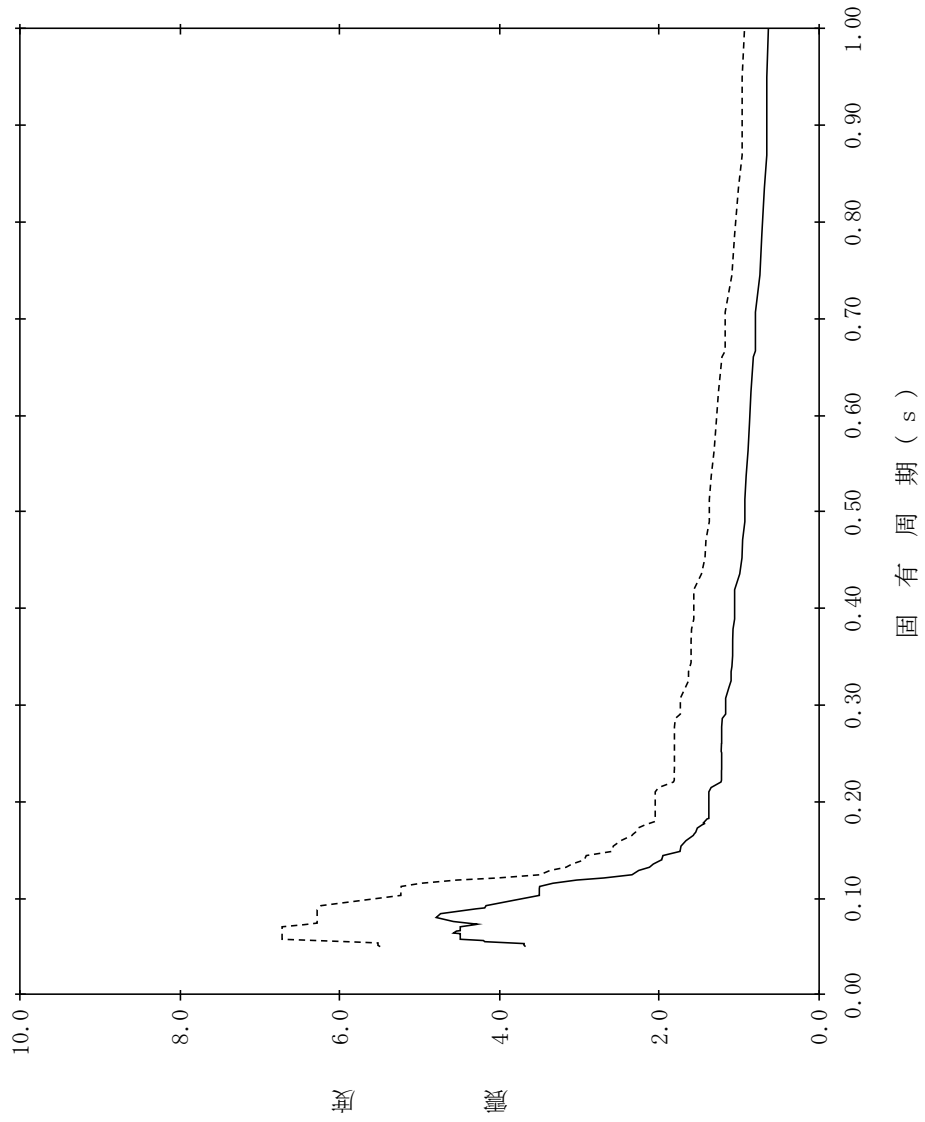
【NS2-RwB-SsV-RwB7】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RwB-SsV-RwB8】

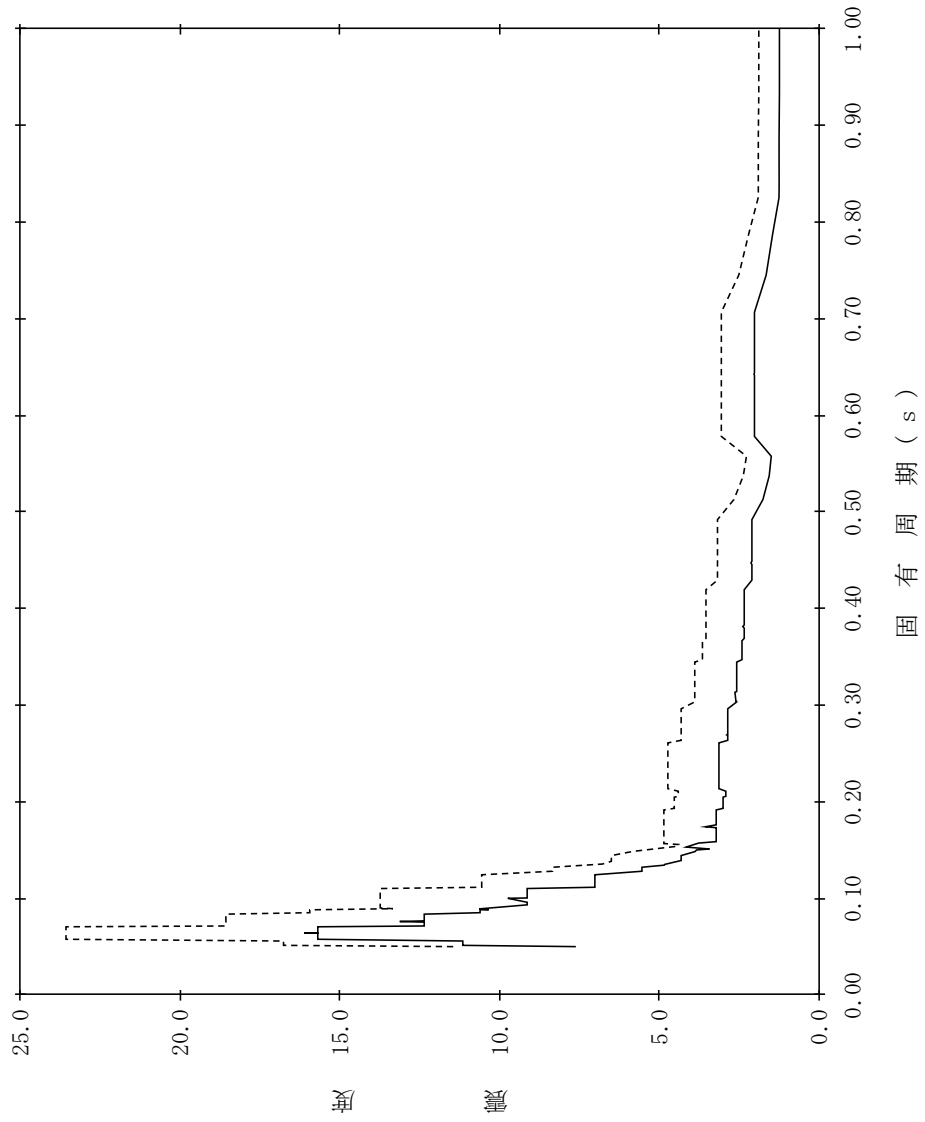
構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL42.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RwB-SsV-RwB9】

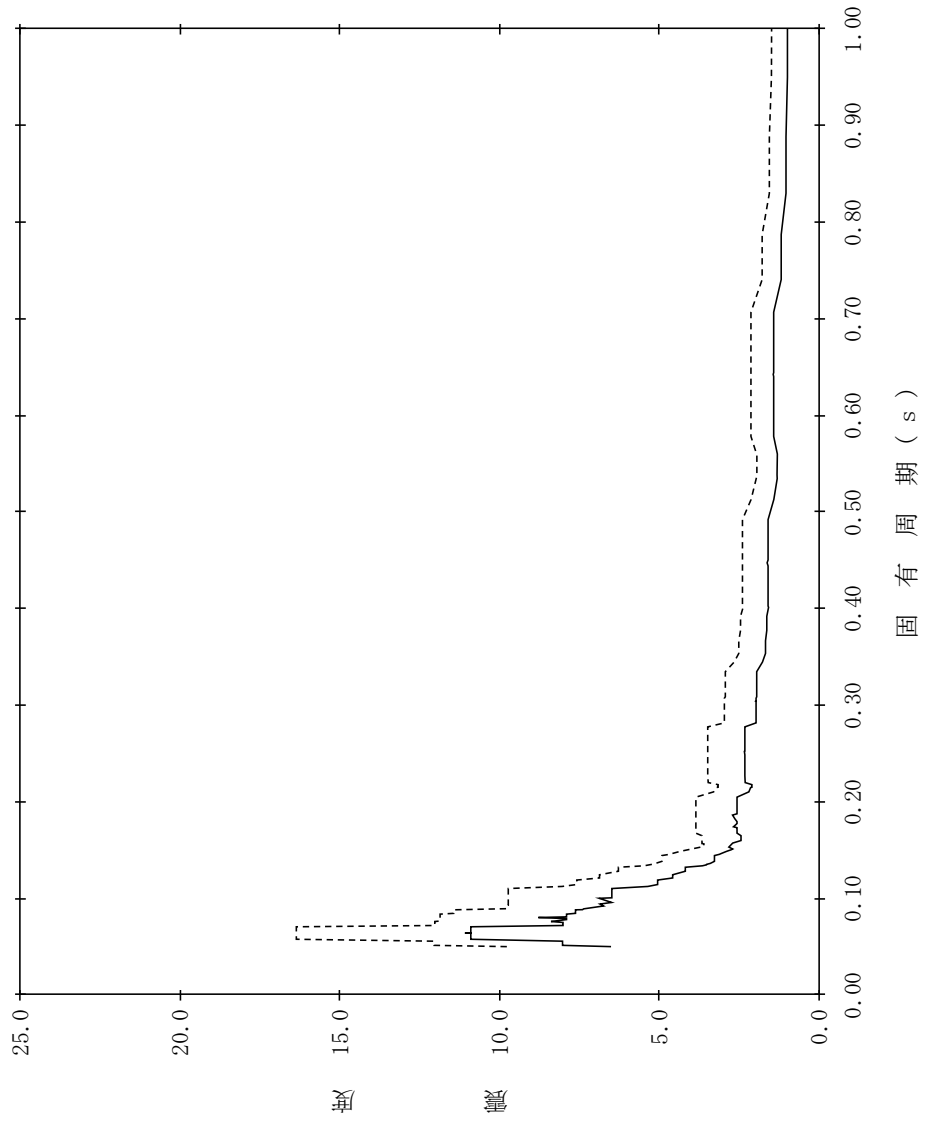
構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL37.500m
減衰定数：0.5%

—— 設計用床応答スペクトルⅠ（鉛直方向）
----- 設計用床応答スペクトルⅡ（鉛直方向）



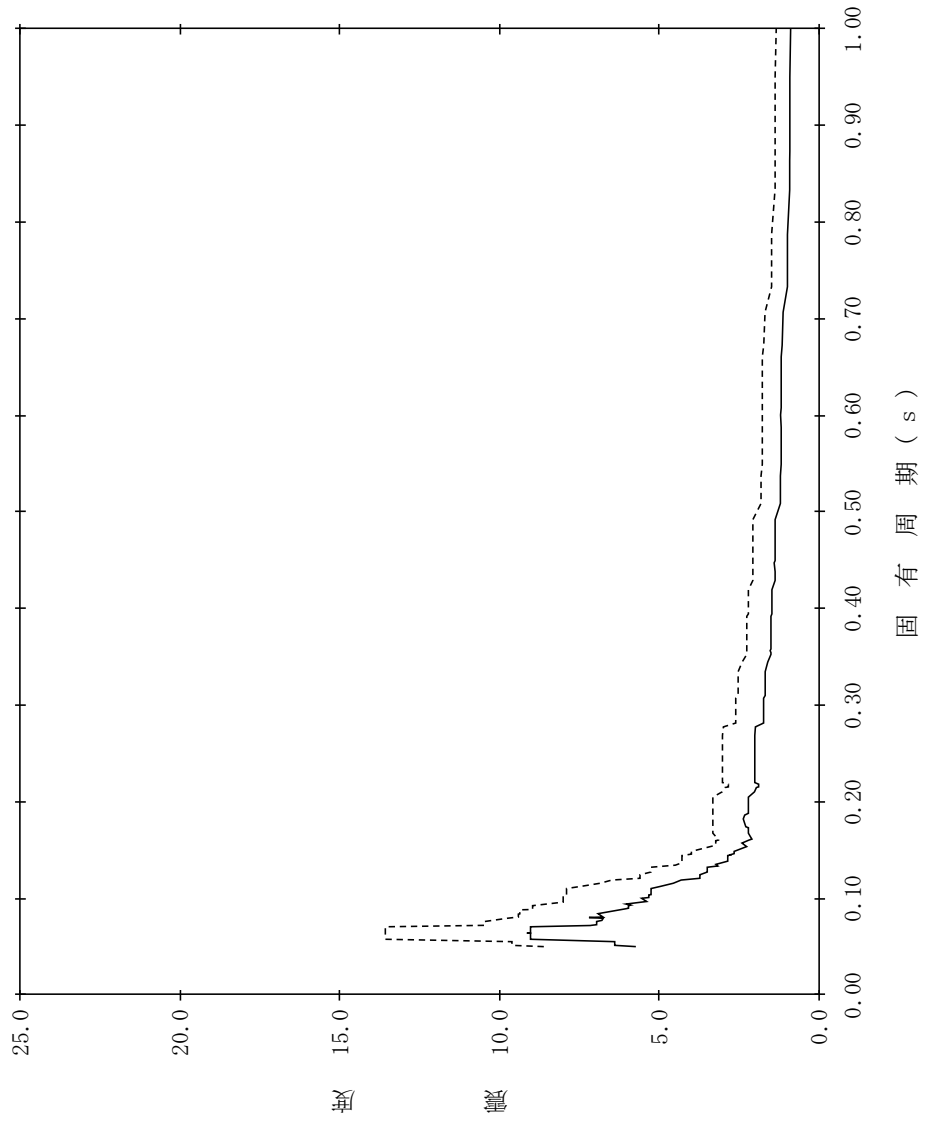
【NS2-RwB-SsV-RwB10】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL37.500m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



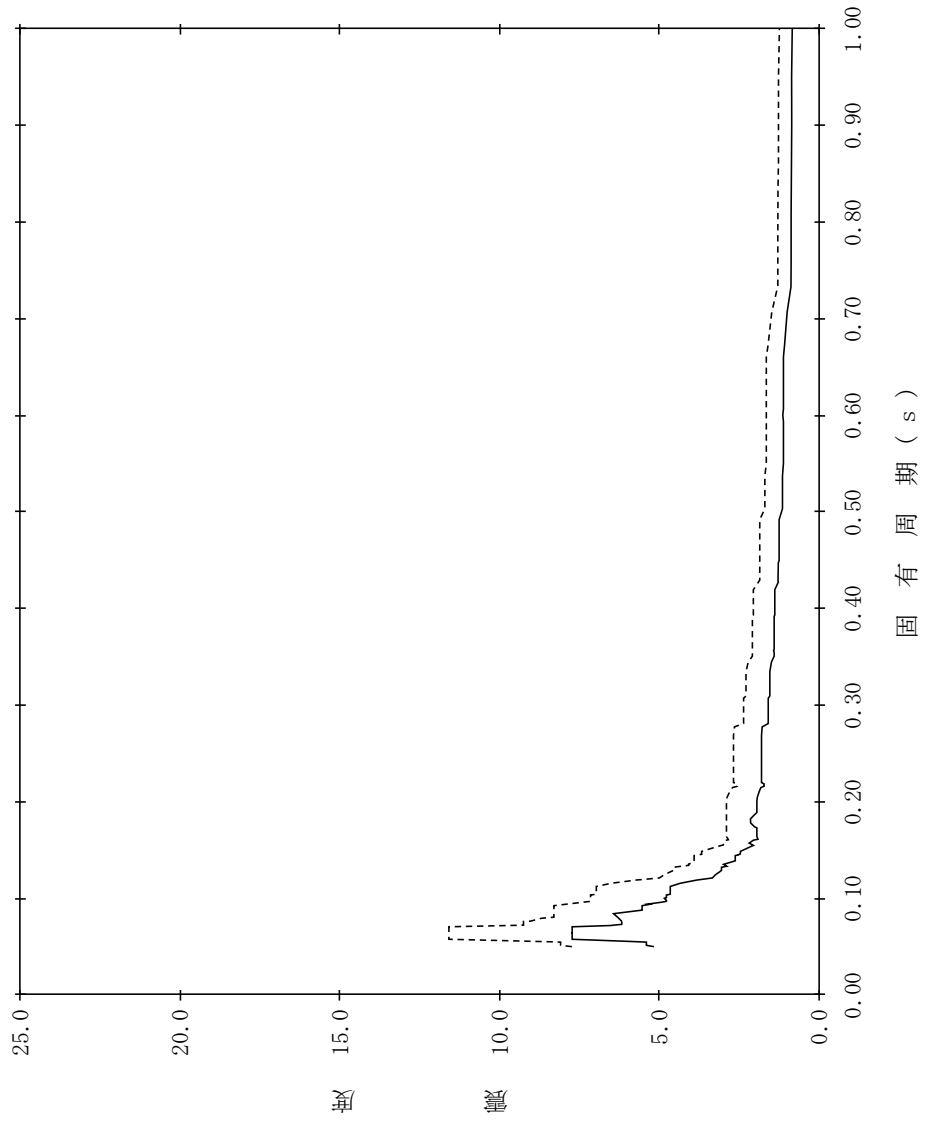
【NS2-RwB-SsV-RwB11】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



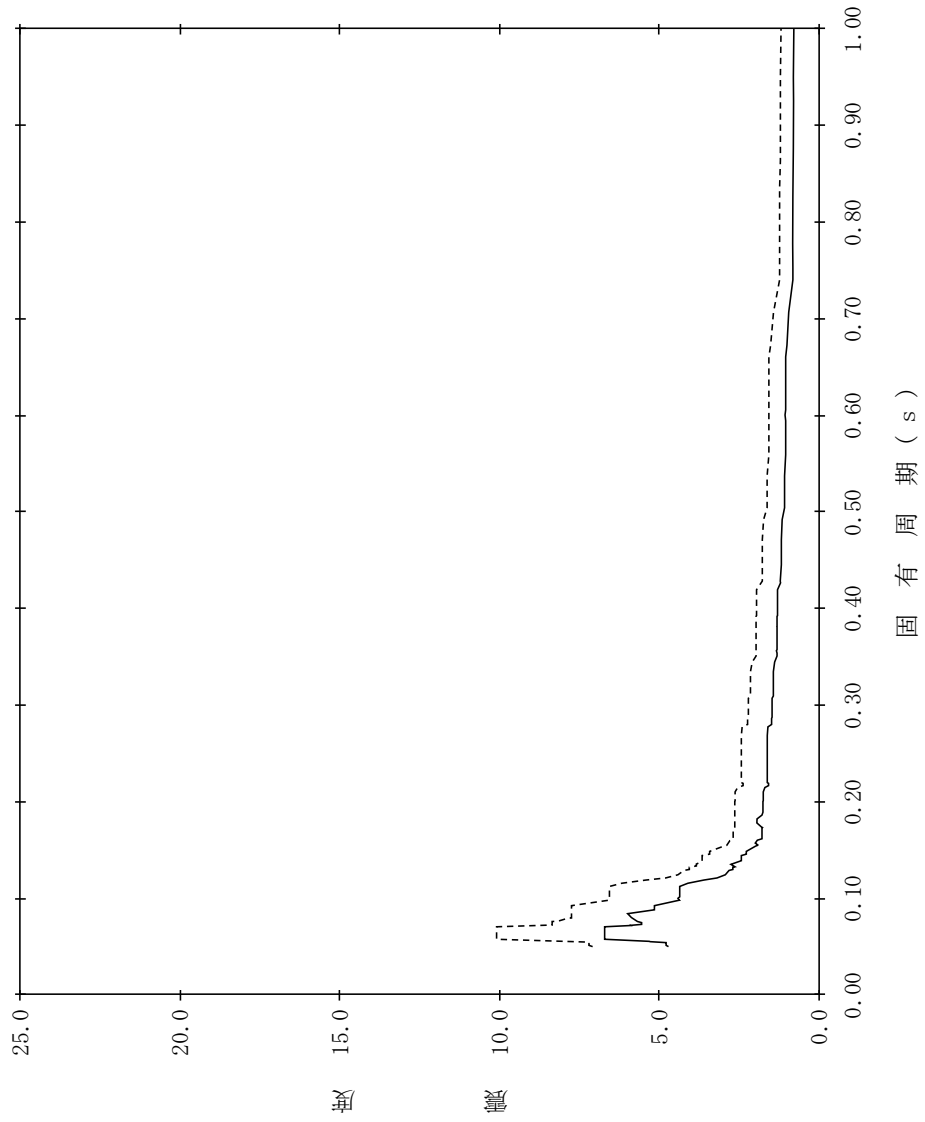
【NS2-RwB-SsV-RwB12】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



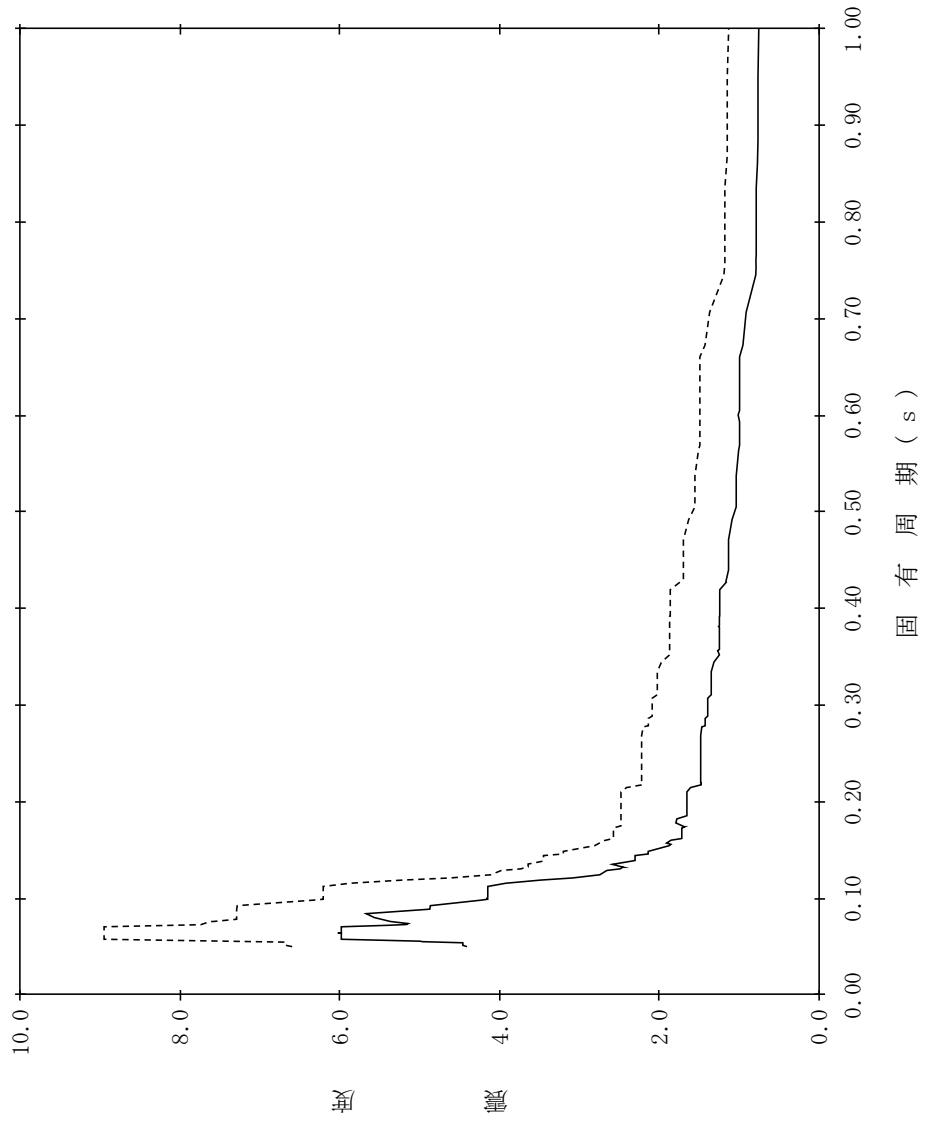
【NS2-RwB-SsV-RwB13】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



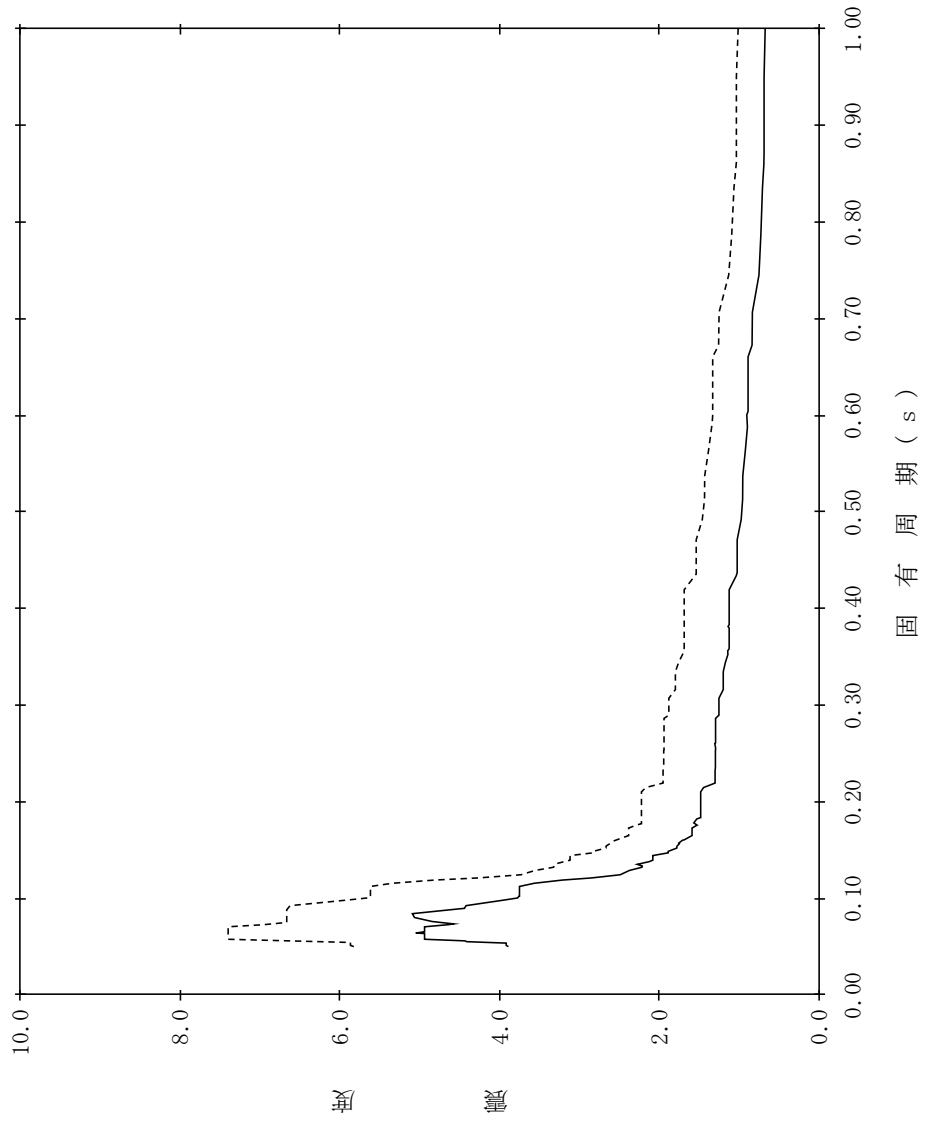
【NS2-RwB-SsV-RwB14】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL37.500m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



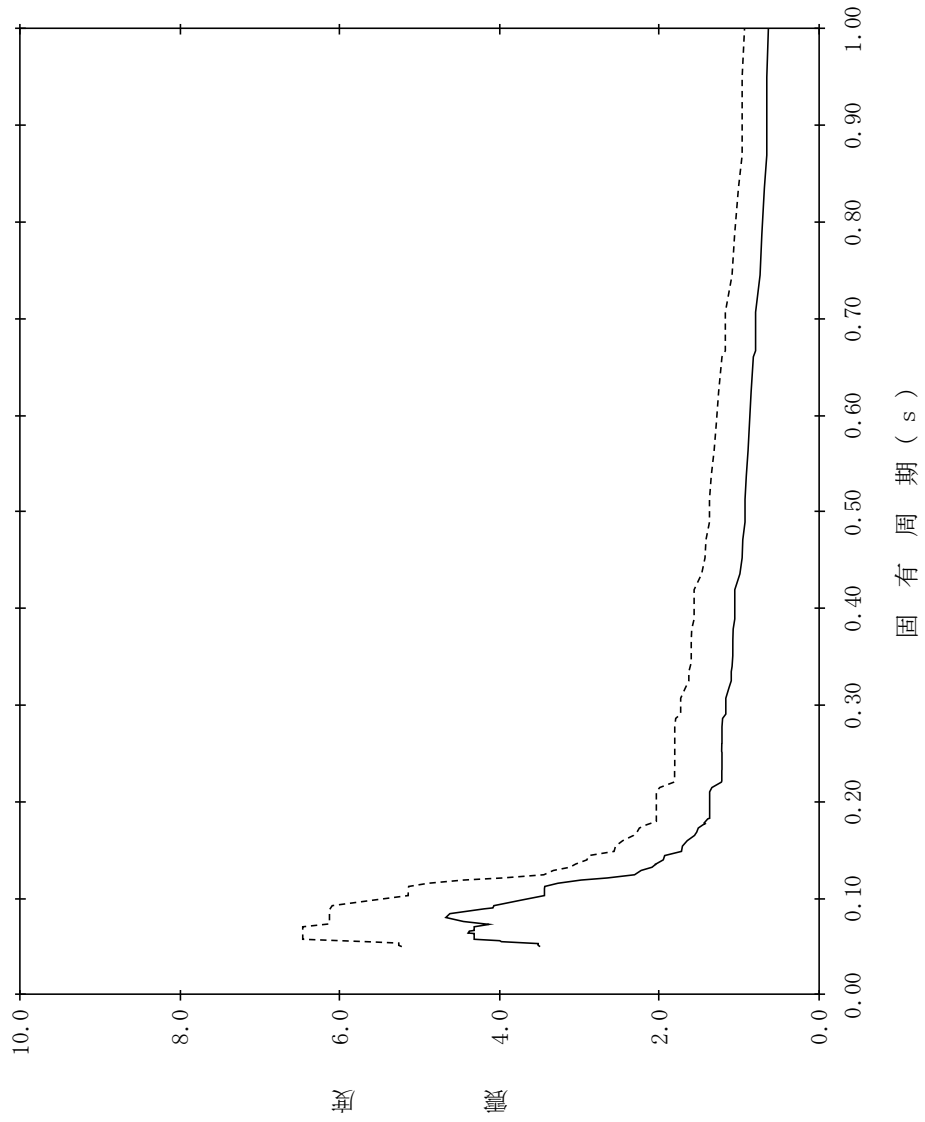
【NS2-RwB-SsV-RwB15】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL37.500m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



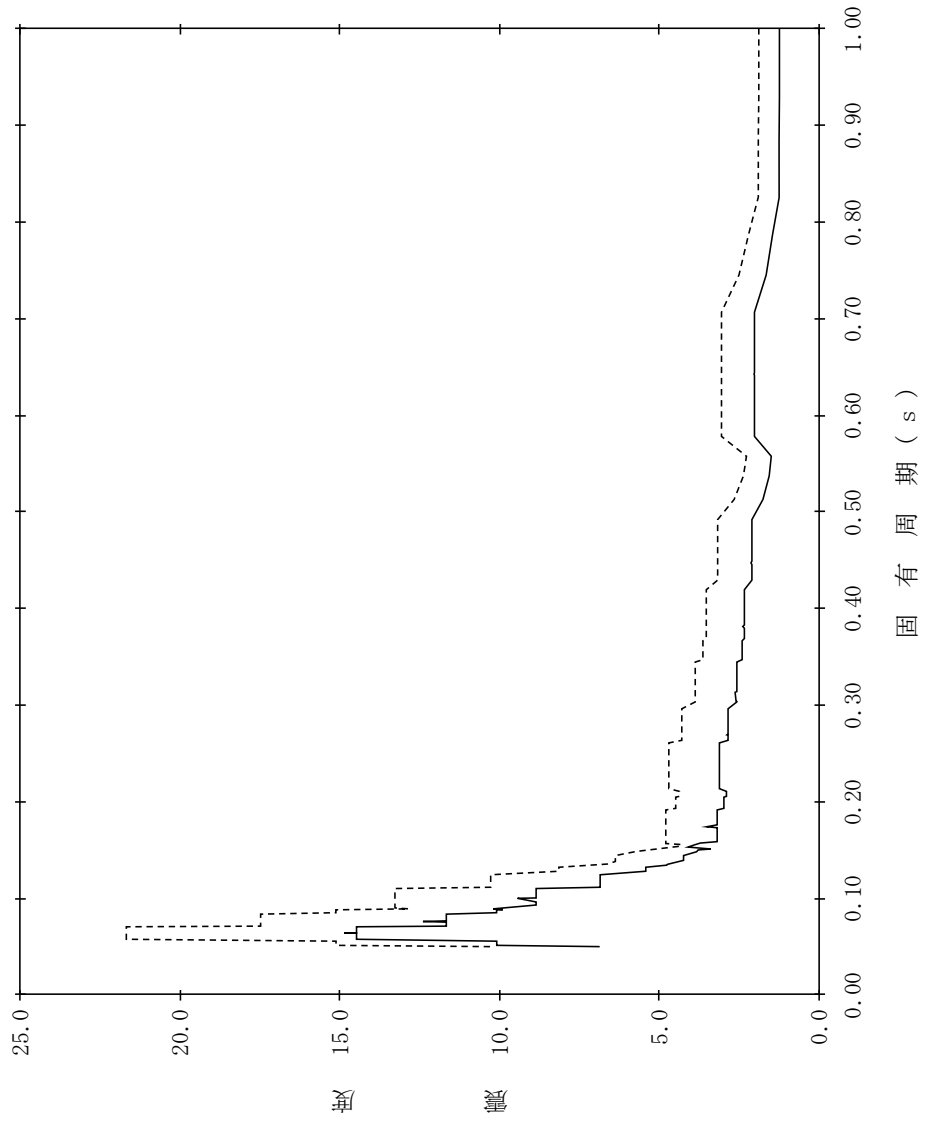
【NS2-RwB-SsV-RwB16】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL37.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



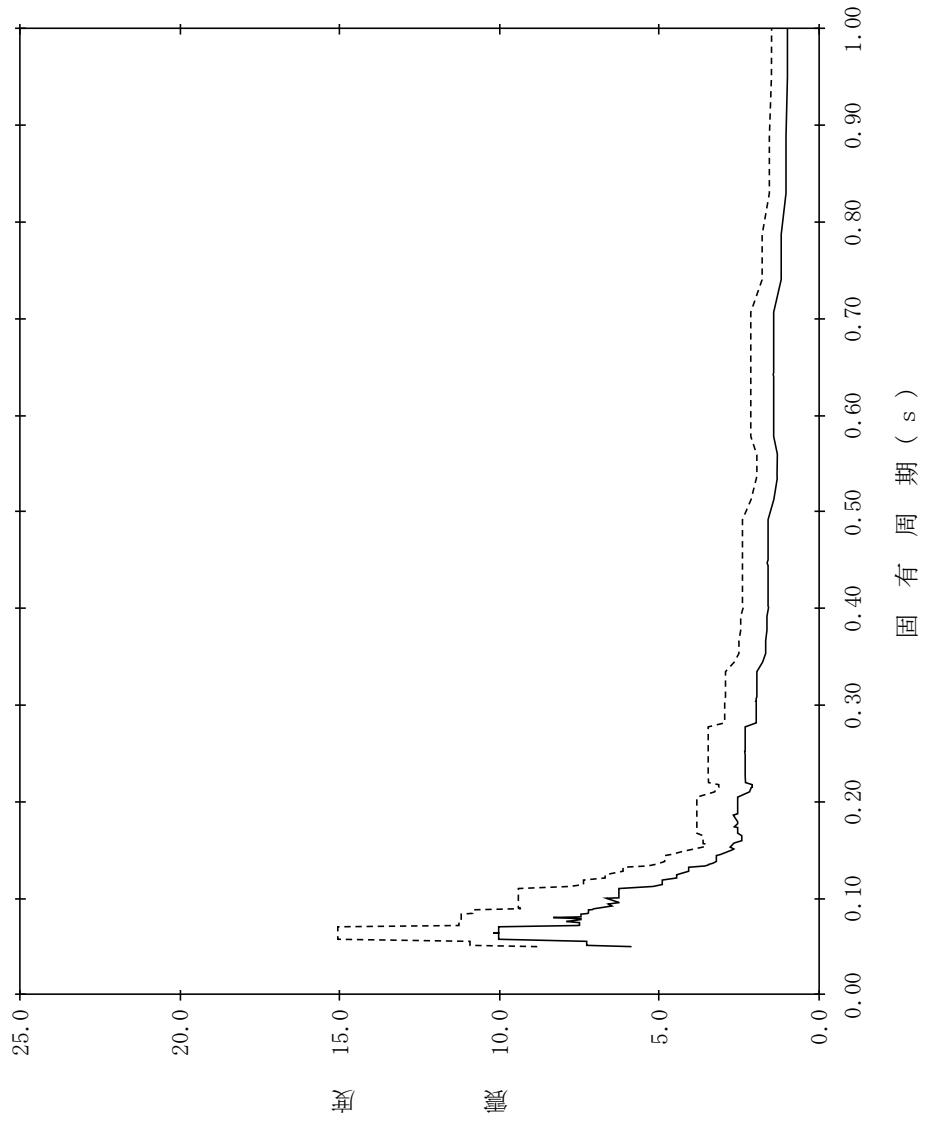
【NS2-RwB-SsV-RwB17】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



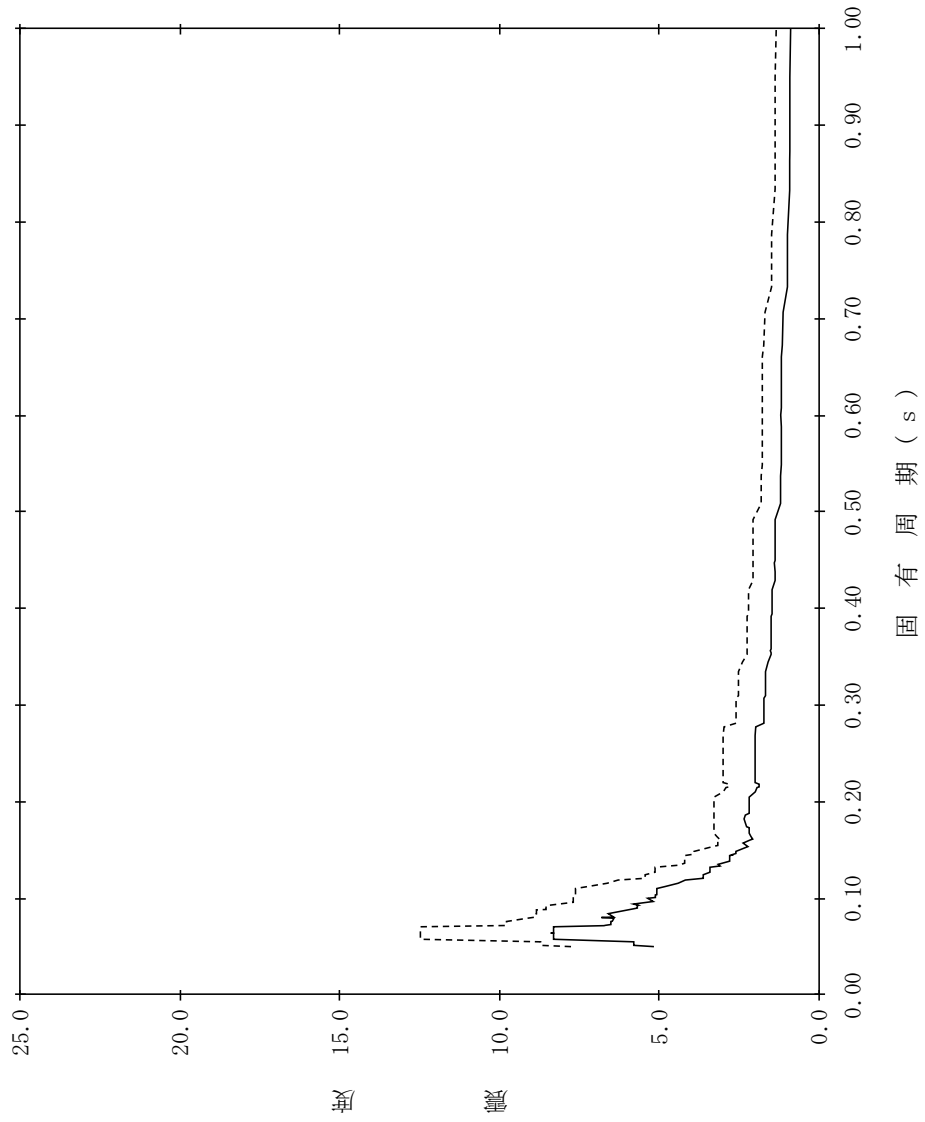
【NS2-RwB-SsV-RwB18】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



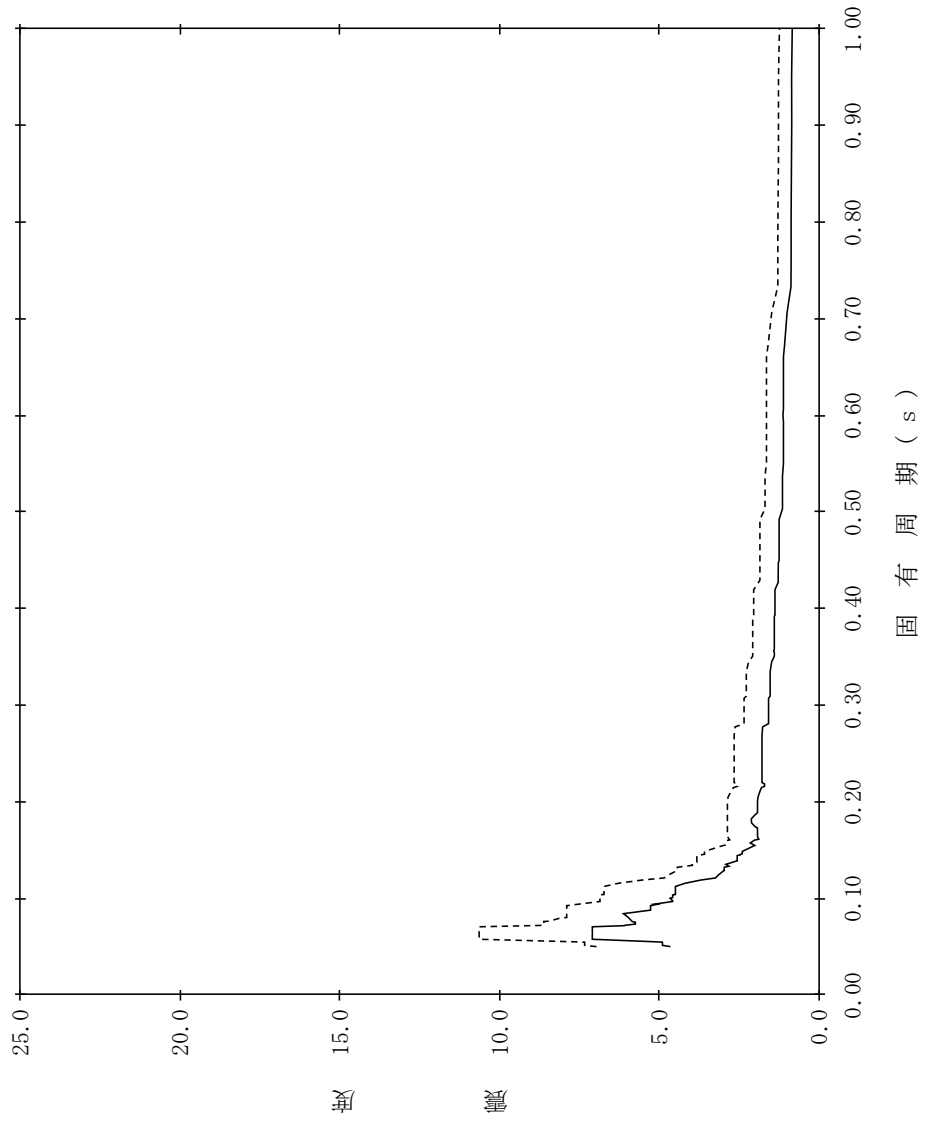
【NS2-RwB-SsV-RwB19】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



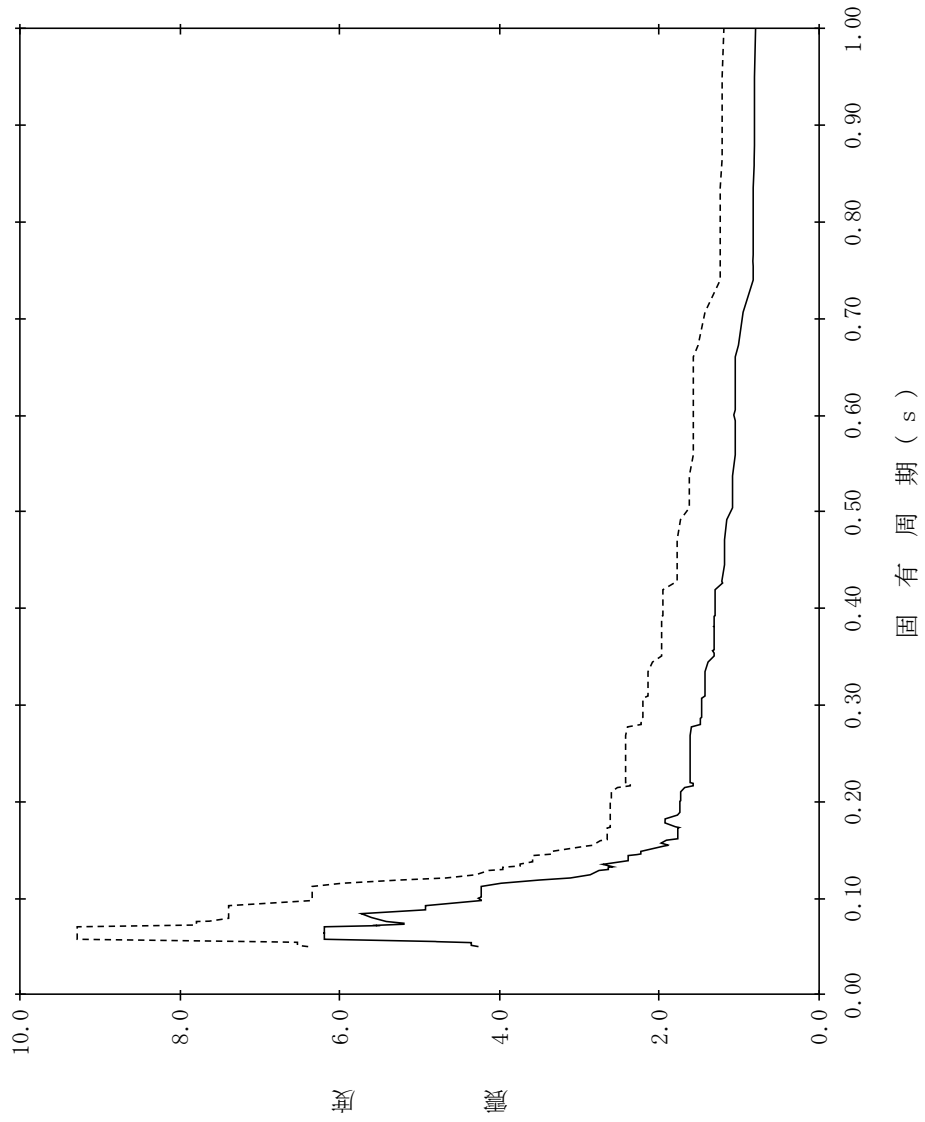
【NS2-RwB-SsV-RwB20】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RwB-SsV-RwB21】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

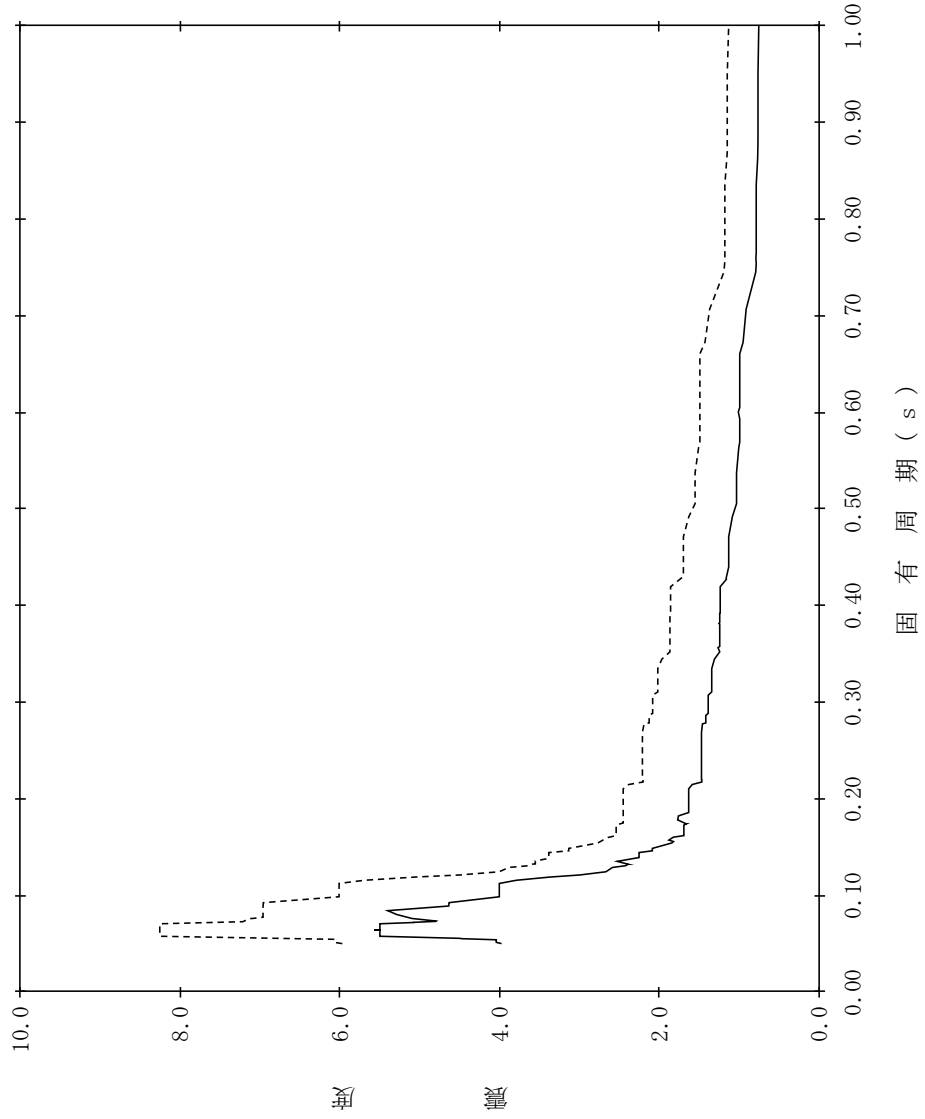


【NS2-RwB-SsV-RwB22】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL32.000m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s

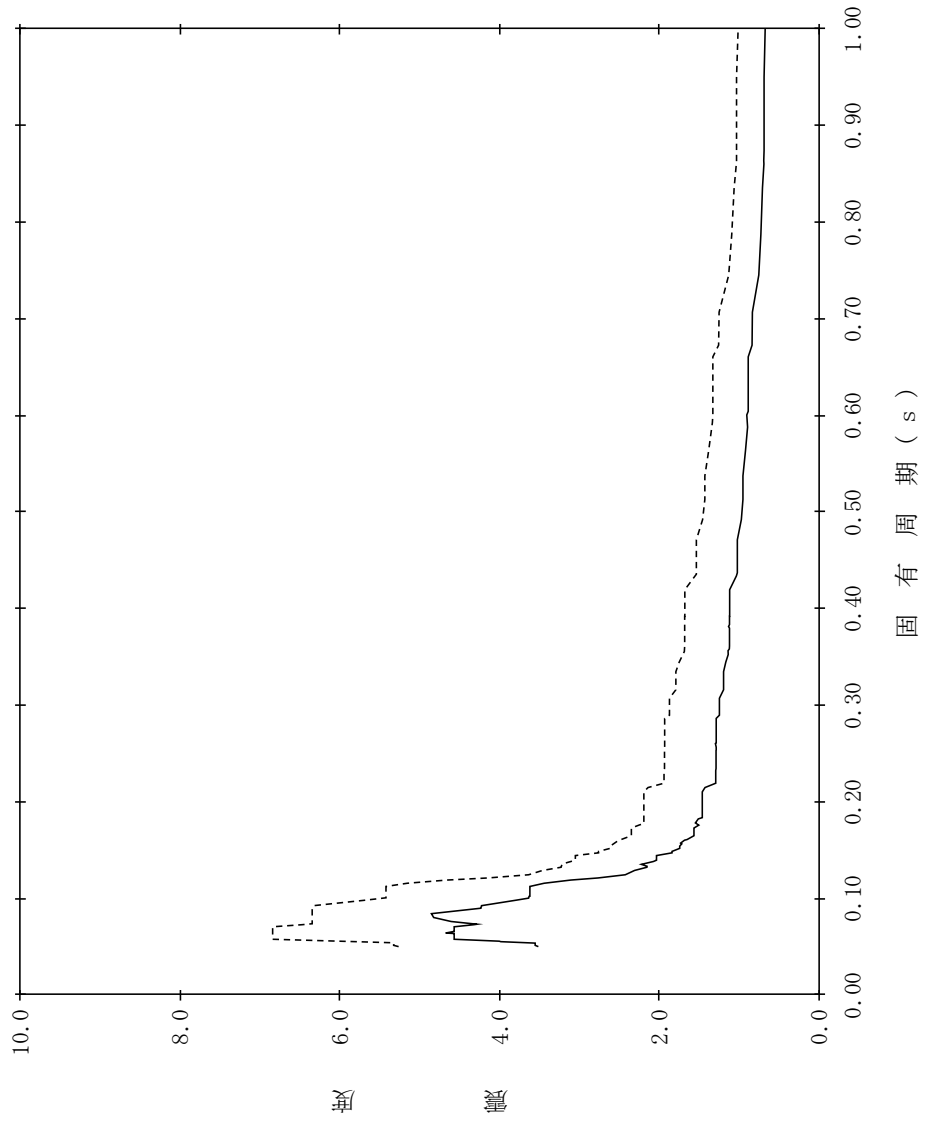
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



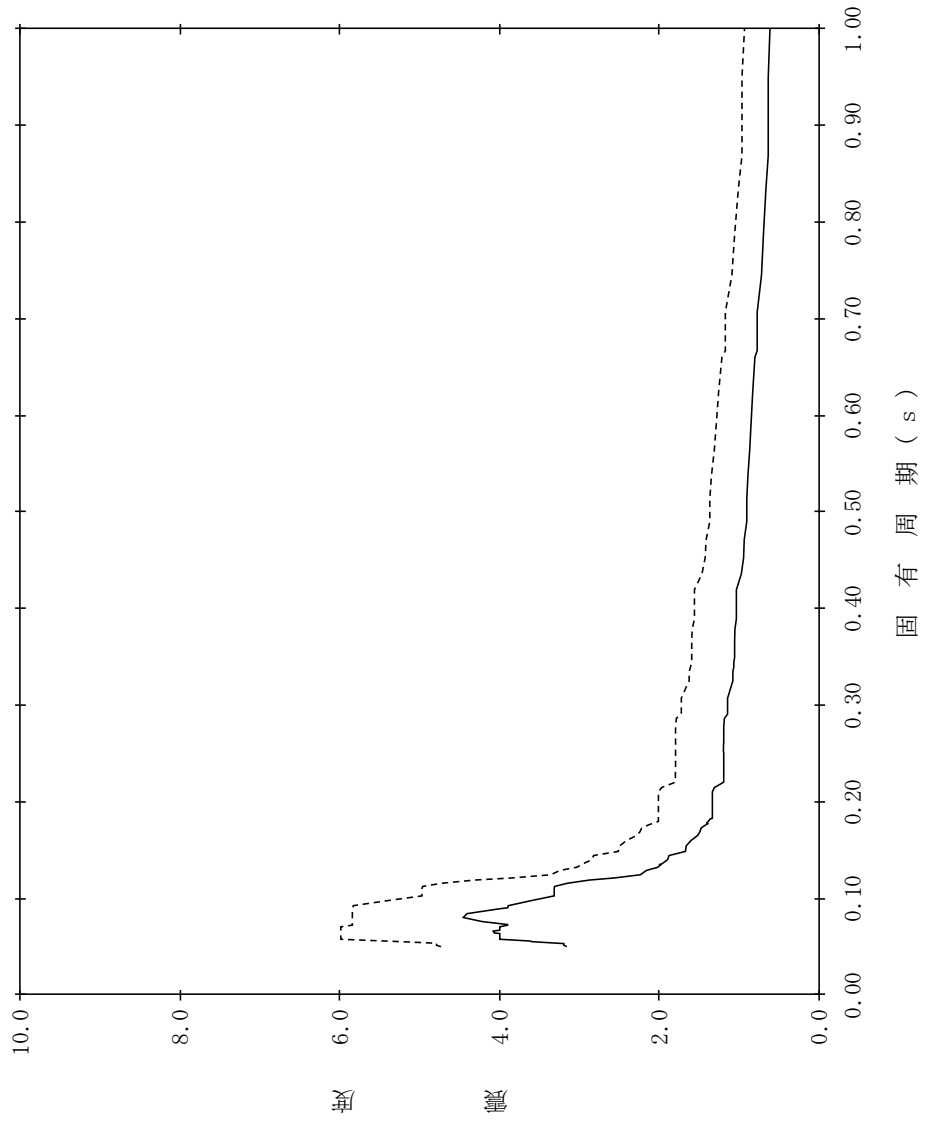
【NS2-RwB-SsV-RwB23】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



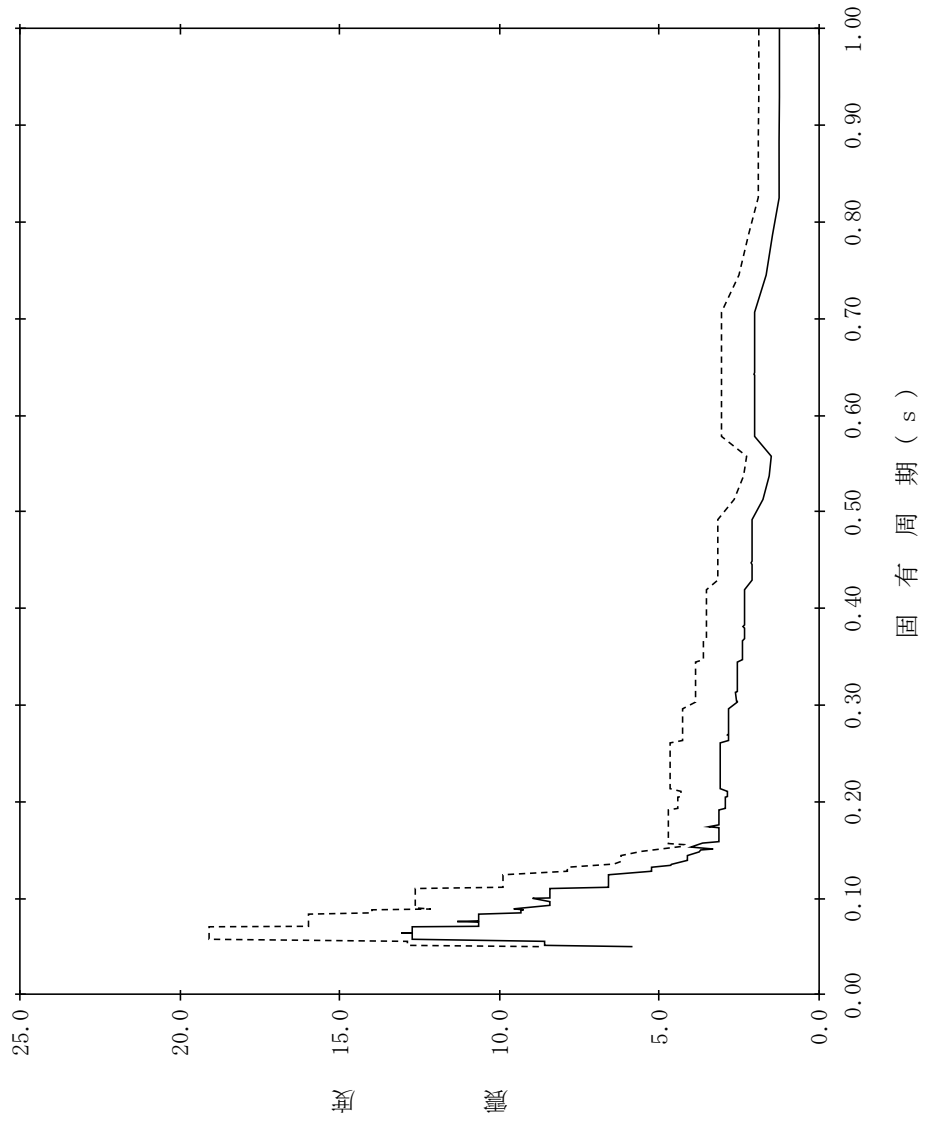
【NS2-RwB-SsV-RwB24】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL32.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RwB-SsV-RwB25】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

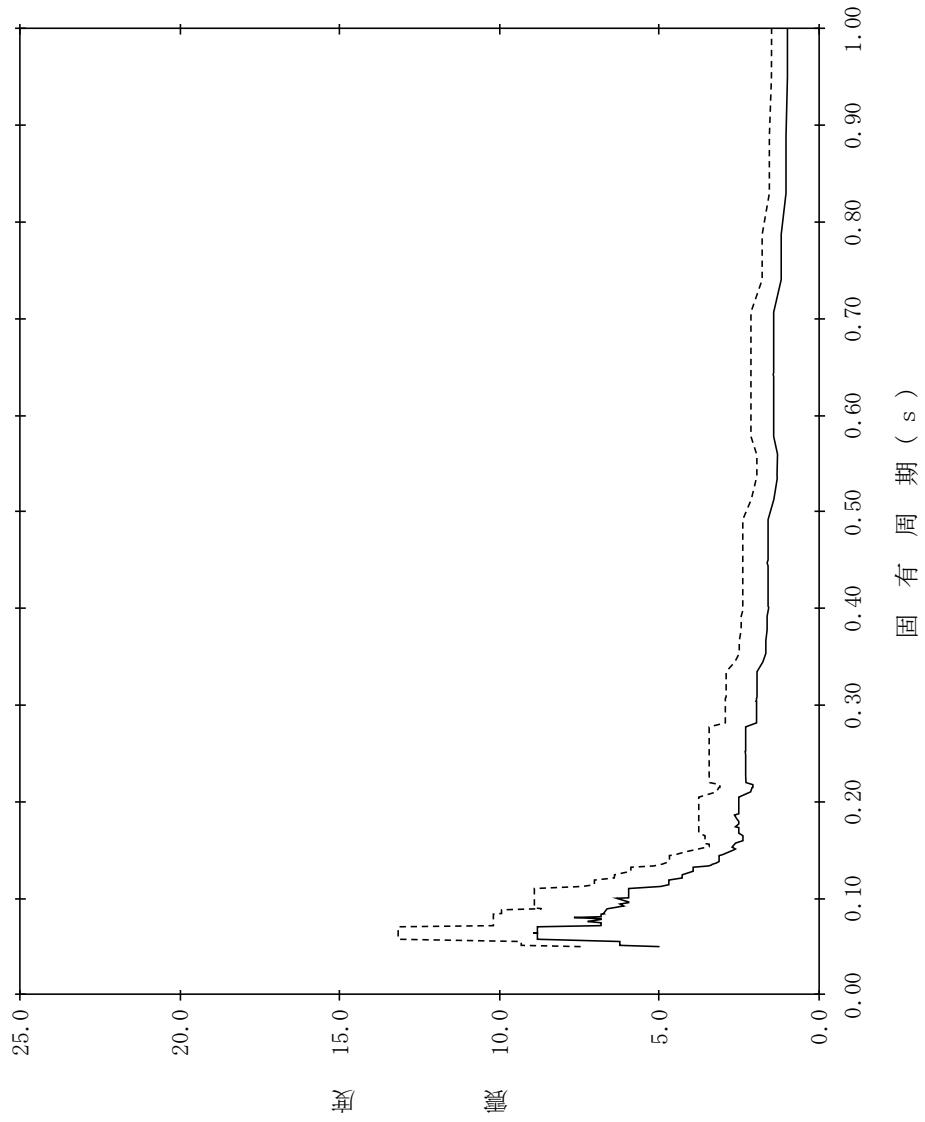


【NS2-RwB-SsV-RwB26】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL26.700m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s

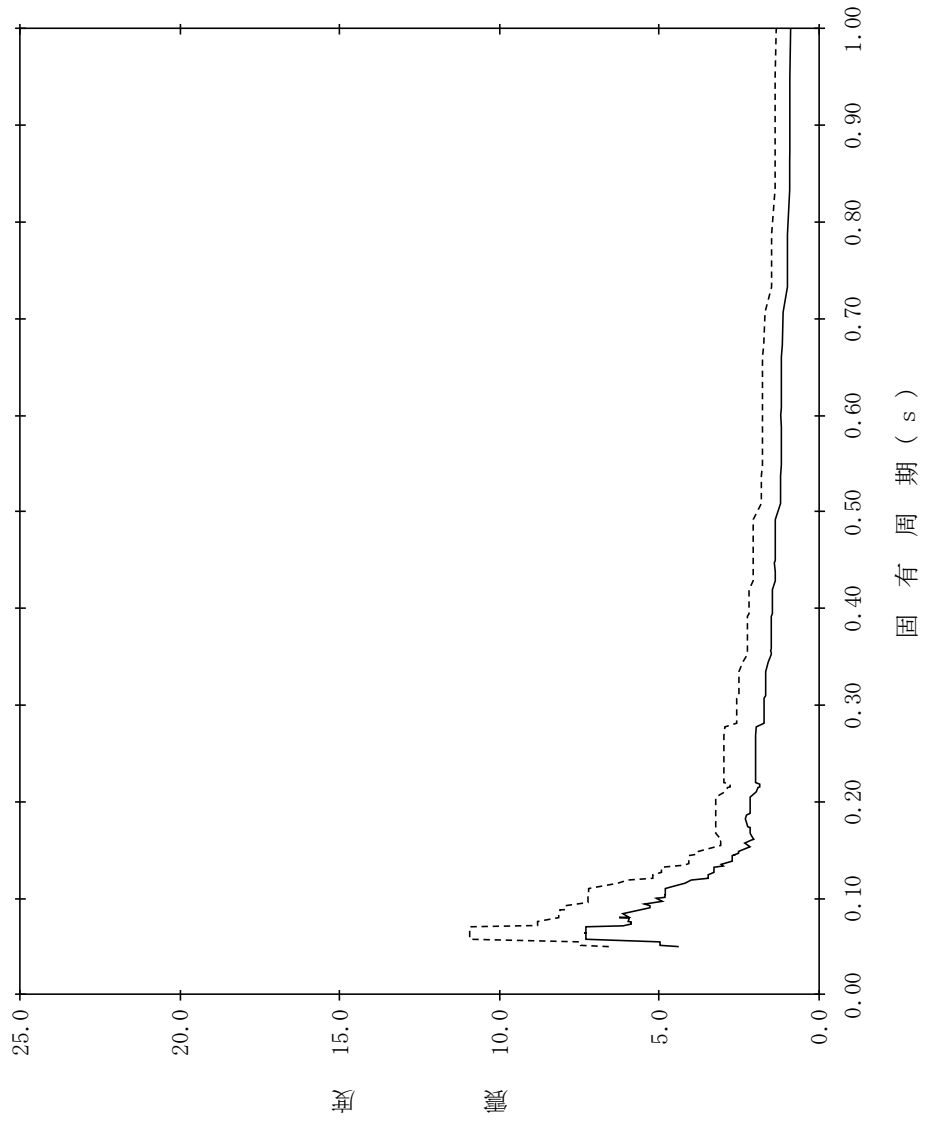
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

- - - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



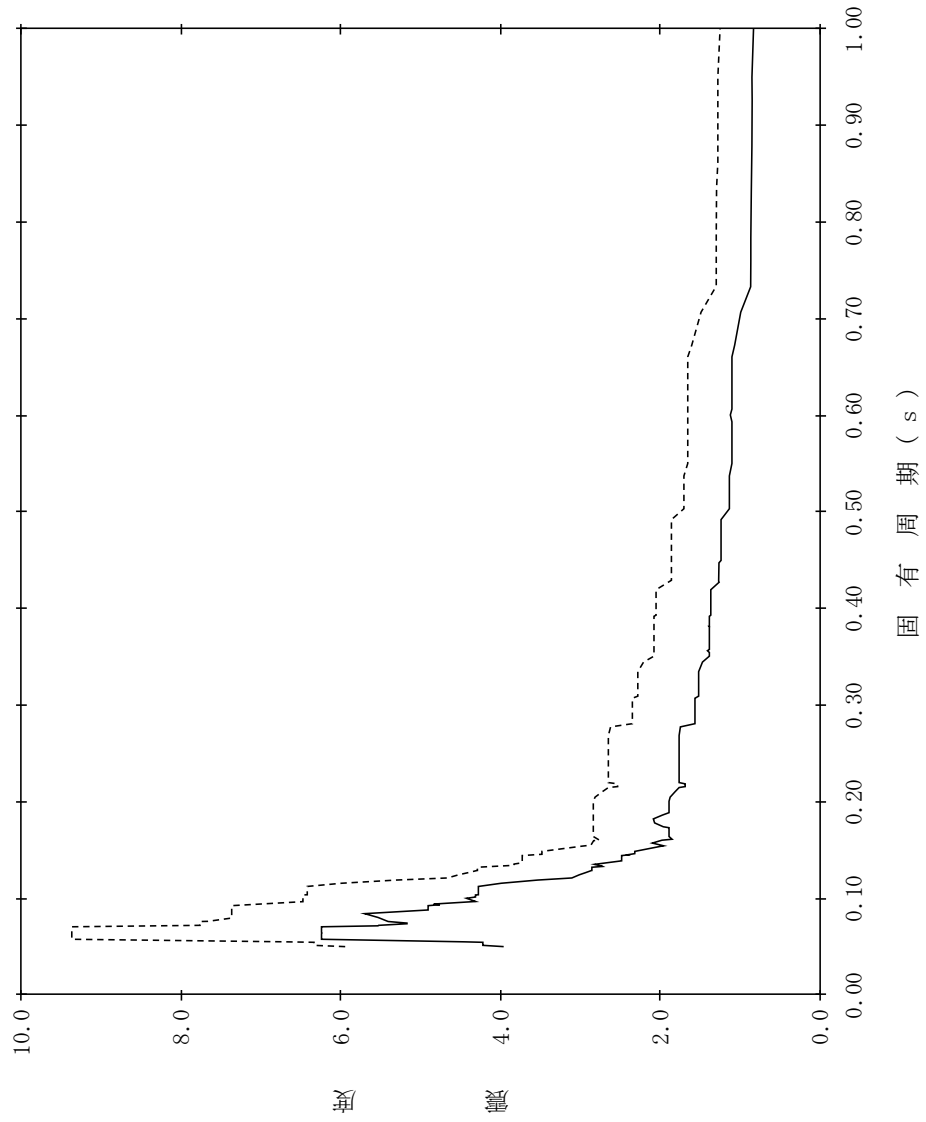
【NS2-RwB-SsV-RwB27】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



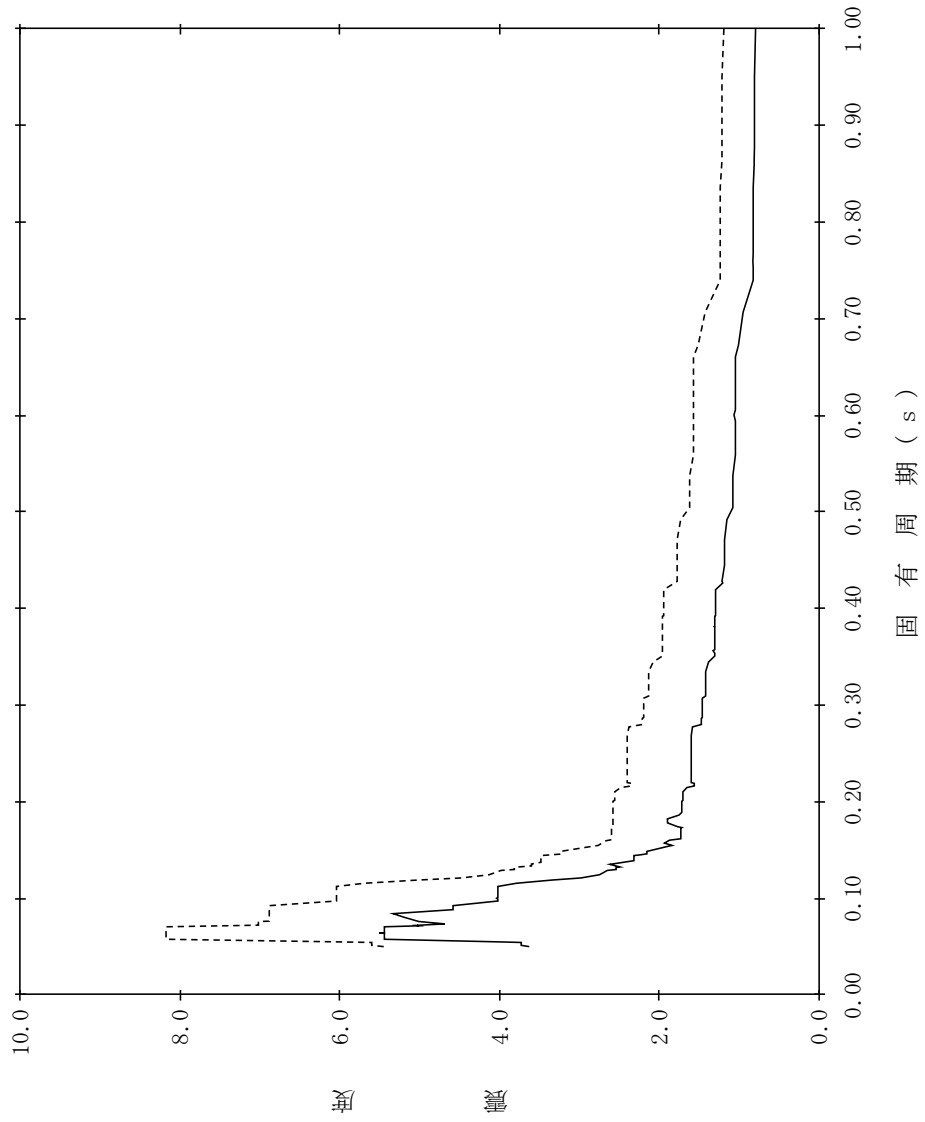
【NS2-RwB-SsV-RwB28】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



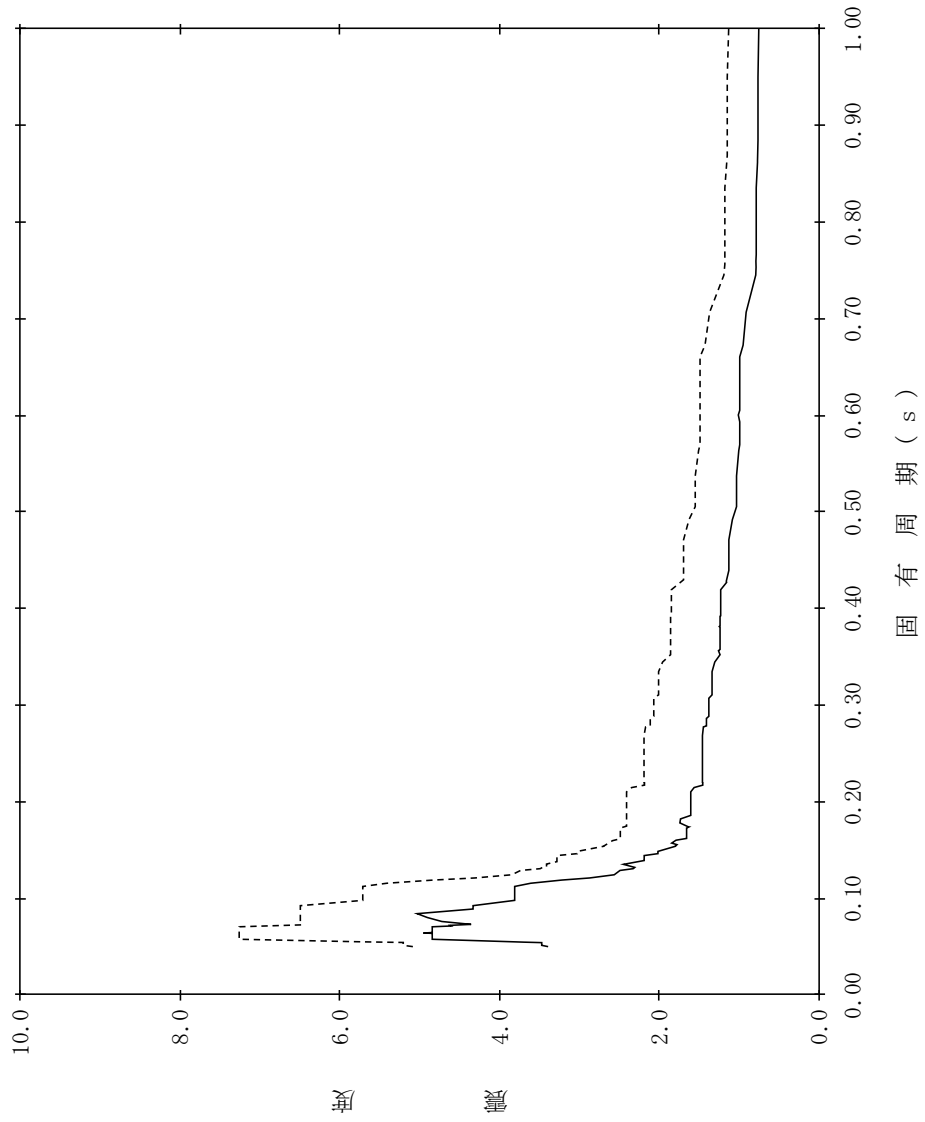
【NS2-RwB-SsV-RwB29】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



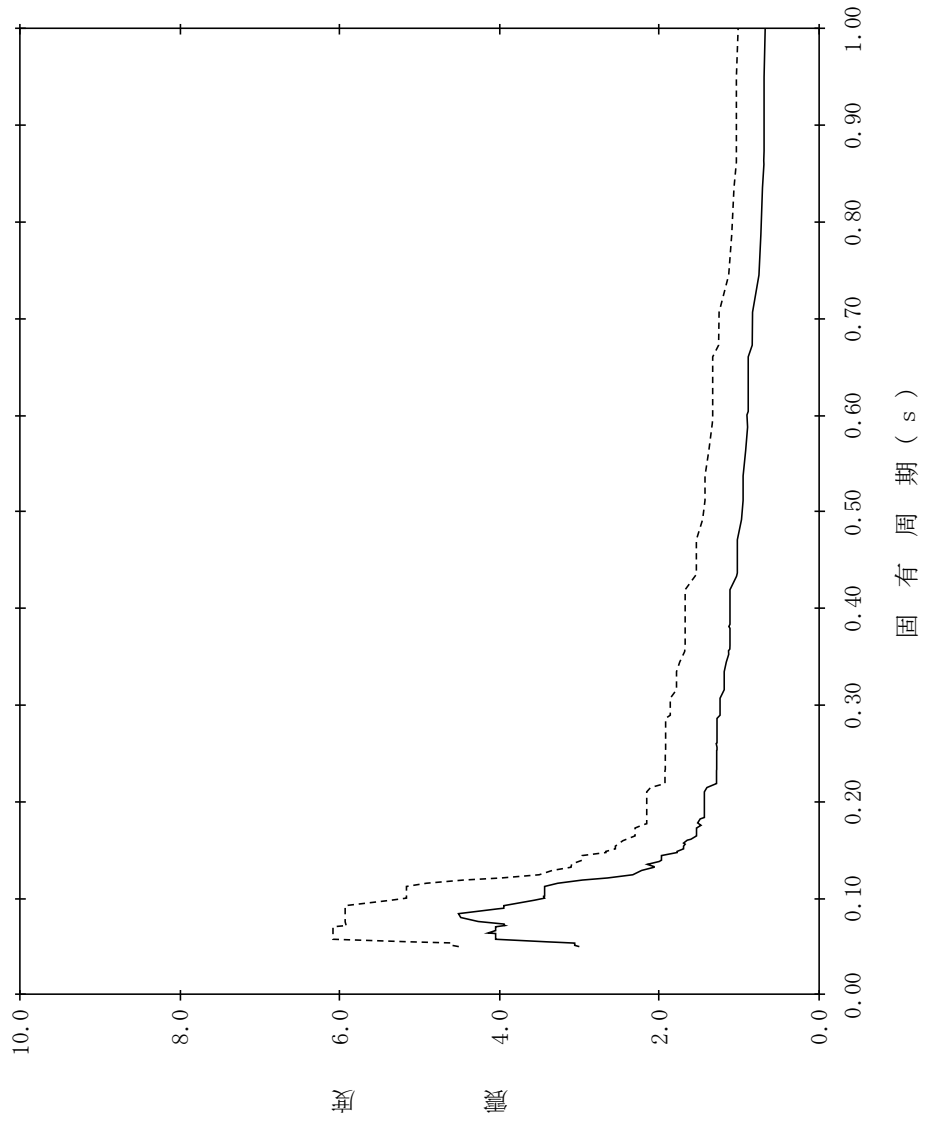
【NS2-RwB-SsV-RwB30】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



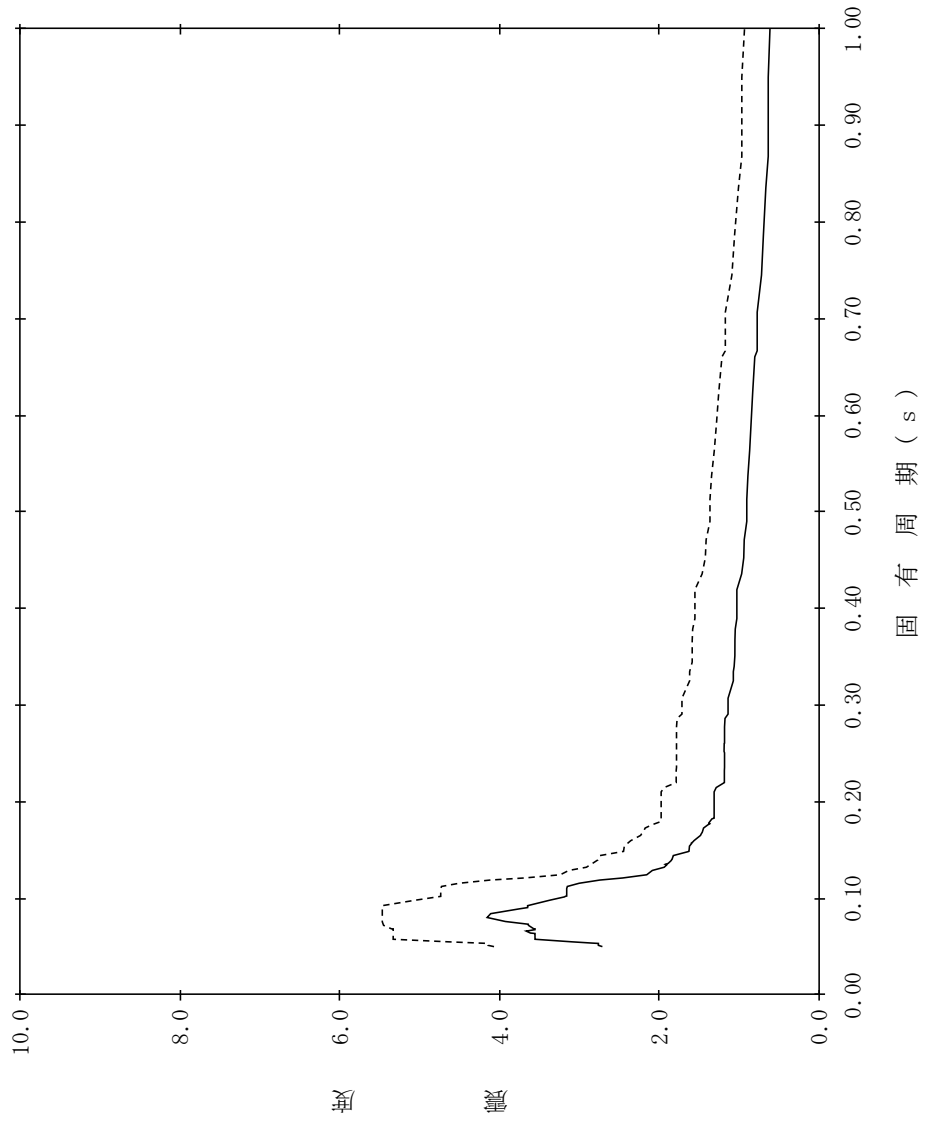
【NS2-RwB-SsV-RwB31】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL26.700m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



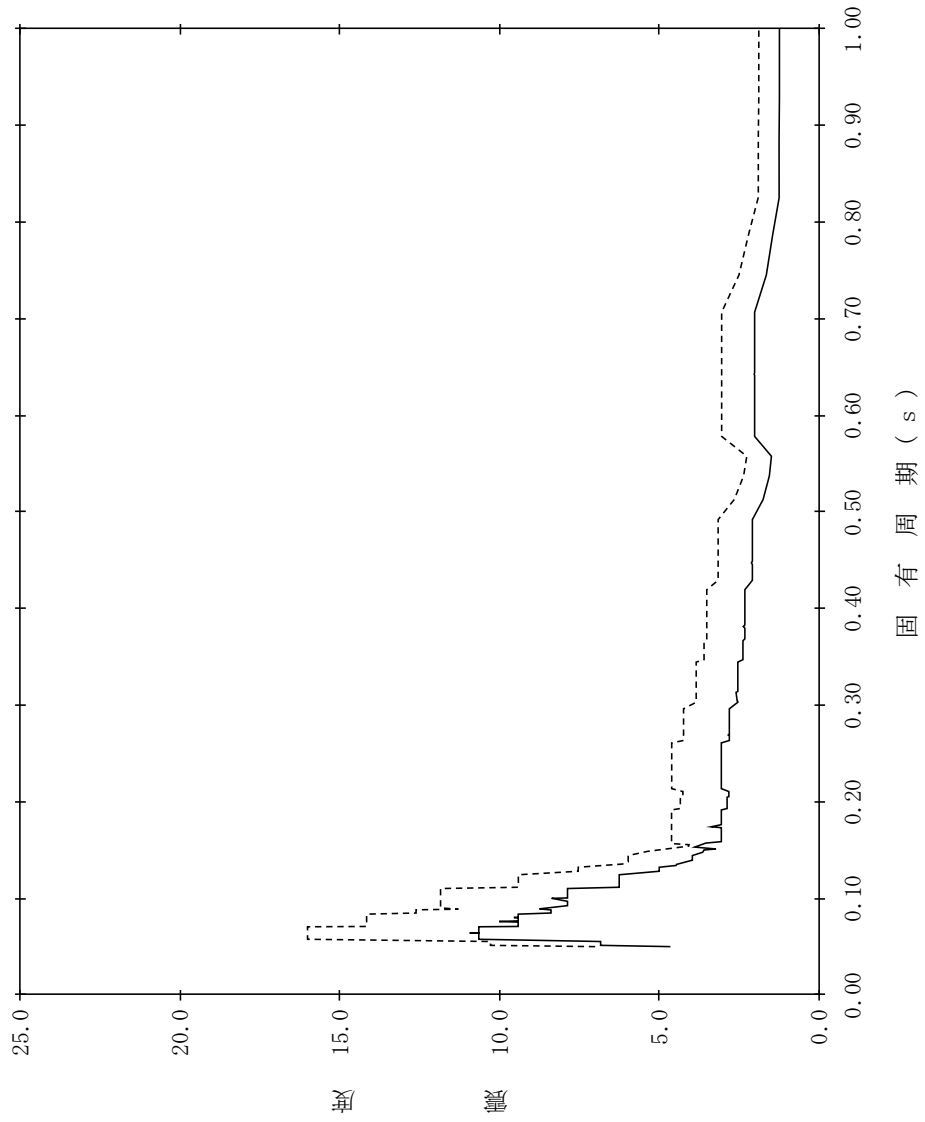
【NS2-RwB-SsV-RwB32】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL26.700m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



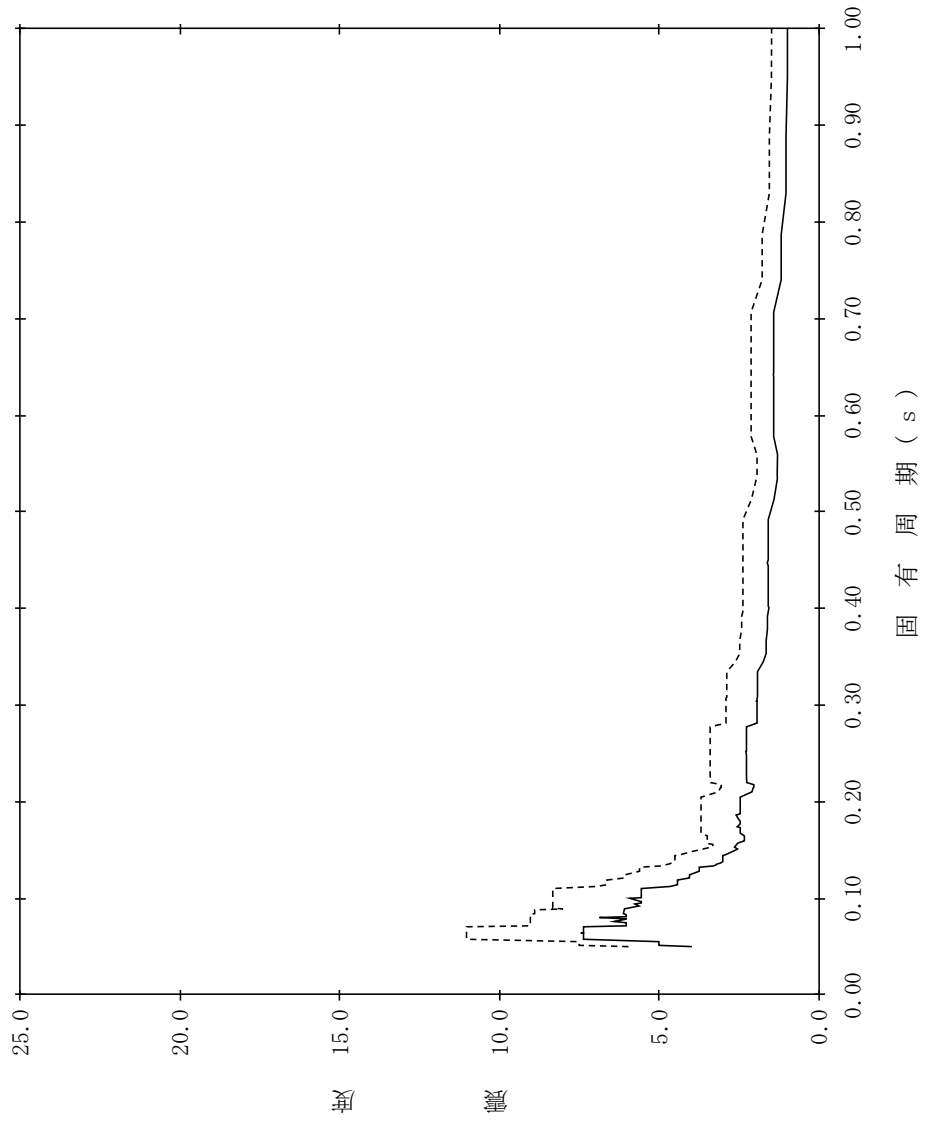
【NS2-RwB-SsV-RwB33】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



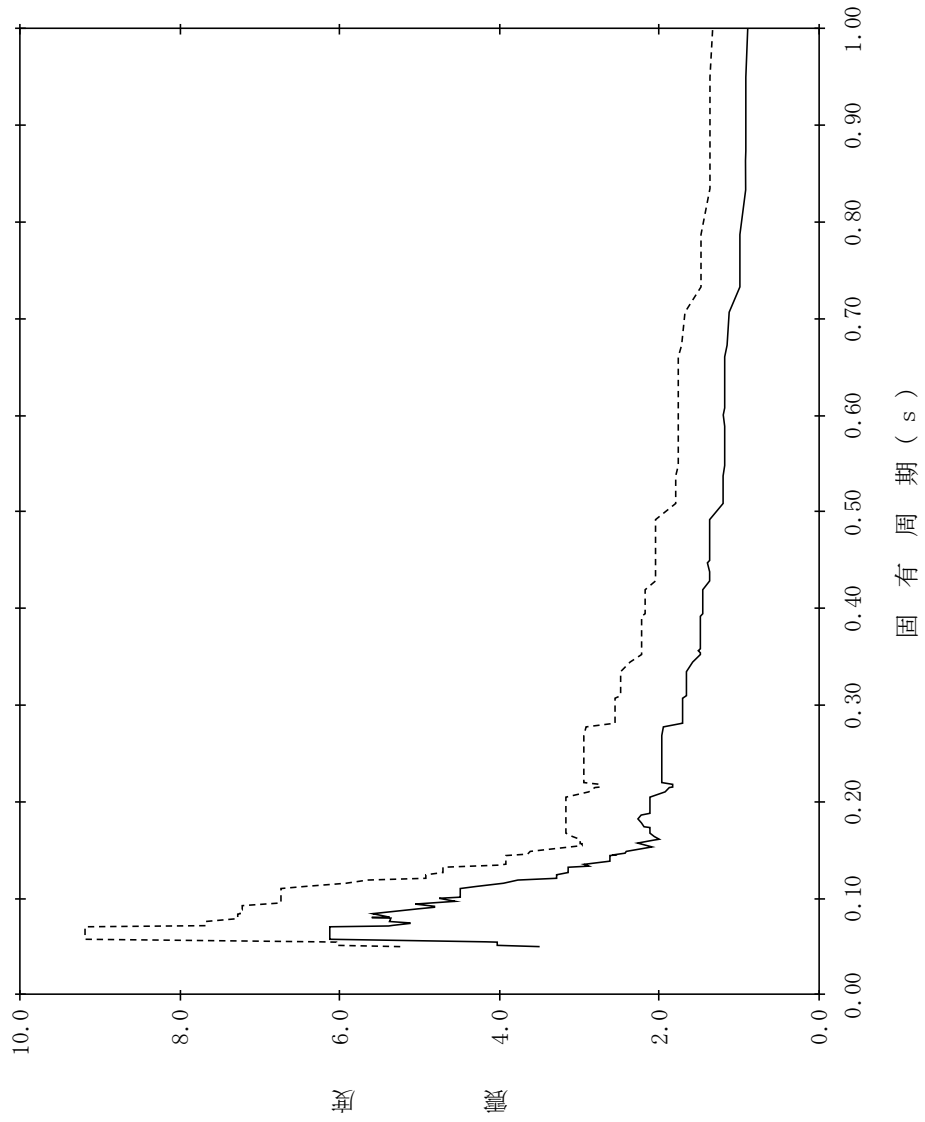
【NS2-RwB-SsV-RwB34】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



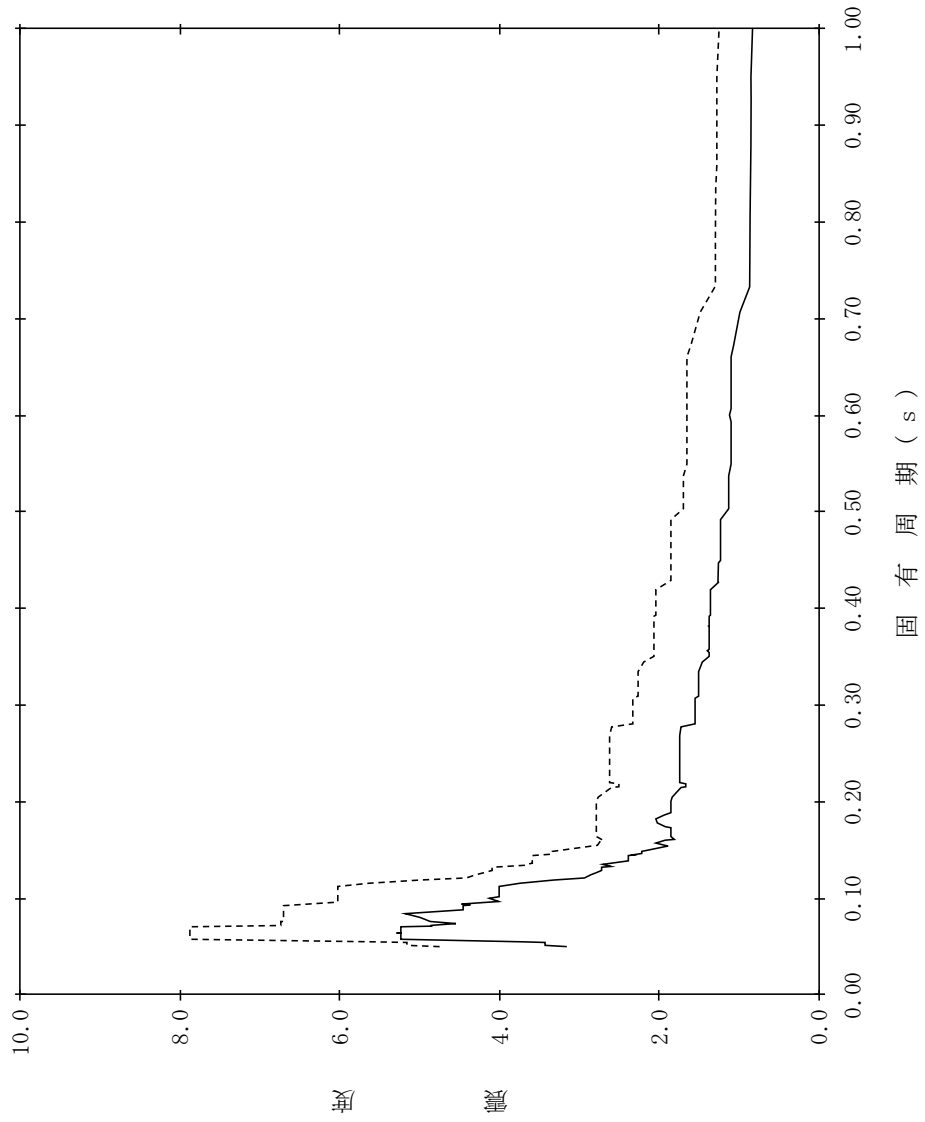
【NS2-RwB-SsV-RwB35】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL22.100m
減衰定数：1.5%—— 設計用床応答スペクトルⅠ（鉛直方向）
----- 設計用床応答スペクトルⅡ（鉛直方向）



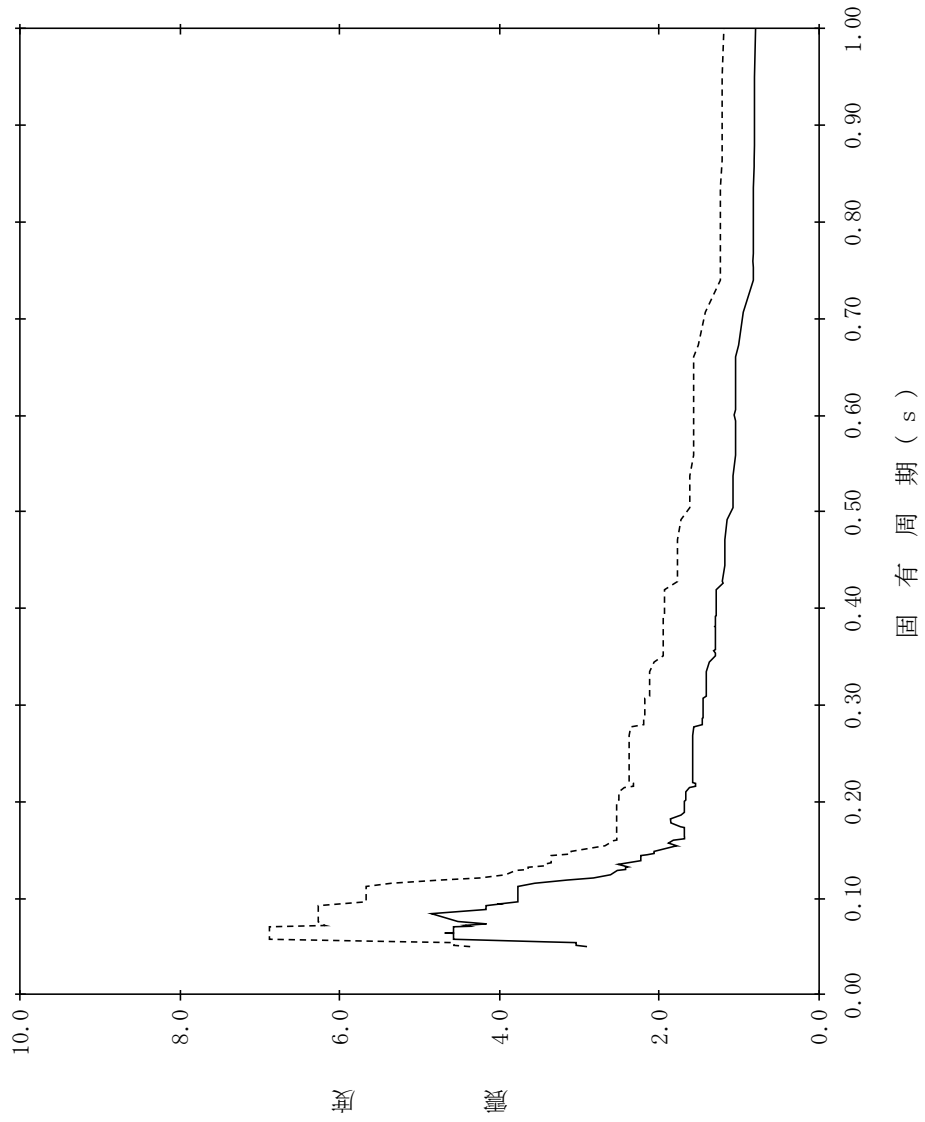
【NS2-RwB-SsV-RwB36】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



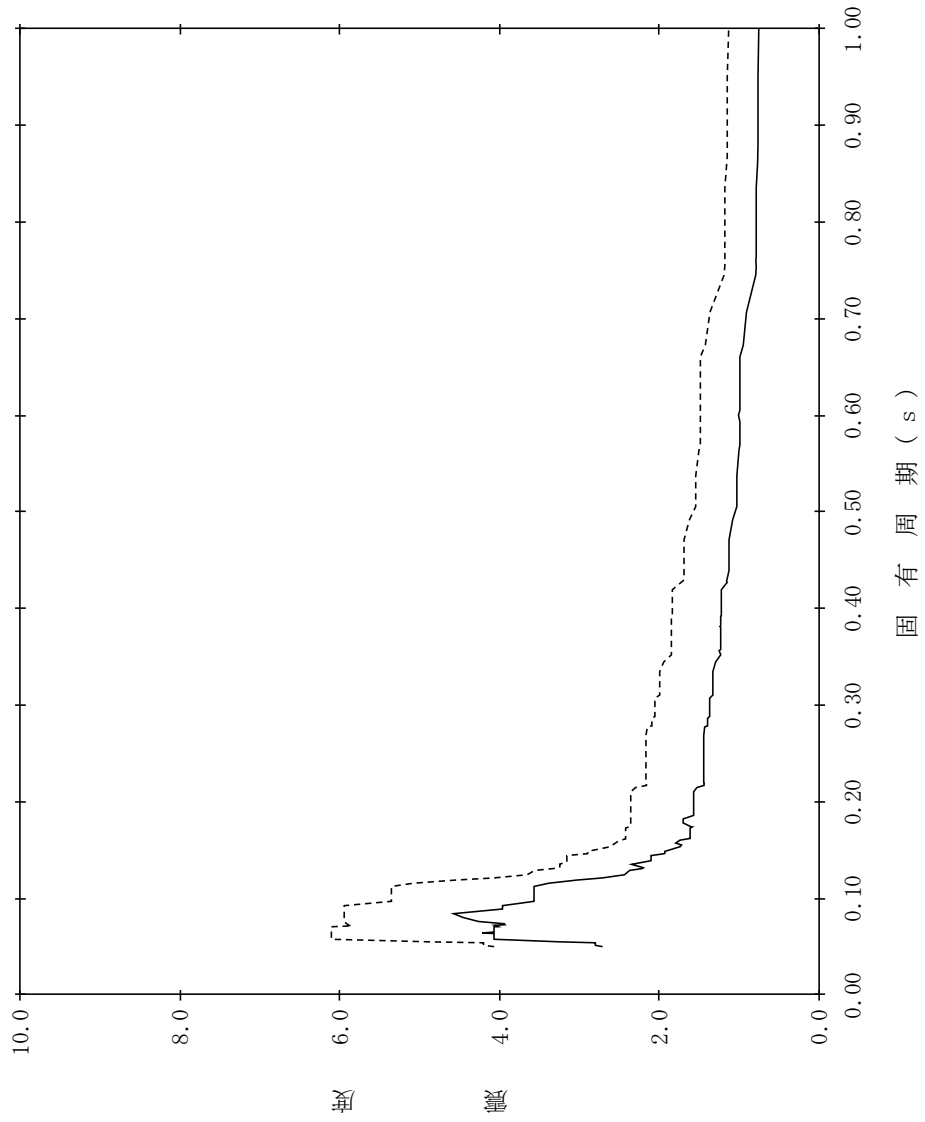
【NS2-RwB-SsV-RwB37】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



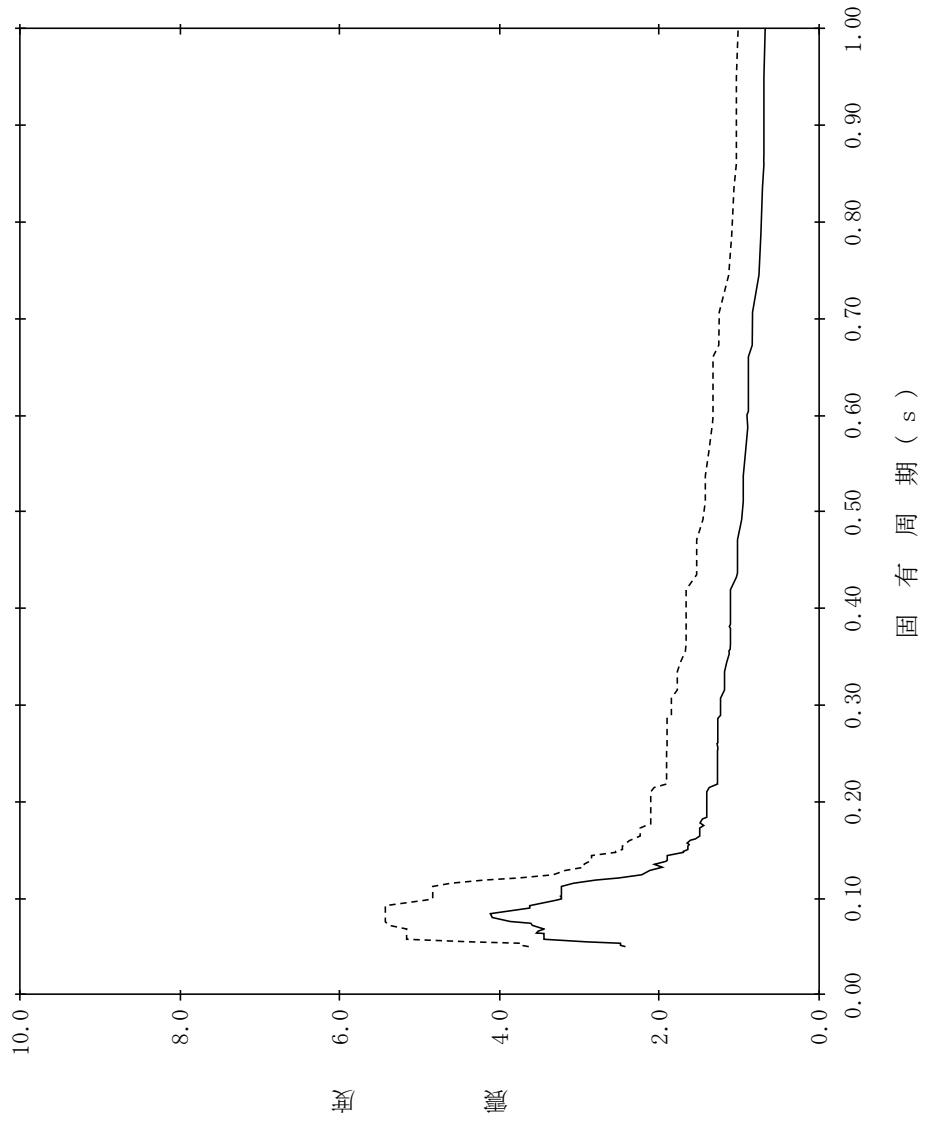
【NS2-RwB-SsV-RwB38】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



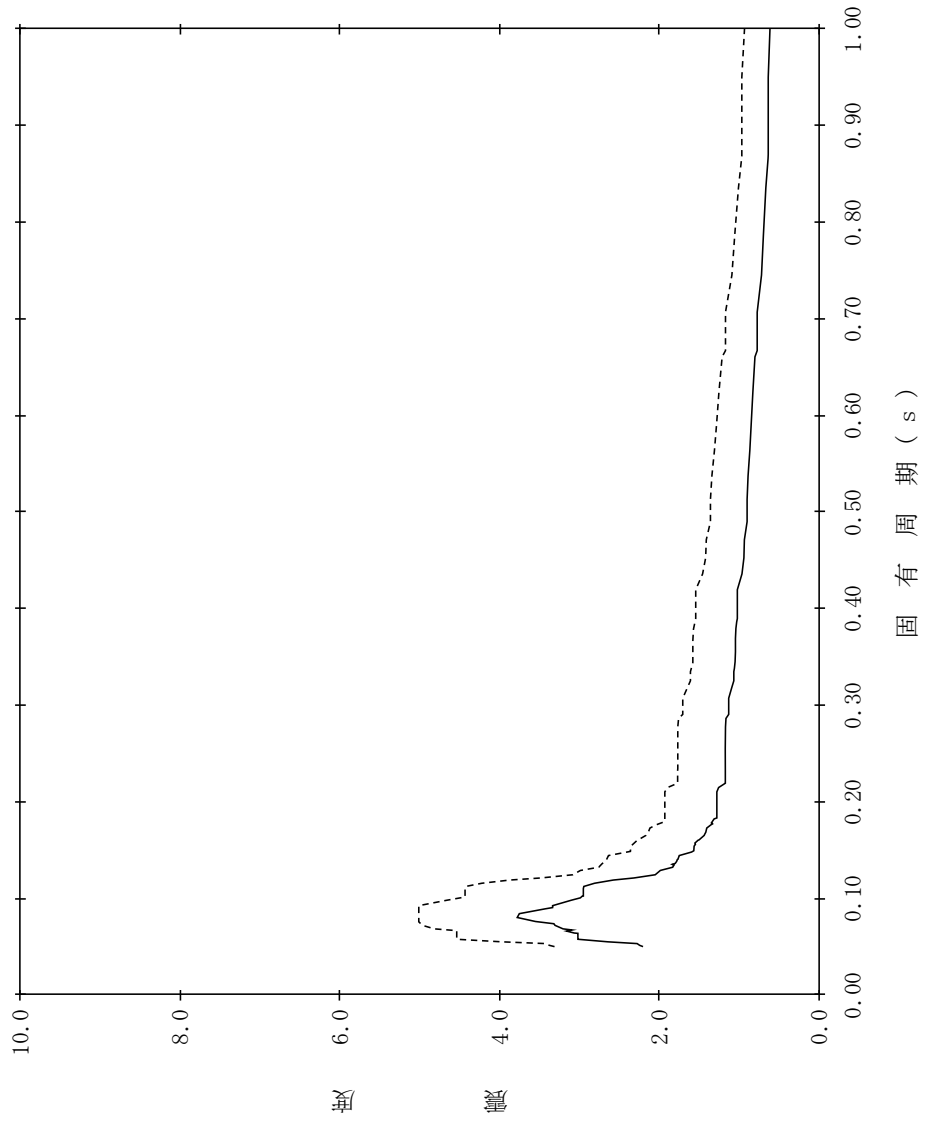
【NS2-RwB-SsV-RwB39】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL22.100m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



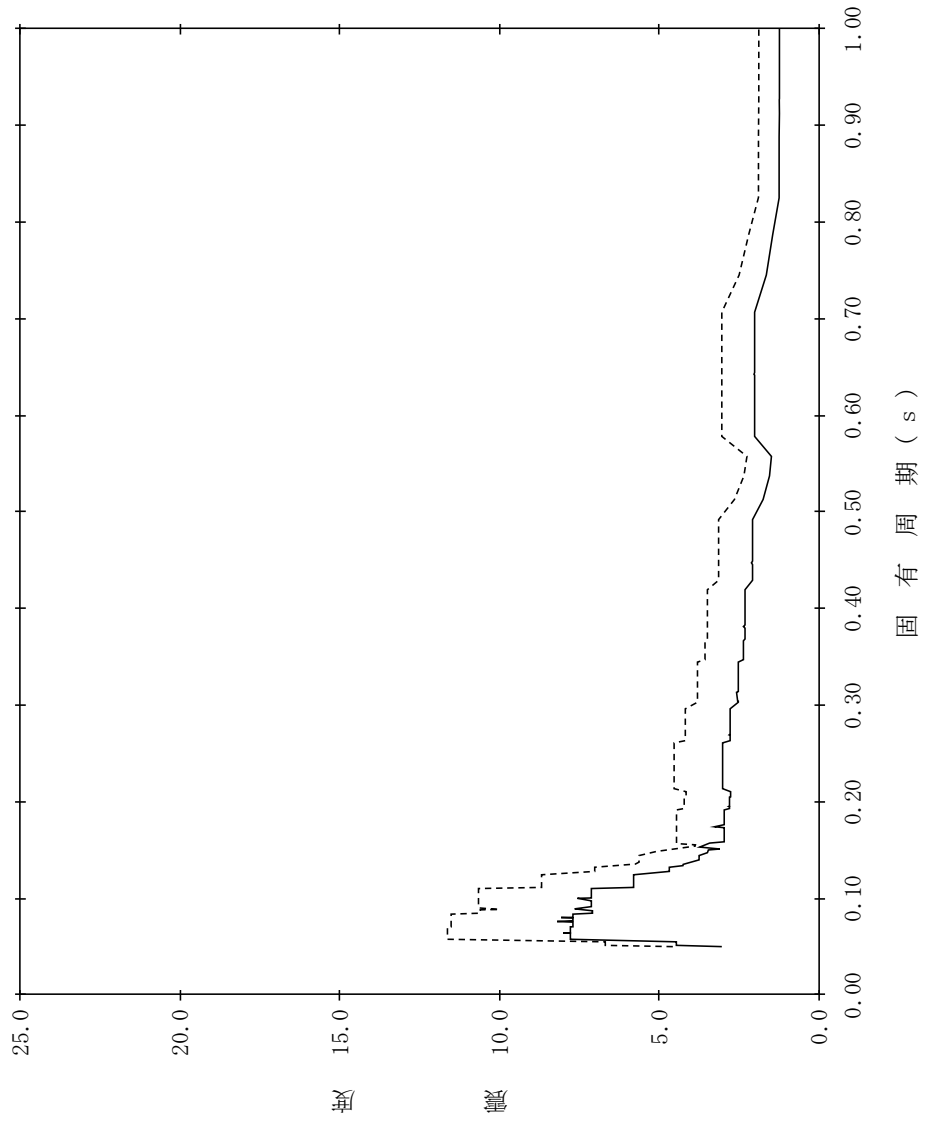
【NS2-RwB-SsV-RwB40】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL22.100m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



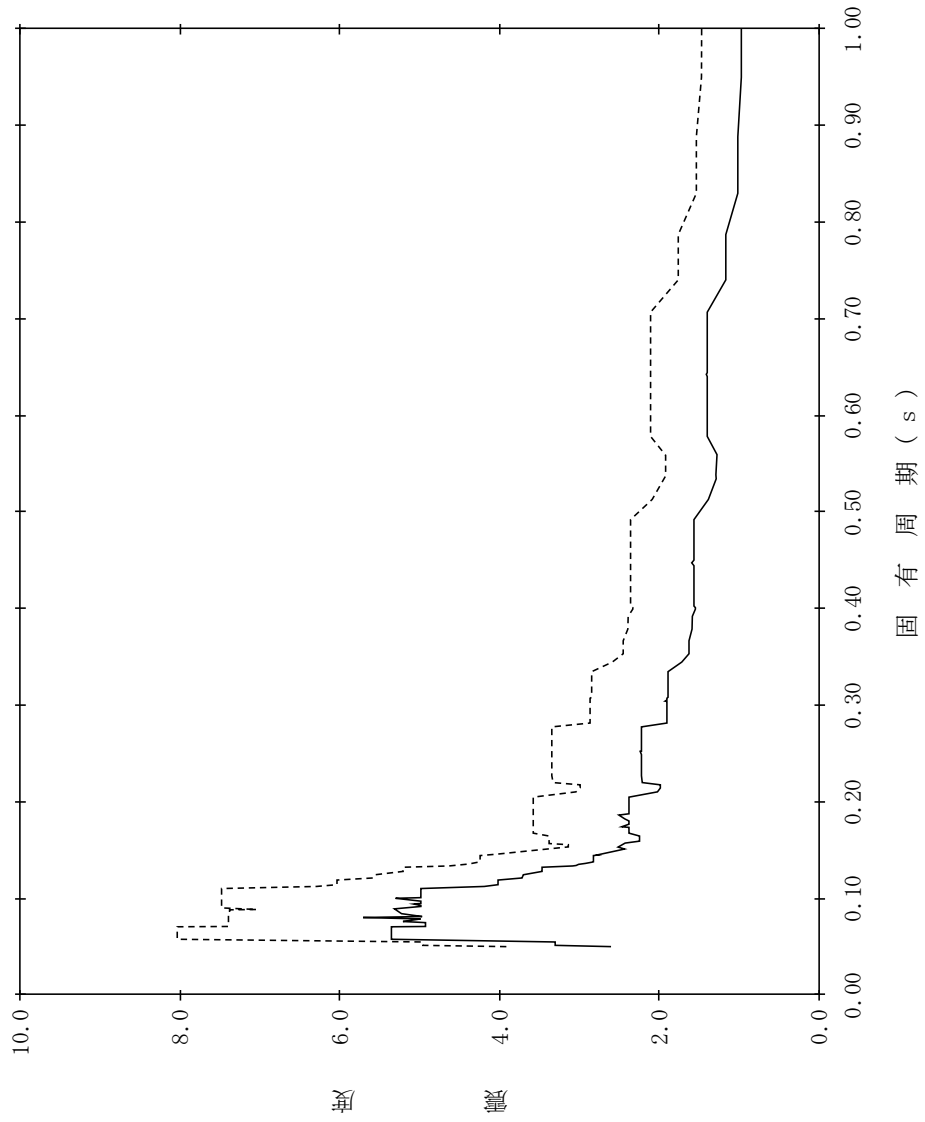
【NS2-RwB-SsV-RwB41】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



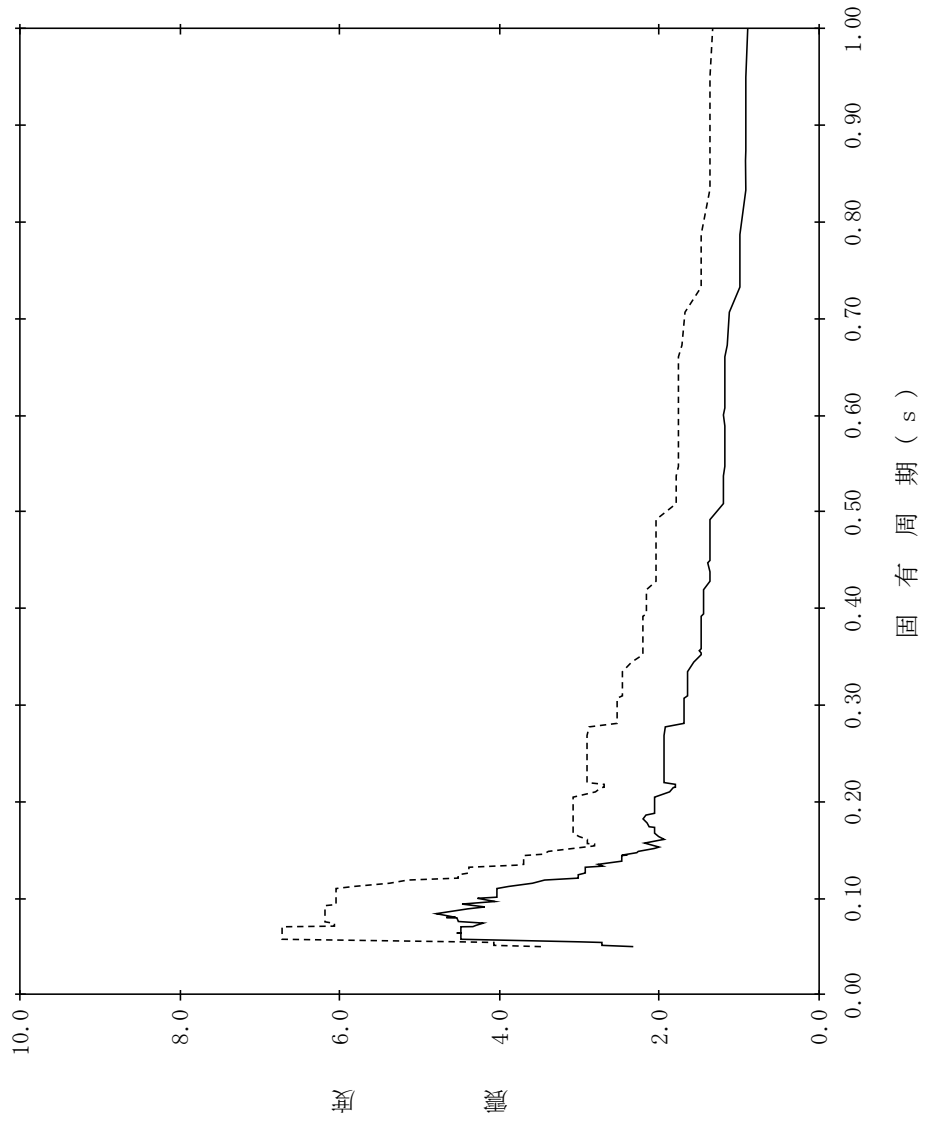
【NS2-RwB-SsV-RwB42】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



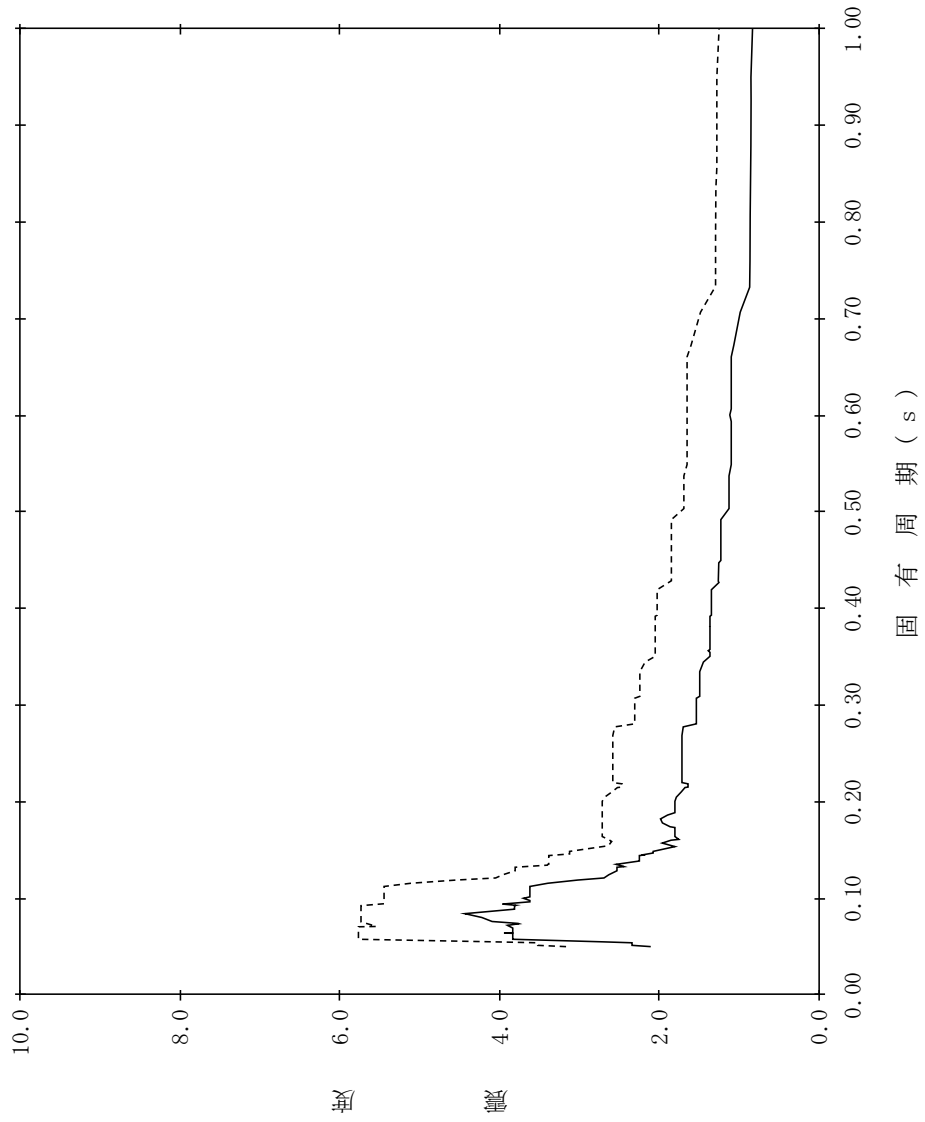
【NS2-RwB-SsV-RwB43】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



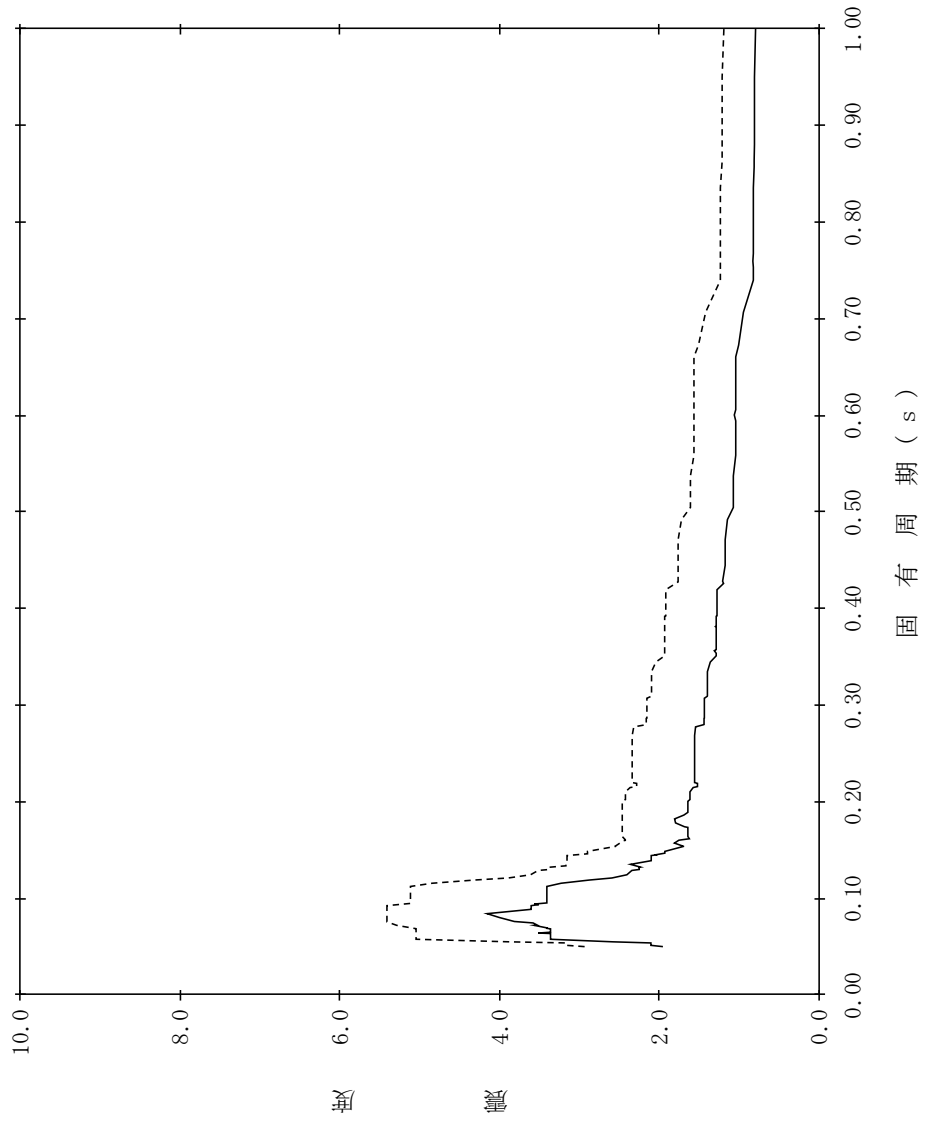
【NS2-RwB-SsV-RwB44】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RwB-SsV-RwB45】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：2.5%
 波形式：標準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

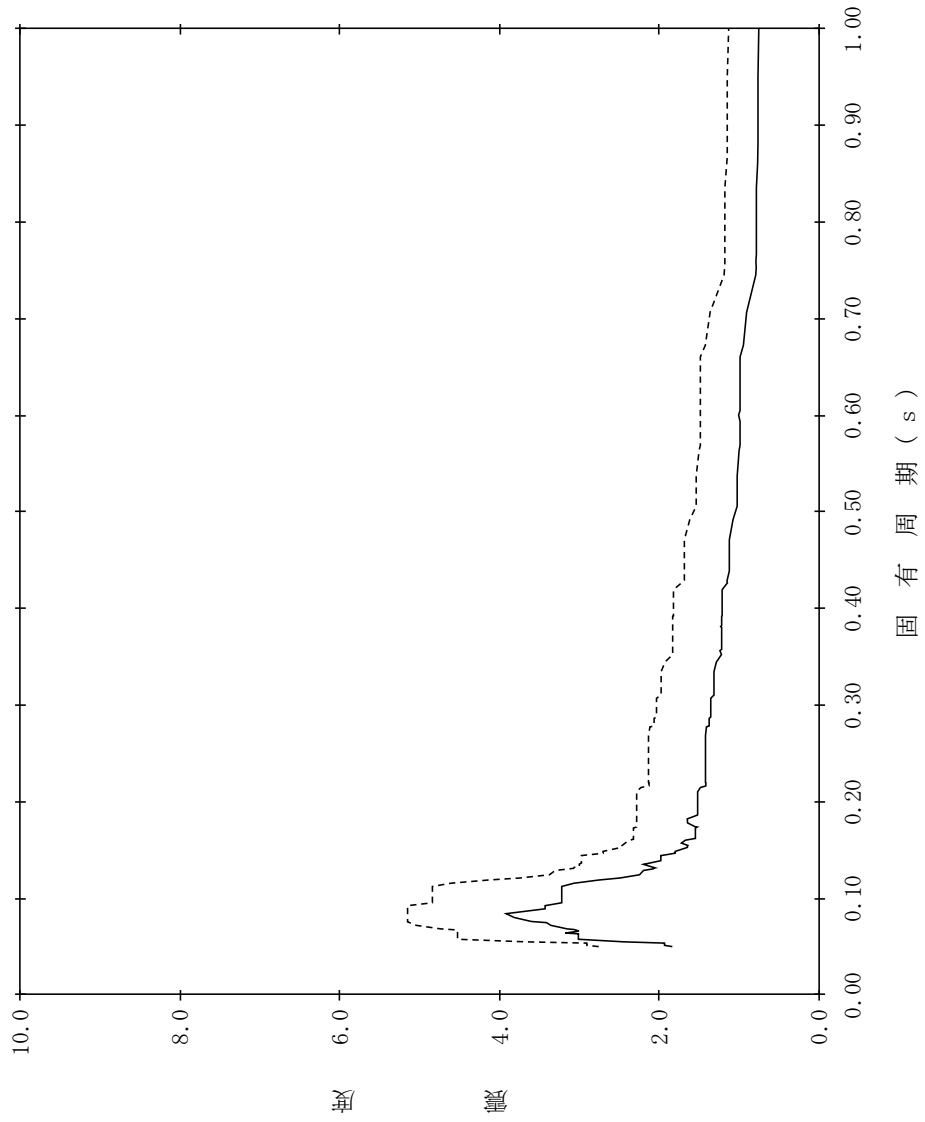


【NS2-RwB-SsV-RwB46】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL16.900m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s

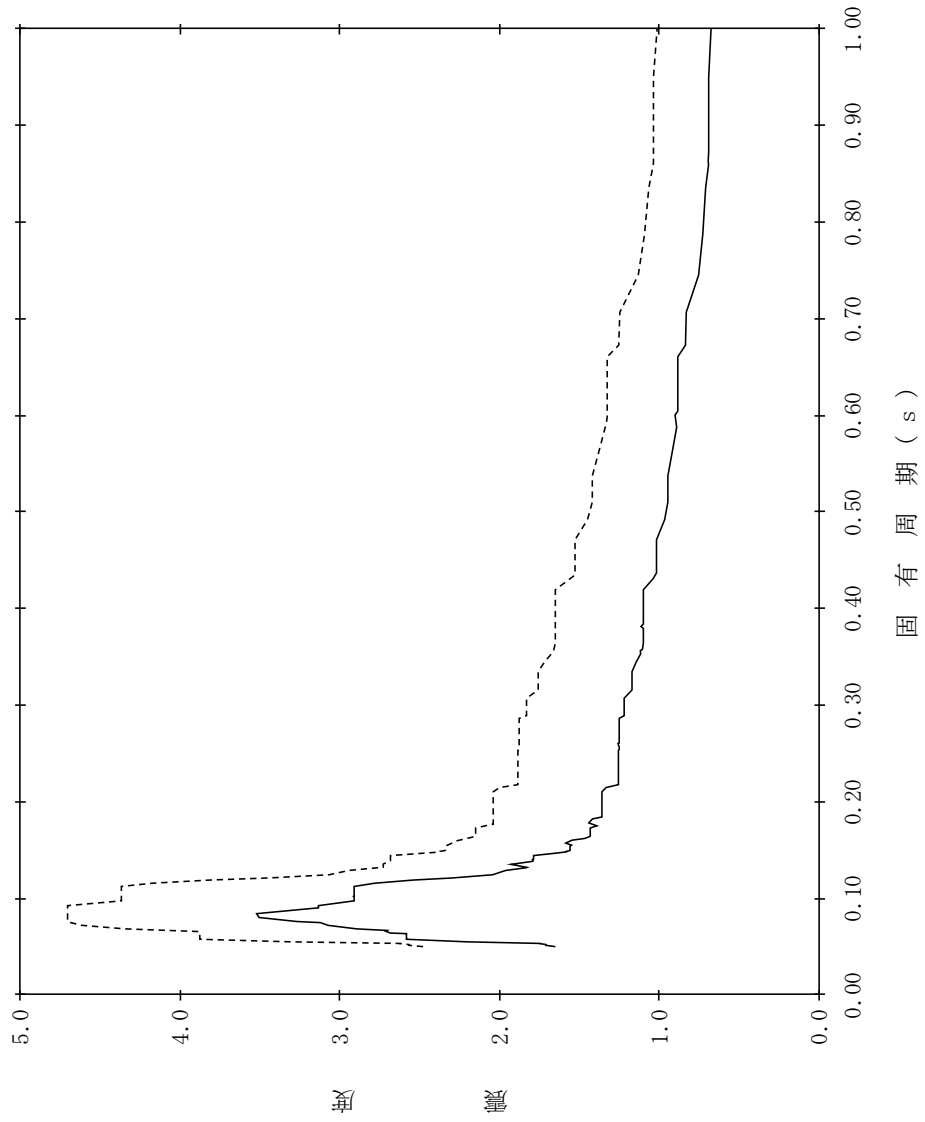
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



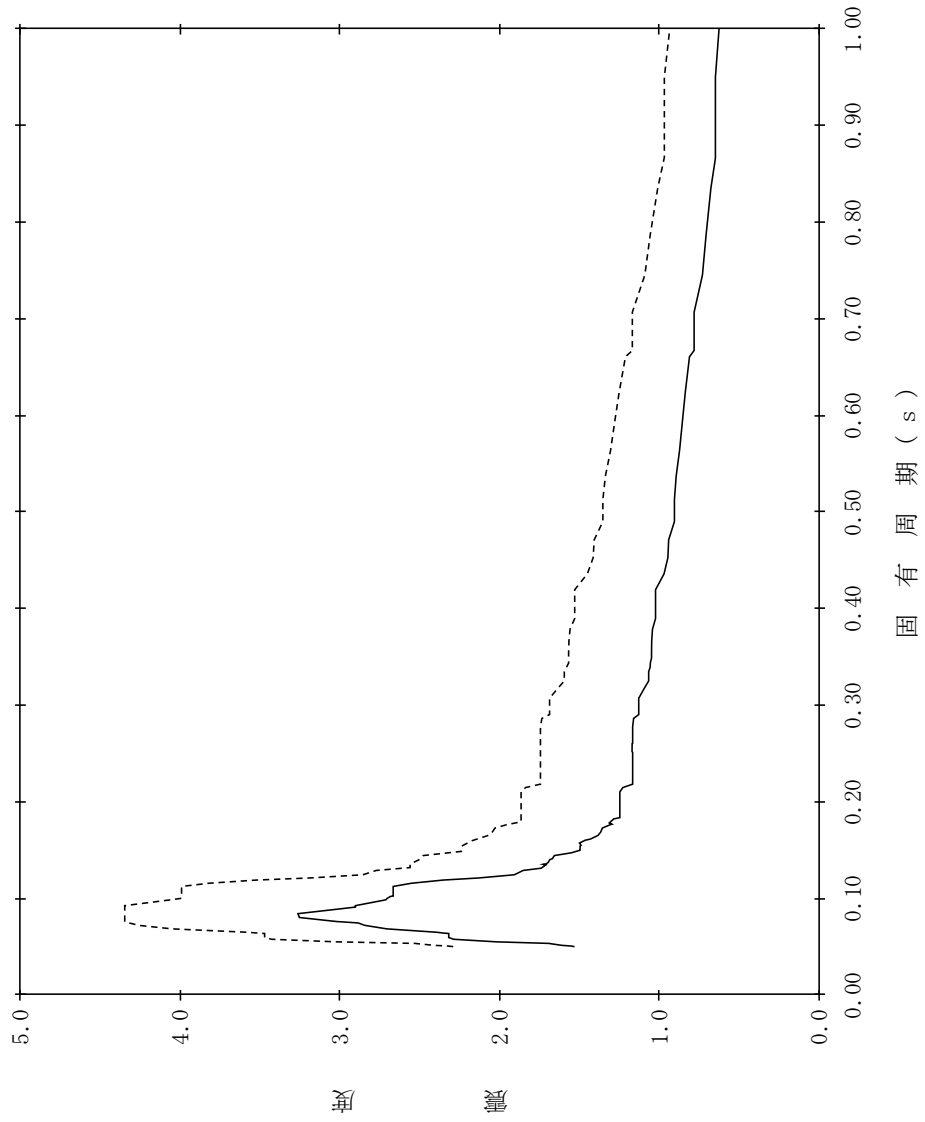
【NS2-RwB-SsV-RwB47】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



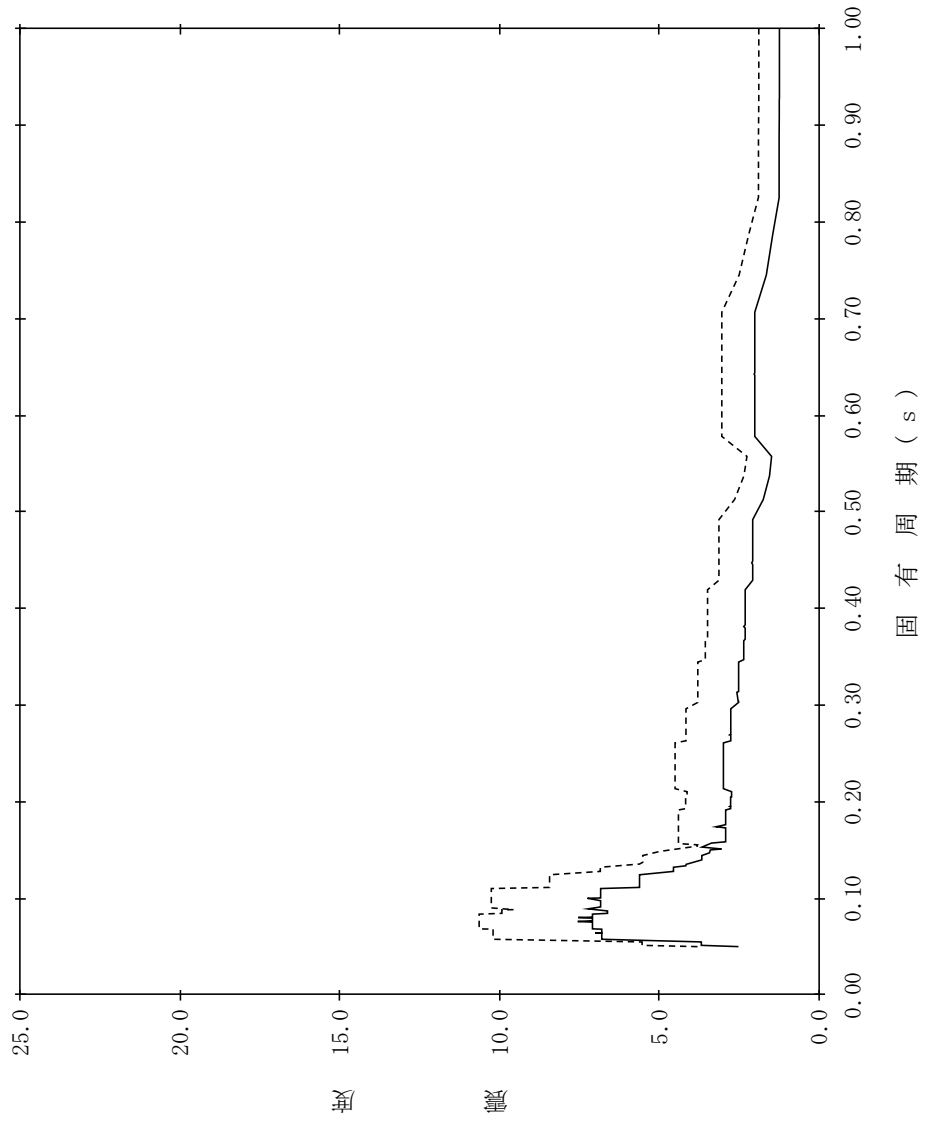
【NS2-RwB-SsV-RwB48】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL16.900m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



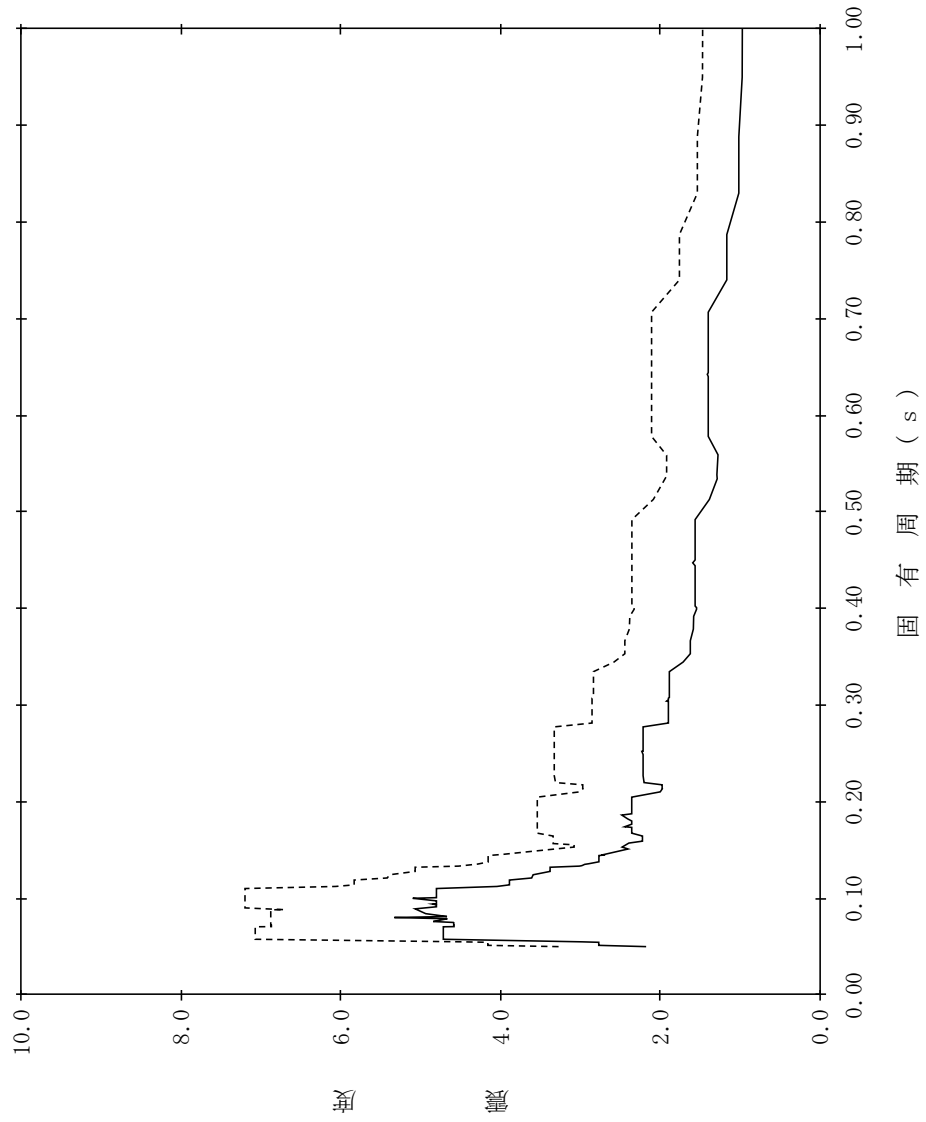
【NS2-RwB-SsV-RwB49】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



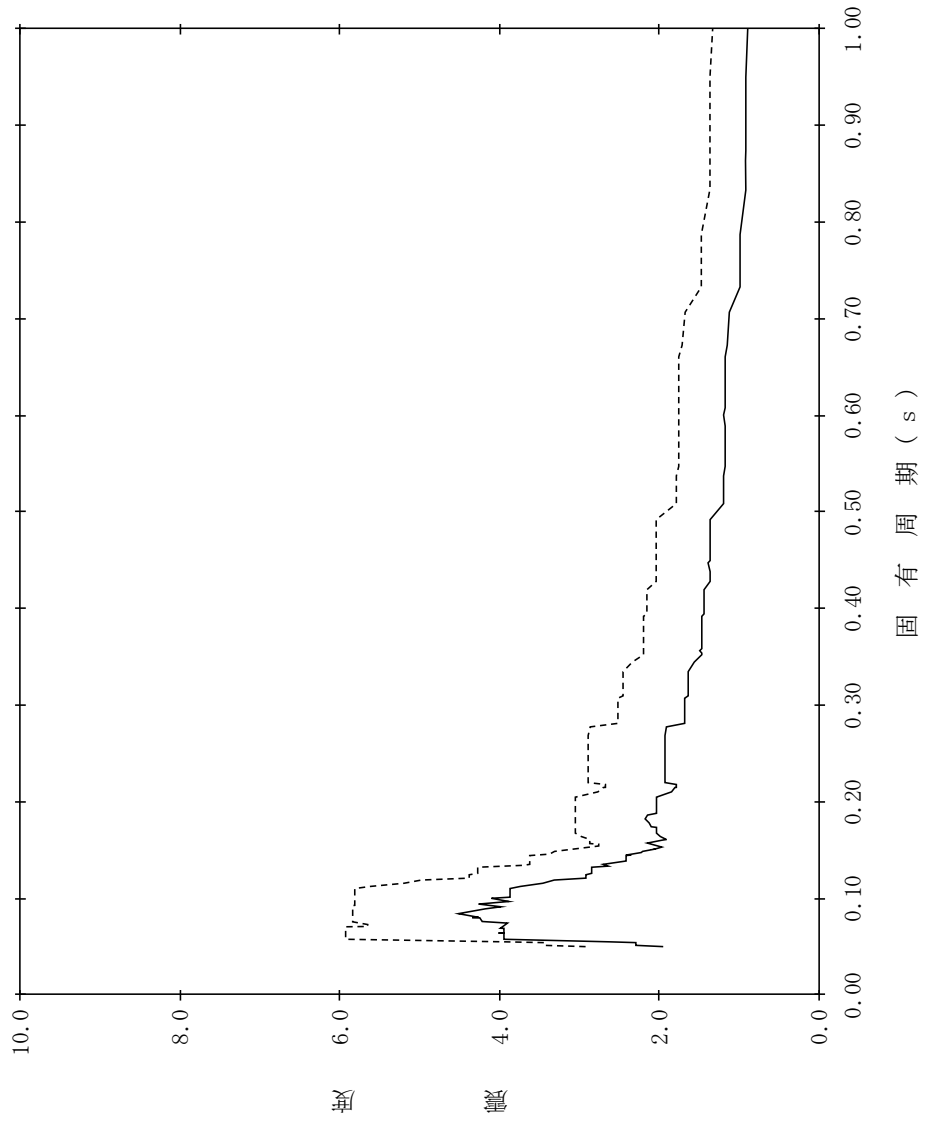
【NS2-RwB-SsV-RwB50】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



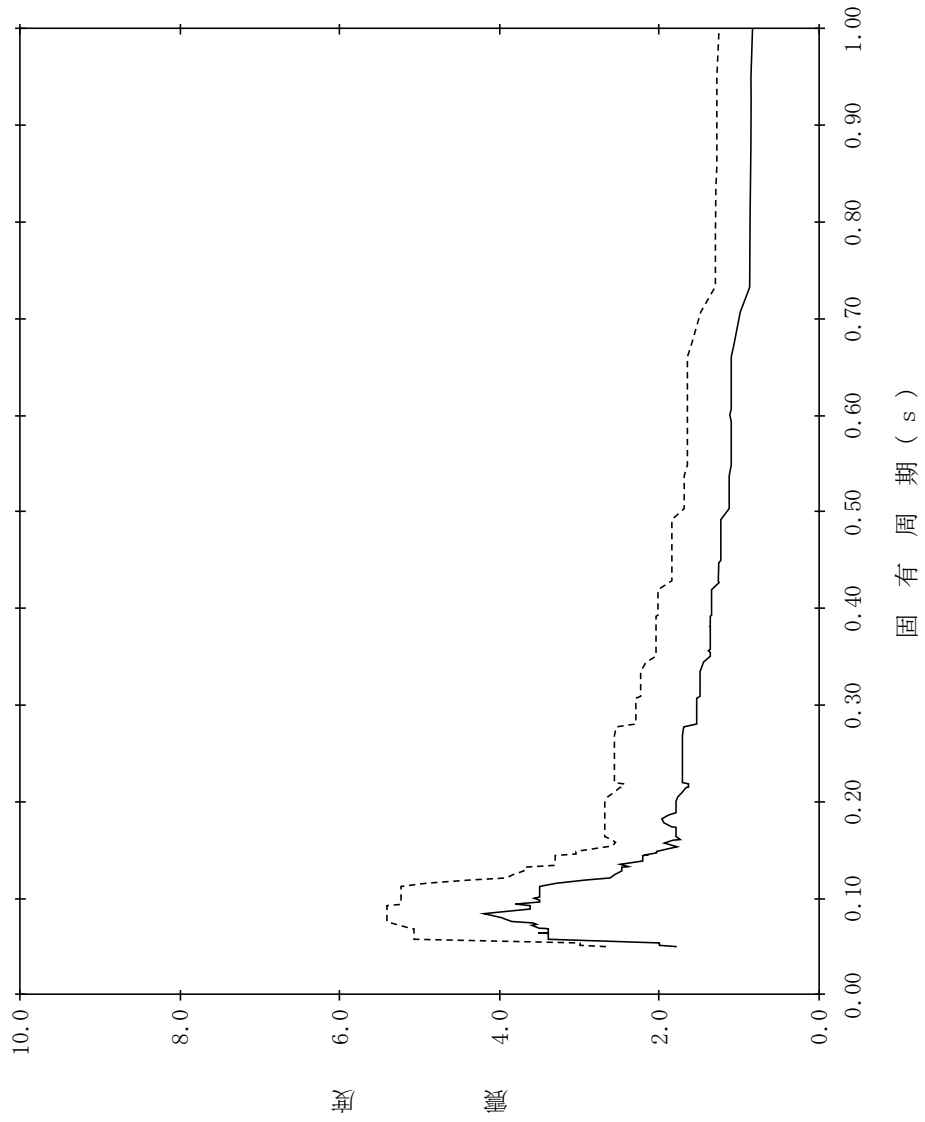
【NS2-RwB-SsV-RwB51】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



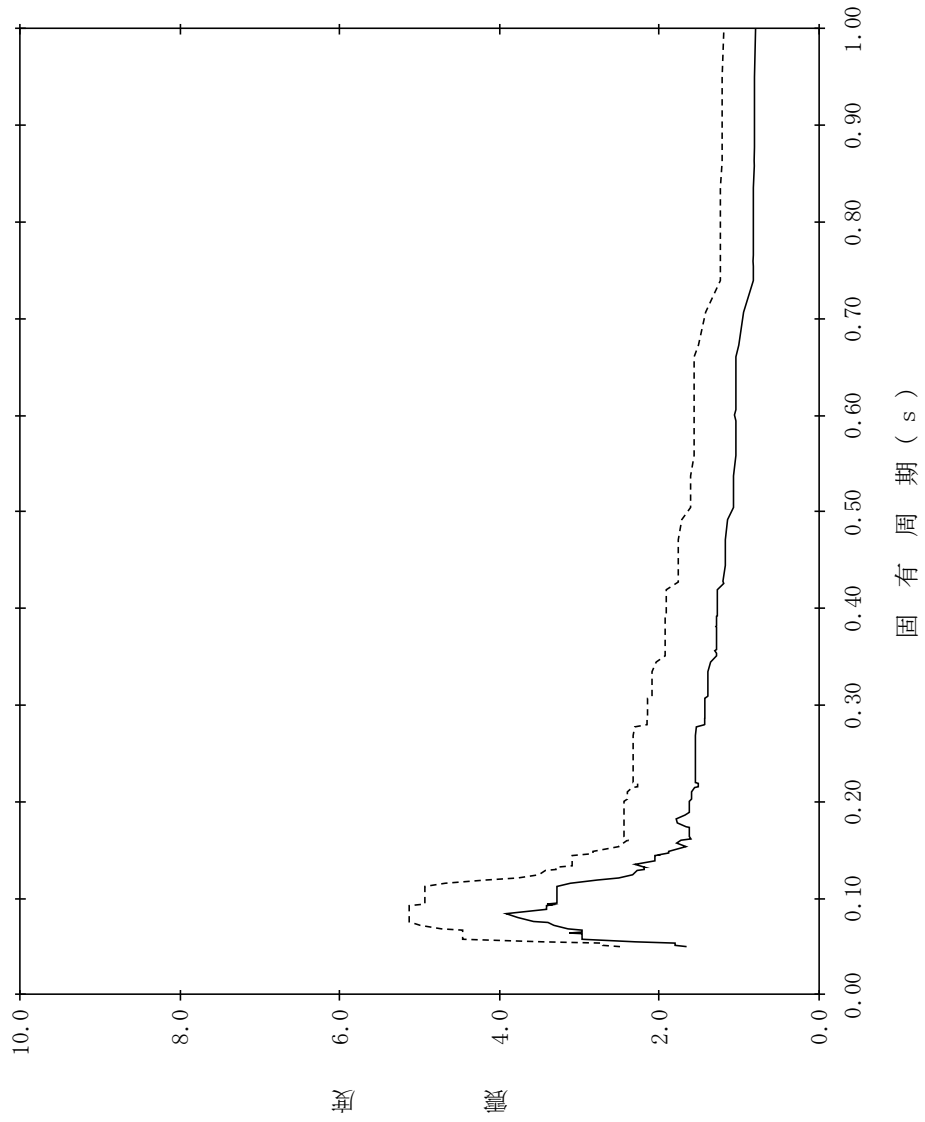
【NS2-RwB-SsV-RwB52】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RwB-SsV-RwB53】

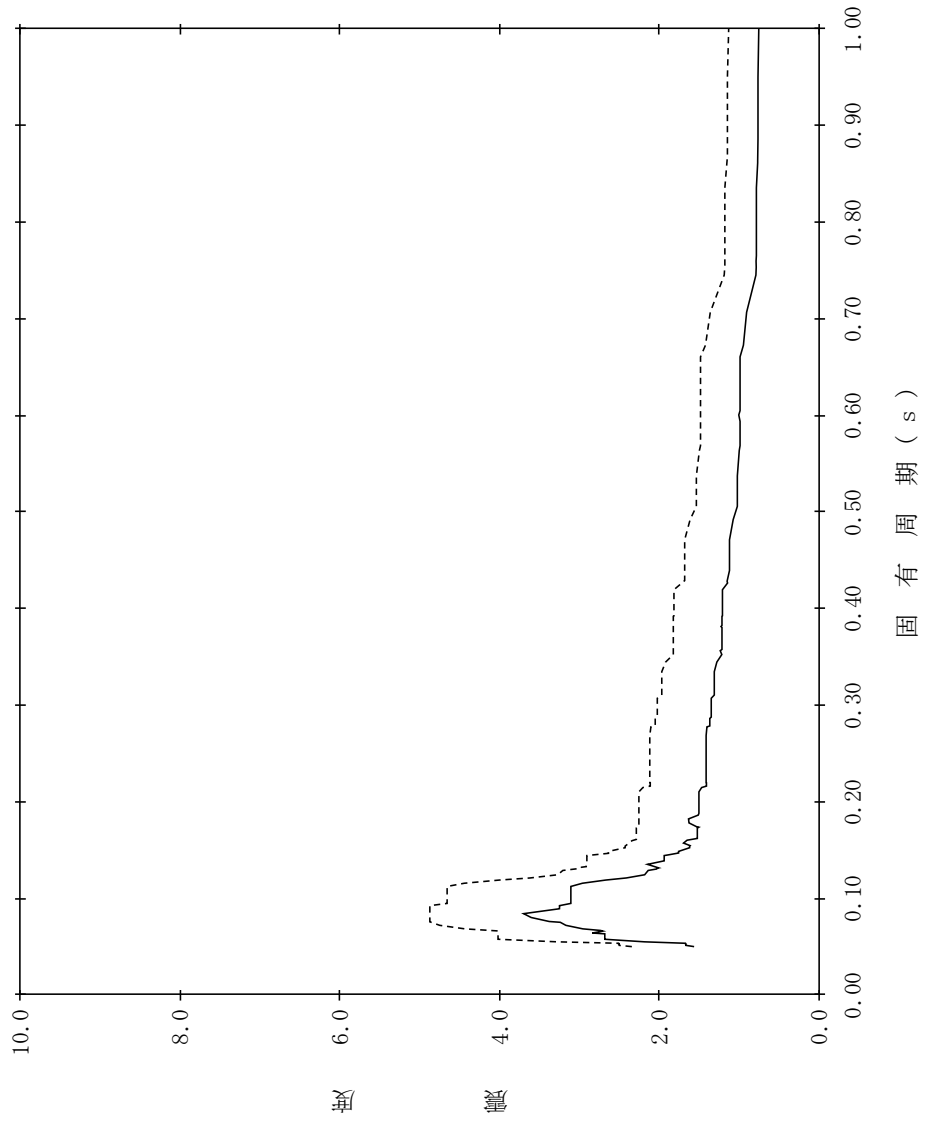
構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RwB-SsV-RwB54】

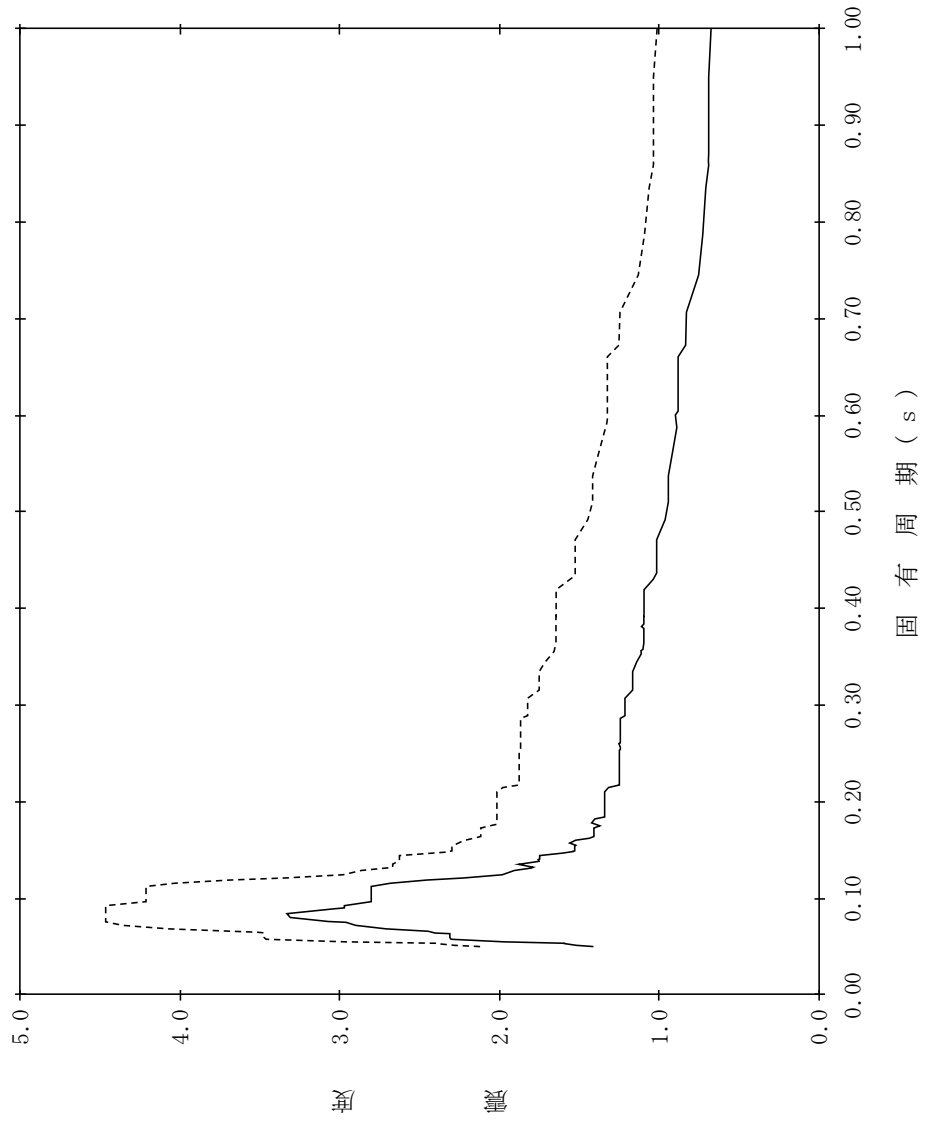
構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：3.0%

——— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 - - - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



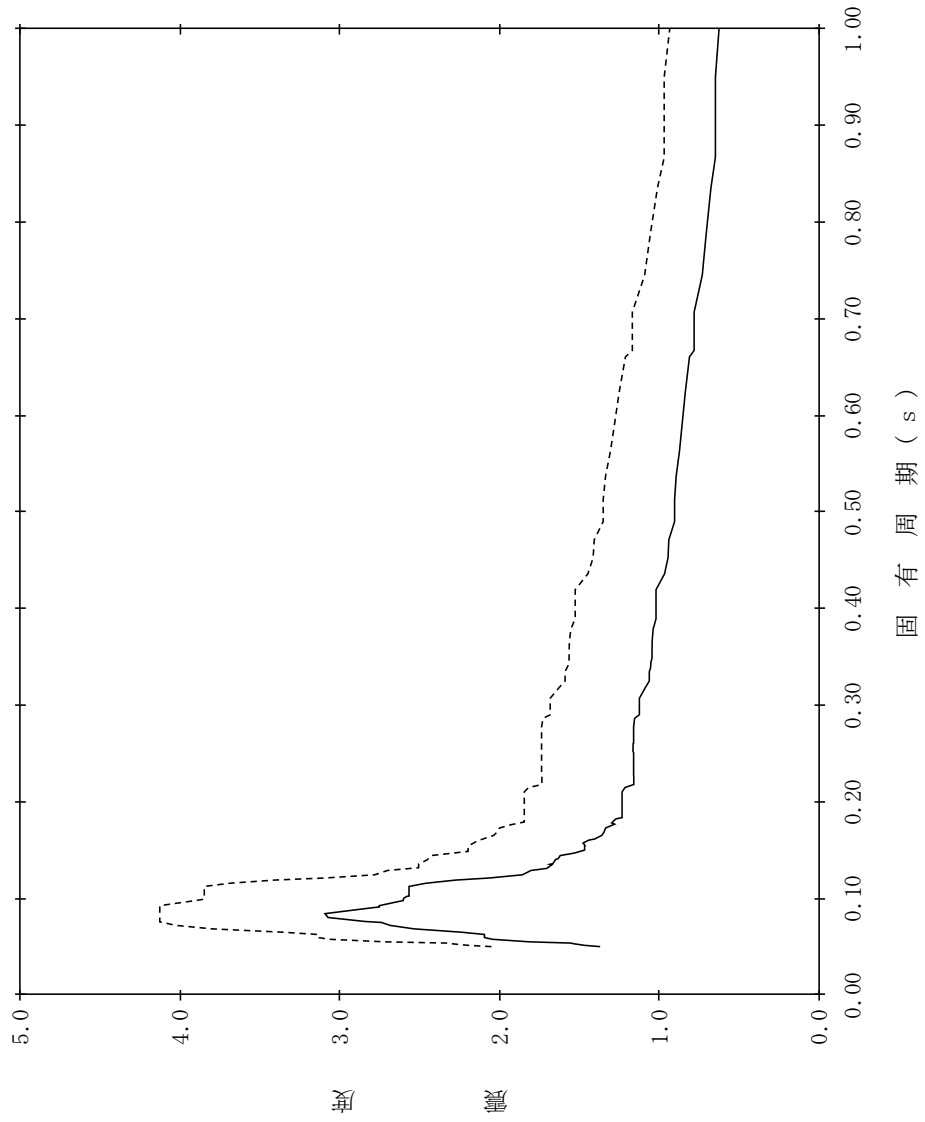
【NS2-RwB-SsV-RwB55】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



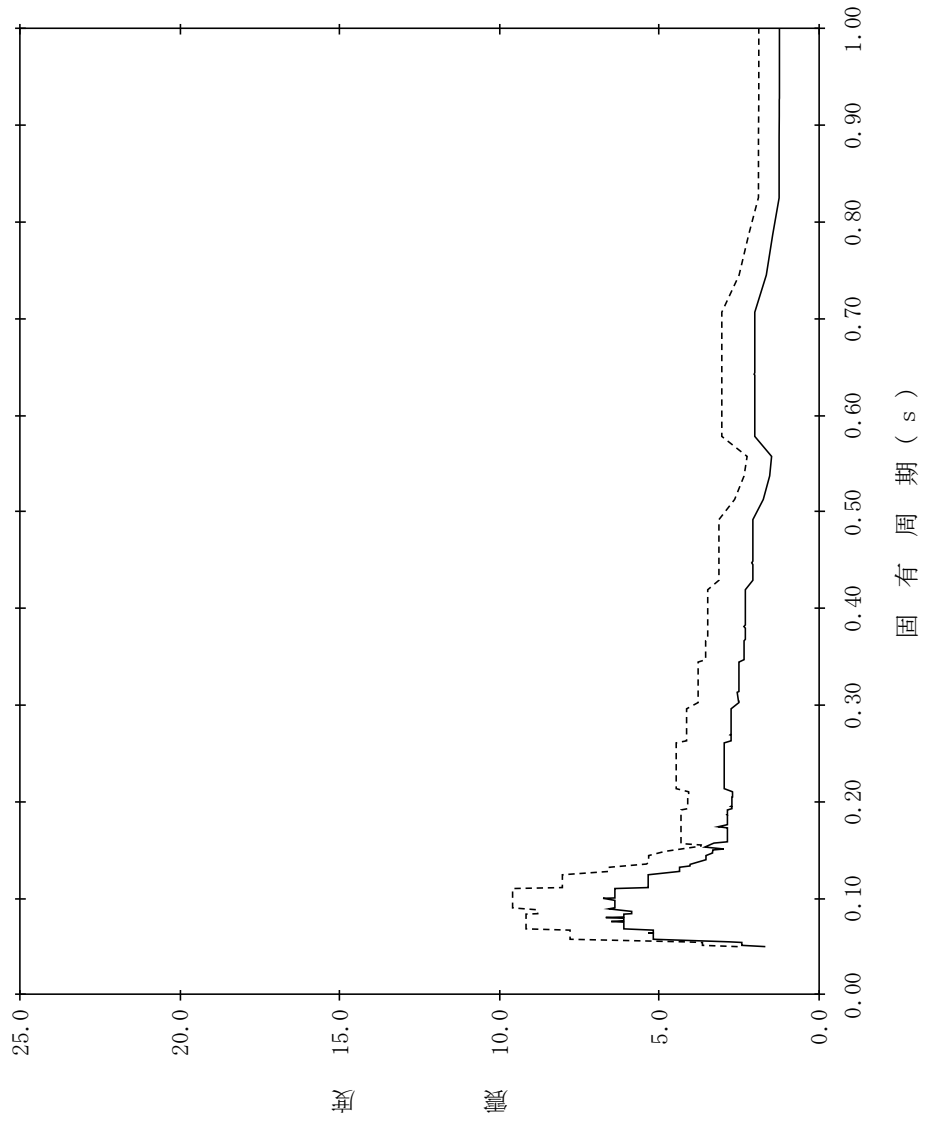
【NS2-RwB-SsV-RwB56】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL15.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



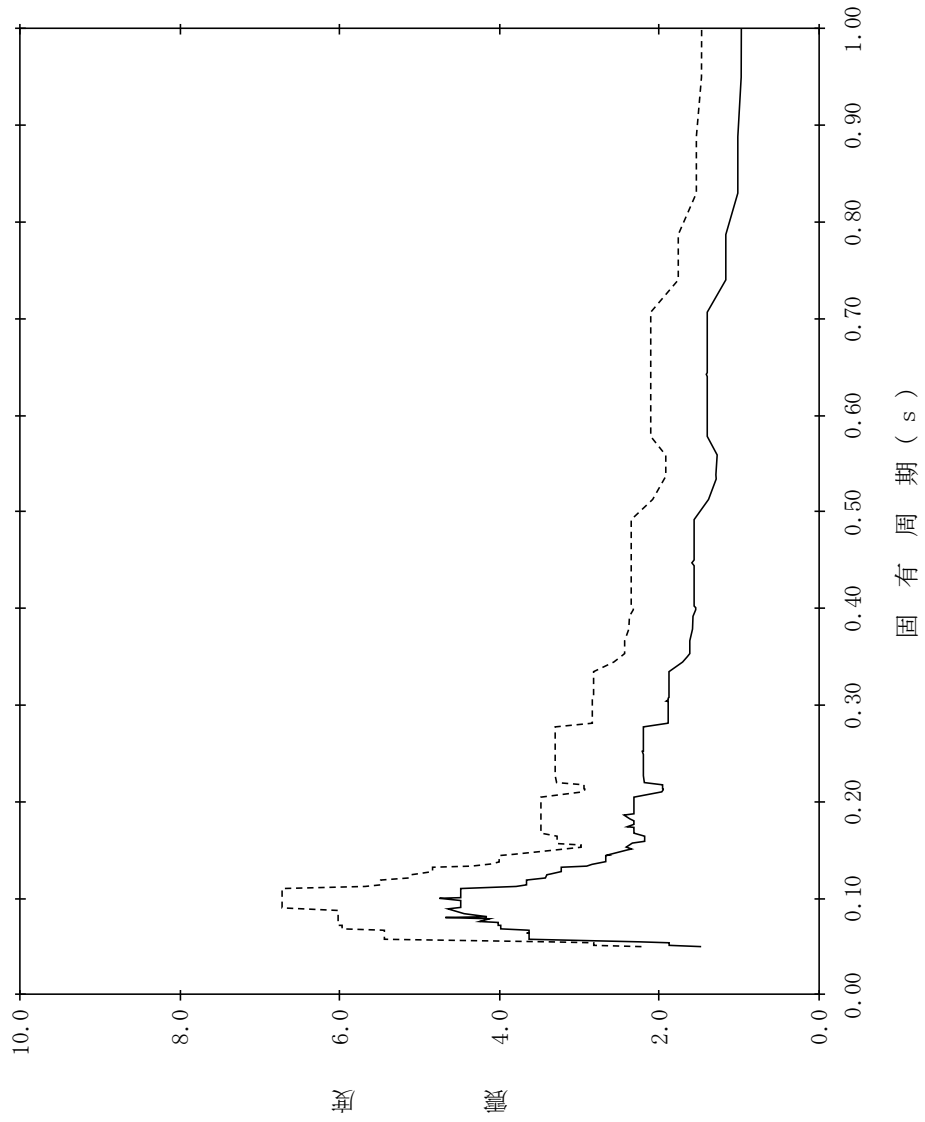
【NS2-RwB-SsV-RwB57】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



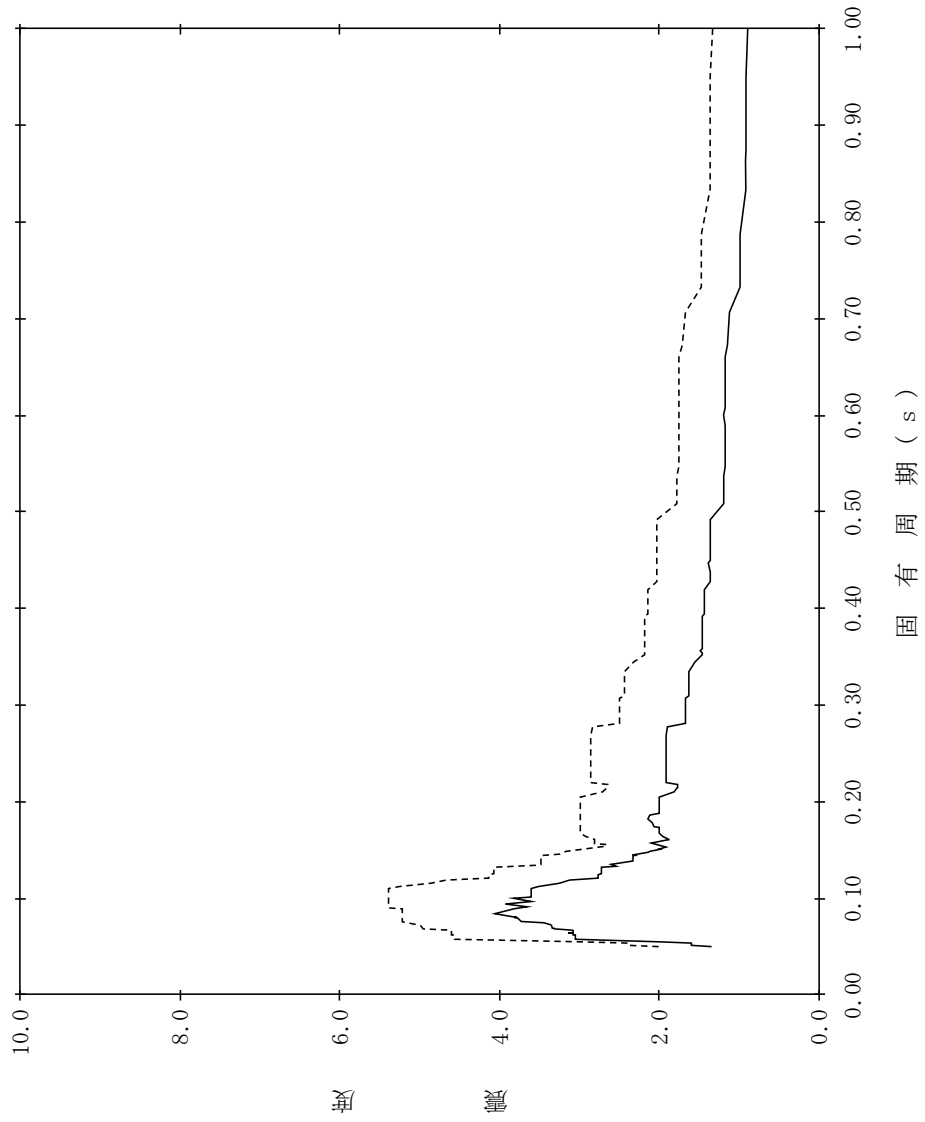
【NS2-RwB-SsV-RwB58】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



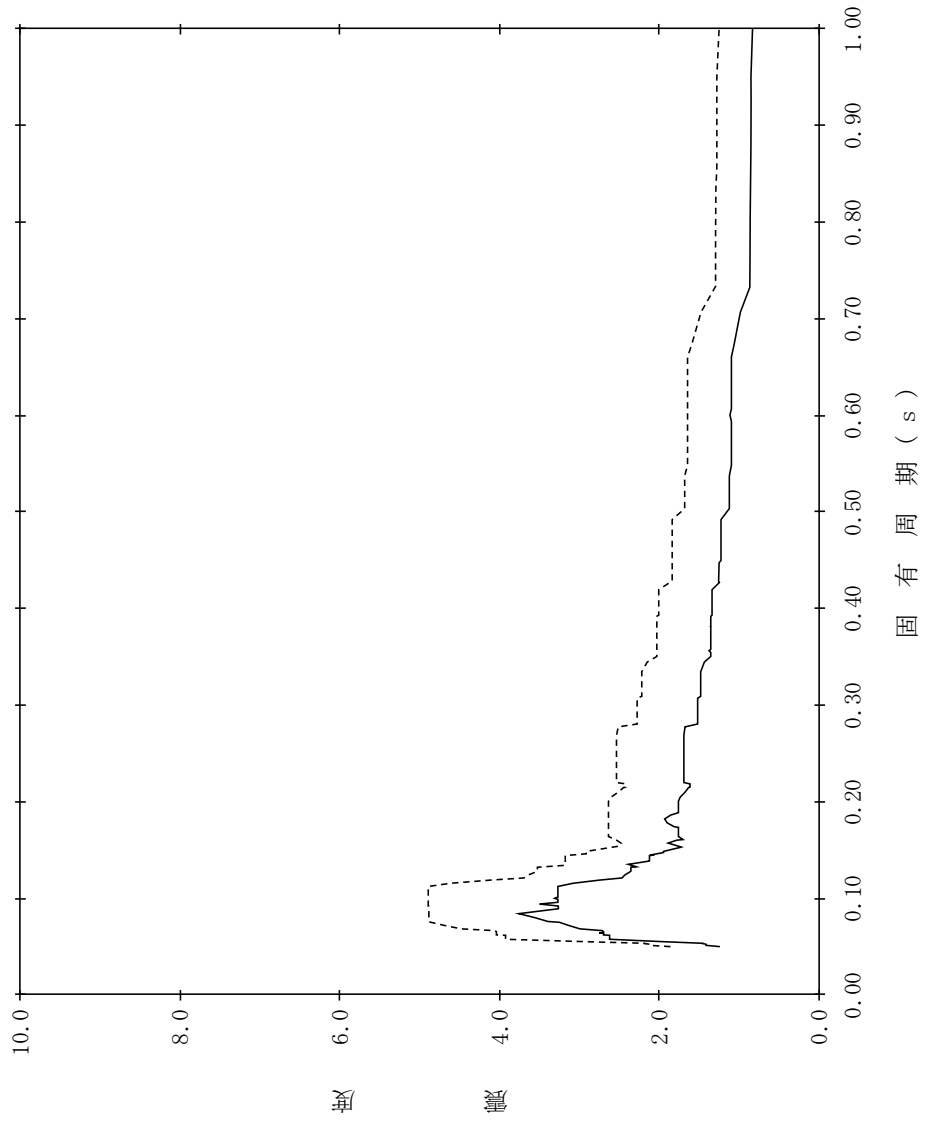
【NS2-RwB-SsV-RwB59】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



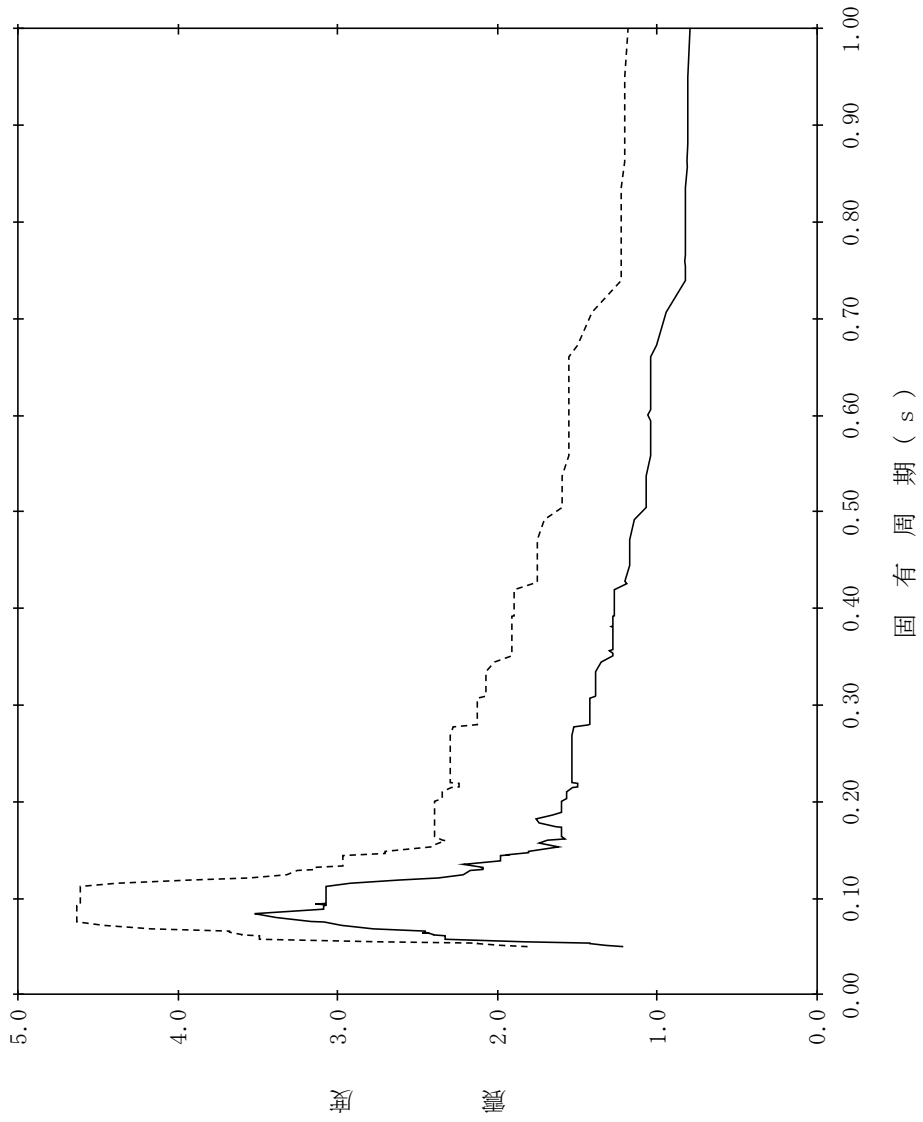
【NS2-RwB-SsV-RwB60】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



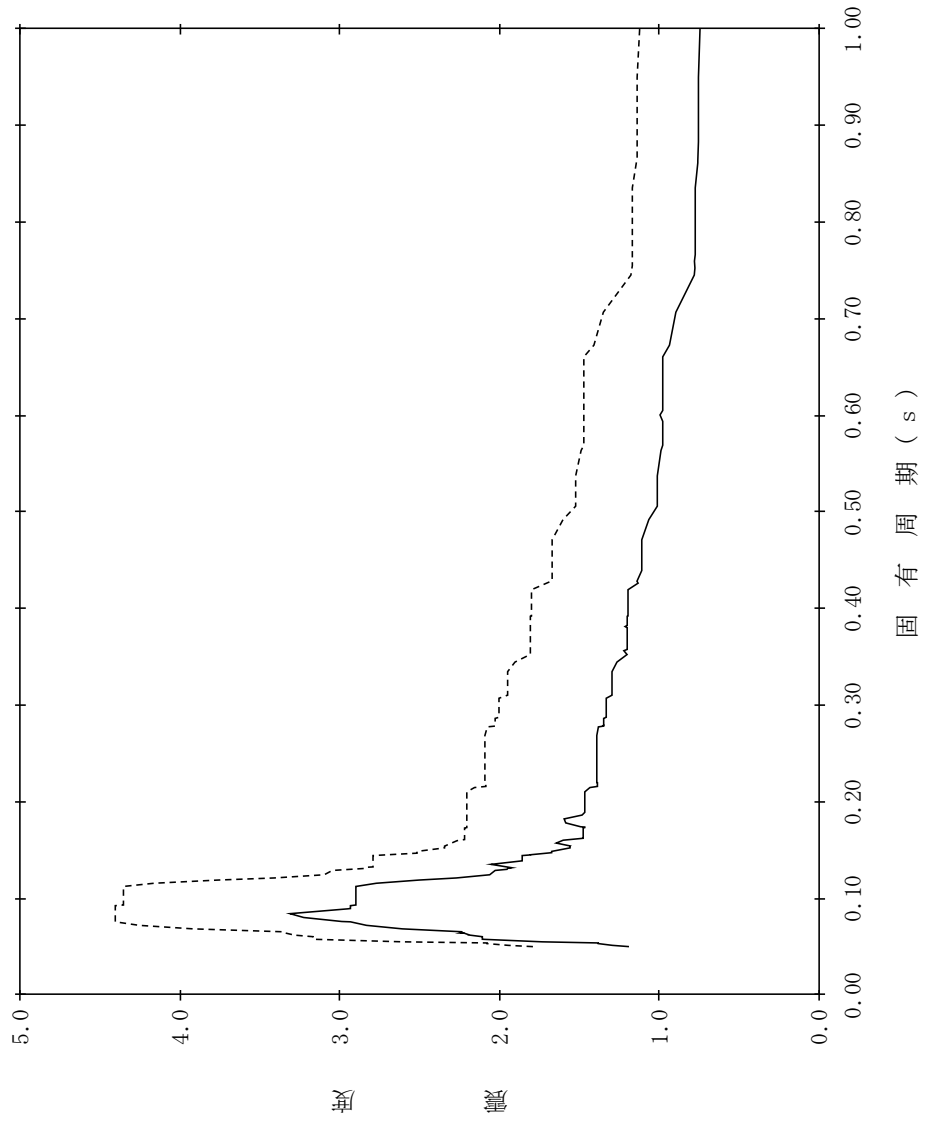
【NS2-RwB-SsV-RwB61】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



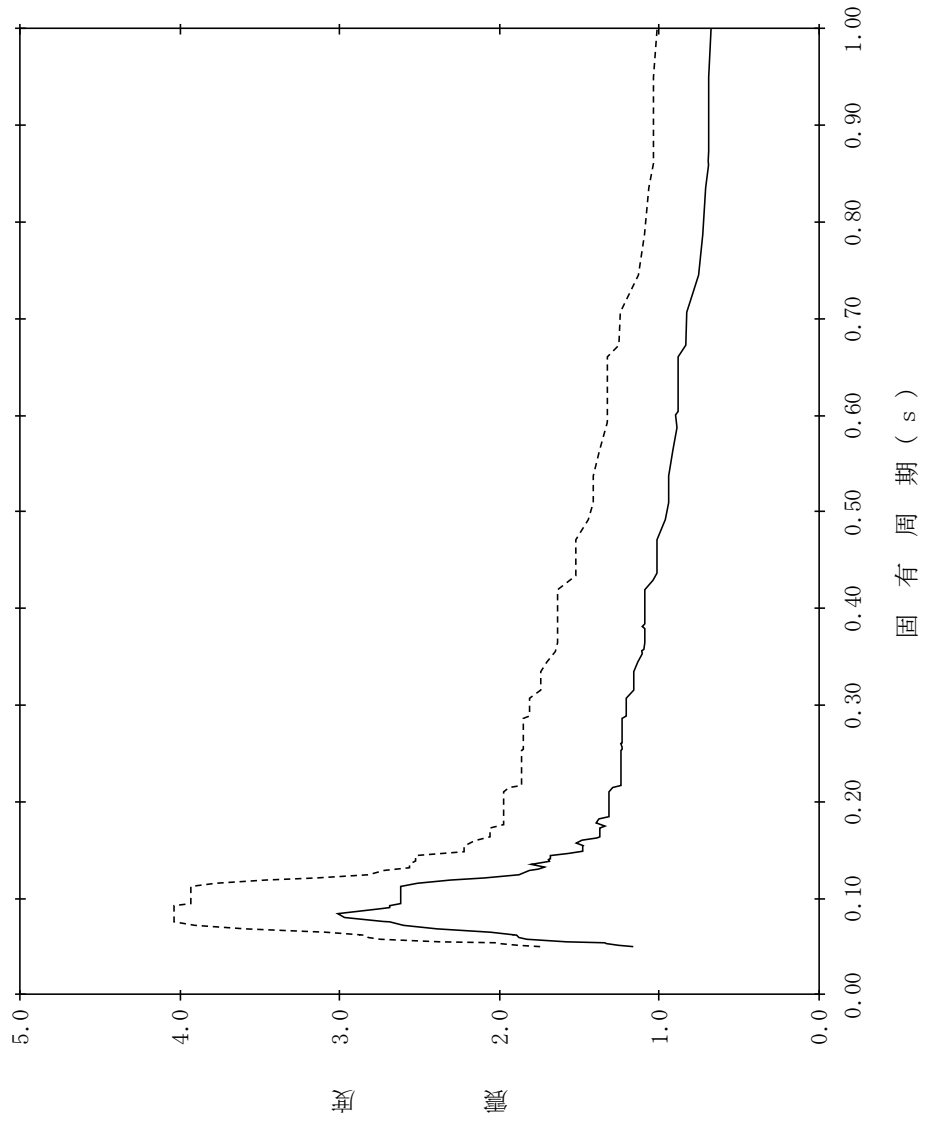
【NS2-RwB-SsV-RwB62】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



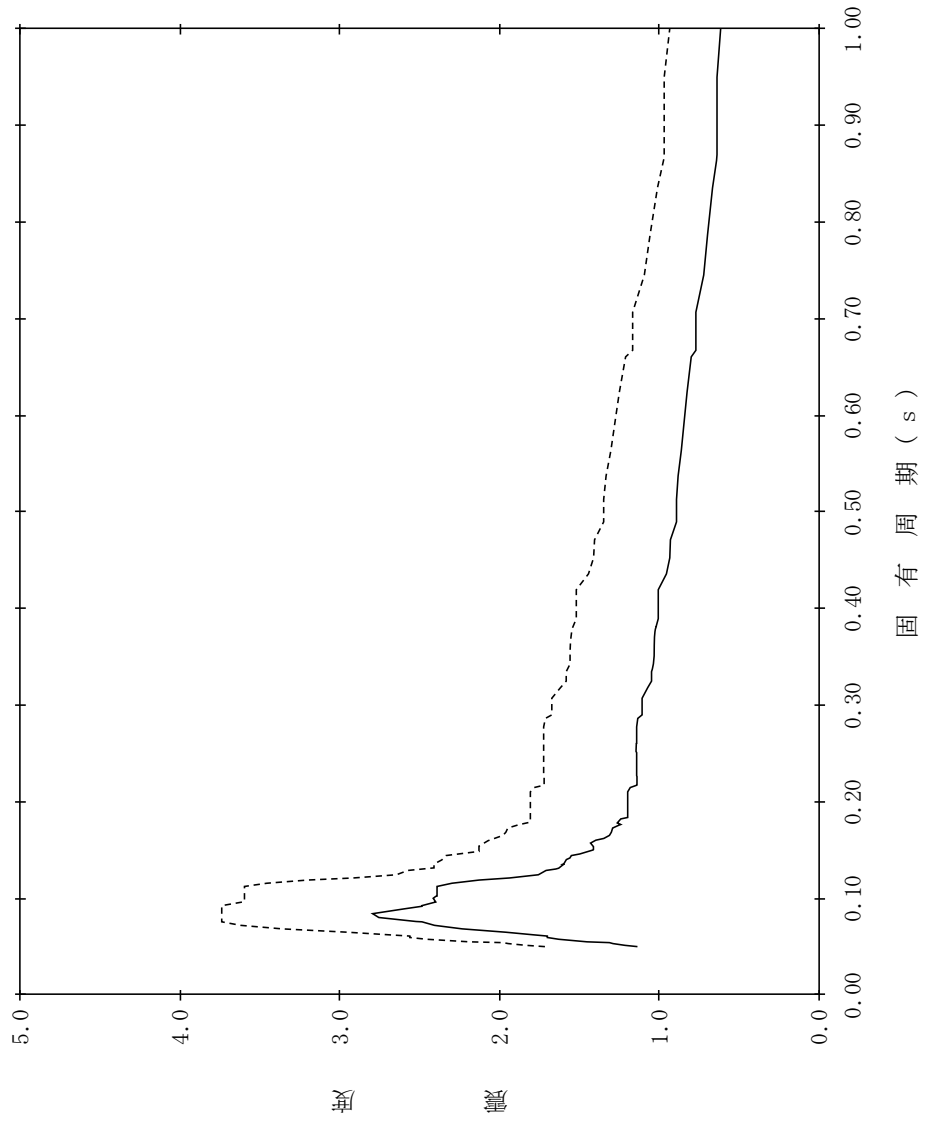
【NS2-RwB-SsV-RwB63】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



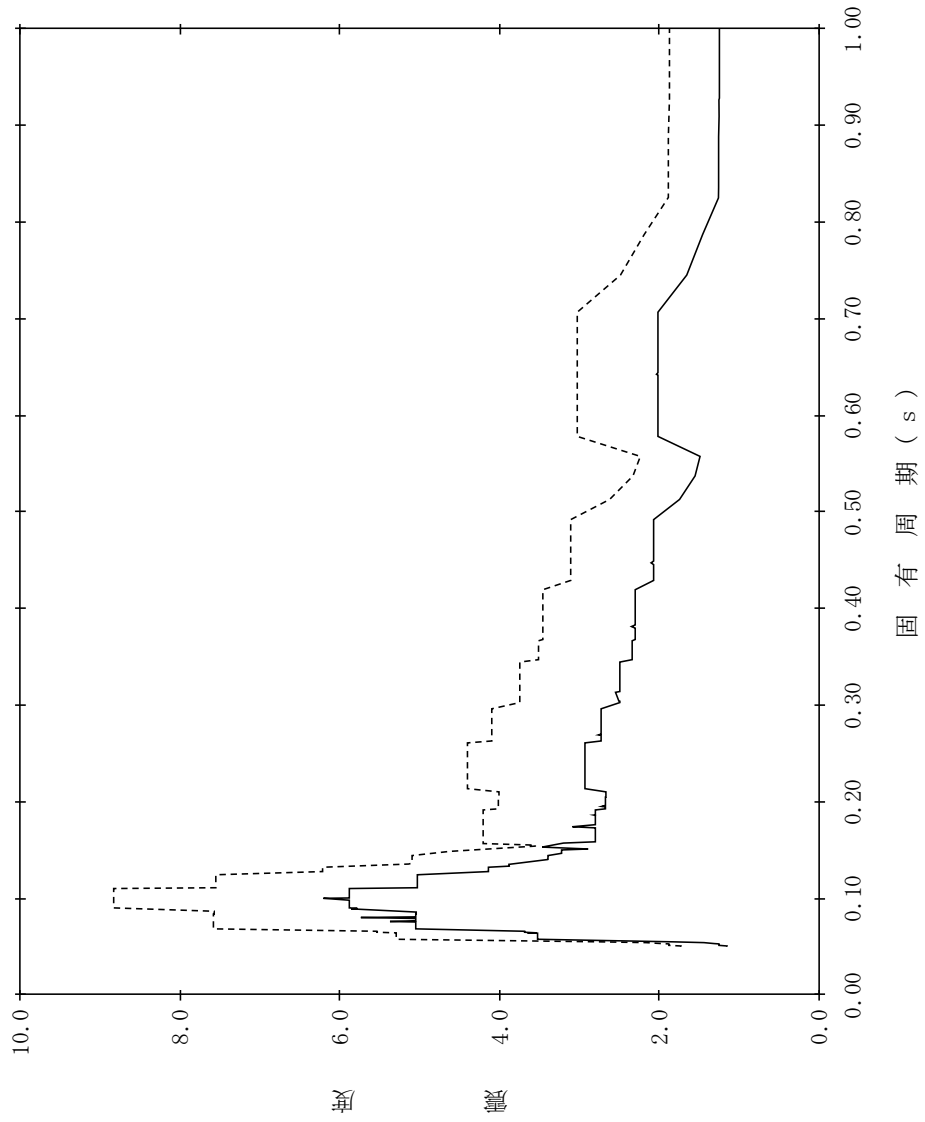
【NS2-RwB-SsV-RwB64】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL12.300m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



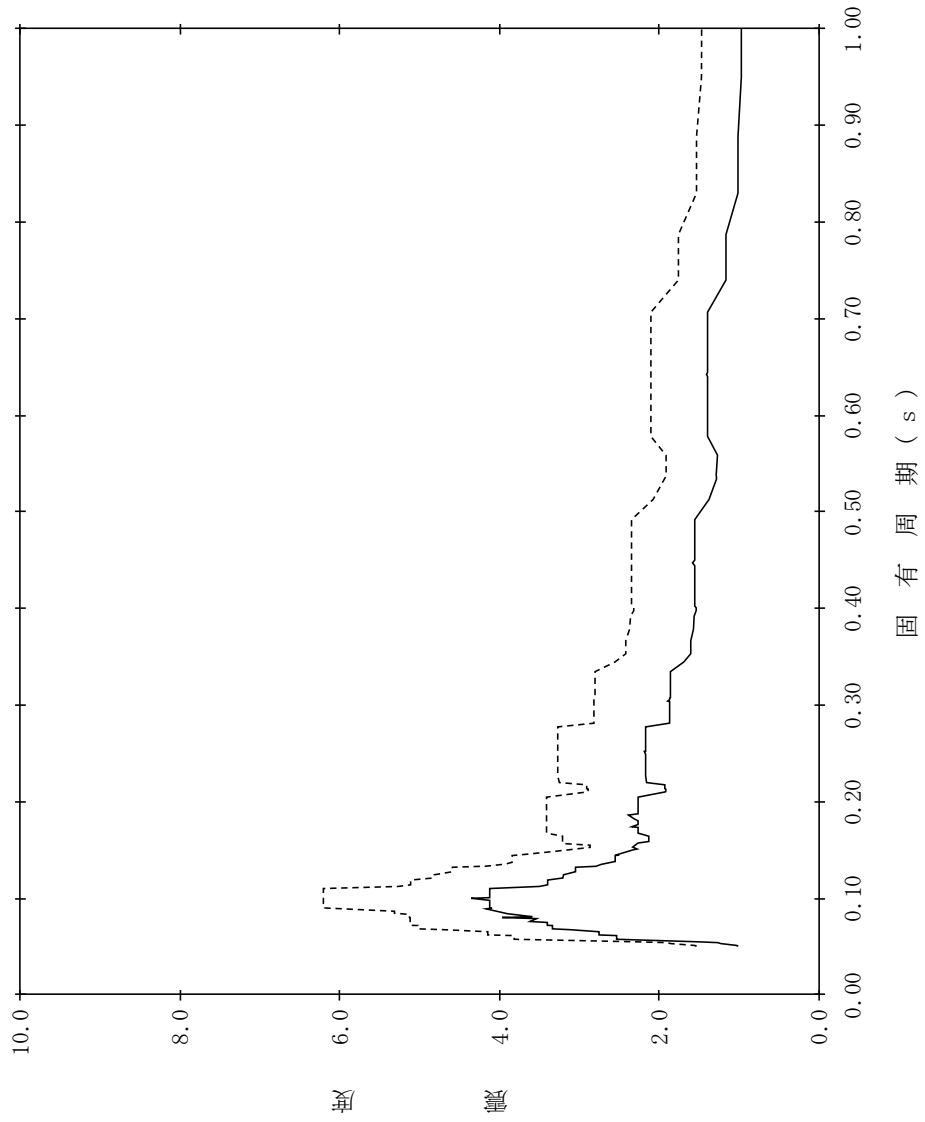
【NS2-RwB-SsV-RwB65】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



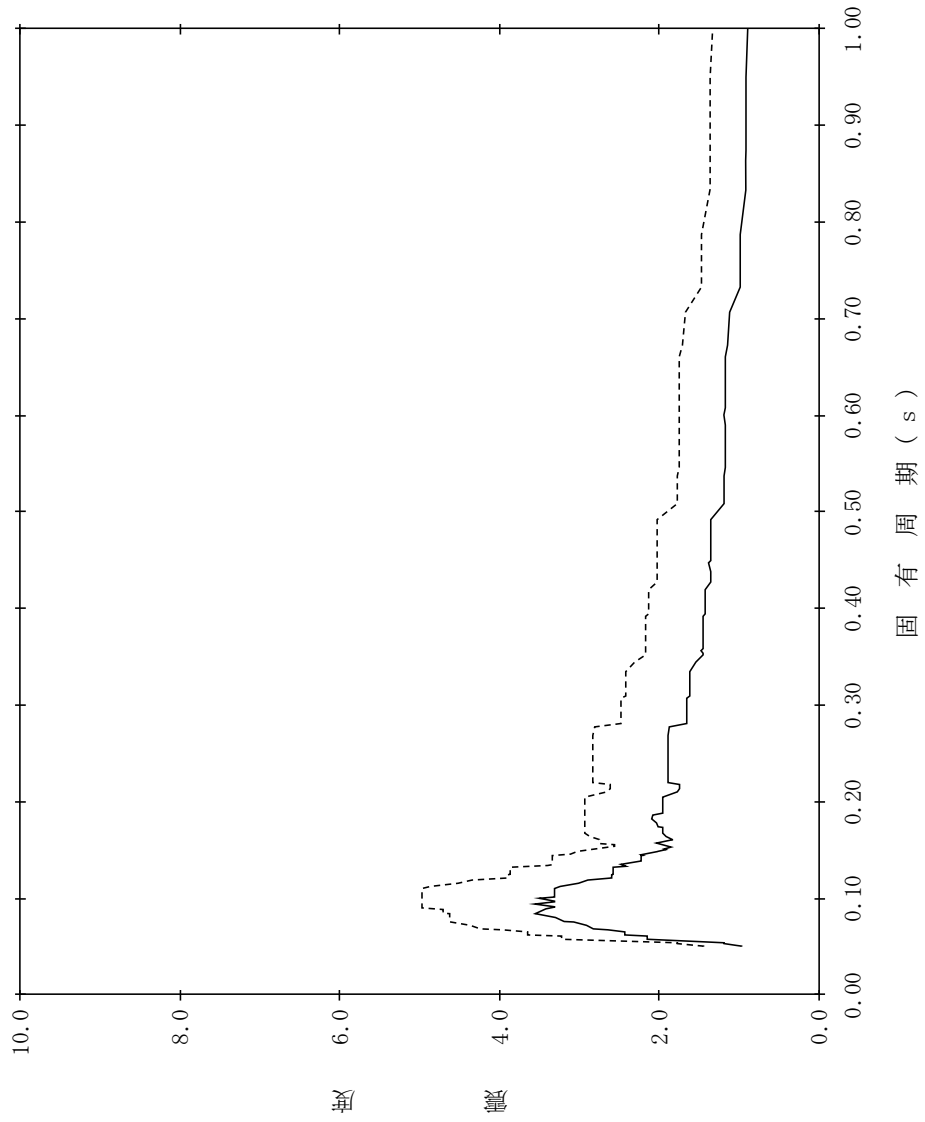
【NS2-RwB-SsV-RwB66】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



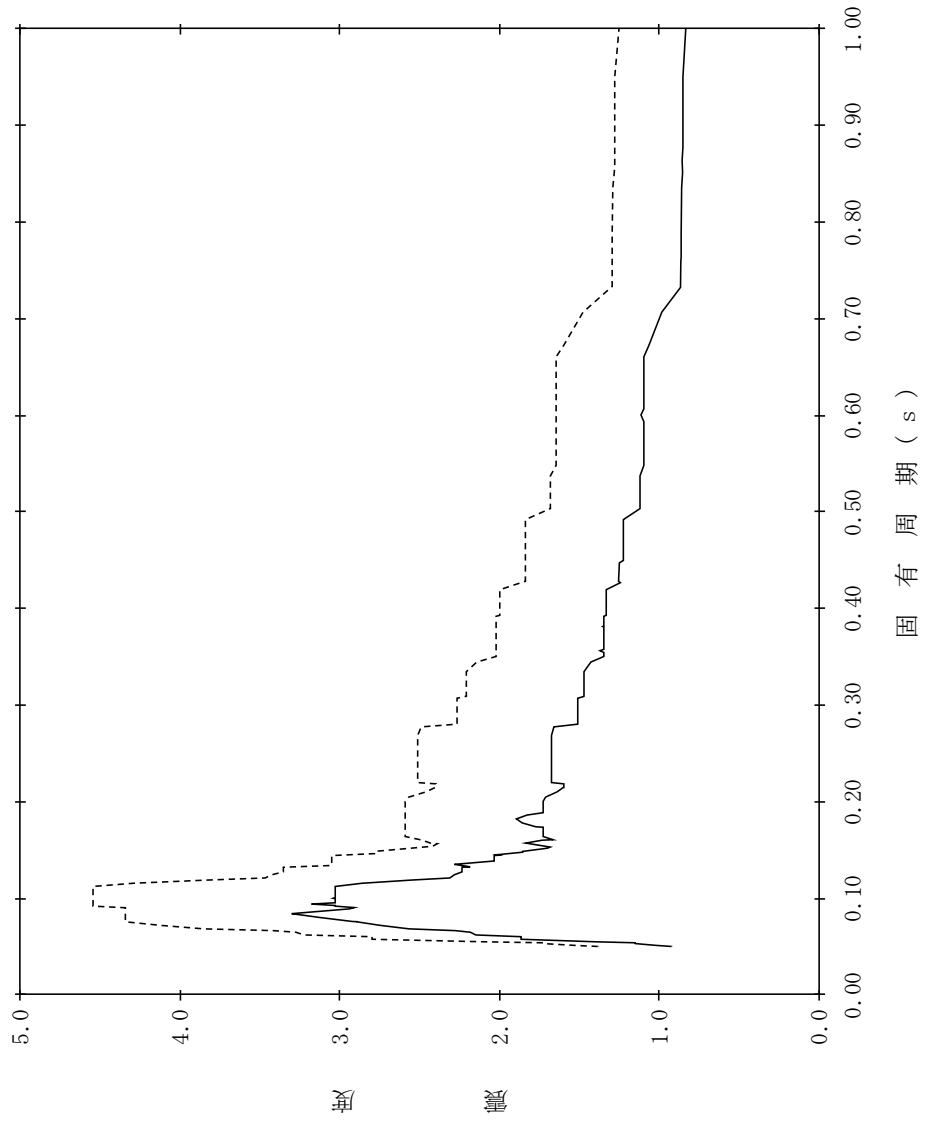
【NS2-RwB-SsV-RwB67】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



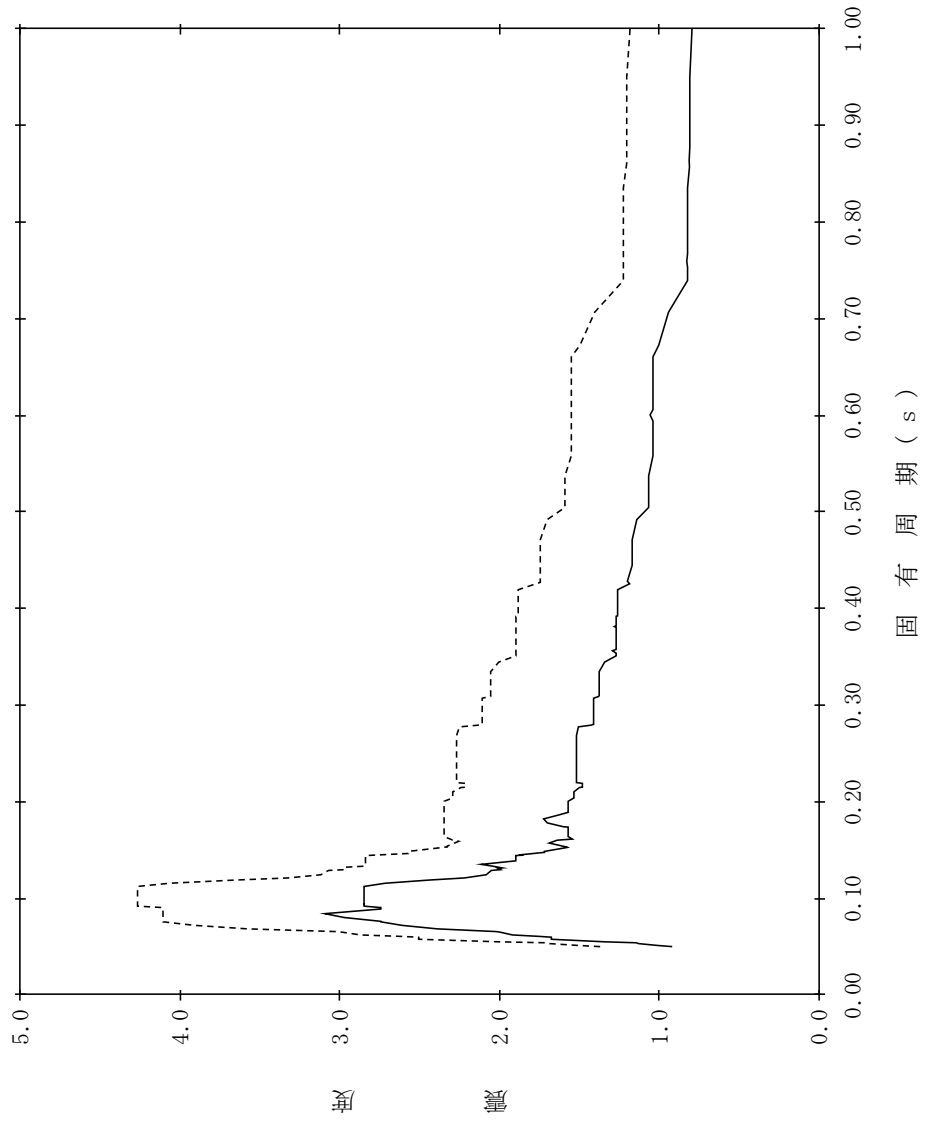
【NS2-RwB-SsV-RwB68】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



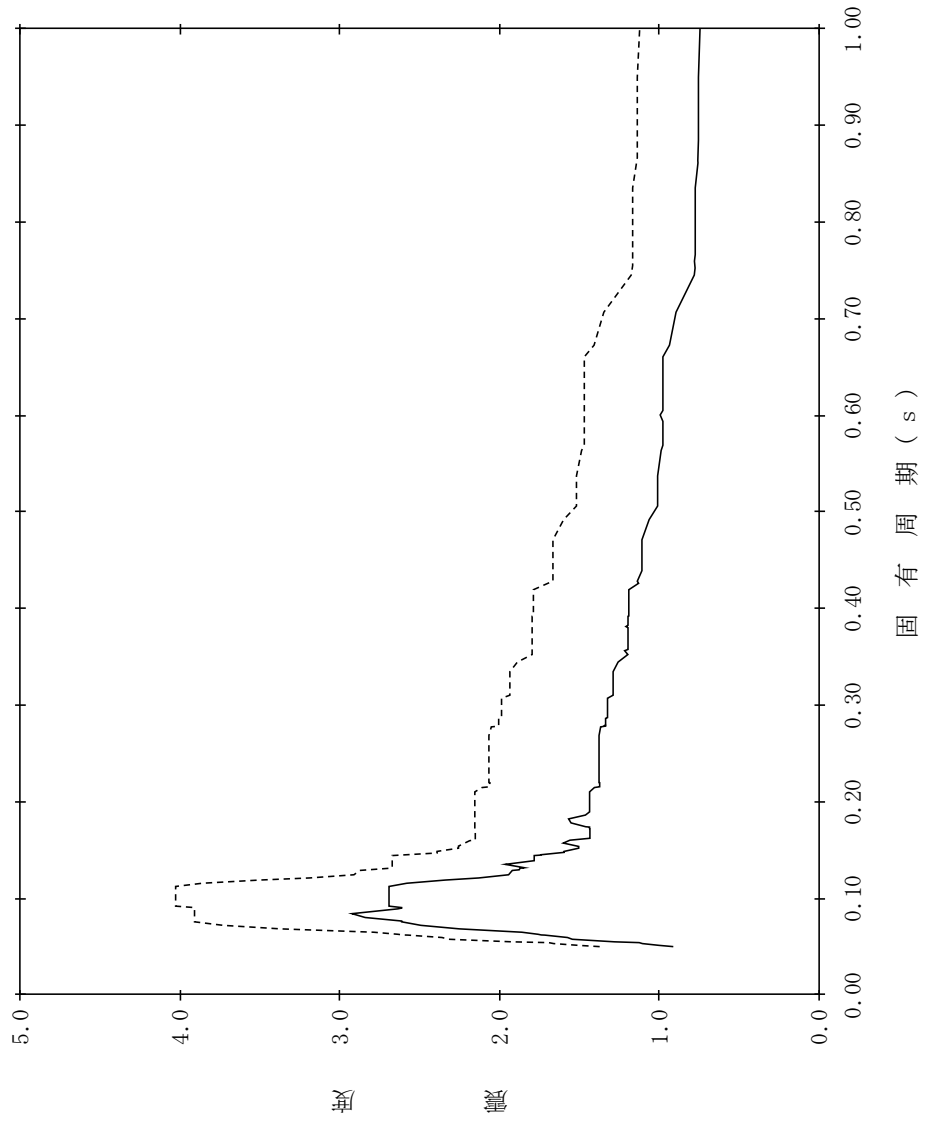
【NS2-RwB-SsV-RwB69】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



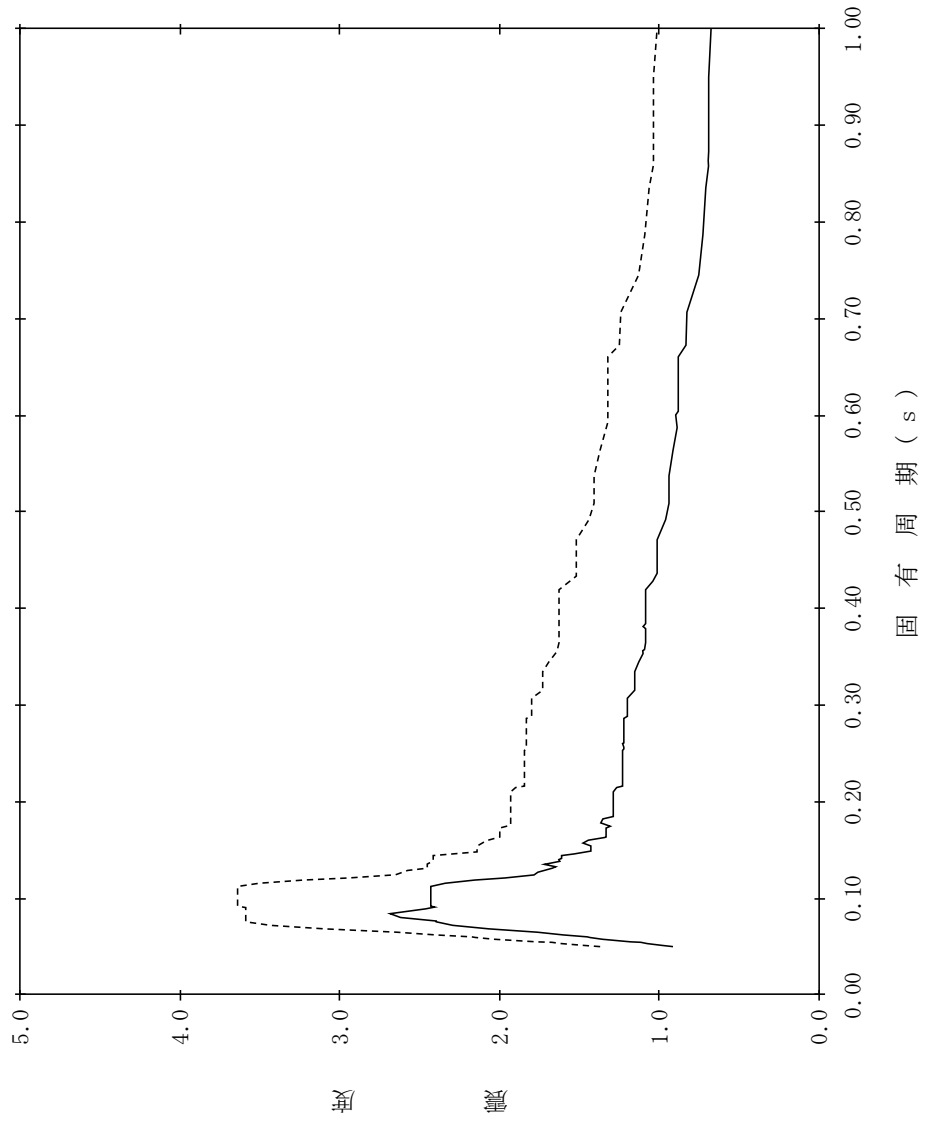
【NS2-RwB-SsV-RwB70】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



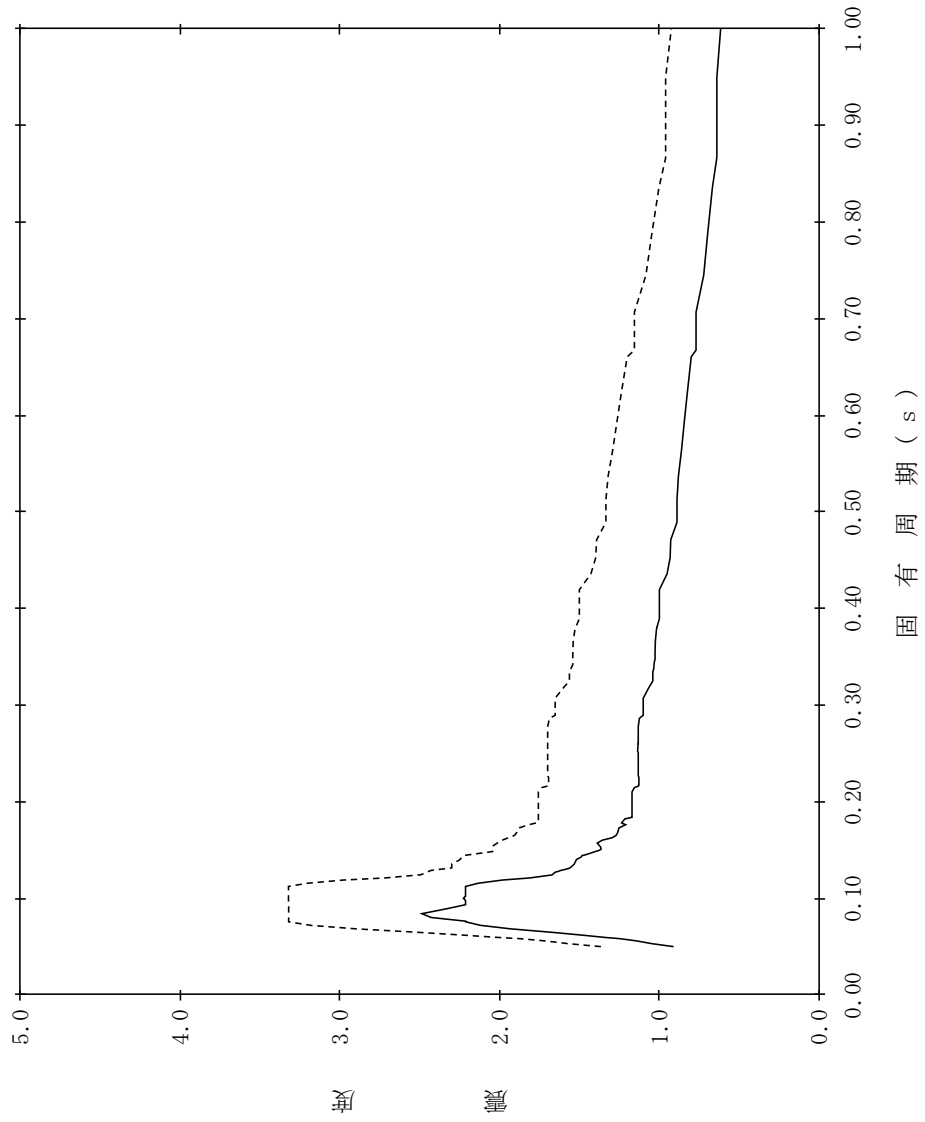
【NS2-RwB-SsV-RwB71】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



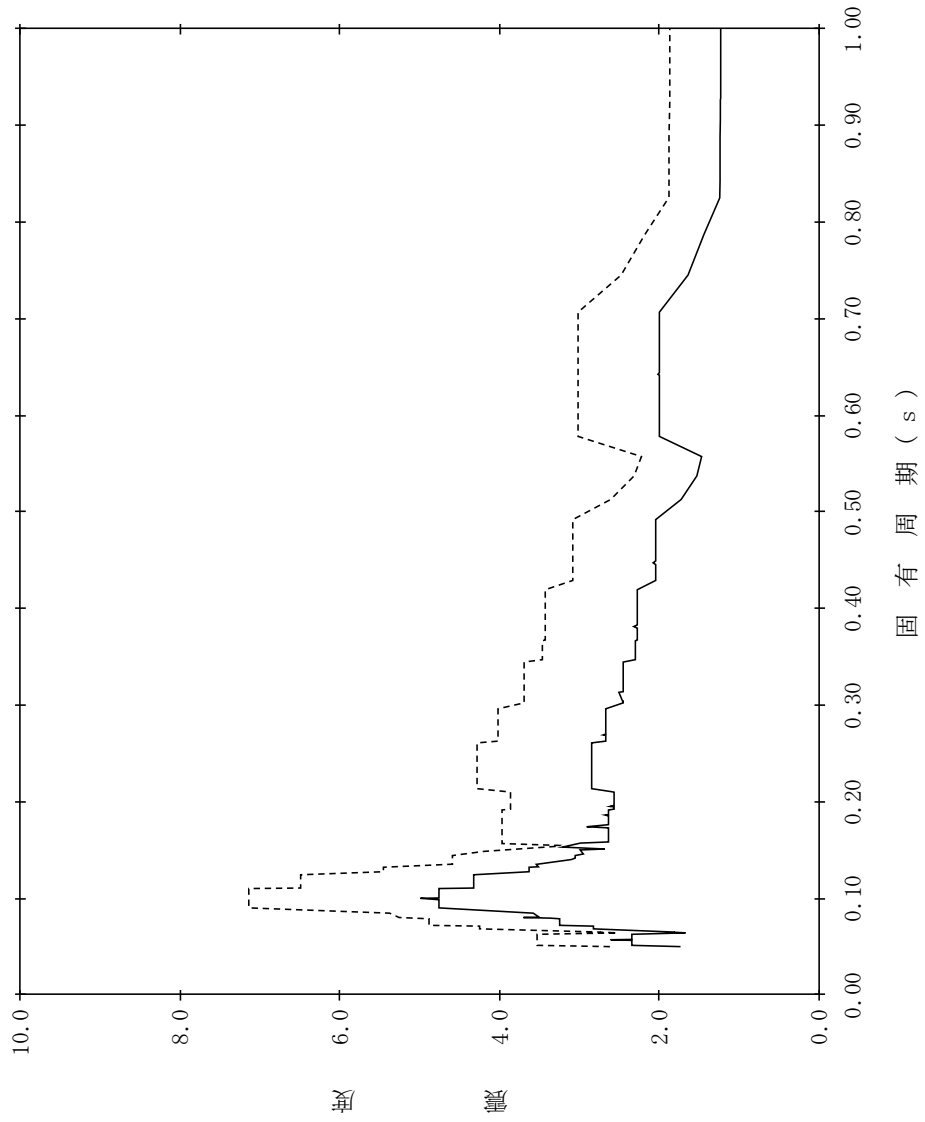
【NS2-RwB-SsV-RwB72】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL8.800m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



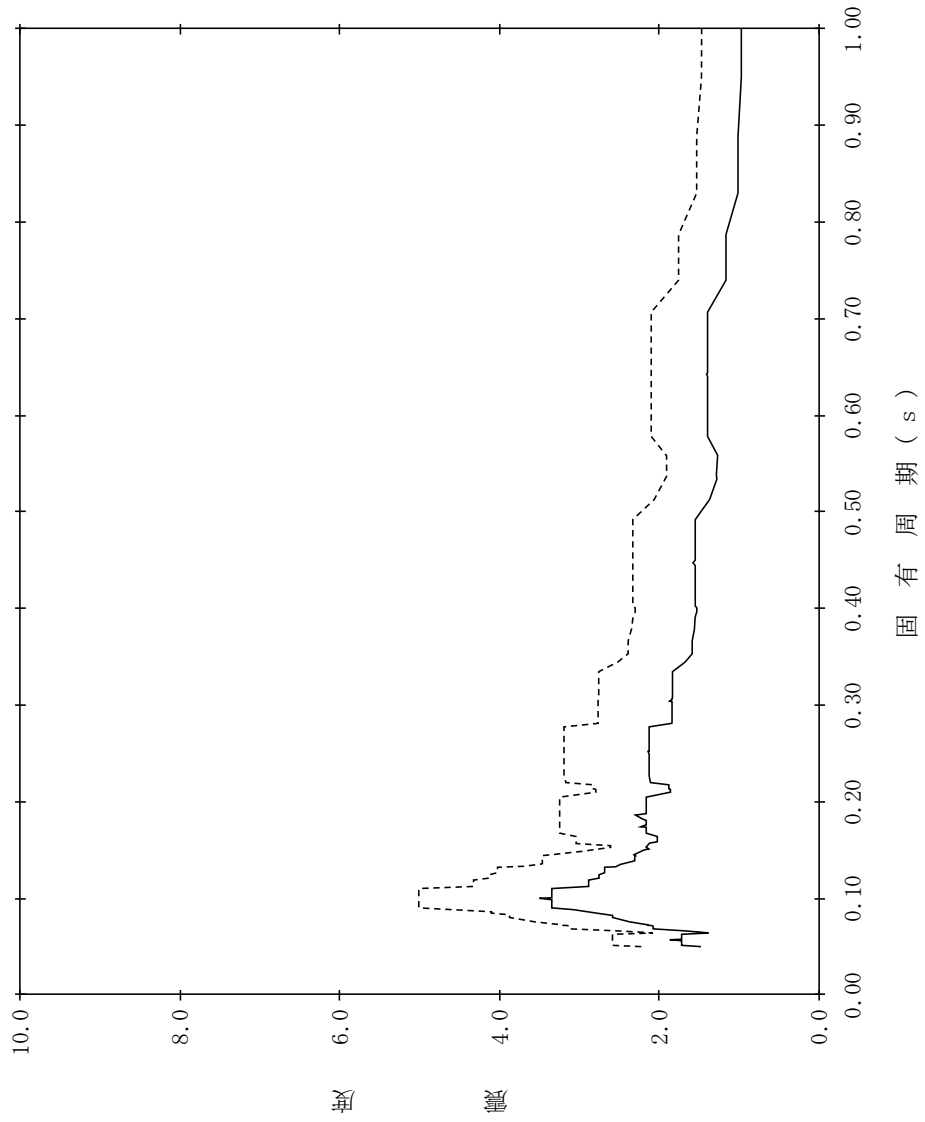
【NS2-RwB-SsV-RwB73】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



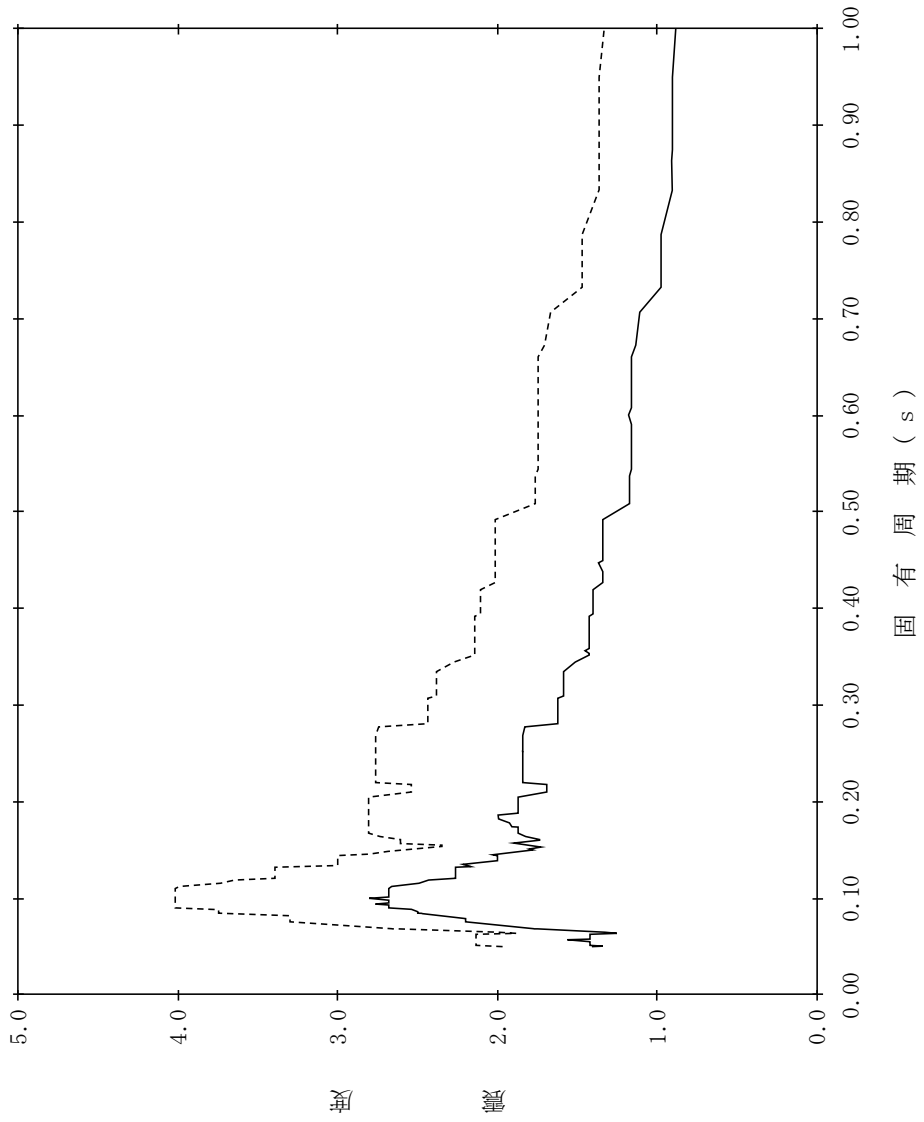
【NS2-RwB-SsV-RwB74】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



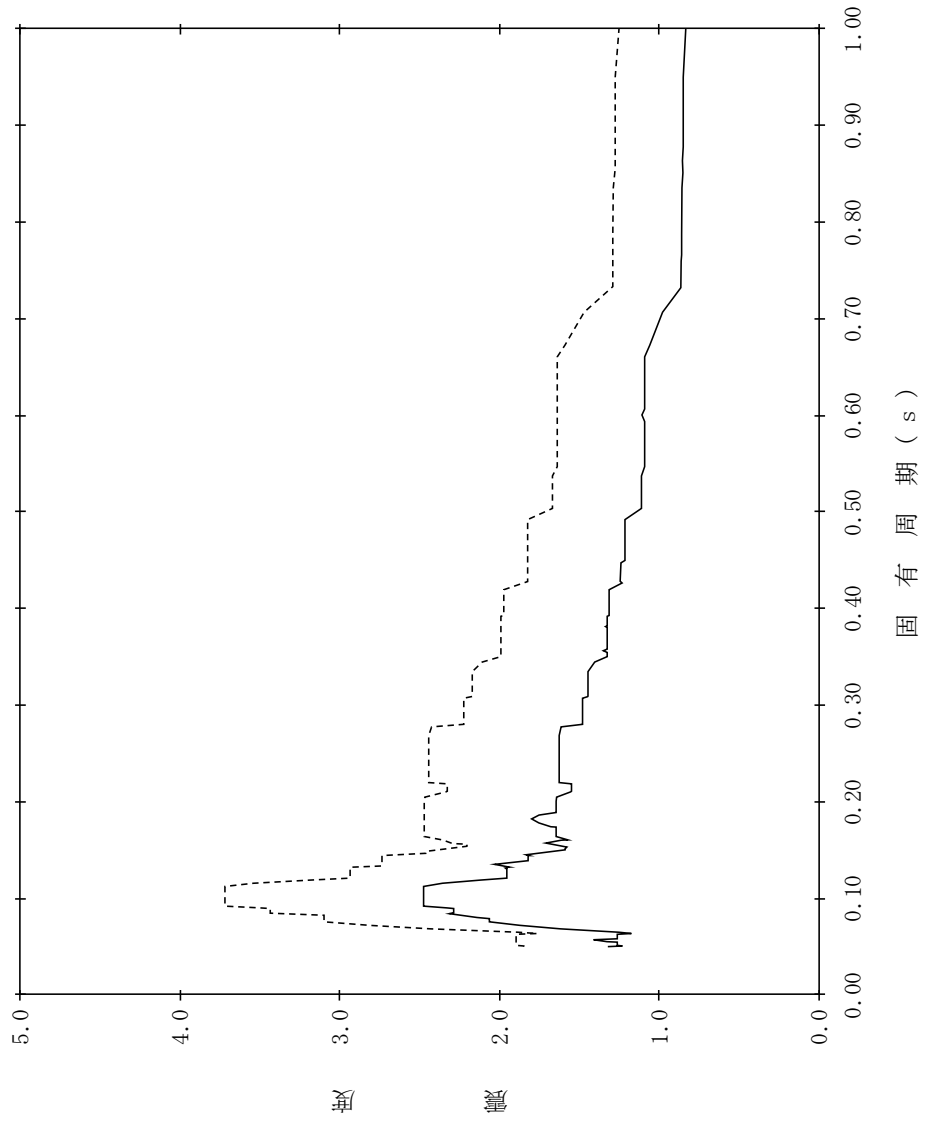
【NS2-RwB-SsV-RwB75】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



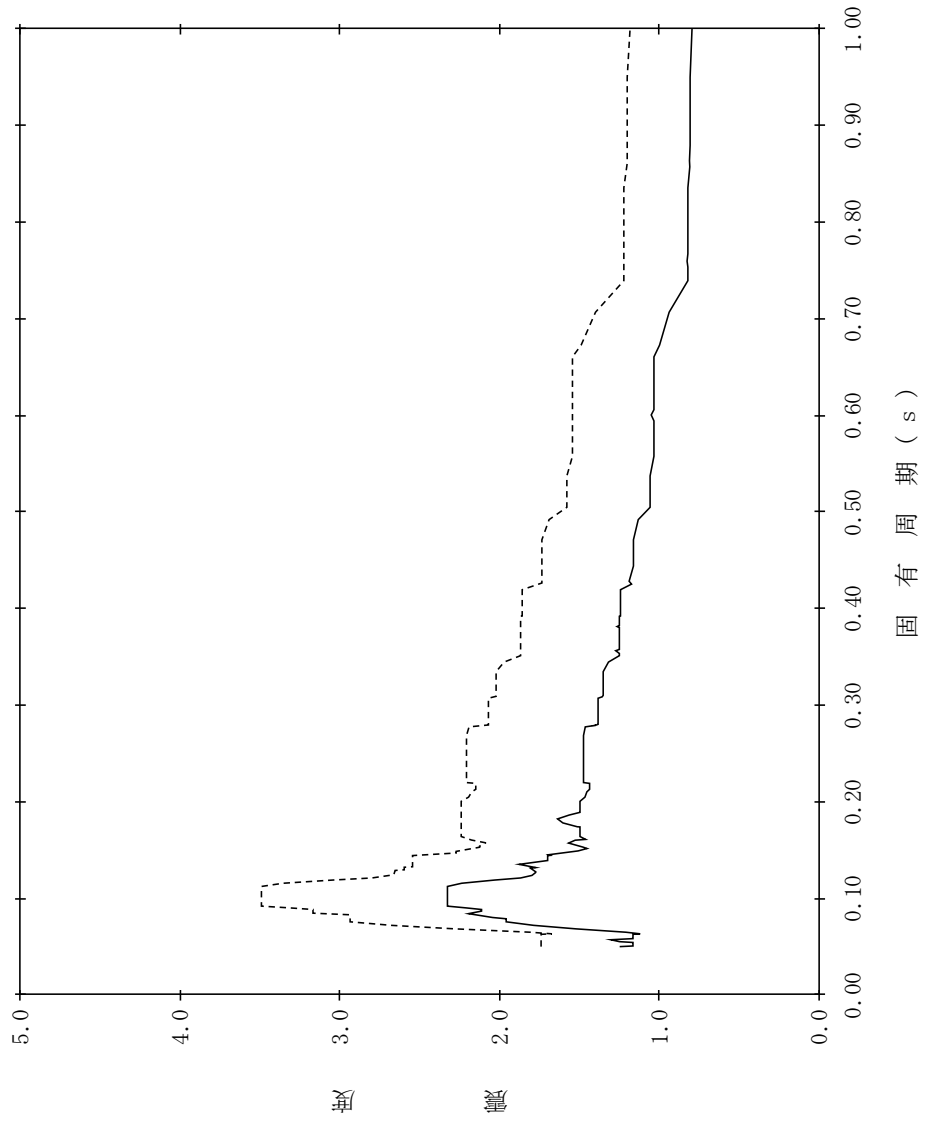
【NS2-RwB-SsV-RwB76】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL3.000m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



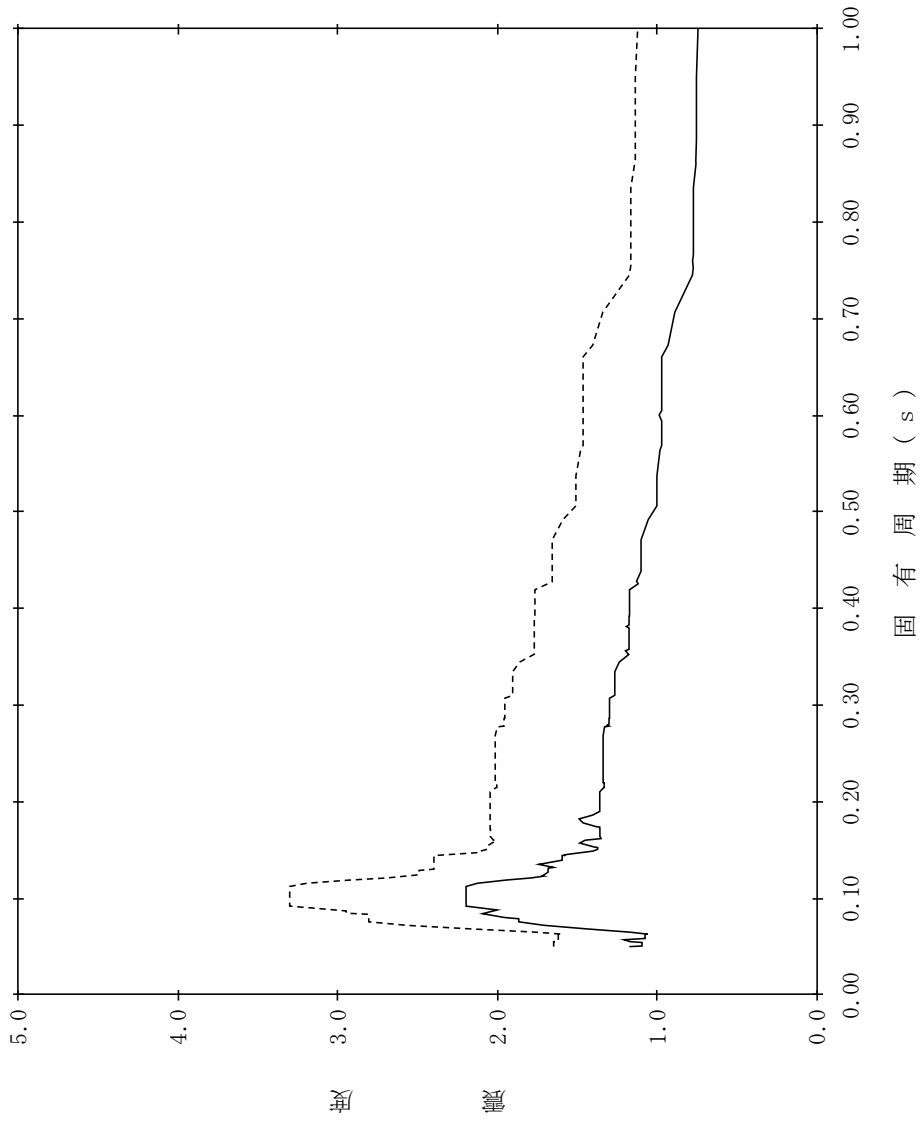
【NS2-RwB-SsV-RwB77】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



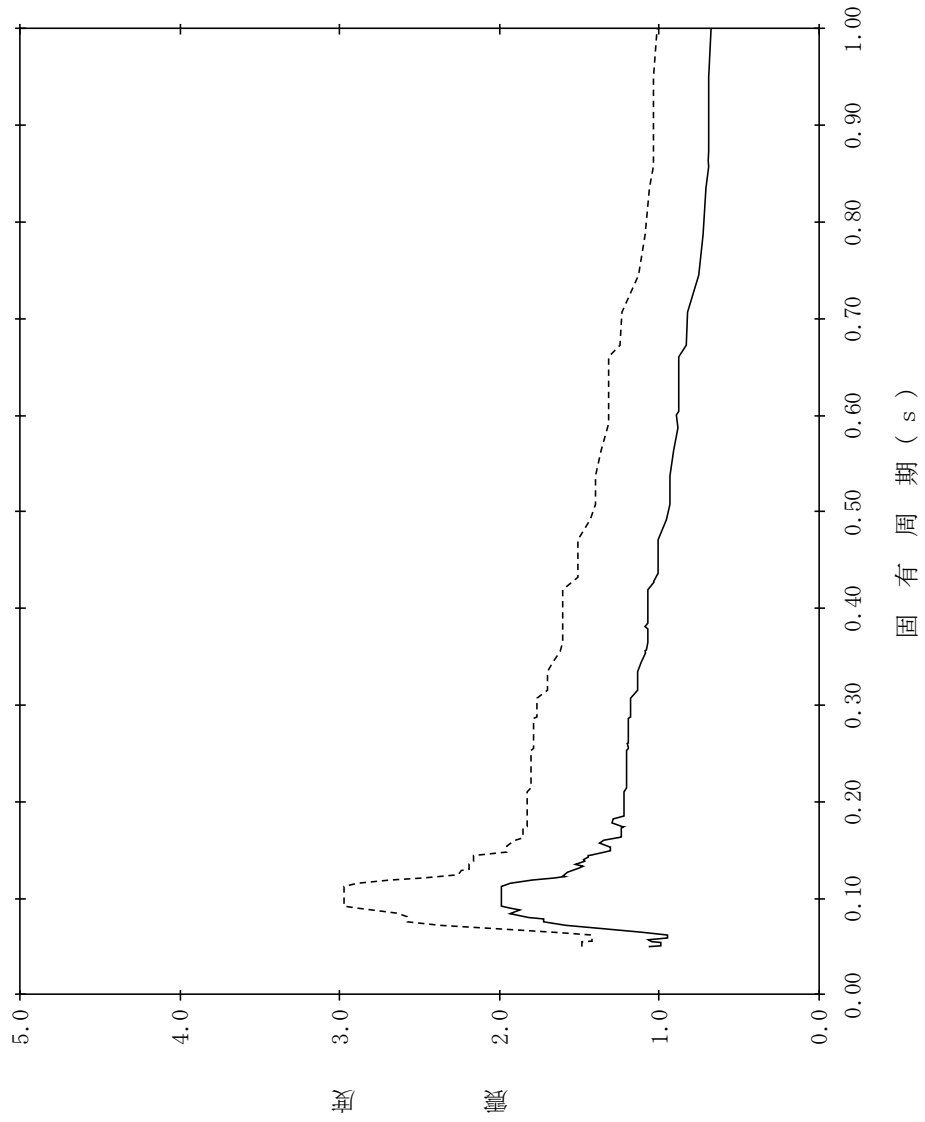
【NS2-RwB-SsV-RwB78】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



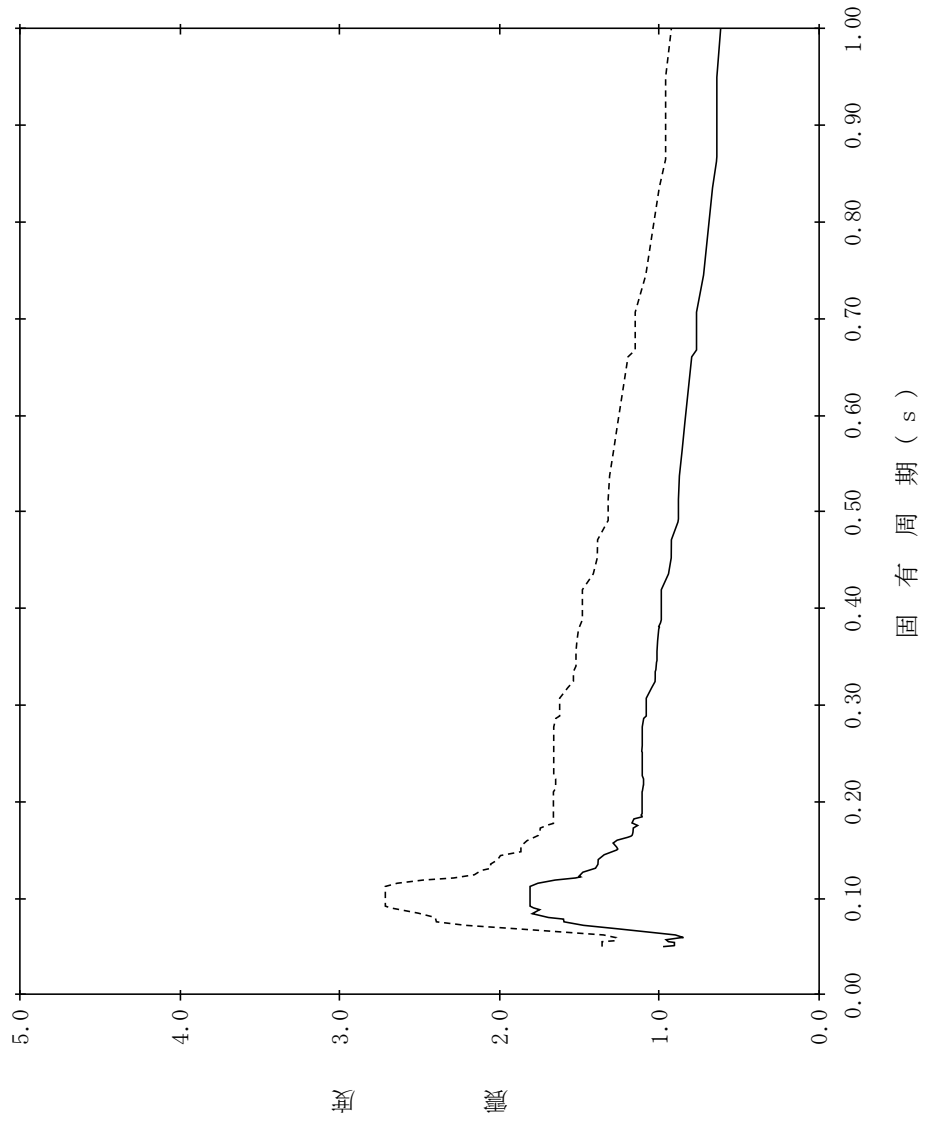
【NS2-RwB-SsV-RwB79】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL3.000m
減衰定数：4.0%
波形式：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



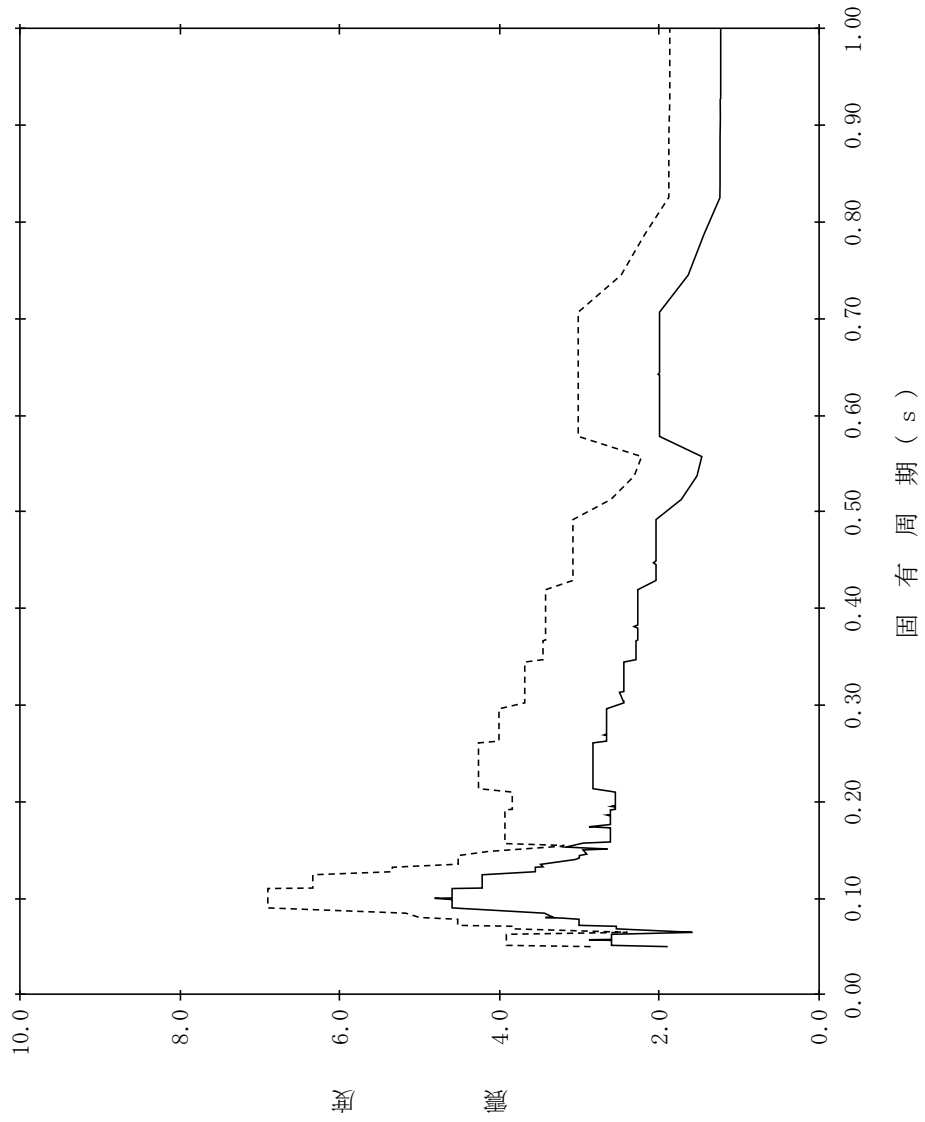
【NS2-RwB-SsV-RwB80】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL3.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

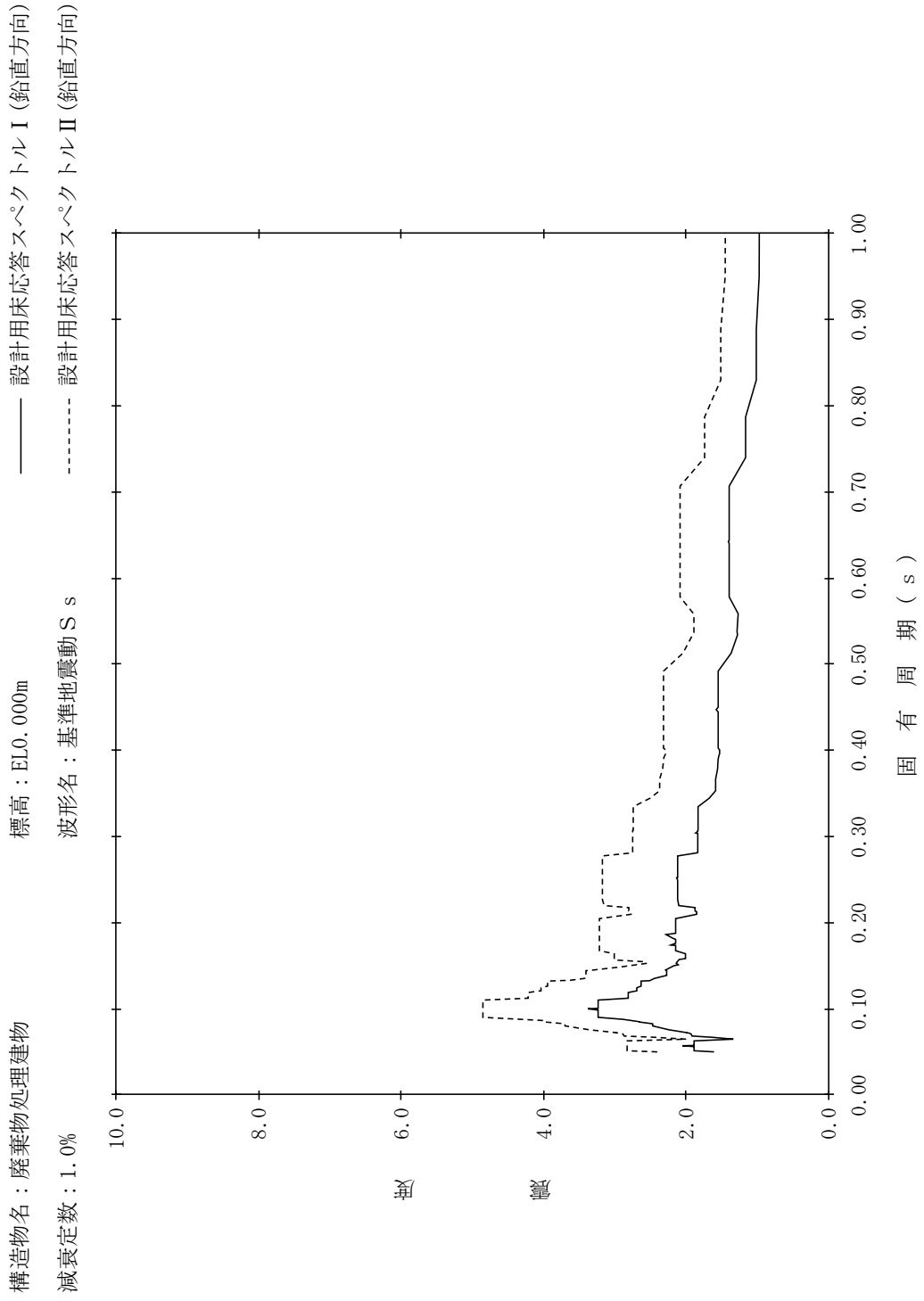


【NS2-RwB-SsV-RwB81】

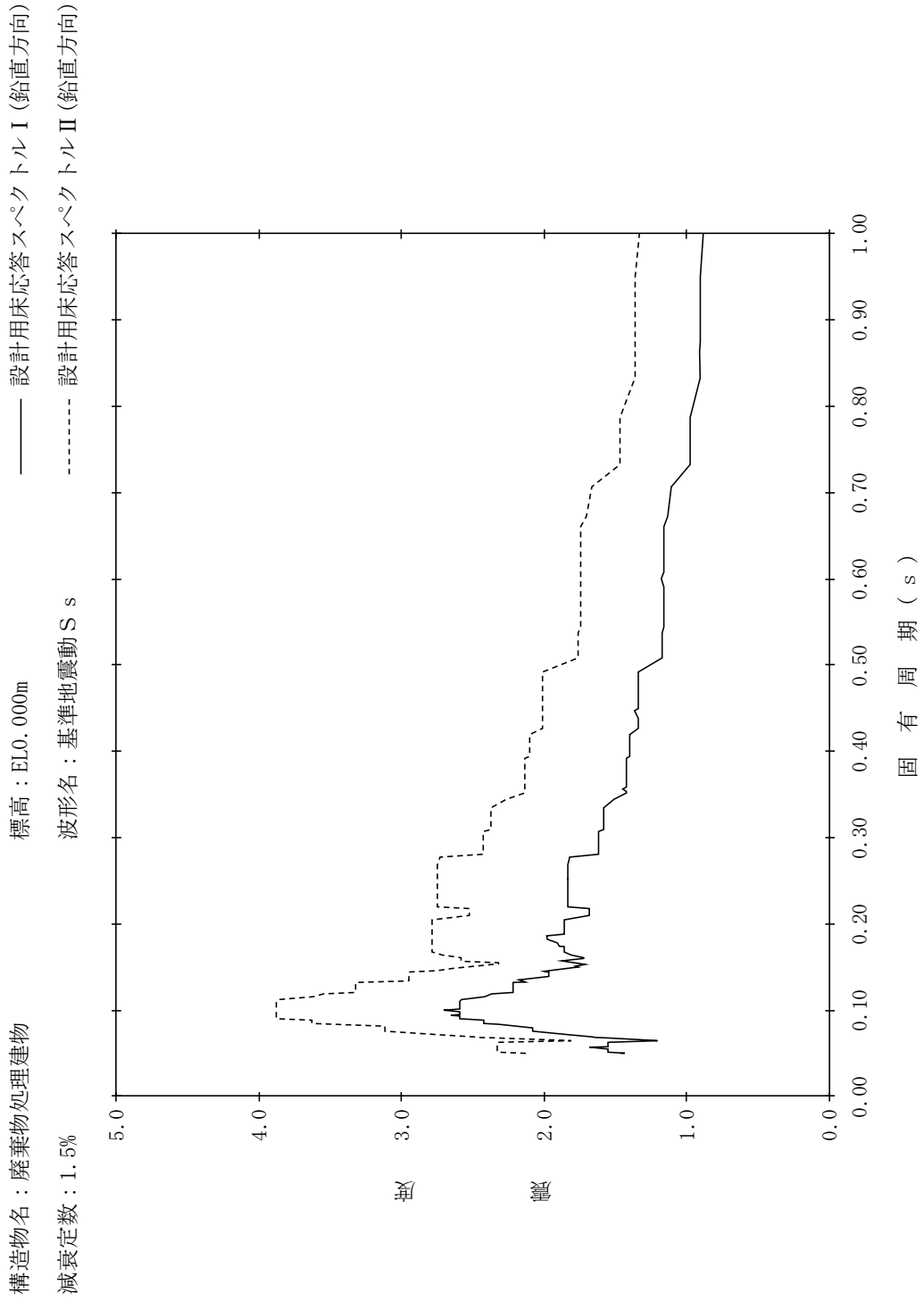
構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RwB-SsV-RwB82】

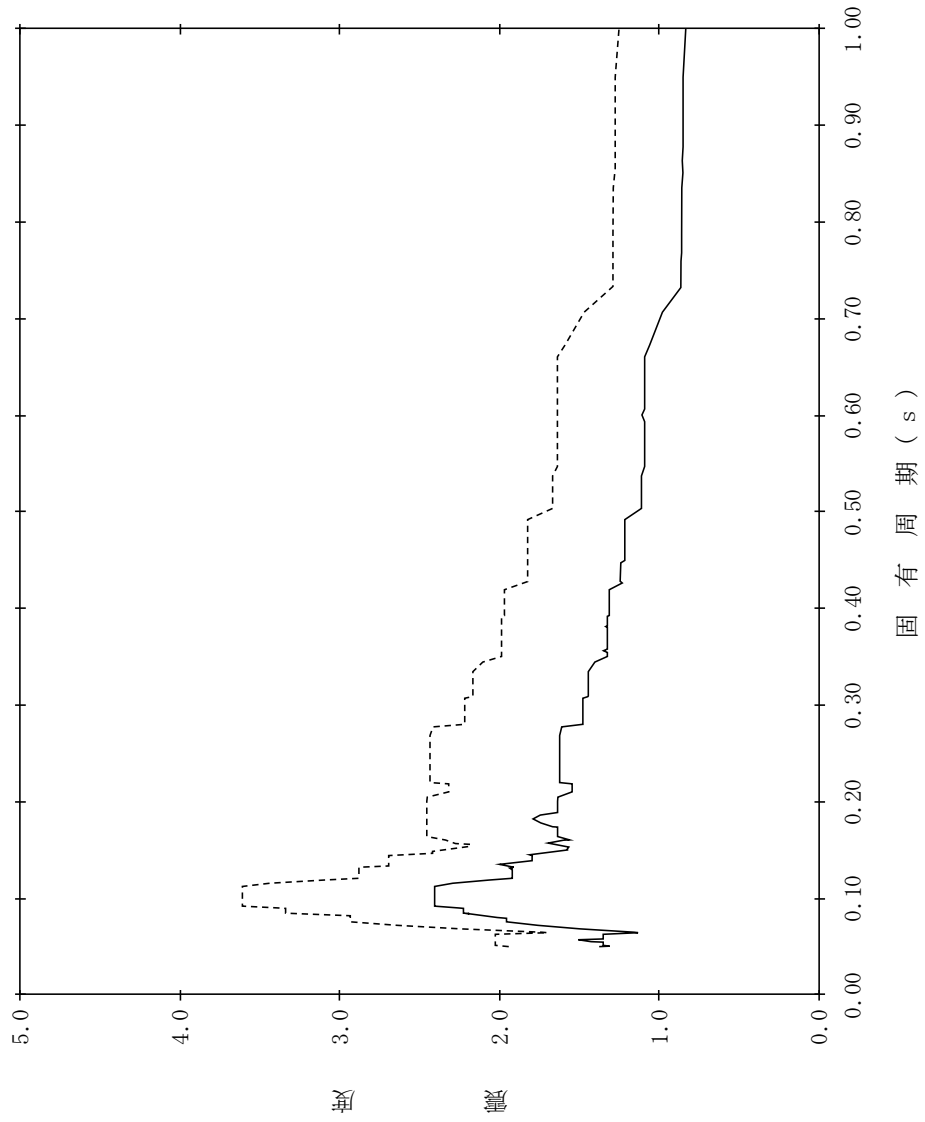


【NS2-RwB-SsV-RwB83】



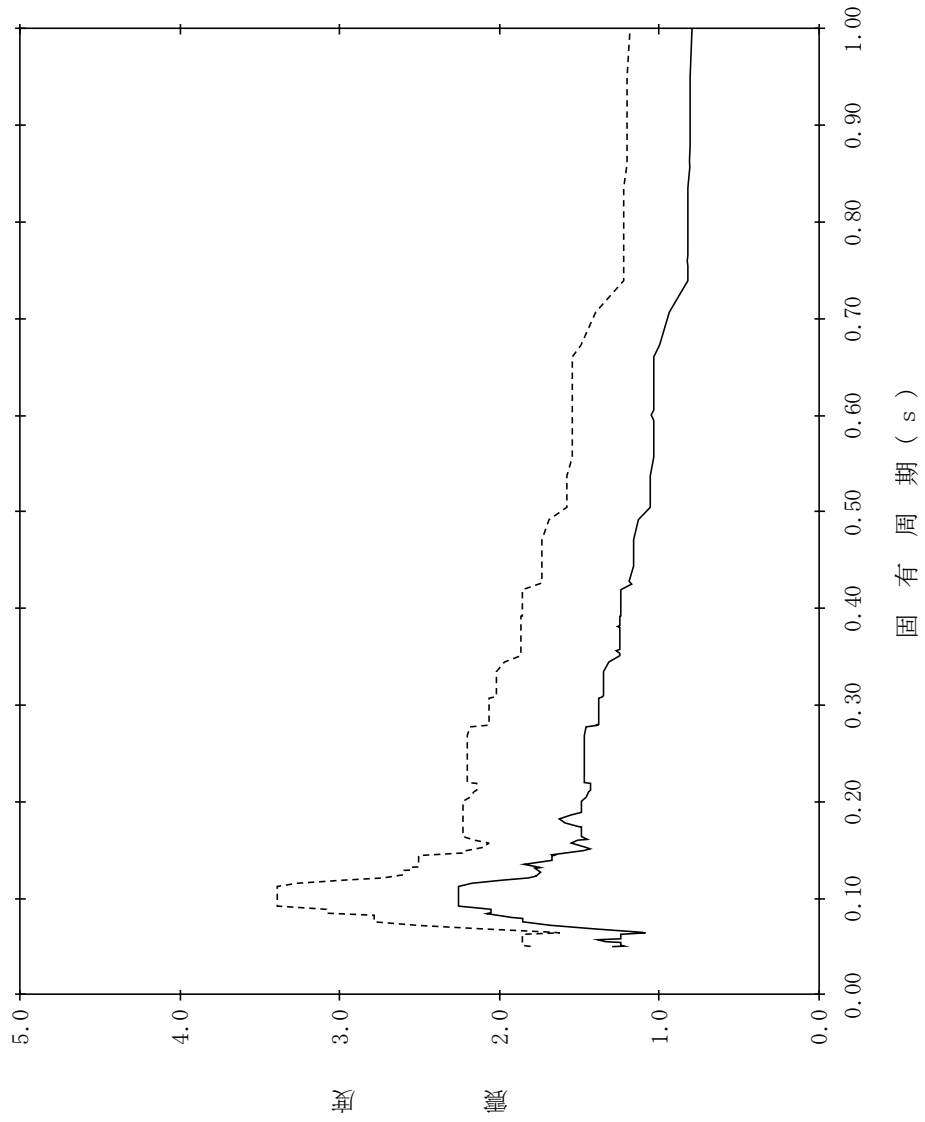
【NS2-RwB-SsV-RwB84】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



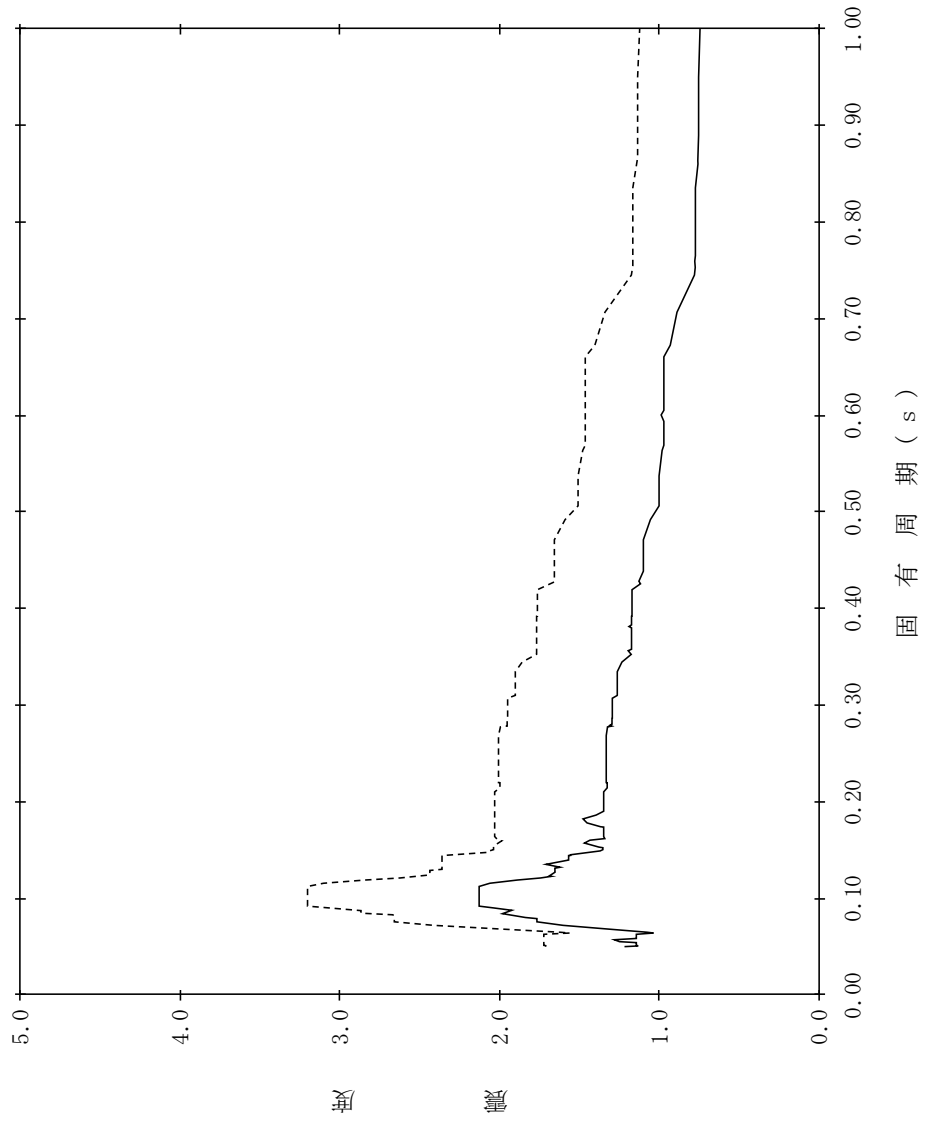
【NS2-RwB-SsV-RwB85】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



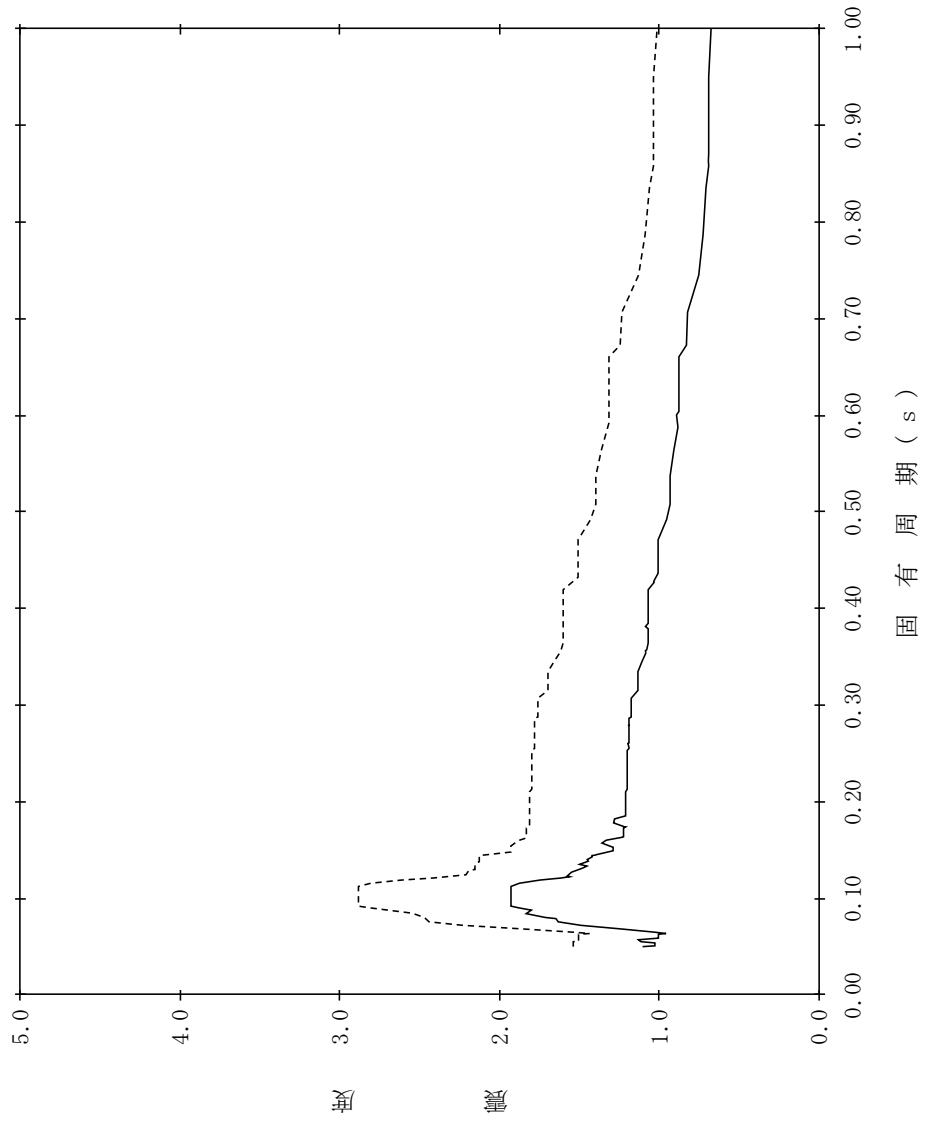
【NS2-RwB-SsV-RwB86】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RwB-SsV-RwB87】

構造物名：廃棄物処理建物
標高：EL0.000m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-RwB-SsV-RwB88】

構造物名：廃棄物処理建物
 標高：EL0.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

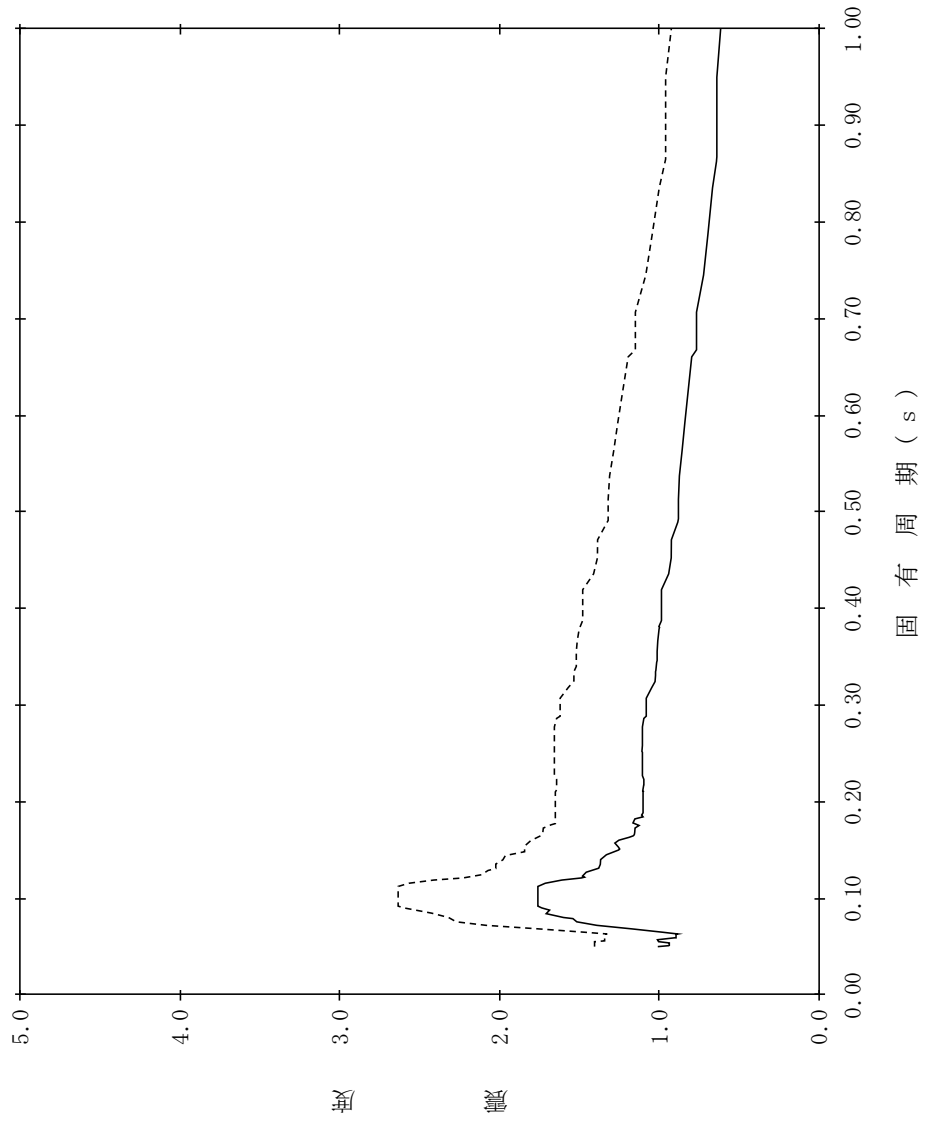


表 4.4-6 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (緊急時対策所) (1/3)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL (m)	減衰定数 (%)	図番				
						NS	EC			
S _s	緊急時対策所	NS 方向	1	56.600	0.5	NS2	EC	SsNS	EC	1
					1.0	NS2	EC	SsNS	EC	2
					1.5	NS2	EC	SsNS	EC	3
					2.0	NS2	EC	SsNS	EC	4
					2.5	NS2	EC	SsNS	EC	5
					3.0	NS2	EC	SsNS	EC	6
					4.0	NS2	EC	SsNS	EC	7
					5.0	NS2	EC	SsNS	EC	8
			2	50.250	0.5	NS2	EC	SsNS	EC	9
					1.0	NS2	EC	SsNS	EC	10
					1.5	NS2	EC	SsNS	EC	11
					2.0	NS2	EC	SsNS	EC	12
					2.5	NS2	EC	SsNS	EC	13
					3.0	NS2	EC	SsNS	EC	14
					4.0	NS2	EC	SsNS	EC	15
					5.0	NS2	EC	SsNS	EC	16
			3	48.250	0.5	NS2	EC	SsNS	EC	17
					1.0	NS2	EC	SsNS	EC	18
					1.5	NS2	EC	SsNS	EC	19
					2.0	NS2	EC	SsNS	EC	20
					2.5	NS2	EC	SsNS	EC	21
					3.0	NS2	EC	SsNS	EC	22
					4.0	NS2	EC	SsNS	EC	23
					5.0	NS2	EC	SsNS	EC	24

表 4.4-6 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (緊急時対策所) (2/3)

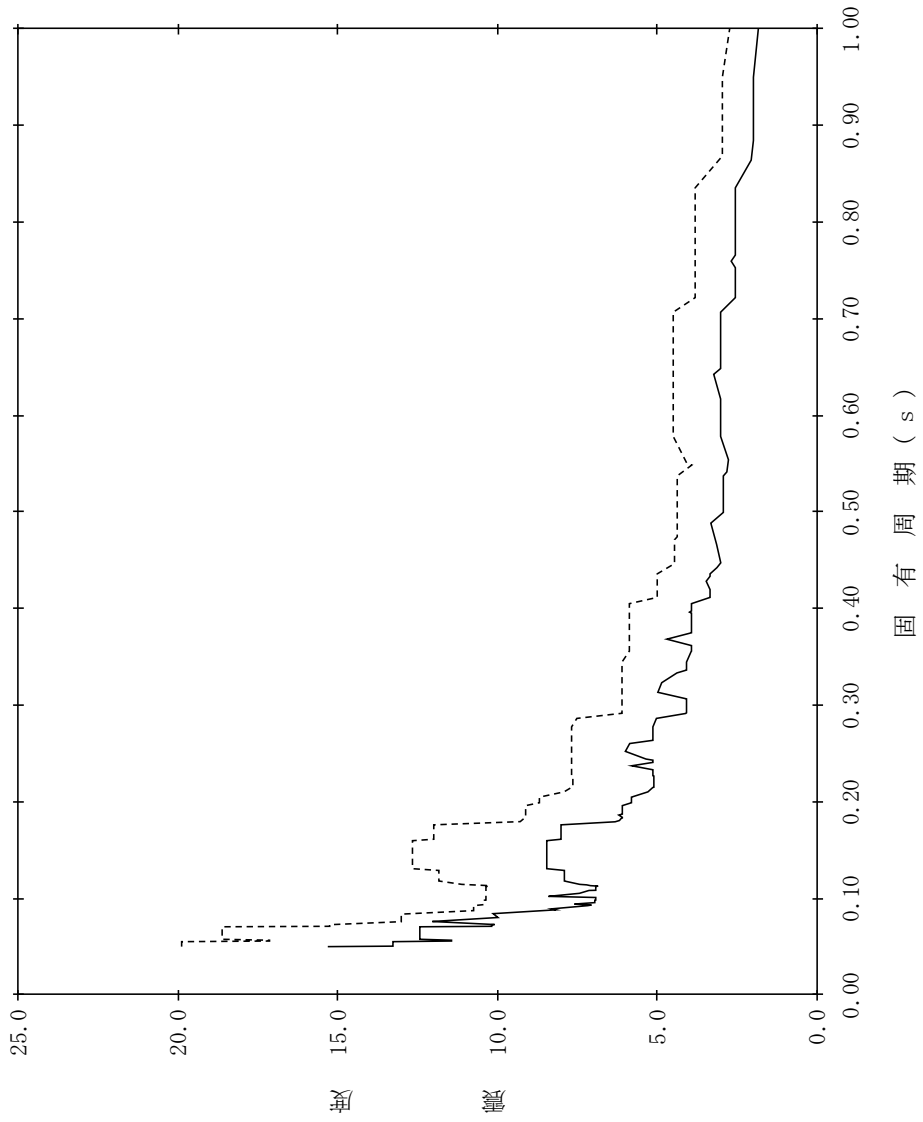
地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S _s	緊急時対策所	EW 方向	1	56.600	0.5	NS2 - EC - SsEW - EC 1
					1.0	NS2 - EC - SsEW - EC 2
					1.5	NS2 - EC - SsEW - EC 3
					2.0	NS2 - EC - SsEW - EC 4
					2.5	NS2 - EC - SsEW - EC 5
					3.0	NS2 - EC - SsEW - EC 6
					4.0	NS2 - EC - SsEW - EC 7
					5.0	NS2 - EC - SsEW - EC 8
			2	50.250	0.5	NS2 - EC - SsEW - EC 9
					1.0	NS2 - EC - SsEW - EC 10
					1.5	NS2 - EC - SsEW - EC 11
					2.0	NS2 - EC - SsEW - EC 12
					2.5	NS2 - EC - SsEW - EC 13
					3.0	NS2 - EC - SsEW - EC 14
					4.0	NS2 - EC - SsEW - EC 15
					5.0	NS2 - EC - SsEW - EC 16
			3	48.250	0.5	NS2 - EC - SsEW - EC 17
					1.0	NS2 - EC - SsEW - EC 18
					1.5	NS2 - EC - SsEW - EC 19
					2.0	NS2 - EC - SsEW - EC 20
					2.5	NS2 - EC - SsEW - EC 21
					3.0	NS2 - EC - SsEW - EC 22
					4.0	NS2 - EC - SsEW - EC 23
					5.0	NS2 - EC - SsEW - EC 24

表 4.4-6 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (緊急時対策所) (3/3)

地震波	建物機器	方向	質点番号	標高 EL (m)	減衰定数 (%)	図番
S _s	緊急時対策所	鉛直 方向	1	56.600	0.5	NS2 - EC - SsV - EC 1
					1.0	NS2 - EC - SsV - EC 2
					1.5	NS2 - EC - SsV - EC 3
					2.0	NS2 - EC - SsV - EC 4
					2.5	NS2 - EC - SsV - EC 5
					3.0	NS2 - EC - SsV - EC 6
					4.0	NS2 - EC - SsV - EC 7
					5.0	NS2 - EC - SsV - EC 8
			2	50.250	0.5	NS2 - EC - SsV - EC 9
					1.0	NS2 - EC - SsV - EC 10
					1.5	NS2 - EC - SsV - EC 11
					2.0	NS2 - EC - SsV - EC 12
					2.5	NS2 - EC - SsV - EC 13
					3.0	NS2 - EC - SsV - EC 14
					4.0	NS2 - EC - SsV - EC 15
					5.0	NS2 - EC - SsV - EC 16
			3	48.250	0.5	NS2 - EC - SsV - EC 17
					1.0	NS2 - EC - SsV - EC 18
					1.5	NS2 - EC - SsV - EC 19
					2.0	NS2 - EC - SsV - EC 20
					2.5	NS2 - EC - SsV - EC 21
					3.0	NS2 - EC - SsV - EC 22
					4.0	NS2 - EC - SsV - EC 23
					5.0	NS2 - EC - SsV - EC 24

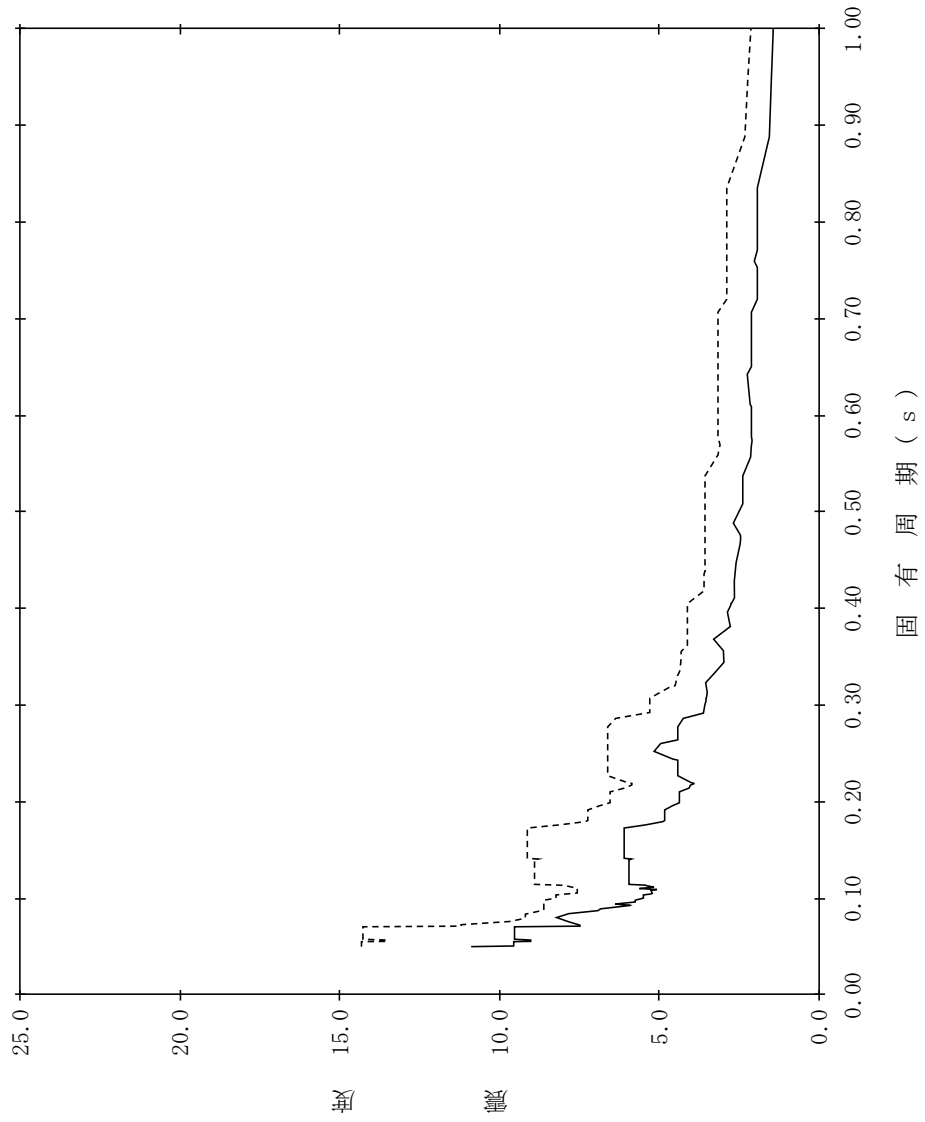
【NS2-EC-SsNS-EC1】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL56.600m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



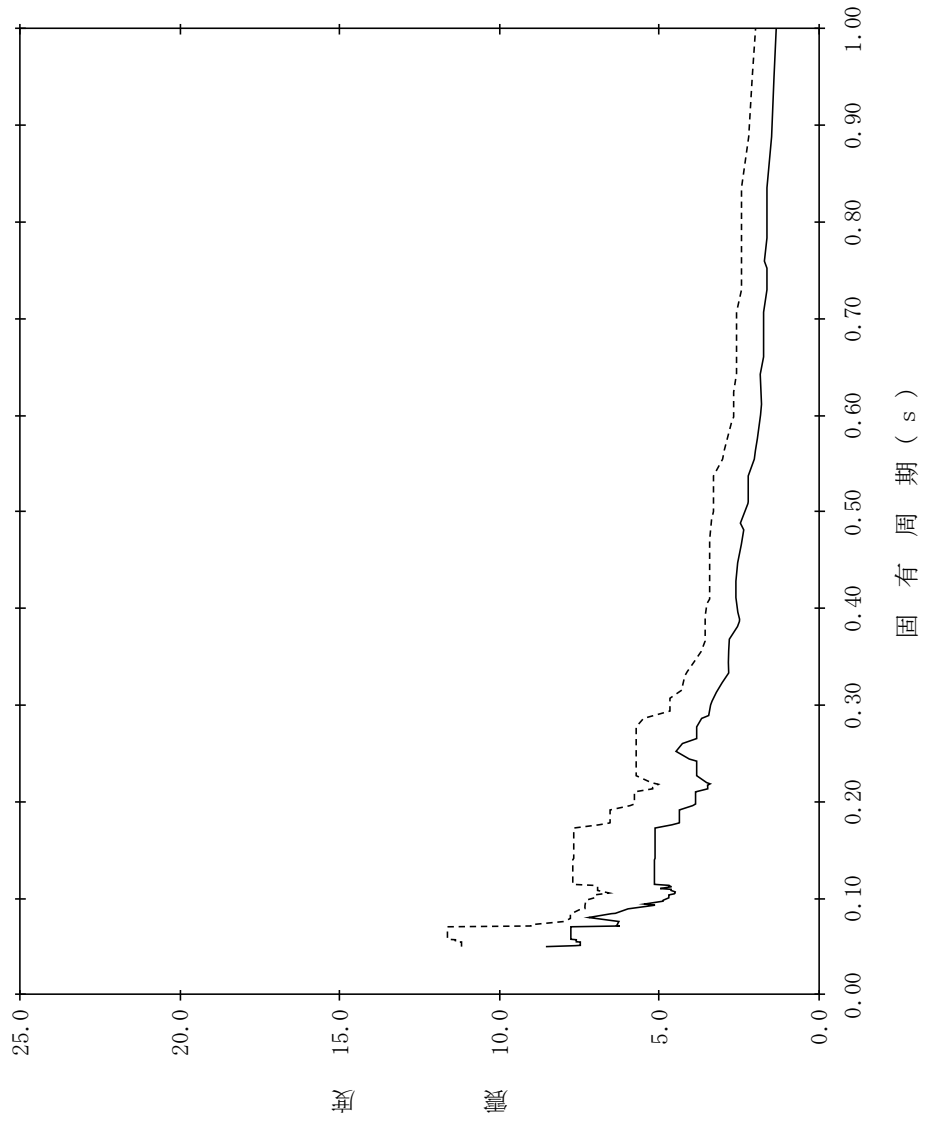
【NS2-EC-SsNS-EC2】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL56.600m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



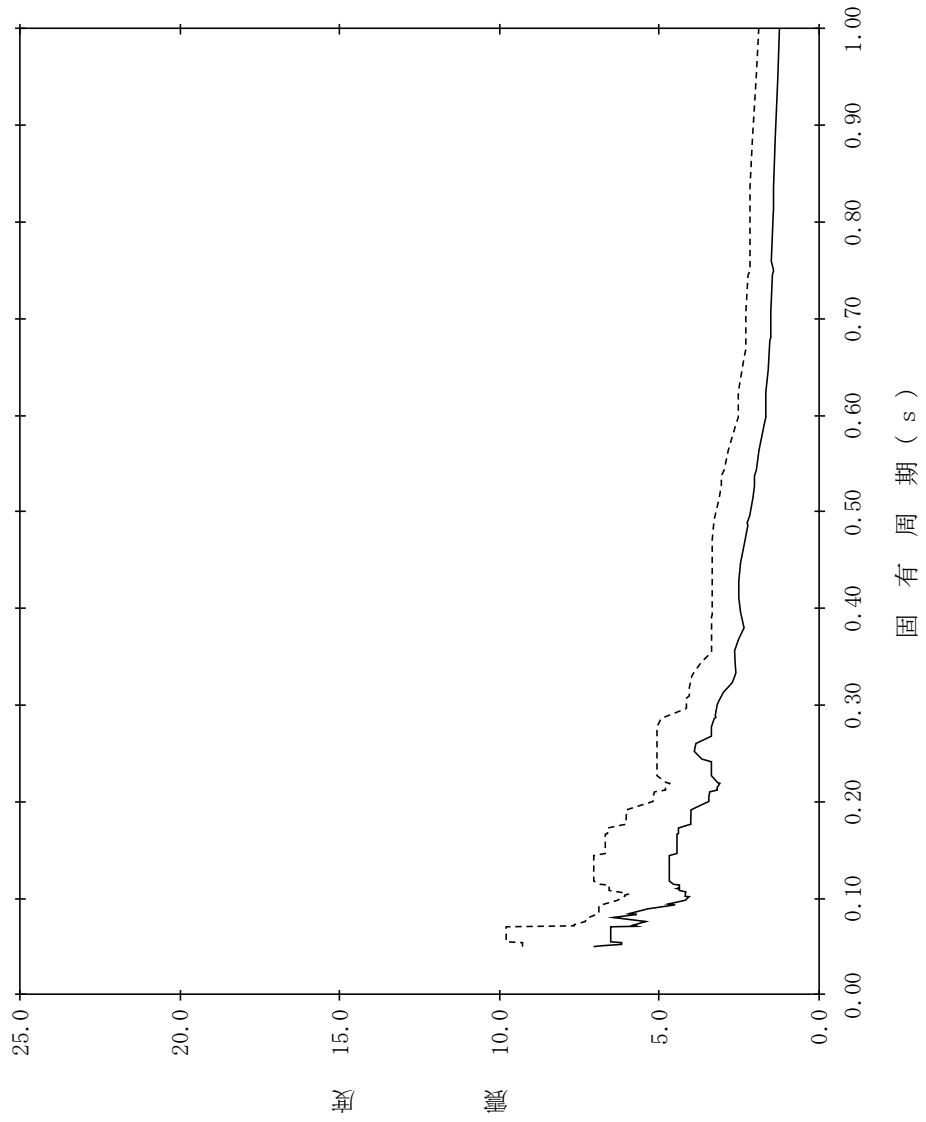
【NS2-EC-SsNS-EC3】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL56.600m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



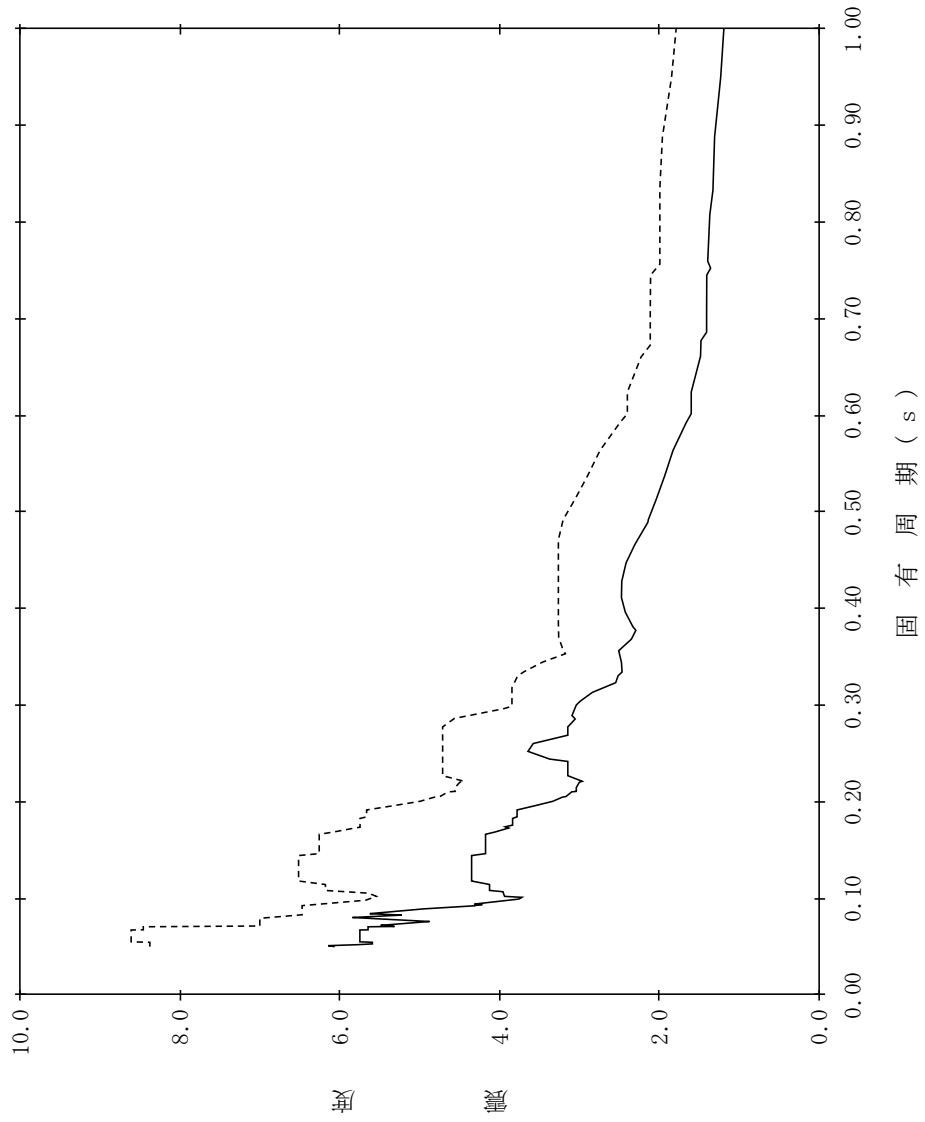
【NS2-EC-SsNS-EC4】

構造物名：緊急時対策所
減衰定数：2.0%
標高：EL56.600m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



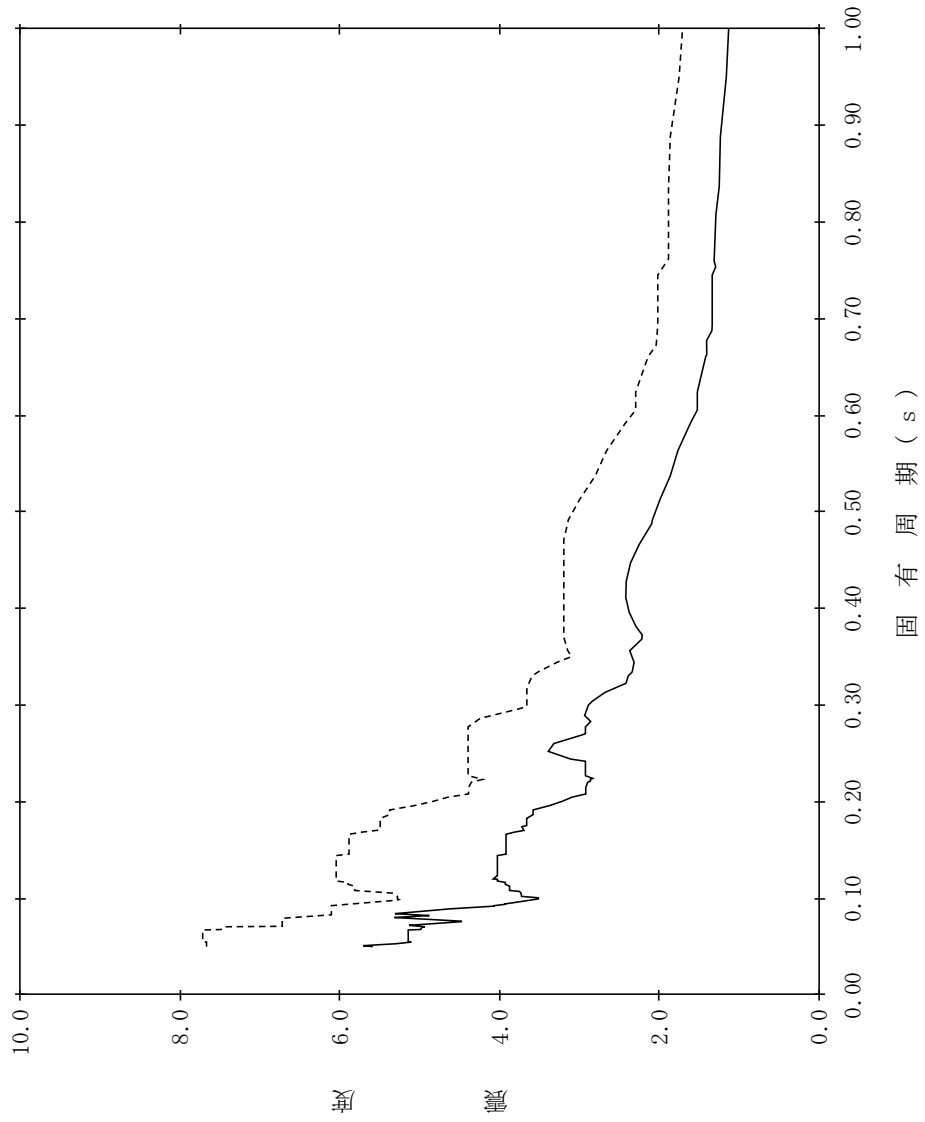
【NS2-EC-SsNS-EC5】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL56.600m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



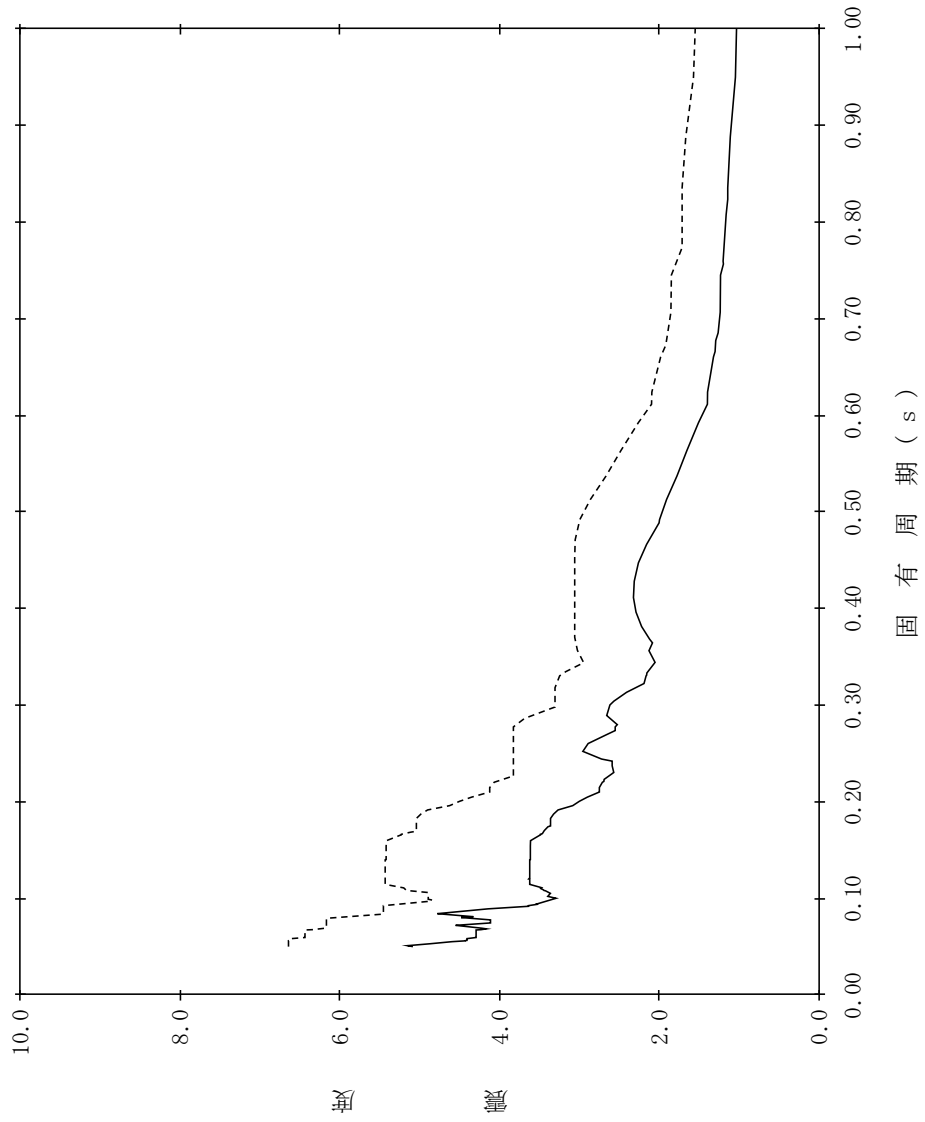
【NS2-EC-SsNS-EC6】

構造物名：緊急時対策所
減衰定数：3.0%
標高：EL56.600m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



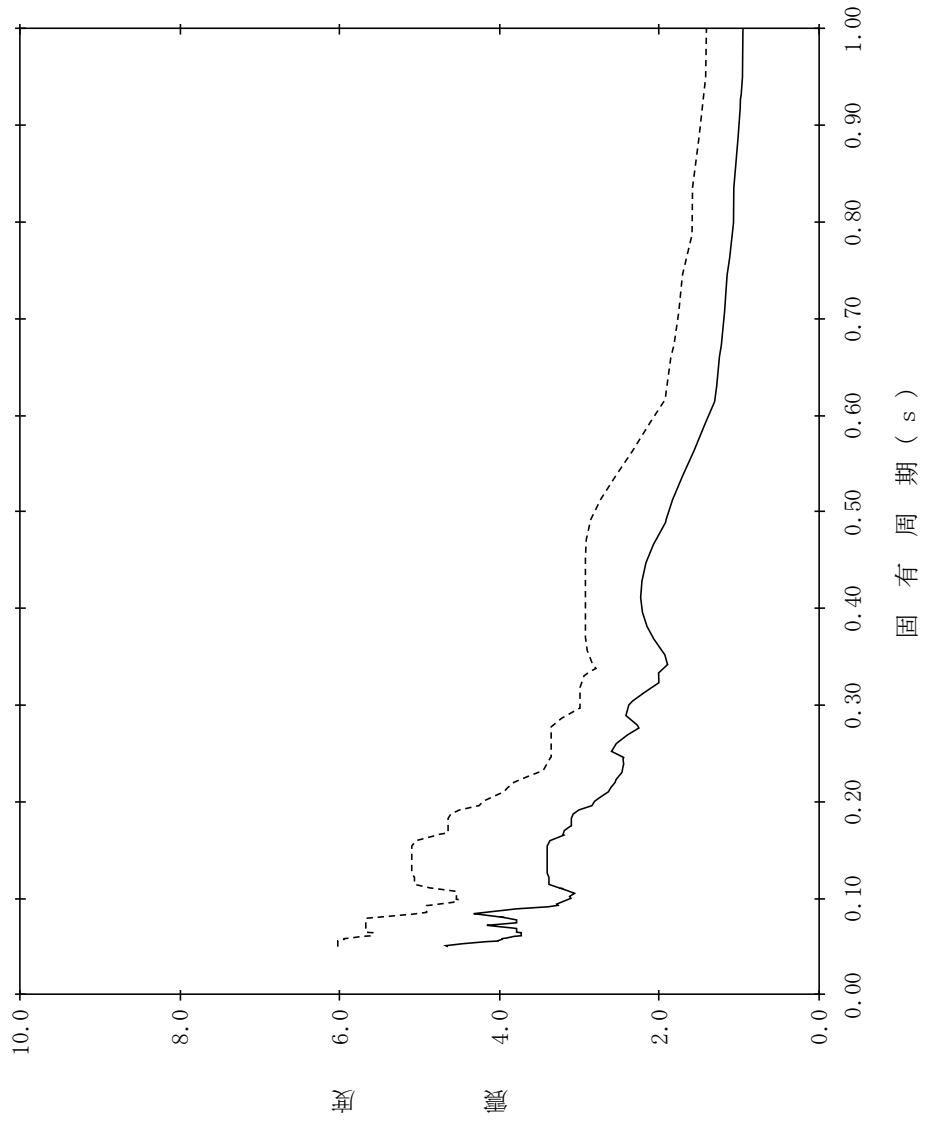
【NS2-EC-SsNS-EC7】

構造物名：緊急時対策所
減衰定数：4.0%
標高：EL56.600m
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (NS方向)
設計用床応答スペクトル II (NS方向)



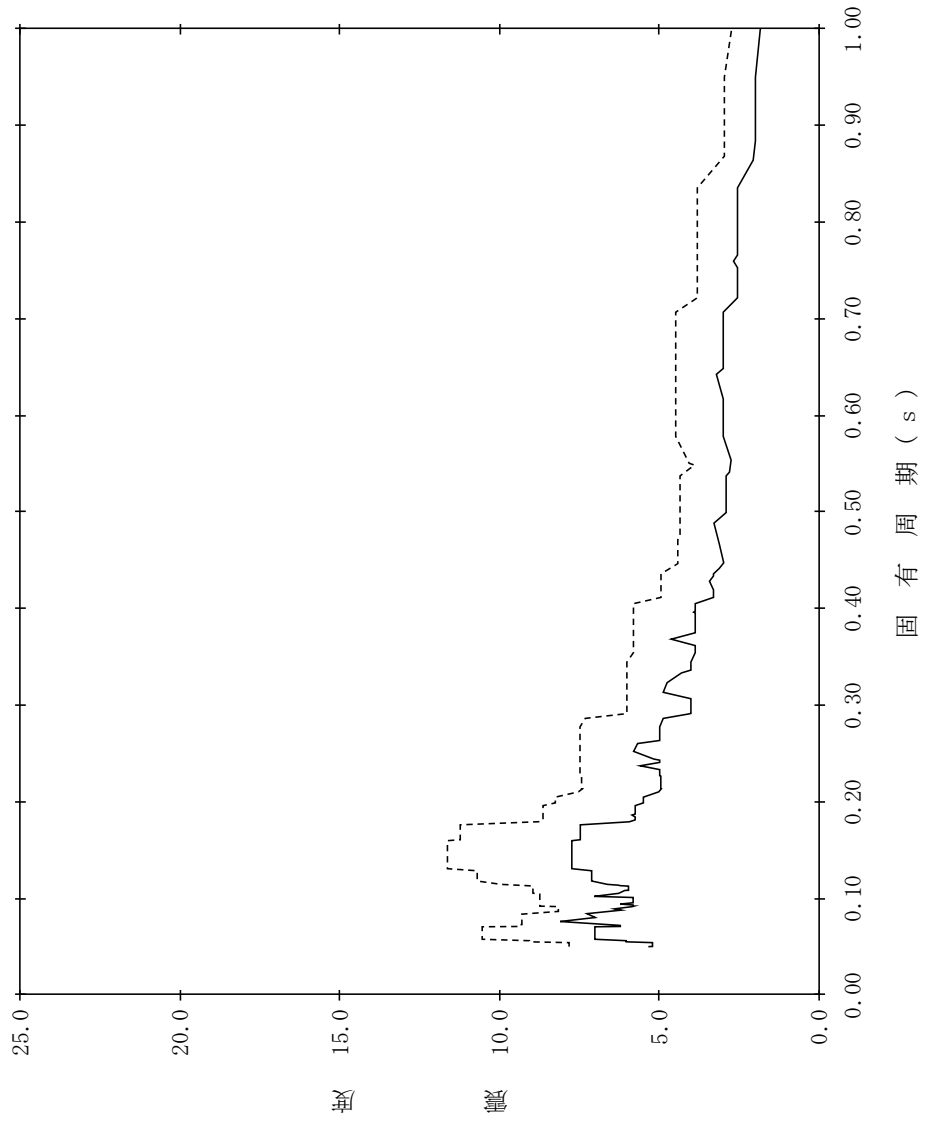
【NS2-EC-SsNS-EC8】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL56.600m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



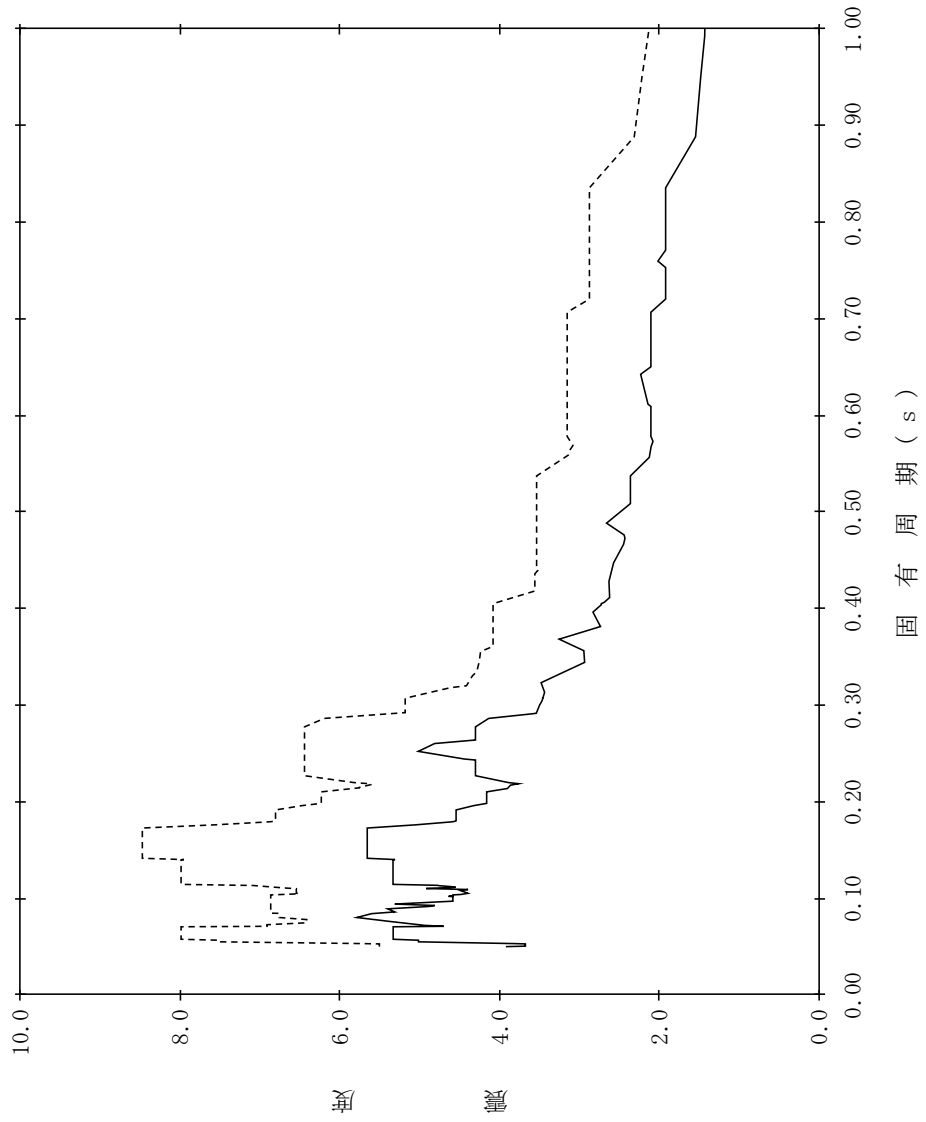
【NS2-EC-SsNS-EC9】

構造物名：緊急時対策所
減衰定数：0.5%
標高：EL50.250m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



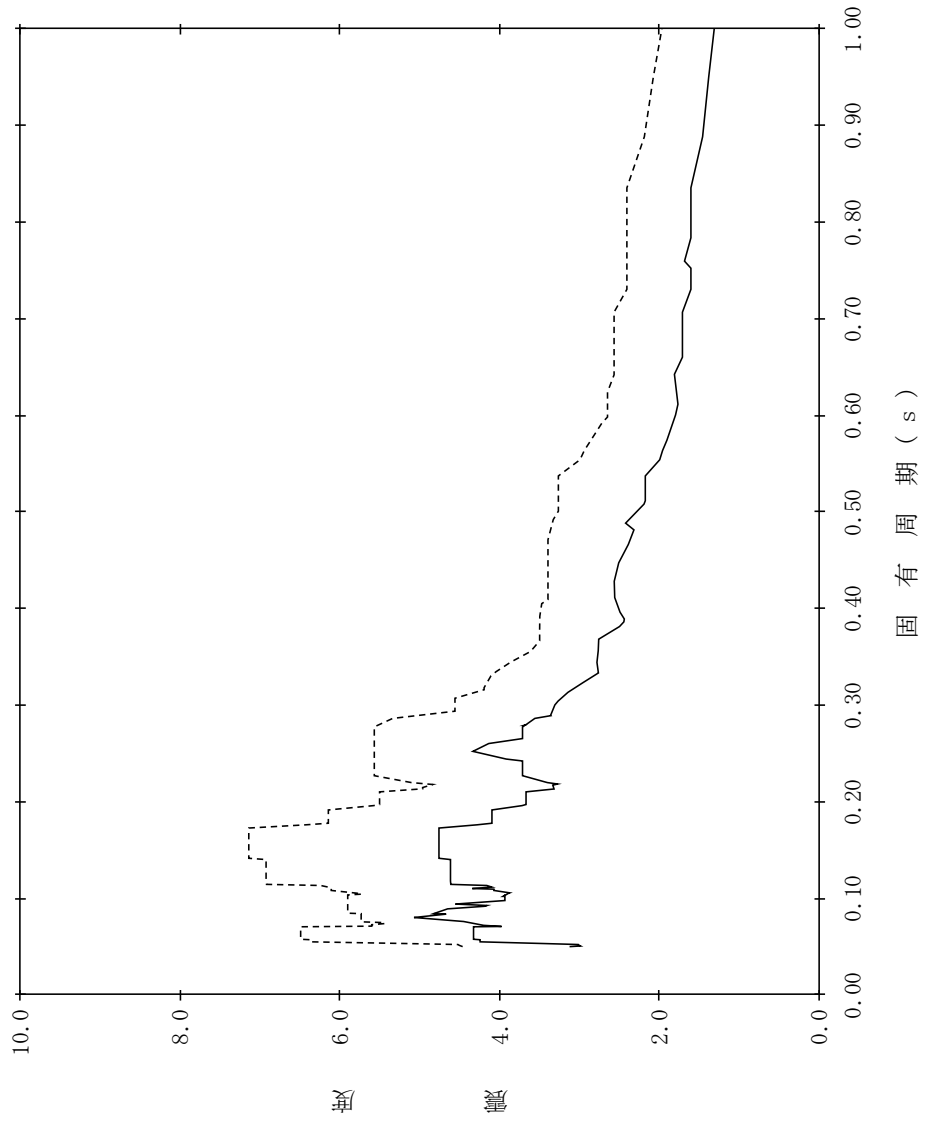
【NS2-EC-SsNS-EC10】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL50.250m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



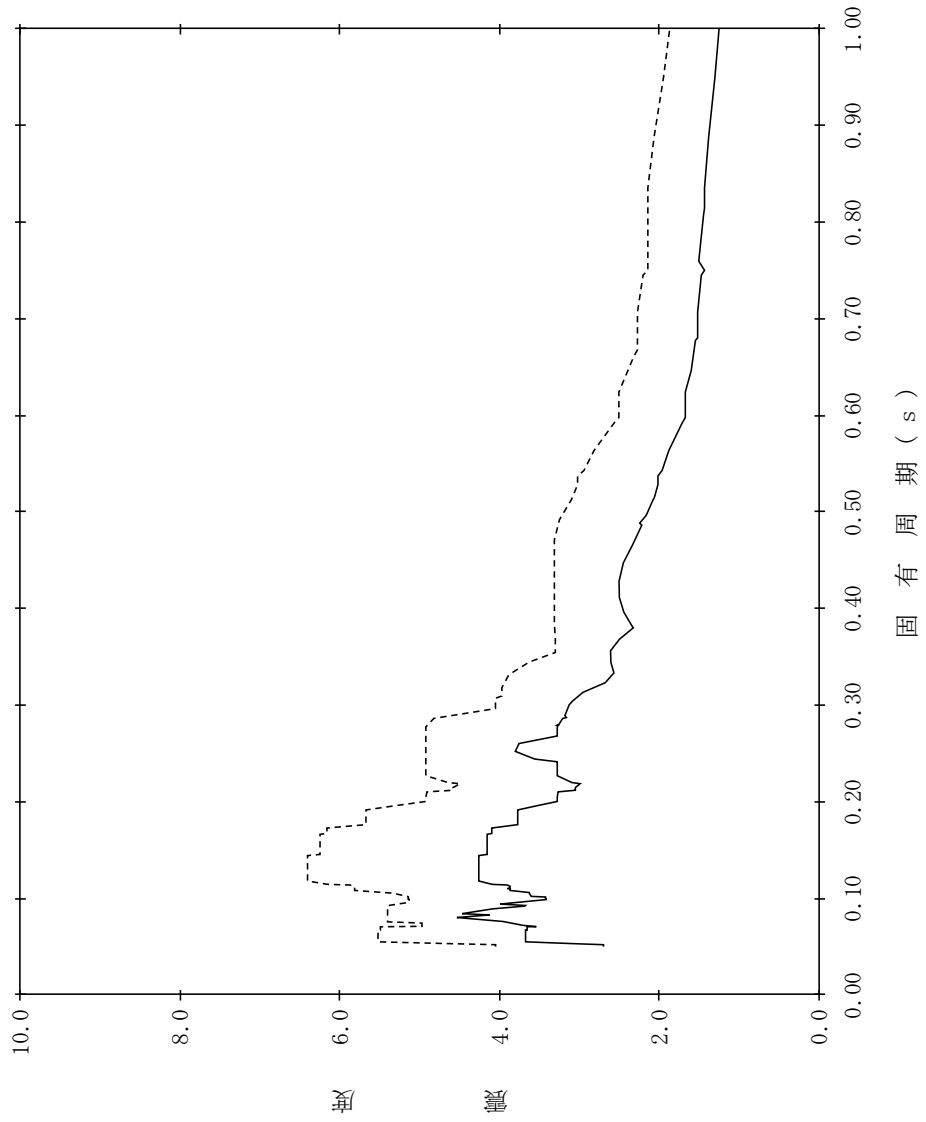
【NS2-EC-SsNS-EC11】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL50.250m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



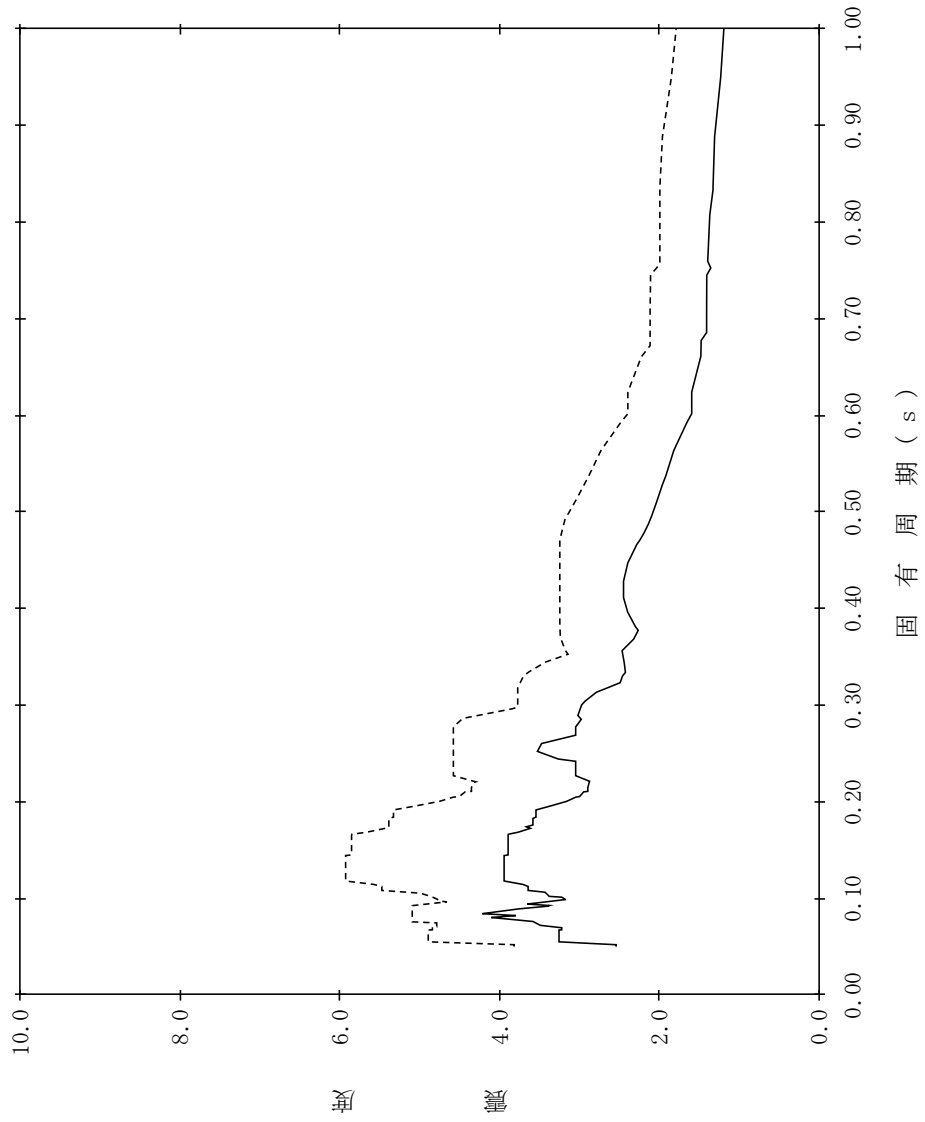
【NS2-EC-SsNS-EC12】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL50.250m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



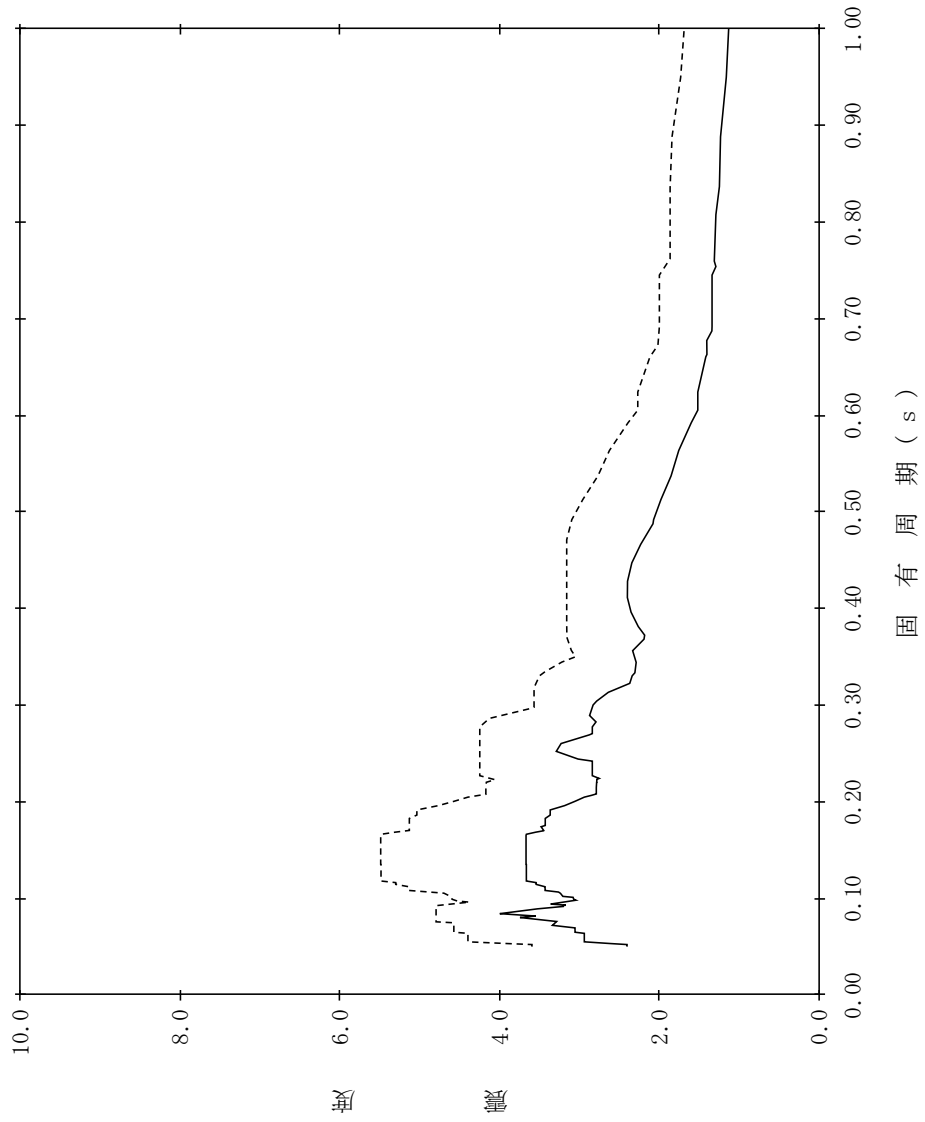
【NS2-EC-SsNS-EC13】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL50.250m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



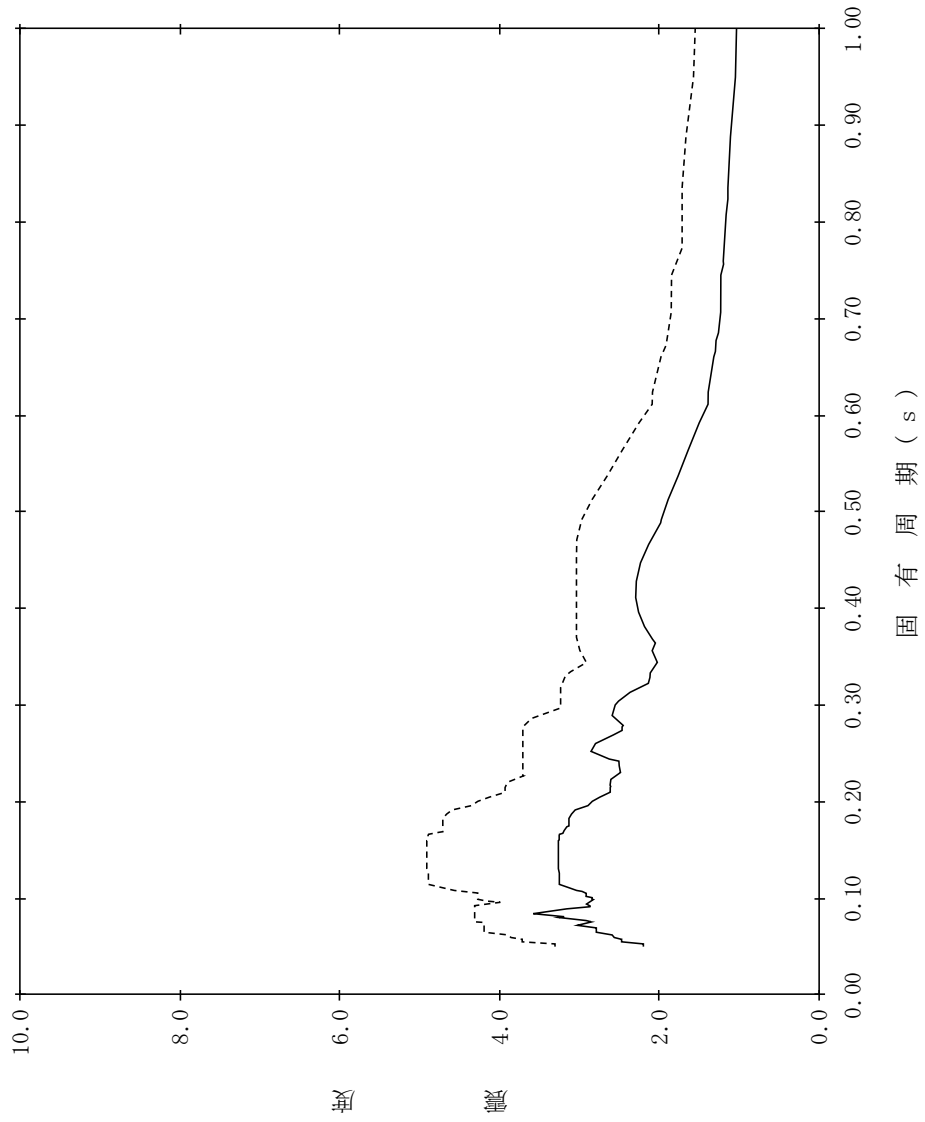
【NS2-EC-SsNS-EC14】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL50.250m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



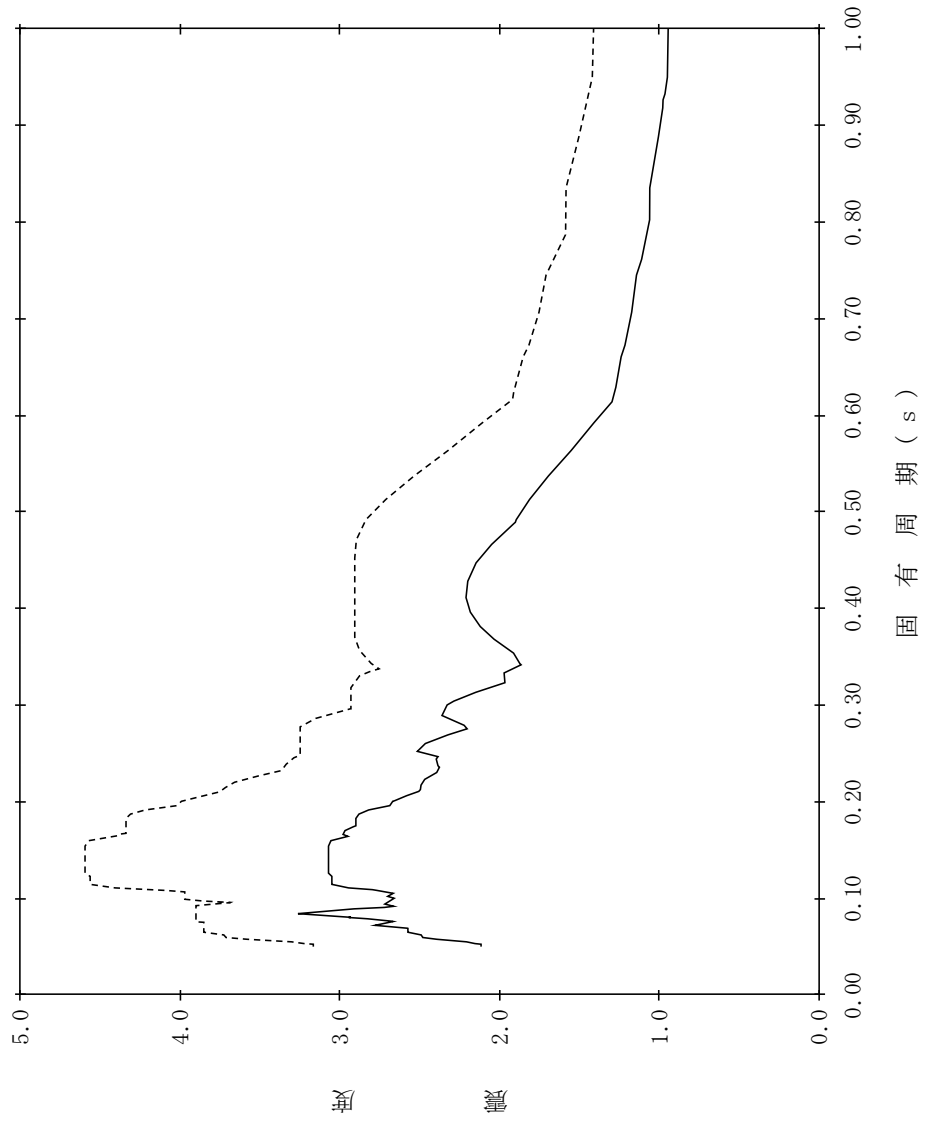
【NS2-EC-SsNS-EC15】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL50.250m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



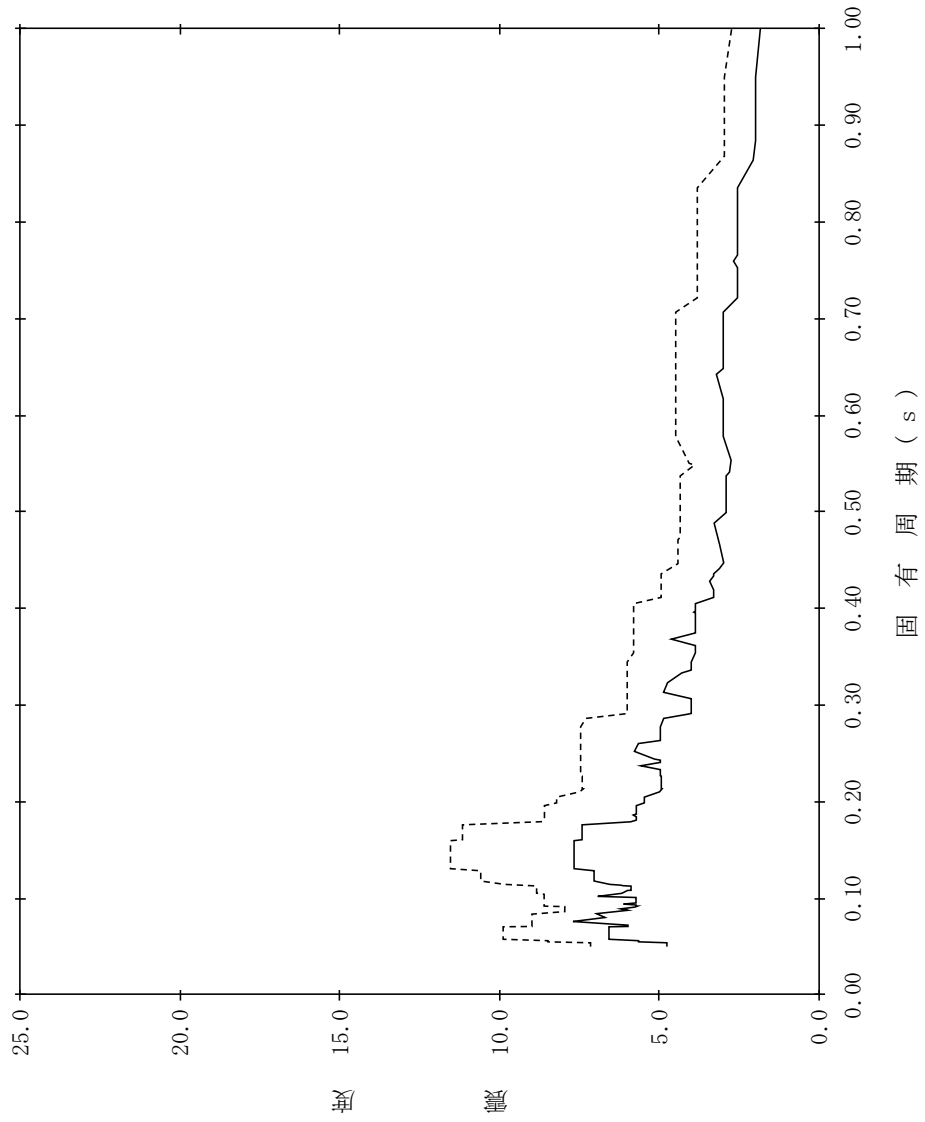
【NS2-EC-SsNS-EC16】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL50.250m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



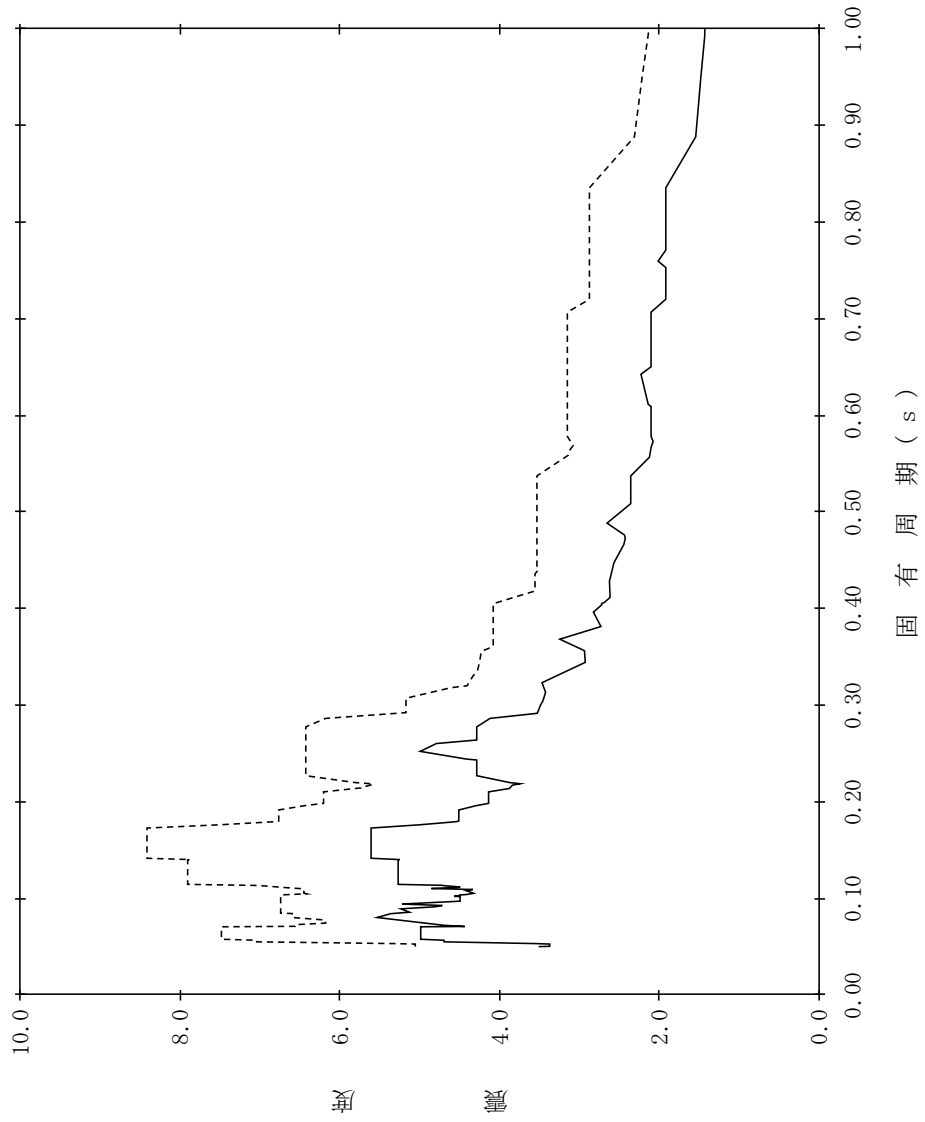
【NS2-EC-SsNS-EC17】

構造物名：緊急時対策所
減衰定数：0.5%
標高：EL48.250m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-EC-SsNS-EC18】

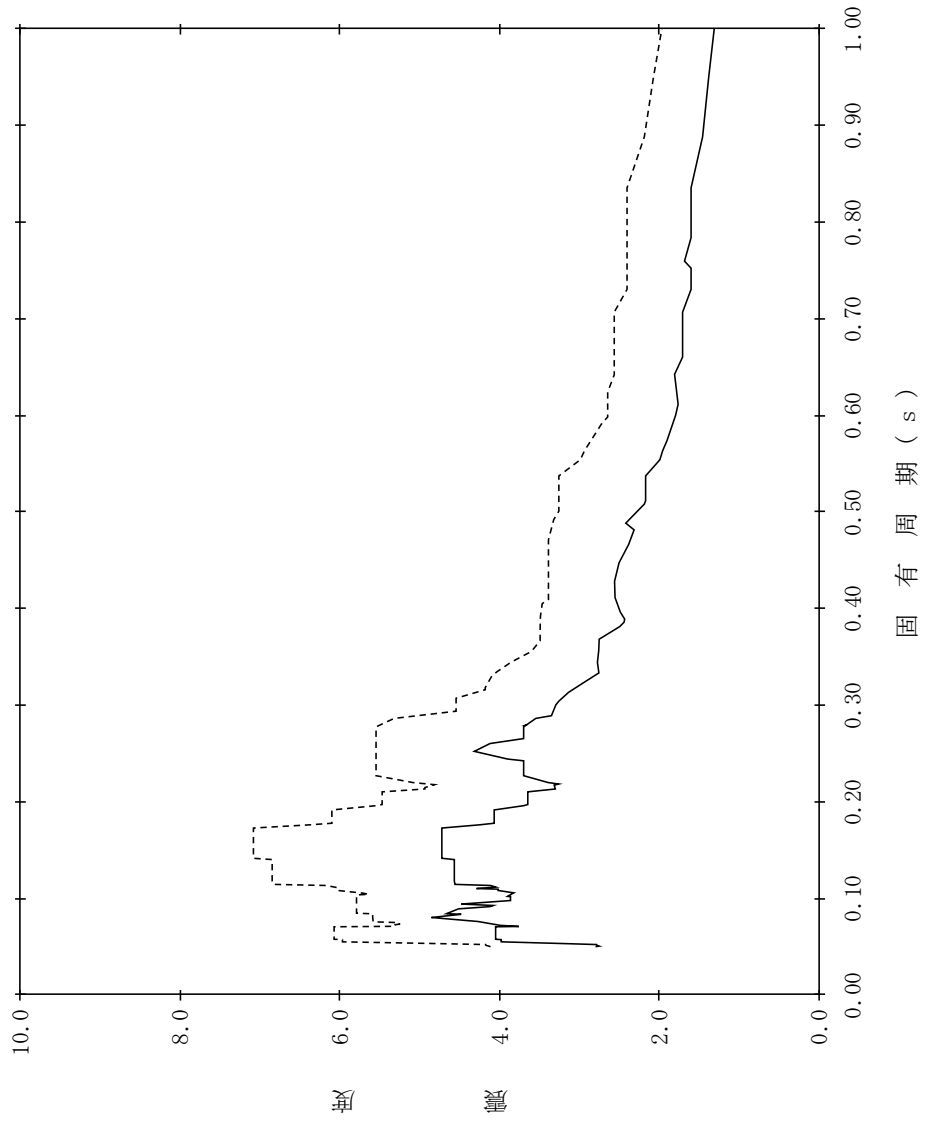
構造物名：緊急時対策所
標高：EL48.250m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-EC-SsNS-EC19】

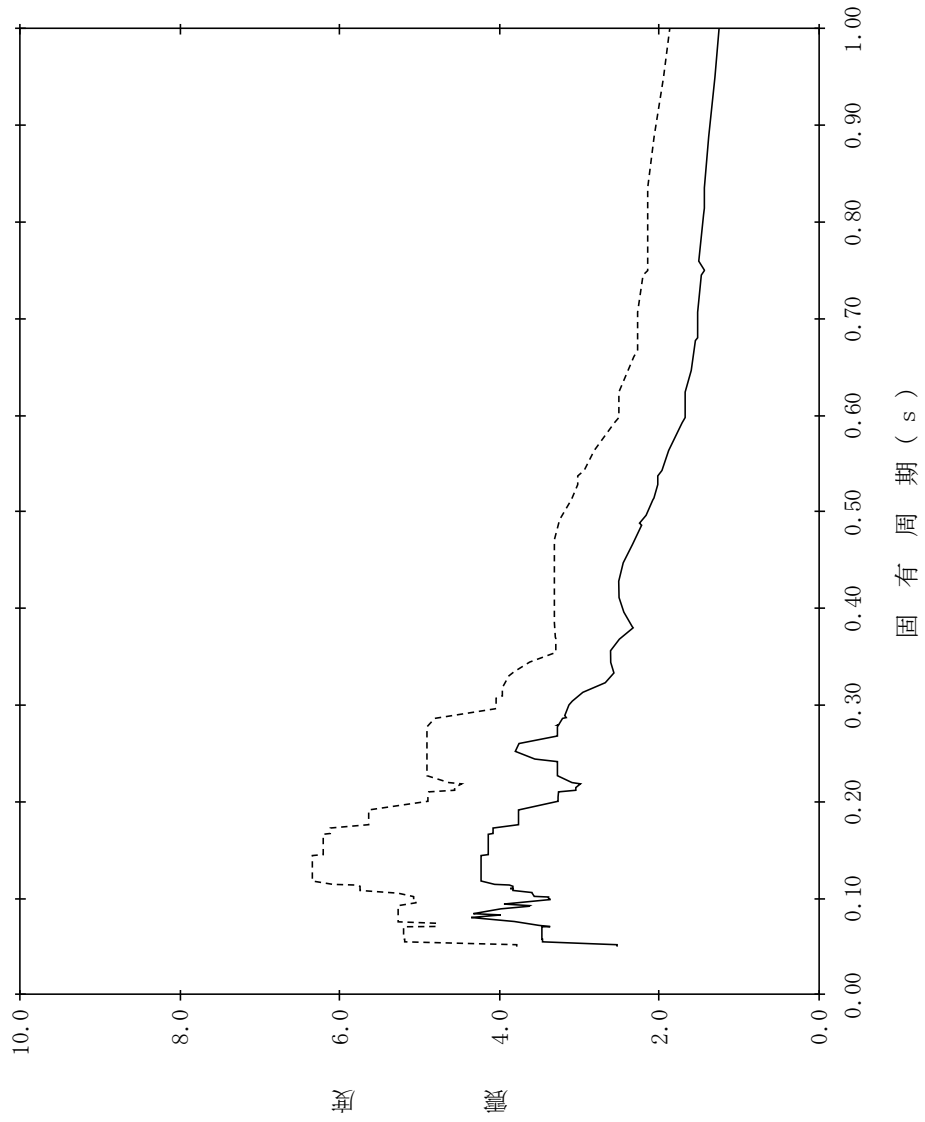
構造物名：緊急時対策所
標高：EL48.250m
減衰定数：1.5%

—— 設計用床応答スペクトルⅠ (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトルⅡ (NS方向)



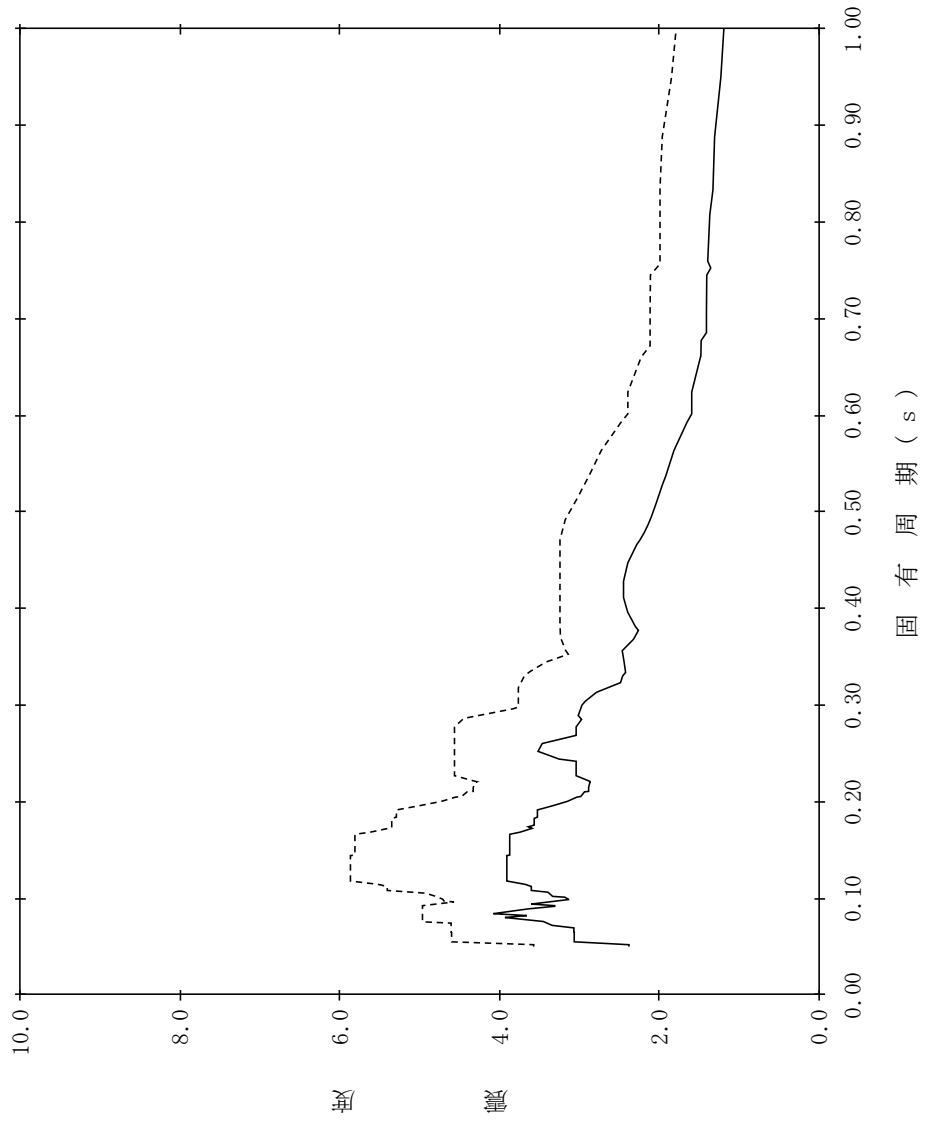
【NS2-EC-SsNS-EC20】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL48.250m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



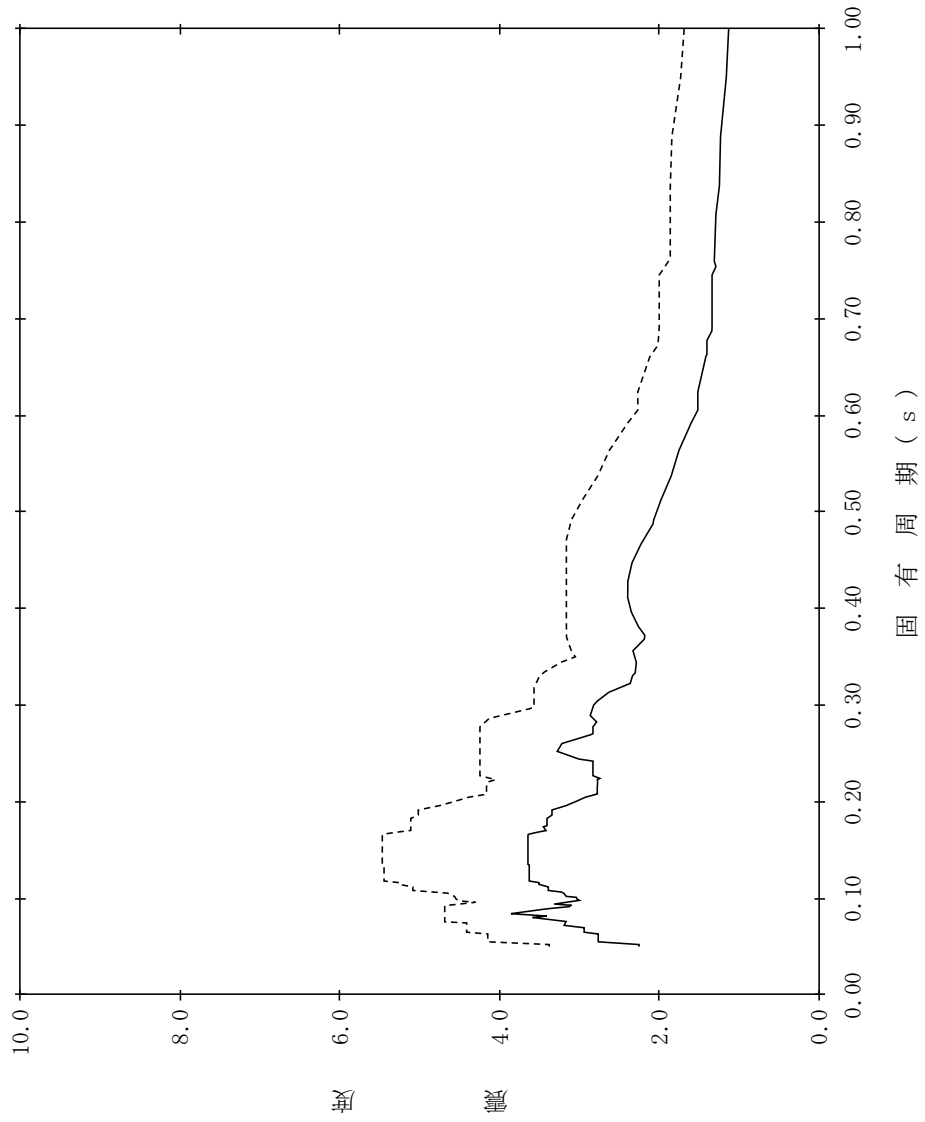
【NS2-EC-SsNS-EC21】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL48.250m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



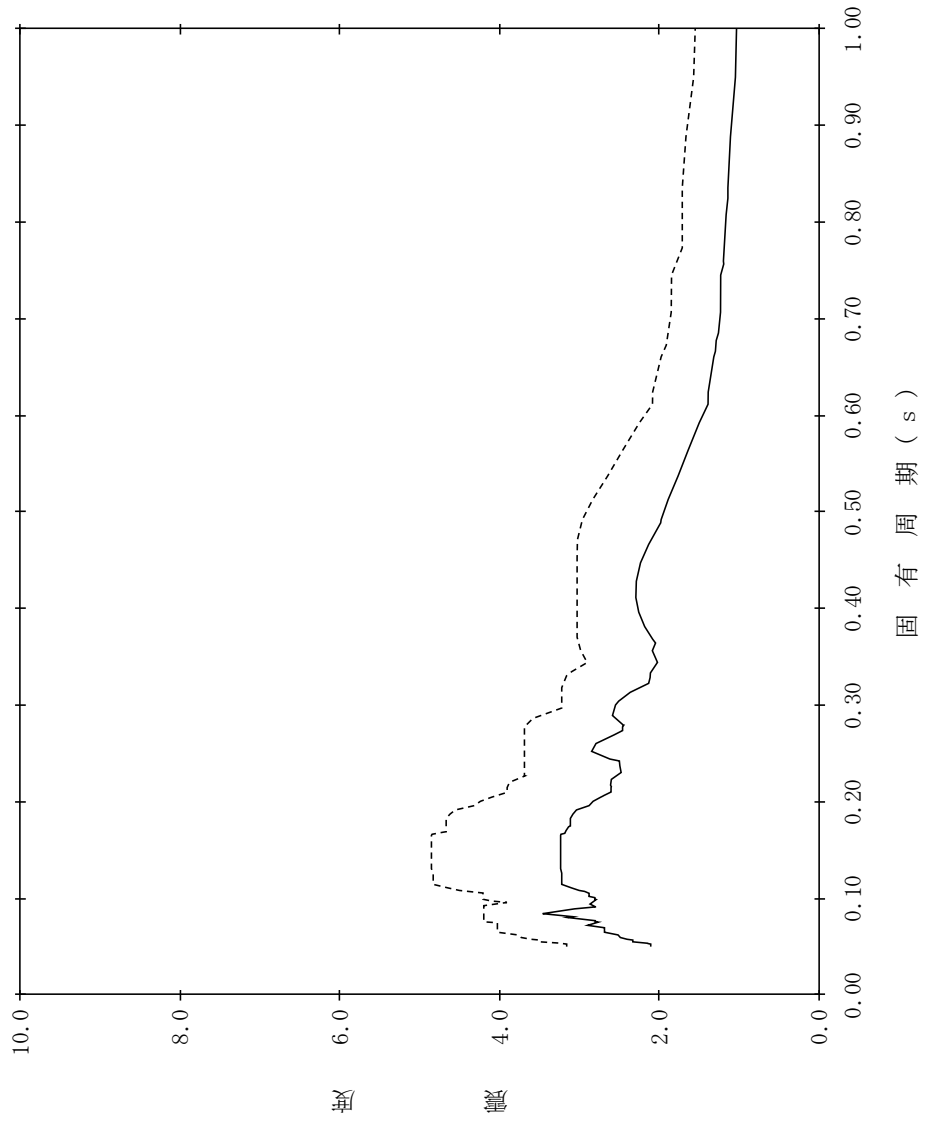
【NS2-EC-SsNS-EC22】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL48.250m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



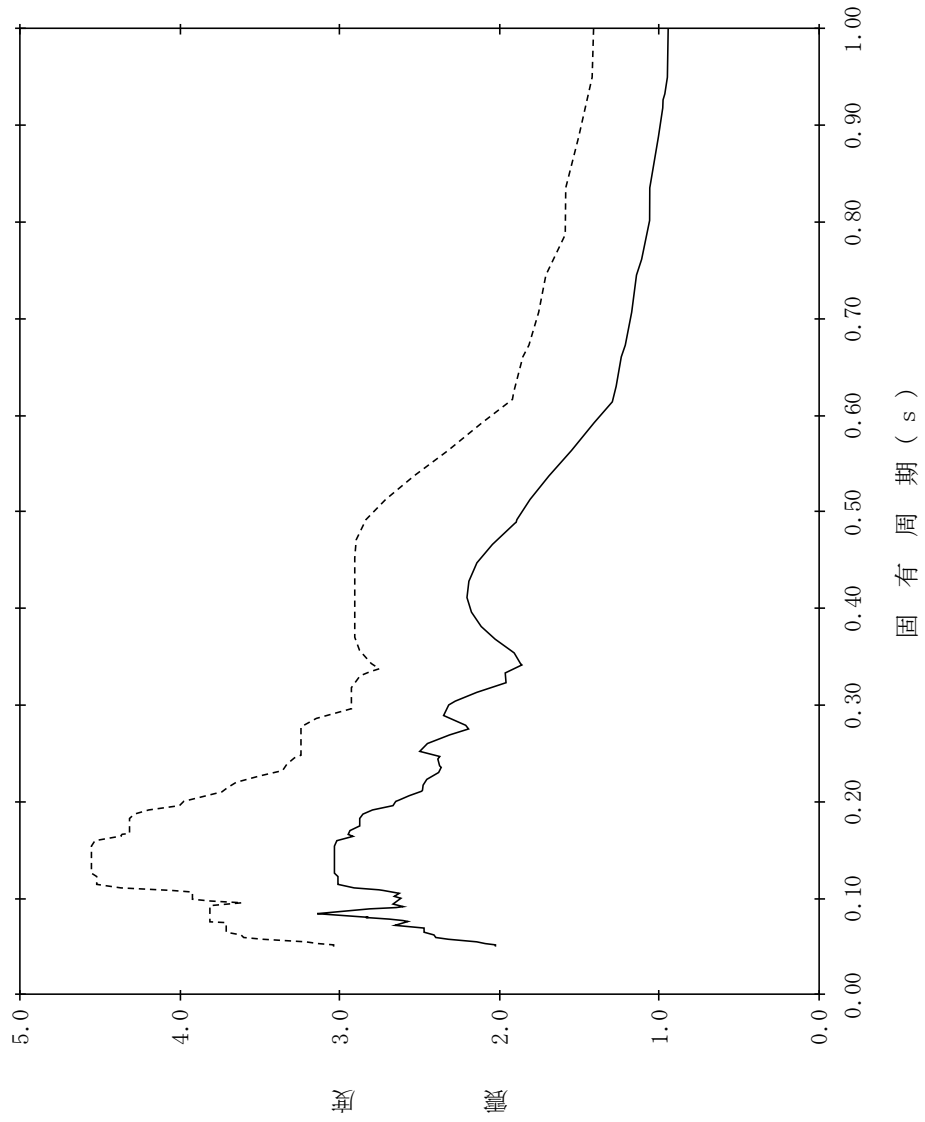
【NS2-EC-SsNS-EC23】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL48.250m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



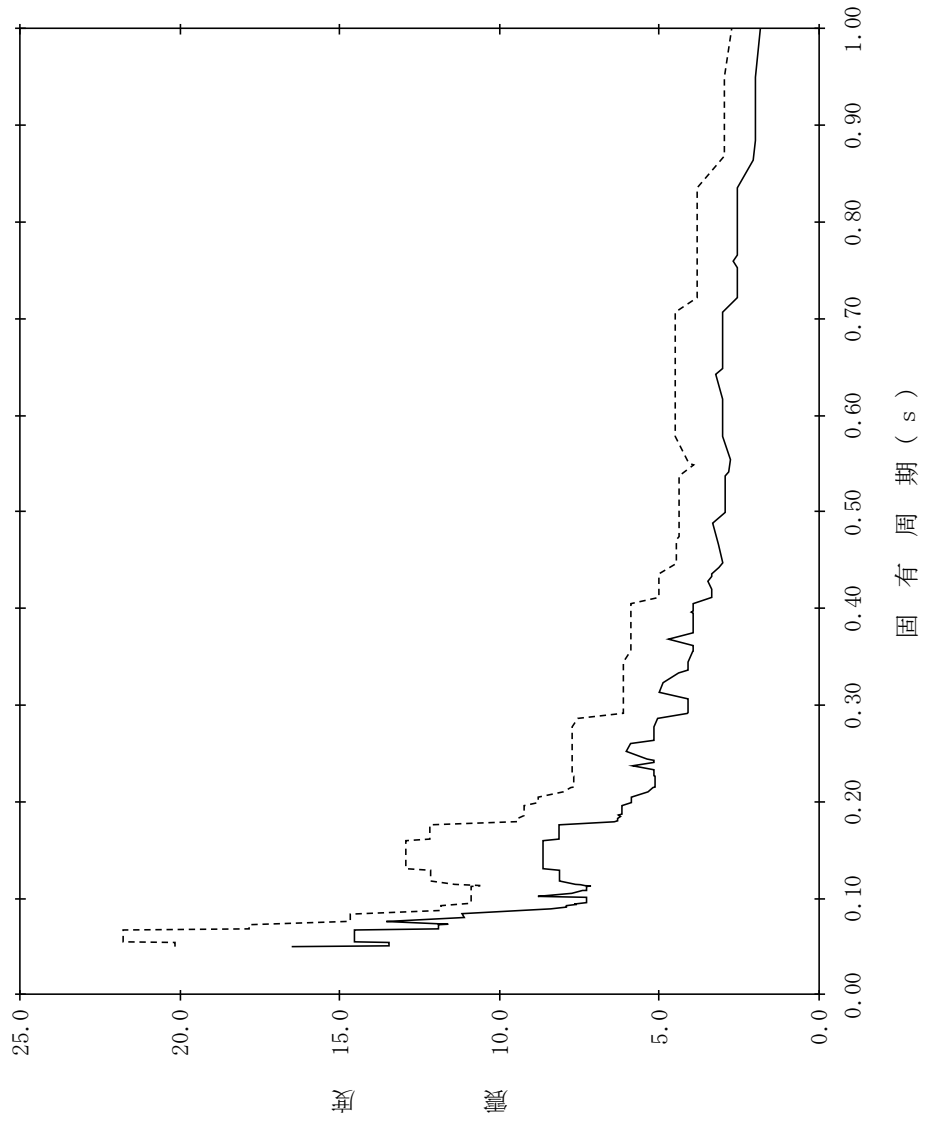
【NS2-EC-SsNS-EC24】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL48.250m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



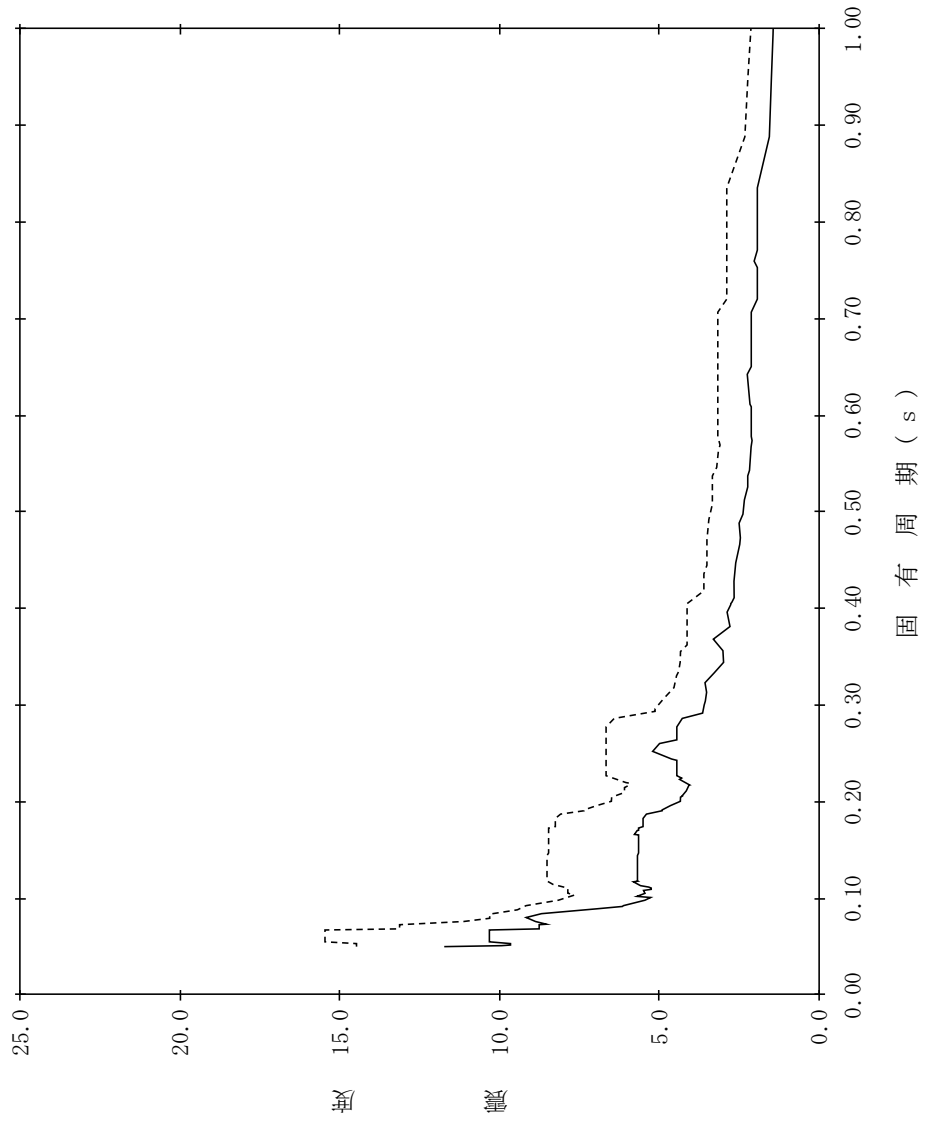
【NS2-EC-SsEW-EC1】

構造物名：緊急時対策所
減衰定数：0.5%
標高：EL56.600m
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (EW方向)
設計用床応答スペクトル II (EW方向)



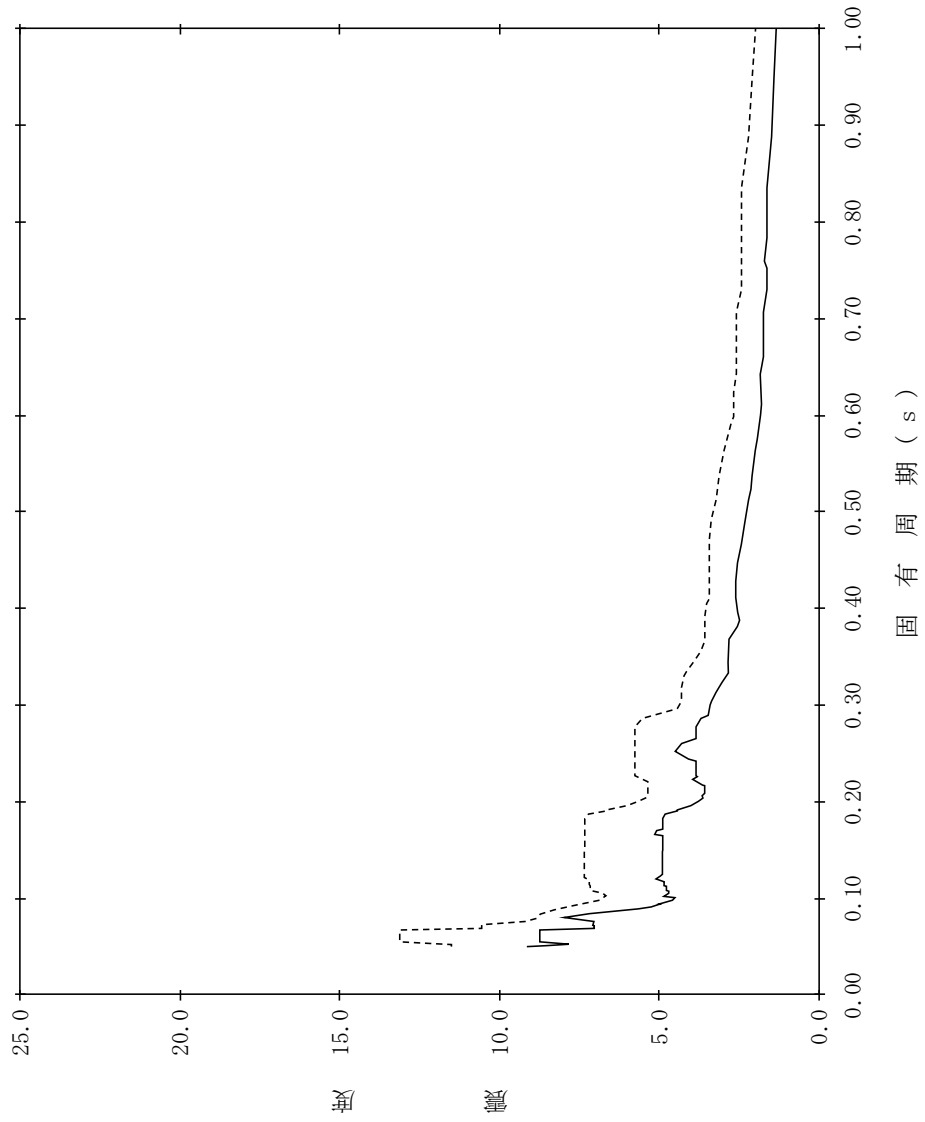
【NS2-EC-SsEW-EC2】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL56.600m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



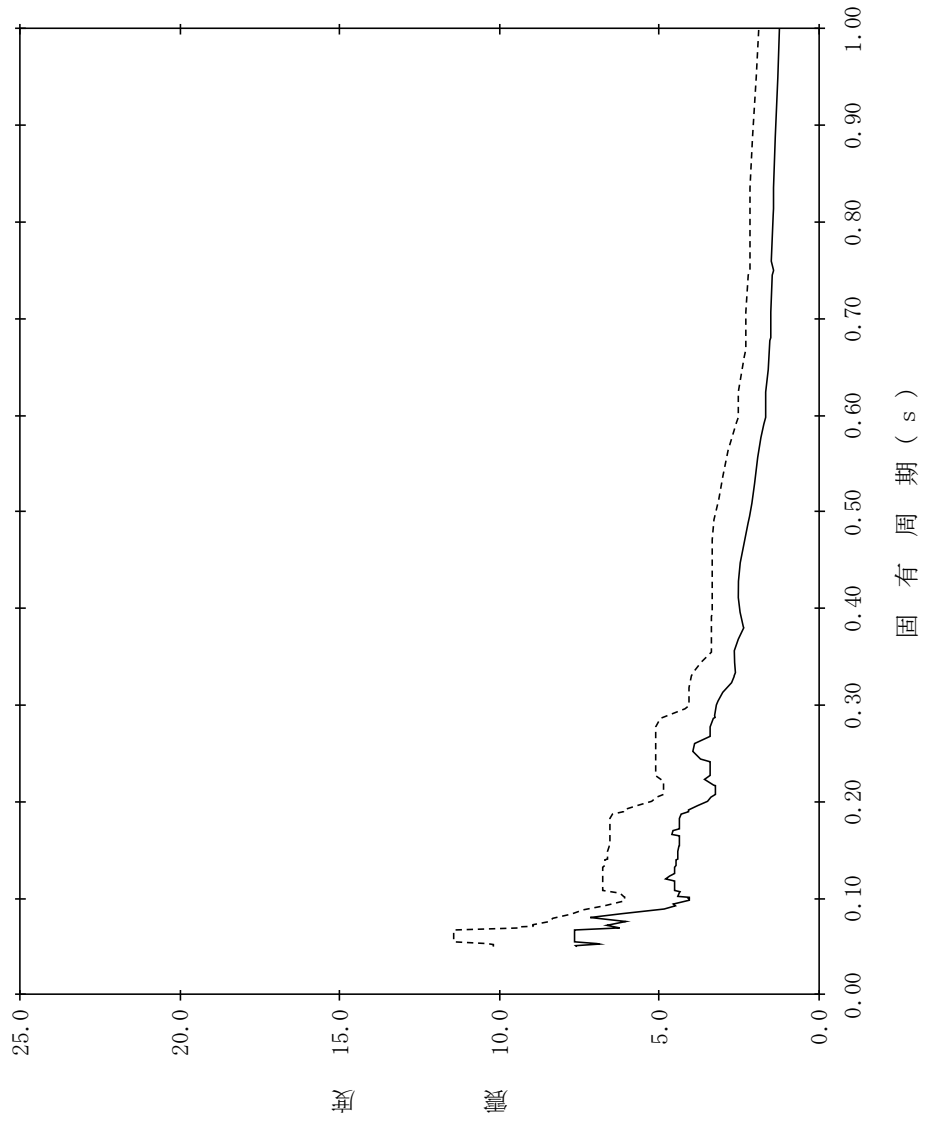
【NS2-EC-SsEW-EC3】

構造物名：緊急時対策所
減衰定数：1.5%
標高：EL56.600m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



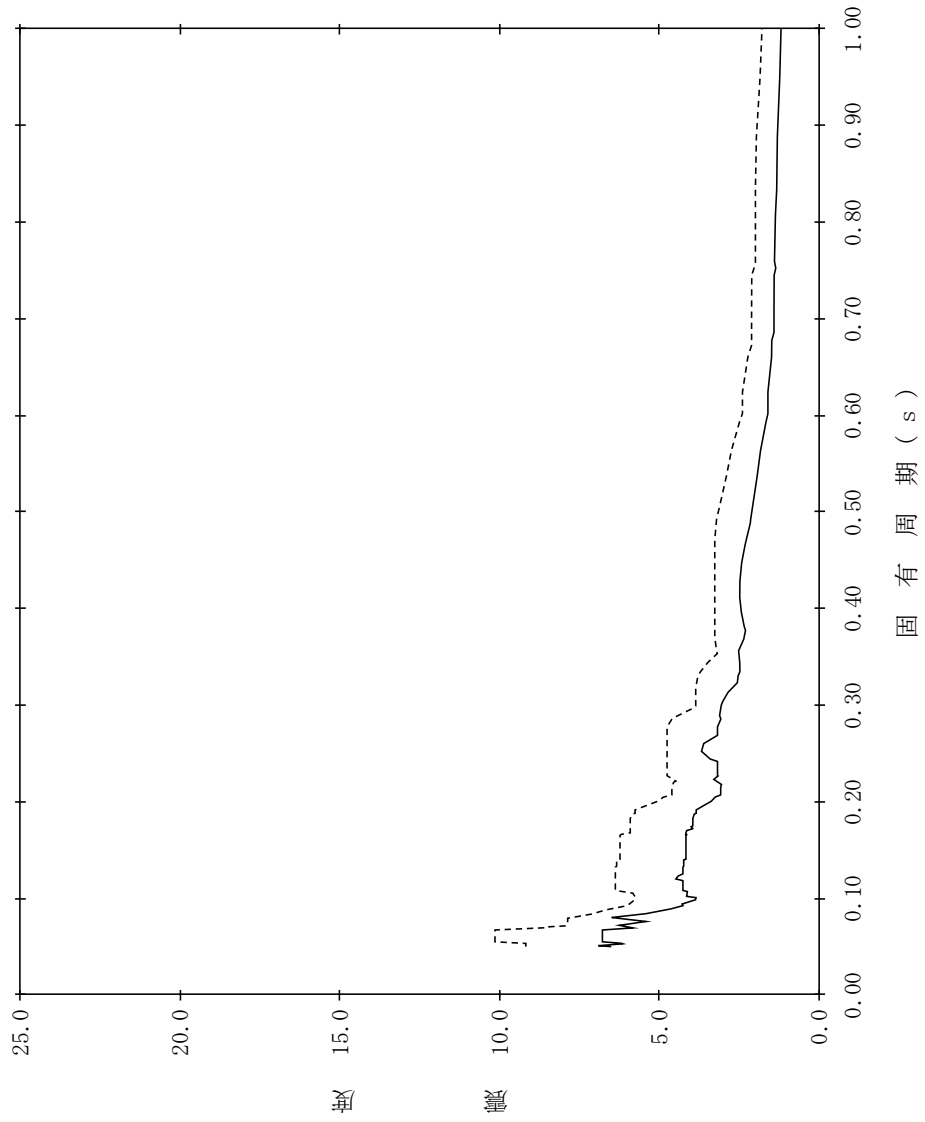
【NS2-EC-SsEW-EC4】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL56.600m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



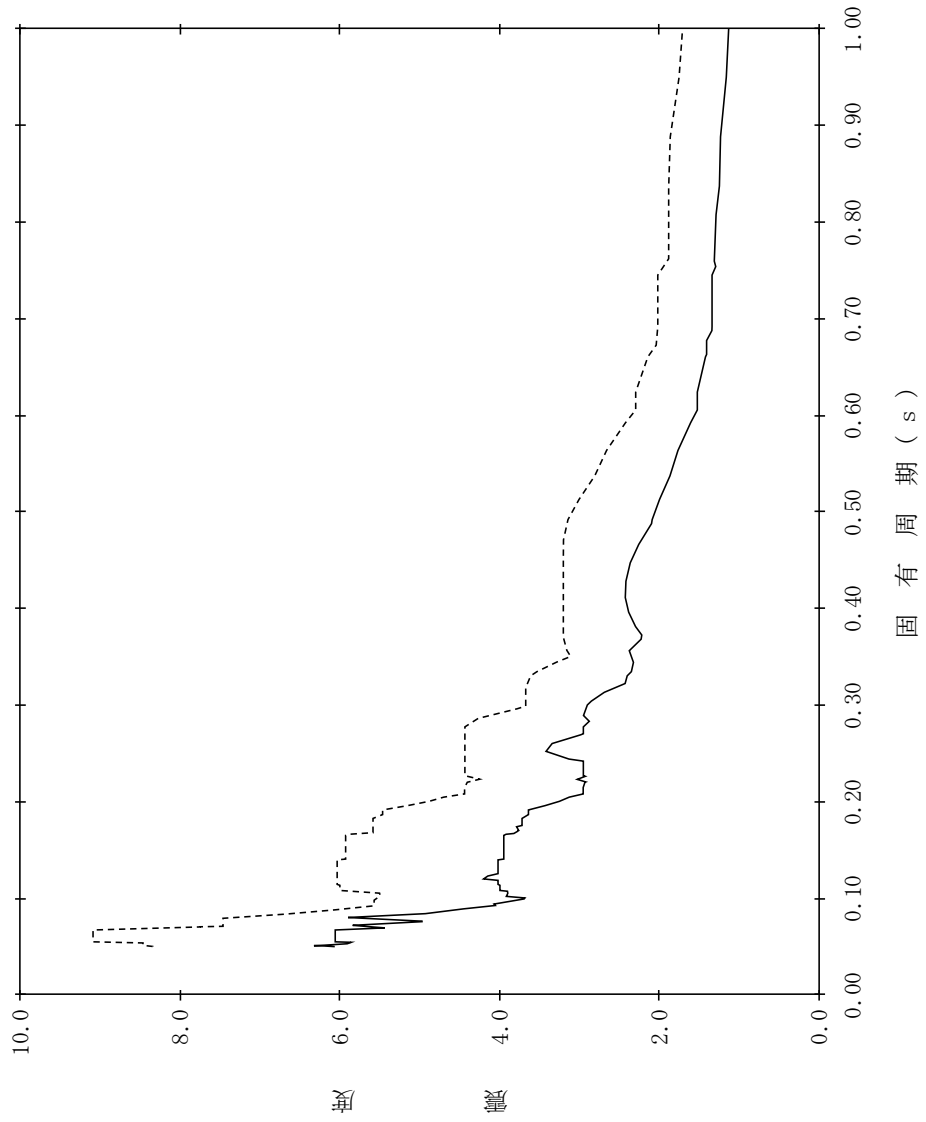
【NS2-EC-SsEW-EC5】

構造物名：緊急時対策所
減衰定数：2.5%
標高：EL56.600m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



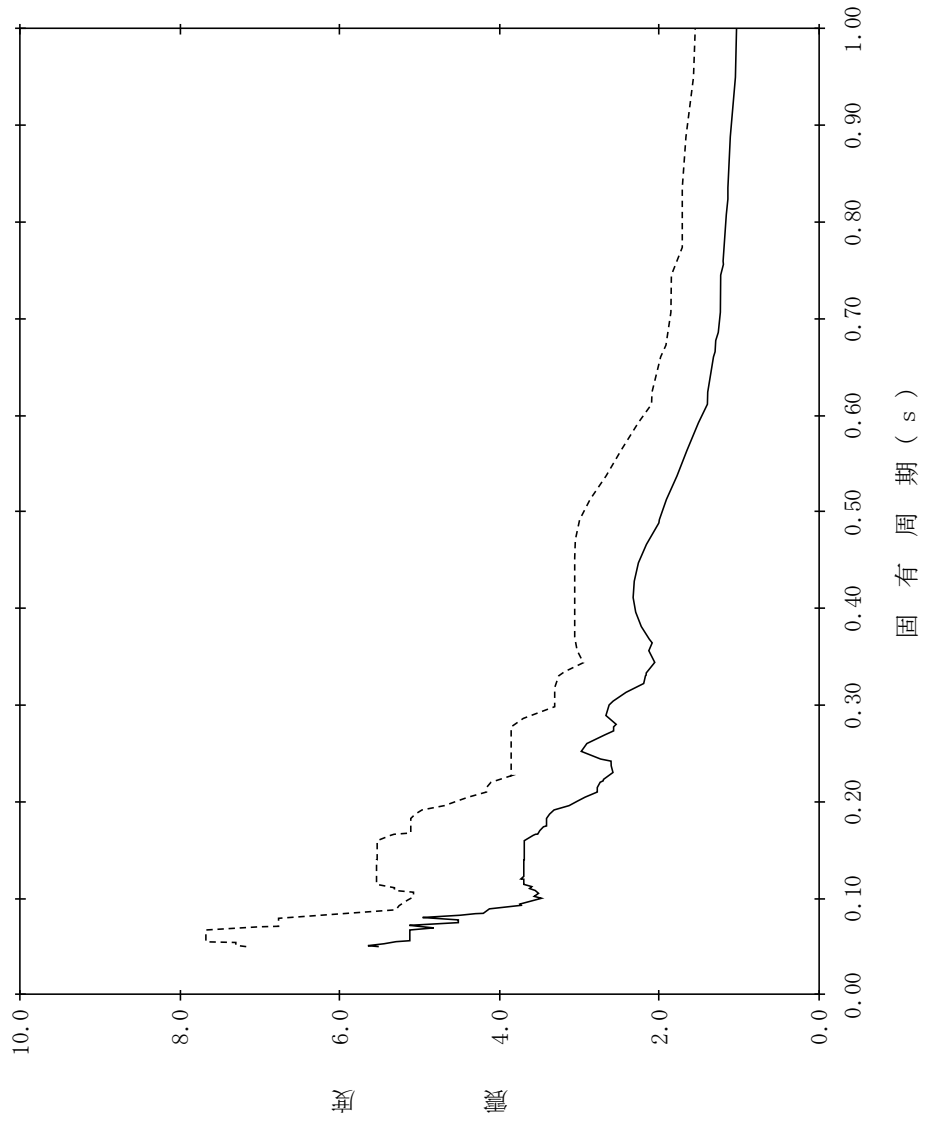
【NS2-EC-SsEW-EC6】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL56.600m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



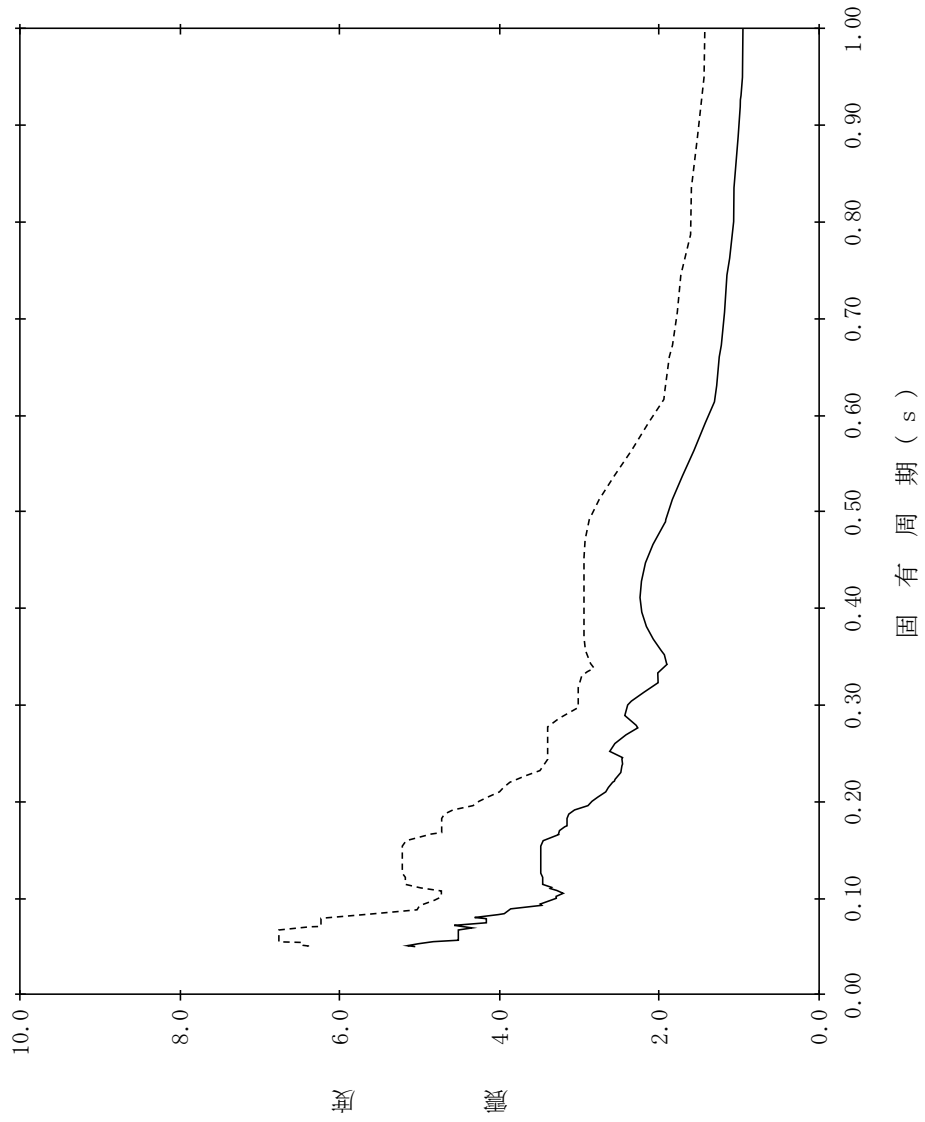
【NS2-EC-SsEW-EC7】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL56.600m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



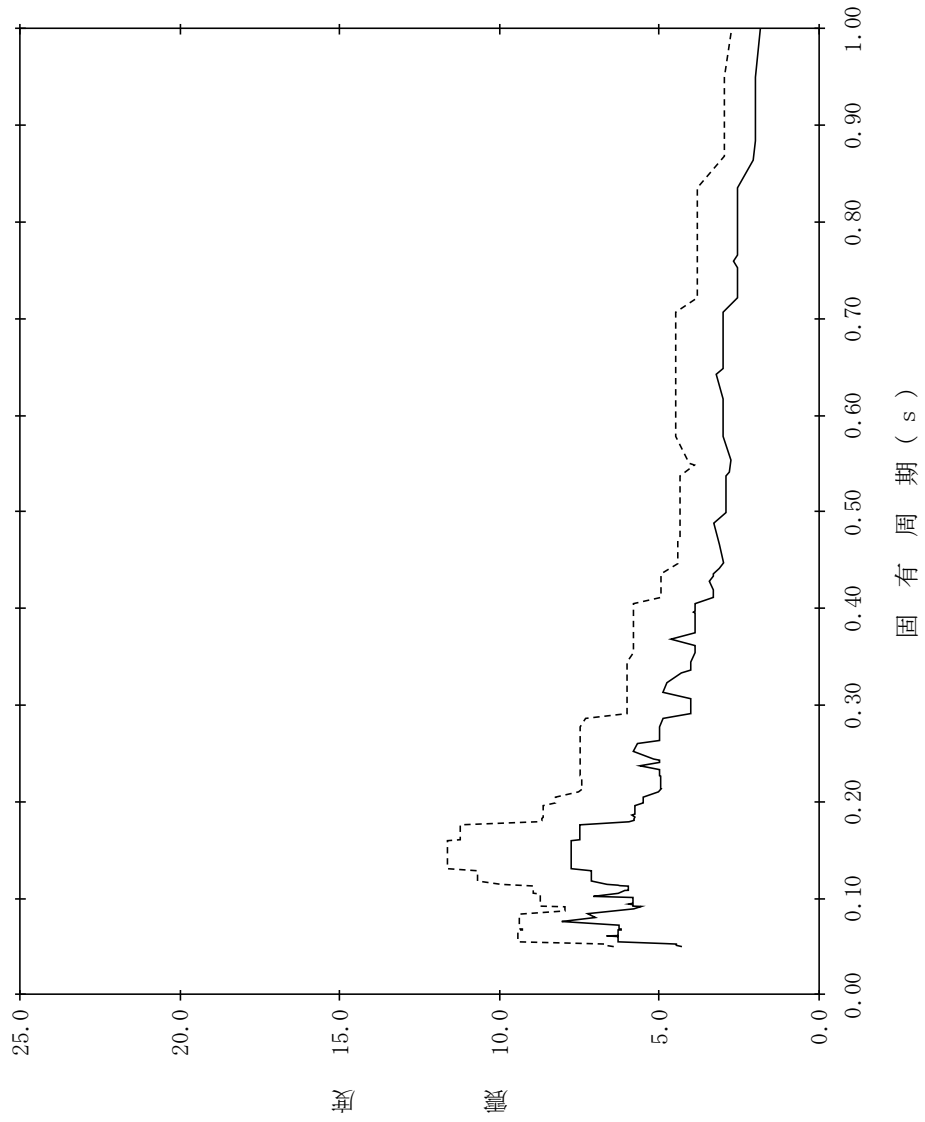
【NS2-EC-SsEW-EC8】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL56.600m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



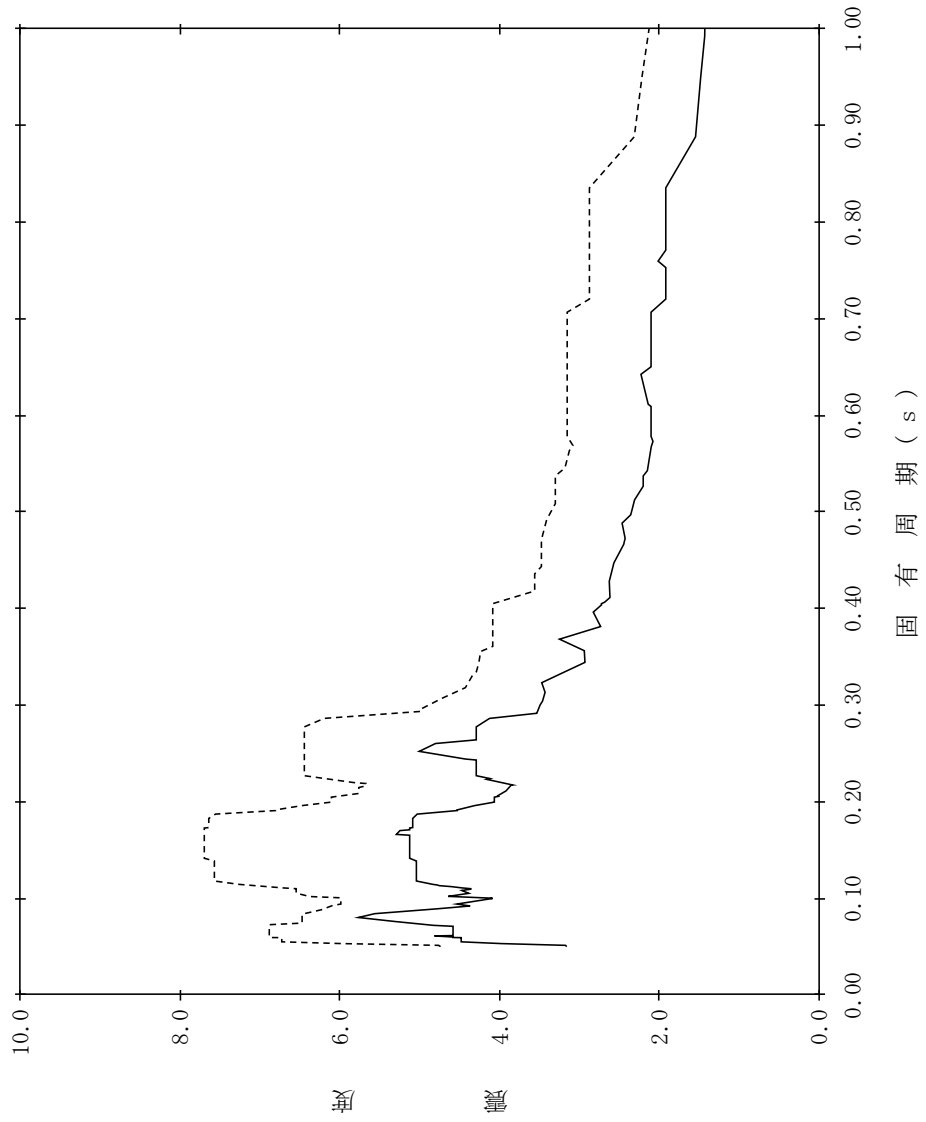
【NS2-EC-SsEW-EC9】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL50.250m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



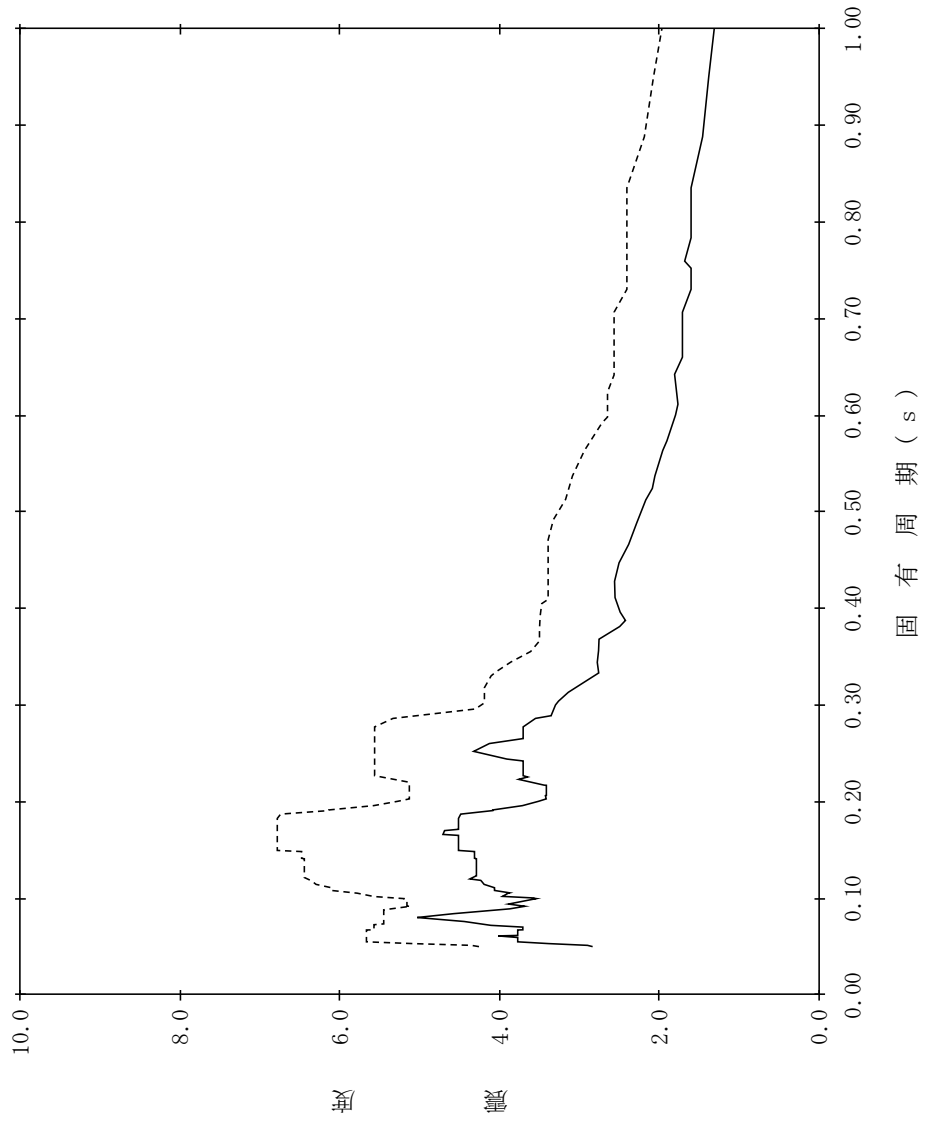
【NS2-EC-SsEW-EC10】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL50.250m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



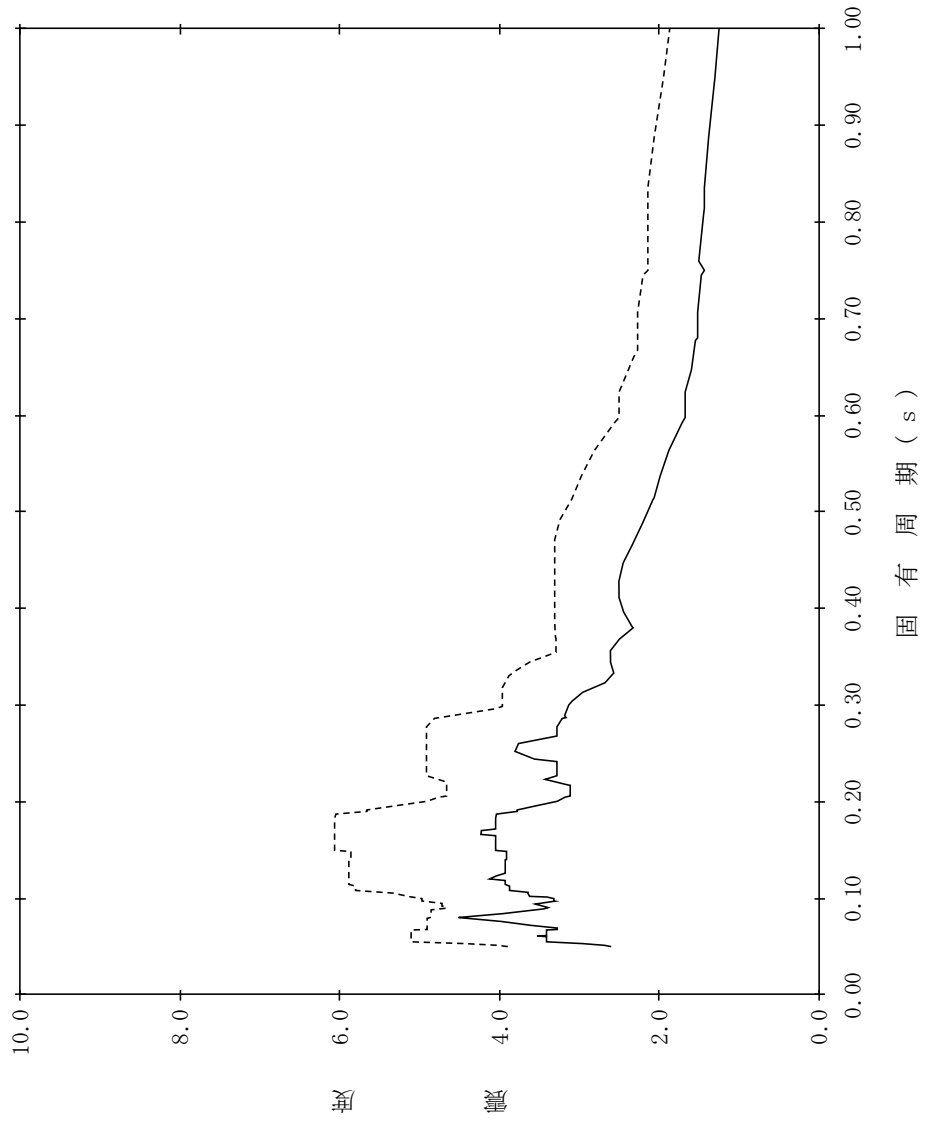
【NS2-EC-SsEW-EC11】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL50.250m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (EW方向)
設計用床応答スペクトル II (EW方向)



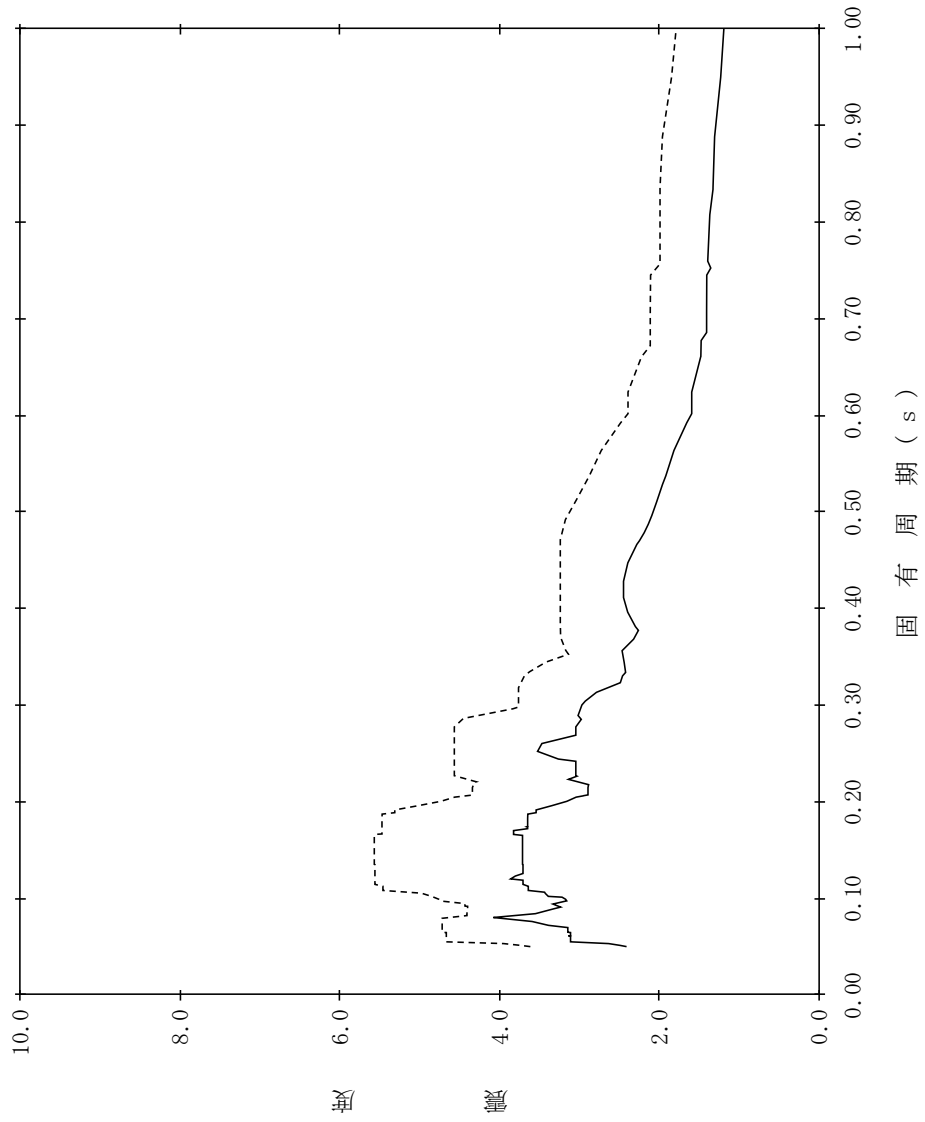
【NS2-EC-SsEW-EC12】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL50.250m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



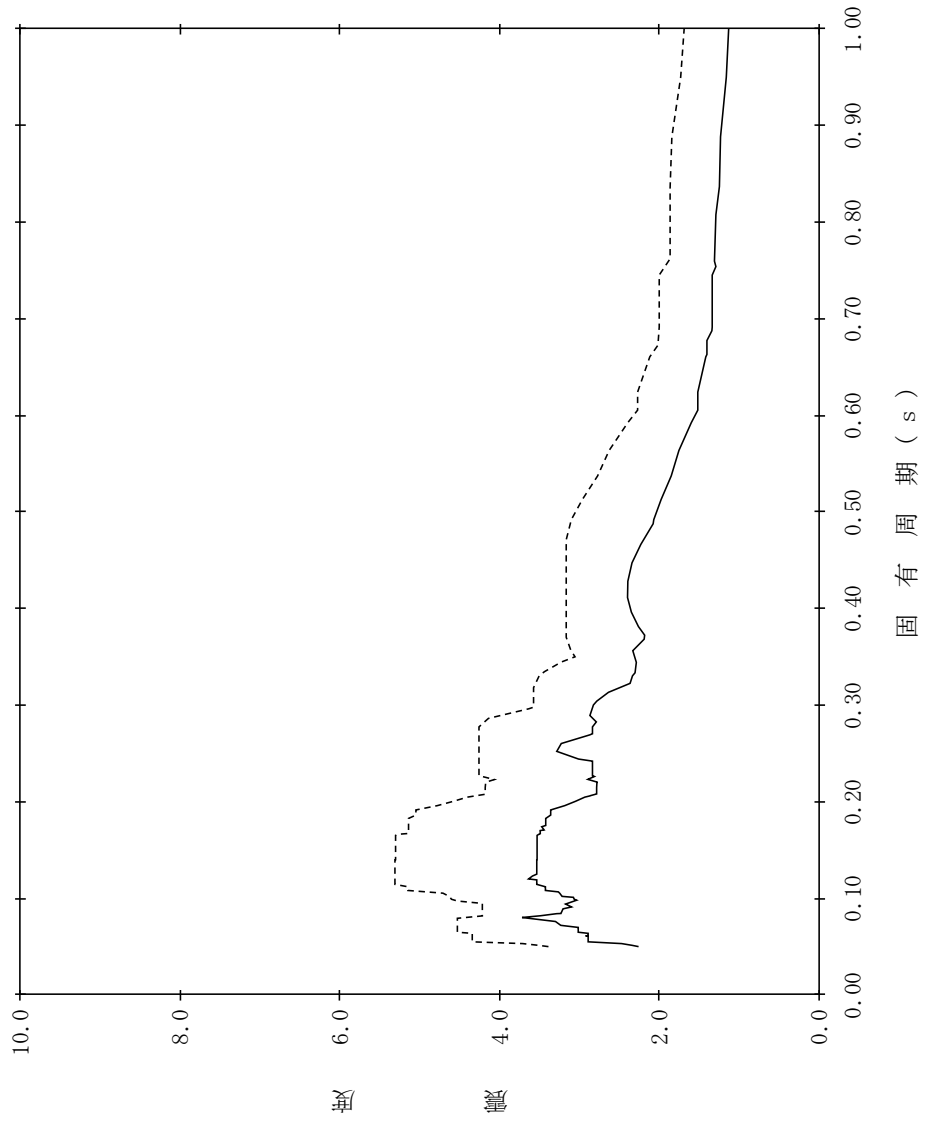
【NS2-EC-SsEW-EC13】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL50.250m
減衰定数：2.5%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



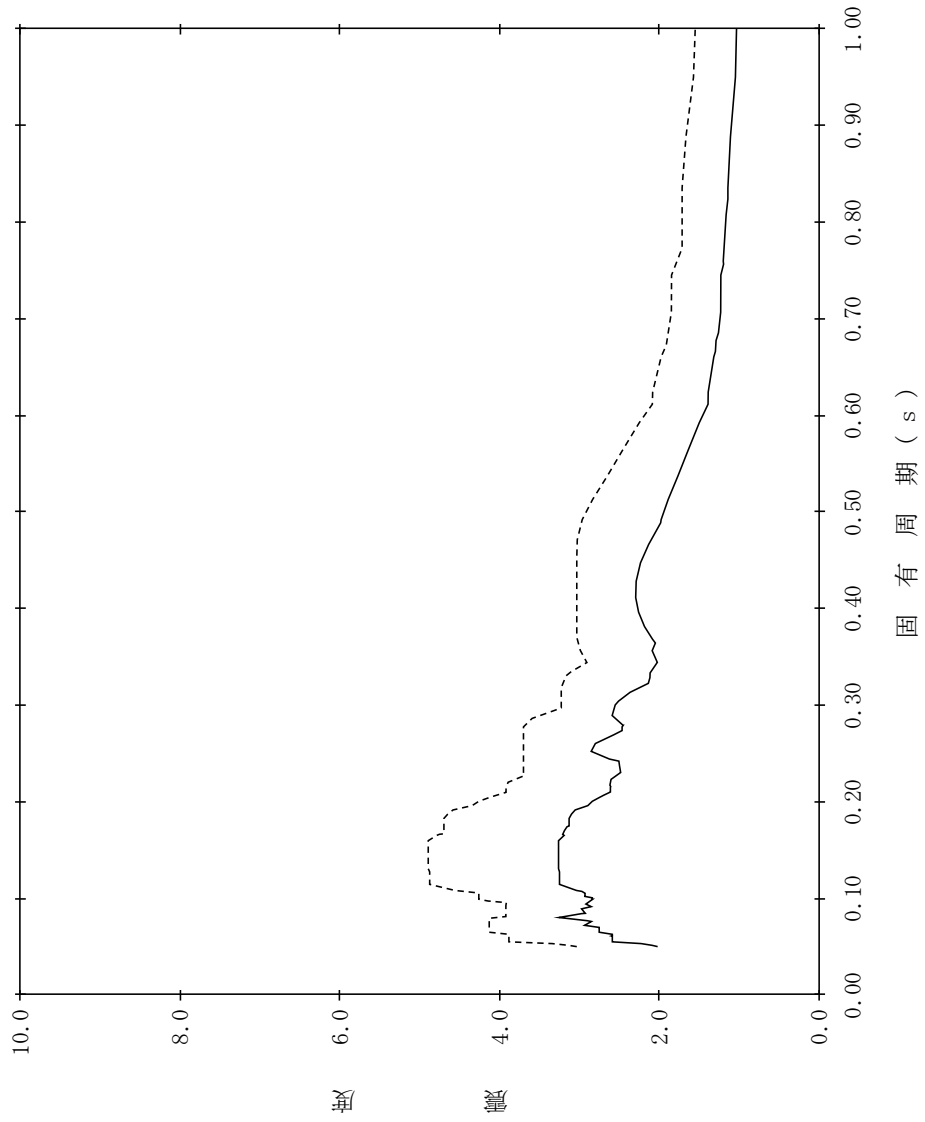
【NS2-EC-SsEW-EC14】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL50.250m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



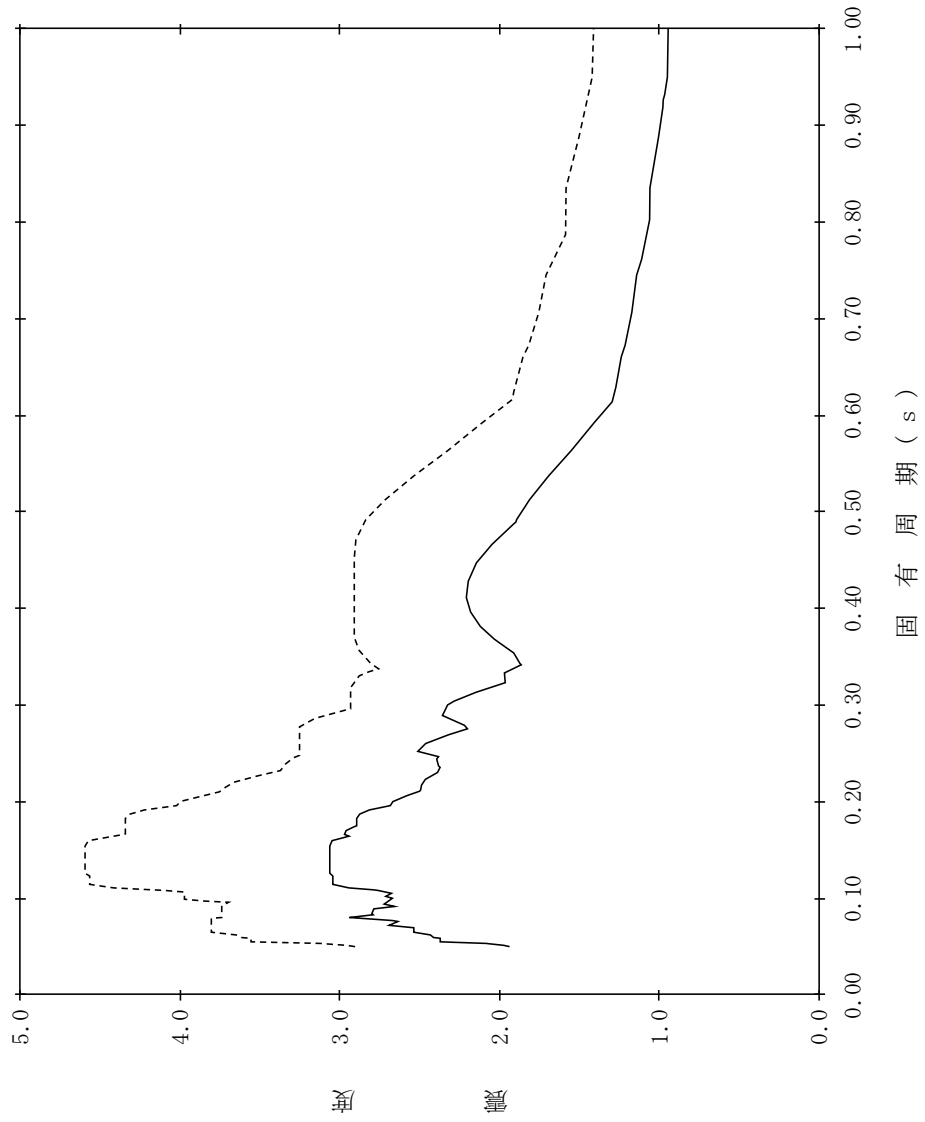
【NS2-EC-SsEW-EC15】

構造物名：緊急時対策所
減衰定数：4.0%
標高：EL50.250m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-EC-SsEW-EC16】

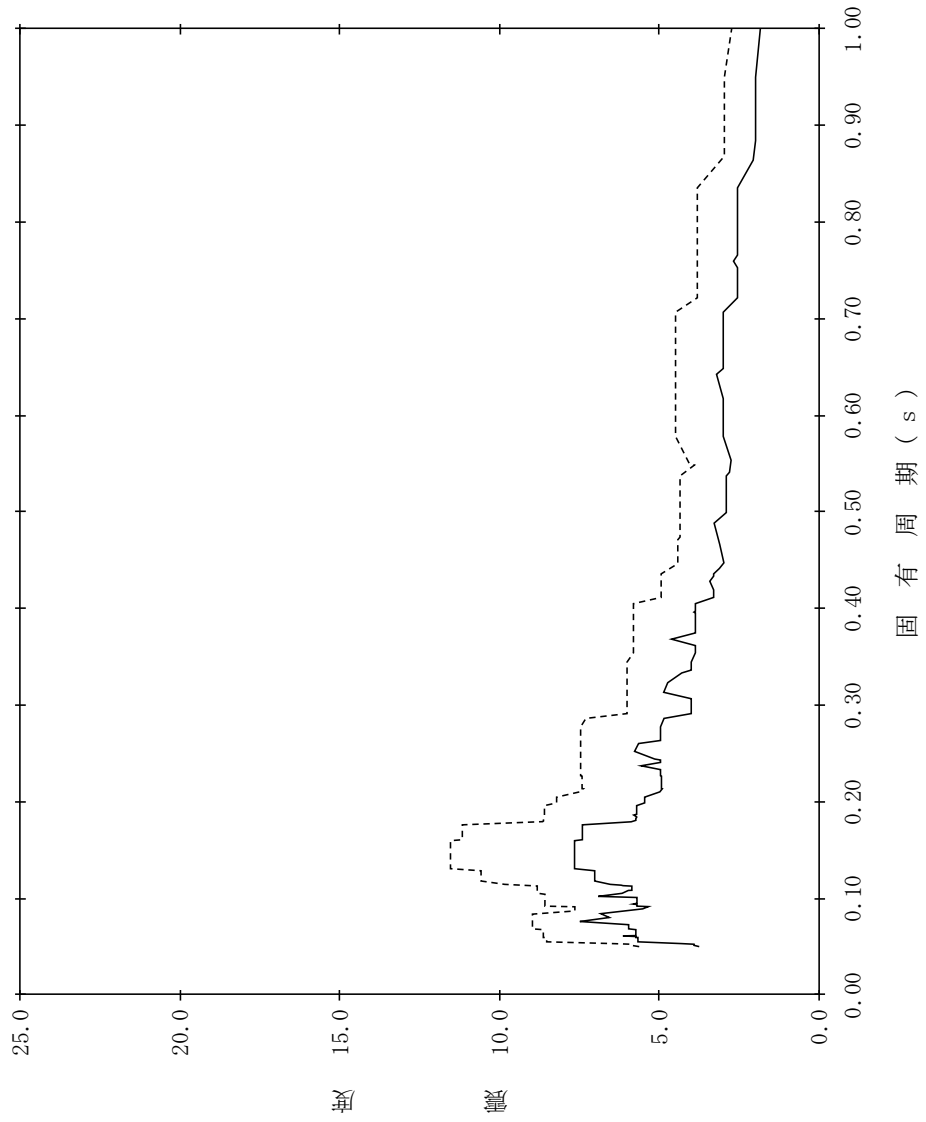
構造物名：緊急時対策所
 標高：EL50.250m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-EC-SsEW-EC17】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL48.250m
減衰定数：0.5%
波形名：基準地震動 S s

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

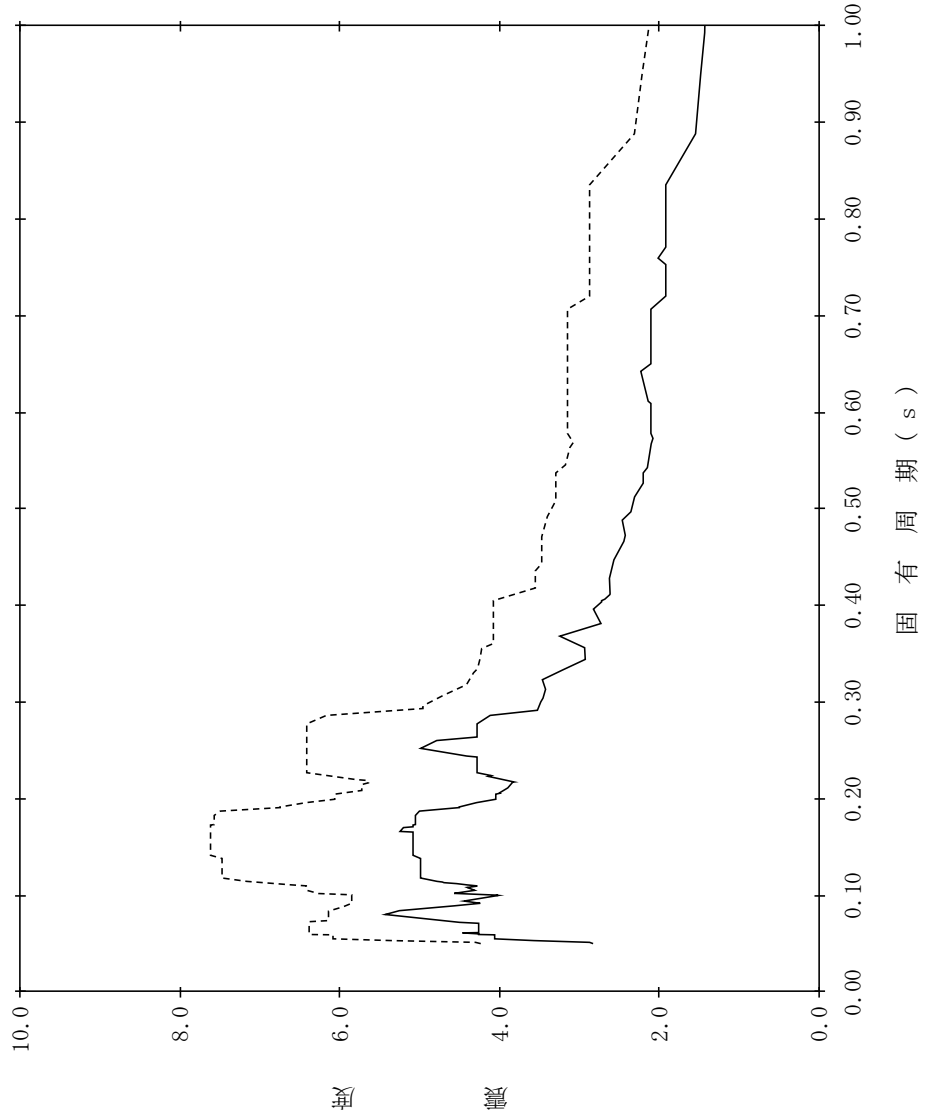


【NS2-EC-SsEW-EC18】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL48.250m
減衰定数：1.0%
波形名：基準地震動 S s

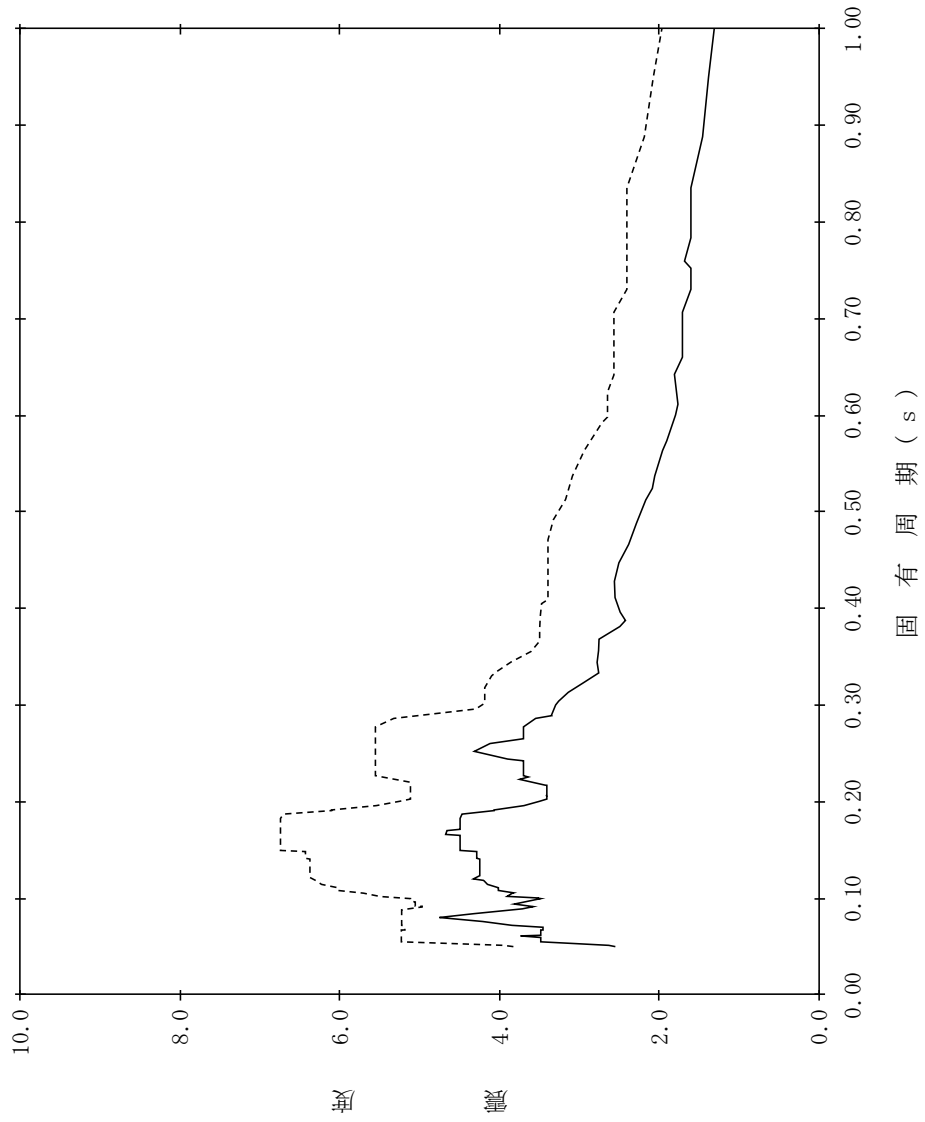
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



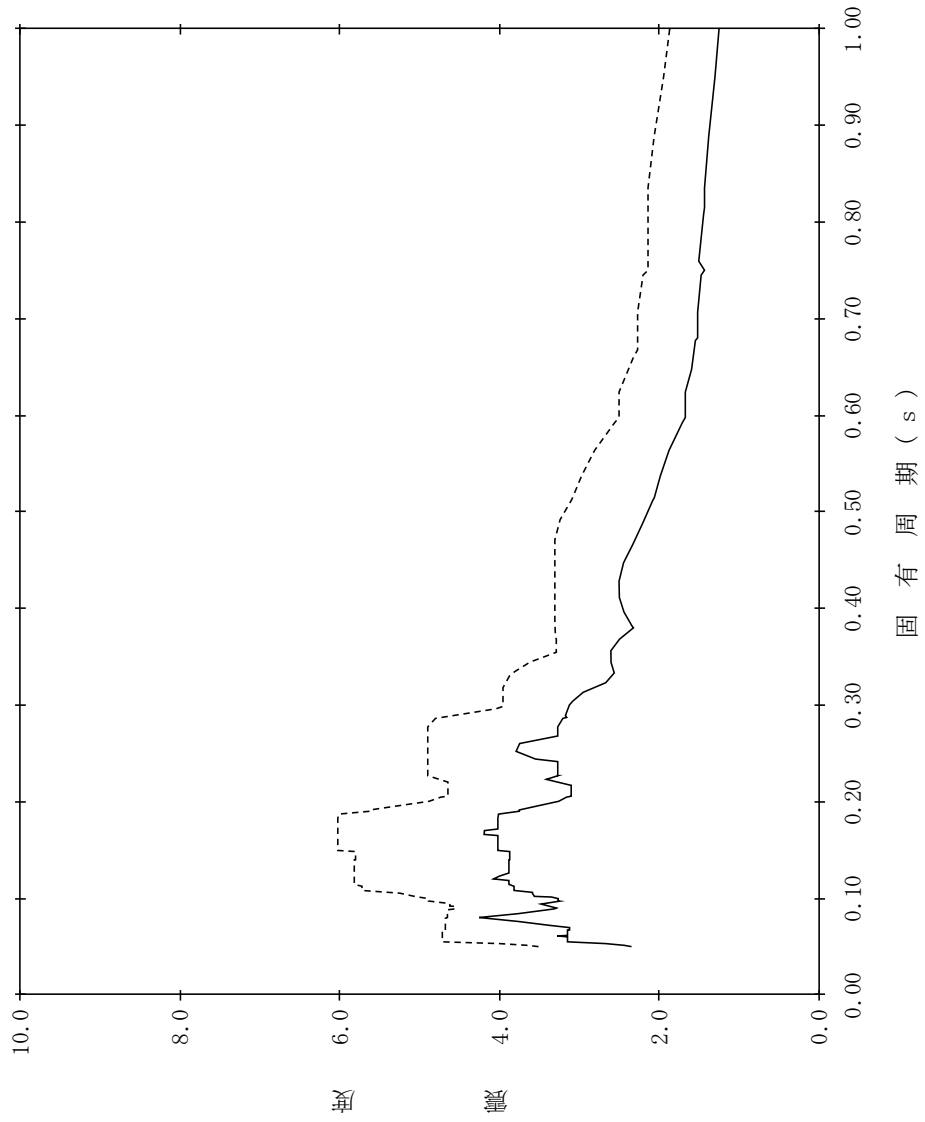
【NS2-EC-SsEW-EC19】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL48.250m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



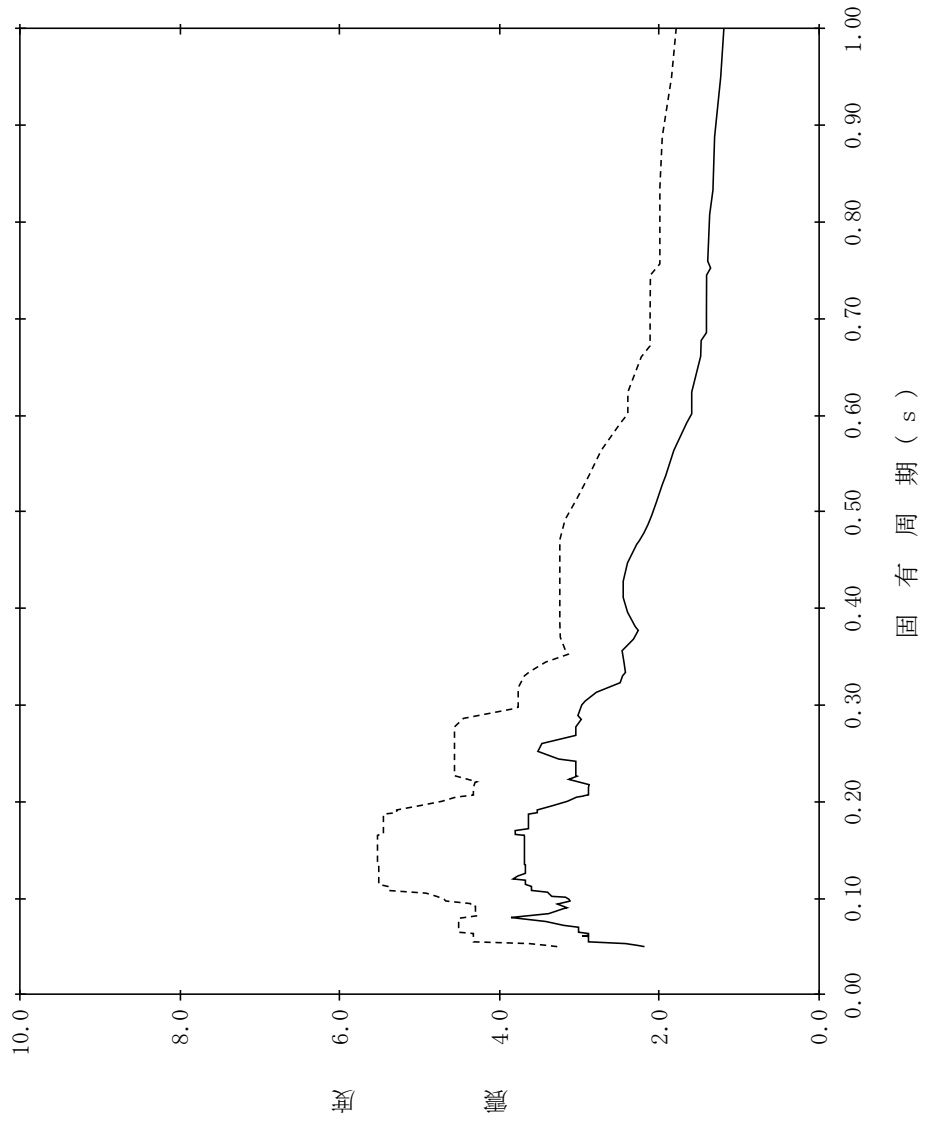
【NS2-EC-SsEW-EC20】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL48.250m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



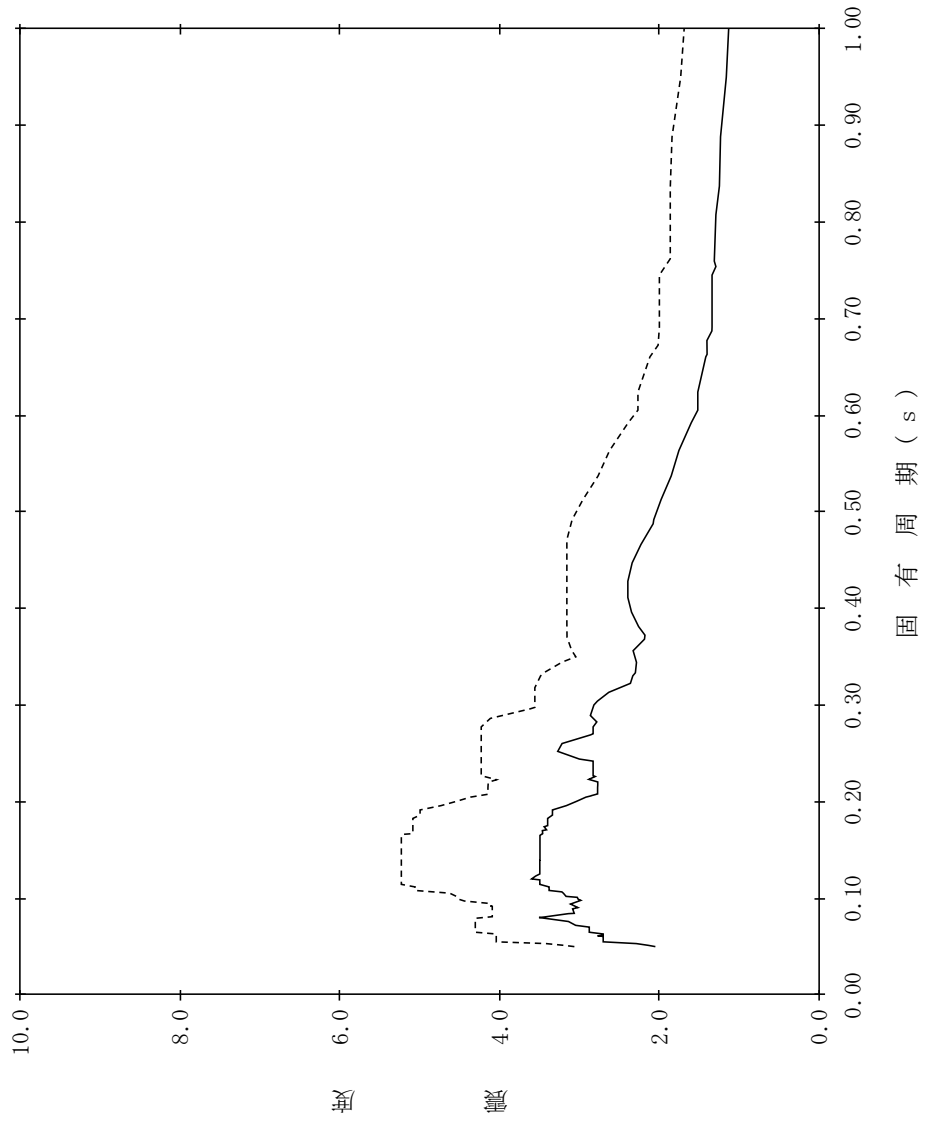
【NS2-EC-SsEW-EC21】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL48.250m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



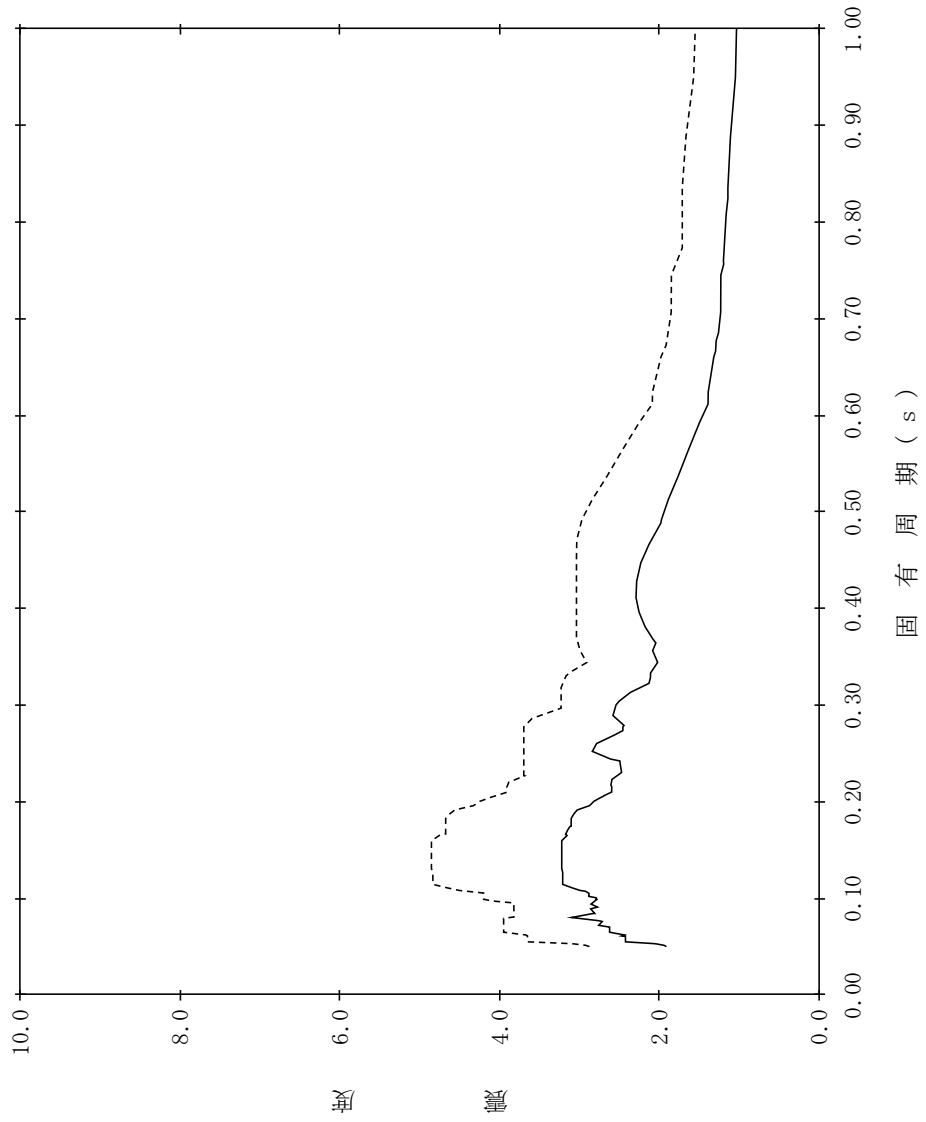
【NS2-EC-SsEW-EC22】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL48.250m
減衰定数：3.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



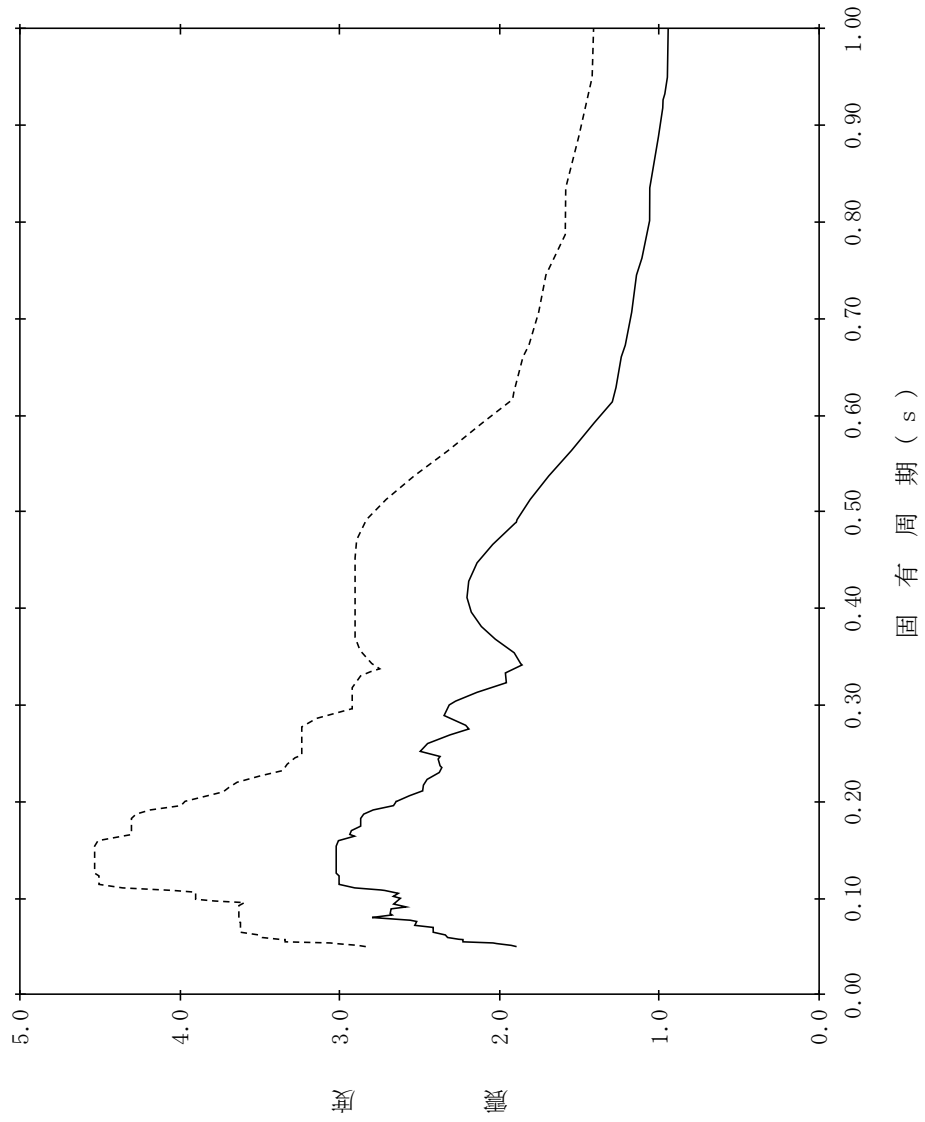
【NS2-EC-SsEW-EC23】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL48.250m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



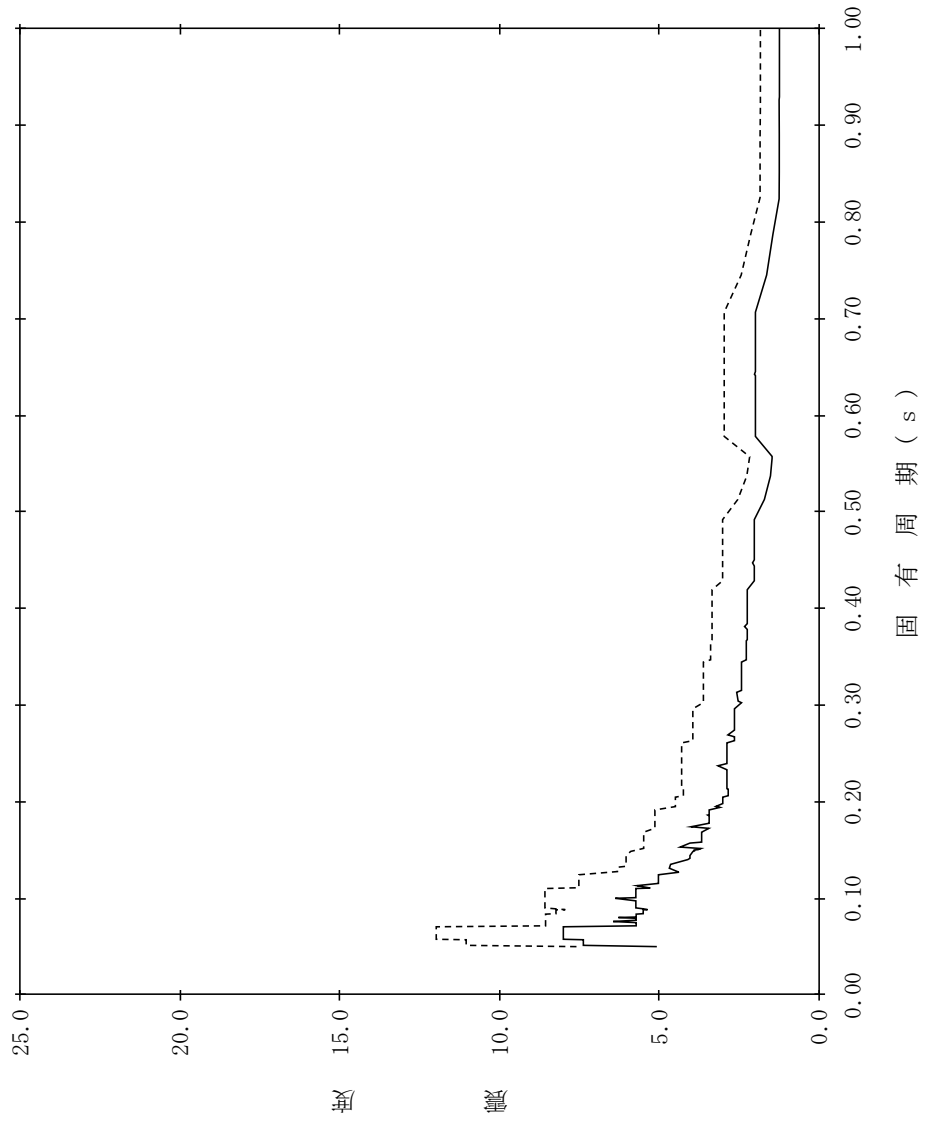
【NS2-EC-SsEW-EC24】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL48.250m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



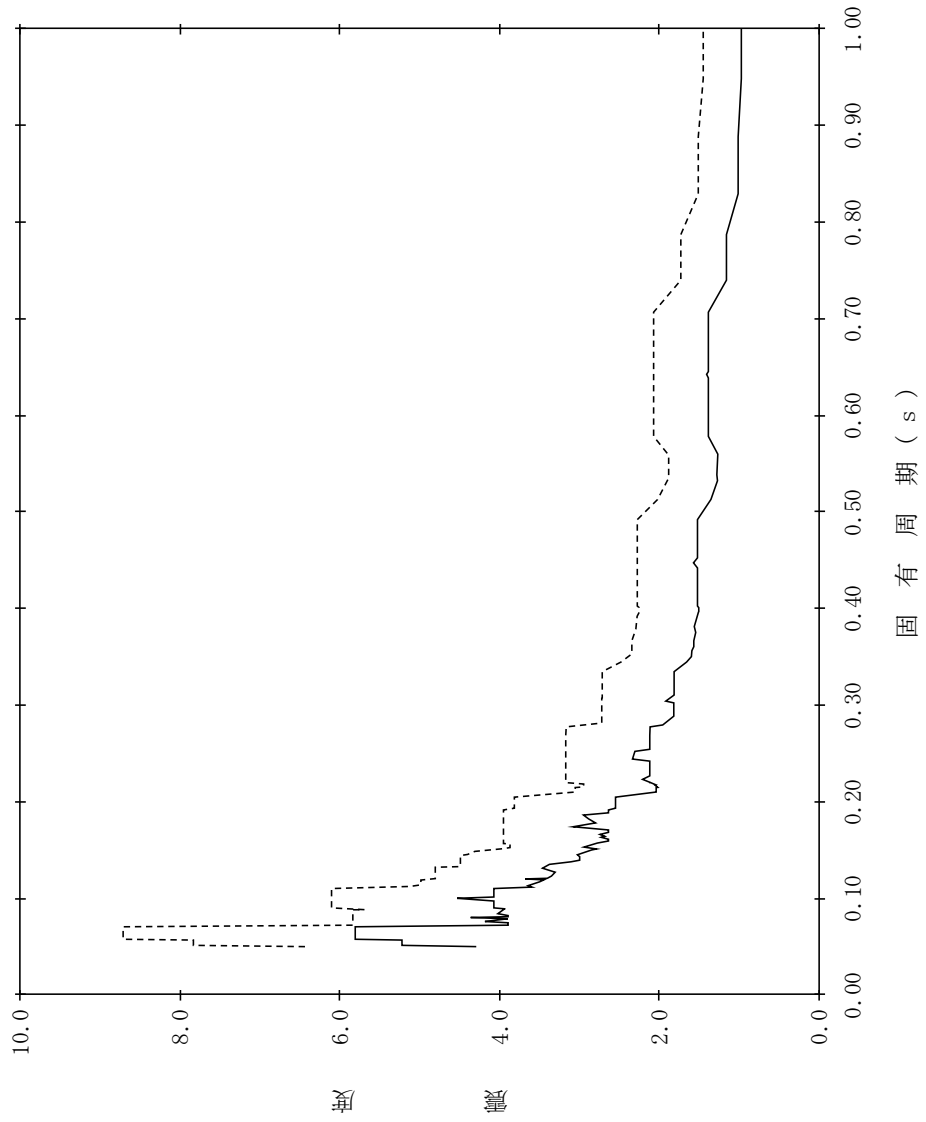
【NS2-EC-SsV-EC1】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL56.600m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



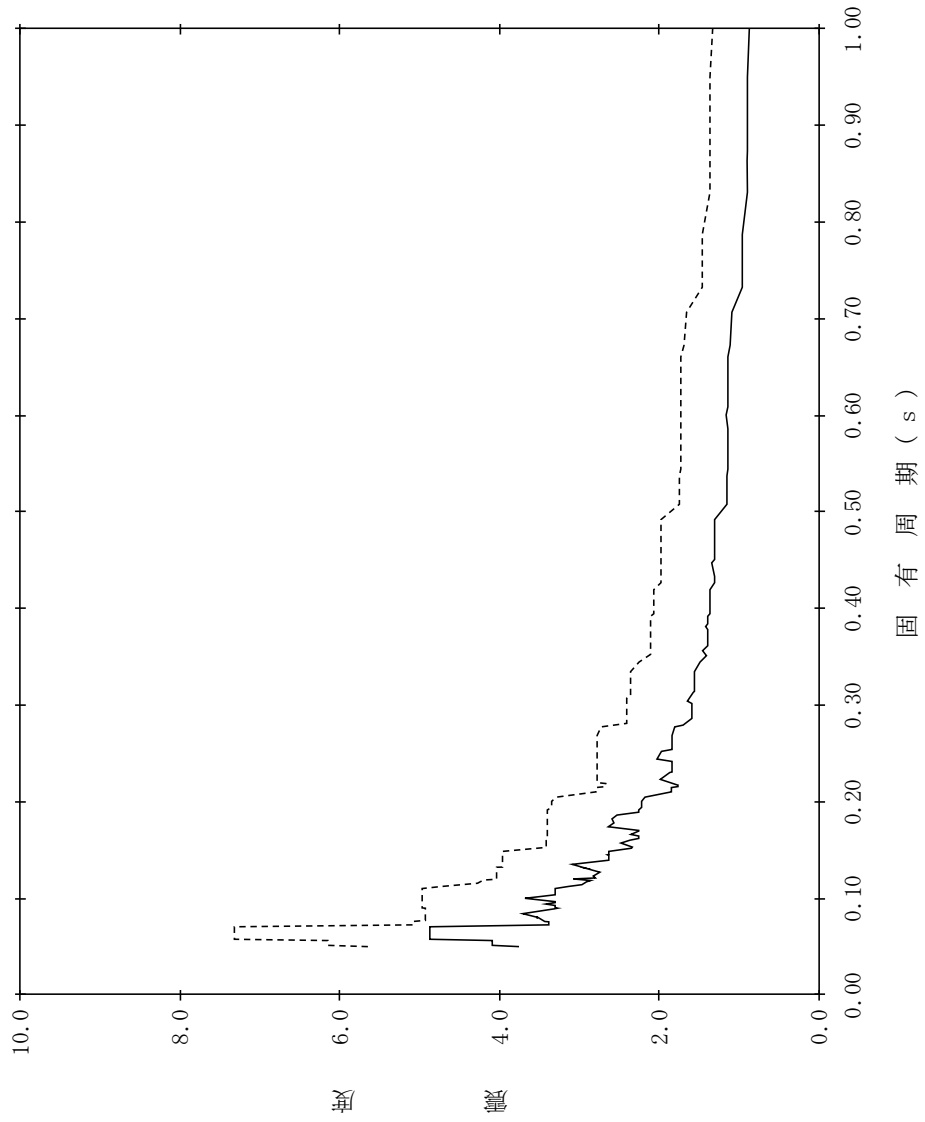
【NS2-EC-SsV-EC2】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL56.600m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



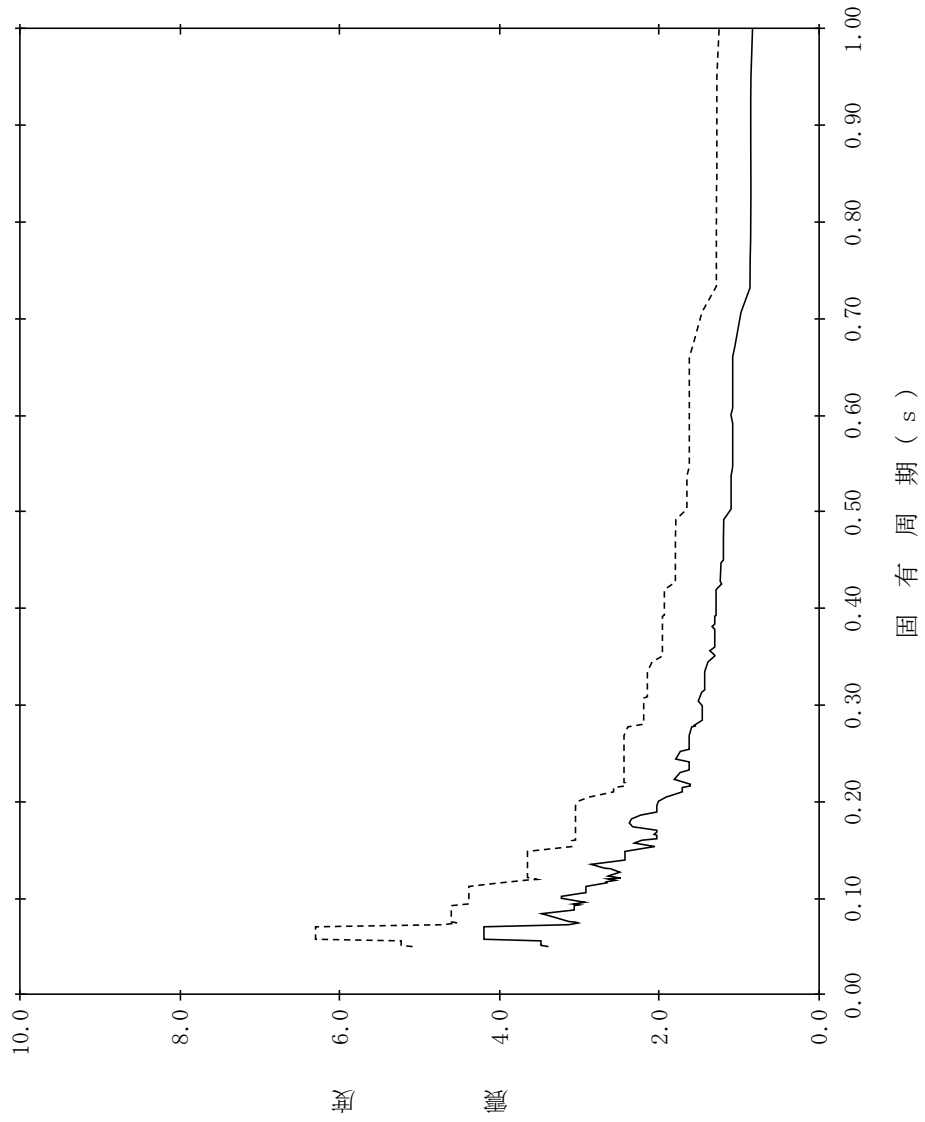
【NS2-EC-SsV-EC3】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL56.600m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



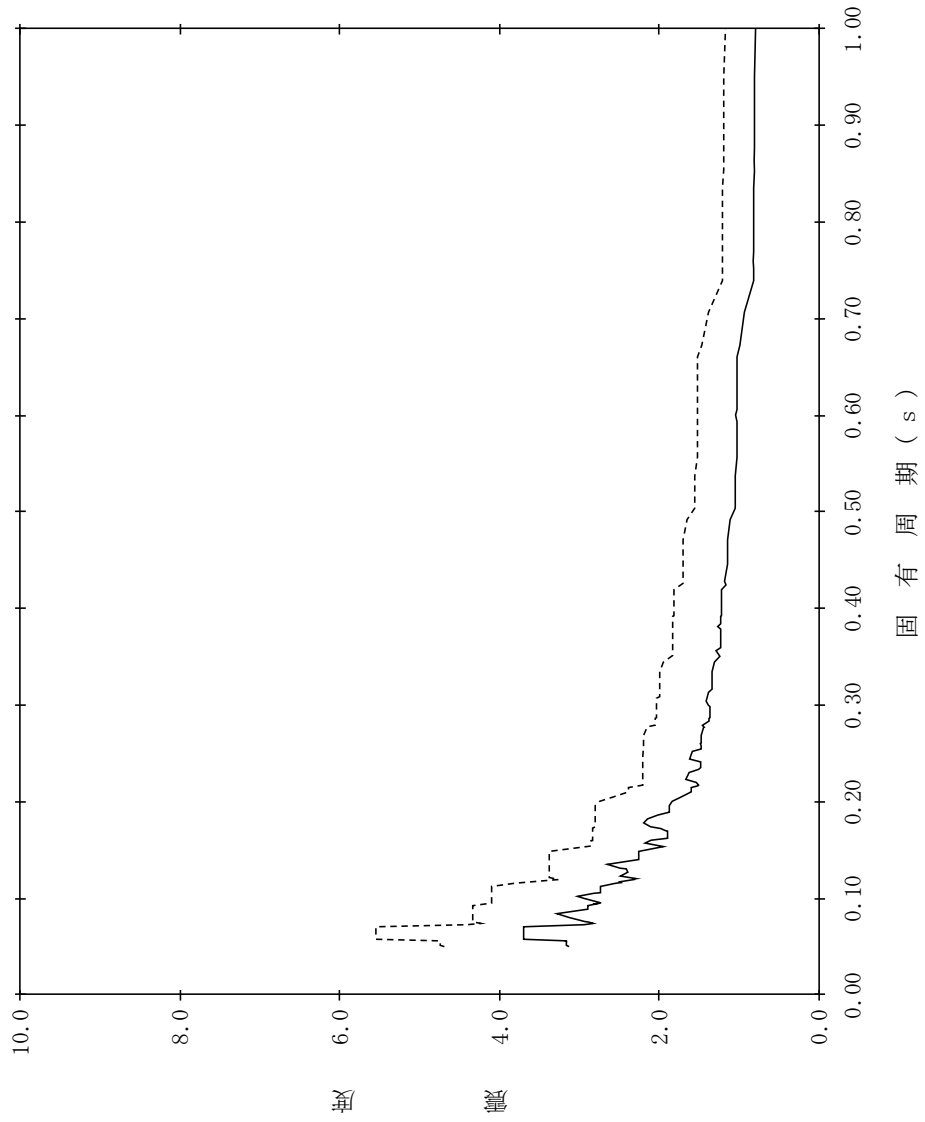
【NS2-EC-SsV-EC4】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL56.600m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



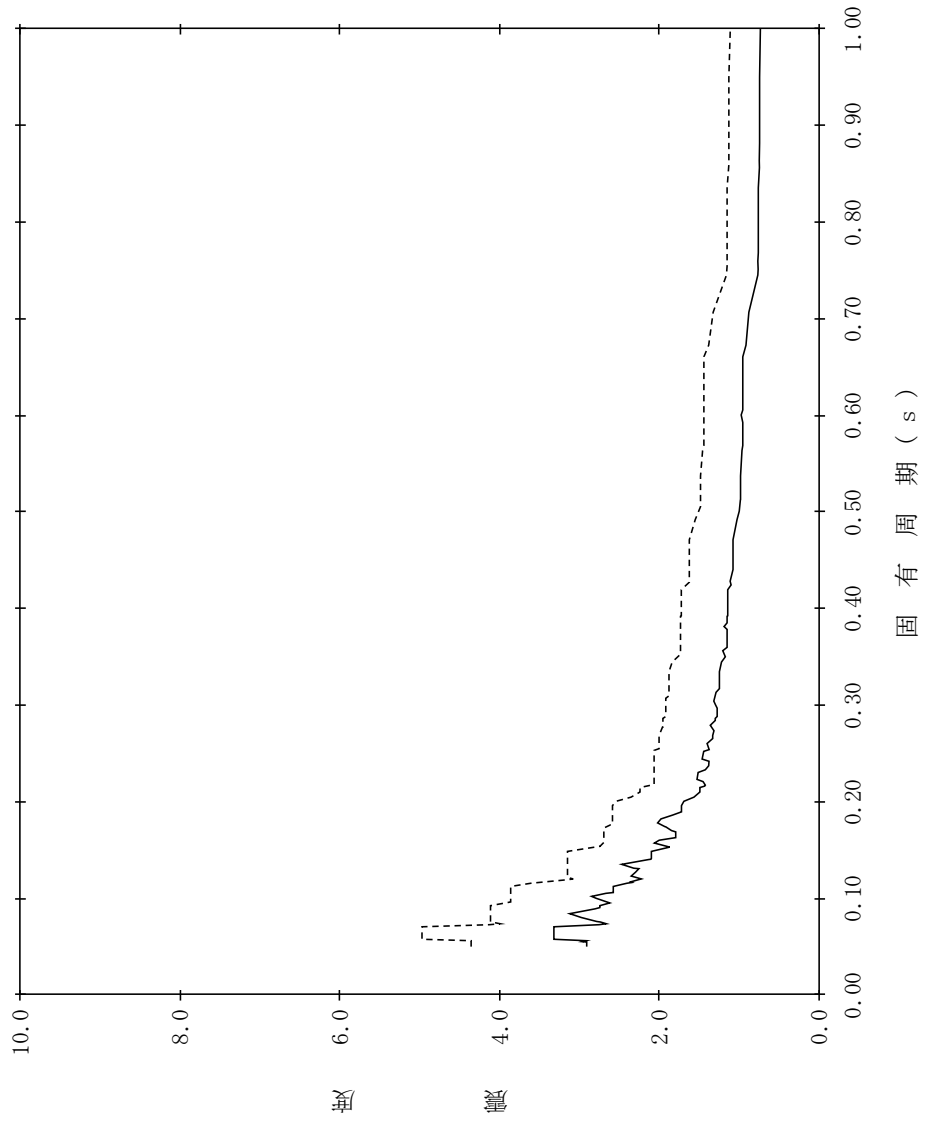
【NS2-EC-SsV-EC5】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL56.600m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



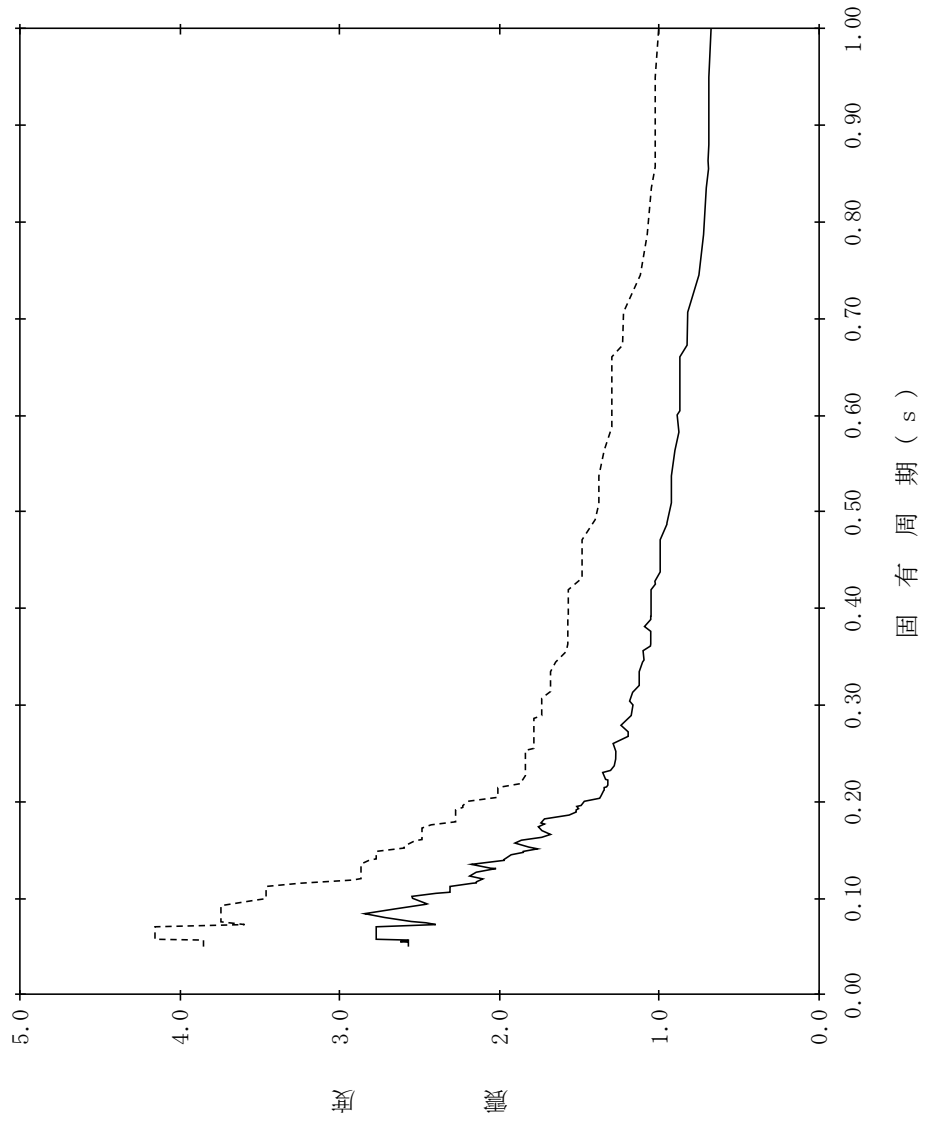
【NS2-EC-SsV-EC6】

構造物名：緊急時対策所
減衰定数：3.0%
標高：EL56.600m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



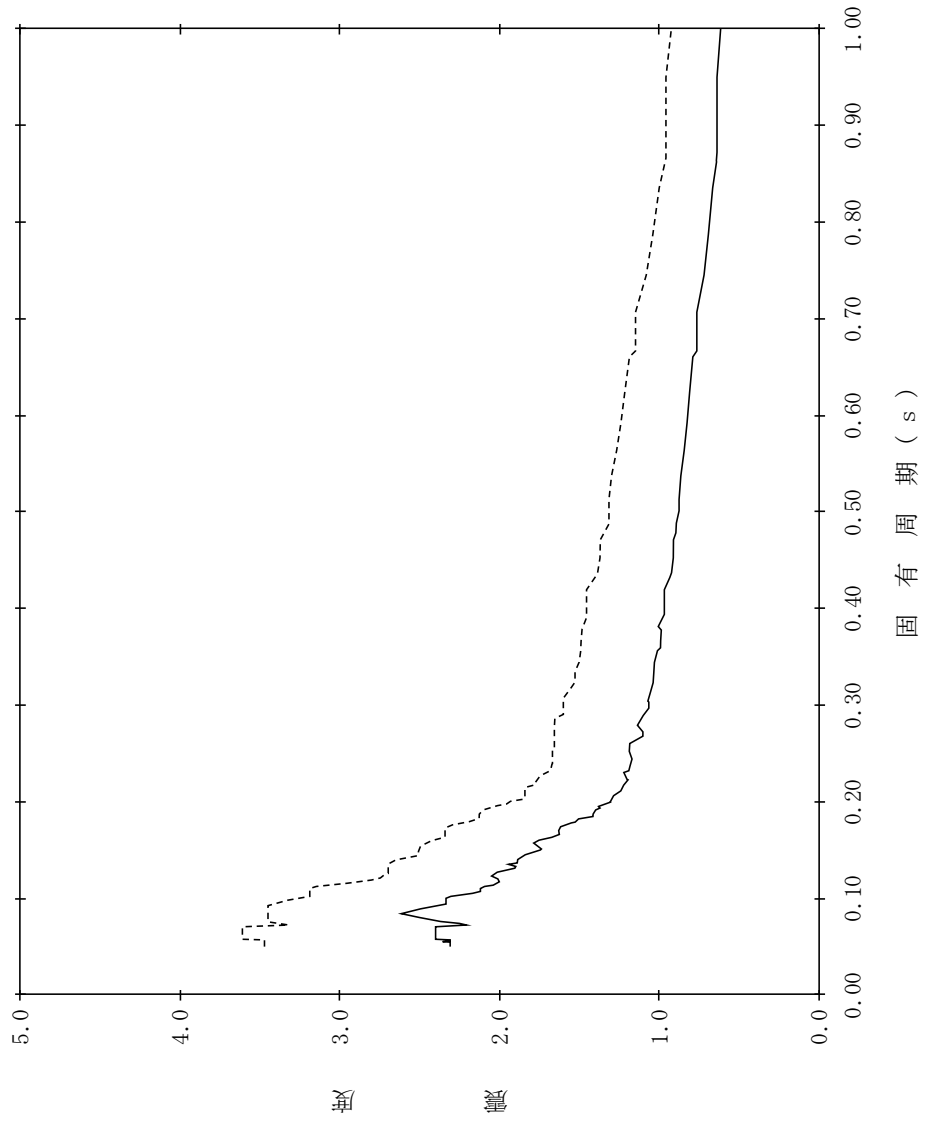
【NS2-EC-SsV-EC7】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL56.600m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



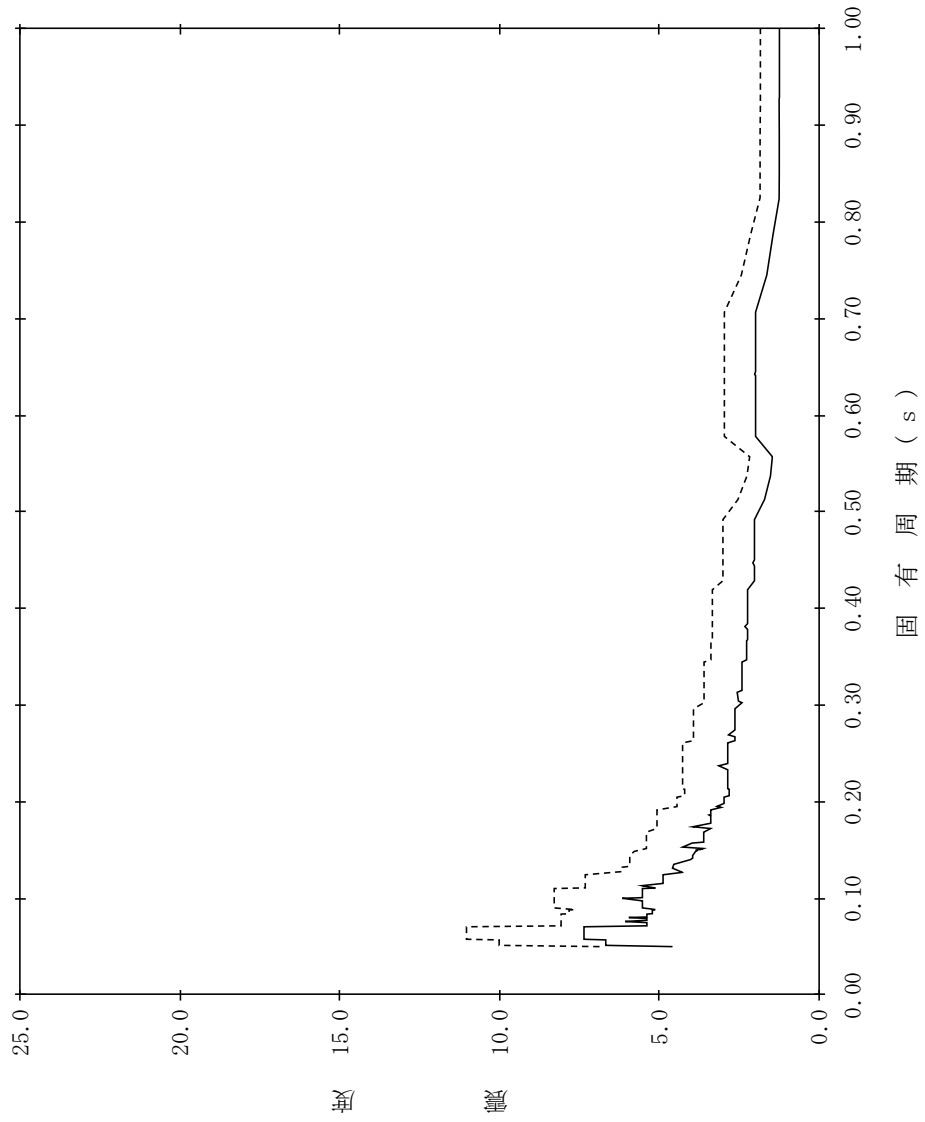
【NS2-EC-SsV-EC8】

構造物名：緊急時対策所
減衰定数：5.0%
標高：EL56.600m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



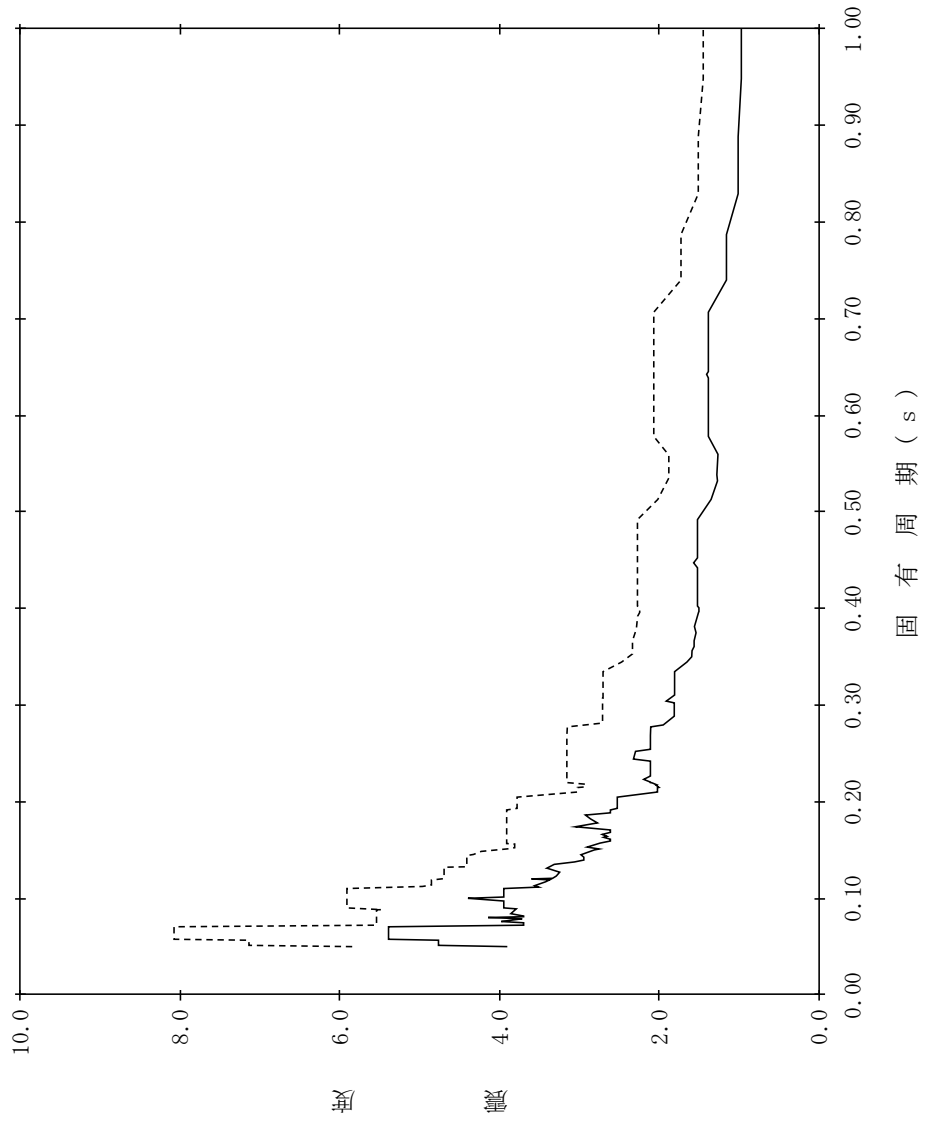
【NS2-EC-SsV-EC9】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL50.250m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



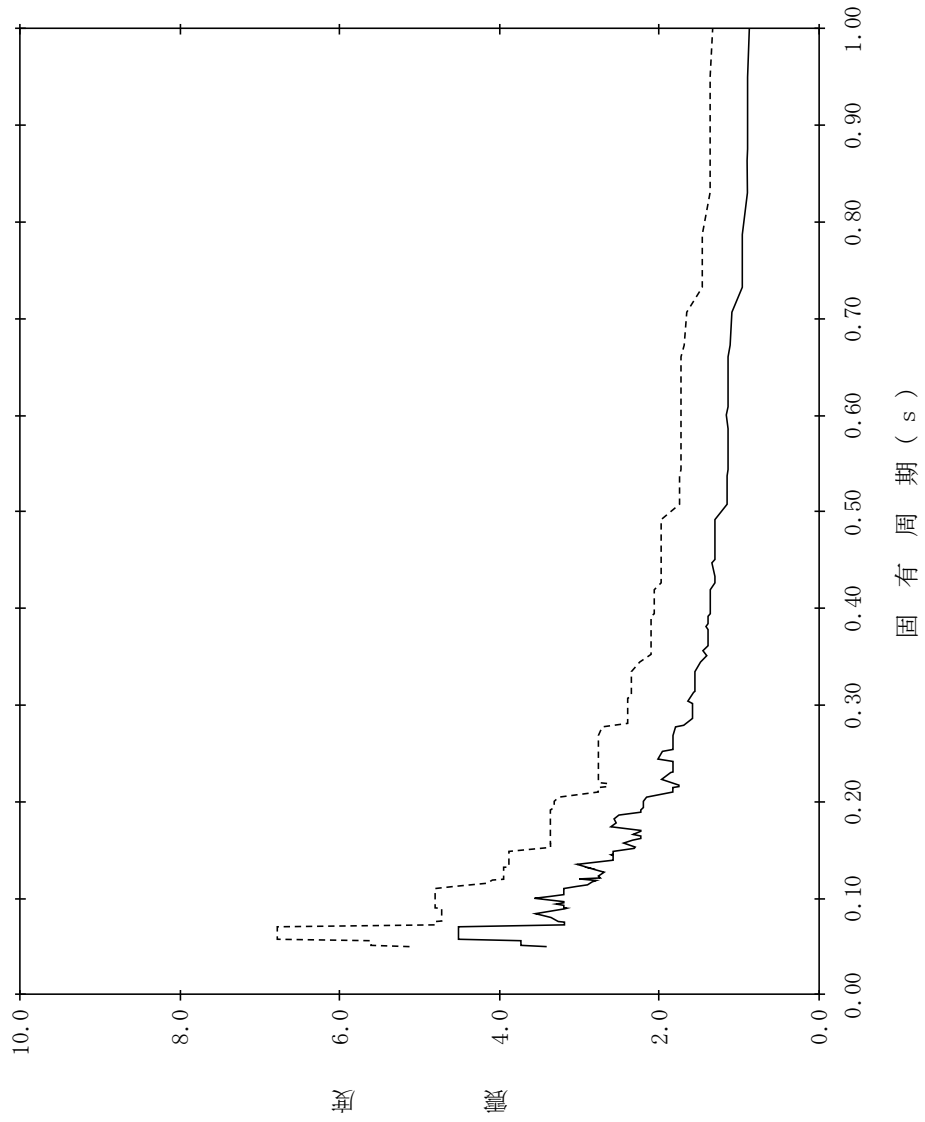
【NS2-EC-SsV-EC10】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL50.250m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



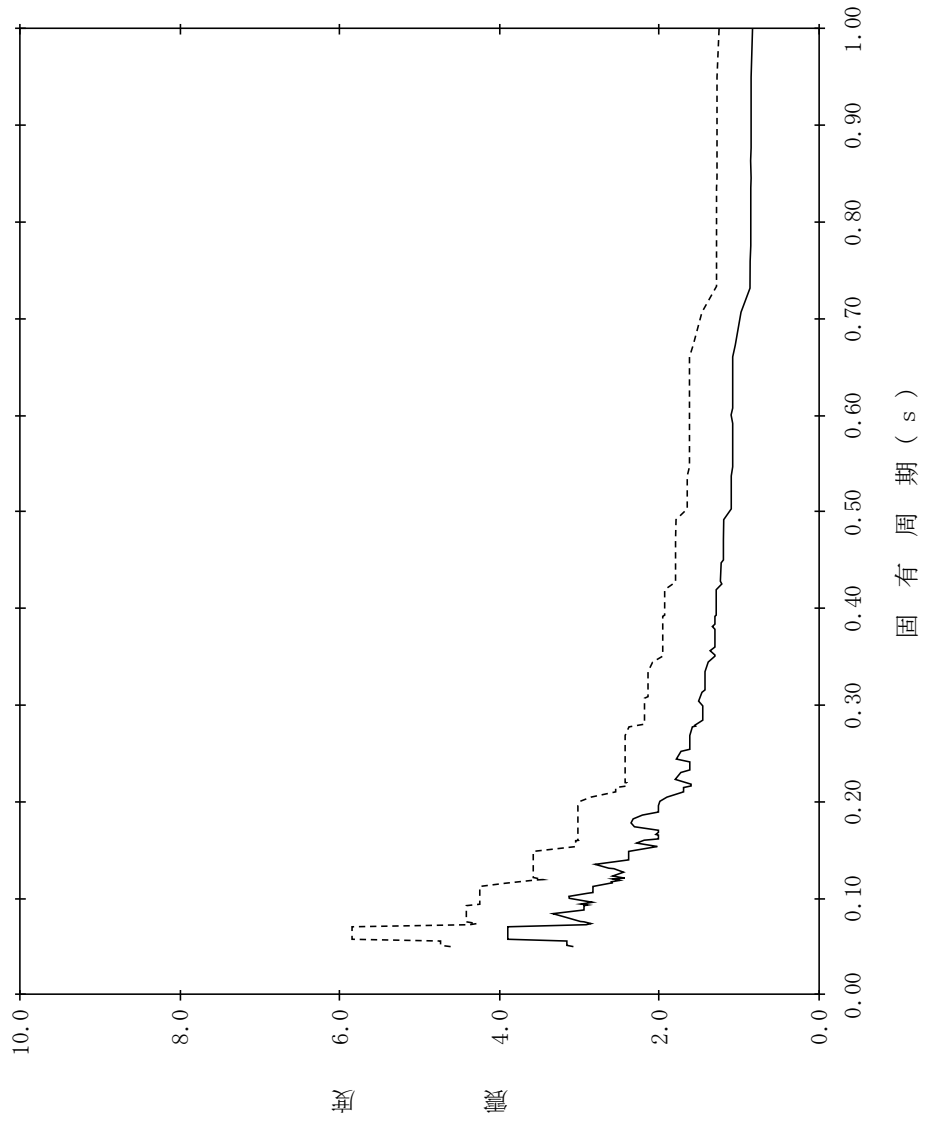
【NS2-EC-SsV-EC11】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL50.250m
減衰定数：1.5%
波形名：基準地震動 S s
設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



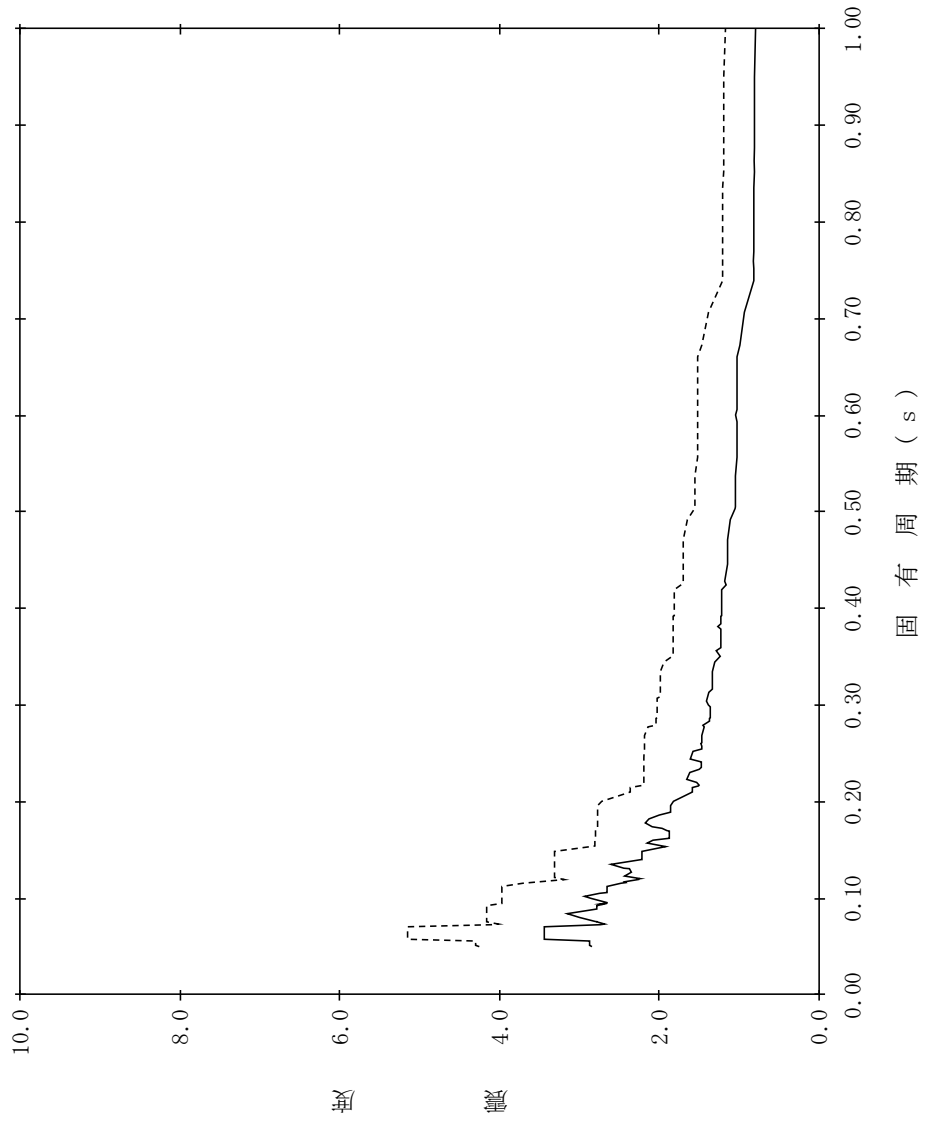
【NS2-EC-SsV-EC12】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL50.250m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



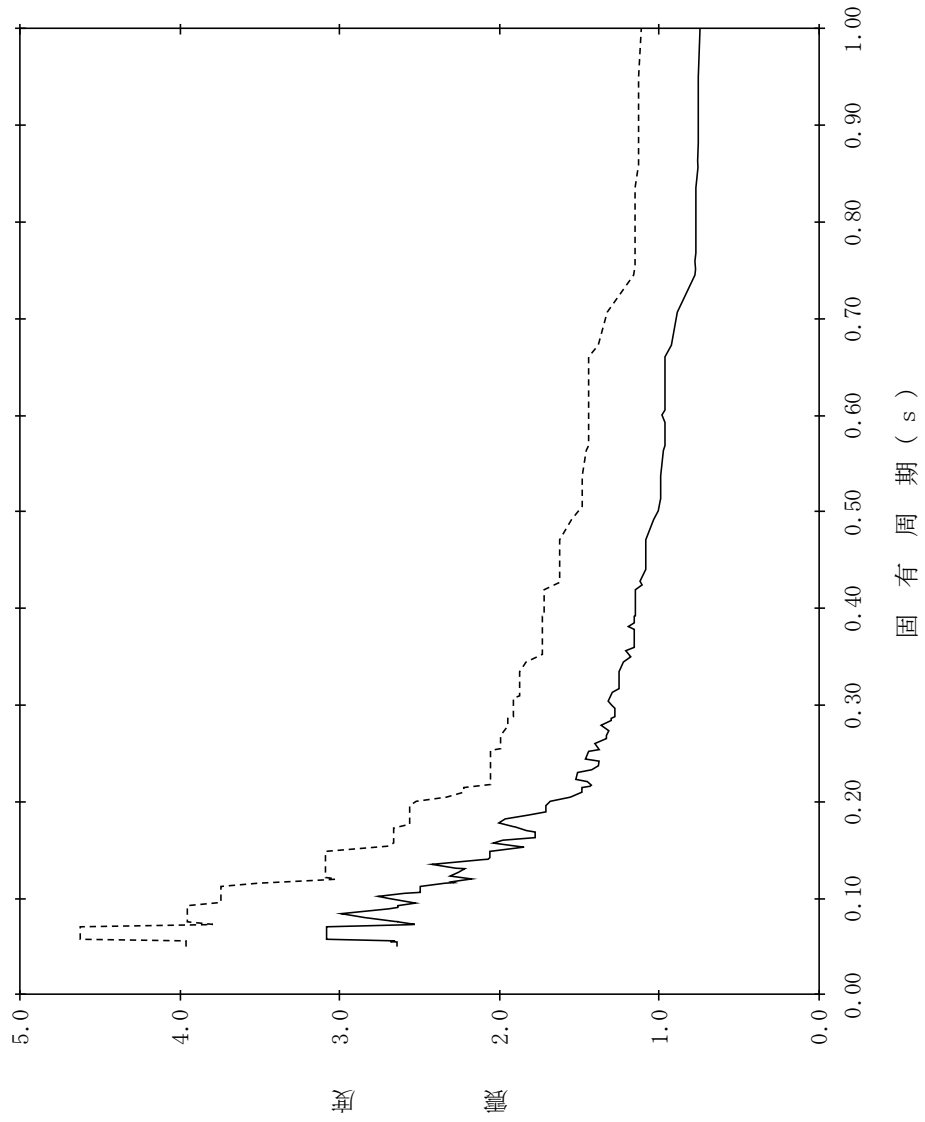
【NS2-EC-SsV-EC13】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL50.250m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



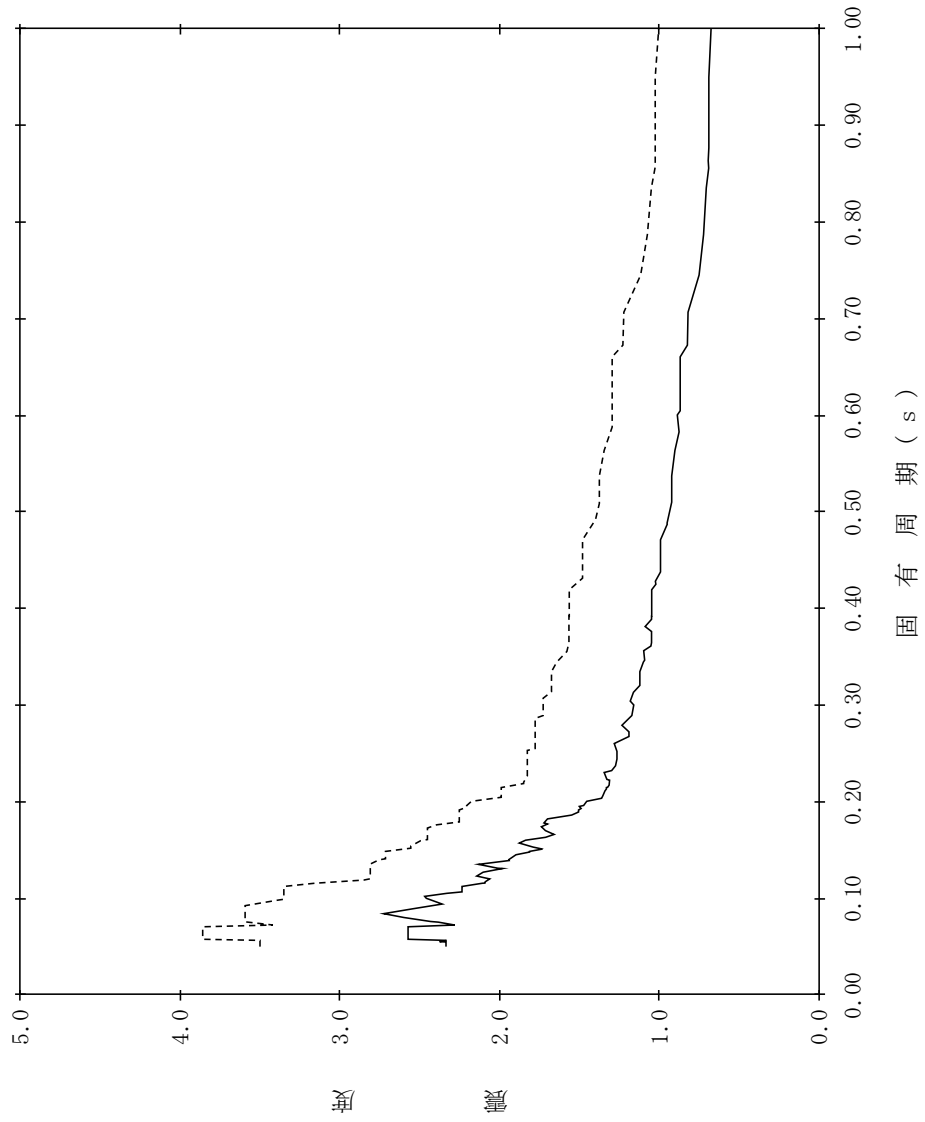
【NS2-EC-SsV-EC14】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL50.250m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



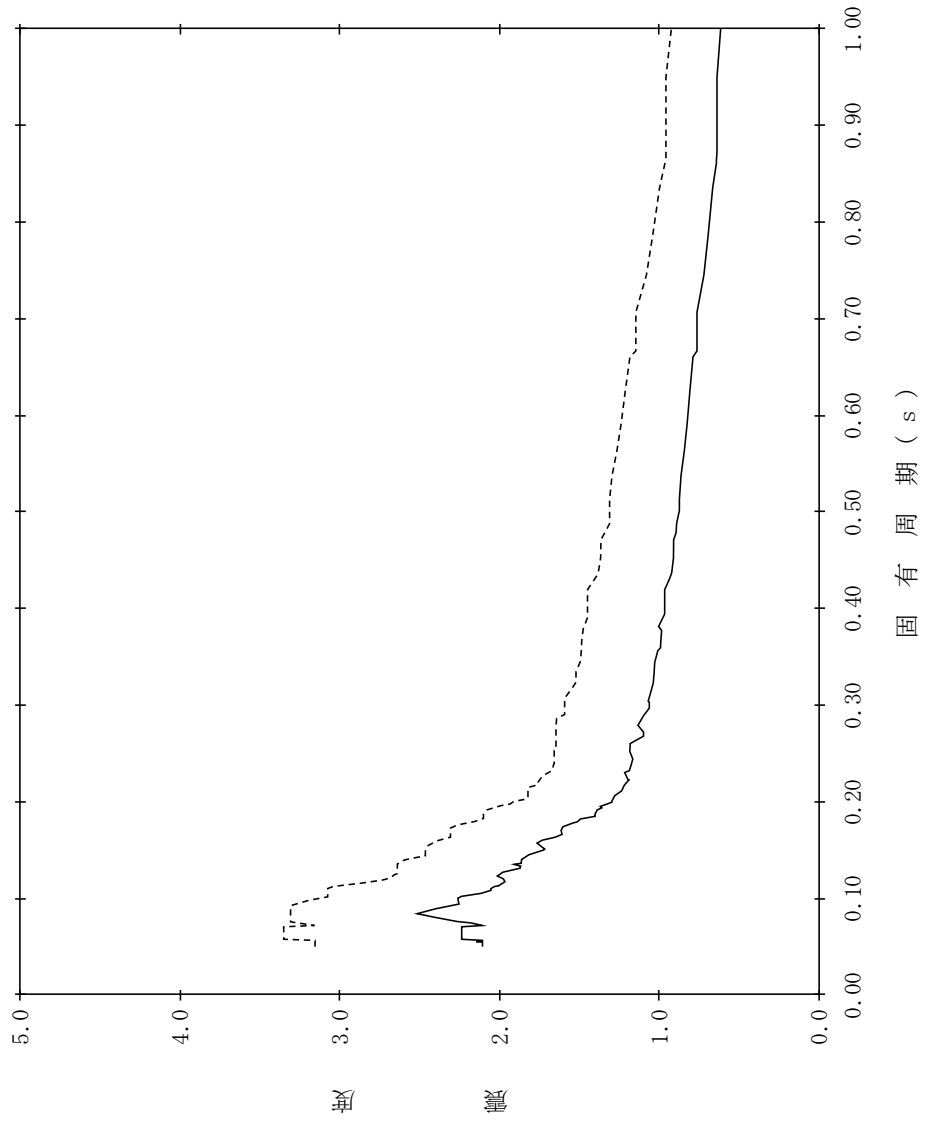
【NS2-EC-SsV-EC15】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL50.250m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



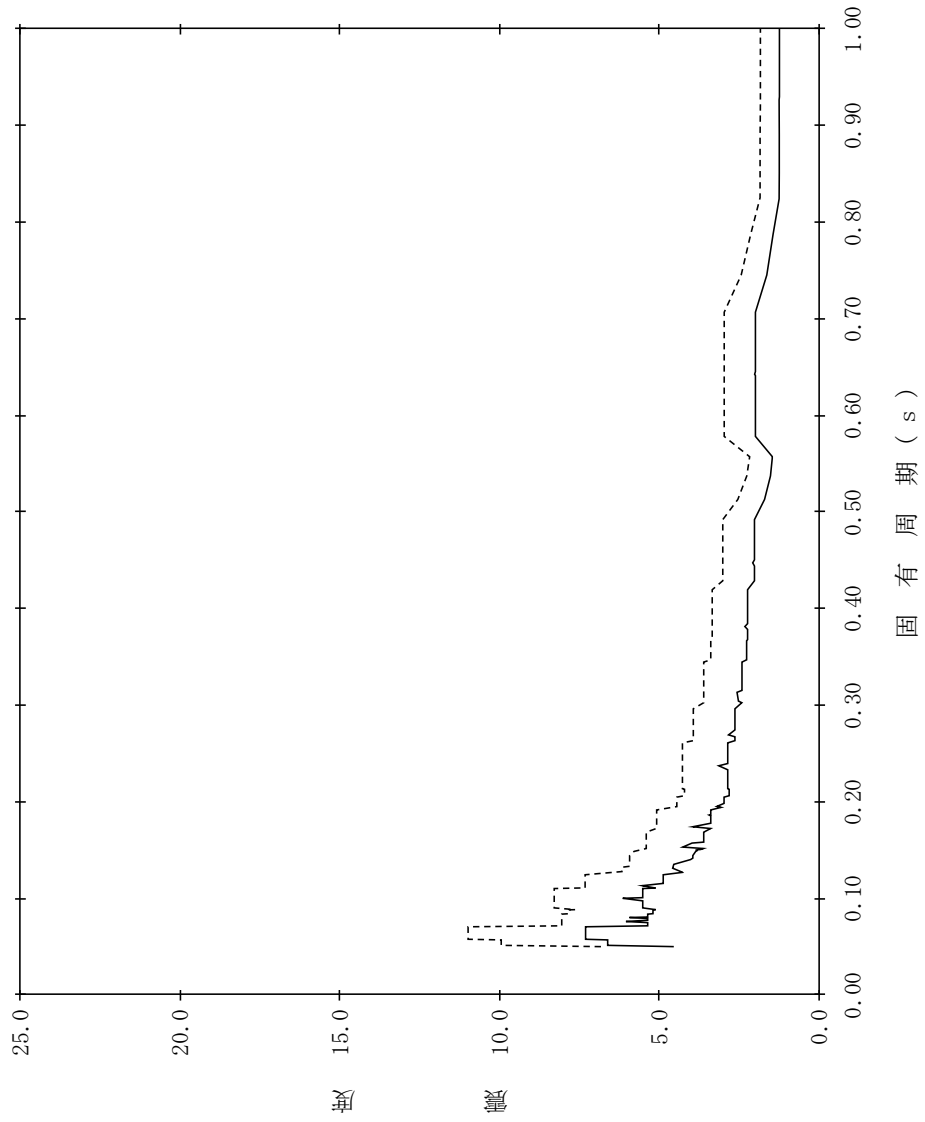
【NS2-EC-SsV-EC16】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL50.250m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



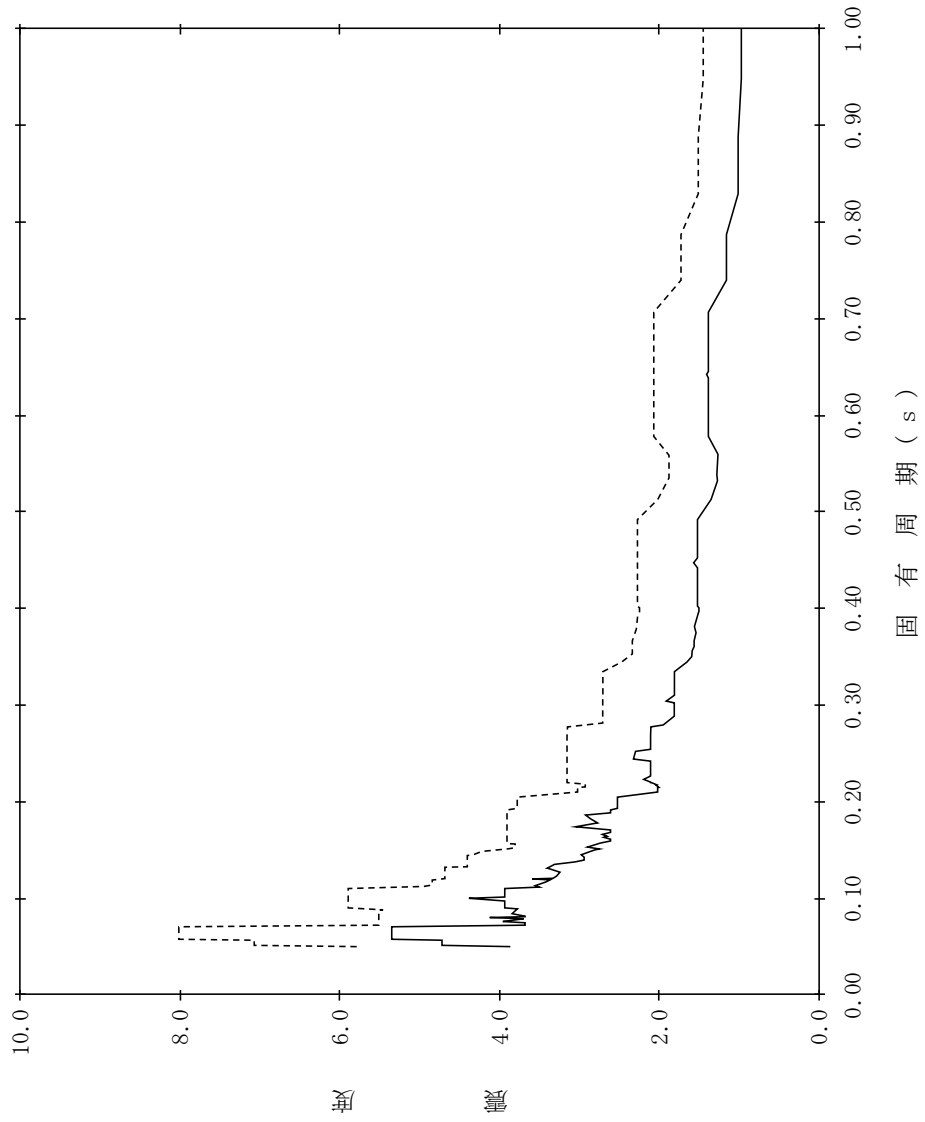
【NS2-EC-SsV-EC17】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL48.250m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



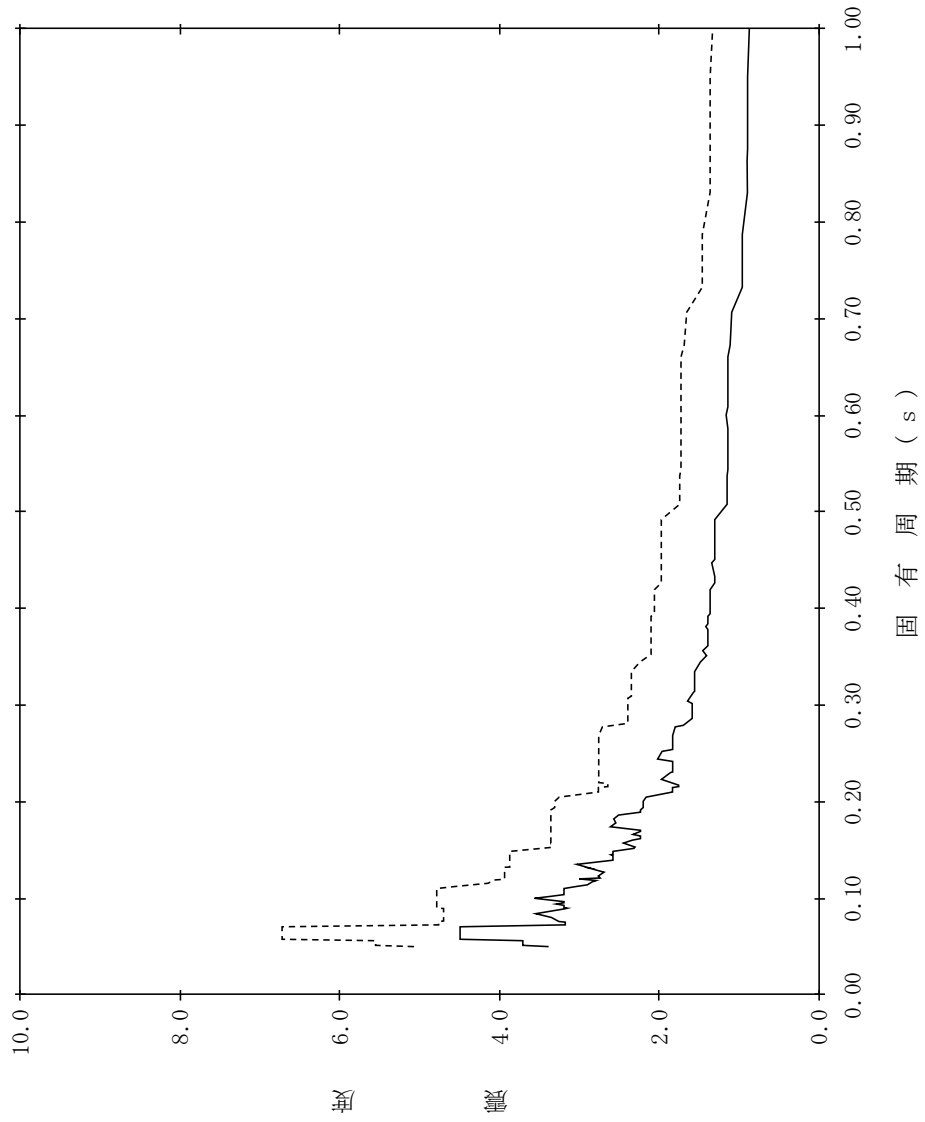
【NS2-EC-SsV-EC18】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL48.250m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



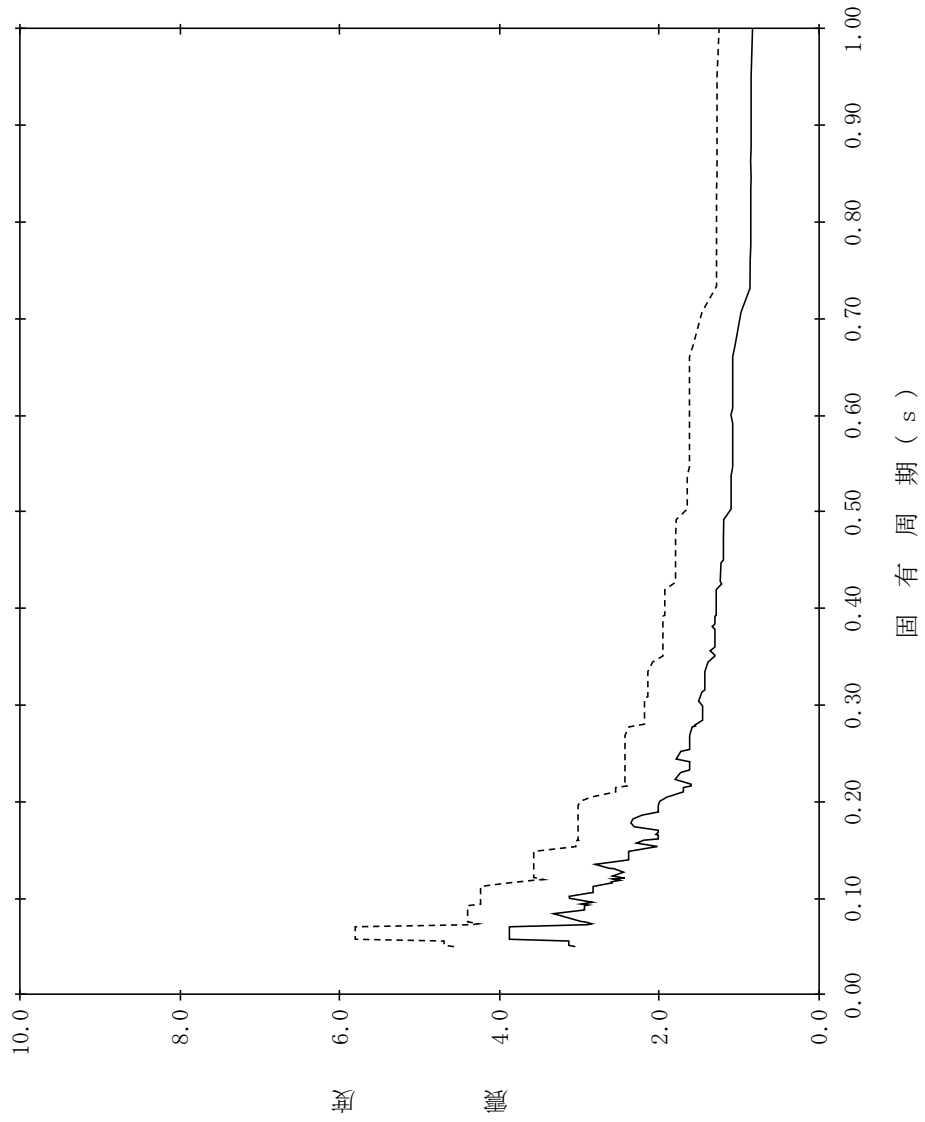
【NS2-EC-SsV-EC19】

構造物名：緊急時対策所
減衰定数：1.5%
標高：EL48.250m
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



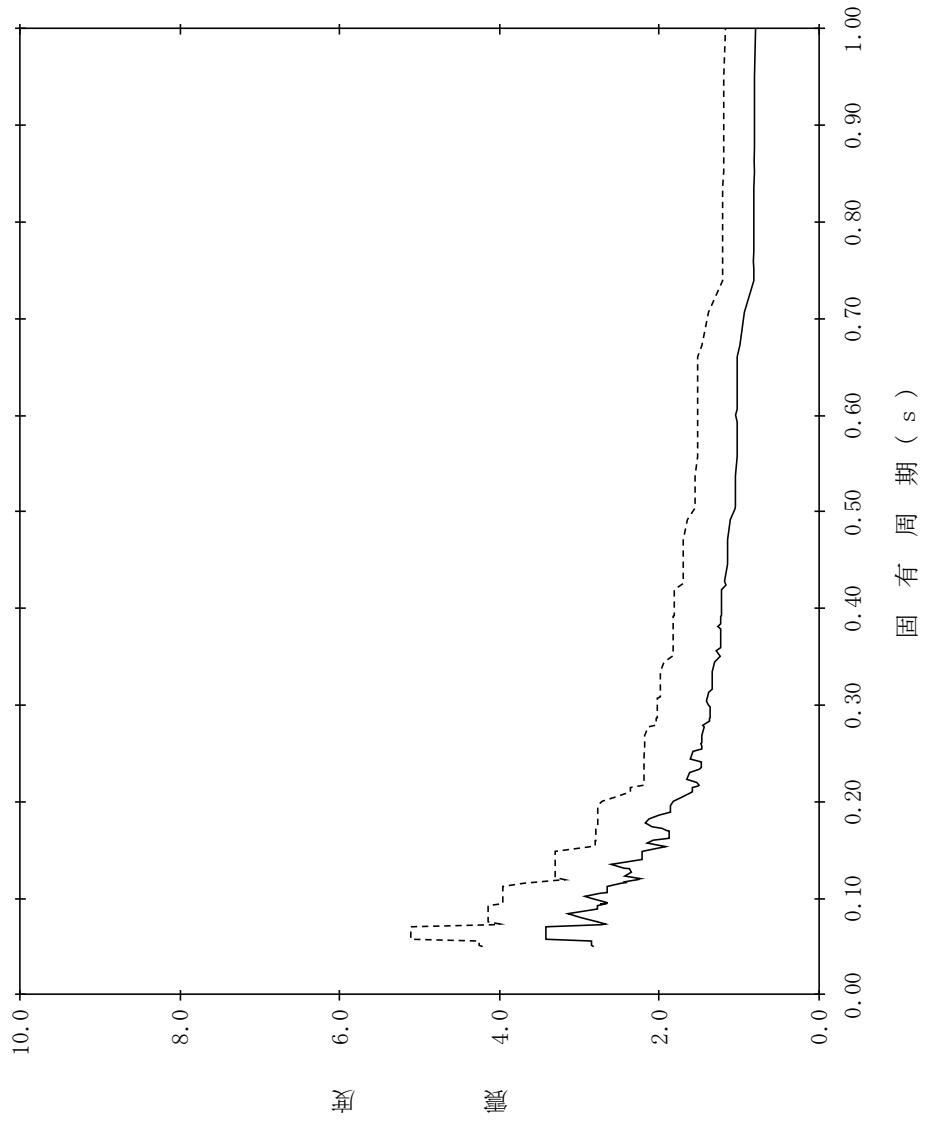
【NS2-EC-SsV-EC20】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL48.250m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



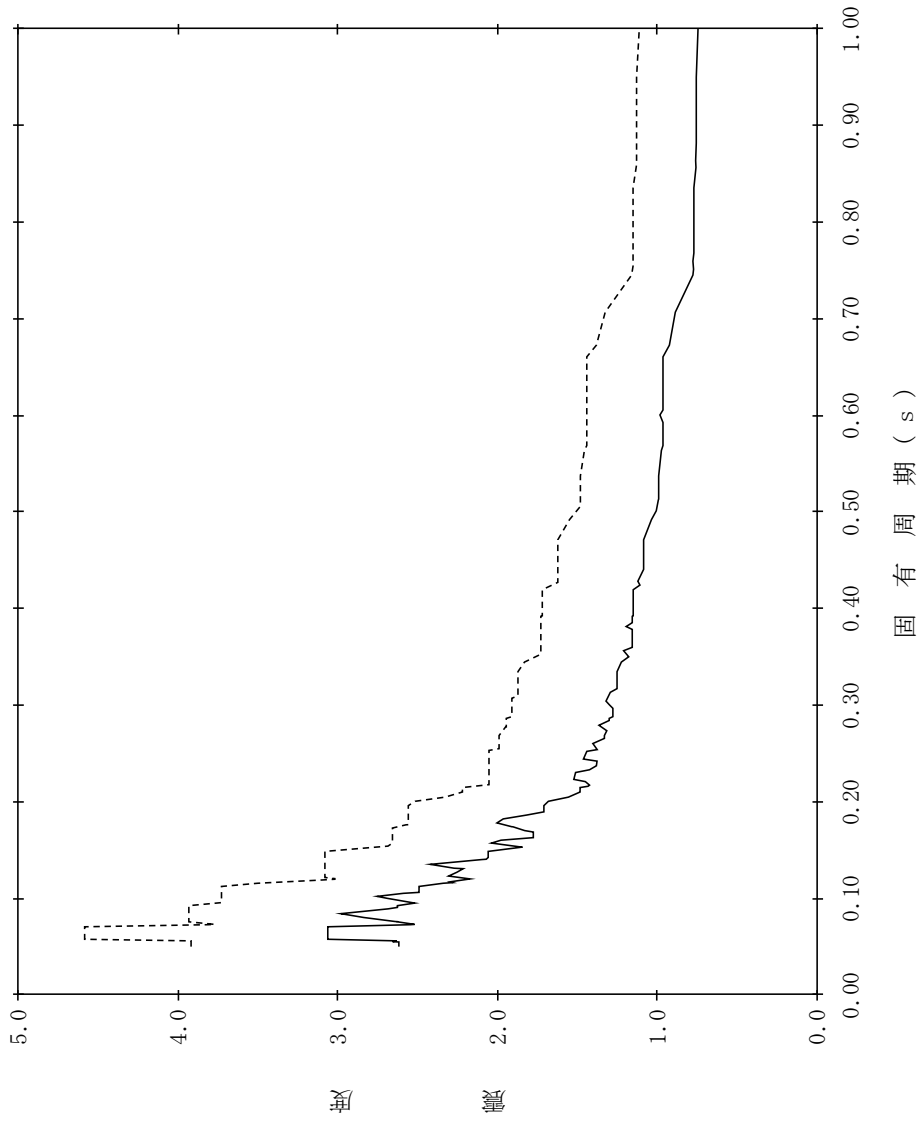
【NS2-EC-SsV-EC21】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL48.250m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



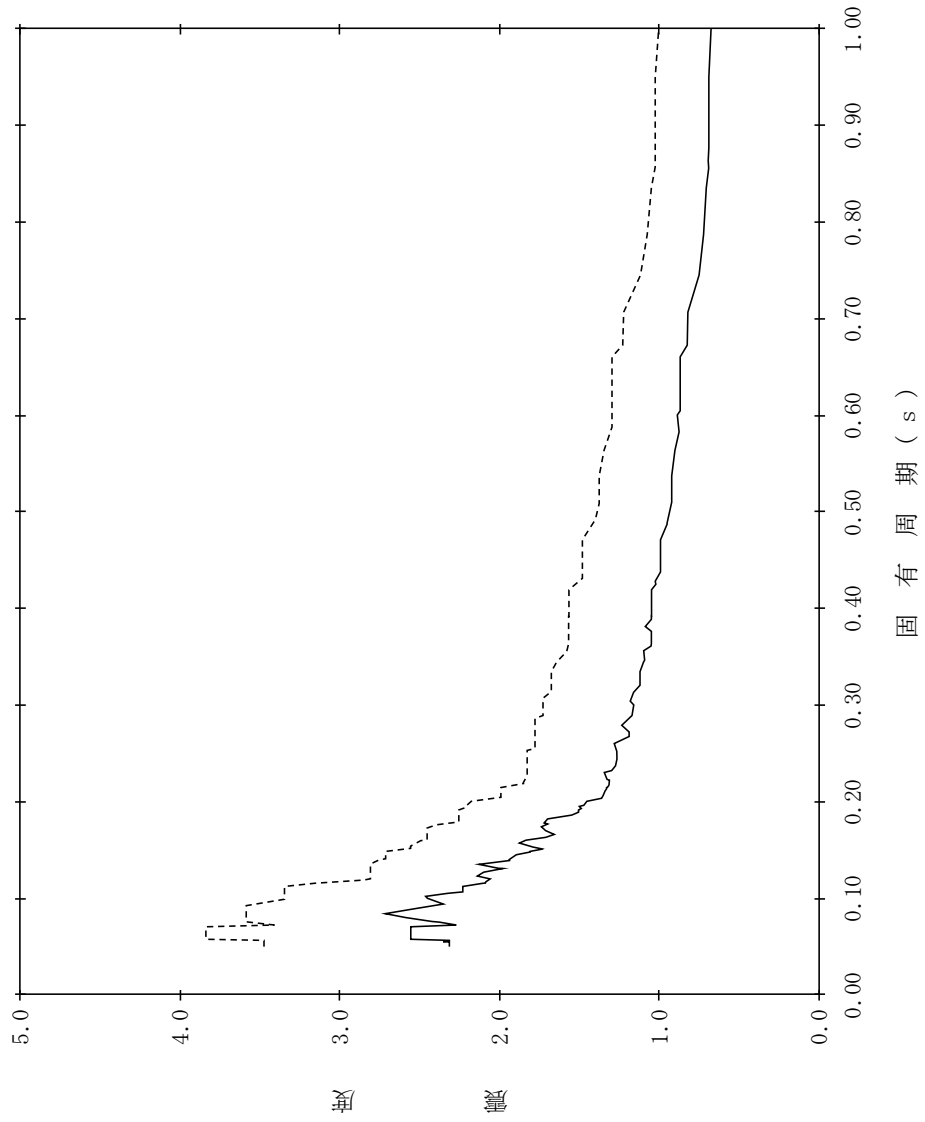
【NS2-EC-SsV-EC22】

構造物名：緊急時対策所
 標高：EL48.250m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-EC-SsV-EC23】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL48.250m
減衰定数：4.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-EC-SsV-EC24】

構造物名：緊急時対策所
標高：EL48.250m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)

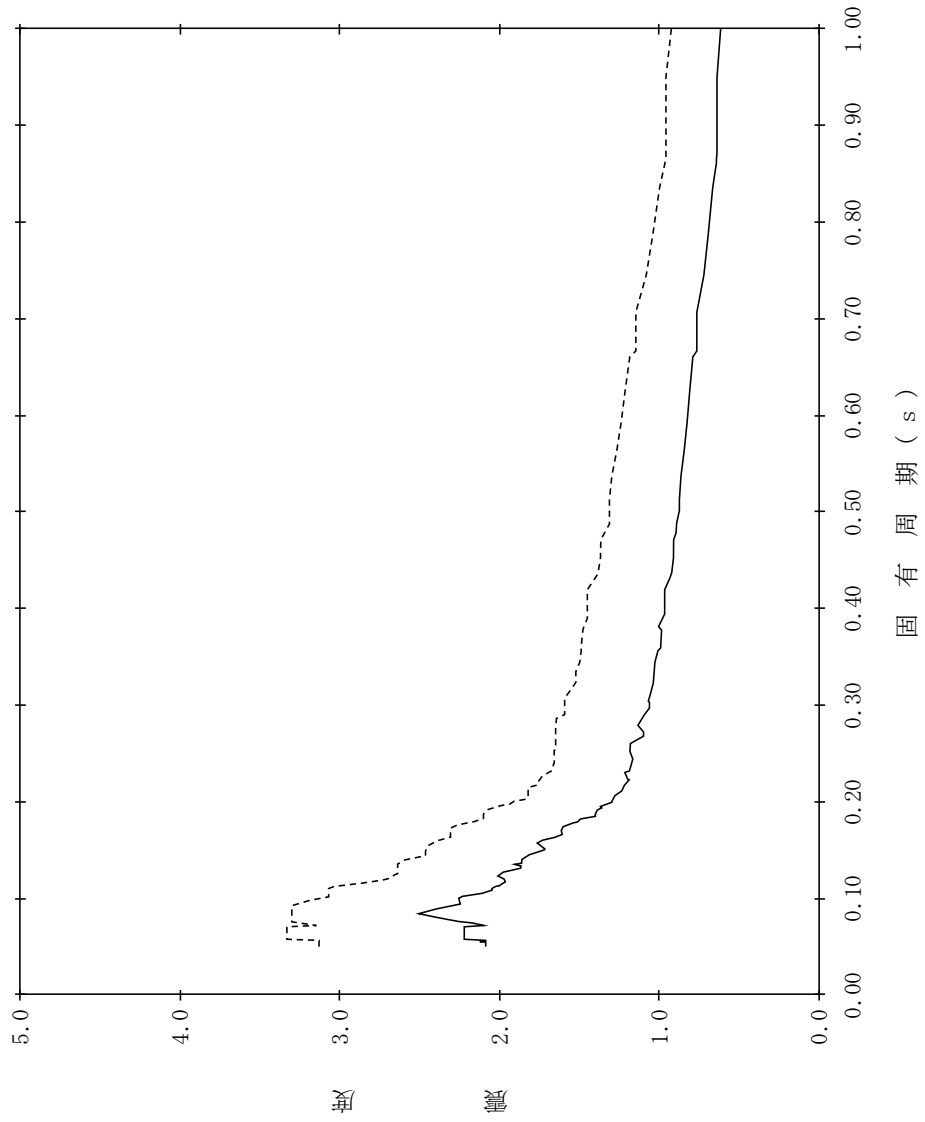


表 4.4-7 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (ガスタービン発電機建物) (1/3)

地震波	発電機建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S _s	ガスタービン 発電機建物	NS 方向	1	61.500	0.5	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 1
					1.0	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 2
					1.5	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 3
					2.0	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 4
					2.5	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 5
					3.0	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 6
					4.0	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 7
					5.0	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 8
			2	54.500	0.5	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 9
					1.0	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 10
					1.5	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 11
					2.0	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 12
					2.5	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 13
					3.0	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 14
					4.0	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 15
					5.0	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 16
			3	47.500	0.5	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 17
					1.0	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 18
					1.5	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 19
					2.0	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 20
					2.5	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 21
					3.0	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 22
					4.0	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 23
					5.0	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 24
			4	44.000	0.5	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 25
					1.0	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 26
					1.5	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 27
					2.0	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 28
					2.5	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 29
					3.0	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 30
					4.0	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 31
					5.0	NS2 - GTG - S _s NS - GTG 32

表 4.4-7 設計用床応答スペクトル (S_s) 一覧表 (ガスタービン発電機建物) (2/3)

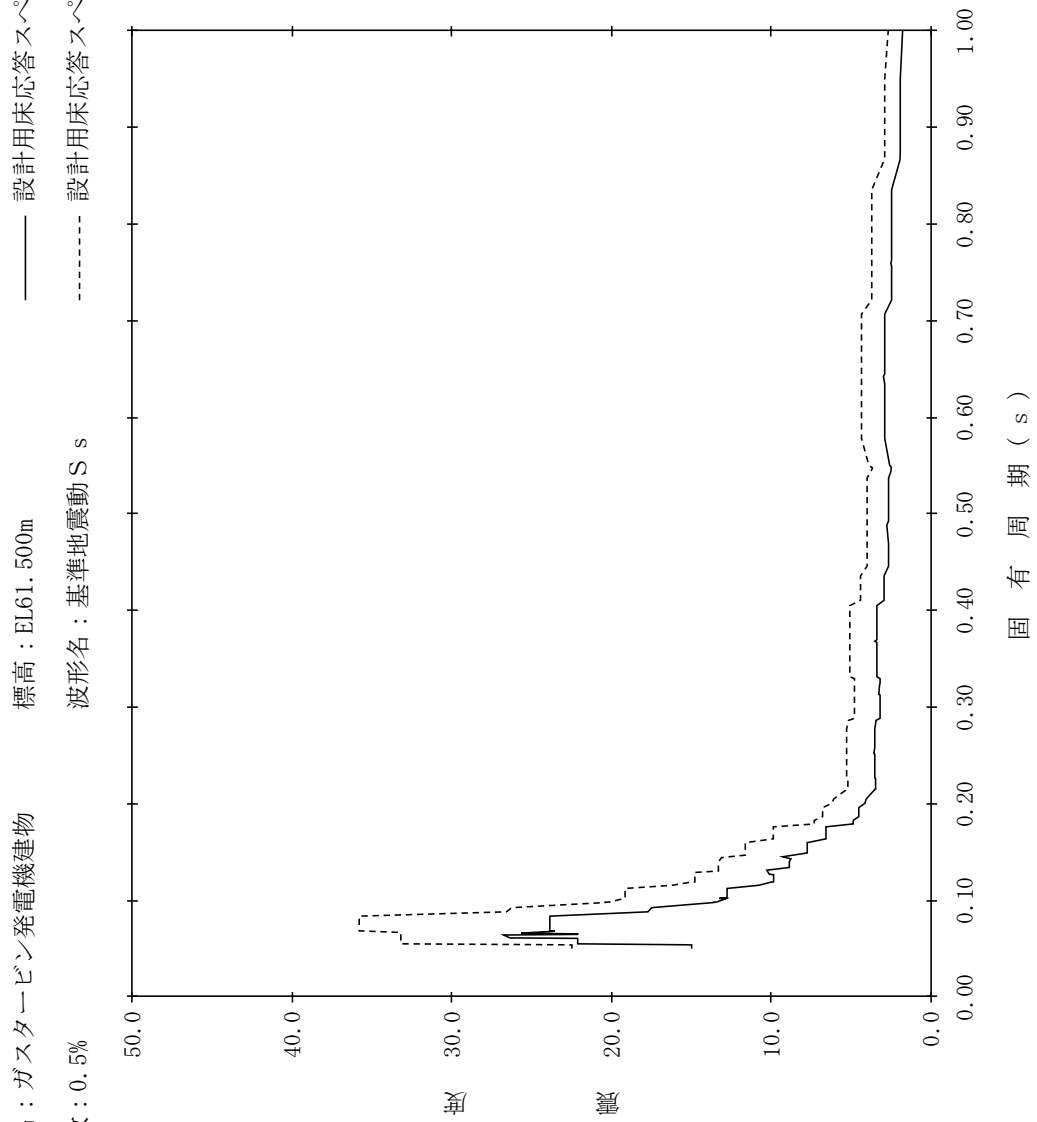
地震波	発電機建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S _s	ガスタービン 発電機建物	EW 方向	1	61.500	0.5	NS2 - GTG - SsEW - GTG 1
					1.0	NS2 - GTG - SsEW - GTG 2
					1.5	NS2 - GTG - SsEW - GTG 3
					2.0	NS2 - GTG - SsEW - GTG 4
					2.5	NS2 - GTG - SsEW - GTG 5
					3.0	NS2 - GTG - SsEW - GTG 6
					4.0	NS2 - GTG - SsEW - GTG 7
					5.0	NS2 - GTG - SsEW - GTG 8
			2	54.500	0.5	NS2 - GTG - SsEW - GTG 9
					1.0	NS2 - GTG - SsEW - GTG 10
					1.5	NS2 - GTG - SsEW - GTG 11
					2.0	NS2 - GTG - SsEW - GTG 12
					2.5	NS2 - GTG - SsEW - GTG 13
					3.0	NS2 - GTG - SsEW - GTG 14
					4.0	NS2 - GTG - SsEW - GTG 15
					5.0	NS2 - GTG - SsEW - GTG 16
			3	47.500	0.5	NS2 - GTG - SsEW - GTG 17
					1.0	NS2 - GTG - SsEW - GTG 18
					1.5	NS2 - GTG - SsEW - GTG 19
					2.0	NS2 - GTG - SsEW - GTG 20
					2.5	NS2 - GTG - SsEW - GTG 21
					3.0	NS2 - GTG - SsEW - GTG 22
					4.0	NS2 - GTG - SsEW - GTG 23
					5.0	NS2 - GTG - SsEW - GTG 24
			4	44.000	0.5	NS2 - GTG - SsEW - GTG 25
					1.0	NS2 - GTG - SsEW - GTG 26
					1.5	NS2 - GTG - SsEW - GTG 27
					2.0	NS2 - GTG - SsEW - GTG 28
					2.5	NS2 - GTG - SsEW - GTG 29
					3.0	NS2 - GTG - SsEW - GTG 30
					4.0	NS2 - GTG - SsEW - GTG 31
					5.0	NS2 - GTG - SsEW - GTG 32

表 4.4-7 設計用床応答スペクトル (S s) 一覧表 (ガスタービン発電機建物) (3/3)

地震波	発電機建物機器	方向	質点番号	標高 EL(m)	減衰定数(%)	図番
S s	ガスタービン 発電機建物	鉛直 方向	1	61.500	0.5	NS2 - GTG - SsV - GTG 1
					1.0	NS2 - GTG - SsV - GTG 2
					1.5	NS2 - GTG - SsV - GTG 3
					2.0	NS2 - GTG - SsV - GTG 4
					2.5	NS2 - GTG - SsV - GTG 5
					3.0	NS2 - GTG - SsV - GTG 6
					4.0	NS2 - GTG - SsV - GTG 7
					5.0	NS2 - GTG - SsV - GTG 8
			2	54.500	0.5	NS2 - GTG - SsV - GTG 9
					1.0	NS2 - GTG - SsV - GTG 10
					1.5	NS2 - GTG - SsV - GTG 11
					2.0	NS2 - GTG - SsV - GTG 12
					2.5	NS2 - GTG - SsV - GTG 13
					3.0	NS2 - GTG - SsV - GTG 14
					4.0	NS2 - GTG - SsV - GTG 15
					5.0	NS2 - GTG - SsV - GTG 16
			3	47.500	0.5	NS2 - GTG - SsV - GTG 17
					1.0	NS2 - GTG - SsV - GTG 18
					1.5	NS2 - GTG - SsV - GTG 19
					2.0	NS2 - GTG - SsV - GTG 20
					2.5	NS2 - GTG - SsV - GTG 21
					3.0	NS2 - GTG - SsV - GTG 22
					4.0	NS2 - GTG - SsV - GTG 23
					5.0	NS2 - GTG - SsV - GTG 24
			4	44.000	0.5	NS2 - GTG - SsV - GTG 25
					1.0	NS2 - GTG - SsV - GTG 26
					1.5	NS2 - GTG - SsV - GTG 27
					2.0	NS2 - GTG - SsV - GTG 28
					2.5	NS2 - GTG - SsV - GTG 29
					3.0	NS2 - GTG - SsV - GTG 30
					4.0	NS2 - GTG - SsV - GTG 31
					5.0	NS2 - GTG - SsV - GTG 32

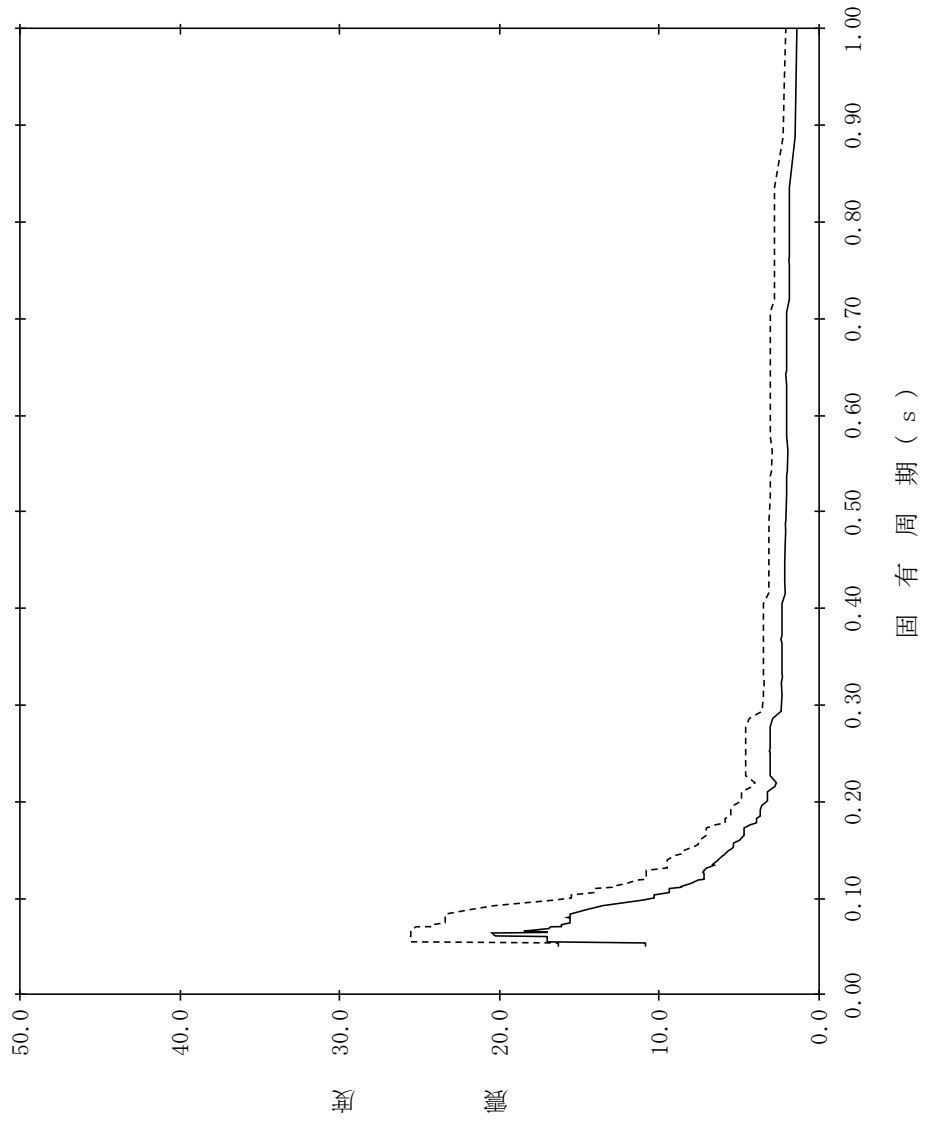
【NS2-GTG-SsNS-GTG1】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL61.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s



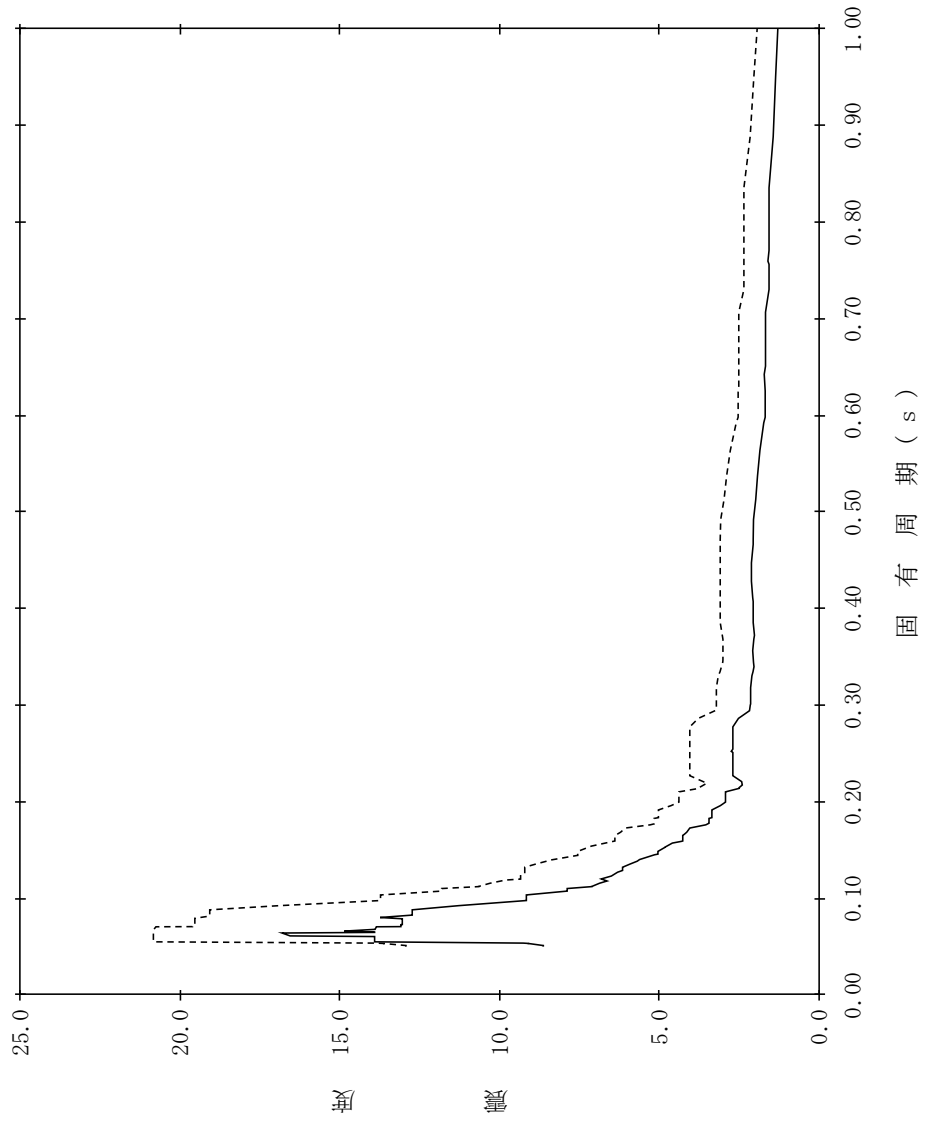
【NS2-GTG-SsNS-GTG2】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL61.500m
 減衰定数：1.0%
 波形式：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-GTG-SsNS-GTG3】

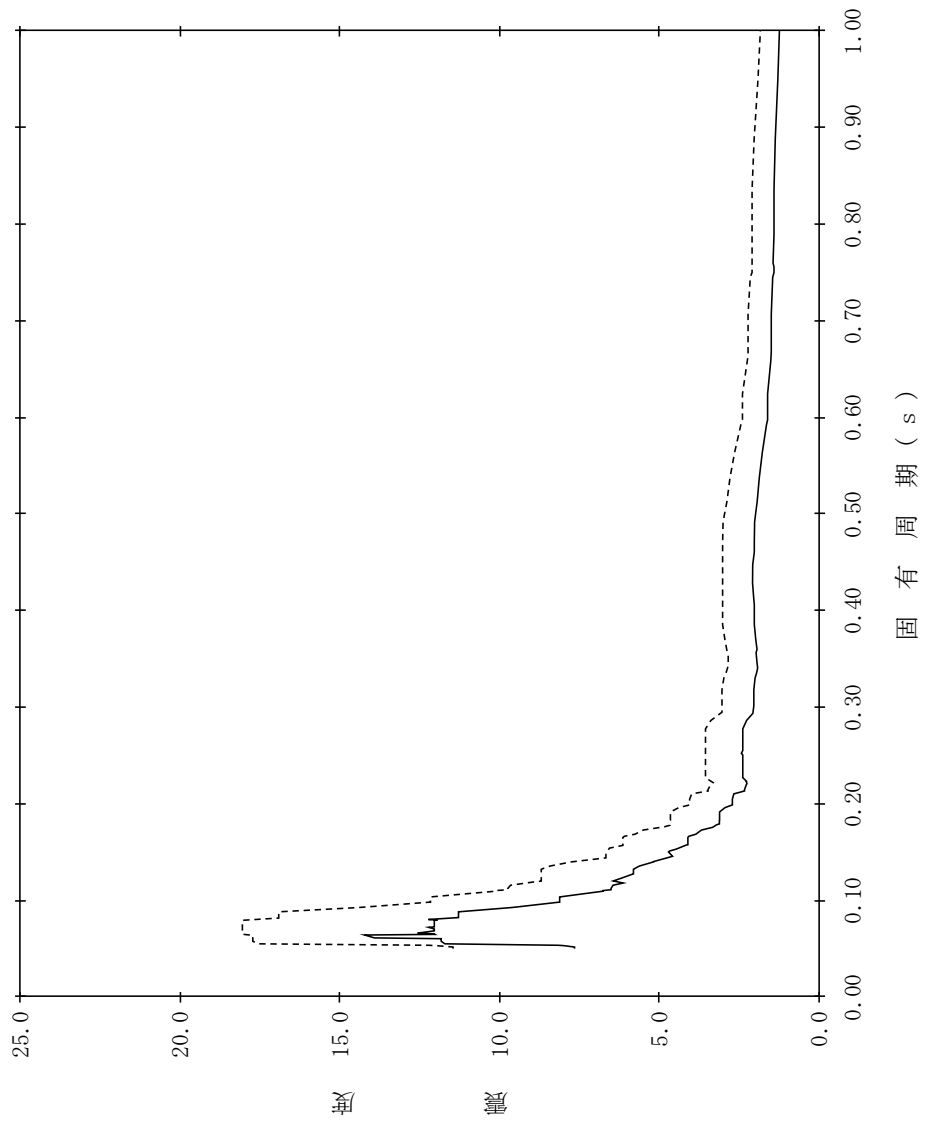
構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL61.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-GTG-SsNS-GTG4】

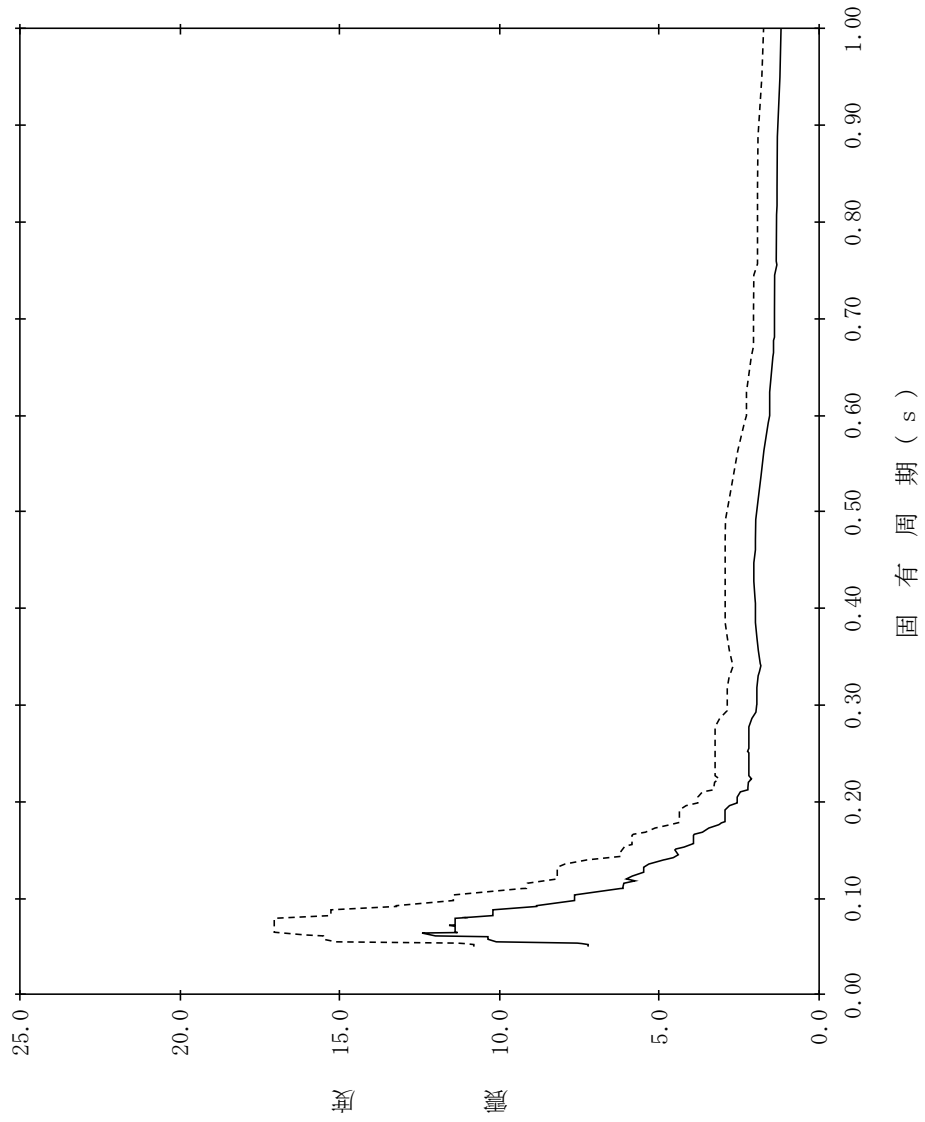
構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL61.500m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s

—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



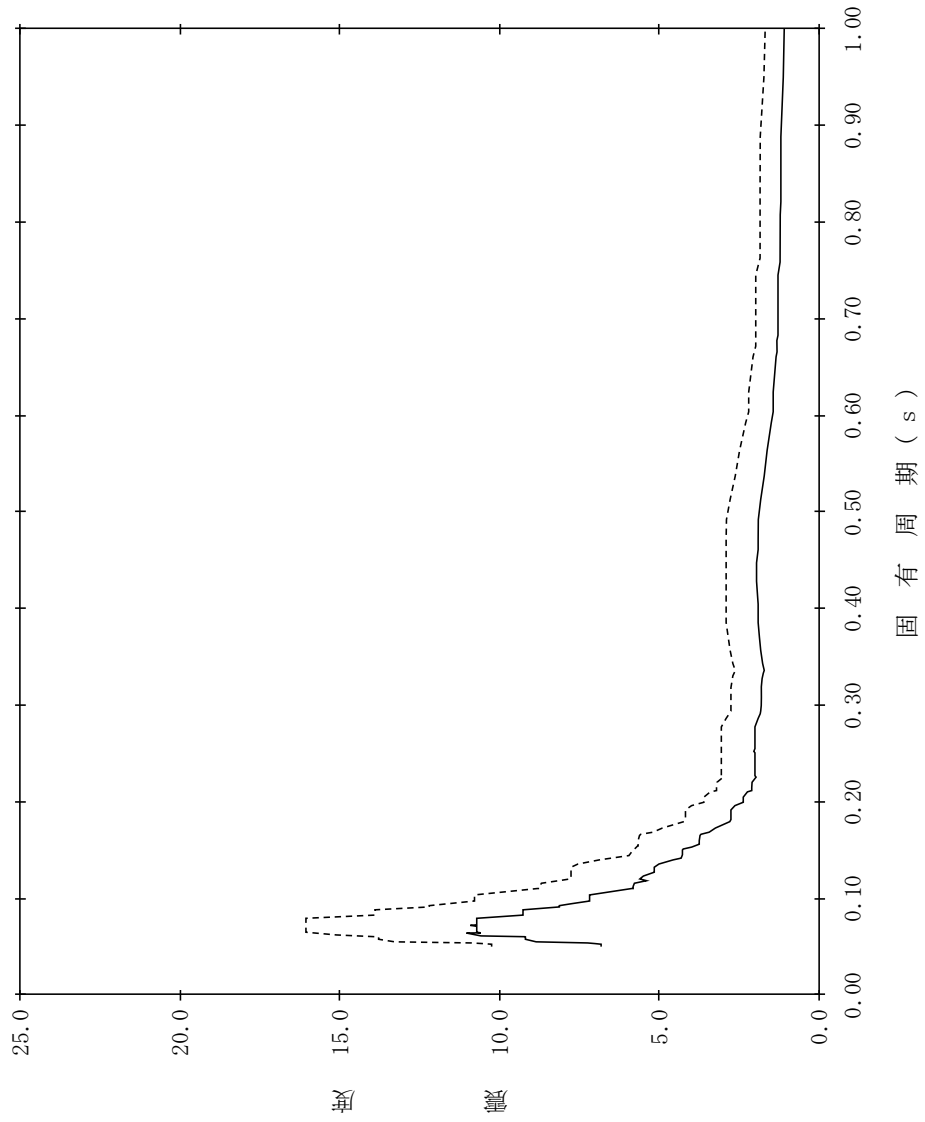
【NS2-GTG-SsNS-GTG5】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL61.500m
 減衰定数：2.5%
 波形式：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



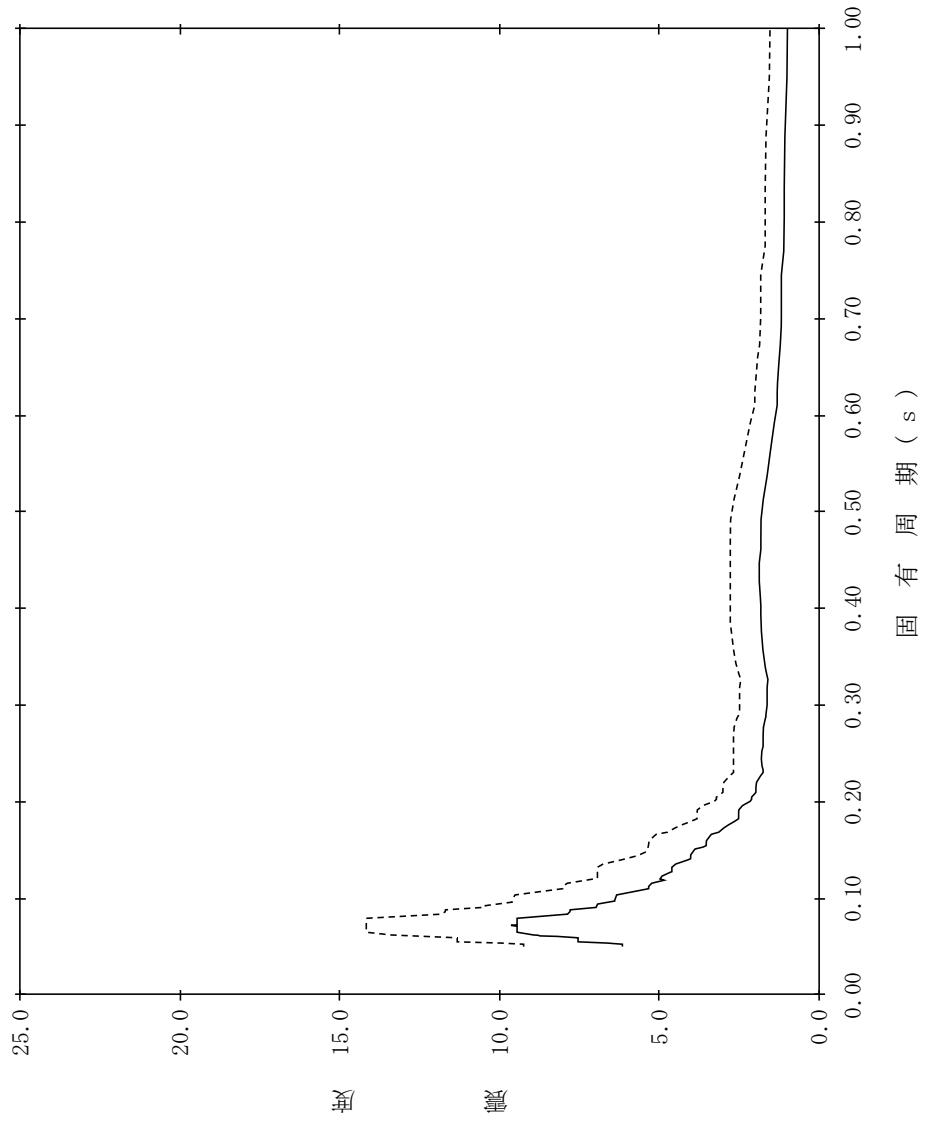
【NS2-GTG-SsNS-GTG6】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL61.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



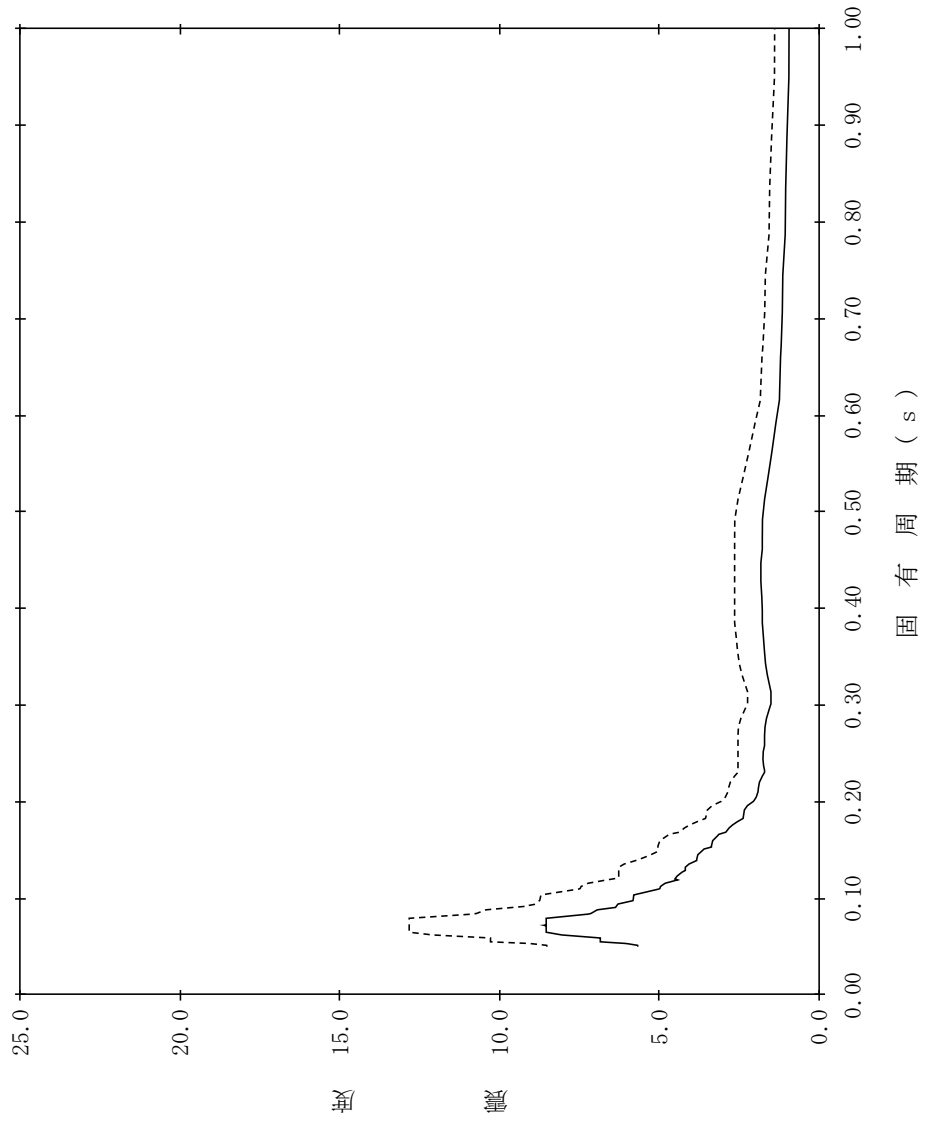
【NS2-GTG-SsNS-GTG7】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL61.500m
 減衰定数：4.0%
 波形式：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



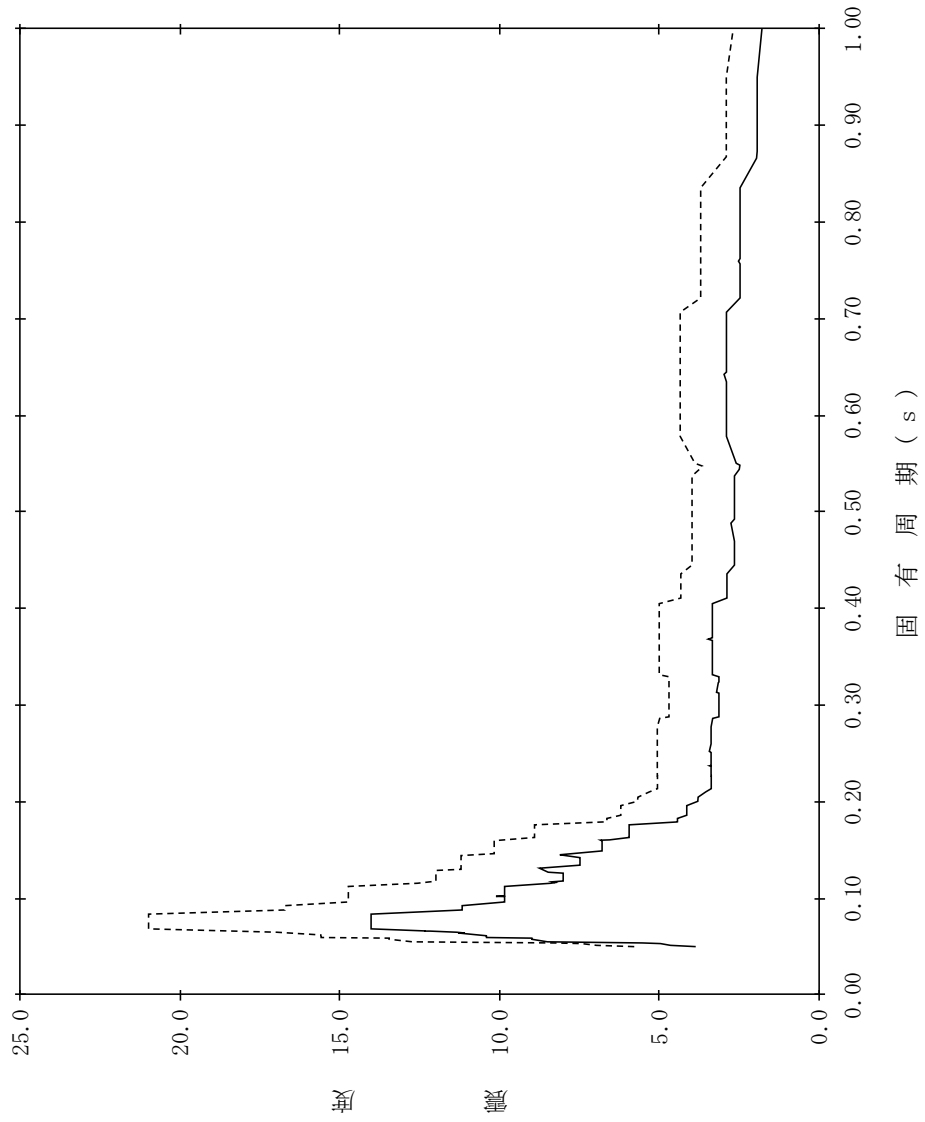
【NS2-GTG-SsNS-GTG8】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL61.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



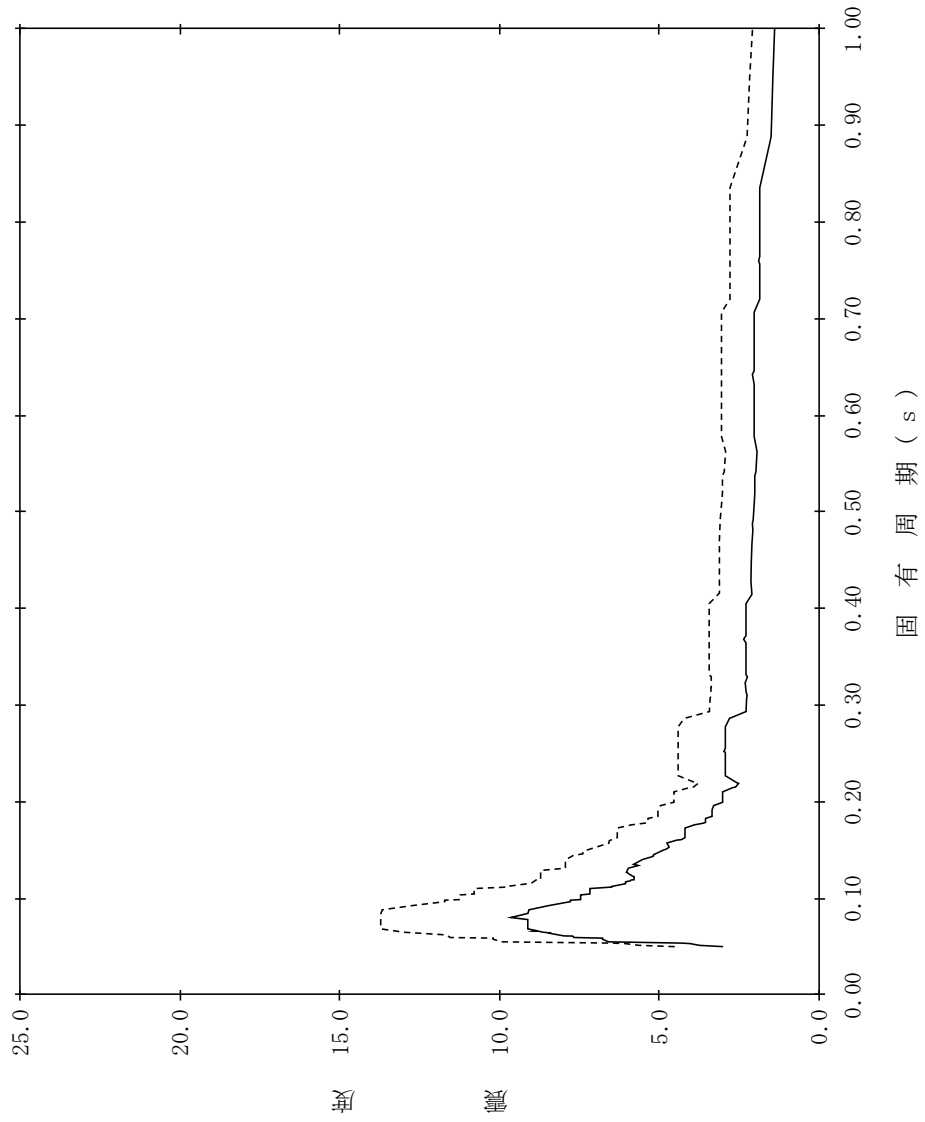
【NS2-GTG-SsNS-GTG9】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



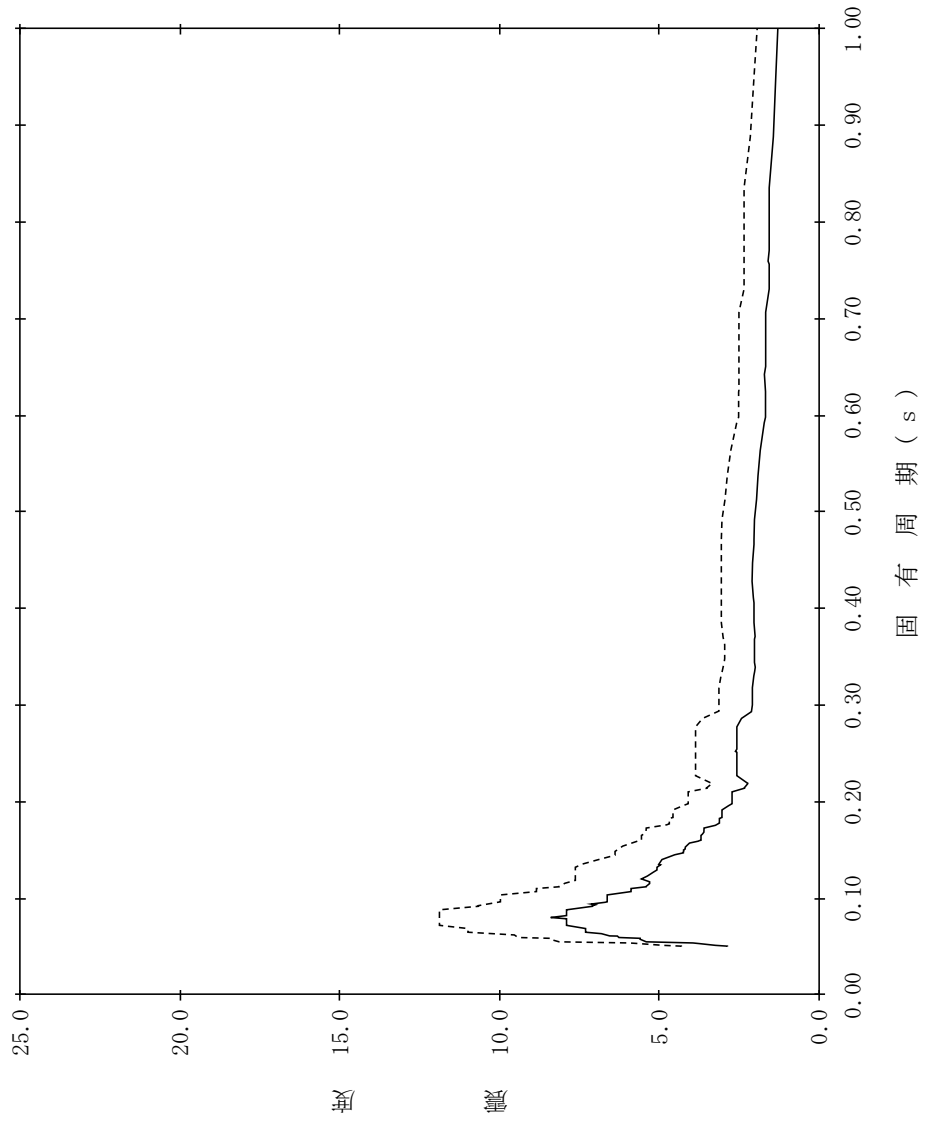
【NS2-GTG-SsNS-GTG10】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



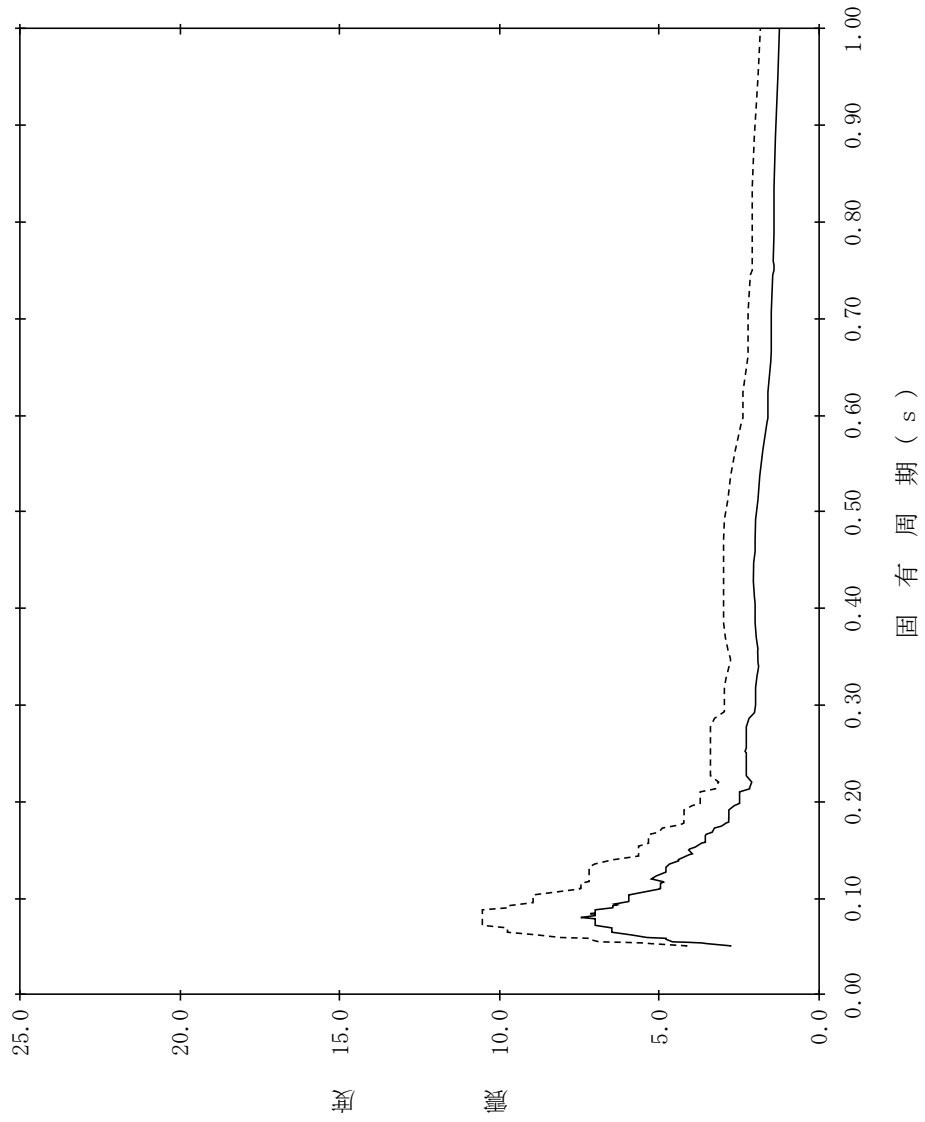
【NS2-GTG-SsNS-GTG11】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



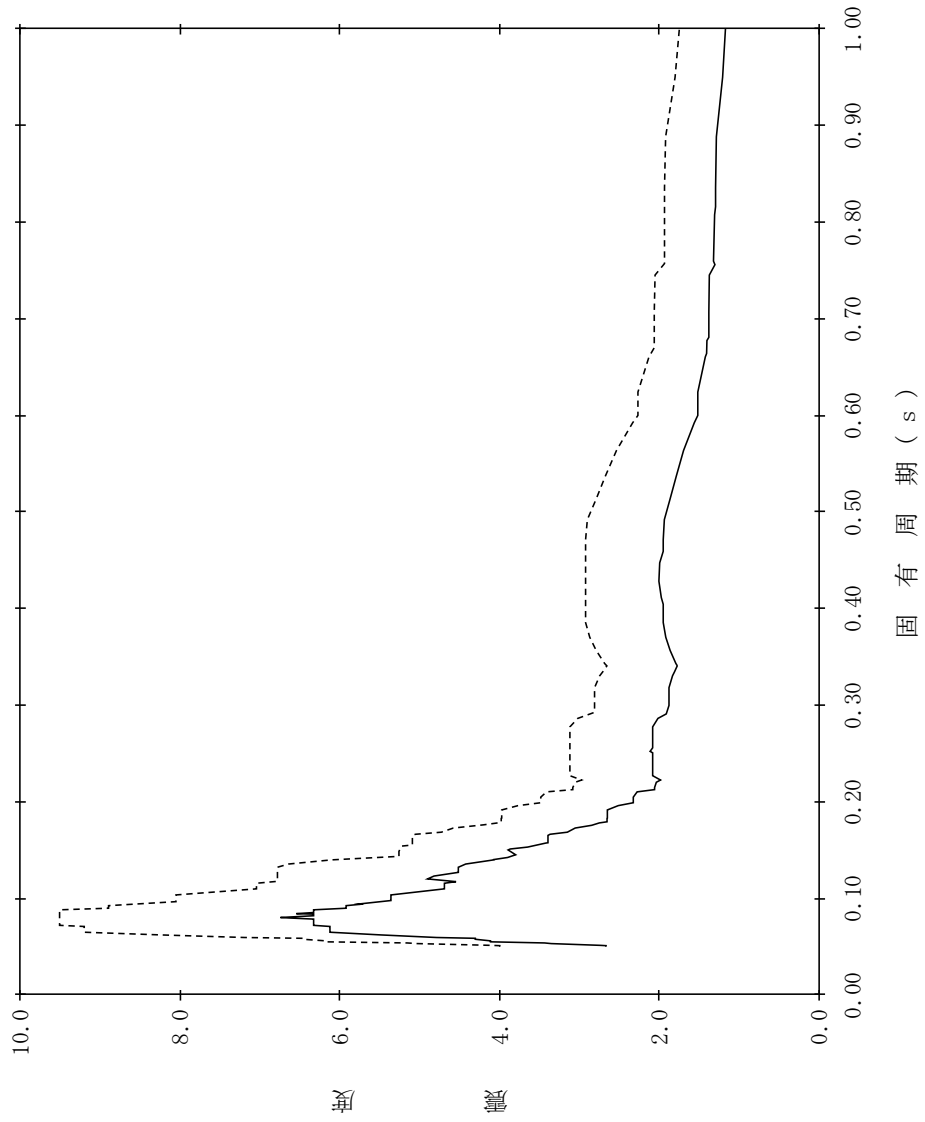
【NS2-GTG-SsNS-GTG12】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：2.0%
 波形式：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



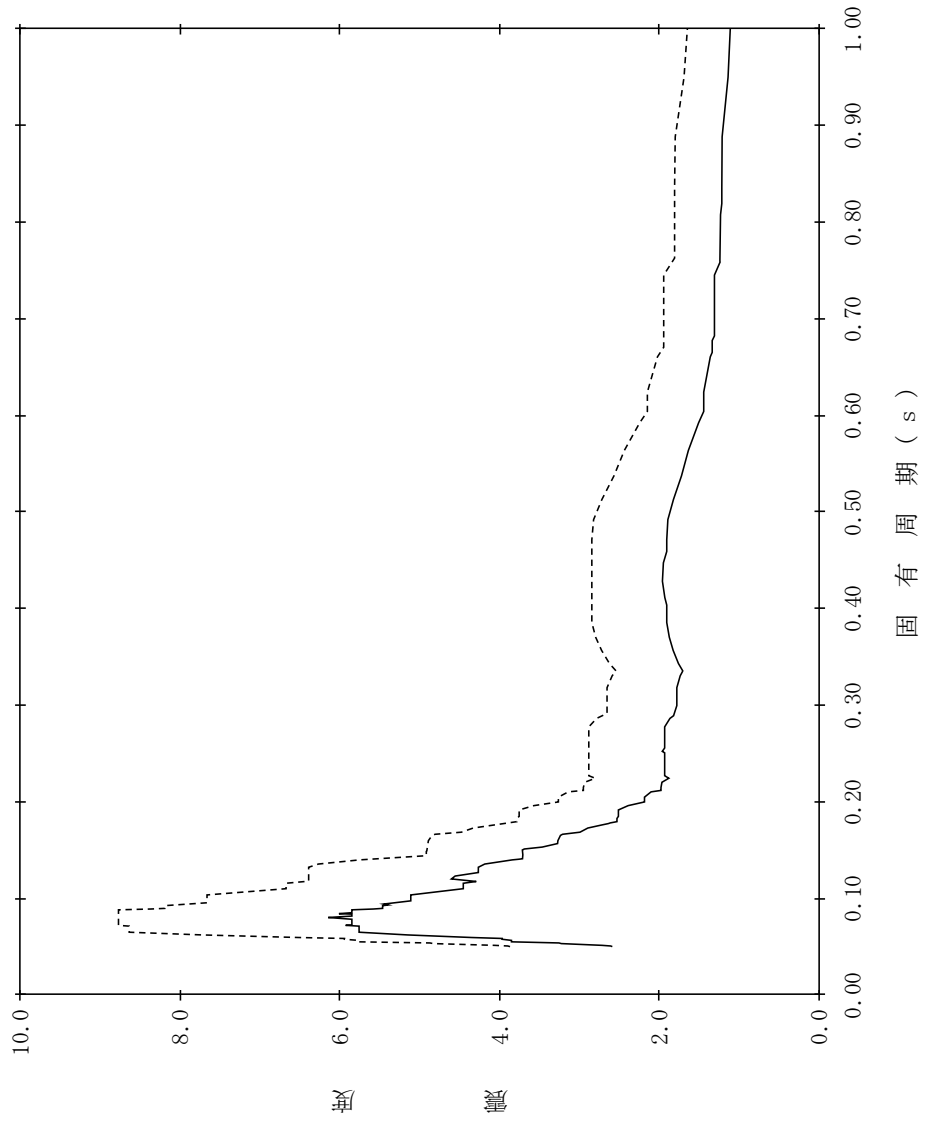
【NS2-GTG-SsNS-GTG13】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：2.5%
 波形式：標準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



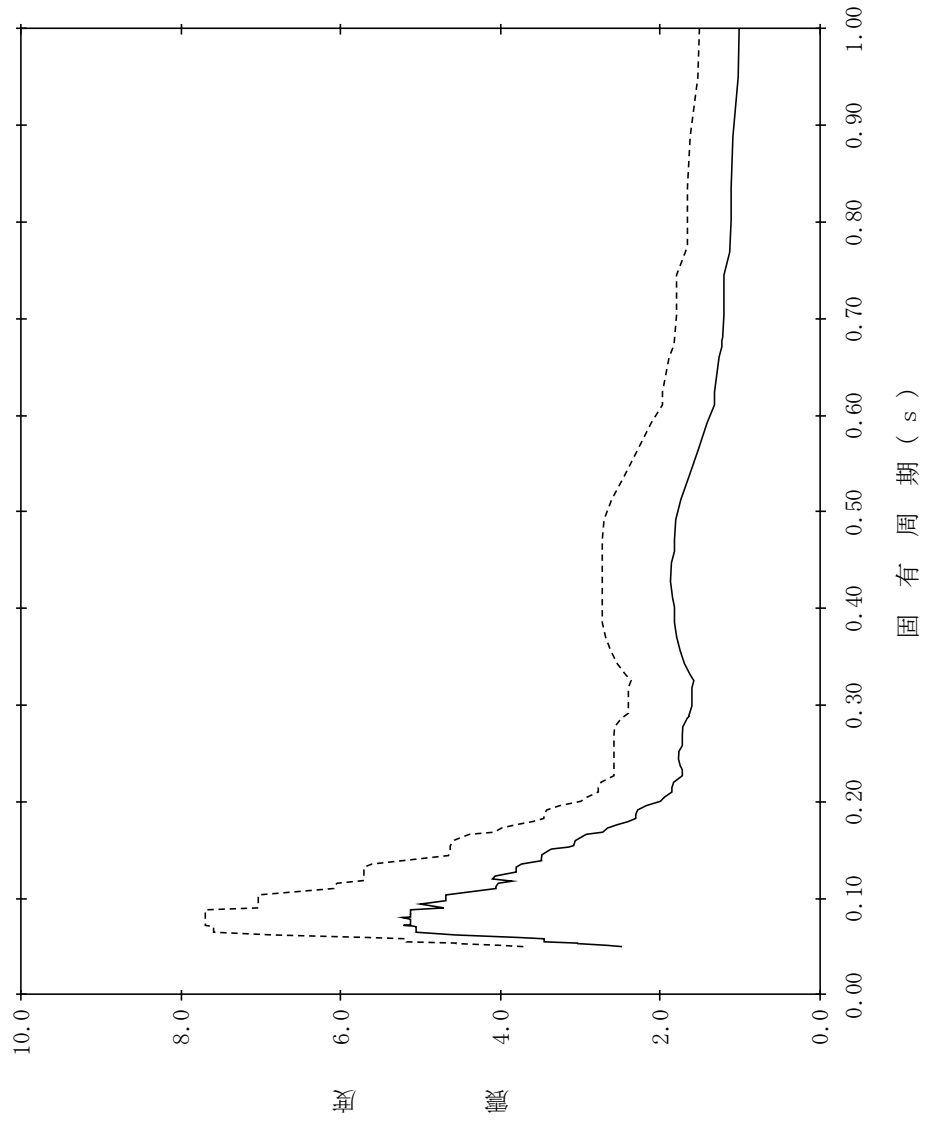
【NS2-GTG-SsNS-GTG14】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：3.0%
 波形式：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



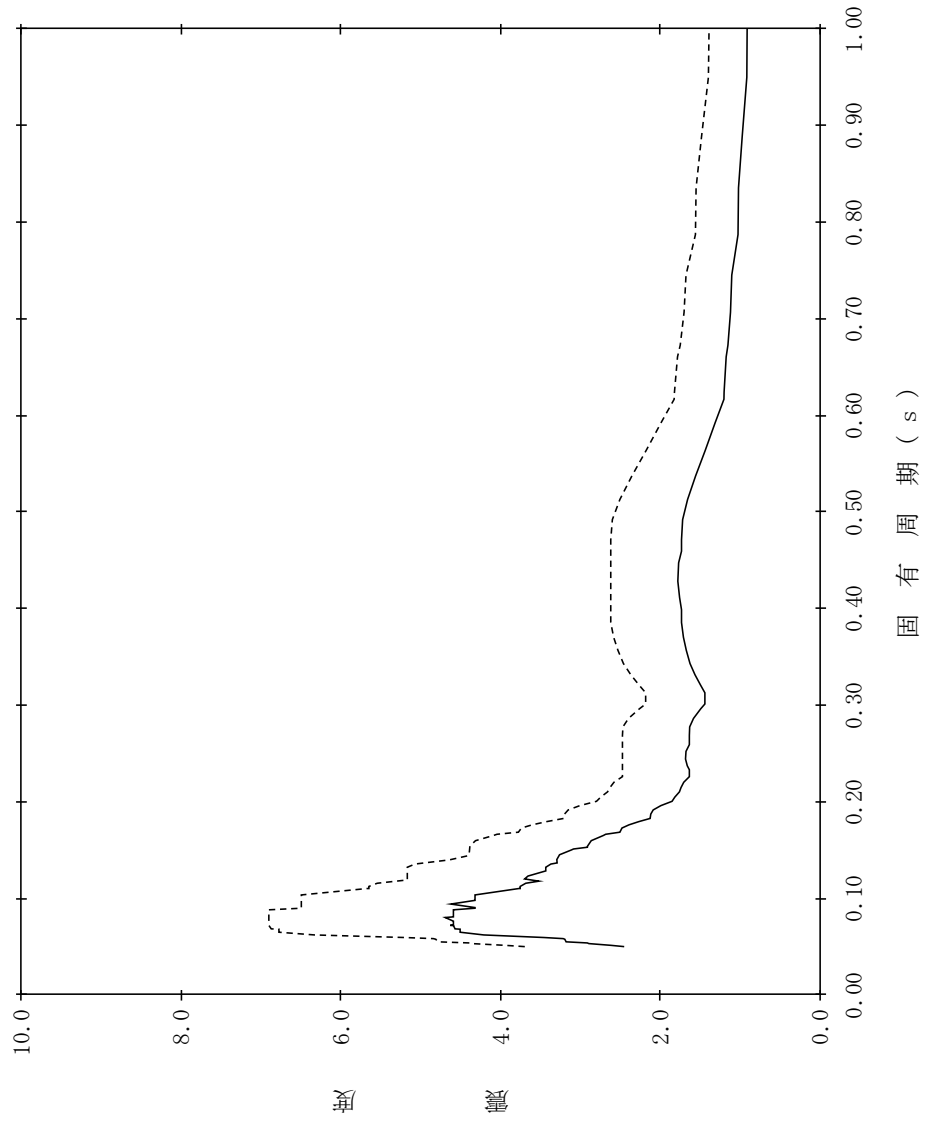
【NS2-GTG-SsNS-GTG15】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：4.0%
 波形式：標準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-GTG-SsNS-GTG16】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：5.0%
 波形式：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)

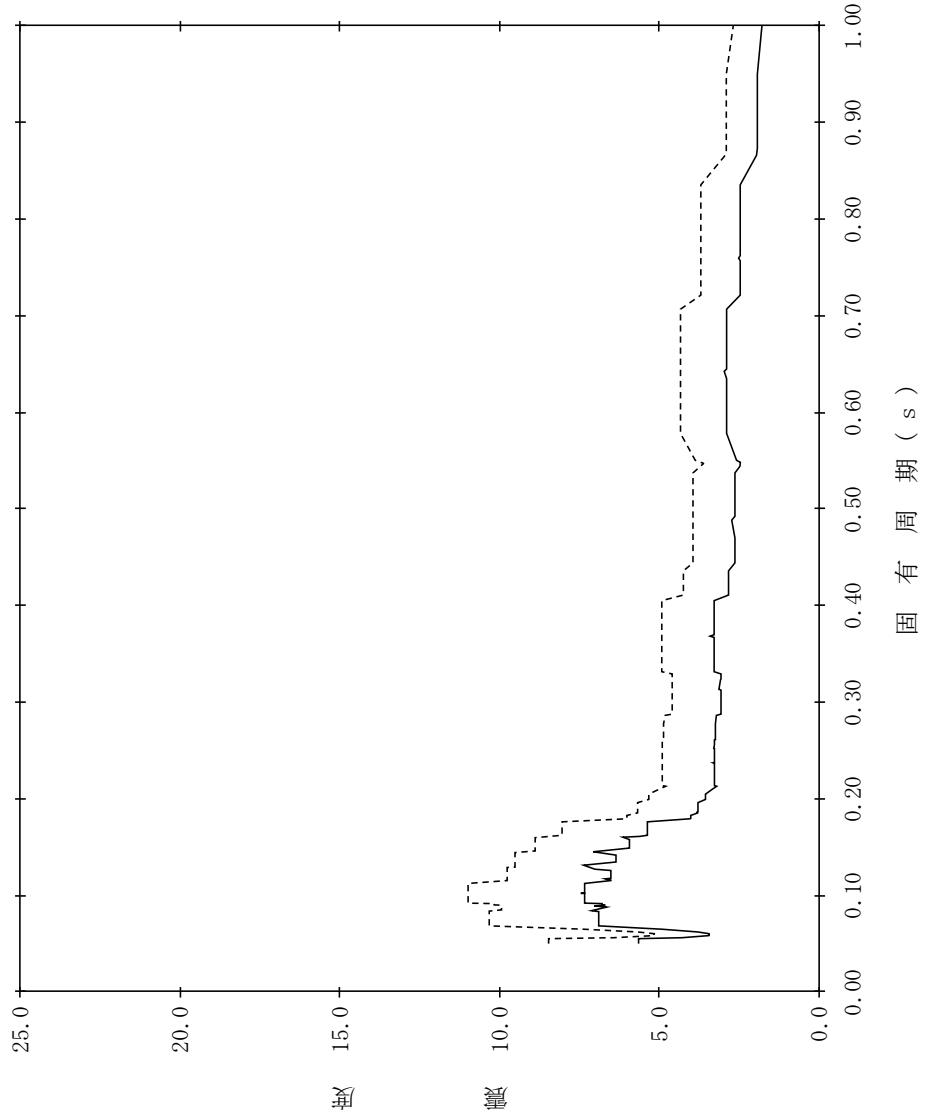


【NS2-GTG-SsNS-GTG17】

構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL47.500m
減衰定数：0.5%
波形名：基準地震動 S s

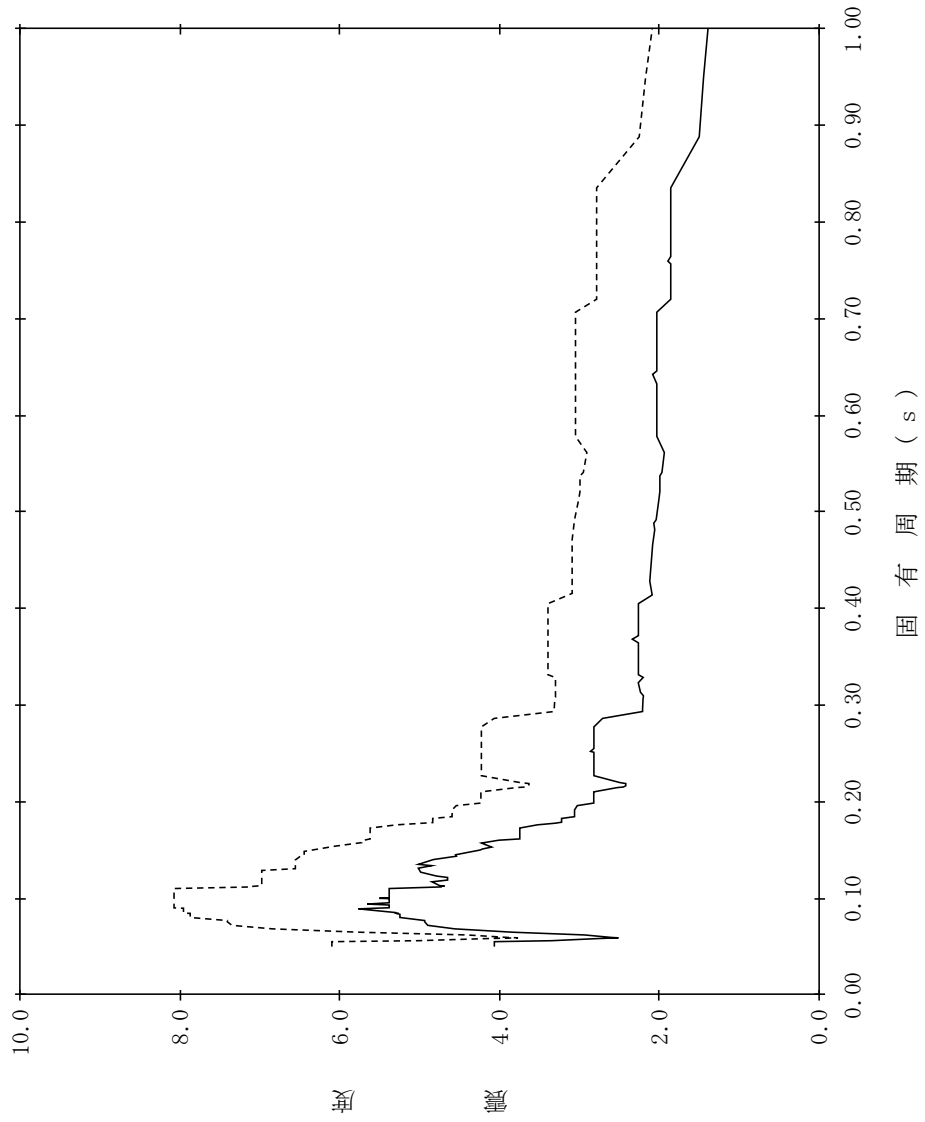
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-GTG-SsNS-GTG18】

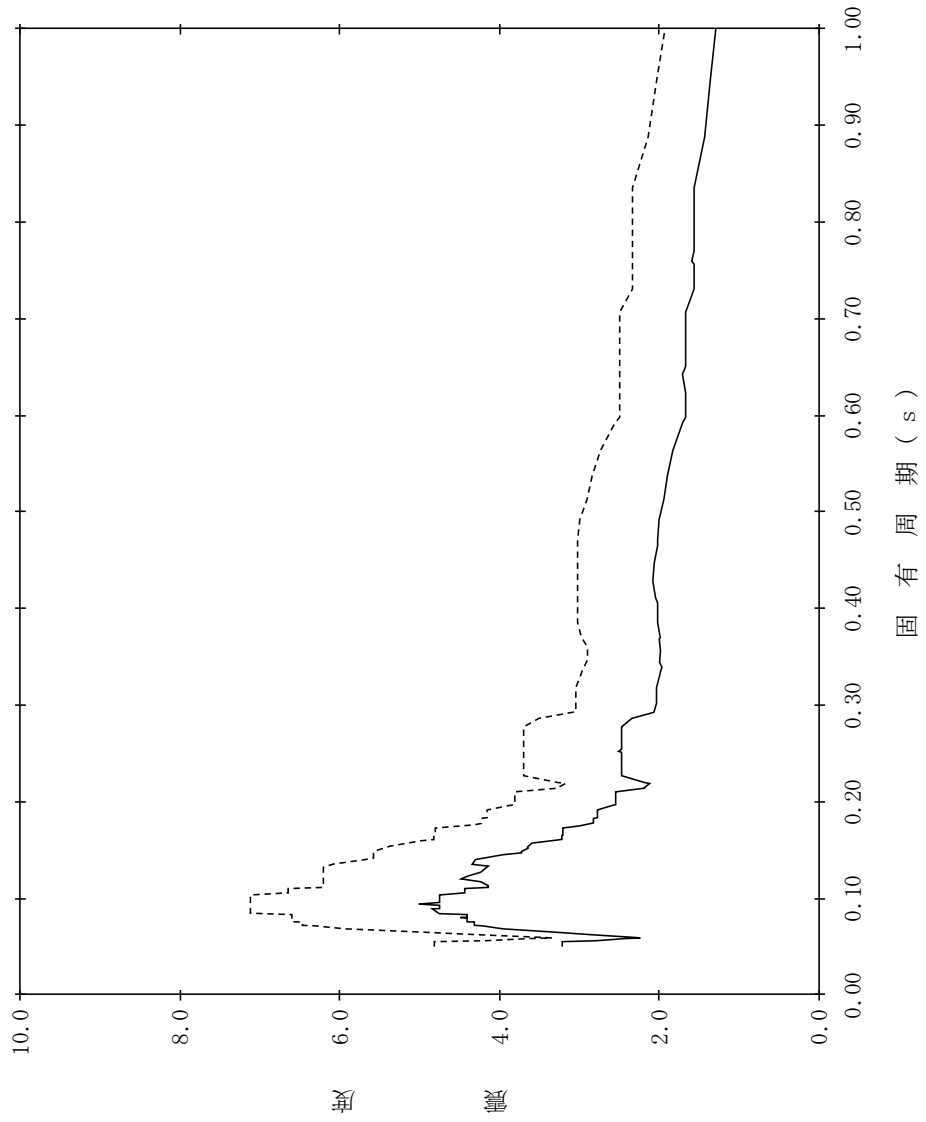
構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL47.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-GTG-SsNS-GTG19】

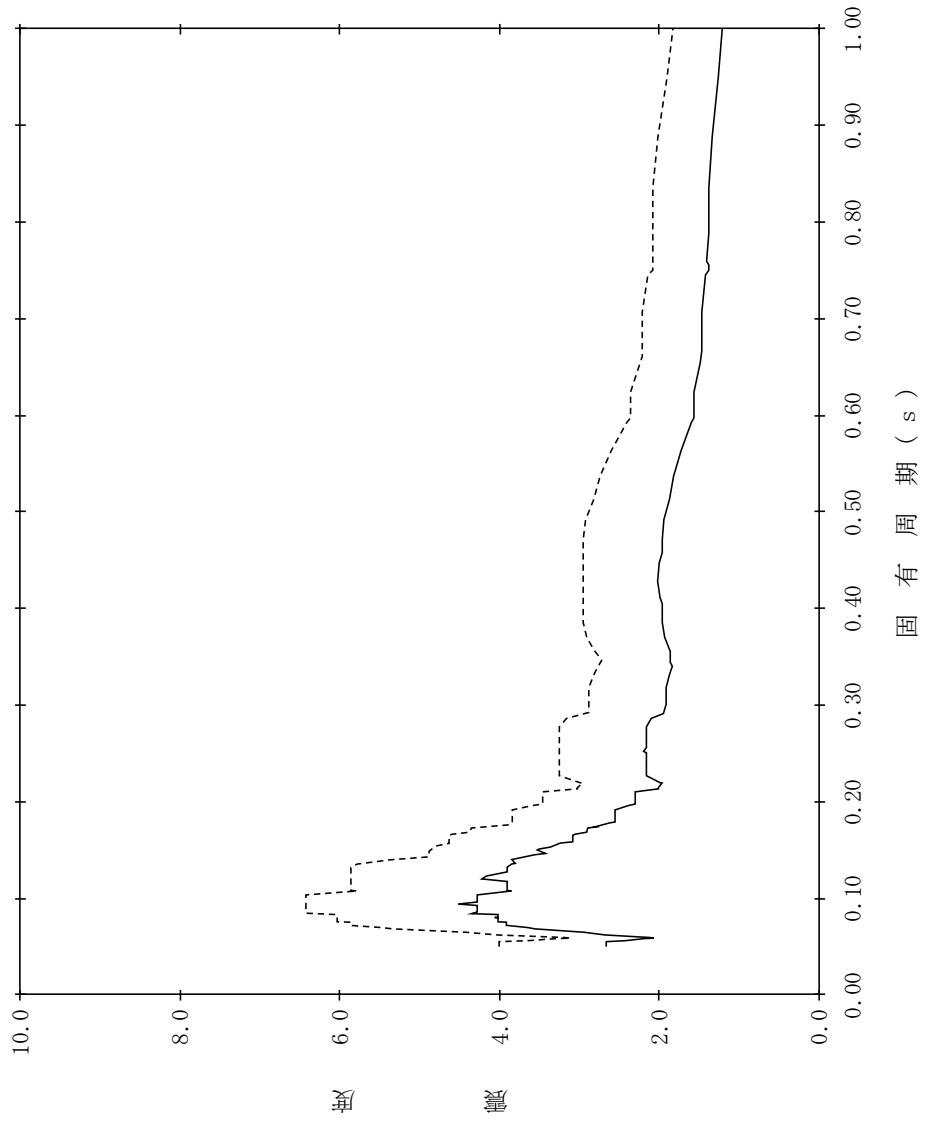
構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL47.500m
減衰定数：1.5%

—— 設計用床応答スペクトルⅠ (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトルⅡ (NS方向)



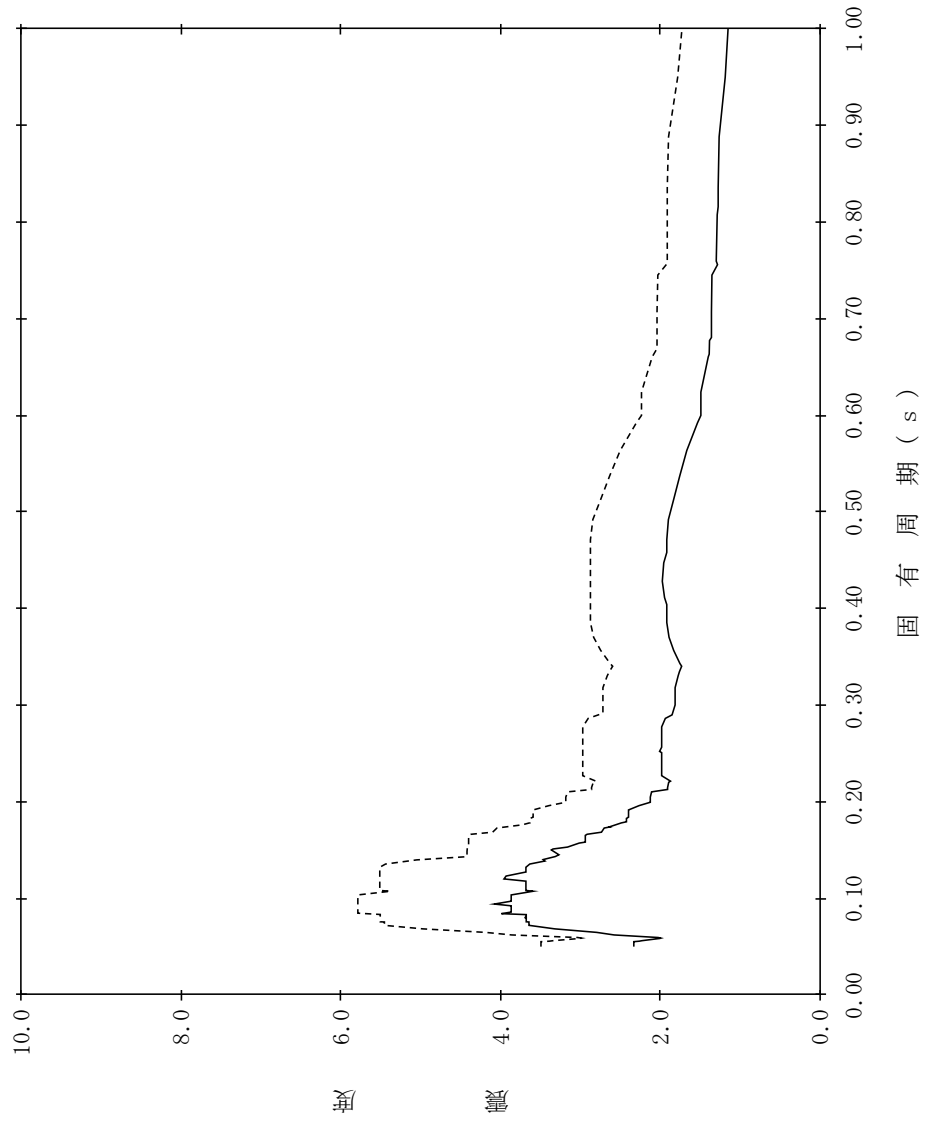
【NS2-GTG-SsNS-GTG20】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL47.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



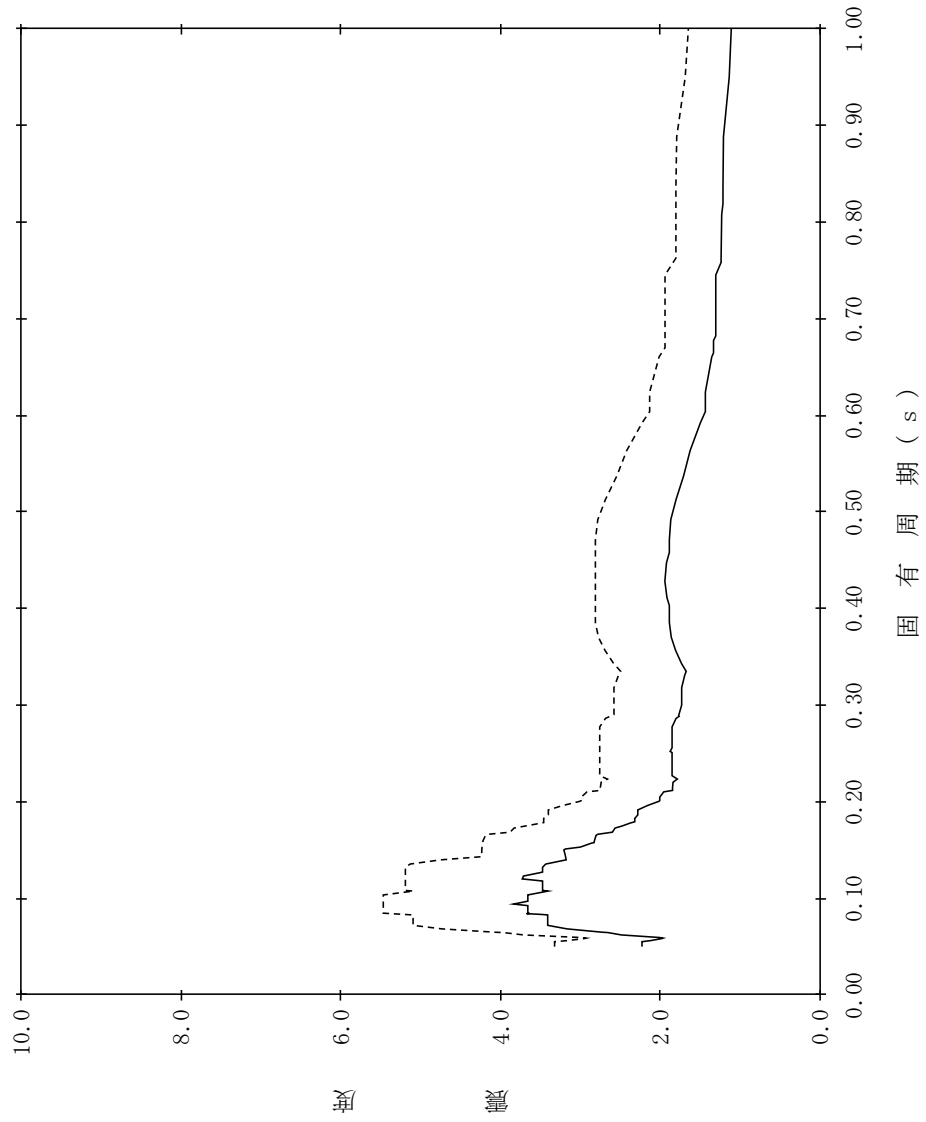
【NS2-GTG-SsNS-GTG21】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL47.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



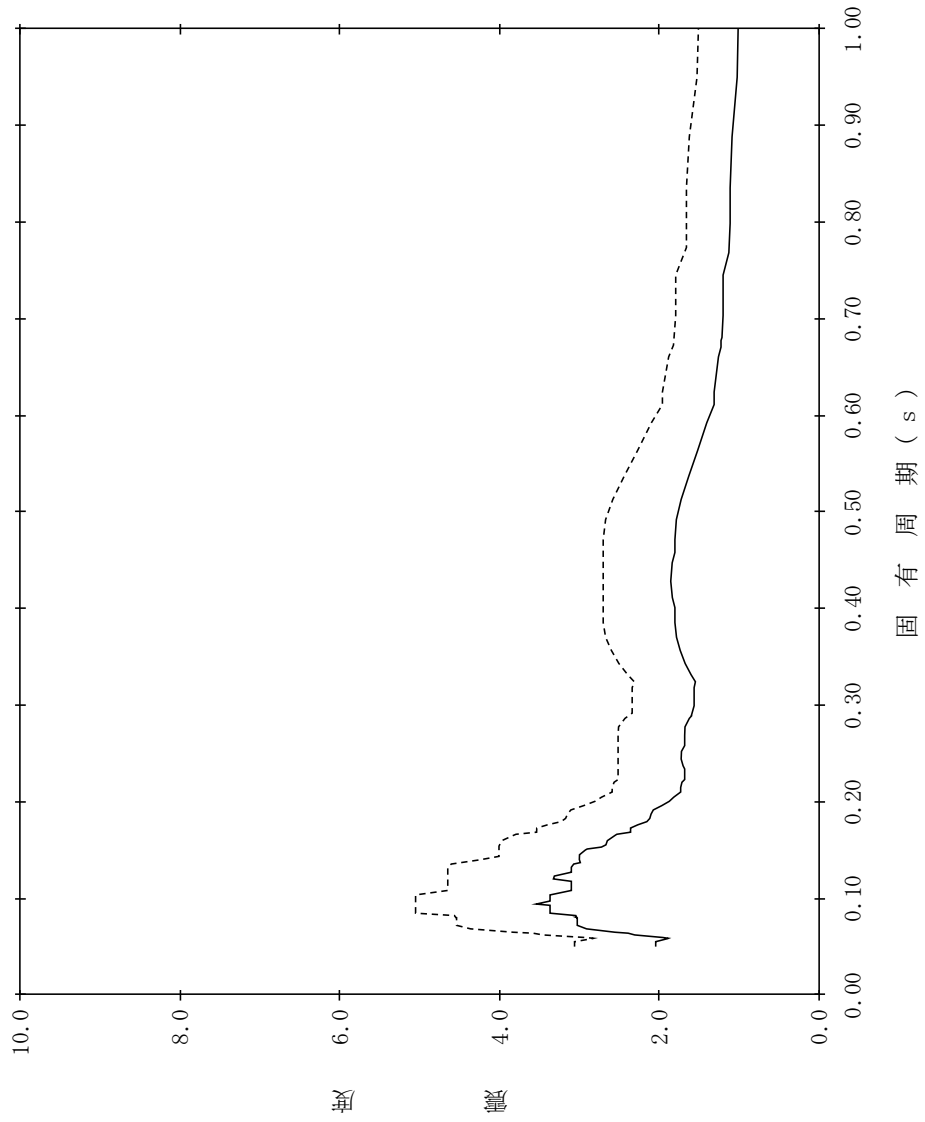
【NS2-GTG-SsNS-GTG22】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL47.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



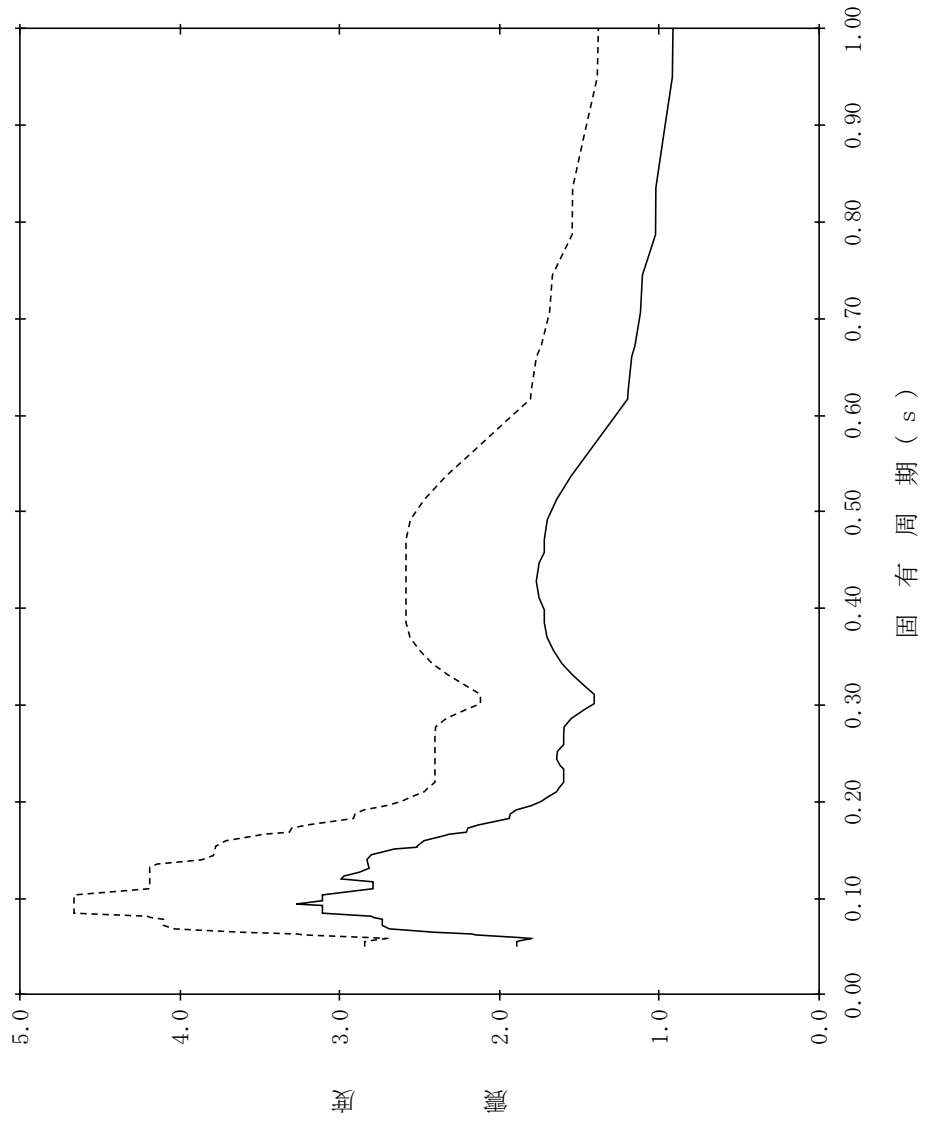
【NS2-GTG-SsNS-GTG23】

構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL47.500m
減衰定数：4.0%
波形式：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



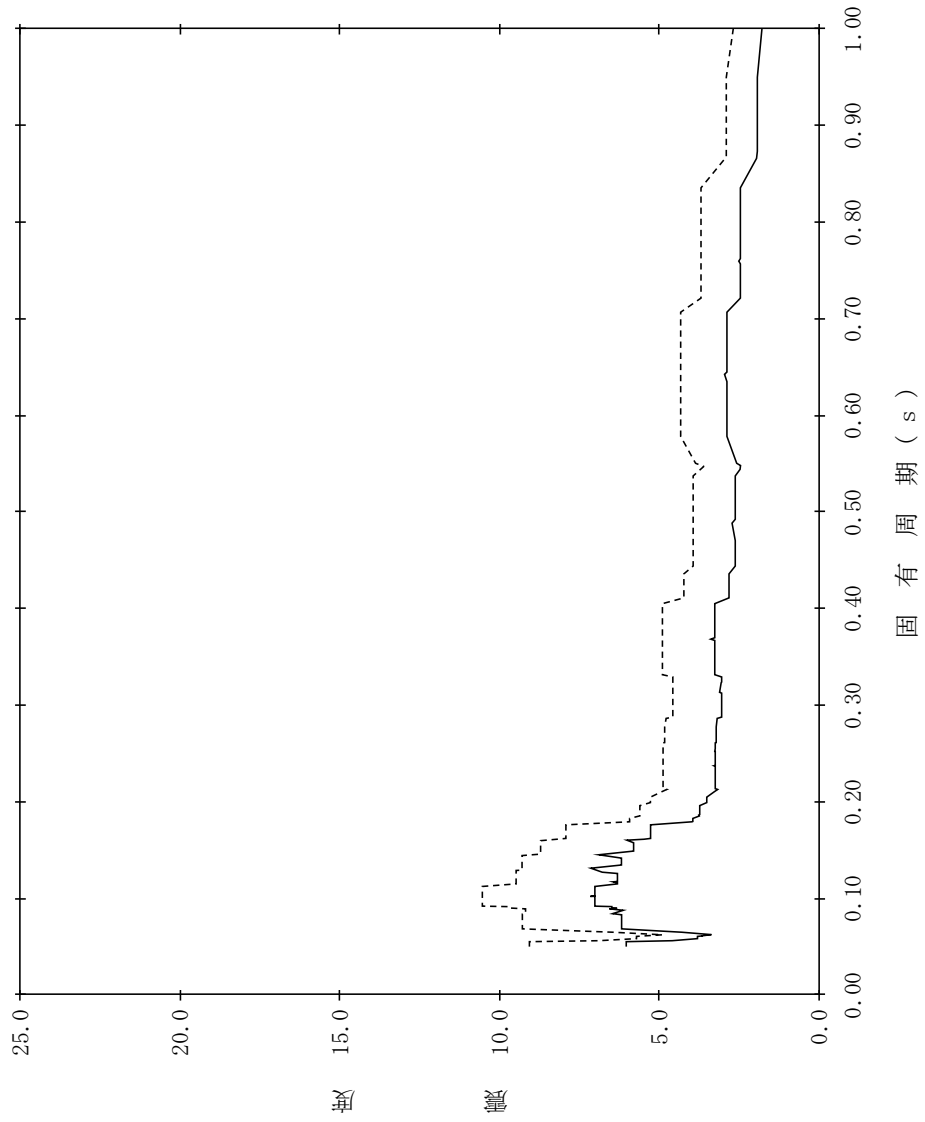
【NS2-GTG-SsNS-GTG24】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL47.500m
 減衰定数：5.0%
 波形式：標準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



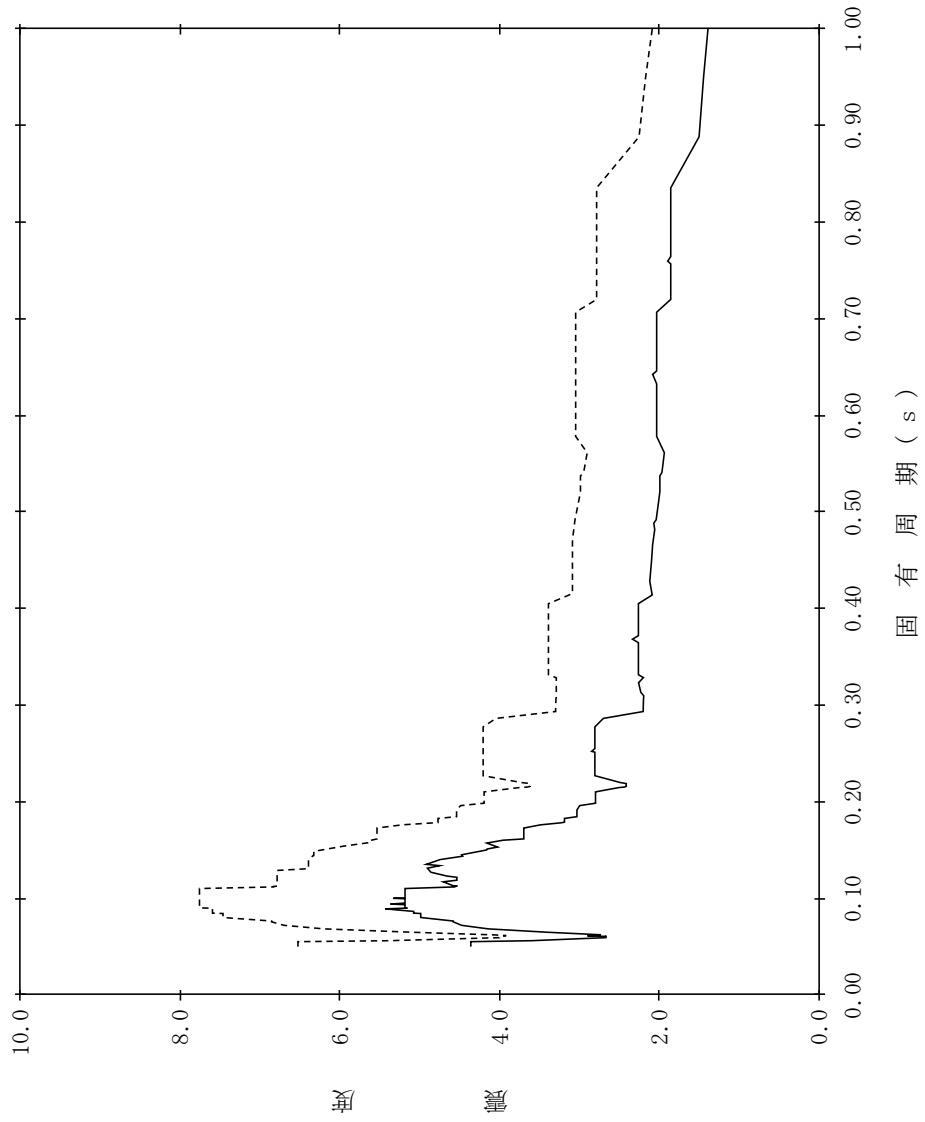
【NS2-GTG-SsNS-GTG25】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL44.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



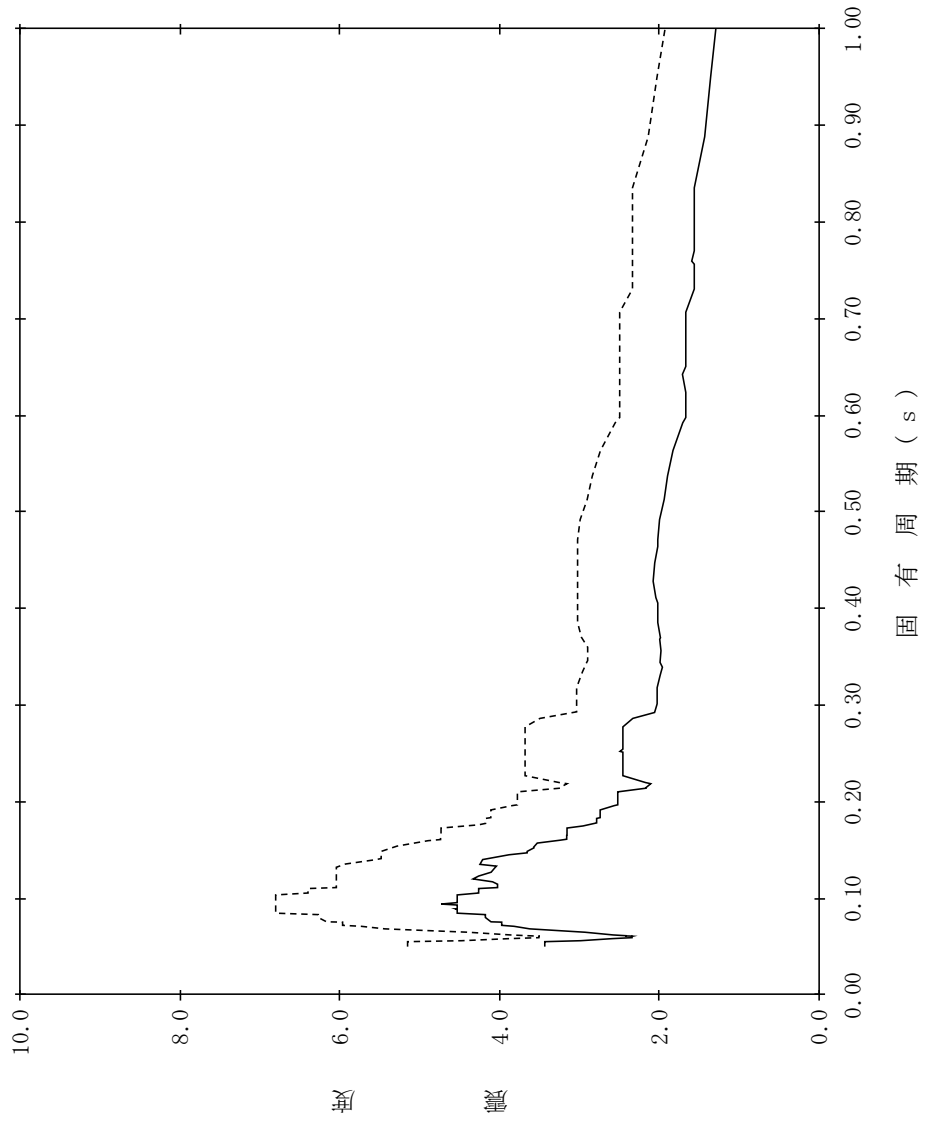
【NS2-GTG-SsNS-GTG26】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL44.000m
 減衰定数：1.0%
 波形式：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-GTG-SsNS-GTG27】

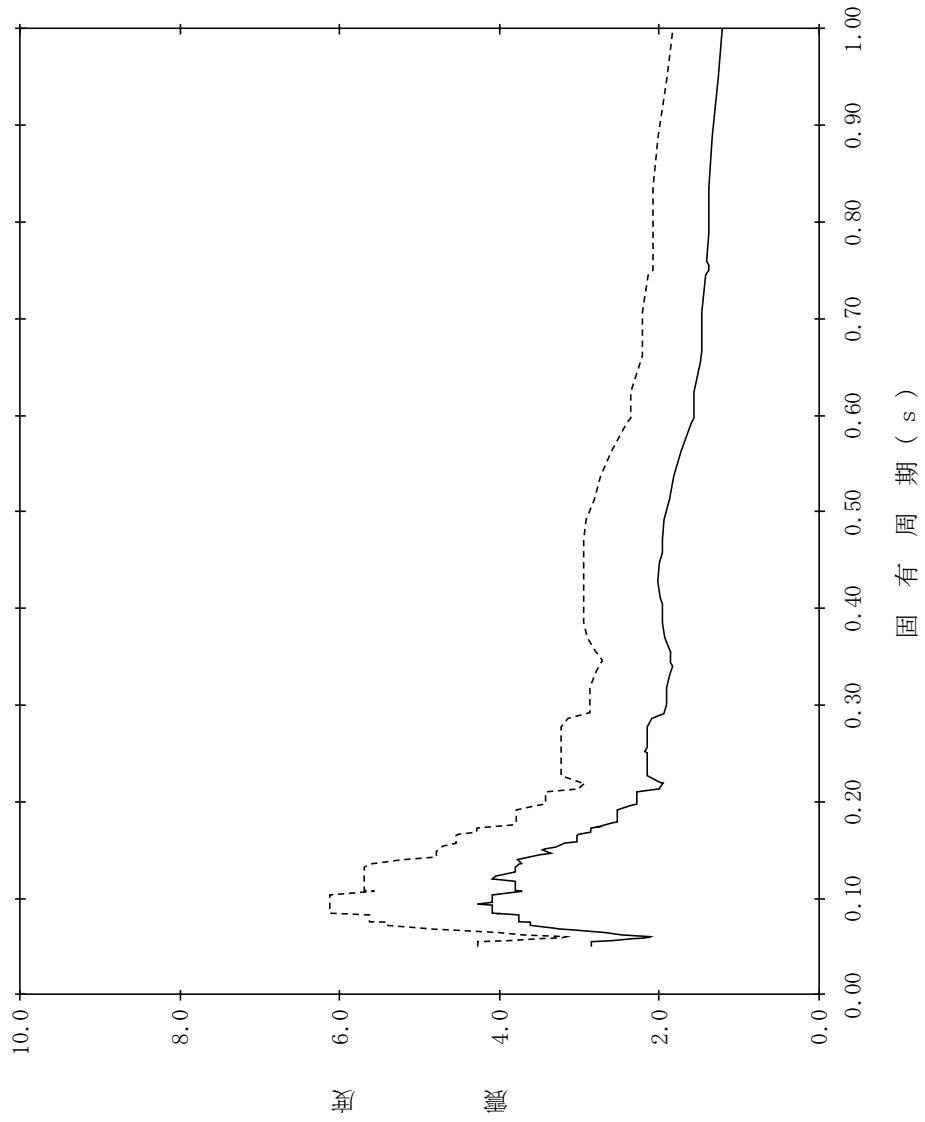
構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL44.000m
減衰定数：1.5%
波形式：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-GTG-SsNS-GTG28】

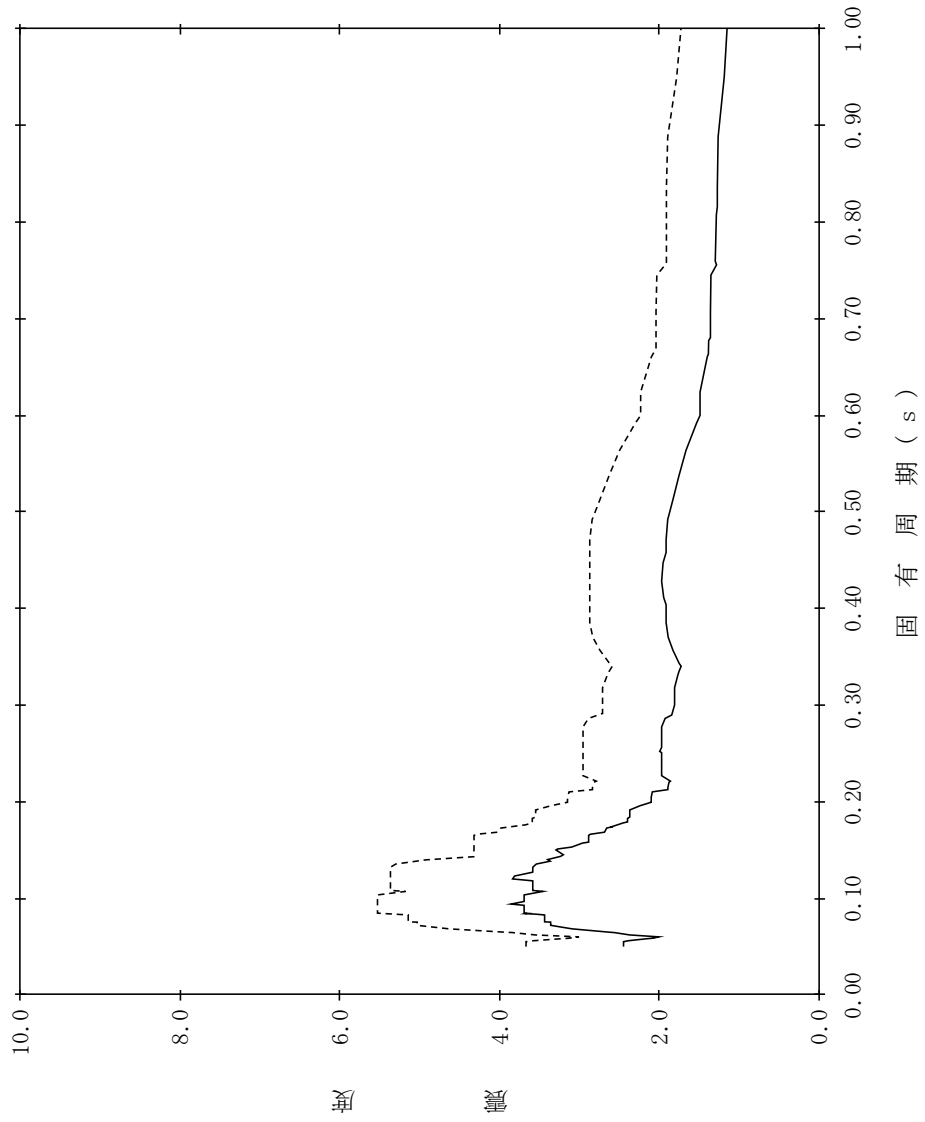
構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL44.000m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s

—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



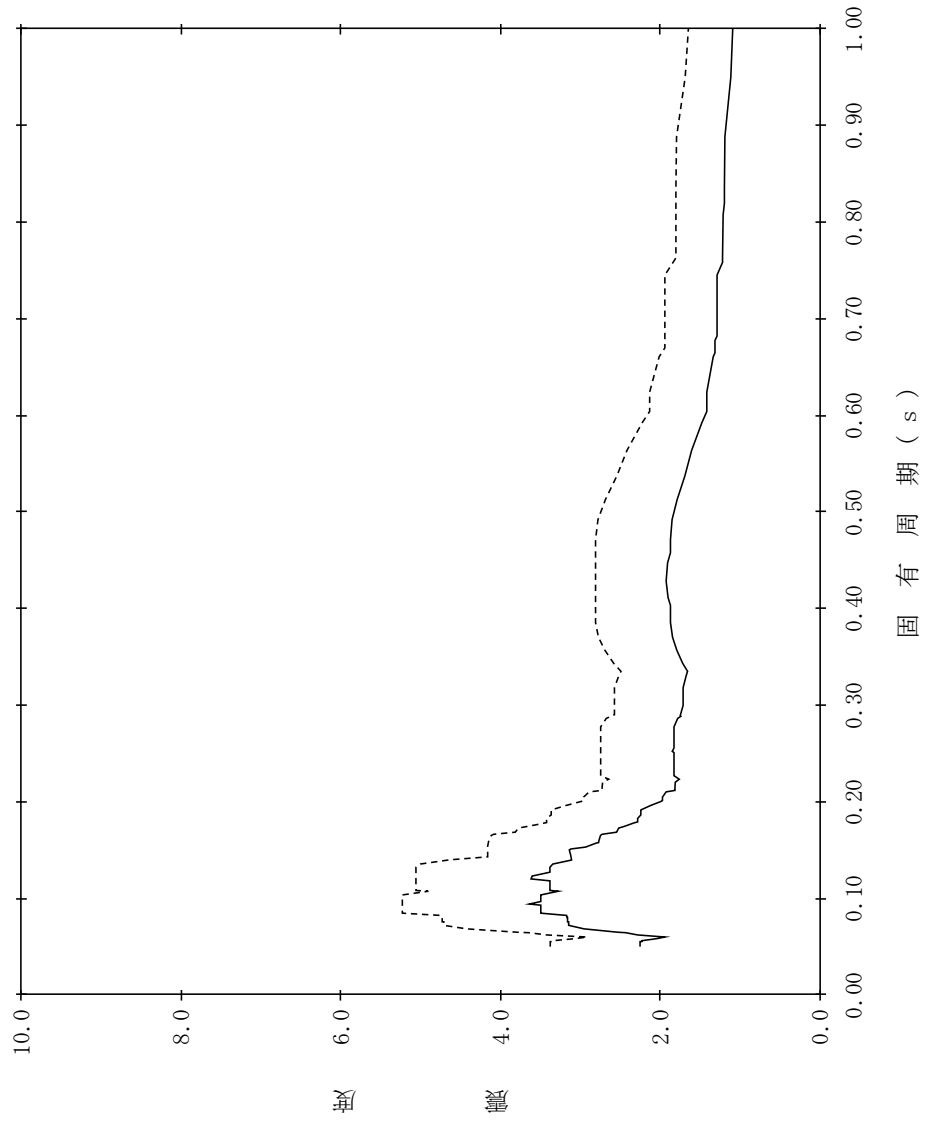
【NS2-GTG-SsNS-GTG29】

構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL44.000m
減衰定数：2.5%
波形式：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



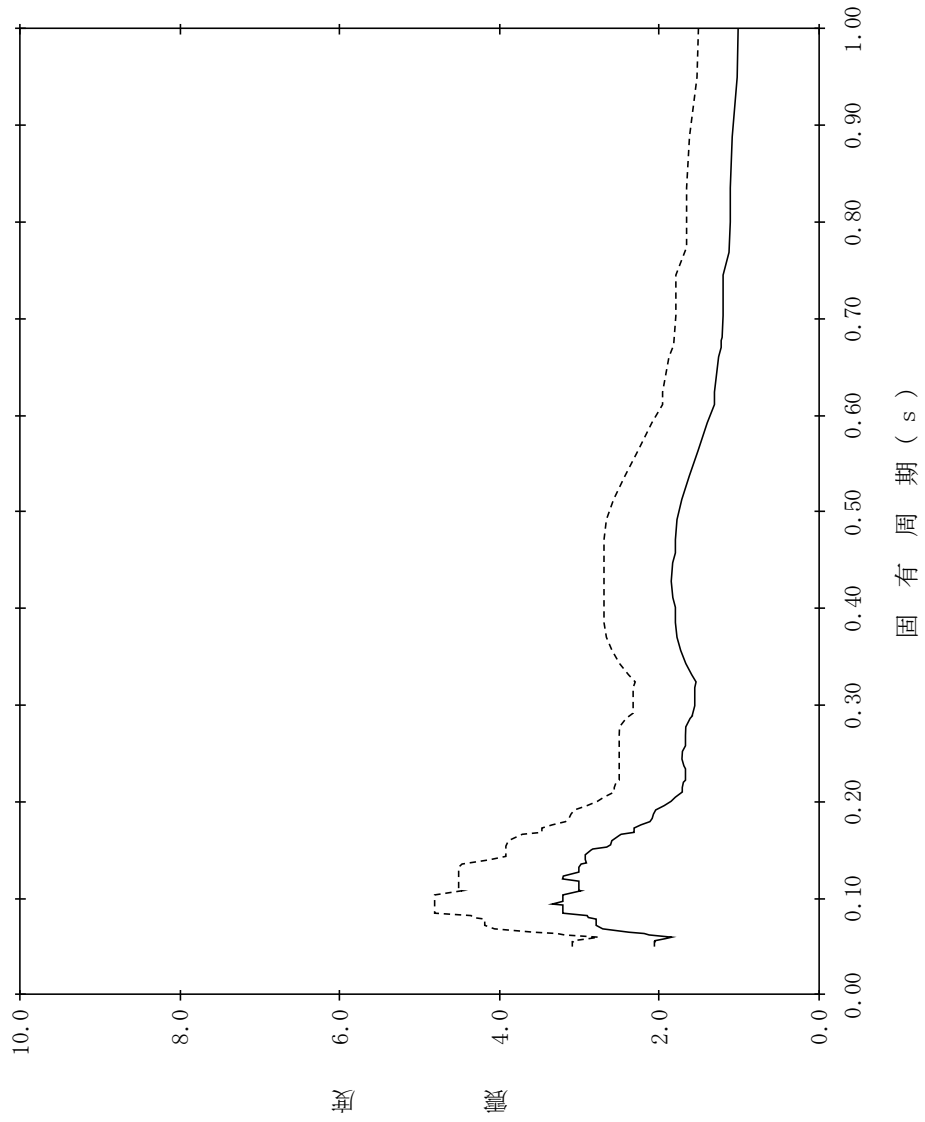
【NS2-GTG-SsNS-GTG30】

構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL44.000m
減衰定数：3.0%
波形式：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



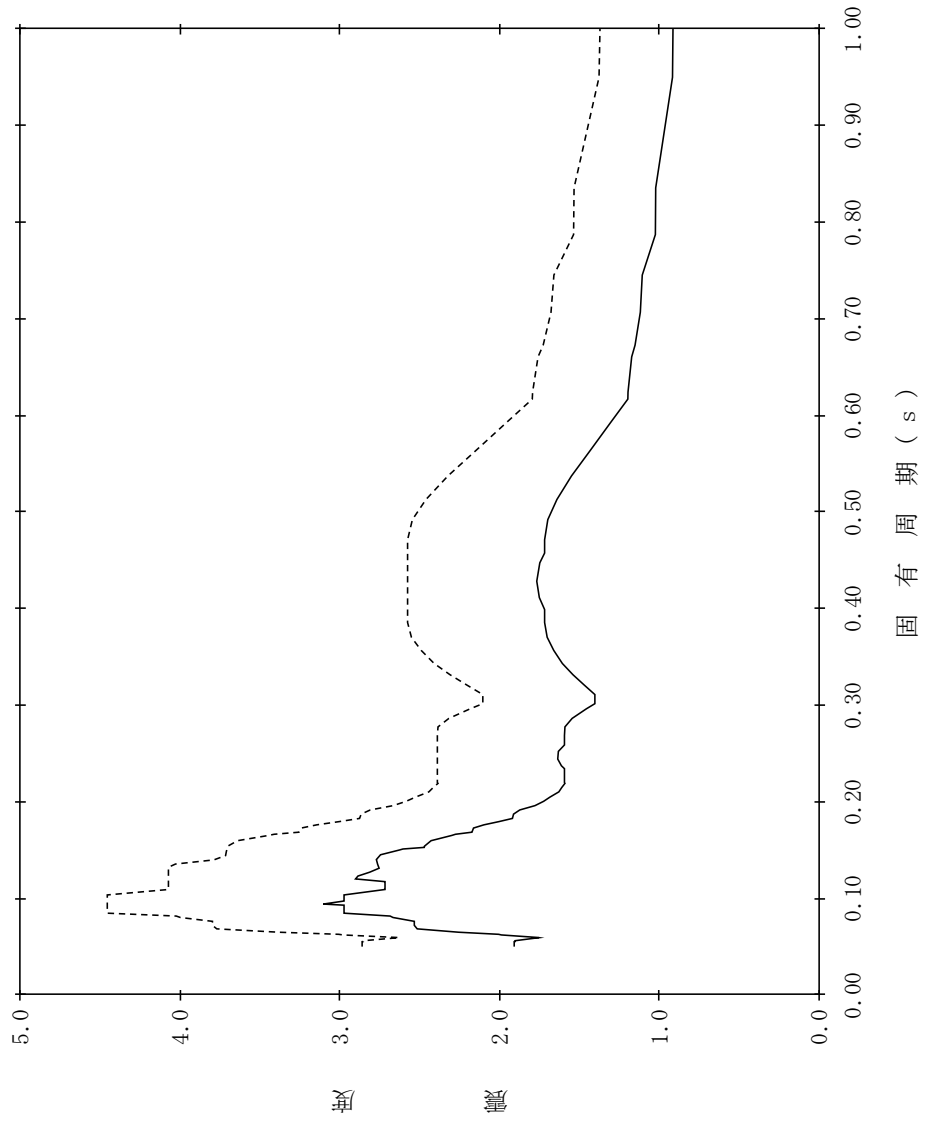
【NS2-GTG-SsNS-GTG31】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL44.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (NS方向)
 設計用床応答スペクトル II (NS方向)



【NS2-GTG-SsNS-GTG32】

構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL44.000m
減衰定数：5.0%
波形式：設計用床応答スペクトル I (NS方向)
波形式：設計用床応答スペクトル II (NS方向)

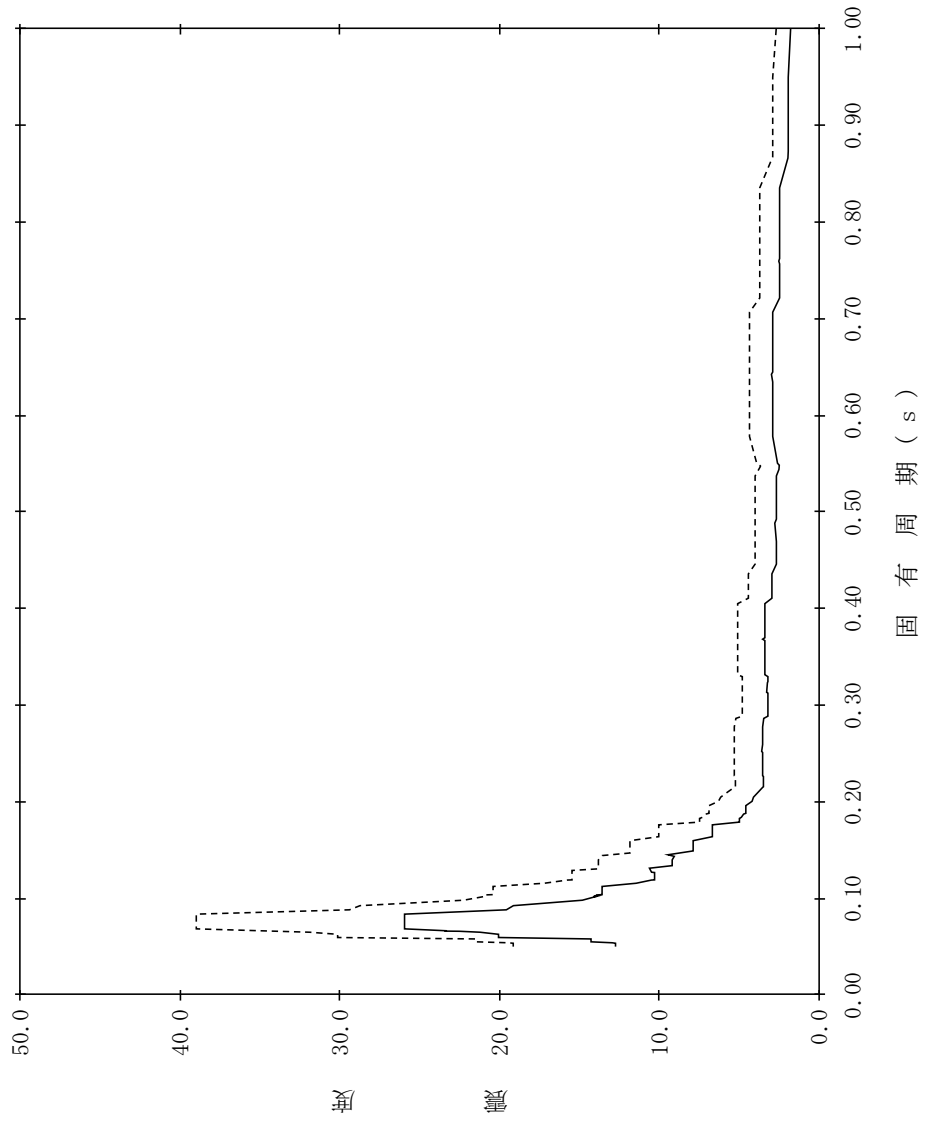


【NS2-GTG-SsEW-GTG1】

構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL61.500m
減衰定数：0.5%
波形名：基準地震動 S s

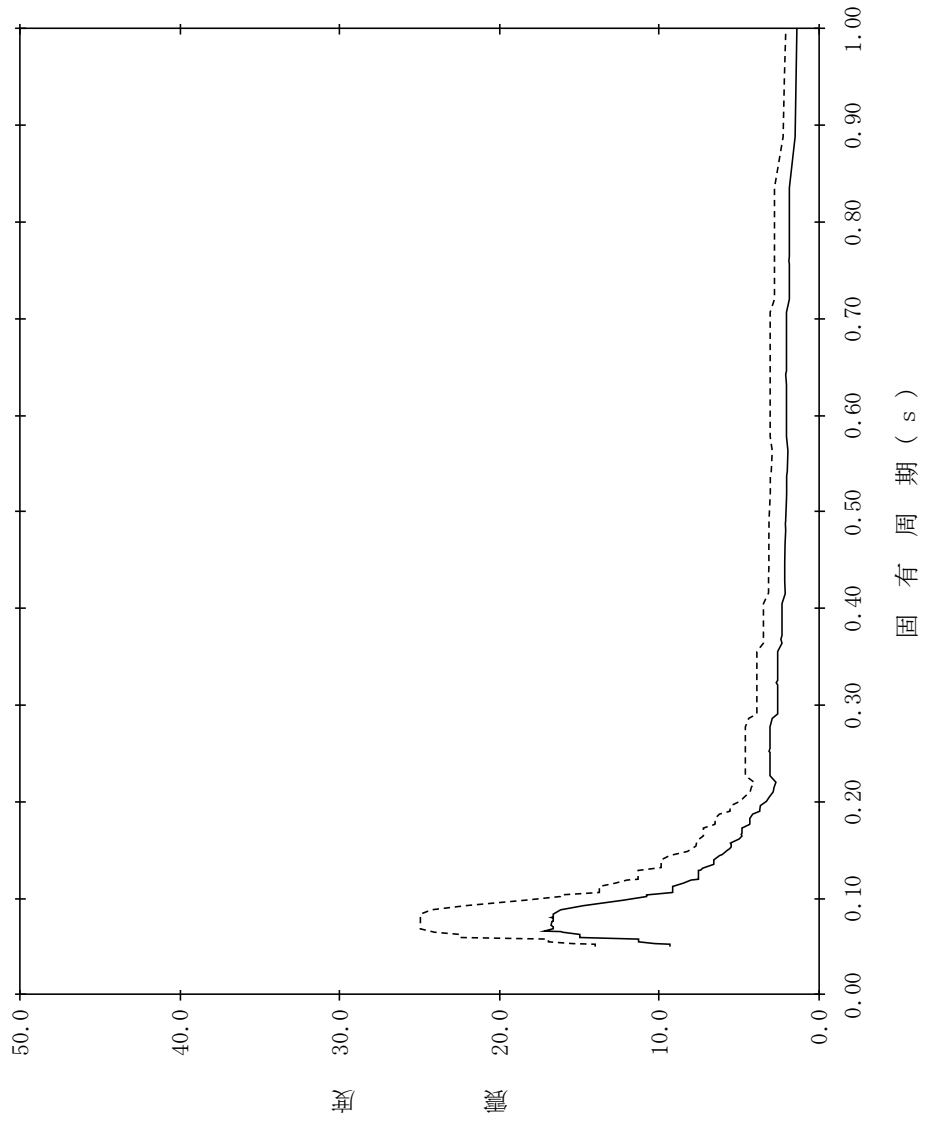
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



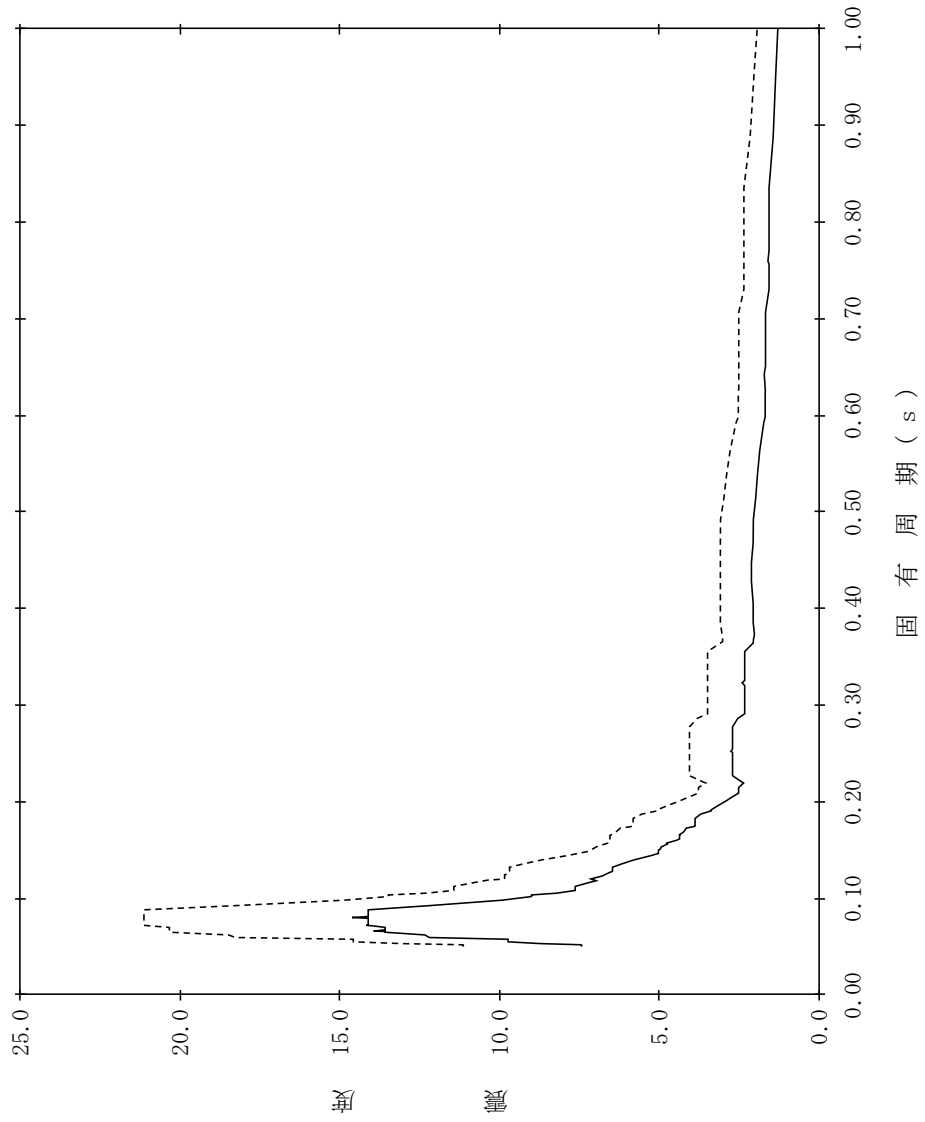
【NS2-GTG-SsEW-GTG2】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL61.500m
 減衰定数：1.0%
 波形式：標準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



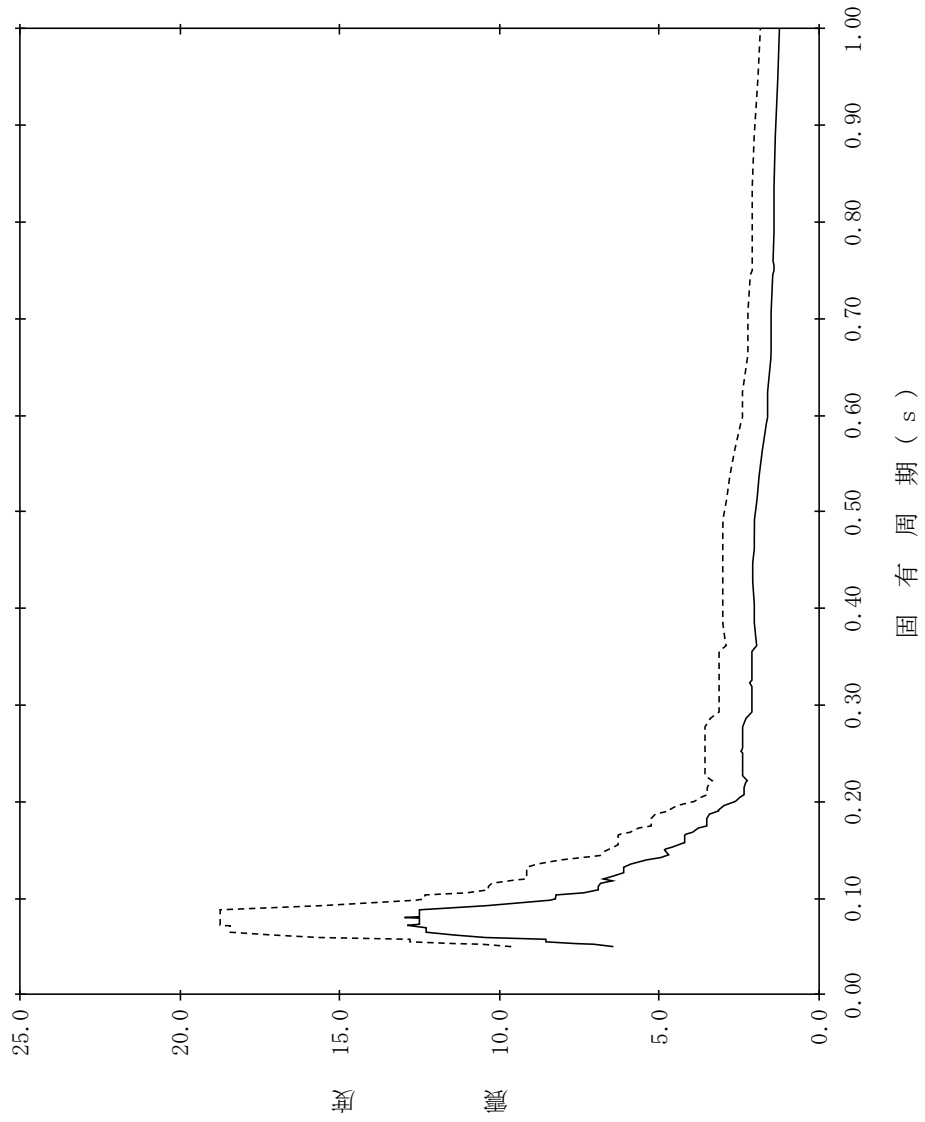
【NS2-GTG-SsEW-GTG3】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL61.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



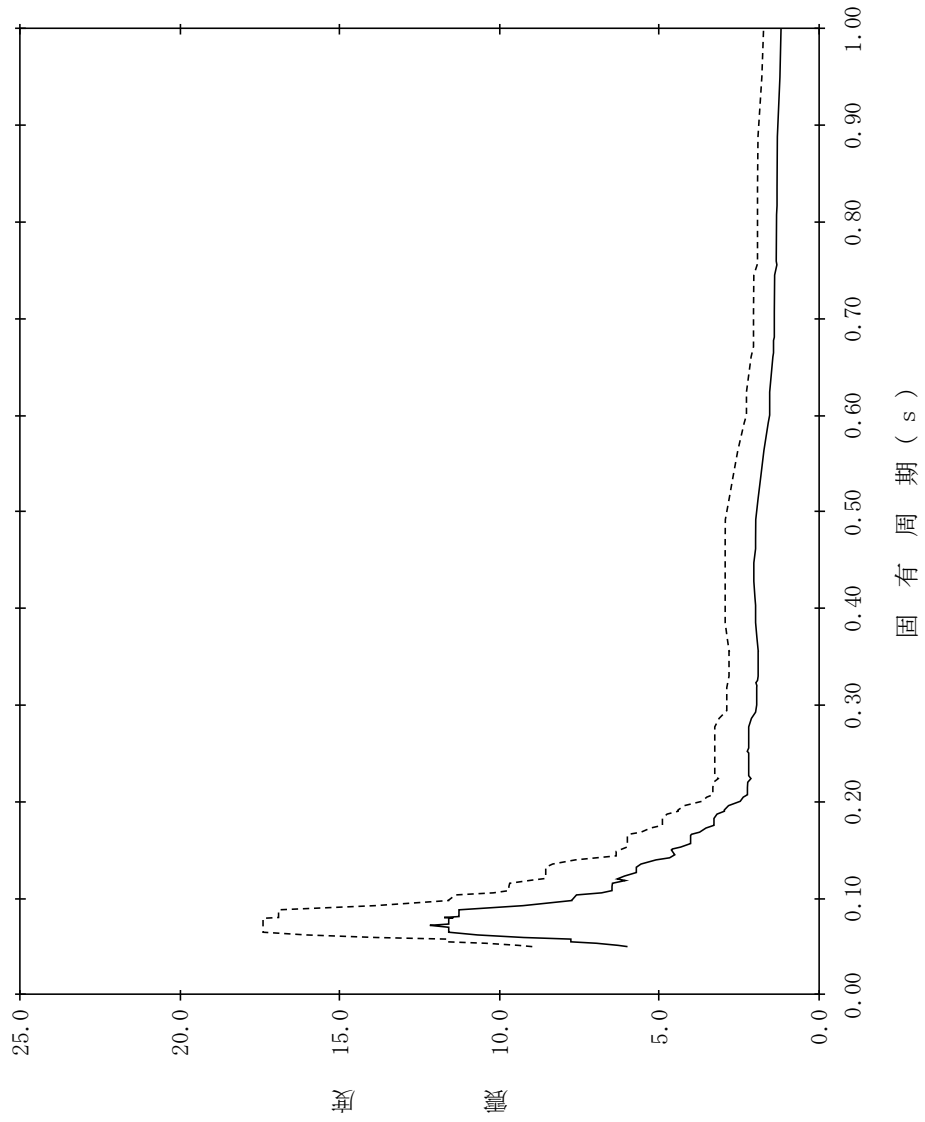
【NS2-GTG-SsEW-GTG4】

構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL61.500m
減衰定数：2.0%
波形式：標準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



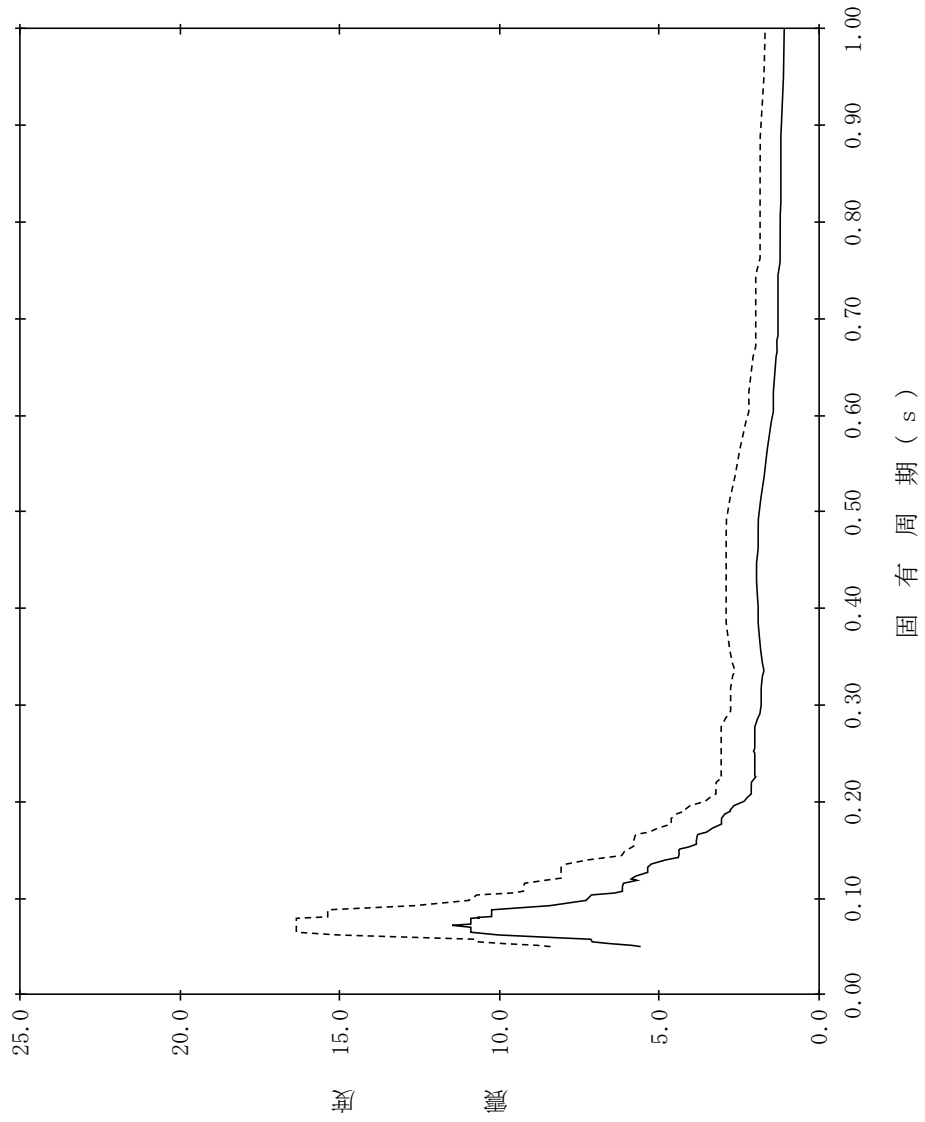
【NS2-GTG-SsEW-GTG5】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL61.500m
 減衰定数：2.5%
 波形式：標準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



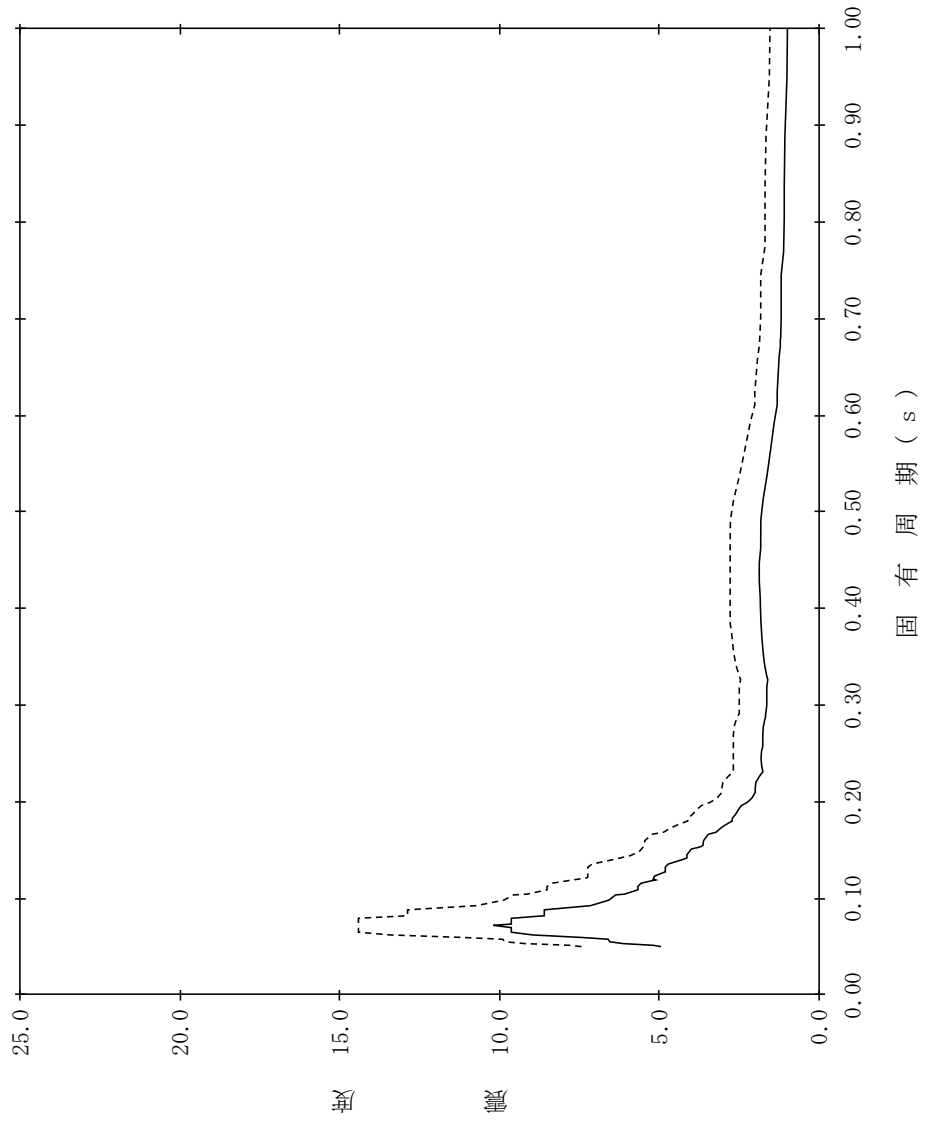
【NS2-GTG-SsEW-GTG6】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL61.500m
 減衰定数：3.0%
 波形式：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



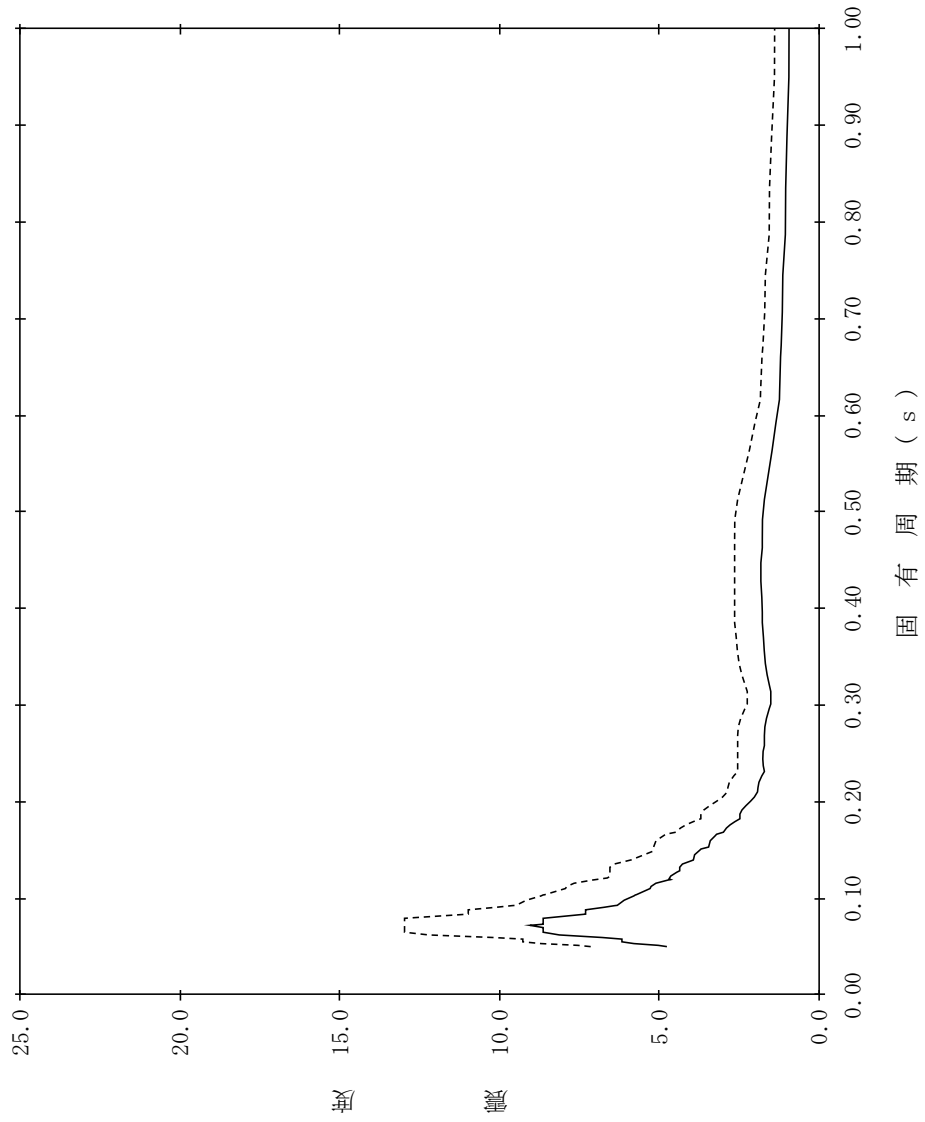
【NS2-GTG-SsEW-GTG7】

構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL61.500m
減衰定数：4.0%
波形式：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



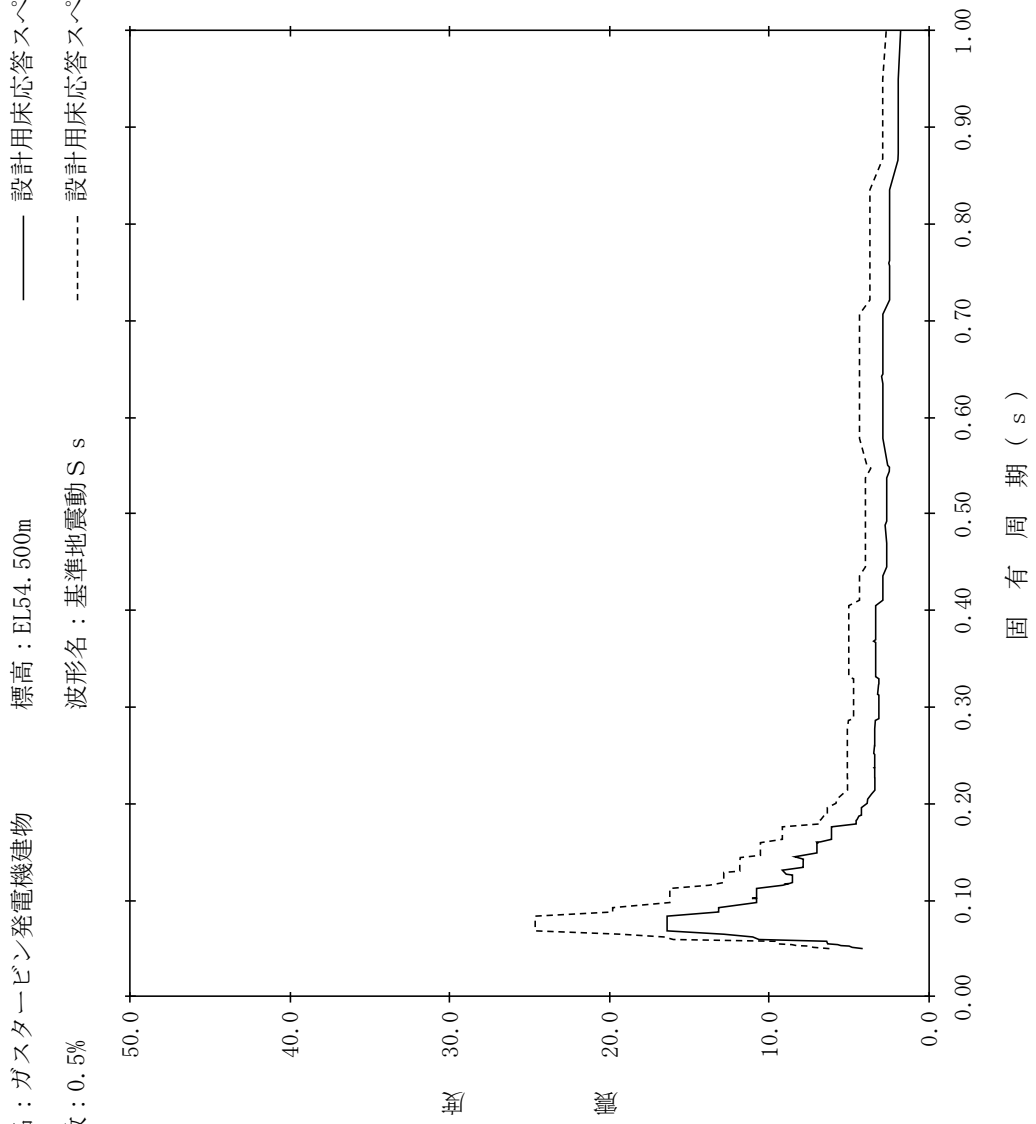
【NS2-GTG-SsEW-GTG8】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL61.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



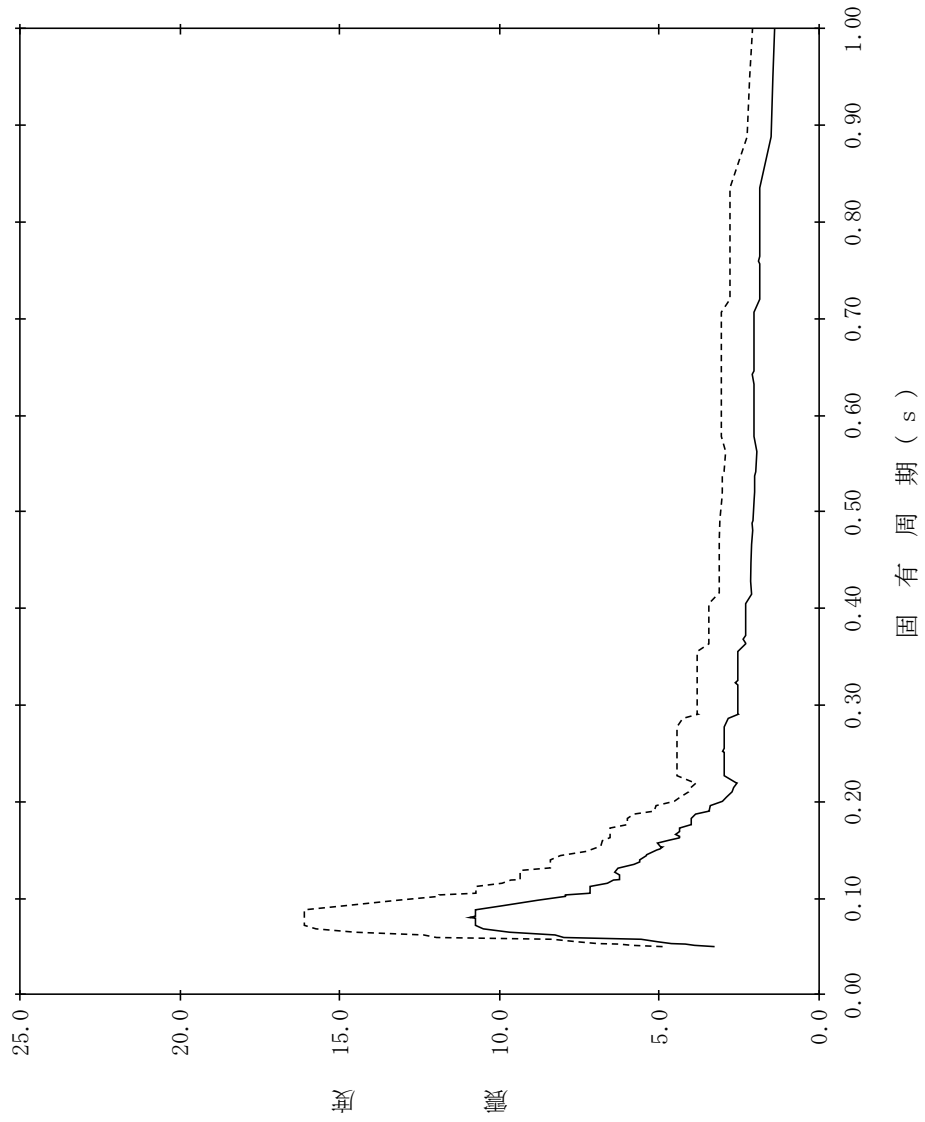
【NS2-GTG-SsEW-GTG9】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s



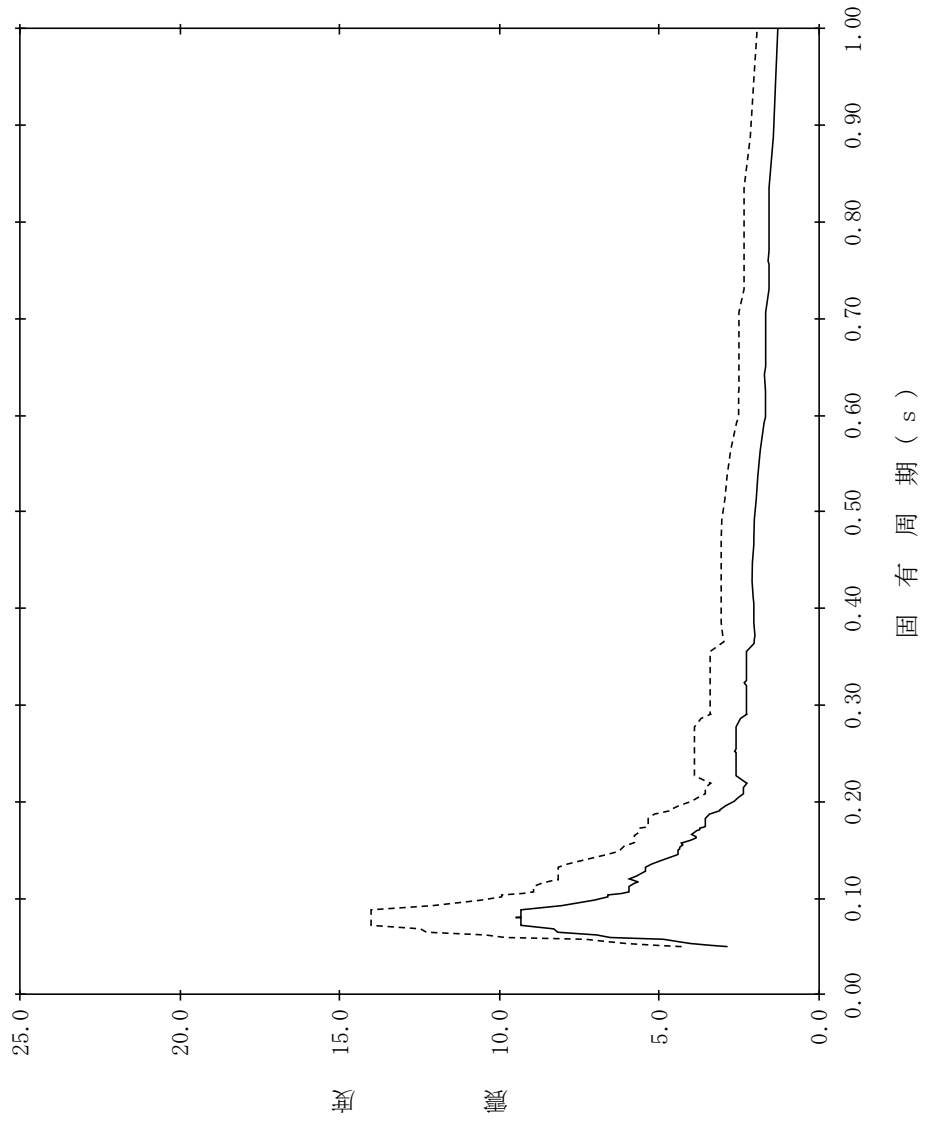
【NS2-GTG-SsEW-GTG10】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：1.0%
 波形式：標準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



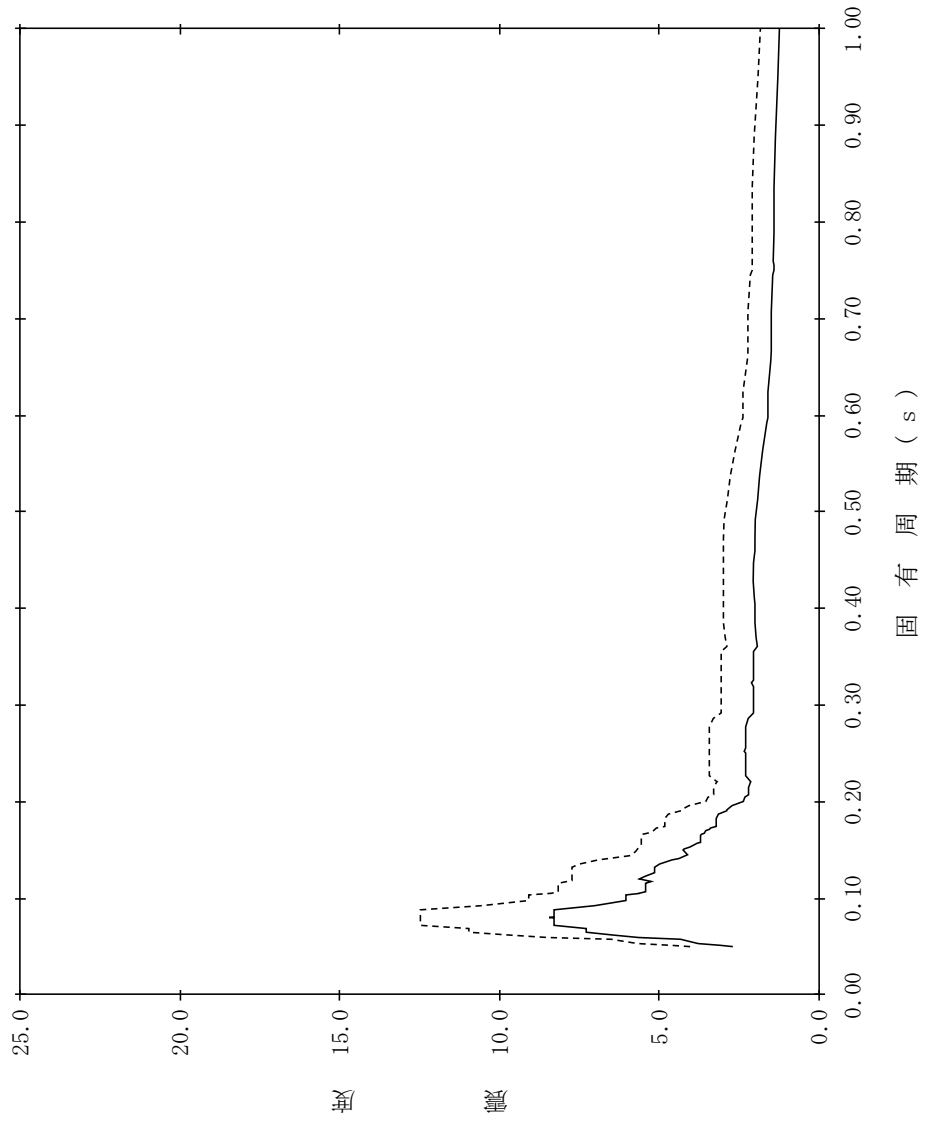
【NS2-GTG-SsEW-GTG11】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：1.5%
 波形式：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



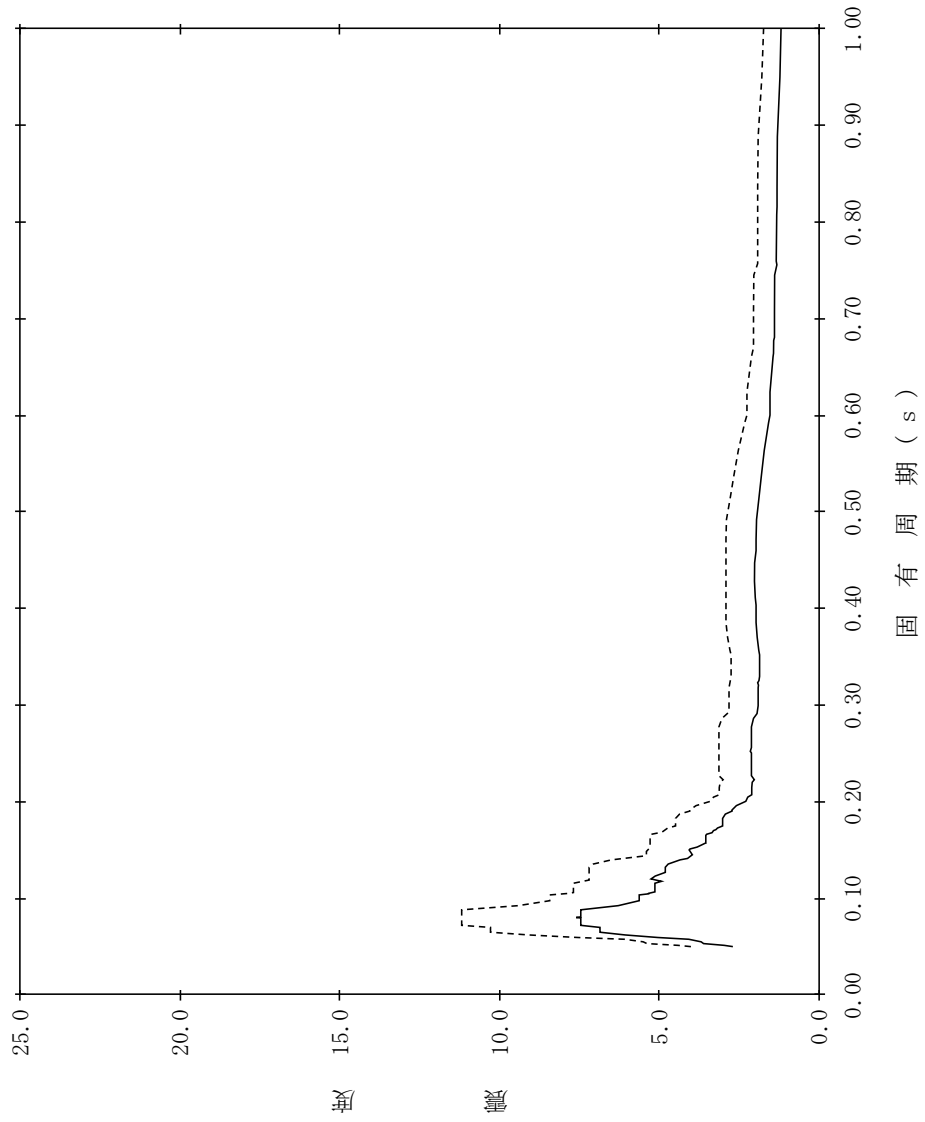
【NS2-GTG-SsEW-GTG12】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：2.0%
 波形式：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



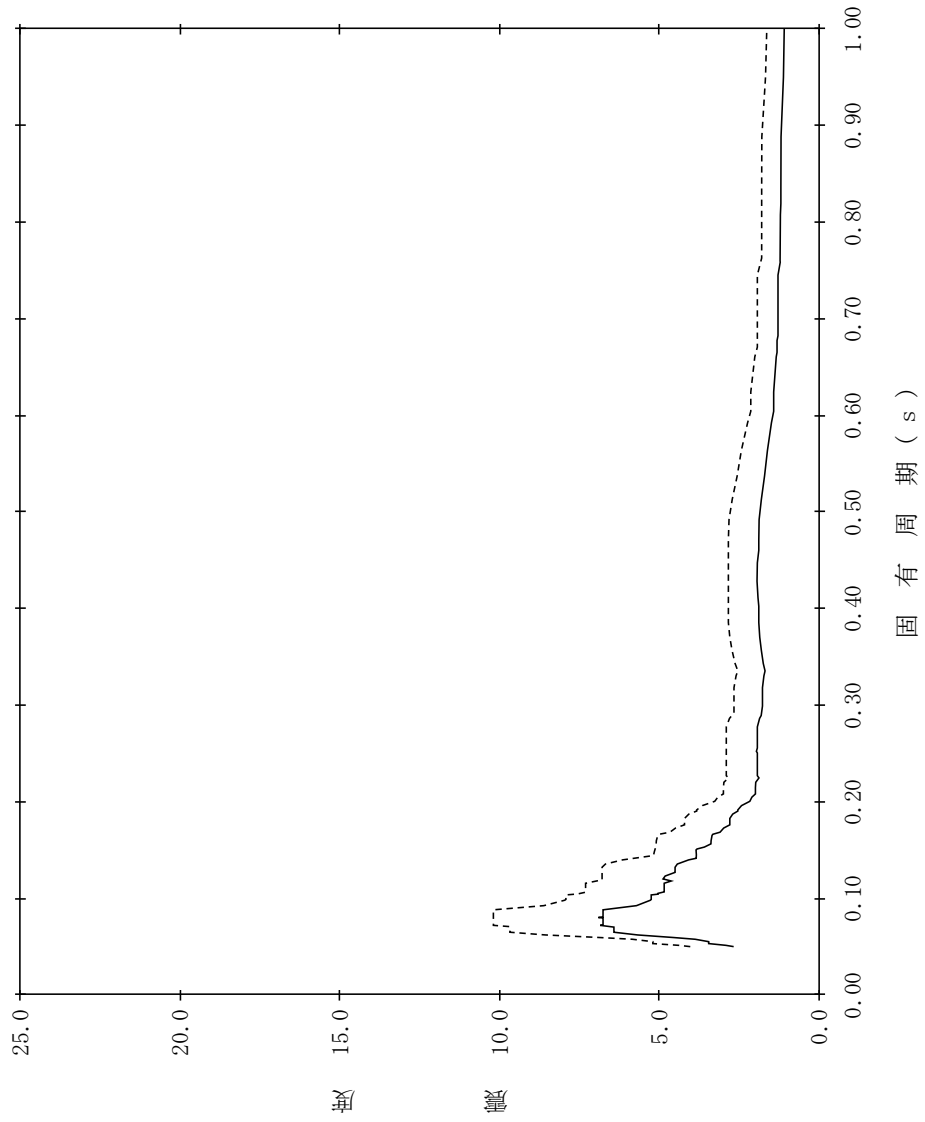
【NS2-GTG-SsEW-GTG13】

構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL54.500m
減衰定数：2.5%
波形式：標準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



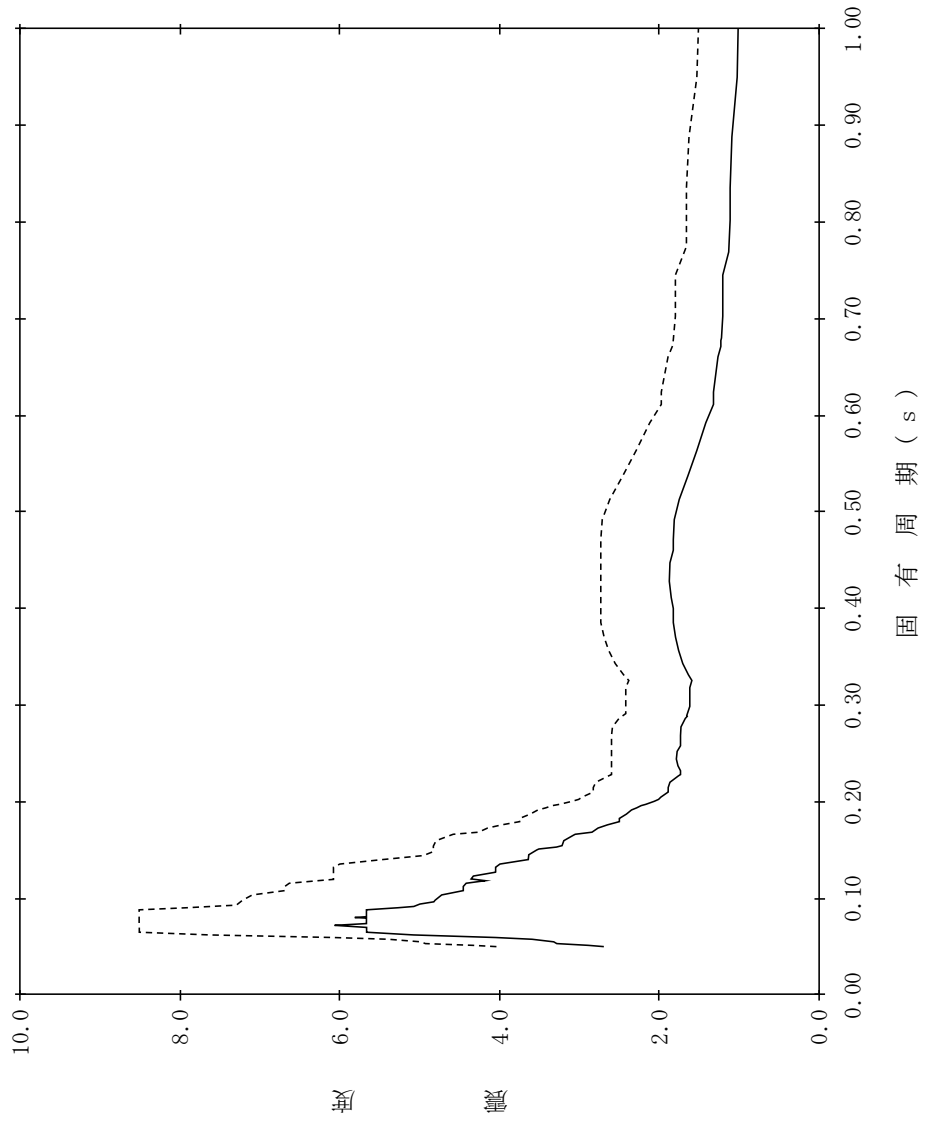
【NS2-GTG-SsEW-GTG14】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：3.0%
 波形式：標準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



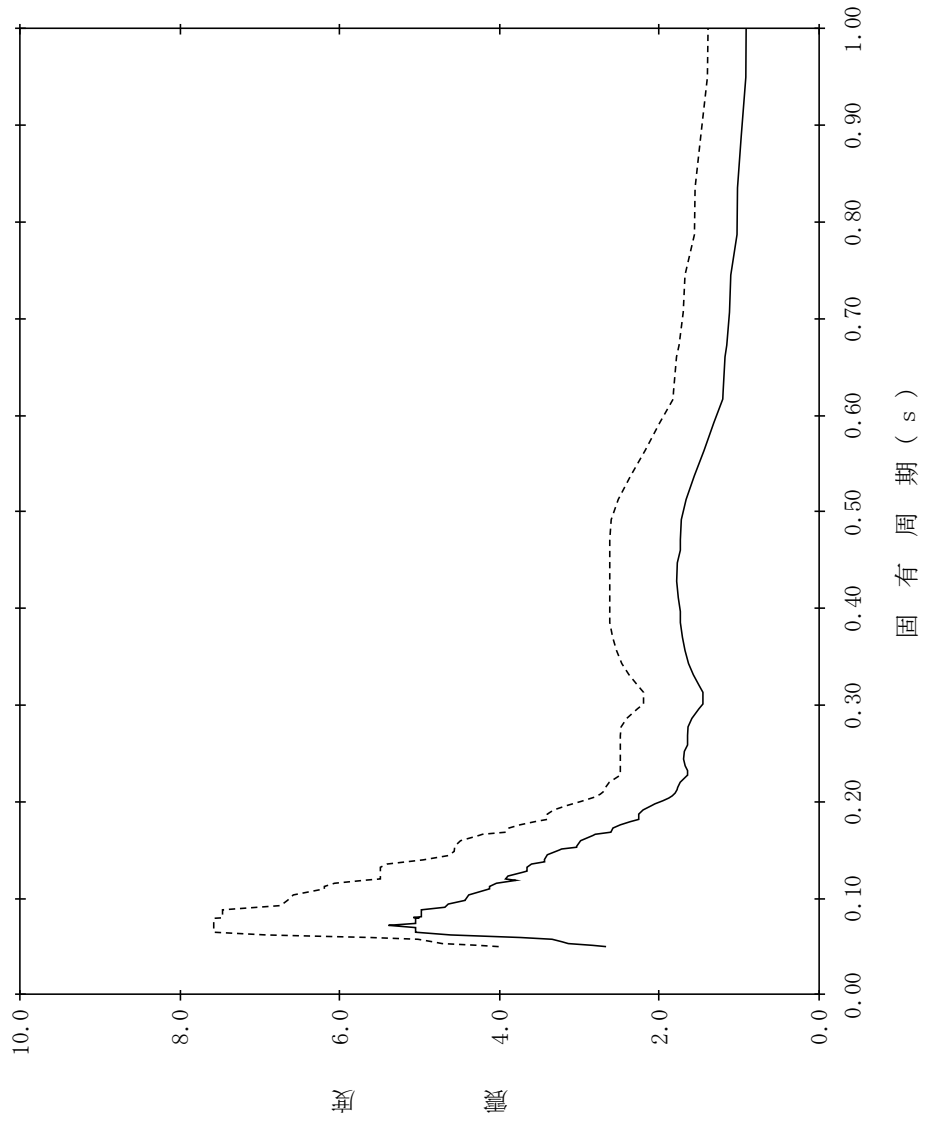
【NS2-GTG-SsEW-GTG15】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：4.0%
 波形式：標準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



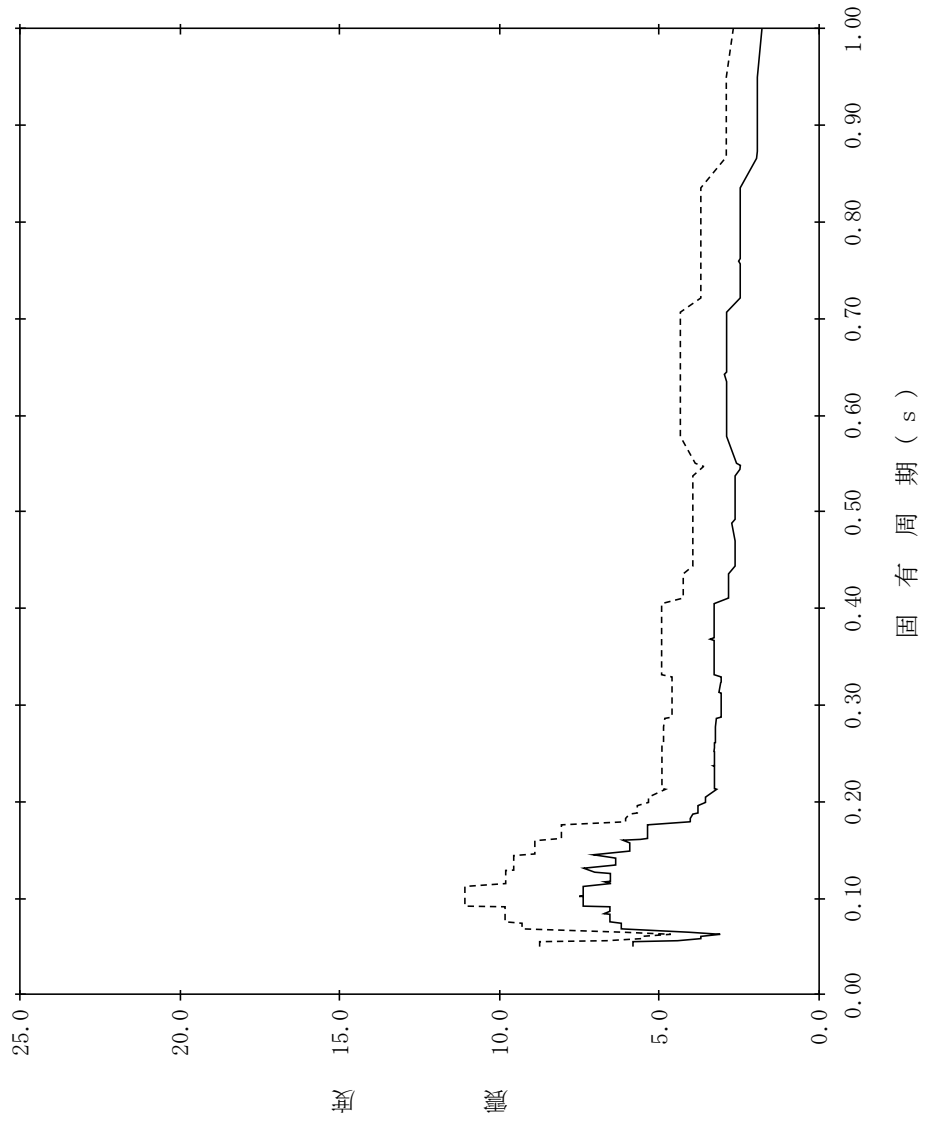
【NS2-GTG-SsEW-GTG16】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



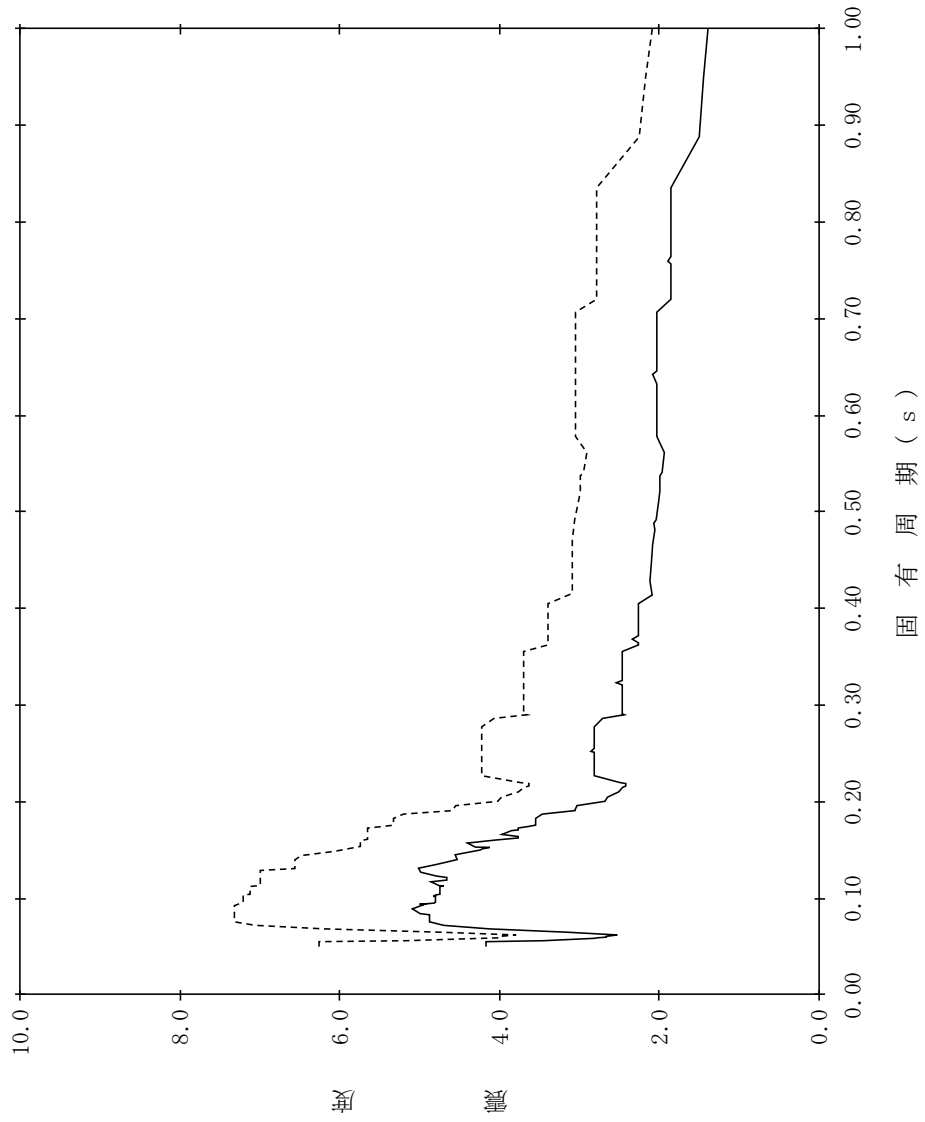
【NS2-GTG-SsEW-GTG17】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL47.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-GTG-SsEW-GTG18】

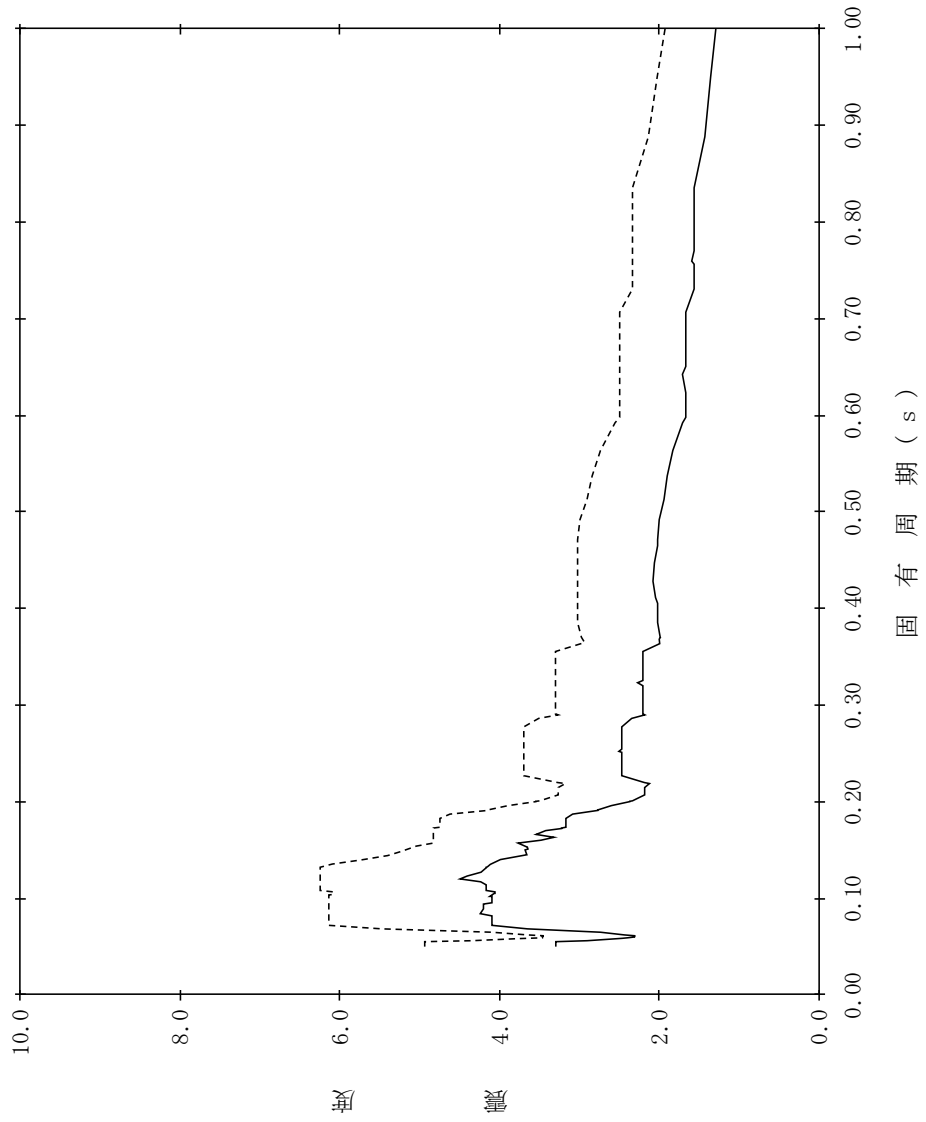
構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL47.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-GTG-SsEW-GTG19】

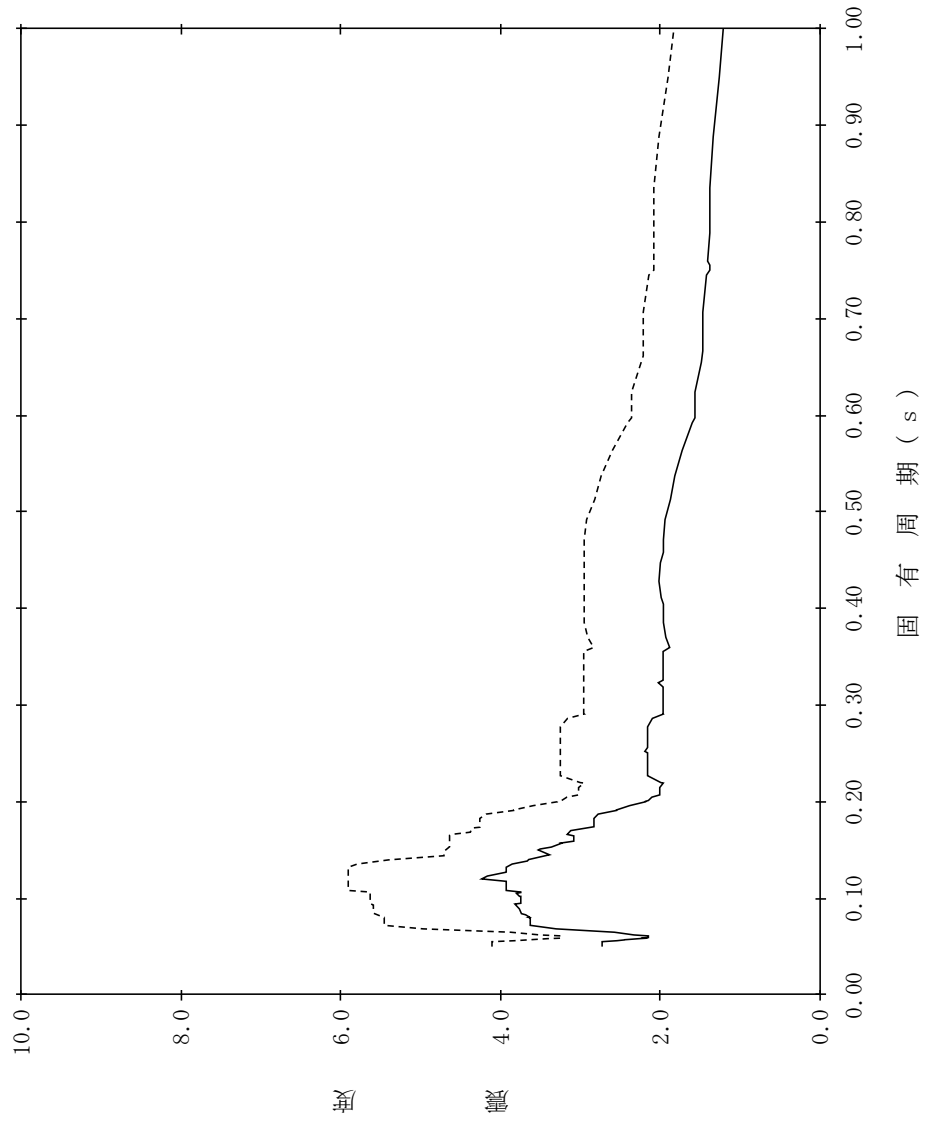
構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL47.500m
減衰定数：1.5%

—— 設計用床応答スペクトルⅠ (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトルⅡ (EW方向)



【NS2-GTG-SsEW-GTG20】

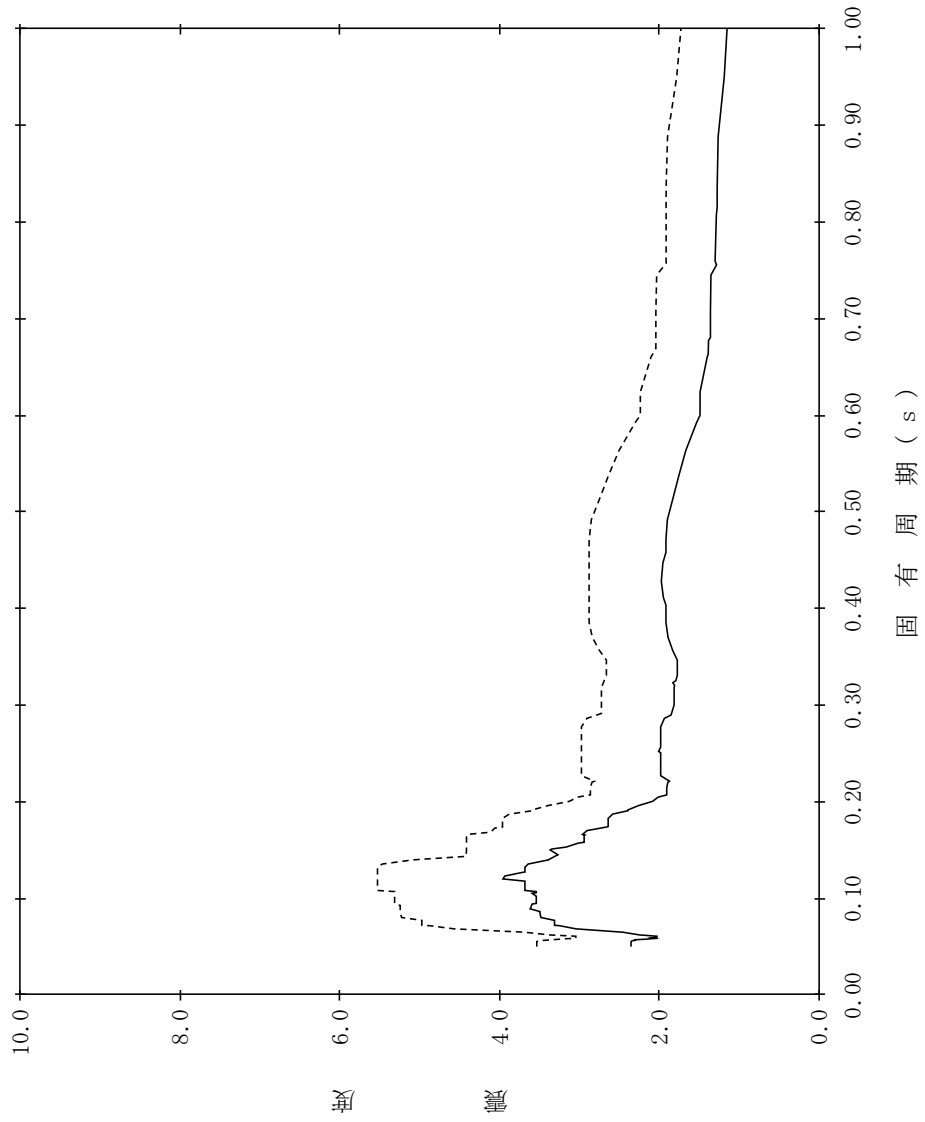
構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL47.500m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-GTG-SsEW-GTG21】

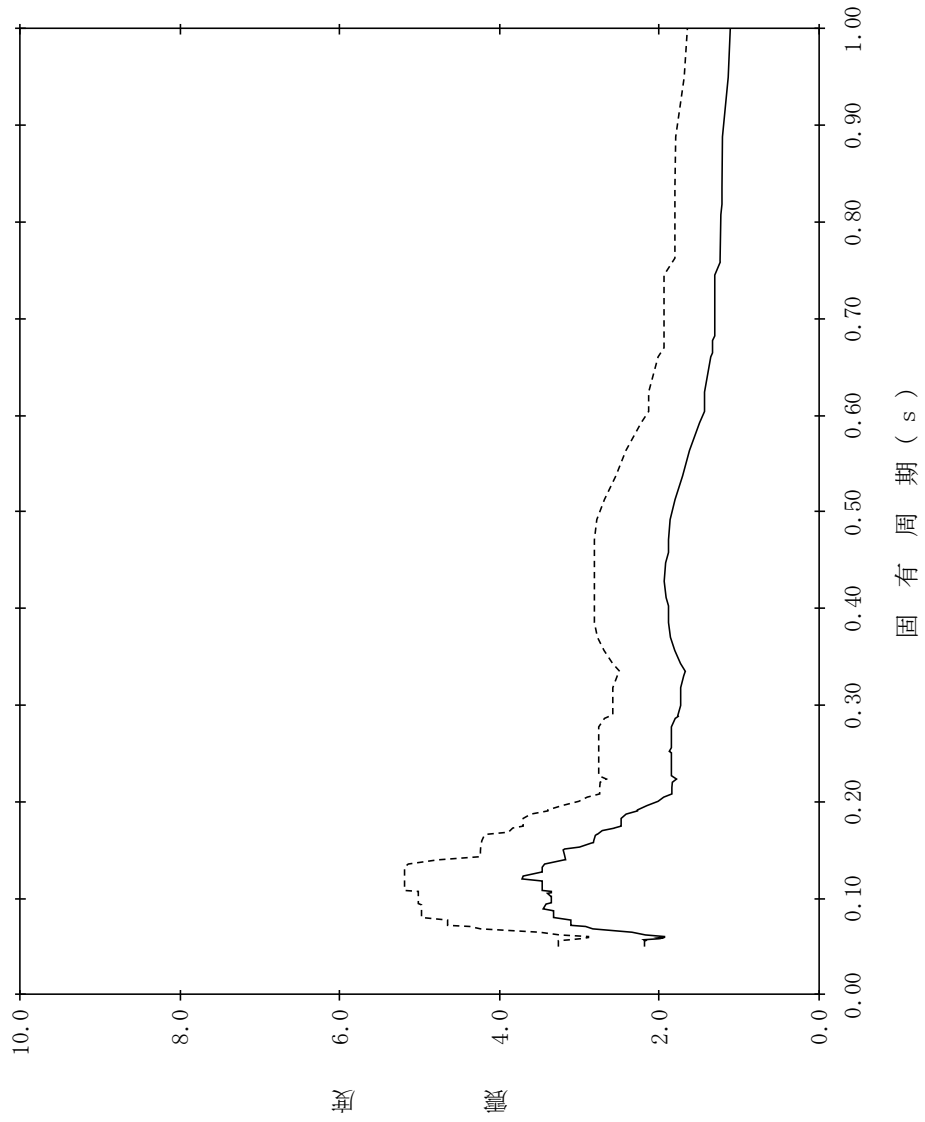
構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL47.500m
減衰定数：2.5%

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-GTG-SsEW-GTG22】

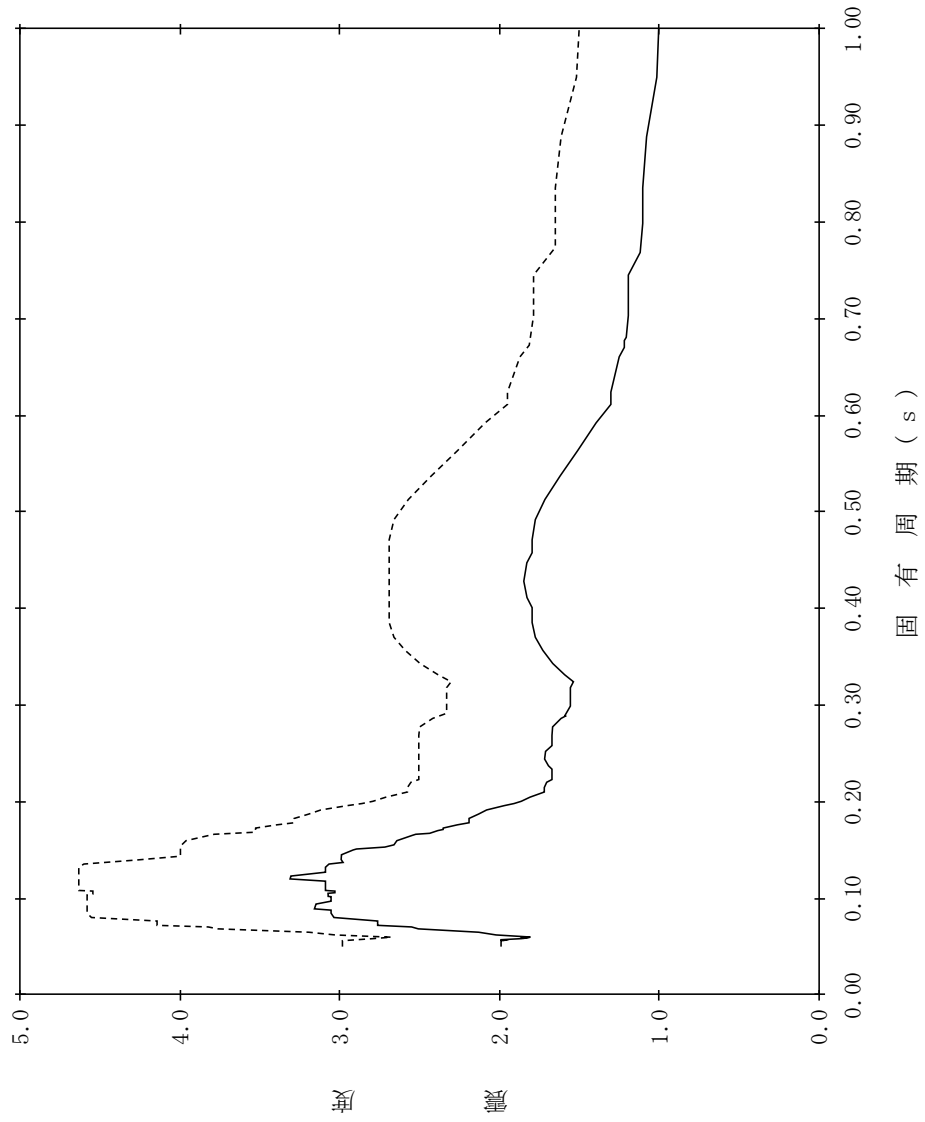
構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL47.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-GTG-SsEW-GTG23】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL47.500m
 減衰定数：4.0%

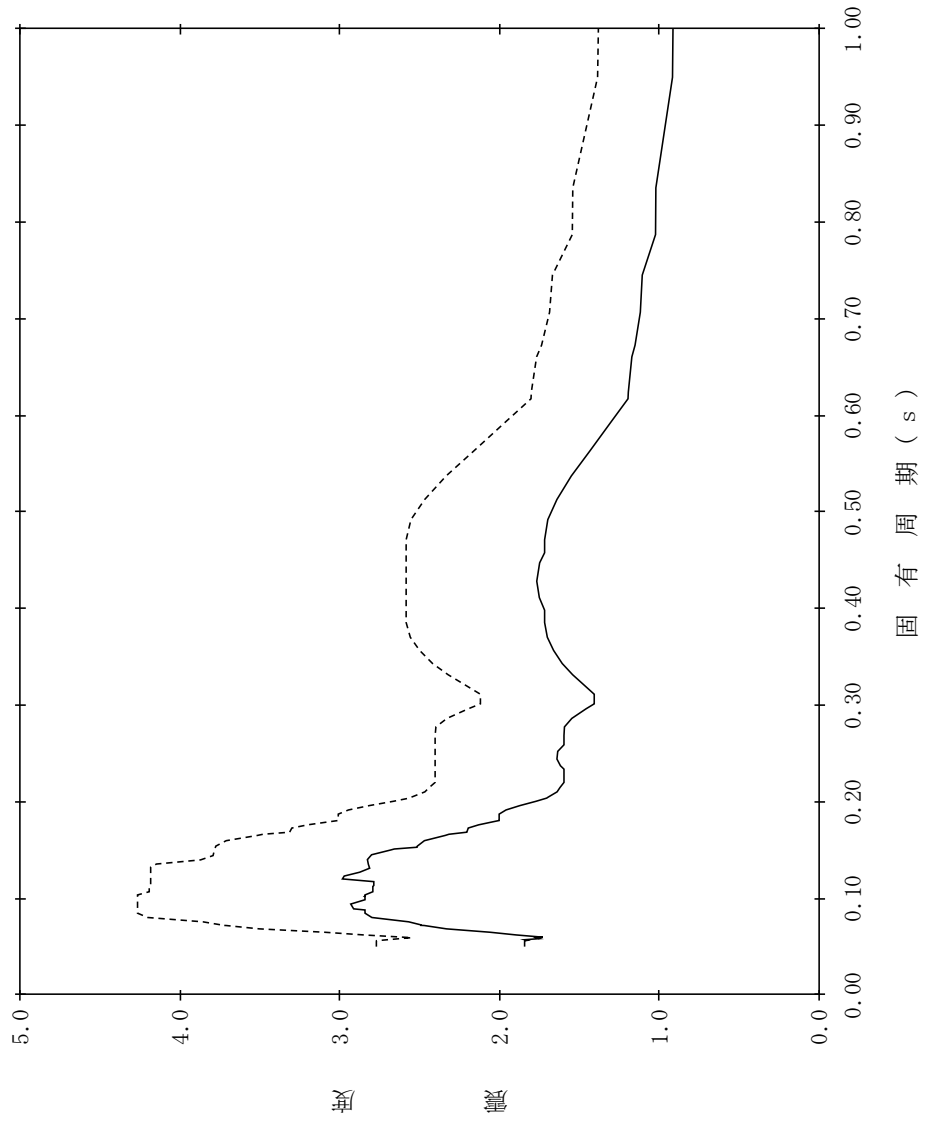
— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 - - - 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-GTG-SsEW-GTG24】

構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL47.500m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s

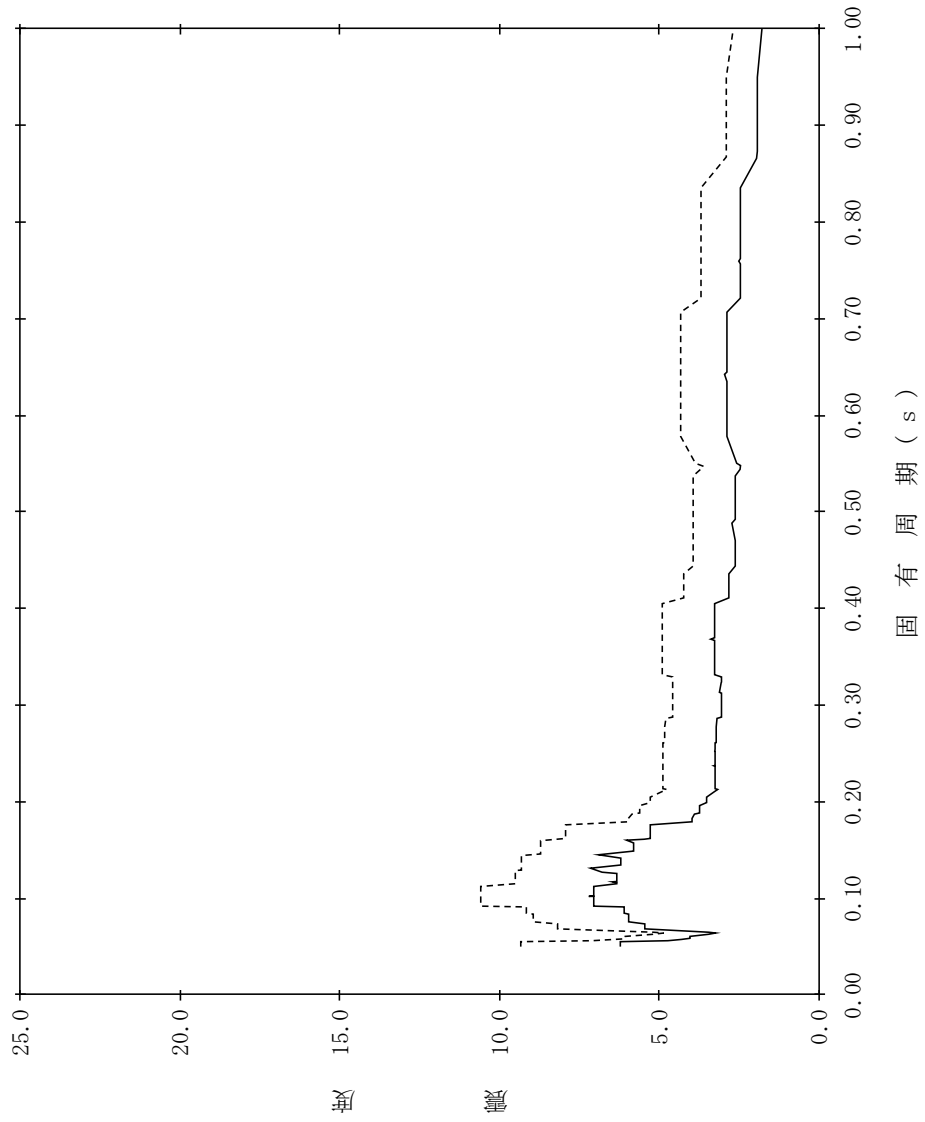
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-GTG-SsEW-GTG25】

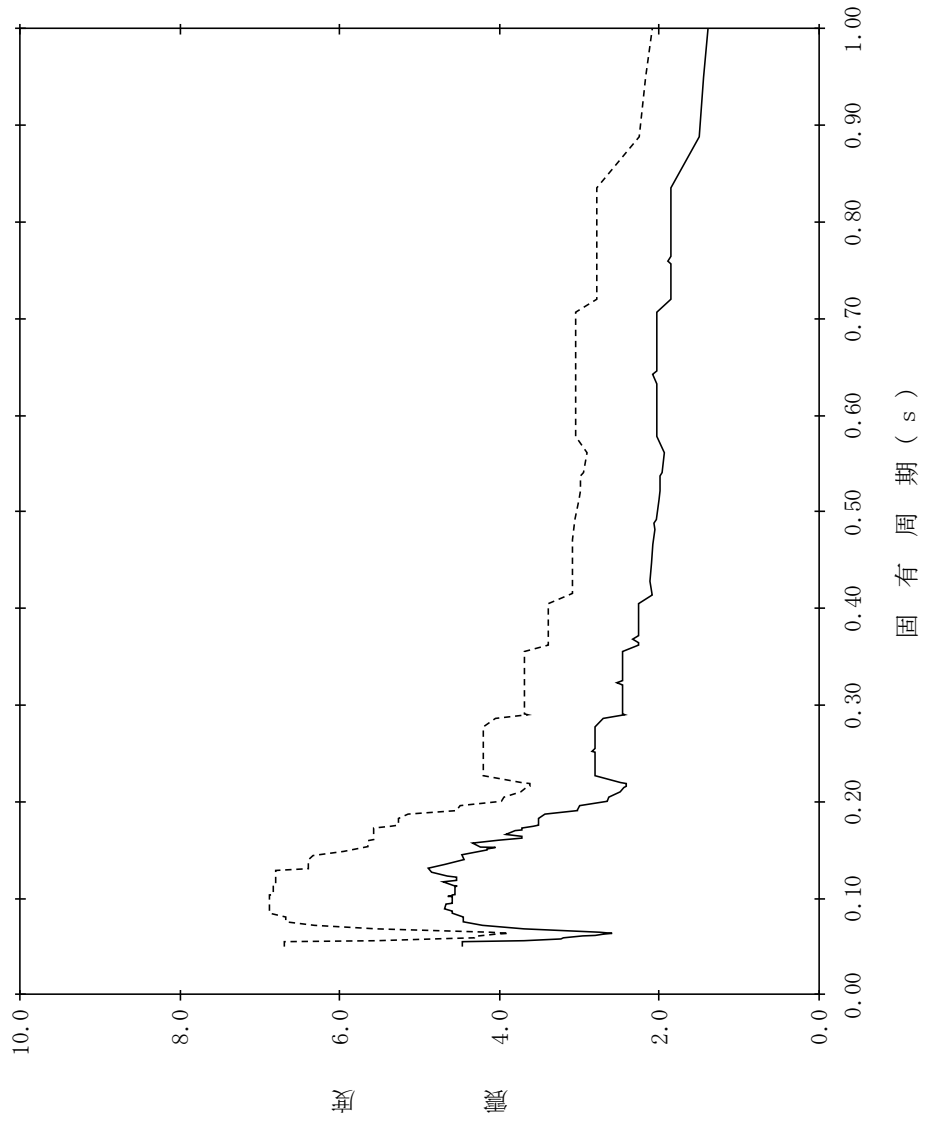
構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL44.000m
減衰定数：0.5%
波形名：基準地震動 S s

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



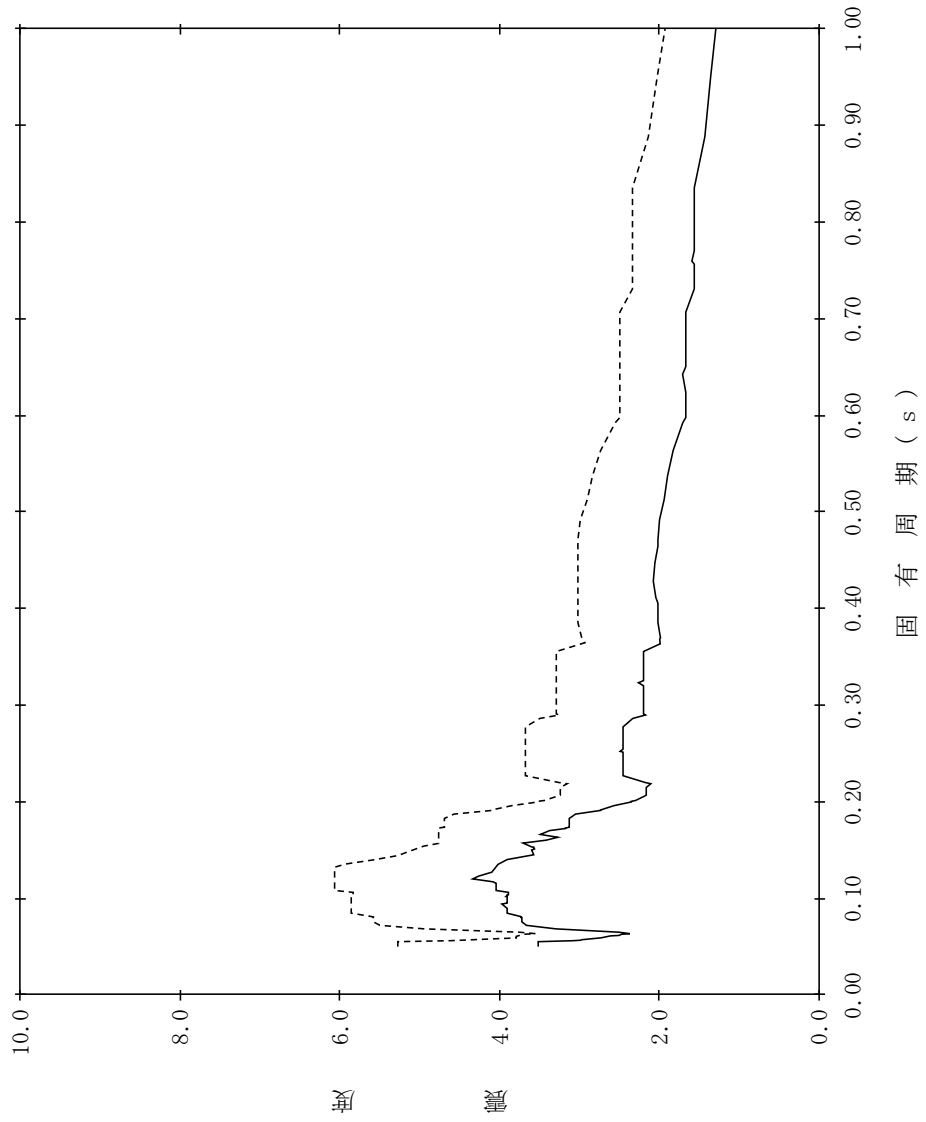
【NS2-GTG-SsEW-GTG26】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL44.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-GTG-SsEW-GTG27】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL44.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

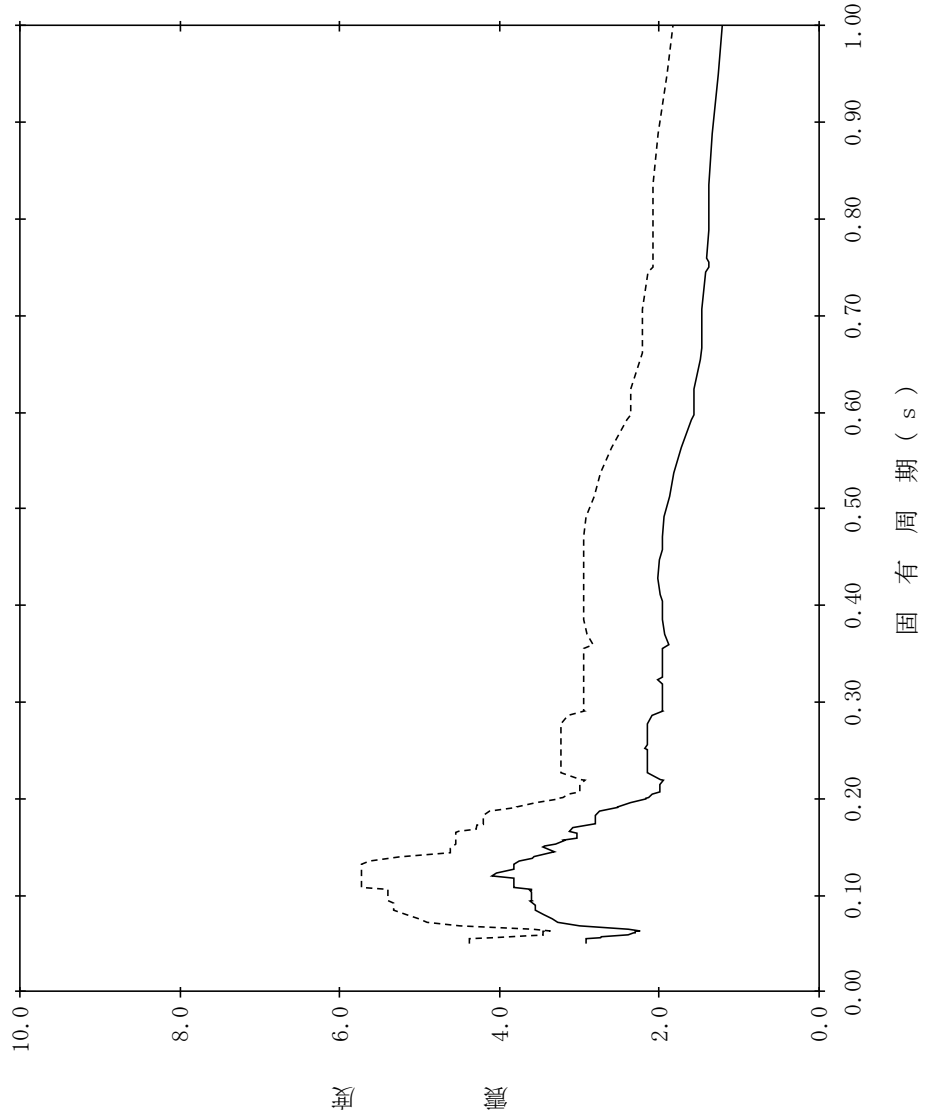


【NS2-GTG-SsEW-GTG28】

構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL44.000m
減衰定数：2.0%
波形名：基準地震動 S s

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)

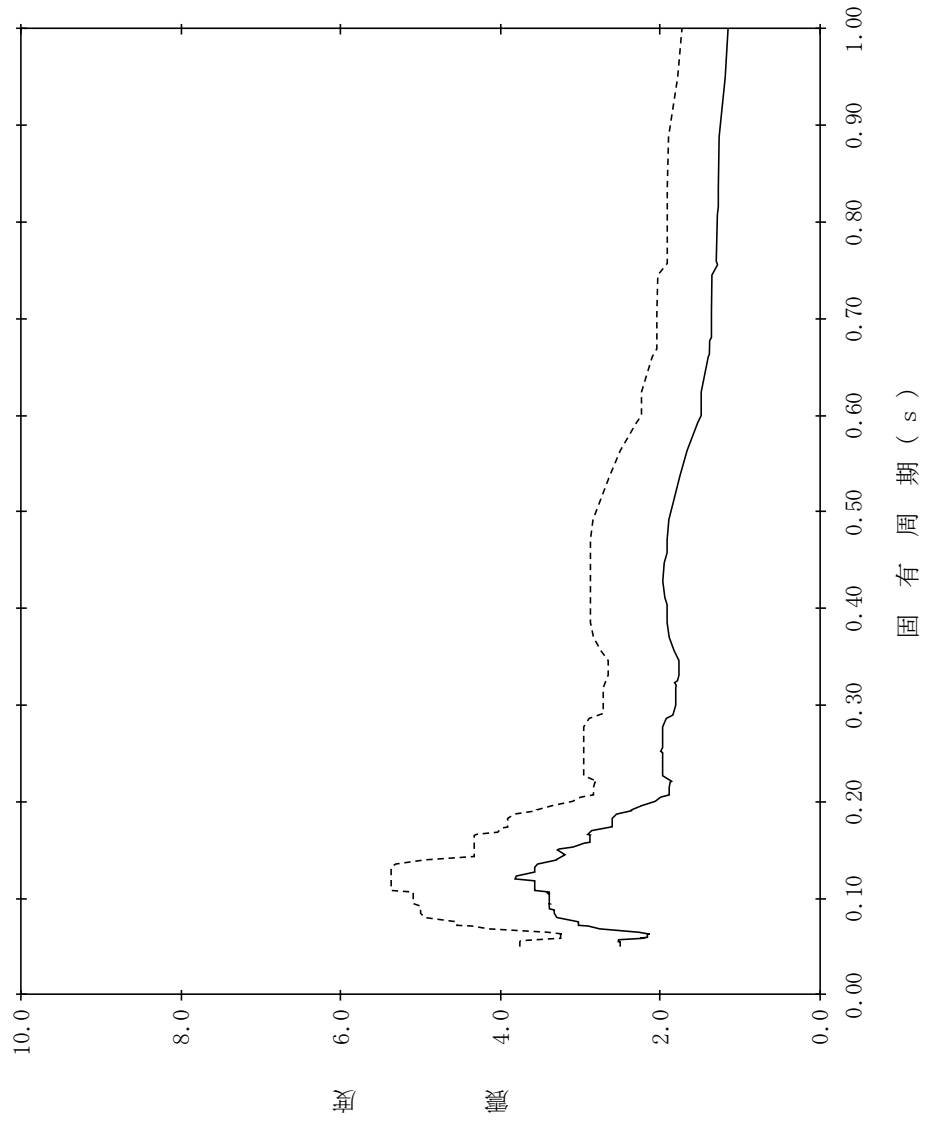
- - - - 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-GTG-SsEW-GTG29】

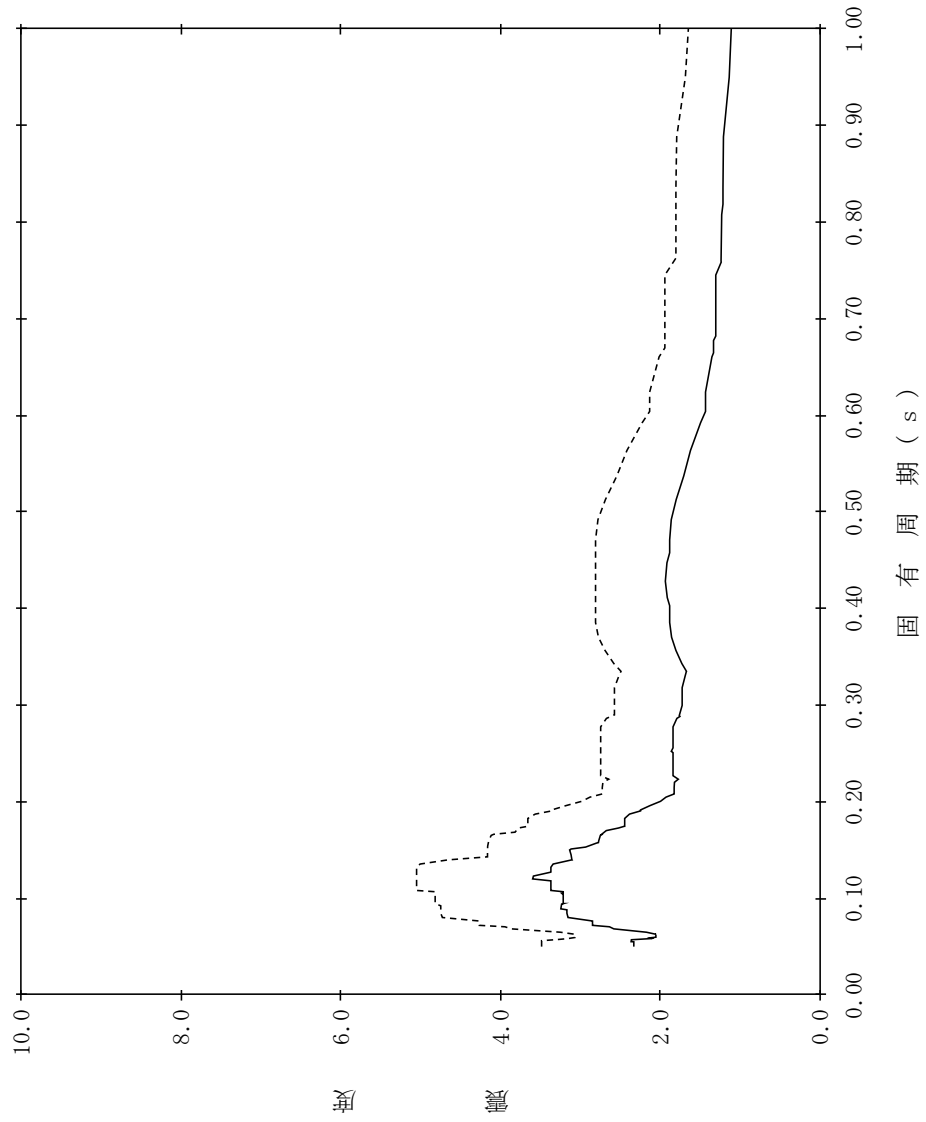
構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL44.000m
 減衰定数：2.5%

— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 - - - 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-GTG-SsEW-GTG30】

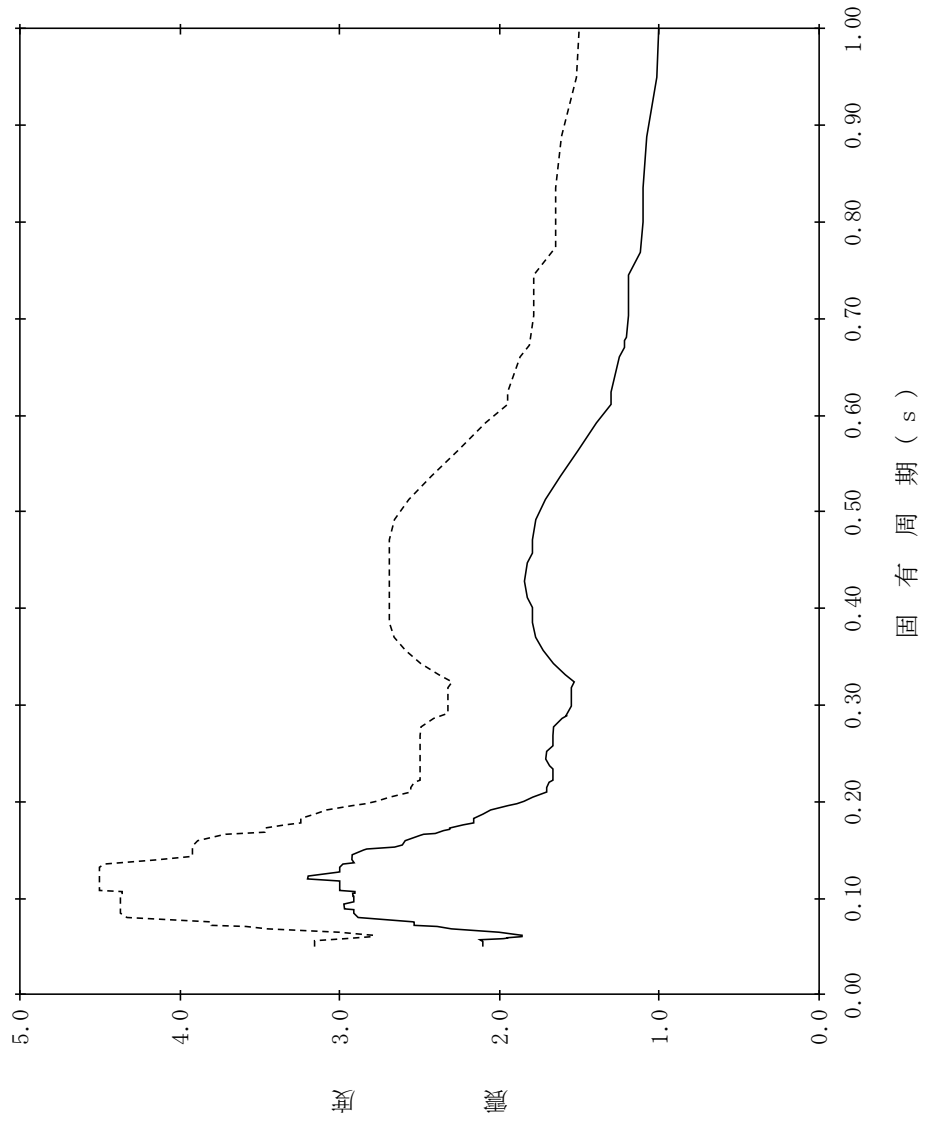
構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL44.000m
減衰定数：3.0%
波形式：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-GTG-SsEW-GTG31】

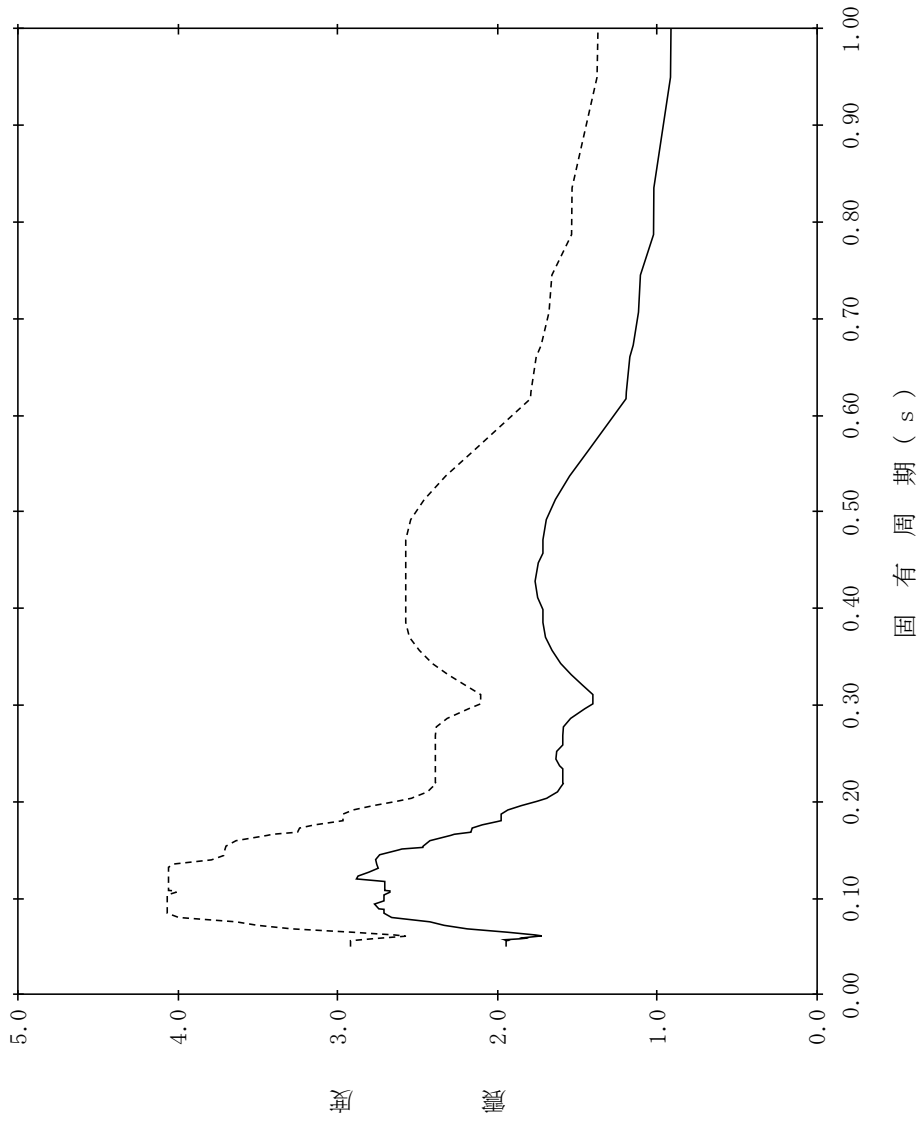
構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL44.000m
減衰定数：4.0%

—— 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (EW方向)



【NS2-GTG-SsEW-GTG32】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL44.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (EW方向)
 設計用床応答スペクトル II (EW方向)

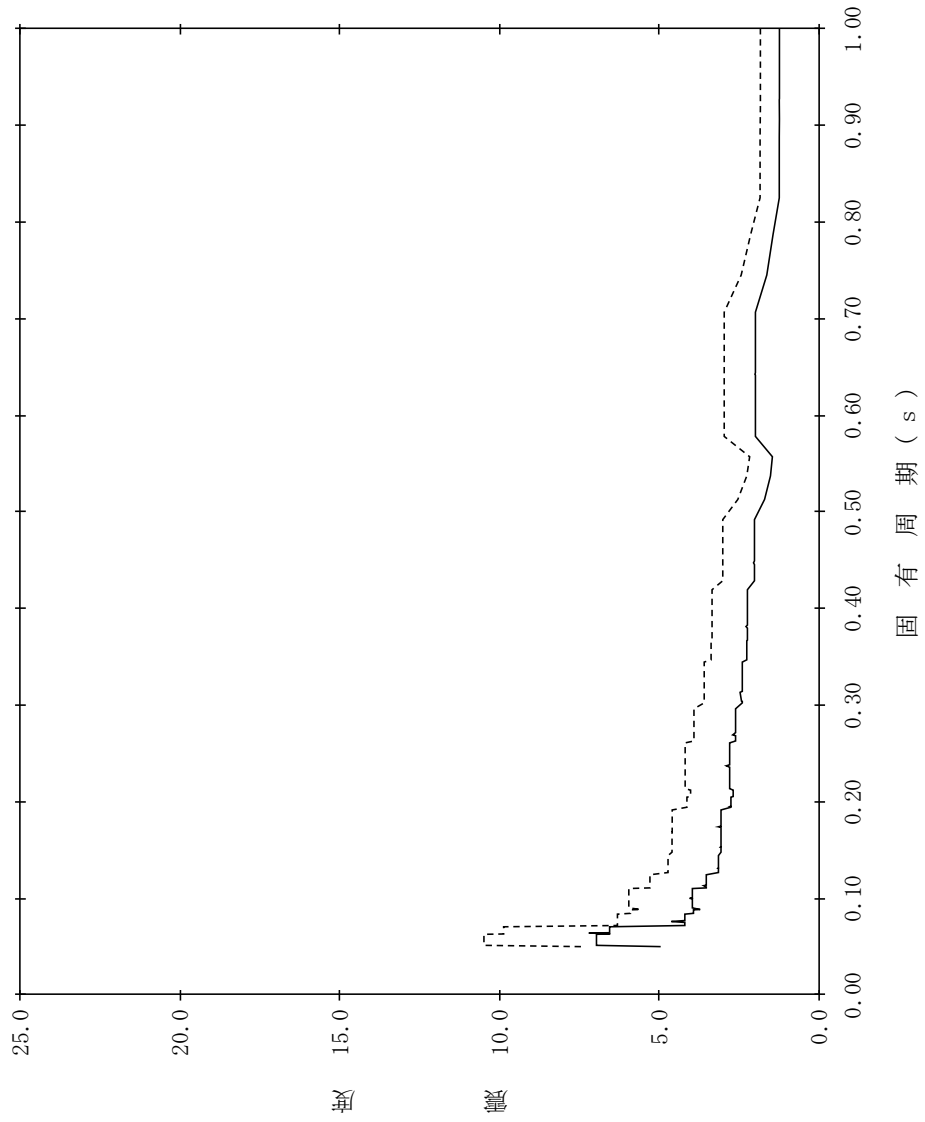


【NS2-GTG-SsV-GTG1】

構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL61.500m
減衰定数：0.5%
波形名：基準地震動 S s

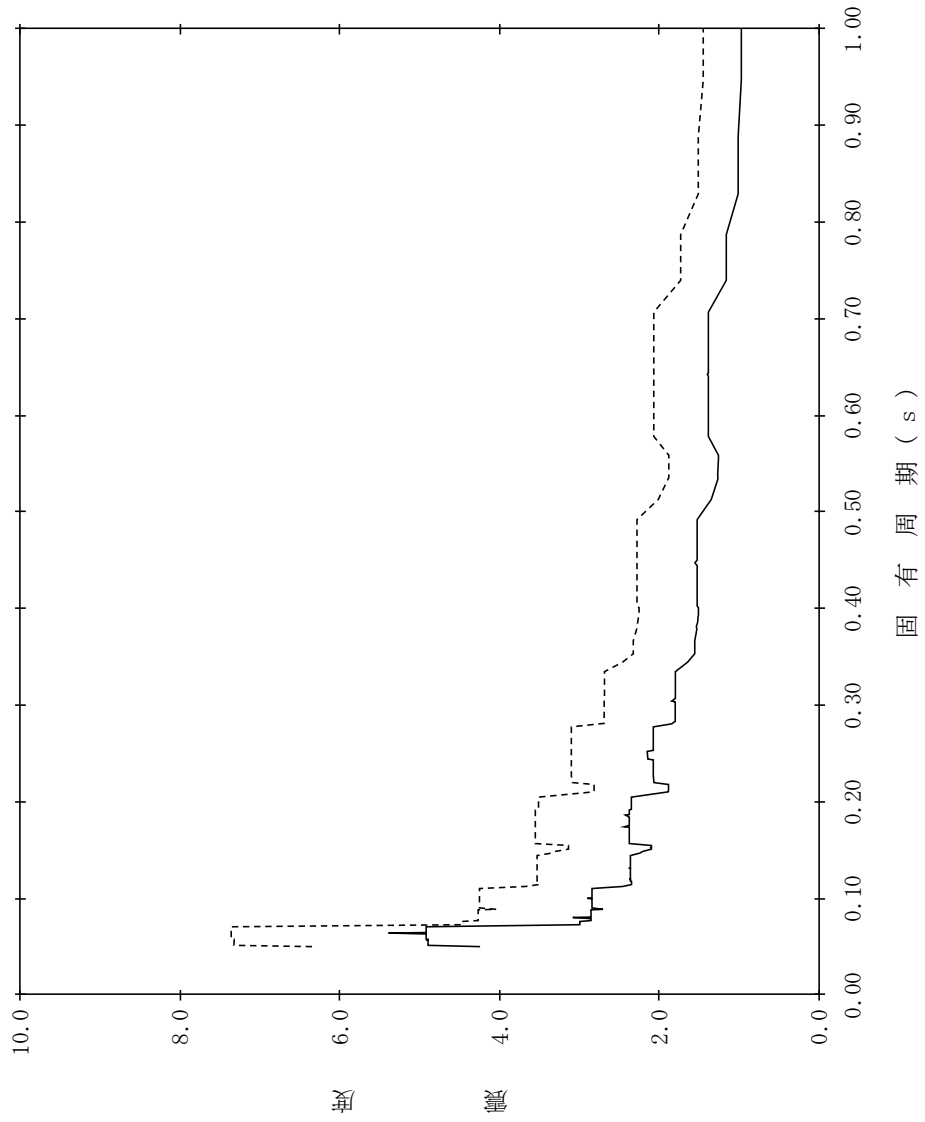
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)

- - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-GTG-SsV-GTG2】

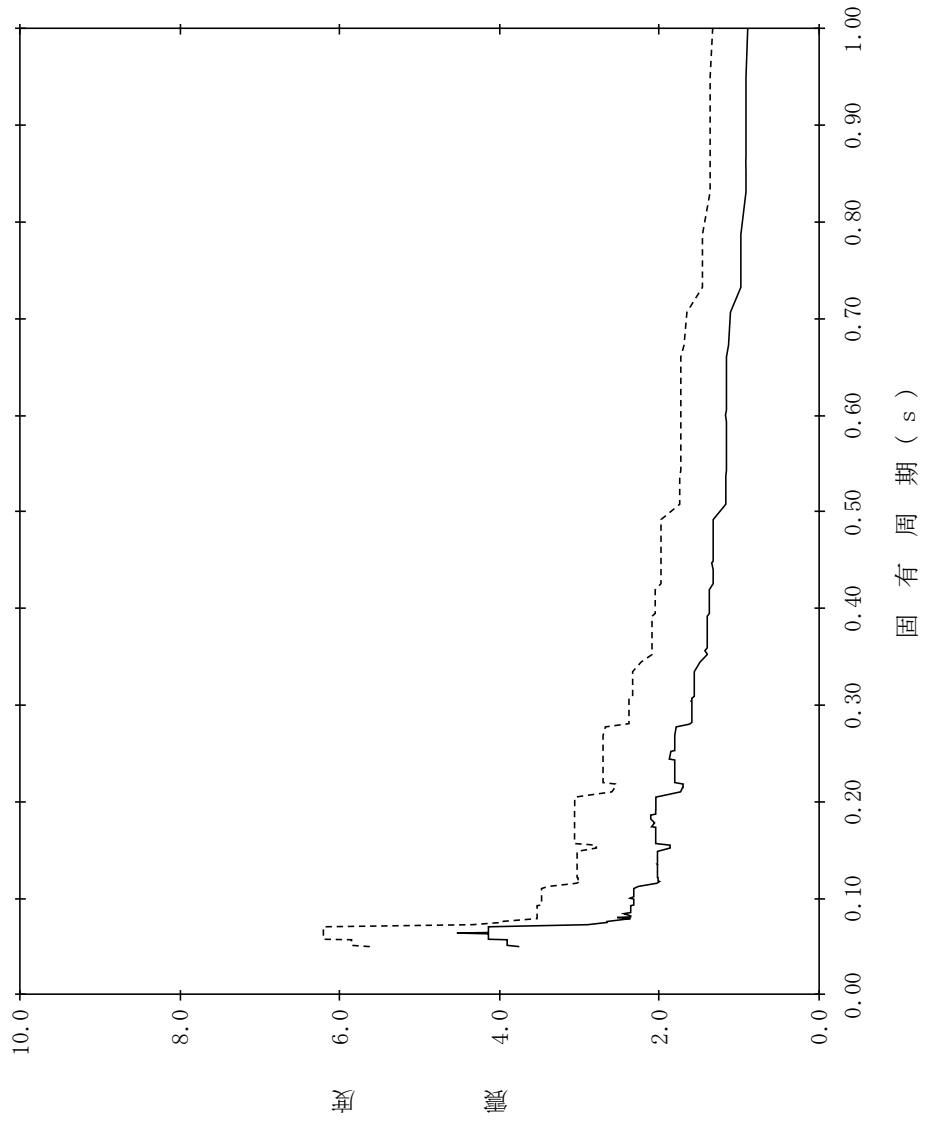
構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL61.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-GTG-SsV-GTG3】

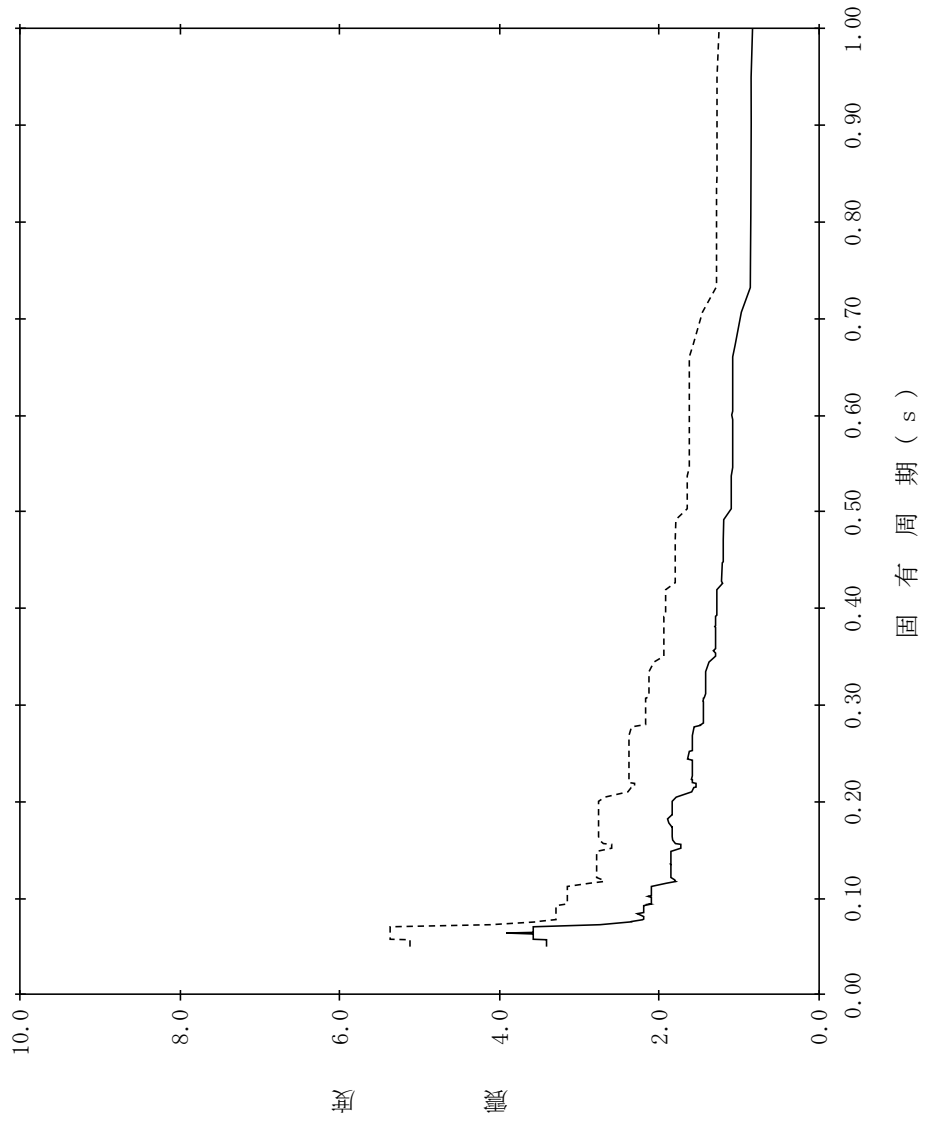
構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL61.500m
減衰定数：1.5%

—— 設計用床応答スペクトルⅠ（鉛直方向）
----- 設計用床応答スペクトルⅡ（鉛直方向）



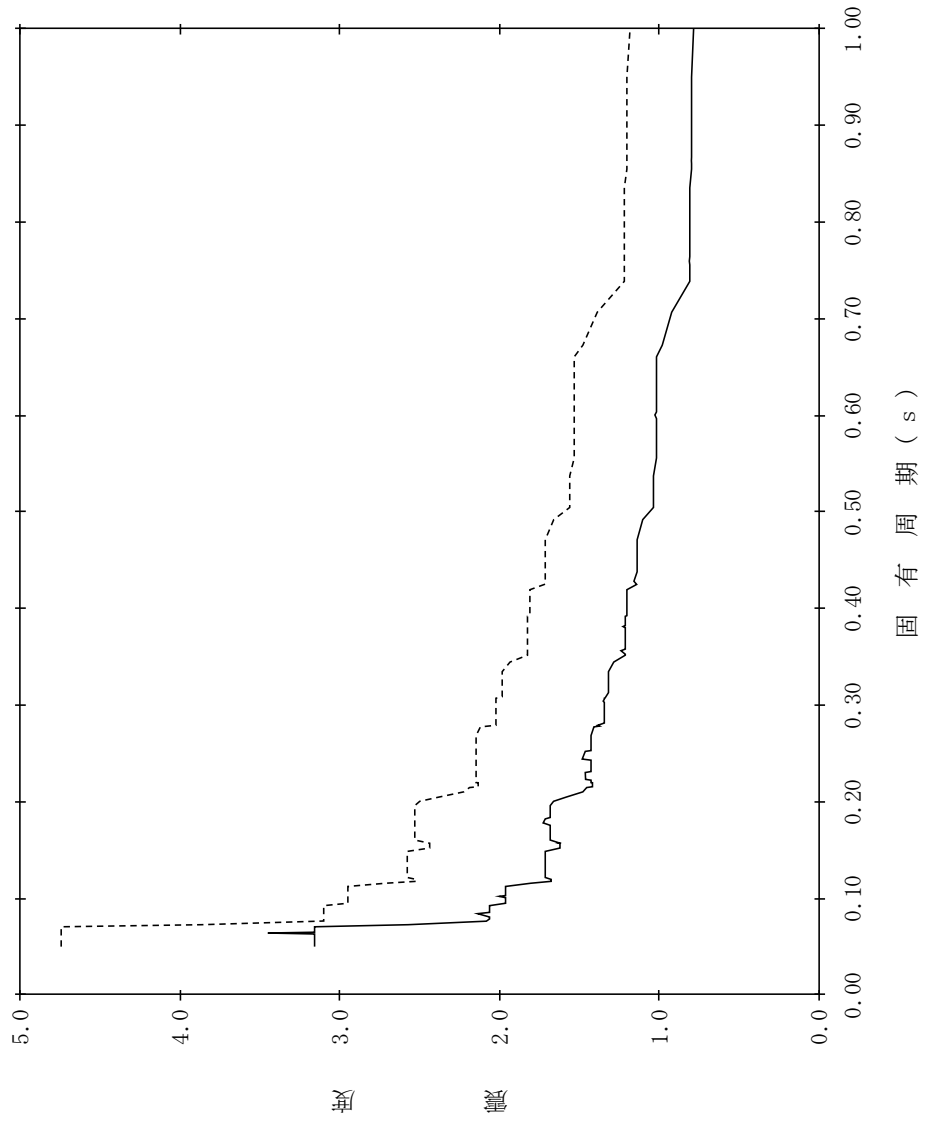
【NS2-GTG-SsV-GTG4】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL61.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



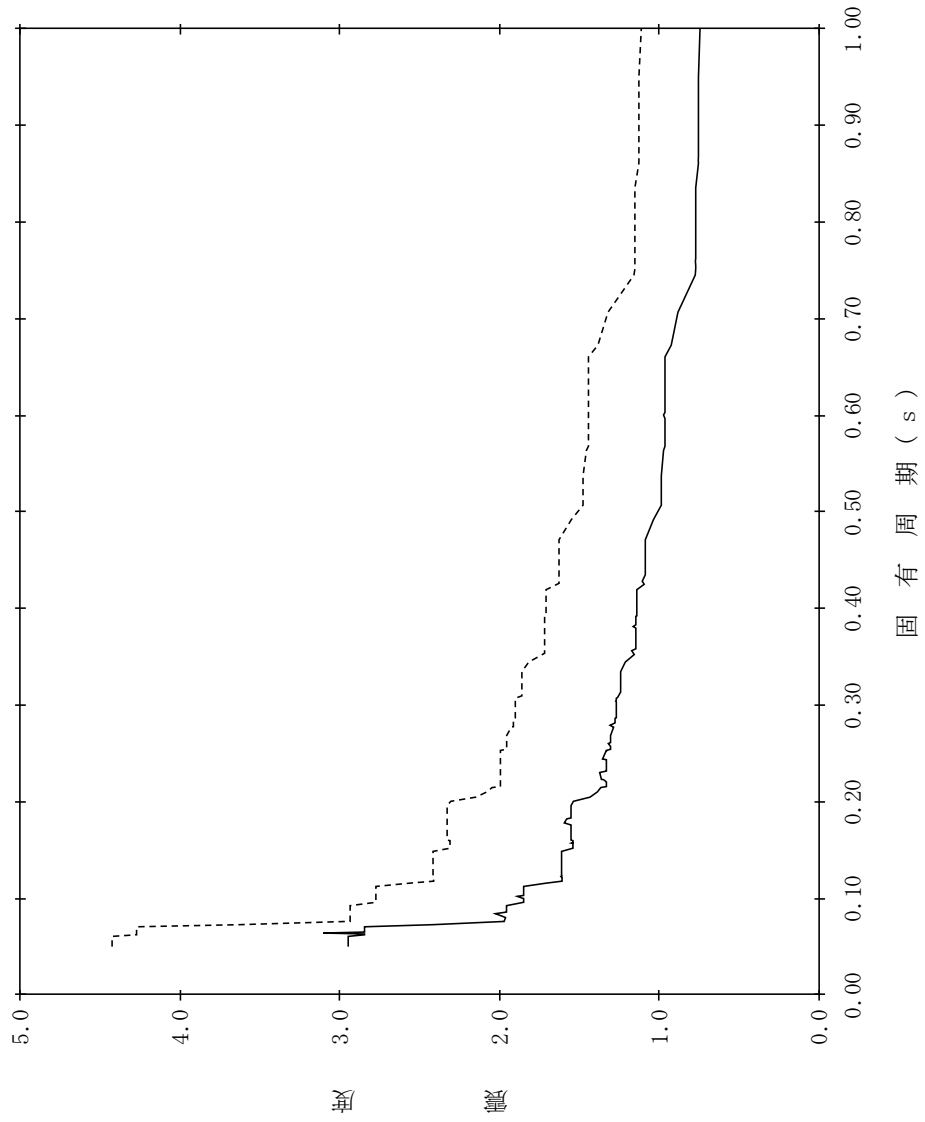
【NS2-GTG-SsV-GTG5】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL61.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-GTG-SsV-GTG6】

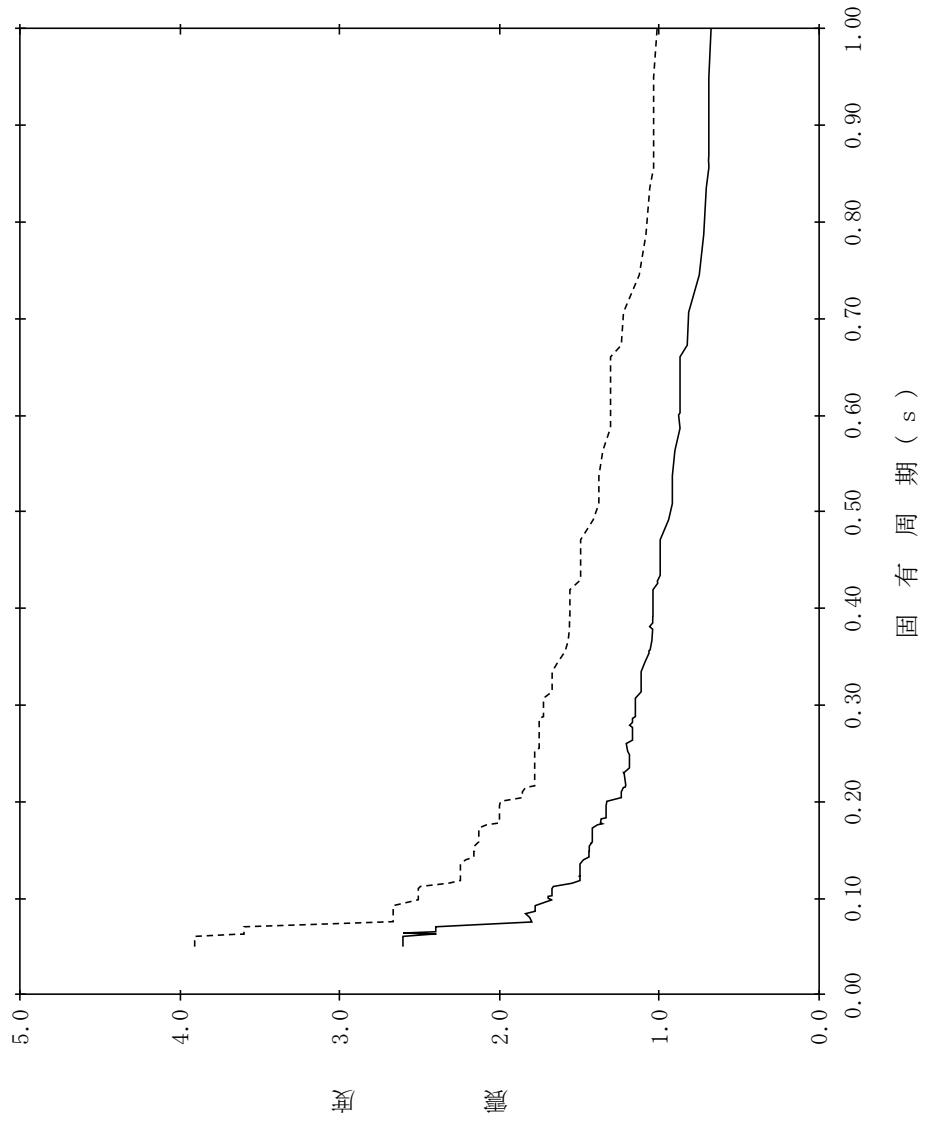
構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL61.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-GTG-SsV-GTG7】

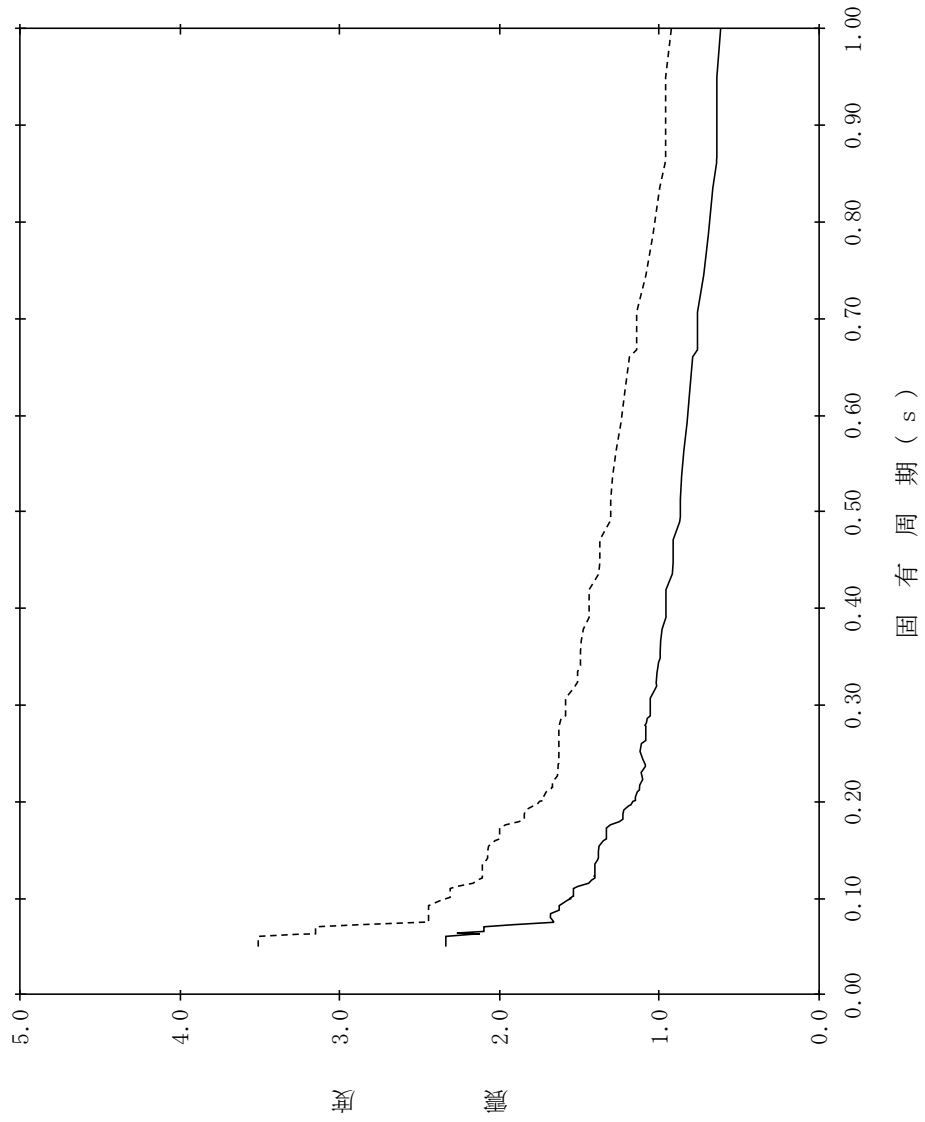
構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL61.500m
 減衰定数：4.0%

——— 設計用床応答スペクトルⅠ (鉛直方向)
 - - - - - 設計用床応答スペクトルⅡ (鉛直方向)



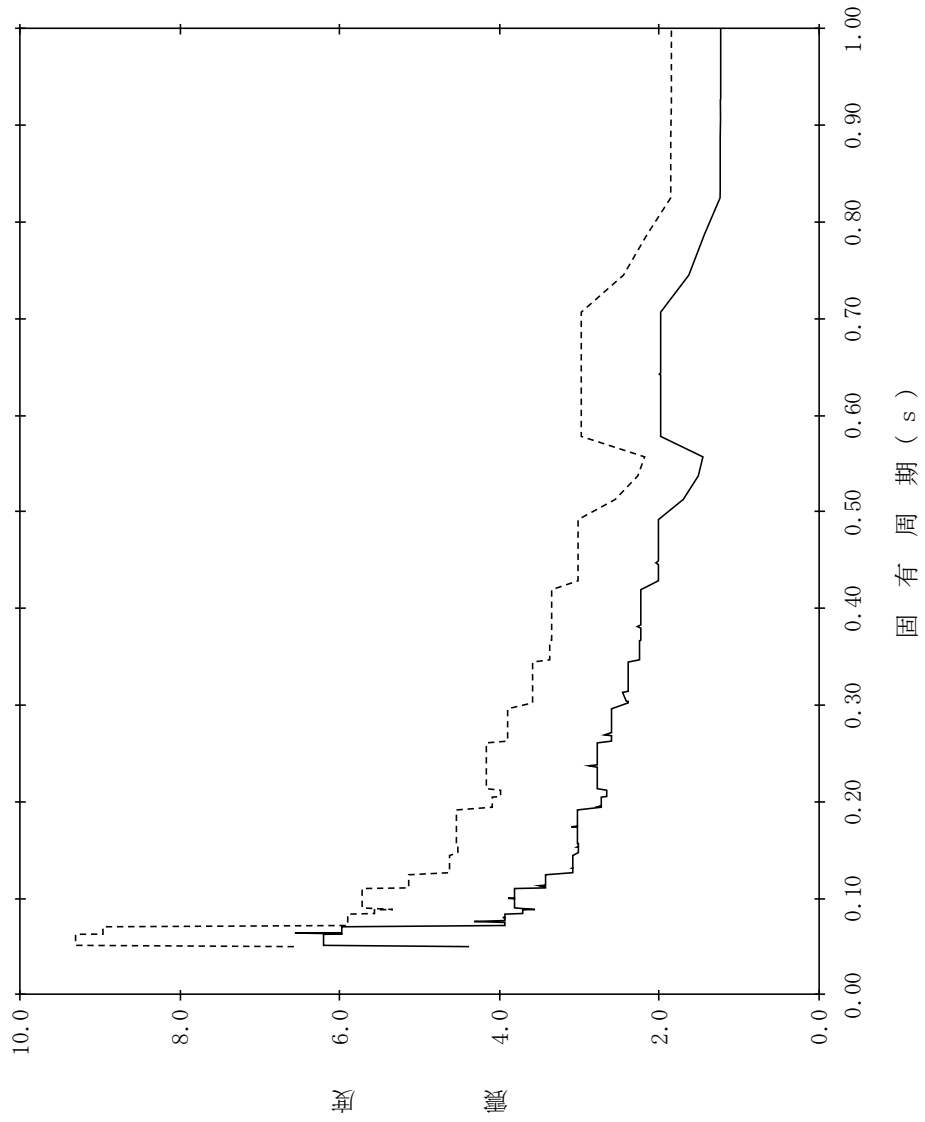
【NS2-GTG-SsV-GTG8】

構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL61.500m
減衰定数：5.0%
波形式：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-GTG-SsV-GTG9】

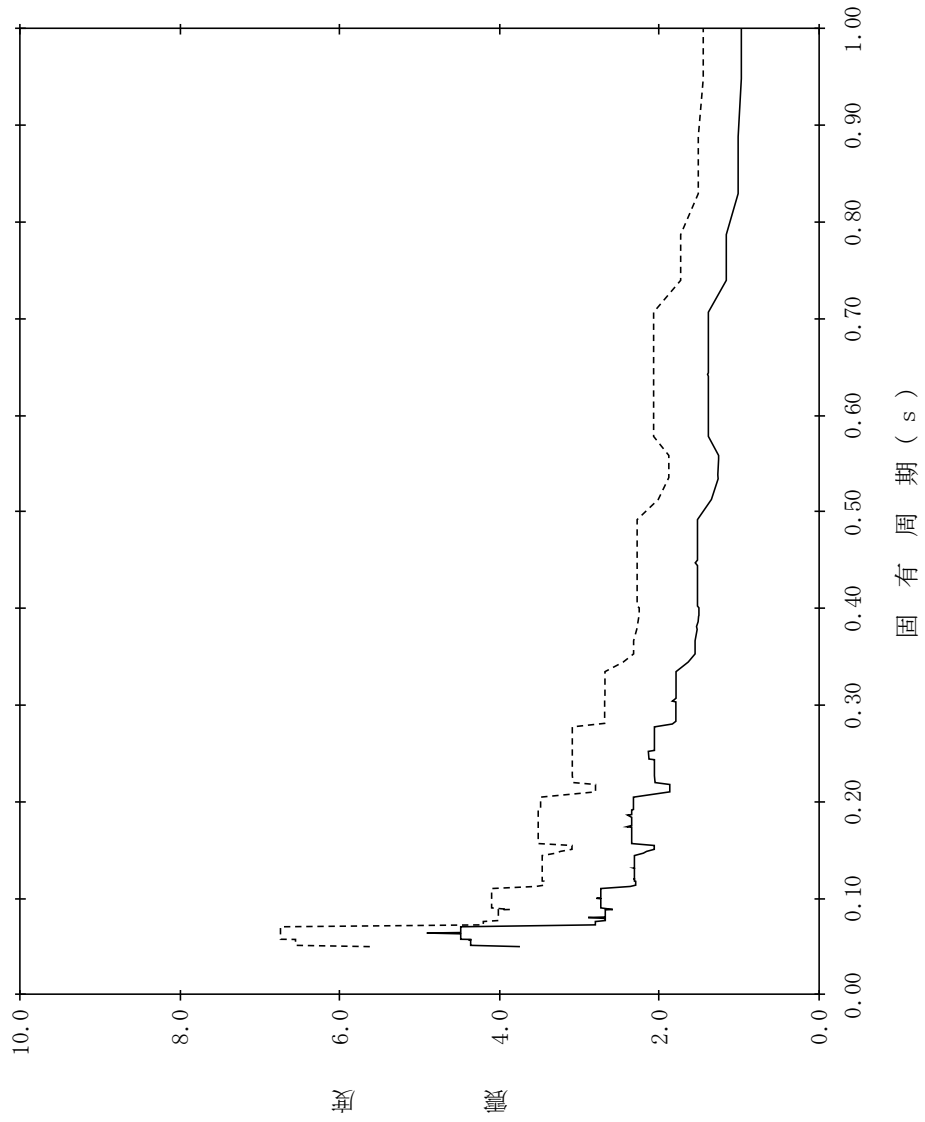
構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-GTG-SsV-GTG10】

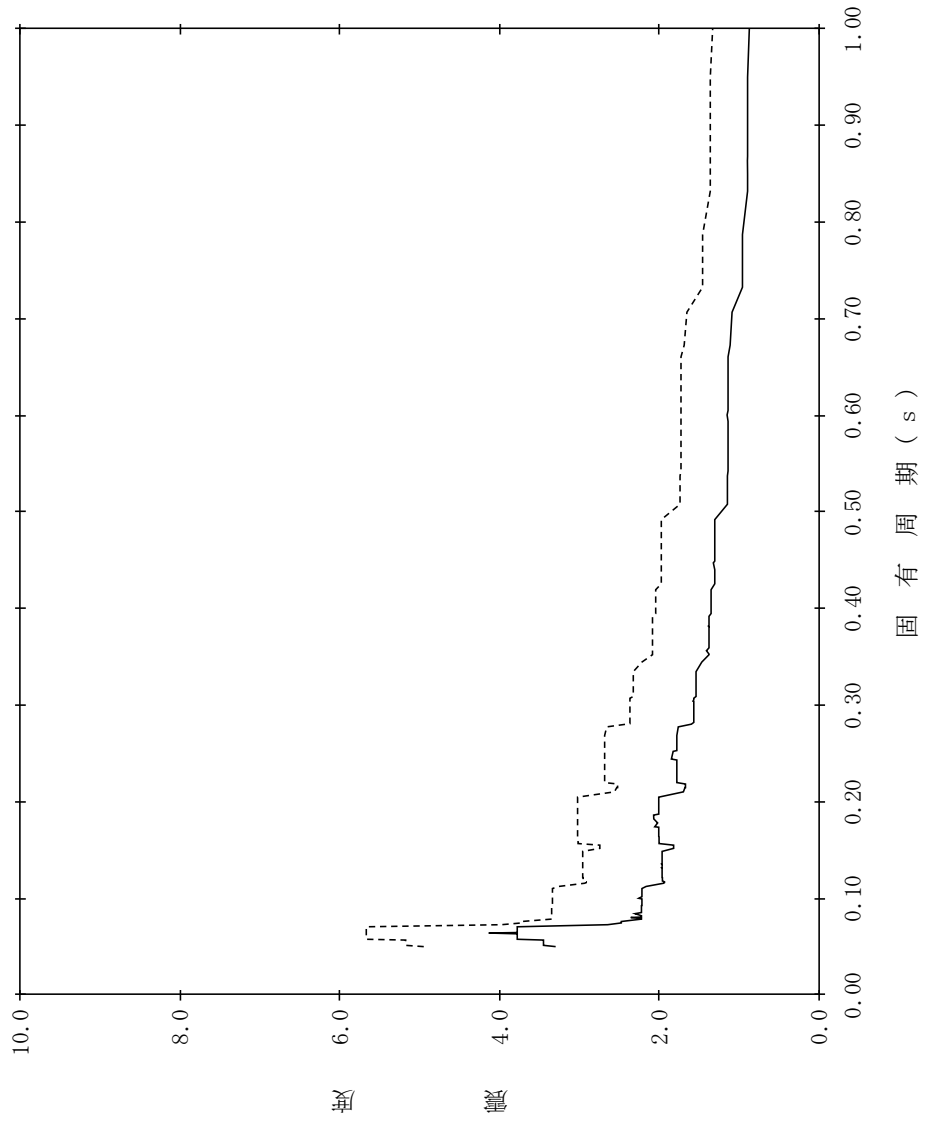
構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：1.0%

——— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 - - - - - 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



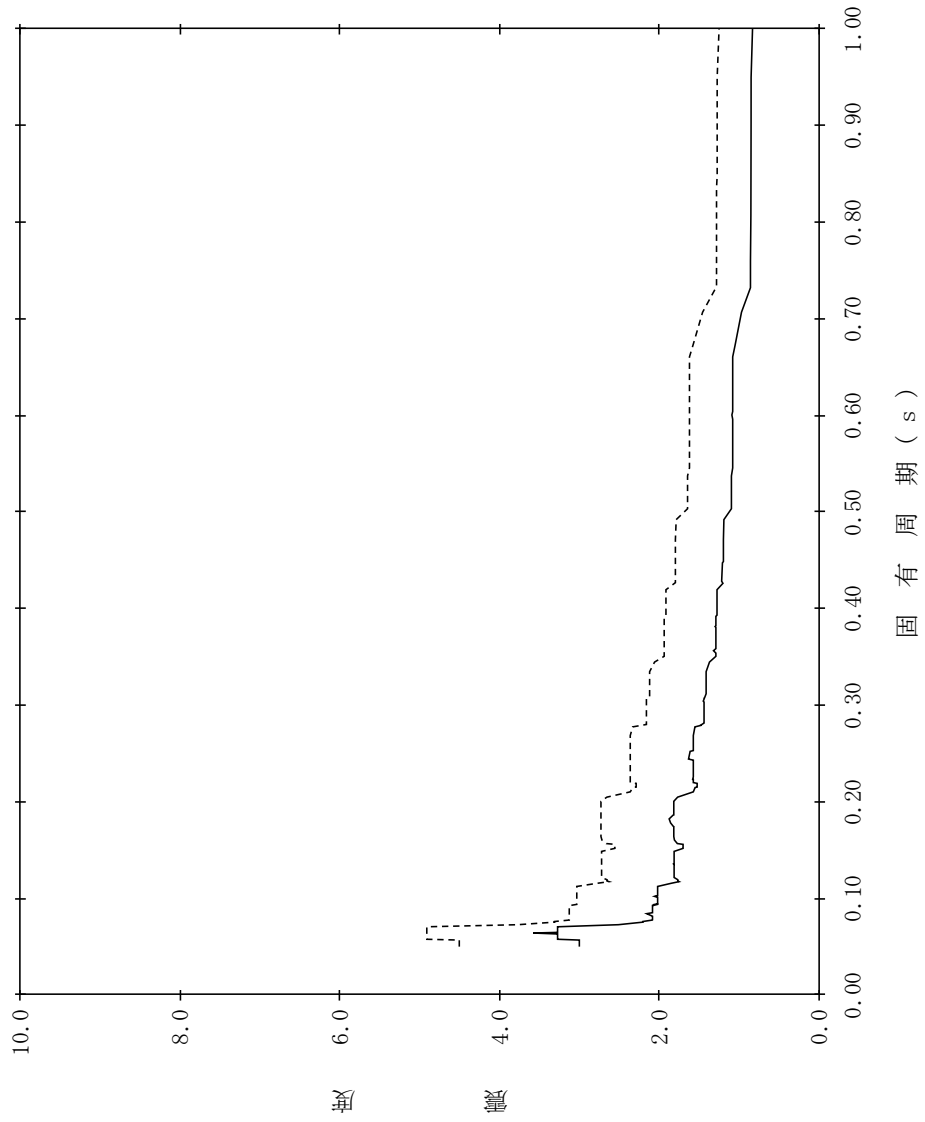
【NS2-GTG-SsV-GTG11】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



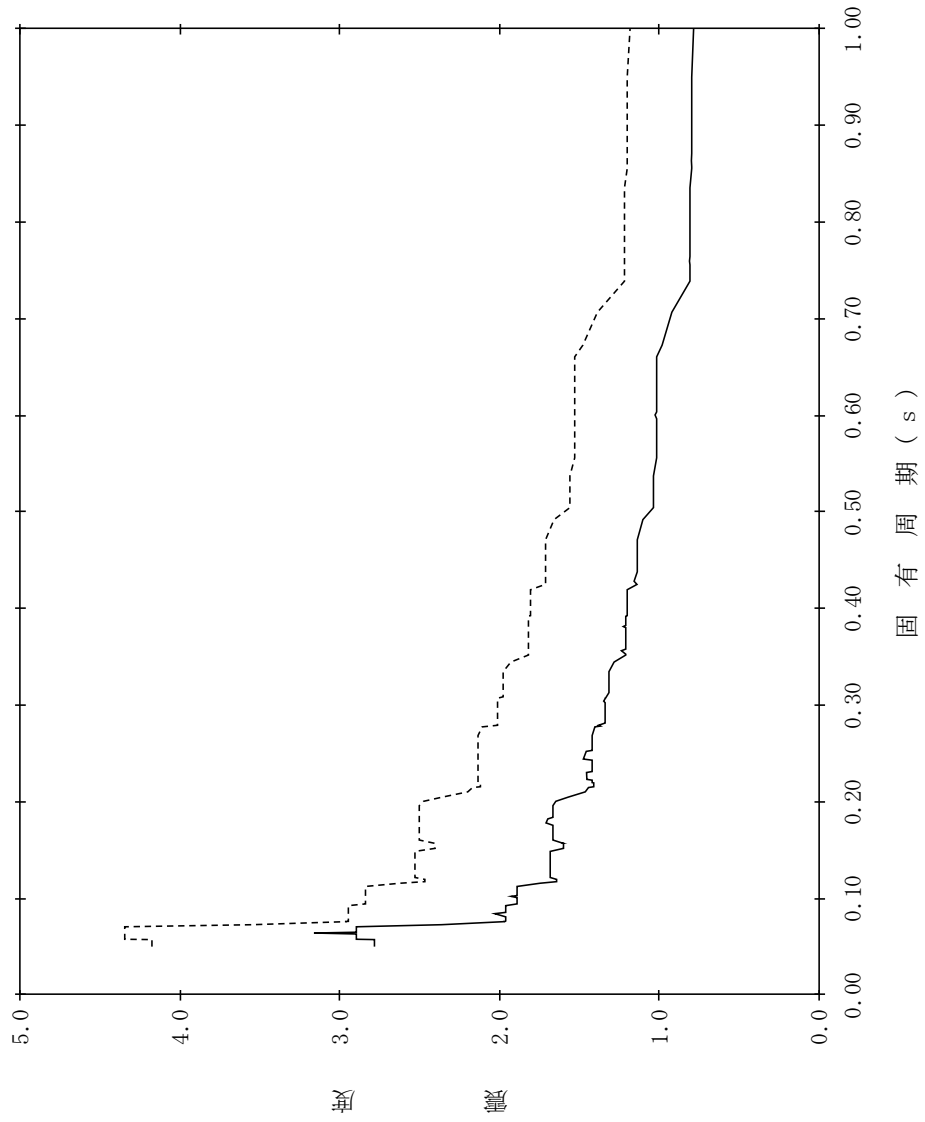
【NS2-GTG-SsV-GTG12】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



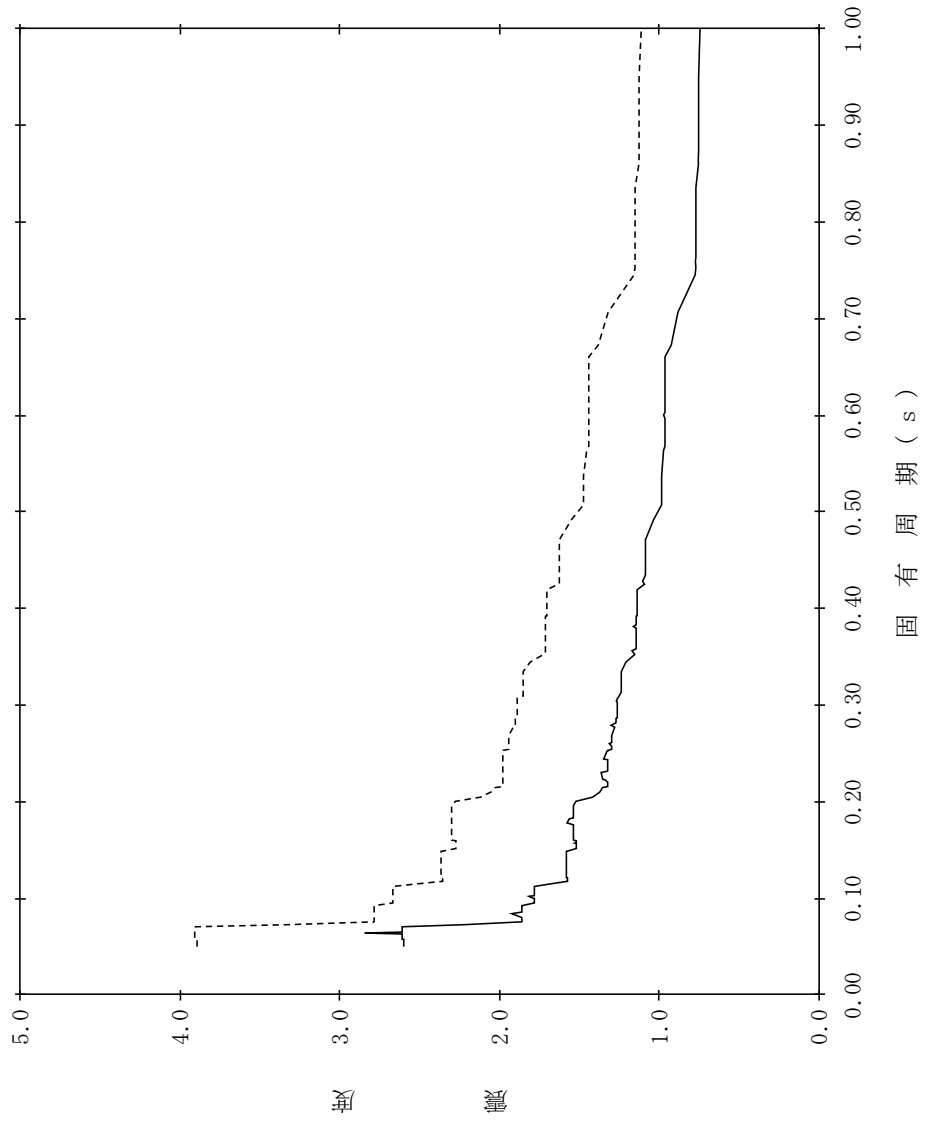
【NS2-GTG-SsV-GTG13】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



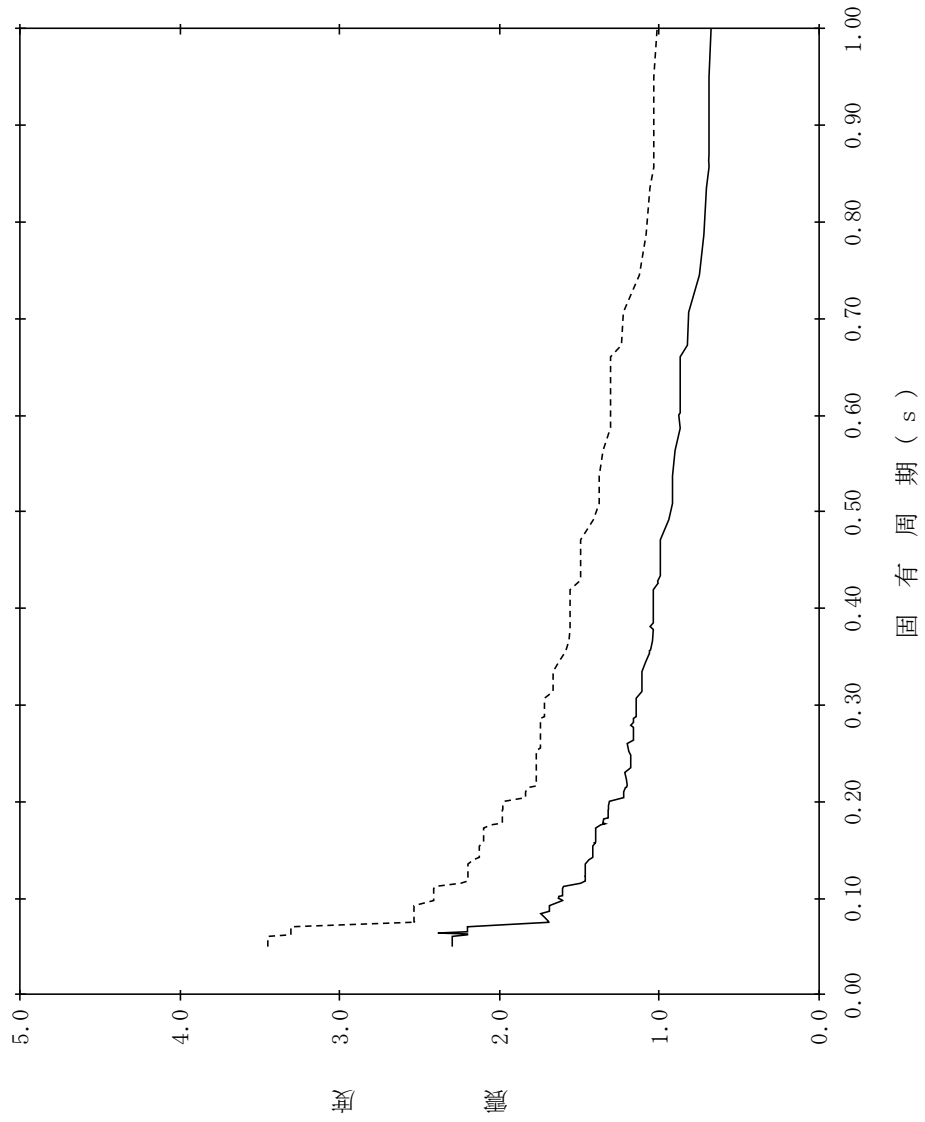
【NS2-GTG-SsV-GTG14】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



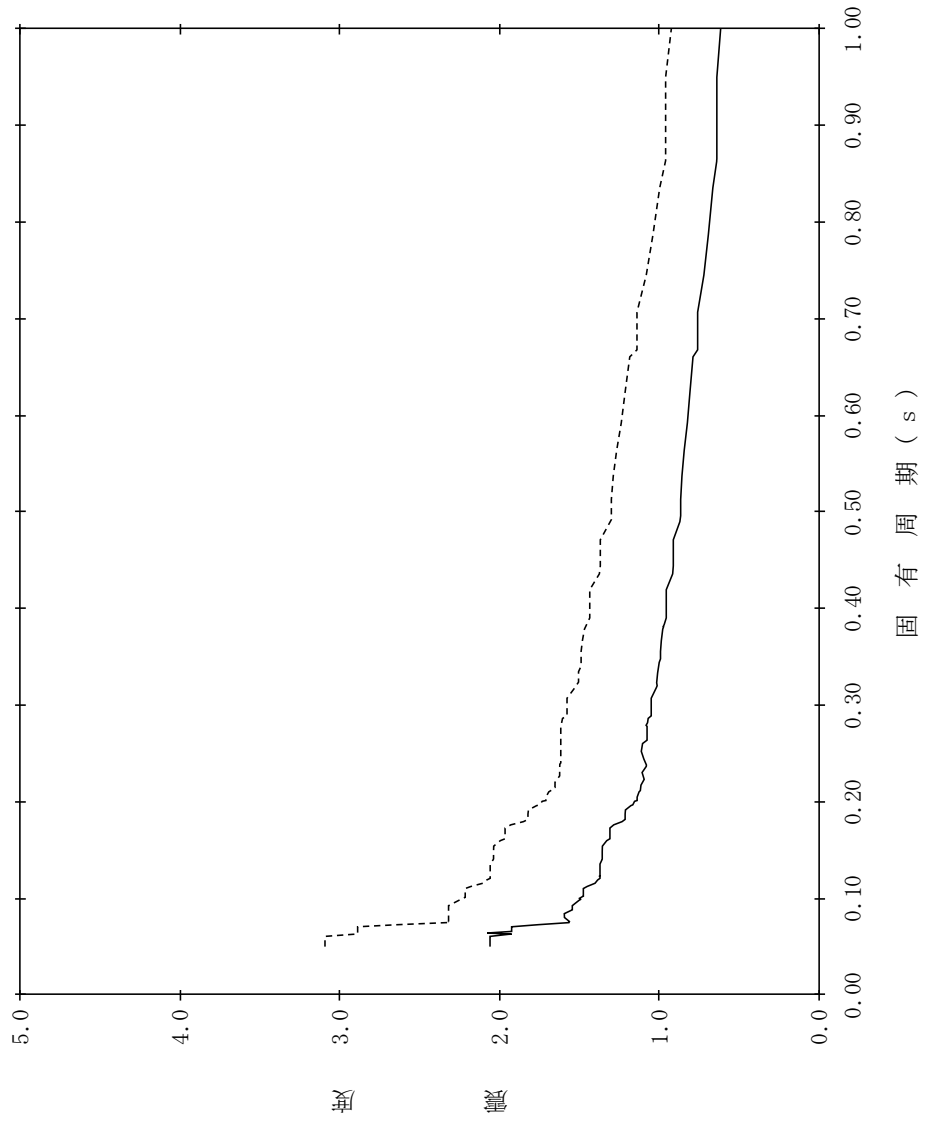
【NS2-GTG-SsV-GTG15】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL54.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



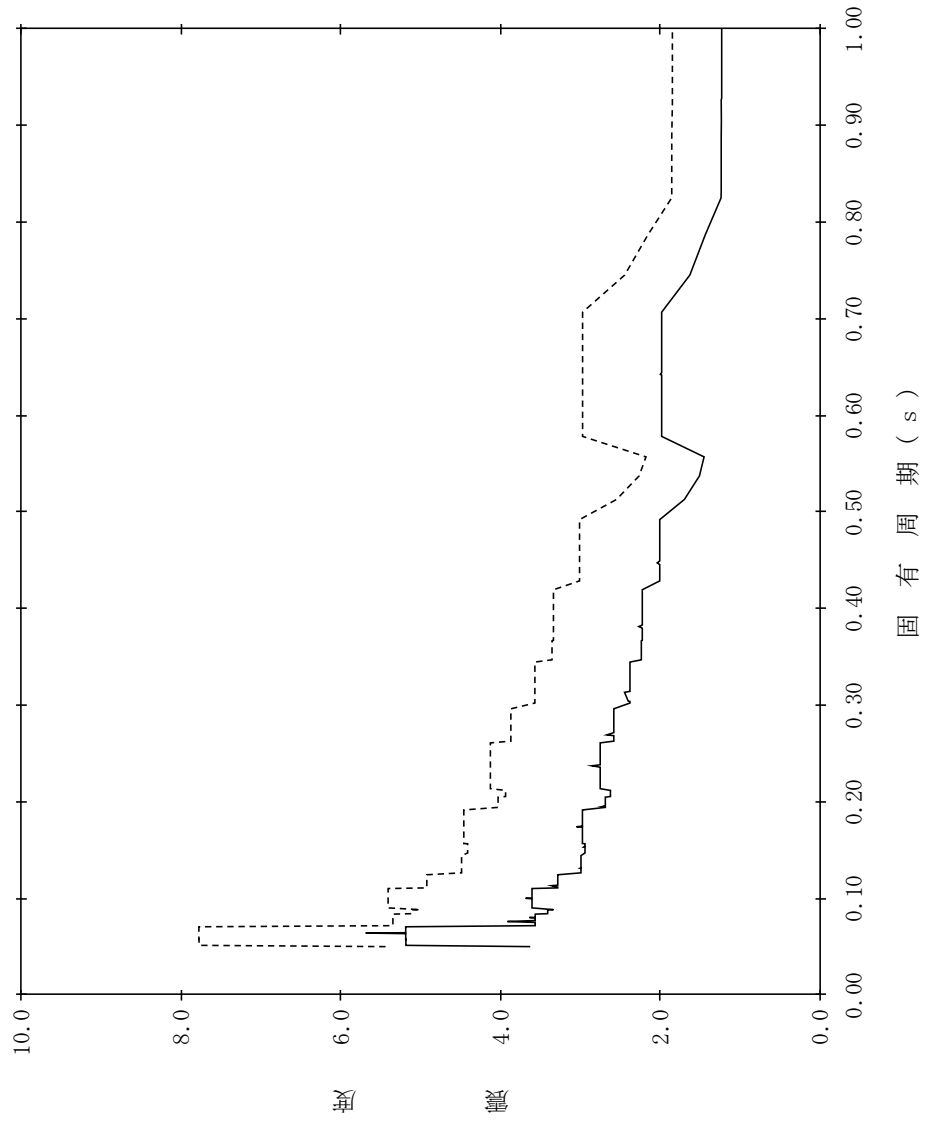
【NS2-GTG-SsV-GTG16】

構造物名：ガスタービン発電機建物
標高：EL54.500m
減衰定数：5.0%
波形名：基準地震動 S s
—— 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
----- 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



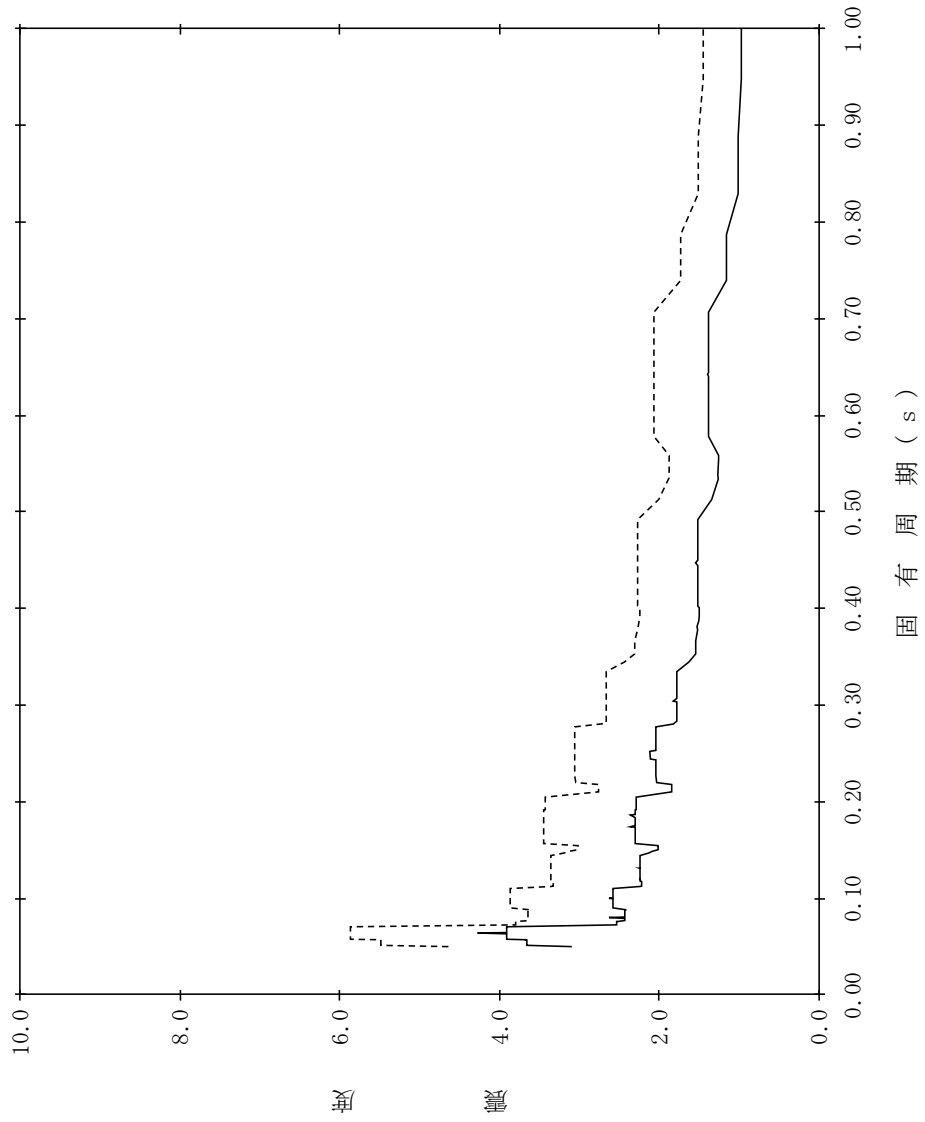
【NS2-GTG-SsV-GTG17】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL47.500m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



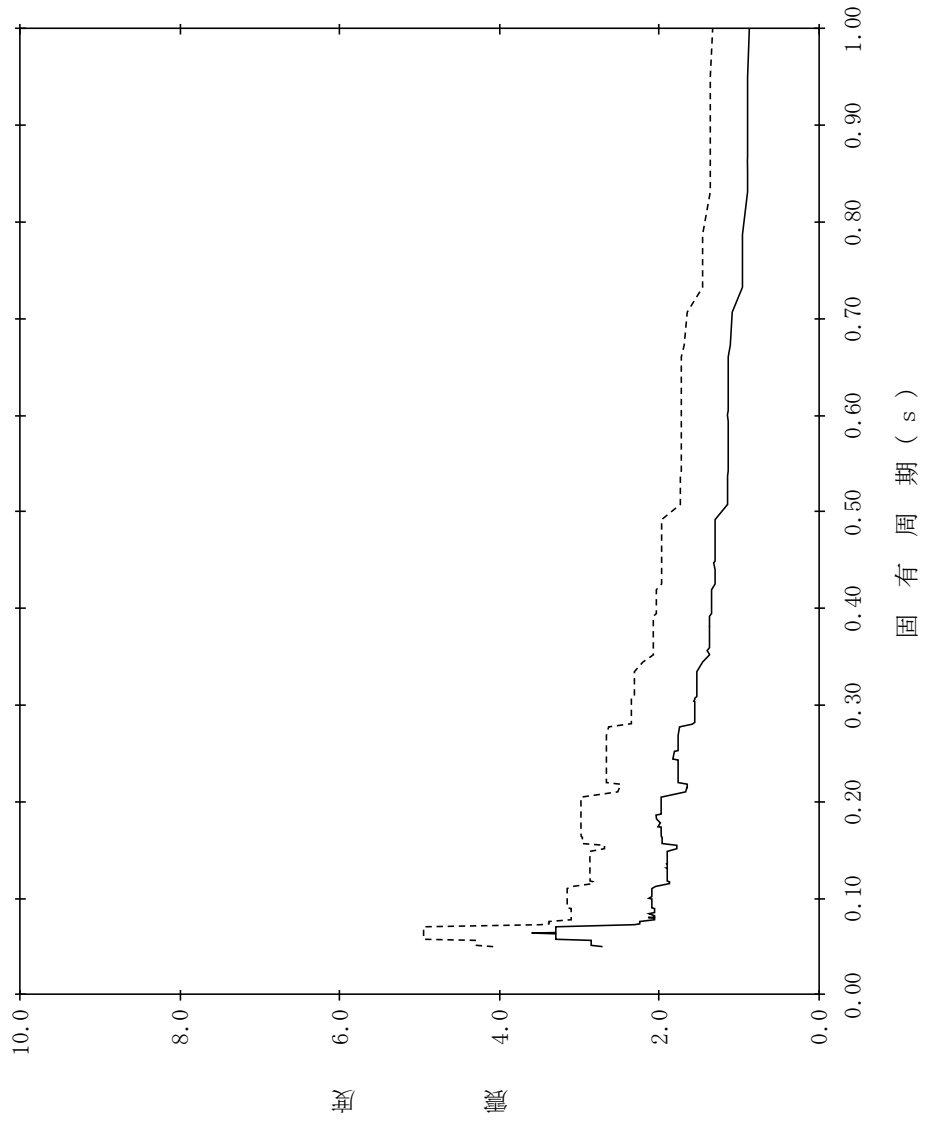
【NS2-GTG-SsV-GTG18】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL47.500m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



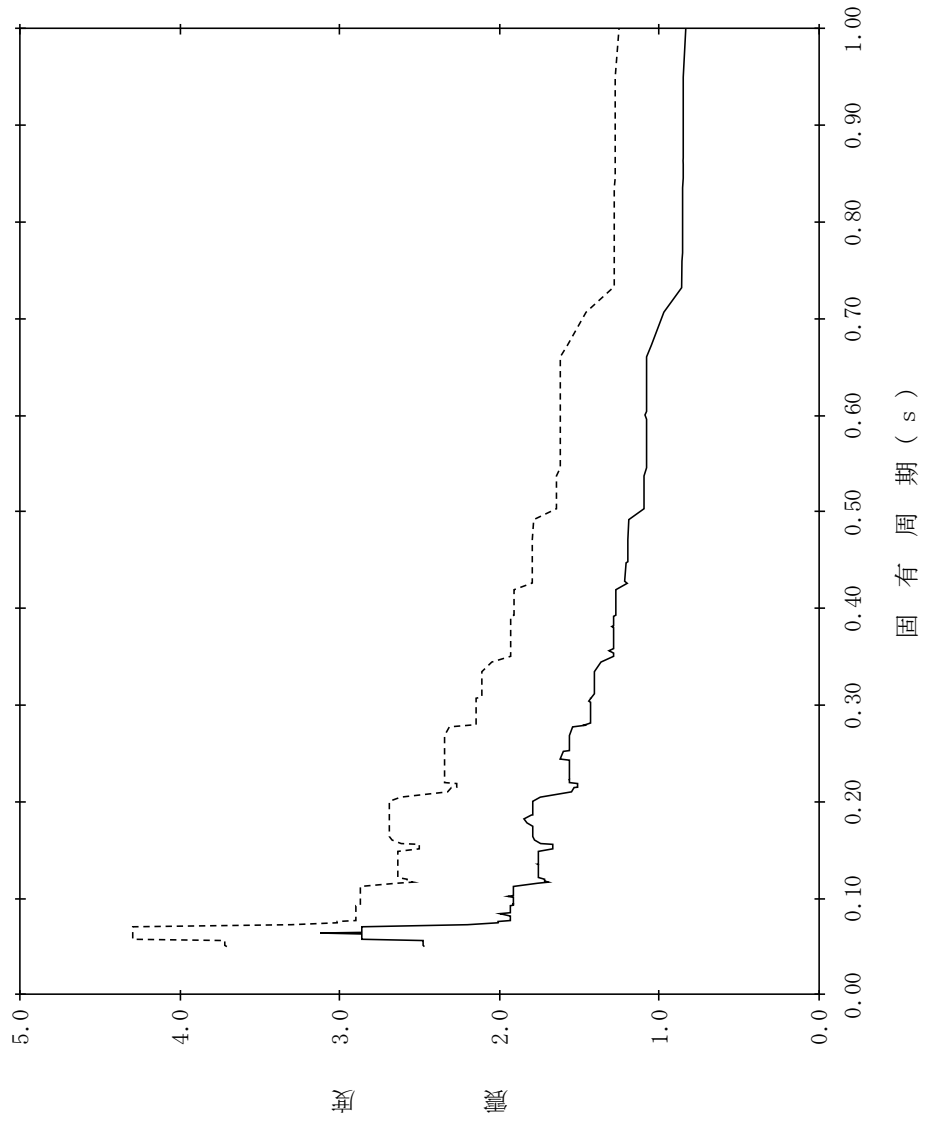
【NS2-GTG-SsV-GTG19】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL47.500m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



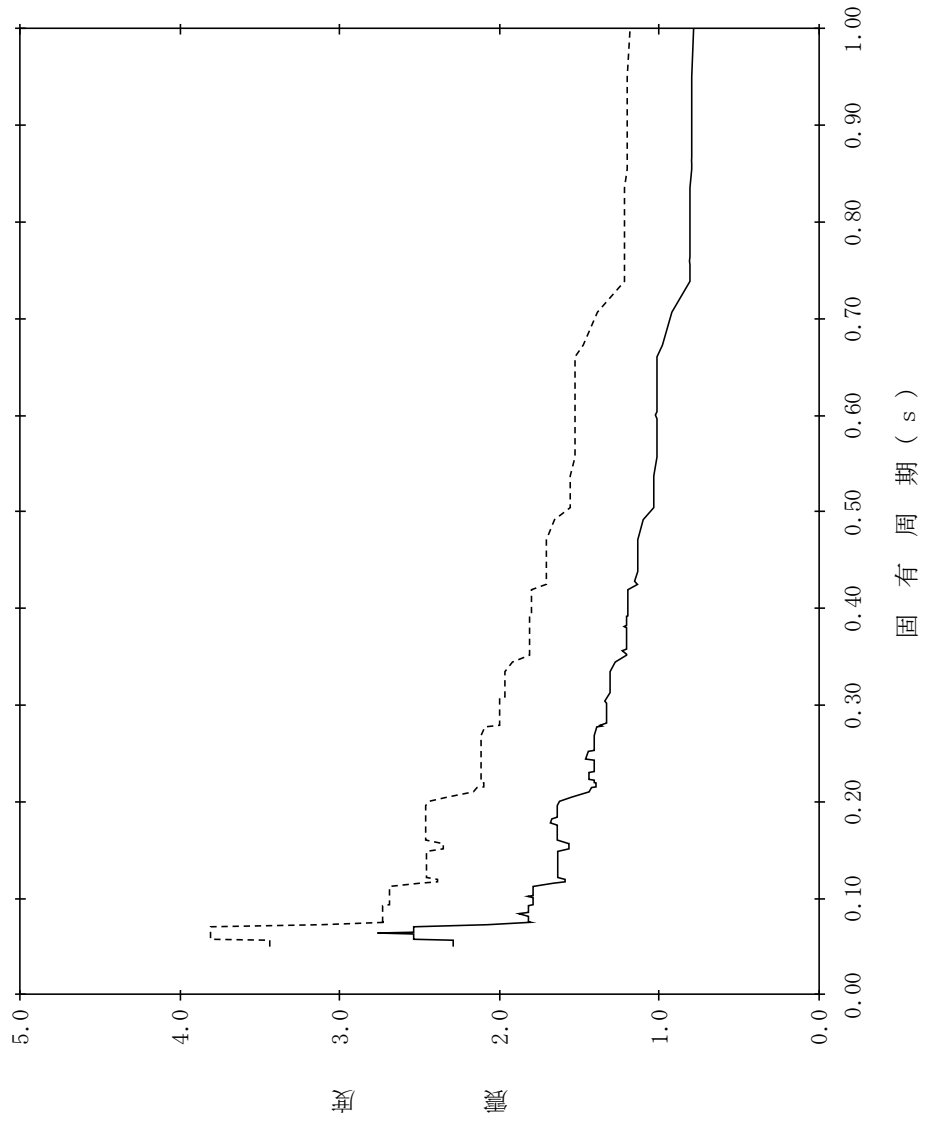
【NS2-GTG-SsV-GTG20】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL47.500m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



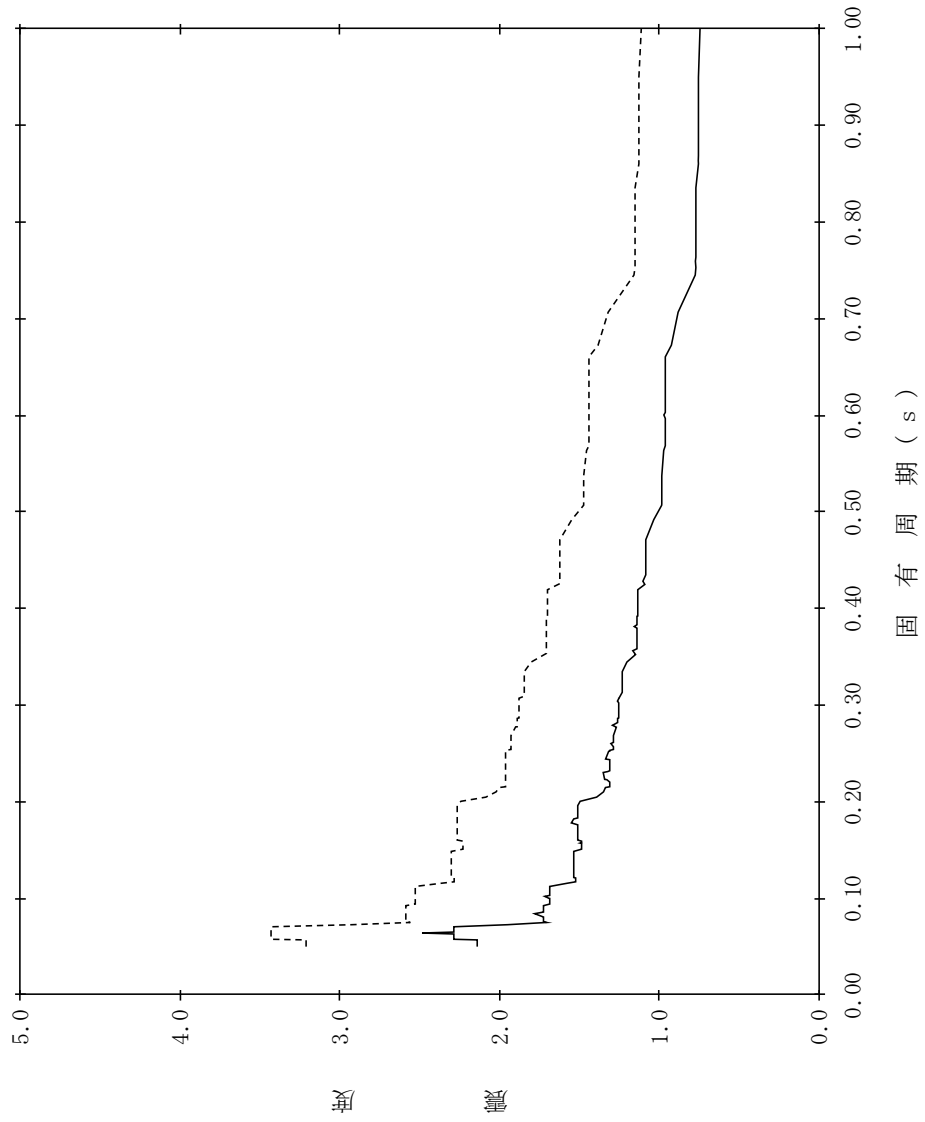
【NS2-GTG-SsV-GTG21】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL47.500m
 減衰定数：2.5%
 波形式：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



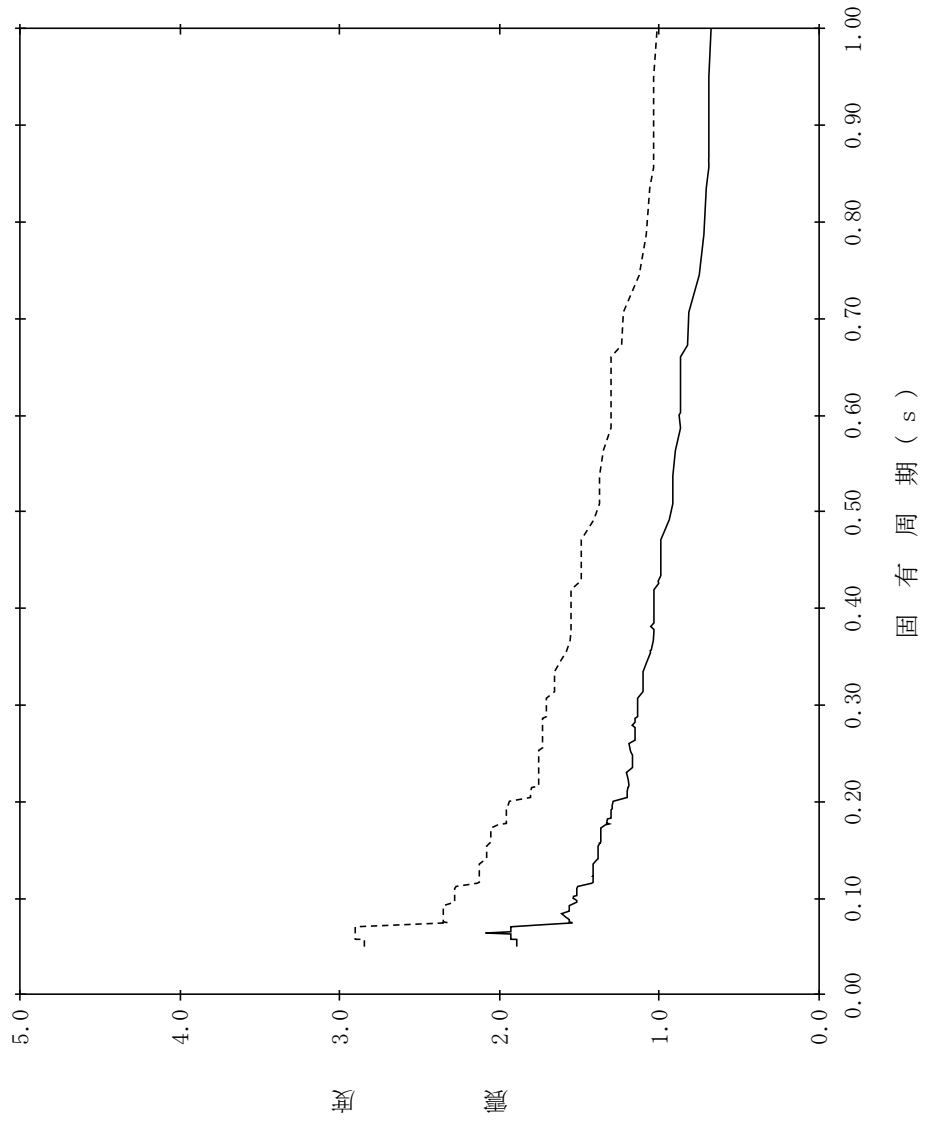
【NS2-GTG-SsV-GTG22】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL47.500m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



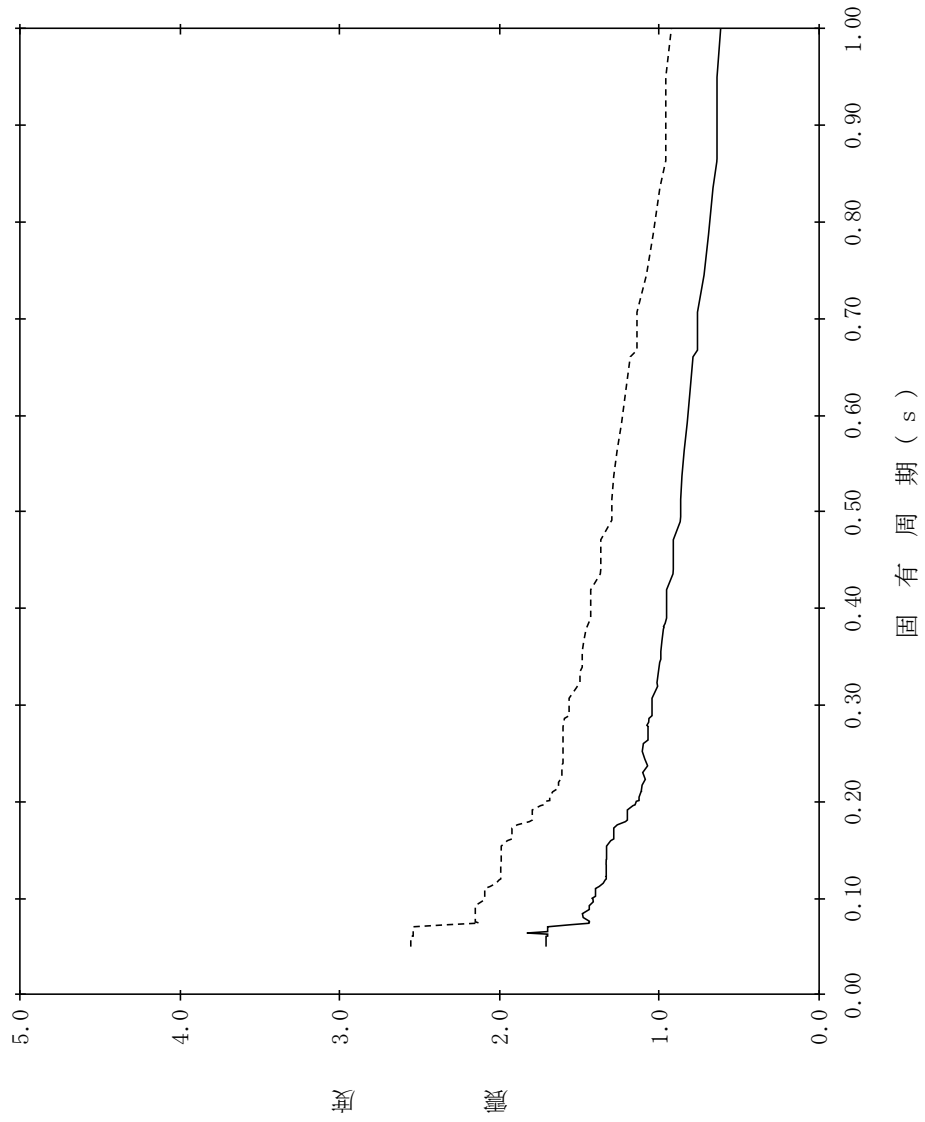
【NS2-GTG-SsV-GTG23】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL47.500m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



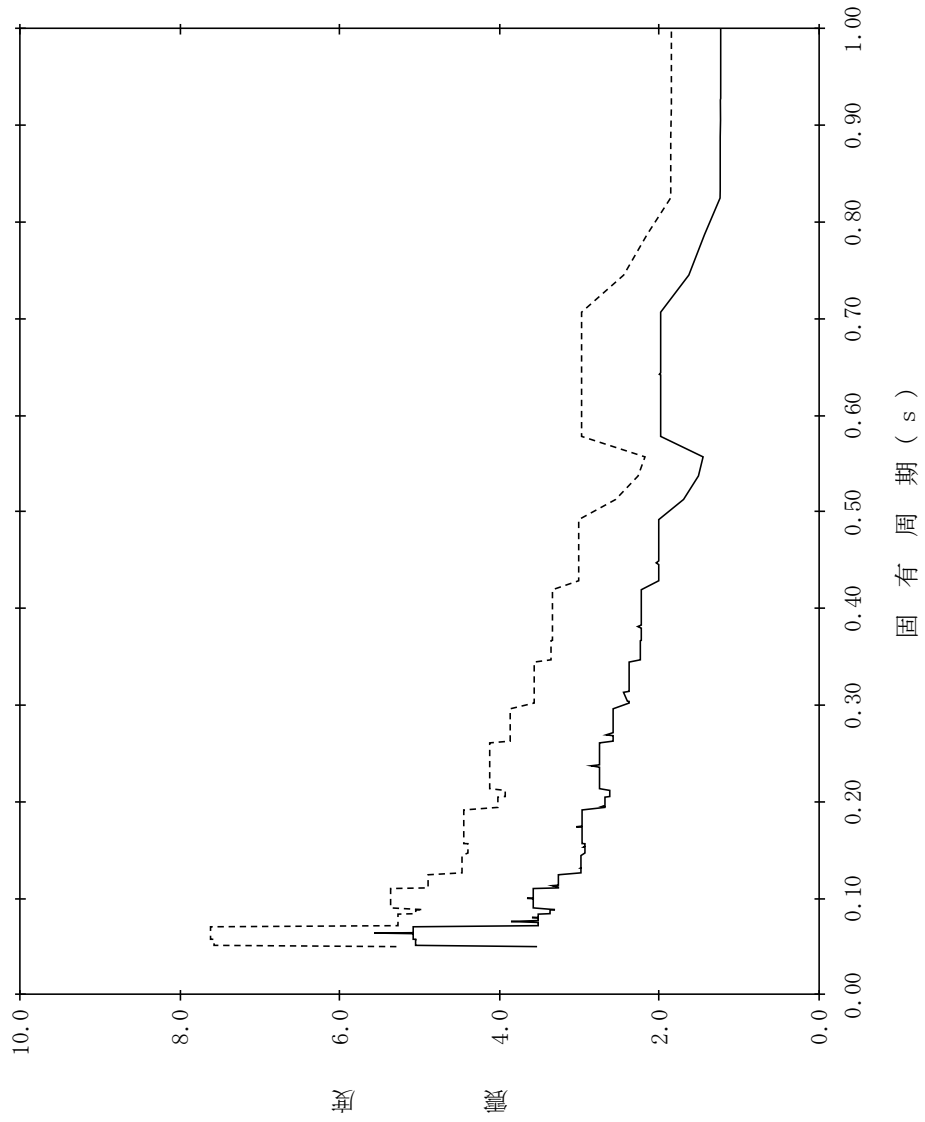
【NS2-GTG-SsV-GTG24】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL47.500m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



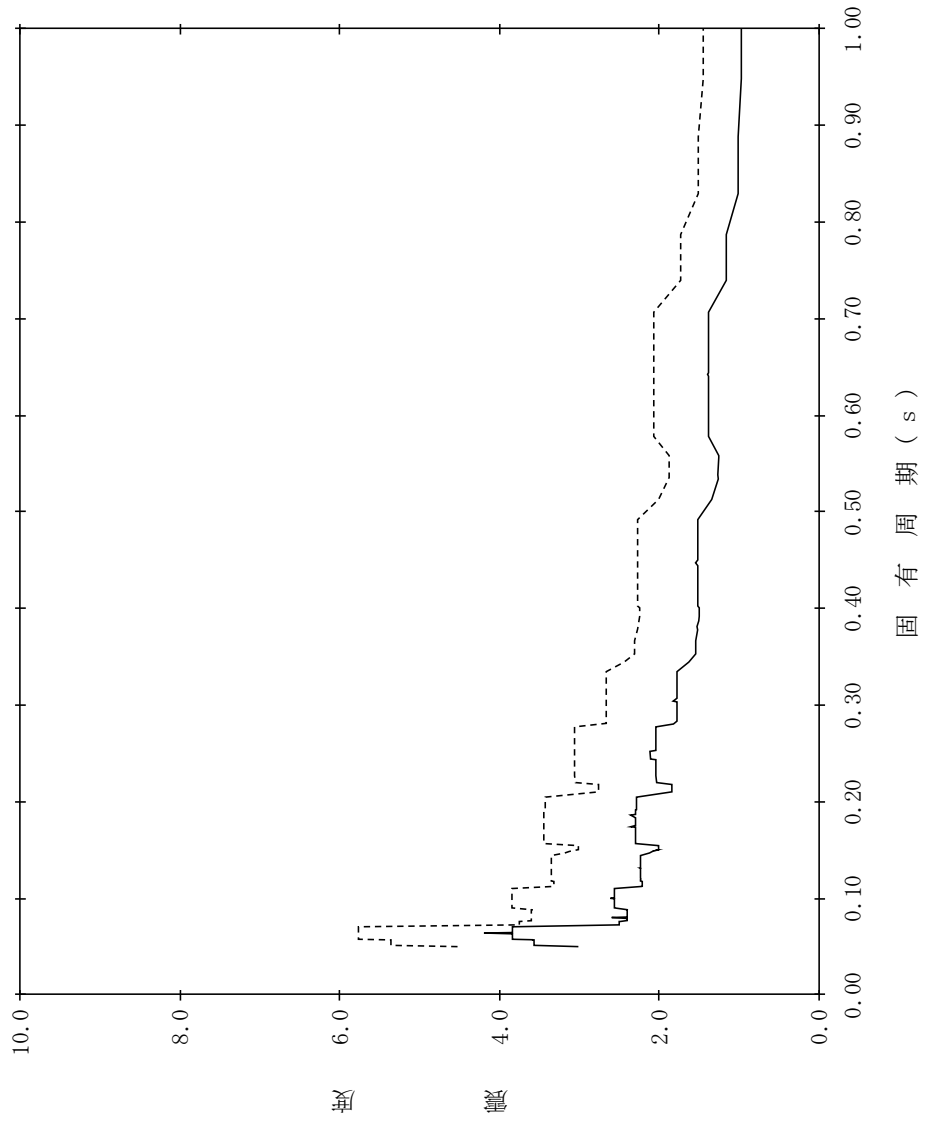
【NS2-GTG-SsV-GTG25】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL44.000m
 減衰定数：0.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



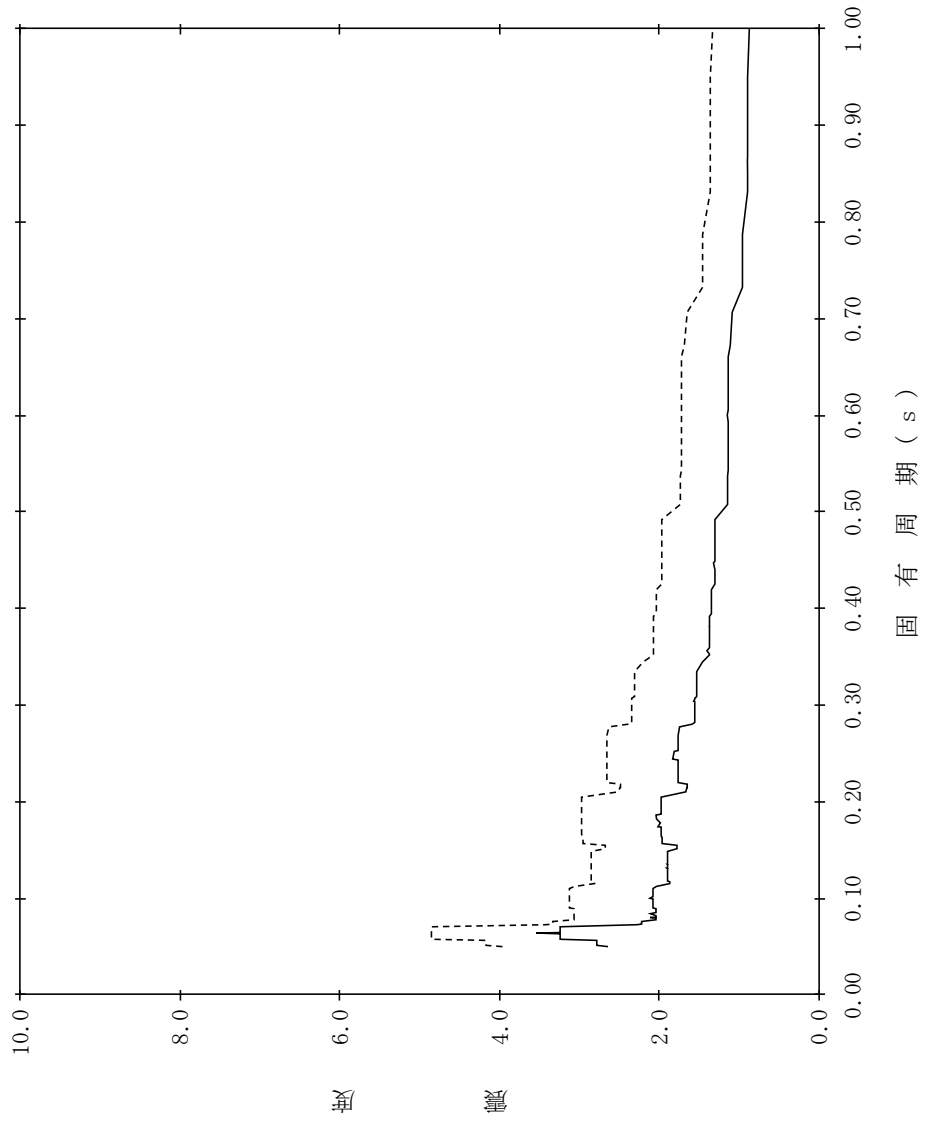
【NS2-GTG-SsV-GTG26】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL44.000m
 減衰定数：1.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



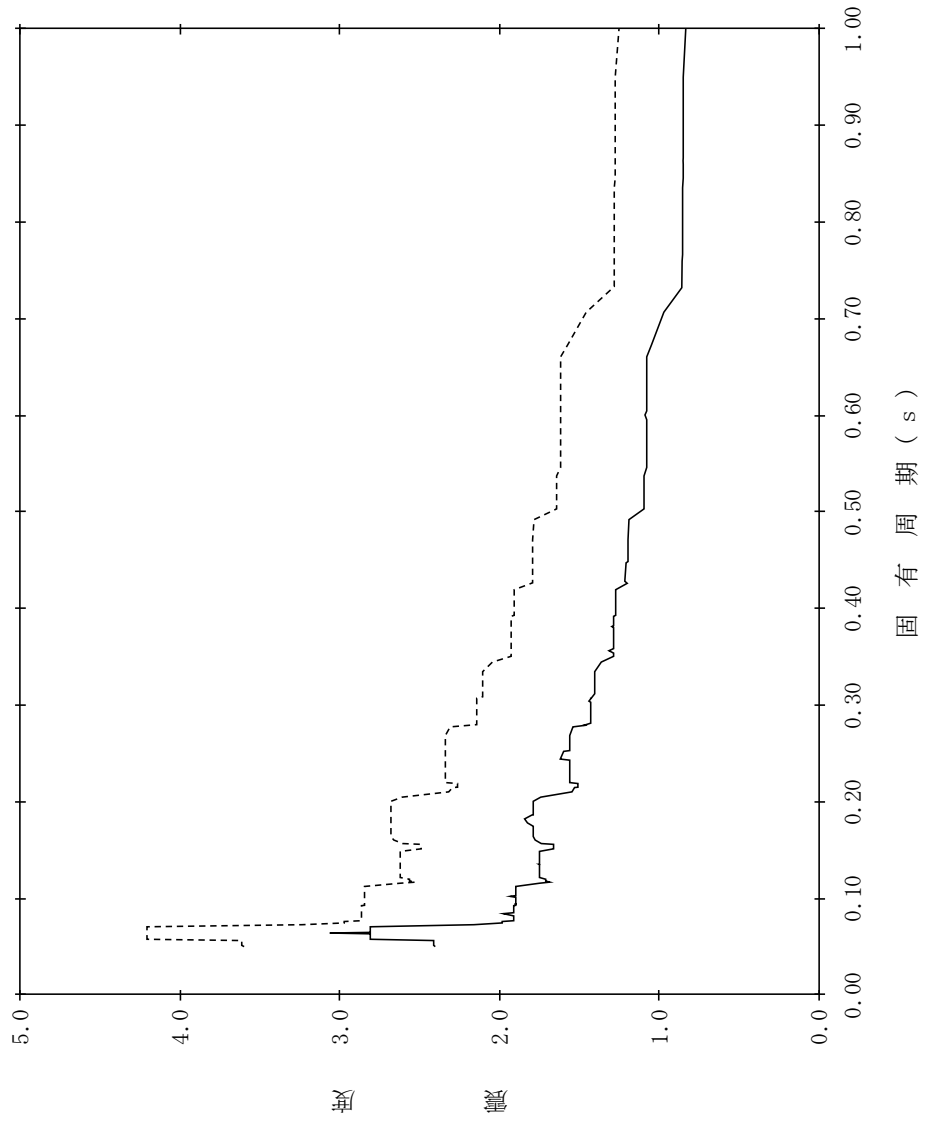
【NS2-GTG-SsV-GTG27】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL44.000m
 減衰定数：1.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



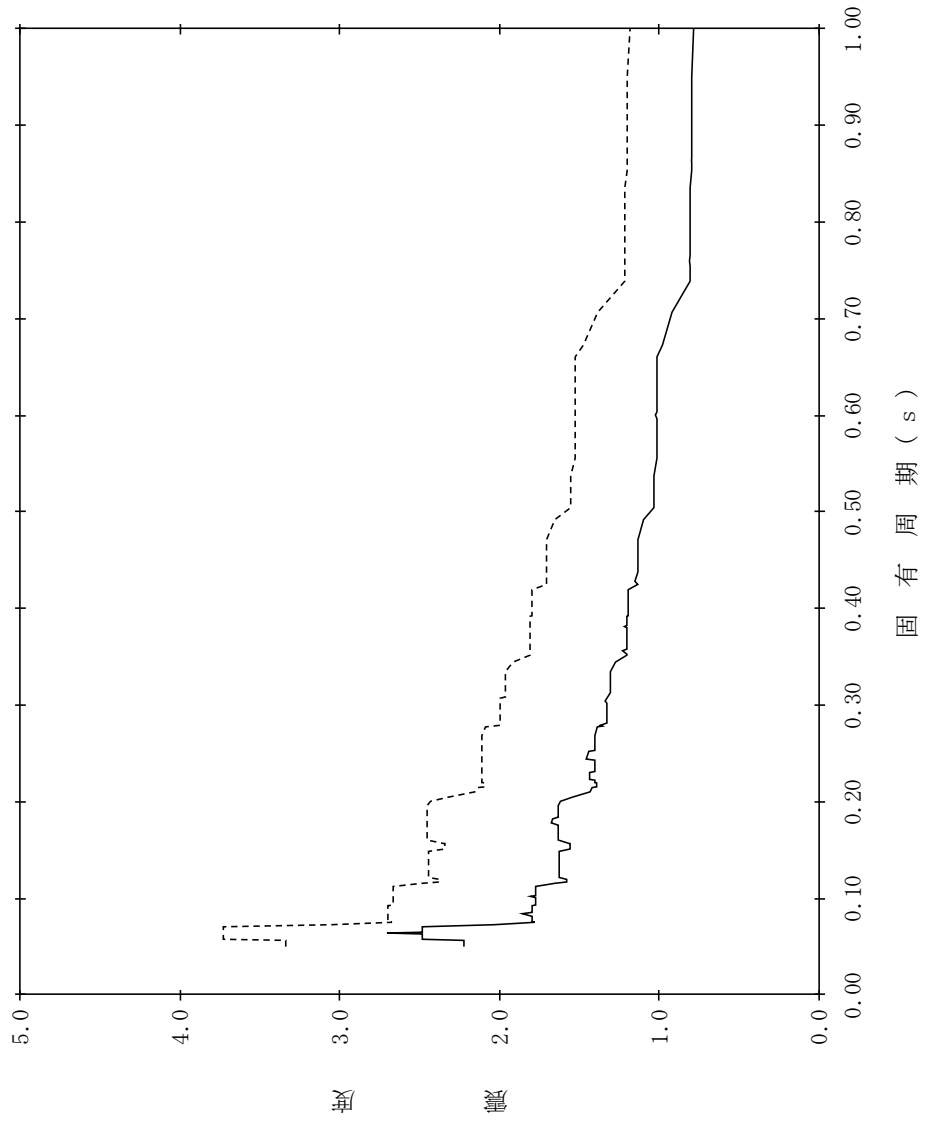
【NS2-GTG-SsV-GTG28】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL44.000m
 減衰定数：2.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



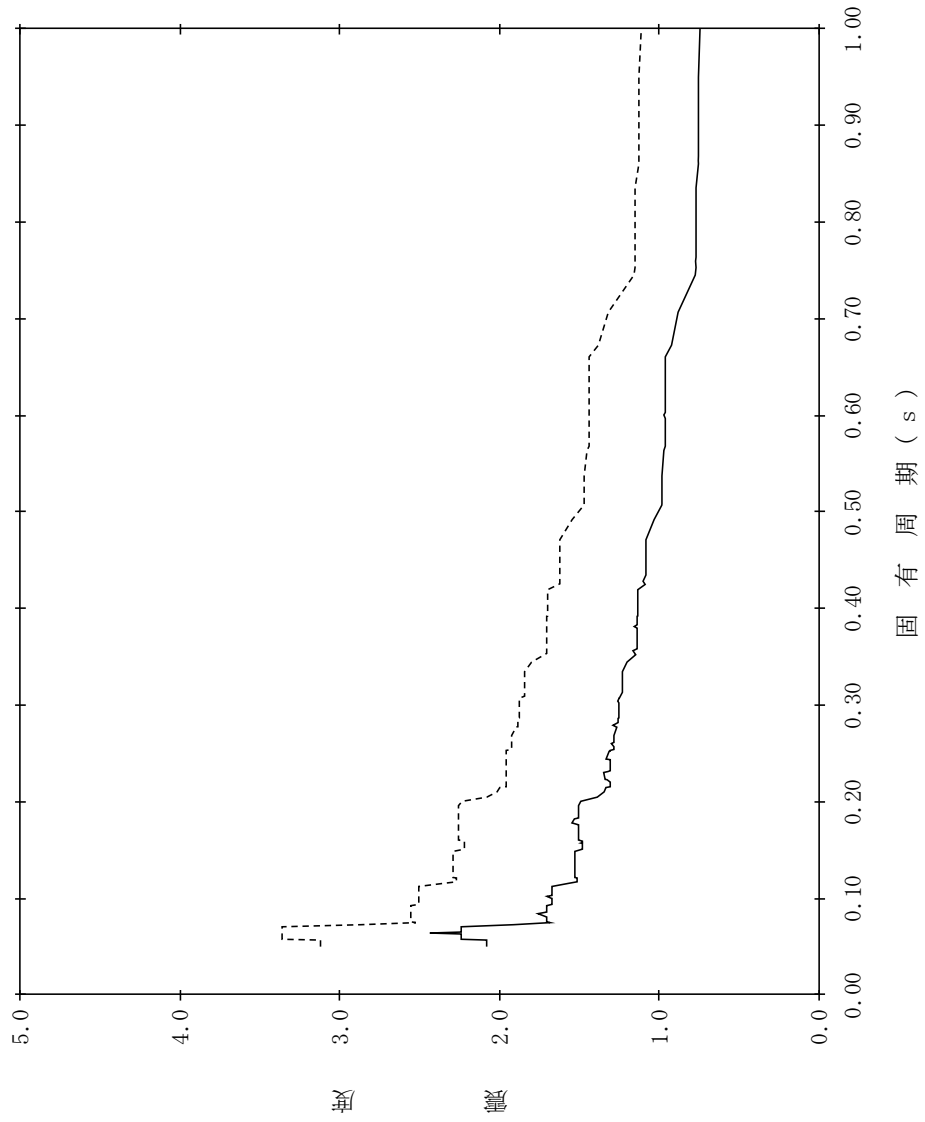
【NS2-GTG-SsV-GTG29】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL44.000m
 減衰定数：2.5%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



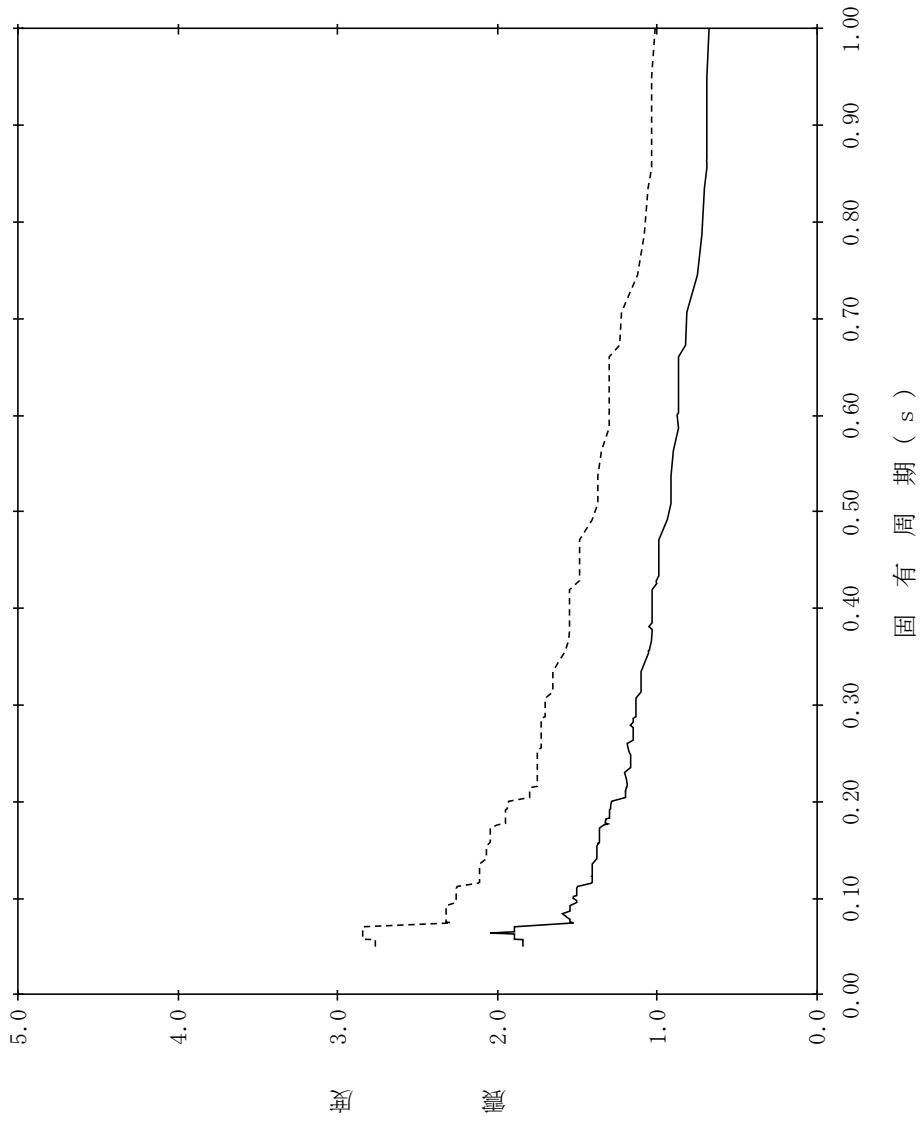
【NS2-GTG-SsV-GTG30】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL44.000m
 減衰定数：3.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



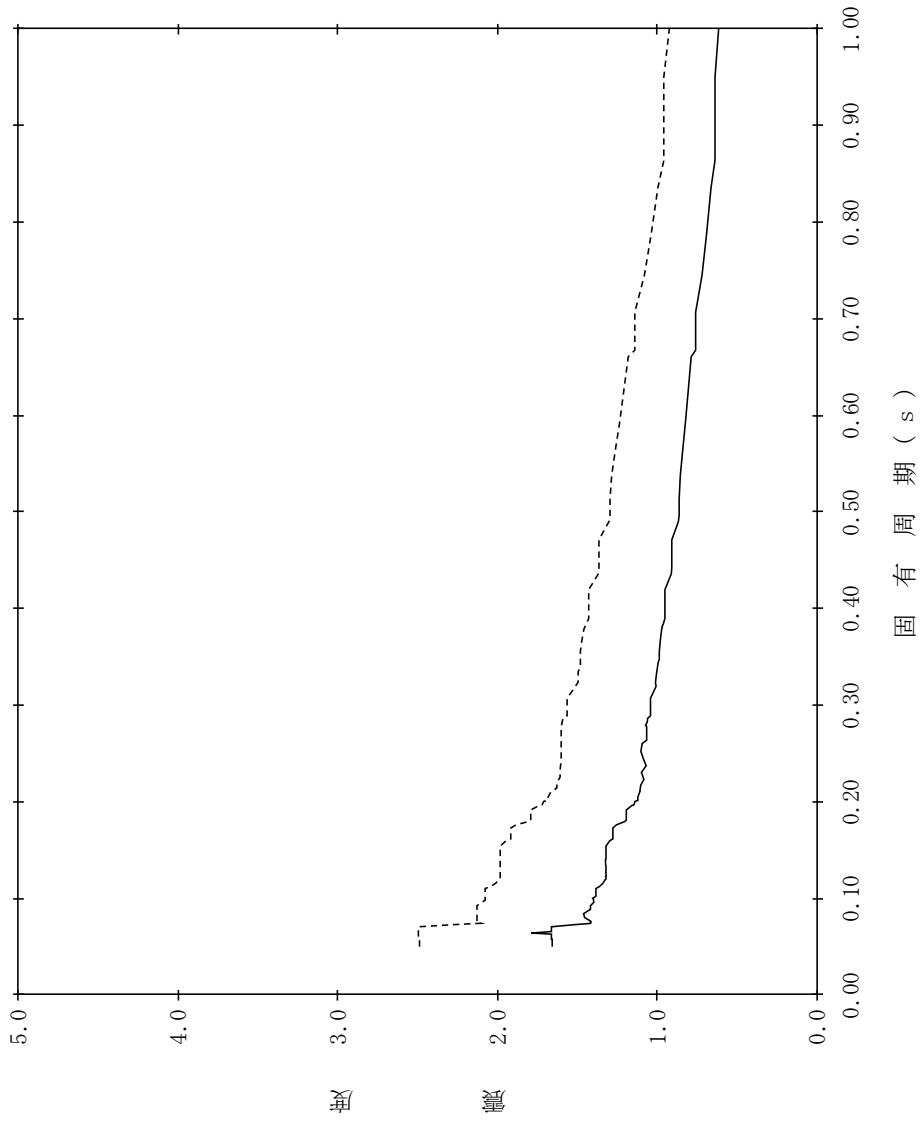
【NS2-GTG-SsV-GTG31】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL44.000m
 減衰定数：4.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



【NS2-GTG-SsV-GTG32】

構造物名：ガスタービン発電機建物
 標高：EL44.000m
 減衰定数：5.0%
 波形名：基準地震動 S s
 設計用床応答スペクトル I (鉛直方向)
 設計用床応答スペクトル II (鉛直方向)



VI-2-1-8 水平 2 方向及び鉛直方向地震力の組合せに関する影響評価方針

目 次

1. 概要	1
2. 基本方針	1
3. 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる影響評価に用いる地震動	1
4. 各施設における水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せに対する影響評価方針	2
4.1 建物・構築物	2
4.1.1 水平方向及び鉛直方向地震力の組合せによる従来設計手法の考え方	2
4.1.2 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響評価方針	3
4.1.3 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響評価方法	3
4.2 機器・配管系	6
4.2.1 水平方向及び鉛直方向地震力の組合せによる従来設計の考え方	6
4.2.2 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響評価方針	6
4.2.3 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響評価方法	7
4.3 屋外重要土木構造物等	10
4.3.1 水平方向及び鉛直方向地震力の組合せによる従来設計手法の考え方	10
4.3.2 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響評価方針	12
4.3.3 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響評価方法	13
4.4 津波防護施設, 浸水防止設備及び津波監視設備	16

1. 概要

本資料は、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」のうち、「4.1 地震力の算定法(2)動的地震力」に基づき、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せに関する影響評価の方針について説明するものである。

2. 基本方針

施設の耐震設計では、設備の構造から地震力の方向に対して弱軸及び強軸を明確にし、地震力に対して配慮した構造としている。

今回、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる耐震設計に係る技術基準が制定されたことから、従来の設計手法における水平1方向及び鉛直方向地震力を組み合わせた耐震計算に対して、施設の構造特性から水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる影響の可能性のある施設を評価対象施設として抽出し、施設が有する耐震性に及ぼす影響を評価する。

評価対象は「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則（平成25年6月28日原子力規制委員会規則第6号）」の第5条及び第50条に規定されている耐震重要施設及びその間接支持構造物、常設耐震重要重大事故防止設備、常設重大事故緩和設備、又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がSクラスのもの）が設置される重大事故等対処施設、並びにこれらの施設への波及的影響防止のために耐震評価を実施する施設とする。Bクラスの施設については、共振のおそれのあるものを評価対象とする。

評価に当たっては、施設の構造特性から水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響を受ける部位を抽出し、その部位について水平2方向及び鉛直方向の荷重や応力を算出し、施設が有する耐震性への影響を確認する。

施設が有する耐震性への影響が確認された場合は、詳細な手法を用いた検討等、新たに設計上の対応策を講じる。

3. 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる影響評価に用いる地震動

水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる影響評価には、基準地震動 $S_s - D$ 、 $S_s - F1$ 、 $S_s - F2$ 、 $S_s - N1$ 及び $S_s - N2$ を用いる。基準地震動 S_s は、VI-2-1-2「基準地震動 S_s 及び弾性設計用地震動 S_d の策定概要」による。

ここで、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる影響評価に用いる基準地震動 S_s は、複数の基準地震動 S_s における地震動の特性及び包絡関係を、施設の特性による影響も考慮した上で確認し、本影響評価に用いる。

4. 各施設における水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せに対する影響評価方針

4.1 建物・構築物

4.1.1 水平方向及び鉛直方向地震力の組合せによる従来設計手法の考え方

従来の設計手法では、建物・構築物の地震応答解析において、各水平方向及び鉛直方向の地震動を質点系モデルにそれぞれの方向ごとに入力し解析を行っている。また、原子炉施設における建物・構築物は、全体形状及び平面レイアウトから、地震力を主に耐震壁で負担する構造であり、剛性の高い設計としている。

水平方向の地震力に対しては、せん断力について評価することを基本とし、建物・構築物に作用するせん断力は、地震時に生じる力の流れが明解になるように、直交する2方向に釣合よく配置された鉄筋コンクリート造耐震壁を主な耐震要素として構造計画を行う。地震応答解析は、水平2方向の耐震壁に対して、それぞれ剛性を評価し、各水平方向に対して解析を実施している。したがって、建物・構築物に対し、水平2方向の入力がある場合、各方向から作用するせん断力を負担する部位が異なるため、水平2方向の入力がある場合の評価は、水平1方向にのみ入力がある場合と同等な評価となる。

鉛直方向の地震力に対しては、軸力について評価することを基本としている。建物・構築物に作用する軸力は、鉄筋コンクリート造耐震壁を主な耐震要素として構造計画を行う。

入力方向ごとの耐震要素について、図4-1に示す。

また、VI-2-2「耐震設計上重要な設備を設置する施設の耐震性に関する説明書」、VI-2-3～VI-2-10の申請設備の耐震性に関する説明書及びVI-2-11「波及的影響を及ぼすおそれのある施設の耐震性に関する説明書」のうち、建物・構築物の局部評価は、地震応答解析により算出された応答を水平1方向及び鉛直方向に組み合わせて行っている。

排気筒については、斜め方向に作用する地震力に対して隅柱（主柱材）の軸力が大きくなる場合を想定した検討も実施している。

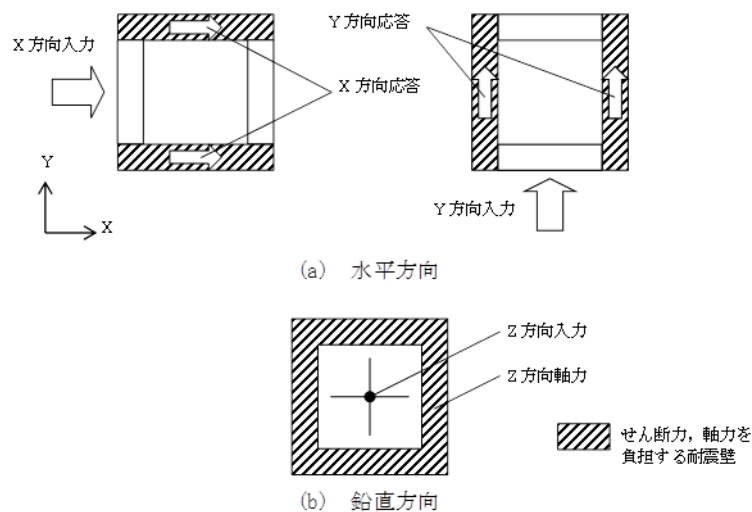


図4-1 入力方向ごとの耐震要素

4.1.2 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響評価方針

建物・構築物において、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せを考慮した場合に影響を受ける可能性がある部位の評価を行う。

評価対象は、耐震重要施設及びその間接支持構造物、常設耐震重要重大事故防止設備、常設重大事故緩和設備又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がSクラスのもの）が設置される重大事故等対処施設並びにこれらの施設への波及的影響防止のために耐震評価を実施する施設の部位とする。

対象とする部位について、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる影響が想定される応答特性から、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる影響を受ける可能性がある部位を抽出する。

応答特性から抽出された水平2方向及び鉛直方向地震力による影響を受ける可能性がある部位は、従来の評価結果の荷重又は応力の算出結果等を水平2方向及び鉛直方向に組み合わせ、各部位に発生する荷重や応力を算出し、各部位が有する耐震性への影響を確認する。

各部位が有する耐震性への影響が確認された場合は、詳細な手法を用いた検討等、新たに設計上の対応策を講じる。

4.1.3 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響評価方法

建物・構築物において、従来の設計手法における水平1方向及び鉛直方向地震力の組合せに対して、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる影響の可能性のある耐震評価上の構成部位について、応答特性から抽出し、影響を評価する。

影響評価のフローを図4-2に示す。

(1) 影響評価部位の抽出

① 耐震評価上の構成部位の整理

建物・構築物における耐震評価上の構成部位を整理し、該当する耐震評価上の構成部位を網羅的に確認する。

② 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる影響が想定される応答特性の整理

建物・構築物における耐震評価上の構成部位について、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響が想定される応答特性を整理する。

なお、隣接する上位クラス建物・構築物への波及的影響防止のための建物・構築物の評価は、上位クラスの建物・構築物との相対変位による衝突の有無の判断が基本となる。そのため、せん断及び曲げ変形評価を行うこととなり、壁式構造では耐震壁（ラーメン構造では柱、はり）を主たる評価対象部位とし、その他の構成部位については抽出対象に該当しない。

③ 荷重の組合せによる応答特性が想定される部位の抽出

整理した耐震評価上の構成部位について、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる影響が想定される応答特性のうち、荷重の組合せによる応答特性を検討する。水平2方向及び鉛直方向地震力に対し、荷重の組合せによる応答特性により、有する耐震性への影

響が想定される部位を抽出する。

④ 3次元的な応答特性が想定される部位の抽出

荷重の組合せによる応答特性が想定される部位として抽出されなかった部位のうち、3次元的な応答特性が想定される部位を検討する。水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せに対し、3次元的な応答特性により、有する耐震性への影響が想定される部位を抽出する。

⑤ 3次元FEMモデルによる精査

3次元的な応答特性が想定される部位として抽出された部位について、3次元FEMモデルを用いた精査を実施し、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せにより、有する耐震性への影響が想定される部位を抽出する。

また、3次元的な応答特性が想定される部位として抽出されなかった部位についても、局所応答の観点から、3次元FEMモデルによる精査を実施し、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せにより、有する耐震性への影響が想定される部位を抽出する。

局所応答に対する3次元FEMモデルによる精査は、施設の重要性、建物規模及び構造特性を考慮し、原子炉建物について地震応答解析を行う。

(2) 影響評価手法

⑥ 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる影響評価

水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる影響評価において、水平1方向及び鉛直方向地震力の組合せによる局部評価の荷重又は応力の算出結果を組み合わせることにより評価を行う場合は、米国 Regulatory Guide 1.92*の「2. Combining Effects Caused by Three Spatial Components of an Earthquake」を参考として、組合せ係数法(1.0 : 0.4 : 0.4)に基づいて地震力を設定する。

評価対象として抽出した耐震評価上の構成部位について、構造部材の発生応力等を適切に組み合わせることで、各部位の設計上の許容値に対する評価を実施し、各部位が有する耐震性への影響を評価する。

⑦ 機器・配管系への影響検討

③及び⑤で、施設が有する耐震性への影響が想定され、評価対象として抽出された部位が、耐震重要施設、常設耐震重要重大事故防止設備、常設重大事故緩和設備又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がSクラスのもの）が設置される重大事故等対処施設の機器・配管系に対し、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる応答値への影響を確認する。

水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる応答値への影響が確認された場合、機器・配管系の影響評価に反映する。

なお、⑤の精査にて、建物・構築物の影響の観点から抽出されなかった部位であっても、3次元FEMモデルによる地震応答解析結果から、機器・配管系への影響の可能性が想定される部位について検討対象として抽出する。

注記* : Regulatory Guide 1.92 “Combining modal responses and spatial components in seismic response analysis”

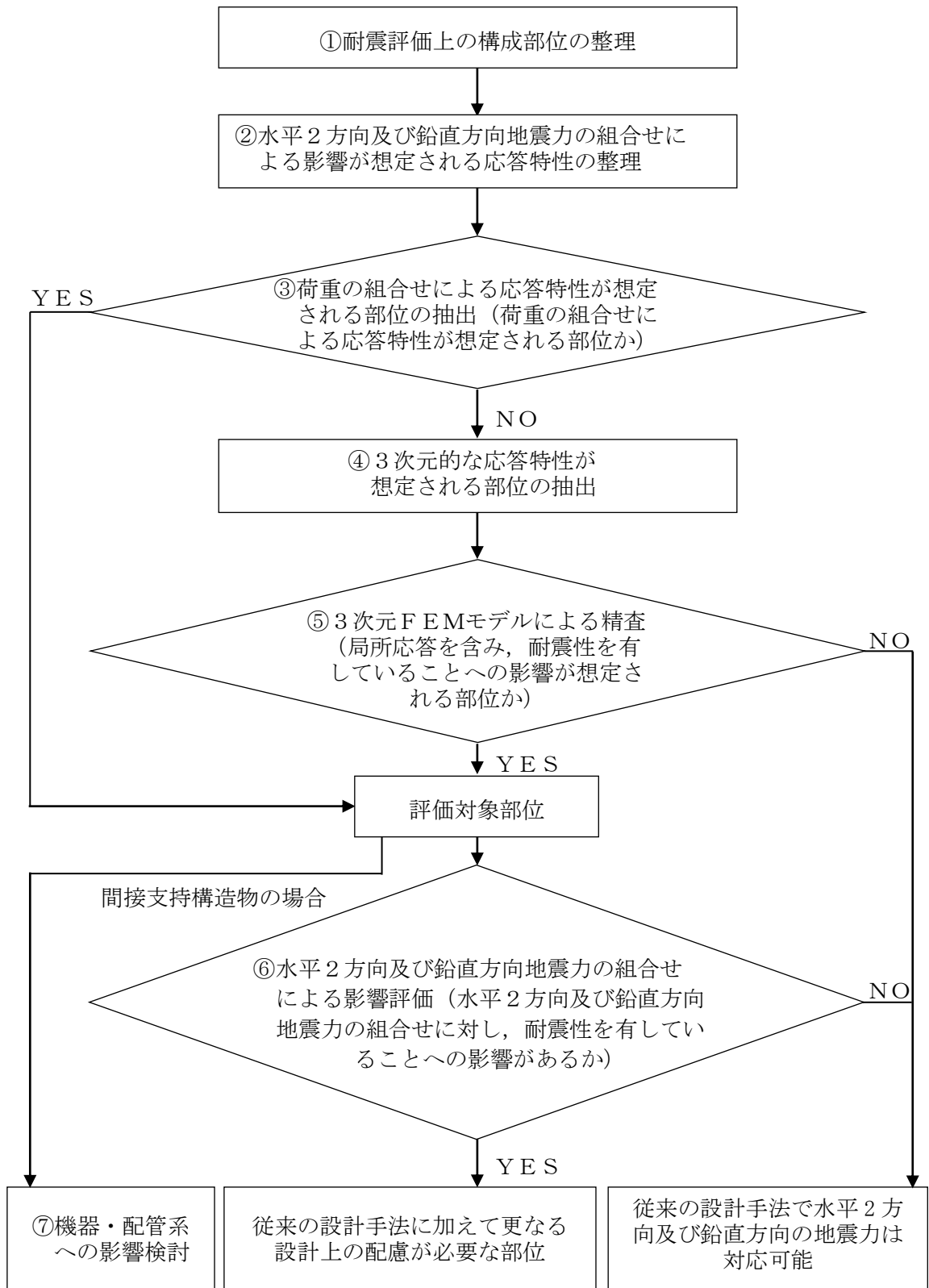


図 4-2 水平 2 方向及び鉛直方向地震力の組合せによる影響評価のフロー（建物・構築物）

4.2 機器・配管系

4.2.1 水平方向及び鉛直方向地震力の組合せによる従来設計の考え方

機器・配管系における従来の水平方向及び鉛直方向地震力の組合せによる設計手法では、建物・構築物の振動特性を考慮し、変形するモードが支配的となり応答が大きくなる方向（応答軸方向）に基準地震動 S_s を入力して得られる各方向の地震力（床応答）を用いている。

応答軸（強軸・弱軸）が明確となっている設備の耐震評価においては、水平各方向の地震力を包絡し、変形モードが支配的となる応答軸方向に入力するなど、従来評価において保守的な取り扱いを基本としている。

一方、応答軸が明確となっていない設備で3次元的な広がりを持つ設備の耐震評価においては、基本的に3次元のモデル化を行っており、建物・構築物の応答軸方向の地震力をそれぞれ入力し、この入力により算定される荷重や応力のうち大きい方を用いて評価を実施している。

更に、応答軸以外の振動モードが生じ難い構造の採用、応答軸以外の振動モードが生じ難いサポート設計の採用といった構造上の配慮など、水平方向の入力に対して配慮した設計とする。

4.2.2 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響評価方針

機器・配管系において、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せを考慮した場合に、影響を受ける可能性がある設備（部位）の評価を行う。

評価対象は、耐震重要施設、常設耐震重要重大事故防止設備、常設重大事故緩和設備又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がSクラスのものが設置される重大事故等対処施設の機器・配管系並びにこれらの施設への波及的影響防止のために耐震評価を実施する設備とする。Bクラスの設備については、共振のおそれのあるものを評価対象とする。

対象とする設備を機種ごとに分類し、それぞれの構造上の特徴により荷重の伝達方向、その荷重を受ける構造部材の配置及び構成等により水平2方向の地震力による影響を受ける可能性がある設備（部位）を抽出する。

構造上の特徴により影響の可能性がある設備（部位）は、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる影響の検討を実施する。水平各方向の地震力が1:1で入力された場合の発生値の算出方法として、従来の評価結果の荷重又は算出応力等を水平2方向及び鉛直方向に整理して組み合わせる方法又は新たな解析等により高度化した手法を用いることにより、水平2方向の地震力による設備（部位）に発生する荷重や応力を算出する。

これらの検討により、水平2方向及び鉛直方向地震力を組み合わせた荷重や応力の結果が従来の発生値と同等である場合は影響のない設備とし、評価対象には抽出せず、従来の発生値を超えて耐震性への影響が懸念される場合は、設備が有する耐震性への影響を確認する。

設備が有する耐震性への影響が確認された場合は、詳細な手法を用いた検討等、新たに

設計上の対応策を講じる。

水平2方向及び鉛直方向地震力による影響評価は、基準地震動 S_s-D 、 S_s-F1 、 S_s-F2 、 S_s-N1 及び S_s-N2 を対象とするが、複数の基準地震動 S_s における地震動の特性及び包絡関係、地震力の包絡関係を確認し、代表可能である場合は代表の基準地震動 S_s にて評価する。また、水平各方向の地震動については、それぞれの位相を変えた地震動を用いることを基本とするが、保守的な手法を用いる場合もある。

4.2.3 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響評価方法

機器・配管系において、水平2方向及び鉛直方向地震力の影響を受ける可能性があり、水平1方向及び鉛直方向の従来評価に加え、更なる設計上の配慮が必要な設備について、構造及び発生値の増分の観点から抽出し、影響を評価する。影響評価は従来設計で用いている質点系モデルによる評価結果を用いて行うことを基本とする。

影響評価のフローを図4-3に示す。

なお、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響を検討する際は、地震時に水平2方向及び鉛直方向それぞれの最大応答が同時に発生する可能性は極めて低いとした考え方である Square-Root-of-the-Sum-of-the-Squares 法（以下「最大応答の非同時性を考慮したSRSS法」という。）又は組合せ係数法（1.0 : 0.4 : 0.4）を適用する。この組合せ方法については、現状の耐震評価が基本的におおむね弾性範囲でとどまる体系であることに加え、国内と海外の機器の耐震解析は、基本的に線形モデルで実施している等類似であり、水平2方向及び鉛直方向の位相差は機器の応答にも現れることから、米国 Regulatory Guide 1.92 の「2. Combining Effects Caused by Three Spatial Components of an Earthquake」を参考としているものである。

① 評価対象となる設備の整理

耐震重要施設、常設耐震重要重大事故防止設備、常設重大事故緩和設備又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がSクラスのもの）が設置される重大事故等対処施設の機器・配管系並びにこれらの施設への波及的影響防止のために耐震評価を実施する設備、共振のおそれのあるBクラス設備を評価対象とし、代表的な機種ごとに分類し整理する。（図4-3①）

② 構造上の特徴による抽出

機種ごとに構造上の特徴から水平2方向の地震力が重畳する観点、若しくは応答軸方向以外の振動モード（ねじれ振動等）が生じる観点にて検討を行い、水平2方向の地震力による影響の可能性のある設備を抽出する。（図4-3②）

③ 発生値の増分による抽出

水平2方向の地震力による影響の可能性のある設備に対して、水平2方向の地震力が各方向1:1で入力された場合に各部にかかる荷重や応力を求め、従来の水平1方向及び鉛直方向地震力の組合せによる設計に対して、水平2方向及び鉛直方向地震力を考慮した発生値の増分を用いて影響を検討し、耐震性への影響が懸念される設備を抽出する。

また、建物・構築物及び屋外重要土木構造物の検討により、機器・配管系への影響の可能性のある部位が抽出された場合は、機器・配管系への影響を評価し、耐震性への影響が懸念される設備を抽出する。

影響の検討は、機種ごとの分類に対して地震力の寄与度に配慮し耐震裕度が小さい設備（部位）を対象とする。（図 4-3③）

④ 水平 2 方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響評価

③の検討において算出された荷重や応力を用いて、設備が有する耐震性への影響を確認する。（図 4-3④）

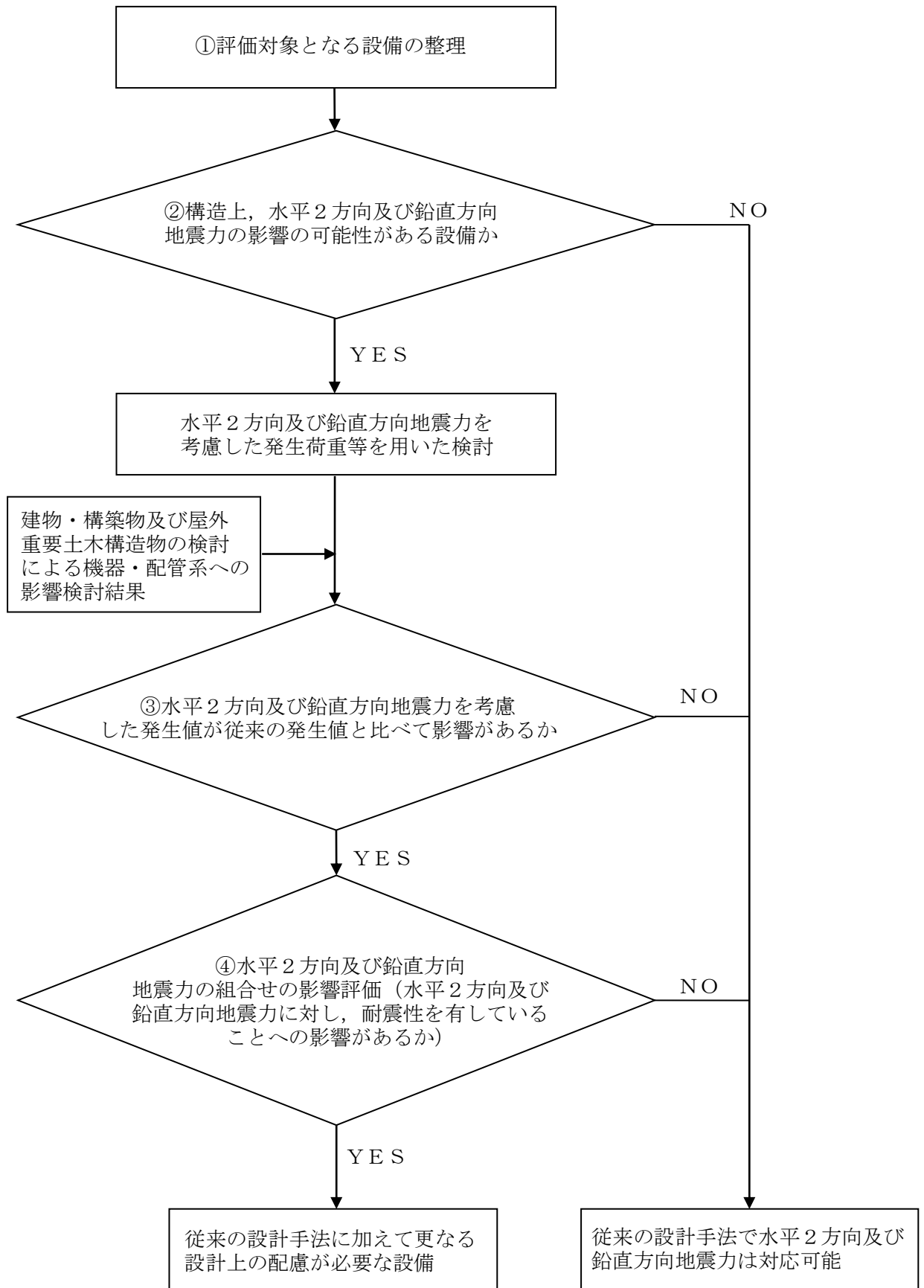


図 4-3 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる影響評価のフロー（機器・配管系）

4.3 屋外重要土木構造物等

4.3.1 水平方向及び鉛直方向地震力の組合せによる従来設計手法の考え方

従来の設計手法の考え方について、取水槽を例に表4-1に示す。

一般的な地上構造物では、躯体の慣性力が主たる荷重であるのに対し、屋外重要土木構造物等*は、おおむね地中に埋設されているため、動土圧や動水圧等の外力が主たる荷重となる。また、屋外重要土木構造物等は、比較的単純な構造部材の配置で構成され、ほぼ同一の断面が奥行き方向に連続する構造的特徴を有することから、3次元的な応答の影響は小さいため、2次元断面での耐震評価を行っている。

屋外重要土木構造物等は、主に海水の通水機能や配管等の間接支持機能を維持するため、通水方向や管軸方向に対して空間を保持できるように構造部材が配置されることから、構造上の特徴として、明確な弱軸、強軸を有する。

強軸方向の地震時挙動は、弱軸方向に対して顕著な影響を及ぼさないことから、従来設計手法では、弱軸方向を評価対象断面として、耐震設計上求められる水平1方向及び鉛直方向地震力による耐震評価を実施している。

図4-4に示すとおり、従来設計手法では、屋外重要土木構造物等の構造上の特徴から、弱軸方向の地震荷重に対して、保守的に加振方向に平行な水路の壁部材を見込まず、垂直に配置された構造部材のみで受け持つよう設計している。

また、VI-2-2「耐震設計上重要な設備を設置する施設の耐震性に関する説明書」、VI-2-3～VI-2-10の申請設備の耐震性に関する説明書及びVI-2-11「波及的影響を及ぼすおそれのある施設の耐震性に関する説明書」における屋外重要土木構造物等の耐震評価では、弱軸方向を評価対象断面とし、水平1方向及び鉛直方向の地震力を同時に作用させて評価を行っている。

屋外重要土木構造物等のうち取水口及びガスタービン発電機用軽油タンク基礎は、海水の通水機能や配管等の間接支持機能を有する構造物と比較して、強軸及び弱軸が明確ではないことから、従来設計手法では、直交2方向ともに評価対象断面として、耐震設計上求められる水平1方向及び鉛直方向地震力による耐震評価を実施している。

注記*：屋外重要土木構造物、重大事故等対処施設のうち土木構造物及び波及的影響を及ぼすおそれのある下位クラス施設のうち土木構造物を「屋外重要土木構造物等」という。

表 4-1 従来設計手法における評価対象断面の考え方（取水槽の例）

	横断方向の加振	縦断方向の加振
従来設計の 評価対象断面 の考え方	<p>加振方向に平行な部材が少ない</p>	<p>加振方向に平行な側壁及び隔壁を耐震設計上見込むことができる</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 横断方向は、加振方向に平行な壁部材が少なく、弱軸方向にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> 縦断方向は、加振方向に平行な側壁及び隔壁を耐震設計上見込むことができ、強軸方向にあたる。
	<ul style="list-style-type: none"> 強軸方向の地震時挙動は、弱軸方向に対して顕著な影響を及ぼさない。 弱軸方向を評価対象断面とする。 	

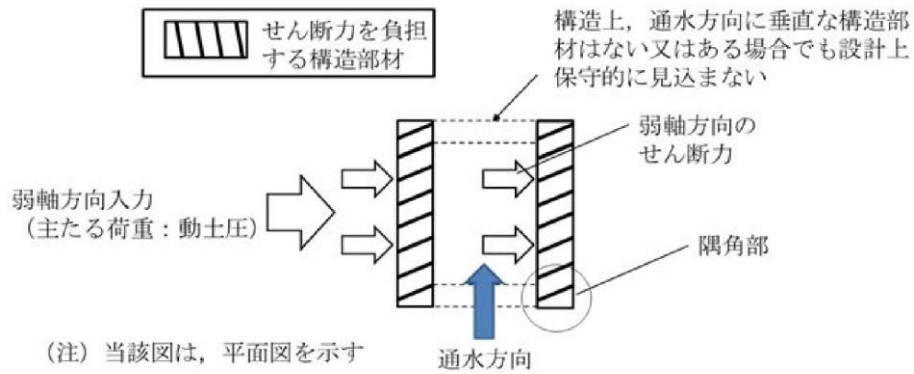


図 4-4 従来設計手法の考え方

4.3.2 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響評価方針

屋外重要土木構造物等において、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せを考慮した場合に影響を受ける可能性がある構造物の評価を行う。

評価対象は、取水槽、取水管、取水口、屋外配管ダクト（タービン建物～排気筒）、屋外配管ダクト（タービン建物～放水槽）、B-ディーゼル燃料貯蔵タンク格納槽、屋外配管ダクト（B-ディーゼル燃料貯蔵タンク～原子炉建物）、ガスタービン発電機用軽油タンク基礎、低圧原子炉代替注水ポンプ格納槽、第1ベントフィルタ格納槽、屋外配管ダクト（ガスタービン発電機用軽油タンク～ガスタービン発電機）、緊急時対策所用燃料地下タンク及び波及的影響防止のために耐震評価を実施する土木構造物（免震重要棟遮蔽壁、1号機取水槽ピット部及び復水貯蔵タンク遮蔽壁）とする。また、津波防護施設である防波壁、1号機取水槽流路縮小工及び防波壁通路防波扉も本評価では屋外重要土木構造物として扱うこととし、評価対象に含める（「4.4 津波防護施設、浸水防止設備及び津波監視設備」参照）。

なお、低圧原子炉代替注水ポンプ格納槽は、屋外重要土木構造物には該当せず、常設耐震重要重大事故防止設備及び常設重大事故緩和設備に分類されるとともに、常設耐震重要重大事故防止設備及び常設重大事故緩和設備が設置される重大事故等対処施設に分類される。

また、ガスタービン発電機用軽油タンク基礎、第1ベントフィルタ格納槽及び屋外配管ダクト（ガスタービン発電機用軽油タンク～ガスタービン発電機）は、屋外重要土木構造物には該当せず、常設耐震重要重大事故防止設備及び常設重大事故緩和設備が設置される重大事故等対処施設に分類され、緊急時対策所用燃料地下タンクは、屋外重要土木構造物には該当せず、常設耐震重要重大事故防止設備及び常設重大事故緩和設備に分類される。

表4-2に評価対象構造物の施設分類を示す。

屋外重要土木構造物等を構造形式ごとに分類し、構造形式ごとに作用すると考えられる荷重を整理し、荷重が作用する構造部材の配置等から水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる影響を受ける可能性のある構造形式を抽出する。

抽出された構造形式については、従来設計手法での評価対象断面（弱軸方向）の地震応答解析に基づく構造部材の照査において、評価対象断面（弱軸方向）に直交する断面（強軸方向）の地震応答解析に基づく構造部材の発生応力等を評価し適切に組み合わせることで、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる構造部材の発生応力を算出し、構造物が有する耐震性への影響を確認する。

構造物が有する耐震性への影響が確認された場合は詳細な手法を用いた検討等、新たに設計上の対応策を講じる。

表 4-2 屋外重要土木構造物等の施設分類

評価対象構造物	施設分類		
	屋外重要土木構造物	重大事故等対処施設	波及的影響
取水槽	○	○	—
取水管	○	○	—
取水口	○	○	—
屋外配管ダクト(タービン建物～排気筒)	○	○	—
屋外配管ダクト(タービン建物～放水槽)	○	—	—
B-ディーゼル燃料貯蔵タンク格納槽	○	○	—
屋外配管ダクト(B-ディーゼル燃料貯蔵タンク～原子炉建物)	○	○	—
低压原子炉代替注水ポンプ格納槽	—	○	—
ガスタービン発電機用軽油タンク基礎	—	○	—
第1ベントフィルタ格納槽	—	○	—
屋外配管ダクト(ガスタービン発電機用軽油タンク～ガスタービン発電機)	—	○	—
緊急時対策所用燃料地下タンク	—	○	—
免震重要棟遮蔽壁	—	—	○
1号機取水槽ピット部	—	—	○
復水貯蔵タンク遮蔽壁	—	—	○

4.3.3 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響評価方法

屋外重要土木構造物等において、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響を受ける可能性があり、水平1方向及び鉛直方向の従来評価に加え、更なる設計上の配慮が必要な構造物について、構造形式及び作用荷重の観点から影響評価の対象とする構造物を抽出し、構造物が有する耐震性への影響を評価する。

影響評価のフローを図4-5に示す。

(1) 影響評価対象構造物の抽出

① 構造形式の分類

評価対象構造物について、各構造物の構造上の特徴や従来設計手法の考え方を踏まえ、構造形式ごとに大別する。

② 従来設計手法における評価対象断面に対して直交する荷重の整理

従来設計手法における評価対象断面に対して直交する荷重を抽出する。

③ 荷重の組合せによる応答特性が想定される構造形式の抽出

②で整理した荷重に対して、構造形式ごとにどのように作用するかを整理し、耐震性に与える影響程度を検討した上で、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響が想定される構造形式を抽出する。

- ④ 従来設計手法における評価対象断面以外の3次元的な応答特性が想定される箇所への抽出
③で抽出されなかった構造形式について、従来設計手法における評価対象断面以外の箇所では、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響により3次元的な応答が想定される箇所を抽出する。
- ⑤ 従来設計手法の妥当性の確認
④で抽出された箇所が、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せに対して、従来設計手法における評価対象断面の耐震評価で満足できるか検討を行う。
- (2) 影響評価手法
- ⑥ 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響評価
評価対象として抽出された構造物について、従来設計手法での評価対象断面（弱軸方向）の地震応答解析に基づく構造部材の照査において、評価対象断面（弱軸方向）に直交する断面（強軸方向）の地震応答解析に基づく構造部材の発生応力等を適切に組み合わせることで、水平2方向及び鉛直方向地震力による構造部材の発生応力を算出するとともに構造部材の設計上の許容値に対する評価を実施し、構造部材が有する耐震性への影響を確認する。
評価手法については、評価対象構造物の構造形式を考慮して選定する。
- ⑦ 機器・配管系への影響検討
評価対象として抽出された構造物が、耐震重要施設、常設耐震重要重大事故防止設備、常設重大事故緩和設備又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がSクラスのもの）が設置される重大事故等対処施設の機器・配管系の間接支持構造物である場合には、機器・配管系に対して、水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる応答値への影響を確認する。
水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる応答値への影響が確認された場合、機器・配管系の影響評価に反映する。
なお、④及び⑤の精査にて、屋外重要土木構造物等の影響の観点から抽出されなかった部位であっても、地震応答解析結果から機器・配管系への影響の可能性が想定される部位については検討対象として抽出する。

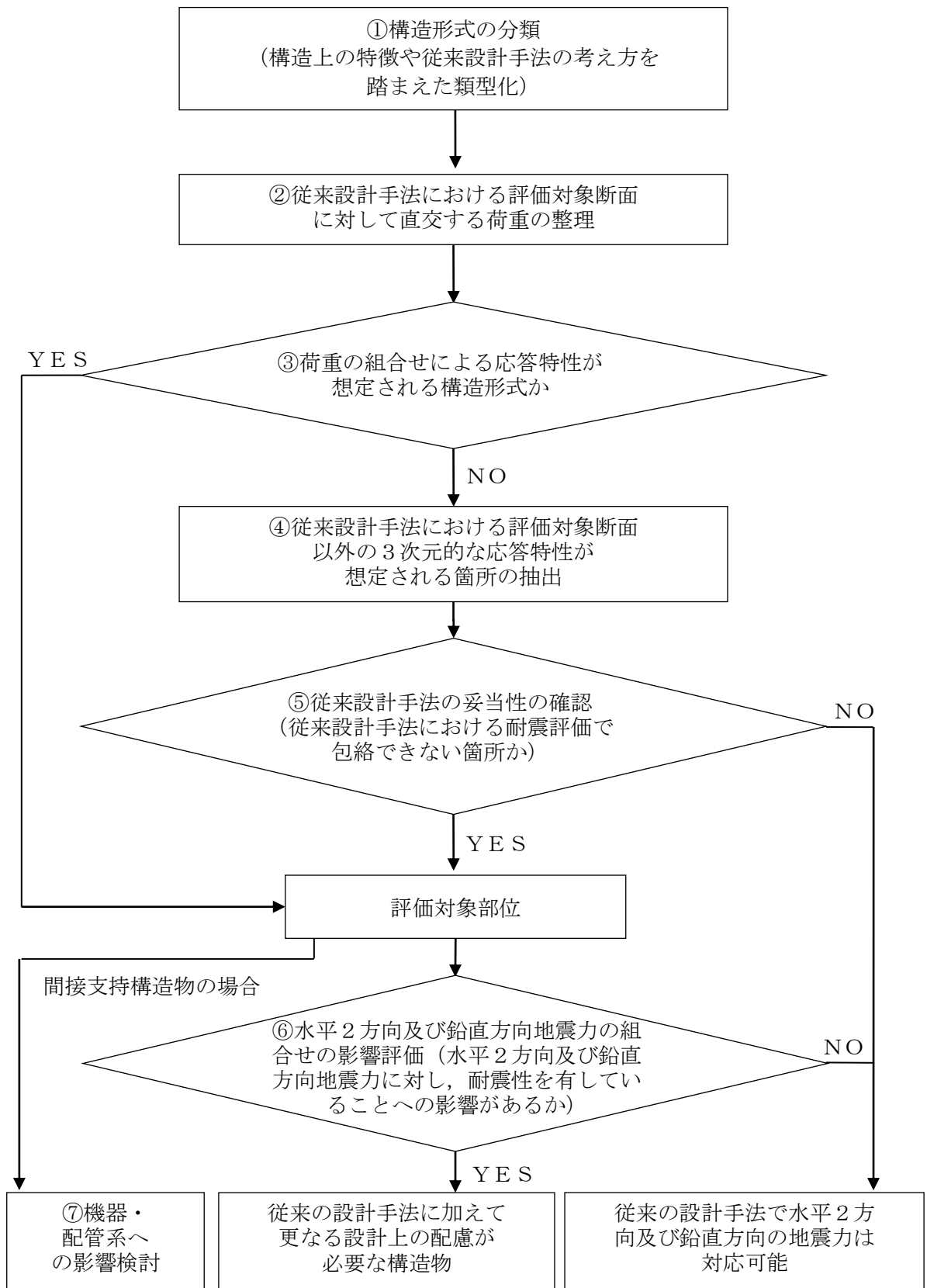


図 4-5 水平 2 方向及び鉛直方向地震力の組合せによる影響評価のフロー（屋外重要土木構造物等）

4.4 津波防護施設, 浸水防止設備及び津波監視設備

津波防護施設, 浸水防止設備及び津波監視設備は, 「建物・構築物」, 「機器・配管系」又は「屋外重要土木構造物等」に区分し設計をしていることから, 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せの影響評価は, 施設, 設備の区分に応じて「4.1 建物・構築物」, 「4.2 機器・配管系」又は「4.3 屋外重要土木構造物等」の方針に基づいて実施する。

VI-2-1-9 機能維持の基本方針

目 次

1. 概要	1
2. 機能維持の確認に用いる設計用地震力	2
3. 構造強度	11
3.1 構造強度上の制限	11
3.2 変位, 変形の制限	99
4. 機能維持	100
4.1 動的機能維持	100
4.2 電氣的機能維持	103
4.3 気密性の維持	103
4.4 止水性の維持	104
4.5 遮蔽性の維持	105
4.6 支持機能の維持	105
4.7 通水機能及び貯水機能の維持	106

1. 概要

本資料は、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」のうち「4. 設計用地震力」に示す設計用地震力の算定法及び「5. 機能維持の基本方針」に示す機能維持の考え方に基づき、設計基準対象施設及び重大事故等対処施設の機能維持に関する基本的な考え方を説明するものである。

2. 機能維持の確認に用いる設計用地震力

機能維持の確認に用いる設計用地震力については、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」の「4. 設計用地震力」に示す設計用地震力の算定法に基づくこととし、具体的な算定法は表 2-1 に示す。

表 2-1 設計用地震力

(1) 静的地震力

(設計基準対象施設)

静的地震力及び必要保有水平耐力は、次の地震層せん断力係数及び震度に基づき算定する。

種別	耐震クラス	地震層せん断力係数 及び水平震度	地震層せん断力係数 (必要保有水平耐力算出用)	鉛直震度
建物・構築物	S	$3.0 \cdot C_i^{*1}$	$1.0 \cdot C_i^{*2}$	$1.0 \cdot C_v^{*3}$ (0.240)
	B	$1.5 \cdot C_i^{*1}$	$1.0 \cdot C_i^{*2}$	—
	C	$1.0 \cdot C_i^{*1}$	$1.0 \cdot C_i^{*2}$	—
機器・配管系	S	$3.6 \cdot C_i^{*1}$	—	$1.2 \cdot C_v^{*3}$ (0.288)
	B	$1.8 \cdot C_i^{*1}$	—	—
	C	$1.2 \cdot C_i^{*1}$	—	—
土木構造物	C	$1.0 \cdot C_i^{*1}$	—	—
浸水防止設備*4	S	$3.6 \cdot C_i^{*1}$	—	$1.2 \cdot C_v^{*3}$ (0.288)

注記*1: C_i は、標準せん断力係数を 0.2 とし、建物・構築物の振動特性、地盤の種類等を考慮して求められる値で次式に基づく。

$$C_i = R_t \cdot A_i \cdot C_0$$

R_t : 振動特性係数 0.8

A_i : C_i の分布係数

C_0 : 標準せん断力係数 0.2

*2: C_i は、標準せん断力係数を 1.0 とし、建物・構築物の振動特性、地盤の種類等を考慮して求められる値で次式に基づく。

$$C_i = R_t \cdot A_i \cdot C_0$$

R_t : 振動特性係数 0.8

A_i : C_i の分布係数

C_0 : 標準せん断力係数 1.0

*3: 震度 0.3 とし、建物・構築物の振動特性、地盤の種類等を考慮し、高さ方向に一定とする。また次式より求めた値を表に記載した。

$$C_v = 0.3 \cdot R_v$$

R_v : 振動特性係数 0.8

*4: 浸水防止設備のうち隔離弁、ポンプ及び配管に適用する。

(重大事故等対処施設)

静的地震力は、常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備、常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がBクラス又はCクラスのもの）及び当該設備が設置される重大事故等対処施設に適用するものとし、以下の地震層せん断力係数及び震度に基づき算定する。

種別	*1 設備分類 施設区分	*2 耐震 クラス	地震層せん断力係数 及び水平震度	地震層せん断力係数 (必要保有水平耐力算出用)	鉛直震度
建物・ 構築物	②	B	$1.5 \cdot C_i^{*3}$	$1.0 \cdot C_i^{*4}$	—
	②	C	$1.0 \cdot C_i^{*3}$	$1.0 \cdot C_i^{*4}$	—
機器・ 配管系	①	B	$1.8 \cdot C_i^{*3}$	—	—
	①	C	$1.2 \cdot C_i^{*3}$	—	—
土木構造物	①	C	$1.0 \cdot C_i^{*3}$	—	—

注記*1：重大事故等対処施設の設備分類及び施設区分

①：常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がBクラス又はCクラスのもの）

②：①が設置される重大事故等対処施設

*2：常設重大事故防止設備の代替する機能を有する設計基準事故対処設備が属する耐震重要度分類のクラス又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）が属する耐震重要度分類のクラス

*3： C_i は標準せん断力係数を0.2とし、建物・構築物の振動特性、地盤の種類等を考慮して求められる値で次式に基づく。

$$C_i = R_t \cdot A_i \cdot C_0$$

R_t ：振動特性係数 0.8

A_i ： C_i の分布係数

C_0 ：標準せん断力係数 0.2

*4： C_i は標準せん断力係数を1.0とし、建物・構築物の振動特性、地盤の種類等を考慮して求められる値で次式に基づく。

$$C_i = R_t \cdot A_i \cdot C_0$$

R_t ：振動特性係数 0.8

A_i ： C_i の分布係数

C_0 ：標準せん断力係数 1.0

(2) 動的地震力

(設計基準対象施設)

動的地震力は、以下の入力地震動に基づき算定する。

種別	耐震 クラス	入力地震動		
		水平	鉛直	
建物・ 構築物	S	弾性設計用地震動 S d	弾性設計用地震動 S d	
		基準地震動 S s	基準地震動 S s	
	B	弾性設計用地震動 S d ・ 1/2* ¹	弾性設計用地震動 S d ・ 1/2* ¹	
		弾性設計用地震動 S d	弾性設計用地震動 S d	
機器・ 配管系	S	弾性設計用地震動 S d	弾性設計用地震動 S d	
		基準地震動 S s	基準地震動 S s	
	B	弾性設計用地震動 S d ・ 1/2* ¹	弾性設計用地震動 S d ・ 1/2* ¹	
		弾性設計用地震動 S d	弾性設計用地震動 S d	
土木 構造 物	屋外重要 土木構造物	C	基準地震動 S s	基準地震動 S s
津波防護施設・ 浸水防止設備* ² ・ 津波監視設備		S	基準地震動 S s	基準地震動 S s

注記*1：水平方向及び鉛直方向の地震動に対して共振のおそれのある施設に適用する。

*2：浸水防止設備のうち隔離弁，ポンプ及び配管については，基準地震動 S s 及び弾性設計用地震動 S d による地震力を適用する。

(重大事故等対処施設)

動的地震力は、重大事故等対処施設の設備分類及び施設区分に応じて、以下の入力地震動に基づき算定する。

種別	*1 設備分類 施設区分	*2 耐震 クラス	入力地震動	
			水平	鉛直
建物・ 構築物	*3 ③, ④, ⑤, ⑥, ⑦	S	弾性設計用地震動 S_d	弾性設計用地震動 S_d
			基準地震動 S_s	基準地震動 S_s
	①, ②	B	弾性設計用地震動 $S_d \cdot 1/2^{*4}$	弾性設計用地震動 $S_d \cdot 1/2^{*4}$
機器・ 配管系	*3 ③, ⑤	S	弾性設計用地震動 S_d	弾性設計用地震動 S_d
			基準地震動 S_s	基準地震動 S_s
	①	B	弾性設計用地震動 $S_d \cdot 1/2^{*4}$	弾性設計用地震動 $S_d \cdot 1/2^{*4}$
土木構築物	③, ⑤	S	基準地震動 S_s	基準地震動 S_s
			①, ④, ⑥	C

注記*1：重大事故等対処施設の設備分類及び施設区分

- ①：常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がBクラス又はCクラスのもの）
- ②：①が設置される重大事故等対処施設
- ③：常設耐震重要重大事故防止設備又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がSクラスのもの）
- ④：③が設置される重大事故等対処施設
- ⑤：常設重大事故緩和設備
- ⑥：⑤が設置される重大事故等対処施設
- ⑦：緊急時対策所

*2：常設重大事故防止設備の代替する機能を有する設計基準事故対処設備が属する耐震重要度分類のクラス又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）が属する耐震重要度分類のクラス
また、常設重大事故緩和設備については、当該クラスをSと表記する。

*3：事象の発生確率、継続時間及び地震動の年超過確率の関係を踏まえ、適切な地震力と組み合わせる。

*4：水平方向及び鉛直方向の地震動に対して共振のおそれのある施設に適用する。

*5：屋外重要土木構築物の機能を代替する重大事故等対処施設に適用する。

(3) 設計用地震力

(設計基準対象施設)

種別	耐震 クラス	設計用地震力		摘要
		水平	鉛直	
建物・ 構築物	S	地震層せん断力係数 $3.0 \cdot C_i$ に基づく地震力	静的震度 $1.0 \cdot C_v (0.240)$ に基づく地震力	*1 荷重の組合せは、水平 方向及び鉛直方向が静 的地震力の場合は同時 に不利な方向に作用す るものとする。 水平方向及び鉛直方向 が動的地震力の場合は 組合せ係数法による。
		弾性設計用地震動 S_d に基づく地震力	弾性設計用地震動 S_d に基づく地震力	
		基準地震動 S_s に基づく地震力	基準地震動 S_s に基づく地震力	*1 荷重の組合せは、組合 せ係数法による。
	B	地震層せん断力係数 $1.5 \cdot C_i$ に基づく地震力	—	—
		弾性設計用地震動 $S_d \cdot 1/2$ に基づく地震力*2	弾性設計用地震動 $S_d \cdot 1/2$ に基づく地震力*2	荷重の組合せは、組合 せ係数法による。
	C	地震層せん断力係数 $1.0 \cdot C_i$ に基づく地震力	—	—
機器・ 配管系	S	静的震度 $3.6 \cdot C_i$ に基づく地震力	静的震度 $1.2 \cdot C_v (0.288)$ に基づく地震力	*3, *4 荷重の組合せは、水平 方向及び鉛直方向が静 的地震力の場合は同時 に不利な方向に作用す るものとする。 水平方向及び鉛直方向 が動的地震力の場合は 二乗和平方根 ($S R S S$) 法による。
		弾性設計用地震動 S_d に基づく地震力	弾性設計用地震動 S_d に基づく地震力	
	基準地震動 S_s に基づく地震力	基準地震動 S_s に基づく地震力	*4 荷重の組合せは、二乗 和平方根 ($S R S S$) 法による。	

種別	耐震 クラス	設計用地震力		摘要
		水平	鉛直	
機器・配管系	B	静的震度 $1.8 \cdot C_i$ に基づく地震力	—	*4, *5 水平方向及び鉛直方向 が動的地震力の場合は 二乗和平方根（SRS S）法による。
		弾性設計用地震動 $S_d \cdot 1/2$ に基づく地震力*2	弾性設計用地震動 $S_d \cdot 1/2$ に基づく地震力*2	
	C	静的震度 $1.2 \cdot C_i$ に基づく地震力	—	—
土木 構造物	C	静的震度 $1.0 \cdot C_i$ に基づく地震力	—	—
		基準地震動 S_s に基づく地震力	基準地震動 S_s に基づく地震力	鉛直地震力は、水平地 震力と同時に作用する ものとする。
	C	静的震度 $1.0 \cdot C_i$ に基づく地震力	—	—
津波防護施設・ 浸水防止設備*6・ 津波監視設備	S	基準地震動 S_s に基づく地震力	基準地震動 S_s に基づく地震力	*4 荷重の組合せは、鉛直 地震力と水平地震力の 同時作用、組合せ係数 法又は二乗和平方根 （SRS S）法によ る。

注記*1：建物・構築物のうち原子炉格納容器については、水平方向及び鉛直方向が動的地震力の場合には二乗和平方根（SRS S）法又は絶対値和法を適用する。

*2：水平及び鉛直方向の地震動に対して共振のおそれのある施設に適用する。

*3：水平方向における動的と静的の大きい方の地震力と、鉛直方向における動的と静的の大きい方の地震力とを、絶対値和法で組み合わせてもよいものとする。

*4：絶対値和法で組み合わせてもよいものとする。

*5：水平方向における動的と静的の大きい方の地震力と、鉛直方向における動的地震力とを、絶対値和法で組み合わせてもよいものとする。

*6：浸水防止設備のうち隔離弁、ポンプ及び配管については、Sクラスの機器・配管系に対する設計用地震力を適用する。

(重大事故等対処施設)

種別	*1 設備分類 施設区分	*2 耐震 クラス	設計用地震力		摘要
			水平	鉛直	
建物・ 構築物	*3 ③, ④, ⑤, ⑥, ⑦	S	弾性設計用地震動 S_d に基づく地震力	弾性設計用地震動 S_d に基づく地震力	*4 荷重の組合せ は、組合せ係数 法による。
			基準地震動 S_s に基づく地震力	基準地震動 S_s に基づく地震力	
	①, ②	B	地震層せん断力係数 $1.5 \cdot C_i$ に基づく地震力	—	—
			弾性設計用地震動 $S_d \cdot 1/2$ に基づく地震力*5	弾性設計用地震動 $S_d \cdot 1/2$ に基づく地震力*5	荷重の組合せ は、組合せ係数 法による。
		C	地震層せん断力係数 $1.0 \cdot C_i$ に基づく地震力	—	—
	機器・ 配管系	*3 ③, ⑤	S	基準地震動 S_s に基づく地震力	基準地震動 S_s に基づく地震力
弾性設計用地震動 S_d に基づく地震力				弾性設計用地震動 S_d に基づく地震力	
①		B	静的震度 $1.8 \cdot C_i$ に基づく地震力	—	*6, *7 水平方向及び鉛 直方向が動的地 震力の場合は二 乗和平方根 (S RSS) 法によ る。
			弾性設計用地震動 $S_d \cdot 1/2$ に基づく地震力*5	弾性設計用地震動 $S_d \cdot 1/2$ に基づく地震力*5	
		C	静的震度 $1.2 \cdot C_i$ に基づく地震力	—	—
土木 構築物		③, ⑤	S	基準地震動 S_s に基づく地震力	基準地震動 S_s に基づく地震力
	①, ④, ⑥	C	基準地震動 S_s に基づく地震力*8	基準地震動 S_s に基づく地震力*8	鉛直地震力は、 水平地震力と同 時に作用するも のとする。
	①	C	静的震度 $1.0 \cdot C_i$ に基づく地震力	—	—

注記*1：重大事故等対処施設の設備分類及び施設区分

- ①：常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がBクラス又はCクラスのもの）
 - ②：①が設置される重大事故等対処施設
 - ③：常設耐震重要重大事故防止設備又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がSクラスのもの）
 - ④：③が設置される重大事故等対処施設
 - ⑤：常設重大事故緩和設備
 - ⑥：⑤が設置される重大事故等対処施設
 - ⑦：緊急時対策所
- *2：常設重大事故防止設備の代替する機能を有する設計基準事故対処設備が属する耐震重要度分類のクラス又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）が属する耐震重要度分類のクラス
また、常設重大事故緩和設備については、当該クラスをSと表記する。
- *3：事故事象の発生確率，継続時間及び地震動の年超過確率の関係を踏まえ，適切な地震力と組み合わせる。
- *4：建物・構築物のうち原子炉格納容器については，水平方向及び鉛直方向が動的地震力の場合は二乗和平方根（S R S S）法又は絶対値和法を適用する。
- *5：水平方向及び鉛直方向の地震動に対して共振のおそれのある施設に適用する。
- *6：絶対値和法で組み合わせてもよいものとする。
- *7：水平方向における動的と静的の大きい方の地震力と，鉛直方向における動的地震力とを，絶対値和法で組み合わせてもよいものとする。
- *8：屋外重要土木建造物の機能を代替する重大事故等対処施設に適用する。

3. 構造強度

3.1 構造強度上の制限

発電用原子炉施設の耐震設計については、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」のうち「5.1 構造強度」に示す考え方にに基づき、設計基準対象施設における各耐震重要度及び重大事故等対処施設の施設区分に応じた設計用地震力が加わった場合、これらに生じる応力とその他の荷重によって生じる応力の合計値等を許容限界以下とする設計とする。

許容限界は、施設の種類及び用途を考慮し、安全機能が維持できるように十分に余裕を見込んだ値とする。

地震力による応力とその他の荷重による応力の組合せに対する許容値は、表 3-1 に示すとおりとする。

機器・配管系の基準地震動 S_s 又は弾性設計用地震動 S_d のみによる疲労解析に用いる等価繰返し回数は、設置場所等に関係なく複数の設備に対して適用が可能になるように設定した値（基準地震動 S_s : 150 回，弾性設計用地震動 S_d : 300 回），又は設備ごとに個別に設定した値を用いる。

また、建物・構築物の保有水平耐力は、必要保有水平耐力に対して、妥当な安全余裕を有する設計とする。支持性能が必要となる施設の基礎地盤については、接地圧が安全上適切と認められる規格及び基準等による地盤の支持力又は支持力度と比べて妥当な安全余裕を有する設計とし、設計基準対象施設における耐震重要度及び重大事故等対処施設の施設区分に応じた許容限界を設定する。

耐震設計においては、地震力に加えて、自然条件として積雪荷重及び風荷重を組み合わせる。

積雪荷重及び風荷重の設定フローを図 3-1 に示す。積雪荷重については、屋外に設置されている施設のうち、積雪による受圧面積が小さい施設、又は埋設構造物等常時の荷重に対して積雪荷重の割合が無視できる施設を除き、地震力と組み合わせる。また、風荷重については、屋外に設置されている施設のうち、コンクリート構造物等の自重が大きい施設を除いて、風荷重の影響が地震力と比べて相対的に無視できないような構造、形状及び仕様の施設においては、地震力と組み合わせる。表 3-2 に施設の区分ごとの、積雪荷重及び風荷重の組合せを示す。

通常運転時の状態、運転時の異常な過渡変化時の状態及び事故時の状態については、次のように定義される運転状態Ⅰ、運転状態Ⅱ、運転状態Ⅲ、運転状態Ⅳ及び運転状態Ⅴのそれぞれの状態として考慮する。

- (1) 「運転状態Ⅰ」とは、発電用原子炉施設の通常運転時の状態をいう。ここで通常運転とは、運転計画等で定める起動、停止、出力運転、高温待機、燃料取替等の発電用原子炉施設の運転をいう。
- (2) 「運転状態Ⅱ」とは、運転状態Ⅰから逸脱した運転状態であって、運転状態Ⅲ、運転状態Ⅳ、運転状態Ⅴ及び試験状態以外の状態をいう。「試験状態」とは、耐圧試験により原子炉施設に最高使用圧力を超える圧力が加えられている状態をいう。
- (3) 「運転状態Ⅲ」とは、発電用原子炉施設の故障、異常な作動等により原子炉の運転の停止が緊急に必要とされる運転状態をいう。

- (4) 「運転状態Ⅳ」とは、発電用原子炉施設の安全性を評価する観点から異常な状態を想定した運転状態をいう。
- (5) 「運転状態Ⅴ」とは、発電用原子炉施設が重大事故に至るおそれがある事故、又は重大事故の状態、重大事故等対処施設の機能が必要とされる運転状態をいう。なお、Ⅵ-3「強度に関する説明書」に記載の「運転状態Ⅳを超える事象」に相当するものである。

表 3-1 荷重の組合せ及び許容限界

(1) 建物・構築物

(設計基準対象施設)

	耐震クラス	荷重の組合せ	許容限界	
			建物・構築物	基礎地盤の支持性能
建物・構築物	Sクラス	^{*1} G + P + S _d [*]	質点系モデルによる地震応答解析の最大せん断ひずみがおおむね弾性状態にとどまる範囲で耐えること又は部材に生じる応力が短期許容応力度に基づく許容値若しくはCCV規格 ^{*2} における荷重状態Ⅲの許容値を超えないこととする。	地盤の短期許容支持力度とする。
		G + P + S _s	質点系モデルによる地震応答解析の最大せん断ひずみが 2.0×10^{-3} を超えないこと、部材に生じる応力が終局耐力に対し妥当な安全余裕を有していること又は部材に生じる応力若しくはひずみがCCV規格 ^{*2} における荷重状態Ⅳの許容値を超えないこととする。	地盤の極限支持力に対して妥当な安全余裕を持たせる。
	Bクラス	G + P + S _B	部材に生じる応力が短期許容応力度に基づく許容値を超えないこととする。	地盤の短期許容支持力度とする。
	Cクラス	G + P + S _C	部材に生じる応力が短期許容応力度に基づく許容値を超えないこととする。	地盤の短期許容支持力度とする。

[記号の説明]

G : 固定荷重

P : 積載荷重

S_d^{*} : 弾性設計用地震動S_dにより定まる地震力又はSクラスの施設に適用される静的地震力のいずれか大きいほうの地震力

S_s : 基準地震動S_sにより定まる地震力

S_B : Bクラスの施設に適用される静的地震力又は動的地震力

S_C : Cクラスの施設に適用される静的地震力

注記*1 : 設計基準事故時の状態で施設に作用する荷重のうち長時間その作用が続く荷重は、弾性設計用地震動S_dによる地震力又は静的地震力と組み合わせる。

*2 : 発電用原子力設備規格 コンクリート製原子炉格納容器規格 ((社) 日本機械学会, 2003)

(重大事故等対処施設)

	*1 設備分類 施設区分	*2 耐震クラス	荷重の組合せ	許容限界	
				建物・構築物	基礎地盤の 支持性能
建物・ 構築物	③, ④, ⑤, ⑥, ⑦	Sクラス	$G + P + A + S_s$	要求機能が維持される こととする。	地盤の極限支持力に対 して妥当な安全余裕を 持たせる。
	①, ②	Bクラス	$G + P + S_B$	部材に生じる応力が短 期許容応力度に基づく 許容値を超えないこと とする。	地盤の短期許容支持力 度とする。
		Cクラス	$G + P + S_c$	部材に生じる応力が短 期許容応力度に基づく 許容値を超えないこと とする。	地盤の短期許容支持力 度とする。

〔記号の説明〕

G : 固定荷重

P : 積載荷重

A : 重大事故等時の状態で施設に作用する荷重のうち、地震によって引き起こされるおそれのある事象による荷重、又は重大事故等時の状態で施設に作用する荷重のうち長期的な荷重

 S_s : 基準地震動 S_s による地震力 S_B : Bクラスの施設に適用される地震動より求まる地震力又はBクラスの施設に適用される静的地震力 S_c : Cクラスの施設に適用される静的地震力

注記*1 : 重大事故等対処施設の設備分類及び施設区分

① : 常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がBクラス又はCクラスのもの）

② : ①が設置される重大事故等対処施設

③ : 常設耐震重要重大事故防止設備又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がSクラスのもの）

④ : ③が設置される重大事故等対処施設

⑤ : 常設重大事故緩和設備

⑥ : ⑤が設置される重大事故等対処施設

⑦ : 緊急時対策所

*2 : 常設重大事故防止設備の代替する機能を有する設計基準事故対処設備が属する耐震重要度分類のクラス又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）が属する耐震重要度分類のクラス

また、常設重大事故緩和設備については、当該クラスをSと表記する。

(2) 機器・配管系

a. 記号の説明

- D : 死荷重
- P : 地震と組み合わせすべきプラントの運転状態（地震との組合せが独立な運転状態Ⅳ，Ⅴは除く。）における圧力荷重
- M : 地震及び死荷重以外で地震と組み合わせべきプラントの運転状態（地震との組合せが独立な運転状態Ⅳ，Ⅴは除く。）で設備に作用している機械的荷重
〔各運転状態におけるP及びMについては，安全側に設定された値（最高使用圧力，設計機械荷重等）を用いてもよい。〕
- P_L : 地震との組合せが独立な運転状態Ⅳの事故の直後を除き，その後に生じている圧力荷重
- M_L : 地震との組合せが独立な運転状態Ⅳの事故の直後を除き，その後に生じている死荷重及び地震荷重以外の機械的荷重
- P_D : 地震と組み合わせべきプラントの運転状態Ⅰ及びⅡ（運転状態Ⅲ及び地震従属事象として運転状態Ⅳに包絡する状態がある場合にはこれを含む。）又は当該設備に設計上定められた最高使用圧力による荷重
- M_D : 地震と組み合わせべきプラントの運転状態Ⅰ及びⅡ（運転状態Ⅲ及び地震従属事象として運転状態Ⅳに包絡する状態がある場合にはこれを含む。）又は当該設備に設計上定められた機械的荷重
- P_d : 当該設備に設計上定められた最高使用圧力による荷重
- M_d : 当該設備に設計上定められた機械的荷重
- P_{SAL} : 重大事故等時の状態（運転状態Ⅴ）で長期的（長期（L））に作用する圧力荷重
- M_{SAL} : 重大事故等時の状態（運転状態Ⅴ）で長期的（長期（L））に作用する機械的荷重
- P_{SALL} : 重大事故等時の状態（運転状態Ⅴ）で長期的（長期（L））より更に長期的（長期（LL））に作用する圧力荷重
- M_{SALL} : 重大事故等時の状態（運転状態Ⅴ）で長期的（長期（L））より更に長期的（長期（LL））に作用する機械的荷重
- P_{SAD} : 重大事故等時の状態（運転状態Ⅴ）における運転状態等を考慮して当該設備に設計上定められた設計圧力による荷重
- M_{SAD} : 重大事故等時の状態（運転状態Ⅴ）における運転状態等を考慮して当該設備に設計上定められた機械的荷重
- S_d : 弾性設計用地震動S_dにより定まる地震力
- S_d^{*} : 弾性設計用地震動S_dにより定まる地震力又はSクラス設備に適用される静的地震力のいずれか大きい方の地震力
- S_s : 基準地震動S_sにより定まる地震力
- S_B : Bクラス設備に適用される地震動より定まる地震力又は静的地震力
- S_C : Cクラス設備に適用される静的地震力

- III_AS : 発電用原子力設備規格（設計・建設規格（2005年版（2007年追補版含む。））
J S M E S N C 1 -2005/2007）（日本機械学会 2007年9月）（以下「設計・
建設規格」という。）の供用状態C相当の許容応力を基準として、それに地震によ
り生じる応力に対する特別な応力の制限を加えた許容応力状態
- IV_AS : 設計・建設規格の供用状態D相当の許容応力を基準として、それに地震により生
じる応力に対する特別な応力の制限を加えた許容応力状態
- V_AS : 運転状態V相当の応力評価を行う許容応力状態を基本として、それに地震により生
じる応力に対する特別な応力の制限を加えた許容応力状態
- B_AS : Bクラス設備の地震時の許容応力状態
- C_AS : Cクラス設備の地震時の許容応力状態
- S_y : 設計降伏点 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表 8 に規定される値
- S_u : 設計引張強さ 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表 9 に規定される値
- S_m : 設計応力強さ 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表 1 に規定される値
ただし、耐圧部テンションボルトにあつては設計・建設規格 付録
材料図表 Part5 表 2 に規定される値
- S : 許容引張応力 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表 5 又は表 6 に規定される
値
ただし、クラスMC容器にあつては設計・建設規格 付録材料図表
Part5 表 3 に規定される値
また、耐圧部テンションボルトについては、クラスMCにあつては
設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表 4 に規定される値
その他については設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表 7 に規
定される値
- F : 設計・建設規格 SSB-3121.1(1)に規定される値
- f_t : 許容引張応力 支持構造物（ボルト等を除く。）に対して設計・建設規格 SSB-
3121.1(1)により規定される値
ボルト等に対して設計・建設規格 SSB-3131(1)により規定される
値
- f_s : 許容せん断応力 支持構造物（ボルト等を除く。）に対して設計・建設規格 SSB-
3121.1(2)により規定される値
ボルト等に対しては、設計・建設規格 SSB-3131(2)により規定さ
れる値
- f_c : 許容圧縮応力 支持構造物（ボルト等を除く。）に対して設計・建設規格 SSB-
3121.1(3)により規定される値
- f_b : 許容曲げ応力 支持構造物（ボルト等を除く。）に対して設計・建設規格 SSB-
3121.1(4)により規定される値
- f_p : 許容支圧応力 支持構造物（ボルト等を除く。）に対して設計・建設規格 SSB-
3121.1(5)により規定される値

f_t^* , f_s^* , f_c^* , f_b^* , f_p^*

上記の f_t , f_s , f_c , f_b , f_p の値を算出する際に設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表 8 に規定する値とあるのを設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表 8 に規定する値の 1.2 倍の値と読み替えて計算した値

ただし、その他の支持構造物の上記 $f_t \sim f_p^*$ においては、設計・建設規格 SSB-3121.1(1)a の F 値は S_y 及び $0.7 \cdot S_u$ のいずれか小さい方の値

ただし、使用温度が 40°C を超えるオーステナイト系ステンレス鋼及び高ニッケル合金にあつては、 $1.35 \cdot S_y$, $0.7 \cdot S_u$ 又は $S_y(RT)$ のいずれか小さい方の値

また、 $S_y(RT)$ は 40°C における設計降伏点の値

T_L : 形式試験により支持構造物が破損するおそれのある荷重(N) (同一仕様につき 3 個の試験の最小値又は 1 個の試験の 90%)

S_{yd} : 最高使用温度における設計降伏点 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表 8 に規定される値

S_{yt} : 試験温度における設計降伏点 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表 8 に規定される値

A S S : オーステナイト系ステンレス鋼

H N A : 高ニッケル合金

b. 荷重の組合せ及び許容応力

(a) Sクラスの機器・配管系，常設耐震重要重大事故防止設備，常設重大事故緩和設備及び常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がSクラスのもの）の機器・配管系

イ. クラス1容器及び重大事故等クラス2容器（クラス1容器）
（クラス1容器）

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界					
			一次一般膜応力	一次膜応力+ 一次曲げ応力	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力	特別な応力限界	
							純せん 断応力	支圧応力
S	D+P+M+S _d * [*]	Ⅲ _A S	S_y と $\frac{2}{3} \cdot S_u$ の小さい方 ただし，ASS及びHNA については $1.2 \cdot S_m$ とする。	左欄の 1.5倍の値 ^{*6}	$3 \cdot S_m$ ^{*2} S _d 又はS _s 地震動 のみによる応力振幅 について評価する。	^{*3, *4} S _d 又はS _s 地震動 のみによる疲労解析 を行い，運転状態Ⅰ， Ⅱにおける疲労累積 係数との和が1.0以 下であること。	$0.6 \cdot S_m$	^{*5} S _y ($1.5 \cdot S_y$)
	D+P _L +M _L +S _d * ^{*1}	Ⅳ _A S	$\frac{2}{3} \cdot S_u$ ただし，ASS及びHNA については $\frac{2}{3} \cdot S_u$ と $2.4 \cdot S_m$ の小さい方	左欄の 1.5倍の値 ^{*6}				$0.4 \cdot S_u$
	D+P+M+S _s							

注記*1：非常用炉心冷却系等に属する設備に対しては，許容応力状態Ⅲ_ASとする。

*2： $3 \cdot S_m$ を超える場合は弾塑性解析を行う。この場合，設計・建設規格 PVB-3300（PVB-3313を除く。）の簡易弾塑性解析を用いる。

*3：設計・建設規格 PVB-3140(6)を満たすときは疲労解析不要

ただし，PVB-3140(6)の「応力の全振幅」は「S_d又はS_s地震動による応力の全振幅」と読み替える。

*4：運転状態Ⅰ，Ⅱにおいて疲労解析を要しない場合は，地震動のみによる疲労累積係数を1.0以下とする。

*5：（ ）内は，支圧荷重の作用端から自由端までの距離が支圧荷重の作用幅より大きい場合の値

*6：設計・建設規格 PVB-3111に準じる場合は，純曲げによる全断面降伏荷重と初期降伏荷重の比又は1.5のいずれか小さい方の値（ α ）を用いる。

(重大事故等クラス2容器 (クラス1容器))

荷重の組合せ	許容応力状態	許容限界					
		一次一般膜応力	一次膜応力+ 一次曲げ応力	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力	特別な応力限界	
						純せん断応力	支圧応力
D + P + M + S _s	IV _A S	$\frac{2}{3} \cdot S_u$ ただし, ASS及 びHNAについて	左欄の 1.5倍の値*6	$3 \cdot S_m^{*2}$ S _d 又はS _s 地震 動のみによる応力 振幅について評価 する。	^{*3, *4} S _d 又はS _s 地震 動のみによる疲労 解析を行い, 運転 状態I, IIにおけ る疲労累積係数と の和が1.0以下で あること。	0.4 · S _u	S _u ^{*5} (1.5 · S _u)
D + P _L + M _L + S _d ^{*1}							
D + P _{SAL} + M _{SAL} + S _d	V _A S (V _A Sとして 右に示すIV _A S の許容限界を用 いる。)	$\frac{2}{3} \cdot S_u$ と 2.4 · S _m の小さい 方					
D + P _{SALL} + M _{SALL} + S _s							

注記*1: 非常用炉心冷却系等に属する設備に対しては, 許容応力状態III_ASとする。

*2: 3 · S_mを超える場合は弾塑性解析を行う。設計・建設規格 PVB-3300 (PVB-3313を除く。) の簡易弾塑性解析を用いる。

*3: 設計・建設規格 PVB-3140(6)を満たすときは疲労解析不要

ただし, PVB-3140(6)の「応力の全振幅」は「S_d又はS_s地震動による応力の全振幅」と読み替える。

*4: 運転状態I, IIにおいて疲労解析を要しない場合は, 地震動のみによる疲労累積係数を1.0以下とする。

*5: ()内は, 支圧荷重の作用端から自由端までの距離が支圧荷重の作用幅より大きい場合の値

*6: 設計・建設規格 PVB-3111に準じる場合は, 純曲げによる全断面降伏荷重と初期降伏荷重の比又は1.5のいずれか小さい方の値(α)を用いる。

ロ. クラスMC容器及び重大事故等クラス2容器 (クラスMC容器)
(クラスMC容器)

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界					
			一次一般膜応力	一次膜応力+ 一次曲げ応力	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力	特別な応力限界*8	
							純せん 断応力	支圧応力
S	D+P+M+S _d * [*]	Ⅲ _A S	S _y と0.6・S _u の小さい方 ただし, ASS及びHNAに ついては1.2・Sとする。	左欄の 1.5倍の値*7	3・S* ²	S _d 又はS _s 地震 *3, *4 震動のみによる疲労 解析を行い, 運転状 態Ⅰ, Ⅱにおける疲 労累積係数との和 が1.0以下である こと。	0.6・S	S _y * ⁵ (1.5・S _y)
	D+P _L +M _L +S _d * ^{*1}							
	D+P+M+S _s	Ⅳ _A S	構造上の連続な部分は, 0.6・S _u , 不連続な部分は, S _y と0.6・S _u の小さい方 ただし, ASS及びHNA については, 構造上の連続 な部分は2・Sと0.6・S _u の小さい方, 不連続な部分 は1.2・Sとする。	左欄の 1.5倍の値*7	3・S* ²	S _d 又はS _s 地震 *3, *4 震動のみによる疲労 解析を行い, 運転状 態Ⅰ, Ⅱにおける疲 労累積係数との和 が1.0以下である こと。	0.4・S _u	S _u * ⁵ (1.5・S _u)
	D+P _L +M _L +S _d * ^{*6}							

注記*1: P_Lは, 冷却材喪失事故後10⁻¹年後の最大内圧を考慮する。

*2: 3・Sを超える場合は弾塑性解析を行う。この場合, 設計・建設規格 PVB-3300 (PVB-3313を除く。S_mはSと読み替える。) の簡易弾塑性解析を用いる。

*3: 設計・建設規格 PVB-3140(6)を満たすときは疲労解析不要

ただし, PVB-3140(6)の「応力の全振幅」は「S_d又はS_s地震動による応力の全振幅」と読み替える。

*4: 運転状態Ⅰ, Ⅱにおいて疲労解析を要しない場合は, 地震動のみによる疲労累積係数を1.0以下とする。

*5 : ()内は、支圧荷重の作用端から自由端までの距離が支圧荷重の作用幅より大きい場合の値

*6 : 原子炉格納容器は冷却材喪失事故後の最終障壁となることから、構造体全体としての安全裕度を確認する意味で、冷却材喪失事故後の最大内圧との組合せを考慮する。

*7 : 設計・建設規格 PVB-3111に準じる場合は、純曲げによる全断面降伏荷重と初期降伏荷重の比又は1.5のいずれか小さい方の値(α)を用いる。

*8 : 座屈に対する評価は、J E A G 4 6 0 1 -1984の第2種容器の軸圧縮荷重及び曲げモーメントによる座屈に対する評価式を用いる。

(重大事故等クラス2容器 (クラスMC容器))

荷重の組合せ	許容応力状態	許容限界					
		一次一般膜応力	一次膜応力+ 一次曲げ応力	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力	特別な応力限界* ⁹	
						純せん断応力	支圧応力
$D + P_L + M_L + S_d^{**1}$	III _A S	S_y と $0.6 \cdot S_u$ の小さい方ただし、ASS及びHNAについては $1.2 \cdot S$ とする。	左欄の 1.5倍の値* ⁸	$3 \cdot S^{*4}$ S_d 又は S_s 地震動のみによる応力振幅について評価する。	* ⁵ , * ⁶ S_d 又は S_s 地震動のみによる疲労解析を行い、運転状態I, IIにおける疲労累積係数との和が1.0以下であること。	0.6・S	S_y^{*7} ($1.5 \cdot S_y$)
$D + P + M + S_s$	IV _A S	構造上の連続な部分は、 $0.6 \cdot S_u$ 、不連続な部分は、 S_y と $0.6 \cdot S_u$ の小さい方	左欄の 1.5倍の値* ⁸			0.4・ S_u	S_u^{*7} ($1.5 \cdot S_u$)
$D + P_{SAL} + M_{SAL} + S_d^{*2, *3}$	V _A S (V _A SとしてIV _A Sの許容限界を用いる。)	ただし、ASS及びHNAについては、構造上の連続な部分は $2 \cdot S$ と $0.6 \cdot S_u$ の小さい方、不連続な部分は $1.2 \cdot S$ とする。					
$D + P_{SALL} + M_{SALL} + S_s^{*3}$							

注記*1： P_L は、冷却材喪失事故後 10^{-1} 年後の最大内圧を考慮する。

*2：重大事故等後の最高圧力、最高温度（最高圧力時の飽和温度）との組合せを考慮する。

*3：原子炉格納容器バウンダリ設備に対しても本荷重の組合せを適用する。

*4： $3 \cdot S$ を超える場合は弾塑性解析を行う。この場合、設計・建設規格 PVB-3300 (PVB-3313を除く。 S_m は S と読み替える。)の簡易弾塑性解析を用いる。

*5：設計・建設規格 PVB-3140(6)を満たすときは疲労解析不要

ただし、PVB-3140(6)の「応力の全振幅」は「 S_d 又は S_s 地震動による応力の全振幅」と読み替える。

*6：運転状態I, IIにおいて疲労解析を要しない場合は、地震動のみによる疲労累積係数を1.0以下とする。

*7：()内は、支圧荷重の作用端から自由端までの距離が支圧荷重の作用幅より大きい場合の値

*8 : 設計・建設規格 PVB-3111に準じる場合は, 純曲げによる全断面降伏荷重と初期降伏荷重の比又は1.5のいずれか小さい方の値(α)を用いる。

*9 : 座屈に対する評価は, J E A G 4 6 0 1-1984 の第2種容器の軸圧縮荷重及び曲げモーメントによる座屈に対する評価式を用いる。

ハ. クラス 2, 3 容器及び重大事故等クラス 2 容器 (クラス 2, 3 容器)

(クラス 2 容器及びクラス 3 容器)

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界*1			
			一次一般膜応力	一次膜応力+ 一次曲げ応力	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力
S	$D + P_D + M_D + S_d^*$ ^{*2}	Ⅲ _A S	S_y と $0.6 \cdot S_u$ の小さい方 ただし, ASS及びHNAに ついては上記の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。	左欄の 1.5 倍の値	^{*3} S_d 又は S_s 地震動のみによる疲労解析を行 い, 疲労累積係数が1.0以下であること。 ただし, 地震動のみによる一次+二次応力の 変動値が $2 \cdot S_y$ 以下であれば疲労解析は不要	
	$D + P_D + M_D + S_s$	Ⅳ _A S	$0.6 \cdot S_u$	左欄の 1.5 倍の値		

注記*1: 座屈に対する評価が必要な場合には, クラスMC容器の座屈に対する評価式による。

*2: P_D 及び M_D について, 非常用炉心冷却系等に属する設備に対しては運転状態Ⅳ(L)の荷重を含むものとする。

*3: $2 \cdot S_y$ を超えるときは弾塑性解析を行う。この場合, 設計・建設規格 PVB-3300 (PVB-3313を除く。 S_m は $2/3 \cdot S_y$ と読み替える。)の簡易弾塑性解析を用いる。

(重大事故等クラス2容器 (クラス2, 3容器))

荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界*1			
		一次一般膜応力	一次膜応力+ 一次曲げ応力	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力
$D + P_D + M_D + S_s$	$IV_A S$	$0.6 \cdot S_u$	左欄の 1.5倍の値	*2 S_s 地震動のみによる疲労解析を行い, 疲労累積係数が1.0以下であること。 ただし, 地震動のみによる一次+二次応力の変動値が $2 \cdot S_y$ 以下であれば疲労解析は不要	
*3 $D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_s$	$V_A S$ ($V_A S$ として右に示す $IV_A S$ の許容限界を用いる。)				

注記*1: 座屈に対する評価が必要な場合には, クラスMC容器の座屈に対する評価式による。

*2: $2 \cdot S_y$ を超えるときは弾塑性解析を行う。この場合, 設計・建設規格 PVB-3300 (PVB-3313を除く。 S_m は $2/3 \cdot S_y$ と読み替える。)の簡易弾塑性解析を用いる。

*3: 原子炉格納容器内の設備については, 原子炉格納容器の最高使用圧力を考慮する。

ニ. クラス1管及び重大事故等クラス2管 (クラス1管)
(クラス1管)

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界			
			一次一般膜応力	一次膜応力 (曲げ応力を含む)	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力
S	D+P+M+S _d *	Ⅲ _A S	$1.5 \cdot S_m^{*2}$	$2.25 \cdot S_m^{*3}$ ただし、ねじりによる応力が $0.55 \cdot S_m$ を超える場合は、曲げ とねじりによる応力について $1.8 \cdot S_m$ とする。	$3 \cdot S_m^{*3, *4}$ S _d 又はS _s 地震動のみ による応力振幅について 評価する。	^{*3} S _d 又はS _s 地震動のみ による疲労解析を行い、 運転状態Ⅰ，Ⅱにおける 疲労累積係数との和が 1.0以下であること。
	D+P _L +M _L +S _d * ^{*1}	Ⅳ _A S	$2 \cdot S_m^{*2}$	$3 \cdot S_m^{*3}$ ただし、ねじりによる応力が $0.73 \cdot S_m$ を超える場合は、曲げ とねじりによる応力について $2.4 \cdot S_m$ とする。		
	D+P+M+S _s					

注記*1：非常用炉心冷却系等に属する設備に対しては、許容応力状態Ⅲ_ASとする。

*2：軸力による全断面平均応力については、許容応力状態Ⅲ_ASの一次一般膜応力の許容値の0.8倍の値とする。

*3：サポート用ラグ等が配管に直接溶接されている場合、配管に発生する局部的応力についても応力評価を行う。

*4： $3 \cdot S_m$ を超える場合は弾塑性解析を行う。この場合、設計・建設規格 PVB-3300 (PVB-3313を除く。) 又はPPB-3536(1), (2), (4)及び(5)の簡易弾塑性解析を用いる。

(重大事故等クラス2管 (クラス1管))

荷重の組合せ	許容応力状態	許容限界			
		一次一般膜応力	一次膜応力 (曲げ応力を含む)	一次+二次応力	一次+二次+ピーク応力
D + P + M + S _s	IV _A S	2・S _m ^{*2}	3・S _m ^{*3} ただし、ねじりによる応力が0.73・S _m を超える場合は、曲げとねじりによる応力について2.4・S _m とする。	3・S _m ^{*3, *4} S _d 又はS _s 地震動のみによる応力振幅について評価する。	*3 S _d 又はS _s 地震動のみによる疲労解析を行い、運転状態I、IIにおける疲労累積係数との和が1.0以下であること。
D + P _L + M _L + S _d ^{*1}					
D + P _{SAL} + M _{SAL} + S _d	V _A S (V _A Sとして右に示すIV _A Sの許容限界を用いる。)				
D + P _{SALL} + M _{SALL} + S _s					

注記*1：非常用炉心冷却系等に属する設備に対しては、許容応力状態III_ASとする。

*2：軸力による全断面平均応力については、許容応力状態III_ASの一次一般膜応力の許容値(1.5・S_m)の0.8倍の値とする。

*3：サポート用ラグ等が配管に直接溶接されている場合、配管に発生する局部的応力についても応力評価を行う。

*4：3・S_mを超える場合は弾塑性解析を行う。この場合、設計・建設規格 PVB-3300 (PVB-3313を除く。) 又はPPB-3536(1), (2), (4)及び(5)の簡易弾塑性解析を用いる。

ホ. クラス2, 3管及び重大事故等クラス2管 (クラス2, 3管)
(クラス2, 3管)

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界			
			一次一般膜応力	一次膜応力 (曲げ応力を含む)	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力
S	$D + P_D + M_D + S_d^{*1}$	Ⅲ _A S	^{*2} S_y と $0.6 \cdot S_u$ の小さい方 ただし, ASS及びHNAにつ いては上記の値と $1.2 \cdot S$ のう ち大きい方とする。	S_y ただし, ASS及びHNA については上記の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方と する。	^{*3} S_d 又は S_s 地震動のみによる疲労解析 を行い, 疲労累積係数が1.0以下である こと。 ただし, 地震動のみによる一次+二次応 力の変動値が $2 \cdot S_y$ 以下であれば疲労解 析は不要	
	$D + P_D + M_D + S_s$	Ⅳ _A S	$0.6 \cdot S_u^{*2}$	左欄の1.5倍の値		

注記*1: P_D 及び M_D について, 非常用炉心冷却系等に属する設備に対しては運転状態Ⅳ(L)の荷重を含むものとする。

*2: 軸力による全断面平均応力については, 許容応力状態Ⅲ_ASの一次一般膜応力の許容値の0.8倍の値とする。

*3: $2 \cdot S_y$ を超える場合は弾塑性解析を行う。この場合, 設計・建設規格 PPB-3536(1), (2), (4)及び(5) (ただし, S_m は $2/3 \cdot S_y$ と読み替える。)の簡易弾塑性解析を用いる。

(重大事故等クラス2管 (クラス2, 3管))

荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界			
		一次一般膜応力	一次膜応力 (曲げ応力を含む)	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力
$D + P_D + M_D + S_s$	$IV_A S$	$0.6 \cdot S_u^{*1}$	左欄の 1.5 倍の値	S_s 地震動のみによる疲労解析を行い、疲労累積係数が 1.0 以下であること。 *2 ただし、地震動のみによる一次+二次応力の変動値が $2 \cdot S_y$ 以下であれば疲労解析は不要	
$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_s$ *3	$V_A S$ ($V_A S$ として右に示す $IV_A S$ の許容限界を用いる。)				

注記*1：軸力による全断面平均応力については、許容応力状態 $III_A S$ の一次一般膜応力の許容値 (S_y と $0.6 \cdot S_u$ の小さい方。ただし、 $AS S$ 及び HNA については上記の値と $1.2 \cdot S$ との大きい方) の 0.8 倍の値とする。

*2： $2 \cdot S_y$ を超える場合は弾塑性解析を行う。この場合、設計・建設規格 PPB-3536(1), (2), (4)及び(5) (ただし、 S_m は $2/3 \cdot S_y$ と読み替える。) の簡易弾塑性解析を用いる。

*3：原子炉格納容器内の設備については、原子炉格納容器の最高使用圧力を考慮する。

へ、クラス4管及び重大事故等クラス2管（クラス4管）

（クラス4管）

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界
			一次一般膜応力
S	$D + P_D + M_D + S_d^*$ ^{*1}	III _A S	地震時の加速度及び相対変位に対し、機能が保たれるようサポートのスパン長を最大許容ピッチ以下に確保すること。 *2
	$D + P_D + M_D + S_s$	IV _A S	

注記*1：P_D及びM_Dについて、非常用炉心冷却系等に属する設備に対しては運転状態IV（L）の荷重を含むものとする。

*2：クラス4管であって非常用ガス処理系のように管を使用する場合、クラス2管の規定によることができる。

(重大事故等クラス2管 (クラス4管))

荷重の組合せ	許容応力状態	許容限界
		一次一般膜応力
$D + P_D + M_D + S_s$	$IV_A S$	<p style="text-align: right;">*</p> 地震時の加速度及び相対変位に対し、機能が保たれるようサポートのスパン長を最大許容ピッチ以下に確保すること。
$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_s$	$V_A S$ ($V_A S$ として右に示す $IV_A S$ の許容限界を用いる。)	

注記* : クラス4管であって非常用ガス処理系のように管を使用する場合、クラス2管の規定によることができる。

ト. クラス1ポンプ及び重大事故等クラス2ポンプ (クラス1ポンプ)
(クラス1ポンプ)

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界			
			一次一般膜応力	一次応力 (曲げ応力を含む)	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力
S	D+P+M+S _d *	Ⅲ _A S	S_y と $\frac{2}{3} \cdot S_u$ の小さい方 ただし, ASS及びHNA については $1.2 \cdot S_m$ とす る。	左欄の 1.5倍の値	$3 \cdot S_m^{*2}$ S _d 又はS _s 地震動の みによる応力振幅につ いて評価する。	S _d 又はS _s 地震動のみ による疲労解析を行い, 疲労累積係数が1.0以下 であること。
	D+P _L +M _L +S _d * ^{*1}	Ⅳ _A S	$\frac{2}{3} \cdot S_u$ ただし, ASS及びHNA については $\frac{2}{3} \cdot S_u$ と $2.4 \cdot S_m$ の小さい方	左欄の 1.5倍の値		
	D+P+M+S _s					

注記*1: 非常用炉心冷却系等に属する設備に対しては, 許容応力状態Ⅲ_ASとし, それ以外の設備に対しては許容応力状態Ⅳ_ASとする。

*2: $3 \cdot S_m$ を超える場合は弾塑性解析を行う。この場合, 設計・建設規格 PVB-3300 (PVB-3313を除く。) の簡易弾塑性解析を用いる。

(重大事故等クラス2ポンプ (クラス1ポンプ))

荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界			
		一次一般膜応力	一次応力 (曲げ応力を含む)	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力
$D + P_L + M_L + S_d^{*1}$	IV _A S	$\frac{2}{3} \cdot S_u$ ただし、ASS及びHNA については $\frac{2}{3} \cdot S_u$ と 2.4・S _m の小さい方	左欄の 1.5倍の値	$3 \cdot S_m^{*2}$ S _d 又はS _s 地震動のみ による応力振幅について 評価する。	S _d 又はS _s 地震動のみ による疲労解析を行い、 疲労累積係数が1.0以下 であること。
$D + P + M + S_s$					
$D + P_{SAL} + M_{SAL} + S_d$	V _A S (V _A Sと して右に示 すIV _A Sの 許容限界を 用いる。)				
$D + P_{SALL} + M_{SALL} + S_s$					

注記*1：非常用炉心冷却系等に属する設備に対しては、許容応力状態Ⅲ_ASとし、それ以外の設備に対しては許容応力状態Ⅳ_ASとする。*2：3・S_mを超える場合は弾塑性解析を行う。この場合、設計・建設規格 PVB-3300 (PVB-3313を除く。)の簡易弾塑性解析を用いる。

チ. クラス2ポンプ, クラス3ポンプ, その他のポンプ及び重大事故等クラス2ポンプ (クラス2, 3, その他のポンプ)
(クラス2ポンプ, クラス3ポンプ, その他のポンプ)

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界			
			一次一般膜応力	一次膜応力+ 一次曲げ応力	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力
S	$D + P_D + M_D + S_d^*$ ^{*1}	Ⅲ _A S	S_y と $0.6 \cdot S_u$ の小さい方 ただし, ASS及びHNA については上記の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方と する。	左欄の 1.5倍の値	*2 S_d 又は S_s 地震動のみによる疲労解析を行 い, 疲労累積係数が1.0以下であること。 ただし, 地震動のみによる一次+二次応力の 変動値が $2 \cdot S_y$ 以下であれば疲労解析は不要	
	$D + P_D + M_D + S_s$	Ⅳ _A S	$0.6 \cdot S_u$	左欄の 1.5倍の値		

注記*1: P_D 及び M_D について, 非常用炉心冷却系等に属する設備に対しては運転状態Ⅳ(L)の荷重を含むものとする。

*2: $2 \cdot S_y$ を超える場合は弾塑性解析を行う。この場合, 設計・建設規格 PVB-3300 (PVB-3313を除く。 S_m は $2/3 \cdot S_y$ と読み替える。)の簡易弾塑性解析を用いる。

(重大事故等クラス2ポンプ (クラス2ポンプ, クラス3ポンプ, その他のポンプ))

荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界			
		一次一般膜応力	一次膜応力+ 一次曲げ応力	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力
$D + P_D + M_D + S_s$	$IV_A S$	$0.6 \cdot S_u$	左欄の 1.5 倍の値	* S_s 地震動のみによる疲労解析を行い, 疲労累積係数が 1.0 以下であること。 ただし, 地震動のみによる一次+二次応力の変動値が $2 \cdot S_y$ 以下であれば疲労解析は不要	
$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_s$	$V_A S$ ($V_A S$ として右に示す $IV_A S$ の許容限界を用いる。)				

注記* : $2 \cdot S_y$ を超えるときは弾塑性解析を行う。この場合, 設計・建設規格 PVB-3300 (PVB-3313 を除く。 S_m は $2/3 \cdot S_y$ と読み替える。) の簡易弾塑性解析を用いる。

リ. クラス1弁（弁箱）及び重大事故等クラス2弁（クラス1弁（弁箱））
（クラス1弁（弁箱））

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界			
			一次一般膜応力	一次応力	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力
S	$D+P+M+S d^*$	Ⅲ _A S	<div style="text-align: center;"> <hr style="width: 50%; margin: 0 auto;"/> <p>*2</p> </div>			
	$D+P_L+M_L+S d^*$ ^{*1}	Ⅳ _A S				
	$D+P+M+S s$					

注記*1：非常用炉心冷却系等に属する設備に対しては、許容応力状態Ⅲ_ASとし、それ以外の設備に対しては許容応力状態Ⅳ_ASとする。

*2：外径が115mm以下の管に接続される弁のうち、特に大きな駆動部を有する電動弁、空気作動弁については、設計・建設規格 VVB-3330 の評価を行う。ただし、地震時に過大な応力の発生を防ぐ処置が講じられているものは、この限りではない。

(重大事故等クラス2弁 (クラス1弁 (弁箱)))

荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界			
		一次一般膜応力	一次応力	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力
$D + P_L + M_L + S_d^*$ ^{*1}	IV _A S				
$D + P + M + S_s$					
$D + P_{SAL} + M_{SAL} + S_d$	V _A S (V _A Sとして右に示すIV _A S の許容限界を用いる。)				
$D + P_{SALL} + M_{SALL} + S_s$					

注記*1：非常用炉心冷却系等に属する設備に対しては、許容応力状態Ⅲ_ASとし、それ以外の設備に対しては許容応力状態Ⅳ_ASとする。

*2：外径が115mm以下の管に接続される弁のうち、特に大きな駆動部を有する電動弁、空気作動弁については、設計・建設規格 VVB-3330 の評価を行う。ただし、地震時に過大な応力の発生を防ぐ処置が講じられているものは、この限りではない。

ヌ. クラス2弁（弁箱）及び重大事故等クラス2弁（クラス2弁（弁箱））
（クラス2弁（弁箱））

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界			
			一次一般膜応力	一次応力	一次＋二次応力	一次＋二次＋ ピーク応力
S	$D + P_D + M_D + S d^*$ ^{*1}	Ⅲ _A S	_____ ^{*2}			
	$D + P_D + M_D + S s$	Ⅳ _A S				

注記*1：P_D及びM_Dについて、非常用炉心冷却系等に属する設備に対しては運転状態Ⅳ（L）の荷重を含むものとする。

*2：バルブの肉厚が接続配管と同等の場合で、特に大きな駆動部を有する電動弁、空気作動弁については、設計・建設規格 VVB-3330 の評価を行う。
ただし、地震時に過大な応力の発生を防ぐ処置が講じられているものは、この限りではない。

(重大事故等クラス2弁 (クラス2弁 (弁箱))

荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界			
		一次一般膜応力	一次応力	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力
$D + P_D + M_D + S_s$	$IV_A S$	<hr style="width: 50%; margin: 0 auto;"/> *1			
$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_s$	$V_A S$ *2 ($V_A S$ として右に示す $IV_A S$ の許容限界を用いる。)				

39 注記*1：バルブの肉厚が接続配管と同等の場合で、特に大きな駆動部を有する電動弁、空気作動弁については、設計・建設規格 VVB-3330 の評価を行う。ただし、地震時に過大な応力の発生を防ぐ処置が講じられているものは、この限りではない。

*2：原子炉格納容器内の設備については、原子炉格納容器の最高使用圧力を考慮する。

ル. 炉心支持構造物
(設計基準対象施設)

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界 (ボルト等以外) *4					許容限界 (ボルト等)		
			一次一般膜応力	一次一般膜応力 +一次曲げ応力	特別な応力限界			一次一般 膜応力	一次一般膜 応力+一次 曲げ応力	一次+ 二次応力
					純せん断 応力	支圧応力	ねじり 応力			
S	D + P + M + S d *	III _A S	$1.5 \cdot S_m^{*1}$	^{*1} 左欄の 1.5 倍の値	$0.9 \cdot S_m$	$1.5 \cdot S_y^{*2}$ ($2.25 \cdot S_y$)	$1.2 \cdot S_m$	$1.5 \cdot S_m^{*1}$	^{*1} 左欄の 1.5 倍の値	—
	D + P _L + M _L + S d *	IV _A S	$\frac{2}{3} \cdot S_u^{*3}$ ただし, ASS 及 びHNAについては $\frac{2}{3} \cdot S_u$ と $2.4 \cdot S_m$ の小さい方	^{*3} 左欄の 1.5 倍の値	$1.2 \cdot S_m$	$2 \cdot S_y^{*2}$ ($3 \cdot S_y$)	$1.6 \cdot S_m$	$\frac{2}{3} \cdot S_u^{*3}$ ただし, ASS 及び HNAについては $\frac{2}{3} \cdot S_u$ と $2.4 \cdot S_m$ の小さい方	^{*3} 左欄の 1.5 倍の値	—
	D + P + M + S s									

注記*1: 設計・建設規格 CSS-3160(2)の崩壊荷重の下限に基づく評価を適用する場合は, この限りではない。

*2: () 内は, 支圧荷重の作用端から自由端までの距離が支圧荷重の作用幅より大きい場合の値

*3: 設計・建設規格 CSS-3160(3)の崩壊荷重の下限に基づく評価を適用する場合は, この限りではない。

*4: 座屈に対する評価が必要な場合には, クラスMC容器の座屈に対する評価式による。

(重大事故等対処施設)

荷重の組合せ	許容応力状態	許容限界 (ボルト等以外) *3					許容限界 (ボルト等)		
		一次一般膜応力	一次一般膜応力 +一次曲げ応力	特別な応力限界			一次一般膜応力	一次一般膜 応力+一次 曲げ応力	一次+ 二次応力
				純せん断 応力	支圧応力	ねじり 応力			
D + P _L + M _L + S _d *	IV _A S	$\frac{2}{3} \cdot S_u^{*1}$ ただし, ASS及び HNAについては	*1 左欄の 1.5倍の値	1.2 · S _m	*2 2 · S _y (3 · S _y)	1.6 · S _m	$\frac{2}{3} \cdot S_u^{*1}$ ただし, ASS 及びHNAにつ いては $\frac{2}{3} \cdot S_u$ と 2.4 · S _m の小さ い方	*1 左欄の 1.5倍の値	—
D + P + M + S _s									
D + P _{SAL} + M _{SAL} + S _d	V _A S (V _A Sとして 右に示すIV _A S の許容限界を 用いる。)	$\frac{2}{3} \cdot S_u$ と 2.4 · S _m の小さい方	*1 左欄の 1.5倍の値	1.2 · S _m	*2 2 · S _y (3 · S _y)	1.6 · S _m	$\frac{2}{3} \cdot S_u$ と 2.4 · S _m の小さ い方	*1 左欄の 1.5倍の値	—
D + P _{SALL} + M _{SALL} + S _s									

注記*1: 設計・建設規格 CSS-3160(3)の崩壊荷重の下限に基づく評価を適用する場合は, この限りではない。

*2: ()内は, 支圧荷重の作用端から自由端までの距離が支圧荷重の作用幅より大きい場合の値

*3: 座屈に対する評価が必要な場合には, クラスMC容器の座屈に対する評価式による。

フ. 炉内構造物

(設計基準対象施設)

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界 (ボルト等以外)					許容限界 (ボルト等)		
			一次一般膜応力	一次一般膜応力 +一次曲げ応力	特別な応力限界			一次一般 膜応力	一次一般膜応力 +一次曲げ応力	一次+ 二次応力
					純せん断 応力	支圧応力	ねじり 応力			
S	$D + P_D + M_D + S_d^{*1}$	Ⅲ _A S	$1.5 \cdot S_m^{*2}$	左欄の 1.5倍の値 ^{*2}	$0.9 \cdot S_m$	$1.5 \cdot S_y^{*3}$ ($2.25 \cdot S_y$)	$1.2 \cdot S_m$	$1.5 \cdot S_m^{*2}$	左欄の ^{*2} 1.5倍の値	—
	$D + P_D + M_D + S_s$	Ⅳ _A S	$\frac{2}{3} \cdot S_u^{*4}$ ただし, ASS及 びHNAについて は $\frac{2}{3} \cdot S_u$ と $2.4 \cdot S_m$ の小さい方	左欄の ^{*4} 1.5倍の値	$1.2 \cdot S_m$	$2 \cdot S_y^{*3}$ ($3 \cdot S_y$)	$1.6 \cdot S_m$	$\frac{2}{3} \cdot S_u^{*4}$ ただし, ASS及 びHNAについて は $\frac{2}{3} \cdot S_u$ と $2.4 \cdot S_m$ の小さい方	左欄の ^{*4} 1.5倍の値	—

注記*1: P_D 及び M_D について, 非常用炉心冷却系等に属する設備に対しては運転状態Ⅳ(L)の荷重を含むものとする。

*2: 設計・建設規格 CSS-3160(2)の崩壊荷重の下限に基づく評価を適用する場合は, この限りではない。

*3: ()内は, 支圧荷重の作用端から自由端までの距離が支圧荷重の作用幅より大きい場合の値

*4: 設計・建設規格 CSS-3160(3)の崩壊荷重の下限に基づく評価を適用する場合は, この限りではない。

(重大事故等対処施設)

荷重の組合せ	許容応力状態	許容限界 (ボルト等以外)					許容限界 (ボルト等)		
		一次一般膜応力	一次一般膜応力 +一次曲げ応力	特別な応力限界			一次一般膜応力	一次一般膜 応力+一次 曲げ応力	一次+ 二次応力
				純せん断 応力	支圧応力	ねじり 応力			
$D + P_D + M_D + S_s$	IV_{AS}	$\frac{2}{3} \cdot S_u^{*1}$ ただし, ASS 及びHNAにつ いては $\frac{2}{3} \cdot S_u$ と	*1 左欄の 1.5倍の値	$1.2 \cdot S_m$	$2 \cdot S_y^{*2}$ ($3 \cdot S_y$)	$1.6 \cdot S_m$	$\frac{2}{3} \cdot S_u^{*1}$ ただし, ASS及び HNAにつ いては $\frac{2}{3} \cdot S_u$ と $2.4 \cdot S_m$ の 小さい方	*1 左欄の 1.5倍の値	—
$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_s$	V_{AS} (V_{AS} とし て右に示す IV_{AS} の許容 限界を用い る。)	$2.4 \cdot S_m$ の小さい方							

注記*1: 設計・建設規格 CSS-3160(3)の崩壊荷重の下限に基づく評価を適用する場合は, この限りではない。

*2: ()内は, 支圧荷重の作用端から自由端までの距離が支圧荷重の作用幅より大きい場合の値

ワ. クラス1支持構造物及び重大事故等クラス2支持構造物（クラス1支持構造物）
（クラス1支持構造物）

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界 ^{*1, *2, *3} (ボルト等以外)										許容限界 ^{*2, *4} (ボルト等)		形式試験に よる場合 許容荷重	
			一次応力					一次+二次応力					一次応力			
			引張	せん断	圧縮	曲げ	支圧	引張 圧縮	せん断	曲げ	支圧	座屈 ^{*5}	引張	せん断		
S	D+P+M+S _d [*]	Ⅲ _A S	1.5・f _t	1.5・f _s	1.5・f _c	1.5・f _b	1.5・f _p	3・f _t	3・f _s ^{*6}	3・f _b ^{*7}	1.5・f _p ^{*8}	1.5・f _b ^{*7, *8}	1.5・f _s	1.5・f _t	1.5・f _s	$T_L \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{S_{y d}}{S_{y t}}$
	D+P _L +M _L +S _d ^{*9}	Ⅳ _A S	1.5・f _t [*]	1.5・f _s [*]	1.5・f _c [*]	1.5・f _b [*]	1.5・f _p [*]	〔S _d 又はS _s 地震動 のみによる応力振幅 について評価する。〕			1.5・f _p ^{*8}	又は	1.5・f _c	1.5・f _t [*]	1.5・f _s [*]	$T_L \cdot 0.6 \cdot \frac{S_{y d}}{S_{y t}}$
	D+P+M+S _s															

注記*1：鋼構造設計規準（日本建築学会 2005 改定）等の幅厚比の制限を満足させる。

*2：応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

*3：耐圧部に溶接等により直接取り付けられる支持構造物であって耐圧部と一体の応力解析を行うものについては、耐圧部と同じ許容応力とする。

*4：コンクリートに埋め込まれるアンカボルトで地震応力の占める割合が支配的なものであって、トルク管理、材料の照合等を行わないものについては、材料の品質、据付状態等のゆらぎ等を考慮して、Ⅲ_AS許容応力を一次引張応力に対してはf_t、一次せん断応力に対してはf_sとして、またⅣ_AS→Ⅲ_ASとして応力評価を行う。

*5：薄肉円筒形状のもの座屈の評価にあつては、クラスMC容器の座屈に対する評価式による。

*6：すみ肉溶接部にあつては最大応力に対して1.5・f_sとする。

*7：設計・建設規格 SSB-3121.1(4)により求めたf_bとする。

*8：自重、熱膨張等により常時作用する荷重に、地震動による荷重を重ね合わせて得られる応力の圧縮最大値について評価する。

*9：非常用炉心冷却系等に属する設備に対しては、許容応力状態Ⅲ_ASとする。

(重大事故等クラス2支持構造物 (クラス1支持構造物))

荷重の組合せ	許容応力状態	許容限界 ^{*1, *2, *3} (ボルト等以外)										許容限界 ^{*2, *4} (ボルト等)		形式試験による場合		
		一次応力					一次+二次応力					一次応力		許容荷重		
		引張	せん断	圧縮	曲げ	支圧	引張 圧縮	せん断	曲げ	支圧	座屈 ^{*5}	引張	せん断			
D + P _L + M _L + S _d ^{*9}	IV _A S						3・f _t	3・f _s ^{*6}	3・f _b ^{*7}							
D + P + M + S _s																
D + P _{SAL} + M _{SAL} + S _d	V _A S (V _A Sとして右に示すIV _A Sの許容限界を用いる。)	1.5・f _t [*]	1.5・f _s [*]	1.5・f _c [*]	1.5・f _b [*]	1.5・f _p [*]	$\left(S_d \text{ 又は } S_s \text{ 地震動のみによる応力振幅について評価する。} \right)$			1.5・f _p ^{*8}	1.5・f _b ^{*7, *8}	1.5・f _s	1.5・f _s [*]	$T_L \cdot 0.6 \cdot \frac{S_{y d}}{S_{y t}}$		
D + P _{SALL} + M _{SALL} + S _s																

注記*1：鋼構造設計規準（日本建築学会 2005 改定）等の幅厚比の制限を満足させる。

*2：応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

*3：耐圧部に溶接等により直接取り付けられる支持構造物であって耐圧部と一体の応力解析を行うものについては、耐圧部と同じ許容応力とする。

*4：コンクリートに埋め込まれるアンカボルトで地震応力の占める割合が支配的なものであって、トルク管理、材料の照合等を行わないものについては、材料の品質、据付状態等のゆらぎ等を考慮して、IV_AS→III_AS（一次引張応力に対しては1.5・f_t、一次せん断応力に対しては1.5・f_s）として応力評価を行う。

*5：薄肉円筒形状のもの座屈の評価にあつては、クラスMC容器の座屈に対する評価式による。

*6：すみ肉溶接部にあつては最大応力に対して1.5・f_sとする。

*7：設計・建設規格 SSB-3121.1(4)により求めたf_bとする。

*8：自重、熱膨張等により常時作用する荷重に、地震動による荷重を重ね合わせて得られる応力の圧縮最大値について評価する。

*9：非常用炉心冷却系等に属する設備に対しては、許容応力状態III_ASとする。

カ. クラスMC支持構造物及び重大事故等クラス2支持構造物 (クラスMC支持構造物)
(クラスMC支持構造物)

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界*1, *2, *3 (ボルト等以外)										許容限界*2, *4 (ボルト等)		形式試験に よる場合	
			一次応力					一次+二次応力					一次応力		許容荷重	
			引張	せん断	圧縮	曲げ	支圧	引張 圧縮	せん断	曲げ	支圧	座屈*5	引張	せん断		
S	D + P + M + S d*	Ⅲ _A S	1.5・f _t	1.5・f _s	1.5・f _c	1.5・f _b	1.5・f _p	3・f _t	3・f _s *7	3・f _b *8	1.5・f _p *9	1.5・f _b , 1.5・f _s *8, *9	1.5・f _t	1.5・f _s	$T_L \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{S_{y d}}{S_{y t}}$	
	D + P _L + M _L + S d*															*6
	D + P + M + S s	Ⅳ _A S	1.5・f _t *	1.5・f _s *	1.5・f _c *	1.5・f _b *	1.5・f _p *	〔S d又はS s地震動の みによる応力振幅につ いて評価する。〕					1.5・f _c	1.5・f _t *	1.5・f _s *	$T_L \cdot 0.6 \cdot \frac{S_{y d}}{S_{y t}}$
	D + P _L + M _L + S d*															

注記*1 : 鋼構造設計規準 (日本建築学会 2005 改定) 等の幅厚比の制限を満足させる。

*2 : 応力の組合せが考えられる場合には, 組合せ応力に対しても評価を行う。

*3 : 耐圧部に溶接等により直接取り付けられる支持構造物であって耐圧部と一体の応力解析を行うものについては, 耐圧部と同じ許容応力とする。

*4 : コンクリートに埋め込まれるアンカボルトで地震応力の占める割合が支配的なものであって, トルク管理, 材料の照合等を行わないものについては, 材料の品質, 据付状態等のゆらぎ等を考慮して, Ⅲ_ASの許容応力を一次引張応力に対しては f_t, 一次せん断応力に対しては f_sとして, またⅣ_AS→Ⅲ_ASとして応力評価を行う。

*5 : 薄肉円筒形状のもの座屈の評価にあつては, クラスMC容器の座屈に対する評価式による。

*6 : P_Lは, 冷却材喪失事故後 10⁻¹年後の最大内圧を考慮する。

- *7 : すみ肉溶接部にあっては最大応力に対して $1.5 \cdot f_s$ とする。
- *8 : 設計・建設規格 SSB-3121.1(4)により求めた f_b とする。
- *9 : 自重, 熱膨張等により常時作用する荷重に, 地震動による荷重を重ね合わせて得られる応力の圧縮最大値について評価する。
- *10 : 原子炉格納容器は冷却材喪失事故後の最終障壁となることから, 構造体全体としての安全裕度を確認する意味で, 冷却材喪失事故後の最大内圧との組合せを考慮する。

(重大事故等クラス2支持構造物(クラスMC支持構造物))

荷重の組合せ	許容応力状態	許容限界*1, *2, *3 (ボルト等以外)										許容限界*2, *4 (ボルト等)		形式試験による場合
		一次応力					一次+二次応力					一次応力		許容荷重
		引張	せん断	圧縮	曲げ	支圧	引張 圧縮	せん断	曲げ	支圧	座屈*5	引張	せん断	
$D + P_L + M_L + S_d^*$ ^{*6}	Ⅲ _A S	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_b$	$1.5 \cdot f_p$	$3 \cdot f_t$	$3 \cdot f_s$ ^{*7}	$3 \cdot f_b$ ^{*8}	$1.5 \cdot f_p$ ^{*9}	$1.5 \cdot f_b$, $1.5 \cdot f_s$ 又は $1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$	$T_L \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{S_{y,d}}{S_{y,t}}$
$D + P + M + S_s$	Ⅳ _A S	$1.5 \cdot f_t^*$	$1.5 \cdot f_s^*$	$1.5 \cdot f_c^*$	$1.5 \cdot f_b^*$	$1.5 \cdot f_p^*$	〔 S_s 地震動のみによる 応力振幅について評価 する。〕			$1.5 \cdot f_p^*$ ^{*9}		$1.5 \cdot f_t^*$	$1.5 \cdot f_s^*$	$T_L \cdot 0.6 \cdot \frac{S_{y,d}}{S_{y,t}}$
$D + P_{SAL} + M_{SAL} + S_d$ ^{*10}	V _A S (V _A Sとして 右に示す Ⅳ _A Sの許容 限界を用い る)													
$D + P_{SALL} + M_{SALL} + S_s$														

注記*1 : 鋼構造設計規準(日本建築学会 2005 改定)等の幅厚比の制限を満足させる。

*2 : 応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

*3 : 耐圧部に溶接等により直接取り付けられる支持構造物であって耐圧部と一体の応力解析を行うものについては、耐圧部と同じ許容応力とする。

*4 : コンクリートに埋め込まれるアンカボルトで地震応力の占める割合が支配的なものであって、トルク管理、材料の照合等を行わないものについては、材料の品質、据付状態等のゆらぎ等を考慮して、Ⅳ_AS→Ⅲ_AS(一次引張応力に対しては $1.5 \cdot f_t$ 、一次せん断応力に対しては $1.5 \cdot f_s$)として応力評価を行う。

*5 : 薄肉円筒形状のもの座屈の評価にあつては、クラスMC容器の座屈に対する評価式による。

*6 : P_L は、冷却材喪失事故後 10^{-1} 年後の最大内圧を考慮する。

*7 : すみ肉溶接部にあつては最大応力に対して $1.5 \cdot f_s$ とする。

*8 : 設計・建設規格 SSB-3121.1(4)により求めた f_b とする。

- *9 : 自重, 熱膨張等により常時作用する荷重に, 地震動による荷重を重ね合わせて得られる応力の圧縮最大値について評価する。
- *10 : 重大事故等後の最高圧力, 最高温度 (最高圧力時の飽和温度) との組合せを考慮する。

ヨ. クラス 2, 3 支持構造物及び重大事故等クラス 2 支持構造物 (クラス 2, 3 支持構造物)
(クラス 2, 3 支持構造物)

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界*1, *2, *3 (ボルト等以外)										許容限界*2, *4 (ボルト等)		形式試験に よる場合 許容荷重
			一次応力					一次+二次応力					一次応力		
			引張	せん断	圧縮	曲げ	支圧	引張 圧縮	せん断	曲げ	支圧	座屈*5	引張	せん断	
S	$D + P_D + M_D + S_d$ *9	Ⅲ _A S	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_b$	$1.5 \cdot f_p$	$3 \cdot f_t$	$3 \cdot f_s$ *6	$3 \cdot f_b$ *7	$1.5 \cdot f_p$ *8	$1.5 \cdot f_b$, $1.5 \cdot f_s$ *7, *8	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$	$T_L \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{S_{y d}}{S_{y t}}$
	$D + P_D + M_D + S_s$	Ⅳ _A S	$1.5 \cdot f_t^*$	$1.5 \cdot f_s^*$	$1.5 \cdot f_c^*$	$1.5 \cdot f_b^*$	$1.5 \cdot f_p^*$	〔 S _d 又はS _s 地震動の みによる応力振幅につ いて評価する。 〕			$1.5 \cdot f_p^*$ *8	又は $1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_t^*$	$1.5 \cdot f_s^*$	$T_L \cdot 0.6 \cdot \frac{S_{y d}}{S_{y t}}$

注記*1：鋼構造設計規準（日本建築学会 2005 改定）等の幅厚比の制限を満足させる。

*2：応力の組合せが考えられる場合には，組合せ応力に対しても評価を行う。

*3：耐圧部に溶接等により直接取り付けられる支持構造物であって耐圧部と一体の応力解析を行うものについては，耐圧部と同じ許容応力とする。

*4：コンクリートに埋め込まれるアンカボルトで地震応力の占める割合が支配的なものであって，トルク管理，材料の照合等を行わないものについては，材料の品質，据付状態等のゆらぎ等を考慮して，Ⅲ_ASの許容応力を一次引張応力に対しては f_t ，一次せん断応力に対しては f_s として，またⅣ_AS→Ⅲ_ASとして応力評価を行う。

*5：薄肉円筒形状のもの座屈の評価にあっては，クラスMC容器の座屈に対する評価式による。

*6：すみ肉溶接部にあっては最大応力に対して $1.5 \cdot f_s$ とする。

*7：設計・建設規格 SSB-3121.1(4)により求めた f_b とする。

*8：自重，熱膨張等により常時作用する荷重に，地震動による荷重を重ね合わせて得られる応力の圧縮最大値について評価する。

*9：P_D及びM_Dについて，非常用炉心冷却系等に属する設備に対しては運転状態Ⅳ（L）の荷重を含むものとする。

(重大事故等クラス2支持構造物(クラス2, 3支持構造物))

荷重の組合せ	許容応力状態	許容限界 ^{*1, *2, *3} (ボルト等以外)										許容限界 ^{*2, *4} (ボルト等)		形式試験による場合		
		一次応力					一次+二次応力					一次応力		許容荷重		
		引張	せん断	圧縮	曲げ	支圧	引張 圧縮	せん断 ^{*6}	曲げ ^{*7}	支圧	座屈 ^{*5}	引張	せん断			
D + P _D + M _D + S _s	IV _A S						3 · f _t	3 · f _s ^{*6}	3 · f _b ^{*7}							
D + P _{SAD} + M _{SAD} + S _s ^{*9}	V _A S (V _A Sとして 右に示すIV _A S の許容限界を用 いる)	1.5 · f _t [*]	1.5 · f _s [*]	1.5 · f _c [*]	1.5 · f _b [*]	1.5 · f _p [*]	$\left[\begin{array}{l} S_s \text{地震動のみによる} \\ \text{応力振幅について評価} \\ \text{する。} \end{array} \right]$			1.5 · f _p ^{*8}	1.5 · f _b ^{*7, *8} 1.5 · f _s 又は 1.5 · f _c	1.5 · f _t [*]	1.5 · f _s [*]	$T_L \cdot 0.6 \cdot \frac{S_{y d}}{S_{y t}}$		

注記*1：鋼構造設計規準（日本建築学会 2005 改定）等の幅厚比の制限を満足させる。

*2：応力の組合せが考えられる場合には，組合せ応力に対しても評価を行う。

*3：耐圧部に溶接等により直接取り付けられる支持構造物であって耐圧部と一体の応力解析を行うものについては，耐圧部と同じ許容応力とする。

*4：コンクリートに埋め込まれるアンカボルトで地震応力の占める割合が支配的なものであって，トルク管理，材料の照合等を行わないものについては，材料の品質，据付状態等のゆらぎ等を考慮して，IV_AS→III_AS（一次引張応力に対しては1.5 · f_t，一次せん断応力に対しては1.5 · f_s）として応力評価を行う。

*5：薄肉円筒形状のもの座屈の評価にあつては，クラスMC容器の座屈に対する評価式による。

*6：すみ肉溶接部にあつては最大応力に対して1.5 · f_sとする。

*7：設計・建設規格 SSB-3121.1(4)により求めたf_bとする。

*8：自重，熱膨張等により常時作用する荷重に，地震動による荷重を重ね合わせて得られる応力の圧縮最大値について評価する。

*9：原子炉格納容器内の設備については，原子炉格納容器の最高使用圧力を考慮する。

タ. その他の支持構造物
(設計基準対象施設)

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界*1, *2, *3, *10 (ボルト等以外)										許容限界*2, *4, *10 (ボルト等)	形式試験に よる場合 許容荷重	
			一次応力					一次+二次応力					一次応力		
			引張	せん断	圧縮	曲げ	支圧	引張 圧縮	せん断	曲げ	支圧	座屈*5	引張		せん断
S	$D + P_D + M_D + S_d^*$	Ⅲ _A S	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_b$	$1.5 \cdot f_p$	$3 \cdot f_t$	$3 \cdot f_s^{*6}$	$3 \cdot f_b^{*7}$	$1.5 \cdot f_p^{*8}$	座屈*5 $1.5 \cdot f_b^{*7, *8}$ $1.5 \cdot f_s$ 又は $1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$	$T_L \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{S_{y d}}{S_{y t}}$
	$D + P_D + M_D + S_s$	Ⅳ _A S	$1.5 \cdot f_t^*$	$1.5 \cdot f_s^*$	$1.5 \cdot f_c^*$	$1.5 \cdot f_b^*$	$1.5 \cdot f_p^*$	〔 S_d 又は S_s 地震動の みによる応力振幅につ いて評価する。〕				$1.5 \cdot f_p^{*8}$	$1.5 \cdot f_t^*$	$1.5 \cdot f_s^*$	$T_L \cdot 0.6 \cdot \frac{S_{y d}}{S_{y t}}$

注記*1 : 鋼構造設計規準 (日本建築学会 2005 改定) 等の幅厚比の制限を満足させる。

*2 : 応力の組合せが考えられる場合には, 組合せ応力に対しても評価を行う。

*3 : 耐圧部に溶接等により直接取り付けられる支持構造物であって耐圧部と一体の応力解析を行うものについては, 耐圧部と同じ許容応力とする。

*4 : コンクリートに埋め込まれるアンカボルトで地震応力の占める割合が支配的なものであって, トルク管理, 材料の照合等を行わないものについては, 材料の品質, 据付状態等のゆらぎ等を考慮して, Ⅲ_AS の許容応力を一次引張応力に対しては f_t , 一次せん断応力に対しては f_s として, またⅣ_AS → Ⅲ_AS として応力評価を行う。

*5 : 薄肉円筒形状のもの座靴の評価にあつては, クラスMC 容器の座屈に対する評価式による。

*6 : すみ肉溶接部にあつては最大応力に対して $1.5 \cdot f_s$ とする。

*7 : 設計・建設規格 SSB-3121.1(4) により求めた f_b とする。

*8 : 自重, 熱膨張等により常時作用する荷重に, 地震動による荷重を重ね合わせて得られる応力の圧縮最大値について評価する。

*9 : P_D 及び M_D について, 非常用炉心冷却系等に属する設備に対しては運転状態Ⅳ (L) の荷重を含むものとする。

*10：電気計装設備，換気空調設備の評価においても準用する。

(重大事故等対処施設)

荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界 ^{*1, *2, *3, *10} (ボルト等以外)										許容限界 ^{*2, *4, *10} (ボルト等)		形式試験に よる場合		
		一次応力					一次+二次応力					一次応力		許容荷重		
		引張	せん断	圧縮	曲げ	支圧	引張 圧縮	せん断	曲げ	支圧	座屈 ^{*5}	引張	せん断			
D + P _D + M _D + S _s	IV _A S						3・f _t	3・f _s ^{*6}	3・f _b ^{*7}							
D + P _{SAD} + M _{SAD} + S _s ^{*9}	V _A S (V _A Sとして 右に示すIV _A S の許容限界を 用いる)	1.5・f _t [*]	1.5・f _s [*]	1.5・f _c [*]	1.5・f _b [*]	1.5・f _p [*]	$\left[\begin{array}{l} S_s \text{地震動のみによる} \\ \text{応力振幅について評価} \\ \text{する。} \end{array} \right]$					1.5・f _p ^{*8}	1.5・f _b ^{*7, *8} 1.5・f _s 又は 1.5・f _c	1.5・f _t [*]	1.5・f _s [*]	$T_L \cdot 0.6 \cdot \frac{S_{y d}}{S_{y t}}$

注記*1：鋼構造設計規準（日本建築学会 2005 改定）等の幅厚比の制限を満足させる。

*2：応力の組合せが考えられる場合には，組合せ応力に対しても評価を行う。

*3：耐圧部に溶接等により直接取り付けられる支持構造物であって耐圧部と一体の応力解析を行うものについては，耐圧部と同じ許容応力とする。

*4：コンクリートに埋め込まれるアンカボルトで地震応力の占める割合が支配的なものであって，トルク管理，材料の照合等を行わないものについては，材料の品質，据付状態等のゆらぎ等を考慮して，IV_AS→III_AS（一次引張応力に対しては 1.5・f_t，一次せん断応力に対しては 1.5・f_s）として応力評価を行う。

*5：薄肉円筒形状のもの座靴の評価にあっては，クラスMC容器の座靴に対する評価式による。

*6：すみ肉溶接部にあっては最大応力に対して 1.5・f_sとする。

*7：設計・建設規格 SSB-3121.1(4)により求めた f_bとする。

*8：自重，熱膨張等により常時作用する荷重に，地震動による荷重を重ね合わせて得られる応力の圧縮最大値について評価する。

*9 : 原子炉格納容器内の設備については，原子炉格納容器の最高使用圧力を考慮する。

*10 : 電気計装設備，換気空調設備の評価においても準用する。

- レ. クラス1 耐圧部テンションボルト（容器以外）及び重大事故等クラス2 耐圧部テンションボルト（容器以外）（クラス1 耐圧部テンションボルト（容器以外））
（クラス1 耐圧部テンションボルト（容器以外））

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界
			平均引張応力
S	D+P+M+S d *	III _A S	1.5・S _m ^{*2, *3, *4}
	D+P _L +M _L +S d * ^{*1}		
	D+P+M+S s	IV _A S	2・S _m ^{*2, *3, *4}

注記*1：非常用炉心冷却系等に属する設備に対して評価を行う。

*2：使用圧力及び外荷重を考慮する。

*3：クラス1 容器耐圧部テンションボルトと同等の詳細解析を行う場合、クラス1 容器耐圧部テンションボルトの許容応力を用いることができる。

*4：クラス1 ポンプの耐圧部テンションボルトに当たっては、S_mをSと読み替える。

(重大事故等クラス2 耐圧部テンションボルト (容器以外) (クラス1 耐圧部テンションボルト (容器以外))

荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界
		平均引張応力
$D+P+M+S_s$	$IV_A S$	$2 \cdot S_m$ <small>*1, *2, *3</small>
$D+P_{SAL}+M_{SAL}+S_d$	$V_A S$	
$D+P_{SALL}+M_{SALL}+S_s$	($V_A S$ として右に示す $IV_A S$ の許容限界を用いる。)	

注記*1：使用圧力及び外荷重を考慮する。

*2：クラス1 容器耐圧部テンションボルトと同等の詳細解析を行う場合、クラス1 容器耐圧部テンションボルトの許容応力を用いることができる。

*3：クラス1 ポンプの耐圧部テンションボルトに当たっては、 S_m をSと読み替える。

ソ. クラス 2, 3 耐圧部テンションボルト及び重大事故等クラス 2 耐圧部テンションボルト (クラス 2, 3 耐圧部テンションボルト)
(クラス 2, 3 耐圧部テンションボルト)

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界
			平均引張応力
S	$D + P_D + M_D + S_d^{*1}$	III _A S	$1.5 \cdot S^{*2, *3}$
	$D + P_D + M_D + S_s$	IV _A S	$2 \cdot S^{*2, *3}$

注記*1: P_D 及び M_D について, 非常用炉心冷却系等に属する設備に対しては運転状態IV (L) の荷重を含むものとする。

*2: 使用圧力及び外荷重を考慮する。

*3: 継手接続部 (配管等) の許容応力から定まる荷重が作用するものと仮定した場合において, 耐圧部テンションボルトの応力が上記の許容応力を満たすことを確認するときは, 発生応力に対する評価を行うことを要しない。

評価方法としては, 「配管の応力解析を用いる方法」等がある。

(重大事故等クラス2 耐圧部テンションボルト (クラス2, 3 耐圧部テンションボルト))

荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界
		平均引張応力
$D + P_D + M_D + S_s$	$IV_A S$	$2 \cdot S$ ^{*1, *2}
$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_s$	$V_A S$ ($V_A S$ として右に示す $IV_A S$ の許容限界を用いる)	

注記*1：使用圧力及び外荷重を考慮する。

*2：継手接続部（配管等）の許容応力から定まる荷重が作用するものと仮定した場合において、耐圧部テンションボルトの応力が上記の許容応力を満たすことを確認するときは、発生応力に対する評価を行うことを要しない。

評価方法としては、「配管の応力解析を用いる方法」等がある。

ツ. 埋込金物

荷重の組合せに対する許容応力状態は、埋込金物が支持する支持構造物と同等とする。また、以下では、設計基準対象施設の許容限界を示すが、重大事故等対処施設における許容応力状態 $IV_A S$ の許容限界については、許容応力状態 $IV_A S$ の許容限界と読み替える。

(イ) 鋼構造物の許容応力

鋼構造物の許容応力は次による。

- i. 板、スタッド等は、その他の支持構造物（ボルト以外）の規定による。
- ii. アンカボルトは、その他の支持構造物（ボルト等）の規定による。

(ロ) コンクリート部の許容基準

コンクリート部の強度評価における許容荷重は J E A G 4 6 0 1・追補版-1991 に基づき、次のとおりとする。また、アンカ部にじん性が要求される場合にあつては、原則として基礎ボルトが先に降伏するような設計とする。

i. 基礎ボルトが引張荷重を受ける場合のコンクリートの評価

(i) コンクリートにせん断補強筋がない場合

荷重の算定で得られた基礎ボルトの引張荷重は、以下に示すコンクリート部の引張荷重に対する許容値以下となるようにする。

$$p \leq p_a = \min(p_{a1}, p_{a2})$$

ここに、

$$p_{a1} = 0.31 \cdot K_1 \cdot A_C \sqrt{F_C}$$

$$p_{a2} = K_2 \cdot \alpha_c \cdot A_0 \cdot F_C$$

p : 基礎ボルト 1 本当たりの引張荷重(N)

p_a : 基礎ボルト 1 本当たりのコンクリート部の許容引張荷重(N)

p_{a1} : コンクリート躯体がコーン状破壊する場合の基礎ボルト 1 本当たりの許容引張荷重(N)

p_{a2} : 基礎ボルト頭部に接するコンクリート部が支圧破壊する場合の基礎ボルト 1 本当たりの許容引張荷重(N)

K_1 : コーン状破壊する場合の引張耐力の低減係数

K_2 : 支圧破壊する場合の引張耐力の低減係数

F_C : コンクリートの設計基準強度(N/mm²)

A_C : コンクリートのコーン状破壊面の有効投影面積(mm²)

α_c : 支圧面積と有効投影面積から定まる定数 (= $\sqrt{A_C/A_0}$ かつ 10 以下)

A_0 : 支圧面積(mm²)

また、各許容応力状態に対するコーン状破壊耐力及び支圧破壊耐力の低減係数 (K_1 及び K_2) の値を以下に示す。

耐震クラス	荷重の組合せ	許容応力状態	コーン状破壊する場合の引張耐力の低減係数 (K ₁)	支圧破壊する場合の引張耐力の低減係数 (K ₂)
S	D + P _D + M _D + S _d *	Ⅲ _A S	0.45	2/3
	D + P _D + M _D + S _s	Ⅳ _A S	0.6	0.75

(ii) コンクリートにせん断補強筋を配する場合

コンクリートのコーン状破壊面の有効投影面積の範囲内にせん断補強筋を配する場合、鉄筋比が 0.4%以上あれば許容応力状態Ⅳ_ASにおけるコンクリート部の引張強度は、(i)の場合の 1.5 倍の強度を有するものとして評価することができる。

$$\text{鉄筋比} : P_t = \frac{\sum A_w}{A_c}$$

A_w : せん断補強筋断面積 (mm²)

A_c : 有効投影面積 (mm²)

ii. 基礎ボルトがせん断荷重を受ける場合のコンクリートの評価

荷重の算定で得られた基礎ボルトのせん断荷重は、以下に示すコンクリート部のせん断荷重に対する許容値以下になるようにする。

$$q \leq q_a = \min(q_{a1}, q_{a2})$$

ここに、

$$q_{a1} = 0.5 \cdot K_3 \cdot A_b \cdot \sqrt{E_c \cdot F_c}$$

$$q_{a2} = 0.31 \cdot K_4 \cdot A_{c1} \cdot \sqrt{F_c}$$

q : 基礎ボルト 1 本当たりのせん断荷重 (N)

q_a : 基礎ボルト 1 本当たりのコンクリート部の許容せん断荷重 (N)

q_{a1} : 基礎ボルトと基礎ボルト周辺のコンクリートが圧壊して破壊 (複合破壊) する場合の基礎ボルト 1 本当たりの許容せん断荷重 (N)

q_{a2} : へり側コンクリートが破壊する場合の基礎ボルト 1 本当たりの許容せん断荷重 (N)

K₃ : 複合破壊の場合のせん断耐力の低減係数

K₄ : へり側コンクリート破壊の場合のせん断耐力の低減係数

A_b : 基礎ボルトの谷径断面積 (スタッドの場合は軸部断面積) (mm²)

E_c : コンクリートのヤング率 (N/mm²)

F_c : コンクリートの設計基準強度 (N/mm²)

a : へりあき距離 (mm)

A_{c1} : コンクリートのコーン状破壊面の有効投影面積 (mm²) = π a²/2

ただし、 $\sqrt{E_c \cdot F_c}$ の値は、500N/mm²以上、880N/mm²以下とする。880N/mm²を超える場合は、 $\sqrt{E_c \cdot F_c} = 880\text{N/mm}^2$ として計算する。また、各許容応力状態に対するせん断耐力の低減係数 (K₃及びK₄) の値を以下に示す。

耐震クラス	荷重の組合せ	許容応力状態	複合破壊の場合のせん断耐力の低減係数 (K ₃)	へり側コンクリート破壊の場合の低減係数 (K ₄)
S	D + P _D + M _D + S _d *	Ⅲ _A S	0.6	0.45
	D + P _D + M _D + S _s	Ⅳ _A S	0.8	0.6

iii. 基礎ボルトが引張，せん断の組合せ荷重を受ける場合のコンクリートの評価

基礎ボルトが引張，せん断の組合せ荷重を受ける場合，それらの組合せが以下に示すコンクリート部の引張荷重及びせん断荷重の組合せに対する許容値以下となるようにする。

$$\left(\frac{p}{p_a}\right)^2 + \left(\frac{q}{q_a}\right)^2 \leq 1$$

ここに，

p_a : 引張荷重のみに対する基礎ボルト 1 本当たりのコンクリート部の許容引張荷重 (N)

$$= \min(p_{a1}, p_{a2})$$

q_a : せん断荷重のみに対する基礎ボルト 1 本当たりのコンクリート部の許容せん断荷重 (N)

$$= \min(q_{a1}, q_{a2})$$

p : 基礎ボルト 1 本当たりの引張荷重 (N)

q : 基礎ボルト 1 本当たりのせん断荷重 (N)

iv. コンクリート部の面内せん断力が大きい場合の評価

鉄筋コンクリート造建物・構築物において，耐震要素として地震時に生じる力を負担させる壁（以下「耐震壁」という。）において地震力による各層の面内せん断ひずみ度又は面内せん断力が著しく大きい場合は，鉄筋コンクリート造壁の機器・配管に対する支持機能の評価に，下記の許容限界を用いることとする。

- (i) 耐震壁の面内せん断ひずみ度と基礎ボルトの面外引張力に関する許容限界の目安値
地震力による各層の面内せん断ひずみ度 γ と機器・配管のアンカ部に作用する面外の引張力 p を p_u で除した値 p/p_u が，以下に示す図の網掛け部の許容限界ゾーン内にあることとする。

ここで， p_u は定着部のコンクリートのコーン状破壊耐力で，下記の式による。また，面内せん断ひずみ度 γ は，J E A G 4 6 0 1 で定まる復元力特性を用いた応答解析結果に基づく値とする。

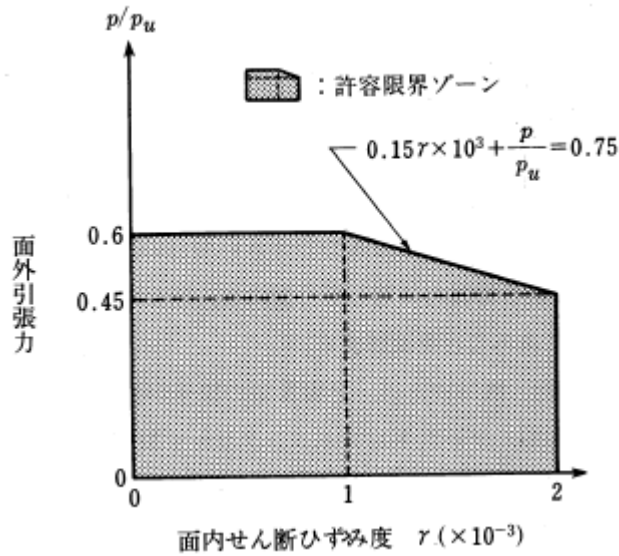
$$p_u = 0.31 \cdot A_c \cdot \sqrt{F_c}$$

ここに，

p_u : 定着部のコンクリートのコーン状破壊耐力 (N)

A_c : 有効投影面積（「i. 基礎ボルトが引張荷重を受ける場合のコンクリートの評価」参照）(mm²)

F_c : コンクリートの設計基準強度 (N/mm²)



面内せん断ひずみ度と面外引張力に関する許容限界ゾーン

- (ii) 耐震壁の面内せん断力と基礎ボルトの面外引張力に関する許容限界の目安値
地震力による各層の面内せん断力 Q を終局せん断耐力 Q_u で除した値 Q/Q_u と前記の p/p_u が、以下に示す図の網掛け部の許容限界ゾーン内にあることを目安とする。
ここで、 Q_u は各層の終局せん断耐力で、下記の式による。

$$Q_u = \tau_u \cdot A_s$$

ここに

$$\tau_u = \begin{cases} \left\{ 1 - \tau_s / (1.4 \cdot \sqrt{F_c}) \right\} \cdot \tau_o + \tau_s & (\tau_s < 1.4 \cdot \sqrt{F_c}) \\ 1.4 \cdot \sqrt{F_c} & (\tau_s \geq 1.4 \cdot \sqrt{F_c}) \end{cases}$$

$$\tau_o = (0.94 - 0.56 M/QD) \cdot \sqrt{F_c}$$

ただし、 $M/QD > 1$ のとき、 $M/QD = 1$ とする。

$$\tau_s = (P_V + P_H) \cdot \sigma_y / 2 + (\sigma_V + \sigma_H) / 2$$

Q_u : 終局せん断耐力 (N)

τ_u : 終局せん断応力度 (N/mm²)

A_s : 有効せん断断面積 (mm²)

F_c : コンクリートの圧縮強度 (N/mm²)

P_V : 縦筋比

P_H : 横筋比

σ_V : 縦軸応力度 (N/mm²)

σ_H : 横軸応力度 (N/mm²)

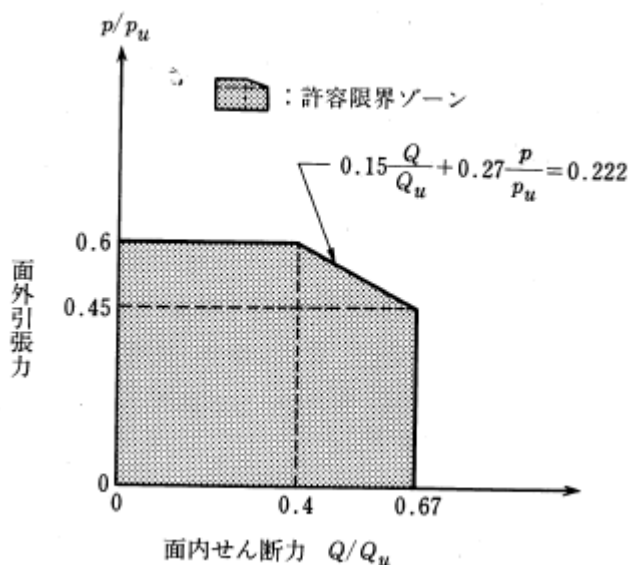
σ_y : 鉄筋の降伏応力度 (N/mm²)

D : 引張り、圧縮フランジの芯々間距離 (mm)

(ボックス壁であれば地震荷重加力方向の壁長、円筒壁の場合は外径)

Q : 当該耐震壁面内せん断力(N)

M : 当該耐震壁曲げモーメント(N・mm)



面内せん断力と面外引張力に関する許容限界ゾーン

v. コンクリートの許容圧縮応力度

コンクリートの許容圧縮応力度は下表に示す値とする。

(N/mm²)

耐震クラス	荷重の組合せ	許容応力状態	許容圧縮応力度*
S	$D + P_D + M_D + S_d^*$	Ⅲ _A S	$2/3 \cdot F_c$
	$D + P_D + M_D + S_s$	Ⅳ _A S	$0.75 \cdot F_c$

注記* : F_c = コンクリートの設計基準強度 (N/mm²)

vi. コンクリートの許容せん断応力度

コンクリートの許容せん断応力度は下表に示す値とする。

(N/mm²)

耐震クラス	荷重の組合せ	許容応力状態	許容せん断応力度
S	$D + P_D + M_D + S_d^*$	Ⅲ _A S	$1.5 \cdot \min \left[\frac{1}{30} \cdot F_c, \left(0.49 + \frac{1}{100} \cdot F_c \right) \right]$
	$D + P_D + M_D + S_s$	Ⅳ _A S	$1.5 \cdot \min \left[\frac{1}{30} \cdot F_c, \left(0.49 + \frac{1}{100} \cdot F_c \right) \right]$

- vii. 異形鉄筋を用いる場合のコンクリートに対する許容付着応力度
異形鉄筋を用いる場合のコンクリートに対する許容付着応力度は下表に示す値とする。

(N/mm²)

耐震クラス	荷重の組合せ	許容応力状態	許容付着応力度*
S	D + P _D + M _D + S _d *	Ⅲ _A S	$1.5 \cdot \min \left[\frac{1}{10} \cdot F_c, \left(1.35 + \frac{1}{25} \cdot F_c \right) \right]$
	D + P _D + M _D + S _s	Ⅳ _A S	$1.5 \cdot \min \left[\frac{1}{10} \cdot F_c, \left(1.35 + \frac{1}{25} \cdot F_c \right) \right]$

注記* : コンクリートの沈下により異形鉄筋下面の付着が悪くなると考えられる場合は許容付着応力度を 2/3 の値とする。

- viii. コンクリートの許容支圧応力度
コンクリートの許容支圧応力度は下表に示す値とする。

(N/mm²)

耐震クラス	荷重の組合せ	許容応力状態	許容支圧応力度*
S	D + P _D + M _D + S _d *	Ⅲ _A S	$f'_c = f_c \sqrt{A_c/A_1}$ かつ $f'_c \leq 2f_c$ 及び $f'_c \leq F_c$
	D + P _D + M _D + S _s	Ⅳ _A S	

注記* : f_c = コンクリートの許容圧縮応力度 (N/mm²)

A_1 = 局部圧縮を受ける面積 (支圧面積)

A_c = 支圧端から離れて応力が一様分布となったところの面積 (支承面積)

- ix. 引抜き力及び押抜き力に対するコンクリートの許容せん断応力度
スタッド、アンカボルト等の引抜き力及びベースプレートの押抜き (パンチング) 力によってコンクリートに生じる各許容応力状態におけるせん断応力度 τ_p は次式により計算し、viに示す許容せん断応力度より低いことを確認する。

また、本評価法以外に、「原子力発電所耐震設計技術指針 重要度分類・許容応力編 J E A G 4 6 0 1・補-1984」の「2.9.4 章 埋込金物の許容応力」の解説(7).bに示される米国コンクリート学会の規定を用いる場合もある。

$$\tau_p = \frac{P}{\alpha_D \cdot b_0 \cdot j}$$

ここで、

P = 引抜き力又は押抜き力 (N)

α_D = 1.5 (定数)

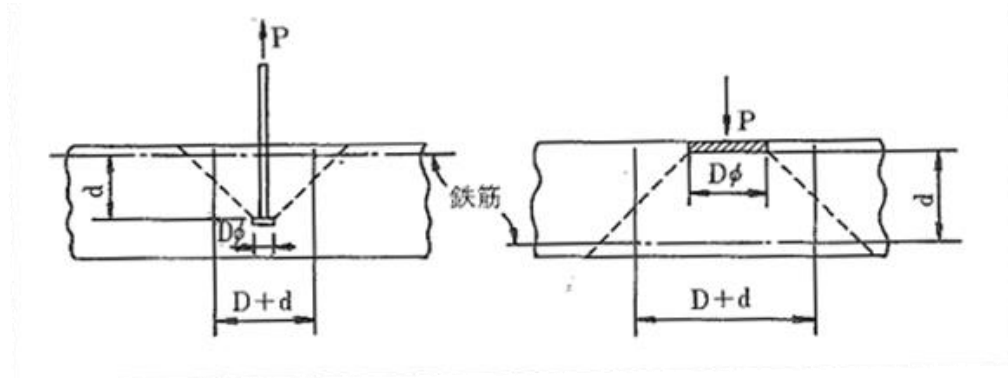
b_0 = せん断力算定断面の延べ幅 (mm)

j = (7/8) d (mm)

d = せん断力算定断面の有効せい (mm)

ただし、せん断力算定断面は次のように考える。

$$\left(\begin{array}{l} \text{スタッド, アンカボルトの引抜き} \\ \text{の例, ただし } b_0 = \pi \cdot (D + d) \end{array} \right) \left(\begin{array}{l} \text{ベースプレートの押抜きの例,} \\ \text{ただし } b_0 = \pi \cdot (D + d) \end{array} \right)$$



(ハ) 形式試験による場合

埋込金物に対し形式試験により標準設計荷重を求める場合は次による。

- i. 試験個数は、同一仕様のもを、荷重種別（引張、曲げ、せん断）ごとに最低3個とする。
- ii. 埋込金物の変形により支持構造物としての機能を喪失する限界の荷重を T_L (Test-Load)とする。ただし、埋込板のごとく荷重による変形の発生と破壊との判別がつきにくいものにあつては破壊荷重を T_L とする。
- iii. 許容荷重は、3個の T_L のうち最小値を $(T_L)_{\min}$ とし下の表により求める。ただし、最小値が他の2個の T_L に比べ過小な場合は、新たに3個の T_L を求め、合計6個の T_L の中で後から追加した3個の T_L の最小値が最初の3個の T_L の最小値を上回った場合は、合計6個の T_L の最小値をはぶき2番目に小さい T_L を $(T_L)_{\min}$ とする。ただし、下回った場合は、最小値を T_L を $(T_L)_{\min}$ とする。

耐震クラス	荷重の組合せ	許容応力状態	許容荷重
S	$D + P_D + M_D + S d^*$	Ⅲ _A S	$(T_L)_{\min} \cdot 1/2$
	$D + P_D + M_D + S s$	Ⅳ _A S	$(T_L)_{\min} \cdot 0.6$

(二) スタッドの評価

スタッドの評価においては、せん断耐力の評価式を規定している日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」設計式（A I J式）を用いることができる。

(ホ) メカニカルアンカ、ケミカルアンカの許容応力

建物施工後に設置する後打ちアンカには、メカニカルアンカ及びケミカルアンカがあり、その許容値は、「各種合成構造設計指針・同解説」（日本建築学会、2010年改定）又はJ E A G 4601・補-1984に基づき設計する。

i. メカニカルアンカ

「各種合成構造設計指針・同解説 第4編 各種アンカーボルト設計指針・解説 資料5 金属拡張アンカーボルトの設計」に基づき設計する。また、J E A G 4601・補-1984に基づく場合は、前記ツ.(イ),(ロ)の許容値に更に20%の低減を行うものとする。

(i) 引張力を受ける場合

荷重の算定で得られた基礎ボルトの引張荷重は以下に示す許容荷重 p_a 以下となるようにする。

$$p_a = \min(p_{a1}, p_{a2})$$

$$p_{a1} = \phi_1 \cdot s \sigma_{pa} \cdot s c a$$

$$p_{a2} = \phi_2 \cdot \alpha_c \cdot c \sigma_t \cdot A_c$$

ここで、

p_{a1} : ボルトの降伏により決まる許容引張荷重(N)

p_{a2} : コンクリートのコーン状破壊により決まる許容引張荷重(N)

α_c : 施工のばらつきを考慮した低減係数で、 $\alpha_c = 0.75$ とする。

ϕ_1, ϕ_2 : 低減係数であり、以下の表に従う。

	ϕ_1	ϕ_2
短期荷重用	1.0	2/3

$s \sigma_{pa}$: ボルトの引張強度で、 $s \sigma_{pa} = s \sigma_y$ とする。(N/mm²)

$s \sigma_y$: ボルトの降伏点強度であり、 $s \sigma_y = S_y$ とする。(N/mm²)

$s c a$: ボルト各部の最小断面積(mm²)又はこれに接合される鋼材の断面積で危険断面における値

$c \sigma_t$: コーン状破壊に対するコンクリートの割裂強度で $c \sigma_t = 0.31 \sqrt{F_c}$ とする。

F_c : コンクリートの設計基準強度(N/mm²)

A_c : コーン状破壊面の有効水平投影面積で、 $A_c = \pi \cdot \ell_{ce} (\ell_{ce} + D)$ とする。(mm²)

D : アンカボルト本体の直径(mm)

ℓ : アンカボルトの埋込み深さで、母材表面から拡張面先端までの距離(mm)

ℓ_{ce} : 強度算定用埋込み深さで $\ell_{ce} = \begin{cases} \ell, & \ell < 4D \\ 4D, & \ell \geq 4D \end{cases}$ (mm)

(ii) せん断力を受ける場合

荷重の算定で得られた基礎ボルトのせん断荷重は以下に示す許容荷重 q_a 以下となるようにする。

$$q_a = \min(q_{a1}, q_{a2}, q_{a3})$$

$$q_{a1} = \phi_1 \cdot s \sigma_{pa} \cdot s c a$$

$$q_{a2} = \phi_2 \cdot \alpha_c \cdot \sigma_{qa} \cdot s c a$$

$$q_{a3} = \phi_2 \cdot \alpha_c \cdot \sigma_t \cdot A_{qc}$$

ここで、

q_{a1} : ボルトのせん断強度により決まる許容せん断荷重(N)

q_{a2} : コンクリートの支圧強度により決まる許容せん断荷重(N)

q_{a3} : コンクリートのコーン状破壊により決まる許容せん断荷重(N)

α_c : 施工のばらつきを考慮した低減係数で、 $\alpha_c = 0.75$ とする。

ϕ_1, ϕ_2 : 低減係数であり、(i)において示す表に従う。

$s\sigma_{qa}$: ボルトのせん断強度で、 $s\sigma_{qa} = 0.7 \cdot s\sigma_y$ とする。(N/mm²)

$s_c a$: ボルトのコンクリート表面における断面積(mm²)

$c\sigma_{qa}$: コンクリートの支圧強度で $c\sigma_{qa} = 0.5\sqrt{F_c \cdot E_c}$ とする(N/mm²)

E_c : コンクリートのヤング係数(N/mm²)

A_{qc} : せん断荷重方向の側面におけるコーン状破壊面の有効投影面積で

$$A_{qc} = 0.5 \cdot \pi c^2 \text{ とする。 (mm}^2\text{)}$$

c : へりあき寸法(mm)

(iii) 組合せ

基礎ボルトが引張荷重 p 及びせん断荷重 q の組合せ荷重を受ける場合、以下となるようにする。

$$\left(\frac{p}{p_a}\right)^2 + \left(\frac{q}{q_a}\right)^2 \leq 1$$

ii. ケミカルアンカ

「各種合成構造設計指針・同解説 第4編 各種アンカーボルト設計指針・解説 4.5 接着系アンカーボルトの設計」又は J E A G 4601・補-1984 に基づき設計する。「各種合成構造設計指針・同解説」に基づく場合は以下のとおりである。また、J E A G 4 6 0 1・補-1984 に基づく場合は、前記ツ.(イ)、(ロ)の許容値に更に 20%の低減を行うものとする。

(i) 引張力を受ける場合

荷重の算定で得られた基礎ボルトの引張荷重は以下に示す許容荷重 p_a 以下となるようにする。

$$p_a = \min(p_{a1}, p_{a3})$$

$$p_{a1} = \phi_1 \cdot s\sigma_{pa} \cdot s_c a$$

$$p_{a3} = \phi_3 \cdot \tau_a \cdot \pi \cdot d_a \cdot \ell_{ce}$$

ここで、

p_{a1} : ボルトの降伏により決まる許容引張荷重(N)

p_{a3} : ボルトの付着力により決まる許容引張荷重(N)

ϕ_1, ϕ_3 : 低減係数であり、以下の表に従う。

	ϕ_1	ϕ_2	ϕ_3
短期荷重用	1.0	2/3	2/3

$s\sigma_{pa}$: ボルトの引張強度で、 $s\sigma_{pa} = s\sigma_y$ とする。ただし、ボルトの降伏を保証する場合の上限引張力を算定するときは、 $s\sigma_{pa} = \alpha_{yu} \cdot s\sigma_y$ とする。(N/mm²)

$s\sigma_y$: ボルトの降伏点強度であり、 $s\sigma_y = S_y$ とする。(N/mm²)

α_{yu} : ボルトの材料強度のばらつきを考慮した降伏点強度に対する割増係数であり、1.25以上を用いる。

sca : ボルトの断面積で、軸部断面積とねじ部有効断面積の小さい方の値(mm²)

d_a : ボルトの径(mm)

l_{ce} : ボルトの強度算定用埋込み深さで $l_{ce} = l_e - 2d_a$ とする。(mm)

l_e : ボルトの有効埋込み深さ(mm)

τ_a : ボルトの付着強度で $\tau_a = \alpha_1 \cdot \alpha_2 \cdot \alpha_3 \cdot \tau_{bavg}$ とする。(N/mm²)

α_n : へりあき及びボルトピッチによる付着強度の低減係数で $\alpha_n = 0.5 \left(\frac{c_n}{l_c} \right) + 0.5$ とする ($n=1, 2, 3$)。ただし、 $(c_n/l_e) \geq 1.0$ の場合は $(c_n/l_e) = 1.0$ 、 $l_e \geq 10d_a$ の場合は $l_e = 10d_a$ とする。

c_n : へりあき寸法又はボルトピッチ a の 1/2 で、最も小さくなる寸法 3 面までを考慮する。

τ_{bavg} : ボルトの基本平均付着強度であり、接着剤及び充填方式により以下の表に従う。

	カプセル方式		注入方式
	有機系	無機系	有機系
普通コンクリート	$10\sqrt{F_c/21}$	$5\sqrt{F_c/21}$	$7\sqrt{F_c/21}$

F_c : コンクリートの設計基準強度(N/mm²)

(ii) せん断力を受ける場合

荷重の算定で得られた基礎ボルトのせん断荷重は以下に示す許容荷重 q_a 以下となるようにする。

$$q_a = \min(q_{a1}, q_{a2}, q_{a3})$$

$$q_{a1} = \phi_1 \cdot s\sigma_{qa} \cdot sca$$

$$q_{a2} = \phi_2 \cdot c\sigma_{qa} \cdot sca$$

$$q_{a3} = \phi_2 \cdot c\sigma_t \cdot A_{qc}$$

ここで、

q_{a1} : ボルトのせん断強度により決まる許容せん断荷重(N)

q_{a2} : コンクリートの支圧強度により決まる許容せん断荷重(N)

q_{a3} : コンクリートのコーン状破壊により決まる許容引張荷重(N)

ϕ_1, ϕ_2 : 低減係数であり、(i)において示す表に従う。

$s\sigma_{qa}$: ボルトのせん断強度で $s\sigma_{qa} = 0.7 \cdot s\sigma_y$ とする。(N/mm²)

$c \sigma_{q a}$: コンクリートの支圧強度で $c \sigma_{q a} = 0.5 \sqrt{F_c \cdot E_c}$ とする。(N/mm²)

$c \sigma_t$: コーン状破壊に対するコンクリートの引張強度で $c \sigma_t = 0.31 \sqrt{F_c}$ とする。(N/mm²)

E_c : コンクリートのヤング係数(N/mm²)

$A_{q c}$: せん断荷重方向の側面におけるコーン状破壊面の有効投影面積で $A_{q c} = 0.5 \cdot \pi c^2$ とする。(mm²)

c : へりあき寸法(mm)

また、ボルトの有効埋込み長さが l_e 以下となるようにする。

$$l_e \geq \frac{s \sigma_{p a} \cdot d_a}{4 \tau_a}$$

(iii) 組合せ

基礎ボルトが引張荷重 p 及びせん断荷重 q の組合せ荷重を受ける場合、以下となるようにする。

$$\left(\frac{p}{p_a}\right)^2 + \left(\frac{q}{q_a}\right)^2 \leq 1$$

ネ. 燃料集合体（燃料被覆管）

荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界
		一次応力
D+P+M+S _d [*]	III _A S	0.7・S _u ^{*1, *2}
D+P+M+S _s	IV _A S	

注記*1：せん断ひずみエネルギー説に基づく相当応力に対して評価する。

*2：使用温度及び照射の効果を考慮して許容値を設定する。

(b) B, Cクラスの機器・配管系, 常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備及び常設重大事故防止取備 (設計基準拡張) (当該設備が属する耐震重要度分類がBクラス又はCクラスのもの) の機器・配管系

イ. クラス2, 3容器及び重大事故等クラス2容器 (クラス2, 3容器)

(クラス2, 3容器)

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界	
			一次一般膜応力	一次応力
B	$D + P_d + M_d + S_B$	$B_A S$	S_y と $0.6 \cdot S_u$ の小さい方 ただし, ASS及びHNAについては上記 の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。	S_y ただし, ASS及びHNAについては上記 の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。
C	$D + P_d + M_d + S_C$	$C_A S$		

(重大事故等クラス2容器 (クラス2, 3容器))

*1 耐震 クラス	荷重の組合せ*2	許容応力 状態	許容限界	
			一次一般膜応力	一次応力
B	$D + P_d + M_d + S_B$	$B_A S$	S_y と $0.6 \cdot S_u$ の小さい方 ただし, ASS及びHNAについては上記 の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。	S_y ただし, ASS及びHNAについては上記 の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。
C	$D + P_d + M_d + S_C$	$C_A S$		

注記*1: 常設重大事故防止設備の代替する機能を有する設計基準事故対処設備が属する耐震重要度分類のクラス又は常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) が属する耐震重要度分類のクラス

*2: 設計基準事故等の状態で作用する荷重を除く。

ロ. クラス2管及び重大事故等クラス2管 (クラス2管)
(クラス2管)

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界		
			一次一般膜応力	一次応力 (曲げ応力を含む)	一次+二次応力
B	$D + P_d + M_d + S_B$	$B_A S$	^{*1} S_y と $0.6 \cdot S_u$ の小さい方 ただし、ASS及びHNAに ついては上記の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。	S_y ただし、ASS及びHNAに ついては上記の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。	— ^{*2}
C	$D + P_d + M_d + S_C$	$C_A S$			

注記*1: 軸力による全断面平均応力については、本欄の0.8倍の値とする。

*2: 異なる建物間に設置される等、地震時相対変位を考慮する場合は、地震のみによる一次+二次応力の振幅に対して $2 \cdot S_y$ とする。

(重大事故等クラス2管 (クラス2管))

*1 耐震 クラス	荷重の組合せ*2	許容応力 状態	許容限界		
			一次一般膜応力	一次応力 (曲げ応力を含む)	一次+二次応力
B	$D + P_d + M_d + S_B$	B_{AS}	*3 S_y と $0.6 \cdot S_u$ の小さい方 ただし、ASS及びHNAに ついては上記の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。	S_y ただし、ASS及びHNAにつ いては上記の値と $1.2 \cdot S$ のう ち大きい方とする。	—*4
C	$D + P_d + M_d + S_C$	C_{AS}			

注記*1：常設重大事故防止設備の代替する機能を有する設計基準事故対処設備が属する耐震重要度分類のクラス又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）が属する耐震重要度分類のクラス

*2：設計基準事故時の状態で作用する荷重を除く。

*3：軸力による全断面平均応力については、本欄の0.8倍の値とする。

*4：異なる建物間に設置される等，地震時相対変位を考慮する場合は，地震のみによる一次+二次応力の振幅に対して $2 \cdot S_y$ とする。

ハ. クラス3管及び重大事故等クラス2管 (クラス3管)
(クラス3管)

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界			
			一次一般膜応力	一次応力	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力
B	$D + P_d + M_d + S_B$	B_{AS}	S_y と $0.6 \cdot S_u$ の小さい方 ただし、ASS及びHNAについては上記の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。 ^{*1}	S_y ただし、ASS及びHNAについては上記の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。	—	
	$D + P_D + M_D + S_d$ ^{*4}	IV_{AS}	$0.6 \cdot S_u$ ^{*2}	左欄の1.5倍の値	^{*3} S_s 又は S_d 地震動のみによる疲労解析を行い、疲労累積係数が1.0以下であること。 ただし、地震動のみによる一次+二次応力の変動値が $2 \cdot S_y$ 以下であれば疲労解析は不要	
	$D + P_d + M_d + S_s$ ^{*5}					
C	$D + P_d + M_d + S_C$	C_{AS}	S_y と $0.6 \cdot S_u$ の小さい方 ただし、ASS及びHNAについては上記の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。 ^{*1}	S_y ただし、ASS及びHNAについては上記の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。	—	

注記*1：軸力による全断面平均応力については、本欄の0.8倍の値とする。

*2：軸力による全断面平均応力については、許容応力状態 B_{AS} の一次一般膜応力の許容値 (S_y と $0.6 \cdot S_u$ の小さい方) の0.8倍の値とする。

*3： $2 \cdot S_y$ を超える場合は弾塑性解析を行う。この場合、設計・建設規格 PPB-3536(1), (2), (4)及び(5) (ただし、 S_m は $2/3 \cdot S_y$ と読み替える。) の簡易弾塑性解析を用いる。

*4：主蒸気系主配管 (弾性設計用地震動 S_d に対し破損しないことの確認を行う範囲) について適用する。

*5：主蒸気逃がし安全弁排気管について適用する。

(重大事故等クラス2管 (クラス3管))

*1 耐震 クラス	荷重の組合せ*2	許容応力 状態	許容限界			
			一次一般膜応力	一次応力	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力
B	$D + P_d + M_d + S_B$	$B_A S$	*3 S_y と $0.6 \cdot S_u$ の小さい方 ただし、ASS及びHNAに ついては上記の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。	S_y ただし、ASS及びHNAに ついては上記の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。	—	—
C	$D + P_d + M_d + S_C$	$C_A S$	*3 S_y と $0.6 \cdot S_u$ の小さい方 ただし、ASS及びHNAに ついては上記の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。	S_y ただし、ASS及びHNAに ついては上記の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。	—	—

注記*1：常設重大事故防止設備の代替する機能を有する設計基準事故対処設備が属する耐震重要度分類のクラス又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）が属する耐震重要度分類のクラス

*2：設計基準事故時の状態で作用する荷重を除く。

*3：軸力による全断面平均応力については、本欄の0.8倍の値とする。

ニ. クラス4管及び重大事故等クラス2管 (クラス4管)

(クラス4管)

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界
			一次一般膜応力
B	$D + P_d + M_d + S_B$	B_{AS}	地震時の加速度及び相対変位に対し機能が保たれるようサポートのスパン長を最大許容ピッチ以下に確保すること。
C	$D + P_d + M_d + S_C$	C_{AS}	

(重大事故等クラス2管 (クラス4管))

耐震 クラス	荷重の組合せ*2	許容応力 状態	許容限界
			一次一般膜応力
B	$D + P_d + M_d + S_B$	B_{AS}	地震時の加速度及び相対変位に対し機能が保たれるようサポートのスパン長を最大許容ピッチ以下に確保すること。
C	$D + P_d + M_d + S_C$	C_{AS}	

注記*1：常設重大事故防止設備の代替する機能を有する設計基準事故対処設備が属する耐震重要度分類のクラス又は常設重大事故防止設備

(設計基準拡張) が属する耐震重要度分類のクラス

*2：設計基準事故時の状態で作用する荷重を除く。

ホ. クラス 2, 3 ポンプ, その他のポンプ及び重大事故等クラス 2 ポンプ (クラス 2, 3 ポンプ, その他のポンプ)
(クラス 2, 3 ポンプ, その他のポンプ)

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界	
			一次一般膜応力	一次応力 (曲げ応力を含む)
B	$D + P_d + M_d + S_B$	$B_A S$	S_y と $0.6 \cdot S_u$ の小さい方 ただし, ASS 及び HNA については上記の 値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。	S_y ただし, ASS 及び HNA については上 記の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とす る。
C	$D + P_d + M_d + S_C$	$C_A S$		

78

(重大事故等クラス 2 ポンプ (クラス 2, 3 ポンプ, その他のポンプ))

*1 耐震 クラス	荷重の組合せ*2	許容応力 状態	許容限界	
			一次一般膜応力	一次応力 (曲げ応力を含む)
B	$D + P_d + M_d + S_B$	$B_A S$	S_y と $0.6 \cdot S_u$ の小さい方 ただし, ASS 及び HNA については上記の値 と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。	S_y ただし, ASS 及び HNA については上 記の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とす る。
C	$D + P_d + M_d + S_C$	$C_A S$		

注記*1: 常設重大事故防止設備の代替する機能を有する設計基準事故対処設備が属する耐震重要度分類のクラス又は常設重大事故防止設備
(設計基準拡張) が属する耐震重要度分類のクラス

*2: 設計基準事故時の状態で作用する荷重を除く。

へ. クラス 2 支持構造物及び重大事故等クラス 2 支持構造物 (クラス 2 支持構造物)
(クラス 2 支持構造物)

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界*1, *2 (ボルト等以外)										許容限界*2, *6 (ボルト等)		形式試験に よる場合			
			一次応力					一次+二次応力					一次応力		許容荷重			
			引張	せん断	圧縮	曲げ	支圧	引張 圧縮	せん断	曲げ	支圧	座屈	引張	せん断				
B	$D + P_d + M_d + S_B$	$B_A S$																
C	$D + P_d + M_d + S_C$	$C_A S$	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_b$	$1.5 \cdot f_p$	$\left[\begin{array}{l} \text{地震荷重のみによる応} \\ \text{力振幅について評価す} \\ \text{る。} \end{array} \right]$			$1.5 \cdot f_p$							$T_L \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{S_{y d}}{S_{y t}}$

79

注記*1: 鋼構造設計規準 (日本建築学会 2005 改定) 等の幅厚比の制限を満足させる。

*2: 応力の組合せが考えられる場合には, 組合せ応力に対しても評価を行う。

*3: すみ肉溶接部にあつては最大応力に対して $1.5 \cdot f_s$ とする。

*4: 設計・建設規格 SSB-3121.1(4)により求めた f_b とする。

*5: 自重, 熱膨張等により常時作用する荷重に, 地震動による荷重を重ね合わせて得られる応力の圧縮最大値について評価する。

*6: コンクリートに埋め込まれるアンカボルトで地震応力の占める割合が支配的なものであつて, トルク管理, 材料の照合等を行わないものについては, 材料の品質, 据付状態等のゆらぎ等を考慮して, 一次引張応力に対しては f_t , 一次せん断応力に対しては f_s として応力評価を行う。

(重大事故等クラス2支持構造物 (クラス2支持構造物))

*1 耐震 クラス	荷重の組合せ*2	許容応力 状態	許容限界*3, *4 (ボルト等以外)										許容限界*4, *8 (ボルト等)		形式試験に よる場合
			一次応力					一次+二次応力					一次応力		許容荷重
			引張	せん断	圧縮	曲げ	支圧	引張 圧縮	せん断	曲げ	支圧	座屈	引張	せん断	
B	$D + P_d + M_d + S_B$	B_{AS}						$3 \cdot f_t$	$3 \cdot f_s$ ^{*5}	$3 \cdot f_b$ ^{*6}		$1.5 \cdot f_b$, $1.5 \cdot f_s$ ^{*6, *7}			$T_L \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{S_{y,d}}{S_{y,t}}$
C	$D + P_d + M_d + S_C$	C_{AS}	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_b$	$1.5 \cdot f_p$	地震荷重のみによる応力振幅について評価する。			$1.5 \cdot f_p$ ^{*7}	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$	

08

注記*1：常設重大事故防止設備の代替する機能を有する設計基準事故対処設備が属する耐震重要度分類のクラス又は常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) が属する耐震重要度分類のクラス

*2：設計基準事故時の状態で作用する荷重を除く。

*3：鋼構造設計規準 (日本建築学会 2005 改定) 等の幅厚比の制限を満足させる。

*4：応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

*5：すみ肉溶接部にあっては最大応力に対して $1.5 \cdot f_s$ とする。

*6：設計・建設規格 SSB-3121.1(4)により求めた f_b とする。

*7：自重、熱膨張等により常時作用する荷重に、地震動による荷重を重ね合わせて得られる応力の圧縮最大値について評価する。

*8：コンクリートに埋め込まれるアンカボルトで地震応力の占める割合が支配的なものであって、トルク管理、材料の照合等を行わないものについては、材料の品質、据付状態等のゆらぎ等を考慮して、一次引張応力に対しては f_t 、一次せん断応力に対しては f_s として応力評価を行う。

ト. その他の支持構造物及び重大事故等クラス2支持構造物 (その他の支持構造物)
(その他の支持構造物)

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界 ^{*1, *2, *7} (ボルト等以外)										許容限界 ^{*2, *6, *7} (ボルト等)		形式試験に よる場合 許容荷重
			一次応力					一次+二次応力					一次応力		
			引張	せん断	圧縮	曲げ	支圧	引張 圧縮	せん断	曲げ	支圧	座屈	引張	せん断	
B	$D + P_d + M_d + S_B$	$B_A S$						$3 \cdot f_t$	$3 \cdot f_s^{*3}$	$3 \cdot f_b^{*4}$		$1.5 \cdot f_b^{*4, *5}$			$T_L \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{S_{y d}}{S_{y t}}$
C	$D + P_d + M_d + S_C$	$C_A S$	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_b$	$1.5 \cdot f_p$	$\left[\begin{array}{l} \text{地震荷重のみによる} \\ \text{応力振幅について評} \\ \text{価する。} \end{array} \right]$			$1.5 \cdot f_p^{*5}$	$1.5 \cdot f_s$ 又は $1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$	

18

注記*1: 鋼構造設計規準 (日本建築学会 2005 改定) 等の幅厚比の制限を満足させる。

*2: 応力の組合せが考えられる場合には, 組合せ応力に対しても評価を行う。

*3: すみ肉溶接部にあつては最大応力に対して $1.5 \cdot f_s$ とする。

*4: 設計・建設規格 SSB-3121.1(4)により求めた f_b とする。

*5: 自重, 熱膨張等により常時作用する荷重に, 地震動による荷重を重ね合わせて得られる応力の圧縮最大値について評価する。

*6: コンクリートに埋め込まれるアンカボルトで地震応力の占める割合が支配的なものであつて, トルク管理, 材料の照合等を行わないものについては, 材料の品質, 据付状態等のゆらぎ等を考慮して, 一次引張応力に対しては f_t , 一次せん断応力に対しては f_s として応力評価を行う。

*7: 電気計装設備, 換気空調設備の評価においても準用する。

(重大事故等クラス2支持構造物 (その他の支持構造物))

*1 耐震 クラス	荷重の組合せ*2	許容応力 状態	許容限界*3, *4, *9 (ボルト等以外)										許容限界*4, *8, *9 (ボルト等)		形式試験に よる場合	
			一次応力					一次+二次応力					一次応力		許容荷重	
			引張	せん断	圧縮	曲げ	支圧	引張 圧縮	せん断	曲げ	支圧	座屈	引張	せん断		
B	$D + P_d + M_d + S_B$	$B_A S$						$3 \cdot f_t$	$3 \cdot f_s^{*5}$	$3 \cdot f_b^{*6}$			$1.5 \cdot f_b^{*6, *7}$			$T_L \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{S_{y,d}}{S_{y,t}}$
C	$D + P_d + M_d + S_C$	$C_A S$	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_b$	$1.5 \cdot f_p$	〔地震荷重のみによる 応力振幅について評 価する。〕			$1.5 \cdot f_p^{*7}$	$1.5 \cdot f_s$ 又は $1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$		

注記*1：常設重大事故防止設備の代替する機能を有する設計基準事故対処設備が属する耐震重要度分類のクラス又は常設重大事故防止設備
(設計基準拡張) が属する耐震重要度分類のクラス

*2：設計基準事故時の状態で作用する荷重を除く。

*3：鋼構造設計規準（日本建築学会 2005 改定）等の幅厚比の制限を満足させる。

*4：応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。

*5：すみ肉溶接部にあっては最大応力に対して $1.5 \cdot f_s$ とする。

*6：設計・建設規格 SSB-3121.1(4)により求めた f_b とする。

*7：自重、熱膨張等により常時作用する荷重に、地震動による荷重を重ね合わせて得られる応力の圧縮最大値について評価する。

*8：コンクリートに埋め込まれるアンカボルトで地震応力の占める割合が支配的なものであって、トルク管理、材料の照合等を行わないものについては、材料の品質、据付状態等のゆらぎ等を考慮して、一次引張応力に対しては f_t 、一次せん断応力に対しては f_s とし
て応力評価を行う。

*9：電気計装設備、換気空調設備の評価においても準用する。

(3) 土木構造物

(設計基準対象施設)

		荷重の組合せ	許容限界		
			曲げ	せん断	基礎地盤の支持性能
土木構造物	屋外重要土木構造物	G + P + S _s	限界層間変形角 ^{*1, *2} , 圧縮縁コンクリート限界ひずみ ^{*1, *2} , 曲げ耐力 ^{*1} 又は許容応力度とする。	せん断耐力 ^{*1} , 許容応力度又は限界せん断ひずみ ^{*1, *2} とする。	地盤の極限支持力に対して妥当な安全余裕を持たせる。
		G + P + S _c	許容応力度とする。	許容応力度とする。	地盤の短期許容支持力とする。
	その他の土木構造物	G + P + S _c	許容応力度とする。	許容応力度とする。	地盤の短期許容支持力とする。

注記*1：各種安全係数を見込むことで、妥当な安全余裕を持たせる。

*2：止水性の維持が要求される部位については、基準地震動S_sによる地震力に伴い生じる荷重又は応力に対して、おおむね弾性状態にとどまることを計算により確認する。

[記号の説明]

G : 固定荷重

P : 積載荷重

S_s : 基準地震動S_sによる地震力

S_c : Cクラスの施設に適用される静的地震力

(重大事故等対処施設)

	*1 設備分類 施設区分	荷重の組合せ	許容限界		
			曲げ	せん断	基礎地盤の 支持性能
土木 構造 物	①*2, ③, ④*2 ⑤, ⑥*2	G+P+S _s	限界層間変形角*3, 圧縮縁コンクリート 限界ひずみ*3, 曲げ 耐力*3 又は許容応力 度とする。	せん断耐力*3, 許容 応力度又は限界せん 断ひずみ*3 とす る。	地盤の極限支持 力に対して妥当 な安全余裕を持 たせる。
	①	G+P+S _c	許容応力度とする。	許容応力度とする。	地盤の短期許容 支持力とする。

注記*1：重大事故等対処施設の設備分類及び施設区分

- ①：常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がBクラス又はCクラスのもの）
- ②：①が設置される重大事故等対処施設
- ③：常設耐震重要重大事故防止設備又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がSクラスのもの）
- ④：③が設置される重大事故等対処施設
- ⑤：常設重大事故緩和設備
- ⑥：⑤が設置される重大事故等対処施設

*2：屋外重要土木構造物の機能を代替する重大事故等対処施設に適用する。

*3：各種安全係数を見込むことで、妥当な安全余裕を持たせる。

[記号の説明]

G：固定荷重

P：積載荷重

S_s：基準地震動S_sによる地震力

S_c：Cクラスの施設に適用される静的地震力

(4) 津波防護施設, 浸水防止設備及び津波監視設備

(a) 土木構造物

津波防護施設

	荷重の組合せ	許容限界		
		構造部材の健全性	基礎地盤の支持性能	構造物の変形性
防波壁	G + P + S _s	短期許容応力度, 設計アンカ力又は降伏曲げモーメント及びせん断応力度とする。	地盤の極限支持力とする。*	有意な漏えいが生じないことを確認した変形量とする。
防波壁通路防波扉	G + P + S _s	短期許容応力度又は降伏曲げモーメント及びせん断応力度とする。	地盤の極限支持力とする。*	有意な漏えいが生じないことを確認した変形量とする。
1号機取水槽流路縮小工	G + S _s	短期許容応力度とする。	—	—

注記* : 妥当な安全余裕を考慮する。

[記号の説明]

G : 固定荷重

P : 積載荷重

S_s : 基準地震動 S_s による地震力

(b) 建物・構築物
浸水防止設備

		荷重の組合せ	許容限界
			部材
浸水防止設備	防水壁 水密扉	$G + P + S_s$	短期許容応力度を基本とする。

〔記号の説明〕

G : 固定荷重

P : 積載荷重

S_s : 基準地震動 S_s による地震力

(c) 機器・配管系

イ. 記号の説明

D : 死荷重

P_D : 地震と組み合わせべきプラントの運転状態Ⅰ及びⅡ（運転状態Ⅲ及び地震従属事象として運転状態Ⅳに包絡する状態がある場合にはこれを含む）、又は当該設備に設計上定められた最高使用圧力による荷重

M_D : 地震と組み合わせべきプラントの運転状態Ⅰ及びⅡ（運転状態Ⅲ及び地震従属事象として運転状態Ⅳに包絡する状態がある場合にはこれを含む）、又は当該設備に設計上定められた機械的荷重

S_s : 基準地震動 S_s により定まる地震力

ロ. 荷重の組合せ及び許容応力

浸水防止設備（床ドレン逆止弁，屋外排水路逆止弁）

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界 ^{*2, *3} (ボルト以外)		許容限界 ^{*2, *4} (ボルト)	
			一次応力		一次応力	
			引張	曲げ	引張	せん断
S	$D + S_s$	$III_A S^{*1}$	$1.2 \cdot S$	$1.2 \cdot S$	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$

注記*1：地震後，津波後の再使用性や津波の繰返し作用を想定し，当該構造物全体の変形能力に対して浸水防護機能として十分な余裕を有するよう，設備を構成する材料が弾性域内に収まることを基本とする。

*2：応力の組合せが考えられる場合には，組合せ応力に対しても評価を行う。

*3：クラス2，3配管に対する許容限界に準じて設定する。

*4：その他の支持構造物（設計基準対象施設）に対する許容限界に準じて設定する。

浸水防止設備（管）

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界			
			一次一般膜応力	一次応力 (曲げ応力を含む)	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力
S	$D + P_D + M_D + S_d^*$	Ⅲ _A S	^{*1} S_y と $0.6 \cdot S_u$ の小さい方 ただし、ASS及びHNAに ついては上記の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。	S_y ただし、ASS及びHNAに ついては上記の値と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。	^{*2} S_d 又は S_s 地震動のみによる疲労解析を 行い、疲労累積係数が1.0以下であること。 ただし、地震動のみによる一次+二次応力 の変動値が $2 \cdot S_y$ 以下であれば疲労解析は 不要	
	$D + P_D + M_D + S_s$	Ⅳ _A S	$0.6 \cdot S_u^{*1}$	左欄の1.5倍の値		

注記*1：軸力による全断面平均応力については、許容応力状態Ⅲ_ASの一次一般膜応力の許容値の0.8倍の値とする。

*2： $2 \cdot S_y$ を超える場合は弾塑性解析を行う。この場合、設計・建設規格 PPB-3536(1)，(2)，(4)及び(5)（ただし、 S_m は $2/3 \cdot S_y$ と読み替える。）の簡易弾塑性解析を用いる。

浸水防止設備（ポンプ）

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界			
			一次一般膜応力	一次膜応力＋ 一次曲げ応力	一次＋二次応力	一次＋二次＋ ピーク応力
S	$D + P_D + M_D + S_d^*$	Ⅲ _A S	S_y と $0.6 \cdot S_u$ の小さい方 ただし、ASS及びHNAに ついては上記の値と $1.2 \cdot S$ の うち大きい方とする。	左欄の 1.5倍の値	* S_d 又は S_s 地震動のみによる疲労解析を行い、 疲労累積係数が1.0以下であること。 ただし、地震動のみによる一次＋二次応力の変動 値が $2 \cdot S_y$ 以下であれば疲労解析は不要	
	$D + P_D + M_D + S_s$	Ⅳ _A S	$0.6 \cdot S_u$	左欄の 1.5倍の値		

注記*： $2 \cdot S_y$ を超える場合は弾塑性解析を行う。この場合、設計・建設規格 PVB-3300（PVB-3313を除く。 S_m は $2/3 \cdot S_y$ と読み替える。）の簡易弾塑性解析を用いる。

浸水防止設備（隔離弁（弁箱））

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界			
			一次一般膜応力	一次応力	一次＋二次応力	一次＋二次＋ ピーク応力
S	$D + P_D + M_D + S_d^*$	Ⅲ _A S	_____*			
	$D + P_D + M_D + S_s$	Ⅳ _A S				

注記*：バルブの肉厚が接続配管と同等の場合で、特に大きな駆動部を有する電動弁、空気作動弁については、設計・建設規格 VVB-3330 の評価を行う。ただし、地震時に過大な応力の発生を防ぐ処置が講じられているものは、この限りではない。

浸水防止設備（支持構造物）

耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界 ^{*1, *2, *3} (ボルト等以外)										許容限界 ^{*2, *4} (ボルト等)		形式試験に よる場合	
			一次応力					一次+二次応力					一次応力			許容荷重
			引張	せん断	圧縮	曲げ	支圧	引張 圧縮	せん断	曲げ	支圧	座屈 ^{*5}	引張	せん断		
S	D + P _D + M _D + S _d [*]	Ⅲ _A S	1.5・f _t	1.5・f _s	1.5・f _c	1.5・f _b	1.5・f _p	3・f _t	3・f _s ^{*6}	3・f _b ^{*7}	1.5・f _p ^{*8}	1.5・f _b ^{*7, *8}	1.5・f _s	1.5・f _t	1.5・f _s	$T_L \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{S_{y,d}}{S_{y,t}}$
	D + P _D + M _D + S _s	Ⅳ _A S	1.5・f _t [*]	1.5・f _s [*]	1.5・f _c [*]	1.5・f _b [*]	1.5・f _p [*]	〔S _d 又はS _s 地震動の みによる応力振幅につ いて評価する。〕				1.5・f _c ^{*8}	1.5・f _b ^{*8}	1.5・f _t [*]	1.5・f _s [*]	$T_L \cdot 0.6 \cdot \frac{S_{y,d}}{S_{y,t}}$

注記*1：鋼構造設計規準（日本建築学会 2005 改定）等の幅厚比の制限を満足させる。

*2：応力の組合せが考えられる場合には，組合せ応力に対しても評価を行う。

*3：耐圧部に溶接等により直接取り付けられる支持構造物であって耐圧部と一体の応力解析を行うものについては，耐圧部と同じ許容応力とする。

*4：コンクリートに埋め込まれるアンカボルトで地震応力の占める割合が支配的なものであって，トルク管理，材料の照合等を行わないものについては，材料の品質，据付状態等のゆらぎ等を考慮して，Ⅲ_ASの許容応力を一次引張応力に対しては f_t，一次せん断応力に対しては f_sとして，またⅣ_AS→Ⅲ_ASとして応力評価を行う。

*5：薄肉円筒形状のもの座屈の評価にあっては，クラスMC容器の座屈に対する評価式による。

*6：すみ肉溶接部にあっては最大応力に対して 1.5・f_sとする。

*7：設計・建設規格 SSB-3121.1(4)により求めた f_bとする。

*8：自重，熱膨張等により常時作用する荷重に，地震動による荷重を重ね合わせて得られる応力の圧縮最大値について評価する。

浸水防止設備（貫通部止水処置）

貫通部止水処置にモルタルを用いる場合の許容荷重はコンクリート標準示方書【構造性能照査編】（（社）土木学会 2002 年制定）に準じて、次のとおりとする。

耐震クラス	荷重の組合せ	許容応力状態	許容限界	
			付着荷重*1	圧縮荷重*2
S	D + S _s	短期許容応力度とする。	f _s	f _c

注記*1：貫通部がせん断荷重を受ける場合のモルタルの評価

荷重の算定で得られた貫通物のせん断荷重は、以下に示す貫通部の周囲に充填したモルタルの付着強度に対する許容値以下となるようにする。

$$F_s \leq f_s = f'_{bok} \cdot S \cdot L / \gamma_c$$

ここに、

$$f'_{bok} = 0.28 \cdot f'_{ck}{}^{2/3} \cdot 0.4$$

F_s : 貫通物によるせん断荷重 (kN)

f_s : モルタルの許容付着荷重 (kN)

f'_{bok} : モルタルの付着強度 (N/mm²)

S : 貫通物の周長 (mm)

L : モルタルの充填深さ (mm)

f'_{ck} : モルタル圧縮強度 (N/mm²)

γ_c : 材料定数として 1.3 を用いる。

*2：貫通物が圧縮荷重を受ける場合のモルタルの評価

荷重の算定で得られた貫通物の圧縮荷重は、以下に示す貫通部の周囲に充填したモルタルの圧縮強度に対する許容値以下となるようにする。

$$F_c \leq f_c = f'_{ck} \cdot A_p / \gamma_c$$

ここに、

F_c : 貫通物による圧縮荷重 (kN)

f_c : モルタルの許容圧縮荷重 (kN)

f'_{ck} : モルタル圧縮強度 (N/mm²)

A_p : 貫通物の投影面積 (mm²)

γ_c : 材料定数として 1.3 を用いる。

津波監視設備

		耐震 クラス	荷重の組合せ	許容応力 状態	許容限界*2, *3 (ボルト以外)				許容限界*2, *3 (ボルト)	
					一次応力				一次応力	
					引張	せん断	圧縮	曲げ	引張	せん断
津波 監視 設備	取水槽 水位計	S	$D+P_D+M_D+S_s$	Ⅲ _A S* ¹	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_b$	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$
	津波監視 カメラ	S	$D+P_D+M_D+S_s$	Ⅲ _A S* ¹	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_b$	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$

注記*1：地震後，津波後の再使用性や津波の繰返し作用を想定し，当該構造物全体の変形能力に対して浸水防護機能として十分な余裕を有するよう，設備を構成する材料が弾性域内に収まることを基本とする。

*2：応力の組合せが考えられる場合には，組合せ応力に対しても評価を行う。

*3：その他の支持構造物（設計基準対象施設）に対する許容限界に準じて設定する。

(5) 地盤

(設計基準対象施設)

	荷重の組合せ	許容限界
Sクラス	$G + P + S_d^*$	短期許容支持力とする。
	$G + P + S_s$	極限支持力に対して妥当な安全余裕を持たせる。
Bクラス	$G + P + S_B$	短期許容支持力とする。
Cクラス	$G + P + S_C$	短期許容支持力とする。

〔記号の説明〕

G : 固定荷重

P : 積載荷重

 S_d^* : 弾性設計用地震動 S_d による地震力又は静的地震力のいずれか大きい方の地震力 S_s : 基準地震動 S_s による地震力 S_B : Bクラスの施設に適用される静的地震力 S_C : Cクラスの施設に適用される静的地震力

(重大事故等対処施設)

	設備分類* ¹ 施設区分	耐震* ² クラス	荷重の組合せ	許容限界
基礎地盤	③, ④, ⑤, ⑥, ⑦	S	$G + P + S_s$	極限支持力に対して妥当な安全余裕を持たせる。
	①, ②	B	$G + P + S_B$	短期許容支持力とする。
	①, ②	C	$G + P + S_C$	短期許容支持力とする。

〔記号の説明〕

G : 固定荷重

P : 積載荷重

 S_s : 基準地震動 S_s による地震力 S_B : Bクラスの施設に適用される静的地震力 S_C : Cクラスの施設に適用される静的地震力

注記*1 : 重大事故等対処施設の設備分類及び施設区分

- ① : 常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がBクラス又はCクラスのもの）
- ② : ①が設置される重大事故等対処施設
- ③ : 常設耐震重要重大事故防止設備又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がSクラスのもの）
- ④ : ③が設置される重大事故等対処施設
- ⑤ : 常設重大事故緩和設備
- ⑥ : ⑤が設置される重大事故等対処施設
- ⑦ : 緊急時対策所

*2 : 常設重大事故防止設備の代替する機能を有する設計基準事故対処設備が属する耐震重要度分類のクラス

また、常設重大事故緩和設備については、当該クラスをSと表記する。

表 3-2 地震力と積雪荷重及び風荷重の組合せ

(1) 考慮する荷重の組合せ

(○：考慮する荷重を示す。)

	施設の配置	荷重	
		風荷重 (P_k)	積雪荷重 (P_s)
建物・構築物	屋外	○*1	○*2
機器・配管系	屋内	—	—
	屋外	○*1	○*2
土木構造物	屋外	○*1	○*2
津波防護施設、浸水防止 設備及び津波監視設備	屋内	—	—
	屋外	○*1	○*2

注記*1：屋外に設置されている施設のうち、コンクリート構造物等の自重が大きい施設を除く。

*2：積雪による受圧面積が小さい施設、又は埋設構造物等、常時の荷重に対して積雪荷重の割合が無視できる施設を除く。

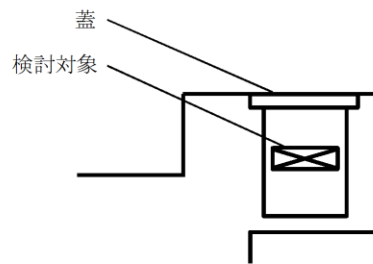
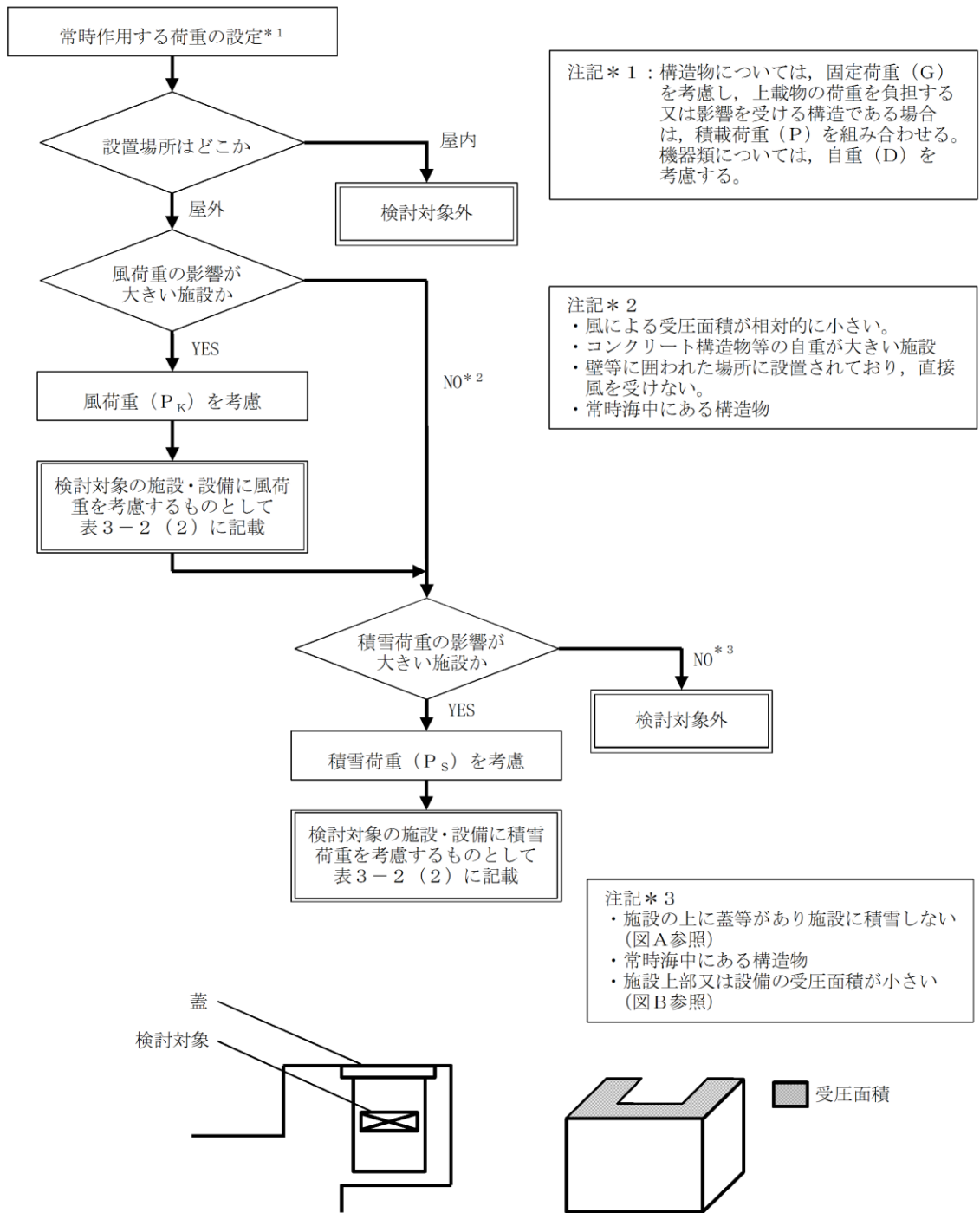
(2) 検討対象の施設・設備

	施設・設備	
	風荷重*1	積雪荷重*1
建物・構築物	<ul style="list-style-type: none"> ・排気筒*2 ・1号機排気筒*2 	<ul style="list-style-type: none"> ・原子炉建物 ・制御室建物 ・タービン建物 ・廃棄物処理建物 ・緊急時対策所 ・ガスタービン発電機建物 ・1号機原子炉建物 ・1号機タービン建物 ・1号機廃棄物処理建物 ・サイトバンカ建物 ・サイトバンカ建物（増築部） ・排気筒モニタ室 ・燃料移送ポンプエリア竜巻防護対策設備
機器・配管系	<ul style="list-style-type: none"> ・第1ベントフィルタ出口放射線モニタ（低レンジ） ・高圧発電機車接続プラグ収納箱 ・ガスタービン発電機用軽油タンク ・緊急用M/C接続プラグ盤 ・緊急時対策所 発電機接続プラグ盤 ・緊急時対策所 空気浄化装置接続盤 ・衛星電話設備用アンテナ（中央制御室） ・衛星電話設備用アンテナ（緊急時対策所） ・無線通信設備用アンテナ（中央制御室） ・無線通信設備用アンテナ（緊急時対策所） ・発信用アンテナ（1・2号） ・受信用アンテナ（1・2・3号） ・高光度航空障害灯管制器 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1ベントフィルタ出口放射線モニタ（低レンジ） ・高圧発電機車接続プラグ収納箱 ・ガスタービン発電機用軽油タンク ・緊急用M/C接続プラグ盤 ・緊急時対策所 発電機接続プラグ盤 ・緊急時対策所 空気浄化装置接続盤 ・衛星電話設備用アンテナ（中央制御室） ・取水槽ガントリクレーン ・高光度航空障害灯管制器 ・建物開口部 竜巻防護対策設備
土木構造物	<ul style="list-style-type: none"> ・ガスタービン発電機用軽油タンク基礎 ・免震重要棟遮蔽壁 ・復水貯蔵タンク遮蔽壁 	<ul style="list-style-type: none"> ・取水槽 ・B-ディーゼル燃料貯蔵タンク格納槽 ・第1ベントフィルタ格納槽 ・低圧原子炉代替注水ポンプ格納槽 ・緊急時対策所用燃料地下タンク ・ガスタービン発電機用軽油タンク基礎 ・屋外配管ダクト（ガスタービン発電機用軽油タンク～ガスタービン発電機） ・免震重要棟遮蔽壁 ・復水貯蔵タンク遮蔽壁 ・1号機取水槽ピット部

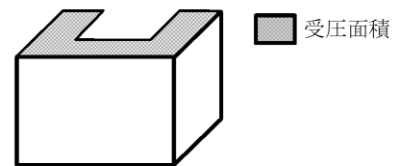
	施設・設備	
	風荷重*1	積雪荷重*1
津波防護施設，浸水防止設備及び津波監視設備	<ul style="list-style-type: none"> ・防波壁 ・防波壁通路防波扉 ・取水槽除じん機エリア防水壁 ・取水槽除じん機エリア水密扉 ・津波監視カメラ（排気筒） ・津波監視カメラ（防波壁東） ・津波監視カメラ（防波壁西） 	<ul style="list-style-type: none"> ・防波壁 ・津波監視カメラ（排気筒） ・津波監視カメラ（防波壁東） ・津波監視カメラ（防波壁西）

注記*1：風荷重及び積雪荷重については，VI-1-1-3「発電用原子炉施設の自然現象等による損傷の防止に関する説明書」のうち，VI-1-1-3-1-1「発電用原子炉施設に対する自然現象等による損傷の防止に関する基本方針」の「4. 組合せ」のとおり，風荷重については30m/s，積雪荷重については100cmに平均的な積雪荷重を与えるための係数0.35を考慮し，適切に算出する。

*2：風荷重の影響が大きいと考えられる鉄塔構造物について，組合せを考慮する。



図A：蓋等により積雪しない場合の例



図B：上部の受圧面積が小さい場合の例

図3-1 耐震計算における風荷重及び積雪荷重の設定フロー

3.2 変位，変形の制限

発電用原子炉施設として設置される建物・構築物，機器・配管系の設計に当たっては，剛構造とすることを原則としており，地震時にこれらに生じる応力を許容応力値以内に抑えることにより，変位，変形に対しては特に制限を設けなくても機能は十分維持されると考えられる。

しかしながら，地震により生起される変位，変形に対し設計上の注意を要する部分については以下のような配慮を行い，設備の機能維持が十分果たされる設計とする。

(1) 建物間相対変位に対する配慮

原子炉格納容器を貫通する配管，ダクト等，又は異なった建物間を渡る配管等の設計においては，十分安全側に算定された建物間相対変位に対し，配管ルート，支持方法又は伸縮継手の採用等でこれを吸収できるように配慮する。

(2) 燃料集合体の変位に対する配慮

地震時における原子炉スクラム時，燃料集合体の地震応答変位は制御棒の挿入時間に影響を与える。そのため，炉心を模擬した実物大の部分モデルによる加振時制御棒挿入試験結果から挿入機能に支障を与えない最大燃料集合体変位を求め，地震応答解析から求めた燃料集合体変位がその最大燃料集合体変位を下回ることを確認する。

4. 機能維持

4.1 動的機能維持

動的機能維持が要求される機器は、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」のうち「5.2(1) 動的機能維持」の考え方にに基づき、地震時及び地震後において、その機器に要求される安全機能を維持するため、設計基準対象施設の耐震重要度分類及び重大事故等対処施設の施設区分に応じた地震動に対して、その機能種別により制御棒挿入機能に係る機器、回転機器及び弁に分類し、それぞれについて、以下の方法により機能維持を満足する設計とする。

(1) 制御棒挿入機能に係る機器

地震時における制御棒の挿入性(制御棒が目安とする設計時間内に挿入できること)については、炉心を模擬した実物大の部分モデルによる加振時制御棒挿入試験結果等から駆動機能が地震時にも維持されることを確認する。

(2) 回転機器及び弁

地震時及び地震後に動作機能の維持が要求される回転機器及び弁については、設計基準対象施設の耐震重要度分類及び重大事故等対処施設の施設区分に応じた地震動による応答加速度が、加振試験等の既往の研究によって機能維持を確認した加速度（以下「動的機能確認済加速度」という。）以下とするか、若しくは応答加速度による解析等により機能維持を満足する設計とする。動的機能確認済加速度を超える場合には、詳細検討により機能維持を満足する設計とする。標準的な機種の動的機能確認済加速度を表4-1に示す。

表4-1の適用形式を外れる場合は、地震時の応答加速度が地震動を模擬した加振試験又は設備が十分に剛であることを踏まえ、地震動による応答を模擬した静的荷重試験によって得られる、機能維持を確認した加速度以下であること、又は既往知見に基づいた解析により機能維持を満足する設計とする。

具体的な動的機能維持評価について、以下に示す。

a. クラス2ポンプ、クラス3ポンプ、その他のポンプ及び重大事故等クラス2ポンプ（クラス2，3，その他のポンプ）について

地震時及び地震後に動的機能維持を要求されるポンプについては、次のいずれかにより、必要な機能を有することを確認する。また、クラス1ポンプについては、地震時及び地震後において、動的機能を必要としないが、地震によって軸固着が生じないことを同様の方法で確認する。

(a) 計算による機能維持の評価

静的若しくは動的解析により地震荷重を求め、軸受に負荷する荷重が、軸受の許容荷重以内であることを確認する。また、その他の必要な機能についても計算により確認する。

(b) 実験による機能維持の評価

地震を模擬した加振試験又は地震時に作用する相当荷重を模擬した静的実験により、機能維持の確認をする。

- b. クラス1弁、クラス2弁及び重大事故等クラス2弁（クラス1弁、クラス2弁）について地震時及び地震後に動的機能維持を要求される弁については、次のいずれかにより、必要な機能を有することを確認する。
- (a) 計算による機能維持の評価
- 次のいずれかにより、弁の設計荷重を決める。
- イ. 配管系の解析により、弁の最大加速度を求める。
- ロ. あらかじめ弁に対して許容設計加速度を定める。
- これらのいずれかにより、与えられた設計荷重により、ヨーク、弁本体、ステム等のうち、もっとも機能に影響の強い部分（一般にはボンネット付根部）の応力等が降伏点、又は機能維持に必要な限界値を超えないことを確認する。
- (b) 実験による機能維持の評価
- 地震を模擬した加振試験又は地震時に作用する相当荷重を模擬した静的実験により、機能維持の確認をする。

表 4-1 動的機能確認済加速度

種別	機種	加速度 確認部位	機能確認済加速度 ($\times 9.8\text{m/s}^2$)	
			水平方向	鉛直方向
立形ポンプ	ピットバレル形ポンプ	コラム 先端部	10.0	1.0
	立形斜流ポンプ			
横形ポンプ	横形単段遠心式ポンプ	軸位置	3.2 (軸直角方向)	1.0
	横形多段遠心式ポンプ		1.4 (軸方向)	
ポンプ駆動用 タービン	原子炉隔離時冷却ポンプ駆動用 蒸気タービン	重心位置	2.4	1.0
電動機	横形ころがり軸受電動機	軸受部	4.7	1.0
	横形すべり軸受電動機		2.6	
	立形ころがり軸受電動機		2.5	
	立形すべり軸受電動機			
ファン	遠心直結型ファン	軸受部及びメカ ニカルシール ケーシング	2.3	1.0
	遠心直動型ファン	軸受部	2.6	
非常用ディーゼ ル発電機	中速形ディーゼル機関	機関 重心位置	1.1	1.0
		ガバナ 取付位置	1.8	1.0
往復動式ポンプ	横形 3 連往復動式ポンプ	重心位置	1.6	1.0
弁 (一般弁及び 特殊弁)	一般弁 (グローブ弁, ゲート 弁, バタフライ弁, 逆止弁)	駆動部	6.0	6.0
	ゴムダイヤフラム弁		2.7	6.0
	主蒸気隔離弁		10.0	6.2
	主蒸気逃がし安全弁		9.6	6.1
	制御棒駆動系スクラム弁		6.0	6.0

(参考文献)

電力共通研究「鉛直地震動を受ける設備の耐震評価手法に関する研究(H10~H13)」

4.2 電氣的機能維持

電氣的機能が要求される機器については、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」のうち「5.2(2) 電氣的機能維持」の考え方にに基づき、地震時及び地震後において、その機器に要求される安全機能を維持するため、設計基準対象施設の耐震重要度分類及び重大事故等対処施設の施設区分に応じた地震動による応答加速度が各々の盤、器具等に対する加振試験等により機能維持を確認した加速度（以下「電氣的機能確認済加速度」という。）以下であること、あるいは解析による最大発生応力が許容応力以下であることにより、機能維持を満足する設計とする。

上記加振試験では、まず、掃引試験により固有振動数を確認する。その後、加振試験を実施し、当該機器が設置される床における加速度以上での動作確認を実施する。または、実機を模擬した機器を当該機器が設置される床における模擬地震波により加振して、動作確認を実施する。

4.3 気密性の維持

気密性の維持が要求される施設は、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」のうち「5.2(3) 気密性の維持」の考え方にに基づき、地震時及び地震後において、放射線業務従事者の放射線障害防止、発電所周辺の空間線量率の低減、居住性の確保及び放射線障害から公衆を守るため、事故時に放射性気体の放出、流入を防ぐことを目的として、設計基準対象施設の耐震重要度分類及び重大事故等対処施設の施設区分に応じた地震動に対して、「3.1 構造強度上の制限」等による構造強度を確保すること、及び同じく地震動に対して機能を維持できる設計とする換気設備とあいまって、気密性維持の境界において気圧差を確保することで必要な気密性を維持する設計とする。

気密性の維持が要求される施設のうち、鉄筋コンクリート造の施設は、施設区分に応じた地震動に対して、地震時及び地震後において、耐震壁のせん断ひずみがおおむね弾性状態にとどまることを基本とする。その状態にとどまらない場合は、地震応答解析による耐震壁のせん断ひずみから算定した空気漏えい量が、設置する換気設備の性能を下回ることで必要な気密性を維持する設計とする。

気密性の維持が要求される施設のうち、鋼製の構造物を含む原子炉格納容器バウンダリは、設計基準事故及び重大事故等時における内圧と地震力との組合せを考慮した荷重に対しても、「3.1 構造強度上の制限」による構造強度を確保する設計とする。この場合、格納容器貫通部においては相対変位量を考慮した処置を施す等、相対変位量を考慮した設計を行う。また、使用材料、製作及び保守に関しても管理を行うことで、地震時及び地震後において、気密性維持の境界において気圧差を確保し十分な気密性を維持する設計とする。

原子炉建物原子炉棟の鉄筋コンクリート造の部分において、耐震壁については、「3. 構造強度」に定める建物・構築物の許容限界であるせん断ひずみを用いて空気漏えい量を算定し、事故時に原子炉格納容器から漏えいした空気を非常用ガス処理系で処理できることを確認することで、スラブについては、地震時に生じる応力に対して弾性域内にとどまる設計とすることで、気密性維持の境界において気圧差を確保し、気密性を維持する設計とする。

緊急時対策所及び中央制御室は、地震時及び地震後においてもその機能を維持できるように、耐震壁については、「3. 構造強度」に定める建物・構築物の許容限界であるせん断ひずみを用いて空気漏えい量を算定し、設置する換気設備の性能以下であることを確認する。また、スラブについては、地震時に生じる応力に対して弾性域内にとどまる設計とすることで、気密性維持の境界において気圧差を確保し、居住性を維持する設計とする。

中央制御室待避室は、地震時及び地震後においてもその機能を維持できるように、鋼製部材については、基準地震動による地震力に対し「3.1 構造強度上の制限」による構造強度を確保する設計とする。耐震壁については、「3. 構造強度」に定める建物・構築物の許容限界であるせん断ひずみを用いて空気漏えい量を算定し、設置する換気設備の性能以下であることを確認することで、気密性維持の境界において気圧差を確保し、居住性を維持する設計とする。

4.4 止水性の維持

止水性の維持が要求される施設は、津波防護施設及び浸水防止設備であり、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」のうち「5.2(4) 止水性の維持」の考え方にに基づき、地震時及び地震後において、防護対象設備を設置する建物及び区画に、津波に伴う浸水による影響を与えないことを目的として、基準地震動 S_s による地震力に対し、「3.1 構造強度上の制限」に示す構造強度の確保に加え、主要な構造体の境界部に設置する材料については、有意な漏えいが生じない変形にとどめることで、止水性を維持する設計とする。

(1) 津波防護施設及び浸水防止設備（隔離弁、ポンプ及び配管を除く）

止水性の維持が要求される施設の母材部については、基準地震動 S_s による地震力に伴い生じる荷重又は応力に対して、おおむね弾性状態にとどまることを計算により確認する。加えて、止水性の維持が要求される施設の取付部及び閉止部等のうち、間隙が生じる可能性のある境界部に設置した材料については、境界部において基準地震動 S_s による地震力に伴い生じる相対変位量が、材料の試験により確認した止水性が維持できる変位量未満であることを計算により確認する。また、止水性の維持が要求される施設が取付けられた、建物・構築物及び土木構造物の壁など、止水性の維持が要求される部位についても、基準地震動 S_s による地震力に伴い生じる荷重又は応力に対して、おおむね弾性状態にとどまることを計算により確認する。

各施設の母材部並びに取付部及び閉止部等の境界部は、使用材料、製作及び保守に関しても十分な管理を行い、止水性が維持できるよう考慮する。

(2) 浸水防止設備のうち隔離弁、ポンプ及び配管

浸水防止設備のうち隔離弁、ポンプ及び配管については、塑性ひずみが生じる場合であっても、その量が小さなレベルにとどまって破断延性限界に十分な余裕を有し、浸水防止機能に影響を及ぼさないように、また、動的機器等については、基準地震動 S_s による応答に対して、その設備に要求される機能を保持することを確認する。また、弾性設計用地震動 S_d による地震力又は S クラスの施設に適用する静的地震力のいずれか大きい方の地震力に対して、おおむね弾性状態にとどまる範囲で耐えられることを確認する。

4.5 遮蔽性の維持

遮蔽性の維持が要求される施設は、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」のうち「5.2(5) 遮蔽性の維持」の考え方にに基づき、地震時及び地震後において、放射線業務従事者の放射線障害防止、発電所周辺の空間線量率の低減、居住性の確保及び放射線障害から公衆を守るため、鉄筋コンクリート造として設計することを基本とし、遮蔽性の維持が要求される生体遮蔽装置については、設計基準対象施設の耐震重要度分類及び重大事故等対処施設の施設区分に応じた地震動に対して、「3.1 構造強度上の制限」による構造強度を確保し、遮蔽体の形状及び厚さを確保することで、地震後における残留ひずみを小さくし、ひび割れがほぼ閉鎖し、貫通するひび割れが直線的に残留しないこととすることで、遮蔽性を維持する設計とする。

4.6 支持機能の維持

機器・配管系等の設備を支持する機能の維持が要求される施設は、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」のうち「5.2(6) 支持機能の維持」の考え方にに基づき、地震時及び地震後において、被支持設備が設計基準対象施設の場合は耐震重要度分類、重大事故等対処施設の場合は施設区分に応じた地震動に対して、以下に示すとおり、支持機能を維持する設計とする。

(1) 建物・構築物の支持機能の維持

建物・構築物の支持機能の維持については、地震動に対して、被支持設備の機能を維持できる構造強度を確保する設計とする。

具体的には、Sクラス設備等の支持機能の維持が要求される建物・構築物が鉄筋コンクリート造の場合は、基準地震動 S_s に対して、耐震壁の最大せん断ひずみが「3.1 構造強度上の制限」による許容限界を超えない設計とすること、又は基礎等を構成する部材に生じる応力若しくはひずみが「3.1 構造強度上の制限」による許容限界を超えない設計とすることで、Sクラス設備等の支持機能が維持できる設計とする。鉄骨造の場合は、基準地震動 S_s に対して、部材に発生する応力が「3.1 構造強度上の制限」による許容限界を超えない設計とすることでSクラス設備等の支持機能が維持できる設計とする。

耐震壁以外の建物・構築物の部位に関しても、耐震壁がせん断ひずみの許容限界を満足している場合は、耐震壁の変形に追従する建物・構築物の部位の健全性も確保されており、支持機能を確保していると考えられることができる。

また、各建物間に生じる地震時相対変位について、各建物が相互に干渉しないよう適切な間隔を設けると同時に、各建物に渡る設備からの反力に対しても十分な構造強度を確保する設計とする。

(2) 屋外重要土木構造物の支持機能の維持

Sクラスの機器・配管系の間接支持機能を求められる屋外重要土木構造物については、地震動に対して、構造部材の曲げについては限界層間変形角、圧縮縁コンクリート限界ひずみ、曲げ耐力又は許容応力度、面外せん断についてはせん断耐力又は許容応力度、面内せん断については限界せん断ひずみを許容限界とする。なお、限界層間変形角、圧縮縁コンクリ

ート限界ひずみ、曲げ耐力及びせん断耐力に対しては妥当な安全余裕をもたせることとし、機器・配管系の支持機能が維持できる設計とする。

(3) 車両型の間接支持構造物における支持機能の維持

車両型の間接支持構造物については、地震動に対して、被支持設備の機能を維持できる構造強度を確保する設計とする。

また、地震時に車両等の転倒を防止するよう、加振試験等で車両全体が安定性を有し、転倒しないことを確認する設計、若しくは地震応答解析から得られた重心相対変位が転倒条件の相対変位以下となるよう設計することで、設置箇所における機能維持を満足する設計とする。

4.7 通水機能及び貯水機能の維持

通水機能及び貯水機能の維持が要求される施設は、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」のうち「5.2(7) 通水機能及び貯水機能の維持」の考え方にに基づき、非常時に冷却する海水を確保するための通水機能及び貯水機能の維持が要求される非常用取水設備は、地震時及び地震後において、通水機能及び貯水機能を維持するため、基準地震動 S_s による地震力に対して、構造強度を確保することで、通水機能及び貯水機能が維持できる設計とする。

地震力が作用した場合において、構造部材の曲げについては限界層間変形角、圧縮縁コンクリート限界ひずみ、曲げ耐力又は許容応力度、面外せん断についてはせん断耐力又は許容応力度、面内せん断については限界せん断ひずみを許容限界とする。なお、限界層間変形角、圧縮縁コンクリート限界ひずみ、曲げ耐力及びせん断耐力に対しては妥当な安全余裕を持たせることとし、通水機能及び貯水機能が維持できる設計とする。

VI-2-1-10 ダクティリティに関する設計方針

目 次

1. 概要	1
2. 構造計画	2
2.1 建物・構築物	2
2.2 機器・配管系	2
3. 材料の選択	3
3.1 建物・構築物	3
3.2 機器・配管系	3
4. 耐力，強度等に対する制限	5
4.1 建物・構築物	5
4.2 機器・配管系	5
5. 品質管理上の配慮	6
5.1 建物・構築物	6
5.2 機器・配管系	6

1. 概要

発電所の各施設は、安全性及び信頼性の見地から、通常運転時荷重に対してのみならず地震時荷重等の短期間に作用する荷重に対しても耐えられるよう設計する必要がある。

これらの設計荷重は、強度設計の立場から、安全側の値として定められているが、重要施設の構造安全性を一層高めるためには、その構造体のダクティリティ*を高めるように設計することが重要である。

本資料は、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」のうち、「8. ダクティリティに関する考慮」に基づき、各施設のダクティリティを維持するために必要と考えられる構造計画、材料の選択、耐力・強度等に対する制限及び品質管理上の配慮を各項目別に説明するものである。なお、構造特性等の違いから、施設を建物・構築物と機器・配管系に分けて示す。

注記*：地震時を含めた荷重に対して、施設に生じる応力値等が、ある値を超えた際に直ちに損傷に至らないこと、又は直ちに損傷に至らない能力・特性。

2. 構造計画

2.1 建物・構築物

(1) 原子炉格納容器

原子炉格納容器は、原子炉建物の中央部に位置する容器で、シヤラグを設けて原子炉圧力容器から原子炉格納容器に伝えられる水平力及び原子炉格納容器にかかる水平力の一部を周囲の生体遮蔽壁に伝える構造となっている。

(2) 原子炉圧力容器ペDESTAL

原子炉圧力容器ペDESTALについては、構造形態に合った解析法によって解析し、構造設計を行う。

原子炉圧力容器ペDESTALの主体構造は、内外にある円筒鋼板であり、鋼板間にコンクリートを充填している。設計では鉛直荷重、温度荷重、地震時荷重等を適切に組み合わせる。また、原子炉圧力容器ペDESTALには、機能上開口部が多いが、応力集中に対して十分考慮した設計を行う。

(3) 原子炉建物等

原子炉建物は、二次格納施設である原子炉棟と耐震上の観点からその周囲に配置された原子炉建物附属棟より成り立っている。主体構造は、鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造）で、鉄骨造陸屋根を持つ建物である。

構造方式としては、耐震壁を主体とする壁式構造とし、地震時水平力は耐震壁で負担する。

また、床スラブは剛性を確保するために十分な厚さを持たせるものとする。

壁の配置及び壁厚は、構造全体としての剛心と重心の偏心によるねじれモーメントができるだけ小さくなるように定め、バランスのとれた安定性のある構造とする。

基礎スラブは、上部構造に生じる応力を支持地盤に伝達させるに十分な剛性を持ち、原則として岩盤に支持させる。

原子炉建物以外の建物についても、偏心の影響をできるだけ小さくして、各々の耐震重要度分類及び重大事故等対処施設の設備分類に応じた設計を行う。

2.2 機器・配管系

機器・配管系に対して十分なダクティリティを持たせるために構造及び配置上、次の点に注意する。

機器・配管系は、構造上、過度な応力集中が生じるような設計は避けるとともに、製作、施工面から溶接及び加工しやすい構造、配置とし、十分な施工管理を行う。また、熱処理等によりできる限り残留応力を除去する製作法を採用する。

更に、疲労累積のレベルをできるだけ低く保つ設計とし、必要な場合には疲労評価を行い、疲労破壊に対して十分な余裕を持つことを確認する。

配管系に関しては、同一経路内で著しく剛性が異なることなく、応力集中が生じないような全体のバランスのとれた配管経路及び支持構造計画を立て、系全体の強度設計の余裕を向上させるものとする。

3. 材料の選択

建物・構築物及び機器・配管系の材料について、ダクティリティを維持するために必要と考えられる方針を示す。

3.1 建物・構築物

建物・構築物に使用される材料は「建築基準法・同施行令」等に準拠し、鉄筋コンクリート材料については「建築工事標準仕様書・同解説 J A S S 5 N 原子力発電所施設における鉄筋コンクリート工事（（社）日本建築学会，2013改定）」（以下「J A S S 5 N」という。），「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説—許容応力度設計法—（（社）日本建築学会，1999改定）」等、鉄骨材料は「鋼構造設計規準—許容応力度設計法—（（社）日本建築学会，2005改定）」等により選定する。

なお、鉄筋コンクリート材料についての例を以下に示す。

(1) セメント

セメントは「J A S S 5 N」の規定による。

(2) 骨材

使用する骨材の品質，粒形，大きさ，粒度等は「J A S S 5 N」の規定による。

(3) 水

コンクリートの練混ぜに使用する水は「J A S S 5 N」の規定による。

(4) 混和材，混和剤

コンクリートに用いる混和材及び混和剤としてはコンクリート用フライアッシュ及びコンクリート用化学混和剤等がある。これらの混和材及び混和剤は「J A S S 5 N」の規定による。

(5) 鉄筋

鉄筋は「J I S G 3 1 1 2（鉄筋コンクリート用棒鋼）」に適合するものを使用する。

3.2 機器・配管系

機器，配管系に使用される構造材料は，安全運転の見地から信頼性の高いものが必要である。したがって，「発電用原子力設備に関する構造等の技術基準（昭和55年通商産業省告示第501号，最終改正平成15年7月29日経済産業省告示第277号）」，「発電用原子力設備規格設計・建設規格（2005年版（2007年追補版を含む））〈第I編軽水炉規格〉J S M E S N C 1 -2005/2007（日本機械学会）」（以下「設計・建設規格」という。）等に示されるもの及び化学プラント，火力プラントや国内外の原子力プラントにおいて十分な使用実績があり，かつ，その材料特性が十分把握されているものを使用する。

機器・配管系に使用される材料の鋼種は，原則として規格・基準に示される炭素鋼及び低合金鋼（この2つを総称して，「フェライト鋼」と呼ぶ。），オーステナイトステンレス鋼，ニッケルクロム鉄合金及び非鉄金属を用いる。このうちフェライト鋼については，使用条件に対して脆性破壊防止の観点から延性を確保できるよう必要な確認を行う。

特に考慮すべき事項を以下に示す。

(1) 均質な組成と機械的性質を持ち，強度上有意な影響を及ぼす可能性のある欠陥がない材料を

使用する。

- (2) 使用温度及び供用期間中に対し、著しい材料強度特性、破壊靱性の低下が生じにくい材料を使用する。
- (3) 中性子照射による脆化を考慮して材料を選択する。また原子炉圧力容器内には監視試験片を配置し、材料の機械的性質の変化を監視する。
- (4) 素材として優れた特性を有するとともに、溶接施工、成形加工においても、その優れた特性を持つ材料を使用する。
- (5) 溶接材料は、溶接継手部が母材と同等の性質が得られるよう選定する。
- (6) 冷却材等に対する耐食性の良い材料を使用する。
- (7) 冷却材と接する材料には、放射化生成物を生じる元素が少ない材料を使用する。

4. 耐力，強度等に対する制限

建物・構築物及び機器・配管系の強度設計に関しては，通常時の荷重に対してのみならず，地震時荷重等のように短期間に作用する荷重に対して十分な耐力・強度及びダクティリティを有するように考慮する。

以下にその内容を示す。

4.1 建物・構築物

建物・構築物の強度設計に関する基準，規格等としては「建築基準法・同施行令」，「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説－許容応力度設計法－（（社）日本建築学会，1999 改定）」，「原子力施設鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説（（社）日本建築学会，2005 制定）」，「鋼構造設計規準－許容応力度設計法－（（社）日本建築学会，2005 改定）」，「発電用原子力設備規格 コンクリート製原子炉格納容器規格（（社）日本機械学会，2003）」等があり，これらの規格・基準を適用するものとする。

4.2 機器・配管系

機器・配管系の構造強度及び設計においては，設計・建設規格を適用するとともに，ASME「Boiler and Pressure Vessel Code」等を準用する。

以下，機器・配管系のダクティリティを維持するために必要な破壊防止の基本的考え方を示す。

- (1) 脆性破壊が生じないように，十分な靱性を有する材料を選定する。また，使用材料が設計・建設規格の破壊靱性試験に対する要求に適合していることを確認する。
- (2) 延性破壊又は疲労破壊が生じないようにVI-2-1-9「機能維持の基本方針」に基づき応力制限を行うとともに，必要に応じて疲労解析を行う。
- (3) 座屈現象が生じないように，発生荷重を許容座屈荷重以下に制限する。
- (4) クリープに関しては，使用温度において供用期間中に支障が生じないように材料を選定する。
- (5) 応力腐食割れが生じないように，水質管理，材料選定及び残留応力の低減等の配慮を行う。

5. 品質管理上の配慮

建物・構築物及び機器・配管系のダクティリティを維持するためには前項で示したように構造計画上の配慮，材料の選択及び耐力・強度等に対する制限に留意するとともに，VI-1-10「設計及び工事に係る品質マネジメントシステムに関する説明書」に基づき品質管理を十分に行う。

以下に建物・構築物及び機器・配管系について，計画，設計した耐力・強度等が得られるように，品質管理上特に留意すべき事項を示す。

5.1 建物・構築物

建物・構築物に対する品質管理は「JASS 5N」等に準拠するが，ダクティリティを保証する意味で特に留意する項目を次に示す。

(1) 材料管理

セメント，水，骨材，鉄筋，鉄骨等が規定の仕様を満たしていることを確認する。

(2) 配筋管理

配筋が設計図書，仕様書どおりであることを確認する。

(3) 鉄骨等の溶接管理

規定どおりに溶接されていることを確認する。

(4) 調合管理

規定どおりに調合されていることを確認する。

(5) 打込み，養生管理

規定，仕様書どおり打込み，養生が行われていることを確認する。

(6) 強度管理

設計した強度等が得られていることを確認するため，規定等に従って試験し管理する。

5.2 機器・配管系

機器・配管系に対する品質管理は，設計・建設規格，ASME「Boiler and Pressure Vessel Code」等に準拠するが，ダクティリティを保証する意味で特に留意する項目を次に示す。

(1) 材料管理

素材，溶接材料について設計仕様書等に示すものが使用されていることを確認する。

(2) 強度管理

素材，溶接部の試験片による強度， RT_{NDT} 等の試験，耐圧，漏えい及び振動試験によって確認する。

(3) 製作・据付管理

設計仕様書，設計図書等に示すとおり製作，据付けが行われていることを確認する。

(4) 保守・点検

据付け後も供用期間中検査等必要な管理を行う。

VI-2-1-11 機器・配管の耐震支持設計方針

目 次

1. 概要	1
2. 機器の支持構造物	2
2.1 基本原則	2
2.2 支持構造物の設計	2
2.2.1 設計手順	2
2.2.2 支持構造物及び基礎の設計	6
2.2.3 機器の支持方法	10
3. 電気計測制御装置	14
3.1 基本原則	14
3.2 支持構造物の設計	14
3.2.1 設計手順	14
3.2.2 支持構造物及び埋込金物の設計	16
4. 配管の支持構造物	20
4.1 基本原則	20
4.2 支持構造物の設計	20
4.2.1 設計手順	20
4.2.2 支持装置、支持架構及び埋込金物の設計	22
5. その他特に考慮すべき事項	34
別紙 電気計測制御装置等の耐震設計方針	

1. 概要

機器・配管の耐震設計を行う場合，基本設計条件（耐震重要度，設計温度・圧力，動的・静的機器等），プラントサイト固有の環境条件（地震，風，雪，気温等），形状，設置場所等を考慮して各々に適した支持条件（拘束方向，支持反力，相対変位等）を決め，支持構造物を選定する必要がある。

また，現地施工性や機器等の運転操作・保守点検の際に支障とならないこと等についても配慮し設計する。

本資料は，VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」のうち「9. 機器・配管系の支持方針について」に基づき，各々の機器・配管の支持方法及び支持構造物の耐震設計方針を説明するものである。

2. 機器の支持構造物

2.1 基本原則

機器の耐震支持方針は下記によるものとする。

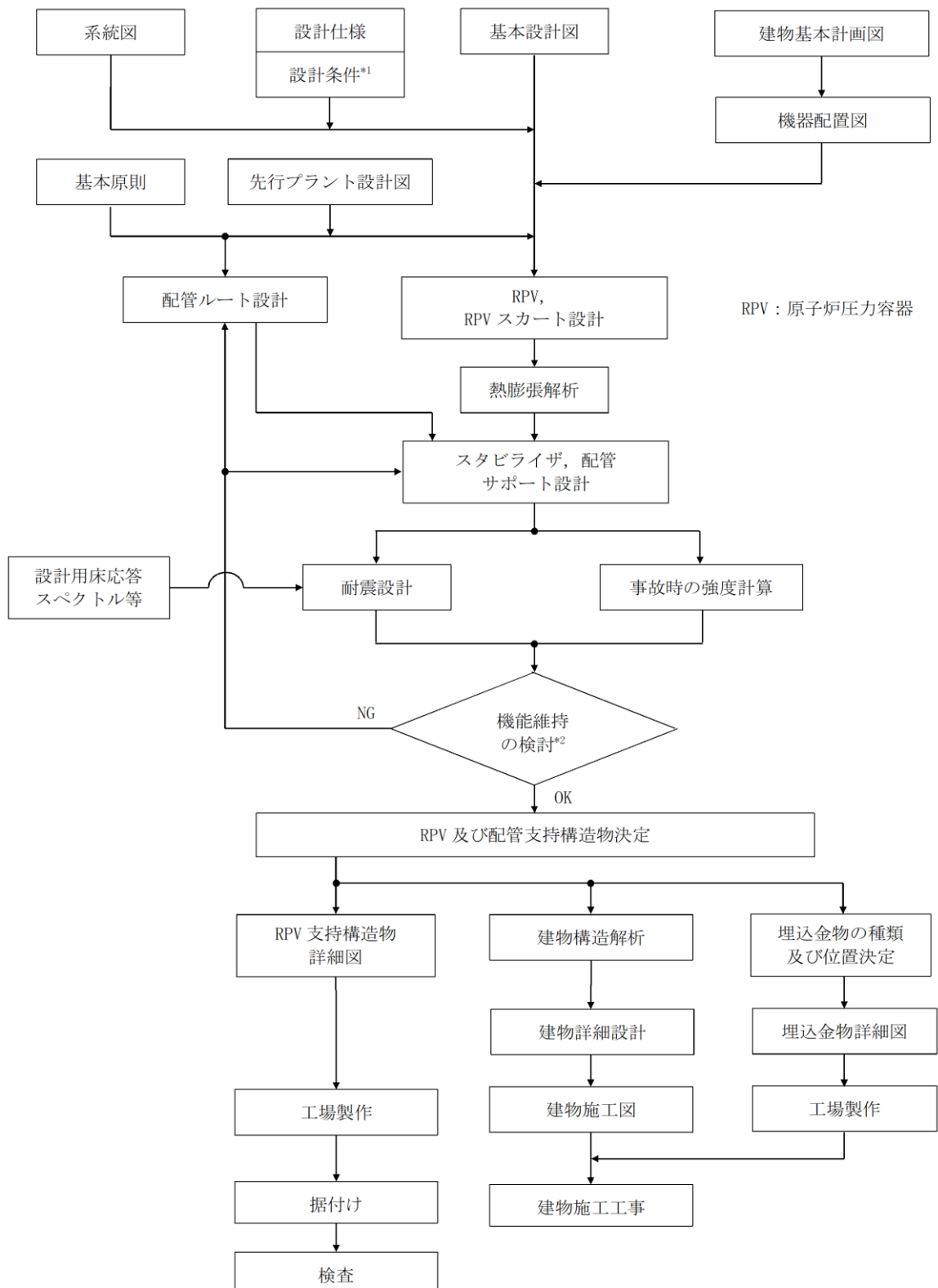
- (1) 重要な機器は岩盤上に設けた強固な基礎又は岩盤により支持され十分耐震性を有する構築物内の基礎上に設置する。
- (2) 支持構造物を含め十分剛に設計することで建物との共振を防止する。
- (3) 剛性を十分に確保できない場合は、機器系の振動特性に応じた地震応答解析により、応力評価に必要な荷重等を算定し、その荷重等に耐える設計とする。
- (4) 重心位置を低くおさえる。
- (5) 配管反力をできる限り機器に持たせない構造とする。
- (6) 偏心荷重を避ける。
- (7) 高温機器は熱膨張を拘束しない構造とする。
- (8) 動的機能が要求されるものについては地震時に機能を喪失しない構造とする。
- (9) 内部構造物については容器との相互作用を考慮した構造とする。
- (10) 支持架構上に設置される機器については架構を十分剛に設計すると同時に、必要に応じ架構の剛性を考慮した耐震設計を行う。

2.2 支持構造物の設計

2.2.1 設計手順

機器類の配置及び構造計画に際しては、建物・構築物、配管、ダクト等機器類以外の設備との関連、設置場所の環境条件、現地施工性等の関連を十分考慮して総合的な調整を行い、機器類の特性、運転操作及び保守点検の際に支障とならないこと等についての配慮を十分加味した耐震設計を行うよう考慮する。設計手順を図 2-1、図 2-2 及び図 2-3 に示す。

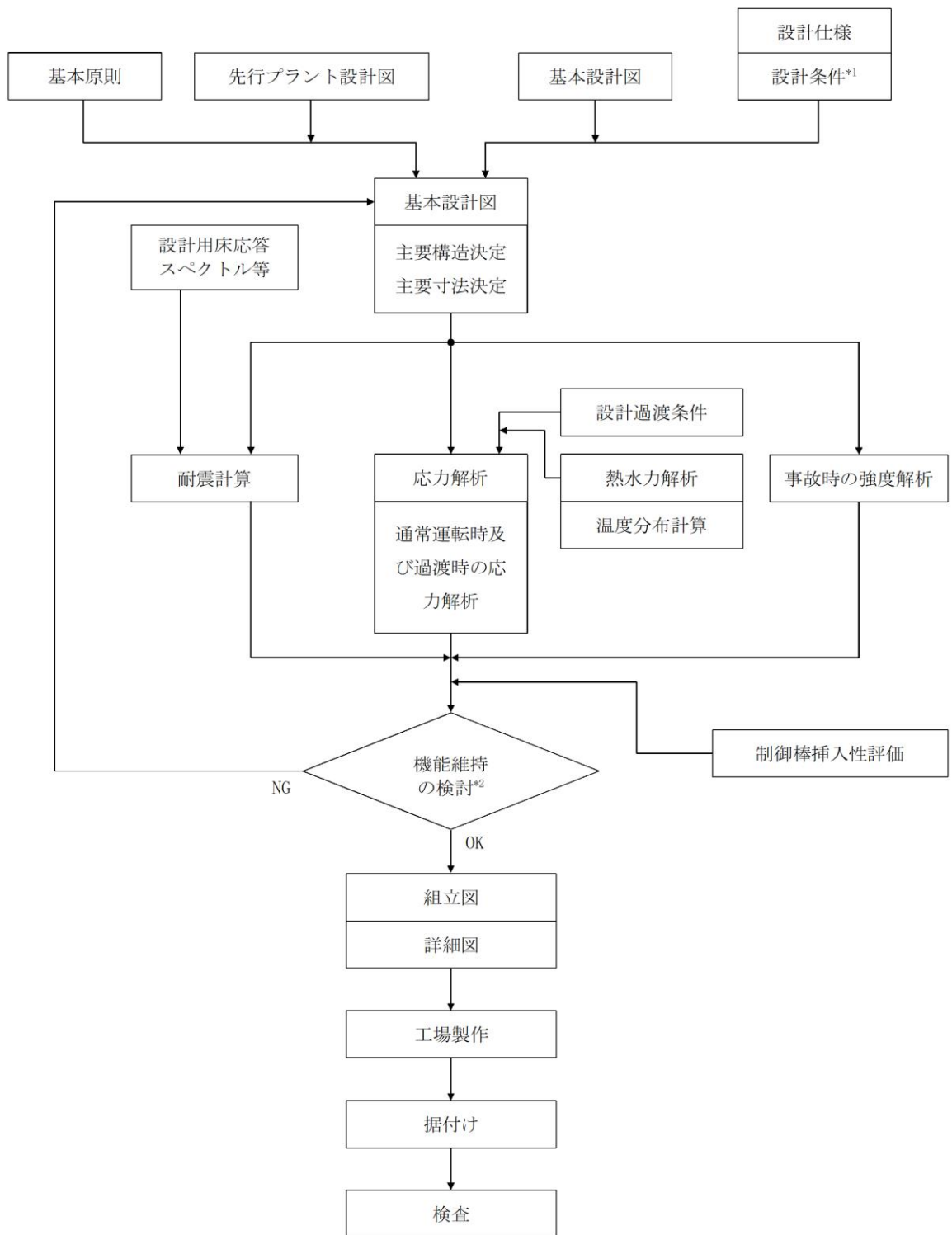
支持構造物の設計は、建物基本計画及び機器の基本設計条件等から配置設計を行い、支持する機器、配管の熱膨張解析、耐震解析及び機能維持の検討により強度及び支持機能を確認し、詳細設計を行う。このとき、高温機器については、熱膨張解析による熱膨張変位を拘束しない設計とするよう配慮する。



注記*1 : 環境条件, 現地施工性及び運転操作・保守点検時の配慮含む。

*2 : 判断基準についてはVI-2-1-9「機能維持の基本方針」参照。

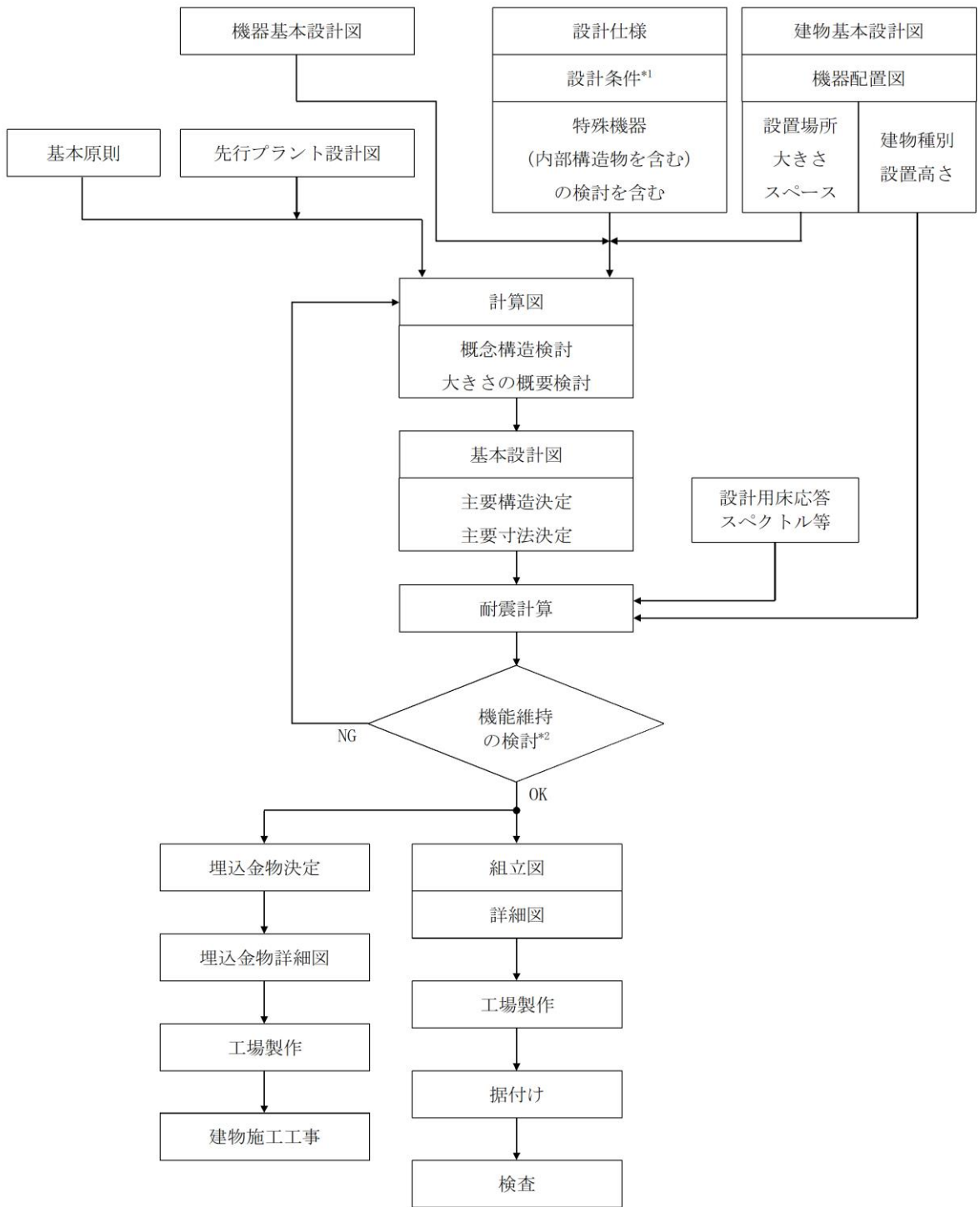
図 2-1 主要機器支持構造物設計フロー



注記*1：環境条件，現地施工性及び運転操作・保守点検時の配慮含む。

*2：判断基準についてはVI-2-1-9「機能維持の基本方針」参照。

図 2-2 炉心支持構造物設計フロー



注記*1：環境条件，現地施工性及び運転操作・保守点検時の配慮含む。

*2：判断基準についてはVI-2-1-9「機能維持の基本方針」参照。

図 2-3 一般機器支持構造物設計フロー

2.2.2 支持構造物及び基礎の設計

(1) 支持構造物の設計（埋込金物を除く。）

a. 設計方針

支持構造物の設計は、機器を剛に支持することを原則とし、機器の重心位置をできる限り低くするとともに、偏心荷重をおさえるよう設計する。

また、熱膨張変位の大きいものについては、その変位を拘束することなく、自重、地震荷重等に対し、有効な支持機能を有するよう設計する。

b. 荷重条件

支持構造物設計に当たっては機器の自重、積載荷重、運転荷重等通常時荷重の他に、地震時荷重及び事故時荷重を考慮する。

また、屋外機器については積雪荷重及び風荷重の屋外特有の荷重を考慮する。荷重の種類及び組合せについてはVI-2-1-9「機能維持の基本方針」に従う。

c. 種類及び選定

支持構造物は大別して、機能材と構造材とに分け設計を行い、下記に従い選定する。

(a) 機能材

耐圧母材の機能維持に必須のもので、母材に直接接合されており構造物境界が明瞭でなく、当該支持構造物材の部分的損傷が直接母材の機能低下をもたらすおそれのある重要なものに使用する。また、部材については、容器と同等の応力算定を行い、十分な強度を有するよう設計する。

（代表例）容器の支持構造物取付用ラグ、ブラケット等

(b) 構造材

当該支持構造物が単に耐圧母材を支持することのみを目的とするものであり、当該材と母材との構造物境界が明瞭で、当該材の部分的損傷は直接母材の機能低下をもたらさないようなものに使用する。また、部材については、鋼構造設計規準等に準拠して設計する。

（代表例）支持脚、支持柱、支持架構、ボルト、スナッパ

(2) 埋込金物の設計

a. 設計方針

機器の埋込金物は、支持構造物から加わる荷重を基礎に伝え、支持構造物と一体となって支持機能を満たすように設計する。埋込金物の選定は、機器の支持方法、支持荷重及び配置を考慮して行う。このとき、機器の埋込金物及び定着部は、原則としてボルトの限界引き抜き力に対して、コンクリート設計基準強度及びせん断力算定断面積による引き抜き耐力が上回るよう埋込深さを算定することで、基礎ボルトに対して十分な余裕を持つように設計する。

b. 荷重条件

埋込金物の設計は、機器から伝わる荷重に対し、その荷重成分の組合せを考慮して行う。荷重の種類及び組合せについては、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に従う。

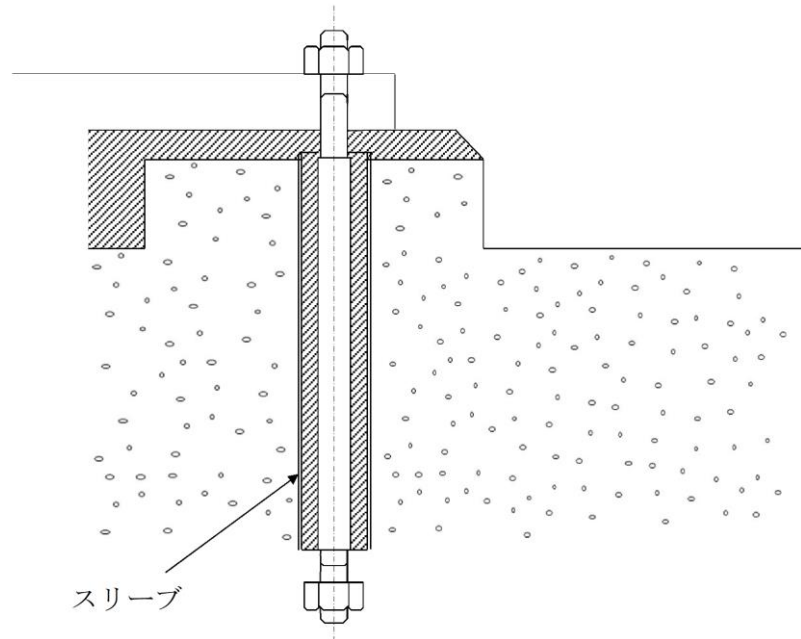
c. 種類及び選定

埋込金物には下記の種類があり，それぞれ使用用途に合わせて選定する。

(a) 基礎ボルト形式（スリーブ付）

タンク，ポンプ等，基礎ボルト本数が多く，高い据付け精度が必要な機器に使用する。

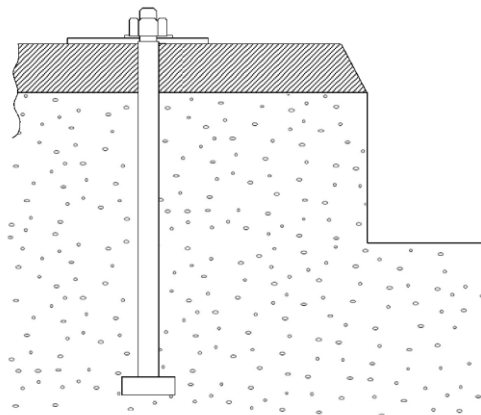
（代表例）残留熱除去ポンプ



(b) 基礎ボルト形式（スリーブ無し）

基礎ボルト本数が少ない機器の支持構造物，あるいは高い据付け精度が必要でない一般機器，タンク等に多く使用する。

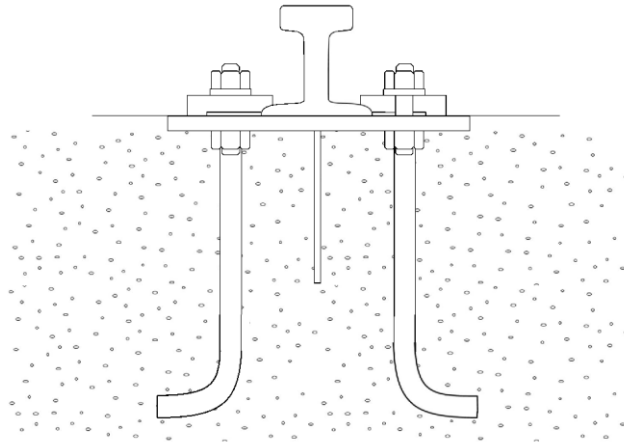
（代表例）濃縮廃液タンクベントデミスタ



(c) 基礎ボルト形式（曲り棒使用）

荷重条件として引張荷重や曲げモーメントが小さい機器に使用する。

（代表例）取水槽ガントリクレーン走行レール

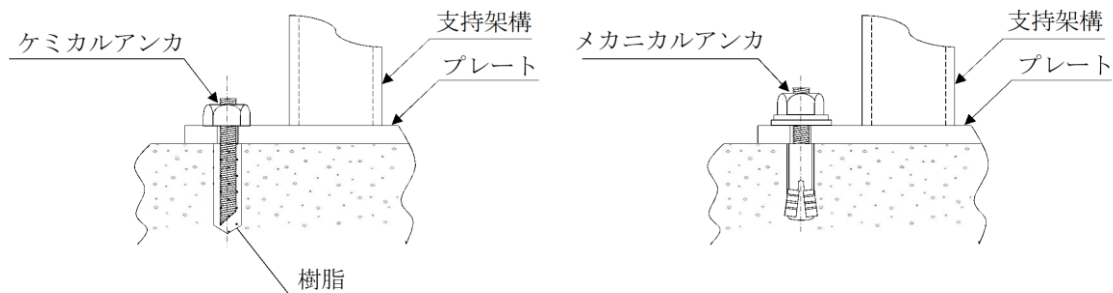


(d) 後打ちアンカ

打設後のコンクリートに穿孔機で孔をあけて設置するもので、ケミカルアンカ又はメカニカルアンカを使用する。ただし、ケミカルアンカは、要求される支持機能が維持できる温度条件で使用する。メカニカルアンカは振動が大きい箇所に使用しない。

後打ちアンカの設計は、J E A G 4 6 0 1・補-1984 又は「各種合成構造設計指針・同解説」（日本建築学会，2010 年改定）に基づき設計する。また、アンカメーカーが定める施工要領に従い設置する。

（代表例）電気盤



(3) 基礎の設計

a. 設計方針

機器の基礎は、支持構造物から加わる自重及び地震荷重に対し、有効な支持機能を有するよう設計する。基礎の選定は、機器の支持方法、支持荷重及び配置を考慮して行う。

b. 荷重条件

基礎の設計は、機器から伝わる荷重に対し、荷重成分の組合せを考慮して行う。荷重の種類及び組合せについては、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に従う。

c. 種類及び選定

基礎は機器の種類、設置場所により、下記に従い選定する。

(a) 大型機器の基礎

イ. 原子炉本体基礎

原子炉本体基礎は、原子炉圧力容器の支持構造物から加わる自重、熱膨張荷重、地震荷重、事故時荷重等の鉛直・水平荷重に対して、鋼板のみで十分耐える構造とする。

(b) 一般機器の基礎

イ. 建物内の基礎

建物内に設置される一般機器の支持構造物は、建物の床壁あるいは天井を基礎として設置される。したがって建物設計に際しては、これら機器からの荷重を十分考慮した堅固な鉄筋コンクリート造とする。

機器を床に設置する場合、一般に基礎は水はけをよくするためかさ上げする。支持構造物は、鉄筋コンクリート造に十分深く埋め込んだ基礎ボルトにより基礎に固定する。

機器を壁あるいは天井から支持する場合は、一般にあらかじめ壁あるいは天井の鉄筋コンクリート造に埋込金物を埋め込み、支持構造物を溶接あるいはボルトにより固定する。

ロ. 屋外の基礎

屋外に設置される重要な機器は岩盤上に設けた強固な基礎上に設置する。

基礎は基礎自身の自重、地震荷重の他に基礎上に設置される機器からの通常時荷重、地震時荷重、積雪荷重及び風荷重を考慮して十分強固であるよう設計する。

機器支持構造物は一般に基礎中に埋め込んだ基礎ボルトにより固定する。

2.2.3 機器の支持方法

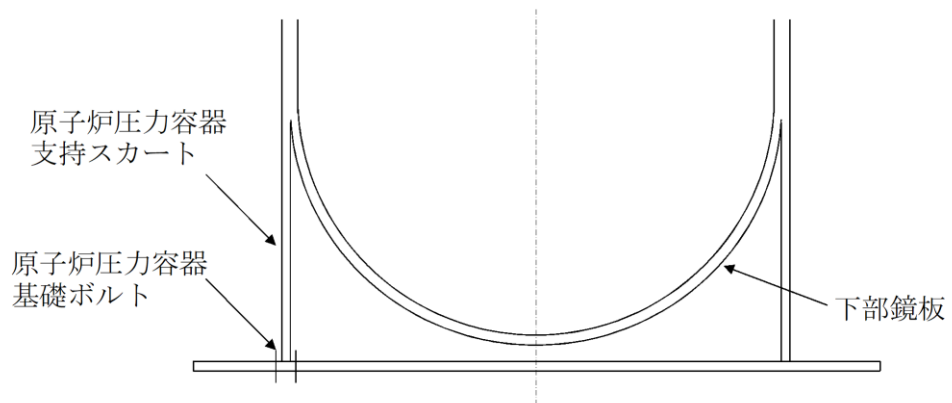
(1) たて置の機器

a. スカートによる支持

スカートはベースプレートを通じて基礎ボルトにより基礎に固定する。スカート剛性、基礎ボルトサイズは、容器重量及び地震力による転倒モーメント等に対し十分な強度を有する設計とする。

この形式の支持構造は原子炉圧力容器及びたて型のタンク類に採用する。

(代表例) 原子炉圧力容器



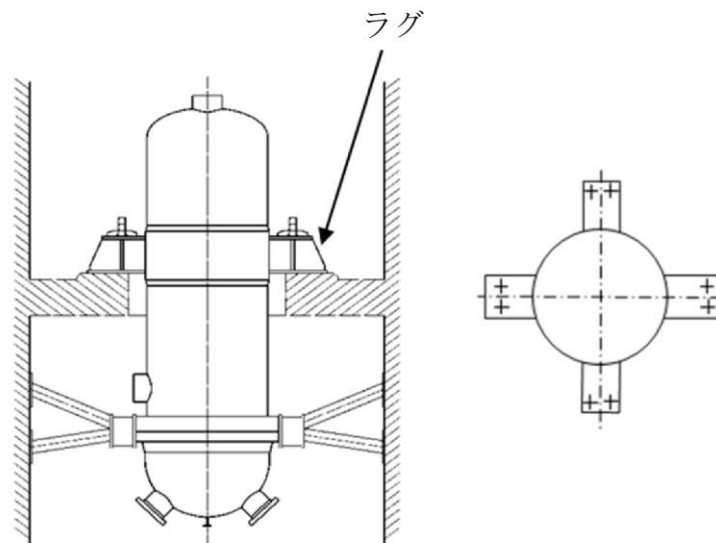
b. ラグによる支持

下図のように機器本体に取り付けられたラグにより支持する形式のものである。

この形式は機器本体の半径方向の熱膨張を自由にし、円周方向及び鉛直方向のラグ剛性で支持するものとする。

この型式の支持構造物は熱膨張を拘束しない機器に採用する。

(代表例) 残留熱除去系熱交換器

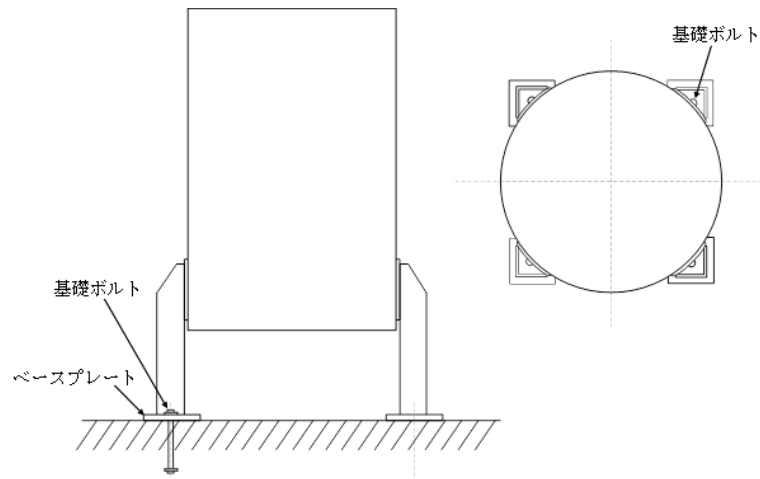


c. 支持脚による支持

下図のとおり，形鋼を胴周囲対角線上の4箇所に取り付け，ベースプレートを基礎ボルト又は溶接により基礎に固定する。脚剛性，基礎ボルトサイズは，容器重量及び地震力による転倒モーメント等に対し十分な強度を有する設計とする。

この型式の支持構造は比較的軽中量のタンク等に採用する。

(代表例) ほう酸水注入テストタンク

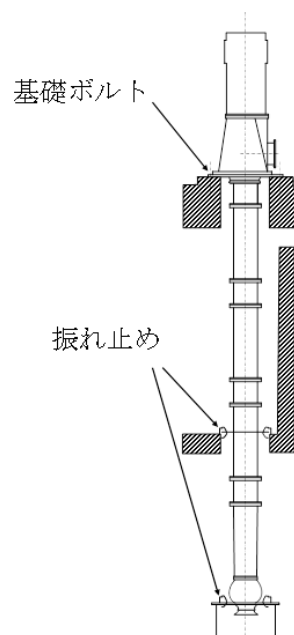


d. 振れ止めによる支持

下図のようにケーシングの長い立形ポンプは，上部基礎だけでなく，中間部等にも振れ止めを設ける設計とする。振れ止めは，振れ止め部の地震荷重に対し，十分な強度を有する設計とする。

この形式の支持構造は立形ポンプに採用する。

(代表例) 原子炉補機海水ポンプ



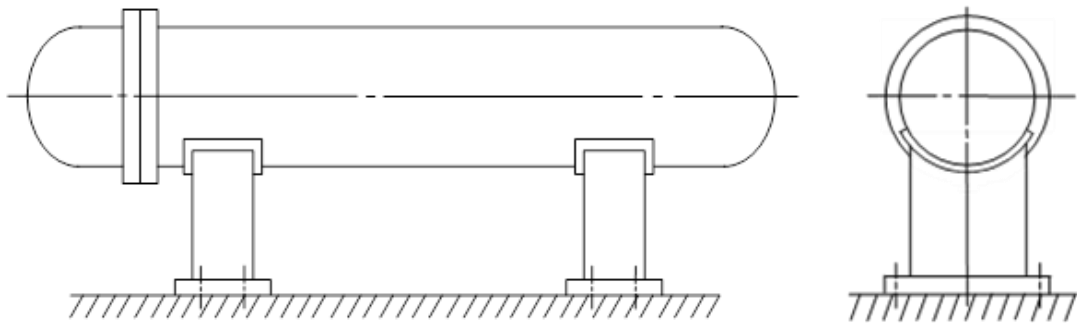
(2) 横置の機器

a. 支持脚による支持

支持脚は鋼板製の溶接構造とし、多数の基礎ボルトで基礎に固定する。支持脚は十分な剛性及び強度を持たせ、基礎ボルトは、地震力による転倒モーメント等に対し十分な強度を有する設計とする。

この形式の支持構造は容量の大きい横置の熱交換器、タンク類に採用する。

(代表例) 原子炉補機冷却系熱交換器

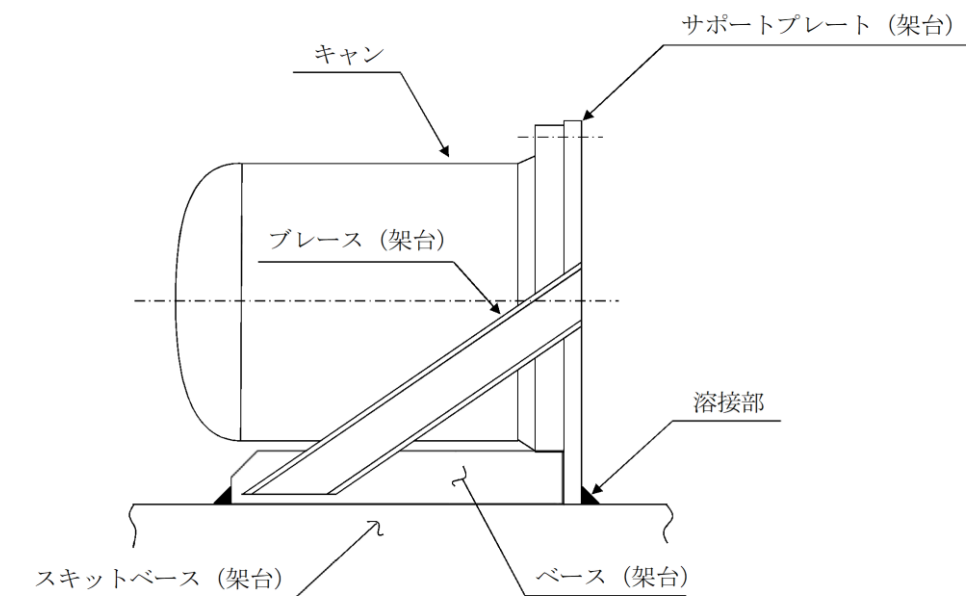


b. 架台支持

架台は鋼板又は形鋼を組合せた溶接構造とし、機器は取付ボルトで架台に固定する。架台は十分な剛性及び強度を持たせる設計とする。

この形式の支持構造はポンプ、ブロワ等に採用する。

(代表例) 可燃性ガス濃度制御系再結合装置ブロワ



(3) 内部構造物

a. 原子炉本体

原子炉圧力容器内にある構造物は、燃料集合体を直接支持又は拘束する炉心支持構造物と、それ以外の炉内構造物に大別できる。

炉心支持構造物は炉心シュラウド、シュラウドサポート、上部格子板、炉心支持板、燃料支持金具及び制御棒案内管から構成され、炉内構造物は蒸気乾燥器、気水分離器及びスタンドパイプ、シュラウドヘッド、スパージャ、ジェットポンプ及び内部配管等から構成される。

燃料集合体上部の水平方向は上部格子板で支持し、下部の水平方向は燃料支持金具及び制御棒案内管を介して炉心支持板で支持される。燃料集合体の鉛直方向の荷重は燃料支持金具を介して制御棒案内管で支持し、制御棒案内管は原子炉圧力容器下部鏡板に取り付けられた制御棒駆動機構ハウジングで支持される。

上部格子板は炉心シュラウドの中間部リング上に設置し、炉心支持板は炉心シュラウドの下部リング上にボルトにより固定される。炉心シュラウドは下端をシュラウドサポートに溶接され、シュラウドサポートは原子炉圧力容器下部鏡板に溶接される。

気水分離器及びスタンドパイプはシュラウドヘッドに溶接され、シュラウドヘッドは炉心シュラウド上にボルトによりフランジ接続される。

蒸気乾燥器、スパージャ及び内部配管は、原子炉圧力容器内部に取り付けられたブラケット等により支持される。

b. 熱交換器

熱交換器には、伝熱管がU字管式のものと直管式のものとがあり、いずれもじゃま板によって伝熱管を剛に支持し、地震及び流体による振動を防止する。

c. タンク類

タンク類でその内部にスプレイノズル、スパージャ、ヒータ等が設けられるものについては、それらを機器本体からのサポートにより取り付ける。

3. 電気計測制御装置

3.1 基本原則

電気計測制御装置の耐震支持方針は下記によるものとする。

- (1) 電気計測制御装置は取付ボルト等により支持構造物に固定される。支持構造物は、剛な床、壁面等から支持することとする。
- (2) 支持構造物を含め十分剛に設計することで建物との共振を防止する。
- (3) 剛性を十分に確保できない場合は、振動特性に応じた地震応答解析により、応力評価に必要な荷重等を算定し、その荷重等に耐える設計とする。
- (4) 地震時に要求される電氣的機能を喪失しない構造とする。電気計測制御装置の電氣的機能維持の設計方針を別紙に示す。

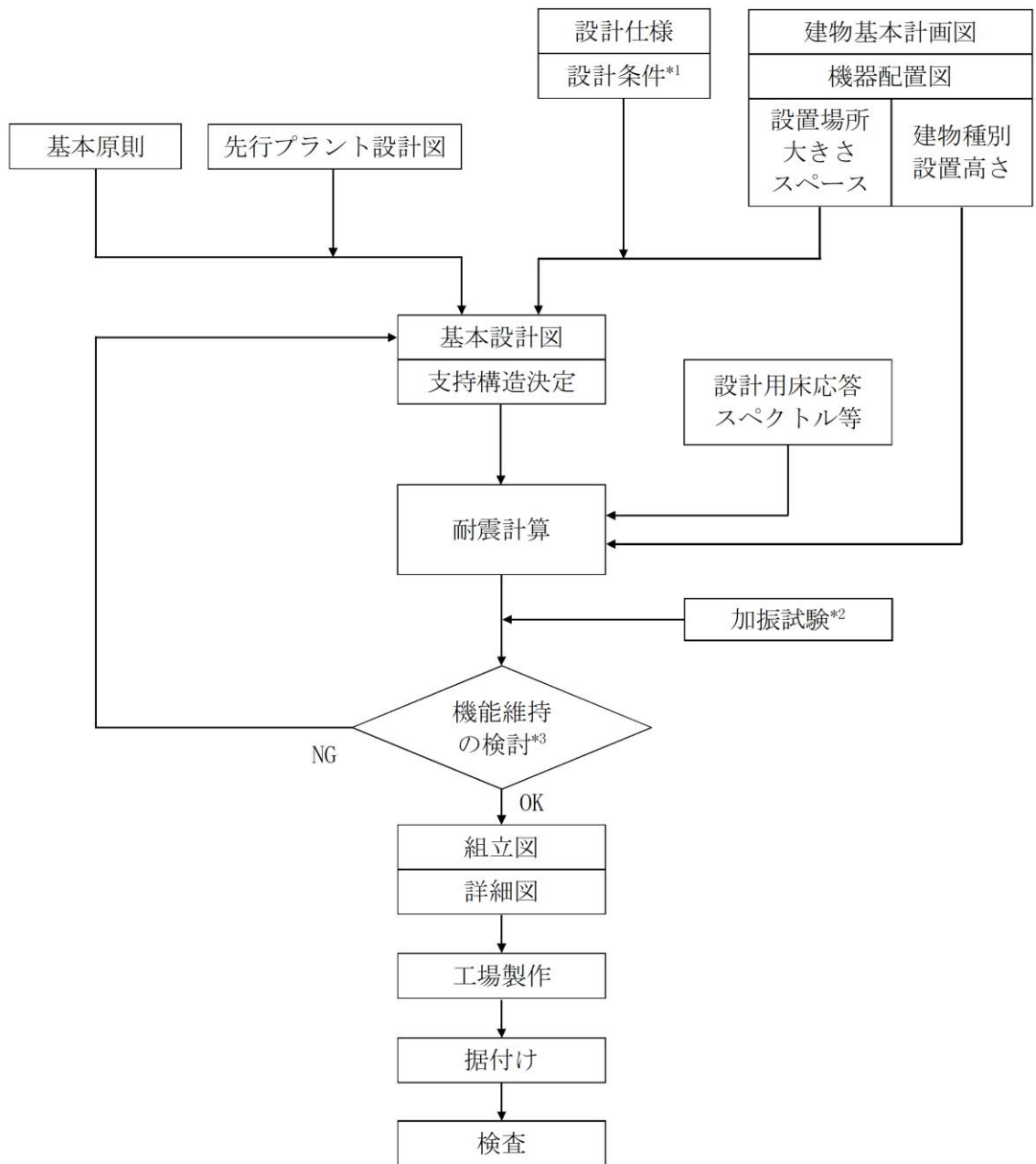
3.2 支持構造物の設計

3.2.1 設計手順

電気計測制御装置の配置，構造計画に際しては，設置場所の環境条件，現地施工性等の関連を十分考慮して総合的な調整を行い，電気計測制御装置類の特性，運転操作及び保守点検の際に支障とならないこと等についての配慮を十分加味した耐震設計を行うよう考慮する。

設計手順を図 3-1 に示す。

支持構造物の設計は，建物基本計画及び電気計測制御装置の基本設計条件等から配置設計を行い，耐震解析，機能維持の検討により強度及び支持機能を確認し，詳細設計を行う。



注記*1：環境条件，現地施工性及び運転操作・保守点検時の配慮含む。

*2：変圧器，蓄電池は除く。

*3：判断基準についてはVI-2-1-9「機能維持の基本方針」参照。

図 3-1 電気計測制御装置の支持構造物設計フロー

3.2.2 支持構造物及び埋込金物の設計

(1) 盤の設計

a. 設計方針

盤に実装される器具は取付ボルトにより盤に固定する。

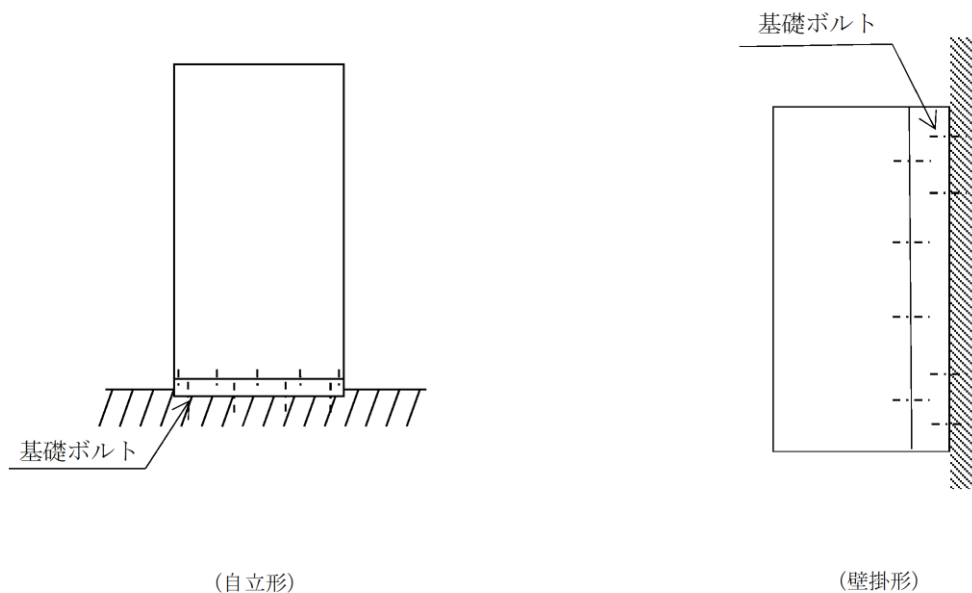
盤には自立形と壁掛形があり、鋼材及び鋼板を組み合わせたフレーム及び筐体で構成される箱型構造とする。

自立形の盤は基礎ボルトにより、あるいは床面に埋め込まれた埋込金物に溶接することにより自重及び地震荷重に対し、有効な支持機能を有するよう設計する。

壁掛形の盤は基礎ボルトにより、あるいは埋込金物に溶接することにより自重及び地震荷重に対し、有効な支持機能を有するよう設計する。

b. 荷重条件

荷重の種類及び組合せについては、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に従う。



(2) 架台の設計

a. 設計方針

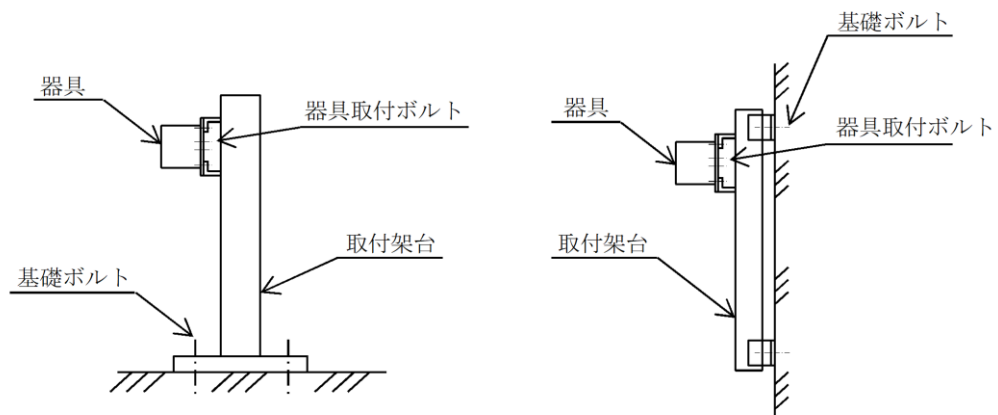
架台に実装される器具は取付ボルトにより架台に固定する。

架台は鋼材を組み合わせた溶接構造又はボルト締結構造とし、自重及び地震荷重に対し、機能低下を起こすような変形を生じさせないように設計する。

架台は基礎ボルトにより、あるいは埋込金物に固定することにより自重及び地震荷重に対し、有効な支持機能を有するよう設計する。

b. 荷重条件

荷重の種類及び組合せについては、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に従う。



(3) 埋込金物の設計

a. 設計方針

埋込金物は、支持構造物から加わる荷重を基礎に伝え、支持構造物と一体となって支持機能を満たすように設計する。埋込金物の選定は、支持荷重及び配置を考慮して行う。

b. 荷重条件

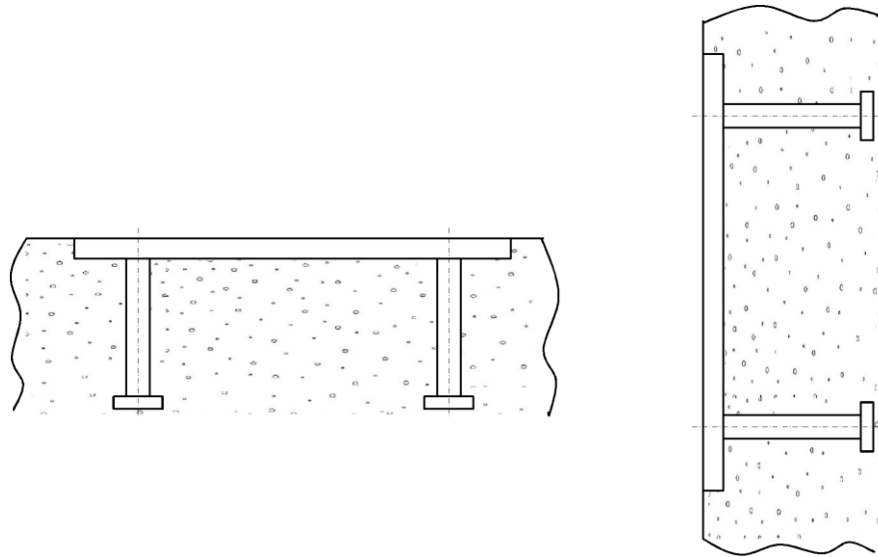
荷重の種類及び組合せについては、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に従う。

c. 種類及び選定

埋込金物には下記の種類があり、それぞれの使用用途にあわせて選定する。

(a) 埋込金物形式

機器の配置計画時に基礎との取合い形状が確定できない場合に使用する。

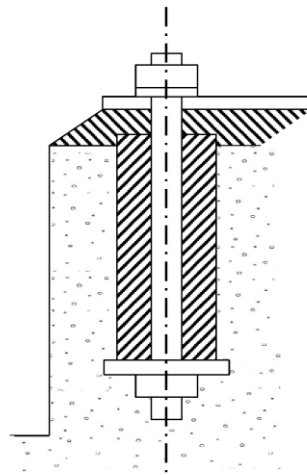


(自立形)

(壁掛形)

(b) 基礎ボルト形式

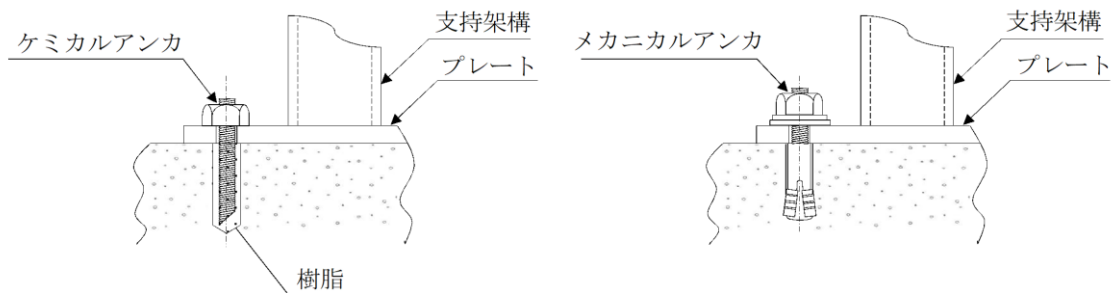
機器の配置計画時に基礎との取合い形状が確定できる場合に使用する。



(c) 後打ちアンカ

打設後のコンクリートに穿孔機で孔をあけて設置するもので、ケミカルアンカ又はメカニカルアンカを使用する。ただし、ケミカルアンカは、要求される支持機能が維持できる温度条件で使用する。また、メカニカルアンカは振動が大きい箇所に使用しない。

後打ちアンカの設計は、J E A G 4 6 0 1・補-1984 又は「各種合成構造設計指針・同解説」（日本建築学会，2010 年改定）に基づき設計する。また、アンカメーカーが定める施工要領に従い設置する。



(4) 基礎の設計

a. 設計方針

電気計測制御装置の基礎は、支持構造物から加わる自重、地震荷重に対し、有効な支持機能を有するよう設計する。基礎の選定は、電気計測制御装置の支持方法、支持荷重及び配置を考慮して行う。

b. 荷重条件

基礎の設計は、電気計測制御装置から伝わる荷重に対し、荷重成分の組合せを考慮して行う。荷重の種類及び組合せについては、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に従う。

4. 配管の支持構造物

支持装置，支持架構及び埋込金物から構成される支持構造物の基本原則，設計方針及び機能による種別の選定方法を示す。また，配管系及びその支持構造物について耐震設計上十分安全であるように考慮すべき事項は，VI-2-1-12「配管及び支持構造物の耐震計算について」に定める。

4.1 基本原則

配管及び弁の耐震支持方針は下記によるものとする。

- (1) 支持構造物は，剛な床，壁面等から支持することとする。
- (2) 支持構造物を含め建物との共振を防止する。
- (3) 支持構造物は，拘束方向の支持点荷重に対して十分な強度があり，かつ剛性を有するものを選定する。
- (4) 機器管台に接続される配管については，機器管台の許容荷重を超えないように支持構造物の設計を行う。
- (5) 高温となる配管については，熱膨張変位を過度に拘束しない設計とする。
- (6) 熱膨張変位を過度に拘束しないために，配管系の剛性を十分に確保できない場合は，配管系の振動特性に応じた地震応答解析により，応力評価に必要な荷重等を算定し，その荷重等に耐える設計とする。
- (7) 地震時の建物間相対変位を考慮する場所については，その変位に対して十分耐える設計とする。
- (8) 水撃現象が生じる可能性のある場所については，その荷重に十分耐える設計とする。

4.2 支持構造物の設計

4.2.1 設計手順

配管の配置，構造計画に際しては，建物・構築物，取合い機器類との関連，設置場所の環境条件，現地施工性等の関連を十分考慮して総合的な調整を行い，運転操作及び保守点検の際に支障とならないこと等について配慮を十分加味した耐震設計を行うよう考慮する。設計手順を図4-1に示す。

支持構造物の設計は，建物基本計画及び配管の基本設計条件等から配置設計を行い，熱応力計算（自重，機械的荷重，事故時荷重による強度計算を含む），耐震解析，機能維持の検討により強度及び支持機能を確認し，詳細設計を行う。このとき，高温となる配管については，熱膨張変位を過度に拘束しない設計とするよう配慮する。支持装置は，標準化された製品の中から，配管から受ける荷重に対し十分な強度があるものを選定する。

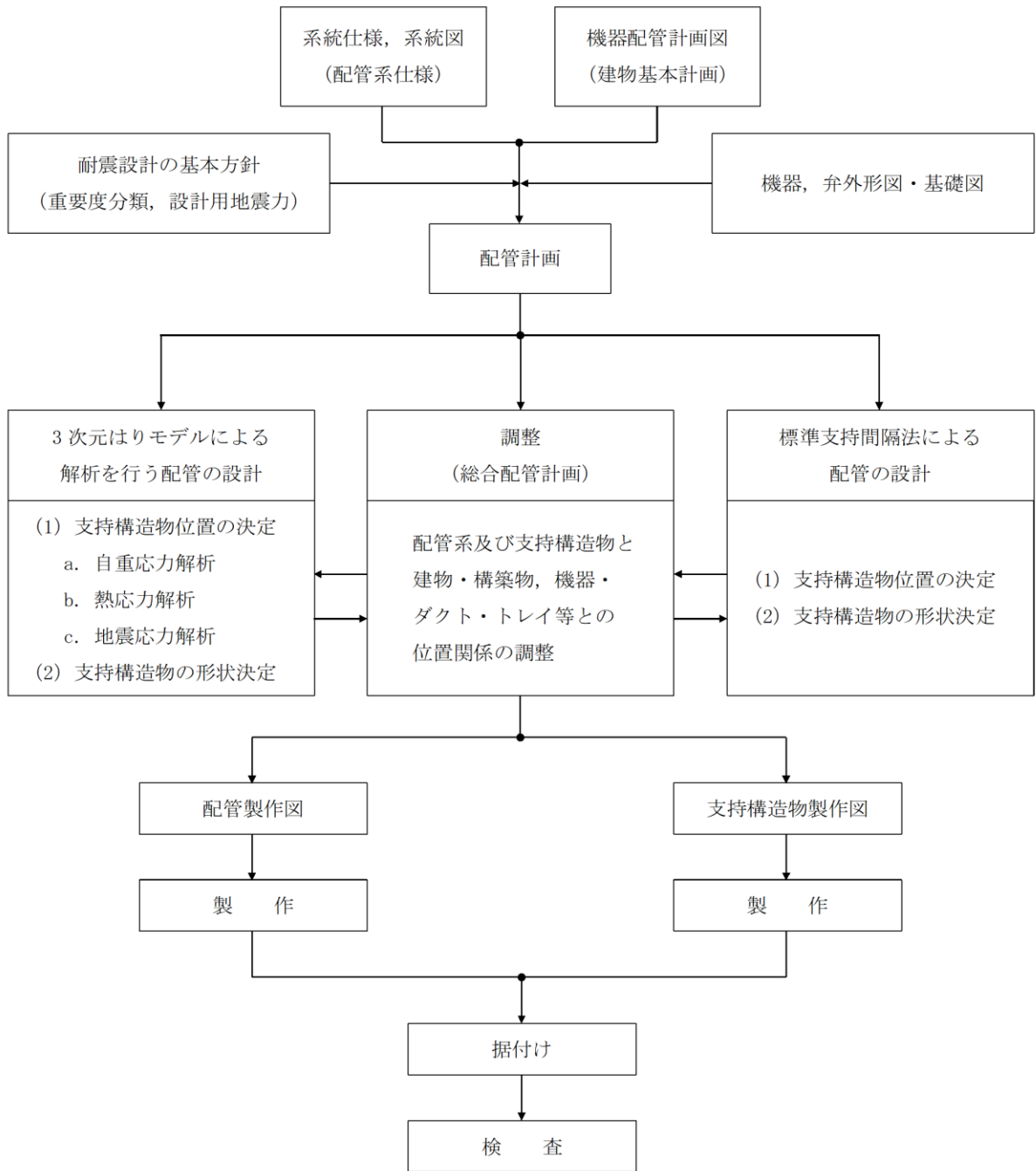


図4-1 配管支持構造物設計フロー

4.2.2 支持装置，支持架構及び埋込金物の設計

(1) 支持装置の設計

a. 設計方針

支持装置にはアンカ，レストレイント，スナッパ，ハンガ及び粘性ダンパがあり，物量が多いことから標準化が図られている。標準化された製品の中から使用条件に適合するものを選定する。これらの支持装置は，定格荷重又は最大使用荷重に対して十分な強度があり，かつ多くの使用実績を有している。支持装置の機能と用途について，表 4-1 「支持装置の機能と用途」に示す。

b. 荷重条件

支持装置の設計は，配管から伝わる荷重に対し，その荷重成分の組合せを考慮して行う。荷重の種類及び組合せについては，VI-2-1-9 「機能維持の基本方針」に従う。

表 4-1 支持装置の機能と用途 (例) (1/2)

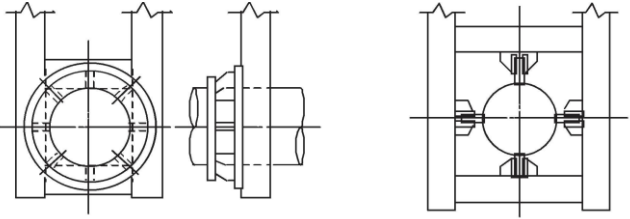
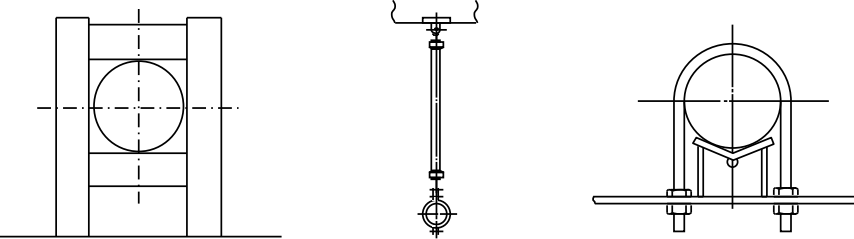

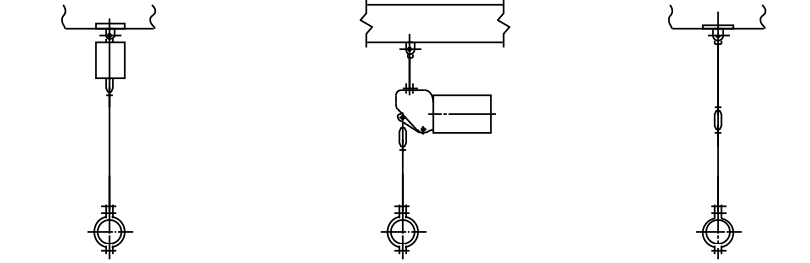
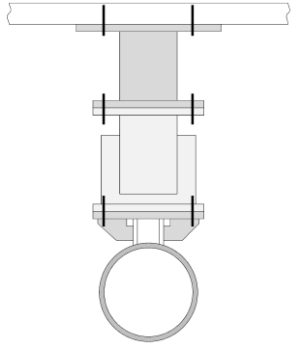
支持構造物名称	概略図	機能	用途
アンカ (アンカサポート) (ガイドサポート)	 <p style="text-align: center;">アンカサポート ガイドサポート</p>	<p>地震及び熱による変位、軸まわりの回転を完全に拘束する。</p> <p>ガイドサポートは、一定方向の移動を許すが軸まわりの回転を拘束する。</p>	<p>固定用サポートとして使用する。また、配管応力解析上の解析モデルの境界として使用する。</p>
レストレイント (架構式レストレイント) (ロッドレストレイント) (Uボルト)	 <p style="text-align: center;">架構式レストレイント ロッドレストレイント Uボルト</p>	<p>地震及び熱による一定方向の変位を拘束する。</p>	<p>配管の回転を許すが変位を防ぐ場合に使用する。</p>
スナップ (オイルスナップ) (メカニカルスナップ)	 <p style="text-align: center;">オイルスナップ メカニカルスナップ</p>	<p>配管の熱膨張のような緩やかな移動に対しては拘束せず、地震時のような急激な荷重発生時に拘束する。</p>	<p>地震等の急激な荷重により生じる応力の低減を目的として使用する。</p>

表 4-1 支持装置の機能と用途 (例) (2/2)

支持構造物名称	概略図	機能	用途
ハンガ (スプリングハンガ) (コンスタントハンガ) (リジットハンガ)	 <p style="text-align: center;"> スプリングハンガ コンスタントハンガ リジットハンガ </p>	<p>配管の自重を支持する目的で使用する。なお、地震荷重に対する拘束効果はなく、耐震支持機能は有していない。</p>	<p>耐震支持機能を有していないことから、地震応力解析上は考慮されない。</p>
粘性ダンパ (3軸粘性ダンパ)	 <p style="text-align: center;">3軸粘性ダンパ</p>	<p>配管の熱膨張のような緩やかな移動に対しては拘束せず、粘性体の流動抵抗を利用してエネルギーを吸収する。</p>	<p>地震応答を低減させることで、地震等の急激な荷重により生じる応力の低減を目的として使用する。</p>

c. 種類及び選定

支持装置の機能別選定要領を、図 4-2「支持構造物の選定フロー」に示す。

(a) アンカ

アンカサポートは、配管に直接溶接されるラグ又は配管固定用クランプと架構部分から構成され、周囲の構造物との関係や支持点荷重を基に選定する。

なお、アンカサポートと同様な構造及び機能であるが、一定の方向だけ熱変位を許容する場合は、ガイドサポートを選定する。

(b) レストレイント

レストレイントは、配管軸直角方向又は配管にラグを設置して配管軸方向の拘束に使用する。架構式レストレイント又はUボルトにおいて、支持点荷重がUボルトの最大使用荷重を超える場合は架構式レストレイントを、支持点荷重がUボルトの最大使用荷重以下の場合はUボルトを選定する。ロッドレストレイントの場合は、定格荷重が支持点荷重を下回らない範囲で、支持点荷重に近い定格荷重のロッドレストレイントを選定する。

なお、周囲の構造物との関係にもよるが、支持点と床、壁等が接近している場合は架構式レストレイント又はUボルトを使用し、支持点から床、壁等までの距離が離れている場合はロッドレストレイントを使用する。

(c) スナップ

定格荷重が支持点荷重を下回らない範囲で、支持点荷重に近い定格荷重のスナップを選定する。

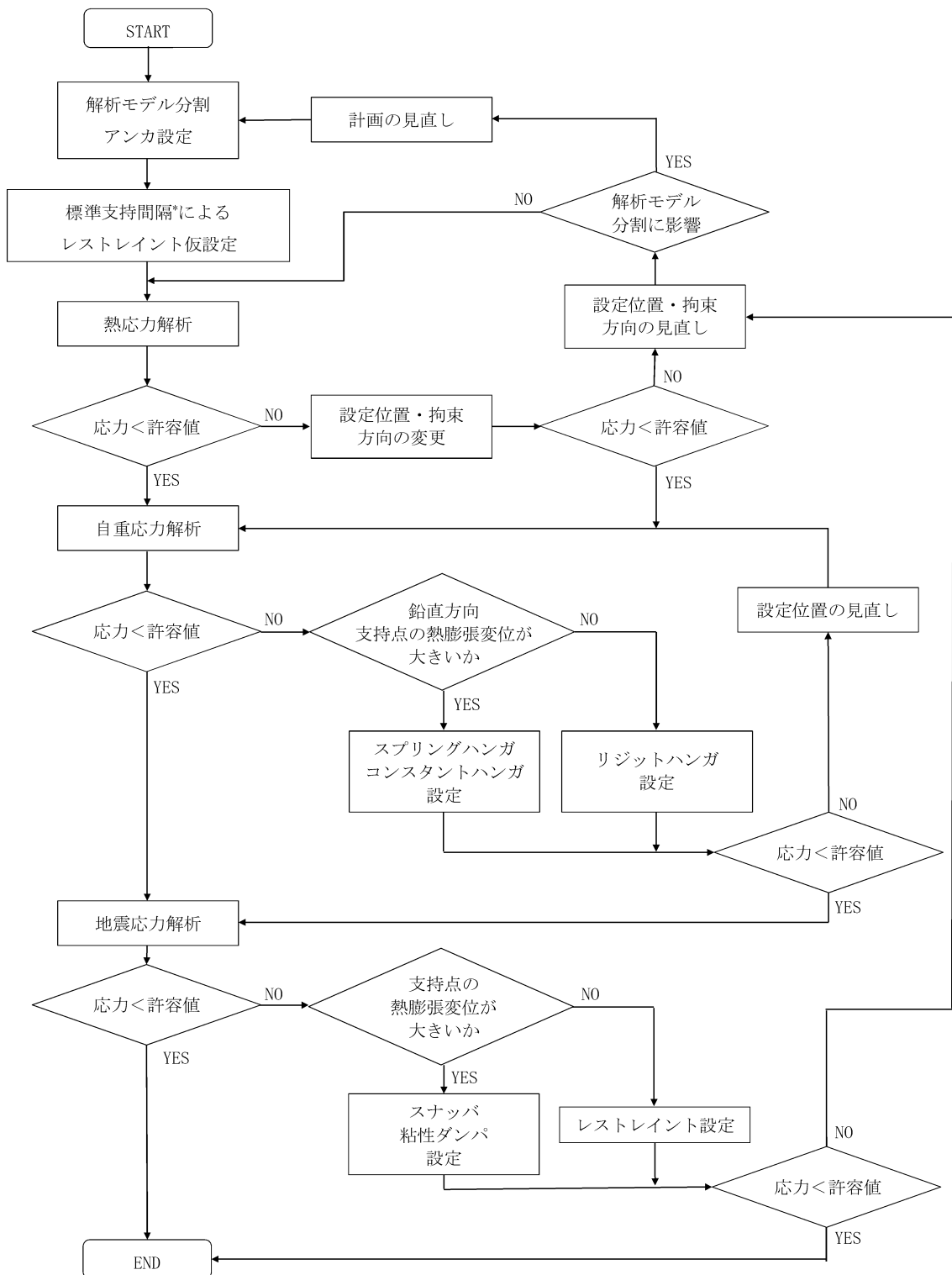
(d) ハンガ

支持点荷重及び熱膨張による変位から、必要なストロークを有し、かつ定格荷重が支持点荷重を下回らない範囲で、支持点荷重に近い定格荷重のハンガを選定する。

通常はスプリングハンガを使用するが、配管の熱膨張によって生じる支持点の変位が大きい場合はコンスタントハンガを、極めて小さい場合はリジットハンガを使用する。

(e) 粘性ダンパ

3軸粘性ダンパは、ピストン、粘性体、ハウジング及び保護スリーブから構成され、ラグ又は配管固定用クランプ及び架構にて支持されており、周囲の構造物との関係や支持点荷重を基に選定する。



注記*：配管の自重応力が 39.2MPa となる支持間隔を目安に軸直角 2 方向レストレイントを仮設定

図 4-2 支持構造物の選定フロー

(2) 支持架構の設計

a. 設計方針

配管及び弁の支持架構は、非常に物量が多いことから、図 4-3「支持架構の基本形状例」に示す基本形状ごとに、以下の要領で鋼材選定の標準化を図って設計に適用する。

- (a) 配管系の支持点荷重から求まる支持構造物に生じる応力と使用材料により定まる許容応力の比較による応力評価又は最大使用荷重と支持点荷重の比較による荷重評価により設計する。
- (b) 支持点荷重を条件とした強度及び耐震評価を行い、発生応力が許容応力を超えないように使用する鋼材（山形鋼，溝形鋼，H形鋼，角形鋼，鋼管等）を決定する。

b. 荷重条件

支持架構の設計は、配管から伝わる荷重に対し、その荷重成分の組合せを考慮して行う。荷重の種類及び組合せについては、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に従う。

c. 種類及び選定

支持架構の選定要領を、図 4-4「支持架構の設計フロー」に示す。

(a) 支持条件の設定

配管の支持点と床，壁面等からの距離及び周囲の設備配置状況から、図 4-3「支持架構の基本形状例」に示す支持架構の基本形状の中から適用タイプを選定する。

支持点荷重は、地震時や各運転状態で生じる荷重又は直管部標準支持間隔における地震時の荷重を用いる。また、支持点荷重を低減する必要がある場合は、実支持間隔による荷重を適用する。

(b) 支持点荷重に基づいた応力評価による鋼材選定

地震時の支持点荷重により鋼材を選定する。

(c) 鋼材と諸設備間との配置調整

決定した鋼材が、他の配管及び周囲の設備との干渉がないか確認する。干渉がある場合は、支持架構の形状寸法又は基本形状の見直しを行って、再度鋼材選定を行う。配管の支持架構の例を、図 4-5「支持架構の例」に示す。

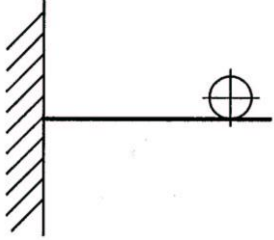
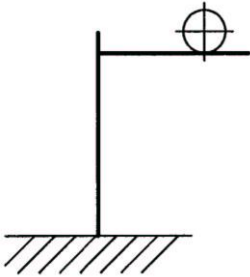
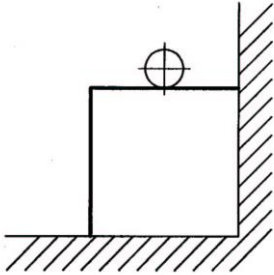
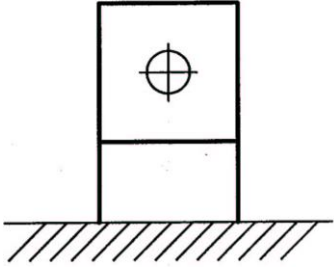
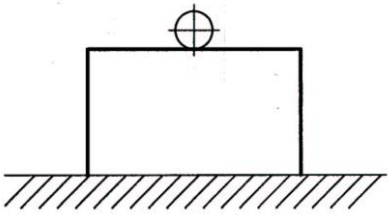
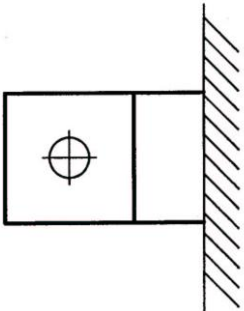
<p style="text-align: center;">タイプ-1</p> 	<p style="text-align: center;">タイプ-4</p> 
<p style="text-align: center;">タイプ-2</p> 	<p style="text-align: center;">タイプ-5</p> 
<p style="text-align: center;">タイプ-3</p> 	<p style="text-align: center;">タイプ-6</p> 

図 4-3 支持架構の基本形状例

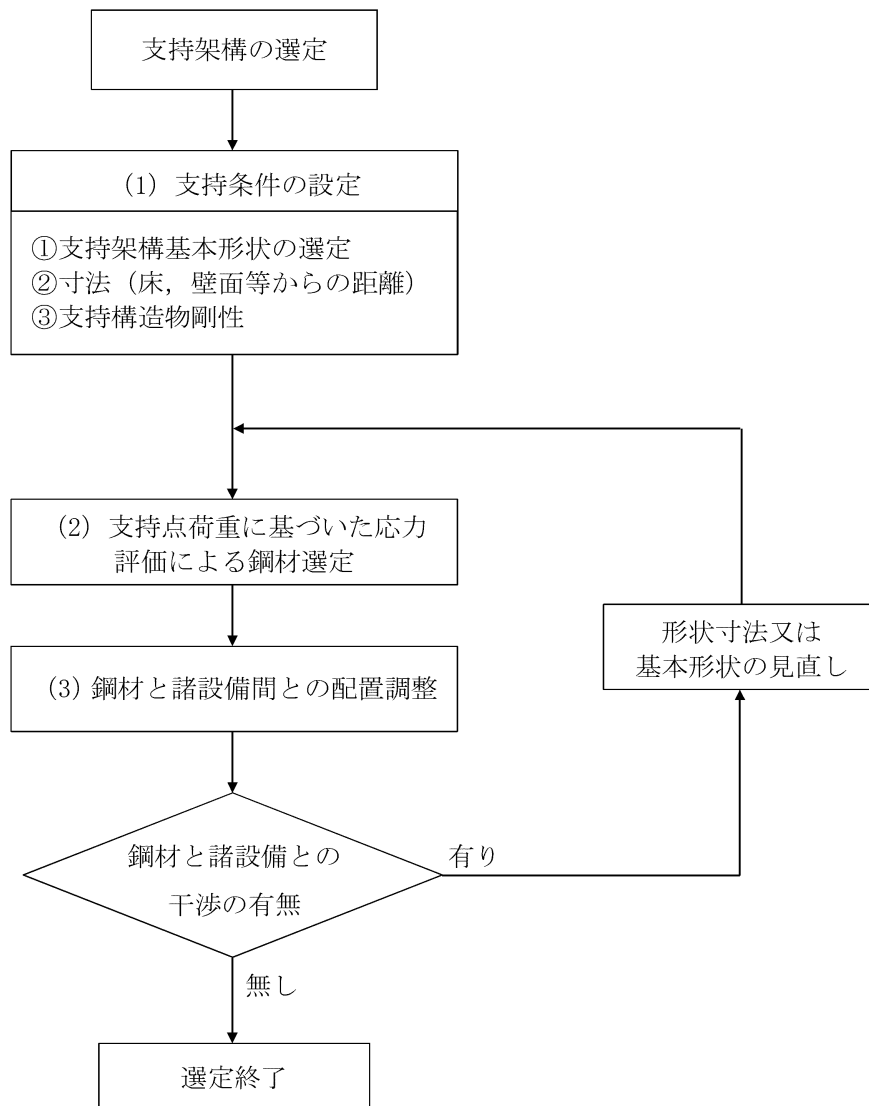


図 4-4 支持架構の設計フロー

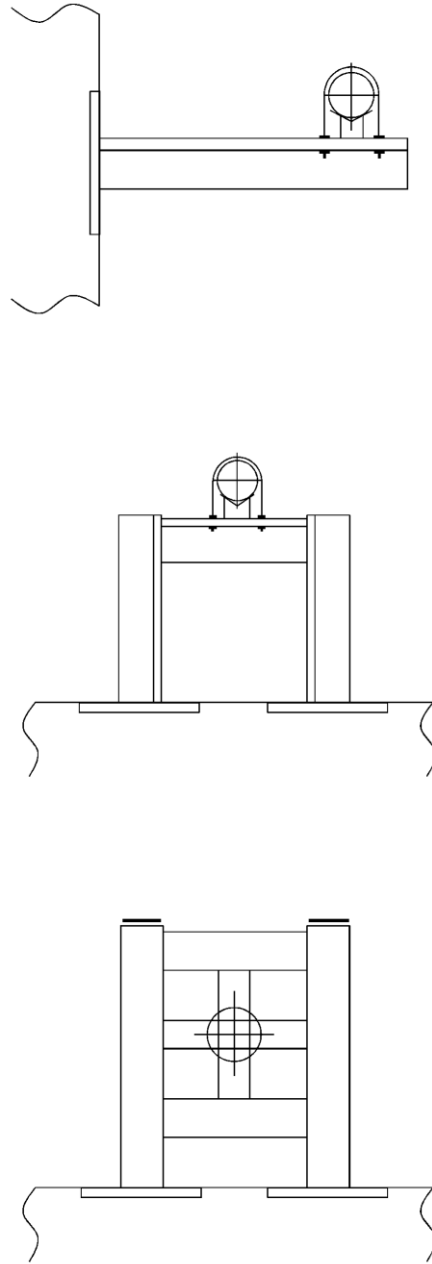


図 4-5 支持架構の例

(3) 埋込金物の設計

a. 設計方針

埋込金物は、支持構造物から加わる荷重を基礎に伝え、支持構造物と一体となって支持機能を満たすように設計する。埋込金物の選定は、支持荷重及び配置を考慮して行う。

b. 荷重条件

埋込金物の設計は、配管から伝わる荷重に対し、その荷重成分の組合せを考慮して行う。荷重の種類及び組合せについては、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に従う。

c. 種類及び選定

埋込金物は、コンクリート打設前に設置し、そのまま埋め込まれるものと、コンクリート打設後に後打ちアンカにより取り付けられるものとに分類され、施工時期に応じて適用する。

いずれの場合も支持装置又は支持架構を溶接により剛に建物側に取り付けることができる。

コンクリート打設前に設置する埋込金物は、鋼板（以下「ベースプレート」という。）にスタッドジベルを溶接した埋込板、基礎ボルトで、用途及び荷重により数種類の型式に分類される。コンクリート打設後に支持装置及び支持架構の取付けが必要な場合は、ケミカルアンカ又はメカニカルアンカを使用する。

ただし、ケミカルアンカは、要求される支持機能が維持できる温度条件下で使用する。また、メカニカルアンカは振動が大きい箇所には使用しない。後打ちアンカの設計は、J E A G 4 6 0 1・補-1984 又は「各種合成構造設計指針・同解説」（日本建築学会、2010年改定）に基づき設計を行い、アンカメーカーが定める施工要領に従い設置する。

埋込金物の形状の代表例を、図4-6「埋込金物の例」に示す。

各種埋込金物の中から、地震時に生じる設計荷重に対して十分な耐震性を有するものを選定する。

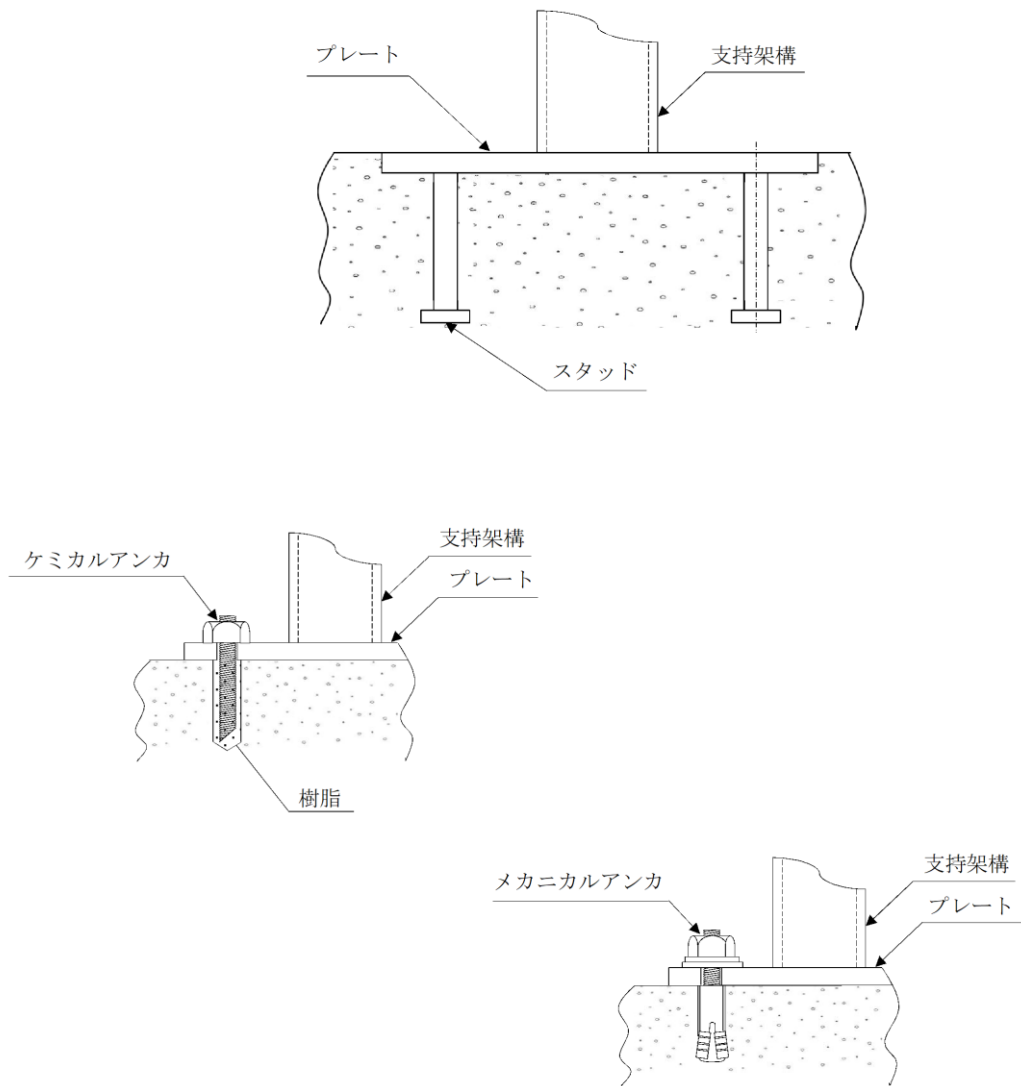


図 4-6 埋込金物の例

(4) 基礎の設計

a. 設計方針

配管の基礎は、支持構造物から加わる自重、地震荷重に対し、有効な支持機能を有するよう設計する。基礎の選定は、配管の支持方法、支持荷重及び配置を考慮して行う。

b. 荷重条件

基礎の設計は、配管から伝わる荷重に対し、荷重成分の組合せを考慮して行う。荷重の種類及び組合せについては、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に従う。

5. その他特に考慮すべき事項

(1) 機器と配管の相対変位に対する考慮

機器と配管との相対変位に対しては、配管側のフレキシビリティでできる限り変位を吸収することとし、機器側管台部又は支持構造物に過大な反力を生じさせないよう配管側のサポート設計において考慮する。

(2) 動的機器の支持に対する考慮

ポンプ、ファン等の動的機器に対しては地震力の他に機器の振動を考慮して支持構造物の強度設計を行う。

また、振動による軸芯のずれを起こさないよう、据付台の基礎へのグラウト固定、取付ボルトの回り止め等の処置を行う。

(3) 建物・構築物との共振の防止

支持に当たっては据付場所に応じ、建物・構築物の共振領域からできるだけ外れた固有振動数を持つよう考慮する。また、共振領域近くで設計する場合は地震応答に対して十分な強度余裕を持つようにする。

(4) 波及的影響の防止

耐震重要度分類における下位クラスの機器の破損によって上位クラスの機器に波及的影響を及ぼすことがないように配置等を考慮して設計するが、波及的影響が考えられる場合には、下位クラス機器の支持構造物は上位クラスに適用される地震動に対して設計する。

(5) 隣接する設備

配管が他の配管又は諸設備と接近して設置される場合は、地震、自重、熱膨張及び機械的荷重による変位があっても干渉しないようにする。保温材を施工する配管については、保温材の厚みを含めても干渉しないようにする。

(6) 材料の選定

材料選定に当たっては、使用条件下における強度に配慮し、十分な使用実績があり、材料特性が把握された安全上信頼性の高いものを使用する。

また、VI-2-1-10「ダクティリティに関する設計方針」の材料の選択方針に基づき、ダクティリティを持つよう配慮する。

別紙 電気計測制御装置等の耐震設計方針

1. 概要

本方針は、電気計測制御装置(以下「電気計装品」という。)の耐震設計の基本方針を示すものである。

2. 耐震設計の範囲

電気計装品の区分及び適用範囲を表 2-1 に示すとおりとし、設計基準対象施設のうち耐震重要度分類が S クラスの電気計装品及び重大事故等対処施設のうち常設耐震重要重大事故防止設備、常設重大事故緩和設備又は常設重大事故防止設備(設計基準拡張)(当該設備が属する耐震重要度分類が S クラスのもの)に該当する電気計装品(以下「上位クラスの電気計装品」という。)を耐震設計の対象とする。

なお、上位クラスの電気計装品が、下位クラスの機器による波及的影響によって、それぞれの安全機能及び重大事故等に対処するために必要な機能を損なわないように設計する。

表 2-1 電気計装品の区分及び適用範囲

区 分	定 義	適 用 範 囲	対 象
1. 盤	電気計装品の一部で、鋼材、鋼板等によって作られた構造物で器具、ケーブル等を含み、電気系、計装系の信号の処理、制御及び操作系の保護、開閉並びに電力の変換等の機能をもっているものをいう。	盤本体の他にチャンネルベース、盤とチャンネルベース取付ボルト及び基礎ボルトまで含む。	中央制御盤類、閉鎖配電盤、パワーセンタ、コントロールセンタ、計装ラック、現場操作盤、静止形インバータ、蓄電池用充電器等
2. 装置	電力の変換、あるいはエネルギーの変換を目的とした電気計装品の一部をいう。	ディーゼル発電機は発電機本体及び基礎ボルトを含む。 蓄電池は接続導体、架台及び基礎ボルトまで含む。	変圧器、ディーゼル発電機、補機用電動機、電動発電機、蓄電池等
3. 器具	電気計装品において取り扱われる信号又は電力に対し、検出、変換、演算、制御等の操作を行い、電気系、計装系の機能を作り出す要素をいう。これらは盤類に取り付けられ、あるいは所定の取付場所に設置される。	発信器、検出器等のように計装配管に取り付けられたり、現場に支持金物で据え付けられるものはその取付金物まで含む。	各種検出器、発信器、保護継電器、制御継電器、演算器、スイッチ、遮断器、指示計、計器用変成器、変流器等
4. 電路類	電線、ケーブル、導体等の形で電流が通じている回路が、鋼板その他の材料で構成された支持及び保護の役目をする構造物に収納されている場合、その構造物及び電気回路を含めて電路類という。	ケーブルトレイ、バスダクト、電線管等の支持構造物及び埋込金物を含む。 計装配管は、止め弁以降の計装配管、支持構造物及び埋込金物を含む。	ケーブルトレイ、バスダクト、電線管、ケーブルペネトレーション、計装配管等

3. 耐震設計の手順

具体的な手順は、構造上及び機能上の性質により異なるので、電気計装品を盤、装置、器具及び電路類の4種類に大別し、以下各々についてその手順を示す。

3.1 盤の耐震設計手順（図3-1参照）

盤は、多種多様の器具を収納する集合体であるので、構造的、機能的に設計地震力に対して健全でなければならない。

解析モデル化が可能で解析が容易である場合は「振動特性解析による方法」を採用し、解析モデル化が不可能な場合若しくは解析モデル化が可能であっても実験によって耐震性を検定するのが容易な場合は、「振動特性試験による方法」を採用する。

振動特性解析又は振動特性試験によって剛構造かどうかを判定し、剛構造であれば静的解析により構造的及び機能的健全性を確認する。剛構造でない場合は、応答解析又は応答試験を実施する。

応答試験による場合は、取付けられる器具を実装して行うことが容易な場合には、実装集合体応答試験により構造的及び機能的健全性を確認する。

また、器具を実装して行うことが困難な場合には物理的、構造的に実物を模擬したものを取付けた模擬集合体応答試験を行い構造的健全性を確認するとともに、模擬器具取付点の応答を測定し、器具の単体で検定された検定スペクトルと比較することにより機能的健全性を確認する。

応答解析による場合は、解析により構造的健全性を確認するとともに器具の取付点の応答と器具単体で得られた検定スペクトルとを比較することにより、機能的健全性を確認する。

3.2 装置の耐震設計手順（図3-2参照）

装置は、一般に剛構造であり、その機能は、構造的健全性が保たれている限り失われることはない。したがって、耐震性の検討は、静的解析を行って構造的健全性を確かめる。ただし剛構造でない場合は、盤と同様に応答解析又は応答試験によって構造的健全性を確認する。

3.3 器具の耐震設計手順（図3-3参照）

器具の耐震性の検討は、構造、機能の両面について行う。器具は、構造的及び機能的健全性を保持し得る限界入力又は許容入力値を求める一般検定試験（又は限界性能試験）を行い、検定スペクトルを求め、これと取付け位置の応答とを比較することにより耐震性を判定する。一般検定試験を行えない場合は、器具取付け位置の動の入力によって応答試験を行うことにより耐震性を判定する。

器具の中で、計器用変成器等のように剛体と見なせるものであって構造的に健全であれば、その機能が維持されるものについては装置と同様に静的解析を行って構造的健全性を確認する。

3.4 電路類の耐震設計手順（図3-4参照）

電路類は、構造的に健全ならば機能が維持されるので構造的検討のみを行う。この際には3

次元はりモデルによる解析又は標準支持間隔法を用いる。3次元はりモデルによる解析の場合は、固有振動数に応じて応答解析による方法又は静的解析による方法を用いて構造的健全性を確認する方針とする。また、標準支持間隔法を用いる場合は、振動数基準又は応力基準による標準支持間隔法を基本として標準支持間隔を設定し、標準支持間隔以内で支持することにより耐震性を確保する。

また、各建物間又は建物と建物外の地盤とにまたがって設置されるものについては、それらの地震時の相対変位を吸収できる構造とする。

熱膨張等を考慮しなければならないものについては、その荷重に対して構造的健全性を確認する方針とする。

3.5 既存資料の利用による耐震設計

電気計装品の耐震設計は、既に振動実験若しくは解析が行われており、かつ、その電気計装品が本原子力発電所に使用されるものと同等又は類似と判断される場合には、その実験データ若しくは解析値を利用して耐震設計を行う。

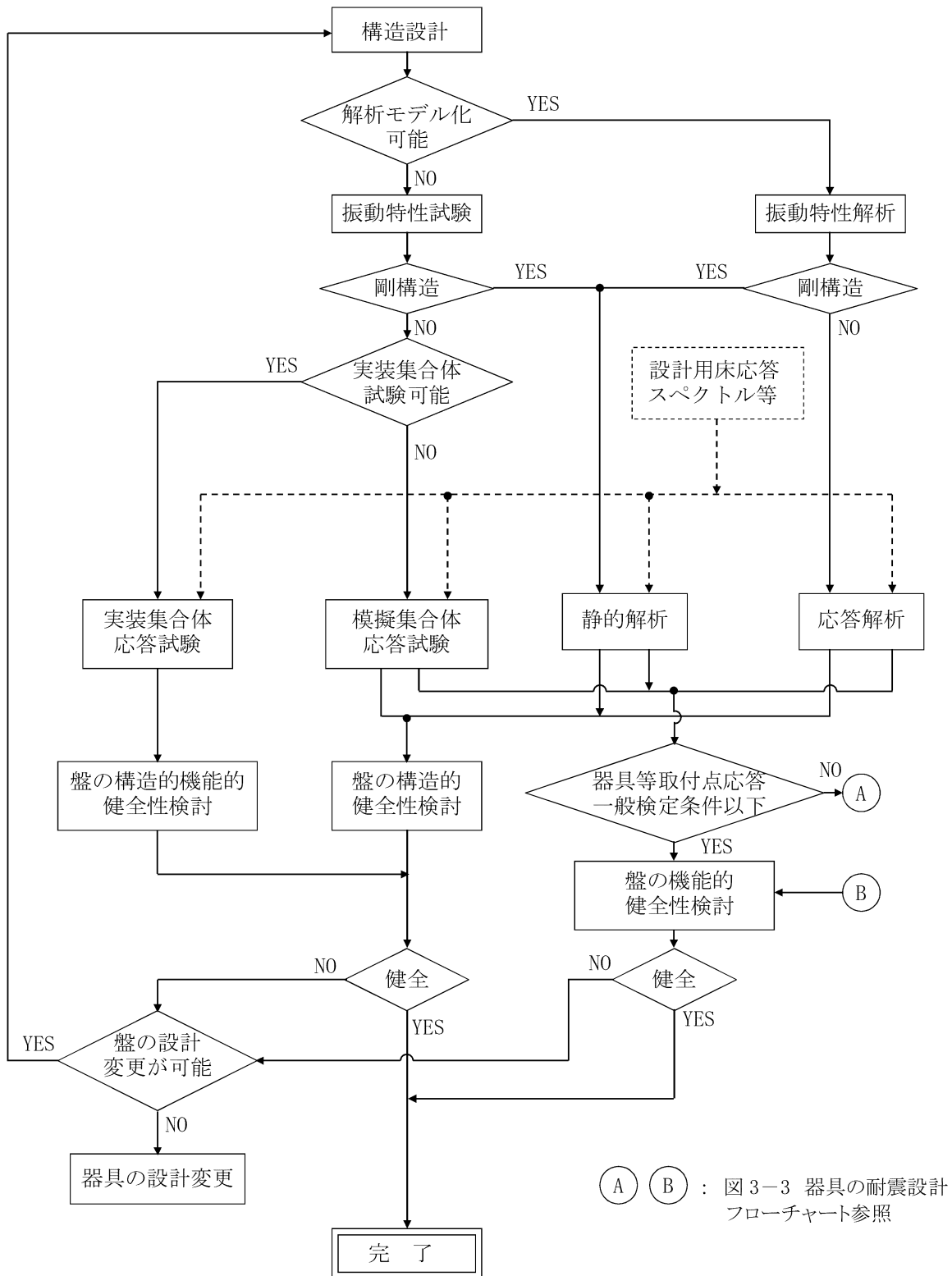


図 3-1 盤の耐震設計フローチャート

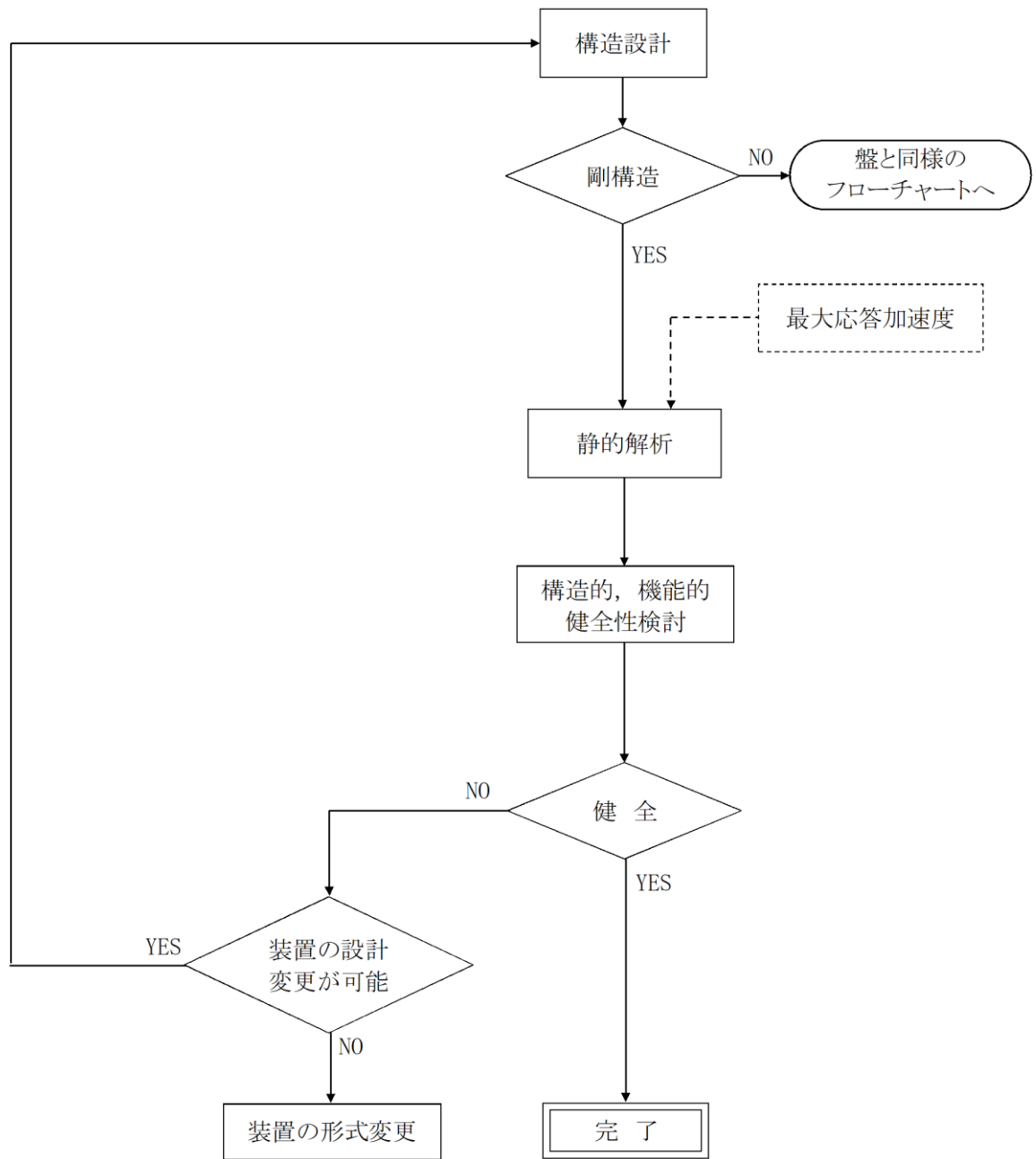


図3-2 装置の耐震設計フローチャート

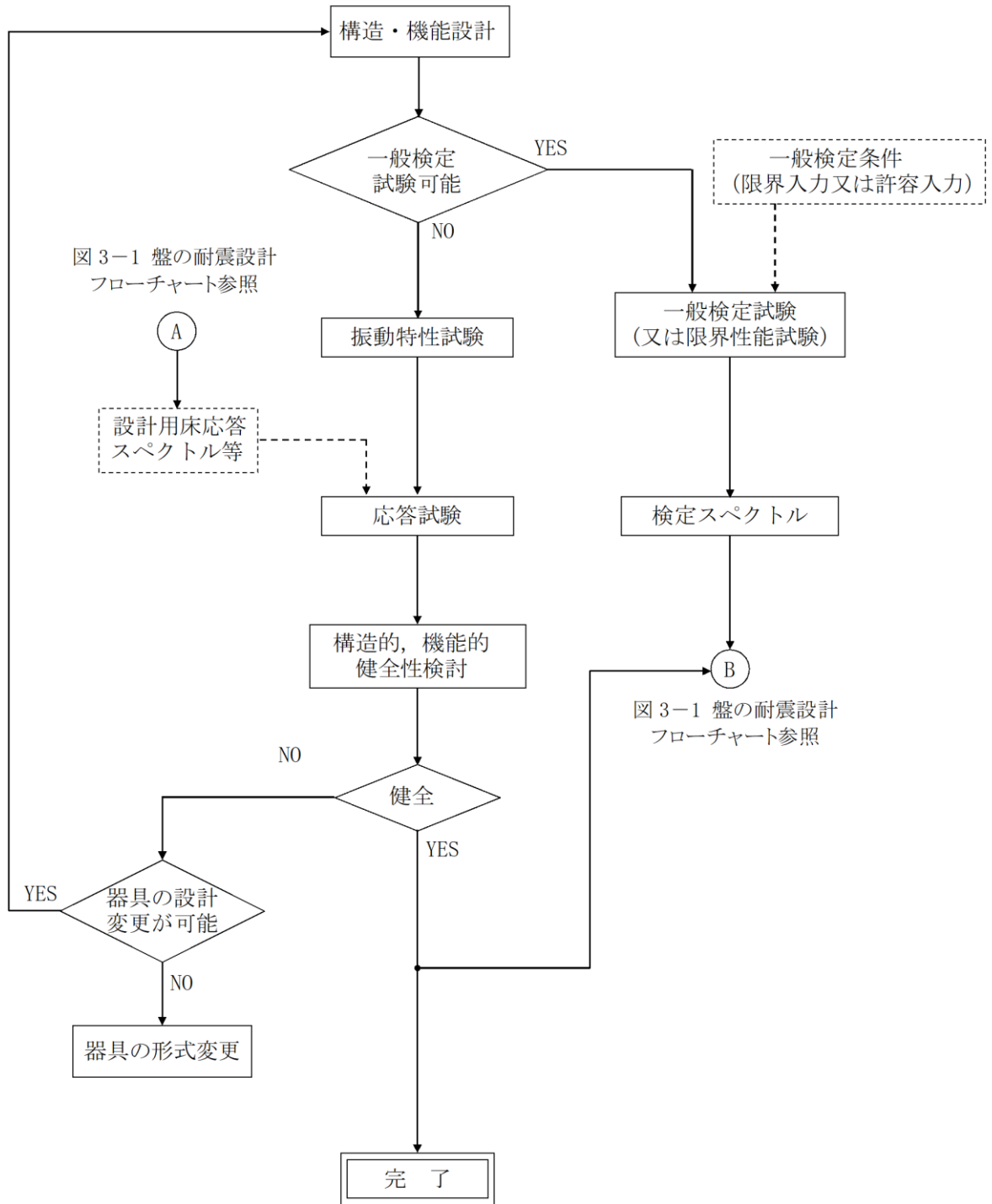


図 3-1 盤の耐震設計
フローチャート参照

図 3-1 盤の耐震設計
フローチャート参照

図 3-3 器具の耐震設計フローチャート

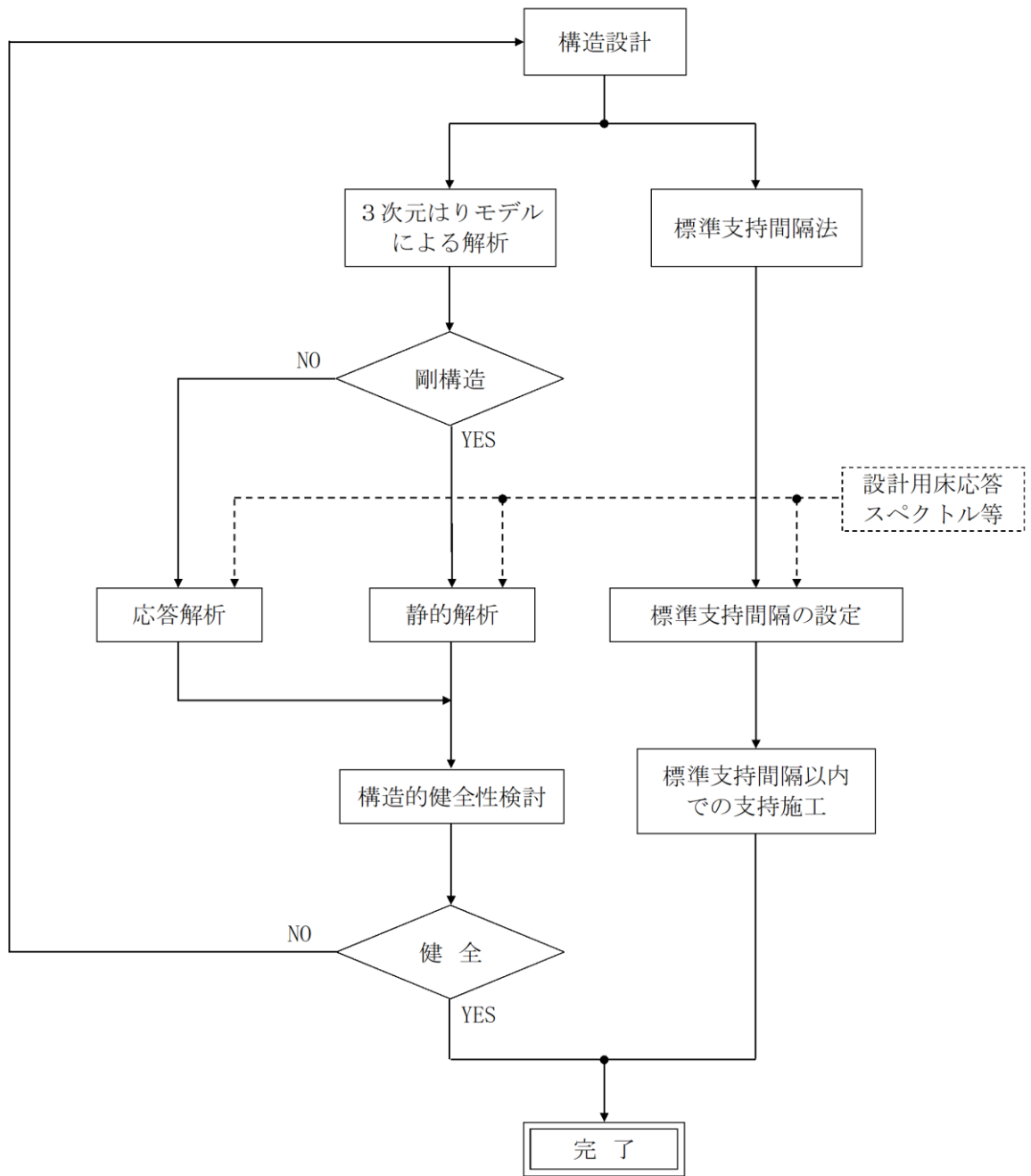


図 3-4 電路類の耐震設計フローチャート

VI-2-1-13 ダクト及び支持構造物の耐震計算について

目 次

1. 概要	1
2. 耐震設計の原則	1
3. ダクト及び支持構造物の設計手順	1
4. ダクト設計の基本方針	2
4.1 重要度別による設計方針	2
4.2 荷重の組合せ	2
4.3 設計用地震力	3
4.4 ダクト支持点の設計方法	4
4.4.1 手法1の支持間隔算定方法	4
4.4.2 手法2の支持間隔算定方法	4
4.4.3 手法3の支持間隔算定方法	4
4.5 耐震支持間隔	6
4.5.1 矩形ダクトの固有振動数	6
4.5.2 円形ダクトの固有振動数	7
4.5.3 矩形ダクトの座屈評価	8
4.5.4 円形ダクトの座屈評価	9
4.6 支持方法	11
4.7 ダクトの構造	11
4.8 伸縮継手の使用	13
5. 支持構造物設計の基本方針	14
5.1 支持構造物の構造及び種類	14
5.2 支持構造物に関する考慮事項	14

1. 概要

本方針は、空調換気系ダクトに適用し、ダクト支持について耐震設計上十分安全であるように考慮すべき事項を定めたものである。

2. 耐震設計の原則

- (1) ダクト及びその支持構造物は、耐震重要度分類に応じた地震力に対して十分な強度を有するように設計する。
- (2) ダクトが建物又は構築物相互間を通過する場合は、建物又は構築物の相対変位を考慮し、これに対して支障ない構造とする。

3. ダクト及び支持構造物の設計手順

ダクトの経路は、建物の形状、機器の配置、配管、ケーブルトレイ等の経路を考慮し、耐震性を加味して決定する。また、建物及び構築物間の相対変位に十分耐えられるようにする。

以上を考慮して決定されたダクト経路について支持方法を定めて、ダクトが十分な耐震強度を有するように支持点を決定する。

4. ダクト設計の基本方針

4.1 重要度別による設計方針

ダクトは、耐震重要度分類に応じてクラス分類し、表4-1に示す設計方針とする。

表4-1 耐震重要度分類と設計方針

分類	耐震重要度分類	機器等の区分	設計方針
設計基準 対象施設	Sクラス	—	地震時の加速度及び相対変位に対し機能が保たれるようサポートのスパン長を最大許容ピッチ以下に確保すること。
	Bクラス		
	Cクラス		
重大事故等 対処設備	—	重大事故等 クラス2管	

4.2 荷重の組合せ

$$D + P_D + M_D + S_s \quad \dots\dots\dots (4. 1)^{*1}$$

$$D + P_D + M_D + S_d^* \quad \dots\dots\dots (4. 2)$$

$$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_s \quad \dots\dots\dots (4. 3)$$

ここで、

D：死荷重^{*2}

P_D ：最高使用圧力による機械的荷重

M_D ：設計上定められた機械的荷重

S_s ：基準地震動 S_s より定まる地震力^{*2}

S_d^* ：弾性設計用地震力 S_d より定まる地震力又は静的地震力^{*3}

P_{SAD} ：SA時における最高使用圧力による機械的荷重

M_{SAD} ：SA時における設計上定められた機械的荷重

注記*1：(4. 3)式「 $D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_s$ 」が(4. 1)式「 $D + P_D + M_D + S_s$ 」の評価に包絡される場合は、(4. 3)式「 $D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_s$ 」による評価を省略する。

*2：ダクトは座屈評価のため、死荷重(D)、地震荷重(S_s)を考慮して評価を行う。

3：ダクトの耐震支持間隔の算出においては、許容値となる許容座屈曲げモーメントの算出に当たり、評価手法上、ダクト材の降伏点又は弾性座屈応力を使用するため、 S_s に対する評価と S_d^ に対する評価に用いる係数、許容値に差異はない。したがって、発生曲げモーメントの算出に当たり、表4-2に示すように S_d^* が S_s に包絡される場合は、 S_d^* に対する評価を省略する。

表4-2 「基準地震動 S_s 」と「弾性設計用地震動 S_d 又は静的地震力」の比較例

建物・構築物	設計用地震力	標高 (EL) (m)	震度				
			静的震度又は $1.2 \cdot ZPA$		設計用床応答*2 スペクトル		
			水平	鉛直	固有周期 (s)	水平	鉛直
原子炉建物	基準地震動 S_s	42.8	1.75	1.81	0.066	4.96	7.49
	弾性設計用地震動 S_d 又は静的地震力*1		1.36	0.98		2.64	3.83

注記*1：静的震度及び $1.2 \cdot ZPA$ のうち、大きな値を示す。（ $1.2 \cdot ZPA$ ：基準床の設計用震度の 1.2 倍の値）

*2：ダクトの固有周期は、設計用床応答スペクトルのピーク周期の $1/\sqrt{2}$ 倍よりも短周期側であり、水平、鉛直震度は、それぞれ当該固有周期よりも短周期側における最大応答を示す。

4.3 設計用地震力

ダクトについては、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」に示す設計用地震力を用いて評価を行う。なお、「4.4 ダクト支持点の設計方法」のうち、手法1はダクトの固有振動数が十分剛（20Hz以上）となる領域で設計することから、静的震度及び $1.2 \cdot ZPA$ を使用する。

また、手法2はダクトの固有周期が0.05秒よりも長周期側で、かつ設計用床応答スペクトルのピーク周期の $1/\sqrt{2}$ 倍よりも短周期側となる領域で設計することから、設計用床応答スペクトルの震度を使用する。減衰は、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。

なお、この際に使用する設計用床応答スペクトルの震度は、図4-1に示すように谷埋め／ピーク保持を行い、右肩上がりの領域で設計することで保守性を担保する。

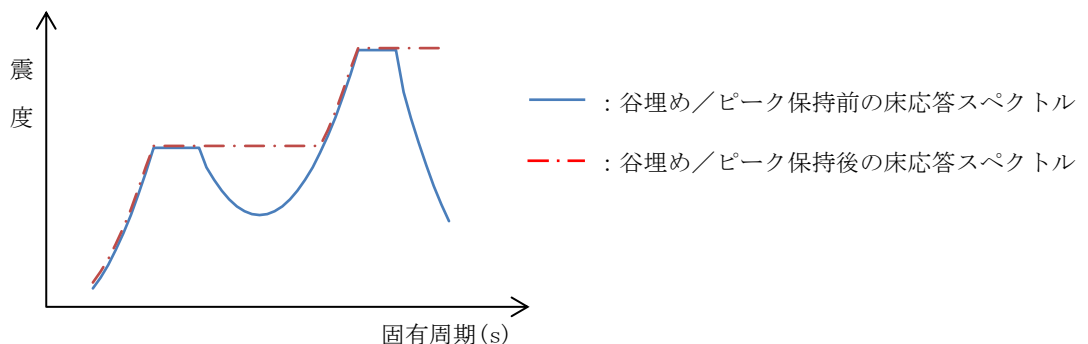


図4-1 床応答スペクトルの谷埋め／ピーク保持の例

4.4 ダクト支持点の設計方法

ダクト及びその支持構造物は適切な剛性を有するとともに、許容座屈曲げモーメントを満足する支持間隔とすることにより耐震性を確保する。

支持間隔の算定は、ダクトの固有振動数(f)が十分剛(20Hz以上)となるよう算定する手法とダクトの固有振動数に応じた地震力で算定する手法があり、このうち前者を手法1、後者を手法2と呼ぶ。

また、ダクトのモデル化及び地震応答解析を行い、支持間隔を設定する手法があり、これを手法3と呼ぶ。この3つの手法を用いて支持点を決定する。

ダクトの支持点は、まず手法1の支持間隔で計画し、施工性及びダクトの周辺条件等を考慮して手法1の支持間隔以内に収まらない場合は、手法2もしくは手法3の支持間隔で計画する。

以上、3つの手法による支持点決定までの設計手順を図4-2に示す。

4.4.1 手法1の支持間隔算定方法

ダクトの固有振動数が20Hz以上となる支持間隔と静的震度及び1.2・ZPAによりダクトに生じる曲げモーメントが許容座屈曲げモーメント以下となる支持間隔を算定し、いずれか小さい方を支持間隔とする。

4.4.2 手法2の支持間隔算定方法

静的震度及び1.2・ZPA並びに設計用床応答スペクトルから地震力を算定し、ダクトに生じる曲げモーメントが許容座屈曲げモーメント以下となるように支持間隔を算定する。

4.4.3 手法3の支持間隔算定方法

ダクトを多質点系モデルにモデル化し、有限要素法によりダクトに生じる曲げモーメントを求め、許容座屈曲げモーメント以下となるように支持間隔を設定する。

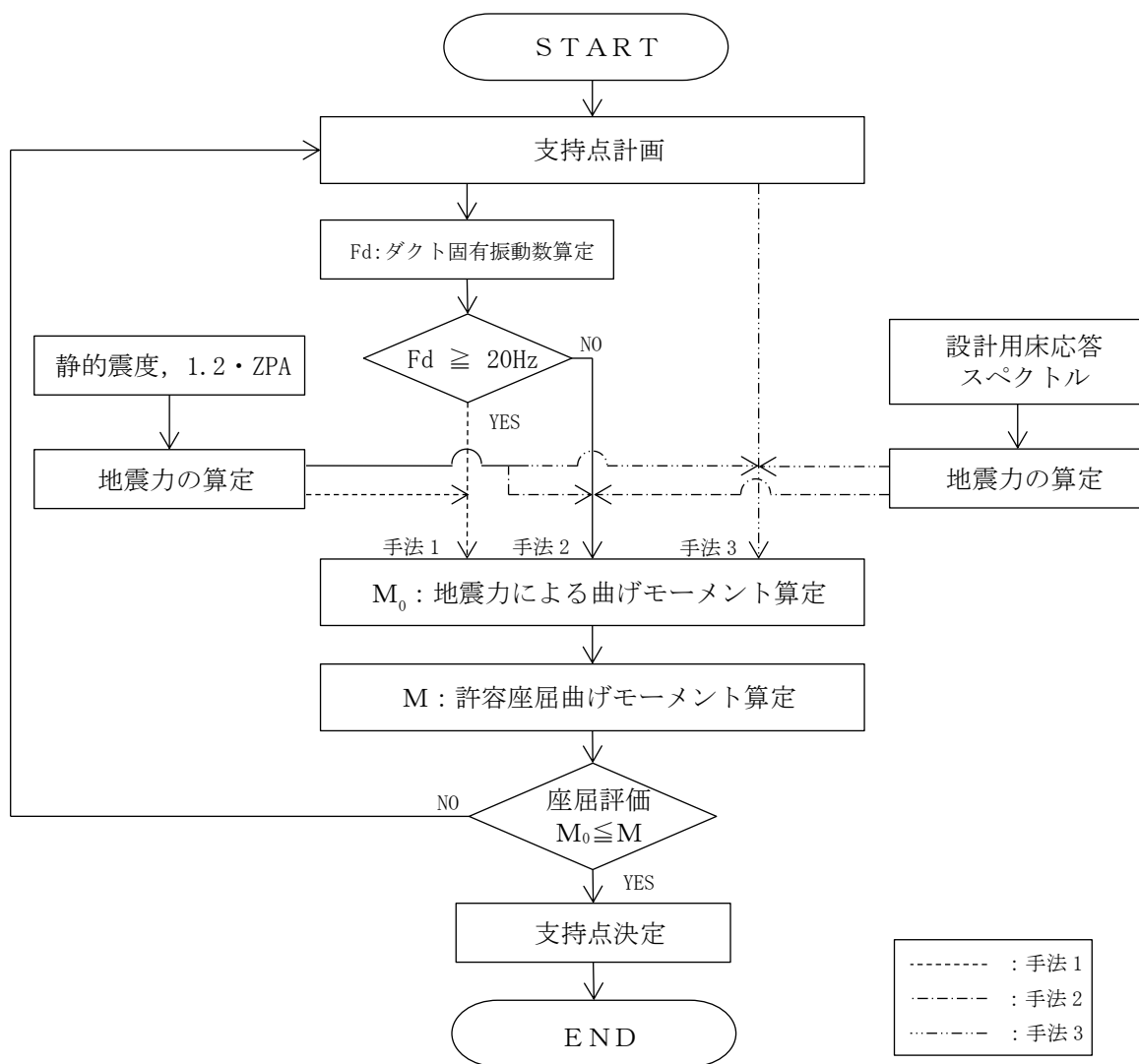


図4-2 ダクトの支持点設計手順

4.5 耐震支持間隔

ダクトの耐震支持間隔は、ダクトが薄板構造であることを考慮した剛性評価及び座屈強度に基づき定める。

4.5.1 矩形ダクトの固有振動数

両端単純支持された矩形ダクトの固有振動数は、次式で与えられる。

$$f = \frac{\pi}{2 \cdot \ell^2} \cdot \sqrt{\frac{E \cdot I \cdot g}{W}} \quad \dots\dots\dots (4. 4)$$

ここで、図4-3に示す矩形ダクトの断面二次モーメントは、

$$I = \left(\frac{t \cdot be^3}{6} + a \cdot e \cdot t \cdot \frac{be^2}{2} \right) \cdot \beta \quad \dots\dots\dots (4. 5)$$

(4. 4)及び(4. 5)式の出典：共同研究報告書「機器配管系の合理的な耐震設計手法の確立に関する研究」(S60～S61)

ここで、

- f : 固有振動数 (Hz)
 - π : 円周率 (—)
 - ℓ : 両端単純支持間隔 (mm)
 - E : 縦弾性係数 (MPa)
 - g : 重力加速度 (mm/s²)
 - I : 断面二次モーメント (mm⁴)
 - W : ダクト単位長さ重量 (N/mm)
 - β : 断面二次モーメントの安全係数* (—)
- (幅厚比 $b / t \leq 600 \dots \beta = 0.75$, $b / t > 600 \dots \beta = 0.6$)

注記* : 出典 共同研究報告書「機器配管系の合理的な耐震設計手法の確立に関する研究」(S60～S61)より、理論値と実験値の比率から定まる係数を用いる。

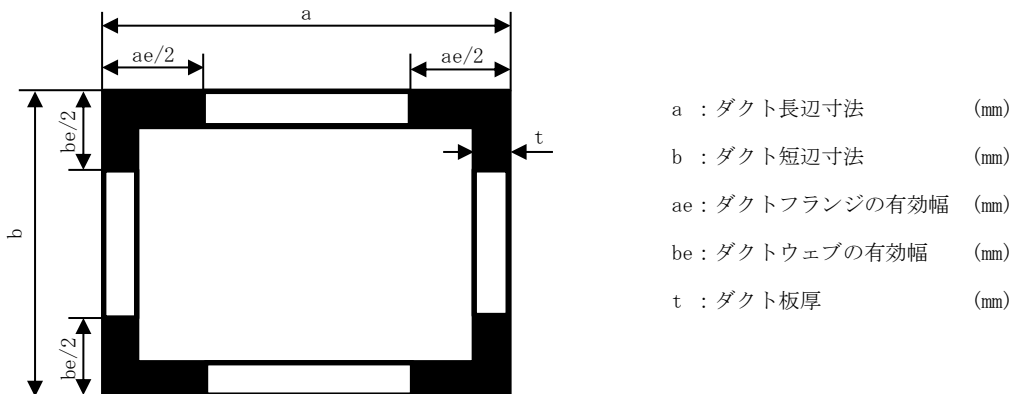


図4-3 矩形ダクトの断面図

4.5.2 円形ダクトの固有振動数

両端単純支持された円形ダクトの固有振動数は、次式で与えられる。

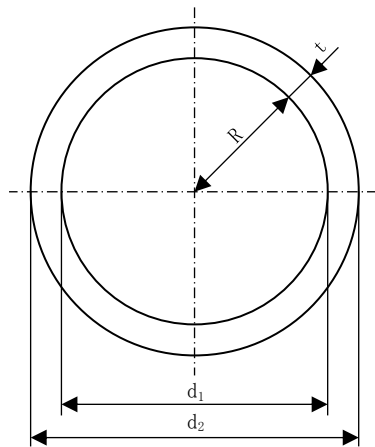
$$f = \frac{\pi}{2 \cdot \ell^2} \cdot \sqrt{\frac{E \cdot I \cdot g}{W}} \dots\dots\dots (4. 6)$$

ここで、図4-4に示す円形ダクトの断面二次モーメントは、

$$I = \frac{\pi}{64} \cdot (d_2^4 - d_1^4) \dots\dots\dots (4. 7)$$

ここで、

- f : 固有振動数 (Hz)
- π : 円周率 (-)
- ℓ : 両端単純支持間隔 (mm)
- E : 縦弾性係数 (MPa)
- g : 重力加速度 (mm/s²)
- I : 断面二次モーメント (mm⁴)
- W : ダクト単位長さ重量 (N/mm)



- d_1 : ダクト内径寸法 (mm)
- d_2 : ダクト外径寸法 (mm)
- R : ダクト内半径寸法 (mm)
- t : ダクト板厚 (mm)

図4-4 円形ダクトの断面図

4.5.3 矩形ダクトの座屈評価

地震時，両端支持されたダクトに生じる曲げモーメントは次式で与えられる。

$$M_0 = \frac{\alpha \cdot W \cdot \ell^2}{8} \dots\dots\dots (4. 8)$$

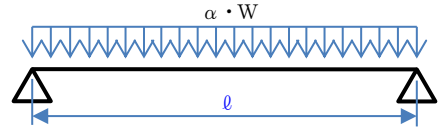


図4-5 両端単純支持梁

ここで，設計震度 α は水平震度又は鉛直震度の大きい方をダクト短辺寸法に考慮する。なお，鉛直震度の評価では自重も考慮する。また，ダクトの座屈による大変形を防ぐためにダクトに生じる曲げモーメントが許容座屈曲げモーメント以下となるようにする。

$$M_0 \leq M \dots\dots\dots (4. 9)$$

(4. 7)，(4. 8)式より許容座屈曲げモーメントから定まる支持間隔は次式で与えられる。

$$\ell = \sqrt{\frac{8 \cdot M}{W \cdot \alpha}} \dots\dots\dots (4. 10)$$

ここで，

$$M = S \cdot M_T \dots\dots\dots (4. 11)$$

$$M_T = \lambda \cdot \frac{\pi \cdot t \cdot I}{\sqrt{1 - \nu^2} \cdot b^2} \cdot \sqrt{E \cdot \sigma_y \cdot \gamma} \dots\dots\dots (4. 12)$$

$$I = \frac{t \cdot b^3}{6} + a \cdot e \cdot t \cdot \frac{b^2}{2} \dots\dots\dots (4. 13)$$

(4. 9)から(4. 13)式の出典：共同研究報告書「機器配管系の合理的な耐震設計手法の確立に関する研究」(S60～S61)

ここで，

- M_0 : 発生曲げモーメント (N・mm)
- α : 設計震度 (水平震度又は鉛直震度の大きい方) (－)
- W : ダクト単位長さ重量 (N/mm)
- ℓ : 両端単純支持間隔 (mm)
- M : 許容座屈曲げモーメント (N・mm)
- S : 許容座屈曲げモーメントの安全係数 (－)
- M_T : 座屈限界曲げモーメント (N・mm)
- λ : 座屈限界曲げモーメントの補正係数* (－)
- t : ダクト板厚 (mm)
- I : 断面二次モーメント (mm⁴)

- ν : ポアソン比 (—)
- b : ダクト短辺寸法 (mm)
- E : 縦弾性係数 (MPa)
- σ_y : 降伏点 (MPa)
- γ : 座屈限界曲げモーメントの安全係数* (—)
- a_e : ダクトフランジの有効幅 (mm)

注記* : 出典 共同研究報告書「機器配管系の合理的な耐震設計手法の確立に関する研究」(S60～S61)より、理論値と実験値の比率から定まる係数を用いる。

4.5.4 円形ダクトの座屈評価

地震時、両端支持されたダクトに生じる曲げモーメントは次式で与えられる。

$$M_0 = \frac{\alpha \cdot W \cdot \ell^2}{8} \dots\dots\dots (4. 14)$$

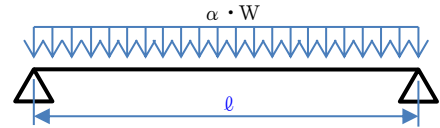


図4-6 両端単純支持梁

ここで、設計震度 α は水平震度と鉛直震度をベクトル和で組合せ、自重も考慮する。また、ダクトの座屈による大変形を防ぐためにダクトに生じる曲げモーメントが許容座屈曲げモーメント以下となるようにする。

$$M_0 \leq M \dots\dots\dots (4. 15)$$

(4. 14)、(4. 15)式より許容座屈曲げモーメントから定まる支持間隔は次式で与えられる。

$$\ell = \sqrt{\frac{8 \cdot M}{W \cdot \alpha}} \dots\dots\dots (4. 16)$$

ここで、

$$M = S \cdot M_T \dots\dots\dots (4. 17)$$

$$M_T = \min(\sigma_{cr}, \sigma_y) \cdot Z \dots\dots\dots (4. 18)$$

$$\sigma_{cr} = \frac{M_{cr}}{Z} \dots\dots\dots (4. 19)$$

$$M_{cr} = \frac{\beta \cdot E \cdot R \cdot t^2}{(1 - \nu^2)} \dots\dots\dots (4. 20)$$

$$Z = \frac{\pi}{32} \cdot \frac{d_2^4 - d_1^4}{d_2} \dots\dots\dots (4. 21)$$

ここで,

M_0	: 発生曲げモーメント	(N・mm)
α	: 設計震度 (水平震度及び鉛直震度のベクトル和)	(-)
W	: ダクト単位長さ重量	(N/mm)
l	: 両端単純支持間隔	(mm)
M	: 許容座屈曲げモーメント	(N・mm)
S	: 許容座屈曲げモーメントの安全係数	(-)
M_T	: 座屈限界曲げモーメント	(N・mm)
σ_{cr}	: 弾性座屈応力	(MPa)
σ_y	: 降伏点	(MPa)
Z	: 断面係数	(mm ³)
M_{cr}	: 弾性座屈曲げモーメント	(N・mm)
β	: 弾性座屈曲げモーメントの補正係数	(-)
E	: 縦弾性係数	(MPa)
R	: ダクト内半径寸法	(mm)
t	: ダクト板厚	(mm)
ν	: ポアソン比	(-)
π	: 円周率	(-)
d_1	: ダクト内径寸法	(mm)
d_2	: ダクト外径寸法	(mm)

4.6 支持方法

(1) 直管部

ダクトの直管部は、4.5項で求まる支持間隔以下で支持するものとする。また、直管部が長い箇所には軸方向を拘束する支持構造物を設ける設計とする。

(2) 曲管部

曲管部は、直管部に比べ剛性及び強度が低下するが、4.5項で求まる支持間隔は、これら曲管部の縮小率を包絡する支持間隔としている。又は、保守的に4.5項で求まる支持間隔に縮小率を乗じた支持間隔を用いて支持点を設計する。

(3) 分岐部

分岐部は、4.5項で求まる支持間隔に縮小率を乗じた支持間隔を用いて支持点を設計する。

(4) 重量物の取付部

ダクトに自動ダンパ等の重量物が取付く場合は、その近傍又は重量物自体を支持するものとする。なお、近傍を支持する場合には、4.5項で求まる支持間隔と、当該重量物を考慮した支持間隔を用いて、支持点を設計する。

(5) 伸縮継手部

ダクトに伸縮継手がある場合は、双方接続部の近傍を支持するものとする。

(6) ダクトの支持構造物は、原則として建物の壁、天井等に埋め込まれた埋込金物より支持するものとする。

4.7 ダクトの構造

空調換気系ダクトは、構造上、溶接型、ハゼ折り型及びスパイラル型に大別され、また、その断面形状から矩形ダクトと円形ダクトがある。ダクト構造の代表例を図4-7に示す。

(1) 溶接ダクトは、二隅あるいは四隅を溶接継ぎ手とする。補強は定ピッチで全周を形鋼で囲い、ダクトに断続溶接する。

(2) ハゼ折ダクトの補強は、定ピッチで全周を形鋼で囲い、ダクトにリベット止めする。

(3) スパイラルダクトの継目は甲ハゼとし、ダクトの接続はフランジ又は差込み継ぎ手とする。なお、ダクトと差込み継手は鋼製の鉄板ビスを用いて固定する。

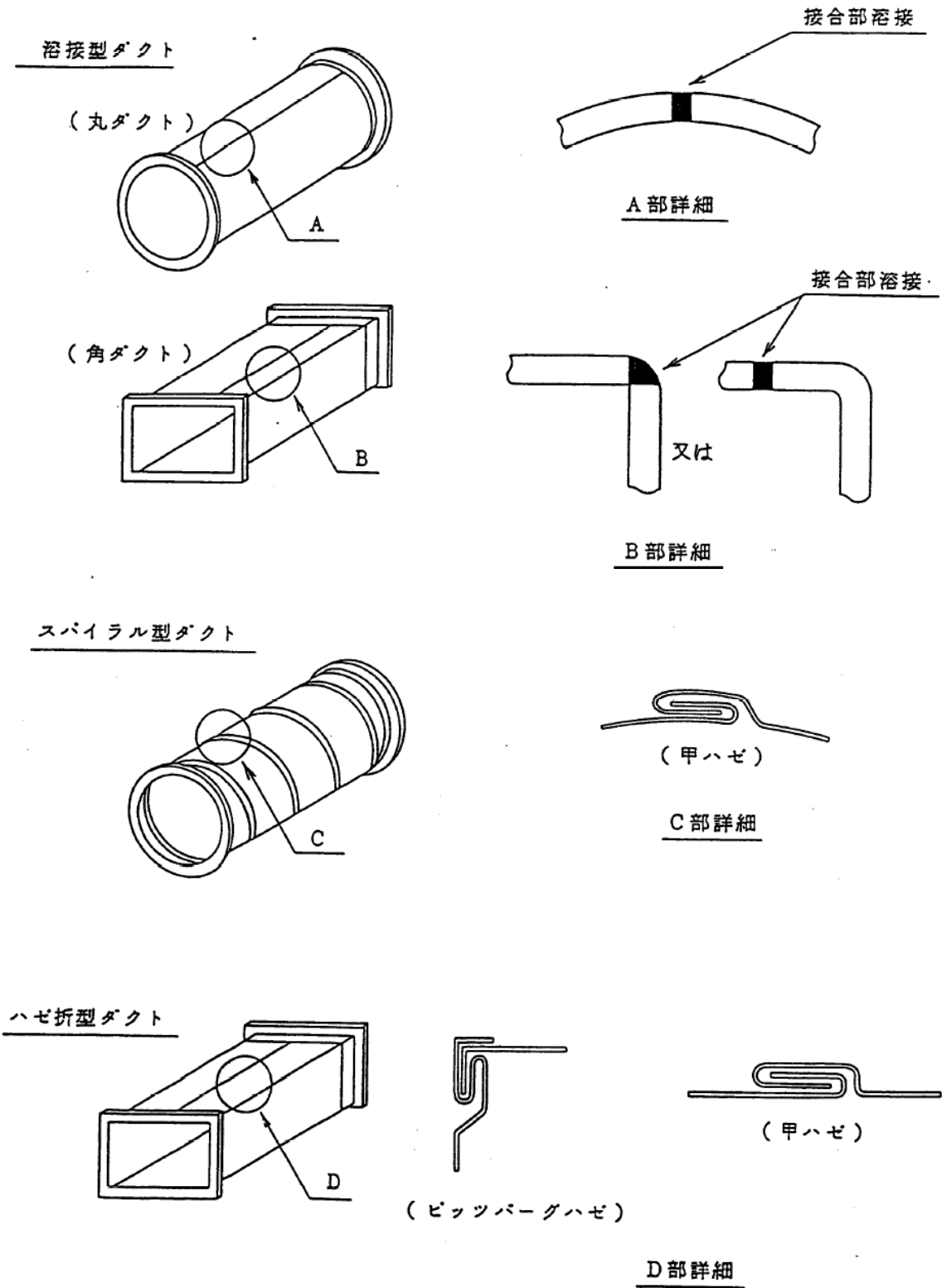


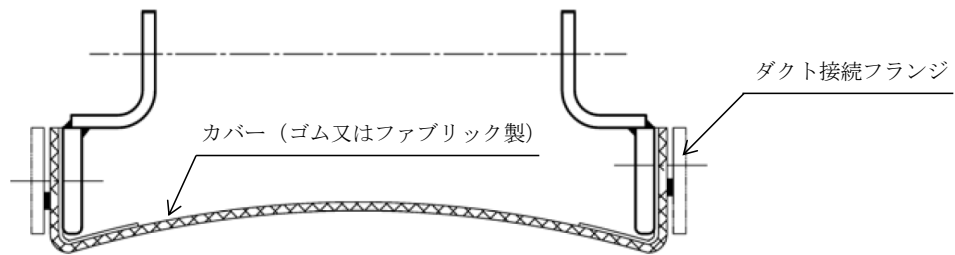
図4-7 ダクト構造の代表例

4.8 伸縮継手の使用

伸縮継手は、設置場所及び設置条件に応じてフレクター又は金属ベローズを使用する。また、その用途は以下に大別される。伸縮継手構造の代表例を図4-8に示す。

- (1) ダクトが建物又は構築物相互間を通過する場合は、必要に応じて相対変位を吸収できる伸縮継手を設ける設計とする。
- (2) ダクトを他の機器類に接続する場合は、必要に応じて相互作用を吸収できる伸縮継手を設ける設計とする。

フレクター（断面図）



金属ベローズ（断面図）

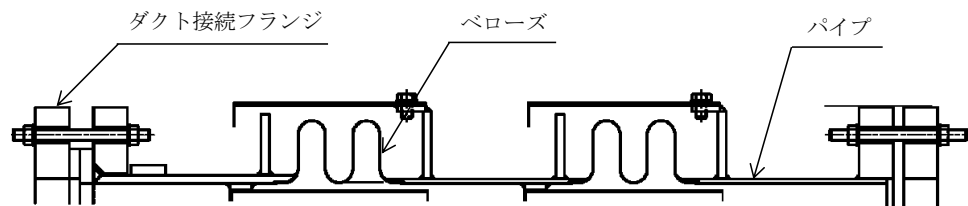


図4-8 伸縮継手構造の代表例

5. 支持構造物設計の基本方針

5.1 支持構造物の構造及び種類

支持構造物は、形鋼及び角形鋼管を組み合わせた溶接構造を原則とし、その用途に応じて以下に大別する。

- (1) ダクト軸直角の2方向を拘束するもの
- (2) ダクト軸方向及び軸直角の3方向を拘束するもの
- (3) ダクト軸方向及び軸直角の3方向並びにモーメントを拘束するもの（アンカ）

図5-1～図5-4に支持構造物の代表例を示す。

5.2 支持構造物に関する考慮事項

支持構造物の構造は、ダクトに作用する地震荷重に対し十分な強度を有する構造とする。なお、ダクトの荷重は、隣接する支持構造物の距離より定まる負担割合（ダクト長さ）から求めたダクト重量（ダクトに取付くダンパ等の重量物も考慮する）に地震力（震度）を乗じて算出する。また、ダクトを多質点系モデルにモデル化し、有限要素法による支持点反力を使用する。

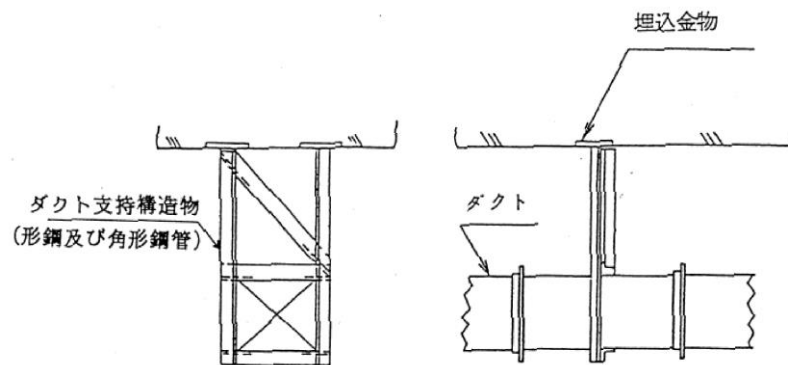


図5-1 2方向(軸直角方向)拘束の代表例

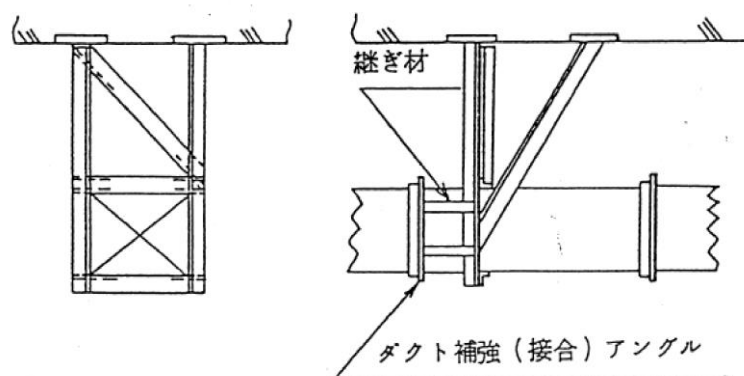


図5-2 3方向(軸方向及び軸直角方向)拘束の代表例

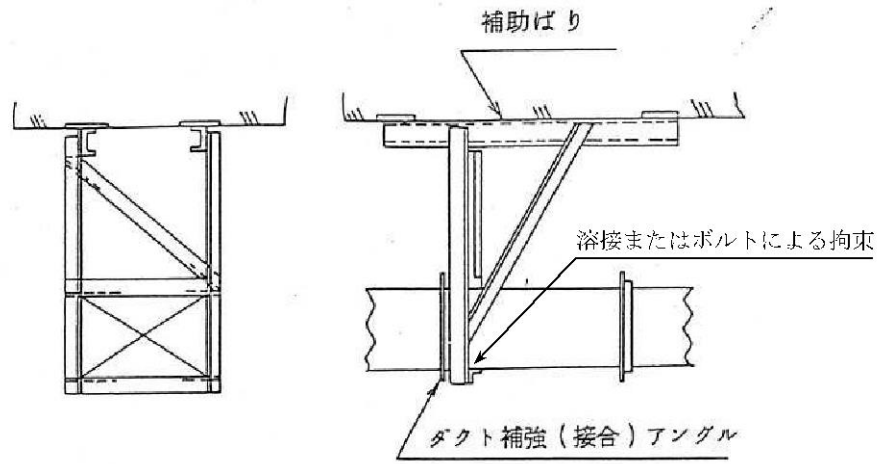


図5-3 3方向(軸方向及び軸直角方向)並びにモーメント拘束の代表例

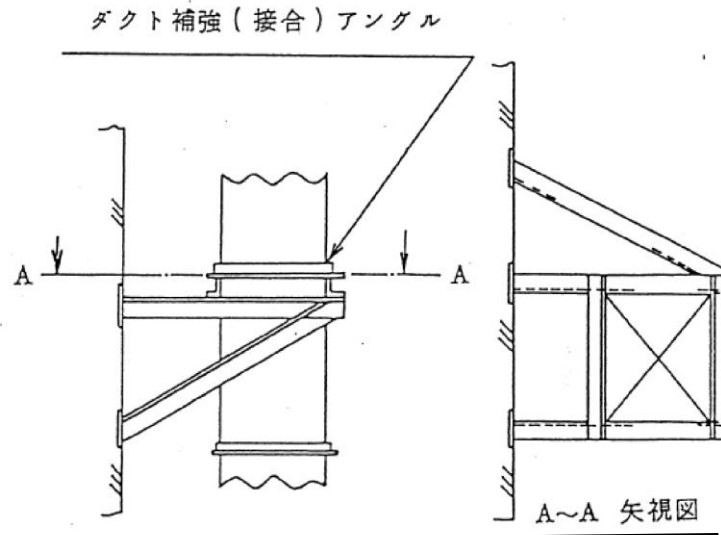


図5-4 垂直ダクトの支持の代表例

VI-2-1-14 機器・配管系の計算書作成の方法

目 次

- 添付資料-1 横形ポンプの耐震性についての計算書作成の基本方針
- 添付資料-2 立形ポンプの耐震性についての計算書作成の基本方針
- 添付資料-3 スカート支持たて置円筒形容器の耐震性についての計算書作成の基本方針
- 添付資料-4 横置一胴円筒形容器の耐震性についての計算書作成の基本方針
- 添付資料-5 平底たて置円筒形容器の耐震性についての計算書作成の基本方針
- 添付資料-6 管の耐震性についての計算書作成の基本方針
- 添付資料-7 計装ラックの耐震性についての計算書作成の基本方針
- 添付資料-8 計器スタンションの耐震性についての計算書作成の基本方針
- 添付資料-9 盤の耐震性についての計算書作成の基本方針

添付資料-1 横形ポンプの耐震性についての計算書作成の基本方針

目 次

1. 概要	1
2. 一般事項	1
2.1 評価方針	1
2.2 適用規格・基準等	2
2.3 記号の説明	3
2.4 計算精度と数値の丸め方	4
3. 評価部位	5
4. 構造強度評価	5
4.1 構造強度評価方法	5
4.2 設計用地震力	6
4.3 計算方法	6
4.4 応力の評価	13
5. 機能維持評価	14
5.1 動的機能維持評価方法	14
6. 耐震計算書のフォーマット	14

1. 概要

本資料は、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」に基づき、耐震性に関する説明書が求められている横形ポンプ（耐震重要度分類Sクラス又はS s 機能維持の計算を行うもの）が、十分な耐震性を有していることを確認するための耐震計算の方法について記載したものである。

解析の方針及び減衰定数については、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に従うものとする。

なお、本基本方針は横形ブロワ及びファンにも適用する（その場合は、ポンプをブロワ又はファンと読み替える。）。

ただし、本基本方針が適用できない横形ポンプにあつては、個別耐震計算書にその耐震計算方法を含めて記載する。

2. 一般事項

2.1 評価方針

横形ポンプの応力評価は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」にて設定した荷重及び荷重の組合せ並びに許容限界に基づき、「3. 評価部位」にて設定する箇所に作用する設計用地震力による応力等が許容限界内に収まることを、「4. 構造強度評価」にて示す方法にて確認することで実施する。また、横形ポンプの機能維持評価は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」にて設定した動的機器の機能維持の方針に基づき、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下であることを、「5. 機能維持評価」にて示す方法にて確認することで実施する。確認結果を「6. 耐震計算書のフォーマット」にて示す。

横形ポンプの耐震評価フローを図2-1に示す。

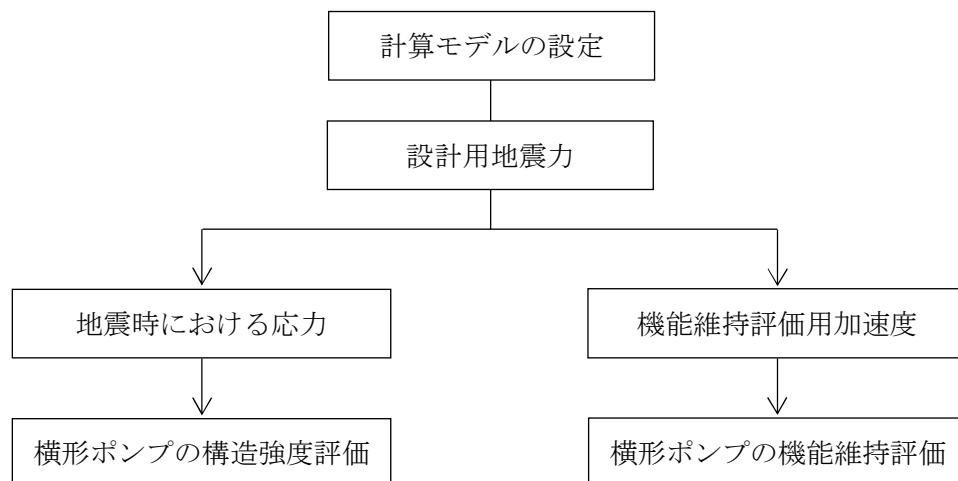


図 2-1 横形ポンプの耐震評価フロー

2.2 適用規格・基準等

本評価において適用する規格・基準等を以下に示す。

- ・原子力発電所耐震設計技術指針 重要度分類・許容応力編 J E A G 4 6 0 1 ・補-1984
（（社）日本電気協会）
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1987 （（社）日本電気協会）
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1991 追補版（（社）日本電気協会）
- ・発電用原子力設備規格 設計・建設規格（（社）日本機械学会，2005/2007）（以下「設計・建設規格」という。）

2.3 記号の説明

記号	記号の説明	単位
A_{bi}	ボルトの軸断面積* ¹	mm ²
C_H	水平方向設計震度	—
C_p	ポンプ振動による震度	—
C_v	鉛直方向設計震度	—
d_i	ボルトの呼び径* ¹	mm
F_i	設計・建設規格 SSB-3121.1(1)に定める値* ¹	MPa
F_i^*	設計・建設規格 SSB-3133に定める値* ¹	MPa
F_{bi}	ボルトに作用する引張力(1本あたり)* ¹	N
f_{sbi}	せん断力のみを受けるボルトの許容せん断応力* ¹	MPa
f_{toi}	引張力のみを受けるボルトの許容引張応力* ¹	MPa
f_{tsi}	引張力とせん断力を同時に受けるボルトの許容引張応力* ¹	MPa
g	重力加速度 (=9.80665)	m/s ²
H_p	予想最大両振幅	μm
h_i	据付面又は取付面から重心までの距離* ²	mm
l_{1i}	重心とボルト間の水平方向距離* ^{1, 3}	mm
l_{2i}	重心とボルト間の水平方向距離* ^{1, 3}	mm
M_p	ポンプ回転により作用するモーメント	N・mm
m_i	運転時質量* ²	kg
N	回転数(原動機の同期回転数)	rpm
n_i	ボルトの本数* ¹	—
n_{fi}	評価上引張力を受けるとして期待するボルトの本数* ¹	—
P	原動機出力	kW
Q_{bi}	ボルトに作用するせん断力* ¹	N
S_{ui}	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表9に定める値* ¹	MPa
S_{yi}	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8に定める値* ¹	MPa
$S_{yi}(RT)$	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8に定める材料の40℃における値* ¹	MPa
π	円周率	—
σ_{bi}	ボルトに生じる引張応力* ¹	MPa
τ_{bi}	ボルトに生じるせん断応力* ¹	MPa

注記*¹: A_{bi} , d_i , F_i , F_i^* , F_{bi} , f_{sbi} , f_{toi} , f_{tsi} , l_{1i} , l_{2i} , n_i , n_{fi} , Q_{bi} , S_{ui} , S_{yi} , $S_{yi}(RT)$, σ_{bi} 及び τ_{bi} の添字*i*の意味は、以下のとおりとする。

$i = 1$: 基礎ボルト

$i = 2$: ポンプ取付ボルト

$i = 3$: 原動機取付ボルト

なお、ポンプと原動機間に減速機がある場合は、次のように定義する。

$i = 4$: 減速機取付ボルト

*2: h_i 及び m_i の添字 i の意味は、以下のとおりとする。

$i = 1$: 据付面

$i = 2$: ポンプ取付面

$i = 3$: 原動機取付面

なお、ポンプと原動機間に減速機がある場合は、次のように定義する。

$i = 4$: 減速機取付面

*3: $l_{1i} \leq l_{2i}$

2.4 計算精度と数値の丸め方

精度は、有効数字 6 桁以上を確保する。

表示する数値の丸め方は表 2-1 に示すとおりである。

表 2-1 表示する数値の丸め方

数値の種類	単位	処理桁	処理方法	表示桁
震度	—	小数点以下第 3 位	切上げ	小数点以下第 2 位
温度	℃	—	—	整数位
質量	kg	—	—	整数位
長さ	mm	—	—	整数位 ^{*1}
面積	mm ²	有効数字 5 桁目	四捨五入	有効数字 4 桁 ^{*2}
モーメント	N・mm	有効数字 5 桁目	四捨五入	有効数字 4 桁 ^{*2}
力	N	有効数字 5 桁目	四捨五入	有効数字 4 桁 ^{*2}
算出応力	MPa	小数点以下第 1 位	切上げ	整数位
許容応力 ^{*3}	MPa	小数点以下第 1 位	切捨て	整数位

注記*1: 設計上定める値が小数点以下第 1 位の場合は、小数点以下第 1 位表示とする。

*2: 絶対値が 1000 以上のときは、べき数表示とする。

*3: 設計・建設規格 付録材料図表に記載された温度の中間における引張強さ及び降伏点は、比例法により補間した値の小数点以下第 1 位を切り捨て、整数位までの値とする。

3. 評価部位

横形ポンプの耐震評価は「4.1 構造強度評価方法」に示す条件に基づき、耐震評価上厳しくなる基礎ボルト及び取付ボルトについて評価を実施する。

4. 構造強度評価

4.1 構造強度評価方法

- (1) 横形ポンプは構造的に1個の大きなブロック状をしており、重心の位置がブロック状のほぼ中心にあり、かつ、下面が基礎ボルトにて固定されている。
したがって、全体的に一つの剛体と見なせるため、固有周期は十分に小さく、固有周期の計算は省略する。
- (2) ポンプ及び内容物の質量は重心に集中するものとする。
- (3) 地震力はポンプに対して水平方向及び鉛直方向から作用するものとする。
- (4) ポンプは基礎ボルトで基礎に固定されており、固定端とする。
- (5) 転倒方向は図4-1概要図における軸直角方向及び軸方向について検討し、計算書には計算結果の厳しい方（許容値／発生値の小さい方をいう。）を記載する。
- (6) 設計用地震力はVI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定する。
なお、横形ポンプは剛体として扱うため、設置床面の最大応答加速度の1.2倍の値を用いて評価する。
- (7) 耐震計算に用いる寸法は、公称値を使用する。

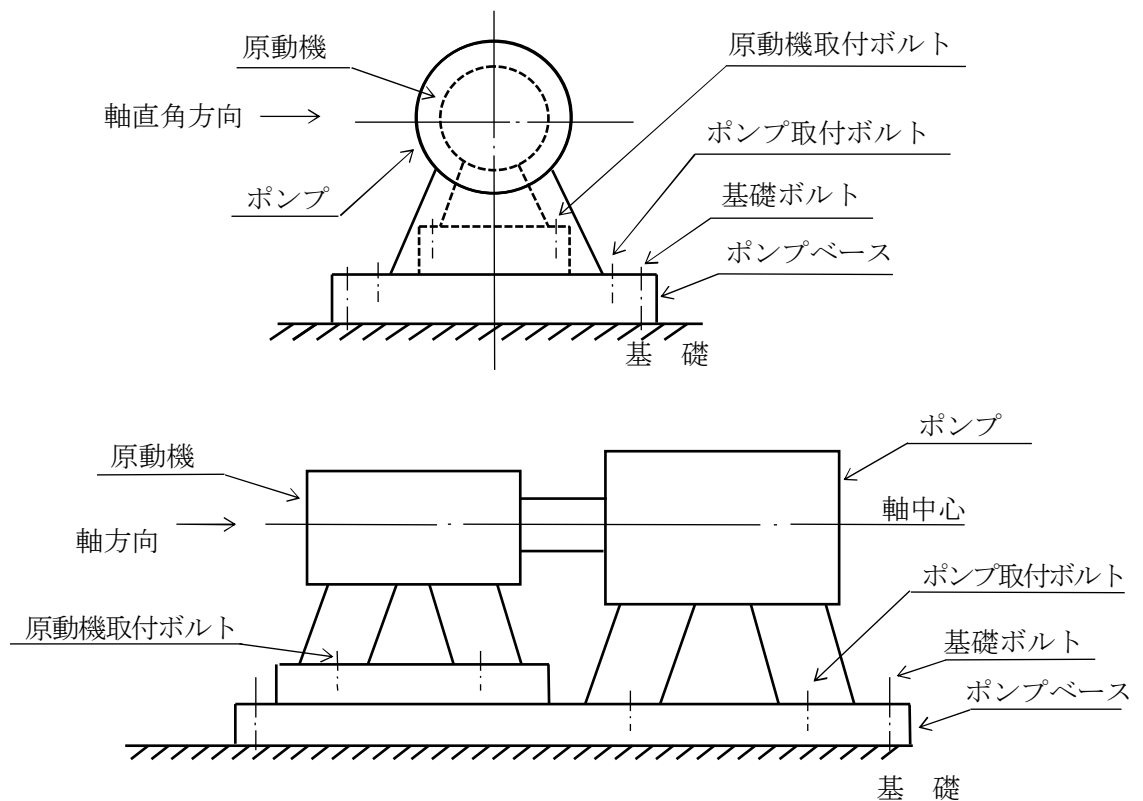


図4-1 概要図

4.2 設計用地震力

「弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度」及び「基準地震動 S_s 」による地震力は、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定する。

4.3 計算方法

4.3.1 応力の計算方法

4.3.1.1 ボルトの計算方法

ボルトの応力は地震による震度，ポンプ振動による震度及びポンプ回転により作用するモーメントによって生じる引張力とせん断力について計算する。

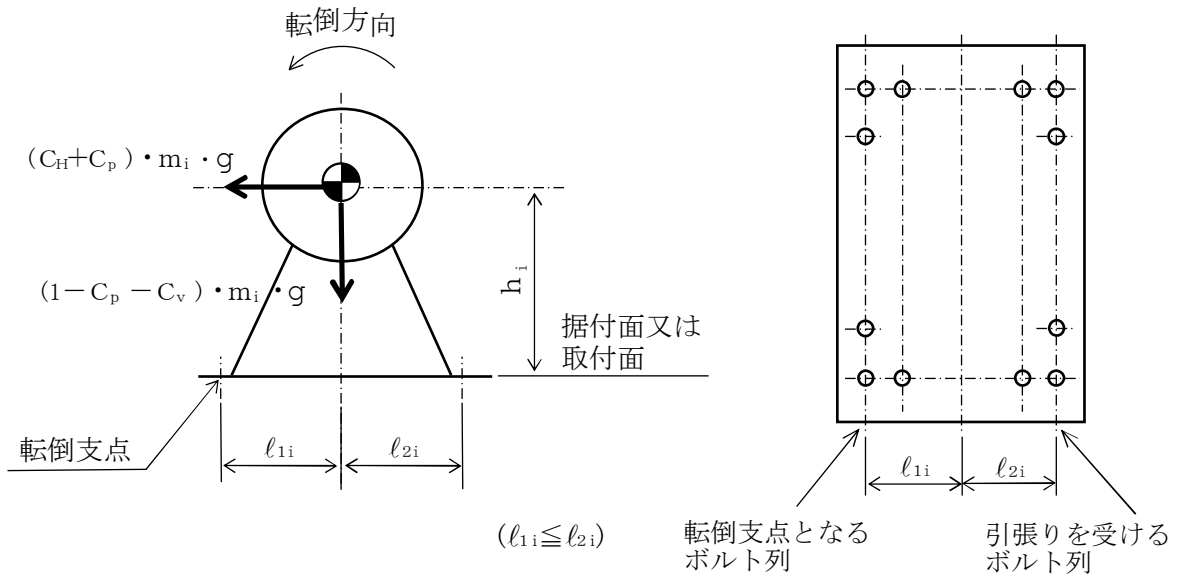


図 4-2(1) 計算モデル

(軸直角方向転倒-1 $(1 - C_p - C_v) \geq 0$ の場合)

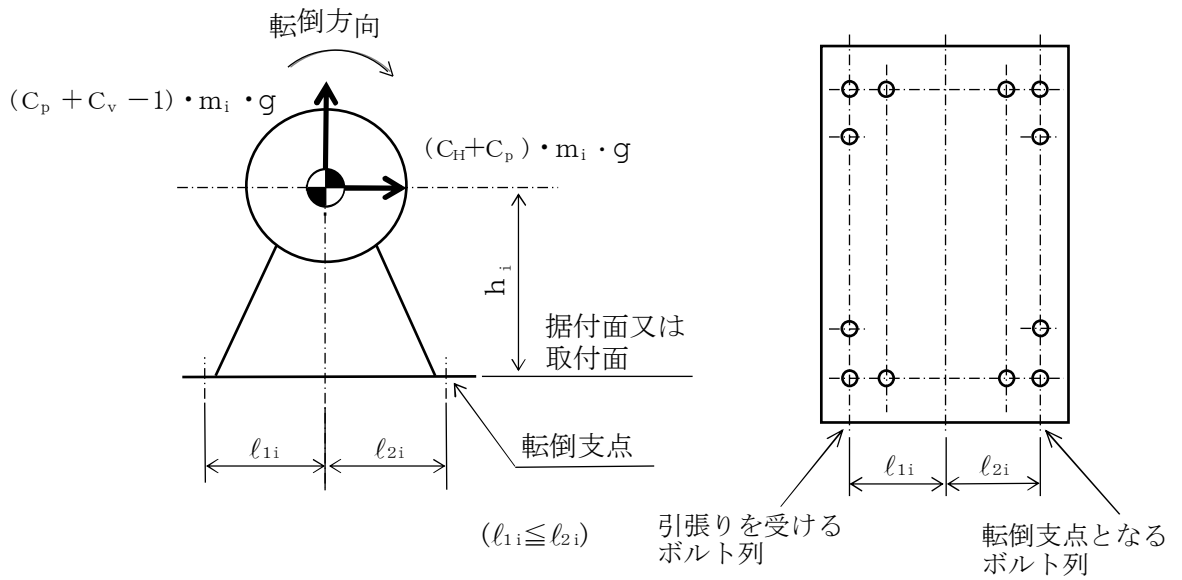


図 4-2(2) 計算モデル

(軸直角方向転倒-2 $(1 - C_p - C_v) < 0$ の場合)

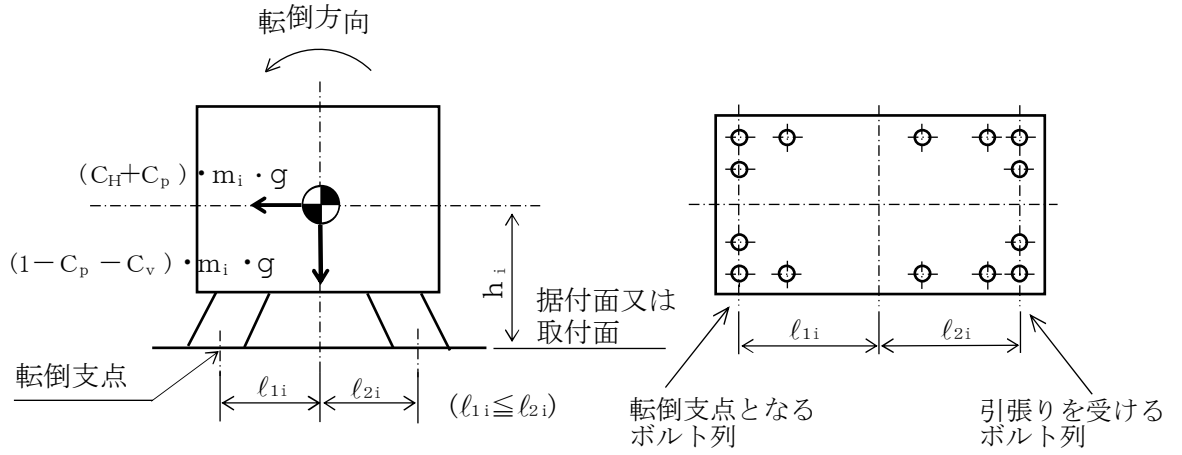


図 4-3(1) 計算モデル
 (軸方向転倒-1 $(1 - C_p - C_v) \geq 0$ の場合)

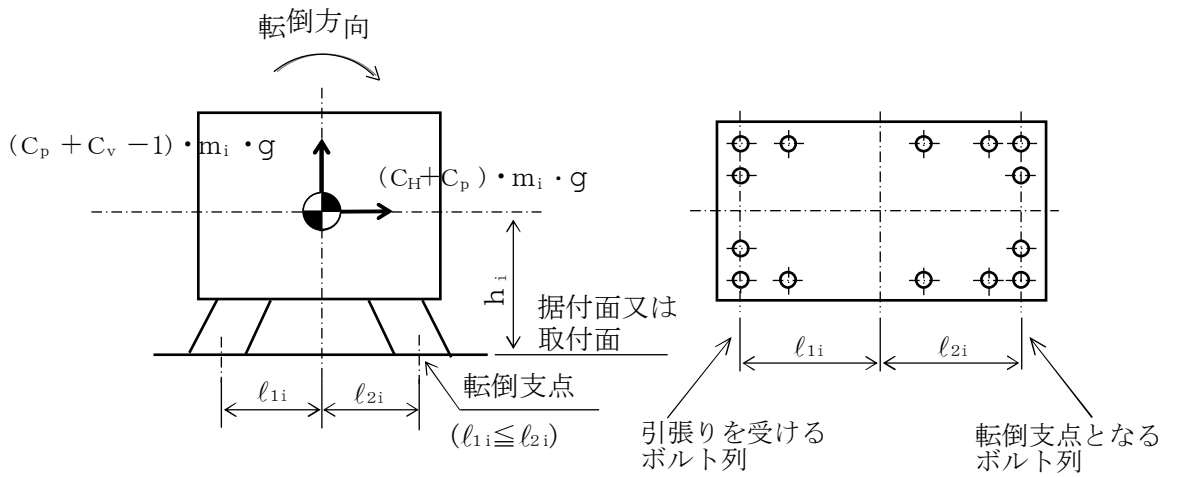


図 4-3(2) 計算モデル
 (軸方向転倒-2 $(1 - C_p - C_v) < 0$ の場合)

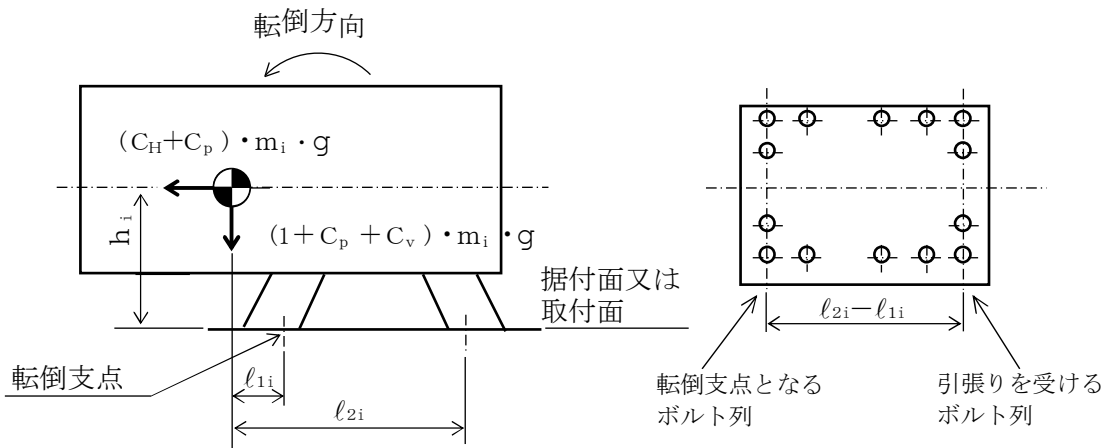


図 4-3(3) 計算モデル

(軸方向転倒-3 軸方向の重心位置が、両端のボルトの間でない場合で $(l_{2i} + l_{1i}) / (l_{2i} - l_{1i}) \geq (C_v + C_p)$ の場合)

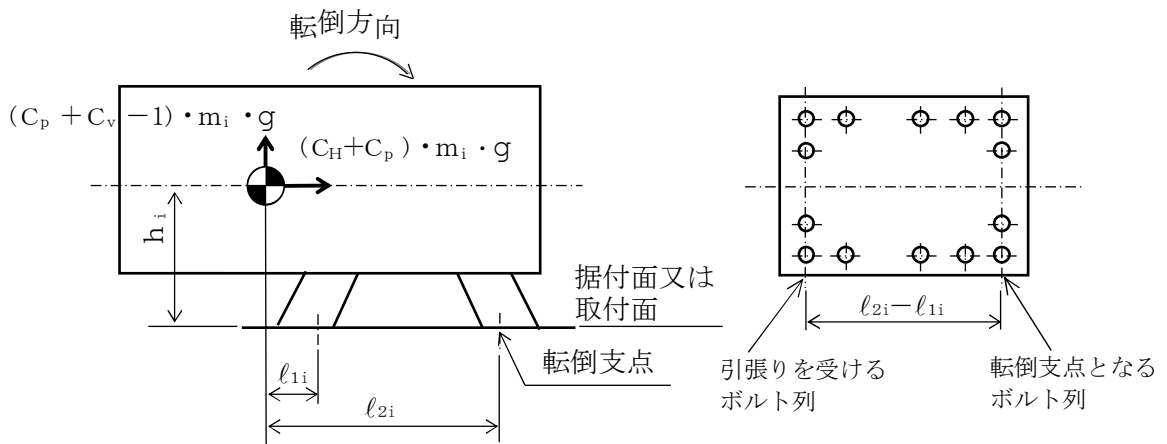


図 4-3(4) 計算モデル

(軸方向転倒-4 軸方向の重心位置が、両端のボルトの間でない場合で $(l_{2i} + l_{1i}) / (l_{2i} - l_{1i}) < (C_v + C_p)$ の場合)

(1) 引張応力

ボルトに対する引張力は最も厳しい条件として、図 4-2 及び図 4-3 で最外列のボルトを支点とする転倒を考え、これを片側の最外列のボルトで受けるものとして計算する。

なお、ポンプと原動機のベースが共通である場合の基礎ボルト (i=1) 及び計算モデル図 4-3 の場合のボルト (i=1~4) については、ポンプ回転によるモーメントは作用しない。

引張力

計算モデル図 4-2(1) 及び 4-3(1) の場合の引張力

【絶対値和】

$$F_{b i} = \frac{m_i \cdot g \cdot (C_H + C_P) \cdot h_i + M_P - m_i \cdot g \cdot (1 - C_P - C_V) \cdot l_{1 i}}{n_{f i} \cdot (l_{1 i} + l_{2 i})}$$

$$= \frac{m_i \cdot g \cdot (C_H \cdot h_i + C_V \cdot l_{1 i}) + m_i \cdot C_P \cdot g \cdot (h_i + l_{1 i}) + M_P - m_i \cdot g \cdot l_{1 i}}{n_{f i} \cdot (l_{1 i} + l_{2 i})}$$

..... (4.3.1.1.1)

【SRSS法】

$$F_{b i} = \frac{m_i \cdot g \cdot \sqrt{(C_H \cdot h_i)^2 + (C_V \cdot l_{1 i})^2} + m_i \cdot g \cdot C_P \cdot (h_i + l_{1 i}) + M_P - m_i \cdot g \cdot l_{1 i}}{n_{f i} \cdot (l_{1 i} + l_{2 i})}$$

..... (4.3.1.1.2)

計算モデル図 4-2(2) 及び 4-3(2) の場合の引張力

【絶対値和】

$$F_{b i} = \frac{m_i \cdot g \cdot (C_H + C_P) \cdot h_i + M_P - m_i \cdot g \cdot (1 - C_P - C_V) \cdot l_{2 i}}{n_{f i} \cdot (l_{1 i} + l_{2 i})}$$

$$= \frac{m_i \cdot g \cdot (C_H \cdot h_i + C_V \cdot l_{2 i}) + m_i \cdot C_P \cdot g \cdot (h_i + l_{2 i}) + M_P - m_i \cdot g \cdot l_{2 i}}{n_{f i} \cdot (l_{1 i} + l_{2 i})}$$

..... (4.3.1.1.3)

【SRSS法】

$$F_{b i} = \frac{m_i \cdot g \cdot \sqrt{(C_H \cdot h_i)^2 + (C_V \cdot l_{2 i})^2} + m_i \cdot g \cdot C_P \cdot (h_i + l_{2 i}) + M_P - m_i \cdot g \cdot l_{2 i}}{n_{f i} \cdot (l_{1 i} + l_{2 i})}$$

..... (4.3.1.1.4)

計算モデル図 4-3(3) の場合の引張力

【絶対値和】

$$\begin{aligned}
 F_{bi} &= \frac{m_i \cdot g \cdot (C_H + C_p) \cdot h_i + M_p + m_i \cdot g \cdot (1 + C_p + C_v) \cdot l_{1i}}{n_{fi} \cdot (l_{2i} - l_{1i})} \\
 &= \frac{m_i \cdot g \cdot (C_H \cdot h_i + C_v \cdot l_{1i}) + m_i \cdot C_p \cdot g \cdot (h_i + l_{1i}) + M_p + m_i \cdot g \cdot l_{1i}}{n_{fi} \cdot (l_{2i} - l_{1i})} \dots\dots\dots (4.3.1.1.5)
 \end{aligned}$$

【SRSS法】

$$\begin{aligned}
 F_{bi} &= \frac{m_i \cdot g \cdot \sqrt{(C_H \cdot h_i)^2 + (C_v \cdot l_{1i})^2} + m_i \cdot g \cdot C_p \cdot (h_i + l_{1i}) + M_p + m_i \cdot g \cdot l_{1i}}{n_{fi} \cdot (l_{2i} - l_{1i})} \dots\dots\dots (4.3.1.1.6)
 \end{aligned}$$

計算モデル図 4-3(4) の場合の引張力

【絶対値和】

$$\begin{aligned}
 F_{bi} &= \frac{m_i \cdot g \cdot (C_H + C_p) \cdot h_i + M_p + m_i \cdot g \cdot (C_p + C_v - 1) \cdot l_{2i}}{n_{fi} \cdot (l_{2i} - l_{1i})} \\
 &= \frac{m_i \cdot g \cdot (C_H \cdot h_i + C_v \cdot l_{2i}) + m_i \cdot C_p \cdot g \cdot (h_i + l_{2i}) + M_p - m_i \cdot g \cdot l_{2i}}{n_{fi} \cdot (l_{2i} - l_{1i})} \dots\dots\dots (4.3.1.1.7)
 \end{aligned}$$

【SRSS法】

$$\begin{aligned}
 F_{bi} &= \frac{m_i \cdot g \cdot \sqrt{(C_H \cdot h_i)^2 + (C_v \cdot l_{2i})^2} + m_i \cdot g \cdot C_p \cdot (h_i + l_{2i}) + M_p - m_i \cdot g \cdot l_{2i}}{n_{fi} \cdot (l_{2i} - l_{1i})} \dots\dots\dots (4.3.1.1.8)
 \end{aligned}$$

ここで、ポンプ回転により作用するモーメント M_p は次式で求める。

$$\begin{aligned}
 M_p &= \left(\frac{60}{2 \cdot \pi \cdot N} \right) \cdot 10^6 \cdot P \dots\dots\dots (4.3.1.1.9) \\
 &\quad (1kW = 10^6 N \cdot mm/s)
 \end{aligned}$$

ただし、ベースが共通でポンプと原動機間に減速機がある場合、ポンプ及び減速機取付ボルト ($i = 2$ 及び 4) における (4.3.1.1.9) 式中の N はポンプ回転数とする。

また、 C_p はポンプ振動による振幅及び原動機の同期回転数を考慮して定める値で、次式で求める。

$$C_p = \frac{\frac{1}{2} \cdot \frac{H_p}{1000} \cdot \left(2 \cdot \pi \cdot \frac{N}{60} \right)^2}{g \cdot 1000} \dots\dots\dots (4.3.1.1.10)$$

引張応力

$$\sigma_{b i} = \frac{F_{b i}}{A_{b i}} \dots\dots\dots (4.3.1.1.11)$$

ここで、ボルトの軸断面積 $A_{b i}$ は次式により求める。

$$A_{b i} = \frac{\pi}{4} \cdot d_i^2 \dots\dots\dots (4.3.1.1.12)$$

ただし、 $F_{b i}$ が負のときボルトには引張力が生じないので、引張応力の計算は行わない。

(2) せん断応力

ボルトに対するせん断力はボルト全本数で受けるものとして計算する。

せん断力

$$Q_{b i} = (C_H + C_p) \cdot m_i \cdot g \dots\dots\dots (4.3.1.1.13)$$

せん断応力

$$\tau_{b i} = \frac{Q_{b i}}{n_i \cdot A_{b i}} \dots\dots\dots (4.3.1.1.14)$$

4.4 応力の評価

4.4.1 ボルトの応力評価

4.3.1.1 項で求めたボルトの引張応力 σ_{bi} は次式より求めた許容引張応力 f_{tsi} 以下であること。ただし、 f_{toi} は下表による。

$$f_{tsi} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{toi} - 1.6 \cdot \tau_{bi}, f_{toi}] \quad \dots\dots\dots (4.4.1.1)$$

せん断応力 τ_{bi} はせん断力のみを受けるボルトの許容せん断応力 f_{sbi} 以下であること。ただし、 f_{sbi} は下表による。

	弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度による 荷重との組合せの場合	基準地震動 S_s による 荷重との組合せの場合
許容引張応力 f_{toi}	$\frac{F_i}{2} \cdot 1.5$	$\frac{F_i^*}{2} \cdot 1.5$
許容せん断応力 f_{sbi}	$\frac{F_i}{1.5 \cdot \sqrt{3}} \cdot 1.5$	$\frac{F_i^*}{1.5 \cdot \sqrt{3}} \cdot 1.5$

5. 機能維持評価

5.1 動的機能維持評価方法

機能維持評価用加速度と機能確認済加速度との比較により，地震時又は地震後の動的機能維持を評価する。

機能維持評価用加速度は，VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき，基準地震動 S_s により定まる加速度又はこれを上回る加速度を設定する。

機能確認済加速度は，VI-2-1-9「機能維持の基本方針」による。

なお，この適用形式を外れる場合は，加振試験等に基づき確認した加速度を用いることとし，個別計算書にその旨を記載する。

6. 耐震計算書のフォーマット

横形ポンプの耐震計算書のフォーマットは，以下のとおりである。

[設計基準対象施設及び重大事故等対処設備の場合]

フォーマットⅠ 設計基準対象施設としての評価結果

フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果

[重大事故等対処設備単独の場合]

フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果*

注記*：重大事故等対処設備単独の場合は，設計基準対象施設及び重大事故等対処設備に示すフォーマットⅡを使用するものとする。ただし，評価結果表に記載の章番を「2.」から「1.」とする。

【フォーマット I 設計基準対象施設としての評価結果】

【○○○○○ポンプの耐震性についての計算結果】

1. 設計基準対象施設

1.1 設計条件

機器名称	耐震重要度分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		ポンプ振動 による震度	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度			
		○○建物 EL *1	—*2	—*2	C _H = *3	C _V = *3	C _H = *4	C _V = *4	C _P =		

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：固有周期は十分に小さく、計算は省略する。

*3：設計用震度 I（弾性設計用地震動 S_d）又は静的震度のいずれか大きい方、若しくはこれを上回る設計震度

*4：設計用震度 I（基準地震動 S_s）又はこれを上回る設計震度

1.2 機器要目

部材	m _i (kg)	h _i (mm)	ℓ _{1i} *1 (mm)	ℓ _{2i} *1 (mm)	d _i (mm)	A _{bi} (mm ²)	n _i	n _{fi} *1
基礎ボルト (i=1)					(M)			
ポンプ取付ボルト (i=2)					(M)			
原動機取付ボルト (i=3)					(M)			
減速機取付ボルト (i=4)					(M)			

部材	S _{yi} (MPa)	S _{ui} (MPa)	F _i (MPa)	F _i * (MPa)	転倒方向		M _p (N・mm)
					弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	
基礎ボルト (i=1)	*2	*2					
ポンプ取付ボルト (i=2)	*3	*3					
原動機取付ボルト (i=3)	*2	*2					
減速機取付ボルト (i=4)	*2	*2					

H _p (μm)	N (rpm)

注記*1：各ボルトの機器要目における上段は軸直角方向転倒に対する評価時の要目を示し、
下段は軸方向転倒に対する評価時の要目を示す。

*2：周囲環境温度で算出

*3：最高使用温度で算出

1.3 計算数値

1.3.1 ボルトに作用する力

(単位：N)

部材	F _{b i}		Q _{b i}	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)				
ポンプ取付ボルト (i=2)				
原動機取付ボルト (i=3)				
減速機取付ボルト (i=4)				

1.4 結論

1.4.1 ボルトの応力

(単位：MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動S _d 又は静的震度		基準地震動S _s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
基礎ボルト (i=1)		引張り	$\sigma_{b1} =$	$f_{ts1} = *$	$\sigma_{b1} =$	$f_{ts1} = *$
		せん断	$\tau_{b1} =$	$f_{sb1} =$	$\tau_{b1} =$	$f_{sb1} =$
ポンプ取付ボルト (i=2)		引張り	$\sigma_{b2} =$	$f_{ts2} = *$	$\sigma_{b2} =$	$f_{ts2} = *$
		せん断	$\tau_{b2} =$	$f_{sb2} =$	$\tau_{b2} =$	$f_{sb2} =$
原動機取付ボルト (i=3)		引張り	$\sigma_{b3} =$	$f_{ts3} = *$	$\sigma_{b3} =$	$f_{ts3} = *$
		せん断	$\tau_{b3} =$	$f_{sb3} =$	$\tau_{b3} =$	$f_{sb3} =$
減速機取付ボルト (i=4)		引張り	$\sigma_{b4} =$	$f_{ts4} = *$	$\sigma_{b4} =$	$f_{ts4} = *$
		せん断	$\tau_{b4} =$	$f_{sb4} =$	$\tau_{b4} =$	$f_{sb4} =$

すべて許容応力以下である。

注記*： $f_{tsi} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{toi} - 1.6 \cdot \tau_{bi}, f_{toi}]$

1.4.2 動的機能維持の評価結果

($\times 9.8\text{m/s}^2$)

		機能維持評価用加速度*	機能確認済加速度
ポンプ	水平方向		
	鉛直方向		
原動機	水平方向		
	鉛直方向		

注記*：設計用震度 I (基準地震動S_s) により定まる加速度又はこれを上回る加速度とする。

機能維持評価用加速度はすべて機能確認済加速度以下である。

【フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果】

【○○○○○ポンプの耐震性についての計算結果】

2. 重大事故等対処設備

2.1 設計条件

機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		ポンプ振動 による震度	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度			
		○○建物 EL *1	—*2	—*2	—	—	C _H = *3	C _V = *3	C _P =		

注記*1: 基準床レベルを示す。

*2: 固有周期は十分に小さく, 計算は省略する。

*3: 設計用震度 I (基準地震動 S_s) 又はこれを上回る設計震度

2.2 機器要目

部材	m _i (kg)	h _i (mm)	ℓ _{1i} *1 (mm)	ℓ _{2i} *1 (mm)	d _i (mm)	A _{bi} (mm ²)	n _i	n _{f_i} *1
基礎ボルト (i=1)					(M)			
ポンプ取付ボルト (i=2)					(M)			
原動機取付ボルト (i=3)					(M)			
減速機取付ボルト (i=4)					(M)			

部材	S _{y_i} (MPa)	S _{u_i} (MPa)	F _i (MPa)	F _i * (MPa)	転倒方向		M _p (N・mm)
					弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	
基礎ボルト (i=1)	*2	*2	—		—		
ポンプ取付ボルト (i=2)	*3	*3	—		—		
原動機取付ボルト (i=3)	*2	*2	—		—		
減速機取付ボルト (i=4)	*2	*2	—		—		

注記*1: 各ボルトの機器要目における上段は軸直角方向転倒に対する評価時の要目を示し,
下段は軸方向転倒に対する評価時の要目を示す。

*2: 周囲環境温度で算出

*3: 最高使用温度で算出

H _p (μm)	N (rpm)

2.3 計算数値

2.3.1 ボルトに作用する力

(単位：N)

部材	F _{b i}		Q _{b i}	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)	—		—	
ポンプ取付ボルト (i=2)	—		—	
原動機取付ボルト (i=3)	—		—	
減速機取付ボルト (i=4)	—		—	

2.4 結論

2.4.1 ボルトの応力

(単位：MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動S _d 又は静的震度		基準地震動S _s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
基礎ボルト (i=1)		引張り	—	—	$\sigma_{b1} =$	$f_{ts1} = *$
		せん断	—	—	$\tau_{b1} =$	$f_{sb1} =$
ポンプ取付ボルト (i=2)		引張り	—	—	$\sigma_{b2} =$	$f_{ts2} = *$
		せん断	—	—	$\tau_{b2} =$	$f_{sb2} =$
原動機取付ボルト (i=3)		引張り	—	—	$\sigma_{b3} =$	$f_{ts3} = *$
		せん断	—	—	$\tau_{b3} =$	$f_{sb3} =$
減速機取付ボルト (i=4)		引張り	—	—	$\sigma_{b4} =$	$f_{ts4} = *$
		せん断	—	—	$\tau_{b4} =$	$f_{sb4} =$

すべて許容応力以下である。

注記*： $f_{tsi} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{toi} - 1.6 \cdot \tau_{bi}, f_{toi}]$

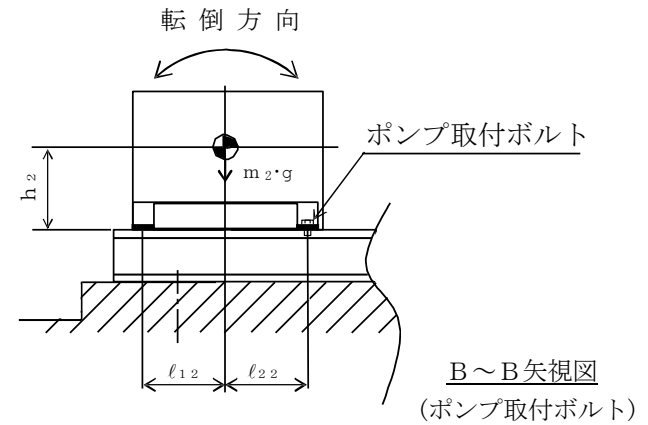
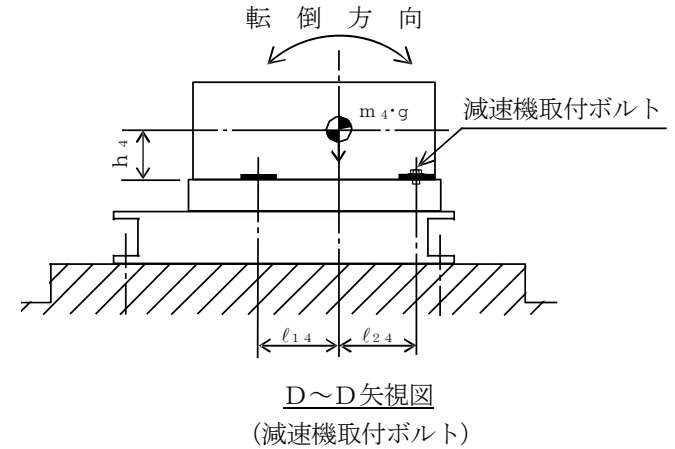
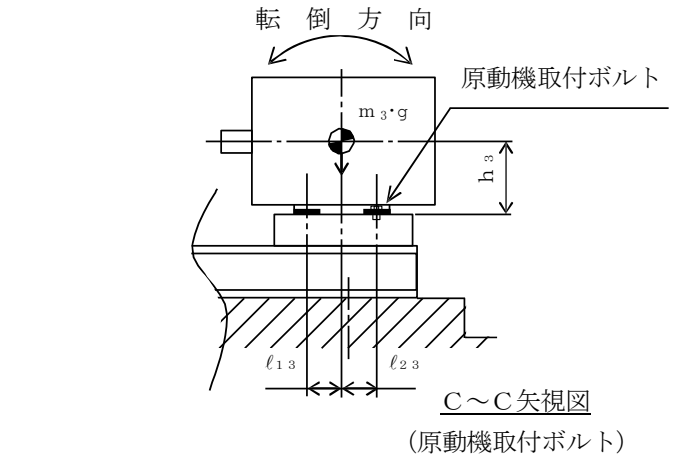
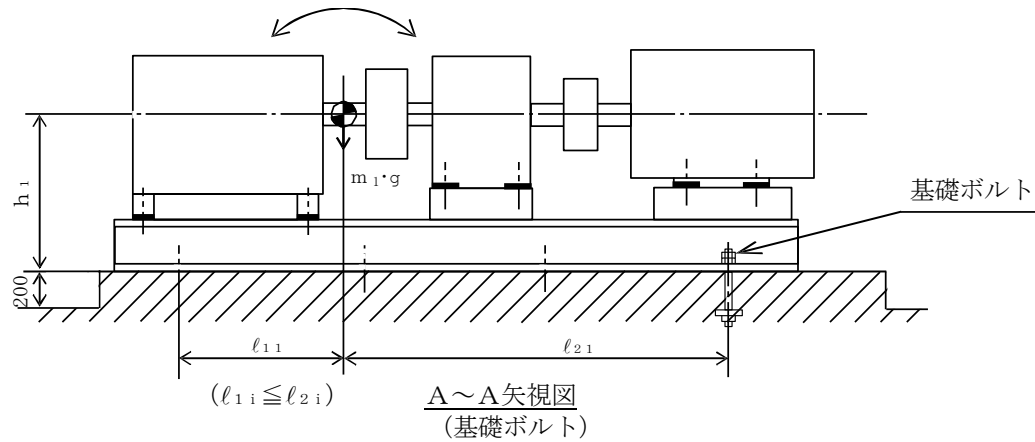
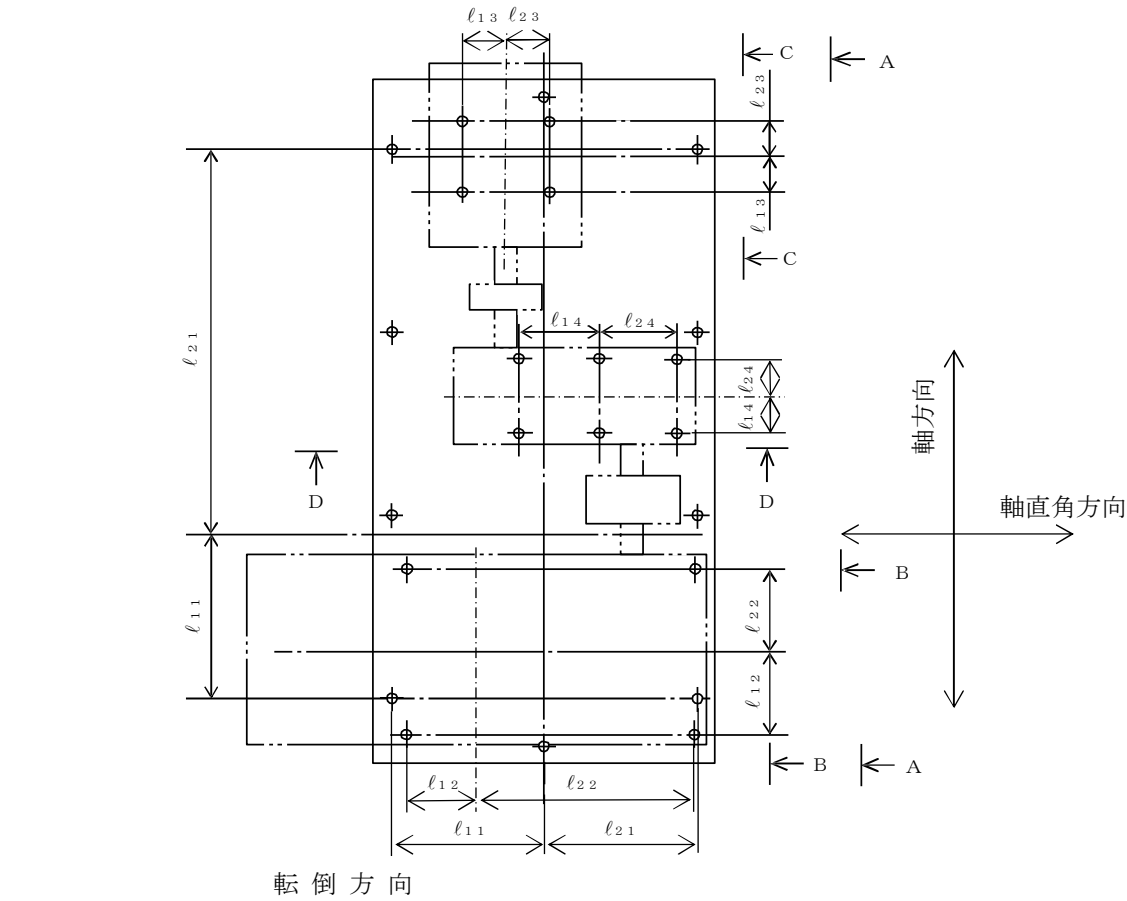
2.4.2 動的機能維持の評価結果

($\times 9.8\text{m/s}^2$)

		機能維持評価用加速度*	機能確認済加速度
ポンプ	水平方向		
	鉛直方向		
原動機	水平方向		
	鉛直方向		

注記*：設計用震度 I（基準地震動S_s）により定まる加速度又はこれを上回る加速度とする。

機能維持評価用加速度はすべて機能確認済加速度以下である。



添付資料-2 立形ポンプの耐震性についての計算書作成の基本方針

目 次

1. 概要	1
2. 一般事項	1
2.1 評価方針	1
2.2 適用規格・基準等	2
2.3 記号の説明	3
2.4 計算精度と数値の丸め方	5
3. 評価部位	6
4. 固有値解析及び構造強度評価	6
4.1 固有値解析及び構造強度評価方法	6
4.2 固有周期の計算	7
4.3 設計用地震力	7
4.4 計算方法	7
4.5 応力の評価	10
5. 機能維持評価	12
5.1 動的機能維持評価方法	12
6. 耐震計算書のフォーマット	12

1. 概要

本資料は、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」に基づき、耐震性に関する説明書が求められている立形ポンプ（耐震重要度分類Sクラス又はS_s機能維持の計算を行うもの）が、十分な耐震性を有していることを確認するための耐震計算の方法について記載したものである。

解析の方針及び減衰定数については、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に従うものとする。

ただし、本基本方針が適用できない立形ポンプにあつては、個別耐震計算書にその耐震計算方法を含めて記載する。

2. 一般事項

2.1 評価方針

立形ポンプの応力評価は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」にて設定した荷重及び荷重の組合せ並びに許容限界に基づき、「3. 評価部位」にて設定する箇所において、「4.2 固有周期の計算」で算出した固有周期に基づく設計用地震力による応力等が許容限界内に収まることを、「4. 固有値解析及び構造強度評価」にて示す方法にて確認することで実施する。また、立形ポンプの機能維持評価は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」にて設定した動的機器の機能維持の方針に基づき、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下であることを、「5. 機能維持評価」にて示す方法にて確認することで実施する。確認結果を「6. 耐震計算書のフォーマット」に示す。

立形ポンプの耐震評価フローを図2-1に示す。

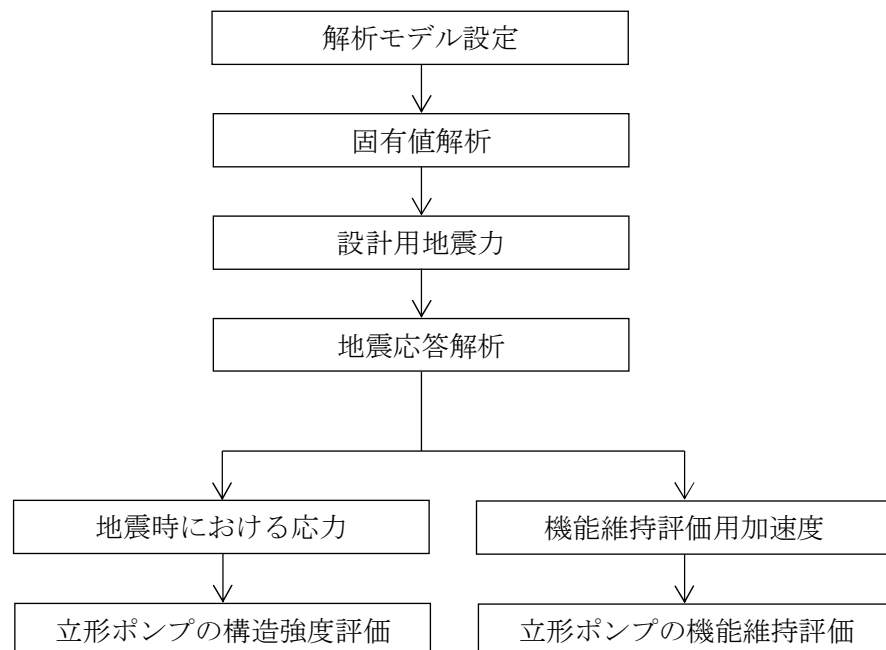


図2-1 立形ポンプの耐震評価フロー

2.2 適用規格・基準等

本評価において適用する規格・基準等を以下に示す。

- ・原子力発電所耐震設計技術指針 重要度分類・許容応力編 J E A G 4 6 0 1 ・補-1984
（（社）日本電気協会）
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1987 （（社）日本電気協会）
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1991 追補版（（社）日本電気協会）
- ・発電用原子力設備規格 設計・建設規格（（社）日本機械学会，2005/2007）（以下「設計・建設規格」という。）

2.3 記号の説明

記号	記号の説明	単位
A b i	ボルトの軸断面積* ¹	mm ²
A c	バレルケーシング又はコラムパイプの断面積	mm ²
C H	水平方向設計震度	—
C p	ポンプ振動による震度	—
C v	鉛直方向設計震度	—
D c	バレルケーシング又はコラムパイプの内径	mm
D i	ボルトのピッチ円直径* ¹	mm
d i	ボルトの呼び径* ¹	mm
F i	設計・建設規格 SSB-3121.1(1)に定める値* ¹	MPa
F i *	設計・建設規格 SSB-3133 に定める値* ¹	MPa
F b i	ボルトに作用する引張力 (1本当たり) * ¹	N
f s b i	せん断力のみを受けるボルトの許容せん断応力* ¹	MPa
f t o i	引張力のみを受けるボルトの許容引張応力* ¹	MPa
f t s i	引張力とせん断力を同時に受けるボルトの許容引張応力* ¹	MPa
g	重力加速度 (=9.80665)	m/s ²
H p	予想最大両振幅	μm
M	図4-2 計算モデルによる多質点解析により求められるモーメント	N・mm
M i	図4-2 計算モデルのⒶ, Ⓑ, Ⓒ及びⒹを支点とする地震及び水平方向のポンプ振動による転倒モーメント* ²	N・mm
M p	ポンプ回転により作用するモーメント	N・mm
m	バレルケーシング付根部に対しては, ポンプ床下部質量 コラムパイプ付根部に対しては, コラムパイプ総質量	kg
m i	運転時質量* ³	kg
N	回転数 (原動機の同期回転数)	rpm
n i	ボルトの本数* ¹	—
n f i	評価上引張力を受けるとして期待するボルトの本数* ¹	—
P	原動機出力	kW
P c	バレルケーシング又はコラムパイプの内圧	MPa
Q b i	図4-2 計算モデルのⒶ, Ⓑ, Ⓒ及びⒹにおける地震及び水平方向のポンプ振動によりボルトに作用するせん断力* ¹	N
S	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5に定める値	MPa
S a	バレルケーシング又はコラムパイプの許容応力	MPa
S u, S u i	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表9に定める値* ¹	MPa
S y, S y i	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8に定める値* ¹	MPa
S y i (R T)	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8に定める材料の40℃における値* ¹	MPa

記号	記号の説明	単位
T_{Hi}	水平方向固有周期*4	s
T_{Vi}	鉛直方向固有周期*4	s
t	バレルケーシング又はコラムパイプの厚さ	mm
Z	バレルケーシング又はコラムパイプの断面係数	mm ³
π	円周率	—
σ	バレルケーシング又はコラムパイプの一次一般膜応力の最大値	MPa
σ_{bi}	ボルトに生じる引張応力*1	MPa
σ_{cH}	水平方向地震によりバレルケーシング又はコラムパイプに生じる応力	MPa
σ_{cV}	鉛直方向地震によりバレルケーシング又はコラムパイプに生じる応力	MPa
σ_{zP}	バレルケーシング又はコラムパイプの内圧による軸方向応力	MPa
$\sigma_{\theta P}$	バレルケーシング又はコラムパイプの内圧による周方向応力	MPa
τ_{bi}	ボルトに生じるせん断応力*1	MPa

注記*1: A_{bi} , D_i , d_i , F_i , F_i^* , F_{bi} , f_{sbi} , f_{toi} , f_{tsi} , n_i , n_{fi} , Q_{bi} , S_{ui} , S_{yi} , $S_{yi}(RT)$, σ_{bi} 及び τ_{bi} の添字*i*の意味は、以下のとおりとする。

- $i = 1$: 基礎ボルト
- $i = 2$: ポンプ取付ボルト
- $i = 3$: 原動機台取付ボルト
- $i = 4$: 原動機取付ボルト

なお、ポンプ取付ボルト（上），（下）がある場合は、 $i = 2$: ポンプ取付ボルト（下）， $i = 3$: ポンプ取付ボルト（上）とし、 $i = 3$ を $i = 4$ 、 $i = 4$ を $i = 5$ とする。

*2: M_i の添字*i*の意味は、以下のとおりとする。

- $i = 1$: ㊶
- $i = 2$: ㊷
- $i = 3$: ㊸
- $i = 4$: ㊹

*3: m_i の添字*i*の意味は、以下のとおりとする。

- $i = 1$: 据付面
- $i = 2$: ポンプ取付面
- $i = 3$: 原動機台取付面
- $i = 4$: 原動機取付面

なお、ポンプ取付面（上），（下）がある場合は、 $i = 2$: ポンプ取付面（下）， $i = 3$: ポンプ取付面（上）とし、 $i = 3$ を $i = 4$ 、 $i = 4$ を $i = 5$ とする。

*4: T_{Hi} , T_{Vi} の添字*i*の意味は、固有周期の次数を示す。

2.4 計算精度と数値の丸め方

精度は、有効数字 6 桁以上を確保する。

表示する数値の丸め方は表 2-1 に示すとおりである。

表 2-1 表示する数値の丸め方

数値の種類	単位	処理桁	処理方法	表示桁
固有周期	s	小数点以下第 4 位	四捨五入	小数点以下第 3 位
震度	—	小数点以下第 3 位	切上げ	小数点以下第 2 位
温度	℃	—	—	整数位
質量	kg	—	—	整数位
長さ	mm	—	—	整数位 ^{*1}
面積	mm ²	有効数字 5 桁目	四捨五入	有効数字 4 桁 ^{*2}
モーメント	N・mm	有効数字 5 桁目	四捨五入	有効数字 4 桁 ^{*2}
力	N	有効数字 5 桁目	四捨五入	有効数字 4 桁 ^{*2}
算出応力	MPa	小数点以下第 1 位	切上げ	整数位
許容応力 ^{*3}	MPa	小数点以下第 1 位	切捨て	整数位

注記*1：設計上定める値が小数点以下第 1 位の場合は、小数点以下第 1 位表示とする。

*2：絶対値が 1000 以上のときは、べき数表示とする。

*3：設計・建設規格 付録材料図表に記載された温度の中間における引張強さ及び降伏点は、比例法により補間した値の小数点以下第 1 位を切り捨て、整数位までの値とする。

3. 評価部位

立形ポンプの耐震評価は「4.1 固有値解析及び構造強度評価方法」に示す条件に基づき、耐震評価上厳しくなる基礎ボルト、取付ボルト並びにバレルケーシング及びコラムパイプについて評価を実施する。また、海水ポンプのように、コラムパイプ端部をサポートで水平方向の支持をする場合には、サポート取付用基礎ボルトについて評価を実施する。

4. 固有値解析及び構造強度評価

4.1 固有値解析及び構造強度評価方法

立形ポンプの固有値解析及び構造評価に用いる解析モデルの作成条件を以下に示す。

- (1) ポンプは基礎ボルトで基礎に固定されており、固定端とする。
- (2) ポンプは原動機も含めて多質点モデルにてモデル化し、軸とケーシングとを分け軸受部をばねで接続した複列式多質点モデルとする。
- (3) モデル化に際しては、原動機、ポンプ及び内容物の質量は各質点に集中するものとする。
- (4) 下部サポートは鉛直方向にスライドできるものとし、水平方向の地震力を受けるものとする。
- (5) 地震力はポンプに対して水平方向及び鉛直方向から作用するものとする。
- (6) 耐震計算に用いる寸法は、公称値を使用する。
- (7) 固有値解析及び地震応答解析に用いる解析コードは「MSC NASTRAN」とする。

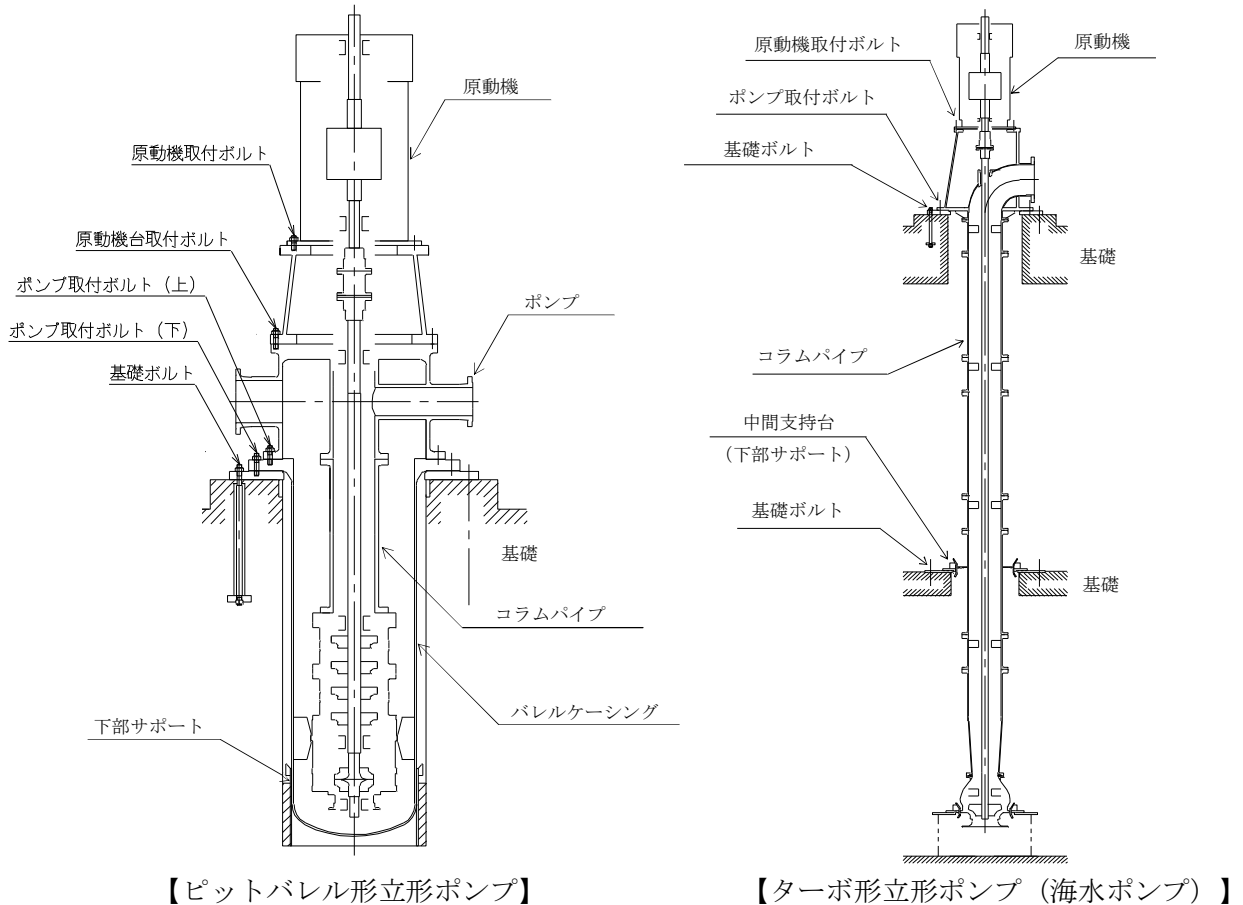


図 4-1 概要図

4.2 固有周期の計算

立形ポンプの固有周期について、「4.1 固有値解析及び構造強度評価方法」に基づき作成した解析モデルにより計算する。

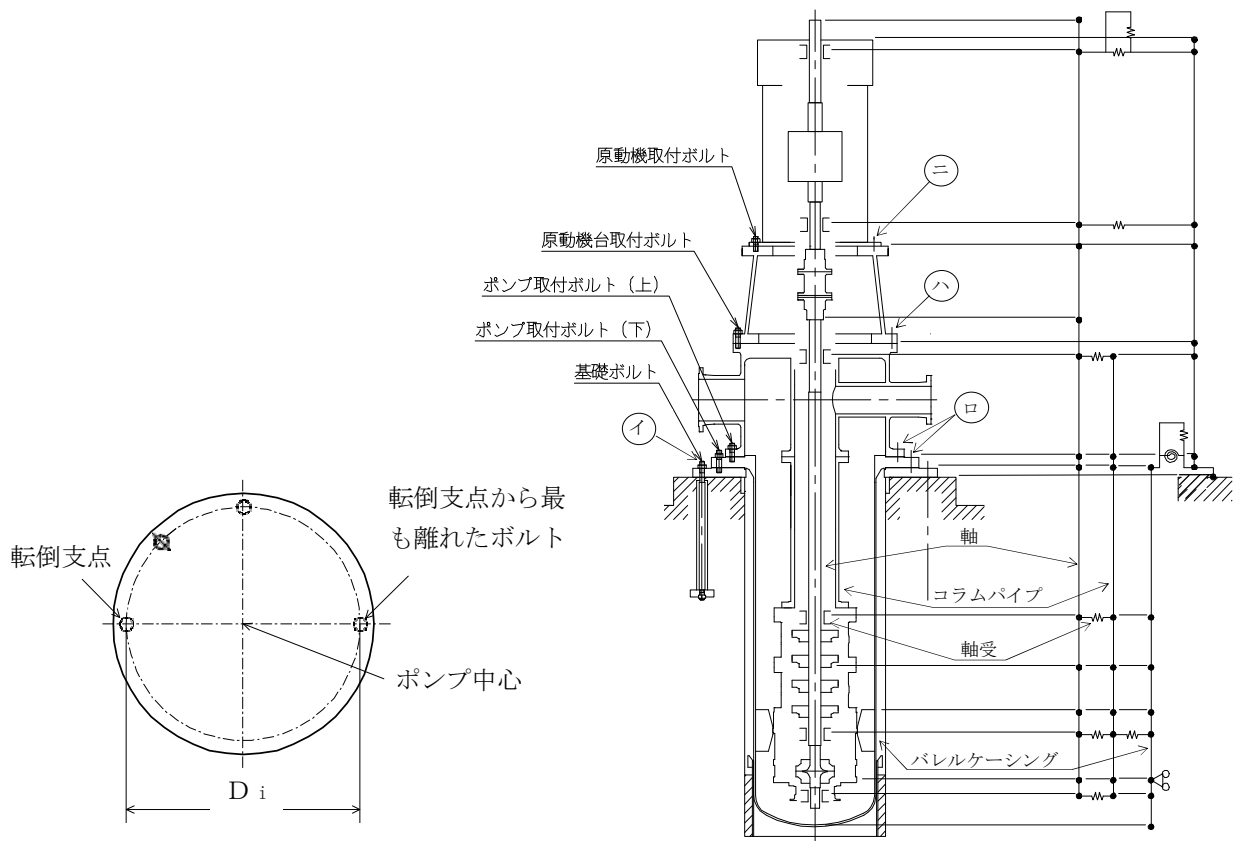
4.3 設計用地震力

「弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度」及び「基準地震動 S_s 」による地震力は、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定する。

4.4 計算方法

4.4.1 応力の計算方法

4.4.1.1 ボルトの計算方法



$i = 1$: 基礎ボルト

$i = 2$: ポンプ取付ボルト*

$i = 3$: 原動機台取付ボルト*

$i = 4$: 原動機取付ボルト*

注記* : ポンプ取付ボルト (上), (下) がある場合は, $i = 2$: ポンプ取付ボルト (下), $i = 3$: ポンプ取付ボルト (上) とし, $i = 3$ を $i = 4$, $i = 4$ を $i = 5$ とする。

図 4-2 計算モデル

ボルトの応力は地震による震度、ポンプ振動による震度及びポンプ回転により作用するモーメントによって生じる引張力とせん断力について計算する。

なお、転倒モーメント並びにせん断力は、水平方向には設計震度とポンプ振動による震度の合計を考慮し、鉛直方向には設計震度と自重を考慮した地震応答解析により算出する。

(1) 引張応力

ボルトに対する引張力は転倒支点から正比例した力が作用するものとし、最も厳しい条件として転倒支点から最も離れたボルトについて計算する。

引張力

$$F_{b i} = \frac{M_i - (1 - C_p - C_v) \cdot m_i \cdot g \cdot \frac{D_i}{2}}{\frac{3}{8} \cdot n_{f i} \cdot D_i} \dots\dots\dots (4.4.1.1.1)$$

ここで、 M_i は地震応答解析により求める。

また、 C_p はポンプ振動による振幅及び原動機の同期回転数を考慮して定める値で、次式で求める。

$$C_p = \frac{\frac{1}{2} \cdot \frac{H_p}{1000} \cdot \left(2 \cdot \pi \cdot \frac{N}{60}\right)^2}{g \cdot 1000} \dots\dots\dots (4.4.1.1.2)$$

引張応力

$$\sigma_{b i} = \frac{F_{b i}}{A_{b i}} \dots\dots\dots (4.4.1.1.3)$$

ここで、ボルトの軸断面積 $A_{b i}$ は次式により求める。

$$A_{b i} = \frac{\pi}{4} \cdot d_i^2 \dots\dots\dots (4.4.1.1.4)$$

ただし、 $F_{b i}$ が負のときボルトには引張力が生じないので、引張応力の計算は行わない。

(2) せん断応力

ボルトに対するせん断力はボルト全本数で受けるものとして計算する。なお、基礎ボルト ($i=1$) については、ポンプ回転によるモーメントは作用しない。

せん断力

せん断力は地震応答解析により求める $Q_{b i}$ 及びポンプ回転により作用するモーメント M_p を考慮して求める。

せん断応力

$$\tau_{bi} = \frac{Q_{bi} + 2 \cdot M_p / D_i}{n_i \cdot A_{bi}} \quad \dots\dots\dots (4.4.1.1.5)$$

ここで、ポンプ回転により作用するモーメント M_p は次式で求める。

$$M_p = \left(\frac{60}{2 \cdot \pi \cdot N} \right) \cdot 10^6 \cdot P \quad \dots\dots\dots (4.4.1.1.6)$$

$$(1kW = 10^6 N \cdot mm/s)$$

4.4.1.2 バレルケーシング及びコラムパイプの計算方法

バレルケーシング及びコラムパイプの応力は次式により求める。

(1) 水平方向地震力による応力

多質点モデルを用いて応答計算を行い、得られた各部に働くモーメントにより、曲げ応力は以下ようになる。

$$\sigma_{cH} = \frac{M}{Z} \quad \dots\dots\dots (4.4.1.2.1)$$

(2) 鉛直方向地震による応力

$$\sigma_{cv} = \frac{(1 + C_v + C_p) \cdot m \cdot g}{A_c} \quad \dots\dots\dots (4.4.1.2.2)$$

(3) 内圧による応力

$$\sigma_{\theta P} = \frac{P_c \cdot D_c}{2 \cdot t} \quad \dots\dots\dots (4.4.1.2.3)$$

$$\sigma_{zP} = \frac{P_c \cdot D_c}{4 \cdot t} \quad \dots\dots\dots (4.4.1.2.4)$$

以上の(1)～(3)の各応力から、一次一般膜応力は

$$\sigma = \text{Max} (\sigma_{cH} + \sigma_{cv} + \sigma_{zP}, \sigma_{\theta P}) \quad \dots\dots\dots (4.4.1.2.5)$$

一次応力は一次一般膜応力と同じになるので省略する。

4.5 応力の評価

4.5.1 ボルトの応力評価

4.4.1.1 項で求めたボルトの引張応力 σ_{bi} は次式より求めた許容引張応力 f_{tsi} 以下であること。ただし、 f_{toi} は下表による。

$$f_{tsi} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{toi} - 1.6 \cdot \tau_{bi}, f_{toi}] \quad \dots\dots\dots (4.5.1.1)$$

せん断応力 τ_{bi} はせん断力のみを受けるボルトの許容せん断応力 f_{sbi} 以下であること。ただし、 f_{sbi} は下表による。

	弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度による 荷重との組合せの場合	基準地震動 S_s による 荷重との組合せの場合
許容引張応力 f_{toi}	$\frac{F_i}{2} \cdot 1.5$	$\frac{F_i^*}{2} \cdot 1.5$
許容せん断応力 f_{sbi}	$\frac{F_i}{1.5 \cdot \sqrt{3}} \cdot 1.5$	$\frac{F_i^*}{1.5 \cdot \sqrt{3}} \cdot 1.5$

4.5.2 バレルケーシング及びコラムパイプの応力評価

4.4.1.2 項で求めた応力が最高使用温度における許容応力 S_a 以下であること。ただし、 S_a は下表による。

応力の種類	許容応力 S_a	
	弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度による 荷重との組合せの場合	基準地震動 S_s による 荷重との組合せの場合
一次一般膜応力	設計降伏点 S_y と設計引張強さ S_u の 0.6 倍のいずれか小さい方の値。ただし、オーステナイト系ステンレス鋼及び高ニッケル合金にあつては許容引張応力 S の 1.2 倍の方が大きい場合は、この大きい方の値とする。	設計引張強さ S_u の 0.6 倍

一次応力の評価は算出応力が一次一般膜応力と同じ値であるので省略する。

5. 機能維持評価

5.1 動的機能維持評価方法

機能維持評価用加速度と機能確認済加速度との比較により、地震時又は地震後の動的機能維持を評価する。

機能維持評価用加速度は、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき、基準地震動 S_s により定まる加速度又はこれを上回る加速度を設定する。なお、水平方向の機能維持評価用加速度はコラム先端（原動機にあつては軸受部）の応答加速度又は設置床の最大応答加速度のいずれか大きい方とする。

機能確認済加速度は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」による。

なお、この適用形式を外れる場合は、加振試験等に基づき確認した加速度を用いることとし、個別計算書にその旨を記載する。

6. 耐震計算書のフォーマット

立形ポンプの耐震計算書のフォーマットは、以下のとおりである。

[設計基準対象施設及び重大事故等対処設備の場合]

フォーマットⅠ 設計基準対象施設としての評価結果

フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果

[重大事故等対処設備単独の場合]

フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果*

注記*：重大事故等対処設備単独の場合は、設計基準対象施設及び重大事故等対処設備に示すフォーマットⅡを使用するものとする。ただし、評価結果表に記載の章番を「2.」から「1.」とする。

【フォーマット I 設計基準対象施設としての評価結果】

【○○○○ポンプの耐震性についての計算結果】

1. 設計基準対象施設

1.1 設計条件

機器名称	耐震重要度分類	据付場所及び床面高さ(m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		ポンプ振動による震度	最高使用温度(°C)	周囲環境温度(°C)	最高使用圧力(MPa)	
			水平方向	鉛直方向	水平方向設計震度	鉛直方向設計震度	水平方向設計震度	鉛直方向設計震度				吸入側	吐出側
		○○建物 EL *1			C _H = *2 又は*3	C _V = *2	C _H = *4 又は*5	C _V = *4	C _P =				

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（弾性設計用地震動 S_d）又は静的震度のいずれか大きい方、若しくはこれを上回る設計震度

*3：設計用床応答スペクトル I（弾性設計用地震動 S_d）又はこれを上回る設計用床応答スペクトルにより得られる震度

*4：設計用震度 I（基準地震動 S_s）又はこれを上回る設計震度

*5：設計用床応答スペクトル I（基準地震動 S_s）又はこれを上回る設計用床応答スペクトルにより得られる震度

1.2 機器要目

(1) ボルト

部材	m _i (kg)	D _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	n _{f i}	M _p (N・mm)	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)	F _i (MPa)	F _i * (MPa)
基礎ボルト (i=1)			(M)					*2	*2		
ポンプ取付ボルト(下) (i=2)			(M)					*1	*1		
ポンプ取付ボルト(上) (i=3)			(M)					*1	*1		
原動機台取付ボルト (i=4)			(M)					*1	*1		
原動機取付ボルト (i=5)			(M)					*2	*2		

注記*1：最高使用温度で算出

*2：周囲環境温度で算出

(2) バレルケーシング, コラムパイプ

部材	S (MPa)	S _y (MPa)	S _u (MPa)	D _c (mm)	t (mm)
バレルケーシング	*	*	*		
コラムパイプ	*	*	*		

注記*：最高使用温度で算出

H _p (μm)	N (rpm)

S2 補 VI-2-1-14(2) R0

1.3 計算数値

(1) ボルトに作用する力

部材	M _i (N・mm)		F _{b i} (N)		Q _{b i} (N)	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)						
ポンプ取付ボルト(下) (i=2)						
ポンプ取付ボルト(上) (i=3)						
原動機台取付ボルト (i=4)						
原動機取付ボルト (i=5)						

(2) バレルケーシング, コラムパイプに作用する力
(単位: N・mm)

部材	M	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
バレルケーシング		
コラムパイプ		

1.4 結論

1.4.1 固有周期

(単位: s)

モード	固有周期
水平 1次	T _{H1} =
鉛直 1次	T _{V1} =

1.4.2 ボルトの応力

(単位: MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
			基礎ボルト (i=1)	引張り	$\sigma_{b1} =$	$f_{ts1} = *$
	せん断	$\tau_{b1} =$	$f_{sb1} =$	$\tau_{b1} =$	$f_{sb1} =$	
ポンプ取付ボルト(下) (i=2)	引張り	$\sigma_{b2} =$	$f_{ts2} = *$	$\sigma_{b2} =$	$f_{ts2} = *$	
	せん断	$\tau_{b2} =$	$f_{sb2} =$	$\tau_{b2} =$	$f_{sb2} =$	
ポンプ取付ボルト(上) (i=3)	引張り	$\sigma_{b3} =$	$f_{ts3} = *$	$\sigma_{b3} =$	$f_{ts3} = *$	
	せん断	$\tau_{b3} =$	$f_{sb3} =$	$\tau_{b3} =$	$f_{sb3} =$	
原動機台取付ボルト (i=4)	引張り	$\sigma_{b4} =$	$f_{ts4} = *$	$\sigma_{b4} =$	$f_{ts4} = *$	
	せん断	$\tau_{b4} =$	$f_{sb4} =$	$\tau_{b4} =$	$f_{sb4} =$	
原動機取付ボルト (i=5)	引張り	$\sigma_{b5} =$	$f_{ts5} = *$	$\sigma_{b5} =$	$f_{ts5} = *$	
	せん断	$\tau_{b5} =$	$f_{sb5} =$	$\tau_{b5} =$	$f_{sb5} =$	

すべて許容応力以下である。

注記*: $f_{tsi} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{toi} - 1.6 \cdot \tau_{bi}, f_{toi}]$

1.4.3 バレルケーシング, コラムパイプの応力

(単位: MPa)

部材	材料	一次一般膜応力		
		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	算出応力	許容応力
バレルケーシング		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	$\sigma =$	S _a =
		基準地震動 S _s	$\sigma =$	S _a =
コラムパイプ		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	$\sigma =$	S _a =
		基準地震動 S _s	$\sigma =$	S _a =

すべて許容応力以下である。

1.4.4 動的機能維持の評価結果

($\times 9.8\text{m/s}^2$)

		機能維持評価用加速度*	機能確認済加速度
ポンプ	水平方向		
	鉛直方向		
原動機	水平方向		
	鉛直方向		

注記*：設計用震度 I（基準地震動 S s）により定まる加速度又はこれを上回る加速度とする。なお、水平方向の機能維持評価用加速度はコラム先端（原動機にあつては軸受部）の応答加速度又は設置床の最大応答加速度のいずれか大きい方とする。
機能維持評価用加速度はすべて機能確認済加速度以下である。

1.5 その他の機器要目

(1) 節点データ

節点番号	節点座標 (mm)		
	x	y	z
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			
37			
38			
39			
40			

(2) 要素の断面性状

断面特性番号 (要素番号)	要素両端の節点 番号	材料 番号	断面積 (mm ²)	断面二次 モーメント (mm ⁴)	断面二次 極モーメント (mm ⁴)
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					

(3) ばね結合部の指定

ばねの両端の節点番号		ばね定数
1	15	(N/mm)
3	17	(N/mm)
6	20	(N/mm)
9	23	(N/mm)
12	38	(N/mm)
13	39	(N/mm)
17	27	(N/mm)
31	33	(N・mm/rad)

(4) 節点の質量

節点番号	質量 (kg)
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	

(5) 材料物性値

材料番号	温度 (°C)	縦弾性係数 (MPa)	質量密度 (kg/mm ³)	ポアソン比 (-)	材質
1					
2					
3					
4					
5					

【フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果】

【○○○○ポンプの耐震性についての計算結果】

2. 重大事故等対処設備

2.1 設計条件

機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ(m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		ポンプ振動による震度	最高使用温度(°C)	周囲環境温度(°C)	最高使用圧力(MPa)	
			水平方向	鉛直方向	水平方向設計震度	鉛直方向設計震度	水平方向設計震度	鉛直方向設計震度				吸込側	吐出側
		○○建物 EL *1			—	—	C _H = *2 又は*3	C _V = *2	C _P =				

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（基準地震動 S_s）又はこれを上回る設計震度

*3：設計用床応答スペクトル I（基準地震動 S_s）又はこれを上回る設計用床応答スペクトルにより得られる震度

2.2 機器要目

(1) ボルト

部材	m _i (kg)	D _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	n _{f i}	M _p (N・mm)	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)	F _i (MPa)	F _i * (MPa)
基礎ボルト (i=1)			(M)					*2	*2	—	
ポンプ取付ボルト(下) (i=2)			(M)					*1	*1	—	
ポンプ取付ボルト(上) (i=3)			(M)					*1	*1	—	
原動機台取付ボルト (i=4)			(M)					*1	*1	—	
原動機取付ボルト (i=5)			(M)					*2	*2	—	

注記*1：最高使用温度で算出

*2：周囲環境温度で算出

(2) パレルケーシング, コラムパイプ

部材	S (MPa)	S _y (MPa)	S _u (MPa)	D _c (mm)	t (mm)
パレルケーシング	—	*	*		
コラムパイプ	—	*	*		

注記*：最高使用温度で算出

H _p (μm)	N (rpm)

2.3 計算数値

(1) ボルトに作用する力

(2) バレルケーシング, コラムパイプに作用する力
(単位: N・mm)

部材	M _i (N・mm)		F _{bi} (N)		Q _{bi} (N)	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)	—		—		—	
ポンプ取付ボルト(下) (i=2)	—		—		—	
ポンプ取付ボルト(上) (i=3)	—		—		—	
原動機台取付ボルト (i=4)	—		—		—	
原動機取付ボルト (i=5)	—		—		—	

部材	M	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
バレルケーシング	—	
コラムパイプ	—	

2.4 結論

2.4.1 固有周期 (単位: s)

モード	固有周期
水平 1次	T _{H1} =
鉛直 1次	T _{V1} =

2.4.2 ボルトの応力

(単位: MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
			基礎ボルト (i=1)	引張り	—	—
	せん断	—	—	$\tau_{b1} =$	$f_{sb1} =$	
ポンプ取付ボルト(下) (i=2)	引張り	—	—	$\sigma_{b2} =$	$f_{ts2} = *$	
	せん断	—	—	$\tau_{b2} =$	$f_{sb2} =$	
ポンプ取付ボルト(上) (i=3)	引張り	—	—	$\sigma_{b3} =$	$f_{ts3} = *$	
	せん断	—	—	$\tau_{b3} =$	$f_{sb3} =$	
原動機台取付ボルト (i=4)	引張り	—	—	$\sigma_{b4} =$	$f_{ts4} = *$	
	せん断	—	—	$\tau_{b4} =$	$f_{sb4} =$	
原動機取付ボルト (i=5)	引張り	—	—	$\sigma_{b5} =$	$f_{ts5} = *$	
	せん断	—	—	$\tau_{b5} =$	$f_{sb5} =$	

すべて許容応力以下である。

注記*: $f_{tsi} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{toi} - 1.6 \cdot \tau_{bi}, f_{toi}]$

2.4.3 バレルケーシング, コラムパイプの応力

(単位: MPa)

部材	材料		一次一般膜応力	
			算出応力	許容応力
バレルケーシング		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	—	—
		基準地震動 S _s	$\sigma =$	S _a =
コラムパイプ		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	—	—
		基準地震動 S _s	$\sigma =$	S _a =

すべて許容応力以下である。

2.4.4 動的機能維持の評価結果

($\times 9.8\text{m/s}^2$)

		機能維持評価用加速度*	機能確認済加速度
ポンプ	水平方向		
	鉛直方向		
原動機	水平方向		
	鉛直方向		

注記*：設計用震度 I（基準地震動 S s）により定まる加速度又はこれを上回る加速度とする。なお、水平方向の機能維持評価用加速度はコラム先端（原動機にあつては軸受部）の応答加速度

又は設置床の最大応答加速度のいずれか大きい方とする。

機能維持評価用加速度はすべて機能確認済加速度以下である。

2.5 その他の機器要目

(1) 節点データ

節点番号	節点座標 (mm)		
	x	y	z
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			
37			
38			
39			
40			

(2) 要素の断面性状

断面特性番号 (要素番号)	要素両端の節点 番号	材料 番号	断面積 (mm ²)	断面二次 モーメント (mm ⁴)	断面二次 極モーメント (mm ⁴)
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					

(3) ばね結合部の指定

ばねの両端の節点番号		ばね定数
1	15	(N/mm)
3	17	(N/mm)
6	20	(N/mm)
9	23	(N/mm)
12	38	(N/mm)
13	39	(N/mm)
17	27	(N/mm)
31	33	(N・mm/rad)

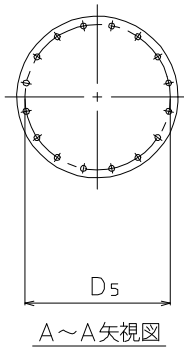
(4) 節点の質量

節点番号	質量 (kg)
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	

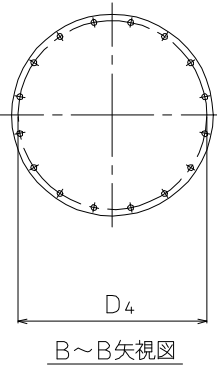
(5) 材料物性値

材料番号	温度 (°C)	縦弾性係数 (MPa)	質量密度 (kg/mm ³)	ポアソン比 (-)	材質
1					
2					
3					
4					
5					

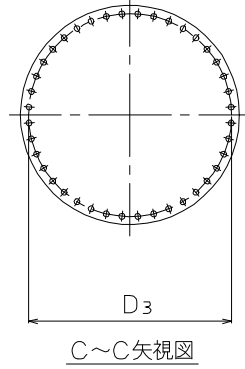
原動機取付ボルト



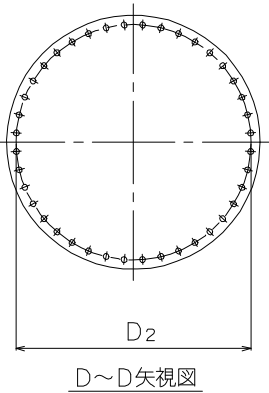
原動機台取付ボルト



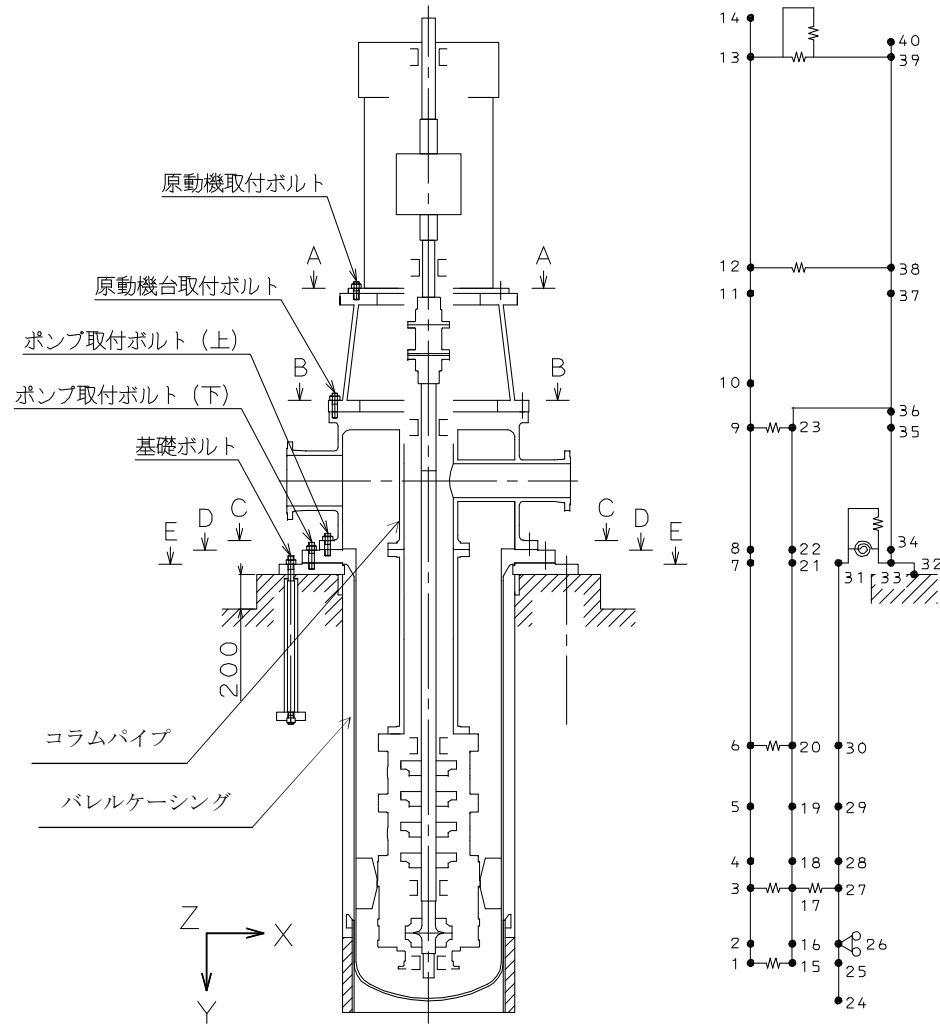
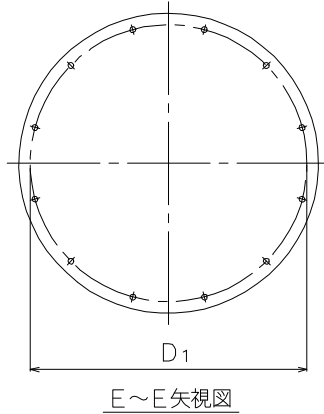
ポンプ取付ボルト (上)



ポンプ取付ボルト (下)



基礎ボルト



添付資料-3 スカート支持たて置円筒形容器の
耐震性についての計算書作成の基本方針

目 次

1. 概要	1
2. 一般事項	1
2.1 評価方針	1
2.2 適用規格・基準等	2
2.3 記号の説明	3
2.4 計算精度と数値の丸め方	6
3. 評価部位	7
4. 固有周期	7
4.1 固有周期の計算方法	7
5. 構造強度評価	11
5.1 構造強度評価方法	11
5.2 設計用地震力	11
5.3 計算方法	12
5.4 応力の評価	20
6. 耐震計算書のフォーマット	24

1. 概要

本資料は、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」に基づき、耐震性に関する説明書が求められているスカート支持たて置円筒形容器(耐震重要度分類Sクラス又はS s 機能維持の計算を行うもの)が、十分な耐震性を有していることを確認するための耐震計算の方法について記載したものである。

解析の方針及び減衰定数については、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に従うものとする。

ただし、本基本方針が適用できないスカート支持たて置円筒形容器にあつては、個別耐震計算書にその耐震計算方法を含めて記載する。

2. 一般事項

2.1 評価方針

スカート支持たて置円筒形容器の応力評価は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」にて設定した荷重及び荷重の組合せ並びに許容限界に基づき、「3. 評価部位」にて設定する箇所において、「4. 固有周期」で算出した固有周期に基づく設計用地震力による応力等が許容限界内に収まることを、「5. 構造強度評価」にて示す方法にて確認することで実施する。確認結果を「6. 耐震計算書のフォーマット」にて示す。

スカート支持たて置円筒形容器の耐震評価フローを図2-1に示す。

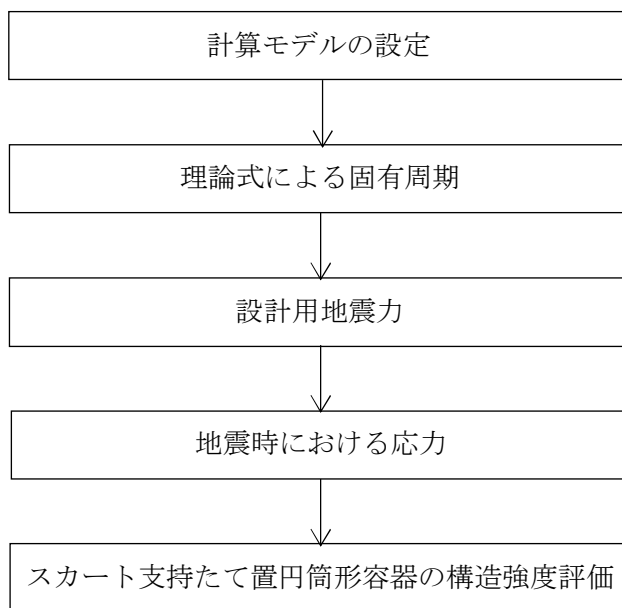


図2-1 スカート支持たて置円筒形容器の耐震評価フロー

2.2 適用規格・基準等

本評価において適用する規格・基準等を以下に示す。

- ・原子力発電所耐震設計技術指針 重要度分類・許容応力編 J E A G 4 6 0 1 ・補-1984
((社) 日本電気協会)
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1987 ((社) 日本電気協会)
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1991 追補版 ((社) 日本電気協会)
- ・発電用原子力設備規格 設計・建設規格 ((社) 日本機械学会, 2005/2007) (以下「設計・建設規格」という。)

2.3 記号の説明

記号	記号の説明	単位
A	胴の軸断面積	mm ²
A _b	基礎ボルトの軸断面積	mm ²
A _e	胴の有効せん断断面積	mm ²
A _s	スカートの軸断面積	mm ²
A _{s e}	スカートの有効せん断断面積	mm ²
C _c	基礎ボルト計算における係数	—
C _H	水平方向設計震度	—
C _t	基礎ボルト計算における係数	—
C _v	鉛直方向設計震度	—
D _{b i}	ベースプレートの内径	mm
D _{b o}	ベースプレートの外径	mm
D _c	基礎ボルトのピッチ円直径	mm
D _i	胴の内径	mm
D _j	スカートに設けられた各開口部の穴径 (j=1, 2, 3…j ₁)	mm
D _s	スカートの内径	mm
d	基礎ボルトの呼び径	mm
E	胴の縦弾性係数	MPa
E _s	スカートの縦弾性係数	MPa
e	基礎ボルト計算における係数	—
F	設計・建設規格 SSB-3121.1(1)に定める値	MPa
F [*]	設計・建設規格 SSB-3121.3又はSSB-3133に定める値	MPa
F _c	基礎に作用する圧縮力	N
F _t	基礎ボルトに作用する引張力	N
f _b	曲げモーメントに対する許容座屈応力	MPa
f _c	軸圧縮荷重に対する許容座屈応力	MPa
f _{s b}	せん断力のみを受ける基礎ボルトの許容せん断応力	MPa
f _t	スカートの許容引張応力	MPa
f _{t o}	引張力のみを受ける基礎ボルトの許容引張応力	MPa
f _{t s}	引張力とせん断力を同時に受ける基礎ボルトの許容引張応力	MPa
G	胴のせん断弾性係数	MPa
G _s	スカートのせん断弾性係数	MPa
g	重力加速度 (=9.80665)	m/s ²
H	水頭	mm
I	胴の断面二次モーメント	mm ⁴
I _s	スカートの断面二次モーメント	mm ⁴
j ₁	スカートに設けられた開口部の穴の個数	—

記号	記号の説明	単位
K_H	水平方向ばね定数	N/m
K_V	鉛直方向ばね定数	N/m
k	基礎ボルト計算における中立軸の荷重係数	—
l	胴のスカート接合点から重心までの距離	mm
l_1, l_2	基礎ボルト計算における中立軸から荷重作用点までの距離 (図5-2に示す距離)	mm
l_r	容器の重心から上端支持部までの距離	mm
l_s	スカートの長さ	mm
M_s	スカートに作用する転倒モーメント	N・mm
M_{s1}	スカートの上端部に作用する転倒モーメント	N・mm
M_{s2}	スカートの下端部に作用する転倒モーメント	N・mm
m_0	容器の運転時質量	kg
m_e	容器のスカート接合部から上部の空質量	kg
n	基礎ボルトの本数	—
P_r	最高使用圧力	MPa
Q	重心に作用する任意の水平力	N
Q'	Q により上端の支持部に作用する反力	N
S	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5に定める値	MPa
S_a	胴の許容応力	MPa
S_u	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表9に定める値	MPa
S_y	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8に定める値	MPa
$S_y(RT)$	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8に定める材料の 40℃における値	MPa
s	基礎ボルトと基礎の縦弾性係数比	—
T_H	水平方向固有周期	s
T_V	鉛直方向固有周期	s
t	胴板の厚さ	mm
t_1	基礎ボルト面積相当板幅	mm
t_2	圧縮側基礎相当幅	mm
t_s	スカートの厚さ	mm
Y	スカート開口部の水平断面における最大円周長さ	mm
z	基礎ボルト計算における係数	—
α	基礎ボルト計算における中立軸を定める角度	rad
δ	荷重 Q による容器の上端での変位量	mm
δ'	荷重 Q' による容器の上端での変位量	mm
δ_0	荷重 Q, Q' による容器の重心での変位量	mm
η	座屈応力に対する安全率	—
π	円周率	—

記号	記号の説明	単位
ρ'	液体の密度 (=比重 $\times 10^{-6}$)	kg/mm ³
σ_0	胴の一次一般膜応力の最大値	MPa
σ_{0c}	胴の組合せ圧縮応力	MPa
σ_{0t}	胴の組合せ引張応力	MPa
σ_2	地震動のみによる胴の一次応力と二次応力の和の変動値の最大値	MPa
$\sigma_{2\phi}$	地震動のみによる胴の周方向一次応力と二次応力の和	MPa
σ_{2c}	地震動のみによる胴の一次応力と二次応力の和の変動値 (圧縮側)	MPa
σ_{2t}	地震動のみによる胴の一次応力と二次応力の和の変動値 (引張側)	MPa
σ_{2xc}	地震動のみによる胴の軸方向一次応力と二次応力の和 (圧縮側)	MPa
σ_{2xt}	地震動のみによる胴の軸方向一次応力と二次応力の和 (引張側)	MPa
σ_b	基礎ボルトに生じる引張応力	MPa
σ_c	基礎に生じる圧縮応力	MPa
σ_s	スカートの組合せ応力	MPa
σ_{s1}	スカートの運転時質量による軸方向応力	MPa
σ_{s2}	水平方向地震によりスカートに生じる曲げモーメントによる 軸方向応力	MPa
σ_{s3}	スカートの鉛直方向地震による軸方向応力	MPa
$\sigma_{x1}, \sigma_{\phi 1}$	静水頭又は内圧により胴に生じる軸方向及び周方向応力	MPa
σ_{x2}	胴の運転時質量による軸方向引張応力	MPa
σ_{x3}	胴の空質量による軸方向圧縮応力	MPa
σ_{x4}	水平方向地震により胴に生じる曲げモーメントによる軸方向応力	MPa
σ_{x5}	胴の鉛直方向地震による軸方向引張応力	MPa
σ_{x6}	胴の鉛直方向地震による軸方向圧縮応力	MPa
σ_{xc}	胴の軸方向応力の和 (圧縮側)	MPa
σ_{xt}	胴の軸方向応力の和 (引張側)	MPa
σ_{ϕ}	胴の周方向応力の和	MPa
$\sigma_{\phi 2}$	静水頭に鉛直方向地震が加わり胴に生じる周方向応力	MPa
τ	地震により胴に生じるせん断応力	MPa
τ_b	基礎ボルトに生じるせん断応力	MPa
τ_s	地震によりスカートに生じるせん断応力	MPa
$\phi_1(x)$	圧縮荷重に対する許容座屈応力の関数	MPa
$\phi_2(x)$	曲げモーメントに対する許容座屈応力の関数	MPa

2.4 計算精度と数値の丸め方

精度は、有効数字6桁以上を確保する。

表示する数値の丸め方は表2-1に示すとおりである。

表 2-1 表示する数値の丸め方

数値の種類	単位	処理桁	処理方法	表示桁
固有周期	s	小数点以下第4位	四捨五入	小数点以下第3位
震度	—	小数点以下第3位	切上げ	小数点以下第2位
最高使用圧力	MPa	—	—	小数点以下第2位
温度	℃	—	—	整数位
比重	—	小数点以下第3位	四捨五入	小数点以下第2位
質量	kg	—	—	整数位
長さ	下記以外の長さ	mm	—	整数位 ^{*1}
	胴板の厚さ	mm	—	小数点以下第1位
	スカート厚さ	mm	—	小数点以下第1位
面積	mm ²	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁 ^{*2}
モーメント	N・mm	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁 ^{*2}
算出応力	MPa	小数点以下第1位	切上げ	整数位
許容応力 ^{*3}	MPa	小数点以下第1位	切捨て	整数位

注記*1：設計上定める値が小数点以下第1位の場合は、小数点以下第1位表示とする。

*2：絶対値が1000以上のときは、べき数表示とする。

*3：設計・建設規格 付録材料図表に記載された温度の中間における引張強さ及び降伏点は、比例法により補間した値の小数点以下第1位を切り捨て、整数位までの値とする。

3. 評価部位

スカート支持たて置円筒形容器の耐震評価は「5.1 構造強度評価方法」に示す条件に基づき、耐震評価上厳しくなる胴、スカート及び基礎ボルトについて評価を実施する。

4. 固有周期

4.1 固有周期の計算方法

スカート支持たて置円筒形容器の固有周期の計算方法を以下に示す。

(1) 計算モデル

モデル化に当たっては次の条件で行う。

- a. 容器及び内容物の質量は重心に集中するものとする。
- b. 容器はスカートで支持され、スカート下端のベースプレートを円周上等ピッチの多数の基礎ボルトで基礎に固定されており、固定端とする。
- c. 胴とスカートをはりと考え、変形モードは曲げ及びせん断変形を考慮する。
- d. スカートの部材において、マンホール等の開口部があつて補強をしていない場合は、欠損の影響を考慮する。
- e. 耐震計算に用いる寸法は、公称値を使用する。

本容器は、前記の条件より図4-1に示す下端固定の1質点系振動モデルあるいは下端固定上端支持の1質点系振動モデルとして考える。

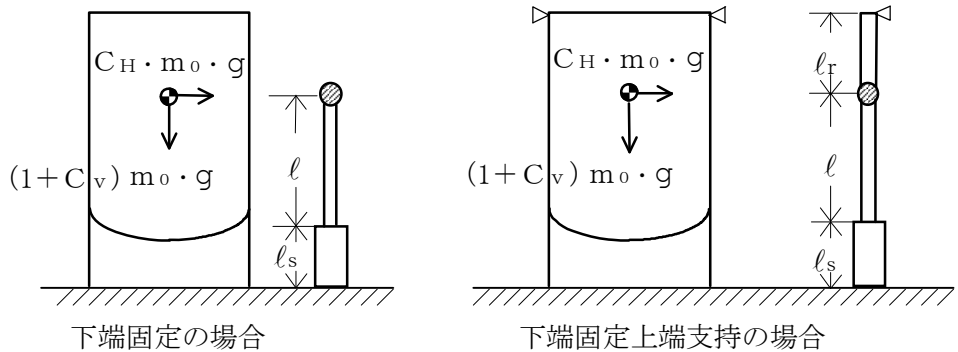


図4-1 固有周期の計算モデル

(2) 水平方向固有周期

a. 下端固定の場合

曲げ及びせん断変形によるばね定数KHは次式で求める。

$$K_H = 1000 \left\{ \frac{l^3}{3 \cdot E \cdot I} + \frac{1}{3 \cdot E_s \cdot I_s} \cdot (3 \cdot l^2 \cdot l_s + 3 \cdot l \cdot l_s^2 + l_s^3) + \frac{l}{G \cdot A_e} + \frac{l_s}{G_s \cdot A_{se}} \right\} \dots \dots \dots (4.1.1)$$

ここで、スカートの開口部（図4-2参照）による影響を考慮し、胴及びスカートの断面性能は次のように求める。

胴の断面性能は次式で求める。

$$I = \frac{\pi}{8} \cdot (D_i + t)^3 \cdot t \quad \dots\dots\dots (4.1.2)$$

$$A_e = \frac{2}{3} \cdot \pi \cdot (D_i + t) \cdot t \quad \dots\dots\dots (4.1.3)$$

スカートの断面性能は次式で求める。

$$I_s = \frac{\pi}{8} \cdot (D_s + t_s)^3 \cdot t_s - \frac{1}{4} \cdot (D_s + t_s)^2 \cdot t_s \cdot Y \quad \dots\dots\dots (4.1.4)$$

スカート開口部の水平断面における最大円周長さは次式で求める。

（図4-2及び図4-3参照）

$$Y = \sum_{j=1}^{j-1} (D_s + t_s) \cdot \sin^{-1} \left(\frac{D_j}{D_s + t_s} \right) \quad \dots\dots\dots (4.1.5)$$

$$A_{se} = \frac{2}{3} \cdot \{ \pi \cdot (D_s + t_s) - Y \} \cdot t_s \quad \dots\dots\dots (4.1.6)$$

したがって、固有周期は次式で求める。

$$T_H = 2 \cdot \pi \cdot \sqrt{\frac{m_0}{K_H}} \quad \dots\dots\dots (4.1.7)$$

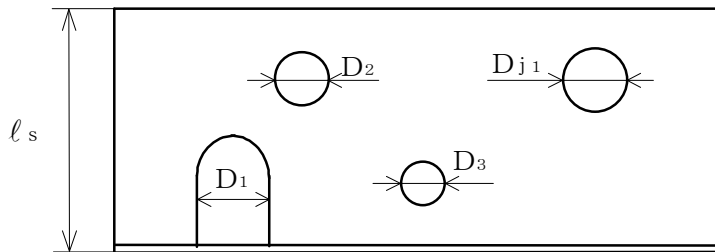


図4-2 スカートの開口部の形状

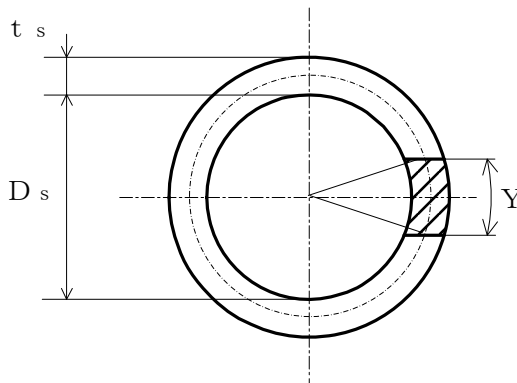


図4-3 スカートの開口部の水平断面における最大円周長さ

b. 下端固定上端支持の場合

重心の位置に水平方向の荷重Qが作用したときに上端の支持部に生じる反力Q'は、図4-4に示すように荷重Q及び反力Q'による上端の変位量δとδ'が等しいとして求める。

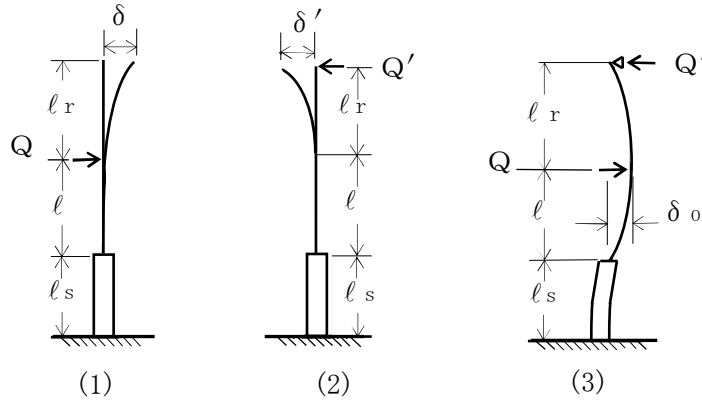


図4-4 下端固定上端支持の場合の変形モデル

図4-4の(1)の場合

$$\delta = \frac{Q \cdot l^2}{6 \cdot E \cdot I} \cdot (2 \cdot l + 3 \cdot l_r) + \frac{Q}{6 \cdot E_s \cdot I_s} \cdot \{ 2 \cdot l_s^3 + 3 \cdot l_s^2 \cdot l_r + 6 \cdot l_s \cdot l \cdot (l_s + l + l_r) \} + \frac{Q \cdot l}{G \cdot A_e} + \frac{Q \cdot l_s}{G_s \cdot A_{se}} \dots \dots \dots (4.1.8)$$

図4-4の(2)の場合

$$\delta' = \frac{Q' \cdot (l + l_r)^3}{3 \cdot E \cdot I} + \frac{Q'}{3 \cdot E_s \cdot I_s} \cdot \{ 3 \cdot (l + l_r)^2 \cdot l_s + 3 \cdot (l + l_r) \cdot l_s^2 + l_s^3 \} + \frac{Q' \cdot (l + l_r)}{G \cdot A_e} + \frac{Q' \cdot l_s}{G_s \cdot A_{se}} \dots \dots \dots (4.1.9)$$

(4.1.8) 式と (4.1.9) 式を等しく置くことにより、

$$Q' = Q \cdot \left\{ \frac{l^2 \cdot (2 \cdot l + 3 \cdot l_r)}{6 \cdot E \cdot I} + \frac{2 \cdot l_s^3 + 3 \cdot l_s^2 \cdot l_r + 6 \cdot l_s \cdot l \cdot (l_s + l + l_r)}{6 \cdot E_s \cdot I_s} + \frac{l}{G \cdot A_e} + \frac{l_s}{G_s \cdot A_{se}} \right\} \Bigg/ \left\{ \frac{(l + l_r)^3}{3 \cdot E \cdot I} + \frac{3 \cdot (l + l_r)^2 \cdot l_s + 3 \cdot (l + l_r) \cdot l_s^2 + l_s^3}{3 \cdot E_s \cdot I_s} + \frac{l + l_r}{G \cdot A_e} + \frac{l_s}{G_s \cdot A_{se}} \right\} \dots \dots \dots (4.1.10)$$

したがって、図4-4の(3)に示す重心位置での変位量 δ_0 は図4-4の(1)及び(2)の重心位置での変位量の重ね合わせから求めることができ、ばね定数 K_H は次式で求める。

$$K_H = \frac{Q}{\delta_0} = 1000 \left\{ \frac{l^3}{3 \cdot E \cdot I} + \frac{3 \cdot l^2 \cdot l_s + 3 \cdot l \cdot l_s^2 + l_s^3}{3 \cdot E_s \cdot I_s} + \left(1 - \frac{Q'}{Q} \right) \cdot \left(\frac{l}{G \cdot A_e} + \frac{l_s}{G_s \cdot A_{se}} \right) - \frac{Q'}{Q} \cdot \left(\frac{2 \cdot l^3 + 3 \cdot l^2 \cdot l_r}{6 \cdot E \cdot I} + \frac{3 \cdot l_s^2 \cdot l + l_s^3 + 3 \cdot l_s \cdot l^2 + 3 \cdot l_s \cdot l \cdot l_r + \frac{3}{2} \cdot l_s^2 \cdot l_r}{3 \cdot E_s \cdot I_s} \right) \right\} \quad (4.1.11)$$

固有周期は (4.1.7) 式により求める。

(3) 鉛直方向固有周期

軸方向変形によるばね定数 K_v は、次式で求める。

$$K_v = 1000 \left/ \left(\frac{l}{E \cdot A} + \frac{l_s}{E_s \cdot A_s} \right) \right. \quad \dots \quad (4.1.12)$$

$$A = \pi \cdot (D_i + t) \cdot t \quad \dots \quad (4.1.13)$$

$$A_s = \{ \pi \cdot (D_s + t_s) - Y \} \cdot t_s \quad \dots \quad (4.1.14)$$

したがって、固有周期 T_v は次式で求める。

$$T_v = 2 \cdot \pi \cdot \sqrt{\frac{m_0}{K_v}} \quad \dots \quad (4.1.15)$$

5. 構造強度評価

5.1 構造強度評価方法

4.1(1)項a.～e.のほか、次の条件で計算する。概要図を図5-1に示す。

- (1) 地震力は容器に対して水平方向及び鉛直方向から作用するものとする。

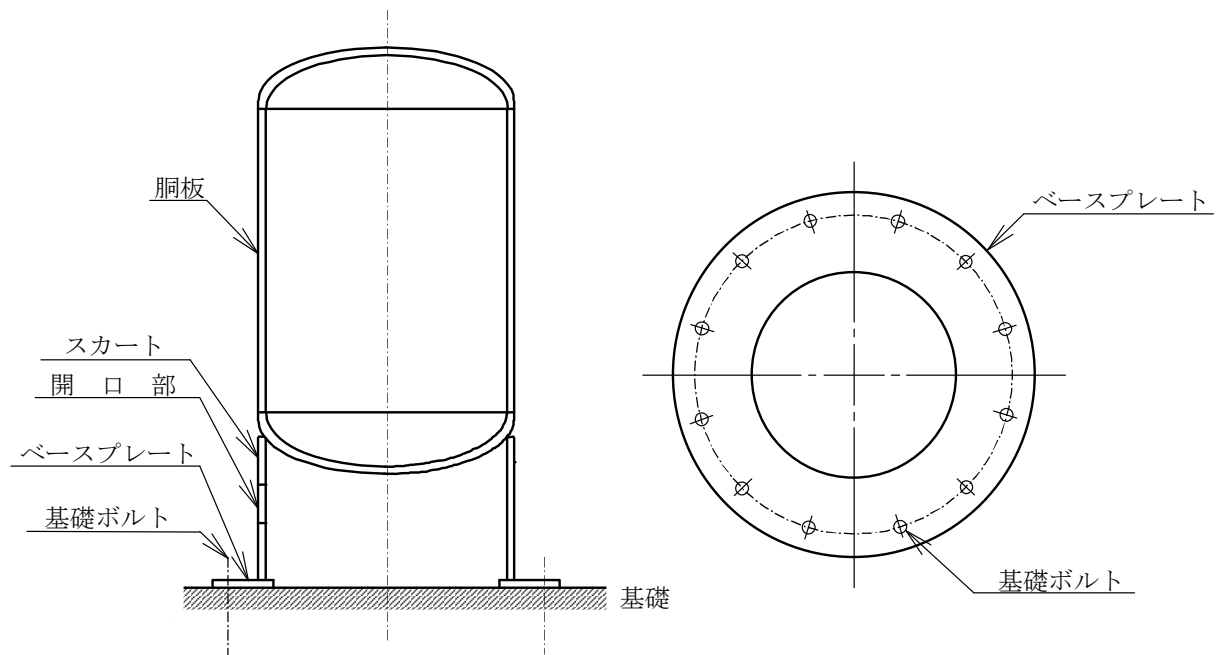


図5-1 概要図

5.2 設計用地震力

「弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度」及び「基準地震動 S_s 」による地震力は、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定する。

5.3 計算方法

5.3.1 応力の計算方法

応力計算における水平方向と鉛直方向の組合せについて、静的地震力を用いる場合は絶対値和を用いる。動的地震力を用いる場合は、絶対値和又はSRS法を用いる。

5.3.1.1 胴の計算方法

(1) 静水頭又は内圧による応力

静水頭による場合（鉛直方向地震時を含む。）

$$\sigma_{\phi 1} = \frac{\rho' \cdot g \cdot H \cdot D_i}{2 \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.1)$$

$$\sigma_{\phi 2} = \frac{\rho' \cdot g \cdot H \cdot D_i \cdot C_v}{2 \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.2)$$

$$\sigma_{x 1} = 0 \dots\dots\dots (5.3.1.1.3)$$

内圧による場合

$$\sigma_{\phi 1} = \frac{P_r \cdot (D_i + 1.2 \cdot t)}{2 \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.4)$$

$$\sigma_{\phi 2} = 0 \dots\dots\dots (5.3.1.1.5)$$

$$\sigma_{x 1} = \frac{P_r \cdot (D_i + 1.2 \cdot t)}{4 \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.6)$$

(2) 運転時質量及び鉛直方向地震による応力

胴がスカートと接合する点を境界として、上部には胴自身の質量による圧縮応力が、下部には下部の胴自身の質量と内容物の質量による引張応力が生じる。

下部の胴について

$$\sigma_{x 2} = \frac{(m_o - m_e) \cdot g}{\pi \cdot (D_i + t) \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.7)$$

$$\sigma_{x 5} = \frac{(m_o - m_e) \cdot g \cdot C_v}{\pi \cdot (D_i + t) \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.8)$$

上部の胴について

$$\sigma_{x 3} = \frac{m_e \cdot g}{\pi \cdot (D_i + t) \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.9)$$

$$\sigma_{x 6} = \frac{m_e \cdot g \cdot C_v}{\pi \cdot (D_i + t) \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.10)$$

(3) 水平方向地震による応力

水平方向の地震力により胴はスカート接合部で最大となる曲げモーメントを受ける。この曲げモーメントによる軸方向応力と地震力によるせん断応力は次のように求める。

a. 下端固定の場合

$$\sigma_{x4} = \frac{4 \cdot C_H \cdot m_0 \cdot g \cdot \ell}{\pi \cdot (D_i + t)^2 \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.11)$$

$$\tau = \frac{2 \cdot C_H \cdot m_0 \cdot g}{\pi \cdot (D_i + t) \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.12)$$

b. 下端固定上端支持の場合

$$\sigma_{x4} = \frac{4 \cdot C_H \cdot m_0 \cdot g \cdot \left| \ell - \frac{Q'}{Q} \cdot (\ell + \ell_r) \right|}{\pi \cdot (D_i + t)^2 \cdot t} \dots\dots (5.3.1.1.13)$$

$$\tau = \frac{2 \cdot C_H \cdot m_0 \cdot g \cdot \left(1 - \frac{Q'}{Q}\right)}{\pi \cdot (D_i + t) \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.14)$$

(4) 組合せ応力

(1)～(3)によって求めた胴の応力は以下のように組み合わせる。

a. 一次一般膜応力

(a) 組合せ引張応力

$$\sigma_\phi = \sigma_{\phi 1} + \sigma_{\phi 2} \dots\dots\dots (5.3.1.1.15)$$

$$\sigma_{ot} = \frac{1}{2} \cdot \left\{ \sigma_\phi + \sigma_{xt} + \sqrt{(\sigma_\phi - \sigma_{xt})^2 + 4 \cdot \tau^2} \right\} \dots\dots\dots (5.3.1.1.16)$$

ここで,

【絶対値和】

$$\sigma_{xt} = \sigma_{x1} + \sigma_{x2} + \sigma_{x4} + \sigma_{x5} \dots\dots\dots (5.3.1.1.17)$$

【SRSS法】

$$\sigma_{xt} = \sigma_{x1} + \sigma_{x2} + \sqrt{\sigma_{x4}^2 + \sigma_{x5}^2} \dots\dots\dots (5.3.1.1.18)$$

(b) 組合せ圧縮応力

$$\sigma_\phi = -\sigma_{\phi 1} - \sigma_{\phi 2} \dots\dots\dots (5.3.1.1.19)$$

σ_{xc} が正の値(圧縮側)のとき, 次の組合せ圧縮応力を求める。

$$\sigma_{oc} = \frac{1}{2} \cdot \left\{ \sigma_\phi + \sigma_{xc} + \sqrt{(\sigma_\phi - \sigma_{xc})^2 + 4 \cdot \tau^2} \right\} \dots\dots\dots (5.3.1.1.20)$$

ここで,

【絶対値和】

$$\sigma_{xc} = -\sigma_{x1} + \sigma_{x3} + \sigma_{x4} + \sigma_{x6} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.21)$$

【SRSS法】

$$\sigma_{xc} = -\sigma_{x1} + \sigma_{x3} + \sqrt{\sigma_{x4}^2 + \sigma_{x6}^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.22)$$

したがって、胴の組合せ一次一般膜応力の最大値は、絶対値和、SRSS法それぞれに対して、

$$\sigma_o = \text{Max} \{ \text{組合せ引張応力} (\sigma_{ot}), \text{組合せ圧縮応力} (\sigma_{oc}) \} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.23)$$

とする。

一次応力は一次一般膜応力と同じ値になるので省略する。

b. 地震動のみによる一次応力と二次応力の和の変動値

(a) 組合せ引張応力

$$\sigma_{2\phi} = \sigma_{\phi 2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.24)$$

$$\sigma_{2t} = \sigma_{2\phi} + \sigma_{2xt} + \sqrt{(\sigma_{2\phi} - \sigma_{2xt})^2 + 4 \cdot \tau^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.25)$$

ここで,

【絶対値和】

$$\sigma_{2xt} = \sigma_{x4} + \sigma_{x5} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.26)$$

【SRSS法】

$$\sigma_{2xt} = \sqrt{\sigma_{x4}^2 + \sigma_{x5}^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.27)$$

(b) 組合せ圧縮応力

$$\sigma_{2\phi} = -\sigma_{\phi 2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.28)$$

$$\sigma_{2c} = \sigma_{2\phi} + \sigma_{2xc} + \sqrt{(\sigma_{2\phi} - \sigma_{2xc})^2 + 4 \cdot \tau^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.29)$$

ここで,

【絶対値和】

$$\sigma_{2xc} = \sigma_{x4} + \sigma_{x6} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.30)$$

【SRSS法】

$$\sigma_{2xc} = \sqrt{\sigma_{x4}^2 + \sigma_{x6}^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.31)$$

したがって、胴の地震動のみによる一次応力と二次応力の和の変動値の最大値は、絶対値和、SRSS法それぞれに対して、

$$\sigma_2 = \text{Max} \{ \text{組合せ引張応力} (\sigma_{2t}), \text{組合せ圧縮応力} (\sigma_{2c}) \} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.32)$$

とする。

5.3.1.2 スカートの計算方法

(1) 運転時質量及び鉛直方向地震による応力

スカート底部に生じる運転時質量及び鉛直方向地震による圧縮応力は次式で求める。

$$\sigma_{s1} = \frac{m_0 \cdot g}{\{\pi \cdot (D_s + t_s) - Y\} \cdot t_s} \dots\dots\dots (5.3.1.2.1)$$

$$\sigma_{s3} = \frac{m_0 \cdot g \cdot C_v}{\{\pi \cdot (D_s + t_s) - Y\} \cdot t_s} \dots\dots\dots (5.3.1.2.2)$$

(2) 水平方向地震による応力

水平方向の地震力によりスカートに作用する曲げモーメントにより生じる軸方向応力及び水平方向地震力によるせん断応力は次のように求める。

a. 下端固定の場合

$$\sigma_{s2} = \frac{M_s}{(D_s + t_s) \cdot t_s \cdot \left\{ \frac{\pi}{4} \cdot (D_s + t_s) - \frac{Y}{2} \right\}} \dots\dots\dots (5.3.1.2.3)$$

$$\tau_s = \frac{2 \cdot C_H \cdot m_0 \cdot g}{\{\pi \cdot (D_s + t_s) - Y\} \cdot t_s} \dots\dots\dots (5.3.1.2.4)$$

ここで,

$$M_s = C_H \cdot m_0 \cdot g \cdot (l_s + l) \dots\dots\dots (5.3.1.2.5)$$

b. 下端固定上端支持の場合

軸方向応力は(5.3.1.2.3)式で表されるが、曲げモーメント M_s は次の M_{s1} 又は M_{s2} のいずれか大きい方の値とする。

$$M_{s1} = C_H \cdot m_0 \cdot g \cdot \left| l - \frac{Q'}{Q} \cdot (l + l_r) \right| \dots\dots\dots (5.3.1.2.6)$$

$$M_{s2} = C_H \cdot m_0 \cdot g \cdot \left| l_s + l - \frac{Q'}{Q} \cdot (l_s + l + l_r) \right| \dots\dots\dots (5.3.1.2.7)$$

$$\tau_s = \frac{2 \cdot C_H \cdot m_0 \cdot g \cdot \left(1 - \frac{Q'}{Q}\right)}{\{\pi \cdot (D_s + t_s) - Y\} \cdot t_s} \dots\dots\dots (5.3.1.2.8)$$

(3) 組合せ応力

組合せ応力は次式で求める。

【絶対値和】

$$\sigma_s = \sqrt{(\sigma_{s1} + \sigma_{s2} + \sigma_{s3})^2 + 3 \cdot \tau_s^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.2.9)$$

【SRSS法】

$$\sigma_s = \sqrt{(\sigma_{s1} + \sqrt{\sigma_{s2}^2 + \sigma_{s3}^2})^2 + 3 \cdot \tau_s^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.2.10)$$

5.3.1.3 基礎ボルトの計算方法

(1) 引張応力

基礎に作用する転倒モーメント M_s は下端固定の場合、(5.3.1.2.5)式を、下端固定上端支持の場合は(5.3.1.2.6)式又は(5.3.1.2.7)式のいずれか大きい方を用いる。

転倒モーメントが作用した場合に生じる基礎ボルトの引張荷重と基礎部の圧縮荷重については、荷重と変位量の釣合い条件を考慮することにより求める(図5-2参照)。

以下にその手順を示す。

- a. σ_b 及び σ_c を仮定して基礎ボルトの応力計算における中立軸の荷重係数 k を求める。

$$k = \frac{1}{1 + \frac{\sigma_b}{s \cdot \sigma_c}} \dots\dots\dots (5.3.1.3.1)$$

- b. 基礎ボルトの応力計算における中立軸を定める角度 α を求める。

$$\alpha = \cos^{-1} (1 - 2 \cdot k) \dots\dots\dots (5.3.1.3.2)$$

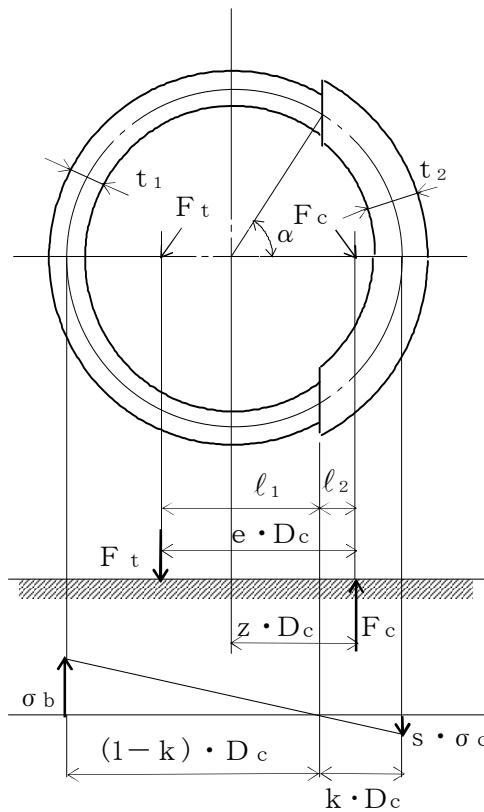


図5-2 基礎の荷重説明図

c. 各定数 e , z , C_t 及び C_c を求める。

$$e = \frac{1}{2} \cdot \left\{ \frac{(\pi - \alpha) \cdot \cos^2 \alpha + \frac{1}{2} \cdot (\pi - \alpha) + \frac{3}{2} \cdot \sin \alpha \cdot \cos \alpha}{(\pi - \alpha) \cdot \cos \alpha + \sin \alpha} + \frac{\frac{1}{2} \cdot \alpha - \frac{3}{2} \cdot \sin \alpha \cdot \cos \alpha + \alpha \cdot \cos^2 \alpha}{\sin \alpha - \alpha \cdot \cos \alpha} \right\} \dots\dots\dots (5.3.1.3.3)$$

$$z = \frac{1}{2} \cdot \left(\cos \alpha + \frac{\frac{1}{2} \cdot \alpha - \frac{3}{2} \cdot \sin \alpha \cdot \cos \alpha + \alpha \cdot \cos^2 \alpha}{\sin \alpha - \alpha \cdot \cos \alpha} \right) \dots\dots\dots (5.3.1.3.4)$$

$$C_t = \frac{2 \cdot \{ (\pi - \alpha) \cdot \cos \alpha + \sin \alpha \}}{1 + \cos \alpha} \dots\dots\dots (5.3.1.3.5)$$

$$C_c = \frac{2 \cdot (\sin \alpha - \alpha \cdot \cos \alpha)}{1 - \cos \alpha} \dots\dots\dots (5.3.1.3.6)$$

d. 各定数を用いて F_t 及び F_c を求める。

【絶対値和】

$$F_t = \frac{M_s - (1 - C_v) \cdot m_0 \cdot g \cdot z \cdot D_c}{e \cdot D_c} \dots\dots\dots (5.3.1.3.7)$$

$$F_c = F_t + (1 - C_v) \cdot m_0 \cdot g \dots\dots\dots (5.3.1.3.8)$$

【SRSS法】

$$F_t = \frac{\sqrt{M_s^2 + (C_v \cdot m_0 \cdot g \cdot z \cdot D_c)^2}}{e \cdot D_c} - \frac{z}{e} \cdot m_0 \cdot g \dots\dots\dots (5.3.1.3.9)$$

$$F_c = \frac{\sqrt{M_s^2 + (C_v \cdot m_0 \cdot g \cdot (z - e) \cdot D_c)^2}}{e \cdot D_c} + (1 - \frac{z}{e}) \cdot m_0 \cdot g \dots\dots\dots (5.3.1.3.10)$$

基礎ボルトに引張力が作用しないのは、 α が π に等しくなったときであり、(5.3.1.3.3) 式及び (5.3.1.3.4) 式において α を π に近づけた場合の値 $e = 0.75$ 及び $z = 0.25$ を (5.3.1.3.7) 式又は (5.3.1.3.9) 式に代入し、得られる F_t の値によって引張力の有無を次のように判定する。

$F_t \leq 0$ ならば引張力は作用しない。

$F_t > 0$ ならば引張力が作用しているので次の計算を行う。

e. σ_b 及び σ_c を求める。

$$\sigma_b = \frac{2 \cdot F_t}{t_1 \cdot D_c \cdot C_t} \dots\dots\dots (5.3.1.3.11)$$

$$\sigma_c = \frac{2 \cdot F_c}{(t_2 + s \cdot t_1) \cdot D_c \cdot C_c} \dots\dots\dots (5.3.1.3.12)$$

ここで,

$$t_1 = \frac{n \cdot A_b}{\pi \cdot D_c} \dots\dots\dots (5.3.1.3.13)$$

$$t_2 = \frac{1}{2} \cdot (D_{bo} - D_{bi}) - t_1 \dots\dots\dots (5.3.1.3.14)$$

$$A_b = \frac{\pi}{4} \cdot d^2 \dots\dots\dots (5.3.1.3.15)$$

σ_b 及び σ_c が a 項にて仮定した値と十分に近似していることを確認する。この場合の σ_b 及び σ_c を基礎ボルトと基礎に生じる応力とする。

(2) せん断応力

a. 下端固定の場合

$$\tau_b = \frac{C_H \cdot m_o \cdot g}{n \cdot A_b} \dots\dots\dots (5.3.1.3.16)$$

b. 下端固定上端支持の場合

$$\tau_b = \frac{C_H \cdot m_o \cdot g \cdot (1 - \frac{Q'}{Q})}{n \cdot A_b} \dots\dots\dots (5.3.1.3.17)$$

5.4 応力の評価

5.4.1 胴の応力評価

5.3.1.1項で求めた組合せ応力が胴の最高使用温度における許容応力 S_a 以下であること。ただし、 S_a は下表による。

応力の種類	許容応力 S_a	
	弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度による 荷重との組合せの場合	基準地震動 S_s による 荷重との組合せの場合
一次一般膜応力	設計降伏点 S_y と設計引張強さ S_u の0.6倍のいずれか小さい方の値。ただし、オーステナイト系ステンレス鋼及び高ニッケル合金にあつては許容引張応力 S の1.2倍の方が大きい場合は、この大きい方の値とする。	設計引張強さ S_u の0.6倍
一次応力と二次応力の和	地震動のみによる一次応力と二次応力の和の変動値が設計降伏点 S_y の2倍以下であれば、疲労解析は不要とする。	

一次応力の評価は算出応力が一次一般膜応力と同じ値であるので省略する。

5.4.2 スカートの応力評価

- (1) 5.3.1.2項で求めたスカートの組合せ応力が許容引張応力 f_t 以下であること。ただし、 f_t は下表による。

	弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度による 荷重との組合せの場合	基準地震動 S_s による 荷重との組合せの場合
許容引張応力 f_t	$\frac{F}{1.5} \cdot 1.5$	$\frac{F^*}{1.5} \cdot 1.5$

(2) 圧縮膜応力（圧縮応力と曲げによる圧縮側応力の組合せ）は次式を満足すること。
 （座屈の評価）

$$\frac{\eta \cdot (\sigma_{s1} + \sigma_{s3})}{f_c} + \frac{\eta \cdot \sigma_{s2}}{f_b} \leq 1 \quad \dots\dots\dots (5.4.2.1)$$

ここで、 f_c は次による。

$$\frac{D_s + 2 \cdot t_s}{2 \cdot t_s} \leq \frac{1200 \cdot g}{F} \quad \text{のとき}$$

$$f_c = F \quad \dots\dots\dots (5.4.2.2)$$

$$\frac{1200 \cdot g}{F} < \frac{D_s + 2 \cdot t_s}{2 \cdot t_s} < \frac{8000 \cdot g}{F} \quad \text{のとき}$$

$$f_c = F \cdot \left[1 - \frac{1}{6800 \cdot g} \cdot \left\{ F - \phi_1 \left(\frac{8000 \cdot g}{F} \right) \right\} \cdot \left(\frac{D_s + 2 \cdot t_s}{2 \cdot t_s} - \frac{1200 \cdot g}{F} \right) \right] \quad \dots\dots\dots (5.4.2.3)$$

$$\frac{8000 \cdot g}{F} \leq \frac{D_s + 2 \cdot t_s}{2 \cdot t_s} \leq 800 \quad \text{のとき}$$

$$f_c = \phi_1 \left(\frac{D_s + 2 \cdot t_s}{2 \cdot t_s} \right) \quad \dots\dots\dots (5.4.2.4)$$

ただし、 $\phi_1(x)$ は次の関数とする。

$$\phi_1(x) = 0.6 \cdot \frac{E_s}{x} \cdot \left[1 - 0.901 \cdot \left\{ 1 - e^{x \cdot p \left(-\frac{1}{16} \cdot \sqrt{x} \right)} \right\} \right] \quad \dots\dots\dots (5.4.2.5)$$

また、 f_b は次による。

$$\frac{D_s + 2 \cdot t_s}{2 \cdot t_s} \leq \frac{1200 \cdot g}{F} \quad \text{のとき}$$

$$f_b = F \quad \dots\dots\dots (5.4.2.6)$$

$$\frac{1200 \cdot g}{F} < \frac{D_s + 2 \cdot t_s}{2 \cdot t_s} < \frac{9600 \cdot g}{F} \quad \text{のとき}$$

$$f_b = F \cdot \left[1 - \frac{1}{8400 \cdot g} \cdot \left\{ F - \phi_2 \left(\frac{9600 \cdot g}{F} \right) \right\} \cdot \left(\frac{D_s + 2 \cdot t_s}{2 \cdot t_s} - \frac{1200 \cdot g}{F} \right) \right] \quad \dots\dots\dots (5.4.2.7)$$

$$\frac{9600 \cdot g}{F} \leq \frac{D_s + 2 \cdot t_s}{2 \cdot t_s} \leq 800 \quad \text{のとき}$$

$$f_b = \phi_2 \left(\frac{D_s + 2 \cdot t_s}{2 \cdot t_s} \right) \quad \dots\dots\dots (5.4.2.8)$$

ただし、 $\phi_2(x)$ は次の関数とする。

$$\phi_2(x) = 0.6 \cdot \frac{E_s}{x} \cdot \left[1 - 0.731 \cdot \left\{ 1 - \exp\left(-\frac{1}{16} \cdot \sqrt{x}\right) \right\} \right] \quad \dots\dots (5.4.2.9)$$

η は安全率で次による。

$$\frac{D_s + 2 \cdot t_s}{2 \cdot t_s} \leq \frac{1200 \cdot g}{F} \quad \text{のとき}$$

$$\eta = 1 \quad \dots\dots (5.4.2.10)$$

$$\frac{1200 \cdot g}{F} < \frac{D_s + 2 \cdot t_s}{2 \cdot t_s} < \frac{8000 \cdot g}{F} \quad \text{のとき}$$

$$\eta = 1 + \frac{0.5 \cdot F}{6800 \cdot g} \cdot \left(\frac{D_s + 2 \cdot t_s}{2 \cdot t_s} - \frac{1200 \cdot g}{F} \right) \quad \dots\dots (5.4.2.11)$$

$$\frac{8000 \cdot g}{F} \leq \frac{D_s + 2 \cdot t_s}{2 \cdot t_s} \quad \text{のとき}$$

$$\eta = 1.5 \quad \dots\dots (5.4.2.12)$$

5.4.3 基礎ボルトの応力評価

5.3.1.3項で求めた基礎ボルトの引張応力 σ_b は次式より求めた許容引張応力 f_{ts} 以下であること。ただし、 f_{to} は下表による。

$$f_{ts} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{to} - 1.6 \cdot \tau_b, f_{to}] \quad \dots\dots\dots (5.4.3.1)$$

せん断応力 τ_b はせん断力のみを受ける基礎ボルトの許容せん断応力 f_{sb} 以下であること。ただし、 f_{sb} は下表による。

	弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度による 荷重との組合せの場合	基準地震動 S_s による 荷重との組合せの場合
許容引張応力 f_{to}	$\frac{F}{2} \cdot 1.5$	$\frac{F^*}{2} \cdot 1.5$
許容せん断応力 f_{sb}	$\frac{F}{1.5 \cdot \sqrt{3}} \cdot 1.5$	$\frac{F^*}{1.5 \cdot \sqrt{3}} \cdot 1.5$

6. 耐震計算書のフォーマット

スカート支持たて置円筒形容器の耐震計算書のフォーマットは、以下のとおりである。

[設計基準対象施設及び重大事故等対処設備の場合]

フォーマットⅠ 設計基準対象施設としての評価結果

フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果

[重大事故等対処設備単独の場合]

フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果*

注記*：重大事故等対処設備単独の場合は、設計基準対象施設及び重大事故等対処設備に示すフォーマットⅡを使用するものとする。ただし、評価結果表に記載の章番を「2.」から「1.」とする。

【フォーマット I 設計基準対象施設としての評価結果】

【〇〇〇〇容器の耐震性についての計算結果】

1. 設計基準対象施設

1.1 設計条件

機器名称	耐震重要度分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S d 又は静的震度		基準地震動 S s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度			
		〇〇建物 EL *1			$C_H =$ *2	$C_V =$ *2	$C_H =$ *3	$C_V =$ *3			

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（弾性設計用地震動 S d）又は静的震度のいずれか大きい方、若しくはこれを上回る設計震度

*3：設計用震度 I（基準地震動 S s）又はこれを上回る設計震度

1.2 機器要目

m_o (kg)	m_e (kg)	D_i (mm)	t (mm)	D_s (mm)	t_s (mm)	E (MPa)	E_s (MPa)	G (MPa)	G_s (MPa)
						*1	*2	*1	*2

l (mm)	l_s (mm)	D_1 (mm)	D_2 (mm)	D_3 (mm)	s	n	D_c (mm)	D_{b_o} (mm)

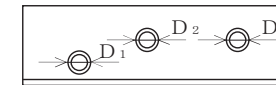
D_{b_i} (mm)	d (mm)	A_b (mm ²)	Y (mm)	M_s (N・mm)	
				弾性設計用地震動 S d 又は静的震度	基準地震動 S s
	(M)				

S_y (胴板) (MPa)	S_u (胴板) (MPa)	S (胴板) (MPa)	S_y (スカート) (MPa)	S_u (スカート) (MPa)	F (スカート) (MPa)	F^* (スカート) (MPa)
*1	*1	*1	*2	*2		

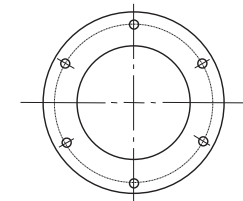
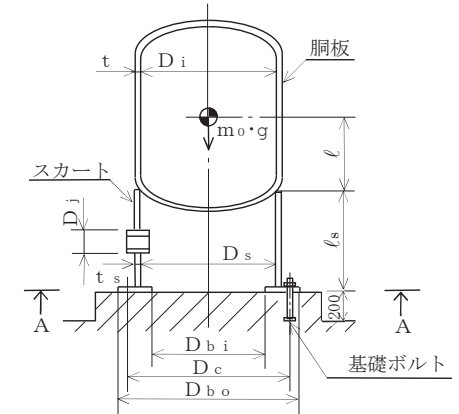
S_y (基礎ボルト) (MPa)	S_u (基礎ボルト) (MPa)	F (基礎ボルト) (MPa)	F^* (基礎ボルト) (MPa)
*2	*2		

注記*1：最高使用温度で算出

*2：周囲環境温度で算出



スカート開口部の形状を示す。



A~A矢視図

1.3 計算数値

1.3.1 胴に生じる応力

(1) 一次一般膜応力

(単位：MPa)

	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度			基準地震動 S _s			
	周方向応力	軸方向応力	せん断応力	周方向応力	軸方向応力	せん断応力	
静水頭又は内圧による応力	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	—	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	—	
運転時質量による引張応力	—	$\sigma_{x 2} =$	—	—	$\sigma_{x 2} =$	—	
鉛直方向地震による引張応力	$\sigma_{\phi 2} =$	$\sigma_{x 5} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	$\sigma_{x 5} =$	—	
空質量による圧縮応力	—	$\sigma_{x 3} =$	—	—	$\sigma_{x 3} =$	—	
鉛直方向地震による圧縮応力	—	$\sigma_{x 6} =$	—	—	$\sigma_{x 6} =$	—	
水平方向地震による応力	—	$\sigma_{x 4} =$	$\tau =$	—	$\sigma_{x 4} =$	$\tau =$	
応力の和	引張側	$\sigma_{\phi} =$	$\sigma_{x t} =$	—	$\sigma_{\phi} =$	$\sigma_{x t} =$	
	圧縮側	$\sigma_{\phi} =$	$\sigma_{x c} =$	—	$\sigma_{\phi} =$	$\sigma_{x c} =$	
組合せ応力	引張り	$\sigma_{0 t} =$			$\sigma_{0 t} =$		
	圧縮	—			—		

(2) 地震動のみによる一次応力と二次応力の和の変動値

(単位：MPa)

	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度			基準地震動 S _s			
	周方向応力	軸方向応力	せん断応力	周方向応力	軸方向応力	せん断応力	
鉛直方向地震による引張応力	$\sigma_{\phi 2} =$	$\sigma_{x 5} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	$\sigma_{x 5} =$	—	
鉛直方向地震による圧縮応力	—	$\sigma_{x 6} =$	—	—	$\sigma_{x 6} =$	—	
水平方向地震による応力	—	$\sigma_{x 4} =$	$\tau =$	—	$\sigma_{x 4} =$	$\tau =$	
応力の和	引張側	$\sigma_{2\phi} =$	$\sigma_{2xt} =$	—	$\sigma_{2\phi} =$	$\sigma_{2xt} =$	
	圧縮側	$\sigma_{2\phi} =$	$\sigma_{2xc} =$	—	$\sigma_{2\phi} =$	$\sigma_{2xc} =$	
組合せ応力 (変動値)	引張り	$\sigma_{2t} =$			$\sigma_{2t} =$		
	圧縮	$\sigma_{2c} =$			$\sigma_{2c} =$		

1.3.2 スカートに生じる応力

(単位：MPa)

	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		
	応力	組合せ応力	応力	組合せ応力	
運転時質量による応力	$\sigma_{s 1} =$	$\sigma_s =$	$\sigma_{s 1} =$	$\sigma_s =$	
鉛直方向地震による応力	$\sigma_{s 3} =$		$\sigma_{s 3} =$		
水平方向地震による応力	曲げ		$\sigma_{s 2} =$		$\sigma_{s 2} =$
	せん断		$\tau_s =$		$\tau_s =$

1.3.3 基礎ボルトに生じる応力

(単位：MPa)

	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
引張応力	$\sigma_b =$	$\sigma_b =$
せん断応力	$\tau_b =$	$\tau_b =$

1.4 結論

1.4.1 固有周期 (単位: s)

方向	固有周期
水平方向	$T_H =$
鉛直方向	$T_V =$

1.4.2 応力

(単位: MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S d 又は静的震度		基準地震動 S s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
銅板		一次一般膜	$\sigma_0 =$	$S_a =$	$\sigma_0 =$	$S_a =$
		一次+二次	$\sigma_2 =$	$S_a =$	$\sigma_2 =$	$S_a =$
スカート		組合せ	$\sigma_s =$	$f_t =$	$\sigma_s =$	$f_t =$
		圧縮と曲げ の組合せ (座屈の評価)	$\frac{\eta \cdot (\sigma_{s1} + \sigma_{s3})}{f_c} + \frac{\eta \cdot \sigma_{s2}}{f_b} \leq 1$		$\frac{\eta \cdot (\sigma_{s1} + \sigma_{s3})}{f_c} + \frac{\eta \cdot \sigma_{s2}}{f_b} \leq 1$	
			(無次元)		(無次元)	
基礎ボルト		引張り	$\sigma_b =$	$f_{ts} = *$	$\sigma_b =$	$f_{ts} = *$
		せん断	$\tau_b =$	$f_{sb} =$	$\tau_b =$	$f_{sb} =$

すべて許容応力以下である。

注記*: $f_{ts} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{to} - 1.6 \cdot \tau_b, f_{to}]$

【〇〇〇容器の耐震性についての計算結果】

【静水頭の場合】
(圧力容器と様式が異なるページのみ掲載)

別紙

1. 設計基準対象施設

1.1 設計条件

機器名称	耐震重要度分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S d 又は静的震度		基準地震動 S s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)	比重
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度				
		〇〇建物 EL *1			C _H = *2	C _V = *2	C _H = *3	C _V = *3	静水頭			

注記*1: 基準床レベルを示す。

*2: 設計用震度 I (弾性設計用地震動 S d) 又は静的震度のいずれか大きい方, 若しくはこれを上回る設計震度

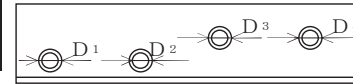
*3: 設計用震度 I (基準地震動 S s) 又はこれを上回る設計震度

1.2 機器要目

m _o (kg)	m _e (kg)	D _i (mm)	t (mm)	D _s (mm)	t _s (mm)	E (MPa)	E _s (MPa)	G (MPa)	G _s (MPa)
						*1	*2	*1	*2

ℓ (mm)	ℓ _s (mm)	D ₁ (mm)	D ₂ (mm)	D ₃ (mm)	H (mm)	s	n	D _c (mm)	D _{b o} (mm)

D _{b i} (mm)	d (mm)	A _b (mm ²)	Y (mm)	M _s (N・mm)	
				弾性設計用地震動 S d 又は静的震度	基準地震動 S s
	(M)				



スカート開口部の形状を示す。

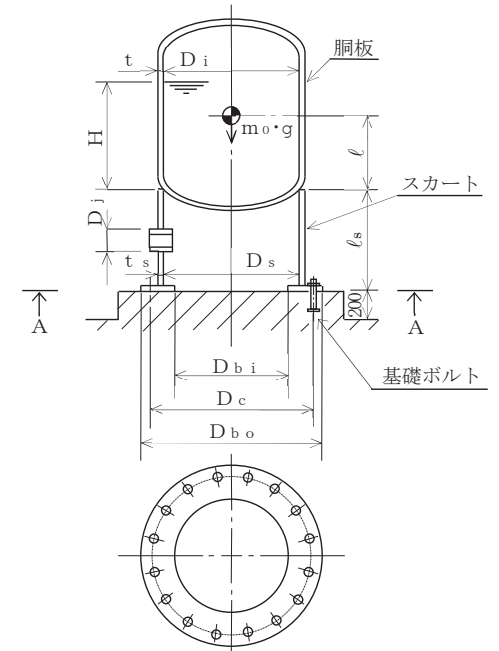
S _y (胴板) (MPa)	S _u (胴板) (MPa)	S (胴板) (MPa)	S _y (スカート) (MPa)	S _u (スカート) (MPa)	F (スカート) (MPa)	F* (スカート) (MPa)
*1	*1	*1	*2	*2		

S _y (基礎ボルト) (MPa)	S _u (基礎ボルト) (MPa)	F (基礎ボルト) (MPa)	F* (基礎ボルト) (MPa)
*2	*2		

注記*1: 最高使用温度で算出

*2: 周囲環境温度で算出

本記載例は、最高使用圧力が静水頭の容器を示したものである。



A~A 矢視図

【フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果】

【○○○容器の耐震性についての計算結果】

2. 重大事故等対処設備

2.1 設計条件

機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	周囲環境温度 (℃)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度			
		○○建物 EL *1			—	—	C _H = *3	C _V = *3			

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（基準地震動 S_s）又はこれを上回る設計震度

2.2 機器要目

m _o (kg)	m _e (kg)	D _i (mm)	t (mm)	D _s (mm)	t _s (mm)	E (MPa)	E _s (MPa)	G (MPa)	G _s (MPa)
						*1	*2	*1	*2

ℓ (mm)	ℓ _s (mm)	D ₁ (mm)	D ₂ (mm)	D ₃ (mm)	s	n	D _c (mm)	D _{b o} (mm)

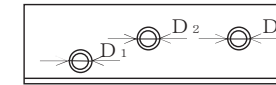
D _{b i} (mm)	d (mm)	A _b (mm ²)	Y (mm)	M _s (N・mm)	
				弾性設計用地震動 S _d 又は 静的震度	基準地震動 S _s
	(M)			—	

S _y (胴板) (MPa)	S _u (胴板) (MPa)	S (胴板) (MPa)	S _y (スカート) (MPa)	S _u (スカート) (MPa)	F (スカート) (MPa)	F* (スカート) (MPa)
*1	*1	—	*2	*2	—	

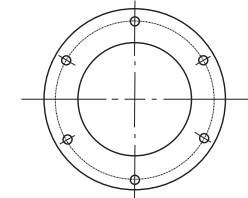
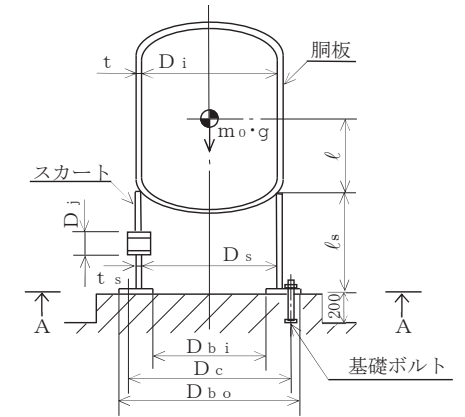
S _y (基礎ボルト) (MPa)	S _u (基礎ボルト) (MPa)	F (基礎ボルト) (MPa)	F* (基礎ボルト) (MPa)
*2	*2	—	

注記*1：最高使用温度で算出

*2：周囲環境温度で算出



スカート開口部の形状を示す。



A～A矢視図

2.3 計算数値

2.3.1 胴に生じる応力

(1) 一次一般膜応力

(単位：MPa)

	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度			基準地震動 S _s		
	周方向応力	軸方向応力	せん断応力	周方向応力	軸方向応力	せん断応力
静水頭又は内圧による応力	—	—	—	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	—
運転時質量による引張応力	—	—	—	—	$\sigma_{x 2} =$	—
鉛直方向地震による引張応力	—	—	—	$\sigma_{\phi 2} =$	$\sigma_{x 5} =$	—
空質量による圧縮応力	—	—	—	—	$\sigma_{x 3} =$	—
鉛直方向地震による圧縮応力	—	—	—	—	$\sigma_{x 6} =$	—
水平方向地震による応力	—	—	—	—	$\sigma_{x 4} =$	$\tau =$
応力の和	引張側	—	—	$\sigma_{\phi} =$	$\sigma_{x t} =$	—
	圧縮側	—	—	$\sigma_{\phi} =$	$\sigma_{x c} =$	—
組合せ応力	引張り	—			$\sigma_{0 t} =$	
	圧縮	—			—	

(2) 地震動のみによる一次応力と二次応力の和の変動値

(単位：MPa)

	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度			基準地震動 S _s		
	周方向応力	軸方向応力	せん断応力	周方向応力	軸方向応力	せん断応力
鉛直方向地震による引張応力	—	—	—	$\sigma_{\phi 2} =$	$\sigma_{x 5} =$	—
鉛直方向地震による圧縮応力	—	—	—	—	$\sigma_{x 6} =$	—
水平方向地震による応力	—	—	—	—	$\sigma_{x 4} =$	$\tau =$
応力の和	引張側	—	—	$\sigma_{2\phi} =$	$\sigma_{2xt} =$	—
	圧縮側	—	—	$\sigma_{2\phi} =$	$\sigma_{2xc} =$	—
組合せ応力 (変動値)	引張り	—			$\sigma_{2t} =$	
	圧縮	—			$\sigma_{2c} =$	

2.3.2 スカートに生じる応力

(単位：MPa)

	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
	応力	組合せ応力	応力	組合せ応力
運転時質量による応力	—	—	$\sigma_{s 1} =$	$\sigma_s =$
鉛直方向地震による応力	—		$\sigma_{s 3} =$	
水平方向地震による応力	曲げ		$\sigma_{s 2} =$	
	せん断		$\tau_s =$	

2.3.3 基礎ボルトに生じる応力

(単位：MPa)

	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
引張応力	—	$\sigma_b =$
せん断応力	—	$\tau_b =$

2.4 結論

2.4.1 固有周期 (単位: s)

方向	固有周期
水平方向	$T_H =$
鉛直方向	$T_V =$

2.4.2 応力

(単位: MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
銅板		一次一般膜	—	—	$\sigma_o =$	$S_a =$
		一次+二次	—	—	$\sigma_2 =$	$S_a =$
スカート		組合せ	—	—	$\sigma_s =$	$f_t =$
		圧縮と曲げ の組合せ (座屈の評価)	—		$\frac{\eta \cdot (\sigma_{s1} + \sigma_{s3})}{f_c} + \frac{\eta \cdot \sigma_{s2}}{f_b} \leq 1$	
			—		(無次元)	
基礎ボルト		引張り	—	—	$\sigma_b =$	$f_{ts} = *$
		せん断	—	—	$\tau_b =$	$f_{sb} =$

すべて許容応力以下である。

注記*: $f_{ts} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{to} - 1.6 \cdot \tau_b, f_{to}]$

【〇〇〇容器の耐震性についての計算結果】

【静水頭の場合】
(圧力容器と様式が異なるページのみ掲載)

別紙

2. 重大事故等対処設備

2.1 設計条件

機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	周囲環境温度 (℃)	比重
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度				
		〇〇建物 EL *1			—	—	C _H = *3	C _V = *3	静水頭			

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（基準地震動 S_s）又はこれを上回る設計震度

2.2 機器要目

m _o (kg)	m _e (kg)	D _i (mm)	t (mm)	D _s (mm)	t _s (mm)	E (MPa)	E _s (MPa)	G (MPa)	G _s (MPa)
						*1	*2	*1	*2

ℓ (mm)	ℓ _s (mm)	D ₁ (mm)	D ₂ (mm)	D ₃ (mm)	H (mm)	s	n	D _c (mm)	D _{b o} (mm)

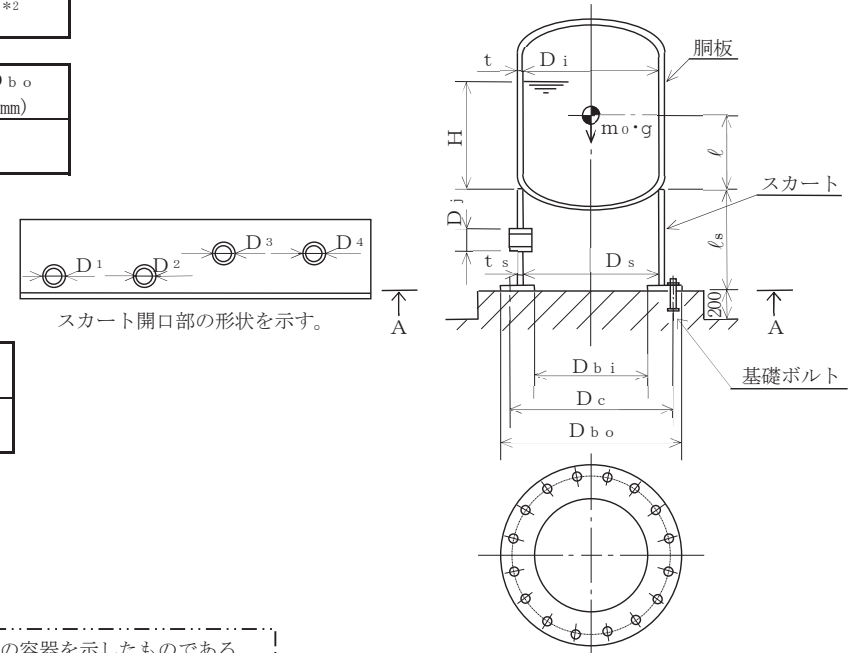
D _{b i} (mm)	d (mm)	A _b (mm ²)	Y (mm)	M _s (N・mm)	
				弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
	(M)			—	

S _y (胴板) (MPa)	S _u (胴板) (MPa)	S (胴板) (MPa)	S _y (スカート) * (MPa)	S _u (スカート) (MPa)	F (スカート) (MPa)	F (スカート) (MPa)
*1	*1	—	*2	*2	—	

S _y (基礎ボルト) (MPa)	S _u (基礎ボルト) (MPa)	F (基礎ボルト) (MPa)	F (基礎ボルト) (MPa)
*2	*2	—	

注記*1：最高使用温度で算出

*2：周囲環境温度で算出



A～A矢視図

本記載例は、最高使用圧力が静水頭の容器を示したものである。

添付資料-4 横置一胴円筒形容器の耐震性についての
計算書作成の基本方針

目 次

1. 概要	1
2. 一般事項	1
2.1 評価方針	1
2.2 適用規格・基準等	2
2.3 記号の説明	3
2.4 計算精度と数値の丸め方	8
3. 評価部位	9
4. 固有周期	9
4.1 固有周期の計算方法	9
5. 構造強度評価	12
5.1 構造強度評価方法	12
5.2 設計用地震力	12
5.3 計算方法	12
5.4 応力の評価	26
6. 耐震計算書のフォーマット	28
7. 引用文献	28

1. 概要

本資料は、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」に基づき、耐震性に関する説明書が求められている横置一胴円筒形容器（耐震重要度分類Sクラス又はS_s機能維持の計算を行うもの）が、十分な耐震性を有していることを確認するための耐震計算の方法について記載したものである。

解析の方針及び減衰定数については、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に従うものとする。

ただし、本基本方針が適用できない横置一胴円筒形容器にあつては、個別耐震計算書にその耐震計算方法を含めて記載する。

2. 一般事項

2.1 評価方針

横置一胴円筒形容器の応力評価は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」にて設定した荷重及び荷重の組合せ並びに許容限界に基づき、「3. 評価部位」にて設定する箇所において、「4. 固有周期」で算出した固有周期に基づく設計用地震力による応力等が許容限界内に収まることを、「5. 構造強度評価」にて示す方法にて確認することで実施する。確認結果を「6. 耐震計算書のフォーマット」に示す。

横置一胴円筒形容器の耐震評価フローを図2-1に示す。

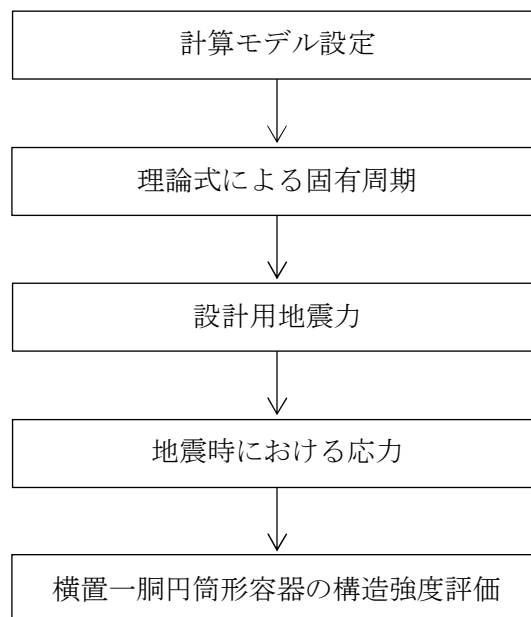


図2-1 横置一胴円筒形容器の耐震評価フロー

2.2 適用規格・基準等

本評価において適用する規格・基準等を以下に示す。

- ・原子力発電所耐震設計技術指針 重要度分類・許容応力編 J E A G 4 6 0 1 ・補-1984
（（社）日本電気協会）
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1987 （（社）日本電気協会）
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1991 追補版（（社）日本電気協会）
- ・発電用原子力設備規格 設計・建設規格（（社）日本機械学会，2005/2007）（以下「設計・建設規格」という。）

2.3 記号の説明

記号	記号の説明	単位
A_b	基礎ボルトの軸断面積	mm^2
A_s	第1脚の断面積	mm^2
A_{s1}	第1脚の長手方向に対する有効せん断断面積	mm^2
A_{s2}	第1脚の横方向に対する有効せん断断面積	mm^2
A_{s3}	第1脚の長手方向に対するせん断断面積	mm^2
A_{s4}	第1脚の横方向に対するせん断断面積	mm^2
a	第1脚底板の長手方向幅	mm
b	第1脚底板の横方向幅	mm
C_1	第1脚の胴付け根部のアタッチメントの幅の2分の1 (胴の横方向)	mm
C_2	第1脚の胴付け根部のアタッチメントの幅の2分の1 (胴の長手方向)	mm
C_{cj}	周方向モーメントによる応力の補正係数 (引用文献(2)より得られる値) ($j=1$: 周方向応力, $j=2$: 軸方向応力)	—
C_H	水平方向設計震度	—
C_{lj}	軸方向モーメントによる応力の補正係数 (引用文献(2)より得られる値) ($j=1$: 周方向応力, $j=2$: 軸方向応力)	—
C_v	鉛直方向設計震度	—
D_i	胴の内径	mm
d	基礎ボルトの呼び径	mm
d_1	第1脚底板端面から基礎ボルト中心までの長手方向の距離	mm
d_2	第1脚底板端面から基礎ボルト (外側) 中心までの横方向の距離	mm
d_3	第1脚底板端面から基礎ボルト (内側) 中心までの横方向の距離	mm
E_s	脚の縦弾性係数	MPa
e	第1脚中心から偏心荷重作用点までの距離	mm
F	設計・建設規格 SSB-3121.1(1)に定める値	MPa
F^*	設計・建設規格 SSB-3121.3又はSSB-3133に定める値	MPa
F_b	基礎ボルトに作用する引張力	N
f_{sb}	せん断力のみを受ける基礎ボルトの許容せん断応力	MPa
f_t	脚の許容引張応力	MPa
f_{to}	引張力のみを受ける基礎ボルトの許容引張応力	MPa
f_{ts}	引張力とせん断力を同時に受ける基礎ボルトの許容引張応力	MPa
G_s	脚のせん断弾性係数	MPa
g	重力加速度 (=9.80665)	m/s^2
H	水頭	mm
h_1	基礎から第1脚の胴付け根部までの高さ	mm
h_2	基礎から胴の中心までの高さ	mm
I_{sx}	第1脚の長手方向軸に対する断面二次モーメント	mm^4

記号	記号の説明	単位
$I_{s y}$	第1脚の横方向軸に対する断面二次モーメント	mm^4
j_1	荷重分布で分割する荷重の数	—
j_2	第1脚より第2脚と反対の方向に作用する荷重の数（第1脚上の荷重は含まない。）	—
j_3	第2脚より第1脚と反対の方向に作用する荷重の数（第2脚上の荷重は含まない。）	—
$K_{1 j}, K_{2 j}$	引用文献(2)によるアタッチメントパラメータの補正係数（ $j=1$: 周方向応力, $j=2$: 軸方向応力）	—
K_c	第1脚のばね定数（胴の横方向に水平力が作用する場合）	N/m
K_ℓ	第1脚のばね定数（胴の長手方向に水平力が作用する場合）	N/m
K_v	第1脚のばね定数（胴に鉛直力が作用する場合）	N/m
$K_{c j}, K_{\ell j}$	引用文献(2)によるアタッチメントパラメータの補正係数（ $j=1$: 周方向応力, $j=2$: 軸方向応力）	—
ℓ_0	脚中心間距離	mm
ℓ_i	第1脚より各荷重までの距離（ここで第2脚側の距離は正, その反対側は負とする。）（ $i=1, 2, 3 \dots j_1$ ）	mm
ℓ_w	当板における脚の取り付けられない部分の長手方向長さ	mm
M	第1脚底板に作用するモーメント	$\text{N} \cdot \text{mm}$
M_1	第1脚付け根部における胴の運転時質量によるモーメント	$\text{N} \cdot \text{mm}$
M_2	第2脚付け根部における胴の運転時質量によるモーメント	$\text{N} \cdot \text{mm}$
M_c	横方向地震により胴の第1脚付け根部に作用するモーメント	$\text{N} \cdot \text{mm}$
$M_{c 1}$	横方向地震により第1脚底面に作用するモーメント	$\text{N} \cdot \text{mm}$
M_ℓ	長手方向地震により胴の第1脚付け根部に作用するモーメント	$\text{N} \cdot \text{mm}$
$M_{\ell 1}$	長手方向地震により第1脚底面に作用するモーメント	$\text{N} \cdot \text{mm}$
M_x	胴に生じる軸方向の曲げモーメント	$\text{N} \cdot \text{mm/mm}$
M_ϕ	胴に生じる周方向の曲げモーメント	$\text{N} \cdot \text{mm/mm}$
m_0	容器の運転時質量	kg
m_i	容器各部の質量（ $i=1, 2, 3 \dots j_1$ ）	kg
$m_{s 1}$	第1脚の質量	kg
$m_{s 2}$	第2脚の質量	kg
N_x	胴に生じる軸方向の膜力	N/mm
N_ϕ	胴に生じる周方向の膜力	N/mm
n	脚1個当たりの基礎ボルトの本数	—
n_1	長手方向及び鉛直方向地震時に引張りを受ける基礎ボルトの本数	—
n_2	横方向及び鉛直方向地震時に引張りを受ける基礎ボルトの本数	—
P	運転時質量により胴の第1脚付け根部に作用する反力	N
P_e	鉛直方向地震により胴の第1脚付け根部に作用する反力	N
P_ℓ	長手方向地震により胴の第1脚付け根部に作用する鉛直荷重	N
P_r	最高使用圧力	MPa
P_s	長手方向及び鉛直方向地震により第1脚底部に作用する鉛直荷重	N

記号	記号の説明	単位
P_{s1}	横方向及び鉛直方向地震により第1脚底部に作用する鉛直荷重	N
R_1	第1脚の受ける荷重	N
R_2	第2脚の受ける荷重	N
r_m	第1脚付け根部における胴の平均半径	mm
r_o	第1脚付け根部における胴の外半径	mm
S	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5に定める値	MPa
S_a	胴の許容応力	MPa
S_u	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表9に定める値	MPa
S_y	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8に定める値	MPa
$S_y(RT)$	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8に定める材料の40°Cにおける値	MPa
s	基礎ボルトと基礎の縦弾性係数比	—
T_1	長手方向固有周期	s
T_2	横方向固有周期	s
T_3	鉛直方向固有周期	s
t	第1脚側胴板の厚さ	mm
t_e	第1脚付け根部における胴の有効板厚	mm
X_n	基礎が圧縮力を受ける幅	mm
Z	引用文献(1)による胴の断面係数	mm ³
Z_{sx}	第1脚の長手方向軸に対する断面係数	mm ³
Z_{sy}	第1脚の横方向軸に対する断面係数	mm ³
β, β_1, β_2	引用文献(2)によるアタッチメントパラメータ	—
γ	引用文献(2)によるシェルパラメータ	—
θ	引用文献(1)による胴の有効範囲角の2分の1	rad
θ_o	胴の第1脚端部より鉛直軸までの角度	rad
θ_w	胴の第1脚端部より当板端部までの角度	Rad
π	円周率	—
ρ_c	液体の密度 (=比重×10 ⁻⁶)	kg/mm ³
σ_o	胴の組合せ一次一般膜応力の最大値	MPa
σ_{oc}	横方向及び鉛直方向地震が作用した場合の胴の組合せ一次一般膜応力	MPa
σ_{ocx}	横方向及び鉛直方向地震が作用した場合の胴の軸方向一次一般膜応力の和	MPa
$\sigma_{oc\phi}$	横方向及び鉛直方向地震が作用した場合の胴の周方向一次一般膜応力の和	MPa
σ_{ol}	長手方向及び鉛直方向地震が作用した場合の胴の組合せ一次一般膜応力	MPa
σ_{olx}	長手方向及び鉛直方向地震が作用した場合の胴の軸方向一次一般膜応力の和	MPa

記号	記号の説明	単位
$\sigma_{ol\phi}$	長手方向及び鉛直方向地震が作用した場合の胴の周方向一次一般膜応力の和	MPa
σ_1	胴の組合せ一次応力の最大値	MPa
σ_{1c}	横方向及び鉛直方向地震が作用した場合の胴の組合せ一次応力	MPa
σ_{1cx}	横方向及び鉛直方向地震が作用した場合の胴の軸方向一次応力の和	MPa
$\sigma_{1c\phi}$	横方向及び鉛直方向地震が作用した場合の胴の周方向一次応力の和	MPa
σ_{1l}	長手方向及び鉛直方向地震が作用した場合の胴の組合せ一次応力	MPa
σ_{1lx}	長手方向及び鉛直方向地震が作用した場合の胴の軸方向一次応力の和	MPa
$\sigma_{1l\phi}$	長手方向及び鉛直方向地震が作用した場合の胴の周方向一次応力の和	MPa
σ_2	地震動のみによる胴の組合せ一次応力と二次応力の和の変動値の最大値	MPa
σ_{2c}	横方向及び鉛直方向地震のみによる胴の組合せ一次応力と二次応力の和	MPa
σ_{2cx}	横方向及び鉛直方向地震のみによる胴の軸方向一次応力と二次応力の和	MPa
$\sigma_{2c\phi}$	横方向及び鉛直方向地震のみによる胴の周方向一次応力と二次応力の和	MPa
σ_{2l}	長手方向及び鉛直方向地震のみによる胴の組合せ一次応力と二次応力の和	MPa
σ_{2lx}	長手方向及び鉛直方向地震のみによる胴の軸方向一次応力と二次応力の和	MPa
$\sigma_{2l\phi}$	長手方向及び鉛直方向地震のみによる胴の周方向一次応力と二次応力の和	MPa
σ_b	基礎ボルトに生じる引張応力の最大値	MPa
σ_{b1}	長手方向及び鉛直方向地震により基礎ボルトに生じる引張応力	MPa
σ_{b2}	横方向及び鉛直方向地震により基礎ボルトに生じる引張応力	MPa
σ_s	第1脚の組合せ応力の最大値	MPa
σ_{sc}	横方向及び鉛直方向地震が作用した場合の第1脚の組合せ応力	MPa
σ_{sl}	鉛直方向と長手方向地震が作用した場合の第1脚の組合せ応力	MPa
σ_{s1}	運転時質量により第1脚に生じる圧縮応力	MPa
σ_{s2}	長手方向地震により第1脚に生じる曲げ及び圧縮応力の和	MPa
σ_{s3}	横方向地震により第1脚に生じる曲げ応力	MPa
σ_{s4}	鉛直方向地震により第1脚に生じる圧縮応力	MPa
σ_{x1}	内圧又は静水頭により胴に生じる軸方向一次応力	MPa
σ_{x2}	運転時質量による長手方向曲げモーメントにより胴の第1脚付け根部に生じる軸方向一次応力	MPa
σ_{x3}	運転時質量により胴の第1脚付け根部に生じる軸方向一次応力	MPa

記号	記号の説明	単位
$\sigma_{x41}, \sigma_{x42}$	長手方向地震により胴の第1脚付け根部に生じる軸方向一次応力の和及び二次応力の和	MPa
$\sigma_{x411}, \sigma_{x421}$	長手方向地震による曲げモーメントにより胴の第1脚付け根部に生じる軸方向一次応力及び二次応力	MPa
$\sigma_{x412}, \sigma_{x422}$	長手方向地震による鉛直荷重により胴の第1脚付け根部に生じる軸方向一次応力及び二次応力	MPa
σ_{x413}	長手方向地震による水平方向荷重により胴に生じる軸方向一次応力	MPa
$\sigma_{x51}, \sigma_{x52}$	横方向地震による曲げモーメントにより胴の第1脚付け根部に生じる軸方向一次応力及び二次応力	MPa
σ_{x6}	鉛直方向地震による長手方向曲げモーメントにより胴の第1脚付け根部に生じる軸方向一次応力	MPa
$\sigma_{x71}, \sigma_{x72}$	鉛直方向地震により胴の第1脚付け根部に生じる軸方向一次応力及び二次応力	MPa
$\sigma_{\phi 1}$	内圧又は静水頭により胴に生じる周方向一次応力	MPa
$\sigma_{\phi 2}$	静水頭に鉛直地震力が加わり胴に生じる周方向一次応力	MPa
$\sigma_{\phi 3}$	運転時質量により胴の第1脚付け根部に生じる周方向一次応力	MPa
$\sigma_{\phi 41}, \sigma_{\phi 42}$	長手方向地震により胴の第1脚付け根部に生じる周方向一次応力の和及び二次応力の和	MPa
$\sigma_{\phi 411}, \sigma_{\phi 421}$	長手方向地震による曲げモーメントにより胴の第1脚付け根部に生じる周方向一次応力及び二次応力	MPa
$\sigma_{\phi 412}, \sigma_{\phi 422}$	長手方向地震による鉛直荷重により胴の第1脚付け根部に生じる周方向一次応力及び二次応力	MPa
$\sigma_{\phi 51}, \sigma_{\phi 52}$	横方向地震による曲げモーメントにより胴の第1脚付け根部に生じる周方向一次応力及び二次応力	MPa
$\sigma_{\phi 71}, \sigma_{\phi 72}$	鉛直方向地震により胴の第1脚付け根部に生じる周方向一次応力及び二次応力	MPa
τ_b	基礎ボルトに生じるせん断応力の最大値	MPa
τ_{b1}	長手方向地震により基礎ボルトに生じるせん断応力	MPa
τ_{b2}	横方向地震により基礎ボルトに生じるせん断応力	MPa
τ_c	横方向地震により胴の第1脚付け根部に生じるせん断応力	MPa
τ_l	長手方向地震により胴の第1脚付け根部に生じるせん断応力	MPa
τ_{s2}	長手方向地震により第1脚に生じるせん断応力	MPa
τ_{s3}	横方向地震により第1脚に生じるせん断応力	MPa

2.4 計算精度と数値の丸め方

精度は、有効数字6桁以上を確保する。

表示する数値の丸め方は表2-1に示すとおりである。

表2-1 表示する数値の丸め方

数値の種類		単位	処理桁	処理方法	表示桁
固有周期		s	小数点以下第4位	四捨五入	小数点以下第3位
震度		—	小数点以下第3位	切上げ	小数点以下第2位
最高使用圧力		MPa	—	—	小数点以下第2位
温度		℃	—	—	整数位
比重		—	小数点以下第3位	四捨五入	小数点以下第2位
質量		kg	—	—	整数位
長さ	下記以外の長さ	mm	—	—	整数位 ^{*1}
	胴板の厚さ	mm	—	—	小数点以下第1位
面積		mm ²	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁 ^{*2}
モーメント		N・mm	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁 ^{*2}
力		N	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁 ^{*2}
角度		rad	小数点以下第4位	四捨五入	小数点以下第3位
算出応力		MPa	小数点以下第1位	切上げ	整数位
許容応力 ^{*3}		MPa	小数点以下第1位	切捨て	整数位

注記*1：設計上定める値が小数点以下第1位の場合は、小数点以下第1位表示とする。

*2：絶対値が1000以上のときは、べき数表示とする。

*3：設計・建設規格 付録材料図表に記載された温度の中間における引張強さ及び降伏点は、比例法により補間した値の小数点以下第1位を切り捨て、整数位までの値とする。

3. 評価部位

横置一胴円筒形容器の耐震評価は「5.1 構造強度評価方法」に示す条件に基づき、耐震評価上厳しくなる胴、脚及び基礎ボルトについて評価を実施する。

4. 固有周期

4.1 固有周期の計算方法

(1) 計算モデル

モデル化に当たっては次の条件で行う。

- 容器及び内容物の質量は胴の中心軸に集中するものとする。
- 容器の胴は2個の脚で支持され、脚はそれぞれ基礎ボルトで基礎に固定されており、固定端とする。
- 胴は剛体とし、脚をはりと考え、変形モードは脚の曲げ及びせん断変形を考慮する。
- 脚が長手方向に変形する場合、脚を基礎に取り付ける基礎ボルトが、脚の変形方向に直角な方向より見て脚1個につき1列の場合は下端を単純支持とする。
その他の場合は、固定とする。
- 第2脚は長手方向にスライドできるものとし、その方向の力はすべて第1脚で受けるものとする。
- 耐震計算に用いる寸法は、公称値を使用する。

本容器の荷重状態及び胴に生じるモーメントを図4-1～図4-4に示す。

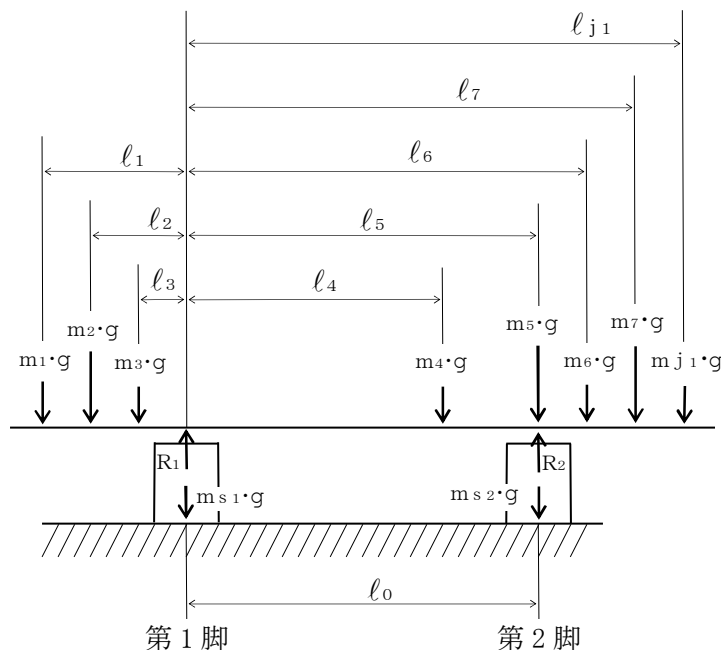


図4-1 荷重状態

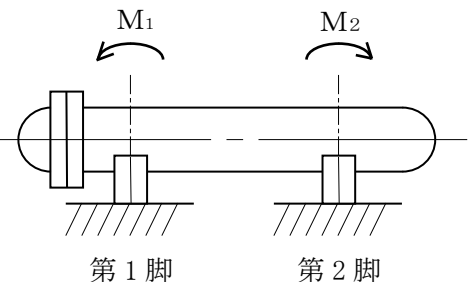


図4-2 脚の位置での曲げモーメント

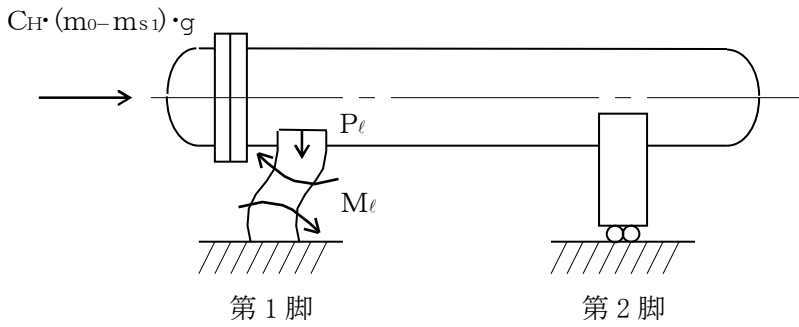


図4-3 長手方向荷重による胴の第1脚付け根部のモーメント及び鉛直荷重

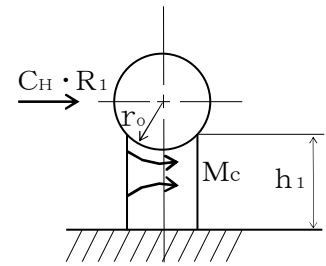


図4-4 横方向荷重による胴の第1脚付け根部のモーメント

本容器は、前記の条件より図4-5、図4-6及び図4-7のような1質点系振動モデルとして考える。

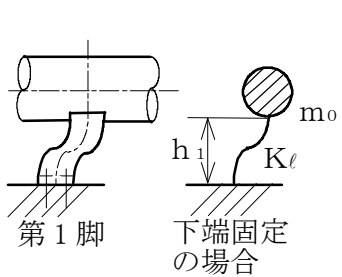


図4-5 長手方向の固有周期計算モデル

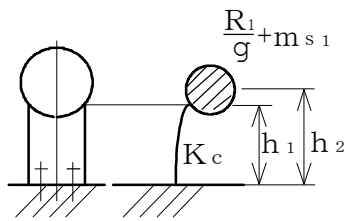


図4-6 横方向の固有周期計算モデル

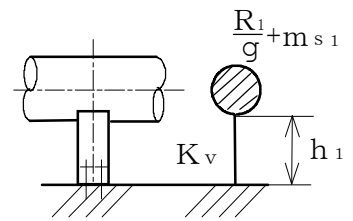


図4-7 鉛直方向の固有周期計算モデル

(2) 脚の受ける荷重

脚の受ける荷重はモーメントの釣合いより求める。図4-1において第1脚回りのモーメントの釣合いは次式で求める。

$$\sum_{i=1}^{j1} m_i \cdot g \cdot l_i - R_2 \cdot l_0 = 0 \quad \dots\dots\dots (4.1.1)$$

したがって、脚の受ける荷重は次式で求める。

$$R_2 = \sum_{i=1}^{j1} m_i \cdot g \cdot l_i / l_0 \quad \dots\dots\dots (4.1.2)$$

$$R_1 = \sum_{i=1}^{j1} m_i \cdot g - R_2 \quad \dots\dots\dots (4.1.3)$$

(3) 長手方向の固有周期

図4-5におけるばね定数は次式で求める。

$$K_{\ell} = \frac{1000}{\frac{h_1^3}{12 \cdot E_s \cdot I_{s y}} + \frac{h_1}{G_s \cdot A_{s 1}}} \dots\dots\dots (4.1.4)$$

固有周期は次式で求める。

$$T_1 = 2 \cdot \pi \cdot \sqrt{\frac{m_0}{K_{\ell}}} \dots\dots\dots (4.1.5)$$

(4) 横方向の固有周期

図4-6におけるばね定数は次式で求める。

$$K_c = \frac{1000}{\frac{h_1^2 \cdot (3 \cdot h_2 - h_1)}{6 \cdot E_s \cdot I_{s x}} + \frac{(h_2 - h_1) \cdot h_1 \cdot (h_2 - h_1 / 2)}{E_s \cdot I_{s x}} + \frac{h_1}{G_s \cdot A_{s 2}}} \dots\dots\dots (4.1.6)$$

固有周期は次式で求める。

$$T_2 = 2 \cdot \pi \cdot \sqrt{\frac{\frac{R_1}{g} + m_{s 1}}{K_c}} \dots\dots\dots (4.1.7)$$

ただし、脚の受ける荷重が $R_2 > R_1$ となる場合は、 R_1 を R_2 に置き換える。

(5) 鉛直方向の固有周期

図4-7におけるばね定数は次式で求める。

$$K_v = \frac{1000}{\frac{h_1}{A_s \cdot E_s}} \dots\dots\dots (4.1.8)$$

固有周期は次式で求める。

$$T_3 = 2 \cdot \pi \cdot \sqrt{\frac{\frac{R_1}{g} + m_{s 1}}{K_v}} \dots\dots\dots (4.1.9)$$

ただし、脚の受ける荷重が $R_2 > R_1$ となる場合は、 R_1 を R_2 に置き換える。

5. 構造強度評価

5.1 構造強度評価方法

4.1(1)項a.～f.のほか、次の条件で計算する。概要図を図5-1に示す。

- (1) 地震力は容器に対して水平方向及び鉛直方向から作用するものとする。ここで、水平方向地震力は胴の長手方向に作用する場合と胴の横方向に作用する場合を考慮する。
- (2) 第1脚と第2脚は同形状であり、受ける荷重の大きい方の脚についての評価を計算書に記載する。

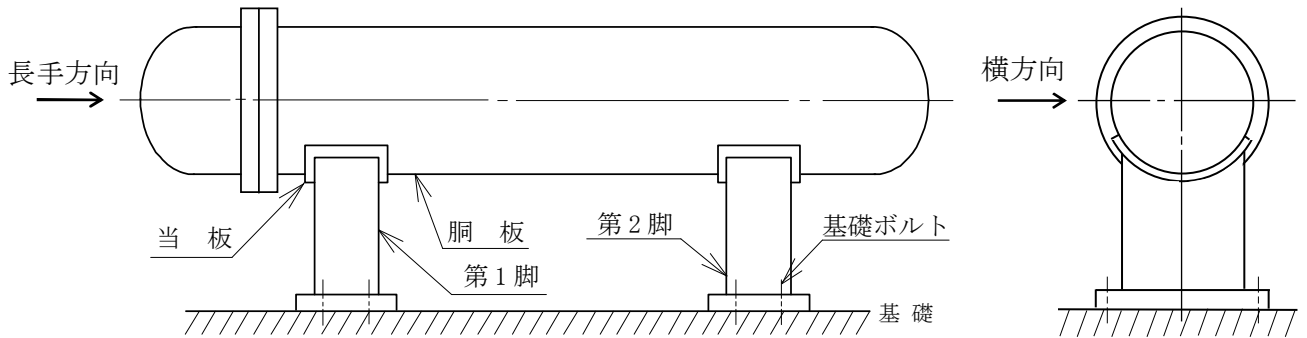


図5-1 概要図

5.2 設計用地震力

「弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度」及び「基準地震動 S_s 」による地震力は、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定する。

5.3 計算方法

5.3.1 応力の計算方法

応力計算における水平方向と鉛直方向の組合せについて、静的地震力を用いる場合は絶対値和を用いる。動的地震力を用いる場合は、絶対値和又はSRSS法を用いる。

5.3.1.1 胴の計算方法

(1) 曲げモーメント

図4-1に示すように胴を集中荷重を受けるはりとして考える。

図4-2において脚付け根部における曲げモーメント M_1 及び M_2 は次式で求める。

$$M_1 = \sum_{i=1}^{j_2} m_i \cdot g \cdot |l_i| \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.1)$$

$$M_2 = \sum_{i=j_1-j_3+1}^{j_1} m_i \cdot g \cdot |l_i - l_0| \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.2)$$

(2) 静水頭又は内圧による応力

静水頭による場合（鉛直方向地震時を含む。）

$$\sigma_{\phi 1} = \frac{\rho' \cdot g \cdot H \cdot D_i}{2 \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.3)$$

$$\sigma_{\phi 2} = \frac{\rho' \cdot g \cdot H \cdot D_i \cdot C_v}{2 \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.4)$$

$$\sigma_{x 1} = \frac{\rho' \cdot g \cdot H \cdot D_i}{4 \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.5)$$

内圧による場合

$$\sigma_{\phi 1} = \frac{P_r \cdot (D_i + 1.2 \cdot t)}{2 \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.6)$$

$$\sigma_{\phi 2} = 0 \dots\dots\dots (5.3.1.1.7)$$

$$\sigma_{x 1} = \frac{P_r \cdot (D_i + 1.2 \cdot t)}{4 \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.8)$$

(3) 運転時質量及び鉛直方向地震により生じる長手方向曲げモーメントによる応力

(1)で求めた曲げモーメントにより胴の第1脚付け根部に生じる応力は次のように求める。

引用文献(1)によれば、この曲げモーメントは胴の断面に対して一様に作用するものではなく、脚取付部において円周方向の曲げモーメントに置き換えられ、胴の局部変形を生じさせようとする。

長手方向の曲げモーメントによる胴の応力の影響範囲を脚上 $\frac{\theta_0}{6}$ の点とすると長手方向曲げモーメントに対する胴の有効断面積は図5-2に $2 \cdot \theta$ で示される円殻である。したがって、運転時質量による応力は次式で求める。

$$\sigma_{x 2} = \frac{M_1}{Z} \dots\dots\dots (5.3.1.1.9)$$

また、鉛直方向地震による応力は次式で求める。

$$\sigma_{x 6} = \frac{M_1}{Z} \cdot C_v \dots\dots\dots (5.3.1.1.10)$$

ここで,

$$r_m = \frac{D_i + t_e}{2} \dots\dots\dots (5.3.1.1.11)$$

$$Z = r_m^2 \cdot t_e \cdot \left\{ \frac{\theta + \sin \theta \cdot \cos \theta - 2 \cdot \sin^2 \theta / \theta}{(\sin \theta / \theta) - \cos \theta} \right\} \dots\dots\dots (5.3.1.1.12)$$

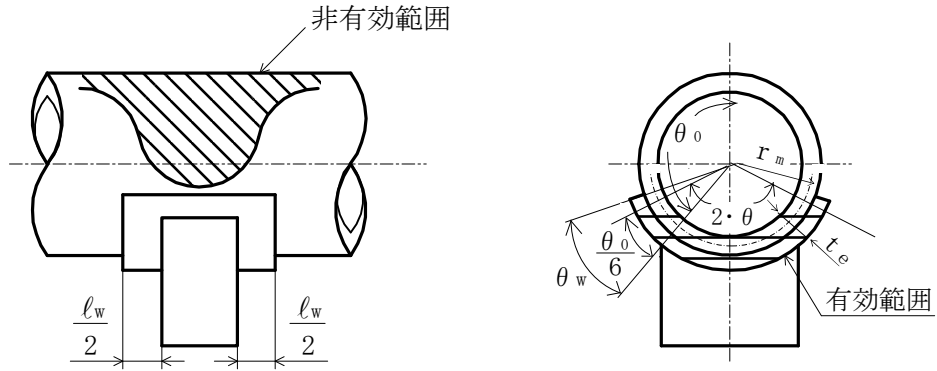


図 5-2 脚付け根部の有効範囲

胴の脚付け根部に取り付く当板の大きさが

周方向範囲 $\theta_w \geq \frac{\theta_0^{*1}}{6} \dots\dots\dots (5.3.1.1.13)$

長手方向範囲 $l_w \geq 1.56 \cdot \sqrt{\left(\frac{D_i + t}{2}\right) \cdot t}^{*2} \dots\dots\dots (5.3.1.1.14)$

である場合、脚付け根部における胴の有効板厚 t_e は胴板の厚さと当板の厚さの合計とする。また、当板が上記の範囲を満たさない場合、 t_e は胴板の厚さとする。

注記*1：引用文献(1)より引用

*2：引用文献(3)より引用

(4) 運転時質量及び鉛直方向地震による脚付け根部の応力

脚の受ける荷重が $R_2 > R_1$ となる場合は、 R_1 を R_2 に置き換える。

胴の脚付け根部には脚反力による周方向応力及び軸方向応力が生じる。胴の第1脚付け根部に作用する反力は次式で求める。

運転時質量による反力は、

$$P = R_1 \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.15)$$

鉛直方向地震による反力は、

$$P_e = C_v \cdot R_1 \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.16)$$

この反力 P 及び P_e により生じる胴の周方向応力及び軸方向応力は、引用文献(2)により次のように求める。

脚が胴に及ぼす力の関係を図5-3に示す。

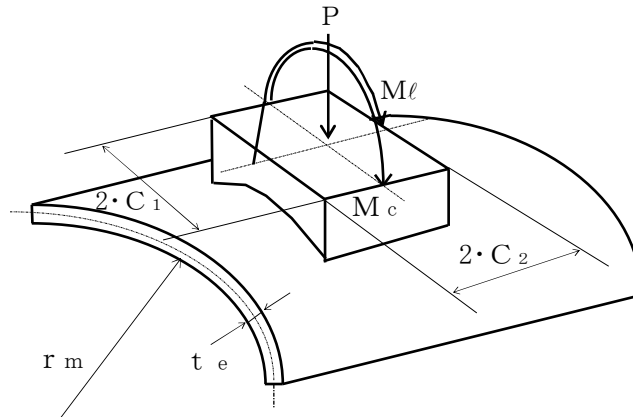


図5-3 脚が胴に及ぼす力の関係

ここで、シェルパラメータ γ 及びアタッチメントパラメータ β は以下のように定義する。

$$\gamma = r_m / t_e \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.17)$$

$$\beta_1 = C_1 / r_m \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.18)$$

$$\beta_2 = C_2 / r_m \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.19)$$

$4 \geq \beta_1 / \beta_2 \geq 1$ のとき

$$\beta = \left\{ 1 - \frac{1}{3} \cdot (\beta_1 / \beta_2 - 1) \cdot (1 - K_{1j}) \right\} \cdot \sqrt{\beta_1 \cdot \beta_2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.20)$$

ただし、 $\beta \leq 0.5$

$\frac{1}{4} \leq \beta_1 / \beta_2 < 1$ のとき

$$\beta = \left\{ 1 - \frac{4}{3} \cdot (1 - \beta_1 / \beta_2) \cdot (1 - K_{2j}) \right\} \cdot \sqrt{\beta_1 \cdot \beta_2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.21)$$

ただし、 $\beta \leq 0.5$

シェルパラメータ γ 及びアタッチメントパラメータ β によって引用文献(2)の図より値（以下*を付記するもの）を求めることにより応力は次式で求める。

反力 P による応力は、

一次応力

$$\sigma_{\phi 3} = \left(\frac{N_{\phi}}{P / r_m} \right)^* \cdot \left(\frac{P}{r_m \cdot t_e} \right) \dots\dots\dots (5.3.1.1.22)$$

$$\sigma_{x 3} = \left(\frac{N_x}{P / r_m} \right)^* \cdot \left(\frac{P}{r_m \cdot t_e} \right) \dots\dots\dots (5.3.1.1.23)$$

反力 P_e による応力は、

一次応力

$$\sigma_{\phi 71} = \left(\frac{N_{\phi}}{P_e / r_m} \right)^* \cdot \left(\frac{P_e}{r_m \cdot t_e} \right) \dots\dots\dots (5.3.1.1.24)$$

$$\sigma_{x 71} = \left(\frac{N_x}{P_e / r_m} \right)^* \cdot \left(\frac{P_e}{r_m \cdot t_e} \right) \dots\dots\dots (5.3.1.1.25)$$

二次応力

$$\sigma_{\phi 72} = \left(\frac{M_{\phi}}{P_e} \right)^* \cdot \left(\frac{6 \cdot P_e}{t_e^2} \right) \dots\dots\dots (5.3.1.1.26)$$

$$\sigma_{x 72} = \left(\frac{M_x}{P_e} \right)^* \cdot \left(\frac{6 \cdot P_e}{t_e^2} \right) \dots\dots\dots (5.3.1.1.27)$$

(5) 長手方向地震による脚付け根部の応力

第2脚は長手方向に自由にスライドできるので第1脚は図4-3のように変形し、脚付け根部に生じる曲げモーメント及び鉛直荷重は次式で求める。

$$M_{\ell} = \frac{1}{2} \cdot C_H \cdot (m_0 - m_{s1}) \cdot g \cdot h_1 \dots\dots\dots (5.3.1.1.28)$$

$$P_{\ell} = C_H \cdot (m_0 - m_{s1}) \cdot g \cdot \frac{h_2 - \frac{1}{2} \cdot h_1}{\ell_0} \dots\dots\dots (5.3.1.1.29)$$

曲げモーメント M_{ℓ} と鉛直荷重 P_{ℓ} により生じる胴の周方向応力及び軸方向応力は、シェルパラメータ γ 及びアタッチメントパラメータ β によって引用文献(2)の図より値（以下*を付記するもの）を求めることにより（5.3.1.1.31）式～（5.3.1.1.38）式で求める。

ここで、シェルパラメータ γ 及び P_{ℓ} の場合のアタッチメントパラメータ β は(4)と同じであるが、 M_{ℓ} の場合のアタッチメントパラメータ β は次式による。

ただし、二次応力を求める場合は更に $K_{\ell j}$ を乗じた値とする。

$$\beta = \sqrt[3]{\beta_1 \cdot \beta_2^2} \dots\dots\dots (5.3.1.1.30)$$

ただし、 $\beta \leq 0.5$

曲げモーメント M_ℓ により生じる応力は次式で求める。

一次応力

$$\sigma_{\phi 411} = \left\{ \frac{N_\phi}{M_\ell / (r m^2 \cdot \beta)} \right\}^* \cdot \left(\frac{M_\ell}{r m^2 \cdot \beta \cdot t_e} \right) \cdot C_{\ell 1} \quad \dots \quad (5.3.1.1.31)$$

$$\sigma_{x 411} = \left\{ \frac{N_x}{M_\ell / (r m^2 \cdot \beta)} \right\}^* \cdot \left(\frac{M_\ell}{r m^2 \cdot \beta \cdot t_e} \right) \cdot C_{\ell 2} \quad \dots \quad (5.3.1.1.32)$$

二次応力

$$\sigma_{\phi 421} = \left\{ \frac{M_\phi}{M_\ell / (r m \cdot \beta)} \right\}^* \cdot \left(\frac{6 \cdot M_\ell}{r m \cdot \beta \cdot t_e^2} \right) \quad \dots \quad (5.3.1.1.33)$$

$$\sigma_{x 421} = \left\{ \frac{M_x}{M_\ell / (r m \cdot \beta)} \right\}^* \cdot \left(\frac{6 \cdot M_\ell}{r m \cdot \beta \cdot t_e^2} \right) \quad \dots \quad (5.3.1.1.34)$$

鉛直荷重 P_ℓ により生じる応力は次式で求める。

一次応力

$$\sigma_{\phi 412} = \left(\frac{N_\phi}{P_\ell / r m} \right)^* \cdot \left(\frac{P_\ell}{r m \cdot t_e} \right) \quad \dots \quad (5.3.1.1.35)$$

$$\sigma_{x 412} = \left(\frac{N_x}{P_\ell / r m} \right)^* \cdot \left(\frac{P_\ell}{r m \cdot t_e} \right) \quad \dots \quad (5.3.1.1.36)$$

二次応力

$$\sigma_{\phi 422} = \left(\frac{M_\phi}{P_\ell} \right)^* \cdot \left(\frac{6 \cdot P_\ell}{t_e^2} \right) \quad \dots \quad (5.3.1.1.37)$$

$$\sigma_{x 422} = \left(\frac{M_x}{P_\ell} \right)^* \cdot \left(\frac{6 \cdot P_\ell}{t_e^2} \right) \quad \dots \quad (5.3.1.1.38)$$

また、水平方向荷重により胴には、次式で求める引張応力が生じる。

$$\sigma_{x 413} = \frac{C_H \cdot (m_0 - m_{s1}) \cdot g}{\pi \cdot (D_i + t) \cdot t} \quad \dots \quad (5.3.1.1.39)$$

したがって、曲げモーメント M_ℓ 、鉛直荷重 P_ℓ 及び水平方向荷重により生じる胴の応力は次式で求める。

一次応力

$$\sigma_{\phi 41} = \sigma_{\phi 411} + \sigma_{\phi 412} \quad \dots \quad (5.3.1.1.40)$$

$$\sigma_{x 41} = \sigma_{x 411} + \sigma_{x 412} + \sigma_{x 413} \quad \dots \quad (5.3.1.1.41)$$

二次応力

$$\sigma_{\phi 42} = \sigma_{\phi 421} + \sigma_{\phi 422} \quad \dots \quad (5.3.1.1.42)$$

$$\sigma_{x 42} = \sigma_{x 421} + \sigma_{x 422} \quad \dots \quad (5.3.1.1.43)$$

また、長手方向地震が作用した場合、第1脚付け根部に生じるせん断応力は次式で求める。

$$\tau_\ell = \frac{C_H \cdot (m_0 - m_{s1}) \cdot g}{4 \cdot C_2 \cdot t} \quad \dots \quad (5.3.1.1.44)$$

(6) 横方向地震による脚付け根部の応力

脚の受ける荷重が $R_2 > R_1$ となる場合は、 R_1 を R_2 に置き換える。

横方向地震が作用した場合、第1脚の付け根部に生じる曲げモーメント M_c は次式で求める。

$$M_c = C_H \cdot R_1 \cdot r_o \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.45)$$

$$r_o = \frac{D_i}{2} + t_e \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.46)$$

この曲げモーメント M_c により生じる胴の周方向応力及び軸方向応力は、シェルパラメータ γ 及びアタッチメントパラメータ β によって引用文献(2)の図より値（以下*を付記するもの）を求めることにより (5.3.1.1.48) 式～ (5.3.1.1.51) 式で求める。

ここで、シェルパラメータ γ は(4)と同じであるが、アタッチメントパラメータ β は次式による。ただし、二次応力を求める場合は更に K_{c_j} を乗じた値とする。

$$\beta = \sqrt[3]{\beta_1^2 \cdot \beta_2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.47)$$

ただし、 $\beta \leq 0.5$

したがって、応力は次式で求める。

一次応力

$$\sigma_{\phi 51} = \left\{ \frac{N_\phi}{M_c / (r m^2 \cdot \beta)} \right\}^* \cdot \left(\frac{M_c}{r m^2 \cdot \beta \cdot t_e} \right) \cdot C_{c1} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.48)$$

$$\sigma_{x 51} = \left\{ \frac{N_x}{M_c / (r m^2 \cdot \beta)} \right\}^* \cdot \left(\frac{M_c}{r m^2 \cdot \beta \cdot t_e} \right) \cdot C_{c2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.49)$$

二次応力

$$\sigma_{\phi 52} = \left\{ \frac{M_\phi}{M_c / (r m \cdot \beta)} \right\}^* \cdot \left(\frac{6 \cdot M_c}{r m \cdot \beta \cdot t_e^2} \right) \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.50)$$

$$\sigma_{x 52} = \left\{ \frac{M_x}{M_c / (r m \cdot \beta)} \right\}^* \cdot \left(\frac{6 \cdot M_c}{r m \cdot \beta \cdot t_e^2} \right) \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.51)$$

また、横方向地震が作用した場合、第1脚付け根部に生じるせん断応力は次式で求める。

$$\tau_c = \frac{C_H \cdot R_1}{4 \cdot C_1 \cdot t} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.52)$$

(7) 組合せ応力

(2)～(6)によって求めた第1脚付け根部に生じる胴の応力は以下のように組み合わせる。

a. 一次一般膜応力

鉛直方向と長手方向地震が作用した場合

$$\sigma_{0\ell} = \text{Max} \{ \text{周方向応力}(\sigma_{0\ell\phi}), \text{軸方向応力}(\sigma_{0\ell x}) \} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.53)$$

ここで,

$$\sigma_{0\ell\phi} = \sigma_{\phi 1} + \sigma_{\phi 2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.54)$$

【絶対値和】

$$\sigma_{0\ell x} = \sigma_{x 1} + \sigma_{x 2} + \sigma_{x 6} + \sigma_{x 4 1 3} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.55)$$

【S R S S法】

$$\sigma_{0\ell x} = \sigma_{x 1} + \sigma_{x 2} + \sqrt{\sigma_{x 6}^2 + \sigma_{x 4 1 3}^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.56)$$

鉛直方向と横方向地震が作用した場合

$$\sigma_{0c} = \text{Max} \{ \text{周方向応力}(\sigma_{0c\phi}), \text{軸方向応力}(\sigma_{0cx}) \} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.57)$$

ここで,

$$\sigma_{0c\phi} = \sigma_{\phi 1} + \sigma_{\phi 2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.58)$$

【絶対値和】

$$\sigma_{0cx} = \sigma_{x 1} + \sigma_{x 2} + \sigma_{x 6} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.59)$$

【S R S S法】

$$\sigma_{0cx} = \sigma_{x 1} + \sigma_{x 2} + \sigma_{x 6} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.60)$$

したがって、胴に生じる一次一般膜応力の最大値は、絶対値和、S R S S法、それぞれに対して、

$$\sigma_0 = \text{Max} \{ \text{長手方向地震時応力}(\sigma_{0\ell}), \text{横方向地震時応力}(\sigma_{0c}) \} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.61)$$

とする。

b. 一次応力

鉛直方向と長手方向地震が作用した場合

$$\sigma_{1l} = \frac{1}{2} \cdot \left\{ (\sigma_{1l\phi} + \sigma_{1lx}) + \sqrt{(\sigma_{1l\phi} - \sigma_{1lx})^2 + 4 \cdot \tau_l^2} \right\} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.62)$$

ここで,

【絶対値和】

$$\sigma_{1l\phi} = \sigma_{\phi 1} + \sigma_{\phi 2} + \sigma_{\phi 3} + \sigma_{\phi 41} + \sigma_{\phi 71} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.63)$$

$$\sigma_{1lx} = \sigma_{x1} + \sigma_{x2} + \sigma_{x3} + \sigma_{x41} + \sigma_{x6} + \sigma_{x71} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.64)$$

【SRSS法】

$$\sigma_{1l\phi} = \sigma_{\phi 1} + \sigma_{\phi 3} + \sqrt{\sigma_{\phi 41}^2 + (\sigma_{\phi 2} + \sigma_{\phi 71})^2} \quad \dots\dots (5.3.1.1.65)$$

$$\sigma_{1lx} = \sigma_{x1} + \sigma_{x2} + \sigma_{x3} + \sqrt{\sigma_{x41}^2 + (\sigma_{x6} + \sigma_{x71})^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.66)$$

鉛直方向と横方向地震が作用した場合

$$\sigma_{1c} = \frac{1}{2} \cdot \left\{ (\sigma_{1c\phi} + \sigma_{1cx}) + \sqrt{(\sigma_{1c\phi} - \sigma_{1cx})^2 + 4 \cdot \tau_c^2} \right\} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.67)$$

ここで,

【絶対値和】

$$\sigma_{1c\phi} = \sigma_{\phi 1} + \sigma_{\phi 2} + \sigma_{\phi 3} + \sigma_{\phi 51} + \sigma_{\phi 71} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.68)$$

$$\sigma_{1cx} = \sigma_{x1} + \sigma_{x2} + \sigma_{x3} + \sigma_{x51} + \sigma_{x6} + \sigma_{x71} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.69)$$

【SRSS法】

$$\sigma_{1c\phi} = \sigma_{\phi 1} + \sigma_{\phi 3} + \sqrt{\sigma_{\phi 51}^2 + (\sigma_{\phi 2} + \sigma_{\phi 71})^2} \quad \dots\dots (5.3.1.1.70)$$

$$\sigma_{1cx} = \sigma_{x1} + \sigma_{x2} + \sigma_{x3} + \sqrt{\sigma_{x51}^2 + (\sigma_{x6} + \sigma_{x71})^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.71)$$

したがって、胴に生じる一次応力の最大値は、絶対値和、SRSS法、それぞれに対して、

$$\sigma_1 = \text{Max} \{ \text{長手方向地震時応力}(\sigma_{1l}), \text{横方向地震時応力}(\sigma_{1c}) \} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.72)$$

とする。

- c. 地震動のみによる一次応力と二次応力の和の変動値
鉛直方向と長手方向地震が作用した場合の変動値

$$\sigma_{2l} = (\sigma_{2l\phi} + \sigma_{2lx}) + \sqrt{(\sigma_{2l\phi} - \sigma_{2lx})^2 + 4 \cdot \tau_l^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.73)$$

ここで,

【絶対値和】

$$\sigma_{2l\phi} = \sigma_{\phi 2} + \sigma_{\phi 41} + \sigma_{\phi 42} + \sigma_{\phi 71} + \sigma_{\phi 72} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.74)$$

$$\sigma_{2lx} = \sigma_{x41} + \sigma_{x42} + \sigma_{x6} + \sigma_{x71} + \sigma_{x72} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.75)$$

【S R S S法】

$$\sigma_{2l\phi} = \sqrt{(\sigma_{\phi 2} + \sigma_{\phi 71} + \sigma_{\phi 72})^2 + (\sigma_{\phi 41} + \sigma_{\phi 42})^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.76)$$

$$\sigma_{2lx} = \sqrt{(\sigma_{x41} + \sigma_{x42})^2 + (\sigma_{x6} + \sigma_{x71} + \sigma_{x72})^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.77)$$

鉛直方向と横方向地震が作用した場合の変動値

$$\sigma_{2c} = (\sigma_{2c\phi} + \sigma_{2cx}) + \sqrt{(\sigma_{2c\phi} - \sigma_{2cx})^2 + 4 \cdot \tau_c^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.78)$$

ここで,

【絶対値和】

$$\sigma_{2c\phi} = \sigma_{\phi 2} + \sigma_{\phi 51} + \sigma_{\phi 52} + \sigma_{\phi 71} + \sigma_{\phi 72} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.79)$$

$$\sigma_{2cx} = \sigma_{x51} + \sigma_{x52} + \sigma_{x6} + \sigma_{x71} + \sigma_{x72} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.80)$$

【S R S S法】

$$\sigma_{2c\phi} = \sqrt{(\sigma_{\phi 2} + \sigma_{\phi 71} + \sigma_{\phi 72})^2 + (\sigma_{\phi 51} + \sigma_{\phi 52})^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.81)$$

$$\sigma_{2cx} = \sqrt{(\sigma_{x51} + \sigma_{x52})^2 + (\sigma_{x6} + \sigma_{x71} + \sigma_{x72})^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.82)$$

したがって、胴に生じる地震動のみによる一次応力と二次応力の和の変動値の最大値は、絶対値和，S R S S法，それぞれに対して，

$$\sigma_2 = \text{Max} \{ \text{長手方向地震時応力}(\sigma_{2l}), \text{横方向地震時応力}(\sigma_{2c}) \} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.83)$$

とする。

5.3.1.2 脚の計算方法

脚の受ける荷重が $R_2 > R_1$ となる場合は、 R_1 を R_2 に置き換える。

- (1) 運転時荷重による応力

$$\sigma_{s1} = \frac{R_1 + m_{s1} \cdot g}{A_s} \dots\dots\dots (5.3.1.2.1)$$

- (2) 鉛直方向地震による応力

$$\sigma_{s4} = \frac{R_1 + m_{s1} \cdot g}{A_s} \cdot C_v \dots\dots\dots (5.3.1.2.2)$$

- (3) 長手方向地震による応力

曲げ及び圧縮応力は次式で求める。

$$\sigma_{s2} = \frac{M_{\ell 1}}{Z_{s y}} + \frac{P_{\ell}}{A_s} \dots\dots\dots (5.3.1.2.3)$$

ここで、

$$M_{\ell 1} = \frac{1}{2} \cdot C_H \cdot m_0 \cdot g \cdot h_1 \dots\dots\dots (5.3.1.2.4)$$

せん断応力は次式で求める。

$$\tau_{s2} = \frac{C_H \cdot m_0 \cdot g}{A_{s3}} \dots\dots\dots (5.3.1.2.5)$$

- (4) 横方向地震による応力

曲げ応力は次式で求める。

$$\sigma_{s3} = \frac{C_H \cdot (R_1 + m_{s1} \cdot g) \cdot h_2}{Z_{s x}} \dots\dots\dots (5.3.1.2.6)$$

せん断応力は次式で求める。

$$\tau_{s3} = \frac{C_H \cdot (R_1 + m_{s1} \cdot g)}{A_{s4}} \dots\dots\dots (5.3.1.2.7)$$

- (5) 組合せ応力

鉛直方向と長手方向地震が作用した場合

【絶対値和】

$$\sigma_{s\ell} = \sqrt{(\sigma_{s1} + \sigma_{s2} + \sigma_{s4})^2 + 3 \cdot \tau_{s2}^2} \dots\dots\dots (5.3.1.2.8)$$

【S R S S法】

$$\sigma_{s\ell} = \sqrt{(\sigma_{s1} + \sqrt{\sigma_{s2}^2 + \sigma_{s4}^2})^2 + 3 \cdot \tau_{s2}^2} \dots\dots\dots (5.3.1.2.9)$$

鉛直方向と横方向地震が作用した場合

【絶対値和】

$$\sigma_{sc} = \sqrt{(\sigma_{s1} + \sigma_{s3} + \sigma_{s4})^2 + 3 \cdot \tau_{s3}^2} \dots\dots\dots (5.3.1.2.10)$$

【S R S S法】

$$\sigma_{sc} = \sqrt{(\sigma_{s1} + \sqrt{\sigma_{s3}^2 + \sigma_{s4}^2})^2 + 3 \cdot \tau_{s3}^2} \dots\dots\dots (5.3.1.2.11)$$

したがって、脚に生じる最大応力は、絶対値和、S R S S法、それぞれに対して、

$$\sigma_s = \text{Max} \{ \text{長手方向地震時応力}(\sigma_{s\ell}), \text{横方向地震時応力}(\sigma_{sc}) \} \dots\dots\dots (5.3.1.2.12)$$

とする。

5.3.1.3 基礎ボルトの計算方法

(1) 鉛直方向と長手方向地震が作用した場合

a. 引張応力

長手方向地震が作用した場合に脚底面に作用するモーメントは次式で求める。

$$M = M_{\ell 1} \quad \dots \dots \dots (5.3.1.3.1)$$

鉛直荷重は

【絶対値和】

$$P_s = (1 - C_v) \cdot (R_1 + m_{s1} \cdot g) - P_{\ell} \quad \dots \dots \dots (5.3.1.3.2)$$

【SRSS法】

$$P_s = R_1 + m_{s1} \cdot g - \sqrt{\{C_v \cdot (R_1 + m_{s1} \cdot g)\}^2 + P_{\ell}^2} \quad \dots \dots \dots (5.3.1.3.3)$$

である。ここで、モーメントと鉛直荷重の比を

$$e = M / P_s \quad \dots \dots \dots (5.3.1.3.4)$$

とする。

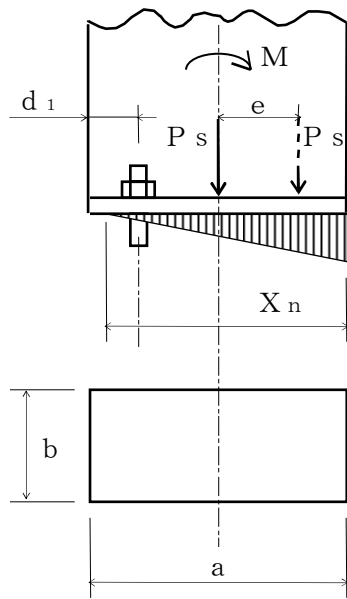


図5-4 基礎部に作用する外荷重より生じる荷重の関係 (その1)

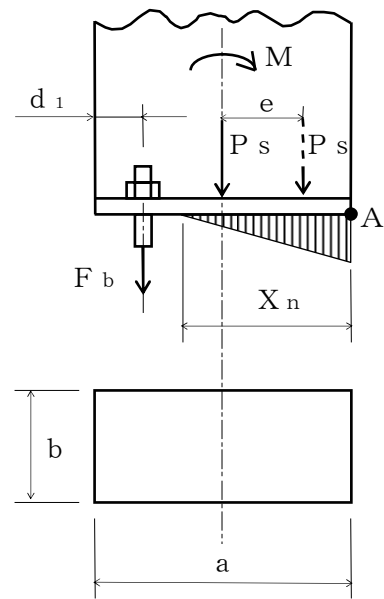


図5-5 基礎部に作用する外荷重より生じる荷重の関係 (その2)

図5-4のように脚底面においてボルト位置に圧縮荷重がかかる状況では基礎ボルトに引張力は作用しないため、引張力の評価は行わない。

一方、図5-5のように、ボルト位置に圧縮荷重がかからない状況に相当する

$$e > \frac{a}{6} + \frac{d_1}{3} \quad \dots \dots \dots (5.3.1.3.5)$$

のとき、基礎ボルトに引張力が生じる。

このとき図5-5において、鉛直荷重の釣合い、A点回りのモーメントの釣合い、基礎ボルトの伸びと基礎の縮みの関係から中立軸の位置 X_n は

$$X_n^3 + 3 \cdot \left(e - \frac{a}{2}\right) \cdot X_n^2 - \frac{6 \cdot s \cdot A_b \cdot n_1}{b} \cdot \left(e + \frac{a}{2} - d_1\right) \cdot (a - d_1 - X_n) = 0 \quad \dots\dots\dots (5.3.1.3.6)$$

より求めることができ、基礎ボルトに生じる引張力は

$$F_b = \frac{P_s \cdot \left(e - \frac{a}{2} + \frac{X_n}{3}\right)}{a - d_1 - \frac{X_n}{3}} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.3.7)$$

となる。

したがって、基礎ボルトに生じる引張応力は次のようになる。

$$\sigma_{b1} = \frac{F_b}{n_1 \cdot A_b} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.3.8)$$

ここで、基礎ボルトの軸断面積 A_b は次式により求める。

$$A_b = \frac{\pi}{4} \cdot d^2 \quad \dots\dots\dots (5.3.1.3.9)$$

b. せん断応力

$$\tau_{b1} = \frac{C_H \cdot m_0 \cdot g}{n \cdot A_b} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.3.10)$$

(2) 鉛直方向と横方向地震が作用した場合

脚の受ける荷重が $R_2 > R_1$ となる場合は、

R_1 を R_2 に置き換える。

a. 引張応力

(a) 長手方向から見て図5-6のように応力を2列の基礎ボルトで受ける場合

鉛直方向と横方向地震が作用した場合に脚底面に作用するモーメントは

$$M_{c1} = C_H \cdot (R_1 + m_{s1} \cdot g) \cdot h_2 \quad \dots\dots\dots (5.3.1.3.11)$$

鉛直荷重は

$$P_{s1} = (1 - C_v) \cdot (R_1 + m_{s1} \cdot g) \quad \dots\dots\dots (5.3.1.3.12)$$

で求める。

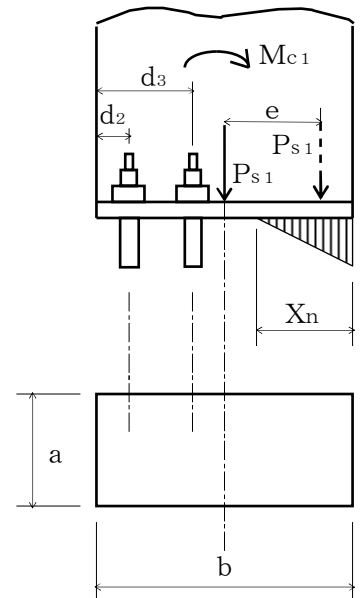


図5-6 基礎部に作用する外荷重より生じる荷重の関係 (その3)

(1)と同様にして中立軸の位置 X_n を

$$X_n^3 + 3 \cdot \left(e - \frac{b}{2}\right) \cdot X_n^2 - \frac{6 \cdot s \cdot A_b \cdot n_2}{a} \cdot X_n - \left\{ \left(e + \frac{b}{2} - d_2\right) \cdot (b - X_n - d_2) + \left(e + \frac{b}{2} - d_3\right) \cdot (b - X_n - d_3) \right\} = 0 \quad (5.3.1.3.13)$$

ただし

$$e = M_{c1} / P_{s1} \quad (5.3.1.3.14)$$

より求めると、基礎ボルトに生じる引張力は

$$F_b = \frac{P_{s1} \cdot \left(e - \frac{b}{2} + \frac{X_n}{3}\right) \cdot (b - X_n - d_2)}{\left(b - d_2 - \frac{X_n}{3}\right) \cdot (b - X_n - d_2) + \left(b - d_3 - \frac{X_n}{3}\right) \cdot (b - X_n - d_3)} \quad (5.3.1.3.15)$$

となる。

したがって、基礎ボルトに生じる引張応力は次のようになる。

$$\sigma_{b2} = \frac{F_b}{n_2 \cdot A_b} \quad (5.3.1.3.16)$$

(b) 長手方向から見て応力を1列の基礎ボルトで受ける場合

(1)と同様にして引張応力は求められるが、 M を M_{c1} 、 P_s を P_{s1} 、 d_1 を d_2 、 a を b 、 b を a 及び n_1 を n_2 に置き換え、得られた基礎ボルトの応力を σ_{b2} とする。

b. せん断応力

$$\tau_{b2} = \frac{C_H \cdot (R_1 + m_{s1} \cdot g)}{n \cdot A_b} \quad (5.3.1.3.17)$$

(3) 基礎ボルトに生じる最大応力

(1)及び(2)より求められた基礎ボルトの応力のうち最大のものを σ_b 及び τ_b とする。

a. 基礎ボルトの最大引張応力

$$\sigma_b = \text{Max} \{ \text{長手方向地震時応力}(\sigma_{b1}), \text{横方向地震時応力}(\sigma_{b2}) \} \quad (5.3.1.3.18)$$

b. 基礎ボルトの最大せん断応力

$$\tau_b = \text{Max} \{ \text{長手方向地震時応力}(\tau_{b1}), \text{横方向地震時応力}(\tau_{b2}) \} \quad (5.3.1.3.19)$$

5.4 応力の評価

5.4.1 胴の応力評価

5.3.1.1項で求めた組合せ応力が胴の最高使用温度における許容応力 S_a 以下であること。ただし、 S_a は下表による。

応力の種類	許容応力 S_a	
	弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度による 荷重との組合せの場合	基準地震動 S_s による 荷重との組合せの場合
一次一般膜応力	設計降伏点 S_y と設計引張強さ S_u の0.6倍のいずれか小さい方の値。ただし、オーステナイト系ステンレス鋼及び高ニッケル合金にあっては許容引張応力 S の1.2倍の方が大きい場合は、この大きい方の値とする。	設計引張強さ S_u の0.6倍
一次応力	上記の1.5倍の値	上記の1.5倍の値
一次応力と二次応力の和	地震動のみによる一次応力と二次応力の和の変動値が設計降伏点 S_y の2倍以下であれば、疲労解析は不要とする。	

5.4.2 脚の応力評価

5.3.1.2項で求めた脚の組合せ応力が許容引張応力 f_t 以下であること。

ただし、 f_t は下表による。

	弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度による 荷重との組合せの場合	基準地震動 S_s による 荷重との組合せの場合
許容引張応力 f_t	$\frac{F}{1.5} \cdot 1.5$	$\frac{F^*}{1.5} \cdot 1.5$

5.4.3 基礎ボルトの応力評価

5.3.1.3項で求めた基礎ボルトの引張応力 σ_b は次式より求めた許容引張応力 f_{ts} 以下であること。ただし、 f_{to} は下表による。

$$f_{ts} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{to} - 1.6 \cdot \tau_b, f_{to}] \quad \dots\dots\dots (5.4.3.1)$$

せん断応力 τ_b はせん断力のみ受ける基礎ボルトの許容せん断応力 f_{sb} 以下であること。ただし、 f_{sb} は下表による。

	弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度による 荷重との組合せの場合	基準地震動 S_s による 荷重との組合せの場合
許容引張応力 f_{to}	$\frac{F}{2} \cdot 1.5$	$\frac{F^*}{2} \cdot 1.5$
許容せん断応力 f_{sb}	$\frac{F}{1.5 \cdot \sqrt{3}} \cdot 1.5$	$\frac{F^*}{1.5 \cdot \sqrt{3}} \cdot 1.5$

6. 耐震計算書のフォーマット

横置一胴円筒形容器の耐震計算書のフォーマットは、以下のとおりである。

[設計基準対象施設及び重大事故等対処設備の場合]

フォーマットⅠ 設計基準対象施設としての評価結果

フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果

[重大事故等対処設備単独の場合]

フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果*

注記*：重大事故等対処設備単独の場合は、設計基準対象施設及び重大事故等対処設備に示すフォーマットⅡを使用するものとする。ただし、評価結果表に記載の章番を「2.」から「1.」とする。

7. 引用文献

- (1) Stresses in Large Horizontal Cylindrical Pressure Vessels on Two Saddle Supports, Welding Research Supplement, Sep. 1951.
- (2) Wichman, K.R. et al.:Local Stresses in Spherical and Cylindrical Shells due to External Loadings, Welding Research Council bulletin, March 1979 revision of WRC bulletin 107 / August 1965.
- (3) 日本産業規格 J I S B 8 2 7 8 (2003)「サドル支持の横置圧力容器」

【フォーマット I 設計基準対象施設としての評価結果】

【○○○○タンクの耐震性についての計算結果】

1. 設計基準対象施設

1.1 設計条件

機器名称	耐震重要度分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S d 又は静的震度		基準地震動 S s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度			
		○○建物 EL *1			C _H = *2	C _V = *2	C _H = *3	C _V = *3			

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（弾性設計用地震動 S d）又は静的震度のいずれか大きい方、若しくはこれを上回る設計震度

*3：設計用震度 I（基準地震動 S s）又はこれを上回る設計震度

1.2 機器要目

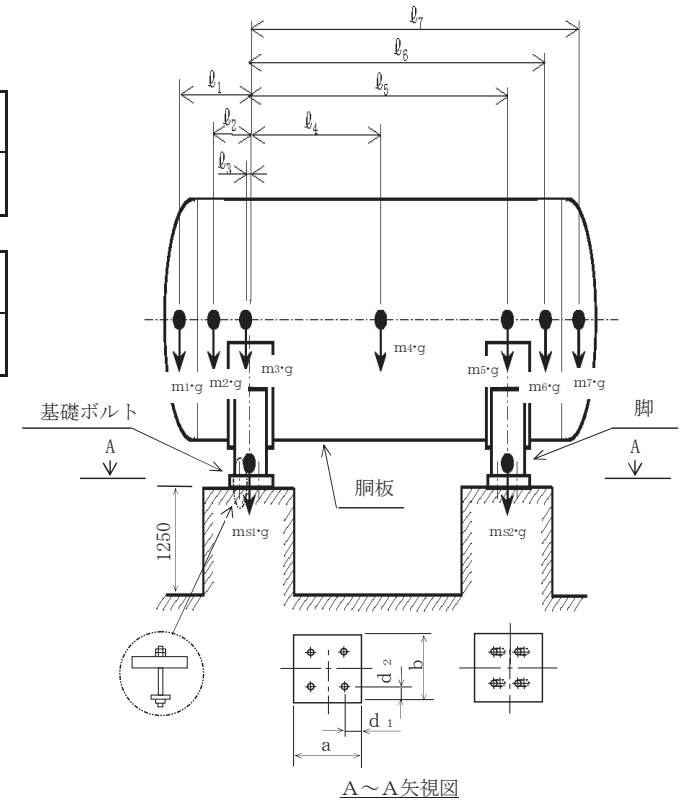
m ₁ (kg)	m ₂ (kg)	m ₃ (kg)	m ₄ (kg)	m ₅ (kg)	m ₆ (kg)	m ₇ (kg)

29

ℓ ₁ (mm)	ℓ ₂ (mm)	ℓ ₃ (mm)	ℓ ₄ (mm)	ℓ ₅ (mm)	ℓ ₆ (mm)	ℓ ₇ (mm)	M ₁ (N・mm)	M ₂ (N・mm)	R ₁ (N)	R ₂ (N)

m ₀ (kg)	m _{s1} (kg)	m _{s2} (kg)	D _i (mm)	t (mm)	t _e (mm)	ℓ ₀ (mm)	h ₁ (mm)	h ₂ (mm)	θ _w (rad)	ℓ _w (mm)
					*1					

C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	I _{sx} (mm ⁴)	I _{sy} (mm ⁴)	Z _{sx} (mm ³)	Z _{sy} (mm ³)	θ ₀ (rad)	θ (rad)



A _s (mm ³)	E _s (MPa)	G _s (MPa)	A _{s1} (mm ²)	A _{s2} (mm ²)	A _{s3} (mm ³)	A _{s4} (mm ²)
	*4	*4				

K ₁₁ *2	K ₁₂ *2	K ₂₁ *2	K ₂₂ *2	K _{ℓ1}	K _{ℓ2}	K _{c1}	K _{c2}	C _{ℓ1}	C _{ℓ2}	C _{c1}	C _{c2}

s	n	n ₁	n ₂	a (mm)	b (mm)	d (mm)	A _b (mm ²)	d ₁ (mm)	d ₂ (mm)
						(M)			

S _y (胴板) (MPa)	S _u (胴板) (MPa)	S (胴板) (MPa)	S _y (脚) (MPa)	S _u (脚) (MPa)	F (脚) (MPa)	F* (脚) (MPa)	S _y (基礎ボルト) (MPa)	S _u (基礎ボルト) (MPa)	F (基礎ボルト) (MPa)	F* (基礎ボルト) (MPa)
*3	*3	*3	*4	*4			*4	*4		

注記*1：本計算においては当板を有効とした。

*2：表中で上段は一次応力，下段は二次応力の係数とする。

*3：最高使用温度で算出

*4：周囲環境温度で算出

胴板と当板の材料が異なる場合
当板のS_y，S_u及びS値を記載する。

S _y (胴板) (MPa)	S _u (胴板) (MPa)	S (胴板) (MPa)	F (基礎ボルト) (MPa)
*3 (*5)	*3 (*5)	*3 (*5)	

注記

*1：本計算においては当板を有効とした。

*2：表中で上段は一次応力，下段は二次応力の係数とする。

*3：最高使用温度で算出

*4：周囲環境温度で算出

*5：当板の材料を示す。

1.3 計算数値

1.3.1 胴に生じる応力

(1) 一次一般膜応力

(単位：MPa)

地震の種類 地震の方向 応力の方向	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度				基準地震動 S _s			
	長手方向		横方向		長手方向		横方向	
	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力
内圧による応力	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$
内圧による応力 (鉛直方向地震時)	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—
運転時質量による長手方向曲げ モーメントにより生じる応力	—	$\sigma_{x 2} =$	—	$\sigma_{x 2} =$	—	$\sigma_{x 2} =$	—	$\sigma_{x 2} =$
鉛直方向地震による長手方向曲げ モーメントにより生じる応力	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$
長手方向地震により胴軸断面 全面に生じる引張応力	—	$\sigma_{x 413} =$	—	—	—	$\sigma_{x 413} =$	—	—
組合せ応力	$\sigma_{of} =$		$\sigma_{oc} =$		$\sigma_{of} =$		$\sigma_{oc} =$	

(2) 一次応力

(単位：MPa)

地震の種類 地震の方向 応力の方向	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度				基準地震動 S _s				
	長手方向		横方向		長手方向		横方向		
	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	
内圧による応力	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	
内圧による応力 (鉛直方向地震時)	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	
運転時質量による長手方向曲げ モーメントにより生じる応力	—	$\sigma_{x 2} =$	—	$\sigma_{x 2} =$	—	$\sigma_{x 2} =$	—	$\sigma_{x 2} =$	
鉛直方向地震による長手方向曲げ モーメントにより生じる応力	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$	
運転時質量による脚反力 により生じる応力	$\sigma_{\phi 3} =$	$\sigma_{x 3} =$	$\sigma_{\phi 3} =$	$\sigma_{x 3} =$	$\sigma_{\phi 3} =$	$\sigma_{x 3} =$	$\sigma_{\phi 3} =$	$\sigma_{x 3} =$	
鉛直方向地震による脚反力 により生じる応力	$\sigma_{\phi 71} =$	$\sigma_{x 71} =$	$\sigma_{\phi 71} =$	$\sigma_{x 71} =$	$\sigma_{\phi 71} =$	$\sigma_{x 71} =$	$\sigma_{\phi 71} =$	$\sigma_{x 71} =$	
水平方向地震 による応力	引張り	$\sigma_{\phi 411} =$	$\sigma_{x 411} =$	$\sigma_{\phi 51} =$	$\sigma_{x 51} =$	$\sigma_{\phi 411} =$	$\sigma_{x 411} =$	$\sigma_{\phi 51} =$	$\sigma_{x 51} =$
		$\sigma_{\phi 412} =$	$\sigma_{x 412} =$			$\sigma_{\phi 412} =$	$\sigma_{x 412} =$		
		$\sigma_{\phi 41} =$	$\sigma_{x 41} =$			$\sigma_{\phi 41} =$	$\sigma_{x 41} =$		
	せん断	$\tau_{\ell} =$		$\tau_{c} =$		$\tau_{\ell} =$		$\tau_{c} =$	
組合せ応力	$\sigma_{1\ell} =$		$\sigma_{1c} =$		$\sigma_{1\ell} =$		$\sigma_{1c} =$		

(3) 地震動のみによる一次応力と二次応力の和の変動値

(単位：MPa)

地震の種類 地震の方向 応力の方向		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度				基準地震動 S _s			
		長手方向		横方向		長手方向		横方向	
		周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力
内圧による応力 (鉛直方向地震時)		$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—
鉛直方向地震による長手方向 曲げモーメントにより生じる応力		—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$
鉛直方向地震による脚反力 により生じる応力		$\sigma_{\phi 71} =$ $\sigma_{\phi 72} =$	$\sigma_{x 71} =$ $\sigma_{x 72} =$	$\sigma_{\phi 71} =$ $\sigma_{\phi 72} =$	$\sigma_{x 71} =$ $\sigma_{x 72} =$	$\sigma_{\phi 71} =$ $\sigma_{\phi 72} =$	$\sigma_{x 71} =$ $\sigma_{x 72} =$	$\sigma_{\phi 71} =$ $\sigma_{\phi 72} =$	$\sigma_{x 71} =$ $\sigma_{x 72} =$
水平方向地震 による応力	引張り	$\sigma_{\phi 41} =$	$\sigma_{x 41} =$	$\sigma_{\phi 51} =$	$\sigma_{x 51} =$	$\sigma_{\phi 41} =$	$\sigma_{x 41} =$	$\sigma_{\phi 51} =$	$\sigma_{x 51} =$
		$\sigma_{\phi 421} =$	$\sigma_{x 421} =$	$\sigma_{\phi 52} =$	$\sigma_{x 52} =$	$\sigma_{\phi 421} =$	$\sigma_{x 421} =$	$\sigma_{\phi 52} =$	$\sigma_{x 52} =$
		$\sigma_{\phi 422} =$	$\sigma_{x 422} =$			$\sigma_{\phi 422} =$	$\sigma_{x 422} =$		
	$\sigma_{\phi 42} =$	$\sigma_{x 42} =$	$\sigma_{\phi 42} =$	$\sigma_{x 42} =$					
せん断	$\tau_{\ell} =$		$\tau_{c} =$		$\tau_{\ell} =$		$\tau_{c} =$		
組合せ応力		$\sigma_{2\ell} =$		$\sigma_{2c} =$		$\sigma_{2\ell} =$		$\sigma_{2c} =$	

1.3.2 脚に生じる応力

(単位：MPa)

32

地震の種類 地震の方向		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
		長手方向	横方向	長手方向	横方向
運転時質量による応力		圧縮	$\sigma_{s1} =$	$\sigma_{s1} =$	$\sigma_{s1} =$
鉛直方向地震による応力		圧縮	$\sigma_{s4} =$	$\sigma_{s4} =$	$\sigma_{s4} =$
水平方向地震による応力	曲げ	$\sigma_{s2} =$	$\sigma_{s3} =$	$\sigma_{s2} =$	$\sigma_{s3} =$
	せん断	$\tau_{s2} =$	$\tau_{s3} =$	$\tau_{s2} =$	$\tau_{s3} =$
組合せ応力		$\sigma_{s\ell} =$	$\sigma_{sc} =$	$\sigma_{s\ell} =$	$\sigma_{sc} =$

1.3.3 基礎ボルトに生じる応力

(単位：MPa)

地震の種類 地震の方向		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
		長手方向	横方向	長手方向	横方向
鉛直方向地震及び水 平方向地震による応力		引張り	$\sigma_{b1} =$	$\sigma_{b2} =$	$\sigma_{b1} =$ $\sigma_{b2} =$
水平方向地震による 応力		せん断	$\tau_{b1} =$	$\tau_{b2} =$	$\tau_{b1} =$ $\tau_{b2} =$

1.4 結論

1.4.1 固有周期 (単位：s)

方向	固有周期
長手方向	$T_1 =$
横方向	$T_2 =$
鉛直方向	$T_3 =$

1.4.2 応力

(単位：MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度		基準地震動 S_s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
胴板		一次一般膜	$\sigma_0 =$	$S_a =$	$\sigma_0 =$	$S_a =$
		一次	$\sigma_1 =$	$S_a =$	$\sigma_1 =$	$S_a =$
		一次+二次	$\sigma_2 =$	$S_a =$	$\sigma_2 =$	$S_a =$
脚		組合せ	$\sigma_s =$	$f_t =$	$\sigma_s =$	$f_t =$
基礎ボルト		引張り	$\sigma_b =$	$f_{ts} = *$	$\sigma_b =$	$f_{ts} = *$
		せん断	$\tau_b =$	$f_{sb} =$	$\tau_b =$	$f_{sb} =$

すべて許容応力以下である。

注記*： $f_{ts} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{to} - 1.6 \cdot \tau_b, f_{to}]$

胴板と当板の材料が異なる場合、当板の材料名及び許容応力を記載する。

1.4.2 応力 (単位：MPa)

部材	材料	許容応力
胴板	(*1)	$S_a =$ (*1)
		$S_a =$ (*1)
脚		$f_t =$
基礎ボルト		$f_{ts} =$ *2
		$f_{sb} =$

注記*1：当板の材料を示す。

*2： $f_{ts} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{to} - 1.6 \cdot \tau_b, f_{to}]$

【○○○○○タンクの耐震性についての計算結果】

【静水頭の場合】

別紙

1. 設計基準対象施設

1.1 設計条件

機器名称	耐震重要度分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)	比重
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度				
		○○建物 EL *1			C _H = *2	C _V = *2	C _H = *3	C _V = *3	静水頭			

注記*1: 基準床レベルを示す。

*2: 設計用震度 I (弾性設計用地震動 S_d) 又は静的震度のいずれか大きい方、若しくはこれを上回る設計震度

*3: 設計用震度 I (基準地震動 S_s) 又はこれを上回る設計震度

1.2 機器要目

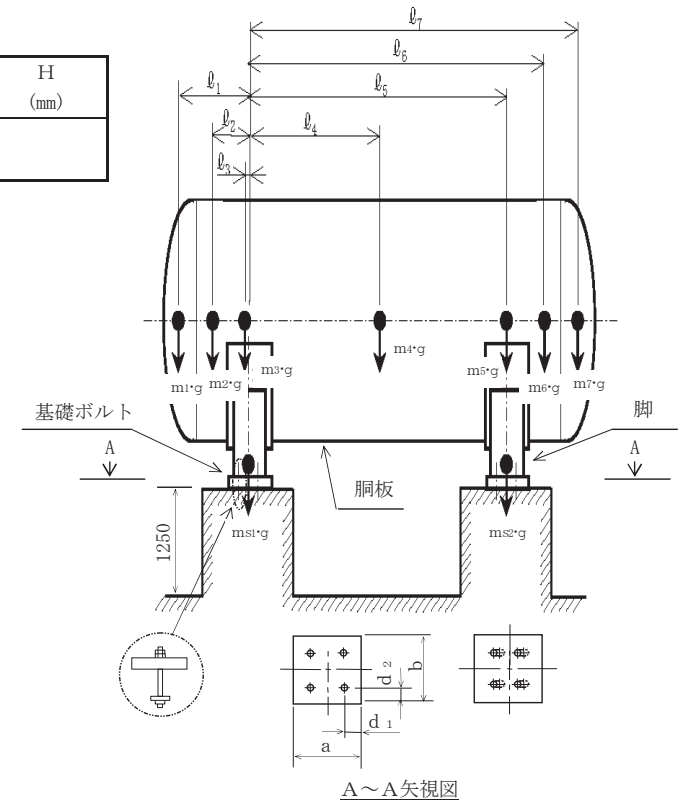
m ₁ (kg)	m ₂ (kg)	m ₃ (kg)	m ₄ (kg)	m ₅ (kg)	m ₆ (kg)	m ₇ (kg)

34

ℓ ₁ (mm)	ℓ ₂ (mm)	ℓ ₃ (mm)	ℓ ₄ (mm)	ℓ ₅ (mm)	ℓ ₆ (mm)	ℓ ₇ (mm)	M ₁ (N・mm)	M ₂ (N・mm)	R ₁ (N)	R ₂ (N)	H (mm)

m ₀ (kg)	m _{s1} (kg)	m _{s2} (kg)	D _i (mm)	t (mm)	t _e (mm)	ℓ ₀ (mm)	h ₁ (mm)	h ₂ (mm)	θ _w (rad)	ℓ _w (mm)
					*1					

C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	I _{sx} (mm ⁴)	I _{sy} (mm ⁴)	Z _{sx} (mm ³)	Z _{sy} (mm ³)	θ ₀ (rad)	θ (rad)



1.3 計算数値

1.3.1 胴に生じる応力

(1) 一次一般膜応力

(単位：MPa)

地震の種類 地震の方向 応力の方向	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度				基準地震動 S _s			
	長手方向		横方向		長手方向		横方向	
	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力
静水頭による応力	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$
静水頭による応力 (鉛直方向地震時)	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—
運転時質量による長手方向曲げ モーメントにより生じる応力	—	$\sigma_{x 2} =$	—	$\sigma_{x 2} =$	—	$\sigma_{x 2} =$	—	$\sigma_{x 2} =$
鉛直方向地震による長手方向曲げ モーメントにより生じる応力	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$
長手方向地震により胴軸断面 全面に生じる引張応力	—	$\sigma_{x 413} =$	—	—	—	$\sigma_{x 413} =$	—	—
組合せ応力	$\sigma_{of} =$		$\sigma_{oc} =$		$\sigma_{of} =$		$\sigma_{oc} =$	

(2) 一次応力

(単位：MPa)

35

地震の種類 地震の方向 応力の方向	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度				基準地震動 S _s				
	長手方向		横方向		長手方向		横方向		
	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	
静水頭による応力	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	
静水頭による応力 (鉛直方向地震時)	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	
運転時質量による長手方向曲げ モーメントにより生じる応力	—	$\sigma_{x 2} =$	—	$\sigma_{x 2} =$	—	$\sigma_{x 2} =$	—	$\sigma_{x 2} =$	
鉛直方向地震による長手方向曲げ モーメントにより生じる応力	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$	
運転時質量による脚反力 により生じる応力	$\sigma_{\phi 3} =$	$\sigma_{x 3} =$	$\sigma_{\phi 3} =$	$\sigma_{x 3} =$	$\sigma_{\phi 3} =$	$\sigma_{x 3} =$	$\sigma_{\phi 3} =$	$\sigma_{x 3} =$	
鉛直方向地震による脚反力 により生じる応力	$\sigma_{\phi 71} =$	$\sigma_{x 71} =$	$\sigma_{\phi 71} =$	$\sigma_{x 71} =$	$\sigma_{\phi 71} =$	$\sigma_{x 71} =$	$\sigma_{\phi 71} =$	$\sigma_{x 71} =$	
水平方向地震 による応力	引張り	$\sigma_{\phi 411} =$	$\sigma_{x 411} =$	$\sigma_{\phi 51} =$	$\sigma_{x 51} =$	$\sigma_{\phi 411} =$	$\sigma_{x 411} =$	$\sigma_{\phi 51} =$	$\sigma_{x 51} =$
		$\sigma_{\phi 412} =$	$\sigma_{x 412} =$			$\sigma_{\phi 412} =$	$\sigma_{x 412} =$		
		$\sigma_{\phi 41} =$	$\sigma_{x 41} =$			$\sigma_{\phi 41} =$	$\sigma_{x 41} =$		
せん断	$\tau_{\ell} =$		$\tau_{c} =$		$\tau_{\ell} =$		$\tau_{c} =$		
	$\sigma_{1\ell} =$		$\sigma_{1c} =$		$\sigma_{1\ell} =$		$\sigma_{1c} =$		
組合せ応力	$\sigma_{1\ell} =$		$\sigma_{1c} =$		$\sigma_{1\ell} =$		$\sigma_{1c} =$		

(3) 地震動のみによる一次応力と二次応力の和の変動値

(単位：MPa)

地震の種類	弾性設計用地震動 S d 又は静的震度				基準地震動 S s				
	地震の方向		地震の方向		地震の方向		地震の方向		
	長手方向	横方向	長手方向	横方向	長手方向	横方向	長手方向	横方向	
応力の方向	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	
静水頭による応力 (鉛直方向地震時)	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	
鉛直方向地震による長手方向 曲げモーメントにより生じる応力	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$	
鉛直方向地震による脚反力 により生じる応力	$\sigma_{\phi 71} =$	$\sigma_{x 71} =$	$\sigma_{\phi 71} =$	$\sigma_{x 71} =$	$\sigma_{\phi 71} =$	$\sigma_{x 71} =$	$\sigma_{\phi 71} =$	$\sigma_{x 71} =$	
	$\sigma_{\phi 72} =$	$\sigma_{x 72} =$	$\sigma_{\phi 72} =$	$\sigma_{x 72} =$	$\sigma_{\phi 72} =$	$\sigma_{x 72} =$	$\sigma_{\phi 72} =$	$\sigma_{x 72} =$	
水平方向地震 による応力	引張り	$\sigma_{\phi 41} =$	$\sigma_{x 41} =$	$\sigma_{\phi 51} =$	$\sigma_{x 51} =$	$\sigma_{\phi 41} =$	$\sigma_{x 41} =$	$\sigma_{\phi 51} =$	$\sigma_{x 51} =$
		$\sigma_{\phi 421} =$	$\sigma_{x 421} =$	$\sigma_{\phi 52} =$	$\sigma_{x 52} =$	$\sigma_{\phi 421} =$	$\sigma_{x 421} =$	$\sigma_{\phi 52} =$	$\sigma_{x 52} =$
		$\sigma_{\phi 422} =$	$\sigma_{x 422} =$			$\sigma_{\phi 422} =$	$\sigma_{x 422} =$		
	せん断	$\sigma_{\phi 42} =$	$\sigma_{x 42} =$	$\sigma_{\phi 42} =$	$\sigma_{x 42} =$				
組合せ応力	$\tau_{\ell} =$	$\tau_{c} =$	$\tau_{\ell} =$	$\tau_{c} =$					
組合せ応力	$\sigma_{2\ell} =$	$\sigma_{2c} =$	$\sigma_{2\ell} =$	$\sigma_{2c} =$					

36

1.3.2 脚に生じる応力

(単位：MPa)

地震の種類	弾性設計用地震動 S d 又は静的震度		基準地震動 S s		
	長手方向	横方向	長手方向	横方向	
運転時質量による応力	圧縮	$\sigma_{s1} =$	$\sigma_{s1} =$	$\sigma_{s1} =$	
鉛直方向地震による応力	圧縮	$\sigma_{s4} =$	$\sigma_{s4} =$	$\sigma_{s4} =$	
水平方向地震による応力	曲げ	$\sigma_{s2} =$	$\sigma_{s3} =$	$\sigma_{s2} =$	$\sigma_{s3} =$
	せん断	$\tau_{s2} =$	$\tau_{s3} =$	$\tau_{s2} =$	$\tau_{s3} =$
組合せ応力	$\sigma_{s\ell} =$	$\sigma_{sc} =$	$\sigma_{s\ell} =$	$\sigma_{sc} =$	

1.3.3 基礎ボルトに生じる応力

(単位：MPa)

地震の種類	弾性設計用地震動 S d 又は静的震度		基準地震動 S s		
	長手方向	横方向	長手方向	横方向	
鉛直方向地震及び水 平方向地震による応力	引張り	$\sigma_{b1} =$	$\sigma_{b2} =$	$\sigma_{b1} =$	$\sigma_{b2} =$
水平方向地震による 応力	せん断	$\tau_{b1} =$	$\tau_{b2} =$	$\tau_{b1} =$	$\tau_{b2} =$

【フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果】

2. 重大事故等対処設備

2.1 設計条件

機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動S _d 又は静的震度		基準地震動S _s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度			
		○○建物 EL *1			—	—	C _H = *2	C _V = *2			

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（基準地震動S_s）又はこれを上回る設計震度

2.2 機器要目

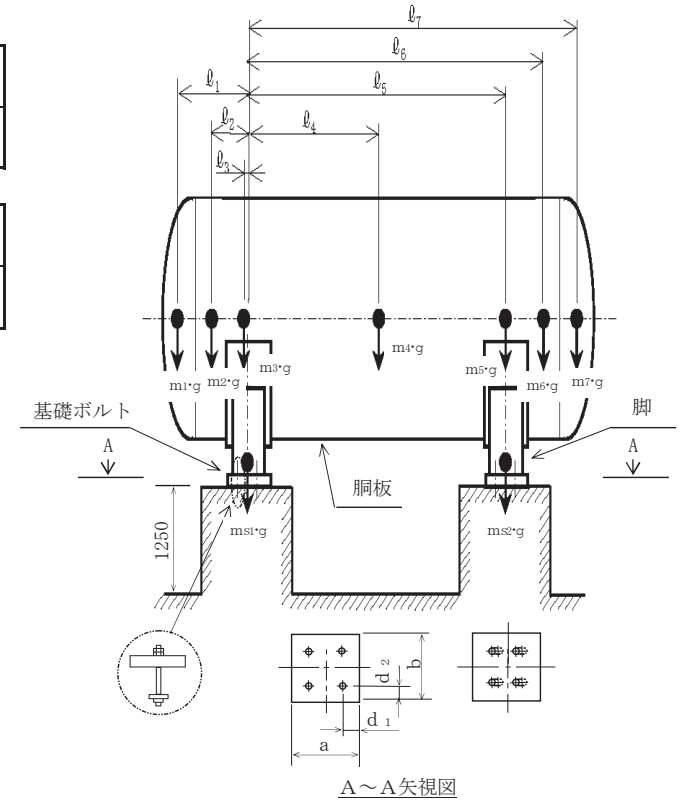
m ₁ (kg)	m ₂ (kg)	m ₃ (kg)	m ₄ (kg)	m ₅ (kg)	m ₆ (kg)	m ₇ (kg)

37

ℓ ₁ (mm)	ℓ ₂ (mm)	ℓ ₃ (mm)	ℓ ₄ (mm)	ℓ ₅ (mm)	ℓ ₆ (mm)	ℓ ₇ (mm)	M ₁ (N・mm)	M ₂ (N・mm)	R ₁ (N)	R ₂ (N)

m ₀ (kg)	m _{s1} (kg)	m _{s2} (kg)	D _i (mm)	t (mm)	t _e (mm)	ℓ ₀ (mm)	h ₁ (mm)	h ₂ (mm)	θ _w (rad)	ℓ _w (mm)
					*1					

C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	I _{sx} (mm ⁴)	I _{sy} (mm ⁴)	Z _{sx} (mm ³)	Z _{sy} (mm ³)	θ _o (rad)	θ (rad)



A _s (mm ³)	E _s (MPa)	G _s (MPa)	A _{s1} (mm ²)	A _{s2} (mm ²)	A _{s3} (mm ³)	A _{s4} (mm ²)
	*4	*4				

K ₁₁ *2	K ₁₂ *2	K ₂₁ *2	K ₂₂ *2	K _{ℓ1}	K _{ℓ2}	K _{c1}	K _{c2}	C _{ℓ1}	C _{ℓ2}	C _{c1}	C _{c2}

s	n	n ₁	n ₂	a (mm)	b (mm)	d (mm)	A _b (mm ²)	d ₁ (mm)	d ₂ (mm)
						(M)			

38

S _y (胴板) (MPa)	S _u (胴板) (MPa)	S (胴板) (MPa)	S _y (脚) (MPa)	S _u (脚) (MPa)	F (脚) (MPa)	F* (脚) (MPa)	S _y (基礎ボルト) (MPa)	S _u (基礎ボルト) (MPa)	F (基礎ボルト) (MPa)	F* (基礎ボルト) (MPa)
*3	*3	—	*4	*4	—		*4	*4	—	

注記*1：本計算においては当板を有効とした。

*2：表中で上段は一次応力，下段は二次応力の係数とする。

*3：最高使用温度で算出

*4：周囲環境温度で算出

胴板と当板の材料が異なる場合
当板の S_y、S_u 及び S 値を記載する。

S _y (胴板) (MPa)	S _u (胴板) (MPa)	S (胴板) (MPa)	F* (基礎ボルト) (MPa)
(*3 *5)	(*3 *5)	(*3 *5)	

注記

*1：本計算においては当板を有効とした。

*2：表中で上段は一次応力，下段は二次応力の係数とする。

*3：最高使用温度で算出

*4：周囲環境温度で算出

*5：当板の材料を示す。

2.3 計算数値

2.3.1 胴に生じる応力

(1) 一次一般膜応力

(単位：MPa)

地震の種類 地震の方向 応力の方向	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度				基準地震動 S _s			
	長手方向		横方向		長手方向		横方向	
	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力
内圧による応力	—	—	—	—	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$
内圧による応力 (鉛直方向地震時)	—	—	—	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—
運転時質量による長手方向曲げ モーメントにより生じる応力	—	—	—	—	—	$\sigma_{x 2} =$	—	$\sigma_{x 2} =$
鉛直方向地震による長手方向曲げ モーメントにより生じる応力	—	—	—	—	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$
長手方向地震により胴軸断面 全面に生じる引張応力	—	—	—	—	—	$\sigma_{x 4 1 3} =$	—	—
組合せ応力	—		—		$\sigma_{o l} =$		$\sigma_{o c} =$	

(2) 一次応力

(単位：MPa)

39

地震の種類 地震の方向 応力の方向	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度				基準地震動 S _s				
	長手方向		横方向		長手方向		横方向		
	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	
内圧による応力	—	—	—	—	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	
内圧による応力 (鉛直方向地震時)	—	—	—	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	
運転時質量による長手方向曲げ モーメントにより生じる応力	—	—	—	—	—	$\sigma_{x 2} =$	—	$\sigma_{x 2} =$	
鉛直方向地震による長手方向曲げ モーメントにより生じる応力	—	—	—	—	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$	
運転時質量による脚反力 により生じる応力	—	—	—	—	$\sigma_{\phi 3} =$	$\sigma_{x 3} =$	$\sigma_{\phi 3} =$	$\sigma_{x 3} =$	
鉛直方向地震による脚反力 により生じる応力	—	—	—	—	$\sigma_{\phi 7 1} =$	$\sigma_{x 7 1} =$	$\sigma_{\phi 7 1} =$	$\sigma_{x 7 1} =$	
水平方向地震 による応力	引張り	—	—	—	—	$\sigma_{\phi 4 1 1} =$	$\sigma_{x 4 1 1} =$	$\sigma_{\phi 5 1} =$	$\sigma_{x 5 1} =$
		—	—			$\sigma_{\phi 4 1 2} =$	$\sigma_{x 4 1 2} =$		
		—	—			$\sigma_{\phi 4 1} =$	$\sigma_{x 4 1} =$		
	せん断	—		—		$\tau_{\ell} =$		$\tau_{c} =$	
組合せ応力	—		—		$\sigma_{1 \ell} =$		$\sigma_{1 c} =$		

(3) 地震動のみによる一次応力と二次応力の和の変動値

(単位：MPa)

地震の種類 地震の方向 応力の方向	弾性設計用地震動 S d 又は静的震度				基準地震動 S s				
	長手方向		横方向		長手方向		横方向		
	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	
内圧による応力 (鉛直方向地震時)	—	—	—	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	
鉛直方向地震による長手方向 曲げモーメントにより生じる応力	—	—	—	—	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$	
鉛直方向地震による脚反力 により生じる応力	—	—	—	—	$\sigma_{\phi 7 1} =$ $\sigma_{\phi 7 2} =$	$\sigma_{x 7 1} =$ $\sigma_{x 7 2} =$	$\sigma_{\phi 7 1} =$ $\sigma_{\phi 7 2} =$	$\sigma_{x 7 1} =$ $\sigma_{x 7 2} =$	
水平方向地震 による応力	引張り	—	—	—	—	$\sigma_{\phi 4 1} =$	$\sigma_{x 4 1} =$	$\sigma_{\phi 5 1} =$	$\sigma_{x 5 1} =$
		—	—	—	—	$\sigma_{\phi 4 2 1} =$ $\sigma_{\phi 4 2 2} =$	$\sigma_{x 4 2 1} =$ $\sigma_{x 4 2 2} =$	$\sigma_{\phi 5 2} =$	$\sigma_{x 5 2} =$
		—	—			$\sigma_{\phi 4 2} =$	$\sigma_{x 4 2} =$		
せん断	—	—	—	—	$\tau_{\ell} =$	—	$\tau_{c} =$	—	
組合せ応力	—	—	—	—	$\sigma_{2\ell} =$	—	$\sigma_{2c} =$	—	

40

2.3.2 脚に生じる応力

(単位：MPa)

地震の種類 地震の方向	弾性設計用地震動 S d 又は静的震度	基準地震動 S s			
		長手方向	横方向	長手方向	横方向
運転時質量による応力	圧縮	—	—	$\sigma_{s 1} =$	$\sigma_{s 1} =$
鉛直方向地震による応力	圧縮	—	—	$\sigma_{s 4} =$	$\sigma_{s 4} =$
水平方向地震による応力	曲げ	—	—	$\sigma_{s 2} =$	$\sigma_{s 3} =$
	せん断	—	—	$\tau_{s 2} =$	$\tau_{s 3} =$
組合せ応力	—	—	—	$\sigma_{s \ell} =$	$\sigma_{s c} =$

2.3.3 基礎ボルトに生じる応力

(単位：MPa)

地震の種類 地震の方向	弾性設計用地震動 S d 又は静的震度	基準地震動 S s			
		長手方向	横方向	長手方向	横方向
鉛直方向地震及び水 平方向地震による応力	引張り	—	—	$\sigma_{b 1} =$	$\sigma_{b 2} =$
水平方向地震による 応力	せん断	—	—	$\tau_{b 1} =$	$\tau_{b 2} =$

2.4 結論

2.4.1 固有周期 (単位：s)

方向	固有周期
長手方向	$T_1 =$
横方向	$T_2 =$
鉛直方向	$T_3 =$

2.4.2 応力

(単位：MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度		基準地震動 S_s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
胴板		一次一般膜	—	—	$\sigma_o =$	$S_a =$
		一次	—	—	$\sigma_1 =$	$S_a =$
		一次+二次	—	—	$\sigma_2 =$	$S_a =$
脚		組合せ	—	—	$\sigma_s =$	$f_t =$
基礎ボルト		引張り	—	—	$\sigma_b =$	$f_{ts} = *$
		せん断	—	—	$\tau_b =$	$f_{sb} =$

すべて許容応力以下である。

注記*： $f_{ts} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{to} - 1.6 \cdot \tau_b, f_{to}]$

胴板と当板の材料が異なる場合、当板の材料名及び許容応力を記載する。

2.4.2 応力 (単位：MPa)

部材	材料	許容応力
胴板	(*1)	$S_a =$ (*1)
		$S_a =$ (*1)
脚		$f_t =$
基礎ボルト		$f_{ts} = *2$
		$f_{sb} =$

注記*1：当板の材料を示す。

*2： $f_{ts} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{to} - 1.6 \cdot \tau_b, f_{to}]$

【静水頭の場合】
(圧力容器と様式が異なるページのみ掲載)

別紙

2. 重大事故等対処設備

2.1 設計条件

機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)	比重
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度				
		○○建物 EL *1			—	—	C _H = *2	C _V = *2	静水頭			

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（基準地震動 S_s）又はこれを上回る設計震度

2.2 機器要目

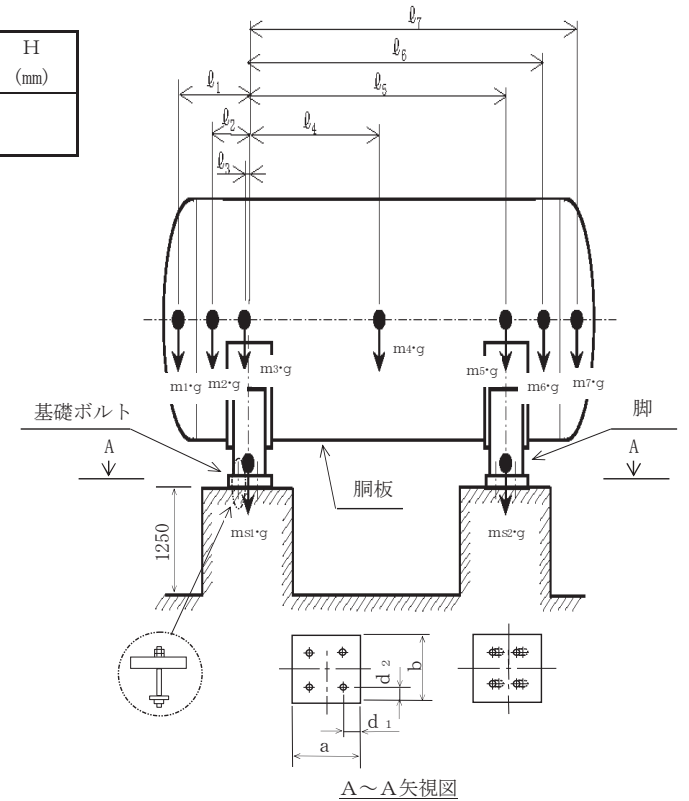
m ₁ (kg)	m ₂ (kg)	m ₃ (kg)	m ₄ (kg)	m ₅ (kg)	m ₆ (kg)	m ₇ (kg)

42

ℓ ₁ (mm)	ℓ ₂ (mm)	ℓ ₃ (mm)	ℓ ₄ (mm)	ℓ ₅ (mm)	ℓ ₆ (mm)	ℓ ₇ (mm)	M ₁ (N・mm)	M ₂ (N・mm)	R ₁ (N)	R ₂ (N)	H (mm)

m ₀ (kg)	m _{s1} (kg)	m _{s2} (kg)	D _i (mm)	t (mm)	t _e (mm)	ℓ ₀ (mm)	h ₁ (mm)	h ₂ (mm)	θ _w (rad)	ℓ _w (mm)
					*1					

C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	I _{sx} (mm ⁴)	I _{sy} (mm ⁴)	Z _{sx} (mm ³)	Z _{sy} (mm ³)	θ ₀ (rad)	θ (rad)



2.3 計算数値

2.3.1 胴に生じる応力

(1) 一次一般膜応力

(単位：MPa)

地震の種類 地震の方向 応力の方向	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度				基準地震動 S _s			
	長手方向		横方向		長手方向		横方向	
	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力
静水頭による応力	—	—	—	—	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$
静水頭による応力 (鉛直方向地震時)	—	—	—	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—
運転時質量による長手方向曲げ モーメントにより生じる応力	—	—	—	—	—	$\sigma_{x 2} =$	—	$\sigma_{x 2} =$
鉛直方向地震による長手方向曲げ モーメントにより生じる応力	—	—	—	—	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$
長手方向地震により胴軸断面 全面に生じる引張応力	—	—	—	—	—	$\sigma_{x 4 1 3} =$	—	—
組合せ応力	—		—		$\sigma_{o l} =$		$\sigma_{o c} =$	

(2) 一次応力

(単位：MPa)

43

地震の種類 地震の方向 応力の方向	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度				基準地震動 S _s				
	長手方向		横方向		長手方向		横方向		
	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	
静水頭による応力	—	—	—	—	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	$\sigma_{\phi 1} =$	$\sigma_{x 1} =$	
静水頭による応力 (鉛直方向地震時)	—	—	—	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	
運転時質量による長手方向曲げ モーメントにより生じる応力	—	—	—	—	—	$\sigma_{x 2} =$	—	$\sigma_{x 2} =$	
鉛直方向地震による長手方向曲げ モーメントにより生じる応力	—	—	—	—	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$	
運転時質量による脚反力 により生じる応力	—	—	—	—	$\sigma_{\phi 3} =$	$\sigma_{x 3} =$	$\sigma_{\phi 3} =$	$\sigma_{x 3} =$	
鉛直方向地震による脚反力 により生じる応力	—	—	—	—	$\sigma_{\phi 7 1} =$	$\sigma_{x 7 1} =$	$\sigma_{\phi 7 1} =$	$\sigma_{x 7 1} =$	
水平方向地震 による応力	引張り	—	—	—	—	$\sigma_{\phi 4 1 1} =$	$\sigma_{x 4 1 1} =$	$\sigma_{\phi 5 1} =$	$\sigma_{x 5 1} =$
		—	—			$\sigma_{\phi 4 1 2} =$	$\sigma_{x 4 1 2} =$		
		—	—			$\sigma_{\phi 4 1} =$	$\sigma_{x 4 1} =$		
せん断	—		—		$\tau_{\ell} =$		$\tau_{c} =$		
組合せ応力	—		—		$\sigma_{1 \ell} =$		$\sigma_{1 c} =$		

S2 補 VI-2-1-14(4) ROE

(3) 地震動のみによる一次応力と二次応力の和の変動値

(単位：MPa)

地震の種類 地震の方向 応力の方向		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度				基準地震動 S _s			
		長手方向		横方向		長手方向		横方向	
		周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力	周方向応力	軸方向応力
静水頭による応力 (鉛直方向地震時)		—	—	—	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—
鉛直方向地震による長手方向 曲げモーメントにより生じる応力		—	—	—	—	—	$\sigma_{x 6} =$	—	$\sigma_{x 6} =$
鉛直方向地震による脚反力 により生じる応力		—	—	—	—	$\sigma_{\phi 71} =$ $\sigma_{\phi 72} =$	$\sigma_{x 71} =$ $\sigma_{x 72} =$	$\sigma_{\phi 71} =$ $\sigma_{\phi 72} =$	$\sigma_{x 71} =$ $\sigma_{x 72} =$
水平方向地震 による応力	引張り	—	—	—	—	$\sigma_{\phi 41} =$	$\sigma_{x 41} =$	$\sigma_{\phi 51} =$	$\sigma_{x 51} =$
		—	—	—	—	$\sigma_{\phi 421} =$ $\sigma_{\phi 422} =$	$\sigma_{x 421} =$ $\sigma_{x 422} =$	$\sigma_{\phi 52} =$	$\sigma_{x 52} =$
		—	—	—	—	$\sigma_{\phi 42} =$	$\sigma_{x 42} =$		
	せん断	—		—		$\tau_{\ell} =$		$\tau_c =$	
組合せ応力		—		—		$\sigma_{2\ell} =$		$\sigma_{2c} =$	

2.3.2 脚に生じる応力

(単位：MPa)

地震の種類 地震の方向		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
		長手方向	横方向	長手方向	横方向
運転時質量による応力	圧縮	—	—	$\sigma_{s1} =$	$\sigma_{s1} =$
鉛直方向地震による応力	圧縮	—	—	$\sigma_{s4} =$	$\sigma_{s4} =$
水平方向地震による応力	曲げ	—	—	$\sigma_{s2} =$	$\sigma_{s3} =$
	せん断	—	—	$\tau_{s2} =$	$\tau_{s3} =$
組合せ応力		—	—	$\sigma_{s\ell} =$	$\sigma_{sc} =$

2.3.3 基礎ボルトに生じる応力

(単位：MPa)

地震の種類 地震の方向		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
		長手方向	横方向	長手方向	横方向
鉛直方向地震及び水 平方向地震による応力	引張り	—	—	$\sigma_{b1} =$	$\sigma_{b2} =$
水平方向地震による 応力	せん断	—	—	$\tau_{b1} =$	$\tau_{b2} =$

添付資料-5 平底たて置円筒形容器の耐震性についての
計算書作成の基本方針

目 次

1. 概要	1
2. 一般事項	1
2.1 評価方針	1
2.2 適用規格・基準等	2
2.3 記号の説明	3
2.4 計算精度と数値の丸め方	5
3. 評価部位	6
4. 固有周期	6
4.1 固有周期の計算方法	6
5. 構造強度評価	8
5.1 構造強度評価方法	8
5.2 設計用地震力	8
5.3 計算方法	9
5.4 応力の評価	14
6. 耐震計算書のフォーマット	17

1. 概要

本資料は、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」に基づき、耐震性に関する説明書が求められている平底たて置円筒形容器（耐震重要度分類Sクラス又はS_s機能維持の計算を行うもの）が、十分な耐震性を有していることを確認するための耐震計算方法について記載したものである。

解析の方針及び減衰定数については、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に従うものとする。

ただし、本基本方針が適用されない平底たて置円筒形容器にあつては、個別耐震計算書にその耐震計算方法を含めて記載する。

2. 一般事項

2.1 評価方針

平底たて置円筒形容器の応力評価は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」にて設定した荷重及び荷重の組合せ並びに許容限界に基づき、「3. 評価部位」にて設定する箇所において、「4. 固有周期」で算出した固有周期に基づく設計用地震力による応力等が許容限界内に収まることを、「5. 構造強度評価」にて示す方法にて確認することで実施する。確認結果を「6. 耐震計算書のフォーマット」に示す。

平底たて置円筒形容器の耐震評価フローを図2-1に示す。

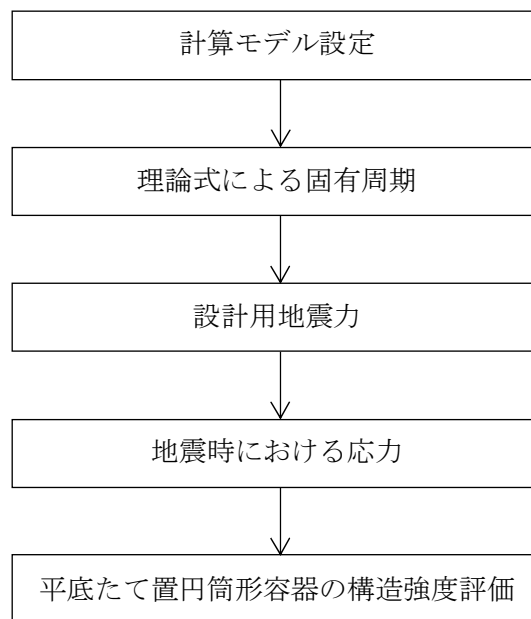


図2-1 平底たて置円筒形容器の耐震評価フロー

2.2 適用規格・基準等

本評価において適用する規格・基準等を以下に示す。

- ・原子力発電所耐震設計技術指針 重要度分類・許容応力編 J E A G 4 6 0 1 ・補-1984
((社) 日本電気協会)
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1987 ((社) 日本電気協会)
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1991 追補版 ((社) 日本電気協会)
- ・発電用原子力設備規格 設計・建設規格 ((社) 日本機械学会, 2005/2007) (以下「設計・建設規格」という。)

2.3 記号の説明

記号	記号の説明	単位
A	胴の軸断面積	mm ²
A _b	基礎ボルトの軸断面積	mm ²
A _e	胴の有効せん断断面積	mm ²
C _c	基礎ボルト計算における係数	—
C _H	水平方向設計震度	—
C _t	基礎ボルト計算における係数	—
C _v	鉛直方向設計震度	—
D _{b i}	ベースプレートの内径	mm
D _{b o}	ベースプレートの外径	mm
D _c	基礎ボルトのピッチ円直径	mm
D _i	胴の内径	mm
d	基礎ボルトの呼び径	mm
E	胴の縦弾性係数	MPa
e	基礎ボルト計算における係数	—
F	設計・建設規格 SSB-3121.1(1)に定める値	MPa
F [*]	設計・建設規格 SSB-3121.3又はSSB-3133に定める値	MPa
F _c	基礎に作用する圧縮力	N
F _t	基礎ボルトに作用する引張力	N
f _b	曲げモーメントに対する許容座屈応力	MPa
f _c	軸圧縮荷重に対する許容座屈応力	MPa
f _{s b}	せん断力のみを受ける基礎ボルトの許容せん断応力	MPa
f _{t o}	引張力のみを受ける基礎ボルトの許容引張応力	MPa
f _{t s}	引張力とせん断力を同時に受ける基礎ボルトの許容引張応力	MPa
G	胴のせん断弾性係数	MPa
g	重力加速度 (=9.80665)	m/s ²
H	水頭	mm
I	胴の断面二次モーメント	mm ⁴
K _H	水平方向ばね定数	N/m
K _V	鉛直方向ばね定数	N/m
k	基礎ボルト計算における中立軸の荷重係数	—
l ₁ , l ₂	基礎ボルト計算における中立軸から荷重作用点までの距離 (図5-2に示す距離)	mm
l _g	基礎から容器重心までの距離	mm
M _s	基礎に作用する転倒モーメント	N・mm
m _o	容器の運転時質量	kg
m _e	容器の空質量	kg
n	基礎ボルトの本数	—
S	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表5に定める値	MPa
S _a	胴の許容応力	MPa

記号	記号の説明	単位
S _u	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表9に定める値	MPa
S _y	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8に定める値	MPa
S _y (R T)	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8に定める材料の40°Cにおける値	MPa
s	基礎ボルトと基礎の縦弾性係数比	—
T _H	水平方向固有周期	s
T _V	鉛直方向固有周期	s
t	胴板の厚さ	mm
t ₁	基礎ボルト面積相当板幅	mm
t ₂	圧縮側基礎相当幅	mm
Z	基礎ボルト計算における係数	—
α	基礎ボルト計算における中立軸を定める角度	rad
η	座屈応力に対する安全率	—
π	円周率	—
ρ'	液体の密度 (=比重×10 ⁻⁶)	kg/mm ³
σ ₀	胴の一次一般膜応力の最大値	MPa
σ _{0c}	胴の組合せ圧縮応力	MPa
σ _{0t}	胴の組合せ引張応力	MPa
σ ₂	地震動のみによる胴の一次応力と二次応力の和の変動値の最大値	MPa
σ _{2φ}	地震動のみによる胴の周方向一次応力と二次応力の和	MPa
σ _{2c}	地震動のみによる胴の一次応力と二次応力の和の変動値(圧縮側)	MPa
σ _{2t}	地震動のみによる胴の一次応力と二次応力の和の変動値(引張側)	MPa
σ _{2xc}	地震動のみによる胴の軸方向一次応力と二次応力の和(圧縮側)	MPa
σ _{2xt}	地震動のみによる胴の軸方向一次応力と二次応力の和(引張側)	MPa
σ _b	基礎ボルトに生じる引張応力	MPa
σ _c	基礎に生じる圧縮応力	MPa
σ _{x1} , σ _{φ1}	静水頭により胴に生じる軸方向及び周方向応力	MPa
σ _{x2}	胴の空質量による軸方向圧縮応力	MPa
σ _{x3}	胴の鉛直方向地震による軸方向応力	MPa
σ _{x4}	水平方向地震により胴に生じる曲げモーメントによる軸方向応力	MPa
σ _{xc}	胴の軸方向応力の和(圧縮側)	MPa
σ _{xt}	胴の軸方向応力の和(引張側)	MPa
σ _φ	胴の周方向応力の和	MPa
σ _{φ2}	静水頭に鉛直方向地震が加わり胴に生じる周方向応力	MPa
τ	地震により胴に生じるせん断応力	MPa
τ _b	基礎ボルトに生じるせん断応力	MPa
φ ₁ (x)	圧縮荷重に対する許容座屈応力の関数	MPa
φ ₂ (x)	曲げモーメントに対する許容座屈応力の関数	MPa

2.4 計算精度と数値の丸め方

精度は、有効数字 6 桁以上を確保する。

表示する数値の丸め方は表 2-1 に示すとおりである。

表 2-1 表示する数値の丸め方

数値の種類		単位	処理桁	処理方法	表示桁
固有周期		s	小数点以下第 4 位	四捨五入	小数点以下第 3 位
震度		—	小数点以下第 3 位	切上げ	小数点以下第 2 位
温度		℃	—	—	整数位
比重		—	小数点以下第 3 位	四捨五入	小数点以下第 2 位
質量		kg	—	—	整数位
長さ	下記以外の長さ	mm	—	—	整数位 ^{*1}
	胴板の厚さ	mm	—	—	小数点以下第 1 位
面積		mm ²	有効数字 5 桁目	四捨五入	有効数字 4 桁 ^{*2}
モーメント		N・mm	有効数字 5 桁目	四捨五入	有効数字 4 桁 ^{*2}
算出応力		MPa	小数点以下第 1 位	切上げ	整数位
許容応力 ^{*3}		MPa	小数点以下第 1 位	切捨て	整数位

注記*1：設計上定める値が小数点以下第 1 位の場合は、小数点以下第 1 位表示とする。

*2：絶対値が 1000 以上のときは、べき数表示とする。

*3：設計・建設規格 付録材料図表に記載された温度の間における引張強さ及び降伏点は、比例法により補間した値の小数点以下第 1 位を切り捨て、整数位までの値とする。

3. 評価部位

平底たて置円筒形容器の耐震評価は「5.1 構造強度評価方法」に示す条件に基づき、耐震評価上厳しくなる胴及び基礎ボルトについて評価を実施する。

4. 固有周期

4.1 固有周期の計算方法

(1) 計算モデル

モデル化に当たっては次の条件で行う。

- a. 容器及び内容物の質量は重心に集中するものとする。
- b. 容器は胴下端のベースプレートを円周上等ピッチの多数の基礎ボルトで基礎に固定されており、固定端とする。
- c. 胴をはりと考え、変形モードは曲げ及びせん断変形を考慮する。
- d. 耐震計算に用いる寸法は、公称値を使用する。

本容器は、前記の条件より図4-1に示すような下端固定の1質点系振動モデルとして考える。

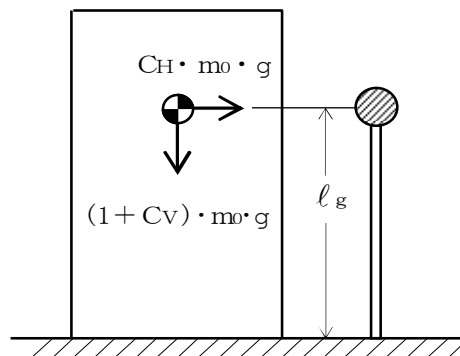


図4-1 固有周期の計算モデル

(2) 水平方向固有周期

曲げ及びせん断変形によるばね定数 K_H は次式で求める。

$$K_H = \frac{1000}{\frac{l_g^3}{3 \cdot E \cdot I} + \frac{l_g}{G \cdot A_e}} \quad \dots \quad (4.1.1)$$

ここで、胴の断面性能は次のように求める。

$$I = \frac{\pi}{8} \cdot (D_i + t)^3 \cdot t \quad \dots \quad (4.1.2)$$

$$A_e = \frac{2}{3} \cdot \pi \cdot (D_i + t) \cdot t \quad \dots \quad (4.1.3)$$

したがって、固有周期 T_H は次式で求める。

$$T_H = 2 \cdot \pi \cdot \sqrt{\frac{m_0}{K_H}} \quad \dots \quad (4.1.4)$$

(3) 鉛直方向固有周期

軸方向変形によるばね定数 K_v は次式で求める。

$$K_v = \frac{1000}{\frac{l_g}{A \cdot E}} \dots\dots\dots (4.1.5)$$

ここで、胴の断面性能は次のように求める。

$$A = \pi \cdot (D_i + t) \cdot t \dots\dots\dots (4.1.6)$$

したがって、固有周期 T_v は次式で求める。

$$T_v = 2 \cdot \pi \cdot \sqrt{\frac{m_e}{K_v}} \dots\dots\dots (4.1.7)$$

5. 構造強度評価

5.1 構造強度評価方法

4.1(1)項a.～d.のほか、次の条件で計算する。概要図を図5-1に示す。

- (1) 地震力は容器に対して水平方向及び鉛直方向から作用するものとする。

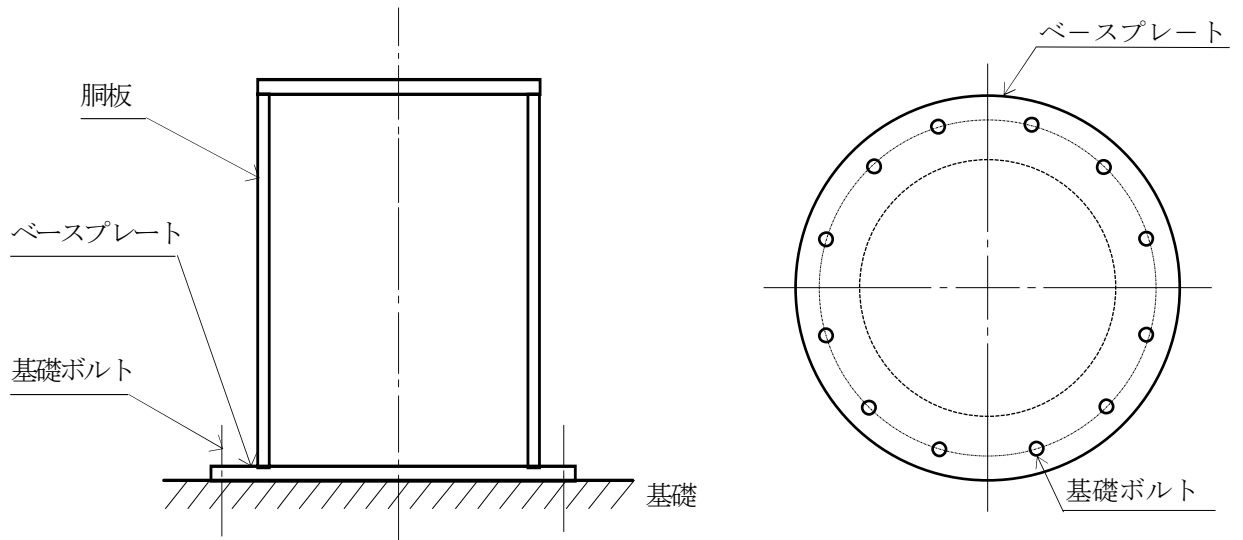


図5-1 概要図

5.2 設計用地震力

「弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度」及び「基準地震動 S_s 」による地震力は、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定する。

5.3 計算方法

5.3.1 応力の計算方法

応力計算における水平方向と鉛直方向の組合せについて、静的地震力を用いる場合は、絶対値和を用いる。動的地震力を用いる場合は、絶対値和又はS R S S法を用いる。

5.3.1.1 胴の計算方法

(1) 静水頭及び鉛直方向地震による応力

$$\sigma_{\phi 1} = \frac{\rho' \cdot g \cdot H \cdot D_i}{2 \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.1)$$

$$\sigma_{\phi 2} = \frac{\rho' \cdot g \cdot H \cdot D_i \cdot C_v}{2 \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.2)$$

$$\sigma_{x 1} = 0 \dots\dots\dots (5.3.1.1.3)$$

(2) 運転時質量及び鉛直方向地震による応力

胴がベースプレートと接合する点には、胴自身の質量による圧縮応力と鉛直方向地震による軸方向応力が生じる。

$$\sigma_{x 2} = \frac{m_e \cdot g}{\pi \cdot (D_i + t) \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.4)$$

$$\sigma_{x 3} = \frac{m_e \cdot g \cdot C_v}{\pi \cdot (D_i + t) \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.5)$$

(3) 水平方向地震による応力

水平方向の地震力により胴はベースプレート接合部で最大となる曲げモーメントを受ける。この曲げモーメントによる軸方向応力と地震力によるせん断応力は次のように求める。

$$\sigma_{x 4} = \frac{4 \cdot C_H \cdot m_0 \cdot g \cdot l_g}{\pi \cdot (D_i + t)^2 \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.6)$$

$$\tau = \frac{2 \cdot C_H \cdot m_0 \cdot g}{\pi \cdot (D_i + t) \cdot t} \dots\dots\dots (5.3.1.1.7)$$

(4) 組合せ応力

(1)～(3)によって求めた胴の応力は以下のように組み合わせる。

a. 一次一般膜応力

(a) 組合せ引張応力

$$\sigma_{\phi} = \sigma_{\phi 1} + \sigma_{\phi 2} \dots\dots\dots (5.3.1.1.8)$$

$$\sigma_{0t} = \frac{1}{2} \cdot \left\{ \sigma_{\phi} + \sigma_{xt} + \sqrt{(\sigma_{\phi} - \sigma_{xt})^2 + 4 \cdot \tau^2} \right\} \dots\dots\dots (5.3.1.1.9)$$

ここで、

【絶対値和】

$$\sigma_{xt} = \sigma_{x 1} - \sigma_{x 2} + \sigma_{x 3} + \sigma_{x 4} \dots\dots\dots (5.3.1.1.10)$$

【S R S S法】

$$\sigma_{xt} = \sigma_{x 1} - \sigma_{x 2} + \sqrt{\sigma_{x 3}^2 + \sigma_{x 4}^2} \dots\dots\dots (5.3.1.1.11)$$

(b) 組合せ圧縮応力

$$\sigma_{\phi} = -\sigma_{\phi 1} - \sigma_{\phi 2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.12)$$

σ_{xc} が正の値（圧縮側）のとき，次の組合せ圧縮応力を求める。

$$\sigma_{oc} = \frac{1}{2} \cdot \left\{ \sigma_{\phi} + \sigma_{xc} + \sqrt{(\sigma_{\phi} - \sigma_{xc})^2 + 4 \cdot \tau^2} \right\} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.13)$$

ここで，

【絶対値和】

$$\sigma_{xc} = -\sigma_{x1} + \sigma_{x2} + \sigma_{x3} + \sigma_{x4} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.14)$$

【SRSS法】

$$\sigma_{xc} = -\sigma_{x1} + \sigma_{x2} + \sqrt{\sigma_{x3}^2 + \sigma_{x4}^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.15)$$

したがって，胴の組合せ一次一般膜応力の最大値は，絶対値和，SRSS法それぞれに対して，

$$\sigma_o = \text{Max} \left\{ \text{組合せ引張応力} (\sigma_{ot}), \text{組合せ圧縮応力} (\sigma_{oc}) \right\} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.16)$$

とする。

一次応力は一次一般膜応力と同じ値になるので省略する。

b. 地震動のみによる一次応力と二次応力の和の変動値

(a) 組合せ引張応力

$$\sigma_{2\phi} = \sigma_{\phi 2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.17)$$

$$\sigma_{2t} = \sigma_{2\phi} + \sigma_{2xt} + \sqrt{(\sigma_{2\phi} - \sigma_{2xt})^2 + 4 \cdot \tau^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.18)$$

ここで，

【絶対値和】

$$\sigma_{2xt} = \sigma_{x3} + \sigma_{x4} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.19)$$

【SRSS法】

$$\sigma_{2xt} = \sqrt{\sigma_{x3}^2 + \sigma_{x4}^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.20)$$

(b) 組合せ圧縮応力

$$\sigma_{2\phi} = -\sigma_{\phi 2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.21)$$

$$\sigma_{2c} = \sigma_{2\phi} + \sigma_{2xc} + \sqrt{(\sigma_{2\phi} - \sigma_{2xc})^2 + 4 \cdot \tau^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.22)$$

ここで，

【絶対値和】

$$\sigma_{2xc} = \sigma_{x3} + \sigma_{x4} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.23)$$

【SRSS法】

$$\sigma_{2xc} = \sqrt{\sigma_{x3}^2 + \sigma_{x4}^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.24)$$

したがって，胴の地震動のみによる一次応力と二次応力の和の変動値の最大値は，絶対値和，SRSS法それぞれに対して，

$$\sigma_2 = \text{Max} \left\{ \text{組合せ引張応力} (\sigma_{2t}), \text{組合せ圧縮応力} (\sigma_{2c}) \right\} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.25)$$

とする。

5.3.1.2 基礎ボルトの計算方法

(1) 引張応力

転倒モーメントが作用した場合に生じる基礎ボルトの引張荷重と基礎部の圧縮荷重については、荷重と変位量の釣合い条件を考慮することにより求める（図5-2参照）。

以下にその手順を示す。

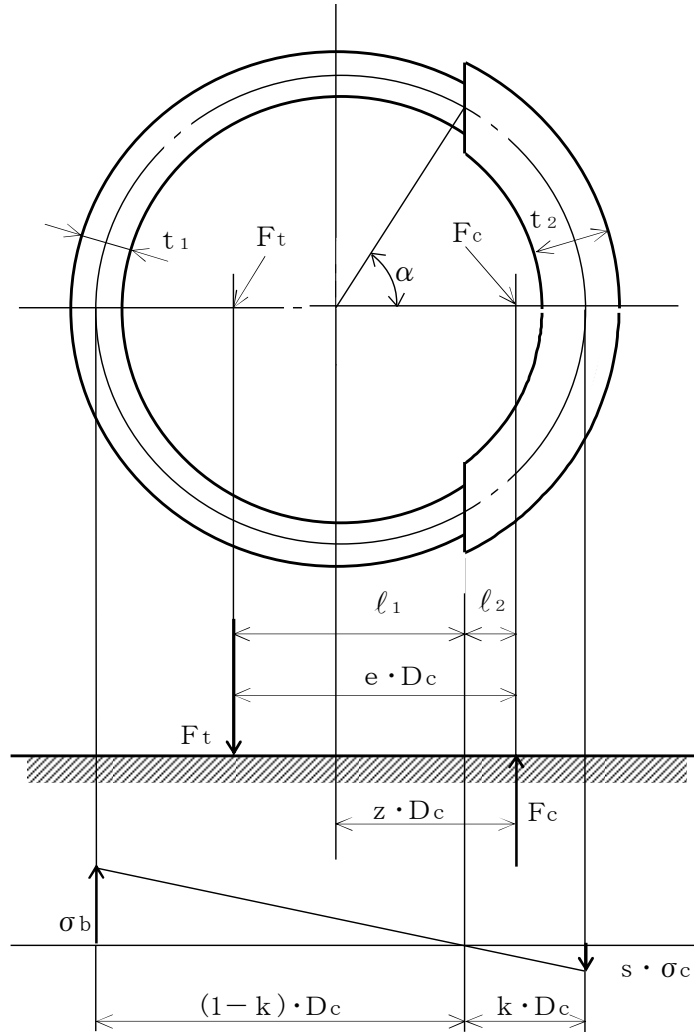


図5-2 基礎の荷重説明図

- a. σ_b 及び σ_c を仮定して基礎ボルトの応力計算における中立軸の荷重係数 k を求める。

$$k = \frac{1}{1 + \frac{\sigma_b}{s \cdot \sigma_c}} \dots\dots\dots (5.3.1.2.1)$$

b. 基礎ボルトの応力計算における中立軸を定める角度 α を求める。

$$\alpha = \cos^{-1}(1 - 2 \cdot k) \quad \dots\dots\dots (5.3.1.2.2)$$

c. 各定数 e , z , C_t 及び C_c を求める。

$$e = \frac{1}{2} \cdot \left\{ \frac{(\pi - \alpha) \cdot \cos^2 \alpha + \frac{1}{2} \cdot (\pi - \alpha) + \frac{3}{2} \cdot \sin \alpha \cdot \cos \alpha}{(\pi - \alpha) \cdot \cos \alpha + \sin \alpha} + \frac{\frac{1}{2} \cdot \alpha - \frac{3}{2} \cdot \sin \alpha \cdot \cos \alpha + \alpha \cdot \cos^2 \alpha}{\sin \alpha - \alpha \cdot \cos \alpha} \right\} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.2.3)$$

$$z = \frac{1}{2} \cdot \left(\cos \alpha + \frac{\frac{1}{2} \cdot \alpha - \frac{3}{2} \cdot \sin \alpha \cdot \cos \alpha + \alpha \cdot \cos^2 \alpha}{\sin \alpha - \alpha \cdot \cos \alpha} \right) \quad \dots\dots\dots (5.3.1.2.4)$$

$$C_t = \frac{2 \cdot \{ (\pi - \alpha) \cdot \cos \alpha + \sin \alpha \}}{1 + \cos \alpha} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.2.5)$$

$$C_c = \frac{2 \cdot (\sin \alpha - \alpha \cdot \cos \alpha)}{1 - \cos \alpha} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.2.6)$$

d. 各定数を用いて F_t 及び F_c を求める。

【絶対値和】

$$F_t = \frac{M_s - (1 - C_v) \cdot m_o \cdot g \cdot z \cdot D_c}{e \cdot D_c} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.2.7)$$

$$F_c = F_t + (1 - C_v) \cdot m_o \cdot g \quad \dots\dots\dots (5.3.1.2.8)$$

【SRS法】

$$F_t = \frac{\sqrt{M_s^2 + (C_v \cdot m_o \cdot g \cdot z \cdot D_c)^2}}{e \cdot D_c} - \frac{z}{e} \cdot m_o \cdot g \quad \dots\dots\dots (5.3.1.2.9)$$

$$F_c = \frac{\sqrt{M_s^2 + (C_v \cdot m_o \cdot g \cdot (z - e) \cdot D_c)^2}}{e \cdot D_c} + \left(1 - \frac{z}{e}\right) \cdot m_o \cdot g \quad \dots\dots\dots (5.3.1.2.10)$$

ここで,

$$M_s = C_H \cdot m_o \cdot g \cdot l_g \quad \dots\dots\dots (5.3.1.2.11)$$

基礎ボルトに引張力が作用しないのは、 α が π に等しくなったときであり、(5.3.1.2.3) 式及び (5.3.1.2.4) 式において α を π に近づけた場合の値 $e = 0.75$ 及び $z = 0.25$ を (5.3.1.2.7) 式又は (5.3.1.2.9) 式に代入し、得られる F_t の値によって引張力の有無を次のように判定する。

$F_t \leq 0$ ならば引張力は作用しない。

$F_t > 0$ ならば引張力が作用しているので次の計算を行う。

e. σ_b 及び σ_c を求める。

$$\sigma_b = \frac{2 \cdot F_t}{t_1 \cdot D_c \cdot C_t} \dots\dots\dots (5.3.1.2.12)$$

$$\sigma_c = \frac{2 \cdot F_c}{(t_2 + s \cdot t_1) \cdot D_c \cdot C_c} \dots\dots\dots (5.3.1.2.13)$$

ここで,

$$t_1 = \frac{n \cdot A_b}{\pi \cdot D_c} \dots\dots\dots (5.3.1.2.14)$$

$$t_2 = \frac{1}{2} \cdot (D_{bo} - D_{bi}) - t_1 \dots\dots\dots (5.3.1.2.15)$$

$$A_b = \frac{\pi}{4} \cdot d^2 \dots\dots\dots (5.3.1.2.16)$$

σ_b 及び σ_c が a 項にて仮定した値と十分に近似していることを確認する。この場合の σ_b 及び σ_c を基礎ボルトと基礎に生じる応力とする。

(2) せん断応力

$$\tau_b = \frac{C_H \cdot m_o \cdot g}{n \cdot A_b} \dots\dots\dots (5.3.1.2.17)$$

5.4 応力の評価

5.4.1 胴の応力評価

- (1) 5.3.1.1項で求めた組合せ応力が胴の最高使用温度における許容応力 S_a 以下であること。ただし、 S_a は下表による。

応力の種類	許容応力 S_a	
	弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度による 荷重との組合せの場合	基準地震動 S_s による 荷重との組合せの場合
一次一般膜応力	設計降伏点 S_y と設計引張強さ S_u の0.6倍のいずれか小さい方の値。ただし、オーステナイト系ステンレス鋼及び高ニッケル合金にあつては許容引張応力 S の1.2倍の方が大きい場合は、この大きい方の値とする。	設計引張強さ S_u の0.6倍
一次応力と二次応力の和	地震動のみによる一次応力と二次応力の和の変動値が設計降伏点 S_y の2倍以下であれば、疲労解析は不要とする。	

一次応力の評価は算出応力が一次一般膜応力と同じ値であるので省略する。

- (2) 圧縮膜応力（圧縮応力と曲げによる圧縮側応力の組合せ）は次式を満足すること。
 (座屈の評価)

$$\frac{\eta \cdot (\sigma_{x2} + \sigma_{x3})}{f_c} + \frac{\eta \cdot \sigma_{x4}}{f_b} \leq 1 \quad \dots\dots\dots (5.4.1.1)$$

ここで、 f_c は次による。

$$\frac{D_{i+2} \cdot t}{2 \cdot t} \leq \frac{1200 \cdot g}{F} \quad \text{のとき}$$

$$f_c = F \quad \dots\dots\dots (5.4.1.2)$$

$$\frac{1200 \cdot g}{F} < \frac{D_{i+2} \cdot t}{2 \cdot t} < \frac{8000 \cdot g}{F} \quad \text{のとき}$$

$$f_c = F \cdot \left[1 - \frac{1}{6800 \cdot g} \cdot \left\{ F - \phi_1 \left(\frac{8000 \cdot g}{F} \right) \right\} \cdot \left(\frac{D_{i+2} \cdot t}{2 \cdot t} - \frac{1200 \cdot g}{F} \right) \right] \quad \dots\dots\dots (5.4.1.3)$$

$$\frac{8000 \cdot g}{F} \leq \frac{D_{i+2} \cdot t}{2 \cdot t} \leq 800 \quad \text{のとき}$$

$$f_c = \phi_1 \left(\frac{D_{i+2} \cdot t}{2 \cdot t} \right) \quad \dots\dots\dots (5.4.1.4)$$

ただし、 $\phi_1(x)$ は次の関数とする。

$$\phi_1(x) = 0.6 \cdot \frac{E}{x} \cdot \left[1 - 0.901 \cdot \left\{ 1 - \exp\left(-\frac{1}{16} \cdot \sqrt{x}\right) \right\} \right] \dots\dots\dots (5.4.1.5)$$

また、 f_b は次による。

$$\frac{D_{i+2} \cdot t}{2 \cdot t} \leq \frac{1200 \cdot g}{F} \quad \text{のとき}$$

$$f_b = F \dots\dots\dots (5.4.1.6)$$

$$\frac{1200 \cdot g}{F} < \frac{D_{i+2} \cdot t}{2 \cdot t} < \frac{9600 \cdot g}{F} \quad \text{のとき}$$

$$f_b = F \cdot \left[1 - \frac{1}{8400 \cdot g} \cdot \left\{ F - \phi_2\left(\frac{9600 \cdot g}{F}\right) \right\} \cdot \left(\frac{D_{i+2} \cdot t}{2 \cdot t} - \frac{1200 \cdot g}{F} \right) \right] \dots\dots\dots (5.4.1.7)$$

$$\frac{9600 \cdot g}{F} \leq \frac{D_{i+2} \cdot t}{2 \cdot t} \leq 800 \quad \text{のとき}$$

$$f_b = \phi_2\left(\frac{D_{i+2} \cdot t}{2 \cdot t}\right) \dots\dots\dots (5.4.1.8)$$

ただし、 $\phi_2(x)$ は次の関数とする。

$$\phi_2(x) = 0.6 \cdot \frac{E}{x} \cdot \left[1 - 0.731 \cdot \left\{ 1 - \exp\left(-\frac{1}{16} \cdot \sqrt{x}\right) \right\} \right] \dots\dots\dots (5.4.1.9)$$

η は安全率で次による。

$$\frac{D_{i+2} \cdot t}{2 \cdot t} \leq \frac{1200 \cdot g}{F} \quad \text{のとき}$$

$$\eta = 1 \dots\dots\dots (5.4.1.10)$$

$$\frac{1200 \cdot g}{F} < \frac{D_{i+2} \cdot t}{2 \cdot t} < \frac{8000 \cdot g}{F} \quad \text{のとき}$$

$$\eta = 1 + \frac{0.5 \cdot F}{6800 \cdot g} \cdot \left(\frac{D_{i+2} \cdot t}{2 \cdot t} - \frac{1200 \cdot g}{F} \right) \dots\dots\dots (5.4.1.11)$$

$$\frac{8000 \cdot g}{F} \leq \frac{D_{i+2} \cdot t}{2 \cdot t} \quad \text{のとき}$$

$$\eta = 1.5 \dots\dots\dots (5.4.1.12)$$

5.4.2 基礎ボルトの応力評価

5.3.1.2 項で求めた基礎ボルトの引張応力 σ_b は次式より求めた許容引張応力 f_{ts} 以下であること。ただし、 f_{to} は下表による。

$$f_{ts} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{to} - 1.6 \cdot \tau_b, f_{to}] \quad \dots\dots\dots (5.4.2.1)$$

せん断応力 τ_b はせん断力のみを受ける基礎ボルトの許容せん断応力 f_{sb} 以下であること。ただし、 f_{sb} は下表による。

	弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度による 荷重との組合せの場合	基準地震動 S_s による 荷重との組合せの場合
許容引張応力 f_{to}	$\frac{F}{2} \cdot 1.5$	$\frac{F^*}{2} \cdot 1.5$
許容せん断応力 f_{sb}	$\frac{F}{1.5 \cdot \sqrt{3}} \cdot 1.5$	$\frac{F^*}{1.5 \cdot \sqrt{3}} \cdot 1.5$

6. 耐震計算書のフォーマット

平底たて置円筒形容器の耐震計算書のフォーマットは、以下のとおりである。

[設計基準対象施設及び重大事故等対処設備の場合]

フォーマットⅠ 設計基準対象施設としての評価結果

フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果

[重大事故等対処設備単独の場合]

フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果*

注記*：重大事故等対処設備単独の場合は、設計基準対象施設及び重大事故等対処設備に示すフォーマットⅡを使用するものとする。ただし、評価結果表に記載の章番を「2.」から「1.」とする。

【フォーマット I 設計基準対象施設としての評価結果】

【〇〇〇容器の耐震性についての計算結果】

1. 設計基準対象施設

1.1 設計条件

機器名称	耐震重要度分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S d 又は静的震度		基準地震動 S s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)	比重
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度				
		〇〇建物 EL *1			C _H = *2	C _V = *2	C _H = *3	C _V = *3				

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（弾性設計用地震動 S d）又は静的震度のいずれか大きい方、若しくはこれを上回る設計震度

*3：設計用震度 I（基準地震動 S s）又はこれを上回る設計震度

1.2 機器要目

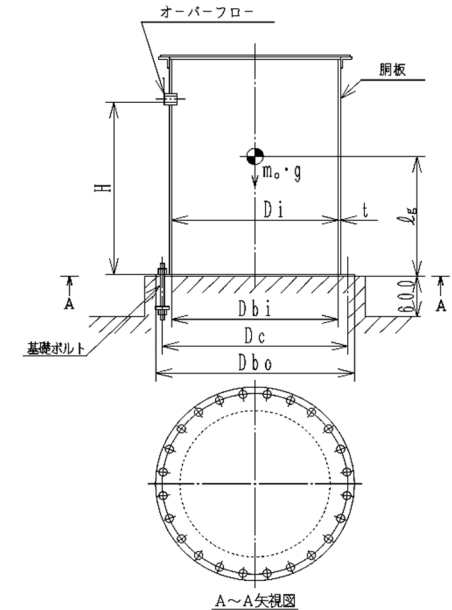
m _o (kg)	m _e (kg)	D _i (mm)	t (mm)	E (MPa)	G (MPa)	ℓ _g (mm)	H (mm)	s	n
				*1	*1				

D _c (mm)	D _{bo} (mm)	D _{bi} (mm)	d (mm)	A _b (mm ²)	M _s (N・mm)	
					弾性設計用地震動 S d 又は静的震度	基準地震動 S s
			(M)			

S _y (胴板) (MPa)	S _u (胴板) (MPa)	S (胴板) (MPa)	S _y (基礎ボルト) (MPa)	S _u (基礎ボルト) (MPa)	F (基礎ボルト) (MPa)	F* (基礎ボルト) (MPa)
*1	*1	*1	*2	*2		

注記*1：最高使用温度で算出

*2：周囲環境温度で算出



1.3 計算数値

1.3.1 胴に生じる応力

(1) 一次一般膜応力

(単位：MPa)

	弾性設計用地震動 S d 又は静的震度			基準地震動 S s			
	周方向応力	軸方向応力	せん断応力	周方向応力	軸方向応力	せん断応力	
静水頭による応力	$\sigma_{\phi 1} =$	—	—	$\sigma_{\phi 1} =$	—	—	
鉛直方向地震による引張応力	$\sigma_{\phi 2} =$	—	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	—	
空質量による圧縮応力	—	$\sigma_{x 2} =$	—	—	$\sigma_{x 2} =$	—	
鉛直方向地震による軸方向応力	—	$\sigma_{x 3} =$	—	—	$\sigma_{x 3} =$	—	
水平方向地震による応力	—	$\sigma_{x 4} =$	$\tau =$	—	$\sigma_{x 4} =$	$\tau =$	
応力の和	引張側	$\sigma_{\phi} =$	$\sigma_{x t} =$	—	$\sigma_{\phi} =$	$\sigma_{x t} =$	
	圧縮側	$\sigma_{\phi} =$	$\sigma_{x c} =$	—	$\sigma_{\phi} =$	$\sigma_{x c} =$	
組合せ応力	引張り	$\sigma_{o t} =$			$\sigma_{o t} =$		
	圧縮	$\sigma_{o c} =$			$\sigma_{o c} =$		

(2) 地震動のみによる一次応力と二次応力の和の変動値

(単位：MPa)

	弾性設計用地震動 S d 又は静的震度			基準地震動 S s			
	周方向応力	軸方向応力	せん断応力	周方向応力	軸方向応力	せん断応力	
鉛直方向地震による応力	$\sigma_{\phi 2} =$	$\sigma_{x 3} =$	—	$\sigma_{\phi 2} =$	$\sigma_{x 3} =$	—	
水平方向地震による応力	—	$\sigma_{x 4} =$	$\tau =$	—	$\sigma_{x 4} =$	$\tau =$	
応力の和	引張側	$\sigma_{2\phi} =$	$\sigma_{2xt} =$	—	$\sigma_{2\phi} =$	$\sigma_{2xt} =$	
	圧縮側	$\sigma_{2\phi} =$	$\sigma_{2xc} =$	—	$\sigma_{2\phi} =$	$\sigma_{2xc} =$	
組合せ応力 (変動値)	引張り	$\sigma_{2t} =$			$\sigma_{2t} =$		
	圧縮	$\sigma_{2c} =$			$\sigma_{2c} =$		

1.3.2 基礎ボルトに生じる応力

(単位：MPa)

	弾性設計用地震動 S d 又は静的震度	基準地震動 S s
引張応力	$\sigma_b =$	$\sigma_b =$
せん断応力	$\tau_b =$	$\tau_b =$

S2 補 VI-2-1-14(5) R0

1.4 結論

1.4.1 固有周期 (単位：s)

方向	固有周期
水平方向	$T_H =$
鉛直方向	$T_V =$

1.4.2 応力

(単位：MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度		基準地震動 S_s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
胴板		一次一般膜	$\sigma_o =$	$S_a =$	$\sigma_o =$	$S_a =$
		一次+二次	$\sigma_2 =$	$S_a =$	$\sigma_2 =$	$S_a =$
		圧縮と曲げの 組合せ (座屈の評価)	$\frac{\eta \cdot (\sigma_{x2} + \sigma_{x3})}{f_c} + \frac{\eta \cdot \sigma_{x4}}{f_b} \leq 1$		$\frac{\eta \cdot (\sigma_{x2} + \sigma_{x3})}{f_c} + \frac{\eta \cdot \sigma_{x4}}{f_b} \leq 1$	
			(無次元)		(無次元)	
基礎ボルト		引張り	$\sigma_b =$	$f_{ts} = *$	$\sigma_b =$	$f_{ts} = *$
		せん断	$\tau_b =$	$f_{sb} =$	$\tau_b =$	$f_{sb} =$

すべて許容応力以下である。

注記*： $f_{ts} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{to} - 1.6 \cdot \tau_b, f_{to}]$

【フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果】

【○○○容器の耐震性についての計算結果】

2. 重大事故等対処設備

2.1 設計条件

機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	周囲環境温度 (℃)	比重
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度				
		○○建物 EL *1			—	—	C _H = *2	C _V = *2				

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（基準地震動 S_s）又はこれを上回る設計震度

2.2 機器要目

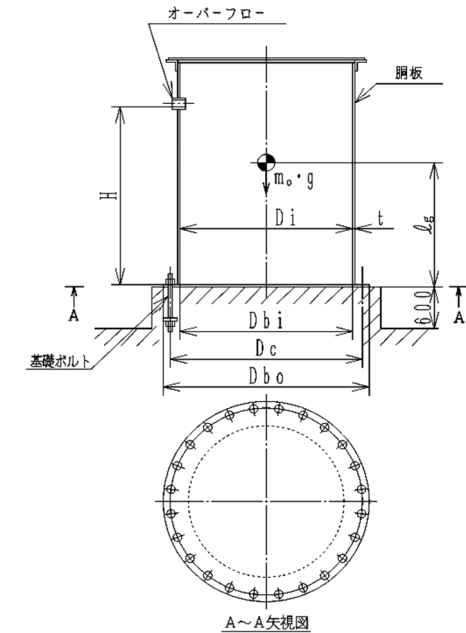
m _o (kg)	m _e (kg)	D _i (mm)	t (mm)	E (MPa)	G (MPa)	ℓ _g (mm)	H (mm)	s	n
				*1	*1				

D _c (mm)	D _{b o} (mm)	D _{b i} (mm)	d (mm)	A _b (mm ²)	M _s (N・mm)	
					弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
			(M)		—	

S _y (胴板) (MPa)	S _u (胴板) (MPa)	S (胴板) (MPa)	S _y (基礎ボルト) (MPa)	S _u (基礎ボルト) (MPa)	F (基礎ボルト) (MPa)	F* (基礎ボルト) (MPa)
*1	*1	—		*2	*2	—

注記*1：最高使用温度で算出

*2：周囲環境温度で算出



2.3 計算数値

2.3.1 胴に生じる応力

(1) 一次一般膜応力

(単位：MPa)

	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度			基準地震動 S _s		
	周方向応力	軸方向応力	せん断応力	周方向応力	軸方向応力	せん断応力
静水頭による応力	—	—	—	$\sigma_{\phi 1} =$	—	—
鉛直方向地震による引張応力	—	—	—	$\sigma_{\phi 2} =$	—	—
空質量による圧縮応力	—	—	—	—	$\sigma_{x 2} =$	—
鉛直方向地震による軸方向応力	—	—	—	—	$\sigma_{x 3} =$	—
水平方向地震による応力	—	—	—	—	$\sigma_{x 4} =$	$\tau =$
応力の和	引張側	—	—	$\sigma_{\phi} =$	$\sigma_{x t} =$	—
	圧縮側	—	—	$\sigma_{\phi} =$	$\sigma_{x c} =$	—
組合せ応力	引張り	—			$\sigma_{o t} =$	
	圧縮	—			$\sigma_{o c} =$	

(2) 地震動のみによる一次応力と二次応力の和の変動値

(単位：MPa)

	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度			基準地震動 S _s		
	周方向応力	軸方向応力	せん断応力	周方向応力	軸方向応力	せん断応力
鉛直方向地震による応力	—	—	—	$\sigma_{\phi 2} =$	$\sigma_{x 3} =$	—
水平方向地震による応力	—	—	—	—	$\sigma_{x 4} =$	$\tau =$
応力の和	引張側	—	—	$\sigma_{2\phi} =$	$\sigma_{2xt} =$	—
	圧縮側	—	—	$\sigma_{2\phi} =$	$\sigma_{2xc} =$	—
組合せ応力 (変動値)	引張り	—			$\sigma_{2t} =$	
	圧縮	—			$\sigma_{2c} =$	

2.3.2 基礎ボルトに生じる応力

(単位：MPa)

	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
引張応力	—	$\sigma_b =$
せん断応力	—	$\tau_b =$

S2 補 VI-2-1-14(5) R0E

2.4 結論

2.4.1 固有周期 (単位：s)

方向	固有周期
水平方向	$T_H =$
鉛直方向	$T_V =$

2.4.2 応力

(単位：MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
胴板		一次一般膜	—	—	$\sigma_0 =$	$S_a =$
		一次+二次	—	—	$\sigma_2 =$	$S_a =$
		圧縮と曲げの 組合せ	—		$\frac{\eta \cdot (\sigma_{x2} + \sigma_{x3})}{f_c} + \frac{\eta \cdot \sigma_{x4}}{f_b} \leq 1$	
		(座屈の評価)	—		(無次元)	
基礎ボルト		引張り	—	—	$\sigma_b =$	$f_{ts} = *$
		せん断	—	—	$\tau_b =$	$f_{sb} =$

すべて許容応力以下である。

注記* : $f_{ts} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{to} - 1.6 \cdot \tau_b, f_{to}]$

添付資料-6 管の耐震性についての計算書作成の基本方針

目 次

1. 概要	1
2. 一般事項	1
2.1 評価方針	1
2.2 適用規格・基準等	2
2.3 記号の説明	3
2.4 計算精度と数値の丸め方	6
3. 評価部位	7
4. 固有周期	7
4.1 固有周期の計算方法	7
5. 構造強度評価	8
5.1 構造強度評価方法	8
5.2 荷重の組合せ及び許容応力	9
5.3 設計用地震力	13
5.4 計算方法	13
5.5 応力の評価	15
6. 機能維持評価	16
6.1 動的機能維持評価方法	16
7. 耐震計算書のフォーマット	16

1. 概要

本資料は、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」に基づき、耐震性に関する説明書が求められている管（耐震重要度分類Sクラス又はS_s機能維持の計算を行うもの）並びに管に取り付く支持構造物及び弁が十分な耐震性を有していることを確認するための耐震計算の方法について記載したものである。

解析の方針及び減衰定数については、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に従うものとする。

2. 一般事項

2.1 評価方針

管及び管に取り付く支持構造物の応力評価は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」にて設定した荷重及び荷重の組合せ並びに許容限界に基づき、「3. 評価部位」にて設定する箇所において、「4. 固有周期」で算出した固有周期に基づく設計用地震力による応力等が許容限界内に収まることを、「5. 構造強度評価」にて示す方法にて確認することで実施する。また、管に取り付く弁の機能維持評価は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」にて設定した動的機能維持の方針に基づき、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下であることを、「6. 機能維持評価」にて示す方法にて確認することで実施する。確認結果を「7. 耐震計算書のフォーマット」に示す。

管並びに管に取り付く支持構造物及び弁の耐震評価フローを図2-1に示す。

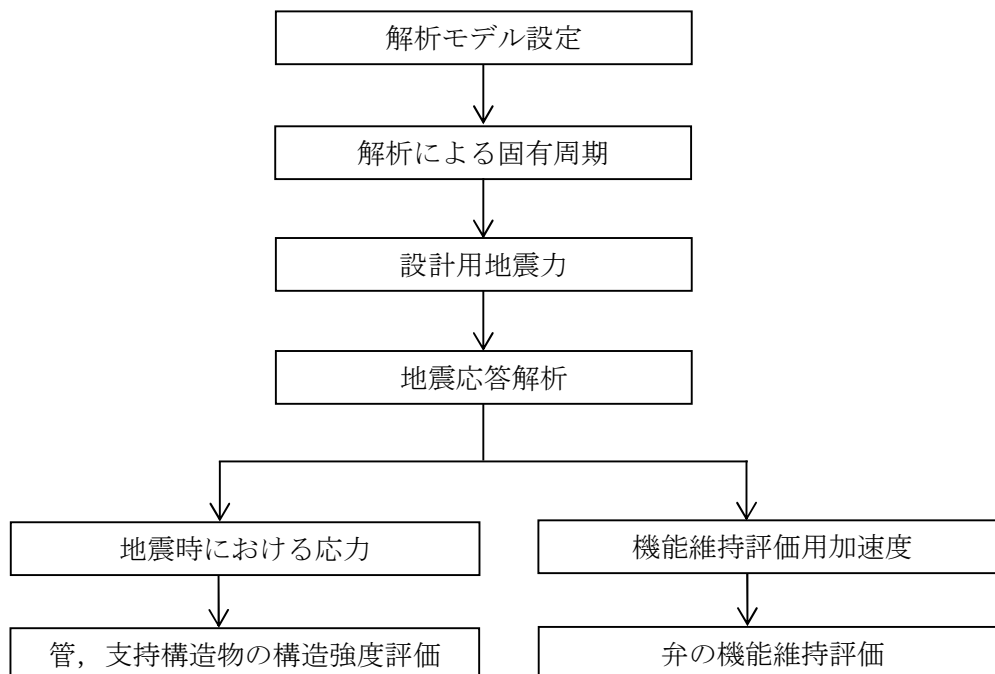


図2-1 管並びに管に取り付く支持構造物及び弁の耐震評価フロー

2.2 適用規格・基準等

本評価において適用する規格・基準等を以下に示す。

- ・原子力発電所耐震設計技術指針 重要度分類・許容応力編 J E A G 4 6 0 1 ・補-1984
（（社）日本電気協会）
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1987 （（社）日本電気協会）
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1991 追補版 （（社）日本電気協会）
- ・発電用原子力設備規格 設計・建設規格（（社）日本機械学会，2005/2007）（以下「設計・建設規格」という。）

2.3 記号の説明

記号	記号の説明	単位
B_1, B_2, B_{2b}, B_{2r}	設計・建設規格 PPB-3810 に規定する応力係数（一次応力の計算に使用するもの）	—
C_2, C_{2b}, C_{2r}	設計・建設規格 PPB-3810 に規定する応力係数（一次＋二次応力の計算に使用するもの）	—
D_0	管の外径	mm
E	設計・建設規格 付録材料図表 Part6 表 1 に規定する縦弾性係数	MPa
i_1	応力係数で設計・建設規格 PPC-3810 に規定する値又は 1.33 のいずれか大きい方の値	—
i_2	応力係数で設計・建設規格 PPC-3810 に規定する値又は 1.0 のいずれか大きい方の値	—
K_2, K_{2b}, K_{2r}	設計・建設規格 PPB-3810 に規定する応力係数（ピーク応力の計算に使用するもの）	—
M_a	管の機械的荷重（自重その他の長期的荷重に限る。）により生じるモーメント	N・mm
M_b	耐震性についての計算：管の機械的荷重（地震を含めた短期的荷重）により生じるモーメント	N・mm
M_b^*	地震による慣性力により生じるモーメントの全振幅	N・mm
M_{bp}	耐震性についての計算：管台又は突合せ溶接式ティーに接続される分岐管の機械的荷重（地震による慣性力を含む。）により生じるモーメント	N・mm
M_{bs}	耐震性についての計算：管台又は突合せ溶接式ティーに接続される分岐管の地震による慣性力と相対変位により生じるモーメントの全振幅	N・mm
M_c	耐震性についての計算：地震による相対変位により生じるモーメントの全振幅	N・mm
M_{ip}	耐震性についての計算：管の機械的荷重（地震による慣性力を含む。）により生じるモーメント	N・mm
M_{is}	耐震性についての計算：管の地震による慣性力と相対変位により生じるモーメントの全振幅	N・mm
M_{rp}	耐震性についての計算：管台又は突合せ溶接式ティーに接続される主管の機械的荷重（地震による慣性力を含む。）により生じるモーメント	N・mm

記号	記号の説明	単位
$M_{r s}$	耐震性についての計算：管台又は突合せ溶接式ティーに接続される主管の地震による慣性力と相対変位により生じるモーメントの全振幅	N・mm
n_i	繰返し荷重 i の実際の繰返し回数	回
N_i	繰返し荷重 i に対し，設計・建設規格 PPB-3534 に従って算出された許容繰返し回数	回
P	耐震性についての計算：地震と組合せるべき運転状態における圧力	MPa
S	最高使用温度における設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表 5 に規定する材料の許容引張応力	MPa
S_ℓ	繰返しピーク応力強さ	MPa
S_m	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表 1 に規定する材料の設計応力強さ	MPa
S_n	一次＋二次応力	MPa
S_p	ピーク応力	MPa
$S_{p r m}$	一次応力	MPa
S_t	ねじりによる応力	MPa
$S_t + S_b$	曲げとねじりによる応力	MPa
S_y	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表 8 に規定する材料の設計降伏点	MPa
S_u	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表 9 に規定する材料の設計引張強さ	MPa
t	管の厚さ	mm
U	運転状態 I，II における疲労累積係数	—
$U_{S d}$	S_d 地震動のみによる疲労累積係数	—
$U_{S s}$	S_s 地震動のみによる疲労累積係数	—
Z, Z_i	管の断面係数	mm ³
Z_b	管台又は突合せ溶接式ティーに接続される分岐管の断面係数	mm ³
Z_r	管台又は突合せ溶接式ティーに接続される主管の断面係数	mm ³
ε_e	S_p を求めたピーク応力強さのサイクルに対して，弾性解析により計算したときのひずみであり，次の計算式により計算した値 $\varepsilon_e = \bar{\sigma}^* / E$ $\bar{\sigma}^*$ ：弾性解析によるミーゼス相当応力	—

記号	記号の説明	単位
ε_{ep}	<p>S_pを求めたピーク応力強さのサイクルに対して，材料の応力－ひずみ関係として，降伏応力を S_m の 1.5 倍の値とした弾完全塑性体とした弾塑性解析により計算したときのひずみであり，次の計算式により計算した値</p> $\varepsilon_{ep} = \bar{\sigma} / E + \bar{\varepsilon}_p$ <p>$\bar{\sigma}$: 弾塑性解析によるミーゼス相当応力 $\bar{\varepsilon}_p$: 弾塑性解析によるミーゼス相当塑性ひずみ</p>	—

2.4 計算精度と数値の丸め方

精度は、有効数字6桁以上を確保する。

表示する数値の丸め方は表2-1に示すとおりである。

表2-1 表示する数値の丸め方

項目	数値の種類	単位	処理桁	処理方法	表示桁
鳥瞰図	寸法	mm	小数点第1位	四捨五入	整数位
	変位量	mm	小数点第2位	四捨五入	小数点第1位
計算条件	圧力	MPa	小数点第3位	四捨五入	小数点第2位 ^{*1}
	温度	℃	小数点第1位	四捨五入	整数位
	外径	mm	小数点第2位	四捨五入	小数点第1位
	厚さ	mm	小数点第2位	四捨五入	小数点第1位
	縦弾性係数	MPa	小数点第1位	四捨五入	整数位
	質量	kg	小数点第1位	四捨五入	整数位
	単位長さ質量	kg/m	小数点第1位	四捨五入	整数位
	ばね定数	N/mm	有効桁数3桁	四捨五入	有効桁数2桁
	回転ばね定数	N・mm/rad	有効桁数3桁	四捨五入	有効桁数2桁
	方向余弦	—	小数点第5位	四捨五入	小数点第4位
	許容応力 ^{*2}	MPa	小数点第1位	切捨て	整数位
	減衰定数	%	—	—	小数点第1位
解析結果 及び評価	固有周期	s	小数点第4位	四捨五入	小数点第3位
	震度	—	小数点第3位	切上げ	小数点第2位
	刺激係数	—	小数点第4位	四捨五入	小数点第3位
	計算応力	MPa	小数点第1位	切上げ	整数位
	許容応力 ^{*2}	MPa	小数点第1位	切捨て	整数位
	計算荷重及び反力	kN	小数点第1位	切上げ	整数位 ^{*3}
	モーメント	kN・m	小数点第1位	切上げ	整数位 ^{*3}
	許容荷重	kN	小数点第1位	切捨て	整数位 ^{*3}
	疲労累積係数	—	小数点第5位	切上げ	小数点第4位
	機能維持評価用 加速度	×9.8m/s ²	小数点第2位	切上げ	小数点第1位
	機能確認済加速度	×9.8m/s ²	—	—	小数点第1位

注記*1：必要に応じて小数点第3位表示とする。また、静水頭は「静水頭」と記載する。

*2：設計・建設規格 付録材料図表に記載された温度の中間における許容応力は、比例法により補間した値の小数点以下第1位を切り捨て、整数位までの値とする。

*3：必要に応じて小数点第1位表示とする。

3. 評価部位

管の耐震評価については、「5.1 構造強度評価方法」に示す条件に基づき一次応力評価，一次＋二次応力評価及び疲労評価を実施する。

管に取り付く支持構造物の耐震評価については、「5.1 構造強度評価方法」に基づき，種類及び型式に区分して評価を実施する。

管に取り付く弁の耐震評価については、「6.1 動的機能維持評価方法」に基づき，動的機能維持要求弁に対する動的機能維持評価を実施し，計算により求めた機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下であることを確認する。

4. 固有周期

4.1 固有周期の計算方法

管の固有周期の計算は三次元多質点系はりモデルによる解析により実施する。配管系の解析モデルの作成に当たっては，以下を考慮する。

- (1) 配管系は三次元多質点系はりモデルとし，曲げ，せん断，ねじり及び軸力に対する剛性を考慮する。
- (2) 弁等の偏心質量がある場合には，その影響を評価できるモデル化を行う。また，弁の剛性を考慮したモデル化を行う。
- (3) 同一モデルに含める範囲は，原則としてアンカ点からアンカ点までとする。
- (4) 分岐管がある場合には，その影響を考慮できるモデル化を行う。ただし，母管に対して分岐管の径が十分に小さく，分岐管の振動が母管に与える影響が小さい場合にはこの限りではない。
- (5) 質点は応力が高くなると考えられる点に設定するとともに，代表的な振動モードを十分に表現できるように，適切な間隔で設ける。
- (6) 配管の支持構造物は，以下の境界条件として扱うことを基本とする。
 - a. レストレイント：拘束方向の剛性を考慮する。
 - b. スナッパ：拘束方向の剛性を考慮する。
 - c. アンカ：6方向の剛性を考慮する。
 - d. ガイド：拘束方向及び回転拘束方向の剛性を考慮する。
- (7) 配管系の質量は，配管自体の質量の他に弁等の集中質量，保温材等の付加質量及び管内流体の質量を考慮するものとする。
- (8) 耐震計算に用いる寸法は，公称値を使用する。

5. 構造強度評価

5.1 構造強度評価方法

- (1) 管の構造強度評価は、「4.1 固有周期の計算方法」に基づき作成した解析モデルによる地震応答解析を行い、得られたモーメント等から「5.4 計算方法」に記載した方法で実施する。配管系の動的解析手法としては、スペクトルモーダル解析法を用いる。評価に当たっては、以下の荷重を考慮する。
 - a. 内圧
 - b. 機械的荷重（自重その他の長期的荷重）
 - c. 機械的荷重（逃がし弁又は安全弁の吹出し反力及びその他の短期的荷重）
 - d. 地震荷重（基準地震動 S_s 、弾性設計用地震動 S_d 及び静的震度による慣性力及び相対変位）

- (2) 管に取り付く支持構造物の構造強度評価は、VI-2-1-12「配管及び支持構造物の耐震計算について」に基づき、以下に示す種類及び型式に区分して実施する。
 - a. オイルスナッパ
 - b. メカニカルスナッパ
 - c. ロッドレストレイント
 - d. スプリングハンガ
 - e. コンスタントハンガ
 - f. リジットハンガ
 - g. レストレイント
 - h. アンカ

上記の支持構造物のうち、a.～f.については、VI-2-1-12「配管及び支持構造物の耐震計算について」において、種別及び型式単位に設定した許容荷重に対する応力評価を実施し、計算応力が許容応力以下であることを確認していることから、荷重確認による評価を実施し、計算荷重が許容荷重以下であることを確認する。なお、支持構造物は強度計算及び耐震性についての計算の基本式が同一であることから、強度計算を耐震性についての計算に含めて実施する。

5.2 荷重の組合せ及び許容応力

耐震性についての計算において考慮する荷重の組合せ及び許容応力を表 5-1～表 5-3 に示す。

表 5-1 荷重の組合せ

施設分類*1	設備	管クラス	荷重の組合せ*2	許容応力状態
設計基準 対象施設	原子炉冷却材 圧力バウンダリ	クラス 1 管	I _L + S _d	Ⅲ _A S
			Ⅱ _L + S _d	
			Ⅳ _L (L) + S _d *3	
			I _L + S _s	Ⅳ _A S
			Ⅱ _L + S _s	
			Ⅳ _L (L) + S _d *4	
	上記を除く設備	クラス 2 管 クラス 3 管 クラス 4 管 火力技術基準適用の管	I _L + S _d	Ⅲ _A S
			Ⅱ _L + S _d	
			Ⅳ _L (L) + S _d *3	
			I _L + S _s	Ⅳ _A S
Ⅱ _L + S _s				
重大事故等 対処設備	原子炉冷却材 圧力バウンダリ	重大事故等クラス 2 管	I _L + S _s	Ⅳ _A S
			Ⅱ _L + S _s	
			Ⅳ _L (L) + S _d	Ⅴ _A S
			Ⅴ _L (L) + S _d	
			Ⅴ _L (LL) + S _s	
	原子炉格納容器 バウンダリ	重大事故等クラス 2 管	I _L + S _s	Ⅳ _A S
			Ⅱ _L + S _s	
			Ⅴ _L (L) + S _d *5, *6	Ⅴ _A S
			Ⅴ _L (LL) + S _s *7	
	上記を除く設備	重大事故等クラス 2 管 重大事故等クラス 3 管 火力技術基準適用の管	I _L + S _s	Ⅳ _A S
			Ⅱ _L + S _s	
			Ⅴ _L + S _s *8	Ⅴ _A S

注記*1：設計基準対象施設と重大事故等対処設備の兼用範囲は設計基準対象施設及び重大事故等対処設備の荷重の組合せを考慮する。

*2： I_L 、 II_L 、 $IV_L(L)$ 、 V_L 、 $V_L(L)$ 、 $V_L(LL)$ はそれぞれ、運転状態I、II、IV(L)、V、V(L)、V(LL)において作用する荷重を示す。なお、(L)は長期的に荷重が作用している状態、(LL)は更に長期的に荷重が作用している状態を示す。

*3：ECCS等（非常用炉心冷却系及びそれに関連する系統）のみにおいて考慮する。

*4：ECCS等（非常用炉心冷却系及びそれに関連する系統）以外において考慮する。

*5：原子炉格納容器バウンダリは、事象の進展によっては、重大事故等時の最大荷重の発生タイミングが遅くなる可能性があることから、保守的に重大事故等時の最大荷重と S_d 地震力の組合せを考慮する。

*6：原子炉格納容器過圧・過温破損（残留熱代替除去系を使用しない場合）における荷重条件を適用する。

*7：原子炉格納容器過圧・過温破損（残留熱代替除去系を使用する場合）における荷重条件を適用する。

*8：原子炉冷却材圧力バウンダリ及び原子炉格納容器バウンダリを除く設備は必ずしも重大事故等時の荷重の時間履歴を詳細に評価しないことから、重大事故等時の最大荷重と S_s 地震力の組合せを考慮する。

表 5-2 許容応力（クラス 1 管及び重大事故等クラス 2 管であってクラス 1 管）

許容応力 状態	一次一般 膜応力	一次応力 (曲げ応力を含む)	一次+二次応力	一次+二次 +ピーク応力
Ⅲ _A S	$1.5 \cdot S_m^{*1}$	$2.25 \cdot S_m$ ただし、ねじりによる応力が $0.55 \cdot S_m$ を超える場合は、曲げとねじりによる応力について $1.8 \cdot S_m$ とする。	$3 \cdot S_m^{*2}$ S _d 又は S _s 地震動のみによる応力振幅について評価する。	S _d 又は S _s 地震動のみによる疲労累積係数と運転状態 I, II における疲労累積係数の和が 1.0 以下であること。
Ⅳ _A S Ⅴ _A S ^{*3}	$2 \cdot S_m^{*1}$	$3 \cdot S_m$ ただし、ねじりによる応力が $0.73 \cdot S_m$ を超える場合は、曲げとねじりによる応力について $2.4 \cdot S_m$ とする。		

注記*1：軸力による全断面平均応力については、許容応力状態Ⅲ_ASの一次一般膜応力の許容値 ($1.5 \cdot S_m$) の 0.8 倍の値とする。

*2： $3 \cdot S_m$ を超える場合は弾塑性解析を行う。この場合、設計・建設規格PVB-3300（同PVB-3313を除く）又はPPB-3536(1), (2), (4)及び(5)の簡易弾塑性解析を用いる。

*3：許容応力状態Ⅴ_ASは許容応力状態Ⅳ_ASの許容限界を使用し、許容応力状態Ⅳ_ASとして評価を実施する。

表 5-3 許容応力（「クラス 1 管及び重大事故等クラス 2 管であってクラス 1 管」を除く管で耐震重要度分類 S クラス及び S_s 機能維持対象）

許容応力状態	一次一般膜応力	一次応力 (曲げ応力を含む)	一次+二次 応力	一次+二次 +ピーク応力
Ⅲ _A S	Min(S_y , $0.6 \cdot S_u$)* ¹ ただし、オーステナイト系ステンレス鋼及び高ニッケル合金については、上記値と $1.2 \cdot S$ との大きい方	S_y ただし、オーステナイト系ステンレス鋼及び高ニッケル合金については、上記値と $1.2 \cdot S$ との大きい方	S_d 又は S_s 地震動のみによる疲労解析を行い疲労累積係数が 1.0 以下であること。ただし、地震動のみによる一次+二次応力の変動値が $2 \cdot S_y$ 以下であれば、疲労解析は不要である。* ²	
Ⅳ _A S Ⅴ _A S* ³	$0.6 \cdot S_u$ * ¹	$0.9 \cdot S_u$		

注記*1：軸力による全断面平均応力については、許容応力状態Ⅲ_ASの一次一般膜応力の許容値の0.8倍の値とする。

*2： $2 \cdot S_y$ を超える場合は弾塑性解析を行う。この場合、設計・建設規格PPB-3536(1)，(2)，(4)及び(5)（ただし、 S_m は $2/3 \cdot S_y$ と読み替える。）の簡易弾塑性解析を用いる。

*3：許容応力状態Ⅴ_ASは許容応力状態Ⅳ_ASの許容限界を使用し、許容応力状態Ⅳ_ASとして評価を実施する。

5.3 設計用地震力

設計用地震力は、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき策定した設計用床応答スペクトルを用いる。また、減衰定数はVI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。なお、設計用床応答スペクトルは配管系の重心レベル上階の設計用床応答スペクトルを適用する。ただし、設計用床応答スペクトルの運用において合理性が示される場合には、その方法を採用できるものとする。

5.4 計算方法

(1) クラス1管及び重大事故等クラス2管であってクラス1管

a. 一次応力

(a) 管台及び突合せ溶接式ティー

$$S_{pr m} = B_1 \cdot P \cdot D_0 / (2 \cdot t) + B_{2b} \cdot M_{bp} / Z_b + B_{2r} \cdot M_{rp} / Z_r$$

(b) (a)以外の管

$$S_{pr m} = B_1 \cdot P \cdot D_0 / (2 \cdot t) + B_2 \cdot M_{ip} / Z_i$$

b. 一次+二次応力

(a) 管台及び突合せ溶接式ティー

$$S_n = C_{2b} \cdot M_{bs} / Z_b + C_{2r} \cdot M_{rs} / Z_r$$

(b) (a)以外の管

$$S_n = C_2 \cdot M_{is} / Z_i$$

c. ピーク応力

(a) 管台及び突合せ溶接式ティー

$$S_p = K_{2b} \cdot C_{2b} \cdot M_{bs} / Z_b + K_{2r} \cdot C_{2r} \cdot M_{rs} / Z_r$$

(b) (a)以外の管

$$S_p = K_2 \cdot C_2 \cdot M_{is} / Z_i$$

d. 繰返しピーク応力強さ

$$S_\theta = K_e \cdot S_p / 2$$

K_e : 次の計算式により計算した値

イ. $S_n < 3 \cdot S_m$ の場合

$$K_e = 1$$

ロ. $S_n \geq 3 \cdot S_m$ 場合

(イ) $K < B_0$ の場合

i. $S_n / (3 \cdot S_m) < [(q + A_0 / K - 1)$

$-\sqrt{\{(q + A_0 / K - 1)^2 - 4 \cdot A_0 \cdot (q - 1)\}}] / (2 \cdot A_0)$ の場合

$$K_e = K_{e^*} = 1 + A_0 \cdot \{S_n / (3 \cdot S_m) - 1 / K\}$$

ii. $S_n / (3 \cdot S_m) \geq [(q + A_0 / K - 1)$

$-\sqrt{\{(q + A_0 / K - 1)^2 - 4 \cdot A_0 \cdot (q - 1)\}}] / (2 \cdot A_0)$ の場合

$$K_e = K_{e'} = 1 + (q - 1) \cdot (1 - 3 \cdot S_m / S_n)$$

(ロ) $K \geq B_0$ の場合

i. $S_n / (3 \cdot S_m) < [(q - 1) - \sqrt{\{(A_0 \cdot (1 - 1 / K) \cdot (q - 1)\}}] / a$ の場合

$$K_e = K_{e^{**}} = a \cdot S_n / (3 \cdot S_m) + A_0 \cdot (1 - 1 / K) + 1 - a$$

ii. $S_n / (3 \cdot S_m) \geq [(q - 1) - \sqrt{\{(A_0 \cdot (1 - 1 / K) \cdot (q - 1)\}}] / a$ の場合

$$K_e = K_{e'} = 1 + (q - 1) \cdot (1 - 3 \cdot S_m / S_n)$$

ここで,

$$K = S_p / S_n,$$

$$a = A_0 \cdot (1 - 1 / K) + (q - 1) - 2 \cdot \sqrt{\{(A_0 \cdot (1 - 1 / K) \cdot (q - 1)\}}$$

q, A_0, B_0 : 下表に掲げる材料の種類に応じ, それぞれの同表に掲げる値

材料の種類	q	A_0	B_0
低合金鋼	3.1	1.0	1.25
マルテンサイト系ステンレス鋼	3.1	1.0	1.25
炭素鋼	3.1	0.66	2.59
オーステナイト系ステンレス鋼	3.1	0.7	2.15
高ニッケル合金	3.1	0.7	2.15

$S_n \geq 3 \cdot S_m$ の場合, 5.4(1)d. ロ. に関わらず, 次の計算式により計算した値を用いてもよい。

$$K_e = \varepsilon_{ep} / \varepsilon_e$$

e. 疲労累積係数

$$\Sigma (n_i / N_i) \leq 1.0$$

(2) (1)を除く管

a. 一次応力

$$S_{pr m} = P \cdot D_o / (4 \cdot t) + 0.75 \cdot i_1 \cdot (M_a + M_b) / Z$$

b. 一次+二次応力

$$S_n = (0.75 \cdot i_1 \cdot M_b^* + i_2 \cdot M_c) / Z$$

c. ピーク応力

(1)c. に同じ。

d. 繰返しピーク応力強さ

(1)d. に同じ。

ただし、 K_e の計算においては、 S_m を $2/3 \cdot S_y$ に読み替えるものとする。

e. 疲労累積係数

(1)e. に同じ。

5.5 応力の評価

5.4 項で求めた応力及び疲労累積係数が 5.2 項に示す許容値以下であることを確認する。

6. 機能維持評価

6.1 動的機能維持評価方法

配管系の地震応答解析から得られた弁の機能維持評価用加速度と機能確認済加速度との比較により、地震時又は地震後の動的機能維持を評価する。

機能確認済加速度は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に基づき設定する。

なお、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し、機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。

7. 耐震計算書のフォーマット

管の耐震計算書のフォーマットは、以下のとおりである。

(1) 概要

本資料及びVI-2-1-12「配管及び支持構造物の耐震計算について」に基づき、管、支持構造物及び弁の耐震性についての計算を実施した結果を示す旨を記載する。

なお、支持構造物は強度計算及び耐震性についての計算の基本式が同一であることから、強度計算を耐震性についての計算に含めて実施している旨を記載する。

また、評価結果の記載方法は以下とする旨を記載する。

a. 管

工事計画記載範囲の管のうち、各応力区分における最大応力評価点の評価結果を解析モデル単位に記載する。また、各応力区分における最大応力評価点の許容値／発生値（以下「裕度」という。）が最小となる解析モデルを代表として鳥瞰図、計算条件及び評価結果を記載する。各応力区分における代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果についても記載する。

b. 支持構造物

工事計画記載範囲の支持点のうち、種類及び型式単位に反力が最大となる支持点の評価結果を代表として記載する。





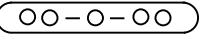
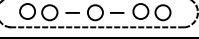

c. 弁

評価結果を記載する対象弁は、工認主要弁かつ動的機能維持要求弁とし、機能確認済加速度の機能維持評価用加速度に対する裕度が最小となる動的機能維持要求弁を代表として、弁型式別に評価結果を記載する。

(2) 概略系統図及び鳥瞰図

a. 概略系統図






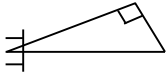
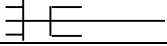

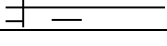
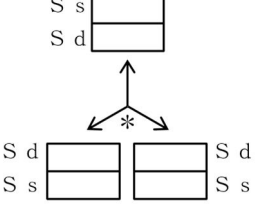

工事計画記載範囲の系統の概略を示した図面を添付する。概略系統図の記号凡例を下表に示す。

記号	内容
 (太線)	工事計画記載範囲の管のうち、当該計算書記載範囲の管（重大事故等対処設備）
 (太破線)	工事計画記載範囲の管のうち、当該計算書記載範囲の管（設計基準対象施設）
 (細線)	工事計画記載範囲の管のうち、当該系統の管であって他計算書記載範囲の管
 (破線)	工事計画記載範囲外の管、又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって、系統の概略を示すために表記する管
	鳥瞰図番号（代表モデル）
	鳥瞰図番号（代表モデル以外）
	アンカ

b. 鳥瞰図

評価結果記載の解析モデルの解析モデル図を添付する。

なお、設計基準対象施設と重大事故等対処設備の兼用範囲を含む解析モデルについては、設計基準対象施設に該当する範囲を示した鳥瞰図と重大事故等対処設備に該当する範囲を示した鳥瞰図に分けて添付する。鳥瞰図の記号凡例を下表に示す。

記号	内容
 (太線)	工事計画記載範囲の管のうち、当該計算書記載範囲の管 (重大事故等対処設備の場合は鳥瞰図番号の末尾を「(SA)」, 設計基準対象施設の場合は鳥瞰図番号の末尾を「(DB)」とする。)
 (細線)	工事計画記載範囲の管のうち、当該系統の管であって他計算書記載範囲の管
 (破線)	工事計画記載範囲外の管, 又は工事計画記載範囲の管のうち他系統の管であって、解析モデルの概略を示すために表記する管
	質点
	アンカ
	レストレイント (本図は斜め拘束の場合の全体座標系における拘束方向成分を示す。スナップについても同様とする。)
	スナップ
	ハンガ
	リジットハンガ
	拘束点の地震による相対変位量(mm) (*は評価点番号, 矢印は拘束方向を示す。また,  内に変位量を記載する。なお, S s 機能維持の範囲は S s 地震動による変位量のみを記載する。)

(3) 計算条件

本項目記載内容及び記載フォーマットを FORMAT 耐-1～耐-7 に示す。

(4) 解析結果及び評価

本項目記載内容及び記載フォーマットを FORMAT 耐-8～耐-13 に示す。

・FORMAT 耐-1：

荷重の組合せ及び許容応力

本計算書において考慮する荷重の組合せ及び許容応力状態を下表に示す。

施設 名称	設備 名称	系統 名称	施設 分類* ¹	設備 分類* ²	機器等 の区分	耐震 重要度 分類	荷重の 組合せ* ³ , * ⁴	許容応力 状態* ⁵

注記*1：DBは設計基準対象施設，SAは重大事故等対処設備を示す。

*2：「常設耐震／防止」は常設耐震重要重大事故防止設備，「常設／防止」は常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備，「常設／防止（DB拡張）」は常設重大事故防止設備（設計基準拡張），「常設／緩和」は常設重大事故緩和設備を示す。

*3：運転状態の添字Lは荷重，(L)は荷重が長期間作用している状態，(LL)は(L)より更に長期的に荷重が作用している状態を示す。

*4：許容応力状態ごとに最も厳しい条件又は包絡条件を用いて評価を実施する。

*5：許容応力状態V_ASは許容応力状態IV_ASの許容限界を使用し，許容応力状態IV_ASとして評価を実施する。

・FORMAT 耐-2：

設計条件

鳥瞰図番号ごとに設計条件に対応した管番号で区分し，管番号と対応する評価点番号を示す。

鳥瞰図番号

管 番号	対応する 評価点	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	耐震 重要度 分類	縦弾性 係数 (MPa)

・FORMAT 耐-3：

配管の付加質量，フランジ部の質量，弁部の質量

鳥瞰図番号

質量	対応する評価点

注：配管の付加質量は，保温等の配管に付加される重量を示す。

・FORMAT 耐-4 :

弁部の寸法

鳥瞰図番号

評価点	外径(mm)	厚さ(mm)	長さ(mm)

・FORMAT 耐-5 :

支持点及び貫通部ばね定数

鳥瞰図番号

支持点番号	各軸方向ばね定数(N/mm) *			各軸回り回転ばね定数(N・mm/rad) *		
	X	Y	Z	X	Y	Z
** **						

注：支持点番号における**印は斜め拘束を示す。また、下段は方向余弦を示す。

注記*：拘束のない方向については「-」と記載する。

・FORMAT 耐-6 :

材料及び許容応力

使用する材料の最高使用温度での許容応力を下表に示す。

材料	最高使用温度 (°C)	許容応力(MPa) *			
		S m	S y	S u	S

注記*：評価に使用しない許容応力については「-」と記載する。

・FORMAT 耐-7 :

設計用地震力

本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答スペクトルを下表に示す。

なお、設計用床応答スペクトルは、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき策定したものをを用いる。また、減衰定数はVI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。

鳥瞰図	建物・構築物	標高	減衰定数(%)

・FORMAT 耐-8 :

固有周期及び設計震度

鳥瞰図番号

適用する地震動等		弾性設計用地震動 S d 及び静的震度			基準地震動 S s		
モード*1	固有周期 (s)	応答水平震度*2		応答鉛直 震度*2	応答水平震度*3		応答鉛直 震度*3
		X方向	Z方向	Y方向	X方向	Z方向	Y方向
1次							
2次							
...							
8次							
n次							
動的震度*4							
静的震度*5					—	—	—

注：本表はSクラスの場合を示す。なお、S s機能維持評価の場合は、「弾性設計用地震動 S d 及び静的震度」欄及び「静的震度」欄を削除したものを使用する。

注記*1：固有周期が 0.050 s 以上のモードを示す。0.020 s 以上 0.050 s 未満のモードに対しては、最大応答加速度又はこれを上回る震度を適用する。なお、1次固有周期が 0.050s 未満である場合は、1次モードのみを示す。

*2：各モードの固有周期に対し、設計用床応答スペクトル I（弾性設計用地震動 S d）又はこれを上回る設計用床応答スペクトルより得られる震度

*3：各モードの固有周期に対し、設計用床応答スペクトル I（基準地震動 S s）又はこれを上回る設計用床応答スペクトルより得られる震度

*4：設計用震度 I（弾性設計用地震動 S d）及び設計用震度 I（基準地震動 S s）又はこれを上回る設計震度

*5： $3.6 \cdot C_I$ 及び $1.2 \cdot C_v$ より定めた震度

・FORMAT 耐震-9 :

各モードに対応する刺激係数

鳥瞰図番号

モード	固有周期 (s)	刺激係数*		
		X方向	Y方向	Z方向
1次				
2次				
3次				
...				
8次				
n次				

注：3次モードまでを代表として、各質点の変位の相対量・方向を示した振動モード図を添付する。

注記*：刺激係数は、モード質量を正規化し、固有ベクトルと質量マトリックスの積から算出した値を示す。

・FORMAT 耐-10-1 :

管の応力評価結果

下表に示すとおり最大応力及び疲労累積係数はそれぞれの許容値以下である。

クラス1管（又は重大事故等クラス2管であってクラス1管）

許容応力 状態	最大応力区分(許容応力)		鳥瞰図 番号	最大 応力 評価点	配管 要素 名称	応力評価		疲労評価
						計算応力 (MPa)	許容応力 (MPa)	疲労累積 係数
ⅢA S	一次 応力	膜+曲げ(2.25・S m)				S p r m	2.25・S m	—
		ねじり(0.55・S m)				S t	0.55・S m	—
		ねじり+曲げ(1.8・S m)				S t + S b * ²	1.8・S m	—
	一次+二次応力(3・S m)					S n	3・S m	U+U S d * ³
	疲労累積係数					—	—	U+U S d
ⅣA S (V A S)* ¹	一次 応力	膜+曲げ(3・S m)				S p r m	3・S m	—
		ねじり(0.73・S m)				S t	0.73・S m	—
		ねじり+曲げ(2.4・S m)				S t + S b * ²	2.4・S m	—
	一次+二次応力(3・S m)					S n	3・S m	U+U S s * ³
	疲労累積係数					—	—	U+U S s

注記*1：重大事故等クラス2管であってクラス1管の場合は、許容応力状態ⅣA Sと許容応力状態V A Sを包絡した結果を記載する。

*2：ねじり応力が許容応力以下の場合は、「—」と記載する。

*3：一次+二次応力が3・S m以下の場合は、「—」と記載する。

・FORMAT 耐-10-2 :

管の応力評価結果

下表に示すとおり最大応力及び疲労累積係数はそれぞれの許容値以下である。

クラス2以下の管（又は重大事故等クラス2管であってクラス2以下の管）

許容応力 状態	最大応力区分(許容応力)	鳥瞰図 番号	最大応力 評価点	応力評価		疲労評価
				計算応力 (MPa)	許容応力 (MPa)	疲労累積 係数
Ⅲ _A S	一次応力(S_y^{*2})			S p r m	S_y^{*2}	—
	一次+二次応力($2 \cdot S_y$)			S n	$2 \cdot S_y$	U S d ^{*3}
Ⅳ _A S (Ⅴ _A S) ^{*1}	一次応力($0.9 \cdot S_u$)			S p r m	$0.9 \cdot S_u$	—
	一次+二次応力($2 \cdot S_y$)			S n	$2 \cdot S_y$	U S s ^{*3}

注：本表はSクラスの場合を示す。S_s機能維持評価の場合は、「許容応力状態Ⅲ_AS」欄を削除したものを使用する。

注記*1：重大事故等クラス2管であってクラス2以下の管の場合は、許容応力状態Ⅳ_ASと許容応力状態Ⅴ_ASを包絡した結果を記載する。

*2：オーステナイト系ステンレス鋼及び高ニッケル合金については、 S_y と $1.2 \cdot S$ のうち大きい方とする。

*3：一次+二次応力が $2 \cdot S_y$ 以下の場合は、「—」と記載する。

・FORMAT 耐-10-3 :

管の応力評価結果

下表に示すとおり最大応力及び疲労累積係数はそれぞれの許容値以下である。

重大事故等クラス2管

許容応力 状態	最大応力区分(許容応力)	鳥瞰図 番号	最大応力 評価点	応力評価		疲労評価
				計算応力 (MPa)	許容応力 (MPa)	疲労累積 係数
Ⅴ _A S	一次応力($0.9 \cdot S_u$)			S p r m	$0.9 \cdot S_u$	—
	一次+二次応力($2 \cdot S_y$)			S n	$2 \cdot S_y$	U S s [*]

注：許容応力状態Ⅳ_ASの評価が許容応力状態Ⅴ_ASの評価に包絡されるため、許容応力状態Ⅳ_ASの評価記載を省略する。

注記*：一次+二次応力が $2 \cdot S_y$ 以下の場合は、「—」と記載する。

・FORMAT 耐-11 :

支持構造物評価結果

下表に示すとおり計算応力及び計算荷重はそれぞれの許容値以下である。

支持構造物評価結果（荷重評価）

支持 構造物 番号	種類	型式	材質	温度 (°C)	評価結果	
					計算荷重 (kN)	許容荷重 (kN)
	メカニカルスナッパ		VI-2-1-12「配管及び支持構造物の耐震計算について」参照			
	オイルスナッパ					
	ロッドレストレイント					
	スプリングハンガ					
	コンスタントハンガ					
	リジットハンガ					

支持構造物評価結果（応力評価）

支持 構造物 番号	種類	型式	材質	温度 (°C)	支持点荷重						評価結果		
					反力(kN)			モーメント(kN・m)			応力 分類	計算 応力 (MPa)	許容 応力 (MPa)
					F _x	F _y	F _z	M _x	M _y	M _z			
	レストレイント												
	アンカ												

注：評価対象がない場合はすべての欄に「—」と記載する。

評価結果のうち、裕度が最小の結果を記載する。

• FORMAT 耐-12 :

弁の動的機能維持の評価結果

下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下である。

弁 番号	形式	要求 機能*1	機能維持評価用 加速度 ($\times 9.8\text{m/s}^2$)		機能確認済 加速度 ($\times 9.8\text{m/s}^2$)		動作機能確認済 加速度*2 ($\times 9.8\text{m/s}^2$)		構造強度評価結果*2 (MPa)			
			水平	鉛直	水平	鉛直	水平	鉛直	評価 部位	応力 分類	計算 応力	許容 応力

注：評価対象がない場合はすべての欄に「—」と記載する。

構造強度評価については裕度が最小となる部位の評価結果を記載する。

注記*1：弁に要求される機能に応じて以下を記載する。

α (S s)：基準地震動 S s，弾性設計用地震動 S d 時に動的機能が要求されるもの

α (S d)：弾性設計用地震動 S d 時に動的機能が要求されるもの

β (S s)：基準地震動 S s，弾性設計用地震動 S d 後に動的機能が要求されるもの

β (S d)：弾性設計用地震動 S d 後に動的機能が要求されるもの

*2：機能維持評価用加速度が機能確認済加速度を超過する場合は詳細評価を実施し，機能維持評価用加速度が動作機能確認済加速度以下かつ計算応力が許容応力以下であることを確認する。なお，機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下の場合は「—」と記載する。

・FORMAT 耐-13-1 :

代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果

代表モデルは各モデルの最大応力点の応力と裕度を算出し、応力分類ごとに裕度最小のモデルを選定して鳥瞰図、計算条件及び評価結果を記載している。下表に、代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果を示す。

クラス1管（又は重大事故等クラス2管であってクラス1管）

No	鳥瞰図 番号	許容応力状態IVAS（及びVAS）*												
		一次応力評価					一次+二次応力評価					疲労評価		
		評 価 点	計 算 応 力 (MPa)	許 容 応 力 (MPa)	裕 度	代 表	評 価 点	計 算 応 力 (MPa)	許 容 応 力 (MPa)	裕 度	代 表	評 価 点	疲 勞 累 積 係 数	代 表

注：本表は許容応力状態IVASの場合を示す。許容応力状態IIIASについても同様の表を作成する。

注記*：重大事故等クラス2管であってクラス1管の場合は、許容応力状態IVASと許容応力状態VASを包絡した結果を記載する。

・FORMAT 耐-13-2 :

代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果

代表モデルは各モデルの最大応力点の応力と裕度を算出し、応力分類ごとに裕度最小のモデルを選定して鳥瞰図、計算条件及び評価結果を記載している。下表に、代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果を示す。

クラス2以下の管（又は重大事故等クラス2管であってクラス2以下の管）

No	鳥瞰図 番号	許容応力状態IVAS（及びVAS）*1										
		一次応力評価					一次+二次応力評価					
		評 価 点	計 算 応 力 (MPa)	許 容 応 力 (MPa)	裕 度	代 表	評 価 点	計 算 応 力 (MPa)	許 容 応 力 (MPa)	裕 度	疲 勞 累 積 係 数	代 表*2

注：本表は許容応力状態IVASの場合を示す。許容応力状態IIIASについても同様の表を作成する。

注記*1：重大事故等クラス2管であってクラス2以下の管の場合は、許容応力状態IVASと許容応力状態VASを包絡した結果を記載する。

*2：計算応力が許容応力を超過するモデルがある場合は、疲労累積係数が最大のものを代表とする。

• FORMAT 耐-13-3 :

代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果

代表モデルは各モデルの最大応力点の応力と裕度を算出し、応力分類ごとに裕度最小のモデルを選定して鳥瞰図、計算条件及び評価結果を記載している。下表に、代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果を示す。

重大事故等クラス2管

No	鳥瞰図 番号	許容応力状態V A S										
		一次応力評価					一次+二次応力評価					
		評 価 点	計 算 応 力 (MPa)	許 容 応 力 (MPa)	裕 度	代 表	評 価 点	計 算 応 力 (MPa)	許 容 応 力 (MPa)	裕 度	疲 勞 累 積 係 数	代 表*

注：許容応力状態IV A Sの評価が許容応力状態V A Sの評価に包絡されるため、許容応力状態IV A Sの評価記載を省略する。

注記*：計算応力が許容応力を超過するモデルがある場合は、疲労累積係数が最大のものを代表とする。

添付資料-7 計装ラックの耐震性についての計算書作成の基本方針

目 次

1. 概要	1
2. 一般事項	1
2.1 評価方針	1
2.2 適用規格・基準等	2
2.3 記号の説明	3
2.4 計算精度と数値の丸め方	4
3. 評価部位	5
4. 固有周期	5
5. 構造強度評価	5
5.1 構造強度評価方法	5
5.2 設計用地震力	6
5.3 計算方法	7
5.4 応力の評価	12
6. 機能維持評価	13
6.1 電氣的機能維持評価方法	13
7. 耐震計算書のフォーマット	13
7.1 直立形計装ラックの耐震計算書のフォーマット	13
7.2 壁掛形計装ラックの耐震計算書のフォーマット	13

1. 概要

本資料は、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」に基づき、耐震性に関する説明書が求められている計装ラック（耐震重要度分類Sクラス又はS s 機能維持の計算を行うもの）が、十分な耐震性を有していることを確認するための耐震計算の方法について記載したものである。

解析の方針及び減衰定数については、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に従うものとする。

ただし、本基本方針が適用できない計装ラックにあつては、個別耐震計算書にその耐震計算方法を含めて記載する。

2. 一般事項

2.1 評価方針

計装ラックの応力評価は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」にて設定した荷重及び荷重の組合せ並びに許容限界に基づき、「3. 評価部位」にて設定する箇所において、「4. 固有周期」で算出した固有周期に基づく設計用地震力による応力等が許容限界内に収まることを、「5. 構造強度評価」にて示す方法にて確認することで実施する。また、計装ラックの機能維持評価は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」にて設定した電氣的機能維持の方針に基づき、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下であることを、「6. 機能維持評価」にて示す方法にて確認することで実施する。確認結果を「7. 耐震計算書のフォーマット」に示す。

計装ラックの耐震評価フローを図2-1に示す。

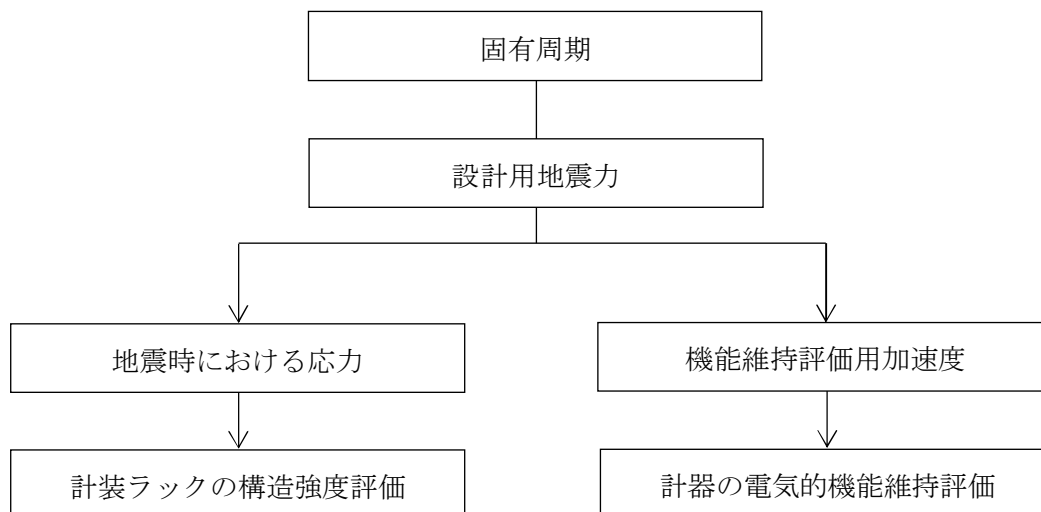


図2-1 計装ラックの耐震評価フロー

2.2 適用規格・基準等

本評価において適用する規格・基準等を以下に示す。

- ・原子力発電所耐震設計技術指針 重要度分類・許容応力編 J E A G 4 6 0 1 ・補-1984
((社) 日本電気協会)
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1987 ((社) 日本電気協会)
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1991 追補版 ((社) 日本電気協会)
- ・発電用原子力設備規格 設計・建設規格 ((社) 日本機械学会, 2005/2007) (以下「設計・建設規格」という。)

2.3 記号の説明

記号	記号の説明	単位
A_{bi}	ボルトの軸断面積* ¹	mm ²
C_H	水平方向設計震度	—
C_V	鉛直方向設計震度	—
d_i	ボルトの呼び径* ¹	mm
F_i	設計・建設規格 SSB-3121.1(1)に定める値* ¹	MPa
F_i^*	設計・建設規格 SSB-3133に定める値* ¹	MPa
F_{bi}	ボルトに作用する引張力 (1本当たり) * ¹	N
F_{b1i}	鉛直方向地震及び壁掛取付面に対し左右方向の水平方向地震によりボルトに作用する引張力 (1本当たり) (壁掛形) * ¹	N
F_{b2i}	鉛直方向地震及び壁掛取付面に対し前後方向の水平方向地震によりボルトに作用する引張力 (1本当たり) (壁掛形) * ¹	N
f_{sbi}	せん断力のみを受けるボルトの許容せん断応力* ¹	MPa
f_{toi}	引張力のみを受けるボルトの許容引張応力* ¹	MPa
f_{tsi}	引張力とせん断力を同時に受けるボルトの許容引張応力* ¹	MPa
g	重力加速度 (=9.80665)	m/s ²
h_i	据付面又は取付面から重心までの距離* ²	mm
l_{1i}	重心とボルト間の水平方向距離 (直立形) * ^{1, 3}	mm
l_{1i}	重心と下側ボルト間の鉛直方向距離 (壁掛形) * ¹	mm
l_{2i}	重心とボルト間の水平方向距離 (直立形) * ^{1, 3}	mm
l_{2i}	上側ボルトと下側ボルト間の鉛直方向距離 (壁掛形) * ¹	mm
l_{3i}	左側ボルトと右側ボルト間の水平方向距離 (壁掛形) * ¹	mm
m_i	計装ラックの質量* ²	kg
n_i	ボルトの本数* ¹	—
n_{fi}	評価上引張力を受けるとして期待するボルトの本数 (直立形) * ¹	—
n_{fvi}	評価上引張力を受けるとして期待するボルトの本数 (側面方向) (壁掛形) * ¹	—
n_{fHi}	評価上引張力を受けるとして期待するボルトの本数 (正面方向) (壁掛形) * ¹	—
Q_{bi}	ボルトに作用するせん断力* ¹	N
Q_{b1i}	水平方向地震によりボルトに作用するせん断力 (壁掛形) * ¹	N
Q_{b2i}	鉛直方向地震によりボルトに作用するせん断力 (壁掛形) * ¹	N
S_{ui}	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表9に定める値* ¹	MPa
S_{yi}	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8に定める値* ¹	MPa
$S_{yi}(RT)$	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8に定める材料の40℃における値* ¹	MPa
π	円周率	—
σ_{bi}	ボルトに生じる引張応力* ¹	MPa
τ_{bi}	ボルトに生じるせん断応力* ¹	MPa

注記*1: A_{bi} , d_{i} , F_{i} , F_{i}^{*} , F_{bi} , F_{b1i} , F_{b2i} , f_{sbi} , f_{toi} , f_{tsi} , l_{1i} , l_{2i} , l_{3i} , n_{i} , n_{fi} , n_{fvi} , n_{fHi} , Q_{bi} , Q_{b1i} , Q_{b2i} , S_{ui} , S_{yi} , $S_{yi}(RT)$, σ_{bi} 及び τ_{bi} の添字 i の意味は、以下のとおりとする。

$i=1$: 基礎ボルト

$i=2$: 取付ボルト

*2: h_{i} 及び m_{i} の添字 i の意味は、以下のとおりとする。

$i=1$: 据付面

$i=2$: 取付面

*3: $l_{1i} \leq l_{2i}$

2.4 計算精度と数値の丸め方

精度は、有効数字6桁以上を確保する。

表示する数値の丸め方は表2-1に示すとおりである。

表2-1 表示する数値の丸め方

数値の種類	単位	処理桁	処理方法	表示桁
固有周期	s	小数点以下第4位	四捨五入	小数点以下第3位
震度	—	小数点以下第3位	切上げ	小数点以下第2位
温度	℃	—	—	整数位
質量	kg	—	—	整数位
長さ	mm	—	—	整数位*1
面積	mm ²	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁*2
力	N	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁*2
算出応力	MPa	小数点以下第1位	切上げ	整数位
許容応力*3	MPa	小数点以下第1位	切捨て	整数位

注記*1: 設計上定める値が小数点以下第1位の場合は、小数点以下第1位表示とする。

*2: 絶対値が1000以上のときは、べき数表示とする。

*3: 設計・建設規格 付録材料図表に記載された温度の中間における引張強さ及び降伏点は、比例法により補間した値の小数点以下第1位を切り捨て、整数位までの値とする。

3. 評価部位

計装ラックの耐震評価は「5.1 構造強度評価方法」に示す条件に基づき、耐震評価上厳しくなる基礎ボルト及び取付ボルトについて評価を実施する。

4. 固有周期

計装ラックの固有周期は、振動試験（加振試験又は自由振動試験）にて求める。なお、振動試験により固有周期が求められていない計装ラックについては、構造が同等な計装ラックに対する振動試験より算定された固有周期を使用する。

5. 構造強度評価

5.1 構造強度評価方法

- (1) 計装ラックの質量は重心に集中しているものとする。
- (2) 地震力は計装ラックに対して、水平方向及び鉛直方向から作用するものとする。
- (3) 計装ラックは取付ボルトでチャンネルベースに固定されており、固定端とする。
- (4) チャンネルベースは基礎ボルト又は埋込金物で基礎と固定されており、固定端とする。
- (5) 床面据付の計装ラックの転倒方向は、図 5-1 概要図（直立形）における長辺方向及び短辺方向について検討し、計算書には計算結果の厳しい方（許容値／発生値の小さい方をいう。）を記載する。壁掛形の計装ラック*については、図 5-2 概要図（壁掛形）における正面方向及び側面方向について検討し、計算書には計算結果の厳しい方を記載する。
- (6) 計装ラックの重心位置については、転倒方向を考慮して、計算条件が厳しくなる位置に重心位置を設定して耐震性の計算を行うものとする。
- (7) 耐震計算に用いる寸法は、公称値を使用する。

注記*：壁掛形の計装ラックの転倒方向は、計装ラックを正面より見て左右に転倒する場合を「正面方向転倒」、前方に転倒する場合を「側面方向転倒」という。

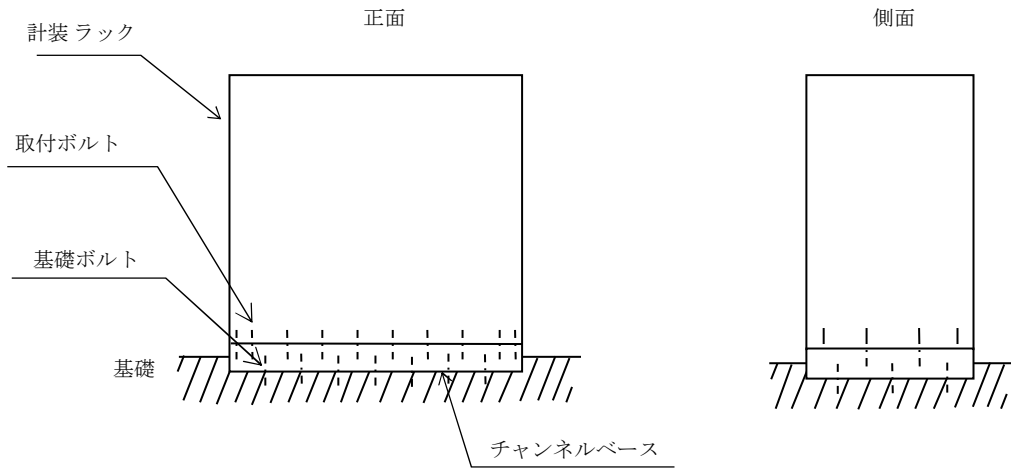


図 5-1 概要図 (直立形)

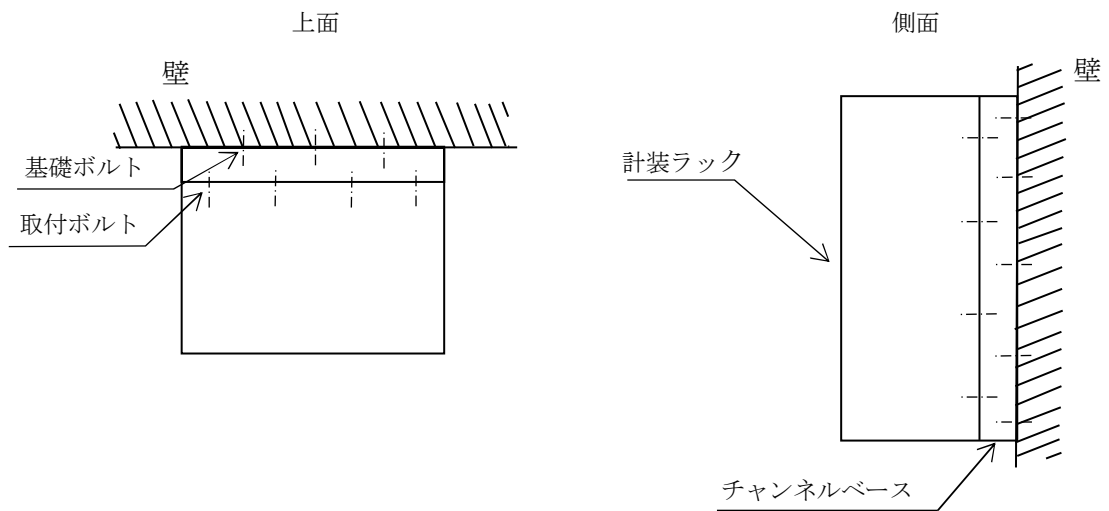


図 5-2 概要図 (壁掛形)

5.2 設計用地震力

「弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度」及び「基準地震動 S_s 」による地震力は、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定する。なお、壁掛形の計装ラックの設計用地震力については、設置床上下階のいずれか大きい方を用いる。

5.3 計算方法

5.3.1 応力の計算方法

5.3.1.1 ボルトの計算方法

ボルトの応力は、地震による震度により作用するモーメントによって生じる引張力とせん断力について計算する。計算モデルは、取付ボルトの場合を示す。

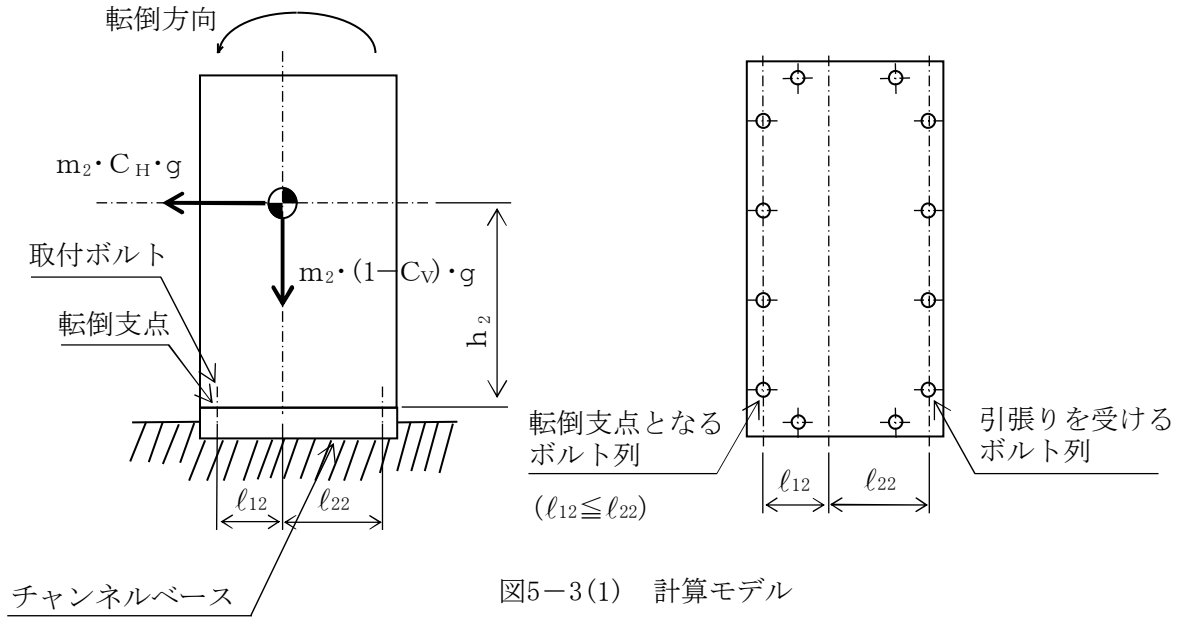


図5-3(1) 計算モデル

(直立形 短辺方向転倒-1 $(1 - C_v) \geq 0$ の場合)

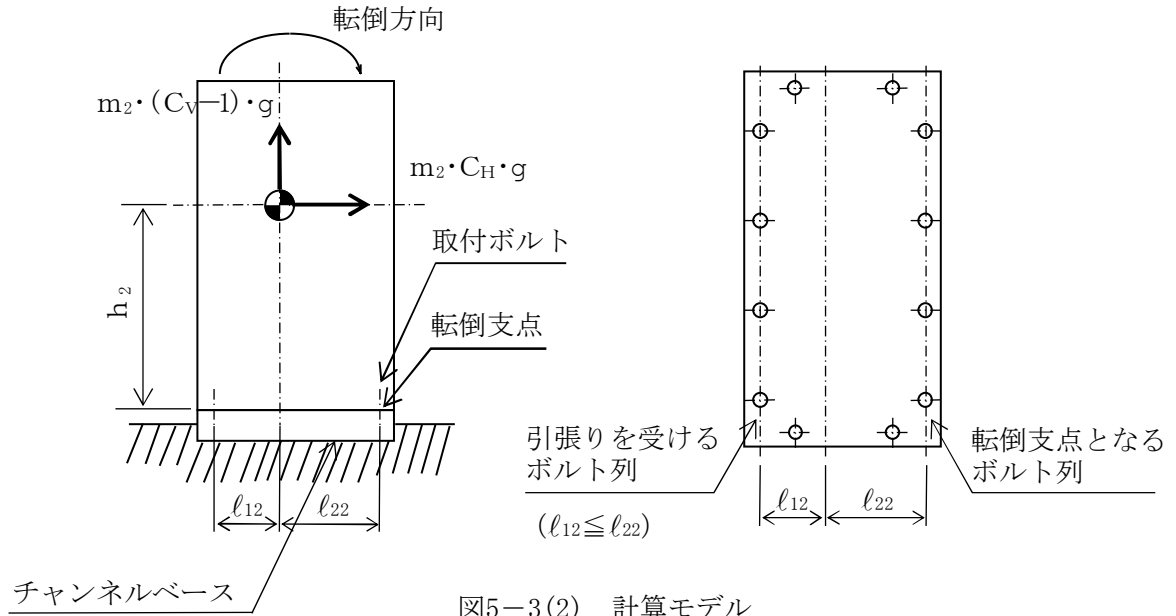


図5-3(2) 計算モデル

(直立形 短辺方向転倒-2 $(1 - C_v) < 0$ の場合)

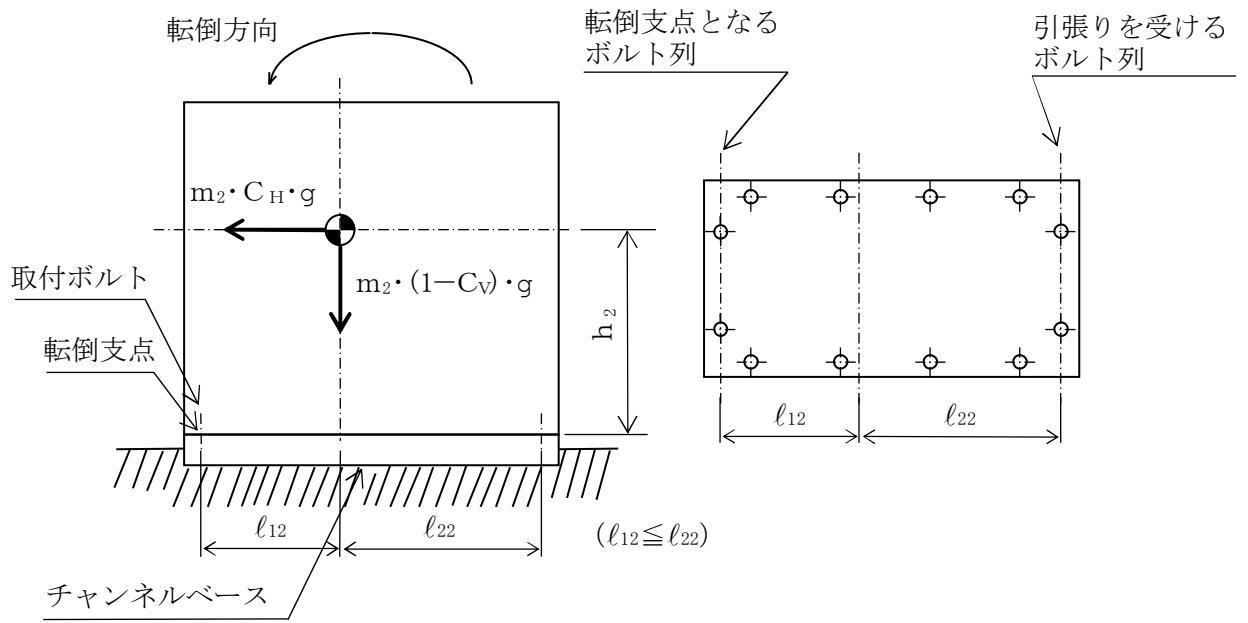


図5-3(3) 計算モデル
 (直立形 長辺方向転倒-1 ($1 - C_v \geq 0$) の場合)

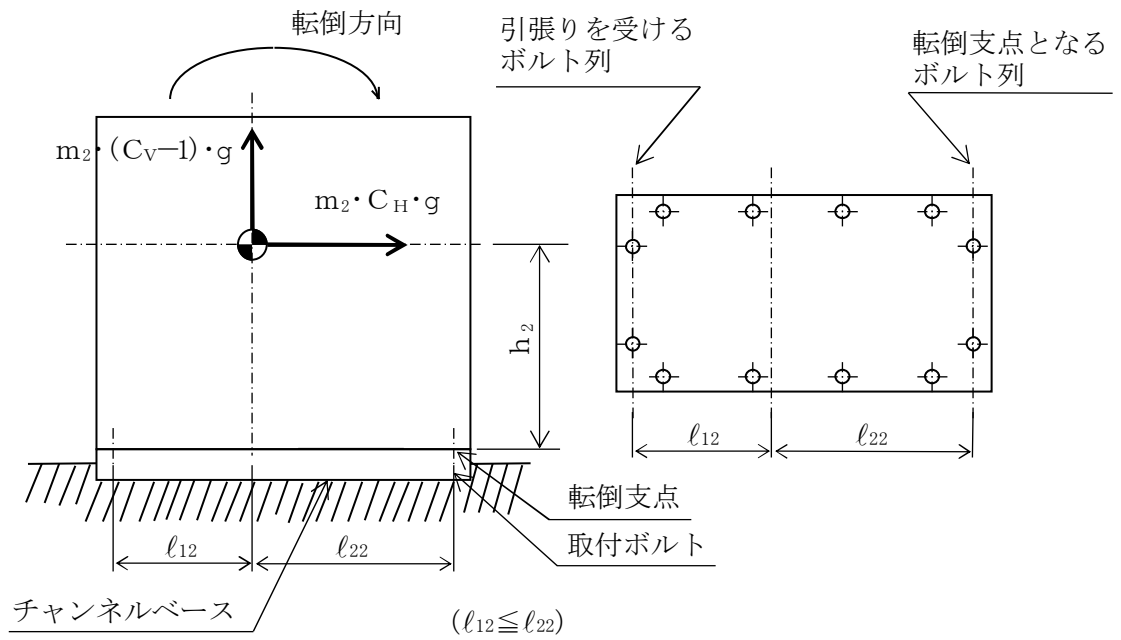


図5-3(4) 計算モデル
 (直立形 長辺方向転倒-2 ($1 - C_v < 0$) の場合)

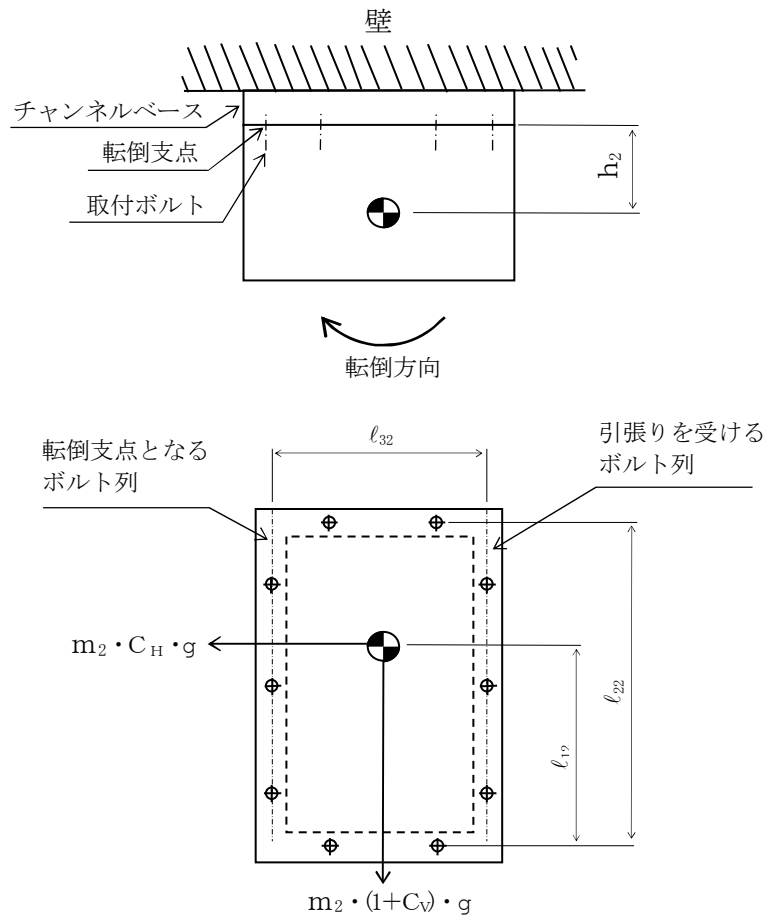


図5-4(1) 計算モデル (壁掛形 正面方向転倒の場合)

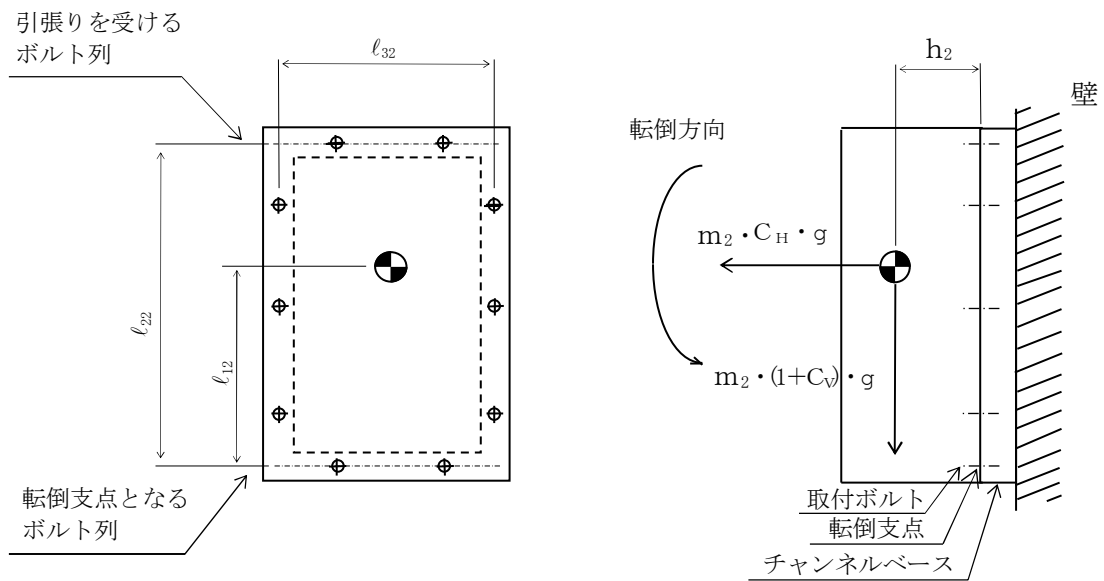


図5-4(2) 計算モデル (壁掛形 側面方向転倒の場合)

(1) 引張応力

ボルトに対する引張力は、最も厳しい条件として、図5-3及び図5-4で最外列のボルトを支点とする転倒を考え、これを片側の最外列のボルトで受けるものとして計算する。

引張力

計算モデル図5-3(1)及び図5-3(3)の場合の引張力

$$F_{b i} = \frac{m_i \cdot g \cdot C_H \cdot h_i - m_i \cdot g \cdot (1 - C_V) \cdot l_{1 i}}{n_{f i} \cdot (l_{1 i} + l_{2 i})} \dots\dots\dots (5.3.1.1.1)$$

計算モデル図5-3(2)及び図5-3(4)の場合の引張力

$$F_{b i} = \frac{m_i \cdot g \cdot C_H \cdot h_i - m_i \cdot g \cdot (1 - C_V) \cdot l_{2 i}}{n_{f i} \cdot (l_{1 i} + l_{2 i})} \dots\dots\dots (5.3.1.1.2)$$

計算モデル図5-4(1)及び図5-4(2)の場合の引張力

$$F_{b 1 i} = \frac{m_i \cdot (1 + C_V) \cdot h_i \cdot g}{n_{f v i} \cdot l_{2 i}} + \frac{m_i \cdot C_H \cdot h_i \cdot g}{n_{f H i} \cdot l_{3 i}} \dots\dots\dots (5.3.1.1.3)$$

$$F_{b 2 i} = \frac{m_i \cdot (1 + C_V) \cdot h_i \cdot g + m_i \cdot C_H \cdot l_{1 i} \cdot g}{n_{f v i} \cdot l_{2 i}} \dots\dots\dots (5.3.1.1.4)$$

$$F_{b i} = \text{Max}(F_{b 1 i}, F_{b 2 i}) \dots\dots\dots (5.3.1.1.5)$$

引張応力

$$\sigma_{b i} = \frac{F_{b i}}{A_{b i}} \dots\dots\dots (5.3.1.1.6)$$

ここで、ボルトの軸断面積 $A_{b i}$ は次式により求める。

$$A_{b i} = \frac{\pi}{4} \cdot d_i^2 \dots\dots\dots (5.3.1.1.7)$$

ただし、 $F_{b i}$ が負のときボルトには引張力が生じないので、引張応力の計算は行わない。

(2) せん断応力

ボルトに対するせん断力は、ボルト全本数で受けるものとして計算する。

せん断力

a. 直立形の場合

$$Q_{b i} = m_i \cdot g \cdot C_H \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.8)$$

b. 壁掛形の場合

$$Q_{b 1 i} = m_i \cdot C_H \cdot g \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.9)$$

$$Q_{b 2 i} = m_i \cdot (1 + C_V) \cdot g \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.10)$$

$$Q_{b i} = \sqrt{(Q_{b 1 i})^2 + (Q_{b 2 i})^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.11)$$

せん断応力

$$\tau_{b i} = \frac{Q_{b i}}{n_i \cdot A_{b i}} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.12)$$

5.4 応力の評価

5.4.1 ボルトの応力評価

5.3.1.1項で求めたボルトの引張応力 σ_{bi} は次式より求めた許容引張応力 f_{tsi} 以下であること。ただし、 f_{toi} は下表による。

$$f_{tsi} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{toi} - 1.6 \cdot \tau_{bi}, f_{toi}] \quad \dots\dots\dots (5.4.1.1)$$

せん断応力 τ_{bi} は、せん断力のみを受けるボルトの許容せん断応力 f_{sbi} 以下であること。ただし、 f_{sbi} は下表による。

	弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度による 荷重との組合せの場合	基準地震動 S_s による 荷重との組合せの場合
許容引張応力 f_{toi}	$\frac{F_i}{2} \cdot 1.5$	$\frac{F_i^*}{2} \cdot 1.5$
許容せん断応力 f_{sbi}	$\frac{F_i}{1.5 \cdot \sqrt{3}} \cdot 1.5$	$\frac{F_i^*}{1.5 \cdot \sqrt{3}} \cdot 1.5$

6. 機能維持評価

6.1 電氣的機能維持評価方法

機能維持評価用加速度と機能確認済加速度との比較により、地震時又は地震後の電氣的機能維持を評価する。

機能維持評価用加速度は、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき、基準地震動 S_s により定まる加速度又はこれを上回る加速度を設定する。

機能確認済加速度は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に基づき加振試験により確認した加速度を用いることとし、個別計算書にその旨を記載する。

7. 耐震計算書のフォーマット

7.1 直立形計装ラックの耐震計算書のフォーマット

直立形計装ラックの耐震計算書のフォーマットは、以下のとおりである。

[設計基準対象施設及び重大事故等対処設備の場合]

フォーマットⅠ 設計基準対象施設としての評価結果

フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果

[重大事故等対処設備単独の場合]

フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果*

7.2 壁掛形計装ラックの耐震計算書のフォーマット

壁掛形計装ラックの耐震計算書のフォーマットは、以下のとおりである。

[設計基準対象施設及び重大事故等対処設備の場合]

フォーマットⅢ 設計基準対象施設としての評価結果

フォーマットⅣ 重大事故等対処設備としての評価結果

[重大事故等対処設備単独の場合]

フォーマットⅣ 重大事故等対処設備としての評価結果*

注記*：重大事故等対処設備単独の場合は、設計基準対象施設及び重大事故等対処設備に示すフォーマットⅡ及びⅣを使用するものとする。ただし、評価結果表に記載の章番を「2.」から「1.」とする。

【フォーマット I 直立形計装ラックの設計基準対象施設としての評価結果】

【○○○○ (○○○○) の耐震性についての計算結果】

1. 設計基準対象施設

1.1 設計条件

機器名称	耐震重要度分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	
		○○建物 EL *1			C _H = *2	C _V = *2	C _H = *3	C _V = *3	

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（弾性設計用地震動 S_d）又は静的震度のいずれか大きい方、若しくはこれを上回る設計震度

*3：設計用震度 I（基準地震動 S_s）又はこれを上回る設計震度

1.2 機器要目

部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)
基礎ボルト (i=1)		*1	(M)				
取付ボルト (i=2)		*1	(M)				

部材	ℓ _{1 i} *2 (mm)	ℓ _{2 i} *2 (mm)	n _{f i} *2	F _i (MPa)	F _i * (MPa)	転倒方向	
						弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)	*1	*1					
	*1	*1					
取付ボルト (i=2)	*1	*1					
	*1	*1					

注記*1：重心位置を保守的な位置に設定して評価する。

*2：各ボルトの機器要目における上段は短辺方向転倒に対する評価時の要目を示し、

下段は長辺方向転倒に対する評価時の要目を示す。

1.3 計算数値

1.3.1 ボルトに作用する力

(単位：N)

部材	F _{b i}		Q _{b i}	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)				
取付ボルト (i=2)				

1.4 結論

1.4.1 ボルトの応力

(単位：MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
基礎ボルト (i=1)		引張り	$\sigma_{b1} =$	$f_{ts1} = *$	$\sigma_{b1} =$	$f_{ts1} = *$
		せん断	$\tau_{b1} =$	$f_{sb1} =$	$\tau_{b1} =$	$f_{sb1} =$
取付ボルト (i=2)		引張り	$\sigma_{b2} =$	$f_{ts2} = *$	$\sigma_{b2} =$	$f_{ts2} = *$
		せん断	$\tau_{b2} =$	$f_{sb2} =$	$\tau_{b2} =$	$f_{sb2} =$

すべて許容応力以下である。

注記*： $f_{tsi} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{toi} - 1.6 \cdot \tau_{bi}, f_{toi}]$

1.4.2 電氣的機能維持の評価結果

($\times 9.8\text{m/s}^2$)

		機能維持評価用加速度*	機能確認済加速度
	水平方向		
	鉛直方向		

注記*：設計用震度 I（基準地震動 S_s）により定まる加速度又はこれを上回る加速度とする。

機能維持評価用加速度はすべて機能確認済加速度以下である。

【フォーマットⅡ 直立形計装ラックの重大事故等対処設備としての評価結果】

2. 重大事故等対処設備

2.1 設計条件

機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	
		〇〇建物 EL *1			—	—	C _H = *2	C _V = *2	

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（基準地震動 S_s）又はこれを上回る設計震度

2.2 機器要目

部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)
基礎ボルト (i=1)		*1	(M)				
取付ボルト (i=2)		*1	(M)				

部材	ℓ _{1 i} *2 (mm)	ℓ _{2 i} *2 (mm)	n _{f i} *2	F _i (MPa)	F _i * (MPa)	転倒方向	
						弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)	*1	*1		—		—	
	*1	*1					
取付ボルト (i=2)	*1	*1		—		—	
	*1	*1					

注記*1：重心位置を保守的な位置に設定して評価する。

*2：各ボルトの機器要目における上段は短辺方向転倒に対する評価時の要目を示し、

下段は長辺方向転倒に対する評価時の要目を示す。

2.3 計算数値

2.3.1 ボルトに作用する力 (単位：N)

部材	F _{b i}		Q _{b i}	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)	—		—	
取付ボルト (i=2)	—		—	

2.4 結論

2.4.1 ボルトの応力 (単位：MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
基礎ボルト (i=1)		引張り	—	—	$\sigma_{b1} =$	$f_{ts1} = *$
		せん断	—	—	$\tau_{b1} =$	$f_{sb1} =$
取付ボルト (i=2)		引張り	—	—	$\sigma_{b2} =$	$f_{ts2} = *$
		せん断	—	—	$\tau_{b2} =$	$f_{sb2} =$

すべて許容応力以下である。

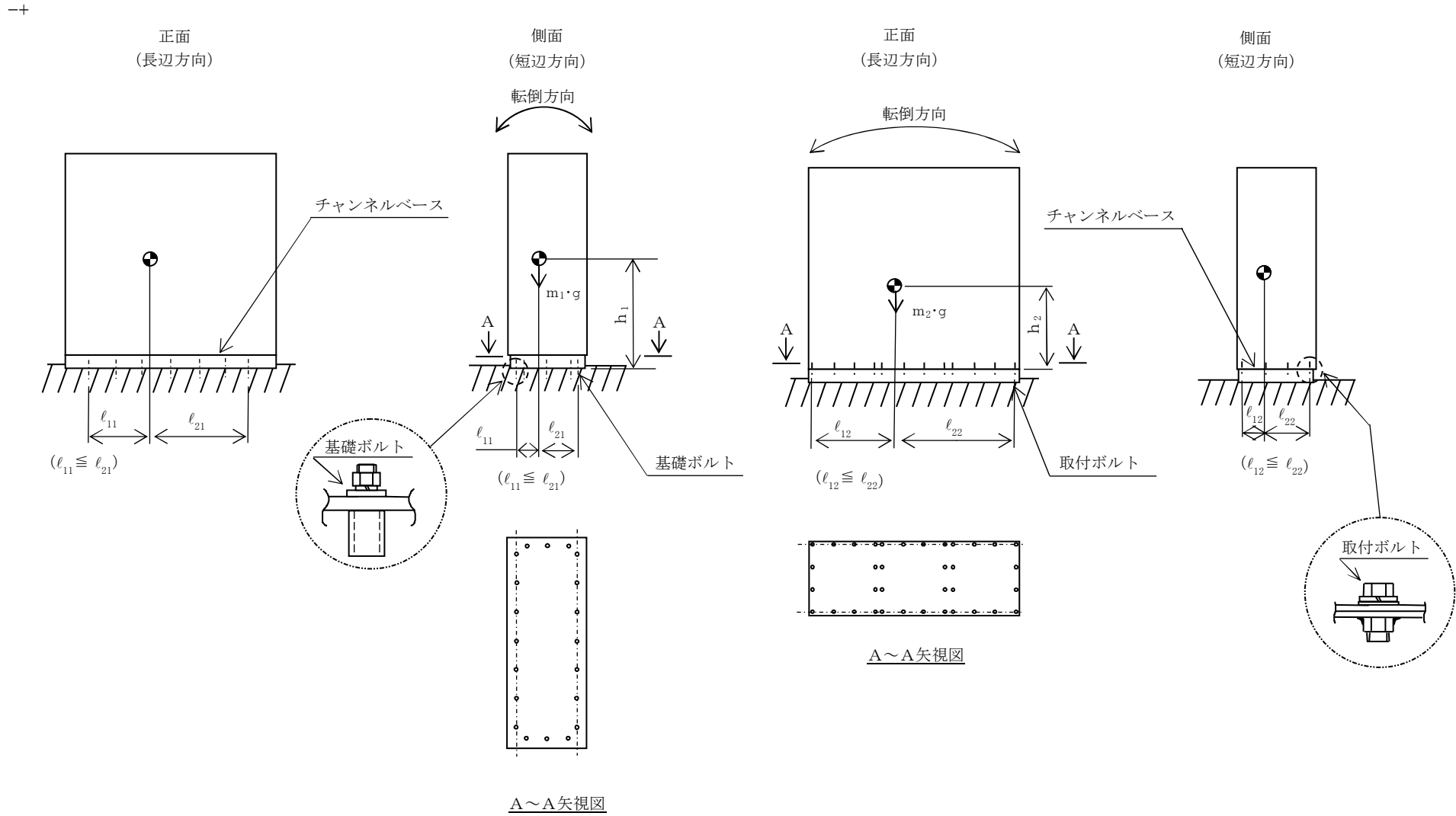
注記*： $f_{tsi} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{toi} - 1.6 \cdot \tau_{bi}, f_{toi}]$

2.4.2 電氣的機能維持の評価結果 (×9.8m/s²)

		機能維持評価用加速度*	機能確認済加速度
	水平方向		
	鉛直方向		

注記*：設計用震度 I (基準地震動 S_s) により定まる加速度又はこれを上回る加速度とする。

機能維持評価用加速度はすべて機能確認済加速度以下である。



【フォーマットⅢ 壁掛形計装ラックの設計基準対象施設としての評価結果】

【○○○○ (○○○○) の耐震性についての計算結果】

1. 設計基準対象施設

1.1 設計条件

機器名称	耐震重要度分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S d 又は静的震度		基準地震動 S s		周囲環境温度 (°C)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	
		○○建物 EL (EL *1)			C _H = *2	C _V = *2	C _H = *3	C _V = *3	

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（弾性設計用地震動 S d）又は静的震度のいずれか大きい方、若しくはこれを上回る設計震度

*3：設計用震度 I（基準地震動 S s）又はこれを上回る設計震度

1.2 機器要目

部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)
基礎ボルト (i=1)			(M)				
取付ボルト (i=2)			(M)				

部材	ℓ _{1 i} * (mm)	ℓ _{2 i} * (mm)	ℓ _{3 i} * (mm)	n _{f v i} * (mm)	n _{f H i} * (mm)	F _i (MPa)	F _i * (MPa)	転倒方向	
								弾性設計用地震動 S d 又は静的震度	基準地震動 S s
基礎ボルト (i=1)									
取付ボルト (i=2)									

注記*：各ボルトの機器要目における上段は正面方向転倒に対する評価時の要目を示し、
下段は側面方向転倒に対する評価時の要目を示す。

1.3 計算数値

1.3.1 ボルトに作用する力

(単位：N)

部材	F _{b i}		Q _{b i}	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)				
取付ボルト (i=2)				

1.4 結論

1.4.1 ボルトの応力

(単位：MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
基礎ボルト (i=1)		引張り	$\sigma_{b1} =$	$f_{ts1} = *$	$\sigma_{b1} =$	$f_{ts1} = *$
		せん断	$\tau_{b1} =$	$f_{sb1} =$	$\tau_{b1} =$	$f_{sb1} =$
取付ボルト (i=2)		引張り	$\sigma_{b2} =$	$f_{ts2} = *$	$\sigma_{b2} =$	$f_{ts2} = *$
		せん断	$\tau_{b2} =$	$f_{sb2} =$	$\tau_{b2} =$	$f_{sb2} =$

すべて許容応力以下である。

注記*： $f_{tsi} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{toi} - 1.6 \cdot \tau_{bi}, f_{toi}]$

1.4.2 電氣的機能維持の評価結果

($\times 9.8\text{m/s}^2$)

		機能維持評価用加速度*	機能確認済加速度
	水平方向		
	鉛直方向		

注記*：設計用震度 I（基準地震動 S_s）により定まる加速度又はこれを上回る加速度とする。

機能維持評価用加速度はすべて機能確認済加速度以下である。

【フォーマットⅣ 壁掛形計装ラックの重大事故等対処設備としての評価結果】

2. 重大事故等対処設備

2.1 設計条件

機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	
		○○建物 EL (EL *1)			—	—	C _H = *2	C _V = *2	

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（基準地震動 S_s）又はこれを上回る設計震度

2.2 機器要目

部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)
基礎ボルト (i=1)			(M)				
取付ボルト (i=2)			(M)				

部材	l _{1 i} * (mm)	l _{2 i} * (mm)	l _{3 i} * (mm)	n _{f v i} *	n _{f H i} *	F _i (MPa)	F _i * (MPa)	転倒方向	
								弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)						—		—	
取付ボルト (i=2)						—		—	

注記*：各ボルトの機器要目における上段は正面方向転倒に対する評価時の要目を示し

下段は側面方向転倒に対する評価時の要目を示す。

2.3 計算数値

2.3.1 ボルトに作用する力

(単位：N)

部材	F _{b i}		Q _{b i}	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)	—		—	
取付ボルト (i=2)	—		—	

2.4 結論

2.4.1 ボルトの応力

(単位：MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
基礎ボルト (i=1)		引張り	—	—	$\sigma_{b1} =$	$f_{ts1} = *$
		せん断	—	—	$\tau_{b1} =$	$f_{sb1} =$
取付ボルト (i=2)		引張り	—	—	$\sigma_{b2} =$	$f_{ts2} = *$
		せん断	—	—	$\tau_{b2} =$	$f_{sb2} =$

すべて許容応力以下である。

注記*： $f_{tsi} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{toi} - 1.6 \cdot \tau_{bi}, f_{toi}]$

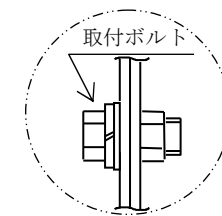
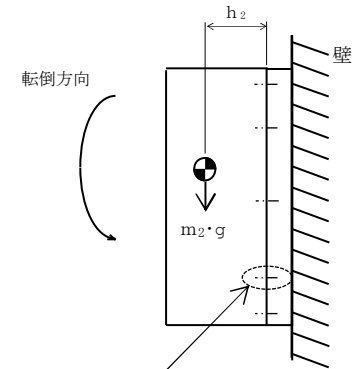
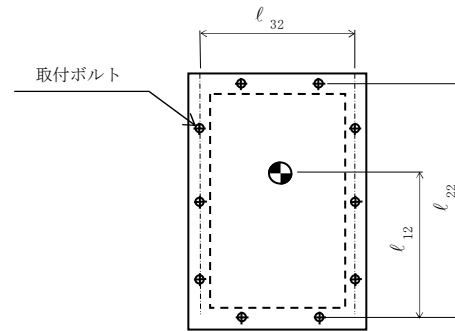
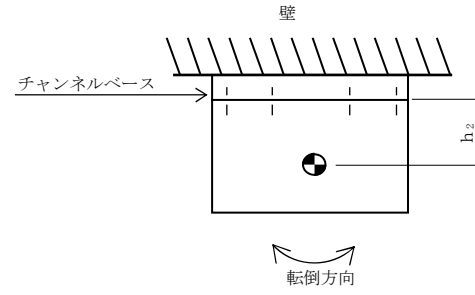
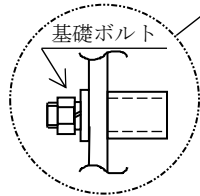
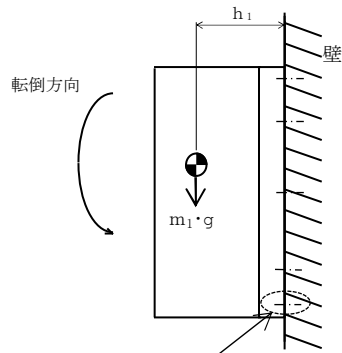
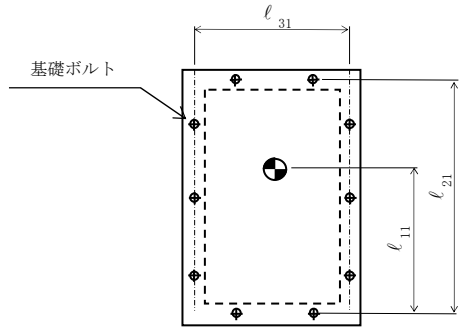
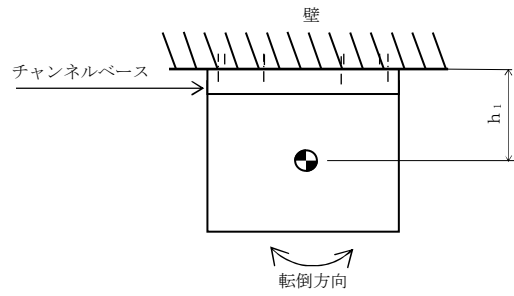
2.4.2 電氣的機能維持の評価結果

($\times 9.8\text{m/s}^2$)

	機能維持評価用加速度*	機能確認済加速度
水平方向		
鉛直方向		

注記*：設計用震度 I（基準地震動 S_s）により定まる加速度又はこれを上回る加速度とする。

機能維持評価用加速度はすべて機能確認済加速度以下である。



添付資料-8 計器スタンションの耐震性についての
計算書作成の基本方針

目 次

1. 概要	1
2. 一般事項	1
2.1 評価方針	1
2.2 適用規格・基準等	2
2.3 記号の説明	3
2.4 計算精度と数値の丸め方	4
3. 評価部位	5
4. 固有周期	5
5. 構造強度評価	5
5.1 構造強度評価方法	5
5.2 設計用地震力	7
5.3 計算方法	7
5.4 応力の評価	13
6. 機能維持評価	14
6.1 電氣的機能維持評価方法	14
7. 耐震計算書のフォーマット	14
7.1 直立形計器スタンションの耐震計算書のフォーマット	14
7.2 壁掛形計器スタンションの耐震計算書のフォーマット	14

1. 概要

本資料は、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」に基づき、耐震性に関する説明書が求められている計器スタンション（耐震重要度分類Sクラス又はS_s機能維持の計算を行うもの）が、十分な耐震性を有していることを確認するための耐震計算の方法について記載したものである。

解析の方針及び減衰定数については、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に従うものとする。

ただし、本基本方針が適用できない計器スタンションにあつては、個別耐震計算書にその耐震計算方法を含めて記載する。

2. 一般事項

2.1 評価方針

計器スタンションの応力評価は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」にて設定した荷重及び荷重の組合せ並びに許容限界に基づき、「3. 評価部位」にて設定する箇所において、「4. 固有周期」で算出した固有周期に基づく設計用地震力による応力等が許容限界内に収まることを、「5. 構造強度評価」にて示す方法にて確認することで実施する。また、計器スタンションの機能維持評価は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」にて設定した電氣的機能維持の方針に基づき、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下であることを、「6. 機能維持評価」にて示す方法にて確認することで実施する。確認結果を「7. 耐震計算書のフォーマット」に示す。

計器スタンションの耐震評価フローを図2-1に示す。

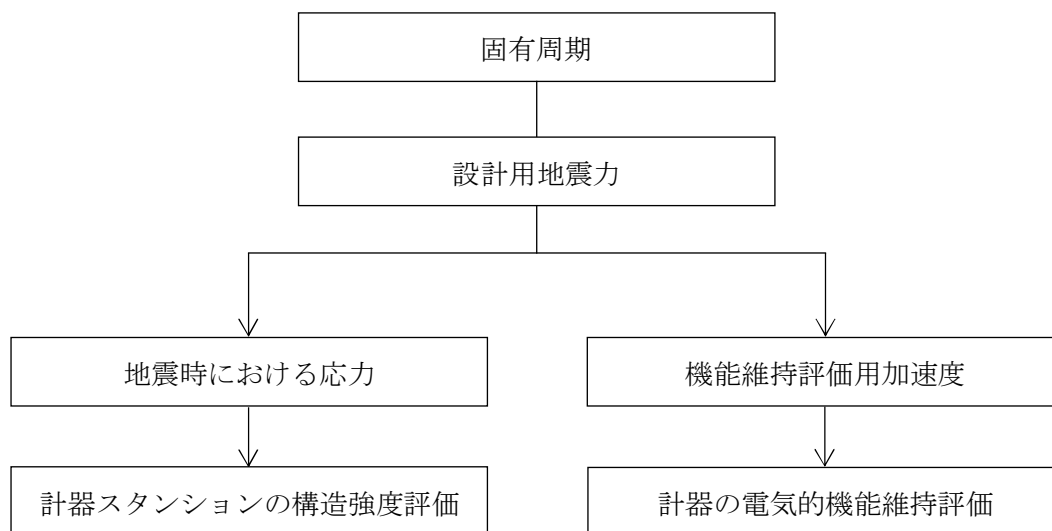


図2-1 計器スタンションの耐震評価フロー

2.2 適用規格・基準等

本評価において適用する規格・基準等を以下に示す。

- ・原子力発電所耐震設計技術指針 重要度分類・許容応力編 J E A G 4 6 0 1 ・補-1984
（（社）日本電気協会）
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1987 （（社）日本電気協会）
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1991 追補版（（社）日本電気協会）
- ・発電用原子力設備規格 設計・建設規格（（社）日本機械学会，2005/2007）（以下「設計・建設規格」という。）

2.3 記号の説明

記号	記号の説明	単位
A _b	ボルトの軸断面積	mm ²
C _H	水平方向設計震度	—
C _V	鉛直方向設計震度	—
d	ボルトの呼び径	mm
F	設計・建設規格 SSB-3121.1(1) に定める値	MPa
F*	設計・建設規格 SSB-3133 に定める値	MPa
F _b	ボルトに作用する引張力 (1本当たり)	N
F _{b1}	鉛直方向地震及び壁掛盤取付面に対し左右方向の水平方向地震によりボルトに作用する引張力 (1本当たり) (壁掛形)	N
F _{b2}	鉛直方向地震及び壁掛盤取付面に対し前後方向の水平方向地震によりボルトに作用する引張力 (1本当たり) (壁掛形)	N
f _{sb}	せん断力のみを受けるボルトの許容せん断応力	MPa
f _{to}	引張力のみを受けるボルトの許容引張応力	MPa
f _{ts}	引張力とせん断力を同時に受けるボルトの許容引張応力	MPa
g	重力加速度 (=9.80665)	m/s ²
h ₁	取付面から重心までの距離	mm
h ₂	取付面から重心までの距離 (壁掛形)	mm
l ₁	重心とボルト間の水平方向距離*	mm
l ₂	重心とボルト間の水平方向距離*	mm
l ₃	重心と下側ボルト間の距離 (壁掛形)	mm
l _a	側面 (左右) ボルト間の距離 (壁掛形)	mm
l _b	上下ボルト間の距離 (壁掛形)	mm
m	計器スタンションの質量	kg
n	ボルトの本数	—
n _f	評価上引張力を受けるとして期待するボルトの本数	—
n _{fV}	評価上引張力を受けるとして期待するボルトの本数 (側面方向転倒) (壁掛形)	—
n _{fH}	評価上引張力を受けるとして期待するボルトの本数 (正面方向転倒) (壁掛形)	—
Q _b	ボルトに作用するせん断力	N
Q _{b1}	水平方向地震によりボルトに作用するせん断力 (壁掛形)	N
Q _{b2}	鉛直方向地震によりボルトに作用するせん断力 (壁掛形)	N
S _u	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表9に定める値	MPa
S _y	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8に定める値	MPa
S _{y(RT)}	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8に定める材料の40℃における値	MPa
π	円周率	—
σ _b	ボルトに生じる引張応力	MPa
τ _b	ボルトに生じるせん断応力	MPa

注記* : $l_1 \leq l_2$

2.4 計算精度と数値の丸め方

精度は、有効数字6桁以上を確保する。

表示する数値の丸め方は表2-1に示すとおりである。

表2-1 表示する数値の丸め方

数値の種類	単位	処理桁	処理方法	表示桁
固有周期	s	小数点以下第4位	四捨五入	小数点以下第3位
震度	—	小数点以下第3位	切上げ	小数点以下第2位
温度	℃	—	—	整数位
質量	kg	—	—	整数位
長さ	mm	—	—	整数位 ^{*1}
面積	mm ²	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁 ^{*2}
力	N	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁 ^{*2}
算出応力	MPa	小数点以下第1位	切上げ	整数位
許容応力 ^{*3}	MPa	小数点以下第1位	切捨て	整数位

注記*1：設計上定める値が小数点以下第1位の場合は、小数点以下第1位表示とする。

*2：絶対値が1000以上のときは、べき数表示とする。

*3：設計・建設規格 付録材料図表に記載された温度の間における引張強さ及び降伏点は、比例法により補間した値の小数点以下第1位を切り捨て、整数位までの値とする。

3. 評価部位

計器スタンションの耐震評価は「5.1 構造強度評価方法」に示す条件に基づき、耐震評価上厳しくなる基礎ボルトについて評価を実施する。

4. 固有周期

計器スタンションの固有周期は、振動試験（加振試験又は自由振動試験）にて求める。なお、振動試験により固有周期が求められていない計器スタンションについては、構造が同等な計器スタンションに対する振動試験より算定された固有周期を使用する。

5. 構造強度評価

5.1 構造強度評価方法

- (1) 計器スタンションの質量は重心に集中しているものとする。
- (2) 地震力は計器スタンションに対して、水平方向及び鉛直方向から作用するものとする。
- (3) 計器スタンションは基礎ボルトで床面及び壁面に固定されており、固定端とする。
- (4) 転倒方向*は、図5-1 概要図（直立形）における正面方向及び側面方向並びに図5-2 概要図（壁掛形）における正面方向及び側面方向について検討し、計算書には計算結果の厳しい方（許容値／発生値の小さい方をいう。）を記載する。
- (5) 計器スタンションの重心位置については、転倒方向を考慮して、計算条件が厳しくなる位置に重心位置を設定して耐震性の計算を行うものとする。
- (6) 耐震計算に用いる寸法は、公称値を使用する。

注記*：計器スタンションの転倒方向は、計器スタンションを正面より見て左右に転倒する場合を「正面方向転倒」、前方又は後方に転倒する場合を「側面方向転倒」という。

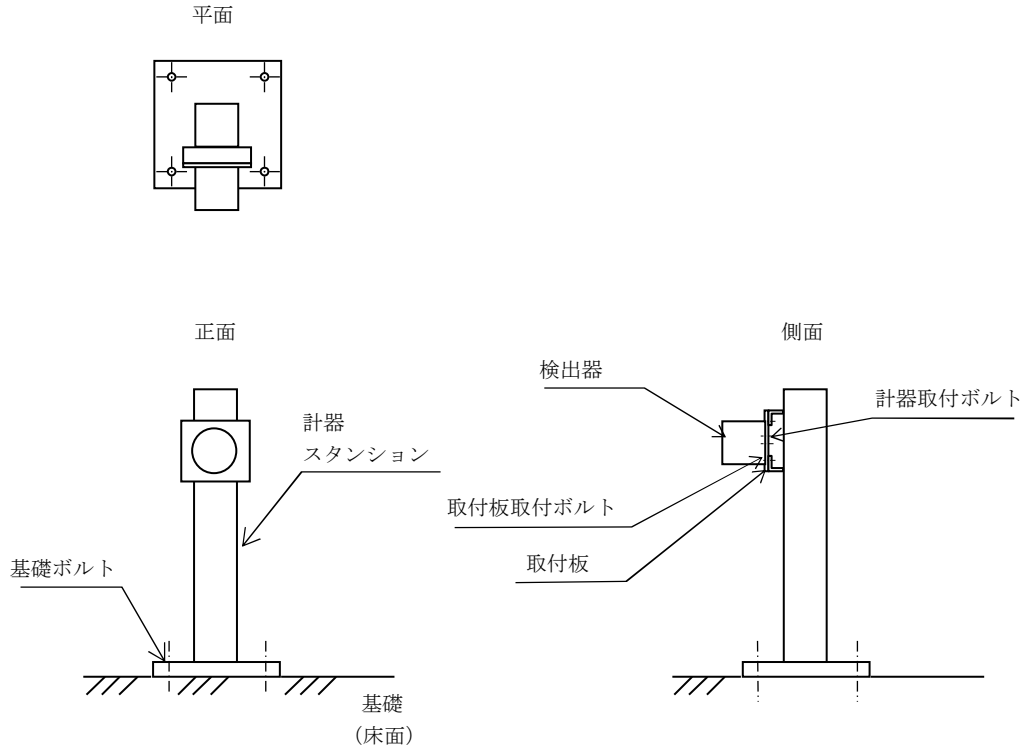


図 5-1 概要図 (直立形)

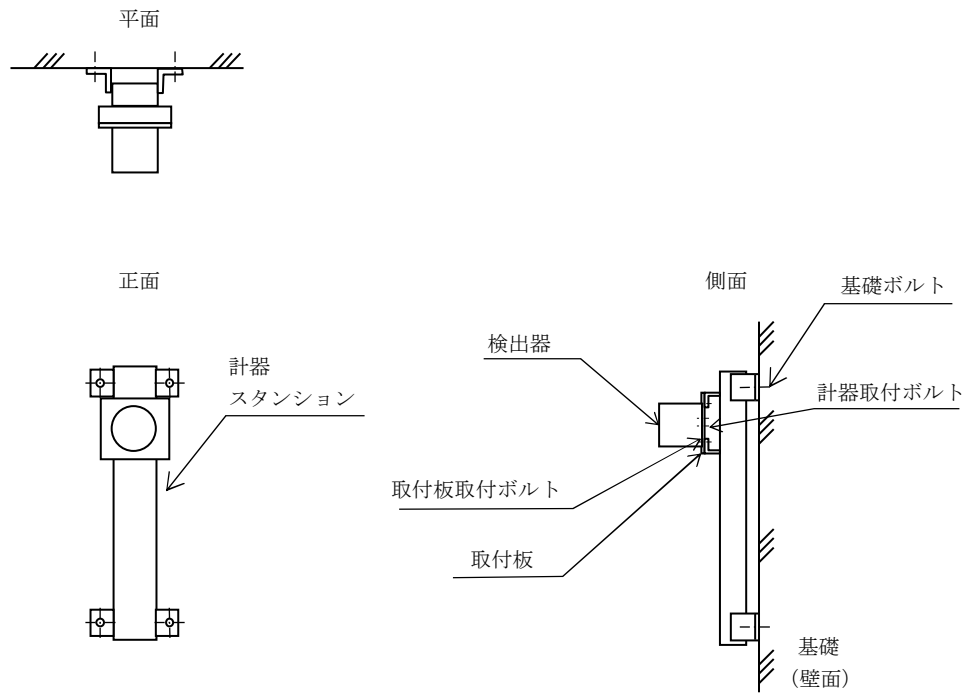


図 5-2 概要図 (壁掛形)

5.2 設計用地震力

「弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度」及び「基準地震動 S_s 」による地震力は、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定する。なお、壁掛形の計器スタンションの設計用地震力については、設置床上下階のいずれか大きい方を用いる。

5.3 計算方法

5.3.1 応力の計算方法

5.3.1.1 ボルトの計算方法

ボルトの応力は、地震による震度により作用するモーメントによって生じる引張力とせん断力について計算する。

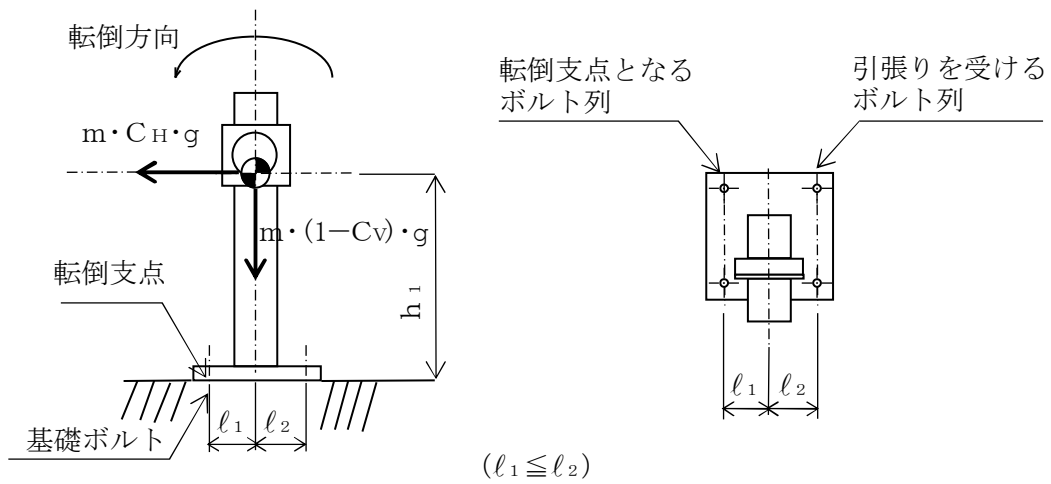


図5-3(1) 計算モデル

(直立形 正面方向転倒-1 ($1 - C_v \geq 0$ の場合))

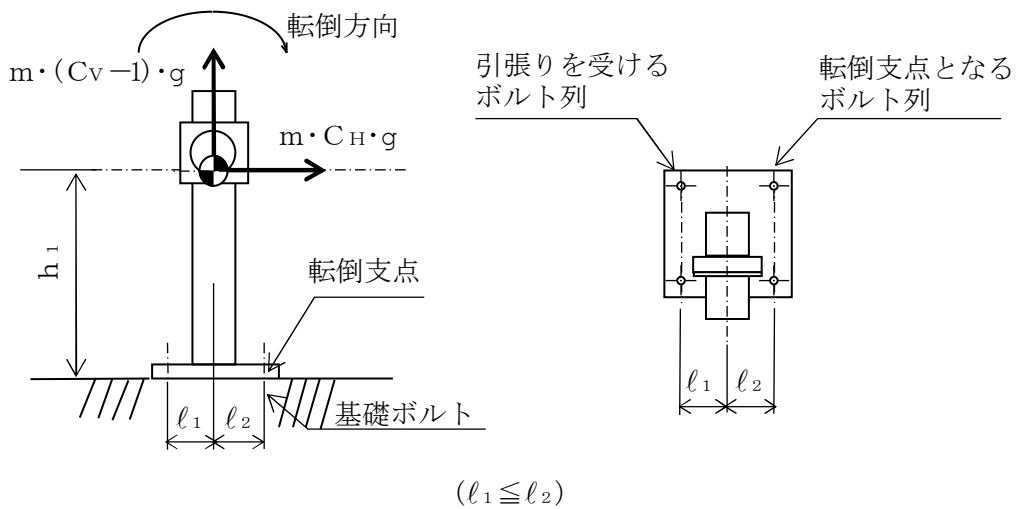


図5-3(2) 計算モデル

(直立形 正面方向転倒-2 ($1 - C_v < 0$ の場合))

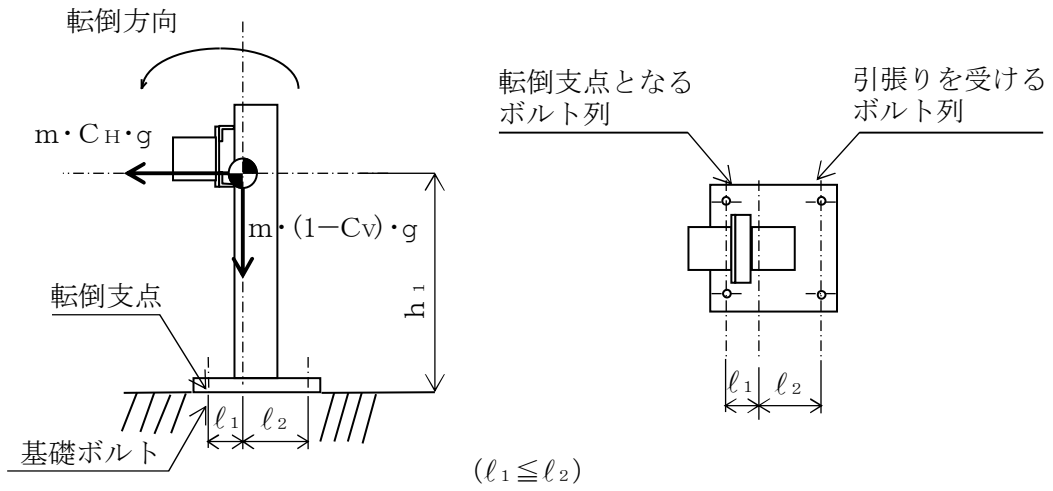


図5-4(1) 計算モデル
 (直立形 側面方向転倒-1 $(1 - C_v) \geq 0$ の場合)

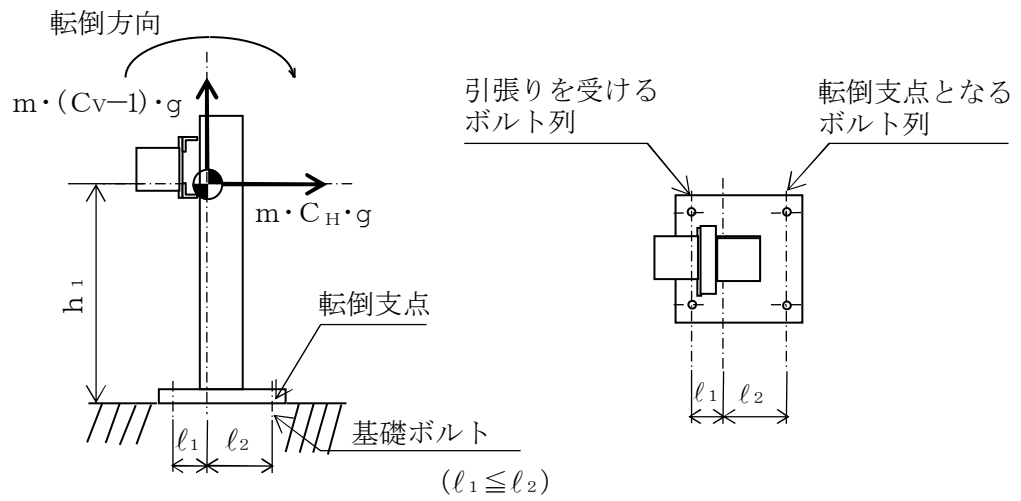


図5-4(2) 計算モデル
 (直立形 側面方向転倒-1 $(1 - C_v) < 0$ の場合)

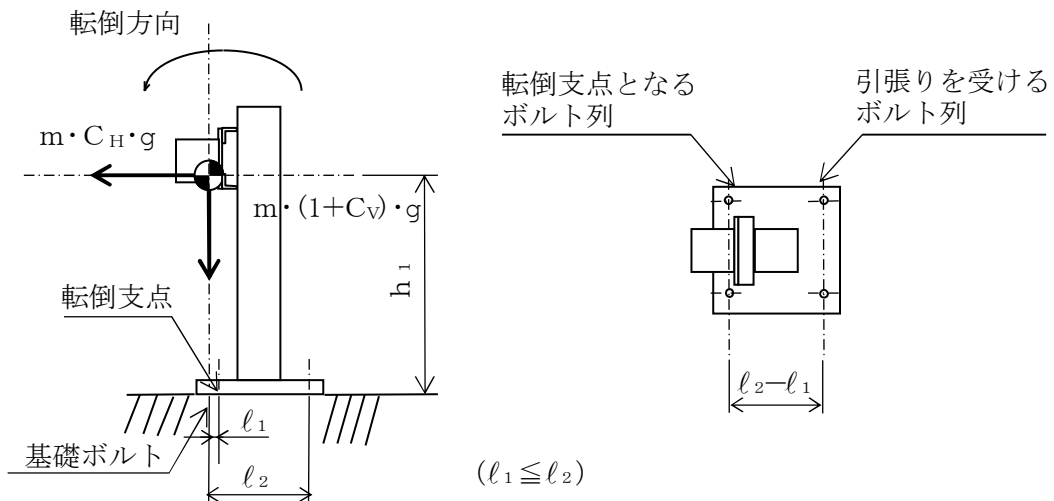


図5-4(3) 計算モデル

(直立形 側面方向転倒-3 重心位置が両端のボルトの間でない場合で
 $(l_2 + l_1) / (l_2 - l_1) \geq C_V$ の場合)

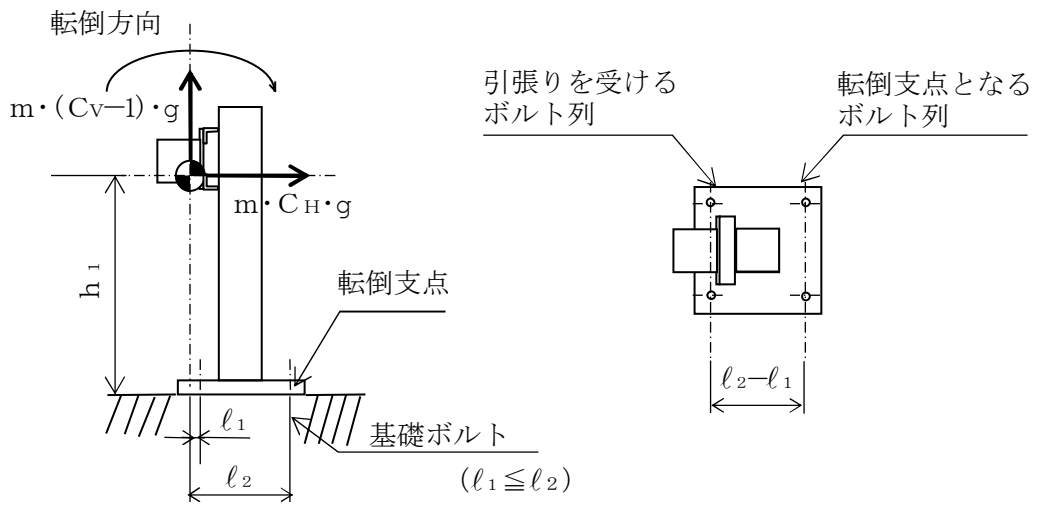


図5-4(4) 計算モデル

(直立形 側面方向転倒-4 重心位置が両端のボルトの間でない場合で
 $(l_2 + l_1) / (l_2 - l_1) < C_V$ の場合)

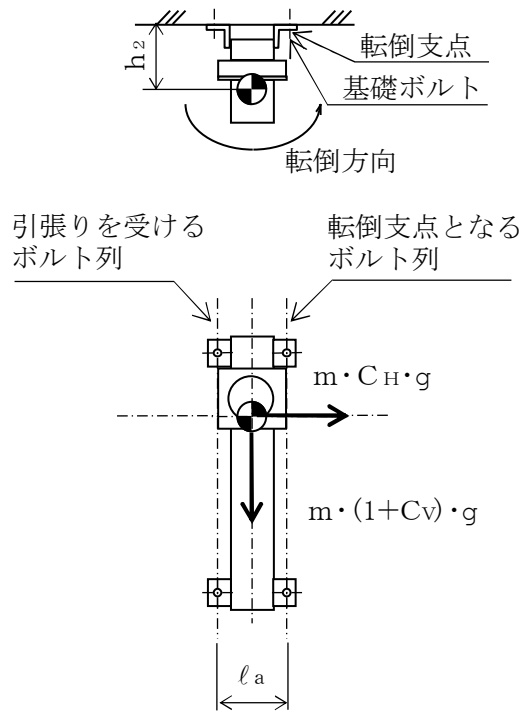


図5-5(1) 計算モデル
(壁掛形 正面方向転倒の場合)

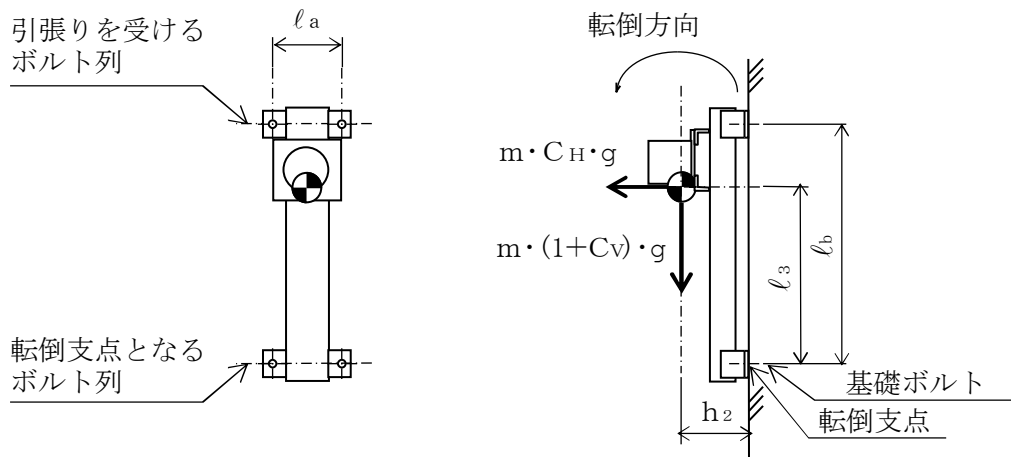


図5-5(2) 計算モデル
(壁掛形 側面方向転倒の場合)

(1) 引張応力

ボルトに対する引張力は、最も厳しい条件として、図5-3、図5-4及び図5-5で最外列のボルトを支点とする転倒を考え、これを片側の最外列のボルトで受けるものとして計算する。

引張力

計算モデル図5-3(1)及び5-4(1)の場合の引張力

$$F_b = \frac{m \cdot g \cdot C_H \cdot h_1 - m \cdot g \cdot (1 - C_V) \cdot \ell_1}{n_f \cdot (\ell_1 + \ell_2)} \dots\dots\dots (5.3.1.1.1)$$

計算モデル図5-3(2)及び5-4(2)の場合の引張力

$$F_b = \frac{m \cdot g \cdot C_H \cdot h_1 - m \cdot g \cdot (1 - C_V) \cdot \ell_2}{n_f \cdot (\ell_1 + \ell_2)} \dots\dots\dots (5.3.1.1.2)$$

計算モデル図5-4(3)の場合の引張力

$$F_b = \frac{m \cdot g \cdot C_H \cdot h_1 + m \cdot g \cdot (1 + C_V) \cdot \ell_1}{n_f \cdot (\ell_2 - \ell_1)} \dots\dots\dots (5.3.1.1.3)$$

計算モデル図5-4(4)の場合の引張力

$$F_b = \frac{m \cdot g \cdot C_H \cdot h_1 - m \cdot g \cdot (1 - C_V) \cdot \ell_2}{n_f \cdot (\ell_2 - \ell_1)} \dots\dots\dots (5.3.1.1.4)$$

計算モデル図5-5(1)の場合の引張力

$$F_{b1} = m \cdot g \cdot \left(\frac{C_H \cdot h_2}{n_{fH} \cdot \ell_a} + \frac{(1 + C_V) \cdot h_2}{n_{fV} \cdot \ell_b} \right) \dots\dots\dots (5.3.1.1.5)$$

計算モデル図5-5(2)の場合の引張力

$$F_{b2} = m \cdot g \cdot \left(\frac{C_H \cdot \ell_3 + (1 + C_V) \cdot h_2}{n_{fV} \cdot \ell_b} \right) \dots\dots\dots (5.3.1.1.6)$$

$$F_b = \text{Max} (F_{b1}, F_{b2}) \dots\dots\dots (5.3.1.1.7)$$

引張応力

$$\sigma_b = \frac{F_b}{A_b} \dots\dots\dots (5.3.1.1.8)$$

ここで、ボルトの軸断面積 A_b は次式により求める。

$$A_b = \frac{\pi}{4} \cdot d^2 \dots\dots\dots (5.3.1.1.9)$$

ただし、 F_b が負のときボルトには引張力が生じないので、引張応力の計算は行わない。

(2) せん断応力

ボルトに対するせん断力は、ボルト全本数で受けるものとして計算する。

せん断力

a. 直立形の場合

$$Q_b = m \cdot g \cdot C_H \dots\dots\dots (5.3.1.1.10)$$

b. 壁掛形の場合

$$Q_{b1} = m \cdot g \cdot C_H \dots\dots\dots (5.3.1.1.11)$$

$$Q_{b2} = m \cdot g \cdot (1 + C_V) \dots\dots\dots (5.3.1.1.12)$$

$$Q_b = \sqrt{(Q_{b1})^2 + (Q_{b2})^2} \dots\dots\dots (5.3.1.1.13)$$

せん断応力

$$\tau_b = \frac{Q_b}{n \cdot A_b} \dots\dots\dots (5.3.1.1.14)$$

5.4 応力の評価

5.4.1 ボルトの応力評価

5.3.1.1項で求めたボルトの引張応力 σ_b は次式より求めた許容引張応力 f_{ts} 以下であること。ただし、 f_{to} は下表による。

$$f_{ts} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{to} - 1.6 \cdot \tau_b, f_{to}] \cdots \cdots (5.4.1.1)$$

せん断応力 τ_b は、せん断力のみを受けるボルトの許容せん断応力 f_{sb} 以下であること。ただし、 f_{sb} は下表による。

	弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度による 荷重との組合せの場合	基準地震動 S_s による 荷重との組合せの場合
許容引張応力 f_{to}	$\frac{F}{2} \cdot 1.5$	$\frac{F^*}{2} \cdot 1.5$
許容せん断応力 f_{sb}	$\frac{F}{1.5 \cdot \sqrt{3}} \cdot 1.5$	$\frac{F^*}{1.5 \cdot \sqrt{3}} \cdot 1.5$

6. 機能維持評価

6.1 電氣的機能維持評価方法

機能維持評価用加速度と機能確認済加速度との比較により，地震時又は地震後の電氣的機能維持を評価する。

機能維持評価用加速度は，VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき，基準地震動 S_s により定まる加速度又はこれを上回る加速度を設定する。

機能確認済加速度は，VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に基づき加振試験により確認した加速度を用いることとし，個別計算書にその旨を記載する。

7. 耐震計算書のフォーマット

7.1 直立形計器スタンションの耐震計算書のフォーマット

直立形計器スタンションの耐震計算書のフォーマットは，以下のとおりである。

[設計基準対象施設及び重大事故等対処設備の場合]

フォーマットⅠ 設計基準対象施設としての評価結果

フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果

[重大事故等対処設備単独の場合]

フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果*

7.2 壁掛形計器スタンションの耐震計算書のフォーマット

壁掛形計器スタンションの耐震計算書のフォーマットは，以下のとおりである。

[設計基準対象施設及び重大事故等対処設備の場合]

フォーマットⅢ 設計基準対象施設としての評価結果

フォーマットⅣ 重大事故等対処設備としての評価結果

[重大事故等対処設備単独の場合]

フォーマットⅣ 重大事故等対処設備としての評価結果*

注記*：重大事故等対処設備単独の場合は，設計基準対象施設及び重大事故等対処設備に示すフォーマットⅡ及びⅣを使用するものとする。ただし，評価結果表に記載の章番を「2.」から「1.」とする。

【フォーマット I 直立形計器スタクションの設計基準対象施設としての評価結果】

【○○○○ (○○○○) の耐震性についての計算結果】

1. 設計基準対象施設

1.1 設計条件

機器名称	耐震重要度分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S d 又は静的震度		基準地震動 S s		周囲環境温度 (℃)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	
		○○建物 EL *1			C _H = *2	C _V = *2	C _H = *3	C _V = *3	

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（弾性設計用地震動 S d）又は静的震度のいずれか大きい方、若しくはこれを上回る設計震度

*3：設計用震度 I（基準地震動 S s）又はこれを上回る設計震度

1.2 機器要目

部材	m (kg)	h ₁ (mm)	d (mm)	A _b (mm ²)	n	S _y (MPa)	S _u (MPa)
基礎ボルト			(M)				

部材	ℓ ₁ * (mm)	ℓ ₂ * (mm)	n _f * (mm)	F (MPa)	F* (MPa)	転倒方向	
						弾性設計用地震動 S d 又は静的震度	基準地震動 S s
基礎ボルト							

注記*：各ボルトの機器要目における上段は正面方向転倒に対する評価時の要目を示し、

下段は側面方向転倒に対する評価時の要目を示す。

1.3 計算数値

1.3.1 ボルトに作用する力

(単位：N)

部材	F _b		Q _b	
	弾性設計用地震動 S d 又は静的震度	基準地震動 S s	弾性設計用地震動 S d 又は静的震度	基準地震動 S s
基礎ボルト				

1.4 結論

1.4.1 ボルトの応力

(単位 : MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
基礎ボルト		引張り	$\sigma_b =$	$f_{ts} =$ *	$\sigma_b =$	$f_{ts} =$ *
		せん断	$\tau_b =$	$f_{sb} =$	$\tau_b =$	$f_{sb} =$

すべて許容応力以下である。

注記* : $f_{ts} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{to} - 1.6 \cdot \tau_b, f_{to}]$

1.4.2 電氣的機能維持の評価結果

($\times 9.8\text{m/s}^2$)

		機能維持評価用加速度*	機能確認済加速度
	水平方向		
	鉛直方向		

注記* : 設計用震度 I (基準地震動 S_s) により定まる加速度又はこれを上回る加速度とする。

機能維持評価用加速度はすべて機能確認済加速度以下である。

【フォーマットⅡ 直立形計器スタクションの重大事故等対処設備としての評価結果】

2. 重大事故等対処設備

2.1 設計条件

機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (℃)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	
		○○建物 EL *1			—	—	C _H = *2	C _V = *2	

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（基準地震動 S_s）又はこれを上回る設計震度

2.2 機器要目

部材	m (kg)	h ₁ (mm)	d (mm)	A _b (mm ²)	n	S _y (MPa)	S _u (MPa)
基礎ボルト			(M)				

部材	ℓ ₁ * (mm)	ℓ ₂ * (mm)	n _f * (mm)	F (MPa)	F* (MPa)	転倒方向	
						弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト				—		—	

注記*：各ボルトの機器要目における上段は正面方向転倒に対する評価時の要目を示し、
下段は側面方向転倒に対する評価時の要目を示す。

2.3 計算数値

2.3.1 ボルトに作用する力

(単位：N)

部材	F _b		Q _b	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト	—		—	

2.4 結論

2.4.1 ボルトの応力

(単位 : MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
基礎ボルト		引張り	—	—	$\sigma_b =$	$f_{ts} =$ *
		せん断	—	—	$\tau_b =$	$f_{sb} =$

すべて許容応力以下である。

注記* : $f_{ts} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{to} - 1.6 \cdot \tau_b, f_{to}]$

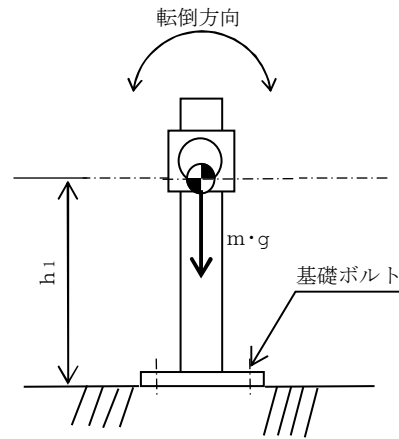
2.4.2 電氣的機能維持の評価結果

($\times 9.8 \text{m/s}^2$)

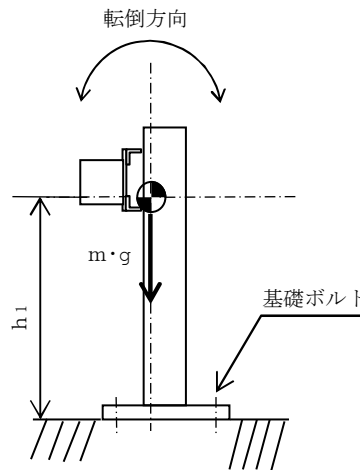
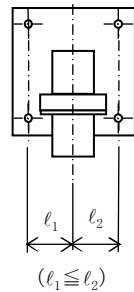
		機能維持評価用加速度*	機能確認済加速度
	水平方向		
	鉛直方向		

注記* : 設計用震度 I (基準地震動 S_s) により定まる加速度又はこれを上回る加速度とする。

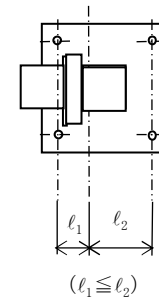
機能維持評価用加速度はすべて機能確認済加速度以下である。



(正面方向)



(側面方向)



【フォーマットⅢ 壁掛形計器スタンションの設計基準対象施設としての評価結果】

【○○○○(○○○○)の耐震性についての計算結果】

1. 設計基準対象施設

1.1 設計条件

機器名称	耐震重要度分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (℃)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	
		○○建物 EL (EL *1)			C _H = *2	C _V = *2	C _H = *3	C _V = *3	

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（弾性設計用地震動 S_d）又は静的震度のいずれか大きい方、若しくはこれを上回る設計震度

*3：設計用震度 I（基準地震動 S_s）又はこれを上回る設計震度

1.2 機器要目

部材	m (kg)	h ₂ (mm)	d (mm)	A _b (mm ²)	n	S _y (MPa)	S _u (MPa)
基礎ボルト			(M)				

部材	ℓ ₃ * (mm)	ℓ _a * (mm)	ℓ _b * (mm)	n _{fV} * (mm)	n _{fH} * (mm)	F (MPa)	F* (MPa)	転倒方向	
								弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト									

注記*：各ボルトの機器要目における上段は正面方向転倒に対する評価時の要目を示し、

下段は側面方向転倒に対する評価時の要目を示す。

1.3 計算数値

1.3.1 ボルトに作用する力

(単位：N)

部材	F _b		Q _b	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト				

1.4 結論

1.4.1 ボルトの応力

(単位：MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
基礎ボルト		引張り	$\sigma_b =$	$f_{ts} =$ *	$\sigma_b =$	$f_{ts} =$ *
		せん断	$\tau_b =$	$f_{sb} =$	$\tau_b =$	$f_{sb} =$

すべて許容応力以下である。

注記*： $f_{ts} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{to} - 1.6 \cdot \tau_b, f_{to}]$

1.4.2 電氣的機能維持の評価結果

($\times 9.8\text{m/s}^2$)

		機能維持評価用加速度*	機能確認済加速度
	水平方向		
	鉛直方向		

注記*：設計用震度 I（基準地震動 S_s）により定まる加速度又はこれを上回る加速度とする。

機能維持評価用加速度はすべて機能確認済加速度以下である。

【フォーマットⅣ 壁掛形計器スタンションの重大事故等対処設備としての評価結果】

2. 重大事故等対処設備

2.1 設計条件

機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (℃)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	
		〇〇建物 EL (EL *1)			—	—	C _H = *2	C _V = *2	

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（基準地震動 S_s）又はこれを上回る設計震度

2.2 機器要目

部材	m (kg)	h ₂ (mm)	d (mm)	A _b (mm ²)	n	S _y (MPa)	S _u (MPa)
基礎ボルト			(M)				

部材	ℓ ₃ * (mm)	ℓ _a * (mm)	ℓ _b * (mm)	n _{fV} * (mm)	n _{fH} * (mm)	F (MPa)	F* (MPa)	転倒方向	
								弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト						—		—	

注記*：各ボルトの機器要目における上段は正面方向転倒に対する評価時の要目を示し、

下段は側面方向転倒に対する評価時の要目を示す。

2.3 計算数値

2.3.1 ボルトに作用する力

(単位：N)

部材	F _b		Q _b	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト	—		—	

2.4 結論

2.4.1 ボルトの応力

(単位 : MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度		基準地震動 S_s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
基礎ボルト		引張り	—	—	$\sigma_b =$	$f_{ts} = *$
		せん断	—	—	$\tau_b =$	$f_{sb} =$

すべて許容応力以下である。

注記* : $f_{ts} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{to} - 1.6 \cdot \tau_b, f_{to}]$

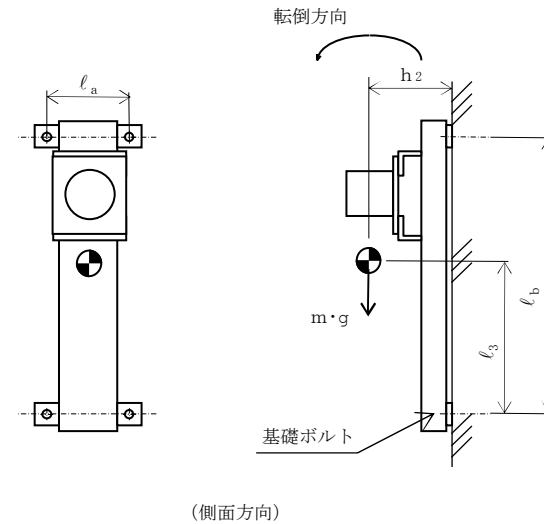
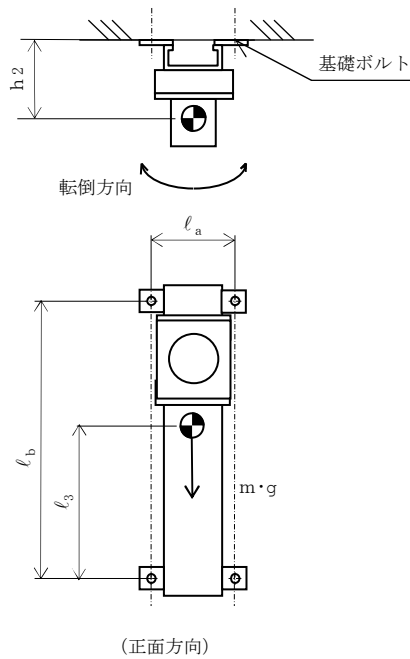
2.4.2 電氣的機能維持の評価結果

($\times 9.8 \text{ m/s}^2$)

		機能維持評価用加速度*	機能確認済加速度
	水平方向		
	鉛直方向		

注記* : 設計用震度 I (基準地震動 S_s) により定まる加速度又はこれを上回る加速度とする。

機能維持評価用加速度はすべて機能確認済加速度以下である。



添付資料-9 盤の耐震性についての計算書作成の基本方針

目 次

1. 概要	1
2. 一般事項	1
2.1 評価方針	1
2.2 適用規格・基準等	2
2.3 記号の説明	3
2.4 計算精度と数値の丸め方	4
3. 評価部位	5
4. 固有周期	5
5. 構造強度評価	5
5.1 構造強度評価方法	5
5.2 設計用地震力	7
5.3 計算方法	7
5.4 応力の評価	18
6. 機能維持評価	19
6.1 電氣的機能維持評価方法	19
7. 耐震計算書のフォーマット	19
7.1 直立形盤の耐震計算書のフォーマット	19
7.2 壁掛形盤の耐震計算書のフォーマット	19

1. 概要

本資料は、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」に基づき、耐震性に関する説明書が求められている盤（耐震重要度分類Sクラス又はS s 機能維持の計算を行うもの）が、十分な耐震性を有していることを確認するための耐震計算の方法について記載したものである。

解析の方針及び減衰定数については、VI-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に従うものとする。

ただし、本基本方針が適用できない盤にあつては、個別耐震計算書にその耐震計算方法を含めて記載する。

2. 一般事項

2.1 評価方針

盤の応力評価は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」にて設定した荷重及び荷重の組合せ並びに許容限界に基づき、「3. 評価部位」にて設定する箇所において、「4. 固有周期」で算出した固有周期に基づく設計用地震力による応力等が許容限界内に収まることを、「5. 構造強度評価」にて示す方法にて確認することで実施する。また、盤の機能維持評価は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」にて設定した電氣的機能維持の方針に基づき、機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下であることを、「6. 機能維持評価」にて示す方法にて確認することで実施する。確認結果を「7. 耐震計算書のフォーマット」に示す。

盤の耐震評価フローを図2-1に示す。

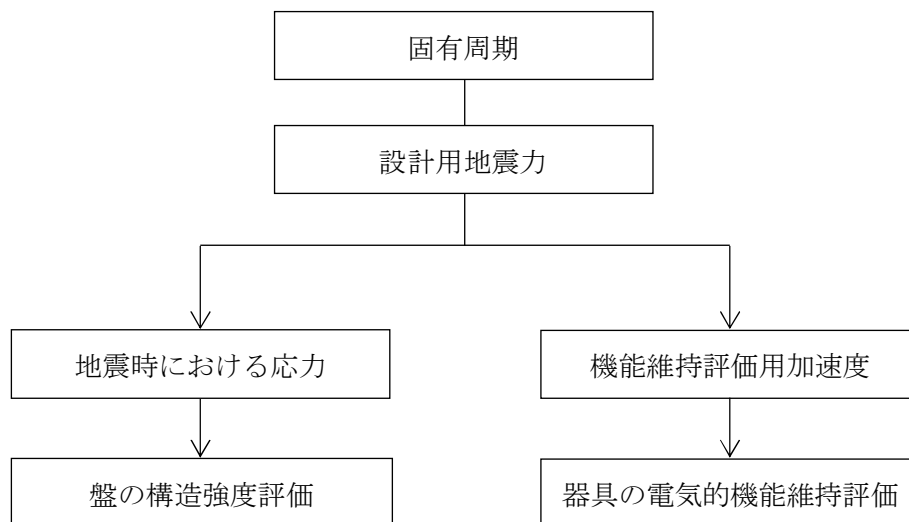


図2-1 盤の耐震評価フロー

2.2 適用規格・基準等

本評価において適用する規格・基準等を以下に示す。

- ・原子力発電所耐震設計技術指針 重要度分類・許容応力編 J E A G 4 6 0 1 ・補-1984
（（社）日本電気協会）
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1987 （（社）日本電気協会）
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1991 追補版（（社）日本電気協会）
- ・発電用原子力設備規格 設計・建設規格（（社）日本機械学会，2005/2007）（以下「設計・建設規格」という。）

2.3 記号の説明

記号	記号の説明	単位
A b i	ボルトの軸断面積* ¹	mm ²
C _H	水平方向設計震度	—
C _V	鉛直方向設計震度	—
d i	ボルトの呼び径* ¹	mm
F i	設計・建設規格 SSB-3121.1(1)に定める値* ¹	MPa
F i *	設計・建設規格 SSB-3133 に定める値* ¹	MPa
F b i	ボルトに作用する引張力 (1本当たり) * ¹	N
F b _{1i}	鉛直方向地震及び壁掛盤取付面に対し左右方向の水平方向地震によりボルトに作用する引張力 (1本当たり) (壁掛形) * ¹	N
F b _{2i}	鉛直方向地震及び壁掛盤取付面に対し前後方向の水平方向地震によりボルトに作用する引張力 (1本当たり) (壁掛形) * ¹	N
f _{s b i}	せん断力のみを受けるボルトの許容せん断応力* ¹	MPa
f _{t o i}	引張力のみを受けるボルトの許容引張応力* ¹	MPa
f _{t s i}	引張力とせん断力を同時に受けるボルトの許容引張応力* ¹	MPa
g	重力加速度 (=9.80665)	m/s ²
h i	据付面又は取付面から重心までの距離* ²	mm
l _{1i}	重心とボルト間の水平方向距離 (直立形) * ¹ , * ³	mm
l _{1i}	重心と下側ボルト間の鉛直方向距離 (壁掛形) * ¹	mm
l _{2i}	重心とボルト間の水平方向距離 (直立形) * ¹ , * ³	mm
l _{2i}	上側ボルトと下側ボルト間の鉛直方向距離 (壁掛形) * ¹	mm
l _{3i}	左側ボルトと右側ボルト間の水平方向距離 (壁掛形) * ¹	mm
m i	盤の質量* ²	kg
n i	ボルトの本数* ¹	—
n f i	評価上引張力を受けるとして期待するボルトの本数 (直立形) * ¹	—
n f v i	評価上引張力を受けるとして期待するボルトの本数 (側面方向) (壁掛形) * ¹	—
n f H i	評価上引張力を受けるとして期待するボルトの本数 (正面方向) (壁掛形) * ¹	—
Q b i	ボルトに作用するせん断力* ¹	N
Q b _{1i}	水平方向地震によりボルトに作用するせん断力 (壁掛形) * ¹	N
Q b _{2i}	鉛直方向地震によりボルトに作用するせん断力 (壁掛形) * ¹	N
S u i	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表9に定める値* ¹	MPa
S y i	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8に定める値* ¹	MPa
S y i (R T)	設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8に定める材料の40℃における値* ¹	MPa
π	円周率	—
σ b i	ボルトに生じる引張応力* ¹	MPa
τ b i	ボルトに生じるせん断応力* ¹	MPa

注記*1: A_{bi} , d_i , F_i , F_i^* , F_{bi} , F_{b1i} , F_{b2i} , f_{sbi} , f_{toi} , f_{tsi} , l_{1i} , l_{2i} , l_{3i} , n_i , n_{fi} , n_{fvi} , n_{fHi} , Q_{bi} , Q_{b1i} , Q_{b2i} , S_{ui} , S_{yi} , S_{yi} (RT), σ_{bi} 及び τ_{bi} の添字*i*の意味は、以下のとおりとする。

$i=1$: 基礎ボルト

$i=2$: 取付ボルト

*2: h_i 及び m_i の添字*i*の意味は、以下のとおりとする。

$i=1$: 据付面

$i=2$: 取付面

*3: $l_{1i} \leq l_{2i}$

2.4 計算精度と数値の丸め方

精度は、有効数字6桁以上を確保する。

表示する数値の丸め方は表2-1に示すとおりである。

表2-1 表示する数値の丸め方

数値の種類	単位	処理桁	処理方法	表示桁
固有周期	s	小数点以下第4位	四捨五入	小数点以下第3位
震度	—	小数点以下第3位	切上げ	小数点以下第2位
温度	°C	—	—	整数位
質量	kg	—	—	整数位
長さ	mm	—	—	整数位*1
面積	mm ²	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁*2
力	N	有効数字5桁目	四捨五入	有効数字4桁*2
算出応力	MPa	小数点以下第1位	切上げ	整数位
許容応力*3	MPa	小数点以下第1位	切捨て	整数位

注記*1: 設計上定める値が小数点以下第1位の場合は、小数点以下第1位表示とする。

*2: 絶対値が1000以上のときは、べき数表示とする。

*3: 設計・建設規格 付録材料図表に記載された温度の中間における引張強さ及び降伏点は、比例法により補間した値の小数点以下第1位を切り捨て、整数位までの値とする。

3. 評価部位

盤の耐震評価は「5.1 構造強度評価方法」に示す条件に基づき、耐震評価上厳しくなる基礎ボルト及び取付ボルトについて評価を実施する。

4. 固有周期

盤の固有周期は、振動試験（加振試験又は自由振動試験）にて求める。なお、振動試験により固有周期が求められていない盤については、構造が同等な盤に対する振動試験より算定された固有周期を使用する。

5. 構造強度評価

5.1 構造強度評価方法

- (1) 盤の質量は重心に集中しているものとする。
- (2) 地震力は盤に対して、水平方向及び鉛直方向から作用するものとする。
- (3) 盤は取付ボルトでチャンネルベースに固定されており、固定端とする。
- (4) チャンネルベースは基礎ボルト又は埋込金物で基礎に固定されており、固定端とする。
- (5) 床面据付の盤の転倒方向は、図 5-1 概要図（直立形）における長辺方向及び短辺方向について検討し、計算書には計算結果の厳しい方（許容値／発生値の小さい方をいう。）を記載する。壁掛形の盤*については、図 5-2 概要図（壁掛形）における正面方向及び側面方向について検討し、計算書には計算結果の厳しい方を記載する。
- (6) 盤の重心位置については、転倒方向を考慮して、計算条件が厳しくなる位置に重心位置を設定して耐震性の計算を行うものとする。
- (7) 耐震計算に用いる寸法は、公称値を使用する。

注記*：壁掛形の盤の転倒方向は、盤を正面より見て左右に転倒する場合を「正面方向転倒」、前方に転倒する場合を「側面方向転倒」という。

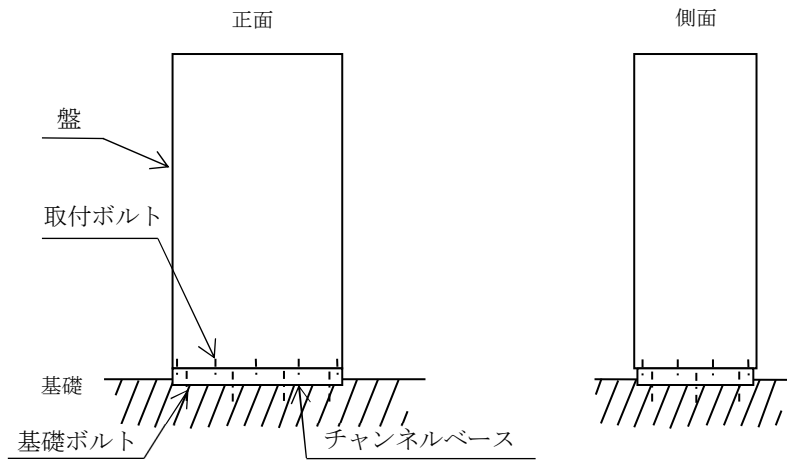


図 5-1 概要図 (直立形)

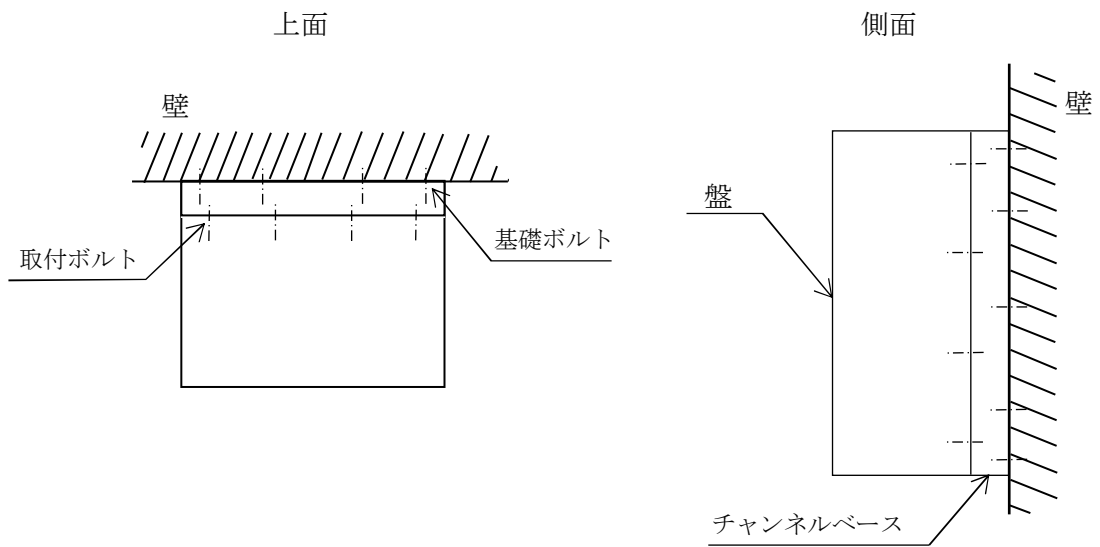


図 5-2 概要図 (壁掛形)

5.2 設計用地震力

「弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度」及び「基準地震動 S_s 」による地震力は、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定する。なお、壁掛形の盤の設計用地震力については、設置床上下階のいずれか大きい方を用いる。

5.3 計算方法

5.3.1 応力の計算方法

5.3.1.1 ボルトの計算方法

ボルトの応力は、地震による震度により作用するモーメントによって生じる引張力とせん断力について計算する。計算モデルは、取付ボルトの場合を示す。

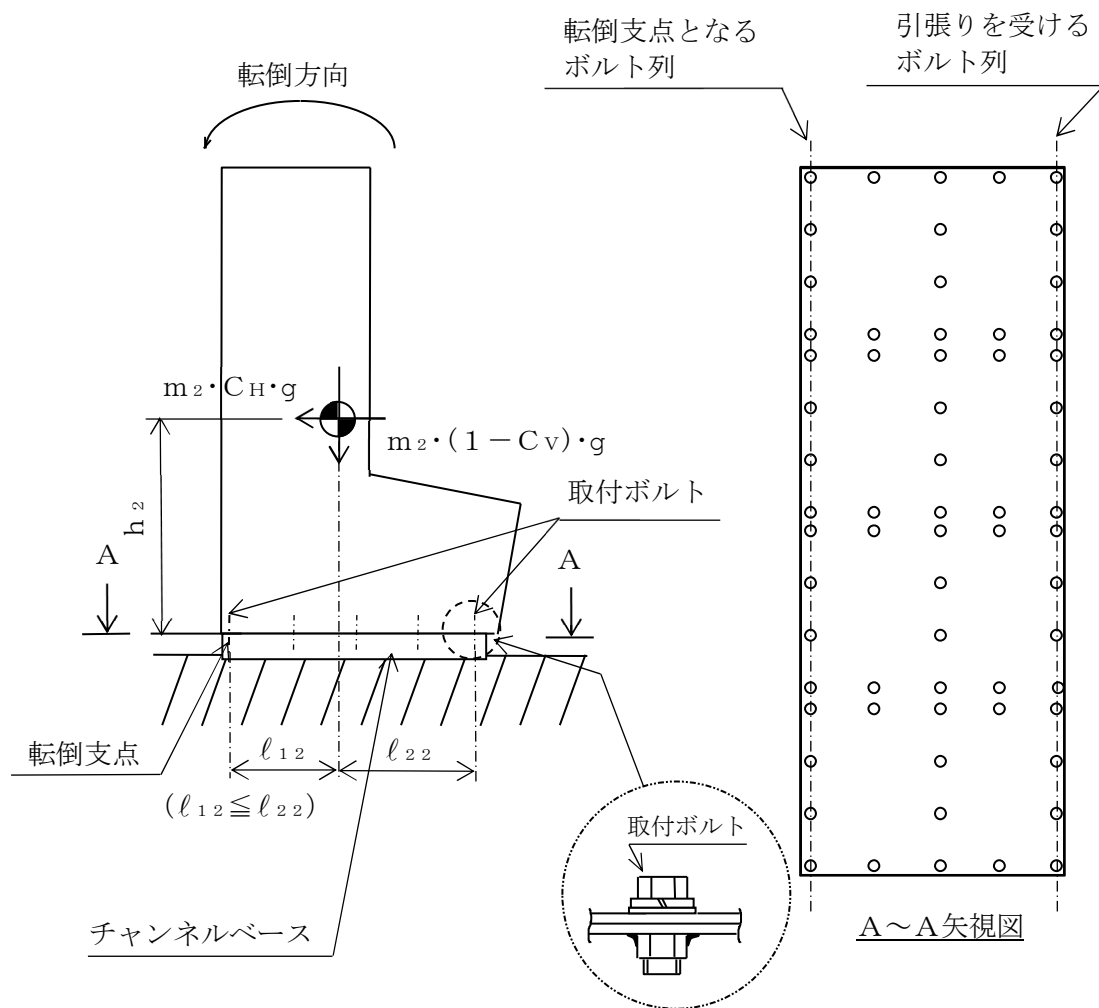


図5-3(1) 計算モデル
(ベンチ形 短辺方向転倒 $(1 - C_V) \geq 0$ の場合)

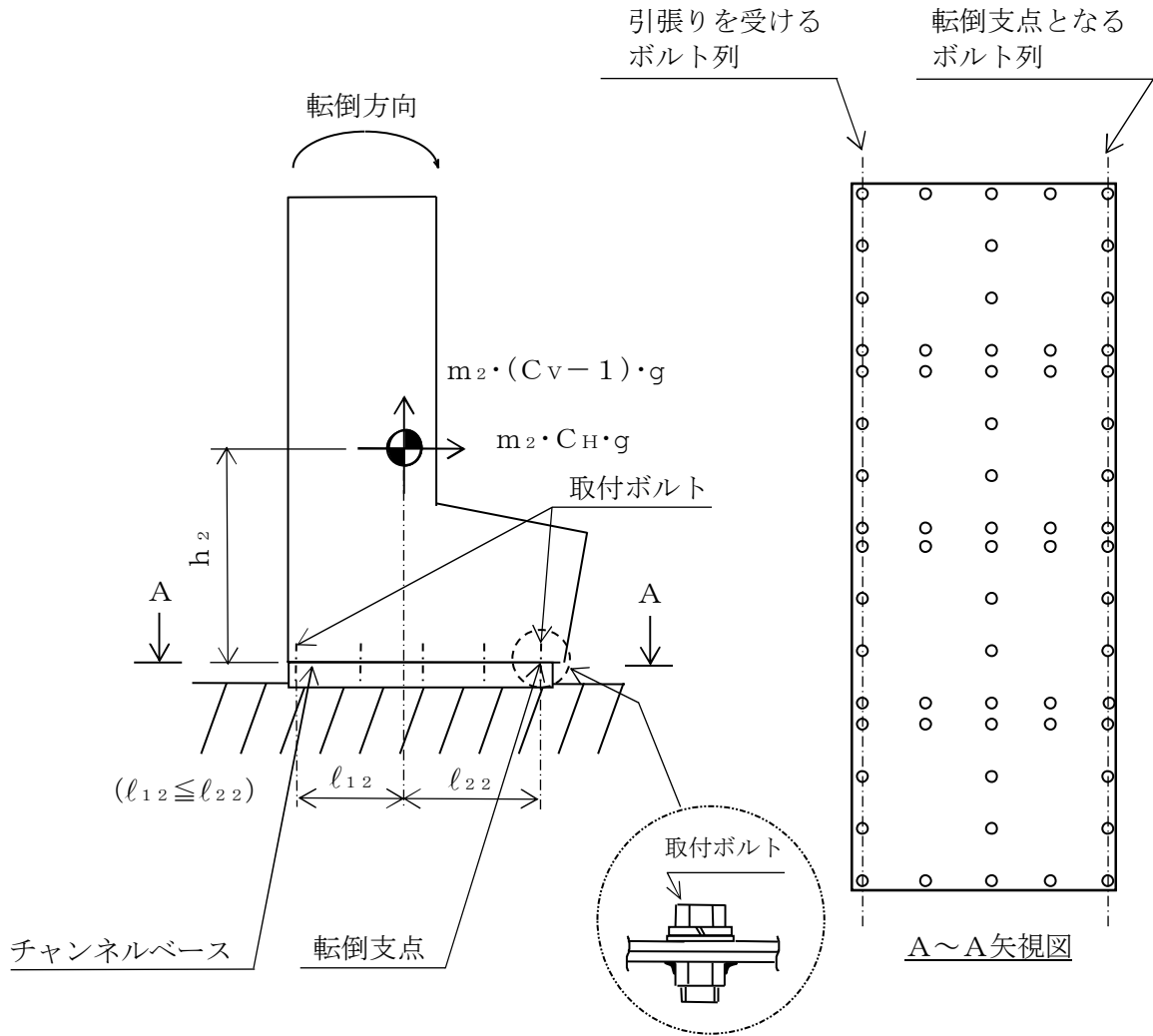


図5-3(2) 計算モデル
 (ベンチ形 短辺方向転倒 $(1 - C_v) < 0$ の場合)

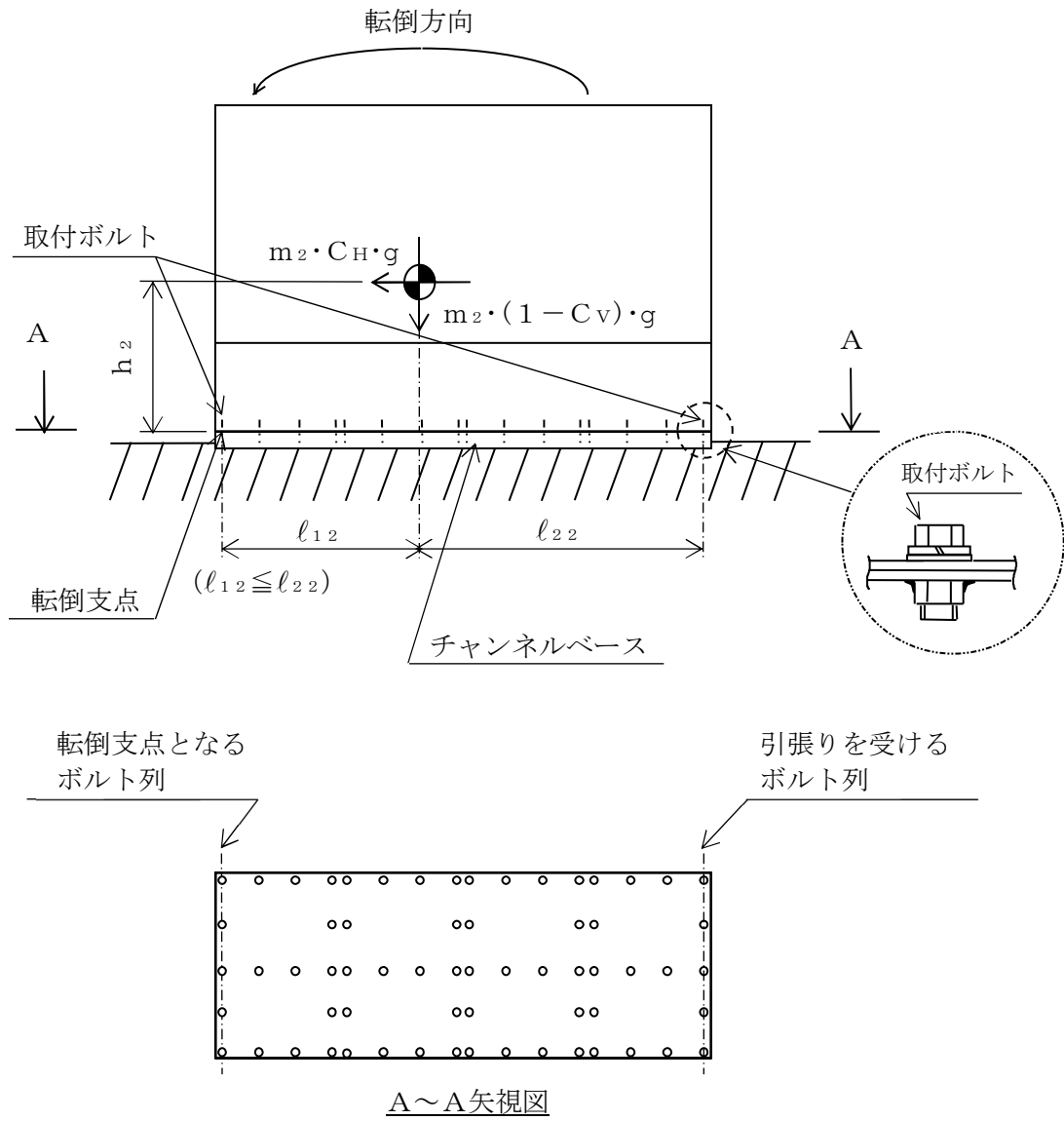


図5-3(3) 計算モデル
(ベンチ形 長辺方向転倒 $(1 - C_V) \geq 0$ の場合)

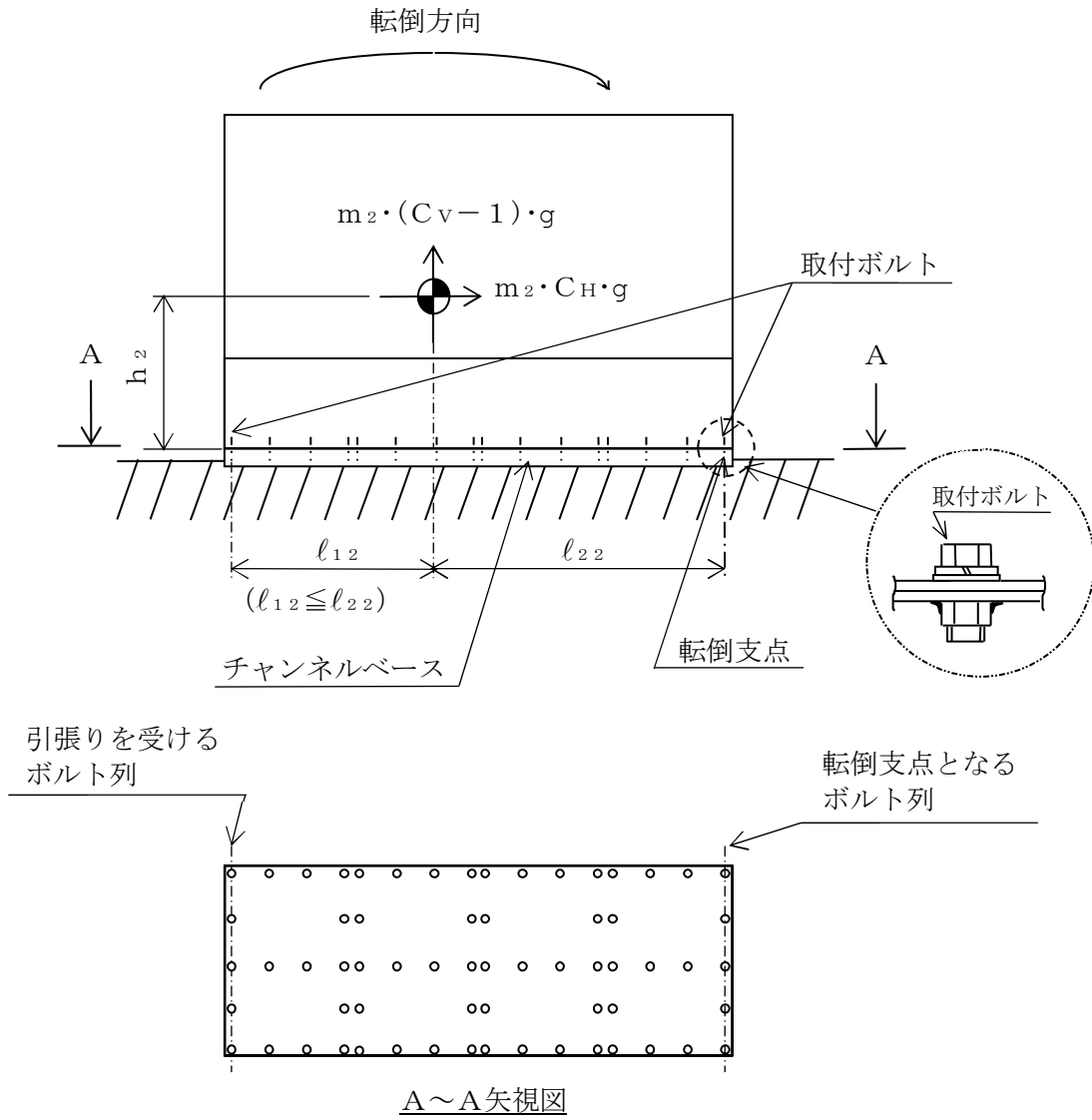


図5-3(4) 計算モデル
(ベンチ形 長辺方向転倒 $(1 - C_V) < 0$ の場合)

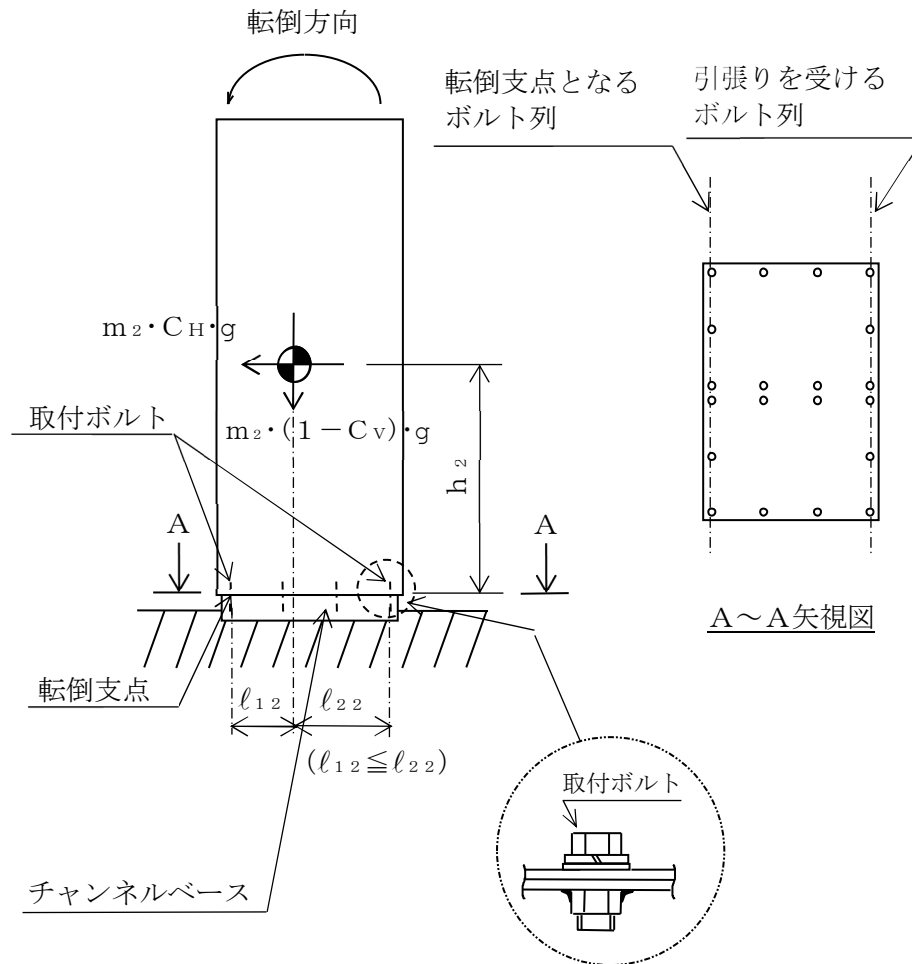


図5-4(1) 計算モデル
(直立形 短辺方向転倒 $(1 - C_V) \geq 0$ の場合)

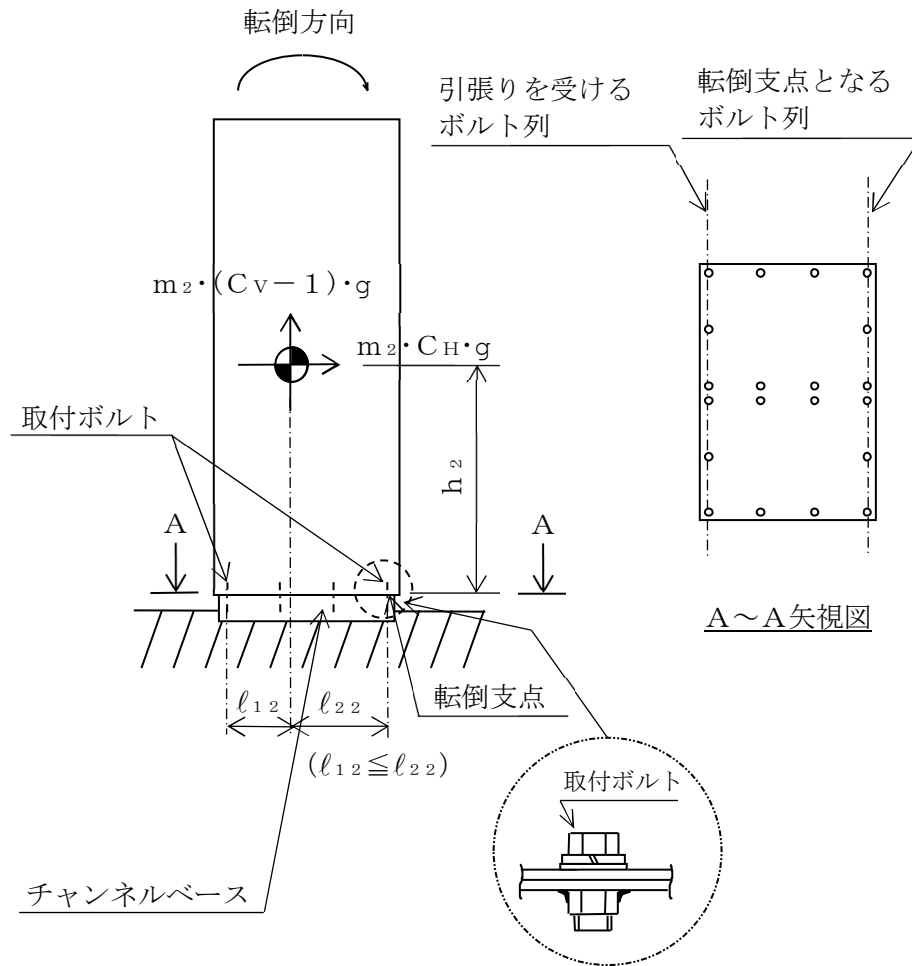


図5-4(2) 計算モデル
(直立形 短辺方向転倒 $(1 - C_v) < 0$ の場合)

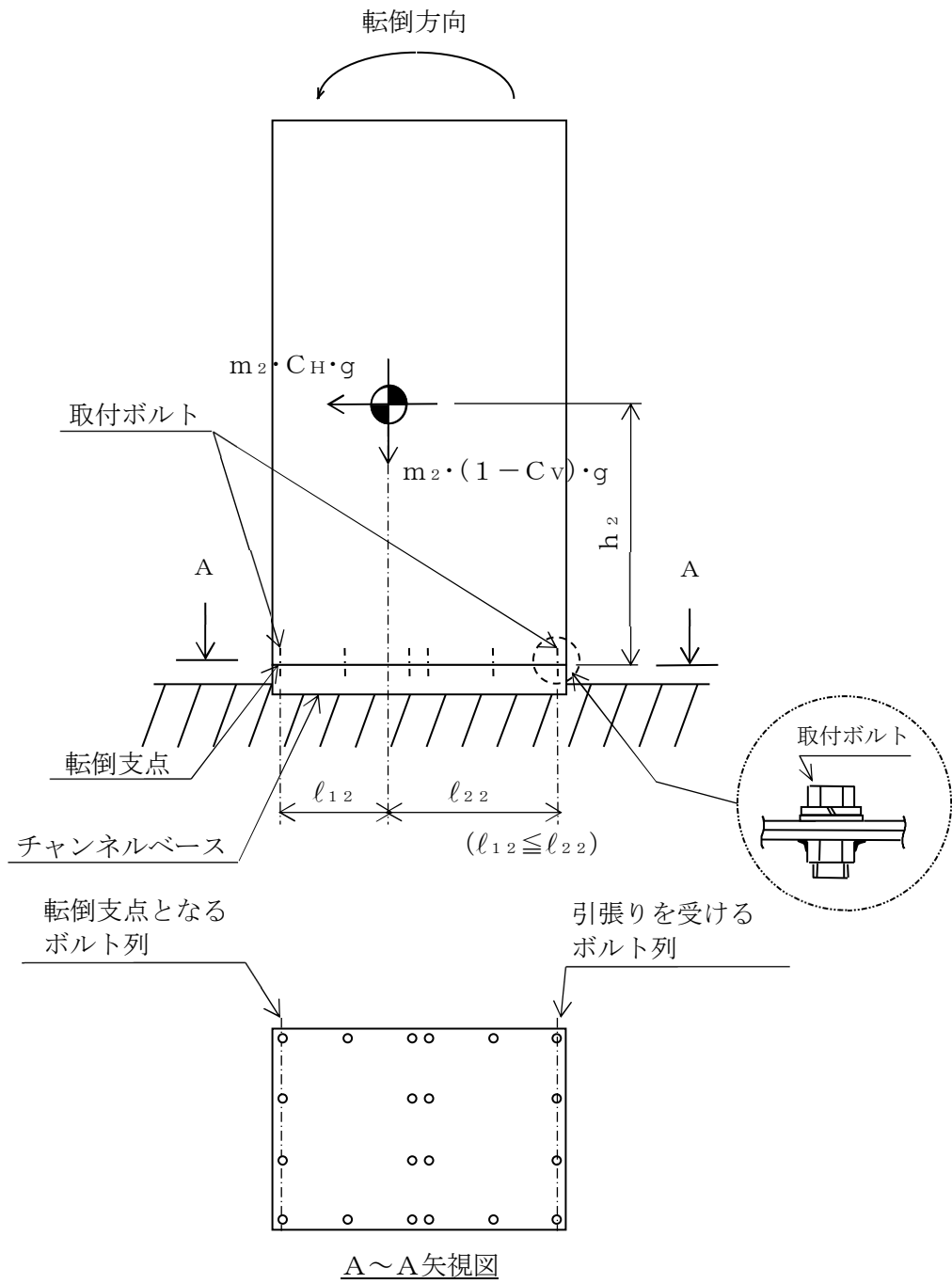


図5-4(3) 計算モデル
(直立形 長辺方向転倒 $(1 - C_V) \geq 0$ の場合)

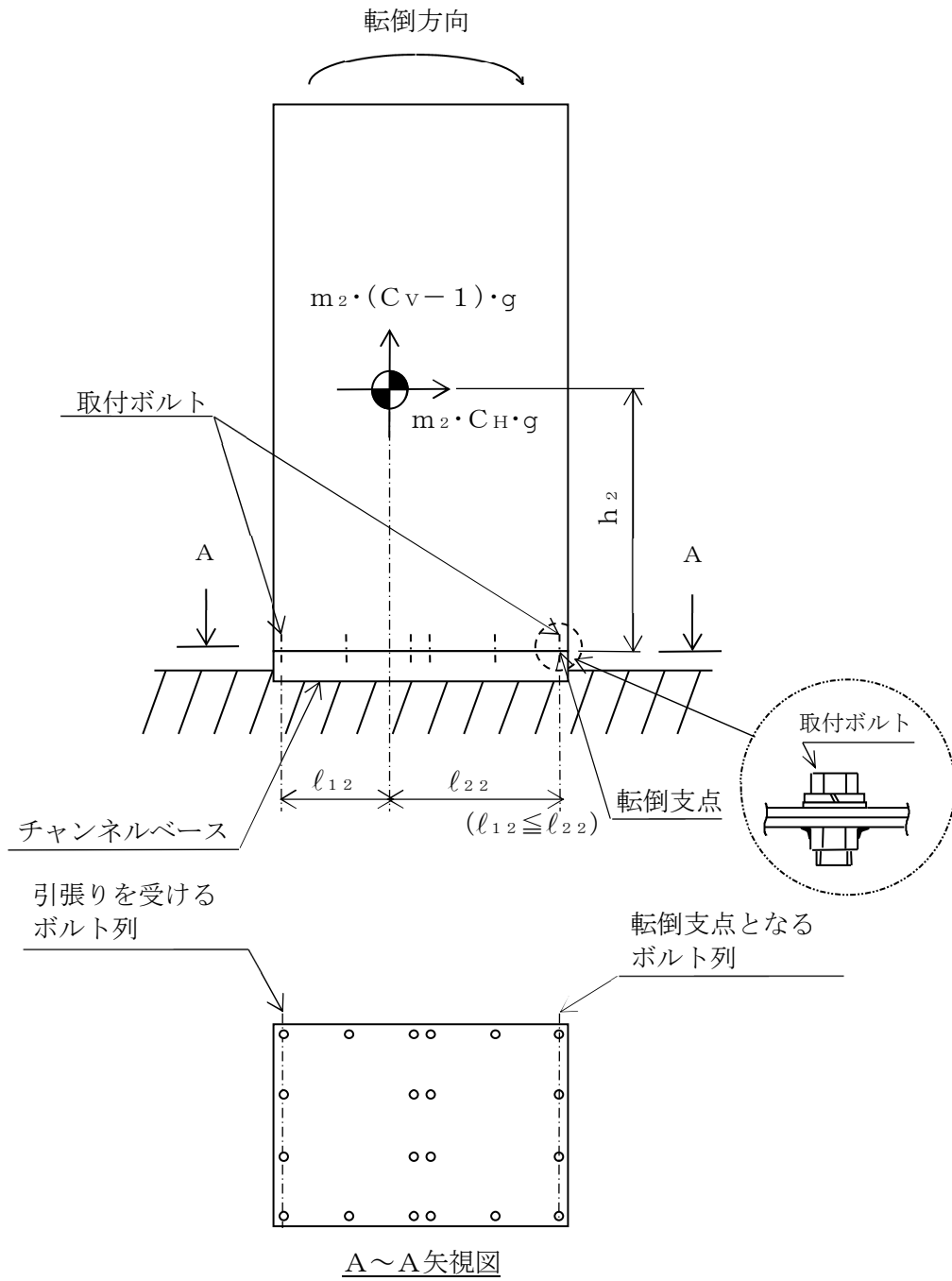


図5-4(4) 計算モデル
 (直立形 長辺方向転倒 $(1 - C_v) < 0$ の場合)

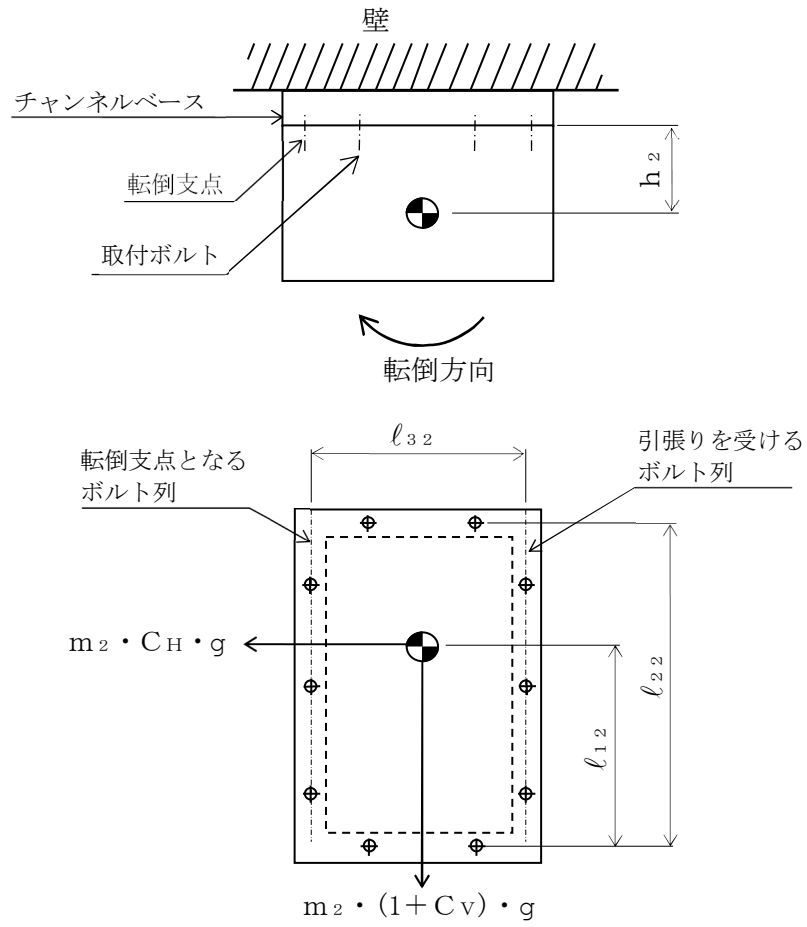


図 5-5(1) 計算モデル (壁掛形 正面方向転倒の場合)

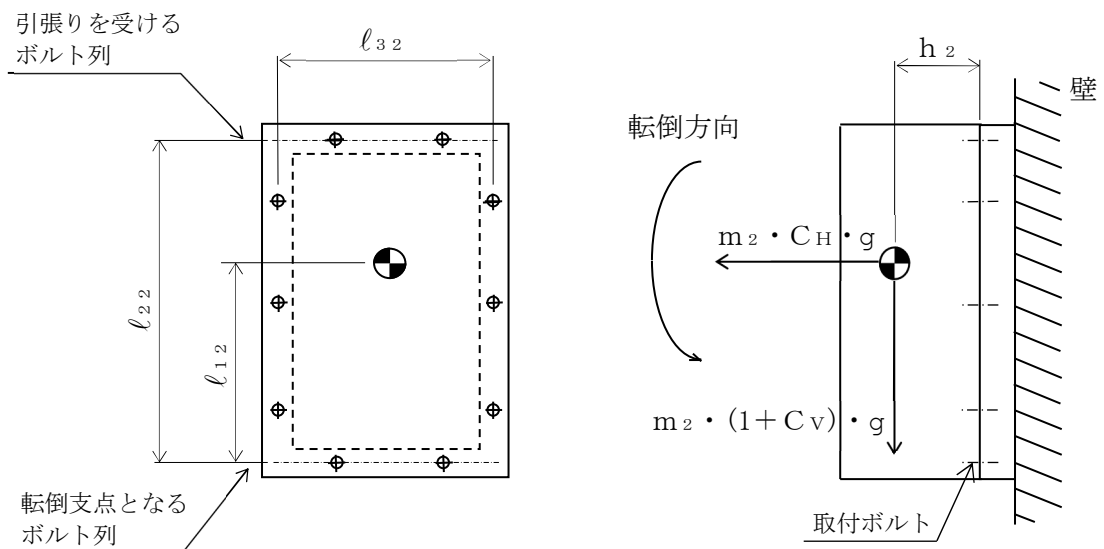


図 5-5(2) 計算モデル (壁掛形 側面方向転倒の場合)

(1) 引張応力

ボルトに対する引張力は、最も厳しい条件として図5-3、図5-4及び図5-5で最外列のボルトを支点とする転倒を考え、これを片側の最外列のボルトで受けるものとして計算する。

引張力

計算モデル図5-3(1)、5-3(3)、5-4(1)及び5-4(3)の場合の引張力

$$F_{b1i} = \frac{m_i \cdot C_H \cdot h_i \cdot g - m_i \cdot (1 - C_V) \cdot \ell_{1i} \cdot g}{n_{fi} \cdot (\ell_{1i} + \ell_{2i})} \dots\dots (5.3.1.1.1)$$

計算モデル図5-3(2)、5-3(4)、5-4(2)及び5-4(4)の場合の引張力

$$F_{b1i} = \frac{m_i \cdot C_H \cdot h_i \cdot g - m_i \cdot (1 - C_V) \cdot \ell_{2i} \cdot g}{n_{fi} \cdot (\ell_{1i} + \ell_{2i})} \dots\dots (5.3.1.1.2)$$

計算モデル図5-5(1)及び5-5(2)の場合の引張力

$$F_{b1i} = \frac{m_i \cdot (1 + C_V) \cdot h_i \cdot g}{n_{fvi} \cdot \ell_{2i}} + \frac{m_i \cdot C_H \cdot h_i \cdot g}{n_{fHi} \cdot \ell_{3i}} \dots\dots (5.3.1.1.3)$$

$$F_{b2i} = \frac{m_i \cdot (1 + C_V) \cdot h_i \cdot g + m_i \cdot C_H \cdot \ell_{1i} \cdot g}{n_{fvi} \cdot \ell_{2i}} \dots\dots (5.3.1.1.4)$$

$$F_{bi} = \text{Max} (F_{b1i}, F_{b2i}) \dots\dots\dots (5.3.1.1.5)$$

引張応力

$$\sigma_{bi} = \frac{F_{bi}}{A_{bi}} \dots\dots\dots (5.3.1.1.6)$$

ここで、ボルトの軸断面積 A_{bi} は次式により求める。

$$A_{bi} = \frac{\pi}{4} \cdot d_i^2 \dots\dots\dots (5.3.1.1.7)$$

ただし、 F_{bi} が負のときボルトには引張力が生じないので、引張応力の計算は行わない。

(2) せん断応力

ボルトに対するせん断力は、ボルト全本数で受けるものとして計算する。

せん断力

- a. ベンチ形，直立形の場合

$$Q_{b\ i} = m_i \cdot C_H \cdot g \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.8)$$

- b. 壁掛形の場合

$$Q_{b\ 1\ i} = m_i \cdot C_H \cdot g \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.9)$$

$$Q_{b\ 2\ i} = m_i \cdot (1 + C_V) \cdot g \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.10)$$

$$Q_{b\ i} = \sqrt{(Q_{b\ 1\ i})^2 + (Q_{b\ 2\ i})^2} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.11)$$

せん断応力

$$\tau_{b\ i} = \frac{Q_{b\ i}}{n_i \cdot A_{b\ i}} \quad \dots\dots\dots (5.3.1.1.12)$$

5.4 応力の評価

5.4.1 ボルトの応力評価

5.3.1 項で求めたボルトの引張応力 σ_{bi} は次式より求めた許容引張応力 f_{tsi} 以下であること。ただし、 f_{toi} は下表による。

$$f_{tsi} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{toi} - 1.6 \cdot \tau_{bi}, f_{toi}] \quad \dots\dots\dots (5.4.1.1)$$

せん断応力 τ_{bi} は、せん断力のみを受けるボルトの許容せん断応力 f_{sbi} 以下であること。ただし、 f_{sbi} は下表による。

	弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度による 荷重との組合せの場合	基準地震動 S_s による 荷重との組合せの場合
許容引張応力 f_{toi}	$\frac{F_i}{2} \cdot 1.5$	$\frac{F_i^*}{2} \cdot 1.5$
許容せん断応力 f_{sbi}	$\frac{F_i}{1.5 \cdot \sqrt{3}} \cdot 1.5$	$\frac{F_i^*}{1.5 \cdot \sqrt{3}} \cdot 1.5$

6. 機能維持評価

6.1 電氣的機能維持評価方法

機能維持評価用加速度と機能確認済加速度との比較により、地震時又は地震後の電氣的機能維持を評価する。

機能維持評価用加速度は、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき、基準地震動 S_s により定まる加速度又はこれを上回る加速度を設定する。

機能確認済加速度は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に基づき加振試験により確認した加速度を用いることとし、個別計算書にその旨を記載する。

7. 耐震計算書のフォーマット

7.1 直立形盤の耐震計算書のフォーマット

直立形盤の耐震計算書のフォーマットは、以下のとおりである。

[設計基準対象施設及び重大事故等対処設備の場合]

フォーマットⅠ 設計基準対象施設としての評価結果

フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果

[重大事故等対処設備単独の場合]

フォーマットⅡ 重大事故等対処設備としての評価結果*

7.2 壁掛形盤の耐震計算書のフォーマット

壁掛形盤の耐震計算書のフォーマットは、以下のとおりである。

[設計基準対象施設及び重大事故等対処設備の場合]

フォーマットⅢ 設計基準対象施設としての評価結果

フォーマットⅣ 重大事故等対処設備としての評価結果

[重大事故等対処設備単独の場合]

フォーマットⅣ 重大事故等対処設備としての評価結果*

注記*：重大事故等対処設備単独の場合は、設計基準対象施設及び重大事故等対処設備に示すフォーマットⅡ及びⅣを使用するものとする。ただし、評価結果表に記載の章番を「2.」から「1.」とする。

【フォーマット I 直立形盤の設計基準対象施設としての評価結果】

【〇〇盤（〇〇〇〇）の耐震性についての計算結果】

1. 設計基準対象施設

1.1 設計条件

機器名称	耐震重要度分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	
		〇〇建物 EL *1			C _H = *2	C _V = *2	C _H = *3	C _V = *3	

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（弾性設計用地震動 S_d）又は静的震度のいずれか大きい方、若しくはこれを上回る設計震度

*3：設計用震度 I（基準地震動 S_s）又はこれを上回る設計震度

1.2 機器要目

部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)
基礎ボルト (i=1)			(M)				
取付ボルト (i=2)			(M)				

部材	l _{1 i} * (mm)	l _{2 i} * (mm)	n _{f i} *	F _i (MPa)	F _i * (MPa)	転倒方向	
						弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)							
取付ボルト (i=2)							

注記*：各ボルトの機器要目における上段は短辺方向転倒に対する評価時の要目を示し、

下段は長辺方向転倒に対する評価時の要目を示す。

1.3 計算数値

1.3.1 ボルトに作用する力

(単位：N)

部材	F _{b i}		Q _{b i}	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)				
取付ボルト (i=2)				

1.4 結論

1.4.1 ボルトの応力

(単位：MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
基礎ボルト (i=1)		引張り	$\sigma_{b1} =$	$f_{ts1} = *$	$\sigma_{b1} =$	$f_{ts1} = *$
		せん断	$\tau_{b1} =$	$f_{sb1} =$	$\tau_{b1} =$	$f_{sb1} =$
取付ボルト (i=2)		引張り	$\sigma_{b2} =$	$f_{ts2} = *$	$\sigma_{b2} =$	$f_{ts2} = *$
		せん断	$\tau_{b2} =$	$f_{sb2} =$	$\tau_{b2} =$	$f_{sb2} =$

すべて許容応力以下である。

注記*： $f_{tsi} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{toi} - 1.6 \cdot \tau_{bi}, f_{toi}]$

1.4.2 電氣的機能維持の評価結果

($\times 9.8\text{m/s}^2$)

		機能維持評価用加速度*	機能確認済加速度
	水平方向		
	鉛直方向		

注記*：設計用震度 I（基準地震動 S_s）により定まる加速度又はこれを上回る加速度とする。

機能維持評価用加速度はすべて機能確認済加速度以下である。

【フォーマットⅡ 直立形盤の重大事故等対処設備としての評価結果】

2. 重大事故等対処設備

2.1 設計条件

機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動S _d 又は静的震度		基準地震動S _s		周囲環境温度 (°C)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	
		○○建物 EL *1			—	—	C _H = *2	C _V = *2	

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度Ⅰ（基準地震動S_s）又はこれを上回る設計震度

2.2 機器要目

部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)
基礎ボルト (i=1)			(M)				
取付ボルト (i=2)			(M)				

部材	l _{1 i} * (mm)	l _{2 i} * (mm)	n _{f i} *	F _i (MPa)	F _i * (MPa)	転倒方向	
						弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)				—		—	
取付ボルト (i=2)				—		—	

注記*：各ボルトの機器要目における上段は短辺方向転倒に対する評価時の要目を示し、
下段は長辺方向転倒に対する評価時の要目を示す。

2.3 計算数値

2.3.1 ボルトに作用する力 (単位：N)

部材	F _{b i}		Q _{b i}	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)	—		—	
取付ボルト (i=2)	—		—	

2.4 結論

2.4.1 ボルトの応力 (単位：MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
基礎ボルト (i=1)		引張り	—	—	$\sigma_{b1} =$	$f_{ts1} = *$
		せん断	—	—	$\tau_{b1} =$	$f_{sb1} =$
取付ボルト (i=2)		引張り	—	—	$\sigma_{b2} =$	$f_{ts2} = *$
		せん断	—	—	$\tau_{b2} =$	$f_{sb2} =$

すべて許容応力以下である。

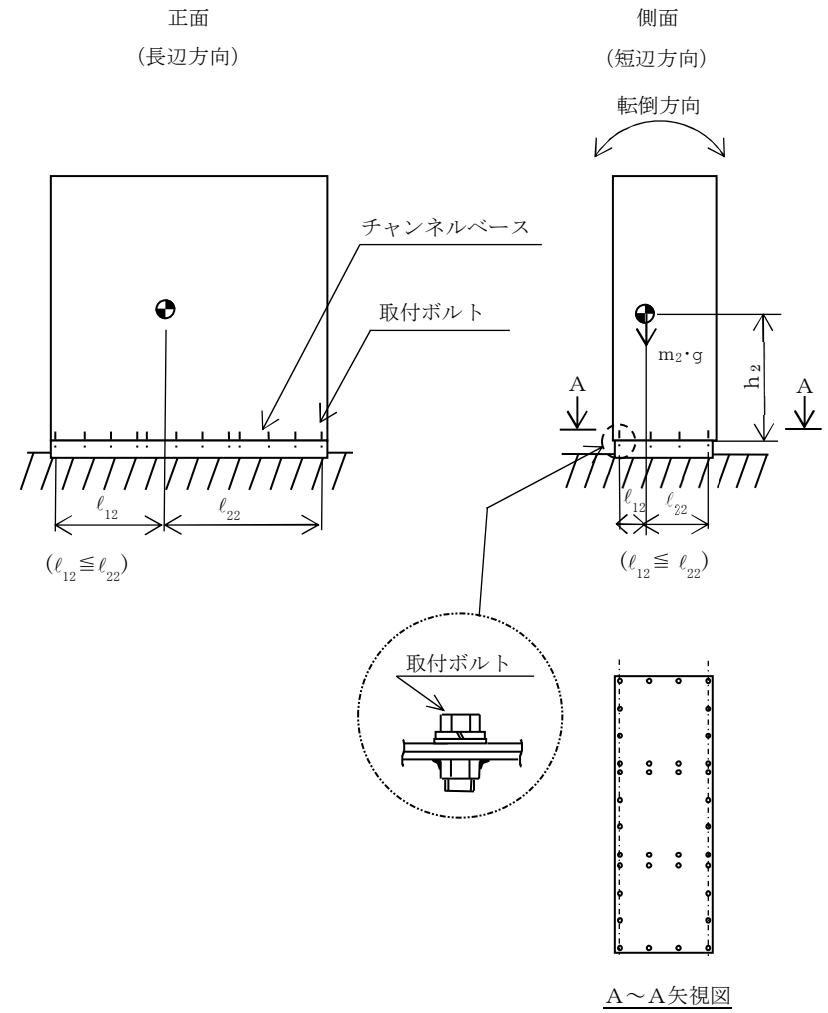
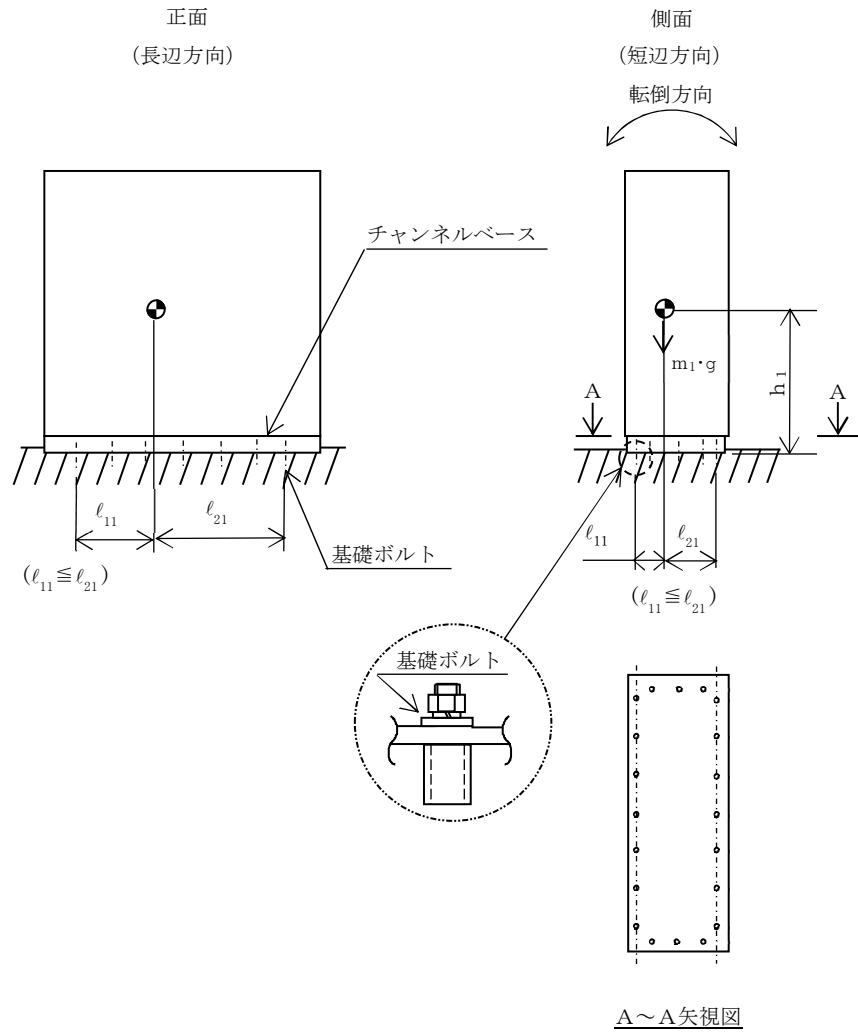
注記*： $f_{tsi} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{toi} - 1.6 \cdot \tau_{bi}, f_{toi}]$

2.4.2 電氣的機能維持の評価結果 (×9.8m/s²)

		機能維持評価用加速度*	機能確認済加速度
	水平方向		
	鉛直方向		

注記*：設計用震度 I (基準地震動 S_s) により定まる加速度又はこれを上回る加速度とする。

機能維持評価用加速度はすべて機能確認済加速度以下である。



【フォーマットⅢ 壁掛形盤の設計基準対象施設としての評価結果】

【○○盤（○○○○）の耐震性についての計算結果】

1. 設計基準対象施設

1.1 設計条件

機器名称	耐震重要度分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	
		○○建物 EL (EL *1)			C _H = *2	C _V = *2	C _H = *3	C _V = *3	

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（弾性設計用地震動 S_d）又は静的震度のいずれか大きい方、若しくはこれを上回る設計震度

*3：設計用震度 I（基準地震動 S_s）又はこれを上回る設計震度

1.2 機器要目

部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)
基礎ボルト (i=1)			(M)				
取付ボルト (i=2)			(M)				

部材	l _{1 i} * (mm)	l _{2 i} * (mm)	l _{3 i} * (mm)	n _{f v i} *	n _{f H i} *	F _i (MPa)	F _i * (MPa)	転倒方向	
								弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)									
取付ボルト (i=2)									

注記*：各ボルトの機器要目における上段は正面方向転倒に対する評価時の要目を示し、下段は側面方向転倒に対する評価時の要目を示す。

1.3 計算数値

1.3.1 ボルトに作用する力

(単位：N)

部材	F _{b i}		Q _{b i}	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)				
取付ボルト (i=2)				

1.4 結論

1.4.1 ボルトの応力

(単位：MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
基礎ボルト (i=1)		引張り	$\sigma_{b1} =$	$f_{ts1} = *$	$\sigma_{b1} =$	$f_{ts1} = *$
		せん断	$\tau_{b1} =$	$f_{sb1} =$	$\tau_{b1} =$	$f_{sb1} =$
取付ボルト (i=2)		引張り	$\sigma_{b2} =$	$f_{ts2} = *$	$\sigma_{b2} =$	$f_{ts2} = *$
		せん断	$\tau_{b2} =$	$f_{sb2} =$	$\tau_{b2} =$	$f_{sb2} =$

すべて許容応力以下である。

注記*： $f_{tsi} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{toi} - 1.6 \cdot \tau_{bi}, f_{toi}]$

1.4.2 電氣的機能維持の評価結果

($\times 9.8\text{m/s}^2$)

		機能維持評価用加速度*	機能確認済加速度
	水平方向		
	鉛直方向		

注記*：設計用震度 I（基準地震動 S_s）により定まる加速度又はこれを上回る加速度とする。

機能維持評価用加速度はすべて機能確認済加速度以下である。

【フォーマットⅣ 壁掛形盤の重大事故等対処設備としての評価結果】

2. 重大事故等対処設備

2.1 設計条件

機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動S _d 又は静的震度		基準地震動S _s		周囲環境温度 (°C)
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	
		○○建物 EL (EL *1)			—	—	C _H = *2	C _V = *2	

注記*1：基準床レベルを示す。

*2：設計用震度 I（基準地震動S_s）又はこれを上回る設計震度

2.2 機器要目

部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)
基礎ボルト (i=1)			(M)				
取付ボルト (i=2)			(M)				

部材	ℓ _{1 i} * (mm)	ℓ _{2 i} * (mm)	ℓ _{3 i} * (mm)	n _{f v i} *	n _{f H i} *	F _i (MPa)	F _i * (MPa)	転倒方向	
								弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)						—		—	
取付ボルト (i=2)						—		—	

注記*：各ボルトの機器要目における上段は正面方向転倒に対する評価時の要目を示し、下段は側面方向転倒に対する評価時の要目を示す。

2.3 計算数値

2.3.1 ボルトに作用する力

(単位：N)

部材	F _{b i}		Q _{b i}	
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s
基礎ボルト (i=1)	—		—	
取付ボルト (i=2)	—		—	

2.4 結論

2.4.1 ボルトの応力

(単位：MPa)

部材	材料	応力	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
基礎ボルト (i=1)		引張り	—	—	$\sigma_{b1} =$	$f_{ts1} = *$
		せん断	—	—	$\tau_{b1} =$	$f_{sb1} =$
取付ボルト (i=2)		引張り	—	—	$\sigma_{b2} =$	$f_{ts2} = *$
		せん断	—	—	$\tau_{b2} =$	$f_{sb2} =$

すべて許容応力以下である。

注記*： $f_{tsi} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{toi} - 1.6 \cdot \tau_{bi}, f_{toi}]$

2.4.2 電氣的機能維持の評価結果

($\times 9.8\text{m/s}^2$)

		機能維持評価用加速度*	機能確認済加速度
	水平方向		
	鉛直方向		

注記*：設計用震度 I（基準地震動 S_s）により定まる加速度又はこれを上回る加速度とする。

機能維持評価用加速度はすべて機能確認済加速度以下である。

